(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2023-89804
(P2023-89804A)
(43)公開日　令和5年6月28日(2023.6.28)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
A63F 7/02 (2006.01)		A63F	7/02	304D	2C088

審査請求　未請求　請求項の数　3　ＯＬ　（全4253頁）

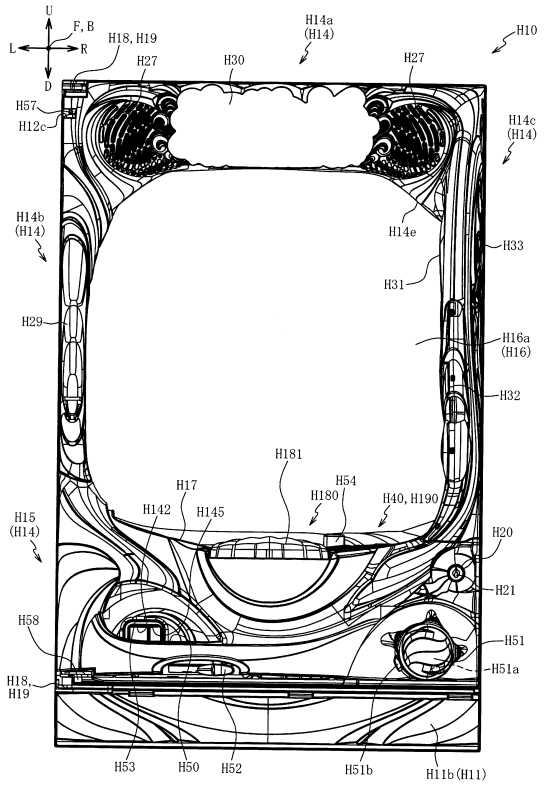
(21)出願番号　特願2021-204541(P2021-204541)
(22)出願日　令和3年12月16日(2021.12.16)

(71)出願人　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　110000534
弁理士法人真明センチュリー
(72)発明者　加納 拓哉
名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
株式会社三洋物産内

Ｆターム（参考）　2C088　DA07 EB78

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】動作手段の動作を好適とすることができる遊技機を提供すること。
【解決手段】ピン付きギアＭ５８２が回転動作されることで可動装飾ユニットＭ６００のリンク部材Ｍ６６０が回転動作される一方で、可動装飾ユニットＭ６００の後側スライド移動体Ｍ６５０は所定の直線方向に案内され往復動作されることから、動作方向を複数構成することができ、ピン付きギアＭ５８２により構成される複数の動作部材の動作が単調となることを避けることができることから、可動装飾ユニットＭ６００の動作を好適とすることができる。
【選択図】図１９８３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
駆動手段と、その駆動手段により回転動作される伝達手段と、その伝達手段の所定部に当接されることにより動作される動作手段と、を備え、
前記動作手段は、前記伝達手段の所定部に当接される被当接部と、その被当接部の動作方向に動作される被動作部と、を備え、前記被動作部は、所定の直線方向に案内されることを特徴とする遊技機。
【請求項２】
前記被当接部に対して前記所定部が当接する位置は、前記伝達手段の回転動作に基づいて変化されることを特徴とする請求項１記載の遊技機。
【請求項３】
前記被動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能な付勢手段を備えることを特徴とする請求項１又は２に記載の遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチンコ機などの遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
パチンコ機等の遊技機において、動作手段を備える遊技機がある（特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００９－８２３１１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上述した遊技機では、動作手段の動作を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【０００５】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、動作手段の動作を好適とすることができる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
この目的を達成するために請求項１記載の遊技機は、駆動手段と、その駆動手段により回転動作される伝達手段と、その伝達手段の所定部に当接されることにより動作される動作手段と、を備え、前記動作手段は、前記伝達手段の所定部に当接される被当接部と、その被当接部の動作方向に動作される被動作部と、を備え、前記被動作部は、所定の直線方向に案内される。
【０００７】
請求項２記載の遊技機は、請求項１記載の遊技機において、前記被当接部に対して前記所定部が当接する位置は、前記伝達手段の回転動作に基づいて変化される。
【０００８】
請求項３記載の遊技機は、請求項１又は２に記載の遊技機において、前記被動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能な付勢手段を備える。
【発明の効果】
【０００９】
請求項１記載の遊技機によれば、動作手段の動作を好適とすることができる。
【００１０】
請求項２記載の遊技機によれば、請求項１記載の遊技機の奏する効果に加え、所定部と

被当接部との当接位置をばらつかせることにより、局所的な負担が生じることを避けることができる。
【００１１】
請求項３記載の遊技機によれば、請求項１又は２に記載の遊技機の奏する効果に加え、被動作部の動作バリエーションを増加させることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】第１実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図３】パチンコ機の背面図である。
【図４】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図５】可変入賞装置及び振分装置の正面斜視図である。
【図６】（ａ）及び（ｂ）は、可変入賞装置の正面斜視図である。
【図７】遊技盤の正面斜視図である。
【図８】遊技盤の背面斜視図である。
【図９】ベース板、可変入賞装置、集合樋及び振分装置の分解正面斜視図である。
【図１０】ベース板、可変入賞装置、集合樋及び振分装置の分解背面斜視図である。
【図１１】可変入賞装置の分解正面斜視図である。
【図１２】可変入賞装置の分解背面斜視図である。
【図１３】振分装置の分解正面斜視図である。
【図１４】振分装置の分解正面斜視図である。
【図１５】受入部材及び振分装置の正面図である。
【図１６】図１５のＸＶＩ－ＸＶＩ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図１７】図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図１８】図１５のＸＶＩＩＩ－ＸＶＩＩＩ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図１９】図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図２０】図１５のＸＶＩＩＩ－ＸＶＩＩＩ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図２１】可変入賞装置及び振分装置の正面図である。
【図２２】図１６の矢印ＸＸＩＩ方向視における可変入賞装置及び振分装置の斜視図である。
【図２３】図１６の矢印ＸＸＩＩＩ方向視における可変入賞装置及び振分装置の斜視図である。
【図２４】（ａ）は、主制御装置内のＲＯＭの電気的構成を示すブロック図であり、（ｂ）は、第１当たり種別カウンタと特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタと普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【図２５】各大当たり種別における１ラウンド目の可変入賞装置の開閉板の作動パターンと、振分装置のスライド変位部材の作動パターンと、の計時変化を示した図である。
【図２６】動作ユニットの正面斜視図である。
【図２７】動作ユニットの背面斜視図である。
【図２８】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図２９】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３０】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３１】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３２】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。

【図３３】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３４】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３５】動作ユニットの動作の一例を示す動作ユニットの正面図である。
【図３６】第１動作ユニットの正面斜視図である。
【図３７】第１動作ユニットの背面斜視図である。
【図３８】第１動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３９】第１動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図４０】演出待機状態における第１動作ユニットの正面図である。
【図４１】演出待機状態における第１動作ユニットの背面図である。
【図４２】図４０の矢印ＸＬＩＩ方向視における第１動作ユニットの側面図である。
【図４３】中間演出状態における第１動作ユニットの正面図である。
【図４４】中間演出状態における第１動作ユニットの背面図である。
【図４５】張出状態における第１動作ユニットの正面図である。
【図４６】張出状態における第１動作ユニットの背面図である。
【図４７】回動部材の回動変位に伴う被支持部材の変位量および変位角度を模式的に示す模式図である。
【図４８】（ａ）及び（ｂ）は、回動部材が角速度一定の態様で傾倒方向に回動した場合における被支持部材の従動側の変位量の大小関係を示す模式図である。
【図４９】回動部材の回転に伴う角度の変化を示す模式図である。
【図５０】背面ケース及び第２動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図５１】背面ケース及び第２動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図５２】（ａ）は、図２８のＬＩＩａ－ＬＩＩａ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図であり、（ｂ）は、図２８のＬＩＩｂ－ＬＩＩｂ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図である。
【図５３】（ａ）は、図３３のＬＩＩＩａ－ＬＩＩＩａ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図であり、（ｂ）は、図３３のＬＩＩＩｂ－ＬＩＩＩｂ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図である。
【図５４】（ａ）は、図３０のＬＩＶａ－ＬＩＶａ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図であり、（ｂ）は、図３０のＬＩＶｂ－ＬＩＶｂ線における第２動作ユニット及びセンターフレームの断面図である。
【図５５】昇降反転演出装置の分解正面斜視図である。
【図５６】昇降反転演出装置の分解背面斜視図である。
【図５７】（ａ）及び（ｂ）は、伝達装置保持板、上下反転部材、中間腕部材、直動板部材及び軸回転部材の正面図である。
【図５８】（ａ）は、図５７（ａ）のＬＶＩＩＩａ－ＬＶＩＩＩａ線における伝達装置保持板、上下反転部材、中間腕部材、直動板部材及び軸回転部材の断面図であり、（ｂ）は、図５７（ｂ）のＬＶＩＩＩｂ－ＬＶＩＩＩｂ線における伝達装置保持板、上下反転部材、中間腕部材、直動板部材及び軸回転部材の断面図である。
【図５９】（ａ）から（ｃ）は、演出装置の正面図である。
【図６０】第３動作ユニットの構成の一部の分解正面斜視図である。
【図６１】第３動作ユニットの構成の一部の分解背面斜視図である。
【図６２】第３動作ユニットの構成の一部の分解正面斜視図である。
【図６３】第３動作ユニットの構成の一部の分解背面斜視図である。
【図６４】（ａ）及び（ｂ）は、外側回転部材及び中間腕部材の背面図である。
【図６５】（ａ）及び（ｂ）は、外側回転部材及び中間腕部材の背面図である。
【図６６】（ａ）及び（ｂ）は、外側回転部材及び中間腕部材の正面図である。
【図６７】（ａ）及び（ｂ）は、外側回転部材及び中間腕部材の正面図である。
【図６８】昇降アーム部材の配置、駆動モータの駆動態様および検出センサの出力の一例を時系列で示すタイミングチャートである。
【図６９】図２８のＬＸＩＸ－ＬＸＩＸ線における第３動作ユニットの断面図である。

【図７０】（ａ）から（ｄ）は、各動作ユニットの組み合わせ動作の例を時系列に沿って模式的に説明する動作ユニットの正面模式図である。
【図７１】（ａ）から（ｄ）は、各動作ユニットの組み合わせ動作の例を時系列に沿って模式的に説明する動作ユニットの正面模式図である。
【図７２】振分装置の正面斜視図である。
【図７３】可変入賞装置及び振分装置の正面図である。
【図７４】図１６の矢印ＸＸＩＩＩ方向視における可変入賞装置及び振分装置の斜視図である。
【図７５】図７３のＬＸＸＶ－ＬＸＸＶ線における可変入賞装置及び振分装置の断面図である。
【図７６】図７５のＬＸＸＶＩ－ＬＸＸＶＩ線における振分装置の中部材、スライド変位部材、下部材及び検出センサの断面図である。
【図７７】（ａ）から（ｄ）は、振分装置の中部材の正面斜視図である。
【図７８】中部材、状態切替装置、スライド変位部材及び下部材の上面図である。
【図７９】（ａ）は、図７８のＬＸＸＩＸａ－ＬＸＸＩＸａ線における中部材、スライド変位部材及び下部材の断面図であり、（ｂ）は、図７８のＬＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＩＸｂ線における中部材、スライド変位部材及び下部材の断面図であり、（ｃ）は、図７８のＬＸＸＩＸｃ－ＬＸＸＩＸｃ線における中部材、スライド変位部材及び下部材の断面図である。
【図８０】（ａ）及び（ｂ）は、スライド変位部材と球案内部の上側面に乗る球との側面図である。
【図８１】（ａ）は、回動部材の正面図であり、（ｂ）は、回動部材の背面図であり、（ｃ）は、図８１（ａ）の矢印ＬＸＸＩｃ方向視における回動部材の側面図である。
【図８２】第１動作ユニットの正面図である。
【図８３】第１動作ユニットの背面図である。
【図８４】第１動作ユニットの正面図である。
【図８５】第１動作ユニットの背面図である。
【図８６】（ａ）及び（ｂ）は、案内長孔、皿状蓋部、検出センサ及び伝達ギアカムの延設部の背面図である。
【図８７】（ａ）及び（ｂ）は、案内長孔、皿状蓋部、検出センサ及び伝達ギアカムの延設部の背面図である。
【図８８】案内長孔、皿状蓋部、検出センサ及び伝達ギアカムの延設部の背面図である。
【図８９】第１装飾回転部材及び第２装飾回転部材の正面斜視図である。
【図９０】（ａ）及び（ｂ）は、案内長孔、矩形状箱部及び張出装飾部を模式的に示す正面模式図である。
【図９１】（ａ）及び（ｂ）は、案内長孔、矩形状箱部及び張出装飾部を模式的に示す正面模式図である。
【図９２】案内長孔、矩形状箱部及び張出装飾部を模式的に示す正面模式図である。
【図９３】図８５のＸＣＩＩＩ－ＸＣＩＩＩ線における第１動作ユニットの断面図である。
【図９４】張出状態における第２動作ユニットの正面図である。
【図９５】図９４のＸＣＶ－ＸＣＶ線における第２動作ユニットの断面図である。
【図９６】伝達装置保持板、上下反転部材、中間腕部材、直動板部材及び軸回転部材の正面図である。
【図９７】伝達装置保持板、上下反転部材、中間腕部材、直動板部材及び軸回転部材の正面図である。
【図９８】昇降反転演出装置の正面斜視図である。
【図９９】（ａ）は、中間腕部材の正面斜視図であり、（ｂ）は、中間腕部材の背面斜視図である。
【図１００】金属棒と中間腕部材との変位を模式的に示す第３動作ユニットの模式図であ

る。
【図１０１】第３動作ユニットの正面模式図である。
【図１０２】外側回転部材及び中間腕部材の正面図である。
【図１０３】（ａ）は、外側回転部材及び中間腕部材の背面図であり、（ｂ）は、外側回転部材及び中間腕部材の正面図である。
【図１０４】第３動作ユニットの正面図である。
【図１０５】第３動作ユニットの正面図である。
【図１０６】図１０５のＣＶＩ－ＣＶＩ線における第３動作ユニットの断面図である。
【図１０７】図１０４のＣＶＩＩ－ＣＶＩＩ線における第３動作ユニットの断面図である。
【図１０８】図１５のＸＶＩ－ＸＶＩ線に対応する線における第２実施形態における振分装置の断面図である。
【図１０９】（ａ）及び（ｂ）は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第３実施形態における振分装置の断面図である。
【図１１０】（ａ）及び（ｂ）は、第４実施形態における第３流路構成部の下流側の構成を模式的に示す第３流路構成部、確変検出センサ、通常検出センサ及びスライド変位部材の模式上面図である。
【図１１１】（ａ）は、図１１０（ａ）のＣＸＩａ－ＣＸＩａ線における第３流路構成部、確変検出センサ、通常検出センサ及びスライド変位部材の模式断面図であり、（ｂ）は、図１１０（ｂ）のＣＸＩｂ－ＣＸＩｂ線における第３流路構成部、確変検出センサ、通常検出センサ及びスライド変位部材の模式断面図である。
【図１１２】（ａ）及び（ｂ）は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第５実施形態における振分装置の部分断面図である。
【図１１３】図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第６実施形態における振分装置の断面図である。
【図１１４】第７実施形態における振分装置の正面斜視図である。
【図１１５】図１１４のＣＸＶ－ＣＸＶ線における振分装置の断面図である。
【図１１６】第８実施形態における案内長孔と回動部材との関係を模式的に示す正面模式図である。
【図１１７】第９実施形態における案内長孔と回動部材との関係を模式的に示す正面模式図である。
【図１１８】第１制御例におけるパチンコ機の正面図である。
【図１１９】第１制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１２０】（ａ）は、第１制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面視下領域に設けられた可変入賞装の構造を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１制御例における可変入賞装置に入賞した球の流下経路を模式的に示した模式図である。
【図１２１】第１制御例におけるパチンコ機の背面図である。
【図１２２】（ａ）は、第１制御例における表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１制御例における実際の表示画面を例示した図である。
【図１２３】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常状態中におけるリーチ成立時の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常状態中における普通図柄変動の実行中の表示態様の一例を示した図である。
【図１２４】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常状態中に普図当たり遊技（ロング開放当たり遊技）が実行された場合の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常状態中におけるチャンスゾーンが設定された場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１２５】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される特殊変動演出中において第３図柄が仮停止した場合の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第

１制御例において第３図柄表示装置で表示される特図２保留球を獲得している状態で実行される特殊変動演出において第３図柄が再始動した場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１２６】第１制御例において第３図柄表示装置で表示される特図２保留球を獲得していない状態で実行される特殊変動演出において第３図柄が再始動した場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１２７】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常大当たり遊技のエンディング期間のうち、前半期間の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される確変大当たり遊技のエンディング期間のうち、前半期間の表示態様の一例を示した図であり、（ｃ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される通常大当たり遊技のエンディング期間のうち、後半期間の表示態様の一例を示した図であり、（ｄ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される確変大当たり遊技のエンディング期間のうち、後半期間の表示態様の一例を示した図である。
【図１２８】（ａ），（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示されるチャンスモード中に実行される遊技状態示唆演出の表示態様の一例を示した図である。
【図１２９】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される演出モードとしてチャンスモードが設定されている状態であって、内部的に通常状態が設定されており、高速変動期間以外の期間中（通常変動期間中）の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される演出モードとしてチャンスモードが設定されている状態であって、内部的に通常状態が設定されており、高速変動期間以外の期間中（通常変動期間中）に枠ボタンを操作した場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１３０】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示されるチャンスモードのうち、高速変動期間中における操作演出の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示されるチャンスモードのうち、高速変動期間中における操作演出中に枠ボタンを操作した場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１３１】（ａ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される「スーパーチャンスモード」中に第１特別図柄変動が実行された場合の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１制御例において第３図柄表示装置で表示される「スーパーチャンスモード」中に第２特別図柄変動が実行された場合の表示態様の一例を示した図である。
【図１３２】（ａ）は、第１制御例における第３図柄の変動演出として、非リーチ変動演出が実行される変動パターンが設定された場合の演出の流れを示したタイミングチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における第３図柄の変動演出として、リーチ変動演出が実行される変動パターンが設定された場合の演出の流れを示したタイミングチャートである。
【図１３３】（ａ）は、第１制御例における通常大当たりを対象としたエンディング期間の演出の流れを示したタイミングチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における確変大当たりを対象としたエンディング期間の演出の流れを示したタイミングチャートあり、（ｃ）は、第１制御例における確変大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）を流下しなかった場合の流れを示したタイミングチャートである。
【図１３４】（ａ），（ｂ）は、第１制御例における大当たり遊技終了後に設定される演出モードの流れを示したタイミングチャートである。
【図１３５】（ａ），（ｂ）は、第１制御例における、チャンスモード中における操作演出の内容の流れを示したタイミングチャートである。
【図１３６】第１制御例におけるパチンコ機のゲームフローを示した図である。
【図１３７】第１制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１３８】第１制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。
【図１３９】（ａ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック

図であり、（ｂ）は、第１制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１４０】（ａ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４１】（ａ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特図１大当たり用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特図２大当たり用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４２】（ａ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４３】第１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された確変・時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４４】（ａ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１４５】第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された通常中特図２演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４６】第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された確変中演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４７】（ａ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された連続予告実行選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたＶ報知実行選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４８】（ａ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたボタン操作時演出選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短状態選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１４９】第１制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された確変状態選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１５０】第１制御例における表示制御装置の電気的構成を示すブロック図である。
【図１５１】（ａ）～（ｃ）は、第１制御例における電源投入時画像を説明する説明図である。
【図１５２】（ａ）は、第１制御例における背面Ａを説明する説明図であり、（ｂ）は、第１制御例における背面Ｂ～Ｄを説明する説明図である。
【図１５３】第１制御例における表示データテーブルの一例を模式的に示した図である。
【図１５４】第１制御例における転送データテーブルの一例を模式的に示した図である。
【図１５５】第１制御例における描画リストの一例を模式的に示した図である。
【図１５６】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図１５７】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理を示すフローチャートである。
【図１５８】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄大当たり判定処理を示すフローチャートである。
【図１５９】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理を示すフローチャートである。
【図１６０】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理を示す

フローチャートである。
【図１６１】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理を示すフローチャートである。
【図１６２】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理を示すフローチャートである。
【図１６３】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理を示すフローチャートである。
【図１６４】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるスルーゲート通過処理を示すフローチャートである。
【図１６５】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＮＭＩ割込処理を示すフローチャートである。
【図１６６】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図１６７】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１６８】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理を示すフローチャートである。
【図１６９】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり動作設定処理を示すフローチャートである。
【図１７０】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理を示すフローチャートである。
【図１７１】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞処理を示すフローチャートである。
【図１７２】第１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される異常処理を示すフローチャートである。
【図１７３】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図１７４】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１７５】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理を示すフローチャートである。
【図１７６】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理を示すフローチャートである。
【図１７７】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞コマンド処理を示すフローチャートである。
【図１７８】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図用入賞情報コマンド処理を示すフローチャートである。
【図１７９】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される普図関連処理を示すフローチャートである。
【図１８０】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図１８１】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディング処理を示すフローチャートである。
【図１８２】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理を示すフローチャートである。
【図１８３】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理を示すフローチャートである。
【図１８４】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理を示すフローチャートである。
【図１８５】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるチャン

スモード中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１８６】第１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される枠ボタン入力監視・演出処理を示すフローチャートである。
【図１８７】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１８８】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるブート処理を示すフローチャートである。
【図１８９】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド割込処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ割込処理を示すフローチャートである。
【図１９０】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理を示すフローチャートである。
【図１９１】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される変動パターンコマンド処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される停止種別コマンド処理を示すフローチャートである。
【図１９２】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるオープニングコマンド処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるラウンド数コマンド処理を示したフローチャートである。
【図１９３】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディングコマンド処理を示すフローチャートである。
【図１９４】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される変動停止コマンド処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される報知コマンド処理を示したフローチャートである。
【図１９５】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される背面画像変更コマンド処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるエラーコマンド処理を示したフローチャートである。
【図１９６】第１制御例における表示装置内のＭＰＵにより実行される表示設定処理を示したフローチャートである。
【図１９７】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される警告画像設定処理を示したフローチャートである。
【図１９８】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるポインタ更新処理を示したフローチャートである。
【図１９９】（ａ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される転送設定処理を示したフローチャートであり、（ｂ）は、第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される常駐画像転送設定処理を示したフローチャートである。
【図２００】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される通常画像転送設定処理を示したフローチャートである。
【図２０１】第１制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される描画処理を示したフローチャートである。
【図２０２】（ａ）は、第２制御例におけるパチンコ機に形成される表示画層と、表示画面との関係を示した模式図であり、（ｂ），（ｃ）は、第２制御例における主図柄画層の表示がオフ、副図柄画層の表示がオンに設定されている場合に実行される表示演出の一例を示した図である。
【図２０３】（ａ）は、第２制御例において海画像（海背景）が設定されている場合に用いられる海用主図柄の画像データを示す模式図であり、（ｂ）は、第２制御例において山画像（山背景）が設定されている場合に用いられる山用主画像の画像データを示す模式図であり、（ｃ）は、第２制御例においてキャラクタ記憶エリアに予め記憶されている副図

柄の画像データを模式的に示した図であり、（ｄ）は、第２制御例において変動用主図柄に用いられる各種画像に対応する画像データの内容を模式的に示した模式図である。
【図２０４】第２制御例における第３図柄（主図柄、副図柄）の変動表示の流れを模式的に示したタイミングチャートである。
【図２０５】（ａ）は、第２制御例における演出例に用いられる変動パターンの流れを模式的に示したタイミングチャートであり、（ｂ）は、第２制御例における通常演出の流れを模式的に示したタイミングチャートであり、（ｃ）は、第２制御例におけるリーチライン予告演出の流れを模式的に示したタイミングチャートであり、（ｄ）は、第２制御例における副図柄の変動方向を通常とは異ならせた予告演出の流れを模式的に示したタイミングチャートである。
【図２０６】第２制御例における表示制御装置の電気的構成を示すブロック図である。
【図２０７】第２制御例における表示データテーブルの一例を模式的に示した図である。
【図２０８】第２制御例における描画リストの一例を模式的に示した図である。
【図２０９】第２制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される変動パターンコマンド処理２を示したフローチャートである。
【図２１０】第２制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される背面画像変更コマンド処理２を示したフローチャートである。
【図２１１】（ａ）は、第２制御例の変形例におけるパチンコ機に形成される表示画層と、表示画面との関係を示した模式図であり、（ｂ）は、第２制御例の変形例におけるトリプルリーチ演出中に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｃ）は、第２制御例の変形例におけるトリプルリーチ演出によりトリプルリーチ状態となった場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２１２】第３制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図２１３】（ａ）は、第３制御例におけるパチンコ機の遊技盤の可変入賞装置のうち、特定入賞口付近の構造を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第３制御例における特定入賞口に入賞した球の流下経路を模式的に示した模式図である。
【図２１４】第３制御例における特定入賞口に入賞した球の流下経路を模式的に示した模式図である。
【図２１５】第３制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図２１６】第３制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図２１７】第３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理４を示すフローチャートである。
【図２１８】第３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞処理４を示すフローチャートである。
【図２１９】第３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶラウンド処理を示すフローチャートである。
【図２２０】第３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり中更新処理を示すフローチャートである。
【図２２１】第３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理４を示すフローチャートである。
【図２２２】第３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理４を示すフローチャートである。
【図２２３】第４制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図２２４】（ａ）は、第４制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特図２大当たり用２テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された転落抽選テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２２５】（ａ）は、第４制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの構成を

示したブロック図である。
【図２２６】（ａ）は、第４制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたボタン操作時演出選択２テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された確変状態選択２テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２２７】第４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄大当たり判定処理５を示すフローチャートである。
【図２２８】第４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理５を示すフローチャートである。
【図２２９】第４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理５を示すフローチャートである。
【図２３０】第４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理５を示すフローチャートである。
【図２３１】第４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される転落関連処理を示すフローチャートである。
【図２３２】第２制御例における表示演出の一例を示した図である。
【図２３３】パチンコ機の遊技盤の変形例を示した図である。
【図２３４】第５制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図２３５】（ａ）は第５制御例における特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技中に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例における大当たり遊技のエンディング画面に表示される表示画面の一例を示した図である。
【図２３６】（ａ）は第５制御例におけるチャンスタイム中に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例におけるチャンスタイム終了時の演出画面の一例を示した図である。
【図２３７】（ａ）は第５制御例における引き戻しゾーンの開始時に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例における引き戻しゾーン中に時短当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。
【図２３８】（ａ）は第５制御例におけるロング時短が設定された場合に実行される延長タイム中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例におけるロング時短中において実行された特別図柄変動の実行回数が９９００回に到達した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２３９】第５制御例におけるチャンスタイム終了後に時短状態中に実行される準備タイムの演出画面の一例を示した図である。
【図２４０】（ａ）は第５制御例における引き戻しゾーン中に表示される背景種別と、各背景が示す内容との関係性を示す図であり、（ｂ）は第５制御例における引き戻しモード中の示唆態様の種別と、各示唆態様が示す示唆内容との関係性を示した図である。
【図２４１】第５制御例におけるゲームフローを示した図である。
【図２４２】第５制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示したブロック図である。
【図２４３】第５制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。
【図２４４】（ａ）は第５制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第５制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図２４５】（ａ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２４６】（ａ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択５テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第５制御例における特図１大

当たり用５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は第５制御例における特図２大当たり用５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２４７】（ａ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第５制御例における通常・第２確変用５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２４８】（ａ）は第５制御例における確変・時短用５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２４９】（ａ）は第５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図２５０】第５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された引き戻しモード選択テーブルの構成を示したブロック図である。
【図２５１】第５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された示唆態様選択テーブルの構成を示したブロック図である。
【図２５２】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理５を示すフローチャートである。
【図２５３】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理５を示すフローチャートである。
【図２５４】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理５を示すフローチャートである。
【図２５５】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理５を示すフローチャートである。
【図２５６】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理５を示すフローチャートである。
【図２５７】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理５を示すフローチャートである。
【図２５８】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理５を示すフローチャートである。
【図２５９】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理５を示すフローチャートである。
【図２６０】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理５を示すフローチャートである。
【図２６１】第５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理５を示すフローチャートである。
【図２６２】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理５を示すフローチャートである。
【図２６３】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理５を示すフローチャートである。
【図２６４】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２６５】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される引き戻しモード設定処理を示すフローチャートである。
【図２６６】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２６７】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２確変状態演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２６８】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理５を示すフローチャートである。
【図２６９】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２

演出態様設定処理５を示すフローチャートである。
【図２７０】第５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるチャンスタイム中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２７１】（ａ）は第５制御例の第１変形例における通常状態において特図１抽選の抽選結果が大当たり当選、又は時短当選した場合の変動表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例の第１変形例における通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において第１特別図柄抽選（特図１抽選）の抽選結果が時短当選であった場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２７２】（ａ）は第５制御例の第１変形例における通常状態において特図１の変動時間として３０秒が設定された場合の時短状態中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例の第１変形例における時短状態が終了した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２７３】第５制御例の第１変形例における昇格チャンスゾーン中に特図２保留で時短当選した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２７４】（ａ）は第５制御例の第１変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数５ａテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第５制御例の第１変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択５ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２７５】第５制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理５ａを示すフローチャートである。
【図２７６】第５制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理５ａを示すフローチャートである。
【図２７７】第５制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理５ａを示すフローチャートである。
【図２７８】（ａ）は第５制御例の第２変形例における通常状態中の特図１抽選において第１時短状態が付与される大当たりに当選した場合に実行されるチャンスタイム獲得演出中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第５制御例の第２変形例における通常状態中の特図１抽選において第２時短状態が付与される時短当選した場合に実行されるチャンスタイム獲得演出中の表示画面の一例を示した図である。
【図２７９】第５制御例の第２変形例における大当たり当選した場合の変動パターンと時短当選した場合の変動パターンの一例を示した図である。
【図２８０】（ａ）は第５制御例の第２変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数５ｂテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第５制御例の第２変形例における大当たり用５ｂテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２８１】第５制御例の第２変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択５ｂテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２８２】第５制御例の第２変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理５ｂを示すフローチャートである。
【図２８３】（ａ）は第６制御例における時短Ａが設定されている場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第６制御例における時短Ｂが設定されている場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２８４】（ａ）は第６制御例における時短状態中に時短当選し、時短残回数が増加した場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第６制御例における時短状態中に時短当選し、時短残回数が減少した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図２８５】第６制御例におけるゲームフローを示した図である。
【図２８６】（ａ）は第６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数６テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択６テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図２８７】第６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり用６テーブル

の規定内容を模式的に示した図である。
【図２８８】第６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図２８９】第６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理６を示すフローチャートである。
【図２９０】第６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理６を示すフローチャートである。
【図２９１】第６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理６を示すフローチャートである。
【図２９２】第６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるモード別演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２９３】第６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短Ｂ中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図２９４】第７制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図２９５】第７制御例におけるパチンコ機の遊技盤の部分拡大図である。
【図２９６】第７制御例におけるＶ入賞装置の正面斜視図である。
【図２９７】第７制御例におけるＶ入賞装置の分解正面斜視図である。
【図２９８】第７制御例におけるＶ入賞装置を背面側から見た動作図である。
【図２９９】（ａ）は第７制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口を開閉扉が閉鎖している状態を平面視した模式図であり、（ｂ）は第７制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口が開放している状態を平面視した模式図である。
【図３００】（ａ）は第７制御例における特図１の変動中に時短抽選結果示唆演出が実行される場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第７制御例における特図１の変動中に時短当選を示唆する場合の表示画面の一例を示した図である。
【図３０１】（ａ）は第７制御例における特図１の変動中に時短非当選を示唆する場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第７制御例における重複当選した場合の大当たり当選報知画面の一例を示した図である。
【図３０２】（ａ）は第７制御例における時短抽選、大当たり抽選に重複当選した場合の報知パターンの一例を示したタイミングチャートであり、（ｂ）は第７制御例における時短当選、大当たり非当選であった場合の報知パターンの一例を示したタイミングチャートであり、（ｃ）はは第７制御例における時短非当選、大当たり当選した場合の報知パターンの一例を示したタイミングチャートである。
【図３０３】第７制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。
【図３０４】（ａ）は第７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図３０５】（ａ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数７テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第７制御例における第１特別図柄乱数７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は第７制御例における第２特別図柄乱数７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３０６】（ａ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択７テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第７制御例における特図１大当たり種別選択７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は第７制御例における特図２大当たり種別選択７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｄ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３０７】第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３０８】（ａ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第７制御例における通常用変

動パターン７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３０９】第７制御例における時短用変動パターン７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３１０】（ａ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は第７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３１１】第７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は第７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図３１２】第７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された抽選結果報知態様選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図３１３】第７制御例におけるゲームフローを示した図である。
【図３１４】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図３１５】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理７を示すフローチャートである。
【図３１６】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理７を示すフローチャートである。
【図３１７】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理７を示すフローチャートである。
【図３１８】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理７を示すフローチャートである。
【図３１９】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理７を示すフローチャートである。
【図３２０】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり開始設定処理７を示すフローチャートである。
【図３２１】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり用時短更新処理７を示すフローチャートである。
【図３２２】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ入口通過処理を示すフローチャートである。
【図３２３】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ通過処理を示すフローチャートである。
【図３２４】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理７を示すフローチャートである。
【図３２５】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理７を示すフローチャートである。
【図３２６】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理７を示すフローチャートである。
【図３２７】第７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり制御処理７を示すフローチャートである。
【図３２８】第７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理７を示すフローチャートである。
【図３２９】パチンコ機１０が有する遊技盤１３の変形構成を示した図である。
【図３３０】第８制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図３３１】（ａ）～（ｂ）は、第８制御例におけるパチンコ機の振り分けユニット１０６４の内部の構造を模式的に示した図である。
【図３３２】（ａ）は、第８制御例における第３図柄表示装置に表示される不利時短状態でオーバーフロー入賞によって特図２保留を連続で獲得した場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第８制御例における第３図柄表示装置に表示される普図ロング当

たり遊技中の演出画面の一例を示した図である。
【図３３３】（ａ）は、第８制御例における第３図柄表示装置に表示される不利時短状態の終了を示唆する場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第８制御例における第３図柄表示装置に表示される通常大当たり遊技におけるエンディング中の演出画面の一例を示した図である。
【図３３４】（ａ）は、第８制御例における主制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第８制御例における主制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３３５】（ａ）は、第８制御例における大当たり種別選択８テーブルを模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第８制御例における時短当たり乱数８テーブルを模式的に示した模式図である。
【図３３６】（ａ）は、第８制御例における確変・時短用８テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第８制御例における時短種別選択８テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３３７】（ａ）は、第８制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第８制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３３８】第８制御例における先読み保留態様選択テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３３９】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理８を示すフローチャートである。
【図３４０】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動実行判定処理８を示すフローチャートである。
【図３４１】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理８を示すフローチャートである。
【図３４２】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理８を示すフローチャートである。
【図３４３】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理８を示すフローチャートである。
【図３４４】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理８を示すフローチャートである。
【図３４５】第８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理８を示すフローチャートである。
【図３４６】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図３４７】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理８を示すフローチャートである。
【図３４８】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理８を示すフローチャートである。
【図３４９】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出設定処理８を示すフローチャートである。
【図３５０】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理８を示すフローチャートである。
【図３５１】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞コマンド処理８を示すフローチャートである。
【図３５２】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図用入賞情報コマンド処理８を示すフローチャートである。
【図３５３】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディング処理８を示すフローチャートである。
【図３５４】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される液晶演

出実行管理処理８を示すフローチャートである。
【図３５５】第８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される先行入賞検出処理８を示すフローチャートである。
【図３５６】第９制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図３５７】（ａ）～（ｂ）は、第９制御例におけるパチンコ機の遊技盤の右側領域を示した拡大図である。
【図３５８】（ａ）～（ｂ）は、第９制御例におけるパチンコ機の遊技盤の右側領域を示した拡大図である。
【図３５９】（ａ）～（ｂ）は、第９制御例におけるパチンコ機の遊技盤の右側領域を示した拡大図である。
【図３６０】第９制御例における普図当たり開放パターンＡが設定された場合の普図当たり遊技の流れを示したタイミングチャートである。
【図３６１】第９制御例における普図当たり開放パターンＢが設定された場合の普図当たり遊技の流れを示したタイミングチャートである。
【図３６２】第９制御例における遊技状態の遷移内容を示したゲームフローを模式的に示した模式図である。
【図３６３】（ａ）は、第９制御例における第３図柄表示装置に表示される通常状態で時短図柄当たりに当選した場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第９制御例における第３図柄表示装置に表示される天国モード中の演出画面の一例を示した図である。
【図３６４】（ａ）は、第９制御例における第３図柄表示装置に表示される宇宙モード中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第９制御例における第３図柄表示装置に表示されるチャレンジモード中の演出画面の一例を示した図である。
【図３６５】（ａ）は、第９制御例における主制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第９制御例における第１当たり乱数９テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３６６】（ａ）は、第９制御例における大当たり種別選択９テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第９制御例における時短当たり乱数９テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３６７】第９制御例における普図当たり種別選択９テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３６８】第９制御例における主制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３６９】（ａ）は、第９制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第９制御例における期待度選択テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３７０】第９制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３７１】第９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理９を示すフローチャートである。
【図３７２】第９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド処理９を示すフローチャートである。
【図３７３】第９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される遊技状態更新処理９を示すフローチャートである。
【図３７４】第９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短関連処理９を示すフローチャートである。
【図３７５】第９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される非電状況管理処理を示すフローチャートである。
【図３７６】第１０制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図３７７】第１０制御例におけるパチンコ機のＶ入賞装置を示した拡大図である。

【図３７８】第１０制御例におけるパチンコ機のＶ入賞装置を示した拡大図である。
【図３７９】第１０制御例におけるパチンコ機のＶ入賞装置を示した拡大図である。
【図３８０】第１０制御例におけるパチンコ機のＶ入賞装置を示した拡大図である。
【図３８１】（ａ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される通常時に特図１大当たり後の時短演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される特図２大当たり遊技中の演出画面の一例を示した図である。
【図３８２】（ａ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される超チャンスモード中の最終変動画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される超チャンスモード中に特図２保留がＭＡＸまで貯まった場合の演出画面の一例を示した図である。
【図３８３】（ａ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される超チャンスモード中の宝箱開放演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１０制御例における第３図柄表示装置に表示される超チャンスモード中最終変動画面の一例を示した図である。
【図３８４】第１０制御例における遊技状態の遷移内容を示したゲームフローを模式的に示した模式図である。
【図３８５】（ａ）は、第１０制御例における主制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１０制御例における主制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３８６】（ａ）は、第１０制御例における第１当たり乱数１０テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１０制御例における第１当たり乱数１０テーブルの一部である特別図柄１乱数１０テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、第１０制御例における第１当たり乱数１０テーブルの一部である特別図柄２乱数１０テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３８７】第１０制御例における小当たり種別選択１０テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３８８】第１０制御例における時短付与テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３８９】（ａ）は、第１０制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１０制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３９０】（ａ）は、第１０制御例における最終変動演出選択テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１０制御例における告知対象選択テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図３９１】第１０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１０を示すフローチャートである。
【図３９２】第１０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理１０を示すフローチャートである。
【図３９３】第１０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理１０を示すフローチャートである。
【図３９４】第１０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留球数コマンド処理１０を示すフローチャートである。
【図３９５】第１０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理１０を示すフローチャートである。
【図３９６】第１１制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図３９７】（ａ）は、第１１制御例における第３図柄表示装置に表示されるデモ画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１１制御例における第３図柄表示装置に表示される通常時右打ち遊技中画面の一例を示した図である。
【図３９８】（ａ）は、第１１制御例における主制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的

に示した模式図であり、（ｂ）は、第１１制御例における主制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図３９９】（ａ）は、第１１制御例における特別図柄２乱数１１テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１１制御例における小当たり種別選択１１テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４００】（ａ）は、第１１制御例における時短当たり乱数１１テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１１制御例における時短種別選択１１テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４０１】第１１制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図４０２】第１１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理１１を示すフローチャートである。
【図４０３】第１１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理１１を示すフローチャートである。
【図４０４】第１１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理１１を示すフローチャートである。
【図４０５】第１１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短リミット更新処理を示すフローチャートである。
【図４０６】第１２制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図４０７】第１２制御例における主制御装置のＲＯＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図４０８】第１２制御例における主制御装置のＲＡＭの内容の一部を模式的に示した模式図である。
【図４０９】（ａ）は、第１２制御例における第１当たり乱数１２テーブルを模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１２制御例における第２当たり乱数１２テーブルを模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、第１２制御例における時短当たり乱数１２テーブルを模式的に示した模式図であり、（ｄ）は、第１２制御例における小当たり乱数１２テーブルを模式的に示した模式図である。
【図４１０】（ａ）は、第１２制御例における大当たり種別選択１２テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第１２制御例における大当たり種別選択１２テーブルの一部である特図１大当たり用１２テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１１】第１２制御例における大当たり種別選択１２テーブルの一部である特図２大当たり用１２テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１２】第１２制御例における小当たり種別選択１２テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１３】第１２制御例における変動パターン１２テーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１４】第１２制御例における変動パターン１２テーブルの一部である通常状態用変動パターンテーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１５】第１２制御例における変動パターン１２テーブルの一部である時短状態用変動パターンテーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１６】第１２制御例における変動パターン１２テーブルの一部である時短当選変動状態用変動パターンテーブルの内容を模式的に示した模式図である。
【図４１７】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１２を示すフローチャートである。
【図４１８】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動開始処理１２を示すフローチャートである。
【図４１９】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄判定処理１２を示すフローチャートである。
【図４２０】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動

パターン選択処理１２を示すフローチャートである。
【図４２１】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１時短抽選処理１２を示すフローチャートである。
【図４２２】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される遊技状態更新処理１２を示すフローチャートである。
【図４２３】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動実行中処理１２を示すフローチャートである。
【図４２４】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動停止処理１２を示すフローチャートである。
【図４２５】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１強制停止処理１２を示すフローチャートである。
【図４２６】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１２を示すフローチャートである。
【図４２７】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動開始処理１２を示すフローチャートである。
【図４２８】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄判定処理１２を示すフローチャートである。
【図４２９】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２時短抽選処理１２を示すフローチャートである。
【図４３０】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり抽選処理１２を示すフローチャートである。
【図４３１】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動パターン選択処理１２を示すフローチャートである。
【図４３２】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動実行中処理１２を示すフローチャートである。
【図４３３】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動停止処理１２を示すフローチャートである。
【図４３４】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２強制停止処理１２を示すフローチャートである。
【図４３５】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２小当たり停止処理１２を示すフローチャートである。
【図４３６】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理１２を示すフローチャートである。
【図４３７】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理１２を示すフローチャートである。
【図４３８】第１２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短リミット更新処理１２を示すフローチャートである。
【図４３９】（ａ），（ｂ）は、第１３制御例における第３図柄表示装置に表示される天井到達示唆演出画面の一例を示した図である。
【図４４０】（ａ）は、第１３制御例における第３図柄表示装置に表示される天井到達変動演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１３制御例における第３図柄表示装置に表示される天井中演出画面の一例を示した図である。
【図４４１】第１３制御例における第３図柄表示装置に表示される天井中上乗せ演出画面の一例を示した図である。
【図４４２】第１３制御例における各遊技状態の移行の流れを示した遷移図である。
【図４４３】（ａ）は、第１３制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１３制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４４４】（ａ）は、第１３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数１３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１３制御例にお

ける主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数１３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４４５】第１３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択１３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４４６】（ａ）は、第１３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択１３テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１３制御例における時短当選用１３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１３制御例における天井用１３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４４７】（ａ）は、第１３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４４８】第１３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された天井到達示唆演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４４９】第１３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された天井到達時演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４５０】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１３を示すフローチャートである。
【図４５１】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理１３を示すフローチャートである。
【図４５２】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１３を示すフローチャートである。
【図４５３】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理１３を示すフローチャートである。
【図４５４】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理１３を示すフローチャートである。
【図４５５】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１３を示すフローチャートである。
【図４５６】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理１３を示すフローチャートである。
【図４５７】第１３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図４５８】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理１３を示すフローチャートである。
【図４５９】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理１３を示すフローチャートである。
【図４６０】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理１３を示すフローチャートである。
【図４６１】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理１３を示すフローチャートである。
【図４６２】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様設定処理１３を示すフローチャートである。
【図４６３】第１３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１３を示すフローチャートである。
【図４６４】（ａ）は、第１３制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示される遊技状態示唆演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１３制御例の第１変形例において遊技状態示唆演出にて第１時短状態が設定されていることが報知された後の表示画面の一例を示した図である。
【図４６５】（ａ）は、第１３制御例の第１変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１３ａテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第

１３制御例の第１変形例における時短当選用１３ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４６６】（ａ）は、第１３制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１３制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４６７】第１３制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された遊技状態示唆演出選択１３ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４６８】第１３制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理１３ａを示すフローチャートである。
【図４６９】第１３制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理１３ａを示すフローチャートである。
【図４７０】第１３制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１３ａを示すフローチャートである。
【図４７１】（ａ）は、第１４制御例における第３図柄表示装置に表示される天井発動モード突入時画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１４制御例における第３図柄表示装置に表示される天井発動モード中の演出画面の一例を示した図である。
【図４７２】（ａ）は、第１４制御例における第３図柄表示装置に表示される超天井発動モード突入時画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１４制御例における第３図柄表示装置に表示される天井発動モード中の時短突入時画面の一例を示した図である。
【図４７３】（ａ）は、第１４制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１４制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４７４】（ａ）は、第１４制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１４テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１４制御例における天井用１４テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４７５】第１４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４７６】第１４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１４を示すフローチャートである。
【図４７７】第１４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１４を示すフローチャートである。
【図４７８】第１４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理１４を示すフローチャートである。
【図４７９】第１４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理１４を示すフローチャートである。
【図４８０】第１４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１４を示すフローチャートである。
【図４８１】（ａ）は、第１４制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示されるドキドキゾーン突入画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１４制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示されるドキドキゾーン突入直後に時短突入することを示す報知画面の一例を示した図である。
【図４８２】第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図４８３】第１４制御例の第１変形例における時短当選用１４ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４８４】（ａ）は、第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４８５】第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯ

Ｍに設定されたドキドキゾーン演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４８６】第１４制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理１４ａを示すフローチャートである。
【図４８７】第１４制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１４ａを示すフローチャートである。
【図４８８】第１４制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１４ａを示すフローチャートである。
【図４８９】第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理１４ａを示すフローチャートである。
【図４９０】第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１４ａを示すフローチャートである。
【図４９１】第１５制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図４９２】（ａ）は、第１５制御例における第３図柄表示装置に表示される第２確変状態中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１５制御例における第３図柄表示装置に表示される第２確変状態終了時の演出画面の一例を示した図である。
【図４９３】（ａ）は、第１５制御例における第３図柄表示装置に表示される通常状態での特図２変動中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１５制御例における第３図柄表示装置に表示される第２確変状態中の特図２変動画面の一例を示した図である。
【図４９４】（ａ）は、第１５制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数１５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４９５】（ａ）は、第１５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択１５テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１５制御例における特図１大当たり用１５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１５制御例における特図２大当たり用１５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４９６】第１５制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択１５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４９７】（ａ）は、第１５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図４９８】第１５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたキープゾーン演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図４９９】第１５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１５を示すフローチャートである。
【図５００】第１５制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短抽選処理１５を示すフローチャートである。
【図５０１】第１５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２確変状態演出設定処理１５を示すフローチャートである。
【図５０２】第１５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理１５を示すフローチャートである。
【図５０３】第１５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理１５を示すフローチャートである。
【図５０４】（ａ）は、第１６実施形態におけるデータ表示装置が接続されたパチンコ機がホールに複数並べて設置されている状態における島設備の外観を例示した図であり、（ｂ）は、第１６実施形態におけるデータ表示装置のデータ表示部に表示される各種データの表示例を示した図である。
【図５０５】（ａ）は、第１６制御例において大当たり遊技状態となっている間のデータ表示装置の視認態様を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例において大当たり終了後

に普通図柄の時短状態に移行した場合におけるデータ表示装置の視認態様の一例を示した図である。
【図５０６】第１６制御例において天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される第３時短状態の間のデータ表示装置の視認態様を示した図である。
【図５０７】（ａ）は、第１６制御例における第３図柄表示装置に表示されるデータ表示装置連動演出の煽り演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例における第３図柄表示装置に表示されるデータ表示装置連動型の大当たり報知演出の演出態様の一例を示した図である。
【図５０８】（ａ）は、第１６制御例において小当たり又は特殊大当たりに当選した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例において天井抽選回数目に実行される変動表示態様の一例を示した図である。
【図５０９】（ａ）は、第１６制御例における第３図柄表示装置に表示される通常状態における時短発動煽り演出の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例における第３図柄表示装置に表示されるデータ表示装置連動型の時短発動演出の演出態様の一例を示した図である。
【図５１０】（ａ）は、第１６制御例における保留変化態様の一覧を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例における保留変化演出が抑制される条件を示した図である。
【図５１１】第１６制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図５１２】第１６制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示したブロック図である。
【図５１３】第１６制御例におけるパチンコ機と外部出力端子板を介して電気的に接続されているデータ表示装置およびホールコンピュータの電気的構成を示したブロック図である。
【図５１４】第１６制御例において外部出力端子板から出力される外部出力信号の種別を示した図である。
【図５１５】第１６制御例における通常遊技中の外部出力端子板の信号出力態様の一例を示した図である。
【図５１６】第１６制御例における電源投入時の信号出力態様の一例を示した図である。
【図５１７】（ａ）は、第１６制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１６制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５１８】（ａ）は、第１６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数１６テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択１６テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｃ）は、第１６制御例における通常用１６テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５１９】（ａ）は、第１６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択１６テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１６テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５２０】（ａ）は、第１６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５２１】第１６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された保留態様選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５２２】第１６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短示唆演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５２３】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図５２４】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１６を示すフローチャートである。

【図５２５】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理１６を示すフローチャートである。
【図５２６】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１６を示すフローチャートである。
【図５２７】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１６を示すフローチャートである。
【図５２８】（ａ）は、第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外端出力設定処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるエラー信号処理を示すフローチャートである。
【図５２９】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるアウト球検出信号処理を示すフローチャートである。
【図５３０】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動口信号処理を示すフローチャートである。
【図５３１】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される開放信号処理を示すフローチャートである。
【図５３２】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図５３３】第１６制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ時信号出力処理を示すフローチャートである。
【図５３４】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図５３５】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理１６を示すフローチャートである。
【図５３６】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理１６を示すフローチャートである。
【図５３７】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理１６を示すフローチャートである。
【図５３８】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞コマンド処理１６を示すフローチャートである。
【図５３９】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理１６を示すフローチャートである。
【図５４０】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図５４１】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される普図関連処理を示すフローチャートである。
【図５４２】第１６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１６を示すフローチャートである。
【図５４３】第１６制御例におけるデータ表示装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図５４４】第１６制御例におけるデータ表示装置内のＭＰＵにより実行される表示装置信号受信処理を示すフローチャートである。
【図５４５】第１６実施形態におけるホールコンピュータのＭＰＵにより実行されるメイン処理を示したフローチャートである。
【図５４６】第１６実施形態におけるホールコンピュータのＭＰＵにより実行される信号受信処理を示したフローチャートである。
【図５４７】第１６実施形態におけるホールコンピュータのＭＰＵにより実行される復電時比較処理を示したフローチャートである。
【図５４８】第１７制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図５４９】（ａ）は、第１７制御例において天井抽選回数に到達した場合に設定される時短状態Ｂの間の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１７制御例において時

短状態Ｂから時短状態Ａへと移行した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図５５０】第１７制御例において時短状態Ｂの間に大当たりに当選した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図５５１】第１７制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図５５２】第１７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図５５３】第１７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５５４】（ａ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択１７テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１７制御例における特図１大当たり用１７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１７制御例における特図２大当たり用１７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５５５】（ａ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数１７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン１７テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｃ）は、第１７制御例における第１時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５５６】（ａ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり乱数１７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択１７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり乱数１７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５５７】（ａ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５５８】第１７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５５９】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理１７を示すフローチャートである。
【図５６０】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動開始処理１７を示すフローチャートである。
【図５６１】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄判定処理１７を示すフローチャートである。
【図５６２】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり抽選処理１７を示すフローチャートである。
【図５６３】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理１７を示すフローチャートである。
【図５６４】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１７を示すフローチャートである。
【図５６５】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動停止処理１７を示すフローチャートである。
【図５６６】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１外れ停止処理を示すフローチャートである。
【図５６７】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動開始処理１７を示すフローチャートである。
【図５６８】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄判定処理１７を示すフローチャートである。
【図５６９】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２時短抽選処理１７を示すフローチャートである。

【図５７０】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動パターン選択処理１７を示すフローチャートである。
【図５７１】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動停止処理１７を示すフローチャートである。
【図５７２】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理１７を示すフローチャートである。
【図５７３】第１７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２外れ停止処理を示すフローチャートである。
【図５７４】第１７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出設定処理１７を示すフローチャートである。
【図５７５】第１７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理１７を示すフローチャートである。
【図５７６】第１８制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図５７７】第１８制御例におけるパチンコ機の遊技盤の部分拡大図である。
【図５７８】第１８制御例におけるＶ入賞装置の正面斜視図である。
【図５７９】第１８制御例におけるＶ入賞装置の分解正面斜視図である。
【図５８０】第１８制御例におけるＶ入賞装置を背面側から見た動作図である。
【図５８１】（ａ）は第１８制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口を開閉扉が閉鎖している状態を平面視した模式図であり、（ｂ）は第１８制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口が開放している状態を平面視した模式図である。
【図５８２】（ａ）は、第１８制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たり遊技のエンディング期間に実行されるＶアイコン獲得演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１８制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たり遊技終了後、特図の４変動目でＶ保留が消化される場合のバトル演出画面の一例を示した図である。
【図５８３】（ａ）は、第１８制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出中にＶアイコンが発動された場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１８制御例における第３図柄表示装置に表示される保留内にＶ保留が存在する場合のバトル演出の演出画面の一例を示した図である。
【図５８４】第１８制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。
【図５８５】（ａ）は、第１８制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５８６】（ａ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数１８テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例における特別図柄１乱数１８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１８制御例における特別図柄２乱数１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５８７】（ａ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択１８テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例における特図１大当たり種別選択１８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１８制御例における特図２大当たり種別選択１８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｄ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５８８】第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５８９】（ａ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択１８テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例における通常用変動パターン１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５９０】第１８制御例における時短用変動パターン１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５９１】（ａ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当た

り乱数１８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択１８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５９２】（ａ）は、第１８制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図５９３】（ａ）は、第１８制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された演出態様選択１８テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例における時短用演出態様設定Ａテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１８制御例における時短用演出態様設定Ｂテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５９４】第１８制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたＶアイコン獲得演出設定テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図５９５】第１８制御例におけるゲームフローを示した図である。
【図５９６】第１８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理１８を示すフローチャートである。
【図５９７】第１８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり用時短更新処理１８を示すフローチャートである。
【図５９８】第１８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理１８を示すフローチャートである。
【図５９９】第１８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理１８を示すフローチャートである。
【図６００】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理１８を示すフローチャートである。
【図６０１】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理１８を示すフローチャートである。
【図６０２】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶアイコン獲得演出設定処理を示すフローチャートである。
【図６０３】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディング処理を示すフローチャートである。
【図６０４】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理１８を示すフローチャートである。
【図６０５】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様選択処理１８を示すフローチャートである。
【図６０６】第１８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短用演出態様設定処理を示すフローチャートである。
【図６０７】（ａ）は、第１８制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示されるＶアイコン獲得演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１８制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示される小当たりＡ当選の特図変動中にＶアイコンが発動される場合の演出画面の一例を示した図である。
【図６０８】（ａ）は、第１８制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示される小当たりＢ当選の特図変動中にＶアイコンが発動される場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１８制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示される小当たりＢ当選の特図変動中に新たにＶ保留を獲得した場合のＶアイコン発動キャンセル演出画面の一例を示した図である。
【図６０９】（ａ）は、第１８制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１８制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６１０】第１８制御例の第１変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたＶアイコン表示態様設定テーブルの規定内容を模式的に示した図である。

【図６１１】第１８制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶアイコン獲得演出設定処理ａを示すフローチャートである。
【図６１２】第１８制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディング処理ａを示すフローチャートである。
【図６１３】第１８制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短用演出態様設定処理ａを示すフローチャートである。
【図６１４】第１６制御例の変形例において、上部役物が張り出し位置に配置されている状態のパチンコ機の正面図である。
【図６１５】（ａ）は、第１６制御例の変形例においてデータ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行され、上部役物が張り出し位置に配置されている状態で大当たりが開始された場合における演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１６制御例の変形例においてデータ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行され、実際に大当たりが報知されるタイミングとなった場合における演出態様の一例を示した図である。
【図６１６】（ａ）は、第１５制御例の第１変形例における第３図柄表示装置に表示される第２確変状態中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１５制御例における第３図柄表示装置に表示される第２確変状態終了時の演出画面の一例を示した図である。
【図６１７】第１５制御例の第１変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される状態移行時変動破棄処理を示すフローチャートである。
【図６１８】第１５制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２確変状態演出設定処理１５ａを示すフローチャートである。
【図６１９】（ａ）及び（ｂ）は、第１９制御例における通常時に特別図柄の抽選で時短図柄当選に対応する抽選結果となった場合に第３図柄表示装置で実行される変動表示態様の一例を示した図である。
【図６２０】（ａ）は、第１９制御例におけるチャンスタイム中に第３図柄表示装置において実行される上乗せ演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第１９制御例におけるチャンスタイムの残り回数が１０回未満の場合に実行される終了待機演出の一例を示した図である。
【図６２１】第１９制御例における第３図柄表示装置に表示されるチャンスタイム終了演出の一例を示した図である。
【図６２２】第１９制御例において天井抽選回数に到達する２５回前に実行された特別図柄の抽選で時短回数５０回の時短図柄に当選した場合の演出態様の推移を示した図である。
【図６２３】（ａ）及び（ｂ）は、第１９制御例において天井抽選回数到達後１回目に実行された特別図柄の抽選結果を示すための変動表示態様の一例を示した図である。
【図６２４】（ａ）及び（ｂ）は、第１９制御例における第３図柄表示装置に表示される天井煽り用の演出の一例を示した図である。
【図６２５】第１９制御例において天井抽選回数到達に基づく時短状態が少なくとも１回終了した後において実行される天井煽り用の演出の一例を示した図である。
【図６２６】（ａ）は、第１９制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１９制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６２７】第１９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数１９テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６２８】（ａ）は、第１９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択１９テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１９制御例における天井煽り用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第１９制御例における天井到達時用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６２９】（ａ）は、第１９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短当たり種別選択１９テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第１９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオ１９テーブルの規定内容

を模式的に示した図である。
【図６３０】（ａ）は、第１９制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第１９制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６３１】第１９制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理１９を示すフローチャートである。
【図６３２】第１９制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図６３３】第１９制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される設定値制御処理を示すフローチャートである。
【図６３４】第１９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様設定処理１９を示すフローチャートである。
【図６３５】第１９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常モード用演出設定処理１９を示すフローチャートである。
【図６３６】第１９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動パターン設定処理を示すフローチャートである。
【図６３７】第１９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される天井関連演出設定処理を示すフローチャートである。
【図６３８】（ａ）及び（ｂ）は、第２０制御例においてＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後１回目に実行された特図抽選結果が小当たりの場合の変動表示態様の一例を示した図である。
【図６３９】第２０制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図６４０】第２０制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６４１】（ａ）は、第２０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオ２０テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２０制御例における当たり後用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６４２】（ａ）は、第２０制御例における小当たり後用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２０制御例における天井到達用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６４３】第２０制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６４４】第２０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理２０を示すフローチャートである。
【図６４５】第２０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理２０を示すフローチャートである。
【図６４６】第２０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１外れ停止処理２０を示すフローチャートである。
【図６４７】第２０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図６４８】第２０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理２０を示すフローチャートである。
【図６４９】第２０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出設定処理２０を示すフローチャートである。
【図６５０】第２０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理２０を示すフローチャートである。
【図６５１】（ａ）は、第２１制御例においてチャンスタイムが終了してからチャンスタイム終了時に保留されていた第２特別図柄の保留球が全て消化されるまでの間に第３図柄表示装置で実行される演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２１制御例におい

てチャンスタイムが終了した後の特図抽選回数が２０回以内の間に第３図柄表示装置で実行される演出態様の一例を示した図である。
【図６５２】第２１制御例において特殊モード中に天井抽選回数に到達した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図６５３】第２１制御例におけるチャンスタイム終了後の演出態様の推移を示した図である。
【図６５４】（ａ）は、第２１制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２１制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６５５】（ａ）は、第２１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択２１テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２１制御例における時短終了報知用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２１制御例における時短終了後用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６５６】（ａ）は、第２１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオ２１テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２１制御例における当たり後用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２１制御例における天井到達後用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６５７】第２１制御例における時短終了後用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６５８】第２１制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６５９】第２１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理２１を示すフローチャートである。
【図６６０】第２１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理２１を示すフローチャートである。
【図６６１】第２１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理２１を示すフローチャートである。
【図６６２】第２１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図６６３】第２１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様設定処理２１を示すフローチャートである。
【図６６４】第２１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される天井関連演出設定処理２１を示すフローチャートである。
【図６６５】第２２制御例におけるパチンコ機の正面図である。
【図６６６】第２２制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図６６７】第２２制御例におけるパチンコ機の背面図である。
【図６６８】（ａ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の演出ボタンの正面図であり、（ｂ）は、第２２制御例におけるパチンコ機１０の選択ボタンの正面図である。
【図６６９】（ａ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の装飾用可動役物が格納状態である場合を示した模式図であり、（ｂ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の装飾用可動役物が可動状態である場合を示した模式図である。
【図６７０】第２２制御例におけるＶ入賞装置の分解正面斜視図である。
【図６７１】第２２制御例におけるＶ入賞装置を背面側から見た動作図である。
【図６７２】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が格納された状態における特図変動中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動し、保留色を可変させる場合の表示画面１の一例を示した図である。
【図６７３】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動し、保留色を可変させる場合の表示画面２の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動し、保留色を可変させる場合の表

示画面３の一例を示した図である。
【図６７４】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される保留色の可変後に役物が格納された時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動し、保留色の一部が隣の保留に移る場合の表示画面１の一例を示した図である。
【図６７５】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動し、保留色の一部が隣の保留に移る場合の表示画面２の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される保留色を可変させた後に役物が格納された時の表示画面の一例を示した図である。
【図６７６】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が可動して保留図柄が単独で変化する場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される保留色が単独で変化した後に役物が格納された時の表示画面の一例を示した図である。
【図６７７】（ａ）は、第２２制御例における保留図柄の色と大当たり当選期待度との関係を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における保留図柄の色の可変パターンを模式的に示した図である。
【図６７８】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるデモ画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される光量調整画面（役物あり）の一例を示した図である。
【図６７９】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される決定ボタンを操作した場合の調整終了画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される光量調整中に特図変動が開始された場合の表示画面の一例を示した図である。
【図６８０】第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される役物禁則中の光量調整画面の一例を示した図である。
【図６８１】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ開始時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ継続時の表示画面の一例を示した図である。
【図６８２】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ５段階目の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ６段階目の表示画面の一例を示した図である。
【図６８３】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ３段階目でカプセルを獲得した場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチ５段階目で獲得したカプセルが開放された場合の表示画面の一例を示した図である。
【図６８４】（ａ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるリーチ演出中に分岐演出が実行された場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される分岐演出中にボタン操作が実行された場合のスペシャルムービー終了時の表示画面の一例を示した図である。
【図６８５】第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される分岐演出中にボタン操作がされなかった場合のスペシャルムービー終了時の表示画面の一例を示した図である。
【図６８６】第２２制御例におけるスペシャルムービーの演出時間と特図の変動時間の関係を模式的に示したタイミングチャートであり、（ａ）は、第２２制御例における分岐演出中にボタン操作がされなかった場合のタイミングチャートであり、（ｂ）は、第２２制御例における分岐演出中にボタン操作がされた場合のタイミングチャートである。
【図６８７】第２２制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図６８８】第２２制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。
【図６８９】（ａ）は、第２２制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロッ

ク図であり、（ｂ）は、第２２制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６９０】第２２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９１】（ａ）は、第２２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９２】（ａ）は、第２２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２２制御例における大当たり用変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２２制御例における外れ用（通常）変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｄ）は、第２２制御例における外れ用（確変。時短）変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９３】（ａ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図６９４】（ａ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された保留変化演出抽選テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された保留色選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９５】第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された保留変化シナリオ選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９６】第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたシャッター閉鎖リーチ選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９７】第２２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図６９８】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図６９９】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理２２を示すフローチャートである。
【図７００】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄大当たり判定処理２２を示すフローチャートである。
【図７０１】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理２２を示すフローチャートである。
【図７０２】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される更新処理２２を示すフローチャートである。
【図７０３】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理２２を示すフローチャートである。
【図７０４】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理２２を示すフローチャートである。
【図７０５】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理２２を示すフローチャートである。
【図７０６】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるスルーゲート通過処理２２を示すフローチャートである。
【図７０７】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＮＭＩ割込処理２２を示すフローチャートである。
【図７０８】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理２２を示すフローチャートである。
【図７０９】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。

【図７１０】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理２２を示すフローチャートである。
【図７１１】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり動作設定処理２２を示すフローチャートである。
【図７１２】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理２２を示すフローチャートである。
【図７１３】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される報知処理２２を示すフローチャートである。
【図７１４】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞処理２２を示すフローチャートである。
【図７１５】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される以上処理２２を示すフローチャートである。
【図７１６】第２２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理２２を示すフローチャートである。
【図７１７】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図７１８】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理２２を示すフローチャートである。
【図７１９】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理２２を示すフローチャートである。
【図７２０】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞コマンド処理２２を示すフローチャートである。
【図７２１】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図用入賞情報コマンド処理２２を示すフローチャートである。
【図７２２】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留演出設定処理２２を示すフローチャートである。
【図７２３】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される複合保留変化演出設定処理２２を示すフローチャートである。
【図７２４】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される停止コマンド処理２２を示すフローチャートである。
【図７２５】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理２２を示すフローチャートである。
【図７２６】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディング処理２２を示すフローチャートである。
【図７２７】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理２２を示すフローチャートである。
【図７２８】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理２２を示すフローチャートである。
【図７２９】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出態様決定処理２２を示すフローチャートである。
【図７３０】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動開始時保留演出実行処理２２を示すフローチャートである。
【図７３１】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される枠ボタン入力監視・演出処理２２を示すフローチャートである。
【図７３２】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される決定ボタン操作処理２２を示すフローチャートである。
【図７３３】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出ボタン操作処理２２を示すフローチャートである。
【図７３４】第２２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理２２を示すフローチャートである。

【図７３５】（ａ）は、第２３制御例における第３図柄表示装置に表示されるノーマルモードが設定されている状態における変動演出後半期間中にチャンスアップモードへの変更操作を実行した場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示されるノーマルモードが設定されている状態における変動演出前半期間中にチャンスアップモードに変更した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７３６】（ａ）は、第２３制御例における第３図柄表示装置に表示される外れ変動中にモードを選択している場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たり変動中にモードを選択している場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７３７】（ａ）は、第２３制御例における外れ変動中の演出モード選択エリアの構成を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における大当たり変動中の演出モード選択エリアの構成を模式的に示した図である。
【図７３８】第２３制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たり変動における変動演出後半期間中にチャンスアップモードに切り替えるための決定ボタンが操作された場合の演出例を示した図である。
【図７３９】（ａ）は、第２３制御例における第３図柄表示装置に表示される特図変動中に役物が可動した場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２３制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が完全閉鎖した場合の表示画面１の一例を示した図である。
【図７４０】第２３制御例における第３図柄表示装置に表示される役物が完全閉鎖した場合の表示画面２の一例を示した図である。
【図７４１】第２３制御例における特図変動中に演出カスタム選択操作を実行しない場合の特図変動中の変動演出を設定する流れを示したタイミングチャートである。
【図７４２】第２３制御例における特図変動中に演出カスタム選択操作を実行し、特図変動中に演出モードを変更した場合の特図変動中の変動演出を設定する流れと演出カスタム選択操作の関係を示したタイミングチャートである。
【図７４３】第２３制御例における特図変動中に演出カスタム選択操作を実行し、次変動から切り替わる場合の特図変動中の変動演出を設定する流れと演出カスタム選択操作の関係を示したタイミングチャートである。
【図７４４】第２３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図７４５】第２３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された演出カスタム情報テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７４６】第２３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された後半予告演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７４７】第２３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図７４８】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動開始時保留演出実行処理２３を示すフローチャートである。
【図７４９】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される実行中保留変化演出設定処理２３を示すフローチャートである。
【図７５０】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される枠ボタン入力監視・演出処理２３を示すフローチャートである。
【図７５１】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出カスタム選択処理２３を示すフローチャートである。
【図７５２】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される決定ボタン操作処理２３を示すフローチャートである。
【図７５３】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出カスタム実行処理２３を示すフローチャートである。
【図７５４】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出

更新処理２３を示すフローチャートである。
【図７５５】第２３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出更新処理２３を示すフローチャートである。
【図７５６】第２４制御例におけるパチンコ機の背面図である。
【図７５７】（ａ）～（ｄ）は、第２４制御例において設定変更を行うための手順を模式的に示した模式図であり、（ｅ）～（ｇ）は、第２４制御例において設定確認を行うための手順を模式的に示した模式図である。
【図７５８】（ａ）は、第２４制御例において実行される特図の変動開始時に前回の停止図柄に対応するキャラクタが会話する場合の演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２４制御例において実行される特殊な組み合わせ（７リーチハズレ）で図柄が停止した後に次変動が開始された場合の設定示唆演出の一例を示した図である。
【図７５９】（ａ）は、第２４制御例において実行されるデモ演出中に停止図柄に対応するキャラクタが会話する場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２４制御例において実行されるデモ演出でボイス固定中にキャラクタが会話する場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７６０】（ａ）は、第２４制御例において第３図柄表示装置に表示される保留色変化前兆表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は第２４制御例において第３図柄表示装置に表示される保留色変化前兆表示画面（特図停止時）の一例を示した図であり、（ｃ）は、第２４制御例において第３図柄表示装置に表示される保留シフト時チャンス演出表示画面１（ジャンプ）の一例を示した図であり、（ｄ）は、第２４制御例において第３図柄表示装置に表示される保留シフト時チャンス演出表示画面２（高速）の一例を示した図である。
【図７６１】第２４制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図７６２】第２４制御例におけるパチンコ機の音声出力装置の構成を示すブロック図である。
【図７６３】第２４制御例におけるパチンコ機の主制御装置のＲＯＭに設定された特別図柄大当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７６４】第２４制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図７６５】第２４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図７６６】第２４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたボイスコマンド選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７６７】第２４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された保留アクション選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７６８】第２４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図７６９】（ａ）は、第２４制御例におけるパチンコ機の音声出力装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２４制御例におけるパチンコ機の音声出力装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図７７０】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理２４を示すフローチャートである。
【図７７１】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される設定値制御処理を示すフローチャートである。
【図７７２】第２４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理２４を示すフローチャートである。
【図７７３】第２４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される待機処理を示すフローチャートである。
【図７７４】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理２４を示すフローチャートである。

【図７７５】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理２４を示すフローチャートである。
【図７７６】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される停止図柄種別設定処理２４を示すフローチャートである。
【図７７７】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される停止コマンド処理２４を示すフローチャートである。
【図７７８】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動開始時保留演出実行処理２４を示すフローチャートである。
【図７７９】第２４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される保留アクション決定処理を示すフローチャートである。
【図７８０】第２４制御例における音声出力装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図７８１】第２４制御例における音声出力装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理を示すフローチャートである。
【図７８２】第２４制御例における音声出力装置内のＭＰＵにより実行される音声設定処理を示すフローチャートである。
【図７８３】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示される図柄ストックリーチ開始時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示される図柄ストック完了時の表示画面の一例を示した図である。
【図７８４】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示されるストックした図柄が一旦画面から消える場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示されるストックした図柄でリーチ図柄が切り替わった場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７８５】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の液晶ディスプレイの構成を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の予備画層に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｃ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の主画層に表示される表示画面の一例を示した図であり、（ｄ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の副画層に表示される表示画面の一例を示した図である。
【図７８６】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の主画層が通常表示であり、予備画層の透過率が１００％である場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置の主画層が尺度Ａで表示され、予備画層の透過率が０％である場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７８７】第２５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図７８８】第２５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された図柄ストックリーチ選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図７８９】第２５制御例におけるパチンコ機の表示制御装置内の電気的構成を示すブロック図である。
【図７９０】第２５制御例における描画リストの一例を模式的に示した図である。
【図７９１】第２５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出態様決定処理２５を示すフローチャートである。
【図７９２】第２５制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理２５を示すフローチャートである。
【図７９３】第２５制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される加工コマンド処理を示すフローチャートである。
【図７９４】第２５制御例における表示制御装置内のＭＰＵにより実行される描画処理２５を示すフローチャートである。
【図７９５】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示される図柄ストックリーチ開始時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第

３図柄表示装置に表示される図柄ストック完了時の表示画面の一例を示した図である。
【図７９６】（ａ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示されるストックした図柄が移動する場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２５制御例における第３図柄表示装置に表示されるストックした図柄から新たなリーチラインが形成される場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７９７】（ａ）は、第２２制御例の変形例における大剣役物可動状態の遊技機を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例における第３図柄表示装置に表示される光量調整中に特図変動が開始された場合の表示画面の一例を示した図である。
【図７９８】（ａ）は、第２２制御例の変形例における第３表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチの変形例発展あおり時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例の変形例における第３図柄表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチの変形例発展時の表示画面の一例を示した図である。
【図７９９】（ａ）は、第２２制御例の変形例における第３表示装置に表示されるシャッター閉鎖リーチの分岐演出時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２２制御例の変形例における第３図柄表示装置に表示されるシャッターが完全開放された時の表示画面の一例を示した図である。
【図８００】（ａ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出の先制攻撃画面の一例を示した図である。
【図８０１】（ａ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出ボタン押下指示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出ボタン連打中画面の一例を示した図である。
【図８０２】第２６制御例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出ボタン長押し中画面の一例を示した図である。
【図８０３】（ａ）及び（ｂ）は、第２６制御例において第３図柄表示装置に表示されるボタン連打操作時のゲージ減少の流れの一例を示した図である。
【図８０４】（ａ）～（ｄ）は、第２６制御例において第３図柄表示装置に表示されるボタン長押し時のゲージ減少の流れの一例を示した図である。
【図８０５】（ａ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される討伐演出開始時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される１回目の開始画面の一例を示した図である。
【図８０６】（ａ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される１回目の攻撃画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される２回目の開始画面の一例を示した図である。
【図８０７】（ａ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される２回目の攻撃画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される３回目の開始画面の一例を示した図である。
【図８０８】第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される３回目の攻撃画面の一例を示した図である。
【図８０９】第２６制御例における第３図柄表示装置に表示される通常変動中のチャンスアップ演出画面の一例を示した図である。
【図８１０】第２６制御例における特別図柄変動回数と実行されるチャンスアップ演出の内容を示した図である。
【図８１１】第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図８１２】第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８１３】第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された長押し演出シナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８１４】（ａ）は、第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭ

に設定された外れ時最終ＨＰ選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された突入抽選テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８１５】第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された解除抽選テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８１６】第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された追加減少値選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８１７】（ａ）は、第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたチャンス予告抽選テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたチャンス態様選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８１８】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理２６を示すフローチャートである。
【図８１９】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出態様決定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２０】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される確変状態演出態様決定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２１】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出態様決定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２２】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される討伐リーチ演出決定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２３】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるチャンスアップ演出決定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２４】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出ボタン操作処理２６を示すフローチャートである。
【図８２５】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される長押し時演出設定処理２６を示すフローチャートである。
【図８２６】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理２６を示すフローチャートである。
【図８２７】第２６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される長押し中処理２６を示すフローチャートである。
【図８２８】第２７制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図８２９】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たりのオープニング演出の一例を示した図である。
【図８３０】（ａ）は、第２７制御例における第３図柄表示装置に表示される大当たりのオープニング演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２７制御例における時短状態の間に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図である。
【図８３１】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例における時短状態の間に残り時間上乗せ演出が実行されている場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８３２】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例における時短状態の間に継続率上昇演出が実行されている場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８３３】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例における時短状態の終了後にファイナルジャッジ演出が実行されている場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８３４】第２７制御例における大当たり当選後の演出態様の経時変化を示した図である。
【図８３５】（ａ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８３６】（ａ）は、第２７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当た

り乱数２７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数２７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり乱数２７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｄ）は、第２７制御例における直当たり用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８３７】第２７制御例におけるＶ当たり用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８３８】（ａ）は、第２７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン２７テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２７制御例におけるＳランク用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８３９】（ａ）は、第２７制御例におけるＡランク用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２７制御例における時短終了後１変動時用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８４０】（ａ）は、第２７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常状態用変動パターンシナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、ランク毎のラッシュ性能を模式的に示した図である。
【図８４１】（ａ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８４２】（ａ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたランクアップ演出テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたランクアップ判別テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８４３】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動開始処理２７を示すフローチャートである。
【図８４４】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄判定処理２７を示すフローチャートである。
【図８４５】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理２７を示すフローチャートである。
【図８４６】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１遊技状態更新処理を示すフローチャートである。
【図８４７】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動停止処理２７を示すフローチャートである。
【図８４８】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動開始処理２７を示すフローチャートである。
【図８４９】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄判定処理２７を示すフローチャートである。
【図８５０】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり抽選処理２７を示すフローチャートである。
【図８５１】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動パターン選択処理２７を示すフローチャートである。
【図８５２】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２遊技状態更新処理を示すフローチャートである。
【図８５３】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動停止処理２７を示すフローチャートである。
【図８５４】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２外れ停止処理２７を示すフローチャートである。
【図８５５】第２７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理２７を示すフローチャートである。
【図８５６】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出

更新処理２７を示すフローチャートである。
【図８５７】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるファイナルジャッジ演出中処理を示すフローチャートである。
【図８５８】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図８５９】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理２７を示すフローチャートである。
【図８６０】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理２７を示すフローチャートである。
【図８６１】第２７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理２７を示すフローチャートである。
【図８６２】第２８制御例におけるパチンコ機の遊技盤を模式的に示した正面図である。
【図８６３】（ａ）は、第２８制御例における確変状態の間に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２８制御例における確変状態の間に特図１大当たり変動が開始された場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８６４】（ａ）は、第２８制御例において、確変状態の間に特図１大当たり変動が開始され、当該特図１大当たり変動の変動時間が経過した場合に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２８制御例において、確変状態の間に特図１大当たり変動が開始され、当該特図１大当たり変動の変動時間が経過するよりも前に特図２小当たり変動の変動時間が経過した場合に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図である。
【図８６５】（ａ）は、第２８制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２８制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８６６】（ａ）は、第２８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数２８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第２８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択２８テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり乱数２８テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８６７】（ａ）は、第２８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン２８テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２８制御例における確変・時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８６８】第２８制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８６９】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動開始処理２８を示すフローチャートである。
【図８７０】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄判定処理２８を示すフローチャートである。
【図８７１】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理２８を示すフローチャートである。
【図８７２】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動開始時更新処理を示すフローチャートである。
【図８７３】（ａ）及び（ｂ）は、第２８制御例における時短回数の減算タイミングを示した図である。
【図８７４】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動停止処理２８を示すフローチャートである。
【図８７５】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動停止時更新処理を示すフローチャートである。
【図８７６】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄

変動開始処理２８を示すフローチャートである。
【図８７７】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄判定処理２８を示すフローチャートである。
【図８７８】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動停止処理２８を示すフローチャートである。
【図８７９】第２８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理２８を示すフローチャートである。
【図８８０】第２８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理２８を示すフローチャートである。
【図８８１】第２８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理２８を示すフローチャートである。
【図８８２】第２８制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理２８を示すフローチャートである。
【図８８３】（ａ）は、第２９制御例において、確変状態で、且つ、確変割合超ＵＰゾーンが設定されている場合に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２９制御例において、確変割合超ＵＰゾーン中に特図２小当たり変動または特図２ハズレ変動が実行された場合に実行されてピンチ演出が実行された場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８８４】第２９制御例において、確変割合超ＵＰゾーン中に特図２小当たり変動が実行されたことに基づいて実行されたピンチ演出の終了時における第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図８８５】（ａ）は、第２９制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２９制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８８６】第２９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択２９テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８８７】（ａ）は、第２９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン２９テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第２９制御例におけるゾーン用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第２９制御例における確変・時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８８８】第２９制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８８９】第２９制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図８９０】第２９制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理２９を示すフローチャートである。
【図８９１】第２９制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理２９を示すフローチャートである。
【図８９２】第２９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理２９を示すフローチャートである。
【図８９３】第２９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１演出態様設定処理２９を示すフローチャートである。
【図８９４】第２９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理２９を示すフローチャートである。
【図８９５】（ａ）は、第３０制御例における確変状態の間に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３０制御例における時短状態の間に第３図柄表示装置に表示される表示態様の一例を示した図である。
【図８９６】（ａ）は、第３０制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３０制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。

【図８９７】第３０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択３０テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８９８】（ａ）は、第３０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン３０テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３０制御例における時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３０制御例における確変用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図８９９】第３０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理３０を示すフローチャートである。
【図９００】第３０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動開始時更新処理３０を示すフローチャートである。
【図９０１】第３０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動停止時更新処理３０を示すフローチャートである。
【図９０２】第３０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理３０を示すフローチャートである。
【図９０３】第３０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド受信処理３０を示すフローチャートである。
【図９０４】（ａ）は、第２７制御例の第１の変形例において、通常状態の間に時短図柄当選が発生したことに基づいて設定された時短状態における第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２７制御例の第１の変形例において、時短状態の間に時短図柄当選が発生したことに基づいて再設定された時短状態における第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図９０５】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例の第２の変形例において、時短状態の間に時短図柄当選が発生した場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図９０６】（ａ）及び（ｂ）は、第２７制御例の第２の変形例において、時短状態の間に時短図柄当選が発生したことに基づいて再設定された時短状態の間にランク報知演出が実行された場合の第３図柄表示装置の表示態様の一例を示した図である。
【図９０７】第２７制御例の第２の変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図９０８】第２７制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２演出態様設定処理２７Ａを示すフローチャートである。
【図９０９】第２７制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される秘匿中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図９１０】第２７制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される非秘匿中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図９１１】（ａ）は、第２６制御例の第１演出変形例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例の第１演出変形例における第３図柄表示装置に表示されるバトル演出の先制攻撃画面の一例を示した図である。
【図９１２】（ａ）～（ｄ）は、第２６制御例の第１演出変形例におけるロングボタンの表示例を示した図である。
【図９１３】第２６制御例の第１演出変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短状態演出態様決定処理２６ａを示すフローチャートである。
【図９１４】（ａ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される上乗せ演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される上乗せ演出の演出結果を示す画面の一例を示した図である。
【図９１５】（ａ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される疑似ＭＡＸ大当たり演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される疑似ＭＡＸ大当たり演出の演出中画面の一例を示した図である。

【図９１６】（ａ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される疑似保留連演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第２６制御例の第２演出変形例における第３図柄表示装置に表示される疑似保留連演出の演出中画面の一例を示した図である。
【図９１７】第２６制御例の第２演出変形例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図９１８】第２６制御例の第２演出変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理２６ａを示すフローチャートである。
【図９１９】第２６制御例の第２演出変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理２６ａを示すフローチャートである。
【図９２０】（ａ）は、第３１制御例における第３図柄表示装置に表示される確変状態中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例における第３図柄表示装置に表示される確変状態中の大当たり演出画面の一例を示した図である。
【図９２１】第３１制御例におけるパチンコ機の主制御装置内のＲＯＭが有する確変用変動パターン３１テーブルの構成を示したブロック図である。
【図９２２】第３１制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図９２３】第３１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される確変状態演出態様決定処理３１を示すフローチャートである。
【図９２４】第３２制御例のパチンコ機の正面図である。
【図９２５】第３２制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図９２６】第３２制御例のパチンコ機の遊技盤の部分拡大図である。
【図９２７】第３２制御例のＶ入賞装置の正面斜視図である。
【図９２８】第３２制御例のＶ入賞装置の分解正面斜視図である。
【図９２９】第３２制御例のＶ入賞装置を背面側から見た動作図である。
【図９３０】（ａ）は、第３２制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口を開閉扉が閉鎖している状態を平面視した模式図であり、（ｂ）は、第３２制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口が開放している状態を平面視した模式図である。
【図９３１】（ａ）は、第３２制御例におけるパチンコ機の演出ボタンの正面図であり、（ｂ）は、第３２制御例におけるパチンコ機の選択ボタンの正面図である。
【図９３２】第３２制御例におけるパチンコ機の遊技盤の背面図である。
【図９３３】（ａ）は、第３２制御例における表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例における実際の表示画面を例示した図である。
【図９３４】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される通常状態大当たり当選後の大当たり演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される敵討伐演出画面の一例を示した図である。
【図９３５】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される２ラウンド目終了後のインターバル中画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される６ラウンド（最終ラウンド）中の討伐成功画面の一例を示した図である。
【図９３６】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される３ラウンド目の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される図９３６（ａ）でボタンを押した場合の表示画面の一例を示した図である。
【図９３７】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される図９３６（ａ）でボタンを押さなかった場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される６ラウンド（最終ラウンド）中の復活成功演出画面の一例を示した図である。
【図９３８】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される時短状態（

ラッシュ中）の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される時短状態（ラッシュ中）の当たり画面の一例を示した図である。

【図９３９】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される時短状態（ラッシュ中）の小当たり遊技画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるＶを狙え初回演出期間中にＶ入賞した場合の表示画面の一例を示した図である。

【図９４０】第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される図９３９（ｂ）の後、Ｖを狙え初回演出期間経過後の表示画面の一例を示した図である。

【図９４１】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される時短状態（ラッシュ中）の最終変動（外れ）の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される時短状態終了後の引き戻し演出画面の一例を示した図である。

【図９４２】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される引き戻し演出終了画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるラッシュ結果表示画面の一例を示した図である。

【図９４３】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるＮＥＸＴ演出画面（ラッシュ中大当たり２ラウンド目）の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるＮＥＸＴ演出結果画面（保留連、ラウンド昇格無し）の一例を示した図である。

【図９４４】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるＮＥＸＴ演出結果画面（ラウンド昇格あり）の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示されるＮＥＸＴ演出結果画面（保留連あり）の一例を示した図である。

【図９４５】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される保留連状態中の小当たり遊技画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される保留連状態中のＮＥＸＴ演出画面（保留連あり）の一例を示した図である。

【図９４６】第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される連続保留連で表示ラウンド数がＭＡＸ（９ラウンド）を超えた場合の表示画面の一例を示した図である。

【図９４７】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される待機状態中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される演出モード選択画面の一例を示した図である。

【図９４８】（ａ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される特図変動中のステージ移行演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例において第３図柄表示装置で表示される特図変動中におけるステージ固定操作画面の一例を示した図である。

【図９４９】第３２制御例におけるパチンコ機のゲームフローを示した図である。

【図９５０】第３２制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。

【図９５１】第３２制御例における各種カウンタの構成を模式的に示した図である。

【図９５２】（ａ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。

【図９５３】（ａ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第１当たり乱数テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特別図柄１乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。

【図９５４】（ａ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テーブルの規定内容を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３２制御例におけ

る主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９５５】第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９５６】（ａ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９５７】（ａ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短用変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された特殊時短用変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短最終変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９５８】第３２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターンシナリオテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９５９】（ａ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図９６０】（ａ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された討伐数選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された討伐演出態様選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９６１】第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された追加減少値選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９６２】（ａ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された演出ステージデータテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３２制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された遊技環境データテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図９６３】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図９６４】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理を示すフローチャートである。
【図９６５】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理を示すフローチャートである。
【図９６６】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理を示すフローチャートである。
【図９６７】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり開始設定処理を示すフローチャートである。
【図９６８】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処理を示すフローチャートである。
【図９６９】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり時短更新処理を示すフローチャートである。
【図９７０】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理を示すフローチャートである。
【図９７１】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される先読み処理を示すフローチャートである。
【図９７２】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理を示すフローチャートである。
【図９７３】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるスルーゲート通過処理を示すフローチャートである。

【図９７４】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ入口通過処理を示すフローチャートである。
【図９７５】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ通過処理を示すフローチャートである。
【図９７６】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＮＭＩ処理を示すフローチャートである。
【図９７７】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図９７８】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図９７９】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理を示すフローチャートである。
【図９８０】第３２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり制御処理を示すフローチャートである。
【図９８１】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図９８２】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図９８３】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理を示すフローチャートである。
【図９８４】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留情報関連処理を示すフローチャートである。
【図９８５】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド処理を示すフローチャートである。
【図９８６】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図９８７】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図９８８】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるラウンド中演出処理を示すフローチャートである。
【図９８９】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される初回大当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図９９０】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される討伐演出態様決定処理を示すフローチャートである。
【図９９１】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される初回大当たりラウンド中演出処理を示すフローチャートである。
【図９９２】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される初回インターバル中演出処理を示すフローチャートである。
【図９９３】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり関連処理を示すフローチャートである。
【図９９４】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理を示すフローチャートである。
【図９９５】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理を示すフローチャートである。
【図９９６】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短用演出設定処理を示すフローチャートである。
【図９９７】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理を示すフローチャートである。
【図９９８】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり遊技中更新処理を示すフローチャートである。

【図９９９】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される枠ボタン入力監視・演出処理を示すフローチャートである。
【図１０００】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される固定モード設定処理を示すフローチャートである。
【図１００１】第３２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出ボタン操作処理を示すフローチャートである。
【図１００２】（ａ）は、第３３制御例において第３図柄表示装置で表示される保留連中の小当たり遊技画面（特２保留０の場合）の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３３制御例において第３図柄表示装置で表示される保留連中の小当たり遊技画面（特２保留獲得時）の一例を示した図である。
【図１００３】第３３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処理２を示すフローチャートである。
【図１００４】第３３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり制御処理２を示すフローチャートである。
【図１００５】第３３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり時短更新処理２を示すフローチャートである。
【図１００６】第３３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留情報関連処理２を示すフローチャートである。
【図１００７】第３３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり中保留獲得処理を示すフローチャートである。
【図１００８】第３３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり関連処理２を示すフローチャートである。
【図１００９】第３３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり中案内態様設定処理を示すフローチャートである。
【図１０１０】（ａ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される特図１変動中に第３特図保留を獲得した場合の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される第３特図保留図柄のみアクションがズレている表示画面の一例を示した図である。
【図１０１１】（ａ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される特図１停止表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される特図１次変動開始画面の一例を示した図である。
【図１０１２】（ａ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留変化アクション表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留変化時表示画面の一例を示した図であり、（ｃ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留シフト時表示画面の一例を示した図である。
【図１０１３】（ａ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留図柄アクション同期時のステージ変更前表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留図柄アクション同期中のステージ変更後表示画面の一例を示した図である。
【図１０１４】（ａ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留図柄アクション非同期時のステージ変更前表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留図柄アクション非同期中のステージ変更中表示画面の一例を示した図であり、（ｃ）は、第３４制御例において第３図柄表示装置で表示される保留図柄アクション非同期中のステージ変更後表示画面の一例を示した図である。
【図１０１５】第３４制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図１０１６】第３４制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された保留アクションデータテーブルの規定内容を模式的に示した図である。

【図１０１７】第３４制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１０１８】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理３を示すフローチャートである。
【図１０１９】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞コマンド処理３を示すフローチャートである。
【図１０２０】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理３を示すフローチャートである。
【図１０２１】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留態様決定処理３を示すフローチャートである。
【図１０２２】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理３を示すフローチャートである。
【図１０２３】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留演出更新処理を示すフローチャートである。
【図１０２４】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動中ステージ移行処理を示すフローチャートである。
【図１０２５】第３４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特殊態様決定処理を示すフローチャートである。
【図１０２６】第３５制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１０２７】第３５制御例におけるパチンコ機の遊技盤の部分拡大図である。
【図１０２８】第３５制御例におけるＶ入賞装置の正面斜視図である。
【図１０２９】第３５制御例におけるＶ入賞装置の分解正面斜視図である。
【図１０３０】第３５制御例におけるＶ入賞装置を背面側から見た動作図である。
【図１０３１】（ａ）は、第３５制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口を開閉扉が閉鎖している状態を平面視した模式図であり、（ｂ）は、第３５制御例におけるＶ入賞装置のＶ入賞口が開放している状態を平面視した模式図である。
【図１０３２】（ａ）は、第３５制御例における装飾用可動役物が収納位置にある状態を示した模式図であり、（ｂ）は、第３５制御例における装飾用可動役物が下降限にある状態を示した模式図である。
【図１０３３】（ａ）は、第３５制御例における装飾用可動役物の右中間片落ち状態を示した模式図であり、（ｂ）は、第３５制御例における装飾用可動役物の右中間片落ち、左方落ち状態を示した模式図でる。
【図１０３４】第３５制御例における装飾用可動役物の分解正面斜視図である。
【図１０３５】第３５制御例における装飾用可動役物の分解背面斜視図である。
【図１０３６】第３５制御例におけるバー役物の分解正面斜視図である。
【図１０３７】第３５制御例におけるバー役物の分解背面斜視図である。
【図１０３８】第３５制御例における回転体役物の分解正面斜視図である。
【図１０３９】第３５制御例における回転体役物の分解背面斜視図である。
【図１０４０】（ａ）は、第３５制御例における第３図柄列の構成を示した図であり、（ｂ）～（ｅ）は、第３５制御例における回転体役物の停止パターンを模式的に示した図である。
【図１０４１】（ａ）は、第３５制御例において第３図柄表示装置で表示される特図仮停止時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例において第３図柄表示装置で表示される救済チャンス演出開始時の表示画面の一例を示した図である。
【図１０４２】（ａ）は、第３５制御例において第３図柄表示装置で表示される救済チャンス演出成功の場合の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例において第３図柄表示装置で表示される救済チャンス演出失敗の場合の一例を示した図である。
【図１０４３】第３５制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１０４４】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＡＭの

構成を示したブロック図である。
【図１０４５】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択４テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターン選択４テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１０４６】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短用変動パターン選択４テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された特殊時短用変動パターン選択４テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短最終変動パターン選択４テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１０４７】第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオ選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１０４８】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＡ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＡ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０４９】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＢ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＢ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５０】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＣ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＣ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５１】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＤ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＤ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５２】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＥ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＥ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５３】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＦ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＦ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５４】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＧ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＧ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５５】（ａ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＨ（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された動作シナリオＨ（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１０５６】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１０５７】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４を示すフローチャートである。
【図１０５８】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される図

柄確定コマンド処理４を示すフローチャートである。
【図１０５９】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理４を示すフローチャートである。
【図１０６０】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様設定処理４を示すフローチャートである。
【図１０６１】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメ液晶演出実行管理処理４を示すフローチャートである。
【図１０６２】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される救済チャンス演出開始処理を示すフローチャートである。
【図１０６３】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特殊シナリオ実行中処理を示すフローチャートである。
【図１０６４】第３５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される救済チャンス演出実行中処理を示すフローチャートである。
【図１０６５】（ａ）は、第３５制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示される救済チャンス演出開始時表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３５制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示される救済チャンス演出成功時の表示画面の一例を示した図である。
【図１０６６】第３６制御例におけるパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１０６７】第３６制御例における装飾用可動役物動作ユニットの正面図である。
【図１０６８】（ａ）は、第３６制御例におけるロゴ役物の動作ユニットの模式図であり、（ｂ）は、第３６制御例におけるア役物の動作ユニットの模式図である。
【図１０６９】第３６制御例におけるシャッター役物の動作ユニットの模式図である。
【図１０７０】第３６制御例におけるロゴ役物が下降限にある状態を示した図である。
【図１０７１】第３６制御例におけるロゴ役物の右中間片落ち状態を示した図である。
【図１０７２】第３６制御例におけるロゴ役物の右中間片落ち、左方落ち状態を示した図である。
【図１０７３】第３６制御例におけるア役物が上昇限にある状態を示した図である。
【図１０７４】第３６制御例におけるシャッター役物の閉鎖状態を示した図である。
【図１０７５】第３６制御例における全装飾用可動役物が可動状態となった場合を示した図である。
【図１０７６】第３６制御例におけるロゴ役物の分解正面斜視図である。
【図１０７７】第３６制御例におけるロゴ役物の分解背面斜視図である。
【図１０７８】第３６制御例におけるバー役物の分解正面斜視図である。
【図１０７９】第３６制御例におけるバー役物の分解背面斜視図である。
【図１０８０】第３６制御例における回転体役物の分解正面斜視図である。
【図１０８１】第３６制御例における回転体役物の分解背面斜視図である。
【図１０８２】第３６制御例におけるア役物の動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１０８３】第３６制御例におけるア役物の動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１０８４】第３６制御例における上昇役物の分解正面斜視図である。
【図１０８５】第３６制御例における上昇役物の分解背面斜視図である。
【図１０８６】第３６制御例におけるシャッター役物の動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１０８７】第３６制御例におけるシャッター役物の分解正面斜視図である。
【図１０８８】第３６制御例におけるシャッター役物の分解背面斜視図である。
【図１０８９】（ａ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される通常パターンの複合演出開始から３秒経過後の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される通常パターンの複合演出開始から５秒経過後の表示画面の一例を示した図である。
【図１０９０】（ａ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される通常パターンの複合演出開始から７秒経過後の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３

６制御例において第３図柄表示装置で表示されるリーチ演出中に複合演出が開始される場合の演出開始から３秒経過後の表示画面の一例を示した図である。
【図１０９１】（ａ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される代替パターン１の複合演出開始から５秒経過後の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される代替パターン１の複合演出開始から７秒経過後の表示画面の一例を示した図である。
【図１０９２】（ａ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される代替パターン２の複合演出開始から３秒経過後の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される代替パターン２の複合演出開始から５秒経過後の表示画面の一例を示した図である。
【図１０９３】第３６制御例において第３図柄表示装置で表示される代替パターン２の複合演出開始から７秒経過後の表示画面の一例を示した図である。
【図１０９４】第３６制御例におけるリーチ前演出期間に複合演出が実行される場合のタイミングチャートである。
【図１０９５】第３６制御例におけるリーチ演出期間に代替パターン１の複合演出が実行される場合のタイミングチャートである。
【図１０９６】第３６制御例におけるリーチ演出期間に代替パターン２の複合演出が実行される場合のタイミングチャートである。
【図１０９７】第３６制御例におけるパチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１０９８】（ａ）は、第３６制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３６制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１０９９】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択５テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターン選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１００】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短用変動パターン選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された特殊時短用変動パターン選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された時短最終変動パターン選択５テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０１】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された複合演出動作シナリオテーブル（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された複合演出動作シナリオテーブル（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０２】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された複合演出動作シナリオテーブル（ア役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された複合演出動作シナリオテーブル（シャッター役物左右駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０３】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第１代替動作シナリオテーブル（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第１代替動作シナリオテーブル（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０４】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第１代替演出動作シナリオテーブル（ア役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第１代替動作シナリオテーブル（シャッター役物左右駆動）の規定内容を模式的に示した図である。

【図１１０５】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第２代替動作シナリオテーブル（バー役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第２代替動作シナリオテーブル（回転体役物左右駆動、回転駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０６】（ａ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第２代替演出動作シナリオテーブル（ア役物上下駆動）の規定内容を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第２代替動作シナリオテーブル（シャッター役物左右駆動）の規定内容を模式的に示した図である。
【図１１０７】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１１０８】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動表示設定処理５を示すフローチャートである。
【図１１０９】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出態様設定処理５を示すフローチャートである。
【図１１１０】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるメ液晶演出実行管理処理５を示すフローチャートである。
【図１１１１】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される複合演出開始処理を示すフローチャートである。
【図１１１２】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第１動作処理を示すフローチャートである。
【図１１１３】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２動作処理を示すフローチャートである。
【図１１１４】第３６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される役物可動中処理を示すフローチャートである。
【図１１１５】（ａ）は、第３６制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で実行されるゲキアツ演出とキャラクタ役物の複合演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示されるゲキアツ演出実行中の表示画面の一例を示した図である。
【図１１１６】（ａ）は、第３６制御例の第１変形例におけるキャラクタ役物が可動中である場合を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例の第１変形例におけるキ役物が可動中である場合を示した図である。
【図１１１７】（ａ）は、第３６制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示されるキ役物よりも前面側にキャラクタ役物が配置された場合の複合演出の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３６制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示されるキ役物よりも背面側にキャラクタ役物が配置された場合の複合演出の一例を示した図である。
【図１１１８】第３７制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図１１１９】第３７制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１２０】（ａ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターン１テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２１】（ａ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターン２テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用変動パターン３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２２】（ａ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短用

変動パターン１テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短用変動パターン２テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２３】第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短用変動パターン３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２４】（ａ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行１テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行２テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｄ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２５】（ａ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行４テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行５テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された状態移行６テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２６】第３７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり移行設定テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１２７】第３７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理８を示すフローチャートである。
【図１１２８】第３７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別得柄変動パターン選択処理８を示すフローチャートである。
【図１１２９】第３７制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動回数減算処理を示すフローチャートである。
【図１１３０】（ａ）は、第３８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択９テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第３８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用主変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１３１】（ａ）は、第３８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短用主変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第３８制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された通常用加算変動パターンテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１３２】第３８制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１３３】第３８制御例における主制御装置のＲＡＭに設定された変動時間カウンタの構成を示したブロック図である。
【図１１３４】第３８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理９を示すフローチャートである。
【図１１３５】第３８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理９を示すフローチャートである。
【図１１３６】第３８制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される変動時間更新処理を示すフローチャートである。
【図１１３７】（ａ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される第３図柄変動中の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される遅れ演出開始時の表示画面の一例を示した図である。
【図１１３８】（ａ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される展開演出の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される横回転演出の表示画面の一例を示した図である。
【図１１３９】第３９制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図である。

【図１１４０】第３９制御例における音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定されたチャンス態様選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１４１】第３９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理１０を示すフローチャートである。
【図１１４２】第３９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常用演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１１４３】第３９制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動パターンコマンド処理１０を示すフローチャートである。
【図１１４４】第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される箱図柄の構成を示した説明図である。
【図１１４５】（ａ）は、第３９制御例における箱図柄と数字図柄との対応図であり、（ｂ）は、第３９制御例における数字図柄列表示パターンを示した図である。
【図１１４６】（ａ）～（ｂ）は、第３９制御例における数字図柄列にセットされる図柄データの一例を示した図である。
【図１１４７】（ａ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示されるハズレ図柄停止時の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される横回転演出の表示画面の一例を示した図である。
【図１１４８】第３９制御例において第３図柄表示装置で表示される大当たり遊技のエンディング画面の一例を示した図である。
【図１１４９】第４０制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１１５０】（ａ）は、第４０制御例における通常状態において時短図柄当選が発生した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例における第２時短状態に移行してから第１特別図柄の保留球を消化するまでの期間において実行されるチャンスタイム待機演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１１５１】（ａ）は、第４０制御例のチャンスタイム待機演出において時短回数１０回が報知された場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例のチャンスタイム待機演出の実行期間中に第１特別図柄の保留球で大当たりに当選した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１１５２】（ａ）は、第４０制御例におけるチャンスタイムの間に普図当たりＢに当選した場合の変動表示演出の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例におけるチャンスタイムの間に普図当たりＢに当選した場合の普図当たり遊技中に実行される第１示唆演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１１５３】（ａ）及び（ｂ）は、第４０制御例における第２特別図柄に対応する変動表示演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１１５４】（ａ）は、第４０制御例における第２特別図柄の小当たり遊技中に実行される第２示唆演出の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例におけるラッシュ状態中に設定される演出態様の一例を示した図である。
【図１１５５】（ａ）及び（ｂ）は、第４０制御例においてラッシュ状態中にスルーゲートを通過した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１１５６】第４０制御例におけるチャンスタイムの前後における演出態様の推移を示した図である。
【図１１５７】（ａ）及び（ｂ）は、第４０制御例におけるチャンスタイム中の特別図柄の状態、及び普通図柄の状態の対応関係を示した図である。
【図１１５８】第４０制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１１５９】（ａ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１６０】（ａ）は、第４０制御例における特別図柄１乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例における特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに

設定された大当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１６１】（ａ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｃ）は、第４０制御例における通常用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１６２】（ａ）は、第４０制御例における時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例における時短付与テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１６３】（ａ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第４０制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された普図当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１６４】（ａ）は、第４０制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４０制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１６５】第４０制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された待機演出選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１６６】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理４０を示すフローチャートである。
【図１１６７】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理４０を示すフローチャートである。
【図１１６８】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時処理４０を示すフローチャートである。
【図１１６９】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７０】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時種別決定処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７１】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７２】第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７３】（ａ）は、第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普図当たり時処理を示すフローチャートであり、（ｂ）は、第４０制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第３終了条件判定処理を示すフローチャートである。
【図１１７４】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７５】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７６】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される待機演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１１７７】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７８】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり関連処理４０を示すフローチャートである。
【図１１７９】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される普図当たりコマンド処理を示すフローチャートである。
【図１１８０】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４０を示すフローチャートである。

【図１１８１】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるチャンスタイム中演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１１８２】第４０制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理４０を示すフローチャートである。
【図１１８３】第４１制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１１８４】（ａ）は、第４１制御例において初当たり後に時短状態Ａへと移行した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、時短状態Ａにおいて最初の第２特別図柄の変動表示が開始された場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１１８５】（ａ）は、第４１制御例において初当たり後に時短状態Ａへと移行した後で第２特別図柄の保留球が規定個数貯まって時短終了条件が成立した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例において時短状態Ｂが設定された後、１回目に実行された第２特別図柄の変動表示中の演出態様の一例を示した図である。
【図１１８６】（ａ）は、第４１制御例においてＭＡＸボーナスに当選した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例において時短状態Ｃの間に実行される疑似インターバル演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１１８７】第４１制御例における初当たり後の演出態様の推移と、第２特別図柄の状態との対応関係を示した図である。
【図１１８８】第４１制御例においてＭＡＸボーナスモードに移行してから時短リミット回数に到達して通常モードＢへと移行するまでの間の演出態様の推移を示した図である。
【図１１８９】第４１制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１１９０】（ａ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１９１】（ａ）は、第４１制御例における特別図柄１乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例における特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１９２】（ａ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｃ）は、第４１制御例における通常用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１９３】（ａ）は、第４１制御例における時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例におけるＭＡＸボーナス用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１９４】（ａ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１９５】（ａ）は、第４１制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４１制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された攻撃アイコン選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１１９６】第４１制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１１９７】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理４１を示すフローチャートである。
【図１１９８】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理４１を示すフローチャートである。
【図１１９９】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処

理４１を示すフローチャートである。
【図１２００】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり時短更新処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０１】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される始動入賞処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０２】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される保留球数判別処理を示すフローチャートである。
【図１２０３】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０４】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行されるＶ通過処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０５】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０６】第４１制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了時処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０７】第４１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０８】第４１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される入賞情報コマンド処理４１を示すフローチャートである。
【図１２０９】第４１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり関連処理４１を示すフローチャートである。
【図１２１０】第４１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるエンディングコマンド処理４１を示すフローチャートである。
【図１２１１】第４１制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４１を示すフローチャートである。
【図１２１２】第４１制御例の第１の変形例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１２１３】第４１制御例の第１の変形例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２１４】（ａ）は、第４１制御例の第１の変形例における特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例の第１の変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２１５】（ａ）は、第４１制御例の第１の変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２１６】（ａ）及び（ｂ）は、第４１制御例の第２の変形例において初当たり後に時短状態Ａへと移行した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１２１７】（ａ）は、第４１制御例の第２の変形例において時短モードまたは引き戻しモードへと移行した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例の第２の変形例においてＭＡＸボーナスモードへと移行した後で、時短リミット回数に到達する直前の時短状態Ｃにおける当たり変動演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１２１８】第４１制御例の第２の変形例における時短状態中の普通図柄の変動表示、普通図柄の当たり遊技、および特別図柄の変動表示の対応関係を示した図である。
【図１２１９】第４１制御例の第２の変形例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１２２０】（ａ）は、第４１制御例の第２の変形例における特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例の第２変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された第２当たり乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２２１】第４１制御例の第２の変形例における通常用テーブルの規定内容を模式的

に示した図である。
【図１２２２】（ａ）は、第４１制御例の第２の変形例における時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４１制御例の第２変形例におけるＭＡＸボーナス用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２２３】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２２４】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２２５】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２２６】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２２７】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２２８】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時種別決定処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２２９】第４１制御例の第２の変形例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される普通図柄変動処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２３０】第４１制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２３１】第４１制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理４１Ｂを示すフローチャートである。
【図１２３２】（ａ）及び（ｂ）は、第４２制御例における初当たり以外の大当たり遊技において実行される残機ストック演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３３】（ａ）は、第４２制御例においてラッシュが開始された時点の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４２制御例におけるラッシュ中にリーチが発生した場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３４】（ａ）は、第４２制御例におけるラッシュ中に非Ｖ小当たりに当選した場合の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４２制御例におけるラッシュ中に全ての非Ｖ小当たりに対応する残機が０になった場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３５】（ａ）及び（ｂ）は、第４２制御例におけるラッシュ中に残機増加条件を満たした場合に実行される残機回復演出の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３６】（ａ）は、第４２制御例におけるラッシュ終了後の特図２の残保留を消化している間の演出態様の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４２制御例における時短最終変動の開始後に当たり保留を獲得していた場合の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３７】第４２制御例における無敵モード中の演出態様の一例を示した図である。
【図１２３８】第４２制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１２３９】（ａ）は、第４２制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４２制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２４０】（ａ）は、第４２制御例における特別図柄２乱数テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２４１】（ａ）は、第４２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４２制御例における通常用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２４２】（ａ）は、第４２制御例における時短用テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４２制御例における時短最終変動用テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２４３】第４２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与テーブル

の規定内容を模式的に示した図である。
【図１２４４】第４２制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２４５】第４２制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２４６】第４２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理４２を示すフローチャートである。
【図１２４７】第４２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処理４２を示すフローチャートである。
【図１２４８】第４２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井判定処理４２を示すフローチャートである。
【図１２４９】第４２制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり時短更新処理４２を示すフローチャートである。
【図１２５０】第４２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４２を示すフローチャートである。
【図１２５１】第４２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短中演出設定処理４２を示すフローチャートである。
【図１２５２】第４２制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される非Ｖ小当たり時処理を示すフローチャートである。
【図１２５３】第４３制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１２５４】（ａ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される有利モード中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される不利モード中の演出画面の一例を示した図である。
【図１２５５】（ａ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される通常モード中に時短Ａ（微時短１０回）当選した場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される有利モード（残時短３０回）中に時短Ａ（微時短１０回）当選した場合の演出画面の一例を示した図である。
【図１２５６】（ａ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される通常モード中に時短Ｂ（時短）当選した場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される有利モード中に時短Ｂ（時短）当選した場合の演出画面の一例を示した図である。
【図１２５７】（ａ）及び（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される時短図柄停止後の残保留消化期間中の演出の一例を示した図である。
【図１２５８】（ａ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される時短中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される時短中に小当たり当選した場合の演出画面の一例を示した図である。
【図１２５９】（ａ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される通常モード中における天井到達変動中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例において第３図柄表示装置で表示される有利モード中における天井到達変動中の演出画面の一例を示した図である。
【図１２６０】第４３制御例における各遊技状態の間の移行方法を示した図である。
【図１２６１】（ａ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２６２】（ａ）は、第４３制御例における特別図柄１乱数４３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例における特別図柄２乱数４３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択テ４３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６３】（ａ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パ

ターン選択４３テーブルの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４３制御例における通常用４３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６４】第４３制御例における時短用４３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６５】第４３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与４３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６６】（ａ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択４３テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４３制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択４３テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６７】（ａ）は、第４３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２６８】第４３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された背景モード選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２６９】第４３制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された演出図柄選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２７０】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７１】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄判定処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７２】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７３】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動パターン選択処理４０を示すフローチャートである。
【図１２７４】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される外れ時種別決定処理４０を示すフローチャートである。
【図１２７５】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短更新処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７６】第４３制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される天井更新処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７７】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７８】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド処理４３を示すフローチャートである。
【図１２７９】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される待機演出設定処理４３を示すフローチャートである。
【図１２８０】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４３を示すフローチャートである。
【図１２８１】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短図柄当選時演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１２８２】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出用時短図柄決定処理を示すフローチャートである。
【図１２８３】第４３制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される演出更新処理４３を示すフローチャートである。
【図１２８４】第４４制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１２８５】（ａ）は、第４４制御例において第３図柄表示装置で表示される時短リミット非到達の時短中当たり変動画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４４制御例において第３図柄表示装置で表示される時短リミット到達の時短中当たり変動画面の一例を示した図である。

【図１２８６】（ａ）は、第４４制御例において第３図柄表示装置で表示される擬似左打ち中の演出画面（特図２当たり変動中）の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４４制御例において第３図柄表示装置で表示される擬似左打ち中に時短状態が終了したことを示す演出画面の一例を示した図である。
【図１２８７】第４４制御例における主制御装置のＲＯＭの構成を示したブロック図である。
【図１２８８】第４４制御例における主制御装置のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２８９】第４４制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された変動パターン選択４４テーブルの構成を示したブロック図である。
【図１２９０】第４４制御例における通常状態用変動パターン４４テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２９１】第４４制御例における時短状態用変動パターン４４テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１２９２】第４４制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１２９３】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特別図柄変動処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９４】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動開始処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９５】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄判定処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９６】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動パターン選択処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９７】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１時短抽選処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９８】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される遊技状態更新処理４４を示すフローチャートである。
【図１２９９】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動実行中処理４４を示すフローチャートである。
【図１３００】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第１特別図柄変動停止処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０１】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１強制停止処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０２】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短設定処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０３】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動開始処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０４】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄判定処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０５】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される小当たり抽選処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０６】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動パターン選択処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０７】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動実行中処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０８】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される第２特別図柄変動停止処理４４を示すフローチャートである。
【図１３０９】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２強制停止処理４４を示すフローチャートである。

【図１３１０】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２小当たり停止処理４４を示すフローチャートである。
【図１３１１】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり制御処理４４を示すフローチャートである。
【図１３１２】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される大当たり終了処理４４を示すフローチャートである。
【図１３１３】第４４制御例における主制御装置内のＭＰＵにより実行される時短リミット更新処理４４を示すフローチャートである。
【図１３１４】第４４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４４を示すフローチャートである。
【図１３１５】第４４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２変動演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１３１６】第４４制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１変動演出設定処理を示すフローチャートである。
【図１３１７】（ａ）は、第４５制御例において第３図柄表示装置で表示される通常モード中に時短Ａ１（微時短１回）当選した場合の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４５制御例において第３図柄表示装置で表示される高確モード中の演出画面（時短Ａ２当選時）の一例を示した図である。
【図１３１８】（ａ）は、第４５制御例において第３図柄表示装置で表示される高確モード中の時短Ａ群当選時の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４５制御例において第３図柄表示装置で表示される高確モード終了時の演出画面（内部第２時短残２０回）の一例を示した図である。
【図１３１９】第４５制御例において第３図柄表示装置で表示される通常モード中の外れ時における高確モード移行画面の一例を示した図である。
【図１３２０】（ａ）～（ｈ）は、第４５制御例における遊技の流れと演出の流れを示した図である。
【図１３２１】（ａ）は、第４５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１３２２】第４５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された第２演出図柄選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３２３】第４５制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された天井情報選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３２４】第４５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４５を示すフローチャートである。
【図１３２５】第４５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される確定コマンド処理４５を示すフローチャートである。
【図１３２６】第４５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４５を示すフローチャートである。
【図１３２７】第４５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２演出図柄設定処理を示すフローチャートである。
【図１３２８】第４５制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される天井情報報知設定処理４５を示すフローチャートである。
【図１３２９】第４６制御例のパチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１３３０】（ａ）は、第４６制御例において第３図柄表示装置で表示されるチャンスゾーン中の演出画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４６制御例において第３図柄表示装置で表示されるチャンスゾーン中に左打ちでスルーに通した場合の演出画面の一例を示した図である。
【図１３３１】（ａ）は、第４６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＯＭの構成を示したブロック図であり、（ｂ）は、第４６制御例におけるパチンコ機の音

声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された残時短回数報知選択テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３３２】第４６制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１３３３】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるコマンド判定処理４６を示すフローチャートである。
【図１３３４】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される保留情報関連処理４６を示すフローチャートである。
【図１３３５】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される確定コマンド処理４６を示すフローチャートである。
【図１３３６】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行されるスルー通過処理を示すフローチャートである。
【図１３３７】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図２変動演出設定処理４６を示すフローチャートである。
【図１３３８】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される非時短リミット時演出設定処理４６を示すフローチャートである。
【図１３３９】第４６制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特図１変動演出設定処理４６を示すフローチャートである。
【図１３４０】第４３制御例の第１変型例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置のＲＯＭに設定された背景モード選択４３ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３４１】第４３制御例の第１変型例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短図柄当選時演出設定処理４３ａを示すフローチャートである。
【図１３４２】第４３制御例の第２変型例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短図柄当選時演出設定処理４３ｂを示すフローチャートである。
【図１３４３】第４３制御例の第２変型例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される天井態様決定処理を示すフローチャートである。
【図１３４４】（ａ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示されるファイナルカウントダウン演出の開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示されるファイナルカウントダウン演出中に時短図柄当選した場合の表示画面（通常状態、時短図柄Ｂ当選）の一例を示した図である。
【図１３４５】（ａ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示されるファイナルカウントダウン演出中の小当たり当選画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示されるファイナルカウントダウン演出終了画面（残時短回数１８回）の一例を示した図である。
【図１３４６】（ａ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示される上乗せ演出開始画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例において第３図柄表示装置で表示されるファイナルカウントダウン演出中に時短図柄当選した場合の表示画面（第１時短状態、時短図柄Ａ当選）の一例を示した図である。
【図１３４７】（ａ）～（ｄ）は、第４７制御例における遊技状態の流れと実行される演出の流れを示した図である。
【図１３４８】第４７制御例における各遊技状態の遷移内容を示した図である。
【図１３４９】（ａ）は、第４７制御例における特別図柄１乱数４７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例における特別図柄２乱数４７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｃ）は、第４７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された大当たり種別選択４７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３５０】第４７制御例における通常用４７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３５１】（ａ）は、第４７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短付与４７テーブルの規定内容を模式的に示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例における

主制御装置のＲＯＭに設定された小当たり種別選択４７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３５２】第４７制御例における主制御装置のＲＯＭに設定された時短種別選択４７テーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３５３】第４７制御例におけるパチンコ機の音声ランプ制御装置内のＲＡＭの構成を示したブロック図である。
【図１３５４】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される状態コマンド処理４７を示すフローチャートである。
【図１３５５】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２時短状態移行処理を示すフローチャートである。
【図１３５６】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される変動演出設定処理４７を示すフローチャートである。
【図１３５７】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される時短図柄当選時演出設定処理４７を示すフローチャートである。
【図１３５８】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２時短状態演出設定処理４７を示すフローチャートである。
【図１３５９】第４７制御例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出設定処理４７を示すフローチャートである。
【図１３６０】（ａ）は、第４７制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示されるロングバトル演出の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、第４７制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示されるコンビバトル演出の表示画面の一例を示した図である。
【図１３６１】第４７制御例の第１変形例において第３図柄表示装置で表示される背景チェンジ演出の表示画面の一例を示した図である。
【図１３６２】第４７制御例の第１変形例における通常用４７ａテーブルの規定内容を模式的に示した図である。
【図１３６３】第４７制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される第２時短状態演出設定処理４７ａを示すフローチャートである。
【図１３６４】第４７制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される特殊背景設定処理を示すフローチャートである。
【図１３６５】第４７制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置内のＭＰＵにより実行される通常状態演出設定処理４７ａを示すフローチャートである。
【図１３６６】（ａ）は、追加例におけるスーパーリーチ演出の表示画面の一例を示した図であり、（ｂ）は、追加例における時短示唆演出の表示画面の一例を示した図である。
【図１３６７】追加例において第３図柄表示装置で表示される演出態様を切り替える際の表示画面の一例を示した図である。
【図１３６８】（ａ）～（ｄ）は、追加例における演出パターンを示した図である。
【図１３６９】第１０実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１３７０】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１３７１】パチンコ機の背面図である。
【図１３７２】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１３７３】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３７４】遊技盤及び動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３７５】動作ユニットの正面図である。
【図１３７６】動作ユニットの正面図である。
【図１３７７】動作ユニットの正面図である。
【図１３７８】動作ユニットの正面図である。
【図１３７９】動作ユニットの正面図である。
【図１３８０】動作ユニットの正面図である。
【図１３８１】第１動作ユニットの正面斜視図である。

【図１３８２】第１動作ユニットの背面斜視図である。
【図１３８３】第１動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３８４】第１動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３８５】回転動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３８６】回転動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３８７】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図１３８８】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図１３８９】第１動作ユニットの正面図である。
【図１３９０】第１動作ユニットの正面図である。
【図１３９１】第１動作ユニットの正面図である。
【図１３９２】第１動作ユニットの背面図である。
【図１３９３】第１動作ユニットの背面図である。
【図１３９４】第１動作ユニットの背面図である。
【図１３９５】第２動作ユニットの正面斜視図である。
【図１３９６】第２動作ユニットの背面斜視図である。
【図１３９７】第２動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３９８】第２動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３９９】回転動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４００】回転動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４０１】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図１４０２】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図１４０３】第３動作ユニットの正面斜視図である。
【図１４０４】第３動作ユニットの背面斜視図である。
【図１４０５】第３動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４０６】第３動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４０７】開閉動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４０８】開閉動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４０９】第３動作ユニットの開閉動作ユニットの背面図である。
【図１４１０】第３動作ユニットの開閉動作ユニットの背面図である。
【図１４１１】導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４１２】導光板ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４１３】補助導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４１４】補助導光板ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４１５】補助導光板ユニットの背面図である。
【図１４１６】（ａ）は、図１４１５のＭＣＤＸＶＩａ－ＭＣＤＸＶＩａ線における補助導光板ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１４１５のＭＣＤＸＶＩｂ－ＭＣＤＸＶＩｂ線における補助導光板ユニットの断面図である。
【図１４１７】（ａ）から（ｆ）は、補助導光板ユニットの模式正面図である。
【図１４１８】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１４１９】遊技盤の分解背面斜視図である。
【図１４２０】補助導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４２１】補助導光板ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４２２】補助導光板ユニットの正面図である。
【図１４２３】図１４２２のＭＣＤＸＸＩＩＩ－ＭＣＤＸＸＩＩＩ線における補助導光板ユニットの断面図である。
【図１４２４】下流側案内部材の分解正面斜視図である。
【図１４２５】下流側案内部材の分解背面斜視図である。
【図１４２６】視認態様変化シートの構成を模式的に示す模式図である。
【図１４２７】（ａ）及び（ｂ）は、方向視の違いによる下流側案内部材の見え方の変化を示す模式図である。

【図１４２８】第１１実施形態における第１動作ユニットの背面図である。
【図１４２９】第１２実施形態における第１動作ユニットの模式背面図である。
【図１４３０】第１動作ユニットの模式背面図である。
【図１４３１】第１動作ユニットの模式背面図である。
【図１４３２】（ａ）及び（ｂ）は、第１３実施形態における球案内ユニットの断面図である。
【図１４３３】（ａ）及び（ｂ）は、第１４実施形態における回転動作ユニットの背面図である。
【図１４３４】第１５実施形態における流路前側構成部材の断面図である。
【図１４３５】第１６実施形態におけるパチンコ機の背面図である。
【図１４３６】基板ボックスの正面斜視図である。
【図１４３７】基板ボックスの背面斜視図である。
【図１４３８】基板ボックスの正面図である。
【図１４３９】（ａ）は、基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図１４３９（ａ）の矢印ＭＣＤＸＸＸＩＸｂ方向視における基板ボックスの側面図である。
【図１４４０】（ａ）は、基板ボックスの部分正面斜視図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面斜視図である。
【図１４４１】（ａ）及び（ｂ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図１４４２】（ａ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩａ－ＭＣＤＸＬＩＩａ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４４３】（ａ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図１４４４】図１４４３（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＶ－ＭＣＤＸＬＩＶ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４４５】（ａ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図１４４６】（ａ）は、第１７実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４４６（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩｂ－ＭＣＤＸＬＶＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第１８実施形態における保護カバーの部分断面図である。
【図１４４７】（ａ）は、第１９実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｃ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｄ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｄ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４４８】（ａ）から（ｃ）は、第２０実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ－ＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ線における断面図に対応し、（ｄ）は、第２１実施形態における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４４９】（ａ）は、第２２実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４４９（ａ）のＭＣＤＸＬＩＸｂ－ＭＣＤＸＬＩＸｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４５０】（ａ）は、第２３実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第２４実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｃ）は、図１４５０（ｂ）のＭＣＤＬｃ－ＭＣＤＬｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４５１】（ａ）は、第２５実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、図１４５１（ａ）のＭＣＤＬＩｂ－ＭＣＤＬＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、基板ボックスの部分断面図である。

【図１４５２】（ａ）は、第２６実施形態における基板ボックスの保護カバーの正面図であり、（ｂ）は、図１４５２（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＩｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図１４５２（ｂ）の矢印ＭＣＤＬＩＩｃ方向視における保護カバーの背面図である。
【図１４５３】（ａ）は、基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図１４５３（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＩＩｂ方向視における基板ボックスの側面図であり、（ｃ）は、図１４５３（ｂ）のＭＣＤＬＩＩＩｃ－ＭＣＤＬＩＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４５４】（ａ）は、第２７実施形態における基板ボックスの保護カバーの側面図であり、（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４５５】（ａ）は、第２８実施形態における基板ボックスの保護カバーの正面図であり、（ｂ）は、図１４５５（ａ）の矢印ＭＣＤＬＶｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４５６】（ａ）は、第２９実施形態における基板ボックスの保護カバーの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第３０実施形態における保護カバーの部分背面図であり、（ｄ）は、図１４５６（ｃ）のＭＣＤＬＶＩｄ－ＭＣＤＬＶＩｄ線における保護カバーの部分断面図である。
【図１４５７】（ａ）は、第３１実施形態における保護カバーの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４５７（ａ）のＭＣＤＬＶＩＩｂ－ＭＣＤＬＶＩＩｂ線における保護カバーの部分断面図であり、（ｃ）は、第３２実施形態における基板ボックスの部分背面図である。
【図１４５８】（ａ）は、第３３実施形態における基板ボックスの保護カバーの側面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの側面図であり、（ｃ）は、図１４５８（ｂ）のＭＣＤＬＶＩＩＩｃ－ＭＣＤＬＶＩＩＩｃ線における基板ボックスの断面図である。
【図１４５９】（ａ）は、第３４実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４５９（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＸｂ方向視における基板ボックスの部分側面図であり、（ｃ）は、保護カバーの背面図である。
【図１４６０】（ａ）及び（ｃ）は、図１４５９（ａ）のＭＣＤＬＸａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図１４６０（ａ）のＭＣＤＬＸｂ－ＭＣＤＬＸｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、図１４６０（ｃ）のＭＣＤＬＸｄ－ＭＣＤＬＸｄ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６１】（ａ）は、図１４５９（ａ）のＭＣＤＬＸａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図１４６１（ａ）のＭＣＤＬＸＩｂ－ＭＣＤＬＸＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６２】（ａ）は、第３５実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６３】（ａ）及び（ｃ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）及び（ｄ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６４】（ａ）は、第３６実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｃ－ＭＣＤＬＸＩＶｃ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、保護カバーの背面図であり、（ｅ）は、図１４６４（ｄ）のＸＣＶＩｅ－ＸＣＶＩｅ線における保護カバーの断面図

である。
【図１４６５】（ａ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＶａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｃ－ＭＣＤＬＸＩＶｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６６】（ａ）は、第３７実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、図１４６６（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩｂ－ＭＣＤＬＸＶＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６７】（ａ）は、第３８実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、図１４６７（ａ）の矢印ＭＣＤＬＸＶＩＩｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図１４６７（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＶＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６８】（ａ）は、第３９実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４６８（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＶＩＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４６９】第４０実施形態における保護カバーの背面図である。
【図１４７０】（ａ）は、第４１実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４７０（ａ）のＭＣＤＬＸＸｂ－ＭＣＤＬＸＸｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４７１】（ａ）は、第４２実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第４３実施形態における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４７２】（ａ）は、第４４実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４７２（ａ）のＭＣＤＬＸＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＸＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４７３】第４５実施形態における基板ボックスの部分背面図である。
【図１４７４】（ａ）は、第４６実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１４７４（ａ）のＭＣＤＬＸＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１４７５】（ａ）は、第４７実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第４８実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第４９実施形態における基板ボックスの保護カバーの部分背面図である。
【図１４７６】第５０実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１４７７】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１４７８】パチンコ機の背面図である。
【図１４７９】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１４８０】経路構成装置の分解正面斜視図である。
【図１４８１】経路構成装置の部分拡大正面図である。
【図１４８２】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８１のＭＣＤＬＸＸＸＩＩａ－ＭＣＤＬＸＸＸＩＩａ線における経路構成装置の部分断面図である。
【図１４８３】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１４８４】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１４８５】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１４８６】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１４８７】図１４７７の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＶＩＩにおける遊技盤の部分正面図である。
【図１４８８】（ａ）は、主制御装置内のＲＯＭの電気的構成を示すブロック図であり、

（ｂ）は、第１当たり種別カウンタと特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタと普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１４８９】（ａ）から（ｄ）は、普通入賞口（スルーゲート）における球の通過の検出と、電動役物の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１４９０】第５１実施形態における遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１４９１】（ａ）は、正面ユニットの正面図であり、（ｂ）は、正面ユニットの背面図である。
【図１４９２】正面ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４９３】正面ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４９４】（ａ）は、振分けユニットの正面図であり、（ｂ）は、振分けユニットの背面図である。
【図１４９５】（ａ）は、図１４９４（ａ）のＭＣＤＸＣＶａ－ＭＣＤＸＣＶａ線における振分けユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１４９５（ａ）のＭＣＤＸＣＶｂ－ＭＣＤＸＣＶｂ線における振分けユニットの断面図である。
【図１４９６】（ａ）及び（ｂ）は、図１４９５（ａ）のＭＣＤＸＣＶｂ－ＭＣＤＸＣＶｂ線における振分けユニットの断面図である。
【図１４９７】（ａ）から（ｄ）は、検出装置における球の通過の検出と、羽部材の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１４９８】図１４９１（ａ）のＭＣＤＸＣＶＩＩＩ－ＭＣＤＸＣＶＩＩＩ線における遊技盤の断面図である。
【図１４９９】（ａ）及び（ｂ）は、図１４９８のＭＣＤＸＣＩＸａ－ＭＣＤＸＣＩＸａ線における入賞口ユニット及び送球ユニットの部分断面図である。
【図１５００】第５２実施形態における遊技盤の部分正面図である。
【図１５０１】第５３実施形態における遊技盤の部分正面図である。
【図１５０２】第５４実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１５０３】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１５０４】パチンコ機の背面図である。
【図１５０５】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１５０６】入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５０７】入賞ユニットの背面斜視図である。
【図１５０８】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１５０９】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１５１０】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１５１１】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１５１２】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１５１３】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１５１４】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１５１５】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１５１６】（ａ）は、入賞ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１５１６（ａ）の矢印ＭＤＸＶＩｂ方向視における入賞ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１５１６（ａ）の矢印ＭＤＸＶＩｃ方向視における入賞ユニットの上面図である。
【図１５１７】（ａ）及び（ｂ）は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩａ－ＭＤＸＶＩＩａ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５１８】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩＩ－ＭＤＸＶＩＩＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５１９】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２０】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸ－ＭＤＸＸ線における入賞ユニットの断面図である。

【図１５２１】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩＩ－ＭＤＸＶＩＩＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２２】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２３】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸ－ＭＤＸＸ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２４】（ａ）及び（ｂ）は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸＩＶａ－ＭＤＸＸＩＶａ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２５】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５２６】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５２７】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５２８】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５２９】（ａ）及び（ｂ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５３０】（ａ）及び（ｂ）は、図１５１６（ｂ）のＭＤＸＸＸａ－ＭＤＸＸＸａ線における入賞ユニットの部分断面図である。
【図１５３１】（ａ）及び（ｂ）は、図１５１６（ｂ）のＭＤＸＸＸａ－ＭＤＸＸＸａ線における入賞ユニットの部分断面図である。
【図１５３２】（ａ）から（ｃ）は、電動役物の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１５３３】保留種別、遊技状態、特別図柄の種別および変動時間の関係を説明する図である。
【図１５３４】図１５２４（ａ）のＭＤＸＸＸＩＶ－ＭＤＸＸＸＩＶ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１５３５】図１５２４（ａ）のＭＤＸＸＸＩＶ－ＭＤＸＸＸＩＶ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１５３６】図１５２４（ａ）のＭＤＸＸＸＩＶ－ＭＤＸＸＸＩＶ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１５３７】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における板部材、ベース板、スライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１５３８】（ａ）及び（ｂ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１５３９】（ａ）から（ｃ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１５４０】（ａ）から（ｃ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１５４１】（ａ）から（ｃ）は、図１５３８（ａ）のＭＤＸＬＩａ－ＭＤＸＬＩａ線における移動上蓋部材及び移動床部材の断面図である。
【図１５４２】（ａ）から（ｃ）は、図１５３８（ａ）のＭＤＸＬＩａ－ＭＤＸＬＩａ線における移動上蓋部材及び移動床部材の断面図である。
【図１５４３】（ａ）は、第１の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図であり、（ｂ）は、第２の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図であり、（ｃ）は、第３の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図である。
【図１５４４】（ａ）は、主制御装置内のＲＯＭの電気的構成を示すブロック図であり、（ｂ）は、第１当たり乱数テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、特別図柄１乱数テーブルにおける第１当たり乱数カウンタと判定値との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｄ）は、特別図柄２乱数テーブルにおける第１当たり乱数カウンタと判定値との対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１５４５】（ａ）は、第１当たり種別選択テーブルにおける第１当たり種別カウンタと特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は

、第２当たり乱数テーブルにおける第２当たり乱数カウンタと普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１５４６】正面枠及び外枠の上面図である。
【図１５４７】（ａ）は、表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、（ｂ）は、実際の表示画面を例示した図である。
【図１５４８】（ａ）は、大当たり演出の流れの一例を説明するための概略図であり、（ｂ）は、エンディング演出の流れの一例を説明するための概略図であり、（ｃ）、（ｄ）及び（ｅ）は、大当たり演出の一部であるエンディング演出において表示されるエンディング表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５４９】（ａ）は、エンディング演出において表示される社名表示演出の表示画面を例示した図であり、（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５５０】（ａ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図であり、（ｂ）は、エンディング演出終了直後における表示画面を例示した図である。
【図１５５１】エンディング演出と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１５５２】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における第５５実施形態における入賞ユニットの断面図である。
【図１５５３】図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５５４】（ａ）は、第５６実施形態における入賞ユニットを模式的に示す模式図であり、（ｂ）は、入賞ユニットの別例を模式的に示す模式図である。
【図１５５５】（ａ）及び（ｂ）は、第５７実施形態における入賞ユニットを模式的に示す模式図である。
【図１５５６】（ａ）及び（ｂ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける第５８実施形態における上側可変入賞装置の正面図である。
【図１５５７】（ａ）及び（ｂ）は、第５９実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５５８】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５５９】（ａ）及び（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５６０】（ａ）及び（ｂ）は、第６０実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５６１】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５６２】（ａ）及び（ｂ）は、第６１実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５６３】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１５６４】カード忘れ防止表示演出における枠ボタン表示の計時変化、枠ボタンの操作の有効性の計時変化および枠ボタンの操作の一例を示した図である。
【図１５６５】第６２実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１５６６】下側フレームの正面斜視図である。
【図１５６７】下側フレームの背面斜視図である。
【図１５６８】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１５６９】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１５７０】下側フレームの上面図である。
【図１５７１】下側フレームの正面図である。

【図１５７２】下側フレームの背面図である。
【図１５７３】（ａ）は、図１５７１の矢印ＭＤＬＸＸＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１５７１の矢印ＭＤＬＸＸＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図１５７４】図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における下側フレームの断面図である。
【図１５７５】図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における下側フレームの断面図である。
【図１５７６】図１５７１のＭＤＬＸＸＶＩ－ＭＤＬＸＸＶＩ線における下側フレームの断面図である。
【図１５７７】（ａ）は、図１５７４のＭＤＬＸＸＶＩＩａ部における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図１５７０のＭＤＬＸＸＶＩＩｂ－ＭＤＬＸＸＶＩＩｂ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１５７８】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【図１５７９】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【図１５８０】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【図１５８１】第６３実施形態における下側フレームの正面斜視図である。
【図１５８２】下側フレームの背面斜視図である。
【図１５８３】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１５８４】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１５８５】下側フレームの上面図である。
【図１５８６】下側フレームの正面図である。
【図１５８７】下側フレームの背面図である。
【図１５８８】（ａ）は、図１５８６の矢印ＭＤＬＸＸＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１５８６の矢印ＭＤＬＸＸＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図１５８９】図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における下側フレームの断面図である。
【図１５９０】図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における下側フレームの断面図である。
【図１５９１】図１５８７のＭＤＸＣＩ－ＭＤＸＣＩ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１５９２】図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１５９３】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における断面に対応する。
【図１５９４】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における断面に対応する。
【図１５９５】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における断面に対応する。
【図１５９６】図１５９５（ｂ）のＭＤＸＣＶＩ－ＭＤＸＣＶＩ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１５９７】第６４実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１５９８】下側フレームの背面図である。

【図１５９９】第６４実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１６００】下側フレームの背面図である。
【図１６０１】（ａ）は、第６５実施形態における皿部材の上面図であり、（ｂ）は、図１６０１（ａ）のＭＤＣＩｂ－ＭＤＣＩｂ線における皿部材の断面図であり、（ｃ）は、図１６０１（ａ）のＭＤＣＩｃ－ＭＤＣＩｃ線における皿部材の断面図である。
【図１６０２】（ａ）は、第６６実施形態における下側フレームの断面図であり、図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における断面に対応し、（ｂ）は、第６７実施形態における下側フレームの断面図であり、図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における断面に対応する。
【図１６０３】第６８実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１６０４】下側フレームの正面斜視図である。
【図１６０５】下側フレームの背面斜視図である。
【図１６０６】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６０７】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６０８】下側フレームの上面図である。
【図１６０９】下側フレームの正面図である。
【図１６１０】下側フレームの背面図である。
【図１６１１】（ａ）は、図１６０９の矢印ＭＤＣＸＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１６０９の矢印ＭＤＣＸＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図１６１２】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６１３】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６１４】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６１５】（ａ）は、図１６０８のＭＤＣＸＶａ－ＭＤＣＸＶａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図１６０８のＭＤＣＸＶｂ－ＭＤＣＸＶｂ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｃ）は、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１６１６】（ａ）及び（ｂ）は、第６９実施形態における下側フレームの断面図である。
【図１６１７】（ａ）及び（ｂ）は、第７０実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１６１８】（ａ）及び（ｂ）は、第７１実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６１９】第７２実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６２０】第７３実施形態における下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６２１】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６２２】下側フレームの正面図である。
【図１６２３】（ａ）及び（ｂ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、（ａ）は、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における断面に対応する。
【図１６２４】（ａ）から（ｃ）は、第７４実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６２５】（ａ）及び（ｂ）は、第７５実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。

【図１６２６】（ａ）は、図１６２５（ａ）のＭＤＣＸＸＶＩａ－ＭＤＣＸＸＶＩａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図１６２５（ｂ）のＭＤＣＸＸＶＩｂ－ＭＤＣＸＸＶＩｂ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図１６２７】下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における断面に対応する。
【図１６２８】第７６実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１６２９】下側フレームの正面斜視図である。
【図１６３０】下側フレームの背面斜視図である。
【図１６３１】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６３２】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６３３】下側フレームの上面図である。
【図１６３４】下側フレームの正面図である。
【図１６３５】下側フレームの背面図である。
【図１６３６】（ａ）は、図１６３４の矢印ＭＤＣＸＸＶＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１６３４の矢印ＭＤＣＸＸＶＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図１６３４のＭＤＣＸＸＶＩｃ－ＭＤＣＸＸＶＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図１６３７】（ａ）は、正面部材の図示が省略された状態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、背面側カバー部材の図示が省略された状態における下側フレームの部分拡大背面図であり、（ｃ）は、下側フレームの上面図である。
【図１６３８】（ａ）は、図１６３７（ｃ）のＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ線における下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、図１６３８（ａ）のＭＤＣＸＸＶＩＩＩｂ－ＭＤＣＸＸＶＩＩＩｂ線における下側フレームの断面図であり、（ｃ）は、下側フレームの部分拡大下面図である。
【図１６３９】（ａ）は、正面部材の図示が省略された状態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、背面側カバー部材の図示が省略された状態における下側フレームの部分拡大背面図であり、（ｃ）は、下側フレームの上面図である。
【図１６４０】（ａ）は、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、図１６４０（ａ）のＭＤＣＸＬｂ－ＭＤＣＸＬｂ線における下側フレームの断面図であり、（ｃ）は、下側フレームの部分拡大下面図である。
【図１６４１】第７７実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６３７のＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ線における断面に対応する。
【図１６４２】（ａ）は、振分通路の正面斜視図であり、（ｂ）は、図１６４２（ａ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｂ方向視における振分通路の正面図であり、（ｃ）は、図１６４２（ｂ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｃ方向視における振分通路の下面図であり、（ｄ）は、図１６４２（ｂ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｄ方向視における振分通路の側面図である。
【図１６４３】第７８実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６３７（ｃ）のＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＶＩＩＩａ線における断面に対応する。
【図１６４４】（ａ）は、第７９実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６４５】（ａ）は、第７９実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６４６】（ａ）は、第８０実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６４７】下側フレームの上面図である。
【図１６４８】（ａ）は、第８０実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６４９】下側フレームの上面図である。

【図１６５０】（ａ）は、第８１実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応し、（ｂ）は、第８２実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応し、（ｃ）は、第８３実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応する。
【図１６５１】（ａ）は、第８４実施形態における下側フレームの部分上面図であり、（ｂ）は、第８５実施形態における下側フレームの部分上面図である。
【図１６５２】（ａ）は、第７７実施形態における振分通路の正面斜視図であり、（ｂ）は、第８７実施形態における振分通路の振分通路に垂直な方向視の図であり、（ｃ）は、第８８実施形態における振分通路の振分通路に垂直な方向視の図であり、（ｄ）は、第８９実施形態における振分通路の部分拡大断面図であり、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応し、（ｅ）は、第９０実施形態における振分通路の部分拡大断面図であり、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応する。
【図１６５３】（ａ）は、第９１実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、第９２実施形態における下側フレームの部分拡大上面図である。
【図１６５４】第９３実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１６５５】下側フレームの正面斜視図である。
【図１６５６】下側フレームの背面斜視図である。
【図１６５７】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６５８】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６５９】（ａ）は、確定通路の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解正面斜視図である。
【図１６６０】（ａ）は、確定通路の分解背面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解背面斜視図である。
【図１６６１】下側フレームの上面図である。
【図１６６２】下側フレームの正面図である。
【図１６６３】下側フレームの背面図である。
【図１６６４】（ａ）は、図１６６２の矢印ＭＤＣＬＸＩＶａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１６６２の矢印ＭＤＣＬＸＩＶｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図１６６２のＭＤＣＬＸＩＶｃ－ＭＤＣＬＸＩＶｃ線における下側フレームの断面図である。
【図１６６５】（ａ）は、下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６６６】（ａ）は、下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６６７】変位部材の部分上面図である。
【図１６６８】下側フレームの正面図である。
【図１６６９】（ａ）は、下側フレームの背面図であり、（ｂ）は、図１６６９（ａ）の矢印ＭＤＣＬＸＩＸｂ方向視における下側フレームの側面図でありる。
【図１６７０】下側フレームの正面図である。
【図１６７１】（ａ）は、下側フレームの背面図であり、（ｂ）は、図１６７１（ａ）の矢印ＭＤＣＬＸＸＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図１６７２】（ａ）及び（ｃ）は、第９４実施形態における下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）及び（ｄ）は、下側フレームの部分拡大上面図である。
【図１６７３】（ａ）及び（ｂ）は、第９５実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１６７４】（ａ）は、第９６実施形態における下側フレームの上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。

【図１６７５】（ａ）は、下側フレームの上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図１６７６】第９７実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１６７７】下側フレームの正面斜視図である。
【図１６７８】下側フレームの背面斜視図である。
【図１６７９】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６８０】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６８１】変位手段の分解正面斜視図である。
【図１６８２】変位手段の分解背面斜視図である。
【図１６８３】下側フレームの上面図である。
【図１６８４】下側フレームの正面図である。
【図１６８５】下側フレームの背面図である。
【図１６８６】（ａ）は、図１６８４の矢印ＭＤＣＬＸＸＸＶＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１６８４の矢印ＭＤＣＬＸＸＸＶＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図１６８４のＭＤＣＬＸＸＸＶＩｃ－ＭＤＣＬＸＸＸＶＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図１６８７】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６８８】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６８９】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１６９０】左側変位部材の部分上面図である。
【図１６９１】第９８実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１６９２】下側フレームの正面斜視図である。
【図１６９３】下側フレームの背面斜視図である。
【図１６９４】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図１６９５】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図１６９６】振分手段の分解正面斜視図である。
【図１６９７】振分手段の分解背面斜視図である。
【図１６９８】下側フレームの上面図である。
【図１６９９】下側フレームの正面図である。
【図１７００】下側フレームの背面図である。
【図１７０１】（ａ）は、図１６９９の矢印ＭＤＣＣＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図１６９９の矢印ＭＤＣＣＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図１６９９のＭＤＣＣＩｃ－ＭＤＣＣＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図１７０２】（ａ）は、図１７０１（ｃ）のＭＤＣＣＩＩａ－ＭＤＣＣＩＩａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１７０３】（ａ）は、図１７０１（ｃ）のＭＤＣＣＩＩａ－ＭＤＣＣＩＩａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図１７０４】下側フレームの部分上面図である。
【図１７０５】下側フレームの部分上面図である。
【図１７０６】（ａ）は、第９９実施形態における下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１７０７】（ａ）は、下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図１７０８】（ａ）、（ｃ）及び（ｅ）は、第１５通路部材の第４通路部、中間通路部

材の転動面、振分手段の変位通路部材および第２変位通路の第２変位通路部の上面模式図であり、（ｂ）、（ｄ）及び（ｆ）は、第６通路部材の第４通路部、中間通路部材の転動面、振分手段の変位通路部材および第２変位通路の第２変位通路部の正面模式図である。
【図１７０９】第１００実施形態における下側フレームの部分拡大上面図である。
【図１７１０】（ａ）は、第１０１実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図１７１１】（ａ）は、下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図１７１２】（ａ）は、第１０２実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図１７１３】第１０３実施形態における下側フレームの背面斜視図である。
【図１７１４】下側フレームの部分拡大上面図である。
【図１７１５】第１０４実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１７１６】パチンコ機の背面図である。
【図１７１７】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１７１８】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１７１９】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１７２０】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１７２１】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図１７２２】正面枠の分解斜視正面図である。
【図１７２３】正面枠の分解斜視背面図である。
【図１７２４】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１７２５】第１０５実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１７２６】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１７２７】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１７２８】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１７２９】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１７３０】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１７３１】図１７２６のＭＤＣＣＸＸＸＩ部における遊技盤の部分拡大正面図である。
【図１７３２】図１７３１のＭＤＣＣＸＸＸＩＩ－ＭＤＣＣＸＸＸＩＩ線における遊技盤の断面図である。
【図１７３３】入賞ユニットの斜視図である。
【図１７３４】入賞ユニットの斜視図である。
【図１７３５】入賞ユニットの斜視図である。
【図１７３６】入賞ユニットの斜視図である。
【図１７３７】遊技盤の背面斜視図である。
【図１７３８】遊技盤の分解背面斜視図である。
【図１７３９】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１７４０】動作ユニットの正面図である。
【図１７４１】動作ユニットの正面図である。
【図１７４２】動作ユニットの正面図である。
【図１７４３】動作ユニットの正面図である。
【図１７４４】動作ユニットの正面図である。
【図１７４５】動作ユニットの正面図である。
【図１７４６】動作ユニットの正面図である。
【図１７４７】前層側可動装置の正面分解斜視図である。

【図１７４８】前層側可動装置の背面分解斜視図である。
【図１７４９】第１可動装置の分解正面斜視図である。
【図１７５０】第１可動装置の分解背面斜視図である。
【図１７５１】昇降装置の分解正面斜視図である。
【図１７５２】昇降装置の分解背面斜視図である。
【図１７５３】長尺装置の分解正面斜視図である。
【図１７５４】長尺装置の分解背面斜視図である。
【図１７５５】移動装置の分解正面斜視図である。
【図１７５６】移動装置の分解背面斜視図である。
【図１７５７】（ａ）及び（ｂ）は、前層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７５８】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７５９】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６０】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６１】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６２】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６３】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６４】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６５】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７６６】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図１７６７】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図１７６８】（ａ）、（ｂ）、（ｃ）及び（ｄ）は、第１可動装置の部分正面図である。
【図１７６９】第２可動装置の分解正面斜視図である。
【図１７７０】第２可動装置の分解背面斜視図である。
【図１７７１】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図１７７２】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図１７７３】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図１７７４】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上下スライド部材、追従可能部材及び連動部材の模式正面図である。
【図１７７５】後層側可動装置の分解正面斜視図である。
【図１７７６】後層側可動装置の分解背面斜視図である。
【図１７７７】第３可動装置の分解正面斜視図である。
【図１７７８】第３可動装置の分解背面斜視図である。
【図１７７９】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上後カバー部材、延設回転部材、基端側スライド部材及びピニオンの正面図である。
【図１７８０】後層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図１７８１】後層側可動装置の正面図である。
【図１７８２】後層側可動装置の正面図である。
【図１７８３】後層側可動装置の正面図である。
【図１７８４】（ａ）から（ｆ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１７８５】（ａ）から（ｅ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１７８６】第１０６実施形態におけるベース板及び光照射装置の背面図である。
【図１７８７】ベース板及び光照射装置の背面斜視図である。
【図１７８８】ベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。
【図１７８９】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図１７９０】図１７８６のＭＤＣＣＸＣ－ＭＤＣＣＸＣ線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【図１７９１】パチンコ機の模式正面図である。
【図１７９２】第１０７実施形態におけるベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。

【図１７９３】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図１７９４】図１７８６のＭＤＣＣＸＣ－ＭＤＣＣＸＣ線に対応する線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【図１７９５】第１０８実施形態における動作ユニットの正面図である。
【図１７９６】（ａ）から（ｄ）は、移動装置の正面図である。
【図１７９７】前層側可動装置の第１可動装置の部分背面図である。
【図１７９８】前層側可動装置の第１可動装置の部分背面図である。
【図１７９９】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８００】パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０１】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の部分正面図である。
【図１８０２】図１７２６のＭＤＣＣＸＸＩ部に対応する範囲における遊技盤の部分拡大正面図である。
【図１８０３】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０４】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０５】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０６】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０７】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０８】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８０９】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８１０】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８１１】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図１８１２】第２可動装置の正面図である。
【図１８１３】後層側可動装置の後側開閉部材の板状部、中側開閉部材の板状部及び前側開閉部材の板状部を模式的に示す正面模式図である。
【図１８１４】（ａ）は、第３図柄表示装置の表示領域の正面図であり、（ｂ）は、図１８１４（ａ）に図示される第３図柄表示装置の表示領域の正面側に配置された板状部の正面図である。
【図１８１５】（ａ）は、第３図柄表示装置の表示領域の正面図であり、（ｂ）は、図１８１５（ａ）に図示される第３図柄表示装置の表示領域の正面側に配置された板状部の正面図である。
【図１８１６】後層側可動装置の後側開閉部材の板状部、中側開閉部材の板状部及び前側開閉部材の板状部を模式的に示す正面模式図である。
【図１８１７】（ａ）から（ｃ）は、第３図柄表示装置及び後層側可動装置の板状部の上面図である。
【図１８１８】（ａ）から（ｉ）は、図１７９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＶＩＩＩ部におけるパチンコ機の部分拡大正面図である。
【図１８１９】（ａ）から（ｃ）は、図１７９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＶＩＩＩ部におけるパチンコ機の部分拡大正面図である。
【図１８２０】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８２１】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８２２】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１８２３】第１０９実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１８２４】パチンコ機の正面図である。
【図１８２５】遊技盤の背面図である。
【図１８２６】図１８２５のＭＤＣＣＣＸＸＶＩ－ＭＤＣＣＣＸＸＶＩ線における遊技盤の部分断面図である。
【図１８２７】パチンコ機の正面図である。
【図１８２８】パチンコ機の正面図である。
【図１８２９】パチンコ機の正面図である。
【図１８３０】パチンコ機の正面図である。

【図１８３１】第１１０実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１８３２】（ａ）は、図１８３１のＭＤＣＣＣＸＸＸＩＩａ部における遊技盤の部分拡大正面図であり、図１８３２（ｂ）は、図１８３２（ａ）の部分拡大正面図である。
【図１８３３】第１１１実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１８３４】パチンコ機の背面図である。
【図１８３５】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１８３６】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１８３７】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１８３８】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１８３９】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図１８４０】正面枠の分解正面斜視図である。
【図１８４１】正面枠の分解背面斜視図である。
【図１８４２】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１８４３】上側装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８４４】上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８４５】化粧ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８４６】化粧ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８４７】上側装飾ユニットの正面図である。
【図１８４８】上側装飾ユニット及び右側装飾ユニットの正面図である。
【図１８４９】（ａ）は、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１８５０】（ａ）は、右側装飾ユニットの正面図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットの側面図である。
【図１８５１】（ａ）は、右側装飾ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８５２】（ａ）は、重板ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、重板ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８５３】支持板部の正面図である。
【図１８５４】左重板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８５５】右重板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８５６】（ａ）は、正面枠の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、正面枠の正面斜視図である。
【図１８５７】（ａ）は、図１８５０（ｂ）に示すＭＤＣＣＣＬＶＩＩａ線における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１８５０（ｂ）に示すＭＤＣＣＣＬＶＩＩｂ線における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１８５８】上下皿ユニットの正面図である。
【図１８５９】上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８６０】上下皿ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８６１】（ａ）は、ベース部材および上皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、ベース部材および上皿形成部材の背面図である。
【図１８６２】（ａ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩａ線におけるベース部材の断面図であり、（ｂ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩｂ線におけるベース部材の断面図であり、（ｃ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩｃ線におけるベース部材の断面図である。
【図１８６３】（ａ）は、下皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、下皿形成部材の背面

図である。
【図１８６４】下皿形成部材の分解正面斜視図である。
【図１８６５】下皿形成部材の分解背面斜視図である。
【図１８６６】（ａ）は、連結部の上面図であり、（ｂ）は、連結部の下面図であり、（ｃ）は、図１８６６（ｂ）のＭＤＣＣＣＬＸＶＩｃ線における連結部の断面図である。
【図１８６７】上下皿ユニットの分解斜視図である。
【図１８６８】（ａ）及び（ｂ）は、ベース部材から下皿形成部材を取り外した状態における上下皿ユニッの断面図であり、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニッの断面と対応する。
【図１８６９】（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１８６９（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＸｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１８７０】（ａ）は、上下皿ユニットの下面図であり、（ｂ）は、下側保護板の正面図である。
【図１８７１】（ａ）は、下側保護板の斜視正面図であり、（ｂ）は、下側保護板の斜視背面図である。
【図１８７２】（ａ）は、図１８７０（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＩＩａ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１８７０（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＩＩｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１８７３】（ａ）及び（ｂ）は、正面枠の側面図である。
【図１８７４】（ａ）は、正面枠の下面図であり、（ｂ）は、正面枠の側面図である。
【図１８７５】（ａ）は、上側保護板の正面図であり、（ｂ）は、図１８７５（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＶｂ線における上側保護板の断面図であり、（ｃ）は、図１８７５（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＶｃ線における上側保護板の断面図である。
【図１８７６】（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＶＩａ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＶＩｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１８７７】（ａ）及び（ｂ）は、第１化粧板から上側保護板を分解した状態における上下皿ユニットの断面図である。
【図１８７８】（ａ）は、操作ユニットの正面斜視図であり、（ｂ）は、操作ユニットの背面斜視図である。
【図１８７９】操作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８８０】操作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１８８１】（ａ）は、駆動手段の正面図であり、（ｂ）は、図１８８１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩｂ線における駆動手段の側面図である。
【図１８８２】駆動手段の正面分解斜視図である。
【図１８８３】（ａ）は、伝達軸棒の正面分解斜視図であり、（ｂ）は、伝達軸棒の背面分解斜視図である。
【図１８８４】（ａ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶａ方向における右円板カムの側面図であり、（ｂ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｂ方向における右円板カムの側面図であり、（ｃ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｃ方向視における左円板カムの側面図であり、（ｄ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｄ方向視における左円板カムの側面図である。
【図１８８５】（ａ）及び（ｂ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶａ方向視における解除部材および回転爪部材の側面図である。
【図１８８６】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図である。
【図１８８７】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図である。
【図１８８８】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図で

ある。
【図１８８９】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図である。
【図１８９０】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図である。
【図１８９１】図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットの断面図である。
【図１８９２】（ａ）は、揺動装置上面図であり、（ｂ）は、図１８９２（ａ）の矢印ＭＤＣＣＣＸＣＩＩｂ方向視における揺動装置の側面図である。
【図１８９３】（ａ）は、図１８９２（ｂ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩａ線における揺動装置の断面図であり、（ｂ）は、図１８９２（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩｂ線における揺動装置の断面図である。
【図１８９４】揺動装置の分解正面斜視図であり、（ａ）は、揺動装置の分解背面斜視図である。
【図１８９５】揺動装置の分解背面斜視図である。
【図１８９６】（ａ）は、ベース手段の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、ベース手段の分解背面斜視図である。
【図１８９７】（ａ）は、駆動手段の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解背面斜視図である。
【図１８９８】（ａ）は、ベース手段および駆動手段の上面図であり、（ｂ）は、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における駆動手段の断面図である。
【図１８９９】（ａ）は、ベース手段および駆動手段の上面図であり、（ｂ）は、図１８９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＸｂ線における駆動手段の断面図である。
【図１９００】（ａ）及び（ｂ）は、揺動装置の断面図であり、図１８９２（ｂ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩ線における断面に対応する。
【図１９０１】内枠の正面図である。
【図１９０２】内枠の分解正面斜視図である。
【図１９０３】球発射ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９０４】発射位置送球ユニットの分解斜視図である。
【図１９０５】（ａ）は、図１９０１のＭＣＭＶａ線における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図である。
【図１９０６】（ａ）は、退避位置における発射手段の正面図であり、（ｂ）は、初期位置における発射手段の正面図であり、（ｃ）は、発射位置における発射手段の正面図である。
【図１９０７】（ａ）及び（ｂ）は、図１９０５（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９０８】（ａ）及び（ｂ）は、図１９０５（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９０９】図１９０５（ａ）のＭＣＭＩＸ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９１０】遊技盤の正面図である。
【図１９１１】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１９１２】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９１３】（ａ）は、演出動作ユニットの正面図であり、（ｂ）は、演出動作ユニットの背面図である。
【図１９１４】演出動作ユニットの花弁動作装置側の分解正面斜視図である。
【図１９１５】演出動作ユニットの花弁動作装置側の分解背面斜視図である。
【図１９１６】演出動作ユニットの円環形成ユニット側の分解正面斜視図である。
【図１９１７】演出動作ユニットの円環形成ユニット側の分解背面斜視図である。

【図１９１８】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図１９１９】花弁動作装置の分解正面斜視図である。
【図１９２０】花弁動作装置の分解背面斜視図である。
【図１９２１】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図１９２２】花回転ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９２３】花回転ユニットの分解背面斜視図である。
【図１９２４】（ａ）は、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩＶ方向視における第１装飾ユニットの側面図であり、（ｂ）は、第１装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９２５】（ａ）から（ｃ）は、第１装飾ユニットの側面図であり、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩＶ方向視における側面図と対応する。
【図１９２６】（ａ）から（ｄ）は、変位ユニットが傾倒基準位置に配置された状態における第１装飾ユニットの側面図であり、（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩ方向視における側面図と対応する。
【図１９２７】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９２７（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩＩｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図１９２８】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９２８（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩＩＩｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図１９２９】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９２９（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＩＸｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１９２９（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＩＸｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図１９３０】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９３０（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１９３０（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図１９３１】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９３１（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１９３１（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図１９３２】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９３２（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩＩｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１９３２（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩＩｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図１９３３】（ａ）及び（ｂ）は、花回転ユニットの正面図である。
【図１９３４】（ａ）及び（ｂ）は、花回転ユニットの正面図である。
【図１９３５】（ａ）から（ｄ）は、従動ギヤ及び検出センサの背面図である。
【図１９３６】（ａ）から（ｃ）は、花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図１９３７】第１１２実施形態における花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図１９３８】（ａ）から（ｃ）は、花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図１９３９】（ａ）及び（ｂ）は、第１１３実施形態における花回転ユニットの正面図である。
【図１９４０】（ａ）は、第１１４実施形態における花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１９４０（ａ）のＭＣＭＸＬｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図１９４１】（ａ）及び（ｂ）は、第１１５実施形態における花回転ユニットの正面図である。
【図１９４２】（ａ）は、第１１６実施形態における第１装飾ユニットの側面図であり、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩ方向視における側面図と対応し、（ｂ）は、第１装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９４３】（ａ）及び（ｂ）は、第１装飾ユニットの側面図である。
【図１９４４】（ａ）は、第１１７実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１８４８のＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における断面に対応し、（ｂ）は、第１１８実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１８４８のＭＤＣＣＣＸＬＩＸ

ａ線における断面に対応する。
【図１９４５】第１１９実施形態における上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図１９４６】（ａ）及び（ｂ）は、上側装飾ユニットの正面図である。
【図１９４７】（ａ）は、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１９４８】（ａ）は、第１２０実施形態における右側装飾ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１９４９】（ａ）は、第１２１実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、第１２２実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１９５０】（ａ）及び（ｂ）は、第１２３実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１９５１】第１２４実施形態における上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９５２】（ａ）及び（ｂ）は、上下皿ユニットの側面図である。
【図１９５３】（ａ）は、図１９５２（ａ）のＭＣＭＬＩＩＩａにおける上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１９５２（ｂ）のＭＣＭＬＩＩＩｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１９５４】（ａ）から（ｄ）は、第１２５実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、図１９５２（ａ）のＭＣＭＬＩＩＩａ線における断面と対応する。
【図１９５５】（ａ）及び（ｂ）は、第１２６実施形態における正面枠の正面模式図である。
【図１９５６】（ａ）は、図１９５５（ａ）のＭＣＭＬＶＩａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１９５５（ｂ）のＭＣＭＬＶＩｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１９５７】（ａ）は、第１２７実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、第１２８実施形態における上下皿ユニットの断面図である。
【図１９５８】（ａ）は、第１２９実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、第１３０実施形態における上下皿ユニットの断面図である。
【図１９５９】（ａ）は、第１３１実施形態における揺動装置の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応し、（ｂ）は、駆動モータおよび当接手段の分解正面斜視図である。
【図１９６０】（ａ）から（ｄ）は、揺動装置の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応する。
【図１９６１】（ａ）は、第１３２実施形態における揺動装置の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応し、（ｂ）は、駆動モータおよび変位手段の分解正面斜視図である。
【図１９６２】（ａ）から（ｃ）は、揺動装置の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応する。
【図１９６３】（ａ）は、第１３３実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応し、（ｂ）は、発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における断面図と対応する。
【図１９６４】（ａ）は、第１３４実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応し、（ｂ）は、第１３５実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応する。
【図１９６５】第１３６実施形態における内枠の正面図である。
【図１９６６】（ａ）は、経路変更部材の背面図であり、（ｂ）は、図１９６６（ａ）の矢印ＭＣＭＬＸＶＩｂ方向視における経路変更部材の側面図であり、（ｃ）は、図１９６

６（ｂ）のＭＣＭＬＸＶＩｃ線における経路変更部材の断面図であり、（ｄ）は、図１９６６（ａ）のＭＣＭＬＸＶＩｄ線における経路変更部材の断面図である。
【図１９６７】（ａ）は、第１３７実施形態における内枠の正面図であり、（ｂ）は、第１３８実施形態における内枠の正面図である。
【図１９６８】（ａ）は、第１３９実施形態における球発射ユニットの正面図であり、（ｂ）は、第１４０実施形態における球発射ユニットの正面図であり、（ｃ）は、第１４１実施形態における球発射ユニットの正面図である。
【図１９６９】（ａ）は、第１４２実施形態における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における断面図と対応し、（ｂ）は、図１９６９（ａ）におけるＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における球発射ユニットの正面図であり、（ｃ）は、第１４３実施形態における球発射ユニットの正面図であり、図１９６９（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応し、（ｄ）は、第１４４実施形態における球発射ユニットの正面図であり、図１９６９（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。
【図１９７０】（ａ）及び（ｂ）は、第１４５実施形態における正面枠Ｈ３５０１４の正面模式図である。
【図１９７１】（ａ）及び（ｂ）は、第１４６実施形態における内枠Ｈ１２の背面模式図である。
【図１９７２】（ａ）は、第１４７実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。
【図１９７３】（ａ）は、第１４８実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。
【図１９７４】（ａ）は、第１４９実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。
【図１９７５】（ａ）から（ｃ）は、第１５０実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応する。
【図１９７６】（ａ）は、第１５１実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における断面に対応し、（ｂ）は、図１９７６（ａ）の矢印ＭＣＭＬＸＸＶＩｂ方向視における上側装飾ユニットの上面模式図である。
【図１９７７】（ａ）及び（ｃ）は、第１５２実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図１９７７（ａ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩｂ線における揺動装置の断面模式図であり、（ｄ）は、図１９７７（ｃ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩｄ線における揺動装置の断面模式図である。
【図１９７８】（ａ）は、第１５３実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図１９７８（ａ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩＩｂ線における揺動装置の断面模式図である。
【図１９７９】（ａ）及び（ｃ）は、第１５３実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図１９７９（ａ）のＭＣＭＬＸＸＩＸｂ線における揺動装置の断面模式図であり、（ｄ）は、図１９７９（ｃ）のＭＣＭＬＸＸＩＸｄ線における揺動装置の断面模式図である。
【図１９８０】（ａ）は、第１５４実施形態における操作ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１９８０（ａ）のＭＣＭＬＸＸＸｂ線における操作ユニッの断面模式図である。

【図１９８１】（ａ）及び（ｂ）は、第１５５実施形態における操作ユニットの断面模式図である。
【図１９８２】（ａ）及び（ｂ）は、第１５６実施形態における操作ユニットの断面模式図である。
【図１９８３】第１５７実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１９８４】パチンコ機の背面図である。
【図１９８５】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１９８６】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１９８７】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１９８８】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１９８９】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図１９９０】正面枠の分解正面斜視図である。
【図１９９１】正面枠の分解背面斜視図である。
【図１９９２】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１９９３】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１９９４】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９９５】遊技盤及び動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１９９６】複合動作役物ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９９７】複合動作役物ユニットの分解背面斜視図である。
【図１９９８】演出動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９９９】演出動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図２０００】可動装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図２００１】可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図２００２】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図２００３】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図２００４】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２００５】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２００６】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２００７】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２００８】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２００９】左側支持装飾部の分解正面斜視図である。
【図２０１０】左側支持装飾部の分解背面斜視図である。
【図２０１１】昇降駆動部の分解正面斜視図である。
【図２０１２】昇降駆動部の分解背面斜視図である。
【図２０１３】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、昇降駆動部の背面図である。
【図２０１４】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０１５】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０１６】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０１７】切替動作部の分解正面斜視図である。
【図２０１８】切替動作部の分解背面斜視図である。
【図２０１９】（ａ）及び（ｂ）は、駆動ベース、駆動ソレノイド、スライド体及び回転切替部の正面図である。
【図２０２０】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０２１】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０２２】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０２３】第２の上下移動制御（第１動作パターン）における検出センサ、駆動モータ、被案内部、検出センサ、駆動モータ、検出センサ及び対応表示の計時変化を示した図

である。
【図２０２４】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０２５】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図２０２６】第２の上下移動制御（第２動作パターン）における検出センサ、駆動モータ、被案内部、検出センサ、駆動モータ、検出センサ及び対応表示の計時変化を示した図である。
【図２０２７】スライド動作役物ユニットの分解正面斜視図である。
【図２０２８】スライド動作役物ユニットの分解背面斜視図である。
【図２０２９】（ａ）及び（ｂ）は、スライド動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３０】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、導光板の正面図である。
【図２０３１】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３２】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３３】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３４】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３５】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３６】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３７】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０３８】遊技盤及び動作ユニットの部分正面斜視図である。
【図２０３９】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０４０】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０４１】第１５８実施形態における可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図２０４２】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニット及び可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２０４３】第１５９実施形態における正面枠の分解正面斜視図である。
【図２０４４】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０４５】第１６０実施形態における可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図２０４６】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２０４７】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２０４８】ピン付きギア及びリンク部材の正面図である。
【図２０４９】第１６１実施形態における複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０５０】（ａ）及び（ｂ）は、ピン付きギアの動作について時系列で図示される可動装飾ユニット及び回転移動部材の部分正面図である。
【図２０５１】複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図２０５２】複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１から図７１を参照し、第１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１は、第１実施形態におけるパチンコ機１０の正面図であり、図２はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり

、図３はパチンコ機１０の背面図である。
【００１４】
なお、以下の説明では、図１に示す状態のパチンコ機１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１に示す状態のパチンコ機１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図２参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【００１５】
図１に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図１参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。
【００１６】
内枠１２には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤１３（図２参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、球を遊技盤１３の正面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図４参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の正面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。
【００１７】
内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。
【００１８】
正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。
【００１９】
正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が正面側へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図４参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１（図２参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【００２０】
正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図１参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを

表示可能な表示ランプ３４が設けられている。
【００２１】
　また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３正面の貼着スペースＫ１（図２参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。
【００２２】
　窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。
【００２３】
　上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その左側部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。
【００２４】
　操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。
【００２５】
　下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿（図示せず）が取り付けられている。
【００２６】
　図２に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（センターフレーム８６の下方において図示し、遊技領域の上半部においては図示せず）や風車（図示せず）の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口１４０、可変入賞装置６５、スルーゲート６７、可変表示装置ユ

ニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側に取り付けられる。

【００２７】

ベース板６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるており、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となっている。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口１４０及び可変入賞装置６５は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【００２８】

なお、ベース板６０を木製の板部材から形成しても良い。この場合、センターフレーム８６の外側において、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認不能に遮蔽することが可能となる。

【００２９】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図２を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【００３０】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【００３１】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図４参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図２の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【００３２】

遊技領域の正面視左側下部（図２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図４参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口１４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口１４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【００３３】

また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その

発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【００３４】

尚、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４及び第２入賞口１４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、４Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【００３５】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「４Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【００３６】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、所定の変動回数の間（本実施形態では、１００変動回数）、大当たり確率がアップし、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口１４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口１４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【００３７】

本実施形態では、後述する振分装置３００の確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を、大当たり遊技の１ラウンド目に遊技球が通過したと判定された時に、その大当たり遊技終了後の遊技状態が１００変動回数の間、高確率状態となる。なお、確変検出センサＳＥ１１の貫通孔に遊技球が通過したと判定されなかったら大当たり遊技終了後の遊技状態が１００変動回数の間、時短状態となる。

【００３８】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口１４０に付随する電動役物１４０ａ（電動役物）が開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物１４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物１４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口１４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口１４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【００３９】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口１４０に付随する電動役物１４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物１４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口１４０に付随する電動役物１４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物１４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口１４０に付随する電動役物１４０ａが開放される時間や、１回の当たり

で電動役物１４０ａを開放する回数はせず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【００４０】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４及び第２入賞口１４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、スルーゲート６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【００４１】

なお、本実施形態では、第３図柄表示装置８１は後述する背面ケース５１０の開口５１１ａを埋めるように背面ケース５１０に締結固定され、センターフレーム８６はベース板６０の窓部を縁取るように配設されている。即ち、正面視では第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにセンターフレーム８６が配設されているように見えるが、実際は、第３図柄表示装置８１とセンターフレーム８６とは前後に離れて配置されている。

【００４２】

第３図柄表示装置８１は、例えば９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図４参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図４参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【００４３】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲート６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球がスルーゲート６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【００４４】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口１４０に付随された電動役物１４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【００４５】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口１４０の電動役物１４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口１４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【００４６】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物１４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中また

は時短中に第２入賞口１４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物１４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【００４７】

スルーゲート６７は、可変表示装置ユニット８０の左右の領域において遊技盤１３に組み付けられ、遊技盤１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲート６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【００４８】

球のスルーゲート６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【００４９】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。また、スルーゲート６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲート６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲート６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【００５０】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。

【００５１】

一方、第１入賞口６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口１４０が配設されている。この第２入賞口１４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。

【００５２】

また、第１入賞口６４および第２入賞口１４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口１４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口１４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口１４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。

【００５３】
第２入賞口１４０には電動役物１４０ａが付随されている。この電動役物１４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物１４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口１４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲート６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物１４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口１４０へ入賞しやすい状態となる。
【００５４】
上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物１４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物１４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口１４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【００５５】
ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口１４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率は、第２入賞口１４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口１４０にあるような電動役物は有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。
【００５６】
よって、通常中においては、第２入賞口１４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口１４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【００５７】
一方、確変中や時短中は、スルーゲート６７に球を通過させることで、第２入賞口１４０に付随する電動役物１４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口１４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口１４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲート６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口１４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【００５８】
なお、本実施形態におけるパチンコ機１０は、遊技盤１３の構成が左右対称とされるため、「右打ち」で第１入賞口６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口１４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【００５９】
第１入賞口６４の下方には可変入賞装置６５（図２参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口６５ａが設けられている。パチンコ機１０においては、第１入賞口６４又は第２入賞口１４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或

いは、球が１０個入賞するまで）開放される。
【００６０】
この特定入賞口６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【００６１】
なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の下方右側や、第１入賞口６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニット８０の左方でも良い。
【００６２】
遊技盤１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図１参照）を通じて視認することができる。
【００６３】
遊技盤１３には、アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，１４０にも入賞しなかった球は、アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口７１は、特定入賞口６５ａの左右に一対で配設される。
【００６４】
遊技盤１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている（図示せず）。
【００６５】
図３に示すように、パチンコ機１０の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。
【００６６】
裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。
【００６７】
なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【００６８】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【００６９】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図４参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【００７０】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図４参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【００７１】

次に、図４を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図４は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【００７２】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【００７３】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【００７４】

ＲＡＭ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされ

る。
【００７５】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【００７６】
主制御装置１１０のＭＰＵ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２０４を介して入出力ポート２０５が接続されている。入出力ポート２０５には、払出制御装置１１１、音声ランプ制御装置１１３、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口６５ａの開閉板６５ｂ（図１１参照）の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイド２０９が接続され、ＭＰＵ２０１は、入出力ポート２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。
【００７７】
また、入出力ポート２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチ２０８、電源装置１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路２５３が接続され、ＭＰＵ２０１は各種スイッチ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【００７８】
払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。
【００７９】
払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【００８０】
払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。
【００８１】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【００８２】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【００８３】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には駆動モータ６３１，７３１，７８２，８６１が含まれる。

【００８４】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【００８５】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【００８６】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８

１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。
【００８７】
電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。
【００８８】
停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。
【００８９】
ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。
【００９０】
次いで、可変入賞装置６５周辺の構造について説明する。図５は、可変入賞装置６５及び振分装置３００の正面斜視図であり、図６（ａ）及び図６（ｂ）は、可変入賞装置６５の正面斜視図である。図６（ａ）では、特定入賞口６５ａへの球の流下を規制するように開閉板６５ｂが閉鎖される開閉板６５ｂの閉鎖状態が図示され、図６（ｂ）では、特定入賞口６５ａへの球の流下を許容するように開閉板６５ｂが開放される開閉板６５ｂの開放状態が図示される。なお、図５及び図６の説明においては、図２を適宜参照する。
【００９１】
可変入賞装置６５は、開閉板６５ｂの開放状態（図６（ｂ）参照）において、開閉板６５ｂに着地する球を受け入れ、特定入賞口６５ａへ案内可能となるように、開閉板６５ｂの開放状態において開閉板６５ｂの板上面が背面側へ向けて下降傾斜するように形成される。
【００９２】
開閉板６５ｂの左右中央部の上方には電動役物１４０ａが配置されているので（図２参照）、開閉板６５ｂに着地する球は、電動役物１４０ａから逸れて流下する球に限定される。即ち、開閉板６５ｂへの球の着地は、左右中央部では生じず、主に、電動役物１４０ａよりも左右外側の部分において生じる。換言すれば、開閉板６５ｂに着地する球の配置は、開閉板６５ｂの左右外側寄りの位置に限定される。
【００９３】

なお、開閉板６５ｂに着地した後の球の配置についてはこの限りではない。即ち、開閉板６５ｂに着地した後の球の流れ方によっては、開閉板６５ｂの左右中央位置寄りに球が配置されることは生じ得る。

【００９４】

特に、本実施形態では、電動役物１４０ａを前側から覆う前意匠部材１４１（図２参照）が、開閉板６５ｂ側の空間を確保するように湾曲形成されている（ガラスユニット１６（図１参照）と対向配置される前端部下端から背面側へ向かうにつれて下側に張り出す態様の湾曲面として形成されている）ので、開閉板６５ｂの左右中央位置寄りにおいて跳ねた球が前意匠部材１４１と衝突して勢いを落とされる程度を低くすることができる。これにより、開閉板６５ｂの左右中央位置寄りに球が配置される可能性を高めることができる。

【００９５】

なお、前意匠部材１４１の下部の湾曲形状の曲率半径の中心は、前後どちらに配置されるものでも良い。本実施形態では、横面視における曲率半径が前側下方に配置されるよう形成することで、開閉板６５ｂ側の空間をより大きく確保できるようにしている。また、前意匠部材１４１が左右端部において下側へ向かう程に左右幅が小さくなる形状とされることで、左右側において開閉板６５ｂとの間に空間を確保し易くすることができる。

【００９６】

開閉板６５ｂの開放状態においては、開閉板６５ｂに着地した球はほぼ漏れなく特定入賞口６５ａに案内される。検出センサＳＥ１の球通過孔１６３ｂの手前側には、後方へ向けて下降傾斜する傾斜流下面１６３ａ１が球を球通過孔１６３ｂに案内可能な上下位置で配設されている。

【００９７】

傾斜流下面１６３ａ１は、下面部１６３ａにより左右外側に転動された球が抵抗少なく乗り移れるように下面部１６３ａの左右端部よりも一段下がって形成されている。この傾斜流下面１６３ａ１よりも左右外側において開閉板６５ｂに着地した球の流下抵抗を低減するため、傾斜流下面１６３ａ１の左右外側において案内板部１６３ａ２が形成されている。

【００９８】

案内板部１６３ａ２は、受入部材１６３の後壁部と左右内壁部とから、前側かつ左右内側へ延設される板状部であって、前端面が左右内側ほど後方へ配置がずれる傾斜面として形成される。

【００９９】

これにより、開閉板６５ｂに乗り転動する球が案内板部１６３ａ２の前端面に当接した場合に、傾斜面の傾斜に沿って球の流下を案内することができるので、球を傾斜流下面１６３ａ１に抵抗少なく案内することができる。そのため、開閉板６５ｂに球が乗った状態で開閉板６５ｂが閉鎖動作を開始した場合において、その球が傾斜流下面１６３ａ１よりも左右外側に配置されていたとしても、開閉板６５ｂの閉鎖動作が阻害される程度を低減することができる。

【０１００】

即ち、例えば、球の流れが悪くなり開閉板６５ｂの閉鎖が滞ったり、開閉板６５ｂの閉鎖動作により後方に流された球が受入部材１６３の後壁部で跳ね返って開閉板６５ｂに再び当たり、開閉板６５ｂを開放させる方向（前側）の負荷を与えることで開閉板６５ｂが意図せず開いたり、等という動作不良が生じる可能性を低減することができる。

【０１０１】

開閉板６５ｂが開放状態から閉鎖状態へ動作する場合、開閉板６５ｂは起き上がり動作で閉じる。即ち、開閉板６５ｂに着地した球は、開閉板６５ｂの動作により特定入賞口６５ａに案内される（飲み込まれる）ので、開閉板６５ｂに乗っている球の左右位置に寄らず、開閉板６５ｂに乗っている球はほぼ漏れなく特定入賞口６５ａに案内される。

【０１０２】

この際、開閉板６５ｂにおける球の配置が左右外側に寄っていたり、球の個数が多かったりすると、開閉板６５ｂの閉鎖動作が遅れる可能性がある。これに対し、本実施形態では、受入部材１６３の下面部１６３ａ、傾斜流下面１６３ａ１及び案内板部１６３ａ２の形状を工夫しているので、特定入賞口６５ａに案内された球の流れを滞留させることなく、開閉板６５ｂの閉鎖動作の迅速性を保つことができる。

【０１０３】

また、受入部材１６３の形状を工夫する代わりに、開放状態において球が乗る開閉板６５ｂの転動面は、平面状に形成される（図６（ｂ）参照）。そのため、開閉板６５ｂの開放状態において開閉板６５ｂに着地した球は、一旦後方に流れてから、受入部材１６３の形状の作用により左右方向へ流され検出センサＳＥ１の球通過孔１６３ｂに案内されることになるので、開閉板６５ｂ上で球の衝突が生じることを回避し易くすることができる。

【０１０４】

即ち、開閉板６５ｂに複数の球が同時に着地しても、その球が一旦後方に平行移動することになるので、開閉板６５ｂ上で球が互いに衝突することを回避することができる。従って、開閉板６５ｂの転動面が下面部１６３ａのように左右方向の傾斜面を有する形状とされ転動球に左右方向の流れが形成される場合に比較して、開閉板６５ｂ上での球の動きが不規則になる可能性を低くすることができるので、意図せぬ動作不良を未然に防ぐことができる。

【０１０５】

受入部材１６３には、開閉板６５ｂの閉鎖状態において、開閉板６５ｂの左右両端部における回動先端部と当接し、開閉板６５ｂの配置の再現性を高めるための当接面部１６３ａ３が形成されている。当接面部１６３ａ３は左右一対で形成されており、且つ、開閉板６５ｂの形状に合わせた形状設計により点接触ではなく面接触可能に形成されているので、開閉板６５ｂの配置を安定させ易く、且つ、当接時の負荷を面で受けることにより応力集中を避けることができるので耐久性を向上させることができる。

【０１０６】

また、当接面部１６３ａ３の下側には、対向配置される開閉板６５ｂと若干の隙間を空け略平行となる面形状で形成される補助当接面１６３ａ４が形成されている。補助当接面１６３ａ４は、何らかの理由で当接面部１６３ａ３と開閉板６５ｂとの当接が不良となった場合のフェールセーフとして設けられている。

【０１０７】

本実施形態では、当接面部１６３ａ３の手前側において球の流下を制限する被固定部材１６１が配置されており、基本的には球は当接面部１６３ａ３と衝突しないように構成されている。しかし、例えば、当接面部１６３ａ３と当接する開閉板６５ｂの回動先端部が欠けた場合、閉鎖状態における開閉板６５ｂの配置の再現性を保てなくなる可能性がある。

【０１０８】

これに対し、本実施形態では、開閉板６５ｂと当接面部１６３ａ３との正常な当接が保てなくなった場合には、開閉板６５ｂの左右端部における前後幅間部と補助当接面１６３ａ４との面当接を生じさせ、開閉板６５ｂの配置の安定性を保てるように図っている。これにより、閉鎖状態における開閉板６５ｂの配置の再現性を向上することができる。

【０１０９】

なお、補助当接面１６３ａ４を、当接面部１６３ａ３の形状が正常な状況から開閉板６５ｂと当接するように構成しても良い。この場合、当接面部１６３ａ３の形状が正常な状況から開閉板６５ｂとの当接が生じるので負荷が蓄積され易いという不利益が生じ得るものの、負荷を分散させる面積を拡大できるので、開閉板６５ｂとの当接により当接面部１６３ａ３が受ける局所的な負荷の大きさを低減することができる。

【０１１０】

開閉板６５ｂが開放状態から閉鎖状態へ動作する場合、開閉板６５ｂへ受け入れられる途中の遊技球を、上述した前意匠部材１４１の形状によって開閉板６５ｂへ押し込む態様

で受け入れさせるよう構成することができる。
【０１１１】
即ち、受け入れられる途中の状態（例えば、開閉板６５ｂの回動先端と特定入賞口６５ａの開口枠部とに挟まれて横滑りしている状態）で、球が前意匠部材１４１の下部形状と当接した場合に、その湾曲形状に案内させることで特定入賞口６５ａの内側へ流下させることができる。これにより、開閉板６５ｂから逸れた球が第３流路構成部３３６の正面側を落下する事態の発生を避け易くすることができるので、第３流路構成部３３６への視界を確保し易くすることができる。
【０１１２】
開閉板６５ｂの閉鎖状態においては、開閉板６５ｂへの球の着地が生じないので、開閉板６５ｂの閉鎖状態において開閉板６５ｂの正面側を流下する球の配置は電動役物１４０ａよりも左右外側に限定される。
【０１１３】
従って、本実施形態の構成によれば、開閉板６５ｂの閉鎖状態において特定入賞口６５ａに案内されずに流下する球の配置を、電動役物１４０ａよりも左右外側位置に限定することができる。これにより、電動役物１４０ａの下側において、電動役物１４０ａの左右端部よりも左右内側位置における視界を確保することができる。
【０１１４】
次いで、特定入賞口６５ａの下流側（特定入賞口６５ａを通過した球が流れる側）の構成について説明する。図７は、遊技盤１３の正面斜視図であり、図８は、遊技盤１３の背面斜視図である。なお、図７及び図８では、ベース板６０に配設される構成の内、第１入賞口６４、第２入賞口１４０及び可変入賞装置６５以外の構成が取り外された状態が図示される。
【０１１５】
図８に示すように、ベース板６０の背面側における可変入賞装置６５の後方位置には、第１入賞口６４、第２入賞口１４０及び一般入賞口６３（図２参照）に入球した球を球排出路（図示せず）へ流すための経路が形成される集合樋１５０が配設される。
【０１１６】
集合樋１５０は、流路を形成する溝状部分を備え、溝状部分においてベース板６０と対面する前側部が開放される。この開放部分がベース板６０に閉じられることで、球排出路へ球を流すための経路が完成する。
【０１１７】
集合樋１５０は、第１入賞口６４に入球した球の流路を形成する第１流路部１５１と、第２入賞口１４０に入球した球の経路を形成する第２流路部１５２と、左右両側に配置される一般入賞口６３に入球した球の流路を左右それぞれに形成する複数の第３流路部１５３と、を備える。
【０１１８】
第１流路部１５１は、第１入賞口６４の後方位置から左下方向へ傾斜する流路として構成され、第２流路部１５２は、第２入賞口１４０の後方位置から右下方向へ傾斜する流路として構成される。第３流路部１５３は、一般入賞口６３の下方へ延びる流路として構成される。
【０１１９】
従って、正面視では、第１入賞口６４及び第２入賞口１４０が遊技領域の左右中央位置に配置される構成ながら、第１入賞口６４及び第２入賞口１４０に入球した球の流れは、集合樋１５０によって左右中央位置から左右外側に寄せられる。これにより、第１入賞口６４及び第２入賞口１４０の下方に空間を設けることができ、この空間を利用して可変入賞装置６５及び後述する振分装置３００を配設することができる。
【０１２０】
図９は、ベース板６０、可変入賞装置６５、集合樋１５０及び振分装置３００の分解正面斜視図であり、図１０は、ベース板６０、可変入賞装置６５、集合樋１５０及び振分装

置３００の分解背面斜視図である。なお、図９及び図１０では、ベース板６０の下半部のみが図示され、その他の部分の図示が省略されており、且つ、ベース板６０に組み付けられる他の構成についての図示が省略され、ベース板６０の地が視認可能となっている。また、図９では、説明の便宜上、センターフレーム８６がベース板６０に組み付けられた状態で図示される。

【０１２１】

可変入賞装置６５、集合樋１５０及び振分装置３００の固定について説明する。可変入賞装置６５は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。集合樋１５０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の背面側からタッピングネジ等により固定されている。

【０１２２】

そして、振分装置３００は、上部において挿通孔３１１が可変入賞装置６５に締結固定され、左右部において挿通孔３３１が集合樋１５０に締結固定される。即ち、ベース板６０に直接的に固定される可変入賞装置６５や、集合樋１５０とは異なり、振分装置３００の有無は、遊技盤１３の完成に影響するものではない。

【０１２３】

換言すれば、本実施形態における可変入賞装置６５及び集合樋１５０は、振分装置３００を配設する場合と、振分装置３００を配設しない場合とで、そのまま流用することができる。これにより、振分装置３００の有無に関わらず、可変入賞装置６５と集合樋１５０との共通化を図ることができる。

【０１２４】

次いで、可変入賞装置６５及び振分装置３００の詳細について説明する。可変入賞装置６５は、特定入賞口６５ａを通して遊技領域から球を受け入れ可能に構成されており、振分装置３００は、可変入賞装置６５に受け入れられた球の流れる流下経路を構成している。本実施形態では、振分装置３００の流下経路を流れる球の検出結果に基づいて遊技者が得られる利益が変化するように制御されるが、詳細は後述する。

【０１２５】

図１１は、可変入賞装置６５の分解正面斜視図であり、図１２は、可変入賞装置６５の分解背面斜視図である。図１１及び図１２に示すように、可変入賞装置６５は、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定される被固定部材１６１と、その被固定部材１６１の正面側に配置され被固定部材１６１に締結固定される前意匠部材１６２と、被固定部材１６１の背面側に配置され、被固定部材１６１に締結固定され、特定入賞口６５ａを通った球を受け入れ可能に構成される受入部材１６３と、その受入部材１６３の背面側に配置され、受入部材１６３に締結固定され、振分装置３００との連結部分として介在する介在部材１６４と、受入部材１６３の背面側に配置され、受入部材１６３に締結固定され、開閉板６５ｂの開閉状態を通電の有無によって切り替え可能に構成される状態切替装置１６５と、を備える。

【０１２６】

被固定部材１６１は光透過性の樹脂材料から形成され、その正面側の形状は、ネジ挿通用の貫通孔、前意匠部材１６２との締結位置および特定入賞口６５ａを除き平坦面で形成される。一方、被固定部材１６１の背面側の形状は、外周部においてベース板６０に面で当接される薄肉部の内側において背面側に張り出す立体的な形状となっている。

【０１２７】

特に、薄肉部との境界部１６１ａは横長略楕円の枠状に形成されており、この境界部１６１ａを配設可能な大きさの貫通孔がベース板６０に貫通形成される。即ち、境界部１６１ａは、ベース板６０の貫通孔に挿通される部分である。

【０１２８】

境界部１６１ａの内側では、特定入賞口６５ａと、その特定入賞口６５ａの下縁よりも若干下側において特定入賞口６５ａの下縁と平行な横長板状で後方へ延設される横長板状

部およびその横長板状部の途中位置において下方に延設される縦長板状部を備えて左右一対の略Ｔ字形状で構成される延設支持板１６１ｂと、が形成される。

【０１２９】

延設支持板１６１ｂは、特定入賞口６５ａの後方の範囲と、後述する振分装置３００の流下経路と、の双方を支持するよう機能する。延設支持板１６１ｂの横長板状部から突設される突設支持部１６１ｃと、延設支持板１６１ｂの縦長板状部から突設される突設支持部１６１ｄと、境界部１６１ａの下縁部上面から突設される突設支持部１６１ｅと、は振分装置３００を支持する部分としての機能を有するが、詳細は後述する。

【０１３０】

境界部１６１ａの内側において、特定入賞口６５ａの左右中央位置下方において左右対称形状で突設される対称突設部１６１ｆは、振分装置３００を流下する球と当接して球の流下を案内する機能を有する。

【０１３１】

前意匠部材１６２に螺入する締結ネジを挿通するための複数の貫通孔１６１ｇは、境界部１６１ａの内側および外側に配置される。受入部材１６３に挿通される締結ネジを螺入するため雌ネジ部を有する複数の被締結部１６１ｈは、境界部１６１ａの内側に配置される。

【０１３２】

介在部材１６４に挿通される締結ネジを螺入するため雌ネジ部を有する被締結部１６１ｉは、境界部１６１ａの切れ目（左右中央位置）において境界部１６１ａの外側に配置される。即ち、ベース板６０に形成される貫通孔の内、境界部１６１ａを挿通するための貫通孔と第２入賞口１４０及び電動役物１４０ａを挿通するための貫通孔との連結部分（図９参照）に、被締結部１６１ｉは配設される。

【０１３３】

前意匠部材１６２は、光透過性の樹脂材料から形成され、正面側は、ガラスユニット１６（図１参照）との距離を均一とするべく平坦形状で形成される。前意匠部材１６２の背面側かつ被固定部材１６１の正面側の範囲において、球は流下可能とされる。

【０１３４】

前意匠部材１６２の背面側には、被固定部材１６１の貫通孔１６１ｇと合う位置に配設され、貫通孔１６１ｇに挿通された締結ネジを螺入可能に形成される雌ネジ部を有する複数の被締結部１６２ａと、その被締結部１６２ａを上側から覆うような形状で背面側に延設される複数の延設部１６２ｂ，１６２ｃと、を備える。

【０１３５】

延設部１６２ｂ，１６２ｃにより、被固定部材１６１と前意匠部材１６２との間を流下する球が被締結部１６２ａに直接衝突することを回避することができるので、被締結部１６２ａの耐久性を向上することができる。

【０１３６】

更に、延設部１６２ｂ，１６２ｃの上面が傾斜面として形成されることにより、球の流下経路を制限することができる。即ち、特定入賞口６５ａの左右縁部付近で延設される延設部１６２ｂ（左右中央側の２箇所）の上面が左右外側へ向けて下降傾斜する傾斜面として形成されることで、延設部１６２ｂに乗った球が特定入賞口６５ａ側に流れることを抑制することができる。即ち、延設部１６２ｂに乗った球は、延設部１６２ｂの左右外側を下方へ落下した後、内レール６１（図２参照）に沿ってアウト口７１へ向けて流下することになる。

【０１３７】

また、左右両端に延設される延設部１６２ｃ（左右両端の２箇所）の上面が左右内側へ向けて下降傾斜する傾斜面として形成されることで、延設部１６２ｃに乗って流れる球の流下経路を延設部１６２ｂに乗った球の流下経路とまとめることができる。これにより、流下する球の個数に比較して、流下する球が配置される範囲を狭めることができ（球の配置密度を高めることができ）、球に視認性を阻害されない部分（流下経路が構成されない

空間）を確保することができる。
【０１３８】
なお、図１１に図示される前意匠部材１６２は無地で記載され、背面側の視認性が良好とされているが、前意匠部材１６２を無地で構成する必要はない。例えば、前意匠部材１６２の正面側に模様やキャラクターが図示されたシールを貼り付けて装飾するようにしても良いし、前意匠部材１６２に幾何学模様で溝を掘り、その溝に光が照射されることで幾何学模様が浮かび上がって視認されるようにしても良い。また、無地や、上述のような装飾が加えられた上で、前意匠部材１６２が非透過性となるように構成しても良い。
【０１３９】
受入部材１６３は、光透過性の樹脂材料から正面側が開放された横長の枠状（または箱状）に形成され、上述した案内板部１６３ａ２と、当接面部１６３ａ３と、補助当接面１６３ａ４と、枠内側において流下面を形成する下面部１６３ａと、下面部１６３ａを流下した球が通過可能な貫通孔として配設される球通過孔１６３ｂと、被固定部材１６１の被締結部１６１ｈに合う位置に配置され被締結部１６１ｈに締結固定される締結ネジが背面側から挿通される複数の挿通孔１６３ｃと、介在部材１６４に挿通される締結ネジが螺入される雌ネジ部であって左右中央側に配設される一対の被締結部１６３ｄと、状態切替装置１６５に挿通される締結ネジが螺入される雌ネジ部を有する複数の被締結部１６３ｅと、を備える。
【０１４０】
下面部１６３ａは、左右中央部を頂点として左右外側へ向けて下降傾斜する左右傾斜面として形成され、その左右傾斜面の左右外端部から一段下がった位置において後方へ向けて下降傾斜する傾斜流下面１６３ａ１を備えていることで、傾斜流下面１６３ａ１の後端部を流下する球が球通過孔１６３ｂを抵抗小さく通過できるように配設される。
【０１４１】
球通過孔１６３ｂは、受入部材１６３の背面側に係合される検出センサＳＥ１に形成される検出用孔である。即ち、球通過孔１６３ｂを球が通過したことは検出センサＳＥ１により検出される。
【０１４２】
介在部材１６４は、光透過性の樹脂材料から形成され、後方へ向けて下降傾斜する光屈折面を有する本体部１６４ａと、その本体部１６４ａの上側部において貫通形成され受入部材１６３の被締結部１６３ｄに螺入される締結ネジを挿通可能な一対の挿通孔１６４ｂと、その挿通孔１６４ｂよりも上側に配置されＬＥＤが配設される発光基板１６４ｃと、本体部１６４ａの下端側左右両端部において振分装置３００に挿通される締結ネジを螺入可能な雌ネジ部を有して形成される一対の被締結部１６４ｄと、本体部１６４ａの上側部において貫通形成され被固定部材１６１の被締結部１６１ｉに螺入される締結ネジを挿通可能な挿通孔１６４ｅと、を備える。
【０１４３】
発光基板１６４ｃは、ＬＥＤが配置される面が斜め前上方向を向く姿勢で配設され、組立状態において、正面視で特定入賞口６５ａの真上位置（図６参照）、且つ、第２入賞口１４０の真下位置に配置される。このような配置から、発光基板１６４ｃからの光は、第２入賞口１４０や特定入賞口６５ａへの入球を望みその箇所を斜め後下方向の視線で見つめる遊技者の視界に容易に入る。
【０１４４】
従って、第２入賞口１４０や特定入賞口６５ａへの入球が検出された際に発光基板１６４ｃのＬＥＤを点灯させるよう制御することで、第２入賞口１４０や特定入賞口６５ａへの入球が生じたか否かを遊技者に容易に把握させることができる。
【０１４５】
上述の構成から、介在部材１６４は、被固定部材１６１及び受入部材１６３の双方に締結固定される。これにより、被固定部材１６１と受入部材１６３との締結固定のみで構成する場合に比較して、被固定部材１６１と受入部材１６３とを強固に固定することができ

る。また、介在部材１６４を介して被固定部材１６１及び受入部材１６３と連結固定される振分装置３００の配置を安定させることができるので、被固定部材１６１及び受入部材１６３と振分装置３００との相対的な位置ずれを抑制することができる。

【０１４６】

状態切替装置１６５は、受入部材１６３の被締結部１６３ｅに螺入される締結ネジが挿通される複数の挿通部１６５ａを有し、配線通し用、兼、放熱用の複数の開口を有して上側が開放される深底の箱状に形成される下ケース部１６５ｂと、その下ケース部１６５ｂに収容される電磁ソレノイド１６５ｃと、その電磁ソレノイド１６５ｃのプランジャーの先端に係合されプランジャーと共にスライド変位するスライド部１６５ｄと、下ケース部１６５ｂの前端部から回動先端部がはみ出すような配置で下ケース部１６５ｂに回動可能に支持され、スライド部１６５ｄのスライド変位に伴い回動する回動部１６５ｅと、複数の挿通孔１６５ｆに挿通される締結ネジにより下ケース部１６５ｂに締結固定される上蓋部１６５ｇと、を備える。

【０１４７】

回動部１６５ｅの回動先端は、棒状部が係合可能に凹設されており、この凹設部に開閉板６５ｂの右側端部から右方に突設される伝達突部６５ｃが入り込み、係合される。伝達突部６５ｃは、開閉板６５ｂの開閉動作の回転軸を形成する金属製の軸棒部６５ｄから偏心した位置に配置されている。このように構成することで、回動部１６５ｅの回動に伴って、開閉板６５ｂの開閉動作を生じさせることができる。

【０１４８】

図１３及び図１４は、振分装置３００の分解正面斜視図である。図１３では、振分装置３００を上方から見た斜視図が図示され、図１４では、振分装置３００を下方から見た斜視図が図示される。

【０１４９】

図１３及び図１４に示すように、振分装置３００は、介在部材１６４の被締結部１６４ｄに螺入される締結ネジが挿通可能に貫通形成される一対の挿通孔３１１を有する上部材３１０と、その上部材３１０に上下方向で締結固定されると共に集合樋１５０の雌ネジ部に螺入される締結ネジを挿通可能に貫通形成される一対の挿通孔３３１を有する中部材３３０と、その中部材３３０と上部材３１０との間に収容され正面側にＬＥＤ等の発光手段３５１が配設される基板３５０と、中部材３３０と上部材３１０との間の位置に収容され通電の有無によって状態を切り替え可能に構成される状態切替装置３６０と、中部材３３０の下方に配置され状態切替装置３６０の状態の切り替えに伴い前側位置と後側位置とで前後にスライド変位するスライド変位部材３７０と、中部材３３０との間にスライド変位部材３７０を挟むように中部材３３０の下方に配設されると共に集合樋１５０の雌ネジ部に螺入される締結ネジを挿通可能に貫通形成される挿通孔３８１を有する下部材３８０と、を備える。

【０１５０】

各部の構成の詳細を説明する前に、振分装置３００の機能の概要について説明する。振分装置３００は、検出センサＳＥ１の球通過孔１６３ｂ（図１２参照）を通過した球が流下する流下経路を構成する装置である。

【０１５１】

球通過孔１６３ｂを通過した球は、上部材３１０の内部、上部材３１０と中部材３３０との間に形成される流路構成部３３４，３３５，３３６、下部材３８０の内部、という順で流下し、下部材３８０から流下した球は球排出路（図示せず）へ排出される。

【０１５２】

振分装置３００の内部を流下する球は遊技者が視認可能となるように構成されており、その流下態様により、遊技者の目を楽しませる単なる演出的効果のみでは無く、遊技者が得られる利益に変化を生じさせるといった遊技利益に関わる効果を奏する。

【０１５３】

振分装置３００の内部を流下する球の流下態様の違いは、主に、スライド変位部材３７

０の配置により生じる。即ち、球が中部材３３０から下部材３８０へ向けて流下する時におけるスライド変位部材３７０の配置により、球が下部材３８０のどの箇所を通過するかに違いが生じる。

【０１５４】

従って、遊技者の視線は、自ずと中部材３３０から下部材３８０へ向けて球が流下する箇所（後述するように、スライド変位部材３７０の配置箇所）に集まり易くなるので、本実施形態では、視線の集中を前提とした工夫が施されている。

【０１５５】

次いで、振分装置３００の各部の構成の詳細について説明する。上部材３１０は、光透過性の樹脂材料から形成される上面視コ字状の薄肉部材であり、上述の挿通孔３１１と、球を受け入れ可能に貫通形成される一対の開口部３１２と、目印として貼り付けられる有色（本実施形態では、赤色）透明の一対のシール部材３１３と、開口部３１２の下縁から外周部に沿って正面側に延設される一対の上面部３１４と、中部材３３０に螺入される締結ネジが挿通可能な貫通孔が形成される複数の挿通筒部３１５と、中部材３３０に挿通された締結ネジが螺入可能な雌ネジを有する被締結部３１６と、上部材３１０の下面から下方へ向けて突設される前後方向に長尺の部分であって左右に並べて配設される一対の前後長突設部３１７と、上部材３１０の下面から下方へ向けて突設される左右方向に長尺の部分であって一対の前後長突設部３１７の間に配設される一対の左右内突設部３１８と、上部材３１０の下面から下方へ向けて突設される左右方向に長尺の部分であって一対の前後長突設部３１７の左右外側に配設される一対の左右外突設部３１９と、基板３５０の上部を配置可能な大きさの凹部として形成される収容凹部３２０と、を備える。

【０１５６】

開口部３１２は、可変入賞装置６５の球通過孔１６３ｂを通過した球を受け入れ、下方へ流す役割を果たす通路状部（トンネル状部）であり、上前縁部は傾斜姿勢の検出センサＳＥ１（図１２参照）の板背面と面一となるように傾斜面で切断したような形状とされる。これにより、開口部３１２の上前縁部を検出センサＳＥ１の板背面に接触させることができる。

【０１５７】

また、開口部３１２は、球通過孔１６３ｂの開口方向視で球通過孔１６３ｂの開口内側に侵入しない程度の開口度合いで形成される。これにより、球通過孔１６３ｂを通過した球を開口部３１２に案内する際の流下抵抗を低減することができる。

【０１５８】

シール部材３１３は、基板３５０の発光手段３５１から照射される光を受けて煌びやかに視認されることで、遊技者の注目を集める部材として機能するが、詳細は後述する。

【０１５９】

上面部３１４は、上部材３１０の下方における球の流下経路に合わせて傾斜が形成される薄板部である。開口部３１２の正面側に配置される第１上面部３１４ａは正面側へ向かうほど下降傾斜するように形成され、第１上面部３１４ａの前端部と連結され左右内側に配置される第２上面部３１４ｂは左右内側へ向かうほど下降傾斜するように形成される。そして、左右の第２上面部３１４ｂの左右間隔が手前側ほど長くなるように構成されることで、第２上面部３１４ｂの間を通して球を視認する遊技者の視界の確保を図ることができる。

【０１６０】

挿通筒部３１５は、締結ネジのネジ頭を受ける座グリが上面側に形成される。そのため、締結ネジを上側から挿通するという構成ながら、遊技者に締結ネジのネジ頭が視認されることを回避し易くすることができる。

【０１６１】

挿通筒部３１５は、中部材３３０に形成される雌ネジ部を有する被締結部３３２ｄに合う位置に配置される。特に、左側の挿通筒部３１５に対応する被締結部３３２ｄは、回動部３６３を支持する支持部を兼ねるが、詳細は後述する。

【０１６２】
被締結部３１６に螺入される締結ネジは、ネジ部が上向き、ネジ頭が下向きの姿勢で配置される。そのため、被締結部３１６を手前側に配置する構成ながら、斜め上から視認する遊技者に対してネジ頭が目立ちにくいようにされている。これにより、上部材３１０と中部材３３０とを強度に固定しながらも、締結ネジにより振分装置３００の見映えが悪くなることを回避することができる。
【０１６３】
被締結部３１６が右側にしか形成されていないのは、既に後側において挿通筒部３１５が２箇所に配設されているので前側における締結位置は１箇所で十分な点や、ネジ頭が下向きにされ目立ちにくいとはいえ不要であれば配設を省略した方が振分装置３００の見栄えが良くなる点等が、理由である。なお、被締結部３１６の配置はこれに限定されるものではない。例えば、左側に配設されても良いし、左右一対で配設されても良い。
【０１６４】
被締結部３１６の配置は、球の流下経路を避け、且つ、振分装置３００の見映えの低下を最低限に抑えられる位置として設定されているが、詳細は後述する。
【０１６５】
各一対で形成される前後長突設部３１７、左右内突設部３１８及び左右外突設部３１９の下面部は、それぞれ同一の箇所を基準として、その箇所から遠ざかるほど配置が下がるような湾曲面として形成される。この湾曲面は、前後長突設部３１７、左右内突設部３１８及び左右外突設部３１９で異なる形状とされており、この形状の違いにより球の流下態様を制御する意図がある。
【０１６６】
中部材３３０は、上述の一対の挿通孔３３１と、後側において下底部を有する枠状（略箱状）に形成される後側枠状部３３２と、前側において下底部を有する枠状（略箱状）に形成される一対の前側枠状部３３３と、その前側枠状部３３３の左右外側において凹設され球の流下経路を構成する一対の第１流路構成部３３４と、その第１流路構成部３３４の前端部に連結されて球の流下経路を構成すると共に前側枠状部３３３の前側において凹設される一対の第２流路構成部３３５と、その第２流路構成部３３５の左右内側端部に連結されて球の流下経路を構成すると共に前側枠状部３３３の左右内側において凹設される一対の第３流路構成部３３６と、を備える。
【０１６７】
また、中部材３３０は、第３流路構成部３３６の後端部の後ろ側において左右長尺形状で下底に貫通形成され球の排出路として機能する排出孔３３７と、その排出孔３３７及び第３流路構成部３３６を左右に仕切るよう前後方向に長尺の板状に形成される仕切り板部３３８と、第３流路構成部３３６の後方端部における下側面から左右長尺の矩形状凸部として突設される一対の位置合わせ突設部３３９と、を備える。
【０１６８】
後側枠状部３３２は、球の流下経路を構成する前側部とは異なり球の流下経路を構成せず、主に基板３５０や状態切替装置３６０を支持する部分として構成される。後側枠状部３３２は、左右中央部の正面側端部において上下方向に貫通形成されスライド変位部材３７０を配置可能に構成される配置用貫通孔３３２ａと、左右方向に長尺の貫通孔として下底部に貫通形成され状態切替装置３６０の被案内部３６２ｃのスライド変位を案内する案内孔３３２ｂと、下部材３８０に挿通される締結ネジが螺入可能に形成される雌ネジ部を有する複数の被締結部３３２ｃと、上部材３１０の挿通筒部３１５に挿通された締結ネジが螺入可能な雌ネジ部を上先端に有する円柱形状の被締結部３３２ｄと、を備える。
【０１６９】
前側枠状部３３３は、枠内側および下底部表裏面に光拡散加工が施されていることで、前側枠状部３３３の奥側の視認性が低下することになる。前側枠状部３３３は、上面視略正方形状の枠状に形成されており、上部材３１０の被締結部３１６に螺入される締結ネジを挿通可能な座グリ孔として形成される挿通孔３３３ａを備える。

【０１７０】
第１流路構成部３３４、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６は、それぞれ球の流下経路を構成する部分であり、球の流下方向や、傾斜角度等が異なるように設計されているが、詳細は後述する。
【０１７１】
なお、第２流路構成部３３５と第３流路構成部３３６との連結位置において正面側が開放される開放部３３５ａは、可変入賞装置６５の対称突設部１６１ｆ（図１２参照）が進入可能とするための空隙である。即ち、対称突設部１６１ｆは、振分装置３００を流下する球に当接可能となるように、開放部３３５ａを通して流路内側に進入するように配置される。
【０１７２】
排出孔３３７は、仕切り板部３３８に仕切られる形で、左右一対で構成され、球が少なくとも２経路で排出可能な大きさで形成される。即ち、少なくとも、球の直径の２倍以上の左右長さで構成される。なお、本実施形態では、排出孔３３７の下側に配置される下部材３８０に複数の検出センサＳＥ１が横並びにされているので、その検出センサＳＥ１の球貫通孔の配置に合わせて排出孔３３７の形状を設計するようにすれば良い。
【０１７３】
仕切り板部３３８は、上述のように第３流路構成部３３６を仕切る機能に加え、スライド変位部材３７０の変位を案内する案内部としての機能を奏するが、詳細は後述する。位置合わせ突設部３３９は、下部材３８０の突設部３８３ａと嵌め合わされ、中部材３３０と下部材３８０との位置ずれを回避するための部分であるが、詳細は後述する。
【０１７４】
基板３５０は、下側部３５３の方が上側部３５２に比較して左右長尺となる逆Ｔ字形状で形成されており、下側部３５３の左端側における下端部に位置合わせ用の凹設部３５４を備える。
【０１７５】
凹設部３５４が、中部材３３０の内部形状として対応する部分と係合することで左右方向の位置決めがされ、左右長尺の下側部３５３が中部材３３０の後側枠状部３３２に前後から挟まれるように支持されることで前後方向の位置決めがされ、上部材３１０の収容凹部３２０に上側部３５２が収容されることで上方への脱落が防止されることで配置が固定されるよう構成されるが、発光手段３５１の配置の意図と共に詳細は後述する。
【０１７６】
状態切替装置３６０は、中部材３３０の後側枠状部３３２に収容される装置であって、電磁ソレノイド３６１と、その電磁ソレノイド３６１に左右方向に直動変位するよう支持されるプランジャーの先端に係合されプランジャーと共にスライド変位するスライド部３６２と、左側の被締結部３３２ｄに挿通されることで回動可能に支持され、スライド部３６２のスライド変位に伴い回動する回動部３６３と、を備える。
【０１７７】
スライド部３６２は、電磁ソレノイド３６１のプランジャーの先端の円板部３６１ａを上側から受け入れ可能に凹設される凹設部３６２ａと、右側面から右方に張り出す張出部３６２ｂと、下側面の前後中央部から下方に突設され左右方向に長尺の長円形状の断面で形成される被案内部３６２ｃと、を備える。
【０１７８】
凹設部３６２ａの形成方向から、円板部３６１ａがスライド部３６２を上側から支える構成となるので、スライド部３６２が上方へ脱落することを防止することができる。そのため、円板部３６１ａにスライド部３６２を接着剤等で固着せずとも、スライド部３６２の配置を円板部３６１ａと中部材３３０の下底部との間で維持することができる。
【０１７９】
被案内部３６２ｃは、中部材３３０の案内孔３３２ｂに挿通されることで、スライド部３６２の変位方向が左右方向からずれることを回避するための部分である。特に、本実施

形態では左右方向に長尺に形成されるので、被案内部３６２ｃと案内孔３３２ｂとの係合により、スライド部３６２の姿勢維持を図ることができる。なお、被案内部３６２ｃの断面形状は必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、円形でも良いし、矩形でも良い。

【０１８０】

回動部３６３は、上面視で略Ｌ字状に形成され、Ｌ字の接続部において上下方向に長尺の筒状に形成され中部材３３０の被締結部３３２ｄを挿通可能な大きさの貫通孔を有する支持筒部３６３ａと、Ｌ字の短手側先端部から上方へ向けて円柱状に突設され張出部３６２ｂが有する貫通孔に挿通される上円柱部３６３ｂと、Ｌ字の長手側先端部から下方へ向けて円柱状に突設されスライド変位部材３７０の凹設部３７８に挿通される下円柱部３６３ｃと、を備える。

【０１８１】

上述の構成により、回動部３６３は、支持筒部３６３ａを中心軸として回動可能に構成される。この回動部３６３の変位は電磁ソレノイド３６１の状態の変化によって生じる。即ち、電磁ソレノイド３６１に通電されることでプランジャーがスライド変位しスライド部３６２が左右方向に変位すると、張出部３６２ｂの貫通孔に挿通されている上円柱部３６３ｂが変位し、これに伴い下円柱部３６３ｃが変位し、結果としてスライド変位部材３７０を変位させる。

【０１８２】

スライド変位部材３７０は、中部材３３０と下部材３８０との上下間位置において前後方向にスライド変位するよう支持される部材であって、中部材３３０の後側枠状部３３２の下底部と下部材３８０とに上下から挟み込まれて支持される薄板部３７１と、その薄板部３７１から左右一対で上方に突設される上突設部３７６と、その上突設部３７６よりも後側において左右中央部で上方に突設される突設部の突設端部で凹設され回動部３６３の下円柱部３６３ｃを受け入れ可能に形成される凹設部３７８と、を備える。

【０１８３】

薄板部３７１は、後側半部において左右一対で貫通形成される被支持孔３７１ａと、左右中央部における正面側端部から上突設部３７６の配置間隔よりも短い左右幅で前後長尺に凹設される凹設部３７２と、その凹設部３７２の縁部に沿う突条形状で下方に突設される一対の下突条部３７３と、後側半部における左右縁部に沿う突条形状で上下両方向に突設される複数の上下突条部３７４と、後端部から下方に円柱状で突設され下部材３８０の案内長孔３８６に挿通される円柱突部３７５と、を備える。

【０１８４】

下突条部３７３及び上下突条部３７４は、上下側に配置される中部材３３０又は下部材３８０と対面し摺動することを想定した部分であり、平面での接触に比較して、中部材３３０及び下部材３８０との接触面積を低減するための突条である。接触面積を低減することで、スライド変位部材３７０の変位抵抗を低減することができるので、スライド変位部材３７０の変位速度が遅くなることを防止することができる。

【０１８５】

上突設部３７６は、正面視略台形状の柱状部であり、配置用貫通孔３３２ａを通り後側枠状部３３２の下底部よりも上方に進入するように配置される。上突設部３７６の左右内側の隙間の幅長さは、中部材３３０の仕切り板部３３８の左右厚みよりも若干長く設計される。この構成により、仕切り板部３３８により、上突設部３７６の変位を案内することができる。

【０１８６】

換言すれば、上突設部３７６は、左右内側の隙間に仕切り板部３３８を挟むように配置され、仕切り板部３３８との当接により左右方向の位置ずれが抑制されるよう構成される。これにより、スライド変位部材３７０の変位を良好に案内することができ、スライド変位部材３７０の変位方向を前後方向に維持することができる。

【０１８７】

凹設部３７８は、スライド変位部材３７０の前後方向変位を生じさせるのに必要となる回動部３６３の下円柱部３６３ｃの変位に対応できるように、左右方向に長尺の長孔として形成される。

【０１８８】

凹設部３７８が形成される突設部は、配置用貫通孔３３２ａを通り後側枠状部３３２の下底部よりも上方に進入するように構成されることで、回動部３６３の下円柱部３６３ｃを容易に凹設部３７８に挿通することができる。

【０１８９】

このように、配置用貫通孔３３２ａの形状は、挿通を予定される上突設部３７６と、凹設部３７８が形成される突設部と、が配置される全範囲を内側に含む形状の貫通孔として設計される。

【０１９０】

下部材３８０は、上述の挿通孔３８１と、左右に長尺の薄板状に形成される板状部３８２と、その板状部３８２の下側において複数（本実施形態では４個）の検出センサＳＥ１を左右に並べて配置可能とする枠状に形成されるセンサ保持枠部３８９と、を備える。

【０１９１】

センサ保持枠部３８９は、検出センサＳＥ１を挿入する背面側面と、検出センサＳＥ１の貫通孔を通る球が通過する上下側面と、が開口形成されており、その他の部分が閉鎖されてなる枠状に形成される。

【０１９２】

板状部３８２は、センサ保持枠部３８９に上下方向の貫通孔が形成されたことと同様に、検出センサＳＥ１の貫通孔と合う位置に貫通孔が形成され、左右内側の２個の検出センサＳＥ１の中間位置において前後方向に長尺の突条形状で上方へ突設される突条部３８３と、その突条部３８３の前側端部から左右に離れた位置で突設される一対の突設部３８３ａと、突条部３８３よりも後側の位置においてスライド変位部材３７０の被支持孔３７１ａに挿通可能な位置で突設される一対の案内突設部３８４と、その案内突設部３８４よりも左右外側の両位置において前後方向に長尺の突条として形成される一対の案内突条３８５と、上面視において突条部３８３と同一直線上に延びる長孔状の案内長孔３８６と、前側面において後方に突の湾曲面形状で形成される湾曲面部３８７と、中部材３３０の被締結部３３２ｃに螺入される締結ネジを挿通可能に貫通形成される挿通孔３８８と、を備える。

【０１９３】

突条部３８３は、スライド変位部材３７０の凹設部３７２の左右隙間幅よりも若干短い左右厚みの突条として形成され、スライド変位部材３７０は凹設部３７２で突条部３８３を挟むように配置される。即ち、突条部３８３は、スライド変位部材３７０の前後方向変位を案内する案内部として機能する。

【０１９４】

突設部３８３ａは、左右内側端部が、中部材３３０の位置合わせ突設部３３９の左右外側端部と同等の位置となるように設計される。即ち、一対の突設部３８３ａの左右内側端部に、位置合わせ突設部３３９の左右外側端部が当接する形で、嵌め合わされることにより、下部材３８０を基準とした中部材３３０の左右方向の位置を適切に定めることができる。それと共に、下部材３８０の枠前部（突条部３８３を突設部３８３ａとを前端側でつなぐ部分）の背側面と位置合わせ突設部３３９の前側面とを当接させることで、下部材３８０を基準とした中部材３３０の前後方向の位置を適切に定めることができる。

【０１９５】

これにより、中部材３３０の構成としての第３流路構成部３３６と、下部材３８０の構成としての検出センサＳＥ１と、の間に位置ずれが生じることを回避し易くすることができる。

【０１９６】

案内突設部３８４は、左右長尺の長円形状に形成されており、スライド変位部材３７０

の被支持孔３７１ａに挿通され、スライド変位部材３７０の変位を制限する。即ち、スライド変位部材３７０の変位は、被支持孔３７１ａの内部に案内突設部３８４が配置される範囲での変位に制限される。

【０１９７】

これにより、スライド変位部材３７０と突条部３８３との衝突を生じさせないようにすることができるので、例えば、前方向の変位終端がスライド変位部材３７０と突条部３８３との衝突した位置で定まる構成に比較して、突条部３８３の耐久性を向上することができる。そのため、突条部３８３による案内効果を長く奏し続けることができる。

【０１９８】

なお、案内突設部３８４は、破損したとしてもスライド変位部材３７０の動作に即座に影響が生じる部分では無く、突条部３８３への衝突を防止するための部分として機能する。そのため、通常は案内突設部３８４の破損が生じない状態で設定期間（例えば、３年）において使用を維持できる強度で設計するところ、案内突設部３８４が破損した後は突条部３８３とスライド変位部材３７０とが衝突する状態で使用をすることを見込んで、案内突設部３８４及び突条部３８３の強度を設計するようにしても良い。即ち、案内突設部３８４の寿命を設定期間未満として（例えば、２年）として、残りの期間を突条部３８３の強度で耐えるように設計しても良い。この場合、下部材３８０に使用する樹脂材料の設定自由度や、形状の自由度を向上することができる。

【０１９９】

案内突条３８５は、スライド変位部材３７０の薄板部３７１の左右幅よりも若干長い隙間幅で配置され、薄板部３７１を隙間に配置可能に形成される。スライド変位部材３７０の変位は、案内突条３８５の左右内側における変位に制限される。これにより、スライド変位部材３７０の前後方向変位を、左右方向の位置ずれ小さく生じさせることができる。

【０２００】

案内長孔３８６は、スライド変位部材３７０の円柱突部３７５を挿通可能な左右幅で形成される長孔である。スライド変位部材３７０の変位の方向は、円柱突部３７５が案内長孔３８６に案内されることで前後方向に制限される。

【０２０１】

湾曲面部３８７は、中部材３３０よりも下側を流下する球の流下を案内するための当接面である。本実施形態では、アウト口７１に入球した球の流下を案内することになるが、詳細は後述する。

【０２０２】

挿通孔３８８には、締結ネジがネジ頭を下側に向けた姿勢で挿通される。これにより、締結ネジが目立って視認されることを回避することができる。また、挿通孔３８８の配置は、複数の検出センサＳＥ１が配置される範囲よりも左右外側かつ背面側とされる。これにより、挿通孔３８８に挿通される締結ネジが、検出センサＳＥ１付近または検出センサＳＥ１の貫通孔を通過する球を見る視界を遮る可能性を低くすることができる。

【０２０３】

上述のように、スライド変位部材３７０は、複数の部分、即ち、薄板部３７１に対する案内突条３８５や、被支持孔３７１ａに対する案内突設部３８４や、凹設部３７２及び下突条部３７３に対する突条部３８３や、円柱突部３７５に対する案内長孔３８６や、上突設部３７６に対する仕切り板部３３８等、に案内されて前後方向へ変位する。これにより、案内時の負荷を複数位置に分担させることができるので、負荷が局所的にかかることを回避でき、スライド変位部材３７０及びスライド変位部材３７０を案内する案内用部分の破損を回避することができる。

【０２０４】

ここからも分かるように、スライド変位部材３７０は、単一の部材に案内されるものではなく、少なくとも、中部材３３０と、下部材３８０と、の複数部材に案内される。即ち、スライド変位部材３７０は、少なくとも、中部材３３０の仕切り板部３３８に一対の上突設部３７６が案内され、且つ、下部材３８０の突条部３８３に凹設部３７２が案内され

る。
【０２０５】
そのため、中部材３３０と、下部材３８０との組み付けが不良で、配置ずれが大きいと、スライド変位部材３７０の動きが阻害される。ここで、中部材３３０と下部材３８０とは、球の流下経路を連続的に構成する部分として配置ずれを小さく抑えることが好ましい所、スライド変位部材３７０の変位が良好とされていることにより、配置ずれが小さいことを保証することができる。
【０２０６】
換言すれば、中部材３３０に対する下部材３８０の配置ずれが過度に大きくなると、スライド変位部材３７０の変位が良好に行われないので、スライド変位部材３７０の変位が不良であることを検出することにより、中部材３３０及び下部材３８０の相対的な配置が不良となっている可能性があるとしてエラー報知を実行するよう制御することができる。
【０２０７】
従って、中部材３３０及び下部材３８０の相対的な配置が不良な状態のままの遊技が継続されることを防止できるので、遊技者が不測の不利益を被る可能性を低くすることができる。
【０２０８】
次いで、振分装置３００の内部構造の詳細について説明する。なお、ここでは、振分装置３００の内部における球の流下に関わる構成と、球の流下経路側に進入する構成と、について主に説明する。
【０２０９】
図１５は、受入部材１６３及び振分装置３００の正面図であり、図１６は、図１５のＸＶＩ－ＸＶＩ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図であり、図１７は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図であり、図１８は、図１５のＸＶＩＩＩ－ＸＶＩＩＩ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図である。
【０２１０】
なお、図１５から図１８では、図示されている場合には、開閉板６５ｂは閉鎖状態で図示され、スライド変位部材３７０は前側位置に配置された状態で図示される。まず、振分装置３００の内部を流下する球の流下経路の詳細について説明する。
【０２１１】
開閉板６５ｂが開放状態（図６（ｂ）参照）の時に開閉板６５ｂに着地した球は、受入部材１６３の下面部１６３ａを転動し球通過孔１６３ｂに案内される。球通過孔１６３ｂを通過した球は上部材３１０の開口部３１２を通過し、中部材３３０の第１流路構成部３３４に案内される。第１流路構成部３３４と、続く第２流路構成部３３５と、その先に続く第３流路構成部３３６とは、全て下降傾斜する傾斜流路として構成され、接続される流路同士が上面視で９０度の角度を成す渦巻き状に形成される。
【０２１２】
即ち、第１流路構成部３３４は前後方向正面側に球を流下させる傾斜流路として形成され、第２流路構成部３３５は第１流路構成部３３４を流下する球の流下方向を基準として９０度回転した左右方向に球を流下させる傾斜流路として形成され、第３流路構成部３３６は第２流路構成部３３５を流下する球の流下方向を基準として先の回転方向と同方向に９０度回転した前後方向背面側に球を流下させる傾斜流路として形成される。
【０２１３】
このように、流下経路を屈曲角度が直角の渦巻き状に形成することで、球の流下速度が下流側に向かうにつれて増加する程度を低減することができる。詳述すると、第１流路構成部３３４を流下する球は正面側へ向けて加速するところ、続く第２流路構成部３３５での流下方向は前後方向成分を持たないので、第１流路構成部３３４での加速分から受ける影響を抑えた流下態様を実現することができる。更に、第２流路構成部３３５に続く第３流路構成部３３６では、第１流路構成部３３４での加速方向とは逆の後方へ向けた流下と

なるので、前後方向の加速分から受ける影響を抑えた流下態様を実現することができる。
【０２１４】
従って、例えば、終始一貫して同方向（例えば、左方向）へ向けて流下する流下態様と異なり、下流側において球の流下速度が過大となることを回避し易くすることができる。換言すれば、流路全体において球の流下速度を均一にしやすくすることができ、球に対する遊技者の注目力を高く維持することができ、球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができるという効果を奏する。
【０２１５】
また、例えば、第２流路構成部３３５を形成しないことも可能だが、第２流路構成部３３５を形成した方が、球の詰まりや、逆流を防止し易くすることができる。第２流路構成部３３５が形成されない場合（第２流路構成部３３５の左右方向長さが０である場合）、即ち、第１流路構成部３３４と第３流路構成部３３６とが連結される場合、その連結箇所において、球の流下方向を手前側の流れから後方への流れに１８０度反転する必要が生じる。この場合、球の流下方向の切り替え角度が大きく、特に速度方向を前後に反転させる必要があるので、球を滑らかに流下させることが困難であり、球の滞留や詰まり、逆流が生じ易く、不具合が生じる可能性がある。
【０２１６】
これに対し、本実施形態のように、流下方向の切り替え角度が９０度以下であれば（本実施形態では、９０度）、球の速度方向の反転が生じないので、球を滑らかに流下させることができ、球の滞留や詰まり、逆流を回避し易くすることができる。
【０２１７】
各流路構成部３３４～３３６の接続端部における流路形状について説明する。第２流路構成部３３５と第３流路構成部３３６との接続端部においては、上述の対称突設部１６１ｆが球の流下方向を屈曲させる態様で球の流下を案内する部分として配設される。
【０２１８】
対称突設部１６１ｆは、球の上流側に配置される部分よりも下流側に配置される部分の方が球の経路から退くよう形成される。例えば、隣り合って配置される仕切り板部３３８の左右幅よりも、対向配置される対称突設部１６１ｆの左右幅の方が長く形成される。また、開放部３３５ａ付近の第２流路構成部３３５の流路側面よりも、対向配置される対称突設部１６１ｆの左右端側の後端部の方が正面側に配置される（図１７参照）。
【０２１９】
これにより、球が対称突設部１６１ｆに衝突した場合に、球が過度に減速されたり、球の逆流が生じたり、することを防止することができる。
【０２２０】
また、第２流路構成部３３５と第１流路構成部３３４との接続端部においては、中部材３３０の前側左右端部において湾曲形成される側壁部３３４ａが、球の流下方向を屈曲させる態様で球の流下を案内する部分として形成される。
【０２２１】
また、第１流路構成部３３４の上流側端部においては、正面側へ向かうほど配置が下がる湾曲面形状（図１６参照）で第１流路構成部３３４の流下面部から上方へ突設される湾曲突部３３４ｂが、球の流下方向を屈曲させる態様で球の流下を案内する部分として形成される。
【０２２２】
即ち、開口部３１２を通過した球は、湾曲突部３３４ｂを転動し、第１流路構成部３３４を流下し、流下中に側壁部３３４ａに当接することで流下方向を切り替えられ、第２流路構成部３３５を流下し、流下中に対称突設部１６１ｆに当接することで流下方向を切り替えられ、第３流路構成部３３６を流下し、排出孔３３７に到達する。
【０２２３】
側壁部３３４ａは、被固定部材１６１の突設支持部１６１ｄと係合し、位置合わせ可能な形状から形成される。即ち、側壁部３３４ａが左右の突設支持部１６１ｄに挟み込まれ

るように支持され、左右方向への位置ずれが規制されることで、可変入賞装置６５と振分装置３００との左右方向の位置合わせを行うことができる。

【０２２４】

各流路構成部３３４～３３６の長手方向の傾斜角度および長さの比について説明する。長手方向の傾斜角度については、第１流路構成部３３４は、水平に対する傾斜角度が約７度とされ、第２流路構成部３３５は、水平に対する傾斜角度が約５度とされ、第３流路構成部３３６は、水平に対する傾斜角度が約５度とされる。即ち、第１流路構成部３３４において傾斜角度が最大に設定され、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６では若干緩い共通の傾斜角度に設定される。

【０２２５】

長さについては、各流路構成部３３４～３３６は、上面視において外形正方形状に形成される前側枠状部３３３を内側側面とし、その前側枠状部３３３のなす正方形の中心と同じ中心を有する大きな正方形を外側側面とするように形成される。ここで、本実施形態では、前側枠状部３３３の一辺の長さが２１ｍｍとされており、上述の大きな正方形の一辺の長さが４５ｍｍとされることにより、周囲に幅１２ｍｍの流路が形成される。

【０２２６】

そのため、通常使用される直径１１ｍｍの球に対して、流路とのクリアランスが球の両側の合計で１ｍｍとされているので、球は幅方向の位置ずれがほとんどない状態で流下することになる。これは、ベース板６０（図２参照）とガラスユニット１６（図１参照）との間隔が１９ｍｍ程度で規定されることから考えても、小さなクリアランスであるといえ、流下する球の位置ずれを抑制することができる。

【０２２７】

正方形状の前側枠状部３３３の周囲を取り巻く正方形上に配置される各流路構成部３３４～３３６の端部を構成する部分の内、第１流路構成部３３４の上流側の端部を構成する湾曲突部３３４ｂのみが正方形の頂点よりも内側（正面側）に配置されているので、第１流路構成部３３４は、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６に比べて短い。

【０２２８】

上面視における実測値から言えば、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６により形成される流路は略同等の長さとされ（球中心間隔で３３ｍｍ）、その長さは、第１流路構成部材３３４により形成される流路の長さ（球中心間隔で２２ｍｍ）の約１．５倍とされる。

【０２２９】

上述した各流路構成部３３４～３３６の長手方向の傾斜角度および長さの比から、各流路構成部３３４～３３６を球が通過するのに要する時間は一定では無いことが説明できる。即ち、傾斜角度が最大で且つ流路長さが最短の第１流路構成部３３４を通過する時間は、傾斜角度が緩められ且つ経路長さが１．５倍の第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６を通過する時間よりも短い。

【０２３０】

本実施形態では、このように構成することで、検出センサＳＥ１の球通過孔１６３ｂを通過する際に配置が背面側へ移り、且つ検出センサＳＥ１の非透過の樹脂部分に一部が隠されることで球の視認性が悪くなる状態から、球を早期に正面側に変位させることができ、遊技者に近く、球の視認性が高い状態へと状態を切り替えることができる。これにより、球通過孔１６３ｂを通過した球を遊技者が見失う事態が生じることを回避し易くすることができる。

【０２３１】

更に、球の視認性が高い状態においては、球の流下速度を緩めることにより、球へ向けた視線を遊技者が素早く動かすことを不要とし、球に注目する遊技者の遊技負担（眼球の移動による目の疲れ）を低減することができる。

【０２３２】

このように視認性が高くなる第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６を流下す

る球に注目する際に、第２流路構成部３３５に沿って左右方向に球が流下する場合に比較して、第３流路構成部３３６に沿って前後方向に球が流下する場合の方が、正面視における球の変位量が小さくなるので、球に注目する遊技者の遊技負担を、第３流路構成部３３６を流下する球に注目する際に最小とすることができる。

【０２３３】

換言すれば、長さ及び傾斜角度が同等であることから、第２流路構成部３３５を球が通過するのに要する時間と、第３流路構成部３３６を球が通過するのに要する時間と、は同等とされるところ、正面視における球の変位量が異なるので、結果として見かけ上の球の流下速度（正面視での球の変位速度）は、第３流路構成部３３６を流下する球の方が第２流路構成部３３５を流下する球よりも遅くなる。

【０２３４】

遊技負担が最小とされ球に注目させ易い第３流路構成部３３６の後端部において球の流下経路は唯一変化し、それ以外の部分では球の流下経路は各流路構成部３３４～３３６において共通とされる。従って、遊技者の視線は第３流路構成部３３６の後端部に自ずと集中し易いところ、このように視線を集中させる遊技者の遊技負担を有効に低減することができる。

【０２３５】

また、第３流路構成部３３６の後端部に注目する遊技者の視界を確保するために、本実施形態では、第２流路構成部３３５の前側面に開放部３３５ａが形成されるので（図１７参照）、第３流路構成部３３６へ向かう視線を第２流路構成部３３５の肉部が妨げることを回避することができる。

【０２３６】

更に、開放部３３５ａの内側に配設される対称突設部１６１ｆは、流下する球との当接、案内のために必要な部分のみが形成され、その上下側においては形状部の形成が省略される。換言すれば、対称突設部１６１ｆは上下に薄肉の板状部として形成され、その上下側には空間が確保される（図１８参照）。そのため、対称突設部１６１ｆが上下に厚みを持って形成される場合に比較して、第３流路構成部３３６の後端部へ向けた視線が対称突設部１６１ｆに妨げられる可能性を低くすることができ、視認性を向上することができる。

【０２３７】

また、第３流路構成部３３６の後端部を中心とする視界側へ、開閉板６５ｂから逸れてアウト口７１へ向かう球が集まってくるように構成される（図５参照）。特に、本実施形態では、アウト口７１に入球する球は、第３流路構成部３３６の下方を流下し、下部材３８０の湾曲面部３８７に当接し下方へ排出される。

【０２３８】

従って、第３流路構成部３３６を流下する球を斜め上前側から視認する視線を前提とすると、アウト口７１に入球する球は、第３流路構成部３３６の奥側を流下する。そのため、第３流路構成部３３６を流下する球と、アウト口７１に入球する球とが前後で被って視認されることになるので、第３流路構成部３３６の後端部に注目する視界に入り込む球の総数が多くなる。

【０２３９】

換言すれば、特定入賞口６５ａに入球して第３流路構成部３３６を流下する球か、特定入賞口６５ａには入球せずアウト口７１に入球する球かに寄らず、球が第３流路構成部３３６の後端部に注目する視界に入り込む。

【０２４０】

従って、特定入賞口６５ａへの球の向かい易さ、即ち、ベース板６０に植設される釘構成（所謂ゲージの良し悪し）に関わりなく、発射された球の多く（他の入賞口６３，６４，１４０に入球した球を除く球）が集まる位置と前後方向で被る位置に、第３流路構成部３３６の後端部（遊技者の注目が集まる部分）が配置される。これにより、流下する球により、視線を効率的に第３流路構成部３３６の後端部に誘導することができる。

【０２４１】
上述のように、正面側寄りの位置における視認性を向上したが、その上で、本実施形態では、背面側寄りの位置における視認性を、第３流路構成部３３６の後端部を除いて低下させるよう構成している。
【０２４２】
例えば、中部材３３０の前側枠状部３３３の内側面には、プリズムに倣った形状で光拡散の作用を生じさせるための光拡散加工面３３３ｂが形成される。図１７において、鋸歯状に視認される箇所が光拡散加工面３３３ｂであり、内側面のほぼ全内周、且つ、上下に亘って形成される。
【０２４３】
光拡散の作用が生じると、光が複数方向に拡散されることで、面全体が光っているように視認されるので、表面を煌びやかに光らせ演出することができる一方で、光に視線が遮られ、その奥側の視認性が悪くなる。本実施形態によれば、基板３５０の発光手段３５１から光が照射される状態では視認性が悪くなり、逆に、光が照射されていない場合には、少なくとも光が照射される状態に比較して視認性を良くすることができる。
【０２４４】
一方、光との間に遮蔽物があると、その遮蔽物の影が黒点として視認されることになり、その位置を判別し易くなる。
【０２４５】
光拡散加工面３３３ｂと同様の加工面が他の部分にも形成されている。例えば、左右外突設部３１９の背側面に形成される光拡散加工面３１９ａや、後側枠状部３３２の枠前部の背側面に形成される光拡散加工面３３２ｅ等である（図１７参照）。
【０２４６】
また、同様の形状で形成される加工面としては、上部材３１０の第２上面部３１４ｂの背面側に延設される板状部であって組立状態において中部材３３０の前側枠状部３３３に蓋をする部分の上面側において形成される光拡散加工面３１４ｃや、中部材３３０の後側枠状部３３２よりも前側の部分の下側面全体に亘り形成される光拡散加工面３４０等が例示される。
【０２４７】
これらの構成により、本実施形態では、各流路構成部３３４～３３６から渦状に形成される流路の、背面側、下面側、渦の内側面および、その渦の上側面に、それぞれ光拡散加工面が形成されており、光照射による視認性の変化の効果を図っている。
【０２４８】
光拡散加工面に光が照射されていない状態において、正面側から第３流路構成部３３６の後端部に注目する遊技者目線で、第３流路構成部３３６から左右方向に方向転換した球を前側枠状部３３３で隠して、即座に見え難くすることができる。
【０２４９】
更に、斜め上からの方向視で第３流路構成部３３６を流下する球を視認する遊技者目線で、センサ保持枠部３８９に保持される検出センサＳＥ１を通過し落下した後の球を見ようとしても、その視線は光拡散加工面３４０を通過することになるので、光拡散加工面３４０に光が照射されることにより、検出センサＳＥ１を通過し落下した後の球の識別は困難となる。
【０２５０】
本実施形態では、後述するように、第３流路構成部３３６の後端部を球がどのように流下するかによって、遊技者が得られる利益が変化するよう制御される。
【０２５１】
従って、第３流路構成部３３６の後端部から球がどのように流下したのかを把握するために、第３流路構成部３３６の後端部における球の挙動を確認する必要が生じるので、第３流路構成部３３６の後端部への注目力をより一層向上することができる。
【０２５２】

一方、発光手段３５１から光が照射されれば、球の影を黒点として視認し易い状態を構成することができる。このように、光の照射の有無を状況に応じて切り替えることで、球の視認性の良し悪しを切り替えることができる。また、黒点よりも正面側における球の配置の有無により、その黒点が球で隠される状況と、黒点が球に隠されずに見える状況を構成することもできる。

【０２５３】

上述のように、各流路構成部３３４～３３６の付近において光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅ，３３３ｂ，３４０が形成されるが、一貫して、各流路構成部３３４～３３６により形成される流路を流下する球と当接しない側の側面に形成される。

【０２５４】

これにより、光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅ，３３３ｂ，３４０が球との当接により削られることを避けることができるので、光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅ，３３３ｂ，３４０の形状を長期間に亘り維持することができ、光拡散の作用を維持することができる。

【０２５５】

更に、光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅ，３３３ｂ，３４０に球が当接することで、球の流下が阻害されたり、球が減速の作用を受けたりすることを回避することができる。加えて、流路内部の視認性は確保できるようにすることで、球が各流路構成部３３４～３３６により形成される流路を流下している最中にまで球の視認性が低下することを回避することができる。

【０２５６】

なお、敢えて光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅ，３３３ｂ，３４０を流路側に形成するようにしても良い。この場合、プリズムの大きさの設定次第では、光拡散の作用を生じさせる効果と、球との衝突により球を減速させる効果と、を生じさせるように図ることができる。

【０２５７】

中部材３３０の前側枠状部３３３では、被締結部３１６との締結位置においては加工の難易度から光拡散加工面３３３ｂの形成が省略されており、対策なしでは視認性が高いまま維持される可能性がある。そこで、本実施形態では、締結ネジによる視認性の低下を図っている。

【０２５８】

即ち、被締結部３１６に螺入される締結ネジが金属製であり、非透過性であることを利用して、光拡散加工面３３３ｂの形成が困難となる箇所における目隠しとすることができる。前側枠状部３３３に光が照射されると、光拡散加工面３３３ｂは煌びやかに光り、光拡散加工面３３３ｂの形成が省略されている部分では締結ネジが光を反射して光るので、光拡散加工面３３３ｂの形成が省略されている箇所も含めて、正面側からの視線における前側枠状部３３３の奥側の視認性を低下させることができる。

【０２５９】

中部材３３０の光拡散加工面３３２ｅは、各流路構成部３３４～３３６の背面側に形成されているが、この目的として、煌びやかに光らせることの他に、背面側に配設される基板３５０及び状態切替装置３６０の目隠しとしての機能を生じさせることが挙げられる。特に、状態切替装置３６０は基板３５０の背面側に配置されるので（図１７参照）、基板３５０が目隠しとなり、状態切替装置３６０が遊技者に視認されることを防止し易くすることができる。

【０２６０】

基板３５０は、中部材３３０の後側枠状部３３２に下支えされる形で収容されるが、左右中央部において後側枠状部３３２の下底部と隙間を空けて配置され、その隙間にスライド変位部材３７０が配置される（図１８参照）。即ち、基板３５０は、スライド変位部材３７０を後側枠状部３３２の下底部との間で挟む位置に配置される。

【０２６１】

詳述すると、基板３５０は、下側部３５３が左右端部において後側枠状部３３２に前後から挟まれるように支持される（図１７参照）。この支持箇所において、後側枠状部３３２の下底部は肉厚とされる肉厚部３３２ｆを備えており（図１６参照）、左右中央位置付近では、この肉厚分が無いことで隙間が生まれ、その隙間にスライド変位部材３７０を配置することができる（図１８参照）。

【０２６２】

図１８に示すように、基板３５０の上側部３５２は、上部材３１０の収容凹部３２０の内側に進入し、介在部材１６４に形成される光拡散加工面１６４ｆと前後に対向配置される。

【０２６３】

そのため、上側部３５２に配置される発光手段３５１から光が照射されることにより、介在部材１６４の光拡散加工面１６４ｆが煌びやかに光る演出効果を奏することができ、更に、介在部材１６４の背面側の範囲の視認性を低下させることができる。

【０２６４】

ここで、上側部３５２に配置される発光手段３５１は光拡散加工面１６４ｆの下端部付近に光を照射するところ、光拡散加工面１６４ｆは、プリズムに倣った断面形状部が、表面に沿って上下方向全体に形成されるので、発光手段３５１から照射された光は上下幅の広い光として視認される。そのため、遊技者目線で、特定入賞口６５ａの上下に亘って発光しているように見せることができる。

【０２６５】

なお、正面側からの視界において、光拡散加工面１６４ｆは、受入部材１６３の左右中央側位置に配置されるが、検出センサＳＥ１の背面側に配置したとしても検出センサＳＥ１が視界の妨げとなり良好に視認できないので、少なくとも一対の検出センサＳＥ１の配置隙間内において形成されていれば、十分な効果を奏することができる。

【０２６６】

なお、基板３５０の下側部３５３は、シール部材３１３や、その下側に配設され球が流下する部分へ向けて光を照射するよう配置されるが、詳細は後述する。

【０２６７】

次いで、図１９及び図２０を参照して、第３流路構成部３３６の後端部を通過した球の流下経路の切り替えと、その意義について説明する。なお、図１９及び図２０の説明においては、図１５から図１８を適宜参照する。

【０２６８】

図１９は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図であり、図２０は、図１５のＸＶＩＩＩ－ＸＶＩＩＩ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図である。図１９及び図２０では、図示されている場合には、開閉板６５ｂは閉鎖状態で図示され、スライド変位部材３７０は後側位置に配置された状態で図示される。

【０２６９】

ここで、センサ保持枠部３８９に支持される左右４個の検出センサＳＥ１と、各検出センサＳＥ１への球の流下と、各検出センサＳＥ１の機能について説明する。

【０２７０】

４個の検出センサＳＥ１は、２組が左右対称に配設されるものであり、機能を共通とする確変検出センサＳＥ１１と、通常検出センサＳＥ１２と、を備える。確変検出センサＳＥ１１は、左右方向内側に配設され、通常検出センサＳＥ１２は、左右方向外側に配設される。

【０２７１】

この４個の検出センサＳＥ１の機能は、開閉板６５ｂの背後に配置される検出センサＳＥ１とは異なる。開閉板６５ｂの背後に配置される検出センサＳＥ１は、賞球の払い出しを生じる入球センサである。即ち、特定入賞口６５ａに入球した球が背後の検出センサＳＥ１に入球したと検出されると、所定個数（本実施形態では、１個の検出に対して１０個

）の賞球が払出制御装置１１１（図４参照）により遊技者側に払い出される。
【０２７２】
一方、センサ保持枠部３８９に支持される検出センサＳＥ１は、賞球の払い出しを生じる検出センサではなく、入球を検出することで、大当たり遊技終了後の遊技状態を変化させるための検出センサとして機能する。
【０２７３】
なお、後述するように、本実施形態では、センサ保持枠部３８９に配設される検出センサＳＥ１を確変状態への移行の有無の切替のために利用したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＳＥ１を次回大当たり獲得の有無の切替のための入球センサとして機能させても良い。
【０２７４】
スライド変位部材３７０が前側位置に配置される場合（図１７及び図１８参照）、確変検出センサＳＥ１１の上側に薄板部３７１が被さるようにスライド変位部材３７０が配置され、確変検出センサＳＥ１１の貫通孔への球の通過が防止される。そのため、第３流路構成部３３６の後端部を通過する球は、スライド変位部材の上突設部３７６に案内されるようにして、通常検出センサＳＥ１２の貫通孔へ案内される。
【０２７５】
上突設部３７６は、球と対向する前側面３７６ａが、流路側を凹とした円弧形状で形成されているので、流れてきた球を滑らかに通常検出センサＳＥ１２の貫通孔へ向けて流すことができる。
【０２７６】
一方、スライド変位部材３７０が後側位置に配置される場合（図１９及び図２０参照）、確変検出センサＳＥ１１の上方からスライド変位部材３７０が後方に退避し、確変検出センサＳＥ１１の貫通孔への球の通過が許容される。
【０２７７】
即ち、球がいずれの検出センサＳＥ１を通過するかは、スライド変位部材３７０の配置（前側位置または後側位置）と対応する。そして、大当たり遊技中に球が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過したことが検出された場合に、その大当たり遊技後の遊技状態を確変状態とするように制御される。換言すれば、球が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過したと検出されず、通常検出センサＳＥ１２の貫通孔のみを通過した場合には、その大当たり遊技後の遊技状態を通常状態（又は時短状態）とするように制御される。
【０２７８】
ここで、本実施形態において、大当たり種別として、確変大当たりと、通常大当たりとが用意されていることについて上述した。これを実現するために、本実施形態では、大当たり種別ごとにスライド変位部材３７０の動作パターンとして異なる動作パターンが用意されている。
【０２７９】
換言すれば、スライド変位部材３７０は、確変大当たりの場合には、球が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過し易いような動作パターンで動作するよう制御され、通常大当たりの場合には、球が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過し難く、通常検出センサＳＥ１２の貫通孔を通過し易いような動作パターンで動作するよう制御されるが、制御の詳細については後述する。
【０２８０】
このように、スライド変位部材３７０の配置は、遊技者が得られる利益に直結するものであり、その配置に自ずと遊技者の注目が集まることになる。一方、スライド変位部材３７０の配置を不正に切り替えようとする不正行為は少なからず発見されており、それに対する対策が重要視される。
【０２８１】
前提として、スライド変位部材３７０の配置は、状態切替装置３６０の電磁ソレノイド３６１への通電の有無によって切り替えられる。即ち、電磁ソレノイド３６１に通電がさ

れていない時は、電磁ソレノイド３６１のプランジャー及びスライド部３６２が付勢バネ（図示せず）によって右側に配置され、回動部３６３の下円柱部３６３ｃが正面側に配置されることで、スライド変位部材３７０は前側位置に維持される。

【０２８２】

一方、電磁ソレノイド３６１が通電されると、電磁ソレノイド３６１のプランジャー及びスライド部３６２が電磁力によって左側に移動され、回動部３６３の下円柱部３６３ｃ（図１３参照、スライド変位部材３７０の凹設部３７８に挿入される部分）が背面側に変位することで、スライド変位部材３７０は後側位置に維持される。これが通常の動作態様であり、電磁ソレノイド３６１への通電と、スライド変位部材３７０の配置とが一対一で対応する。

【０２８３】

上述した不正行為を行う者は、例えば、球払い出し開口や、外枠１１と正面枠１４（図１参照）との隙間等からピアノ線などの金属細線を振分装置３００の内部に差し入れて、その金属細線をスライド変位部材３７０に押し当てて、スライド変位部材３７０を奥側へ押し込むようにして、確変検出センサＳＥ１１への球の入球が可能となる状態を不正に作り出そうとする可能性がある。

【０２８４】

これに対し、本実施形態では、スライド変位部材３７０の配置として、薄板部３７１が第３流路構成部３３６の下底部よりも下側に配置されているので（図１８参照）、第３流路構成部３３６に金属細線を通してスライド変位部材３７０に押し当てる場合に、薄板部３７１の前端部に押し当てるのは困難であり、上突設部３７６に押し当てることになる。上突設部３７６の前側面３７６ａは、上述のように負荷を左右外側へ逃がすような湾曲面形状とされるので、金属細線を押し当てられたとしても、その負荷を左右外側に逃がすことができ、スライド変位部材３７０が不正に後側位置に変位させられる事態を回避し易くすることができる。

【０２８５】

また、スライド変位部材３７０に到達するまでの経路が、一直線では無く渦状に巻いていることに加え、スライド変位部材３７０自体の配置もガラスユニット１６（図１参照）の前側面から背面側に遠く（約１０ｃｍ程度）離れているので、そもそも、金属細線をスライド変位部材３７０に到達させることを困難とすることができる。

【０２８６】

これらの構成から、状態切替装置３６０の構成の設計自由度を向上することができるという効果も奏する。即ち、従来では、上述のような不正行為に対して、駆動力を伝達する機構の機械的な工夫（変位規制）によりスライド変位部材３７０の配置を維持するよう構成する場合が多く、その場合には、状態切替装置３６０の構成が制限されていた。これに対し、本実施形態では、そもそもスライド変位部材３７０に負荷がかけられ難く構成することにより、状態切替装置３６０に要求される条件を部分的に省くことができ、状態切替装置３６０の設計自由度を高めることができる。

【０２８７】

また、第３流路構成部３３６を通して這わせた金属細線でスライド変位部材３７０に押し付け負荷を加える場合には、この金属細線自体が、第３流路構成部３３６を流下しようとする球の流下を阻害することになるので、球を確変検出センサＳＥ１１に到達させることを困難とすることができる。

【０２８８】

上述のように、球が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過するか、通常検出センサＳＥ１２の貫通孔を通過するかにより、遊技者が得られる利益が大きく変化することから、誤入球は極力避けることが望ましい。

【０２８９】

従来の機種では、確変検出センサＳＥ１１への入球が許容される状態においては通常検出センサＳＥ１２への入球を規制するように構成することが通常であったが、本実施形態

では、確変検出センサＳＥ１１への入球が許容される状態（図１９及び図２０参照）において通常検出センサＳＥ１２への入球を規制するような可動部材は用意されておらず、通常検出センサＳＥ１２へも入球させることが可能な構成である。

【０２９０】

このように構成しても、１０個の球が流下した場合に少なくとも１個が確変検出センサＳＥ１１の貫通孔を通過すれば、大当たり遊技後の確変状態は確保されることになる。本実施形態では、このような考え方から、通常検出センサＳＥ１２の開閉を行う可動部材の配置を省略することにより、材料コストの低減を図ることができ、製品コストを低減することができる。また、可動部材を配置しない結果、その可動部材の故障や動作不良に伴うメンテナンスが不要になったり、可動部材の寿命以上にパチンコ機の使用年数を延ばすことができたりという良い効果を奏する。

【０２９１】

一方で、可動部材とは別の工夫として、適切な側の検出センサＳＥ１に球が案内されるようにするための工夫として、流路形状と、固定の突設部３１７，３１８，３１９の配置や形状とが工夫されている。即ち、スライド変位部材３７０が後側位置に配置されている状態で想定以上の球が通常検出センサＳＥ１２へ流れることを防止するような仕組みを、流路内部に固定配置される部分（即ち、突設部３１７，３１８，３１９）の形状により実現するように図っている。このことについて、以下で説明する。

【０２９２】

まず、流路形状の工夫について説明する。第３流路構成部３３６の下底面３３６ａは、短手方向において、左右方向中央側（仕切り板部３３８側）に向かうにつれて水平に対して５度の角度で下降傾斜する傾斜面として形成される（図１５参照）。

【０２９３】

この傾斜角度は、第２流路構成部３３５の長手方向の傾斜と、角度および方向が同様となるように設定されているので、第２流路構成部３３５から第３流路構成部３３６に球が流入する際の球の跳ね（仕切り板部３３８から離れる方向の跳ね）を低減することができる。

【０２９４】

この短手方向の傾斜によって、第３流路構成部３３６を流下する球の配置を仕切り板部３３８側に寄せることができる。そのため、第３流路構成部３３６の後端部から検出センサＳＥ１側へ流下する際の球を仕切り板部３３８に近接する側に配置することができるので、スライド変位部材３７０が後側位置に配置されている状態で、球が誤って通常検出センサＳＥ１２（仕切り板部３３８から離れて配置される検出センサＳＥ１）の貫通孔を通過する事態が生じる可能性を低くすることができる。

【０２９５】

また、下底面３３６ａの短手方向の傾斜に関わらず、各流路構成部３３４～３３６により構成される流路は、左右方向経路が第２流路構成部３３５によってのみ形成されており、その傾斜方向は左右中心側（仕切り板部３３８側）なので、左右方向の速度は左右内向きに生じることになる。これによっても、球が誤って通常検出センサＳＥ１２（仕切り板部３３８から離れて配置される検出センサＳＥ１）の貫通孔を通過する事態が生じる可能性を低くすることができる。

【０２９６】

次に、固定の突設部３１７，３１８，３１９の配置や形状の工夫について、説明する。第３流路構成部３３６を流下した球が最初に近接配置されるのは、左右内突設部３１８である。左右内突設部３１８は、突設部３１７，３１８，３１９の内で最も小さな突設部でありながら、検出センサＳＥ１の中心よりも正面側、且つ、スライド変位部材３７０の上突設部３７６よりも正面側に配置されているので、仕切り板部３３８に摺動しながら第３流路構成部３３６の後端部を通過する球と漏れなく当接する。

【０２９７】

左右内突設部３１８の突設先端面は、正面視では下に凹の湾曲面として構成され（図１

５参照）、且つ、突設部後端側の方が突設部前端側よりも左右外側および下側に拡がって形成され前後端部が凹形の湾曲面でつながるように形成される（図１７参照）。従って、第３流路構成部３３６の後端部を通過し左右内突設部３１８に当接した球は、左右外向き成分と、下向き成分とが混合された方向の負荷を受け、流下する。

【０２９８】

一方で、左右内突設部３１８は小型に形成されていることから、左右内突設部３１８から受けた負荷のみで球の流下方向が下方か左右外方向かに定まるものでは無く、あくまで勢い付けとして機能する。そして、左右内突設部３１８がスライド変位部材３７０よりも上流側に配置されることから、上述の勢い付けは、スライド変位部材３７０の配置に関わらず生じる。

【０２９９】

左右内突設部３１８に当接した後の球の流下について場合を分けて説明する。スライド変位部材３７０が前側位置に配置された状態では、球は、上突設部３７６や、前後長突設部３１７（図１８参照）に当接しながら、スライド変位部材３７０の薄板部３７１を転動し、通常検出センサＳＥ１２側へ流れる。

【０３００】

前後長突設部３１７の突設端部は、上突設部３７６と同様の用途を有する。即ち、球の流下方向を切り替えるための湾曲面として形成されるので、その湾曲面の曲率半径は、上突設部３７６の前側面３７６ａの曲率半径とほぼ同じとされる。目安として、上突設部３７６は左右内側を始点とし、上面視で確変検出センサＳＥ１１の貫通孔の中心位置の後方位置を終点とする湾曲面を構成し（図１７参照）、一方で、前後長突設部３１７は流路の天井面を始点とし、左右方向視で、スライド変位部材３７０の前側位置における前側面３７６ａの終点位置（後端位置）と近接する位置を終点とする湾曲面を構成している（図１８参照）。

【０３０１】

ここで、薄板部３７１の上側面が左右外側へ下降傾斜する傾斜面として形成されており、左右内突設部３１８との当接により左右外側へ勢い付けされた球は、その勢いを活かして左右外方向へ流下することになるので、球の流下を滑らかに形成することができる。

【０３０２】

更に、左右外方向へ流下する球の上方において左右外突設部３１９が形成されており、球跳ねが抑制されることによっても、球の流下を滑らかに形成することができる。左右外突設部３１９の目的が球の流下方向の切り替えでは無く球跳ねの抑制であることから、その形状は前後長突設部３１７とは大きく異なり、その突設端部は、確変検出センサＳＥ１１の上方から通常検出センサＳＥ１２の上方に亘って形成される大きな曲率半径の湾曲面として形成される。

【０３０３】

特に、本実施形態では、左右外突設部３１９が検出センサＳＥ１の開口の中心（即ち、流路の中心）よりも正面側に配設されていることから（図１９参照）、左右外突設部３１９と球とが上下方向で当接する場合に、球の中心が左右外突設部３１９の厚み中心よりも後方側に配置され易い。そのため、左右外突設部３１９と球とが上下方向で当接した際に、球に対して後方向成分を有する負荷がかかり易いようにすることができるので、球が正面側に逆流することを防止することができる。

【０３０４】

これらの構成から、複数の球が流下する場合に球詰まりが生じたり、球の逆流が生じたりすることを防止し易くすることができる。

【０３０５】

スライド変位部材３７０が後側位置に配置された状態では、薄板部３７１や上突設部３７６が前後長突設部３１７よりも後方に退避しているので、球は、前後長突設部３１７に当接して流れる。

【０３０６】

前後長突設部３１７は、突設端部（湾曲面）の面形状が、法線が第３流路構成部３３６の中心を通る形状とされており、確変検出センサＳＥ１１の貫通孔の中心位置の真後ろに厚み中心が配置されるので、当接した球に対して左右方向の成分が抑制された負荷を与えやすい。この負荷は、前後長突設部３１７の突設先端が凹状の湾曲面形状とされることから（図２０参照）、球を前斜め下方に流す負荷として機能する。

【０３０７】

そのため、左右内突設部３１８からの勢い付けでは右方に行き切らなかった球は、前後長突設部３１７からの負荷により前斜め下方への負荷を受け確変検出センサＳＥ１１側へ流れる。

【０３０８】

ここで、前後長突設部３１７との衝突時の当たり所によっては、球が正面側に跳ね返る（逆流が生じる）可能性が危惧されるが、本実施形態では、上述のように、左右内突設部３１８との当接により左右外斜め下方に勢い付けされているので、球が正面側に跳ね返ったとしても、球は第３流路構成部３３６の下底部後端（図２０参照）や、前側枠状部３３３の後側面（図１９参照）に衝突するに留まり、第３流路構成部３３６を逆流する事態が生じることを回避し易くすることができる。

【０３０９】

本実施形態で独特なのは、スライド変位部材３７０が後側位置に配置され球が確変検出センサＳＥ１１側へ流れる際にも、スライド変位部材３７０が前側位置に配置され球が通常検出センサＳＥ１２側へ流れる場合と同様に、左右内突設部３１８から負荷による左右外側へ向けた変位が球に生じることである。この用途については、後述する。

【０３１０】

スライド変位部材３７０は、前側位置と後側位置とでスライド変位可能に構成されるところ、球がスライド変位部材３７０に向かって第３流路構成部３３６を流下している最中にスライド変位部材３７０が閉鎖動作（後側位置から前側位置へ向けた動作）をすると、球に前向きの負荷を与える可能性があり、球に第３流路構成部３３６を逆流させる方向（前向き）の負荷が与えられる可能性がある。

【０３１１】

これを防ぐために、スライド変位部材３７０の変位動作を制御することが好ましい。例えば、球がスライド変位部材３７０に到達する前に閉鎖動作を完了させておくように制御すれば、動作中のスライド変位部材３７０に球が衝突する可能性を排除できるので、球が逆流する可能性を低くすることができる。

【０３１２】

また、スライド変位部材３７０の上突設部３７６の前面が左右外側を向く湾曲面として形成されていたり、左右内突設部３１８が球にもれなく衝突するように配置されたりすることにより、第３流路構成部３３６の後端部に到達した球を左右外側に案内する作用を生じさせることができる。これにより、球の逆流が生じにくくすることができる。

【０３１３】

また、スライド変位部材３７０の開放動作（前側位置から後側位置へ向けた動作）は球と対抗する方向の動作ではなく、球から離れる側への動作なので、例えば、球がスライド変位部材３７０の薄板部３７１に乗っている時に動作が実行されても、その球を正面側に押し返す負荷は生じにくい。従って、開放動作については、球の配置を考慮せず任意のタイミングで実行する制御としても、球の逆流が生じ易くすることは無いと考えられる。

【０３１４】

球がスライド変位部材３７０の上面で前転回転しながら薄板部３７１を転動する（まだ左右外側に流れる前段階の）場合、スライド変位部材３７０の開放動作は、球に対して、回転を抑える方向（後転させる方向）の負荷を与えるので、球の回転を留めることができ、球の流れを停止させ自由落下に移し易い。

【０３１５】

そのため、球が薄板部３７１を転動中にスライド変位部材３７０が開放動作した場合に

、球がそれまでの転動の勢いで通常検出センサＳＥ１２に案内されることを回避し易くすることができ、球を確変検出センサＳＥ１１に案内し易くすることができる。

【０３１６】

上述した振分装置３００を備える本実施形態におけるパチンコ機１０における、振分装置３００の遊技者目線での見え方について説明する。以下では、一例として、水平方向に対する視線の角度が異なる状態で場合を分けて説明する。

【０３１７】

図２１は、可変入賞装置６５及び振分装置３００の正面図であり、図２２は、図１６の矢印ＸＸＩＩ方向視における可変入賞装置６５及び振分装置３００の斜視図であり、図２３は、図１６の矢印ＸＸＩＩＩ方向視における可変入賞装置６５及び振分装置３００の斜視図である。

【０３１８】

前提として、パチンコ機１０を操作する遊技者は、操作ハンドル５１（図１参照）を握り回転させることを除き、好みの姿勢で遊技を行うことができる。例えば、パチンコ機１０から頭を十分に離して、水平または水平から５度程度下降傾斜する方向の視線（図２２参照）でガラスユニット１６（図１参照）の内側を見るようにして遊技を行っても良いし、パチンコ機１０に頭を近づけて、水平から３０度程度下降傾斜する方向の視線（図２３参照）でガラスユニット１６の内側を見るようにして遊技を行っても良い。一般的には、前者の方が広い視界を確保できるが、細かな部分には気付きにくい一方で、後者は視界が狭くなるが、その視界における細かな部分には気付き易い。

【０３１９】

図２１は、基準として図示するものであり、以下では主に、図２２及び図２３を対比しながら説明を行う。なお、図２１から図２３では、便宜上、開閉板６５ｂの開放状態が図示される。

【０３２０】

図２１には、発光手段３５１が想像線で図示される。なお、発光手段３５１は左右対称に配設されているが（図１３参照）、理解を容易とするために左半部のみが図示される。最上部に配置される発光手段３５１の機能については上述した通りであるので、ここでは下側部３５３に配置される左半部における３個の発光手段３５１について説明する。

【０３２１】

まず、上側の発光手段３５１は、シール部材３１３に向けて光を照射する。シール部材３１３は上述のように、赤色透明に形成されているので、発光手段３５１から光が照射された場合、シール部材３１３の周辺が赤く照らされる。これにより、シール部材３１３及びその周辺に対する遊技者の注目力を向上することができる。シール部材３１３は第３流路構成部３３６の真上に配設されているので（図１８参照）、第３流路構成部３３６に注目させることができる。

【０３２２】

なお、上側の発光手段３５１の正面側においては、光拡散加工面３３２ｅの形成が省略されている（図１８参照）。これにより、発光手段３５１からの光が光拡散加工面３３２ｅにより上下方向に引き延ばされるように視認されることを回避し、シール部材３１３周辺を集中的に光らせることができる。

【０３２３】

なお、発光制御については何ら限定されるものではないが、例えば、大当たり遊技中に、第３流路構成部３３６を流下する球に注目させたい状況においてシール部材３１３に光を照射するように制御することで、シール部材３１３に注目させ、その下側に配置される第３流路構成部３３６の後端部に自然と視線を誘導することができる。

【０３２４】

次に、下側において左右に並んで配置される発光手段３５１は、それぞれ、確変検出センサＳＥ１１と、通常検出センサＳＥ１２の真上位置に対応する。即ち、この発光手段３５１の制御を、球が確変検出センサＳＥ１１に入球した場合には確変検出センサＳＥ１１

の真上位置に配置される発光手段３５１を発光させる一方、球が通常検出センサＳＥ１２に入球した場合には通常検出センサＳＥ１２の真上位置に配置される発光手段３５１を発光させるように制御することで、遊技者に対して、球の通過箇所を報知することができる。

【０３２５】

これらの、下側において左右に並んで配置される発光手段３５１から照射される光は、光拡散加工面に向けられる。即ち、左右中央側の発光手段３５１は、光拡散加工面３３２ｅと対向配置されており（図１８参照）、左右外側の発光手段３５１は、光拡散加工面３１９ａ（図１７参照）と対向配置されている。光拡散加工面３１９ａ，３３２ｅは、各部の上下に亘って形成される。

【０３２６】

従って、発光手段３５１からの光が視認される位置は、発光手段３５１のＬＥＤの高さ位置に限定されるものではなく、上下に広がりがある範囲として形成される（上下に延びる帯状の光として視認される）。そのため、図２１から図２３に示すように、遊技者の視線の角度が変わったとしても、発光手段３５１からの光の視認性を向上することができる。

【０３２７】

図２２における水平からの下降傾斜の角度（５度）は、第３流路構成部３３６の傾斜角度と同じである。そのため、図２２では、第３流路構成部３３６の後端部に配置されるスライド変位部材３７０の外形を視認することができる。但し、スライド変位部材３７０は前後方向に変位するため、この視界では、スライド変位部材３７０の変位による変化を把握し難い。

【０３２８】

一方、図２３に示すように、水平から３０度の角度の方向視では、第３流路構成部３３６の後端部における視界の上下幅が狭まっているので、図２２の方向視に比較して、第３流路構成部３３６の後端部における球の流下態様の切り替わりの確認の難易度が高くなる。但し、この視界では、スライド変位部材３７０が前後方向に変位する際の上突設部３７６の変位を把握し易い。

【０３２９】

なお、中部材３３０の配置用貫通孔３３２ａがスライド変位部材３７０の上突設部３７６を通すのに十分な最低限の大きさの開口として形成されているので、後側枠状部３３２の内部に配置される状態切替装置３６０（図１７参照）を視認し難いように隠すことができている。

【０３３０】

実際の大当たり遊技中には、ラウンド遊技中に特定入賞口６５ａに複数個の球が案内され、各流路構成部３３４～３３６を順に流下する。各流路構成部３３４～３３６に複数個の球が同時に配置される場合、奥側の球へ向けた視線が、手前側の球により妨げられる可能性がある。

【０３３１】

例えば、第３流路構成部３３６に複数の球が配置される場合、それらの球は、図２２では、同位置に配置される。従って、手前側の球によって、奥側の球が隠される。

【０３３２】

また、球が通常検出センサＳＥ１２側へ流れる場合、第３流路構成部３３６の後端部から左右外方向へ流れることになる。第３流路構成部３３６から左右方向へ外れた後は前側枠状部３３３の光拡散加工面３３３ｂにより視認性が落ちるので、第３流路構成部３３６から左右方向へ外れる過程の球の動きを把握することが好ましいところ、第２流路構成部３３５の下流側端部位置（球Ｐ１の位置）から第３流路構成部３３６の上流側端部位置（球Ｐ２の位置）へ流入する球（第３流路構成部３３６から左右方向に若干ずれる球）があると、その球により、第３流路構成部３３６の後端部から左右方向へ外れる過程の球が隠される。

【０３３３】
換言すれば、球が確変検出センサＳＥ１１へ流れたか、通常検出センサＳＥ１２へ流れたかの把握は、第３流路構成部３３６の後端部で球の流下方向が左右外側へ切り替わったか、否かを視認すれば可能であり、第３流路構成部３３６の内側および右縁部周辺に注目していれば良い。これに対し、本実施形態では、その視線の方向上の上流側における第３流路構成部３３６と第２流路構成部３３５との連結位置において、第３流路構成部３３６の内側および右縁部周辺を含む経路で球が流下し得るように構成される（球Ｐ１の位置から球Ｐ２の位置への移動）。そのため、上流側を流下する球の配置によっては、球が確変検出センサＳＥ１１へ流れたか、通常検出センサＳＥ１２へ流れたかを把握し損なう事態が生じ得る。

【０３３４】
また、図２３の視線では、第３流路構成部３３６の後端部を流れる球と、第２流路構成部３３５を流れる球とが、上下方向の配置で明確に分けられるので、上流側の球が目隠しとなる事態を回避し易い。一方で、第３流路構成部３３６の後端部において視認される流路の上下幅が狭い分、方向視で視認できる球の面積が小さくなる。

【０３３５】
特に、第３流路構成部３３６の後端部を通過した球は、上述したように、スライド変位部材３７０の配置によらず、一旦右斜め下方へ流下した後において、確変検出センサＳＥ１１へ向かう流下経路か、通常検出センサＳＥ１２へ向かう流下経路か、が切り替わる。そのため、球の流下経路として、球が真下に流下するか、球の流下方向が右方へ切り替わるかで切り替えられる場合に比較して、切替位置において視認される球の面積が小さくなる。

【０３３６】
切り替わりの態様としては、他に、球の流下経路が真下に流下するか、右方へ切り替わるかで切り替わるかという場合のように、切替位置がより上流側に配置される場合が想定される。例えば、左右内突設部３１８が形成されず、確変検出センサＳＥ１１へ向かう球は第３流路構成部３３６の後端部から真下へ流下する場合には、切替位置は、少なくとも第３流路構成部３３６の中心線後方の位置となる。

【０３３７】
これに対し、本実施形態のように切替位置が第３流路構成部３３６の中心線後方よりも右側に変位している場合、球が第３流路構成部３３６の下底部よりも下方に落ちる（第３流路構成部３３６の下底部上面とスライド変位部材３７０の薄板部３７１の上側面との上下差分だけ落ちる、図１８参照）ことで、第３流路構成部３３６自体に球の一部が隠される作用に加え、球が第３流路構成部３３６を通して視認される範囲よりも左右外側に変位することで、前側枠状部３３３に球の一部が隠される。

【０３３８】
従って、第３流路構成部３３６の後端部を通過した球の、遊技者目線で視認可能な面積が小さくなるので、球がいずれの流下経路で流下したかの把握を行うことが困難となる。これにより、第３流路構成部３３６の後端部付近を流下する球に対する注目力を更に向上することができる。

【０３３９】
このように、本実施形態によれば、第３流路構成部３３６の後端部を流下する球の流下方向を識別する方向視として説明した複数の方向視（図２２及び図２３参照）において、いずれにも長所および短所が設定される。これにより、振分装置３００の視認の仕方をとっても、遊技者に一辺倒の遊技を要求するのではなく、遊技者に好みの視認方法を調整および選択させることができ、遊技態様に幅を持たせることができるので、遊技者が遊技に飽きる事態が生じることを回避することができる。

【０３４０】
遊技者の視界の確保は種々の方法で実現することができるが、本実施形態では、特に、上部材３１０の第２上面部３１４ｂ間に空隙が形成されることで、第３流路構成部３３６

の屋根部が取り外されたような状態とすることができるので、第３流路構成部３３６を視認し易くすることができる。

【０３４１】

図２２及び図２３の方向視について、振分装置３００よりも正面側における視認性について説明する。図２２及び図２３では図示を省略しているが、振分装置３００よりも正面側には、被固定部材１６１及び前意匠部材１６２（図５参照）が配置されるので、部材の厚みにより透過する光が少なくなることから、視界が遮られることになる。

【０３４２】

前意匠部材１６２により視界が遮られる範囲が狭くなる分、図２３の方向視の方が、図２２の方向視に比較して、振分装置３００の内部を流下する球を視認し易くなる可能性がある。

【０３４３】

被固定部材１６１及び前意匠部材１６２は、基本的には、上述のように平坦形状とされおり、光の屈折が生じ難いように構成されている（図１２参照）。これにより、振分装置３００の視認性が悪くなることを回避することができる。

【０３４４】

機能上、平坦形状とできない部分についても、視認性に与える影響が小さくなるように形成している。例えば、振分装置３００を位置決め、係合するための突設支持部１６１ｃ～１６１ｅは、斜め下方向へ向く遊技者の視線を遮ることが無いよう、流路構成部３３４～３３６を見る遊技者の視線の外方（上側後方、左右外側、左右側下方、）に配設されている。

【０３４５】

また、例えば、対称突設部１６１ｆは、球の中心高さに形成され、強度上必要最低限の厚さで肉薄に形成されている（図１８参照）。これにより、対称突設部１６１ｆが球と遊技者の目との間に配置されたとしても、球全体が隠されることを防止することができるので、流路構成部３３４～３３６を流下する球の視認性を確保することができる。

【０３４６】

被固定部材１６１と前意匠部材１６２との間には、特定入賞口６５ａから逸れた球が流下し、アウト口７１へ向けて流下する。アウト口７１へ向けて流下する球による視界への影響について説明する。

【０３４７】

図２２及び図２３では、開閉板６５ｂの開放状態でアウト口７１へ向けて流下する球の配置の一例が図示される。開閉板６５ｂの開放中は、開閉板６５ｂの上方から流下した球は開閉板６５ｂに乗り特定入賞口６５ａ側へ案内されることになるので、アウト口７１へ向けて流下する球は、開閉板６５ｂの左右に逸れた球となる。これらの球は、延設部１６２ｂと延設部１６２ｃとの間を流下し、内レール６１に案内されてアウト口７１へ向けて流下する。

【０３４８】

図２２及び図２３に示すように、遊技者目線では、内レール６１を流れる球の配置は、各流路構成部３３４～３３６よりも下方となるので、内レール６１を流れる球により各流路構成部３３４～３３６を流下する球の視認性が低下することを回避し易くすることができる。

【０３４９】

一方で、内レール６１を流下する球の流下は、第２流路構成部３３５を流下する球の流下と同様に、緩やかな角度で遊技領域の左右方向中央側へ向けて流れる態様であるので、第２流路構成部３３５を流下する球と同様に、遊技者の視線を遊技領域の左右中央位置に誘導する効果を奏する。この効果は、遊技者の視線をアウト口７１に誘導すると共に、第３流路構成部３３６に誘導する。即ち、アウト口７１及び第３流路構成部３３６の左右方向位置が同様の位置（左右中央位置）とされるので、遊技者が上下に視線を動かすことで、アウト口７１及び第３流路構成部３３６の両方を視認可能となるような状態に視線を誘

導する。
【０３５０】
従って、遊技領域へ向けて打ち出した球が、効率的に特定入賞口６５ａに入球し易いか（大当たり遊技中の無駄球が少なくて済む状態か）、逸れて延設部１６２ｂと延設部１６２ｃとの間を流下する球が頻発するか（大当たり遊技中の無駄球が頻発する状態か）に関わらず、流下する球により遊技者の視線を第３流路構成部３３６に誘導するという効果を奏することができる。
【０３５１】
即ち、球が特定入賞口６５ａに入球した場合には、第２流路構成部３３５を流下する状態において遊技者の視線を第３流路構成部３３６へ誘導でき、球が特定入賞口６５ａを逸れる場合には、内レール６１を流下する状態において遊技者の視線を第３流路構成部３３６へ誘導することができる。
【０３５２】
アウト口７１へ向かう球は、無駄球として遊技において何ら作用を生じないことが通常であるが、本実施形態では上述のように構成することで、アウト口７１へ向かう球に、遊技者の視線を第３流路構成部３３６へ誘導させる役割を持たせることができる。
【０３５３】
なお、開閉板６５ｂの閉鎖状態においては、球が開閉板６５ｂの正面側を流れ第２流路構成部３３５の正面側を通過することで、第２流路構成部３３５の視界を低下させる可能性がある。
【０３５４】
一方で、特定入賞口６５ａの左右中央位置上方に第２入賞口１４０及び電動役物１４０ａが配設され、特定入賞口６５ａの左右中央位置下方に第３流路構成部３３６が配設されるという本実施形態の構成によれば、第２入賞口１４０及び電動役物１４０ａにより球の流下を防止することができるので、球が第３流路構成部３３６の正面側を流下することを防止することができる。従って、開閉板６５ｂの正面側を流下する球により第３流路構成部３３６及びその後端部周辺の視認性が低下する事態の発生を回避することができる。
【０３５５】
本実施形態では、特定入賞口６５ａに入球した球がスライド変位部材３７０に到達するまでの時間を流路構成部３３４～３３６の形成長さにより確保できているが、この弊害として生じやすい配置スペースの増大の回避を図っている。即ち、図２２及び図２３に示すように、遊技者目線において、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａと、第３流路構成部３３６の配置の目安としてのスライド変位部材３７０と、の配置間隔を短く形成している。
【０３５６】
そればかりか、スライド変位部材３７０が特定入賞口６５ａの下側後方に配置されているので（図１８参照）、図２３に示すように遊技者目線として高頻度で生じる後側斜め下方へ向く視線において、特定入賞口６５ａの外形にスライド変位部材３７０の外形が食い込むほどに近接配置しているように視認される。
【０３５７】
加えて、左右長尺に構成した特定入賞口６５ａに入球し、その左右両端部に配置される検出センサＳＥ１の球通過孔１６３ｂを通過した球の流下経路は、左右対称の各流路構成部３３４～３３６を経由して特定入賞口６５ａの左右中央側下方に集められる。これにより、特定入賞口６５ａの左右幅を球が左右方向に流下する場合に比較して、スライド変位部材３７０に球が到達するまでの時間を短くすることができる。加えて、球の流下経路として必要とされる構造を、下側ほど左右長さが短くなる構造とすることができるので、湾曲形状の内レール６１の下縁部付近に配置し易くすることができる。
【０３５８】
特に、本実施形態では、特定入賞口６５ａがアウト口７１に近接配置させる設計思想であるところ、第２流路構成部３３５の左右内側端部から真下に球を流下させる構造では無

く、第２流路構成部３３５の左右内側端部から第３流路構成部３３６により球を後方へ流下させる構造を採用することで、アウトロ７１（湾曲面部３８７の正面側（上流側）に配設される開口）を第２流路構成部３３５の真下位置に形成することができる。これにより、特定入賞口６５ａとアウトロ７１との上下間隔の短縮化を図っている。

【０３５９】

このように、遊技者目線における特定入賞口６５ａ及びスライド変位部材３７０の上下配置幅および左右幅を短くできることで、一定の規格に正面視での大きさが制限される遊技領域の設計において、特定入賞口６５ａ及びスライド変位部材３７０が占める範囲の上下幅を短縮化できるので、遊技領域の設計自由度を向上することができる。

【０３６０】

例えば、本実施形態のように、特定入賞口６５ａの配置を遊技領域の下端付近に配置することができるので、可変入賞装置６５を左右対称の遊技領域に有効に利用することができる。

【０３６１】

次いで、振分装置３００に入球後の球の流下と、その流下を考慮した可動役物（可変入賞装置６５、スライド変位部材３７０）の作動パターンの一例について説明する。

【０３６２】

まず、前提として、開口部３１２を通った球は、第１流路構成部３３４、第２流路構成部３３５、第３流路構成部３３６を順に流下する（図１６及び図１７参照）。各流路構成部３３４～３３６を球が通過するのに要する時間は任意に設定可能であるが、本実施形態では、各流路構成部３３４～３３６を約０．３秒で通過するように設計されている。

【０３６３】

即ち、特定入賞口６５ａに入球してから第１流路構成部３３４を通過するのに０．３秒、第２流路構成部３３５を通過するのに０．３秒、第３流路構成部３３６を通過するのに０．３秒を要するように構成される。

【０３６４】

従って、可変入賞装置６５の開閉板６５ｂが開放状態となった直後に球が特定入賞口６５ａに入球したとしても、０．９秒間は、第３流路構成部３３６の後方端部に配置される検出センサＳＥ１に球が到達することは無いように構成される。これにより、開閉板６５ｂが開放状態となった後の０．９秒間は、スライド変位部材３７０の位置に寄らず、球が確変検出センサＳＥ１１にも、通常検出センサＳＥ１２にも通過し得ないので、球の誤入賞を危惧せずにスライド変位部材３７０の作動パターンを設計することができる。

【０３６５】

そのため、例えば、Ｖ確変アタッカーを備えるパチンコ機に一般的に見られるような、Ｖ入賞センサへの誤入賞を防ぐためにラウンド遊技Ｒ開始時に開閉板を短時間解放させる制御（開閉板の動作に不自然さを伴う制御）を不要とすることができる。これにより、特定入賞口を開閉する開閉板の動作態様が自然な動作となり、安心して遊技を楽しむ環境を遊技者に提供することができる。

【０３６６】

また、上記例におけるＶ確変アタッカーを備えるパチンコ機では、Ｖ確変アタッカーの開放直後に入球する球が誤入賞を生じやすかったが、本件の可変入賞装置６５では、後述するように、開放直後に入球する球によって、逆に好ましい効果（例えば、スライド変位部材３７０の動作を球で隠す効果）が生じるので、開放直後の球の入球を生じさせないようにする工夫を不要とすることができる。

【０３６７】

なお、球の通過に要する時間は、各流路構成部３３４～３３６の長さや傾斜、流路内壁部の形状など（平滑か、凹凸形状かなど）により任意に設定可能である。

【０３６８】

図２４を参照して、第１実施形態の第１制御例におけるＲＯＭ２０２（図４参照）の内容について説明する。図２４（ａ）は、主制御装置１１０内のＲＯＭ２０２の電気的構成

を示すブロック図であり、図２４（ｂ）は、第１当たり種別カウンタＣ２と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、図２４（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタＣ４と普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。

【０３６９】

図２４（ａ）に示すように、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２には、上記した固定値データの一部として、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、および変動パターン選択テーブル２０２ｄが少なくとも記憶されている。

【０３７０】

第１当たり乱数テーブル２０２ａは、定期的（例えば、２ｍｓｅｃごと）に更新される第１当たり乱数カウンタの大当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。始動入賞に基づいて取得した第１当たり乱数カウンタの値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の大当たりであると判別される。

【０３７１】

第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図２４（ｂ）参照）は、大当たり種別を決定するための判定値が記憶されているデータテーブルであり、第１当たり種別カウンタＣ２の判定値が、各大当たり種別、および特別図柄の抽選契機となった入賞口の種別に対応付けて規定されている。本実施形態のパチンコ機１０では特別図柄の大当たりと判定された場合に、始動入賞に基づいて取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂとが比較され、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する大当たり種別が選択される。

【０３７２】

具体的には、特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９」の範囲には、大当たりＡ１が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ１参照）。

【０３７３】

大当たりＡ１となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第１の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＸ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３７４】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１０～１９」の範囲には、大当たりＡ２が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ２参照）。

【０３７５】

大当たりＡ２となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第１の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＹ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３７６】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～３９」の範囲には、大当たりＢ１が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ３参照）。

【０３７７】

大当たりＢ１となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第２の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＸ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３７８】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「４０～４９」の範囲には、大当たりＢ２が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ４参照）。

【０３７９】

大当たりＢ２となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第２

の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＹ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３８０】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～７９」の範囲には、大当たりＣ１が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ５参照）。

【０３８１】

大当たりＣ１となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第３の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＸ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３８２】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲には、大当たりＣ２が対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ６参照）。

【０３８３】

大当たりＣ２となった場合は、４ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第３の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＹ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３８４】

上述したように、特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）で大当たりとなると、いずれの場合であっても、４ラウンドの大当たり遊技が選択される。そのため、後述する特別図柄２の抽選で大当たりとなる場合に比較して大量の賞球を期待することはできない。一方で、４ラウンドの大当たり遊技は、１５ラウンドの大当たり遊技に比較して短時間で終了するので、その後の大当たりの獲得を狙うための球の打ち出しを、早期に開始することができる。

【０３８５】

一方、特別図柄２の抽選（第２入賞口１４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９９」の範囲には、大当たりａが対応付けられて規定されている（図２４（ｂ）の２０２ｂ７参照）。

【０３８６】

大当たりａとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技が、可変入賞装置６５の第３の作動パターン（詳細は後述する）で実行され、スライド変位部材３７０は作動パターンＸ（詳細は後述する）で変位するように制御される。

【０３８７】

上述したように、特別図柄２の抽選（第２入賞口１４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなると、いずれの場合であっても、１５ラウンドの大当たり遊技が選択される。そのため、特別図柄２の抽選での大当たりを獲得した方が、特別図柄１の抽選での大当たりを獲得する場合に比較して大量の払い出し賞球を得ることができるので、遊技者が、特別図柄２の抽選を行うための遊技（第２入賞口１４０へ入球させるように球を発射するような遊技）を行うことのモチベーションを高めることができる。

【０３８８】

また、スライド変位部材３７０の作動パターンが作動パターンＸで固定となるので、スライド変位部材３７０の視認性を確保しないでも、遊技者に生じる不利益が大きくなる可能性が少ない。そのため、スライド変位部材３７０への視認性が若干悪くなるという短所があるが特定入賞口６５ａへの入球が生じ易い長所がある作動パターンとして第３の作動パターンがある時に、特別図柄２の抽選での大当たりの可変入賞装置６５の作動パターンを第３の作動パターンで設定することで、短所の影響を低下させ、大当たり遊技に要する時間を短くすることができるという長所のみを際立たせることができる。

【０３８９】

即ち、特別図柄２の抽選での大当たり遊技が間延びする可能性を低くすることができるので、遊技者にとって気持ちの良い（賞球の払い出しの時間効率が良い）大当たり遊技を実現することができる。

【０３９０】
なお、特別図柄２の大当たり種別の設定は、これに限定されるものではない。例えば、特別図柄２の大当たり種別として、スライド変位部材３７０が作動パターンＹで変位制御される大当たり種別を設けても良い。また、この大当たり種別は、少ない割合（例えば、２０％程度）で設けるようにしても良い。
【０３９１】
これにより、スライド変位部材３７０に対する遊技者の注目力を向上させることができるので、遊技者が大当たり遊技を漫然と遊技することを防止することができる。即ち、スライド変位部材３７０の変位動作を遊技者に視認させ、変位動作のタイミングで遊技者を一喜一憂させ、遊技者の興趣を高めることができる。
【０３９２】
上述した通り、特別図柄の確変中は、普通図柄の当たり確率がアップし、普通図柄の変動時間が短くなり（３秒）、普通図柄の当たりとなった場合における電動役物１４０ａの開放時間が長くなる（１秒×２回）ように設定される。よって、第２入賞口１４０へと球を入球させやすくなるので、特別図柄２の抽選が行われやすくなる。従って、一旦特別図柄の確変状態へと移行させることができれば、特別図柄の大当たりとなりやすく、且つ、大当たりとなった場合に大当たりａ（利益バランスの良い大当たり）となりやすい特別図柄の確変状態が繰り返されやすくなるので、遊技者が多量の賞球を獲得し易くなる。これにより、遊技者に対して特別図柄の確変状態へと移行させることを強く期待させながら遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【０３９３】
第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図２４（ｃ）参照）は、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２８」が規定されている（図２４（ｃ）の２０２ｃ１参照）。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図２４（ｃ）の２０２ｃ２参照）。本実施形態のパチンコ機１０では、普通入賞口６７を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と、第２当たり乱数テーブル２０２ｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。変動パターン選択テーブル２０２ｄは、変動パターンの表示態様を決定するための変動種別カウンタの判定値が表示態様毎にそれぞれ規定されているデータテーブルである。
【０３９４】
図２５は、各大当たり種別における１ラウンド目の可変入賞装置６５の開閉板６５ｂの作動パターンと、振分装置３００のスライド変位部材３７０の作動パターンと、の計時変化を示した図である。
【０３９５】
ＭＰＵ２０１（図４参照）は、前記特図当り決定において大当りを決定した場合には、特図変動表示（図柄変動演出）の終了後に、（決定した種類の）大当り遊技の制御を開始する。以下、大当り遊技が付与される場合に行われる可変入賞装置６５の開閉板６５ｂと、振分装置３００のスライド変位部材３７０と、の作動制御について説明する。なお、図２５の説明では、図２４を適宜参照する。
【０３９６】
なお、本制御例では、大当たり種別の違いで駆動態様が異なるのは１ラウンド目のみであり、２ラウンド目以降は共通の駆動態様とされる。そのため、大当たり種別ごとの１ラウンド目の駆動態様についてそれぞれ説明する。
【０３９７】
大当たりＡ１又は大当たりＡ２の場合には、第１の作動パターンに基づいて開閉板６５ｂが動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド１６５ｃ（図１１参照）を駆動制御する。ＭＰＵ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＯＰ（１０秒）が経過するまで開閉板６５ｂを閉鎖状態に保

持するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御し、オープニング時間ＯＰの経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【０３９８】

すなわち、第１の作動時間Ｔ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板６５ｂを閉鎖状態から変位させて特定入賞口６５ａへの入球が可能な開放状態とする。初回の開放状態は０．２秒間維持される。第１の作動パターンでは、この０．２秒間の開放動作を、１．０秒間隔で実行するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、開閉板６５ｂに長時間動作を行わせる。

【０３９９】

なお、初回の開放時間は、遊技球を発射し続ける場合に、少なくとも１個の遊技球が特定入賞口６５ａに入り得る期間よりも長く、規定個数（本実施形態では１０個）の遊技球が特定入賞口６５ａに入るのに要する期間よりも短い期間として設定される。

【０４００】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、開閉板６５ｂを閉鎖状態へ変位させて特定入賞口６５ａを閉鎖するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【０４０１】

第１の作動パターンにおける０．２秒の開放時間は、開閉板６５ｂの開放中に特定入賞口６５ａの左右片側に入球する球の個数を１個に制限するために設定される。特定入賞口６５ａの左右片側に複数の球が連なって入球する（以下、「連球で入球」とも称する）ことを防止するための開放時間の設定であり、特定入賞口６５ａへの入球個数を１個に限定する意図では無い。即ち、０．２秒の開放時間であっても、特定入賞口６５ａの左右両側に各１球ずつ球が到達し、一度に特定入賞口６５ａに入球することは生じ得ることである。

【０４０２】

大当たりＡ１の場合には、作動パターンＸに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１（図１７参照）を駆動制御する。電磁ソレノイド３６１の駆動制御は、開閉板６５ｂの駆動制御を基準として設定されるものであり、本実施形態では、開閉板６５ｂが開放状態へ変位するのと同時に、スライド変位部材３７０が前側位置から後側位置へ変位するよう駆動制御される。

【０４０３】

そのため、特定入賞口６５ａに入球した球は、各流路構成部３３４～３３６（図１９参照）を通過し、スライド変位部材３７０の前側を通り確変検出センサＳＥ１１（図２０参照）を通過する。

【０４０４】

この時、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個に限定されるので、他の球に視認性が低下させられることが無い。そのため、遊技者は、球が確変検出センサＳＥ１１を通過する状況を容易に視認することができる。

【０４０５】

大当たりＡ２の場合には、作動パターンＹに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１（図１７参照）を駆動制御する。電磁ソレノイド３６１の駆動制御は、開閉板６５ｂの駆動制御を基準として設定されるものであり、本実施形態では、開閉板６５ｂが開放状態へ変位するのと同時に、スライド変位部材３７０が前側位置から後側位置へ変位するよう駆動制御され、０．８秒経過後にスライド変位部材３７０が後側位置から前側位置へ変位するよう駆動制御される。

【０４０６】

上述の通り、各流路構成部３３４～３３６（図１７参照）を球が通過するのに要する時間は約０．９秒で設定されているので、球がスライド変位部材３７０に到達する前にスラ

イド変位部材３７０は前側位置に変位される。
【０４０７】
そのため、特定入賞口６５ａに入球した球は、各流路構成部３３４～３３６（図１７参照）を通過し、スライド変位部材３７０の上側を通り通常検出センサＳＥ１２（図１７参照）を通過する。
【０４０８】
この時、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個に限定されるので、他の球に視認性が低下させられることが無い。そのため、遊技者は、球が通常検出センサＳＥ１２を通過する状況を容易に視認することができる。
【０４０９】
スライド変位部材３７０の変位開始時間としての０．８秒は、球が各流路構成部３３４～３３６を通過するのに要する時間よりも短い時間としての思想と、球が第３流路構成部３３６に到達するのに要する時間よりも長い時間としての思想から、設定される。
【０４１０】
即ち、本実施形態によれば、球が特定入賞口６５ａに入球してから約０．６秒で第２流路構成部３３５を通過し、第３流路構成部３３６に到達するので、開閉板６５ｂの開放時間としての０．２秒の終了間際に球が特定入賞口６５ａに入球した場合であっても、その球が第３流路構成部３３６に到達してからスライド変位部材３７０を変位動作させることができる。
【０４１１】
従って、特定入賞口６５ａへの入球が生じさえすれば、球の入球タイミングに寄らず、第３流路構成部３３６に配置される球によりスライド変位部材３７０の動作を隠すことができる（図２２参照）。これにより、スライド変位部材３７０の変位動作が目立つことを回避することができ、確変検出センサＳＥ１１又は通常検出センサＳＥ１２へ入球する球として各流路構成部３３４～３３６を流下する球に対する注目力を向上させることができる。
【０４１２】
なお、スライド変位部材３７０の変位開始時間は、０．８秒に限定されるものではない。例えば、０．４秒に設定しても良い。この場合、球が第３流路構成部３３６に到達するよりも前にスライド変位部材３７０の変位を生じさせることができるので、球に視線が遮られる可能性は低く、スライド変位部材３７０の変位を遊技者に視認させることができる。
【０４１３】
但し、この場合であっても、第２流路構成部３３５が被固定部材１６１の前板部に近接配置され、スライド変位部材３７０よりも手前側に配置されていることから、遊技者の目線は第２流路構成部３３５を流下する球に集まり易い。即ち、第２流路構成部３３５を流下する球に注目させることで（例えば、第３図柄表示装置８１で「流れる球に注目！」等の表示をすることで）、スライド変位部材３７０の変位が遊技者に視認されることを回避し易くすることができる。
【０４１４】
なお、一方で、本実施形態では各流路構成部３３４～３３６が左右中央で区切られるように構成されているので、特定入賞口６５ａへの入球が左右片側であれば、入球が生じていない側の第３流路構成部３３６の後方に注目することで、流下する球に遮られることなくスライド変位部材３７０の変位を視認することができる（図２２参照）。
【０４１５】
このように、大当たりＡ１，Ａ２の場合は、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球の個数が１個に限定されることにより、その球への注目力の向上を図ることができると共に、球が確変検出センサＳＥ１１を通過するか、通常検出センサＳＥ１２を通過するか、を容易に遊技者に視認させることができる。
【０４１６】

大当たりＢ１又は大当たりＢ２の場合には、第２の作動パターンに基づいて開閉板６５ｂが動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド１６５ｃ（図１１参照）を駆動制御する。ＭＰＵ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＯＰ（１０秒）が経過するまで開閉板６５ｂを閉鎖状態に保持するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御し、オープニング時間ＯＰの経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【０４１７】

すなわち、第１の作動時間Ｔ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板６５ｂを閉鎖状態から変位させて特定入賞口６５ａへの入球が可能な開放状態とする。初回の開放状態は１．０秒間維持される。第２の作動パターンでは、この１．０秒間の開放動作を、１．０秒間隔で実行するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、開閉板６５ｂに長時間動作を行わせる。

【０４１８】

なお、初回の開放時間は、遊技球を発射し続ける場合に、少なくとも１個の遊技球が特定入賞口６５ａに入り得る期間よりも長く、規定個数（本実施形態では１０個）の遊技球が特定入賞口６５ａに入るのに要する期間よりも短い期間として設定される。

【０４１９】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、開閉板６５ｂを閉鎖状態へ変位させて特定入賞口６５ａを閉鎖するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【０４２０】

第２の作動パターンにおける１．０秒の開放時間は、開閉板６５ｂの開放中に特定入賞口６５ａの左右片側に複数の球が入球可能となる時間として設定される。特定入賞口６５ａの左右片側に複数の球が連なって入球する（以下、「連球で入球」とも称する）ことを許容するための開放時間の設定である。

【０４２１】

本制御例では、球の発射間隔は０．６秒間隔とされるので、球の流下間隔が発射時と変化していない場合であっても、開閉板６５ｂが１．０秒間で１回開放する間に、２個の球が特定入賞口６５ａに入球し得る。一方で、開閉板６５ｂの開放間隔は１．０秒おきに制限されているので、２個の球が各流路構成部３３４～３３６を通過する前に次の球が各流路構成部３３４～３３６に入球することは規制することができる。

【０４２２】

大当たりＢ１の場合には、上述した作動パターンＸに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１（図１７参照）を駆動制御する。また、大当たりＢ２の場合には、作動パターンＹに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１を駆動制御する。そのため、大当たりＢ１の場合に各流路構成部３３４～３３６を通過した球は確変検出センサＳＥ１１を通過し、大当たりＢ２の場合に各流路構成部３３４～３３６を通過した球は通常検出センサＳＥ１２を通過する。

【０４２３】

この時、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個の場合と、２個（以上）の場合とで各流路構成部３３４～３３６の見え方が異なる。左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個の場合には、大当たりＡ１，Ａ２の場合と同様に、他の球に視認性が低下させられることが無いので、遊技者は、球が確変検出センサＳＥ１１を通過する状況を容易に視認することができる。

【０４２４】

一方、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が２個（以上）の場合には、上流側の球が下流側の球を見る遊技者の視線上に配置されることで、下流側の球の視

認性が低下する可能性がある。そのため、球が確変検出センサＳＥ１１を通過するか、通常検出センサＳＥ１２を通過するかを知ろうと望む遊技者の、各流路構成部３３４～３３６を流下する球に対する注目力を向上することができる。

【０４２５】

大当たりＣ１、大当たりＣ２又は大当たりａの場合には、第３の作動パターンに基づいて開閉板６５ｂが動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド１６５ｃ（図１１参照）を駆動制御する。ＭＰＵ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＯＰ（１０秒）が経過するまで開閉板６５ｂを閉鎖状態に保持するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御し、オープニング時間ＯＰの経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【０４２６】

すなわち、第１の作動時間Ｔ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板６５ｂを閉鎖状態から変位させて特定入賞口６５ａへの入球が可能な開放状態とし、第１の作動時間Ｔ１を限度に開閉板６５ｂに長時間動作を行わせる。

【０４２７】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、開閉板６５ｂを閉鎖状態へ変位させて特定入賞口６５ａを閉鎖するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【０４２８】

本制御例では、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒ中において開閉板６５ｂが開放状態を維持するので、特定入賞口６５ａの左右片側に複数の球が連球で入球する状況が生じ得る。一方で、開閉板６５ｂの開放間隔が制限されているわけでは無いので、第２の作動パターンと異なり、２個の球が各流路構成部３３４～３３６を通過する前に次の球が各流路構成部３３４～３３６に入球することも生じ得る。従って、第２の作動パターンに比較して、第３の作動パターンの方が、各流路構成部３３４～３３６の下流側に配置された球の視認性が、上流側に配置される球により低下する状況が生じ易い。

【０４２９】

大当たりＣ１又は大当たりａの場合には、上述した作動パターンＸに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１（図１７参照）を駆動制御する。また、大当たりＣ２の場合には、作動パターンＹに基づいてスライド変位部材３７０が動作するようＭＰＵ２０１が電磁ソレノイド３６１を駆動制御する。そのため、大当たりＣ１又は大当たりａの場合に各流路構成部３３４～３３６を通過した球は確変検出センサＳＥ１１を通過し、大当たりＣ２の場合に各流路構成部３３４～３３６を通過した球は通常検出センサＳＥ１２を通過する。

【０４３０】

このように、確変検出センサＳＥ１１に球を通すか、通常検出センサＳＥ１２に球を通すかに関わらず、開閉板６５ｂを開放状態のまま維持する制御態様としているが、スライド変位部材３７０に球が到達するのに要する時間を構造から管理しているので、球噛みによるスライド変位部材３７０の誤動作の可能性は排除することができる。

【０４３１】

この時、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個の場合と、２個の場合とで各流路構成部３３４～３３６の見え方が異なる。左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が１個の場合には、大当たりＡ１，Ａ２の場合と同様に、他の球に視認性が低下させられることが無いので、遊技者は、球が確変検出センサＳＥ１１を通過する状況を容易に視認することができる。

【０４３２】

一方、左右片側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球が２個の場合には、上流側の球が下流側の球を見る遊技者の視線上に配置されることで、下流側の球の視認性が低

下する可能性がある。そのため、球が確変検出センサＳＥ１１を通過するか、通常検出センサＳＥ１２を通過するかを知ろうと望む遊技者の、各流路構成部３３４～３３６を流下する球に対する注目力を向上することができる。

【０４３３】

第３の作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて特定入賞口６５ａに入球可能なタイミングに制限が無いので、第２の作動パターンに比較して、各流路構成部３３４～３３６の球の配置が無秩序になり易い。そのため、検出センサＳＥ１の視認性は低下し易い。

【０４３４】

一方で、特定入賞口６５ａに入球可能なタイミングに制限が無いことは、ラウンド遊技Ｒの進行を早期に行わせることができる効果がある。即ち、ラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞）としての規定個数の球の入賞を早期に満たしやすく、大当たり遊技が間延びすることを回避することができる。

【０４３５】

特に、特別図柄２の大当たりは、１００％の確率でスライド変位部材３７０が作動パターンＸで駆動制御されるため、特定入賞口６５ａに入球させれば、確変検出センサＳＥ１１を球が通過することが約束されている。この場合、検出センサＳＥ及びスライド変位部材３７０への遊技者の注目力はそもそも低い。

【０４３６】

従って、検出センサＳＥ１の視認性が悪くなることを許容しても遊技者が感じる不利益は小さい。第３の作動パターンでは、検出センサＳＥ１の視認性が悪くなることは敢えて許容しながら、大当たり遊技が間延びすることを回避することを優先することで、大当たり遊技の短時間での進行の実現を図り、大当たり遊技に対する遊技者の興趣の向上を図ることができるようにしている。

【０４３７】

大当たり種別に関わらず、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段は、ラウンド間第１インターバル時間Ｉｎｔ１（２．０秒）が経過するまで開閉板６５ｂを閉鎖状態に保持するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御し、ラウンド間第１インターバル時間Ｉｎｔ１の経過後に、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【０４３８】

２ラウンド目では、１ラウンド目の開始と同様に、第１の作動時間Ｔ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板６５ｂを閉鎖状態から開放状態へ変位させて特定入賞口６５ａを開放するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、開閉板６５ｂに長時間動作を行わせる。２ラウンド目以降は、スライド変位部材３７０は前側位置で常時維持されるので、特定入賞口６５ａに入球した球は通常検出センサＳＥ１２を通過して排出される（図１７参照）。

【０４３９】

そして、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、開閉板６５ｂを閉鎖状態へ変位させて特定入賞口６５ａを閉鎖するよう電磁ソレノイド１６５ｃを駆動制御して、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【０４４０】

以降は、２ラウンド目と同様に、各ラウンド遊技Ｒの間にラウンド間第１インターバル時間Ｉｎｔ１を挟んで３ラウンド目～最終ラウンド（４ラウンド目）のラウンド遊技Ｒが繰り返されて、開閉板６５ｂが閉鎖状態および開放状態の間で変位し、特定入賞口６５ａを開閉するよう電磁ソレノイド１６５ｃが駆動制御される。

【０４４１】

そして、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段がラウンド間第１

インターバル時間Ｉｎｔ１およびエンディング時間ＥＤ（１１秒）が経過するまで開閉板６５ｂを閉鎖状態に保持するよう電磁ソレノイド１６５ｃが駆動制御され、当該時間の経過に伴って大当り遊技が終了する。

【０４４２】

なお、本制御例では、開閉板６５ｂの短開放の変位動作や、スライド変位部材３７０の駆動制御を、１ラウンド目のみで実行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、全ラウンドで実行するようにしても良いし、１ラウンド目以外のラウンド（例えば、３ラウンド目や、８ラウンド目や、１２ラウンド目等）で実行するようにしても良い。

【０４４３】

このように、本制御例によれば、開閉板６５ｂの開放パターン（第１の作動パターン～第３の作動パターン）の違いによって、開閉板６５ｂへの球の入球態様を変化させ、各流路構成部３３４～３３６及び第３流路構成部３３６の下流側に配置される検出センサＳＥ１の視認性を異ならせることができる。これにより、第３流路構成部３３６の下流側に配置される検出センサＳＥ１の球の通過に注目する遊技者に球の発射態様を工夫する意欲を生じさせることができる。

【０４４４】

例えば、検出センサＳＥ１の視認性の低下は、複数の球が各流路構成部３３４～３３６に同時に配置されることにより生じる場合があるので、必要に応じて（例えば、第２の作動パターン又は第３の作動パターンの大当たり種別において）意図的に球の発射間隔を広げることで、検出センサＳＥ１の視認性の低下を抑制することができる。なお、第１の作動パターンでは、特定入賞口６５ａへの入球が制限されることから、発射態様によらず、検出センサＳＥ１の視認性の低下を回避することができる。

【０４４５】

一方で、球の発射間隔を広げると特定入賞口６５ａに規定個数の球が入球するまでの期間が延びるので、ラウンド遊技Ｒが間延びする可能性がある。即ち、検出センサＳＥ１の視認性を優先する遊技態様と、ラウンド遊技Ｒの間延びを回避することを優先する遊技態様とで、ラウンド遊技Ｒの遊技の仕方を遊技者に選択させることができる。

【０４４６】

例えば、スライド変位部材３７０の変位を視認するために、ラウンド遊技Ｒの開始後、若干の期間（例えば、１．０秒間）を空けて、特定入賞口６５ａへの入球を生じさせるようにしても良い。この場合、スライド変位部材３７０の変位が生じるタイミング（作動パターンＹの場合においてラウンド遊技Ｒ開始から０．８秒経過したタイミング）で第３流路構成部３３６に球が配置される状況を回避することができるので、スライド変位部材３７０の変位動作が球で遮られることを回避することができる。

【０４４７】

一方で、球発射までの期間を空けるようにすると特定入賞口６５ａに規定個数の球が入球するまでの期間が延びるので、ラウンド遊技Ｒが間延びする可能性がある。即ち、検出センサＳＥ１の視認性を優先する遊技態様と、ラウンド遊技Ｒの間延びを回避することを優先する遊技態様とで、ラウンド遊技Ｒの遊技の仕方を遊技者に選択させることができる。

【０４４８】

例えば、本実施形態によれば、各流路構成部３３４～３３６及びスライド変位部材３７０が左右対称に構成され、左右のどちら側からも、特定入賞口６５ａを通して球を入球させることができる。

【０４４９】

即ち、例えば、上述した球の発射間隔を広げる発射態様や、球発射までの期間を空ける発射態様については左側での入球において維持し、右側での入球については任意の発射態様で球を発射するように遊技しても、上述と同様の効果を図ることができる。

【０４５０】

具体的には、特定入賞口６５ａへ向けた球の発射を左右に打ち分けるような発射態様として、少なくとも１発目の球を右側へ発射し、何発目か（例えば２発目）の球を左側へ発射し、残りの球を右側へ発射するように打ち分ければ良い。

【０４５１】

この場合、各流路構成部３３４～３３６としての右側流路を流下する球には注目せず、左側流路を流下する球に注目することで、他の球に視線が遮られることを回避しながら、左側流路を流下する球が確変検出センサＳＥ１１を通過するか否かを視認することができる。加えて、この場合は、特定入賞口６５ａの右側部分へ向けて絶えず球を発射し続けているので、特定入賞口６５ａに規定個数の球が入球するまでの期間が延びることを回避でき、ラウンド遊技Ｒが間延びすることを回避することができる。

【０４５２】

なお、この左右への球の発射の打ち分けは、左側流路への入球を１個にすることが目的ではない。特に、左側流路を何発目の球が通過しきるまでの約０．９秒間において左側の各流路構成部３３４～３３６に配置される球の個数を１個に制限できれば良く、その他の期間においては左右流路に任意に球を入球させるように打ち分ければ良い。

【０４５３】

これにより、本実施形態のように特定入賞口６５ａの上方の開放幅が長くは無い場合（例えば、電動役物１４０ａの配置や釘配置（図２参照）から球の入球経路が少数の経路に限定される場合）においても、特定入賞口６５ａへ向かう球同士が衝突して一方が特定入賞口６５ａの左右外側に零れる事態の発生を抑制することができる。なお、図２では釘配置を左右非対称としたが、左右対称の釘配置としても良い。

【０４５４】

次いで、遊技盤１３の背面側に締結固定される動作ユニット５００の構造について説明する。動作ユニット５００は、遊技盤１３のベース板６０（図２参照）に背面側から締結固定されるユニットである。

【０４５５】

図２６は、動作ユニット５００の正面斜視図であり、図２７は、動作ユニット５００の背面斜視図である。なお、図２７では、背面ケース５１０の開口５１１ａに配設される液晶表示装置（可変表示装置ユニット８０）の図示が省略され、開口５１１ａを通して奥側を視認可能に図示される。また、図２６及び図２７の説明においては、図２を適宜参照する。

【０４５６】

動作ユニット５００は、底壁部５１１と、その底壁部５１１の外縁から立設される外壁部５１２とから正面側が開放された箱状に形成される背面ケース５１０を備える。背面ケース５１０は、底壁部５１１の中央に矩形状の開口５１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口５１１ａは、第３図柄表示装置８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【０４５７】

背面ケース５１０は、外壁部５１２の正面側端部に遊技盤１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図２参照）において遊技盤１３を面支持する支持板部５１３を備える。

【０４５８】

支持板部５１３は、遊技盤１３のベース板６０に形成される嵌合凹部（図示せず）と嵌合可能な形状で正面側へ向けて突設される位置決め凸部５１３ａと、ベース板６０に締結される締結ネジを挿通可能に穿設される複数の挿通孔５１３ｂとを備える。

【０４５９】

ベース板６０の嵌合凹部に位置決め凸部５１３ａを嵌合させることによりベース板６０に対して背面ケース５１０を位置決めし、締結ネジを挿通孔５１３ｂに挿通し、ベース板６０に螺入することにより、遊技盤１３と動作ユニット５００とを一体的に固定すること

ができるので、遊技盤１３及び動作ユニット５００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【０４６０】

なお、位置決め凸部５１３ａの形状は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、ベース板６０の嵌合凹部の内形（本実施形態では、円形または長円形）よりも若干小さな外形の凸部でも良いし、組み付け時の作業性を考慮して、嵌合隙間が大きくなるような形状（更に小さな外形）の突部でも良い。また、嵌合凹部の内形が矩形状に形成される場合には、それに対応して位置決め凸部５１３ａの形状も矩形状とされることは当然想定される。

【０４６１】

動作ユニット５００は、遊技盤１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されている。即ち、動作ユニット５００は、背面ケース５１０と、その背面ケース５１０の内側右部に配設される第１動作ユニット６００と、背面ケース５１０の内側下部に配設される第２動作ユニット７００と、背面ケース５１０の内側上部に配設される第３動作ユニット８００と、を備える。なお、背面ケース５１０の内側左部には、ＬＥＤ等の発光手段を有する基板と、その基板を前側から覆うように配設され光透過性材料から形成されると共に全体に亘って光拡散加工が形成される拡散装飾板ＬＢ１とが配設される。

【０４６２】

具体的には、第１動作ユニット６００は、開口５１１ａの右方位置において、第２動作ユニット７００は、開口５１１ａの下方位置において、第３動作ユニット８００は、開口５１１ａの上方位置において、それぞれ背面ケース５１０の底壁部５１１に配設される。まず、この動作ユニット５００の動作制御の概要について説明する。

【０４６３】

図２８から図３５は、動作ユニット５００の動作の一例を示す動作ユニット５００の正面図である。図２８では、演出待機状態の各動作ユニット６００～８００が図示され、図２９では、各動作ユニット６００～８００の演出待機状態から第１動作ユニット６００が張出状態に変化した状態が図示され、図３０では、各動作ユニット６００～８００の演出待機状態から第２動作ユニット７００が張出状態に変化した状態が図示される。

【０４６４】

なお、図３０では、第２動作ユニット７００が、図２９に図示される第２動作ユニット７００とは覆設部材７８７の前側を向く面が異なる状態で図示される。

【０４６５】

図２８から図３５では、センターフレーム８６の内側形状が想像線で図示される。この内側においては背面側に配置される第３図柄表示装置８１が良好に視認可能となるが、センターフレーム８６の外方においては、ベース板６０が透明な樹脂部材から構成されているとはいえ、ベース板６０に配設される釘や各種入賞口６３，６４，６５ａ，１４０等やスルーゲート６７等（図２参照）に視界が遮られ易い。そのため、例えば、図２８に示すようにセンターフレーム８６の外方に配置されている状態において、各動作ユニット６００～８００の正面視における視認性が下がり易い。

【０４６６】

なお、動作ユニット５００の構成に合わせる関係上、センターフレーム８６の枠形状が図２に示すセンターフレーム８６とは異なるが、その役割は同様である。また、第３動作ユニット８００の手前側においてセンターフレーム８６の内枠形状が下に張り出す湾曲形状となっているが、センターフレーム８６の外枠まで下方に湾曲しているものではなく、センターフレーム８６の内枠側において、第３動作ユニット８００を前側から覆うように円形の透明な装飾薄板が張出形成されるものである。従って、センターフレーム８６の上側に乗った球を左右両側へ転動させるという役割も、図２で示すものと同様であり、実際のセンターフレーム８６の枠上部（外枠上部）は、第３動作ユニット８００の上側を左右に跨ぐように配設される。

【０４６７】
図３１及び図３２では、各動作ユニット６００～８００の演出待機状態から第３動作ユニット８００が張出状態に変化した状態が図示される。図３１では、第１装飾部材８７０が前側を向いており第３動作ユニット８００の個別合体状態が図示され、図３２では、第２装飾部材８８０が前側を向いており第３動作ユニット８００の一連合体状態が図示される。
【０４６８】
図３１の状態と図３２の状態とが切り替えられる変位は、直動変位と回転変位とを組み合わせた変位態様で生じるので、第３動作ユニット８００の演出待機状態において実行すると、周囲の装飾部材と装飾部材８７０，８８０とが衝突して不具合が生じることから、第３動作ユニット８００の張出状態において実行される。
【０４６９】
換言すれば、本実施形態では、第３動作ユニット８００が張出状態（又は、演出待機状態から装飾部材８７０，８８０の衝突を回避するのに十分な程度で下降変位した状態）となり、装飾部材８７０，８８０の変位を仮想円８００Ｆ（図３２参照）において許容する状態となっていることを前提に、反転変位（切替回転動作）を実行するように音声ランプ制御装置１１３（図４参照）で制御されるが、詳細は後述する。
【０４７０】
図３３では、張出状態の第３動作ユニット８００と、張出状態よりも若干下降変位した中間演出状態における第２動作ユニット７００が図示され、図３４では、図３３の状態から第１動作ユニット６００が中間演出状態に変位した状態が図示され、図３５では、図３３の状態から、第３動作ユニット８００が演出待機状態へ変位し、第１動作ユニット６００が張出状態に変位した状態が図示される。
【０４７１】
図２８から図３５に図示されるように、第３動作ユニット８００の変位軌跡と、第１動作ユニット６００の変位軌跡または第２動作ユニット７００の変位軌跡と、は正面視で部分的に重なる。そのため、例えば、第３動作ユニット８００が張出状態（図３１参照）の時に、第１動作ユニット６００又は第２動作ユニット７００が演出待機状態から状態変化すると、衝突する可能性がある。
【０４７２】
これに対して、本実施形態では、第１動作ユニット６００の演出待機状態からの状態変化を、第３動作ユニット８００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したり、第３動作ユニット８００の演出待機状態からの状態変化を、第１動作ユニット６００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したりすることで、第１動作ユニット６００と第３動作ユニット８００とが正面視で重なることを避けることができる。従って、第１動作ユニット６００及び第３動作ユニット８００の配置自由度を向上することができる（前後位置が重なることを許容できる）。
【０４７３】
更に、本実施形態では、第２動作ユニット７００の張出状態への状態変化を、第１動作ユニット６００及び第３動作ユニット８００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したり、第３動作ユニット８００が張出状態である場合の第２動作ユニット７００の配置を中間演出状態（図３３参照）にしたりすることで、第２動作ユニット７００が他の動作ユニット６００，８００と正面視で重なることを避けることができる。従って、各動作ユニット６００～８００の配置自由度を向上することができる（前後位置が重なることを許容できる）。
【０４７４】
特に、第２動作ユニット７００の視認状態として、開口５１１ａにより近い張出状態で視認させる場合と、開口５１１ａから若干退くものの第３動作ユニット８００と近接配置した状態で視認させる場合と、の複数の状態を構成することで、第２動作ユニット７００の演出装置としての機能の向上を図っている。

【０４７５】
図２８から図３５に示すように、第１動作ユニット６００は、第３図柄表示装置８１の右側において変位動作する。第１動作ユニット６００の第２装飾回転部材６６０は略直方体形状の箱状部材６６１を備え、箱状部材６６１は、演出待機状態において斜め左方向へ向く第１演出面６６１ａと、その第１演出面６６１ａの裏面側に形成される第２演出面６６１ｂと、第１演出面６６１ａ及び第２演出面６６１ｂに隣設する面としての第３演出面６６１ｃと、を備えている。各演出面６６１ａ～６６１ｃには、任意で図形、模様、文字等による装飾が施されている。
【０４７６】
第１動作ユニット６００の演出待機状態においては、第２装飾回転部材６６０は、第３図柄表示装置８１の右側という、センターフレーム８６の配置によって正面側からの視認性が低下し易い箇所に配置されているものの、第１演出面６６１ａを遊技者側に斜めに向けた姿勢（矢印Ｆ－Ｂを基準として手前側の面が矢印Ｌ側に４５度傾いた姿勢）とされているので、第３図柄表示装置８１とセンターフレーム８６の開口の枠内側から、そのセンターフレーム８６と第３図柄表示装置８１との隙間を通る斜め方向視で第２装飾回転部材６６０を視認する遊技者目線における第１演出面６６１ａの視認性を向上することができる。
【０４７７】
一方、第１動作ユニット６００の張出状態においては、第２装飾回転部材６６０は、第３図柄表示装置８１の正面に張り出すことで、センターフレーム８６の枠内側を視認する遊技者に対して正対する。この場合には、第２装飾回転部材６６０は第２演出面６６１ｂを真正面に向けた姿勢とされているので、第２装飾回転部材６６０を視認する遊技者目線における第２演出面６６１ｂの視認性を向上することができる。
【０４７８】
このように、第２装飾回転部材６６０は、配置に応じて遊技者に視認させる演出面６６１ａ～６６１ｃを切り替え可能に構成され、且つ、遊技者に視認させる各演出面６６１ａ～６６１ｃの視認性を向上する目的で、配置に応じて姿勢を切り替え可能に構成される。
【０４７９】
換言すれば、ガラスユニット１６（図１参照）と平行な平面的な姿勢変化に限らず、遊技者の視線との関係を意図した角度変化を付けるよう設計されている。即ち、センターフレーム８６の枠中央側の配置となるほど遊技者の視線が前後方向となり正対し易いので、演出面が前方向（矢印Ｆ方向）を向く方が視認性を良くすることができ、一方でセンターフレーム８６の枠付近の配置となるほど遊技者の視線が斜めになり易いので、演出面をその視線と正対させるために斜めにした方が視認性を良くすることができる。
【０４８０】
第２装飾回転部材６６０の変位に伴い、張出装飾部６５２ｂが連動して変位する。張出装飾部６５２ｂは、板正面に図形や絵柄等の装飾がされており、第１動作ユニット６００の演出待機状態（図２８参照）及び中間演出状態（図３４参照）では、背面ケース５１０の右上隅に配置されることで遊技者から視認されないように隠される。
【０４８１】
一方、張出装飾部６５２ｂは、第１動作ユニット６００の張出状態（図２８参照）では、正面視で第３図柄表示装置８１の表示領域の右縁と前後で重なるようにセンターフレーム８６の枠内側に配置されることで遊技者が視認可能となるよう構成されている。
【０４８２】
この状態において、張出装飾部６５２ｂの外形右端部は、第３図柄表示装置８１の右縁よりも右側に位置する。そのため、張出装飾部６５２ｂの板正面の装飾を利用して、あたかも第３図柄表示装置８１の表示領域が拡大しているように遊技者に錯覚させる表示演出を行うことができる。
【０４８３】
詳述すれば、第３図柄表示装置８１の表示を視認可能な領域の右縁は第１動作ユニット

６００に規定されており、第１動作ユニット６００の演出待機状態においては、第２装飾回転部材６６０の第１演出面６６１ａの左縁と、第３図柄表示装置８１の表示を視認可能な領域の領域右端ＲＥ１とが概ね一致する。

【０４８４】

これに対し、第１動作ユニット６００の張出状態においては、領域右端ＲＥ１を右側に超えるようにして張出装飾部６５２ｂが配置される。そのため、第３図柄表示装置８１の表示と、張出装飾部６５２ｂの板正面の装飾とを関連させたり、一致させたりすることで、あたかも、第３図柄表示装置８１の表示領域が領域右端ＲＥ１を超えて拡大しているかのように、遊技者に視認させることができる。これにより、意外性のある演出を実現することができる。

【０４８５】

上述の表示と装飾とを一致させる例としては、例えば、第３図柄表示装置８１に水玉模様を表示し、且つ、張出装飾部６５２ｂの板正面の装飾を同様の水玉模様にする例や、第３図柄表示装置８１に変動表示される数字（例えば、抽選の当否を報知するための数字）の書体と同様の書体で、張出装飾部６５２ｂの板正面に、とある数字が記載されるようにする例が例示される。

【０４８６】

上述の表示と装飾とを関連させる例としては、例えば、第３図柄表示装置８１に虹色を構成する７色の内の６色が表示され、且つ、張出装飾部６５２ｂの板正面が残りの一色で着色される例や、第３図柄表示装置８１に領域右端ＲＥ１に右端を合わせるようにして配置される木の棒が表示され、且つ、張出装飾部６５２ｂの板正面に炎を模した装飾がされることで、第１動作ユニット６００の張出状態において着火を連想させる例が例示される。

【０４８７】

なお、張出装飾部６５２ｂの演出態様は一種類に限定されるものでは無く、張出装飾部６５２ｂの明るさを制御することで複数種類の演出態様を構成することができるが、張出装飾部６５２ｂの明るさを変える発光手段については後述する。

【０４８８】

また、張出装飾部６５２ｂの代わりに正面側に表示面を有する小型の液晶装置を配設することで、その液晶装置の表示を複数種類で変化させることができるので、領域右端ＲＥ１を超えて表示領域を拡大する際の第３図柄表示装置８１の表示態様が制限されることを回避することができる。

【０４８９】

また、張出装飾部６５２ｂの装飾と関連させる対象は、表示に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、張出装飾部６５２ｂの装飾と、第２動作ユニット７００の部材（例えば、覆設部材７８７）に形成される装飾（第１装飾、第２装飾）とを関連させるようにしても良いし、張出装飾部６５２ｂの装飾と、第３動作ユニット８００の部材（例えば、第１装飾部材８７０、第２装飾部材８８０）に形成される装飾（第１覆設部８７５の装飾、第２覆設部８８５の装飾）とを関連させるようにしても良い。

【０４９０】

図３６は、第１動作ユニット６００の正面斜視図であり、図３７は、第１動作ユニット６００の背面斜視図である。第１動作ユニット６００は、第２装飾回転部材６６０が姿勢変化しながら回転するという複雑な変位態様で構成され、併せて第１装飾回転部材６５０の張出装飾部６５２ｂが第２装飾回転部材６６０を基準に相対変位することで、変位の前後で異なった外観を遊技者に視認させることができるよう構成される。

【０４９１】

図３８は、第１動作ユニット６００の分解正面斜視図であり、図３９は、第１動作ユニット６００の分解背面斜視図である。

【０４９２】

図３８及び図３９に示すように、第１動作ユニット６００は、背面ケース５１０に締結

固定される被固定手段６１０と、その被固定手段６１０に回動可能に支持される回動部材６２０と、その回動部材６２０を回動させるための駆動力を伝達する駆動伝達装置６３０と、回動部材６２０の回動先端部に一側の端部が回動可能に支持される被支持部材６４０と、その被支持部材６４０の他側の端部に回転可能に配設される第１装飾回転部材６５０と、その第１装飾回転部材６５０に回転可能に支持される第２装飾回転部材６６０と、被固定手段６１０の下半部の正面側に固定される装飾固定部材６７０と、を備える。

【０４９３】

被固定手段６１０は、背面ケース５１０の底壁部５１１に前後に対向配置されるベース部材６１１と、そのベース部材６１１の正面側に配置されベース部材６１１との間に空間を作りながらベース部材６１１に締結固定される前蓋部材６１２と、を備える。

【０４９４】

前蓋部材６１２は、駆動伝達装置６３０を配置するための伝達用配置部６１３と、その伝達用配置部６１３の正面側において装飾固定部材６７０を固定するための固定用部６１４と、その固定用部６１４よりも内側において回動部材６２０を回転可能に支持するための支持締結部６１５と、被支持部材６４０の他側の端部を案内する長孔として形成される案内長孔６１６と、を備える。

【０４９５】

案内長孔６１６は、直線部と曲線部とが混在する独自の形状から形成されるが、その詳細および作用については後述する。

【０４９６】

回動部材６２０は、長尺板状に形成される本体部６２１と、その本体部６２１の一端部（下側端部）に配設され被固定手段６１０の支持締結部６１５に外嵌支持される筒状部６２２と、直線方向に延びる長孔として本体部６２１の中間部に形成される伝達長孔６２３と、本体部６２１の他端部（上側端部）に筒状部６２２の軸方向と平行な穿設方向で円形孔として穿設される円形貫通孔６２４と、その円形貫通孔６２４を中心とした円の一部に沿ってギア歯状に形成されるギア歯部６２５と、を備える。

【０４９７】

筒状部６２２の周りにはトーションばねＳＰ１が巻き付けられている。トーションばねＳＰ１は、一方の腕部が本体部６２１の側壁に当接され、他方の腕部が前蓋部材６１２の突片に当接されるよう構成され、回動部材６２０を起こす方向（正面視時計回り方向）に付勢力が生じるよう構成されている。

【０４９８】

なお、筒状部６２２の軸支においては、支持締結部６１５が筒状部６２２に挿通された状態で、支持締結部６１５の先端部に形成されている雌ネジ部に締結ネジが螺入される。これにより、回動部材６２０は支持締結部６１５に脱落不能に軸支される。

【０４９９】

伝達長孔６２３は、駆動伝達装置６３０の円筒部６３４ａが挿通される案内孔として機能し、円形貫通孔６２４は被支持部材６４０の筒状部６４２が回転可能に挿通固定される挿通孔として機能するが、詳細は後述する。

【０５００】

駆動伝達装置６３０は、前蓋部材６１２の正面側に締結固定される駆動モータ６３１と、前蓋部材６１２の貫通孔６１３ａを通して背面側へ突き出される駆動軸に固着される駆動ギア６３２と、その駆動ギア６３２に噛み合う状態で前蓋部材６１２の筒状部６１３ｂに軸支される伝達ギア６３３と、その伝達ギア６３３に噛み合う状態で前蓋部材６１２の筒状部６１３ｃに軸支される伝達ギアカム６３４と、を備える。

【０５０１】

なお、伝達ギア６３３及び伝達ギアカム６３４に筒状部６１３ｂ，６１３ｃが挿通された状態で、筒状部６１３ｂ，６１３ｃの先端部に形成されている雌ネジ部に締結ネジが螺入される。これにより、伝達ギア６３３及び伝達ギアカム６３４は前蓋部材６１２に脱落不能に軸支される。

【０５０２】
前蓋部材６１２には、筒状部６１３ｃを中心とした円弧に沿って貫通形成される円弧状孔６１３ｄが形成されており、その円弧状孔６１３ｄには、伝達ギアカム６３４の偏心位置において正面側に円筒状に突設される円筒部６３４ａが挿通される。
【０５０３】
伝達ギアカム６３４は、伝達ギア６３３と歯合するギア部を備える回転部材であって、上述の円筒部６３４ａと、その円筒部６３４ａを含む角度位置から外径方向へ板状に延設される延設部６３４ｂと、を備える。
【０５０４】
円筒部６３４ａは、円弧状孔６１３ｄに挿通され、その正面側において回動部材６２０の伝達長孔６２３に挿通される。ここで、円弧状孔６１３ｄ及び伝達長孔６２３の幅長さは、円筒部６３４ａの外径よりも、若干長くなるように設計される。これにより、円筒部６３４ａが円弧状孔６１３ｄ及び伝達長孔６２３を摺動する際の摺動抵抗を低減することができる。
【０５０５】
延設部６３４ｂは、前蓋部材６１２に締結固定されるフォトカプラ式の検出センサＫＳ１の検出溝に進入可能に構成されている。これにより、検出センサＫＳ１の出力の変化を読み取ることで、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）が伝達ギアカム６３４の姿勢を把握可能に構成される。
【０５０６】
被支持部材６４０は、長尺の本体部６４１と、その本体部６４１の背面側から回動部材６２０の円形貫通孔６２４に挿通可能な円筒形断面で突設される筒状部６４２と、その筒状部６４２と平行に突設される筒状部６４３と、その筒状部６４３に軸支された状態で回動部材６２０のギア歯部６２５と歯合可能に形成される中間ギア６４４と、その中間ギア６４４よりも背面側に穴あきの底部を有する大径の筒状に形成される有底筒状部６４５と、その有底筒状部６４５が配置される端部の反対側の端部において正面側に延設される延設支持部６４６と、を備える。
【０５０７】
上述の構成により、回動部材６２０の回動変位に伴い、ギア歯部６２５と、中間ギア６４４との間で歯合による駆動力伝達を生じさせることができる。
【０５０８】
なお、回動部材６２０及び中間ギア６４４に筒状部６４２，６４３が挿通された状態で、筒状部６４２，６４３の先端部に形成されている雌ネジ部に締結ネジが螺入される。これにより、回動部材６２０及び中間ギア６４４は被支持部材６４０の本体部６４１に脱落不能に軸支される。
【０５０９】
有底筒状部６４５は、底部の背面側が前蓋部材６１２の正面側縁部に近接配置され、底部の正面側において中間ギア６４４と第１装飾回転部材６５０のギア歯６５４ａとが歯合可能となるように周面部に形成される開口６４５ａと、筒状中心を中心とした円形で貫通形成され円筒支持部６５１ａを挿通可能とされる挿通孔６４５ｂと、を備える。なお、形状の詳細については後述する。
【０５１０】
延設支持部６４６は、第２装飾回転部材６６０を回転可能に軸支するための支持部として機能するが、詳細は後述する。
【０５１１】
第１装飾回転部材６５０は、直交する回転軸を形成する本体部材６５１と、その本体部材６５１と有底筒状部６４５との間に軸支される前側回転部材６５２と、その前側回転部材６５２の装飾部６５２ｂの背面側に固定され正面側にＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板６５３と、前側回転部材６５２と同軸で後側に締結固定される後側回転部材６５４と、本体部材６５１に正面側から締結固定され配線通しとしての円筒状空間を形成する

配線受部材６５５と、その配線受部材６５５の正面側に配置され本体部材６５１に背面側から挿通される締結ネジが螺入されることで締結固定される前側装飾部６５６と、配線受部材６５５と本体部材６５１とにより形成される円筒状部に外嵌軸支される軸直角回転部材６５７と、を備える。

【０５１２】

本体部材６５１は、背面側に筒状に延設される円筒支持部６５１ａを備えており、その円筒支持部６５１ａは、先端部の直径位置に一対の雌ネジ部６５１ｂが形成され、その雌ネジ部６５１ｂを通る平面の片側において壁部を削減するように切りかかれる切り欠き部６５１ｃを備える。

【０５１３】

円筒支持部６５１ａは、内部に電気配線を挿通可能な太さで形成されており、切り欠き部６５１ｃは、電気配線の入口を確保するための開口部としての機能を有する。

【０５１４】

円筒支持部６５１ａは、基端側から順に、前側回転部材６５２の中心孔、後側回転部材６５４の中心孔、有底筒状部６４５の挿通孔６４５ｂ、段付きリング状のカラーＣ１及び前蓋部材６１２の案内長孔６１６に挿通され、その先端部の雌ネジ部６５１ｂに皿状蓋部Ｃ２に挿通された締結ネジが螺入されることで締結固定される。

【０５１５】

即ち、上述した円筒支持部６５１ａ、前側回転部材６５２、後側回転部材６５４、有底筒状部６４５、カラーＣ１及び皿状蓋部Ｃ２は、前後方向に延びる軸線Ｏ１に同軸で支持され、案内長孔６１６に沿って変位可能に構成される。

【０５１６】

皿状蓋部Ｃ２は、円周部の一部に開口Ｃ２ａが形成されており、この開口Ｃ２ａは組立状態において、本体部材６５１の切欠き部６５１ｃと対向配置されることで、電気配線の通り道を形成する。

【０５１７】

この電気配線は、一部の配線は軸直角回転部材６５７の内部を通り、第２装飾回転部材６６０の内部に案内され、電飾基板６６２に配設されるコネクタに端子が接続される。また、その他の配線は、本体部材６５１と配線受部材６５５との間に形成される隙間（上側、即ち半筒形状部６５５ａの上下反対側において本体部材６５１と対向配置される側に形成される隙間）を通り、張出装飾部６５２ｂの背後に案内され、電飾基板６５３のコネクタに端子が接続される。

【０５１８】

後側回転部材６５４は、背面側端部の円周部に沿ってギア歯６５４ａが形成されており、このギア歯６５４ａと中間ギア６４４とが歯合可能に形成される。なお、ギア歯６５４ａは、後述する動作に十分な配置として、全円周に亘ってでは無く、円周の一部に沿って形成される。

【０５１９】

前側回転部材６５２は、傘歯車として形成されるギア歯６５２ａと、径外方に張り出す張出装飾部６５２ｂと、を備える。張出装飾部６５２ｂの背面側には電飾基板６５３が締結固定され、電飾基板６５３に配置される発光手段からの光により張出装飾部６５２ｂを点灯させたり、点滅させたりする演出を実行可能とされる。

【０５２０】

前側回転部材６５２は、後側回転部材６５４に締結固定されているので、後側回転部材６５４と前側回転部材６５２とは一体的に回転動作する。

【０５２１】

軸直角回転部材６５７は、本体部材６５１の半筒形状部６５１ｄと、配線受部材６５５の半筒形状部６５５ａとにより形成される円形筒状部に回転可能に支持され、前側回転部材６５２のギア歯６５２ａと歯合可能な傘歯車として形成されるギア歯６５７ａを備える。

【０５２２】
このように構成することで、前側回転部材６５２の回転と連動して軸直角回転部材６５７が回転する。即ち、前側回転部材６５２、後側回転部材６５４及び軸直角回転部材６５７は、連動するが、動作の詳細については後述する。なお、ギア歯６５２ａ，６５７ａは、後述する動作に十分な配置として、全円周に亘ってでは無く、円周の一部に沿って形成される。
【０５２３】
第２装飾回転部材６６０は、軸直角回転部材６５７に締結固定される箱状部材６６１と、その箱状部材６６１の内部において箱状部材６６１に固定される電飾基板６６２と、箱状部材６６１と軸直角回転部材６５７との間に配設され半筒形状部６５１ｄ，６５５ａの先端部に締結固定される配線留め板６６３と、を備える。
【０５２４】
本実施形態では、後述する箱状部材６６１の回転に伴って、電飾基板６６２も回転変位することになるので、電飾基板６６２のコネクタに案内される際に半筒形状部６５１ｄ，６５５ａの間を通過している電気配線が捻じれたり、配置が無秩序になったりする可能性があるところ、配線を仮留めする貫通孔を有する配線留め板６６３の機能により、配線の捻じれや、無秩序に配置されることからの回避を図っている。
【０５２５】
なお、本実施形態では、電気配線が電飾基板６６２に固定されていることから、電気配線に捻じれが生じることは避けられない。一方で、第２装飾回転部材６６０の回転変位は、１回転以上の回転で生じるものでは無く、１３５度の回転角度で反転する回転変位であるので、電気配線に過度な負担がかかったり、電気配線がねじ切れたりする事態を回避することができる。
【０５２６】
第２装飾回転部材６６０は、略直方体形状から形成され、最長辺を有する長方形側面の最長辺と平行な回転軸（半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにより形成される回転軸）で回転可能に構成される。
【０５２７】
軸直角回転部材６５７は、配線留め板６６３が抜け止めとして機能し、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａに脱落不能に支持される。第２装飾回転部材６６０は軸直角回転部材６５７に締結固定されるので、第２装飾回転部材６６０が半筒形状部６５１ｄ，６５５ａから抜ける事態が発生することを回避することができる。
【０５２８】
電飾基板６６２は、板の厚み方向と箱状部材６６１の厚み方向とが一致するよう配設されている。電飾基板６６２の厚み方向の側面において、表側に配設され厚み方向に光軸が向くＬＥＤ等の発光手段により第１演出面６６１ａが照らされ、裏側に配設され厚み方向に光軸が向くＬＥＤ等の発光手段により第２演出面６６１ｂが照らされ、裏側（第２演出面６６１ｂを照らす側）に配設され幅方向に光軸が向くＬＥＤ等の発光手段により第３演出面６６１ｃが照らされる。
【０５２９】
このように、電飾基板６６２に配設される発光手段は、各演出面６６１ａ～６６１ｃを個別に照らすように機能するが、第３演出面６６１ｃを照らすＬＥＤが裏側（第２演出面６６１ｂを照らす側）に配設されていることで、第２演出面６６１ｂが正面側に配置される状態（第１動作ユニット６００の張出状態）において第３演出面６６１ｃ（上側を向く面）を照らすＬＥＤを発光させた場合に、そのＬＥＤの光軸から角度をつけて進行する光により第２演出面６６１ｂを照らすことができる。
【０５３０】
即ち、電飾基板６６２の背後にＬＥＤが配置される場合と異なり、光が電飾基板６６２に隠されることを回避することができるので、第３演出面６６１ｃを照らす光により第２演出面６６１ｂも照らすことができる。これにより、第２演出面６６１ｂを照らす演出態

様の種類を増加させることができたり、発光演出時の第２演出面６６１ｂの明るさを向上させたりすることができる。

【０５３１】

装飾固定部材６７０は、光透過性の樹脂材料から、装飾用の文字や図形が遊技者に視認可能に形成され、その背面側から斜め左前方に光を照射する電飾基板６７１を備えている。装飾固定部材６７０の配置は第３図柄表示装置８１の右側で固定であり、装飾固定部材６７０に対する遊技者の視線は、常に斜め右側に傾斜した視線となる。即ち、電飾基板６７１から照射される光の方向を左側に傾斜させることで、遊技者の目が配置され易い側に光を照射することができる。

【０５３２】

装飾固定部材６７０は、下縁部および右縁部が背面側に嵩上げ形成されており、上縁部および左縁部と前蓋部材６１２との間に前後隙間が形成される。この前後隙間は、回動部材６２０が傾倒変位する際に通る隙間として機能する。

【０５３３】

図４０は、演出待機状態における第１動作ユニット６００の正面図であり、図４１は、演出待機状態における第１動作ユニット６００の背面図であり、図４２は、図４０の矢印ＸＬＩＩ方向視における第１動作ユニット６００の側面図である。なお、形状の理解を容易とするために、ベース部材６１１（図３８参照）及び締結ネジの図示は省略している。

【０５３４】

演出待機状態において、駆動伝達装置６３０の円筒部６３４ａの変位開始方向ＳＤ１は、伝達長孔６２３の長手方向に沿う（例えば、平行となる）ように構成される。これにより、円筒部６３４ａが伝達長孔６２３に摺動しながら変位開始する際の変位抵抗を低減することができる。即ち、変位開始時は、変位途中に比較して慣性の補助を得られず、駆動モータ６３１で発生させる必要のある駆動力が大きくなり易いところ、本実施形態のように変位抵抗を低減するように構成することで、変位開始時に駆動モータ６３１にかかる負担の低減を図ることができる。

【０５３５】

また、同様のことが、張出状態（図４５参照）における円筒部６３４ａの変位開始方向ＳＤ２についても成立するように構成される。即ち、本実施形態では、回動部材６２０の両終端位置（演出待機状態の位置、張出状態の位置）における伝達長孔６２３に配置される円筒部６３４ａの変位方向が、伝達長孔６２３の長手方向に沿う（例えば、平行となる）ように円筒部６３４ａの変位（即ち、伝達ギアカム６３４の形状）が設計される。これにより、回動部材６２０の両終端位置からの変位開始時に駆動モータ６３１にかかる負担の低減を図ることができる。

【０５３６】

図４１に示すように、中間ギア６４４に両側から、回動部材６２０のギア歯部６２５と、第１装飾回転部材６５０のギア歯６５４ａと、が噛み合う。本実施形態では、ギア歯部６２５の半径Ｒ１と、ギア歯６５４ａの半径Ｒ２とが同じ長さで設計されているので、中間ギア６４４に対するギア歯部６２５の回転角度と、中間ギア６４４に対する後側回転部材６５４の回転角度と、は同角度とされる。

【０５３７】

従って、後側回転部材６５４の回転角度を、中間ギア６４４とギア歯部６２５との間で生じる回転角度（角度θ）の設計次第で、変化可能に構成することができる。

【０５３８】

図４２に示すように、前側回転部材６５２のギア歯６５２ａと、軸直角回転部材６５７のギア歯６５７ａとが噛み合っており、前側回転部材６５２に伝達された回転駆動力が、回転軸の直交する第２装飾回転部材６６０に伝達される。

【０５３９】

第２装飾回転部材６６０の回転角度はギア歯６５７ａの回転角度と同様であり、ギア歯６５７ａの回転角度は前側回転部材６５２のギア歯６５２ａの回転角度に比例する。即ち

、第２装飾回転部材６６０の回転角度は、中間ギア６４４とギア歯部６２５（図４１参照）との間で生じる回転角度に比例する。

【０５４０】

なお、本実施形態では、ギア歯６５７ａの回転角度と、ギア歯６５２ａの回転角度とが同じ（ギア比が１）となるように構成されるので、第２装飾回転部材６６０の回転角度は、中間ギア６４４とギア歯部６２５との間で生じる回転角度と同じとなる。

【０５４１】

次いで、第１動作ユニット６００の演出待機状態からの変位について、時系列で説明する。図４３は、中間演出状態における第１動作ユニット６００の正面図であり、図４４は、中間演出状態における第１動作ユニット６００の背面図である。また、図４５は、張出状態における第１動作ユニット６００の正面図であり、図４６は、張出状態における第１動作ユニット６００の背面図である。なお、形状の理解を容易とするために、ベース部材６１１及び締結ネジの図示は省略している。

【０５４２】

演出待機状態と中間演出状態との間で、回動部材６２０の回動角度は１９度に設定され、中間演出状態と張出状態との間で、回動部材６２０の回動角度は２６度に設定されている。

【０５４３】

第１動作ユニット６００の中間演出状態では、第２装飾回転部材６６０の箱状部材６６１が、幅の狭い第３演出面６６１ｃを正面側に向けた姿勢とされる。第１動作ユニット６００の張出状態では、第２演出面６６１ｂが正面側を向くように構成される（図４５参照）。

【０５４４】

図４４に示すように、案内長孔６１６は、上端部から上下方向に延びる直線上に形成される直線状部６１６ａと、その直線状部６１６ａの下端部と連結され曲線上（略円弧形状）に形成される曲線状部６１６ｂと、を備える。

【０５４５】

第１動作ユニット６００の中間演出状態では、軸線Ｏ１が直線状部６１６ａの下端位置、即ち、直線状部６１６ａと曲線状部６１６ｂとの連結部分に配置されている。一方で、図４６に示すように、第１動作ユニット６００の張出状態では、軸線Ｏ１が曲線状部６１６ｂの下端位置に配置されている。

【０５４６】

従って、演出待機状態と中間演出状態との間における軸線Ｏ１の変位は、直線状部６１６ａに沿う直線状変位となり、中間演出状態と張出状態との間における軸線Ｏ１の変位は、曲線状部６１６ｂに沿う曲線状変位となるように構成される。

【０５４７】

第１動作ユニット６００は、上述のように状態変化可能に構成されており、その状態変化の基端側に配置されるのは回動部材６２０である。即ち、回動部材６２０が駆動伝達装置６３０からの駆動力を受けて変位し、その回動部材６２０の変位に被支持部材６４０、第１装飾回転部材６５０及び第２装飾回転部材６６０が従動する。

【０５４８】

そのため、対策なしでは、案内長孔６１６に案内される部分の摺動変位によって案内長孔６１６との間で生じる変位抵抗が大きくなる可能性があるが、本実施形態では、回動部材６２０の変位方向に案内長孔６１６の長手方向が沿うように構成されることで、その抑制を図っている。

【０５４９】

例えば、演出待機状態（図４１）からの回動部材６２０のギア歯部６２５の変位は、下方へ傾動する変位であるところ、案内長孔６１６も下方に延びるように形成されている。また、例えば、張出状態（図４６参照）からの回動部材６２０のギア歯部６２５の変位は右斜め上方向に起き上がる変位であるところ、案内長孔６１６も右斜め上に延びるように

形成されている。
【０５５０】
このように、回動部材６２０の変位方向と、案内長孔６１６の長手方向と、を沿わせるようにすることで、案内長孔６１６の内部を変位する部分（及び軸線Ｏ１）の変位抵抗を抑制することができる。
【０５５１】
次いで、図４７を参照して、案内長孔６１６の形状が及ぼす効果について他の効果も含めて説明する。図４７は、回動部材６２０の回動変位に伴う被支持部材６４０の変位量および変位角度を模式的に示す模式図であり、図４８（ａ）及び図４８（ｂ）は、回動部材６２０が角速度一定の態様で傾倒方向に回動した場合における被支持部材６４０の従動側の変位量の大小関係を示す模式図である。なお、数値の正負は、正が下方への変位量、負が上方への変位量として図示され、図４８（ｂ）では、図４８（ａ）の数値が棒グラフとして図示される。
【０５５２】
図４７では、回動部材６２０の回動に伴う被支持部材６４０の支持位置の配置が、回動部材６２０の回動角度として１０度間隔で図示されるており、第１動作ユニット６００の張出状態における姿勢の回動部材６２０が実線で図示される。
【０５５３】
図４７において、角度θは、軸線Ｏ１及び円形貫通孔６２４の中心を結ぶ線分と、円形貫通孔６２４の中心および筒状部６２２の中心を結ぶ線分と、の間の角度として図示されている。
【０５５４】
案内長孔６１６は、軸線Ｏ１が配設される被支持部材６４０の端部を案内する長孔として機能する。案内長孔６１６における変位は、回動部材６２０の円形貫通孔６２４に連結される被支持部材６４０の筒状部６４２が回動部材６２０の回動に伴って変位することにより生じる変位であるので、以下において、被支持部材６４０の筒状部６４２を被支持部材６４０の主動側とも称し、軸線Ｏ１が配設される被支持部材６４０の端部を被支持部材６４０の従動側とも称する。
【０５５５】
回動部材６２０を中心とする動作の概要について説明する。回動部材６２０に支持される被支持部材６４０の上下変位は、回動部材６２０の回動による回動先端（被支持部材６４０の主動側）の上下変位と、被支持部材６４０の姿勢変位に伴う被支持部材６４０の従動側の上下変位とが合算された結果として生じる。
【０５５６】
演出待機状態においては、被支持部材６４０が縦姿勢であることに加え、回動部材６２０の変位の速度成分が上下に比較して左右方向が大きい（回動腕の配置が鉛直から左右４５度の範囲）。即ち、上下方向の変位としては、小さくなる条件が２重に揃っている。
【０５５７】
これらは共に、張出状態においては逆になり、上下方向の変位が大きくなる条件が２重に揃うことになる。従って、下降変位開始時は速度が小であり、下降変位終端において速度が大という状況が生じ易い構成となっている。
【０５５８】
次いで、回動部材６２０を中心とする動作の詳細について説明する。演出待機状態から張出状態へ向けた回動部材６２０の変位（傾倒変位）について説明する。回動部材６２０が傾倒変位する場合、被支持部材６４０の従動側は主に自重により変位する。
【０５５９】
そのため、案内長孔６１６が鉛直方向に形成される場合、被支持部材６４０の従動側は勢いよく落下する可能性がある。一方で、本実施形態では、第１動作ユニット６００を中間演出状態（傾倒変位の途中位置、図４４参照）で停止させられる方が好ましい。
【０５６０】

そこで、本実施形態では、案内長孔６１６の形状として、直線状部６１６ａの下方に曲線状部６１６ｂを組み合わせる態様を採用している。これにより、直線状部６１６ａを自重により被支持部材６４０の従動側が変位し曲線状部６１６ｂに進入する際に、被支持部材６４０の従動側にかかる変位抵抗の増加を図ることができる。これにより、被支持部材６４０の従動側が中間演出状態における配置を超えて勢いよく落下することを防止し易くすることができる。

【０５６１】

直線状部６１６ａにおける被支持部材６４０の従動側の変位について説明する。被支持部材６４０の従動側が直線状部６１６ａを変位する際、被支持部材６４０の主動側が直線状部６１６ａの延長線を跨ぐ。即ち、演出待機状態では被支持部材６４０の主動側は直線状部６１６ａよりも右側に配置され（図４１参照）、中間演出状態では被支持部材６４０の主動側は直線状部６１６ａよりも左側に配置される（図４４参照）。そのため、回動部材６２０が方向転換せずに傾倒変位する間に、被支持部材６４０の従動側は上下方向に往復変位する。

【０５６２】

これにより、回動部材６２０の回動角度の大きさに比較して、被支持部材６４０の従動側の上下方向の変位を小さく維持することができるので、被支持部材６４０の従動側が直線状部６１６ａに配置されている間において、被支持部材６４０が、あたかも被支持部材６４０の従動側を中心として回動変位しているような変位態様で遊技者に見せることができる。

【０５６３】

この変位態様によれば、被支持部材６４０の従動側を中心とした回動変位による助走を利用して左右方向のスライド変位を生じさせることができるので、変位開始時から被支持部材６４０全体を左右方向にスライド変位させる場合に比較して、変位に要する負荷を低く抑えることができる。そのため、被支持部材６４０の動作開始時に要する負荷を低減することができ、駆動モータ６３１に要求される性能の程度を低くすることができる。これにより、駆動モータ６３１の低コスト化を図ることができる。

【０５６４】

一方で、被支持部材６４０の従動側の変位が小さく抑えられていながら、回動部材６２０の回動変位に伴い被支持部材６４０の主動部の変位は十分に確保されており、被支持部材６４０の主動部を基準とした被支持部材６４０の従動側の回転方向は背面視反時計回り方向に維持される（方向が切り替えられることが無い）。これにより、上述のように、被支持部材６４０の姿勢変化の方向および第２装飾回転部材６６０の回転方向は切り替えられることなく（反転することなく）維持される。

【０５６５】

これにより、遊技者に対して、被支持部材６４０及び第２装飾回転部材６６０が往復動作（戻り動作）しているような印象を与えることを回避することができ、第２装飾回転部材６６０の変位態様を勢いのある変位態様とすることができる。

【０５６６】

また、回動部材６２０の回動変位に伴う被支持部材６４０の主動部の変位が十分に確保されている状況下においても、被支持部材６４０の主動部の変位方向は水平方向成分が大きく、且つ、重力方向に沿う方向（下方）向きの変位であるので、回動部材６２０を変位開始させるために要求される負荷を低減することができ、駆動モータ６３１に要求される性能の程度を低くすることができる。これにより、駆動モータ６３１の低コスト化を図ることができる。

【０５６７】

曲線状部６１６ｂにより生じる作用について説明する。直線状部６１６ａと曲線状部６１６ｂとの連結部に被支持部材６４０の従動側が配置される状態が第１動作ユニット６００の中間演出状態として規定されている。上述のように、演出待機状態から中間演出状態までの回動部材６２０の回動角度は１９度である。そのため、被支持部材６４０の従動側

が曲線状部６１６ｂに配置される状態は、おおよそ、図４８の角度幅２０度～４５度の範囲に対応する。

【０５６８】

まず、前提として、案内長孔６１６に曲線状部を採用する必然性は無い。即ち、上述のように中間演出状態において変位抵抗を増加させるために屈曲するような箇所の採用の有無に関わらず、案内長孔６１６を直線状の部分のみで構成しても良い。

【０５６９】

一方、本実施形態では、敢えて曲線状部６１６ｂを採用することにより、変位終端において被支持部材６４０の従動側の速度が過大となることの防止を図っている。これについて、以下で説明する。

【０５７０】

直線状部６１６ａに案内される場合も、曲線状部６１６ｂに案内される場合も、回動部材６２０に連結される被支持部材６４０の主動側が下方変位する際に、被支持部材６４０の従動側が下方変位することは同じである。

【０５７１】

違いとして、曲線状部６１６ｂに案内される場合において、曲線状部６１６ｂの上半部では、被支持部材６４０の従動側が被支持部材６４０の主動側の変位向き（左向き）と相反する向き（右向き）に変位案内されるように曲線状部６１６ｂが形成され、曲線状部６１６ｂの下半部では、被支持部材６４０の従動側が被支持部材６４０の主動側の変位向き（左向き）に沿う向き（左向き）に変位案内されるように曲線状部６１６ｂが形成される。

【０５７２】

これにより、被支持部材６４０の主動側の下方への変位量が大きくなる前（傾倒開始側）においても、被支持部材６４０の従動側の変位が左右に振られていることで、被支持部材６４０の従動側の変位速度を大きく確保することができる。

【０５７３】

これにより、回動部材６２０の傾倒変位の変位終端において被支持部材６４０の従動側の変位速度が過大となることを防止することができる。即ち、被支持部材６４０の従動側を特定の初期位置から終端位置まで任意の経路で上下変位させる場合、変位に要する時間が同じであれば、上下方向の速度を積分した結果は等しくなるので、変位開始時にゆっくりと変位する場合には、終盤に変位速度が大きくなる。

【０５７４】

図４７に比較として図示する上下方向に延びる直線上に案内される仮想軸線ＯＥ１に被支持部材６４０の従動側が配置される場合、回動部材６２０の傾倒変位開始側から、変位速度が漸増することになり、被支持部材６４０の変位終端（変位下端）において最大となる。換言すれば、回動部材６２０が１０度回転して変位下端に到達する間の案内長孔６１６に案内される軸線Ｏ１の上下変位量ＵＸ１に比較して、同じ間の仮想軸線ＯＥ１の上下変位量ＵＥ１は大きくなる。

【０５７５】

そのため、仮想軸線ＯＥ１の変位態様では、被支持部材６４０の従動側が跳ね戻る動作をする可能性があり、被支持部材６４０を変位下端で停止させる演出を行う場合には、第１動作ユニット６００の演出に悪影響を与える。

【０５７６】

これに対し、本実施形態では、案内長孔６１６に曲線状部６１６ｂを採用することで、被支持部材６４０の従動側の変位速度が大きくなる範囲を回動部材６２０の傾倒変位の変位開始側にも割り振るよう図っており、被支持部材６４０の従動側の変位速度の均一化を図っている。

【０５７７】

この場合の均一化とは、変位の全範囲に亘って速度を同一となるように寄せることを意味するものばかりでは無く、速度の大小幅を抑制することを含む意味で用いられる。特に

、本実施形態では、回動部材６２０の傾倒変位において、曲線状部６１６ｂへの進入開始側において被支持部材６４０の従動側の変位速度が漸増し、曲線状部６１６ｂの下半部に進入開始してから被支持部材６４０の従動側の変位速度が漸減するよう構成されている。

【０５７８】

即ち、曲線状部６１６ｂに被支持部材６４０の従動側が案内されている場合において、被支持部材６４０の従動側の変位速度に速度差を設けることで、被支持部材６４０の変位が単調となることを回避することができる。

【０５７９】

更に、曲線状部６１６ｂの下端側部において被支持部材６４０の従動側に要求される速度、即ち、単位時間に要求される変位量を小さくすることにより、回動部材６２０を上方へ動作（起き上がり動作）させる場合の駆動開始時に、単位時間に被支持部材６４０の従動側を持ち上げる変位量を小さくすることができるので、駆動モータ６３１にかかる負担を軽減させることができる。

【０５８０】

次いで、図４９を参照して、回動部材６２０の回動変位に伴う第２装飾回転部材６６０の回転について説明する。図４９は、回動部材６２０の回転に伴う角度θ［度］の変化を示す模式図である。

【０５８１】

角度θは、円形貫通孔６２４を中心とする回動部材６２０と被支持部材６４０との相対回転角度と同一視でき、第２装飾回転部材６６０の回転に直結する。即ち、角度θの大小に対応して、第２装飾回転部材６６０の回転角度の大小が規定される。

【０５８２】

なお、本実施形態では、回動部材６２０のギア歯部６２５と第１装飾回転部材６５０のギア歯６５４ａ（図３９参照）との回転伝達比、及びギア歯６５２ａと軸直角回転部材６５７のギア歯６５７ａ（図３８参照）との回転伝達比、が共に１に設定されている。そのため、角度θと、軸直角回転部材６５７との回転角度とは同一となることから、角度θの変化を、第２装飾回転部材６６０の姿勢の変化として把握することができる。

【０５８３】

角度θの変化は、第１動作ユニット６００の演出待機状態（図４１参照）から第１動作ユニット６００の中間演出状態（図４４参照）までが４５度であり、第１動作ユニット６００の中間演出状態から第１動作ユニット６００の張出状態（図４６参照）までが９０度である。

【０５８４】

演出待機状態では、第２装飾回転部材６６０は第１演出面６６１ａを４５度だけ左方（第３演出面６６１ｃを４５度だけ右方）に傾けた姿勢とされているので、角度θの変化に従って、状態が中間演出状態、張出状態と順に切り替えられるごとに、第２装飾回転部材６６０が４５度回転することで第３演出面６６１ｃが正面側に向き（図４３参照）、次いで第２演出面６６１ｂが正面側を向く（図４５参照）。

【０５８５】

角度θの設定は、被支持部材６４０の姿勢を規定するための案内長孔６１６の設計により実現されている。即ち、本実施形態では、第２装飾回転部材６６０の配置および角度θに応じた第２装飾回転部材６６０の姿勢の両方を満たすように案内長孔６１６が設計されている。

【０５８６】

これにより、本実施形態のように、検出センサＫＳ１として回動部材６２０の配置を検出するセンサしか配設しない場合であっても、検出センサＫＳ１の出力を基にして第２装飾回転部材６６０の配置および姿勢を音声ランプ制御装置１１３（図４参照）が判定することができる。

【０５８７】

即ち、検出センサＫＳ１の検出溝に伝達ギアカム６３４の延設部６３４ｂが配置されて

いれば第１動作ユニット６００の演出待機状態（図４１参照）であると判定でき、その状態からの駆動モータ６３１の回転角度から回動部材６２０の回動角度、第２装飾回転部材６６０の配置および姿勢を判定することができる。

【０５８８】

ここで、角度θの変化量は、回動部材６２０の回動角度量に比例するものではない。そのため、駆動モータ６３１の回転角度から第２装飾回転部材６６０の配置および姿勢を判定する際には、駆動モータ６３１の回転角度から比例計算で数値を求めれば良いわけではない。また、これにより、回動部材６２０を一定速度で回動する場合にあっても、第２装飾回転部材６６０の回転速度が一定となることを避けることができる。以下、このことについて説明する。

【０５８９】

角度θの変化は、被支持部材６４０の従動側の変位速度の変化量の大小変化と概ね同様である。即ち、演出待機状態から中間演出状態までの角度変化（回動部材６２０が５度回動する間に約１３度）に比較して、中間演出状態から張出状態までの角度変化の方が概ね大きい（被支持部材６４０の従動側が曲線状部６１６ｂの上半部に配置される間において、回動部材６２０が５度回動する間に約２０度）。

【０５９０】

一方で、中間演出状態から張出状態までの角度変化は、被支持部材６４０の従動側が曲線状部６１６ｂの下半部への進入位置程度から漸減し、最終的には演出待機状態から中間演出状態までの角度変化の水準以下になる（約７度まで低下する）。

【０５９１】

このように、回動部材６２０の単位角度あたりの回動に対する角度θの数値が大小で変化するように構成されることで、同様に第２装飾回転部材６６０の回転角度の大小が変化するように構成することができる。即ち、角度θの数値が小さい範囲では、第２装飾回転部材６６０の回転角度が小さくなり易く、その姿勢を維持し易い状態とできる一方で、角度θの数値が大きい範囲では、第２装飾回転部材６６０の回転角度が大きくなり易く、遊技者側に向ける面（演出面６６１ａ～６６１ｃ）を迅速に変化させ易い状態とすることができる。

【０５９２】

上述の構成から、第２装飾回転部材６６０の変位動作に緩急を形成することができる。第２装飾回転部材６６０の変位動作では、上述の通り、被支持部材６４０の変位に伴う配置変更および姿勢変更と、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにより形成される筒状部の中心に形成される回転軸を中心とした回転変位と、が同時に実行される。

【０５９３】

半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにより形成される筒状部を中心とした回転変位の回転角度（角速度）は、被支持部材６４０の従動側が案内長孔６１６の直線状部６１６ａから曲線状部６１６ｂに進入するタイミングで目立って大きくなる。

【０５９４】

即ち、傾倒変位において、中間演出状態に到達するまでは第２装飾回転部材６６０の回転角度は抑えられており、中間演出状態における被支持部材６４０の従動側の配置から多少上下（跳ね戻り）したとしても、第２装飾回転部材６６０が第３演出面６６１ｃを正面側に向ける状態（図４３参照）での維持を図ることができる。

【０５９５】

一方、中間演出状態から被支持部材６４０の従動側が下方へ変位すると、回動部材６２０が一定速度で回動する場合の第２装飾回転部材６６０の回転速度は増大し、回転方向の姿勢変化が目立って視認される。即ち、遊技者に対して、第２装飾回転部材６６０が瞬時に回転変位しているように視認させることができる。

【０５９６】

なお、本実施形態では、回動部材６２０の回動終端（変位下端）において第２装飾回転部材６６０の第２演出面６６１ｂが正面側に向けられ、装飾固定部材６７０と近接配置さ

れた状態で一体的に視認される関係上（図２８参照）、回動部材６２０が変位下端に配置された状態から被支持部材６４０の従動側が上方へ跳ね戻ることを防止できることが望ましい。

【０５９７】

これに対し、本実施形態では、上述のように案内長孔６１６の曲線状部６１６ｂｂを構成することで、被支持部材６４０の従動側の変位速度を均一化しているので、回動部材６２０が変位下端に配置された状態における被支持部材６４０の従動側の変位速度が過大となることを予め防止することができ、被支持部材６４０の跳ね戻りを防止することができる。

【０５９８】

このように変位速度が均一化されていることに加え、回動部材６２０の下降変位終端における被支持部材６４０及び第２装飾回転部材６６０の中心部の配置（例えば、筒状部６４３の配置）が、回動部材６２０の回転軸としての支持締結部６１５に最接近するよう構成されている。これにより、回動部材６２０の回動先端側に支持される被支持部材６４０や第２装飾回転部材６６０の重量により回動部材６２０の回動先端が暴れることを回避でき、回動部材６２０の回動変位を安定させることができる。

【０５９９】

加えて、曲線状部６１６ｂの下半部は、回動部材６２０の変位下端において被支持部材６４０の従動側の、回動部材６２０の円形貫通孔６２４を中心として跳ね戻る方向（左上方向）への変位を好適に妨害するように構成される。即ち、曲線状部６１６ｂの下半部は、左上方向に傾斜する方向が短手方向となっており、この方向への被支持部材６４０の従動側の変位を抑制することができるので、被支持部材６４０の跳ね戻りを防止することができる。

【０６００】

換言すれば、本実施形態では、被支持部材６４０の主動側の変位に追従して被支持部材６４０の従動側が変位する際の変位方向と、被支持部材６４０の主動側が変位終端で停止した場合における被支持部材６４０の従動側の変位方向と、が異なる。

【０６０１】

前者は、案内が無ければ被支持部材６４０の主動側の変位方向（回動部材６２０の回動方向）に沿って左下方への変位となると想定されるが、本実施形態では、案内長孔６１６に案内されることで、案内長孔６１６に沿う方向として左右方向に若干振られ、下方へ変位する。

【０６０２】

一方、後者は、被支持部材６４０の主動側を中心とした円上の軌道となるので、案内長孔６１６を沿う方向ではなく、案内長孔６１６の短手方向に沿う変位方向となる。これにより、被支持部材６４０の従動側の変位を抑制することができ、被支持部材６４０の跳ね戻りを防止することができる。

【０６０３】

回動部材６２０の起き上がり方向変位の特徴について説明する。第１動作ユニット６００の張出状態から演出待機状態への状態変化において、回動部材６２０は起き上がり方向に変位する。

【０６０４】

回動部材６２０を起き上がり変位させる際に要する負荷（即ち、駆動モータ６３１で生じる駆動力）は、主に、回動部材６２０、被支持部材６４０及び被支持部材６４０に配設される第１装飾回転部材６５０及び第２装飾回転部材６６０を上昇変位させることと、第２装飾回転部材６６０を回転させることとに利用される。

【０６０５】

即ち、第２装飾回転部材６６０の回転角度が小さいほど、回動部材６２０を起き上がり変位させる際に要する負荷を低減することができる。

【０６０６】

ここで、図４９に示すように、本実施形態では、第１動作ユニット６００の張出状態から回動部材６２０が回動変位を開始する時点において、第２装飾回転部材６６０の回転角度に比例する角度θの値が最低となるように設計されている。そのため、回動部材６２０を起き上がり変位させる際に要する負荷の低減を図ることができる。

【０６０７】

回動部材６２０の起き上がり方向変位の上昇変位終端において、被支持部材６４０の延設支持部６４６を中心とした第２装飾回転部材６６０の回転軸が、回動部材６２０の長手方向と沿う姿勢（上下方向を向く姿勢）で配置される。

【０６０８】

そのため、回動部材６２０の上昇変位終端において第２装飾回転部材６６０の回転変位が停止される際に第２装飾回転部材６６０の回転方向の慣性力として回動部材６２０に与えられる負荷を、回動部材６２０が長手方向を軸としてねじられる態様の負荷として生じさせることができ、回動部材６２０はその負荷を長手方向に分散させることで局所的には僅かな弾性変位で耐えることができる。

【０６０９】

そのため、第２装飾回転部材６６０の回転軸が回動部材６２０の長手方向と正面視で直交する場合に比較して、回動部材６２０が折れるように破損する事態を回避し易くすることができる。加えて、回動部材６２０の過度な弾性変位は、前蓋部材６１２との当接により抑制され、回動部材６２０で受けきれない負荷に関しては前蓋部材６１２が弾性変形することにより耐えるよう構成できるので、回動部材６２０の破損を防止することができる。

【０６１０】

張出装飾部６５２ｂの変位について説明する。張出装飾部６５２ｂは軸線Ｏ１を中心に回転変位する部材であって、その回転角度は上述の角度θに対応する。従って、演出待機状態から張出状態への変化のように、被支持部材６４０の従動側の配置変化が小さい場合であっても、角度θが変化していれば張出装飾部６５２ｂは回転する。

【０６１１】

演出待機状態から張出状態までの角度θの変化は約１３５度であり、張出装飾部６５２ｂは約４５度で回転している。ここで、演出待機状態から張出装飾部６５２ｂが４５度も反時計回りに回転すると、組立状態（図２８参照）において他の動作ユニット８００（左右の固定装飾部材）と衝突するように感じるが、本実施形態では、張出装飾部６５２ｂの回転の基準となる被支持部材６４０自体が時計回りに回転する態様で姿勢変化しているので、他の動作ユニット８００（左右の固定装飾部材）に衝突することを回避することができる。

【０６１２】

換言すれば、張出装飾部６５２ｂが被支持部材６４０を基準として変位可能に構成されることで、張出装飾部６５２ｂの変位に要するスペースを削減することができる。

【０６１３】

例えば、張出装飾部６５２ｂが第１動作ユニット６００の張出状態において被支持部材６４０を基準として固定配置される部分である場合、被支持部材６４０が張出状態の配置から演出待機状態の配置に変化すると、張出装飾部６５２ｂは被支持部材６４０の左上側に張り出し、他の動作ユニット８００に衝突したり、第３図柄表示装置８１の表示領域の正面側に張り出し表示を部分的に隠したり、という演出に対する悪影響を及ぼす可能性がある。

【０６１４】

これに対し、本実施形態では、被支持部材６４０の従動側を基準として、被支持部材６４０の主動側の回転方向とは逆方向に、張出装飾部６５２ｂが回転変位するので、被支持部材６４０が第３図柄表示装置８１側に張り出す際には連動して張り出し、被支持部材６４０が第３図柄表示装置８１から退避する側に変位する際には連動して退避する。そのため、退避した状態における張出装飾部６５２ｂの配置を、第３図柄表示装置８１から離れ

る側に形成することができる。
【０６１５】
遊技者目線における、被支持部材６４０を基準とした張出装飾部６５２ｂの回転角度は、角度θの変化と、被支持部材６４０の姿勢変化と、の差によって求めることができる。即ち、角度θの変化幅である約１３５度と、被支持部材６４０の姿勢変化角度である約９０度の差としての４５度となる。
【０６１６】
ここで、本実施形態では、角度θの変化と、被支持部材６４０の姿勢変化と、の差が、回動部材６２０の配置に関わらず等しいよう構成される。即ち、図４７に示すように、角度θを、水平線の下側の角度ａ１，ａ２と、水平線の上側の角度ｂ１，ｂ２と、で分けた場合に、角度θと、被支持部材６４０の姿勢変化と、の差は、（（ａ１＋ｂ１）－（ａ２＋ｂ２））－（ｂ１－ｂ２）＝（ａ１－ａ２）と求められ、これは回動部材６２０の回動角度に等しい。
【０６１７】
従って、被支持部材６４０の姿勢を基準とした張出装飾部６５２ｂの回転角度が、回動部材６２０の回動角度と等しくなるので、回動部材６２０を角速度一定で回動変位させると、被支持部材６４０の変位速度は一定ではないにも関わらず、被支持部材６４０の姿勢を基準とした張出装飾部６５２ｂの回転の角速度が一定となる。
【０６１８】
そのため、遊技者に対して、被支持部材６４０に配設される張出装飾部６５２ｂが回動部材６２０を駆動させる駆動モータ６３１とは別の駆動手段で、一定角速度で駆動されているかのように視認させることができる。
【０６１９】
このように構成することで、張出装飾部６５２ｂの被支持部材６４０を基準とした変位が、遊技者目線で、スライド移動である区間があったり、回転移動がある区間があったりするように見せることができ、張出装飾部６５２ｂの変位態様を、あたかも機械では無いような柔らかい変位態様として視認させることができる。
【０６２０】
この作用は、被支持部材６４０の変位として、スライド方向の変位量に対して姿勢変化が大きい区間と、スライド方向の変位量に対して姿勢変化が小さい区間とを切り分けて設計することで実現することができる。即ち、張出装飾部６５２ｂは、回動部材６２０の回動角度に応じて被支持部材６４０に対して回転するところ、遊技者目線では、張出装飾部６５２ｂの変位が被支持部材６４０の変位として支配的となる側に影響される。
【０６２１】
従って、スライド方向の変位量に対して姿勢変化が大きい区間では張出装飾部６５２ｂが回転変位しているように視認させることができ、スライド方向の変位量に対して姿勢変化が小さい区間では張出装飾部６５２ｂがスライド変位しているように視認させることができる。
【０６２２】
上述したように、回動部材６２０は、演出待機状態、中間演出状態および張出状態を構成するように回動変位可能とされ、一方の変位終端から他方の変位終端へ変位する場合について説明したが、変位範囲の途中位置で逆方向へ変位するように駆動方向を切り替えても良い。
【０６２３】
例えば、演出待機状態から中間演出状態まで回動部材６２０を回動変位させた後で、駆動モータ６３１の駆動方向を反転させることで、演出待機状態に戻すように制御しても良い。この場合、回動部材６２０を下降途中で停止させる必要があるので、停止位置を正確にするためには、回動部材６２０の回動速度を低めに設定させる必要が生じる可能性がある。
【０６２４】

一方で、本実施形態では、演出待機状態に比較して、中間演出状態付近において角度θ（図４９参照）の数値が増大傾向に変化する。角度θの大小は、上述のように、第２装飾回転部材６６０の回転の大小に対応する。

【０６２５】

従って、第２装飾回転部材６６０の回転量が増大する中間演出状態付近において、駆動力の内で第２装飾回転部材６６０に振り分けられる分が多くなることから、相対的に、回動部材６２０の回動変位に振り分けられる分を少なくすることができ、自動的に回動部材６２０の回動変位を抑制することができる。

【０６２６】

換言すれば、第２装飾回転部材６６０の回転量が増大することに伴って、回動部材６２０の回動速度を低下させることができるので、予め回動部材６２０の回動速度を低めに設定しておかなくとも、中間演出状態付近において回動部材６２０を停止させ易くすることができる。

【０６２７】

次いで、第２動作ユニット７００について説明する。第２動作ユニット７００は、背面ケース５１０の開口５１１ａよりも下側において底壁部５１１に締結固定される動作ユニットであって、第３図柄表示装置８１（図２８参照）を見る遊技者の視界を確保するために開口５１１ａよりも下側に退避する演出待機状態（図２８参照）と、第３図柄表示装置８１の正面側に配置され注目を集める張出状態（図３０参照）と、その間の状態としての中間演出状態（図３５参照）とで、主に状態が切り替えられる。

【０６２８】

図５０は、背面ケース５１０及び第２動作ユニット７００の分解正面斜視図であり、図５１は、背面ケース５１０及び第２動作ユニット７００の分解背面斜視図である。図５０及び図５１では、主に昇降反転演出装置７７０の周辺の部材が分解された状態で図示され、昇降反転演出装置７７０については非分解の状態で図示される。

【０６２９】

図５０及び図５１に示すように、第２動作ユニット７００は、背面ケース５１０の右下隅部に締結固定される右側前板部材７１０と、その右側前板部材７１０と背面ケース５１０との間に配置され背面ケース５１０の円筒状突設部５１１ｂを中心に回動可能とされる回動アーム部材７２０と、その回動アーム部材７２０に駆動力を伝達可能に構成される駆動伝達装置７３０と、回動アーム部材７２０の先端部が案内可能に連結され昇降変位可能に構成される昇降板部材７４０と、その昇降板部材７４０の背面側において背面ケース５１０の左下隅部に締結固定される左側後板部材７５０と、左右一組で構成され右側前板部材７１０及び左側後板部材７５０の前側に締結固定される一組の前側支持部材７６０と、金属棒７０２の前側において背面ケース５１０に締結固定される目隠し装飾部材７６８と、昇降板部材７４０及び前側支持部材７６０に昇降変位と前後方向変位とを組み合わせた態様で変位可能に構成される昇降反転演出装置７７０と、を備える。

【０６３０】

右側前板部材７１０は、駆動伝達装置７３０の各構成を支持する伝達支持部７１１と、左縁部において背面側から凹設され背面ケース５１０との間に隙間を形成する隙間形成部７１２と、駆動伝達装置７３０の被検出部７３５の配置を検出するために配設される複数（本実施形態では３個）の検出センサ７１３と、左側部前側において上側へ向かう程に正面側に向かう態様で傾斜形成され昇降反転演出装置７７０の回転筒部７７４ｅを案内可能に形成される前上傾斜部７１４と、背面ケース５１０の背面側から挿通される締結ネジが螺入される雌ネジ部が形成される複数の被締結部７１８と、を備える。

【０６３１】

検出センサ７１３は、フォトカプラ式の複数のセンサが、被検出部７３５が進入可能となる位置に検出溝を配置するようにして、間隔を空けて配設されている。各検出センサ７１３は、それぞれ、第２動作ユニット７００の演出待機状態における被検出部７３５の位置、第２動作ユニット７００の中間演出状態における被検出部７３５の位置、第２動作ユ

ニット７００の張出状態における被検出部７３５の位置、に合致するように配設される。
【０６３２】
即ち、検出センサ７１３は、第２動作ユニット７００が演出待機状態か、中間演出状態か、張出状態か、により出力を切替可能に構成されており、その出力結果から音声ランプ制御装置１１３（図４参照）が第２動作ユニット７００の状態を把握可能に構成される。
【０６３３】
回動アーム部材７２０は、背面ケース５１０の底壁部５１１から正面側に円筒形状に突設される円筒状突設部５１１ｂに軸支され、正面視くの字形状の長尺板状に形成される本体部７２１と、その本体部７２１の屈曲部において後方へ向けて円筒状に突設され内周側形状が円筒状突設部５１１ｂを挿通可能な大きさで形成される支持筒部７２２と、本体部７２１の右側端部において長尺方向に沿って長孔状に穿設される長孔部７２３と、本体部７２１の左側端部において前方（円筒状突設部７１１ａの突設方向と平行な方向）へ向けて円筒状に突設され内周側に雌ネジが形成される円筒状被締結部７２４と、その円筒状被締結部７２４と支持筒部７２２との中間位置において後方へ円筒状に突設され内周側に雌ネジが形成される円筒状被締結部７２５と、支持筒部７２２の周囲に巻き付けられ背面ケース５１０との間で本体部７２１に上昇方向（左側部を持ち上げる方向）の付勢力を与えるトーションばねＳＰ２と、を備える。
【０６３４】
本体部７２１の左側部は、支持筒部７２２の基端側部に比較して正面側に配置がずれるように段が形成されており、その段により背面側に形成される隙間部に支持板７０１が配設される。
【０６３５】
支持板７０１は、背面ケース５１０の底壁部５１１に締結固定される板状部であり、円筒状被締結部７２５を案内可能に穿設される円弧状の長孔部７０１ａを備える。長孔部７０１ａにリング状のカラーＣ３を挟んで挿通される締結ネジが円筒状被締結部７２５に螺入されることで、円筒状被締結部７２５を介して回動アーム部材７２０は支持板７０１に脱落不能に支持される。
【０６３６】
支持板７０１は背面ケース５１０の底壁部５１１に締結固定されるので、回動アーム部材７２０の左側部は背面ケース５１０から正面側へ離間変位することが制限される。これにより、回動アーム部材７２０の左側にかけられる荷重により回動アーム部材７２０が正面側に傾倒する変位が生じることを防止することができるので、回動アーム部材７２０の変位を安定的に支持することができる。
【０６３７】
本体部７２１の右側部は、背面ケース５１０と隙間形成部７１２との間の隙間に配置される。即ち、本体部７２１の右側部の前後方向の変位は、背面ケース５１０と隙間形成部７１２とにより制限される。
【０６３８】
長孔部７２３は、幅中心を通り長尺方向に延びる直線が支持筒部７２２の中心を通る形状で形成される。従って、長孔部７２３に与えられる負荷が長孔部７２３の長尺方向を向く場合には、その負荷の回動アーム部材７２０の回動方向成分は０となる。
【０６３９】
駆動伝達装置７３０は、回動アーム部材７２０の長孔部７２３を介して駆動力を伝達する装置であって、右側前板部材７１０に前側から締結固定される駆動モータ７３１と、その駆動モータ７３１の駆動軸に固定される駆動ギア７３２と、その駆動ギア７３２に歯合される伝達ギア７３３と、その伝達ギア７３３に歯合されるギアカム部材７３４と、を備える。
【０６４０】
伝達ギア７３３及びギアカム部材７３４は、対応する位置において右側前板部材７１０の背面側に円筒状に突設される複数の円筒状突設部７１１ａにそれぞれ軸支される。円筒

状突設部７１１ａの内周側には雌ネジが形成されており、伝達ギア７３３やギアカム部材７３４の軸孔に挿通される締結ネジが螺入可能となっている。これらの締結ネジが螺入固定されることで、伝達ギア７３３やギアカム部材７３４が円筒状突設部７１１ａに脱落不能に軸支される。

【０６４１】

伝達支持部７１１は、上述の円筒状突設部７１１ａと、ギアカム部材７３４を軸支する円筒状突設部７１１ａを中心とした円弧状に穿設される円弧状孔７１１ｂと、を備える。

【０６４２】

ギアカム部材７３４は、回転軸部を中心とした円弧形状で正面側へ突設され円弧状孔７１１ｂに挿通可能に形成される被検出部７３５と、ギア部よりも長径となるように延設される延設部７３６と、その延設部７３６の先端部から背面側へ円筒状に突設される円筒状突設部７３６ａと、を備える。

【０６４３】

被検出部７３５は、右側前板部材７１０の検出センサ７１３の検出溝に配置可能に形成されており、検出センサ７１３からの出力によってギアカム部材７３４の姿勢を音声ランプ制御装置１１３（図４参照）が検出可能にするための部分として構成される。

【０６４４】

円筒状突設部７３６ａは、回動アーム部材７２０の長孔部７２３に挿通可能に形成されており、円筒状突設部７３６ａの変位が長孔部７２３を介して回動アーム部材７２０に伝達される。

【０６４５】

円筒状突設部７３６ａの内周側には雌ネジが形成されており、リング状のカラーＣ３の中心孔に挿通される締結ネジが螺入可能となっている。この締結ネジが螺入固定されることで、回動アーム部材７２０が円筒状突設部７３６ａに脱落不能に連結される。

【０６４６】

昇降板部材７４０は、回動アーム部材７２０の回動に伴い昇降変位する部材であって、左端側に配置され上下方向に案内される被案内部材７４１と、その被案内部材７４１の下端側に締結固定される左右に長尺の横長部材７４２と、を備える。

【０６４７】

被案内部材７４１は、背面ケース５１０に長尺方向を上下方向に揃えた姿勢で固定される金属棒７０２が挿通可能に形成され、金属棒７０２に沿った上下方向変位が可能とされる。被案内部材７４１の左右両側から背面側へ突設される突条部の先端が背面ケース５１０の底壁部５１１と当接することで、被案内部材７４１の軸回転が規制されることになり、被案内部材７４１の姿勢の安定化が図られている。

【０６４８】

被案内部材７４１の姿勢が安定化されることに伴い、その被案内部材７４１に締結固定されている横長部材７４２の姿勢の安定化が図られている。

【０６４９】

横長部材７４２は、回動アーム部材７２０の円筒状被締結部７２４が挿通可能な上下幅で左右に長尺の長円形状で穿設される長孔部７４３と、その長孔部７４３の上側において正面側に円筒状に突設される円筒状部７４４と、その円筒状部７４４を基準として左右に等距離だけ離れた位置における底部の下方に配設される一対の案内部７４５と、を備える。

【０６５０】

長孔部７４３にリング状のカラーＣ３を挟んで挿通される締結ネジが円筒状被締結部７２４に螺入されることで、円筒状被締結部７２４を介して昇降板部材７４０は回動アーム部材７２０に脱落不能に支持される。

【０６５１】

円筒状部７４４は、昇降反転演出装置７７０の挿通筒状部７７３が挿通され、昇降反転演出装置７７０を前後変位可能な状態で支持する部分である。即ち、昇降反転演出装置７

７０は、昇降板部材７４０に固定されるのではなく、昇降板部材７４０を基準とした前後変位が可能な態様で昇降板部材７４０の正面側に配設される。

【０６５２】

円筒状部７４４及び挿通筒状部７７３の周囲を巻くようにコイルスプリングＣＳ２が配設される。コイルスプリングＣＳ２の付勢力は、昇降板部材７４０と昇降反転演出装置７７０とを引き離す方向に作用する。

【０６５３】

案内部７４５は、左右一対で構成されており、前後に長尺の板部７４５ａと、その板部７４５ａから左右外側へ突設される前後一対の軸部に回転可能に軸支される回転筒部７４５ｂと、を備える。

【０６５４】

回転筒部７４５ｂは、上述した昇降反転演出装置７７０が前後変位する際に回転し、前後方向変位を案内する部分として機能するが、詳細は後述する。

【０６５５】

左側後板部材７５０は、右側前板部材７１０の前上傾斜部７１４と同様に、右側部前側において上側へ向かう程に正面側に向かう態様で傾斜形成され昇降反転演出装置７７０の回転筒部７７４ｅを案内可能に形成される前上傾斜部７５１と、背面ケース５１０の背面側から挿通される締結ネジが螺入される雌ネジ部が形成される複数の被締結部７５２と、を備える。

【０６５６】

目隠し装飾部材７６８は、光透過性の樹脂材料から立体形状に形成される立体装飾部７６８ａを備え、その立体装飾部７６８ａの背面側にはＬＥＤが正面側に固定される基板が配置されており、ＬＥＤから照射される光で立体装飾部７６８ａを光らせることができるよう構成される。

【０６５７】

前側支持部材７６０は、それぞれ、締結ネジが挿通される挿通孔を有して構成される固定用板部７６１と、その固定用板部７６１の左右内側に隣設配置され板背面が上側へ向かう程に正面側に向かう態様で傾斜形成される受傾斜部７６２と、を備える。

【０６５８】

固定用板部７６１は、挿通孔に正面側から挿通される締結ネジが、対応する雌ネジ部に螺入されることで右側前板部材７１０又は左側後板部材７５０の正面側に締結固定される板部である。

【０６５９】

この固定位置において、受傾斜部７６２は、前上傾斜部７１４，７５１の前方に配置される。即ち、受傾斜部７６２及び前上傾斜部７１４，７５１により案内経路が形成され、この案内経路に昇降反転演出装置７７０の回転筒部７７４ｅが案内されることで、昇降反転演出装置７７０は前後方向に変位しながら昇降変位するよう構成されている。以下、この昇降変位について説明する。

【０６６０】

図５２（ａ）は、図２８のＬＩＩａ－ＬＩＩａ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図であり、図５２（ｂ）は、図２８のＬＩＩｂ－ＬＩＩｂ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図である。図５２（ａ）及び図５２（ｂ）では、第２動作ユニット７００の演出待機状態が図示される。

【０６６１】

図５３（ａ）は、図３３のＬＩＩＩａ－ＬＩＩＩａ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図であり、図５３（ｂ）は、図３３のＬＩＩＩｂ－ＬＩＩＩｂ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図である。図５３（ａ）及び図５３（ｂ）では、第２動作ユニット７００の中間演出状態が図示される。

【０６６２】

図５４（ａ）は、図３０のＬＩＶａ－ＬＩＶａ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図であり、図５４（ｂ）は、図３０のＬＩＶｂ－ＬＩＶｂ線における第２動作ユニット７００及びセンターフレーム８６の断面図である。図５４（ａ）及び図５４（ｂ）では、第２動作ユニット７００の張出状態が図示される。

【０６６３】

図５２から図５４に示す第２動作ユニット７００の昇降反転演出装置７７０の昇降変位は、駆動伝達装置７３０の駆動力が回動アーム部材７２０に伝達されることで生じる。昇降反転演出装置７７０の昇降変位の際の駆動力伝達について説明する。なお、この説明では、図２８、図３０及び図３３を適宜参照する。

【０６６４】

演出待機状態（図２８参照）からの駆動力伝達開始時において、ギアカム部材７３４の円筒状突設部７３６ａ（図５１参照）の変位方向は、回動アーム部材７２０の長孔部７２３の長尺方向と平行になるように設計されているので、ギアカム部材７３４の回転開始時に生じる変位抵抗を抑制することができる。また、同様のことが、張出状態においても成立する。

【０６６５】

一方、中間演出状態（図３０参照）では、円筒状突設部７３６ａの変位方向が長孔部７２３の長尺方向と直交することから、ギアカム部材７３４が回動アーム部材７２０から回転方向に受ける変位抵抗が極大化することで、ギアカム部材７３４の回転変位を停止させ易くすることができる。

【０６６６】

図５２から図５４に示すように、第２動作ユニット７００の昇降反転演出装置７７０は、センターフレーム８６の下側においては背面側に配置され、センターフレーム８６の内側へ向けて上昇変位することに伴って、前後方向においては正面側に変位するよう構成される。

【０６６７】

この変位の変位抵抗は、昇降反転演出装置７７０の回転筒部７７４ｅが受傾斜部７６２及び前上傾斜部７１４，７５１に案内される構成と、昇降反転演出装置７７０の第１横板７７４ｂ及び第２横板７７４ｃが昇降板部材７４０の回転筒部７４５ｂに案内される構成と、により、低減される。

【０６６８】

即ち、一対の回転筒部７７４ｅは、左右対称な位置に配置される受傾斜部７６２及び前上傾斜部７１４，７５１（前上傾斜部７５１は、図５２には図示されない左側に配置、図５６参照）の傾斜角度と平行に並ぶよう設計されており、回転筒部７７４ｅが筒状部７７４ｄ中心に転動することで、受傾斜部７６２及び前上傾斜部７１４，７５１に沿った変位を行う本体部材７７１の変位抵抗を低減することができる。

【０６６９】

更に、前後に整列される回転筒部７４５ｂの配置として、前側の回転筒部７４５ｂを若干上側に配置する設計とすることで、本体部材７７１の傾倒変位の抑制を図ることができ、これにより回転筒部７７４ｅが受傾斜部７６２及び前上傾斜部７１４，７５１に過大な負荷を与えることを回避している。

【０６７０】

即ち、本実施形態では、演出装置７８０の重心位置（回転軸位置）が本体部材７７１の前後中心よりも若干前側に位置するような設計とされており、本体部材７７１は常時、重力により前傾方向に付勢されている。この付勢力の影響から、第１横板７７４ｂ及び第２横板７７４ｃには、前側が下がり、後側が上がるような変位が生じやすい。

【０６７１】

これに対し、本実施形態では、第１横板７７４ｂの前側が下がる時に近接配置される前側の回転筒部７４５ｂが若干上方に配置されており、第２横板７７４ｃの後側が上がる時に近接配置される後側の回転筒部７４５ｂが若干下方に配置されている。従って、本体部

材７７１の前傾変位を効果的に抑制することができる。

【０６７２】

更に、この構成によれば、前側の回転筒部７４５ｂは、第２横板７７４ｃとの間に隙間が生じていることから第１横板７７４ｂとの間での転動を安定的に生じさせ、後側の回転筒部７４５ｂは、第１横板７７４ｂとの間に隙間が生じていることから第２横板７７４ｃとの間での転動を安定的に生じさせることができる。これにより、回転筒部７４５ｂの転動を正常に生じさせることができ、本体部材７７１が前後方向に変位する際の変位抵抗を低減することができる。

【０６７３】

昇降反転演出装置７７０の正面側への変位は、上述の形状的な案内のほかに、コイルスプリングＣＳ２の付勢力により生じる。そのため、昇降反転演出装置７７０が正面側へ変位する上昇変位時の方が、下降変位時に比較して、前後方向変位の変位抵抗を低減することができる。

【０６７４】

昇降反転演出装置７７０の上下変位は、駆動モータ７３１の駆動力により行われるところ、その駆動力は、鉛直方向の変位と、前後方向の変位とに振り分けられる。鉛直方向の変位において、重力に対抗する必要性から、上昇方向の変位の負担が比較的大きくなるが、この場合における前後方向の変位をコイルスプリングＣＳ２の付勢力により補助することができる。従って、昇降反転演出装置７７０を上昇変位させる際に要する駆動力が過大なることを回避することができる。

【０６７５】

コイルスプリングＣＳ２は、第２動作ユニット７００の中間演出状態（図５３参照）において自然長となるように長さが設定される。即ち、昇降反転演出装置７７０が中間演出状態の配置よりも下側に配置されている場合にはコイルスプリングＣＳ２の付勢力が駆動モータ７３１の駆動力による昇降反転演出装置７７０の前後方向の変位を補助する方向に作用する一方、昇降反転演出装置７７０が中間演出状態の配置よりも上側に配置されている場合には、コイルスプリングＣＳ２の付勢力は昇降反転演出装置７７０の前後変位に作用しない。

【０６７６】

これにより、昇降反転演出装置７７０の配置を中間演出状態で維持し易くすることができる。例えば、第２動作ユニット７００の演出待機状態から駆動モータ７３１を駆動制御し、第２動作ユニット７００を中間演出状態で停止させるよう駆動モータ７３１を停止制御した場合に、停止タイミングが理想よりも若干早くなったとしても、コイルスプリングＣＳ２の付勢力で第２動作ユニット７００を中間演出状態側へ寄せるように変位させることができる。

【０６７７】

また、例えば、同様に停止制御した場合に、停止タイミングが理想よりも若干遅くなったとしても、第２動作ユニット７００が自重で下降し、且つ、その自重による下降がコイルスプリングＣＳ２の付勢力で抑制されることにより、第２動作ユニット７００を中間演出状態側へ寄せて配置を維持することができる。

【０６７８】

また、例えば、第２動作ユニット７００の張出状態から駆動モータ７３１を駆動制御し、第２動作ユニット７００を中間演出状態で停止させるよう駆動モータ７３１を停止制御する場合に、昇降反転演出装置７７０が中間演出状態を下方へ過ぎるとコイルスプリングＣＳ２の付勢力が変位抵抗として作用することから、中間演出状態よりも大きく下方変位することを防止し易くすることができる。そして、駆動モータ７３１を停止制御した後も、コイルスプリングＣＳ２の付勢力が負荷されることで第２動作ユニット７００を中間演出状態側へ寄せることができる。

【０６７９】

ここで、昇降反転演出装置７７０について、昇降変位に伴い前後方向に変位させること

による作用について説明する。前提として、センターフレーム８６により縁取られる枠の内外に変位して遊技者の注目を集める状態と遊技者の視界から退避する状態とで切り替えられる可動役物が知られている。

【０６８０】

このような可動役物では、センターフレーム８６の内側に配置されている時の見映えについて重視した設計のものがほとんどであり、センターフレーム８６の外側に退避する状態においては、遊技者から注目はされないという仮定のもとで、見映えについて考慮しないことが多かった。

【０６８１】

しかし、最近では、第３図柄表示装置８１からセンターフレーム８６までの前後距離が長く構成されており、センターフレーム８６の内側を通り第３図柄表示装置８１の表示領域を見るような視界の端において、センターフレーム８６の後側外方位置（遊技領域の背後位置）にまで視線が届くので、センターフレーム８６の後側外方位置に退避した状態の可動役物の見栄えが悪いと、遊技者の興趣を低下させる可能性がある。

【０６８２】

これに対し、本実施形態では、覆設部材７８７の正面側（図５２における第１主装飾面７８７ａ１）だけでは無く、背面側（図５２における第２主装飾面７８７ｂ１）および上下面（図５２における第１副装飾面７８７ａ２及び第２副装飾面７８７ｂ２）に装飾面を形成した上で、昇降反転演出装置７７０の変位方向を、遊技者側（正面側）を基端として背面側へ向かう程に広がる（後方へ向かう程に下降傾斜する）線、即ち、遊技者の視界の端における視線の方向に沿った変位方向とすることで、各装飾面が遊技者の視界に容易に収まるように構成している。

【０６８３】

これにより、覆設部材７８７の各装飾面を遊技者の視界に無理なく入れることができる。覆設部材７８７の各装飾面の詳細については後述するが、張出状態（図５４参照）において遊技者が視認可能となる前側面（第１主装飾面７８７ａ１又は第２主装飾面７８７ｂ１、図５４では第１主装飾面７８７ａ１）と、演出待機状態（図５２参照）において遊技者が視認可能となる上側面（第１副装飾面７８７ａ２又は第２副装飾面７８７ｂ２、図５２では第１副装飾面７８７ａ２）と、に形成される装飾（図形、模様、文字または絵柄など）が、互いに関連する装飾として形成される。

【０６８４】

換言すれば、第１主装飾面７８７ａ１と第１副装飾面７８７ａ２とが互いに関連する第１装飾として形成され、第２主装飾面７８７ｂ１と第２副装飾面７８７ｂ２とが互いに関連する第２装飾として形成され、且つ、第１装飾と第２装飾とは互いに異なる装飾として形成される。

【０６８５】

上側面に形成される装飾は、第２動作ユニット７００の演出待機状態においてセンターフレーム８６と、その奥側に配置される第３図柄表示装置８１（図２６参照）との前後隙間に配置されているので、センターフレーム８６（図２参照）の外側に形成される遊技領域を流下する球に注目する状態と、第３図柄表示装置８１で展開される表示演出に注目する状態と、を切り替えるように遊技者が目線を動かす際に視界に入り易い。

【０６８６】

そのため、張出状態において覆設部材７８７を通して遊技者が視認可能となった装飾の内容（報知内容、例えば、「チャンス」や「大当たり」等）を、演出待機状態においても覆設部材７８７の上側面を通して遊技者が視認可能とすることができる。

【０６８７】

これにより、第３図柄表示装置８１を視認し易いように演出待機状態の配置に変位し、目立たないよう配置された覆設部材７８７に、遊技者の注目を継続して集めさせることができる。

【０６８８】

また、後述するように、覆設部材７８７は遊技者側に向ける装飾面を切り替えるように回転変位可能に構成されているので、張出状態において遊技者が視認可能となる装飾面の内容が異なる場合を生じさせることができる。

【０６８９】

例えば、張出状態における覆設部材７８７の外観を遊技者が確認する前に昇降反転演出装置７７０が演出待機状態に配置された場合（見逃した場合や、動作速度が過度に速い場合）、前側面からしか装飾面の内容を把握できない構成だと、演出待機状態ではその前側面の大部分が遊技盤１３に隠されてしまうので、遊技者は第３図柄表示装置８１の表示面で展開される液晶演出に注目せざるを得ず、覆設部材７８７に対する注目力は低下する。

【０６９０】

一方、本実施形態のように、上側面からも装飾面の内容を把握できる構成を採用する場合、遊技者は、演出待機状態における昇降反転演出装置７７０を視認することで、張出状態において覆設部材７８７を通して遊技者が視認可能であった装飾の内容（報知内容、例えば、「チャンス」や「大当たり」等）について把握することができる。

【０６９１】

これにより、張出状態における覆設部材７８７の外観を見逃した遊技者に対して、覆設部材７８７の状態により報知される内容を、演出待機状態でも覆設部材７８７の視認可能な装飾面で継続して報知することができる。これにより、演出待機状態か、張出状態か、等の各状態に関わらず、覆設部材７８７の注目力を高く維持することができる。

【０６９２】

本実施形態では、第２動作ユニット７００の昇降反転演出装置７７０の前後方向の変位は、遊技領域の後端面の背面側に配置されている状態から、遊技領域の後端面よりも前方に進入するような変位として構成されることについて説明する。

【０６９３】

図５２に示すように、第２動作ユニット７００の演出待機状態において、覆設部材７８７の正面と、センターフレーム８６の板背面とは対向配置されており、センターフレーム８６は、覆設部材７８７側に突設形成される流路形成部８６ａを備える。

【０６９４】

流路形成部８６ａは、センターフレーム８６の左右入口からセンターフレーム８６の内側に形成されるワープ流路（転動経路）に飛び込んだ球がセンターフレーム８６の下縁部に到達した後、そのセンターフレーム８６の下側転動面を流下した球を一旦後方に振り、再び前方に流して、遊技領域に配設される第１入賞口６４へ向けて案内するための案内流路の後側部を形成する部分である（図９参照）。即ち、流路形成部８６ａにより、遊技領域の後端面ＢＥ１が、ベース板６０（図２参照）の板前面よりも後方側に配置される。

【０６９５】

流路形成部８６ａを流下した球は高確率で第１入賞口６４に入球することから、流路形成部８６ａに対する注目力は高く、特に球がセンターフレーム８６の内側に飛び込んだ際には、流路形成部８６ａに遊技者の視線が集まり易い。演出待機状態において（図５２参照）、流路形成部８６ａの真後ろに演出装置７８０が配設されることから、演出待機状態における演出装置７８０が遊技者の視界に入り込む状態を構成し易くすることができる。

【０６９６】

第２動作ユニット７００の演出待機状態では、覆設部材７８７は後端面ＢＥ１の背面側に配置され（図５２（ａ）参照）、第２動作ユニット７００の中間演出状態では、覆設部材７８７の前面部が後端面ＢＥ１上に配置され（図５３（ａ）参照）、第２動作ユニット７００の張出状態では、覆設部材７８７の前面部が後端面ＢＥ１の正面側に配置される。

【０６９７】

即ち、覆設部材７８７は、センターフレーム８６の内側に向けて上昇変位すると同時に、遊技領域の前後位置と同じ前後位置に進入するように、正面側へ向けて変位する。従って、遊技者に対して、覆設部材７８７がセンターフレーム８６に乗り上げて正面側へ移動してきている（遊技者側に迫ってきている）ように見せることができる。

【０６９８】
なお、第２動作ユニット７００は昇降変位に伴って演出装置７８０が前後方向の変位するところ、その前端面の前後位置は、張出状態において、第１動作ユニット６００の張出状態における第２装飾回転部材６６０の第２演出面６６１ｂの前後位置と合う（一致する）ように構成される。
【０６９９】
これにより、張出状態において正面視で近接配置される第１動作ユニット６００の第２演出面６６１ｂ（図２９参照）と、第２動作ユニット７００の演出装置７８０（図３０）と、の前後位置が合うことになり、これらを一体的に視認させ易くすることができる。
【０７００】
一方で、演出装置７８０の前後方向の配置は、中間演出状態や演出待機状態では張出状態における配置よりも後方に下がるので、張出状態に比較して、第１動作ユニット６００の箱状部材６６１と演出装置７８０とを分けて（独立で）視認させ易くすることができる。
【０７０１】
昇降反転演出装置７７０は、昇降板部材７４０に連結支持される本体部材７７１と、その本体部材７７１を基準として変位可能に構成される演出装置７８０と、を備える。次いで、図５５及び図５６を参照して昇降反転演出装置７７０の詳細について説明する。
【０７０２】
図５５は、昇降反転演出装置７７０の分解正面斜視図であり、図５６は、昇降反転演出装置７７０の分解背面斜視図である。なお、図５５及び図５６の説明では、図５０及び図５１を適宜参照する。
【０７０３】
本体部材７７１は、左右方向に長尺に形成される下側長尺部７７２と、その下側長尺部７７２の左右中央位置から背面側へ円筒状で突設される挿通筒状部７７３と、下側長尺部７７２の左右両端部から背面側に延設される一対の案内延設部７７４と、上下に延びる連結部により下側長尺部７７２の左右中央位置と一体的に形成され左右方向に長尺に形成される上側長尺部７７５と、その上側長尺部７７５の左右両側部から背面側に配設され演出装置７８０の直動板部材７８４を左右方向に案内可能に構成される複数の案内部７７６と、上側長尺部７７５の左右中央に背面側から締結固定され駆動伝達装置を支持可能とされる伝達装置保持板７７７と、下側長尺部７７２及び上側長尺部７７５の正面側に締結固定される発光演出手段７７８と、を備える。
【０７０４】
挿通筒状部７７３は、昇降板部材７４０の円筒状部７４４の内周側に挿通される部分であり、円筒状部７４４の内周に摺動可能な寸法関係で形成され、摺動により本体部材７７１は前後方向に変位する。即ち、挿通筒状部７７３が円筒状部７４４に挿通されることで、昇降板部材７４０を基準とする本体部材７７１の前後方向の傾倒変位を抑制することができる。
【０７０５】
案内延設部７７４は、幅が上下方向を向く縦板７７４ａと、その縦板７７４ａの上端部に連結され幅方向が左右方向を向く第１横板７７４ｂと、その第１横板７７４ｂよりも下側において縦板７７４ａに連結され幅方向が左右方向を向く（第１横板７７４ｂの幅と平行となる）第２横板７７４ｃと、縦板７７４ａの左右外側面から左右外側へ向けて突設される上下一対の筒状部７７４ｄと、その筒状部７７４ｄに回転可能に軸支される回転筒部７７４ｅと、を備える。
【０７０６】
第２横板７７４ｃは、第１横板７７４ｂの幅方向端部よりも左右内側に延びる態様で幅長さが長くされている。この幅方向の拡張部は、組立状態において昇降板部材７４０の下底部と上下方向に対向配置され、互いに当接することで、案内延設部７７４が前倒れする傾倒変位が抑制される。即ち、第２横板７７４ｃを昇降板部材７４０の下底部と上下方向

に対向配置される程度に幅長さを確保することにより、昇降板部材７４０を基準として本体部材７７１が前倒れする傾倒変位を抑制することができる。

【０７０７】

筒状部７７４ｄは、一対が鉛直方向に並ぶのではなく、上側の筒状部７７４ｄの方が、下側の筒状部７７４ｄに比較して前側にずれて配置される。このずれは、前上傾斜部７１４，７５１の傾斜と、一対の筒状部７７４ｄの中心を結ぶ直線の方向と、が平行になるように設定される（図５２（ａ）参照）。即ち、前上傾斜部７１４，７５１の傾斜と平行に一対の筒状部７７４ｄが配置されることにより、上下一対の回転筒部７７４ｅを前上傾斜部７１４，７５１又は受傾斜部７６２に同時に当接させることができる。これにより、上下一対の回転筒部７７４ｅを安定して転動させることができ、局所的な負荷が生じることを回避し易くすることができる。

【０７０８】

案内部７７６は、左右一対が上下に並ぶ態様で左右両側に配設され内周側に雌ネジが形成される複数の筒状部７７６ａと、左右一対の筒状部７７６ａを繋ぐように締結固定される複数の脱落防止板部７７６ｂと、を備える。

【０７０９】

脱落防止板部７７６ｂは、複数の筒状部７７６ａに対応する位置に穿設される挿通孔を備え、その挿通孔に背面側から挿通される締結ネジが筒状部７７６ａに螺入されることで筒状部７７６ａに締結固定される部分であり、直動板部材７８４の脱落を防止するための部分として機能するが、詳細は後述する。

【０７１０】

伝達装置保持板７７７は、駆動モータ７８２を支持するためのモータ支持板部７７７ａと、駆動モータ７８２の駆動軸を挿通可能な位置においてモータ支持板部７７７ａに穿設される挿通孔７７７ｂと、その挿通孔７７７ｂの下側において正面側に円筒状に突設される円筒状突設部７７７ｃと、上下両端位置において締結ネジを挿通可能に穿設される一対の挿通孔７７７ｄと、背面側に締結固定される配線留め部材７７７ｅと、を備える。

【０７１１】

円筒状突設部７７７ｃは、内周側に雌ネジが形成されており、伝達ギア７８１ｂに挿通された状態で締結ネジが螺入されることで、上下反転部材７８１を脱落不能に軸支する部分である。

【０７１２】

挿通孔７７７ｄは、上側長尺部７７５の対応する部分に形成される雌ネジ部７７５ａに螺入される締結ネジが挿通可能とされ、その締結ネジにより伝達装置保持板７７７が上側長尺部７７５に締結固定される。

【０７１３】

配線留め部材７７７ｅは、駆動モータ７８２に接続される電気配線を伝達装置保持板７７７との間の隙間に保持し、留めるための部分であるが、伝達装置保持板７７７の外枠に沿った形状に形成することで、伝達装置保持板７７７の全体的な剛性の向上をも図ることができる。

【０７１４】

発光演出手段７７８は、ＬＥＤ等の発光部材が正面側に配設される左右長尺板状の上下２枚の電飾基板７７８ａと、その電飾基板７７８ａの正面側に配設される光透過性の樹脂材料から形成される板部材であって光拡散加工が形成される光拡散部材７７８ｂと、を備える。

【０７１５】

上側の電飾基板７７８ａは、背面側に上下一対で配設される検出センサ７７８ｄを備える。検出センサ７７８ｄは、フォトカプラ形式の検出装置であって、検出溝に円弧状突設部７８１ｄが配置されることで演出装置７８０の上下反転部材７８１の姿勢を検出可能に構成されるが、詳細は後述する。

【０７１６】

下側の光拡散部材７７８ｂは、背面側に複数の被締結部が形成され、その被締結部に、対応する位置において下側長尺部７７２に穿設される挿通孔に背面側から挿通される締結ネジが螺入されることで締結固定されることで、締結ネジが目立たないようにしている。

【０７１７】

一方、上側の光拡散部材７７８ｂには、左右両側に締結ネジを挿通するための挿通孔７７８ｃが形成され、その挿通孔７７８ｃに正面側から挿通された締結ネジが上側長尺部７７５の雌ネジ部７７５ｂに螺入されることで、上側の光拡散部材７７８ｂが締結固定される。

【０７１８】

この場合、締結ネジの頭部が正面側を向いており、対策なしでは目立ってしまう可能性があるが、本実施形態では、後述するように、常に覆設部材７８７が挿通孔７７８ｃの正面側を覆うような配置とされるので、挿通孔７７８ｃに固定される締結ネジの頭部を覆設部材７８７により隠すことができる。

【０７１９】

そのため、締結ネジの頭部が正面側に向くような設計であっても、その締結ネジの頭部が目立つことで演出に悪影響を与える事態が生じることを回避することができる。換言すれば、覆設部材７８７が締結ネジを隠すように配置する設計とすることで、締結ネジの挿通方向の設計自由度を高めることができる。

【０７２０】

演出装置７８０は、上側長尺部７７５の周囲に外形部が配置され変位可能に構成される装置であって、伝達装置保持板７７７の円筒状突設部７７７ｃに軸支される上下反転部材７８１と、その上下反転部材７８１の伝達ギア７８１ｂに駆動力を伝達する駆動ギア７８２ａが駆動軸に固着される駆動モータ７８２と、上下反転部材７８１の長尺方向両端部のそれぞれに一側の端部が軸支される一対の中間腕部材７８３と、その中間腕部材７８３の他側の端部が軸支され案内部７７６に左右方向に変位を案内される一対の直動板部材７８４と、その直動板部材７８４と中間腕部材７８３との間に配設され左右方向に延びる回転軸で回転（反転）可能に構成される一対の軸回転部材７８５と、その軸回転部材７８５を直動板部材７８４と共同で軸支する一対の軸支部材７８６と、軸回転部材７８５の左右外側先端部に位相が固定された状態で脱落不能に嵌合固定される一対の端板部材７８５ｄと、その端板部材７８５ｄの前後に配置され、上側長尺部７７５の左右側部を覆う左右長さで形成される覆設部材７８７と、を備える。

【０７２１】

上下反転部材７８１は、長尺板状に形成される本体板部７８１ａと、その本体板部７８１ａの中心部の背面側にギア状で突設される伝達ギア７８１ｂと、本体板部７８１ａの長尺方向両端部から背面側へ円筒状に突設される一対の円筒状突設部７８１ｃと、伝達ギア７８１ｂの中心軸を中心とする円弧状に本体板部７８１ａの正面側に突設される円弧状突設部７８１ｄと、を備える。

【０７２２】

伝達ギア７８１ｂは、中心に前後方向に延びる円形孔を有し、この円形孔に伝達装置保持板７７７の円筒状突設部７７７ｃが挿通され、先端側から締結ネジが螺入されることで、伝達ギア７８１ｂを介して上下反転部材７８１が伝達装置保持板７７７に脱落不能に軸支される。

【０７２３】

伝達ギア７８１ｂは、駆動ギア７８２ａと歯合しており、駆動モータ７８２に通電され駆動ギア７８２ａが回転すると、伝達ギア７８１ｂも連動して回転することで、上下反転部材７８１が回転する。即ち、上下反転部材７８１は駆動モータ７８２を通電することで回転駆動可能とされる。

【０７２４】

円筒状突設部７８１ｃは、中間腕部材７８３を軸支する。即ち、中間腕部材７８３の一側支持孔７８３ａが形成される端部は、上下反転部材７８１が回転変位することに伴い変

位する円筒状突設部７８１ｃに追従して変位する。
【０７２５】
円弧状突設部７８１ｄは、発光演出手段７７８の検出センサ７７８ｄの検出溝に配置可能に形成される。即ち、上下一対の検出センサ７７８ｄのどちらかに円弧状突設部７８１ｄが配置可能とされている。
【０７２６】
そのため、検出センサ７７８ｄの出力を読み取ることで、上下反転部材７８１の姿勢を、円弧状突設部７８１ｄが検出センサ７７８ｄの検出溝に配置される２姿勢と、その間の姿勢（一対の検出センサ７７８ｄの検出溝の双方に円弧状突設部７８１ｄが配置されていない姿勢）と、で判定可能となっている。
【０７２７】
中間腕部材７８３は、長尺棒状（幅狭板状）に形成されており、一側の端部で穿設され円筒状突設部７８１ｃに軸支される一側支持孔７８３ａと、一側支持孔７８３ａの反対側である他側の端部で内周側が貫通形成される円筒状の他側円筒状部７８３ｂと、その他側円筒状部７８３ｂを中心とする傘状のギア歯（傘歯車）として形成される傘歯部７８３ｃと、を備える。
【０７２８】
円筒状突設部７８１ｃの内周側には雌ネジが形成されており、その雌ネジに一側支持孔７８３ａに背面側から挿通される締結ネジが螺入される。これにより、中間腕部材７８３は、上下反転部材７８１に脱落不能に軸支される。
【０７２９】
直動板部材７８４は、左右方向に長尺な方形板状に形成され、中間腕部材７８３の他側円筒状部７８３ｂに挿通される円筒状に突設される円筒状突設部７８４ａと、その円筒状突設部７８４ａの中心軸を中心とした円弧状で突設される円弧状板部７８４ｂと、円筒状突設部７８４ａの上下両側において左右方向に平行に延びる長円状に穿設される一対の長孔部７８４ｃと、その長孔部７８４ｃの間の位置において上下一対で平行配置され背面側に突設される一対の支持板部７８４ｄと、その支持板部７８４ｄの中間部において互いに対向される側に突設され前後方向に延びる突条として形成される一対の突条部７８４ｅと、支持板部７８４ｄの端部に背面側に開口される筒状に配設され内周側に雌ネジが形成される一対の被締結部７８４ｆと、円筒状突設部７８４ａと支持板部７８４ｄとの間で貫通形成される配置用孔７８４ｇと、軸支部材７８６との間でリング状金属部材７８５ｅを保持可能な半円形状面を有するリング保持半部７８４ｈと、軸支部材７８６との間で磁石Ｍｇを保持可能となるように方形箱状に形成される磁石保持半部７８４ｉと、を備える。
【０７３０】
円筒状突設部７８４ａは、中間腕部材７８３の他側円筒状部７８３ｂの内周径よりも若干短い外周径で形成され、他側円筒状部７８３ｂの軸方向長さよりも若干長い突設長さとされ、内周側に雌ネジが形成されている。即ち、他側円筒状部７８３ｂに背面側から挿通される締結ネジが円筒状突設部７８４ａの雌ネジに螺入されることで、中間腕部材７８３は、円筒状突設部７８４ａに脱落不能に軸支される。
【０７３１】
円弧状板部７８４ｂは、他側円筒状部７８３ｂの外周径よりも若干長い内周径の円弧形状で形成される。これにより、円弧状板部７８４ｂが組立状態で他側円筒状部７８３ｂと径方向で対向するように近接配置され、他側円筒状部７８３ｂの回転軸に対する傾斜変位を制限している。これにより、他側円筒状部７８３ｂを中心とした中間腕部材７８３の回動変位を安定させることができる。
【０７３２】
長孔部７８４ｃは、本体部材７７１の筒状部７７６ａが挿通される開口であり、筒状部７７６ａに形成される雌ネジに、脱落防止板部７７６ｂの挿通孔に背面側から挿通される締結ネジが螺入されることで、直動板部材７８４が本体部材７７１に脱落不能に支持される。

【０７３３】
その支持状態（組立状態）において、直動板部材７８４は長孔部７８４ｃの形成方向に沿ってスライド変位可能とされる。即ち、直動板部材７８４は左右方向にスライド変位可能に構成される。
【０７３４】
支持板部７８４ｄは、軸回転部材７８５の金属棒７８５ａの上下変位を抑制するように保持するための板状部であり、突条部７８４ｅは、金属棒７８５ａの左右方向の配置を規定するための突条として機能するが、詳細は後述する。
【０７３５】
配置用孔７８４ｇは、軸回転部材７８５の傘歯部材７８５ｃとの干渉を避けるための開口であるが詳細は後述する。
【０７３６】
軸回転部材７８５は、左右一組で配設され直動板部材７８４に軸支される部材であって、金属材料から略円柱状に形成される金属棒７８５ａと、その金属棒７８５ａの長さ方向の中央位置において周方向に形成される凹設溝部７８５ｂと、金属棒７８５ａの左右内側端部に配設され金属棒７８５ａに固定される部材であって中間腕部材７８３の傘歯部７８３ｃと歯合する傘歯（傘歯車）が形成される傘歯部材７８５ｃと、金属棒７８５ａの左右外側端部に配設され金属棒７８５ａに固定される端板部材７８５ｄと、その端板部材７８５ｄの金属棒７８５ａの周りに端板部材７８５ｄから嵩上げされる態様で配置されるリング状金属部材７８５ｅと、端板部材７８５ｄの左右内側部に突設される部分であって内部に形成される雌ネジ部に金属製ネジが螺入固定される回転位置安定用部７８５ｆと、を備える。
【０７３７】
金属棒７８５ａは、直動板部材７８４の一対の支持板部７８４ｄの間に配置され、凹設溝部７８５ｂに突条部７８４ｅが進入配置される。ここで、凹設溝部７８５ｂは、突条部７８４ｅと摺動可能となる寸法関係で構成されると共に、突条部７８４ｅに対して左右方向の変位が規制される寸法関係で構成される。
【０７３８】
即ち、凹設溝部７８５ｂの溝幅は突条部７８４ｅの左右幅よりも若干長く設定され、凹設溝部７８５ｂの溝深部の直径は突条部７８４ｅ間の隙間長さよりも短く設定され、凹設溝部７８５ｂが形成されていない部分の直径は突条部７８４ｅ間の隙間長さよりも長く設定される。
【０７３９】
これにより、金属棒７８５ａを、直動板部材７８４の背面側において、軸回転可能かつ左右方向への変位が抑制される態様で支持することができる。
【０７４０】
傘歯部材７８５ｃは、直動板部材７８４の配置用孔７８４ｇに進入するように配置される。傘歯部材７８５ｃが配置用孔７８４ｇに部分的に進入した状態において、直動板部材７８４の反対側（背面側）から中間腕部材７８３が傘歯部７８３ｃを傘歯部材７８５ｃと歯合させるように組み付けられる。
【０７４１】
このように組み付けられた状態において、傘歯部材７８５ｃは、配置用孔７８４ｇに進入配置されているものの、金属棒７８５ａが直動板部材７８４に支持されていることから正面側へは脱落不能とされ、背面側への変位は中間腕部材７８３により規制される。従って、傘歯部材７８５ｃは、直動板部材７８４及び中間腕部材７８３に脱落不能に支持される。
【０７４２】
端板部材７８５ｄの筒状部７８５ｄ１は、金属棒７８５ａの先端部としての非円形状（例えば、Ｄ字断面形状）に対応する内周側形状で形成され、その内周側形状と金属棒７８５ａの先端部とが締りばめの寸法関係で形成されることで、嵌合固定されている。

【０７４３】
なお、端板部材７８５ｄを金属棒７８５ａに固定する方法は、これに限られるものではない。例えば、接着剤などを利用して固着させる方法でも良いし、金属棒７８５ａの先端部に雌ネジを形成し、その雌ネジに端板部材７８５ｄに挿通される締結ネジを螺入することで、金属棒７８５ａに端板部材７８５ｄを締結固定する方法でも良いし、その他の方法でも良い。
【０７４４】
リング状金属部材７８５ｅは、直動板部材７８４のリング保持半部７８４ｈに内嵌されるように保持される。リング状金属部材７８５ｅが保持され、リング状金属部材７８５ｅの内周側に金属棒７８５ａを支持する端板部材７８５ｄの筒状部７８５ｄ１が摺接するよう構成することで、端板部材７８５ｄの回転中心を傘歯部材７８５ｃの回転中心を通る軸線と一致し易くすることができ、金属棒７８５ａの軸径方向に生じる負荷を低減することができる。
【０７４５】
回転位置安定用部７８５ｆは、配設される金属ネジが、磁石Ｍｇに吸着する部分としての機能を奏する。
【０７４６】
軸支部材７８６は、方形板状に形成される部材であって、被締結部７８４ｆに螺入される締結ネジを挿通可能に穿設される挿通孔７８６ａと、直動板部材７８４のリング保持半部７８４ｈとの間でリング状金属部材７８５ｅを保持可能な半円形状面を有するリング保持半部７８６ｂと、直動板部材７８４の磁石保持半部７８４ｉとの間で磁石Ｍｇを保持可能な方形箱状に形成される磁石保持半部７８６ｃと、を備える。
【０７４７】
挿通孔７８６ａに背面側から挿通される締結ネジが被締結部７８４ｆに螺入され直動板部材７８４及び軸支部材７８６が組み立てられると、軸支部材７８６の板部に金属棒７８５ａの背面側への脱落が規制され、リング状金属部材７８５ｅはリング保持半部７８４ｈ，７８６ｂに保持され、磁石Ｍｇは磁石保持半部７８４ｉ，７８６ｃに保持される。
【０７４８】
覆設部材７８７は、前後一組で左右内側が開口される箱状に形成される左右一対の部材であって、軸回転部材７８５の端板部材７８５ｄに締結固定され、逆側の面に異なる意味で読み取れる図形、模様、文字または絵柄などからなる装飾が形成される。
【０７４９】
即ち、覆設部材７８７は、張出状態（図５４参照）において遊技者に視認させる装飾面として形成される第１主装飾面７８７ａ１と、その裏面に形成される第２主装飾面７８７ｂ１と、第１主装飾面７８７ａ１が正面側に配置された状態で演出待機状態（図５２参照）となった場合に遊技者が視認可能な側に形成される第１副装飾面７８７ａ２と、その裏面に形成される第２副装飾面７８７ｂ２と、を備える。なお、第２副装飾面７８７ｂ２は、第２主装飾面７８７ｂ１が正面側に配置された状態で演出待機状態（図５２参照）となった場合に遊技者が視認可能な側に形成される。
【０７５０】
覆設部材７８７は、端板部材７８５ｄに締結固定される前後２枚の部材から形成され組立状態（図２６参照）において左右内側が開放された略箱状に形成される左右一対の部材であって、左右の各部材に向けて延設される複数の延設部７８７ｃと、その延設部７８７ｃの間の部分において左右外側へ退避するように凹設される凹設部７８７ｄと、を備える。
【０７５１】
延設部７８７ｃは、覆設部材７８７の近接配置状態（図２６参照）において、端部が互いに当接または近接配置されるよう形成される。これにより、左右一対の覆設部材７８７を一体的に視認させることができる。
【０７５２】

凹設部７８７ｄは、覆設部材７８７の近接配置状態（図２６参照）において、発光演出手段７７８の光拡散部材７７８ｂの中央に配置される円形状部や、上側長尺部７７５の左右中央上側の円弧板部等を視認可能に開放するための部分であり、これらの部分との干渉を少なくとも避ける形状で凹設形成される。

【０７５３】

覆設部材７８７は、演出装置７８０の動作に伴い、第１主装飾面７８７ａ１を正面側に向けると共に第１副装飾面７８７ａ２を上側に向ける状態（図２９、図５２参照）と、第２主装飾面７８７ｂ１を正面側に向けると共に第２副装飾面７８７ｂ２を上側に向ける状態（図３０参照）と、で状態を切り替え可能に形成される。まず、覆設部材７８７の状態を切り替える変位を構成する機構について説明する。

【０７５４】

図５７（ａ）及び図５７（ｂ）は、伝達装置保持板７７７、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３、直動板部材７８４及び軸回転部材７８５の正面図である。図５７（ａ）では、一対の円筒状突設部７８１ｃが同一の鉛直線上に配置される上下反転部材７８１の縦配置状態（正立の縦配置状態とも称す）が図示され、図５７（ｂ）では、図５７（ａ）に示す状態から上下反転部材７８１が円筒状突設部７７７ｃを中心に正面視反時計回りに約２４度回転した状態が図示される。なお、図５７（ａ）及び図５７（ｂ）では、理解を容易とするために、左側の軸回転部材７８５の端板部材７８５ｄ及び右側の軸回転部材７８５の図示が省略される。

【０７５５】

正立の縦配置状態では、円弧状突設部７８１ｄは、上側の検出センサ７７８ｄ（図５６参照）の検出溝に進入した状態で配置される。また、正立の縦配置状態から上下反転部材７８１を１８０度回転させた倒立の縦配置状態では、円弧状突設部７８１ｄは、下側の検出センサ７７８ｄの検出溝に進入した状態で配置される。

【０７５６】

即ち、検出センサ７７８ｄ（図５６参照）の出力は、上下反転部材７８１が正立の縦配置状態か倒立の縦配置状態かで切り替わるように構成されており、検出センサ７７８ｄの出力から音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は演出装置７８０の状態を判定することができる。

【０７５７】

図５７（ａ）及び図５７（ｂ）に示すように、上下反転部材７８１が回転変位されると、中間腕部材７８３が姿勢変化しながら左右方向に変位する。この姿勢変化の角度が、軸回転部材７８５の回転角度に対応し（比例し）、他側円筒状部７８３ｂの左右方向変位量が、直動板部材７８４及び軸回転部材７８５の左右方向変位量に対応する。

【０７５８】

ここで、回転変位と左右方向変位（直動変位）とが生じる順序について説明する。これらの変位は、同時に同程度で生じるものではなく、回転変位の程度の方が大きくなる配置や、直動変位の程度の方が大きくなる配置等がある。

【０７５９】

まず、概要の説明をすると、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３及び直動板部材７８４の構成は、周知のスライダクランク機構となっている。即ち、円筒状突設部７７７ｃを中心に上下反転部材７８１が回転すると、上下反転部材７８１の円筒状突設部７８１ｃに軸支されている中間腕部材７８３の他側円筒状部７８３ｂが、正面視で円筒状突設部７７７ｃの中心部を通る移動軸ＨＬ１に沿って平行移動するように、他側円筒状部７８３ｂに連結される直動板部材７８４の変位方向が規制されている。左右の一対の直動板部材７８４は、移動軸ＨＬ１に沿って左右逆方向に同時に変位する。

【０７６０】

図５７（ｂ）に示すように、図５７（ａ）に示す縦配置状態から約２４度回転するまでに、他側円筒状部７８３ｂは左右方向に長さＬ１変位している。長さＬ１は、下側長尺部７７２と上側長尺部７７５との連結部分（図５５参照）の幅長さの半分の長さ（左右中心

と左右幅端部との間の長さ）として図示される。
【０７６１】
　また、図５７（ａ）から図５７（ｂ）への状態変化により、中間腕部材７８３の他側円筒状部７８３ｂを中心とした姿勢変化は、正面視時計回りに５度となっており、傘歯部７８３ｃの隣り合う歯の配置間隔としての角度である１５度の半分以下の角度に抑えられている。
【０７６２】
　傘歯部材７８５ｃが中間腕部材７８３の手前側に配置されていることから、傘歯部７８３ｃと傘歯部材７８５ｃとの負荷の伝達（歯合伝達）は、互いの前後方向の対向位置、即ち、正面視における移動軸ＨＬ１上で生じる。
【０７６３】
　図５８（ａ）は、図５７（ａ）のＬＶＩＩＩａ－ＬＶＩＩＩａ線における伝達装置保持板７７７、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３、直動板部材７８４及び軸回転部材７８５の断面図であり、図５８（ｂ）は、図５７（ｂ）のＬＶＩＩＩｂ－ＬＶＩＩＩｂ線における伝達装置保持板７７７、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３、直動板部材７８４及び軸回転部材７８５の断面図である。
【０７６４】
　図５８（ｂ）に示すように、中間腕部材７８３の傘歯部７８３ｃは、軸回転部材７８５の傘歯部材７８５ｃのギア歯を押圧するように変位する（図５８（ｂ）においては、上方へ変位する）。なお、図５８（ｂ）では、理解を容易とするために、傘歯部７８３ｃと傘歯部材７８５ｃのギア歯とが重なって配置されるよう図示されており、この重なり幅が傘歯部７８３ｃと傘歯部材７８５ｃのギア歯との弾性変形により吸収される。
【０７６５】
　傘歯部７８３ｃが傘歯部材７８５ｃと歯合し、駆動力が伝達されることにより、軸回転部材７８５が回転変位する。図５７（ａ）に示す状態から上下反転部材７８１が正面視反時計回りに１８０度回転変位する間に、右側の軸回転部材７８５は後転方向に回転し、左側の軸回転部材７８５は前転方向に回転する。
【０７６６】
　なお、上下反転部材７８１が１８０度回転する間に、中間腕部材７８３の傘歯部７８３ｃは他側円筒状部７８３ｂを中心に９０度回転し、それに伴い軸回転部材７８５の傘歯部材７８５ｃは１８０度回転する。即ち、傘歯部材７８５ｃが金属棒７８５ａを中心として回転する角度は、傘歯部７８３ｃの他側円筒状部７８３ｂを中心とした回転角度の２倍となるように構成される。
【０７６７】
　ここで、図５８（ａ）の状態から図５８（ｂ）の状態までの変位による押圧に伴い生じ得る傘歯部材７８５ｃの変位量は、ギア歯の周方向の厚みに満たず、傘歯部材７８５ｃのギア歯を確実に回転させる量には満たない。即ち、当接する代表歯が隣設する歯の配置まで回転するまでの変位量（傘歯部材７８５ｃのギア歯が１２等分で配置されていることによれば、角度３０度の回転に要する変位量）よりは小さい。
【０７６８】
　傘歯部７８３ｃのギア歯は傘歯部材７８５ｃのギア歯を押圧するように変位するが、本実施形態では中間腕部材７８３及び傘歯部材７８５ｃが樹脂材料から形成されていることから、押圧を伴う変位が中間腕部材７８３及び傘歯部材７８５ｃの弾性変形により吸収されることにより、軸回転部材７８５の傘歯部材７８５ｃの回転方向の姿勢は、図５７（ａ）の状態から図５７（ｂ）の状態まで維持される。
【０７６９】
　中間腕部材７８３及び傘歯部材７８５ｃの弾性変形は、上下反転部材７８１を介して中間腕部材７８３に伝達される駆動力に対して、磁石Ｍｇから軸回転部材７８５の回転位置安定用部７８５ｆ（図５４参照）に生じる吸着力が対抗することにより生じる。
【０７７０】

即ち、右側の軸回転部材７８５が後転方向に回転変位するのを制限するように、磁石Ｍｇの磁力が下側の回転位置安定用部７８５ｆの金属ネジを吸着するように作用することで、右側の軸回転部材７８５は磁石Ｍｇから前転方向の付勢力を受ける。従って、磁石Ｍｇの吸着力は、右側の軸回転部材７８５の回転変位の変位抵抗を上昇させる方向に作用する。

【０７７１】

また、左側の軸回転部材７８５に対しては、回転位置安定用部７８５ｆの配置が右側と同様に端板部材７８５ｄの前側とされている一方で、磁石Ｍｇの配置が右側と逆の上側とされている（図５５参照）。そのため、磁石Ｍｇの磁力が上側の回転位置安定用部７８５ｆの金属ネジを吸着するように作用することで、左側の軸回転部材７８５は磁石Ｍｇから後転方向の付勢力を受ける。従って、磁石Ｍｇの吸着力は、左側の軸回転部材７８５の回転変位の変位抵抗を上昇させる方向に作用する。

【０７７２】

本実施形態では、磁石Ｍｇの吸着力は、図５７（ａ）に示す状態から他側円筒状部７８３ｂが左右方向に長さＬ１変位するまでの間に傘歯部材７８５ｃに負荷される駆動力を超える負荷を発生可能となるように設計される。

【０７７３】

これにより、図５８（ｂ）に示す傘歯部７８３ｃの変位量を吸収するように、中間腕部材７８３及び傘歯部材７８５ｃの弾性変形が生じることになる。そして、図５７（ｂ）に示す状態を超えて変位が継続されると、磁石Ｍｇの吸着力を超えて傘歯部材７８５ｃが回転し、磁石Ｍｇと回転位置安定用部７８５ｆの金属ネジとの配置が離れることで磁力が極端に低下することになり、磁石Ｍｇの吸着力から開放された中間腕部材７８３及び傘歯部材７８５ｃが弾性回復しつつ回転変位する。

【０７７４】

そのため、回転開始時においては、弾性回復分が軸回転部材７８５の回転方向の勢いを増すことになるので、回転開始時における回転速度を瞬間的に向上させることができる。この回転速度の向上は、軸回転部材７８５だけでなく、軸回転部材７８５に締結固定される覆設部材７８７（図５５参照）でも同様に生じる。

【０７７５】

これにより、駆動モータ７８２の駆動速度の変更を行うことなく、覆設部材７８７の動作の緩急をつけることができるので、駆動モータ７８２の制御設計の負担を低減しながら、覆設部材７８７の演出効果を向上することができる。

【０７７６】

このように、本実施形態によれば、磁石Ｍｇの吸着力により、軸回転部材７８５の回転変位が生じるタイミングを、中間腕部材７８３の傘歯部７８３ｃが回転開始するタイミングよりも遅らせることができる。

【０７７７】

磁石Ｍｇの吸着力を受ける回転位置安定用部７８５ｆは、上下一対で構成されており、覆設部材７８７の第１主装飾面７８７ａ１が正面側を向いている時には一方の回転位置安定用部７８５ｆが磁石Ｍｇに近接配置され吸着力を受け（図５２（ｂ）参照）、向きが反転し覆設部材７８７の第２主装飾面７８７ｂ１が正面側を向いている時には他方の（図５２（ｂ）参照、上側の）回転位置安定用部７８５ｆが磁石Ｍｇに近接配置され吸着力を受ける。

【０７７８】

即ち、正面側を向いている面が第１主装飾面７８７ａ１か第２主装飾面７８７ｂ１かに関わらず、少なくとも近接配置状態（図２９及び図３０参照）において、磁石Ｍｇの磁力は軸回転部材７８５の回転変位を制限する目的で有効に作用する。従って、近接配置状態からの変位において、軸回転部材７８５の回転変位が磁力により遅れる作用を回転変位の方向によらず（両方向で）生じさせることができる。

【０７７９】

即ち、図５８（ａ）に示す状態から図５８（ｂ）に示す状態までの間は、左右方向の直動変位の程度の方が、回転変位の程度に比較して大きい。そして、上下反転部材７８１が図５７（ｂ）を超えて正面視反時計回りに回転が継続されると、左右方向の直動変位の程度が落ち着き、回転変位が生じる。

【０７８０】

本実施形態によれば、上述のようにスライダクランク機構を採用していることから、同様の作用が生じる。即ち、縦配置状態付近においては、円筒状突設部７８１ｃの変位は、左右方向に大きく上下方向に小さいので、中間腕部材７８３の左右方向変位は大きく回転量は小さい。そのため、直動板部材７８４の左右方向変位は大きく、軸回転部材７８５の回転変位は小さくなる。

【０７８１】

一方、上下反転部材７８１の長尺方向が左右方向に近づくように倒れるほど、円筒状突設部７８１ｃの変位は、左右方向に小さく上下方向に大きくなるので、中間腕部材７８３の左右方向変位は小さく回転量は大きくなる。そのため、直動板部材７８４の左右方向変位は小さく、軸回転部材７８５の回転変位は大きくなる。

【０７８２】

従って、縦配置状態から開始され縦配置状態で終了する上下反転部材７８１の回転動作において、まず直動板部材７８４の左右方向変位の程度が大きくなり、次いで軸回転部材７８５の回転変位の程度が大きくなり、再び直動板部材７８４の左右方向変位の程度が大きくなる。

【０７８３】

このような順序で直動変位と、回転変位とが生じることで、上側長尺部７７５と下側長尺部７７２との連結部分（図５５参照）に覆設部材７８７の延設部７８７ｃが衝突することを回避することができる。次いで、覆設部材７８７の外観の変化について説明する。

【０７８４】

図５９（ａ）から図５９（ｃ）は、演出装置７８０の正面図である。図５９（ａ）から図５９（ｃ）では、昇降反転演出装置７７０の反転動作が時系列で図示される。図５９（ａ）では、上下反転部材７８１の正立の縦配置状態における演出装置７８０が図示され、図５９（ｂ）では、上下反転部材７８１が縦配置状態から９０度回転した時における演出装置７８０が図示され、図５９（ｃ）では、上下反転部材７８１の倒立の縦配置状態における演出装置７８０が図示される。

【０７８５】

上下反転部材７８１は、正立の縦配置状態（図５７（ａ）参照）から正面視反時計回りに１８０度回転することで、倒立の縦配置状態に状態が変化する。倒立の縦配置状態では、正立の縦配置状態（図５９（ａ）参照）を基準として、覆設部材７８７の姿勢が１８０度反転する。これにより、遊技者が視認可能な装飾面が切り替えられることになる（図５９（ｃ）参照）。

【０７８６】

倒立の縦配置状態から上下反転部材７８１が正面視時計回り（反対回り）に１８０度回転変位することで、正立の縦配置状態（図５７（ａ）参照）に戻る。従って、反転動作は、上下反転部材７８１を１８０度回転変位させるように方向を反転させて駆動モータ７８２（図５６参照）を駆動する度に、図５９（ａ）に示す状態と図５９（ｃ）に示す状態とで、状態を繰り返し切り替えることができる。

【０７８７】

上述したように、図５７（ａ）に示す状態から上下反転部材７８１が正面視反時計回りに１８０度回転変位する間に、傘歯部７８３ｃと噛み合うことで軸回転部材７８５が１８０度回転変位する。ここで、傘歯部７８３ｃの回転方向から、右側の軸回転部材７８５は後転方向に回転し、左側の軸回転部材７８５は前転方向に回転する。即ち、左右に配置される一対の軸回転部材７８５及び端板部材７８５ｄに締結固定される覆設部材７８７は、逆方向に回転する。

【０７８８】
そのため、途中位置では、右側の覆設部材７８７は第２副装飾面７８７ｂ２を正面側に向け、左側の覆設部材７８７は第１副装飾面７８７ａ２を正面側に向ける（図５９（ｂ）参照）。
【０７８９】
これにより、覆設部材７８７の回転変位中に、左側の覆設部材７８７の第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）と右側の覆設部材７８７の第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）とが揃って視認されることを回避することができる。
【０７９０】
従って、回転変位中の覆設部材７８７の装飾面を、敢えて左右で内容のずれたものとすることができ、装飾面の内容を遊技者に認識し難いように構成できるので、回転変位中の覆設部材７８７が遊技者に与える情報量を低くすることができる。
【０７９１】
これにより、回転変位中の覆設部材７８７に対する遊技者の注目力を低減させることができる。また、回転変位が停止した時に左右一対の覆設部材７８７の装飾面が第１主装飾面７８７ａ１（又は第２主装飾面７８７ｂ１）で揃うことから、覆設部材７８７の回転が停止するまで遊技者の視線を覆設部材７８７に維持し易いという効果も奏し得る。
【０７９２】
回転変位は第２動作ユニット７００の張出状態（図５４参照）で実行されるが、この回転変位が停止し、左右一対の覆設部材７８７の装飾面が第１主装飾面７８７ａ１（又は第２主装飾面７８７ｂ１）で揃った状態では、演出装置７８０が第３図柄表示装置８１の表示領域の上下中央付近にまで上昇してきており（図３０参照）、この状態で第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）に注目力が集まる可能性は低い。
【０７９３】
特に、第３動作ユニット８００が第２動作ユニット７００と近接変位されるよう制御される場合などには特に、第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）への視界が第３動作ユニット８００に遮られることになる。
【０７９４】
一方で、第２動作ユニット７００が演出待機状態となり（図５２参照）、演出装置７８０が第３図柄表示装置８１の表示領域よりも下側に配置されると、第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）が遊技者の視界に入り易くなる。
【０７９５】
このように、第２動作ユニット７００では、第１副装飾面７８７ａ２（又は第２副装飾面７８７ｂ２）を、張出状態においては回転変位中に揃って視認されることを防止したり遊技者側に面が向くことを防止したりすることで注目させず、演出待機状態においては遊技者に注目され得る側面として形成している。
【０７９６】
これにより、第２動作ユニット７００の見え方を配置に応じて変化させることができるので、第２動作ユニット７００を配置するコスト（場所の占有、上手に隠す負担）に対する演出性能が過度に低くなる状態が生じることを回避し易くすることができる。
【０７９７】
軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の回転変位後において、回転位置安定用部７８５ｆが磁石Ｍｇ（図５４（ｂ）参照）に吸着することで軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の姿勢の安定化を図ることができる。
【０７９８】
本実施形態では、磁石Ｍｇに吸着する金属部材が金属製ネジで構成されるので、専用の金属部材を設計する場合に比較して、部材コストの削減や、メンテナンス性の向上を図ることができる。
【０７９９】

上述したように、軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の回転変位には左右方向の直動変位が伴うので、回転変位を実行可能な演出装置７８０の配置は制限されることになる。即ち、第２動作ユニット７００の演出待機状態（図２８参照）や中間演出状態（図３３参照）では、回転変位を実行することで、左右に配置される右側前板部材７１０、左側後板部材７５０及び前側支持部材７６０や、その正面側に固定配置される立体装飾部７６８ａ等の装飾部材が覆設部材７８７に衝突することになる。

【０８００】

一方、第２動作ユニット７００の張出状態（図３０参照）では、左右方向に空間が確保されることで、軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の回転変位を実行可能となる。

【０８０１】

従って、軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の回転変位を生じさせる駆動モータ７３１の駆動制御は、検出センサ７１３の出力から第２動作ユニット７００が張出状態になっていると判定されていることを前提に実行可能に制御される。これにより、軸回転部材７８５及び覆設部材７８７の回転変位を正常に生じさせることができる。

【０８０２】

延設部７８７ｃは、上下反転部材７８１の縦配置状態において互いに近接配置され、この状態において上側長尺部７７５と下側長尺部７７２との連結部分と前後で対向配置される。そのため、この配置から覆設部材７８７を左右方向に延びる回転軸で回転変位させると、延設部７８７ｃが上側長尺部７７５と下側長尺部７７２との連結部分に衝突することになり、不具合が生じる。

【０８０３】

一方で、延設部７８７ｃが近接配置される構成は、左右一対の覆設部材７８７を一体的に視認させることができるという効果を生じさせるものであり、演出上必要となる構成であるので、維持できることが好ましい。

【０８０４】

これに対し、本実施形態では、覆設部材７８７が、回転変位の前に、予め左右方向に長さＬ１だけ直動変位するよう構成される（図５７参照）。長さＬ１の直動変位により、延設部７８７ｃを上側長尺部７７５と下側長尺部７７２との連結部分の前後位置から退避させることができ、延設部７８７ｃと上側長尺部７７５と下側長尺部７７２との連結部分とが衝突する不具合を回避することができる。

【０８０５】

また、このように回転変位を構成することで、覆設部材７８７が左右方向に変位する間において長さＬ１では回転変位が生じず（又は制限され）、残りの長さＬ２において回転変位を生じさせることになるので、覆設部材７８７の回転中における左右方向の変位量を小さく抑えることができる。

【０８０６】

これにより、回転中に覆設部材７８７の配置が大きく変化する場合に比較して、覆設部材７８７の注目力を低く抑えることができ、回転変位を目立たせなくすることができるので、各装飾面７８７ａ１～７８７ｂ２の設計として、回転変位中の見映えを無視した設計を行うことができるので、設計自由度を向上することができる。

【０８０７】

なお、覆設部材７８７が回転開始するタイミングは、磁石Ｍｇの吸着力の設計により任意に設定可能である。そのため、例えば、本体部材７７１の下側長尺部７７２と上側長尺部７７５との連結部の左右幅を長くする設計変更が生じたとしても、演出装置７８０の構成は同じとしながら、磁石Ｍｇを吸着力の大きな磁石に変更することで、本実施形態と同様に、上述の連結部と延設部７８７ｃとの衝突を回避することができる。

【０８０８】

図５９において想像線で図示するように、挿通孔７７８ｃは、常に覆設部材７８７に隠されるよう配置される。これにより、挿通孔７７８ｃに挿通される締結ネジが遊技者に視認されることを防止することができ、締結ネジにより演出効果が低くなることを回避する

ことができる。
【０８０９】
本実施形態では、左右一対の覆設部材７８７に形成される各装飾面７８７ａ１，７８７ａ２，７８７ｂ１，７８７ｂ２の装飾（図形、模様または絵柄など）が、左右の覆設部材７８７で同一では無いことから、左右の装飾に合わせて挿通孔７７８ｃの配置が左右非対称とされている。
【０８１０】
即ち、挿通孔７７８ｃは締結ネジが挿通される部分であるので、その位置で電飾基板７８７ａにＬＥＤを配置することができなくなる（図５５参照）。また、締結ネジは金属製であり光を透過しないので、発光演出時に暗く視認され易い。
【０８１１】
従って、左右の装飾において、明るく光らせて目立たせる箇所を避けて挿通孔７７８ｃを配置することが望ましく、そのようにした結果、挿通孔７７８ｃの配置が左右非対称とされている。
【０８１２】
なお、挿通孔７７８ｃの配置を左右対称にすることは当然に許容される。特に、左右の覆設部材７８７で各装飾面７８７ａ１，７８７ａ２，７８７ｂ１，７８７ｂ２の装飾が同一の場合には、挿通孔７７８ｃを左右対称に配置することによる不利益は生じず、且つ、電飾基板７７８ａの設計を容易とすることができる。
【０８１３】
図５９（ｂ）に示すように、本実施形態では、昇降反転演出装置７７０の反転動作中に覆設部材７８７が左右に直動変位し、光拡散部材７７８ｂの中央部付近が延設部７８７ｃに囲まれていない状態においても、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３及び直動板部材７８４等の機構部が視認されないように隠される。
【０８１４】
即ち、正面視において、本体部材７７１の上側長尺部７７５の外形が、前側に配置される光拡散部材７７８ｂの外形に収まる形状に設計されており、直動板部材７８４の上下幅が、前側に配置される上側長尺部７７５の左右長尺部の上下幅に収まる形状に設計されている。また、上下反転部材７８１は前側に配置される上側長尺部７７５の円板部の外形に収まる形状に設計されており、中間腕部材７８３は変位軌跡が光拡散部材７７８ｂの外形に収まるように設計される。
【０８１５】
これにより、演出装置７８０の変位を実現するための機構部を光拡散部材７７８ｂの背後に隠し、視認不能とすることができるので、反転動作中における演出装置７８０の外観による演出効果が低下することを回避することができる。
【０８１６】
図２６に戻って説明する。第３動作ユニット８００は、演出待機状態において第３図柄表示装置８１の表示領域の上側に配置され、背面ケース５１０に支持される左右一対の昇降アーム部材８０１（図３１参照）の先端部に支持され、昇降アーム部材８０１が上下方向に駆動されることに伴って昇降変位可能に構成されるユニットである。
【０８１７】
図６０は、第３動作ユニット８００の構成の一部の分解正面斜視図であり、図６１は、第３動作ユニット８００の構成の一部の分解背面斜視図である。なお、図６０及び図６１では、第３動作ユニット８００の変位を構成する部分が図示されており、外側に配設される装飾部分としての装飾部材８７０，８８０の図示が省略されている。
【０８１８】
図６０及び図６１に示すように、第３動作ユニット８００は、昇降アーム部材８０１に保持される被保持部材８１０と、その被保持部材８１０の中心部に円筒部８２１が締結固定される固定円筒部材８２０と、円筒部８２１が内周側に挿通された状態で円筒部８２１に軸支される内側回転部材８３０と、その内側回転部材８３０が内周側に挿通された状態

で本体部８３１に軸支される外側回転部材８４０と、その外側回転部材８４０の円筒状部８４２ａに回動可能に連結される複数（本実施形態では５本）の中間腕部材８５０と、被保持部材８１０に収容される複数のギア部材を有し内側回転部材８３０、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０を変位させる駆動力を伝達するための駆動伝達装置８６０と、を備える。

【０８１９】

被保持部材８１０は、円板形状の本体部材８１１と、その本体部材８１１に正面側から蓋をする孔空き蓋部材８１７と、を備える。

【０８２０】

本体部材８１１は、中心部において固定円筒部材８２０の円筒部８２１を保持するために凹設され固定用の締結ネジを挿通する挿通孔や電気配線を挿通する貫通孔が形成される筒固定部８１２と、フォトカプラ式のセンサであって外側回転部材８４０の被検出部８４４を受け入れ可能な側に検出溝を向けて固定される検出センサ８１３と、駆動モータ８６１を保持するモータ保持部８１４と、伝達ギア８６３を脱落不能に軸支する円筒部として正面側に突設される複数の円筒状突設部８１５と、負荷応答ギア８６５を脱落不能に軸支する二重の円筒部として正面側に突設される複数の二重円筒突設部８１６と、を備える。

【０８２１】

孔空き蓋部材８１７は、中央部に前後方向に穿設される円形孔８１８を備える。円形孔８１８は、開口方向視において、その内周縁部から、伝達ギア８６３及び負荷応答ギア８６５が内側に張り出すような寸法で設計される。

【０８２２】

固定円筒部材８２０は、上述の円筒部８２１と、その円筒部８２１の正面側端部に形成される円形板部８２２と、その円形板部８２２に締結固定され正面側にＬＥＤ等の発光手段が配設される円板状の電飾基板８２３と、その電飾基板８２３を正面側から覆うことができるような傘状（又は、お椀状）で光透過性の樹脂材料から形成される透光装飾部材８２４と、円筒部８２１の円形板部８２２側の外径よりも若干長い内径の円環状に形成され円筒部８２１と摺動可能に構成される摺動部材８２５と、を備える。

【０８２３】

円筒部８２１は、背面側先端部に雌ネジが形成されており、その雌ネジに被保持部材８１０の筒固定部８１２の挿通孔に挿通された締結ネジが螺入されることで、固定円筒部材８２０が被保持部材８１０に回転不能に締結固定される。

【０８２４】

円筒部８２１は内周側において軸方向に貫通形成されており、この貫通部分を通して筒固定部８１２の貫通孔に挿通された電気配線が正面側へ這わされ、電飾基板８２３の背後に配設されるコネクタに接続される。

【０８２５】

電飾基板８２３は、ＬＥＤとして、五角形の頂点およびそれらの頂点から等距離離れた中心位置に配置される内側発光部８２３ａと、円周上に等間隔で１５箇所に配置される外側発光部８２３ｂと、を備える。内側発光部８２３ａは、光軸が正面側（前方）を向くＬＥＤから構成され、外側発光部８２３ｂは、光軸が径方向外側（直径方向）を向くＬＥＤから構成される。

【０８２６】

外側発光部８２３ｂは、円周上に等間隔に配置される１５個のＬＥＤから構成される。後述するように、外側発光部８２３ｂから照射される光は、円周上に等間隔で互いに密接して配置される第１装飾部材８７０の鍍金部８７１ａに照射されることから、各第１装飾部材８７０に、３個のＬＥＤからの光が照射されることになる。

【０８２７】

外側発光部８２３ｂは電飾基板８２３に固定配置されており、第１装飾部材８７０は円の中心を軸として回転変位するように構成されるが、外側発光部８２３ｂ及び第１装飾部材８７０は同軸の円上にそれぞれ等間隔で配置されるので、第１装飾部材８７０の回転方

向の姿勢に関わらず、常に同数（本実施形態では、３個）のＬＥＤからの光を各第１装飾部材８７０に照射することができる。

【０８２８】

これにより、回転動作中に第１装飾部材８７０に照射される光ＬＤ１の光量の変化を抑制することができる。

【０８２９】

摺動部材８２５は、内径側部が固定円筒部材８２０の円筒部８２１に摺動可能に構成される一方、外径側部が内側回転部材８３０の円形フランジ状部８３１ａに摺動可能となるように形成される。

【０８３０】

摺動部材８２５は、正面側にフランジ状部が形成されており、そのフランジ状部の内径側端部から後方に筒状で突設される筒状部を有するが、この筒状部の外径が、円形フランジ状部８３１ａの内径よりも若干短く形成されることで、内側回転部材８３０に摺動可能に内嵌される。

【０８３１】

摺動部材８２５を間に介在させることにより、固定円筒部材８２０と、その周りを回転可能に構成される内側回転部材８３０とが直接接触することを防止するようにしている。また、円筒部８２１の円形板部８２２側であり、同様に本体部８３１の円形フランジ状部８３１ａ側という強度的に有利な側に摺動部材８２５が配設されることで、摺動時や摺動不良時（意図せず変位抵抗が過大となった時）に生じる負荷によって固定円筒部材８２０や内側回転部材８３０が損傷したり変形したりする可能性を低減することができる。

【０８３２】

内側回転部材８３０は、正面側端部に円形フランジ状部８３１ａを有する円筒状の本体部８３１と、その本体部８３１の周囲を円周方向に５等分した位置において径方向に長尺方向を沿わせた姿勢で円形フランジ状部８３１ａに締結固定される複数の金属棒８３２と、その金属棒８３２が挿通可能に形成され金属棒８３２に案内される形で直動変位可能に構成される複数の直動部材８３３と、その直動部材８３３の径方向外側部において回転可能に軸支される複数の回転部材８３４と、を備える。

【０８３３】

本体部８３１は、上述の円形フランジ状部８３１ａと、隣り合う金属棒８３２の中間の角度位置（５箇所）において円形フランジ状部８３１ａを基端として突条状に後方に延びる複数の摺動突条部８３１ｂと、円形フランジ状部８３１ａの反対側の端部において円周方向に間隔を空けて凹設形成される複数の凹設部８３１ｃと、を備える。

【０８３４】

摺動突条部８３１ｂは、外側回転部材８４０の本体部８４１の内周側曲面と摺動可能に構成される部分であって、外側回転部材８４０との接触面積を減らし接触摩擦を低減するために突設先端が断面半円状に形成される。

【０８３５】

摺動突条部８３１ｂの配置は、上述のように隣り合う金属棒８３２の中間の角度位置とされるが、換言すれば、外側回転部材８４０の中心軸を基準として金属棒８３２の反対側の位置（１８０度ずれた位置）とされる。

【０８３６】

これにより、後述する切替回転動作において中間腕部材８５０が金属棒８３２に沿って径外方向に変位され、その中間腕部材８５０が軸支される外側回転部材８４０が径外方向に変位するよう負荷を受けたとしても、その外側回転部材８４０の変位を摺動突条部８３１ｂで受けることができるので、外側回転部材８４０の内側円周面と内側回転部材８３０の外側円周面との接触面積を低い状態で維持することができる。

【０８３７】

凹設部８３１ｃは、中央円環ギア８６４の伝達突部８６４ａが進入配置される部分であって、凹設部８３１ｃに伝達突部８６４ａが配置されることで、互いの相対回転を不能と

して、中央円環ギア８６４の回転角度と内側回転部材８３０の回転角度とを一致させることができる。

【０８３８】

直動部材８３３は、直動変位方向に並ぶように間隔を空けて配置され後方へ向けて円筒状に突設される一対の円筒状突設部８３３ａ，８３３ｂと、その円筒状突設部８３３ａ，８３３ｂを基準として本体部８３１の中心軸から離れた側に形成され回転部材８３４に挿通される円筒状の円筒状軸部８３３ｃと、その円筒状軸部８３３ｃの先端部において周方向に沿って凹設される凹設溝８３３ｄと、を備える。

【０８３９】

凹設溝８３３ｄは、組立状態（図２８参照）において回転部材８３４から突き出た側に配置されており、回転部材８３４に締結固定される装飾部材８７０，８８０の張出部８７３，８８３が摺動可能に外嵌されることで、回転部材８３４の径外方向への脱落を防止する変位規制用の溝として機能するが、詳細は後述する。

【０８４０】

回転部材８３４は、傘歯車状に形成される傘歯部８３４ａと、直動方向と平行に円筒状に突設される複数の円筒状突設部８３４ｂと、を備える。傘歯部８３４ａは、全周に亘って形成されるものではなく、動作に必要となる３／４周（約２７０度）に亘って形成されている。

【０８４１】

円筒状突設部８３４ｂは、内周側に雌ネジが形成されており、装飾部材８７０，８８０の挿通孔８７４，８８４に挿通された締結ネジを螺入することで、装飾部材８７０，８８０を回転部材８３４に締結固定するように機能するが、詳細は後述する。

【０８４２】

外側回転部材８４０は、円筒状の本体部８４１と、その本体部８４１の周囲を円周方向に５等分した位置において径方向外方へ延設される複数（本実施形態では、５本）の延設腕部８４２と、本体部８４１の後側端部の円周に沿って外周側に形成されるギア歯８４３と、検出センサ８１３の検出溝に進入可能な配置で本体部８４１の径外方向に延設される被検出部８４４と、を備える。

【０８４３】

延設腕部８４２は、本体部８４１の中心軸と平行に延びる円筒状部８４２ａを備え、その円筒状部８４２ａの内周側には雌ネジが形成されており、中間腕部材８５０の基端側棒部８５１に円筒状部８４２ａを挿通した状態で雌ネジに締結ネジを螺入することで、中間腕部材８５０が延設腕部８４２に脱落不能に軸支される。

【０８４４】

ギア歯８４３は、駆動伝達装置８６０の負荷応答ギア８６５と歯合可能に配設されることで、外側回転部材８４０の回転変位の有無を切り替える部分として機能するが、詳細は後述する。

【０８４５】

中間腕部材８５０は、長尺に形成される部材であって、一端側が外側回転部材８４０の円筒状部８４２ａに軸支される基端側棒部８５１と、その基端側棒部８５１の他端側において正面側に増厚される増厚部８５２と、その増厚部８５２の正面側端部から基端側棒部８５１の長尺方向と平行に延設される先端側棒部８５３と、その先端側棒部８５３の端部にギア歯を有して形成される回転伝達部８５４と、を備える。

【０８４６】

回転伝達部８５４は、直動部材８３３及び回転部材８３４と連動する部分であって、円筒状突設部８３３ａを挿通した状態で互いに回動可能な寸法関係で形成される被支持孔８５４ａと、その被支持孔８５４ａを中心とした円弧状に穿設される長孔であって円筒状突設部８３３ｂを挿通した状態で案内する案内孔８５４ｂと、被支持孔８５４ａを中心軸とする傘歯車状に形成され回転部材８３４の傘歯部８３４ａと歯合することで傘歯車を形成する傘歯部８５４ｃと、を備える。

【０８４７】
駆動伝達装置８６０は、モータ保持部８１４に締結固定される駆動モータ８６１と、その駆動モータ８６１の駆動軸に固着される駆動ギア８６２と、円筒状突設部８１５に脱落不能に軸支され駆動ギア８６２を介して駆動力を伝達可能に歯合される複数の伝達ギア８６３と、その伝達ギア８６３に歯合される中央円環ギア８６４と、その中央円環ギア８６４の配置よりも前側にずれて配置され二重円筒突設部８１６に脱落不能に軸支される一対の負荷応答ギア８６５と、その負荷応答ギア８６５の背面側において二重円筒突設部８１６の二重筒に支持され負荷応答ギア８６５にかけられる回転方向の負荷に応じた抵抗が可変とされるトルクリミッタ８６６と、を備える。
【０８４８】
中央円環ギア８６４は、環状に形成され、その内周側に固定円筒部材８２０の円筒部８２１を挿通可能に設計され、内側回転部材８３０の凹設部８３１ｃに進入配置可能となるように凹設部８３１ｃに対応する配置および形状で底板部から正面側に突設される伝達突部８６４ａと、その伝達突部８６４ａの内径側および外径側に配置される同軸二重円環形状で底板部から正面側に突設される支持円環状部８６４ｂと、を備える。
【０８４９】
組立状態では、伝達突部８６４ａが凹設部８３１ｃに進入配置された状態において、支持円環状部８６４ｂの間の隙間に内側回転部材８３０の本体部８３１の後方端部が中間ばめの寸法関係または締りばめの寸法関係で嵌合される。これにより、中央円環ギア８６４と内側回転部材８３０とを一体的に回転させることができる。
【０８５０】
なお、凹設部８３１ｃ及び伝達突部８６４ａの配置については何ら限定されるものではない。例えば、円周方向に等間隔で配置されるようにしても良いし、円周方向に不等間隔で配置されるようにしても良い。
【０８５１】
等間隔であれば、内側回転部材８３０と中央円環ギア８６４との姿勢を考慮せずとも、伝達突部８６４ａと凹設部８３１ｃとの配置を合わせれば組み付けることができるので、組み付けを迅速に行うことが可能となる。本実施形態にように、内側回転部材８３０及び中央円環ギア８６４の形状が回転方向で対称（７２度間隔で同じ）とされる場合には、内側回転部材８３０及び中央円環ギア８６４の姿勢が組み付け時にずれることによる影響は少ないと考えられるので、等間隔とすることは有効である。
【０８５２】
不等間隔であれば、組み付け作業時において、内側回転部材８３０に対して中央円環ギア８６４の姿勢を合わせてから組み付けるという工数が１個増えるが、凹設部８３１ｃへの伝達突部８６４ａの配置を利用して、内側回転部材８３０と中央円環ギア８６４との姿勢合わせを行うことができる。
【０８５３】
負荷応答ギア８６５は、外側回転部材８４０のギア歯８４３と歯合可能に配設される。負荷応答ギア８６５にトルクリミッタ８６６が係合していることにより、内側回転部材８３０及び中央円環ギア８６４と、外側回転部材８４０と、の間の回転抵抗の大小に起因して、負荷応答ギア８６５の回転が許容される状態と、規制（制限）される状態と、が切り替えられるよう構成されている。
【０８５４】
即ち、トルクリミッタ８６６は、所謂安全クラッチとして機能するものであり、所定の許容値を超える負荷がかかると接続を切り、駆動力の伝達を解除するよう構成される。本実施形態では、一方向の駆動力を伝達する装置（ワンウェイのトルクリミッタ）が、伝達方向を逆とする一組で構成され、トルクリミッタ８６６による駆動伝達の切り替えを双方向で応答性良く行えるように構成している。
【０８５５】
図６２は、第３動作ユニット８００の構成の一部の分解正面斜視図であり、図６３は、

第３動作ユニット８００の構成の一部の分解背面斜視図である。なお、図６２及び図６３では、第３動作ユニット８００の装飾部分が図示されており、変位を構成するための部分の図示が省略されている。

【０８５６】

図６２及び図６３に示すように、第３動作ユニット８００は、上述した内側回転部材８３０と、その内側回転部材８３０の円筒状突設部８３４ｂに締結固定され円筒状突設部８３４ｂの一方の側面を覆う第１装飾部材８７０と、円筒状突設部８３４ｂに締結固定されると共に第１装飾部材８７０の反対側の側面から円筒状突設部８３４ｂを覆う第２装飾部材８８０と、を備える。

【０８５７】

第１装飾部材８７０は、円筒状突設部８３４ｂに締結固定可能に形成される第１骨格部８７１と、その第１骨格部８７１の一側を覆うよう形成される第１覆設部８７５と、を備える。

【０８５８】

第１骨格部８７１には、全体に鍍金処理がされており、光を反射し易いよう構成されている。

【０８５９】

第１覆設部８７５は、枠の内側が無色で光透過性の樹脂材料で形成されており、その表面に図形や模様や、キャラクターの絵柄（以下、「絵柄等」とも称す）が描かれており、表面が正面側に向いた際には、その絵柄等を遊技者に視認させる。

【０８６０】

本実施形態では、複数（５個）の第１覆設部８７５に、それぞれ独立した絵柄等が描かれている。そのため、電飾基板８２３による発光制御で強発光させる第１覆設部８７５を変更したり、第１覆設部８７５の配置を変更したりすることで、遊技者の注目を集める絵柄等を異ならせることができる。

【０８６１】

例えば、遊技者目線で、第３図柄表示装置８１側にいずれの第１覆設部８７５が停止するかに注目させるような表示演出を第３図柄表示装置８１で実行すると同時に、内側回転部材８３０を回転させるように制御すれば、その回転に伴い第３図柄表示装置８１側の第１覆設部８７５を継続的に変更することができるので、回転が停止するまでの期間に亘り、遊技者の視線を第１覆設部８７５に集めることができる。

【０８６２】

第２装飾部材８８０は、円筒状突設部８３４ｂに締結固定可能に形成される第２骨格部８８１と、その第２骨格部８８１の他側を覆うよう形成される第２覆設部８８５と、を備える。

【０８６３】

第２骨格部８８１は、第２覆設部８８５に収容される磁石Ｍｇ２を脱落不能に保持するための保持片８８１ａを備える。

【０８６４】

第２覆設部８８５は、隣設される第２覆設部８８５に収容される磁石Ｍｇ２の吸着力が作用する位置（近接位置）に金属製ネジが螺入固定されており、この金属製ネジに磁石Ｍｇ２が吸着することで、合体状態（特に、一連合体状態、図３２参照）における第２覆設部８８５の一体性が確保できるように図っている。

【０８６５】

第２覆設部８８５は、表面に図形や模様や、キャラクターの絵柄（以下、「絵柄等」とも称す）が描かれており、表面が正面側に向いた際には、その絵柄等を遊技者に視認させる。

【０８６６】

本実施形態では、複数（本実施形態では、５個）の第２覆設部８８５に描かれる絵柄等は、複数（少なくとも２個、最大で５個）の第２覆設部８８５が組となるよう絵柄等が構

成されており、５個の第２覆設部８８５が合体状態を構成した時に正面視で「円状体」として視認されるように各第２覆設部８８５をその円状体の一部を構成するように装飾している。

【０８６７】

第２覆設部８８５に描かれる絵柄等は特に限定されるものではないが、本実施形態では、一連合体状態において第２覆設部８８５から把握される内容が第２装飾部材８８０の回転方向の配置が異なっても大きな違いが生じない絵柄として設計している。即ち、絵柄として明確な上下左右があるものではなく、回転させても外形の変化が目立たない（本実施形態では、円形状）を構成する設計としている。

【０８６８】

そのため、複数の第２覆設部８８５同士を強固に一体化できる方が、第２覆設部８８５を遊技者に視認させる時の演出性能を向上させることができる。この点で、本実施形態では、合体状態において磁石Ｍｇ２の吸着力により第２覆設部８８５側が強固に一体化されるので、第２覆設部８８５が正面側に配置されている場合の合体状態における演出性能を向上させることができる。

【０８６９】

なお、各第２覆設部８８５において、幅方向の片側に磁石Ｍｇ２が配設され、逆側に金属製ネジが螺入固定されている。後述する切替回転動作により第２覆設部８８５の向きが前後で反転した場合には、それに伴い正面視での磁石Ｍｇ２と金属製ネジとの配置も反転することになる。

【０８７０】

この場合でも、各磁石Ｍｇ２が吸着する金属製ネジが、逆側に隣設される第２覆設部８８５に螺入固定される金属製ネジに入れ替わるだけであり、５個の第２覆設部８８５が円環状に配設されていることから一体化した際の吸着度合いに変化はない。

【０８７１】

一方、本実施形態では、第１覆設部８７５には、磁石を収容していない。これにより、第１覆設部８７５側における一体化の強度は、若干弱くなっているが、これにより演出性能が低下することを回避するようにしている。

【０８７２】

即ち、第１覆設部８７５には、それぞれ独立した絵柄等が描かれているので、合体状態における一体化の程度が弱く、第１装飾部材８７０の配置が多少ずれることがあっても、遊技者に視認させる絵柄等を認識できなくなる可能性は無い。従って、第１覆設部８７５に描かれる絵柄等を利用した演出の演出性能が低下することを回避することができる。

【０８７３】

更に、第１覆設部８７５側の一体化の強度が弱くなっていることにより、昇降変位（からの停止）に伴い生じる振動や、一体回転動作や切替回転動作としての回転変位（からの停止）に伴い生じる振動により、合体している第１覆設部８７５同士の配置をずらすことができる。これにより、第１覆設部８７５が分割体ではなく、単一の円形部材から構成される従来機では実現不可能な変位態様で第１覆設部８７５を変位させることができるので、第１覆設部８７５による演出の演出効果を向上させることができる。

【０８７４】

上述の事情から、複数の装飾部材８７０，８８０が近接配置される合体状態において、第１装飾部材８７０が前側を向く状態を個別合体状態とも称し（図３１参照）、第２装飾部材８８０が前側を向く状態を一連合体状態とも称す（図３２参照）。次いで、個別合体状態と一連合体状態とを切り替えるための動作について説明する。

【０８７５】

図６４（ａ）、図６４（ｂ）、図６５（ａ）及び図６５（ｂ）は、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の背面図であり、図６６（ａ）、図６６（ｂ）、図６７（ａ）及び図６７（ｂ）は、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の正面図である。

【０８７６】

図６４から図６７では、駆動モータ８６１（図６０参照）の駆動力が伝達され、内側回転部材８３０が外側回転部材８４０に対して相対的に回転動作することにより変位する中間腕部材８５０の変位が時系列で図示される。

【０８７７】

即ち、背面視および正面視において時系列で図示されており、個別合体状態（図６４（ａ）、図６６（ａ））から、内側回転部材８３０が４５度ずつ回転する様子が図示されている。

【０８７８】

なお、図６４から図６７では、金属棒８３２の軸線が仮想位置線８３２Ｆとして記載されており、この仮想位置線８３２Ｆの配置の角度変化が、内側回転部材８３０の回転角度に対応する。なお、個別合体状態（図６４（ａ）、図６６（ａ））からの内側回転部材８３０の回転角度が角度θ３１で図示される。

【０８７９】

図６４から図６７に示すように、個別合体状態から内側回転部材８３０が正面視（図６６参照）反時計回りに回転すると（この回転動作を、以下において「切替回転動作」とも称する）、中間腕部材８５０の回動が許容されることから、内側回転部材８３０の外側回転部材８４０に対する相対的な回転が許容される。本実施形態では、外側回転部材８４０はトルクリミッタ８６６（図６０参照）の抵抗により配置が維持され、内側回転部材８３０のみが回転動作する。

【０８８０】

従って、図６４から図６７において、円筒状部８４２ａの配置は維持されており、中間腕部材８５０は、外側回転部材８４０の円筒状部８４２ａを中心に回動変位する。

【０８８１】

上述の部材間の構成から、仮想位置線８３２Ｆは、被支持孔８５４ａの中心を通る直線であり、被支持孔８５４ａに直動部材８３３の円筒状突設部８３３ａが締結固定されることから、被支持孔８５４ａの配置変化は、直動部材８３３の配置変化に対応する。

【０８８２】

図６４及び図６５に示すように、回転伝達部８５４が内側回転部材８３０の回転軸を中心とした径方向に変位し、同時に、周方向に変位するので、回転伝達部８５４に支持される回転部材８３４も同様に、内側回転部材８３０の回転軸を中心とした径方向に変位し、同時に、周方向に変位する。即ち、切替回転動作において、直動部材８３３は、径方向の変位を伴いながら、周方向に１８０度変位する。

【０８８３】

切替回転動作に周方向の変位が含まれることから、径方向終端位置においても直動部材８３３、回転部材８３４及びそれに締結固定される装飾部材８７０，８８０の配置が固定されることなく、周方向への変位を保つことができるので、径方向の直動変位のみで変位が完結する場合（例えば、第２動作ユニット７００で上述した反転動作）に比較して、切替回転動作中における演出効果を高く維持することができる。

【０８８４】

なお、これに対し、第２動作ユニット７００で上述した反転動作においては、傘歯部７８３ｃ及び傘歯部材７８５ｃ（図５８参照）の弾性回復力を利用した加速度の高い回転動作を生じさせることで、直動方向外側変位終端（図５９（ｂ）参照）における覆設部材７８７の配置が固定されている印象を弱めるよう図っている。

【０８８５】

即ち、覆設部材７８７の回転始期を遅らせ、且つ回転終期を遅らせないことにより、覆設部材７８７の回転速度の向上を図っており、左右方向外側変位終端において左右位置の変化幅が小さい期間（スライダクランクの死点付近の期間）が継続する状況にあっても、覆設部材７８７の回転速度を上昇させることで覆設部材７８７の動作による演出効果を高く維持するよう図っている。

【０８８６】

切替回転動作に径方向の変位が含まれることから、中間腕部材８５０から外側回転部材８４０に径方向の負荷が生じ易く外側回転部材８４０の回転軸のずれが生じる可能性が考えられるが、本実施形態では、中間腕部材８５０の径方向の負荷が回転軸を中心として等間隔（７２度間隔）で同様に生じるので、各負荷が互いに相殺し合うことになる。これにより、外側回転部材８４０の回転軸のずれを抑えることができるので、切替回転動作を正常に実行させ易くすることができる。

【０８８７】

このように、第３動作ユニット８００の回転動作における径方向変位（拡大縮小変位）は、円周方向の回転を伴いながら生じる。そのため、周囲の装飾部材との衝突を避けるために、第３動作ユニット８００の切替回転動作は、第３動作ユニット８００が張出状態となっていることが昇降アーム部材８０１の姿勢を判定する検出センサの出力により判定されている状態において実行可能となるように制御される。

【０８８８】

また、回転伝達部８５４の上述の変位に伴い、回転部材８３４に締結固定される第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０も同様に、内側回転部材８３０の回転軸を中心とした径方向に変位し、同時に、周方向に変位する。

【０８８９】

中間腕部材８５０が回動変位することにより、傘歯部８５４ｃ（図６６及び図６７参照）と、回転部材８３４の傘歯部８３４ａ（図６０参照）とが歯合し、回転部材８３４及び回転部材８３４に締結固定される装飾部材８７０，８８０が金属棒８３２を軸として回転変位する。

【０８９０】

この回転変位の角度は、仮想位置線８３２Ｆを基準とした中間腕部材８５０の回転角度としての角度θ３２に比例する。また、その回転方向は、角度θ３２が仮想位置線８３２Ｆから正面視反時計回り方向に離れるよう増大しており、回転部材８３４が中間腕部材８５０の正面側に配置されることから（図６０参照）、仮想位置線８３２Ｆの径外方向側から見て反時計回り方向に設定される。

【０８９１】

回転部材８３４は、一体回転状態において第１装飾部材８７０又は第２装飾部材８８０のいずれかが正面側を向く姿勢となるので、角度θ３１の最大値としての最大角度θ３１Ｅ（本実施形態では、１８０度）の回転によって、中間腕部材８５０の回転角度が最大値としての最大角度θ３２Ｅ（本実施形態では、９０度）となる場合に、回転部材８３４の傘歯部８３４ａが半周回転（１８０度回転）するよう構成される。

【０８９２】

即ち、回転部材８３４が金属棒８３２を中心として回転する角度は、傘歯部８５４ｃの被支持孔８５４ａを中心とした回転角度の２倍となるように構成される。

【０８９３】

ここで、上述の第２動作ユニット７００の磁石Ｍｇの作用として説明したものとは異なり、磁石Ｍｇ２（図６２参照）の吸着力は、金属棒８３２を中心とする装飾部材８７０，８８０の回転変位に対して回転を遅らせるような作用を生じさせるものではない。

【０８９４】

即ち、磁石Ｍｇ２は、隣設する第２装飾部材８８０との間で吸着力を生じるものであり、中間腕部材８５０の回動に伴い装飾部材８８０が金属棒８３２に沿って径外方向に変位することに伴い、隣設される第２装飾部材８８０の間に隙間が生じることで吸着力は失われ得る。

【０８９５】

従って、金属棒８３２を中心とする回転変位が開始される前において、磁石Ｍｇ２の吸着力は失われることになり、金属棒８３２を中心とする装飾部材８７０，８８０の回転変位に対して回転を遅らせるような作用は生じない。

【０８９６】

そのため、装飾部材８７０，８８０を回転変位させるために必要となる駆動力を低減することができる。即ち、駆動モータ８６１に要求される駆動力を低減することができるので、駆動モータ８６１の小形化を図ることができる。

【０８９７】

更に、装飾部材８７０，８８０の回転変位を迅速に開始し、早期に終了させることができるので、金属棒８３２を中心とする回転変位に対する遊技者の注目度合いを低くすることができる。

【０８９８】

装飾部材８７０，８８０の回転変位の開始時の迅速性は、内側回転部材８３０の回転角度に対する装飾部材８７０，８８０の回転角度を一定ではないように構成することでも保たれている。

【０８９９】

例えば、中間腕部材８５０の回動の過程において、中間腕部材８５０が縮径配置され一体回転動作が可能な状態からの仮想位置線８３２Ｆの回転角度（内側回転部材８３０の回転角度）が４５度である場合には角度θ３２が１８度であり（図６６（ｂ）参照）、更に４５度の角度で仮想位置線８３２Ｆが回転した場合における角度θ３２が２７度とされる（図６７（ａ）参照）。

【０９００】

即ち、角度θ３２は、一体回転動作が可能な状態からの内側回転部材８３０の回転開始側の方が、回転途中に比較して小さくなるように設計されている。これにより、内側回転部材８３０の回転開始時において装飾部材８７０，８８０の回転変位の程度を抑制することができる。

【０９０１】

駆動モータ８６１の駆動力は、内側回転部材８３０の回転、中間腕部材８５０の回動および装飾部材８７０，８８０の回転に利用されることになるが、上述のような構成から、一体回転動作が可能な状態からの内側回転部材８３０の回転開始時において装飾部材８７０，８８０の回転に要する駆動力を低減することができるので、内側回転部材８３０の回転開始時に駆動モータ８６１にかけられる負担が過度に大きくなることを回避することができる。

【０９０２】

また、金属棒８３２を中心とする装飾部材８７０，８８０の回転変位は、正面視で円周方向に位置ずれしながら生じるので、回転変位中の装飾部材８７０，８８０の視認性を低く抑えることができる。これにより、装飾部材８７０，８８０の側面部（例えば、第１覆設部８７５と第２覆設部８８５との連結面）が視認される可能性を低くすることができ、装飾部材８７０，８８０の側面部の設計自由度を向上することができる。

【０９０３】

切替回転動作の際、正面視において、中間腕部材８５０は、隣設される中間腕部材８５０と配置が重なる。また、自らが軸支される円筒状部８４２ａが配設される延設腕部８４２に隣設される延設腕部８４２とも配置が重なる。そのため、対策なしでは、中間腕部材８５０が周辺の部分と衝突する可能性がある。

【０９０４】

これに対し、本実施形態では、中間腕部材８５０の構成を部位ごとに前後にずらすことで衝突の回避を図っている。即ち、中間腕部材８５０の基端側棒部８５１よりも、先端側棒部８５３及び回転伝達部８５４の方が後側に配置されるようにすることで、基端側棒部８５１と先端側棒部８５３及び回転伝達部８５４とが前後で重なるようにでき、切替回転動作の際に衝突することを回避することができる。

【０９０５】

また、基端側棒部８５１は延設腕部８４２の前側に、先端側棒部８５３及び回転伝達部８５４は延設腕部８４２の後側に配置するようにすることで、切替回転動作の際に中間腕部材８５０が延設腕部８４２の前後に配置されるようにすることができ、中間腕部材８５

０と延設腕部８４２との衝突を回避することができる。
【０９０６】
図６４から図６７では、外側回転部材８４０を基準とした内側回転部材８３０の回転方向が、中間腕部材８５０の回動を許容する方向（個別合体状態における正面視反時計回り方向、図６６参照）である場合を説明した。この場合、トルクリミッタ８６６を介して抵抗を生じる負荷応答ギア８６５にギア歯８４３が歯合されることで抵抗を受け、外側回転部材８４０の回転変位は制限される。
【０９０７】
一方、内側回転部材８３０の回転方向が上述の逆方向（個別合体状態における正面視時計回り方向）である場合や、中間腕部材８５０の回動を許容する方向（個別合体状態における正面視反時計回り方向）での回転により中間腕部材８５０が回動を規制される状態に到達（例えば、個別合体状態から一連合体状態に到達）してからも同方向で回転を継続した場合には、外側回転部材８４０の回転を規制するトルクリミッタ８６６の許容値を超える負荷が負荷応答ギア８６５に負荷され、トルクリミッタ８６６による負荷応答ギア８６５の姿勢維持が解除され、内側回転部材８３０と外側回転部材８４０とが同期回転する。
【０９０８】
換言すれば、回転方向に関わらず、中間腕部材８５０の回動が規制される状態において、中間腕部材８５０の回動の規制を継続する方向に内側回転部材８３０を回転させるように駆動した場合、内側回転部材８３０及び外側回転部材８４０が同期回転し、中間腕部材８５０、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０が合体状態を維持したまま一体回転する（この回転動作を、以下において「一体回転動作」とも称する）。
【０９０９】
一体回転動作は、中間腕部材８５０の回動が規制される状態で生じるものであり、本実施形態では、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０が互いに近接配置された合体状態で生じる。
【０９１０】
そのため、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の拡径方向の変位が生じる切替回転動作と異なり、周囲の装飾部材との衝突を考慮する必要が無いので、第３動作ユニット８００の演出待機状態において一体回転動作を実行することができる。従って、本実施形態では、一体回転動作は、第３動作ユニット８００の配置に関わらず、実行可能に制御される。
【０９１１】
本実施形態では、上述のように、単一の駆動モータ８６１（図６０参照）の駆動力により、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の拡径方向変位を伴う切替回転動作と、拡径方向変位を伴わない第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作と、を実行可能とされており、両駆動方向でいずれの動作も実行可能であるが、動作に優先順位があり、任意の回転方向で即座に任意の動作を実行可能なわけではない。
【０９１２】
例えば、図６４（ａ）及び図６６（ａ）に示す状態からは、内側回転部材８３０を正面視反時計回りに回転させることで切替回転動作を実行可能であり、そのまま回転を継続すれば一体回転動作を実行可能であり、また、内側回転部材８３０を正面視時計回りに回転させることで一体回転動作を実行可能とされるが、即座には、正面視反時計回りの回転で一体回転動作を実行することはできない。
【０９１３】
また、例えば、図６４（ａ）及び図６６（ａ）に示す状態から、内側回転部材８３０を正面視反時計回りに回転させ、中間腕部材８５０が回動を規制される状態に到達した後で、内側回転部材８３０を正面視時計回り（逆回り）に回転させた場合には、再び切替回転動作が実行されてしまい、即座には、正面視時計回りに一体回転動作を実行することはできない。
【０９１４】

このように、本実施形態の第３動作ユニット８００の動作態様は、駆動モータ８６１の回転方向に対して、中間腕部材８５０の変位が規制される状態か、又は許容される状態か、によって、内側回転部材８３０及び外側回転部材８４０の相対的変位が変化する。

【０９１５】

そのため、本実施形態において、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は、駆動モータ８６１の回転方向毎に、中間腕部材８５０の変位が規制される状態か、又は許容される状態か、を判定可能に制御され、その判定結果から、適切な駆動方向で駆動モータ８６１を駆動制御可能とされる。以下において、駆動モータ８６１の駆動制御の一例について説明する。

【０９１６】

図６８は、昇降アーム部材８０１の配置、駆動モータ８６１の駆動態様および検出センサ８１３の出力の一例を時系列で示すタイミングチャートである。図６８に示すように、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は、第３動作ユニット８００の演出制御として通常演出と反転演出とを交互に繰り返すよう制御される。

【０９１７】

反転演出時には、切替回転動作を含む動作を実行し、通常演出時には、切替回転動作を含まない動作を実行する。これは、切替回転動作において装飾部材８７０，８８０と周囲の装飾部材とが衝突することを避けるためである。

【０９１８】

同様の目的から、突然停電が生じた場合等から再度電源を投入した場合や、朝一に電源投入した場合には、第３動作ユニット８００を張出状態としてから駆動モータ８６１の回転制御を実行し、検出センサ８１３の出力から可動部分の状態を把握した後において、通常演出時の制御を実行するように制御される。これにより、電源投入時において検出センサ８１３の出力結果から可動部分の状態が把握できない場合であっても、誤って装飾部材８７０，８８０と周囲の装飾部材とが衝突する事態を回避することができる。

【０９１９】

駆動モータ８６１の駆動方向として、正回転と、逆回転とを記載している。図６８における正回転は、内側回転部材８３０を正面視時計回りに回転させる駆動態様（個別合体状態（図６６（ａ）参照）において一体回転動作を即座に実行する駆動態様）に対応し、図６８における逆回転は、内側回転部材８３０を正面視反時計回りに回転させる駆動態様（個別合体状態において、切替回転動作を即座に実行する駆動態様）に対応する。

【０９２０】

まず、反転演出時に至る前における、通常演出時の駆動制御について説明する。この通常演出時には、第３動作ユニット８００は個別合体状態とされており、駆動モータ８６１は停止するか、又は正回転の駆動制御のみが実行される。そのため、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の回転動作は、常に一体回転動作とされる。

【０９２１】

切替回転動作は生じないので、周囲の装飾部材との衝突は生じ得ず、第３動作ユニット８００の配置は演出待機状態または張出状態に任意のタイミングで切替可能である。例えば、昇降アーム部材８０１の上下動作により被保持部材８１０を昇降変位させている最中に駆動モータ８６１を駆動することで、昇降変位と同時に第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作を生じさせることもできるよう、制御される。

【０９２２】

当然、昇降アーム部材８０１の配置が固定している状態において第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作を生じさせても良いし、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作を停止した状態で昇降アーム部材８０１の昇降動作を行うようにしても良い。

【０９２３】

駆動モータ８６１の駆動の方向が正回転のみなので、外側回転部材８４０の被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に進入する度に検出センサ８１３の出力が切り替わり、

この出力の切り替わりを判定することで音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は外側回転部材８４０の姿勢を初期位置として判定することができ、この初期位置からの駆動時間を複数種類で設定することで、外側回転部材８４０を任意の姿勢で停止するよう制御することができる。

【０９２４】

次いで、反転演出時における駆動制御について説明する。まず、反転演出時には、昇降アーム部材８０１が下降変位し、第３動作ユニット８００が張出状態とされる。この状態で駆動モータ８６１は、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入している状態となるまで正回転を継続するよう制御される。

【０９２５】

検出センサ８１３の出力の切り替わりにより、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入している状態が判定されたら、駆動モータ８６１を逆回転で駆動する。逆回転の駆動により、第３動作ユニット８００では、切替回転動作が実行されるが、この間は外側回転部材８４０の回転はトルクリミッタ８６６の抵抗により規制されるので、検出センサ８１３の出力は維持される。

【０９２６】

そのままの回転方向で駆動モータ８６１の駆動を継続すると、一連合体状態に到達し、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作が実行される。一体回転動作開始後は、外側回転部材８４０も内側回転部材８３０と連動して回転開始するので、被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝から退避し、検出センサ８１３の出力が切り替えられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は、検出センサ８１３の出力の切り替わりにより、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作が開始されたと判定することができる。

【０９２７】

一体回転動作が開始された後は、駆動モータ８６１は停止するか、又は逆回転の駆動制御のみが実行される。そのため、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の回転動作は、常に一体回転動作とされる。切替回転動作は生じないので、周囲の装飾部材との衝突は生じ得ず、第３動作ユニット８００の配置は演出待機状態または張出状態に任意のタイミングで切替可能である。

【０９２８】

駆動モータ８６１の駆動の方向が逆回転のみなので、外側回転部材８４０の被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に進入する度に、検出センサ８１３の出力が切り替わり、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は外側回転部材８４０の姿勢を判定することができる。

【０９２９】

反転演出時から通常演出時に切り替わる際には、事前に、昇降アーム部材８０１が下降変位し、第３動作ユニット８００が張出状態とされる。この状態で駆動モータ８６１は、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入している状態となるまで逆回転を継続するよう制御される。

【０９３０】

検出センサ８１３の出力の切り替わりにより、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入している状態が判定されたら、駆動モータ８６１を正回転で駆動する。正回転の駆動により、第３動作ユニット８００では、切替回転動作が実行されるが、この間は外側回転部材８４０の回転はトルクリミッタ８６６の抵抗により規制されるので、検出センサ８１３の出力は維持される。

【０９３１】

次いで、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作が実行される。一体回転動作開始後は、外側回転部材８４０が回転を開始することで、被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝から退避し、検出センサ８１３の出力が切り替えられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３（図４参照）は、検出センサ８１３の出力の切り替わりにより

、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の一体回転動作が開始されたと判定することができる。

【０９３２】

一体回転動作が開始された後で、再び通常演出時に移行する。この通常演出時の駆動制御についての制限は、上述の反転演出時の前に配置されていた通常演出時において説明した駆動制御についての制限と同様である。

【０９３３】

このように、本実施形態によれば、単一の検出センサ８１３を、第３動作ユニット８００の回転態様の切り替えの判定（一体回転動作または切替回転動作）と、外側回転部材８４０の回転角度の基準の判定と、に兼用することができる。従って、各判定に個別の検出センサを利用する場合に比較して、検出センサ８１３の必要個数を削減することができる。

【０９３４】

上述のように、一体回転動作を継続する状態または回転を停止している状態から、駆動モータ８６１の駆動方向を逆方向に切り替えることにより、切替回転動作を実行することができる。即ち、個別合体状態における第１装飾部材８７０の姿勢に関わらず、切替回転動作を実行し一連合体状態に切り替えることができる。

【０９３５】

そのため、動作演出において、大当たり告知のタイミングで一連合体状態に切り替えるように制御する場合において、第１装飾部材８７０の姿勢から大当たり告知の有無を遊技者に予想されることを回避することができる。

【０９３６】

更に、一連合体状態における装飾は、上述のように、遊技者に把握される内容が、第２装飾部材８８０の回転方向の配置によって大きく違わないように設計されている。即ち、切替回転動作の開始時における装飾部材８７０，８８０の回転方向の配置が異なる場合であっても、切替回転動作の終了時において一連合体状態として遊技者に把握される内容を同様のものとすることができる。

【０９３７】

そのため、一連合体状態における絵柄が回転方向の配置で異なる場合と異なり、一連合体状態に到達した後において姿勢を合わせるための一体回転動作を省略することができるので、個別合体状態における第１装飾部材８７０の姿勢に関わらず、大当たり告知までの駆動制御を同一とすることができる。

【０９３８】

このように、本実施形態では、駆動モータ８６１の駆動方向としての正回転と逆回転との双方で、切替回転動作および一体回転動作の双方の動作態様を実現することができる。従って、正回転と逆回転とで動作態様が固定されている場合に比較して、単一の駆動モータ８６１で多種多様な演出態様を実現することができる。

【０９３９】

図６９は、図２８のＬＸＩＸ－ＬＸＩＸ線における第３動作ユニット８００の断面図である。図６９に示すように、固定円筒部材８２０の円筒部８２１の開口は、被保持部材８１０の筒固定部８１２が配置される後端部から、電飾基板８２３が配置される前端部まで貫通しており、この開口を後端部から前端部まで電気配線が案内され、電飾基板８２３に配設されるコネクタに端子が接続される。この電気配線を通して電気が導通され、電飾基板８２３に配置されるＬＥＤを発光制御可能に構成している。

【０９４０】

電飾基板８２３の内側発光部８２３ａから照射される光ＬＨ１は、透光装飾部材８２４の中央部側において正面側に膨出する膨出部８２４ａを照らすように作用する。膨出部８２４ａは、装飾部材８７０，８８０の合体状態において第１装飾部材８７０又は第２装飾部材８８０が円周上に配置される円の中央部において遊技者に視認可能とされる部分として機能する。

【０９４１】
電飾基板８２３の外側発光部８２３ｂから照射される光ＬＤ１は、前側に配置される装飾部材８７０，８８０（図６９においては第１装飾部材８７０）の内部に照射され、装飾部材８７０，８８０を内部から照らすように作用する。
【０９４２】
本実施形態では、装飾部材８７０が前側に配置される個別合体状態（図６９参照）と、装飾部材８８０が前側に配置される一連合体状態（図３２参照）と、を切り替え可能とされているので、光ＬＤ１により、装飾部材８７０を照らす場合と、装飾部材８８０を照らす場合とを切り替えることができる。
【０９４３】
個別合体状態（図６９参照）では、第１骨格部８７１の鍍金処理されている鍍金部８７１ａで正面側に反射することで、光ＬＤ１の向きを正面側に切り替えるよう構成している。これにより、光ＬＤ１の大部分が第１覆設部８７５に向かうように照射することができ、光ＬＤ１の照射時における第１覆設部８７５の明るさを良好に高めることができる。
【０９４４】
ここで、本実施形態では、電飾基板８２３は固定配置されており、その周囲を装飾部材８７０，８８０が回転するように構成されているので、光ＬＤ１の照射方向と装飾部材８７０，８８０の配置との関係は装飾部材８７０，８８０の回転により変化し得る。例えば、回転中において、鍍金部８７１ａの中心部に光ＬＤ１が照射される場合があれば、同じＬＥＤから照射される光ＬＤ１が鍍金部８７１ａの中心部からずれた位置に照射される場合も生じ得る。そのため、対策なしでは、光ＬＤ１による第１覆設部８７５の明るさの程度が装飾部材８７０，８８０の回転により変化し易くなり、一定明るさで発光させながら装飾部材８７０，８８０を一体回転動作させる演出を実行することが困難となる可能性がある。
【０９４５】
これに対し、本実施形態では、光ＬＤ１を反射可能に構成される鍍金部８７１ａの形状が凹面形状とされ、この凹面形状の曲率半径は、電飾基板８２３の半径よりも小さくなるように形成され、且つ、その中心が正面視で第１覆設部８７５の中心部付近に配置されるよう設計される。
【０９４６】
光ＬＤ１は外側発光部８２３ｂが配置される円の外径方向に光軸を向けるように配置されるので、光ＬＤ１は、鍍金部８７１ａの凹面形状に反射されることで、その曲率半径の中心側へ向けて進行することになり、第１装飾部材８７０の各第１覆設部８７５の中央付近を照らす。
【０９４７】
従って、外側発光部８２３ｂを基準とした鍍金部８７１ａの配置によらず、複数の光ＬＤ１を、第１覆設部８７５の中央付近を照らすように反射することができる。これにより、第１覆設部８７５の前板部の中央付近に光を安定的に照射することができるので、一体回転動作中においても、第１覆設部８７５を均一な明るさで視認させることができる。
【０９４８】
更に、第１骨格部８７１は、鍍金部８７１ａへの鍍金処理と同様に鍍金処理が行われる部分であって、正面視で第１覆設部８７５の外方に配置される外鍍金部８７１ｂを備える。光ＬＤ１は、鍍金部８７１ａと同様に外鍍金部８７１ｂでも反射されることになるが、鍍金部８７１ａの配置に比較して外鍍金部８７１ｂが後方に配置されていることから、外鍍金部８７１ｂの光方の程度を弱めることができる。
【０９４９】
これにより、第１覆設部８７５の外方において視認される光の強度が強すぎて、遊技者が眩しく感じ、第１覆設部８７５の枠の内側の視認性を低下させる事態を回避することができる。
【０９５０】

電飾基板８２３は第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０に前後から挟まれているが、つなぎ目において完全に閉塞されているものではないので、外側発光部８２３ｂからの光の全てがその内側に照射されるものではない。

【０９５１】

まず、第１覆設部８７５の部材縁部８７５ａと、その部材縁部８７５ａに対向配置される第２覆設部８８５の部材縁部８８５ａとの間には、図６９において内部構造が視認可能な程度の隙間ＶＡ１が形成されている。この隙間ＶＡ１を通って外鍍金部８７１ｂが第１覆設部８７５の枠外方へ張り出しているので、隙間ＶＡ１を通った光ＬＤ１を外鍍金部８７１ｂで反射させることができる。

【０９５２】

その上、金属棒８３２と対向配置される第１覆設部８７５の部材外端部８７５ｂと、第２覆設部８８５の部材外端部８８５ｂとの間には、金属棒８３２との部材干渉を避けるために要する領域を超える大きな隙間ＶＡ２が形成される。

【０９５３】

隙間ＶＡ２は、第１に、金属棒８３２と装飾部材８７０，８８０との衝突を回避することで、金属棒８３２の長さを十分に確保できるようにし、金属棒８３２により直動部材８３３及び回転部材８３４の直動変位を案内する機能を確保できるようにする目的で形成される。

【０９５４】

隙間ＶＡ２は、第２に、骨格部８７１，８８１に挿通される締結ネジであって、回転部材８３４の円筒状突設部８３４ｂに螺入されることにより装飾部材８７０，８８０を回転部材８３４に締結固定するための締結ネジの組み付け経路を確保できるようにする目的で形成される。

【０９５５】

更に、隙間ＶＡ２は、第３に、骨格部８７１，８８１の透明部分を通過した光を進行させるための、光の通り道を確保できるようにする目的で形成される。装飾部材８７０，８８０は円周上に等間隔で配置されていることから、隙間ＶＡを通り外方へ進行する光は、円周上の等間隔位置を通り、その円の中心から放射状に進行する光として視認される。

【０９５６】

そのため、装飾部材８７０，８８０の一体回転動作を実行することで、隙間ＶＡ２を通過する光も同じように回転させることができる。これにより、外側発光部８２３ｂからの光の点灯態様を制御することを不要としながら（例えば、全点灯を継続したままで）、第３動作ユニット８００の回転中心から径方向に放射状に出る光が回転する発光態様で視認される発光演出を実行することができる。

【０９５７】

一連合体状態（図３２参照）では、第２骨格部８８１の全体が透光性の樹脂材料から形成されていることにより、第２骨格部８８１による光ＬＤ１の反射作用を抑えている。

【０９５８】

これにより、第２覆設部８８５の枠内に照射されるのは、光ＬＤ１の内、光軸から離れた光（弱い光）とすることができるので、第２覆設部８８５の光らせ方の度合いを弱くすることができる。一方で、光ＬＤ１の光軸方向の光は、隙間ＶＡ２を抜けるので、第３動作ユニット８００の回転中心から径方向に放射状に出る光の強度を向上させることができる。

【０９５９】

第２覆設部８８５の枠内には、有色（本実施形態では、円状体の色味として任意の色で設定）で光透過性の樹脂材料から形成され、内側に光拡散加工が形成される光拡散装飾部８８５ｃが円周方向に亘って配設される。そのため、光ＬＤ１の内、光拡散装飾部８８５ｃに入射した光は屈折され、光拡散装飾部８８５ｃの全体を面発光させるように作用する。

【０９６０】

この面発光により、円周方向に亘って配設される光拡散装飾部８８５ｃを介して視認される光の均一化を図ることができ、５個の第２装飾部材８８０の各光拡散装飾部８８５ｃが遊技者に一体的に視認される効果を生じさせることができる。

【０９６１】

ここで、複数の第２覆設部８８５同士を強固に一体化できる方が、第２覆設部８８５を遊技者に視認させる時の演出性能を向上させることができることは上述した通りであり、この一体化を、光拡散装飾部８８５ｃが円周方向に亘って連続的に繋がっているように視認させることで行うことができる。従って、第２覆設部８８５が正面側に配置されている場合の合体状態における演出性能を向上させることができる。

【０９６２】

第２覆設部８８５の部材外端部８８５ｂは、金属棒８３２と対向する凹形状に形成されており、第１覆設部８７５の部材外端部８７５ｂと近接（当接）する端面８８５ｂ１は、金属棒８３２が配設される平面を基準として第１装飾部材８７０側に張り出している。

【０９６３】

これにより、一連合体状態（図３２参照）において第３動作ユニット８００を斜め方向から視た際に、背面側に配置される第１装飾部材８７０の第１覆設部８７５が遊技者の視界に入る程度を下げることができ、演出に与える影響を低減することができる。

【０９６４】

これにより、第１覆設部８７５の枠部と、第２覆設部８８５の枠部とが、異なる色味で着色されている場合に、第２覆設部８８５が前側に配置されている時に、第１覆設部８７５の色味が視界に入ることを防止し易くすることができる。

【０９６５】

特に、一連合体状態で、第３動作ユニット８００を単独で張出状態とする場合には（図３２参照）、他の動作ユニット６００，７００を共に張出状態とする場合に比較して（図３３，Ｆ９参照）、第３動作ユニット８００の周りに隙間が多く、第３動作ユニット８００を斜め方向から視る視線が通り易い。そのため、対策なしでは、第３動作ユニット８００の側面が視認されることで、演出効果を低下させ易い。

【０９６６】

これに対し、本実施形態によれば、一連合体状態において、第２覆設部８８５の端面８８５ｂ１を側面の前後幅の中央よりも後方寄りに配置しているので、斜め方向視で第３動作ユニット８００の側面が視認されたとしても、側面の大部分を第２覆設部８８５の部分として視認させることができ、第１覆設部８７５が視認される程度を低くすることができる。これにより、一連合体状態において、第１覆設部８７５よりも、第２覆設部８８５を見せ易くすることができ、演出効果を向上することができる。

【０９６７】

個別合体状態と一連合体状態とを切り替える切替回転動作では、駆動モータ８６１の駆動力が内側回転部材８３０に伝達されることで内側回転部材８３０は回転動作する一方で、外側回転部材８４０はトルクリミッタ８６６からの負荷により回転が止められる。

【０９６８】

摺動突条部８３１ｂで接触面積の低減を図ってはいるが、内側回転部材８３０自体の回転抵抗が大きい場合には、外側回転部材８４０へ伝達される負荷は大きくなってしまい、トルクリミッタ８６６の負荷伝達の許容値を大きくせざるを得ず、トルクリミッタ８６６の小形化を阻害し易い。

【０９６９】

そのため、内側回転部材８３０の回転抵抗を抑制できることが好ましい。そのために、本実施形態では、以下のような特徴を備えている。例えば、内側回転部材８３０の回転に係る固定円筒部材８２０との間の支持箇所は、摺動部材８２５と接触する前側端部と、中央円環ギア８６４に支持される後側端部のみであり、その他の部分では隙間を空けるように構成している。これにより、固定円筒部材８２０と内側回転部材８３０との間の接触面積を低減することができ、変位抵抗を低減し易く構成できる。

【０９７０】
例えば、内側回転部材８３０は、中央円環ギア８６４に締結固定されているわけでは無いので、中央円環ギア８６４を基準とした前側への変位を抑制するためのストッパが必要と考えられるところ、摺動部材８２５がこのストッパの機能を果たしている。即ち、摺動部材８２５には内側回転部材８３０から前側へ押進する方向の負荷を受け得るが、摺動部材８２５は、その板前面が円形板部８２２の短径環状部８２２ａと前後で当接する。
【０９７１】
短径環状部８２２ａは、外径が摺動部材８２５の外径と同程度の円環状突部として円形板部８２２の背面側に配設され、その最外径部において断面半円形状で背面側に突設される突条部８２２ｂが円環状に形成される。
【０９７２】
この突条部８２２ｂが、摺動部材８２５の前面と前後方向で当接するので、短径環状部８２２ａの背面全体と摺動部材８２５とが接触する場合に比較して、接触面積を低減することができる。これにより、内側回転部材８３０の回転方向の変位抵抗を低減することができる。
【０９７３】
なお、内側回転部材８３０及び中央円環ギア８６４の間で締結ネジを用いていないので、その分、締結ネジの重量増加があった場合に想定される内側回転部材８３０の変位抵抗を削減することができる。
【０９７４】
回転部材８３４に対する第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の固定について説明する。この固定の説明に当たっては、図６２及び図６３を適宜参照する。
【０９７５】
第１装飾部材８７０の回転部材８３４への固定は、第１骨格部８７１の挿通孔８７２に挿通される締結ネジを第１覆設部８７５の枠後部に形成される被締結部８７６の雌ネジに螺入することで第１覆設部８７５を第１骨格部８７１に締結固定した状態とした後、第１骨格部８７１の半円状凹設部の端部から張り出す張出部８７３を凹設溝８３３ｄに進入させ（摺動可能に外嵌させ）、挿通孔８７４に挿通させた締結ネジを円筒状突設部８３４ｂに螺入させることで行うことができる。
【０９７６】
第２装飾部材８８０の回転部材８３４への固定は、第２骨格部８８１の挿通孔８８２に挿通される締結ネジを第２覆設部８８５の枠後部に形成される被締結部８８６の雌ネジに螺入することで第２覆設部８８５を第２骨格部８８１に締結固定した状態とした後、第２骨格部８８１の半円状凹設部の端部から張り出す張出部８８３を凹設溝８３３ｄに進入させ（摺動可能に外嵌させ）、挿通孔８８４に挿通させた締結ネジを円筒状突設部８３４ｂに螺入させることで行うことができる。
【０９７７】
このようにして、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０を回転部材８３４に締結固定することができ、回転部材８３４の直動変位または回転変位に伴い、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０が直動変位または回転変位するように構成することができる。
【０９７８】
固定の過程において、張出部８７３，８８３が直動部材８３３の凹設溝８３３ｄに進入することで、骨格部８７１，８８１の直動部材８３３上の配置（金属棒８３２の長尺方向の配置）が規定され、骨格部８７１，８８１が直動部材８３３から脱落することを防止することができる。
【０９７９】
そして、骨格部８７１，８８１は回転部材８３４に締結固定されているので、回転部材８３４についても同様に、直動部材８３３上の配置（金属棒８３２の長尺方向の配置）が規定され、回転部材８３４が直動部材８３３から脱落することを防止することができる。

【０９８０】
このように、本実施形態では、回転部材８３４の直動部材８３３への組み付けにおいて、直動部材８３３上の回転部材８３４の配置を規定する部分が回転部材８３４に固定される骨格部８７１，８８１に形成されるので、直動部材８３３上の配置を規定する部分が回転部材８３４自体に形成される場合と異なり、組み付けや分解の工数を減らすことができる。
【０９８１】
即ち、例えば分解時においては、骨格部８７１，８８１を回転部材８３４に締結固定している締結ネジを取り外せば、骨格部８７１，８８１の直動部材８３３上の配置の規定を解除することができるだけでなく、回転部材８３４についても直動部材８３３上の配置の規定を解除することができる。これにより、作業効率を向上することができる。
【０９８２】
図７０及び図７１を参照して、各動作ユニット６００～８００の組み合わせ動作について説明する。図７０（ａ）から図７０（ｄ）、図７１（ａ）から図７１（ｄ）は、各動作ユニット６００～８００の組み合わせ動作の例を時系列に沿って模式的に説明する動作ユニット５００の正面模式図である。なお、図７０及び図７１の説明では、図３３から図３５を適宜参照する。
【０９８３】
図７０及び図７１では、第１動作ユニット６００の各演出面６６１ａ～６６１ｃ、第２動作ユニット７００の各装飾面７８７ａ１，７８７ａ２，７８７ｂ１，７８７ｂ２及び第３動作ユニット８００の各覆設部８７５，８８５における装飾が、文字などで識別可能に模式的に図示される。
【０９８４】
即ち、第１演出面６６１ａには、縦書きで「ノーマル」との文字が、第２演出面６６１ｂには、横書きで「発動」との文字が、第３演出面６６１ｃには、長手方向に沿って「！」の記号が、それぞれ図示されている。
【０９８５】
また、第１主装飾面７８７ａ１には、「開戦」との文字が、第１副装飾面７８７ａ２には、「ピンチはチャンス」との文字が、第２主装飾面７８７ｂ１には、「攻撃」との文字が、第２副装飾面７８７ｂ２には、「忍耐！？」との文字が、それぞれ図示されている。
【０９８６】
また、第１覆設部８７５の枠の内側には異なるキャラクターに対応する異なる英数字（「Ｉ」～「Ｖ」）が図示され、第２覆設部８８５には５個で一体の「○」記号が図示されている。
【０９８７】
図７０（ａ）では、各動作ユニット６００～８００が、それぞれ演出待機状態に配置されている（図２８参照）。なお、第２動作ユニット７００の上方には、正面視では見えないものの遊技者目線で視認可能な面としての第１副装飾面７８７ａ２が想像線で図示される。
【０９８８】
また、図７０（ｂ）では、第１動作ユニット６００が中間演出状態とされ、第２動作ユニット７００が中間演出状態とされ、第３動作ユニット８００が張出状態とされている。
【０９８９】
第３動作ユニット８００の一体回転動作を実行することで、第２動作ユニット７００に近接配置される第１装飾部材８７０の第１覆設部８７５を次々に入れ替えることができる。また、一体回転動作の継続中や、停止後に、第１動作ユニット６００を中間演出状態とすることで、センターフレーム８６の枠内部に第３演出面６６１ｃを張り出させ、動作ユニット６００～８００の動きを賑やかにすることができる。
【０９９０】
例えば、第３演出面６６１ｃが視認可能な場合に、抽選の大当たり期待度が上昇するよ

う演出を制御することにより、第１動作ユニット６００の動作を視認した遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【０９９１】

一体回転動作が停止された際には、第２動作ユニット７００の第１主装飾面７８７ａ１に形成される装飾と、第２動作ユニット７００に近接配置される第１装飾部材８７０に形成される装飾とを、一体的に視認させることができる。

【０９９２】

これにより、第２動作ユニット７００に近接配置される第１装飾部材８７０に対する注目力を向上させることができ、その第１装飾部材８７０に形成される装飾に関連する表示演出を第３図柄表示装置８１で開始しながら第３動作ユニット８００を演出待機状態に戻すことにより、遊技者の視線を第３図柄表示装置８１へスムーズに誘導することができる。

【０９９３】

注目させる第１装飾部材８７０としては、第２動作ユニット７００に近接配置される第１装飾部材８７０に限定されるものではない。例えば、第１装飾部材８７０に光を照射可能に配設される外側発光部８２３ｂ（図６０参照）の点灯パターンを制御することにより、注目させる第１装飾部材８７０側へ光ＬＤ１を照射するＬＥＤを点灯させ、その他のＬＥＤを消灯させることで、任意の第１装飾部材８７０に注目させることが可能である。

【０９９４】

この時、第１装飾部材８７０の一体回転動作を停止させた状態でＬＥＤの点灯パターンを切り替えても良いし、第１装飾部材８７０の一体回転動作に合わせてＬＥＤの点灯パターンを切り替えても良い。

【０９９５】

第１装飾部材８７０の一体回転動作に合わせてＬＥＤの点灯パターンを切り替える場合には、点灯させるＬＥＤを回転方向で順次切り替えるようにして、光および第１装飾部材８７０が同軸円に沿って回転変位しているように遊技者に視認させても良い。また、点灯させるＬＥＤは固定しておき、そのＬＥＤから光を照射される位置に各第１装飾部材８７０が一体回転動作により順番に到達することを利用して、光が照射される第１装飾部材８７０を切り替えるようにしても良い。

【０９９６】

図７０（ａ）に示す状態では、第１動作ユニット６００の第２装飾回転部材６６０及び装飾固定部材６７０が、共に縦長に形成される装飾を備えており一体的に視認させることができる。特に、装飾固定部材６７０の前側面が、演出待機状態における第１演出面６６１ａと同様に、斜め方向を向く面として形成されていることにより、一体的に視認される作用が高められている。

【０９９７】

一方、図７１（ａ）に示す状態になると、図７０（ｂ）に示す途中経過で第２装飾回転部材６６０の下端部が装飾固定部材６７０と離れるように変位することに加え、第１動作ユニット６００の第２装飾回転部材６６０は横長に形成される装飾となることから装飾固定部材６７０との一体感が低下し、今度は、同様に横長に形成される装飾を備える第２動作ユニット７００の覆設部材７８７と一体的に視認させることができる。

【０９９８】

図３５では第２動作ユニット７００の中間演出状態が図示されているが、図７１（ａ）に図示されるように、第２動作ユニット７００を張出状態とすれば、覆設部材７８７と第２装飾回転部材６６０との上下間隔が更に縮まり、一体的に視認される作用を高めることができる。

【０９９９】

この時、張出装飾部６５２ｂが視認可能な位置に張り出しており、第３図柄表示装置８１の右縁が領域右端ＲＥ１よりも右方に拡大しているように視認させる上述の作用により、第２演出面６６１ｂの配置が右縁寄りであっても窮屈な印象を遊技者に与えることを防

止できる。
【１０００】
　また、これにより、第２主装飾面７８７ｂ１と同様に、第２演出面６６１ｂも第３図柄表示装置８１の中央側に配置されているように遊技者に視認させることができ、第２主装飾面７８７ｂ１と第２演出面６６１ｂとが一体的に視認される作用を高めることができる。
【１００１】
　この場合において、張出装飾部６５２ｂの装飾を、第２演出面６６１ｂの装飾や、第２主装飾面７８７ｂ１（第１主装飾面７８７ａ１）の装飾と関連する内容で形成することで、第２主装飾面７８７ｂ１（第１主装飾面７８７ａ１）、第２演出面６６１ｂ及び張出装飾部６５２ｂが一体的に視認される作用を高めることができる。
【１００２】
　図７０（ｃ）及び図７０（ｄ）では、第１動作ユニット６００及び第３動作ユニット８００が演出待機状態とされ、第２動作ユニット７００が張出状態とされている。第２動作ユニット７００の反転動作について図７０（ｄ）に図示するが、第１動作ユニット６００の張出状態において第２装飾回転部材６６０は、第２動作ユニット７００の覆設部材７８７の左右外側に配置されるものでは無いので、第１動作ユニット６００を張出状態としたままでも、覆設部材７８７の反転動作（図５９参照）を実行することができる。
【１００３】
　覆設部材７８７の反転動作においては、左右が異なる副装飾面７８７ａ２，７８７ｂ２を正面側に向けることになるので、識別力を有しない状態とできることについて上述したが、図７０（ｄ）に示すように、異なる副装飾面７８７ａ２，７８７ｂ２が組み合わさることで遊技者が内容を識別可能に構成しても良い。
【１００４】
　図７０（ｄ）によれば、「ピンチ！？」との内容を遊技者が識別でき、この状態で第２動作ユニット７００の駆動を停止させることで第２動作ユニット７００のその後の動きに注目させることができるので、遊技者の視線を第２動作ユニット７００に集めることができる。
【１００５】
　例えば、抽選がはずれであることを報知する場合に、図７０（ｄ）の状態から図７０（ｃ）に戻すように制御し、抽選結果について未だ報知しない場合や抽選が大当たりであることを報知する場合に、図７０（ｄ）の状態から反転を継続し図７１（ａ）に示す状態とするような制御を行うことで、遊技者の視線を第２動作ユニット７００に集めることができる。
【１００６】
　図７１（ａ）では、第１動作ユニット６００及び第２動作ユニット７００が張出状態とされ、第３動作ユニット８００が演出待機状態とされる。なお、第２動作ユニット７００の上方には、正面視では見えないものの遊技者目線で視認可能な面としての第２副装飾面７８７ｂ２が想像線で図示される。
【１００７】
　図７１（ａ）に示す状態では、第２演出面６６１ｂと、第２主装飾面７８７ｂ１とが、近接配置され、それぞれに記載される文字が共に横書きであるので、遊技者に一体的に視認させ易い。また、その内容は、「攻撃発動」との一連の意味を成す内容となるので、尚更、一体的に視認させ易い。
【１００８】
　第１動作ユニット６００は、演出待機状態（図７０（ａ）参照）においては、第１演出面６６１ａと、装飾固定部材６７０とが、近接配置され、それぞれに記載される文字が共に縦書きであるので、遊技者に一体的に視認させ易い。また、その内容は、「ノーマルタイム」との一連の意味を成す内容となるので、尚更、一体的に視認させ易い。
【１００９】

このように、本実施形態では、第１動作ユニット６００の各演出面６６１ａ，６６１ｂを、異なる部材の側面（例えば、第２主装飾面７８７ｂ１又は装飾固定部材６７０の前面）と一体視させるように構成している。これにより、演出効果を向上することができる。

【１０１０】

図７１（ｂ）から図７１（ｄ）では、第１動作ユニット６００及び第２動作ユニット７００が演出待機状態とされ、第３動作ユニット８００が張出状態とされる。図７１（ｂ）に示す状態と、図７１（ｃ）に示す状態とは、第３動作ユニット８００が一体回転動作を実行されることにより、第１装飾部材８７０の配置が異なる。一方で、いずれの状態から切替回転動作が実行されたとしても、遊技者に対して同一の一連合体状態として視認させることができる（図７１（ｄ）参照）。

【１０１１】

即ち、第２装飾部材８８０が正面側を向く状態では、第１装飾部材８７０の配置の違いを遊技者が認識することはできないように構成されている。これにより、第３動作ユニット８００の動作制御として、図柄変動中に第３図柄表示装置８１で表示される表示演出の終盤に切替回転動作が実行されることで大当たりの当否を報知するよう設定される場合において、第１装飾部材８７０の配置から大当たりの当否の報知の有無を遊技者に予想されることを回避することができる。

【１０１２】

換言すれば、表示演出の終盤における第１装飾部材８７０の配置に寄らず（図７１（ｂ）に示す状態であっても図７１（ｃ）に示す状態であっても）、大当たり当否の遊技者の期待感を、同様に保つことができる。従って、第３動作ユニット８００に対する遊技者の注目力を高い状態で維持し続けることができる。

【１０１３】

上述のように、各動作ユニット６００～８００は、装飾を単独で視認される場合と、組み合わせで一体的に視認される場合とを形成可能とされる。そのため、各動作ユニット６００～８００に形成される装飾は、各動作ユニット６００～８００のみで完結するのではなく、各動作ユニット６００～８００同士で互いに関連する装飾として設計される。

【１０１４】

各動作ユニット６００～８００の駆動制御は、その実行の可否が互いの配置に影響される。即ち、不適切なタイミングで各動作ユニット６００～８００の駆動を実行すると、部材動作が衝突し故障する可能性があるので、駆動制御に当たっては、他のユニットの部材の配置を判定した上で行うように制御される。

【１０１５】

例えば、第１動作ユニット６００の張出状態への変化は、第２動作ユニット７００の状態は任意で良く、第３動作ユニット８００は演出待機状態と判定されている場合に実行されるよう制御される。

【１０１６】

第１動作ユニット６００の中間演出状態への変化は、第２動作ユニット７００の状態は任意で良く、第３動作ユニット８００の上下配置は任意で良く、回転動作は切替回転動作が生じていないと判定されている場合に実行されるよう制御される。

【１０１７】

第２動作ユニット７００の張出状態への変化は、第１動作ユニット６００の状態は任意で良く、第３動作ユニット８００は演出待機状態と判定されている場合に実行されるよう制御される。

【１０１８】

第２動作ユニット７００の中間演出状態への変化は、第１動作ユニット６００の状態は任意で良く、第３動作ユニット８００の上下配置は任意で良く、回転動作は切替回転動作が生じていないと判定されている場合に実行されるよう制御される。

【１０１９】

第３動作ユニット８００が張出状態へ変化し、回転は実行されないか一体回転動作のみ

が生じる制御は、第１動作ユニット６００が中間演出状態または演出待機状態と判定され、第２動作ユニット７００が中間演出状態または演出待機状態と判定される場合に実行される。

【１０２０】

第３動作ユニット８００が張出状態へ変化し、切替回転動作が生じる制御は、第１動作ユニット６００が演出待機状態と判定され、第２動作ユニット７００が演出待機状態と判定される場合に実行される。

【１０２１】

上述のように、各動作ユニット６００～８００の駆動制御は、任意のタイミングで可能とされるものではなく、他のユニットの部材の配置を判定した上で実行されるよう制御される。

【１０２２】

次いで、第１実施形態における振分装置３００の細部について、説明する。なお、振分装置３００の細部の説明では、図１から図２５を適宜参照する。まず、前意匠部材１６２に施される装飾の一例について説明する。

【１０２３】

図７２は、振分装置３００の正面斜視図である。図７２では、上記の図５で示した内容との差異として、前意匠部材１６２に光透過性の窓部１６２ｄが形成されている。

【１０２４】

図７２に示すように、振分装置３００の正面側に配設される前意匠部材１６２は、前板が光透過性の樹脂材料で形成され、その前板の中央側範囲において周辺範囲よりも光透過性の高い範囲としての窓部１６２ｄが形成される。

【１０２５】

本実施形態では、窓部１６２ｄの形状に合わせて中央側範囲が切り抜かれた光透過性のシール部材ＳＬ１が前意匠部材１６２の前板に貼り付けられている。この構成により、窓部１６２ｄの前後厚みが、その周囲においてシール部材ＳＬ１が貼り付けられている範囲の前後厚みに比較して薄くなり、前意匠部材１６２を光が透過する度合いに差を持たせることができるので、窓部１６２ｄの光透過性を高くすることができる。

【１０２６】

窓部１６２ｄは、遊技者が振分装置３００を見る際、視線が前意匠部材１６２の板部を通ることを考慮して、振分装置３００の視認性を向上することを第１の目的として形成され、特に、振分装置３００の内部を流下する球の流下態様が把握できないという遊技者からの不満を解消することを第２の目的として形成される。即ち、窓部１６２ｄは、振分装置３００の形状を考慮した形状および大きさで形成される。

【１０２７】

なお、周辺範囲よりも光透過性の高い部分としての窓部１６２ｄの形成手段は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、前意匠部材１６２の板部に導光板を配置したり、導光板と同様の機能を奏するよう複数の溝パターンを形成したりして、ＬＥＤ等の発光手段の発光のパターンごとに前意匠部材１６２の見え方を変化させるようにしても良いし、前意匠部材１６２に模様や絵柄を直接描いても良いし、前意匠部材１６２の窓部１６２ｄに相当する範囲を開口として形成しても良い。

【１０２８】

また、窓部１６２ｄの形状は、図７２に示す形状に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、同一の上下幅で左右に延びる帯形状としても良いし、左右幅が上方に張り出す範囲の左右幅と同等となるように、左右外方に延設されている部分を省略した形状（ホームベースのような５角形形状）としても良いし、前意匠部材１６２の前板縁部の形状に沿った形状としても良い。

【１０２９】

また、窓部１６２ｄは単一の範囲として形成されているが、これに限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、光透過性の高い範囲が、格子状部や梯子状部で

仕切られる複数箇所の組み合わせで形成されても良いし、小窓が複数個整列する態様で範囲が区画されても良いし、窓部が無秩序に配列される態様で範囲が区画されても良い。また、窓部の形状が可変に構成されても良い。

【１０３０】

また、シール部材ＳＬ１の表面形状は何ら限定されるものではない。例えば、シボ加工による表面形状のように多数の凹凸が形成させる表面形状でも良いし、表面に多数の溝形状や突条が形成されても良いし、平滑表面として形成されても良い。

【１０３１】

なお、窓部１６２ｄの表面形状は、平滑面として形成されることが好ましいが、周囲（シール部材ＳＬ１の形成範囲に相当）よりも高い光透過性が確保できる態様であれば良く、上述のシール部材ＳＬ１の表面形状と同様の形状の他、種々の態様を採用することができる。

【１０３２】

図７３は、可変入賞装置６５及び振分装置３００の正面図である。図７３では、上記の図２１で示した内容との差異として、前意匠部材１６２に光透過性の窓部１６２ｄが形成されている。

【１０３３】

図７３に示すように、窓部１６２ｄは、左右対称形状で形成され、上下に短く左右に長い主窓部１６２ｄ１と、その主窓部１６２ｄ１の左右中央部の上方に連なって形成される副窓部１６２ｄ２と、を備える。

【１０３４】

本実施形態では、主窓部１６２ｄ１及び副窓部１６２ｄ２は、無色透明の樹脂材料から形成され、光透過性が高い状態で維持される。各部の形状について、以下で詳述する。

【１０３５】

主窓部１６２ｄ１は、正面視における外縁形状が、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６の視認性を確保するために十分な形状で設計される。即ち、図７３に示すように、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６の球通路の上下幅と同等の上下幅で形成されると共に、第２流路構成部３３５の傾斜に合わせて左右外側へ向かう程上昇傾斜するＶ字形状とされる。

【１０３６】

これにより、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６を流下する球を、正面視で主窓部１６２ｄ１の内側に収めることができることから、第２流路構成部３３５及び第３流路構成部３３６を流下する球の視認性を向上することができる。

【１０３７】

主窓部１６２ｄ１の左右端は、球通過孔１６３ｂと同様の左右位置で形成される第１流路構成部３３４（図１７参照）の左右幅の中央付近に設定される。即ち、主窓部１６２ｄ１を通して第１流路構成部３３４の外壁の全体が見えるわけではなく、特に、側壁部３３４ａの視認性は低くされる。

【１０３８】

これにより、見栄えの良い形状とすることが要求される場合のように遊技者に視認されることを前提として設計する場合に比較して、側壁部３３４ａの形状設計において、設計の自由度を向上することができる。

【１０３９】

副窓部１６２ｄ２は、正面視における外縁形状が、発光手段３５１からの光で照らされるシール部材３１３の視認性を確保するために十分な形状で設計される。即ち、図７３に示すように、シール部材３１３を覆う矩形状に形成される。

【１０４０】

これにより、第３流路構成部３３６を流下する球の視認性に加え、球の流下態様に基づいて点灯タイミングが制御される発光手段３５１により照らされるシール部材３１３の状態を遊技者が把握し易いように構成できるので、遊技者に快適な遊技を提供することがで

きる。
【１０４１】
図７４は、図１６の矢印ＸＸＩＩＩ方向視における可変入賞装置６５及び振分装置３００の斜視図であり、図７５は、図７３のＬＸＸＶ－ＬＸＸＶ線における可変入賞装置６５及び振分装置３００の断面図である。図７４及び図７５では、上記の図２３及び図１８で示した内容との差異として、前意匠部材１６２に光透過性の窓部１６２ｄが形成されている。
【１０４２】
図７４に示すように、振分装置３００を見下げる方向視（角度付きの方向視）で視認する場合、前側位置に配置されるスライド変位部材３７０の上突設部３７６の一部が開閉板６５ｂの下側で視認される。
【１０４３】
これに対し、スライド変位部材３７０が後側位置に移動すると、図７４の方向視において上突設部３７６は開閉板６５ｂの奥側に隠されることになる。従って、遊技者は、上突設部３７６が見えてさえいれば、第３流路構成部３３６を流下した球が確変検出センサＳＥ１１を通るのか、通常検出センサＳＥ１２を通るのかについて、容易に予想することができる。
【１０４４】
上突設部３７６へ向けた視界は、上部材３１０の第２上面部３１４ｂの内側面３１４ｂ１が正面側へ向かう程に左右外側へ向かって傾斜する傾斜面として形成されていることによっても、良好に確保されている。
【１０４５】
即ち、第２上面部３１４ｂは、第２流路構成部３３５を流下する球の跳ね上がりを防止する天井面としての機能を果たしながら、内側面３１４ｂ１を傾斜面として構成することで上突設部３７６への視界が不要に遮られることを回避している。
【１０４６】
また、内側面３１４ｂ１が傾斜面として構成されていることは、上面部３１４が前方へ向かう程に下降傾斜する傾斜面として構成されていることの短所を補っている。上面部３１４を上述のような傾斜面として構成する場合、図７４に示すような見下げる方向視（角度付きの方向視）における上面部３１４の投影面積を大きくすることができることから、上面部３１４の光拡散加工面３１４ｃを介して光を視認させる演出の演出効果を向上し易いという長所がある一方で、上面部３１４の投影面積が大きくなることから、その下を流下する球を遊技者の視界から隠す範囲が広がる場合があるという短所がある。
【１０４７】
換言すれば、上面部３１４が前方に向かう程に下降傾斜する傾斜面として構成されることは、光演出には有利に働く一方で、流下する球の視認性には不利に働く可能性がある。
【１０４８】
これに対し、本実施形態では、内側面３１４ｂ１が左右外側へ向かって傾斜する傾斜面として形成されていることにより、第２流路構成部３３５から第３流路構成部３３６へ球が進入する箇所において上面部３１４の投影面積を減らすことができ、上面部３１４の下を流下する球の視認性を向上することができる。
【１０４９】
図７４に示すように、振分装置３００を見下げる方向視（角度付きの方向視）で視認する場合、シール部材３１３が副窓部１６２ｄ２の内側には視認されないことから、対策なしでは、シール部材３１３の状態を視認するためにシール部材３１３が見えるように目の位置や視線角度を調整することを遊技者に強いることになり、快適な遊技を阻害する可能性がある。
【１０５０】
これに対し、本実施形態では、シール部材３１３に光を向ける発光手段３５１の光軸としての直線ＬＬ１は、シール部材３１３を通り、副窓部１６２ｄ２を通ることから、発光

手段３５１から照射された光の一部はシール部材３１３を通った後で副窓部１６２ｄ２に到達する。そのため、直線ＬＬ１上の発光手段３５１が点灯しているか否かを、副窓部１６２ｄ２を見ることで把握することが可能である。

【１０５１】

シール部材３１３には光拡散加工がされていないので、発光手段３５１からの光の進行を留める作用は弱く、光を十分に副窓部１６２ｄ２まで到達させることができる。これにより、発光手段３５１の点灯時には、シール部材３１３の色である赤色の光が副窓部１６２ｄ２に到達することで、副窓部１６２ｄ２を赤色に光らせることができる。

【１０５２】

これにより、光が到達する前における副窓部１６２ｄ２の無色透明の状態との違いが分かり易くされるので、遊技者は、発光手段３５１の点灯の有無を把握し易くなる。なお、シール部材３１３（又はシール部材３１３が配設される壁部）に光拡散加工を設けるようにしても良い。この場合、シール部材３１３を均一に発光させ易くすることができる。

【１０５３】

図７５に示すように、直線ＬＬ１は、第３流路構成部３３６を流下する球と重ならない位置（高さ位置）に配置される。即ち、第３流路構成部３３６を流下する球が配置され得る範囲よりも上側において直線ＬＬ１が配置される。

【１０５４】

加えて、直線ＬＬ１は、特定入賞口６５ａに入球する球と重ならない位置に配置される。即ち、特定入賞口６５ａに入球した球が乗る下面部１６３ａよりも下側において直線ＬＬ１が配置される。

【１０５５】

更に、被固定部材１６１と前意匠部材１６２との間においては、上述のように、前意匠部材１４１（図７参照）により球の流下が阻害されることにより、球の流下範囲は前意匠部材１４１の左右幅よりも左右外側に寄せられる。そのため、被固定部材１６１と前意匠部材１６２との間を流下する球についても、直線ＬＬ１と重なることは避けられる。

【１０５６】

従って、直線ＬＬ１上に、ベース板６０の正面側（例えば、遊技領域）を流下する球や、特定入賞口６５ａに入球した球や、振分装置３００（例えば、第３流路構成部３３６）を流下する球が配置されることで、光が球で反射して屈折する事態を回避することができる。これにより、球の流下態様に寄らず、発光手段３５１から照射された光を副窓部１６２ｄ２に安定的に到達させることができる。

【１０５７】

なお、本実施形態におけるシール部材３１３の配置は、遊技者が目線を変えなければシール部材３１３を視認し難い状態を継続できることが遊技者にとっての利益につながる場合がある。

【１０５８】

例えば、常時シール部材３１３が視界に入る構成では、発光手段３５１が発光する度に光が遊技者の目に入るので、遊技者によっては眩しく感じるところ、本実施形態のように発光手段３５１を見え難く配置することで、遊技者の感じる眩しさを弱めることができる。

【１０５９】

なお、本実施形態では発光手段３５１からの光が副窓部１６２ｄ２に到達する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、直線ＬＬ１と交差する範囲において、被固定部材１６１に光拡散加工を形成することで、光が副窓部１６２ｄ２まで到達し難いように構成しても良い。

【１０６０】

この場合、図７４に示す状態から視線を変えてシール部材３１３を直接見られるようにしなければ、シール部材３１３に向けて発光手段３５１が点灯しているか否かを把握し難いように構成することができる。そのため、遊技者が、遊技の好みとして、球が確変検出

センサＳＥ１１に入球したか否かを知りたくない場合であっても、図７４に示す視線を維持していれば目的を達成することができるので、このような遊技者の遊技負担を低減することができる。

【１０６１】

なお、本実施形態では副窓部１６２ｄ２が平滑な面形状から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、副窓部１６２ｄ２の表裏面の少なくとも一方に光拡散加工を施したり、光が拡散し易いように内部に気泡部を設けたりするように形成しても良い。

【１０６２】

この場合、副窓部１６２ｄ２に到達した光が拡散することで、副窓部１６２ｄ２を通して視認される光の面積を大きくすることができる。これにより、副窓部１６２ｄ２が照らされていることを遊技者が気付き易くすることができる。

【１０６３】

ここまでは、発光手段３５１を構成するＬＥＤの内、シール部材３１３に光を向ける発光手段３５１、即ち、直線ＬＬ１上に配置されるＬＥＤから照射される光について説明した。次いで、発光手段３５１を構成するＬＥＤの内、最下段で左右４箇所に配置される複数のＬＥＤから照射される光について説明する。

【１０６４】

図７６は、図７５のＬＸＸＶＩ－ＬＸＸＶＩ線における振分装置３００の中部材３３０、スライド変位部材３７０、下部材３８０及び検出センサＳＥ１の断面図である。図７６では、発光手段３５１の配置が、想像線で図示される。

【１０６５】

以下の説明では、発光手段３５１の内、最下段で左右内側に配置されるＬＥＤを内側発光手段３５１ｃとし、最下段で左右外側に配置されるＬＥＤを外側発光手段３５１ｄとして、改めて称して説明する。

【１０６６】

まず、図７６に示すように、内側発光手段３５１ｃの光軸（前後方向に延びる直線）は、光拡散加工面３３２ｅの内側に配置される。そのため、内側発光手段３５１ｃから光が照射される場合、左右に亘る範囲で形成される光拡散加工面３３２ｅが照らされる発光演出が実行される。

【１０６７】

この発光演出は、確変検出センサＳＥ１１と通常検出センサＳＥ１２とで球の流れが分岐する分岐箇所ＢＰ１（図７５参照、第３流路構成部３３６の後端部から連続的に繋がる左右に長い空間）の背面側で実行される。

【１０６８】

そのため、内側発光手段３５１ｃが点灯している状況において、分岐箇所ＢＰ１を球が流れる場合、左右に亘る範囲で発光する光拡散加工面３３２ｅの手前側を流れる球が配置される箇所が影として視認されるので、遊技者は、影の変位を視認することで球がどのように流れたかを容易に把握することができる。

【１０６９】

内側発光手段３５１ｃの光軸は、前後長突設部３１７を通る（図７５参照）。また、左右内突設部３１８には光軸は通らないものの、光軸付近の光が通り得る配置とされており、左右内突設部３１８の突設端部は前後方向視および上下方向視で湾曲形成されている。

【１０７０】

そのため、内側発光手段３５１から照射された光の一部は、前後長突設部３１７及び左右内突設部３１８の湾曲形状によって屈折することで、前斜め下方へ向けて進むようになり、この光は光拡散加工面３４０（図７５参照）に到達し得る。

【１０７１】

光拡散加工面３４０は、第３流路構成部３３６の下側面の全範囲に形成されているので（図１４参照）、光拡散加工面３４０に光を到達させることで、第３流路構成部３３６の

下底面の下側の空間の視認性を低下させることができる。従って、第３流路構成部３３６の内側を流下する球と、アウト口７１（図７５参照）を通過して第３流路構成部３３６の下側を流下するアウト球との区別をし易くすることができる。

【１０７２】

一方、図７６に示すように、外側発光手段３５１ｄの光軸（前後方向に延びる直線）は、光拡散加工面３３２ｅの外側（上側）であり、且つ、光拡散加工面３１９ａ，３３３ｂの内側に配置される。そのため、外側発光手段３５１ｄから光が照射される場合、光拡散加工面３１９ａ，３３３ｂが照らされる発光演出が実行される。

【１０７３】

この発光演出は、確変検出センサＳＥ１１と通常検出センサＳＥ１２とで球の流れが分岐する分岐箇所ＢＰ１（図７５参照、第３流路構成部３３６の後端部から連続的に繋がる左右に長い空間）の上側および正面側で実行される。

【１０７４】

そのため、外側発光手段３５１ｄが点灯している状況において、分岐箇所ＢＰ１を球が流れる場合、その球の上側や手前側において光拡散加工面３１９ａ，３３３ｂが発光することになり、分岐箇所ＢＰ１を流れる球が光拡散加工面３３３ｂに隠されることになるので（図１７参照）、遊技者は、分岐箇所ＢＰ１を球がどのように流れたかの把握がし難くなる。

【１０７５】

加えて、光拡散加工面３３３ｂは上下に亘って形成されており、その上側には上面部３１４の光拡散加工面３１４ｃが配設される（図７３参照）。そのため、分岐箇所ＢＰ１を前後方向視で視認し難くする作用に加えて、光拡散加工面３３３ｂを上側から覗き込むような角度の視線（図７４参照）に対しても、光拡散加工面３１４ｃの発光により分岐箇所ＢＰ１を視認し難くすることができる。

【１０７６】

また、光拡散加工面３３３ｂは上下に亘って形成されており、その下側には光拡散加工面３４０が配設されており、この光拡散加工面３４０は第２流路構成部３３５の下側裏面にまで形成される（図１４参照）。そのため、分岐箇所ＢＰ１を前後方向視で視認し難くする作用とは別に、第２流路構成部３３５の下側面を発光させ、第２流路構成部３３５を球が流下する際に、その球が光（光拡散加工面３４０で拡散された光）を遮ることによる影を生じさせることで、球が流下していることを遊技者が把握し易くすることができる。

【１０７７】

ここで、光拡散加工面３３３ｂは、分岐箇所ＢＰ１の前側に配設される（図１７及び図７５参照）。そのため、外側発光手段３５１ｄと光拡散加工面３３３ｂとの位置関係によっては、球で光が隠される事態が発生し得るところ、本実施形態では、外側発光手段３５１ｄの光軸（前後方向に延びる直線）が、分岐箇所ＢＰ１を球が流下する範囲の外側（上側）に配置されるので（図７６参照）、分岐箇所ＢＰ１に配置される球により光が遮られる事態を回避することができる。

【１０７８】

そのため、振分装置３００内の球の流下態様によらず、外側発光手段３５１ｄを発光させることで、光拡散加工面３３３ｂを明るく照らすことができる。光拡散加工面３３３ｂが照らされた場合、その前側に配置される第２流路構成部３３５（図１７参照）を流下する球が光を遮ることで影が生じるので、遊技者は、第２流路構成部３３５を流下する球の流下態様を把握し易くなる。

【１０７９】

本実施形態では、分岐箇所ＢＰ１に配置される球により光が遮られる事態を回避するための工夫として、球の流下を滑らかにするための構成が採用されている。その構成について説明する。

【１０８０】

分岐箇所ＢＰ１に到達し流下する球は、スライド変位部材３７０が後側位置に配置され

ている状態では（図２０参照）、真下に流下して確変検出センサＳＥ１１を通過し、スライド変位部材３７０が前側位置に配置されている状態では（図１８参照）、球案内部３７１ｂの傾斜に沿って左右外側へ流下して通常検出センサＳＥ１２を通過する。

【１０８１】

スライド変位部材３７０が前側位置に配置されている状態における球の流下において、スライド変位部材３７０の左右外側端部を支持する板状部３８２の貫通孔縁部３８２ａは、確変検出センサＳＥ１１の左右外側縁部と通常検出センサＳＥ１２の左右内側縁部とをつなぐように配設され、上面が左右外側へ向けて下降傾斜する傾斜面として形成される。そのため、貫通孔縁部３８２ａの上面に到達した球は、左右方向外側へ流下し易い構成とされる。

【１０８２】

これにより、球案内部３７１ｂの傾斜に沿って左右外側へ流下開始した球が、貫通孔縁部３８２ａに橋渡しされた後において左右方向内側に逆流したり、跳ねたりする事態を回避し易くすることができ、球の流下を滑らかにすることができる。

【１０８３】

なお、光拡散加工面３１９ａは、分岐箇所ＢＰ１の前後幅の内側に配設される。そのため、光拡散加工面３１９ａの背面側に球が配置される状況が生じ得ないので、外側発光手段３５１ｄと光拡散加工面３１９ａとの位置関係に寄らず、球で光が隠されるという事態は発生し難い。

【１０８４】

このように、内側発光手段３５１ｃと外側発光手段３５１ｄとは、単純に左右にずれて配置されているだけではなく、その前側において異なる前後位置で配置される光拡散加工面３３２ｅ，３１９ａ，３３３ｂと各発光手段３５１ｃ，３５１ｄの光軸との配置関係に意図的に差を設けて設計し、発光手段３５１ｃ，３５１ｄからの光が到達する光拡散加工面３３２ｅ，３１９ａ，３３３ｂを異ならせることで、光が到達し拡散され視認される前後位置を異ならせることができる。

【１０８５】

上述の説明では、内側発光手段３５１ｃを発光させる場合と、外側発光手段３５１ｄを発光させる場合と、を別々に説明し、逆側の発光手段３５１ｃ，３５１ｄは消灯している前提で説明したが、実際の各発光手段３５１ｃ，３５１ｄの発光制御は片側ずつではなく、両点灯や、両消灯などの制御態様も生じ得る。以下、発光制御のパターンと、その際の振分装置３００の内部流路の見え方について説明する。

【１０８６】

図７７（ａ）から図７７（ｄ）は、振分装置３００の中部材３３０の正面斜視図である。図７７（ａ）から図７７（ｄ）では、理解を容易とするために光拡散加工面の形状線としての筋の図示が省略されており、それぞれ、発光手段３５１ｃ，３５１ｄの点灯および消灯の組み合わせが異なる場合について図示されており、発光手段３５１ｃ，３５１ｄからの光により明るく光る範囲が網掛け模様で図示される。

【１０８７】

即ち、図７７（ａ）では、発光手段３５１ｃ，３５１ｄが共に消灯されている両消灯状態が図示され、図７７（ｂ）では、内側発光手段３５１ｃが点灯し外側発光手段３５１ｄが消灯されている内点灯状態が図示され、図７７（ｃ）では、内側発光手段３５１ｃが消灯し外側発光手段３５１ｄが点灯されている外点灯状態が図示され、図７７（ｄ）では、発光手段３５１ｃ，３５１ｄが共に点灯されている両点灯状態が図示される。

【１０８８】

両消灯状態では、図７７（ａ）に示すように、各光拡散加工面３３２ｅ，３１９ａ，３３３ｂが照らされておらず、その奥側の視認性が確保されるものの、メリハリのない印象を遊技者に与える。特に、第３流路構成部３３６の上側を流れる球と、第３流路構成部３３６の奥側（下側）を流下するアウト球との区別がつき難い状態となる。

【１０８９】

内点灯状態では、図７７（ｂ）に示すように、第３流路構成部３３６の下側の光拡散加工面３４０が照らされることで、第３流路構成部３３６の上側を流れる球の視認性を高く維持し、且つ、第３流路構成部３３６の奥側（下側）を流下するアウト球の視認性が低くなる。

【１０９０】

更に、分岐箇所ＢＰ１の背面側において光拡散加工面３３２ｅが照らされることから、分岐箇所ＢＰ１における球の流れの視認性を向上することができる。その上、光拡散加工面３３２ｅの手前側に配置される光拡散加工面３１９ａ，３３３ｂは照らされない状態で維持されるので、分岐箇所ＢＰ１が光で目隠しされる事態を回避することができる。

【１０９１】

即ち、内点灯状態では、第３流路構成部３３６から分岐箇所ＢＰ１へ至る範囲が光で照らされ、前側枠状部３３３を介して分岐箇所ＢＰ１を見ようとする視線も通ることから、分岐箇所ＢＰ１における球の流下態様を遊技者が把握し易くすることができる。また、球の流下態様を把握する上で注目すべき箇所に光が照らされているので、注目箇所を遊技者が見逃す可能性を低くすることができ、遊技者の遊技ストレスを低減することができる。

【１０９２】

前側枠状部３３３の内側面には、全範囲に亘り光拡散加工面３３３ｂが形成されており（図１３参照）、遊技者目線で前側枠状部３３３を透かして背後を視認することが困難となるように構成される。

【１０９３】

前側枠状部３３３を透かして背後を視認する場合、前後方向視では、前側枠状部３３３の内側面の内、前後で対向配置される２側面を透かして背後を視認することになるので、透かして見る必要がある板が多い分、尚更、背面側を視認することが困難である。

【１０９４】

同様のことが、前側枠状部３３３を、左右内側から斜め左右外側方向に傾斜する視線（正面側左右中央位置から、通常検出センサＳＥ１２へ向かう傾斜した視線）で奥側を透かして視ようとする遊技者にとっても言える。

【１０９５】

即ち、本実施形態では、光拡散加工面３３３ｂが矩形筒形状の内側に亘って形成されるところ、この傾斜する視線上には、前側枠状部３３３の後側面と、左右内側面（仕切り板部３３８と対向配置される側面）とが配置される。そのため、透かして見る必要がある板が多い分、尚更、背面側を視認することが困難である。

【１０９６】

このように、前側枠状部３３３によれば、前後方向視だけでなく、斜め方向視であっても、前側枠状部３３３の後側を透かして見ることを困難にすることができる。

【１０９７】

外点灯状態では、図７７（ｃ）に示すように、光拡散加工面３１９ａ，３３３ｂが照らされることから、分岐箇所ＢＰ１において左右外側に流れた球が光で隠されることになるので、流下球の視認性が低くなる。

【１０９８】

一方で、第２流路構成部３３５の奥側（下側）に形成される光拡散加工面３４０が照らされることから、第２流路構成部３３５を流下する球の視認性を向上することができる。即ち、外点灯状態では、手前側を流れる球の視認性を向上することで遊技者の注目力を向上する効果はあるが、分岐箇所ＢＰ１自体の視認性が低くなる。

【１０９９】

両点灯状態では、図７７（ｄ）に示すように、光拡散加工面３３２ｅ，３１９ａ，３３３ｂが広範囲で照らされる。光で照らされる状況としては、内点灯状態および外点灯状態の組み合わせであり、双方の効果を生じ得るが、有利な効果で補助し合うばかりではない。

【１１００】

例えば、光拡散加工面３３３ｂが照らされていることから、分岐箇所ＢＰ１を左右外側に流れる球が光に隠されるという特徴は、外点灯状態から引き継がれることになる。そのため、分岐箇所ＢＰ１の視認性を高める目的からすれば、内点灯状態で維持することが最適である。

【１１０１】

発光手段３５１ｃ，３５１ｄの点灯消灯に係る制御態様は、種々の態様が例示される。例えば、大当たり遊技において、確変検出センサＳＥ１１（図７６参照）に球が入球する可能性があるラウンド遊技においては、分岐箇所ＢＰ１に遊技者が注目し易いように内点灯状態を構成するよう制御し、それ以外のラウンド遊技では、外点灯状態や両点灯状態を構成することで全体的に明るくするように制御しても良い。

【１１０２】

また、例えば、ラウンド遊技の種類によらず両点灯状態と両消灯状態とを交互に切り替える態様で制御するようにしても良い。

【１１０３】

また、発光手段３５１ｃ，３５１ｄを点灯させるタイミングはラウンド遊技に限るものではなく、種々の態様が例示される。例えば、図柄変動中のリーチ正立後に発光手段３５１ｃ，３５１ｄを点灯させるように制御しても良いし、入賞口６３，６４，１４０，６５ａやスルーゲート６７に球が入球したことが検出されたら、発光手段を３５１ｃ，３５１ｄを点灯させるように制御しても良い。

【１１０４】

図７３から図７５に戻って、特定入賞口６５ａ付近において球の流下を適正化するための構成について、改めて詳述する。図７３に示すように、開閉板６５ｂの左右外側に配置される延設部１６２ｂの上側面は左右外側へ向けて下降傾斜する傾斜面として形成されている。

【１１０５】

そのため、開閉板６５ｂが開放状態であるか閉鎖状態であるかに関わらず、開閉板６５ｂの左右外側へ逸れた球であって延設部１６２ｂの上側面に乗った球を左右外側（開閉板６５ｂが配置される側の反対側）へ流すことができるので、延設部１６２ｂに乗った球が特定入賞口６５ａの手前側を通り流下することを避けることができる。

【１１０６】

従って、アウト口７１へ流下する大部分の球の流下態様を、内レール６１を転動する流下態様とすることができるので、アウト口７１付近において球が跳ね上がる（高くバウンドする）事態の発生を回避することができる。これにより、跳ね上がった球により、主窓部１６２ｄ１や、その奥側に配置される第３流路構成部３３６が隠され、視認性が低下することを回避することができる。

【１１０７】

図７４に示すように、開閉状態における開閉板６５ｂの上側面は左右方向に延びる平面状に形成されている。一方で、第２流路構成部３３５は、左右中央側（仕切り板部３３８側）へ向かう程に下降傾斜している。

【１１０８】

そのため、左右中央側に近づく程、開閉板６５ｂと第２流路構成部３３５との上下間隔が長くなるので、開閉板６５ｂの上側面を転動する球と、第２流路構成部３３５から第３流路構成部３３６へ向かって流れる球と、を区別し易くすることができる。

【１１０９】

図７４に示すように、開閉板６５ｂは、上側面に乗った球を漏れなく特定入賞口６５ａへ流し込むような形状とされるが、球の流れが遅滞しないように種々の形状的な工夫がされている。

【１１１０】

例えば、第１に、受入部材１６３の案内板部１６３ａ２は、開閉板６５ｂの左右端部の上側面から後方に流れる球と当接し、その球を左右内側に案内するための板状部である。

案内板部１６３ａ２は水平方向に延びる板状ではなく、開閉板６５ｂから受入部材１６３へ向けて流れる球の上下位置変位に合わせて、左右内側に下降傾斜する方向に延びる板状に形成される。

【１１１１】

即ち、案内板部１６３ａ２の前側端部は左右内側ほど後方に配置されるような傾斜面として形成されているところ、開閉板６５ｂに乗る球が当接する左右外側端部付近よりも、開閉板６５ｂよりも床面が低い受入部材１６３に受け渡される球が当接する左右内側部の方が、位置が下側になるように傾斜する方向に延びる。

【１１１２】

これにより、案内板部１６３ａ２に当接する球の当接位置（球の全長における当接高さ）を安定させることができ、球をスムーズに案内することができる。なお、本実施形態では、球の全長における中心高さ位置で球と当接可能となるように、開閉板６５ｂや受入部材１６３の床面との相対関係から案内板部１６３ａ２の配置が設計される。

【１１１３】

例えば、第２に、開閉板６５ｂの上側面後端部（回動基端側部）と、受入部材１６３の下面部１６３ａとの高さ関係は、途中で逆転するように構成されている。即ち、下面部１６３ａの高さ位置が最も高い左右中央位置においては開閉板６５ｂの高さ位置の方が下であるが、下面部１６３ａが左右側へ向かう程に下降傾斜しており、左右幅方向外側における一対の切替位置ＥＰ１でその上下が反転するよう構成されている。

【１１１４】

本実施形態では、切替位置ＥＰ１は、開閉板６５ｂと受入部材１６３との間における球の流下態様を切り替える位置としての性質を持っており、前側枠状部３３３の左右内側面（仕切り板部３３８と対向配置する側面）と同一平面上の位置（図７４で前側枠状部３３３の真上位置）として設計される。

【１１１５】

切替位置ＥＰ１の左右内側範囲（左右一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲）では、球の転動面の上下位置の関係から、開閉板６５ｂから受入部材１６３への球の転動が抑制される一方、受入部材１６３から開閉板６５ｂへの球の転動は抵抗少なく生じ得る。

【１１１６】

例えば、開閉板６５ｂの左右中央位置付近で後方に跳ねた球が受入部材１６３（の内側後面）に衝突して再度前方に跳ねたとしても、球跳ねが収まって転動し始めた後では、球が開閉板６５ｂから受入部材１６３に乗り上げることを抑制することができる。

【１１１７】

なお、開閉板６５ｂから受入部材１６３側に転動する球は、受入部材１６３に乗り上げるのではなく、球が下面部１６３ａと当接し始めると、下面部１６３ａの左右傾斜に沿って球が左右外側に流されることになる。

【１１１８】

なお、開閉板６５ｂの左右中央位置付近への球の落下は、前意匠部材１４１（図７参照）が球の落下を規制していることから生じにくいため、球跳ねも生じにくい構成であるといえる。但し、球同士の衝突などにより球跳ねは生じ得る。

【１１１９】

切替位置ＥＰ１の左右外側範囲（左右一対の切替位置ＥＰ１よりも左右外側（球通過孔１６３ｂが配置される側）の範囲）では、球の転動面の上下位置の関係から、受入部材１６３から開閉板６５ｂへの球の転動が抑制される一方、開閉板６５ｂから受入部材１６３への球の転動は抵抗少なく生じ得る。例えば、他の球との衝突や遊技機の振動等により、下面部１６３ａを転動している球に前側への速度が生じたとしても、球が開閉板６５ｂ側に逆流することを回避することができる。

【１１２０】

切替位置ＥＰ１についての記載をまとめると、受入部材１６３側から球が前側に転動できる範囲を、一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲に限定することで、球通過孔１６３ｂ付近

での球の逆流を回避して球の流下をスムーズにすることで、球が滞留する事態の回避を図っている。

【１１２１】

加えて、一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲からの球の後方への転動は、後方への流れが済んでから、左右方向の流れに切り替わるという転動態様ではなく、一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲と球通過孔１６３ｂとを結ぶ斜めの直線方向に沿う転動態様となる。

【１１２２】

換言すれば、前後方向および左右方向のように直角に交差する経路での流れではなく、一端が同位置に配置される前後方向直線と左右方向直線の他端同士を結ぶ斜辺に沿う流れとすることができるので、球の転動経路を短縮することができる（直角三角形において、斜辺の長さが、他の２辺の長さの合計よりも短いことに相当）。

【１１２３】

更に、開閉板６５ｂの左右位置に亘って球が後方に流れ易い場合に比較して、本実施形態のように、一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲では球が前方に流れ易いよう構成することで、受入部材１６３に多数の球が同時に入球した場合でも、球の流れが停滞する事態を回避し易くすることができる。

【１１２４】

図７５に示すように、受入部材１６３は、一対の切替位置ＥＰ１の左右外側の範囲には形成されておらず（図１６参照）、一対の切替位置ＥＰ１の左右中央側の範囲において前側に空間を空けるよう上昇傾斜する板状に形成される上面部１６３ｆを備えている。

【１１２５】

上面部１６３ｆは、下面部１６３ａの位置が高くなることで一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲において球が詰まる可能性を低くするための工夫であり、上面部１６３ｆにより、球を配置する空間の上下幅を確保することができる。

【１１２６】

これにより、一対の切替位置ＥＰ１の間の範囲における球詰まりを防いだり、球が乗った状態で開閉板６５ｂが閉鎖変位する場合に開閉板６５ｂと受入部材１６３との間で球が噛み込むことを回避したりすることができる。

【１１２７】

対称突設部１６１ｆは、左右に延びる方向が、第２流路構成部３３５の傾斜角度に沿う方向（水平を基準として５度傾斜する方向）とされ、第２流路構成部３３５を転動する球の全長における中心高さ位置で球と当接する位置（第２流路構成部３３５の床底から５．５ｍｍ高い位置）に配設される。

【１１２８】

これにより、分岐箇所ＢＰ１の視認性を確保する目的から対称突設部１６１ｆの形成厚みを最小限とする場合において、球の中心高さから外れた位置で球が対称突設部１６１ｆに当接することで、球を持ち上げる方向の負荷や球を床に押し付ける方向の負荷が対称突設部１６１ｆから球に生じる場合に比較して、球の転動をスムーズにすることができる。

【１１２９】

なお、分岐箇所ＢＰ１の視認性が低下することを許容するのであれば、対称突設部１６１ｆの厚みを球の全長程度の厚みで形成することで、球の中心高さから外れた位置で対称突設部１６１ｆが球に当接する事態を回避することができる。

【１１３０】

次いで、スライド変位部材３７０及びその周辺構造について、改めて詳述する。図７８は、中部材３３０、状態切替装置３６０、スライド変位部材３７０及び下部材３８０の上面図である。図７８では、理解を容易とするために、中部材３３０が想像線で透明視され、中部材３３０の下側に配設されるスライド変位部材３７０が透けて見えている。

【１１３１】

スライド変位部材３７０は、分岐箇所ＢＰ１において前後方向にスライド変位する部材であるが、その前端部は、前側位置（図７８参照）においても対向配置される排出孔３３

７の側面と当接せず、隙間が維持される。隙間は、球が確変検出センサＳＥ１１に入球することを阻害するのに十分に短い寸法の隙間として形成される。

【１１３２】

これにより、球の確変検出センサＳＥ１１への入球を防止する目的を達成しながら、スライド変位部材３７０の前端部が排出孔３３７の側面との当接により削れたり、変形したりする事態を回避することができる。

【１１３３】

また、スライド変位部材３７０の前端部、即ち、薄板部３７１の前端部は、左右外側へ向かう程に配置が後方にずれる態様で傾斜形成される。これにより、薄板部３７１の前端部と排出孔３３７の側面との間に球が挟まれて滞留することを回避し易くすることができる。

【１１３４】

即ち、薄板部３７１の前端部と排出孔３３７の側面との間に球が挟まれた場合であっても、薄板部３７１の前端部が傾斜面として形成されていることから、球に対して生じる負荷は左右外側へ向けた方向成分を有するので、球を左右外側に押し出すことができる。これにより、球詰まりを抑制することができる。

【１１３５】

次いで、図７９を参照して、スライド変位部材３７０の変位の案内についての工夫を説明する。スライド変位部材３７０の配置によって遊技者の利益が変わり得るので、スライド変位部材３７０の変位には、再現性（安定性）と、スムーズさと、が要求される。

【１１３６】

図７９（ａ）は、図７８のＬＸＸＩＸａ－ＬＸＸＩＸａ線における中部材３３０、スライド変位部材３７０及び下部材３８０の断面図であり、図７９（ｂ）は、図７８のＬＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＩＸｂ線における中部材３３０、スライド変位部材３７０及び下部材３８０の断面図であり、図７９（ｃ）は、図７８のＬＸＸＩＸｃ－ＬＸＸＩＸｃ線における中部材３３０、スライド変位部材３７０及び下部材３８０の断面図である。なお、図７９の説明においては、図１３及び図１４を適宜参照する。

【１１３７】

図７９（ａ）に示すように、上突設部３７６の正面側における薄板部３７１の上側面は左右外側ほど下側に位置する傾斜面として形成されており、この傾斜に沿って球が流れ得る。本実施形態では、この傾斜面を転動する球の流れを安定させるために、傾斜面の傾斜が変化するようなスライド変位部材３７０の姿勢変化を抑制するよう構成されている。

【１１３８】

即ち、図７９（ａ）に示すように、スライド変位部材３７０の薄板部３７１は、左右両端部だけでなく、下突条部３７３が下部材３８０の板状部３８２に当接支持される。これにより、凹設部３７２で左右に分けられる一対の球案内部３７１ｂのそれぞれを左右両側で下支えする（両持ちで支持する）ことができるので、スライド変位部材３７０の姿勢変化を抑制することができる。

【１１３９】

換言すれば、左右一対の球案内部３７１ｂに球から与えられる負荷が異なる場合であっても（球がバランス悪い個数で乗ったとしても）、各球案内部３７１ｂについて左右両端部で下支えされていることから、球案内部３７１ｂ及びスライド変位部材３７０の左右への傾き（前後方向に延びる軸を中心とした回動方向の変位）を抑制することができる。

【１１４０】

また、凹設部３７２の縁部は、上側に仕切り板部３３８が配設されていることにより、上方への変位が規制される。即ち、スライド変位部材３７０の浮き上がり動作や、後傾方向の傾斜変位を抑制することができる。

【１１４１】

これにより、スライド変位部材３７０の姿勢を適正な状態に維持し易くなり、前後方向変位の変位抵抗を抑制することができ、スライド変位部材３７０の動作不良を防止するこ

とができる。
【１１４２】
球案内部３７１ｂは、上突設部３７６の突設基端側において前側に張り出し形成される板状部であって、球が転動可能とされる上側面が左右外側へ向かう程に下がる傾斜面として形成される。
【１１４３】
球案内部３７１ｂと突条部３８３との接触は、点接触となるように構成されている。即ち、本実施形態では、凹設部３７２から突条部３８３側へ一対の半球状突設部３７２ａが突設されており、間隔が埋まる際には、半球状突設部３７２ａと突条部３８３とが点接触するよう構成される。
【１１４４】
ここで、上述したように、球案内部３７１ｂは球が転動し得る上側面が左右方向に傾斜する傾斜面として形成されているので、球の自重により球案内部３７１ｂにかけられる負荷は、上下方向成分と左右方向成分とに分解されることになり、左右方向成分によりスライド変位部材３７０は左右方向（スライド変位部材３７０の変位方向である前後方向と交差する方向）に変位し得る。
【１１４５】
この時、スライド変位部材３７０の凹設部３７２と突条部３８３との左右方向隙間を小さくした方が球案内部３７１ｂの左右位置が安定し易く好ましい一方で、接触摩擦が生じ易くなることから、機能上の問題が生じる可能性がある。
【１１４６】
例えば、球が球案内部３７１ｂに乗った状態でスライド変位部材３７０を前後方向変位させる場合に、接触摩擦が過度に大きくなると前後方向変位が不良となる（例えば、変位が生じない）事態が発生する可能性がある。
【１１４７】
これに対し、本実施形態では、半球状突設部３７２ａと突条部３８３との接触が点接触となるように構成されているので、摩擦力が生じる面積を低減することができ、接触摩擦を小さく抑えることができる。これにより、球が球案内部３７１ｂに乗った状態であっても、スライド変位部材３７０の前後方向変位を良好に実行することができる。
【１１４８】
特に、球案内部３７１ｂに球が乗っている状態でのスライド変位部材３７０の前後方向変位は、確変検出センサＳＥ１１に球が入球し得ない状態から、確変検出センサＳＥ１１に球が入球可能な状態へ状態を切り替える変位動作であるので、この変位動作を良好に実行することで、遊技者が不利益を被ることを回避することができる。
【１１４９】
尚且つ、この変位動作の変位速度を高速とすることで、スライド変位部材３７０の前後方向変位の時に球案内部３７１ｂに乗っている球の回転を変化させる作用を生じさせることができる。
【１１５０】
図８０（ａ）及び図８０（ｂ）は、スライド変位部材３７０と球案内部３７１ｂの上側面に乗る球との側面図である。図８０（ａ）では、前側位置のスライド変位部材３７０に球が乗っている状態が図示され、図８０（ｂ）では、スライド変位部材３７０が後側位置に変位した状態が図示される。図８０（ａ）及び図８０（ｂ）では、球の回転方向の例が矢印で図示される。
【１１５１】
図８０（ａ）に示すように、後方へ向けて転動しスライド変位部材３７０に到達した球の回転方向は前転方向である。その球がスライド変位部材３７０に乗っている状態でスライド変位部材３７０が後側位置へ前後変位するよう電磁ソレノイド３６１（図１３参照）が駆動されると、スライド変位部材３７０から球に与えられる負荷は、球の回転方向（案内方向）を逆方向（後転方向）とするように作用する。

【１１５２】
これにより、球の回転を抑制することができるので、重力の作用を球が受けやすい状態とすることができ、球を真下に落下させ易くなる。従って、スライド変位部材３７０に球が乗っている状態でスライド変位部材３７０が駆動された場合に、球が確変検出センサＳＥ１１に流下し易い構成とすることができる。
【１１５３】
前後長突設部３１７は、分岐箇所ＢＰ１へ到達した球をスライド変位部材３７０側へ案内する機能を有する。換言すれば、前後長突設部３１７は、確変検出センサＳＥ１１へ球を案内する機能に留まるものではなく、確変検出センサＳＥ１１の上流側に配置されるスライド変位部材３７０の配置によらず球を適切に案内可能な形状部として構成される。
【１１５４】
スライド変位部材３７０が後側位置に配置されている場合には、経路構成上、前後長突設部３１７に当接した球は確変検出センサＳＥ１１を通過する。このとき、前後長突設部３１７の端部の曲線が、上下方向幅に比較して前後方向幅が長い略円弧形状とされるので（図１８参照）、当接した球に対して、前方向成分よりも下方向成分の方が大となる負荷を与えることになる。これにより、前後長突設部３１７に当接した球が前後方向に跳ね返り、第３流路構成部３３６を逆流する事態が生じることを回避することができる。
【１１５５】
一方、スライド変位部材３７０が前側位置に配置されている場合には、球の流下方向はスライド変位部材３７０の形状に委ねられる。本実施形態では、スライド変位部材３７０の上突設部３７６の前側面３７６ａが左右外側へ向かって湾曲する湾曲面を形成しているので、球はこの湾曲に沿って左右外側へ案内される。
【１１５６】
ここで、スライド変位部材３７０が前側位置に配置されている状態において、前後方向に流れる球が勢いのままにスライド変位部材３７０に衝突すると、その衝突時の負荷によりスライド変位部材３７０が後方に押しのけられ、確変検出センサＳＥ１１への球の通過が可能な状態に切り替わる可能性が考えられる。
【１１５７】
これに対し、本実施形態では、球がスライド変位部材３７０の上突設部３７６に衝突する前に前後長突設部３１７に当接することで、球の速度方向が下方寄りに修正される。そのため、球からの負荷によるスライド変位部材３７０の変位方向は主に下方向となるので、スライド変位部材３７０が後方に押しのけられる事態の発生を回避し易くすることができる。
【１１５８】
また、球から与えられる、スライド変位部材３７０を後方に変位させる方向の負荷が小さくなることから、スライド変位部材３７０を前側位置に維持するための付勢力（電磁ソレノイド３６１（図１３参照）が有する戻りバネの付勢力）を小さくできると共に、その付勢力に抗してプランジャーを駆動する電磁力を小さくすることができるので、結果として、電磁ソレノイド３６１の設計自由度を向上することができる。
【１１５９】
分岐箇所ＢＰ１に球が配置されている状態でスライド変位部材３７０が後側位置から前側位置に変位した場合にも、球の逆流が生じることを回避し易くすることができる。
【１１６０】
左右内突設部３１８は上突設部３７６の前側変位終端位置よりも前側において球と当接し、球の勢いが左右外側下方向へ向けられる。尚且つ、前後長突設部３１７により球の勢いが下方向へ向けられる。これにより、球の前後方向の速度が収まるので、自重による慣性で配置が安定し、スライド変位部材３７０から与えられる負荷程度では球の逆流が生じ難い状態とすることができる。
【１１６１】
更に、球と上突設部３７６との当接は前後長突設部３１７と当接する高さ位置よりも球

が下がった状態で生じるが、球が上突設部３７６と当接可能な程度に下がった状態では（図８０（ａ）参照）、球と当接する箇所は球案内部３７１ｂであり、第３流路構成部３３６の下底面３３６ａのよりも低い位置に配置される。これにより、上突設部３７６から前後方向の負荷を受けて球が手前側に変位したとしても、球案内部３７１ｂの上側面から下底面３３６ａに乗り上がるために相当のエネルギーを必要とするので、球の逆流の程度を低くすることができる。

【１１６２】

また、上突設部３７６は仕切り板部３３８側の前側端部が鋭角形状に形成されており、平面が球と前後方向で正面衝突する衝突態様ではない（図７８参照）。即ち、上突設部３７６から球に対して与えられる負荷は、左右方向の負荷が大きく、前後方向の負荷は小さい。

【１１６３】

これにより、上突設部３７６に当接した球を左右外側方向にスムーズに流すことができるので、分岐箇所ＢＰ１に球が配置された状態でスライド変位部材３７０が後側位置から前側位置に変位する制御態様とした場合に、上突設部３７６と排出孔３３７の前側面との間に球が噛み込んでしまい動作不良を生じる事態を回避し易くすることができる。

【１１６４】

図７８、図７９（ｂ）及び図７９（ｃ）に戻って説明する。スライド変位部材３７０を分岐箇所ＢＰ１側（前側）に張り出すよう構成している関係上、球案内部３７１ｂに乗った球の自重によりスライド変位部材３７０が前倒れ方向に変位する可能性がある。

【１１６５】

これに対し、本実施形態では、上突設部３７６よりも後側に形成される部分、即ち、上下突条部３７４が左右両側において前後に亘って形成される部分の、前後幅長さを十分に確保し、その前後幅に亘って後側枠状部３３２の下底部と当接可能に構成されている。これにより、スライド変位部材３７０の前傾方向に傾倒変位を防止することができる。

【１１６６】

加えて、上下突条部３７４が前後に長く形成されていることから、スライド変位部材３７０を前傾方向に傾倒変位させる負荷がかけられた場合に後側枠状部３３２に与えられる負荷が一点に集中することを避けることができる。これにより、スライド変位部材３７０の変形を抑制（剛性を高める）することができる。

【１１６７】

また、球案内部３７１ｂに球が乗り得る前側位置にスライド変位部材３７０が配置された状態では、凹設部３７８が形成される突設部（以下、突設部３７８ａとも称する）の前側面が仕切り板部３３８の後側面と当接する。

【１１６８】

換言すれば、スライド変位部材３７０は、突設部３７８ａの前側面が仕切り板部３３８の後側面に当接する位置として前側位置が設定されている。この目的から、仕切り板部３３８の後側面には光拡散加工面が形成されず、突設部３７８ａと前後で対向配置され互いに当接可能とされる面が平坦面で形成される。これにより、前側位置におけるスライド変位部材３７０の配置を安定させることができる。

【１１６９】

回動部３６３の下円柱部３６３ｃは凹設部３７８の内側に配置されているので、下円柱部３６３ｃを介して伝達される電磁ソレノイド３６１の駆動力は、突設部３７８ａの前側肉部を介して仕切り板部３３８の後側面にかけられる。

【１１７０】

このように、駆動力が伝達される位置がスライド変位部材３７０の左右中央部であることから、スライド変位部材３７０にバランスよく駆動力を伝達することができる。即ち、前後方向変位時に、スライド変位部材３７０に上下方向軸を中心とする回転方向の姿勢ずれが生じることを回避し易くすることができる。

【１１７１】

更に、突設部３７８ａの前側面が仕切り板部３３８の後側面に面で押し付けられることにより、スライド変位部材３７０の姿勢を、上下方向軸を中心とする回転方向で修正し易くすることができる。

【１１７２】

ここで、スライド変位部材３７０の姿勢維持や姿勢復帰を仕切り板部３３８と半球状突設部３７２ａとの当接により実行する場合、仕切り板部３３８と半球状突設部３７２ａとの当接面積が小さいことから、負荷が局所的にかかってしまい、半球状突設部３７２ａの耐久性が劣化する可能性がある。

【１１７３】

これに対し、本実施形態では、突設部３７８ａの前側面が仕切り板部３３８の後側面に面で押し付けられる前段階において、スライド変位部材３７０に上下方向軸を中心とする回転方向の姿勢ずれが生じていたとしても、駆動力の伝達により、突設部３７８ａの前側面が仕切り板部３３８の後側面に面接触する過程でスライド変位部材３７０の姿勢ずれを解消することができ、適正な姿勢に修正することができる。

【１１７４】

突設部３７８ａに対する仕切り板部３３８は、前後方向変位時に当接することでスライド変位部材３７０の位置合わせをする目的の他、スライド変位部材３７０に与えられる前傾方向の負荷を受ける部分としての機能を有する。

【１１７５】

即ち、スライド変位部材３７０が前側位置に配置される状態において、球案内部３７１ｂに乗った球の自重により、スライド変位部材３７０を前傾方向に姿勢変化させる方向の負荷が生じた場合において、スライド変位部材３７０に許容される隙間内で突設部３７８ａが変位（前傾方向に変位）しかけると、突設部３７８ａは仕切り板部３３８の後側面に押し付けられる。

【１１７６】

この場合、仕切り板部３３８の後側面から突設部３７８ａに対して反対方向の抵抗がかけられることで、突設部３７８ａの変位が抑制されることから、スライド変位部材３７０の姿勢変化を抑制することができる。

【１１７７】

次いで、各動作ユニット６００，７００，８００の詳細について説明が不足していた部分について、改めて説明する。まず、第１動作ユニット６００の詳細の説明として、回動部材６２０について説明する。

【１１７８】

図８１（ａ）は、回動部材６２０の正面図であり、図８１（ｂ）は、回動部材６２０の背面図であり、図８１（ｃ）は、図８１（ａ）の矢印ＬＸＸＸＩｃ方向視における回動部材６２０の側面図である。

【１１７９】

また、図８２は、第１動作ユニット６００の正面図であり、図８３は、第１動作ユニット６００の背面図である。図８２及び図８３では、案内長孔６１６に沿って変位する皿状蓋部Ｃ２が変位範囲の右端に配置された状態が図示される。

【１１８０】

図８１（ａ）から図８１（ｃ）に示すように、動作の実行の際に回動部材６２０に与えられる負荷との関係から、回動部材６２０は非対称形状で設計されている。以下、回動部材６２０の詳細と、回動部材６２０への作用とについて説明する。

【１１８１】

回動部材６２０の本体部６２１は、停止時に負荷を受ける平らな側面として、第１側面６２１ａと、第２側面６２１ｂと、第３側面６２１ｃと、を備える。筒状部６２２から近い順に、第１側面６２１ａ、第２側面６２１ｂ、第３側面６２１ｃが形成されている。

【１１８２】

第１側面６２１ａは、回動部材６２０の傾倒変位側に形成される側面であって、前蓋部

材６１２から正面側に断面コ字状で突設される基端側突設部６１７ａに面で当接可能となる形状で形成される（基端側突設部６１７ａとの関係で形状が設計される）。第１側面６２１ａが基端側突設部６１７ａに変位を規制されることにより、回動部材６２０の変位可能範囲が規定される（変位可能範囲の終端位置における回動部材６２０について、図４５参照）。

【１１８３】

第２側面６２１ｂは、回動部材６２０の起き上がり変位側に形成される側面であって、前蓋部材６１２から正面側に断面コ字状で突設される先端側突設部６１７ｂに面で当接可能となる形状で形成される（先端側突設部６１７ｂとの関係で形状が設計される）。第２側面６２１ｂが先端側突設部６１７ｂに変位を規制されることにより、回動部材６２０の変位可能範囲が規定される（変位可能範囲の終端位置における回動部材６２０について、図４０参照）。

【１１８４】

第３側面６２１ｃは、回動部材６２０の起き上がり変位側に形成される側面であって、前蓋部材６１２の正面側に外形略矩形の箱状に形成される矩形状箱部６１８に面で当接可能となる形状で形成される（矩形状箱部６１８との関係で形状が設計される）。第３側面６２１ｃが矩形状箱部６１８に変位を規制されることにより、回動部材６２０の変位可能範囲が規定される（変位可能範囲の終端位置における回動部材６２０について、図４０参照）。

【１１８５】

このように、回動部材６２０の変位終端では、回動部材６２０の各側面６２１ａ～６２１ｃが、対応した前蓋部材６１２の部分に当接し、変位を規制される。特に、回動部材６２０の起き上がり側の変位終端において当接箇所が複数形成されている。

【１１８６】

このように当接箇所を複数形成させることの目的として、当接時に受ける回動方向の負荷を複数箇所で分散させる目的と、回動部材６２０に生じ得る前後方向の負荷を複数箇所で分散させることで回動部材６２０の前後方向の変形を抑える目的と、がある。

【１１８７】

回動部材６２０に生じ得る前後方向の負荷としては、例えば、第２装飾回転部材６６０の重みを受けることによる前倒れ方向の負荷や、第２装飾回転部材６６０の回転停止時の慣性による捻じれ方向の負荷（回動部材６２０の長手方向を軸とする回転方向の負荷）等が例示される。

【１１８８】

特に、前倒れ方向の負荷は、筒状部６２２を支点とする前傾方向の負荷であるので、力のモーメントを考慮することにより、負荷を受ける当接位置が筒状部６２２から離れるほど、当接位置に生じる負荷は小さくなる。当接位置に生じる負荷を小さくすることを一つの目的として、第２側面６２１ｂ及び第３側面６２１ｃが筒状部６２２から離れた位置に形成されている。

【１１８９】

回動部材６２０の本体部６２１は、駆動モータ６３１との干渉を避けるために駆動モータ６３１から退避する方向に凹設形成される凹設部６２１ｄと、その凹設部６２１ｄを含む範囲であって、筒状部６２２を中心とする回動部分として基端側突設部６１７ａと当接する範囲を含んで増厚形成される増厚部６２１ｅと、を備える。

【１１９０】

回動部材６２０の回動基端側は、凹設部６２１ｄが形成されることで細幅となっているので、対策なしでは衝撃負荷による折損が生じる可能性が考えられるが、増厚部６２１ｅが形成されていることで、強度面での凹設部６２１ｄの影響を相殺することができる。これにより、回動部材６２０の折損を回避し易くすることができる。

【１１９１】

更に、増厚部６２１ｅが基端側突設部６１７ａと当接し得る箇所を含む範囲に形成され

ていることで、回動部材６２０と基端側突設部６１７ａとの間で生じ得る衝撃負荷に対する回動部材６２０の耐久性を向上することができる。

【１１９２】

図８４は、第１動作ユニット６００の正面図であり、図８５は、第１動作ユニット６００の背面図である。図８４及び図８５では、伝達ギアカム６３４の延設部６３４ｂの幅方向端部が検出センサＫＳ１の検出溝に配置された状態が図示される。

【１１９３】

延設部６３４ｂは、検出センサＫＳ１の背面視での幅長さに比較して、３倍以上に長い幅長さ（周方向長さ）で形成される。ここで、延設部６３４ｂの幅長さを十分長く形成することは、検出に利用する目的の他に、構造的な目的がある。

【１１９４】

即ち、本実施形態では、回動部材６２０の回動先端部の前側に被支持部材６４０が連結されており、その被支持部材６４０の前側に第２装飾回転部材６６０が配設されているので、回動部材６２０に前倒れ方向の負荷が与えられ得るところ、対策なしでは、回動部材６２０が前後方向に撓み変形し、動作不良を生じる可能性がある。

【１１９５】

これに対し、本実施形態のように、回動部材６２０に連結される円筒部６３４ａの背後において、被固定手段６１０の背面と対向配置する延設部６３４ｂを幅広形状で形成することで、円筒部６３４ａを介して延設部６３４ｂから被固定手段６１０に、回動部材６２０の前倒れ方向で与えられる負荷を、円弧状孔６１３ｄの広い角度範囲で受けることができる（負荷が生じる面積を大きく確保することができる）。これにより、単位面積当たりで受ける負荷を低減することができるので、延設部６３４ｂが破損することを回避しつつ、回動部材６２０の前傾変位を抑制することができる。

【１１９６】

本実施形態では、延設部６３４ｂの幅長さを長く確保することで構造的に有利な効果を奏することができる一方で、延設部６３４ｂの端部が検出センサＫＳ１の検出溝に配置された状態（図８４参照）で回動部材６２０の起き上がり方向の駆動を停止させる制御態様であっても、慣性等の負荷により、回動部材６２０が初期位置側の終端位置（図４０参照）まで到達するように構造が工夫されている。

【１１９７】

例えば、第１に、各部材の慣性力が、回動部材６２０を初期位置側の終端位置へ変位させる方向で生じる。回動部材６２０自体の回動変位に伴う慣性力だけでなく、被支持部材６４０及び第２装飾回転部材６６０が軸線Ｏ１を中心として背面視時計回りに回動される回動変位に伴う慣性力も、回動部材６２０を初期位置側の終端位置へ変位させる方向（回動部材６２０を背面視反時計回りに回動させる方向）で生じる。

【１１９８】

例えば、第２に、中間ギア６４４を介して回動部材６２０のギア歯部６２５と歯車機構を構成するギア歯６５４ａと一体動作するように配設される前側回転部材６５２の重心（本実施形態では、張出装飾部６５２ｂの中心と同じ）は、ギア歯６５４ａの回転軸としての軸線Ｏ１の上下位置から左右に離れた位置に配置される。

【１１９９】

そのため、前側回転部材６５２に生じる自重は、ギア歯６５４ａを回転させる方向で生じる。本実施形態では、ギア歯６５４ａが、前側回転部材６５２の自重により、背面視反時計回りに回転する方向に負荷を受ける。

【１２００】

この負荷が中間ギア６４４、ギア歯部６２５と順に伝達されることにより、ギア歯部６２５を介して、回動部材６２０に背面視反時計回りに回転する方向の負荷が与えられる。即ち、回動部材６２０の回動変位の慣性とは異なる負荷として、前側回転部材６５２の自重による回転方向の負荷が、回動部材６２０を初期位置側の終端位置へ変位させる方向で生じる。

【１２０１】
このように、回動部材６２０に対して生じる慣性負荷や、前側回転部材６５２の自重による回転方向の負荷により、駆動モータ６３１の通電を切断した後においても回動部材６２０を回動させる負荷が生じるよう構成される。
【１２０２】
そのため、図８５に示すような、延設部６３４ｂが検出センサＫＳ１の検出溝に配置されており、且つ、回動部材６２０が変位終端位置に到達していない状態で、駆動モータ６３１の通電を切断するように制御したとしても、上述の負荷により回動部材６２０の回動変位が継続され、回動部材６２０を初期位置側の変位終端位置（図４０参照）に到達させることができる。
【１２０３】
図８６（ａ）、図８６（ｂ）、図８７（ａ）、図８７（ｂ）及び図８８は、案内長孔６１６、皿状蓋部Ｃ２、検出センサＫＳ１及び伝達ギアカム６３４の延設部６３４ｂの背面図である。
【１２０４】
図８６（ａ）、図８６（ｂ）、図８７（ａ）、図８７（ｂ）及び図８８では、第１動作ユニット６００の演出待機状態から開始される伝達ギアカム６３４の回転動作が時系列で図示される。
【１２０５】
なお、図８６（ａ）は、第１動作ユニット６００の演出待機状態に対応し、図８６（ｂ）は、図８５に図示される状態に対応し、図８７（ａ）は、第１動作ユニット６００の中間演出状態に対応し、図８７（ｂ）は、図８３に図示される状態に対応し、図８８は、第１動作ユニット６００の張出状態に対応する。
【１２０６】
皿状蓋部Ｃ２の開口Ｃ２ａを通る電気配線の配置について説明する。矩形状箱部６１８に収容される基板に配設されているコネクタ６１８ｃに端部が固定される電気配線６１８ｄが開口Ｃ２ａを通り第２装飾回転部材６６０に進入するように配設される。
【１２０７】
電気配線６１８ｄは、ベース部材６１１（図３９参照）へ向けて前蓋部材６１２から突設形成される仕切り部６１９の下側を迂回し、開口Ｃ２ａに進入するように配設される。電気配線６１８ｂは、開口Ｃ２ａを備える皿状蓋部Ｃ２の移動軌跡を考慮した長さで構成され、コネクタ６１８ｃと開口Ｃ２ａとの間で、自重で撓むようにして配置される。
【１２０８】
仕切り部６１９は、上下両端部に形成される柱状部６１９ａと、その柱状部６１９ａの間を連結するように長尺板状に突設される板状部６１９ｂと、を備える。柱状部６１９ａ及び板上部６１９ｂは、ベース部材６１１の前側面に当接する。
【１２０９】
柱状部６１９ａの内側には雌ネジが形成されており、柱状部６１９ａと対応する配置でベース部材６１１に穿設される開口を通る締結ネジが螺入されることで、ベース部材６１１及び前蓋部材６１２が締結固定される。即ち、仕切り部６１９により、電気配線６１８ｄの配設位置を制限する作用だけでなく、ベース部材６１１及び前蓋部材６１２の剛性を確保する作用も生じさせることができる。
【１２１０】
次いで、特に開口Ｃ２ａの動きに注目して、電気配線６１８ｄの配置に対する工夫について説明する。まず、図８６（ａ）から開始される皿状蓋部Ｃ２の下降変位に着目して説明する。皿状蓋部Ｃ２は、図８６（ａ）、図８６（ｂ）、図８７（ａ）、図８７（ｂ）、図８８の時系列で下降変位する。
【１２１１】
演出待機状態（図８６（ａ）参照）から、延設部６３４ｂの幅方向端部が検出センサＫＳ１の検出溝に配置された状態（図８６（ｂ）参照）までの動作では、皿状蓋部Ｃ２の上

下配置は大きくは変わらない一方で、開口Ｃ２ａの配置が背面視反時計回りに回転変位する。

【１２１２】

これにより、皿状蓋部Ｃ２が本格的な下降変位を開始する前に、開口Ｃ２ａ付近の電気配線６１８ｄの配置を仕切り部６１９から離れる方向に寄せることができ、皿状蓋部Ｃ２が下降変位する過程で電気配線６１８ｄが皿状蓋部Ｃ２と仕切り部６１９との間に挟まることを防止することができる。

【１２１３】

特に、皿状蓋部Ｃ２と仕切り部６１９とが最接近するタイミング（図８７（ｂ）参照）では、開口Ｃ２ａは仕切り部６１９から電気配線６１８ｄを退避させる側（下側）を向く姿勢となっている。

【１２１４】

これにより、電気配線６１８ｄを仕切り部６１９との間で挟む事態を回避することができるので、皿状蓋部Ｃ２を、仕切り部６１９に近接配置させるよう設計しても、電気配線６１８ｄが断線する等の不具合が生じることを回避することができる。

【１２１５】

図８６（ａ）から図８８に示すように、皿状蓋部Ｃ２の下降変位中に、開口Ｃ２ａの姿勢は、背面視反時計回りに継続的に回転変位している。皿状蓋部Ｃ２の下側変位終端では、開口Ｃ２ａがコネクタ６１８ｃの反対側（下側）を向いており、敢えて電気配線６１８ｄに下向きの弛みが生じるように構成している。これにより、電気配線６１８ｄ自体の長さを確保しながら、変位終端位置における電気配線の不要な弛み（例えば、前後方向へ弛むことによるばたつき）を回避することができる。

【１２１６】

更に、電気配線６１８ｄの長さは、第１動作ユニット６００の動作中において延設部６３４ｂと当接しない程度の長さで設計される。これにより、延設部６３４ｂと電気配線６１８ｄとの間に仕切りを設けなくとも、電気配線６１８ｄが延設部６３４ｂに接触し負荷を受ける事態の発生を回避することができる。

【１２１７】

本実施形態では、皿状蓋部Ｃ２が伝達ギアカム６３４に最接近する状態（図８８参照）において、延設部６３４ｂは、コネクタ６１８ｃから離れて配置（伝達ギアカム６３４の回転軸を基準としてコネクタ６１８ｃの反対側に配置）されることから、延設部６３４ｂとの接触を避けながら電気配線６１８ｄを配置する範囲を大きく確保することができるので、電気配線６１８ｄの長さの設計自由度を向上することができる。

【１２１８】

次いで、図８８から開始される皿状蓋部Ｃ２の上昇変位に着目して説明する。皿状蓋部Ｃ２は、図８８、図８７（ｂ）、図８７（ａ）、図８６（ｂ）、図８６（ａ）の時系列で上昇変位する。

【１２１９】

皿状蓋部Ｃ２の上昇変位では、変位下端位置（図８８参照）から、皿状蓋部Ｃ２が仕切り部６１９に最接近するまで、開口Ｃ２ａは仕切り部６１９側を向くことは無く、下側を向いている。これにより、電気配線６１８ｄの下方への弛みを確保しつつ皿状蓋部Ｃ２を上昇変位させることができる。

【１２２０】

開口Ｃ２ａの向きは、皿状蓋部Ｃ２が仕切り部６１９の下端を通過した後においても、徐々に回転しながらも、下側を向いた状態（開口Ｃ２ａ付近の電気配線６１８ｄを仕切り部６１９の長手方向に沿って配置させる状態）が維持される（図８７（ａ）参照）。

【１２２１】

そして、皿状蓋部Ｃ２が仕切り部６１９から十分離れた状態において、開口Ｃ２ａが仕切り部６１９側を向く姿勢まで回転され（図８６（ａ）及び図８６（ｂ）参照）、電気配線６１８ｄが仕切り部６１９と皿状蓋部Ｃ２との間に進入する（収容される）ように配置

される。
【１２２２】
これにより、電気配線６１８ｄを皿状蓋部Ｃ２と仕切り部６１９との間に挟むことにより断線を生じさせる事態の発生を回避することができ、皿状蓋部Ｃ２の上下変位に伴い電気配線６１８ｄに与えられる負荷の抑制を図ることができる。
【１２２３】
換言すれば、仕切り部６１９と皿状蓋部Ｃ２との配置関係に対応して、開口Ｃ２ａの配置を変化させることで電気配線６１８ｄの配置を制限し、皿状蓋部Ｃ２と仕切り部６１９との間隔が狭くなる時に電気配線６１８ｄが皿状蓋部Ｃ２と仕切り部６１９との間に配置されることを回避していることから、電気配線６１８ｄに与えられる負荷の抑制を図ることができる。
【１２２４】
従って、電気配線６１８ｄが任意位置で配置される場合に比較して、電気配線６１８ｄ及び皿状蓋部Ｃ２を近接配置するよう設計することができるので、電気配線６１８ｄ及び皿状蓋部Ｃ２の配置の自由度を向上することができる。
【１２２５】
また、電気配線６１８ｄの配置の制限を結束バンド等の別部材を利用してではなく、皿状蓋部Ｃ２の開口Ｃ２ａにより実現している。皿状蓋部Ｃ２は、上述したように、第１装飾回転部材６５０の本体部材６５１との締結固定に利用される部材であるが、これを電気配線６１８ｄの配置制限に兼用している。
【１２２６】
これにより、結束バンド等の電気配線６１８ｄを束ねるのに専用の部材を不要とすることができる。更に、結束バンドと異なり、皿状蓋部Ｃ２の配置に対応した適切な側に電気配線６１８ｄを配置できるように開口Ｃ２ａの向きを変えることができるので、電気配線６１８ｄが突っ張ったり、屈曲したりする事態を回避し易くすることができる。
【１２２７】
本実施形態では、開口Ｃ２ａは、中心角度が約１１０の扇形状の開口として形成される。開口Ｃ２ａが幅広の開口として形成されているので、開口Ｃ２ａを通過させる電気配線６１８ｄの部分（接続端子等）として採用される形状の自由度を向上することができる。
【１２２８】
次いで、開口Ｃ２ａよりも正面側に配置される電気配線６１８ｄの配設構造について説明する。図８９は、第１装飾回転部材６５０及び第２装飾回転部材６６０の正面斜視図である。
【１２２９】
図８９では、説明に必要な部分のみが図示され、その他の部分の図示が省略されている。即ち、第１装飾回転部材６５０の本体部材６５１及び配線受部材６５５、第２装飾回転部材６６０の電飾基板６６２及び配線留め板６６３が実線で図示されており、理解を容易とするために箱状部材６６１を想像線で図示し内部を視認可能としている。
【１２３０】
また、図８９では、電気配線６１８ｄの配設例が図示され、その電気配線６１８ｄが挿通される開口Ｃ２ａを備える皿状蓋部Ｃ２が図示される。電気配線６１８ｄは、電飾基板６５３（図４１参照）の端子に接続される配線と、電飾基板６６２の端子に接続される配線と、が本体部材６５１と配線受部材６５５との間で分岐する様子が図示される。
【１２３１】
図８９に示すように、配線留め板６６３は、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａの外径よりも大きな直径の円板状部材であって、電気配線６１８ｄを挿通可能な長孔形状で穿設される配線挿通長孔６６３ａと、その挿通長孔６６３ａの両側に締結ネジを挿通可能な貫通孔として穿設される一対の挿通孔６６３ｂと、を備える。
【１２３２】
配線留め板６６３の直径が半筒形状部６５１ｄ，６５５ａの外径よりも大きく形成され

ていることから、軸直角回転部材６５７（図３９参照）が半筒形状部６５１ｄ，６５５ａから脱落することを配線留め板６６３により防止することができる。

【１２３３】

配線留め板６６３の挿通孔６６３ｂを通る締結ネジは、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにそれぞれ形成される雌ネジに螺入される。これにより、配線留め板６６３及び半筒形状部６５１ｄ，６５５ａが一体的に固定される。

【１２３４】

このように、配線留め板６６３は、軸直角回転部材６５７の脱落を防止する機能と、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａを一体的に固定する機能と、を兼ね備えている。これに加えて、配線留め板６６３は、電気配線６１８ｄを仮留めする機能を備えている。

【１２３５】

図８９に示すように、電気配線６１８ｄは、配線留め板６６３の配線挿通長孔６６３ａの内側を通り、挟まれることで変位が抑制される態様で仮保持されている。本実施形態では、第２装飾回転部材６６０の回転動作が、１回転以上の動作では無く、半回転未満の回転動作（約１３５度の回転動作）が往復方向に実行される回転動作とされるので、第２装飾回転部材６６０が複数回回転して電気配線６１８ｄが捻じ切られるという事態が生じることは無いように構成される。

【１２３６】

第２装飾回転部材６６０が回転動作する際に電気配線６１８ｄに与えられる負荷（捻じれ方向の負荷）は、捻じれが生じ易い配線挿通長孔６６３ａ付近において大きくなると考えられるが、本実施形態では、配線挿通長孔６６３ａが長孔状に形成され、電気配線６１８ｄは配線挿通長孔６６３ａに挟まれて仮保持される態様とされるので、長孔形状内における電気配線６１８ｄの変位は許容されている。

【１２３７】

そのため、電気配線６１８ｄに捻じれ方向の過負荷が生じたとしても、電気配線６１８ｄを配線挿通長孔６６３ａ内で変位させることで、負荷を逃がすことができる。これにより、電気配線６１８ｄの耐久性を向上することができる。

【１２３８】

本体部材６５１の内部に配置される電気配線６１８ｄの捻じれ方向と、皿状蓋部Ｃ２の開口Ｃ２ａの方向との関係について説明する。図８６（ａ）から図８８に示す皿状蓋部Ｃ２の回転動作と一体的に本体部材６５１は回転動作するので、本体部材６５１の内部に配置される電気配線６１８ｄには、本体部材６５１の回転方向の捻じれが生じる。即ち、回動部材６２０の傾倒方向の回動変位に伴って、背面視反時計回り方向の捻じれが生じる。

【１２３９】

回動部材６２０の傾倒方向の回動変位に伴い、皿状蓋部Ｃ２の開口Ｃ２ａも背面視反時計回りに変位するので、捻じれによって電気配線６１８ｄに与えられる負荷を低減することができる（電気配線６１８ｄの耐久性を向上させることができる）。

【１２４０】

皿状蓋部Ｃ２は、案内長孔６１６に沿って上下方向に変位しながら回転動作している。ここで、図８６（ａ）から図８８までの時系列で、電気配線６１８ｄは、コネクタ６１８ｃと皿状蓋部Ｃ２との間における弛みが大きな状態から弛みが小さな状態へ変化する。

【１２４１】

これに対応して、電飾基板６６２の回転動作は、電気配線６１８ｄの電飾基板６６２側の端子が背面側（本体部材６５１側）に配置される状態（図８９参照）から、同端子が正面側（配線受部材６５５側）に配置される状態へ状態変化する動作として構成される。従って、電気配線６１８ｄを正面側に引っ張る態様の状態変化とすることができる。

【１２４２】

即ち、図８６（ａ）から図８８までの時系列で、電気配線６１８ｄは、本体部材６５１内部における電気配線６１８ｄの弛みが大きな状態（電飾基板６６２側の端子が背面側に配置される状態）から弛みが小さな状態（電飾基板６６２側の端子が正面側に配置される

状態）に状態が変化する。
【１２４３】
従って、本実施形態では、弛みの大小関係が、コネクタ６１８ｃと皿状蓋部Ｃ２との間における関係と、本体部材６５１内部における関係とで、反転している（バランスしている）。これにより、第１動作ユニット６００の動作に伴って電気配線６１８ｄに加えられる負荷を低減することができる。
【１２４４】
本体部材６５１の内部に配置される部分の電気配線６１８ｄの捻じれ方向と、本体部材６５１と配線受部材６５５との間に配置される部分の電気配線６１８ｄの捻じれ方向と、の関係について説明する。
【１２４５】
図８６（ａ）から図８８に示す時系列の動作において、本体部材６５１の内部に配置される電気配線６１８ｄは背面視反時計回りに捻じれる一方で、本体部材６５１と配線受部材６５５との間に配置される部分の電気配線６１８ｄは電飾基板６６２の回転方向（図８９における下面視（電飾基板６６２側から挿通孔６６３ｂを見る方向視）で反時計回り）で捻じれる。即ち、互いに反対方向に捻じれる。
【１２４６】
本実施形態では、第１動作ユニット６００の演出待機状態における電気配線６１８ｄの捻じれを最小化するように設計しており、張出状態において、電気配線６１８ｄの捻じれが最大となるようにしている。
【１２４７】
これにより、コネクタ６１８ｃと開口Ｃ２ａとの間における電気配線６１８ｄの弛みが大きくても問題が生じ難い状態（演出待機状態、図８６（ａ）を参照）においては敢えて弛ませて、電気配線６１８ｄに生じる負荷を低減する一方、コネクタ６１８ｃと開口Ｃ２ａとの間における電気配線６１８ｄの弛みを小さくすることが好ましい状態（張出状態、図８８参照）においては、本体部材６５１、配線受部材６５５及び電飾基板６６２の回転動作による捻じれを最大に生じさせ電気配線６１８ｄの弛みを抑制する（電気配線６１８ｄの変位を抑制する）ことができる。
【１２４８】
このように、電気配線６１８ｄの耐久性向上の手段として、捻じれを最小とし、十分な弛みを生じさせる状態と、捻じれにより弛みを低減して周囲部材（例えば、延設部６３４ｂ）と電気配線６１８ｄとの接触を回避する状態と、を切り替えるように構成される。
【１２４９】
なお、別の実施形態として、図８６（ａ）から図８８に示す時系列の動作において、電飾基板６６２の回転方向を逆方向（図８９における下面視（電飾基板６６２側から挿通孔６６３ｂを見る方向視）で時計回り）で構成しても良い。この場合、本体部材６５１の内部に配置される電気配線６１８ｄの捻じれ方向と、電飾基板６６２の回転動作による電気配線６１８ｄの捻じれ方向とが、同方向になるので、電気配線６１８ｄの捻じれ変形を相殺することができる。
【１２５０】
次いで、第１動作ユニット６００の動作における、張出装飾部６５２ｂの特徴について説明する。図９０（ａ）、図９０（ｂ）、図９１（ａ）、図９１（ｂ）及び図９２は、案内長孔６１６、矩形状箱部６１８及び張出装飾部６５２ｂを模式的に示す正面模式図である。
【１２５１】
図９０（ａ）、図９０（ｂ）、図９１（ａ）、図９１（ｂ）及び図９２では、案内長孔６１６及び矩形状箱部６１８の外形が模式的に図示され、理解を容易とするために前側回転部材６５２のギア歯６５２ａの図示が省略された状態で、第１動作ユニット６００の演出待機状態からの張出装飾部６５２ｂの変位が時系列で図示される。
【１２５２】

図９０（ａ）では、第１動作ユニット６００の演出待機状態（図４０参照）に相当する配置が図示され、図９０（ｂ）では、伝達ギアカム６３４の延設部６３４ｂの幅方向端部が検出センサＫＳ１の検出溝に配置された状態（図８４参照）に相当する配置が図示され、図９１（ａ）では、第１動作ユニット６００の中間演出状態（図４３参照）に相当する配置が図示され、図９１（ｂ）では、案内長孔６１６に沿って変位する皿状蓋部Ｃ２が変位範囲の右端に配置された状態（図８２参照）に相当する配置が図示され、図９２では、第１動作ユニット６００の張出状態（図４５参照）に相当する配置が図示される。

【１２５３】

演出待機状態（図９０（ａ）参照）では、張出装飾部６５２ｂが上面視で矩形状箱部６１８と重なる程度に右に寄せて配置されている。これにより、張出装飾部６５２ｂを遊技者の視界の外側に配置することができる（図２８参照）。更に、本実施形態では、演出待機状態において張出装飾部６５２ｂは外縁部材７３（図２参照）の後方に配置されることで、外縁部材７３により視線が遮られ易いので、張出装飾部６５２ｂの視認性を下げることができる。

【１２５４】

一方で、張出装飾部６５２ｂが上面視で矩形状箱部６１８と重なる程度に右に寄せて配置されている状態のまま張出装飾部６５２ｂが下降変位する場合、張出装飾部６５２ｂと矩形状箱部６１８とは衝突してしまい不具合を生じることになる。

【１２５５】

これに対し、本実施形態では、張出装飾部６５２ｂの下降変位に先立ち、又は、張出装飾部６５２ｂの下降変位に伴って、張出装飾部６５２ｂの姿勢が変化するように構成される（図９０（ｂ）及び図９１（ａ）参照）。この姿勢変化は、矩形状箱部６１８から退避する方向（正面視斜め左上方向、軸線Ｏ１を中心とした回転方向）への回転動作として生じるので、張出装飾部６５２ｂと矩形状箱部６１８との衝突を避け易くすることができる。

【１２５６】

本実施形態では、この姿勢変化により、張出装飾部６５２ｂが矩形状箱部６１８の上方位置から退避した後で（図９１（ａ）参照）、本格的な皿状蓋部Ｃ２及び張出装飾部６５２ｂの下降変位が開始される。

【１２５７】

張出装飾部６５２ｂの下降変位は、軸線Ｏ１の下降変位に伴って生じるところ、下降変位においては、案内長孔６１６の形状に沿って軸線Ｏ１が矩形状箱部６１８に接近する方向（右方）に変位するため（図９１（ｂ）参照）、張出装飾部６５２ｂが矩形状箱部６１８に衝突する可能性がある。

【１２５８】

これに対し、本実施形態では、矩形状箱部６１８が、左側面に、案内長孔６１６の形状に沿って凹設形成される凹設部６１８ａを備えている。特に、凹設部６１８ａは、案内長孔６１６と矩形状箱部６１８が最も接近する箇所、即ち、案内長孔６１６の右端部の右方位置に凹設形成されている。このように、矩形状箱部６１８の形状の設計は、前側回転部材６５２と矩形状箱部６１８との衝突を避けることを一つの目的として検討される。

【１２５９】

更に、軸線Ｏ１の下降変位に伴って、張出装飾部６５２ｂの姿勢変化が継続されるので、張出装飾部６５２ｂを矩形状箱部６１８から退避する方向に変位させることができる。本実施形態では、図９１（ａ）から図９１（ｂ）への変位において、張出装飾部６５２ｂの左方向への変位寸法ＸＬ１（退避距離）が、軸線Ｏ１の右方向への変位寸法ＸＲ１以上（同等または超過）となるように、設計されている。これにより、張出装飾部６５２ｂと矩形状箱部６１８との衝突を避けることができる。

【１２６０】

図９１（ａ）から図９１（ｂ）までに示す状態では、軸線Ｏ１の左右方向変位と、張出装飾部６５２ｂの姿勢変化に伴う左右方向変位とが左右反対方向とされ、相殺するので、

張出装飾部６５２ｂの左右方向変位が小さく抑えられていた。
【１２６１】
これに対し、図９１（ｂ）から図９２までに示す状態では、軸線Ｏ１の左右方向変位と、張出装飾部６５２ｂの姿勢変化に伴う左右方向変位とが左右同方向とされるので、変位が重ね合わされることにより、張出装飾部６５２ｂの左右方向変位量が大きくなる。
【１２６２】
これにより、張出装飾部６５２ｂの姿勢変化としては常に軸線Ｏ１を中心とする回転動作が行われているにも関わらず、遊技者には、張出装飾部６５２ｂが、図９０（ａ）から図９１（ｂ）までは小さな左右方向変位（細幅の変位軌跡）で上下方向に変位し、図９１（ｂ）から図９２までは、左右方向に大きく変位するように案内されているように見せることができる。
【１２６３】
従って、張出装飾部６５２ｂの変位を案内する構造（部材形状）と、遊技者が見る張出装飾部６５２ｂの変位により想定される構造と、の間に差を設けることができる。これにより、意外性のある演出を実行することができる。
【１２６４】
即ち、張出装飾部６５２ｂの変位は、あたかも張出装飾部６５２ｂが矩形状箱部６１８の右側から左方へ飛び出すような変位として、遊技者に見せることができる。そのため、センターフレーム８６（図３０参照）の左右という、幅が狭く左右方向の変位が十分に確保できないであろう範囲において、左右方向に飛び出すという意外性のある変位を遊技者に見せることができることから、張出装飾部６５２ｂへの注目力を向上させることができる。
【１２６５】
なお、便宜上、軸線Ｏ１の左右変位と張出装飾部６５２ｂの左右変位とを比較したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、軸線Ｏ１は第１動作ユニット６００の構成の一部の回転軸なので、この回転軸を中心として回転動作可能に構成される皿状蓋部Ｃ２の左右変位と、軸線Ｏ１の左右変位との意味は同じである。そのため、上述の説明を、皿状蓋部Ｃ２の左右変位と張出装飾部６５２ｂの左右変位との比較として理解しても良い。
【１２６６】
図９３は、図８５のＸＣＩＩＩ－ＸＣＩＩＩ線における第１動作ユニット６００の断面図である。図９３では、軸線Ｏ１と中間ギア６４４の回転軸とが通る平面における断面図が図示される。図９３に示すように、後側回転部材６５４は有底筒状部６４５に正面側から配置される一方、中間ギア６４４は本体部６４１に背面側から配置され、開口６４５ａが形成され連通される箇所でギア歯６５４ａと中間ギア６４４とが歯合している。
【１２６７】
図９３に示すように、配線留め板６６３の直径が、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａの外径よりも大きく形成されており、軸直角回転部材６５７の内径が配線留め板６６３の直径よりも小さくされていることから、配線留め板６６３により軸直角回転部材６５７の軸方向の変位を規制することができる。
【１２６８】
本実施形態では、軸方向基端側（図９３上側）において半筒形状部６５１ｄ，６５５ａに形成される段部と、配線留め板６６３と、の間に軸直角回転部材６５７が若干の隙間を空けて配置されている。これにより、軸直角回転部材６５７の脱落防止と、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにより形成される筒状部の中心軸方向における軸直角回転部材６５７の配置の安定化を図ることができる。
【１２６９】
配線留め板６６３の挿通孔６６３ｂを通る締結ネジは、半筒形状部６５１ｄ，６５５ａにそれぞれ形成される雌ネジに螺入される。これにより、配線留め板６６３及び半筒形状部６５１ｄ，６５５ａが一体的に固定される。

【１２７０】
図９３に示すように、張出装飾部６５２ｂの配置は、第２装飾回転部材６６０に比較して後側とされることから、第２装飾回転部材６６０に比較して第３図柄表示装置８１（図２参照）と前後方向で近接配置される。換言すれば、第３図柄表示装置８１が配置される開口５１１ａ（図２６参照）に前後方向で近接配置される。
【１２７１】
これにより、第３図柄表示装置８１と張出装飾部６５２ｂとが離れて配置される場合に比較して、第３図柄表示装置８１の表示領域の領域右端ＲＥ１に重なるように張出装飾部６５２ｂが配置され（図２９参照）、表示領域が右側に拡大されているように遊技者に見せる（錯覚させる）作用を生じさせ易くすることができる。
【１２７２】
特に、張出装飾部６５２ｂと第２装飾回転部材６６０とを同時に視認する場合（例えば、図２９参照）には、第２装飾回転部材６６０が第３図柄表示装置８１から手前側に離れて配置され、第３図柄表示装置の表示とは独立して視認し易いことから、逆に、第３図柄表示装置８１に正面側から近接配置される張出装飾部６５２ｂを表示の一部として遊技者に見せる（錯覚させる）作用を際立たせることができる。
【１２７３】
換言すれば、特に目立つ対象（第２装飾回転部材６６０に相当）を一つ用意することによって、それ以外の構成（第３図柄表示装置８１の表示や、張出装飾部６５２ｂに相当）の判別度合いが低くなるように図っている。これにより、第３図柄表示装置８１の表示と張出装飾部６５２ｂとを区別し難くすることができる。
【１２７４】
張出装飾部６５２ｂは、硬質樹脂から形成される部分であって、途中で形状を変化させることはできないが、電飾基板６５３に配設されるＬＥＤ等の発光手段の発光態様（色や明るさ等）を変化させるように制御することで、張出装飾部６５２ｂの見え方（色や明るさ等）を変化させることはできる。
【１２７５】
そのため、第３図柄表示装置８１の表示領域で表示される動画に合うように、電飾基板６５３に配設されるＬＥＤ等の発光手段の発光態様を変化させることで、第３図柄表示装置８１の表示領域の領域右端ＲＥ１に重なるように張出装飾部６５２ｂが配置され（図２９参照）、表示領域が右側に拡大されているように遊技者に見せる（錯覚させる）作用を生じさせ易くすることができる。
【１２７６】
次いで、第２動作ユニット７００の詳細の説明を改めて行う。図９４は、張出状態における第２動作ユニット７００の正面図であり、図９５は、図９４のＸＣＶ－ＸＣＶ線における第２動作ユニット７００の断面図である。
【１２７７】
第２動作ユニット７００では、上述のように、スライド変位において、昇降変位と前後方向変位とが同期して生じる（斜めに傾倒した前後方向にスライド変位する）ように構成されているところ、前後方向変位が過度に目立たないように、変位が滑らかに生じるように工夫されている。
【１２７８】
例えば、第２動作ユニット７００のスライド変位において、斜めに傾倒した前後方向への変位は単一の変位から構成されているのではなく、上下方向の変位と、前後方向の変位と、の組み合わせで構成されている。
【１２７９】
即ち、まず、回動アーム部材７２０に連結される昇降板部材７４０は、金属棒７０２の長尺方向（上下方向）に昇降変位するように左端部において金属棒７０２に案内されている。左端部では、その他に、左側後板部材７５０や目隠し装飾部材７６８が昇降板部材７４０の前後に配置されており、昇降板部材７４０が前後方向に自由に変位することを防止

している。これにより、昇降板部材７４０の変位方向を、上下方向に制限することができる。

【１２８０】

昇降板部材７４０の右側部は、回動アーム部材７２０に支持されている。昇降板部材７４０の右端部は、固定の部材（背面ケース５１０に固定される部材）に支持されてはいないが、演出装置７８０を介して間接的に固定の部材（前上傾斜部７１４，７５１及び受傾斜部７６２）に支持される（図５４参照）。これにより、昇降板部材７４０の右端部が前後方向に自由に変位することを防止しており、昇降板部材７４０の変位方向を上下方向に制限することができる。

【１２８１】

そして、昇降板部材７４０に支持される演出装置７８０は、前後方向に変位するように円筒状部７４４（図５０参照）に案内される。このように、斜めに傾倒した前後方向へのスライド変位を実現するにあたって、構成部材としての昇降板部材７４０や演出装置７８０の変位の案内が、重力方向と、水平方向と、でそれぞれ分けて構成されている。

【１２８２】

これにより、斜めに傾倒した前後方向に案内する構成に比較して、変位抵抗を低く維持するように構成することを容易とすることができる。

【１２８３】

図９４及び図９５で図示される第２動作ユニット７００の張出状態は、覆設部材７８７の状態を切り替える変位（図５７参照）を実行するよう制御可能な状態である。即ち、本実施形態では、張出状態の他の状態（例えば、第２動作ユニット７００の演出待機状態（図２８参照）や第２動作ユニット７００の中間演出状態（図３３参照））では、覆設部材７８７の状態を切り替える変位を生じないように第２動作ユニット７００が制御される。

【１２８４】

このように制御することで、覆設部材７８７の状態を切り替える変位の実行時に覆設部材７８７の左右端部が到達する左右位置と重なる位置に、右側前板部材７１０や左側後板部材７５０を配設するように構成しても、覆設部材７８７が右側前板部材７１０や左側後板部材７５０と衝突する事態が生じることを回避することができる。従って、右側前板部材７１０や左側後板部材７５０の配置自由度を向上することができる。

【１２８５】

覆設部材７８７の状態を切り替える変位に対する、演出装置７８０の構成の工夫について説明する。まず、覆設部材７８７の状態を切り替える変位の駆動力を生じる駆動モータ７８２（図５６参照）は、演出装置７８０の左右中心位置（円筒状部７４４に挿通される挿通筒状部７７３の中心の真上に中心が配置される位置）に配置される。

【１２８６】

これにより、駆動モータ７８２の自重により演出装置７８０の姿勢が左右に傾くことを回避するだけでなく、駆動モータ７８２から生じる駆動力の左右バランスを安定させることができる。

【１２８７】

更に、覆設部材７８７の状態を切り替える変位を実行可能な第２動作ユニット７００の張出状態（図９５参照）において、昇降板部材７４０を支持する回動アーム部材７２０の円筒状被締結部７２４の左右位置は、演出装置７８０の左右中心位置と同等か、右側位置とされる。

【１２８８】

このように、昇降板部材７４０の右側部分の支持を、支持位置としての円筒状被締結部７２４が左右方向に変位し得る回動アーム部材７２０のみで構成しつつも、特に演出装置７８０の配置や姿勢の変動が生じ易いと想定される時、即ち覆設部材７８７の状態を切り替える変位の実行時における円筒状被締結部７２４の配置を演出装置７８０の左右中心位置と同等か、右側位置に設定することにより、演出装置７８０の配置や姿勢の安定化を図ることができる。

【１２８９】
なお、覆設部材７８７の状態を切り替える変位を実行する制御は、第２動作ユニット７００が張出状態の時に限定して行われるが、覆設部材７８７の状態が切り替えられた後においては、第２動作ユニット７００の状態を演出待機状態や、中間演出状態に変化させるよう制御することは可能である。
【１２９０】
即ち、例えば、第２動作ユニット７００の演出待機状態から、覆設部材７８７の状態を切り替え、且つ、第２動作ユニット７００を中間演出状態とするためには、第２動作ユニット７００を一旦、張出状態として、覆設部材７８７の状態を切り替える変位を実行してから、第２動作ユニット７００を中間演出状態に変化させるよう下降変位させるよう制御される。
【１２９１】
図９５に図示されるように、光拡散部材７７８ｂは、一組の前側支持部材７６０の内側端部と前後方向視で重なる程度に左右方向に長く形成されている。これにより、前側支持部材７６０に支持される回転筒部７７４ｅ（図５４参照）が遊技者に見られないように隠すことができるので、回転筒部７７４ｅの配置や形状が遊技者に把握されることで演出装置７８０が前後方向に変位していることを遊技者に把握される事態を回避することができる。
【１２９２】
更に、光拡散部材７７８ｂは、第２動作ユニット７００の張出状態において、固定配置の立体装飾部７６８ａと、正面視で左右一列に重なって視認される（図９４参照）。この状態における光拡散部材７７８ｂ及び立体装飾部７６８ａの配置は、正面視における第３図柄表示装置８１の下縁部に沿い、下縁部の左右長さに亘って配置される。
【１２９３】
光拡散部材７７８ｂ及び立体装飾部７６８ａの背面側には、それぞれ正面側にＬＥＤが固定される基板が配設されており、対応するＬＥＤから照射される光により光拡散部材７７８ｂ及び立体装飾部７６８ａの発光演出を実行することができる。この発光演出により、第３図柄表示装置８１の表示領域の下縁が光で区切られているように見せる演出をしたり、第３図柄表示装置８１の表示領域の下縁を光で明るくするように演出したりすることができる。
【１２９４】
従って、本実施形態によれば、光拡散部材７７８ｂを、回転筒部７７４ｅ（図５４参照）を隠す部材としての機能と、立体装飾部７６８ａと合同で発光演出を行う部材としての機能と、を兼ね備えるように構成することができる。
【１２９５】
図９５に示すように、横長部材７４２は、立体装飾部７６８ａの後方であって、光拡散部材７７８ｂの後方から外れている範囲（左側の範囲）において正面側間隔を空けて覆設される覆設カバー７４２ａを備える。
【１２９６】
覆設カバー７４２ａは、横長部材７４２の上下幅に亘って形成される目隠し用の部材であって、横長部材７４２との間の隙間で電気配線を通すことができるように配設される。即ち、演出装置７８０に通電するための電気配線は、目隠し装飾部材７６８の後方から、覆設カバー７４２ａと横長部材７４２との間の隙間を通って、演出装置７８０側に案内され、駆動モータ７８２や、電飾基板７７８ａや、検出センサ７７８ｄ（図５６参照）等に接続される。
【１２９７】
この時、電気配線の前方には、覆設カバー７４２ａだけではなく、光拡散部材７７８ｂや立体装飾部７６８ａが折り重なって配置されているので、遊技者の視線を遮り易い構成であり、電気配線が遊技者に視認されることを防止し易くすることができる。
【１２９８】

換言すれば、本来は光演出のために配設される光拡散部材７７８ｂや立体装飾部７６８ａを、電気配線の目隠しとして機能させるために電気配線の通り道の前方に配置することで、電気配線の目隠しのために必要となる覆設カバー７４２ａの大きさを、最低限の大きさに抑えることができる。

【１２９９】

なお、立体装飾部７６８ａは、配置が固定されているので、演出待機状態（図３１参照）や中間演出状態（図３３参照）では横長部材７４２と前後に重ならず、電気配線の目隠しには使えない。

【１３００】

これを考慮して、本実施形態では、横長部材７４２の形成範囲を、正面視における光拡散部材７７８ｂの外方の範囲にしている。これにより、横長部材７４２及び光拡散部材７７８によって電気配線の目隠しを達成することができるので、第２動作ユニット７００の状態（演出待機状態、中間演出状態、張出状態）に関わらず、電気配線が遊技者に視認されることを防止することができる。

【１３０１】

図９６及び図９７は、伝達装置保持板７７７、上下反転部材７８１、中間腕部材７８３、直動板部材７８４及び軸回転部材７８５の正面図である。図９６では、一対の円筒状突設部７８１ｃが左右方向に延びる同一直線上に配置される上下反転部材７８１の横配置状態が図示され、図９７では、上下反転部材７８１の倒立の縦配置状態（図５９（ｃ）参照）が図示される。

【１３０２】

一対の中間腕部材７８３は、同一形状で形成されるものではなく、上下反転部材７８１の横配置状態における下側面から上方へ向けて湾曲形成される湾曲形成部７８３ｄを備える。湾曲形成部７８３ｄは、上下反転部材７８１の縦配置状態において中間腕部材７８３と駆動ギア７８２ａとの衝突を避けるため、駆動ギア７８２ａから退避する方向に張り出すように湾曲形成される。

【１３０３】

図９８は、昇降反転演出装置７７０の正面斜視図である。図９８では、覆設部材７８７を透過して内側を視認可能とするために、覆設部材の外形が模式的に想像線で図示される。

【１３０４】

図９８に図示されるように、磁石Ｍｇは一対の覆設部材７８７が互いに近接配置される側ではなく、左右両端部付近に配置されている。従って、磁石Ｍｇの磁力は、覆設部材７８７同士を直接的に合体させるように作用するのではなく、一対の覆設部材７８７にそれぞれ独立して作用する。

【１３０５】

これにより、例えば、一方の覆設部材７８７の動作が不良となった場合に、それにつられて他方の覆設部材７８７の動作も不良となることを避けることができる。

【１３０６】

また、例えば、一対の覆設部材７８７が互いに左右方向に離れ始める変位開始時において、左右方向変位の逆方向に磁力が作用することを回避することができる。即ち、上下反転部材７８１が正立の縦配置状態から回転動作を開始する場合に、磁力が作用するタイミングを遅らせることができる。

【１３０７】

これにより、一対の覆設部材７８７が互いに左右方向に離れ始める変位開始時において、磁石Ｍｇにより覆設部材７８７に与えられる負荷の変化を抑制することができるので、左右方向に離れ始める変位開始時に磁石の吸着を剥す必要がある場合に比較して、一対の覆設部材７８７が互いに左右方向に離れ始める変位開始時に、急激な磁力の変化に伴い覆設部材７８７が振動したり、変位が不安定となり動作不良を起こしたりする事態を回避し易くすることができる。

【１３０８】
図９８に示すように、磁石Ｍｇは、左右で上下反対側に配置されているが、この効果について説明する。磁石Ｍｇと当接して磁力が負荷される金属ネジが固定される回転位置安定用部７８５ｆは、前後方向同じ側に配置される（上下反転部材７８１が正立の縦配置状態において正面側、図５５参照）。そのため、磁石Ｍｇに金属ネジとの関係で生じる負荷の方向は、左右両側において前後同方向となる。
【１３０９】
詳述すると、例えば、上下反転部材７８１が正立の縦配置状態（図５９（ａ）参照）から倒立の縦配置状態（図５９（ｃ）参照）に変化する場合、正面視左側の覆設部材７８７は前転方向に回転動作するので、磁石Ｍｇと近接配置されている（上側に配置されている）金属ネジの前方への変位に伴い磁石Ｍｇには吸着力の反作用としての前方向の負荷が生じる一方、正面視右側の覆設部材７８７は後転方向に回転動作するので、磁石Ｍｇと近接配置されている（下側に配置されている）金属ネジの前方への変位に伴い磁石Ｍｇには吸着力の反作用としての前方向の負荷が生じる。
【１３１０】
また、例えば、上下反転部材７８１が倒立の縦配置状態（図５９（ｃ）参照）から正立の縦配置状態（図５９（ａ）参照）に変化する場合、正面視左側の覆設部材７８７は後転方向に回転動作するので、磁石Ｍｇと近接配置されている（上側に配置されている）金属ネジの後方への変位に伴い磁石Ｍｇには吸着力の反作用としての後方向の負荷が生じる一方、正面視右側の覆設部材７８７は前転方向に回転動作するので、磁石Ｍｇと近接配置されている（下側に配置されている）金属ネジの後方への変位に伴い磁石Ｍｇには吸着力の反作用としての後方向の負荷が生じる。
【１３１１】
このように、回転動作する覆設部材７８７と、姿勢を維持して覆設部材７８７を支持する本体部材７７１や直動板部材７８４と、の間で磁石Ｍｇによって生じる負荷の方向が、左右両側において前後同方向となるように構成される。
【１３１２】
ここで、左右両側において前後逆方向の負荷が生じる場合（例えば、左側の磁石Ｍｇが下位置に配置されることで左右両側の磁石Ｍｇの配置が下位置とされ、左側の軸回転部材７８５の回転位置安定用部７８５ｆの配置が正立の縦配置状態において磁石Ｍｇの背面側に配置されるよう設計変更する場合）、磁石Ｍｇと金属ネジとが吸着状態から剥がされる際に生じる負荷により昇降反転演出装置７７０に与えられる変位のモードが、昇降反転演出装置７７０を上下方向に延びる回転軸で回転させる態様となる。
【１３１３】
この場合、昇降反転演出装置７７０に上下方向に延びる回転軸での回転方向の振動が生じ易くなる。特に、本実施形態のように、磁石Ｍｇの吸着を剥す過程で傘歯部材７８５ｃ（図９６参照）が弾性変形し、磁石Ｍｇの吸着が剥がれた後で傘歯部材７８５ｃの弾性回復を利用して覆設部材７８７を勢いよく回転動作させる構成では、昇降反転演出装置７７０に、上下方向に延びる回転軸での回転方向の振動が生じ易くなることが想定される。
【１３１４】
更に、昇降反転演出装置７７０から負荷を逃がすことが困難となり、昇降反転演出装置７７０が破損したり、昇降反転演出装置７７０の耐久性が低下したりする可能性がある。そのため、長期で、昇降反転演出装置７７０の変位を安定させるという目的からすると、対策が必要となると考えられる。
【１３１５】
これに対し、本実施形態では、磁石Ｍｇと金属ネジとが吸着状態から剥がされる際に、回転動作する覆設部材７８７と、姿勢を維持して覆設部材７８７を支持する本体部材７７１や直動板部材７８４と、の間で生じる負荷の方向が、左右両側において前後同方向となるように構成されるので、磁石Ｍｇと金属ネジとが吸着状態から剥がされる際に生じる負荷により昇降反転演出装置７７０に与えられる変位のモードを、昇降反転演出装置７７０

を前後方向に変位させる態様とすることができる。
【１３１６】
そのため、昇降反転演出装置７７０の変位（前後方向成分を有する変位）により容易に相殺することができ、磁石Ｍｇと金属ネジとが吸着状態から剥がされる際に生じる負荷により昇降反転演出装置７７０に破損が生じることを回避することができる。
【１３１７】
第２動作ユニット７００では、演出装置７８０のスライド変位の方向（上下方向成分と前後方向成分を有する方向、即ち、左右方向と直交する平面内での方向）と、覆設部材７８７が互いに近接配置される状態（上下反転部材７８１の縦配置状態）からの変位開始方向（左右方向）と、が直交する。
【１３１８】
そのため、一方の変位が、他方の変位の慣性により生じることを回避し易くすることができる。例えば、演出装置７８０のスライド変位が実行される場合に、意図せず、覆設部材７８７が互いに近接配置される状態からの変位（互いに離れる方向の変位）が開始される事態を回避し易くすることができる。
【１３１９】
次いで、第３動作ユニット８００の詳細の説明を改めて行う。まず、中間腕部材８５０の詳細について説明する。図９９（ａ）は、中間腕部材８５０の正面斜視図であり、図９９（ｂ）は、中間腕部材８５０の背面斜視図である。
【１３２０】
図９９（ａ）及び図９９（ｂ）に示すように、中間腕部材８５０は、長尺の棒部の軸方向位置が、増厚部８５２において切り替わるという特徴的な形状をしている。
【１３２１】
図９９（ａ）に示すように、増厚部８５２は、隣合う回動部材８５０の先端側棒部８５３と対向配置され、先端側棒部８５３と対向配置される基端側補強部８５２ａと、軸方向に沿って正面側から肉抜き形成される凹設部８５２ｂと、を備えている。
【１３２２】
基端側補強部８５２ａは、凹設部８５２ｂと同様に肉抜きされているが、相対的な肉抜き量が小さくされ、変形抵抗が大きくなるように設計している。これにより、回動腕部材８５０の回転先端側という、回転における慣性力が大きくなり易い側に形成される先端側棒部８５３と当接することになっても、変形量が過大となることを回避することができる。
【１３２３】
凹設部８５２ｂは、増厚部８５２の弾性変形の変形抵抗を弱めるよう作用する。これにより、増厚部８５２の可撓性を確保することができ、中間腕部材８５０の耐久性を向上することができる。
【１３２４】
増厚部８５２の短手方向の両側面には、湾曲形状で凹設形成される湾曲形状部８５２ｃが形成される。湾曲形状部８５２ｃは、合体状態において隣合う中間腕部材８５０の先端側棒部８５３の端部に形成される回転伝達部８５４の回転基端側に形成される湾曲形状部８５４ｄを滑らかに受け入れ可能な形状から形成される。
【１３２５】
本実施形態では、個別合体状態（図６６（ａ）参照）と一連合体状態とで、隣合う中間腕部材８５０同士が回動して近接配置される際の中間腕部材８５０の回動方向が逆転することになるので、中間腕部材８５０の短手方向側面のどちらの側面が湾曲形状部８５４ｄと近接配置されるかは、どちらの合体状態を構成するかで異なる。
【１３２６】
この前提において、湾曲形状部８５２ｃが両側面に形成されていることから、いずれの合体状態においても湾曲形状部８５４ｄを滑らかに受け入れることができる。これにより、合体状態への状態変化をスムーズに実行することができる。

【１３２７】
　また、湾曲形状部８５２ｃと湾曲形状部８５４ｄとが面で当接可能となるように設計されることで、合体状態において湾曲形状部８５２ｃと湾曲形状部８５４ｄとの間で局所的に過大な負荷が生じることを抑制することができ、中間腕部材８５０の耐久性を向上することができる。
【１３２８】
　第３動作ユニット８００は、昇降アーム部材８０１により昇降変位可能に構成されているが、その昇降変位の方向と、装飾部材８７０，８８０の合体状態からの直動部材８３３や回転部材８３４の変位開始方向と、が必ずしも直交する関係にはない。
【１３２９】
　例えば、図６６（ａ）に示すように、回転部材８３４の変位開始方向として認められる仮想位置線８３２Ｆが７２度間隔で異なる方向として設定されているので、全ての回転部材８３４の変位開始方向と、昇降変位の方向と、が直交することは生じ得ない。
【１３３０】
　そのため、第３動作ユニット８００の昇降変位時に生じる負荷や慣性によって、意図せず、回転動作（一体回転動作や切替回転動作）が生じる可能性がある。この誤動作への対策についての工夫を説明する。
【１３３１】
　図１００は、金属棒８３２と中間腕部材８５０との変位を模式的に示す第３動作ユニット８００の模式図である。
【１３３２】
　図１００では、金属棒８３２の仮想位置線８３２Ｆの内、個別合体状態において下方に延びる仮想位置線８３２Ｆと、仮想位置線８３２Ｆと中間腕部材８５０の長尺方向との角度とが０．５度変化するまで正面視反時計回りに回転した仮想位置線８３２Ｆと、が図示される。
【１３３３】
　即ち、図１００において、角度θ５１は４５度であり、角度θ５２は４４．５度である状態が図示されている。
【１３３４】
　図１００に示すように、中間腕部材８５０は、切替回転動作の開始時において、回転部材８３４の回転動作を抑制した状態で、金属棒８３２の長手方向に沿って回転部材８３４をスライド移動させることができるよう構成される。
【１３３５】
　図１００における角度θ５１，θ５２の変化量は、金属棒８３２に対する中間腕部材８５０の回転角度を意味しており、傘歯部８３４ａ，８５４ｃ（図６１参照）の歯合回転が生じる角度に対応する。
【１３３６】
　ここで、ギア歯の噛み合いを正立させるためにはバックラッシュ（隙間）が不可欠であり、この隙間の大小の設定で回転の応答性の良し悪しが変わる。バックラッシュの設定には種々の態様を選択可能であるが、本実施形態では、バックラッシュを０．５度で設定している。
【１３３７】
　即ち、合体状態における角度θ５１が、角度θ５２に変化するまでの間には、バックラッシュ（隙間）が埋まるに留まり、歯合回転は開始されない。一方で、中間腕部材８５０の回動先端側部は仮想位置線８３２Ｆに沿って第３動作ユニット８００の径方向外側にスライド移動している。
【１３３８】
　即ち、合体状態（個別合体状態）からの切替回転動作の開始時には、回動部材８３４の回転動作が抑制され、主に、金属棒８３２に沿ったスライド移動が生じるように構成される。

【１３３９】
図１０１は、第３動作ユニット８００の正面模式図である。図１０１の説明では、図１００を適宜参照する。図１０１では、一連合体状態における第３動作ユニット８００が図示され、第３動作ユニット８００の変位に対する抵抗力を生じるトルクリミッタ８６６及び磁石Ｍｇ２が図示される。
【１３４０】
ここで、内側回転部材８３０が外側回転部材８４０に対して僅かに回転動作（例えば、約５度（図１００参照）の回転動作）する程度では、回転部材８３４に回転が生じないように構成されている。
【１３４１】
これにより、本実施形態のように、複数の第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の合体状態を維持するために磁石Ｍｇ２を採用し、周方向で吸着力を発生させる構成であっても、合体状態からの第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の変位を直動変位に限定できることから、磁石Ｍｇ２の磁力による合体を維持し易くすることができる。
【１３４２】
換言すれば、合体状態からの変位開始時において、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０が金属棒８３２を中心として回転動作する場合には、磁力の方向に直交する方向で第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０が変位することから、磁力が消失し易いと考えられる。これに対し、本実施形態における、第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の合体状態からの変位開始時の変位は、あくまで５個の磁石Ｍｇ２が配置される平面に沿う変位（金属棒８３２に沿うスライド方向の変位）であることから、磁力による合体状態を維持し易い。
【１３４３】
これにより、意図しない負荷の影響などにより、内側回転部材８３０が意図せず僅かに回転動作（例えば、約５度回転動作）した場合であっても、複数の第１装飾部材８７０及び第２装飾部材８８０の合体状態を維持し易くすることができる。
【１３４４】
図１０１に示すように、トルクリミッタ８６６は、正方向への回転では、所定の許容値を超える負荷がかかると接続を切り、抵抗を低減する（空転する）ように切替回転ＤＲ１が生じるように構成され、逆方向への回転では、抵抗が低減される（空転する）ように空転回転ＡＲ１が生じるように構成される。この正逆の回転が反対で構成される一組で、トルクリミッタ８６６は構成されている。
【１３４５】
詳述すると、本実施形態では、左側のトルクリミッタ８６６は、正面視時計回りの回転では、かけられる負荷が許容値に達するまでは抵抗を生じ、許容値を超えると空転するという切替回転ＤＲ１が生じるように構成される一方、正面視反時計回りの回転方向では、空転するという空転回転ＡＲ１が生じるように構成される。
【１３４６】
また、右側のトルクリミッタ８６６は、正面視時計回りの回転方向では、空転するという空転回転ＡＲ１が生じるように構成される一方、正面視反時計回りの回転方向では、かけられる負荷が許容値に達するまでは抵抗を生じ、許容値を超えると空転するという切替回転ＤＲ１が生じるように構成される。
【１３４７】
このように、一組のトルクリミッタ８６６が、それぞれ異なる回転方向で安全クラッチとして機能することで、上述のように、両方向で切替回転動作を実行することが可能に構成されている。
【１３４８】
更に、回転方向での許容値を超える負荷が生じない状態においては、トルクリミッタ８６６に組み付けられる負荷応答ギア８６５（図６１参照）を介して外側回転部材８４０に正逆両方向の抵抗がかけられるので、意図しない負荷（昇降変位の慣性力や、扉開閉時の

衝撃力）に起因して生じ得る外側回転部材８４０の回転動作を抑制することができる。従って、一組のトルクリミッタ８６６によって、外側回転部材８４０の姿勢維持を図ることができる。

【１３４９】

図１０１に示すように、磁石Ｍｇ２は、第２覆設部８８５の幅方向片側に固定され、５個の第２覆設部８８５が円環状に合体した状態において、同心円状に配置される。磁石Ｍｇ２は、隣合って近接配置される第２覆設部８８５に固定される金属ネジＮｊ２との間で吸着力を生じる。

【１３５０】

このように構成することで、特定の第２覆設部８８５の幅方向両側に磁石Ｍｇ２が配設される場合（即ち、特定の第２覆設部８８５に両隣りで近接配置される第２覆設部８８５の双方が、その特定の第２覆設部８８５に接近する方向の付勢力を磁石Ｍｇ２から受ける場合）に比較して、合体状態において特定の第２覆設部８８５から離れた位置で第２覆設部８８５間に生じる隙間が大きくなることを回避し、全ての隣合う第２覆設部８８５間の隙間を均一化することができる。

【１３５１】

また、上述のように、第２装飾部材８８０の合体状態からの変位は径方向外側へのスライド移動として構成され、金属棒８３２を中心とする回転動作が開始されるまでには磁力による合体が解除される程度にまで離れるところ（図１００参照）、磁石Ｍｇ２の磁力が、第２装飾部材８８０が整列される同心円の円周を短縮する方向（同心円の中心を向く方向）に作用するので、第２装飾部材８８０の径方向外側へのスライド移動の抵抗力となる。

【１３５２】

また、この抵抗力が、３６０度を５等分した各方向から同等の大きさで生じるので、第３動作ユニット８００が磁石Ｍｇ２から受ける負荷のバランスをとることができる。即ち、磁力Ｍｇ２が不均一に作用する場合に比較して、第３動作ユニット８００の配置を安定させ易くすることができる。

【１３５３】

第２装飾部材８８０の形状は５個とも共通とされ、磁石Ｍｇ２の配置も共通なので、各磁石Ｍｇ２の前後位置は同等とされる。これにより、磁石Ｍｇ２の磁力により、第２装飾部材８８０に前後方向成分を有する負荷が与えられることを回避することができるので、合体状態からの変位開始時または合体状態への到達直前時において磁力が前後方向に生じ、第２装飾部材８８０が前後方向に振動する事態を回避し易くすることができる。

【１３５４】

図１０２は、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の正面図である。図１０２では、装飾部材８７０，８８０の個別合体状態に対応する配置状態が図示され、理解を容易とするために、中間腕部材８５０を想像線で図示し、後側に配置される外側回転部材８４０を視認可能としている。

【１３５５】

図１０２に示すように、本実施形態では、中間腕部材８５０の一方向（図１０２では、正面視時計回り方向）への回転を規制する部分が少なくとも一箇所確保可能となるように構成され、多くは二箇所で中間腕部材８５０の回転を規制している。この中間腕部材８５０の回転を規制する構成について説明する。

【１３５６】

まず、第１に、外側回転部材８４０の本体部８４１の外周面から径方向外側に突設される当接突設部８４５が挙げられる。当接突設部８４５は、隣合う延設腕部８４２の中間角度位置において、径方向外側へ向けて先細りする形状から形成され、内部が本体部８４１の軸方向と平行な方向に肉抜きされている。

【１３５７】

この当接突設部８４５が、中間腕部材８５０の回転方向で中間腕部材８５０と対向配置

され、中間腕部材８５０の増厚部８５２の湾曲形状部８５２ｃと当接可能に配置されることで、中間腕部材８５０の過回転を防止するよう構成している。

【１３５８】

増厚部８５２は、凹設部８５２ｂにより弾性変形の変形抵抗が弱められている（図９９（ａ）参照）。同様に、当接突設部８４５は肉抜きされている。これにより、中間腕部材８５０が高速で変位し、増厚部８５２の湾曲形状部８５２ｃと当接突設部８４５とが衝突した場合であっても、その際に生じる負荷を当接突設部８４５や増厚部８５２の弾性変形により吸収することができるので、当接突設部８４５や増厚部８５２の破損を回避することができる。

【１３５９】

当接突設部８４５は、延設腕部８４２の中間角度位置としての全位置に配設されるのではなく、被検出部８４４が形成される角度位置においては形成が省略される。これにより、軸方向視における当接突設部８４５と被検出部８４４との配置をずらしており、外側回転部材８４０の成形金型の抜き方向を本体部８４１の軸方向に設定することができる。よって、成形金型の設計の容易化を図ることができる。

【１３６０】

このように、本実施形態では、成形金型の設計の容易化の代償として当接突設部８４５の形成が省略されているが、本実施形態では、回動腕部材８５０の回転を規制する第２の構成として、増厚部８５２に基端側補強部８５２ａが形成される。

【１３６１】

基端側補強部８５２ａは、隣合う回動部材８５０の回転方向で先端側棒部８５３（図９９（ａ）参照）と対向配置され、先端側棒部８５３が過回転する際に当接可能に配置されることで、中間腕部材８５０の過回転を防止するよう構成している。

【１３６２】

基端側補強部８５２ａは、凹設部８５２ｂと同様に肉抜きされているが、相対的な肉抜き量が小さくされ、変形抵抗が大きくなるように設計している。これにより、回動腕部材８５０の回転先端側という回転における慣性力が大きくなり易い側と当接することになっても、変形量が過大となることを回避することができる。

【１３６３】

湾曲形状部８５２ｃは、湾曲形状部８５４ｄと面で当接可能となるように設計されており、合体状態において湾曲形状部８５２ｃと湾曲形状部８５４ｄとの間で局所的に過大な負荷が生じることを抑制することができ、中間腕部材８５０の耐久性を向上することができる。

【１３６４】

このように、回動腕部材８５０の変位は、当接突設部８４５が対向配置される場合には、当接突設部８４５との当接に加えて、隣合う回動腕部材８５０の湾曲形状部８５２ｃと湾曲形状部８５４ｄとを当接させたり、隣合う回動腕部材８５０の基端側補強部８５２ａと先端側棒部８５３とを当接させたりすることができるような構成により、回動腕部材８５０の過回転が規制される。

【１３６５】

一方、当接突設部８４５の配置が省略される場合であっても、隣合う回動腕部材８５０の湾曲形状部８５２ｃと湾曲形状部８５４ｄとを当接させたり、隣合う回動腕部材８５０の基端側補強部８５２ａと先端側棒部８５３とを当接させたりすることができるような構成により、回動腕部材８５０の過回転を規制することができる。

【１３６６】

これらの当接の構成は、５個の回動腕部材８５０で互いに関連するように構成している（循環配置されている）。そのため、一見、一箇所の当接突設部８４５の形成が省略され、その省略箇所に対応する回動腕部材８５０についてのみ回転を規制する構成が少ないので、当接時の負荷が集中するかのように思えるが、実際は、５個の回動腕部材８５０の相互作用により、当接時の負荷の分散を図ることができる。

【１３６７】
これにより、単一の回動腕部材８５０（当接突設部８４５の形成が省略された箇所に対応する回動腕部材８５０）の耐久性が極端に低下することを防止することができる。
【１３６８】
また、本体部８４１の外周面から、当接突設部８４５の背面側端部に沿う一平面上に円環板状に延設される円環板状部８４６の形成も、当接突設部８４５と同様に、軸方向視で被検出部８４４と重なる箇所において省略されている。
【１３６９】
円環板状部８４６の形成の省略は、上述の当接突設部８４５の形成の省略と同様に、成形金型の設計の容易化の代償として説明することができるが、円環板状部８４６の奏する効果は、円環板状部８４６の形成が省略されている箇所においても、隣合う回動腕部材８５０（を支持する構成）により実現される。
【１３７０】
即ち、円環板状部８４６の効果は、回動腕部材８５０の前後位置のずれの修正として説明することができる。即ち、合体状態（図６４（ａ）参照）から、回動腕部材８５０が径方向外側へ変位し（図６５（ａ）参照）、再び合体状態へ向かう際に、回動腕部材８５０の先端の配置が意図せず前後に位置ずれした場合であっても、基端側棒部８５１（図９９（ｂ）参照）の背面側側面が円環板状部８４６と対向配置され当接可能とされていることで、その当接により回動腕部材８５０の前後位置を修正することができる。
【１３７１】
この作用は、円環板状部８４６が省略されている場合には、円環板状部８４６との当接が生じないことから奏することができない。一方で、本実施形成では、回動腕部材８５０の先端側棒部８５３の背面側側面が延設腕部８４２の正面側側面と対向配置されるので、回動腕部材８５０の先端の配置が前後に位置ずれした場合であっても、先端側棒部８５３の背面側側面が延設腕部８４２の正面側側面と対向配置され当接可能とされていることで、その当接により回動腕部材８５０の前後位置を修正することができる。
【１３７２】
このように、本実施形態では、円環板状部８４６と同様の作用を、延設腕部８４２によって生じさせるように構成している。これにより、円環板状部８４６の形成を一部省略しながらも、回動腕部材８５０の前後配置を修正する効果を、全回動腕部材８５０に生じさせることができる。
【１３７３】
図１０３（ａ）は、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の背面図であり、図１０３（ｂ）は、外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の正面図である。図１０３（ａ）及び図１０３（ｂ）では、一連合体状態における外側回転部材８４０及び中間腕部材８５０の相対配置で図示される。
【１３７４】
図１０３（ａ）で図示される状態は、図６５（ｂ）の状態から仮想位置線８３２Ｆが最大角度θ３１Ｅ（本実施形態では、１８０度）まで回転した状態（切替回転動作が完了した状態）に対応し、図１０３（ｂ）で図示される状態は、図６７（ｂ）の状態から仮想位置線８３２Ｆが最大角度θ３１Ｅ（本実施形態では、１８０度）まで回転した状態（切替回転動作が完了した状態）に対応する。
【１３７５】
一連合体状態と、個別合体状態（図６４（ａ）、図６６（ａ）参照）とを比較すると、中間腕部材８５０の外側回転部材８４０に近接する短手方向の側が逆転するため、当接突設部８４５に当接する湾曲形状部８５２ｃが反対側になったり、湾曲形状部８５４ｄに当接する湾曲形状部８５２ｃが逆になったりという違いがある。
【１３７６】
この違いに対応することを目的として、当接突設部８４５は、本体部８４１の径方向を基準として正面視で線対称形状とされており、一対の湾曲形状部８５２ｃ及び湾曲形状部

８５４ｄは、中間腕部材８５０の長手方向線（回動基端と被支持孔８５４ａとを結ぶ直線）を基準として正面視で線対称形状とされている。

【１３７７】

更に、湾曲形状部８５２ｃの形状に合わせて、当接突設部８４５の湾曲形状と、湾曲形状部８５４ｄの湾曲形状とを、同様の湾曲形状として設計している。これにより、個別合体状態においても、一連合体状態においても、同様の係合関係で合体状態を構成することができる。

【１３７８】

また、合体状態では、中間腕部材８５０の増厚部８５２が当接突設部８４５と湾曲形状部８５４ｄとに両側から挟まれる位置関係で構成される。これにより、中間腕部材８５０の増厚部８５２が、いずれの回動方向に変位することも抑制することができるので、中間腕部材８５０の状態を維持し易くすることができ、合体状態を保持し易くすることができる。

【１３７９】

図１０４及び図１０５は、第３動作ユニット８００の正面図である。図１０４では、装飾部材８７０，８８０が最外径位置に配置された状態（個別合体状態と一連合体状態との中間の状態）が図示され、図１０５では、一連合体状態が図示される。

【１３８０】

図１０６は、図１０５のＣＶＩ－ＣＶＩ線における第３動作ユニット８００の断面図であり、図１０７は、図１０４のＣＶＩＩ－ＣＶＩＩ線における第３動作ユニット８００の断面図である。第３動作ユニット８００の構成として、金属棒８３２と中間腕部材８５０との前後配置は任意に設定可能である。

【１３８１】

中間腕部材８５０を金属棒８３２の正面側に配置すれば、遊技者は中間腕部材８５０越しに金属棒８３２を視認することになるので、金属棒８３２の視認性を下げることができる。これに対して、本実施形態では、図１０６及び図１０７に示すように、金属棒８３２が中間腕部材８５０の正面側に配置されている。

【１３８２】

この配置により、支持部材としての金属棒８３２が中間腕部材８５０を部分的に隠す遮蔽部材として機能する。これにより、装飾部材ではなく機能部材としての中間腕部材８５０が目立つことを避けることができ、第３動作ユニット８００の見栄えをよくすることができる。

【１３８３】

金属棒８３２は、露出した状態（図１０４参照）においては、表面の光沢により光を反射する演出部材としても機能するので、外側発光部８２３ｂ（図１０７参照）から照射される光による光演出の演出効果を向上することができる。即ち、金属棒８３２を光演出用の反射部材として利用することができる。

【１３８４】

中間腕部材８５０が金属棒８３２の正面側に配置される場合には遊技者の目に入る光が中間腕部材８５０により遮られる可能性があるが、本実施形態では中間腕部材８５０が金属棒８３２の背面側に配置されるので、中間腕部材８５０により光が遮られ、見栄えが悪くなることを回避することができる。

【１３８５】

このように、本実施形態では、金属棒８３２が露出する状態としての切替回転動作の途中の状態（図１０４及び図１０７参照）において、金属棒８３２を介して光を反射可能に構成することで、光演出を実行する範囲を拡張することができる。即ち、電飾基板８２３（図６０参照）が配設される透光装飾部材８２４の後方の範囲のみならず、正面視で透光装飾部材８２４の径方向外側に張り出すように配設される金属棒８３２が露出して視認される範囲ＥＲ１（図１０４参照）においても、反射光を遊技者に視認させることができる。

【１３８６】
なお、光を受ける部分として、膨出部８２４ａは、内周面に、光拡散形状が円環状に形成される光拡散形状部８２４ｂ（図１０６及び図１０７参照）を備える。内側発光部８２３ａから照射された光は光拡散形状部８２４ｂに照射可能とされ、その光を受けた光拡散形状部８２４ｂは円環状に明るく光る。
【１３８７】
これにより、装飾部材８７０，８８０の合体状態のみならず、装飾部材８７０，８８０の円環配置が解除される切替回転動作の最中においても、光拡散形状部８２４ｂが円環状に明るく視認されることにより、第３動作ユニット８００の円環形状を利用した演出効果を維持し易くすることができる。
【１３８８】
図１０４及び図１０５に示すように、透光装飾部材８２４は、合体状態において視認される膨出部８２４ａだけでなく、その膨出部８２４ａよりも正面視で径方向外方に延びる延設部８２４ｃを備えている。
【１３８９】
延設部８２４ｃは、合体状態においては装飾部材８７０，８８０に隠されることになり装飾部としての機能が低いが、図１０４に示す切替回転動作の途中において、機構部分の目隠しをする効果を奏する。
【１３９０】
即ち、図１０４及び図１０７に示すように、延設部８２４ｃは、内側回転部材８３０の本体部８３１や、外側回転部材８４０の延設腕部８４２等（図６１参照）、演出に利用し難い機構部分を遮蔽して目隠しできる程度の大きさで形成される。
【１３９１】
そして、膨出部８２４ａだけでなく、延設部８２４ｃの正面側にも装飾模様が施されているので、機構部分を遮蔽して目隠ししている範囲について装飾模様を視認させることができ、演出効果を向上することができる。
【１３９２】
第３動作ユニット８００の駆動制御の一例について説明する。まず、昇降アーム部材８０１が駆動制御されることによる第３動作ユニット８００の昇降変位と、駆動モータ８６１が駆動制御されることによる第３動作ユニット８００の回転変位との関係について説明する。
【１３９３】
本実施形態によれば、第３動作ユニット８００の昇降変位と、回転変位とは、独立して実行可能に構成されているが、例えば、第３動作ユニット８００の昇降変位時の慣性負荷により、連動して第３動作ユニット８００に回転変位が生じる可能性がある。この場合、第３動作ユニット８００が姿勢変化したり、第３動作ユニット８００の合体状態が解除されたりする（磁石Ｍｇ２の吸着力に対抗して装飾部材８７０，８８０が径方向外側へ変位する）ことにより、演出効果が低下する可能性がある。
【１３９４】
これを回避するために、例えば、第３動作ユニット８００の昇降変位と、第３動作ユニット８００の回転変位（特に、一体回転動作）と、を同時に実行するように制御しても良い。
【１３９５】
これにより、第３動作ユニット８００の昇降変位時の回転変位を演出動作として遊技者に見せることができるので、演出効果の低下を防ぐことができる。更に、一体回転動作の継続中には、装飾部材８７０，８８０を径方向内側へ変位させる方向に負荷がかかり続けるので（図１０１参照）、第３動作ユニット８００の合体状態が解除されることを回避することができる。
【１３９６】
また、昇降変位と回転変位とを同時に実行する制御を行わないまでも、第３動作ユニッ

ト８００の姿勢を、昇降変位により回動腕部材８５０が変位し難い姿勢となるように、予め第３動作ユニット８００の回転方向の姿勢を調整するように制御しても良い。

【１３９７】

検出センサ８１３による外側回転部材８４０の被検出部８４４の検出態様が変化することは（図６８参照）、本実施形態では、内側回転部材８３０の回転態様が一体回転動作で実行されていることを意味する。そのため、これを前提に検出センサ８１３の検出態様と、第３動作ユニット８００の制御とを関連付けて設計することが想定される。

【１３９８】

この前提は、切替回転動作が、外側回転部材８４０の姿勢を維持した状態（内側回転部材８３０と外側回転部材８４０とが連動しない状態）で行われることに基づくものである。そのため、この前提が崩れる可能性がある状態は回避することが好ましい。

【１３９９】

本実施形態では、内側回転部材８３０が駆動モータ８６１の駆動力で回転制御される際に、トルクリミッタ８６６によりかけられる抵抗が外側回転部材８４０の回転を抑制するように作用することで外側回転部材８４０の姿勢が維持される。

【１４００】

そのため、例えば、切替回転動作の実行中に金属棒８３２、直動部材８３３、回転部材８３４及び中間腕部材８５０間の抵抗が大きくなり、内側回転部材８３０と外側回転部材８４０との間の動作抵抗が大きくなり、トルクリミッタによりかけられる抵抗を超える場合には、外側回転部材８４０と内側回転部材８３０とが連動して、切替回転動作が適切に実行できなくなる可能性がある。

【１４０１】

これに対し、本実施形態では、金属棒８３２、直動部材８３３、回転部材８３４及び中間腕部材８５０間の抵抗を低減するように構成している。

【１４０２】

例えば、合体状態からの直動部材８３３及び回転部材８３４を変位させる中間腕部材８５０の回動先端の変位方向は、金属棒８３２の長手方向に沿う方向となる。即ち、金属棒８３２の回転方向と直交する方向に中間腕部材８５０が変位するので、金属棒８３２の回転の抵抗を生じ難くすることができ、金属棒８３２と、直動部材８３３、回転部材８３４及び中間腕部材８５０との間で生じる抵抗を小さく抑えることができる。

【１４０３】

直動部材８３３及び回転部材８３４が径方向外方終端位置に配置される状態（図１０４参照）では、中間腕部材８５０の回動先端側（例えば、被支持孔８５４ａ）の変位方向が金属棒８３２の回転方向と沿うので、速度が不十分な場合等には特に、金属棒８３２と中間腕部材８５０とが平行移動する状態を構成し易い。この場合、切替回転動作が不良となる。

【１４０４】

これに対し、本実施形態では、切替回転動作を開始したら合体状態に至るまで十分な速度で駆動を継続するという制御態様を採用しており、直動部材８３３及び回転部材８３４が径方向外終端位置に配置される状態（図１０４参照）では、装飾部材８７０，８８０が金属棒８３２を中心として回転動作するように慣性を受ける。

【１４０５】

この慣性の影響で、装飾部材８７０，８８０に締結固定されている回転部材８３４が回転し、傘歯部８３４ａと傘歯部８５４ｃとが歯合回転するので、中間腕部材８５０の回動先端側が径方向外方終端位置を通過して径方向内側へ回動する（図６５（ｂ）及び図６７（ｂ）参照）。

【１４０６】

径方向外方終端位置を外れた状態では、中間腕部材８５０の回動先端側が金属棒８３２に沿う方向で変位し易くなり、金属棒８３２の回転動作に対する抵抗を小さく抑えやすくすることができる。

【１４０７】
このように、本実施形態では、金属棒８３２、直動部材８３３、回転部材８３４及び中間腕部材８５０間の抵抗の低減を、部材間の関係や、駆動制御の設計によって実現するように図っている。
【１４０８】
切替回転動作中においては外側回転部材８４０の姿勢が維持され、被検出部８４４の配置が変化しないことから、切替回転動作の終了タイミングを、検出センサ８１３による被検出部８４４の検出態様の変化で判定することはできない。
【１４０９】
例えば、合体状態に到達したタイミングで駆動モータ８６１を停止させる制御は、切替回転動作に必要十分な駆動時間を予め設定しておき、その駆動時間で駆動を停止するよう制御することで実現可能となるが、金属棒８３２、直動部材８３３、回転部材８３４及び中間腕部材８５０間の抵抗の程度によっては、駆動時間が同じであっても変位量が異なる場合があり、合体状態となる前に駆動停止する可能性がある。この場合、演出効果が低くなる可能性がある。
【１４１０】
これに対し、合体状態に到達したタイミングで駆動モータ８６１を停止させる制御態様ではなく、検出センサ８１３による被検出部８４４の検出態様が変化したことで、切替回転動作が終了して一体回転動作が始まったことを判定し（図６８参照）、この判定後に駆動モータ８６１を停止させるよう制御しても良い。この制御により、切替回転動作の実行後に、装飾部材８７０，８８０が合体状態に到達していない状態で駆動モータ８６１の駆動が停止される事態を回避することができる。
【１４１１】
駆動制御として、切替回転動作は第３動作ユニット８００の張出状態において実行されることは上述の通りであるが、一体回転動作については、第３動作ユニット８００の状態に左右されずに実行可能である。
【１４１２】
駆動制御として、第３動作ユニット８００の回転方向の配置に左右されず、切替回転動作を実行可能であるので、図６８で上述したように、大当たり告知の有無を遊技者に予想されることを回避することができる。即ち、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が配置されている状態（図６６（ａ）参照）からに限定されず、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が配置されていない状態からでも切替回転動作を実行することができる。
【１４１３】
一方で、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が配置されている状態で切替回転動作を実行する場合と異なり、切替回転動作の終了後から被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に進入するまでは、検出センサ８１３の出力が変化しないので、制御態様を工夫する必要がある。
【１４１４】
例えば、検出センサ８１３の出力によらず、切替回転動作に必要十分な駆動期間として予め設定される駆動期間で切替回転動作を実行するようにしても良いし、被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に進入するまで駆動モータ８６１の駆動を継続するよう制御するようにしても良い。
【１４１５】
後者の場合、切替回転動作の終了後は一体回転動作に動作態様が移行して、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入することにより、既に切替回転動作が終了し装飾部材８７０，８８０が合体状態となっていることを判定することができる。
【１４１６】
一方で、駆動モータ８６１の駆動を、切替回転動作から一体回転動作に移行して被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に進入するのに十分な時間長さで実行しているにも

関わらず、検出センサ８１３の出力が変化しない場合には、その検出センサ８１３の出力に基づいて、第３動作ユニット８００に動作不良が生じていると判定することができる。

【１４１７】

また、後者の場合、第３動作ユニット８００の任意の回転配置から、切替回転動作が実行され、一連合体状態（図３２参照）が維持されている状態において、検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入するまで駆動が継続される。

【１４１８】

第３動作ユニット８００の一連合体状態では、上述のように、回転配置が異なっても見映えが異なりにくい。そのため、一連合体状態で検出センサ８１３の検出溝に被検出部８４４が進入するまで第３動作ユニット８００の回転変位を継続しても、演出効果が低下することを回避し易くすることができる。

【１４１９】

更に、図６８に示す反転演出時から通常演出時に復帰させる制御をする場合には、被検出部８４４が検出センサ８１３の検出溝に既に配置されていることから、切替回転動作の終了後に検出センサ８１３の出力が変化するまでの期間を最短化することができる。換言すれば、検出センサ８１３の検出溝に配置されている被検出部８４４が検出溝から退避する程度の短い駆動期間で十分であるので、反転演出時から通常演出時に復帰させる制御に要する長さを最短化することができる。

【１４２０】

このように、本実施形態によれば、通常演出時から反転演出時に切り替える切替回転動作を開始する第３動作ユニット８００の回転配置の自由度の向上を図っており、通常は復帰動作が長期化する場合があるところ、復帰動作としての反転演出時から通常演出時への切替回転動作の短縮化を図っている。

【１４２１】

即ち、第３動作ユニット８００の回転配置の違いを戻すための復帰動作の一部（被検出部８４４を検出センサ８１３の検出溝に配置するまでの回転変位）を、回転配置が異なっても見映えが変わり難い一連合体状態において行うことで、復帰動作中の第３動作ユニット８００の演出効果の低下を回避することができる。

【１４２２】

更に、予め復帰動作の一部を行っておくことで、残りの復帰動作としての切替回転動作に要する期間の短縮化を図ることができる。

【１４２３】

各動作ユニット６００，７００，８００の内、複数の動作ユニット６００，７００，８００で共通して採用されている構成について、その採用態様の違いの理由も含めて横断的な説明を行う。

【１４２４】

まず、第１の横断的な説明として、各動作ユニット６００，７００，８００で共通して採用されている検出センサＫＳ１，７１３，７７８ｄ，８１３について構成を確認し、その採用態様（センサの個数、被検出片の形状等）の違いの理由について説明する。

【１４２５】

第１動作ユニット６００の検出センサＫＳ１は、第１動作ユニット６００の配置を検出するための検出装置であって、検出溝に延設部６３４ｂが進入可能とされる。第１動作ユニット６００が備える検出装置は１個の検出センサＫＳ１のみである（図４１参照）。回動部材６２０、被支持部材６４０、張出装飾部６５２ｂ及び第２装飾回転部材６６０という複数の変位部材について、回動部材６２０の姿勢が定まれば他の変位部材の配置や姿勢が定まるように構成していることから、１個の検出センサＫＳ１での検出結果により、複数の変位部材の配置や姿勢を判定することができる。これにより、検出装置の配設個数を低減することができる。

【１４２６】

第２動作ユニット７００の検出センサ７１３は、第２動作ユニット７００のギアカム部

材７３４の姿勢を検出するための検出装置であって、検出溝に被検出部７３５が進入可能とされる。第２動作ユニット７００がギアカム部材７３４の姿勢を検出するための検出装置は３個であり（図５０参照）、それぞれ、第２動作ユニット７００の演出待機状態、中間演出状態、張出状態に対応する。

【１４２７】

演出待機状態を判定する検出センサ７１３は、初期位置への復帰を判定するために必要となる。張出状態を判定する検出センサ７１３は、上昇変位終端位置への到達を判定するために必要となる他、昇降反転演出装置７７０の反転動作や、意図しない負荷の影響による位置ずれの判定のために必要となる。中間演出状態を判定する検出センサ７１３は、中間演出状態での上下位置への到達を判定するために必要となる他、意図しない負荷の影響による位置ずれの判定のために必要となる。以下、反転動作と、意図しない負荷の影響とについて、順に説明する。

【１４２８】

まず、反転動作について説明する。第２動作ユニット７００では、ギアカム部材７３４の回転動作に連動して生じる昇降反転演出装置７７０の上下変位の他、昇降反転演出装置７７０の反転動作（図５９参照）が可能に構成される。

【１４２９】

反転動作により昇降反転演出装置７７０が上下方向に変位する可能性があるので、例えば、単一の検出センサ７１３（演出待機状態を判定する検出装置）のみを採用する場合には、張出状態や中間演出状態における上下方向の位置ずれを判定することができず、適正な演出動作が実行できない可能性がある。

【１４３０】

これに対し、本実施形態によれば、第２動作ユニット７００の演出待機状態、中間演出状態、張出状態に対応した検出センサ７１３を備えている。そのため、例えば、張出状態で昇降反転演出装置７７０を反転動作させたことで昇降反転演出装置７７０が上下方向に変位したことを判定でき、この判定結果を基にギアカム部材７３４の姿勢を適正に（張出状態となるように）修正する方向に駆動モータ７３１を回転させることで、昇降反転演出装置７７０の配置を適正に保つことができる。

【１４３１】

なお、本実施形態では、反転動作は第２動作ユニット７００が張出状態の時（ギアカム部材７３４が動作終端側の時）にのみ許容されるので、反転動作時の位置ずれの修正は、ギアカム部材７３４を動作終端側に回転させれば良く、容易である。

【１４３２】

次に、意図しない負荷の影響について説明する。第２動作ユニット７００では、ギアカム部材７３４の回転動作により回動する回動アーム部材７２０に連動して生じる昇降板部材７４０の上下変位の他、その昇降板部材７４０の上下位置に対応した前後位置に変位するための昇降板部材７４０を基準とした昇降反転演出装置７７０の前後変位が生じる（図５２から図５４参照）。

【１４３３】

そのため、遊技機の前後幅方向にかけられる負荷で昇降反転演出装置７７０が前後方向に変位することに伴って、昇降反転演出装置７７０及び昇降板部材７４０の上下位置が変動し、これに伴ってギアカム部材７３４の姿勢が変化する可能性がある。遊技機の前後幅方向にかけられる負荷としては、遊技者が遊技機を叩くなどする場合の衝撃負荷や、正面枠１４を開閉する際の負荷等が例示される。

【１４３４】

前後幅方向の負荷により昇降反転演出装置７７０が上下方向に変位する可能性があるので、例えば、単一の検出センサ７１３（演出待機状態を判定する検出装置）のみを採用する場合には、張出状態や中間演出状態における上下方向の位置ずれを判定することができず、昇降反転演出装置７７０が適正な配置に維持できない可能性がある。

【１４３５】

これに対し、本実施形態によれば、第２動作ユニット７００の演出待機状態、中間演出状態、張出状態に対応した検出センサ７１３を備えている。そのため、例えば、中間演出状態で前後幅方向の負荷が遊技機にかけられ、昇降反転演出装置７７０及び昇降板部材７４０の上下位置が変動した場合に、連動してギアカム部材７３４の姿勢が変化するので、昇降反転演出装置７７０が上下方向に変位したことを判定でき、この判定結果を基にギアカム部材７３４の姿勢を適正に（中間演出状態となるように）修正する方向に駆動モータ７３１を回転させることで、昇降反転演出装置７７０の配置を適正に保つことができる。

【１４３６】

なお、中間演出状態に対応した検出センサ７１３にギアカム部材７３４の被検出部７３５が配置されている状態から、意図しない負荷により被検出部７３５が検出センサ７１３から外れたと判定された場合、本実施形態では、被検出部７３５がいずれの方向に外れたのかの判定まではできないが、先に演出装置７８０を下降変位させる方向に駆動モータ７３１を駆動するように制御している。これにより、第２動作ユニット７００と第３動作ユニット８００とが衝突する事態を未然に回避することができる。

【１４３７】

本実施形態では、この駆動により、被検出部７３５が再度、中間演出状態に対応した検出センサ７１３に進入した場合には、意図しない負荷による被検出部７３５の変位は、演出装置７８０を上昇変位させる側に生じていたことが分かり、その時点で駆動を停止するようにすれば、意図しない負荷によって生じた影響を相殺することができる。

【１４３８】

また、この駆動により、被検出部７３５が中間演出状態に対応した検出センサ７１３に進入することなく、演出待機状態に対応した検出センサ７１３に進入した場合には、意図しない負荷による被検出部７３５の変位は、演出装置７８０を下降変位させる側に生じていたことが分かり、再度上昇変位させるように駆動を継続して中間演出状態に対応した検出センサ７１３に被検出部７３５が進入した時点で駆動を停止するようにすれば、意図しない負荷によって生じた影響を相殺することができる。

【１４３９】

なお、検出センサ７１３の検出溝に進入する被検出部７３５については、延設部６３４ｂで説明したような構造上の目的は生じないので、検出センサ７１３の検出幅に適切な幅長さの板状部として形成される。これにより、ギアカム部材７３４の姿勢を検出する分解能を高めることができる。

【１４４０】

検出センサ７７８ｄは、第２動作ユニット７００の上下反転部材７８１の姿勢を検出するための検出装置であって、検出溝に円弧状突設部７８１ｄが進入可能とされる。第２動作ユニット７００が上下反転部材７８１の姿勢を検出するための検出装置は２個であり（図５６参照）、それぞれ、上下反転部材７８１の正立の縦配置状態と、倒立の縦配置状態と、に対応する。

【１４４１】

第２動作ユニット７００は、上下反転部材７８１の正立の縦配置状態（図５９（ａ）参照）と、倒立の縦配置状態（図５９（ｃ）参照）とにおいて、左右一対で配設される覆設部材７８７が近接する合体状態とされる。

【１４４２】

例えば、単一の検出センサ７７８ｄ（上下反転部材７８１の正立の縦配置状態を反転する検出装置）のみを採用する場合には、正立の縦配置状態からの上下反転部材７８１の姿勢ずれは判定できるので、判定結果に基づいて覆設部材７８７の合体状態を維持するように駆動モータ７８２を駆動制御することは可能である。一方で、倒立の縦配置状態からの上下反転部材７８１の姿勢ずれを判定することはできないので、倒立の縦配置状態における覆設部材７８７の合体状態が、意図しない負荷や、制御不良等により状態変化した場合であっても、その状態変化を検出センサ７７８ｄで判定することはできず、合体状態が解除された状態が継続することになり、演出上好ましくない。

【１４４３】
これに対し、本実施形態によれば、上下反転部材７８１の正立の縦配置状態と、上下反転部材７８１の倒立の縦配置状態と、に対応した検出センサ７７８ｄを備えている。そのため、正立の縦配置状態か、倒立の縦配置状態かに関わらず、合体状態からの状態変化が生じたことを検出センサ７７８ｄにより判定することができ、その判定結果を基に合体状態に戻す側に駆動モータ７８２を駆動制御することで、覆設部材７８７を合体状態に戻すことができる。これにより、第２動作ユニット７００の演出効果を向上することができる。
【１４４４】
なお、検出センサ７７８ｄの検出溝に進入する円弧状突設部７８１ｄについては、延設部６３４ｂで説明したような構造上の目的は生じないので、検出センサ７７８ｄの検出幅に適切な幅長さの板状部として形成される。これにより、上下反転部材７８１の姿勢を検出する分解能を高めることができる。
【１４４５】
第３動作ユニット８００の検出センサ８１３は、第３動作ユニット８００の外側回転部材８４０の姿勢を検出するための検出装置であって、検出溝に被検出部８４４が進入可能とされる（図６０参照）。第３動作ユニット８００が外側回転部材８４０の姿勢を検出するための検出装置は１個であり、この単一の検出装置が、外側回転部材８４０自体の回転と、外側回転部材８４０の回転が停止した状態における内側回転部材８３０の回転（切替回転動作）と、の判定に利用（兼用）される。
【１４４６】
なお、検出センサ８１３の検出溝に進入する被検出部８４４については、延設部６３４ｂで説明したような構造上の目的は生じないので、検出センサ８１３の検出幅に適切な幅長さの板状部として形成される。これにより、外側回転部材８４０の姿勢を検出する分解能を高めることができる。
【１４４７】
検出センサ８１３は、外側回転部材８４０の姿勢を検出する目的から配設され、個数も１個と少ないので、装飾部材８７０，８８０の合体状態からのずれを判定するには不十分である。例えば、検出センサ８１３に被検出部８４４が配置されていない姿勢で外側回転部材８４０が維持されている時に合体状態が解除されるような変位が生じても、それを検出センサ８１３で判定することはできない。
【１４４８】
そのため、合体状態からのずれを判定してから、合体状態に復帰させるという制御よりは、一定の時間間隔で、装飾部材８７０，８８０を合体状態へ復帰させる方向（個別合体状態（図６６（ａ）参照）では正面視で内側回転部材８３０を時計回りに回転させる方向、一連合体状態（図１０３（ｂ）参照）では正面視で内側回転部材８３０を反時計回りに回転させる方向）に駆動モータ８６１を一定時間（例えば、短時間）回転させるよう駆動する制御が好ましいと考えられる。
【１４４９】
この制御により、装飾部材８７０，８８０の合体状態が予期せず解除された場合であっても、一定の時間間隔での駆動モータ８６１の駆動により装飾部材８７０，８８０を合体状態に復帰させることができるので、装飾部材８７０，８８０の合体状態が解除されたまま長期に亘り維持されることを回避することができる。
【１４５０】
第２の横断的説明として、磁石Ｍｇ，Ｍｇ２の作用について説明する。上述のように、第２動作ユニット７００では磁石Ｍｇが覆設部材７８７の姿勢維持に機能しており、第３動作ユニット８００では磁石Ｍｇ２が装飾部材８７０，８８０の合体状態の維持に機能しているように、類似の技術を採用しているが、それぞれ、磁石Ｍｇ，Ｍｇ２が生じる負荷の方向の設計思想が異なるので、ここで説明する。
【１４５１】

第２動作ユニット７００では、左右にそれぞれ配設される磁石Ｍｇと金属ネジとの間で生じる磁力の方向が、左右両位置において、前後方向で揃うよう設計されている。換言すれば、磁力の作用線が、覆設部材７８７の回転動作の回転軸としての金属棒７８５ａと直交する平面に平行となるように設計されている。

【１４５２】

この場合、磁石Ｍｇの磁力が金属棒７８５ａの軸方向に生じる場合と比較して、覆設部材７８７が互いに近接離反するスライド変位の抵抗として生じる磁力の程度（大きさ）を下げることができる。これにより、覆設部材７８７の動作開始時の動作抵抗を下げることができる。

【１４５３】

一方、第３動作ユニット８００では、装飾部材８８０に配設される磁石Ｍｇ２と金属ネジＮｊ２との間で生じる磁力の作用線の方向が、装飾部材８８０の回転動作の回転軸としての５本の金属棒８３２が配置される平面（内側回転部材８３０の回転軸に直交する平面）と、平行な一平面上に配置されるよう設計されている。

【１４５４】

この場合、磁石Ｍｇ２の磁力により装飾部材８７０，８８０に回転動作方向の負荷がかけられる程度を下げることができるので、磁力により、装飾部材８７０，８８０が回転動作方向にぐらつく誤動作を回避し易くすることができる。

【１４５５】

第３の横断的説明として、第３図柄表示装置８１等の表示装置における表示と、動作ユニット６００，７００，８００とを一体的に視認させる演出について説明する。

【１４５６】

第１動作ユニット６００では、張出装飾部６５２ｂが第３図柄表示装置８１の表示領域の領域右端ＲＥ１と重なって見えるよう配置される（図２９参照）。そのため、例えば、第３図柄表示装置８１の表示領域の領域右端ＲＥ１付近に、張出装飾部６５２ｂを配置させる位置に対応する表示をすることで、表示領域と張出装飾部６５２ｂとをひとまとまりの表示演出として視認させ易くすることができる。

【１４５７】

第２動作ユニット７００では、第１副装飾面７８７ａ２が、センターフレーム８６の内側下縁部と、開口５１１ａの下縁部と、の間において高さを合わせて配置される（図２６及び図５２参照）。そのため、例えば、第３図柄表示装置８１の表示領域の下縁付近に、第１副装飾面７８７ａ２を配置させる位置に対応する表示をすることで、表示領域と第１副装飾面７８７ａ２とをひとまとまりの表示演出として視認させ易くすることができる。

【１４５８】

第３動作ユニット８００では、個別合体状態で遊技者が視認可能となる各第１覆設部８７５には異なる装飾がされており、張出状態では、その周囲を正面視で囲むように第３図柄表示装置８１の表示領域が配置される。そのため、例えば、第３図柄表示装置８１の表示領域における第１覆設部８７５と近接した範囲において、第１覆設部８７５を配置させる位置に対応する表示をすることで、表示領域と第１覆設部８７５とをひとまとまりの表示演出として視認させ易くすることができる。

【１４５９】

また、第３動作ユニット８００が一体回転動作するように駆動制御すれば、各第１覆設部８７５が回転するルーレット状の動作演出を実行可能となるが、その際にも、例えば、第３図柄表示装置８１の表示領域における第１覆設部８７５と近接した範囲において、第１覆設部８７５と並走するように表示を動かすことで、表示領域と第１覆設部８７５とをひとまとまりの表示演出として視認させ易くすることができる。

【１４６０】

次いで、図１０８を参照して、第２実施形態について説明する。第１実施形態では、流路構成部３３４～３３６の内部形状が固定である場合を説明したが、第２実施形態の振分装置２３００では、内部形状を可変とする第１流路構成部２３３４を備える。なお、上述

した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１４６１】
第１実施形態での第１流路構成部３３４の代替部として第１流路構成部２３３４を説明する際、右側に配設される構成について図示して説明するが、左側に配設される構成についても第１流路構成部２３３４とすることはできる。また、左右一方だけ第１流路構成部２３３４とし、他方は第１流路構成部３３４とするように、左右で構成を異なるようにしても良い。
【１４６２】
図１０８は、図１５のＸＶＩ－ＸＶＩ線に対応する線における第２実施形態における振分装置２３００の断面図である。図１０８に示すように、振分装置２３００の第１流路構成部２３３４は、湾曲突部３３４ｂの下部において前後方向に穿設される貫通孔２４１０と、その貫通孔２４１０に沿って前後にスライド変位可能に案内されるスライド部材２４２０と、そのスライド部材２４２０をスライド変位させる駆動力を発生可能となるように後側枠状部３３２内部に配設されるソレノイド２４３０と、を備える。
【１４６３】
図１０８では、ソレノイド２４３０の非励磁状態におけるスライド部材２４２０の前側配置ＦＰが実線で図示されている。ソレノイド２４３０に通電されると、ソレノイド２４３０の駆動力によりスライド部材２４２０が後側配置ＲＰまでスライド変位する。
【１４６４】
本実施形態では、スライド部材２４２０の前側配置ＦＰでは、スライド部材２４２０の上側面が、固定の流路の底面であって球が転動可能な底面２３３４ｃよりも内側（上側）に張り出し、後側配置ＲＰでは、スライド部材２４２０の上側面が底面２３３４ｃよりも内側（上側）には張り出さない（没入する）ように構成される。
【１４６５】
即ち、スライド部材２４２０の前側配置ＦＰでは、スライド部材２４２０の上側面に球が当接し、スライド部材２４２０の後側配置ＲＰでは、スライド部材２４２０と球とは当接しない。
【１４６６】
スライド部材２４２０の上側面は、底面２３３４ｃと平行な平面として形成される。そのため、球が底面２３３４ｃを転動している際にスライド部材２４２０のスライド変位が生じても、球の流下態様に対する影響を小さく抑えることができる。
【１４６７】
底面２３３４ｃを転動する球の流下方向は斜め前下方向であり、スライド部材２４２０のスライド変位の方向は前後方向であるので、スライド部材２４２０のスライド変位の方向が球の流下方向に沿う。そのため、スライド部材２４２０のスライド変位が、球の回転の強弱に影響する。
【１４６８】
球は、底面２３３４ｃを前方へ向けて転動するので、進行方向（前方）へ向けて前転する方向の回転が生じることになる。ソレノイド２４３０が非励磁の状態（図１０８参照）から、ソレノイド２４３０に通電されることにより、スライド部材２４２０が前側配置ＦＰから後側配置ＲＰにスライド変位される場合、スライド部材２４２０の上側面を転動している球の下端に対して後方向への負荷（摩擦力）が生じる。そのため、球の前転方向の回転が加速され、球の回転の程度を大きくでき、球の転動速度を増速させることができる。
【１４６９】
一方、ソレノイド２４３０が通電されている状態から、非励磁の状態（図１０８参照）へと変化されることで、スライド部材２４２０が後側配置ＲＰから前側配置ＦＰにスライド変位される場合、底面２３３４ｂを転動している球の下端に対してスライド部材２４２０の上側面を介して前方向への負荷（摩擦力）が生じる。そのため、球の前転方向の回転が減速され、球の回転の程度を小さくでき、球の転動速度を減速させることができる。

【１４７０】
更に、底面２３３４ｂの上下位置よりも、前側配置ＦＰにおけるスライド部材２４２０の上側面の上下位置の方が上側にあるので、スライド部材２４２０からの摩擦力に加えて、球を上側に押し上げる方向の負荷が生じる。そのため、下方へ向けて転動する球の上下方向の速度を低減させることができるので、球の流下速度を減速させることができる。
【１４７１】
このように、本実施形態によれば、球が底面２３３４ｂを転動している時にスライド部材２４２０のスライド変位を生じさせる制御を実行することで、振分装置２３００の内部を流下する球の流下速度を変化可能とすることができる。これにより、球が、球通過孔１６３ｂを通過してから分岐箇所ＢＰ１（図７４参照）に到達するまでの時間を変化可能に制御することができる。
【１４７２】
本実施形態では、スライド部材２４２０が第２流路構成部３３５よりも後方に配置されているので、スライド部材２４２０により球が影響を受けている最中の様子を、遊技者に把握され難くすることができる。
【１４７３】
即ち、遊技者が視認し易く注目が集まり易い第２流路構成部３３５に球が導入される前段階でスライド部材２４２０と球との当接を生じさせることになるので、球に回転を付加したり、上下方向に変位させたりする様子を遊技者に把握され難くすることができる。これにより、第２流路構成部３３５を流下する球を視認する遊技者に与える違和感を小さくすることができる。
【１４７４】
本実施形態では、球が底面２３３４ｃの上側に配置されている時にスライド部材２４２０が変位する場合には当接負荷が与えられる一方で、スライド部材２４２０の変位前後（停止時）に底面２３３４ｃの上側を通過する球にはスライド部材２４２０との当接負荷が与えられない。
【１４７５】
従って、スライド部材２４２０の動作中に底面２３３４ｃの上側に配置される球と、スライド部材２４２０の停止中に底面２３３４ｃの上側に配置される球とで、流下態様（回転、回転の変化、流下速度、流下速度変化、等）を異ならせることができる。
【１４７６】
次いで、図１０９を参照して、第３実施形態について説明する。第１実施形態では、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２が左右に並んで配置される場合を説明したが、第３実施形態の振分装置３３００では、確変検出センサＳＥ１１の配置が通常検出センサＳＥ１２の後側に移動されることで、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２が前後に並んで配置される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１４７７】
確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２の配置の変更例として左右中央よりも右側において説明を行うが、左右よりも左側における構成は任意に設計可能である。例えば、左側においては、第１実施形態と同様に確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２を左右に並べて配置するようにして、振分装置３３００の左右で確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２の配置が異なるように構成しても良いし、左側においても、以下で詳述するように前後に並べて配置されるようにして、振分装置３３００の左右で確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２の配置が対称となるように構成しても良い。
【１４７８】
図１０９（ａ）及び図１０９（ｂ）は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第３実施形態における振分装置３３００の断面図である。図１０９（ａ）では、電磁ソレノイド３６１（図１７参照）が非励磁とされ、スライド変位部材３３７０が前側位

置に配置された状態が図示され、図１０９（ｂ）では、電磁ソレノイド３６１に通電されスライド変位部材３３７０が後側位置に配置された状態が図示される。

【１４７９】

また、図１０９（ａ）及び図１０９（ｂ）では、第３流路構成部３３６を流れた後の球の案内経路が想像線で図示される。このように、スライド変位部材３３７０の配置によって、球の案内経路が変化される。

【１４８０】

図１０９（ａ）及び図１０９（ｂ）に示すように、振分装置３３００の中部材３３３０には、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２への球案内経路を区画する後側枠状部３３３２が、左側から球を受入可能に開放される形状で構成されている。

【１４８１】

スライド変位部材３３７０は、前側位置と後側位置とでスライド変位可能に構成されている。スライド変位部材３３７０の後側位置（図１０９（ｂ）参照）は、上突設部３７６の前側面３７６ａの右端部と、確変検出センサＳＥ１１へ球を案内する経路入口として後側枠状部３３３２に形成される開放部３３３２ｇの後側内面と、が左右で揃う（又は、前側面３７６ａの右端部の方が若干前側に配置される）位置として設定される。

【１４８２】

このようにスライド変位部材３３７０の位置を設定することで、スライド変位部材３３７０が前側位置に配置されていれば、第３流路構成部３３６を通過した球がスライド変位部材３３７０の前側面３７６ａに当接しながら右側へ流され、通常検出センサＳＥ１２を通過する一方で、スライド変位部材３３７０が後側位置に配置されていれば、第３流路構成部３３６を通過した球がスライド変位部材３３７０の前側面３７６ａに当接しながら右側へ流され、確変検出センサＳＥ１１を通過するように構成することができる。

【１４８３】

即ち、通常検出センサＳＥ１２を通過する球の流下経路と、確変検出センサＳＥ１１を通過する球の流下経路とが、双方共に、第３流路構成部３３６を通過した後で右方に流れる流下経路で構成される。違いは、右方に流れる前後位置のみである。

【１４８４】

そのため、正面側から第３流路構成部３３６を視認する遊技者目線で、球が確変検出センサＳＥ１１へ流れたか、通常検出センサＳＥ１２へ流れたかの判別を困難とすることができる。

【１４８５】

スライド変位部材３３７０は、薄板部３７１の前端部から正面側に棒状に延設される一対の棒状案内部３３７１ｃと、上突設部３７６に一体的に形成される上前突設部３３７６ｂと、上突設部３７６に一体的に形成される上横突設部３３７６ｃと、を備える。

【１４８６】

棒状案内部３３７１ｃは、上側面が球案内部３７１ｂの上面と面一とされ、第３流路構成部３３６を流下する球の球中心の左右両側に左右一対で形成されており、排出孔３３７の前側面を貫通して、第３流路構成部３３６の下面裏側に収容可能に構成される。

【１４８７】

即ち、スライド変位部材３３７０が前側位置に配置される場合には、棒状案内部３３７１ｃは第３流路構成部３３６の下面裏側に配置されることで球とは当接せず、スライド変位部材３３７０が後側位置に配置される場合には、棒状案内部３３７１ｃは排出孔３３７の前側面と球案内部３７１ｂとの前後方向隙間に亘って配設される。

【１４８８】

このように棒状案内部３３７１ｃを構成することで、スライド変位部材３３７０が後側位置に配置されている時に、球の下側左右部を棒状案内部３３７１ｃで支持することができ、球をスライド変位部材３３７０まで橋渡しすることができる。

【１４８９】

これにより、スライド変位部材３３７０が後側位置に配置されている時に、球が通常検

出センサＳＥ１２へ向けて流下する事態を回避し易くすることができる。即ち、棒状案内部３３７１ｃにより、流下球の誤案内を回避し易くすることができる。

【１４９０】

また、第３流路構成部３３６を通過した球の配置が、球案内部３７１ｂの上面と面一で形成される棒状案内部３３７１ｃの上面に乗る配置とされることで、球と球案内部３７１ｂとが前後方向で正面衝突する事態を回避することができる。即ち、棒状案内部３３７１ｃにより、球と球案内部３７１ｂとが正面衝突して球が前方に逆流する事態や、球案内部３７１ｂの前側面と排出孔３３７の前側面との間に球が挟まって動作が不良となる事態を、回避し易くすることができる。

【１４９１】

上前突設部３３７６ｂは、第１実施形態で上述した前後長突設部３１７（図１８参照）と同様の形状部が、第１実施形態のスライド変位部材３７０の前側位置における相対位置と同様の位置関係で上突設部３７６と一体形成される形状部である。

【１４９２】

上横突設部３３７６ｃは、第１実施形態で上述した左右内突設部３１８（図１８参照）と同様の形状部が、第１実施形態のスライド変位部材３７０の前側位置における相対位置と同様の位置関係で上前突設部３３７６ｂと一体形成される形状部である。

【１４９３】

これにより、上前突設部３３７６ｂ及び上横突設部３３７６ｃが、当接した球に与える作用は、スライド変位部材３３７０の配置に関わらず、上突設部３７６付近を流下する球に対する作用として生じる。

【１４９４】

換言すれば、前後長突設部３１７や左右内突設部３１８（図１８参照）のように固定配置される場合と異なり、スライド変位部材３３７０が後側位置に配置される状態において、突設部３３７６ｂ，３３７６ｃが、上突設部３７６の前方位置に到達した球を通常検出センサＳＥ１２側へ勢い付けする作用を排除することができる。

【１４９５】

次いで、図１１０及び図１１１を参照して、第４実施形態について説明する。第１実施形態では、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２が左右に並んで配置される場合を説明したが、第４実施形態の振分装置４３００では、通常検出センサＳＥ１２の配置が確変検出センサＳＥ１１の後側に移動されることで、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２が前後に並んで配置される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１４９６】

図１１０（ａ）及び図１１０（ｂ）は、第４実施形態における第３流路構成部３３６の下流側の構成を模式的に示す第３流路構成部３３６、確変検出センサＳＥ１１、通常検出センサＳＥ１２及びスライド変位部材４３７０の模式上面図である。

【１４９７】

図１１１（ａ）は、図１１０（ａ）のＣＸＩａ－ＣＸＩａ線における第３流路構成部３３６、確変検出センサＳＥ１１、通常検出センサＳＥ１２及びスライド変位部材４３７０の模式断面図であり、図１１１（ｂ）は、図１１０（ｂ）のＣＸＩｂ－ＣＸＩｂ線における第３流路構成部３３６、確変検出センサＳＥ１１、通常検出センサＳＥ１２及びスライド変位部材４３７０の模式断面図である。図１１１（ｂ）では、分かり易さのために、上当接部４３７３の図示を省略している。

【１４９８】

スライド変位部材４３７０は、確変検出センサＳＥ１１又は通常検出センサＳＥ１２の一方を球が通過不能に塞ぎ、他方を開放して球の通過を可能とするよう構成されており、確変検出センサＳＥ１１の上方で左右にスライド移動する前側スライド部材４３７１と、通常検出センサＳＥ１２の上方で左右にスライド移動する後側スライド部材４３７５と、を備える。

【１４９９】
前側スライド部材４３７１と後側スライド部材４３７５とは、ソレノイドの駆動力により、互いに左右反対方向にスライド変位する。即ち、図１１０（ａ）及び図１１１（ａ）に示す前開放状態から、図１１０（ｂ）及び図１１１（ｂ）に示す後開放状態に状態変化する際に、前側スライド部材４３７１は左方にスライド移動し、後側スライド部材４３７５は右方にスライド移動するよう構成される。
【１５００】
前側スライド部材４３７１は、確変検出センサＳＥ１１の上方に被さるように配置されるスライド板４３７２と、左右内突設部３１８（図１７参照）の形状と同様の形状で形成される上当接部４３７３と、を備え、不図示の連結部により一体的に形成される。即ち、図１１０において、スライド板４３７２及び上当接部４３７３は一体的にスライド変位する。
【１５０１】
スライド板４３７２の上側面４３７２ａは、第３流路構成部３３６の下底面３３６ａと面一とされ、前後方向の傾斜が同一傾斜の傾斜平面として形成される（図１１１（ｂ）参照）。そのため、後開放状態（図１１１（ｂ）参照）において、上側面４３７２ａの傾斜によって、上側面４３７２ａを転動する球を通常検出センサＳＥ１２側へ流すことができる。一方で、前開放状態（図１１１（ａ）参照）では、下底面３３６ａを通過した球は上当接部４３７３と当接し負荷を受けることで、下方（右下方）に流される。
【１５０２】
従って、前側スライド部材４３７１は、前開放状態と、後開放状態とが変化すると、異なる箇所で球と当接するようになり、異なる方向に球を案内する（流す）ように状態が変化するよう構成される。
【１５０３】
後側スライド部材４３７５は、通常検出センサＳＥ１２の上方に被さるように配置されるスライド板４３７６と、前後長突設部３１７（図１７参照）の形状と同様の形状で形成される上当接部４３７７と、を備え、不図示の連結部により一体的に形成される。即ち、図１１０において、スライド板４３７６及び上当接部４３７７は一体的にスライド変位する。
【１５０４】
スライド板４３７６の上側面４３７６ａは、上側面４３７２ａと前後逆の形状から形成される傾斜平面とされる（図１１１（ａ）参照）。そのため、前開放状態（図１１１（ａ）参照）において、上側面４３７６ａの傾斜によって、上側面４３７６ａに配置されている球を確変検出センサＳＥ１１側へ流すことができる。一方で、後開放状態（図１１１（ｂ）参照）では、下底面３３６ａ及び上側面６３７２ａを通過した球は上当接部４３７７と当接し負荷を受けることで、下方に流される。
【１５０５】
従って、後側スライド部材４３７５は、前開放状態と、後開放状態とが変化すると、異なる箇所で球と当接するようになり、異なる方向に球を案内する（流す）ように状態が変化するよう構成される。
【１５０６】
このように構成することにより、確変検出センサＳＥ１１の上方を後方に通過した後の球が、再び確変検出センサＳＥ１１の上方に戻り確変検出センサＳＥ１１を通過するという事態が生じ得ることから、第３流路構成部３３６を通過した球に対する注目力を向上することができる。
【１５０７】
再び確変検出センサＳＥ１１の上方に戻る態様としては、例えば、上側面４３７２ａを後方に球が通過するタイミングで、後開放状態から前開放状態に状態変化するようにソレノイドが駆動される場合が想定される。この場合、球は通常検出センサＳＥ１２を通過する前に上側面４３７６ａに乗り上げることになり、上側面４３７６ａの傾斜に沿って手前

側に逆流し、確変検出センサＳＥ１１側に戻る。

【１５０８】

このように、球が第３流路構成部３３６を通過するタイミングと、スライド変位部材４３７０の駆動タイミングとが合うと、球は確変検出センサＳＥ１１側に戻り得るように構成される。従って、確変検出センサＳＥ１１の上方を下流側に通過した球が確変検出センサＳＥ１１を通過することは無いように構成される遊技機に比較して、第３流路構成部３３６を通過した後の球や、スライド変位部材４３７０の駆動タイミングに対する注目力を向上することができる。

【１５０９】

次いで、図１１２を参照して、第５実施形態について説明する。第１実施形態では、第３流路構成部３３６までは球の流路が共通であり、第３流路構成部３３６の後方に分岐箇所ＢＰ１が配置される場合を説明したが、第５実施形態の振分装置５３００では、第３流路構成部３３６の上流側にスライド変位部材５３７０が配設され、第３流路構成部３３６の上流側で球の流路が変化する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５１０】

図１１２（ａ）及び図１１２（ｂ）は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第５実施形態における振分装置５３００の部分断面図である。図１１２（ａ）では、スライド変位部材５３７０が右側位置に配置され、スライド変位部材５３７０によって球が確変検出センサＳＥ１１へ案内される状態が図示され、図１１２（ｂ）では、スライド変位部材５３７０が左側位置に配置され、スライド変位部材５３７０によって球が通常検出センサＳＥ１２へ案内される状態が図示される。

【１５１１】

また、図１１２（ａ）及び図１１２（ｂ）では、第１流路構成部３３４を流れた後の球の案内経路が想像線で図示される。このように、スライド変位部材５３７０の配置によって、球の案内経路が変化される。

【１５１２】

スライド変位部材５３７０は、不図示の電磁ソレノイドにより左右方向にスライド変位可能に構成されており、球の転動面を構成する薄板部５３７１と、その薄板部５３７１の上面から上方に突設される上突設部５３７６と、を備える。

【１５１３】

薄板部５３７１は、第１流路構成部３３４を通過した球が乗り上げ可能な程度に薄肉で形成される。上突設部５３７６は、球と対向する左側面５３７６ａが、流路側を凹とした円弧形状で形成されているので、流れてきた球を滑らかに後方へ向けて流すことができる。

【１５１４】

本実施形態によれば、振分装置５３００のように、球の流下経路の前後幅が長く形成され、後側を流下する球に比較して、手前側を流下する球の視認性が高くなる構成を採用しながら、スライド変位部材５３７０の配置を、球の視認性が高くなる手前側としていることから、球の流下態様（流下経路）を遊技者に判別させ易くすることができる。

【１５１５】

本実施形態では、スライド変位部材５３７０が右側位置に配置される場合、通常検出センサＳＥ１１への経路入口は特に塞がれておらず、球の入球が生じ得る構造とされる。一方で、通常検出センサＳＥ１１への経路入口の上流側を流下する球は、第１流路構成部３３４を流下する間に正面側に向けて流れている。

【１５１６】

そのため、第１流路構成部３３４を通過した直後において、真逆の後方側への速度が生じ難いため、通常検出センサＳＥ１１への経路入口への球の進入が生じ難い構成となっている。そこで、本実施形態では、敢えて通常検出センサＳＥ１１への経路入口を塞ぐための部材を設けることを省略し、部材コストの削減を図っている。

【１５１７】
次いで、図１１３を参照して、第６実施形態について説明する。第１実施形態では、左右の流路が仕切り板部３３８により分断され、流路同士が合流しない場合を説明したが、第６実施形態の振分装置６３００では、右側の第３流路構成部３３６に、左側の湾曲突部３３４ｂの下流側から右方に延びる合流流路６３４１が連結される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１５１８】
図１１３は、図１５のＸＶＩＩ－ＸＶＩＩ線に対応する線における第６実施形態における振分装置６３００の断面図である。図１１３に示すように、振分装置６３００の右側の流路は、第１実施形態と同様に流路構成部３３４～３３６から形成されている。
【１５１９】
一方、振分装置６３００の左側の流路は、湾曲突部３３４ｂの正面側に球１個分のスペースを空けた箇所から右方に直線的に延びる合流流路６３４１から形成され、この合流流路６３４１は、右側の流路としての第３流路構成部３３６に接続される。従って、本実施形態では、右側流路を流下する球と、左側流路を流下する球とが、流路が接続される接続箇所ＪＰ１で合流するので、球同士が衝突し得る。
【１５２０】
合流流路６３４１は、流路下端に上げ床部６３４２を備える。上げ床部６３４２は、第３流路構成部３３６の下底面３３６ａよりも高い位置の床面として形成される。これにより、合流流路６３４１から接続箇所ＪＰ１に流入する球と、右側流路を流下し第３流路構成部３３６を流下する球のとの高さ位置に差をつけることができるので、球同士の衝突時に生じる逆流の度合いを低減することができる。
【１５２１】
接続箇所ＪＰ１における球同士の接触により、球同士の接触が生じない場合と比較して、球の流下を遅延させることができる。これにより、球同士の接触が生じる場合と、接触が生じない場合とで、球通過孔１６３ｂ（図１６参照）を通過した球が分岐箇所ＢＰ１に到達するまでの時間を変化させることができる。
【１５２２】
スライド変位部材３７０の動作タイミングは球の入球態様によらず、開閉板６５ｂの開放タイミングから一定動作で設定されるので、球が分岐箇所ＢＰ１に到達するタイミングを変化させることにより、スライド変位部材３７０が異なる配置の時に球を分岐箇所ＢＰ１に到達させることができる可能性がある。
【１５２３】
球同士の接触の前提は、球の合流が発生することであり、合流流路６３４１を流下する球が存在することである。遊技者は、球同士の接触を生じさせたい場合には、左右一対の球通過孔１６３ｂ（図７４参照）にそれぞれ球を入球させるように発射強度を調節して遊技すればよく、球同士の接触を避けたい場合には、片側（右側）の球通過孔１６３ｂにのみ球を入球させるように発射強度を調節して遊技すればいい。
【１５２４】
本実施形態によれば、球の発射強度の調節が、接続箇所ＪＰ１における球の接触の有無に関与し、球が分岐箇所ＢＰ１に到達するタイミングでのスライド変位部材３７０の状態と関与することから、遊技者の利益に直接的に影響する。従って、遊技者の、球の発射強度を調節する意欲を向上することができる。
【１５２５】
また、本実施形態によれば、接続箇所ＪＰ１での接触は、球の連球の形成と密接に関連する。即ち、接続箇所ＪＰ１で接触した２球を、近接配置した状態で分岐箇所ＢＰ１へ流下させることができる。
【１５２６】
次いで、図１１４及び図１１５を参照して、第７実施形態について説明する。第１実施形態では、分岐箇所ＢＰ１への流下経路が、流路構成部３３４～３３６により構成される

流路のみである場合を説明したが、第７実施形態の振分装置７３００では、第１流路構成部３３４及び第２流路構成部３３５を経由せずに球が分岐箇所ＢＰ１へ流下可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２７】

図１１４は、第７実施形態における振分装置７３００の正面斜視図であり、図１１５は、図１１４のＣＸＶ－ＣＸＶ線における振分装置７３００の断面図である。図１１４及び図１１５に示すように、振分装置７３００は、特定入賞口６５ａに入球した球が通過可能な経路として、球通過孔１６３ｂの他に、左右略中央位置において開口形成される球通過孔７１６３ｂを備える。

【１５２８】

球通過孔７１６３ｂは、可変入賞装置６５への入球を検出し、規定個数の入球の判定により開閉板６５ｂを閉鎖状態に状態変化させるタイミングを検出するために利用される検出センサＳＥ１と同様の機能を有する検出センサＳＥ７１の球通過開口として形成される。

【１５２９】

球通過孔７１６３ｂの下流側には、後方に向けて下降傾斜する方向に矩形筒状断面で延設される筒状流路７１６４が配設される。筒状流路７１６４は、内部を球が流下可能となるように十分に大きく形成されており、その端部は、分岐箇所ＢＰ１の正面側上方まで延びている。即ち、球通過孔７１６３ｂを通過した球は、筒状流路７１６４の内部を流下して、分岐箇所ＢＰ１まで到達可能に構成される。

【１５３０】

筒状流路７１６４を球が通過するのに要する時間長さは、流路構成部３３４～３３６を球が通過するのに要する時間長さよりも短くなるように設定され、第１流路構成部３３４を球が通過するのに要する時間長さと同等となるように設定される。

【１５３１】

そのため、例えば、振分装置７３００が、上述した作動パターンＹ（図２５参照）で駆動制御される場合において、上述のように、球通過孔１６３ｂを通過して流路構成部３３４～３３６を通過する球はスライド変位部材３７０が前側位置に復帰した後の状態でしか分岐箇所ＢＰ１に到達できないのに対し、球通過孔７１６３ｂを通過して筒状流路７１６４を流下した球はスライド変位部材３７０が後側位置に配置されている間に分岐箇所ＢＰ１に到達する可能性がある。

【１５３２】

特に、開閉板６５ｂが開放状態に状態変化した直後に球通過孔７１６３ｂを通過した球は、スライド変位部材３７０が後側位置に配置されている間に分岐箇所ＢＰ１に到達し易い。

【１５３３】

即ち、スライド変位部材３７０の駆動制御のパターンが同じであっても、特定入賞口６５ａに入球した球が、球通過孔１６３ｂを通過するか、球通過孔７１６３ｂを通過するかで、確変検出センサＳＥ１１を球が通過するか否かが変化するように構成することができる。これにより、特定入賞口６５ａの内側における球の流下態様に対する遊技者の注目力を向上することができる。

【１５３４】

図１１４に示すように、遊技中における一般的な方向視で見る場合に、筒状流路７１６４によって分岐箇所ＢＰ１やスライド変位部材３７０や流路構成部３３４～３３６の視認性が低下することを回避できるように筒状流路７１６４の配置を工夫している。

【１５３５】

このように、本実施形態によれば、分岐箇所ＢＰ１の視認性は高く維持しながら、分岐箇所ＢＰ１へ球が案内される流路を増やしたことで、球が分岐箇所ＢＰ１へ到達するまでに要する時間長さの種類を増やすことができ、特定入賞口６５ａに対する遊技者の注目力

を向上することができる。

【１５３６】

次いで、図１１６を参照して、第８実施形態について説明する。第１実施形態では、第１動作ユニット６００の案内長孔６１６が直線状部６１６ａと曲線状部６１６ｂとが一箇所で連結され、その連結位置において軸線Ｏ１の経路が屈曲し軸線Ｏ１の変位方向が切り替えられる場合を説明したが、第８実施形態の第１動作ユニット８６００では、案内長孔８６１６が、複数箇所（二箇所）で連結され、その連結位置において軸線Ｏ１の経路が屈曲し変位方向Ｏ１の変位方向が切り替えられる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５３７】

図１１６は、第８実施形態における案内長孔８６１６と回動部材６２０との関係を模式的に示す正面模式図である。図１１６に示すように、案内長孔８６１６は、直線状部６１６ａの下側において、左右に２度屈曲する。

【１５３８】

即ち、案内長孔８６１６は、直線状部６１６ａと、その直線状部６１６ａの下端部と連結され曲線上（略円弧形状）に形成される第１曲線状部８６１６ｂと、その第１曲線状部８６１６ｂの下端部と連結され、第１曲線状部８６１６ｂとは曲率半径の中心が左右逆となる曲線上（略円弧形状）に形成される第２曲線状部８６１６ｃと、を備える。

【１５３９】

本実施形態では、第１実施形態と同様に、軸線Ｏ１が直線状部６１６ａの下端位置、即ち、直線状部６１６ａと第１曲線状部８６１６ｂとの連結部分に配置される場合、軸線Ｏ１の変位方向が切り替えられることから軸線Ｏ１の変位速度を低減する（落とす）ことができる。

【１５４０】

加えて、軸線Ｏ１が第１曲線状部８６１６ｂの下端位置、即ち、第１曲線状部８６１６ｂと第２曲線状部８６１６ｃとの連結部分に配置される場合、軸線Ｏ１の変位方向が切り替えられることから軸線Ｏ１の変位速度を低減する（落とす）ことができる。

【１５４１】

このように、軸線Ｏ１を停止させ易い途中位置を複数位置で構成することができるので、軸線Ｏ１を途中で止めて、途中で停止している第２装飾回転部材６６０（図４３参照）の停止姿勢の種類（バリエーション）を増やすことができる。

【１５４２】

次いで、図１１７を参照して、第９実施形態について説明する。第１実施形態では、第１動作ユニット６００の案内長孔６１６が単一の経路で構成される場合を説明したが、第９実施形態の第１動作ユニット９６００では、案内長孔９６１６が、直線状部６１６ａ及び曲線状部６１６ｂで構成される第１の経路と、その第１の経路の右側に連結される第２の経路と、を備える。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５４３】

図１１７は、第９実施形態における案内長孔９６１６と回動部材６２０との関係を模式的に示す正面模式図である。図１１７に示すように、案内長孔９６１６は、第１実施形態の案内長孔６１６と同様に直線状部６１６ａ及び曲線状部６１６ｂを備えることに加え、直線状部６１６ａ及び曲線状部６１６ｂの連結箇所から右方に傾斜して延びる角度維持部９６１６ｃと、その角度維持部９６１６ｃの右端から曲線状部６１６ｂ側へ延びて曲線状部６１６ｂの途中位置と連結される連結部９６１６ｄと、を備える。

【１５４４】

角度維持部９６１６ｃは、軸線Ｏ１が直線状部６１６ａと曲線状部６１６ｂとの連結箇所に配置された状態（図４３及び図４４参照）から、回動部材６２０を傾倒側に回動させる場合に角度θが維持された状態で軸線Ｏ１が変位すると仮定した場合の、軸線Ｏ１の変位軌跡と同方向に形成される。

【１５４５】
　このように、軸線Ｏ１が角度維持部９６１６ｃを変位する間は角度θが維持されるので、第２装飾回転部材６６０の箱状部材６６１の回転方向の姿勢は、第３演出面６６１ｃが正面を向く姿勢（図４３参照）が維持される。
【１５４６】
　換言すれば、回動部材６２０が回動変位する際に軸線Ｏ１が角度維持部９６１６ｃを変位する場合、回動部材６２０が傾倒方向に回動することに連動して回転する箱状部材６６１の回転態様として、角度維持部９６１６ｃの形成長さ（形成角度幅）に亘り、第３演出面６６１ｃが正面を向いた姿勢を維持することができる。
【１５４７】
　連結部９６１６ｄを軸線Ｏ１が変位する場合は、回動部材６２０の回動に伴う角度θの変化は許容されるので、回動部材６２０の回動に連動して、箱状部材６６１は回転する。
【１５４８】
　一方で、回動部材６２０の傾倒角度が同じ場合であっても、軸線Ｏ１が曲線状部６１６ｂに配置される場合の角度θの大きさと、軸線Ｏ１が連結部９６１６ｄに配置される場合の角度θの大きさと、は異なるので、軸線Ｏ１が変位する経路を左右で異ならせることで、回動部材６２０の回動に連動する箱状部材６６１の途中姿勢を異ならせることができる。
【１５４９】
　また、軸線Ｏ１が変位する経路が左右いずれであろうと、軸線Ｏ１が変位可能範囲の上端に配置される場合の角度θや、下端に配置される場合の角度θは、それぞれ一種類なので、軸線Ｏ１が変位可能範囲の上端または下端に配置されている場合における箱状部材６６１の姿勢は維持することができる（図４０及び図４５参照）。
【１５５０】
　換言すれば、本実施形態では、軸線Ｏ１が変位可能範囲の端部間（途中位置）に配置された状態における、軸線Ｏ１の配置に関連する被支持部材６４０及び第２装飾回転部材６６０（図４３及び図４４参照）の配置と、軸線Ｏ１の変位速度に関連する被支持部材６４０の変位速度および第２装飾回転部材６６０の箱状部材６６１の回転速度と、を複数種類で生じさせることができる。
【１５５１】
　案内長孔９６１６は、複数の経路で構成されているに留まり、軸線Ｏ１が変位可能な経路を制限する機構は備えていない。これにより、経路を制限する機構の不良による動作不良の発生を回避したり、構成を簡素化することによる製品コストの低減を図ったりすることができる。
【１５５２】
　一方で、軸線Ｏ１の変位経路の分岐は、回動部材６２０を介して軸線Ｏ１にかけられる負荷の方向で制御することができる。以下、これについて説明する。まず、回動部材６２０が傾倒方向に回動変位する場合を説明する。
【１５５３】
　第１に、軸線Ｏ１を左側の経路（直線状部６１６ａ及び曲線状部６１６ｂ）で変位させる場合、回動部材６２０の回動変位が途中で停止しないように駆動モータ６３１（図４０参照）を駆動制御する。
【１５５４】
　この場合、軸線Ｏ１は、直線状部６１６ａの延びる方向（上下方向）に沿う変位の慣性で曲線状部６１６ｂに進入し、そのまま案内長孔９６１６の下端位置まで変位する。
【１５５５】
　第２に、軸線Ｏ１を右側の経路（角度維持部９６１６ｃ及び連結部９６１６ｄ）で変位させる場合、直線状部６１６ａ及び曲線状部６１６ｂの連結箇所に軸線Ｏ１が配置された段階で回動部材６２０を途中停止または減速させるよう駆動モータ６３１（図４０参照）を駆動制御し、その後で再度、駆動モータ６３１を同方向に駆動制御する。

【１５５６】
この場合、直線状部６１６ａの延びる方向（上下方向）に沿う変位の慣性が減少するので、軸線Ｏ１が左側の経路を変位するか、右側の経路を変位するかの選択は、変位抵抗が少ない側が選ばれる。
【１５５７】
ここで、角度維持部９６１６ｃへ軸線Ｏ１が進入する場合、角度θの大きさが維持されることから、回動部材６２０と歯合回転する中間ギア６４４（図４４参照）や、中間ギア６４４よりも駆動力の伝達下流側の部材に駆動力を伝達する必要がない。即ち、その分だけ変位抵抗が少ないので、軸線Ｏ１を角度維持部９６１６ｂ側に進入させることができる。
【１５５８】
このように、本実施形態では、回動部材６２０の傾倒方向の駆動制御において、駆動モータ６３１を途中で停止制御させるか、停止させないかにより、軸線Ｏ１が変位する経路を選択するように制御することができる。
【１５５９】
なお、回動部材６２０の起き上がり方向の変位では、軸線Ｏ１が回動部材６２０から斜め右上方向へ向けた負荷を受けるので、軸線Ｏ１が連結部９６１６ｄに進入するように変位する事態は生じ難くされ、曲線状部６１６ｂに沿って軸線Ｏ１を上昇変位させることができる。
【１５６０】
本実施形態では、連結部９６１６ｄと曲線状部６１６ｂとの連結箇所は、曲線状部６１６ｂの途中位置に設定されているので、曲線状部６１６ｂの右側面が、曲線状部６１６ｂの下端位置に配置された軸線Ｏ１の右上側に配置される左上傾斜の面として形成される。
【１５６１】
そのため、軸線Ｏ１が曲線状部６１６ｂの下端位置に配置された状態で、円形貫通孔６２４を中心とする円に沿って軸線Ｏ１が上方変位（跳ね戻り）することを防止することができる。
【１５６２】
以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。
【１５６３】
上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。
【１５６４】
上記第１実施形態では、振分装置３００により球が一旦手前側に流下した後で、後方に流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、手前側に流下する部分を構成することなく、複数回の経路屈曲や、球を減速させる減速凸部を形成することにより、球の流下に要する時間の確保を図っても良い。
【１５６５】
上記第１実施形態では、第２入賞口１４０の前意匠部材１４１の下底面が湾曲面形状とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、当接により球の流下を遮ることができる形状であれば良い。例えば、傾斜平面形状で構成しても良いし、平面から細かな凸部が多数突設されるよう形成され、衝突した球に不規則な負荷を与えられるようにしても良い。
【１５６６】
上記第１実施形態では、特定入賞口６５ａに入球した球が振分装置３００を流下する際、専ら流路構成部３３４～３３６を順に流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、特定入賞口６５ａの左右中央部に下方へ貫通する開口が形

成され、この開口を通り第３流路構成部３３６に球が直接流入可能に形成しても良い。
【１５６７】
例えば、球が１球ずつ入球する場合には開口を球が通過することは無いが、複数球がまとまって特定入賞口６５ａに入球した場合に球が開口を通過し得るよう構成しても良い。この場合、特定入賞口６５ａに入球した球が開口を通過する場合と、開口を通過しない場合とで、球がスライド変位部材３７０に到達するまでに要する時間を変化させることができる。
【１５６８】
上記第１実施形態では、検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２が特定入賞口６５ａよりも後方に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２流路構成部３３５の下流側端部の真下に検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２が配設されるようにしても良い。また、この場合において、第１流路構成部３３４と第２流路構成部３３５との順番を逆転させても良い。即ち、検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２への入球において、左右方向への流下の直後に各検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２への分岐が生じても良いし、前後方向流下（手前側へ向けた流下）の直後に各検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２への分岐が生じても良い。
【１５６９】
上記第１実施形態では、振分装置３００単体での特徴として、各流路構成部３３４～３３６の流路方向や傾斜について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、パチンコ機１０の島への設置の際に、日常的に行われる「ねかせ」を考慮して、この流路方向や傾斜について設計するようにしても良い。
【１５７０】
ねかせとは、パチンコ機１０を垂直な姿勢で設置するのではなく、前後方向に傾斜させた状態で設置することを言う。通常、パチンコ機は、約１度（四分五厘）後方に倒れた姿勢（ねかせ）で設置される。上述の振分装置３００単体（ねかせが無い状態状態）での説明に比較して、約１度という設置角度を考慮すると、前後方向の傾斜を有する第１流路構成部３３４及び第２流路構成部３３６の傾斜の意味が変わってくる。
【１５７１】
即ち、振分装置３００単体では、上述のように、第１流路構成部３３４が前側へ水平から７度だけ下降傾斜し、第３流路構成部３３６が後側へ水平から５度だけ下降傾斜するように設計されているが、設置角度を合わせて検討すると、第１流路構成部３３４も第３流路構成部３３６も同様に６度だけ下降傾斜する流路を構成することになる。一方で、第２流路構成部３３５は、左右方向の傾斜であるので設置角度の影響を受けにくく、上述と同様に約５度の傾斜とみなすことができる。
【１５７２】
この場合、振分装置３００内の球の流下について、第１流路構成部３３４及び第３流路構成部３３６での球の加速度は同様とされ、第２流路構成部３３５において若干加速度が小さくなる。そのため、左右方向の球の流下速度を落とすことができるので、第２流路構成部３３５を流下する球を遊技者に視認させ易くすることができる。また、第１流路構成部３３４の方が第３流路構成部３３６よりも短いことは変わらないので、第１流路構成部３３４を、第３流路構成部３３６を通過するよりも短期間で通過させることができる。
【１５７３】
このように、振分装置３００の内部での球の流下は、前後方向の流路を有していることからパチンコ機１０のねかせの影響を受ける。そのため、各流路構成部３３４，３３６の傾斜角度をねかせの角度（約１度）よりも小さくすると、ねかせの良し悪し（角度設定）により流路構成部３３４，３３６における球の流下方向が変わって（反転して）しまうので、傾斜角度はねかせの角度よりも大きな角度として設定する必要がある。
【１５７４】
また、振分装置３００の内部での球の流下が前後方向の流路を有しており、その流路が視認可能な構成では、その流路を流下する球の流速の僅かな違いから、パチンコ機１０の

ねかせの程度を把握される可能性がある。敢えて、ねかせの程度を把握させたいなら、振分装置３００の流路を視認し易い構成とすればいい。

【１５７５】

一方、上記第１実施形態では、球の流下速度の僅かな違いから「ねかせ」の程度を把握されないように、各流路構成部３３４～３３６の、前側周囲において被固定部材１６１や前意匠部材１６２が囲むように配置され、上側において可変入賞装置６５が覆うように配設され、下側において光拡散加工面３４０で視認性を悪くするように構成されるようにしている。

【１５７６】

このように、各流路構成部３３４～３３６を流下する球の視認性を、通常の遊技者目線（正面視０度～約３０度程度の範囲）を除き、悪くするようにしている。これにより、各流路構成部３３４～３３６を流下する球の流速を比較してパチンコ機１０の「ねかせ」の程度を把握されることを回避することができる。

【１５７７】

上記第１実施形態では、第１流路構成部３３４の傾斜の方が、第３流路構成部３３６の傾斜よりも大きい場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、この傾斜の関係を逆転させても良いし、同様の傾斜で構成しても良い。

【１５７８】

また、各流路構成部３３４～３３６は、それぞれ直線状の流路が屈曲して渦状の流路を構成するものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、蛇行する流路形状でも良いし、階段状に屈曲する流路形状でも良い。

【１５７９】

また、各流路構成部３３４～３３６の接続箇所で流路が直角に曲げられるように構成されているが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、接続箇所で流路が鋭角で曲げられても良いし、鈍角で曲げられても良い。また、各流路構成部３３４～３３６としてクルーンを採用しても良い。

【１５８０】

上記第１実施形態では、第３流路構成部３３６を球が通過するのに要する時間が０．３秒となるように設計される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３流路構成部３３６を通過するのに要する時間が１秒（０．６秒以上）となるように設計しても良い。これにより、球が発射間隔（０．６秒）を維持したまま振分装置３００に入球した場合であっても、第３流路構成部３３６を流下する上流側の球を、その下流側において第３流路構成部３３６を流下する球の目隠しとして機能させることができる。

【１５８１】

上記第１実施形態では、流路構成部３３４～３３６の経路長さを確保することで、球の流下時間を確保する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド変位部材３７０までの経路の内側両壁から遊技球の流下方向と交差する方向に長尺で形成され、互い違いに突設される突条を設け、この突条を遊技球に衝突させることで球を減速させるように構成しても良い。これにより、経路長さを長くせずとも、球の流下時間の確保を図ることができる。

【１５８２】

なお、減速用の突条は、スライド変位部材３７０までの経路の全範囲に均等に配置するようにしても良いし、配置を不均等にしても良い。例えば、第１流路構成部３３４及び第２流路構成部３３５については突条を形成せず、第３流路構成部３３６においてのみ突条を構成することで、第３流路構成部３３６までは迅速に球を到達させる一方、球が第３流路構成部３３６を緩やかに流下するように構成することができる。

【１５８３】

また、突条の突設方向は、左右方向から球の流下経路に沿って経路内側へ互い違いに突設されるような方向でも良いし、所定間隔を空けて下側から上方へ突設されるような方向

でも良い。
【１５８４】
左右方向からの突設の場合、突条から球に与えられる負荷が左右方向の成分を有するので、この負荷により球が通常検出センサＳＥ１２に誤って案内されないように配置を考慮することが好ましい。例えば、スライド変位部材３７０に最も近接する位置においては、左右外側の壁部から左右内側に突設させることで、突条からの負荷が通常検出センサＳＥ１２側へ向かわず仕切り板部３３８側へ向かうようにすることで、球が誤って通常検出センサＳＥ１２に案内されることを回避し易くすることができる。
【１５８５】
下側から上方への突設の場合、突条自体がスライド変位部材３７０の目隠しとして機能する可能性があるので、遊技者の視線を考慮して、形成高さや形成位置を設計することが好ましい。
【１５８６】
なお、突条は、出没可動に形成しても良い。この場合、出状態では球の流下をせき止めて、没状態となった場合に球の流下を再開可能としても良い。
【１５８７】
上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０の手前側を流下する球により目隠しがされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分装置３００の前に、可動の化粧部材が配置され、その化粧部材によって流路構成部３３４～３３６の目隠しがされるようにしても良い。この化粧部材は、駆動されても良いし、球の重みで動作するものでも良い。
【１５８８】
また、球により目隠しがされる場合において、球が手前側に配置される場合に限られるものではない。例えば、スライド変位部材３７０の背面側に鏡が配設され、その鏡の反射を利用してスライド変位部材３７０の状態を視認させる場合には、球がスライド変位部材３７０と鏡との間に配置されれば、目隠し機能を生じさせることができる。
【１５８９】
上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０に到達する球が目隠しされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４が、検出センサＳＥ１１，ＳＥ１２のように遊技領域よりも後方に配置され、第１入賞口６４が目隠しされるものでも良いし、他の一般入賞口６３が目隠しされるものでも良い。
【１５９０】
上記第１実施形態では、流路構成部３３４～３３６が直線的で球を１個ずつ案内可能な流路から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、蛇行する流路として形成されても良いし、複数に枝分かれが生じる流路として形成されても良いし、流路幅の大小があり流路幅が大の箇所では球が滞留し易いよう構成されても良い。
【１５９１】
上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０へ向かう球により目隠しの効果が生じる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、他の入賞口６３，６４，６５，１４０に入球した球を排出するための排出経路がスライド変位部材３７０の前側に配置され（例えば、手前側において交差するように配置され）、その排出経路および排出経路に配置される球によりスライド変位部材３７０が目隠しされるようにしても良い。
【１５９２】
上記第１実施形態では、特定入賞口６５ａに入球した球は、専ら第１流路構成部３３４を通り第２流路構成部３３５側（手前側）に流れてくる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特定入賞口６５ａの下流側に球を振り分けるシーソー状の振分機構が配設され、その振分機構により第２流路構成部３３５側に流れる球が選別されることで、一部の球が第２流路構成部３３５側に流れるようにしても良い。

【１５９３】
振分機構は、球の自重で変位動作するものでも良いし、駆動装置で開閉板６５ｂの開閉から一定動作するよう駆動されても良いし、パチンコ機の電源オンから一定のパターンで駆動されるように制御しても良い。
【１５９４】
駆動制御する場合は、例えば、入球の種類が変化する場合において第２流路構成部３３５側に球が流れるように制御しても良い。例えば、特定入賞口６５ａへの入球において、カウント数（１０個／ラウンド）を超える入球（超過入賞）があった場合に、第２流路構成部３３５側に球が流れるように構成しても良い。この場合、第２流路構成部３３５側を流下する球の個数と、超過賞球の払い出し個数とを照合でき、得られる追加利益を遊技者が早期に把握することができる。この場合において、スライド変位部材３７０及びその下流の構成は維持しても良いし、省略しても良い。
【１５９５】
また、例えば、第１入賞口６４に入球した球が振分装置３００を流下するような構成においては、特別図柄１の保留個数が４個（満タン）の場合に入球があったら、その球は第２流路構成部３３５側に流すように構成しても良い。この場合、第２流路構成部３３５側を流れる球を視認することで、特別図柄１の保留個数が満タンであることを遊技者に気付かせることができる。この場合において、スライド変位部材３７０及びその下流の構成は維持しても良いし、省略しても良い。
【１５９６】
球の自重で変位動作する場合は、球が到達する度に所定動作を繰り返すようにしても良いし、到達する球の個数によって異なる動作をするように構成しても良い。例えば、１個の球が特定入賞口６５ａに入球した場合には第２流路構成部３３５側へは流れず、２個以上の球がまとまって特定入賞口６５ａに入球した場合には第２流路構成部３３５側へ球が流れるようにしても良い。また、逆でも良い。
【１５９７】
また、これらの動作態様は、特定入賞口６５ａの左右に一対で配設される検出センサＳＥ１の下流でいずれも同じでも良いし、左右で異なるように構成しても良い。
【１５９８】
ここで、特定入賞口６５ａからスライド変位部材３７０までの球の流下時間が長い場合、球排出時間が長いことにより遊技が間延びする可能性がある。そのため、例えば、上述の振分機構を利用して、特定入賞口６５ａに入球した何球目までかの球を第２流路構成部３３５側へ流下させ、それ以降の球については第２流路構成部３３５を経ずに排出するように構成しても良い。これにより、カウント数目の球が流路構成部３３４～３３６を流下しきるのを待つ必要が無くなるので、ラウンド間長さを短く設定することができる。
【１５９９】
上記第１実施形態では、第３図柄表示装置８１の下側において振分装置３００が配置され、遊技領域の下端部付近で球を手前側に流す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特定入賞口６５ａが第３図柄表示装置８１の下縁よりも上側に配置され、振分装置３００の流路構成部３３４～３３６が、第３図柄表示装置８１に近接配置または正面視で表示領域の手前側に配置されるよう構成しても良い。
【１６００】
この場合、振分装置３００を流下する球を視認する視線を第３図柄表示装置８１の表示領域側を向く視線にすることができる。この場合、振分装置３００での球の流下により遊技者が得られる利益の大小と、液晶表示での報知の内容とを対応付けることで、遊技者は表示を確認することで大小いずれの利益を獲得できたのかを容易に把握することができる。
【１６０１】
また、内レール６１を転動する球が、第３流路構成部３３６を転動する球を基準として、正面視で下側にずれた位置で視認される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるも

のではない。例えば、内レール６１を転動する球が第３流路構成部３３６を転動する球を基準として、正面視で上下に位置ずれせず、重なって視認され得るような配置関係で構成しても良い。この場合、振分装置３００に入球した球のみでなく、内レール６１を転動する球を第３流路構成部３３６を流下する球の目隠しとして機能させることができる。

【１６０２】

上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０の作動パターンＹとして、特定入賞口６５ａに入球した球が到達し得ない時間にスライド変位部材３７０を前側位置に切り替える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板６５ｂの開放タイミングから、１．２秒経過後にスライド変位部材３７０が前側位置に切り替えられるように制御しても良い。

【１６０３】

この場合、１．２秒が経過する前にスライド変位部材３７０に到達していた前流れ球については、確変検出センサＳＥ１１の貫通孔に入球させることができる。一方、その前流れ球を追うように流れ、１．２秒の経過後にスライド変位部材３７０に到達した後追い球は、通常検出センサＳＥ１２の貫通孔に入球することになる。

【１６０４】

ここで、後追い球が、前流れ球の目隠しとして機能する位置関係であった場合、遊技者は、前流れ球の流れが確変検出センサＳＥ１１へ向けて（下方へ）切り替わるタイミングを、後追い球に隠されることで、視認することができない。その上、後追い球は通常検出センサＳＥ１２に入球するので、遊技者は、球が確変検出センサＳＥ１１に入球していないと思い込むと考えられる。

【１６０５】

このように、あたかも確変検出センサＳＥ１１の貫通孔に球が入球していないように見せることができるので、時短状態と確変状態との表示演出を同様にして遊技者の期待感を維持させるような遊技機において、その表示演出の演出効果を向上することができる。

【１６０６】

上記第１実施形態では、左右内突設部３１８に衝突した球は、その衝突による負荷だけでは通常検出センサＳＥ１２側には流れない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右内突設部３１８に案内されるまでの球の速度や、回転が、複数種類で構成可能となるように左右内突設部３１８の上流側における流路を構成し（例えば、クルーンを配設したり、経路幅を広くしたりすることで球の流下方向の自由度を増加させ）、球の速度や、回転の違いによって、左右内突設部３１８との衝突による負荷だけで通常検出センサＳＥ１２に案内され得るように構成しても良い。

【１６０７】

上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０と、各突設部３１７～３１９とが別体として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各突設部３１７～３１９の少なくとも一つが、スライド変位部材３７０に一体的に形成されても良い。即ち、スライド変位部材３７０の上突設部３７６から各突設部３１７～３１９の少なくとも一つが突設されるようにしても良い。

【１６０８】

上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０の動作タイミングとして、球で隠される可能性を考慮した作動パターンＹについて説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球で隠されるタイミングで発光手段３５１のＬＥＤを発光させる制御を織り交ぜても良い。

【１６０９】

上記第１実施形態では、案内長孔６１６の形状により軸線Ｏ１の変位抵抗を変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内長孔６１６の幅長さを変えて隙間の外相を形成することで変位抵抗を変えても良いし、磁力やコイルスプリングの付勢力を利用して変位抵抗を変化させても良い。

【１６１０】

上記第１実施形態では、案内長孔６１６の形状を途中位置で屈曲する形状で構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、複数回屈曲する形状としても良い。この場合、軸線Ｏ１の上下方向変位の抵抗が増大する位置を複数位置で形成することができる。

【１６１１】

また、案内長孔６１６の形状を、回動部材６２０の回動中における角度θの変化量の大小を変化させる目的から設計しても良い。例えば、回動部材６２０の回動中における角度θの大きさが維持できる範囲を部分的に形成できるように被支持部材６４０を案内可能な形状で案内長孔６１６を形成しても良い。

【１６１２】

上記第１実施形態では、案内長孔６１６が固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、軸線Ｏ１が移動可能な案内長孔６１６が複数形成され、所定の切替手段（例えば、他の駆動装置や、回動部材６２０に当接して切り替えられるボタン式の切替装置）によって軸線Ｏ１が案内される案内長孔６１６を切り替えられるように構成しても良いし、案内長孔６１６を形状変化可能に構成しても良い。

【１６１３】

上記第１実施形態では、第２装飾回転部材６６０が第３図柄表示装置８１の右側に配置された状態で第１演出面６６１ａを前斜め左側へ向ける構成について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置８１の左側に配置された状態で演出面を前斜め右側へ向けるように構成しても良いし、第３図柄表示装置８１の下側（上側）に配置される場合に演出面を前斜め上側（下側）へ向けるように構成しても良い。

【１６１４】

上記第１実施形態では、回動部材６２０を変位の基端側に配置するよう構成したが、必ずしもこれに限られるものではなく、直動変位する部材を変位の基端側に配置しても良い。一方で、直動の部材ではなく回動部材６２０を利用していることは、第２装飾回転部材６６０及び張出装飾部６５２ｂの回転角度を確保することに好適に機能する。

【１６１５】

例えば、横スライドする部材を被支持部材６４０の主動側に固定する場合、第２装飾回転部材６６０及び張出装飾部６５２ｂの回転角度に影響する角度は、水平より上側の角度（角度ａ１等）に限定される。これに対し、回動部材６２０を利用する場合であれば、水平より上側の角度だけでなく、下側の角度（角度ｂ１等）をも利用することができる。なお、この好適な効果に関わらず、被支持部材６４０の主動側に直動スライドする部材を連結するようにしても良い。

【１６１６】

上記第１実施形態では、第２装飾回転部材６６０が直方体で形成され、直角に交差する３側面に装飾が施される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２装飾回転部材６６０が断面五角形で形成され、各側面が前側を向く姿勢で停止制御可能に構成されても良い。

【１６１７】

上記第１実施形態では、装飾固定部材６７０は固定の装飾部材としたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、液晶表示装置が配設されても良い。この場合、第１動作ユニット６００や第２動作ユニット７００と一体視させ易い表示を容易に切り替えることができる。

【１６１８】

上記第１実施形態では、回動部材６２０の回転軸と、第２装飾回転部材６６０とが直角に交差し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２装飾回転部材６６０の回転軸が前後方向の成分を軸として（斜めな回転軸として）構成されても良い。

【１６１９】

上記第１実施形態では、コイルスプリングＣＳ２の付勢力の設定から、第２動作ユニッ

ト７００を中間演出状態で維持し易くなるように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回動アーム部材７２０の長孔部７２３付近に磁石を配設し、この磁石が右側前板部材７１０に配設される磁石との間で吸着力を生じさせるよう構成し、この吸着力が第２動作ユニット７００の中間演出状態において生じ易くなるようにしても良い。

【１６２０】

また、例えば、傾斜部７５１，７６２を直線的に形成するのではなく、波形状や鋸歯形状など屈曲した形状から形成しても良い。また、コイルスプリングＣＳ２を利用する場合についても、コイルスプリングＣＳ２が圧縮される場合にのみ付勢力が生じるものに限らず、コイルスプリングＣＳ２の伸長変位に対する付勢力が生じるよう構成しても良い。

【１６２１】

上記第１実施形態では、磁石Ｍｇの吸着力を超えるまでは傘歯部７８３ｃと傘歯部材７８５ｃとが弾性変形することで軸回転部材７８５の姿勢が維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ギアの弾性変形ではなく、回転する軸棒と、その軸棒を支持する支持筒との間の摺動摩擦に許容値を設けることで構成しても良い。

【１６２２】

上記第１実施形態では、覆設部材７８７が下からせり上がり、遊技領域の後端部から前側に入り込む場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下降変位によって前側に張り出す態様でも良い。この場合において、センターフレーム８６の上縁を下から前方へ越える態様でも良いし、遊技領域の上方（例えば、正面枠１４の上方）から前側に張り出す態様でも良い。

【１６２３】

上記第１実施形態では、覆設部材７８７の回転が逆方向となることで副装飾面７８７ａ２，７８７ｂ２が揃って視認されないことで識別力を低下させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、副装飾面７８７ａ２，７８７ｂ２を正面側に向けながら回転する態様ではなく、左右外側に向けながら回転する態様としても良い。また、同方向の回転であっても、回転角度をずらして回転させるように構成しても良い。

【１６２４】

上記第１実施形態では、第２動作ユニット７００及び第３動作ユニット８００で共通して、リンク機構（中間腕部材７８３、中間腕部材８５０）の回転角度を利用して軸回転部材７８５や回転部材８３４を回転（反転）させるように構成されるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転部材８３４を案内する金属棒８３２に一筆書き状に溝が掘られ、その溝に回転部材８３４から突設される突片が差し込まれるような構成では、溝の設計次第で、回転部材８３４の回転タイミングを規定することができる。

【１６２５】

上記第１実施形態では、検出センサ８１３に被検出部８４４が配置された状態から、検出センサ８１３の出力が切り替わることで切替回転動作から一体回転動作に切り替わったと判定するように制御する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサ８１３に被検出部８４４が配置されていない状態で駆動モータ８６１の駆動方向を反転した後、被検出部８４４が検出センサ８１３に進入したことを検出することで、切替回転動作から一体回転動作に切り替わったと判定しても良い。

【１６２６】

上記第１実施形態では、第１装飾部材８７０の構成と、第２装飾部材８８０の構成とが所々で異なるように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、磁石Ｍｇ２が両装飾部材８７０，８８０に配設されるようにしても良いし、両装飾部材８７０，８８０に鍍金処理がされるようにしても良い。

【１６２７】

上記第１実施形態では、トルクリミッタ８６６を配設することで切替回転動作と一体回転動作とを明確に分ける場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例え

ば、粘性抵抗を生じるオイルダンパを設けるようにしても良い。なお、オイルダンパの場合、動作態様の切り替えによらず、常時抵抗が生じ続けるので、トルクリミッタの方が、一体回転動作に動作態様が切り替えられた後の回転方向の変位抵抗を低減することができ、一体回転動作に切り替えられた後の高速回転を実現し易い。

【１６２８】

上記第１実施形態では、光ＬＤ１が鍍金部８７１ａで正面側に反射される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、金属棒８３２で光を反射させても良い。一体回転動作中は、直動部材８３３が金属棒８３２の基端側（円の内径側）に配置されることで金属棒８３２が直動部材８３３に隠されるが、切替回転動作において直動部材８３３が金属棒８３２の先端側（円の外径側）に配置される場合には、金属棒８３２の基端側（円の内径側）が露出することで、光ＬＤ１を反射させることが可能である。

【１６２９】

上記第１実施形態では、第３流路構成部３３６の下底面が左右内側に下降傾斜する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１流路構成部３３４の転動面（底面）が左右方向に沿って非傾斜（水平面と平行）となるように構成しても良いし、左右内側に下降傾斜するように構成しても良い。前者の方が、後者に比較して、第２流路構成部３３５への球の勢いを低減することができる。

【１６３０】

また、例えば、第２流路構成部３３５の転動面（底面）が前後方向に沿って非傾斜（水平面と平行）となるように構成しても良いし、後方へ向かうにつれて下降傾斜するように構成しても良い。前者の方が、後者に比較して、第３流路構成部３３６への球の勢いを低減することができる。

【１６３１】

また、第３流路構成部３３６について、転動面（底面）が左右方向内側に下降傾斜する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３流路構成部３３６の転動面（底面）が左右方向に沿って非傾斜（水平面と平行）となるように構成しても良い。この場合、球が仕切り板部３３８側に付勢される度合いが下がるので、球との衝突や擦れによる仕切り板部３３８の損傷の度合いを低く維持することができる。

【１６３２】

上記第１実施形態では、外側発光手段３５１ｄの光軸が、分岐箇所を通る球の軌跡の外側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、外側発光手段３５１ｄの光軸が分岐箇所を通る球の軌跡の内側を通るように構成（配置位置を下げて構成）しても良い。この場合、外側発光手段３５１ｄを点灯している時に、分岐箇所を通る球が外側発光手段３５１ｄの光軸と重なることで、光を背面側に反射するように構成することができるので、光が光拡散加工面３３３ｂに到達しない状態（暗い状態）とすることができる。

【１６３３】

即ち、外側発光手段３５１ｄの点灯は継続したままで、分岐箇所での球の流下態様と、光拡散加工面３３３ｂ（及び光拡散加工面３３３ｂから拡散される光を受けて照らされる光拡散加工面３１４ｃ，３４０）の明暗とを関連付けることができる。各光拡散加工面３１４ｃ，３３３ｂ，３４０は、球よりも遊技者目線での面積（投影される面積）が大きいので、分岐箇所での球の流下態様について遊技者に容易に把握させることができる。

【１６３４】

上記第１実施形態では、発光手段３５１を点灯制御するタイミングとして、大当たり遊技中の説明をしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞口６３，６４，１４０等への入賞が検出されたことに起因して発光制御するようにしても良いし、枠ボタン２２の入力操作があったことに起因して発光制御するようにしても良いし、規定個数（大当たり遊技のラウンド遊技の終了を規定する入賞個数、入賞口６４，１４０の入球に基づく変動の最大保留回数）を超える入賞が生じたことに起因して発光制御するようにしても良い。

【１６３５】
上記第１実施形態では、スライド変位部材３７０の動作が不良である場合には、中部材３３０と下部材３８０との組み付け位置が不良となっていることから、スライド変位部材３７０の動作を確認することで、中部材３３０と下部材３８０との組み付けの良し悪しを製造段階で判定することができる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１６３６】
例えば、スライド変位部材３７０の位置を検出する検出センサを備えるようにして、稼働時におけるスライド変位部材３７０の動作を検出するようにしても良い。この場合、製造段階では現れなかったものの、繰り返しの稼働や、何らかの外力の影響により、中部材３３０と下部材３８０との位置関係がずれた場合に、そのずれの発生をスライド変位部材３７０の動作不良により判定することができる。
【１６３７】
上記第１実施形態では、分岐箇所ＢＰ１において球の流下方向を切り替えるスライド変位部材３７０の変位方向を前後方向の直動変位としたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作（例えば、ルーレット形式）としても良いし、球の流下を不規則にする形状部（例えば、漏斗状のクルーン）を配設し球が複数の方向に流下し得るようにしても良い。
【１６３８】
上記第１実施形態では、振分装置３００を、球が、確変検出センサＳＥ１１と通常検出センサＳＥ１２とのいずれかを通過するかを切り替えるための装置として採用したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、始動入賞口（入賞口６４，１４０）へ球を案内するための装置として採用しても良いし、特定入賞口６５ａへ球を案内する装置として採用しても良いし、その他の入賞口または入賞領域へ球を案内する装置として採用しても良い。
【１６３９】
上記第１実施形態では、振分装置３００が遊技領域の下隅部に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分装置３００は、遊技領域の上隅部（例えば、センターフレーム８６の上方）に配置されても良いし、左右隅部（センターフレーム８６の左右縁部よりも左右外側）に配置されても良いし、遊技領域の中央側部に配置されても良い。例えば、遊技領域の上隅部に配置される場合、振分装置３００を見る遊技者の目線は水平面に対して斜め上方向に傾斜するので、正面側へ向けて下降傾斜する流路部分において、下流側の球が上流側の球を隠すよう構成することができる。
【１６４０】
また、流路構成部３３４～３３６の構造が前後逆の傾斜となるように構成し、確変検出センサＳＥ１１，通常検出センサＳＥ１２を被固定部材１６１付近に配設するように構成しても良い。
【１６４１】
上記第１実施形態では、窓部１６２ｄの形状を、正面視における流路構成部３３５，３３６の形状と、シール部材３１３の配置と、から設計する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者目線（斜め下方向視）でスライド変位部材３７０（だけ）を視認可能となる形状でも良いし、スライド変位部材３７０の視認性が低下するような形状でも良い。また、スライド変位部材３７０の前側位置または後側位置の一方では視認可能とされ、他方では視認不能となる形状でも良い。
【１６４２】
また、第１実施形態では、流路構成部３３４～３３６を左右一対で構成し、合流しないようにすることで、一つの流路に入球する球の個数を少なくでき（入球を分散させることができ）、球詰まりを回避し易くすることができる作用を生じさせながら、それぞれの流路を通過した球のいずれの経路もスライド変位部材３７０で切り替えられるようにしている。

【１６４３】
この点、窓部１６２ｄの形状を、スライド変位部材３７０の左右一対の構成（例えば、球案内部３７１ｂ、上突設部３７６）の内、片方のみが視認できてもう片方は視認できなくなるような形状でも良い。この場合、視認できなくなっている側での球の流下経路を遊技者に予想させることができるので、遊技者の興趣の向上を図ることができる。
【１６４４】
上記第１実施形態では、球案内部３７１ｂに球が乗り得る状態からのスライド変位部材３７０の変位方向を後ろ方向（第３流路構成部３３６を流下する球の進行方向の順方向）として、摺動により球の前転方向の回転を抑制し、球の落下直前の状態における回転量を抑えて、球が一時停止しているように遊技者に見せることができる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１６４５】
例えば、球案内部３７１ｂに球が乗り得る状態からのスライド変位部材３７０の変位方向を前方向（第３流路構成部３３６を流下する球の進行方向の逆方向）として構成しても良い。
【１６４６】
即ち、球案内部３７１ｂを前方向に変位させて、球案内部３７１ｂが第３流路構成部３３６の下側に進入させることで、確変検出センサＳＥ１１を開放可能に構成する。上突設部３７６については、球案内部３７１ｂと別体で構成し、球案内部３７１ｂに球が乗り得る状態では分岐箇所ＢＰ１側に張り出すように配置する。球案内部３７１ｂに球が乗らない状態へ球案内部３７１ｂが変位する場合には、上突設部３７６が球案内部３７１ｂの変位と同じタイミングで前後逆方向に変位して、確変検出センサＳＥ１１への球の通路を確保するようにすれば良い。
【１６４７】
この場合、球案内部３７１ｂのスライド変位時の球との摺動により、球の前転方向の回転を増速することができるので、球の落下直前の状態における回転量を増大させて、球が即座に落下（スムーズに落下）したように遊技者に見せることができる。
【１６４８】
上記第１実施形態では、回動部材６２０の制御は、駆動モータ６３１の通電切断後に回動部材６２０に与えられる慣性負荷を考慮して、検出センサＫＳ１の検出溝に延設部６３４ｂが配置されたことをもって駆動モータ６３１の通電を切断する制御態様としていたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＫＳ１の検出溝に延設部６３４ｂが配置されたことを検出センサＫＳ１により検出したら、駆動モータ６３１の駆動電力を落として、短時間だけ弱めに回転させてから停止させるようにしても良い。これにより、回動部材６２０を変位終端位置（演出待機状態の位置）まで確実に到達させることができる。
【１６４９】
上記第１実施形態では、第２動作ユニット７００について、前上傾斜部７１４，７５１や受傾斜部７６２の溝を、真っすぐな傾斜溝から構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下端側で前側に湾曲するような、部分的なカーブを有する溝とすることで、演出装置７８０の変位を、上下スライド変位と、前後スライド変位と、前後方向の姿勢変位とを合わせた変位態様とすることができる。
【１６５０】
なお、前上傾斜部７１４，７５１や受傾斜部７６２の溝の形状としては、種々の態様が例示される。例えば、左右方向視でくの字形状（又は逆くの字形状）としても良いし、Ｓ字に湾曲する形状としても良い。
【１６５１】
上記第１実施形態では、第２動作ユニット７００の反転動作について、磁力により反転動作の開始タイミングを遅らせることで、部材同士（例えば、本体部材７７１と覆設部材７８７、駆動モータ７８２と覆設部材７８７）の衝突を避けるように変位させる場合につ

いて説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１６５２】
例えば、中間腕部材７８３の傘歯部７８３ｃと軸回転部材７８５の傘歯部材７８５ｃとのギア数の設定により、部材同士の衝突を避ける設計手法でも良い。
【１６５３】
上記第１実施形態では、第２動作ユニット７００では、上端位置としての張出状態で回動アーム部材７２０の回動先端が演出装置７８０の左右中央と一致する左右位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回動アーム部材７２０の回動先端が演出装置７８０の左右中央よりも右寄りに配置されることで、昇降板部材７４０の左側を支持する金属棒７０２と、昇降板部材７４０の右側を支持する回動アーム部材７２０との支持位置間隔を長く確保することができる。これにより、昇降板部材７４０を安定して支持することができる。
【１６５４】
上記第３動作ユニット８００では、膨出部８２４ａは、装飾部材８７０，８８０が個別合体状態か、一連合体状態かに関わらず、形状不変で遊技者に視認される部分として構成し、個別合体状態も、一連合体状態も、膨出部８２４ａを一部（中央部）として遊技者に視認させる状態としたことで、膨出部８２４ａ、第１覆設部８７５及び第２覆設部８８５を互いに違和感の抑えた形状となるように設計する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１６５５】
例えば、膨出部８２４ａの正面に表示部が配設される位置関係で表示装置（セグ表示装置や、液晶表示装置）を配設しても良い。この場合、内側発光部８２３ａからの光の照射態様（明暗や色）の変化で膨出部８２４ａの視認性を変化させる場合と異なり、膨出部８２４ａで視認される対象を表示部の表示態様を切り替えることで変化させることができるので、演出自由度を向上することができる。
【１６５６】
また、例えば、第１装飾部材８７０又は第２装飾部材８８０のいずれか一方について、覆設部８７５，８８５の形状を、合体状態における円形状の中心側に延設するように設計変更し、その延設した部分によって膨出部８２４ａを覆うように構成しても良い。この場合、個別合体状態または一連合体状態のいずれか一方において、膨出部８２４ａが遊技者に視認されないように隠すことができるので、膨出部８２４ａ、第１覆設部８７５及び第２覆設部８８５の設計自由度の制限の程度を下げることができる。
【１６５７】
上記第１実施形態では、第３動作ユニット８００について複数の装飾部材８７０，８８０が磁力で吸着する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹凸係合による負荷により合体状態を維持するものでも良いし、バネ部材による付勢力で合体状態を維持するように構成しても良い。
【１６５８】
上記第１実施形態では、第３動作ユニット８００の磁石Ｍｇ２の吸着力がトルクリミッタ８６６の抵抗力よりも小さくなるように設定することにより切替回転動作を実現しているが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、勢いをつけるような動作態様を採用することで、磁石Ｍｇ２の吸着力がトルクリミッタ８６６の抵抗力以上または同等である場合にも、切替回転動作を実現することができる。
【１６５９】
勢いをつけるような動作態様としては、例えば、準備動作（予備動作）として、逆方向へ回転制御するようにしても良い。この場合、装飾部材８７０，８８０の回転変位に反動をつけることができると共に、中間腕部材８５０を合体状態における配置から径方向外方へ放る方向の負荷を生じさせることができる。これにより、磁力による吸着を解除し易くすることができる。
【１６６０】

上記第１実施形態では、第３動作ユニット８００の切替回転動作時のぐらつき抑制のための工夫として、装飾部材８７０，８８０が反転動作の前に径方向変位が生じるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、反転動作の回転軸としての金属棒８３２が配置される平面上に磁力の作用線が書けるように磁石Ｍｇ２を配設するように構成する場合、合体状態からの装飾部材８７０，８８０の径方向変位の前に反転動作が生じたとしても、複数（５個）の装飾部材８７０，８８０間で生じる磁力は同一平面上で生じるので、切替回転動作時に第３動作ユニット８００に生じるぐらつきを抑制することができる。

【１６６１】

上記第１実施形態では、切替回転動作は、装飾部材８７０，８８０が１８０度反転動作する態様で構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１２０度の反転動作で再び合体するように構成しても良い。この場合、切替回転動作の前後において、装飾部材８７０，８８０の正面視で視認される側を同じとしながら、覆設部８７５，８８５の視認される角度を異ならせる（例えば、動作前は右向き６０度、動作後は左向き６０度）とする動作演出を実行することができる。

【１６６２】

また、複数の中間腕部材８５０の構造について、例えば、長さを非共通に構成したり、傘歯部８５４ｃの形成範囲や形状を非共通に構成したりすることで、切替回転動作において、１８０度の反転動作で合体状態を再構成する装飾部材８７０，８８０と、１２０度の反転動作で合体状態を再構成する装飾部材８７０，８８０とを、共存させるように構成しても良い。例えば、５個の装飾部材８７０，８８０の内、一個の装飾部材８７０，８８０は切替回転動作で１２０度反転するように構成し、その他（四個）の装飾部材８７０，８８０は切替回転動作で１８０度反転するように構成しても良い。

【１６６３】

なお、切替回転動作における反転動作の角度は任意に設定可能である。上述した１８０度や１２０度でも良いし、０度でも、３６０でも、０度から３６０度の任意の角度でも設定可能である。

【１６６４】

上記第１実施形態では、トルクリミッタ８６６が、左右一対で、外側回転部材８４０の回転軸よりも上側で、左右非対称位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右対称位置に配置するようにしても良しい、外側回転部材８４０の左側、右側または下側に一対のトルクリミッタ８６６の双方を配置するようにしても良いし、外側回転部材８４０の回転軸を挟んで対向する側（正反対の側）に配置されるようにしても良い。

【１６６５】

上記第１実施形態では、複数（第１実施形態では、５個）の中間腕部材８５０が共通の形状で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、金属棒８３２に沿ってスライド変位する直動部材８３３が配設される被支持孔８５４ａや案内孔８５４ｂの形状を異ならせて、金属棒８３２に沿ったスライド変位の開始タイミングを直動部材８３３同士で差を生じさせるようにしても良い。

【１６６６】

例えば、被支持孔８５４ａを長孔または径の大きな孔として形成するよう設計変更し、対応して案内孔８５４ｂの形状を設計変更した中間腕部材８５０を混在させることで、切替回転動作における直動部材８３３の変位開始タイミングに差を設けることができる。

【１６６７】

これにより、直動部材８３３に連結される回転部材８３４に締結固定される装飾部材８７０，８８０の合体状態からの径方向外側への変位タイミングに、装飾部材８７０，８８０同士で差を持たせることができるので、磁石Ｍｇ２と金属ネジＮｊ２との吸着部分をせん断方向（径方向）で離すことができる。

【１６６８】

この場合、吸着を剥すための負荷を低減することができるので、駆動モータ８６２に要求される駆動力を低減することができると共に、第３動作ユニット８００の配置の安定を図ることができる。

【１６６９】

なお、磁石Ｍｇ２と金属ネジＮｊ２との吸着部分にせん断方向（径方向）の変位を生じさせる変位態様は、毎回生じるようにする必要は無い。例えば、せん断方向の変位を生じさせる変位態様が、合体状態から切替回転動作を実行する場合（往路）に生じる一方で、切替回転動作により合体状態に至る場合（復路）では生じないように構成しても良い。

【１６７０】

例えば、中間腕部材８５０の設計を、合体状態（回動先端が内側回転部材８３０の回転軸側に配置されている状態）から、装飾部材８７０，８８０が最外径位置に配置される状態へ中間腕部材８５０が回動する変位態様と、装飾部材８７０，８８０が最外径位置に配置される状態から、合体状態へ中間腕部ｉ８５０が回動する変位態様と、で態様を異ならせるように構成することで、磁石Ｍｇ２と金属ネジＮｊ２との吸着部分にせん断方向（径方向）の変位を生じさせる変位態様を選択的に生じさせることができる。

【１６７１】

上記第１実施形態では、各動作ユニット６００，７００，８００ごとに、検出センサＫＳ１，７１３，７７８ｄ，８１３の個数を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１個の検出センサＫＳ１ではなく、複数の検出センサＫＳ１が延設部６３４ｂを検出可能な位置に配置されるように構成しても良いし、３個の検出センサ７１３ではなく、２個以下または４個以上の検出センサ７１３を採用しても良い。なお、検出センサＫＳ１の配置としては、第１動作ユニット６００の中間演出状態または張出状態における延設部６３４ｂを検出可能な位置が例示される。

【１６７２】

また、例えば、２個の検出センサ７７８ｄの内の片方のみを採用しても良いし、１個の検出センサ８１３ではなく、複数の検出センサ８１３が被検出部８４４を検出可能な位置に配置されるように構成しても良い。検出センサ８１３の配置としては、例えば、５個の検出センサ８１３を円周上等間隔で配置することにより、第３動作ユニット８００の個別合体状態における第１装飾部材８７０の配置を５種類（回転方向で異なる５態様）で判定することができる。

【１６７３】

上記第２実施形態では、スライド部材２４２０の配置によらず球の転動が継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、前側配置ＦＰにおけるスライド部材２４２０の上側面と、上部材３１０の上面部３１４の下側面との間隔が、球の直径と同等の長さとなるように構成しても良い。この場合、スライド部材２４２０が前側配置ＦＰとなった場合には、球が、スライド部材２４２０の上側面と上面部３１４の下側面とに挟まれる状態を構成できるので、球の減速作用を強化し、球の滞留が生じ易くすることができる。

【１６７４】

上記第２実施形態では、第１流路構成部２３３４の内側に突条を形成するという記載はしなかったが、第１流路構成部２３３４に球を減速させるための突条を突設するように構成しても良い。この場合において、突条の配設高さを、前側位置ＦＰにおけるスライド部材２４２０に乗る球か、又は、スライド部材２４２０が後側配置ＢＰの際に底面２３３４ｃに乗る球か、の一方と当接し、他方とは当接しない高さとして設定しても良い。この場合、突条による減速作用を、スライド部材２４２０が前側配置ＦＰの状態か、後側配置ＢＰの状態か、の何れかで生じさせることができる。

【１６７５】

上記第３実施形態では、スライド変位部材３３７０は、薄板部３７１と上前突設部３３７６ｂ及び上横突設部３３７６ｃとが一体形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、薄板部３７１が前側位置、後側位置に配置されるタイミ

ングに合わせて、別部材としての上前突設部３３７６ｂ及び上横突設部３３７６ｃが上下方向に出没し、球を当接する状態と、当接しない状態とを構成するようにしても良い。

【１６７６】

なお、確変検出センサＳＥ１１及び通常検出センサＳＥ１２の前後配置は何ら限定されるものではないが、本実施形態のように、後側を確変検出センサＳＥ１１とする方が、確変検出センサＳＥ１１への誤入賞を回避し易くすることができる。

【１６７７】

上記第４実施形態では、スライド板４３７２及び上当接部４３７３や、スライド板４３７６及び上当接部４３７７が一体形成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これらが別部材として構成されると共に、タイミングを合わせて同期動作（連動）するように構成しても良い。なお、前後方向にスライド変位するよう構成しても良い。

【１６７８】

上記第４実施形態では、スライド板４３７２の上側面４３７２ａを球が後方に通過したタイミングでスライド部材４３７１，４３７５がスライド変位すると、上側面４３７６ａの傾斜によって球が前側に戻される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前開放状態におけるスライド板４３７２の後方に、追加の入球検出センサが配設されるように構成しても良い。

【１６７９】

この場合、後開放状態から前開放状態に状態変化する際にスライド板４３７２に乗っていた球だけが追加の入球検出センサに案内されるよう構成することができる。追加の入球検出センサに球が入球することにより遊技者が得られる利益（例えば、確変検出センサＳＥ１１への入球により得られる権利よりも大きいものとして、複数回の大当たりの獲得や、上位の確変状態への移行の権利の獲得等）が大きいほど、第３流路構成部３３６を通過した球への注目力を向上することができる。

【１６８０】

上記第６実施形態では、合流流路６３４１の下流側端部の上げ床部６３４２からの流路が左右方向に沿う流路として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上げ床部６３４２付近で、接続箇所ＪＰ１側が後方に向く湾曲流路として構成しても良い。これにより、上げ床部６３４２から接続箇所ＪＰ１に進入する球と、第２流路構成部３３５から接続箇所ＪＰ１に進入する球と、の双方共に後方への速度成分を有するようにでき、これらが衝突することによって、逆流が生じることを防止することができる。

【１６８１】

なお、接続箇所ＪＰ１は、振分装置６３００の左右中心位置に配置されるように構成しても良い。また、流路構成部３３４～３３６の構造が前後逆の傾斜となるように構成し、確変検出センサＳＥ１１，通常検出センサＳＥ１２を被固定部材１６１付近に配設するように構成しても良い。この場合、球が接続箇所ＪＰ１で集まってから手前側に流下する状況を生じ易くすることができ、振分装置６３００の内部を流下する球に対する注目力を向上することができる。

【１６８２】

上記第９実施形態では、案内長孔９６１６が分岐を有する長孔として構成され、軸線Ｏ１への負荷の与え方によって、軸線Ｏ１が案内長孔９６１６のどこを通るかを切り替えるように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１６８３】

例えば、案内長孔９６１６の形状を切り替えるよう構成しても良い。即ち、案内長孔９６１６において、常に長孔として構成されるのは直線状部６１６ａのみとされ、曲線状部６１６ｂと、角度維持部９６１６ｃ及び連結部９６１６ｄと、は、長孔として構成される場合と、その長孔が塞がれる場合とが、交互に切り替わるように構成しても良い。この場合、軸線Ｏ１が誤った経路で変位することを防止することができるので、被支持部材６４

０及び第２装飾回転部材６６０が意図しない態様で変位することを防止することができる。

【１６８４】

例えば、分岐を有する案内長孔９６１６において、いずれかの経路を塞ぐことで軸線Ｏ１の変位経路を制限する切替弁を備えるように構成しても良い。この場合、案内長孔９６１６の形状は固定としながら、切替弁により軸線Ｏ１の変位経路を制限することができるので、軸線Ｏ１が誤った経路で変位することを防止することができるので、被支持部材６４０及び第２装飾回転部材６６０が意図しない態様で変位することを防止することができる。

【１６８５】

＜第１制御例＞

以下、本発明の制御例について、添付図面を参照して説明する。まず、図１１８から図８７を参照し、第１制御例として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一制御例について説明する。図１１８は、第１制御例におけるパチンコ機１０の正面図であり、図１１９はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図１２０はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面視下領域に設けられた可変入賞装置６５の構造を模式的に示した模式図であり、図１２１はパチンコ機１０の後面図である。

【１６８６】

図１１８に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図１１８参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【１６８７】

内枠１２には、多数の釘や球が入球可能な入球口６３，６４，６４０等を有する遊技盤１３（図１１９参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、球を遊技盤１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニット１１２ａ（図１３７参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の正面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。尚、遊技盤１３に設けられた多数の入球口の内容については、図１１９を参照して後述する。

【１６８８】

内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１１８参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【１６８９】

正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。

【１６９０】

正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が正面側へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１１８参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図２１参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１

（図１１９参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１６９１】

正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図１１８参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【１６９２】

また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３正面の貼着スペースＫ１（図１１９参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。

【１６９３】

窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１６９４】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その中央部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【１６９５】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。つまり、本制御例では、球を遊技盤１３に形成された遊技領域へと発射させるための発射手段と、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に基づいて発射強度を可変させる発射強度可変手段と、を有し

ている。これにより、遊技者は、操作ハンドル５１を操作するだけで、発射手段を用いた球の発射行為と、球の発射強度を可変させる発射強度可変行為と、を実行することができる。よって、遊技盤１３に形成される遊技領域のうち、特定の遊技領域に向けて球を発射させる操作を片手で実行することができ、遊技者に過度な負担を強いること無く、遊技を実行させることができる。

【１６９６】

本制御例では、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に基づいて発射強度を可変させるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、遊技者が発射強度を選択可能な発射強度選択ボタンを設け、その発射強度選択ボタンの操作結果（選択結果）に対応する発射強度で発射手段が球を発射するように構成しても良い。

【１６９７】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。

【１６９８】

図１１９に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、可変入賞装置６５、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１１８参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、可変入賞装置６５、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１６９９】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１１８参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１１９を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【１７００】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１１８参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１７０１】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図１３７参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図１１９の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図１１９の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１７０２】

返しゴム６９の左上側には第１図柄表示装置３７が設けられている。この第１図柄表示装置３７は、透明の樹脂（例えば、ＡＢＳ）にて形成されている遊技盤１３の裏面（遊技領域を形成する面とは反対側の面）に覆われるように配設されており、発射された球が第１図柄表示装置３７に衝突しないように構成している。

【１７０３】

この第１図柄表示装置３７には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７が配設されている。第１図柄表示装置３７は、主制御装置１１０（図２０参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本制御例では、球が、第１入球口６４、或いは第２入球口６４０へ入球（入賞）した場合に第１図柄表示装置３７が作動し得るように構成されている。つまり、第１図柄表示装置３７は、第１入球口６４に球が入球した場合に実行される第１特別図柄抽選（特図１抽選）、及び、第２入球口６４０に球が入球した場合に実行される第２特別図柄抽選（特図２抽選）の抽選結果を示すための表示手段である。なお、本制御例では、特別図柄の種別を２種類（第１特別図柄、第２特別図柄）有するパチンコ機１０を用いているため、第１図柄表示装置３７にて２種類の特別図柄抽選（特図抽選）の結果が表示されるが、例えば、特別図柄の種別を１種類（第１特別図柄）のみ有するパチンコ機１０であれば、第１図柄表示装置３７に１種類の特別図柄に応じた表示領域を設ければ良い。

【１７０４】

また、第１図柄表示装置３７は、ＬＥＤにより、現在のパチンコ機１０の遊技状態（例えば、通常状態、時短状態、確変状態）が何れであるかを点灯状態により示したり、特別図柄（第１図柄）が変動中（抽選結果を示すための図柄の組み合わせを停止表示させるための動的表示中）であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が遊技者に有利な大当たりに対応した図柄か不利な大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。また、特別図柄の変動を一時的に停止（中断）させている状態であることも点灯状態にて示すことが可能に構成している。複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。なお、本制御例では、発光手段（７セグメント表示装置）の発光色の組み合わせにより各種遊技状態を報知するように構成しているが、遊技者が各種遊技状態を識別可能な構成であれば良く、例えば、発光手段が点灯している期間と消灯している期間との長さ（点滅態様）を可変させることにより各種遊技状態を報知するように構成しても良い。

【１７０５】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４、或いは第２入球口６４０への入球（入賞）があったことを契機として抽選（特別図柄の抽選）が行われる。そして、その特別図柄の抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行う。ここで、大当たりに当選したと判定されたことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技状態となる大当たり遊技が実行される。

【１７０６】

大当たり遊技が実行されると、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに球を容易に入賞させることが可能な開放状態となり、特定入賞口６５ａに球を入賞させることで多くの賞球を短期間で獲得可能な遊技が実行される。この大当たり遊技は、特別図柄の抽選結果が停止表示（確定表示）された後に（場合に）実行されるものであり、所定時間（例えば１秒）のオープニング期間（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに球を入球させ難い閉鎖状態が設定される期間）と、開放状態が設定されるラウンド遊技期間と、１のラウンド遊技期間が終了した後に、次のラウンド遊技が開始されるまでの所定期間（例えば、０．５秒）、閉鎖状態が設定されるインターバル期間と、最後のラウンド遊技期間が終了した後に、所定期間（例えば、２秒）の閉鎖状態が設定されるエンディング期間と、からなる大当たり遊技期間が設定される。

【１７０７】
このように、大当たり当選を示す特別図柄の抽選結果が停止表示（確定表示）された後に、オープニング期間が設定することにより、大当たり遊技中において特定入賞口６５ａが開放状態となるタイミングに合わせて球を任意の方向に向けて発射させる準備を行うことができるため、大当たり遊技を円滑に行わせることができる。また、このオープニング期間を、今回の大当たり遊技の遊技内容を遊技者に報知する期間として用いることができるため、分かり易い遊技を提供することができる。
【１７０８】
また、大当たり遊技の最終期間としてエンディング期間を設定することにより、最後のラウンド遊技が終了した直後から、新たな特別図柄の抽選が実行されることを抑制することができるため、大当たり遊技の終了後に実行される遊技に向けて、球を任意の方向に向けて発射させる準備を行うことができるため、遊技の切り替えを円滑に行わせることができる。
【１７０９】
詳細な説明は後述するが、本制御例では、複数種類の大当たり遊技を実行可能に構成しており、当選した大当たりの種別に応じて、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数（ラウンド数）と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態と、が異なるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、特別図柄の抽選による大当たり当選の有無だけでは無く、当選した大当たり種別や、当選時における遊技状態にも興味を持たせることができる。
【１７１０】
なお、特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技の各期間（オープニング期間、ラウンド期間、エンディング期間）の長さについても、大当たり当選した時点に設定されている遊技状態や、当選した大当たりの種別に応じて異なる長さを設定しても良く、例えば、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容として、大当たり当選時の遊技内容とは異なる遊技内容が設定される大当たりに当選した場合には、その大当たり遊技のエンディング期間（例えば、１０秒）が、他の大当たり遊技のエンディング期間（例えば、２秒）よりも長くなるように設定しておき、そのエンディング期間中に遊技者に対して大当たり遊技終了後に実行される遊技内容を事前に案内する演出を実行可能に構成すると良い。これにより、遊技者に対して分かり易い遊技を提供することができる。
【１７１１】
一方、大当たり当選時の遊技内容と、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容とが同一となる大当たりに当選した場合には、その大当たりのエンディング期間（例えば、１秒）を、他の大当たり遊技のエンディング期間（例えば、２秒）よりも短くなるように設定するように構成すると良い。これにより、遊技者に対して効率良く遊技を行わせることができる。
【１７１２】
また、大当たり当選時の遊技内容と、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容とを実際に判別する構成を用いること無く、例えば、当選した大当たりの種別と、大当たり当選した時点における遊技状態とに基づいて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を予め規定しておき、その規定内容に応じて、各大当たり遊技のエンディング期間を予め設定しておけば良い。
【１７１３】
具体的な説明は後述するが、本制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄の抽選で大当たり当選する確率が異なる２つの状態（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）と、後述する普通図柄の抽選で当たり当選する確率が異なる２つの状態（普通図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）と、を組み合わせ、３種類の遊技状態を設定可能に構成している。具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成している。特別図柄の抽選も、

普通図柄の抽選も、高確率状態である場合のほうが、低確率状態である場合よりも当たり当選し易くなるように構成しているため、本制御例におけるパチンコ機１０にて設定可能な複数の遊技状態のうち、確変状態が、それ以外の遊技状態よりも特別図柄抽選で大当たりに当選し易い遊技状態となり、確変状態と時短状態が、それ以外の遊技状態よりも普通図柄抽選で当たりに当選し易い遊技状態となる。

【１７１４】

また、普通図柄抽選で当たり当選した場合には、特別図柄抽選が実行され易くなる当たり遊技（普図当たり遊技）が実行されるように構成している。具体的には、第２入球口６４０に付設されている電動役物６４０ａが開放し、第２入球口６４０に球を入球させ易い状態が提供される普図当たり遊技が実行されるように構成している。よって、確変状態と時短状態、即ち、普通図柄の高確率状態が設定されている場合は、それ以外の遊技状態よりも、特別図柄抽選を実行し易い遊技状態となる。さらに、普通図柄の高確率状態が設定されている場合には、特別図柄抽選が実行されてから、その抽選結果が停止表示されるまでの期間（動的表示期間）として、普通図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、短い期間が設定され易くなるように構成している。よって、変状態と時短状態、即ち、普通図柄の高確率状態が設定されている場合は、それ以外の遊技状態よりも、特別図柄抽選を短期間で実行させることができるため、新たな特別図柄抽選を実行し易い遊技状態となる。

【１７１５】

詳細な説明は後述するが、本制御例では、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置６５内に、特定領域を設けており、大当たり遊技中に球が特定領域を通過した場合に限り、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定可能に構成している。そして、当選した大当たり種別に応じて、大当たり遊技中に球が特定領域を通過し易い大当たり遊技（有利大当たり遊技）と、大当たり遊技中に球が特定領域を通過し難い大当たり遊技（不利大当たり遊技）と、を実行可能に構成している。以後、有利大当たり遊技、即ち、大当たり遊技中に球が特定領域を通過し易い大当たり遊技のことを確変大当たり遊技と称し、確変大当たり遊技が実行される大当たりのことを確変大当たりと称す。また、不利大当たり遊技、即ち、大当たり遊技中に球が特定領域を通過し難い大当たり遊技のことを通常大当たり遊技と称し、通常大当たり遊技が実行される大当たりのことを通常大当たりと称す。

【１７１６】

なお、本制御例では、特別図柄の抽選で大当たりに当選しなかった場合は外れと判定され、遊技者に特典が付与されないように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり抽選の抽選結果として上述した大当たりでは無い外れと判定された場合の一部において、上述した大当たりよりも遊技者に付与される特典が少ない（例えば、１ラウンドのみ可変入賞装置６５を開放させる特典）小当たり遊技が実行されるように構成しても良い。第１図柄表示装置３７には、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否か（小当たりであるか否か）が示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１７１７】

図１１９に戻り説明を続ける。遊技盤１３の表面に形成される遊技領域の左下方側には、球が入球することにより１０個の球が賞球として払い出される複数の左一般入球口６３ａが配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入球口６４、或いは第２入球口６４０への入球（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７にて実行される特別図柄の変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過をトリガとして普通図柄（第２図柄）を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設さ

れている。
【１７１８】
第３図柄表示装置８１は、１５インチサイズの液晶ディスプレイで構成されるものであり、後述する表示制御装置１１４によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列（Ｚ１～Ｚ３）が表示される（図２３０（ａ）参照）。第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される第３図柄（第１特別図柄（特図１）または第２特別図柄（特図２）の変動表示に対応して変動する装飾図柄）は、「１」から「９」の数字を模した識別情報が付された１０種類の主図柄によりそれぞれ構成されている。これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示（動的表示）されるようになっている。本制御例の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図２０参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７で行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７の表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。
【１７１９】
図１２２（ｂ）に示した通り、本制御例のパチンコ機１０では、主図柄ｓｚが数字を模した識別情報毎に異なる種類のキャラクタ（魚等）を用いて形成されている。このように、各識別情報に対応させたキャラクタを用いることで、遊技者に対して特別図柄の抽選結果を視覚的に報知することができるため分かり易い遊技を行わせることができる。また、本制御例のパチンコ機１０においては、後述する主制御装置１１０による抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う（例えば「７７７」）変動表示が行われ、その変動表示が終わった後に大当たり遊技が発生するよう構成されている。つまり、第３図柄は、主制御装置１１０による特別図柄の抽選結果を示すための図柄として第３図柄表示装置８１に表示されるものである。
【１７２０】
主表示領域Ｄｍは、上・中・下のそれぞれ３つの図柄列Ｚ１，Ｚ２，Ｚ３が表示される。各図柄列Ｚ１～Ｚ３には、上述した第３図柄が規定の順序で表示される。即ち、各図柄列Ｚ１～Ｚ３は、数字の昇順または降順に主図柄が配列され、図柄列Ｚ１～Ｚ３毎に周期性をもって左右方向へスクロールして変動表示が行われる。
【１７２１】
具体的には、上図柄列Ｚ１は右から左に向かって数字が昇順となるように図柄列が形成され、右から左へとスクロールして変動表示されるように構成されており、中図柄列Ｚ２と下図柄列Ｚ３は左から右に向かって数字が昇順となるように図柄列が形成され、右から左へとスクロールして変動表示されるように構成されている。さらに、各図柄列には、主図柄ｓｚの間に特別図柄の抽選結果を示さない副図柄（ブランク図柄）ｆｚも形成されている。図１２２（ｂ）では三角を模した図柄を用いてブランク図柄（副図柄）ｆｚを表示している。
【１７２２】
そして、図１２２（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍは、上下方向に形成される３つの有効ラインＬ１～Ｌ３、及び、斜め方向に形成される２つの有効ラインＬ４，Ｌ５を有しており、各図柄列Ｚ１～Ｚ３が停止表示された状態で、第３図柄（主図柄ｓｚ）が有効ライン上に大当たり図柄の組合せ（本制御例では、同一の主図柄の組合せ）で揃って停止されれば、大当たりとして大当たり動画が表示される。
【１７２３】
図１２２（ａ）に示した通り、本制御例では、各有効ライン（Ｌ１～Ｌ５）が、各図柄列Ｚ１～Ｚ３の図柄表示位置を含むように形成されているため、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに表示される各図柄列Ｚ１～Ｚ３の全てが停止表示されるまで、対応する特別図柄の抽選結果を分かり難くすることができる。よって、最後の図柄列（本制御例では、中図柄列Ｖ２）が停止表示されるまでの間、主表示領域Ｄｍにて実行される第３図柄の変動表示に興味を持たせることができる。

【１７２４】
なお、本制御例では、上述した３つの図柄列（Ｚ１～Ｚ３）のうち、特定の図柄列（図柄列Ｚ２）、即ち、複数の図柄列のうち変動表示が最後に停止表示される図柄列に対して、他の図柄列よりも主図柄の数が多くなるように構成している。具体的には、特定の数字（例えば、「４」の数字）が付された主図柄の数を、他の図柄列よりも多くしている。これにより、特定の数字を模した識別情報がリーチ状態となった場合には、他の識別情報でリーチ状態となった場合よりも、有効ライン上を通過する大当たり図柄（特定の数字を模した識別情報）の数を増やすことができるため、遊技者に対して大当たり当選の期待度が高いのではと視覚的に予測させることができる。
【１７２５】
なお、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動表示の態様は、上記のものに限定されることはなく任意であり、図柄列の数、図柄列における図柄の変動表示の方向、各図柄列の図柄数などは適宜変更可能である。また、第３図柄表示装置８１にて変動表示される図柄は上記に限られることはなく、例えば図形やキャラクタ等の画像と数字とを組み合わせた図柄を第３図柄として構成してもよい。さらに、第３図柄が変動表示される領域を可変させる構成にしてもよく、例えば、第３図柄表示装置８１の表示画面上で特定の演出が実行される場合は、第３図柄の変動表示領域を小さくしたり、変動表示領域を遊技者が視認し難い位置（例えば、表示画面の隅部）へと移動させたりすることで、第３図柄が変動しているか否かを遊技者が分かり難くするようにしてもよい。また、特別図柄が変動している期間中に、第３図柄の変動を一旦停止（仮停止）させ、再度変動させるように構成してもよい。
【１７２６】
さらに、本制御例では、第１特別図柄の変動に対応した第３図柄の表示態様と、第２特別図柄の変動に対応した第３図柄の表示態様とが同一（遊技者が識別困難な程度の相違も含む）となるように構成しているが、変動している特別図柄の種別に対応するように第３図柄の表示態様や表示領域を異ならせても良い。
【１７２７】
次に、第３図柄表示装置８１に実際に表示される内容について図１２２（ｂ）を参照して説明をする。図１２２（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける正面視左上には小表示領域Ｄｍ１が形成され、正面視右上には小表示領域Ｄｍ２が形成されている。この小表示領域Ｄｍ１は、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すための識別情報（第４図柄）が表示される領域であって、第１特別図柄（特図１）の抽選状況を示すための第４図柄（特図１第４図柄）、或いは、第２特別図柄（特図２）の抽選状況を示すための第４図柄（特図２第４図柄）が小表示領域Ｄｍ１に表示されるように構成している。
【１７２８】
また、小表示領域Ｄｍ２は、普通図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すための識別情報が表示される領域であって、普通図柄（普図）の抽選状況を示すための第４図柄（普図第４図柄）が小表示領域Ｄｍ１に表示されるように構成している。
【１７２９】
このように小表示領域Ｄｍ１，Ｄｍ２を設けることにより、特別図柄の抽選状況や普通図柄の抽選状況を遊技者に報知することができる。なお、詳細は後述するが、本制御例のパチンコ機１０では、第４図柄を、丸印とバツ印といった図形を模した表示態様で示しており、小表示領域Ｄｍ１，Ｄｍ２にて第４図柄を変動表示させることで（図１２２（ｂ）の小表示領域Ｄｍ１参照）、特別図柄が変動している状況を示し、小表示領域Ｄｍ１，Ｄｍ２にて第４図柄を停止表示させることで（図１２２（ｂ）の小表示領域Ｄｍ２参照）、特別図柄の抽選結果を示すように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第４図柄として数字を用いた表示態様や、複数の色を示す表示態様を用いて、数字や、色を可変させる表示態様によって特別図柄が変動していることを示し、特定の図柄や色を示す表示

態様を停止表示させることで、特別図柄の抽選結果を示すように構成しても良い。
【１７３０】
さらに、本制御例では、第４図柄を用いて、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄が抽選中（変動中）であるか否かのみを報知するように構成しても良い。また、図１２２（ｂ）に示した通り、本制御例では、特別図柄の抽選状況を示すための第４図柄が表示される第４図柄表示領域（小表示領域Ｄｍ１）を主表示領域Ｄｍの左上側に、普通図柄の抽選状況を示すための普図第４図柄が表示される普図第４図柄表示領域（小表示領域Ｄｍ２）を主表示領域Ｄｍの右上側に形成する例を示しているが、この第４図柄表示領域が形成される位置や、大きさを、主表示領域Ｄｍの中央部分で実行される変動演出の演出態様に応じて可変させるように構成しても良い。
【１７３１】
このように構成することで、第４図柄表示領域や普図第４図柄表示領域によって、変動演出が実行される領域が制限されてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。なお、この場合、第４図柄表示領域や普図第４図柄表示領域を第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍから削除し、可変表示装置ユニット８０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）を用いて第４図柄の変動表示を実行するように構成しても良い。
【１７３２】
図１２２（ａ）に示すように、主表示領域Ｄｍの下方には、副表示領域Ｄｓが形成される。この副表示領域Ｄｓには、獲得済みの特別図柄抽選の権利（保留記憶）の数に対応させた保留図柄が表示されるように構成している。上述した通り、本制御例のパチンコ機１０は、第１図柄表示装置３７において変動表示が行われている場合や、当たり遊技が実行されている場合、即ち、新たな特別図柄抽選を実行することができない状態で、球が第１入球口６４、或いは第２入球口６４０へ入球すると、その入球回数が各入球口に対して最大４回まで保留される。副表示領域Ｄｓに対して表示される保留図柄は、保留された入球回数と同一の個数が表示される。本実施形態では、第１入球口６４への球の入球に対して記憶される保留球数の最大値が４個、第２入球口６４０への球の入球に対して記憶される保留球数の最大値が４個に設定されているので、副表表示領域Ｄｓには、保留図柄が最大８個表示される。
【１７３３】
具体的には、図１２２（ｂ）に示した通り、副表示領域Ｄｓは、実行中領域Ｄｓ１ａと、待機中領域Ｄｓ１ｂに区画形成される。待機中領域Ｄｓ１ｂは、特別図柄の保留球数に対応させた数の保留図柄を表示するための領域であって、保留記憶可能な上限数（８個）に対応した８つの台座ｈｒ１～ｈｒ８が左から順に表示されている。そして、特別図柄の保留球を獲得した場合には、８つの台座ｈｒ１～ｈｒ８のうち、保留図柄が表示されていない最も若い番号の台座に対して保留図柄が表示される。
【１７３４】
図１２２（ｂ）に示した例では、第１特別図柄の保留球を４つ保留記憶している状態であって、待機中領域Ｄｓ１ｂには、第１特別図柄の保留球（特図１保留球）に対応した表示態様（白色の丸印）の保留図柄が４つ（ｈｚ１～ｈｚ４）、第１台座ｈｒ１～第４台座ｈｒ４に表示されている。
【１７３５】
実行中領域Ｄｓ１ａは、現在実行中の特別図柄変動に対応して表示されていた保留図柄がシフトして表示される表示領域であって、実行中台座ｈｒ０に、実行中保留図柄ｈｚ０が表示される。つまり、新たな特別図柄変動が開始される場合には、待機中領域Ｄｓ１ｂの台座ｈｒ１に表示されていた保留図柄ｈｚ１が、実行中領域Ｄｓ１ａの台座ｈｒ０へとシフトして表示される。このように構成することにより、例えば、待機中領域Ｄｓ１ｂに表示されている保留図柄に対して大当たり当選の期待度を示す予告演出（例えば、保留図柄の表示態様を可変させる演出）を実行した場合に、その予告演出が実行された保留図柄に対応した特別図柄変動が実行されていることを遊技者に容易に判別させることができる

。
【１７３６】
　また、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄を表示可能とすることで、保留図柄の表示態様を可変させる演出を、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄に対しても実行することができるため、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄が表示されない場合よりも長い間、保留図柄の標示態様が可変されることを期待させながら遊技を行わせることができる。
【１７３７】
　本制御例では、副表示領域Ｄｓの待機中領域Ｄｓ１ｂに表示される保留図柄の表示態様によって、表示されている保留図柄が第１特別図柄の保留球を示す保留図柄（特図１保留図柄）であるか、第２特別図柄の保留球を示す保留図柄（特図２保留図柄）であるかを遊技者が識別可能に構成しており、特図１保留図柄は白色の丸印（図１２２（ｂ）参照）で、特図２保留図柄は黒色の丸印（図１２４（ａ）参照）で表示される。これにより、遊技者に対して現在の保留球数を特別図柄の種別毎に把握させることができるため、保留図柄の表示内容に基づいて第１入球口６４へと球を入球させるための遊技を続行するか否かの判断を行わせ易くすることができる。
【１７３８】
　なお、図１２２（ｂ）に示した通り、本制御例では、各特別図柄に対応する保留球数の個数に対応する数の保留図柄を表示し、若い番号の台座（最も若い番号の台座は台座ｈｒ１）に表示されている保留図柄に対応する保留球を用いて特別図柄抽選を実行するように構成している。つまり、特別図柄抽選に用いられる順に保留図柄を表示するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、保留球を獲得した順に保留図柄を表示し、各保留図柄に対して特別図柄抽選に用いられる順番を示すための消化順情報を付すように構成しても良い。このように構成することで、どのタイミングで獲得した保留球がどの保留図柄に対応しているかを遊技者に分かり易く報知することができる。
【１７３９】
　また、本制御例では、図１２２（ｂ）に示した通り、最大で８個の保留図柄を横並びで表示可能に構成しているが、これに限ること無く、特図１保留図柄の表示領域と、特図２保留図柄の表示領域と、を区分けして表示するように構成しても良い。この場合、例えば、特図２保留を獲得し難い遊技状態（通常状態）が設定されている場合は、特図１保留図柄の表示領域を特図２保留図柄の表示領域よりも目立たせて表示し、特図２保留を獲得し易い遊技状態（確変状態、時短状態）が設定されている場合は、特図２保留図柄の表示領域を特図１保留図柄の表示領域よりも目立たせて表示するように構成しても良い。
【１７４０】
　なお、本第１０制御例では、図２を参照して説明をした通り、パチンコ機１０の遊技盤１３が左右対象に構成されており、右打ち遊技を行った場合と、左打ち遊技を行った場合とで、同様の遊技結果が付与されるように構成しているため、表示されることが無いが、例えば、設定されている遊技状態に応じて、左打ち遊技よりも右打ち遊技のほうが有利な遊技方法となる場合と、右打ち遊技よりも左打ち遊技のほうが有利な遊技方法となる場合とを設定可能にしたパチンコ機１０であれば、第３図柄表示装置８１の表示画面に、遊技者に対して球を発射させる方向（遊技方向）を案内するための案内表示態様が表示されるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者は案内表示領域に表示されている案内表示態様を視認するだけで、遊技盤のどの領域に向けて球を発射すれば良いのかを容易に把握することができるため、遊技者に分かり易い遊技機を提供することができる。
【１７４１】
　より詳細に説明をすると、案内表示領域として、遊技者に対して右打ち遊技を行わせることを案内するための「右打ち」の表示態様と、遊技者に対して左打ち遊技を行わせることを案内するための「左打ち」の表示態様と、が表示されるように構成すると良く、「右打ち」の表示態様は、右打ち遊技が遊技者にとって有利となる遊技状態、例えば、確変状

態、時短状態中及び、大当たり遊技中に表示され、「左打ち」の表示態様は、右打ち遊技が終了してから所定期間（例えば、１０秒間）表示されるように構成すれば良い。また、左打ち遊技が遊技者にとって有利となる遊技状態、即ち、通常状態中に、右打ち遊技が実行されていることを検知した場合にも、所定期間（例えば、１０秒間）「左打ち」の表示態様が表示されるように構成すると良い。また、上述した各制御例において説明をした第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種表示態様を適宜表示可能に構成しても良い。

【１７４２】

＜第１制御例の演出内容について＞

次に、図１２３～図１３１を参照して、本第１制御例のパチンコ機１０の第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種演出内容のうち、特徴的な演出内容について説明をする。まず、図１２３（ａ）を参照して、通常状態中におけるリーチ成立時の表示画面について説明をする。図１２３（ａ）は、通常時（通常状態）にてリーチ状態となった場合に表示される表示画面の一例を示した模式図である。本制御例では、変動表示される第３図柄が、上図柄列Ｚ１、下図柄列Ｚ２の順で停止表示され、有効ラインＬ１～Ｌ５（図１２２（ａ）参照）の何れかにて、大当たり当選を示す第３図柄の組合せの一部として上図柄列Ｚ１、下図柄列Ｚ２が停止表示された場合にリーチ状態となり、大当たり当選を示す第３図柄の組合せの一部として上図柄列Ｚ１、下図柄列Ｚ２が停止表示された有効ラインをリーチ有効ラインとして、中図柄列Ｚ２が変動表示されるように構成している。そして、リーチ状態となってからは、中図柄列Ｚ２が各識別情報（第３図柄）を遊技者が視認可能な低速度（主図柄（数字を模した第３図柄）が１つ移行するのに要する時間が約０．５秒の速度）で変動表示されるように構成している。

【１７４３】

上述した通り、本制御例では、中図柄列が主図柄を１０個（「１」～「３」，「５」～「９」の数字が付された主図柄が各１個、「４」の数字が付された主図柄が２個）有しているため、中図柄列Ｚ２が低速度で変動表示されている場合には、１周するまでに要する時間が５秒（０．５×１０）となる。そして、低速度で変動表示されている中図柄列Ｚ２が、そのまま停止表示される。或いは、特定の移行条件が成立したことに基づいて異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するように構成している。

【１７４４】

さらに、本制御例では、図１２３（ａ）に示した通り、どの第３図柄（図１２３（ａ）では、「９」を模した識別情報（カニを模した第３図柄））でリーチ状態となった場合であっても、リーチ中に変動表示される中図柄列Ｚ２（図１２２（ａ）参照）が数字の「１」を模した識別情報（タコを模した第３図柄）が最初に視認可能となるように低速変動表示が実行されるように構成している。

【１７４５】

加えて、本制御例では、リーチ状態となってからの中図柄列Ｚ２の変動態様に応じて、変動演出の演出態様が可変するように構成しており、例えば、リーチ状態となってから中図柄列Ｚ２が１周したタイミング（低速変動表示が実行されてから５秒経過後）や、２周したタイミング（低速変動表示が実行されてから１０秒経過後）に異なる演出態様（リーチ態様）へと可変し得るように構成している。よって、本制御例のように、リーチ状態となってから最初に視認可能となる中図柄列Ｚ２の識別情報を統一させることにより、遊技者に対して、どのタイミングで異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するのかを分かり易くすることができる。

【１７４６】

なお、本制御例では、異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するタイミングをリーチ状態となってから中図柄列Ｚ２が１周したタイミングや、２周したタイミングとしているがこれに限ること無く、例えば、リーチ状態となってから大当たりを示す組合せとなる識別情報（リーチ停止されている識別情報と同一の識別情報）がリーチ有効ラインを通過するタイミングや、大当たりを示す組合せとなる識別情報から一つずれた識別情報がリーチ

有効ラインを通過するタイミングにて異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するように構成してもよい。このように、リーチ停止されている識別情報の種別に対応した特定の識別情報がリーチ有効ラインを通過することに基づいて異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するように構成することで、遊技者に対して、大当たりとなる組合せで中図柄列Ｚ２が停止表示されるタイミングと、異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するタイミングとに関係性を持たせることができる。具体的には、リーチ状態となってから大当たりを示す組合せとなる識別情報（リーチ停止されている識別情報と同一の識別情報）がリーチ有効ラインを通過するタイミングで異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するように構成した場合には、遊技者に対して、大当たりとなる組合せで中図柄列Ｚ２が停止表示されるタイミングと、異なる演出態様（リーチ態様）へと可変するタイミングとを重複させることができるため、大当たりを示す組合せとなる識別情報（リーチ停止されている識別情報と同一の識別情報）がリーチ有効ラインに接近する際に遊技者に大きな期待感を持たせながら変動演出を注視させることができる。

【１７４７】

ここで、本制御例では、上述した通り、どの第３図柄でリーチ状態となった場合であっても、特定の識別状態（数字の「１」を模した第３図柄）が最初に視認可能となるように中図柄列Ｚ２が低速変動表示されるように構成しているため、例えば、最終的に停止表示させる第３図柄の組合せを大当たりとなる第３図柄の組合せに対して１種類ずらした組合せ（リーチ１コマ外れ）とする場合（最終停止表示態様を予め決定する場合）には、リーチ状態となってから全ての第３図柄が停止表示されるまで（最終停止表示態様が停止表示されるまで）の期間が、リーチ状態となる第３図柄の種別によって異なってしまうという新たな問題が発生する。

【１７４８】

具体的には、数字の「１」を模した第３図柄でリーチ状態となった場合には、中図柄列Ｚ２は数字の「１」を模した第３図柄を特定の図柄として低速変動表示するため、最終停止表示態様としてリーチ１コマ外れで中図柄列Ｚ２を停止表示させるには、リーチ状態となってから５．５秒（１周目）、１０．５秒（２周目）を要し、数字の「６」を模した第３図柄でリーチ状態となった場合には、中図柄列Ｚ２は数字の「１」を模した第３図柄を特定の図柄として低速変動表示するため、最終停止表示態様としてリーチ１コマ外れで中図柄列Ｚ２を停止表示させるには、リーチ状態となってから８秒（１周目）、１３秒（２周目）を要することになる。

【１７４９】

よって、同一の変動時間が設定される変動パターンにて、異なる種別の第３図柄でリーチ状態を成立させるためには、第３図柄の停止表示タイミングからリーチ状態となるタイミングを逆算して設定する処理を実行する必要があった。つまり、変動開始タイミングからリーチ状態となるまでの期間がリーチ状態となる第３図柄の種別に応じて可変する統一性の無いリーチ演出が実行されてしまい演出効果が低下してしまうという問題があった。

【１７５０】

これに対して、本制御例では、特別図柄の抽選の実行に伴って、特別図柄の抽選結果を示すための第１図柄の変動時間を主制御装置１１０において抽選により決定し、その決定した変動時間を、変動パターンコマンドにより音声ランプ制御装置１１３に対して通知する構成としている。そして、音声ランプ制御装置１１３は、変動パターンコマンドにより通知された変動時間に適合する演出期間の変動表示演出を選択して、第１図柄の変動表示に同期させて、第３図柄の変動表示演出を実行する構成としている。そして、主制御装置１１０から出力される変動パターンコマンドは、基本の変動時間を示す基本時間コマンドと、加算される変動時間を示す加算時間コマンドとで構成されており、加算時間コマンドに含まれる変動時間の長さに基づいてリーチ状態となる第３図柄の種別を可変させるように構成している。より具体的には、３０秒の変動時間の変動パターンが決定された場合には、基本時間コマンドとして３０秒に対応するコマンドが通知されると共に、加算時間として０秒に対応するコマンドが通知される。一方で、３７秒の変動時間の変動パターンが

決定された場合には、基本時間コマンドとして３０秒に対応するコマンドが通知されると共に、加算時間として７秒に対応するコマンドが通知される。つまり、加算時間コマンドの通知内容により、基本時間よりも７秒長い変動種別であることを音声ランプ制御装置１１３側で識別可能に構成されている。これにより、加算時間コマンドの内容を確認するだけで、リーチ状態とする第３図柄の種別を設定することができる。

【１７５１】

次に、図１２３（ｂ）～図１２６を参照して、通常状態が設定されている場合に実行される第２特別図柄変動（抽選）に関する演出内容について説明をする。まず、図１２３（ｂ）を参照して、通常状態において、当たり当選している普通図柄変動の実行中における第３図柄表示装置８１の表示内容について説明をする。図１２３（ｂ）は、通常状態において、当たり当選している普通図柄変動の実行中に表示される表示内容の一例を模式的に示した模式図である。図１２３（ｂ）に示した通り、普通図柄変動が実行されると、小表示領域Ｄｍ２に、普通図柄変動が実行されていることを示す変動表示態様（図では矢印で表示）が表示される。そして、主表示領域Ｄｍの右下側に小表示領域Ｄｍ３が形成され、その中に普図当たり遊技にて開放動作される電動役物６４０ａを含む第２入球口６４０を模したアイコンが表示されると共に、小表示領域Ｄｍ３が形成されたことを遊技者に報知するための強調表示（図では、６本の線で表示）が実行される。なお、図１２３（ｂ）で示した状況は、当たり当選している普通図柄変動の実行中であるため、小表示領域Ｄｍ３に表示されるアイコンは、閉鎖状態の電動役物６４０ａを含む第２入球口６４０を模した表示態様となっている。このように構成することで、遊技者に対して、間もなく普図当たり遊技が実行されるのでは？と予測させることができ遊技の興趣を向上させることができる。

【１７５２】

なお、図１２３（ｂ）では、当たり当選している普通図柄変動の実行中を一例に挙げて説明をしたが、抽選結果が外れである普通図柄変動の実行中の一部（例えば、外れ変動の１／１００の確率）で小表示領域Ｄｍ３を形成し、電動役物６４０ａを含む第２入球口６４０を模したアイコンを表示する演出（ガセ演出）を実行するように構成している。この場合、実行中の普通図柄変動（外れ変動）が停止表示するまでに、小表示領域Ｄｍ３が消滅する演出態様が設定される。このように構成することで、普通図柄抽選で当たり当選していない場合にも小表示領域Ｄｍ３が形成される演出表示が実行されることになるため、遊技者に対して普図当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。また、図１２３（ｂ）では、小表示領域Ｄｍ３にて電動役物６４０ａを含む第２入球口６４０を模したアイコンを表示させることで普図当たり遊技の開始を示唆する演出について例示したが、これに限ること無く、例えば、副表示領域Ｄｓや主表示領域Ｄｍの一部にて普図当たり遊技の開始を示唆するコメントを表示するように構成しても良い。

【１７５３】

また、主表示領域Ｄｍにて実行中の第３図柄変動表示の表示態様を用いて普図当たり遊技の開始を示唆するように構成しても良い。この場合、普通図柄変動を実行させながら特別図柄変動も実行させている場合にのみ、普図当たり遊技が実行されることを示唆する演出が実行されることになるため、例えば、特別図柄抽選の実行契機となる第１入球口６４よりも球を入球させ易いスルーゲート６７に球を通過させ、普通図柄抽選のみを実行している遊技者に対しては普通図柄抽選の結果を予め示唆することが無くなる。よって、特別図柄変動も普通図柄変動も共に実行させる正常な遊技を行っている遊技者に対して特典（普通図柄抽選の結果を事前に示唆する演出の実行）を付与することができる。同様に、本制御例で用いられる小表示領域Ｄｍ３を用いた演出を、特別図柄変動が実行されていること、或いは、球を発射する遊技が継続して実行されていることを実行条件として設定しても良い。

【１７５４】

加えて、実行されている遊技内容に応じて、普図当たり遊技の開始を示唆する示唆演出の期待度を異ならせるように構成しても良く、例えば、正常に遊技を行っている場合には

、普図当たり遊技の開始を示唆する示唆演出が実行された場合に、ほぼ１００％の割合で普図当たり遊技が実行され、特別図柄抽選を実行させることなく普通図柄抽選のみを実行させる遊技（止め打ち遊技）を行っている場合、即ち、正常な遊技を行っていない場合には、普図当たり遊技の開始を示唆する示唆演出が実行されたとしても約１０％の割合でしか普図当たり遊技が実行されないように構成しても良い。このように構成することで、止め打ち遊技を実行している遊技者に対して、実行される示唆演出に基づいて普図当たり遊技の開始タイミングを把握され難くすることができ、ペナルティを科すことができる。

【１７５５】

詳細は後述するが、本制御例では、普通図柄の抽選権利も最大で４個保留可能に構成しており、新たな抽選権利（普図保留）を獲得した場合に、獲得した抽選権利を用いた普通図柄抽選の結果を事前判別可能に構成している。そして、その事前判別結果を示すコマンド（情報）を、音声ランプ制御装置１１３へと出力可能に構成している。よって、普図当たり遊技の実行を示唆する示唆演出を当たり当選している普通図柄変動が実行されるよりも前段階、即ち、事前判別結果が当たり当選である普図保留を獲得している段階から普図当たり遊技が間もなく実行されることを示唆する示唆演出を実行することができる。この場合、図１２３（ｂ）に示した示唆演出よりも、遊技者に分かり難い演出態様で示唆演出を実行するように構成すると良く、例えば、実行中の特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果、或いは、獲得している特図保留に対する事前判別結果、を示唆する演出と同一の演出態様で示唆演出を実行するように構成し、実行された示唆演出によって、遊技者に有利な状況が間もなく訪れることのみを遊技者に報知するように構成しても良い。

【１７５６】

このように、実際に普図当たり遊技が実行されるタイミングと、示唆演出の実行タイミングとが乖離するほど遊技者に普図当たり遊技が実行されることを示すための示唆演出の演出態様を分かり難く、ひいては、示唆演出の対象が普図当たり遊技であることを分かり難くすることにより、示唆演出が実行された場合における遊技の興趣を向上させることができる。

【１７５７】

次に、図１２４（ａ）を参照して、通常状態中に普図当たり遊技（ロング開放当たり遊技）が実行された場合の演出内容について説明をする。図１２４（ａ）は、通常時（通常状態中）において普図当たり遊技（ロング開放当たり遊技）が実行された場合に表示される演出内容の一例を模式的に示した模式図である。本制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている通常状態中では、普通図柄抽選で当たり当選する確率が１／１００に設計されており、普通図柄の低確率状態で実行される普通図柄変動の変動時間が１０秒に設計されている。そして、図１１９を参照して上述した通り、右打ち遊技を実行した場合、左打ち遊技を実行した場合の何れにおいても発射した球の約１／２がスルーゲート６７を通過するように構成している。また、普通図柄の抽選権利（普図保留）を最大で４個記憶可能に構成している。

【１７５８】

つまり、通常状態にて遊技を継続している間は、継続して普通図柄抽選が実行され、約１０００秒に１回の割合で普図当たりに当選するように構成している。さらに、通常状態で普図当たり当選した場合には、電動役物６４０ａが５秒間開放される普図当たり遊技（ロング開放当たり）が実行されるように構成している。また、図１１９に示した通り、電動役物６４０ａは第１入球口６４の下方に設けられているため、第１入球口６４を狙う遊技を継続するだけで発射された球が第２入球口６４０へと入球し得るように構成している。よって、低確率で発生する普通図柄の低確率状態中における普図当たり遊技にて遊技者が球を第２入球口６４０へと入球させることが出来ない事態が発生することを抑制している。

【１７５９】

通常状態にて普通図柄抽選で当たり当選した場合には、図１２４（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ２にて、普通図柄抽選の結果が当たりであることを示す組合せ（図では２

つの丸印）で、識別情報（図柄）が停止表示され、普図当たり遊技が実行される。そして、主表示領域Ｄｍの上側にて「電チューを狙ってね」のコメントが表示され、小表示領域Ｄｍ３には開状態の電チュー（電動役物６４０ａを含む第２入球口６４０）を模したアイコンが表示される。なお、普通図柄抽選と、特別図柄抽選とは並行して（重複して）実行可能に構成しているため、特別図柄変動に対応して実行される第３図柄の変動表示、及び、小表示領域Ｄｍ１にて実行される第４図柄の変動表示は普図当たり遊技中も継続して実行される。

【１７６０】

また、副表示領域Ｄｓの待機中領域Ｄｓ１ｂには、第２入球口６４０に球が入球したことに基づいて獲得した第２特別図柄の保留記憶（特図２保留球）の数を示す特図２保留図柄（図では、黒丸で表示）が、獲得している第１特別図柄の保留記憶（特図１保留球）の数を示す特図１保留図柄（図では、白丸で表示）よりも優先して（待機中領域Ｄｓ１ｂの左側に）表示される。つまり、図１２４（ａ）に示した状態では、普図当たり遊技中に第２入球口６４０に球を４個以上入球させた後の状態であって、特図２保留を上限数である４個獲得した後の状態を示したものである。

【１７６１】

本制御例では、第１特別図柄の抽選よりも、第２特別図柄の抽選を優先して実行するように構成しているため、後に獲得した特図２保留球のほうが先に獲得している特図１保留球よりも優先して特別図柄抽選が実行される。このように構成することで、通常状態中に普図当たり遊技が実行され、複数の特図２保留球を獲得した場合に、第２特別図柄抽選を優先的に連続して実行することが可能となるため、第２特別図柄の抽選が実行される１つの期間を遊技者に有利な有利期間（チャンスゾーン）として専用の演出を実行することができ、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【１７６２】

なお、本制御例では、待機中領域Ｄｓ１ｂに、獲得した特図１保留球と特図２保留球とを横並びに表示（最大で８個表示）するように構成しているが、例えば、特図１保留球のみを表示する特図１保留球表示領域と、特図２保留球のみを表示する特図２保留球表示領域と、を用いる場合であれば、優先して特別図柄抽選が実行される第２特別図柄の保留球を獲得していない場合は、特図１保留球表示領域を特図２保留球表示領域よりも目立たせるように表示し、第２特別図柄の保留球を獲得した場合に、特図１保留球表示領域よりも特図２保留球表示領域を目立たせるように切替表示すると良い。このように構成することで、遊技者に対して次に第１特別図柄の抽選が実行されるのか、第２特別図柄の抽選が実行されるのかを分かり易く報知することができる。

【１７６３】

図１２４（ａ）に示した表示画面は、通常状態中における普図当たり遊技の終了タイミング、或いは、通常状態中における第２特別図柄変動の開始タイミングのうち何れかのタイミングとなるまで継続表示されるように構成している。つまり、普図当たり遊技中であっても、第２特別図柄変動が開始された場合には図１２４（ｂ）を参照して後述するチャンスゾーン演出が実行される。一方、普図当たり遊技の終了タイミングを迎えても第２特別図柄変動が開始されない場合、例えば、長時間の変動時間（例えば６０秒）が選択された第１特別図柄変動が実行されている間に普図当たり遊技（５秒）が実行された場合には、主表示領域Ｄｍの上側に『チャンスゾーン待機中』の文字を表示し、現在実行中の第１特別図柄変動が終了すると、第２特別図柄変動が開始されることを遊技者に報知する待機画面が表示される。

【１７６４】

なお、本制御例では、図１２４（ａ）に示した通り、第１特別図柄変動中に普図当たり遊技が実行された場合、実行中の第１特別図柄変動に対応して主表示領域Ｄｍにて実行される第３図柄変動演出（図では、３本の矢印で表示）を継続表示しながら、主表示領域Ｄｍの一部領域（図では右下に形成される小表示領域Ｄｍ３）にて普図当たり遊技中であることを報知しているが、この場合、実行中の第１特別図柄変動の抽選結果に基づいて普図

当たり遊技が実行されたことを表示するために用いる表示領域の大きさを可変させるように構成すると良く、例えば、実行中の第１特別図柄変動が大当たり当選している場合は、小表示領域Ｄｍ３を図１２４（ａ）に示した例よりも小さく形成したり、小表示領域Ｄｍ３を形成しないように構成したりすると良い。このように構成することで、小表示領域Ｄｍ３が形成されることにより、大当たり当選を示す第３図柄変動演出の視認性が低下してしまうことを抑制することができる。また、小表示領域Ｄｍ３が形成されること無く普図当たり遊技が開始された場合に、実行中の特別図柄変動（第１特別図柄変動）が大当たり変動であることを遊技者に報知することができるため、小表示領域Ｄｍ３にて普図当たり遊技が実行されたことが報知されていない状態であっても、遊技者に対して電動役物６４０ａの作動状況を注視させることができる。このような構成を用いる場合には、実行中の特別図柄変動が大当たり変動で無い（外れ変動である）場合の一部においても、大当たり変動と同一の演出態様が実行されるように構成すると良い。

【１７６５】

一方、実行中の特別図柄変動（第１特別図柄変動）が外れ変動である場合や、特別図柄変動が実行されていない場合は、小表示領域Ｄｍ３を図１２４（ａ）に示した例よりも大きく形成したり、主表示領域Ｄｍの全面を用いて普図当たり遊技が実行されたことを表示するように構成しても良い。

【１７６６】

つまり、第３図柄表示装置８１の表示領域という限られた領域内において、複数の情報（抽選結果や当たり遊技状況）を、重複して表示する必要がある場合に、遊技者に有利となる情報が優先して表示されるように構成していれば良く、その技術思想に基づいて様々な表示態様で表示すれば良い。この場合、遊技者によって有利となる情報が異なる場合があり、例えば、特別図柄抽選で大当たり当選したことを示す情報を有利な情報とする遊技者もいれば、特別図柄抽選の結果よりも、出現率の低い演出を有利な情報とする遊技者もいる。そこで、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対する操作に基づいて第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種情報の有利度合いを遊技者が任意に選択可能な有利度合い選択手段と、を設け、有利度合い選択手段により選択された有利度合いに基づいて第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種情報に対応した表示態様を設定するように構成すると良い。これにより、遊技者に不快感を与え難い表示態様で各種情報を表示させることができる。

【１７６７】

次いで、通常状態中に第２特別図柄抽選（変動）が実行されるチャンスゾーン中の演出内容について、図１２４（ｂ）から図１２６を参照して説明する。図１２４（ｂ）は、チャンスゾーンが設定された場合に実行される演出内容の一例を模式的に示した模式図である。図１２４（ｂ）に示した通り、通常状態中に第２特別図柄抽選（変動）が実行されると、主表示領域Ｄｍの上側に「チャンスゾーン突入」のコメントが表示される。このチャンスゾーンは通常状態中に獲得した全ての特図２保留を消化するまでの期間に設定される有利期間であって、基本的に最初の第２特別図柄抽選（変動）が開始されてから最後の第２特別図柄抽選（変動）が終了するまでの期間、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されるように構成している。これにより、遊技者に対して現在が有利期間であることを分かり易く報知することができる。

【１７６８】

また、副表示領域Ｄｓには、チャンスゾーン中に大当たり当選した場合には、高確率で確変状態を獲得できることを示すための案内表示態様として「確変ＧＥＴ高確率中」の文字が表示される。詳細な説明は後述するが、本制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とで大当たり当選する確率は同一だが、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合のほうが、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され易くなるように構成している。よって、第１特別図柄抽選が主として実行される通常状態中において、第２特別図柄抽選が実行されるチャンスゾーンの期間は、通常状態におけるチャンスゾーン以外の期間よりも確変状態とな

る大当たり当選を獲得し易い期間となるため、図１２４（ｂ）に示したように、高確率で確変状態を獲得できることを示すための案内表示態様として「確変ＧＥＴ高確率中」の文字が表示される。

【１７６９】

なお、詳細な説明は後述するが、このチャンスゾーン中には、１回の特別図柄変動（第２特別図柄変動）中に、複数回の特別図柄変動が実行されたように見せる疑似変動演出を実行するように構成している。よって、副表示領域Ｄｓにて表示されていた特別図柄の保留記憶数を示す表示態様（図１２４（ａ）参照）が非表示となり、主表示領域Ｄｍの右上側に形成された小表示領域Ｄｓ１１にて特図１保留数（図では特図１保留数が２個であることを示す「２」）が、小表示領域Ｄｓ１２にて特図２保留数（図では、特図２保留数が３個であることを示す「３」）が表示される。

【１７７０】

図１２４（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｓ１１、及びＤｓ１２に表示される表示態様は、副表示領域Ｄｓの待機中領域Ｄｓ１ｂ（図１２４（ａ）参照）に表示される表示態様よりも遊技者が視認し難くなりように構成しているため、チャンスゾーン中は遊技者に特図保留数を把握させ難くすることができる。よって、チャンスゾーン中に疑似変動演出が実行された際に、実際に複数回の特別図柄抽選（変動）が実行されたのではと思わせることができ演出効果を高めることができる。なお、本制御例では、主表示領域Ｄｍの一部領域（小表示領域Ｄｓ１１、及びＤｓ１２）を用いて、特図保留数を表示するように構成しているが、これに限ること無く、チャンスゾーン中は特図保留数を遊技者に報知しないように構成しても良いし、第３図柄表示装置８１の表示面以外の領域（例えば、可変表示ユニット８０に設けられたＬＥＤ）にて特図保留数を報知するように構成しても良い。さらに、遊技者に特図保留数を識別させ難く構成すれば良く、例えば、遊技者が容易に特図保留数を識別可能な数字を用いた表示態様から、各特図保留数に対応させて色を可変させる表示態様へと切替えても良い。このように構成した場合には、特図保留数を示すための表示態様を遊技者が容易に把握できたとしても、現在の特図保留数が容易に識別されてしまうことを抑制することができるため、本制御例と同様の効果を奏することができる。

【１７７１】

また、図１２４（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの右下側には、現在が第２特別図柄の変動中であることを示すウサギを模したキャラクタ１８０１が表示される。上述した通り、特別図柄抽選（変動）と、普通図柄抽選（変動）とは並行して（重複）して実行されるため、普図当たり遊技が実行されている期間が、第１特別図柄の変動期間中と重複する場合（図１２４（ａ）参照）と、重複しない場合とがある。第１特別図柄の変動期間中と重複して普図当たり遊技が実行された場合には、実行中の第１特別図柄変動が終了した後に第２特別図柄抽選が実行され、第１特別図柄の変動期間中と重複していない場合には、普図当たり遊技中に球が第２入球口６４０へと入球した直後（普図当たり遊技中）に第２特別図柄抽選が実行される。つまり、普図当たり遊技が実行された際の第１特別図柄の変動状況に応じて、第２特別図柄抽選の実行タイミングが異なることになり、現在実行されている特別図柄変動が第１特別図柄変動であるか第２特別図柄変動であるかを遊技者が正確に判別し難くなるという問題は発生する。

【１７７２】

これに対して本制御例では、第２特別図柄変動が実行されると、主表示領域Ｄｍにてキャラクタ１８０１が表示されるように構成しているため、現在実行されている特別図柄変動が第１特別図柄変動であるか第２特別図柄変動であるかを遊技者に分かり易く報知することができる。

【１７７３】

次に、図１２５（ａ）、及び、図１２６を参照して、チャンスゾーン中に実行される変動演出のうち、疑似変動演出（特殊変動演出）の演出内容について説明をする。図１２５（ａ）は、特殊変動演出中において第３図柄が仮停止した際の表示画面の一例を模式的に示した模式図であって、図１２５（ｂ）は、特図２保留球を獲得している状態で実行され

る特殊変動演出において第３図柄が再始動した際の表示画面の一例を模式的に示した模式図であって、図１２６は、特図２保留球を獲得していない状態で実行される特殊変動演出において第３図柄が再始動した際の表示画面の一例を模式的に示した模式図である。

【１７７４】

ここで、特殊変動演出（疑似変動演出）の演出内容について説明をする。この特殊変動演出は、１回の第２特別図柄変動の変動期間中に第３図柄を停止表示（仮停止表示）させ、その後再始動させる変動演出であり、遊技者に対して複数回の特別図柄変動が実行されたと思わせる疑似的な変動演出である。まず、特殊変動演出の前半期間（約１０秒）を用いて、リーチ演出を実行し、前半期間の終了タイミングにて、図１２５（ａ）に示した通り、外れを示す組合せ（図では「３５３」で表示）で第３図柄を仮停止表示（図では、第３図柄に波線を付して表示）させる。このタイミング、即ち、特殊変動演出の前半期間の終了タイミングでは、副表示領域Ｄｓに特別図柄抽選の結果が外れであることを示唆する「残念」の文字が表示され、遊技者に対して、チャンスゾーン中に実行された１の第２特別図柄抽選が外れであったと思わせるように構成している。つまり、特殊変動演出の前半期間では、大当たり当選に期待を持たせたリーチ演出が外れを示す演出結果で停止表示（仮停止表示）される特殊前半演出が実行される。

【１７７５】

その後、特殊変動演出の後半期間（約３０秒）にて、仮停止していた第３図柄を再始動させる変動演出（特殊後半演出）が実行される。この特殊後半演出は、獲得済みの特図２保留数に応じてその演出態様を異ならせるように構成しており、例えば、特図２保留球を確保している状態では、図１２５（ｂ）に示した通り、チャンスゾーン中の第２特別図柄変動に対応させた演出態様で特殊後半演出が実行され、特図２保留球を確保していない状態では、図１２６に示した通り、チャンスゾーンが終了した後に実行される第１特別図柄変動に対応させた演出態様で特殊後半演出が実行される。つまり、本制御例では、特殊変動演出として、実行中の第２特別図柄変動が終了した後に実行される特別図柄変動の種別を特図保留数に基づいて判別し、その判別結果に対応した演出態様で特殊後半演出の演出態様を設定している。よって、遊技者に対して、１回の第２特別図柄変動中に複数回の特別図柄変動が実行されたとより強く思わせることができる。

【１７７６】

さらに、本制御例では、チャンスゾーン中の第２特別図柄変動に対応させた演出態様で特殊後半演出が実行される場合（図１２５（ｂ）参照）には、獲得済みの特図２保留数に対応させて後半期間中に第３図柄を仮停止させる回数を異ならせるように構成している。なお、詳細な説明は省略するが特殊変動演出が実行される際に、特図２保留球、及び特図１保留球の何れも確保していない場合は、図１２５（ａ）に示した第３図柄の仮停止表示を実行することなく、第２特別図柄変動の変動期間の全てを用いて１回の変動演出（第３図柄を一度も仮停止表示させることの無い変動演出）を実行するように構成している。これにより、特図保留数を確保している状態にのみ上述した特殊変動演出が実行されることになるため、１回の第２特別図柄変動中に複数回の特別図柄変動が実行されたとより強く思わせることができる。

【１７７７】

加えて、第２特別図柄抽選の結果が大当たりである場合にのみ、後半期間中に実行される第３図柄の仮停止回数を、獲得済みの特図２保留数と異ならせた演出態様が設定されるように構成している。よって、例えば、第３図柄が５回以上仮停止した場合には実行中の第２特別図柄変動が大当たり当選しているのではと遊技者に期待を持たせることができる。なお、上述した通り、本制御例では、第３図柄が仮停止表示された場合と、停止表示された場合とを遊技者が識別困難に構成しているため、仮停止回数を正確に判別し難い。よって、仮停止表示回数と停止表示回数とを混在させて５回以上仮停止表示したと思わせたり、仮停止表示の一部を停止表示と思い込み、実際には５回以上仮停止表示されたにも関わらず、仮停止表示回数が５回に到達していない状態と思わせたりすることができ、遊技者に演出結果を予測する楽しみを提供することができる。

【１７７８】
なお、特殊変動演出の演出態様としてこれ以外の構成を用いても良く、例えば、１回の第２特別図柄変動中に仮停止表示された第３図柄の回数を遊技者に容易に把握させるための仮停止表示回数を示す表示態様を第３図柄表示装置８１の表示面に表示するように構成しても良いし、１回の第２特別図柄変動中に仮停止表示された第３図柄の回数に応じて特殊変動演出の演出態様の少なくとも一部（例えば、背景の色や、第３図柄のエフェクト等）が段階的に可変するように構成しても良い。また、仮停止している第３図柄を再表示させるタイミングにて一時的に仮停止表示された回数を示す表示態様（例えば、１回目、２回目）を表示するように構成しても良い。
【１７７９】
図１２６に示した通り、特図２保留球を確保していない状態で特殊変動演出が実行された場合には、チャンスゾーンが終了したことを示す表示態様として「チャンスゾーン終了」の文字が副表示領域Ｄｓに表示され、主表示領域Ｄｍにて実行される第３図柄の変動表示が第１特別図柄変動に対応する変動表示（水平方向へと第３図柄が変動する変動表示）となる演出態様が特殊後半演出として実行されるため、遊技者に対してチャンスゾーンが終了したと思わせた後に、特殊変動演出の演出結果、即ち、第２特別図柄の抽選結果が停止表示されることになる。よって、遊技者に対して意外性のある演出を提供することができる。
【１７８０】
詳細な説明は後述するが、本制御例では、通常状態中における第２特別図柄変動のうち、一部において上述した特殊変動演出が実行され、それ以外は、１回の第２特別図柄変動に対して１回の変動演出が実行されるように構成している。よって、普図当たり遊技において複数個（最大で４個）の特図２保留球を獲得した場合に特殊変動演出が無用に長く実行されてしまうことを抑制することができる。
【１７８１】
次に、図１２７を参照して、本制御例における大当たりエンディング期間中実行される演出内容について説明をする。図１２７（ａ）は、通常大当たり遊技のエンディング期間のうち、前半期間に表示される表示態様の一例を模式的に示した模式図であって、図１２７（ｂ）は、確変大当たり遊技のエンディング期間のうち、前半期間に表示される表示態様の一例を模式的に示した模式図であって、図１２７（ｃ）は、通常大当たり遊技のエンディング期間のうち、後半期間に表示される表示態様の一例を模式的に示した模式図であって、図１２７（ｄ）は、確変大当たり遊技のエンディング期間のうち、後半期間に表示される表示態様の一例を模式的に示した模式図である。
【１７８２】
本制御例では、通常状態中に大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技が、遊技者にとって有利な遊技状態である確変状態が設定され易い大当たり遊技（確変大当たり遊技）である場合は、遊技者にとって有利な遊技状態である確変状態が設定され難い大当たり遊技（通常大当たり遊技）である場合よりも、大当たりエンディング期間が長く設定されるように構成している。具体的には、確変大当たり遊技では大当たりエンディング期間として１７秒が、通常大当たり遊技では大当たりエンディング期間として１５秒が設定されるように構成している。このように構成することで、大当たり遊技を介して遊技内容が大きく変わる（通常状態から確変状態へと移行する）ことをエンディング期間中（確変状態が設定されるよりも前）に、遊技者に分かり易く報知することができる。また、大当たり遊技終了後に実行すべき遊技の内容を長いエンディング期間を用いて遊技者に告知することができる。
【１７８３】
また、本制御例では、上述した通り、確変大当たり遊技が実行された場合であっても、可変入賞装置６５に入賞した球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖ（図１２０参照）へと流下させないと確変状態が設定されないように構成している。よって、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと流下させることができなかった場合には、確変大当

たり遊技終了後に確変状態が設定されることなく、通常大当たり遊技と同様に時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される。

【１７８４】

この場合、確変大当たり遊技のエンディング期間において確変状態が設定されることを示す報知演出が実行されてしまうと、報知演出の演出内容と実際に設定される遊技状態とが相違してしまい遊技者に不満感を与えてしまうという問題があった。さらに、確変大当たり遊技のエンディング期間（１７秒）において実行される報知演出の演出態様を、通常大当たり遊技のエンディング期間（１５秒）において実行される報知演出の演出態様へと切り替えた場合には、実際のエンディング期間の長さと報知演出の演出期間の長さが異なってしまい、遊技者に違和感のある報知演出を実行することになるという問題があった。

【１７８５】

そこで、本制御例では、大当たりエンディング期間を前半期間と後半期間とに区分けし、さらに、後半期間の長さを大当たり遊技の種別に関わらず統一の期間（７秒間）とするように構成している。そして、後半期間に実行される報知演出の演出態様を大当たり遊技終了後に設定される遊技状態に応じて決定するように構成している。

【１７８６】

具体的には、図１２７に示した通り、通常大当たり遊技が実行される場合には、大当たりエンディング期間中に実行される報知演出として、前半期間（８秒）に対して、時短状態が設定されることを示唆する「チャンスモード１００回」の文字が表示され（図１２７（ａ）参照）、その後、後半期間（７秒）に対して、時短状態中に大当たり当選すると（第２特別図柄抽選で大当たり当選すると）、確変状態が設定され易いことを示すための遊技案内態様として「チャンスモード中に当たりとスーパーチャンスＧＥＴ」の文字が表示される報知演出（図１２７（ｃ）参照）を実行するように構成している。

【１７８７】

一方、確変大当たり遊技が実行される場合には、大当たりエンディング期間中に実行される報知演出として、前半期間（１０秒）に対して、確変状態が設定されることを示唆する「スーパーチャンスモード１００回」の文字が表示され（図１２７（ｂ）参照）、その後、後半期間（７秒）に対して、遊技内容とは直接関係の無い注意喚起態様として「カードの取り忘れにご注意下さい」の文字が表示される報知演出（図１２７（ｄ）参照）を実行するように構成している。

【１７８８】

本制御例では、上述した大当たりエンディング期間中に実行される報知演出の演出態様が、大当たり遊技が実行されるタイミングにて予め設定されるように構成されている。これにより、様々な制御処理が実行される大当たり遊技中において、報知演出の演出態様を決定するための処理を毎回実行する必要が無くなるため、大当たり遊技中に実行される制御処理の処理負荷を軽減させることができる。

【１７８９】

ここで、確変大当たり遊技が実行されたにも関わらず、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと球を流下させることができなかった場合について説明をする。この場合、図１２７（ｂ）に示した表示態様のうち、「スーパー」の文字を非表示にさせる処理と、大当たりエンディング期間の後半期間（７秒）にて実行される報知演出を、通常当たり遊技のエンディング期間の後半期間（７秒）にて実行される報知演出（図１２７（ｃ）参照）へと切り替える処理とが実行される。

【１７９０】

より具体的には、図１２７（ａ）に示した表示態様として「スーパー」の文字が表示される表示レイヤ（表示画層）と、「チャンスモード１００回」の文字が表示される表示レイヤ（表示画層）とを異ならせており、大当たり遊技中に特定ゲートへと球を流下させることができたか否かの判別結果に基づいて「スーパー」の文字が表示される表示レイヤ（表示画層）に対する表示指示の有無を切り替え可能に構成している。これにより、簡易的な制御処理によって、大当たり遊技中に特定ゲートへと球を流下させることができたか否

かの判別結果に対応した報知演出を実行することが可能となる。さらに、大当たりエンディング期間の後半期間という同一の長さで設定される期間において、演出態様を切り替えるように構成しているため遊技者に違和感を与えること無く報知演出の演出態様を切り替えることができる。

【１７９１】

なお、本制御例では、大当たり種別によって大当たりエンディング期間の長さを異ならせているが、これに限ること無く、全ての大当たり種別に対して大当たりエンディング期間の長さを統一しても良い。また、本制御例では、全ての大当たり種別に対して同一の長さとなる期間として大当たりエンディング期間の後半期間を設定しているが、これに限ること無く、大当たりエンディング期間の前半期間が全ての大当たり種別に対して同一の長さとなるように構成しても良い。さらに、大当たり種別が３以上ある場合には、その全ての大当たり種別に対して同一の期間を設定する必要は無く、例えば、大当たり種別Ａと大当たり種別Ｂとでは大当たりの前半期間が同一の長さとなり、大当たり種別Ｂと大当たり種別Ｃとでは大当たりの後半期間が同一の長さとなるように構成しても良い。

【１７９２】

また、本制御例では、当選した大当たり種別に応じて異なる長さのエンディング期間を設定するように構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技中の遊技結果に応じてエンディング期間の長さを異ならせるように構成しても良い。

【１７９３】

次に、図１２８～図１３０を参照して、チャンスモード中に実行される演出内容について説明をする。本制御例のパチンコ機１０は、大当たり遊技終了後に普通図柄の高確率状態が１００回設定されるように構成している。さらに、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合には、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が５０回設定されるように構成している。さらに、詳細な説明は後述するが、大当たり遊技中の球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを報知するＶ報知演出を実行する場合と、Ｖ報知演出を実行しない場合とを設定可能に構成している。

【１７９４】

そして、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行された場合は、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されたことを遊技者に報知するための演出モード（スペシャルチャンスモード）が設定され、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されなかった場合、即ち、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過しなかった場合、或いは、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したにも関わらずＶ報知演出が実行されなかった場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されているか否かを遊技者が把握困難な演出モード（チャンスモード）が設定されるように構成している。

【１７９５】

演出モードとしてチャンスモードが設定された場合には、主表示領域Ｄｍの上側に「チャンスモード中」の文字が表示されると共に、副表示領域Ｄｓの小表示領域Ｄｓ２に普通図柄の高確率状態が終了するまでの期間を示すための残期間報知態様が表示される（図１２８（ａ）参照）。図１２８（ａ）に示した例は、チャンスモードが設定されてから２０回目の特別図柄変動が実行されている状態を示したものであり、残期間報知態様として、特別図柄変動があと８０回実行された場合にチャンスモードが終了することを示す「８０回」の文字が表示されている。

【１７９６】

このように、演出モードとしてチャンスモードが設定された場合には、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種表示態様から、現在の遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者に把握させ難くすることができるため、現在の遊技状態が遊技者に有利な遊技状態（確変状態）であることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【１７９７】

また、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されなかった場合に限り、大当たり遊技終了

後に確変状態が設定される場合であっても演出モードとしてチャンスモードを設定可能に構成しているため、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したこと、即ち、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを報知したにも関わらず、大当たり遊技終了後にチャンスモードが設定されてしまい、遊技者が戸惑ってしまう事態が発生することを抑制することができる。加えて、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したこと報知するＶ報知演出が実行された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されていることを示すための演出モードとしてスーパーチャンスモードが設定されるため、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【１７９８】

なお、本制御例では、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したにも関わらずＶ報知演出が実行されなかった場合には、大当たり遊技終了後の演出モードとしてチャンスモードが設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したにも関わらずＶ報知演出が実行されなかった場合の一部において、スーパーチャンスモードが設定されるように構成しても良い。この場合、例えば、大当たり遊技のエンディング時（今回の大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと球を通過させることが不可能（困難）となった後）に、今回の大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したかの判別と、Ｖ報知演出が実行されたかの判別を実行し、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したとの判別結果と、Ｖ報知演出が実行されていないとの判別結果と、を得た場合の一部（所定の抽選で特定の抽選結果となった場合）において、大当たり遊技のエンディング期間中に、確変状態が設定されることを示す表示態様（図１２７（ｂ）、及び図１２７（ｄ））を表示するように構成し、大当たり遊技終了後の演出モードとしてスーパーチャンスモードを設定するように構成すると良い。

【１７９９】

このように構成することで、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されなかった場合であっても、スーパーチャンスモードが設定される可能性を残すことができるため、大当たり遊技が終了するまで遊技者に期待感を持たせて遊技を行わせることができる。

【１８００】

以上、説明をした通り、本制御例では、大当たり遊技終了後に設定される演出モードとしてチャンスモードが設定された場合には、遊技状態として時短状態が設定されている場合と、確変状態が設定されている場合とが発生することになる。そして、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、普通図柄の高確率状態が継続する期間の残期間が表示される。つまり、大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態として、通常状態よりも遊技者に有利となる有利遊技状態として、第１有利遊技状態（確変状態）と、第２有利遊技状態（時短状態）と、を設定可能に構成し、第１有利遊技状態は、所定の第１期間（大当たり遊技の終了後、特別図柄変動が５０回実行されるまでの期間）継続し、第２有利遊技状態は、上述した第１期間よりも長い第２期間（大当たり遊技の終了後、特別図柄変動が１００回実行されるまでの期間）継続するように構成し、大当たり遊技終了後に第１有利遊技状態が設定された後、第１期間が経過した場合には、第２期間を経過するまで第２有利遊技状態が設定されるように構成し、第２期間が経過した場合に通常状態が設定されるように構成した遊技機において、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されるか否かに関わらず、有利遊技状態が終了するまでの期間（第２期間）の残期間を示すための残期間報知を実行可能に構成している。

【１８０１】

このように構成することで、遊技者に対して、通常状態よりも遊技者に有利となる有利遊技状態が継続する期間を分かり易く報知することができる。さらに、本制御例では、第２期間の残期間（チャンスモードの残期間）が設定されている状態において、現在の遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者に示唆するための遊技状態示唆演出を、残期間報知の報知態様（表示態様）を用いて実行可能に構成している。

【１８０２】

ここで、図１２８（ｂ）を参照して、チャンスモード中に実行される遊技状態示唆演出の演出内容について説明をする。図１２８（ｂ）は、チャンスモード中に実行される遊技状態示唆演出の表示内容の一例を模式的に示した模式図である。図１２８（ｂ）に示した通り、確変状態が設定されている状態でチャンスモードが設定された場合に所定の報知条件が成立すると、小表示領域Ｄｓ２に表示される残期間報知の表示態様が可変される遊技状態示唆演出（図１２８（ｂ）では、白抜きの表示態様で表示）が実行される。そして、副表示領域Ｄｓの小表示領域Ｄｓ１には、「大当たり期待度ＵＰ」のコメントが表示される。このように構成することで、遊技者に有利な有利遊技状態が終了するまでの期間を遊技者に報知しながら、有利遊技状態のうち、どの遊技状態が設定されているのかを遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。なお、詳細な説明は省略するが、本制御例では、図１２８（ｂ）に示した表示態様と同一の表示態様を、実行中の特別図柄変動が大当たり変動である場合、或いは、獲得済みの特図２保留球に大当たり当選する情報が含まれている場合であって、チャンスモードのうち、確変状態が設定され得る期間内（大当たり遊技終了後、特別図柄変動が５０回実行されるまでの期間内）において表示可能に構成している。

【１８０３】

このように構成することで、遊技者に有利な有利遊技状態が継続する期間示すチャンスモード中において、遊技者に対してより有利な様々な情報（確変状態が設定されていることを示す情報、大当たり当選に関する情報）を同一の表示態様を用いて表示することができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。また、実際には時短状態が設定されている場合であっても、大当たり当選に基づいて確変状態が設定されている場合に表示され易い表示態様を表示することができるため、設計値よりも高い割合で確変状態が設定されていると遊技者に思わせることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができるという効果がある。

【１８０４】

なお、上述した本制御例の技術思想とは別の技術思想を用いてチャンスモード中の演出を実行するように構成しても良く、例えば、確変状態中にチャンスモードが設定されている状態で、大当たり当選、或いは、獲得済みの特図２保留球に大当たり当選する情報が含まれている場合に、現在設定されている遊技状態が時短状態であることを示唆するための示唆演出（例えば、残期間報知の表示態様を、図１２８（ａ），（ｂ）とは異なる表示態様（漢数字表示にする表示態様）で表示する演出）を実行するように構成しても良い。これにより、有利遊技状態において、確変状態よりも遊技者に不利となる時短状態中に大当たり当選したと遊技者に思わせることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。また、遊技履歴として確変状態が設定された割合を実際よりも低く見せることができるため、次の大当たり遊技で確変状態が設定されることをより期待させながら遊技を行わせることができる。

【１８０５】

以上、図１２８（ａ），（ｂ）を参照して説明をした通り、本第１制御例では、チャンスモードが継続する期間（残期間）を示すための残期間報知態様の表示態様を可変させることにより、現在設定されている遊技状態を遊技者に示唆可能に構成することで、チャンスモードの残期間を注意深く見ている遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を示唆する遊技状態示唆演出を把握させ易くすることができるように構成しているが、遊技状態示唆演出を、残期間報知態様以外を用いて実行しても良く、例えば、確変状態が設定されている場合のほうが、時短状態が設定されている場合よりも表示され易い第１表示態様（例えば、「チャンス」の文字）や、時短状態が設定されている場合のほうが、確変状態が設定されている場合よりも表示され易い第２表示態様（例えば、「ピンチ」の文字）を第３図柄表示装置８１の表示面に表示するように構成しても良いし、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の表示態様を可変させることにより遊技状態示唆演出を実行するように構成しても良い。

【１８０６】

なお、本第１制御例では、特別図柄の高確率状態も、普通図柄の高確率状態も、特別図柄変動の実行回数が所定回数に到達した場合に終了するように構成しているため、図１２８（ａ），（ｂ）に示した通り、チャンスモードが継続する残期間（特別図柄の高確率状態、或いは普通図柄の高確率状態が継続し得る残期間）を報知する残期間報知の表示態様を用いて、現在の遊技状態を示唆可能に構成しているが、例えば、特別図柄の高確率状態が、次に大当たり遊技が実行されるまで継続するように構成されたパチンコ機１０にて、上述したチャンスモードの構成を用いても良い。この場合、チャンスモードの継続期間として、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定された場合に、その普通図柄の高確率状態が終了するまでの残期間（時短状態が終了するまでの期間）を残期間報知によって報知するように構成し、その残期間報知によって報知された残期間を経過した場合において、時短状態が設定されている場合には、通常状態へと移行したことを報知する演出を実行し、確変状態が設定されている場合には、次に大当たり遊技が実行されるまで特別図柄の高確率状態が継続することを示す表示態様、即ち、確変状態が継続する残期間が次回大当たりまでの期間であることを示す表示態様として「おめでとう」の文字が表示される演出を実行可能とし、チャンスモードが設定されている期間中において、所定の報知条件が成立した場合に、「おめでとう」の文字を表示させるように構成しても良い。

【１８０７】

つまり、特別図柄抽選が実行される毎に更新されるチャンスモードの残期間に対応させて随時更新される残期間報知態様（図１２８（ａ）参照）に替えて、チャンスモードの残期間が存在していることを示すだけの表示態様、即ち、図１２８（ａ）に示した残期間報知態様のように、チャンスモード中に実行可能な特別図柄の残抽選回数を示さない残期間報知態様を用いても良いし、チャンスモードの残期間の長さに対応させて表示態様を可変（例えば、表示色を可変）させることにより、大まかにチャンスモードの残期間の長さを報知可能な残期間報知態様を用いても良い。さらに、残期間報知態様を複数表示可能に構成し、表示された複数の残期間報知態様の表示態様を組み合わせることにより、遊技者がチャンスモードの残期間の長さを把握可能となるように構成しても良い。

【１８０８】

次に、図１２９及び図１３０を参照して、チャンスモード中において遊技者が操作手段を操作した場合に実行される演出内容について説明をする。本制御例では、遊技者が枠ボタン２２（図１１９参照）に対して所定の操作を実行すると、その操作内容と、操作タイミングとに基づいて様々な演出（操作演出）を実行可能に構成している。詳細な説明は省略するが、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに表示される背景画像を変更する操作演出や、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍにて実行される変動演出の一部として遊技者に枠ボタン２２を操作させるための案内報知を実行し、遊技者が枠ボタン２２を操作した場合に、遊技者が枠ボタン２２を操作しない場合とは異なる演出態様の演出を実行する操作演出や、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍにて実行される変動演出を賑やかすための操作演出等が実行されるように構成している。これにより、遊技者に対して、球を発射させる行為以外の遊技を意欲的に行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【１８０９】

ここで、上述した操作演出のうち、チャンスモード中に実行される各種操作演出の内容について説明をする。詳細は、図１８を参照して後述するが、本制御例では、有利遊技状態（時短状態、確変状態）が設定された場合に、有利遊技状態が設定されてからの特別図柄変動回数に応じて異なる変動時間が選択され得るように構成している。具体的には、有利遊技状態が設定されてから特別図柄変動回数が「１回目～２０回目」の期間が、短い変動時間（例えば、５秒）が選択され易い第１期間（高速変動期間）となり、「２１回目～４９回目」の期間が、第１期間よりも長い変動時間（例えば、１０～３０秒）が設定され易い第２期間となり、「５０回目」のみ、特定の変動時間（例えば、２０秒）が設定される特定期間となり、「５１回目～１００回目」の期間が、第２期間と同程度の変動時間（

例えば、１０～３０秒）が設定され易い第３期間となるように構成している。
【１８１０】
つまり、チャンスモードが設定されてからの所定期間（第１期間）、即ち、大当たり遊技終了後の所定期間は、短い変動時間で特別図柄変動が実行され易くなるため、この第１期間中に大当たり当選した場合には、短い間隔で複数回の大当たり遊技を実行させ易くすることができる。これにより、前回実行された大当たり遊技の一環として次の大当たり遊技が実行されたのでは？と遊技者に思わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【１８１１】
そして、上述した第２期間や第３期間では、通常状態が設定されている場合よりは短い変動時間の特別図柄変動が実行され易く、第１期間よりは長い変動時間の特別図柄変動が実行され易くなるように構成している。これにより、チャンスモード中において、１回の特別図柄変動中に現在設定されている遊技状態が時短状態であるか確変状態であるかを示唆するための示唆演出を実行する期間を確保することができる。また、特定期間（有利遊技状態が設定されてから５０回目の特別図柄変動）では、必ず特定の変動時間（２０秒）の特別図柄変動が実行され、遊技者に対して確変状態が設定されていた（されている）状態であるか否かを示唆するための２０秒間の示唆演出が実行されるように構成している。
【１８１２】
このように、特別図柄変動の実行回数に応じて異なる変動時間を選択可能に構成することで、各変動回数に応じた演出を適切な期間を用いて実行することができる。
【１８１３】
図１２９（ａ）は、演出モードとしてチャンスモードが設定されている状態であって、内部的に通常状態が設定されており、高速変動期間以外の期間中（通常変動期間中）に表示される表示内容の一例を模式的に示した模式図であって、図１２９（ｂ）は、図１２９（ａ）に表示された表示演出中に枠ボタン２２を操作した場合の演出態様を模式的に示した模式図である。本制御例では、チャンスモード中における通常変動期間では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される背景画像を遊技者が任意に選択可能となり、枠ボタン２２を遊技者が押下（操作）することで、海背景（海モード）と山背景（山モード）とを交互に切替表示されるように構成している。
【１８１４】
図１２９（ａ）に示した通り、背景画像を切替可能な場合には、主表示領域Ｄｍの右側下方に枠ボタン２２を模したアイコンＨＲ１０が、操作可能な状態であることを示す表示態様（図では、ボタン押下方向に向けて矢印表示）で表示され、副表示領域Ｄｓの小表示領域Ｄｓ１には、現在、海モードが設定されていることを示す「海モード」の文字が表示されている。この状態で遊技者が枠ボタン２２を操作すると、図１２９（ｂ）に示した通り、「海モード」から「山モード」へと切替表示される。
【１８１５】
次に、図１３０を参照して、チャンスモードのうち、高速変動期間中における操作演出の内容について説明をする。本制御例では、高速変動期間（時短状態、確変状態が設定されてから２０回目の特別図柄変動が終了するまでの期間）中に枠ボタン２２を操作した場合に、背景画像が切替表示されない（難くなる）ように構成している。つまり、１回の特別図柄変動の変動時間として短い変動時間（５秒）が選択される高速変動期間において、背景画像を切替表示してしまうと、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様が頻繁に変化してしまい、特別図柄抽選の結果を遊技者が把握し難くなるため、背景画像が切替表示されない（難く）なるように構成している。しかしながら、高速変動期間中における枠ボタン２２に対する遊技者の操作を全て無効にしてしまうと、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１８１６】
そこで、本制御例では、高速変動期間中に遊技者が枠ボタン２２を操作した場合には、背景画像の切替表示では無く、別の演出が実行されるように構成している。具体的には、

図１３０（ａ）に示した通り、チャンスモードにおける高速変動期間中は、副表示領域Ｄｓの小表示領域Ｄｓ１に「スペシャルモード」の文字が表示され、現在が高速変動期間中であることが遊技者に報知される。この「スペシャルモード」中は、特別図柄抽選の結果に関わらず、５秒の変動時間が設定された特別図柄変動が実行され、第３図柄の変動演出も「スペシャルモード」専用の変動演出が実行される。そして、「スペシャルモード」中も主表示領域Ｄｍの右側下方にアイコンＨＲ１０が表示され、遊技者が枠ボタン２２を押下すると、図１３０（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｓ２に表示される残期間報知の表示態様が可変される遊技状態示唆演出が実行される。

【１８１７】

このように、遊技者が同一の操作（枠ボタン２２の押下）をした場合であっても、その操作タイミングによって、実行される操作演出の演出内容を異ならせることにより、遊技者に対して様々なタイミングで枠ボタン２２を操作しようと意欲的に遊技を行わせることができる。また、本制御例では、図１２９（ａ）、或いは図１３０（ａ）に示した通り、遊技者に対して枠ボタン２２に対する操作（押下）を案内するための案内表示（アイコンＨＲ１０）を同一にし、遊技者が同一の操作（枠ボタン２２の押下）をした場合に、その操作タイミングによって、実行される操作演出の演出内容を異ならせている。よって、枠ボタン２２を実際に操作（押下）するまでは、どのような操作演出が実行されるのかを遊技者に分かり難くすることができるため、より意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【１８１８】

なお、詳細は図１８を参照して後述するが、本制御例では、高速変動期間に枠ボタン２２を操作した場合に複数の操作演出を実行可能に構成しており、各操作演出が選択される割合を、設定されている遊技状態に応じて異ならせている。つまり、高速変動期間中に実行される各操作演出の出現割合によって、現在設定されている遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを予測することができる。よって、高速変動期間中に同一の操作演出が繰り返し実行された場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【１８１９】

さらに、本制御例では、高速変動期間中であっても所定条件が成立している場合にのみ、枠ボタン２２を押下した際に背景画像の切替表示が行われるように構成している。具体的には、高速変動期間中に獲得した第２特別図柄の保留球（特図２保留球）内に大当たり当選する情報が含まれている場合に、その大当たり当選する情報が含まれる特図２保留球に対応する大当たり特別図柄変動と、その大当たり特別図柄変動よりも前に実行される特別図柄変動（大当たり当選する情報が含まれている特図２保留球よりも前に獲得していた特図２保留球に対応する特別図柄変動）と、の変動時間を用いた特殊変動演出を実行可能に構成しており、その特殊変動演出を実行可能な条件を満たしている状態で遊技者が枠ボタン２２を押下すると、現在表示されている背景画像（例えば、海モード）から専用の特殊背景画像（例えば、宇宙モード）へと背景画像の切替表示が行われるように構成している。つまり、高速変動期間中において遊技者が枠ボタン２２を押下したことに基づいて背景画像の切替表示が実行された場合には、大当たり当選の期待度が高くなるやめ、遊技者に対して積極的に枠ボタン２２を押下させることができる。

【１８２０】

加えて、高速変動期間中であっても、枠ボタン２２に対して特殊操作（長押し）を行うことで、背景画像の切替表示を実行可能に構成している。この特殊操作（長押し）は、遊技者が枠ボタン２２を２秒間継続して押下した場合に操作が実行されたと判別されるものであり、枠ボタン２２に対する通常操作（押下）よりも、操作が行われたと判別されるまでの期間を長くしている。よって、通常操作（押下）に比べて頻繁に実行し難い操作となるため、背景画像の切替表示を実行可能に構成しても、背景画像の切替表示が頻繁に行われてしまうことを抑制することができる。なお、本制御例では、通常操作よりも操作時間を長くした特殊操作として長押し操作を用いているが、これに限ること無く、例えば、操

作手段として枠ボタン２２に加えて、複数の操作部を有する操作手段（例えば、十字キー）を設け、複数の操作部を所定の順序で操作することにより行われる特殊操作を規定しても良い。

【１８２１】

次に、図１３１を参照して、確変状態が設定されていることが遊技者に報知される「スーパーチャンスモード」中に実行される演出内容について説明をする。図１３１（ａ）は、「スーパーチャンスモード」中に第１特別図柄変動が実行された場合の演出内容の一例を模式的に示した模式図であって、図１３１（ｂ）は、「スーパーチャンスモード」中に第２特別図柄変動が実行された場合の演出内容の一例を模式的に示した模式図である。

【１８２２】

本制御例では、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている場合には、第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成している。そして、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、高確率で確変状態が設定される（大当たり遊技中に特定ゲートへと容易に球を流下させることができる確変大当たり遊技が必ず実行される）ように構成している。そして、確変状態は特別図柄抽選が所定回数（５０回）実行されるまで継続するように構成している。

【１８２３】

つまり、一度確変状態が設定されると、所定回数（５０回）の特別図柄抽選が実行されるまでに第２特別図柄抽選で大当たり当選（特別図柄の高確率状態での大当たり確率は１／５０）に当選する限り、高確率で確変状態をループさせることができるように構成している。よって、確変状態中の遊技を実行している遊技者に対して、いち早く第２特別図柄抽選で大当たり当選するように意欲的に遊技を行わせることができる。

【１８２４】

一方、確変状態が設定されている状態であっても、例えば、通常状態にて実行された第１特別図柄抽選で確変大当たりに当選し、その大当たり遊技終了後に確変状態が設定された直後、即ち、確変状態が設定された状態において、特図２保留球を獲得しておらず、且つ、特図１保留球を獲得している状態では、第１特別図柄抽選が実行される。本制御例では、上述した通り、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には１００％の割合で確変大当たり遊技が実行されるのに対して、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には５０％の割合で確変大当たり遊技が実行され、残りの５０％では通常大当たり遊技が実行されるように構成している。つまり、確変状態が設定されている状態であっても、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、確変状態をループさせることが出来ない場合がある。

【１８２５】

このように確変状態中に第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合において、当選した大当たりが通常大当たり遊技が実行される大当たり種別（通常大当たり）であることを遊技者に早期に判別されてしまうと、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題が発生するため、本制御例では、確変状態中に実行される第１特別図柄変動に対応する変動演出として、確変大当たりに対応する第３図柄（奇数の数字が付された識別情報）と、通常大当たりに対応する第３図柄（偶数の数字が付された識別情報）と、が同時にリーチ状態となる変動演出であるダブルリーチ演出が実行され易くなるように構成している。より具体的には、確変状態中に実行される第１特別図柄抽選で通常大当たりに当選した場合には、必ず上述したダブルリーチ演出が実行されるように構成している（図１３１（ａ）参照）。

【１８２６】

これにより、確変状態中に実行される第１特別図柄抽選で通常大当たりに当選した場合において、通常大当たりに対応する第３図柄（偶数の数字が付された識別情報）のみがリーチ状態となるリーチ演出が実行されることを防止することができ、特別図柄の変動期間中に通常大当たりに当選することを遊技者に事前に予測されることを抑制することができる。

【１８２７】
　また、図１３１（ａ）に示した通り、本制御例では、「スーパーチャンスモード」中は、上述した「チャンスモード」中と同様に、小表示領域Ｄｓ１１、及びＤｓ１２が形成され、遊技者に対して特図保留数が把握され難くなるように構成している。そして、主表示領域Ｄｍの上側には現在が確変状態中であることを遊技者に報知するための表示態様として「スーパーチャンスモード中」の文字が表示される。
【１８２８】
　ここで、スーパーチャンスモード中において、図１３１（ａ）に示したダブルリーチ（確変大当たりに対応する第３図柄（１の数字が付された識別情報）と、通常大当たりに対応する第３図柄（２の数字が付された識別情報）と、が同時にリーチ状態となる変動演出であるダブルリーチ演出）が実行された場合には、実行中の特別図柄変動が第１特別図柄変動であることを遊技者に容易に把握されてしまう虞があるため、本制御例では、第２特別図柄変動に対応させて実行される変動演出においても、図１３１（ａ）に示したダブルリーチ演出を実行可能に構成している。即ち、大当たり当選した場合には必ず確変大当たり遊技が実行される第２特別図柄抽選に対応させた変動演出にて、通常当たりに対応する第３図柄を用いたダブルリーチ演出を実行可能に構成している。
【１８２９】
　このように構成することで、図１２７（ａ）に示したダブルリーチ演出が実行されたとしても、実行中の特別図柄変動が第１特別図柄変動であるか第２特別図柄変動であるかを遊技者に容易に判別させ難くすることができる。
【１８３０】
　さらに、本制御例では、第２特別図柄抽選に対応させた変動演出としてダブルリーチ演出が実行された場合には、中図柄列Ｚ２が１周したタイミングでリーチ状態となる第３図柄の種別を図１３１（ｂ）に示した通り、確変大当たりに対応する第３図柄（１の数字が付された識別情報と９の数字が付された識別情報）とに可変させる演出（確変ダブルリーチへの昇格演出）が実行されるように構成している。
【１８３１】
　このように構成することで、実行中の特別図柄抽選が大当たり当選している場合に、必ず確変大当たり遊技が実行されることを遊技者に事前に報知することができる。また、第１特別図柄抽選に対応させた変動演出としてダブルリーチ演出が実行された場合であっても、途中で確変ダブルリーチへと昇格するのではと遊技者に期待させながら遊技を行わせることができる。
【１８３２】
　なお、本制御例では、実行中のダブルリーチ演出を確変ダブルリーチ演出へと可変（昇格）させるための可変条件として、中図柄Ｚ２の変動態様が所定態様（１周経過）となった場合に成立する可変条件を設定しているが、これに限ることなく、例えば、中図柄列Ｚ２にて変動表示される第３図柄としてリーチ状態に対応する第３図柄（大当たりとなる組合せとなる第３図柄）がリーチ有効ラインを通過した場合に成立する可変条件を設定しても良いし、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２）に対する操作結果が特定の操作結果である場合に成立する可変条件を設定するように構成しても良い。
【１８３３】
　また、本制御例では、可変条件が成立した場合にリーチ状態となっている第３図柄の種別を可変するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、リーチ状態となる第３図柄の数を増加させるように構成しても良い。より具体的には、図１３１（ａ）に示したダブルリーチ状態から、ブランク図柄（図では三角印で表示）を消去し、上図柄列Ｚ１として左から順に「３．２．１」を表示させ、下図柄列Ｚ３として左から順に「１．２．３」を表示させた、トリプルリーチ演出を実行するように構成しても良い。このように構成した場合であっても、ダブルリーチ演出よりもトリプルリーチ演出のほうが、確変大当たりに対応した第３図柄のリーチ数を多くすることができるため、今回の特別図柄抽選にて確変大当たりに当選している可能性が高いことを遊技者に視覚的に報知することができ

る。
【１８３４】
加えて、上述した技術思想を通常状態中に実行される変動演出に適用しても良く、例えば、通常大当たりに対応する第３図柄（偶数の数字が付された識別情報）のみがリーチ状態となる通常シングルリーチ演出中に可変条件が成立した場合に、リーチ状態である第３図柄の種別を確変大当たりに対応した第３図柄の種別へと切り替えても良いし、リーチ状態となる第３図柄の数を増加させるように構成しても良い。これにより、変動演出が終了するまで遊技者に対してより有利な演出結果が提供されることを期待させながら遊技を行わせることができる。
【１８３５】
次に、図１３２を参照して、本制御例において選択される特別図柄の変動パターンと、実行される演出態様との関係について説明をする。図１３２（ａ）は、第３図柄の変動演出として、非リーチ変動演出が実行される変動パターンが設定された場合の演出の流れを示した模式図であって、図１３２（ｂ）は、第３図柄の変動演出として、リーチ変動演出が実行される変動パターンが設定された場合の演出の流れを示した模式図である。
【１８３６】
詳細な説明は、図２５を参照して後述するが、本制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための変動パターン（変動時間）として、基本時間と加算時間とを合算させた変動パターンを規定している。そして、基本時間に該当する期間を共通変動パターンとし、加算時間に該当する期間を特有変動パターンとするように構成している。
【１８３７】
つまり、本制御例では、特別図柄抽選の結果を示すために第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される第３図柄変動の演出態様として、リーチ状態が表示されてから第３図柄が停止表示されるまでの期間を、リーチ状態となる第３図柄の種別に応じて異ならせるように構成している。そして、加算時間として設定された時間に応じた第３図柄をリーチ状態となる第３図柄として設定するように構成している。このように構成することで、第３図柄が変動を開始してからの所定期間の間に実行される第３図柄変動演出（基本時間に対応させて実行される第３図柄変動演出）を共通化させることができる。
【１８３８】
具体的には、図１３２（ａ）に示した通り、非リーチ変動演出の場合は、加算時間が設定されないため、基本時間（８秒）に対応させた共通変動パターンが設定され、第３図柄変動演出が開始されてから所定期間が経過したタイミング（例えば、５秒経過タイミング）で上図柄列Ｚ１が停止表示され、その１秒後に下図柄列Ｚ３が有効ライン上にリーチ状態が発生しない停止表示態様で停止表示され、その２秒後に抽選結果が外れを示す停止表示態様で中図柄列Ｚ２が停止表示される。その後、１秒間の停止表示期間（確定時間）を経て、特別図柄抽選の抽選結果が確定表示される。
【１８３９】
図１３２（ｂ）に示した通り、リーチ変動演出が実行される場合は、基本時間（３０秒）が設定され、３０秒間の共通変動パターンとして、リーチ状態となってから５秒が経過するまでの演出態様が設定される。つまり、リーチ状態となってから中図柄列Ｚ２が１周するまでの演出態様が共通変動パターンとして設定される。その後、加算時間に応じた演出態様（リーチパターン、停止図柄）が設定される。
【１８４０】
次に、図１３３を参照して、大当たり遊技のエンディング期間中に実行されるエンディング演出の演出態様について説明をする。図１３３（ａ）は、通常大当たり、図１３３（ｂ）は、確変大当たりを対象としたエンディング期間の演出の流れを示したものであり、図１３３（ｃ）は、確変大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）を流下しなかった場合の流れを示したものである。
【１８４１】
図１３３に示した通り、本制御例では通常大当たりと確変大当たりとでエンディング期

間（ＥＤ期間）を異ならせており、通常大当たりは１５秒、確変大当たりでは１７秒のＥＤ期間が設定されるように構成している。そして、それぞれ前半期間と後半期間とに区分けされたエンディング演出が実行されるように構成している（図１２７参照）。

【１８４２】

本制御例では、大当たり遊技の開始タイミングにてエンディング期間における演出態様がセットされ、大当たり期間中にＶ入賞したか否か（特定ゲートへと球が流下したか否か）の判別をエンディング期間（ＥＤ期間）の開始タイミングで判別し、その判別結果に基づいてエンディング表示態様を切り替えるように構成している。

【１８４３】

まず、図１３３（ａ）を参照して、通常大当たり遊技が実行された場合における大当たり遊技のエンディング期間中の演出内容について説明をする。本制御例では、大当たり遊技中に実行される各種処理が煩雑化してしまい、大当たり遊技中における処理負荷が増大してしまうことを抑制するために、大当たり遊技中のラウンド遊技（賞球を獲得可能な遊技）が実行されるよりも前（大当たり遊技の開始前、或いは、大当たり遊技におけるオープニング期間中）に大当たり遊技のエンディング期間中に実行される演出（エンディング表示演出）の演出態様を決定するように構成している。

【１８４４】

通常大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技のオープニング期間が終了するまでに、大当たり遊技終了後に「チャンスモード」が設定される（時短状態が設定される）ことを遊技者に示すためのエンディング演出の表示態様（図１２７（ａ），（ｃ）参照）を設定する。そして、通常大当たり遊技では、その大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過することが無いため、大当たり遊技のエンディング演出として、予め設定してあるエンディング演出が実行される。

【１８４５】

次に、図１３３（ｂ）、及び図１３３（ｃ）を参照して、確変大当たり遊技が実行された場合における大当たり遊技のエンディング期間中の演出内容について説明をする。確変大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技のオープニング期間が終了するまでに、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを判定し、その判定結果に基づいてエンディング演出の演出態様を決定する。具体的には、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過し易いラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）が実行される場合に、遊技者に対して特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させることを案内する案内報知と、実際に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを遊技者に報知するＶ通過報知と、が実行されるＶ報知演出を実行するか否かを判定し、Ｖ報知演出を実行すると判定した場合は、エンディング演出として、大当たり遊技の終了後に「スーパーチャンスモード」が設定される（確変状態が設定される）ことを遊技者に示すための表示態様（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）を設定する。一方、Ｖ報知演出を実行しないと判定した場合は、エンディング演出として、大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定されることを遊技者に示すための表示態様（図１２７（ｂ）の表示態様に対して『スーパー』の表示を削除した表示態様と、図１２７（ｃ）参照）を設定する。

【１８４６】

Ｖ報知演出を実行する場合には、Ｖラウンド（１ラウンド目）遊技の開始に合わせて「Ｖを狙え」のコメント、及び、可変入賞装置６５内の特定領域（Ｖゲート）６５ｖの位置を模式的に示した模式図が第３図柄表示装置８１の表示面に表示される案内報知が実行される。そして、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合に、「Ｖ獲得！！」のコメントが第３図柄表示装置８１の表示面に表示されるＶ通過報知が実行される。一方で、案内報知が実行されたにも関わらず、所定期間の間（例えば、３秒間）、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過していない場合は、遊技者に対して特定領域（Ｖゲート）６５ｖへの球通過をより強調して案内する強調案内報知が実行される。そして、Ｖラウンド遊技が終了するまでに球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合には、上述したＶ通過報知が実行され、特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させること無くＶラウンド遊技

が終了した場合には、「Ｖ獲得ならず、残念！」の文字が表示される。
【１８４７】
その後、大当たり遊技のエンディング期間が到来すると、実際のＶラウンド遊技の遊技結果に基づいて、予め設定してあるエンディング演出の表示態様を差し替えるか否かの判別が実行される。ここで、上述した通り、大当たり遊技開始時において、Ｖ報知演出を実行すると判定した場合には、エンディング演出として「スーパーチャンスモード」が設定されることを示す表示態様（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）が予め設定されているため、Ｖラウンド遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖに通過させている場合は、エンディング演出の表示態様を切り替えることなく、エンディング演出が実行される。一方、Ｖラウンド遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖに通過させることができなかった場合は、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることになるため、エンディング演出の表示態様を「チャンスモード」が設定されることを示すための表示態様へと切り替える処理（差替処理）を実行し、差し替え後の表示態様（図１２７（ｂ）の表示態様に対して『スーパー』の表示を削除した表示態様と、図１２７（ｃ）参照）でエンディング演出が実行される。
【１８４８】
また、Ｖ報知演出を実行しない場合には、通常大当たり遊技と同様に、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されず、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種演出表示からは、Ｖラウンド遊技が実行されていること、及び、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを把握することができない大当たり遊技が実行される。そして、Ｖラウンド遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したか否かに関わらず、予め設定された表示態様でエンディング演出が実行される。これにより、実際には確変状態が設定されているにも関わらず、大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定される状態を提供することができる。
【１８４９】
さらに、確変状態が設定されている状態で「チャンスモード」が設定される場合は、大当たり遊技中（確変大当たり遊技中）にＶ報知演出が実行されないため、大当たり遊技中の演出によって確変状態が設定されることを事前に把握され難くすることができる。なお、本制御例では、Ｖ報知演出が実行されない大当たり遊技において球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合に、実際には確変状態が設定されているにも関わらず、大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、Ｖ報知演出が実行されている状態で球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したにも関わらず、所定の割合でＶ通過報知を実行しないように構成し、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したにも関わらず、Ｖ通過報知が実行されなかった場合に、大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定されるように構成しても良い。また、この場合、通常大当たり遊技が実行される場合にも、Ｖ報知演出を実行可能に構成すると良い。
【１８５０】
このように構成することで、Ｖ報知演出が実行されたにも関わらず、Ｖ通過報知が実行されない事象を現出させ易くすることができるため、Ｖ報知演出が実行された大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定されることに対して遊技者に違和感を与えることを抑制することができる。
【１８５１】
次に、図１３４を参照して、大当たり遊技終了後に設定される演出モードの流れについて説明をする。上述した通り、本第１制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり遊技の終了後に普通図柄の高確率状態が予め定められた第１特定期間（特別図柄変動が１００回実行されるまでの期間）設定される。そして、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合には、大当たり遊技の終了後に特別図柄の高確率状態が予め定められた第２特定期間（特別図柄変動が５０回実行されるまでの期間）設定される。そして、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が時短状態（特別図柄の低確率状態、普通

図柄の高確率状態）である場合は、演出モードとして「チャンスモード」が設定される（図１３４（ｂ）参照）。また、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）である場合は、大当たり遊技中の演出内容に応じて（Ｖ報知演出の有無に応じて）、大当たり遊技終了後に設定される演出モードを異ならせており、図１３４（ａ）に示した通り、大当たり遊技中（大当たり遊技のエンディング期間中）に、確変状態が設定されることが報知された場合、即ち、エンディング演出として「スーパーチャンスモード」突入の表示態様（図１２７（ｂ）参照）が表示された場合は、演出モードとして「スーパーチャンスモード」が設定され（図１３４（ａ）の表示ａ参照）、大当たり遊技中（大当たり遊技のエンディング期間中）に、確変状態が設定されることが報知されなかった場合、即ち、エンディング演出として「チャンスモード」突入の表示態様（図１２７（ａ）参照）が表示された場合は、演出モードとして「チャンスモード」がされる（図１３４（ａ）の表示ｂ参照）。

【１８５２】

図１３４（ａ）の表示ａに示した通り、大当たり遊技終了後に「スーパーチャンスモード」が設定された場合、その「スーパーチャンスモード」は、確変状態が終了するまで継続し、遊技状態が確変状態から時短状態へと移行する場合に、「チャンスモード」へと切替表示される。この場合、「スーパーチャンスモード」が設定されている間は、図１３１（ａ）に示した通り、残期間態様として確変状態が終了するまでの期間（最大で５０回）が小表示領域Ｄｓ２に表示される。これにより、遊技者に最も有利な遊技状態が継続する期間を遊技者に分かり易く報知することができる。なお、図１３１（ａ）に示した表示内容に加え、確変状態が終了した後に、時短状態が５０回設定されることを遊技者に予め報知する事前報知演出を実行するように構成しても良く、例えば、小表示領域Ｄｓ２に表示されている確変状態の残期間を示す残期間態様（図１３１（ａ）では、白抜きで「４９回」と表示）が、所定期間以下（例えば、「１０回」以下）となった場合に、後に設定される時短状態が継続する回数（５０回）を示す残期間態様を、確変状態の残期間を示す残期間態様とは異なる表示態様（例えば、黒抜きで「５０回」と表示）で表示させるように構成すると良い。これにより、確変状態が終了した後にも、通常状態よりも有利な遊技状態（時短状態）が設定されることを遊技者に事前に報知することができる。

【１８５３】

また、「スーパーチャンスモード」が設定された時点で、確変状態の残期間を示す残期間態様（５０回）と、時短状態の残期間を示す残期間態様（１００回）と、を表示し、特別図柄変動が実行される毎に、各残期間態様を１ずつ減算させるように構成しても良いし、確変状態の残期間を示す残期間態様（５０回）と、確変状態が終了した後に設定される時短状態の残期間を示す残期間態様（５０回）と、を表示し、先に確変状態の残期間を示す残期間態様を減算していき、確変状態の残期間が０となり、時短状態へと移行した場合に、時短状態の残期間を示す残期間態様を減算していくように構成しても良い。このように構成した場合であっても、確変状態中の遊技を行っている遊技者に対して、確変状態が終了した後に通常状態よりも遊技者に有利な遊技状態が設定されることを事前に報知することができる。

【１８５４】

次に、図１３４（ａ）の表示ｂと、図１３４（ｂ）とを用いて、チャンスモード中の演出について説明をする。本制御例では、確変状態が設定される場合の一部と、時短状態が設定される場合に、演出モードとしてチャンスモードが設定される。そして、チャンスモード中には、図１２８を参照して上述した通り、残期間報知の報知態様を可変させる遊技状態示唆演出を実行される。この遊技状態示唆演出は、確変状態中のチャンスモードのほうが、時短状態中のチャンスモードよりも出現率が高くなるように設定されている。

【１８５５】

次に、図１３５を参照して、チャンスモード中における操作演出の内容について説明をする。本制御例では、チャンスモード中に実行される操作演出（遊技者による枠ボタン２２（操作手段）への操作に基づいて実行される演出）の演出態様を、遊技者による枠ボタ

ン２２（操作手段）の操作タイミング、操作方法、及び、設定されている遊技状態と、に応じて可変させるように構成している。具体的には、図１３５（ａ）に示した通り、時短状態が設定されている場合におけるチャンスモード中は、操作方法としてボタンＰＵＳＨ「通常押し」を実行した場合には、特別図柄変動が２０回実行されるまでの高速変動期間中において、実行中の変動演出がリーチ状態となるか否かを、第３図柄変動中に示唆する「リーチ示唆」、或いは、現在設定されている遊技状態を示唆する「状態示唆」の操作演出を実行可能に構成し、それ以降（特別図柄変動回数が２１回目以降）は、背景モードを移行させる「背景モード移行」の操作演出を実行可能に構成している。また、操作方法として、ボタン長押し「長押し」を実行した場合には、特別図柄変動が２０回実行されるまでの高速変動期間中に、背景モードを移行させる「背景モード移行」の操作演出を実行可能に構成し、特別図柄変動の回数が２１回～５０回までの期間（第２期間中）に、現在設定されている遊技状態を示唆する「状態示唆」の操作演出を実行可能に構成し、それ以降（特別図柄変動回数が５１回目以降）は、過去（「チャンスモード」が設定された時点（大当たり遊技終了後））に設定されていた遊技状態を示唆するため「過去状態示唆」の操作演出を実行可能に構成している。

【１８５６】

また、図１３５（ｂ）に示した通り、確変状態が設定されている場合におけるチャンスモード中は、操作方法としてボタンＰＵＳＨ「通常押し」を実行した場合には、特別図柄変動が２０回実行されるまでの高速変動期間中において、実行中の変動演出がリーチ状態となるか否かを、第３図柄変動中に示唆する「リーチ示唆」、現在設定されている遊技状態を示唆する「状態示唆」、或いは、背景モードを移行させる「背景モード移行」の操作演出を実行可能に構成し、特別図柄変動の回数が２１回～５０回までの期間（第２期間中）に、「背景モード移行」、或いは「状態示唆」の操作演出を実行可能に構成し、それ以降（特別図柄変動回数が５１回目以降）は、「背景モード移行」の操作演出を実行可能に構成している。また、操作方法として、ボタン長押し「長押し」を実行した場合には、特別図柄変動の回数に関わらず、背景モードを移行させる「背景モード移行」の操作演出を実行可能に構成している。

【１８５７】

以上、説明をした通り、本制御例では、時短状態が設定される場合、或いは、確変状態が設定される場合の一部において、演出モードとして「チャンスモード」を設定可能に構成しており、そのチャンスモード中に実行される特別図柄変動の回数に応じて、チャンスモードの継続期間（時短１００回）を複数の期間に区分けし、設定されている遊技状態及び期間毎に、遊技者が操作手段（枠ボタン２２）を操作した場合に実行される操作演出の演出態様を異ならせるように構成している。これにより、チャンスモードが設定された場合において、操作演出により実行される操作演出の内容に基づいて現在設定されている遊技状態を遊技者に予測させることが可能となるため、遊技者に対して意欲的に操作手段を操作させる遊技を実行させることができる。

【１８５８】

以上、説明をした通り、本制御例では、大当たり遊技終了後の所定期間の間が高速変動期間となり、枠ボタン２２に対して「通常押し」の操作を実行したとしても「背景モード移行」の操作演出が、他の期間よりも実行され難くなるように構成しているが、高速変動期間（背景モード移行され難い期間）を、他のタイミングで設定しても良く、例えば、大当たり遊技終了後に実行される１回の特別図柄変動が終了するまでの期間を、通常時短変動期間とし、大当たり遊技終了後の２回目の特別図柄変動が実行されてから２０回目の特別図柄変動が実行されるまでの期間が高速変動期間として設定されるように構成しても良い。

【１８５９】

このように構成することで、例えば、大当たり遊技終了後の１回目の特別図柄変動期間中において、高速変動期間が設定されることを予告する予告態様として、「次変動から背景モードを変更できないよ！今のうちに希望の背景を選択してね」のコメントを副表示領

域Ｄｓに表示することで、遊技者に対して、背景モードを変更できない期間（高速変動期間）が急に設定されてしまい、所望する背景モードで遊技を実行することができず、遊技意欲が低下してしまう事態を抑制することができる。さらに、大当たり遊技終了後の１回の特別図柄変動期間を用いて、「チャンスモード」の遊技内容を遊技者に説明するための案内態様として、「チャンスモードは、確変状態の可能性もあるよ！諦めないで！」のコメントや「残回数の表示態様が変わるとチャンス！」のコメントも併せて表示するように構成しても良い。

【１８６０】

なお、本第１制御例のように、大当たり終了後の１回目の特別図柄変動から高速変動期間が設定される場合においては、高速変動期間が設定される前に実行された大当たり遊技の遊技期間中（例えば、大当たり遊技のエンディング期間中）に、「チャンスモード」中の背景モードを選択可能に構成すると共に、「チャンスモード」が設定されると、所定期間の間（高速変動期間中）、背景モードを変更できない旨を遊技者に報知するように構成すれば良い。

【１８６１】

図２に戻り、説明を続ける。第２図柄表示装置は、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１８６２】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本制御例においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入球口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態（開放状態）となる当たり遊技（普図当たり遊技）が実行されるよう構成している。

【１８６３】

第２図柄の変動表示にかかる時間（普図変動時間）は、設定されている普通図柄の確率状態（低確率状態、高確率状態）に応じて異ならせており、普通図柄の低確率状態（通常状態）が設定されている場合は、普図変動時間として１０秒が、普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）が設定されている場合は、普図変動時間として３秒が設定されるように構成されている。これにより、普通図柄の低確率状態において普図当たり遊技が実行される頻度と、普通図柄の高確率状態において普図当たり遊技が実行される頻度とを大きく乖離させることが可能となる。つまり、普通図柄の低確率状態に対して普通図柄の高確率状態のほうが、普図変動時間を短くすることで単位時間当たりに実行され得る普通図柄抽選（普図抽選）の回数を増加させることができ、さらに、実行される普図抽選にて当たり当選し易くすることができる。よって、普通図柄の低確率状態が設定されている場合に普図当たり遊技を実行させ難くしながらも、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に普図当たり遊技を実行させ易くすることができる。

【１８６４】

なお、本制御例では、普通図柄の低確率状態よりも、普通図柄の高確率状態のほうが、設定される普図変動時間も、当たり当選確率も遊技者に有利となるように構成しているが、これに限ること無く、何れか一方のみが遊技者に有利となるように構成してもよい。例えば、普通図柄の確率状態に関わらず、同一時間の普図変動時間（例えば、３秒）が設定されるように構成し、当たり当選確率のみに差を持たせても良い。これにより、例えば、普通図柄の低確率状態中（通常状態中）に普図当たり遊技が実行され難くするために、普通図柄の変動表示にかかる時間（普図変動時間）が時短状態中よりも通常状態中のほうが長くなるように構成したパチンコ機１０において、普通図柄の当たり遊技（普図当たり遊

技）が実行され難い通常状態（普通図柄の低確率状態）から、普図当たり遊技が実行され易い時短状態（普通図柄の高確率状態）へと遊技状態が移行する場合に、通常状態中に実行された長時間の普通図柄変動（時短状態中よりも遊技者に不利となる普図当たり遊技）の実行中に時短状態へと移行してしまい、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態中の普通図柄抽選が実行されない期間が長時間設定されてしまうことを抑制することができる。

【１８６５】

図２を参照して上述した通り、本制御例におけるパチンコ機１０は、遊技盤１３の遊技領域に各種装置が配設されており、可変表示ユニット８０の左側に形成される左側領域に球を流下させる遊技（左打ち遊技）を実行しても、右側領域に球を流下させる遊技（右打ち遊技）を実行しても、遊技者が得る遊技価値に差が生じ無い（生じ難い）ように遊技盤１３が構成されている。具体的には、図２に示した通り、遊技盤１３の中央部の垂線に対して左右対称に各種装置が配設されており、可変表示ユニット８０の下側領域に、球が入球することにより第１特別図柄の抽選契機となり得る第１入球口６４と、その第１入球口６４の下方位置に設けられ、球が入球することにより第２特別図柄の抽選契機となり得る第２入球口６４０と、その第２入球口６４０に付設され、普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技にて開放動作される電動役物６４０ａと、その第２入球口６４０の下方位置に設けられ、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技にて開放動作される可変入賞装置６５と、が配設されている。

【１８６６】

左打ち遊技によって発射された球は、左側領域を流下し１／２の割合で左側領域に設けられたスルーゲート６７を通過し、スルーゲート６７を通過した球も、スルーゲート６７を通過しなかった球も、遊技盤１３に植設された釘によって、下側領域に設けられた第１入球口６４に向けて流下する。ここで、釘の間から直下方向へと流下した球は、２つの一般入球口６３へと入球する。なお、本制御例では、左側領域を流下する球の約１／５０が２つの一般入球口６３の何れかへと入球するように構成されており、一般入球口６３へと球が入球した場合には、１０個の賞球（特典）が付与されるように構成している。

【１８６７】

第１入球口６４には、１５球に１球の割合で球が入球し得るように構成されており、球が入球した場合には、４個の球が賞球として払い出されるように構成している。第２入球口６４０は、電動役物６４０ａが閉鎖している状態（図２にて白色で示した状態）では、殆ど球が入球せず、電動役物６４０ａが開放している状態（図２にて黒色で示した状態）では、左打ち遊技にて発射され、左側領域を流下する球の約２球に１球の割合で球が入球するように構成されており、球が入球した場合には、１個の球が賞球として払い出されるように構成している。また、可変入賞装置６５は、大当たり遊技が実行されていない状態では、殆ど球が入球せず、大当たり遊技中には約３球に２球の割合で球が入球するように構成されており、球が入球した場合には、１５球の球が賞球として払い出されるように構成している。

【１８６８】

ここで、可変入賞装置６５について説明をする。この可変入賞装置６５は、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技にて開放動作される可変入球手段であって、大当たり遊技中に可変入賞装置６５へと入賞した球が可変入賞装置６５の内部領域に設けられた特定領域（Ｖゲート）を通過することによって、その大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定することができるように構成している。

【１８６９】

また、当選した大当たりの種別に応じて、可変入賞装置６５へと入賞した球が特定領域（Ｖゲート）を通過し易い大当たり遊技（確変大当たり遊技）と、通過し難い大当たり遊技（通常大当たり遊技）と、を実行可能に構成しており、本制御例では、可変入賞装置６５へと入賞した球が特定領域（Ｖゲート）を通過し易い大当たり遊技、即ち、大当たり遊技中に正常な遊技を行えば特定領域（Ｖゲート）へと球を容易に流下させることが可能な

大当たり（遊技）を確変大当たり（遊技）、可変入賞装置６５へと入賞した球が特定ゲートを通過し難い大当たり遊技、即ち、大当たり遊技中に正常な遊技を行ったとしても特定領域（Ｖゲート）へと球を通過させることが困難な大当たり（遊技）を通常大当たり（遊技）と称して説明をする。

【１８７０】

なお、上述した通り、確変大当たり遊技が実行されたとしても、その大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）へと球を通過させることができなかった場合は、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定されることが無い。つまり、本制御例では、大当たり遊技が実行されたタイミングでは、その大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確定しないことになる。詳細な説明は後述するが、本制御例では、大当たり遊技の１ラウンド目に実行されるラウンド遊技にて、最も球を特定領域（Ｖゲート）へと通過させ易いラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）が実行されるように構成している。よって、このＶラウンド遊技が終了するまで、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を確定させることができない。このように大当たり遊技中の遊技結果によって大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確定するように構成することで、遊技者は大当たり遊技にて様々な特典（賞球、特別図柄の高確率状態）を獲得するための遊技を行うことができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１８７１】

一方で、上述した構成を用いた場合、大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態を遊技者に報知するための報知演出の演出態様（例えば、大当たりエンディング期間の演出態様）を予め（例えば、大当たり遊技開始時に）設定しておくことが出来ず、出球に関する制御処理や表示に関する制御処理が密に実行される大当たり遊技中に報知演出の演出態様を設定しなければならず、パチンコ機１０の制御処理が煩雑になってしまうという問題があった。

【１８７２】

これに対して、本制御例では、確変大当たり遊技が実行される場合には、予め（大当たり遊技開始時に）報知演出の演出態様として大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを示す演出態様を設定しておき、報知演出が実行される直前に（例えば、大当たりエンディング期間の開始時に）特定領域（Ｖゲート）への球の通過結果に基づいて報知演出の演出態様を切り替えるか否かの判別を実行し、特定領域（Ｖゲート）を球が通過している場合には、予め設定しておいた演出態様の報知演出を実行し、特定領域（Ｖゲート）を球が通過していない場合にのみ、報知演出の演出態様を切り替えるように構成している。このように、大当たり遊技中に正常な遊技を行った場合、大当たり遊技終了後に設定され易い遊技状態を想定して予め報知態様の演出態様を設定しておき、想定外の遊技状態が設定されると判別された場合にのみ、報知態様の演出態様を切り替えるようにすることで、大当たり遊技中に報知演出の演出態様を設定するための制御処理が実行される頻度を低減することができる。

【１８７３】

さらに、本制御例では、大当たりエンディング期間の長さを、確変大当たり遊技と通常大当たり遊技とで異ならせており、遊技者にとって有利となる確変大当たり遊技のほうが通常大当たり遊技よりも長いエンディング期間が設定されるように構成している。これにより、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを、実際に確変状態が設定されるよりも前に（大当たり遊技中に）遊技者に分かり易く報知することができる。一方、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されない場合には、その旨を長期間報知したとしても遊技者に不快感を与えてしまうだけであるため、エンディング期間が短くなるように構成している。

【１８７４】

このように、大当たりエンディング期間の長さを、確変大当たり遊技と通常大当たり遊技とで異ならせてしまうと、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）へと流下させることができなかった場合に、大当たりエンディング期間の演出態様を単に通常当たり

遊技のエンディング期間に実行される演出態様へと切り替える処理を実行するだけでは、エンディング期間の長さが異なるためエンディング期間中に違和感のある報知演出が実行されてしまうという問題があった。また、確変大当たり遊技において球を特定領域（Ｖゲート）へと流下させることができなかった場合にのみ設定される専用の演出態様を予め用意してしまうと、その演出態様に対する画像データ（演出データ）を予め表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させておく必要があり、記憶容量が増加してしまうという問題があった。

【１８７５】

これに対して、本制御例では、大当たりエンディング期間を前半期間と後半期間とに区分けし、後半期間の長さが大当たり種別（確変大当たり、通常大当たり）に関わらず共通の長さとなるように構成し、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）へと流下させることが出来なかった場合に、大当たりエンディング期間の後半期間に対応する演出態様のみ通常当たり遊技のエンディング期間の後半期間に対して設定される演出態様へと切り替えるように構成している。これにより、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）へと流下させることが出来なかった場合にのみ用いられる専用の演出態様を設けること無く、且つ、遊技者に違和感を与えることの無い報知演出を実行することができる。

【１８７６】

なお、本制御例では、大当たりエンディング期間を前半期間と後半期間とに区分けし、後半期間の長さを大当たり種別に関わらず共通の長さとするように構成することで、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）へと流下させることが出来なかった場合に実行される報知演出の演出態様を切替設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技の最終ラウンド期間中から報知演出を実行することで、実際の大当たりエンディング期間よりも長い期間実行される報知演出を実行可能に構成しても良いし、大当たりエンディング期間が設定されてから所定期間の間、大当たり遊技の最終ラウンド期間中に実行されるラウンド演出を継続して実行し、その後、報知演出を実行することで、実際の大当たりエンディング期間よりも短い期間の報知演出を実行するように構成しても良い。

【１８７７】

なお、本制御例では、図２に示した通り、パチンコ機１０の遊技盤１３の構成を左右対称に構成しているが、これに限ること無く、例えば、遊技者が獲得可能な特典量が左打ち遊技を行った場合と、右打ち遊技を行った場合とで大きく乖離しないように構成すれば良く、例えば、左側領域に設けられる一般入球口６３の数を、右側領域に設けられる一般入球口６３の数よりも少なくし、且つ、第１入球口６４へと球が入球する割合を、右打ち遊技よりも左打ち遊技のほうが高くなるように構成し、左打ち遊技のほうが右打ち遊技よりも賞球を獲得し難いが第１特別図柄抽選を実行し易くし、右打ち遊技のほうが左打ち遊技よりも賞球を獲得し易いが第１特別図柄抽選を実行し難くするように構成しても良い。このように構成した場合には、通常状態中、即ち、第１入球口６４へと球を入球させる遊技を実行している間は、遊技者が任意の遊技方法で遊技を行うことができ、第２入球口６４０へと球を入球させる遊技（時短状態や確変状態中の遊技）においては、左打ち遊技よりも右打ち遊技のほうが遊技者に有利な遊技とすることができる。

【１８７８】

図２に戻り、説明を続ける。普通図柄始動口（スルーゲート）６７は、可変表示装置ユニット８０の左側の領域（左側領域）、及び、可変表示装置ユニット８０の右側の領域（右側領域）の何れにも組み付けられており、左側領域のスルーゲート６７は、遊技盤１３の左側領域を流下する球の１／２が通過可能に構成されている。また、右側領域のスルーゲート６７は、遊技盤１３の右側領域を流下する球の１／２が通過可能に構成されている。普通図柄始動口（スルーゲート）６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。この第２図柄の当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１８７９】
球の普通図柄始動口（スルーゲート）６７の通過回数は、合計で最大１回まで保留され、その保留球数が上述した第２図柄保留ランプ８４において表示される。第２図柄保留ランプ８４は、最大保留数分の１つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。
【１８８０】
なお、第２図柄の変動表示は、本制御例のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の球の通過に対する最大保留球数は１回に限定されるものでなく、２回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、複数（例えば、２つ）であっても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の左方に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の右方でも良い。また、本制御例では、左打ち遊技によって遊技盤１３の左側領域を流下する球の殆どがスルーゲート６７を通過するように構成しているが、これに限ること無く、一部の球のみがスルーゲート６７を通過するように構成しても良い。
【１８８１】
図２に戻り説明を続ける。可変表示装置ユニット８０の下方（電動役物６４０ａの下方）には、左打ち遊技によって発射され左側領域を流下する球も、右打ち遊技によって発射され右側領域を流下する球も入賞し得るように、開口幅が約５０ミリの可変入賞装置６５が配設されている。このように、広い開口幅を有する可変入賞装置６５を設けることにより、左打ち遊技によって電動役物６４０ａの左側を流下した球も、右打ち遊技によって電動役物６４０ａの右側を流下した球も可変入賞装置６５へと入賞させることができる。
【１８８２】
ここで、図１２０を参照して、可変入賞装置６５の具体的な構成について説明をする。図１２０（ａ）は、可変入賞装置６５の構造を模式的に示した模式図であり、図１２０（ｂ）は、可変入賞装置６５に入賞した球の流下経路を模式的に示した模式図である。図１２０（ａ）に示した通り、可変入賞装置６５の内部には、案内部材６５ｄが設けられており、開状態である開閉扉６５ｂ上を流下し特定入賞口６５ａに入賞した球が左右方向へと流下するように構成されている。
【１８８３】
具体的には、左側領域を流下し、可変入賞装置６５の左側から特定入賞口６５ａに入賞した球は、案内部材６５ｄの左側斜面上の左案内流路６５ｄ１を流下し、第１開口部６５ａ１へと誘導される。また、右側領域を流下し、可変入賞装置６５の右側から特定入賞口６５ａに入賞した球は、案内部材６５ｄの右側斜面上の右案内流路６５ｄ２を流下し、第２開口部６５ａ２へと誘導される。
【１８８４】
そして、第１開口部６５ａ１或いは第２開口部６５ａ２の下方には、可変入賞装置６５に入賞した球を検知するための球検知センサ（６５ｓ１，６５ｓ２）が設けられており、この球検知センサが球を検知した場合に、賞球として１５個の球を払い出すための払出制御が実行される。このように、左側領域を流下し可変入賞装置６５へと入賞した球が通過し得る開口部（第１開口部６５ａ１）と、右側領域を流下し可変入賞装置６５へと入賞した球が通過し得る開口部（第２開口部６５ｂ１）と、を設け、各開口部に対して球検知センサを設けることにより、遊技者が大当たり遊技中に左打ち遊技を行っても、右打ち遊技を行っても、差の無い遊技を実行させることができる。
【１８８５】
次に、図１２０（ｂ）を参照して、特定入賞口６５ａに入賞した球の球流れについて説明する。図１２０（ｂ）に示した通り、第１開口部６５ａ１を通過した球は、第１球検知

センサ６５ｓ１を通過し、誘導路６５ｅ上の第１流路６５ｅ１、第２流路６５ｅ２を流下し、切替弁６５ｙの切替状態に応じて第３流路６５ｅ３、或いは第４流路６５ｅ４の何れかを流下する。

【１８８６】

第３流路６５ｅ３の下流端には排出口６５ｈ１が設けられており、第３流路６５ｅ３を流下した球は、排出口６５ｈに入球し、パチンコ機１０の外部へと排出される。なお、図示はしていないが排出口６５ｈ１に入球した球が流下する排出路には球検知センサが設けられており、排出口６５ｈ１に入球した球数をカウント可能に構成されている。

【１８８７】

第４流路６５ｅ４には特定領域（Ｖゲート）６５ｖが設けられており、下流端には特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した球が入球する排出口６５ｈ２が設けられている。特定領域（Ｖゲート）には、通過した球を検知するための検知センサが設けられており、大当たり遊技中の所定期間内に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したことを検知した場合にその検知結果を記憶しておき、大当たり遊技が終了する場合に、記憶結果を参照して大当たり遊技終了後の遊技状態が設定されるように構成している。

【１８８８】

ここで、大当たり遊技中における切替弁６５ｙの動作内容について説明をする。切替弁６５ｙは図示しないＶソレノイド２０９ａ（図１３７参照）を駆動源とする可変部材であって、Ｖソレノイド２０９ａが通電していない状態（オフ状態）では、第２流路６５ｅ２を流下した球を第３流路６５ｅ３へと流下させるための閉状態（図１２０（ｂ）参照）を維持し、Ｖソレノイド２０９ａが通電した状態（オン状態）では、第２流路６５ｅ２を流下した球を第４流路６５ｅ４へと流下させるための開状態を維持するように構成されている。

【１８８９】

このＶソレノイド２０９ａは通常オフ状態であり、大当たり遊技中の所定期間のみオン状態となるように駆動制御されている。具体的には、大当たり遊技中に実行される複数回のラウンド遊技のうち、特定のラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）が開始された場合にオン状態となり、特定のラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）が終了した場合、或いは、特定のラウンド遊技の遊技時間が所定時間（例えば、２０秒）を経過した場合にオフ状態となるように駆動制御されている。つまり、大当たり遊技中に実行される大当たり制御の一環として切替弁６５ｙが切替動作されるように構成している。

【１８９０】

このように構成することで、大当たり遊技が実行されている場合（大当たり制御が実行されている場合）のみ、可変入賞装置６５に球を入賞させることができると共に、可変入賞装置６５へと入賞した球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと流下させることが可能となる。また、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したことに基づいて付与される特典（特別図柄の高確率状態の設定）は、大当たり遊技の終了タイミング（大当たり遊技の終了時に実行される処理）にて付与されるように構成しているため、大当たり遊技中以外のタイミングにおいて球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへ通過させる不正行為が行われたとしても、遊技者に特典が付与されることが無い。

【１８９１】

なお、本制御例では、大当たり遊技中に実行される大当たり制御処理において、特定のラウンド遊技が開始されたタイミングに基づいて予め定められた規則に沿って切替弁６５ｙを切り替えるための切替制御を実行するように構成しているが、それ以外の契機に基づいて切替制御を実行するように構成しても良く、例えば、大当たり遊技が開始されたことを切替制御の実行契機としても良いし、大当たり遊技のオープニング期間が終了したことを切替制御の実行契機としても良いし、大当たり遊技中に可変入賞装置６５に入賞した球数を計測し、その計測結果が特定数となったことを切替制御の実行契機としても良い。また、可変入賞装置６５に入賞した球数が特定数となったことを切替制御の実行契機とする場合には、大当たり遊技全体における球数を判別対象としても良いし、ラウンド遊技単位

における球数を判別対象としても良い。このように構成することで、大当たり遊技中のどのタイミングで特定領域（Ｖゲート）へと球を通過させ易い状態が設定されるのかを遊技者に分かり難くすることができる。

【１８９２】

さらに、大当たり遊技が実行される場合に設定されるオープニング期間の長さや、開閉扉６５ｂの開閉パターンを大当たり種別毎に異ならせるように構成しても良い。このように構成することで、大当たり種別に関わらず切替弁６５ｙに対して同一の切替制御を実行するように構成した場合であっても、特定領域（Ｖゲート）へと球を通過させ易い状態が設定される期間中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと到達させ易い大当たり遊技と、通過させ難い大当たり遊技と、を実行することができる。

【１８９３】

次に、図１２１を参照して、本制御例におけるパチンコ機１０の後面側の構成について説明をする。図１２１は、本第１制御例におけるパチンコ機１０の背面図である。図１２１に示すように、パチンコ機１０の後面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１８９４】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１８９５】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１８９６】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１８９７】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図２１参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加

するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。
【１８９８】
　また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図１３７参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【１８９９】
　＜第１制御例におけるパチンコ機の遊技の流れについて＞
　次に、図１３６を参照して、本制御例における遊技の流れについて説明をする。図１３６は、第１制御例のパチンコ機１０における遊技の流れを模式的に示した模式図である。本制御例のパチンコ機１０は、図１３６に示した通り、遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）との３種類の遊技状態を設定可能に構成しており、初期状態（パチンコ機１０の出荷時の状態、或いは、ＲＡＭ消去スイッチ１２２を操作（押下）した状態で電源を投入した後の状態）では、通常状態が設定されるように構成している。
【１９００】
　そして、通常状態中は、第１入球口６４に球を入球させることで実行される第１特別図柄抽選を主とした遊技が実行される。特別図柄の低確率状態が設定される通常状態では、特別図柄の大当たり確率が１／２００に設定されており、大当たり当選した場合には、大当たり種別として「大当たりＡ」（選択率１／２）と「大当たりＢ」（選択率１／２）との何れかが選択される。「大当たりＡ」が選択された場合には、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと球を通過させ易い大当たり遊技（確変大当たり遊技）が実行され、「大当たりＢ」が選択された場合には、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと球を通過させ難い大当たり遊技（通常大当たり遊技）が実行される。
【１９０１】
　そして、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される。この確変状態は、特別図柄抽選（変動）の実行回数が５０回に到達した場合、或いは、大当たり当選した場合に終了条件が成立し、他の遊技状態へと移行する。具体的には、確変状態が設定されている状態で、特別図柄抽選の実行回数が５０回に到達した場合には、５１回目の特別図柄抽選が実行されるまでに、遊技状態が確変状態から時短状態へと移行される。なお、本制御例では、確変状態から時短状態へと遊技状態を移行させる処理を、５０回目の特別図柄抽選に対応する特別図柄変動が停止表示されたタイミングで実行するように構成しているが、５１回目の特別図柄抽選が特別図柄の高確率状態が設定されている状態で実行されなければ良く、例えば、５０回目の特別図柄抽選を実行した直後（５０回目の特別図柄変動の開始時）に遊技状態を移行させても良いし、５１回目の特別図柄抽選の実行直前（５１回目の特別図柄抽選の実行条件は成立しているが、特別図柄抽選が実行されていないタイミング）に遊技状態を移行させても良い。
【１９０２】
　確変状態は普通図柄の高確率状態であるため、普通図柄の低確率状態である通常状態よりも普図当たり遊技により電動役物６４０ａが開状態となり易く、第２特別図柄抽選を主とした遊技が実行される。特別図柄の高確率状態が設定される確変状態では、特別図柄の大当たり確率が１／５０に設定されており、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として「大当たりＣ」（選択率３／１０）、「大当たりＤ」（選択率４／１０）、「大当たりＥ」（選択率３／１０）の何れかが選択される。
【１９０３】

「大当たりＣ」は、４ラウンドの確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であり、「大当たりＤ」は、７ラウンドの確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であり、「大当たりＥ」は、１６ラウンドの確変大当たり遊技が実行される大当たり種別である。つまり、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、必ず、確変大当たり遊技が実行される。よって、確変大当たり遊技の実行確率の点では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な抽選となる。

【１９０４】

また、詳細は、図１４１を参照して後述するが、本制御例では、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、必ず７ラウンド遊技が実行され、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、平均で８．８ラウンド（４ラウンドが３０％、７ラウンドが４０％、１６ラウンドが３０％）のラウンド遊技が実行される。よって、大当たり遊技中に獲得可能な賞球数の平均値の点でも第２特別図柄抽選のほうが第１特別図柄抽選よりも遊技者に有利となる。なお、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、４ラウンド遊技が実行される可能性があるため、大当たり遊技中に獲得し得る賞球数が最も少なくなり得るのは第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合となる。よって、大当たり遊技中に最低限獲得可能な賞球数の点では第１特別図柄抽選のほうが第２特別図柄抽選よりも遊技者に有利となる。

【１９０５】

次に、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）について説明をする。通常状態中に実行された第１特別図柄抽選で「大当たりＢ」に当選した場合、確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数が５０回を超えた場合、或いは、確変大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと通過させることができなかった場合には、時短状態が設定される。この時短状態は、前回の大当たり遊技の終了後に実行された特別図柄抽選の回数が１００回に到達するまで、或いは、１００回に到達するまでに大当たり当選した場合に消滅するように構成している。つまり、大当たり遊技の終了後に時短状態が設定された場合（大当たりＢに当選した場合）は、大当たり遊技終了後から特別図柄変動が１００回実行されるまでの期間、時短状態が設定される（時短回数１００回が設定される）。一方、確変状態に実行される特別図柄抽選の回数が５０回を超えた場合には、確変状態終了後に、時短回数が５０回設定される。

【１９０６】

この時短状態中は、上述した確変状態と同様に普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態であることから、電動役物６４０ａが開放されやすく、第２特別図柄抽選が主として実行される遊技状態となる。また、時短状態中に実行される特別図柄抽選の抽選確率は、通常状態と同一である。よって、時短状態は、通常状態と比べて第２特別図柄抽選が実行され易く、通常状態と同一の大当たり確率で特別図柄抽選が実行される遊技状態となる。つまり、第２特別図柄抽選の実行のし易さの点から、通常状態よりも遊技者に有利な遊技状態となる。

【１９０７】

一方、時短状態は、確変状態よりも低い大当たり確率で特別図柄抽選が実行され、第２特別図柄抽選の実行のし易さは確変状態と同一である。つまり、特別図柄抽選による大当たり当選確率の点から、時短状態は、確変状態よりも遊技者に不利な遊技状態となる。なお、本制御例では、確変状態と時短状態とで、第２特別図柄抽選の実行のし易さが同一となるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、確変状態中に実行される第２特別図柄抽選の変動時間と、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の変動時間と、を異ならせ、例えば、確変状態中のほうが、通常状態中よりも短い変動時間で特別図柄変動を実行可能に構成しても良い。

【１９０８】

＜第１制御例における電気的構成について＞

次に、図１３７を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１３７は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１９０９】
主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。
【１９１０】
なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【１９１１】
主制御装置１１０では、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。そして、ＲＡＭ２０３には、これらの処理を制御するための各種カウンタが設けられている。ここで、図１３８を参照して、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等について説明する。図２２は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等を模式的に示した模式図である。これらのカウンタ等は、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定などを行うために、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１で使用される。
【１９１２】
特別図柄の抽選や、第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１の表示の設定には、特別図柄の抽選に使用する第１当たり乱数カウンタＣ１と、特別図柄の大当たり種別を選択するために使用する第１当たり種別カウンタＣ２と、特別図柄における外れの停止種別を選択するために使用する停止種別選択カウンタ（Ｃ３）と、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と、変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。
【１９１３】
また、普通図柄の抽選には、第２当たり乱数カウンタＣ４が用いられ、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値設定には第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２と、普通図柄の変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。これら各カウンタは、更新の都度、前回値に１が加算され、最大値に達した後０に戻るループカウンタとなっている。
【１９１４】
各カウンタは、例えば、タイマ割込処理（図１５６参照）の実行間隔である２ミリ秒間隔で更新され、また、一部のカウンタは、メイン処理（図１６７参照）の中で不定期に更新されて、その更新値がＲＡＭ２０３の所定領域に設定されたカウンタ用バッファに適宜格納される。ＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第１球口６４への入球に対応する第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａと、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第２入球口６４０への入球に対応する第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂと、が設けられており、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａには、第１入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び変動種別カウンタＣＳ１の各値がそれぞれ格納され、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂには、第２入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウ

ンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び、変動種別カウンタＣＳ１の各値が格納される。

【１９１５】

そして、特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの保留第１エリアに格納されている各種値、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されている各種値のうち、次に抽選が実行される特別図柄種別に対応する特別図柄の情報を有しているを特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始される。

【１９１６】

なお、本制御例では、特別図柄の種別が２種類（第１特別図柄、第２特別図柄）の構成を用いているが、これに限ること無く、特別図柄の種別を１種類としても良い。そして、第１特別図柄の始動条件（変動条件）、或いは、第２特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、対応する特別図柄種別の特別図柄保留球格納エリアの保留第１エリアに格納されている各種値を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始されるように構成すれば良い。このように構成することで、複数の特別図柄種別を用いたパチンコ機１０であっても、各々の特別図柄変動を円滑に実行することができる。

【１９１７】

さらに、本制御例のように、複数の特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）を有するパチンコ機１０であれば、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成しても良く、この場合、各特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）がそれぞれ特別図柄実行エリアを有するように構成すれば良い。これにより、各特別図柄の始動条件が成立した場合に、速やかに次の特別図柄変動を実行させることができる。

【１９１８】

また、本制御例では、特別図柄の抽選結果が大当たりと外れのみとなるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の抽選結果が外れである場合の一部において、大当たり当選時よりも少ない特典（大当たり当選時とは異なる特典）を遊技者に付与可能な小当たりに当選し得るように構成しても良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合であっても、遊技者に特典を付与する機会を設けることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。この場合、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に、小当たり種別カウンタを設け、取得した小当たり種別カウンタの値を特別図柄保留球格納エリアに格納可能に構成し、特別図柄の抽選を実行する場合に参照するように構成すれば良い。

【１９１９】

加えて、特別図柄抽選で小当たり当選可能に構成した場合には、例えば、大当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、小当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、を異ならせるように構成しても良く、例えば、大当たり当選した場合は、大当たり遊技の開始時に遊技状態を通常状態へと移行させ、さらに、設定された大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に新たな遊技状態を設定可能に構成し、小当たり当選した場合は、小当たり当選時の遊技状態を維持したまま小当たり遊技を実行し、その小当たり遊技終了後も遊技状態を移行させないように構成しても良い。

【１９２０】

このように構成することで、当選した当たり種別（大当たり、小当たり）に応じて、遊技状態の移行の有無や、移行内容を異ならせることができるため、バリエーションに富んだ遊技を提供することができる。

【１９２１】

さらに、本実施形態のＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１エリア）からなるスルーゲート６７への入球（球の通過）に対応する普通図柄保留球格納エリア２０３ｂが設けられており、普通図柄保留球格納エリア２０３ｂには、スルーゲート６７への入球

タイミングに合わせて、第２当たり乱数カウンタＣ４、及び普図変動種別カウンタＣＳ２の各値がそれぞれ格納される。

【１９２２】

そして、普通図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されている各種値を普通図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた普通図柄変動が開始される。

【１９２３】

次に、図１３８を参照して、各カウンタについて詳しく説明する。第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～９９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９９の値を取り得るカウンタの場合は９９９）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【１９２４】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～３９９の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１もまた、０～３９９の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、タイマ割込処理（図３９参照）の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理（図１６７参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【１９２５】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。

【１９２６】

ここで、図１４０（ａ）を参照して、第１当たり乱数テーブル２０２ａについて説明する。図１４０（ａ）は、第１当たり乱数テーブル２０２ａに規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数テーブル２０２ａは、特別図柄の抽選において、大当たりと判別される乱数値（判定値）が規定されたテーブルである。

【１９２７】

具体的には、第１当たり乱数テーブル２０２ａには、大当たりと判定される判定値を遊技状態（特別図柄の確率状態）に応じて異ならせて規定している。図１４０（ａ）に示した通り、遊技状態として特別図柄の低確率状態（通常状態、時短状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「５～９９９」）が外れの判定値として規定されている。また、遊技状態として特別図柄の高確率状態（確変状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～１９」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「２０～９９９」）が外れの判定値として規定されている。つまり、第１当たり乱数テーブル２０２ａの更新範囲は「０～９９９」の１０００個であるため、特別図柄の低確率状態において、大当たりと判定される確率は１／２００（１０００個のうち５個）となり、特別図柄の高確率状態において、大当たりと判定される確率は１／５０（１０００個のうち２０個）となる。

【１９２８】

なお、本制御例では、２種類の大当たり確率が遊技状態に応じて設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たりに当選する確率を遊技状態に関わらず同一の

確率となるように構成しても良いし、３種類以上の大当たり確率が設定されるように構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄の状態と、普通図柄の状態と、を組み合わせることによって設定される最大で４種類の遊技状態毎に特別図柄の大当たり確率を異ならせるように構成しても良いし、単純に、特別図柄の状態を高確率状態、通常確率状態、低確率状態のように３種類以上設定可能にし、各状態に対して異なる大当たり確率を設定するように構成しても良い。

【１９２９】

また、本制御例では、特別図柄の抽選結果として、「大当たり」と「外れ」の２種類の抽選結果が判定されるように構成しているが、これに加えて、第３の抽選結果として、「外れ」の１種として「小当たり」を判定可能に構成しても良い。この「小当たり」に当選した場合には、可変入賞装置６５を「大当たり」よりも短い期間（１ラウンド分）開放させる小当たり遊技が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合において、少量の特典（賞球）を遊技者に付与することができる。なお、「小当たり」を「外れ」の１種とする場合には、遊技者に対して小当たり遊技による賞球を付与可能であるが、大当たり当選していないため、遊技状態を可変させる（当選時の遊技状態とは異なる遊技状態を設定する）処理が実行されないように構成すると良い。これにより、大当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、小当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、を明確に異ならせることができる。

【１９３０】

上述した通り、特別図柄の抽選結果として「小当たり」に当選し得るように構成する場合は、第１当たり乱数テーブル２０２ａに「小当たり」に対応する第１当たり乱数カウンタＣ１の値を規定するように構成すれば良い。このように構成することで、特別図柄の大当たり抽選と小当たり抽選と、を同一の処理で実行することができるため、大当たり抽選と小当たり抽選とを異なる処理で実行する場合に比べ、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、１つの特別図柄抽選において、大当たりと小当たりとに重複して当選してしまうことを禁止することができる。

【１９３１】

第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄の大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。

【１９３２】

本実施形態のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本実施形態では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、第１当たり種別選択テーブル２０２ｃを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判別するように構成している。ここで、図１４１を参照して大当たり種別選択テーブル２０２ｄの内容について説明をする。

【１９３３】

図１４１（ａ）は、大当たり種別選択テーブル２０２ｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図１４１（ａ）に示した通り、この大当たり種別選択テーブル２０２ｄは、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図１大当たり用テーブル２０２ｄ１と、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図２大当たり用テーブル２０２ｄ２と、を有している。

【１９３４】

まず、図１４１（ｂ）を参照して、特図１大当たり用テーブル２０２ｄ１の内容について説明をする。図１４１（ｂ）は、特図１大当たり用テーブル２０２ｄ１に規定されてい

る内容を示した模式図である。上述した通り、この特図１大当たり用テーブル２０２ｄ１は、第１特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に設定する大当たり種別を選択するためのデータテーブルであって、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて異なる大当たり種別が規定されているものである。

【１９３５】

具体的には、第１特別図柄（特図１）の大当たり種別としては、第１当たり種別カウンタＣ２の値（更新範囲「０～９９」）が「０～４９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ」は、大当たりのラウンド数が７ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１００」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「５０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｊａの値に「０」が設定される。さらに、「大当たりＡ」では、大当たり遊技のエンディング期間として「１７秒」が設定されるように規定している。

【１９３６】

特別当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が５０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＡ」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。

【１９３７】

また、図２４１（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＢ」は、大当たりのラウンド数が７ラウンドであり、通常大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１００」が、確変カウンタ２０３ｊａの値に「０」が設定される大当たり種別である。さらに、「大当たりＢ」では、大当たり遊技のエンディング期間として「１５秒」が設定されるように規定している。

【１９３８】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が５０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＢ」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。

【１９３９】

即ち、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定され得る２個の大当たり種別（大当たりＡ、大当たりＢ）は、大当たり遊技のラウンド数は同一であるが、大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖへの球の通過のさせ易さを異ならせており、「大当たりＡ」のほうが「大当たりＢ」よりも大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させ易い大当たり遊技が実行されるように構成している。よって、「大当たりＡ」は、「大当たりＢ」よりも有利な大当たり種別となる。

【１９４０】

次に、図２４１（ｃ）を参照して、特図２大当たり用テーブル２０２ｄ２に規定されている内容について説明をする。図２４１（ｃ）は、特図２大当たり用テーブル２０２ｄ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この特図２大当たり用テーブル２０２ｄ２は、第２特別図柄抽選で大当たり当選し、大当たり種別を選択する際に参照されるデータテーブルである。

【１９４１】

図２４１（ｃ）に示した通り、本第１制御例における特図２大当たり用テーブル２０２ｄ２には、第２特別図柄（特図２）の大当たり種別として、「大当たりＣ」～「大当たりＥ」の３個の大当たり種別が規定されている。

【１９４２】
具体的には、第２特別図柄（特図２）の大当たり種別として、特別当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＣ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ」は、大当たりのラウンド数が４ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１００」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「５０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｉの値に「０」が設定される。さらに、「大当たりＣ」では、大当たり遊技のエンディング期間として「１７秒」が設定されるように規定している。

【１９４３】
特別当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＣ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が３０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＣ」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【１９４４】
また、図２４１（ｃ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～６９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＤ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＤ」は、大当たりのラウンド数が７ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１００」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「５０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｉの値に「０」が設定される。さらに、「大当たりＤ」では、大当たり遊技のエンディング期間として「１７秒」が設定されるように規定している。

【１９４５】
第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＤ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が４０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＣ」が決定される割合は４０％（４０／１００）である。

【１９４６】
また、図２４１（ｃ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「７０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＥ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＥ」は、大当たりのラウンド数が１６ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１００」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「５０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｉの値に「０」が設定される。さらに、「大当たりＥ」では、大当たり遊技のエンディング期間として「１７秒」が設定されるように規定している。

【１９４７】
第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＥ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が３０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＥ」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【１９４８】
即ち、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定され得る３個の大当たり種別（大当たりＣ、大当たりＤ、大当たりＥ）は、何れも確変大当たり遊技が実行されるが、大当たり遊技のラウンド数を異ならせており、最も多くのラウンド遊技が実行される「大当たりＥ」が最も遊技者に有利な大当たり種別となり、「大当たりＡ」が最も遊技者に不利

な大当たり種別となる。
【１９４９】
以上、説明をした通り、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、必ず確変大当たり遊技が実行されるため、５０％の割合で確変大当たり遊技が実行される第１特別図柄抽選よりも、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の面では、有利な大当たり種別となる。また、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数、即ち、大当たり遊技中に獲得可能な賞球数の面では、獲得し得る最大数は第２特別図柄抽選のほうが多く、獲得し得る最低数も第２特別図柄抽選のほうが少なくなるように規定している。また、平均的に獲得可能な賞球数では、第２特別図柄抽選のほうが多くなるように規定している。
【１９５０】
よって、最低の条件において獲得可能な賞球数の面では、第１特別図柄抽選のほうが有利となり、それ以外の面では第２特別図柄抽選のほうが有利となる。なお、本制御例では、図２４１に示した大当たり種別を規定しているが、これに限ること無く、上述した各制御例にて設定され得る各大当たり種別と同一の技術思想に基づいて様々な大当たり種別を設定可能に構成しても良い。
【１９５１】
なお、本制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、全ての大当たりで同一のラウンド数の大当たり遊技が実行されるように構成しているが、これに限ることなく、選択された大当たり種別に応じて異なる数のラウンド遊技を実行可能に構成しても良い。また、本制御例では、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、全ての大当たりで大当たり遊技終了後に時短状態を同一期間（時短回数１００回）設定するように構成しているが、これに限ること無く、大当たり当選の一部（設定される大当たり種別の一部）にて時短状態が設定されないように構成しても良いし、大当たり種別に応じて時短回数（時短終了条件）を異ならせるように構成しても良い。さらに、選択される大当たり種別に応じて大当たり遊技終了時に時短状態が設定される大当たり種別と、通常状態が設定される大当たり種別と、を設けても良い。
【１９５２】
図１３８に戻り説明を続ける。動種別カウンタＣＳ１は、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり１９８）に達した後０に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳ１によって、いわゆる短時間外れ、長時間外れ、ノーマルリーチ、スーパーリーチ等の大まかな表示態様（変動時間）が決定される。表示態様の決定は、具体的には、図柄変動の変動時間の決定である。変動種別カウンタＣＳ１により決定された変動時間に基づいて、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４により第３図柄表示装置８１で表示される第３図柄のリーチ種別や細かな図柄変動態様が決定される。変動種別カウンタＣＳ１の値は、後述するメイン処理（図１６７参照）が１回実行される毎に１回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でも繰り返し更新される。尚、変動種別カウンタＣＳ１の値（乱数値）から、図柄変動の変動時間を一つ決定する乱数値を格納した変動パターン選択テーブル２０２ｄ（図１４２参照）は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。
【１９５３】
ここで、図１４２を参照して変動パターン選択テーブル２０２ｂの内容について説明をする。図１４２（ａ）は変動パターン選択テーブル２０２ｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図１４２（ａ）に示した通り、変動パターン選択テーブル２０２ｂには、遊技状態として通常状態を設定している状態で用いられる通常用テーブル２０２ｂ１と、確変状態、或いは時短状態を設定している状態で用いられる確変・時短用テーブル２０２ｂ２と、が規定されている。詳細については後述するが、本制御例では遊技状態に応じて変動パターンを選択するために用いるデータテーブルを異ならせているため、遊技状態に応じて選択される変動パターン（変動時間）を異ならせることができる。
【１９５４】
次に、変動パターン選択テーブル２０２ｂに規定されている各テーブルの詳細な内容に

ついて、図１４２（ｂ）及び図１４３を参照して説明をする。図１４２（ｂ）は通常用テーブル２０２ｂ１に規定されている内容を模式図に示した模式図である。この通常用テーブル２０２ｂ１は、遊技状態として通常状態が設定されている場合に参照されるデータテーブルであって、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合のほうが、外れである場合よりも長い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように規定しており、抽選が実行された特別図柄の種別と、実行された特別図柄抽選の結果に応じて異なる変動パターンが規定されている。

【１９５５】

まず、図１４２（ｂ）を参照して、通常用テーブル２０２ｂ１について説明する。図１４２（ｂ）は、この通常用テーブル２０２ｂ１の規定内容を示した図である。この通常用テーブル２０２ｂ１には、特別図柄の抽選結果に対応させて、各種変動パターンがそれぞれ規定されており、その変動パターンのそれぞれに対して、変動種別カウンタＣＳ１の値が割り付けされている。具体的には、特別図柄の種別（図柄種別）が第１特別図柄（特図１）で、当否判定結果が大当たりであって、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３３秒～４２秒のノーマル（リーチ）が規定されている。このノーマルが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間、加算時間が３秒～１２秒の何れかを示す組合せのコマンドが出力される。詳細な説明は省略するが、本制御例では、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に応じて加算時間が０．５秒単位でより詳細に設定されるように構成しており、例えば、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０」である場合には加算時間が「３秒」、「１」である場合には加算時間が「３．５秒」、「２」である場合には加算時間が「４秒」、「３」である場合には加算時間が「４．５秒」、「３」である場合には加算時間が「５秒」、「４」である場合には加算時間が「５．５秒」、「５」である場合には加算時間が「６秒」、「６」である場合には加算時間が「６．５秒」、「７」である場合には加算時間が「７秒」、「８」である場合には加算時間が「７．５秒」、「９～１１」である場合には加算時間が「８秒」、「１２」である場合には加算時間が「８．５秒」、「１３」である場合には加算時間が「９秒」、「１４」である場合には加算時間が「９．５秒」、「１５」である場合には加算時間が「１０秒」、「１６」である場合には加算時間が「１０．５秒」、「１７」である場合には加算時間が「１１秒」、「１８」である場合には加算時間が「１１．５秒」、「１９」である場合には加算時間が「１２秒」となるように規定されている。

【１９５６】

そして選択された基本時間（３０秒）を示すコマンド（基本コマンド）と、加算時間を示すコマンド（加算コマンド）と、が音声ランプ制御装置１１３に対して通知された場合には、基本コマンドに含まれる情報に基づいて変動パターン（ノーマルリーチ）を設定し、加算コマンドに含まれる情報に基づいてリーチ図柄（第３図柄の種別）を設定するように構成している。これにより、リーチ状態となった場合に最初に遊技者が視認可能となる中図柄列Ｚ２の第３図柄の種別を、常に特定の第３図柄（本制御例では数字の１を付した第３図柄）となるように構成したとしても、変動演出が実行されてからリーチ状態となるまでの期間を可変させること無く、様々な第３図柄の種別でリーチ演出を実行することができる。

【１９５７】

また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「２０～１６９」の場合は、変動パターンとして変動時間が４３秒～５２秒のスーパー（リーチ）が規定されている。このスーパーが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間、加算時間が１３秒～２２秒の何れかを示す組合せのコマンドが出力される。本制御例では、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に応じて加算時間が０．５秒単位でより詳細に設定されるように構成しており、その内容は上述したノーマルのパターンと同一であるため詳細な説明を省略する。

【１９５８】

ここで、本制御例では、加算コマンドに含まれる情報（秒数）に応じて、リーチ演出の演出態様を可変可能に構成しており、具体的には、加算コマンドに含まれる秒数が「３秒～１２秒」の場合は、ノーマルリーチ演出（中図柄列Ｚ２が１周程度変動した後に停止表示される演出）が、「１３秒～２２秒」の場合は、スーパーリーチ演出（中図柄列Ｚ２が２周程度変動した後に停止表示される演出）が実行されるように構成している。

【１９５９】

このように構成することで、例えば、最初の所定期間中は同一の演出態様で変動演出が実行され、その後、演出態様が分岐する変動演出を実行する場合において、同一の演出態様が実行される期間を基本コマンド（基本時間を示す情報が含まれるコマンド）に基づいて設定し、分岐後の変動演出を加算コマンド（加算時間を示す情報が含まれるコマンド）に基づいて設定することが可能となる。よって、例えば、全体の変動時間が同一の場合であっても、その変動時間のうち、基本時間が占める割合、加算時間が示す割合を変更するだけで、音声ランプ制御装置１１３側で容易に異なる変動演出を設定することができる。

【１９６０】

なお、本制御例では、ノーマルリーチが実行される場合の基本時間（３０秒）と、スーパーリーチが実行される場合の基本時間（３０秒）と、を同一にし、加算時間として設定された変動時間の長さに応じて、リーチ演出の演出態様を可変させるように構成しているが、これに限ること無く、ノーマルリーチ用の基本時間を３０秒、スーパーリーチ用の基本時間を４０秒に規定し、第３図柄の種別を決定するためだけに加算時間を「３～１２秒」の範囲から選択するように構成しても良い。

【１９６１】

次いで、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１７０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が９０秒のＳＰ（リーチ）が規定されている。このＳＰが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が５５秒間、加算時間が３５秒を示す組合せのコマンドが出力される。ここで、ＳＰが決定された場合には、一旦リーチ状態となった第３図柄の変動演出が別の変動演出へと切り替わる演出が実行されるため、リーチ状態となった場合に最初に遊技者が視認可能となる中図柄列Ｚ２の第３図柄の種別を、常に特定の第３図柄（本制御例では数字の１を付した第３図柄）となるように構成したとしても、遊技者に違和感を与えること無く、変動の途中で中図柄列Ｚ２の第３図柄の表示順序を最終的に停止させる第３図柄に対応させて変更させることができるため、上述したノーマル、スーパーのように、加算時間を可変させてリーチ状態となる第３図柄の種別を設定する必要が無い。

【１９６２】

また、図柄種別が特図１で、当否判定結果が外れの場合についても同様に、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」の場合は、変動パターンとして変動時間が８秒の外れが規定されている。この外れが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間８秒、加算時間０秒を示す組合せのコマンドが出力される。ここで、外れが決定された場合には、第３図柄の変動演出として、リーチ状態にならずに外れを示す組合せで第３図柄が停止表示される変動演出が実行される。よって、加算時間を設定する必要が無い。

【１９６３】

また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が３３秒～５２秒のリーチ外れが規定されている。このリーチ外れが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間、加算時間が３秒～２２秒の何れかを示す組合せのコマンドが出力される。本制御例では、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に応じて加算時間が０．５秒単位でより詳細に設定されるように構成しており、その内容は上述したノーマルのパターンと同一であるため詳細な説明を省略する。つまり、抽選結果が外れである場合にも、抽選結果が当たりである場合と同様の変動パターンコマンドが設定されるように構成している。なお、抽選結果が外れである場合には、最終的に停止表示される第３図柄が大当たりとなる組合せ以外となるように停止表

示される第３図柄の種別を設定する必要があるため、音声ランプ制御装置１１３側では、当たり当選している場合に参照される加算コマンドに基づく第３図柄種別の設定内容から１つずらした第３図柄が設定されるように補正処理が実行される。これにより、リーチ外れ演出が実行されると、大当たりの組合せとなる第３図柄の近辺で第３図柄が停止表示（外れ停止表示）される演出態様を容易に設定することができる。

【１９６４】

一方、特別図柄の種別（図柄種別）が第２特別図柄（特図２）である場合は、当否判定結果が大当たりであって、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～９９」の場合は、変動パターンとして変動時間が４０秒の特殊リーチが規定されている。この特殊リーチが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が１０秒間、加算時間が３０秒を示す組合せのコマンドが出力される。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１００～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が１０秒の特殊リーチが規定されている。この特殊リーチが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が１０秒間、加算時間が０秒を示す組合せのコマンドが出力される。

【１９６５】

ここで、本制御例では、通常状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行されると、図１２４（ｂ）から図１２６を参照して上述したように、チャンスゾーン中の変動演出が実行されるように構成している。そして、音声ランプ制御装置１１３に対して基本時間（１０秒）を示すコマンド（基本コマンド）と、加算時間（３０秒）を示すコマンド（加算コマンド）が通知された場合には、基本コマンドに含まれる情報に基づいて変動パターン（特殊変動）を設定し、加算コマンドに含まれる情報に基づいて特殊リーチを設定するように構成している。より具体的には、通常状態が設定されている状態で第２特別図柄の変動パターンコマンドとして基本時間１０秒を示す基本コマンドが通知された場合には、図１２４（ｂ）に示した通り、上下方向に第３図柄が変動する特殊変動演出の演出態様が設定される。そして、基本時間の経過タイミングにて図１２５（ａ）に示したように第３図柄を停止表示（仮停止表示）させる演出態様が設定される。そして、加算時間０秒を示す加算コマンドを受信している場合は（変動パターンが特殊外れである場合は）、そのまま第３図柄を確定表示し変動演出を終了する。

【１９６６】

一方、加算時間３０秒を示す加算コマンドを受信している場合は（変動パターンが特殊リーチである場合は）、図１２５（ｂ）や図１２６に示したように、仮停止している第３図柄が再始動する変動演出が設定される。

【１９６７】

次に、図１４３を参照して、確変・時短用テーブル２０２ｂ２の内容について説明をする。図１４３は、確変・時短用テーブル２０２ｂ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この確変・時短用テーブル２０２ｂ２は、確変状態、或いは時短状態が設定されている場合において変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルであって、特別図柄の種別と、変動回数（大当たり遊技終了後からの特別図柄変動回数）と、特別図柄の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に応じて異なる変動パターンが選択されるように各変動パターンが規定されている。

【１９６８】

ここで、本制御例では、大当たり遊技終了後には必ず普通図柄の高確率状態（確変状態、又は時短状態）が設定されるように構成されている。そして、設定された普通図柄の高確率状態が、時短終了条件が成立するまで継続するように構成している。本制御例では、時短終了条件として、普通図柄の高確率状態が設定されてからの特別図柄変動の実行回数が１００回に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行された特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に成立する第２時短終了条件と、を設けており、何れかの時短終了条件が成立した場合に、普通図柄の高確率状態から普通図柄の低確率状態へと移行するように構成している。

【１９６９】

この普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）中は、普通図柄の低確率状態（通常状態）よりも短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように設定されている。よって、単位時間当たりに実行され得る特別図柄抽選の回数を増加させることができるため、遊技者に対して効率の良い遊技（特別図柄の抽選遊技）を提供することができる。

【１９７０】

具体的には、図１４３に示した通り、普通図柄の高確率状態が設定されてからの特別図柄変動回数が「１回～２０回」の期間は、特別図柄の種別、特別図柄抽選の結果、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「５秒」の変動パターン（短変動）が選択されるように規定している。つまり、普通図柄の高確率状態が設定されてからの所定期間（特別図柄変動が２０回実行されるまでの期間）は、他の期間よりも短い変動時間で特別図柄抽選が実行される高速変動期間（第１期間）となる。この高速変動期間を設定することで、大当たり遊技の終了後に短期間で次の大当たり遊技を実行させ易くすることができるため、遊技者に対して、一の大当たり遊技に関連して次の大当たり遊技が実行されたのではと思わせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。また、この高速変動期間中は、変動時間が「５秒」の変動パターンが常に選択されるため、複数回の特別図柄抽選を跨ぐ演出（連続演出）の演出期間を設定し易くすることができる。

【１９７１】

加えて、通常状態（普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で大当たり当選した場合には、その大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了時点では第２特別図柄の保留球（特図２保留球）を獲得していない可能性が高いため、獲得済みの第１特別図柄の保留球（特図１保留球）を用いた特別図柄抽選（特図１抽選）が実行され易く、確変状態、或いは時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定されている常態で大当たり当選した場合には、その大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了時点にて、特図２保留球を獲得している可能性が高いため、特図２保留球を用いた特別図柄抽選（特図２抽選）が実行され易くなる。

【１９７２】

このように、普通図柄の高確率状態が設定された直後では、何れの図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）の特別図柄抽選も実行され得るため、図１４３に示した通り、普通図柄の高確率状態が設定されてからの所定期間（特別図柄変動が２０回実行されるまでの期間）は、図柄種別に関わらず同一の変動パターンが選択されるように構成している。これにより、何れの図柄種別の特別図柄抽選が実行された場合であっても同一の特別図柄変動を実行することができ、複数回の特別図柄抽選を跨ぐ演出（連続演出）の演出期間を設定し易くすることができる。

【１９７３】

なお、本制御例は、図１１９を参照して上述した通り、左打ち遊技によって発射された球も、右打ち遊技によって発射された球も、普通図柄の高確率状態が設定されている場合には、第２入球口６４０へと２球に１球の割合で到達するように構成しているため、普通図柄の高確率状態中に球を発射させる遊技を継続して実行するだけで、特別図柄抽選を途切れること無く実行することができるように構成している。よって、普通図柄の高確率状態が設定された場合に、高速変動期間が終了するまでの期間、即ち、２０回目の特別図柄変動が終了するまでの期間（５秒×２０回）となる１００秒を高速変動期間として予め設定しておき、２０回の特別図柄抽選を跨ぐ連続演出として、１００秒間の連続演出を容易に実行することができる。この場合、高速変動期間中に大当たり当選した場合にのみ、既に設定されている連続演出の演出態様を切り替える切替処理を実行すれば良く、高速変動期間中における演出を実行するための処理を簡素化することができる。

【１９７４】

また、高速変動期間中において設定された１００秒間の連続演出を一時的に停止するか否かの判別を行う判別手段を設け、例えば、実行中の特別図柄変動が停止表示されてから、次の特別図柄変動が実行されるまでの期間が所定期間（例えば、１秒）以上であると判別した場合、即ち、特別図柄変動が途切れたと判別した場合には、実行中の連続演出を一

時的に停止させる処理を実行するように構成しても良い。これにより、高速変動期間中に遊技者が離席した場合であっても連続演出のみ先に進行してしまうことを抑制することができる。加えて、遊技者が操作可能な操作手段（例えば、枠ボタン２２）を設け、その操作手段に対して所定の操作を実行した場合に、実行中の連続演出を一時的に停止させる処理を実行するように構成しても良い。

【１９７５】

なお、本制御例では、高速変動期間中に選択される変動パターン（変動時間）として、同一の変動時間（５秒）が選択されるように構成しているが、これに限ること無く、５秒以外の変動時間が設定される変動パターンが選択されるように構成しても良い。この場合、特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合のほうが、大当たり当選していない場合よりも５秒以上の変動時間が設定され易くすると良い。このように構成することで、予め設定されていた１００秒間の連続演出の演出態様を切り替えてから大当たり当選を示す特別図柄が停止表示されるまでの期間を長くし易くすることができるため、遊技者が抽選結果を十分に把握可能な演出態様で大当たり当選を報知することができ、演出効果を高めることができる。

【１９７６】

また、高速変動期間として想定される時間（１００秒）に対して、一括で連続演出の演出態様を設定するのでは無く、高速変動期間（１００秒）を複数の期間に区分けし、例えば、第１高速変動期間（５０秒）中に実行する第１連続演出を高速変動期間（第１高速変動期間）の開始タイミングで設定し、第２高速変動期間（５０秒）中に実行する第２連続演出を、第２高速変動期間の開始タイミングで設定するように構成しても良い。このように構成することで、例えば、高速変動期間の前半で大当たり当選した場合に実行されない演出態様（連続演出の後半期間の演出態様）を予め設定する事態が発生することを抑制することができる。

【１９７７】

さらに、高速変動期間の全期間に対して連続演出を実行する必要は無く、高速変動期間のうち特定の第１期間（例えば、高速変動期間中に実行される特別図柄変動（計２０回）のうち、１０回目から２０回目の変動期間）のみ連続演出を実行するように構成しても良い。

【１９７８】

図１４３に戻り説明を続ける。特別図柄の種別（図柄種別）が第１特別図柄（特図１）で、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「２１回～４９回（第２期間）」であって、抽選結果（特別図柄の抽選結果）が「当たり」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」、即ち、全範囲において、変動時間が「３０秒」の変動パターン（当たり）が選択されるように規定しており、抽選結果が「外れ」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」の範囲に対して変動時間が「３０秒」の変動パターン（長外れ）が選択され、「１８０～１９８」の範囲に対して変動時間が「５秒」の変動パターン（短外れ）が選択されるように規定している。

【１９７９】

本制御例では、普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）が設定されている場合には、主として第２特別図柄抽選が実行されるように構成されており、普通図柄の高確率状態が設定されてから２１回以上の特別図柄変動が実行されている第２期間中は、継続して遊技を行っている限り第２特別図柄抽選が実行され易く構成されている。しかしながら、図１１９にて上述した通り、本制御例のパチンコ機１０は、左打ち遊技を行っても、右打ち遊技を行っても第１入球口６４、及び第２入球口６４０へと球を入球させることが可能な遊技盤１３の構成を有しているため、例えば、確変状態、或いは時短状態中に遊技を中断した場合は、遊技再開後に第１特別図柄抽選が実行される場合がある。

【１９８０】

上述した通り、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合は、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合とは異なり、通常大当たり遊技が実行される可能性（大当たり当選の５

０％）があり、第２特別図柄抽選が主として実行される遊技状態（確変状態、時短状態）にて、第１特別図柄抽選で通常大当たり遊技が実行される大当たりに当選した場合には、大当たり当選した中では遊技者に不利な抽選結果となる。また、本制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される変動演出（第３図柄を用いた変動演出）にて、大当たり当選の有無に加え、大当たり種別も遊技者に示唆可能に構成しており、例えば、奇数の数字が付されている主図柄ｓｚが大当たり当選を示す組合せで停止表示された場合には、確変大当たり遊技が実行される大当たり当選を示唆し、偶数の数字が付されている主図柄ｓｚが大当たり当選を示す組合せで停止表示された場合には、通常大当たり遊技が実行される大当たり当選を示唆するように構成している。

【１９８１】

よって、確変状態、或いは、時短状態中に実行される変動演出にて、偶数の数字が付されている主図柄ｓｚにてリーチ状態（通常大当たり遊技が実行される大当たり当選を示す組合せとなる主図柄ｓｚの一部が停止表示され、残りの図柄列が変動表示されている状態）が創出された場合には、特別図柄変動が停止表示されるよりも前の時点から不利な大当たりに当選したのではと遊技者に思わせてしまい、遊技意欲が低下してしまうという問題があった。そこで、本制御例では、第２特別図柄抽選が主として実行される遊技状態（確変状態、時短状態）にて、第１特別図柄抽選で通常大当たり遊技が実行される大当たりに当選した場合には、図１３１（ａ）に示した通り、必ず、奇数の数字が付されている主図柄ｓｚと、偶数の数字が付されている主図柄ｓｚとの何れもがリーチ状態となる変動演出（ダブルリーチ演出）が実行されるように構成している。これにより、特別図柄変動が停止表示されるよりも前の時点から不利な大当たりに当選したのではと遊技者に思わせてしまうことを抑制することができる。

【１９８２】

このダブルリーチ演出を実行するために、第２期間中における第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、変動時間が「３０秒」の変動パターンが選択される。なお、確変状態、或いは、時短状態中に実行される変動演出として上述したダブルリーチ演出が、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合にのみ実行されてしまうと、ダブルリーチ演出が実行された時点で第１特別図柄の大当たり当選について遊技者に把握されてしまうため、本制御例では、第１特別図柄抽選で外れ当選した場合の一部（約８０％）と、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部（約２５％）と、第２特別図柄抽選で外れ当選した場合の一部（約５％）とで、ダブルリーチ演出を実行するための変動パターン（３０秒の変動時間）が選択されるように構成している。

【１９８３】

このように構成することで、確変状態、或いは時短状態中にダブルリーチ演出が実行された場合に、該当する特別図柄抽選が第１特別図柄の抽選であるか第２特別図柄の抽選であるかを分かり難くすると共に、抽選結果が大当たりであるか否かも分かり難くすることができ、ダブルリーチ演出の演出結果が表示されるまで遊技者に期待感を持たせながら遊技を行わせることができる。

【１９８４】

さらに、大当たり当選した場合には必ず確変大当たり遊技が実行される第２特別図柄抽選に対しても、ダブルリーチ演出を実行するように構成しているため、ダブルリーチ演出全体に対して確変大当たり遊技が実行される大当たりに当選したことを示す演出結果（奇数の数字を付した主図柄ｓｚが大当たり当選を示す組合せで停止表示する演出結果）を、第１特別図柄抽選に対してのみダブルリーチ演出を実行する場合に比べて創出し易くすることができる。よって、ダブルリーチ演出が実行された場合における確変大当たり遊技に対する期待度を高めることができる。

【１９８５】

図１４３に戻り、説明を続ける。特別図柄の種別（図柄種別）が第１特別図柄（特図１）で、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「５０回（特定期間）」である場合には、抽選結果（特別図柄の抽選結果）、及び、取得した変動種別カ

ウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「２０秒」の変動パターン（中変動）が選択されるように規定している。

【１９８６】

本制御例では、大当たり遊技中に球が可変入賞装置６５内の特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合に、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定されるように構成しており、特別図柄の高確率状態を終了させるための確変終了条件として、特別図柄変動の実行回数が５０回に到達した場合に成立する第１確変終了条件と、特別図柄の高確率状態が設定されている状態で特別図柄の大当たりに当選した場合に成立する第２確変終了条件と、を設けており、何れかの確変終了条件が成立した場合に、特別図柄の高確率状態から特別図柄の低確率状態へと移行するように構成している。

【１９８７】

つまり、大当たり遊技中の遊技結果に応じて、大当たり遊技終了後に、特別図柄変動の実行回数が５０回となるまで確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、その後、特別図柄の実行回数が５０回となるまで時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される場合と、大当たり遊技終了後に特別図柄変動の実行回数が１００回となるまで時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される場合と、がある。

【１９８８】

第３図柄表示装置８１の表示面では、現在設定されている遊技状態を遊技者に示唆するための遊技状態示唆演出が実行されるように構成しており、例えば、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを報知するＶ報知演出が実行された場合には、現在の遊技状態が確変状態であることを遊技者に報知する報知演出（スーパーチャンスモード演出）が実行され、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合であってもＶ報知演出が実行されないように大当たり遊技中の演出態様が設定されている場合には、現在の遊技状態が確変状態であるかを分かり難くする共通演出（チャンスモード演出）が実行される。

【１９８９】

そして、スーパーチャンスモード演出が実行されている場合には、特別図柄変動の５０回目（特定期間）にて、確変状態が終了することになるため、特別図柄変動５０回目に設定される「２０秒」の変動時間を用いて、確変状態が終了し、次いでチャンスモード（時短）が設定されることを示す演出が実行される。また、チャンスモードが実行されている場合には、特定期間にて、確変状態が設定されていたか否かを示唆する演出が実行される。

【１９９０】

このように、特定期間における特別図柄の抽選結果を示すための特別図柄変動期間を用いて、特別図柄の抽選結果以外の情報（遊技状態が移行することを案内するための情報や、過去に設定されていた遊技状態を示唆するための情報）を遊技者に報知する情報報知演出を実行する場合に、選択される特別図柄変動の変動時間を固定することで、特別図柄の抽選結果以外の情報を遊技者に報知するための情報報知演出の演出態様（演出時間も含む）のバリエーションを少なくすることが可能となる。

【１９９１】

なお、本制御例では、確変状態が終了することとなる特別図柄変動（大当たり終了後５０回目の特別図柄変動）の実行期間を特定期間とし、特別図柄変動の変動時間を「２０秒」に固定しているが、これに限ること無く、確変状態が終了することとなる特別図柄変動の前後も含めて、例えば、大当たり終了後４５回目～５２回目の特別図柄変動の実行期間が特定期間（固定された変動時間が選択される期間）とし、その特定期間中に実行される特別図柄変動の変動時間を用いて、情報報知演出を実行可能に構成しても良い。

【１９９２】

また、上述した特定期間中に実行される特別図柄抽選の結果に応じて、情報報知演出の演出態様を可変させても良く、例えば、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合には、

確変状態が終了することを示す情報を報知しない演出態様へと可変させても良いし、実際に設定された遊技状態に関わらず、過去に設定された遊技状態（前回の大当たり遊技終了後に設定された遊技状態）が遊技者に不利な遊技状態（例えば、時短状態）であることを示す演出態様へと可変させても良い。

【１９９３】

加えて、特定期間中において情報報知演出が実行されるタイミングを、特別図柄抽選の結果に応じて可変させても良く、例えば、特別図柄抽選で大当たり当選した場合のほうが、大当たり当選していない場合よりも、情報報知演出の実行タイミングが遅くなり易くすると良い。これにより、情報報知演出の演出内容だけで無く、実行タイミングについても遊技者に興味を持たせることができ、演出効果を高めることができる。

【１９９４】

また、上述した例のように、特定期間中において情報報知演出が実行されるタイミングを、特別図柄抽選の結果に応じて可変させる場合には、予め特定タイミングで情報報知演出が実行されるように設定しておき、特定期間中に実行される特別図柄抽選の結果が所定の結果（例えば、大当たり）である場合に、情報報知演出が実行されるタイミングを上述した特定タイミングから可変させるように構成しても良いし、情報報知演出が実行されるタイミングを予め設定すること無く、特定期間中に実行される特別図柄抽選の結果に応じて複数の実行タイミングの中から一の実行タイミングを決定するように構成しても良い。

【１９９５】

次に、特別図柄の種別（図柄種別）が第１特別図柄（特図１）で、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「５１回～１００回（第３期間）」であって、抽選結果（特別図柄の抽選結果）が「当たり」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」、即ち、全範囲において、変動時間が「３０秒」の変動パターン（当たり）が選択されるように規定しており、抽選結果が「外れ」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」の範囲に対して変動時間が「３０秒」の変動パターン（長外れ）が選択され、「１８０～１９８」の範囲に対して変動時間が「６０秒」の変動パターン（第２超変動）が選択されるように規定している。

【１９９６】

この第３期間は、遊技状態が時短状態となる期間である。つまり、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されていた場合であっても、確変終了条件が成立し時短状態が設定される期間である。この第３期間中も、上述した第２期間と同様に、第２特別図柄抽選が主として実行される期間ではあるが、実行される遊技方法によっては第１特別図柄抽選が実行される。時短状態中は第２特別図柄抽選を実行させたほうが、第１特別図柄抽選を実行させる場合よりも遊技者に有利な遊技となるため、この第３期間中に実行される第１特別図柄抽選は長い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成されている。これにより、万が一、時短状態の第３期間中に第１特別図柄抽選が実行された場合であっても、長い変動時間が設定される変動パターンで第１特別図柄変動が実行されるため、その間に、第２特別図柄の保留球を獲得し易くすることができる。よって、時短状態中に頻繁に第１特別図柄抽選が実行されてしまうことを抑制することができる。

【１９９７】

なお、この第３期間中も、上述した第２期間中と同様にダブルリーチ演出（図１３１参照）が実行されるように構成しているため、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合、外れ当選の一部、及び第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部、外れ当選した場合の一部で、変動時間が「３０秒」の変動パターンが選択されるように規定している。

【１９９８】

次に、確変状態、或いは、時短状態が設定されている場合における第２特別図柄抽選に対して規定されている各種変動パターンの内容について説明をする。

【１９９９】

図１４３に示した通り、特別図柄の種別（図柄種別）が第２特別図柄（特図２）で、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「１回～２０回（第１期

間）」である場合には、抽選結果（特別図柄の抽選結果）、及び、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「５秒」の変動パターン（短変動）が選択されるように規定している。即ち、第１期間中は、第１特別図柄抽選が実行された場合と、第２特別図柄抽選が実行された場合とで同一の変動パターン（５秒変動）が選択される。

【２０００】

次に、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「２１回～４９回（第２期間）」であって、抽選結果（特別図柄の抽選結果）が「当たり」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の範囲に対して、変動時間が「１０秒」の変動パターン（第２短変動）が、「１５０～１９８」の範囲に対して、変動時間が「３０秒」の変動パターン（長変動）が選択されるように規定しており、抽選結果が「外れ」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９１」の範囲に対して変動時間が「１０秒」の変動パターン（第２短変動）が選択され、「１９２～１９８」の範囲に対して変動時間が「３０秒」の変動パターン（長変動）が選択されるように規定している。

【２００１】

主として第２特別図柄抽選が実行される普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）である第２期間中は、上述したダブルリーチ演出が実行される変動パターン（３０秒の変動時間が設定される変動パターン）以外は、変動時間が「１０秒」の変動パターンが選択される。つまり、第２入球口６４０へと容易に球を入球可能な状態において第２特別図柄変動が短期間で終了するようにし、第２特別図柄抽選が効率良く実行されるように構成している。これにより、特図２保留球が上限まで記憶されている状態で第２入球口６４０へと多量の球が入球してしまう事態が発生することを抑制することができ、遊技者に気持ちの良い遊技を行わせることができる。

【２００２】

なお、本制御例では、短時間の変動時間として「１０秒」を規定しているが、この変動時間をさらに短く規定しても良く、この場合、遊技盤１３へと発射された球が第２入球口６４０へと到達し得る間隔（約１．２秒）よりも長い時間（例えば、３秒）を規定すると良い。このように構成することで、遊技者が継続して球を発射しているにも関わらず、特図２保留球が減少していき、第２特別図柄抽選よりも非優先に設定してある第１特別図柄抽選が実行されてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【２００３】

次に、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「５０回（特定期間）」である場合には、抽選結果（特別図柄の抽選結果）、及び、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「２０秒」の変動パターン（中変動）が選択されるように規定している。この特定期間中に設定される変動パターンについては、上述した第１特別図柄抽選に対応して選択される変動パターンと同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【２００４】

次に、特別図柄の種別（図柄種別）が第２特別図柄（特図２）で、変動回数（大当たり遊技終了後に実行される特別図柄変動回数）が「５１回～１００回（第３期間）」であって、抽選結果（特別図柄の抽選結果）が「当たり」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の範囲に対して、変動時間が「１０秒」の変動パターン（第２短変動）が、「１５０～１９８」の範囲に対して、変動時間が「３０秒」の変動パターン（長変動）が選択されるように規定しており、抽選結果が「外れ」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９１」の範囲に対して変動時間が「５秒」の変動パターン（短変動）が選択され、「１９２～１９８」の範囲に対して変動時間が「３０秒」の変動パターン（長変動）が選択されるように規定している。

【２００５】

以上、説明をした通り、本第１制御例では、変動パターン選択テーブル２０２ｂとして、通常用テーブル２０２ｂ１と、確変・時短用テーブル２０２ｂ２と、を有しており、設

定されている遊技状態に応じて、変動パターンを選択する際に参照するデータテーブルを異ならせるように構成している。これにより、設定されている遊技状態に応じて選択される変動パターンの種類を異ならせることができ、遊技者に多様な変動パターンで特別図柄抽選の結果を示すことができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【２００６】

さらに、遊技状態として確変状態が設定されている場合と、時短状態が設定されている場合とで同一のデータテーブル（確変・時短用テーブル２０２ｂ２）を参照して変動パターンを選択するように構成している。よって、時短状態が設定されているか確変状態が設定されているかを遊技者に分かり難くする演出モードである「チャンスモード」が設定されている状態において、実行される特別図柄抽選に対応して選択される変動パターンの種類によって、設定されている遊技状態が遊技者に把握されてしまうことを抑制することができる。なお、本制御例では、確変状態中の変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルと、時短状態中の変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルと、を同一としているが、これに限ること無く、異なるデータテーブルを参照させるように構成しても良い。

【２００７】

この場合、確変状態中の変動パターンを選択する際に参照される確変用データテーブルと、時短状態中の変動パターンを選択する際に参照される時短用データテーブルと、を設け、僅かな確率（例えば、５％）で選択される変動パターンの種別として、一方のデータテーブルにのみ規定されている特定変動パターンを設けると良い。これにより、特定変動パターンが選択された場合にのみ、選択された変動パターンの種別に基づいて現在設定されている遊技状態を遊技者が把握することができる。

【２００８】

加えて、確変用データテーブルと、時短用データテーブルとで、各変動パターンが選択される割合を異ならせるように構成しても良い。このように構成することで、「チャンスモード」中に実行される特別図柄抽選に対して選択される変動パターンの偏りを分析することによって、遊技者に現在設定されている遊技状態を予測させる楽しみを提供することができる。

【２００９】

なお、上述した通り、本制御例では、設定される遊技状態に応じて、変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルを異ならせるように構成しているが、遊技状態以外の条件によって参照するデータテーブルを選択するように構成しても良く、例えば、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合において、前回の大当たり当選時に設定されていた遊技状態や、前回の大当たり当選時に設定された大当たり種別（特別図柄の停止表示態様）や、第３図柄表示装置８１に停止表示された第３図柄の表示態様や、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５Ｖへと球が通過したか否か（Ｖ入賞したか否か）の結果等に基づいて、同一の時短状態中において変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルを異ならせるように構成しても良い。

【２０１０】

この場合、選択された変動パターンを示すコマンド（変動パターンコマンド）を設定する際に、参照されたデータテーブル（変動パターン選択テーブル）の種別を示す情報が含まれるコマンドを設定するように構成すると良い。これにより、音声ランプ制御装置１１３側で、変動パターンコマンドを受信した場合に、今回設定された変動パターンの種別に加え、現在の遊技状態が設定された経緯も判別することが可能となる。よって、受信した変動パターンコマンドに基づいて、例えば、確変大当たり遊技が実行されたにも関わらず、球をＶ入賞させることが出来ず時短状態が設定されたことを判別し、専用の演出モード（例えば、「残念モード」）を設定することができる。

【２０１１】

図１３８に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２９９）に達した後０に戻るループカウンタ

として構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、本実施形態ではタイマ割込処理（図１５６参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納される。

【２０１２】

そして、普通図柄の当たりとなる乱数の値は、主制御装置のＲＯＭ２０２に格納される第２当たり乱数テーブル２０２ｃによって設定されており、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、第２当たり乱数テーブル２０２ｃによって設定された当たりとなる乱数の値と一致する場合に、普通図柄（第２図柄）の当たりと判定する。また、この第２当たり乱数テーブル２０２ｃは、普通図柄の低確率時用と、その低確率時より普通図柄の当たりとなる確率の高い高確率時用との２種類に分けられ、それぞれに含まれる大当たりとなる乱数の個数が異なって設定されている。このように、当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、普通図柄の低確率時と普通図柄の高確率時とで、当たりとなる確率が変更される。

【２０１３】

この第２当たり乱数テーブル２０２ｃに規定されている内容について、図１４０（ｂ）を参照して説明をする。図１４０（ｂ）は、第２当たり乱数テーブル２０２ｃに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図１４０（ｂ）に示した通り、普通図柄の低確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～２」の値に普図当たりが規定され、普通図柄の高確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～１４９」の範囲に普図当たりが規定されている。

【２０１４】

つまり、本制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／１００）が低確率に設定されている。これにより、普通図柄の低確率状態である通常状態と、普通図柄の高確率状態である時短状態と、で同一の遊技方法（左打ち遊技）が実行される本実施形態において、通常状態中に普図当たりに当選し難くすることができるため、通常状態中に普図当たり遊技が実行され第２入球口６４０内に球が入球する事態を発生し難くすることができる。一方、普通図柄の高確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／２）が高確率に設定されている。これにより、時短状態中において普通図柄の当たり当選に基づく普図当たり遊技を実行し易くすることができる。

【２０１５】

また、本制御例では、設定されている遊技状態に応じて普通図柄抽選の結果を示すための普通図柄変動の変動時間として異なる長さの変動時間が設定されるように構成されており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも長い変動時間（例えば、１０秒）が設定されるように構成している。このように、普通図柄抽選で当たり当選する確率と、普通図柄変動の変動時間の長さと、を遊技状態に応じて可変させることにより、普通図柄抽選で当たり当選し、第２入球口６４０へと球を入球させ易い遊技状態（確変状態、時短状態）を容易に設定することができる。

【２０１６】

さらに、本制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で実行された普通図柄抽選にて当たり当選した場合に、第２入球口６４０へと球を複数個入球させることが可能な動作態様（ロング開放）で電動役物６４０ａが開放動作される普図当たり遊技を実行可能に構成している。よって、普通図柄抽選で当たり当選し難い遊技状態（通常状態）であっても、一時的に第２入球口６４０へと球を入球させ易くすることができるため、どのような遊技状態が設定されている状態であっても、遊技者に対して第２特別図柄抽選が実行される可能性を残すことができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２０１７】
第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２は、第２当たり乱数カウンタＣ４と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成され（値＝０～２９９）、タイマ割込処理（図１５６参照）毎に１回更新されると共に、メイン処理（図１６７参照）の残余時間内で繰り返し更新される。
【２０１８】
このように、ＲＡＭ２０３には種々のカウンタ等が設けられており、主制御装置１１０では、このカウンタ等の値に応じて大当たり抽選や第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行することができる。
【２０１９】
図１３７に戻り説明を続ける。ＲＯＭ２０２は、図１３８に図示した各種カウンタに対応して規定される各種データテーブル等を有している。ここで、図１３９（ａ）を参照して、本実施形態のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容について説明をする。図１３９（ａ）は、本実施形態におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。
【２０２０】
図１３９（ａ）に示した通り、本実施形態におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２は、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、変動パターン選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、大当たり種別選択テーブル２０２ｄを少なくとも有している。なお、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、変動パターン選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、大当たり種別選択テーブル２０２ｄについては、図１３８に図示した各種カウンタを説明する際に上述したため、その説明を省略する。
【２０２１】
図１３７に戻り、説明を続ける。ＲＡＭ２０３は、図１３８に図示した各種カウンタのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。
【２０２２】
なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。
【２０２３】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図１６７参照）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図１６６参照）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図１６５参照）が即座に実行される。
【２０２４】
また、ＲＡＭ２０３は、図１３９（ｂ）に示すように、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃ、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆ、遊技状態格納エリア２０３ｇ、時短カウンタ２０３ｈ、確変カウンタ２０３ｉ、大当たり開始フラグ２０３ｊ、大当たり中フラグ２０３ｋ、確変設定フラグ２０３ｍ、確変通過カウンタ２０３ｎ、入賞個数カウンタ２０３ｏ、残球タ

イマフラグ２０３ｐ、残球タイマ２０３ｑ、確変有効フラグ２０３ｒ、確変有効タイマ２０３ｓ、排出個数カウンタ２０３ｔ、その他メモリエリア２０３ｚを有している。

【２０２５】

第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａは、上限個数（本制御例では、４個）まで、第１入球口６４に球が入球（始動入賞）したことに基づいて取得された各種カウンタ値を記憶するための記憶エリアである。

【２０２６】

第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂは、上限個数（本制御例では、４個）まで、第２入球口６４０に球が入球（始動入賞）したことに基づいて取得された各種カウンタ値を記憶するための記憶エリアである。

【２０２７】

特別図柄保留球実行エリア（図示せず）は、特別図柄の変動表示を開始するための各種カウンタ値が格納される記憶エリアであり、特別図柄が変動停止した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、或いは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに各種カウンタ値が記憶されている場合に、その各種カウンタ値がシフトして記憶される記憶エリアである。本制御例では、第１特別図柄抽選よりも優先して第２特別図柄抽選が実行されるように構成しているため、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの何れにも各種カウンタ値が記憶されている場合には、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている各種カウンタ値が特別図柄保留球実行エリアへとシフトして記憶される。

【２０２８】

第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、特別図柄保留球実行エリア（図示せず）は、始動入賞の検出に伴ってカウンタ用バッファ（図１３８参照）より取得した第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別カウンタＣ３、変動種別カウンタＣＳ１の値がそれぞれ記憶される。ＭＰＵ２０１は、タイマ割込処理（図１５６参照）の中で、球が第１入球口６４へ入球（始動入賞）したことを検出すると、カウンタ用バッファから各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＳ１の値を取得し、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａにそれぞれ格納する。また、球が第２入球口６４０へ入球（始動入賞）したことを検出すると、カウンタ用バッファから各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＳ１の値を取得し、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにそれぞれ格納する。

【２０２９】

ＭＰＵ２０１は、特別図柄変動（抽選）の実行開始タイミングであることを検出すると、大当たり抽選や、第１図柄表示装置３７または第３図柄表示装置８１の表示の設定等の処理を実行するために、上述した第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶されている各始動入賞に対応するデータ（カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＳ１の各値）のうち、一の始動入賞に対応するデータを、この特別図柄保留球実行エリアへシフトする。なお、本実施形態におけるシフトとは、一の領域に記憶されているデータを別の領域へ移動させることを示す。

【２０３０】

普通図柄保留球格納エリア２０３ｃはスルーゲート６７への球の通過（始動入賞）検出に伴ってカウンタ用バッファ（図１３８参照）より取得した第２当たり乱数カウンタＣ４の値が記憶される記憶エリアである。主制御装置１１０のＭＰＵ２０１は、タイマ割込処理（図１５６参照）の中で、球がスルーゲート６７を通過（始動入賞）したことを検出すると、カウンタ用バッファから第２当たり乱数カウンタＣ４の値を取得し、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納する。普通図柄保留球格納エリア２０３ｃは、一の始動入賞に対応するデータ（カウンタＣ４の値）が、最大４回分まで記憶（保留）できるように、４つの保留エリアを有している。普通図柄保留球格納エリア２０３ｃには、スルーゲート６７へ通過（始動入賞）した順に保留球のデータが、データが空いている保留エリアの内、消化される順序の早い保留エリアから順に記憶される。

【２０３１】
　また、普通図柄保留球実行エリア（図示せず）は、始動入賞に基づいて、普通図柄の変動表示演出の実行開始タイミングであることを検出すると、各カウンタ値が格納され、普通図柄の当たり抽選や、第１図柄表示装置３７または第３図柄表示装置８１の表示（変動パターン）の設定等の処理において参照すべきデータ（カウンタＣ４の値）を記憶するためのメモリである。
【２０３２】
　なお、ＭＰＵ２０１は、普通図柄の変動表示演出の実行開始タイミングであることを検出すると、当たり抽選や、第２図柄表示装置８３の表示の設定等の処理を実行するために、上述した普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに記憶されている各始動入賞に対応するデータ（第２当たり乱数カウンタＣ４の値）のうち、一の始動入賞に対応するデータを、この普通図柄保留球実行エリア（図示せず）へシフトする。なお、本実施形態におけるシフトとは、一の領域に記憶されているデータを別の領域へ移動させることを示す。
【２０３３】
　第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、２ミリ秒毎に定期的に実行されるタイマ割込処理（図１５６参照）の中で検出される第１入球口６４への入賞に基づいて、第１図柄表示装置３７で行われる変動表示演出（第３図柄表示装置８１で行われる変動表示演出）の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、電源投入後のＲＡＭ２０３の初期設定処理（図１６６のＳ１７０１参照）によって、初期値としてゼロが設定される。そして、始動入賞が検出されて変動表示の保留球数が増加する毎に、それぞれ最大値４まで１加算される。一方、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、変動表示演出が実行される毎に１減算される。
【２０３４】
　また、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（即ち、保留球数）は、第１入球口６４に球が入球（始動入賞）したことに基づいて、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａにカウンタ値が格納された場合に、主制御装置１１０から出力される第１特別図柄保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に通知される。第１特別図柄保留球数コマンドは、始動入賞が検出されて第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄが１加算される毎に、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３に対して送信されるコマンドである。
【２０３５】
　第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅは、２ミリ秒毎に定期的に実行されるタイマ割込処理（図１５６参照）の中で検出される第２入球口６４０への入賞に基づいて、第１図柄表示装置３７で行われる変動表示演出（第３図柄表示装置８１で行われる変動表示演出）の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅは、電源投入後のＲＡＭ２０３の初期設定処理（図１６６のＳ１７０１参照）によって、初期値としてゼロが設定される。そして、始動入賞が検出されて変動表示の保留球数が増加する毎に、それぞれ最大値４まで１加算される。一方、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅは、変動表示演出が実行される毎に１減算される。
【２０３６】
　また、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（即ち、保留球数）は、第２入球口６４０に球が入球（始動入賞）したことに基づいて、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにカウンタ値が格納された場合に、主制御装置１１０から出力される第２特別図柄保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に通知される。第２特別図柄保留球数コマンドは、始動入賞が検出されて第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅが１加算される毎に、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３に対して送信されるコマンドである。
【２０３７】
　ＭＰＵ２０１は、特別図柄保留球実行エリア（図示せず）にカウンタ用バッファから取得される上記カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＳ１の各値がそれぞれ記憶された場合には、特別図

柄保留球実行エリア（図示せず）に格納されたデータを、特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ３０１参照）において参照し、その参照データに基づいて大当たり抽選を行うと共に、その抽選結果に対応する変動パターン及び停止種別を決定する。第１図柄表示装置３７では、主制御装置１１０の制御により、この決定された変動パターンおよび停止種別に基づいて、変動表示が行われる。

【２０３８】

また、ここで決定された変動パターン及び停止種別は、特図変動パターンコマンドおよび停止種別コマンドによって、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４へ通知される。そして、表示制御装置１１４の制御によって、第３図柄表示装置８１では、変動パターンコマンドおよび停止種別コマンドにより通知された変動パターンおよび停止種別に基づいて、変動表示演出が行われる。

【２０３９】

普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、２ミリ秒毎に定期的に実行されるタイマ割込処理（図１５６参照）の中で検出されるスルーゲート６７を球が通過（以下「始動入賞」と称す）したことに基づいて、第２図柄表示装置８３で行われる変動表示の保留球数（待機回数）を最大１回まで計数するカウンタである。この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、スルーゲート６７を球が通過したことに基づいて記憶される保留球数の合計を記憶するカウンタである。電源投入後のＲＡＭ２０３の初期設定処理（図１６６のＳ１７０１参照）によって、初期値としてゼロが設定される。そして、始動入賞が検出されて変動表示の保留球数が増加する毎に、最大値まで１加算される（図１６４のＳ９０４参照）。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、普通図柄の変動表示が実行される毎に１減算される（図１６３のＳ８０５参照）。

【２０４０】

遊技状態格納エリア２０３ｇは、現在設定されている遊技状態を一時的に格納するための記憶領域であって、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態（時短カウンタ２０３ｈの設定状況、確変カウンタ２０３ｉの設定状況）に対応した遊技状態が記憶される。具体的には、時短カウンタ２０３ｈの値が０で、且つ、確変カウンタ２０３ｉの値が０である場合に通常状態が記憶され、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい値で、確変カウンタ２０３ｉの値が０である場合に時短状態が記憶され、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい値で、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きい値である場合に確変状態が記憶される。

【２０４１】

さらに、大当たり遊技が実行されている状態では、大当たり遊技が実行されている状態であることを示す当たり遊技状態（大当たり状態）と、実行されている大当たり遊技に対応する大当たり種別を示す種別情報も記憶されるように構成されている。加えて、普図当たり遊技の実行中であることを示す普図当たり遊技中情報も記憶されるように構成されている。

【２０４２】

そして、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納（記憶）された情報に基づいて、状態コマンドが設定され、その状態コマンドが音声ランプ制御装置１１３へと出力される。音声ランプ制御装置１１３では出力された状態コマンドを受信し、従状態設定エリア２２３ｇに一時的に記憶する。

【２０４３】

この遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶された情報は、パチンコ機１０の電源が断された場合であっても、その情報を保持可能に構成されており、パチンコ機１０の電源を入れた際に実行される立ち上げ処理（図１６６参照）において、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に対応する状態コマンドを設定するように構成している。

【２０４４】

これにより、停電等によりパチンコ機１０の電源が断された場合であっても、現在の遊技状態を音声ランプ制御装置１１３側が判別可能にすることができる。

【２０４５】
時短カウンタ２０３ｈは、普通図柄の高確率状態が設定されている状態を示すためのカウンタであって、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に対応する値が設定される。この時短カウンタ２０３ｈには、大当たり遊技終了後に、その当選した大当たり種別に対応した値が設定される（図１７０のＳ２１０３参照）。そして、大当たり遊技に当選した場合に０にクリアされる。これにより、大当たり遊技中は普通図柄の高確率状態が設定されないため、大当たり遊技中において遊技者に過度な特典を付与してしまうことを抑制することができる。
【２０４６】
なお、本実施形態では、普通図柄の高確率状態が設定されると、時短カウンタ２０３ｊの値がセットされ、特別図柄抽選（変動）に基づいて、時短カウンタ２０３ｈの値が減算され、時短カウンタ２０３ｈの値が０となった場合に、普通図柄の高確率状態が終了し、普通図柄の低確率状態へと移行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、次回の大当たり遊技が実行されるまで（大当たり当選するまで）は、普通図柄の高確率状態が継続するように構成しても良い。この場合、時短カウンタ２０３ｈの値として、「１００００」を設定するように構成すれば良い。
【２０４７】
また、本実施形態では、普通図柄の高確率状態を終了させるための条件、時短カウンタ２０３ｈの値を減算させるための条件として、特別図柄抽選（変動）の回数に基づいて時短カウンタ２０３ｈの値を減算させる条件のみを設定しているが、これに限ること無く、例えば、主制御装置１１０の実行する各種処理の処理内容によって成立し得る終了条件が成立した場合に、時短カウンタ２０３ｈの値を減算するように構成してもよい。具体的には、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行される各図柄抽選の抽選結果が所定の抽選結果（例えば、特殊外れ当選）となった場合、或いは、普通図柄抽選の結果が所定の抽選結果（例えば、特殊普図当たり当選）となった場合にも、時短カウンタ２０３ｈの値を減算させるように構成しても良い。
【２０４８】
加えて、本実施形態では、時短カウンタ２０３ｈの値を１ずつ減算するように構成しているが、成立した終了条件の種別に応じて、時短カウンタ２０３ｈの値を複数まとめて（例えば、２）減算するように構成しても良いし、現状の時短カウンタ２０３ｈの値に関わらず、時短カウンタ２０３ｈの値が「０」になるように減算するように構成しても良い。このように構成することで、時短状態がいつまで継続するのかを遊技者に分かり難くすることができ、時短状態中の遊技に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【２０４９】
さらに、時短状態が設定される条件の成立内容（大当たり種別）に応じて、時短状態を終了させる条件を異ならせても良い。これにより、遊技者に対して、大当たり遊技を実行させることだけでは無く、実行された大当たり遊技に対応する大当たり種別に対しても興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【２０５０】
確変カウンタ２０３ｉは、特別図柄の高確率状態が設定されている状態を示すためのカウンタであって、特別図柄の高確率状態が設定されている場合に対応する値が設定される。この確変カウンタ２０３ｉには、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことに基づいて、その大当たり遊技終了後に値が設定される（図１７０のＳ２１０２参照）。そして、大当たり遊技に当選した場合に０にクリアされる。これにより、大当たり遊技中は特別図柄の高確率状態が設定されないため、大当たり遊技中において遊技者に過度な特典を付与してしまうことを抑制することができる。
【２０５１】
なお、本実施形態では、特別図柄の高確率状態が設定されると、確変カウンタ２０３ｉの値がセットされ、特別図柄抽選（変動）に基づいて、確変カウンタ２０３ｉの値が減算され、確変カウンタ２０３ｉの値が０となった場合に、特別図柄の高確率状態が終了し、

特別図柄の低確率状態へと移行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、次回の大当たり遊技が実行されるまで（大当たり当選するまで）は、特別図柄の高確率状態が継続するように構成しても良い。この場合、確変カウンタ２０３ｉの値として、「１００００」を設定するように構成すれば良い。

【２０５２】

また、本実施形態では、特別図柄の高確率状態を終了させるための条件、確変カウンタ２０３ｉの値を減算させるための条件として、特別図柄抽選（変動）の回数に基づいて確変カウンタ２０３ｉの値を減算させる条件のみを設定しているが、これに限ること無く、例えば、主制御装置１１０の実行する各種処理の処理内容によって成立し得る終了条件が成立した場合に、確変カウンタ２０３ｉの値を減算するように構成してもよい。具体的には、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行される各図柄抽選の抽選結果が所定の抽選結果（例えば、特殊外れ当選）となった場合、或いは、普通図柄抽選の結果が所定の抽選結果（例えば、特殊普図当たり当選）となった場合にも、確変カウンタ２０３ｉの値を減算させるように構成しても良い。

【２０５３】

さらに、当選した大当たり種別と、特定領域（Ｖゲート）６５ｖへの球の通過状況とに基づいて確変カウンタ２０３ｉに設定される値を異ならせても良いし、上述した時短カウンタ２０３ｈの値を減算する内容と同様に、特別図柄の変動回数以外の条件によって確変カウンタ２０３ｉの値を減算可能に構成しても良いし、確変カウンタ２０３ｉの値を減算するための減算条件が成立した場合に、確変カウンタ２０３ｉの値を一度に複数個減算可能に構成しても良い。これにより、特別図柄の高確率状態がいつまで継続するのかを遊技者に把握させ難くすることができるため、特別図柄の高確率状態中に実行される特別図柄抽選の結果を飽きること無く注視させることができる。

【２０５４】

また、本制御例では、確変状態を終了させるための条件、即ち、確変カウンタ２０３ｉの値を減算させるための条件として、特別図柄抽選（変動）の回数に基づいて確変カウンタ２０３ｉの値を減算させる条件のみを設定しているが、これに限ること無く、例えば、主制御装置１１０の実行する各種処理の処理内容によって成立し得る終了条件が成立した場合に、確変カウンタ２０３ｉの値を減算するように構成してもよい。具体的には、特別図柄の高確率状態が設定されている状態で実行される各図柄抽選の抽選結果が所定の抽選結果（例えば、特殊外れ当選）となった場合、或いは、普通図柄抽選の結果が所定の抽選結果（例えば、特殊普図当たり当選）となった場合にも、確変カウンタ２０３ｉの値を減算させるように構成しても良いし、球が特定の入球口（例えば、第１入球口６４、第２入球口６４０等）に入球したことに基づいて確変カウンタ２０３ｉの値を減算するように構成してもよい。

【２０５５】

加えて、本制御例では、確変カウンタ２０３ｉの値を１ずつ減算するように構成しているが、成立した終了条件の種別に応じて、確変カウンタ２０３ｉの値を複数まとめて（例えば、２）減算するように構成しても良いし、現状の確変カウンタ２０３ｉの値に関わらず、確変カウンタ２０３ｉの値が「０」になるように減算するように構成しても良い。このように構成することで、確変状態がいつまで継続するのかを遊技者に分かり難くすることができ、確変状態中の遊技に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【２０５６】

さらに、確変状態が設定される条件の成立内容（大当たり種別）に応じて、確変状態を終了させる条件を異ならせても良い。これにより、遊技者に対して、大当たり遊技を実行させることだけでは無く、実行された大当たり遊技に対応する大当たり種別に対しても興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２０５７】

大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりを開始させるか否かを示すフラグである。この大当たり開始フラグ２０３ｊがオンであれば、大当たりを開始させるタイミングである

ことを意味し、オフであれば、大当たりを開始させるタイミングではないことを意味する。この大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりを示す変動表示の終了タイミングとなった場合にオンに設定される。また、大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりの開始を設定した場合にオフに設定される（図１６８のＳ１９０３参照）。

【２０５８】

大当たり中フラグ２０３ｋは、大当たり遊技（特別遊技状態）中であるか否かを示すフラグである。この大当たり中フラグ２０３ｋがオンであれば、大当たり中であることを意味し、オフであれば大当たり中でないことを意味する。大当たり中フラグ２０３ｋは、特別図柄の抽選により大当たりとなり、大当たり遊技（特別遊技状態）が開始されると共にオンに設定される（図１６８のＳ１９０３参照）。また、大当たり遊技（特別遊技状態）の終了時にオフに設定される（図１７０のＳ２１０５参照）。そして、特別図柄変動処理（図１５７参照）では、この大当たり中フラグ２０３ｋが参照されて、大当たり中であるか否かが判別される（図１５７のＳ２０１参照）。

【２０５９】

確変設定フラグ２０３ｍは、大当たり遊技後に遊技状態を確変状態に移行させるか否かを示すフラグである。本パチンコ機１０では、遊技状態が確変状態に設定されるか否かは、大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖ（図１２０参照））に球が入球（流下）したか否かにより決定される。ここで、この特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと球が入球（流下）したこと（特定領域（Ｖゲート）６５ｖに設けられている確変スイッチの通過）を検出すると、確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定される（図１７１のＳ２２１５参照）。一方、この確変設定フラグ２０３ｍは、大当たり遊技の終了時にオフに設定される（図１７０のＳ２１０５参照）。なお、この確変設定フラグ２０３ｍは、電源断時にはバックアップされ、復帰時（電源投入時）には電源断直前の状態に設定される。また、パチンコ機１０が初期化された状態ではオフに設定される。

【２０６０】

なお、電源投入時に確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定されている場合には、確変スイッチに電源断前に通過したかを判別して、通過していると判別できた場合に、確変設定フラグ２０３ｍを正式にオンに設定して復帰するように構成してもよい。この場合、電源断前に確変スイッチを通過しているかの判別は、後述する確変通過カウンタ２０３ｎが０より大きい値であるかにより判別できる。このように構成することで、電源断されている状態で、確変設定フラグ２０３ｍのみをオンに書き換えて電源を再投入されるような不正を判別して、遊技店側の被害を低減することができる。

【２０６１】

確変通過カウンタ２０３ｎは、大当たり遊技中の１つのラウンド（本実施形態では、大当たりの１ラウンド）で確変スイッチを通過した（特定領域を流下した）球の数をカウントするためのカウンタである。なお、この確変通過カウンタ２０３ｎと後述する排出個数カウンタ２０３ｔとの合計により可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに入賞した球が全て排出されたかを判別することができる。この確変通過カウンタ２０３ｎは、確変スイッチを球が通過した（特定領域を流下した）場合に１ずつ加算されて更新される。また、可変入賞装置６５に入賞した球の数と排出個数が一致するか否かの判定処理を実行した後に、初期値である「０」にリセットされる。なお、この確変通過カウンタ２０３ｎは、電源断時にはバックアップされる。また、初期化された状態では、０に設定される。

【２０６２】

入賞個数カウンタ２０３ｏは、大当たり遊技における１つのラウンドで可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに入賞した球の数をカウントするためのカウンタであり、特定入賞口６５ａへの入賞が検出されたことに基づいて、１ずつ加算されて更新される。一方、１つのラウンドが終了した場合に、可変入賞装置６５に入賞した個数（入賞個数カウンタ２０３ｏの値）と排出された個数（排出個数カウンタ２０３ｔと確変通過カウンタ２０３ｎとの合計値）とが一致しているか判別された後に、初期値である「０」にリセットされる。なお、この入賞個数カウンタ２０３ｏの値は、電源断時にはバックアップされる。また

、初期化された状態では、０に設定される。
【２０６３】
残球タイマフラグ２０３ｐは、１のラウンドが終了し、特定入賞口６５ａが閉鎖した後の球はけ期間であるか否かを示すフラグである。この残球タイマフラグ２０３ｐがオンに設定されている場合は、球はけ期間であることを意味する。この残球タイマフラグ２０３ｐがオンに設定されている間は、後述する残球タイマ２０３ｑが１ずつ加算されて更新される。残球タイマ２０３ｑは、特定入賞口６５ａが閉鎖されてからの時間を判別するためのカウンタであり、可変入賞装置６５内の遊技球が排出されるのに必要な時間が経過したかを判別するためのカウンタである。
【２０６４】
残球タイマ２０３ｑは、予め設定されている１のラウンドが終了して可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａが閉鎖した場合に、可変入賞装置６５に入賞した球が排出されるのに必要な時間が経過したかを判別するためのカウンタである。本実施形態では、可変入賞装置６５に入賞した球が排出されるまでに必要な時間は０．５秒であり、本実施形態では、予め０．８秒に対応するカウンタ値が残球タイマ２０３ｑの上限値として設定されている。この残球タイマ２０３ｑの上限値（本実施形態では、０．８秒）となったことに基づいて、可変入賞装置６５への入賞個数とその排出個数とが一致しているかの判別が実行される。一致しない場合には、エラーコマンドが設定されて、その旨が報知される。よって、可変入賞装置６５内に遊技球が球詰まりしていることを早期に知らせることができる。
【２０６５】
なお、入賞個数と排出個数が一致しない場合には、専用のフラグをオンに設定しておき、そのフラグがオンである場合には確変スイッチを遊技球が通過しても確変設定フラグ２０３ｍをオンに設定しない構成にしてもよい。このように構成することで、不正に確変状態が付与されることを抑制できる。
【２０６６】
確変有効フラグ２０３ｒは、切替弁６５ｙが球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖへと振り分け不可能な配置に切り替わった後に、遊技球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合に、その通過（入球）を有効とするか否かを判別するためのフラグである。この確変有効フラグ２０３ｒがオンに設定されている場合には、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを遊技球が通過することが正常な期間であることを示している。
【２０６７】
確変有効タイマ２０３ｓは、上述した確変有効フラグ２０３ｒがオンに設定されてからの時間をカウントする為のカウンタである。この確変有効タイマ２０３ｓにより切替弁６５ｙが特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下不可能な配置に切り替わった後に、確変スイッチを正常に通過するのに必要な期間を判別することができる。本実施形態では、切替弁６５ｙに到達した遊技球が確変スイッチを通過するのに要する時間は０．３秒である。確変有効タイマ２０３ｓの上限値は０．５秒に対応するカウンタ値に設定されており、それ以後に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過しても不正と判別して通過と判別しない。
【２０６８】
これにより、不正に遊技球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖ（Ｖ領域）に入球させて確変スイッチを通過させたり、確変スイッチの下方よりピアノ線等で遊技球を押し上げて通過させたり、電波等により磁気センサを通過と誤検出させたりする不正による被害を抑制できる。
【２０６９】
排出個数カウンタ２０３ｔは、１のラウンドで可変入賞装置６５から排出された遊技球の数をカウントするためのカウンタである。この排出個数カウンタ２０３ｔは、可変入賞装置６５に入賞した球の数と排出個数との一致が判別された後に、初期値である０にリセットされる。
【２０７０】
その他メモリエリア２０３ｚは、遊技に必要なその他のデータや、カウンタ、フラグ等

が設定（記憶）される。
【２０７１】
払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。
【２０７２】
払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【２０７３】
払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。
【２０７４】
発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。
【２０７５】
音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。
【２０７６】
音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には、パチンコ機１０に設けられる演出用の駆動役物を動作させるための各種駆動モータが含まれる。
【２０７７】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた後面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた後面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、後面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の後面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【２０７８】

なお、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合に、図示しない演出用の役物を駆動させるためにその他装置２２８へ役物駆動コマンドを送信したり、枠ボタン２２への操作内容に対応した音声を音声出力装置２２６に出力させるための音声出力コマンドを設定したり、枠ボタン２２への操作内容に対応した発光態様でランプ表示装置２２７を発光させるためのランプ出力コマンドを設定したりするように構成しても良い。

【２０７９】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【２０８０】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０からのコマンドや、音声ランプ制御装置１１３に接続された各種装置等の状況に応じてエラーを判定し、そのエラーの種別を含めてエラーコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４では、受信したエラーコマンドによって示されるエラー種別（例えば、振動エラー）に応じたエラーメッセージ画像を第３図柄表示装置８１に遅滞無く表示させる制御が行われる。

【２０８１】

ここで、本制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている内容について説明をする。音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２には、図１４４（ａ）に示すように、変動パターン選択テーブル２２２ａと、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂと、確変中演出選択テーブル２２２ｃと、連続予告実行選択テーブル２２２ｄと、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅと、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆと、が少なくとも記憶されている。

【２０８２】

変動パターン選択テーブル２２２ａは、図示しない変動パターン選択用のカウンタ値に各変動パターンの種別（ど外れ、リーチ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【２０８３】

なお、本制御例では、実行される特別図柄変動に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が横スクロールで変動表示される変動演出（図１２３参照）が実行される。この

変動演出では、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンが決定されるため、遊技者は、第３図柄表示装置８１にて実行される変動演出を視認することで今回の特別図柄変動が大当たり当選しているか否かを予測しながら遊技（特図遊技）を行うことができる。

【２０８４】

通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂは、通常状態が設定されている間に実行された第２特別図柄変動のうち、加算時間が３０秒の変動パターンが選択された場合の第３図柄の演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルであって、第２特別図柄抽選の抽選結果（当否判定結果）、特図２保留数、特図１保留数、演出カウンタ２２３ｆの値に対応させて異なる演出態様（演出内容）が規定されている。

【２０８５】

本制御例では、通常状態が設定されている状態において普通図柄抽選で当たり当選すると、電動役物６４０ａが５秒間開状態となる普図当たり遊技が実行される。そして、普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと球を入球させることで第２特別図柄抽選を実行させることが可能に構成している。つまり、第２特別図柄抽選が実行され難い遊技状態（通常状態）において、所定の実行条件が成立した場合に（普図当たり当選した場合に）、所定期間の間（普図当たり遊技期間の間）、第２特別図柄抽選の抽選契機（特図２保留球）を獲得し易く（第２入球口６４０へと球を入球させ易く）することができるように構成している。

【２０８６】

通常状態中に実行される第２特別図柄抽選では、通常用テーブル２０２ｂ１（図１４２（ｂ）参照）に示した通り、変動時間が「１０秒」の変動パターンと、変動時間が「４０秒」の変動パターンとが選択可能に構成されており、変動時間が「４０秒」の変動パターンが設定されている第２特別図柄抽選が実行される場合に、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂを参照して変動演出の演出態様が設定される。

【２０８７】

ここで、図１４５を参照して、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂの内容について説明をする。図１４５は、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂの内容を模式的に示した図である。この通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂは、通常状態が設定されている間に実行された第２特別図柄変動のうち、加算時間が３０秒の変動パターンが選択された場合の第３図柄の変動演出の演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルであって、第２特別図柄抽選の抽選結果（当否判定結果）、特図２保留数、特図１保留数、演出カウンタ２２３ｆの値に対応させて異なる演出態様（演出内容）が規定されている。

【２０８８】

通常用テーブル２０２ｂ１（図１４２（ｂ）参照）に示した通り、本制御例では、通常状態中に第２特別図柄変動が実行されると、基本時間（１０秒）に対応させて、共通の外れリーチ演出が実行され（図１２５（ａ）参照）、その後、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂを参照して選択された演出内容（演出態様）として疑似変動演出（図１２５（ｂ）～１２６参照）が加算時間（３０秒）の間に実行されるように構成している。

【２０８９】

具体的には、抽選結果が大当たりであって、特図２保留数が３の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に、変動パターンとして「疑似３演出」が、「８０～９９」の範囲に、変動パターンとして「特殊疑似２演出」が規定されており、特図２保留数が２の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に、変動パターンとして「疑似２演出」が、特図２保留数が１の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に、変動パターンとして「疑似１演出」が、「９０～９９」の範囲に、変動パターンとして「特殊疑似４演出」が規定されている。

【２０９０】

また、抽選結果が大当たりであって、特図２保留数が０の場合は、特図１保留数が１～４の場合に「特殊終了演出」が、特図１保留数が０の場合に「疑似無し演出」が設定される。

【２０９１】

抽選結果が外れである場合には、特図２保留数が３の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に、変動パターンとして「疑似３演出」が規定されており、特図２保留数が２の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に、変動パターンとして「疑似２演出」が、特図２保留数が１の場合は、特図１保留数に関わらず取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に、変動パターンとして「疑似１演出」が、特図２保留数が０の場合は、「疑似無し演出」が規定されている。

【２０９２】

以上、説明をした通り、本実施形態では、第２特別図柄の疑似変動演出の演出態様を設定する際に、特図２保留数及び特図１保留数の有無を判別し、次に実行される特別図柄抽選に対応する演出態様で疑似変動演出を実行するように構成している。このように構成することで、１の特別図柄変動期間中に実行される疑似変動演出を、あたかも次の特別図柄変動に対応させた変動演出と思わせ易くすることができる。

【２０９３】

さらに、疑似変動演出にて実行される疑似変動回数（第３図柄の仮停止回数）が、獲得済みの特図２保留数に対応させた回数となるように構成しているため、通常状態中に実行された普図当たり遊技中に獲得した特図２保留が全て使用されたと思わせることができる。よって、大当たり当選している疑似変動演出が実行された場合は、通常状態中に実行された普図当たり遊技中に多くの特図２保留を獲得した結果として、大当たり当選したと遊技者に思わせることができる。また、外れ当選している疑似変動演出が実行された場合は、特図２保留を全て消化したと思わせた後に、次に特図２保留を用いた変動演出が実行されるため（チャンスゾーンが継続するため）、遊技者に以外性のある演出を提供することができる。

【２０９４】

また、本制御例では、大当たり当選した場合にのみ設定される疑似変動演出（特殊疑似２演出、疑似４演出）を設けているため、疑似変動演出にて実行される疑似変動回数と、特図２保留数とに対して遊技者に興味を持たせることができる。

【２０９５】

次に、図１４６を参照して、確変中演出選択テーブル２２２ｃの内容について説明をする。図１４６は、確変中演出選択テーブル２２２ｃの内容を模式的に示した模式図である。この確変中演出選択テーブル２２２ｃは、確変状態（時短状態）中、即ち、普通図柄の高確率状態中に実行される特別図柄変動の変動パターンとして、基本時間が３０秒の変動パターンが選択された場合における変動演出を設定する際に参照されるデータテーブルである。この確変中演出選択テーブル２２２ｃは、実行される特別図柄変動に対する変動演出の演出態様を設定する際に参照されるものであり、変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）にて実行される特図１演出態様設定処理（図１８３のＳ４９０３参照）にて、確変状態であることを遊技者に報知する演出モードである「スーパーチャンスモード」中であって（図１８３のＳ５００５：Ｙｅｓ）、今回実行される変動パターンの変動時間（基本変動時間）が「３０秒」である場合（図１８３のＳ５００７：Ｙｅｓ）、又は、変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）にて実行される特図２演出態様設定処理（図１８４のＳ４９０７参照）にて、確変状態であることを遊技者に報知する演出モードである「スーパーチャンスモード」中であって（図１８４のＳ５１１２：Ｙｅｓ）、今回実行される変動パターンの変動時間（基本変動時間）が「３０秒」である場合（図１８４のＳ５１１４：Ｙｅｓ）、に参照される。

【２０９６】

本制御例では、普通図柄の高確率状態において第１特別図柄抽選が実行された場合に、

第１特別図柄抽選でのみ当選し得る大当たり（通常大当たり遊技が実行される大当たり）に当選したことが、第１特別図柄抽選の抽選結果が停止表示されるよりも前に遊技者が把握してしまう事態が発生することを抑制するために、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、通常大当たり遊技が実行される大当たり当選を示すための第３図柄（偶数の数字が付された第３図柄）と、確変大当たり遊技が実行される大当たり当選を示すための第３図柄（奇数の数字が付された第３図柄）と、が何れもリーチ状態となるダブルリーチ演出を実行するように構成している。

【２０９７】

さらに、普通図柄の高確率状態である確変状態、或いは、時短状態において、上述したダブルリーチ演出が実行された場合に、実行中の特別図柄抽選が第１特別図柄抽選であることを遊技者に把握させ難くするために、大当たり当選した場合には必ず確変大当たり遊技が実行される第２特別図柄抽選に対応する変動演出においても、上述したダブルリーチ演出を実行するように構成している。また、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行される第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動とは、何れも変動時間が「３０秒」の変動パターンを選択可能に構成しており、この「３０秒」の変動パターンが選択された場合においてダブルリーチ演出が実行されるように構成している。このように、特別図柄の種別に関わらず、同一の変動時間（３０秒）を設定し、同一の変動演出となるダブルリーチ演出を実行するように構成しているため、実行される変動演出によって実行中の特別図柄変動の図柄種別を遊技者に把握されてしまうことを抑制することが出来ると共に、変動演出に用いられる演出データを共通化することにより、パチンコ機１０にて実行される各種演出に用いられる演出データの容量を抑えることができる。

【２０９８】

図１４６に示した通り、確変中演出選択テーブル２２２ｃには、図柄種別（特別図柄の種別）と、抽選結果（特別図柄抽選の結果）と、演出カウンタ２２３ｆの値とに応じて異なる演出態様が規定されている。具体的には、図柄種別が第１特別図柄（特図１）であって、抽選結果が確変大当たり（大当たりＡ）である場合は、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に「確変シングルリーチ」が、「５０～９９」の範囲に「ダブルリーチ」が規定され、通常大当たり（大当たりＢ）である場合は「ダブルリーチ」が、外れの場合は「非リーチ」が規定されている。

【２０９９】

また、図柄種別が第２特別図柄（特図２）であって、抽選結果が確変大当たりである場合は、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に「特殊ダブルリーチ」が、「５０～９９」の範囲に「確変ダブルリーチ」が規定され、外れの場合は、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」の範囲に「ダブルリーチ」が、「５～１０」の範囲に「確変ダブルリーチ」が、「１１～９９」の範囲に「非リーチ」が規定されている。

【２１００】

このように構成することで、確変状態において第１特別図柄抽選が実行される場合も、第２特別図柄抽選が実行される場合も「ダブルリーチ」（図１３１（ａ）に示した、通常当たりに対応する第３図柄を含む２以上の第３図柄がリーチ状態となるリーチ演出）が実行されることになるため、遊技者に対して、「ダブルリーチ」が実行された場合に、何れの特別図柄抽選に対応する第３図柄変動演出が実行されているのかを分かり難くすることができる。

【２１０１】

さらに、「特殊ダブルリーチ」が設定されると、最初に「ダブルリーチ」の演出態様が設定され、その後、図１３１（ｂ）に示した「確変ダブルリーチ」へと演出態様が可変するリーチ演出が実行される。よって、第１特別図柄抽選に対応して「ダブルリーチ」が実行された場合であっても、途中で「確変ダブルリーチ」へと昇格することを期待させながら遊技を行わせることができる。なお、この「特殊ダブルリーチ」において、リーチ演出の演出態様が可変するタイミングは、中図柄列Ｚ２が１周、或いは２周したタイミングとしているが、これに限ること無く、遊技者が操作ボタン２２を操作したタイミングに基づ

いて演出態様を可変しても良い。
【２１０２】
なお、通常状態中に第２特別図柄変動が実行される場合において、変動時間が「１０秒（基本時間１０秒、加算時間０秒）」の変動パターン（特殊外れ）が選択された場合には、図１２５（ａ）に示した外れリーチ演出が実行された後、そのまま外れを示す表示態様で第３図柄が停止表示される。一方、変動時間が「１０秒（基本時間１０秒、加算時間０秒）」の変動パターン（特殊当たり）が選択された場合には、１０秒間の図柄変動の後、大当たり当選を示す表示態様（例えば、「７７７」）で第３図柄が停止表示される。
【２１０３】
このように、通常状態中に実行される第２特別図柄変動に対応する変動演出として、１回の特別図柄変動期間中に疑似的に複数回の変動演出を実行する特殊変動パターンと、１回の特別図柄変動期間中に１回の変動演出を実行する通常変動パターンと、を設けることにより、どのタイミングで新たな第２特別図柄変動が実行されたのかを遊技者に分かり難くすることができるため、チャンスゾーンが継続することを期待しながら遊技を行わせることができる。
【２１０４】
また、チャンスゾーン中の実行される変動演出（疑似含む）の回数が多い程、大当たり当選の期待度を高めることができるため、チャンスゾーンが長時間継続することを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。
【２１０５】
加えて、本制御例では、１回の特別図柄変動期間中に疑似的に複数回の変動演出を実行する特殊変動パターンにて実行される１回の疑似変動時間（１０秒）と同一時間となるように通常変動パターンの変動時間（１０秒）が規定されているため、例えば、特殊変動パターンで実行された第２特別図柄変動の後に、通常変動パターンで実行された第２特別図柄変動が実行された場合に、第３図柄表示装置８１の表示面では、１０秒間の変動演出が繰り返し実行されることになる。よって、特殊変動パターンとして疑似変動演出が繰り返し実行されているのか、特殊変動パターンと通常変動パターンとが連続して実行されているのかを遊技者に分かり難くすることができる。よって、どのタイミングで新たな第２特別図柄変動が実行されたのかを遊技者に分かり難くすることができるため、チャンスゾーンが継続することを期待しながら遊技を行わせることができる。
【２１０６】
なお、本制御例では、通常状態中の第２特別図柄変動として、変動時間が「４０」秒の変動パターンが選択された場合に、特殊変動パターンの変動演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、通常状態中に実行される第２特別図柄変動に対応する変動時間として「４０秒」以外の変動時間を選択可能に構成しても良い。また、本制御例では、特殊変動パターンの変動演出の一部である疑似変動時間を基本的に１０秒で固定し、大当たり期待度が高い場合に、１０秒以外の長さで疑似変動演出が実行され易くなるように構成している。このように構成することで、１回の変動演出の実行期間が長くなることを、期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。
【２１０７】
図１４４（ａ）に戻り、説明を続ける。連続予告実行選択テーブル２２２ｄは、主制御装置１１０側から受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報（大当たり当選の有無）に基づいて、複数の特別図柄変動の期間を跨いで実行される連続予告演出の実行条件を成立させるか否かを決定する際に参照されるデータテーブルである。ここで連続予告演出の実行条件が成立すると、枠ボタン２２への操作を有効に判別する特殊有効時間が設定される。そして、特殊有効時間内に枠ボタン２２が操作された場合に、連続予告演出が実行される。
【２１０８】
この連続予告演出が実行されると、通常の背景モード（海モード、山モード）とは異なる背景モード（空モード）へと移行し、実行条件の成立対象となった入賞情報に対応する

特別図柄抽選の結果が表示されるまでの期間を用いた連続演出が実行される。詳細な説明は後述するが、本実施形態では、普通図柄の高確率状態が設定されている期間のうち、高速変動期間（普通図柄の高確率状態が設定されてから、２０回目の特別図柄変動が実行されるまでの期間）中は、他の期間に比べて枠ボタン２２への操作に基づいて背景モードが移行し難くなるように構成している。そのような高速変動期間中であっても、枠ボタン２２を操作することにより背景モードを移行させることができるため、遊技者に対して意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【２１０９】

また、通常の背景モード移行とは異なり、大当たり当選の期待度を高めた背景モード移行を実行させることができるため、演出効果を高めることができる。さらに、高速変動期間中は、他の期間に比べて特別図柄変動の変動時間が短くなり易いため、他の期間のように背景モードを移行させてしまうと、肝心な特別図柄抽選の結果を見逃してしまう虞があることから、背景モード移行し難くなるように構成している。しかしながら、連続予告演出が実行されることに基づいて背景モード移行する場合には、複数回の特別図柄変動の変動時間を用いた連続予告演出が実行されるため、背景モード移行後に即座に連続予告演出の演出結果が表示されることが無い。よって、背景モード移行を実行したとしても、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【２１１０】

さらに、本制御例では、高速変動期間中に枠ボタン２２を操作した場合に、背景モード移行以外の演出（操作演出）を実行可能にし、高速変動期間中であっても、遊技者に意欲的に枠ボタン２２を操作させることで遊技に早期に飽きてしまうことを抑制するように構成している。その中で、連続予告演出の実行条件が成立したことに基づいて背景モード移行が実行されることにより、遊技者に対して意外性のある演出を提供することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２１１１】

ここで、図１４７（ａ）を参照して、連続予告実行選択テーブル２２２ｄの内容について説明する。図１４７（ａ）は、連続予告実行選択テーブル２２２ｄの内容を模式的に示した模式図である。図１４７（ａ）に示した通り、連続予告実行選択テーブル２２２ｄには、受信した入賞情報に含まれる抽選結果（特別図柄の抽選結果）と、特図２保留数（第２特別図柄の保留球数）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値と、に対応させて、連続予告演出の実行条件を成立させるか否かが規定されている。

【２１１２】

具体的には、抽選結果が「大当たり」で、特図２保留数が「３」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立する「連続予告有」が、「８０～１９８」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立しない「連続予告無」が規定されている。また、特図２保留数が「４」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１４９」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立する「連続予告有」が、「１５０～１９８」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立しない「連続予告無」が規定されている。

【２１１３】

一方、抽選結果が「外れ」で、特図２保留数が「３」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９４」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立しない「連続予告無」が、「１９５～１９８」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立する「連続予告有」が規定されている。また、特図２保留数が「４」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１８９」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立しない「連続予告無」が、「１９０～１９８」の範囲には、連続予告演出の実行条件が成立する「連続予告有」が規定されている。

【２１１４】

上述した通り、本制御例では、特図２保留数が多いほど、連続予告演出の実行条件が成立し易く、さらに、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合のほうが、外れである場合

よりも連続予告演出の実行条件が成立し易くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して連続予告演出を実行させようと意欲的に遊技（第２入球口６４０へと球を入球させる遊技）を行わせることができ、パチンコ機１０の稼働を高めることができる。加えて、特図２保留数が多い程、連続予告演出の実行条件が成立した場合における大当たり期待度が高くなるように構成している。よって、大当たり期待度の高い連続予告演出を実行させるために、意欲的に遊技（第２入球口６４０へと球を入球させる遊技）を行わせることができ、パチンコ機１０の稼働を高めることができる。

【２１１５】

本制御例では、主制御装置１１０側から入賞情報コマンド（特別図柄に対する入賞情報コマンド）を受信した場合に、連続予告実行選択テーブル２２２ｄを参照して、連続予告演出の実行条件の成立の有無のみを判定（決定）するように構成しており、連続予告演出の実行条件が成立した場合であっても、その時点で連続予告演出が実行されず、実行条件が成立した後、特定の期間内にて枠ボタン２２を操作した場合に連続予告演出が実行されるように構成している。これにより、１回の特別図柄変動期間中に第２入球口６４０へと球が複数入球し、複数の入賞情報コマンドを受信した場合には、実行条件の成立対象となる入賞情報を遊技者に分かり難くすることができる。よって、連続予告演出が実行された場合に、その連続予告演出がいつまで継続するのかを遊技者に分かり難くすることができ、連続予告演出の演出内容が単調になることを抑制することができる。

【２１１６】

なお、本制御例では、上述した通り、連続予告演出の実行条件が成立したことを遊技者に報知（示唆）しないように構成しているが、これに限ること無く、実行条件が成立したことを遊技者に報知（示唆）するための報知（示唆）演出を実行するように構成しても良く、例えば、副表示領域Ｄｓに「待機中」の文字を表示することで、連続予告演出の実行条件が成立したことを遊技者に報知（示唆）するように構成しても良い。このように構成することで報知（示唆）演出が実行された場合に、連続予告演出を実行させようと意欲的に枠ボタン２２を操作させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２１１７】

また、本制御例では、図１２９（ａ）に示した通り、遊技者による枠ボタン２２への操作を有効に判別する有効期間が設定されていることを（有効期間中であることを）遊技者に報知可能な有効期間報知態様として、主表示領域Ｄｍの右側下方に枠ボタン２２を模したアイコンＨＲ１０を表示するように構成しているが、連続予告演出の実行条件が成立した場合に設定される特殊有効時間が設定されているのか、通常の有効時間が設定されているのかを、アイコンＨＲ１０の表示態様からは判別できない（し難い）ように構成している。このように構成することで、遊技者は、枠ボタン２２を操作するまで連続予告演出が実行されるのか、通常の操作演出が実行されるのかが分からないため、連続予告演出を実行させようと枠ボタン２２を意欲的に操作させることができる。

【２１１８】

なお、本制御例の構成とは異なり、アイコンＨＲ１０の表示態様によって、現在設定されている有効期間が特殊有効時間であるか、通常有効時間であるかを遊技者が判別可能となるように構成しても良いし、アイコンＨＲ１０が第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示タイミングによって現在設定されている有効期間が特殊有効時間であるか、通常有効時間であるかを判別させるように構成しても良い。また、特殊有効時間が設定される期間を、通常有効時間が設定される期間（例えば、特別図柄変動が開始されてから３秒間）とは異ならせ、さらに、特殊有効時間が設定されていることを遊技者に報知（示唆）しないように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対してどのタイミングで枠ボタン２２を操作したら連続予告演出が実行されるのかを分かり難くすることができるため、遊技者に対して意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。同様に、特殊有効時間が設定されていることを遊技者に報知（示唆）しないように構成した場合において、連続予告演出の実行条件が成立していることを報知（示唆）する演出（例えば、副表示領域Ｄｓに「待機中」の文字を表示）のみ実行可能に構成しても良い。これにより、

連続予告演出の実行条件が成立していない状態で無駄に枠ボタン２２を操作させてしまうことを抑制することができる。加えて、連続予告演出の実行条件が成立している状態であって、特殊有効時間外に枠ボタン２２を操作した場合に、現在が特殊有効時間外であることを遊技者に報知するための報知表示（例えば、副表示領域Ｄｓに「今じゃない」の表示）を実行しても良いし、特殊有効時間を案内するための案内表示（例えば、副表示領域Ｄｓに「２秒後にもう一度押してね」の表示）を実行しても良い。

【２１１９】

また、本制御例では、第２特別図柄に対する入賞情報が含まれる入賞情報コマンドを受信した場合に、連続予告演出テーブル２２２ｄを参照して、連続予告演出の実行条件を成立させるための処理を実行するが、これに限ること無く、第１特別図柄に対する入賞情報が含まれる入賞情報コマンドを受信した場合にも連続予告演出の実行条件が成立するように構成しても良い。

【２１２０】

図１４４に戻り説明をする。Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅは、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを決定する際に参照されるデータテーブルである。本制御例では、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置６５内に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを設けており、可変入賞装置６５内に入賞した球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過すると、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定されるように構成している。そして、実行される大当たり遊技の種別に応じて、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過し易い大当たり遊技（確変大当たり遊技）と、その確変大当たり遊技よりも、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過し難い大当たり遊技（通常大当たり遊技）と、を実行可能に構成している。

【２１２１】

具体的には、図１２０（ｂ）に示した通り、可変入賞装置６５内に切替弁６５ｙを設け、切替弁６５ｙの配置状況によって可変入賞装置６５内に流入した球が、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過不可能（困難）な第３流路６５ｅ３と、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過可能な第４流路６５ｅ４とに振り分けられるように構成している。この切替弁６５ｙは、確変大当たり遊技が実行された場合の１ラウンド目のラウンド遊技中にのみ球を第４流路６５ｅ４へと振り分け可能な配置状況へと切り替わるように駆動制御される。

【２１２２】

Ｖ報知演出は、大当たり遊技を実行している遊技者に対して、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過可能な期間（Ｖ期間）、及び、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを狙うための遊技方法を案内するＶ案内演出と、現在がＶ期間であることを報知するＶ期間演出と、Ｖ期間中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを報知するＶ成功演出と、Ｖ期間中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過しなかったことを報知するＶ失敗演出と、を実行可能な演出である。このＶ報知演出を実行することにより、確変大当たり遊技が実行された場合において、特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させるための遊技を容易に行わせることができると共に、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したことが遊技者に報知されるため、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【２１２３】

ここで、本制御例では、通常大当たり遊技が実行された後には、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されるように構成しており、時短状態が設定された場合には、演出モードとして「チャンスモード」が設定されるように構成している（図１３４参照）。さらに、大当たり遊技の終了後に確変状態が設定される場合の一部においても「チャンスモード」が設定されるように構成している。これにより、大当たり遊技終了後に「チャンスモード」が設定された場合であっても、内部的には確変状態が設定されている可能性を残すことができるため、遊技者に確変状態であることを期待させながら遊技を行わせることができる。しかしながら、大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されてしまうと、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したか否かを大当

たり遊技中に容易に把握できてしまうため、ひいては、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したにも関わらず、大当たり遊技終了後に「チャンスモード」が設定されてしまうと、確変状態が消滅したと不信感を持たれてしまうという問題があった。特に、本制御例のように確変状態を終了させるための確変終了条件として、特別図柄変動が５０回実行された場合に成立する確変終了条件を有するパチンコ機１０においては、特別図柄抽選で大当たり当選することなく確変状態が終了してしまうため、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したにも関わらず、確変状態が設定されなかったと強く思われてしまう虞があった。

【２１２４】

そこで、本制御例では、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを決定する処理を実行し、その処理結果に基づいて大当たり遊技中のＶ報知演出の有無を決定する。そして、Ｖ報知演出を実行しない大当たり遊技中にて、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合（大当たり遊技終了後に確変状態が設定される場合）に、その大当たり遊技終了後に「チャンスモード」を設定するように構成している。このように構成することで、内部的に確変状態が設定されているか否かを遊技者が判別することが困難となるため、「チャンスモード」を遊技している遊技者に対して不信感を与えること無く、確変状態が設定されていることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【２１２５】

ここで、図１４７（ｂ）を参照して、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅの内容について説明をする。図１４７（ｂ）は、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。このＶ報知実行選択テーブル２２２ｅは、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照）にて実行される大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）において、確変大当たり遊技を開始するタイミングであると判別された場合に（図１８０のＳ４７０１：Ｙｅｓ）、今回の大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを決定する際に参照される（図１８０のＳ４７０４）。

【２１２６】

図１４７（ｂ）に示した通り、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅには、今回実行される大当たり遊技に対応する大当たり種別（大当たり当選した大当たり種別）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値とに対応させてＶ報知有無（Ｖ報知演出を実行するか否かの判定結果）が規定されている。具体的には、大当たり種別が「大当たりＡ」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１４９」の範囲には、Ｖ報知演出を実行することを示す「Ｖ報知有」が、「１５０～１９８」の範囲には、Ｖ報知演出を実行しないことを示す「Ｖ報知無」が規定されている。また、大当たり種別が「大当たりＣ，Ｄ，Ｅ」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１８９」の範囲には、「Ｖ報知有」が、「１９０～１９８」の範囲には、「Ｖ報知無」が規定されている。

【２１２７】

第１特別図柄抽選で大当たり当選し、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別「大当たりＡ」が設定された場合には、約７５％の割合でＶ報知演出が実行される。ここで、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、５０％が確変大当たり遊技（「大当たりＡ」）となり、残りの５０％が通常大当たり遊技（「大当たりＢ」）となるように構成されている。よって、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の約３７．５％の割合で大当たり遊技中にＶ報知演出が実行され、約６２．５％の割合で大当たり遊技中にＶ報知演出を実行報知演出が実行されないことになる。また、Ｖ報知演出が実行されなかった場合のうち、確変大当たり遊技が実行されている割合が約２０％となるように構成されている。

【２１２８】

一方、第２特別図柄抽選で大当たり当選し、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別「大当たりＣ，Ｄ，Ｅ」が設定された場合には、約９０％の割合でＶ報知演出が実行される。ここで、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合は、必ず確変大当たり遊技（「大当たりＣ，Ｄ，Ｅ」）となるように構成されている。よって、実際には第２特別図柄抽

選で大当たり当選した場合の約１０％の割合でＶ報知演出が実行されない大当たり遊技が実行されることになる。このように、必ず確変大当たり遊技が実行される第２特別図柄抽選による大当たり当選に対してもＶ報知演出を実行しない場合を設けることにより、Ｖ報知演出が実行されなった場合、即ち、大当たり遊技終了後に「チャンスモード」が設定された場合において、遊技状態が確変状態である割合を高めることができる。

【２１２９】

また、上述した通り、第１特別図柄抽選で確変大当たり遊技が実行される大当たり（「大当たりＡ」）に当選した場合と、第２特別図柄抽選で確変大当たり遊技が実行される大当たり（「大当たりＣ，Ｄ，Ｅ」）に当選した場合とで、Ｖ報知演出が実行される割合を異ならせている。具体的には、実際に確変大当たり遊技が実行され易い第２特別図柄抽選よりも、確変大当たり遊技が実行され難い第１特別図柄抽選のほうが、確変大当たり遊技が実行される場合において、Ｖ報知演出が実行され難くなるように構成している。このように構成することで、第１特別図柄抽選で大当たりに当選した場合に、その大当たり遊技中にＶ報知演出が実行されない頻度を高めることができるため、通常大当たり遊技が実行され得る第１特別図柄抽選に基づく大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定された場合にも遊技者に期待感を持たせ易くすることができる。

【２１３０】

なお、本制御例では、図１４７（ｂ）に示した通り、Ｖ報知演出の実行割合を、大当たり種別に応じて異ならせているが、それ以外の要素に応じてＶ報知演出の実行割合を異ならせても良く、例えば、大当たり当選した時点における遊技状態に応じてＶ報知演出の実行割合を異ならせたり、通常状態へ移行すること無く大当たり当選した回数（所謂、連荘回数）に応じてＶ報知演出の実行割合を異ならせたり、遊技者が枠ボタン２２を操作した操作結果に応じてＶ報知演出の実行割合を異ならせても良い。このように様々な条件に応じてＶ報知演出の実行割合を異ならせることで、見た目上の確変割合（大当たり当選全体におけるＶ報知演出が実行される割合）を複数設定することができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【２１３１】

本制御例では、確変大当たり遊技が実行される場合、即ち、特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させることが可能な大当たり遊技が実行される場合にのみ、上述したＶ報知演出を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、通常大当たり遊技が実行される場合にもＶ報知演出を実行可能に構成しても良い。この場合、確変大当たり遊技にてＶ期間（特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させることが可能な期間）が設定されるタイミング（１ラウンド目のラウンド遊技が実行されるタイミング）に合わせてＶ報知演出を実行し、最終的にＶ期間中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過しなかったことを報知するＶ失敗演出を実行するように構成すれば良い。さらに、大当たり遊技中に正常に遊技を行ったにも関わらず、Ｖ失敗演出が実行されるように構成した場合には、例えば、確変大当たり遊技にて特定領域（Ｖゲート）６５ｖに球を通過させたにも関わらずＶ失敗演出を実行し、大当たり遊技終了後に「チャンスモード」を設定するように構成しても良い。

【２１３２】

また、本制御例では、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、確変大当たり遊技中にＶ報知演出を実行しないパターンを設定可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり当選した場合には必ず確変大当たり遊技が実行される第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には必ずＶ報知演出を実行するように構成しても良い。

【２１３３】

図１４４（ａ）に戻り、説明を続ける。ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆは、演出モードとして「チャンスモード」が設定されている場合に、遊技者が操作手段である枠ボタン２２を操作したことに基づいて実行される操作演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照

）にて実行される枠ボタン入力監視・演出処理（図１８６のＳ４１０７参照）にて、チャンスモード中に枠ボタン２２に対して有効な操作が実行されたと判別された場合に（図１８６のＳ５３１４：Ｙｅｓ）、参照される（図１８６のＳ５３１５参照）。このように、遊技者が枠ボタン２２を操作した場合に実行される操作演出の演出態様を、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆを参照して可変させることにより、遊技者に対してバリエーションに富んだ操作演出を提供することができる。

【２１３４】

ここで、図１４８（ａ）を参照して、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆの内容について説明をする。図１４８（ａ）は、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図１４８（ａ）に示した通り、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆには、時短状態が設定されている場合に参照される時短状態選択テーブル２２２ｆ１と、確変状態が設定されている場合に参照される確変状態選択テーブル２２３ｆ２と、が規定されている。

【２１３５】

本制御例では、時短状態が設定される場合と、確変状態が設定される場合の一部において、演出モードとして「チャンスモード」が設定されるように構成されている。そして、設定されている遊技状態に関わらず、「チャンスモード」中は共通の変動演出が実行されるように構成されている。さらに、確変状態が設定されている場合と、時短状態が設定されている場合とで、同一の変動パターンテーブル（確変・時短用テーブル２０２ｂ２）を参照して変動パターン（変動時間）が選択されるように構成されている。これにより、「チャンスモード」中に実行される特別図柄変動、及び、その特別図柄変動に対応して実行される第３図柄の変動演出からは、現在設定されている遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを把握し難くすることができるため、遊技者に対して現在が確変状態であることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【２１３６】

しかしながら、「チャンスモード」を遊技している遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を示唆可能な情報を提供しないと、「チャンスモード」中の遊技に早期に飽きてしまうという問題があった。そこで、本制御例では、「チャンスモード」中に複数種類の操作演出を実行可能に構成し、設定されている遊技状態に応じて、各操作演出の実行割合を異ならせるように構成している。つまり、実行され得る操作演出の種類は同一だが、各操作演出が選択される割合を異ならせることにより、実際に実行される複数の操作演出に基づいて現在の遊技状態を予測することができるように構成している。これにより、遊技者に対して遊技状態を予測する楽しみを提供することができる。

【２１３７】

なお、通常状態が設定されている場合に実行される操作演出の演出態様や、確変状態が設定されていることを報知する演出モードである「スーパーチャンスモード」中に実行される操作演出の演出態様や、変動演出の一環として実行される操作演出の演出態様についても同様に複数種類の演出態様のうち、何れかの演出態様を決定して実行するように構成しているが、その詳細な説明は省略する。

【２１３８】

次に、図１４８（ｂ）を参照して、操作時演出選択テーブル２２２ｆに規定されている時短状態選択テーブル２２３ｆ１の内容について説明をする。図１４８（ｂ）は、時短状態選択テーブル２２３ｆ１の内容を模式的に示した模式図である。この時短状態選択テーブル２２３ｆ１は、時短状態が設定されている「チャンスモード」中における操作演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、枠ボタン２２が操作されたタイミングと、遊技者が枠ボタン２２に対して実行した操作方法の種別と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値とに応じて異なる操作演出の演出態様が規定されている。

【２１３９】

具体的には、図１４８（ｂ）に示した通り、操作タイミングが高速変動期間（第１期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～

１４９」の範囲には、操作演出が実行されないことを示す「無」が、「１５０～１８９」の範囲には、実行中の変動演出がリーチ状態となるか否かを、第３図柄変動中に示唆する演出を示す「リーチ示唆」が、「１９０～１９８」の範囲には、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。

【２１４０】

ここで、本制御例では、遊技者が枠ボタン２２に対して実行可能な操作方法が複数設定されており、枠ボタン２２を押下した状態が２秒未満である場合に判定される「通常押し」と、枠ボタン２２を押下した状態が２秒以上継続した場合に判定される「長押し」と、が設定されている。そして、遊技者の操作方法に応じて異なる操作演出が実行されるように構成している。これにより、遊技者が任意に操作方法を選択することで様々な操作演出を実行することができる。よって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することが出来る。

【２１４１】

なお、本制御例では、遊技者が操作可能な操作方法として、上述した２種類の操作方法を用いているが、これに限ること無く、例えば、パチンコ機１０に枠ボタン２２以外の操作手段（例えば、第２枠ボタン）を設け、遊技者が押下した枠ボタンの種類に応じて異なる操作演出が選択されるように構成しても良いし、所定期間（例えば、２秒間）の間に、複数の操作手段に対して実行された操作の順序に対応させて複数の操作方法を設定するように構成しても良い。さらに、遊技者が枠ボタン２２を押下した時点で「通常押し」と判定し、その後、その押下状態が所定期間（例えば、２秒）継続した場合に、「長押し」と追加判定することで、「長押し」専用の操作演出を実行するように構成しても良い。

【２１４２】

さらに、遊技者が操作可能な操作手段として、遊技者が押下可能な枠ボタン２２の構成以外に、遊技者が上下左右方向に傾倒操作可能なレバー部材や、遊技者が回動操作可能な回動部材から成る操作手段を設けても良い。また、遊技者が部材を直接操作するのでは無く、所定の検知領域を有する近接センサを設け、その検知領域内に進入させた手を近接センサに検知させることで所定の操作を実行したと判定可能な操作手段（例えば、タッチセンサ等）を設けても良く、遊技者が任意に所定の操作を実行可能であって、その操作内容に応じて異なる操作方法を選択できるものであれば良い。

【２１４３】

また、本制御例では、「通常押し」と、「長押し」の２種類の操作方法を有する構成について説明をしたが、これに限ること無く、３種類以上の操作方法を設けても良いし、操作方法を１種類しか設けなくても良い。ここで、操作方法を１種類しか設けない場合には、当該操作が実行される間隔に応じて異なる操作演出が実行されるように構成しても良い。これにより、操作方法自体は１種類であっても、様々な操作演出を遊技者に選択させることが可能となる。

【２１４４】

図１４８（ｂ）に戻り、時短状態選択テーブル２２３ｆ１の内容の説明を続ける。操作タイミングが通常時短変動期間（第２期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲には、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。

【２１４５】

そして、操作タイミングが特定期間（５０回目の特別図柄変動中）の場合、操作方法、及び取得した演出カウンタ２２３ｆの値に関わらず、操作演出が実行されないように構成されている。最後に、操作タイミングが通常時短変動期間（第３期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲には

、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、過去（「チャンスモード」が設定された時点（大当たり遊技終了後））に設定されていた遊技状態を示唆するための演出を示す「過去状態示唆」が規定されている。

【２１４６】

次に、図１４９を参照して、操作時演出選択テーブル２２２ｆに規定されている確変状態選択テーブル２２３ｆ２の内容について説明をする。図１４９は、確変状態選択テーブル２２３ｆ２の内容を模式的に示した模式図である。この確変状態選択テーブル２２３ｆ２は、確変状態が設定されている「チャンスモード」中における操作演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、枠ボタン２２が操作されたタイミングと、遊技者が枠ボタン２２に対して実行した操作方法の種別と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値とに応じて異なる操作演出の演出態様が規定されている。

【２１４７】

具体的には、図１４９に示した通り、操作タイミングが高速変動期間（第１期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１１９」の範囲には、操作演出が実行されないことを示す「無」が、「１２０～１３９」の範囲には、実行中の変動演出がリーチ状態となるか否かを、第３図柄変動中に示唆する演出を示す「リーチ示唆」が、「１４０～１８９」の範囲には、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」、「１９０～１９８」の範囲は、背景モードを移行することを示す「背景モード移行」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。

【２１４８】

また、操作タイミングが通常時短変動期間（第２期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１６９」の範囲には、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が、「１７０～１９８」の範囲には、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。

【２１４９】

そして、操作タイミングが特定期間（５０回目の特別図柄変動中）の場合、操作方法、及び取得した演出カウンタ２２３ｆの値に関わらず、操作演出が実行されないように構成されている。最後に、操作タイミングが通常時短変動期間（第３期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲には、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、過去（「チャンスモード」が設定された時点（大当たり遊技終了後））に設定されていた遊技状態を示唆するための演出を示す「過去状態示唆」が規定されている。

【２１５０】

以上、説明をした通り、大当たり遊技終了後の演出モードとして「チャンスモード」が設定された場合には、時短状態である場合と、確変状態である場合と、で異なるデータテーブルを参照して操作演出の演出態様が選択されるように構成しており、設定されている遊技状態に応じて各演出態様が選択される割合を異ならせている。よって、実行される操作演出の演出態様に基づいて現在設定されている遊技状態を遊技者に予測させることが可能となるため、遊技者に意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【２１５１】

また、特定の操作タイミングにおいて、演出モードとして「チャンスモード」が設定され得る複数の遊技状態（確変状態、時短状態）のうち、遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態）が設定されている場合に実行され易い演出態様（有利演出態様）として、例

えば、「第１期間」中の「通常押し」により実行される「状態示唆」の操作演出を設けているため、「第１期間」中の「通常押し」により「状態示唆」の操作演出が実行された場合に、有利遊技状態が設定されているのでは？と期待感を持たせながら遊技を行わせることができる。

【２１５２】

さらに、「第１期間」中に操作演出を複数回実行可能に構成しているため、「第１期間」中に上述した有利演出態様で操作演出が実行された回数が増加すればするほど、有利遊技状態が設定されている期待度を高めることができるため、遊技者により意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【２１５３】

加えて、特定の操作タイミングにおいて、演出モードとして「チャンスモード」が設定され得る複数の遊技状態（確変状態、時短状態）のうち、遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態）が設定されている場合にのみ実行される演出態様（確定演出態様）として、例えば、「第１期間」中の「通常押し」により実行される「背景モード移行」の操作演出を設けているため、「第１期間」中の「通常押し」により「背景モード移行」の操作演出が実行された場合に、有利遊技状態が設定されていることを把握することができる。

【２１５４】

また、上述した有利演出態様や、確定演出態様として、他の条件下（例えば、「第２期間」中の「通常押し」）において選択され得る演出態様を用いている。より詳細には、「状態示唆」の演出態様は、「第１期間」中の「通常押し」により実行された場合には、確変状態が設定されている期待度が高くなり、「第２期間」中の「通常押し」により実行された場合には、時短状態が設定されている期待度が高くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、「チャンスモード」が設定されているどの期間中にどの演出態様で操作演出が実行されたのかを分析しながら遊技を行わせる楽しみを提供することができる。

【２１５５】

以上、図１４８、及び図１４９を参照して、遊技者が操作手段（枠ボタン２２）を操作した場合に、選択され得る操作演出の演出態様の内容、及び、選択される際に参照されるデータテーブル（ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆ）の内容について説明をしたが、本第１制御例では、設定されている遊技状態に応じて異なるデータテーブルを参照するように構成している。そして、各データテーブルには、同一の演出態様が、選択割合を異ならせて規定されている。これにより、実行される操作演出の演出態様だけでは現在の遊技状態を遊技者に把握させ難くし、複数回の操作演出を実行することより、各演出態様の選択割合を把握することで現在の遊技状態を把握可能にすることができる。よって、遊技者に対して操作演出を複数回実行させようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【２１５６】

なお、本制御例では、設定されている遊技状態に応じて異なるデータテーブルを参照するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、現在設定されている遊技状態と、現在設定されている演出モードと、に基づいて、異なるデータテーブルを参照して操作演出の演出態様を選択するように構成しても良い。これにより、確変状態が設定されている場合において、演出モードとして「スーパーチャンスモード」が設定されている場合と、「チャンスモード」が設定されている場合とで、異なる操作演出を実行することができる。

【２１５７】

ここで、演出モードとして「スーパーチャンスモード」が設定されている場合には、例えば、現在の遊技状態が設定されていることを示唆する演出態様である「状態示唆」を実行する必要が無いため、代わりに、「リーチ示唆」の演出態様や、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報に特定の抽選結果（大当たり当選や、所定時間以上の変動時間が設定される変動パターン）を示す情報が含まれているか否かを示唆する「先読み示唆」の演出態様を規定すると良い。これにより、「スーパーチャンスモード」が設定さ

れている状態においても、遊技者に操作演出を意欲的に実行させることができる。
【２１５８】
さらに、操作演出の演出態様を選択するためのデータテーブル（ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆ）の種別を、大当たり当選時の遊技状態や、大当たり種別（特別図柄の停止表示態様）、第３図柄表示装置８１の表示面に表示された第３図柄の停止表示態様、或いは、大当たり遊技中におけるＶ入賞の有無に応じて異ならせるように構成しても良い。
【２１５９】
この場合、例えば、遊技状態として時短状態が設定され、且つ、演出モードとして「チャンスモード」が設定される場合において、通常大当たり遊技の終了後に「チャンスモード」が設定される場合と、確変大当たり遊技中に球をＶ入賞させることができず、その大当たり遊技終了後に「チャンスモード」が設定される場合と、で「チャンスモード」中に実行される操作演出の演出態様を異ならせることができる。具体的には、確変の大当たり遊技終了後に時短状態が設定された「チャンスモード」中には、前回の大当たり遊技が確変大当たり遊技であったことを示唆する「過去大当たり種別示唆」の演出態様を規定すると良い。これにより、実際には時短状態が設定されているにも関わらず、確変状態が設定されているのではと遊技者に思わせることができる。また、前回の大当たり遊技が確変大当たり遊技であったにも関わらず、Ｖ入賞させることができなかったことを報知する「過去遊技履歴報知」の演出態様を規定しても良い。これにより、今後実行する遊技の内容を改め易くすることができる。
【２１６０】
次に、図１４４（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図１４４（ｂ）に示すように、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、コマンド記憶領域２２３ａ、入賞情報格納エリア２２３ｂ、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ、特図変動開始フラグ２２３ｄ、停止種別選択フラグ２２３ｅ、演出カウンタ２２３ｆ、従状態設定エリア２２３ｇ、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈ、特殊演出中フラグ２２３ｉ、Ｖ入賞フラグ２２３ｊ、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋ、Ｖ報知フラグ２２３ｍ、時短中カウンタ２２３ｎ、特殊連続予告フラグ２２３ｏ、演出モード記憶エリア２２３ｐ、連続予告実行中フラグ２２３ｑ、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｒ、特殊有効時間カウンタ２２３ｓ、操作中カウンタ２２３ｔ、その他メモリエリア２２３ｚが少なくとも設けられている。
【２１６１】
コマンド記憶領域２２３ａは、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へ出力された各種コマンドがそのコマンドに対する処理が実行されるまで一時的に記憶され領域である。詳細には、リングバッファで構成され、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ Ｉｎ Ｆｉｒｓｔ Ｏｕｔ）方式によってデータの読み書きが行われる。音声ランプ処理装置１１３のコマンド判定処理（図６１参照）が実行されると、コマンド記憶領域２２３ａに記憶された未処理のコマンドのうち、最初に格納されたコマンドが読み出され、コマンド判定処理によって、そのコマンドが解析されて、そのコマンドに応じた処理が行われる。
【２１６２】
入賞情報格納エリア２２３ｂは、１つの実行エリアと、４つの保留エリア（第１エリア～第４エリア）とを特別図柄に対して有しており、これらの各エリアには、主制御装置１１０から出力された入賞情報コマンドに含まれる入賞情報が第１エリアから順に格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。
【２１６３】
本制御例では、第１特別図柄の保留球を最大で４個、第２特別図柄の保留球を最大で４個、それぞれ保留記憶可能に構成しているため、入賞情報格納エリア２２３ｂには、第１特別図柄用の４つの保留エリアと、第２特別図柄用の４つの保留エリアとが形成される。なお、本制御例では、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とは同時に実行されない

ように構成しており、第１特別図柄の保留球と、第２特別図柄の保留球とをともに有している状態で新たな特別図柄抽選を実行する場合には、第２特別図柄の保留エリアのうち、最古に記憶された入賞情報（第１エリアに記憶された入賞情報）が実行エリアへと移行するように構成されている。そして、第２エリア～第４エリアに格納されている各入賞情報が１つ若い番号の保留エリアへとシフトするように構成されている。即ち、本制御例のパチンコ機１０は、第２特別図柄抽選が第１特別図柄抽選よりも優先して実行されるように構成されている。

【２１６４】

なお、本制御例のパチンコ機１０とは異なり、例えば、特別図柄の種別に関わらず、保留球を獲得した順番に応じて特別図柄抽選が実行されるパチンコ機１０（所謂、入賞順消化のパチンコ機１０）であれば、入賞情報格納エリア２２３ｂに８つの保留エリアを設け、主制御装置１１０から出力された入賞情報コマンドに含まれる入賞情報が第１エリアから順に記憶されるように構成すれば良い。また、第１特別図柄抽選と、第２特別図柄抽選と、を同時に（重複して）実行可能なパチンコ機１０（所謂、同時変動タイプのパチンコ機１０）であれば、本制御例の構成に対して、１つの実行エリアに替えて、第１特別図柄用の第１実行エリアと、第２特別図柄用の第２実行エリアと、を設け、各特別図柄に対応した保留エリアの第１エリアに記憶されている入賞情報が各特別図柄に対応した実行エリアへと移行するように構成すれば良い。

【２１６５】

特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃは、主制御装置１１０から送信された保留球数コマンドに対応する値を計数するためのカウンタであって、第１特別図柄の保留球数を計数するための第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ１と、第２特別図柄の保留球数を計数するための第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ２と、を有している。即ち、特別図柄に対応する保留球の数が、主制御装置１１０より出力される保留球数コマンドに基づいて設定される。

【２１６６】

上述したように、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０に直接アクセスして、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３に格納されている特別図柄保留球数カウンタ２０３ｃの値を取得することができない。よって、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０から送信される保留球数コマンドに基づいて各特別図柄の保留球数をカウントし、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃにて、その保留球数を管理するようになっている。

【２１６７】

具体的には、主制御装置１１０では、第１入球口６４への入球によって第１特別図柄の保留球数が加算された場合、又は、主制御装置１１０において新たな第１特別図柄抽選を実行するために第１特別図柄の保留球数を減算した場合に、加算後または減算後の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）を、音声ランプ制御装置１１３へ送信する。また、第２入球口６４０への入球によって第２特別図柄の保留球数が加算された場合、又は、主制御装置１１０において新たな第２特別図柄抽選を実行するために第２特別図柄の保留球数を減算した場合に、加算後または減算後の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を示す保留球数コマンド（特図２保留球数コマンド）を、音声ランプ制御装置１１３へ送信する。

【２１６８】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド、特図２保留球数コマンド）を受信すると、その保留球数コマンドから、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、或いは、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を取得して、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ（第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ１、第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ２）に格納する。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を更新するので、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウン

タ２０３ｅと同期させながら、その値を更新することができる。
【２１６９】
特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値は、保留図柄の表示に用いられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドの受信に応じて、そのコマンドにより示される保留球数を特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに格納すると共に、格納後の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を表示制御装置１１４に通知するべく、表示用保留球数コマンドを表示制御装置１１４に対して送信する。
【２１７０】
表示制御装置１１４では、この表示用保留球数コマンドを受信すると、そのコマンドにより示される保留球数の値、即ち、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値分の保留球数を第３図柄表示装置８１の副表示領域Ｄｓ１（図１２２（ｂ）参照）に表示するように、画像の描画を制御する。上述したように、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｄは、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅと同期しながら、その値が変更される。従って、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄の数も、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値に同期させながら、変化させることができる。よって、第３図柄表示装置８１には、特別図柄抽選の実行が保留されている保留球の数を正確に表示させることができる。
【２１７１】
特図変動開始フラグ２２３ｄは、電源投入時に初期値としてオフに設定され、主制御装置１１０から出力された特別図柄の変動パターンを通知する特図変動パターンコマンドを受信した場合にオンに設定される。一方、第３図柄表示装置８１における変動表示の設定がなされるときにオフされる。なお、特図変動開始フラグ２２３ｄは、第１特別図柄に対応する第１特図変動開始フラグ２２３ｄ１と、第２特別図柄に対応する第２特図変動開始フラグ２２３ｄ２と、を有しており、主制御装置１１０から送信された特図変動パターンコマンドが示す特別図柄の種別に対応させてオン、オフの設定がされる。
【２１７２】
特図停止種別選択フラグ２２３ｅは、主制御装置１１０から出力される特別図柄の変動停止種別を通知する停止種別コマンドを受信した場合にオンに設定される。一方、第３図柄表示装置８１における変動表示の設定がなされるときにオフされる。なお、この特図停止種別選択フラグ２２３ｅは、第１特別図柄に対応する第１特図停止種別選択フラグ２２３ｅ１と、第２特別図柄に対応する第２特図停止種別選択フラグ２２３ｅ２と、を有しており、主制御装置１１０から送信された停止種別コマンド（特図停止種別コマンド）に含まれる特別図柄の種別に対応させてオン、オフの設定がされる。
【２１７３】
演出カウンタ２２３ｆは、変動パターンの選択や、各種演出の選択等に使用されるカウンタであって、「０～１９８」の範囲で繰り返し更新される。なお、メイン処理が実行される毎に１ずつ加算されて更新される。なお、詳細な説明は省略するが、この演出カウンタ２２３ｆは、複数のカウンタから構成されており、それぞれ更新規則が異なるように規定されている。何れのカウンタも、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照）が実行される毎にカウンタの更新処理が実行されるように構成している。そして、メイン処理の実行間隔内において変動パターンの選択や、各種演出の選択処理を複数種類実行する場合には、演出カウンタ２２３ｆが有する異なるカウンタの値を取得して処理を実行するように構成している。これにより、同一タイミング（メイン処理の同一周期内）において演出カウンタ２２３ｆの値を用いる処理が複数回実行された場合であっても、演出カウンタ２２３ｆの同一値を用いて各種演出等を選択することを抑制することができる。
【２１７４】
従状態設定エリア２２３ｇは、主制御装置１１０から出力される状態コマンドに対応したデータが設定される。従状態設定エリア２２３ｇに設定されるデータにより、現在の遊技状態を音声ランプ制御装置１１３でも判別することができる。なお、状態設定コマンド

は、電源投入時にも主制御装置１１０より出力されて、バックアップされた遊技状態が音声ランプ制御装置１１３により判別可能に構成されている。さらに、従状態設定エリア２２３ｇには、現在設定されている遊技状態を記憶する現遊技状態記憶領域と、現在の遊技状態が設定される以前に設定されていた遊技状態を記憶する過去遊技状態記憶領域と、を有しており、現在の遊技状態がどのような過程を経て設定されたのかを算出可能に構成している。これにより、例えば、時短状態が設定されている場合において、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されたのか、それとも、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、その後、確変終了条件が成立したことを契機に時短状態が設定されたのかを判別し、その判別結果に基づいた演出（過去の遊技状態を遊技者に示唆するための過去状態示唆演出）を実行することができる。また、従状態設定エリア２２３ｇは、通常状態、確変状態、時短状態の他に、大当たり遊技状態、普図当たり遊技状態、といった遊技状態も記憶することができるように構成している。

【２１７５】

普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈは、主制御装置１１０から送信された普図保留球数コマンドに対応する値を計数するためのカウンタであって、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１のＲＡＭ２０３が有する普通図柄の保留球数を計数するための普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値と同期してその値が加算、減算されるものである。なお、詳細な内容は、上述した特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに対して、対象を特別図柄から普通図柄へと変更した点で相違するだけでありそれ以外は同一であるため省略する。

【２１７６】

特殊演出中フラグ２２３ｉは、通常状態中に第２特別図柄変動が実行されることを示すためのフラグであって、通常状態中に第２特別図柄変動が実行される条件が成立した場合にオンに設定される。具体的には、通常状態において第２特別図柄変動が実行される場合、或いは、第１特別図柄変動が実行されている状態で特図２保留を獲得した場合にオンに設定される。そして、特殊演出中フラグ２２３ｉがオンに設定されている状態で第１特別図柄変動が実行される場合、即ち、特図２保留が０の場合にオフに設定される。本制御例では、特殊演出中フラグ２２３ｉがオンに設定される期間を示すために、「チャンスゾーン」演出（図１２４（ｂ）参照）が実行される。

【２１７７】

Ｖ入賞フラグ２２３ｊは、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過したことを示すためのフラグであって、球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合にオンに設定される。具体的には、主制御装置１１０にてＶ入賞コマンドが設定された場合に（図１７１のＳ２２１６参照）、そのＶ入賞コマンドが送信される。そして、音声ランプ制御装置１１３のコマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）にて実行される入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）においてＶ入賞コマンドを受信したと判別した場合に（図１７７のＳ４４０７：Ｙｅｓ）、オンに設定される。

【２１７８】

このＶ入賞フラグ１１２ｊは、大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）において実行されるエンディング処理（図１８１のＳ４７１５参照）にて参照され（図１８１のＳ４８０１）、今回の大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が通過したか（Ｖ入賞したか）が判別される。そして、エンディング処理（図１８１のＳ４７１５参照）にてオンに設定されていると判別した場合に（図１８１のＳ４８０１：Ｙｅｓ）、オフに設定される。

【２１７９】

本制御例では、大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖに通過させる（Ｖ入賞）ための演出としてＶ報知演出を実行可能に構成しており、Ｖ入賞の有無に応じて、Ｖ入賞時（Ｖラウンド終了時）と、大当たり遊技のエンディング時とに実行される演出の演出態様を可変させるように構成している。さらに、Ｖ報知演出が実行されているか否かに応じて、Ｖ入賞時の演出態様と、大当たり遊技のエンディング時の演出態様とを可変させるように構成している。このように、Ｖ入賞の有無に基づいて可変設定される演出を、Ｖ

入賞時とは異なるタイミング（エンディング時）で実行可能とするために、Ｖ入賞の有無をＶ入賞フラグ１１２ｊの設定状況により判別可能に構成している。

【２１８０】

Ｖ演出実行フラグ２２３ｋは、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行することを示すためのフラグであって、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行すると決定した場合にオンに設定されるものである。具体的には、大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）において、大当たり開始コマンドを受信したと判別した場合（図１８０のＳ４７０１：Ｙｅｓ）であって、今回の大当たりが確変大当たりである場合に（図１８０のＳ４７０３：Ｎｏ）、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅを参照してＶ報知演出の実行の有無が決定される。そしてＶ報知演出を実行すると判別した場合に（図１８０のＳ４７０５：Ｙｅｓ）、オンに設定される（図１８０のＳ４７０６参照）。

【２１８１】

そして、大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）において実行されるエンディング処理（図１８１のＳ４７１５参照）にて、Ｖ入賞フラグ１１２ｊがオンに設定されていない場合、即ち、大当たり遊技中にＶ入賞が発生しなかった場合に参照され（図１８１のＳ４８０２）、オンに設定されていると判別した場合には（図１８１のＳ４８０２：Ｙｅｓ）、エンディング演出の演出態様を切り替えるための処理を実行し（図１８１のＳ４８０４）、その後、オフに設定される（図１８１のＳ１８０４）。

【２１８２】

本制御例では、確変大当たり遊技が実行される場合には、その大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを決定し、Ｖ報知演出の実行を決定した場合には、その時点でエンディング期間中の演出態様として、確変状態が設定されることを示すための演出態様（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）を設定するように構成している。つまり、確変大当たり遊技中にＶ報知演出を実行する場合には、Ｖ入賞した時点で遊技者に対してその旨が報知されるため、エンディング期間に実行されるエンディング演出においても、遊技者に確変状態が設定されることを示すための演出態様（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）が設定されるように構成している。よって、大当たり遊技中にＶ入賞しなかった場合には、エンディング演出の演出態様を、時短状態が設定されることを示すための演出態様（図１２７（ａ），（ｃ）参照）へと切り替える処理を実行する。

【２１８３】

一方、確変大当たり遊技中にＶ報知演出を実行しない場合には、Ｖ入賞したとしてもその旨を遊技者に報知すること無く、エンディング演出の演出態様として、時短状態が設定されることを示すための演出態様（図１２７（ａ），（ｃ）参照）が予め設定されるため、大当たり遊技中にＶ入賞しなかった場合であっても、エンディング演出の演出態様を切り替える処理を実行する必要が無い。

【２１８４】

時短中カウンタ２２３ｎは、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される期間を計測するためのカウンタであって、普通図柄の高確率状態が設定される場合に（大当たり遊技終了後に）、予め定められた値（本制御例では「１００」）が設定される。そして、時短中カウンタ２２３ｎの値が１以上である状態で特別図柄変動が実行されると、その値が１減算され、時短中カウンタ２２３ｎの値が「０」となった場合に、普通図柄の低確率状態へと移行したと判別する。また、時短中カウンタ２２３ｎの値に基づいて、普通図柄の高確率状態における詳細な期間を判別するように構成している。

【２１８５】

特殊連続予告フラグ２２３ｏは、演出モードとして「チャンスモード」が設定されている高速変動期間（第１期間）中に連続予告演出の実行条件が成立したことを示すためのフラグであって、連続予告演出の実行条件が成立した場合にオンに設定される。この特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンに設定されると、操作手段に対する操作を有効に判別可能となる特殊有効期間が設定され、その特殊有効期間中に操作手段に対して特定の操作が行われた場合に、連続予告演出が実行される。

【２１８６】
具体的には、音声ランプ制御装置１１３のコマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）の一部である入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）にて、特図用入賞情報コマンド（特別図柄に対応する入賞情報コマンド）を受信した場合に実行される特図用入賞情報コマンド処理（図１７８のＳ４４０６参照）において、現在が高速変動期間中である（時短中カウンタ２２３ｎの値が７５よりも大きい）と判別された場合に（図１７８のＳ４５０２：Ｙｅｓ）、連続予告実行選択テーブル２２２ｄを参照して連続予告演出を実行すると判別した場合に（図１７８のＳ４５０６：Ｙｅｓ）、オンに設定される（図１７８のＳ４５０７）。
【２１８７】
そして、第２特別図柄変動に対応する変動演出を選択するための特図２演出態様設定処理（図１８４のＳ４９０７参照）にて、「チャンスモード」が設定されている場合に実行されるチャンスモード中演出設定処理（図１８５のＳ５１１６参照）にて、特殊連続予告フラグ２２３ｏの設定状況が参照され（図１８５のＳ５２１０）、オンに設定されている場合に、枠ボタン２２への操作を有効に判別可能な特殊有効期間として、特殊有効時間タイマ２２３ｓに３秒に対応する値が設定され（図１８１のＳ５２１１）、その後、オフに設定される。
【２１８８】
このように、連続予告演出の実行条件が成立した場合にのみ、操作手段への操作が有効に判別される特殊有効期間を設定し、その特殊有効期間内に遊技者が操作手段に対して特定の操作を実行した場合にのみ、連続予告演出を実行可能とすることで、連続予告演出を実行しようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。また、連続予告演出を実行するための複数の情報（連続予告演出の実行条件が成立したか否かを示す情報や、特殊有効期間が設定される期間（設定されている期間）を示す情報や、連続予告演出を実行させために操作手段に対して行う操作内容を示す情報）を、遊技者に報知するための報知演出の報知態様を可変させることにより、連続予告演出の実行難易度を容易に可変調整することができる。
【２１８９】
なお、この場合、特別図柄抽選で大当たり当選した場合（する場合）に、連続予告演出の実行条件が成立し易くなるように構成すると良い。これにより、遊技者に対して連続予告演出を実行させようと意欲的に遊技を行わせることができる。加えて、連続予告演出の実行条件が成立している状態において、特殊有効期間外に遊技者が操作手段に対して特定の操作を実行した場合に、特殊有効期間が設定されるタイミングを遊技者に案内する案内報知演出を実行するように構成すると良い。これにより、遊技者に対してより意欲的に操作手段を操作させることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【２１９０】
演出モード記憶エリア２２３ｐは、普通図柄の高確率状態中に設定される各種演出モードが格納される記憶領域であって、時短中カウンタ２２３ｎの値に応じて異なる演出モードが記憶される。そして、現在の演出モードを判別する際に、格納されている演出モードが読み出される。具体的には、チャンスモード中演出設定処理（図１８５のＳ５０１２参照）にて、時短中カウンタ２２３ｎの値が読み出され（図１８５のＳ５２０１）、読み出した値に対応する演出モード（高速期間（高速変動期間）、通常第１期間（第１期間）、通常第２期間（第２期間））が設定され記憶される。そして、普通図柄の高確率状態が低確率状態へと移行した場合に記憶されている情報がクリアされる。
【２１９１】
連続予告実行中フラグ２２３ｑは、第３図柄の変動演出として連続予告演出が設定されていることを示すためのフラグであって、連続予告演出が実行されている場合にオンに設定される。そして、チャンスモード中演出設定処理（図１８５のＳ５０１２参照）にて、設定状況が判別され（図１８５のＳ５２０８）、オンに設定されている場合には（図１８

５のＳ５２０８：Ｙｅｓ）、連続予告演出に対応する演出態様が決定される。そして、連続予告演出が終了した場合にオフに設定される。このように構成することで、連続予告演出中に実行される新たな変動演出において、連続予告演出に対応しない別の演出態様が設定されることを抑制することができる。

【２１９２】

ＳＷ有効時間タイマ２２３ｒは、第３図柄の変動表示期間内に設定される枠ボタン２２の操作を有効に判別する操作有効期間を計測するためのタイマであって、操作有効期間が設定される場合に、操作有効期間の長さに対応する値が設定され、時間の経過に伴って、値が減算されるように構成している。そして、操作有効期間中に遊技者が枠ボタン２２を操作した場合に、その値が０にクリアされる。このように、枠ボタン２２の操作を有効に判別する操作有効期間を設定することにより、操作手段（枠ボタン２２）を操作した場合に実行される演出（操作演出）が過剰に実行されることを抑制することができる。

【２１９３】

なお、本制御例では、遊技者が操作可能な操作手段として枠ボタン２２のみを設けているが、例えば、操作手段として、枠ボタン２２（第１操作手段）以外に、第２操作手段等の複数の操作手段を設ける場合には、各操作手段に対して異なる操作有効期間を設定する場合がある。その場合は、各操作手段に対してＳＷ有効時間タイマ２２３ｒを設けることで、各操作手段の操作有効期間を重複して設定することができる。

【２１９４】

特殊有効時間タイマ２２３ｓは、特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンに設定されている状態で、チャンスモード中演出設定処理（図１８５のＳ５０１２参照）が実行された場合にのみ設定される、枠ボタン２２への操作を有効に判別する操作有効期間（特殊操作有効期間）を計測するためのタイマであって、特殊操作有効時間が設定される場合に、その特殊操作有効時間の長さに対応する値が設定され、時間の経過に伴って、値が減算されるように構成している。そして、枠ボタン入力監視・演出処理（図１８６のＳ４１０７参照）において、特殊操作有効期間内であるか否かが判別され（図１８６のＳ５３０６）、有効時間内であると判別した場合に（図１８６のＳ５３０６：Ｙｅｓ）、枠ボタン２２の操作が有効に取り扱われる。本制御例では、通常の操作有効期間（ＳＷ有効時間タイマ２２３ｒの値が０よりも大きい期間）内に枠ボタン２２を操作した場合と、特殊操作有効期間（特殊有効時間タイマ２２３ｓの値が０よりも大きい期間）内に枠ボタン２２を操作した場合とで異なる操作演出が実行されるように構成しており、具体的には、特殊操作有効期間内に枠ボタン２２を操作した場合には、次に実行される特別図柄変動から対象となる特別図柄変動が終了するまでの複数の特別図柄変動期間を跨いだ連続予告演出が実行されるように構成している。そして、その連続予告演出が実行された場合には、背景モードが専用の背景モード（天国モード）へと移行するように構成している。よって、通常の枠ボタン２２への操作により背景モード移行が抑制されている期間内においては、背景モード移行が実行されるだけで遊技者に対して大当たり当選の期待度を高めさせることができる。

【２１９５】

操作中カウンタ２２３ｔは、遊技者が枠ボタン２２を押下している期間を計測するためのカウンタであって、遊技者が枠ボタン２２を計測して押下している場合に、時間経過に伴ってカウンタの値が更新されるものである。この操作中カウンタ２２３ｔが計測した値に基づいて、遊技者が枠ボタン２２に対して実行した操作の種別が判別される（図１８６のＳ５３１３参照）。

【２１９６】

その他メモリエリア２２３ｚは上述したデータ以外のデータを格納する領域として設けられており、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が使用するその他カウンタ値などを一時的に記憶しておくための領域である。

【２１９７】

図１３７に戻り説明を続ける。表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基

づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【２１９８】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１２１参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【２１９９】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【２２００】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１２１参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【２２０１】

＜第１制御例における表示制御装置の電気的構成について＞

次に、図１５０～図１５５を参照して、本第１制御例における表示制御装置１１４の電気的構成について説明する。図１５０は、表示制御装置１１４の電気的構成を示すブロック図である。表示制御装置１１４は、ＭＰＵ２３１と、ワークＲＡＭ２３３と、キャラクタＲＯＭ２３４と、常駐用ビデオＲＡＭ２３５と、通常用ビデオＲＡＭ２３６と、画像コントローラ２３７と、入力ポート２３８と、出力ポート２３９と、バスライン２４０，２４１とを有している。

【２２０２】

入力ポート２３８の入力側には音声ランプ制御装置１１３の出力側が接続され、入力ポート２３８の出力側には、ＭＰＵ２３１、ワークＲＡＭ２３３、キャラクタＲＯＭ２３４、画像コントローラ２３７がバスライン２４０を介して接続されている。画像コントローラ２３７には、常駐用ビデオＲＡＭ２３５及び通常用ビデオＲＡＭ２３６が接続されると共に、バスライン２４１を介して出力ポート２３９が接続されている。また、出力ポート

２３９の出力側には、第３図柄表示装置８１が接続されている。
【２２０３】
なお、パチンコ機１０は、特別図柄の大当たりとなる抽選確率や、１回の特別図柄の大当たりで払い出される賞球数が異なる別機種であっても、第３図柄表示装置８１で表示される図柄構成が全く同じ仕様の機種があるので、表示制御装置１１４は共通部品化されコスト低減が図られている。
【２２０４】
以下では、先にＭＰＵ２３１、キャラクタＲＯＭ２３４、画像コントローラ２３７、常駐用ビデオＲＡＭ２３５、通常用ビデオＲＡＭ２３６について説明し、次いで、ワークＲＡＭ２３３について説明する。
【２２０５】
まず、ＭＰＵ２３１は、主制御装置１１０の変動パターンコマンドに基づく音声ランプ制御装置１１３から出力された表示用変動パターンコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１の表示内容を制御するものである。ＭＰＵ２３１は、命令ポインタ２３１ａを内蔵しており、命令ポインタ２３１ａで示されるアドレスに格納された命令コードを読み出してフェッチし、その命令コードに従って各種処理を実行する。ＭＰＵ２３１には、電源投入（停電からの復電を含む。以下、同じ。）直後に、電源装置１１５からシステムリセットがかけられるようになっており、そのシステムリセットが解除されると、命令ポインタ２３１ａは、ＭＰＵ２３１のハードウェアによって自動的に「０００００Ｈ」に設定される。そして、命令コードがフェッチされる度に、命令ポインタ２３１ａは、その値が１ずつ加算される。また、ＭＰＵ２３１が命令ポインタの設定命令を実行した場合は、その設定命令により指示されたポインタの値が命令ポインタ２３１ａにセットされる。
【２２０６】
なお、詳細については後述するが、本制御例において、ＭＰＵ２３１によって実行される制御プログラムや、その制御プログラムで使用される各種の固定値データは、従来の遊技機のように専用のプログラムＲＯＭを設けて記憶させるのではなく、第３図柄表示装置８１に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させている。
【２２０７】
詳細については後述するが、キャラクタＲＯＭ２３４は、小面積で大容量化を図ることが可能なＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されている。これにより、画像データだけでなく制御プログラム等を十分に記憶させておくことができる。そして、キャラクタＲＯＭ２３４に制御プログラム等を記憶させておけば、制御プログラム等を記憶する専用のプログラムＲＯＭを設ける必要がない。よって、表示制御装置１１４における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。
【２２０８】
一方で、一般的にＮＡＮＤ型フラッシュメモリは、特にランダムアクセスを行う場合において読み出し速度が遅くなるという問題点がある。例えば、複数のページに連続して並んだデータの読み出しを行う場合において、２ページ目以降のデータは高速読み出しが可能であるが、最初の１ページ目のデータの読み出しには、アドレスが指定されてからデータが出力されるまでに大きな時間を要する。また、連続していないデータを読み出す場合は、そのデータを読み出す度に大きな時間を要する。このように、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリは、その読み出しに係る速度が遅いため、ＭＰＵ２３１が直接キャラクタＲＯＭ２３４から制御プログラムを読み出して各種処理を実行するように構成すると、制御プログラムを構成する命令の読み出しに時間がかかる場合が発生し、ＭＰＵ２３１として高性能のプロセッサを用いても、表示制御装置１１４の処理性能を悪化させてしまうおそれがある。
【２２０９】
そこで、本制御例では、ＭＰＵ２３１のシステムリセットが解除されると、まず、キャ

ラクタＲＯＭ２３４のＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに記憶されている制御プログラムを、各種データの一時記憶用に設けたワークＲＡＭ２３３に転送して格納する。そして、ＭＰＵ２３１はワークＲＡＭ２３３に格納された制御プログラムに従って、各種処理を実行する。ワークＲＡＭ２３３は、後述するようにＤＲＡＭ（Ｄｙｎａｍｉｃ　ＲＡＭ）によって構成され、高速でデータの読み書きが行われるので、ＭＰＵ２３１は遅滞なく制御プログラムを構成する命令の読み出しを行うことができる。よって、表示制御装置１１４において高い処理性能を保つことができ、第３図柄表示装置８１を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【２２１０】

キャラクタＲＯＭ２３４は、ＭＰＵ２３１において実行される制御プログラムや、第３図柄表示装置８１に表示される画像のデータを記憶したメモリであり、ＭＰＵ２３１とバスライン２４０を介して接続されている。ＭＰＵ２３１は、バスライン２４０を介してシステムリセット解除後にキャラクタＲＯＭ２３４に直接アクセスし、そのキャラクタＲＯＭ２３４の後述する第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶された制御プログラムを、ワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａへ転送する。また、バスライン２４０には画像コントローラ２３７も接続されており、画像コントローラ２３７はキャラクタＲＯＭ２３４の後述するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に格納された画像データを、画像コントローラ２３７に接続されている常駐用ビデオＲＡＭ２３５や通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送する。

【２２１１】

このキャラクタＲＯＭ２３４は、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａ、ＲＯＭコントローラ２３４ｂ、バッファＲＡＭ２３４ｃ、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄをモジュール化して構成されている。

【２２１２】

ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａは、キャラクタＲＯＭ２３４におけるメインの記憶部として設けられる不揮発性のメモリであり、ＭＰＵ２３１によって実行される制御プログラムの大部分や第３図柄表示装置８１を駆動させるための固定値データを記憶する第２プログラム記憶エリア２３４ａ１と、第３図柄表示装置８１に表示させる画像（キャラクタ等）のデータを格納するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２とを少なくとも有する。

【２２１３】

ここで、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリは、小さな面積で大きな記憶容量が得られる特徴を有しており、キャラクタＲＯＭ２３４を容易に大容量化することができる。これにより、本パチンコ機において、例えば２ギガバイトの容量を持つＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いることにより、第３図柄表示装置８１に表示させる画像として、多くの画像をキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に記憶させることができる。よって、遊技者の興趣をより高めるために、第３図柄表示装置８１に表示される画像を多様化、複雑化することができる。

【２２１４】

また、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａは、多くの画像データをキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に記憶させた状態で、更に、制御プログラムや固定値データも第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶させることができる。このように、制御プログラムや固定値データを、従来の遊技機のように専用のプログラムＲＯＭを設けて記憶させることなく、第３図柄表示装置８１に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させることができるので、表示制御装置１１４における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。

【２２１５】

ＲＯＭコントローラ２３４ｂは、キャラクタＲＯＭ２３４の動作を制御するためのコントローラであり、例えば、バスライン２４０を介してＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７から伝達されたアドレスに基づいて、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａ等から該

当するデータを読み出し、バスライン２４０を介してＭＰＵ２３１又は画像コントローラ２３７へ出力する。

【２２１６】

ここで、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａは、その性質上、データの書き込み時にエラービット（誤ったデータが書き込まれたビット）が比較的多く発生したり、データを書き込むことができない不良データブロックが発生したりする。そこで、ＲＯＭコントローラ２３４ｂは、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから読み出したデータに対して公知の誤り訂正を施し、また、不良データブロックを避けてＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａへのデータの読み書きが行われるように公知のデータアドレスの変換を実行する。

【２２１７】

このＲＯＭコントローラ２３４ｂにより、エラービットを含むＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから読み出されたデータに対して誤り訂正が行われるので、キャラクタＲＯＭ２３４としてＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いたとしても、誤ったデータに基づいてＭＰＵ２３１が処理を行ったり、画像コントローラ２３７が各種画像を生成したりすることを抑制することができる。

【２２１８】

また、ＲＯＭコントローラ２３４ｂによってＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの不良データブロックが解析され、その不良データブロックへのアクセスが回避されるので、ＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７は、個々のＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで異なる不良データブロックのアドレス位置を考慮することなく、キャラクタＲＯＭ２３４へのアクセスを容易に行うことができる。よって、キャラクタＲＯＭ２３４にＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いても、キャラクタＲＯＭ２３４へのアクセス制御が複雑化することを抑制することができる。

【２２１９】

バッファＲＡＭ２３４ｃは、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから読み出したデータを一時的に記憶するバッファとして用いられるメモリである。ＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７からバスライン２４０を介してキャラクタＲＯＭ２３４に割り振られたアドレスが指定されると、ＲＯＭコントローラ２３４ｂは、その指定されたアドレスに対応するデータを含む１ページ分（例えば、２キロバイト）のデータがバッファＲＡＭ２３４ｃにセットされているか否かを判断する。そして、セットされていなければ、その指定されたアドレスに対応するデータを含む１ページ分（例えば、２キロバイト）のデータをＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａ（またはＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄ）より読み出してバッファＲＡＭ２３４ｃに一旦セットする。そして、ＲＯＭコントローラ２３４ｂは、公知の誤り訂正処理を施した上で、指定されたアドレスに対応するデータを、バスライン２４０を介してＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７に出力する。

【２２２０】

このバッファＲＡＭ２３４ｃは、２バンクで構成されており、１バンク当たりＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの１ページ分のデータがセットできるようになっている。これにより、ＲＯＭコントローラ２３４ｂは、例えば、一方のバンクにデータをセットした状態のまま他方のバンクを使用して、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａのデータを外部に出力したり、ＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７より指定されたアドレスに対応するデータを含む１ページ分のデータをＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから一方のバンクに転送してセットする処理と、ＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７によって指定されたアドレスに対応するデータを他方のバンクから読み出してＭＰＵ２３１や画像コントローラ２３７に対して出力する処理とを、並列して処理したりすることができる。よって、キャラクタＲＯＭ２３４の読み出しにおける応答性を向上させることができる。

【２２２１】

ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄは、キャラクタＲＯＭ２３４におけるサブの記憶部として設けられる不揮発性のメモリであり、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを補完することを目的にそのＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａよりも極めて小容量（例えば、２キロバ

イト）に構成されている。このＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄには、キャラクタＲＯＭ２３４に記憶される制御プログラムのうち、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されていないプログラム、具体的には、ＭＰＵ２３１においてシステムリセット解除後に最初に実行されるブートプログラムの一部を格納する第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１が少なくとも設けられている。

【２２２２】

ブートプログラムは、第３図柄表示装置８１に対する各種制御が実行可能となるように表示制御装置１１４を起動するための制御プログラムであり、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１が先ずこのブートプログラムを実行する。これにより、表示制御装置１１４において各種制御が実行可能に状態とすることができる。第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１は、このブートプログラムのうち、バッファＲＡＭ２３４ｃの１バンク分（即ち、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの１ページ分）の容量の範囲で、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令（例えば、１ページの容量が２キロバイトであれば、１０２４ワード（１ワード＝２バイト）分の命令）を格納する。なお、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に格納されるブートプログラムの命令数は、バッファＲＡＭ２３４ｃの１バンク分の容量以下に収まっていればよく、表示制御装置１１４の仕様に合わせて適宜設定されるものであってもよい。

【２２２３】

ＭＰＵ２３１は、システムリセットが解除されると、ハードウェアによって命令ポインタ２３１ａの値を「００００Ｈ」に設定すると共に、バスライン２４０に対して命令ポインタ２３１ａにて示されるアドレス「００００Ｈ」を指定するように構成されている。一方、キャラクタＲＯＭ２３４のＲＯＭコントローラ２３４ｂは、バスライン２４０にアドレス「００００Ｈ」が指定されたことを検知すると、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されたブートプログラムをバッファＲＡＭ２３４ｃの一方のバンクにセットして、対応するデータ（命令コード）をＭＰＵ２３１へ出力する。

【２２２４】

ＭＰＵ２３１は、キャラクタＲＯＭ２３４から受け取った命令コードをフェッチすると、そのフェッチした命令コードに従って各種処理を実行するとともに、命令ポインタ２３１ａを１だけ加算し、命令ポインタ２３１ａにて示されるアドレスをバスライン２４０に対して指定する。そして、キャラクタＲＯＭ２３４のＲＯＭコントローラ２３４ｂは、バスライン２４０によって指定されたアドレスがＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄに記憶されたプログラムを指し示すアドレスである間、先にＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄからバッファＲＡＭ２３４ｃにセットされたプログラムの中から、対応するアドレスの命令コードをバッファＲＡＭ２３４ｃより読み出して、ＭＰＵ２３１に対して出力する。

【２２２５】

ここで、本制御例において、制御プログラムを全てＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに格納するのではなく、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令をＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄに格納するのは、次の理由による。即ち、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａは、上述したように、最初の１ページ目のデータの読み出しにおいて、アドレスを指定してからデータが出力されるまでに大きな時間を要する、というＮＡＮＤ型フラッシュメモリ特有の問題がある。

【２２２６】

このようなＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに対して制御プログラムを全て格納すると、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１が最初に実行すべき命令コードをフェッチするためにＭＰＵ２３１からバスライン２４０を介してアドレス「００００Ｈ」が指定された場合、キャラクタＲＯＭ２３４はアドレス「００００Ｈ」に対応するデータ（命令コード）を含む１ページ分のデータをＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから読み出してバッファＲＡＭ２３４ｃにセットしなければならい。そして、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの性質上、その読み出しからバッファＲＡＭ２３４ｃへのセットに多大な時間

を要することになるので、ＭＰＵ２３１は、アドレス「０００００Ｈ」を指定してからアドレス「０００００Ｈ」に対応する命令コードを受け取るまでに多くの待ち時間を消費する。よって、ＭＰＵ２３１の起動にかかる時間が長くなるので、結果として、表示制御装置１１４における第３図柄表示装置８１の制御が即座に開始されないおそれがあるという問題点が生じる。

【２２２７】

これに対し、ＮＯＲ型ＲＯＭは高速にデータを読み出すことが可能なメモリであるので、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令をＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄに格納することによって、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１からバスライン２４０を介してアドレス「０００００Ｈ」が指定されると、キャラクタＲＯＭ２３４は即座にＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されたブートプログラムをバッファＲＡＭ２３４ｃにセットして、対応するデータ（命令コード）をＭＰＵ２３１へ出力することができる。よって、ＭＰＵ２３１は、アドレス「０００００Ｈ」を指定してから短い時間でアドレス「０００００Ｈ」に対応する命令コードを受け取ることができ、ＭＰＵ２３１の起動を短時間で行うことができる。従って、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成されたキャラクタＲＯＭ２３４に制御プログラムを格納しても、表示制御装置１１４における第３図柄表示装置８１の制御を即座に開始することができる。

【２２２８】

さて、ブートプログラムは、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラム、即ち、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されているブートプログラムを除く制御プログラムや、その制御プログラムで用いられる固定値データ（例えば、後述する表示データテーブル、転送データテーブルなど）を、所定量（例えば、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの１ページ分の容量）ずつワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａやデータテーブル格納エリア２３３ｂへ転送するようにプログラミングされている。そして、ＭＰＵ２３１は、まず、システムリセット解除後に第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１から読み出したブートプログラムに従って、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムを、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１のブートプログラムがセットされているバッファＲＡＭ２３４ｃのバンクとは異なるバンクを使用しながら、所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送し、格納する。

【２２２９】

ここで、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されているブートプログラムは、上述したように、バッファＲＡＭ２３４ｃの１バンク分に相当する容量で構成されているので、内部バスのアドレスが「０００００Ｈ」に指定されたことを受けて第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１のブートプログラムがバッファＲＡＭ２３４ｃにセットされる場合、そのブートプログラムはバッファＲＡＭ２３４ｃの一方のバンクにのみセットされる。よって、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１のブートプログラムに従って、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムをプログラム格納エリア２３３ａに転送する場合は、バッファＲＡＭ２３４ｃの一方のバンクにセットされた第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１のブートプログラムを残したまま、他方のバンクを使用してその転送処理を実行することができる。従って、その転送処理後に、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１のブートプログラムを再度バッファＲＡＭ２３４ｃにセットし直すといった処理が不要であるので、ブート処理に係る時間を短くすることができる。

【２２３０】

第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されているブートプログラムは、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムを所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送すると、命令ポインタ２３１ａをプログラム格納エリア２３３ａ内の第１の所定番地に設定するようにプログラミングされている。これにより、システムリセット解除後、ＭＰＵ２３１によって第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶され

ている制御プログラムが所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送されると、命令ポインタ２３１ａがプログラム格納エリア２３３ａの第１の所定番地に設定される。

【２２３１】

よって、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムのうち所定量のプログラムがプログラム格納エリア２３３ａに格納されると、ＭＰＵ２３１は、そのプログラム格納エリア２３３ａに格納された制御プログラムを読み出して、各種処理を実行することができる。即ち、ＭＰＵ２３１は、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１を有するＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから制御プログラムを読み出して命令フェッチするのではなく、プログラム格納エリア２３３ａを有するワークＲＡＭ２３３に転送された制御プログラムを読み出して命令フェッチし、各種処理を実行することになる。後述するように、ワークＲＡＭ２３３はＤＲＡＭによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、制御プログラムの殆どを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに記憶させた場合であっても、ＭＰＵ２３１は高速に命令をフェッチし、その命令に対する処理を実行することができる。

【２２３２】

ここで、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムには、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されていない残りのブートプログラムが含まれている。一方、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されているブートプログラムは、ワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａに所定量だけ第２プログラム記憶エリア２３４ａ１から転送される制御プログラムの中に、その残りのブートプログラムが含まれるようにプログラミングされていると共に、プログラム格納エリア２３３ａに格納されたその残りのブートプログラムの先頭アドレスを第１の所定番地として命令ポインタ２３１ａを設定するようにプログラミングされている。

【２２３３】

これにより、ＭＰＵ２３１は、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されているブートプログラムによって、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムを所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送した後、その転送した制御プログラムに含まれる残りのブートプログラムを実行する。

【２２３４】

この残りのブートプログラムでは、プログラム格納エリア２３３ａに転送されていない残りの制御プログラムやその制御プログラムで用いられる固定値データ（例えば、後述する表示データテーブル、転送データテーブルなど）を全て第２プログラム記憶エリア２３４ａ１から所定量ずつプログラム格納エリア２３３ａ又はデータテーブル格納エリア２３３ｂに転送する処理を実行する。また、ブートプログラムの最後で、命令ポインタ２３１ａをプログラム格納エリア２３３ａ内の第２の所定番地に設定する。具体的には、この第２の所定番地として、プログラム格納エリア２３３ａに格納された、ブートプログラムによるブート処理（図１８７のＳ６００１参照）の終了後に実行される初期設定処理（図１８７のＳ６００２参照）に対応するプログラムの先頭アドレスを設定する。

【２２３５】

ＭＰＵ２３１は、この残りのブートプログラムを実行することによって、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムや固定値データが全てプログラム格納エリア２３３ａ又はデータテーブル格納エリア２３３ｂに転送される。そして、ブートプログラムがＭＰＵ２３１により最後まで実行されると、命令ポインタ２３１ａが第２の所定番地に設定され、以後、ＭＰＵ２３１は、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを参照することなく、プログラム格納エリア２３３ａに転送された制御プログラムを用いて各種処理を実行する。

【２２３６】

よって、制御プログラムの殆どを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されるキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させた場合であっても、システムリセット解除後にその制御プログラムをワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３

３ａに転送することで、ＭＰＵ２３１は、読み出し速度が高速なＤＲＡＭによって構成されるワークＲＡＭから制御プログラムを読み出して各種制御を行うことができる。従って、表示制御装置１１４において高い処理性能を保つことができ、第３図柄表示装置８１を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【２２３７】

また、上述したように、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄにブートプログラムを全て格納せずに、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を格納しておき、残りのブートプログラムについては、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶させても、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムを確実にプログラム格納エリア２３３ａに転送することができる。よって、キャラクタＲＯＭ２３４は、極めて小容量のＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄを追加するだけで、ＭＰＵ２３１の起動を短時間で行うことができるようになるので、その短時間化に伴うキャラクタＲＯＭ２３４のコスト増加を抑制することができる。

【２２３８】

画像コントローラ２３７は、画像を描画し、その描画した画像を所定のタイミングで第３図柄表示装置８１に表示させるデジタル信号プロセッサ（ＤＳＰ）である。画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１から送信される後述の描画リスト（図１５５参照）に基づき１フレーム分の画像を描画して、後述する第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれか一方のフレームバッファに描画した画像を展開すると共に、他方のフレームバッファにおいて先に展開された１フレーム分の画像情報を第３図柄表示装置８１へ出力することによって、第３図柄表示装置８１に画像を表示させる。画像コントローラ２３７は、この１フレーム分の画像の描画処理と１フレーム分の画像の表示処理とを、第３図柄表示装置８１における１フレーム分の画像表示時間（本制御例では、２０ミリ秒）の中で並列処理する。

【２２３９】

画像コントローラ２３７は、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒毎に、ＭＰＵ２３１に対して垂直同期割込信号（以下、「Ｖ割込信号」と称す）を送信する。ＭＰＵ２３１は、このＶ割込信号を検出する度に、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）を実行し、画像コントローラ２３７に対して、次の１フレーム分の画像の描画を指示する。この指示により、画像コントローラ２３７は、次の１フレーム分の画像の描画処理を実行すると共に、先に描画によって展開された画像を第３図柄表示装置８１に表示させる処理を実行する。

【２２４０】

このように、ＭＰＵ２３１は、画像コントローラ２３７からのＶ割込信号に伴ってＶ割込処理を実行し、画像コントローラ２３７に対して描画指示を行うので、画像コントローラ２３７は、画像の描画処理および表示処理間隔（２０ミリ秒）毎に、画像の描画指示をＭＰＵ２３１より受け取ることができる。よって、画像コントローラ２３７では、画像の描画処理や表示処理が終了していない段階で、次の画像の描画指示を受け取ることがないので、画像の描画途中で新たな画像の描画を開始したり、表示中の画像情報が格納されているフレームバッファに、新たな描画指示に伴って画像が展開されたりすることを防止することができる。

【２２４１】

画像コントローラ２３７は、また、ＭＰＵ２３１からの転送指示や、描画リストに含まれる転送データ情報に基づいて、画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５や通常用ビデオＲＡＭ２３６に転送する処理も実行する。

【２２４２】

なお、画像の描画は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５および通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納された画像データを用いて行われる。即ち、描画の際に必要となる画像データは、その描画が行われる前に、ＭＰＵ２３１からの指示に基づき、キャラクタＲＯＭ２３４から常

駐用ビデオＲＡＭ２３５または通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送される。
【２２４３】
ここで、一般的にＮＡＮＤ型フラッシュメモリは、ＲＯＭの大容量化を容易にする一方、読み出し速度がその他のＲＯＭ（マスクＲＯＭやＥＥＰＲＯＭなど）と比して遅い。これに対し、表示制御装置１１４では、ＭＰＵ２３１が、キャラクタＲＯＭ２３４に格納されている画像データのうち一部の画像データを電源投入後に常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送するように、画像コントローラ２３７に対して指示するよう構成されている。そして、後述するように、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納された画像データは、上書きされることなく常駐されるように制御される。
【２２４４】
これにより、電源が投入されてから常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき画像データの転送が終了した後は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐された画像データを使用しながら、画像コントローラ２３７にて画像の描画処理を行うことができる。よって、描画処理に使用する画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていれば、画像描画時に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成されたキャラクタＲＯＭ２３４から対応する画像データを読み出す必要がないため、その読み出しにかかる時間を省略でき、画像の描画を即座に行って第３図柄表示装置８１に描画した画像を表示することができる。
【２２４５】
特に、常駐用ビデオＲＡＭ２３５には、頻繁に表示される画像の画像データや、主制御装置１１０または表示制御装置１１４によって表示が決定された後、即座に表示すべき画像の画像データを常駐させるので、キャラクタＲＯＭ２３４をＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成しても、第３図柄表示装置８１に何らかの画像を表示させるまでの応答性を高く保つことができる。
【２２４６】
また、表示制御装置１１４は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に非常駐の画像データを用いて画像の描画を行う場合は、その描画が行われる前に、キャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して描画に必要な画像データを転送するように、ＭＰＵ２３１が画像コントローラ２３７に対して指示するよう構成されている。後述するように、通常用ビデオＲＡＭ２３６に転送された画像データは、画像の描画に用いられた後、上書きによって削除される可能性はあるものの、画像描画時には、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成されたキャラクタＲＯＭ２３４から対応する画像データを読み出す必要がなく、その読み出しにかかる時間を省略できるので、画像の描画を即座に行って第３図柄表示装置８１に描画した画像を表示することができる。
【２２４７】
また、通常用ビデオＲＡＭ２３６にも画像データを格納することによって、全ての画像データを常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐させておく必要がないため、大容量の常駐用ビデオＲＡＭ２３５を用意する必要がない。よって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５を設けたことによるコスト増大を抑えることができる。
【２２４８】
画像コントローラ２３７は、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの１ブロック分の容量である１３２キロバイトのＳＲＡＭによって構成されたバッファＲＡＭ２３７ａを有している。
【２２４９】
ＭＰＵ２３１が、転送指示や描画リストの転送データ情報によって画像コントローラ２３７に対して行う画像データの転送指示には、転送すべき画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、転送先の情報（常駐用ビデオＲＡＭ２３５及び通常用ビデオＲＡＭ２３６のいずれに転送するかを示す情報）、及び転送先（常駐用ビデオＲＡＭ２３５又は通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスが含まれる。なお、格納元最終アドレスに代えて、

転送すべき画像データのデータサイズを含めてもよい。
【２２５０】
画像コントローラ２３７は、この転送指示の各種情報に従って、キャラクタＲＯＭ２３４の所定アドレスから１ブロック分のデータを読み出して一旦バッファＲＡＭ２３７ａに格納し、常駐用ビデオＲＡＭ２３５または通常用ビデオＲＡＭ２３６の未使用時に、バッファＲＡＭ２３７ａに格納された画像データを常駐ＲＡＭ２３５または通常用ビデオＲＡＭ２３６に転送する。そして、転送指示により示された格納元先頭アドレスから格納元最終アドレスに格納された画像データが全て転送されるまで、その処理を繰り返し実行する。
【２２５１】
これにより、キャラクタＲＯＭ２３４から時間をかけて読み出された画像データを一旦そのバッファＲＡＭ２３７ａに格納し、その後、その画像データをバッファＲＡＭ２３７ａから常駐用ビデオＲＡＭ２３５又は通常用ビデオＲＡＭ２３６へ短時間で転送することができる。よって、キャラクタＲＯＭ２３４から画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５又は通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送される間に、常駐用ビデオＲＡＭ２３５又は通常用ビデオＲＡＭ２３６が、その画像データの転送で長時間占有されるのを防止することができる。従って、画像データの転送により常駐用ビデオＲＡＭ２３５や通常用ビデオＲＡＭ２３６が占有されることで、画像の描画処理にそれらのビデオＲＡＭ２３５，２３６が使用できず、結果として必要な時間までに画像の描画や、第３図柄表示装置８１への表示が間に合わないことを防止することができる。
【２２５２】
また、バッファＲＡＭ２３４ｃから常駐用ビデオＲＡＭ２３５又は通常用ビデオＲＡＭ２３６への画像データへの転送は、画像コントローラ２３７によって行われるので、常駐用ビデオＲＡＭ２３５及び通常用ビデオＲＡＭ２３６が画像の描画処理や第３図柄表示装置８１への表示処理に未使用である期間を容易に判定することができ、処理の単純化を図ることができる。
【２２５３】
常駐用ビデオＲＡＭ２３５は、キャラクタＲＯＭ２３４より転送された画像データが、電源投入中、上書きされることがなく保持され続けるように用いられ、電源投入時主画像エリア２３５ａ、背面画像エリア２３５ｃ、キャラクタ図柄エリア２３５ｅ、エラーメッセージ画像エリア２３５ｆが設けられているほか、電源投入時変動画像エリア２３５ｂ、第３図柄エリア２３５ｄが少なくとも設けられている。
【２２５４】
電源投入時主画像エリア２３５ａは、電源が投入されてから常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データが格納されるまでの間に第３図柄表示装置８１に表示する電源投入時主画像に対応するデータを格納する領域である。また、電源投入時変動画像エリア２３５ｂは、第３図柄表示装置８１に電源投入時主画像が表示されている間に遊技者によって遊技が開始され、特図入球口６４への入球が検出された場合に、主制御装置１１０において行われた抽選結果を変動演出によって表示する電源投入時変動画像に対応する画像データを格納する領域である。
【２２５５】
ＭＰＵ２３１は、電源部２５１から電源供給が開始されたときに、キャラクタＲＯＭ２３４から電源投入時主画像および電源投入時変動画像に対応する画像データを電源投入時主画像エリア２３５ａへ転送するように、画像コントローラ２３７へ転送指示を送信する（図１８７のＳ６００３，Ｓ６００４参照）。
【２２５６】
ここで、図１５１を参照して、電源投入時変動画像について説明する。図１５１は、表示制御装置１１４が電源投入直後において、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に対して格納すべき画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から転送している間に、第３図柄表示装置８１にて表示される電源投入時画像を説明する説明図である。

【２２５７】
表示制御装置１１４は、電源投入直後に、キャラクタＲＯＭ２３４から電源投入時主画像および電源投入時変動画像に対応する画像データを、電源投入時主画像エリア２３５ａおよび電源投入時変動画像エリア２３５ｂへ転送すると、続いて、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納すべき残りの画像データを、キャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に対して転送する。この残りの画像データの転送が行われている間、表示制御装置１１４は、先に電源投入時主画像エリア２３５ａに格納された画像データを用いて、図１５１（ａ）に示す電源投入時主画像を第３図柄表示装置８１に表示させる。
【２２５８】
このとき、変動開始の指示コマンドである主制御装置１１０からの変動パターンコマンドに基づき音声ランプ制御装置１１３から送信される表示用変動パターンコマンドを受信すると、表示制御装置１１４は、図１５１（ｂ）に示すように、電源投入時主画像の表示画面上に、画面に向かって右下の位置に「○」図柄の電源投入時変動画像と、図１５１（ｃ）に示すように、「○」図柄と同位置に「×」図柄の電源投入時変動画像とを、変動期間中、交互に繰り返して表示する。そして、主制御装置１１０からの変動パターンコマンドや停止種別コマンドに基づき音声ランプ制御装置１１３から送信される表示用変動パターンコマンドおよび表示用停止種別コマンドから、主制御装置１１０にて行われた抽選の結果を判断し、「特別図柄の大当たり」である場合は図１５１（ｂ）に示す画像を変動演出の停止後に一定期間表示させ、「特別図柄の外れ」である場合は図１５１（ｃ）に示す画像を変動演出の停止後に一定期間表示させる。
【２２５９】
ＭＰＵ２３１は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に対して転送されるまで、画像コントローラ２３７に対し、電源投入時主画像エリア２３５ａに格納された画像データを用いて電源投入時主画像の描画を行うよう指示する。これにより、残りの常駐すべき画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されている間、遊技者やホール関係者は、第３図柄表示装置８１に表示された電源投入時主画像を確認することができる。よって、表示制御装置１１４は、電源投入時主画像を第３図柄表示装置８１に表示させている間に、時間をかけて残りの常駐すべき画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送することができる。また、遊技者等は、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間、何らかの処理が行われていることを認識できるので、残りの常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき画像データが、キャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されるまでの間、動作が停止していないか、といった不安を持つことなく、常駐用ビデオＲＡＭ２３５への画像データの転送が完了するまで待機することができる。
【２２６０】
また、製造時の工場等における動作チェックにおいても、電源投入時主画像がすぐに第３図柄表示装置８１に表示されることによって、第３図柄表示装置８１が電源投入によって問題なく動作が開始されていることをすぐに確認することができ、更に、キャラクタＲＯＭ２３４に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いることにより動作チェックの効率が悪化することを抑制できる。
【２２６１】
また、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間に遊技者が遊技を開始し、特図入球口６４に入球が検出された場合は、電源投入時変動画像エリア２３５ｂに常駐された電源投入時変動画像に対応する画像データを用いて電源投入時変動画像が描画され、図１５１（ｂ）及び（ｃ）に示す画像が交互に第３図柄表示装置８１に表示されるように、ＭＰＵ２３１から画像コントローラ２３７に対して指示される。これにより、電源投入時変動画像を用いて簡単な変動演出を行うことができる。よって、遊技者は、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間であっても、その簡単な変動演出によって確実に抽選が行われたことを確認することができる。
【２２６２】

また、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示される段階で、すでに電源投入時変動演出画像に対応する画像データが電源投入時変動画像エリア２３５ｂに常駐されているので、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間に特図入球口６４に入球が検出された場合は、対応する変動演出を第３図柄表示装置８１に即座に表示させることができる。

【２２６３】

図１５０に戻って、説明を続ける。背面画像エリア２３５ｃは、第３図柄表示装置８１に表示される背面画像に対応する画像データを格納する領域である。ここで、図１５２を参照して、背面画像と、その背面画像のうち、背面画像エリア２３５ｃに格納される背面画像の範囲について説明する。図１５２は、４種類の背面画像と、各背面画像に対して常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納される背面画像の範囲を説明する説明図であり、図１５２（ａ）は、「街中ステージ」に対応する背面Ａに対して、図１５２（ｂ）は、「森ステージ」、「川ステージ」、および「空ステージ」に対応する背面Ｂ～Ｄに対してそれぞれ示したものである。

【２２６４】

各背面Ａ～Ｄに対応する背面画像は、図１５２に示すように、いずれも第３図柄表示装置８１において表示される表示領域よりも水平方向に長い画像が、キャラクタＲＯＭ２３４に用意されている。画像コントローラ２３７は、その画像を水平方向に左から右へスクロールさせながら背面画像が第３図柄表示装置８１に表示されるように、画像の描画をおこなう。

【２２６５】

各背面Ａ～Ｄに用意された画像（以下、「スクロール用画像」と称す。）は、いずれも位置ａおよび位置ｃのところで背面画像が連続するように画像が構成されている。そして、位置ｃから位置ｄの間の画像および位置ａから位置ａ’の間の画像は、表示領域の水平方向の幅分の画像によって構成されており、位置ｃから位置ｄの間にある画像が表示領域として第３図柄表示装置８１に表示された後に、位置ａから位置ａ’の間にある画像を表示領域として第３図柄表示装置８１に表示させると、第３図柄表示装置８１にスムーズなつながりで背面画像がスクロール表示されるようになっている。

【２２６６】

背面種別選択テーブル（図示せず）に基づいて背面種別の変更が決定され、ステージが「街中ステージ」、「森ステージ」、「川ステージ」、または「空ステージ」に変更されると、ＭＰＵ２３１は、対応する背面画像のまず位置ａから位置ａ’の間を表示領域の初期位置として設定し、その初期位置の画像が第３図柄表示装置８１に表示されるように、画像コントローラ２３７を制御する。そして、時間の経過とともに、表示領域をスクロール用画像に対して左から右に移動させ、順次その表示領域が第３図柄表示装置８１に表示されるように画像コントローラ２３７を制御し、更に、表示領域が位置ｃから位置ｄの間の画像に到達した場合、再び表示領域を位置ａから位置ａ’の画像として第３図柄表示装置８１に表示されるように画像コントローラ２３７を制御する。よって、第３図柄表示装置８１には、位置ａ～位置ｃの間の画像を、左方向に向かって流れるように、スムーズなつながりで繰り返しスクロールされて表示させることができる。

【２２６７】

一方、背面Ｅにおける背面画像は、時間の経過とともに、（ａ）→（ｂ）→（ｃ）→（ａ）→・・・の順で、第３図柄表示装置８１に表示される。具体的には、背面Ｅは、島にそびえる山の画像と、山のふもとに広がる砂浜の画像と、島を囲む海の画像とが、その表示される位置が固定された状態で第３図柄表示装置８１に表示される。一方、山の上に広がる空の画像は、その色調が時間経過とともに変化する。

【２２６８】

ステージが「島ステージ」に変更されると、背面Ｅの初期背面画像として、朝やけを示すオレンジ色の空が表示される。そして、時間の経過とともに空の色調がオレンジ色から徐々に鮮やかな青色に変化して、所定時間経過後、昼を示す鮮やかな青色の空が表示され

る。次に、時間の経過とともに空の色調が鮮やかな青色から徐々に黒色に変化して、所定時間経過後、夜を示す黒色の空が表示される。その後、時間の経過とともに空の色調が黒色から徐々に白みはじめ更にオレンジ色に変化する。そして、所定時間経過後、朝やけ示す背面画像に戻る繰り返し背面画像が第３図柄表示装置８１に表示される。

【２２６９】

次いで、各背面画像において、背面画像エリア２３５ｃに格納される背面画像の範囲について説明する。初期ステージである街中ステージに対応する背面Ａは、図１５２（ａ）に示すように、その背面Ａの全範囲、即ち、位置ａから位置ｄに対応する画像データが全て常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納される。通常、初期ステージである「街中ステージ」を表示させたまま、ステージを変更せずに遊技が行われる場合が多いので、多頻度で表示される「街中ステージ」に対応する背面Ａの画像データを全て背面画像エリア２３５ｃに常駐させておくことで、キャラクタＲＯＭ２３４へのデータアクセス回数を減らすことができる。よって、表示制御装置１１４にかかる処理負荷を軽減することができる。

【２２７０】

一方、「森ステージ」に対応する背面Ｂ、「川ステージ」に対応する背面Ｃ、および「空ステージ」に対応する背面Ｄは、図１５２（ｂ）に示すように、その背面の一部領域、即ち、位置ａから位置ｂの間の画像に対応する画像データだけが常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納される。また、島ステージに対応する背面Ｅに対応する画像データが、電源投入後の立ち上げ処理の中で常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納され、常駐される。

【２２７１】

ここで、即座に背面画像を変更するためには、全ての背面画像について全範囲の画像データを常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐させておくことが理想的であるが、そのようにすると常駐用ビデオＲＡＭ２３５として非常に大きな容量のＲＡＭを用いなければならず、コストの増大につながるおそれがある。

【２２７２】

これに対し、本パチンコ機１０では、ステージが変更された場合に最初に表示される背面画像の初期位置を、位置ａから位置ａ’の範囲に固定し、その初期位置を含む位置ａから位置ｂの間の画像に対応する画像データを常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納しておく構成としているので、キャラクタＲＯＭ２３４を読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成しても、変動開始時の抽選によりステージの変更が決定された場合に、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに常駐されている画像データを用いることによって、即座にその背面Ｂ～Ｄの初期位置を第３図柄表示装置８１に表示させることができ、また、時間経過とともにスクロール表示または色調を変化させながら表示させることができる。また、背面Ｂ～Ｄについては、一部範囲の画像に対応する画像データだけを格納するので、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の記憶容量の増大を抑制でき、コストの増大を抑えることができる。

【２２７３】

また、背面Ｂ～Ｄは、初期位置の画像が表示された後、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに常駐された画像データを用いて位置ａから位置ｂの範囲を左から右に向けてスクロールさせている間に、位置ｂ’から位置ｄの画像に対応する画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ＲＡＭ２３６へ転送完了できるように、その位置ａから位置ｂの範囲が設定されている。これにより、位置ａから位置ｂの範囲をスクロールさせる間に位置ｂ’から位置ｄの画像データを通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送できるので、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納された画像データを用いて位置ａから位置ｂの範囲をスクロールさせた後、遅滞なく通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納された背面画像に対応する画像データを用いて、位置ｂ’から位置ｄの範囲をスクロールさせて第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２２７４】

同様に、背面Ｅは、初期位置の画像が表示された後、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに常駐された画像データを用いて画像を表示させている間に、残りの画像の画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ＲＡＭ２３６へ転送が完了できるように、画像データの範囲が設定されている。これにより、画像を表示させている間に残りの画像に対応する画像データを通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送できるので、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに常駐された画像データを用いて画像を表示させた後、遅滞なく通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納された背面画像に対応する画像データを用いて、残りの画像を時間経過とともに、順次、第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２２７５】

なお、背面Ｂ～Ｅにおいて、通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納される画像データは、通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａ（図１５０参照）に設けられた背面画像専用のサブエリアに格納される。これにより、背面画像専用のサブエリアに格納された背面画像データが、他の画像データによって上書きされることがないので、背面画像を確実に表示させることができる。

【２２７６】

また、背面Ｂ～Ｄにおいて、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納される画像データと、通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納される画像データとでは、位置ｂ’から位置ｂの間の画像に対応する画像データが重複して格納される。そして、ＭＰＵ２３１による画像コントローラ２３７の制御により、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納された画像データを用いて位置ｂまでの画像を第３図柄表示装置８１に表示させ、次いで、通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納された画像データを用いて位置ｂ’からの画像を第３図柄表示装置８１に表示させることで、第３図柄表示装置８１にスムーズなつながりで背面画像がスクロール表示されるようになっている。

【２２７７】

更に、ＭＰＵ２３１は、通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像データを用いて、位置ｃから位置ｄの間の画像を表示領域として第３図柄表示装置８１に表示されるように画像コントローラ２３７を制御すると、次いで、ＭＰＵ２３１は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃの画像データを用いて、位置ａから位置ａ’の間の画像を表示領域として第３図柄表示装置８１に表示されるように画像コントローラ２３７を制御する。これにより、第３図柄表示装置８１には、位置ａ～位置ｃの間の画像が、左方向に向かって流れるように、スムーズなつながりで繰り返しスクロールされて表示させることができる。

【２２７８】

図１５０に戻って、説明を続ける。第３図柄エリア２３５ｄは、第３図柄表示装置８１に表示される変動演出において使用される第３図柄を常駐するためのエリアである。即ち、第３図柄エリア２３５ｄには、第３図柄である「０」から「９」の数字を付した上述の１０種類の主図柄に対応する画像データが常駐される。これにより、第３図柄表示装置８１にて変動演出を行う場合、逐一キャラクタＲＯＭ２３４から画像データを読み出す必要がないので、キャラクタＲＯＭ２３４にＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いても、第３図柄表示装置８１において素早く変動演出を開始することができる。よって、特図入球口６４、または第２入球口６４０への入球が発生してから、第１図柄表示装置３７では変動演出が開始されているにも関わらず、第３図柄表示装置８１において変動演出が即座に開始されないような状態が発生するのを抑制することができる。

【２２７９】

また、第３図柄エリア２３５ｄには、「０」から「９」の数字が付されていない主図柄として、木箱といった後方図柄からなる主図柄や、後方図柄とかんな，風呂敷，ヘルメット等のキャラクタを模した付属図柄とからなる主図柄に対応する画像データも常駐される。これらの画像データは、一の変動演出が停止してから所定時間経過しても、始動入賞に伴う次の変動演出が開始されない場合に、第３図柄表示装置８１に表示されるデモ演出に用いられる。これにより、デモ演出が第３図柄表示装置８１に表示されると、そのデモ演

出において、第３図柄として数字の付されていない主図柄が表示される。よって、遊技者は、数字の付されていない主図柄を第３図柄表示装置８１の表示画像から視認することによって、当該パチンコ機１０がデモ状態にあることを容易に認識することができる。

【２２８０】

また、本制御例では、設定される背景モード（背面画像）に応じて表示態様が異なる第３図柄が表示されるように構成している。よって、第３図柄エリア２３５ｄには、背景モードが切り替わる毎に、切り替わり後の背景モードに対応する第３図柄の表示画像データが格納される。これにより、第３図柄エリア２３５ｄに全ての背景モードに対応する全ての第３図柄に対する画像データを格納する必要が無くなるため、記憶容量の削減を図ることができる。

【２２８１】

なお、本制御例では、遊技者が操作手段（枠ボタン２２）を操作することにより背景モードを切替可能に構成しているため、短期間の間に複数回の背景モード移行が実行される場合がある。そこで、本制御例では、背景モードを切り替えた後の所定期間（例えば、１０秒間）は、切替前の背景モードに対応する画像データを第３図柄エリア２３５ｄから消去しないように構成している。これにより、頻繁に背景モードを切り替える事象が発生したとしても、第３図柄エリア２３５ｄへと画像データを格納する処理が煩雑に実行されることを抑制することができる。また、第３図柄記憶エリア２３５ｄに対して、予め、複数の背景モード毎に対応させた複数の第３図柄の画像データを格納するように構成しても良い。

【２２８２】

キャラクタ図柄エリア２３５ｅは、第３図柄表示装置８１に表示される各種演出で使用されるキャラクタ図柄に対応する画像データを格納する領域である。本パチンコ機１０では、「少年」や「老人」、「少女」をはじめとする様々なキャラクタが各種演出にあわせて表示されるようになっており、これらに対応するデータがキャラクタ図柄エリア２３５ｅに常駐されることにより、表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドの内容に基づいてキャラクタ図柄を変更する場合、キャラクタＲＯＭ２３４から対応の画像データを新たに読み出すのではなく、常駐用ビデオＲＡＭ２３５のキャラクタ図柄エリア２３５ｅに予め常駐されている画像データを読み出すことによって、画像コントローラ２３７にて所定の画像を描画できるようになっている。これにより、キャラクタＲＯＭ２３４から対応の画像データを読み出す必要がないので、キャラクタＲＯＭ２３４に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いても、キャラクタ図柄を即座に変更することができる。

【２２８３】

エラーメッセージ画像エリア２３５ｆは、パチンコ機１０内にエラーが発生した場合に表示されるエラーメッセージに対応する画像データを格納する領域である。本パチンコ機１０では、例えば、遊技盤１３の裏面に取り付けられた振動センサ（図示せず）の出力から、音声ランプ制御装置１１３によって振動を検出すると、音声ランプ制御装置１１３は振動エラーの発生をエラーコマンドによって表示制御装置１１４に通知する。また、音声ランプ制御装置１１３により、その他のエラーの発生が検出された場合にも、音声ランプ制御装置１１３は、エラーコマンドによって、そのエラーの発生をそのエラー種別と共に表示制御装置１１４へ通知する。表示制御装置１１４では、エラーコマンドを受信すると、その受信したエラーに対応するエラーメッセージを第３図柄表示装置８１に表示させるように構成されている。

【２２８４】

ここで、エラーメッセージは、遊技者の不正防止やエラーに対する遊技者の保護の観点から、エラーの発生とほぼ同時に表示されることが求められる。本パチンコ機１０では、エラーメッセージ画像エリア２３５ｆに、各種エラーメッセージに対応する画像データが予め常駐されているので、表示制御装置１１４は、受信したエラーコマンドに基づいて、常駐用ビデオＲＡＭ２３５のエラーメッセージ画像エリア２３５ｆに予め常駐されている

画像データを読み出すことによって、画像コントローラ２３７にて各エラーメッセージ画像を即座に描画できるようになっている。これにより、キャラクタＲＯＭ２３４から逐次エラーメッセージに対応する画像データを読み出す必要がないので、キャラクタＲＯＭ２３４に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いても、エラーコマンドを受信してから対応するエラーメッセージを即座に表示させることができる。

【２２８５】

通常用ビデオＲＡＭ２３６は、データが随時上書きされ更新されるように用いられるもので、画像格納エリア２３６ａ、第１フレームバッファ２３６ｂ、第２フレームバッファ２３６ｃが少なくとも設けられている。

【２２８６】

画像格納エリア２３６ａは、第３図柄表示装置８１に表示させる画像の描画に必要な画像データのうち、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データを格納するためのエリアである。画像格納エリア２３６ａは、複数のサブエリアに分割されており、サブエリア毎に、そのサブエリアに格納される画像データの種別が予め定められている。

【２２８７】

ＭＰＵ２３１は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データのうち、その後の画像の描画で必要となる画像データを、キャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに設けられたサブエリアのうち、その画像データの種別を格納すべき所定のサブエリアに転送するように、画像コントローラ２３７に対して指示をする。これにより画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１により指示された画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から読み出し、バッファＲＡＭ２３７ａを介して、画像格納エリア２３６ａの指定された所定のサブエリアにその読み出した画像データを転送する。

【２２８８】

なお、画像データの転送指示は、ＭＰＵ２３１が画像コントローラ２３７に対して画像の描画を指示する後述の描画リストの中に、転送データ情報を含めることによって行われる。これにより、ＭＰＵ２３１は、画像の描画指示と、画像データの転送指示とを、描画リストを画像コントローラ２３７に送信するだけで行うことができるので、処理負荷を低減することができる。

【２２８９】

第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃは、第３図柄表示装置８１に表示すべき画像を展開するためのバッファである。画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１からの指示に従って描画した１フレーム分の画像を、第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれか一方のフレームバッファに書き込むことによって、そのフレームバッファに１フレーム分の画像を展開すると共に、その一方のフレームバッファに画像を展開している間、他方のフレームバッファから先に展開された１フレーム分の画像情報を読み出し、駆動信号と共に第３図柄表示装置８１に対してその画像情報を送信することによって、第３図柄表示装置８１に、その１フレーム分の画像を表示させる処理を実行する。

【２２９０】

このように、フレームバッファとして、第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃの２つを設けることによって、画像コントローラ２３７は、一方のフレームバッファに描画した１フレーム分の画像を展開しながら、同時に、他方のフレームバッファから先に展開された１フレーム分の画像を読み出して、第３図柄表示装置８１にその読み出した１フレーム分の画像を表示させることができる。

【２２９１】

そして、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、第３図柄表示装置８１に画像を表示させるために１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとは、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒毎に、ＭＰＵ２３１によって、それぞれ第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれかが交

互に入れ替えて指定される。
【２２９２】
即ち、あるタイミングで、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定されて、画像の描画処理および表示処理が実行されると、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒後に、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定される。これにより、先に第１フレームバッファ２３６ｂに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第２フレームバッファ２３６ｃに新たな画像が展開される。
【２２９３】
そして、更に次の２０ミリ秒後には、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定される。これにより、先に第２フレームバッファ２３６ｃに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第１フレームバッファ２３６ｂに新たな画像が展開される。以後、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、２０ミリ秒毎に、それぞれ第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれかを交互に入れ替えて指定することによって、１フレーム分の画像の描画処理を行いながら、１フレーム分の画像の表示処理を２０ミリ秒単位で連続的に行わせることができる。
【２２９４】
ワークＲＡＭ２３３は、キャラクタＲＯＭ２３４に記憶された制御プログラムや固定値データを格納したり、ＭＰＵ２３１による各種制御プログラムの実行時に使用されるワークデータやフラグを一時的に記憶するためのメモリであり、ＤＲＡＭによって構成される。このワークＲＡＭ２３３は、プログラム格納エリア２３３ａ、データテーブル格納エリア２３３ｂ、簡易画像表示フラグ２３３ｃ、表示データテーブルバッファ２３３ｄ、転送データテーブルバッファ２３３ｅ、ポインタ２３３ｆ、描画リストエリア２３３ｇ、計時カウンタ２３３ｈ、格納画像データ判別フラグ２３３ｉ、描画対象バッファフラグ２３３ｊ、背面画像変更フラグ２３３ｗ、背面画像判別フラグ２３３ｘ、デモ表示フラグ２３３ｙ、確定表示フラグ２３３ｚを少なくとも有している。
【２２９５】
プログラム格納エリア２３３ａは、ＭＰＵ２３１によって実行される制御プログラムを格納するためのエリアである。ＭＰＵ２３１は、システムリセットが解除されると、キャラクタＲＯＭ２３４から制御プログラムを読み出してワークＲＡＭ２３３へ転送し、このプログラム格納エリア２３３ａに格納する。そして、全ての制御プログラムをプログラム格納エリア２３３ａに格納すると、以後、ＭＰＵ２３１はプログラム格納エリア２３３ａに格納された制御プログラムを用いて各種制御を実行する。上述したように、ワークＲＡＭ２３３はＤＲＡＭによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、制御プログラムを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されるキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させた場合であっても、表示制御装置１１４において高い処理性能を保つことができ、第３図柄表示装置８１を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。
【２２９６】
データテーブル格納エリア２３３ｂは、主制御装置１１０からのコマンドに基づき表示させる一の演出に対し、時間経過に伴い第３図柄表示装置８１に表示すべき表示内容を記載した表示データテーブルと、表示データテーブルにより表示される一の演出において使用される画像データのうち常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データの転送データ情報ならびに転送タイミングを規定した転送データテーブルとが格納される領域

である。
【２２９７】
これらのデータテーブルは、通常、キャラクタＲＯＭ２３４のＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに設けられた第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に固定値データの一種として記憶されており、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって実行されるブートプログラムに従って、これらのデータテーブルがキャラクタＲＯＭ２３４からワークＲＡＭ２３３へ転送され、このデータテーブル格納エリア２３３ｂに格納される。そして、全てのデータテーブルがデータテーブル格納エリア２３３ｂに格納されると、以後、ＭＰＵ２３１は、データテーブル格納エリア２３３ｂに格納されたデータテーブルを用いて第３図柄表示装置８１の表示を制御する。上述したように、ワークＲＡＭ２３３はＤＲＡＭによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、各種データテーブルを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されるキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させた場合であっても、表示制御装置１１４において高い処理性能を保つことができ、第３図柄表示装置８１を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。
【２２９８】
ここで、各種データテーブルの詳細について説明する。まず、表示データテーブルは、主制御装置１１０からのコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１に表示される各演出の演出態様毎に１つずつ用意されるもので、例えば、変動演出、オープニング演出、ラウンド演出、エンディング演出、デモ演出に対応する表示データテーブルが用意されている。
【２２９９】
変動演出は、音声ランプ制御装置１１３からの表示用変動パターンコマンドを受信した場合に、第３図柄表示装置８１おいて開始される演出である。なお、表示用変動パターンコマンドが受信される場合には、変動演出の停止種別を示す表示用停止種別コマンドも受信される。例えば、変動演出が開始された場合に、その変動演出の停止種別が外れであれば、外れを示す停止図柄が最終的に停止表示される一方、その変動演出の停止種別が大当たりＡ、大当たりＢのいずれかであれば、それぞれの大当たり示す停止図柄が最終的に停止表示される。遊技者は、この変動演出における停止図柄を視認することで大当たり種別を認識でき、大当たり種別に応じて付与される遊技価値を容易に判断することができる。
【２３００】
オープニング演出は、これからパチンコ機１０が特別遊技状態へ移行して、通常時には閉鎖されている大開放口が繰り返し開放されることを遊技者に報知するための演出であり、ラウンド演出は、これから開始されるラウンド数を遊技者に報知するための演出である。エンディング演出は、特別遊技状態の終了を遊技者に報知するための演出である。
【２３０１】
なお、デモ演出は、上述したように、一の変動演出が停止してから所定時間経過しても、始動入賞に伴う次の変動演出が開始されない場合に、第３図柄表示装置８１に表示される演出であり、「０」から「９」の数字が付されていない主図柄からなる第３図柄が停止表示されると共に、背面画像のみが変化する。第３図柄表示装置８１にデモ演出が表示されていれば、遊技者やホール関係者が、当該パチンコ機１０において遊技が行われていないことを認識することができる。
【２３０２】
データテーブル格納エリア２３３ｂには、オープニング演出、ラウンド演出、エンディング演出およびデモ演出に対応する表示データテーブルをそれぞれ１つずつ格納する。また、変動演出用の表示データテーブルである変動表示データテーブルは、設定される変動演出パターンが３２パターンあれば、１変動演出パターンに１テーブル、合計で３２テーブルが用意される。
【２３０３】
ここで、図１５３を参照して、表示データテーブルの詳細について説明する。図１５３は、表示データテーブルのうち、変動表示データテーブルの一例を模式的に示した模式図

である。表示データテーブルは、第３図柄表示装置８１において１フレーム分の画像が表示される時間（本制御例では、２０ミリ秒）を１単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき１フレーム分の画像の内容（描画内容）を詳細に規定したものである。

【２３０４】

描画内容には、１フレーム分の画像を構成する表示物であるスプライト毎に、そのスプライトの種別を規定すると共に、そのスプライトの種別に応じて、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報といった、スプライトを第３図柄表示装置８１に描画させるための描画情報が規定されている。

【２３０５】

スプライトの種別は、表示すべきスプライトを特定するための情報である。表示位置座標は、そのスプライトを表示すべき第３図柄表示装置８１上の座標を特定するための情報である。拡大率は、そのスプライトに対して予め設定された標準的な表示サイズに対する拡大率を指定するための情報で、その拡大率に従って表示されるスプライトの大きさが特定される。なお、拡大率が１００％より大きい場合は、そのスプライトが標準的な大きさよりも拡大されて表示され、拡大率が１００％未満の場合は、そのスプライトが標準的な大きさもよりも縮小されて表示される。

【２３０６】

回転角度は、スプライトを回転させて表示させる場合の回転角度を特定するための情報である。半透明値は、スプライト全体の透明度を特定するためのものであり、半透明値が高いほど、スプライトの背面側に表示される画像が透けて見えるように画像が表示される。αブレンディング情報は、他のスプライトとの重ね合わせ処理を行う場合に用いられる既知のαブレンディング係数を特定するための情報である。色情報は、表示すべきスプライトの色調を指定するための情報である。そして、フィルタ指定情報は、指定されたスプライトを描画する場合に、そのスプライトに対して施すべき画像フィルタを指定するための情報である。

【２３０７】

変動表示データテーブルでは、各アドレスに対応して規定される１フレーム分の描画内容として、１つの背面画像、９個の第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）、その画像において光の差し込みなどを表現するエフェクト、少年画像や文字などの各種演出に用いられるキャラクタといった各スプライトに対する描画情報が、アドレス毎に規定されている。なお、エフェクトやキャラクタに関する情報は、そのフレームに表示すべき内容に合わせて、１つ又は複数規定される。

【２３０８】

ここで、背面画像は、表示位置は第３図柄表示装置８１の画面全体に固定され、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報およびフィルタ指定情報は、時間経過に対して一定とされるので、変動表示データテーブルでは、背面画像の種別を特定するための情報である背面種別のみが規定されている。この背面種別は、遊技者によって選択されているステージ（「街中ステージ」、「森ステージ」、「川ステージ」、「空ステージ」、「島ステージ」のいずれか）に対応する背面Ａ～Ｅのいずれかを表示させるか、背面Ａ～Ｅとは異なる背面画像を表示させるかを特定する情報が記載されている。また、背面種別は、背面Ａ～Ｅとは異なる背面画像を表示させることを特定する場合、どの背面画像を表示させるかを特定する情報も合わせて記載されている。

【２３０９】

ＭＰＵ２３１は、この背面種別によって、背面Ａ～Ｅのいずれかを表示させることが特定される場合は、背面Ａ～Ｅのうち抽選により決定されたステージに対応する背面画像を描画対象として特定し、また、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を時間経過に合わせて特定する。一方、背面Ａ～Ｅとは異なる背面画像を表示させることが特定される場合は、背面種別から表示させるべき背面画像を特定する。

【２３１０】

なお、本制御例では、表示データテーブルにおいて、背面画像の描画内容として背面種別のみを規定する場合について説明するが、これに代えて、背面種別と、その背面種別に対応する背面画像のどの範囲を表示すべきかを示す位置情報とを規定するようにしてもよい。この位置情報は、例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、ＭＰＵ２３１は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、位置情報により示される初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間に基づいて特定する。

【２３１１】

また、位置情報は、この表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、ＭＰＵ２３１は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、表示用データベースに基づき画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始された段階で表示されていた背面画像の位置と、位置情報により示される該画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間とに基づいて特定する。

【２３１２】

更に、位置情報は、背面種別に応じて、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報および表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報のいずれかを示すものであってもよいし、背面種別および位置情報とともに、その位置情報の種別情報（例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であるか、表示用データベースに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であるかを示す情報）を、背面画像の描画内容として規定してもよい。その他、位置情報は、経過時間を示す情報ではなく、表示すべき背面画像の範囲が格納されたアドレスを示す情報であってもよい。

【２３１３】

第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）は、表示すべき第３図柄を特定するための図柄種別情報として、図柄種別オフセット情報が記載されている。このオフセット情報は、各第３図柄に付された数字の差分を表す情報である。第３図柄の種別を直接特定するのではなく、オフセット情報を特定するのは、変動演出における第３図柄の表示は、１つ前に行われた変動演出の停止図柄および今回行われる変動演出の停止図柄に応じて変わるためであり、変動が開始されてから所定時間経過するまでの図柄オフセット情報では、１つ前に行われた変動演出の停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、１つ前の変動演出における停止図柄から変動演出が開始される。

【２３１４】

一方、変動が開始されてから所定時間経過後は、音声ランプ制御装置１１３を介して主制御装置１１０より受信した停止種別コマンド（表示用停止種別コマンド）に応じて設定される停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、変動演出を、主制御装置１１０より指定された停止種別に応じた停止図柄で停止させることができる。

【２３１５】

なお、各第３図柄には固有の数字が付されているので、１つ前の変動演出における変動図柄や、主制御装置１１０より指定された停止種別に応じた停止図柄を、その第３図柄に付された数字で管理し、また、オフセット情報を、各第３図柄に付された数字の差分で表すことにより、そのオフセット情報から容易に表示すべき第３図柄を特定することができる。

【２３１６】

また、図柄オフセット情報において、１つ前に行われた変動演出の停止図柄のオフセット情報から今回行われている変動演出の停止図柄のオフセット情報に切り替えられる所定時間は、第３図柄が高速に変動表示されている時間となるように設定されている。第３図柄が高速に変動表示されている間は、その第３図柄が遊技者に視認不能な状態であるので、その間に、図柄オフセット情報を１つ前に行われた変動演出の停止図柄のオフセット情

報から今回行われている変動演出の停止図柄のオフセット情報に切り替えることによって、第３図柄の数字の連続性が途切れても、その数字の連続性の途切れを遊技者に認識させないようにすることができる。

【２３１７】

表示データテーブルの先頭アドレスである「００００Ｈ」には、データテーブルの開始を示す「Ｓｔａｒｔ」情報が記載され、表示データテーブルの最終アドレス（図１５３の例では、「０２Ｆ０Ｈ」）には、データテーブルの終了を示す「Ｅｎｄ」情報が記載されている。そして、「Ｓｔａｒｔ」情報が記載されたアドレス「００００Ｈ」と「Ｅｎｄ」情報が記載されたアドレスとの間の各アドレスに対して、その表示データテーブルで規定すべき演出態様に対応させた描画内容が記載されている。

【２３１８】

ＭＰＵ２３１は、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、使用する表示データテーブルを選定し、その選定した表示データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納すると共に、ポインタ２３３ｆを初期化する。そして、１フレーム分の描画処理が完了する度にポインタ２３３ｆを１加算し、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルにおいて、ポインタ２３３ｆが示すアドレスに規定された描画内容に基づき、次に描画すべき画像内容を特定して後述する描画リスト（図１５５参照）を作成する。この描画リストを画像コントローラ２３７に送信することで、その画像の描画指示を行う。これにより、ポインタ２３３ｆの更新に従って、表示データテーブルで規定された順に描画内容が特定されるので、その表示データテーブルで規定された通りの画像が第３図柄表示装置８１に表示される。

【２３１９】

このように、本パチンコ機１０では、表示制御装置１１４において、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、ＭＰＵ２３１により実行すべきプログラムを変更するのではなく、表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに適宜置き換えるという単純な操作だけで、第３図柄表示装置８１に表示すべき演出画像を変更することができる。

【２３２０】

ここで、従来のパチンコ機のように、第３図柄表示装置８１に表示させる演出画像を変更する度にＭＰＵ２３１で実行されるプログラムを起動するように構成した場合、演出画像の多種多様化に伴って複雑かつ膨大化するプログラムの起動や実行の処理に多大な負荷がかかるため、表示制御装置１１４における処理能力が制限となって、制御可能な演出画像の多様化に限界が生じてしまうおそれがあった。これに対し、本パチンコ機１０では、表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに適宜置き換えるという単純な操作だけで、第３図柄表示装置８１に表示すべき演出画像を変更することができるので、表示制御装置１１４の処理能力に関係なく、多種多様な演出画像を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２３２１】

また、このように各演出態様に対応して表示データテーブルを用意し、表示すべき演出態様に応じた表示データテーブルバッファを設定して、その設定されたデータテーブルに従い、１フレームずつ描画リストを作成することができるのは、パチンコ機１０では、始動入賞に基づいて行われる抽選の結果に基づいて、予め第３図柄表示装置８１に表示させる演出が決定されるためである。これに対し、パチンコ機といった遊技機を除くゲーム機などでは、ユーザの操作に基づいてその場その場で表示内容が変わるため、表示内容を予測することができず、よって、上述したような各演出態様に対応する表示データテーブルを持たせることはできない。このように、各演出態様に対応して表示データテーブルを用意し、表示すべき演出態様に応じた表示データテーブルバッファを設定して、その設定さ

れたデータテーブルに従い、１フレームずつ描画リストを作成する構成は、パチンコ機１０が、始動入賞に基づいて行われる抽選の結果に基づき予め第３図柄表示装置８１に表示させる演出態様を決定する構成であることに基づいて初めて実現できるものである。

【２３２２】

次いで、図１５４を参照して、転送データテーブルの詳細について説明する。図１５４は、転送データテーブルの一例を模式的に示した模式図である。転送データテーブルは、演出毎に用意された表示データテーブルに対応して用意されるもので、上述したように、表示データテーブルで規定されている演出において使用されるスプライトの画像データのうち、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに転送するための転送データ情報ならびにその転送タイミングが規定されている。

【２３２３】

なお、表示データテーブルに規定された演出において使用されるスプライトの画像データが、全て常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納されていれば、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルは用意されていない。これにより、データテーブル格納エリア２３３ｂの容量増大を抑制することができる。

【２３２４】

転送データテーブルは、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスに対応させて、そのアドレスで示される時間に転送を開始すべきスプライトの画像データ（以下、「転送対象画像データ」と称す）の転送データ情報が記載されている（図１５４のアドレス「０００１Ｈ」及び「００９７Ｈ」が該当）。ここで、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されるように、その転送対象画像データの転送開始タイミングが設定されており、転送データテーブルでは、その転送開始タイミングに対応するアドレスに対応させて、転送対象画像データの転送データ情報が規定される。

【２３２５】

一方、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスで示される時間に、転送を開始すべき転送対象画像データが存在しない場合は、そのアドレスに対応して転送を開始すべき転送対象画像データが存在しないことを意味するＮｕｌｌデータが規定される（図１５４のアドレス「０００２Ｈ」が該当）。

【２３２６】

転送データ情報としては、その転送対象画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスが含まれる。

【２３２７】

なお、転送データテーブルの先頭アドレスである「０００００Ｈ」には、表示データテーブルと同様に、データテーブルの開始を示す「Ｓｔａｒｔ」情報が記載され、転送データテーブルの最終アドレス（図１５４の例では、「０２Ｆ０Ｈ」）には、データテーブルの終了を示す「Ｅｎｄ」情報が記載されている。そして、「Ｓｔａｒｔ」情報が記載されたアドレス「０００００Ｈ」と「Ｅｎｄ」情報が記載されたアドレスとの間の各アドレスに対して、その転送データテーブルで規定すべき転送対象画像データの転送データ情報が記載されている。

【２３２８】

ＭＰＵ２３１は、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、使用する表示データテーブルを選定すると、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが存在する場合は、その転送データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、後述するワークＲＡＭ２３３の転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納する。そして、ポインタ２３３ｆの更新毎に、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルから、ポインタ２３３ｆが示すアドレスに規定された描画

内容を特定して、後述する描画リスト（図１５５参照）を作成すると共に、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルから、その時点において転送を開始すべき所定のスプライトの画像データの転送データ情報を取得して、その転送データ情報を作成した描画リストに追加する。

【２３２９】

例えば、図１５４の例では、ポインタ２３３ｆが「０００１Ｈ」や「００９７Ｈ」となった場合に、ＭＰＵ２３１は、転送データテーブルの当該アドレスに規定された転送データ情報を、表示データテーブルに基づいて作成した描画リストに追加して、その追加後の描画リストを画像コントローラ２３７へ送信する。一方、ポインタ２３３ｆが「０００２Ｈ」である場合、転送データテーブルのアドレス「０００２Ｈ」には、Ｎｕｌｌデータが規定されているので、転送を開始すべき転送対象画像データが存在しないと判断し、生成した描画リストに転送データ情報を追加せずに、描画リストを画像コントローラ２３７へ送信する。

【２３３０】

そして、画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１より受信した描画リストに転送データ情報が記載されていた場合、その転送データ情報に従って、転送対象画像データを、キャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａの所定のサブエリアに転送する処理を実行する。

【２３３１】

ここで、上述したように、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されているので、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａに転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア２３６ａに格納させておくことができる。そして、その画像格納エリア２３６ａに格納された画像データを用いて、表示データテーブルに基づき、所定のスプライトの描画を行うことができる。

【２３３２】

これにより、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによってキャラクタＲＯＭ２３４を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタＲＯＭ２３４から読み出し、通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。

【２３３３】

また、本パチンコ機１０では、表示制御装置１１４において、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定するのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定されるので、その表示データテーブルで用いられるスプライトの画像データを、所望のタイミングで確実にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。

【２３３４】

また、転送データテーブルでは、スプライトに対応する画像データ毎にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ画像データが転送されるように、その転送データ情報を規定する。これにより、その画像データの転送をスプライト毎に管理し、また、制御することができるので、その転送に係る処理を容易に行うことができる。そして、ス

プライト単位でキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６への画像データの転送を制御することにより、その処理を容易にしつつ、詳細に画像データの転送を制御できる。よって、転送にかかる負荷の増大を効率よく抑制することができる。

【２３３５】

また、転送データテーブルは、表示データテーブルと同様のデータ構造を有し、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスに対応させて、そのアドレスで示される時間に転送を開始すべき転送対象画像データの転送データ情報が規定されているので、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示データテーブルに基づいて所定のスプライトの画像データが用いられる前に、確実にその画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６へ格納されるように、転送開始のタイミングを指示することができるので、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによってキャラクタＲＯＭ２３４を構成しても、多種多様な演出画像を容易に第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２３３６】

簡易画像表示フラグ２３３ｃは、第３図柄表示装置８１に、図１５１（ａ）～（ｃ）に示す電源投入時画像（電源投入時主画像および電源投入時変動画像）を表示するか否かを示すフラグである。この簡易画像表示フラグ２３３ｃは、電源投入時主画像および電源投入時変動画像に対応する画像データが常駐用ビデオＲＡＭの電源投入時主画像エリア２３５ａ又は電源投入時変動画像エリア２３５ｂに転送された後に、ＭＰＵ２３１により実行されるメイン処理（図１８７参照）の中でオンに設定される（図１８７のＳ６００５参照）。そして、画像転送処理の常駐画像転送処理によって、全ての常駐対象画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納された段階で、第３図柄表示装置８１に電源投入時画像以外の画像を表示させるために、オフに設定される（図１９９（ｂ）のＳ７６０５参照）。

【２３３７】

この簡易画像表示フラグ２３３ｃは、画像コントローラ２３７から送信されるＶ割込信号を検出する毎にＭＰＵ２３１によって実行されるＶ割込処理の中で参照され（図１８９（ｂ）のＳ６３０１参照）、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンである場合は、電源投入時画像が第３図柄表示装置８１に表示されるように、簡易コマンド判定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０８参照）および簡易表示設定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０９参照）が実行される。一方、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオフである場合は、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに応じて、種々の画像が表示されるように、コマンド判定処理（図１９０～図１９５参照）および表示設定処理（図１９６～図１９８参照）が実行される。

【２３３８】

また、簡易画像表示フラグ２３３ｃは、Ｖ割込処理の中でＭＰＵ２３１により実行される転送設定処理の中で参照され（図１９９（ａ）のＳ７５０１参照）、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンである場合は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納されていない常駐対象画像データが存在するため、常駐対象画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送する常駐画像転送設定処理（図１９９（ｂ）参照）を実行し、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオフである場合は、描画処理に必要な画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送する通常画像転送設定処理（図２００参照）を実行する。

【２３３９】

表示データテーブルバッファ２３３ｄは、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド等に応じて第３図柄表示装置８１に表示させる演出態様に対応する表示データテーブルを格納するためのバッファである。ＭＰＵ２３１は、その音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド等に基づいて、第３図柄表示装置８１に表示させる演出態様を判断し、その演出態様に対応する表示データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから選定して、その選定された表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納する。そして、ＭＰＵ２３１は、ポインタ２３３ｆを１ずつ加算しながら、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納され

た表示データテーブルにおいてそのポインタ２３３ｆで示されるアドレスに規定された描画内容に基づき、１フレーム毎に画像コントローラ２３７に対する画像描画の指示内容を記載した後述の描画リスト（図１５５参照）を生成する。これにより、第３図柄表示装置８１には、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルに対応する演出が表示される。

【２３４０】

ＭＰＵ２３１は、ポインタ２３３ｆを１ずつ加算しながら、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルにおいてそのポインタ２３３ｆで示されるアドレスに規定された描画内容に基づき、１フレーム毎に画像コントローラ２３７に対する画像描画の指示内容を記載した後述の描画リスト（図１５５参照）を生成する。これにより、第３図柄表示装置８１には、表示データテーブルに対応する演出が表示される。

【２３４１】

転送データテーブルバッファ２３３ｅは、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド等に応じて、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを格納するためのバッファである。ＭＰＵ２３１は、表示データテーブルバッファ２３３ｄに表示データテーブルを格納するのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから選定して、その選定された転送データテーブルを転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納する。なお、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納される表示データテーブルにおいて用いられるスプライトの画像データが全て常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納されている場合は、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが用意されていないので、ＭＰＵ２３１は、転送データテーブルバッファ２３３ｅに転送対象画像データが存在しないことを意味するＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする。

【２３４２】

そして、ＭＰＵ２３１は、ポインタ２３３ｆを１ずつ加算しながら、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルにおいてそのポインタ２３３ｆで示されるアドレスに規定された転送対象画像データの転送データ情報が規定されていれば（即ち、Ｎｕｌｌデータが記載されていなければ）、１フレーム毎に生成される画像コントローラ２３７に対する画像描画の指示内容を記載した後述の描画リスト（図１５５参照）に、その転送データ情報を追加する。

【２３４３】

これにより、画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１より受信した描画リストに転送データ情報が記載されていた場合、その転送データ情報に従って、転送対象画像データを、キャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａの所定のサブエリアに転送する処理を実行する。ここで、上述したように、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されている。よって、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａに転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア２３６ａに格納させておくことができる。

【２３４４】

これにより、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによってキャラクタＲＯＭ２３４を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタＲＯＭ２３４から読み出し、通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタＲＯＭ２

３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。
【２３４５】
ポインタ２３３ｆは、表示データテーブルバッファ２３３ｄおよび転送データテーブルバッファ２３３ｅの各バッファにそれぞれ格納された表示データテーブルおよび転送データテーブルから、対応する描画内容もしくは転送対象画像データの転送データ情報を取得すべきアドレスを指定するためのものである。ＭＰＵ２３１は、表示データテーブルバッファ２３３ｄに表示データテーブルが格納されるのに合わせて、ポインタ２３３ｆを一旦０に初期化する。そして、画像コントローラ２３７から１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒ごとに送信されるＶ割込信号に基づいてＭＰＵ２３１により実行されるＶ割込処理の表示設定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０３参照）の中で、ポインタ更新処理（図１９８のＳ７２０５参照）が実行され、ポインタ２３３ｆの値が１ずつ加算される。
【２３４６】
ＭＰＵ２３１は、このようなポインタ２３３ｆの更新が行われる毎に、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルから、ポインタ２３３ｆが示すアドレスに規定された描画内容を特定して、後述する描画リスト（図１５５参照）を作成すると共に、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルから、その時点において転送を開始すべき所定のスプライトの画像データの転送データ情報を取得して、その転送データ情報を作成した描画リストに追加する。
【２３４７】
これにより、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルに対応する演出が第３図柄表示装置８１に表示される。よって、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納する表示データテーブルを変更するだけで、容易に第３図柄表示装置８１に表示させる演出を変更することができる。従って、表示制御装置１１４の処理能力に関わらず、多種多様な演出を表示させることができる。
【２３４８】
また、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルが格納されている場合は、その転送データテーブルに基づいて、対応する表示データテーブルによって所定のスプライトの描画が開始されるまでに、そのスプライトの描画で用いられる常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア２３６ａに格納させておくことができる。これにより、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによってキャラクタＲＯＭ２３４を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタＲＯＭ２３４から読み出し、通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。
【２３４９】
描画リストエリア２３３ｇは、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブル、及び、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルに基づいて生成される、１フレーム分の画像の描画を画像コントローラ２３７に指示する描画リストを格納するためのエリアである。
【２３５０】
ここで、図１５５を参照して、描画リストの詳細について説明する。図１５５は、描画リストの内容を模式的に示した模式図である。描画リストは、画像コントローラ２３７に対して、１フレーム分の画像の描画を指示する指示表であり、図１５５に示すように、１フレームの画像で使用する背面画像、第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）、エフェクト（エフェクト１，エフェクト２，・・・）、キャラクタ（キャラクタ１，キャラクタ２，・・・，保留球数図柄１，保留球数図柄２，・・・，エラー図柄）といったスプライト毎

に、そのスプライトの詳細な描画情報（詳細情報）を記述したものである。また、描画リストには、画像コントローラ２３７に対して所定の画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送させるための転送データ情報もあわせて記述される。

【２３５１】

各スプライトの詳細な描画情報（詳細情報）には、対応するスプライト（表示物）の画像データが格納されているＲＡＭ種別（常駐用ビデオＲＡＭ２３５か、通常用ビデオＲＡＭ２３６か）を示す情報と、そのアドレスとが記述されており、画像コントローラ２３７は、そのＲＡＭ種別およびアドレスによって指定されるメモリ領域から、当該スプライトの画像データを取得する。また、その詳細な描画情報（詳細情報）には、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報およびフィルタ指定情報が含まれており、画像コントローラ２３７は、各種ビデオＲＡＭより読み出した当該スプライトの画像データにより生成される標準的な画像に対し、拡大率に応じて拡大縮小処理を施し、回転角度に応じて回転処理を施し、半透明値に応じて半透明化処理を施し、αブレンディング情報に応じて他のスプライトとの合成処理を施し、色情報に応じて色調補正処理を施し、フィルタ指定情報に応じてその情報により指定された方法でフィルタリング処理を施した上で、表示位置座標に示される表示位置に各種処理を施して得られた画像を描画する。そして、描画した画像は、画像コントローラ２３７によって、描画対象バッファフラグ２３３ｊで指定される第１フレームバッファ２３６ｂ又は第２フレームバッファ２３６ｃのいずれかに展開される。

【２３５２】

ＭＰＵ２３１は、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルにおいて、ポインタ２３３ｆによって示されるアドレスに規定された描画内容と、その他の描画すべき画像の内容（例えば、保留球数図柄を表示する保留画像や、エラーの発生を通知する警告画像など）とに基づき、１フレーム分の画像の描画に用いられる全スプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を生成すると共に、その詳細情報をスプライト毎に並び替えることによって描画リストを作成する。

【２３５３】

ここで、各スプライトの詳細情報のうち、スプライト（表示物）のデータの格納ＲＡＭ種別とアドレスとは、表示データテーブルに規定されるスプライト種別や、その他の画像の内容から特定されるスプライト種別に応じて生成される。即ち、スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納される常駐用ビデオＲＡＭ２３５のエリア、又は、通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａのサブエリアが固定されているので、ＭＰＵ２３１は、スプライト種別に応じて、そのスプライトの画像データが格納されている格納ＲＡＭ種別とアドレスとを即座に特定し、それらの情報を描画リストの詳細情報に容易に含めることができる。

【２３５４】

また、ＭＰＵ２３１は、各スプライトの詳細情報のうち、その他の情報（表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報およびフィルタ指定情報）について、表示データテーブルに規定されるそれらの情報をそのままコピーする。

【２３５５】

また、ＭＰＵ２３１は、描画リストを生成するにあたり、１フレーム分の画像の中で、最も背面側に配置すべきスプライトから前面側に配置すべきスプライト順に並び替えて、それぞれのスプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を記述する。即ち、描画リストでは、最初に背面画像に対応する詳細情報が記述され、次いで、第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）、エフェクト（エフェクト１，エフェクト２，・・・）、キャラクタ（キャラクタ１，キャラクタ２，・・・，保留球数図柄１，保留球数図柄２，・・・，エラー図柄）の順に、それぞれのスプライトに対応する詳細情報が記述される。

【２３５６】

画像コントローラ２３７では、描画リストに記述された順番に従って、各スプライトの

描画処理を実行し、フレームバッファにその描画されたスプライトを上書きによって展開していく。従って、描画リストによって生成した１フレーム分の画像において、最初に描画したスプライトが最も背面側に配置させ、最後に描画したスプライトが最も前面側に配置させることができるのである。

【２３５７】

また、ＭＰＵ２３１は、転送データテーブルバッファ２３３ｅに格納された転送データテーブルにおいて、ポインタ２３３ｆによって示されるアドレスに転送データ情報が記載されている場合、その転送データ情報（転送対象画像データが格納されたキャラクタＲＯＭ２３４における格納元先頭アドレスおよび格納元最終アドレスと、その転送対象画像データを格納すべき画像格納エリア２３６ａに設けられたサブエリアの格納先先頭アドレス）を、描画リストの最後に追加する。画像コントローラ２３７は、描画リストにこの転送データ情報が含まれていれば、その転送データ情報に基づいて、キャラクタＲＯＭ２３４の所定の領域（格納元先頭アドレスおよび格納元最終アドレスによって示される領域）から画像データを読み出して、通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに設けられた所定のサブエリア（格納先アドレス）に、転送対象となる画像データを転送する。

【２３５８】

計時カウンタ２３３ｈは、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルにより第３図柄表示装置８１にて表示される演出の演出時間をカウントするカウンタである。ＭＰＵ２３１は、表示データテーブルバッファ２３３ｄに一の表示データテーブルを格納するのに合わせて、その表示データテーブルに基づいて表示される演出の演出時間を示す時間データを設定する。この時間データは、演出時間を第３図柄表示装置８１における１フレーム分の画像表示時間（本制御例では、２０ミリ秒）で割った値である。

【２３５９】

そして、１フレーム分の画像の描画処理および表示処理が完了する２０ミリ秒毎に画像コントローラ２３７から送信されるＶ割込信号に基づいて、ＭＰＵ２３１により実行されるＶ割込処理（図１８９（ｂ）参照）の表示設定処理が実行される度に、計時カウンタ２３３ｈが１ずつ減算される（図１９６のＳ７２０７参照）。その結果、計時カウンタ２３３ｈの値が０以下となった場合、ＭＰＵ２３１は、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納された表示データテーブルにより表示される演出が終了したことを判断し、演出終了に合わせて行うべき種々の処理を実行する。

【２３６０】

格納画像データ判別フラグ２３３ｉは、対応する画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されない全てのスプライトに対して、それぞれ、そのスプライトに対応する画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに格納されているか否かを表す格納状態を示すフラグである。

【２３６１】

この格納画像データ判別フラグ２３３ｉは、電源投入時にメイン処理の中でＭＰＵ２３１により実行される初期設定処理（図１８７のＳ６００２参照）によって生成される。ここで生成される格納画像データ判別フラグ２３３ｉは、全てのスプライトに対する格納状態が、画像格納エリア２３６ａに格納されていないことを示す「オフ」に設定される。

【２３６２】

そして、格納画像データ判別フラグ２３３ｉの更新は、ＭＰＵ２３１により実行される通常画像転送設定処理（図２００参照）の中で、一のスプライトに対応する転送対象画像データの転送指示を設定した場合に行われる。この更新では、転送指示が設定された一のスプライトに対応する格納状態を、対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されていることを示す「オン」に設定する。また、その一のスプライトと同じ画像格納エリア２３６ａのサブエリアに格納されることになっているその他のスプライトの画像データは、一のスプライトの画像データが格納されることによって必ず未格納状態となるので、その他のスプライトに対応する格納状態を「オフ」に設定する。

【２３６３】
　また、ＭＰＵ２３１は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に画像データが常駐されていないスプライトの画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送する際に、格納画像データ判別フラグ２３３ｉを参照し、転送対象のスプライトの画像データが、既に通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに格納されているか否かを判断する（図２００のＳ７７１３参照）。そして、転送対象のスプライトに対応する格納状態が「オフ」であり、対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されていなければ、その画像データの転送指示を設定し（図２００のＳ７７１４参照）、画像コントローラ２３７に対して、その画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａの所定サブエリアに転送させる。一方、転送対象のスプライトに対応する格納状態が「オン」であれば、既に対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されているので、その画像データの転送処理を中止する。これにより、無駄にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して転送されるのを抑制することができ、表示制御装置１１４の各部における処理負担の軽減や、バスライン２４０におけるトラフィックの軽減を図ることができる。
【２３６４】
　描画対象バッファフラグ２３３ｊは、２つのフレームバッファ（第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃ）の中から、画像コントローラ２３７によって描画された画像を展開するフレームバッファ（以下、「描画対象バッファ」と称す）を指定するためのフラグで、描画対象バッファフラグ２３３ｊが０である場合は描画対象バッファとして第１フレームバッファ２３６ｂを指定し、１である場合は第２フレームバッファ２３６ｃを指定する。そして、この指定された描画対象バッファの情報は、描画リストと共に画像コントローラ２３７に送信される（図２０１のＳ７８０２参照）。
【２３６５】
　これにより、画像コントローラ２３７は、描画リストに基づいて描画した画像を、指定された描画対象バッファ上に展開する描画処理を実行する。また、画像コントローラ２３７は、描画処理と同時並列的に、描画対象バッファとは異なるフレームバッファから先に展開済みの描画画像情報を読み出し、駆動信号と共に第３図柄表示装置８１に対して、その画像情報を転送することで、第３図柄表示装置８１に画像を表示させる表示処理を実行する。
【２３６６】
　描画対象バッファフラグ２３３ｊは、描画対象バッファ情報が描画リストと共に画像コントローラ２３７に対して送信されるのに合わせて、更新される。この更新は、描画対象バッファフラグ２３３ｊの値を反転させることにより、即ち、その値が「０」であった場合は「１」に、「１」であった場合は「０」に設定することによって行われる。これにより、描画対象バッファは、描画リストが送信される度に、第１フレームバッファ２３６ｂと第２フレームバッファ２３６ｃとの間で交互に設定される。また、描画リストの送信は、１フレーム分の画像の描画処理および表示処理が完了する２０ミリ秒毎に画像コントローラ２３７から送信されるＶ割込信号に基づいて、ＭＰＵ２３１により実行されるＶ割込処理の描画処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０６参照）が実行される度に行われる。
【２３６７】
　即ち、あるタイミングで、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定されて、画像の描画処理および表示処理が実行されると、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒後に、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定される。これにより、先に第１フレームバッファ２３６ｂに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第２フレームバッファ２３６ｃに新たな画像が展開される。

【２３６８】
そして、更に次の２０ミリ秒後には、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定される。これにより、先に第２フレームバッファ２３６ｃに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第１フレームバッファ２３６ｂに新たな画像が展開される。以後、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、２０ミリ秒毎に、それぞれ第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれかを交互に入れ替えて指定することによって、１フレーム分の画像の描画処理を行いながら、１フレーム分の画像の表示処理を２０ミリ秒単位で連続的に行わせることができる。

【２３６９】
背面画像変更フラグ２３３ｗは、第３図柄表示装置８１に表示される背面画像の種別を変更するか否かを判別するためのフラグである。この背面画像変更フラグ２３３ｗがオンであれば、背面画像の種別を変更することを意味し、オフであれば変更を行わないことを意味する。背面画像変更フラグ２３３ｗは、音声ランプ制御装置１１３から送信される背面画像変更コマンドを受信した場合にオンに設定される（図１９５（ａ）のＳ７００１参照）。また、この背面画像変更フラグ２３３ｗは、通常画像転送設定処理において参照され（図２００のＳ７７０９参照）、背面画像の変更処理が実行される際にオフに設定される（図２００のＳ７７１０参照）。これにより、音声ランプ制御装置１１３から受信した背面画像変更コマンドや演出モード変更コマンドに対応した背面画像を表示することができる。

【２３７０】
背面画像判別フラグ２３３ｘは、設定されている背面画像種別を示すフラグである。このフラグは、例えば１バイトで構成されており、各ビットに対して各背面種別が対応付けられている。この背面画像判別フラグ２３３ｘのうち、いずれかのビットがオンであれば、そのオンのビットに対応する背面種別が現在の背面種別として設定されていることを意味する。例えば、背面画像判別フラグ２３３ｘの０ビット目がオンであれば、背面Ａが設定されていることを意味する。この背面画像判別フラグ２３３ｘは、音声ランプ制御装置１１３から送信される背面画像変更コマンドを受信した場合に、そのコマンドにより通知された背面画像に対応するビットがオンに設定される（図１９５（ａ）のＳ７００２参照）。この際、他のビットは全てオフに設定される。この背面画像判別フラグ２３３ｘにより、容易に現在設定されている背面種別を特定することができる。

【２３７１】
デモ表示フラグ２３３ｙは、デモ演出中であるか否かを示すフラグである。このデモ表示フラグ２３３ｙがオンであればデモ演出中であることを意味し、オフであればデモ演出中でないことを意味する。このデモ表示フラグ２３３ｙは、表示設定処理（図１９６参照）において、デモ用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定した場合にオンに設定され（図１９６のＳ７２２１参照）、デモ用表示データテーブル以外の他の表示データテーブルが表示データテーブルバッファ２３３ｄに対して設定された場合にオフに設定される（図１９１（ａ）のＳ６５０５、図１９２（ａ）のＳ６７０５、図１９２（ｂ）のＳ６８０５、図１９３のＳ６９０５参照）。このデモ表示フラグ２３３ｙにより、現在がデモ演出中であるか否かを容易に判別することができる。

【２３７２】
確定表示フラグ２３３ｚは、確定表示演出の実行中であるか否かを示すフラグである。ここで、確定表示演出とは、変動パターン後に停止図柄を所定期間（例えば、１秒）停止表示（確定表示）する演出を示す。この確定表示フラグ２３３ｚがオンであれば、確定表示演出中であることを意味し、オフであれば、確定表示演出中でないことを意味する。確定表示フラグ２３３ｚは、表示設定処理（図１９６参照）の中で、確定表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定した場合にオンに設定され（図１９６の

Ｓ７２１４）、確定表示データテーブル以外の他の表示データテーブルが表示データテーブルバッファ２３３ｄに対して設定された場合にオフに設定される（図１９１（ａ）のＳ６５０５、図１９２（ａ）のＳ６７０５、図１９２（ｂ）のＳ６８０５、図１９３のＳ６９０５参照）。この確定表示フラグ２３３ｚにより、現在が確定表示演出中であるか否かを容易に判別することができる。

【２３７３】

＜第１制御例における主制御装置により実行される制御処理について＞

次に、図１５６から図１７２のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２０１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理と、定期的に（本制御例では２ｍ秒間隔で）起動されるタイマ割込処理と、ＮＭＩ端子への停電信号ＳＧ１の入力により起動されるＮＭＩ割込処理とがあり、説明の便宜上、はじめにタイマ割込処理とＮＭＩ割込処理とを説明し、その後、立ち上げ処理とメイン処理とを説明する。

【２３７４】

本第１制御例では、上述した通り、第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）と、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）と、を共に記憶している状態において、第２特別図柄の抽選を優先的に実行するように構成している。また、大当たり遊技が実行されている間に、可変入賞装置６５内に配設された特定領域（Ｖゲート）６５Ｖに球を通過させることにより、大当たり遊技の終了後に特別図柄の高確率状態が設定されるように構成している。さらに、遊技者に有利な遊技状態である確変状態を終了させるための終了条件として、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に成立する終了条件以外に、特別図柄抽選が所定回数（例えば、５０回）実行された場合に成立する終了条件を設けるように構成している。

【２３７５】

図１５６は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。タイマ割込処理は、例えば２ミリ秒毎に実行される定期処理である。タイマ割込処理では、まず各種入賞スイッチの読み込み処理を実行する（Ｓ１０１）。即ち、主制御装置１１０に接続されている各種スイッチの状態を読み込むと共に、当該スイッチの状態を判定して検出情報（入賞検知情報）を保存する。

【２３７６】

次に、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を実行する（Ｓ１０２）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。同様に、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９）に達した際、０にクリアし、その第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値をＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【２３７７】

更に、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、第２当たり乱数カウンタＣ４の更新を実行する（Ｓ１０３）。具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、第２当たり乱数カウンタＣ４をそれぞれ１加算すると共に、それらのカウンタ値が最大値（本制御例ではそれぞれ、９９９，９９，９９９）に達した際、それぞれ０にクリアする。そして、各カウンタＣ１，Ｃ２，Ｃ４の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【２３７８】

次に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて表示を行うための処理であると共に、第３図柄表示装置８１による第３図柄の変動パターンなどを設定する特別図柄変動処理を実行する（Ｓ１０４）。その後、第１入球口６４への球の入球（始動入賞）や第２入球口６４０への球の入球（始動入賞）に伴う始動入賞処理を実行する（Ｓ１０５）。尚、特別図柄変動処理、始動入賞処理の詳細は、図１５７～図１６２を参照して後述する。

【２３７９】
始動入賞処理を実行した後は、第２図柄表示装置において表示を行うための処理である普通図柄変動処理を実行し（Ｓ１０６）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過に伴うスルーゲート通過処理を実行する（Ｓ１０７）。尚、普通図柄変動処理、及び、スルーゲート通過処理の詳細は、図１６３および図１６４を参照して後述する。スルーゲート通過処理を実行した後は、次いで、発射制御処理を実行し（Ｓ１０８）、更に、定期的に実行すべきその他の処理を実行して（Ｓ１０９）、タイマ割込処理を終了する。なお、発射制御処理は、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、且つ、発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂが操作されていないことを条件に、球の発射のオン／オフを決定する処理である。主制御装置１１０は、球の発射がオンである場合に、発射制御装置１１２に対して球の発射指示をする。
【２３８０】
次に、図１５７を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である特別図柄変動処理（Ｓ１０４）を説明する。図１５７は、この特別図柄変動処理（Ｓ１０４）を示すフローチャートである。特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）は、特別図柄を、取得した各カウンタ値に基づいて、各種判定（当否判定）や決定を行い、所定の制御によりその決定された変動表示態様で、第１図柄表示装置３７に変動表示を可能に制御したり、第３図柄表示装置８１にて第３図柄、第４図柄の変動表示演出を実行させるための各種コマンドを設定したり、判定結果（当否判定結果）を示す表示態様で停止表示させるための制御が実行される。以下、特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）について説明する。
【２３８１】
この特別図柄変動処理（Ｓ１０４）では、まず、今現在が、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であるかを判別する（Ｓ２０１）。具体的には、大当たり中フラグ２０３ｋがオンであるかを判別する。判別の結果、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であれば（Ｓ２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。
【２３８２】
Ｓ２０１の処理において、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）ではないと判別した場合は（Ｓ２０１：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であるか否かを判定し（Ｓ２０２）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中でなければ（Ｓ２０２：Ｎｏ）、即ち、新たな特別図柄抽選（変動）を実行可能な状態であれば、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（第１特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ１）と、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（第２特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ２）を取得する（Ｓ２０３）。次に、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０よりも大きいかを判別する（Ｓ２０４）。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０でなければ（Ｓ２０４：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を１減算し（Ｓ２０５）、演算により変更された第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｓ２０６）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに格納する。
【２３８３】
Ｓ２０６の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されたデータをシフトする（Ｓ２０７）。Ｓ２０７の処理では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリア～保留第４エリアに格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、保留第１エリア→実行エリア、保留第２エリア→保留第１エリア、保留第３エリア→保留第２エリア、保

留第４エリア→保留第３エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトし、Ｓ２０８の処理へ移行する。

【２３８４】

一方、Ｓ２０４の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０である場合は（Ｓ２０４：Ｎｏ）、Ｓ２０３の処理で取得した第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０よりも大きいかを判別する（Ｓ２１０）。

【２３８５】

Ｓ２１０の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｓ２１０：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ２１０の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０でない（即ち、１以上である）と判別した場合は（Ｓ２１０：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１減算し（Ｓ２１１）、演算により変更された第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｓ２１２）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに格納する。

【２３８６】

Ｓ２１２の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されたデータを、Ｓ２０７の処理と同一の手法によりシフトして（Ｓ２１３）、処理をＳ２０８の処理へと移行する。Ｓ２０７、またはＳ２１３の処理後に実行されるＳ２０８の処理では、特別図柄大当たり判定処理を実行し（Ｓ２０８）、次いで、特別図柄変動パターン選択処理を実行し（Ｓ２０９）、その後、本処理を終了する。この特別図柄大当たり判定処理（Ｓ２０８）および特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）の詳細については図１５８および図１５９を参照して後述する。

【２３８７】

Ｓ２０２の処理において、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であれば（Ｓ２０２：Ｙｅｓ）、次いで、変動時間が経過したか否かを判別する（Ｓ２１４）。変動時間が経過していなければ（Ｓ２１４：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｓ２１５）、その後、本処理を終了する。Ｓ２１５の処理では、特別図柄の変動時間を計測するための変動時間カウンタの値が更新され、更新後の変動時間カウンタの値に対応させて第１図柄表示装置８１の表示が更新される。この変動時間カウンタには、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）にて選択された変動パターンに対応する変動時間を示す値が、特別図柄変動の開始タイミングでセットされ、その後、Ｓ２１５の処理を実行する毎に更新（減算）される。一方、Ｓ２１４の処理で変動時間が経過したと判別された場合は（Ｓ２１４：Ｙｅｓ）、即ち、Ｓ２１５の処理で更新された変動時間カウンタの値が０である場合は、第１図柄表示装置３７の停止図柄に対応した表示態様を設定する（Ｓ２１６）。停止図柄の設定は、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）によって予め行われる。この特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）が実行されると、実行エリアに格納された各種カウンタの値に基づいて、特別図柄の抽選が行われる。より具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値に応じて特別図柄の大当たりか否かが決定されると共に、特別図柄の大当たりである場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて大当たりＡ～Ｅのいずれかが決定される。

【２３８８】

尚、本制御例では、大当たりＡになる場合には、第１図柄表示装置３７において青色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＢになる場合には赤色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＣとなる場合には、緑色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＤとなる場合には、青色のＬＥＤと緑色のＬＥＤを点灯させる。また、外れである場合には赤色のＬＥＤと緑色のＬＥＤとを点灯

させる。なお、各ＬＥＤの表示は、次の変動表示が開始される場合に点灯が解除されるが、変動の停止後数秒間のみ点灯させるものとしても良い。

【２３８９】

Ｓ２１６の処理が終了した後は、第１図柄表示装置３７において実行中の変動表示が開始されたときに、特別図柄変動開始処理によって行われた特別図柄の抽選結果（今回の抽選結果）が、特別図柄の大当たりであるかを判定する（Ｓ２１７）。今回の抽選結果が特別図柄の大当たりであれば（Ｓ２１７：Ｙｅｓ）、大当たり開始フラグ２０３ｊをオンに設定し（Ｓ２１８）、時短カウンタ２０３ｈ、確変カウンタ２０３ｉの値をクリア（０に設定）し（Ｓ２１９）、Ｓ２２０の処理へと移行する。Ｓ２１８の処理によって、大当たり開始フラグ２０３ｊがオンに設定されると、主制御装置１１０にて実行されるメイン処理の大当たり制御処理（図１１３のＳ１８０４参照）が実行された場合に、Ｓ１９０１：Ｙｅｓへ分岐して、オープニングコマンドが設定される（Ｓ１９０２）。その結果、第３図柄表示装置８１において、大当たり演出が開始される。

【２３９０】

Ｓ２１７の処理において、今回の抽選結果が特別図柄の外れであれば（Ｓ２１７：Ｎｏ）、Ｓ２１８，Ｓ２１９の処理をスキップして、更新処理を実行し（Ｓ２２１）、その後、Ｓ２２０へと移行する。

【２３９１】

ここで設定された状態コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理（Ｓ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、状態コマンドを受信すると、状態コマンドに含まれる遊技状態を取得する。これにより、音声ランプ制御装置１１３の把握する状態を、実際のパチンコ機１０の状態に一致させることができる。Ｓ２２０の処理では、特図確定コマンドを設定し（Ｓ２２０）、本処理を終了する。

【２３９２】

次に、図１５８を参照して、特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４）の一処理である特別図柄大当たり判定処理（Ｓ２０８）について説明する。図１５８は、この特別図柄大当たり判定処理（Ｓ２０８）を示すフローチャートである。

【２３９３】

特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８）では、まず、特別図柄保留球実行エリア（図示せず）に記憶されている各カウンタ値を取得する（Ｓ３０１）。そして、第１当たり乱数テーブル２０２ａ（図１４０（ａ）参照）に基づいて、Ｓ３０１の処理で取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が大当たり判定値と一致するか否かを判定し、その抽選結果（判定結果）を取得する（Ｓ３０２）。

【２３９４】

Ｓ３０２の処理を終えると、次に、今回の抽選結果が大当たりであるかを判別し（Ｓ３０３）、大当たりであると判別した場合は（Ｓ３０３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｓ３０４）、取得した当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｓ３０５）、本処理を終了する。一方、Ｓ３０３の処理において今回の抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ３０３：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７に特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｓ３０６）、本処理を終了する。

【２３９５】

次に、図１５９を参照して、特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４）の一処理である特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）について説明する。図１５９はこの特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２０９）を示すフローチャートである。

【２３９６】

特別図柄変動パターン選択処理（図１５９のＳ２０９）では、まず、特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８）において、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か

、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ４０１）。
【２３９７】
Ｓ４０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｓ４０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別選択テーブル２０２ｄ（図１４１（ａ）～（ｃ）参照）と、取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値とに基づいて、大当たり種別を決定する（Ｓ４０２）。次いで、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得し（Ｓ４０３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に対応する現在の遊技状態（通常状態、潜伏状態、確変状態）に対応した変動パターン選択テーブル２０２ｄを読み出す（Ｓ４０４）。
【２３９８】
そして、Ｓ４０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｓ４０４の処理で読み出した変動パターン選択テーブル２０２ｄとに基づいて変動パターンを選択し（Ｓ４０５）、Ｓ４０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｓ４０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理（図１６７のＳ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【２３９９】
次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｓ４０７）、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｓ４０８）、選択した変動パターンの変動時間を示す値を特図変動時間カウンタ（図示せず）の値にセットし（Ｓ４０９）、本処理を終了する。Ｓ４０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理（図１６７）の外部出力処理（図１６７のＳ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【２４００】
一方、Ｓ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｓ４０１：Ｎｏ）、Ｓ４０２の処理をスキップしてＳ４０３の処理へ移行する。
【２４０１】
次に、図１６０を参照して、特別図柄変動処理（図１５のＳ１０４参照）にて実行される更新処理（Ｓ２２１）の内容について説明をする。図１６０は、更新処理（Ｓ２２１）の内容を示したフローチャートである。この更新処理（Ｓ２２１）では、特別図柄変動の変動時間が経過した場合（変動停止時）に実行される処理であって、確変状態が継続して設定される期間の残期間を更新したり、時短状態が継続して設定される期間の残期間を更新したりするための処理が実行される。
【２４０２】
更新処理（Ｓ２２１）が実行されると、まず確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きい、即ち、現在が特別図柄の高確率状態であるかを判別し（Ｓ５０１）、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ５０１：Ｙｅｓ）、確変カウンタ２０３ｉの値を１減算（更新）し（Ｓ５０２）、次いで、更新後の確変カウンタ２０３ｉの値が０であるかを判別し（Ｓ５０３）、０であると判別した場合は（Ｓ５０３：Ｙｅｓ）、遊技状態格納エリア２０３ｇに時短状態を設定し（Ｓ５０４）、Ｓ５０５の処理へ移行する。また、Ｓ５０１の処理において確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合（Ｓ５０１：Ｎｏ）は、現在が特別図柄の高確率状態では無いため、確変カウンタ２０３ｉの値を更新するための上述したＳ５０２～Ｓ５０４の処理をスキップしてＳ５０５の処理へ移行する。
【２４０３】
また、Ｓ５０３の処理において、確変カウンタ２０３ｉの値が０では無い、即ち、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きく、確変状態（特別図柄の高確率状態）が継続する

場合も（Ｓ５０３：Ｎｏ）、Ｓ５０４の処理をスキップしてＳ５０５の処理へ移行する。
【２４０４】
Ｓ５０５の処理では、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいかを判別し、０よりも大きいと判別した場合、即ち、現在が普通図柄の高確率状態である場合は（Ｓ５０５：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｓ５０６）、減算後の時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別する（Ｓ５０７）。Ｓ５０７の処理において時短カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は、遊技状態格納エリア２０３ｇに通常状態を設定し（Ｓ５０８）、確変カウンタ２０３ｉの値、時短カウンタ２０３ｈの値、現在の遊技状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ５０９）、本処理を終了する。また、Ｓ５０５の処理において時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きく無い（０である）と判別した場合（Ｓ５０５：Ｎｏ）、或いは、Ｓ５０７の処理において時短カウンタ２０３ｈの値が０では無いと判別した場合（Ｓ５０７：Ｎｏ）は、そのままＳ５０９の処理へ移行する。
【２４０５】
次に、図１６１を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理（図１５６）の一処理である始動入賞処理（Ｓ１０５）を説明する。図１６１は、この始動入賞処理（Ｓ１０５）を示すフローチャートである。始動入賞処理（図１６１のＳ１０５）は、第１入球口６４、第２入球口６４０のいずれかにに球が入球（始動入賞）したか判別して、始動入賞した場合には、保留上限個数（第１入球口６４、第２入球口６４０に最大４個）まで、取得した各カウンタ値を第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにそれぞれ格納する処理である。
【２４０６】
また、保留球に基づいて取得された各カウンタ値が、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにそれぞれ記憶されると、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂのそれぞれに記憶されている各カウンタ値に基づいて、事前に当否判定結果や選択される変動パターン等を予測する処理（所謂、先読み処理）が実行される。以下、始動入賞処理（図１６１のＳ１０５）について説明する。
【２４０７】
始動入賞処理（図１６１のＳ１０５）では、まず、球が第１始動口である第１入球口６４に入球（始動入賞）したか否かを判別する（Ｓ６０１）。ここでは、第１入球口６４内に設けられた球検知スイッチ（図示せず）への球の入球を検出する。球が第１入球口６４に入球した（始動入賞があった）と判別する（Ｓ６０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を取得し（Ｓ６０２）、その取得した値（Ｎ１）が４未満であるかを判別する（Ｓ６０３）。
【２４０８】
つまり、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値である４個よりも少ない状態であるか（即ち、保留個数が上限値まで記憶されていないか）が判別される。取得した値（Ｎ１）が４未満であると判別した場合には（Ｓ６０３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１加算し（Ｓ６０４）、音声ランプ制御装置１１３に対して第１入球口６４の保留個数（第１特別図柄の抽選権利保留数）を通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｓ６０５）。
【２４０９】
そして、各種カウンタ値（第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１）の各値をカウンタ用バッファから読み出し（取得して）、ＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球実行エリアの対応する保留球数の記憶エリアに各々保留（格納）し（Ｓ６０６）、Ｓ６０７の処理へ移行する。
【２４１０】
また、Ｓ６０１の処理で球が第１入球口６４に入球していないと判別した場合（Ｓ６０１：Ｎｏ）、或いは、Ｓ６０３の処理で、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値であると判別した場合（Ｓ６０３：Ｎｏ）は、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３

ｄの値（Ｎ１）を加算する処理をスキップして、Ｓ６０７の処理へ移行する。
【２４１１】
次に、Ｓ６０７～Ｓ６１２までの各処理については、Ｓ６０１～Ｓ６０６までの各処理で実行された第１始動口（第１入球口６４）への球の入賞に対して行われた処理と同様の処理が、第２入球口６４０に対して実行される処理であることが相違するのみであるので、詳細な説明は省略する。
【２４１２】
Ｓ６０１～Ｓ６１２までの各処理を実行後、先読み処理を実行し（Ｓ６１３）、本処理を終了する。
【２４１３】
この先読み処理（Ｓ６１３）については、図１６２を参照して後述するが、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された各カウンタ値から当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理が実行される。なお、本制御例では、新たに記憶された各カウンタ値に基づいて当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、新たな始動入賞があった場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶（格納）されている全ての保留記憶に対して当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しても良い。
【２４１４】
また、本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな情報（入賞情報）を格納する場合、即ち、特別図柄の抽選権利を新たに獲得した場合に、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別する構成としているが、これに限ること無く、例えば、球がスルーゲート６７を通過した場合や、普通図柄の抽選結果に応じて、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別するように構成しても良い。
【２４１５】
上述した通り、本制御例では、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）または第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を加算した場合に、加算された入賞に関する情報（入賞情報）に基づいた先読み処理（Ｓ６１３）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、Ｓ６０３の処理で第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が上限数（４）であると判別した場合（Ｓ６０３：Ｎｏ）、即ち、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に先読み処理（Ｓ６１３）を実行することができるように構成しても良い。これにより、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態においても、先読み処理を実行させるために遊技者に継続して遊技を行わせることができる。また、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に付加価値を付与することができるため、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球が入球した際に遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【２４１６】
次に、図１６２を参照して、始動入賞処理（図１６１のＳ１０５）の一処理である先読み処理（Ｓ６１３）について説明する。図１０７は、この先読み処理（Ｓ６１３）を示すフローチャートである。
【２４１７】
先読み処理（図１６２のＳ６１３）では、まず、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された格納エリアから各種カウンタ値である、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１の各値を読み出す（Ｓ７０１）。そして、読み出したデータを先読み保留記憶エリアの空いている記憶エリアのうち、入賞順序がもっとも小さいエリアに記憶する（Ｓ７０２）。

【２４１８】
次に、新たに先読み保留記憶エリアに記憶された各カウンタ値に基づいて、当否判定結果を判定する。なお、ここでは、特別図柄の低確率状態である場合の当否判定と、特別図柄の高確率状態である場合の当否判定との両方が判別される。これは、新たな保留記憶が発生したタイミング（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留（入賞情報）が記憶されたタイミング）と、今回新たに保留された入賞情報に基づいて大当たり判定が実行されるタイミングとにはタイムラグが発生することから、今回新たに保留された入賞情報に基づく大当たり判定が実行されるタイミングで設定されている遊技状態（特別図柄の確率状態）を予測することが困難だからである。
【２４１９】
次に、当否判別結果が大当たりであるか否かを判別する（Ｓ７０３）。判別結果が大当たりであると判別した場合は（Ｓ７０３：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、大当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ７０４）、その後、本処理を終了する。
【２４２０】
一方、Ｓ７０３の処理における判別結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ７０３：Ｎｏ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、外れ当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ７０５）、その後、本処理を終了する。
【２４２１】
ここで、Ｓ７０４、或いはＳ７０５の処理で設定された入賞コマンドは、上述した当否判定結果を示すための情報（当否判定結果に基づいて異なる意味を持たせる情報）に加え、共通情報として、Ｓ７０１の処理によって読み出された各種カウンタ値の値を示すための情報も含んで設定される。そして、本処理で設定された入賞コマンドが主制御装置１１０のメイン処理（図１６７参照）にて実行される外部出力処理（Ｓ１８０１）によって音声ランプ制御装置１１３に対して出力される。
【２４２２】
音声ランプ制御装置１１３側では、入賞コマンドを受信した場合に、入賞コマンドに含まれる各種情報に基づいて、保留球の表示態様を可変させて（例えば、保留球の色を通常とは異なる色で可変して）表示させたり、変動開始前に予告図柄等を表示して遊技者に当否判定結果を示唆したりする演出（先読み演出）を実行できる。
【２４２３】
なお、本制御例では、特別図柄の確率状態が１つ（特別図柄の低確率状態）しかないため、入賞コマンドに設定する情報（当否判定結果）を遊技状態に関わらず設定することができるが、例えば、特別図柄の確率状態を複数（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）有する遊技機においては、特別図柄の高確率状態の場合の当否判定結果と、特別図柄の低確率状態の場合の当否判定結果とを判別し、各判別の結果に基づいた入賞コマンドを設定するように構成しても良いし、特別図柄が高確率状態であっても、低確率状態であっても大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）を規定し、その判定値を読み出した場合のみ特別図柄の大当たりを示す入賞コマンドを設定するように構成しても良い。
【２４２４】
このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側に対して、特定の大当たりであることを事前判別した場合のみ大当たりを示す入賞コマンドを出力することになるため、先読み演出が実行されない特別図柄変動に対して、大当たり当選の期待感を持たせることができる。
【２４２５】
さらに、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている保留記憶（入賞情報）に基づく特別図柄の抽選が行われる際の遊技状態を正確に判別して、その遊技状態に基づいて当否判定を実行するように

構成してもよい。この場合には、変動パターンの選択を保留球数によって可変するのではなく、変動開始時の保留球数に関わらず一定の変動パターンを選択するように構成することで判別が可能となる。先読みを実行する場合に、その保留球が変動開始されるまでの変動順序を保留記憶されている情報に基づいて判別することで変動開始時の遊技状態を判別できる。

【２４２６】

また、本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留記憶（入賞情報）が格納（記憶）された場合に、その入賞情報に基づく先読み処理を実行し、その先読み処理の中で当否判定を事前に予測する構成を用いているが、これに限ること無く、主制御装置１１０の先読み処理において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たに格納（記憶）された入賞情報（保留記憶）の内容（各カウンタ値）を示す情報を入賞コマンドとして設定し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した入賞コマンドに含まれる情報に基づいて当否判定結果を予測するように構成しても良い。

【２４２７】

このように構成することで、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、音声ランプ制御装置１１３側で、先読み演出を実行するか否かを判別する処理を実行し、先読み演出を実行すると判別した場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる情報を解析（当否判定結果の予測）するように構成すると良い。これにより、先読み演出を実行しない場合には、具体的な先読み処理（当否判定結果の予測）が実行されないため、パチンコ機１０にて無駄な制御が実行されることを抑制することができる。また、無題に実行された先読み処理の結果を遊技者に不正に取得されてしまう不具合を抑制することができる。

【２４２８】

次に、図１６３を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である普通図柄変動処理（Ｓ１０６）について説明する。図１６３は、この普通図柄変動処理（Ｓ１０６）を示すフローチャートである。普通図柄変動処理（Ｓ１０６）は、第２図柄（普通図柄）の変動表示や、電動役物６４０ａの開放時間などを制御するための処理であり、普通図柄変動（抽選）に関連する様々な処理（普通図柄変動を実行する処理、実行する普通図柄変動の変動態様（変動時間）を設定する処理、実行中の普通図柄変動を更新する処理、普通図柄変動を停止させる処理、普通図柄抽選の結果が当たりである場合に実行される普図当たり遊技の遊技内容を決定する処理）が実行される処理である。

【２４２９】

この普通図柄変動処理（図１６３のＳ１０６）では、まず、今現在が、普通図柄（第２図柄）の当たり中であるかを判別する（Ｓ８０１）。普通図柄（第２図柄）の当たり中としては、第２図柄表示装置８３において当たりを示す表示がなされてから（当たり図柄が停止表示してから）電動役物６４０ａの開閉制御がなされている最中まで（当たり遊技が終了するまで）が含まれる。普通図柄（第２図柄）の当たり中であると判別した場合には（Ｓ８０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【２４３０】

一方、普通図柄（第２図柄）の当たり中でないと判別した場合には（Ｓ８０１：Ｎｏ）、第２図柄表示装置８３の普通図柄が変動表示中であるかを判別する（Ｓ８０２）。普通図柄の変動表示中では無い、即ち、現在が新たな普通図柄変動（抽選）を実行可能な状態であると判別した場合は（Ｓ８０２：Ｎｏ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を取得し（Ｓ８０３）、その値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ８０４）。

【２４３１】

Ｓ８０４の処理で普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が０であると判別された場合には（Ｓ８０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ８０４：Ｙｅｓ）、普通図柄

保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を１減算する（Ｓ８０５）。つまり、Ｓ８０４の処理において新たな普通図柄変動を実行するための条件（普通図柄変動に用いるための入賞情報が保留記憶されていること）が成立していると判別された場合は、保留記憶されている入賞情報を用いて普通図柄変動を実行するため、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値を１減算する。

【２４３２】

次に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納されたデータをシフトする（Ｓ８０６）。Ｓ８０６の処理では、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃの普通図柄保留１～普通図柄保留４に格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、普通図柄保留１→実行エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトする。データをシフトした後は、普通図柄保留球実行エリア（図示せず）に格納されている第２当たり乱数カウンタＣ４の値を取得する（Ｓ８０７）。

【２４３３】

次に、時短カウンタ２０３ｈがオンであるか否か、即ち、現在が普通図柄の高確率状態（時短中）であるか否かを判別し（Ｓ８０８）、時短カウンタ２０３ｈがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ８０８：Ｙｅｓ）、高確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図１４０（ｂ）参照）の当たり判定値に基づいて当否判定結果（抽選結果）を取得し（Ｓ８０９）、Ｓ８１１の処理へ移行する。一方、時短カウンタ２０３ｈがオフであると判別した場合は（Ｓ８０８：Ｎｏ）、低確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図１４０（ｂ）参照）の当たり判定値に基づいて、当否判定結果が取得され（Ｓ８１０）、Ｓ８１１の処理へ移行する。

【２４３４】

Ｓ８１１の処理では、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりであるかを判別し（Ｓ８１１）、当たりであると判別した場合は（Ｓ８１１：Ｙｅｓ）、当たり時の表示態様である「○」の表示態様を設定し（Ｓ８１２）、Ｓ８１４の処理へ移行する。一方、Ｓ８１１の処理で、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｓ８１１：Ｎｏ）、外れ時の表示態様である「×」の表示態様を設定し（Ｓ８１３）、Ｓ８１４の処理へ移行する。

【２４３５】

Ｓ８１４の処理では、現在の遊技状態が時短中（普通図柄の高確率状態）であるかを時短カウンタ２０３ｈの値を参照して判別し（Ｓ８１４）、時短中（普通図柄の高確率状態）であると判別した場合は（Ｓ８１４：Ｙｅｓ）、普通図柄の変動時間を３秒に設定し（Ｓ８１５）、本処理を終了する。一方、Ｓ８１４の処理で時短中（普通図柄の高確率状態）では無いと判別した場合は（Ｓ８１４：Ｎｏ）、普通図柄の変動時間を１０秒に設定し（Ｓ８１６）、本処理を終了する。

【２４３６】

なお、本制御例では、上述した通り、設定される普通図柄の確率状態に応じて、普通図柄の変動時間を異ならせているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態に関わらず、常に変動時間として３秒が設定されるように構成してもよい。このように構成することで、遊技状態が切り替わるタイミングにおいて、具体的には、一般的に長い変動時間が設定され易い通常状態（普通図柄の低確率状態）から、短い変動時間が設定され易い時短状態（普通図柄の高確率状態）へと遊技状態が切り替わる大当たり遊技終了のタイミングにおいて、長い変動時間の普通図柄変動が実行されており、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態中の普通図柄抽選が実行されない事態が発生することを抑制することができる。

【２４３７】

なお、普通図柄の変動時間の設定方法については、本制御例の構成に限ること無く、遊技状態に応じて変動時間を異ならせたり、普図保留球数に応じて変動時間を異ならせたり、取得した所定値に応じて変動時間を異ならせたりしても良く、例えば、本制御例では、普通図柄変動の変動時間を、設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状

態）と、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（普図保留数）と、に基づいて可変設定するように構成しても良い。さらに、設定された普通図柄の変動時間によって、第２入球口６４０への球の入球のし易さが異なるように構成しても良い。

【２４３８】

このように、設定される普通図柄の変動時間の長さに応じて、第２入球口６４０への球の入球具合を可変させるように構成することで、第２入球口６４０への球の入球のし易さを遊技状態に応じて容易に可変することができるため、様々な遊技性を創り出すことができる。

【２４３９】

一方、Ｓ８０２の処理において、普通図柄（第２図柄）が変動表示中ではないと判別した場合には（Ｓ８０２：Ｎｏ）、第２図柄表示装置８３において実行している普通図柄の変動時間が経過したかを判別し（Ｓ８１７）、変動時間が経過していないと判別した場合は（Ｓ８１７：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【２４４０】

一方、Ｓ８１７の処理において変動時間が経過していると判別した場合は（Ｓ８１７：Ｙｅｓ）、次に、第２図柄表示装置８３の停止表示を設定する（Ｓ８１８）。Ｓ８１８の処理では、今回の普通図柄の抽選が当たりである場合には、第２図柄表示装置８３には「○」図柄が停止表示（点灯表示）されるように設定する。一方、普通図柄の抽選が外れである場合には、第２図柄表示装置８３には「×」図柄が停止表示（点灯表示）される。つまり、上述したＳ８１２、或いはＳ８１３の処理で設定された表示態様を停止表示させるための設定が行われる。

【２４４１】

Ｓ８１８の処理により、停止表示を設定すると、第２図柄表示装置８３における変動表示が終了し、Ｓ８１２の処理、或いはＳ８１３の処理で設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）が第２図柄表示装置８３に停止表示（点灯表示）される。

【２４４２】

次に、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであるかを判別する（Ｓ８１９）。普通図柄の抽選結果が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｓ８１９：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであると判別した場合には（Ｓ８１９：Ｙｅｓ）、現在の遊技状態が時短中（普通図柄の高確率状態）であるかを時短カウンタ２０３ｈの値を参照して判別し（Ｓ８２０）、時短中（普通図柄の高確率状態）であると判別した場合は（Ｓ８２０：Ｙｅｓ）、普図当たり遊技の遊技内容として、電動役物６４０ａの開放時間が１秒間×２回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｓ８２３）、Ｓ８２２の処理へ移行する。

【２４４３】

一方、Ｓ８２０の処理で時短中（普通図柄の高確率状態）では無いと判別した場合は（Ｓ８２０：Ｎｏ）、普図当たり遊技の遊技内容として、電動役物６４０ａの開放時間が５秒間×１回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｓ８２１）、Ｓ８２２の処理へ移行する。

【２４４４】

Ｓ８２２の処理では、Ｓ８２１、或いはＳ８２３の処理において設定されたシナリオに基づいて電動役物６４０ａの開閉制御開始を設定し（Ｓ８２２）、本処理を終了する。

【２４４５】

次に、本制御例における電動役物６４０ａの開閉制御態様（開放パターン）について説明をする。本制御例のパチンコ機１０では、普通図柄の当否判定を行うタイミング（Ｓ８０８～Ｓ８１１の処理を行うタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミング（Ｓ８１７の処理で変動時間が経過したと判別したタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。

【２４４６】
即ち、本制御例では、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）と、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）とが独立して実行されるように構成されており、さらに、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果に基づいて普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）が可変するように構成している。よって、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）が実行されている期間中に並行して実行される特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果によっては、普通図柄の当否判定を行うタイミングでは普通図柄の高確率状態が設定され、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでは普通図柄の低確率状態が設定される場合が発生する。
【２４４７】
このような状況において、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングにて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定してしまうと、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で、電動役物６４０ａがロング開放（普通図柄の高確率状態中が設定されている場合に実行される開放パターン）してしまうという問題があった。
【２４４８】
そこで、本制御例では、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）を判別し、その判別結果に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。これにより、設定されている遊技状態に応じた開放パターンで電動役物６４０ａを開放させることができる。
【２４４９】
なお、本制御例では、普通図柄の当否判定を行うタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングで普通図柄の高確率状態が設定されており、且つ普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでも普通図柄の高確率状態が設定されている場合にのみ、電動役物６４０ａがロング開放するように構成しても良いし、普通図柄の当否判定を行うタイミングで設定されている遊技状態に基づいて、電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しても良い。
【２４５０】
また、詳細な説明は省略しているが、普通図柄変動処理（図１０８のＳ１０６参照）において決定された各種情報（普通図柄抽選の結果、普通図柄変動の変動時間、普図当たりシナリオ等）は、それぞれ各種情報の内容を示すコマンドが設定され、主制御装置１１０のメイン処理（図１６７参照）の外部出力処理（図１６７のＳ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【２４５１】
次に、図１６４を参照してスルーゲート通過処理（Ｓ１０７）の内容について説明をする。図１６４は、スルーゲート通過処理（Ｓ１６４参照）の内容を示したフローチャートである。このスルーゲート通過処理（Ｓ１０７）は、タイマ割込処理（図１５６参照）の中で実行され、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過の有無を判断し、球の通過があった場合に、第２当たり乱数カウンタＣ４が示す値を取得し実行エリアに格納するための処理である。また、取得した普通当たり乱数カウンタＣ５の値を用いて、実際の当否判定が実行されるよりも前に（普通図柄変動処理（図１６３のＳ１０６参照）にて当否判定（Ｓ８１１参照）が実行されるよりも前に）、抽選結果（当否判定結果）を事前に取得するための処理である。
【２４５２】
スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）では、まず、球が普通図柄始動口（スルーゲート）

６７を通過したか否かを判定する（Ｓ９０１）。ここでは、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過を３回のタイマ割込処理にわたって検出する。そして、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したと判定されると（Ｓ９０１：Ｙｅｓ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を取得し（Ｓ９０２）、次いで、その取得した普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないか（普通図柄の保留球数が上限値に到達していないか）を判別する（Ｓ９０３）。

【２４５３】

Ｓ９０３の処理で、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きい（上限値の４である）と判別した場合は（Ｓ９０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないと判別した場合は（Ｓ９０３：Ｙｅｓ）、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）に１を加算し（Ｓ９０４）、第２当たり乱数カウンタＣ４の値を普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納し（Ｓ９０５）、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図１４０（ｂ）参照）に基づいて抽選結果を事前に取得し（Ｓ９０６）、普通当たり判定結果（Ｓ９０６の処理にて取得した事前判別結果）を含む普図用入賞情報コマンドを設定し（Ｓ９０７）、本処理を終了する。

【２４５４】

Ｓ９０７の処理で設定された普図用入賞情報コマンドは、上述した各制御例にて設定される特別図柄の事前判別結果を示す入賞情報コマンドと同一の処理によって音声ランプ制御装置１１３へと通知される。このように構成することで、保留記憶されている普通図柄の抽選権利に対応する普通図柄抽選の抽選結果を事前に判別し、その事前判別結果に基づいた演出を実行することが可能となる。

【２４５５】

具体的には、チャンスゾーンが設定されている状態において、即ち、通常状態中に普図当たり遊技が実行されたことに基づいて第２特別図柄抽選が実行されている状態において受信した普図用入賞情報コマンドに普通図柄の当たり当選を示す情報が含まれている場合には、次に普図当たり遊技が実行されるまでチャンスゾーンを継続させる演出を実行することができる。この場合、次に普図当たり遊技が実行されるまでの間に、第２特別図柄抽選が全て終了し、第１特別図柄抽選が実行される場合であっても、その第１特別図柄抽選に対応して実行される変動演出の演出態様として、第１特別図柄抽選に対応した演出態様（例えば、図１２２（ｂ）に示した水平方向に第３図柄を変動させる演出態様）では無く、第２特別図柄抽選に対応した演出態様（例えば、図１２４（ｂ）に示した垂直方向に第３図柄を変動させる演出態様）が設定されるように構成すると良い。このように構成することで、通常状態において所定期間内に複数回の普図当たり遊技が実行される場合には、チャンスゾーンを長期間設定することができ演出効果を高めることができる。

【２４５６】

また、チャンスゾーンが設定されてから所定回数の第２特別図柄抽選が実行されたにも関わらず、チャンスゾーンが終了しない場合には、間もなく次の普図当たり遊技が実行されることを遊技者が把握することができるため、チャンスゾーン中に実行される第２特別図柄抽選の回数に対して遊技者に興味を持たせることができる。加えて、本制御例では、チャンスゾーン中に実行される第２特別図柄抽選に対応した変動演出として、第３図柄を複数回仮停止させる疑似変動演出を実行するように構成している。つまり、遊技者に対して第２特別図柄抽選の実行回数を分かり難くすることができる。よって、チャンスゾーンがいつ終了するのか、或いは、チャンスゾーンが延長されている期間であるか否かを遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。

【２４５７】

次に、図１６５を参照して、ＮＭＩ割込処理について説明をする。図１６５は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるＮＭＩ割込処理を示すフローチャートである。ＮＭＩ割込処理は、停電の発生等によるパチンコ機１０の電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される処理である。このＮＭＩ割込処理により、電源断

の発生情報がＲＡＭ２０３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子に出力される。すると、ＭＰＵ２０１は、実行中の制御を中断してＮＭＩ割込処理を開始し、電源断の発生情報の設定として、電源断の発生情報をＲＡＭ２０３に記憶し（Ｓ１６０１）、ＮＭＩ割込処理を終了する。

【２４５８】

なお、上記のＮＭＩ割込処理は、払出発射制御装置１１１でも同様に実行され、かかるＮＭＩ割込処理により、電源断の発生情報がＲＡＭ２１３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から払出制御装置１１１内のＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子に出力され、ＭＰＵ２１１は実行中の制御を中断して、ＮＭＩ割込処理を開始するのである。

【２４５９】

次に、図１６６を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理について説明する。図１６６は、この立ち上げ処理を示すフローチャートである。

【２４６０】

この立ち上げ処理は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理（図１６６）では、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｓ１７０１）。例えば、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（本制御例では１秒）を実行する（Ｓ１７０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｓ１７０３）。

【２４６１】

その後は、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１２１参照）がオンされているか否かを判別し（Ｓ１７０４）、オンされていれば（Ｓ１７０４：Ｙｅｓ）、処理をＳ１７１２へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１７０５）、記憶されていなければ（Ｓ１７０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＳ１７１２へ移行する。

【２４６２】

ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｓ１７０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｓ１７０７：Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＳ１７１２へ移行する。なお、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。

【２４６３】

Ｓ１７１２の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｓ１７１２）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１３、Ｓ１７１４）を実行する。

【２４６４】

上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、

ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１３、Ｓ１７１４）を実行する。
【２４６５】
　また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１３、Ｓ１７１４）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｓ１７１３、Ｓ１７１４）では、ＲＡＭ２０３の使用領域を０クリアし（Ｓ１７１３）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｓ１７１４）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、Ｓ１７１０の処理へ移行する。
【２４６６】
　一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｓ１７０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータを保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｓ１７０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｓ１７０９）、Ｓ１７１０の処理へ移行する。払出制御装置１１１は、この払出復帰コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３に記憶されたデータを保持したまま、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。
【２４６７】
　次に、音声ランプ制御装置１１３に対して、各種演出を実行することを許可する演出許可コマンドを出力する（Ｓ１７１０）。その後、割込みを許可し（Ｓ１７１１）、後述するメイン処理に移行する。
【２４６８】
　次に、図１６７を参照して、上記した立ち上げ処理後に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理について説明する。図１６７は、このメイン処理を示すフローチャートである。このメイン処理では、大別して、カウンタの更新処理と、電源断時処理とが実行される。
【２４６９】
　メイン処理（図１６７参照）においては、まず、タイマ割込処理（図１５６参照）の中でＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶されたコマンド等の出力データをサブ側の各制御装置（周辺制御装置）に送信する外部出力処理を実行する（Ｓ１８０１）。具体的には、タイマ割込処理（図１５６参照）におけるスイッチ読み込み処理で検出した入賞検知情報の有無を判別し、入賞検知情報があれば払出制御装置１１１に対して獲得球数に対応する賞球コマンドを送信する。また、特別図柄変動処理（図１５７参照）や始動入賞処理（図１６１参照）で設定された保留球数コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信する。更に、この外部出力処理（図１６７のＳ１８０１）により、主制御装置１１０の各種処理にて設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信し、第３図柄表示装置８１にて表示される各種演出（変動演出、装飾演出等）を設定するための情報とする。また、大当たり制御処理（図１５８参照）で設定されたオープニングコマンド、ラウンド数コマンド、エンディングコマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。さらに、その他制御処理において設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。加えて、球の発射を行う場合には、発射制御装置１１２へ球発射信号を送信する。
【２４７０】
　次に、変動種別カウンタＣＳ１の値を更新する（Ｓ１８０２）。具体的には、変動種別カウンタＣＳ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では１９８）に達した際、０にクリアする。そして、変動種別カウンタＣＳ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。
【２４７１】
　変動種別カウンタＣＳ１の更新が終わると、払出制御装置１１１より受信した賞球計数信号や払出異常信号を読み込み（Ｓ１８０３）、次いで、特別図柄の大当たり状態である

場合に、音声ランプ制御装置１１３にて大当たり演出を実行させるためのコマンドの設定や、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａを開放動作するための大当たり制御処理を実行する（Ｓ１８０４）。

【２４７２】

大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の詳細な内容については、図１６８～図１７２を参照して後述するが、この大当たり制御処理（Ｓ１８０４）では、大当たり状態のラウンド毎に特定入賞口６５ａ（以下、入賞口等と称す）を開放し、入賞口等（特定入賞口６５ａ）の最大開放時間が経過したか、又は入賞口等（特定入賞口６５ａ）に球が規定数入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると入賞口等（特定入賞口６５ａ）を閉鎖する。この入賞口等（特定入賞口６５ａ）の開放と閉鎖とを所定ラウンド数繰り返し実行する。尚、本制御例では、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）をメイン処理において実行しているが、タイマ割込処理において実行しても良い。

【２４７３】

次いで、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開閉制御を行う電動役物開閉処理を実行する（Ｓ１８０６）。電動役物開閉処理では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８２２の処理によって電動役物の開閉制御開始が設定された場合に、電動役物の開閉制御を開始する。尚、この電動役物の開閉制御は、普通図柄変動処理におけるＳ８２１の処理、Ｓ８２３の処理、によって設定された期間が終了するまで継続される。

【２４７４】

次に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示を更新する第１図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１８０７）。第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理（図１５９のＳ２０９）によって変動パターンが設定された場合に、その変動パターンに応じた変動表示を、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて開始する。本制御例では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７ＢのＬＥＤの内、変動が開始されてから変動時間が経過するまでは、例えば、現在点灯しているＬＥＤが赤であれば、その赤のＬＥＤを消灯すると共に緑のＬＥＤを点灯させ、緑のＬＥＤが点灯していれば、その緑のＬＥＤを消灯すると共に青のＬＥＤを点灯させ、青のＬＥＤが点灯していれば、その青のＬＥＤを消灯すると共に赤のＬＥＤを点灯させる。

【２４７５】

なお、メイン処理は４ミリ秒毎に実行されるが、そのメイン処理の実行毎にＬＥＤの点灯色を変更すると、ＬＥＤの点灯色の変化を遊技者が確認することができない。そこで、遊技者がＬＥＤの点灯色の変化を確認することができるように、メイン処理が実行される毎にカウンタ（図示せず）を１カウントし、そのカウンタが１００に達した場合に、ＬＥＤの点灯色の変更を行う。即ち、０．４ｓ毎にＬＥＤの点灯色の変更を行う。尚、カウンタの値は、ＬＥＤの点灯色が変更されたら、０にリセットされる。

【２４７６】

また、第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理（図１５９のＳ２０９）によって設定された変動パターンに対応する変動時間が終了した場合に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて実行されている変動表示を終了し、特別図柄変動パターン選択処理（図１５９のＳ２０９参照）のＳ４０７で設定された表示態様で、停止図柄を第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂに停止表示（点灯表示）する。

【２４７７】

さらに、本制御例では、一方の特別図柄が大当たりを示す表示態様（大当たり図柄）で停止表示された場合に、他方の特別図柄を、外れを示す表示態様（外れ図柄）で停止表示させるように構成しており、そのための停止表示も実行される。

【２４７８】

次に、第２図柄表示装置の表示を更新する第２図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１８０８）。第２図柄表示更新処理では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１５の処理、Ｓ８１６の処理によって第２図柄の変動時間が設定された場合に、第２図柄表示装置において変動表示を開始する。これにより、第２図柄表示装置では、第２図柄としての「○

」の図柄と「×」の図柄とを交互に点灯させる変動表示が行われる。また、第２図柄表示更新処理（Ｓ１８０８）では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１８の処理によって第２図柄表示装置の停止表示が設定された場合に、第２図柄表示装置において実行されている変動表示を終了し、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１２の処理またはＳ８１３の処理によって設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）を第２図柄表示装置に停止表示（点灯表示）する。

【２４７９】

その後は、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１８０９）、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ１８０９：Ｎｏ）、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１は出力されておらず、電源は遮断されていない。よって、かかる場合には、次のメイン処理の実行タイミングに至ったか否か、即ち今回のメイン処理の開始から所定時間（本制御例では４ｍ秒）が経過したか否かを判別し（Ｓ１８１０）、既に所定時間が経過していれば（Ｓ１８１０：Ｙｅｓ）、処理をＳ１８０１へ移行し、上述したＳ１８０１以降の各処理を繰り返し実行する。

【２４８０】

一方、今回のメイン処理の開始から未だ所定時間が経過していなければ（Ｓ１８１０：Ｎｏ）、所定時間に至るまで間、即ち、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間内において、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２及び変動種別カウンタＣＳ１の更新を繰り返し実行する（Ｓ１８１１，Ｓ１８１２）。

【２４８１】

まず、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２との更新を実行する（Ｓ１８１１）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９、９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域にそれぞれ格納する。次に、変動種別カウンタＣＳ１の更新を、Ｓ１８１１の処理と同一の方法によって実行する（Ｓ１８１２）。なお、このＳ１８１２の処理では、変動種別カウンタＣＳ１の値と同様に普図変動種別カウンタＣＳ２の値も更新される。

【２４８２】

ここで、Ｓ１８０１～Ｓ１８０８の各処理の実行時間は遊技の状態に応じて変化するため、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間は一定でなく変動する。故に、かかる残余時間を使用して第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を繰り返し実行することにより、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２（即ち、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値）をランダムに更新することができ、同様に変動種別カウンタＣＳ１、普図変動種別カウンタＣＳ２の値についてもランダムに更新することができる。よって、特別図柄や普通図柄の抽選に関する判定値を更新するための処理内容を把握され難くすることができ、当たりに対応する判定値が取得されるタイミングを狙った不正遊技が実行されることを抑制することができる。

【２４８３】

また、Ｓ１８０９の処理において、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１８０９：Ｙｅｓ）、停電の発生または電源のオフにより電源が遮断され、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が出力された結果、図１６５のＮＭＩ割込処理が実行されたということなので、Ｓ１８１３以降の電源遮断時の処理が実行される。まず、各割込処理の発生を禁止し（Ｓ１８１３）、電源が遮断されたことを示す電源断コマンドを他の制御装置（払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３等の周辺制御装置）に対して送信する（Ｓ１８１４）。そして、ＲＡＭ判定値を算出して、その値を保存し（Ｓ１８１５）、ＲＡＭ２０３のアクセスを禁止して（Ｓ１８１６）、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。ここで、ＲＡＭ判定値は、例えば、ＲＡＭ

２０３のバックアップされるスタックエリア及び作業エリアにおけるチェックサム値である。

【２４８４】

なお、Ｓ１８０９の処理は、Ｓ１８０１～Ｓ１８０８で行われる遊技の状態変化に対応した一連の処理の終了時、又は、残余時間内に行われるＳ１８１１とＳ１８１２の処理の１サイクルの終了時となるタイミングで実行されている。よって、主制御装置１１０のメイン処理において、各設定が終わったタイミングで電源断の発生情報を確認しているので、電源遮断の状態から復帰する場合には、立ち上げ処理の終了後、処理をＳ１８０１の処理から開始することができる。即ち、立ち上げ処理において初期化された場合と同様に、処理をＳ１８０１の処理から開始することができる。よって、電源遮断時の処理において、ＭＰＵ２０１が使用している各レジスタの内容をスタックエリアへ退避したり、スタックポインタの値を保存しなくても、初期設定の処理（図１６６，Ｓ１７０１）において、スタックポインタが所定値（初期値）に設定されることで、Ｓ１８０１の処理から開始することができる。従って、主制御装置１１０の制御負担を軽減することができると共に、主制御装置１１０が誤動作したり暴走したりすることなく正確な制御を行うことができる。

【２４８５】

次に、図１６８を参照して、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の内容について説明をする。図１６８は、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の内容を示したフローチャートである。この大当たり制御処理（Ｓ１８０４）は、主制御装置１１０のメイン処理（図１６７参照）において、実行される処理であって、パチンコ機１０が特別図柄の大当たり状態である場合に、大当たりに応じた各種演出の実行や、特定入賞口６５ａを開放又は閉鎖するための処理である。

【２４８６】

大当たり制御処理（Ｓ１８０４）では、まず、大当たり開始フラグ２０３ｊがオンであるか否かを判別する（Ｓ１９０１）。大当たり開始フラグ２０３ｊがオンであると判別した場合は（Ｓ１９０１：Ｙｅｓ）、大当たり用オープニングコマンドを設定し（Ｓ１９０２）、大当たり開始フラグ２０３ｊをオフ、大当たり中フラグ２０３ｋをオンにそれぞれ設定し（Ｓ１９０３）、本処理を終了する。一方、Ｓ１９０１の処理において、大当たり開始フラグ２０３ｊがオフであると判別した場合は（Ｓ１９０１：Ｎｏ）、次に、現在が特別図柄の大当たり中であるか（即ち、大当たり中フラグ２０３ｋがオンであるか）否かを判別する（Ｓ１９０４）。Ｓ１９０４の処理において、現在が大当たり中ではない（大当たり中フラグ２０３ｋがオフである）と判別した場合は（Ｓ１９０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ１９０４の処理において、現在が大当たり中である（大当たり中フラグ２０３ｋがオンである）と判別した場合は（Ｓ１９０４：Ｙｅｓ）、次いで、新たなラウンドの開始タイミングであるか否かを判別する（Ｓ１９０５）。

【２４８７】

Ｓ１９０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングであると判別した場合は（Ｓ１９０５：Ｙｅｓ）、ラウンド数に応じた特定入賞口６５ａの開閉動作を設定するための大当たり動作設定処理を実行し（Ｓ１９０６）、本処理を終了する。この大当たり動作設定処理の詳細については図１１４を参照して後述する。

【２４８８】

一方、Ｓ１９０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングではないと判別した場合は（Ｓ１９０５：Ｎｏ）、次に、現在実行されているラウンドのエンディング期間の開始タイミングであるかを判別する（Ｓ１９０７）。ここで、本制御例では、大当たりの最終ラウンドが終了した場合に、エンディング期間の開始タイミングであると判別する。エンディング期間の開始タイミングであると判定した場合は（Ｓ１９０７：Ｙｅｓ）、エンディングコマンドを設定し（Ｓ１９０８）、本処理を終了する。ここで設定されたエンディングコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制

御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、エンディングコマンドを受信すると、表示用エンディングコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４によって表示用エンディングコマンドが受信されると、第３図柄表示装置８１において大当たりの終了を示すエンディング演出が開始される。

【２４８９】

本第１制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、大当たり種別選択テーブル２０２ｄ（図１４１（ａ）参照）を用いて大当たり種別を決定する処理を実行し（図１５９のＳ４０２）、決定された大当たり種別に対応するエンディング期間が設定されるように構成している。よって、Ｓ１９０８の処理では、大当たり種別に対応して決定されたエンディング期間の長さに対応した表示用エンディングコマンドが設定される。なお、本第１制御例のように、大当たり当選時にエンディング期間の長さを設定するのでは無く、大当たり遊技中におけるＶ入賞の有無（特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）への球の通過の有無）に応じて大当たり遊技のエンディング期間の長さを決定しても良い。

【２４９０】

具体的には、大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）において、エンディング期間の開始タイミング（最終ラウンドの終了タイミング）と判別した場合に、今回の大当たり遊技中にＶ入賞したか（確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定されているか）を判別し、確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定されていると判別した場合は、確変状態が設定されることを示す１７秒間のエンディング表示（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）を行うために大当たり遊技のエンディング期間として１７秒を設定し、確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定されていないと判別した場合は、時短状態が設定されることを示す１５秒間のエンディング表示（図１２７（ａ），（ｃ）参照）を行うために大当たり遊技のエンディング期間として１５秒を設定するように構成しても良い。

【２４９１】

このように構成することで、大当たり遊技中の遊技結果に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせることが可能なパチンコ機１０において、実際に設定される遊技状態に応じたエンディング期間を設定することができる。

【２４９２】

また、このように大当たり遊技中の遊技結果に応じて大当たり遊技のエンディング期間を異ならせる構成を用いる場合には、大当たり遊技中の遊技結果が確定してからエンディング期間が開始するまでの間の何れかのタイミングにて大当たり遊技のエンディング期間を決定するように構成すれば良く、例えば、本第１制御例のパチンコ機１０であれば、１ラウンド目のラウンド遊技が終了した後に（球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと入賞させることが可能なラウンド遊技が終了した後に）、Ｖ入賞の有無を判別し、その判別結果に基づいて、２ラウンド目～最終ラウンド目のラウンド遊技が実行されている期間中に大当たり遊技のエンディング期間を設定するように構成しても良い。

【２４９３】

さらに、上述した例では、大当たり遊技中におけるＶ入賞の有無に基づいてエンディング期間の長さを設定するように構成しているが、これに替えて、例えば、本第１制御例のように当選した大当たり種別に基づいて、予め大当たり遊技のエンディング期間を設定しておき、具体的には、確変大当たりに当選した場合には１７秒、通常大当たりに当選した場合には１５秒のエンディング期間を予め設定しておき、大当たり遊技中の遊技結果に基づいてエンディング期間の長さを可変させる必要が生じた場合、即ち、確変大当たり遊技が実行されたにも関わらず、大当たり遊技中にＶ入賞させることができなかった場合に、予め設定されているエンディング期間の長さを可変させるように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技中にエンディング期間の長さを設定する頻度を抑制することができる。

【２４９４】

一方、Ｓ１９０７の処理において、現在実行されているエンディング期間の開始タイミングではないと判別した場合は（Ｓ１９０７：Ｎｏ）、次に、大当たりの終了タイミング

であるかを判別する（Ｓ１９０９）。ここで、大当たりの終了タイミングとは、エンディング演出の実行期間が経過した場合を示す。Ｓ１９０９の処理において、大当たりの終了タイミングであると判別した場合は（Ｓ１９０９：Ｙｅｓ）、大当たり終了後の遊技状態を設定するための大当たり終了処理を実行し（Ｓ１９１０）、本処理を終了する。この大当たり終了処理の詳細については図１７０を参照して後述する。一方、Ｓ１９０９の処理において、大当たり終了のタイミングではないと判別した場合には（Ｓ１９０９：Ｎｏ）、特定入賞口６５ａへの入賞に応じた制御を行うための入賞処理を実行し（Ｓ１９１１）、特定入賞口６５ａに対して入球した球が正常に排出されたかを判別するための異常処理を実行し（Ｓ１９１２）、その後、本処理を終了する。入賞処理および異常処理の詳細については図１７１および図１７２を参照して後述する。

【２４９５】

次に、図１６９のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり動作設定処理（Ｓ１９０６）の詳細について説明する。図１６９は、この大当たり動作設定処理（Ｓ１９０６）を示すフローチャートである。この大当たり動作設定処理（Ｓ１９０６）は、大当たり制御処理の中で実行され、上述した通り、ラウンド数に応じた特定入賞口６５ａの開閉動作を設定するための処理である。

【２４９６】

この大当たり動作設定処理（図１６９参照）が開始されると、まず、１ラウンドの開始タイミングであるかを判別する（Ｓ２００１）。Ｓ２００１の処理において、１ラウンドの開始タイミングであると判別した場合は（Ｓ２００１：Ｙｅｓ）、切替弁６５ｙ（Ｖソレノイド２０９ａ）の動作シナリオの開始を設定して（Ｓ２００２）、大当たり種別に対応する特定入賞口６５ａの開放パターンを設定する（Ｓ２００３）。

【２４９７】

ここで、詳細な説明は省略するが、本制御例では、１回の大当たり遊技中に複数回実行されるラウンド遊技のうち、特定のラウンド数（１ラウンド目）に実行されるラウンド遊技の内容を、大当たり種別に応じて異ならせており、具体的には、特定の大当たり種別（確変大当たり）の場合のみ、１ラウンド目のラウンド遊技として、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下させ易くなるように切替弁６５ｙを動作させるラウンド遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、長期間実行される大当たり遊技のうち、特定の期間のみ球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下させる確率を高めることができるため、遊技者が集中力を切らすこと無く大当たり遊技中の遊技を実行することができる。

【２４９８】

なお、本制御例では、確変大当たり遊技における１ラウンド目が実行される場合に、第３図柄表示装置８１の表示面にて遊技者に対して特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させるチャンス期間であることを示すための案内報知態様として「Ｖを狙え」の文字が表示されるＶ報知演出を実行可能に構成している。これにより、遊技者に対して、長期間実行される大当たり遊技のうち、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させ易い特定の期間を分かり易く報知することができる。さらに、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を流下したことを検知手段が検知したことに基づいて、第３図柄表示装置８１の表示面に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を流下したことを案内するための案内報知態様として「ＶＧＥＴ」の文字が表示されるように構成している。これにより、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される条件を満たしたことを分かり易く報知することができる。

【２４９９】

なお、上述した案内報知の報知態様を、条件成立に応じて可変させても良く、例えば、特定ゲートへと球を流下させ易い特定期間の経過時間、或いは残時間に基づいて「Ｖを狙え」の文字色を可変させたり、表示領域の大きさを可変させたり、より強調した内容の文字（例えば「早くＶを狙うんだ」）に可変させたりすると良い。これにより、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させ易い状況にて遊技者が球を発射しない事態が発生する

ことを抑制することができる。
【２５００】
　また、本制御例では、可変入賞装置６５へと入賞した球の流路を切り替えるためのＶ役物として切替弁６５ｙを設け、その切替弁６５ｙの動作パターンを可変させることで球が特定ゲートへと流下しやすい期間とし難い期間とを設定可能としているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技開始時から共通の動作パターンで切替弁６５ｙを動作させるように構成し、特定入賞口６５ａが開放状態となるタイミングを大当たり種別によって可変させることにより、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下しやすい期間とし難い期間とを設定可能に構成しても良い。これにより、切替弁６５ｙの動作パターンを共通化することができるため、切替弁６５ｙの動作内容を把握されたとしても今回の大当たり遊技が球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易い大当たり遊技であるか否かを遊技者に把握され難くすることができる。また、切替弁６５ｙの動作内容を統一化することができるため、Ｖソレノイド２０９ａに対する負荷を軽減することができ、Ｖ役物（切替弁６５ｙ）の故障を抑制することができる。
【２５０１】
　一方、Ｓ２００１の処理において、今回のラウンドが１ラウンド目ではないと判別した場合は（Ｓ２００１：Ｎｏ）、Ｓ２００２，Ｓ２００３の処理をスキップして、通常の特定入賞口６５ａの開放を設定し（Ｓ２００４）、処理をＳ２００５へと移行する。Ｓ２００５の処理では、新たに開始するラウンド数を示すラウンド数コマンドを設定して（Ｓ２００５）、本処理を終了する。
【２５０２】
　ここで設定されたラウンド数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理（Ｓ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、ラウンド数コマンドを受信すると、新たに開始されたラウンド数を第３図柄表示装置８１において表示するための表示用ラウンド数コマンドを設定する。これにより、大当たりのラウンド数に合わせて第３図柄表示装置８１の表示内容を更新することができる。
【２５０３】
　この大当たり動作設定処理（図１６９参照）を実行することにより、大当たりの各ラウンドにおいて特定入賞口６５ａを開放することができると共に、１ラウンド目に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を球が通過可能に設定することができる。これにより、大当たりＡ，Ｃ～Ｅでは、１ラウンド目に遊技者が球を発射するだけで、ほぼ確実に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過するので、大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定することができる。
【２５０４】
　次に、図１７０のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり終了処理（Ｓ１９１０）の詳細について説明する。図１７０は、この大当たり終了処理（Ｓ１９１０）を示すフローチャートである。この大当たり終了処理（Ｓ１９１０）は、大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）の中で実行され、上述した通り、大当たり終了後の遊技状態を設定するための処理である。
【２５０５】
　この大当たり終了処理（Ｓ１９１０）では、まず、確変設定フラグ２０３ｍがオンであるかを判別する（Ｓ２１０１）。Ｓ２１０１の処理において、確変設定フラグ２０３ｍがオンであると判別した場合は（Ｓ２１０１：Ｙｅｓ）、大当たり中にＶゲート（特定領域）６５ｖを球が通過したことを意味するので、確変カウンタ２０３ｉの値に５０を設定し（Ｓ２１０２）、Ｓ２１０３の処理へ移行する。一方、Ｓ２１０１の処理において、確変設定フラグ２０３ｍがオフであれば（Ｓ２１０１：Ｎｏ）、Ｓ２１０２の処理をスキップして、Ｓ２１０３の処理へ移行する。
【２５０６】

Ｓ２１０３の処理では、時短カウンタ２０３ｈの値に１００を設定し（Ｓ２１０３）、次いで、時短カウンタ２０３ｈの値、確変カウンタ２０３ｉの値に基づいて、状態コマンドを設定する（Ｓ２１０４）。ここで設定された状態コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理（Ｓ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、状態コマンドを受信すると、その状態コマンドで通知された遊技状態に合わせて従状態設定エリア２２３ｇを更新する。これにより、音声ランプ制御装置１１３において、パチンコ機１０の遊技状態を正確に把握することができる。次いで、大当たり中フラグ２０３ｋおよび確変設定フラグ２０３ｍを共にオフに設定して（Ｓ２１０５）、本処理を終了する。

【２５０７】

この大当たり終了処理（図１７０参照）を実行することにより、大当たり遊技中にＶゲート（特定領域）６５ｖを球が通過したか否かに応じて大当たり終了後の遊技状態を正確に設定することができる。

【２５０８】

次に、図１７１のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される入賞処理（Ｓ１９１１）の詳細について説明する。図１７１は、この入賞処理（Ｓ１９１１）を示すフローチャートである。この入賞処理（Ｓ１９１１）は、大当たり制御処理（図１６８参照）の中で実行され、上述した通り、特定入賞口６５ａへの入賞に応じた制御を行うための処理である。

【２５０９】

この入賞処理（Ｓ１９１１）では、まず、現在がラウンド有効期間であるかを判別する（Ｓ２２０１）。ここで、ラウンド有効期間とは、ラウンド遊技が設定されている期間、即ち、特定入賞口６５ａの開放状態からインターバル期間が終了するまでの期間である。Ｓ２２０１の処理において、ラウンド有効期間でなければ（Ｓ２２０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【２５１０】

一方、Ｓ２２０１の処理において、現在がラウンド有効期間であると判別した場合は（Ｓ２２０１：Ｙｅｓ）、次いで、特定入賞口６５ａへの入賞を検出したかを判別し（Ｓ２２０２）、特定入賞口６５ａに対する入賞を検出していれば（Ｓ２２０２：Ｙｅｓ）、入賞個数カウンタ２０３ｏの値に１を加算して更新し（Ｓ２２０３）、特定入賞口６５ａへの入賞を検出したことを示す入賞コマンドを設定して（Ｓ２２０４）、Ｓ２２０５の処理へ移行する。これに対し、Ｓ２２０２の処理において、特定入賞口６５ａへの入賞を検出していなければ（Ｓ２２０２：Ｎｏ）、Ｓ２２０３，Ｓ２２０４の処理をスキップし、Ｓ２２０５の処理へ移行する。

【２５１１】

Ｓ２２０５の処理では、入賞個数カウンタ２０３ｏの値が１０以上であるかを判別し（Ｓ２２０５）、入賞個数カウンタ２０３ｏの値が１０以上であれば（Ｓ２２０５：Ｙｅｓ）、Ｓ２２０７の処理へ移行する。一方、Ｓ２２０５の処理において、入賞個数カウンタ２０３ｏの値が９以下であると判別した場合は（Ｓ２２０５：Ｎｏ）、ラウンド時間（３０秒）が経過したかを判別し（Ｓ２２０６）、ラウンド時間が経過していれば（Ｓ２２０６：Ｙｅｓ）、Ｓ２２０７の処理へと移行する。なお、このＳ２２０６の処理では、今回の大当たりの各ラウンド遊技の開始から３０秒間が経過した場合にラウンド時間が経過したと判別する。なお、本制御例では、大当たり種別、ラウンド数に関わらず同一のラウンド時間経過及び個数入賞によってラウンド遊技の終了条件が成立するように構成しているが、これに限ること無く、大当たり種別に応じてラウンド遊技の終了条件を異ならせても良いし、実行されるラウンド数によってラウンド遊技の終了条件を異ならせてもよい。

【２５１２】

Ｓ２２０７の処理では、特定入賞口６５ａの閉鎖を設定し（Ｓ２２０７）、特定入賞口６５ａの閉鎖が設定されたことを示す閉鎖コマンドを設定する（Ｓ２２０８）。次いで、

今回の特定入賞口６５ａの閉鎖が１ラウンドの終了に基づく閉鎖であるかを判別し（Ｓ２２０９）、１ラウンドの終了に基づく閉鎖であると判別した場合は（Ｓ２２０９：Ｙｅｓ）、Ｖソレノイド２０９ａをオフに設定して（Ｓ２２１０）、処理をＳ２２１１へと移行する。一方、Ｓ２２０９の処理において、今回の特定入賞口６５ａの閉鎖が１ラウンド以外のラウンドが終了したことによる閉鎖であると判別した場合は（Ｓ２２０９：Ｎｏ）、流路ソレノイド（確変ソレノイド）２６６５ｋがオンに設定されていないので、Ｓ２２１０の処理をスキップして、処理をＳ２２１２へと移行する。

【２５１３】

Ｓ２２１１の処理では、残球タイマフラグ２０３ｐ、確変有効フラグ２０３ｒ、ラウンド終了フラグ２０３をオンに設定し（Ｓ２２１１）、処理をＳ２２１２へと移行する。また、Ｓ２２０５の処理において入賞個数カウンタ２０３ｏの値が９以下と判別され（Ｓ２２０５：Ｎｏ）、且つ、Ｓ２２０６の処理においてラウンド時間が経過していないと判別された場合には（Ｓ２２０６：Ｎｏ）、Ｓ２２０７～Ｓ２２１１の処理をスキップして、処理をＳ２２１２へと移行する。

【２５１４】

Ｓ２２１２の処理では、ラウンド終了フラグ２０３がオンであるかを判定し（Ｓ２２１２）、ラウンド終了フラグ２０３がオフであれば（Ｓ２２１２：Ｎｏ）、Ｓ２２１３の処理へ移行する。一方、Ｓ２２１２の処理においてラウンド終了フラグ２０３がオンであると判定した場合は（Ｓ２２１２：Ｙｅｓ）、次いで、確変有効フラグ２０３ｒがオンであるかを判別する（Ｓ２２１７）。Ｓ２２１７の処理において、確変有効フラグ２０３ｒがオフであれば（Ｓ２２１７：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【２５１５】

一方、確変有効フラグ２０３ｒがオンであれば（Ｓ２２１７：Ｎｏ）、確変有効タイマ２０３ｓの値に１を加算し（Ｓ２２１８）、次いで、確変有効タイマ２０３ｓの値が上限値であるかを判別する（Ｓ２２１９）。そして、確変有効タイマ２０３ｓの値が上限値でなければ（Ｓ２２１９：Ｎｏ）、Ｓ２２１３の処理へ移行し、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）への球の通過を監視して確変設定フラグ２０３ｍを更新する処理を実行する。これにより、確変有効タイマ２０３ｓが上限値でないと、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を球が通過したか判別されるので、球はけの時間を考慮して確変状態を設定できる。また、有効と判別される時間に上限があるので、不正に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）に球を通過させて確変状態が付与されることを抑制できる。

【２５１６】

一方、確変有効タイマ２０３ｓの値が上限値であれば（Ｓ２２１９：Ｙｅｓ）、確変有効フラグ２０３ｒ、ラウンド終了フラグ２０３をオフに設定し（Ｓ２２２０）、確変有効タイマ２０３ｓの値をリセットして（Ｓ２２２１）、本処理を終了する。

【２５１７】

また、Ｓ２２１３の処理では、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過したか否かを判別し（Ｓ２２１３）、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過していなければ（Ｓ２２１３：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過していれば（Ｓ２２１３：Ｙｅｓ）、確変通過カウンタ２０３ｎの値に１を加算し（Ｓ２２１４）、確変設定フラグ２０３ｍをオンに設定し（Ｓ２２１５）、Ｖ入賞コマンドを設定し（Ｓ２２１６）、本処理を終了する。

【２５１８】

次に、図１７２のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される異常処理（Ｓ１９１２）を説明する。図１７２は、この異常処理（Ｓ１９１２）を示すフローチャートである。この異常処理（Ｓ１９１２）は、大当たり制御処理（図１６８参照）の中で実行される処理であり、上述した通り、特定入賞口６５ａに対して入球した球が正常に排出されたかを判別するための処理である。

【２５１９】

異常処理（Ｓ１９１２）では、まず、現在がラウンド有効期間であるかを判別し（Ｓ２

３０１）、ラウンド有効期間でなければ（Ｓ２３０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、ラウンド有効期間であると判別した場合は（Ｓ２３０１：Ｙｅｓ）、次いで、球が排出口６５ｈ１を通過したかを判別する（Ｓ２３０２）。このＳ２３０２の処理では、排出口６５ｈ１（図１２０（ｂ）参照）を通過した球を検知可能な球排出口スイッチ（図示せず）が球の通過を検知している否かで判別される。

【２５２０】

Ｓ２３０２の処理において、球が排出口６５ｈ１を通過したと判別した場合は（Ｓ２３０２：Ｙｅｓ）、排出個数カウンタ２０３ｔの値に１を加算し（Ｓ２３０３）、Ｓ２３０４の処理へ移行する。一方、Ｓ２３０２の処理において、球が排出口６５ｈ１を通過していなければ（Ｓ２３０２：Ｎｏ）、Ｓ２３０３の処理をスキップしＳ２３０４の処理へ移行する。

【２５２１】

Ｓ２３０４の処理では、残球タイマフラグ２０３ｐがオンであるかを判別する（Ｓ２３０４）。残球タイマフラグ２０３ｐがオフであると判別した場合は（Ｓ２３０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、残球タイマフラグ２０３ｐがオンであれば（Ｓ２３０４：Ｙｅｓ）、球はけ期間中であるので、残球タイマ２０３ｑの値に１を加算して更新する（Ｓ２３０５）。次に、残球タイマ２０３ｑの値が上限値であるかを判別し（Ｓ２３０６）、残球タイマ２０３ｑの値が上限値でなければ（Ｓ２３０６：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、残球タイマ２０３ｑの値が上限値であると判別した場合は（Ｓ２３０６：Ｙｅｓ）、次いで、排出個数（確変通過カウンタ２０３ｎの値と、排出個数カウンタ２０３ｔの値との合計値）が入賞個数（入賞個数カウンタ２０３ｏの値）と一致しているかを判別する（Ｓ２３０７）。

【２５２２】

Ｓ２３０７の処理において、排出個数と入賞個数とが一致していないと判別した場合は（Ｓ２３０７：Ｎｏ）、エラーコマンドを設定し（Ｓ２３０８）、Ｓ２３０９の処理へ移行する。エラーコマンドを音声ランプ制御装置１１３が受信することにより、エラー表示（例えば、入賞個数不一致エラーの文字を表示）がされ、ホールコンピュータに対して、エラー信号の出力がされる。よって、第４流路６５ｅ４（図１２０（ｂ）参照）が閉鎖されている期間（切替弁６５ｙが閉状態となる期間）に、不正に球を第４流路６５ｅへと流入させて特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過させる不正行為を抑制できる。

【２５２３】

一方、Ｓ２３０７の処理において、排出個数と入賞個数とが一致したと判別した場合は（Ｓ２３０７：Ｙｅｓ）、Ｓ２３０８の処理をスキップし、Ｓ２３０９の処理へと移行する。Ｓ２３０９の処理では、残球タイマフラグ２０３ｐをオフに設定し（Ｓ２３０９）、次いで、残球タイマ２０３ｑの値をリセットする（Ｓ２３１０）。その後、入賞個数カウンタ２０３ｏ、排出個数カウンタ２０３ｔ、確変通過カウンタ２０３ｎの値をそれぞれリセットし（Ｓ２３１１）、本処理を終了する。

【２５２４】

この異常処理（図１７２参照）を実行することにより、可変入賞装置６５の内部で球詰まりが生じる等により、特定入賞口６５ａへと入球した球が正常に排出されなくなってしまう不具合の発生を早期に検出し、報知することができる。

【２５２５】

＜第１制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞

次に、図１７３から図１８６を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２２１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理とがある。

【２５２６】

まず、図１７３を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される立ち上げ処理を説明する。図１７３は、この立ち上げ処理を示したフローチャートで

ある。この立ち上げ処理は電源投入時に起動される。
【２５２７】
立ち上げ処理が実行されると、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｓ４００１）。具体的には、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。その後、電源断処理中フラグがオンしているか否かによって、今回の立ち上げ処理が瞬間的な電圧降下（瞬間的な停電、所謂「瞬停」）によって、Ｓ４１１７の電源断処理（図１７４参照）の実行途中に開始されたものであるか否かが判断される（Ｓ４００２）。図１７４を参照して後述する通り、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から電源断の発生情報を受信すると（図１７４のＳ４１１４参照）、Ｓ４１１７の電源断処理を実行する。かかる電源断処理の実行前に、電源断処理中フラグがオンされ、該電源断処理の終了後に、電源断処理中フラグはオフされる。よって、Ｓ４１１７の電源断処理が実行途中であるか否かは、電源断処理中フラグの状態によって判断できる。
【２５２８】
電源断処理中フラグがオフであれば（Ｓ４００２：Ｎｏ）、今回の立ち上げ処理は、電源が完全に遮断された後に開始されたか、瞬間的な停電が生じた後であってＳ４１１７の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始されたものである。よって、これらの場合には、ＲＡＭ２２３のデータが破壊されているか否かを確認する（Ｓ４００３）。
【２５２９】
ＲＡＭ２２３のデータ破壊の確認は、次のように行われる。即ち、ＲＡＭ２２３の特定の領域には、Ｓ４００６の処理によって「５５ＡＡｈ」のキーワードとしてのデータが書き込まれている。よって、その特定領域に記憶されるデータをチェックし、該データが「５５ＡＡｈ」であればＲＡＭ２２３のデータ破壊は無く、逆に「５５ＡＡｈ」でなければＲＡＭ２２３のデータ破壊を確認することができる。ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されれば（Ｓ４００３：Ｙｅｓ）、Ｓ４００４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。一方、ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されなければ（Ｓ４００３：Ｎｏ）、Ｓ４００８へ移行する。
【２５３０】
なお、今回の立ち上げ処理が、電源が完全に遮断された後に開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードは記憶されていないので（電源断によってＲＡＭ２２３の記憶は喪失するから）、ＲＡＭ２２３のデータ破壊と判断され（Ｓ４００３：Ｙｅｓ）、Ｓ４００４へ移行する。一方、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＳ４１１７の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域には「５５ＡＡｈ」のキーワードが記憶されているので、ＲＡＭ２２３のデータは正常と判断されて（Ｓ４００３：Ｎｏ）、Ｓ４００８へ移行する。
【２５３１】
電源断処理中フラグがオンであれば（Ｓ４００２：Ｙｅｓ）、今回の立ち上げ処理は、瞬間的な停電が生じた後であって、Ｓ４１１７の電源断処理の実行途中に、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にリセットがかかって開始されたものである。かかる場合は電源断処理の実行途中なので、ＲＡＭ２２３の記憶状態は必ずしも正しくない。よって、かかる場合には制御を継続することはできないので、処理をＳ４００４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。
【２５３２】
Ｓ４００４の処理では、ＲＡＭ２２３の全範囲の記憶領域をチェックする（Ｓ４００４）。チェック方法としては、まず、１バイト毎に「０ＦＦｈ」を書き込み、それを１バイト毎に読み出して「０ＦＦｈ」であるか否かを確認し、「０ＦＦｈ」であれば正常と判別する。かかる１バイト毎の書き込み及び確認を、「０ＦＦｈ」に次いで、「５５ｈ」、「

０ＡＡｈ」、「００ｈ」の順に行う。このＲＡＭ２２３の読み書きチェックにより、ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域が０クリアされる。

【２５３３】

ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域について、読み書きチェックが正常と判別されれば（Ｓ４００５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードを書き込んで、ＲＡＭ破壊チェックデータを設定する（Ｓ４００６）。この特定領域に書き込まれた「５５ＡＡｈ」のキーワードを確認することにより、ＲＡＭ２２３にデータ破壊があるか否かがチェックされる。一方、ＲＡＭ２２３のいずれかの記憶領域で読み書きチェックの異常が検出されれば（Ｓ４００５：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の異常を報知して（Ｓ４００７）、電源が遮断されるまで無限ループする。ＲＡＭ２２３の異常は、表示ランプ３４により報知される。なお、音声出力装置２２６により音声を出力してＲＡＭ２２３の異常報知を行うようにしても良いし、表示制御装置１１４にエラーコマンドを送信して、第３図柄表示装置８１にエラーメッセージを表示させるようにしてもよい。

【２５３４】

Ｓ４００８の処理では、電源断フラグがオンされているか否かを判別する（Ｓ４００８）。電源断フラグはＳ４１１７の電源断処理の実行時にオンされる（図１１９のＳ４１１６参照）。つまり、電源断フラグは、Ｓ４１１７の電源断処理が実行される前にオンされるので、電源断フラグがオンされた状態でＳ４００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＳ４１１７の電源断処理の実行を完了した状態で開始された場合である。従って、かかる場合には（Ｓ４００８：Ｙｅｓ）、音声ランプ制御装置１１３の各処理を初期化するためにＲＡＭの作業エリアをクリアし（Ｓ４００９）、ＲＡＭ２２３の初期値を設定した後（Ｓ４０１０）、割込み許可を設定して（Ｓ４０１１）、メイン処理へ移行する。なお、ＲＡＭ２２３の作業エリアとしては、主制御装置１１０から受信したコマンド等を記憶する領域以外の領域をいう。

【２５３５】

一方、電源断フラグがオフされた状態でＳ４００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、例えば電源が完全に遮断された後に開始されたためにＳ４００４からＳ４００６の処理を経由してＳ４００８の処理へ至ったか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始された場合である。よって、かかる場合には（Ｓ４００８：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の作業領域のクリア処理であるＳ４００９をスキップして、処理をＳ４０１０へ移行し、ＲＡＭ２２３の初期値を設定する（Ｓ４０１０）。

【２５３６】

なお、Ｓ４００９のクリア処理をスキップするのは、Ｓ４００４からＳ４００６の処理を経由してＳ４００８の処理へ至った場合には、Ｓ４００４の処理によって、既にＲＡＭ２２３のすべての記憶領域はクリアされているし、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって、立ち上げ処理が開始された場合には、ＲＡＭ２２３の作業領域のデータをクリアせず保存しておくことにより、音声ランプ制御装置１１３の制御を継続できるからである。

【２５３７】

次に、図１７４を参照して、音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理後に音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理について説明する。図１７４は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理が実行されると、まず、該メイン処理が開始されてから、又は、前回Ｓ４１０１の処理が実行されてから１ミリ秒以上が経過したか否かが判別され（Ｓ４１０１）、１ミリ秒以上経過していなければ（Ｓ４１０１：Ｎｏ）、Ｓ４１０２～Ｓ４１１１の処理を行わずにＳ４１１２の処理へ移行する。Ｓ４１０１の処理で、１ミリ秒経過したか否かを判別するのは、Ｓ４１０２～Ｓ４１１１が表示（演出）に関する処理であり、短い周期（１ミリ秒以内）で編集する必要がないのに対して、Ｓ４１１２のコマンド判定処理やＳ４１１３の変動表示設定処理を短い周期で実行する方が好ましいからである。Ｓ４１１２の処理が短い周期で実行されること

により、主制御装置１１０から送信されるコマンドの受信洩れを防止でき、Ｓ４１１２の処理が短い周期で実行されることにより、コマンド判定処理によって受信されたコマンドに基づき、変動表示演出に関する設定を遅滞なく行うことができる。

【２５３８】

Ｓ４１０１の処理で１ミリ秒以上経過していれば（Ｓ４１０１：Ｙｅｓ）、まず、Ｓ４１０３～Ｓ４１１３の処理によって設定された、表示制御装置１１４に対する各種コマンドを、表示制御装置１１４に対して送信するコマンド出力処理を実行する（Ｓ４１０２）。次いで、表示ランプ３４の点灯態様の設定や後述するＳ４１０８の処理で編集されるランプの点灯態様となるよう各ランプの出力を設定し（Ｓ４１０３）、その後電源投入報知処理を実行する（Ｓ４１０４）。電源投入報知処理は、電源が投入された場合に所定の時間（例えば３０秒）電源が投入されたことを知らせる報知を行うものであり、その報知は音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７により行われる。また、第３図柄表示装置８１の画面において電源が供給されたことを報知するようコマンドを表示制御装置１１４に送信するものとしても良い。なお、電源投入時でなければ、電源投入報知処理による報知は行わずにＳ４１０５の処理へ移行する。

【２５３９】

Ｓ４１０５の処理では客待ち演出が実行され、その後、保留個数表示更新処理が実行される（Ｓ４１０６）。客待ち演出では、パチンコ機１０が遊技者により遊技されない時間が所定時間経過した場合に、第３図柄表示装置８１の表示をタイトル画面に切り替える設定などが行われ、その設定がコマンドとして表示制御装置１１４に送信される。

【２５４０】

その後、枠ボタン入力監視・演出処理が実行される（Ｓ４１０７）。この枠ボタン入力監視・演出処理では、演出効果を高めるために遊技者に操作される枠ボタン２２が押されたか否かの入力を監視し、枠ボタン２２の入力が確認された場合に対応した演出を行うよう設定する処理である。この処理では、枠ボタン２２の遊技者による操作が検出されると、表示制御装置１１４に対して枠ボタン２２が操作されたことを通知する枠ボタン操作コマンドを設定する。この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ４１０７）の詳細については、図１８６を参照して後述する。

【２５４１】

枠ボタン入力監視・演出処理が終わると、次いで、ランプ編集処理を実行し（Ｓ４１０８）、その後音編集・出力処理を実行する（Ｓ４１０９）。ランプ編集処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう電飾部２９～３３の点灯パターンなどが設定される。音編集・出力処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう音声出力装置２２６の出力パターンなどが設定され、その設定に応じて音声出力装置２２６から音が出力される。

【２５４２】

Ｓ４１０９の処理後、液晶演出実行管理処理を実行し（Ｓ４１１０）、次に、演出更新処理を実行する（Ｓ４１１１）。Ｓ４１１１の処理を実行後、Ｓ４１１２の処理へ移行する。液晶演出実行管理処理では、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間が設定される。この液晶演出実行監視処理で設定された時間に基づいてＳ４１０８のランプ編集処理が実行される。なお、Ｓ４１０９の音編集・出力処理も第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間で実行される。

【２５４３】

Ｓ４１１１の処理後、主制御装置１１０より受信したコマンドに応じた処理を行うコマンド判定処理（Ｓ４１１２）が実行され、Ｓ４１１３の処理へ移行する。このコマンド判定処理（Ｓ４１１２）の詳細については、図１７５を参照して後述する。

【２５４４】

Ｓ４１１３の処理では、第３図柄表示装置８１において変動表示演出を表示させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターン

コマンドを生成し、そのコマンドを表示制御装置１１４に送信するために設定する処理である変動表示設定処理を実行する。この変動表示設定処理の詳細については、図１８２を参照して後述する。

【２５４５】

Ｓ４１１３の処理が終わると、ワークＲＡＭ２３３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（Ｓ４１１４）。電源断の発生情報は、主制御装置１１０から電源断コマンドを受信した場合に記憶される。Ｓ４１１４の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ４１１４：Ｙｅｓ）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（Ｓ４１１６）、電源断処理を実行する（Ｓ４１１７）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（Ｓ４１１８）、その後、処理を、無限ループする。電源断処理では、割込処理の発生を禁止すると共に、各出力ポートをオフして、音声出力装置２２６およびランプ表示装置２２７からの出力をオフする。また、電源断の発生情報の記憶も消去する。

【２５４６】

一方、Ｓ４１１４の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ４１１４：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３に記憶されるキーワードに基づき、ＲＡＭ２２３が破壊されているか否かが判別され（Ｓ４１１５）、ＲＡＭ２２３が破壊されていなければ（Ｓ４１１５：Ｎｏ）、Ｓ４１０１の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、ＲＡＭ２２３が破壊されていれば（Ｓ４１１５：Ｙｅｓ）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。ここで、ＲＡＭ破壊と判別されて無限ループするとメイン処理が実行されないので、その後、第３図柄表示装置８１による表示が変化しない。よって、遊技者は、異常が発生したことを知ることができるので、ホールの店員などを呼びパチンコ機１０の修復などを頼むことができる。また、ＲＡＭ２２３が破壊されていると確認された場合に、音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７によりＲＡＭ破壊の報知を行うものとしても良い。

【２５４７】

次に、図１７５を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理（Ｓ４１１２）について説明する。図１７５は、このコマンド判定処理（Ｓ４１１２）を示したフローチャートである。このコマンド判定処理（Ｓ４１１２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）の中で実行され、上述したように、主制御装置１１０から受信したコマンドを判定する。以下、コマンド判定処理（Ｓ４１１２）の詳細を説明する。

【２５４８】

コマンド判定処理（Ｓ４１１２）が実行されるとまず、状態コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２０１）、受信したと判別した場合は（Ｓ４２０１：Ｙｅｓ）、状態コマンド受信処理を実行し（Ｓ４２０２）、本処理を終了する。この状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）は、現在の遊技状態を示す状態コマンドを受信し、その遊技状態に応じたモード演出態様を設定し、第３図柄表示装置８１の表示面にて対応する演出態様（例えば、背面画像）を表示するための表示用コマンドが設定される。例えば、確変状態を示す状態コマンドを受信した場合は、図１３１に示したスーパーチャンスモードに対応する表示用コマンドが設定され、時短状態を示す状態コマンドを受信した場合は、図１２８に示すチャンスモードに対応する表示用コマンドが設定される。なお、実際に設定される遊技状態と、実行されるモード演出における演出態様の切替制御の詳細については後述する。この状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）の詳細については図１７６を参照して後述する。

【２５４９】

Ｓ４２０１の処理において状態コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２０１：Ｎｏ）、次に、特図変動パターンコマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２０３）、受信したと判別した場合は（Ｓ４２０３：Ｙｅｓ）、受信した特図変動パターンコマンドに対応する特図変動開始フラグ２２３ｄをオンに設定し（Ｓ４２０４）、受信したコマンドから変動パターンコマンドを抽出する（Ｓ４２０５）。そして、本処理を終了する。

【２５５０】
Ｓ４２０３の処理において特図変動パターンコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２０３：Ｎｏ）、次に、特図停止種別コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２０６）、受信したと判別した場合は（Ｓ４２０６：Ｙｅｓ）、受信した特図停止種別コマンドに対応する停止種別選択フラグ２２３ｅ（第１特図停止種別フラグ２２３ｅ１、第２特図停止種別フラグ２２３ｅ２）をオンに設定し（Ｓ４２０７）、受信したコマンドから停止種別を抽出する（Ｓ４２０８）。そして、本処理を終了する。
【２５５１】
Ｓ４２０６の処理において特図停止種別コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２０６：Ｎｏ）、次に、主制御装置１１０より保留球数コマンドを受信したか判別する（Ｓ４２０９）。ここで、保留球数コマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４２０９：Ｙｅｓ）、受信した保留球数コマンドから保留球数を抽出し、対応する値を特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈに格納する（Ｓ４２１０）。具体的には、特別図柄の保留球数コマンドを受信した場合は、その保留球数コマンドに含まれる主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ，第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（即ち、特別図柄の変動表示の保留球数）を抽出し、その抽出したカウンタ値に合わせて、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられた特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を更新する。
【２５５２】
また、普通図柄の保留球数コマンドを受信した場合は、その保留球数コマンドに含まれる主制御装置１１０の普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（即ち、普通図柄の変動表示の保留球数）を抽出し、その抽出したカウンタ値に合わせて、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられた普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈの値を更新する。
【２５５３】
ここで、保留球数コマンドは、球が各種入球口（第１入球口６４、第２入球口６４０、スルーゲート６７）に入球（始動入賞）し、各種保留球数カウンタの値が加算された場合、或いは、各種変動開始処理を実行する際に、各種保留球数カウンタの値が減算されたときに主制御装置１１０から送信されるものであるので、始動入賞時や変動表示設定時毎に、Ｓ４２１０の処理によって、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈの値を、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ，第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値に合わせることができる。
【２５５４】
よって、ノイズなどの影響により、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３が有する特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値が、主制御装置１１０の各種保留球数カウンタ２０３ｄ，２０３ｅ，２０３ｄの値とずれてしまっても、始動入賞時、変動表示設定時、即ち、各種保留球数変更されることに基づいて保留球数コマンドが通知されれば、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を修正し、主制御装置１１０の各種保留球数カウンタ第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ，第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ，普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値に合わせることができる。
【２５５５】
また、Ｓ４２０９の処理において、保留球数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２０９：Ｎｏ）、主制御装置１１０より入賞コマンドを受信したか判別する（Ｓ４２１１）。Ｓ４２１１の処理において、入賞コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４２１１：Ｙｅｓ）、入賞コマンド処理を実行し（Ｓ４２１２）、本処理を終了する。この入賞コマンド処理（Ｓ４２１２）は、受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報に対応する図柄種別（特別図柄、普通図柄）を解析し、その解析結果に対応する記憶領域（音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３内の入賞情報格納エリア２２３ｂ）に格納（記憶）する処理と、受信した入賞情報に基づいた演出（先読み演出）を実行するための処理を行うものである。なお、入賞コマンド処理（Ｓ４２１２）の詳細な内容については、図

１７７を参照して後述する。
【２５５６】
Ｓ４２１１の処理において、入賞コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２１１：Ｎｏ）、次に、図柄確定コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２１３）、図柄確定コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４２１３：Ｙｅｓ）、第３図柄の停止表示を設定し（Ｓ４２１４）、本処理を終了する。停止コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２１３：Ｎｏ）、次いで、普図関連コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２１５）、受信したと判別した場合は（Ｓ４２１５：Ｙｅｓ）、普図関連処理を実行し（Ｓ４２１６）、その後、本処理を終了する。なお、普図関連処理を実行し（Ｓ４２１６）の詳細な説明は、図１２４を参照して後述する。
【２５５７】
Ｓ４２１５の処理において、普図関連コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２１５：Ｎｏ）、大当たり関連コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２１７）、受信したと判別した場合は（Ｓ４２１７：Ｙｅｓ）、大当たり関連処理を実行し（Ｓ４２１８）、その後、本処理を終了する。なお、大当たり関連処理（Ｓ４２１８）の詳細な説明は、図１８０を参照して後述する。一方、大当たり関連コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２１７：Ｎｏ）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｓ４２１９）、本処理を終了する。
【２５５８】
次に、図１７６を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）について説明する。図１７６は、この状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）を示したフローチャートである。この状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理（図１７５参照）の中で実行されるものであって、設定されている遊技状態に応じて第３図柄表示装置８１に表示される表示モードを異ならせて設定するための処理を実行するものである。以下、状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）の詳細を説明する。
【２５５９】
状態コマンド受信処理（Ｓ４２０２）が実行されると、まず、現在設定されている遊技状態が変更されるか否かを判別する（Ｓ４３０１）。ここでは、従状態設定エリア２２３ｇに設定されている遊技状態と、今回受信した状態コマンドが示す遊技状態とが、相違するか否かが判別される。Ｓ４３０１の処理において、遊技状態に変更がないと判別した場合は（Ｓ４３０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。遊技状態に変更があると判別した場合は（Ｓ４３０１：Ｙｅｓ）、変更後の遊技状態が通常状態であるかを判別する（Ｓ４３０２）。
【２５６０】
Ｓ４３０２の処理において、変更後の遊技状態が通常状態であると判別した場合（今回受信した状態コマンドが通常状態を示すコマンドである場合）は（Ｓ４３０２：Ｙｅｓ）、通常モードを示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４３０３）、Ｓ４３０４の処理へ移行する。
【２５６１】
Ｓ４３０２の処理において、変更後の遊技状態が通常状態では無いと判別した場合（今回受信した状態コマンドが通常状態を示すコマンドでは無い場合）は（Ｓ４３０２：Ｎｏ）、次いで、変更後の遊技状態が時短状態であるかを判別し（Ｓ４３０６）、遊技状態が時短状態である（今回受信した状態コマンドが時短状態を示すコマンドである）と判別した場合は（Ｓ４３０６：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｎの値に１００を設定し（Ｓ４３０７）、チャンスモードを示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４３０８）、Ｓ４３０４の処理へ移行する。
【２５６２】
Ｓ４３０６の処理において、遊技状態が時短状態はないと判別した場合は（Ｓ４３０６：Ｎｏ）、次いで、Ｖ報知フラグ２２３ｍがオンであるか否かを判別する（Ｓ４３０９）

。Ｖ報知フラグ２２３ｍがオフの場合は（Ｓ４３０９：Ｎｏ）、上述したＳ４３０８の処理へ移行する。Ｖ報知フラグ２２３ｍがオンである場合は（Ｓ４３０９：Ｙｅｓ）、Ｖ報知フラグ２２３ｍをオフに設定し（Ｓ４３１０）、スーパーチャンスモードを示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４３１１）、Ｓ４３０４の処理へ移行する。

【２５６３】

Ｓ４３０４の処理では、従状態設定エリア２２３ｇの現状態エリアに設定されている遊技状態を過去状態エリアに設定し（Ｓ４３０４）、従状態設定エリア２２３ｇの現状態エリアに受信した状態コマンドが示す情報に対応する遊技状態を設定し（Ｓ４３０５）、本処理を終了する。

【２５６４】

ここで、Ｓ４３０８およびＳ４３１１の処理で設定されたコマンドが表示制御装置１１４に通知されることにより通常状態中における変動演出表示が実行されることになる。このように、本制御例では、音声ランプ制御装置１１３にて、主制御装置１１０から出力された状態コマンドに基づいて第３図柄表示装置８１の表示領域にて表示される各種表示態様の種別（モード、背景）を設定し、その種別を示すコマンドを表示制御装置１１４へと出力するように構成している。

【２５６５】

このように構成することで、例えば、音声ランプ制御装置１１３側で設定されている遊技状態に対してそれぞれ変動演出表示の表示態様を設定する必要を無くすことが可能となる。つまり、現在設定されている遊技状態に対応する各種表示態様の種別を示すコマンド（種別コマンド）と、特別図柄の変動表示に対応する変動パターンコマンド（共通コマンド）とを表示制御装置１１４に出力するだけで、表示制御装置１１４側で受信した種別コマンドと、共通コマンドとに基づいて、現在の遊技状態と受信した変動パターンとに対応した表示態様で第３図柄表示装置８１に表示させる表示データを設定することができる。よって、音声ランプ制御装置１１３の処理負荷を軽減させることができる。

【２５６６】

なお、上述したように、音声ランプ制御装置１１３から受信した複数のコマンドを表示制御装置１１４側で組み合わせることにより第３図柄表示装置８１に表示させる表示データを設定するように構成した場合には、表示制御装置１１４側から音声ランプ制御装置１１３側へと設定後の表示データの内容を示す情報（確認情報）を出力するように構成し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した確認情報が適正であるかを判別する判別手段を設け、その判別結果が適正では無いと判別した場合に、適正な情報を示す簡易的な表示用変動パターンコマンドを設定し、既に設定されている表示データの内容を簡易的な表示データに書き換えるように構成すると良い。

【２５６７】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３が主制御装置１１０から受信した各種コマンドに対して適正な表示データが設定されなかった場合に、適正な情報を示す簡易的な表示データを設定することができ、その簡易的な表示データに基づく変動演出表示を表示することができる。よって、実際の遊技結果（特別図柄の抽選結果）とは異なる内容の変動演出表示が実行されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、上述した簡易的な表示データにとしては、例えば、どの遊技状態にも対応しない特殊モード（例えば、黒背景のモード）を表示する表示データや、第４図柄の変動表示を実行する表示データといった、通常の変動演出表示にて用いる表示データよりもデータ量の少ない表示データを用いれば良い。

【２５６８】

なお、本制御例では、上述した構成を用いているがこれに限ること無く、音声ランプ制御装置１１３側で、現在の遊技状態と、受信した変動パターンとに基づいた表示用変動パターンコマンドを設定するように構成しても良い。

【２５６９】

次に、図１７７を参照して、コマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）にて実行

される入賞コマンド処理（Ｓ４２１２参照）の内容を説明する。図１７７は、入賞コマンド処理（Ｓ４２１２）の内容を示したフローチャートである。この入賞コマンド処理（Ｓ４２１２）は、主制御装置１１０から特別図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される入賞コマンド（入賞情報コマンド）や、普通図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される普図用入賞情報コマンドや、大当たり遊技中に球が特定ゲート（確変スイッチ）を流下（通過）した場合に設定されるＶ入賞コマンドを受信した場合に実行される処理である。

【２５７０】

入賞コマンド処理（Ｓ４２１２）が実行されると、まず、受信した入賞コマンド（入賞情報コマンド）の情報を入賞情報格納エリア（入賞情報記憶エリア）２２３ｂの対応する領域に格納（設定）し（Ｓ４４０１）、今回受信したコマンドが普図用入賞情報コマンドであるかを判別し（Ｓ４４０２）、普図用入賞情報コマンドであると判別した場合は（Ｓ４４０２：Ｙｅｓ）、受信したコマンドの中に当たり情報（普図当たり当選している入賞情報）が含まれているかを判別し（Ｓ４４０３）当たり情報があると判別した場合は（Ｓ４４０３：Ｙｅｓ）、次いで、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいか、即ち、現在が普通図柄の高確率状態であるかを判別する（Ｓ４４０４）。

【２５７１】

ここで、現在が普通図柄の高確率状態では無い、即ち、通常状態であると判別した場合は（Ｓ４４０４：Ｎｏ）、通常状態中に普図当たり当選する普通図柄抽選の抽選権利を獲得した状態であって、チャンスゾーンが設定される可能性が高い場合であるため、電チューロング開放を示唆するための表示用コマンドを設定し（Ｓ４４０５）、Ｓ４４０６の処理へと移行する。Ｓ４４０５の処理で表示用コマンドが設定されると、他の音声ランプ制御装置での制御処理にて設定される各種表示用コマンドと同一の制御内容で表示制御装置１１４へと通知され、通常状態中に普図当たり遊技が実行され電動役物６４０ａがロング開放（５秒間開放）することを示唆する示唆演出（例えば、第３図柄表示装置８１の表示面の主表示領域Ｄｍに小表示領域Ｄｍ３が形成されるか否かを煽る演出）が実行される。

【２５７２】

なお、本制御例では、通常状態中に普図当たり当選する普通図柄抽選の抽選権利を獲得した場合にのみ上述した示唆演出が実行されるように構成しているが、これに限ること無く、普図用入賞情報コマンドに特定の外れ当選を示す入賞情報が含まれていると判別した場合にも、上述した示唆演出が実行されるように構成すると良い。これにより、示唆演出が実行された場合に普図当たり遊技が実行される場合と、実行されない場合とを設定することができるため、遊技者に今後実行される遊技内容を予測させながら遊技を行わせることができる。

【２５７３】

さらに、本制御例では、通常状態中に普図当たり当選する普通図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に、示唆演出が実行されるように構成しているが、この構成に加え、実行中の特別図柄抽選、或いは、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている特別図柄抽選の事前判別結果に基づいて、実際に普図当たり遊技が実行されるタイミング、即ち、普図当たり当選を示す普図用入賞情報コマンドに対応する普通図柄抽選が実行されるタイミング（普図当たり遊技が実行されるタイミング）の遊技状態が通常状態であるか否かを判別する事前遊技状態処理を実行し、通常状態であると判別した場合に、上述した示唆演出を実行するように構成しても良い。これにより、チャンスゾーンが設定されることをより的確に示唆することが可能となる。

【２５７４】

図１７７に戻り説明を続ける。Ｓ４４０２の処理で、普図用入賞情報コマンドを受信していないと判別した場合（Ｓ４４０２：Ｎｏ）、Ｓ４４０３の処理で当たり情報が無いと判別した場合（Ｓ４４０３：Ｎｏ）、Ｓ４４０４の処理で時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいと判別した場合（Ｓ４４０４：Ｙｅｓ）もＳ４４０６の処理へ移行する。

【２５７５】

Ｓ４４０６の処理では、特図用入賞情報コマンド処理を実行し（Ｓ４４０６）、Ｓ４４０７の処理へ移行する。この特図用入賞情報コマンド処理（Ｓ４４０６）の詳細については図１７８を参照して後述する。

【２５７６】

Ｓ４４０７の処理では、今回受信したコマンドがＶ入賞コマンド（入賞処理（図１７１のＳ１９１１参照）にて確変スイッチ（特定ゲート）へと球が流下した場合に設定されるコマンド（Ｓ２２１６参照））であるかを判別し（Ｓ４４０７）、Ｖ入賞コマンドである場合は（Ｓ４４０７：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞フラグ２２３ｊをオンに設定し（Ｓ４４０８）、Ｓ４４０９の処理へ移行する。また、Ｓ４４０７の処理において、Ｖ入賞コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４４０７：Ｎｏ）、Ｓ４４１３の処理へ移行する。

【２５７７】

Ｓ４４０９の処理では、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンであるか否かを判別する（Ｓ４４０９）。Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンである場合は（Ｓ４４０９：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋをオフに設定し（Ｓ４４１０）、Ｖ入賞を報知するための表示用コマンドを設定し（Ｓ４４１１）、Ｖ報知フラグ２２３ｍをオンに設定し（Ｓ４４１２）、Ｓ４４１３の処理へ移行する。また、Ｓ４４０９の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオフである場合も（Ｓ４４０９：Ｎｏ）、Ｓ４４１３の処理へ移行する。

【２５７８】

Ｓ４４１３の処理では、その他の処理を実行し（Ｓ４４１３）、本処理を終了する。

【２５７９】

次に、図１７８を参照して、入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２）にて実行される特図用入賞情報コマンド処理（Ｓ４４０６）の内容を説明する。図１７８は、特図用入賞情報コマンド処理（Ｓ４４０６）の内容を示したフローチャートである。

【２５８０】

特図用入賞情報コマンド処理（Ｓ４４０６）が実行されると、まず、従状態設定エリア２２３ｇに設定されている情報に基づいて現在の遊技状態を抽出し（Ｓ４５０１）、時短中カウンタ２２３ｎの値が７５より大きいか否かを判別する（Ｓ４５０２）。時短中カウンタ２２３ｎの値が７５より大きいと判別した場合は（Ｓ４５０２：Ｙｅｓ）、次いで、特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンであるか否かを判別する（Ｓ４５０３）。特殊連続予告フラグ２２３ｏがオフであると判別した場合は（Ｓ４５０３：Ｎｏ）、連続予告実行選択テーブル２２２ｄ（図１４７（ａ））を用いて連続予告の有無を選択し（Ｓ４５０４）、次いで、連続予告の実行があるか否かを判別する（Ｓ４５０５）。連続予告の実行があると判別した場合は（Ｓ４５０５：Ｙｅｓ）、特殊連続予告フラグ２２３ｏをオンに設定し（Ｓ４５０６）、Ｓ４５０７の処理へ移行する。

【２５８１】

また、Ｓ４５０２の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が７５以下であると判別した場合と（Ｓ４５０２：Ｎｏ）、Ｓ４５０３の処理において、特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンであると判別した場合と（Ｓ４５０３：Ｎｏ）、Ｓ４５０５の処理において、連続予告の実行がないと判別した場合も（Ｓ４５０５：Ｎｏ）、Ｓ４５０７の処理へ移行する。

【２５８２】

Ｓ４５０７の処理では、受信した特図用入賞情報コマンドに含まれる情報に基づいた表示用コマンドを設定し（Ｓ４５０７）、本処理を終了する。

【２５８３】

次に、図１７９を参照して、コマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）にて実行される普図関連処理（Ｓ４２１６）の内容を説明する。図１７９は、普図関連処理（Ｓ４２１６）の内容を示したフローチャートである。この普図関連処理（Ｓ４２１６）は、主制御装置１１０から普通図柄抽選が実行されたことを示す普図変動パターンコマンドや、普図当たり遊技が開始されたことを示す普図当たり開始コマンドや、普図当たり遊技の終了を示す普図当たり終了コマンドを受信した場合に実行される処理である。

【２５８４】
普図関連処理（Ｓ４２１６）が実行されると、まず、普図変動パターンコマンドを受信したかを判別し（Ｓ４６０１）、受信したと判別した場合は（Ｓ４６０１：Ｙｅｓ）、表示用普図変動開始コマンドを設定し（Ｓ４６０２）、次いで、時短中カウンタ２２３ｎの値が０よりも大きいか、即ち、普通図柄の高確率状態であるかを判別する（Ｓ４６０３）。時短中カウンタ２２３ｎの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０３：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了し、０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ４６０３：Ｎｏ）、今回受信した普図変動パターンコマンドが普図当たりに当選している普通図柄抽選に対応する普図変動パターンコマンドであるかを判別し（Ｓ４６０４）、普図当たりに当選していないと判別した場合は（Ｓ４６０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【２５８５】
一方で、普図当たりに当選していると判別した場合は（Ｓ４６０４：Ｙｅｓ）、ロング開放当たりが実行される普図当たり変動であるため、ロング開放待機中を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０５）、本処理を終了する。Ｓ４６０５の処理で表示用コマンドが設定されることで、図１２３（ｂ）に示した表示態様が第３図柄表示装置８１の表示面に表示される。これにより、遊技者に対して間もなくチャンスゾーンが設定される可能性が高い状態であることを容易に予測させることができる。
【２５８６】
なお、本制御例では、普通図柄変動が当たり変動であるか否かに基づいて図１２３（ｂ）に示した表示態様（小表示領域Ｄｍ３を形成する表示態様）を表示させる処理を用いているが、これに限ること無く、特定の普図外れ変動（例えば、普図当たり変動と同一の変動時間が設定される普図外れ変動の一部）にて図１２３（ｂ）に示した表示態様（小表示領域Ｄｍ３を形成する表示態様）を表示させるように構成しても良い。
【２５８７】
また、実行中の特別図柄変動に対応する変動演出（第３図柄変動演出）の内容に応じて小表示領域Ｄｍ３の表示領域の大きさを可変させるように構成しても良く、例えば、第３図柄変動演出にて大当たり期待度の高い変動演出（例えば、リーチ演出）が実行されている場合は、大当たり期待度の高い変動演出（例えば、リーチ演出）が実行されていない場合よりも小表示領域Ｄｍ３の表示領域が小さくなるように表示内容を可変させるように構成すると良い。このように、独立して実行される特別図柄抽選の抽選結果を示唆する変動演出と普通図柄抽選の抽選結果を示唆する変動演出とに関係性を持たせて表示内容を可変制御することにより、遊技者に対して無駄に多くの遊技情報が提供されてしまい遊技者が混乱してしまうことを抑制し、分かり易い遊技を提供することができる。
【２５８８】
図１７９に戻り、説明を続ける。Ｓ４６０１の処理にて普図変動パターンコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４６０１：Ｎｏ）、次に、普図当たり開始コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４６６）、普図当たり開始コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４６０６：Ｙｅｓ）、次いで、時短中カウンタ２２３ｎの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ４６０７）、０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ４６０７：Ｎｏ）、ロング開放中を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０８）、本処理を終了する。Ｓ４６０８の処理で表示用コマンドが設定されることで、図１２４（ａ）に示した表示態様が第３図柄表示装置８１の表示面に表示される。これにより、遊技者に対してロング開放当たりが実行されていることを容易に把握させることができる。また、Ｓ４６０７の処理にて、時短中カウンタ２２３ｎの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０７：Ｙｅｓ）、Ｓ４６０８の処理をスキップして本処理を終了する。
【２５８９】
Ｓ４６０６の処理で、普図当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４６０６：Ｎｏ）、普図当たり終了コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４６０９）、受信したと判別した場合は（Ｓ４６０９：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｎの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ４６１０）、時短中カウンタ２２３ｎの値が０であると判別した場

合は（Ｓ４６１０：Ｎｏ）、次いで、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈの値が１以上であるかを判別し（Ｓ４６１１）、１以上であると判別した場合は（Ｓ４６１１：Ｙｅｓ）、特殊演出中フラグ２２３ｉがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４６１２）、オンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４６１２：Ｎｏ）、チャンスゾーン突入を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６１３）、特殊演出中フラグ２２３ｉをオフに設定し（Ｓ４６１４）、本処理を終了する。一方、Ｓ４６１０～Ｓ４６１２の処理において、上述した判別結果以外の判別結果であると判別した場合は、そのまま本処理を終了する。

【２５９０】

次に、図１８０を参照して、大当たり関連処理（Ｓ４２１８）の内容について説明をする。図１８０は、大当たり関連処理（Ｓ４２１８）の内容を示したフローチャートである。大当たり関連処理（Ｓ４２１８）では、大当たりに当選した場合に実行される大当たり遊技に対応した演出表示を第３図柄表示装置８１に実行させるための処理を行うものであり、大当たりに当選した場合に、主制御装置１１０から送信される様々なコマンドに対応した処理が実行される。

【２５９１】

大当たり関連処理（Ｓ４２１８）では、まず、今回受信したコマンドが、大当たり開始コマンドであるかを判別する（Ｓ４７０１）。大当たり開始コマンドであると判別した場合には（Ｓ４７０１：Ｙｅｓ）、表示用大当たり開始コマンドを設定する（Ｓ４７０２）。ここで設定される表示用大当たり開始コマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）のコマンド出力処理（Ｓ４１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用大当たり開始コマンドを受信すると、大当たりの開始を示唆する演出を第３図柄表示装置８１に表示する。

【２５９２】

次いで、今回の大当たり遊技が通常大当たり（遊技）であるかを判別し（Ｓ４７０３）、通常大当たりであると判別した場合は（Ｓ４７０３：Ｙｅｓ）、チャンスモード突入（時短状態が設定される）ことを示すエンディング表示態様を設定し（Ｓ４７０８）、本処理を終了する。一方、通常大当たりでは無いと判別した場合（Ｓ４７０３：Ｎｏ）、即ち、確変大当たりであると判別した場合は、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅ（図１４７（ｂ））を用いてＶ報知演出の実行有無を選択し（Ｓ４７０４）、次いで、Ｖ報知演出があるか否かを判別する（Ｓ４７０５）。Ｖ報知演出があると判別した場合は（Ｓ４７０５：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋをオンに設定し（Ｓ４７０６）、スーパーチャンスモード突入（確変状態が設定される）ことを示すエンディング表示態様を設定し（Ｓ４７０７）、本処理を終了する。

【２５９３】

一方、Ｓ４７０５の処理において、Ｖ報知演出がないと判別した場合は（Ｓ４７０５：Ｎｏ）、上述したＳ４７０８の処理へ移行する。

【２５９４】

つまり、本制御例では、図１４１を参照して上述した通り、設定される大当たり種別（通常大当たり、確変大当たり）に応じて異なる長さのエンディング期間が設定されており、大当たり遊技が開始されるタイミングにて今回実行される大当たり遊技のエンディング期間に対応させたエンディング表示態様（図１３３参照）を予め設定するように構成している。このように構成することで、各種制御（大当たり遊技の進行状況に応じて可変表示させる大当たり遊技情報の可変表示制御（例えば、獲得した賞球数を示すための情報を表示させる制御や実行中のラウンド遊技数を示すための情報を表示させる制御）や、大当たり遊技中に可変入賞装置６５へと入賞した球数に応じて賞球を払い出すための賞球払出制御）が頻繁に実行される大当たり遊技期間中にエンディング表示態様を設定するための表示制御を実行する必要が無くなるため、音声ランプ制御装置１１３、表示制御装置１１４の処理負荷を軽減させることができる。なお、本制御例では、大当たり遊技の開始タイミングにてエンディング表示態様を設定する処理を実行しているが、これに限ること無く、

大当たり遊技が実行されることが確定している特別図柄の大当たり変動中にエンディング表示態様を設定しても良いし、大当たり遊技期間のうち、制御処理が少ない期間に実行される音声ランプ制御装置１１３のメイン処理の残余期間を用いて設定するように構成しても良い。

【２５９５】

一方、Ｓ４７０１の処理にて、大当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４７０１：Ｎｏ）、次に、ラウンド数コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４７０９）、ラウンド数コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４７０９：Ｙｅｓ）、ラウンド数に基づいて表示用ラウンド数コマンドを設定し（Ｓ４７１０）、今回のラウンド数が１ラウンド（Ｖラウンド）であるかを判別する（Ｓ４７１１）。１ラウンド（Ｖラウンド）であると判別した場合は（Ｓ４７１１：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンであるか否かを判別する（Ｓ４７１２）。Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンであると判別した場合は（Ｓ４７１２：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞を案内する表示用コマンドを設定し（Ｓ４７１３）、本処理を終了する。また、Ｓ４７１１の処理で今回のラウンド数が１ラウンド（Ｖラウンド）では無い、即ち、１ラウンド目以外のラウンド遊技が開始されると判別した場合と（Ｓ４７１１：Ｎｏ）、Ｓ４７１２の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオフであると判別した場合も（Ｓ４７１２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【２５９６】

Ｓ４７０９の処理でラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４７０９：Ｎｏ）、次に、エンディングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ４７１４）、受信したと判別した場合は（Ｓ４７１４：Ｙｅｓ）、エンディング処理を実行し（Ｓ４７１５）、本処理を終了する。また、Ｓ４７８６の処理にてエンディングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４７１４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【２５９７】

次に、図１８１を参照して、エンディング処理（Ｓ４７１５）の処理について説明をする。図１８１は、エンディング処理（Ｓ４７１５）の内容を示したフローチャートである。このエンディング処理（Ｓ４７１５）は、上述した大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）にてエンディングコマンドを受信したと判別した場合に実行される処理であって、エンディング期間中に実行されるエンディング表示態様を最終的に決定するための処理を実行するものである。

【２５９８】

エンディング処理（Ｓ４７１５）が実行されると、まず、Ｖ入賞フラグ２２３ｊがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４８０１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４８０１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞フラグ２２３ｊをオフに設定し（Ｓ４８０５）、既に設定されているエンディング表示態様に対応するエンディング表示の実行を設定し（Ｓ４８０４）、本処理を終了する。また、Ｓ４８０１の処理においてＶ入賞フラグ２２３ｊがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４８０１：Ｎｏ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンであるかを判別し（Ｓ４８０２）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオフであると判別した場合は（Ｓ４８０２：Ｎｏ）、そのままＳ４８０４の処理へ移行する。

【２５９９】

一方、Ｓ４８０２の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンであると判別した場合は（Ｓ４８０２：Ｙｅｓ）、エンディング期間のうち、後半期間（７秒）の表示態様を切り替えるための表示切替コマンドを設定し（Ｓ４８０３）、Ｓ４８０４の処理へ移行する。

【２６００】

Ｓ４８０３の処理において表示切替コマンドが設定されると、表示制御装置１１４へと通知され、予め確変状態が設定されることに対応して設定されていたエンディング期間の後半期間の表示態様（図２３６（ｄ）参照）を、時短状態が設定されることに対応する表示態様（図２３６（ｃ）参照）へと切り替える処理が実行される。本制御例では、この表示切替コマンドに基づいて切り替えられる表示態様の表示期間を一定（７秒）にしている

ため、容易に表示態様を切り替えることができる。
【２６０１】
次に、図１８２を参照して、変動表示設定処理（Ｓ４１１３）の内容について説明をする。図１８２７は、変動表示設定処理（Ｓ４１１３）の内容を示したフローチャートである。この変動表示設定処理（Ｓ４１１３）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）の中で実行され、第３図柄表示装置８１において変動演出を実行させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し設定する。
【２６０２】
変動表示設定処理（Ｓ４１１３）では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられた特図１変動開始フラグ２２３ｄ１がオンかを判別する（Ｓ４９０１）。そして、特図１変動開始フラグ２２３ｄ１がオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｓ４９０１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、Ｓ４９０５の処理へ移行する。一方、特図１変動開始フラグ２２３ｄ１がオンであると判別した場合（Ｓ４９０１：Ｙｅｓ）、特図１変動開始フラグ２２３ｄ１をオフに設定し（Ｓ４９０２）、次いで、表示制御装置１１４へ通知するための表示用変動パターンコマンドを取得した変動パターン種別に基づいて生成するための特図１演出態様設定処理を実行し（Ｓ４９０３）、入賞情報格納エリア２２３ｂのうち第１特別図柄に対応するデータをシフトし（Ｓ４９０４）、Ｓ４９０５の処理へ移行する。特図１演出態様設定処理（Ｓ４９０３）の詳細については図１８３を参照して後述する。
【２６０３】
Ｓ４９０５の処理では、ＲＡＭ２２３に設けられた特図２変動開始フラグ２２３ｄ２がオンかを判別する（Ｓ４９０５）。そして、特図２変動開始フラグ２２３ｄ２がオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｓ４９０５：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、Ｓ４９０９の処理へ移行する。一方、特図２変動開始フラグ２２３ｄ２がオンであると判別した場合（Ｓ４９０５：Ｙｅｓ）、特図２変動開始フラグ２２３ｄ２をオフに設定し（Ｓ４９０６）、次いで、特図２演出態様設定処理を実行し（Ｓ４９０７）、入賞情報格納エリア２２３ｂのデータのうち第２特別図柄に対応するデータをシフトし（Ｓ４９０８）、Ｓ４９０９の処理へ移行する。特図２演出態様設定処理（Ｓ４９０７）の詳細については図１８４を参照して後述する。
【２６０４】
Ｓ４９０９の処理では、ＲＡＭ２２３に設けられた特図１停止種別選択フラグ２２３ｅ１または特図２停止種別選択フラグ２２３ｅ２がオンかを判別する（Ｓ４９０９）。そして、特図１停止種別選択フラグ２２３ｅ１または特図２停止種別選択フラグ２２３ｅ２がオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｓ４９０９：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、そのまま本処理を終了する。一方、特図１停止種別選択フラグ２２３ｅ１または特図２停止種別選択フラグ２２３ｅ２がオンであると判別した場合（Ｓ４９０９：Ｙｅｓ）、オンに設定されている特図１停止種別選択フラグ２２３ｅ１または特図２停止種別選択フラグ２２３ｅ２をオフに設定し（Ｓ４９１０）、次いで、コマンドから抽出した停止種別に基づいて表示用特図１または特図２停止種別コマンドを設定し（Ｓ４９１１）、その後、本処理を終了する。
【２６０５】
次に、図１８３を参照して、特図１演出態様設定処理（Ｓ４９０３）の内容について説明をする。図１８３は、特図１演出態様設定処理（Ｓ４９０３）の内容を示したフローチャートである。この特図１演出態様設定処理（Ｓ４９０３）は、変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）にて、第１特別図柄の変動演出を設定する際に実行されるものであって、設定されている遊技状態に対応した変動演出の演出態様を設定するための処理が実行される。
【２６０６】

特図１演出態様設定処理（Ｓ４９０３）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｎの値が０より大きいか否かを判別する（Ｓ５００１）。時短中カウンタ２２３ｎの値が０より大きいと判別した場合は（Ｓ５００１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｎの値を１減算し（Ｓ５００２）、減算後の時短中カウンタ２２３ｎの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５００３）、Ｓ５００４の処理へ移行する。Ｓ５００１の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が０であると判別した場合は（Ｓ５００１：Ｎｏ）、Ｓ５００２およびＳ５００３の処理をスキップし、Ｓ５００４の処理へ移行する。

【２６０７】

Ｓ５００４の処理では、演出モード記憶エリア２２３ｐに記憶されている演出モードを読み出し（Ｓ５００４）、次いで、スーパーチャンスモードであるか否かを判別する（Ｓ５００５）。スーパーチャンスモードであると判別した場合は（Ｓ５００５：Ｙｅｓ）、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに含まれる変動時間（基本時間）を抽出し（Ｓ５００６）、基本変動時間（基本時間）が３０秒であるかを判別する（Ｓ５００７）。基本変動時間が３０秒であると判別した場合には（Ｓ５００７：Ｙｅｓ）、確変中演出選択テーブル２２２ｃ（図２９参照）に基づいて演出態様（演出内容）を決定し（Ｓ５００８）、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ５００９）、本処理を終了する。一方、基本変動時間が３０秒では無いと判別した場合には（Ｓ５００７：Ｎｏ）、Ｓ５０１１の処理へ移行する。

【２６０８】

一方、Ｓ５００５の処理において、スーパーチャンスモードではないと判別した場合は（Ｓ５００５：Ｎｏ）、次いで、チャンスモードであるか否かを判別する（Ｓ５０１０）。チャンスモードではないと判別した場合は（Ｓ５０１０：Ｎｏ）、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する演出態様を決定し（Ｓ５０１１）、上述したＳ５００９の処理へ移行する。Ｓ５０１０の処理において、チャンスモードであると判別した場合は（Ｓ５０１０：Ｙｅｓ）、チャンスモード中演出設定処理を実行し（Ｓ５０１２）、Ｓ５００９の処理へ移行する。チャンスモード中演出設定処理（Ｓ５０１２）の詳細については図１８５を参照して後述する。

【２６０９】

次に、図１８４を参照して、特図２演出態様設定処理（Ｓ４９０７）の内容について説明をする。図１８４は特図２演出態様設定処理（Ｓ４９０７）の内容を示したフローチャートである。この特図２演出態様設定処理（Ｓ４９０７）は、変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）にて、第２特別図柄の変動演出を設定する際に実行されるものであって、設定されている遊技状態に対応した変動演出の演出態様を設定するための処理が実行される。

【２６１０】

特図２演出態様設定処理（Ｓ４９０７）が実行されると、まず、現在の遊技状態が通常状態であるかを判別し（Ｓ５１０１）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ５１０１：Ｙｅｓ）、チャンスゾーン突入を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ５１０２）、次いで、特殊演出中フラグ２２３ｉをオンに設定し（Ｓ５１０３）、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂ（図１４５参照）に基づいて演出態様を決定し（Ｓ５１０４）、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ５１０５）、本処理を終了する。

【２６１１】

一方、Ｓ５１０１の処理において、通常状態では無いと判別した場合は（Ｓ５１０１：Ｎｏ）、次に、時短中カウンタ２２３ｎの値が０より大きいか否かを判別し（Ｓ５１０６）、時短中カウンタ２２３ｎの値が０より大きいと判別した場合は（Ｓ５１０６：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｎの値を１減算し（Ｓ５１０７）、減算後の時短中カウンタ２２３ｎの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５１０８）、Ｓ５１０９の処理へ移行する。Ｓ５１０６の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が０であると判別した場合は（Ｓ５１０６：Ｎｏ）、Ｓ５１０７およびＳ５１０８の処理をスキップし、Ｓ５１０９の処理へ移行する。

【２６１２】
Ｓ５１０９の処理では、演出モード記憶エリア２２３ｐに記憶されている演出モードを読み出し（Ｓ５１０９）、次いで、スーパーチャンスモードであるか否かを判別する（Ｓ５１１０）。スーパーチャンスモードであると判別した場合は（Ｓ５１１０：Ｙｅｓ）、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに含まれる変動時間（基本時間）を抽出し（Ｓ５１１１）、基本変動時間（基本時間）が３０秒であるかを判別する（Ｓ５１１２）。基本変動時間が３０秒であると判別した場合には（Ｓ５１１２：Ｙｅｓ）、確変中演出選択テーブル２２２ｃ（図１４６参照）に基づいて演出態様（演出内容）を決定し（Ｓ５１１３）、上述したＳ５１０５の処理を実行し、本処理を終了する。一方、基本変動時間が３０秒では無いと判別した場合には（Ｓ５１１２：Ｎｏ）、Ｓ５１１５の処理へ移行する。
【２６１３】
一方、Ｓ５１１０の処理において、スーパーチャンスモードではないと判別した場合は（Ｓ５１１０：Ｎｏ）、チャンスモード中演出設定処理を実行し（Ｓ５１１４（Ｓ５０１２））、Ｓ５１１５の処理へ移行する。チャンスモード中演出設定処理（Ｓ５１１４（Ｓ５０１２））の詳細については図１８５を参照して後述する。
【２６１４】
Ｓ５１１５の処理では、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する演出態様を決定し（Ｓ５１１５）、上述したＳ５１０５の処理を実行し、本処理を終了する。
【２６１５】
次に、図１８５を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるチャンスモード中演出設定処理（Ｓ５０１２（Ｓ５１１４））について説明する。図１８５は、この特図１演出態様設定処理（図１８３のＳ４９０３参照）および特図２演出態様設定処理（図１８４のＳ４９０７参照）にて実行されるチャンスモード中演出設定処理（Ｓ５０１２（Ｓ５１１４））を示したフローチャートである。
【２６１６】
チャンスモード中演出設定処理（Ｓ５０１２（Ｓ５１１４））では、まず、時短中カウンタ２２３ｎの値を読み出し（Ｓ５２０１）、読み出した時短中カウンタ２２３ｎの値が９９であるか否かを判別する（Ｓ５２０２）。時短中カウンタ２２３ｎの値が９９であると判別した場合は（Ｓ５２０２：Ｙｅｓ）、演出モード記憶エリア２２３ｐに高速期間を設定し（Ｓ５２０３）、Ｓ５２０８の処理へ移行する。Ｓ５２０２の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が９９ではないと判別した場合は（Ｓ５２０２：Ｎｏ）、次いで、読み出した時短中カウンタ２２３ｎの値が７９であるか否かを判別する（Ｓ５２０４）。時短中カウンタ２２３ｎの値が７９であると判別した場合は（Ｓ５２０４：Ｙｅｓ）、演出モード記憶エリア２２３ｐに通常第１期間を設定し（Ｓ５２０５）、Ｓ５２０８の処理へ移行する。Ｓ５２０４の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が７９ではないと判別した場合は（Ｓ５２０４：Ｎｏ）、次いで、読み出した時短中カウンタ２２３ｎの値が４９であるか否かを判別する（Ｓ５２０６）。時短中カウンタ２２３ｎの値が４９であると判別した場合は（Ｓ５２０６：Ｙｅｓ）、演出モード記憶エリア２２３ｐに通常第２期間を設定し（Ｓ５２０７）、Ｓ５２０８の処理へ移行する。Ｓ５２０６の処理において、時短中カウンタ２２３ｎの値が４９ではないと判別した場合は（Ｓ５２０６：Ｎｏ）、Ｓ５２０７の処理をスキップし、Ｓ５２０８の処理へ移行する。
【２６１７】
Ｓ５２０８の処理では、連続予告実行中フラグ２２３ｑがオンであるか否かを判別する（Ｓ５２０８）。連続予告実行中フラグ２２３ｑがオンであると判別した場合は（Ｓ５２０８：Ｙｅｓ）、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する連続演出態様を決定し（Ｓ５２０９）、Ｓ５２１４の処理へ移行する。Ｓ５２０８の処理において、連続予告実行中フラグ２２３ｑがオフであると判別した場合は（Ｓ５２０８：Ｎｏ）、特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンであるか否かを判別する（Ｓ５２１０）。特殊連続予告フラグ２２３ｏがオンであると判別した場合は（Ｓ５２１０：Ｙｅｓ）、特殊有効時間タイマに３秒に対応する値を設定し（Ｓ５２１１）、特殊連続予告フラグ２２３ｏをオフに設定し

（Ｓ５２１２）、Ｓ５２１３の処理へ移行する。Ｓ５２１０の処理において、特殊連続予告フラグ２２３ｏがオフであると判別した場合にも（Ｓ５２１０：Ｎｏ）、Ｓ５２１３の処理へ移行する。

【２６１８】

Ｓ５２１３の処理では、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する演出態様を決定し（Ｓ５２１３）、Ｓ５２１４の処理へ移行する。Ｓ５２１４の処理では、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ５２１４）、本処理を終了する。

【２６１９】

次に、図１８６を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ４１０７）について説明する。図１８６は、この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ４１０７）を示したフローチャートである。この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ４１０７）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）の中で実行され、第３図柄表示装置８１において演出効果を高めるために遊技者の操作に応じた演出（操作演出）を実行させるために、枠ボタン２２の操作に基づいて表示用コマンドを生成し設定する。

【２６２０】

本制御例では、遊技者が複数の操作方法で枠ボタン２２を操作可能に構成しており、具体的には、枠ボタン２２を短時間（２秒未満）押下する「通常押し」と、枠ボタン２２を長時間（２秒以上）押下し続ける「長押し」と、を判別可能に構成している。そして、判別された操作内容に応じて異なる操作演出を実行可能に構成している。これにより、遊技者に対して様々な操作演出を実行しようと枠ボタン２２を様々な操作方法で操作させることができるため、遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。なお、本制御例では、判別可能な操作方法として２種類の操作方法を用いているが、これに限ること無く、操作方法を１種類にしても良いし、３種類以上設けても良い。また、本制御例では、遊技者が操作可能な操作手段を枠ボタン２２の１種類としているが、これに限ること無く、遊技者が操作可能な操作手段を複数個設けても良い。そして、判別可能な操作方法を、個々の操作手段に対する操作だけで無く、複数の操作手段に対して実行された操作内容の組合せで判別するように構成しても良い。加えて、複数の操作手段を設けた場合には（例えば、第１操作手段と第２操作手段）、第１操作手段に対して第１操作を実行した場合と、第２操作手段に対して第２操作を実行した場合とで、同一の操作が実行されたと判別（同一の操作方法と判別）するように構成しても良い。このように構成することで、例えば、第１操作手段の配置位置と、第２操作手段の配置位置とを離間させている場合において、遊技者が操作し易い操作手段を選択して操作を楽しむ行うことができる。

【２６２１】

枠ボタン入力監視・演出処理（図１８６のＳ４１０７）では、まず、ＳＷ有効時間が０より大きいか、即ち、ＳＷ有効時間が設定されているか（ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｒの値が０よりも大きいか）を判別する（Ｓ５３０１）。なお、このＳＷ有効時間は、枠ボタン２２を使用する変動パターンの演出が選択されている場合に各変動パターンに対応して設定されるものである。ＳＷ有効時間が設定されていると判別した場合には（Ｓ５３０１：Ｙｅｓ）、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｒの値を経過に対応する値を減算し（Ｓ５３０２）、Ｓ５３０３の処理へ移行する。一方、Ｓ５３０１の処理において、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｒの値が０であると判別した場合は（Ｓ５３０１：Ｎｏ）、Ｓ５３０２の処理をスキップし、Ｓ５３０３の処理へ移行する。

【２６２２】

Ｓ５３０３の処理では、特殊有効時間タイマの値が０より大きいか否かを判別する（Ｓ５３０３）。特殊有効時間タイマの値が０より大きいと判別した場合は（Ｓ５３０３：Ｙｅｓ）、特殊有効時間タイマの値を減算し（Ｓ５３０４）、Ｓ５３０５の処理へ移行する。特殊有効時間タイマの値が０であると判別した場合は（Ｓ５３０３：Ｎｏ）、Ｓ５３０４の処理をスキップし、Ｓ５３０５の処理へ移行する。

【２６２３】
　Ｓ５３０５の処理では、操作中カウンタ２２３ｔの値が０より大きいか否かを判別する（Ｓ５３０５）。操作中カウンタ２２３ｔの値が０であると判別した場合は（Ｓ５３０５：Ｎｏ）、次いで、有効時間内であるか否かを判別する（Ｓ５３０６）。有効時間内であると判別した場合は（Ｓ５３０６：Ｙｅｓ）、次いで、枠ボタン２２が押下されたか判別する（Ｓ５３０７）。枠ボタン２２が押下されたと判別された場合には（Ｓ５３０７：Ｙｅｓ）、操作中カウンタ２２３ｔの値に２秒に対応する値を設定し（Ｓ５３０８）、Ｓ５３０９の処理へ移行する。）。Ｓ５３０６の処理において、有効時間内ではないと判別した場合と（Ｓ５３０６：Ｎｏ）、Ｓ５３０７の処理において、枠ボタン２２が押下されていないと判別した場合には（Ｓ５３０７：Ｎｏ）、Ｓ５３０８の処理をスキップし、Ｓ５３０９の処理へ移行する。
【２６２４】
　一方、Ｓ５３０５の処理において、操作中カウンタ２２３ｔの値が１以上であると判別した場合は（Ｓ５３０５：Ｙｅｓ）、次いで、枠ボタン２２を押下中であるか否かを判別する（Ｓ５３１０）。枠ボタン２２を押下中であると判別した場合は（Ｓ５３１０：Ｙｅｓ）、操作中カウンタ２２３ｔの値を減算し（Ｓ５３１２）、減算した操作中カウンタ２２３ｔの値が０であるか否かを判別する（Ｓ５３１３）。減算した操作中カウンタ２２３ｔの値が０であると判別した場合は（Ｓ５３１３：Ｙｅｓ）、Ｓ５３１４の処理へ移行する。減算した操作中カウンタ２２３ｔの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ５３１３：Ｎｏ）、Ｓ５３０９の処理へ移行する。
【２６２５】
　一方、Ｓ５３１０の処理において、枠ボタン２２を押下中ではないと判別した場合は（Ｓ５３１０：Ｎｏ）、操作中カウンタ２２３ｔの値をクリアし（Ｓ５３１１）、Ｓ５３１４の処理へ移行する。
【２６２６】
　Ｓ５３１４の処理では、現在がチャンスモード中であるか否かを判別する（Ｓ５３１４）。現在がチャンスモード中であると判別した場合は（Ｓ５３１４：Ｙｅｓ）、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆ（図１４８参照）を用いて実行する演出を選択し（Ｓ５３１５）、Ｓ５３０９の処理へ移行する。
【２６２７】
　Ｓ５３１４の処理において、現在がチャンスモード中ではないと判別した場合は（Ｓ５３１４：Ｎｏ）、今回の操作方法と、実行中の演出内容と、に対応したボタン演出を設定し（Ｓ５３１６）、Ｓ５３０９の処理へ移行する。Ｓ５３０９の処理では、その他のボタン処理（背景変更等）が実行される。
【２６２８】
　図１８６を参照して上述した枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ４１０７）では、省略したが、本制御例では、ＳＷ有効時間と特殊有効時間とは、枠ボタン２２の操作を受け付けた時点で残期間が０になるように構成している。即ち、各有効時間が設定されている期間中に実行される操作演出の回数が１回となるように構成している。これにより、操作演出が過剰に実行されることを抑制することができる。
【２６２９】
　なお、ＳＷ有効時間と特殊有効時間の残期間に対する処理は、これに限ること無く、例えば、１０秒間の有効時間が設定された場合において、有効時間が設定されてから所定期間内（例えば、１秒以内）に、枠ボタン２２の操作を受け付けた場合（図１８６のＳ５３１０：Ｎｏ，Ｓ５３１３：Ｙｅｓ）に、当該特別図柄変動期間中に、新たな有効時間を設定するように構成しても良い。このように構成することにより、遊技者が枠ボタン２２を操作するタイミングによって、１回の特別図柄変動期間中に実行される操作演出の回数を異ならせることができる。
【２６３０】
　＜第１制御例における表示制御装置の制御処理について＞

次に、図１８７から図２０１を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される各制御について説明する。かかるＭＰＵ２３１の処理としては大別して、電源投入後から繰り返し実行されるメイン処理と、音声ランプ制御装置１１３よりコマンドを受信した場合に実行されるコマンド割込処理と、画像コントローラ２３７より１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒毎に送信されるＶ割込信号をＭＰＵ２３１が検出した場合に実行されるＶ割込処理とがある。ＭＰＵ２３１は、通常、メイン処理を実行し、コマンドの受信やＶ割込信号の検出に合わせて、コマンド割込処理やＶ割込処理を実行する。なお、コマンドの受信とＶ割込信号の検出とが同時に行われた場合は、コマンド受信処理を優先的に実行する。これにより、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドの内容を素早く反映して、Ｖ割込処理を実行させることができる。

【２６３１】

まず、図１８７を参照して、表示制御装置１１４内のＭＰＵ２３１により実行されるメイン処理について説明する。図１８７は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理は、電源投入時の初期化処理を実行するものである。

【２６３２】

このメイン処理の起動は、具体的には、以下の流れに従って行われる。電源装置１１５から表示制御装置１１４に対して電源が投入され、システムリセットが解除されると、ＭＰＵ２３１は、そのハードウェア構成によって、ＭＰＵ２３１内に設けられた命令ポインタ２３１ａを「０００００Ｈ」に設定すると共に、命令ポインタ２３１ａにて示されるアドレス「０００００Ｈ」をバスライン２４０に対して指定する。キャラクタＲＯＭ２３４のＲＯＭコントローラ２３４ｂは、バスライン２４０に指定されたアドレスが「０００００Ｈ」であることを検知すると、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されたブートプログラムをバッファＲＡＭ２３４ｃにセットして、対応するデータ（命令コード）をＭＰＵ２３１へ出力する。そして、ＭＰＵ２３１は、キャラクタＲＯＭ２３４から受け取った命令コードをフェッチし、そのフェッチした命令に応じた処理の実行を開始することで、メイン処理を起動する。

【２６３３】

ここで、仮にシステムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理されるブートプログラムを全てＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに記憶させた場合、キャラクタＲＯＭ２３４は、バスライン２４０に指定されたアドレスが「０００００Ｈ」であることを検知すると、アドレス「０００００Ｈ」に対応するデータ（命令コード）を含む１ページ分のデータをＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから読み出してバッファＲＡＭ２３４ｃにセットしなければならない。そして、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの性質上、その読み出しからバッファＲＡＭ２３４ｃへのセットに多大な時間を要するので、ＭＰＵ２３１は、アドレス「０００００Ｈ」を指定してからアドレス「０００００Ｈ」に対応する命令コードを受け取るまでに多くの待ち時間を消費することとなる。よって、ＭＰＵ２３１の起動にかかる時間が長くなるので、結果として、表示制御装置１１４における第３図柄表示装置８１の制御が即座に開始されないおそれがあるという問題点が生じる。

【２６３４】

これに対し、本制御例のように、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令がＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄに格納されることにより、ＮＯＲ型ＲＯＭは高速にデータを読み出すことが可能なメモリであるため、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１からバスライン２４０を介してアドレス「０００００Ｈ」が指定されると、キャラクタＲＯＭ２３４は即座にＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されたブートプログラムをバッファＲＡＭ２３４ｃにセットして、対応するデータ（命令コード）をＭＰＵ２３１へ出力することができる。よって、ＭＰＵ２３１は、アドレス「０００００Ｈ」を指定してから短い時間でアドレス「０００００Ｈ」に対応する命令コードを受け取ることができるので、ＭＰＵ２３１においてメイン処理の起動を短時間で行うことができる。従って、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成されたキャラクタＲＯＭ２３４に制御プ

ログラムを格納しても、表示制御装置１１４における第３図柄表示装置８１の制御を即座に開始することができる。

【２６３５】

以上のようにしてメイン処理が実行されると、まず、ブートプログラムによって実行されるブート処理を実行し（Ｓ６００１）、第３図柄表示装置８１に対する各種制御が実行可能となるように表示制御装置１１４を起動する。

【２６３６】

ここで、図１８８を参照して、ブート処理（Ｓ６００１）について説明する。図１８８は、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１において、メイン処理の中で実行されるブート処理（Ｓ６００１）を示すフローチャートである。

【２６３７】

上述したように、本制御例では、ＭＰＵ２３１によって実行される制御プログラムや固定値データは、従来の遊技機のように専用のプログラムＲＯＭを設けて記憶させるのではなく、第３図柄表示装置８１に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させている。そしてキャラクタＲＯＭ２３４は、小面積で大容量化を図ることが可能なＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されているため、画像データだけでなく制御プログラム等を十分に記憶させておくことができる一方、制御プログラム等を記憶する専用のプログラムＲＯＭを設ける必要がない。よって、表示制御装置１１４における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。

【２６３８】

一方、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリは、特にランダムアクセスを行う場合において読み出し速度が遅いため、ＭＰＵ２３１がＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに格納された制御プログラムや固定値データを直接読み出して処理していては、ＭＰＵ２３１として高性能のプロセッサを用いても、表示制御装置１１４の処理性能を悪化させてしまうおそれがある。そこで、本ブート処理では、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラム及び固定値データを、ＤＲＡＭによって構成されるワークＲＡＭ２３３に設けられたプログラム格納エリア２３３ａやデータテーブル格納エリア２３３ｂへ転送し格納する処理を実行する。

【２６３９】

具体的には、まず、上述のＭＰＵ２３１及びキャラクタＲＯＭ２３４のハードウェアによる動作に基づき、システムリセット解除後にＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄの第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１より読み出されバッファＲＡＭ２３４ｃにセットされたブートプログラムに従って、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムのうち、所定量だけプログラム格納エリア２３３ａへ転送する（Ｓ６１０１）。ここで転送される所定量の制御プログラムには、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されていない残りのブートプログラムが含まれる。

【２６４０】

そして、命令ポインタ２３１ａをプログラム格納エリア２３３ａの第１の所定番地、即ち、プログラム格納エリア２３３ａに格納されたその残りのブートプログラムの先頭アドレスを設定する（Ｓ６１０２）。これにより、ＭＰＵ２３１は、Ｓ６１０１の処理によってプログラム格納エリア２３３ａに転送され格納された制御プログラムに含まれる残りのブートプログラムの実行を開始する。

【２６４１】

また、Ｓ６１０２の処理により命令ポインタ２３１ａをプログラム格納エリア２３３ａの所定番地に設定することで、ＭＰＵ２３１は、そのワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａに格納された制御プログラムを読み出しながら、各種処理を実行することになる。即ち、ＭＰＵ２３１は、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１を有するＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａから制御プログラムを読み出して命令フェッチするのではなく、プログラム格納エリア２３３ａを有するワークＲＡＭ２３３に転送された制御プロ

グラムを読み出して命令フェッチし、各種処理を実行する。上述したように、ワークＲＡＭ２３３はＤＲＡＭによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、制御プログラムを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されるキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させた場合であっても、ＭＰＵ２３１は高速に命令をフェッチし、その命令に対する処理を実行することができる。

【２６４２】

Ｓ６１０２の処理により命令ポインタ２３１ａが設定されると、続いて、その設定された命令ポインタ２３１ａによって実行が開始される残りのブートプログラムに従って、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムのうちプログラム格納エリア２３３ａに未転送である残りの制御プログラムと固定値データとを、所定量ずつプログラム格納エリア２３３ａ又はデータテーブル格納エリア２３３ｂへ転送する（Ｓ６１０３）。具体的には、制御プログラムおよび一部の固定データを、ワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａに格納し、また、固定値データのうち上述の各種データテーブル（表示データテーブル、転送データテーブル）をデータテーブル格納エリア２３３ｂに転送する。

【２６４３】

そして、ブート処理に必要なその他の処理を実行（Ｓ６１０４）した後、命令ポインタ２３１ａをプログラム格納エリア２３３ａの第２の所定番地、即ち、このブート処理（図１８７のＳ６００１参照）の終了後に実行すべき初期化処理（図１８７のＳ６００２参照）に対応するプログラムの先頭アドレスを設定することで（Ｓ６１０５）、ブートプログラムの実行を終え、本ブート処理を終了する。

【２６４４】

このように、ブート処理（Ｓ６００１）が実行されることによって、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラム及び固定値データは、全てＤＲＡＭによって構成されたワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａ及びデータテーブル格納エリア２３３ｂに転送され、格納される。そして、ブート処理の終了時に、命令ポインタ２３１ａが上述の第２の所定番地に設定され、以後、ＭＰＵ２３１は、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを参照することなく、プログラム格納エリア２３３ａに転送された制御プログラムを用いて各種処理を実行する。

【２６４５】

よって、制御プログラムを読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されるキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させた場合であっても、システムリセット解除後にその制御プログラムや固定値データをワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａ及びデータテーブル格納エリア２３３ｂに転送することで、ＭＰＵ２３１は、読み出し速度が高速なＤＲＡＭによって構成されるワークＲＡＭから制御プログラムや固定値データを読み出して各種制御を行うことができるので、表示制御装置１１４において高い処理性能を保つことができ、補助演出部を用いて多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【２６４６】

一方、ＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄにブートプログラムを全て格納せずに、システムリセット解除後にＭＰＵ２３１によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を格納しておき、残りのブートプログラムについては、ＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａの第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶させても、第２プログラム記憶エリア２３４ａ１に記憶されている制御プログラムを確実にプログラム格納エリア２３３ａに転送することができる。よって、キャラクタＲＯＭ２３４は、極めて小容量のＮＯＲ型ＲＯＭ２３４ｄを追加するだけで、ＭＰＵ２３１の起動を短時間で行うことができるようになるので、その短時間化に伴うキャラクタＲＯＭ２３４のコスト増加を抑制することができる。

【２６４７】

なお、図１８８に示すブート処理では、Ｓ６１０１の処理によってプログラム格納エリ

ア２３３ａに転送される所定量の制御プログラムに、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されていない残りのブートプログラムが全て含まれるように構成されているが、必ずしもこれに限られるものではなく、Ｓ６１０１の処理によってプログラム格納エリア２３３ａに転送される所定量の制御プログラムは、Ｓ６１０２の処理に続いて処理すべきブート処理を実行するブートプログラムの一部としてもよい。ここで転送されるブートプログラムは、残りのブートプログラムを全て含む制御プログラムを所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送し、更に、これによりプログラム格納エリア２３３ａに格納されたブートプログラムの先頭アドレスを命令ポインタ２３１ａに設定する処理を実行するものであってもよい。そして、プログラム格納エリア２３３ａに格納された残り全てのブートプログラムによって、Ｓ６１０３～Ｓ６１０５の処理を実行するようにしてもよい。

【２６４８】

また、Ｓ６１０１の処理によって転送されるブートプログラムは、残りのブートプログラムの一部を更に所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送し、続いて、これによりプログラム格納エリア２３３ａに格納されたブートプログラムの先頭アドレスを命令ポインタ２３１ａに設定する処理を実行するものであってもよい。また、この処理によってプログラム格納エリア２３３ａに格納された一部のブートプログラムは、更に残りのブートプログラムの一部を所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送し、続いて、これによりプログラム格納エリア２３３ａに格納されたブートプログラムの先頭アドレスを命令ポインタ２３１ａに設定する処理を実行するものであってもよい。そして、残りのブートプログラムの一部を所定量だけプログラム格納エリア２３３ａに転送し、続いて、これによりプログラム格納エリア２３３ａに格納されたブートプログラムの先頭アドレスを命令ポインタ２３１ａに設定する処理を、Ｓ６１０１及びＳ６１０２の処理を含めて複数回繰り返した後、Ｓ６１０３～Ｓ６１０５の処理を実行するようにしてもよい。

【２６４９】

これにより、ブートプログラムのプログラムサイズが大きく、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶されていない残りのブートプログラムが一度にプログラム格納エリア２３３ａへ転送できなくても、ＭＰＵ２３１はプログラム格納エリア２３３ａに既に格納されたブートプログラムを使用して、所定量ずつプログラム格納エリア２３３ａに転送することができる。

【２６５０】

また、本制御例では、第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に、ブートプログラムのうち、システムリセット解除時にまずＭＰＵ２３１によって実行されるブートプログラムの一部を記憶させる場合について説明したが、全てのブートプログラムを第１プログラム記憶エリア２３４ｄ１に記憶させてもよい。この場合、ＭＰＵ２３１は、ブート処理を開始すると、Ｓ６１０１及びＳ６１０２の処理を行わずに、Ｓ６１０３～Ｓ６１０５の処理を実行してもよい。これにより、ブートプログラムをプログラム格納エリア２３３ａへ転送する処理が不要となるので、キャラクタＲＯＭ２３４かプログラム格納エリア２３３ａへのプログラムの転送処理回数が減るため、ブート処理の処理時間を減らすことができる。よって、ブート処理後に可能となるＭＰＵ２３１における補助演出部の制御の開始をより早く行うことができる。

【２６５１】

ここで、図１８７の説明に戻る。ブート処理を終了すると、次いで、ワークＲＡＭ２３３のプログラム格納エリア２３３ａに転送され格納された制御プログラムに従って、初期設定処理を実行する（Ｓ６００２）。具体的には、スタックポインタの値をＭＰＵ２３１内に設定すると共に、ＭＰＵ２３１内のレジスタ群や、Ｉ／Ｏ装置等に対する各種の設定などを行う。また、ワークＲＡＭ２３３、常駐用ビデオＲＡＭ２３５、通常用ビデオＲＡＭ２３６の記憶をクリアする処理などが行われる。更に、ワークＲＡＭ２３３に各種フラグを設け、それぞれのフラグに初期値を設定する。なお、各フラグの初期値として、特に明示した場合を除き、「オフ」又は「０」が設定される。

【２６５２】

更に、初期設定処理では、画像コントローラ２３７の初期設定を行った後、第３図柄表示装置８１に特定の色の画像が画面全体に表示されるように、画像コントローラ２３７に対して、画像の描画および表示処理の実行を指示する。これにより、電源投入直後において、第３図柄表示装置８１には、まず、特定の色の画像が画面全体に表示される。ここで、電源投入直後に第３図柄表示装置８１の画面全体に表示される画像の色が、パチンコ機の機種に応じて異なる色となるように設定されている。これにより、製造時の工場等における動作チェックにおいて、電源投入直後に、その機種に応じた色の画像が第３図柄表示装置８１に表示されるか否かを検査することで、パチンコ機１０が正常に起動開始できるか否かを簡易かつ即座に判断することができる。

【２６５３】

次いで、電源投入時主画像に対応する画像データを常駐用ビデオＲＡＭ２３５の電源投入時主画像エリア２３５ａへ転送するように、画像コントローラ２３７に対して転送指示を送信する（Ｓ６００３）。この転送指示には、電源投入時主画像に対応する画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレスおよび最終アドレスと、転送先の情報（ここでは、常駐用ビデオＲＡＭ２３５）と、転送先である電源投入時主画像エリア２３５ａの先頭アドレスとが含まれており、画像コントローラ２３７は、この転送指示に従って、電源投入時主画像に対応する画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５の電源投入時主画像エリア２３５ａに転送される。

【２６５４】

そして、転送指示により示された画像データの転送が全て完了すると、画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１に対して転送終了を示す転送終了信号を送信する。ＭＰＵ２３１はこの転送終了信号を受信することにより、転送指示で指定した画像データの転送が終了したことを把握することができる。なお、画像コントローラ２３７は、転送指示により示された画像データの転送を全て完了した場合、画像コントローラ２３７の内部に設けられたレジスタまたは内蔵メモリの一部領域に、転送終了を示す転送終了情報を書き込むようにしてもよい。そして、ＭＰＵ２３１は随時このレジスタまたは内蔵メモリの一部領域の情報を読み出し、画像コントローラ２３７による転送終了情報の書き込みを検出することによって、転送指示で指定した画像データの転送が終了したことを把握するようにしてもよい。

【２６５５】

電源投入時主画像エリア２３５ａに転送された画像データは、電源が遮断されるまで上書きされないように保持される。Ｓ６００３の処理により画像コントローラ２３７に対して送信された転送指示に基づき、電源投入時主画像に対応する画像データの電源投入時主画像エリア２３５ａへの転送が終了すると、次いで、電源投入時変動画像に対応する画像データを常駐用ビデオＲＡＭ２３５の電源投入時変動画像エリア２３５ｂへ転送するように、画像コントローラに対して転送指示を送信する（Ｓ６００４）。この転送指示には、電源投入時変動画像に対応する画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレスと、その画像データのデータサイズと、転送先の情報（ここでは、常駐用ビデオＲＡＭ２３５）と、転送先である電源投入時変動画像エリア２３５ｂの先頭アドレスとが含まれており、画像コントローラは、この転送指示に従って、電源投入時変動画像に対応する画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５の電源投入時変動画像エリア２３５ｂに転送される。そして、電源投入時変動画像エリア２３５ｂに転送された画像データは、電源が遮断されるまで上書きされないように保持される。

【２６５６】

Ｓ６００４の処理により画像コントローラ２３７に対して送信された転送指示に基づき、電源投入時変動画像に対応する画像データの電源投入時変動画像エリア２３５ｂへの転送が終了すると、次いで、簡易画像表示フラグ２３３ｃをオンする（Ｓ６００５）。これにより、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンの間は、後述する転送設定処理（図１９９（ａ）参照）において、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送するように画像コントローラ２３

７へ転送を指示する常駐画像転送設定処理が実行される（図１９９（ａ）のＳ７５０２参照）。

【２６５７】

また、簡易画像表示フラグ２３３ｃは、この常駐画像転送設定処理による画像コントローラ２３７への転送指示に基づき、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データのキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５への転送が終了するまでの間、オンに維持される。これにより、その間は、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）において、電源投入時画像（電源投入時主画像や電源投入時変動画像）が描画されるように、簡易コマンド判定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０８参照）および簡易表示設定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０９参照）が実行される。

【２６５８】

上述したように、本パチンコ機１０では、キャラクタＲＯＭ２３４にＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いているため、その読み出し速度が遅いことに起因して、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に格納すべき全ての画像データが、キャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されるまでに多くの時間を要する。そこで、本メイン処理のように、電源が投入された後、まず先に電源投入時主画像および電源投入時変動画像をキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送し、電源投入時主画像を第３図柄表示装置８１に表示することで、残りの常駐すべき画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されている間、遊技者やホール関係者は、第３図柄表示装置８１に表示された電源投入時主画像を確認することができる。よって、表示制御装置１１４は、電源投入時主画像を第３図柄表示装置８１に表示させている間に、時間をかけて残りの常駐すべき画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送することができる。一方、遊技者等は、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間、何らかの初期化処理が行われていることを認識できるので、残りの常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されるまでの間、動作が停止していないか、といった不安を持つことなく、初期化が完了するまで待機することができる。

【２６５９】

また、製造時の工場等における動作チェックにおいても、電源投入時主画像がすぐに第３図柄表示装置８１に表示されることによって、第３図柄表示装置８１が電源投入によって問題なく動作が開始されていることをすぐに確認することができ、キャラクタＲＯＭ２３４に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａを用いることにより動作チェックの効率が悪化することを抑制できる。

【２６６０】

また、パチンコ機１０の表示制御装置１１４では、電源投入後に電源投入時主画像とあわせて電源投入時変動画像もキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送するので、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間に遊技者が遊技を開始したことにより、特図入球口６４へ入球（始動入賞）があり、変動演出の開始指示が主制御装置１１０より音声ランプ制御装置１１３を介してあった場合、即ち、表示用変動パターンコマンドを受信した場合は、電源投入時変動画像をその変動演出期間中に即座に表示させ、簡単な変動演出を行うことができる。よって、遊技者は、電源投入時主画像が第３図柄表示装置８１に表示されている間であっても、その簡単な変動演出によって確実に抽選が行われたことを確認することができる。

【２６６１】

また、上述したように、残りの常駐すべき画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されている間は、第３図柄表示装置８１に電源投入時主画像が表示され続けるが、キャラクタＲＯＭ２３４は読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによって構成されており、その転送に時間がかかるので、電源投入後、電源投入時主画像が表示され続ける時間も長くなる。しかしながら、本パチンコ機１０では、電源投入後に常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送された電源投入時変動画像を用いて

簡易的な変動演出を行うことができるので、電源が投入された直後、例えば、停電復帰直後などにおいて、電源投入時主画像が表示されている間であっても、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【２６６２】

Ｓ６００５の処理の後、割込許可を設定し（Ｓ６００６）、以後、メイン処理は電源が切断されるまで、無限ループ処理を実行する。これにより、Ｓ６００６の処理によって割込許可が設定されて以降、コマンドの受信およびＶ割込信号の検出に従って、コマンド割込処理およびＶ割込処理を実行する。

【２６６３】

次いで、図１８９（ａ）を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるコマンド割込処理について説明する。図１８９（ａ）は、そのコマンド割込処理を示すフローチャートである。上述したように、音声ランプ制御装置１１３からコマンドを受信すると、ＭＰＵ２３１によってコマンド割込処理が実行される。

【２６６４】

このコマンド割込処理では、受信したコマンドデータを抽出し、ワークＲＡＭ２３３に設けられたコマンドバッファ領域に、その抽出したコマンドデータを順次格納して（Ｓ６２０１）、終了する。このコマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納された各種コマンドは、後述するＶ割込処理のコマンド判定処理または簡易コマンド判定処理によって読み出され、そのコマンドに応じた処理が行われる。

【２６６５】

次いで、図１８９（ｂ）を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるＶ割込処理について説明する。図１８９（ｂ）は、そのＶ割込処理を示すフローチャートである。このＶ割込処理では、コマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納されたコマンドに対応する各種処理を実行すると共に、第３図柄表示装置８１に表示させる画像を特定した上で、その画像の描画リストを作成し、その描画リストを画像コントローラ２３７に送信することで、画像コントローラ２３７に対し、その画像の描画処理および表示処理の実行を指示するものである。

【２６６６】

上述したように、このＶ割込処理は、画像コントローラ２３７からのＶ割込信号が検出されることによって実行が開始される。このＶ割込信号は、画像コントローラ２３７において、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒毎に生成され、ＭＰＵ２３１に対して送信される信号である。よって、このＶ割込信号に同期させてＶ割込処理を実行することにより、画像コントローラ２３７に対して描画指示が、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒毎に行われることになる。よって、画像コントローラ２３７では、画像の描画処理や表示処理が終了していない段階で、次の画像の描画指示を受け取ることがないので、画像の描画途中で新たな画像の描画を開始したり、表示中の画像情報が格納されているフレームバッファに、新たな描画指示に伴って画像が展開されたりすることを防止することができる。

【２６６７】

ここでは、まず、Ｖ割込処理のフローの概略について説明し、次いで、各処理の詳細について他の図面を参照して説明する。このＶ割込処理では、図１８９（ｂ）に示すように、まず、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンであるか否かを判別し（Ｓ６３０１）、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンではない、即ち、オフであれば（Ｓ６３０１：Ｎｏ）、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データの転送が完了していることを意味するので、電源投入時画像ではなく、通常の演出画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、コマンド判定処理（Ｓ６３０２）を実行し、次いで、表示設定処理（Ｓ６３０３）を実行する。

【２６６８】

コマンド判定処理（Ｓ６３０２）では、コマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納された音声ランプ制御装置１１３からのコマンドの内容を解析し、そのコマンド

に応じた処理を実行すると共に、表示用デモコマンドや表示用変動パターンコマンドが格納されていた場合は、デモ用表示データテーブル又は変動パターン種別に応じた変動表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定すると共に、設定された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定する。

【２６６９】

このコマンド判定処理では、その時点でコマンドバッファ領域に格納されている全てのコマンドを解析して、処理を実行する。これは、コマンド判定処理が、Ｖ割込処理の実行される２０ミリ秒間隔で行われるため、その２０ミリ秒の間に複数のコマンドがコマンドバッファ領域に格納されている可能性が高いためである。特に、主制御装置１１０において、変動演出の開始が決定された場合、表示用変動パターンコマンドや表示用停止種別コマンドなどが同時にコマンドバッファ領域に格納されている可能性が高い。従って、これらのコマンドを一度に解析して実行することによって、主制御装置１１０や音声ランプ制御装置１１３によって選定された変動演出の態様や停止種別を素早く把握し、その態様に応じた演出画像を第３図柄表示装置８１に表示させるように、画像の描画を制御することができる。なお、このコマンド判定処理の詳細については、図１９０～図１９５を参照して後述する。

【２６７０】

表示設定処理（Ｓ６３０３）では、コマンド判定処理（Ｓ６３０２）などによって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示データテーブルの内容に基づき、第３図柄表示装置８１において次に表示すべき１フレーム分の画像の内容を具体的に特定する。また、処理の状況などに応じて、第３図柄表示装置８１に表示すべき演出態様を決定し、その決定した演出態様に対応する表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する。なお、この表示設定処理の詳細については、図１９６～図１９８を参照して後述する。

【２６７１】

表示設定処理（Ｓ６３０３）が実行された後、次いで、タスク処理を実行する（Ｓ６３０４）。このタスク処理では、表示設定処理（Ｓ６３０３）もしくは簡易表示設定処理（Ｓ６３０９）によって特定された、第３図柄表示装置８１に表示すべき次の１フレーム分の画像の内容に基づき、その画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、各スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

【２６７２】

次に、転送設定処理を実行する（Ｓ６３０５）。この転送設定処理では、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンである間は、画像コントローラ２３７に対して、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５の所定エリアへ転送させる転送指示を設定する。また、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオフである間は、転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定される転送データテーブルの転送データ情報に基づき、画像コントローラ２３７に対して、所定の画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａの所定サブエリアへ転送させる転送指示を設定すると共に、音声ランプ制御装置１１３から連続予告コマンドや背面画像変更コマンドを受信した場合にも、画像コントローラ２３７に対して、連続予告演出で使用する連続予告画像の画像データや変更後の背面画像の画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａの所定サブエリアへ転送させる転送指示を設定する。なお、転送設定処理の詳細については、図１９９および図２００を参照して後述する。

【２６７３】

次いで、描画処理を実行する（Ｓ６３０６）。この描画処理では、タスク処理（Ｓ６３０４）で決定された、１フレームを構成する各種スプライトの種別やそれぞれのスプライトの描画に必要なパラメータと、転送設定処理（Ｓ６３０５）により設定された転送指示

とから、図１５５に示す描画リストを生成し、描画対象バッファ情報と共に、その描画リストを画像コントローラ２３７に対して送信する。これにより、画像コントローラ２３７では、描画リストに従って、画像の描画処理を実行する（Ｓ６３０６）。なお、描画処理の詳細については、図２０１を参照して後述する。

【２６７４】

次いで、表示制御装置１１４に設けられた各種カウンタの更新処理を実行する（Ｓ６３０７）。そして、Ｖ割込処理を終了する。Ｓ６３０７の処理によって更新されるカウンタとしては、例えば、停止図柄を決定するための停止図柄カウンタ（図示せず）がある。この停止図柄カウンタの値は、ワークＲＡＭ２３３に格納され、Ｖ割込処理が実行される度に、更新処理が行われる。そして、コマンド判定処理において、表示用停止種別コマンドの受信が検出されると、表示用停止種別コマンドにより示される停止種別（大当たりＡ、大当たりＢ、前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）に対応する停止種別テーブルと停止種別カウンタとが比較され、第３図柄表示装置８１に表示される変動演出後の停止図柄が最終的に設定される。

【２６７５】

一方、Ｓ６３０１の処理において、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンであると判別されると（Ｓ６３０１：Ｙｅｓ）、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データの転送が完了していないことを意味するので、電源投入時画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、簡易コマンド判定処理（Ｓ６３０８）を実行し、次いで、簡易表示設定処理（Ｓ６３０９）を実行して、Ｓ６３０４の処理へ移行する。

【２６７６】

次いで、図１９０～図１９５を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるＶ割込処理の一処理である上述のコマンド判定処理（Ｓ６３０２）の詳細について説明する。まず、図１９０は、このコマンド判定処理を示すフローチャートである。

【２６７７】

このコマンド判定処理では、図１９０に示すように、まず、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４０１）、未処理の新規コマンドがなければ（Ｓ６４０１：Ｎｏ）、コマンド判定処理を終了してＶ割込処理に戻る。一方、未処理の新規コマンドがあれば（Ｓ６４０１：Ｙｅｓ）、オン状態で新規コマンドを処理したことを表示設定処理（Ｓ６３０３）に通知する新規コマンドフラグをオンに設定し（Ｓ６４０２）、次いで、コマンドバッファ領域に格納されている未処理のコマンドすべてについて、そのコマンドの種別を解析する（Ｓ６４０３）。

【２６７８】

そして、未処理のコマンドの中に、表示用変動パターンコマンドがあるか否かを判別する（Ｓ６４０４）。そして、表示用変動パターンコマンドがあれば（Ｓ６４０４：Ｙｅｓ）、変動パターンコマンド処理を実行して（Ｓ６４０５）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２６７９】

ここで、図１９１（ａ）を参照して、変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）の詳細について説明する。図１９１（ａ）は、変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）を示すフローチャートである。この変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用変動パターンコマンドに対応する処理を実行するものである。

【２６８０】

変動パターンコマンド処理では、まず、表示用変動パターンコマンドによって示される変動演出パターンに対応した変動表示データテーブルを決定し、その決定した変動表示データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６５０１）。

【２６８１】

ここで、主制御装置１１０において変動の開始の判断は、必ず数秒以上離れて行われるので、２０ミリ秒以内に２以上の表示用変動パターンコマンドを受信することはなく、し

たがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に２以上の表示用変動パターンコマンドが格納されている場合はあり得ないが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って表示用変動パターンコマンドとして解釈されるおそれもあり得る。Ｓ６５０１の処理では、このような場合に備え、２以上の表示用変動パターンコマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合は、変動時間が最も短い変動パターンに対応する変動表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する。

【２６８２】

仮に、変動時間の長い変動パターンに対応する変動表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定してしまうと、実際には、設定した表示データテーブルよりも短い変動時間を有する変動演出が主制御装置１１０によって指示されていた場合に、設定された変動表示データテーブルに従った変動演出を第３図柄表示装置８１に表示させている最中に主制御装置１１０から次の表示用変動パターンコマンドを受信することとなり、別の変動表示が急に開始されてしまうので、遊技者に対して違和感を持たせるおそれがあった。

【２６８３】

これに対し、本制御例のように、変動時間が最も短い変動パターンに対応する変動表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定することで、実際には、設定した表示データテーブルよりも長い変動時間を有する変動演出が主制御装置１１０によって指示されていた場合であっても、後述するように、表示データテーブルバッファ２３３ｄに従った変動演出が終了したのち、主制御装置１１０から次の表示用パターンコマンドを受信するまでの間、デモ演出が表示されるように、表示設定処理によって、第３図柄表示装置８１の表示が制御されるので、遊技者は違和感なく第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動を見続けることができる。

【２６８４】

次いで、Ｓ６５０１で設定された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを決定してデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出し、それを転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定する（Ｓ６５０２）。そして、Ｓ６５０１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された変動表示データテーブルに対応する変動パターンの変動時間を基に、その変動時間を表す時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ６５０３）、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６５０４）。そして、デモ表示フラグおよび確定表示フラグをいずれもオフに設定して（Ｓ６５０５）、変動パターンコマンドを終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２６８５】

この変動パターンコマンド処理が実行されることにより、表示設定処理では、Ｓ６５０５の処理によって初期化されたポインタ２３３ｆを更新しながら、Ｓ６５０１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された変動表示データテーブルから、ポインタ２３３ｆに示されるアドレスに規定された描画内容を抽出し、第３図柄表示装置８１において次に表示すべき１フレーム分の画像の内容を特定すると同時に、Ｓ６５０２の処理によって転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定された転送データテーブルから、ポインタ２３３ｆに示されるアドレスに規定された転送データ情報を抽出し、設定された変動表示データテーブルにおいて必要なスプライトの画像データが、予めキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに転送されるように、画像コントローラ２３７を制御する。

【２６８６】

また、表示設定処理では、Ｓ６５０３の処理によって時間データが設定された計時カウンタ２３３ｈを用いて、変動表示データテーブルで規定された変動演出の時間を計時し、変動表示データテーブルにおける変動演出が終了すると判断された場合、主制御装置１１０からの表示用停止種別コマンドに応じた停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示するように、その停止表示の設定を制御する。

【２６８７】
ここで、図１９０の説明に戻る。Ｓ６４０４の処理において、表示用変動パターンコマンドがないと判別されると（Ｓ６４０４：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用停止種別コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４０６）、表示用停止種別コマンドがあれば（Ｓ６４０６：Ｙｅｓ）、停止種別コマンド処理を実行して（Ｓ６４０７）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。
【２６８８】
ここで、図１９１（ｂ）を参照して、停止種別コマンド処理（Ｓ６４０７）の詳細について説明する。図１９１（ｂ）は、停止種別コマンド処理を示すフローチャートである。この停止種別コマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用変動種別コマンドに対応する処理を実行するものである。
【２６８９】
停止種別コマンド処理（Ｓ６４０７）では、まず、表示用停止種別コマンドによって示される停止種別情報（大当たりＡ～Ｇ、小当たりＡ～Ｃ、リーチ外れ、完全外れ、のいずれか）に対応する停止種別テーブルを決定し（Ｓ６６０１）、その停止種別テーブルと、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）が実行されるたびに更新される停止種別カウンタの値とを比較して、第３図柄表示装置８１に表示される変動演出後の停止図柄を最終的に設定する（Ｓ６６０２）。
【２６９０】
そして、各停止図柄毎に設けられた停止図柄判別フラグのうち、Ｓ６６０２の処理によって設定された停止図柄に対応する停止図柄判別フラグをオンすると共に、その他の停止図柄に対応する停止図柄判別フラグをオンに設定し（Ｓ６６０３）、コマンド判定処理に戻る。
【２６９１】
ここで、上述したように、変動表示データテーブルでは、そのデータテーブルに基づく変動が開始されてから所定時間経過後において、第３図柄表示装置８１に表示すべき第３図柄を特定する種別情報として、Ｓ６６０２の処理によって設定された停止図柄からのオフセット情報（図柄オフセット情報）が記載されている。上述のタスク処理（Ｓ６３０４）では、変動が開始されてから所定時間が経過した後、Ｓ６６０３によって設定された停止図柄判別フラグからＳ６６０２の処理によって設定された停止図柄を特定すると共に、その特定した停止図柄に対して表示設定処理により取得された図柄オフセット情報を加算することによって、実際に表示すべき第３図柄を特定する。そして、この特定された第３図柄に対応する画像データが格納されたアドレスを特定する。第３図柄に対応する画像データは、上述したように、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄに格納されている。
【２６９２】
なお、主制御装置１１０において変動の開始の判断は、必ず数秒以上離れて行われるので、２０ミリ秒以内に２以上の表示用停止種別コマンドを受信することはなく、したがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に２以上の表示用停止種別コマンドが格納されている場合はあり得ないが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って表示用停止種別コマンドとして解釈されるおそれもあり得る。Ｓ６６０１の処理では、このような場合に備え、２以上の表示用停止種別コマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合は、停止種別が完全外れであると仮定して、停止種別テーブルを決定する。これにより、完全外れに対応する停止図柄がＳ６６０２の処理によって設定される。
【２６９３】
仮に、「特別図柄の大当たり」に対応する停止図柄が設定されてしまうと、実際には、「特別図柄の外れ」であった場合であっても、第３図柄表示装置８１には「特別図柄の大当たり」に対応する停止図柄が表示されることとなり、遊技者にパチンコ機１０が「特別図柄の大当たり」となったと勘違いさせてしまい、パチンコ機１０の信頼性を低下させる

おそれがあった。これに対し、本制御例のように、完全外れに対応する停止図柄が設定されることで、実際には、「特別図柄の大当たり」であれば、第３図柄表示装置８１に完全外れの停止図柄が表示されても、パチンコ機１０が「特別図柄の大当たり」になるので、遊技者を喜ばせることができる。

【２６９４】

図１９０に戻り、説明を続ける。Ｓ６４０６の処理において、表示用停止種別コマンドがないと判別されると（Ｓ６４０６：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用オープニングコマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４０８）、表示用オープニングコマンドがあれば（Ｓ６４０８：Ｙｅｓ）、オープニングコマンド処理を実行して（Ｓ６４０９）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２６９５】

ここで、図１９２（ａ）を参照して、オープニングコマンド処理（Ｓ６４０９）の詳細について説明する。図１９２（ａ）は、オープニングコマンド処理を示すフローチャートである。このオープニングコマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信したオープニングコマンドに対応する処理を実行するものである。

【２６９６】

オープニングコマンド処理では、まず、オープニング表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６７０１）。その後、オープニング表示データテーブルに対応する転送データテーブルを転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定し（Ｓ６７０２）、設定したオープニング表示データテーブルを基に、時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定する（Ｓ６７０３）。その後、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６７０４）。そして、デモ表示フラグ２３３ｙ、および確定表示フラグ２３３ｚをいずれもオフに設定して（Ｓ６７０５）、オープニングコマンドを終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２６９７】

図１９０に戻り、説明を続ける。Ｓ６４０８の処理において、表示用オープニングコマンドがないと判別されると（Ｓ６４０８：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用ラウンド数コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４１０）、表示用ラウンド数コマンドがあれば（Ｓ６４１０：Ｙｅｓ）、ラウンド数コマンド処理を実行して（Ｓ６４１１）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２６９８】

ここで、図１９２（ｂ）を参照して、ラウンド数コマンド処理（Ｓ６４１１）の詳細について説明する。図１９２（ｂ）は、ラウンド数コマンド処理を示すフローチャートである。このラウンド数コマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用ラウンド数コマンドに対応する処理を実行するものである。

【２６９９】

ラウンド数コマンド処理では、まず、表示用ラウンド数コマンドによって示されるラウンド数に対応したラウンド数表示データテーブルを決定し、その決定したラウンド数表示データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６８０１）。次いで、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ６８０２）。

【２７００】

そして、Ｓ６８０１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されたラウンド数表示データテーブルを基に、その演出時間を表す時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ６８０３）、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６８０４）。そして、デモ表示フラグ２３３ｙ、および確定表示フラグ２３３ｚをいずれもオフに設定して（Ｓ６８０５）、ラウンド数コマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２７０１】

図１９０に戻って説明を続ける。Ｓ６４１０の処理において、表示用ラウンド数コマンドがないと判別されると（Ｓ６４１０：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示

用エンディングコマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４１２）、表示用エンディングコマンドがあれば（Ｓ６４１２：Ｙｅｓ）、エンディングコマンド処理を実行して（Ｓ６４１３）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２７０２】

ここで、図１９３を参照して、エンディングコマンド処理（Ｓ６４１３）の詳細について説明する。図１９３は、エンディングコマンド処理を示すフローチャートである。このエンディングコマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用エンディングコマンドに対応する処理を実行するものである。

【２７０３】

エンディングコマンド処理では、まず、表示用エンディングコマンドによって示されるエンディング演出の表示態様に対応したエンディング表示データテーブルを決定し、その決定したエンディング表示データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６９０１）。次いで、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ６９０２）。

【２７０４】

次いで、Ｓ６９０１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されたエンディング表示データテーブルを基に、その演出時間を表す時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ６９０３）、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６９０４）。そして、デモ表示フラグ２３３ｙ、および確定表示フラグ２３３ｚをいずれもオフに設定して（Ｓ６９０５）、エンディングコマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２７０５】

図１９０に戻り、説明を続ける。Ｓ６４１２の処理において、表示用エンディングコマンドがないと判別されると（Ｓ６４１２：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用変動停止コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４１４）、表示用変動停止コマンドがあれば（Ｓ６４１４：Ｙｅｓ）、変動停止コマンド処理を実行して（Ｓ６４１５）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２７０６】

ここで、図１９４（ａ）を参照して、変動停止コマンド処理（Ｓ６４１５）の詳細について説明する。図１９４（ａ）は、変動停止コマンド処理を示すフローチャートである。この変動停止コマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用変動停止コマンドに対応する処理を実行するものである。

【２７０７】

この表示用変動停止コマンドとは、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１２参照）において設定された表示用変動パターンコマンドの終了タイミング、即ち、主制御装置１１０における各特別図柄の変動パターンを設定する処理にて設定された変動パターン（変動時間）の終了タイミング（主制御装置１１０が停止コマンドを設定するタイミング）にて、音声ランプ制御装置１１３から出力される表示用停止コマンド（正常停止コマンド）を示すものである。

【２７０８】

変動停止コマンド処理では、まず、表示用変動停止コマンドによって示される変動停止データテーブルを決定し、その決定した変動停止データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６９３１）。次いで、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ６９３２）。

【２７０９】

次いで、Ｓ６９３１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された変動停止データテーブルを基に、その演出時間を表す時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ６９３３）、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６９３４）。そして、デモ表示フラグ２３３ｙ、および確定表示フラグ２３３ｚをいずれもオフに設定して（Ｓ

６９３５）、変動停止コマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。
【２７１０】
図１９０に戻り、説明を続ける。Ｓ６４１４の処理において、変動停止コマンドがないと判別されると（Ｓ６４１４：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用報知コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４１６）、表示用報知コマンドがあれば（Ｓ６４１６：Ｙｅｓ）、報知コマンド処理を実行して（Ｓ６４１７）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。
【２７１１】
ここで、図１９４（ｂ）を参照して、報知コマンド処理（Ｓ６４１７）の詳細について説明する。図１９４（ｂ）は、報知コマンド処理を示すフローチャートである。この報知コマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した（表示用）報知コマンドに対応する処理を実行するものである。
【２７１２】
この報知コマンドは、主制御装置１１０にて設定された各種異常状態を示すためのコマンドを音声ランプ制御装置１１３が受信した場合に設定される各種報知コマンドのうち、表示制御装置１１４に出力された表示用報知コマンドを表示制御装置１１４が受信した場合に実行される処理である。
【２７１３】
報知コマンド処理では、まず、報知コマンドによって示される報知態様に対応した表示（報知）データテーブルを決定し、その決定した表示（報知）データテーブルをデータテーブル格納エリア２３３ｂから読み出して、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する（Ｓ６９５１）。次いで、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ６９５２）。
【２７１４】
次いで、Ｓ６９５１の処理によって表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示（報知）データテーブルを基に、その演出時間を表す時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ６９５３）、ポインタ２３３ｆを０に初期化する（Ｓ６９５４）。そして、デモ表示フラグ２３３ｙ、および確定表示フラグ２３３ｚをいずれもオフに設定して（Ｓ６９５５）、報知コマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。
【２７１５】
なお、本制御例では、音声ランプ制御装置１１３の設定した各種報知コマンドのうち、報知対象が第３図柄表示装置８１（表示装置）であることを示す表示用コマンドのみを表示制御装置１１４が判別するように構成しているが、これに限ること無く、表示用コマンド以外の発光用コマンドや、音声出力用コマンドや、役物駆動用コマンドといった関連コマンドも一旦受信し、表示制御装置１１４の処理にて設定されたデータ内容（表示態様）を示すための情報を追加した状態で、関連コマンドを対応する制御装置に出力するように構成しても良い。
【２７１６】
図１９０に戻り、説明を続ける。Ｓ６４１６の処理において、表示用報知コマンドがないと判別されると（Ｓ６４１６：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、背面画像変更コマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４１８）、背面画像変更コマンドがあれば（Ｓ６４１８：Ｙｅｓ）、背面画像変更コマンド処理を実行して（Ｓ６４１９）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。
【２７１７】
ここで、図１９５（ａ）を参照して、背面画像変更コマンド処理（Ｓ６４１９）の詳細について説明する。図１９５（ａ）は、背面画像変更コマンド処理を示すフローチャートである。この背面画像変更コマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信した背面画像変更コマンドに対応する処理を実行するものである。
【２７１８】
背面画像変更コマンド処理では、まず、オン状態で背面画像変更コマンドを受信したことに伴う背面画像の変更を通常画像転送設定処理（Ｓ７５０３）に通知する背面画像変更

フラグ２３３ｗをオンに設定する（Ｓ７００１）。そして、背面画像種別（背面Ａ，Ｂ）毎に設けられた背面画像判別フラグ２３３ｘの各ビットのうち、背面画像変更コマンドによって示された背面画像種別に対応するビットをオンに設定すると共に、その他の背面画像種別に対応するビットをオフに設定して（Ｓ７００２）、この背面画像変更コマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２７１９】

通常画像転送設定処理では、Ｓ７００１の処理により設定される背面画像変更フラグ２３３ｗがオンされていることを検出すると、Ｓ７００２の処理によって設定される背面画像判別フラグ２３３ｘから、変更後の背面画像種別を特定する。

【２７２０】

また、タスク処理では、表示データテーブルに規定された背面画像の背面種別によって、背面Ａ，Ｂのいずれかを表示させることが規定されていた場合、Ｓ７００２によって設定された背面画像判別フラグ２３３ｘから、その時点において表示すべき背面画像種別を特定し、更に、表示すべき背面画像の範囲を時間経過に合わせて特定して、その背面画像の範囲に対応する画像データが格納されているＲＡＭ種別（常駐用ビデオＲＡＭ２３５か、通常用ビデオＲＡＭ２３６か）と、そのＲＡＭのアドレスを特定する。

【２７２１】

なお、遊技者が枠ボタン２２を２０ミリ秒以下で連続して操作することはないので、２０ミリ秒以内に２以上の背面画像変更コマンドを受信することはなく、したがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に２以上の背面画像変更コマンドが格納されている場合はないはずであるが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って背面画像変更コマンドとして解釈されるおそれもあり得る。Ｓ７００２の処理では、２以上の背面画像コマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合、先に受信した背面画像コマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグ２３３ｘをオンしてもよいし、後に受信した背面画像コマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグ２３３ｘをオンしてもよい。また、任意の１の背面画像変更コマンドを抽出し、そのコマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグ２３３ｘをオンしてもよい。この背面画像の変更は、パチンコ機１０における遊技価値の直接影響を与えるものではないので、パチンコ機１０の特性や操作性に応じて、適宜設定するのが好ましい。

【２７２２】

ここで、図１９０の説明に戻る。Ｓ６４１８の処理において、背面画像変更コマンドがないと判別されると（Ｓ６４１８：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、エラーコマンドがあるか否かを判別し（Ｓ６４２０）、エラーコマンドがあれば（Ｓ６４２０：Ｙｅｓ）、エラーコマンド処理を実行して（Ｓ６４２１）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。

【２７２３】

ここで、図１９５（ｂ）を参照して、エラーコマンド処理（Ｓ６４２１）の詳細について説明する。図１９５（ｂ）は、エラーコマンド処理を示すフローチャートである。このエラーコマンド処理は、音声ランプ制御装置１１３より受信したエラーコマンドに対応する処理を実行するものである。

【２７２４】

エラーコマンド処理では、まず、オン状態でエラーが発生していることを示すエラー発生フラグをオンに設定する（Ｓ７１０１）。そして、エラー種別毎に設けられたエラー判別フラグのうち、エラーコマンドによって示されるエラー種別に対応するエラー判別フラグをオンすると共に、その他のエラー判別フラグをオフに設定して（Ｓ７１０２）、エラーコマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

【２７２５】

表示設定処理では、Ｓ７１０１の処理によって設定されたエラー発生フラグに基づいて、エラーの発生を検出すると、Ｓ７１０２の処理によって設定されたエラー判別フラグから発生したエラー種別を判断し、そのエラー種別に対応する警告画像を第３図柄表示装置

８１に表示させるように処理を実行する。
【２７２６】
なお、２以上のエラーコマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合、Ｓ７１０２に処理では、それぞれのエラーコマンドによって示される全てのエラー種別に対応するエラー判別フラグをオンに設定する。これにより、全てのエラー種別に対応する警告画像が第３図柄表示装置８１に表示されるので、遊技者やホール関係者が、エラーの発生状況を正しく把握することができる。
【２７２７】
ここで、図１９０の説明に戻る。Ｓ６４１６の処理において、エラーコマンドがないと判別されると（Ｓ６４２０：Ｎｏ）、次いで、その他の未処理のコマンドに対応する処理を実行し（Ｓ６４２２）、Ｓ６４０１の処理へ戻る。
【２７２８】
各コマンドの処理が実行された後に再び実行されるＳ６４０１の処理では、再度、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがあるか否かを判別し、未処理の新規コマンドがあれば（Ｓ６４０１：Ｙｅｓ）、再びＳ６４０２～Ｓ６４２２の処理を実行する。そして、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがなくなるまで、Ｓ６４０１～Ｓ６４２２の処理が繰り返し実行され、Ｓ６４０１の処理で、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがないと判別されると、このコマンド判定処理を終了する。
【２７２９】
なお、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）において簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンの場合に実行される簡易コマンド判定処理（Ｓ６３０８）も、コマンド判定処理と同様の処理が行われる。ただし、簡易コマンド判定処理では、コマンドバッファ領域に格納されている未処理のコマンドから、電源投入時画像を表示するのに必要なコマンド、即ち、表示用変動パターンコマンドおよび表示用停止種別コマンドだけを抽出して、それぞれのコマンドに対応する処理である、変動パターンコマンド処理（図１９１（ａ）参照）および停止種別コマンド処理（図１９１（ｂ）参照）を実行すると共に、その他のコマンドについては、そのコマンドに対応する処理を実行せずに破棄する処理を行う。
【２７３０】
ここで、この場合に実行される、変動パターンコマンド処理（図１９１（ａ）参照）では、Ｓ６５０１の処理で、電源投入時変動画像の表示に対応した表示データテーブルバッファが表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定され、また、その場合に必要となる電源投入時主画像および電源投入時変動画像の画像データは常駐用ビデオＲＡＭ２３５の電源投入時主画像エリア２３５ａおよび電源投入時変動画像エリア２３５ｂに格納されているので、Ｓ６５０２の処理では、転送データテーブルバッファ２３３ｅにはＮｕｌｌデータを書き込み、その内容をクリアする処理が行われる。
【２７３１】
次いで、図１９６～図１９８を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるＶ割込処理の一処理である上述の表示設定処理（Ｓ６３０３）の詳細について説明する。図１９６は、この表示設定処理を示すフローチャートである。
【２７３２】
この表示設定処理では、図１９６に示すように、まず、新規コマンドフラグがオンであるか否かを判別し（Ｓ７２０１）、新規コマンドフラグがオンではない、即ち、オフであれば（Ｓ７２０１：Ｎｏ）、先に実行されるコマンド判定処理において新規コマンドが処理されていないと判断して、Ｓ７２０２～Ｓ７２０４の処理をスキップし、Ｓ７２０５の処理へ移行する。一方、新規コマンドフラグがオンであれば（Ｓ７２０１：Ｙｅｓ）、先に実行されるコマンド判定処理において新規コマンドが処理されたと判断し、新規コマンドフラグをオフに設定した後（Ｓ７２０２）、Ｓ７２０３～Ｓ７２０４の処理によって、新規コマンドに対応する処理を実行する。
【２７３３】
Ｓ７２０３の処理では、エラー発生フラグがオンであるか否かを判別する（Ｓ７２０３

）。そして、エラー発生フラグがオンであれば（Ｓ７２０３：Ｙｅｓ）、警告画像設定処理を実行する（Ｓ７２０４）。

【２７３４】

ここで、図１９７を参照して、警告画像設定処理の詳細について説明する。図１９７は、警告画像設定処理を示すフローチャートである。この処理は、発生したエラーに対応する警告画像を第３図柄表示装置８１に表示させる画像データを展開するための処理で、まず、エラー判別フラグを参照し、オンが設定された全てのエラー判別フラグに対応したエラーの警告画像を第３図柄表示装置８１に表示させる警告画像データを展開する（Ｓ７３０１）。

【２７３５】

タスク処理（Ｓ６３０４）では、この展開された警告画像データを元に、その警告画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、各スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

【２７３６】

そして、警告画像設定処理では、Ｓ７３０１の処理の後、エラー発生フラグをオフに設定して（Ｓ７３０２）、表示設定処理に戻る。

【２７３７】

ここで、図１９６の説明に戻る。警告画像設定処理（Ｓ７２０４）の後、又は、Ｓ７２０３の処理において、エラー発生フラグがオンではない、即ち、オフであると判別されると（Ｓ７２０３：Ｎｏ）、次いで、Ｓ７２０５の処理へ移行する。

【２７３８】

Ｓ７２０５では、ポインタ更新処理を実行する（Ｓ７２０５）。ここで、図１９８を参照して、ポインタ更新処理の詳細について説明する。図１９８は、ポインタ更新処理を示すフローチャートである。このポインタ更新処理は、表示データテーブルバッファ２３３ｄおよび転送データテーブルバッファ２３３ｅの各バッファにそれぞれ格納された表示データテーブルおよび転送データテーブルから、対応する描画内容もしくは転送対象画像データの転送データ情報を取得すべきアドレスを指定するポインタ２３３ｆの更新を行う処理である。

【２７３９】

このポインタ更新処理では、まず、ポインタ２３３ｆに１を加算する（Ｓ７４０１）。即ち、ポインタ２３３ｆは、原則、Ｖ割込処理が実行される度に１だけ加算されるように更新処理が行われる。また、上述したように、各種データテーブルは、アドレス「００００Ｈ」には、Ｓｔａｒｔ情報が記載されており、それぞれのデータの実体はアドレス「０００１Ｈ」以降に規定されているところ、表示データテーブルが表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納されるのに合わせてポインタ２３３ｆの値が０に初期化された場合は、このポインタ更新処理によってその値が１に更新されるので、アドレス「０００１Ｈ」から順に、それぞれのデータテーブルから実体的なデータを読み出すことができる。

【２７４０】

Ｓ７４０１の処理によって、ポインタ２３３ｆの値を更新した後、次いで、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示データテーブルにおいて、その更新後のポインタ２３３ｆで示されるアドレスのデータがＥｎｄ情報であるか否かを判別する（Ｓ７４０２）。その結果、Ｅｎｄ情報であれば（Ｓ７４０２：Ｙｅｓ）、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示データテーブルにおいて、その実体データが記載されたアドレスを過ぎてポインタ２３３ｆが更新されたことを意味する。

【２７４１】

そこで、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納されている表示データテーブルがデモ用表示データテーブルであるか否かを判別して（Ｓ７４０３）、デモ用表示データテーブルであれば（Ｓ７４０３：Ｙｅｓ）、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されているデモ用表示データテーブルの演出時間に対応する時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ７４０４）、ポインタ２３３ｆを１に設定して初期化し（Ｓ７４０５）

、本処理を終了し、表示設定処理に戻る。これにより、表示設定処理では、デモ用表示データテーブルの先頭から順に描画内容を展開することができるので、第３図柄表示装置８１には、デモ演出を繰り返し表示させることができる。

【２７４２】

一方、Ｓ７４０３の処理において、表示データテーブルバッファ２３３ｄに格納されている表示データテーブルがデモ用表示データテーブルでないと判別された場合は（Ｓ７４０３：Ｎｏ）、ポインタ２３３ｆの値を１だけ減算して（Ｓ７４０６）、本処理を終了し、表示設定処理に戻る。これにより、表示設定処理では、表示データテーブルバッファ２３３ｄにデモ用表示データテーブル以外の表示データテーブル、例えば、変動表示データテーブルが設定されている場合は、Ｅｎｄ情報が記載された１つ前のアドレスの描画内容が常に展開されるので、第３図柄表示装置８１には、その表示データテーブルで規定される最後の画像を停止させた状態で表示させることができる。一方、Ｓ７４０２の処理において、更新後のポインタ２３３ｆで示されるアドレスのデータがＥｎｄ情報でなければ（Ｓ７４０２：Ｎｏ）、本処理を終了し、表示設定処理に戻る。

【２７４３】

ここで、図１９６に戻り説明を続ける。ポインタ更新処理の後、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されている表示データテーブルから、ポインタ更新処理によって更新されたポインタ２３３ｆで示されるアドレスの描画内容を取得する（Ｓ７２０６）。タスク処理（Ｓ６３０４）では、先に展開された警告画像などと共に、Ｓ７２０６の処理で展開された描画内容を元に、画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、各スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

【２７４４】

次いで、計時カウンタ２３３ｈの値を１だけ減算し（Ｓ７２０７）、減算後の計時カウンタ２３３ｈの値が０以下であるか否かを判別する（Ｓ７２０８）。そして、計時カウンタ２３３ｈの値が１以上である場合は（Ｓ７２０８：Ｎｏ）、そのまま表示設定処理を終了してＶ割込処理に戻る。一方、計時カウンタ２３３ｈの値が０以下である場合は（Ｓ７２０８：Ｙｅｓ）、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されている表示データテーブルに対応する演出の演出時間が経過したことを意味する。このとき、表示データテーブルバッファ２３３ｄに変動表示データテーブルが設定されている場合は、その変動表示を終了すると共に停止表示を行うタイミングであるので、確定表示フラグがオンであるか否かを確認する（Ｓ７２０９）。

【２７４５】

その結果、確定表示フラグがオフであれば（Ｓ７２０９：Ｎｏ）、まだ確定表示の演出を行っておらず、確定表示の演出を行うタイミングなので、まず、確定表示データテーブルを表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定し（Ｓ７２１０）、次いで、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ７２１１）。そして、確定表示データテーブルの演出時間に対応する時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定し（Ｓ７２１２）、更に、ポインタ２３３ｆの値を０に初期化する（Ｓ７２１３）。そして、オン状態で確定表示演出中であることを示す確定表示フラグをオンに設定した後（Ｓ７２１４）、停止図柄判別フラグの内容をそのままワークＲＡＭ２３３に設けられた前回停止図柄判別フラグにコピーして（Ｓ７２１５）、Ｖ割込処理に戻る。

【２７４６】

これにより、表示データテーブルバッファ２３３ｄに変動表示データテーブルが設定されている場合などにおいて、その演出の終了に合わせて、変動演出における停止図柄の確定表示演出が第３図柄表示装置８１に表示されるように、その描画内容を設定することができる。また、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定される表示データテーブルを確定表示データテーブルに変更するだけで、容易に、第３図柄表示装置８１に表示させる演出を確定表示演出に変更することができる。そして、従来のように、別のプログラムを

起動させることによって表示内容を変更する場合と比較して、プログラムが複雑かつ肥大化することなく、よって、ＭＰＵ２３１に多大な負荷がかかることがないので、表示制御装置１１４の処理能力に関係なく、多種多様な演出画像を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２７４７】

なお、Ｓ７２１５の処理によって設定された前回停止図柄判別フラグは、次に行われる変動演出において第３図柄表示装置８１に表示すべき第３図柄を特定するために用いられる。即ち、上述したように、変動演出における第３図柄の表示は、１つ前に行われた変動演出の停止図柄に応じて変わるためであり、変動表示データテーブルでは、そのデータテーブルに基づく変動が開始されてから所定時間経過するまでは、１つ前に行われた変動演出の停止図柄からの図柄オフセット情報が記載されている。タスク処理（Ｓ６３０４）では、変動が開始されてから所定時間が経過するまで、Ｓ７２１５によって設定された前回停止図柄判別フラグから、１つ前に行われた変動演出の停止図柄を特定すると共に、その特定した停止図柄に対して表示設定処理により取得された図柄オフセット情報を加算することによって、実際に表示すべき第３図柄を特定する。これにより、１つ前の変動演出における停止図柄から変動演出が開始される。

【２７４８】

一方、Ｓ７２０９の処理において、確定表示フラグがオンであれば（Ｓ７２０９：Ｙｅｓ）、デモ表示フラグがオンであるか否かを判別する（Ｓ７２１６）。そして、デモ表示フラグがオフであれば（Ｓ７２１６：Ｎｏ）、確定表示演出の終了に伴って計時カウンタ２３３ｈの値が０以下になったことを意味するので、確定表示演出の終了から一定時間経過後に、第３図柄表示装置８１にデモ演出を表示させるための処理を行う。

【２７４９】

まず、デモ表示データテーブルを取得して表示データテーブルバッファ２３３ｄへ設定し（Ｓ７２１７）、転送データテーブルバッファ２３３ｅにＮｕｌｌデータを書き込むことで、その内容をクリアする（Ｓ７２１８）。そして、デモ表示データテーブルの演出時間に対応する時間データを計時カウンタ２３３ｈに設定する（Ｓ７２１９）。そして、ポインタ２３３ｆを０に初期化し（Ｓ７２２０）、オン状態でデモ演出中であることを示すデモ表示フラグをオンに設定して（Ｓ７２２１）、本処理を終了し、Ｖ割込処理に戻る。

【２７５０】

これにより、確定表示演出が終了した後に、次の変動演出開始を示す表示用変動パターンコマンドを受信しなかった場合には、自動的に、第３図柄表示装置８１にデモ演出が表示されるように、その描画内容を設定することができる。

【２７５１】

Ｓ７２１６の処理において、デモ表示フラグがオンであれば（Ｓ７２１６：Ｙｅｓ）、確定表示演出が終了した後にデモ演出が行われ、そのデモ演出が終了したことを意味するので、そのまま表示設定処理を終了し、Ｖ割込処理に戻る。そして、この場合、次回のＶ割込処理の中で実行されるポインタ更新処理によって、上述したように、再びデモ演出が開始されるように、各種設定が行われるので、音声ランプ制御装置１１３より新たな表示用変動パターンコマンドを受信するまでは、デモ演出を繰り返し第３図柄表示装置８１に表示させることができる。

【２７５２】

なお、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）において簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンの場合に実行される簡易表示設定処理（Ｓ６３０９）でも、表示設定処理と同様の処理が行われる。ただし、簡易表示設定処理では、電源投入時変動画像による変動演出の演出時間が終了した後、所定時間、表示用停止種別コマンドに基づいて設定された停止図柄に応じた電源投入時変動画像の一方の画像を停止表示させることを規定した表示データテーブルを、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定する処理が行われる。

【２７５３】

次いで、図１９９及び図２００を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行

されるＶ割込処理の一処理である上述の転送設定処理（Ｓ６３０５）の詳細について説明する。まず、図１９９（ａ）は、この転送設定処理を示すフローチャートである。

【２７５４】

この転送設定処理では、まず、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンか否かを判別する（Ｓ７５０１）。そして、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンであれば、（Ｓ７５０１：Ｙｅｓ）、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されていないので、常駐画像転送設定処理を実行して（Ｓ７５０２）、転送設定処理を終了し、Ｖ割込処理へ戻る。これにより、画像コントローラ２３７に対して、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送させるための転送指示が設定される。なお、常駐画像転送設定処理の詳細については、図１９９（ｂ）を参照して後述する。

【２７５５】

一方、Ｓ７５０１の処理の結果、簡易画像表示フラグ２３３ｃがオンではない、即ち、オフであれば、（Ｓ７５０１：Ｎｏ）、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送されている。この場合は、通常画像転送設定処理を実行し（Ｓ７５０３）、転送設定処理を終了して、Ｖ割込処理へ戻る。これにより、以後のキャラクタＲＯＭ２３４からの画像データの転送は、通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して行われるように転送指示が設定される。なお、通常画像転送設定処理の詳細については、図２００を参照して後述する。

【２７５６】

次いで、図１９９（ｂ）を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行される転送設定処理（Ｓ６３０５）の一処理である常駐画像転送設定処理（Ｓ７５０２）について説明する。図１９９（ｂ）は、この常駐画像転送設定処理（Ｓ７５０２）を示すフローチャートである。

【２７５７】

この常駐画像転送設定処理では、まず、画像コントローラ２３７に対して、未転送の画像データの転送指示をしているか否かを判別し（Ｓ７６０１）、転送指示を送信していれば（Ｓ７６０１：Ｙｅｓ）、更に、その転送指示に基づき画像コントローラ２３７により行われる画像データの転送処理が終了したか否かを判別する（Ｓ７６０２）。このＳ７６０２の処理では、画像コントローラ２３７に対して画像データの転送指示を行った後、画像コントローラ２３７から、転送処理の終了を示す転送終了信号を受信した場合に、転送処理が終了したと判断する。そして、Ｓ７６０２の処理により、転送処理が終了していないと判別される場合（Ｓ７６０２：Ｎｏ）、画像コントローラ２３７において画像の転送処理が継続して行われているので、この常駐画像転送設定処理を終了する。一方、転送処理が終了したと判別される場合（Ｓ７６０２：Ｙｅｓ）、Ｓ７６０３の処理へ移行する。また、Ｓ７６０１の処理の結果、画像コントローラ２３７に対して、未転送の画像データの転送指示を送信していない場合も（Ｓ７６０１：Ｎｏ）、Ｓ７６０３の処理へ移行する。

【２７５８】

Ｓ７６０３の処理では、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての常駐対象画像データを転送したか否かを判別し（Ｓ７６０３）、未転送の常駐対象画像データがあれば（Ｓ７６０３：Ｎｏ）、その未転送の常駐対象画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送するように、画像コントローラ２３７に対する転送指示を設定し（Ｓ７６０４）、本処理を終了する。

【２７５９】

これにより、描画処理において画像コントローラ２３７に対して送信される描画リストに、未転送の常駐対象画像データに関する転送データ情報が含められることになり、画像コントローラ２３７は、その描画リストに記載された転送データ情報を基に、常駐対象画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５へ転送することができ

る。なお、転送データ情報には、常駐対象画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレスと最終アドレス、転送先の情報（この場合は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５）、及び転送先（ここで転送される常駐対象画像データを格納すべき常駐用ビデオＲＡＭ２３５に設けられたエリア）の先頭アドレスが含められる。画像コントローラ２３７は、この転送データ情報に基づいて画像転送処理を実行し、転送処理で指定された画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から読み出して一旦バッファＲＡＭ２３７ａに格納した後、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の未使用期間中に、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の指定されたアドレスに転送する。そして、転送が完了すると、ＭＰＵ２３１に対して、転送終了信号を送信する。

【２７６０】

Ｓ７６０３の処理の結果、全ての常駐対象画像データが転送されていれば（Ｓ７６０３：Ｙｅｓ）、簡易画像表示フラグ２３３ｃをオフに設定して（Ｓ７６０５）、本処理を終了する。これにより、Ｖ割込処理（図１８９（ｂ）参照）において、簡易コマンド判定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０８参照）および簡易表示設定処理（図１８９（ｂ）のＳ６３０９参照）ではなく、コマンド判定処理（図１９０～図１９５参照）および表示設定処理（図１９６～図１９８参照）が実行されるので、通常時の画像の描画が設定されることになり、第３図柄表示装置８１には通常時の画像が表示される。また、以後のキャラクタＲＯＭ２３４からの画像データの転送は、通常画像転送設定処理（図２００参照）により、通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して行われる（図１９９（ａ）のＳ７５０１：Ｎｏ参照）。

【２７６１】

ＭＰＵ２３１は、この常駐画像転送設定処理を実行することにより、既にメイン処理の中で転送されている電源投入時主画像および電源投入時変動画像を除く、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての常駐対象画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から常駐用ビデオＲＡＭ２３５に対して転送することができる。そして、ＭＰＵ２３１は、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送された画像データを、電源投入中、上書きすることなく保持され続けるよう制御する。これにより、常駐画像転送設定処理によって常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送された画像データは、電源投入中、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されることになる。

【２７６２】

よって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐すべき全ての画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に転送された後、表示制御装置１１４は、この常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐された画像データを使用しながら、画像コントローラ２３７にて画像の描画処理を行うことができる。これにより、描画処理に使用する画像データが常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていれば、画像描画時に読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成されたキャラクタＲＯＭ２３４から対応する画像データを読み出す必要がないため、その読み出しにかかる時間を省略でき、画像の描画を即座に行って第３図柄表示装置８１に描画した画像を表示することができる。

【２７６３】

特に、常駐用ビデオＲＡＭ２３５には、背面画像や、第３図柄、キャラクタ図柄、エラーメッセージといった、頻繁に表示される画像の画像データや、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４などによって表示が決定された後、即座に表示すべき画像の画像データを常駐させるので、キャラクタＲＯＭ２３４をＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａで構成しても、遊技者によって任意のタイミングで行われる種々の操作から、第３図柄表示装置８１に何らかの画像を表示させるまでの応答性を高く保つことができる。

【２７６４】

次いで、図２００を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行される転送設定処理（Ｓ６３０５）の一処理である通常画像転送設定処理（Ｓ７５０３）について説明する。図２００は、この通常画像転送設定処理（Ｓ７５０３）を示すフローチャートであ

る。
【２７６５】
この通常画像転送設定処理では、まず、転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定されている転送データテーブルから、先に実行された表示設定処理（Ｓ６３０３）のポインタ更新処理（Ｓ７２０５）によって更新されたポインタ２３３ｆで示されるアドレスに記載された情報を取得する（Ｓ７７０１）。そして、取得した情報が転送データ情報であるか否かを判別し（Ｓ７７０２）、転送データ情報であれば（Ｓ７７０２：Ｙｅｓ）、その転送データ情報から、転送対象画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスを抽出して、ワークＲＡＭ２３３に設けられた転送データバッファに格納し（Ｓ７７０３）、更に、ワークＲＡＭ２３３に設けられ、オン状態で転送開始すべき画像データが存在することを示す転送開始フラグをオンに設定して（Ｓ７７０４）、Ｓ７７０５の処理へ移行する。
【２７６６】
また、Ｓ７７０２の処理において、取得した情報が転送データ情報ではなく、Ｎｕｌｌデータであれば（Ｓ７７０２：Ｎｏ）、Ｓ７７０３及びＳ７７０４の処理をスキップして、Ｓ７７０５の処理へ移行する。Ｓ７７０５の処理では、画像コントローラ２３７に対して、前回行われた画像データの転送が終了した後に、新たに画像データの転送指示を設定したか否かを判別し（Ｓ７７０５）、転送指示を設定していれば（Ｓ７７０５：Ｙｅｓ）、更に、その転送指示に基づき画像コントローラ２３７により行われる画像データの転送が終了したか否かを判別する（Ｓ７７０６）。
【２７６７】
このＳ７７０６の処理では、画像コントローラ２３７に対して画像データの転送指示を設定した後、画像コントローラ２３７から、転送処理の終了を示す転送終了信号を受信した場合に、転送処理が終了したと判断する。そして、Ｓ７７０６の処理により、転送処理が終了していないと判別される場合（Ｓ７７０６：Ｎｏ）、画像コントローラ２３７において画像の転送処理が継続して行われているので、この通常画像転送設定処理を終了する。一方、転送処理が終了したと判別される場合（Ｓ７７０６：Ｙｅｓ）、Ｓ７７０７の処理へ移行する。また、Ｓ７７０５の処理の結果、前回の転送処理の終了後に、画像コントローラ２３７に対して画像データの転送指示を設定していない場合も（Ｓ７７０５：Ｎｏ）、Ｓ７７０７の処理へ移行する。
【２７６８】
Ｓ７７０７の処理では、転送開始フラグがオンか否かを判別し（Ｓ７７０７）、転送開始フラグがオンであれば（Ｓ７７０７：Ｙｅｓ）、転送開始すべき画像データが存在しているので、転送開始フラグをオフにし（Ｓ７７０８）、Ｓ７７０３の処理によって転送データバッファに格納した各種情報によって示されるスプライトの画像データを転送対象画像データに設定した上で、Ｓ７７１３の処理へ移行する。一方、転送開始フラグがオンではなく、オフであれば（Ｓ７７０７：Ｎｏ）、次いで、背面画像変更フラグ２３３ｗはオンか否かを判別する（Ｓ７７０９）。そして、背面画像変更フラグ２３３ｗがオンではなく、オフであれば（Ｓ７７０９：Ｎｏ）、転送開始すべき画像データが存在していないので、そのまま通常画像転送設定処理を終了する。
【２７６９】
一方、背面画像変更フラグ２３３ｗがオンであれば（Ｓ７７０９：Ｙｅｓ）、背面画像の変更を意味するので、背面画像変更フラグ２３３ｗをオフに設定した後（Ｓ７７１０）、背面画像種別毎に設けられた背面画像判別フラグ２３３ｘのうち、オン状態にある背面画像判別フラグ２３３ｘに対応する背面画像の画像データを特定し、その画像データを転送対象画像データに設定する（Ｓ７７１１）。更に、オン状態にある背面画像判別フラグ２３３ｘに対応する背面画像の画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスを取得し（Ｓ７７１２）、Ｓ７７１３の

処理へ移行する。
【２７７０】
　Ｓ７７１３の処理では、転送対象画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６に既に格納されているか否かを判別する（Ｓ７７１３）。このＳ７７１３の処理における判別では、格納画像データ判別フラグ２３３ｉを参照することによって行われる。即ち、転送対象画像データとされたスプライトに対応する格納状態を格納画像データ判別フラグ２３３ｉより読み出して、その格納状態が「オン」であれば、転送対象となったスプライトの画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納されていると判断し、格納状態が「オフ」であれば、転送対象となったスプライトの画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納されていないと判断する。
【２７７１】
　そして、Ｓ７７１３の処理の結果、転送対象画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納されていれば（Ｓ７７１３：Ｙｅｓ）、キャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して、その画像データを転送する必要がないので、そのまま通常画像転送設定処理を終了する。これにより、無駄に画像データがキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に対して転送されるのを抑制することができ、表示制御装置１１４の各部における処理負担の軽減や、バスライン２４０におけるトラフィックの軽減を図ることができる。
【２７７２】
　一方、Ｓ７７１３の処理の結果、転送対象画像データが通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納されていなければ（Ｓ７７１３：Ｎｏ）、その転送対象画像データの転送指示を設定する（Ｓ７７１４）。これにより、描画処理において画像コントローラ２３７に対して送信される描画リストに、転送対象画像データの転送データ情報が含められることになり、画像コントローラ２３７は、その描画リストに記載された転送データ情報を基に、転送対象画像の画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。なお、転送データ情報には、転送対象画像の画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレスと最終アドレス、転送先の情報（この場合は、通常用ビデオＲＡＭ２３６）、及び転送先（ここで転送される転送対象画像の画像データを格納すべき通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａに設けられたサブエリア）の先頭アドレスが含められる。画像コントローラ２３７は、この転送データ情報に基づいて画像転送処理を実行し、転送処理で指定された画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から読み出して、指定されたビデオＲＡＭ（ここでは、通常用ビデオＲＡＭ２３６）の指定されたアドレスに転送する。そして、転送が完了すると、ＭＰＵ２３１に対して、転送終了信号を送信する。
【２７７３】
　Ｓ７７１４の処理の後、格納画像データ判別フラグ２３３ｉを更新し（Ｓ７７１５）、この通常用転送設定処理を終了する。格納画像データ判別フラグ２３３ｉの更新は、上述したように、転送対象画像データとなったスプライトに対応する格納状態を「オン」に設定し、また、その一のスプライトと同じ画像格納エリア２３６ａのサブエリアに格納されることになっているその他のスプライトに対応する格納状態を「オフ」に設定することによって行われる。
【２７７４】
　このように、この通常用画像転送処理を実行することによって、先に実行されたコマンド判定処理の中で、表示用停止種別コマンドに対応する処理が実行され、その結果、表示用停止種別コマンドによって示される停止種別情報が大当たりの停止種別であると判別された場合は、ファンファーレ演出において使用する画像データを遅滞なくキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に転送させることができる。また、先に実行されたコマンド判定処理の中で背面画像変更コマンドの受信に基づいて背面画像の変更が行われた場合は、その背面画像で用いられる画像データのうち、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の背面画像エリア２３５ｃに格納されていない画像データを、遅滞なく、キャラクタＲＯＭ

２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６に転送させることができる。
【２７７５】
　また、本制御例では、主制御装置１１０からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、表示データテーブルが表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定されるのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定される。そして、ＭＰＵ２３１は、通常画像転送設定処理を実行することにより、転送データテーブルバッファ２３３ｅに設定された転送データテーブルのポインタ２３３ｆで示されるエリアに記載されている転送データ情報に従って、画像コントローラ２３７に対し転送対象画像データの転送指示を設定するので、表示データテーブルバッファ２３３ｄに設定された表示データテーブルで用いられるスプライトの画像データを、所望のタイミングで確実にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。
【２７７６】
　ここで、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア２３６ａに格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されているので、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から画像格納エリア２３６ａに転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオＲＡＭ２３５に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア２３６ａに格納させておくことができる。
【２７７７】
　これにより、読み出し速度の遅いＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａによってキャラクタＲＯＭ２３４を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタＲＯＭ２３４から読み出し、通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を第３図柄表示装置８１に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送することができる。
【２７７８】
　また、転送データテーブルでは、スプライトに対応する画像データ毎にキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ画像データが転送されるように、その転送データ情報を規定する。これにより、その画像データの転送をスプライト毎に管理し、また、制御することができるので、その転送に係る処理を容易に行うことができる。そして、スプライト単位でキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６への画像データの転送を制御することにより、その処理を容易にしつつ、詳細に画像データの転送を制御できる。よって、転送にかかる負荷の増大を効率よく抑制することができる。
【２７７９】
　次いで、図２０１を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるＶ割込処理の一処理である上述の描画処理（Ｓ６３０６）の詳細について説明する。図２０１は、この描画処理を示すフローチャートである。
【２７８０】
　描画処理では、タスク処理（Ｓ６３０４）で決定された１フレームを構成する各種スプライトの種別ならびにそれぞれのスプライトの描画に必要なパラメータ（表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報）、及び、転送設定処理（Ｓ６３０５）により設定された転送指示から、描画リスト（図１５５）を生成する（Ｓ７８０１）。即ち、Ｓ７８０１の処理では、タスク処理（Ｓ６３０４）で決定された１フレームを構成する各種スプライトの種別から、各スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納されている格納ＲＡＭ種別とアドレスとを特定し、その特

定された格納ＲＡＭ種別とアドレスとに対して、タスク処理で決定されたそのスプライトに必要なパラメータを対応付ける。そして、各スプライトを、１フレーム分の画像の中で最も背面側に配置すべきスプライトから前面側に配置すべきスプライト順に並び替えた上で、その並び替え後のスプライト順に、それぞれのスプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）として、スプライトの画像データが格納されている格納ＲＡＭ種別ならびにアドレスおよびそのスプライトの描画に必要なパラメータを記述することで、描画リストを生成する。また、転送設定処理（Ｓ６３０５）により転送指示が設定された場合は、その描画リストの末尾に、転送データ情報として、転送対象画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスを追記する。

【２７８１】

なお、上述したように、スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納される常駐用ビデオＲＡＭ２３５のエリア、又は、通常用ビデオＲＡＭ２３６の画像格納エリア２３６ａのサブエリアが固定されているので、ＭＰＵ２３１は、スプライト種別に応じて、そのスプライトの画像データが格納されている格納ＲＡＭ種別とアドレスとを即座に特定し、それらの情報を描画リストの詳細情報に容易に含めることができる。

【２７８２】

描画リストを生成すると、その生成した描画リストと、描画対象バッファフラグ２３３ｊによって特定される描画対象バッファ情報とを画像コントローラへ送信する（Ｓ７８０２）。ここでは、描画対象バッファフラグ２３３ｊが０である場合は、描画対象バッファ情報として第１フレームバッファ２３６ｂに描画された画像を展開するよう指示する情報を含め、描画対象バッファフラグ２３３ｊが１である場合は、描画対象バッファ情報として第２フレームバッファ２３６ｃに描画された画像を展開するよう指示する情報を含める。

【２７８３】

画像コントローラ２３７は、ＭＰＵ２３１より受信した描画リストに基づいて、その描画リストの先頭に記述されたスプライトから順に画像を描画し、それを描画対象バッファ情報によって指示されたフレームバッファに上書きによって展開する。これにより、描画リストによって生成された１フレーム分の画像において、最初に描画したスプライトが最も背面側に配置させ、最後に描画したスプライトが最も前面側に配置させることができる。

【２７８４】

また、描画リストに転送データ情報が含まれている場合は、その転送データ情報から、転送対象画像データが格納されているキャラクタＲＯＭ２３４の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオＲＡＭ２３６）の先頭アドレスを抽出し、その格納元先頭アドレスから格納元最終アドレスまでに格納された画像データを順にキャラクタＲＯＭ２３４から読み出してバッファＲＡＭ２３７ａに一時的に格納した後、通常用ビデオＲＡＭ２３６が未使用状態にあるときを見計らって、バッファＲＡＭ２３７ａに格納した画像データを通常用ビデオＲＡＭ２３６の転送先先頭アドレスによって示されるエリアに順次転送する。そして、この通常用ビデオＲＡＭ２３６に格納された画像データは、その後にＭＰＵ２３１より送信される描画リストに基づいて使用され、描画リストに従った画像の描画が行われる。

【２７８５】

なお、画像コントローラ２３７は、描画対象バッファ情報によって指示されたフレームバッファとは異なるフレームバッファから、先に展開された画像の画像情報を読み出して、駆動信号と共にその画像情報を第３図柄表示装置８１に送信する。これにより、第３図柄表示装置８１に対して、フレームバッファに展開した画像を表示させることができる。また、一方のフレームバッファに描画した画像を展開しながら、一方のフレームバッファから展開した画像を第３図柄表示装置８１に表示させることができ、描画処理と表示処理とを同時並列的に処理することができる。

【２７８６】
描画処理は、Ｓ７８０２の処理の後、描画対象バッファフラグ２３３ｊを更新する（Ｓ７８０３）。そして、描画処理を終了して、Ｖ割込処理に戻る。描画対象バッファフラグ２３３ｊの更新は、その値を反転させることにより、即ち、値が「０」であった場合は「１」に、「１」であった場合は「０」に設定することによって行われる。これにより、描画対象バッファは、描画リストが送信される度に、第１フレームバッファ２３６ｂと第２フレームバッファ２３６ｃとの間で交互に設定される。
【２７８７】
ここで、描画リストの送信は、１フレーム分の画像の描画処理および表示処理が完了する２０ミリ秒毎に画像コントローラ２３７から送信されるＶ割込信号に基づいて、ＭＰＵ２３１により実行されるＶ割込処理（図１８９（ｂ）参照）の描画処理が実行される度に、行われることになる。これにより、あるタイミングで、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定されて、画像の描画処理および表示処理が実行されると、１フレーム分の画像の描画処理が完了する２０ミリ秒後に、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定される。よって、先に第１フレームバッファ２３６ｂに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第２フレームバッファ２３６ｃに新たな画像が展開される。
【２７８８】
そして、更に次の２０ミリ秒後には、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第１フレームバッファ２３６ｂが指定され、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第２フレームバッファ２３６ｃが指定される。よって、先に第２フレームバッファ２３６ｃに展開された画像の画像情報が読み出されて第３図柄表示装置８１に表示させることができると同時に、第１フレームバッファ２３６ｂに新たな画像が展開される。以後、１フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、１フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、２０ミリ秒毎に、それぞれ第１フレームバッファ２３６ｂおよび第２フレームバッファ２３６ｃのいずれかを交互に指定することによって、１フレーム分の画像の描画処理を行いながら、１フレーム分の画像の表示処理を２０ミリ秒単位で連続的に行わせることができる。
【２７８９】
以上、説明をした通り、本第１制御例では、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とが重複して（並行して）実行されることが無いように構成しており、第２特別図柄の抽選のほうが、第１特別図柄の抽選よりも優先して実行されるように構成している。そして、第１特別図柄の抽選よりも第２特別図柄の抽選のほうが遊技者に有利となる抽選が実行されるように構成している。さらに、設定されている遊技状態に応じて第２特別図柄の抽選の実行し易さを異ならせるように構成している。具体的には、普通図柄の低確率状態が設定されている場合（通常状態）よりも、普通図柄の高確率状態が設定されている場合（時短状態、確変状態）が設定されている場合のほうが、第２特別図柄の抽選権利を取得し易くなるように、普通図柄の当たり当選時に実行される当たり遊技（普図当たり遊技）にて開放動作される電動役物６４０ａが付随する入球口（第２入球口６４０）に球が入球した場合に、第２特別図柄の抽選権利を取得し得るように構成している。つまり、初期の遊技状態である通常状態にて遊技を行う場合には、第２特別図柄抽選よりも第１特別図柄抽選のほうが実行され易く構成し、第１特別図柄の抽選にて大当たり当選したことを契機に、普通図柄の高確率状態を設定可能にし、普通図柄の高確率状態が設定された場合に、第１特別図柄の抽選よりも有利となる第２特別図柄の抽選を実行するように構成している。このように構成することで、設定される遊技状態に応じて遊技者への有利度合いを大きく異ならせることができるため、遊技者に対して有利度合いの高い遊技状態が設定されることを期待しながら意欲的に遊技を行わせることができる。

【２７９０】
　また、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で実行される普通図柄抽選にて当たり当選した場合に、電動役物６４０ａが５秒間開放される普図当たり遊技を実行可能に構成している。このように構成することで、遊技者に不利な遊技状態である通常状態であっても、一時的に第２特別図柄抽選を実行させ易い期間を提供することが可能となるため、通常状態を遊技している遊技者に対して、特別図柄抽選大当たり当選を目指す遊技と、普通図柄抽選で当たり当選を目指す遊技と、を実行させることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【２７９１】
　さらに、本制御例では、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選に対応して第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される特図２変動演出の演出態様を、記憶している第２特別図柄の抽選権利数、即ち、特図２保留数に基づいて可変させるように構成している。具体的には、第２特別図柄抽選の結果が大当たりである場合に実行される特図２変動演出の演出態様として、変動演出の前半期間に抽選結果が外れであることを示す疑似外れ変動演出を実行し、後半期間において、疑似外れ変動演出にて停止（仮停止）された第３図柄を再始動させて抽選結果が大当たりであることを示す疑似当たり変動演出を実行するように構成し、その疑似当たり変動演出にて第３図柄が一時的に停止（仮停止）する回数を、特図２保留数に対応させて可変させるように構成している。このように構成することで、第２特別図柄抽選の結果が大当たりであることを示す組合せで第３図柄が停止表示（確定表示）されるまでに、第３図柄を複数回疑似停止させる変動演出を実行することが可能となる。つまり、複数回の第２特別図柄抽選を経て大当たり当選したと思わせることができる。
【２７９２】
　これにより、普図当たり遊技中に獲得した複数の特図２保留のうち、最初に実行される第２特別図柄抽選に用いられた特図２保留で大当たり当選した場合であっても、遊技者に対して、複数の特図２保留を普図当たり遊技中に獲得したため大当たり当選したと思わせることができるため、普図当たり遊技中により意欲的に特図２保留を獲得するための遊技を行わせることができる。
【２７９３】
　また、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合における特図２保留数が０の場合は、上述した疑似当たり変動演出として、第１特別図柄抽選が実行される場合に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される変動演出（第１特別図柄抽選に対応して第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される特図１変動演出の演出態様）を模した変動演出を実行するように構成している。このように構成することで、特図２保留を獲得していない状況で疑似的に特図２変動演出が繰り返されることを抑制することができるため、遊技者に対して疑似的な変動演出が実行されていることを識別させ難くすることができる。また、特図１変動演出を模した疑似的な変動演出が実行された後に、第２特別図柄抽選で大当たり当選したことを示す組合せで第３図柄が停止表示（確定表示）されるため、遊技者に対して意外性のある変動演出を実行することが可能となる。
【２７９４】
　本制御例では、確変大当たり遊技が実行される場合には、予め（大当たり遊技開始時に）報知演出の演出態様として大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを示す演出態様を設定しておき、報知演出が実行される直前に（例えば、大当たりエンディング期間の開始時に）特定ゲートへの球の流下結果に基づいて報知演出の演出態様を切り替えるか否かの判別を実行し、特定ゲートを球が流下している場合には、予め設定しておいた演出態様の報知演出を実行し、特定ゲートを球が流下していない場合にのみ、報知演出の演出態様を切り替えるように構成している。
【２７９５】
　さらに、本制御例では、大当たりエンディング期間の長さを、確変大当たりと通常大当たりとで異ならせており、遊技者にとって有利となる確変大当たりのほうが通常大当たり

よりも長いエンディング期間が設定されるように構成している。これにより、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを、実際に確変状態が設定されるよりも前に遊技者に分かり易く報知することができる。一方、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されない場合には、その旨を長期間報知したとしても遊技者に不快感を与えてしまうだけであるため、エンディング期間が短くなるように構成している。

【２７９６】

このように、大当たりエンディング期間の長さを、確変大当たりと通常大当たりとで異ならせている場合において、確変大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させることができなかった場合には、大当たりエンディング期間の演出態様を単に通常当たり遊技のエンディング期間に実行される演出態様へと切り替える処理を実行するだけではエンディング期間の長さが異なるためエンディング期間中に違和感のある報知演出が実行されてしまうという問題があった。また、確変大当たり遊技において球を特定ゲートへと流下させることができなかった場合にのみ設定される専用の演出態様を予め容易してしまうと、その演出態様に対する画像データ（演出データ）を予め表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４に記憶させておく必要があり、記憶容量が増加してしまうという問題があった。

【２７９７】

これに対して、本制御例では、大当たりエンディング期間を前半期間と後半期間とに区分けし、後半期間の長さを大当たり種別に関わらず共通の長さとするように構成し、確変大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させることが出来なかった場合に、大当たりエンディング期間の後半期間に対応する演出態様のみ通常当たり遊技のエンディング期間の後半期間に対して設定される演出態様へと切り替えるように構成している。これにより、確変大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させることが出来なかった場合にのみ用いられる専用の演出態様を設けること無く、且つ、遊技者に違和感を与えることの無い報知演出を実行することができる。

【２７９８】

なお、本制御例では、大当たりエンディング期間を前半期間と後半期間とに区分けし、後半期間の長さを大当たり種別に関わらず共通の長さとするように構成することで、確変大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させることが出来なかった場合に実行される報知演出の演出態様を切替設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技の最終ラウンド期間中から報知演出を実行することで、実際の大当たりエンディング期間よりも長い期間実行される報知演出を実行可能に構成しても良いし、大当たりエンディング期間が設定されてから所定期間の間、大当たり遊技の最終ラウンド期間中に実行されるラウンド演出を継続して実行し、その後、報知演出を実行することで、実際の大当たりエンディング期間よりも短い期間の報知演出を実行するように構成しても良い。

【２７９９】

このＶ入賞装置２６５０は、上述した第８制御例のＶ入賞装置２６５０（図１９４～図１９６参照）と同一内容で構成されているため、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。また、可変表示ユニット８０の右側領域の構成、及び、右側領域を流下した球がスルーゲート６７、一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、Ｖ入賞装置２６５０へと入球する割合については、上述した左側領域と同一であるため、その詳細な説明は省略する。以上、説明をした通り、本制御例では、設定されている遊技状態に関わらず、ひいては大当たり遊技が実行されているか否かに関わらず、遊技者が右打ち遊技を実行しても左打ち遊技を実行しても同様の特典が付与されるように構成している。よって、遊技者は自分の気分に合わせて任意の遊技方法で遊技を行うことができる。

【２８００】

なお、本制御例では、図２３０に示した通り、パチンコ機１０の遊技盤１３の構成を左右対称に構成しているが、これに限ること無く、例えば、遊技者が獲得可能な特典量が左打ち遊技を行った場合と、右打ち遊技を行った場合とで大きく乖離しないように構成すれば良く、例えば、左側領域に設けられる一般入球口６３の数を、右側領域に設けられる一

般入球口６３の数よりも少なくし、且つ、第１入球口６４へと球が入球する割合を、右打ち遊技よりも左打ち遊技のほうが高くなるように構成し、左打ち遊技のほうが右打ち遊技よりも賞球を獲得し難いが第１特別図柄抽選を実行し易くし、右打ち遊技のほうが左打ち遊技よりも賞球を獲得し易いが第１特別図柄抽選を実行し難くするように構成しても良い。このように構成した場合には、通常状態中、即ち、第１入球口６４へと球を入球させる遊技を実行している間は、遊技者が任意の遊技方法で遊技を行うことができ、第２入球口６４０へと球を入球させる遊技（時短状態や確変状態中の遊技）においては、左打ち遊技よりも右打ち遊技のほうが遊技者に有利な遊技とすることができる。

【２８０１】

上記各制御例では、主制御装置１１０において第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ）が更新される度（即ち、増加した場合や、減少した場合にそれぞれ）に、保留球数コマンドを主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へ送信する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、主制御装置１１０において第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ）が増加する場合だけ、保留数コマンドを主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へ送信する。また、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信された変動パターンコマンドを受信すると、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂの値を１減らすように構成する。これにより、主制御装置１１０が音声ランプ制御装置１１３へ保留数コマンドを送信する回数と、音声ランプ制御装置１１３が保留数コマンドを受信する回数とをそれぞれ減らすことができるので、主制御装置１１０および音声ランプ制御装置１１３の制御的負担を軽減することができる。

【２８０２】

上記各制御例においては、第１入球口６４への入賞は最大４回まで、スルーゲート６７の通過は最大１回まで保留されるように構成したが、最大保留球数はこれに限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定してもよい。また、第１入球口６４への入賞に基づく変動表示の保留球数を、第３図柄表示装置８１の一部において、数字で、或いは、４つに区画された領域を保留球数分だけ異なる態様（例えば、色や点灯パターン）にして表示するようにしてもよく、第１図柄表示装置３７とは別体でランプ等の発光部材を設け、該発光部材によって保留球数を通知するように構成してもよい。

【２８０３】

また、上記各制御例に示すように、動的表示の一種である変動表示は、第３図柄表示装置８１の表示画面上で識別情報としての図柄を縦方向にスクロールさせるものに限定されず、縦方向あるいはＬ字形等の所定経路に沿って図柄を移動表示して行うものであってもよい。また、識別情報の動的表示としては、図柄の変動表示に限られるものではなく、例えば、１又は複数のキャラクタを図柄と共に、若しくは、図柄とは別に多種多様に動作表示または変化表示させて行われる演出表示なども含まれるのである。この場合、１又は複数のキャラクタが、第３図柄として用いられる。また、特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の動的表示の表示態様と、普通図柄の抽選結果を示すための装飾図柄の動的表示の表示態様と、を遊技者が識別困難となるように、例えば、表示制御装置１１４が有する共通の画像データを用いて各表示態様を設定するように構成しても良い。

【２８０４】

上述した各制御例では、遊技者に各図柄の抽選結果を示すための第３図柄表示を１つの表示手段（第３図柄表示装置８１）にて実行しているが、それ以外の構成を用いてもよく、例えば、第３図柄のうち、遊技者に強調して表示される主図柄を表示する表示手段と、従図柄を表示する表示手段とで異なる表示手段を設けてもよい。また、表示手段の構成として、液晶ディスプレイ以外の構成を用いても良い。

【２８０５】

上述した各制御例では、遊技者に有利となる遊技状態（時短状態）の場合と、その時短状態よりも遊技者に不利となる遊技状態（通常状態）の場合とで、遊技盤１３の左側領域

を狙う左打ち遊技が実行されるように構成しているが、遊技状態に応じて異なる遊技盤１３の狙う領域を異ならせるように構成しても良く、例えば、通常状態の場合は遊技盤１３の左側領域を狙う左打ち遊技が実行され、時短状態の場合は遊技盤１３の右側領域を狙う右打ち遊技が実行されるように構成しても良い、また、時短状態中に左打ち遊技を実行させ、通常状態中に右打ち遊技を実行させてもよい。

【２８０６】

さらに、上述した各制御例では、何れの遊技状態が設定されている場合も、大当たり遊技が設定されている場合も、遊技盤１３の左側領域を狙う左打ち遊技が実行されるように構成しているが、これに限ること無く、時短状態が設定されている場合と、大当たり遊技中は右打ち遊技を実行させ、通常状態中のみ左打ち遊技を実行させるように構成しても良い。このように構成することで、実行させる遊技方法（右打ち遊技、左打ち遊技）に応じて遊技者に有利な状態であるか否かを遊技者に分かり易く理解させることができる。

【２８０７】

上述した各制御例では、遊技者が操作可能な操作手段として、遊技者が押下動作することにより、操作手段が操作されたことが判別される枠ボタン２２を用いているが、それ以外の構成を用いてもよく、遊技者が左右または前後に傾倒させることで操作されたことを判別可能なレバー状に構成された操作手段や、遊技者が接触または近接したで操作されたことを判別可能なタッチセンサ式の操作手段や、所定の電波を発信することで操作されたことを判別可能な無線式の操作手段等を用いても良い。また、枠ボタン２２を音声ランプ制御装置１１３に対して電気的に接続させており、枠ボタン２２を、パチンコ機１０にて実行される演出の演出態様を、遊技者の操作に基づいて可変させるための演出用操作手段として用いているが、枠ボタン２２に対する遊技者の操作に基づいてパチンコ機１０で実行される各種演出の演出態様を可変させることができれば良く、例えば、枠ボタン２２を表示制御装置１１４に対して電気的に接続させても良いし、操作手段（枠ボタン２２）からの出力信号を入力可能にし、表示制御装置１１４、音声ランプ制御装置１１３、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７へと出力可能な演出設定信号を生成可能な制御装置を設けても良い。このように構成することで、演出用操作手段を複数設けた場合であっても、複数の演出用操作手段から出力される出力信号（操作信号）を集中管理することができるため、演出用操作手段への遊技者の操作に対する演出態様を円滑に設定することができる。

【２８０８】

さらに、上述した第１制御例では、大当たり遊技終了後に有利遊技状態（確変状態、時短状態）が設定された場合に、所定期間の間（特別図柄変動が２０回実行されるまでの間）、短時間の変動時間が選択される高速変動期間を設定可能に構成し、その高速変動期間中は、枠ボタン２２を操作した場合に背景モード移行演出が実行されない（され難い）ように構成している。これにより、短時間の変動時間が選択され易い期間中に、操作演出として背景モード移行演出が実行されてしまい、特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄の停止表示態様を遊技者が把握し難くなる事態が発生することを抑制することができる。

【２８０９】

また、第１制御例では、高速変動期間中に枠ボタン２２に対して第１操作、即ち、通常状態が設定されている状態においては、背景モード移行演出が実行される操作（「通常押し」）を行った場合に、背景モード移行演出とは異なる演出態様の操作演出が実行されるように構成している。これにより、高速変動期間中においても遊技者に対して意欲的に枠ボタン２２を操作させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２８１０】

加えて、本第１制御例では、高速変動期間中であっても、上述した第１操作（「通常押し」）以外の第２操作（「長押し」）を実行することで、背景モード移行演出を実行可能に構成している。このように構成することで、第３図柄の停止表示態様が把握し難くなることを承知した上で背景モード移行演出を実行させようとする遊技者に対して背景モード移行演出を提供することができる。本第１制御例では、第１操作が実行されたと判別する

のに要する期間よりも第２操作が実行されたと判別するのに要する期間のほうが長くなるように構成している。これにより、背景モード移行演出が実行される頻度を抑えることができるため、過剰に第３図柄の停止表示態様が把握し難くなることを抑制することができる。

【２８１１】

なお、本実施形態のように、所定条件が成立していない場合において、操作手段に対して第１操作を行うことで実行される第１操作処理を、所定条件が成立した場合においては、操作手段に対して第１操作を行ったとしても実行されないようにする（され難くする）技術思想を他の技術に用いても良く、例えば、パチンコ機１０にて出力される音声の大きさ（音量）を調整する音量調整処理や、第３図柄表示装置８１として液晶ディスプレイを用いた場合に、その液晶ディスプレイの輝度を調整する輝度調整処理を上述した第１操作処理として適用し、所定条件が成立していない場合（例えば、特別図柄変動が実行されていない場合）には第１操作処理を実行可能にし、所定条件が成立している場合（例えば、特別図柄変動が実行されている場合）には第１操作処理を実行困難にするように構成しても良い。

【２８１２】

また、上述した所定条件として、特別図柄変動の有無だけでは無く、パチンコ機１０において異常が発生した場合に成立する条件や、大当たり遊技中に成立する条件を設定可能に構成しても良い。

【２８１３】

さらに、このように構成されたパチンコ機１０において、所定条件が成立している場合に、上述した第１操作を実行した場合に、第１操作処理とは異なる第２操作処理（例えば、第１操作処理が実行されないことを報知する処理）を実行するように構成すると良い。これにより、第１操作処理が実行されないことを遊技者が容易に把握することができる。なお、これに限ること無く、第１操作処理とは関連しない別の操作演出を実行するように構成しても良い。

【２８１４】

加えて、上述した所定条件が成立している場合においても、本制御例と同様に第１操作とは異なる第２操作を実行することにより、上述した第１操作処理が実行されるように構成すると良い。また、本第１制御例では、１の操作手段（枠ボタン２２）に対する操作方法を異ならせることで第１操作と第２操作とを実行可能に構成しているが、これに限ること無く、複数の操作手段をパチンコ機１０に設け、第１操作手段（例えば、枠ボタン２２）を操作することで第１操作を実行可能にし、第２操作手段（例えば、枠ボタン２２以外に設けられた枠ボタン）を操作することで第２操作を実行可能にするように構成しても良い。また、この場合、第１操作よりも第２操作のほうが実行し難くなるように構成すると良く、例えば、第１操作手段を遊技者が常時操作可能なパチンコ機１０の前面側に配置し、第２操作手段を遊技者が操作困難なパチンコ機１０の背面側（図１２１参照）に配置するように構成すると良い。

【２８１５】

さらに、上述した第１操作手段と第２操作手段と、を設けた場合には、第１操作手段に対する操作を有効に判別する第１操作有効判別期間と、第２操作手段に対する操作を有効に判別する第２操作有効判別期間と、を統一して設定しても良いし、異なる期間を設定しても良い。各操作有効判別期間を統一した場合には、有効期間の判別処理を簡素化することができる。また、異なる期間を設定した場合には、操作する操作手段の種別に応じて、その操作を有効と判別する期間が異なるため、様々な操作手段を様々なタイミングで操作しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【２８１６】

以上、説明をした第１制御例では、通常状態と、その通常状態よりも遊技者に有利となる複数の有利遊技状態（確変状態、時短状態）を設定可能に構成し、有利遊技状態のうち、何れかの遊技状態が設定された場合において、設定された遊技状態が終了するまでの期

間では無く、次に通常状態が設定されるまでの期間（残期間）を、遊技者に報知可能に構成している。

【２８１７】

ここで、従来より、遊技者にとって有利となる有利遊技状態（例えば、確変状態や時短状態）が設定された場合に、その有利遊技状態が継続する期間（特別図柄変動回数）を遊技者に報知するものがある。具体的には、有利遊技状態が継続する期間を示す残期間表示態様として「１００回」を表示し、特別図柄抽選が実行される毎に、残期間表示態様の値を１減算表示するものがある。これにより、現在設定されている有利遊技状態中にあと何回の特別図柄抽選を実行することができるのかを遊技者に容易に把握させることができるものであった。

【２８１８】

また、近年の遊技機では、遊技者にとって有利となる有利遊技状態として複数の状態種別を設定可能なものがあり、有利遊技状態として、通常有利遊技状態（例えば、時短状態）と、その第１有利遊技状態よりもさらに有利な最有利遊技状態（例えば、確変状態）と、を設定可能なものがある。

【２８１９】

このように構成されたパチンコ機１０では、遊技状態が、最有利遊技状態から通常有利遊技状態へと移行する場合において、最有利遊技状態が継続する期間を示すための残期間表示態様を遊技者に報知し、その後、通常有利遊技状態が設定されると、通常有利遊技状態が継続する期間を示すための残期間表示態様を用いて遊技者に報知するものであった。

【２８２０】

つまり、最有利遊技状態が設定されている状態において、最有利遊技状態が継続する期間（残期間）を遊技者に把握させることは可能であるが、最有利遊技状態が終了した後に設定される遊技状態がどのような遊技状態であるか、また、最有利遊技状態が終了した後に設定される遊技状態が継続する期間がどの程度であるかを遊技者が把握することができないものであった。

【２８２１】

よって、遊技者は最有利遊技状態が終了した場合に、最有利遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態が設定されるのか、それとも最有利遊技状態よりも遊技者に不利となる遊技状態（例えば、通常状態）が設定されるのかを把握することができず、最有利遊技状態中において、何を目指して遊技を行えば良いのかを分かり難くしてしまうという問題があった。

【２８２２】

これに対して、本制御例では、上述した通り、複数種類の有利遊技状態が連続して設定される場合において、その複数種類の有利遊技状態が終了するまでの期間、即ち、次に通常状態が設定されるまでの期間を対象として有利遊技状態残期間表示態様を表示するように構成している。このように構成することで、異なる種別の有利遊技状態が連続して設定される場合には、連続して設定される有利遊技状態を跨ぐように有利状態残期間表示態様が表示されるため、遊技者に対して安心して遊技を行わせることができる。

【２８２３】

さらに、本第１制御例では、連続して設定される複数の有利遊技状態（確変状態、時短状態）を跨いだ一つの有利遊技状態期間の残期間を報知している場合に、現在設定されている遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者が識別困難な演出を実行可能に構成している。よって、有利遊技状態期間中において設定されている遊技状態を分かり難くすることができるため、遊技者により有利な遊技状態が設定されていることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【２８２４】

本第１制御例では、連続して設定される複数の有利遊技状態（確変状態、時短状態）を跨いだ一つの有利遊技状態期間の残期間を報知している場合に、現在設定されている遊技状態や、過去に設定されていた遊技状態を示唆可能な示唆演出を実行可能に構成している

。これにより、遊技状態期間中に実行される示唆演出の内容に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【２８２５】

さらに、第１制御例では、有利遊技状態期間に中に複数種類の演出態様で操作演出を実行可能に構成しており、設定されている遊技状態に応じて各演出態様の選択割合を異ならせている。よって、有利遊技状態期間中に実行される操作演出の演出態様に基づいて現在の遊技状態を遊技者に予測させることができるため演出効果を高めることができる。また、設定されている遊技状態に応じて各演出態様の選択割合を異ならせているだけであるため、有利遊技状態期間中に実行される操作演出の回数を増加させるほど予測精度を高めることができる。よって、遊技者に対して意欲的に操作手段（枠ボタン２２）を操作させることができる。なお、本制御例では、図１４９を参照して上述した通り「チャンスモード」中に枠ボタン２２が操作された場合であって、操作演出の演出態様として「リーチ示唆」が選択された場合には、実行中の特別図柄変動がリーチ状態となるか否か、リーチ状態となる場合にはそのリーチラインやリーチ図柄を遊技者に示唆する「リーチ示唆」演出が実行されるように構成していたが、これに限ること無く、例えば、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている第２特別図柄に関する入賞情報の中にリーチ状態となる入賞情報があるかを判別し、その判別結果に基づいてリーチ状態となる第２特別図柄変動が実行される旨を当該第２特別図柄変動が実行されるよりも前に遊技者に報知するように構成しても良い。このように、操作演出の演出対象を、実行中の特別図柄変動だけでは無く、保留記憶されている特別図柄変動（今後実行される特別図柄変動）にまで広げることにより、より演出効果を高めることができる。

【２８２６】

また、上述した第１制御例では、枠ボタン２２を遊技者が操作することにより、背景モード移行や特別図柄抽選の結果を示すための演出が実行されるように構成していたが、遊技者が操作手段を操作することにより実行可能な機能として、例えば、パチンコ機１０の音声出力装置２２６（図１３７参照）から出力される音量を調整する音量調整機能や、液晶ディスプレイで形成される第３図柄表示装置８１の表示面における輝度を調整する輝度調整機能を用いても良い。この、音量調整機能や、輝度調整機能についても、上述した背景モード移行と同様に、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される第３図柄の変動演出を見え難くする虞があるため、所定条件が成立した場合、具体的には、特別図柄変動の変動時間として短い変動時間が選択され易い期間（高速変動期間）が設定された場合に、それ以外の期間が設定されている場合よりも実行され難くなるように構成しても良い。

【２８２７】

上述した第１制御例では、高速変動期間が設定されている間も、背景モード移行を実行し得る構成としているが、これに限ること無く、完全に背景モード移行が実行されないように構成しても良い。また、上述した第１制御例では、操作手段を操作することにより実行される操作演出として特定の演出態様（背景モード移行）が実行され易い第１期間と、その第１期間よりも実行され難い第２期間と、を設けているが、特定の演出態様で操作演出が実行される割合を異ならせた期間を３つ以上設定可能に構成しても良い。

【２８２８】

＜第２制御例＞

次に、図２０２から図２１０を参照して、第２制御例について説明をする。本第２制御例では、上述した第１制御例に対して、第３図柄表示装置８１の表示面に各種画像を表示するための構成、及び制御内容を異ならせている点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【２８２９】

上述した第１制御例では、図１２２（ｂ）を参照して上述した第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各図柄列Ｚ１～Ｚ３を一つの画層に表示させるように構成していた。これに対して、本第２制御例では各図柄列Ｚ１～Ｚ３を構成する主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚと、を異なる画層に表示させるように構成している点で相違している。そして、異なる

画層に表示される主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚとを同期させて表示制御することにより、上述した第１制御例と同様に各図柄列Ｚ１～Ｚ３を変動表示させることを可能に構成している。

【２８３０】

ここで、従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。

【２８３１】

ところで、一般的な遊技機として、複数の第３図柄（例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって形成される図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が停止表示された場合に、大当たり期待度を高めた演出（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。しかしながら、従来の遊技機では、図柄列を形成する各図柄の順序を可変すること無く、変動表示の変動速度のみを可変させた変動表示が実行されている。よって、図柄列の変動表示を用いた変動演出の演出効果を高めることができないという問題があった。

【２８３２】

また、１の図柄列に特別図柄抽選の結果を示すための識別情報（主図柄）以外の識別情報（副図柄）を配置することで、変動表示のバリエーションを増加させるものも提案されているが、このような構成を用いたとしても、主図柄と副図柄とで形成される図柄列の変動表示速度を可変させるだけでは変動演出の演出効果を高めることができないという問題があった。

【２８３３】

さらに、主図柄や副図柄の配置や種別を異ならせた複数の図柄列を予め容易しておき、特定の変動演出を実行する場合に、図柄列そのものを可変させることにより変動演出の演出効果を高めるものもあるが、実行される変動演出に応じて異なる図柄列を変動表示させる制御を実行する必要があるため、表示制御が煩雑になるという問題があった。

【２８３４】

これに対して、本制御例では、図柄列表示を複数の画層（レイヤ）を用いて実行するように構成している。具体的には、図柄列を構成する主図柄と、副図柄と、を別の画層（レイヤ）に表示するように構成している。そして、通常時は、主図柄と副図柄とを同期させて変動表示させることにより、図柄列を形成する各種図柄を特定の配列（図１２２（ｂ）参照）で変動表示させながら、主図柄の変動表示内容と、副図柄の変動表示内容と、を異ならせることにより、特定の図柄配列以外の態様で図柄列を変動表示可能に構成している。

【２８３５】

このように構成することで、特定の図柄列を形成する第３図柄（主図柄、副図柄）の画像データを用いながら、特定の図配列以外の態様で第３図柄の変動表示を容易に行うことができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【２８３６】

ここで、図２０２を参照して、本第２制御例にて第３図柄表示装置８１の表示面にて表示される表示内容について説明をする。図２０２（ａ）は、本第２制御例のパチンコ機１０に形成される表示画層と、表示画面との関係を示した模式図であり、図２０２（ｂ）は、主図柄画層ｓｒの表示がオフ、副図柄画層ｆｒの表示がオンに設定されている場合に実行される表示演出の一例を示した図であり、図２０２（ｃ）は、図２０２（ｂ）の表示演出の演出結果の一例を示した図である。

【２８３７】

図２０２（ａ）に示した通り、本第２制御例では、主図柄ｓｚが表示される主図柄画層ｓｒと、副図柄ｆｚが表示される副図柄画層ｆｒと、が重複形成されており、主図柄画層ｓｒが副図柄画層ｆｒよりも前面（遊技者目線で手前側）に配置されるように構成してい

る。なお、図２０２（ａ）では、主図柄画層ｓｒと、副図柄ｆｚのみを標記しているが、実際には、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種画像を表示する各画層（レイヤ）が重畳されている。

【２８３８】

具体的には、図１５５を参照して上述した描画リストに記載されているように、１フレームの画像で使用する背面画像、第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）、エフェクト（エフェクト１，エフェクト２，・・・）、キャラクタ（キャラクタ１，キャラクタ２，・・・，保留球数図柄１，保留球数図柄２，・・・，エラー図柄）といった各スプライトに対応させて各画層（レイヤ）が形成されている。そして、表示画像が重複している箇所については、手前側の画層（レイヤ）に表示される表示画像が優先して視認可能となる。

【２８３９】

このように構成された本第２制御例では、主図柄画層ｓｒに表示される主図柄ｓｚと、副図柄画層ｆｒに表示される副図柄ｆｚと、がともに変動表示された場合には、主図柄ｓｚが副図柄ｆｚよりも優先して表示されるため、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報（主図柄ｓｚ）が、特別図柄抽選の結果を示さない識別情報（副図柄ｆｚ）に隠れてしまい、遊技者が特別図柄抽選の結果を視認し難くなる事態が発生することを抑制することができる。また、特別図柄抽選の結果を遊技者に視認し易くするために主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが重複しないように変動表示制御する必要が無いため、変動表示制御を簡素化することができると共に、第３図柄表示装置８１の表示面という限られた表示領域を最大限に利用して主図柄ｓｚの変動表示を実行することができる。

【２８４０】

なお、本制御例では、図２０２（ａ）に示した通り、主図柄画層ｓｒを副図柄画層ｆｒよりも手前側（優先的）に配置し、主図柄ｓｚが副図柄ｆｚよりも優先して表示されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、副図柄ｆｚが主図柄ｓｚよりも優先して表示されるように、副図柄画層ｆｒを主図柄画層ｓｒよりも手前側（優先的）に配置するように構成しても良い。このように構成することで、各図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を変動表示させている際中において、主図柄ｓｚの表示態様を遊技者に視認させ難くすることができる。よって、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）変動が停止表示されるまで特別図柄抽選の結果を遊技者が把握し難くなるため、最後まで期待感を持たせた第３図柄の変動演出を実行することができる。

【２８４１】

次に、図２０２（ｂ）及び図２０２（ｃ）を参照して、各図柄画層に対する表示制御により実行される変動演出について説明をする。上述した通り、本制御例では、図柄列を構成する主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚとを独立して表示させることが可能に構成している。さらに、各画層に対して表示設定される表示画像を、表示するか否かを設定可能に構成している。つまり、内部的には各画層に対する表示制御を実行しながら、その画層そのものを対象に表示の有無（オン、オフ）を設定可能に構成している。

【２８４２】

図２０２（ｂ）では、主図柄画層ｓｒの表示がオフに設定され、副図柄画層ｆｒの表示がオンに設定されている場合の表示画面の一例を示したものであって、第３図柄表示装置８１の表示面には、各図柄列Ｚ１～Ｚ３のうち、副図柄ｆｚのみが変動表示されている。そして、副表示領域Ｄｓには、主図柄ｓｚが表示されるまでに副図柄ｆｚが停止表示することで、今回の第３図柄変動において有効となるリーチラインを遊技者に予告するためのリーチライン予告演出が実行されたことを示す「リーチライン予告スタート」の文字が表示される。その後、副図柄ｆｚが停止位置に応じた演出結果が表示される。

【２８４３】

図２０２（ｃ）に示した例では、副図柄ｆｚが「ひし形状」に停止表示され、有効ラインＬ４、及び有効ラインＬ５（図１２２参照）においてリーチ状態となることを示す演出結果として、副表示領域Ｄｓに「ダブルリーチ確定」の文字が表示される。そして、このリーチライン予告演出が終了すると、主図柄画層ｓｒの表示がオンに設定され、有効ライ

ンＬ４、及び有効ラインＬ５（図１２２参照）においてリーチ状態となる主図柄ｓｚの種別が何になるのかを遊技者に示唆するための変動演出が実行され、その後、ダブルリーチ演出（図１３１参照）が実行される。

【２８４４】

このように、本第２制御例では、主図柄ｓｚの変動表示と、副図柄ｆｚの変動表示と、を異ならせて実行することが可能であるため、先に副図柄ｆｚを変動表示させることにより、主図柄ｓｚが停止表示される箇所を遊技者に報知し、その後、主図柄ｓｚを変動表示させることにより、リーチ状態となる主図柄ｓｚの種別を報知することができる。よって、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄変動演出の演出結果を段階的に示すことができ、分かり易い演出を提供することができる。

【２８４５】

なお、図２０２（ｂ），（ｃ）を参照して説明をしたリーチライン予告演出では、副図柄ｆｚの停止表示位置によって、主図柄ｓｚの停止表示位置のみを遊技者に事前に報知しているが、これに加え、例えば、停止表示された副図柄ｆｚの配置によって、停止表示される主図柄ｓｚの種別、即ち、特別図柄抽選の結果を示すように構成しても良い。具体的には、例えば、リーチライン予告演出の演出結果として、有効ラインＬ２（図１２２（ａ）参照）を形成する領域以外の全ての領域に副図柄ｆｚが停止表示された場合には、有効ラインＬ２（図１２２（ａ）参照）に、特定の主図柄ｓｚの組合せ（例えば、上から「３．４．１」の組合せ）が停止表示されるように構成すると良い。

【２８４６】

ここで、特定の主図柄ｓｚの組合せが停止表示された場合には、第３図柄の変動表示が再始動し大当たり当選の期待度が高まる変動演出（所謂、疑似連変動演出）が実行されたり、そのまま、当たり遊技（大当たり遊技や、小当たり遊技）が実行されたりするように構成すると良い。このように構成することで、リーチライン予告演出が実行された場合に、その演出結果に対して遊技者により興味を持たせることができる。

【２８４７】

さらに、副図柄ｆｚのみを先に変動表示させるリーチライン予告演出が実行される場合において、今回のリーチライン予告演出が主図柄ｓｚの停止表示位置のみを事前報知するものであるか、停止表示される主図柄ｓｚの種別も事前報知するものであるかを遊技者に分かり易くするために、例えば、副図柄ｆｚが停止表示された後に（図２０２（ｃ）参照）、停止表示された各副図柄ｆｚを用いて形成される表示態様（例えば、各副図柄ｆｚを線で繋いで表示される図形表示）の種別によって、今回のリーチライン予告演出の演出結果を報知するように構成すると良く、例えば、図２０２（ｃ）に示した状態（副図柄ｆｚがひし形に停止表示した状態）において、ひし形の図形が表示された場合は、今回のリーチライン予告演出の演出結果が主図柄ｓｚの停止位置を事前に示すものとなり、４つの副図柄ｆｚを繋いだハート形の図形が表示された場合は、特定の主図柄ｓｚが停止表示されることを事前に示すものであることを遊技者に報知するように構成すると良い。

【２８４８】

このように、副図柄ｆｚが停止表示されてから、主図柄ｓｚが停止表示されるまでの間に、停止表示されている副図柄ｆｚを用いた演出（演出結果事前報知）を実行することにより、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出（第３図柄を用いた変動演出）の結果をより段階的に遊技者に示すことができるため、実行される変動演出に対して継続して興味を持たせることができる。

【２８４９】

次に、図２０３を参照して、表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４が有するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め記憶されている各種図柄の内容について説明をする。本制御例では、上述した第１制御例と同様に、背面画像として海背景用の背面画像と、山背景用の背面画像と、を設定可能に構成している。具体的には、遊技者が枠ボタン２２を操作したことに基づいて背景モード移行が実行された場合に、現在設定されている背面画像（例えば、海背景）を、現在設定されていない背面画像（例えば、山背景）へと切り

替えるように構成している。
【２８５０】
さらに、本第２制御例は、設定されている（表示されている）背面画像の種別に応じて、第３図柄（主図柄ｓｚ）の表示態様を異ならせるように構成している。このように構成することで、背面画像の種別に応じた表示態様の主図柄ｓｚを変動表示させることが可能となるため、背面画像を切り替えた場合の演出効果を高めることができる。
【２８５１】
ここで、背面画像に対応して表示される主図柄ｓｚの画像データの内容について、図２０３（ａ）、及び、図２０３（ｂ）を参照して説明をする。図２０３（ａ）は、海画像（海背景）が設定されている場合に用いられる海用主図柄の画像データを示す模式図であって、図２０３（ｂ）は、山画像（山背景）が設定されている場合に用いられる山用主画像の画像データを示す模式図である。これら各画像データは、表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４が有するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め記憶されおり、パチンコ機１０に電源が投入された場合、或いは、背景モード移行が実行された場合に、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２から対応する画像データが読み出され、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄ、或いは、第３図柄列エリア２３５ｇに格納される。なお、各図柄に対応する画像データを読み出す処理や常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄに格納する処理の内容については、上述した第１制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。
【２８５２】
図２０３（ａ）に示した通り、海用主図柄ｓｚに対応する画像データには、９種類（タコ、ハリセンボン、カメ、サメ、エビ、アンコウ、ジュゴン、エンゼルフィッシュ、カニ）の態様図柄に、それぞれ数字「１～９」が付された主図柄を示す画像データ（Ｄ１～Ｄ９）が記憶されている。この主図柄画像データＤ１～Ｄ９は、実際に変動表示される順序に対応させてキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め格納されている。よって、主図柄に対応する画像データを読み出す際には、画像データＤ１から順番に読み出しで第３図柄エリア２３５ｄへと格納するだけで良い。
【２８５３】
また、本第２制御例では、図柄列Ｚ１と図柄列Ｚ３（図１２２（ａ）参照）、即ち、リーチ状態となった場合に停止表示されている図柄列を、９個の主図柄（画像データＤ１～Ｄ９に対応する主図柄）で形成しているのに対して、図柄列Ｚ２（図１２２（ａ）参照）、即ち、リーチ状態中に変動表示される図柄列を、１０個の主図柄で形成するように構成している。具体的には、上述した図柄列Ｚ１を形成する９個の主図柄（画像データＤ１～Ｄ９に対応する主図柄）に、サメの態様図柄に数字の４を付した変更用主図柄（画像データＤＡに対応する主図柄）を加えた１０個の主図柄で、図柄列Ｚ２を形成するように構成している。そして、図柄列Ｚ２は、数字の９を付した主図柄ｓｚが通過した後に、数字の４を付した主図柄ｓｚが通過し、その後、数字の１を付した主図柄ｓｚが通過するように変動表示されるように構成している。これにより、図柄列の変動表示が１周するまでの間に、特定種別の主図柄ｓｚ（本制御例では数字の４を付した主図柄）を複数回通過させることができるため、その特定種別の主図柄ｓｚを対象にリーチ状態が成立した場合に、大当たり当選する可能性（リーチ状態の有効ライン上に、大当たりの組合せとなる主図柄ｓｚが停止表示される可能性）が高いことを遊技者に視覚的に示唆することができる。よって、遊技者に対して、どの種別の主図柄ｓｚでリーチ状態が成立するのかに対しても注目させることができ、演出効果を高めることができる。
【２８５４】
同様に、図２０３（ｂ）に示した通り、山用主図柄ｓｚに対応する画像データには、９種類（ゾウ、ライオン、ジュゴン、サイ、クジャク、クマ、イノシシ、ネズミ、ヘビ）の態様図柄に、それぞれ数字「１～９」が付された主図柄を示す画像データ（Ｄ１～Ｄ９）が記憶されている。この主図柄画像データＤ１～Ｄ９は、実際に変動表示される順序に対応させてキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め格納されている。よって、主図柄に対応

する画像データを読み出す際には、画像データＤ１から順番に読み出しで第３図柄エリア２３５ｄへと格納するだけで良い。

【２８５５】

そして、海背景が表示されている場合と同様に、図柄列Ｚ１と図柄列Ｚ３（図１２２（ａ）参照）、即ち、リーチ状態となった場合に停止表示されている図柄列を、９個の主図柄（画像データＤ１～Ｄ９に対応する主図柄）で形成しているのに対して、図柄列Ｚ２（図１２２（ａ）参照）、即ち、リーチ状態中に変動表示される図柄列を、１０個の主図柄で形成するように構成している。具体的には、上述した図柄列Ｚ１を形成する９個の主図柄（画像データＤ１～Ｄ９に対応する主図柄）に、サイの態様図柄に数字の４を付した変更用主図柄（画像データＤＡに対応する主図柄）を加えた１０個の主図柄で、図柄列Ｚ２を形成するように構成している。そして、図柄列Ｚ２は、数字の９を付した主図柄ｓｚが通過した後に、数字の４を付した主図柄ｓｚが通過し、その後、数字の１を付した主図柄ｓｚが通過するように変動表示されるように構成している。これにより、図柄列の変動表示が１周するまでの間に、特定種別の主図柄ｓｚ（本制御例では数字の４を付した主図柄）を複数回通過させることができるため、その特定種別の主図柄ｓｚを対象にリーチ状態が成立した場合に、大当たり当選する可能性（リーチ状態の有効ライン上に、大当たりの組合せとなる主図柄ｓｚが停止表示される可能性）が高いことを遊技者に視覚的に示唆することができる。よって、遊技者に対して、どの種別の主図柄ｓｚでリーチ状態が成立するのかに対しても注目させることができ、演出効果を高めることができる。

【２８５６】

さらに、本第２制御例では、上述した主図柄ｓｚに対応する画像データを、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２から読み出し、図柄列を表示させるための図柄列データとして第３図柄列エリア２３５ｇに格納するように構成している。つまり、図柄列Ｚ１～Ｚ３のうち、主図柄に対応する主図柄列画像データ（副図柄ｆｚの表示位置を飛ばした間隔で各主図柄ｓｚが表示される画像データ）を、図柄列単位で生成し、第３図柄列エリア２３５ｇに格納するように構成している。そして、この主図柄列画像データを用いて、主図柄画層ｓｒに主図柄ｓｚを変動表示させるように構成している。このように構成することで、各図柄単位の画像データを変動表示させるよりも、表示制御に用いる画像データの数を削減することができるため、表示制御の処理負荷を軽減させることができる。

【２８５７】

また、上述した通り、本第２制御例では、図柄列Ｚ１～Ｚ３を形成する各図柄のうち、主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚとを、独立させて変動表示させることが可能に構成しているため、各図柄列が有する複数の主図柄ｓｚを１つの画像データ（主図柄列画像データ）で形成し、変動表示させたとしても、副図柄ｆｚの変動表示態様を可変させることにより様々な変動表示を実行することができる。よって、表示制御に用いる画像データの数を削減したとしても演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【２８５８】

さらに、各図柄列を形成する第３図柄のうち、特別図柄の抽選結果を示すための識別情報である主図柄ｓｚに対しては、主図柄列画像データを用いて図柄列単位で変動表示を実行し、特別図柄の抽選結果を示さない識別情報である副図柄ｆｚに対しては、図柄単位で変動表示を実行するように構成しているため、特別図柄の抽選結果を示す主図柄ｓｚの変動表示の内容を変えること無く、副図柄ｆｚの変動表示の内容を可変させることで様々な変動演出を実行することができる。つまり、第３図柄の変動表示演出を多様化するにあたり、停止表示の表示態様が予め決定されている主図柄ｓｚは、予め定められた変動表示を実行したまま副図柄ｆｚの変動表示の内容を可変させることで様々な変動演出を実行することができる。よって、特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の変動表示演出を、確実に且つバリエーションの富んだ内容に容易にすることができる。

【２８５９】

なお、本第２制御例では、図柄列を形成する全ての主図柄ｓｚを１の画像データ（主図柄列画像データ）が有するように構成しているが、これに限ること無く、全ての主図柄ｓ

ｚ（１～９の数字が付された各主図柄ｓｚ）のうち、一部の主図柄ｓｚ（例えば、偶数の数字が付された通常主図柄ｓｚ）の図柄列のみを生成する通常主図柄列画像データと、残りの主図柄ｓｚ（例えば、奇数の数字が付された確変主図柄ｓｚ）の図柄列のみを生成する確変主図柄列画像データと、を第３図柄列エリア２３５ｇに格納し、格納された画像データを用いて主図柄ｓｚを主図柄画層ｓｒに変動表示させるように構成しても良い。

【２８６０】

この場合、例えば、対象となる特別図柄抽選の抽選結果が確変大当たりである場合、即ち、奇数の数字が付された主図柄ｓｚを用いて大当たりとなることを示す組合せを停止表示させる場合において、確変主図柄列画像データを用いた変動表示のみ予め定められた変動表示を実行したまま、通常主図柄列画像データを用いる変動表示の内容を可変させることが可能となる。具体的には、通常主図柄列画像データを用いた変動表示を、確変主図柄列画像データを用いた変動表示よりも高速で実行し、遊技者が奇数の数字が付された確変主図柄ｓｚのみ視認可能となるように構成しても良い。これにより、今回の第３図柄変動が、確変主図柄ｓｚのみ変動表示されており、確変主図柄ｓｚしか停止表示されない状態、即ち、通常図柄（偶数の数字が付された主図柄）が停止表示されること無く、通常大当たり当選し得ない状態であることを遊技者に報知することができる。

【２８６１】

また、主図柄ｓｚを形成する画像データを、通常主図柄列画像データと、確変主図柄列画像データとに分けて生成する構成を用いる場合には、通常主図柄列画像データを用いて通常主図柄を表示する通常主図柄画層（レイヤ）と、確変主図柄列画像データを用いて確変主図柄を表示する確変主図柄画層（レイヤ）と、異ならせるように構成し、特別図柄抽選の結果に応じて、通常主図柄画層、或いは、確変主図柄画層に表示される主図柄ｓｚを表示するか否か（各画層の表示を有効（オン）にするか否か）を決定するように構成しても良い。さらに、上述した第１制御例のように、図柄列を形成する図柄列画像データを生成すること無く、各図柄単位の画像データを用いた変動表示制御を実行するように構成しても良い。

【２８６２】

次に、図２０３（ｃ）を参照して、副図柄ｆｚの画像データの内容について説明をする。図２０３（ｃ）は、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め記憶されている副図柄ｆｚの画像データを模式的に示した図である。この画像データは、表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４が有するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に予め記憶されおり、パチンコ機１０に電源が投入された場合、或いは、背景モード移行が実行された場合に、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２から対応する画像データが読み出され、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄに格納される。なお、各図柄に対応する画像データを読み出す処理や常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄに格納する処理の内容については、上述した第１制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【２８６３】

図２０３（ｃ）に示した通り、本第２制御例のるキャラクタ記憶エリア２３４ａ２には、副図柄ｆｚの画像データとして、三角印を模した通常の副図柄ｆｚ（図１２２（ｂ）参照）の画像データＳＤ１、泡を模した予告演出用の副図柄ｆｚの画像データＳＤ２、数字の１６を模した特殊副図柄ｆｚの画像データＳＤ３が少なくとも格納されている。なお、図２０２（ｃ）では省略しているが、予告演出用の副図柄ｆｚは、設定されている背景モードに対応させた表示態様で表示されるものであり、図２０２（ｃ）にて示した泡を模した予告演出用の副図柄ｆｚは、海背景が設定されている場合に用いられる副図柄ｆｚである。よって、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２には、山背景が設定されている場合に用いられる副図柄ｆｚとして木の葉を模した予告演出用の副図柄ｆｚ（図示せず）の画像データ（図示せず）も予め格納されている。

【２８６４】

ここで、本第２制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に変動表示される第３図柄のうち、特別図柄抽選の結果を示さない副図柄ｆｚのみを副図柄画層ｆｒに表示可能に構

成しており、主図柄画層ｓｒにて予め定められた変動パターン（変動時間、停止表示位置）で変動表示される主図柄ｓｚとは独立させて副図柄ｆｚを第３図柄表示装置８１の表示面に変動表示させることができるように構成している。よって、副図柄ｆｚを用いた様々な変動演出を主図柄ｓｚの変動表示内容を可変させること無く容易に実行することができる。また、副図柄ｆｚを用いた様々な変動演出を実行した場合に、その一部が主図柄ｓｚと重複表示されたとしても、主図柄画層ｓｒのほうが副図柄画層ｆｒよりも優先表示されるように配置しているため、遊技者が主図柄ｓｚを視認し難くなる事態が発生することを抑制することができる。

【２８６５】

本第２制御例では、副図柄ｆｚを用いた変動演出として、図２０２（ｂ）、及び図２０２（ｃ）を参照して説明をしたリーチライン予告演出以外にも、様々な変動演出を実行可能に構成しており、例えば、副図柄ｆｚを、画像データＳＤ２を用いた予告演出用の表示態様に切り替え、第３図柄の変動表示開始時に、主図柄ｓｚの変動方向（例えば、左方向）に対して逆方向（右方向）へと変動表示させる変動開始時予告演出や、副図柄ｆｚの一部を、画像データＳＤ３を用いた特殊表示態様に切り替え、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の変動停止時に停止表示される特殊表示態様の副図柄ｆｚ（数字の１６を模した副図柄ｆｚ）の個数や配列に応じて、大当たり種別を示唆する大当たり種別示唆演出を実行可能に構成している。

【２８６６】

このように、特別図柄抽選の結果を示す識別情報（主図柄ｓｚ）とは異なる識別情報（副図柄ｆｚ）であって、且つ、特別図柄抽選の結果を示す識別情報（主図柄ｓｚ）が変動表示されている期間中に変動表示可能な識別情報（副図柄ｆｚ）を用いて様々な変動演出を実行可能にすることで、変動表示される副図柄ｆｚに対しても遊技者を注視させることができる。

【２８６７】

また、本第２制御例では、主図柄ｓｚの変動表示制御とは異なり、副図柄ｆｚの変動表示制御を各図柄単位で実行するように構成しているため、各図柄列Ｚ１～Ｚ３に形成される複数の副図柄ｆｚのうち、一部のみ（例えば、最終的に停止表示される主図柄ｓｚの近傍のみ）の表示態様を変動演出用の表示態様へと切り替える制御を容易に実行することができる。また、通常であれば、主図柄ｓｚ間に１つ表示される副図柄ｆｚの個数が２個以上となるように表示することもできるし、一部の副図柄ｆｚのみ表示させないようにすることができる。

【２８６８】

また、副図柄ｆｚの表示態様を可変させるタイミングは、特別図柄変動の開始タイミングでも良いし、大当たり当選したことを示す特別図柄が停止表示されるタイミングでも良い。

【２８６９】

最後に図２０３（ｄ）を参照して、本第２制御例における変動用主図柄に用いられる各画像データの内容について説明をする。図２０３（ｄ）は、変動用主図柄に用いられる各種画像に対応する画像データの内容を模式的に示した模式図である。この変動用主図柄とは、図柄列Ｚ２、即ち、リーチ状態中に変動表示される図柄列に設けられた１０個目の主図柄のことであって、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２に記憶される主図柄表示データのうち、画像データＤＡが用いられる主図柄のことである。

【２８７０】

従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報（第３図柄）を変動表示させ、特定の識別情報が停止表示した場合に、特別図柄抽選の結果が大当たりであることを示すものがある。この場合、遊技者に対して停止表示される識別情報が特定の識別情報となるか否かを煽るための変動演出が実行される。ここで、一般的には、複数種類の識別情報が特定の順序で形成される図柄列を複数用いた変動演出が実行される。具体的には、特定の順序で、１～９の各数字が付された複数の識別情報（例えば、主図柄ｓｚ）が形成される図

柄列を複数用いた変動演出が実行される。

【２８７１】

このように構成された遊技機では、第３図柄変動の演出効果を高めるために、変動表示中の第３図柄の表示態様を可変させる変動演出が実行されるが、変動表示中の識別情報（第３図柄）を可変させる場合において、識別情報に付されている１～９の数字、即ち、特別図柄抽選の結果を示すための具体的な情報を変更してしまうと、例えば、１～９の各数字が付された９個の第３図柄を用いて変動表示が実行されたにも関わらず、変動途中で５の数字が付された第３図柄を、６の数字が付された第３図柄へと切り替えた場合には、６の数字が付された第３図柄が消滅してしまうため、第３図柄の変動表示中に特別図柄抽選の結果を変更したのではと遊技者に不信感を与えてしまう虞があった。

【２８７２】

また、例えば、１～９の各数字が付された９個の第３図柄を用いて変動表示を実行し、途中で新たに６の数字が付された第３図柄を追加し、計１０個の第３図柄を用いた変動表示へと切り替えた場合には、変動表示される第３図柄の個数が途中で増加したことに対応するための表示制御を実行する必要があり、制御内容が難化してしまう虞があった。

【２８７３】

これに対して、本制御例では、１～９の数字が付された各主図柄と、変更用主図柄と、により１０個の主図柄によって図柄列Ｚ２を形成するように構成している。よって、１～９の数字が付された各種図柄を残したまま、図柄列を形成する主図柄の数を可変させること無く、主図柄の表示態様を可変させることが可能となる。また、変更用主図柄の表示態様を様々な表示態様へと可変させたとしても、図柄列Ｚ２を形成する主図柄の個数が変わることが無いため、図柄列Ｚ２に対する表示制御を容易に実行することができる。

【２８７４】

図２０３（ｄ）に示した通り、本第２制御例のキャラクタ記憶エリア２３４ａ２には、変更用主図柄の画像データとして、数字の４を付した通常主図柄ｓｚの画像データＤＡ１、数字の７を付した通常主図柄ｓｚの画像データＤＡ２、Ｖの文字を模したＶ主図柄ｓｚの画像データＤＡ３、数字の１６を模した特殊主図柄ｓｚの画像データＤＡ４、バツ印を模した残念主図柄ｓｚの画像データＤＡ４が少なくとも格納されている。なお、図２０２（ｄ）では省略しているが、通常主図柄ｓｚは、設定されている背景モードに対応させた表示態様で表示されるものであり、図２０２（ｄ）にて示した「サメ」を模した通常主図柄ｓｚ、及び、「ジュゴン」を模した通常主図柄ｓｚは、海背景が設定されている場合に用いられる主図柄ｓｚである。よって、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２には、山背景が設定されている場合に用いられる通常主図柄ｓｚとして「サイ」、或いは「イノシシ」を模した通常主図柄ｓｚ（図示せず）の画像データ（図示せず）も予め格納されている。

【２８７５】

ここで、通常時における第３図柄の変動表示演出においては、画像データＤＡ１を用いた変更用主図柄が図柄列Ｚ２に表示されるように構成されており、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部、或いは、特別図柄抽選で外れ当選した場合のごく一部において、画像データＤＡ２を用いた変更用主図柄が図柄列Ｚ２に表示されるように構成されている。即ち、通常時は数字の４を付した「サメ」を模した変更用主図柄ｓｚが変動表示されることで、通常大当たり当選を示唆する主図柄（偶数の数字を付した主図柄）が５個、確変大当たり当選を示す主図柄（奇数の数字を付した主図柄）が５個、計１０個の主図柄によって図柄列Ｚ２が形成されるのに対して、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部、或いは、特別図柄抽選で外れ当選いた場合のごく一部においては、数字の７を付した「ジュゴン」を模した変更用主図柄ｓｚが変動表示されることで、通常大当たり当選を示唆する主図柄（偶数の数字を付した主図柄）が４個、確変大当たり当選を示す主図柄（奇数の数字を付した主図柄）が６個、計１０個の主図柄によって図柄列Ｚ２が形成されることになる。

【２８７６】

これにより、現在実行されている特別図柄抽選にて遊技者に有利な大当たり（確変大当

たり）に当選したのでは？と遊技者に期待感を持たせることができる。なお、数字の７を付した「ジュゴン」を模した変更用主図柄ｓｚを用いる条件としては、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合のほうが、それ以外（外れ）である場合よりも成立し易くなれば良く、特別図柄抽選の結果が外れである場合には用いられないように構成しても良い。また、特別図柄抽選で大当たり当選した場合のうち、通常大当たりに当選した場合よりも、確変大当たりに当選した場合のほうが用いられ易くなるように構成すると良い。これにより、見た目上の主図柄の各種別数（偶数、奇数の数）と、確変大当たり当選の割合とを対応付けることができ、分かり易い遊技を提供することができる。

【２８７７】

また、画像データＤＡ３に示したＶ主図柄ｓｚは、通常時は表示されていない表示態様であり、第３図柄（主図柄）の変動表示中に特殊条件が成立した場合に変更用主図柄として表示されるものである。このＶ主図柄ｓｚは、リーチ状態となる主図柄ｓｚの種別に関わらず、そのリーチ状態の有効ライン上に停止表示された場合に、大当たり当選を示す組合せとなる汎用主図柄として用いられる。このように汎用主図柄を用いることにより、例えば、大当たり当選する組合せとなる主図柄がリーチ状態の有効ライン上を通過した場合であっても、図柄列Ｚ２がもう１周するのを待たずに、大当たり当選を示す組合せで第３図柄（主図柄）が停止表示することを期待させることができる。

【２８７８】

なお、詳細な説明は省略するが、第３図柄の変動表示演出において、通常主図柄（偶数の数字を付した主図柄ｓｚ）と確変主図柄（奇数の数字を付した主図柄ｓｚ）とでダブルリーチ状態となった場合に、重複する各リーチ状態の有効ライン上にＶ主図柄が停止表示した場合には、遊技者に有利となる側の主図柄にて大当たり当選したことを示すように構成すると良い。これにより、ダブルリーチ状態となった場合にＶ主図柄を変動表示させても遊技者に不信感を抱かせることを抑制することができる。さらに、本制御例では、Ｖ主図柄を汎用主図柄として用いているが、これに限ること無く、Ｖ主図柄を用いて大当たり当選を示す組合せが停止表示された場合には、今回実行される大当たり遊技に加え、少なくとも、後１回の大当たり遊技が実行される権利を既に獲得済みである（保留記憶されている特図保留内に大当たり当選を示す入賞情報がある）ことを示す重複大当たり示唆図柄として用いても良いし、Ｖ主図柄が変動表示されるだけで大当たり遊技の実行権利を複数獲得済みであることを示唆するように構成しても良い。このように構成することで、Ｖ主図柄が変動表示された場合に、遊技者に対してより期待感を持たせながら遊技を行わせることができる。

【２８７９】

次いで、画像データＤＡ４に示した特殊主図柄ｓｚ、及び画像データＤＡ５に示した残念主図柄ｓｚは、第３図柄の変動表示中に用いられるものでは無く、大当たり当選を示す組合せで主図柄ｓｚが停止表示された後に実行され得る昇格演出にて用いられる変更用主図柄である。ここで、本制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、遊技者に有利となる有利大当たり遊技（確変大当たり遊技）と、その有利大当たり遊技よりも遊技者に不利となる不利大当たり遊技（通常大当たり遊技）と、を実行可能に構成しており、例えば、確変大当たりに当選した場合において、通常大当たり遊技が実行されることを示唆する通常主図柄ｓｚ（偶数の数字を付した主図柄ｓｚ）を用いた組合せで大当たり当選したことを停止表示した場合の一部（又は、全部）において、停止表示された主図柄ｓｚの種別を確変主図柄ｓｚ（奇数の数字を付した主図柄ｓｚ）へと可変させるための昇格演出を実行可能に構成している。

【２８８０】

この昇格演出中は、主図柄ｓｚを用いて特別図柄抽選の結果（大当たり、外れ）を示唆する期間では無く、今回当選した大当たりが確変大当たりであるか通常大当たりであるかを示唆するための期間となるため、変更用主図柄として、確変大当たりであることを示す画像データＤＡ４に示した特殊主図柄ｓｚ、或いは、通常大当たりであることを示す画像データＤＡ５に示した残念主図柄ｓｚが設定される。このように、主図柄ｓｚを用いて遊

技者に報知すべき内容が可変するタイミングに合わせて、変更用主図柄の表示態様を可変させることにより、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【２８８１】

なお、本第２制御例では、昇格演出によって大当たり当選を示す組合せで停止表示された主図柄ｓｚの種別を、通常主図柄ｓｚから確変主図柄ｓｚへと昇格させる演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数（ラウンド数）を、少ないラウンド数を示す主図柄から、そのラウンド数よりも多いラウンド数を示す主図柄へと昇格させる演出を実行するように構成しても良い。この場合、変更用主図柄として、実行され得るラウンド数を示唆する表示態様で複数の画像データを用意しておき、実際に当選した大当たり種別に応じて対応する画像データを用いて変更用主図柄の表示態様を決定するように構成しても良い。

【２８８２】

また、本制御例では、数字の１～９を付した９個の主図柄ｓｚと、上述した変更用主図柄ｓｚとを用いて図柄列Ｚ２の主図柄列画像データを生成し第３図柄列エリア２３５ｇに格納するように構成しているが、これに限ること無く、変更用主図柄ｓｚを主図柄列画像データに含めずに、第３図柄エリア２３５ｄに格納しておき、副図柄ｆｚと同様に図柄単位で変動表示制御を実行するように構成しても良い。このように構成することで、一度設定された図柄列Ｚ２のうち、変更用主図柄ｓｚの表示態様を容易に可変させることができる。

【２８８３】

また、主図柄ｓｚが表示される主図柄画層ｓｒとは別に、変更用主図柄ｓｚが表示される変更用主図柄画層ｓｒ１を配置し、この変更用主図柄画層ｓｒ１を用いて変更用主図柄ｓｚを表示するように構成しても良い。この場合、変更用主図柄ｓｚが表示されるのは、図柄列Ｚ２のみであるため、変更用主図柄画層ｓｒ１の表示領域を図柄列Ｚ２の表示領域のみとし、変更用主図柄画層ｓｒ１を主図柄画層ｓｒよりも非優先で且つ、副図柄画層ｆｒよりも優先して表示される位置に配置するように構成すると良い。これにより、副図柄ｆｚにより変更用主図柄ｓｚが隠れてしまうことを抑制し、且つ、主図柄ｓｚの表示を邪魔すること無く変更用主図柄ｓｚを表示することができる。

【２８８４】

図２０３（ａ）～（ｄ）を参照して上述した各画像データは、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２に格納されている第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を示す画像データのうちの一部であって、実際には他の画像データも格納されている。例えば、主図柄表示データとして格納されている各画像データのそれぞれには、異なるアクションを示す表示態様（例えば、対象となる生き物が驚いている表示態様や、喜んでいる表示態様）に対応する画像データが格納されており、特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果（例えば、大当たり）である場合に、画像データを差し替えることで、停止表示された第３図柄（主図柄ｓｚ）の表示態様を可変させることができる。

【２８８５】

具体的には、大当たり当選したことを示す第３図柄が停止表示された場合（７の数字が付された「ジュゴン」が通常表示態様で停止表示された場合）に７の数字が付された「ジュゴン」が驚いた表情となる特殊表示態様へと切替表示されるように構成している。これにより、第３図柄の表示態様によっても遊技者に対して大当たり当選したことを報知することができる。また、この特殊表示態様に対応する画像データを第３図柄変動が開始してからの所定期間（例えば、０．２秒間）に用いるように構成し、第３図柄変動が開始された直後に、遊技者に対して特別図柄抽選で大当たり当選していることを示唆する演出を実行するように構成しても良い。

【２８８６】

次に、図２０４を参照して、本第２制御例における第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の変動表示の流れについて説明をする。図２０４は、第３図柄の変動表示演出と第３図柄表示装置８１の表示面に表示される図柄列の表示内容との関係を模式的に示した図であ

る。図２０４では、第３図柄変動演出の一例として、大当たり当選を示す変動時間６０秒の変動パターンを用いている。

【２８８７】

図２０４に示した通り、特別図柄変動の開始を示す変動パターンコマンドを音声ランプ制御装置１１３が受信すると、今回受信した変動パターン（コマンド）に基づいて、主図柄ｓｚおよび副図柄ｆｚの変動表示態様を決定する。具体的には、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照）にて実行される変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）において、予告演出の有無、リーチ演出の有無、停止図柄を決定し、対応する表示用コマンドを設定する。その後、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照）にて実行されるコマンド出力処理（図１７４のＳ４１０２参照）にて、設定した表示用コマンドを表示制御装置１１４へと送信する。

【２８８８】

変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）において設定された表示用コマンドを表示制御装置１１４が受信すると、表示制御装置１１４のコマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２参照）にて実行される変動パターンコマンド処理２（図２０９のＳ６４５５参照）にて、受信した表示用コマンド（変動パターンコマンド）を解析し、解析結果に基づいて変動表示テーブルを決定し、現在設定されている背景モードに対応する主図柄ｓｚを用いた主図柄列の画像データ（主図柄列画像データ）を第３図柄列エリア２３５ｇから読み出し、現在設定されている背景モードに対応する副図柄ｆｚに対応する画像データを第３図柄列エリア２３５ｇから読み出し、表示画像を生成し、第３図柄表示装置８１の表示面に表示する。

【２８８９】

そして、第３図柄変動演出が実行されてから１０秒間は、通常変動期間が設定される。この通常変動期間は、図柄列Ｚ１～Ｚ３が全て変動表示されている期間であって、遊技者が枠ボタン２２を操作することにより、背景モード移行を実行可能な期間として設定される。この通常変動期間中に背景モード移行が実行された場合には、主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚと、のうち、背景モードに対応した表示態様で表示されている各図柄が、移行後の背景モードに対応した表示態様へと切り替わる制御が実行される。

【２８９０】

その後、図柄列Ｚ１、及び図柄列Ｚ３が停止表示されてリーチ状態となると、４０秒間のリーチ変動期間が設定され、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりであるかを示唆する（煽る）リーチ演出が実行される。このリーチ変動期間中は、背景モード移行が実行されないように構成しており、枠ボタン２２を操作した場合には、パチンコ機１０に搭載されている装飾用の各種ＬＥＤの発光態様が可変する装飾演出が実行される。また、リーチ演出の一部において、枠ボタン２２の操作を有効に判別する有効期間（ＳＷ有効期間）が設定される操作演出を実行するように構成しており、設定された有効期間内に枠ボタン２２が操作されることにより、枠ボタン２２が操作されない場合には実行されない演出が実行される。具体的には、枠ボタン２２を操作した場合には、今回の特別図柄抽選が大当たり当選していることを報知する確定報知や、大当たり当選している可能性が高いことを示す示唆報知が実行可能に構成している。このように構成することで、特別図柄の抽選結果をいち早く把握しようとする遊技者に対して意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。また、操作演出中に枠ボタン２２を操作しないと見ることができない演出を設けているため、様々な演出を見たいと思う遊技者に対しても意欲的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【２８９１】

上述した通り、リーチ変動期間中は、背景モード移行が実行されないように構成しているため、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりであるかを示唆する（煽る）リーチ演出の実行中に背景モードが切り替わってしまい、それに伴い第３図柄の表示態様も切り替わることにより、遊技者に分かり難いリーチ演出となることを抑制することができる。また、背景モード移行が実行されないリーチ変動期間中に操作演出を実行するように構成してい

るため、例えば、操作演出にて設定されるＳＷ有効期間を遊技者に報知しない変動演出（所謂、隠れ操作演出）を設定可能に構成したとしても、遊技者に対して積極的に枠ボタン２２を操作させることができる。

【２８９２】

なお、この場合、第３図柄表示装置８１の表示面にて、背景モード移行が実行されない期間であることを遊技者に報知するための報知態様（例えば、「リーチ中は、ボタンを押しても背景モードが変わらないよ」のコメント表示）を設定したり、隠れ操作演出の実行中であることを遊技者に報知するための報知態様（例えば、「リーチ中のどこかのタイミングでボタンを押したら特別な演出が実行されるよ」のコメント表示）を設定したりすると良い。これにより、遊技者に対して安心して操作演出を実行させることができる。

【２８９３】

そして、リーチ変動期間が終了するタイミングにて、大当たり当選を示す主図柄ｓｚの組合せのうち、通常主図柄ｓｚ（偶数の数字が付された主図柄ｓｚ）の組合せで第３図柄が停止表示され、その後、大当たり当選した通常主図柄ｓｚを、確変主図柄（奇数の数字が付された主図柄ｓｚ）へと昇格させるための昇格演出が実行される。この昇格演出が実行される際に、今回の大当たり当選が確変大当たりであるか否かを判別し、その判別結果に基づいて、副図柄ｆｚの表示態様、及び、主図柄ｓｚのうち変更用主図柄ｓｚの表示態様を決定する。そして、昇格演出用の図柄列を用いた昇格演出を、昇格変動期間（１０秒）を用いて実行する。

【２８９４】

ここで、昇格演出用の図柄列として、例えば、変更用主図柄ｓｚの表示態様が画像データＤＡ４を用いた表示態様（図２０３（ｄ）参照）となり、副図柄ｆｚの表示態様が画像データＳＤ３を用いた表示態様（図２０３（ｃ）参照）となっている場合は、通常の確変主図柄ｓｚ（奇数の数字が付された主図柄ｓｚ）に加えて、遊技者に有利な有利大当たりに当選していることを示す図柄を多く表示することができるため、遊技者に対して今回の昇格演出にて確変大当たりへと昇格する可能性が高いことを視覚的に報知することができる。

【２８９５】

次に、図２０５を参照して、本第２制御例にて実行される変動演出の内容について説明をする。図２０５は、同一の変動パターンコマンドに対して実行される第３図柄の変動演出の演出例を示したものであって、図２０２（ａ）は、演出例に用いられる変動パターンの流れを模式的に示した図であり、図２０２（ｂ）は、通常演出の流れを模式的に示した図であり、図２０２（ｃ）は、リーチライン予告演出（図２０２（ｂ）参照）の流れを模式的に示した図であり、図２０２（ｄ）は、副図柄ｆｚの変動方向を通常とは異ならせた予告演出の流れを模式的に示した図である。

【２８９６】

図２０５（ａ）に示した通り、主制御装置１１０にて、６０秒間の変動時間が設定された変動パターンを示す変動パターンコマンドが設定された場合には、音声ランプ制御装置１１３にてリーチ演出が実行される表示用変動パターンコマンドが設定される。さらに、リーチ演出が実行されるまでの期間を用いて、副図柄ｆｚを用いた様々な予告演出が実行される。本第２制御例では、上述した通り、各図柄列を形成する主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚと、を独立させて変動表示可能に構成しているため、主制御装置１１０から受信した変動パターンコマンドに応じて主図柄ｓｚを特定の変動パターンで変動表示させながら、副図柄ｆｚの変動パターンのみ可変させることで様々な変動演出（予告演出）を実行することができる。

【２８９７】

具体的には、図２０５（ｂ）に示した演出Ａでは、上述した第１制御例のパチンコ機１０と同様に、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが同期した第３図柄変動表示（図２０２（ａ）参照）が実行され、リーチ状態となる通常パターンを示している。このように、独立して変動表示される主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚと、を同期させるように表示制御することにより

、見た目上は主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが一つの図柄列として変動表示されているように思わせることができる。

【２８９８】

次に、図２０５（ｃ）に示した演出Ｂでは、第３図柄の変動開始から所定期間（１５秒間）の間、主図柄画層ｓｒの表示がオフに設定され（非表示に設定され）、その間に、副図柄ｆｚの変動表示を停止表示させるリーチライン予告演出が実行される演出パターンを示している。つまり、主図柄ｓｚに対しては、上述した２０５（ａ）と同一の表示制御が実行されるが、通常変動期間の前半期間（１５秒）にて主図柄画層ｓｒが非表示に設定されるため、遊技者が主図柄ｓｚの変動表示を視認できないように構成している。

【２８９９】

そして、その通常変動期間の前半期間（１５秒）を用いて、副図柄ｆｚを変動表示させ（図２０２（ｂ）参照）、通常変動期間の前半期間（１５秒）の終了タイミングにて、副図柄ｆｚを停止表示させることにより、今回の第３図柄変動表示にて主図柄ｓｚが停止表示される位置が表示される（図２０２（ｃ）参照）。その後、通常変動期間の後半期間（１５秒）になると、主図柄画層ｓｒの表示がオンに設定され（表示に設定され）、通常変動期間の後半期間（１５秒）を用いて、主図柄ｓｚの変動表示が実行され、図２０５（ｂ）と同様に、変動開始から３０秒後にリーチ状態となる。

【２９００】

つまり、図２０５（ｃ）に示した演出Ｂが実行された場合、即ち、リーチライン予告演出が実行された場合には、主図柄ｓｚが停止表示される前に、主図柄ｓｚが停止表示される位置のみを遊技者に報知することができるため、今回の第３図柄変動表示が、ダブルリーチになるのか、シングルリーチになるのか、リーチにならないのかを事前に（第３図柄の変動開始から１５秒後に）把握することが可能となる。よって、リーチになるか否かを把握するのに３０秒要する通常パターン（図２０５（ｂ）参照）に対して、主図柄ｓｚがリーチ状態となり得ない位置に副図柄ｆｚが停止表示された場合には、遊技者に対して過度な期待感を持たせる期間を短くすることができる。

【２９０１】

また、主図柄ｓｚがリーチ状態となり得る位置に副図柄ｆｚが停止表示された場合には、遊技者に対して、どの主図柄ｓｚによってリーチ状態となるのかを期待させながら残りの変動時間を楽しませることができる。なお、本第２制御例では、主図柄ｓｚがリーチ状態となり得る位置に副図柄ｆｚが停止表示された場合には、必ず、リーチ状態となるように構成しているため、副図柄ｆｚの停止表示タイミングにて、今回の第３図柄変動がリーチ状態となるか否かを遊技者に容易に判別させることができる。

【２９０２】

最後に、図２０５（ｄ）に示した演出Ｃでは、上述した演出Ａと同様に主図柄ｓｚに対しては通常表示が実行され、副図柄ｆｚに対しては、変動開始から所定期間（３秒）のみ演出Ａとは異なる演出が実行される演出パターンを示している。具体的には、変動開始時に表示される副図柄ｆｚの表示態様として画像データＳＤ２（図２０３（ｃ）参照）を用いた表示態様が設定され、主図柄の変動表示方向（左方向）とは逆方向（右方向）へと副図柄ｆｚを変動表示させる副図柄逆変動表示が実行され、その後、通常の副図柄ｆｚを用いた変動表示が主図柄ｓｚの変動表示と同期して実行される演出パターンである。

【２９０３】

この演出Ｃに示した演出パターンのように、第３図柄変動表示が開始されたタイミングにて、主図柄ｓｚの変動表示方向と、副図柄ｆｚの変動表示方向とを異ならせることにより、遊技者に対して意外性のある演出、即ち、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが同一の図柄列で形成されており、同一方向にしか変動表示しないと認識していた遊技者に対して、認識していない態様で副図柄ｆｚが変動表示されるため意外性のある演出を提供することができる。

【２９０４】

以上、説明をした通り、本第２制御例では、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとを独立させて変

動表示可能に構成し、特別図柄の抽選結果に基づいて設定される変動パターンコマンドに対応させて主図柄ｓｚの変動表示態様を設定し、その主図柄ｓｚの変動表示態様を可変させること無く、副図柄ｆｚの変動表示態様のみを可変させることで様々な変動演出を実行可能に構成している。このように構成することで、主図柄ｓｚの変動表示結果が、特別図柄の抽選結果とは異なる結果となる事態が発生し難くすることができる。

【２９０５】

また、副図柄ｆｚを先に変動表示させる場合において、例えば、副図柄ｆｚを拡大表示し、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍを副図柄ｆｚが覆うような変動表示を実行し、その間に、主図柄ｓｚの変動表示位置や、図柄種別を可変させるように構成しても良い。

【２９０６】

＜第２制御例における表示制御装置の電気的構成について＞

次に、図２０６から図２０８を参照して、本第２制御例における表示制御装置１１４の電気的構成について説明をする。図２０６は、表示制御装置１１４の電気的構成を示すブロック図である。本第２制御例のパチンコ機１０では、上述した第１制御例のパチンコ機１０に対して、表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４のキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に格納されている画像データの内容を変更した点と、常駐用ビデオＲＡＭ２３５に第３図柄列エリア２３５ｇを追加した点で相違している。それ以外は、上述した第１制御例と同一である。同一の構成に対しては同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【２９０７】

本第２制御例のキャラクタ記憶エリア２３４ａ２には、図２０３を参照して上述した通り、各背景モードに対応した主図柄表示データの各画像データＤ１～Ｄ９、副図柄表示データの各画像データＳＤ１～ＳＤ３等、変更用主図柄表示データの各画像データＤＡ１～ＤＡ５等が格納されている点で上述した第１制御例のキャラクタ記憶エリア２３４ａ２と相違し、それ以外に格納されている画像データについて同一である。なお、本第２制御例にて新たに格納された各画像データの詳細については、図２０３を参照して上述したため、その説明を省略する。

【２９０８】

第３図柄列エリア２３５ｇは、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２に格納された主図柄ｓｚの画像データを複数読み出して予め図柄列として一つの画像データ（主図柄列画像データ）を生成し、その生成した主図柄列画像データを格納するための記憶領域である。主図柄画層ｓｒに主図柄ｓｚを変動表示させる場合には、この第３図柄列エリア２３５ｇに格納された主図柄列画像データを読み出し、表示データテーブルに規定されている描画内容に基づいて表示位置座標を可変設定することにより主図柄ｓｚを変動表示させる。このように構成することで、主図柄ｓｚを変動表示させる場合に用いる画像データの数を、主図柄ｓｚ単位で生成される画像データを用いる場合に比べて減少させることができるため、表示制御の処理負荷を軽減させることができる。

【２９０９】

次に、図２０７を参照して、本第２制御例のパチンコ機１０にて用いられる表示データテーブルの内容について説明をする。図２０７は、表示データテーブルのうち、変動表示データテーブルの一例を模式的に示した模式図である。表示データテーブルは、第３図柄表示装置８１において１フレーム分の画像が表示される時間（本制御例では、２０ミリ秒）を１単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき１フレーム分の画像の内容（描画内容）を詳細に規定したものである。本第２制御例のパチンコ機１０では、上述した第１制御例のパチンコ機１０における表示データテーブル（図１５３参照）に対して、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）に関する描画内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【２９１０】

図２０７に示した通り、表示データテーブルの描画内容には、１フレーム分の画像を構

成する表示物であるスプライト毎に、そのスプライトの種別を規定すると共に、そのスプライトの種別に応じて、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報といった、スプライトを第３図柄表示装置８１に描画させるための描画情報が規定されている。

【２９１１】

ここで、背面画像は、表示位置は第３図柄表示装置８１の画面全体に固定され、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報およびフィルタ指定情報は、時間経過に対して一定とされるので、変動表示データテーブルでは、背面画像の種別を特定するための情報である背面種別のみが規定されている。この背面種別は、遊技者によって選択されている背景モード（「海モード」、「山モード」のいずれか）に対応する背面Ａ，Ｂのいずれかを表示させるか、背面Ａ，Ｂとは異なる背面画像を表示させるかを特定する情報が記載されている。また、背面種別は、背面Ａ，Ｂとは異なる背面画像を表示させることを特定する場合、どの背面画像を表示させるかを特定する情報も合わせて記載されている。

【２９１２】

ＭＰＵ２３１は、この背面種別によって、背面Ａ，Ｂのいずれかを表示させることが特定される場合は、背面Ａ，Ｂのうち抽選により決定されたステージに対応する背面画像を描画対象として特定し、また、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を時間経過に合わせて特定する。一方、背面Ａ，Ｂとは異なる背面画像を表示させることが特定される場合は、背面種別から表示させるべき背面画像を特定する。

【２９１３】

なお、本制御例では、表示データテーブルにおいて、背面画像の描画内容として背面種別のみを規定する場合について説明するが、これに代えて、背面種別と、その背面種別に対応する背面画像のどの範囲を表示すべきかを示す位置情報とを規定するようにしてもよい。この位置情報は、例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、ＭＰＵ２３１は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、位置情報により示される初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間に基づいて特定する。

【２９１４】

また、位置情報は、この表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、ＭＰＵ２３１は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、表示用データベースに基づき画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始された段階で表示されていた背面画像の位置と、位置情報により示される該画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間とに基づいて特定する。

【２９１５】

更に、位置情報は、背面種別に応じて、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報および表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報のいずれかを示すものであってもよいし、背面種別および位置情報とともに、その位置情報の種別情報（例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であるか、表示用データベースに基づく画像の描画（もしくは、第３図柄表示装置８１の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であるかを示す情報）を、背面画像の描画内容として規定してもよい。その他、位置情報は、経過時間を示す情報ではなく、表示すべき背面画像の範囲が格納されたアドレスを示す情報であってもよい。

【２９１６】

次に、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を第３図柄表示装置８１に表示させるためのスプライトの種別について説明をする。まず、副図柄（副図柄１、副図柄２、・・・）は、１つ前の変動演出において停止表示された各副図柄ｆｚの停止位置を示す表示位置座標が設定される。これにより、１つ前の変動演出における副図柄ｆｚの停止位置から変動

演出が開始される。なお、図２０２（ａ）に示した通り、主図柄ｓｚとは異なり、副図柄ｆｚには固有の数字が付されておらず、全ての副図柄ｆｚが共通の表示態様で表示されている。よって、１つ前の変動演出において停止表示された各副図柄ｆｚの位置を示す表示位置座標を設定するだけで、容易に１つ前の変動演出における副図柄ｆｚの停止位置から変動演出を開始することができる。

【２９１７】

なお、詳細な説明は図２０８を参照して後述するが、本第２制御例では、副図柄ｆｚの表示態様として複数の表示態様を設定可能に構成しており、第３図柄表示装置８１に表示させる各副図柄ｆｚの表示態様に応じて、描画リストにて表示に用いる画像データの格納先を指定することにより対応する表示態様で各副図柄ｆｚを表示させるように構成している。ここで、１つ前の変動演出において停止表示されている各副図柄ｆｚの表示態様と、今回の変動演出にて用いられる副図柄ｆｚの表示態様が異なる場合は、変動演出の開始タイミング、即ち、表示データテーブルのアドレス「０００１Ｈ」に対応する描画情報から副図柄ｆｚの表示態様を異ならせるように構成しても良いし、１つ前の変動演出における副図柄ｆｚの表示態様を用いて変動演出を開始し、副図柄ｆｚの表示態様を遊技者が視認困難となる高速変動中に副図柄ｆｚの表示態様を可変させるように構成しても良い。

【２９１８】

前者の場合は、変動演出が開始される前、即ち、副図柄ｆｚが停止しているタイミングで今回の変動演出にて用いられる表示態様で副図柄ｆｚが表示されるため、これから実行される変動演出の演出内容を事前に遊技者に把握させることができ、演出効果を高めることができる。また、後者の場合は、遊技者が気付き難いタイミングで副図柄ｆｚの表示態様を可変させることができるため、遊技者に違和感を与えること無く、スムーズに副図柄ｆｚの表示態様を可変させることができる。

【２９１９】

次に、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を第３図柄表示装置８１に表示させるためのスプライトの種別のうち、主図柄ｓｚを表示させるためのスプライトについて説明をする。主図柄列（主図柄列１、主図柄列２、・・・）は、表示すべき第３図柄の主図柄ｓｚを特定するための図柄列種別情報として、図柄列種別オフセット情報が記憶されている。このオフセット情報は、各主図柄ｓｚに付された数字の差分を表す情報である。主図柄ｓｚの種別を直接特定するのではなく、オフセット情報を特定するのは、変動演出における主図柄ｓｚの表示は、１つ前に行われた変動演出の停止図柄および今回行われる変動演出の停止図柄に応じて変わるためであり、変動が開始されてから所定時間経過するまでの図柄オフセット情報では、１つ前に行われた変動演出の停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、１つ前の変動演出における停止図柄から変動演出が開始される。

【２９２０】

一方、変動が開始されてから所定時間経過後は、音声ランプ制御装置１１３を介して主制御装置１１０より受信した停止種別コマンド（表示用停止種別コマンド）に応じて設定される停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、変動演出を、主制御装置１１０より指定された停止種別に応じた停止図柄で停止させることができる。

【２９２１】

なお、各主図柄ｓｚには固有の数字が付されているので、１つ前の変動演出における変動図柄や、主制御装置１１０より指定された停止種別に応じた停止図柄を、その主図柄ｓｚに付された数字で管理し、また、オフセット情報を、各主図柄ｓｚに付された数字の差分で表すことにより、そのオフセット情報から容易に表示すべき主図柄ｓｚを特定することができる。

【２９２２】

また、図柄オフセット情報において、１つ前に行われた変動演出の停止図柄のオフセット情報から今回行われている変動演出の停止図柄のオフセット情報に切り替えられる所定時間は、主図柄ｓｚが高速に変動表示されている時間となるように設定されている。主図柄ｓｚが高速に変動表示されている間は、その主図柄ｓｚが遊技者に視認不能な状態であ

るので、その間に、図柄オフセット情報を１つ前に行われた変動演出の停止図柄のオフセット情報から今回行われている変動演出の停止図柄のオフセット情報に切り替えることによって、主図柄ｓｚの数字の連続性が途切れても、その数字の連続性の途切れを遊技者に認識させないようにすることができる。

【２９２３】

さらに、本第２制御例では、第３図柄表示装置８１に表示される各主図柄ｓｚの画像データが、図柄列単位で１の画像データ（主図柄列画像データ）となるように構成している。例えば、図柄列Ｚ１にて変動表示される数字の１～９が付された各主図柄ｓｚに対して、数字の３が付された主図柄ｓｚが画像データの先頭となり、次いで、主図柄ｓｚに付された数字が「３→２→１→９→８→７→６→５→４」の順となるように、所定の間隔（副図柄ｆｚが表示される間隔）を開けた主図柄列画像データが生成され、第３図柄列エリア２３５ｇに格納されている。そして、主図柄列画像データの表示位置座標を時間経過に基づいて可変させることにより、図柄列Ｚ１を形成する主図柄ｓｚのみが変動表示される画像が主図柄画層ｓｒに表示されるように構成している。なお、主図柄画層ｓｒに形成される表示領域の大きさ（座標範囲）は、主図柄列画像データに含まれる全ての画像を表示不可能な大きさに設定されており、図２０２（ａ）に示した通り、最大で３個の主図柄ｓｚが表示可能な大きさに設定されている。

【２９２４】

よって、図柄列種別オフセット情報に含まれるオフセット情報に基づいて、主図柄画層ｓｒに表示すべき主図柄ｓｚの種別を特定し、その特定した主図柄ｓｚを表示させるべき位置に対応させて主図柄列画像データの表示範囲が決定され、その表示範囲にて各主図柄ｓｚの表示が実行される。このように、主図柄ｓｚの配置関係を可変させること無く、変動表示を実行する場合には、上述した第１制御例のように、個々の主図柄ｓｚ単位で画像データを設け、１つ前の変動演出における主図柄ｓｚの停止図柄のオフセット情報に基づいて、今回の変動演出を開始する際に表示される各主図柄ｓｚの図柄種別を特定し、その後、実行される変動演出の内容に応じて、各主図柄ｓｚの画像データの表示位置（表示位置座標）を同期させながら可変設定するよりも、所定の順序で且つ所定の間隔を設けながら複数の主図柄ｓｚが規定される図柄列画像データを生成し、その図柄列画像データを用いて変動演出を実行するように構成した場合のほうが、表示制御処理の負荷を軽減することができる。

【２９２５】

なお、本第２制御例の表示制御方法を用いた場合には、主図柄ｓｚの配列を可変させたり、主図柄ｓｚの配置間隔を可変させたりすることが困難となるため、その場合は、上述した第１制御例のように各主図柄ｓｚに対応する画像データを用いて各主図柄ｓｚを変動表示させる表示制御を実行した方がよい。また、上述した第１制御例の構成と、本第２制御例の構成と、を融合させ、特定の主図柄ｓｚのみ図柄単位の画像データを用い、特定の主図柄以外の複数の主図柄に対しては主図柄列画像データを用いるように構成しても良い。この場合、特定の主図柄に対しては、用いる画像データを可変させたり、表示位置の変更具合（変動表示速度）を可変させたりする制御を容易に実行することができると共に、特殊な表示制御を実行することなく、常に同期した変動表示内容で表示される複数の主図柄ｓｚに対しては、その複数の主図柄ｓｚを変動表示させる際の表示制御の処理負荷を軽減することができる。

【２９２６】

図柄列単位で１の画像データ（主図柄列画像データ）を生成している本第２制御例では、図柄列Ｚ１、図柄列Ｚ２、図柄列Ｚ３のそれぞれに対して（各図柄列に対して）異なる描画内容が設定されるように構成しており、図柄列Ｚ２に対しては、変動表示される数字の１～９が付された各主図柄ｓｚに対して、数字の４が付された主図柄ｓｚが画像データの先頭となり、次いで、主図柄ｓｚに付された数字が「４→５→６→７→８→９→１→２→３」の順となるように、所定の間隔（副図柄ｆｚが表示される間隔）を開けた主図柄列画像データが生成され、第３図柄列エリア２３５ｇに格納されている。また、図柄列Ｚ３

に対しては、変動表示される数字の１～９が付された各主図柄ｓｚに対して、数字の１が付された主図柄ｓｚが画像データの先頭となり、次いで、主図柄ｓｚに付された数字が「１→２→３→４→５→６→７→８→９」の順となるように、所定の間隔（副図柄ｆｚが表示される間隔）を開けた主図柄列画像データが生成され、第３図柄列エリア２３５ｇに格納されている。

【２９２７】

このように構成された各図柄列Ｚ１～Ｚ３に対応する主図柄列画像データを用いて全ての図柄列Ｚ１～Ｚ３が左方向へと変動表示するように表示制御することにより、主図柄画層ｓｒには、各図柄列Ｚ１～Ｚ３にて表示される主図柄ｓｚのみが変動表示される。なお、上述した通り、図柄列Ｚ１～Ｚ３毎に、主図柄列画像データの先頭に位置する主図柄ｓｚの種別が異なるように構成している。これにより、パチンコ機１０の電源をオンした状態（初期状態）において、第３図柄表示装置８１の中央位置、即ち、有効ラインＬ２（図１２２（ａ）参照）上には、上から順に「３．４．１」の数字が付された主図柄ｓｚが停止表示される。つまり、各主図柄列画像データの先頭位置となる主図柄ｓｚに付された数字を異ならせるように構成することにより、主制御装置１１０から変動パターンコマンドを受信していない初期状態においては、各図柄列Ｚ１～Ｚ３を形成する主図柄列画像データの先頭位置が有効ラインＬ２上となるように初期表示設定をするだけで、大当たりとなる組合せとは異なる主図柄ｓｚの組合せを停止表示することができ、初期状態における表示制御を簡素化することができる。

【２９２８】

次に、図２０８を参照して、本第２制御例における描画リストの内容について説明をする。図２０８は、第２制御例におけるパチンコ機１０の描画リストの内容を模式的に示した模式図である。この描画リストは、上述した第１制御例の描画リスト（図１５５参照）に対して、第３図柄を表示するためのすプライドの種別を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【２９２９】

描画リストは、画像コントローラ２３７に対して、１フレーム分の画像の描画を指示する指示表であり、図２０８に示すように、１フレームの画像で使用する背面画像、副図柄（副図柄１，副図柄２，・・・）、主図柄列（主図柄列１，主図柄列２，・・・）エフェクト（エフェクト１，エフェクト２，・・・）、キャラクタ（キャラクタ１，キャラクタ２，・・・，保留球数図柄１，保留球数図柄２，・・・，エラー図柄）といったスプライト毎に、そのスプライトの詳細な描画情報（詳細情報）を記述したものである。また、描画リストには、画像コントローラ２３７に対して所定の画像データをキャラクタＲＯＭ２３４から通常用ビデオＲＡＭ２３６へ転送させるための転送データ情報もあわせて記述される。

【２９３０】

各スプライトの詳細な描画情報（詳細情報）には、対応するスプライト（表示物）の画像データが格納されているＲＡＭ種別（常駐用ビデオＲＡＭ２３５か、通常用ビデオＲＡＭ２３６か）を示す情報と、そのアドレスとが記述されており、画像コントローラ２３７は、そのＲＡＭ種別およびアドレスによって指定されるメモリ領域から、当該スプライトの画像データを取得する。

【２９３１】

つまり、副図柄ｆｚの画像に対する描画指示内容としては、画像データが格納されているＲＡＭ種別として常駐用ビデオＲＡＭ２３５を示す情報と、第３図柄エリア２３５ｄに格納されている副図柄ｆｚに対応する複数の画像データＳＤ１～ＳＤ３（図２０３（ｃ）参照）の中から、今回の描画指示に用いられる画像データを示すアドレスが記載されている。また、主図柄ｓｚの画像に対する描画指示内容としては、画像データが格納されているＲＡＭ種別として常駐用ビデオＲＡＭ２３５を示す情報と、第３図柄列エリア２３５ｇに格納されている主図柄列に対応する複数の画像データ（主図柄列画像データ）の中から、今回の描画指示に用いられる画像データを示すアドレスが記載されている。

【２９３２】
＜第２制御例における制御処理内容について＞
次に、図２０９、及び図２１０を参照して、本第２制御例における制御処理内容について説明をする。本第２制御例では、上述した第１制御例に対して、表示制御装置１１４にて実行される制御処理内容を異ならせている点で少なくとも異ならせている。また、音声ランプ制御装置１１３にて設定される変動演出の演出態様の種別内容も異ならせている。それ以外の内容については同一であり、同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【２９３３】
なお、本第２制御例では、音声ランプ制御装置１１３にて設定される第３図柄の変動演出態様の内容を異ならせており、具体的には、図２０５を参照して上述した通り、第３図柄のうち、副図柄ｆｚに対してのみ様々な変動演出を実行させるための表示用コマンドを設定可能に構成している。しかしながら、変動演出に対応する表示用コマンドの設定方法については、上述した第１制御例の変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）と同一であり、具体的な設定内容が異なるだけであるため、その詳細な説明を省略する。また、本第２制御例にて実行される副図柄ｆｚに対して実行される各種変動演出の内容についても、図２０５を参照して上述したためその詳細な説明を省略する。
【２９３４】
まず、本第２制御例における表示制御装置１１４にて実行される制御処理内容について説明をする。図２０９は、変動パターンコマンド処理２（Ｓ６４５５）を示すフローチャートである。この変動パターンコマンド処理２（Ｓ６４５５）は、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用変動パターンコマンドに対応する処理を実行するものであって、上述した第１制御例のパチンコ機１０の表示制御装置１１４にて実行される変動パターンコマンド処理（図１９１のＳ６４０５参照）に対して、今回の変動演出中に用いられる変更用主図柄ｓｚおよび、副図柄ｆｚの種別を決定し、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の各種記憶エリアに格納するための処理を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるため、同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【２９３５】
変動パターンコマンド処理２（Ｓ６４５５）では、まず、樹陰した変動パターンコマンド（表示用変動パターンコマンド）を解析し（Ｓ６５０１）、今回の変動パターンコマンドが大当たり当選を示すための変動パターンコマンド（主制御装置１１０にて実行された特別図柄抽選において大当たり当選した場合に選択される変動パターンコマンド）であるかを判別する（Ｓ６５５１）。そして、大当たり変動であると判別した場合は（Ｓ６５５１：Ｙｅｓ）、次いで、今回の表示用変動パターンコマンドに昇格演出の演出態様を示す情報が含まれているかを判別し（Ｓ６５５２）、昇格演出の演出態様を示す情報が含まれていると判別した場合は（Ｓ６５５２：Ｙｅｓ）、昇格専用図柄列の変動用主図柄にコマンドに対応した変更用主図柄を決定して、第３図柄列エリアに格納し、Ｓ６５５４へと移行する。また、Ｓ６５５１の処理において、今回の変動が大当たり変動ではない場合した場合、或いは、Ｓ６５５２の処理において昇格演出を実行しないと判別した場合は、次に、Ｓ６５５４へと移行し、Ｓ６５０１の処理で解析した情報に基づいて、今回受信した変動パターンの中に、副図柄ｆｚを用いた予告演出（図２０５参照）を実行するための情報が含まれているかを判別し、副図柄ｆｚの予告演出が実行されると判別した場合は（図２０９のＳ６５５４：Ｙｅｓ）、今回の副図柄予告演出にて用いられる副図柄ｆｚの表示態様を決定し、その決定した表示態様に対応する画像データをキャラクタＲＯＭ２３４のキャラクタ記憶エリア２３４ａ２から読み出し、常駐用ビデオＲＡＭ２３５の第３図柄エリア２３５ｄに格納する（Ｓ６５５５）。
【２９３６】
その後、受信した変動パターンコマンドに対応した変動表示データテーブルを決定して、表示で０用の表示変動パターンを設定し、上述した第１制御例の表示制御装置１１４にて実行される変動パターンコマンド処理（図１９１のＳ６４０５参照）と同一のＳ６５０

２～Ｓ６５０５の処理を実行し、本処理を終了する。
【２９３７】
次に、図２１０を参照して、背面画像変更コマンド処理２（Ｓ６４６９）の内容について説明をする。図２１０は、背面画像変更コマンド処理２の内容を示したフローチャートである。この背面画像変更コマンド処理２（Ｓ６４６９）は、上述した背面画像変更コマンド処理（図１９５（ａ）のＳ６４１９参照）に対して、背面画像変更フラグ２３３ｗがオンに設定された場合に、変更後の背面画像（背景モード）に対応する第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の種別を決定し、第３図柄エリア２３５ｄ、第３図柄列エリア２３５ｇに格納する処理を追加した点で相違している。それ以外の処理は同一であるため、同一の処理については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【２９３８】
背面画像変更コマンド処理２（Ｓ６４６９）が実行されると、まず、背面画像変更フラグ２３３ｗをオンに設定し（Ｓ７００１）、変更後の背面画像（背景モード）に対応する第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の種別を決定して、第３図柄エリア２３５ｄ、第３図柄列エリア２３５ｇに決定した種別に対応する画像データを格納する（Ｓ７００２）。その後、変更後の背面画像種別に対応する背面画像判別フラグ２２３ｘをオンに設定し（Ｓ７０５１）、本処理を終了する。
【２９３９】
＜第２制御例の変形例について＞
次に、図２１１を参照して、上述した第２制御例の変形例について説明をする。上述した第２制御例では、第３図柄を構成する主図柄ｓｚを主図柄画層ｓｒに表示（描画）し、副図柄ｆｚを副図柄画層ｆｒに表示（描画）するように構成しており、主図柄画層ｓｒの表示内容と、副図柄画層ｆｒの表示内容とを同期させて表示制御することで、主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚとが特定の順列のまま規則的に変動表示されるようにし、さらに、副図柄ｆｚに対する表示制御内容のみを可変設定することにより、特別図柄抽選の結果を示すための主図柄ｓｚに対する変動表示内容を可変させること無く、様々な変動演出を実行可能に構成していた。
【２９４０】
これに対して、本変形例では、上述した第１制御例と同様に１の画層に対して、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を表示（描画）するように構成し、さらに、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）を表示（描画）する画層を複数（２つ）設けるように構成している点で相違している。そして、その２つの画層（第３図柄画像Ａ、第３図柄画像Ｂ）に対して表示される第３図柄の表示制御内容を可変させることにより、特殊な変動演出を実行可能に構成している点で相違している。それ以外の内容については、上述した第２制御例と同一であり、同一の内容についてその詳細な説明を省略する。
【２９４１】
図２１１（ａ）は、本第２制御例の変形例のパチンコ機１０に形成される表示画層と、表示画面との関係を示した模式図であり、図２１１（ｂ）は、トリプルリーチ演出中に表示される表示画面の一例を示した図であって、図２０２（ｃ）は、トリプルリーチ演出によりトリプルリーチ状態となった場合の表示画面の一例を示した図である。
【２９４２】
図２１１（ａ）に示した通り、本第２制御例の変形例では、第３図柄が表示される画層として第３図柄画層Ａと、第３図柄画層Ｂと、が重複形成されており、第３図柄画層Ａが第３図柄画層Ｂよりも前面（遊技者目線で手前側）に配置されるように構成している。なお、図２１１（ａ）では、第３図柄画層Ａと、第３図柄画層Ｂのみを標記しているが、実際には、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種画像を表示する各画層（レイヤ）が重畳されている。
【２９４３】
そして、第３図柄画層Ａと、第３図柄画層Ｂとに対して、第３図柄の変動表示を同期させて実行することにより、見た目上は、上述した第１制御例の図１２５（ｂ）を参照して

示した第３図柄の変動表示と同一の変動表示を実行可能に構成している。
【２９４４】
　このように構成された本変形例では、上述した第２制御例と同様に、第３図柄画層Ａに表示される第３図柄と、第３図柄画層Ｂに表示される第３図柄と、を独立して変動表示制御することができるため、例えば、図２１１（ｂ）に示した通り、第３図柄画層Ｂに表示される第３図柄にて「９」のシングルリーチとなった状態で、第３図柄画層Ａの第３図柄変動を継続させることが可能となる。この状態では、第３図柄画層Ａの第３図柄変動の結果次第では、リーチ状態となる第３図柄が増加するため、副表示領域Ｄｓにて「リーチ！昇格チャンス」の文字が表示される。
【２９４５】
　そして、図２１１（ｃ）に示した通り、第３図柄画層Ａに表示される第３図柄にて「１」と「９」のダブルリーチが成立すると、見た目上は、３つの第３図柄がリーチ状態となる「トリプルリーチ」となる。このように、複数の画層を用いて第３図柄を重複して変動表示させることにより、１つの画層で第３図柄を変動表示させる場合には、各第３図柄の図柄列の順序を可変させる表示制御を必要とする変動演出を容易に実行することができ、演出効果を高めることができる。
【２９４６】
　なお、このように、複数の第３図柄画層に対して第３図柄の変動表示を異ならせる場合には、例えば、優先して表示される側の画層（第３図柄画層Ａ）にて表示される第３図柄を、特別図柄抽選の結果を示すための真の第３図柄とし、非優先側の画層（第３図柄画層Ｂ）にて表示される第３図柄を、装飾用の第３図柄とし、特別図柄の抽選結果に基づいて設定される変動パターン（主制御装置１１０にて設定される変動パターン）に基づいて、第３図柄画層Ａの第３図柄の変動パターンを決定し、音声ランプ制御装置１１３側にて、決定された第３図柄画層Ａの第３図柄の変動パターンに基づいて（大当たり当選の有無や、リーチの種別に基づいて）、第３図柄画層Ｂにて表示される第３図柄の変動演出内容を決定するように構成すると良い。そして、特別図柄抽選で大当たり当選している場合のほうが、していない場合よりも、第３図柄画層Ａと第３図柄画層Ｂとで異なる変動表示制御が実行されるように構成すると良い。
【２９４７】
　また、本変形例では、第３図柄画層Ａの変動表示と第３図柄画層Ｂの変動表示とを完全に異ならせた変動演出について説明をしたが、これに限ること無く、例えば、変動開始タイミングを０．２秒ずらして実行し、その後、第３図柄変動の高速変動中に、変動表示内容を同期させる変動演出を実行するように構成しても良い。このように、変動演出の一部期間のみ第３図柄画層Ａの変動表示と第３図柄画層Ｂの変動表示とを異ならせることで、遊技者に若干の違和感を与えることができるため、遊技者に対して変動表示をより抽選させることができる。
【２９４８】
　以上、説明をした通り、上述した第２制御例、及び第２制御例の変形例では、特別図柄抽選の抽選結果を示すための識別情報を有する主図柄ｓｚを含む図柄で構成される図柄列Ｚ１～Ｚ３の各第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）に対して様々な表示制御を実行するように構成しているが、第３図柄表示装置８１の表示面において表示領域が重複するように動的表示される図柄であれば、図柄列Ｚ１～Ｚ３が有する図柄（第３図柄）以外の図柄を設けても良い。
【２９４９】
　例えば、第３図柄変動の実行中において、図柄列Ｚ１～Ｚ３が有さない特殊図柄が図柄列Ｚ１～Ｚ３の表示領域と重複する表示領域にて動的表示されるように構成しても良い。また、上述した特殊図柄は、第３図柄変動が実行されている期間中に動的表示されるものであれば良く、第３図柄変動の実行中に特殊図柄の動的表示を開始させたり、第３図柄変動の実行中に特殊図柄を停止表示、或いは、非表示にさせたりするように構成しても良い。

【２９５０】
このように構成した場合においても、主図柄ｓｚの変動表示態様（変動パターン）を、特別図柄抽選の結果に基づいて決定しておけば良く、特殊図柄に対しては、上述した副図柄ｆｚと同様に演出用の変動パターンを設定することが可能となる。また、上述した特殊図柄は、副図柄ｆｚとは異なり図柄列Ｚ１～Ｚ３が有する図柄では無いため、第３図柄変動の開始タイミングや停止タイミングにおいて第３図柄表示装置８１の表示面に表示されていなくても遊技者に違和感を与えることが無い。よって、副図柄ｆｚよりも設定可能な変動パターンの種別を多様化させることができ、演出効果をより高めることができる。
【２９５１】
また、この特殊図柄の動的表示態様を、上述した第３図柄の動的表示態様と異ならせるように構成すると良く、例えば、第３図柄の動的表示方向が左方向（図２０２（ａ）の視点で左方向）である場合には、特殊図柄の動的表示方向が第３図柄の動的表示方向とは異なる方向（例えば、図２０２（ａ）の視点で右方向）となるように構成すると良い。これにより、第３図柄変動表示が実行されている期間中において、第３図柄変動表示の表示領域と重複した表示領域において特殊図柄を動的表示させたとしても、遊技者に特殊図柄の動的表示が実行されたことを分かり易く報知することができる。
【２９５２】
なお、上述した例では、特殊図柄の動的表示方向を、第３図柄の動的表示方向とは異なる方向として真逆の方向としているが、動的表示方向を異ならせていれば良く、例えば、左右方向では無く、上下方向（図２０２（ａ）の視点で上下に移動する方向）や、前後方向（図２０２（ａ）の視点で奥側から手前側へと、或いは、手前側から奥側へと移動する方向）、斜め方向（移動方向を示す移動線を９０度未満の角度でズラした斜め側へ移動する方向）としても良い。さらに、上述した例では、第３図柄変動中に特殊図柄の変動表示が実行されたことを分かり易く報知するために、第３図柄の動的表示方向と、特殊図柄の動的表示方向と、を異ならせたパターンを説明したがこれに限ること無く、動的表示される第３図柄の大きさと、特殊図柄の大きさを異ならせることで、第３図柄変動中に特殊図柄の変動表示が実行されたことを分かり易く報知するように構成しても良い。さらに、第３図柄変動が実行されるよりも前に、特殊図柄の動的表示を実行させたり、第３図柄変動が停止表示（遊技者が識別困難な程度揺動している表示状態も含む）された後に特殊図柄の動的表示を実行させたりするように構成しても良い。
【２９５３】
一方、上述した例とは逆の技術思想として、第３図柄変動中に特殊図柄の変動表示が実行されたことを分かり難く報知するために、各図柄（第３図柄、特殊図柄）の動的表示方向や大きさが同一となるように構成しても良い。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種変動表示を注視してないと特殊図柄の動的表示が実行されたことを把握することができないため、特殊図柄の動的表示が実行されたことを知りたい遊技者に対して、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種変動表示に継続して興味を持たせることができる。
【２９５４】
なお、上述した通り、特殊図柄は第３図柄とは異なり常時表示させなくても良いため、第３図柄のように停止表示された場合の表示態様に応じて特別図柄の抽選結果を示すものでは無く、例えば、特殊図柄の動的表示が開始されたことにより、特別図柄の抽選結果が大当たり当選している可能性が高いことを遊技者に報知するように構成しても良い。このように、動的表示される図柄の種別に応じて、特別図柄の抽選結果を示すための情報が提供されるタイミング（動的表示開始タイミング、停止表示タイミング）を異ならせることにより、動的表示される各種図柄に応じて遊技者が注視すべきタイミングを異ならせることができるため、演出効果を高めることができる。
【２９５５】
また、このように動的表示が開始されることで、特別図柄抽選で大当たり当選している可能性が高いことを示す特殊図柄を用いる場合には、動的表示が実行されることを示唆す

る待機表示態様として特殊図柄の少なくとも一部を第３図柄表示装置８１の表示面に表示させるように構成すると良い。例えば、特殊図柄として、複数の魚が群れを為している表示態様の特殊図柄を用いる場合には、その特殊図柄の変動方向側の先頭付近に表示される魚のみを表示させるように構成すると良い。このように構成することで、特殊図柄の動的表示が開始されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせることができる。この場合、特殊図柄を示す表示態様の全部では無く、一部を第３図柄表示装置８１の表示面に表示させるように構成すると良い。これにより、待機表示態様として特殊図柄が表示された場合に、既に、特殊図柄が動的表示されていると誤認されてしまうことを抑制することができる。

【２９５６】

また、上述した第２制御例では、第３図柄を形成する主図柄ｓｚと、副図柄ｆｚとを異なる画層に表示するように構成し、各画層に対して実行される表示制御内容を異ならせることにより、主図柄ｓｚの変動表示態様と、副図柄ｆｚの変動表示態様と、を異ならせるように構成しているが、これに加え、例えば、副図柄ｆｚを表示可能な画層として第１副図柄画層と、第２副図柄画層と、を設け、第１副図柄画層に表示される副図柄ｆｚと、第２副図柄画層に表示される副図柄ｆｚとが重複して表示されるように構成しても良いし、何れか一方のみが表示されるように構成しても良い。また、複数の表示画層に表示される副図柄ｆｚの停止表示位置を異ならせるように表示制御した上で、図２０２（ｂ）に示したリーチライン予告演出を実行することで、主図柄ｓｚが停止表示される位置をより限定するように構成しても良い。

【２９５７】

以上、説明をした第２制御例では、各図柄列Ｚ１～Ｚ３を構成する１の図柄（主図柄ｓｚ）と、他の図柄（副図柄ｆｚ）と、を表示させる表示画層を異ならせ、各表示画層単位で表示制御を実行可能に構成することで様々な変動演出を実行可能に構成しているが、第３図柄表示装置８１の表示面にて変動表示される第３図柄の図柄列を形成する各図柄の種別（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）に対して異なる表示制御を実行可能な構成であれば、同一の表示画層に対して表示される構成であっても良い。この場合、各表示制御の結果として表示される表示対象が重複した場合に、何れの表示対象を表示させるかを予め規定する必要がある分、表示制御処理が複雑になるが、上述した第２制御例にて説明をした各演出と同様の効果を奏することができる。

【２９５８】

また、同一の表示画層に対して複数の表示制御の結果を表示させる構成を用いる場合であっても、図柄列Ｚ１～Ｚ３を構成する複数の図柄種別（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）以外の図柄、即ち、特別図柄の変動表示に対応して第３図柄表示装置８１の表示面にて動的表示される第３図柄以外の図柄（例えば、特別図柄抽選の結果が特定の結果（大当たり当選）である可能性が高いことを示すために、特別図柄変動中の所定期間に動的表示される装飾図柄）も含む各種図柄を対象として上述した第２制御例にて説明をした各種表示制御処理を実行しても良い。

【２９５９】

上述した第２制御例では、操作演出として背景モード移行演出が実行された場合に、主図柄ｓｚの表示態様を、切り替え後の背景モードに対応する表示態様へと切り替えるように構成しているが、背景モード移行演出が実行された場合に、主図柄ｓｚの表示態様だけで無く、副図柄ｆｚの表示態様も切り替えるように構成しても良い。この場合、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２に格納される副図柄ｆｚの画像データとして、各背景モードに対応する画像データを格納しておき、背景モードが切り替わる際に、切り替え後の背景モードに対応する画像データを読み出して、第３図柄エリア２３５ｄに格納すれば良い。

【２９６０】

加えて、操作演出として背景モード移行演出が実行される場合に、実行中の特別図柄抽選の結果を判別し、その判別結果に基づいて背景モード切り替え後に表示される副図柄ｆｚの種別を決定しても良い。具体的には、実行中の特別図柄抽選の結果が大当たり当選し

ている場合のほうが、大当たり当選していない場合よりも決定されやすい副図柄ｆｚの種別として、「数字の１６」を模した表示態様や、「Ｖ」を模した表示態様を設けると良い。このように構成することで、背景モード移行演出を実行し、背景モードを切り替えることにより、特別図柄変動が停止表示されるよりも前に、特別図柄抽選の結果を予測し易くすることができるため、遊技者に対して積極的に操作演出を実行させることができる。

【２９６１】

さらに、設定される背景モードと、表示される副図柄ｆｚの種別と、の組合せによって特別図柄抽選の結果が大当たり当選である可能性を異ならせても良く、例えば、第１の演出モード（海モード）においては通常用いられる副図柄ｆｚの種別（海モード用の表示態様）が、第２の演出モード（山モード）において用いられた場合には、実行中の特別図柄抽選が大当たり当選している可能性が高いことを示すように構成しても良い。このように、背景モードと副図柄ｆｚの種別とを組み合わせた演出を実行することにより、副図柄ｆｚの種別を増加させること無く、多様な演出を実行することができる。

【２９６２】

また、本制御例では、操作演出として背景モード移行演出が実行される場合に、第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の表示態様を可変させる処理を実行するように構成しているが、それ以外に、第３図柄表示装置８１の表示面に形成される有効ラインＬ１～Ｌ５（図１２２（ａ）参照）の数や位置を可変させても良い。

【２９６３】

さらに、図２０２（ａ），（ｂ）で示したリーチライン予告演出が実行され、副図柄ｆｚが停止表示された状態（図２０２（ｂ）参照）にて、背景モード移行演出が実行された場合には、リーチライン予告演出にて報知された主図柄ｓｚの停止表示位置を可変させるように構成しても良く、この場合、実行中の特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合のほうが、大当たり当選以外である場合よりも主図柄ｓｚの停止表示位置が可変し易くなるように構成しても良いし、反対に、大当たり当選の場合よりも、大当たり当選以外であるほうが主図柄ｓｚの停止表示位置が可変し易くなるように構成しても良い。

【２９６４】

＜第３制御例＞

次に、第３制御例について、図２１２から図２２２を参照して、第３制御例について説明をする。上述した第１制御例では、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置６５内に特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を形成し、大当たり遊技中に遊技球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過すると、その大当たり遊技終了後に確変状態を設定するように構成していた。

【２９６５】

そして、図１２０に示した通り、幅広（開口幅５０ミリ）の大入賞口６５ａに入賞した球を、第１流路６５ｅ１及び第５流路６５ｅ５を用いて１箇所に集め、第２流路６５ｅ２を流下させることで、Ｖゲート６５ｖへと到達し得るように構成していた。しかしながら、上述した第１制御例の可変入賞装置６５の構成では、可変入賞装置６５の左側（第１流路６５ｅ１の上流側）から入賞した球、即ち、左打ち遊技によって発射された球が左側領域を流下した後に可変入賞装置６５へと入賞した場合と、可変入賞装置６５の右側（第５流路６５ｅ５の上流側）から入賞した球、即ち、右打ち遊技によって発射された球が右側領域を流下した後に可変入賞装置６５へと入賞した場合と、で可変入賞装置６５に入賞したタイミングから、Ｖゲート６５へと到達し得るタイミングが異なるため、確変大当たり遊技が実行される場合には、左打ち遊技を行っても、右打ち遊技を行っても、可変入賞装置６５へと入賞した球がＶゲート６５ｖへと到達可能とするために、球が第４流路６５ｅ４を流下可能な状態に切替弁６５ｙを長期間位置させる必要があった。また、可変入賞装置６５に入賞した球がＶゲート６５ｖを通過可能な期間を長く設定することに伴い、Ｖゲート６５ｖ（特定領域）の球通過を有効に判別する期間（Ｖ有効期間）の長さも長く設定する必要があるため、大当たり遊技中の不正行為、即ち、不正な遊技によって球をＶゲート６５Ｖ（特定領域）に通過させる行為を発見し難くなるという問題もあった。

【２９６６】
これに対して、本第３制御例におけるパチンコ機１０では、左打ち遊技によって発射された球が左側領域を流下した後に可変入賞装置６５に入賞する場合と、右打ち遊技によって発射された球が右側領域を流下した後に可変入賞装置６５に入賞する場合と、で可変入賞装置６５に入賞した球が特定領域を通過するまでの期間がほぼ同一となるように構成している。このように構成することで、特定領域への球通過を有効に判別する期間（Ｖ有効期間）の長さを短くすることが可能となり、大当たり遊技中の不正行為、即ち、不正な遊技によって球をＶゲート６５Ｖ（特定領域）に通過させる行為を発見し易くすることができる。
【２９６７】
上述した通り、本第３制御例では、可変入賞装置６５内の構成を変更した点と、可変入賞装置６５内に設けられた切替弁６５ｙの切替制御の内容を変更した点とで、上述した第１制御例と相違しており、それ以外の内容については同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【２９６８】
まず、図２１２を参照して、本第３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。図２１２は、本第３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３を模式的に示した正面図である。図２１２に示した通り、本第３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３は、上述した第１制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成（図１１９参照）に対して、電動役物６４０ａの下方領域に植設される釘部材の配置を異ならせている点で相違している。具体的には、上述した第１制御例におおけるパチンコ機１０の遊技盤１３では、左側領域を流下した球、或いは、右側領域を流下した球が可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａの開口幅方向に対して満遍なく入賞し得るように釘が植設されているのに対して、本第３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３では、左側領域を流下した球は可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａの左端側に、右側領域を流下した球は可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａの右端側に入賞し易くなるように、電動役物６４０ａの下方にハの字状に複数の釘部材が植設されている。
【２９６９】
つまり、本第３制御例では、左打ち遊技によって左側領域を流下した球も、右打ち遊技によって右側領域を流下した球も入賞し得るように広い開口幅の特定入賞口６５ａを有する可変入賞装置６５を設けた上で、特定入賞口６５ａの開口幅方向の中央部付近での球の入賞を抑制するために、可変入賞装置６５の中央部上方に入賞阻害部材として電動役物６４０ａを設け、さらに、特定入賞口６５ａの開口幅方向の両端部付近での球の入賞を誘導するための誘導部材としてハの字状に植設された複数の釘部材を設けている。
【２９７０】
このように構成することで、大当たり遊技中に右打ち遊技を行った場合も、左打ち遊技を行った場合も、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａにおける開口幅方向の両端部付近への球入賞を促進させることができる。詳細な説明は、図２１３を参照して後述するが、本第３制御例の可変入賞装置６５は、その内部構造が左右対称（特定入賞口６５ａの開口幅方向を左右方向と見て左右対称）となるように構成しており、特定入賞口６５ａへの球の入賞位置を左右対称位置にすることで、特定入賞口６５ａへと入賞した球が可変入賞装置６５内の各領域（例えば、特定領域）を通過するまでの期間に誤差が生じ難くすることができる。
【２９７１】
次に、図２１３を参照して、第３制御例のパチンコ機１０における可変入賞装置６５の内部構造について説明をする。図２１３（ａ）は、可変入賞装置６５のうち、特定入賞口６５ａ付近の構造を模式的に示した模式図であり、図２１３（ｂ）は、特定入賞口６５ａに入賞した球の流下経路を模式的に示した模式図である。
【２９７２】
本第３制御例の可変入賞装置６５も、上述した第１制御例の可変入賞装置６５の構成（

図１２０参照）と同様に、大当たり遊技状態中に開状態となる開閉扉６５ｂで受け入れた球が、案内部材６５ｄによって、特定入賞口６５ａの両端部側に設けられた第１開口部６５ａ１、或いは、第２開口部６５ａ２へと誘導されるように構成している。そして、第１開口部６５ａ１を流下した球は、球検知センサ６５ｓ１（図２１３（ｂ）参照）を通過し、賞球として１５個の球が払い出される払出制御が実行される。同様に、第２開口部６５ａ２を流下した球は、球検知センサ６５ｓ２（図２１３（ｂ）参照）を通過し、賞球として１５個の球が払い出される払出制御が実行される。

【２９７３】

図２１２を参照して上述した通り、本第３制御例では、特定入賞口６５ａの中央部付近から球が入賞し難くなるように構成されているため、開状態の開閉扉６５ｂで受け入れた球を円滑に第１開口部６５ａ１、或いは、第２開口部６５ａ２へと誘導することができる。よって、第１開口部６５ａ１、或いは、第２開口部６５ａ２を流下する前の入賞球が増加してしまい、球詰まりが発生することを抑制することができると共に、特定入賞口６５ａへと入賞したにも関わらず賞球が払い出されない（球検知センサ６５ｓ１，６５ｓ２を球が通過しない）事態が発生することを抑制することができる。

【２９７４】

図２１３（ｂ）に示した通り、本第３制御例の可変入賞装置６５は、上述した第１実施形態にて用いられた可変入賞装置６５（図１２０（ｂ）参照）に対して、特定入賞口６５ａに入賞した球（球検知センサ６５ｓ１、或いは球検知センサ６５ｓ２を通過した球）が、排出口６５へと誘導される経路が左右対称に構成されている点で大きく相違している。

【２９７５】

まず、球検知センサ６５ｓ１を通過した球は、第１流路６５ｒ１を切替弁６５ｙに向けて流下し、図２１３（ｂ）に示した通り、切替弁６５ｙが閉状態（Ｖゲート６５Ｖが配設された流路を塞ぐように突出している状態）である場合には、切替弁６５ｙの上面を流下し、第１排出口６５ｈ１へと誘導される。なお、第１流路６５ｒ１を球が流下するのに要する時間（ｔａ）が約２秒となるように構成されている。同様に、球検知センサ６５ｓ２を通過した球は、第２流路６５ｒ２を切替弁６５ｙに向けて流下し、図２１３（ｂ）に示した通り、切替弁６５ｙが閉状態（Ｖゲート６５Ｖが配設された流路を塞ぐように突出している状態）である場合には、切替弁６５ｙの上面を流下し、第２排出口６５ｈ２へと誘導される。なお、第２流路６５ｒ２を球が流下するのに要する時間（ｔｂ）も、上述した時間ｔａと同じく約２秒となるように構成されている。

【２９７６】

つまり、本第３制御例では、左打ち遊技によって特定入賞口６５ａの左側端部付近に入賞し、第１開口部６５ａ１を通過した球も、右打ち遊技によって特定入賞口６５ａの右側端部付近に入賞し、第２開口部６５ａ２を通過した球も、同位置の流下時間を経て切替弁６５ｙに到達するように構成している。

【２９７７】

そして、切替弁６５ｙが閉状態（Ｖゲート６５Ｖが配設された流路を、球が通過となるように埋没している状態）になると、図２１４に示した通り、第１流路６５ｒ１を流下した球が、埋没状態の切替弁６５ｙ（図２１４では点線で表示）を通過して、第１Ｖゲート６５ｖ１を通過して、第３排出口６５ｈ３へ流入する。また、第２流路６５ｒ２を流下した球も、埋没状態の切替弁６５ｙを通過して、第２Ｖゲート６５Ｖ２を通過して、第４排出口６５ｈ４へ流入するように構成されている。

【２９７８】

本第３制御例では、球が可変入賞装置６５に入賞した個数（球検知センサ６５ｓ１，６５ｓ２が検知した球の累計数）が所定個数に到達した場合に、切替弁６５ｙが閉状態（図２１３（ｂ）参照）から開状態（図２１４参照）へと切り替わるように構成しており、所定個数目の球が球検知センサ６５ｓ１、或いは球検知センサ６５ｓ２を通過してから切替弁６５ｙに到達するまでの時間（約２秒）よりも、球が可変入賞装置６５に入賞した個数が所定個数に到達し、切替弁６５ｙが開状態となるのに要する時間（約０．５秒）のほう

が短くなるように構成している。よって、上述した所定個数目の球がそのままＶゲート６５Ｖを通過可能に構成している。よって、切替弁６５ｙが開状態となった場合に確実に球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下させることができる。

【２９７９】

なお、本第３制御例における可変入賞装置６５の構造は、上述した第１実施形態における振分装置３００（図１３参照）の構造と同一であるが、説明の便宜上、図２１３、及び図２１４に示した通り簡素化した図で示している。よって、本第３制御例における可変入賞装置６５の詳細な構成については、上述した第１実施形態の内容が勿論適用させるものであり、その説明を省略する。

【２９８０】

＜第３制御例における電気的構成について＞

次に、図２１５、及び図２１６を参照して、本第３制御例における電気的構成について説明をする。本第３制御例では、上述した第１制御例に対して、大当たり遊技中に実行される大当たり制御の内容を異ならせている点、及び、その相違点に基づく各種処理内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。具体的には、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の内容を一部変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の内容を一部変更した点で相違し、それ以外の構成については同一である。

【２９８１】

ここで、図２１５を参照して、本第３制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図２１５は、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の内容を模式的に示した模式図である。図２１５に示した通り、本第３制御例のＲＡＭ２０３は、上述した第１制御例のＲＡＭ２０３の構成（図１３９（ｂ）参照）に対して、Ｖ期間タイマ２０３ｃａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【２９８２】

Ｖ期間タイマ２０３ｃａは、特定領域（Ｖゲート６５ｖ）に球を通過させることが可能となるように、切替弁６５ｙを開状態に位置させる期間を計測するためのものであって、特定領域（Ｖゲート６５ｖ）へと球を通過させることが可能な条件が成立した場合に所定時間（５秒）が設定される。そして、主制御装置１１０のメイン処理（図１６７参照）の大当たり制御処理３（図２１７のＳ１８５４参照）にて実行される大当たり中更新処理（図２２０のＳ１９５４参照）において、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が更新され、Ｖ期間が経過した（Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が０となった）場合に、切替弁６５ｙが閉状態へと切り替わるように構成している。

【２９８３】

本第３制御例では、確変大当たり遊技中の特定ラウンド数目のラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）において、特定入賞口６５ａへの球の入賞数（球検知センサ６５ｓ１，６５ｓ２の検知した球数）が所定個数（２個）であると判別された場合に、特定領域（Ｖゲート６５ｖ）へと球を通過させることが可能なＶ条件が成立し、切替弁６５ｙを所定期間（５秒間）開状態へと切り替えるように構成している。

【２９８４】

つまり、大当たり遊技が開始されてからの時間経過に基づいて切替弁６５ｙを切替制御するのでは無く、大当たり遊技中に可変入賞装置６５へと入賞した球の個数に基づいて切替弁６５ｙを切替制御するように構成している。このように構成することで、大当たり遊技中に正常に遊技を行っているにも関わらず、球を可変入賞装置６５へと入賞させることができなかった期間中に切替弁６５ｙの開状態期間が終了してしまい、球を特定領域（Ｖゲート６５ｖ）へと通過させることができない事態が発生することを抑制することができる。

【２９８５】

さらに、本第３制御例では、切替弁６５ｙを開状態へと切り替えるＶ条件を成立させた球、即ち、所定個数（２個）目に球検知センサ６５ｓ１、或いは６５ｓ２を通過した球が切替弁６５ｙに到達するまでに要する期間（約２秒）よりも、Ｖ条件が成立してから切替弁６５ｙが開状態へと切り替わるのに要する期間（約０．５秒）のほうが短くなるように構成しており、少なくともＶ条件を成立させた球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過可能に構成している。このように構成することで、Ｖ条件が成立した場合に確実に特定領域（Ｖゲート６５ｖ）へと球を通過させることができる。

【２９８６】

なお、本制御例では、Ｖ条件が成立し、切替弁６５ｙを開状態へと切り替えた状態を所定期間（５秒間）継続するように構成している。即ち、切替弁６５ｙの開状態を終了させるための終了条件として、所定期間が経過した場合に成立する期間経過終了条件のみとしているが、これに限ること無く、例えば、球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過した場合に成立するＶ通過終了条件を設けても良いし、Ｖラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）の終了条件が成立した場合、或いは、Ｖラウンド遊技の終了条件が成立してから所定期間（例えば、Ｖラウンド中に可変入賞装置６５へと入賞した球が何れかの排出口６５ｈに到達するまでに要する４秒間）経過した場合に成立するラウンド終了条件を設けても良い。このように様々な終了条件を設定しておき、先に何れかの終了条件が成立した場合に切替弁６５ｙの開状態を閉状態へと切り替えるように構成しても良い。これにより、切替弁６５ｙが開状態となる期間を極力短くすることができるため、球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を無用に通過することを抑制することができる。よって、Ｖゲート６５ｖに設けられている球検知センサに球が衝突してしまい、球検知センサが物理的に破壊されてしまう可能性を低くすることができる。

【２９８７】

次に、図２１６を参照して、本第３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の内容について説明をする。図２１６は、第３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の内容を模式的に示した模式図である。図２１６に示した通り、本第３制御例のＲＡＭ２２３は、上述した第１制御例のＲＡＭ２２３の構成（図１４４（ｂ）参照）に対して、Ｖタイマ２２３ｃａを追加した点で相違しており、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【２９８８】

Ｖタイマ２２３ｃａは、特定領域（Ｖゲート６５ｖ）へと球を通過させることが可能な期間（Ｖ入賞可能な期間）が設定されてからの経過時間を計測するためのタイマであって、Ｖ入賞可能な期間となった場合に主制御装置１１０にて設定されるＶ期間コマンドを音声ランプ制御装置１１３にて受信した場合に、所定期間（３秒）に対応する値が設定される。そして、特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を球が通過するまでＶタイマ２２３ｃａの値は更新（減算）され続け、値が０となった場合（所定期間が経過した場合）に、Ｖ入賞させる案内を強調した強調案内報知が実行される。

【２９８９】

つまり、Ｖ入賞可能な期間が最大で５秒間設定されるのに対して、Ｖ入賞可能な期間が設定されてから３秒が経過した時点で強調案内報知が実行されるように構成している。ここで、上述した通り、通常であれば、Ｖ条件を成立させた球がそのままＶ入賞するように構成されており、そのＶ条件を成立した球がＶ入賞するまでに要する時間が約２秒となるように構成している。即ち、Ｖタイマ２２３ｃａの値が０に到達した場合は、Ｖ条件を成立させた球がＶ入賞しなかった場合が考えられる。よって、追加の球を用いてＶ入賞を狙う必要があるため、強調案内報知が実行されるように構成している。これにより、Ｖ入賞可能な期間が設定されたにも関わらず、遊技者の遊技内容によって、Ｖ入賞させることができなかったという事態が発生することを抑制することができる。

【２９９０】

なお、本制御例では、Ｖ条件が成立してからの経過時間に基づいて強調案内報知を実行

するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、Ｖ条件を成立させた球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を有さない領域（例えば、排出口６５ｈ１を有する流路（図２１３（ｂ）参照））を通過したことを検知した場合に強調案内待機報知を実行するように構成しても良い。また、本制御例では、切替弁６５ｙを開状態へと切り替える契機となった球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過していないことを検知した場合に、上述した強調案内報知を実行するように構成しているが、これに替えて、可変入賞装置６５内の流路において異常（例えば、球詰まり）が発生したことを外部に報知するための異常報知を実行するように構成しても良い。

【２９９１】

また、本制御例では、所定個数目（２個目）の球の入賞を球検知センサ６５ｓ１，６５ｓ２が検知した場合に、即座に切替弁６５ｙを開状態へと切り替える切替制御を実行するように構成しているが、この場合、所定個数目（２個目）よりも前に可変入賞装置６５へと入賞した球（１個目の入賞球）が、開状態である切替弁６５ｙに誘導され、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過してしまう場合がある。そこで、所定個数目（２個目）の入賞を検知した場合に、その２個目の入賞球が切替弁６５ｙに到達するまでの時間（約２秒）を考慮した待機時間（約１．５秒）を設定し、その待機時間経過後に切替弁６５ｙを開状態へと切替制御するように構成しても良い。これにより、切替弁６５ｙを開状態へと切り替える契機となった球のみを特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易くすることができる。

【２９９２】

さらに、本制御例では、１回の大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過することで、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定するように構成しており、１回の大当たり遊技中に複数の球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過しても遊技者に付与される特典（特別図柄の高確率状態の提供）が変わらないように構成しているが、それ以外に、例えば、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過した球数に応じて、遊技者に付与される特典の内容を異ならせたパチンコ機１０を用いた場合には、上述した待機時間を設定することにより、過剰に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過してしまうことを抑制することができる。

【２９９３】

なお、大当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過した球数に応じて、遊技者に付与される特典の内容を異ならせたパチンコ機１０を用いた場合には、例えば、当選した大当たりの種別に応じて、切替弁６５ｙを開状態へと切り替える契機となる入賞数（Ｖ入賞条件）を異ならせたり、切替弁６５ｙを開状態へと切り替える契機となる入賞数の球が可変入賞装置６５に入賞してから切替弁６５ｙを開状態へと切り替えるまでの待機時間を異ならせたり、切替弁６５ｙを開状態から閉状態へと切り替える条件（Ｖ終了条件）を異ならせたりすると良い。

【２９９４】

具体的には、遊技者に有利となる大当たり遊技として、１回の大当たり遊技中に複数の球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過し易くするために、Ｖ入賞条件として少ない球数を設定すると良い。これにより、大当たり遊技が実行されてからＶ入賞条件が成立するまでの期間を短くすることができるため、Ｖ入賞条件が成立している状態で長時間の大当たり遊技を実行させることができ、複数の球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易くすることができる。また、待機時間を短くしても良い。これにより、Ｖ入賞条件を成立させた球よりも前に可変入賞装置６５へと入賞した球（第１流路６５ｒ１、第２流路６５ｒ２を流下中の球）も特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過し得るようにすることができる。さらに、Ｖ終了条件を、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）への球の通過数に関わらず経過時間に基づいて成立させるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に有利となる大当たり遊技が実行された場合に、数多くの球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【２９９５】

一方、遊技者に不利となる大当たり遊技に対しては、上述した有利となる大当たり遊技に対して、１回の大当たり遊技中に複数の球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過し難くするために、Ｖ入賞条件として多い球数を設定したり、待機時間を長く設定したり、Ｖ終了条件を、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へ球が１個通過した場合に成立する条件としたり、球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させるのが困難な程度の時間経過（例えば、０．１秒経過）で成立する条件としたりすると良い。

【２９９６】

このように構成することで、実行される大当たり遊技の種別に応じて、大当たり遊技中に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過する期待度を大きく異ならせることができる。さらに、可変入賞装置６５内の球流路として、通常流路と、その通常流路よりも短期間の間に球を切替弁６５ｙに向けて流下させることが可能な特別流路と、を設けると良い。具体的には、特別流路内には球の流下を滞らせる遅滞手段（例えば、クルーン）を備え、通常流路から排出される球よりも特別流路から排出される球のほうが数珠つなぎで排出され易くなるように構成すると良い。

【２９９７】

この場合、切替弁６５ｙが開状態となるタイミングと、特別流路から球が排出されるタイミングとが合致した場合には多くの球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易くすることができる。さらに、この場合、遊技者に対して、可変入賞装置６５内に入賞した球が通常流路を流下させ易くするか、特別流路を流下させ易くするかを選択可能に構成すると良く、例えば、左打ち遊技を実行した場合には、可変入賞装置６５に入賞した球が特別流路よりも通常流路を流下し易く、右打ち遊技を実行した場合には、通常流路よりも特別流路を流下し易くなるように構成すると良い。また、この場合、大当たり遊技中に第３図柄表示装置の表示面を用いて、左打ち遊技が、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと１個の球を通過させ易い安定遊技である旨と、右打ち遊技が、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を通過させ難いが、タイミングが合えば大量の球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過可能なチャレンジ遊技である旨を案内する遊技案内表示を実行すると良い。また、過去の大当たり遊技において、左打ち遊技を実行したか、右打ち遊技を実行したかを記憶、具体的には、大当たり遊技中に球検知センサ６５ｓ１，６５ｓ２の何れの球検知数が多いかを判別し、その判別結果に基づいて大当たり遊技中の遊技方法を判定して結果を記憶する記憶手段を設け、その記憶手段に記憶されている遊技方法と、大当たり遊技中の遊技結果（特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）への球の通過数）を過去履歴として表示する履歴表示を実行すると良い。

【２９９８】

これにより、大当たり遊技中に実行する遊技方法を遊技者に選択させる楽しみを提供することができる。なお、上述した制御例では、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過した場合に付与される特典を、特別図柄の高確率状態としているが、これに限ること無く、例えば、遊技者に有利となる抽選結果となり易い抽選の権利を付与したり、大当たり遊技とは異なる第２大当たり遊技を付与したりしても良い。この場合、上述した特典が付与される権利を所定数を上限として記憶可能な付与権利記憶手段を設けると良い。これにより、短期間で複数の付与権利を獲得した場合であっても、確実に所定数を条件に特典を付与することができる。また、本制御例では、大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に入賞した球について説明をしたが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の抽選で大当たり以外の抽選結果である場合の一部において、可変入賞装置６５を短期間開放させる小当たり当選を設定しておき、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に可変入賞装置６５内に入賞した球を対象に上述した構成を用いても良い。加えて、普通図柄の抽選で当たり当選した場合に実行される当たり遊技において、球が入賞可能となる可変入球手段（例えば、電動役物６４０ａ）に対して上述した構成を用いても良い。

【２９９９】

また、本制御例では、開状態である切替弁６５ｙを通過した球の全てが特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過可能に構成しているが、これに限ること無く、開状態である切替弁６

５ｙを通過した球の一部が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過可能となるように、振分部材を設けても良い。また、本制御例では、球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易い第１状態と、通過させ難い第２状態とに可変可能な可変手段として、複数の流路のうち、球が流下する流路を切り替える切替弁６５ｙを用いているが、可変手段の構成はこれに限られること無く、例えば、球を所定期間の間、滞留させる滞留位置と、滞留させない開放位置とに可変可能な構成とし、所定期間の間球を滞留させることにより特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）への球の通過を有効に判別する期間内に球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易くする可変手段を設けても良い。また、可変入賞装置６５内に複数の可変手段を設けても良い。

【３０００】

＜第３制御例における主制御装置の制御処理内容について＞

次に、図２１７から図２２０を参照して、本第３制御例における主制御装置の制御処理内容について説明をする。本第３制御例では、上述した第１制御例に対して、大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）に替えて大当たり制御処理３（図２１７のＳ１８５４参照）を、入賞処理（図１７１のＳ１９１１参照）に替えて入賞処理３（図２１８のＳ１９５３参照）を、実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の制御処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３００１】

まず、図２１７を参照して、大当たり制御処理３（Ｓ１８５４）の内容について説明をする。図２１７は、大当たり制御処理３（Ｓ１８５４）の内容を示したフローチャートである。この大当たり制御処理３（Ｓ１８５４）では、上述した大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）に対して、大当たり開始時に実行される制御内容と、大当たり遊技中に球が可変入賞装置６５に入賞した場合に実行される制御内容と、を変更し、さらに、大当たり遊技中にＶ期間タイマ２０３ｃａの値を更新する制御内容を追加した点で相違している。それ以外の内容は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３００２】

大当たり制御処理３（Ｓ１８５４）が実行されると、まず、大当たり開始フラグ２０３ｊがオンに設定されているかを判別し（Ｓ１９０１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ１９０１：Ｙｅｓ）、次いで、オープニングコマンドを設定し（Ｓ１９０２）、大当たり開始フラグ２０３ｊをオフに設定し、大当たり中フラグ２０３ｋをオンに設定し（Ｓ１９０３）、本処理を終了する。一方、Ｓ１９０１の処理において、大当たり開始フラグ２０３ｊがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ１９０１：Ｎｏ）、次に、現在が大当たり遊技中であるか（大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されているか）を判別し（Ｓ１９０４）、大当たり遊技中では無いと判別した場合は（Ｓ１９０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３００３】

Ｓ１９０４の処理において、大当たり遊技中である（大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されている）と判別した場合は（Ｓ１９０４：Ｙｅｓ）、次に、新たなラウンドの開始タイミングであるかを判別し（Ｓ１９０５）、開始タイミングであるかと判別した場合は（Ｓ１９０５：Ｙｅｓ）、特定入賞口６５ａの開放を設定し（Ｓ１９５１）、新たに開始するラウンド数を示すラウンド数コマンドを設定し（Ｓ１９５２）、本処理を終了する。

【３００４】

一方、Ｓ１９０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングでは無いと判別した場合は（Ｓ１９０５：Ｎｏ）、上述した第１制御例の大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）と同一のＳ１９０７～Ｓ１９１０の処理を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ１９０９の処理において、大当たりの終了タイミングでは無いと判別した場合は（Ｓ１９０９：Ｎｏ）、入賞処理３を実行し（Ｓ１９５３）、その後、異常処理を実行し（Ｓ１９１２）、次いで大当たり中更新処理を実行し（Ｓ１９５４）、本処理を終了する。

【３００５】
次に、大当たり制御処理３（図２１７のＳ１８５４参照）にて実行される入賞処理３（Ｓ１９５３）の内容について、図２１８を参照して説明をする。図２１８は、入賞処理３（Ｓ１９５３）の内容を示したフローチャートである。この入賞処理３（Ｓ１９５３）は、上述した第１制御例の入賞処理（図１７１のＳ１９１１）に対して、切替弁６５ｙが開状態となり得るＶラウンド（１ラウンド）中の制御処理内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な内容の説明を省略する。
【３００６】
入賞処理３（Ｓ１９５３）が実行されると、まず、上述した第１制御例の入賞処理（図１７１のＳ１９１１）と同一のＳ２２０１～Ｓ２２０４の処理を実行し、Ｓ２２０４の処理を終えた場合、或いは、Ｓ２２０２の処理にて球が特定入賞口６５ａに入賞していないと判別した場合（Ｓ２２０２：Ｎｏ）に、Ｖラウンド処理を実行する（Ｓ２２５１）。このＶラウンド処理（Ｓ２２５１）の詳細については図２１９を参照して後述するが、１ラウンド目のラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）が実行される場合において、切替弁６５ｙの開閉制御を行うための処理が実行されるものである。
【３００７】
Ｖラウンド処理（Ｓ２２５１）を終えると、次に、上述した入賞処理（図１７１のＳ１９１１参照）と同一のＳ２２０５～Ｓ２２０８の処理、Ｓ２２１１～Ｓ２２２１の処理を実行し、本処理を終了する。
【３００８】
次に、入賞処理３（図２１８のＳ１９５３参照）において実行されるＶラウンド処理（Ｓ２２５１）の内容について、図２１９を参照して説明をする。図２１９は、Ｖラウンド処理（Ｓ２２５１）の内容を示したフローチャートである。
【３００９】
Ｖラウンド処理（Ｓ２２５１）が実行されると、まず、現在が１ラウンド中（Ｖラウンド中）であるかを判別し（Ｓ２４０１）、１ラウンド中では無いと判別した場合は（Ｓ２４０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、現在が１ラウンド中であると判別した場合は（Ｓ２４０１：Ｙｅｓ）、次に、入賞個数カウンタ２０３ｏの値が「２」であるか、即ち、１ラウンド目のラウンド遊技中における可変入賞装置６５への球の入賞数が「２」であるかを判別し（Ｓ２４０２）、「２」であると判別した場合は（Ｓ２４０２：Ｙｅｓ）、Ｖソレノイド２０９ａをオンに設定し（Ｓ２４０３）、Ｖ入賞可能な期間（特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を誘導することが可能な期間）を示すＶ期間コマンドを設定し（Ｓ２４０４）、Ｖ期間タイマ２０３ｃａに５秒に対応する値を設定し（Ｓ２４０５）、本処理を終了する。一方、Ｓ２４０２の処理において、入賞個数カウンタ２０３ｏの値が「２」では無いと判別した場合は（Ｓ２４０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【３０１０】
以上、説明をした通り、本制御例では、大当たり遊技中に実行される特定ラウンド遊技において、可変入賞装置６５へと入賞した球の個数が所定条件を満たした場合に（入賞数が２個となった場合に）、球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過し易くなるように切替弁６５ｙを開状態へと切り替える制御処理を実行するように構成している。これにより、大当たり遊技中において、可変入賞装置６５に球を入賞させていない状態で切替弁６５ｙが開状態へと切り替わることを抑制することができる。
【３０１１】
なお、本制御例では、大当たり遊技中の特定ラウンド（１ラウンド）目のみ切替弁６５ｙを開状態へと切り替え可能なＶラウンドとなるように構成しているが、これに限ること無く、複数のラウンドを、切替弁６５ｙを開状態へと切替可能なＶラウンドとして設定可能に構成しても良い。この場合、Ｖラウンド処理（Ｓ２２５１）において、新たに実行されるラウンド遊技のラウンド数を判別し、判別されたラウンド数のラウンド遊技がＶラウ

ンドであるかを判定する。
【３０１２】
そして、Ｖラウンドと判定された場合に、当該Ｖラウンド中における入賞個数カウンタ２０３ｏの値に基づいて切替弁６５ｙの状態を切替制御するように構成すれば良い。また、この場合、複数設定されるＶラウンド毎にＶソレノイド２０９ａをオンに設定する条件（切替弁６５ｙを開状態に切り替える条件）を異ならせても良い。
【３０１３】
また、Ｖラウンド遊技が実行されている場合において、Ｖソレノイド２０９ａをオンに設定する条件が成立するまでの遊技内容を第３図柄表示装置８１の表示面に報知させる報知手段を設けても良く、例えば、Ｖラウンドが開始された場合に、今回のラウンド遊技がＶラウンドであることを示すＶラウンド報知と、Ｖソレノイド２０９ａがオンに設定される条件を成立させるまでに必要な入賞数を示す必要入賞数報知と、を実行するように構成すると良い。これにより、遊技者に対して、特定領域に球を通過させようと意欲的に遊技を行わせることができる。
【３０１４】
次に、図２２０を参照して、大当たり中更新処理（Ｓ１９５４）の内容について説明をする。図２２０は、大当たり中更新処理（Ｓ１９５４）の内容を模式的に示したフローチャートである。この大当たり中更新処理（Ｓ１９５４）では、大当たり遊技中に設定されたＶ期間タイマ２０３ｃａの値を更新するための処理が実行される。
【３０１５】
大当たり中更新処理（Ｓ１９５４）が実行されると、まず、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が０よりも大きいか、即ち、Ｖソレノイド２０９ａがオンに設定されている状態であるかを判別する（Ｓ１９６１）。そして、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が０よりも大きく無い（０である）と判別した場合は（Ｓ１９６１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。Ｓ１９６１の処理において、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ１９６１：Ｙｅｓ）、次に、Ｖ期間タイマの値を更新し（Ｓ１９６２）、更新後のＶ期間タイマ２０３ｃａの値が０であるかを判別し（Ｓ１９６３）、０では無いと判別した場合は（Ｓ１９６３：Ｎｏ）、ソレノイド２０９ａをオフにするタイミングでは無いため、そのまま本処理を終了する。
【３０１６】
一方、Ｓ１９６３の処理において、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値が０であると判別した場合は（Ｓ１９６３：Ｙｅｓ）、Ｖソレノイド２０９ａをオフに設定し（Ｓ１９６４）、Ｖ期間終了を示すコマンドを設定し（Ｓ１９６５）、本処理を終了する。
【３０１７】
＜第３制御例における音声ランプ制御装置の制御処理内容について＞
次に、図２２１、及び図２２２を参照して、本第３制御例における音声ランプ制御装置の制御処理内容について説明をする。本第３制御例では、上述した第１制御例に対して、大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）に替えて大当たり関連処理３（図２２１のＳ４２５８参照）を、演出更新処理（図１７４のＳ４１１１参照）に替えて演出更新処理３（図２２２のＳ４１５１参照）を、実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の制御処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【３０１８】
まず、図２２１を参照して、大当たり関連処理３（Ｓ４２５８）の内容について説明をする。この大当たり関連処理３（Ｓ４２５８）は、上述した第１制御例の大当たり関連処理（Ｓ４２１８）に対して、主制御装置１１０からＶ期間コマンドを受信した場合に実行される制御処理内容を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【３０１９】
大当たり関連処理３（Ｓ４２５８）が実行されると、まず、上述した大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）と同一のＳ４７０１～Ｓ１７１３の処理を実行する。そし

て、Ｓ４７０９の処理において、ラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４７０９：Ｎｏ）、次に、Ｖ期間コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４７５１）、Ｖ期間コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４７５２：Ｙｅｓ）、Ｖタイマ２２３ｃａに３秒に対応する値を設定し、本処理を終了する。

【３０２０】

また、Ｓ４７５１の処理においてＶ期間コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４７５１：Ｎｏ）、その後、上述した大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）と同一のＳ４７１４～Ｓ１７１５の処理を実行し、本処理を終了する。

【３０２１】

次に、図２２２を参照して、演出更新処理３の内容について説明をする。図２２２は、演出更新処理３の内容を示したフローチャートである。この、演出更新処理３では、大当たり遊技中に設定されたＶタイマ２２３ｃａの値を更新する処理と、Ｖタイマ２２３ｃａの値が０となった場合における演出態様を設定するための処理と、を実行可能に構成している。

【３０２２】

図２２２に示した通り、演出更新処理３が実行されると、まず、Ｖタイマ２２３ｃａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ５４０１）、０よりも大きい値であると判別した場合は（Ｓ５４０１：Ｙｅｓ）、次いで、Ｖ期間タイマ２０３ｃａの値を更新し（Ｓ５４０２）、更新後のＶ期間タイマ２０３ｃａの値が０であるかを判別する（Ｓ５４０３）。

【３０２３】

Ｓ５４０３の処理にてＶ期間タイマ２０３ｃａの値が０であると判別した場合は（Ｓ５４０３：Ｙｅｓ）、次に、Ｖ演出実行フラグ２２３ｋがオンに設定されているかを判別し（Ｓ５４０４）、即ち、現在実行されている大当たり遊技中にＶ報知演出を実行している場合は、Ｖ入賞の案内を強調得する表示用コマンドを設定し（Ｓ５４０５）、その他各種カウンタ及び各種タイマの更新回数を実行し、本処理を終了する。

【３０２４】

以上、説明をした通り、本第３制御例では、右打ち遊技を行っても左打ち遊技を行っても入賞可能な箇所に可変入賞装置６５を配置し、さらに、何れの遊技方法で球を発射させた場合であっても、球が入賞してから切替弁６５ｙへと到達するまでの期間に大きな差が生じ無いように構成している。よって、大当たり遊技中において、球が特定領域（Ｖゲート６５ｖ）を通過したことを有効に検知する期間（Ｖ有効期間）を無用に長く設定することなく、円滑に大当たり遊技を実行させることができる。また、Ｖ有効期間を短くすることにより、不正遊技によって球を特定領域へと通過させる行為を監視し易くすることができる。

【３０２５】

また、可変入賞装置６５への入賞数に基づいて切替弁６５ｙの切替制御を実行するように構成しているため、大当たり遊技中に発生した球詰まり等により、球を可変入賞装置６５へと入賞させることが出来ない状態で切替弁６５ｙが開状態になることを抑制することができる。なお、本制御例では、ラウンド遊技単位で球の入賞数を計測し、計測結果が所定の計測結果となった場合に、そのラウンド遊技期間内における所定期間の間、切替弁６５ｙが開状態となるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技が開始されてからの入賞数の累計値や、大当たり遊技中に所定の計測条件が成立してからの入賞数の累計値、或いは、複数の大当たり遊技における入賞数の累計値が所定の計測結果となった場合に、切替弁６５ｙを開状態へと切り替える制御を実行するように構成しても良い。

【３０２６】

また、切替弁６５ｙが開状態となる期間の長さの最長期間を、ラウンド遊技が終了するまでの期間に限定すること無く、例えば、次に実行されるラウンド遊技に跨がって、切替弁６５ｙが開状態を継続するように構成しても良い。

【３０２７】

また、本第３制御例では、図２１３（ｂ）に示した通り、一つの切替弁６５ｙが、第１

Ｖゲート６５ｖ１、第２Ｖゲート６５Ｖ２の何れも塞ぐように構成しているが、これに限ること無く、各Ｖゲートを塞ぐように、２つの切替弁６５ｙを設け、例えば、球検知センサ６５ｓ１が所定個数目の入賞を検知した場合には、第１Ｖゲート６５Ｖ１を覆う側の切替弁のみを開状態とし、球検知センサ６５ｓ２が所定個数目の入賞を検知した場合には、第２Ｖゲート６５Ｖ２を覆う側の切替弁のみを開状態とするように構成しても良い。これにより、開状態となる切替弁の範囲を縮小することができるため、無用にＶゲート６５Ｖを球が通過することを抑制することができる。

【３０２８】

＜第４制御例＞

次に、図２２３から図２３１を参照して、第４制御例について説明をする。本第４制御例は、上述した第１制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の一部構成を変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更した点とで相違している。また、主制御装置１１０のＭＰＵが実行する制御内容と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御内容の一部を変更した点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３０２９】

上述した第１制御例では、大当たり遊技終了後に、遊技者に有利な有利遊技状態として、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）或いは、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成していた。そして、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合には、特別図柄抽選が５０回実行されるまで確変状態が継続し、その後、５０回の特別図柄抽選が実行されるまで、即ち、大当たり遊技終了後からの特別図柄抽選回数が１００回に到達するまで、時短状態が設定されるように構成していた。一方、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合には、特別図柄が１００回実行されるまで時短状態が継続するように構成していた。

【３０３０】

つまり、上述した第１制御例では、大当たり遊技終了後に何れの有利遊技状態（確変状態、時短状態）が設定された場合であっても、特別図柄抽選で大当たりに当選しない限り、特別図柄抽選が１００回実行されるまでは有利遊技状態が継続するように構成していた。そして、大当たり遊技終了後に有利遊技状態（確変状態、時短状態）が設定された場合には、有利遊技状態が終了するまでの期間、即ち、遊技者に不利となる通常状態が設定されるまでの期間を遊技者に報知するように構成していた（図１２８（ａ）参照）。

【３０３１】

このように構成することで、通常状態よりも遊技者に有利な有利遊技状態を複数有するパチンコ機１０において、現在設定されている有利遊技状態（確変状態、或いは時短状態）が終了するまでの期間では無く、遊技者に不利となる不利遊技状態（通常状態）が設定されるまでの期間を遊技者に把握させることができる。よって、現在設定されている有利遊技状態（例えば、確変状態）が終了するまでの期間、即ち、確変状態が終了して時短状態が終了するまでの期間を遊技者に報知する場合に比べて、遊技者に有利となる有利遊技状態が継続する期間を予め把握させることができるため、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【３０３２】

さらに、上述した第１制御例では、複数の有利遊技状態（確変状態、時短状態）のうち、より有利となる確変状態が継続する期間が、特別図柄抽選が５０回実行される期間となるように予め規定しており、大当たり遊技が終了してから５０回の特別図柄抽選が実行されるまでの期間において、現在設定されている遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者に示唆可能な示唆演出を実行可能に構成していた（図１２８（ｂ）参照）。これにより、有利遊技状態が設定されている状態で、次に不利遊技状態が設定されるまでの期間を報知するパチンコ機１０において、現在設定されている遊技状態が、複数の有利遊技状態のうち何れかであるのかを遊技者に予測させる楽しみを提供することができるも

のであった。
【３０３３】
これに対して、本第４制御例のパチンコ機１０では、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されると、特別図柄の高確率状態を低確率状態へと移行させるための抽選（所謂、転落抽選）を実行可能に構成し、転落抽選に当選した場合に、遊技状態を確変状態から時短状態へと移行させるように構成している。つまり、上述した第１制御例では、確変状態が設定されると、特別図柄抽選が５０回実行されるまでは確変状態が継続するように構成していたが、本第４制御例では、特別図柄抽選が５０回実行されるまでに転落抽選に当選してしまうと、その時点で確変状態が終了してしまうように構成している。
【３０３４】
このように構成することで、有利遊技状態が設定されている期間において実行される示唆演出によって確変状態が設定されていると把握した場合であっても、いつまで確変状態が継続するのかを遊技者に分かり難くすることができるため、実行される示唆演出の内容をより注視させることができる。
【３０３５】
また、本第４制御例では、有利遊技状態が設定されている期間に実行される示唆演出として、現在設定されている遊技状態の示唆だけでは無く、転落抽選に当選したことで確変状態が終了したタイミングも示唆可能に構成している。
【３０３６】
＜第４制御例の電気的構成について＞
次に、図２２３から図２２６を参照して、本第４制御例の電気的構成について説明をする。本第４制御例は、上述した第１制御例に対して、特別図柄の高確率状態を低確率状態へと移行させる抽選（転落抽選）を実行可能に構成している点で大きく相違しており、転落抽選を実行するための構成を追加した点で相違している。
【３０３７】
まず、図２２３を参照して、本第４制御例の主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図２２３は、第４制御例のパチンコ機１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。図２２３に示した通り、本第４制御例のＲＯＭ２０２は、上述した第１制御例のＲＯＭ２０２（図１３９（ａ）参照）に対して、大当たり種別選択テーブル２０２ｄの内容の一部を変更した点と、新たに転落抽選テーブル２０２ｄａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【３０３８】
まず、大当たり種別選択テーブル２０２ｄの内容について、第１制御例との相違点を主に説明をする。本第４制御例では、上述した第１制御例に対して、第２特別図柄（特図２）の抽選で大当たり当選した場合に選択される大当たり種別の内容を異ならせており、詳細な内容については、図２２４（ａ）を参照して後述するが、大当たり当選時の遊技状態、及び、選択される大当たり種別に応じて時短カウンタ２０３ｈに設定される値、即ち、普通図柄の高確率状態が設定される期間を異ならせるように構成している。これにより、大当たり遊技終了後に設定される有利遊技状態（確変状態、或いは時短状態）が継続する期間の長さを異ならせることができる。よって、大当たり遊技の終了後に有利遊技状態が設定された場合に、有利遊技状態が継続する期間の長さを遊技者に把握され難くすることができる。そのため、有利遊技状態が継続する期間（不利遊技状態が設定されるまでの残期間）を遊技者に報知するための報知演出に対して興味を持たせることができる。
【３０３９】
ここで、図２２４（ａ）を参照して、本制御例において第２特別図柄抽選（特図２抽選）にて大当たり当選した場合に大当たり種別を選択するための参照される特図２大当たり用２テーブル２０２ｄｄの内容について説明をする。図２２４（ａ）は、特図２大当たり用２テーブル２０２ｄｄ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。

【３０４０】
図２２４（ａ）に示した通り、特図２大当たり用２テーブル２０２ｄｄ２には、取得した第１当たり種別カウンタｃ２の値と、当選時の遊技状態と、に応じて、大当たり遊技終了後に設定される時短カウンタ２０３ｈの値を異ならせた大当たり種別が規定されている。つまり、大当たり当選時に選択された大当たり種別に応じて大当たり遊技終了後に設定される有利遊技状態（確変状態、或いは時短状態）が継続する期間の長さを異ならせている。
【３０４１】
具体的には、大当たり種別として、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲には、当選時の遊技状態が通常状態、或いは時短状態である場合には「５０」が、確変状態である場合には「１００」が時短カウンタ２０３ｈの値として設定され、確変カウンタ２０３ｉの値として「５０」を設定可能な「大当たりＣ」が、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～６９」の範囲には、当選時の遊技状態が通常状態、或いは時短状態である場合には「１００」が、確変状態である場合には「９０」が時短カウンタ２０３ｈの値として設定され、確変カウンタ２０３ｉの値として「５０」を設定可能な「大当たりＤ」が、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「７０～９９」の範囲には、当選時の遊技状態が通常状態、或いは時短状態である場合には「１００」が、確変状態である場合には「１００」が時短カウンタ２０３ｈの値として設定され、確変カウンタ２０３ｉの値として「５０」を設定可能な「大当たりＤ」が規定されている。
【３０４２】
なお、各大当たり種別に対応して実行されるラウンド遊技の内容、及び、特図２大当たり用２テーブル２０２ｄｄ２に規定されている確変カウンタ２０３ｉに設定される値の説明、エンディング期間（Ｓ）については、上述した特図２大当たりテーブル２０２ｄ２と同一であるため、その詳細な説明を省略する。
【３０４３】
以上、説明をした通り、本第４制御例では、大当たり当選時に選択された大当たり種別と、大当たり当選時の遊技状態とに応じて、時短状態が継続する期間を異ならせており、例えば、大当たり種別として大当たりＤが選択された場合には、大当たり当選時が時短状態であれば「１００」が、確変状態であれば「９０」が時短カウンタ２０３ｈに設定されることになる。よって、大当たりＤが選択された場合に実行される大当たり遊技終了後に、第３図柄表示装置８１の副表示領域Ｄｓの小表示領域Ｄｓ２に表示される残期間報知態様の表示態様に応じて、前回大当たり当選した時点の遊技状態が確変状態であったのか、時短状態であったのかを遊技者に把握させることができる。
【３０４４】
このように構成することで、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）よりも遊技者に有利となる有利遊技状態を複数種類有するパチンコ機１０であって、現在設定されている遊技状態を具体的に報知すること無く、有利遊技状態が設定されていることのみを報知可能な報知演出が実行されるパチンコ機１０において、有利遊技状態中に大当たり当選した場合に、どの遊技状態が設定されている状態で大当たり当選したのかを、事後的に遊技者が把握することが可能となる。よって、過去の遊技結果を基に、今後の遊技を予測させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【３０４５】
なお、本制御例では、図２２４（ａ）に示した通り、大当たり当選時に設定されている遊技状態に応じて時短カウンタ２０３ｈに設定される値を異ならせることにより、大当たり遊技終了後に表示される残期間報知態様（有利遊技状態が終了するまでの残期間を報知する態様）の表示内容によって大当たり当選時に設定されていた遊技状態を遊技者に予測させるように構成していたが、これに限ること無く、例えば、時短カウンタ２０３ｈに対して異なる値が設定された場合であっても、大当たり遊技終了後に表示される残期間報知態様の表示態様を共通化し（例えば「７０」の表示）、有利遊技状態中における特別図柄抽選の実行回数が所定回数（例えば、１０回）に到達した場合に、残期間報知態様の表示

態様を、実際の時短カウンタ２０３ｈの値に対応させて可変表示するように構成しても良い。

【３０４６】

このように構成することで、大当たり遊技が終了してから所定期間が経過した後に、前回の大当たり当選時に設定されていた遊技状態を遊技者に把握させることが可能となる。よって、有利遊技状態中において遊技者に対して、大当たり当選を目指す遊技と、過去に設定されていた遊技状態を把握する遊技と、を重複して実行させることができるため、遊技者に対して有利遊技状態中の遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【３０４７】

また、本制御例では、大当たり当選時に設定されている遊技状態に応じて時短カウンタ２０３ｈに設定される値を異ならせることにより、大当たり遊技終了後に表示される残期間報知態様（有利遊技状態が終了するまでの残期間を報知する態様）の表示内容によって大当たり当選時に設定されていた遊技状態を遊技者に予測させるように構成していたが、大当たり当選時に設定されていた遊技状態を、遊技者に事後的に把握させることが可能なタイミングであれば、他のタイミングで示唆可能に構成しても良く、例えば、大当たり遊技中において実行される大当たり遊技演出によって、大当たり当選時に設定されていた遊技状態を遊技者に報知するように構成しても良い。この場合、大当たり当選時に設定されていた遊技状態を直接報知する演出を実行してもよいし、大当たり遊技終了後に設定される有利遊技状態の継続期間を示唆する演出を実行してもよい。

【３０４８】

図２２３に戻り、説明を続ける。転落抽選テーブル２０２ｄａは、後述する転落抽選カウンタＣｄ１の判定値が記憶されているデータテーブルである。第１入球口６４、または第２入球口６４０へ球が入球した際（始動入賞の際）に取得された転落抽選カウンタＣｄ１の値が、転落抽選テーブル２０２ｄａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の低確率状態へと移行するように（転落するように）設定される。

【３０４９】

ここで、図２２４（ｂ）を参照して、転落抽選テーブル２０２ｄａの内容について説明をする。図２２４（ｂ）は、転落抽選テーブル２０２ｄａの内容を模式的に示した模式図である。図２２４（ｂ）に示したとおり、転落抽選テーブル２０２ｄａには、特別図柄の確変状態において転落と判定される判定値として、「０，１」の２つの判定値が規定されている。ここで、転落抽選カウンタＣｄ１は、「０～９９９」の範囲で値が更新されるループカウンタである。転落抽選カウンタＣｄ１の取り得る１０００個の値のうち、転落と判定される判定値が２個存在するので、特別図柄の確変状態において、転落する（特別図柄の低確率状態へと移行する）確率は、１／５００となる。

【３０５０】

なお、本制御例における転落抽選テーブル２０２ｄａには、特別図柄の確変状態において転落か否かを判定するための判定値（特別図柄の確変状態用の判定値）のみが規定されており、特別図柄の低確率状態用の判定値は規定されていない。既に特別図柄の低確率状態となっている場合において、特別図柄の低確率状態へと移行させるか否かを判定するのは処理の無駄だからである。

【３０５１】

本制御例では、この転落抽選テーブル２０２ｄａと、定期的に更新される転落抽選カウンタＣｄ１とが比較されて、特別図柄の確変状態から特別図柄の低確率状態へと移行させる（転落させる）か否かが判定される。即ち、有利遊技状態のうち、最も遊技者に有利な有利状態である確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）から、有利遊技状態の１つではあるが、確変状態よりは遊技者に不利となる時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）へと移行するタイミングをランダムにすることができる。よって、遊技者に対して、確変状態がなるべく長く継続するように期待させながら遊技を行わせることができる。

【３０５２】

なお、本制御例では、大当たり遊技終了後に、特別図柄の高確率状態の最大継続期間（５０回）が確変カウンタ２０３ｉの値によって規定されており、その最大継続期間（５０回）よりも、長い期間、普通図柄の高確率状態が継続するように構成している。つまり、転落抽選の抽選結果に基づいて、どのタイミングで特別図柄の高確率状態が低確率状態へと移行（転落）したとしても、普通図柄の高確率状態が設定されている状態となるように構成している。よって、遊技状態としては、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）から、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）へと移行することになるため、転落抽選に当選したタイミングを、普図当たり遊技の実行頻度によって遊技者に把握されることが無い。

【３０５３】

このように構成されたパチンコ機１０では、有利遊技状態中（普通図柄の高確率状態中）において、現在の遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者が把握困難となるため、大当たり当選時に設定されていた遊技状態を事後的に示唆する示唆演出の演出内容に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【３０５４】

本制御例では、特別図柄の高確率状態から特別図柄の低確率状態へと移行（転落）するか否かが抽選（判定）されていたが、他の状態へと移行することを抽選（判定）してもよい。例えば、普通図柄の高確率状態から普通図柄の低確率状態へと移行するか否かを、変動毎に実行される抽選により判別してもよい。これにより、有利遊技状態がいつまで続くのかをランダムとすることができるので、変動毎に有利遊技状態が継続することを願って遊技を行わせることができる。また、例えば、特別図柄の低確率状態から特別図柄の高確率状態へと移行するか否かを抽選可能に構成してもよい。

【３０５５】

さらに、本制御例では、上述した転落抽選を特別図柄抽選が行われる毎に実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄抽選が実行される特別図柄の種別に応じて、転落抽選の実行のし易さを異ならせても良く、例えば、普通図柄の高確率状態中に主として実行される第２特別図柄抽選が行われる場合のほうが、第１特別図柄抽選が行われる場合よりも転落抽選が実行され易くなるように構成しても良い。このように構成することで、第１特別図柄抽選が行われることに基づいて実行された転落抽選によって特別図柄の高確率状態が低確率状態へと移行してしまい、遊技者に有利な遊技を行わせ難くなることを抑制することができる。

【３０５６】

また、転落抽選の実行タイミングにて、転落抽選の実行回数を決定する回数決定手段を設け、転落抽選の実行契機が成立した場合に実行される転落抽選の回数を異ならせるように構成しても良い。この場合、回数決定手段により決定される回数の範囲を「０～５」とし、その平均値が１回となるように設計すると良い。このように構成することで、特別図柄抽選が実行される回数と、転落抽選が実行される回数とを乖離させることができるため、どのタイミングで特別図柄の高確率状態が低確率状態へと移行するのかをより分かり難くすることができる。なお、この場合、回数決定手段により決定された回数（転落抽選の実行回数）を、示唆可能な示唆手段を設け、遊技者に対して、転落し易い期間（回数決定手段により複数回が決定された期間）と、転落し難い期間（回数決定手段により０回が決定された期間）と、を示唆可能に構成すると良い。これにより、示唆手段による示唆内容に基づいて、転落の有無を予測しながら遊技を行うことができる。

【３０５７】

さらに、本制御例では、特別図柄抽選の実行を転落抽選の実行契機としているが、これに限ること無く、例えば、普通図柄抽選が実行される場合に転落抽選を実行するように構成しても良いし、遊技盤１３に設けられた特定の入賞口（例えば、一般入球口６３）に球が入球した場合に転落抽選を実行するように構成しても良い。

【３０５８】

次に、図２２５を参照して、本第４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ

２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の内容について説明をする。本第４制御例は、上述した通り、転落抽選の機能を有している点で上述した第１制御例と相違している。そして、音声ランプ制御装置１１３にて設定される各種演出内容についても、転落抽選の結果に基づいた演出を実行可能に構成している点で相違している。それ以外の構成については同一であり、同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３０５９】

図２２５（ａ）は、第４制御例におけるパチンコ機１０のＲＯＭ２２２の内容を模式的に示した模式図であって、図２２５（ｂ）は、第４制御例におけるパチンコ機１０のＲＡＭ２２３の内容を模式的に示した模式図である。

【３０６０】

まず、図２２５（ａ）を参照して、ＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図２２５４（ａ）に示した通り、本第４制御例では、上述した第１制御例に対して、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆ（図１４８参照）に替えてボタン操作時演出選択２テーブル２２２ｄｆを設けた点で相違しており、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３０６１】

図２２６（ａ）を参照して、ボタン操作時演出選択２テーブル２２２ｄｆの内容について説明をする。図２２６（ａ）は、ボタン操作時演出選択２テーブル２２２ｄｆに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図２２６（ａ）に示した通り、本第４制御例では、上述した第１制御例に対して、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される場合に参照されるデータテーブルを、確変状態選択テーブル２２３ｆ２（図１４９参照）から確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２に変更している点で相違し、それ以外は同一である。

【３０６２】

ここで、図２２６（ｂ）を参照して、確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２に規定されている内容について説明をする。図２２６（ｂ）は、確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２は、上述した確変状態選択テーブル２２３ｆ２（図１４９参照）と同様に、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合において、操作演出として実行される演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルであって、確変状態選択テーブル２２３ｆ２（図１４９参照）に対して、操作演出の演出態様を選択する要因に転落抽選の抽選結果を追加した点、及び、転落抽選の抽選結果に基づく情報を示唆可能な演出態様を選択可能にした点、各演出態様の選択割合を一部変更した点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【３０６３】

確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２には、上述した確変状態選択テーブル２２３ｆ２（図１４９参照）と同様に、遊技者が枠ボタン２２（操作手段）を操作したタイミング、操作方法と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値に加え、転落抽選の抽選結果に基づいて設定される短転落フラグ２２３ｄａの設定状況に対応させて、操作演出として実行される演出態様が規定されている。この短転落フラグ２２３ｄａの詳細については後述するが、転落抽選に当選したことにより、確変状態の継続期間が所定期間（例えば、特別図柄抽選回数が２０回以内）であったことを示すためのフラグであり、確変状態が短期間で終了した場合にオンに設定されるものである。

【３０６４】

確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２のうち、短転落フラグ２２３ｄａがオフに設定されている場合に参照されるエリアには、上述した確変状態選択テーブル２２３ｆ２（図１４９参照）と同一の内容が規定されているため、詳細な説明を省略する。ここでは、短転落フラグ２２３ｄａがオンに設定されている場合に参照されるエリアの規定内容について具体的に説明をする。

【３０６５】
短転落フラグ２２３ｄａがオンに設定されている場合は、操作タイミングが高速変動期間である第１期間（特図変動回数が１回～２０回の期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１４９」の範囲には、操作演出が実行されないことを示す「無」が、「１５０～１８９」の範囲には、実行中の変動演出がリーチ状態となるか否かを、第３図柄変動中に示唆する演出を示す「リーチ示唆」が、「１４０～１８９」の範囲には、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」、「１９０～１９８」の範囲は、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が規定されている。
【３０６６】
また、操作タイミングが通常時短変動期間（第２期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１８９」の範囲には、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が、「１９０～１９８」の範囲には、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出を示す「状態示唆」が規定されている。
【３０６７】
そして、操作タイミングが特定期間（５０回目の特別図柄変動中）の場合、操作方法、及び取得した演出カウンタ２２３ｆの値に関わらず、操作演出が実行されないように構成されている。最後に、操作タイミングが通常時短変動期間（第３期間）中で、操作方法が「通常押し」であって、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１８９」の範囲には、背景モードを移行されることを示す「背景モード移行」が、「１９０～１９８」の範囲には、前回の大当たり遊技終了後に確変状態が設定されたが、早期に転落抽選に当選してしまい時短状態へと移行したことを報知するための演出を示す「早期転落報知」が規定されている。また、操作方法が「長押し」の場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９８」の範囲に、過去（「チャンスモード」が設定された時点（大当たり遊技終了後））に設定されていた遊技状態を示唆するための演出を示す「過去状態示唆」が規定されている。
【３０６８】
なお、本第４制御例における各種操作演出に対しても、上述した第１制御例同様に、今回実行される特別図柄変動に対する抽選結果だけでは無く、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報に基づいた操作演出を実行しても良く、例えば、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報を用いて、転落抽選に当選するタイミングを事前に判別し、その判別結果に基づいた操作演出を実行可能に構成しても良い。具体的には、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報を特別図柄抽選の実行順に読み出し、各入賞情報に含まれている転落抽選カウンタｃｄ１の値を示す情報が、転落抽選に当選する値を示しているかを判別する。なお、この場合、音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２に転落抽選に当選する転落抽選カウンタｃｄ１の値に対応する情報を予め記憶させておき、その記憶されている情報と、入賞情報に含まれている転落抽選カウンタｃｄ１の値を示す情報と、に基づいて判別を実行するように構成すれば良い。
【３０６９】
そして、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報のうち、特別図柄抽選の実行順が確定している入賞情報、即ち、第２特別図柄抽選が、第１特別図柄抽選よりも優先して実行される本制御例においては、第２特別図柄抽選に対する入賞情報に、転落抽選に当選することになる入賞情報が存在しない場合は、現在実行中の特別図柄変動の残変動時間と、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている第２特別図柄抽選の入賞情報のそれぞれに対応する特別図柄変動の変動時間と、を算出する処理を実行し、転落抽選に当

選し得ない期間、即ち、確変状態が継続する期間（最有利期間）を決定する。そして決定された最有利期間を遊技者に報知する最有利期間示唆の演出態様を操作演出として実行すれば良い。

【３０７０】

このように構成することで、転落抽選に当選し得ない期間を遊技者に示唆（報知）することができるため、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。また、この最有利期間示唆の表示態様としては、最有利期間として結果された各変動時間の合計時間のうち、少なくとも一部の時間を表示するように構成すると良い。これにより、最有利期間が少なくとも継続する時間を遊技者に把握させることができる。また、最有利期間を時間で表示することにより、最有利期間中に特別図柄抽選を何回実行させることができるのかを遊技者に把握させ難くすることができるため、長い変動時間の変動パターンのほうが大当たり当選の可能性が高く設定されているパチンコ機１０であっても、遊技者に対して、特別図柄変動の変動パターンとして短い変動時間が設定されることを期待させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【３０７１】

なお、上述したように、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報に基づいて操作演出を実行する場合には、遊技者が枠ボタン２２（操作手段）を操作した直後から操作演出を実行するように構成しても良いし、遊技者が枠ボタン２２（操作手段）を操作し、操作演出の演出態様が決定された状態において新たに特別図柄変動が開始されたタイミングで操作演出を実行するように構成しても良い。この場合、遊技者による枠ボタン２２（操作手段）の操作を受け付けたことを遊技者に報知する報知手段と、操作演出が実行されるまでの待機期間中であることを報知するための報知手段と、を設けると良い。これにより、枠ボタン２２を操作したにも関わらず、操作演出が実行されないことについて遊技者が不信感を覚えてしまうことを抑制することができる。なお、この最有利期間を報知する演出において、上述したように最有利期間を時間で表示するのでは無く、特別図柄変動の実行回数で表示するように構成しても良い。また、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報の中に、転落抽選に当選することを示す情報を有する入賞情報があると判別された場合には、転落抽選に当選し、特別図柄の高確率状態が低確率状態へと移行するまでの期間を算出し、転落抽選に当選することを示唆する演出や、特別図柄の高確率状態が終了するまでの残期間を示唆する演出を実行するように構成しても良い。

【３０７２】

＜第４制御例における制御処理内容について＞

次に、図２２７から図２２９を参照して、本第４制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が実行する制御処理内容のうち、上述した第１制御例とは異なる点について説明をする。本第４制御例のパチンコ機１０は、上述した通り転落抽選の機能を有している点と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の継続期間を変更した点と、で上述した第１制御例のパチンコ機１０とは相違しており、この相違点に関する制御内容が相違している。具体的には、上述した第１制御例のパチンコ機１０における主制御装置の制御内容に対して、特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８参照）に替えて特別図柄大当たり判定処理４（図２２７のＳ２５８参照）を、先読み処理（図１６２のＳ６１３参照）に替えて先読み処理４（図２２８のＳ６５３参照）を、大当たり終了処理（図１７０のＳ１９１０参照）に替えて大当たり終了処理４（図２２９のＳ１９６０参照）を実行するように構成している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付し、その詳細な説明を省略する。

【３０７３】

まず、図２２７を参照して、特別図柄大当たり判定処理４（Ｓ２５８）の内容について説明をする。図２２７は、特別図柄大当たり判定処理４（Ｓ２５８）の内容を示したフローチャートである。この特別図柄大当たり判定処理４（Ｓ２５８）が実行されると、上述した特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８参照）と同一のＳ３０１の処理を実行し、その後、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ３５１）。

ここで、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きく無い、即ち、特別図柄の高確率状態では無いと判別した場合は（Ｓ３５１：Ｎｏ）、上述した特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８参照）と同一のＳ３０２～Ｓ３０７の処理を実行し、本処理を終了する。

【３０７４】

一方、Ｓ３５１の処理において、確変カウンタ２０３ｉの値が０よりも大きい、即ち、特別図柄の高確率状態であると判別した場合は（Ｓ３５１：Ｙｅｓ）、次いで、取得した転落抽選カウンタＣｄ１の値と、転落抽選テーブル２０２ｄａに規定されている値とを比較し（Ｓ３５２）、転落抽選に当選したか否かを判別する（Ｓ３５３）。

【３０７５】

転落抽選に当選したと判別した場合は（Ｓ３５３：Ｙｅｓ）、確変カウンタ２０３ｉの値を０にリセットし（Ｓ３５４）、特別図柄の高確率状態が低確率状態へと移行したことを示すための転落コマンドを設定し（Ｓ３５５）、上述した特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８参照）と同一のＳ３０２～Ｓ３０７の処理を実行し、本処理を終了する。なお、この場合、特別図柄の低確率状態が設定された状態で特別図柄抽選（Ｓ３０２）が実行される。一方、Ｓ３５３の処理において、転落抽選に当選していないと判別した場合は（Ｓ３５３：Ｎｏ）、Ｓ３５３～Ｓ３５５の処理をスキップして、上述した特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８参照）と同一のＳ３０２～Ｓ３０７の処理を実行し、本処理を終了する。なお、この場合、特別図柄の高確率状態が設定された常態で特別図柄抽選（Ｓ３０２）が実行される。

【３０７６】

以上、説明をした通り、本第４制御例では、特別図柄抽選の実行条件が成立した状態（特別図柄大当たり判定処理４（図２２７のＳ２５８参照）が実行された状態）において、実際に特別図柄抽選を実行する前に、転落抽選を実行するように構成している。このように構成することで、転落抽選の抽選結果に応じた特別図柄抽選を即座に実行することができるため、遊技者に対して公正な遊技を提供することができる。

【３０７７】

なお、転落抽選の実行タイミングと、特別図柄抽選の実行タイミングとを、本制御例とは異ならせるように構成しても良く、例えば、特別図柄抽選を実行した後に、転落抽選を実行するように構成しても良い。この場合、特別図柄の高確率状態が設定されている状態で特別図柄抽選が実行され、その直後に転落抽選が実行されることになるため、特別図柄の高確率状態で実行された特別図柄抽選の抽選結果が停止表示されるまでに（特別図柄変動が停止表示されるまでに）、転落抽選に当選し特別図柄の低確率状態が設定される事象が発生することになる。このような状態が発生した場合には、例えば、第３図柄表示装置８１の表示面にて、現在実行中の特別図柄変動が、特別図柄抽選が高確率状態で実行された最後の変動となり、次回の特別図柄抽選が特別図柄の低確率状態で実行される旨を示すための転落報知演出を実行するように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して実行中の特別図柄変動の結果をより注視させることができる。

【３０７８】

また、本制御例では、転落抽選に当選すると、次に特別図柄抽選が実行されるよりも前に特別図柄の高確率状態を低確率状態へと移行させる処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、転落抽選に当選した場合に、特別図柄の高確率状態が継続する回数を２以上減算（確変カウンタ２０３ｉの値を２以上減算）したり、特別図柄の高確率状態中に実行され得る特別図柄抽選の残回数を所定回数（例えば、２回）にしたりするように構成しても良い。このように構成した場合であっても、転落抽選に当選したことにより、遊技者に最も有利となる遊技状態（確変状態）がいつまで継続するのかを遊技者に分かり難くさせることができるため、緊張感を持たせた遊技を行わせることができる。

【３０７９】

本制御例では、転落抽選にて当選しなかった場合、即ち、特別図柄の高確率状態が継続

した場合にて、その旨を遊技者に示唆、或いは報知するための演出を実行しないことで、特別図柄の高確率状態が継続する期間（継続している期間）を遊技者に分かり難く構成しているが、これに限ること無く、転落抽選にて当選しなかった場合の一部において、その旨を遊技者に報知するように構成しても良い。この場合、例えば、転落抽選テーブル２０２ｄａに、当選（転落）と判定される転落抽選カウンタＣｄ１の値だけでは無く、特定外れと判定される値（例えば、９９８，９９９）を規定しておき、当該値と判定した場合に、特定外れを示すコマンドを設定することで、遊技者に対して転落抽選の結果が特定外れであることを示すための演出を実行するように構成しても良いし、転落抽選の抽選結果が外れであることを示すためのコマンドを設定し、音声ランプ制御装置１１３側で転落抽選の抽選結果が外れであることを示すためのコマンドを受信した場合に、転落抽選の抽選結果が外れであることを示す演出を実行するか否かの抽選を行い、その抽選で演出を実行すると判別した場合に外れ演出を実行するように構成しても良い。

【３０８０】

次に、図２２８を参照して、本第４制御例における先読み処理４（Ｓ６５３）の内容について説明をする。図２２８は、先読み処理４（Ｓ６５３）の内容を示したフローチャートである。この先読み処理４（Ｓ６５３）は、上述した第１制御例にて実行される先読み処理（図１６２のＳ６１３参照）に対して、特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）に格納された各種カウンタを読み出す処理において、読み出される各種カウンタの種別を異ならせた点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３０８１】

先読み処理４（Ｓ６５３）が実行されると、新たに特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）に格納された第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、転落抽選カウンタＣｄ１、変動種別カウンタＣＳ１を読み出し（Ｓ７５１）、その後、上述した第１制御例にて実行される先読み処理（図１６２のＳ６１３参照）と同一のＳ７０２～Ｓ７０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【３０８２】

以上、説明をした通り、本第４制御例では、始動入賞処理（図１６１のＳ１０５参照）において、新たに特別図柄の抽選権利（特図保留）を獲得した場合に（特別図柄保留球格納エリアに新たな入賞情報を格納した場合に）実行される先読み処理４（Ｓ６５３）において、転落抽選カウンタＣｄ１の値も読み出すように構成し、取得した転落抽選カウンタＣｄ１の値も含む入賞コマンドを設定し、音声ランプ制御装置１１３へと送信可能に構成している。これにより、音声ランプ制御装置１１３側にて獲得済みの特図保留球の中に、転落抽選に当選する転落抽選カウンタＣｄ１の値を示す情報が含まれているかを判別することが可能となる。よって、転落抽選に当選するまでの期間を示唆する示唆演出を実行可能にすることができる。

【３０８３】

次に、図２２９を参照して、大当たり終了処理４（Ｓ１９６０）の内容について説明をする。図２２９は、大当たり終了処理４（Ｓ１９６０）の内容を示したフローチャートである。この大当たり終了処理４（Ｓ１９６０）は、上述した第１制御例の大当たり終了処理（図１７０のＳ１９１０参照）に対して、時短カウンタ２０３ｈの値を設定するための処理内容を異ならせている点で相違し、それ以外の内容は同一である。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３０８４】

大当たり終了処理４（Ｓ１９６０）が実行されると、まず、上述した第１制御例の大当たり終了処理（図１７０のＳ１９１０参照）と同一のＳ２１０１，Ｓ２１０２の処理を実行し、その後、大当たり当選時の遊技状態と、大当たり種別とに対応する値を時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｓ２１５３）、今回設定した確変カウンタ２０３ｉの値、及び時短

カウンタ２０３ｈの値に基づいて状態コマンドを設定し（Ｓ２１０４）、大当たり中フラグ２０３ｋ、確変設定フラグ２０３ｍをオフに設定し（Ｓ２１０５）、本処理を終了する。

【３０８５】

ここで、Ｓ２１５３の処理内容について詳細に説明をする。本制御例では、遊技状態格納エリア２０３ｇに、現在の遊技状態と、前回の大当たり当選時に設定されていた遊技状態と、大当たり当選した場合に選択される大当たり種別と、を一時的に記憶可能に構成している。そして、Ｓ２１５３の処理が実行される場合に、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されていた大当たり当選時の遊技状態と、大当たり種別とを読み出し、大当たり種別選択テーブル２０２ｄに規定されている値を時短カウンタ２０３ｈに設定する。

【３０８６】

本制御例では、大当たり終了処理４が実行される時点、即ち、大当たり遊技中のラウンド遊技が全て終了した時点で、時短カウンタ２０３ｈに設定する値を決定している。このように構成することで、大当たり遊技のラウンド遊技中に成立し得る設定条件、例えば、ラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）中に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過した場合に成立する設定条件の成立の有無に応じて時短カウンタ２０３ｈに設定する値を異ならせることができる。

【３０８７】

なお、本制御例で用いた構成に関わらず、例えば、大当たり遊技開始時、または当選した大当たり種別を選択する時点において、大当たり当選時における遊技状態に基づいた時短カウンタ２０３ｈの値を決定しておき、その決定内容に応じた値を大当たり終了処理４（Ｓ１９６０参照）にて設定するように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技の期間中に大当たり当選時の遊技状態を示す情報を保持する必要が無くなるため、記憶容量の軽減化を図ることができる。

【３０８８】

次に、図２３０、及び図２３１を参照して、本第４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御処理内容のうち、上述した第１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御処理内容と異なる点について説明をする。本第４制御例は、上述した第１制御例に対して、転落抽選を実行する点が大きく相違しており、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容についても、転落抽選に関する処理を実行する点で相違している。

【３０８９】

具体的には、コマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）に替えてコマンド判定処理４（図２３０のＳ４１６２参照）を実行する点で相違している。それ以外の内容は同一であるため、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３０９０】

まず、図２３０を参照して、コマンド判定処理４（Ｓ４１６２）の内容について説明をする。図２３０は、コマンド判定処理４（Ｓ４１６２）の内容を示したフローチャートである。図２３０に示した通り、このコマンド判定処理４（Ｓ４１６２）では、上述した第１制御例のコマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）に対して、大当たり関連コマンドを受信していないと判別した場合に（Ｓ４２１７：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０から転落コマンドを受信したか判別し（Ｓ４２５１）、転落コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２５１：Ｙｅｓ）、転落関連処理（Ｓ４２５２）を実行する点で相違している。なお、Ｓ４２５１の処理において転落コマンドを受信していないと判別した場合（Ｓ４２５１：Ｎｏ）、或いは、転落関連処理（Ｓ４２５２）を実行した後は、上述した第１制御例のコマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２）と同一のＳ４２１９の処理を実行し、本処理を終了する。

【３０９１】

次に、図２３１を参照して、コマンド判定処理４（図２３０のＳ４１６２参照）にて実行される転落関連処理（Ｓ４２５２）の内容について説明をする。図２３１は、転落関連

処理（Ｓ４２５２）の内容を示したフローチャートである。この転落関連処理（Ｓ４２５２）は、主制御装置１１０にて実行される転落抽選（図２２７のＳ３５２，Ｓ３５３参照）において、転落抽選に当選したと判別された場合に設定される転落コマンド（図２２７のＳ３５５参照）を受信した場合に実行される処理であって、転落コマンドを受信したタイミング（特別図柄の高確率状態が終了したタイミング）を判別するための処理を実行するためのものである。

【３０９２】

転落関連処理（Ｓ４２５２）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値を読み出し（Ｓ５５０１）、時短カウンタ２０３ｈの値が８０以上であるかを判別する（Ｓ５５０２）。時短カウンタ２０３ｈの値は、大当たり遊技終了後に設定される時短回数（普通図柄の高確率状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数）に対応する値がセットされ、特別図柄抽選が実行される毎に１減算されるものであるため、例えば、大当たり遊技終了後に時短回数１００回がセットされた場合であれば、大当たり遊技終了後に実行された特別図柄抽選の回数が２０回に到達するまでに転落抽選に当選したか否かが判別される。つまり、Ｓ５５０２の処理では特別図柄の高確率状態が設定されたにも関わらず、早期に転落抽選に当選した状態であるか否かが判別される。

【３０９３】

Ｓ５５０２の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が８０以上であると判別した場合は（Ｓ５５０２：Ｙｅｓ）、短転落フラグ２２３ｄａをオンに設定し（Ｓ５５０３）、従状態設定エリア２２３ｇに時短状態を設定し（Ｓ５５０４）、本処理を終了する。一方、Ｓ５５０２の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が８０以上では無いと判別した場合は（Ｓ５５０２：Ｎｏ）、Ｓ５５０３の処理をスキップしてＳ５５０４の処理を実行し、本処理を終了する。

【３０９４】

Ｓ５５０３の処理にて短転落フラグ２２３ｄａをオンに設定することにより、枠ボタン入力監視・演出処理（図１８６のＳ４１０７参照）において、チャンスモード中に枠ボタン２２を操作したと判別し、確変状態選択２テーブル２２２ｄｆ２（図２２６（ｂ））を参照して演出態様を選択する場合に、短転落フラグ２２３ｄａがオフに設定されている場合と異なるデータテーブルを参照して演出態様を選択することになる。よって、遊技者に対して、実行される操作演出の演出態様によって転落抽選の結果を事後的に把握させることができるため、演出効果を高めることができる。

【３０９５】

＜第２制御例における演出例について＞

次に、図２３２を参照して、上述した第２制御例にて実行される第３図柄の変動演出のうち、副図柄ｆｚの変動方向を主図柄ｓｚの変動方向とは異ならせて実行する演出である逆変動表示演出（図２０５（ｄ）参照）の内容について説明をする。図２３２は、逆変動表示演出中に表示される表示内容の一例を示した模式図である。

【３０９６】

上述した通り、第２制御例では、特別図柄の抽選結果を示すための識別情報が含まれる主図柄ｓｚと、その主図柄ｓｚとは異なる副図柄ｆｚとを独立して表示制御可能に構成しており、例えば、図２０２（ｂ）に示した通り、主図柄ｓｚの変動表示よりも先に副図柄ｆｚを変動表示させて、その後、主図柄ｓｚが停止表示されるよりも前に副図柄ｆｚを停止表示させることにより、主図柄ｓｚの停止表示位置のみを遊技者に報知するリーチライン予告演出を実行させることができるように構成している。それ以外にも、図２０５（ｄ）に示した通り、特別図柄変動の開始タイミングに合わせて主図柄ｓｚの変動表示方向とは異なる方向へと副図柄ｆｚを所定期間（３秒間）変動表示させる逆変動表示演出を実行可能に構成している。

【３０９７】

この逆変動表示演出の内容について図２３２を参照して説明をする。まず、特別図柄抽選の結果を示すための変動パターンコマンドが、主制御装置１１０から送信される。そし

て、その変動パターンコマンドを音声ランプ制御装置１１３側で受信すると、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される変動演出の演出態様を決定するための処理（変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照））にて、主図柄ｓｚに対する演出態様（変動パターン）を決定処理が実行される。これにより、主制御装置１１０にて実行された特別図柄抽選の結果に基づいて、特別図柄の抽選結果を示すための識別情報（識別図柄）である主図柄ｓｚの演出態様を確実に設定することができる。よって、実際に実行された特別図柄抽選の結果とは異なる抽選結果を示すための主図柄ｓｚが停止表示されることを抑制することができる。

【３０９８】

その後、音声ランプ制御装置１１３にて決定された主図柄ｓｚの演出態様に基づいて、副図柄ｆｚの演出態様を設定するための処理が実行される。具体的には、主図柄ｓｚに対する演出態様として、リーチ状態となる演出態様が設定されたか否かが判別され、リーチ状態となる演出態様が設定されたと判別した場合に、副図柄ｆｚの演出態様を選択する処理が実行される。なお、主図柄ｓｚに対する演出態様として、リーチ状態となる演出態様が設定されなかった場合は、主図柄ｓｚに対して設定された演出態様に対応する変動パターンが副図柄ｆｚに対して設定されるように構成している。これにより、特別図柄の抽選結果に基づいて設定された演出態様（変動パターン）で変動表示される主図柄ｓｚと同期させて副図柄ｆｚを変動表示させることができる。よって、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとを、あたかも特定の順序に並んで配置されている図柄列として変動表示させているように遊技者に思わせることができる。

【３０９９】

なお、上述した例では、主図柄ｓｚに対する演出態様がリーチ状態となる場合に、副図柄ｆｚの演出態様を選択するための処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、リーチ状態のうち、特定のリーチ状態（例えば、スーパーリーチ状態）となる演出態様が設定された場合に、副図柄ｆｚの演出態様を選択するための処理を実行するように構成しても良いし、主図柄ｓｚに対して設定された演出態様が非リーチ状態である場合の一部においても、副図柄ｆｚの演出態様を選択するための処理を実行可能に構成しても良い。つまり、特別図柄抽選の結果が大当たりである可能性が高いことを示す演出態様で主図柄ｓｚの演出態様が設定された場合に、副図柄ｆｚの演出態様が選択される処理を実行し易くなるように構成すれば良い。このように構成することで、副図柄ｆｚとして通常の演出態様（主図柄ｓｚの演出態様に同期する演出態様）とは異なる演出態様が設定（実行）されただけで、遊技者に対して大当たり当選の期待感を持たせることができる。

【３１００】

また、上述した例では、副図柄ｆｚの演出態様を選択する処理が実行されない場合には、主図柄ｓｚの演出態様に対応した演出態様（同期演出態様）が副図柄ｆｚに対して設定されるように構成しており、副図柄ｆｚの変動表示が主図柄ｓｚの変動表示と同期する変動演出が実行されるように構成している。これにより、第３図柄表示装置８１の表示画面上では、主図柄ｓｚの変動表示に追従するように副図柄ｆｚが変動表示されるため、上述した第１制御例における第３図柄の変動表示（図１２２（ｂ）参照）と同一の変動表示が実行されることとなる。よって、遊技者に対して、複数の主図柄ｓｚと、複数の副図柄ｆｚと、が、図１２２（ｂ）に示した様に、所定の順序（１（主図柄ｓｚ）→三角印（副図柄ｆｚ）→２（主図柄ｓｚ）→・・・）を為す図柄列として変動表示制御されていると思わせることができる。

【３１０１】

よって、主図柄ｓｚの演出態様と、副図柄ｆｚの演出態様とを異ならせて設定した場合に、遊技者に意外性のある演出を提供することができるため、演出効果を高めることができる。また、主図柄ｓｚに対する演出態様を設定する処理と、副図柄ｆｚに対する演出態様を設定する処理と、を異ならせているため、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが同期しないパターンで変動表示させる処理を容易に実行することができる。つまり、上述した第１制御

例のように、全第３図柄（主図柄ｓｚ及び副図柄ｆｚ）に対して、演出態様（変動パターン）を設定するように構成しているパチンコ機１０では、例えば、副図柄ｆｚの変動表示態様のみを異ならせた演出態様（変動パターン）を設定する際に、全第３図柄（主図柄ｓｚ及び副図柄ｆｚ）を対象に、副図柄ｆｚの変動表示態様のみを異ならせた演出態様（変動パターン）を設定する必要があるが、第２制御例のように主図柄ｓｚに対する演出態様と、副図柄ｆｚに対する演出態様と、を独立して設定可能に構成することで、副図柄ｆｚに対する演出態様のみを可変設定するだけで良く、第３図柄の演出態様を設定するための処理を軽減させることができる。

【３１０２】

図２３２に戻り説明を続ける。副図柄ｆｚの演出態様を選択する処理が実行されると、まず、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否かが判別され、その判別結果を参照して、図示しない副図柄演出選択テーブルを用いて、副図柄ｆｚの演出態様が選択される。ここで、副図柄演出選択テーブル（図示せず）には、特別図柄抽選の結果と、主図柄ｓｚに対して設定された演出態様と、に対応させて所定の割合で副図柄ｆｚの演出態様が規定されている。具体的には、特別図柄の抽選結果が「大当たり」であって、主図柄ｓｚの演出態様として「ダブルリーチ」が設定された場合には、６０％の割合で「リーチライン予告演出」が選択され、２０％の割合で「逆変動表示演出」が選択され、２０％の割合で「副図柄演出無し」が選択されるように規定されている。

【３１０３】

また、特別図柄の抽選結果が「大当たり」であって、主図柄ｓｚの演出態様として「シングルリーチ」が設定された場合には、２０％の割合で「リーチライン予告演出」が選択され、２０％の割合で「逆変動表示演出」が選択され、６０％の割合で「副図柄演出無し」が選択されるように規定されている。

【３１０４】

さらに、特別図柄の抽選結果が「外れ」であって、主図柄ｓｚの演出態様として「ダブルリーチ」が設定された場合には、４０％の割合で「逆変動表示演出」が選択され、６０％の割合で「副図柄演出無し」が選択されるように規定されており、主図柄ｓｚの演出態様として「シングルリーチ」が設定された場合には、５％の割合で「リーチライン予告演出」が選択され、５％の割合で「逆変動表示演出」が選択され、９０％の割合で「副図柄演出無し」が選択されるように規定されている。

【３１０５】

このように規定された副図柄演出選択テーブル（図示せず）を用いて、「逆変動表示演出」が選択された場合には、次に、副図柄ｆｚの表示態様を選択するための表示態様選択処理が実行される。この表示態様選択処理では、今回の第３図柄変動演出（副図柄ｆｚの演出態様）に用いられる副図柄ｆｚの表示態様を選択するための処理が実行されるものであって、特別図柄抽選の結果、及び、設定される大当たり種別に応じて副図柄ｆｚの表示態様が選択される。なお、ここで選択され得る副図柄ｆｚの表示態様は、上述した第２制御例において、図２０３（ｃ）を参照して説明をした、表示制御装置１１４のキャラクタＲＯＭ２３４が有するキャラクタ記憶エリア２３４ａ２に記憶されている表示態様となる。

【３１０６】

つまり、音声ランプ制御装置１１３にて実行される表示態様選択処理において、副図柄ｆｚの演出態様を特定するための表示用副図柄態様コマンド（表示用コマンド）が設定され、設定された表示用副図柄態様コマンド（表示用コマンド）を表示制御装置１１４が受信した場合に、キャラクタ記憶エリア２３４ａ２から対応する画像データを読み出す処理が実行される。

【３１０７】

表示態様選択処理では、例えば、図２０３（ｃ）に示した通り、副図柄ｆｚの通常表示態様である「三角印」の表示態様ＳＤ１と、大当たり期待度が高いことを示す「泡」を模した表示態様ＳＤ２と、大当たり当選した場合に、遊技者に有利な有利大当たり遊技（１

６ラウンド遊技）が実行されることを示す「数字の１６」を模した表示態様ＳＤ３とのうち、何れかの表示態様が選択されるように構成しており、今回の特別図柄抽選の結果が大当たりである場合のほうが、大当たり以外である場合（外れの場合）よりも、表示態様ＳＤ２を選択し易くなるように構成し、さらに、今回実行される特別図柄抽選の結果に基づいて有利大当たり遊技が実行される場合のほうが、有利大当たり遊技が実行されない場合（大当たり当選していない場合、大当たり当選しているが、有利大当たり遊技以外の大当たり遊技が実行される場合）よりも、表示態様ＳＤ３を選択し易くなるように構成している。

【３１０８】

このように構成することで、副図柄ｆｚに対して設定される演出態様と、副図柄ｆｚに対して設定される表示態様と、の両方に対して遊技者に興味を持たせることができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【３１０９】

図２３２は、副図柄ｆｚの演出態様として「逆変動表示演出」が実行され、副図柄ｆｚの表示態様として「泡」を模した表示態様ＳＤ２が設定されている状態を示したものであって、図２３２の視点で左方向へと主図柄ｓｚが変動表示され、図２３２の視点で右方向へと副図柄ｆｚが変動表示される「逆変動表示演出」が実行されている。このように、第３図柄表示装置８１の表示面にて第３図柄（主図柄ｓｚ、副図柄ｆｚ）の変動表示として、主図柄ｓｚと副図柄ｆｚとが逆方向へと変動表示されることで、遊技者に意外性のある変動演出を提供することができる。さらに、副図柄ｆｚを用いた演出態様として、主図柄ｓｚの変動表示方向とは異なる変動表示方向に副図柄ｆｚを変動表示させるため、遊技者に対して、副図柄ｆｚの演出態様が通常とは異なる演出態様であることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【３１１０】

なお、図２３２に示した表示画面では、表示面に表示されている全ての副図柄ｆｚが、上述した表示態様選択処理により選択された「泡」を模した表示態様ＳＤ２で表示されているが、これに限ること無く、複数の副図柄ｆｚのうち、いずれかの副図柄ｆｚの表示態様のみを可変させても良い。この場合、最終的に停止表示される主図柄ｓｚの近傍に配置される副図柄ｆｚの表示態様のみを上述した表示態様選択処理により選択された表示態様へと可変させ易くなるように構成しても良い。これにより、副図柄ｆｚの表示態様に基づいて、主図柄ｓｚの停止表示態様を予測させ易くすることができる。

【３１１１】

加えて、図２３２に示した表示画面では、表示面に表示されている全ての副図柄ｆｚの大きさが同一である例が表示されているが、副図柄ｆｚの大きさ（拡大率）や、回転角度、半透明値などを異ならせて設定しても良い。この場合、各副図柄ｆｚを表示するための表示データテーブル（図２０７参照）に規定する値を変更すれば良い。

【３１１２】

また、図２３２では、第３図柄変動が開始されるタイミングで、副図柄ｆｚの表示態様が通常の「三角印」の表示態様ＳＤ１から「泡」を模した表示態様ＳＤ２へと切り替わり、逆変動表示演出が実行される例を示しているが、これに限ること無く、第３図柄変動が開始されるよりも前のタイミングとして、前回の第３図柄変動が停止表示されてから、今回の第３図柄変動が開始されるまでの期間にて副図柄ｆｚの表示態様を切り替えたり、今回の第３図柄変動が開始されてから停止するまでの期間にて副図柄ｆｚの表示態様を切り替えたりしても良い。

【３１１３】

なお、前回の第３図柄変動が停止表示されてから、今回の第３図柄変動が開始されるまでの期間にて副図柄ｆｚの表示態様を切り替える処理を実行する場合には、例えば、先読み処理によって入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報に含まれるかを解析し、次に実行される特別図柄抽選（変動）が特定の抽選結果（例えば大当たり当選）となる場合において、停止表示されている副図柄ｆｚの表示態様を可変させるように構成し

ても良い。この場合、次に実行される特別図柄抽選（変動）の抽選結果を示すための主図柄ｓｚの演出態様を設定するよりも前に、次に実行される副図柄ｆｚの変動演出に用いられる表示態様が決定されることになる。このように、入賞情報格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報を用いることにより、特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄変動の演出態様に用いる各態様を遊技者に報知するタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して、実行される第３図柄変動演出に興味を持たせることができる。

【３１１４】

また、今回の第３図柄変動が開始されてから停止するまでの期間にて副図柄ｆｚの表示態様を切り替える処理を実行する場合には、第３図柄変動が開始される時点において副図柄ｆｚを切替前の表示態様で表示しても良いし、表示態様を切り替える処理が実行された後に、副図柄ｆｚを表示するように構成しても良い。

【３１１５】

＜大当たり遊技中に実行される切替弁の切替制御について＞

上述した各制御例では、大当たり動作設定処理（図１６９のＳ１９０６参照）や、Ｖラウンド処理（図２１９のＳ２２５１参照）を用いて説明をした通り、特定のラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）が開始されたと判別された場合に、切替弁６５ｙ（図１２０（ｂ）、或いは、図２１３（ｂ）参照）に対する制御処理を実行するように構成していた。つまり、実行される大当たり遊技が確変大当たり遊技である場合にのみ、特定のラウンド遊技（Ｖラウンド遊技）が実行されるように構成し、通常大当たり遊技である場合には、特定のラウンド（Ｖラウンド遊技）が実行されないように構成していた。このように構成することで通常大当たり遊技中に球がＶ入賞（特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過）することを抑制することができるものであったが、実行される大当たり遊技の種別に応じて、切替弁６５ｙに対する制御処理の内容を可変させる必要があるため、大当たり遊技中の処理負荷を増大させてしまうという問題があった。

【３１１６】

そこで、上述した各制御例にて用いられた切替弁６５ｙに対する制御処理内容以外の制御処理を用いても良く、例えば、通常大当たり遊技においてもＶラウンド遊技が実行されるが、そのＶラウンド遊技を終了させる条件を確変大当たり遊技と異ならせ、Ｖラウンド遊技中に球が可変入賞装置６５へと入賞し得ないように構成しても良い。また、上述したＶラウンド処理（図２１９のＳ２２５１参照）が実行される第４制御例のように、Ｖラウンド遊技が実行されてからの球の入賞数に基づいて切替弁６５ｙを切替制御する場合には、通常大当たり遊技においては、切替弁６５ｙを切替制御するための球の入賞数を、Ｖラウンド遊技を終了させるための入賞数（例えば、１０個）よりも多い数に設定することで切替弁６５ｙの切替制御が実行されないように構成しても良い。

【３１１７】

また、切替弁６５ｙの制御内容（切替条件）を、確変大当たり遊技と、通常大当たり遊技とで同一に設定し、通常大当たり遊技の実行中に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過したとしても、その通過を有効に処理しないように構成しても良い。つまり、通常大当たり遊技中に球が特定領域を通過したとしても、その大当たり遊技中に特別図柄の高確率状態が設定されないように構成しても良い。

【３１１８】

さらに、大当たり遊技の種別に関わらず、大当たり遊技が開始されてから（大当たり遊技のオープニング期間が設定されてから）、所定期間経過した場合に切替弁６５ｙが所定期間の間、開状態となるように切替制御を実行し、大当たり遊技における開閉扉６５ｂの開放パターンを大当たり遊技の種別に応じて異ならせるように構成することで、大当たり遊技種別毎のＶ入賞確率を異ならせるように構成しても良い。

【３１１９】

上述した第２制御例、及び第２制御例の変形例では、主図柄ｓｚの演出態様（変動パターン）も、副図柄ｆｚの演出態様（変動パターン）も、音声ランプ制御装置１１３にて設定（選択）するように構成しているが、これに限ること無く、表示制御装置１１４にて演

出態様（変動パターン）を設定するように構成しても良く、この場合、特別図柄抽選の結果を示す主図柄ｓｚの演出態様のみ音声ランプ制御装置１１３にて設定し、副図柄ｆｚの演出態様を表示制御装置１１４にて設定するように構成すると良い。

【３１２０】

以上、第２制御例、及び第２制御例の変形例について説明をしたが、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種図柄を動的表示させる変動演出の演出態様を設定する場合において、動的表示される図柄の種別に対して独立して演出態様を設定し、独立して表示制御を実行するように構成するものであれば良く、上述した制御例にて示した構成以外の構成を用いても良い。

【３１２１】

例えば、副図柄ｆｚを表示するための表示画層を複数設け、図２１１を参照して上述した第２制御例の変形例のように、副図柄ｆｚを重複させて変動表示可能に構成しても良い。

【３１２２】

また、複数の表示画層を設け、各画層に対して表示の優先順位を設定し、第３図柄表示装置８１の表示面において、各表示画層に表示される表示態様が重複した場合には、優先順位の高い画層に表示される表示態様が遊技者に視認可能となるように表示制御されていたが、これに限ること無く、例えば、優先順位が設定されない表示画層を設け、第３図柄表示装置８１の表示面に複数の表示画層に表示された表示態様を重複させて表示するように構成しても良い。この場合、例えば、図２３２に参照した「逆変動表示演出」を実行する場合において、「三角印」の副図柄ｆｚの中に、「泡」を模した副図柄ｆｚが表示される重複副図柄が表示されるように表示制御（各副図柄の半透明値、拡大率を設定）し、副図柄ｆｚの表示態様が「三角印」から「泡」へと可変することを事前に示唆可能な表示態様で表示するように構成しても良い。

【３１２３】

以上、説明をした通り、上述した第１制御例、及び第４制御例では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、その通常状態よりも遊技者に有利となる有利遊技状態として、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、の２種類の有利遊技状態を設定可能に構成している。さらに、確変状態が終了した後に時短状態が設定されるように構成している。

【３１２４】

そして、有利遊技状態が設定された場合には、次に、通常状態が設定されるまでの期間、例えば、確変状態が設定された場合には、確変状態の終了後に設定される時短状態が終了し、通常状態が設定されるまでの期間を有利遊技状態の継続期間として遊技者に報知可能に構成している。このように構成することで、現在設定されている遊技状態が終了するまでの期間では無く、遊技者に有利となる有利遊技状態が終了するまでの期間を遊技者に報知することができるため、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【３１２５】

加えて、複数の有利遊技状態が連続して継続する期間を１の有利遊技状態の継続期間として報知する場合において、第３図柄表示装置８１にて実行される各種演出の内容及び実行頻度によって、現在設定されている詳細な遊技状態を遊技者に把握させることができるように構成している。このように構成することで、通常状態が設定されるまでの期間を把握しながらも、現在の遊技状態を予測しながら遊技を行わせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【３１２６】

また、上述した第１制御例、及び第４制御例では、複数の有利遊技状態のうち、遊技者により有利となる最有利遊技状態（確変状態）が先に設定され、その後、最有利遊技状態（確変状態）よりも不利となる通常有利遊技状態（時短状態）が設定されるように構成しているが、複数の有利遊技状態が連続して設定され得る構成であれば良く、例えば、遊技

状態として、通常状態と、確変状態と、時短状態と、に加え、潜確状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）も設定であって、確変状態よりも潜確状態のほうが遊技者に有利となるように構成したパチンコ機１０では、特別図柄、或いは、普通図柄が高確率状態である遊技状態（確変状態、時短状態、潜確状態）が、遊技者に有利な有利遊技状態となる。そして、特別図柄の高確率状態が継続する期間を示す確変カウンタ２０３ｉの値のほうが、普通図柄の高確率状態が継続する期間を示す時短カウンタ２０３ｈの値よりも大きくなるように設定可能に構成する。

【３１２７】

このように構成されたパチンコ機１０にて、例えば、大当たり遊技終了後に確変状態として、確変カウンタ２０３ｉの値として「１００」を、時短カウンタ２０３ｈの値として「５０」を設定可能に構成することで、大当たり遊技終了後には、有利遊技状態として確変状態が設定され、その後、潜確状態が設定されることになる。このような場合であっても、上述した第１制御例、及び第４制御例のように、複数の有利遊技状態が連続して継続する期間、即ち、確変状態の後に設定される潜確状態が終了するまでの期間を１の有利遊技状態の継続期間として報知すると良い。また、この場合、有利遊技状態の継続期間中に、現在設定されている遊技状態が他の遊技状態へと移行する可能性があるか否かを遊技者に示唆可能な移行示唆演出を実行可能に構成すると良い。これにより、有利遊技状態中に他の遊技状態へと移行する可能性があることのみを遊技者に把握させることができるため、有利遊技状態中に実行される遊技の内容を、予測させる楽しみを提供することができる。さらに、有利遊技状態の継続期間中に、現在設定されている遊技状態が他の遊技状態へと移行する可能性がある場合において、移行後の遊技状態が遊技者により有利となる遊技状態であるか否かを示唆可能な有利移行示唆演出を実行可能に構成しても良い。さらに、有利遊技状態中に遊技状態が移行するタイミングを示唆する示唆演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、通常状態が設定されるまでの期間を把握しながらも、その期間内における遊技を楽しませることができる。

【３１２８】

また、上述した第１制御例、及び第４制御例では、有利遊技状態中に大当たり当選した場合には、有利遊技状態が終了するように構成しているが、複数の有利遊技状態のうち、遊技者により有利となる最有利遊技状態（確変状態）が先に設定され、その後、最有利遊技状態（確変状態）よりも不利となる通常有利遊技状態（時短状態）が設定されるように構成しているため、有利遊技状態中に大当たり当選することにより遊技者に不利とならないが、例えば、複数の有利遊技状態のうち、遊技者により有利となる通常有利遊技状態（確変状態）が先に設定され、その後、通常有利遊技状態（確変状態）よりも遊技者に有利となる最有利遊技状態（潜確状態状態）が設定されるように構成したパチンコ機１０では、通常有利遊技状態中に大当たり当選するよりも、大当たり当選すること無く、最有利遊技状態が設定される場合のほうが、遊技者に有利となり得る場合がある。

【３１２９】

よって、有利遊技状態中に実行される特別図柄抽選の結果として大当たり当選することが遊技者に有利となる期間と、不利となる期間とを遊技者が識別可能な期間演出を実行するように構成すると良い。これにより、期間演出によって識別した内容に基づいて特別図柄抽選の結果を注視することができるため、遊技の興趣を向上させることができる。さらに、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定される大当たり種別として、通常有利遊技状態中に設定されると遊技者に不利となる大当たり種別と、通常有利遊技状態中に設定されたとしても遊技者に不利とならない大当たり種別と、を有するパチンコ機１０であれば、上述した期間演出の演出内容と、大当たり当選時に設定される大当たり種別とに基づいて、遊技者に有利な大当たり当選であるか否かを示唆する演出を実行するように構成しても良い。これにより、特別図柄抽選で大当たり当選を目指すだけの遊技では無く、大当たり当選するタイミングと、大当たり当選時に設定される大当たり種別と、に対しても遊技者に興味を持たせることができる。

【３１３０】

上述した第１制御例では、大当たり遊技終了後に複数種類（２種類）の有利遊技状態（確変状態、時短状態）の何れかが設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技終了後に通常状態が設定され得るように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技終了後に有利遊技状態が設定されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【３１３１】

また、上述した第１制御例では、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出の演出結果に応じて、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されたことを報知する演出モード（スーパーチャンスモード）と、大当たり遊技終了後に通常状態よりも遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態、或いは時短状態）が設定されたことを報知する演出モード（チャンスモード）と、を設定するように構成している。これにより、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出において、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを報知したにも関わらず、大当たり遊技終了後にチャンスモードが設定されるという無意味な演出が実行されることを抑制することができる。

【３１３２】

このように構成された第１制御例の技術に対して、例えば、大当たり遊技終了後に設定される演出モードを遊技者が任意に選択可能な演出モード選択手段を設け、予め、演出モード選択手段により任意の演出モードを選択可能にしておくことで、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出の演出態様、及び、大当たり遊技終了後に設定される演出モードを、演出モード選択手段により選択された内容に対応させて設定するように構成しても良い。具体的には、演出モード選択手段により、大当たり遊技終了後に設定される演出モードとして、実際に設定される遊技状態を報知する「完全告知モード」と、有利遊技状態が設定されていることのみを報知する「チャンス告知モード」と、を選択可能に構成し、パチンコ機１０にて特別図柄抽選が実行されていない期間において、遊技者が操作手段（枠ボタン２２）を操作することで何れかの演出モードを選択可能に構成する。

【３１３３】

遊技者により選択された演出モードを一時的に記憶する記憶手段を設け、その記憶手段に記憶された演出モードを識別可能な情報を第３図柄表示装置８１の表示面の一部（例えば、副表示領域Ｄｓ）に表示しておき、現在設定されている演出モードを常に遊技者が識別可能に構成する。そして、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、記憶手段に記憶されている演出モードを読み出す。例えば、記憶手段に「完全告知モード」が記憶されている場合には、大当たり遊技演出として、大当たり遊技中に球を特定領域（Ｖゲート）６５ｖに通過させる（Ｖ入賞）ことを案内する演出としてＶ報知演出を実行し、実際に球が特定領域（Ｖゲート）６５ｖを通過した場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを示す表示態様でエンディング画面を表示し（図１２７（ｂ），（ｄ）参照）、通過しなかった場合には、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを示す表示態様でエンディング画面を表示する（図１２７（ａ），（ｃ）参照）そして、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合には、現在の遊技状態が確変状態であることを示す「スーパーチャンスモード」（図１３１（ａ）参照）が設定され、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合には、現在の遊技状態が時短状態であることを示す「チャンスモード」（図１２８（ａ）参照）が設定される。このように構成することで、設定される遊技状態、及び、遊技状態を決定するための契機となるＶ入賞の有無を遊技者に確実に報知することができる。

【３１３４】

一方、記憶手段に「チャンス告知モード」が記憶されている場合には、大当たり遊技演出として上述したＶ報知演出を実行しないようにし、大当たり遊技終了後には、設定される遊技状態に関わらず「チャンスモード」が設定される。このように構成することで、設定される遊技状態、及び、遊技状態を決定するための契機となるＶ入賞の有無を遊技者に報知すること無く、遊技を行わせることができる。なお、演出モード選択手段による演出モードの選択がされていない場合は、パチンコ機１０の初期状態と同様に、記憶手段には

「初期モード」が記憶されており、上述した第１制御例と同様に、大当たり遊技中にＶ報知演出を実行するか否かを抽選で決定し、その抽選結果に基づいた大当たり遊技演出を実行し、その大当たり遊技演出の演出結果に基づいて、大当たり遊技終了後の演出モードが設定される。

【３１３５】

このように構成することで、遊技者が所望する任意の演出モードを違和感無く提供することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【３１３６】

さらに、パチンコ機１０にて実行される各種演出を選択可能な手段として、チャンスモードが選択されている場合に実行される操作演出に対して選択される各種演出態様（図１４８参照）の選択割合を遊技者が任意に選択可能な演出頻度選択手段を設けても良い。具体的には、確変状態が設定されている場合と、時短状態が設定されている場合とで、選択される各種演出態様の選択割合を大きく乖離させたり、選択割合の相違を小さくさせたりすることができるように選択割合を遊技者が選択可能にする演出頻度選択手段を設けると良い。このような構成を用いた場合であっても、遊技者が所望する任意の演出モードを違和感無く提供することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【３１３７】

以上、説明をした第１制御例から第４制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を球が通過することで、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定されるように構成されたパチンコ機１０について説明をしたが、このように、遊技者に有利となる特典遊技が実行されている状態で球が特定領域を通過したことに基づいて特典遊技とは異なる特別遊技を遊技者に提供可能な構成として、例えば、特別図柄抽選で大当たり当選とは異なる抽選結果である小当たりに当選した場合に、特典遊技（大当たり遊技）とは異なる第２特典遊技（小当たり遊技）を実行可能にし、その第２特典遊技中に開放動作される可変入球手段（可変入賞装置６５でも良いし、それ以外の入賞装置を別途設けても良い）に入球した球が通過し得る特定領域を設け、第２特典遊技中に球が特定領域を通過した場合に、第２特典遊技（小当たり遊技）の終了後に特典遊技（大当たり遊技）を実行可能な構成を用いても良い。

【３１３８】

なお、上述した各制御例におけるパチンコ機１０の構成として、図２３３に示した通り、何れの遊技状態が設定されている状態であっても、左打ち遊技を実行することで第１特別図柄抽選の実行契機となり得る第１入球口６４へと遊技球を入球可能とし、右打ち遊技を実行することで第２特別図柄抽選の実行契機となり得る第２入球口６４０へと遊技球を入球可能とするように構成しても良い。

【３１３９】

＜第５制御例＞

次に、図２３４から図２７０を参照して、第５制御例について説明をする。本第５制御例は、上述した第１制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の一部構成を変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更した点とで相違している。また、主制御装置１１０のＭＰＵが実行する制御内容と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御内容の一部を変更した点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３１４０】

上述した第１制御例では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成し、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技の終了後に、各図柄（特別図柄

、普通図柄）の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させることを可能に構成していた。また、上述した大当たり遊技の終了後、及び、他の終了条件（例えば、特別図柄抽選の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する終了条件）が成立した場合に、各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を高確率状態から低確率状態へと移行させることを可能に構成していた。

【３１４１】

つまり、特別図柄抽選によって大当たり当選しない限り、各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させる契機が成立しないように構成していた。このように構成された第１制御例では、遊技者に対して、多くの賞球を付与可能な大当たり遊技と、遊技者に有利な抽選が実行され易い高確率状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）の設定と、が何れも特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行されるため、特別図柄抽選で大当たり当選した遊技者に対して多様な特典を付与することができ、遊技者に対して特別図柄抽選で大当たり当選することを目指して意欲的に遊技を行わせることができるものであった。

【３１４２】

しかしながら、上述した第１制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合にのみ、各図柄の確率状態を高確率状態へと移行可能に構成していることから、特別図柄抽選で大当たり当選していない遊技者は特典が付与されず、長時間に渡って大当たり当選していない遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【３１４３】

これに対して、本第５制御例では、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させるための契機として、特別図柄抽選の大当たり当選以外の契機を設け、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選とは異なる抽選結果（外れ）の一部において、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機が成立するように構成している。

【３１４４】

つまり、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった遊技者に対しても、大当たり遊技とは異なる特典を付与可能に構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、大当たり遊技が実行される抽選結果と、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される抽選結果とを遊技者に別々に提供することができるため、遊技者に対して有利となる抽選結果の種別の多様化を図りやすくすることができる。

【３１４５】

さらに、本第５制御例では、設定されている遊技状態に応じて、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機の成立のし易さを異ならせており、具体的には、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合は、特別図柄抽選が実行された場合に大当たり当選の有無に加え、時短当選（普通図柄の高確率状態を設定させるための契機の成立の有無）の有無を判定可能に構成し、通常状態以外の遊技状態が設定されている場合は、特別図柄抽選が実行された場合に大当たり当選の有無のみを判定可能に構成している。

【３１４６】

このように構成することで、通常状態が設定されている状態では、普通図柄の高確率状態が設定され得る契機として、特別図柄抽選において大当たり当選した場合に成立し得る契機と、特別図柄抽選で時短当選した場合に成立し得る契機と、が設定され、通常状態以外の遊技状態では、普通図柄の高確率状態が設定され得る契機として、特別図柄抽選において大当たり当選した場合に成立し得る契機が設定されることになる。即ち、時短当選の有無を判定可能となる通常状態のほうが、通常状態以外の遊技状態よりも、普通図柄の高確率状態を設定するために多くの契機が設定されるように構成している。

【３１４７】

よって、各図柄（特別図柄、普通図柄）が低確率状態に設定されており、各図柄抽選において最も当たり当選し難い遊技状態（遊技者に不利となる遊技状態）である通常状態のほうが、他の遊技状態よりも普通図柄の高確率状態を設定させ易くすることができ、通常

状態中の遊技を実行している遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【３１４８】

加えて、本第５制御例では、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（確変状態、時短状態）のほうが、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（通常状態、第２確変状態）よりも第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成しており、且つ、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を、所定数（４個）を上限に記憶可能（保留記憶可能）に構成している。そして、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが時短当選し易くなるように構成している。

【３１４９】

つまり、普通図柄の高確率状態が設定されている何れかの遊技状態（確変状態、時短状態）から通常状態へと遊技状態が移行した場合（遊技者に有利な遊技状態から不利な遊技状態へと移行した場合）において、移行後の通常状態中に、移行前の普通図柄の高確率状態中にて保留記憶された第２特別図柄抽選の実行権利に基づく第２特別図柄抽選が実行された場合に時短当選し易くなるように構成している。

【３１５０】

このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態から不利な遊技状態へと移行した場合にも所定期間の間、遊技者に有利な遊技状態へと復帰し易い特別図柄抽選を遊技者に実行させることができるため、遊技者に不利となる遊技状態である通常状態が設定された場合に遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。また、通常状態中により多くの第２特別図柄抽選を実行させるために、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を上限数（４個）獲得した状態で普通図柄の高確率状態を終了させようと、普通図柄の高確率状態が終了する最後の瞬間まで特図２保留を獲得するための遊技を意欲的に行わせることができる。

【３１５１】

上述した第１制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいてのみ普通図柄の高確率状態を設定可能に構成していた。具体的には、大当たり遊技終了後に、遊技者に有利な有利遊技状態として、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）或いは、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成していた。そして、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合には、特別図柄抽選が５０回実行されるまで確変状態が継続し、その後、５０回の特別図柄抽選が実行されるまで、即ち、大当たり遊技終了後からの特別図柄抽選回数が１００回に到達するまで、時短状態が設定されるように構成していた。一方、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合には、特別図柄が１００回実行されるまで時短状態が継続するように構成していた。

【３１５２】

これに対して、本第５制御例では、上述した通り、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に加え、特別図柄抽選で時短当選した場合にも普通図柄の高確率状態を設定可能に構成しており、大当たり当選に基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第１時短）と、時短当選に基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第２時短）とで、普通図柄の高確率状態を終了させるための終了条件の成立のし易さを異ならせている。

【３１５３】

具体的には、第１時短の終了条件として設定される時短回数よりも第２時短の終了条件として設定される時短回数のほうが多くなり易くなるように構成している。このように、普通図柄の高確率状態が設定された場合において、その設定契機（普通図柄の高確率状態を設定するための成立契機）に応じて有利度合いを異ならせた普通図柄の高確率状態を設定可能とすることにより、普通図柄の高確率状態が設定されるか否かだけで無く、どのような契機で普通図柄の高確率状態が設定されるのかという遊技の過程についても遊技者に興味を持たせることができるため、遊技者に継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【３１５４】

なお、本第５制御例では、普通図柄の高確率状態において遊技者に付与される特典の有利度合いを異ならせるために、時短終了条件の成立のし易さ（時短回数）を異ならせているが、これに限ること無く、例えば、第１時短が設定された場合と、第２時短が設定された場合とで、第２特別図柄抽選の保留記憶の獲得のし易さ（電動役物６４０ａの開放パターン）を異ならせたり、普通図柄の高確率状態中に特別図柄抽選で大当たり当選した場合に付与される特典の有利度合い（例えば、大当たり遊技中に付与される賞球数や、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の種別）を異ならせたりするように構成しても良い。

【３１５５】

まず、図２３４を参照して、本第５制御例におけるパチンコ機１０の構成について説明をする。図２３４は、本第５制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３の正面図である。図２３４に示した通り、本第５制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３は、上述した第１実施形態のパチンコ機１０における遊技盤１３（図１１９参照）に対して、遊技盤１３の左側領域（可変表示ユニット８０の左側の領域）に設けられていたスルーゲート６７を削除した点と、電動役物６４０ａが付設された第２入球口６４０、少なくとも大当たり遊技が実行された場合に遊技球を入賞させることが可能となる可変入賞装置６５の配設位置を異ならせた点と、で大きく相違している。また、可変入賞装置６５の内部構成を変更している点で相違している。それ以外の内容は上述した第１制御例と同一であり、同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３１５６】

図２３４に示した通り、本第５制御例のパチンコ機１０では、普通図柄の抽選実行契機を成立させるための入球口であるスルーゲート６７を、可変表示ユニット８０の右側に形成された右側領域のみに配設している。このように構成することで、可変表示ユニット８０の左側に形成された左側領域に向けて遊技球を発射させ、第１入球口（入賞口）６４へと遊技球を入球させる左打ち遊技を行っている間は、普通図柄抽選を実行させ難くすることができる。

【３１５７】

第１入球口６４は、可変表示ユニット８０の下方に配置されている。可変表示ユニット８０が遊技盤１３上の遊技領域を左右に区画するように配置されており、可変表示ユニット８０の左側には遊技球が流下可能な左側流路（左側領域）が形成され、可変表示ユニット８０の右側には遊技球が流下可能な右側流路（右側領域）が形成されている。そして、左側流路（領域）を流下した遊技球は、右側流路（領域）を流下すること無く、右側流路（領域）を流下した遊技球は、左側流路（領域）を流下しないように構成されている。

【３１５８】

可変表示ユニット８０の下側には、左側流路（領域）を流下した遊技球も、右側流路（領域）を流下した遊技球も流下可能な下側領域（共通領域）が形成され、下側領域の最流下部（遊技盤１３の最下部）にはアウト口６６が設けられている。第１入球口６４は、左側流路を流下した遊技球も、右側流路を流下した遊技球も入球可能な位置に配置されている。なお、本第５制御例の構成とは異ならせ、左側流路を流下する遊技球のみが第１入球口６４へと入球可能となるように構成しても良い。このように構成することで、右側領域へと遊技球を流下させる右打ち遊技を実行する場合、例えば、右打ち遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技を実行する場合において、第１入球口６４へと遊技球が入球し、第１特別図柄抽選が実行される事態が発生することを抑制することができる。

【３１５９】

第２入球口６４０は、右側流路を流下した遊技球が、左側流路を流下した遊技球よりも入球し易い位置に配置されている。第２入球口６４０は、遊技盤１３に横長矩形状の開口部が形成されており、その開口部に遊技球が流下することが可能な流路が形成されており、開口部に入球した遊技球を検知するフォトセンサが設けられている。開口部の前面側には開口部を塞ぐことが可能な横長矩形状の開閉板として電動役物６４０ａが付随して設けられており、その開閉板の可変を軸として正面側に開閉駆動するための開放口ソレノイド

（図示せず）とを備えている。第２入球口６４０の開口部は、通常時は、遊技球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。普通図柄（第２図柄）の当たりの際には開放口ソレノイドを駆動して電動役物６４０ａを正面下側に傾倒し、球が第２入球口６４０の開口部に入賞しやすい開放状態を一時的に形成し、その開放状態と通常時の閉鎖状態との状態を遊技状態により定められた所定回数繰り返すように作動する。

【３１６０】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ入賞があったことを契機として抽選（特別図柄抽選）が行われる。パチンコ機１０は、その特別図柄抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）と、普通図柄の高確率状態を設定するための時短当選の判定（時短抽選）とを行うと共に、大当たりと判定した場合（大当たり当選した場合）はその大当たり種別の判定を行い、時短当選した場合はその時短種別の判定を行うように構成している。

【３１６１】

本第５制御例では、第１入球口６４に遊技球が入球した場合に抽選契機が成立する第１特別図柄と、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合に抽選契機が成立する第２特別図柄と、で異なる大当たり種別が規定されており、第１特別図柄に対しては１６Ｒ確変大当たり（大当たりＡ５）、６Ｒ確変大当たり（大当たりＢ５）が規定されている。また、第２特別図柄に対しては１６Ｒ確変大当たり（大当たりＡ５）、６Ｒ確変大当たり（大当たりＣ５）、６Ｒ確変大当たり（大当たりＤ５）が規定されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【３１６２】

ここで、「１６Ｒ確変大当たり（大当たりＡ５）」とは、最大ラウンド数が１６ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別である。本第５制御例では、特別図柄の高確率状態が継続する期間（特図高確期間）と、普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）として、異なる期間を設定可能に構成しており、大当たりＡ５は、特図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６０回変動されて、６０回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定され、普図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６０回変動されて、６０回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定される。

【３１６３】

つまり、大当たりＡ５に対しては、特図高確期間と、普図高確期間として同一条件（６０回目の特別図柄変動停止）が規定されている。よって、大当たり種別として大当たりＡ５が設定された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、その確変状態中における６０回目の特別図柄変動が停止表示された場合に特図高確期間と普図高確期間とが共に終了し通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定される。このように構成することで、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態から直接通常状態へと遊技状態が移行することになるため、普通図柄の高確率状態中に獲得した第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）に基づく第２特別図柄抽選を、通常状態において実行し易くすることができる。

【３１６４】

「６Ｒ確変大当たり（大当たりＢ５）」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別である。この大当たりＢ５が、特図高確期間、及び普図高確期間を終了させるための終了条件として、上述した大当たりＡ５と同一の終了条件（６０回目の特別図柄変動が停止表示された場合に成立する条件）が規定されている。つまり、大当たりＢ５は、大当たりＡ５に対して、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数（ラウンド数）のみを異ならせた大当たり種別となる。

【３１６５】

上述したとおり、本第５制御例では、普通図柄の低確率状態である通常状態においては、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが困難となるように構成していることから、通常状態中は左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させ、第１特別図柄抽選を実行させる左打ち遊技が実行されるように構成している。そして、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として大当たりＡ、或いは大当たりＢの何れかが設定されるように構成している。つまり、通常状態において主として実行される第１特別図柄抽選において大当たり当選した場合には、設定された大当たり種別に応じた異なるラウンド数の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に終了条件が同一の確変状態が設定されるように構成している。

【３１６６】

このように構成することで、何れの大当たり種別が設定された場合であっても、大当たり遊技が終了した後には同一条件の遊技を遊技者に行わせることができる。なお、本第５制御例では、第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に、大当たり遊技のラウンド数のみを異ならせた大当たり種別を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、設定される大当たり種別に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の種別を異ならせたり、同一の遊技状態に対して終了条件を異ならせたりするように構成しても良い。また、大当たり遊技の内容（ラウンド数等）と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の内容（遊技状態種別、終了条件）と、を異ならせて設定可能に構成しても良い。

【３１６７】

この場合、特別図柄の大当たり当選に基づいて遊技者に付与される第１特典（大当たり遊技）と、第２特典（普通図柄の高確率状態）と、の種別として、第１特典及び第２特典が最も遊技者に有利となる組合せに対応した大当たり種別から、第１特典及び第２特典が最も遊技者に不利となる組合せに対応した大当たり種別まで予め規定しておき、大当たり当選時にいずれかの大当たり種別が設定されるように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選した後に付与され得る特典の有利度合いを、設定される大当たり種別に基づいて大きく異ならせることができるため、遊技者に対して設定される大当たり種別に対して興味を持たせることができる。なお、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて付与される特典の有利度合いを大きく異ならせないようにするためには、例えば、有利度合いの低い第１特典と、有利度合いの高い第２特典と、を組み合わせた大当たり種別や、有利度合いの高い第１特典と、有利度合いの低い第２特典と、を組み合わせた大当たり種別、即ち、大当たり種別に対して規定されている第１特典と第２特典との有利度合いが共に高い、或いは共に低い大当たり種別以外の大当たり種別のみが予め規定されるように構成し、規定されている複数の大当たり種別の中かから何れか１の大当たり種別を設定するように構成すれば良い。

【３１６８】

「６Ｒ確変大当たり（大当たりＣ５）」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別である。そして、本第５制御例では、特別図柄の高確率状態が継続する期間（特図高確期間）と、普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）として、異なる期間を設定可能に構成しており、大当たりＣ５は、特図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６０回変動されて、６０回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定され、普図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が５６回変動されて、５６回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定される。

【３１６９】

つまり、大当たりＣ５は、特図高確期間を終了させるための終了条件（確変終了条件）と、普図高確期間を終了させるための終了条件（時短終了条件）とを異ならせて規定しており、確変終了条件が成立するよりも前に時短終了条件が成立するように構成されている。よって、大当たり種別として大当たりＣ５が設定された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、その確変状態中における５６回目の特別図柄変動が停止表示され

た場合に、特図高確期間よりも先に普図高確期間が終了し、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定される。そして、第２確変状態が設定されてから４回目（大当たり遊技が終了してから合計で６０回目）の特別図柄変動が停止表示された場合に時短終了条件が成立し、通常状態が設定されるように遊技状態が遷移する。

【３１７０】

ここで、確変状態が設定されている期間は、普通図柄の高確率状態が設定されていることから、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得し易い遊技状態であり、遊技者に対して右打ち遊技を行わせる遊技期間となるのに対して、第２確変状態が設定されている期間は、普通図柄の低確率状態が設定されていることから、通常状態と同様に特図２保留を獲得し難い遊技状態となる。よって、遊技者に対して左打ち遊技を行わせる遊技期間となる。つまり、確変状態から第２確変状態へと移行した場合には、確変状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が、第２確変状態中に実行されることになる。そして、本第５制御例では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選が優先して実行され、且つ、特図２保留を最大で４個まで記憶可能に構成していることから、特図２保留を上限数（４個）獲得した状態で確変状態から第２確変状態へと移行したとしても、第２確変状態が終了するまで（特図高確期間が終了するまで）の間に、４回の第２特別図柄抽選が実行されるため、第２確変状態から通常状態へと遊技状態が移行した時点において記憶されている特図２保留の数が０個となる。

【３１７１】

つまり、大当たり種別として大当たりＣが設定された場合には、大当たり遊技終了後に主として第２特別図柄抽選が実行される普図高確期間（確変状態）が設定されるが、普図高確期間中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を、通常状態にて実行させ難い遊技が実行されることになる。よって、同一内容の大当たり遊技が実行され、且つ、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される点で同一の大当たり種別である大当たりＢよりも、特図高確期間及び普図高確期間が終了し、通常状態が設定された状態における第２特別図柄抽選の実行のし易さの点で大当たりＢよりも不利な大当たり種別となる。

【３１７２】

なお、詳細な説明は後述するが、本第５制御例では、確変状態が終了し第２確変状態が設定された場合と、確変状態が終了し通常状態が設定された場合と、で同一の演出態様（引き戻しモード）が設定されるように構成している。つまり、確変状態が終了した後に、第２確変状態、或いは通常状態の何れの遊技状態が設定されているのかを遊技者に把握させ難くするように構成している。このように構成することで、普図高確期間が終了した後に実行される第２特別図柄抽選が通常状態中に実行されたものであるか、第２確変状態中に実行されたものであるかを遊技者に分かり難くすることができるため、実行された第２特別図柄抽選によって時短当選し得るか否か（時短抽選が実行されているか否か）を分かり難くすることができる。

【３１７３】

よって、第２確変状態が設定されている場合であっても、時短当選を期待させながら遊技を行わせることができる。

【３１７４】

なお、本第５制御例では、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されてから特図高確期間（特別図柄の高確率状態が継続する期間）よりも先に普図高確期間（普通図柄の高確率状態が継続する期間）が終了し、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）するように各終了条件が規定されている大当たり種別として大当たりＣ５を有しており、具体的には、大当たりＣ５には、確変状態中に獲得した特図２保留が第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）の間に、全て消費されるよう普図高確期間が終了してから特図高確期間が終了するまでの期間（第２確変状態が継続する期間）として、特別図柄変動が４回実行されるまでの期間を設定するように構成しているが、これに限ること無く、確変状態の後に設定される遊技状態（通常状態、第２確変状態等）に応じて、獲得済みの特図２保留に基づく特別図柄抽選（第

２特別図柄抽選）が実行される遊技状態を異ならせる構成。即ち、獲得済みの特図保留に基づいて特別図柄抽選が実行される遊技状態として、遊技者に有利となる有利遊技状態（通常状態）で実行され得る特別図柄抽選の実行回数を異ならせることが可能な構成を用いても良い。

【３１７５】

例えば、確変状態中に獲得した特図２保留の一部が第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）の間に消費され、残りの特図２保留が通常状態中に消費されるよう、例えば、普図高確期間の終了条件として特別図柄変動５８回、特図高確期間の終了条件として特別図柄変動６０回が規定される大当たり種別を設けても良い。この場合、確変状態中に上限数の特図２保留を獲得した状態で普図高確期間が終了し第２確変状態へと移行すると、第２確変状態中に特図２保留を２個消化し、残りの２個の特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を通常状態において実行させることができる。このように、確変状態が設定されて特図高確期間よりも先に普図高確期間が終了するように各終了条件を規定する場合には、各終了条件の差分を異ならせるだけで通常状態にて実行され得る第２特別図柄抽選の回数を異ならせることができる。

【３１７６】

また、本第５制御例では、第１特別図柄の保留記憶（特図１保留）と、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）と、を共に有している場合において、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選が優先して実行されるように構成しているため、上述した通り、確変状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が、特図１保留の有無（特図２保留よりも先に獲得している特図１保留の有無）に関わらず優先して実行され、特図２保留を獲得し易い遊技状態（普通図柄の高確率状態）が終了した場合、即ち、特図２保留を獲得し難い遊技状態（普通図柄の低確率状態）が設定された直後から特図２保留数が減少していくが、これに限ること無く、特図１保留に基づく第１特別図柄抽選と、特図２保留に基づく第２特別図柄抽選とを、各特図保留を獲得した順に応じて実行可能に構成しても良い。

【３１７７】

「６Ｒ確変大当たり（大当たりＤ５）」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別である。そして、本第５制御例では、特別図柄の高確率状態が継続する期間（特図高確期間）と、普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）として、異なる期間を設定可能に構成しており、大当たりＤ５は、特図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６０回変動されて、６０回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定され、普図高確期間として特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６５回変動されて、６５回目の特別図柄変動が停止するまでの期間が設定される。

【３１７８】

つまり、大当たりＤ５は、特図高確期間を終了させるための終了条件（確変終了条件）と、普図高確期間を終了させるための終了条件（時短終了条件）とを異ならせて規定しており、時短終了条件が成立するよりも前に確変終了条件が成立するように構成されている。よって、大当たり種別として大当たりＤ５が設定された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、その確変状態中における６０回目の特別図柄変動が停止表示された場合に、普図高確期間よりも先に特図高確期間が終了し、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される。そして、時短状態が設定されてから５回目（大当たり遊技が終了してから合計で６５回目）の特別図柄変動が停止表示された場合に時短終了条件が成立し、通常状態が設定されるように遊技状態が遷移する。

【３１７９】

ここで、時短状態が設定されている期間は、確変状態と同様に、普通図柄の高確率状態が設定されていることから、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得し易い遊技状態であり、遊技者に対して右打ち遊技を行わせる遊技期間となる。つまり、確変状態から時短状態へと移行した場合には、遊技者に対して継続して右打ち遊技を実行させ特図

２保留を獲得する遊技を行わせることになる。そして、本第５制御例では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選が優先して実行され、且つ、特図２保留を最大で４個まで記憶可能に構成していることから、特図２保留を上限数（４個）獲得した状態で時短状態から通常状態へと移行した時点において記憶されている特図２保留の数が４個となる。

【３１８０】

つまり、大当たり種別として大当たりＤ５が設定された場合には、大当たり遊技終了後に主として第２特別図柄抽選が実行される普図高確期間（確変状態）が設定され、大当たりＢ５と同様に普図高確期間中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を、通常状態にて実行させ易い遊技が実行されることになる。よって、同一内容の大当たり遊技が実行され、且つ、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、その後、特図高確期間及び普図高確期間が終了し、通常状態が設定された状態における第２特別図柄抽選の実行のし易さの点で大当たりＢ５と同等の有利度合いとなる。

【３１８１】

ここで、時短状態は、確変状態と比べて特別図柄抽選で大当たり当選する確率が低確率（１／３００）に設定されることから、時短状態は確変状態よりも特別図柄抽選で大当たり当選し難い遊技状態となる。よって、確変状態から通常状態へと移行する大当たりＢ５では、確変状態中に実行される特別図柄の最終変動期間中に、当該変動にて大当たり当選しているか否かを示すための演出（変動演出）と、確変状態中に特図２保留を上限数まで獲得させることを促すための案内報知（報知演出）と、を重複して実行する必要があり、異なる主旨の演出が重複して実行されることから遊技者に分かり難い演出が実行されてしまうという問題があった。

【３１８２】

これに対して、大当たりＤ５のように、確変状態から時短状態へと移行し、その後、時短状態から通常状態へと移行するように特図高確期間の終了条件と普図高確期間の終了条件とを規定した場合には、確変状態中に実行される特別図柄の最終変動期間中は、当該変動にて大当たり当選しているか否かを示すための演出（変動演出）のみを実行することが可能となるため、遊技者に対して、特別図柄の高確率状態中（特図高確期間中）に実行される特別図柄抽選、即ち、大当たり当選の期待度が高い特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動演出に遊技者を注視させ易くすることができる。そして、時短状態の最終変動において、特図２保留を上限数まで獲得させることを促すための案内報知（報知演出）を実行することで、大当たり当選の期待度が高い特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動演出が実行される期間と、普図高確期間中に特図２保留を上限数まで獲得させることを促すための報知演出が実行される期間とが重複し難くすることができる。

【３１８３】

よって、大当たりＤ５は、大当たりＢ５に対して、実行される演出の分かり易さの点で有利な大当たり種別となる。

【３１８４】

普通図柄の高確率状態中（普図高確期間中）は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常状態中（普通図柄の低確率状態）と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短状態中は、第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態となり、特別図柄抽選が行われる回数を増やすことができる。

【３１８５】

なお、時短状態中において、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常状態中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、時短状態中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放

する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、時短状態中において、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物６４０ａを開放する回数はせず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【３１８６】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口（入球口）６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示ユニット８０が配設されている。可変表示ユニット８０には、第１入球口６４及び第２入球口６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【３１８７】

第３図柄表示装置８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図２４２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図２４２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【３１８８】

第２図柄表示装置８３は、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【３１８９】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入球６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【３１９０】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選（第２図柄の変動表示回数）を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入球口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。なお、第２入球口６４０に球が入球することで、賞球として遊技者に４個の球が上皿１７に払い出されるので第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態となることで、遊技者の持ち球が減少することを抑制しながら遊技を行うことができ、追加で球を貸し出す為の投資を抑制させることができながら、特別図柄の抽選を時短期間中行わせることができる。

【３１９１】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物６４０ａ

の開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【３１９２】

普通図柄始動口（スルーゲート）６７は、可変表示ユニット８０の右側流路の領域において遊技盤に組み付けられ、遊技盤に発射された球のうち、遊技盤の左側を流下する球の一部が通過可能に構成されている。普通図柄始動口（スルーゲート）６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【３１９３】

球の普通図柄始動口（スルーゲート）６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【３１９４】

なお、第２図柄の変動表示は、本制御例のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、複数（例えば、２つ）であっても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け位置は可変表示ユニット８０の右方に限定されるものではなく、例えば、可変表示ユニット８０の左方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【３１９５】

可変表示ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入球口６４が配設されている。この第１入球口６４へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図２４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。なお、本実施形態では、普通図柄始動口（スルーゲート）６７を遊技球が通過した場合には、賞球は払いだされない構成としたが、それに限らず、例えば、１球等の所定数の賞球を払い出すように構成してもよい。

【３１９６】

また、第１入球口６４および第２入球口６４０は、それぞれ、球が入賞すると４個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。

【３１９７】

第２入球口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは開

閉可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが閉鎖状態となって、球が第２入球口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物６４０ａが開放状態となり、球が第２入球口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【３１９８】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、時短中は、通常時と比して、第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【３１９９】

ここで、第１入球口６４に球が入賞した場合と第２入球口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、第２入球口６４０へと遊技球が入球することで実行される第２特別図柄抽選では、特定の遊技状態（通常状態）において、大当たり当選以外の特典として時短状態を付与可能に構成している。つまり、第２特別図柄抽選の抽選結果として、大当たり当選以外（外れ）である場合の一部において、特別図柄変動が停止表示された後に、時短状態を設定する特典を付与可能に構成している。よって、第１入球口６４へと遊技球が入球したことを契機に実行される第１特別図柄抽選よりも、第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な特別図柄抽選を実行することになる。

【３２００】

つまり、第２特別図柄抽選を実行させ易くすることが可能となる普通図柄の高確率状態が設定されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【３２０１】

次に、図２３５から図２３９を参照して、本第５制御例のパチンコ機１０において第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第５制御例では、上述した第１制御例に対して、特別図柄抽選の抽選結果として、大当たり当選以外に時短当選を設けている点で大きく相違しており、ここでは、時短当選に関わる演出について主に説明をする。なお、上述した第１制御例と同一内容の要素（表示態様）については、その詳細な説明を省略する。

【３２０２】

図２３５（ａ）は、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技中に表示される表示画面の一例を示した図である。図２３５（ａ）に示した通り、大当たり遊技が実行されると、主表示領域Ｄｍにはウサギを模したキャラクタ８０１が表示され、遊技者に特典（大当たり遊技）が付与されていることを祝福する演出が実行される。大当たり遊技中は、主表示領域Ｄｍの右上に形成された小表示領域Ｄｍ１にて大当たり当選したことを示す第３図柄が継続して停止表示されており、図２３５（ａ）に示した例では、「７７７」の表示態様で第３図柄が停止表示されている。この小表示領域Ｄｍ１は、第１特別図柄に対応して変動表示される第３図柄が表示される領域であって、第１特別図柄が変動表示されている間は、第１特別図柄が変動表示されていることを示す表示態様で第３図柄が変動表示される。

【３２０３】

また、主表示領域Ｄｍ１の左側には、大当たり遊技中における遊技方法を遊技者に案内するための案内報知態様が表示される小表示領域Ｄｍ４と、現在のラウンド数（ラウンド遊技数）を遊技者に報知するためのラウンド数報知態様が表示される小表示領域Ｄｍ５と、通常状態を介さずに連続して実行された遊技において獲得した賞球数に対応する値を示すための獲得情報が表示される小表示領域Ｄｍ６と、が形成され、図２３５（ａ）に示した例では、小表示領域Ｄｍ４に「右打ち」、小表示領域Ｄｍ５に「２ラウンド」、小表示

領域Ｄｍ６に「１４０Ｐ」の文字が表示されている。
【３２０４】
つまり、大当たり遊技中は右打ち遊技を実行することを遊技者に案内し、現在大当たり遊技の２ラウンド目が実行されていることを報知し、今回の大当たり遊技にて獲得した賞球数が１４０個であることを示している。このように、大当たり遊技中であること、及び、大当たり遊技中の遊技方法や、獲得した特典に関する情報を表示可能に構成することで、遊技者に対して、分かり易い遊技を提供することができる。
【３２０５】
そして、大当たり遊技中のラウンド遊技が全て終了し、大当たり遊技のエンディング期間が設定されると、図２３５（ｂ）に示した通り、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を事前に遊技者に示唆するためのエンディング画面が表示される。図２３５（ｂ）は、大当たり遊技のエンディング画面に表示される表示画面の一例を示した図である。図２３５（ｂ）に示した例では、大当たり遊技終了後に確変状態に対応した演出（チャンスタイム）が設定されることと、そのチャンスタイムの期間が５６回（特別図柄変動５６回）であることが遊技者に報知される表示画面を示している。そして、主表示領域Ｄｍ１の中央部では、チャンスタイム中に実行される演出内容を事前に遊技者に報知するための表示態様として、左方向から右方向へとキャラクタ８０１が走り続ける表示態様が表示される。
【３２０６】
このように、実際に確変状態が設定されるよりも前（大当たり遊技中）の一部期間を用いて、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されること、設定された確変状態の継続期間、確変状態中に実行される演出内容の説明を遊技者に報知することにより、今後実行される遊技の内容を遊技者に事前に把握させることが可能となるため、遊技者に理解し易い遊技を提供することができる。
【３２０７】
次に、確変状態中に実行されるチャンスタイム演出の演出内容について、図２３６を参照して説明をする。図２３６（ａ）は、チャンスタイム中に表示される表示画面の一例を示した図であり、図２３６（ｂ）は、チャンスタイムの最終変動中に表示される表示画面の一例を示した図である。チャンスタイム中は、主表示領域Ｄｍ１にてキャラクタ８０１が走り続け、画面に表示されるＶアイコ８０１ｖをゲットすることで大当たり当選が報知される演出が実行される。上述した通り、確変状態中は、普通図柄の高確率状態が設定されるため、右打ち遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させ第２特別図柄抽選を実行させる遊技（右打ち遊技）が遊技者に有利な遊技方法となる。
【３２０８】
よって、小表示領域Ｄｍ４には、右打ち遊技を案内するための「右打ち」が表示される。そして、チャンスタイムが終了するまでの期間を示すための残期間報知態様が小表示領域Ｄｍ７に表示される。図２３６（ａ）では、チャンスタイムが終了するまでに実行可能な特別図柄変動の回数が残り５０回であることを示すための表示態様として「残り５０回」の文字が表示されている。
【３２０９】
ここで、チャンスタイムは確変状態に対応して実行される演出であり、チャンスタイムの終了タイミングは、確変状態が終了するタイミングのことである。ここで、本第５制御例では、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される確変大当たりの種別によって、確変状態が終了した後に、通常状態が設定される場合（大当たりＡ５，Ｂ５）と、第２確変状態が設定される場合（大当たりＣ５）と、時短状態が設定される場合（大当たりＤ５）と、がある。何れの大当たり種別が設定された場合であっても、確変状態が終了する特別図柄変動（確変状態における特別図柄最終変動）中は、図２３６（ｂ）に示したチャンスタイム終了時の演出画面が表示される。
【３２１０】
図２３６（ｂ）に示した例は、確変状態が終了した後に第２確変状態、或いは通常状態

、即ち、確変状態の終了に伴い、普通図柄の高確率状態から低確率状態へと移行する場合におけるチャンスタイム終了時の演出画面の一例を示したものであって、主表示領域Ｄｍ１には、普通図柄の低確率状態が設定されることを示すための「チャンスタイム終了後は引き戻しモード突入」のコメントが表示される。そして、普通図柄の高確率状態が継続している期間、即ち、特図２保留を獲得し易い期間中に特図２保留を上限まで獲得することを促す遊技案内態様として、副表示領域Ｄｓに「右打ちして保留を貯めてね」のコメントが表示されると共に、主表示領域Ｄｍの右下側に獲得済みの特図２保留数を示すため小表示領域Ｄｍ９が形成される。

【３２１１】

小表示領域Ｄｍ９には、獲得可能な特図２保留の上限数と、獲得済みの特図２保留数と、を遊技者に報知可能な保留アイコンが表示され、１個目の特図２保留に対応して第１保留アイコンｈ１、２個目の特図２保留に対応して第２保留アイコンｈ２、３個目の特図２保留に対応して第３保留アイコンｈ３、４個目の特図２保留に対応して第４保留アイコンｈ４が表示される。図２３６（ｂ）では、特図２保留を３個獲得している状態であるため、第１保留アイコンｈ１、第２保留アイコンｈ２、第３保留アイコンｈ３が獲得済みを示すための表示態様（図では黒色）で表示され、第４保留アイコンｈ４は未獲得であることを示すための表示態様（図では白色）で表示されている。これにより、特図２保留を上限まで獲得できたか否かを遊技者に分かり易く報知することができる。

【３２１２】

なお、詳細な説明は省略するが、小表示領域Ｄｍ９に表示される４つの保留アイコンが全て獲得済みとなった場合、即ち、確変状態における特別図柄最終変動中に上限数（４個）の特図２保留を獲得した場合には、これ以上右打ち遊技を継続しても新たな特図２保留を獲得できない点と、確変状態における特別図柄最終変動であることから、確変状態中に特図２保留が消化されない点と、から、これ以上右打ち遊技を継続しても遊技者に有利となる特典を付与することが出来ない状況となるため、小表示領域Ｄｍ９には、特図２保留を上限数獲得したことを示すための表示態様（例えば、「ＭＡＸ」）が表示されると共に、小表示領域Ｄｍ４に表示されている「右打ち」の文字を特図２保留を上限数獲得するよりも前の表示態様と異ならせ、右打ち遊技の必要性が低い表示態様（例えば、文字の大きさを小さくする）を表示するように構成している。これにより、遊技者に対して、無駄に右打ち遊技を継続させ難くすることができる。

【３２１３】

引き戻しモードとは、普通図柄の低確率状態（通常状態、第２確変状態）において第２特別図柄抽選が実行される期間に対応して設定される演出である。本第５制御例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において実行される第２特別図柄抽選にて時短当選し得るように構成している。つまり、引き戻しモード中は、大当たり当選だけで無く、時短当選の可能性がある特別図柄抽選が実行されるため、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される可能性を高めることができる。

【３２１４】

次に、図２３７を参照して、引き戻しモード中に実行される演出の内容について説明をする。図２３７（ａ）は、引き戻しモードの開始時に表示される表示画面の一例を示した図であり、図２３７（ｂ）は、引き戻しモード中に時短当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【３２１５】

引き戻しモードが設定されると、図２３７（ａ）に示した通り、獲得している特図２保留数に対応した数の宝箱８１０ａ～宝箱８１０ｄが表示され、第２特別図柄変動に合わせて宝箱を開放する演出が実行される。そして、対応する第２特別図柄の抽選結果を示すための表示態様が宝箱の中から出現する演出が実行される。

【３２１６】

引き戻しモードの開始時には、副表示領域Ｄｓに引き戻しモード中の演出内容を説明するための案内態様として「宝箱から「Ｖ」が出たら大当たり、「時」が出たら時短ゲット

」のコメントと、「宝箱を開けろ」のコメントが表示される。
【３２１７】
なお、本第５制御例では、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動の変動時間が、引き戻しモード中に実行された第２特別図柄変動回数に関わらず決定されるように構成されており、１回の第２特別図柄変動の変動期間に対して、１個の宝箱を開放する演出が実行されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、引き戻しモード中に実行される全ての第２特別図柄変動の変動時間を用いて１個の宝箱を開放する演出を実行可能に構成し、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動にて１個でも抽選結果が大当たりまたは時短当選している場合に、その抽選結果を示すための演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動の変動回数を遊技者に分かり難くすることができる。
【３２１８】
また、本第５制御例では、実際に時短抽選が実行される通常状態と、時短抽選が実行されない第２確変状態と、の何れの遊技状態が設定された場合にも、即ち、確変状態から普通図柄の低確率状態が設定される遊技状態（通常状態、第２確変状態）へと移行した場合に、引き戻しモードが設定されるように構成している。つまり、第２確変状態が設定されている場合の引き戻しモードでは、演出結果として宝箱から「時」が出現することが無い演出が実行されることになる。
【３２１９】
このように、時短抽選を実行可能な遊技状態と、時短抽選を実行不可能（し難い）遊技状態とで、同一の演出（引き戻しモード）を実行するように構成することで、引き戻しモードの演出結果として、時短当選を示す演出結果が表示され易い引き戻しモードと、表示されにくい引き戻しモードと、を予め設定することができる。この場合、今回設定された引き戻しモードが時短当選を示す演出結果が表示されやすい引き戻しモード（有利引き戻しモード）であるか、時短当選を示す演出結果が表示され難い引き戻しモード（不利引き戻しモード）であるかを、遊技者に示唆することが可能となる。
【３２２０】
本第５制御例では、引き戻しモード中に表示される背景の種別に応じて、今回実行される引き戻しモードが有利引き戻しモードであるか否かを遊技者に示唆可能に構成しており、図２３７（ａ）に示した表示画面には、有利引き戻しモードの可能性が高いことを示唆するための背景種別として「天国」を模した背景画像が表示されている。
【３２２１】
つまり、本第５制御例では、既に獲得済みの特図２保留に対応する特別図柄抽選の結果を先読みすること無く（事前判定すること無く）、設定されている遊技状態に応じて引き戻しモードの背景種別を決定可能に構成している。このように構成することで、どの背景種別の背景画像が表示されたとしても、時短当選、或いは、大当たり当選の可能性を残し易くすることができるため遊技者の遊技意欲を高めることができる。
【３２２２】
そして、引き戻しモード中に時短当選した場合には、図２３７（ｂ）に示した演出が実行される。図２３７（ｂ）は、引き戻しモード中における３回目の第２特別図柄抽選にて時短当選した場合に表示される表示内容の一例を示した図であり、既に２回の第２特別図柄変動が実行されたことを示すための履歴表示態様としてバツ印が付された宝箱８１０ａと、宝箱８１０ｂとが表示され、実行中の第２特別図柄変動（３回目の第２特別図柄変動）の抽選結果が時短当選であることを示す表示態様が宝箱８１０ｃの中から出現する演出が実行され、抽選結果が時短当選であり、付与される時短回数が「１００００回」、即ち、実質、次回大当たり当選するまで時短状態（普通図柄の高確率状態）が付与されることを示すための表示態様として「「時」×１００００」が表示される。また、主表示領域Ｄｍの右下側には、実行中の第２特別図柄変動も含めて、引き戻しモード中に実行されえる第２特別図柄抽選の残回数を分かり易く報知することができる。
【３２２３】

次に、引き戻しモード中に実行された第２特別図柄抽選で時短当選した場合に実行される演出の内容について説明をする。本第５制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合のほうが、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて確変状態が設定される場合に比べて普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）が長く設定され易く（普図高確期間が終了し難く）なるように構成している。具体的には、時短当選した場合の一部において、特別図柄変動の実行回数が大当たり当選すること無く１００００回に到達するまで普図高確期間が継続する時短状態（ロング時短）を設定可能に構成している。

【３２２４】

そして、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄抽選で時短当選し、ロング時短が設定された場合には、図２３８（ａ）に示した演出画面が表示される。図２３８（ａ）は、ロング時短が設定された場合に実行される延長タイム中の表示画面の一例を示した図である。ロング時短が設定された場合には、特別図柄変動の実行回数が１００００回に到達するよりも前に、特別図柄抽選で大当たり当選することが殆どであるため、図２３８（ａ）に示した通り、ロング時短が設定された場合には、普通図柄の高確率状態が継続する普図高確期間の残期間を示すための残期間報知態様として「無限（図では記号で表示）」が小表示領域Ｄｍ７に表示される。

【３２２５】

このように構成することで、遊技者に対して、普図高確期間の残期間を気にすること無く時短状態中の遊技を行わせることができると共に、小表示領域Ｄｍ７の表示領域として５桁の数字を表示可能な領域を設ける必要が無くなるなり、小表示領域Ｄｍ７を小さくすることができるため、主表示領域Ｄｍの表示領域を他の演出に有効に活用することができる。そして、副表示領域Ｄｓには、実質、次回の大当たり当選まで時短状態（普図高確期間）が継続することを遊技者に案内するための案内態様として「次の大当たりまで右打ちでサクサク消化だ」のコメントが表示される。

【３２２６】

ここで、ロング時短が設定された場合は、確率的に実質次回大当たり当選まで時短状態が継続するまで時短状態が継続することが殆どであるが、万が一、ロング時短が設定されてから大当たり当選すること無く特別図柄変動の回数が１００００回を超えた場合には、普図高確期間が終了してしまい、表示画面にて表示された内容と、実際の遊技内容とが異なり、遊技者に不信感を与えてしまうことになるため、ロング時短が設定されてから実行された特別図柄変動の実行回数が所定回数（例えば、９８５０回）を超えた場合には、ロング時短中の表示画面を異ならせるように構成している。

【３２２７】

図２３８（ｂ）は、ロング時短中において実行された特別図柄変動の実行回数が９９００回に到達した場合の表示画面の一例を示した図である。図２３８（ｂ）に示した通り、ロング時短が設定されてからの特別図柄変動回数が所定回数を超えた場合には、小表示領域Ｄｍ７に普図高確期間の残期間を示すための残期間報知態様として「残り１００回」が表示され、主表示領域Ｄｍには、キャラクタ８０１が疲れた表情で走る演出態様が表示される。このように構成することで、実質次回大当たりまで時短状態が継続し得る普図高確期間が設定された場合であっても、実際に普図高確期間が終了し得る状況が発生した場合には、具体的な残期間を遊技者に報知することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【３２２８】

次に、図２３９を参照して、チャンスタイム終了後に時短状態が設定される場合の演出内容について説明をする。図２３９は、チャンスタイム終了後に時短状態中に実行される準備タイムの演出画面の一例を示した図である。上述した通り、確変大当たりの種別として、大当たりＤ５が設定された場合には、確変状態から時短状態へと移行し、時短状態から通常状態へと遊技状態が移行する。そして、時短状態中は準備タイム演出が実行される。この準備タイムは、時短状態が設定されている期間、実行される演出であって、時短状態における特別図柄最終変動の期間中には、上述した図２３６（ｂ）に示した確変状態に

おける特別図柄最終変動と同様に特図２保留を上限まで獲得することを促す態様が表示される。

【３２２９】

次に、引き戻しモード中に表示される背景種別の内容について、図２４０（ａ）を参照して説明をする。図２４０（ａ）は、引き戻しモード中に表示される背景種別と、各背景が示す内容との関係性を示す図である。

【３２３０】

図２４０（ａ）に示した通り、本第５制御例では、引き戻しモード中の背景種別として４つの背景（天国、夜、夕、昼）を表示可能に構成している。そして、表示された背景の種別に応じて今回の引き戻しモード中における特典（大当たり、時短当選）の期待度を遊技者に示唆可能に構成している。

【３２３１】

詳細な説明は図２５０を参照して後述するが、本第５制御例では、引き戻しモードを設定する場合（確変状態から第２確変状態、或いは通常状態へと移行する場合）に、獲得済みの特図２保留数と、移行後の遊技状態の種別と、保留内の大当たり当選、時短当選の有無と、に基づいて４つのモード種別の中から１のモード種別を決定可能に構成し、決定されたモード種別に対応させた背景種別を引き戻しモード中の背景として表示可能に構成している。

【３２３２】

引き戻しモード中のモード種別は、特典付与の期待度が異なるように規定されており、遊技者に最も有利なモードＡから、遊技者に最も不利なモードＤまでの４つのモード種別を有している。「モードＡ」は、引き戻しモード中に大当たり当選または時短当選の可能性が極めて高いモードであって、対応する背景種別として「天国」が規定されている。つまり、引き戻しモード中の背景として、天国を模した背景が表示された場合には、引き戻しモードが終了するまでに、何らかの特典が付与される可能性が高い状態であることを遊技者に理解させ易くすることができる。次いで、「モードＢ」は、引き戻しモード中に大当たり当選または時短当選の可能性が２番目に高いモードであって、対応する背景種別として「夜」が規定されている。つまり、引き戻しモード中の背景として、夜を模した背景が表示された場合には、引き戻しモードが終了するまでに、何らかの特典が付与される可能性が２番目に高い状態であることを遊技者に理解させ易くすることができる。「モードＣ」は、引き戻しモード中に大当たり当選または時短当選の可能性が３番目に高いモードであって、対応する背景種別として「夕」が規定されている。つまり、引き戻しモード中の背景として、夕方を模した背景が表示された場合には、引き戻しモードが終了するまでに、何らかの特典が付与される可能性が若干高い状態であることを遊技者に理解させ易くすることができる。最後に「モードＤ」は、引き戻しモード中に大当たり当選または時短当選の可能性が低いモードであって、対応する背景種別として「昼」が規定されている。つまり、引き戻しモード中の背景として、昼を模した背景が表示された場合には、引き戻しモードが終了するまでに、何らかの特典が付与される可能性が低い状態であることを遊技者に理解させ易くすることができる。

【３２３３】

なお、本第５制御例では、引き戻しモード突入時における特図２保留数が上限数では無い場合には、高モードのモード種別が選択されないように構成している。さらに、引き戻しモード突入時における特図２保留数が上限数では無い場合には、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄抽選にて時短抽選が実行されるか否かを判別すること無くモード種別を決定するように構成している。つまり、引き戻しモードのモード種別を予測し易くするためには、特図２保留数を上限数獲得した状態で引き戻しモードへと移行する必要がある。

【３２３４】

このように構成することで、確変状態、或いは時短状態が設定されている状態において特図２保留を上限数まで獲得しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【３２３５】
次に、図２４０（ｂ）を参照して、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動の抽選結果を示すための示唆態様について説明をする。図２４０（ｂ）は、引き戻しモード中の示唆態様の種別と、各示唆態様が示す示唆内容との関係性を示した図である、図２４０（ｂ）に示した通り、引き戻しモード中の示唆態様としては、後述する示唆態様選択テーブル２２２ｄｂ（図２５１参照）を参照して、宝箱（図２３７参照）の表示態様を可変させたり、宝箱を開放するまでの間にキャラクタ８０１の表示態様を可変させたりする示唆態様（示唆Ａ～示唆Ｄ）が設定される。
【３２３６】
具体的には、当該変動における大当たり当選、或いは時短当選の期待度に応じて示唆種別として「示唆Ａ」，「示唆Ｂ」を設定可能に構成され、設定されている遊技状態に応じて示唆種別として「示唆Ｃ」，「示唆Ｄ」を設定可能に構成されている。
【３２３７】
「示唆Ａ」が選択された場合には、引き戻しモード中（図２３７（ｂ）参照）において表示される宝箱８１０ｃの表示態様として、通常とは異なる色（金色）の宝箱が表示される。この「示唆Ａ」に対応する金色の宝箱が表示された場合は、当該変動で大当たり当選、又は時短当選している可能性が高いことを遊技者に示唆することになる。「示唆Ｂ」が選択された場合には、引き戻しモード中（図２３７（ｂ）参照）において表示される宝箱８１０ｃの表示態様として、通常よりも大きな宝箱が表示される。この「示唆Ｂ」に対応する金色の宝箱が表示された場合は、当該変動で大当たり当選、又は時短当選している可能性が高いことを遊技者に示唆することになる。なお、「示唆Ａ」が選択されたほうが「示唆Ｂ」が選択された場合よりも大当たり又は時短当選している可能性が高くなるように構成している。
【３２３８】
「示唆Ｃ」、及び「示唆Ｄ」が選択された場合には、引き戻しモード中（図２３７（ｂ）参照）において表示されるキャラクタ８０１が装飾品を備えた表示態様が表示され、通常とは異なる態様でキャラクタ８０１が表示される。そして表示される装飾品の種別に応じて現在設定されている遊技状態を遊技者に示唆される。
【３２３９】
「示唆Ｃ」が選択された場合には、図２３７（ｂ）に示した通り、キャラクタ８０１に天使の輪を模した装飾品８０１ｗが表示され、現在設定されている遊技状態が通常状態である可能性が高いことを遊技者に示唆し、「示唆Ｄ」が選択された場合には、キャラクタ８０１の頭上にチャンスの文字を模したアイコンが表示されることで遊技状態が通常状態である可能性が高いことを遊技者に示唆する。なお、「示唆Ｃ」が選択されたほうが「示唆Ｄ」が選択された場合よりも通常状態が設定されている可能性が高くなるように構成している。
【３２４０】
このように、本第５制御例では、引き戻しモードが設定される時点における遊技状況に応じて引き戻しモードのモード種別が決定され、且つ、引き戻しモード中に実行される特別図柄変動に対して示唆態様が決定されるように構成している。そしてモード種別と示唆態様の種別とを複合的に判別することにより現在の遊技状況を遊技者により正確に予測させることが可能となる。よって、遊技者に対して実行されている様々な演出の態様に興味を持たせることができる。
【３２４１】
＜第５制御例におけるゲームフローについて＞
次に、図２４１を参照して、本第５制御例におけるゲームフローについて説明をする。図２４１は、本第５制御例におけるゲームフロー、即ち、遊技状態の移行の流れを模式的に示した図である。図２４１に示した通り、本第５制御例では、遊技状態として、通常状態（特図１通常、特図２通常）、時短状態（第１時短、第２時短）、確変状態、第２確変状態の遊技状態を設定可能に構成しており、特別図柄抽選における大当たり判定の結果、

及び、時短当選判定の結果に応じて様々な遊技状態を設定可能に構成している。

【３２４２】

＜第５制御例における電気的構成について＞

次に、図２４２から図２５１を参照して、本第５制御例における電気的構成について説明をする。図２４２は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。なお、本第５制御例における電気的構成のうち、上述した第１制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成（図１３７参照）と同一の内容については、その説明を一部省略する。

【３２４３】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【３２４４】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【３２４５】

主制御装置１１０では、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。そして、ＲＡＭ２０３には、これらの処理を制御するための各種カウンタが設けられている。ここで、図２４３を参照して、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等について説明する。図２４３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等を模式的に示した模式図である。これらのカウンタ等は、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定などを行うために、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１で使用される。

【３２４６】

特別図柄の抽選や、第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１の表示の設定には、特別図柄の抽選に使用する第１当たり乱数カウンタＣ１と、特別図柄の大当たり種別を選択するために使用する第１当たり種別カウンタＣ２と、特別図柄における外れの停止種別を選択するために使用する停止種別選択カウンタ（Ｃ３）と、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と、変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、時短当選時における時短種別を選択するために使用する時短種別選択カウンタＣＣ１が用いられる。

【３２４７】

また、普通図柄の抽選には、第２当たり乱数カウンタＣ４が用いられ、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値設定には第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２と、普通図柄の変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。これら各カウンタは、更新の都度、前回値に１が加算され、最大値に達した後０に戻るループカウンタとなっている。

【３２４８】

各カウンタは、例えば、タイマ割込処理（図１５６参照）の実行間隔である２ミリ秒間隔で更新され、また、一部のカウンタは、メイン処理（図１６７参照）の中で不定期に更新されて、その更新値がＲＡＭ２０３の所定領域に設定されたカウンタ用バッファに適宜

格納される。ＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第１球口６４への入球に対応する第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａと、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第２入球口６４０への入球に対応する第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂと、が設けられており、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａには、第１入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び変動種別カウンタＣＳ１時短種別選択カウンタＣＣ１の各値がそれぞれ格納され、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂには、第２入球口６４０への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び、変動種別カウンタＣＳ１、時短種別選択カウンタＣＣ１の各値が格納される。

【３２４９】

そして、特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの保留第１エリアに格納されている各種値、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されている各種値のうち、次に抽選が実行される特別図柄種別に対応する特別図柄の情報を有している各種値を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始される。

【３２５０】

なお、本制御例では、特別図柄の種別が２種類（第１特別図柄、第２特別図柄）の構成を用いているが、これに限ること無く、特別図柄の種別を１種類としても良い。そして、第１特別図柄の始動条件（変動条件）、或いは、第２特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、対応する特別図柄種別の特別図柄保留球格納エリアの保留第１エリアに格納されている各種値を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始されるように構成すれば良い。このように構成することで、複数の特別図柄種別を用いたパチンコ機１０であっても、各々の特別図柄変動を円滑に実行することができる。

【３２５１】

さらに、本制御例のように、複数の特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）を有するパチンコ機１０であれば、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成しても良く、この場合、各特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）がそれぞれ特別図柄実行エリアを有するように構成すれば良い。これにより、各特別図柄の始動条件が成立した場合に、速やかに次の特別図柄変動を実行させることができる。

【３２５２】

また、本第５制御例では、特別図柄の抽選結果として、大当たり当選しなかった場合に時短当選し得るように、大当たり当選の判定値と、時短当選の判定値と、を異ならせているが、これに限ること無く、大当たり当選の判定値と時短当選の判定値との少なくとも一部を重複させるように構成しても良い。このように構成することで、取得した判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）によって、大当たり当選のみ、時短当選のみ、大当たり当選と時短当選の重複当選の抽選結果を遊技者に提供することができる。この場合、重複当選した場合のほうが、何れか一方に当選した場合よりも遊技者に有利な特典が付与されるように構成すると良く、例えば、重複当選したことに基づいて設定される時短状態を、他の当選に基づいて設定される時短状態よりも終了させ難くするように構成すると良い。

【３２５３】

このように構成することで、遊技者に対して重複当選することを期待させながら遊技を行わせることができる。

【３２５４】

また、本制御例では、特別図柄の抽選結果が大当たりと外れに加え、特別図柄の抽選結果が外れである場合の一部において、当たり遊技を実行すること無く時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定可能となるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の抽選結果が外れである場合の一部において、大当たり当選時よりも少ない特典

（大当たり当選時とは異なる特典）を遊技者に付与可能な小当たりに当選し得るように構成しても良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合であっても、遊技者に特典を付与する機会を設けることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。この場合、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に、小当たり種別カウンタを設け、取得した小当たり種別カウンタの値を特別図柄保留球格納エリアに格納可能に構成し、特別図柄の抽選を実行する場合に参照するように構成すれば良い。

【３２５５】

加えて、特別図柄抽選で小当たり当選可能に構成した場合には、例えば、大当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、小当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、を異ならせるように構成しても良く、例えば、大当たり当選した場合は、大当たり遊技の開始時に遊技状態を通常状態へと移行させ、さらに、設定された大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に新たな遊技状態を設定可能に構成し、小当たり当選した場合は、小当たり当選時の遊技状態を維持したまま小当たり遊技を実行し、その小当たり遊技終了後も遊技状態を移行させないように構成しても良い。

【３２５６】

このように構成することで、当選した当たり種別（大当たり、小当たり）に応じて、遊技状態の移行の有無や、移行内容を異ならせることができるため、バリエーションに富んだ遊技を提供することができる。また、１の特別図柄抽選の抽選結果として、大当たり当選、小当たり当選、時短当選、外れの４つの抽選結果に当選可能に構成しても良いし、特別図柄種別に応じて、特別図柄抽選で当選し得る特典を異ならせるように構成しても良い。

【３２５７】

この場合、例えば、第１特別図柄抽選が実行された場合に付与され得る特典として、大当たり当選と、時短当選と、を規定し、第２特別図柄抽選が実行された場合に付与され得る特典として、大当たり当選と、小当たり当選と、を規定するように構成し、且つ、同一の遊技状態が設定されている場合に、遊技者が遊技球を発射させる方向を選択することで（左打ち遊技、右打ち遊技を選択することで）、実行される特別図柄抽選の種別を選択可能に構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して、大当たり当選以外の特典（付加特典）の種別を選択させることが可能となる。

【３２５８】

さらに、本実施形態のＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１エリア）からなるスルーゲート６７への入球（球の通過）に対応する普通図柄保留球格納エリア２０３ｂが設けられており、普通図柄保留球格納エリア２０３ｂには、スルーゲート６７への入球タイミングに合わせて、第２当たり乱数カウンタＣ４、及び普図変動種別カウンタＣＳ２の各値がそれぞれ格納される。

【３２５９】

そして、普通図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されている各種値を普通図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた普通図柄変動が開始される。

【３２６０】

次に、図２４３を参照して、各カウンタについて詳しく説明する。第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～８９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～８９９の値を取り得るカウンタの場合は８９９）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【３２６１】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～８９９の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウン

タＣＩＮＩ１もまた、０～８９９の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、主制御装置１１０のタイマ割込処理の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理（図１６７参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【３２６２】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。また、特別図柄抽選で時短当選となる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄａによって設定された時短当選となる乱数の値と一致する場合に、時短当選と判定する。

【３２６３】

ここで、図２４５（ａ）を参照して、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａについて説明する。図２４５（ａ）は、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａに規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａは、特別図柄の抽選において、大当たりと判別される乱数値（判定値）が規定されたテーブルである。

【３２６４】

具体的には、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａには、大当たりと判定される判定値を遊技状態（特別図柄の確率状態）に応じて異ならせて規定している。図２４５（ａ）に示した通り、遊技状態として特別図柄の低確率状態（通常状態、時短状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～２」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「３～８９９」）が外れの判定値として規定されている。また、遊技状態として特別図柄の高確率状態（確変状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～１４」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「１５～８９９」）が外れの判定値として規定されている。つまり、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａの更新範囲は「０～８９９」の９００個であるため、特別図柄の低確率状態において、大当たりと判定される確率は１／３００（９００個のうち３個）となり、特別図柄の高確率状態において、大当たりと判定される確率は１／６０（９００個のうち１５個）となる。

【３２６５】

なお、本制御例では、２種類の大当たり確率が遊技状態に応じて設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たりに当選する確率を遊技状態に関わらず同一の確率となるように構成しても良いし、３種類以上の大当たり確率が設定されるように構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄の状態と、普通図柄の状態と、を組み合わせることによって設定される最大で４種類の遊技状態毎に特別図柄の大当たり確率を異ならせるように構成しても良いし、単純に、特別図柄の状態を高確率状態、通常確率状態、低確率状態のように３種類以上設定可能にし、各状態に対して異なる大当たり確率を設定するように構成しても良い。

【３２６６】

また、本制御例では、特別図柄の抽選結果として、「大当たり」と「外れ」の２種類の抽選結果に加え「時短当選」が判定されるように構成している。ここで、図２４５（ｃ）を参照して、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅについて説明する。図２４５（ａ）は、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。この時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅは、特別図柄の抽選において、時短当選と判別される乱数値（判定値）が規定されたテーブルである。

【３２６７】
具体的には、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅには、時短当選と判定される判定値を特別図柄種別、及び遊技状態に応じて異ならせて規定している。図２４５（ａ）に示した通り、特別図柄種別として第１特別図柄に対しては、時短当選に対応する判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が規定されていない。また、特別図柄種別として第２特別図柄に対しては、遊技状態が通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）である場合のみ時短当選に対応する判定値が規定されており、それ以外の遊技状態（確変状態、第２確変状態、時短状態）である場合には、時短当選に対応する判定値が規定されていない。
【３２６８】
遊技状態として通常状態が設定されている場合に実行される第２特別図柄抽選に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「５１～２００」が時短当選判定値として規定されており、それ以外の値（「３～５０，２０１～８９９」）が外れの判定値として規定されている。なお、詳細な説明は後述するが、この時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅは、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａを参照して実行された大当たり判定の結果が「外れ」であった場合に参照されるものであるため、通常状態において実行される第２特別図柄抽選の抽選結果が大当たりと判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（「０～２」）以外の値を取得している場合に参照されることになる。
【３２６９】
よって、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａの更新範囲は「０～８９９」の９００個であるため、特別図柄の低確率状態において、大当たりと判定される確率は１／３００（９００個のうち３個）となり、時短当選と判定される確率は１／６（９００個のうち１５０個）となる。
【３２７０】
つまり、通常状態において実行される第２特別図柄抽選は、大当たり当選する確率が３／９００、時短当選する確率が１５０／９００、外れ確率が７４７／９００となり、通常状態において実行される第１特別図柄抽選（外れ確率８９７／９００）に対して、外れ当選し難い（特典が付与され易い）特別図柄抽選となる。
【３２７１】
なお、本制御例では、特定の遊技状態（通常状態）であり、且つ、特定の特別図柄種別（第２特別図柄）の特別図柄抽選でのみ時短当選の判定を実行するように構成しているが、これに限ること無く、何れの特別図柄種別に対しても時短当選の判定を実行可能に構成しても良い。さらに、通常状態以外の遊技状態が設定されている場合でも時短当選の判定を実行可能に構成しても良く、例えば、普通図柄の低確率状態（第２確変状態）が設定されている状態で実行される第２特別図柄抽選においても時短当選の判定を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、引き戻しモード（図２３７参照）中に実行される第２特別図柄抽選では必ず時短当選の判定（時短抽選）を実行させることができる。
【３２７２】
この場合、通常状態中に実行される時短抽選と、第２確変状態中に実行される時短抽選と、で時短当選と判定される確率（時短当選確率）を異ならせると良く、例えば、通常状態が設定されている場合のほうが、第２確変状態が設定されている場合よりも時短当選し易くなるように構成すると良い。このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が第２確変状態（特別図柄の高確率状態）よりも低い通常状態（特別図柄の低確率状態）において、時短当選確率を高めることができるため、遊技者に過剰に不利な遊技を実行させてしまうことを抑制することができる。
【３２７３】
なお、これに限ること無く、通常状態よりも第２確変状態のほうが、時短当選確率を高めるように構成しても良い。この場合、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が高確率に設定されている遊技状態（特別図柄の高確率状態）において、時短当選する確率も高めることができるため、確変状態中に実行される特別図柄抽選よりも、第２確変状態中に実行

される特別図柄抽選のほうが、何らかの特典（大当たり、時短）が付与される抽選結果となる確率（外れに当選しない確率）を高めることができる。

【３２７４】

さらに、本第５制御例では、特定の遊技状態であり、且つ、特定の特別図柄抽選が実行される場合にのみ時短抽選を実行可能に構成しているため、時短当選確率は常に固定されているが、異なる条件下（特別図柄種別、遊技状態）において時短抽選が実行されるように構成した場合には、時短抽選の成立契機に合わせて時短当選確率を異ならせるように構成しても良い。

【３２７５】

また、時短抽選の成立契機だけでは無く、例えば、遊技状態が可変されること無く実行された特別図柄変動の変動回数が所定回数を超えた場合に、時短当選確率を高めるように構成しても良い。

【３２７６】

これに加えて、第３の抽選結果として、「外れ」の１種として「小当たり」を判定可能に構成しても良い。この「小当たり」に当選した場合には、可変入賞装置６５０を「大当たり５」よりも短い期間（１ラウンド分）開放させる小当たり遊技が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合において、少量の特典（賞球）を遊技者に付与することができる。なお、「小当たり」を「外れ」の１種とする場合には、遊技者に対して小当たり遊技による賞球を付与可能であるが、大当たり当選していないため、遊技状態を可変させる（当選時の遊技状態とは異なる遊技状態を設定する）処理が実行されないように構成すると良い。これにより、大当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、小当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、を明確に異ならせることができる。

【３２７７】

また、本制御例では、特別図柄の抽選結果として、「大当たり」と「外れ」と「時短当選」の３種類の抽選結果が判定されるように構成しているが、これに加えて、第４の抽選結果として、「外れ」の１種として「小当たり」を判定可能に構成しても良い。この「小当たり」に当選した場合には、可変入賞装置６５０を「大当たり」よりも短い期間（１ラウンド分）開放させる小当たり遊技が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合において、少量の特典（賞球）を遊技者に付与することができる。なお、「小当たり」を「外れ」の１種とする場合には、遊技者に対して小当たり遊技による賞球を付与可能であるが、大当たり当選していないため、遊技状態を可変させる（当選時の遊技状態とは異なる遊技状態を設定する）処理が実行されないように構成すると良い。これにより、大当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、小当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、を明確に異ならせることができる。

【３２７８】

上述した通り、特別図柄の抽選結果として「小当たり」に当選し得るように構成する場合は、第１当たり乱数テーブル２０２ａに「小当たり」に対応する第１当たり乱数カウンタＣ１の値を規定するように構成すれば良い。このように構成することで、特別図柄の大当たり抽選と小当たり抽選と、を同一の処理で実行することができるため、大当たり抽選と小当たり抽選とを異なる処理で実行する場合に比べ、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、１つの特別図柄抽選において、大当たりと小当たりとに重複して当選してしまうことを禁止することができる。

【３２７９】

第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄の大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０

へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。

【３２８０】

本実施形態のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本実施形態では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、第１当たり種別選択５テーブル２０２ｄｃを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判別するように構成している。ここで、図２４６（ａ）を参照して大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄの内容について説明をする。

【３２８１】

図２４６（ａ）は、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図２４６（ａ）に示した通り、この大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄは、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図１大当たり用５テーブル２０２ｄｄ１と、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図２大当たり用５テーブル２０２ｄｄ２と、を有している。

【３２８２】

まず、図２４６（ｂ）を参照して、特図１大当たり用５テーブル２０２ｄｄ１の内容について説明をする。図２４６（ｂ）は、特図１大当たり用５テーブル２０２ｄｄ１に規定されている内容を示した模式図である。上述した通り、この特図１大当たり用５テーブル２０２ｄｄ１は、第１特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に設定する大当たり種別を選択するためのデータテーブルであって、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて異なる大当たり種別が規定されているものである。なお、各データテーブルに規定されている詳細な内容については上述したため省略する。

【３２８３】

図２４３に戻り説明を続ける。変動種別カウンタＣＳ１は、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり１９８）に達した後０に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳ１によって、いわゆる短時間外れ、長時間外れ、ノーマルリーチ、スーパーリーチ等の大まかな表示態様（変動時間）が決定される。表示態様の決定は、具体的には、図柄変動の変動時間の決定である。変動種別カウンタＣＳ１により決定された変動時間に基づいて、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４により第３図柄表示装置８１で表示される第３図柄のリーチ種別や細かな図柄変動態様が決定される。変動種別カウンタＣＳ１の値は、後述するメイン処理（図１６７参照）が１回実行される毎に１回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でも繰り返し更新される。尚、変動種別カウンタＣＳ１の値（乱数値）から、図柄変動の変動時間を一つ決定する乱数値を格納した変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂ（図２４７参照）は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。

【３２８４】

ここで、図２４７を参照して変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂの内容について説明をする。図２４７（ａ）は変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図２４７（ａ）に示した通り、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂには、遊技状態として通常状態、或いは第２確変状態を設定している状態で用いられる通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１と、確変状態、或いは時短状態を設定している状態で用いられる確変・時短用５テーブル２０２ｄｂ２と、が規定されている。詳細については後述するが、本制御例では遊技状態に応じて変動パターンを選択するために用いるデータテーブルを異ならせているため、遊技状態に応じて選択される変動パターン（変動時間）を異ならせることができる。

【３２８５】

次に、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂに規定されている各テーブルの詳細な内容について、図２４７（ｂ）及び図２４８（ａ）を参照して説明をする。図２４７（ｂ）は通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１に規定されている内容を模式図に示した模式図である。この通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１は、遊技状態として通常状態、

或いは第２確変状態、即ち、普通図柄の低確率状態が設定されている場合に参照されるデータテーブルであって、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合のほうが、外れである場合よりも長い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように規定しており、抽選が実行された特別図柄の種別と、実行された特別図柄抽選の結果に応じて異なる変動パターンが規定されている。また、特別図柄の抽選結果が時短当選（外れの一部）である場合には、特別図柄の抽選結果が外れ（時短当選以外）である場合よりも、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合と同一の変動時間が選択され易くなるように規定している。

【３２８６】

まず、図２４７（ｂ）を参照して、通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１について説明する。図２４７（ｂ）は、この通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１の規定内容を示した図である。この通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１には、特別図柄の抽選結果に対応させて、各種変動パターンがそれぞれ規定されており、その変動パターンのそれぞれに対して、変動種別カウンタＣＳ１の値が割り付けされている。具体的には、特別図柄の種別（図柄種別）が第１特別図柄（特図１）で、当否判定結果が大当たりであって、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のノーマル（リーチ）が規定されている。このノーマルが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間を示すコマンドが出力される。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「２０～１６９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパー（リーチ）が規定されている。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１７０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が５５秒のＳＰ（リーチ）が規定されている。つまり、変動時間が３０秒と同一であっても、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に応じて、異なる変動パターンを選択可能に構成している。このように主制御装置１１０にて同一の変動時間に対して異なる変動パターンを選択可能に構成することで、変動パターンを示すコマンドを受信した音声ランプ制御装置１１３側にて変動演出を決定するための処理を簡略化することができる。

【３２８７】

なお、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に応じて基本時間に加え、加算時間を付加可能に構成しても良く、加算時間を付加可能に構成した場合には、基本時間と加算時間とを合算した合算時間を変動時間として設定し、その基本時間を示すコマンドと、加算時間を示すコマンドと、を出力するように構成する。この場合、付加される加算時間を決定する際に、変動種別選択カウンタＣＳ１の値を用いても良いし、加算時間を選択するために用いる専用のカウンタの値を取得するように構成しても良い。そして選択された基本時間（例えば、３０秒）を示すコマンド（基本コマンド）と、加算時間を示すコマンド（加算コマンド）と、が音声ランプ制御装置１１３に対して通知された場合には、基本コマンドに含まれる情報に基づいて変動パターン（ノーマルリーチ）を設定し、加算コマンドに含まれる情報に基づいてリーチ図柄（第３図柄の種別）を設定するように構成すると良い。これにより、リーチ状態となった場合に最初に遊技者が視認可能となる中図柄列Ｚ２の第３図柄の種別を、常に特定の第３図柄（本制御例では数字の１を付した第３図柄）となるように構成したとしても、変動演出が実行されてからリーチ状態となるまでの期間を可変させること無く、様々な第３図柄の種別でリーチ演出を実行することができる。

【３２８８】

また、図柄種別が特図１で、当否判定結果が外れの場合についても同様に、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」の場合は、変動パターンとして変動時間が８秒の外れが規定されており、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のリーチ外れが規定されている。

【３２８９】

一方、特別図柄の種別（図柄種別）が第２特別図柄（特図２）である場合は、当否判定結果が大当たりであって、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパー（リーチ）が規定されている。

このスーパーが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間を示すコマンドが出力される。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が５５秒のＳＰ（リーチ）が規定されている。

【３２９０】

当否判定結果が外れ（時短）、即ち、当否判定結果が時短当選であって、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１６９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパー（リーチ）が規定されている。このスーパーが決定されると、変動パターンコマンドとして、基本時間が３０秒間を示すコマンドが出力される。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「１７０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が５５秒のＳＰ（リーチ）が規定されている。

【３２９１】

当否判定結果が外れであって、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１９」の場合は、変動パターンとして変動時間が３０秒のリーチ外れが規定されている。また、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「２０～１９８」の場合は、変動パターンとして変動時間が８秒の外れが規定されている。

【３２９２】

次に、図２４８（ａ）を参照して、確変・時短用５テーブル２０２ｄｂ２の内容について説明をする。図２４８（ａ）は、確変・時短用５テーブル２０２ｄｂ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この確変・時短用５テーブル２０２ｄｂ２は、確変状態、或いは時短状態が設定されている場合において変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルであって、設定されている遊技状態と、特別図柄の種別と、変動回数（大当たり遊技終了後からの特別図柄変動回数）と、特別図柄の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に応じて異なる変動パターンが選択されるように各変動パターンが規定されている。

【３２９３】

ここで、本第５制御例では、大当たり遊技終了後には必ず普通図柄の高確率状態（確変状態）が設定されるように構成されている。そして、設定された普通図柄の高確率状態が、時短終了条件が成立するまで継続するように構成している。本第５制御例では、時短終了条件として、普通図柄の高確率状態が設定されてからの特別図柄変動の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行された特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に成立する第２時短終了条件と、を設けており、何れかの時短終了条件が成立した場合に、普通図柄の高確率状態から普通図柄の低確率状態へと移行するように構成している。

【３２９４】

そして、大当たり種別に応じて第１時短終了条件として設定される特別図柄変動の実行回数（時短回数）を異ならせており、例えば、大当たり種別として大当たりＡ５、Ｂ５が設定された場合には特別図柄変動の実行回数が６０回に到達した場合に第１時短終了条件が成立し（時短回数６０回）、大当たりＣ５が設定された場合には特別図柄変動の実行回数が５６回に到達した場合に第１時短終了条件が成立し（時短回数５６回）、大当たりＤ５が設定された場合には特別図柄変動の実行回数が６５回に到達した場合に第１時短終了条件が成立（時短回数６５回）するように構成している。

【３２９５】

加えて、本第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった場合（外れの場合）の一部において、時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定可能（時短当選可能）に構成しており、時短当選した場合に設定される時短種別によって、第１時短終了条件を異ならせている。例えば、時短種別として時短Ａが設定された場合には、特別図柄変動の実行回数が１００００回に到達した場合に第１時短終了条件が成立（時短回数１００００回）し、時短Ｂが設定された場合には、特別図柄変動の実行回数が１００回に到達した場合に第１時短終了条件が成立（時短回数１００回）するように構成している。

【３２９６】
そして、普通図柄の高確率状態が設定されている場合であっても、遊技状態、及び、時短種別に応じて異なる変動パターンが選択されるように構成している。このように構成することで、設定されている遊技状態や時短種別に対応させた変動演出を実行させ易くすることができる。
【３２９７】
具体的には、図２４８（ａ）に示した通り、時短種別が「大当たり後時短」、即ち、大当たり当選に基づいて普通図柄の高確率状態が設定された場合は、特別図柄変動回数が「１回～６０回」の期間は、特別図柄の種別に関わらず、抽選結果（当否判定結果）が当たりに対して、変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が選択されるように規定している。また、抽選結果（当否判定結果）が外れに対しては、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１８９」の範囲に対して、変動時間が「５秒」の変動パターン（ショート変動）が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が規定されている。
【３２９８】
さらに、特別図柄変動回数が「６１回～６５回」の期間は、特別図柄の種別、抽選結果、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「５秒」の変動パターン（特殊変動）が規定されている。
【３２９９】
ここで、特別図柄変動回数が「６１回～６５回」の期間が参照される場合は、大当たり種別として大当たりＤ５が設定された場合、即ち、確変状態が終了した後に５回転の時短状態が設定される場合である。この時短状態中は、準備タイム（図２３９参照）の演出が実行される期間であり、当否判定結果に関わらず常に一定の変動時間（５秒）が設定される。よって、準備タイム全体の期間を固定することができるため、引き戻しモードが設定されるまでの残期間を遊技者に把握させ易くすることができる。
【３３００】
なお、図２３９を参照して準備タイム中の表示画面について上述したが、図２３９に示した表示態様に加え、準備タイムの残期間（秒数）を報知可能に構成しても良く、例えば、獲得済みの特図２保留数が、準備タイム（時短状態）を終了させる条件を満たした場合に、時短状態中に実行可能な特別図柄の残変動回数に５秒を加えた時間を表示画面に表示するように構成すると良い。このように構成することで、準備タイムが終了し引き戻しモードが設定されるタイミングを遊技者により分かり易く報知することができる。
【３３０１】
さらに、準備タイムの残期間を報知可能に構成した場合には、報知されている残期間のうち、時短状態中における特別図柄最終変動に対応する期間、即ち、獲得した特図２保留が時短状態中に新たに消費されないことが確定している期間に該当する範囲を遊技者に予め示唆可能な演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、準備タイム中における特別図柄の最終変動が実行される期間を遊技者に分かりする報知することができる。
【３３０２】
一方、設定されている時短種別が「時短Ａ」で、図柄種別（特別図柄種別）が特図１（第１特別図柄）の場合は、変動回数（特別図柄変動回数）、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「２０秒」の変動パターン（ロング変動）が規定され、図柄種別が特図２（第２特別図柄）の場合は、特別図柄変動回数が「１回～９９回」の期間は、抽選結果（当否判定結果）が当たりに対して、変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が選択されるように規定している。また、抽選結果（当否判定結果）が外れに対しては、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１８９」の範囲に対して、変動時間が「５秒」の変動パターン（ショート変動）が、「１９０～１９８」の範囲に対

して、変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が規定されている。そして、特別図柄変動回数が「１００回」に対しては、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「１０秒」の変動パターン（特殊変動）が規定されている。さらに、特別図柄変動回数が「１０１回～２００回」に対しては、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「２秒」の変動パターン（超短変動）が規定され、特別図柄変動回数が「２０１回～１００００回」に対しては、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「０．５秒」の変動パターン（特殊短変動）が規定されている。

【３３０３】

また、設定されている時短種別が「時短Ｂ」で、図柄種別（特別図柄種別）が特図１（第１特別図柄）の場合は、変動回数（特別図柄変動回数）、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「２０秒」の変動パターン（ロング変動）が規定され、図柄種別が特図２（第２特別図柄）の場合は、特別図柄変動回数が「１回～９９回」の期間は、抽選結果（当否判定結果）が当たりに対して、変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が選択されるように規定している。また、抽選結果（当否判定結果）が外れに対しては、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値が「０～１８９」の範囲に対して、変動時間が「５秒」の変動パターン（ショート変動）が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動時間が「１５秒」の変動パターン（ミドル変動）が規定されている。そして、特別図柄変動回数が「１００回」に対しては、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得した変動種別選択カウンタＣＳ１の値に関わらず、変動時間が「１０秒」の変動パターン（特殊変動）が規定されている。

【３３０４】

上述した通り、本第５制御例では、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて時短状態が設定された場合（大当たり遊技を介さずに時短状態が設定された場合）には、設定される時短種別に関わらず、特別図柄変動が１００回実行されるまで共通の内容で変動パターンが選択されるように構成している。よって、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動パターンに基づいて設定されている時短種別を遊技者に把握され難くすることができる。さらに、１００回目の特別図柄変動に対しては、特別図柄抽選の結果に関わらず、変動時間が１０秒の変動パターンが選択されるように構成している。ここで、本第５制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合に、時短種別として時短Ａ、或いは時短Ｂを設定可能に構成しており、時短Ａが設定された場合には時短回数１００００回が設定され、時短Ｂが設定された場合には時短回数１００回が設定されるように構成している。

【３３０５】

そして、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて時短状態が設定された場合には、１００回目の特別図柄変動の変動期間を用いて、時短状態が終了するか否か（時短種別が時短Ａであるか時短Ｂであるか）を示唆するための演出（継続演出）を実行するように構成している。つまり、何れの時短種別が設定されている場合であっても、且つ、当該変動の抽選結果が何れであっても、固定秒数（１０秒）の変動パターンが選択されるため、継続演出を実行し易くすることができる。

【３３０６】

また、時短Ａが設定された場合には、最大で１００００回の特別図柄抽選が実行されるまで時短状態が継続することになるが、時短状態中は特別図柄の低確率状態が設定されているため特別図柄抽選で大当たり当選する確率は通常状態と同一である。よって、通常状態よりも特別図柄抽選を実行させ易い時短状態において、大当たり当選すること無く、特別図柄抽選が実行され続ける場合がある。この場合、時短状態中は右打ち遊技によって第２入球口６４０へと頻繁に遊技球を入球させて賞球を獲得することが出来るため、遊技者の持ち玉が大きく減少する事態は発生し難いが、次に大当たり当選するまでの期間が間延びしてしまい遊技時間に制限のある遊技者が時短状態中に遊技を断念せざるを得ない事態

が発生してしまう虞があった。

【３３０７】

そこで、本第５制御例では、時短状態中に実行された特別図柄抽選の実行回数が増加するほど、短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成している。このように構成することで、時短状態中において大当たり当選すること無く多くの特別図柄抽選が実行される場合における遊技の時間効率を高めることができる。また、時短状態が設定されてから所定回数（１００回）の特別図柄抽選が実行されるまでの期間は、短縮変動時間が選択され難くなるように構成しているため、複数回の大当たり遊技が短時間で実行されてしまい、短時間で遊技者に過剰に多くの賞球が提供されてしまうことを抑制することができる。

【３３０８】

図２４３に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２９９）に達した後０に戻るループカウンタとして構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、本実施形態ではタイマ割込処理（図１５６参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納されるなお、第２当たり乱数テーブル２０２ｃの構成については、上述した第１制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【３３０９】

時短種別選択カウンタＣＣ１は、特別図柄抽選で時短当選した場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。時短種別選択カウンタＣＣ１の値は、例えば、定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。

【３３１０】

本制御例のパチンコ機１０における時短種別選択カウンタＣＣ１の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本制御例では取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値を用いて、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆを参照して時短当選した場合の時短種別を選択するように構成している。ここで、図２４８（ｂ）を参照して時短種別選択５テーブル２０２ｄｆの内容について説明をする。

【３３１１】

図２４８（ｂ）は、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに規定されている内容を示した図である。この時短種別選択５テーブル２０２ｄｆには、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対して異なる時短種別が規定されている。具体的には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～８９」の範囲に対して時短種別「時短Ａ」が規定されており、「９０～９９」の範囲に対して時短種別「時短Ｂ」が規定されている。

【３３１２】

ここで、時短種別として「時短Ａ」が設定された場合には、時短カウンタ２０３ｈの値に１００００が設定され、「時短Ｂ」が設定された場合には、時短カウンタ２０３ｈの値に１００が設定される。つまり、時短Ａは時短回数１００００回の時短状態となり、時短Ｂは時短回数１００回の時短状態となる。

【３３１３】

図２４２に戻り説明を続ける。ＲＯＭ２０２は、図２４３に図示した各種カウンタに対応して規定される各種データテーブル等を有している。ここで、図２４４（ａ）を参照して、本第５制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容につ

いて説明をする。図２４４（ａ）は、本制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。

【３３１４】

図２４４（ａ）に示した通り、本制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２は、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａ、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂ、第２当たり乱数５テーブル２０２ｄｃ、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄ、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅ、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆを少なくとも有している。なお、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、変動パターン選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、大当たり種別選択テーブル２０２ｄ、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅ、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆについては、図２４３に図示した各種カウンタを説明する際に上述したため、その説明を省略する。

【３３１５】

図２４２に戻り、説明を続ける。ＲＡＭ２０３は、図２４３に図示した各種カウンタのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。

【３３１６】

なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【３３１７】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図１６７参照）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図１６６参照）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図１６５参照）が即座に実行される。

【３３１８】

また、ＲＡＭ２０３は、図２４４（ｂ）に示すように、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃ、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆ、遊技状態格納エリア２０３ｇ、時短カウンタ２０３ｈ、確変カウンタ２０３ｉ、大当たり開始フラグ２０３ｊ、大当たり中フラグ２０３ｋ、その他メモリエリア２０３ｚを有している。なお、上述した各格納エリア、及び各カウンタ、各フラグの内容は、上述した第１制御例と同一であるため、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３３１９】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には、パチンコ機１０に設けられる演出用の駆動役物を動作させるための各種駆動モータが含まれる。

【３３２０】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を

決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた後面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた後面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、後面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の後面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【３３２１】

なお、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合に、図示しない演出用の役物を駆動させるためにその他装置２２８へ役物駆動コマンドを送信したり、枠ボタン２２への操作内容に対応した音声を音声出力装置２２６に出力させるための音声出力コマンドを設定したり、枠ボタン２２への操作内容に対応した発光態様でランプ表示装置２２７を発光させるためのランプ出力コマンドを設定したりするように構成しても良い。

【３３２２】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【３３２３】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０からのコマンドや、音声ランプ制御装置１１３に接続された各種装置等の状況に応じてエラーを判定し、そのエラーの種別を含めてエラーコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４では、受信したエラーコマンドによって示されるエラー種別（例えば、振動エラー）に応じたエラーメッセージ画像を第３図柄表示装置８１に遅滞無く表示させる制御が行われる。

【３３２４】

ここで、本第５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている内容について説明をする。本第５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２は、上述した第１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２（図１４４（ａ）参照）に対して、通常中特図２演出選択テーブル２２２ｂと、確変中演出選択テーブル２２２ｃと、連続予告実行選択テーブル２２２ｄと、Ｖ報知実行選択テーブル２２２ｅと、ボタン操作時演出選択テーブル２２２ｆを削除し、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａと、示唆態様選択テーブル２２２ｄｂと、を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素に対しては同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３３２５】

引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａは、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている状態で普通図柄の高確率状態を終了させる終了条件（時短終了条件）が成立した場合に設定される遊技状態（通常状態、第２確変状態）に対応させて実行される演出モードである引き戻しモードにおけるモード種別を選択する際に参照されるデータテーブルであって、確変状態において時短終了条件が成立した場合の特図２保留数（第２特別図柄の保留記憶数）と、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値と、保留内（特図２保留内）大当たりの有無、保留内（特図２保留内）時短当選の有無、演出カウンタ２２３ｆの値に対応させて４種類のモード種別（背景）が規定されている。

【３３２６】

具体的には、特図２保留数が「４」、即ち、上限数の特図２保留を獲得しており、時短

抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が「４」、保留内大当たりが「有」の場合は、保留内時短当選の有無に関わらず、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して「モードＡ」が、「５０～９９」の範囲に対して「モードＢ」が規定されている。また、保留内大当たりが「無」で、保留内時短当選が「有」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「モードＢ」が、「８０～９９」の範囲に対して「モードＡ」が規定され、保留内時短当選が「無」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して「モードＢ」が、「２０～５９」の範囲に対して「モードＣ」が、「６０～９９」の範囲に対して「モードＤ」が規定されている。

【３３２７】

また、特図２保留数が「４」、即ち、上限数の特図２保留を獲得しており、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が「０」、保留内大当たりが「有」の場合は、保留内時短当選の有無に関わらず、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～５９」の範囲に対して「モードＢ」が、「６０～９９」の範囲に対して「モードＣ」が規定されており、保留内大当たりが「無」の場合は、保留内時短当選の有無に関わらず、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「モードＣ」が、「８０～９９」の範囲に対して「モードＢ」が規定されている。

【３３２８】

一方で、特図２保留数が「１～３」、即ち、上限数の特図２保留を獲得していない状態では、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値に関わらず、保留内大当たりが「有」の場合は、保留内時短当選の有無に関わらず、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して「モードＢ」が、「２０～５９」の範囲に対して「モードＣ」が、「６０～９９」の範囲に対して「モードＤ」が規定されており、保留内大当たりが「無」の場合は、保留内時短当選が「有」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して「モードＢ」が、「５０～９９」の範囲に対して「モードＤ」が規定されており、保留内時短当選が「無」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して「モードＢ」が、「２０～９９」の範囲に対して「モードＤ」が規定されている。

【３３２９】

詳細な内容は、図２４０（ｂ）を参照して上述したため、その説明を省略するが、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａを参照して選択される４種類のモード種別（モードＡ～モードＤ）は、遊技者への特典付与期待度を異ならせるように規定されており、モードＡが最も遊技者に有利なモード種別（引き戻しモード中に特典（大当たり、時短当選）が付与される期待度が最も高い）となり、モードＢが次に有利なモード種別となり、次いで、モードＣ、モードＤの順で特典付与期待度が低くなるように各モード種別が選択されるよう、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａの内容が規定されている。

【３３３０】

さらに、確変状態が終了するタイミングにおける特図２保留数に応じて、選択されるモード種別を大きく異ならせるように構成しており、確変状態が終了するタイミングにおける特図２保留数が上限数では無い場合には、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値や、特図２保留内の先読み結果（大当たり、時短当選の有無）に関わらず、最も遊技者に有利となるモード種別（モードＡ）が選択されない（され難くなる）ように構成している。

【３３３１】

このように構成することで、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄抽選の抽選結果を予測しようと、遊技者に対して特図２保留数が上限数となるように積極的に右打ち遊技を実行させることができる。

【３３３２】

示唆態様選択テーブル２２２ｄｂは、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動に対応する変動演出において表示される示唆態様を選択する際に参照されるデータテーブルであって、設定されているモード種別と、当該変動の抽選結果と、演出カウンタ２２３ｆの値とに対応させて異なる種別の示唆態様が規定されている。

【３３３３】
次に、図２４９（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図２４９（ｂ）に示すように、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、コマンド記憶領域２２３ａ、入賞情報格納エリア２２３ｂ、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ、特図変動開始フラグ２２３ｄ、停止種別選択フラグ２２３ｅ、演出カウンタ２２３ｆ、従状態設定エリア２２３ｇ、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈ、時短中カウンタ２２３ｄａ、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂ、モード種別格納エリア２２３ｄｃ、ロング時短中フラグ２２３ｄｄ、初回設定フラグ２２３ｄｅ、その他メモリエリア２２３ｚが少なくとも設けられている。
【３３３４】
なお、コマンド記憶領域２２３ａ、入賞情報格納エリア２２３ｂ、特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃ、特図変動開始フラグ２２３ｄ、停止種別選択フラグ２２３ｅ、演出カウンタ２２３ｆ、従状態設定エリア２２３ｇ、普通図柄保留球数カウンタ２２３ｈの内容については、上述した第１制御例の内容と同一であるためその詳細な説明を省略する。
【３３３５】
時短中カウンタ２２３ｄａは、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される期間を計測するためのカウンタであって、普通図柄の高確率状態が設定される場合に（大当たり遊技終了後、或いは、時短当選した特別図柄変動の停止表示後に）、予め定められた値が設定される。そして、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１以上である状態で特別図柄変動が実行されると、その値が１減算され、時短中カウンタ２２３ｄａの値が「０」となった場合に、普通図柄の低確率状態へと移行したと判別する。また、時短中カウンタ２２３ｄａの値に基づいて、普通図柄の高確率状態における詳細な期間を判別するように構成している。
【３３３６】
時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂは、普通図柄の低確率状態（通常状態、第２確変状態）中に実行される第２特別図柄抽選のうち、通常状態中に実行され得る第２特別図柄抽選の回数、即ち、時短当選し得る第２特別図柄抽選の実行回数を計測するためのカウンタであって、普通図柄の確率状態が高確率状態から低確率状態へと移行する際に獲得している特図２保留数と、普通図柄の高確率状態から低確率状態へと移行した場合に設定される遊技状態（通常状態、第２確変状態）とに基づいて値が設定される。
【３３３７】
具体的には、普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）から通常状態へと移行したことを示す状態コマンドを受信した場合（図２６４のＳ９１０２：Ｎｏ）、或いは、確変状態から第２確変状態へと移行したことを示す状態コマンドを受信した場合（図２６７のＳ９４０２：Ｙｅｓ）に実行される引き戻しモード設定処理（図２６５のＳ９１０４参照）において、獲得済みの特図２保留に基づいて通常状態中に実行される（され得る）第２特別図柄抽選の回数が特定され、特定した回数を示す値が時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値に設定される。そして、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａを参照して、引き戻しモードのモード種別を選択する際に参照される。
【３３３８】
また、引き戻しモード中において第２特別図柄抽選が実行される場合において、時短抽選カウンタ２２３ｄｂの値が読み出され、１よりも大きい値が設定されていると判別された場合には、第２特別図柄抽選が実行される毎にその値が１減算される（図２６９のＳ９６０７参照）。
【３３３９】
つまり、本第５制御例では、普通図柄の高確率状態中に獲得した特図２保留を普通図柄の低確率状態が設定された後に実行する場合に、設定されている遊技状態に関わらず同一態様の演出を実行するように構成している。つまり、普通図柄の低確率状態が設定される遊技状態として、時短当選し得る特別図柄抽選が実行される通常状態と、時短当選し得ない特別図柄抽選が実行される第２確変状態とで、同一の態様（引き戻しモード）の演出が

実行されるように構成し、実行中の第２特別図柄抽選の抽選結果として時短当選が表示され得る遊技状態であるか否かを遊技者に容易に判別させ難くするように構成している。このように構成することで、時短当選し得ない特別図柄抽選が実行される第２確変状態が設定されている場合であっても、遊技者に対して、時短当選に期待しながら遊技を行わせることができる。

【３３４０】

さらに、実際に時短当選し得る特別図柄抽選の実行回数を判別し、その判別結果に基づいて引き戻しモードのモード種別を選択可能に構成している。このように構成することで、時短当選し得る特別図柄抽選が実行される通常状態と、時短当選し得ない特別図柄抽選が実行される第２確変状態とで、同一の態様（引き戻しモード）の演出が実行されながらも、何れの遊技状態が設定されているかを遊技者に予測させるための要素（モード種別）を提供することができるため、現在設定されている遊技状態が時短当選の可能性がある遊技状態であるかをいち早く判別したい遊技者に対して、実行中の演出の内容を注視させることができるため、演出効果を高めることができる。

【３３４１】

モード種別格納エリア２２３ｄｃは、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａを参照して選択されたモード種別を格納するための格納エリアである。このモード種別格納エリア２２３ｄｃに格納された情報（モード種別）は、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を決定する際に読み出される。そして、引き戻しモードが終了した場合に、格納されている情報がクリアされる。

【３３４２】

ロング時短中フラグ２２３ｄｄは、長期間（特別図柄変動１００００回）の時短状態が設定されたことを示すためのフラグであって、長期間の時短状態（時短種別「時短Ａ」）が設定された場合にオンに設定され、時短状態が終了した場合にオフに設定される。このロング時短中フラグ２２３ｄｄの設定状況は、残時短回数（普通図柄の高確率状態の残期間）を示すための表示態様を決定する際に参照される。具体的には、時短状態中に実行される第２特別図柄変動に対応する特図２演出態様を決定する場合において（図２６９のＳ９６１３：Ｙｅｓ）、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンに設定されているかを判別し（図２６９のＳ９６１５）、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンに設定されていない場合は（図２６９のＳ９６１５：Ｎｏ）、第３図柄表示装置８１の表示画面の小表示領域Ｄｍ７に表示されている残回数を減算表示するための表示用コマンドを設定する（図２６９のＳ９６１４）。

【３３４３】

一方、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンに設定されている場合は（図２６９のＳ９６１５：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１５０未満であるかを判別し（図２６９のＳ９６１６）、１５０未満では無いと判別した場合は（図２６９のＳ９６１６：Ｎｏ）、図２３８（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ７に「無限」が表示されている状態であるため、残時短回数を減算表示する処理をスキップし、１５０未満であると判別した場合は（図２６９のＳ９６１６：Ｙｅｓ）、小表示領域Ｄｍ７の表示態様を「無限」から「１４９」へと切り替えるための演出態様を決定する（図２６９のＳ９６１７）。

【３３４４】

初回設定フラグ２２３ｄｅは、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄抽選のうち、初回の第２特別図柄抽選が実行済であることを示すためのフラグであって、引き戻しモード中に実行される初回の第２特別図柄変動に対応する特図２演出態様を決定した後にオンに設定される（図２６９のＳ９６０５参照）。そして、引き戻しモード中に実行される第２特別図柄変動に対応する特図２演出態様を設定する際に参照され、初回設定フラグ２２３ｄｅがオンに設定されていると判別した場合は（図２６９のＳ９６０２：Ｙｅｓ）、初回の特図２演出態様を設定するための処理（図２６９のＳ９６０３，Ｓ９６０４）がスキップされる。

【３３４５】

＜第５制御例のパチンコ機１０における制御処理内容について＞

次に、図２５２から図２７０を参照して、本第５制御例のパチンコ機１０における各種制御処理の内容について説明をする。本第５制御例では、上述した第１制御例のパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理の一部と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３３４６】

まず、図２５２から図２６１を参照して、本第５制御例における主制御装置１１０にて実行される制御処理について説明をする。本第５制御例では、上述した第１制御例に対して、特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）に代えて、特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４）を、特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８）に代えて特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１参照）を、特別図柄変動パターン選択処理（図１５９のＳ２０９）に代えて特別図柄変動パターン選択処理５（図２５５のＳ２５２）を、更新処理（図１６０のＳ２２１）に代えて更新処理５（時２５６のＳ２５３）を、始動入賞処理（図１６１のＳ１０５）に代えて始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５）を。先読み処理（図１６２のＳ６１３）に代えて先読み処理５（図２５９のＳ６５３）を、大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４）に代えて大当たり制御処理５（図２６０のＳ１８９４参照）を、大当たり終了処理（図１７０のＳ１９１０参照）に代えて大当たり終了処理５（図２６１のＳ８４０３参照）を、実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容についてはその詳細な説明を省略する。

【３３４７】

まず、図２５２を参照して、特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４）の処理内容について説明をする。図２５２は、特別図柄変動処理５（Ｓ１０４）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動処理５（Ｓ１０４）では、上述した特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）に対して、特別図柄変動を開始させる際に実行する処理の一部と、特別図柄変動の変動時間が経過した場合に実行する処理の一部を変更した点で相違している。

【３３４８】

具体的には、特別図柄変動処理５（Ｓ１０４）が実行されると、上述した特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）と同一のＳ２０１～Ｓ２０７，Ｓ２１０～Ｓ２１３の処理を実行する。そして、Ｓ２０７の処理、或いは、Ｓ２１３の処理を終えると、特別図柄判定処理５（Ｓ２５１）を実行し、その後、特別図柄変動パターン選択処理５（Ｓ２５２）を実行し、本処理を終了する。

【３３４９】

また、特別図柄変動の変動時間が経過したと判別した場合は（Ｓ２１４：Ｙｅｓ）、上述した特別図柄変動処理（図１５７のＳ１０４参照）と同一のＳ２１６～Ｓ２２０の処理を実行し本処理を終了すると共に、Ｓ２１７の処理において、今回の抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合に（Ｓ２１７：Ｎｏ）、更新処理５を実行し（Ｓ２５３）、その後、時短設定処理５を実行し（Ｓ２５４）、Ｓ２２０の処理へと移行する。

【３３５０】

次に、図２５３を参照して、特別図柄判定処理５（Ｓ２５１）の処理内容について説明をする。図２５３は、特別図柄判定処理５（Ｓ２５１）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄判定処理５（Ｓ２５１）は、上述した第１制御例の特別図柄大当たり判定処理（図１５８のＳ２０８）に代えて実行されるものであり、特別図柄抽選における大当たり判定に加え、時短当選の判定（時短抽選処理５）が実行される。

【３３５１】

特別図柄判定処理５（Ｓ２５１）が実行されると、まず、特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｓ８００１）、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａに基づいて抽選結果を取得し（Ｓ８００２）、抽選結果が大当たりであると判定した場合は（

Ｓ８００３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｓ８００４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｓ８００５）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ８００３：Ｎｏ）、時短抽選処理５を実行し（Ｓ８００６）、本処理を終了する。

【３３５２】

ここで、時短抽選処理５（Ｓ８００６）は、今回の特別図柄抽選における時短当選の判定を実行するための処理である。つまり、本第５制御例では、特別図柄抽選において、まず、大当たり当選の判定を実行し（Ｓ８００３）、大当たり当選した場合には、時短当選の判定を実行することなく特別図柄抽選を終了し、大当たり当選していない場合にのみ時短当選の判定を実行するように構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、複数の特典（特別図柄の大当たり当選、時短当選）を遊技者に付与することが無いため、遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうことを抑制することができる。

【３３５３】

次に、図２５４を参照して、時短抽選処理５（Ｓ８００６）の処理内容について説明をする。図２５４は、時短抽選処理５（Ｓ８００６）の内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理５（Ｓ８００６）では、現在の遊技状況が時短抽選（時短当選判定）を実行可能な遊技状況であるかを判別し、実行可能であると判別した場合に時短当選判定を実行する処理が行われる。

【３３５４】

時短抽選処理５（Ｓ８００６）が実行されるとまず、今回の対象（抽選対象）が特図２（第２特別図柄）であるかを判別し（Ｓ８１０１）、特図２であると判別した場合は（Ｓ８１０１；Ｙｅｓ）、遊技状態格納エリアに格納されている現在の遊技状態を読み出し（Ｓ８１０２）、読み出した遊技状態が通常状態であるかを判別する（Ｓ８１０３）。

【３３５５】

Ｓ８１０３の処理において、通常状態であると判別した場合に（Ｓ８１０３：Ｙｅｓ）、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに基づいて抽選結果（時短当選判定結果）を取得し（Ｓ８１０４）、時短当選しているかを判別し（Ｓ８１０５）、時短当選していると判別した場合は（Ｓ８１０５：Ｙｅｓ）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄をセットし（Ｓ８１０６）、本処理を終了する。

【３３５６】

一方、Ｓ８１０１の処理において、今回の対象が特図２では無い（第１特別図柄である）と判別した場合（Ｓ８１０１：Ｎｏ）、Ｓ８１０３の処理において、現在の遊技状態が通常状態では無いと判別した場合（Ｓ８１０３：Ｎｏ）、或いは、Ｓ８１０５の処理において時短当選していない（Ｓ８１０５：Ｎｏ）と判別した場合は、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｓ８１０７）、本処理を終了する。

【３３５７】

つまり、本第５制御例では、特別図柄抽選において時短当選判定を実行するための実行条件として、当該特別図柄抽選で大当たり当選していないこと、第２特別図柄抽選であること、通常状態が設定されていることが規定されている。このように、時短当選判定を実行可能な条件を設けることにより、特別図柄抽選の実行状況に応じて、大当たり判定のみを実行する場合と、大当たり判定と時短当選判定とを実行する場合とを創出することができる。よって、状況に応じて１回の特別図柄抽選において遊技者に特典（大当たり、又は時短）が付与される確率を異ならせることができる。

【３３５８】

また、本第５制御例では、確変状態、時短状態、といった通常状態よりも遊技者に有利となる遊技状態が、特別図柄抽選の実行回数が所定回数（例えば６０回）を超えた場合に

終了し通常状態へと移行するように構成している。つまり、大当たり当選すること無く特別図柄抽選が所定回数実行された場合において、時短当選判定の実行条件が成立し易くすることができる、よって、特別図柄抽選が大当たり当選すること無く所定回数実行された場合には、所定回数実行される前よりも１回の特別図柄抽選において遊技者に特典（大当たり、又は時短）が付与される確率を高めることができる。このように構成することで、所定期間大当たり当選していない遊技者に対して遊技意欲が極端に低下してしまうことを抑制することができる。

【３３５９】

次に、図２５５を参照して、特別図柄変動パターン選択処理５（Ｓ２５２）について説明をする。図２５５は、特別図柄変動パターン選択処理５（Ｓ２５２）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理５（Ｓ２５２）では、まず、特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１）において、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ８２０１）。Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｓ８２０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄと、取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値とに基づいて、大当たり種別を決定する（Ｓ８２０２）。次いで、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得し（Ｓ８２０３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に対応する現在の遊技状態（通常状態、第２確変状態、確変状態）に対応した変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂを読み出す（Ｓ８２０４）。

【３３６０】

そして、Ｓ８２０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｓ８２０４の処理で読み出した変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂとに基づいて変動パターンを選択し（Ｓ８２０５）、Ｓ８２０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｓ８２０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【３３６１】

次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｓ８２０７）、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｓ８２０８）、選択した変動パターンの変動時間を示す値を特図変動時間カウンタ（図示せず）の値にセットし（Ｓ８２０９）、本処理を終了する。Ｓ８２０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【３３６２】

一方、Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｓ８２０１：Ｎｏ）、次に、時短抽選結果（時短当選判定結果）が時短当選であるかを判別し（Ｓ８２０９）、時短当選であると判別した場合は（Ｓ８２０９：Ｙｅｓ）、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆを参照して時短種別を決定し（Ｓ８２１０）、Ｓ８２０３の処理へ移行する。また、Ｓ８２０９の処理において時短当選していないと判別した場合は（Ｓ８２０９：Ｎｏ）、Ｓ８２１０の処理をスキップしてＳ８２０３の処理へ移行する。

【３３６３】

次に、図２５６を参照して、更新処理５（Ｓ２５３）の処理内容について説明をする。図２５６は、更新処理５（Ｓ２５３）の処理内容を示したフローチャートである。この、更新処理５（Ｓ２５３）では、上述した、更新処理（図１６０のＳ２２１参照）と同様の処理が実行されるため、その詳細な説明を省略する。

【３３６４】

次に、図２５７を参照して、時短設定処理５（Ｓ２５４）の処理内容について説明をす

る。図２５７は、時短設定処理５（Ｓ２５４）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理５（Ｓ２５４）では、時短当選判定により時短当選した場合に時短状態を設定するための処理が実行される。時短設定処理５（Ｓ２５４）が実行されると、まず、今回の抽選結果が時短当選であるかを判別し（Ｓ８３５１）、時短当選であると判別した場合に（Ｓ８３５１：Ｙｅｓ）、決定された時短種別に対応する値を時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｓ８３５２）、遊技状態格納エリアに時短状態を設定し（Ｓ８３５３）、時短カウンタ２０３ｈの値、時短種別遊技状態（時短状態を示す情報と、設定された時短種別を示す情報）を示す状態コマンドを設定し（Ｓ８３５４）、本処理を終了する。

【３３６５】

一方、Ｓ８３５１の処理において、時短当選していないと判別した場合は（Ｓ８３５１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３３６６】

つまり、本第５制御例では、時短当選契機に応じて、異なるタイミングで時短状態が設定されるように構成しており、特別図柄抽選で時短当選した場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングにて時短状態が設定され、特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて時短状態が設定される場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングでは無く、大当たり遊技終了タイミングで時短状態が設定される。

【３３６７】

このように構成することで、時短状態が設定されるタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して飽き難い遊技を提供することができる。

【３３６８】

次に、図２５８を参照して始動入賞処理５（Ｓ１９５）の処理内容について説明をする。図２５８は、始動入賞処理５（Ｓ１９５）の処理内容を示したフローチャートである。この始動入賞処理５（Ｓ１９５）では、上述した始動入賞処理（図１６１のＳ１０５参照）に対して、各特別図柄保留球格納エリアに格納するカウンタ値の種別に時短種別選択カウンタＣＣ１の値を追加した点（Ｓ６５１，Ｓ６５２）と、先読み処理５（Ｓ６５３）を実行する点で相違しているだけであり、それ以外の処理内容は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【３３６９】

次いで、図２５９を参照して先読み処理５（Ｓ６５３）の処理内容について説明をする。図２５９は、先読み処理５（Ｓ６５３）の処理内容を示したフローチャートである。この先読み処理５（Ｓ６５３）が実行されると、まず、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された格納エリアから各種カウンタ値である、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１、時短種別選択カウンタＣＣ１の各値を読み出す（Ｓ７５０）。そして、読み出したデータを先読み保留記憶エリアの空いている記憶エリアのうち、入賞順序がもっとも小さいエリアに記憶する（Ｓ７０２）。

【３３７０】

次に、新たに先読み保留記憶エリアに記憶された各カウンタ値に基づいて、当否判定結果を判定する。なお、ここでは、特別図柄の低確率状態である場合の当否判定と、特別図柄の高確率状態である場合の当否判定との両方が判別される。これは、新たな保留記憶が発生したタイミング（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留（入賞情報）が記憶されたタイミング）と、今回新たに保留された入賞情報に基づいて大当たり判定が実行されるタイミングとにはタイムラグが発生することから、今回新たに保留された入賞情報に基づく大当たり判定が実行されるタイミングで設定されている遊技状態（特別図柄の確率状態）を予測することが困難だからである。

【３３７１】

次に、当否判別結果が大当たりであるか否かを判別する（Ｓ７０３）。判別結果が大当たりであると判別した場合は（Ｓ７０３：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づい

て、大当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ７５１）、その後、本処理を終了する。

【３３７２】

一方、Ｓ７０３の処理における判別結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ７０３：Ｎｏ）、次いで、時短当選かを判別し（Ｓ７５２）、時短当選していないと判別した場合は（Ｓ７５２：Ｎｏ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、外れ当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ７０５）、その後、本処理を終了する。

【３３７３】

一方、Ｓ７５２の処理において時短当選と判別した場合は（Ｓ７５２：Ｙｅｓ）、当該保留変動時が通常状態であるかを判別し（Ｓ７５３）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ７５３：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、時短当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ７５４）、本処理を終了する。

【３３７４】

ここで、Ｓ７０４、Ｓ７０５、或いはＳ７５４の処理で設定された入賞コマンドは、上述した当否判定結果を示すための情報（当否判定結果に基づいて異なる意味を持たせる情報）に加え、共通情報として、Ｓ７０１の処理によって読み出された各種カウンタ値の値を示すための情報も含んで設定される。そして、本処理で設定された入賞コマンドが主制御装置１１０のメイン処理（図１６７参照）にて実行される外部出力処理（Ｓ１８０１）によって音声ランプ制御装置１１３に対して出力される。

【３３７５】

音声ランプ制御装置１１３側では、入賞コマンドを受信した場合に、入賞コマンドに含まれる各種情報に基づいて、保留球の表示態様を可変させて（例えば、保留球の色を通常とは異なる色で可変して）表示させたり、変動開始前に予告図柄等を表示して遊技者に当否判定結果（大当たり当否、時短当選当否）を示唆したりする演出（先読み演出）を実行できる。

【３３７６】

なお、本制御例では、特別図柄の確率状態が１つ（特別図柄の低確率状態）しかないため、入賞コマンドに設定する情報（当否判定結果）を遊技状態に関わらず設定することができるが、例えば、特別図柄の確率状態を複数（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）有する遊技機においては、特別図柄の高確率状態の場合の当否判定結果と、特別図柄の低確率状態の場合の当否判定結果とを判別し、各判別の結果に基づいた入賞コマンドを設定するように構成しても良いし、特別図柄が高確率状態であっても、低確率状態であっても大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）を規定し、その判定値を読み出した場合のみ特別図柄の大当たりを示す入賞コマンドを設定するように構成しても良い。

【３３７７】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側に対して、特定の大当たりや時短当選であることを事前判別した場合のみ大当たりや時短当選を示す入賞コマンドを出力することになるため、先読み演出が実行されない特別図柄変動に対して、大当たり当選の期待感を持たせることができる。

【３３７８】

さらに、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている保留記憶（入賞情報）に基づく特別図柄の抽選が行われる際の遊技状態を正確に判別して、その遊技状態に基づいて当否判定を実行するように構成してもよい。この場合には、変動パターンの選択を保留球数によって可変するのではなく、変動開始時の保留球数に関わらず一定の変動パターンを選択するように構成することで判別が可能となる。先読みを実行する場合に、その保留球が変動開始されるまでの変動順序を保留記憶されている情報に基づいて判別することで変動開始時の遊技状態を判別できる。

【３３７９】
　また、本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留記憶（入賞情報）が格納（記憶）された場合に、その入賞情報に基づく先読み処理を実行し、その先読み処理の中で当否判定を事前に予測する構成を用いているが、これに限ること無く、主制御装置１１０の先読み処理において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たに格納（記憶）された入賞情報（保留記憶）の内容（各カウンタ値）を示す情報を入賞コマンドとして設定し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した入賞コマンドに含まれる情報に基づいて当否判定結果を予測するように構成しても良い。
【３３８０】
　このように構成することで、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、音声ランプ制御装置１１３側で、先読み演出を実行するか否かを判別する処理を実行し、先読み演出を実行すると判別した場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる情報を解析（当否判定結果の予測）するように構成すると良い。これにより、先読み演出を実行しない場合には、具体的な先読み処理（当否判定結果の予測）が実行されないため、パチンコ機１０にて無駄な制御が実行されることを抑制することができる。また、無題に実行された先読み処理の結果を遊技者に不正に取得されてしまう不具合を抑制することができる。
【３３８１】
　次に、図２６０を参照して、大当たり制御処理５（Ｓ１８９４）の処理内容について説明する。図２６０は、大当たり制御処理５（Ｓ１８９４）の処理内容を示したフローチャートである。この大当たり制御処理５（Ｓ１８９４）では、上述した大当たり制御処理（図１６８のＳ１８０４参照）に対して、新たなラウンドの開始タイミングと判別した場合（Ｓ１９０５：Ｙｅｓ）に実行する処理を、特定入賞口の開放を設定し（Ｓ８４０１）、新たに開始するラウンド数を示すラウンド数コマンドを設定する（Ｓ８４０２）点と、大当たりの終了タイミングであると判別した場合（Ｓ１９０９：Ｙｅｓ）に、大当たり終了処理５（Ｓ８４０３）を実行する点で相違し、それ以外は同一であるため、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【３３８２】
　次に、図２６１を参照して、大当たり制御処理５（図２６０のＳ１８９４参照）にて実行される大当たり終了処理５（Ｓ８４０３）の処理内容について説明する。図２６１は、大当たり終了処理５（Ｓ８４０３）の内容を示したフローチャートである。この大当たり終了処理５（Ｓ８４０３）が実行されると、現在実行中お大当たり種別を特定し（Ｓ８５０１）、特定した大当たり種別に対応する値（時短終了条件）を、確変カウンタ２０３ｉ、時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｓ８５０２）、確変カウンタ２０３ｉ、時短カウンタ２０３ｈの値に対応する遊技状態を遊技状態格納エリアに設定し（Ｓ８５０３）、設定した確変カウンタ２０３ｉの値、時短カウンタ２０３ｈの値、遊技状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ８５０４）、大当たり中フラグをオフに設定し（Ｓ８５０５）、本処理を終了する。
【３３８３】
　次に、図２６２から図２７０を参照して、本第５制御例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理内容について説明をする。本第５制御例では、上述した第１制御例に対して、コマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）に代えてコマンド判定処理５（図２６２のＳ４１８２）を、状態コマンド受信処理（図１７６のＳ４２０２参照）に代えて、状態コマンド受信処理５（図２６３のＳ４２８２）を、特図１演出態様設定処理（図１８３のＳ４９０３参照）に代えて、特図１演出態様設定処理５（図２６８のＳ４９８３）を、特図２演出態様設定処理（図１８４のＳ４９０７参照）に代えて、特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）を実行する点で相違しており、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【３３８４】
図２６２は、コマンド判定処理５（図２６２のＳ４１８２）を示したフローチャートである。図２６２に示した通り、コマンド判定処理５（図２６２のＳ４１８２）では、上述したコマンド判定処理（図１７５のＳ４１１２参照）に対して、状態コマンド受信処理を状態コマンド受信処理５（Ｓ４２８２）に代えている点で相違し、それ以外は同一である。
【３３８５】
図２６３は、状態コマンド受信処理５（Ｓ４２８２）を示したフローチャートである。図２６３に示した通り、この状態コマンド受信処理５（Ｓ４２８２）では、主制御装置１１０から受信した状態コマンドに基づいて、新たに設定された遊技状態を判別し、その判別結果に基づいた各種演出を設定するための処理が実行される。
【３３８６】
状態コマンド受信処理５（Ｓ４２８２）では、まず、遊技状態に変更があるか判別する（Ｓ９００１）。遊技状態に変更がないと判別した場合には（Ｓ９００１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ９００１の処理において、遊技状態に変更があると判別した場合には（Ｓ９００１：Ｙｅｓ）、従状態設定エリア２２３ｇに設定されている情報をシフトし、今回主制御装置１１０より受信したコマンドに対応する遊技状態を従状態設定エリア２２３ｇに設定する（Ｓ９００２）。
【３３８７】
次に、今回受信したコマンドが通常状態への変更を示すコマンドであるか判別する（Ｓ９００３）。今回受信したコマンドが通常状態への変更を示すコマンドであると判別した場合には（Ｓ９００３：Ｙｅｓ）、通常状態演出設定処理を実行し（Ｓ９００４）、本処理を終了する。通常状態演出設定処理（Ｓ９００４）の詳細な説明については、図２６４を参照し、後述する。一方、Ｓ９００３の処理において、今回受信したコマンドが通常状態への変更を示すコマンドではないと判別した場合には（Ｓ９００３：Ｎｏ）、Ｓ９００５の処理に移行する。
【３３８８】
Ｓ９００５の処理では、今回受信したコマンドが時短状態への変更を示すコマンドであるか判別する（Ｓ９００５）。今回受信したコマンドが時短状態への変更を示すコマンドであると判別した場合には（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）、時短状態演出設定処理を実行し（Ｓ９００６）、本処理を終了する。時短状態演出設定処理（Ｓ９００６）の詳細な説明については、図２６６を参照して後述する。一方、Ｓ９００５の処理において、今回受信したコマンドが時短状態への変更を示すコマンドではないと判別した場合には（Ｓ９００５：Ｎｏ）、Ｓ９００７の処理に移行する。
【３３８９】
Ｓ９００７の処理では、今回受信したコマンドが第２確変状態への変更を示すコマンドであるか判別する（Ｓ９００７）。今回受信したコマンドが第２確変状態への変更を示すコマンドであると判別した場合には（Ｓ９００７：Ｙｅｓ）、第２確変状態演出設定処理を実行し（Ｓ９００８）、本処理を終了する。第２確変状態演出設定処理（Ｓ９００８）の詳細な説明については、図２６７を参照し後述する。一方、Ｓ９００７の処理において、今回受信したコマンドが第２確変状態への変更を示すコマンドではないと判別した場合には（Ｓ９００７：Ｎｏ）、Ｓ９００９の処理に移行する。
【３３９０】
Ｓ９００９の処理では、今回受信したコマンドが確変状態への変更を示すコマンドであるか判別する（Ｓ９００９）。確変状態への変更を示すコマンドであると判別した場合には（Ｓ９００９：Ｙｅｓ）、受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２０３ｄａの値に設定し（Ｓ９０１０）、本処理を終了する。一方、Ｓ９００９の処理において、今回受信したコマンドが確変状態への変更を示すコマンドではないと判別した場合には（Ｓ９００９：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【３３９１】

図２６４は、通常状態演出設定処理（Ｓ９００４）を示したフローチャートである。この通常状態演出設定処理（Ｓ９００４）は、状態コマンド受信処理５（図２６３のＳ４２８２参照）において、通常状態を示す状態コマンドを受信した場合に実行される処理である。この通常状態演出設定処理（Ｓ９００４）では、図２６４に示した通り、通常状態が設定される前の遊技状態が第２確変状態であるか否かに応じて、異なる演出態様が設定されるものであり、第２確変状態では無い場合、即ち、確変状態、或いは時短状態から通常状態へと移行したと判別した場合は、引き戻しモード（引き戻しゾーン）に対応する演出態様を設定するための、引き戻しモード設定処理を実行する。

【３３９２】

通常状態演出設定処理（Ｓ９００４）では、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態の読み出しを実行する（Ｓ９１０１）。次に、Ｓ９１０１の処理で読み出した変更前の遊技状態は、第２確変状態であるか判別する（Ｓ９１０２）。変更前の遊技状態が第２確変状態であると判別した場合には（Ｓ９１０２：Ｙｅｓ）、第１通常モードに対応する演出モード用の表示コマンドを設定し（Ｓ９１０３）、本処理を終了する。一方、Ｓ９１０２の処理において、読み出した変更前の遊技状態が第２確変状態ではないと判別した場合には（Ｓ９１０４：Ｎｏ）、引き戻しモード設定処理を実行し（Ｓ９１０４）、本処理を終了する。引き戻しモード設定処理（Ｓ９１０４）の詳細な説明については、図２６５を参照し、後述する。

【３３９３】

図２６５は、引き戻しモード設定処理（Ｓ９１０４）を示したフローチャートである。この引き戻しモード設定処理（Ｓ９１０４）では、図２６５に示した通り、図２３７に示した演出画面に関わる表示態様（演出態様）を示すための表示用コマンドを設定するための様々な処理が実行される。

【３３９４】

引き戻しモード設定処理（Ｓ９１０４）では、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態の読み出しを実行する（Ｓ９２０１）。次に、第２特別図柄に保留球があるか判別する（Ｓ９２０２）。第２特別図柄に保留球があると判別した場合には（Ｓ９２０２：Ｙｅｓ）、通常状態中に実行される第２特別図柄の抽選回数を特定する（Ｓ９２０３）。次に、Ｓ９２０３の処理において特定した通常状態中に実行される第２特別図柄の抽選回数の値を時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂに設定する（Ｓ９２０４）。

【３３９５】

次に、第２特別図柄の保留数と、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値と、特図２保留情報とを用いて、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａ（図２５０参照）を参照して、モード種別を決定し（Ｓ９２０５）、Ｓ９２０５の処理において決定したモード種別を、モード種別格納エリア２２３ｄｃに格納し（Ｓ９２０６）、本処理を終了する。一方、Ｓ９２０２の処理において、第２特別図柄に保留球がないと判別した場合には（Ｓ９２０２：Ｎｏ）、第１通常モードに対応する演出モード用表示コマンドを設定し（Ｓ９２０７）、本処理を終了する。

【３３９６】

図２６６は、時短状態演出設定処理（Ｓ９００６）を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理（Ｓ９００６）は、状態コマンド受信処理５（図２６３のＳ４２８２参照）において、時短状態を示す状態コマンドを受信した場合に実行される処理である。この時短状態演出設定処理（Ｓ９００６）では、図２６６に示した通り、時短状態が設定される前の遊技状態が確変状態である場合は準備タイム（図２３９参照）に対応する表示態様（演出態様）を設定するための処理を実行し、通常状態である場合は、時短状態に突入したことを示すための表示態様や、ロング時短に対応する延長タイム（図２３８参照）に対応する表示態様（演出態様）を設定するための処理を実行する。

【３３９７】

時短状態演出設定処理（Ｓ９００６）では、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態を実行する（Ｓ９３０１）。次に、Ｓ９３０１の処理において読み出した変

更前の遊技状態は確変状態であるか判別する（Ｓ９３０２）。変更前の遊技状態は確変状態であると判別した場合には（Ｓ９３０２：Ｙｅｓ）、準備タイム中に対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３０３）、本処理を終了する。

【３３９８】

一方、Ｓ９３０１の処理において読み出した変更前の遊技状態は、確変状態ではないと判別した場合には（Ｓ９３０２：Ｎｏ）、変更前の遊技状態は通常状態であるか判別する（Ｓ９３０４）。変更前の遊技状態は通常状態ではないと判別した場合には（Ｓ９３０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、変更前の遊技状態は通常状態であると判別した場合には（Ｓ９３０４：Ｙｅｓ）、受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａの値に設定し（Ｓ９３０５）、今回設定される時短種別は、時短Ａであるか判別する（Ｓ９３０６）。

【３３９９】

Ｓ９３０６の処理において、今回設定される時短種別は時短Ａであると判別した場合には（Ｓ９３０６：Ｙｅｓ）、ロング時短中フラグ２２３ｄｄをオンに設定し（Ｓ９３０７）、延長タイムに対応する演出態様を示すためのコマンドを設定し（Ｓ９３０８）、本処理を終了する。一方、今回設定される時短種別は時短Ａではないと判別した場合には（Ｓ９３０６：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【３４００】

図２６７は、第２確変状態演出設定処理（Ｓ９００８）を示したフローチャートである。この第２確変状態演出設定処理（Ｓ９００８）は、状態コマンド受信処理５（図２６３のＳ４２８２参照）において、第２確変状態を示す状態コマンドを受信した場合に実行される処理である。この第２確変状態演出設定処理（Ｓ９００８）では、図２６７に示した通り、第２確変状態が設定される前の遊技状態が確変状態であるか否かに応じて、異なる演出態様が設定されるものであり、確変状態である場合は、引き戻しモード（引き戻しゾーン）に対応する演出態様を設定するための、引き戻しモード設定処理を実行する。

【３４０１】

第２確変状態演出設定処理（Ｓ９００８）では、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態の読み出しを実行する（Ｓ９４０１）。次に、Ｓ９４０１の処理において読み出した変更前の遊技状態は確変状態であるか判別する（Ｓ９４０２）。変更前の遊技状態は確変状態であると判別した場合には（Ｓ９４０２：Ｙｅｓ）、引き戻しモード設定処理（図２６５のＳ９１０４参照）を実行し（Ｓ９４０３）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ９４０２の処理において、変更前の遊技状態は確変状態ではないと判別した場合には（Ｓ９４０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３４０２】

図２６８は、特図１演出態様設定処理５（Ｓ４９８３）を示すためのフローチャートである。この特図１演出態様設定処理５（Ｓ４９８３）では、実行される第１特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定するための処理が実行される。

【３４０３】

特図１演出態様設定処理５（Ｓ４９８３）では、まず、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０より大きいか判別する（Ｓ９５０１）。時短中カウンタ２２３ｄａの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｓ９５０１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値を１減算し（Ｓ９５０２）、減算後の時短中カウンタ２２３ｄａの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９５０３）、Ｓ９５０４の処理に移行する。一方、Ｓ９５０１の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０より大きい値ではないと判別した場合には（Ｓ９５０１：Ｎｏ）Ｓ９５０２～Ｓ９５０３の処理をスキップし、Ｓ９５０４の処理に移行する。Ｓ９５０４の処理では、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ９５０４）、本処理を終了する。

【３４０４】

図２６９は、特図２演出態様設定処理５（Ｓ４９８７）を示すためのフローチャートである。この特図２演出態様設定処理５（Ｓ４９８７）では、図２６９に示した通り、第２

特別図柄抽選が実行される遊技状態に応じて、様々な演出態様を設定するための処理が実行される。

【３４０５】

特図２演出態様設定処理５（Ｓ４９８７）では、まず、現在の遊技状態が通常状態、又は、第２確変状態であるか判別する（Ｓ９６０１）。現在の遊技状態が通常状態、又は、第２確変状態であると判別した場合には（Ｓ９６０１：Ｙｅｓ）、初回設定フラグ２２３ｄｅはオンであるか判別する（Ｓ９６０２）。初回設定フラグ２２３ｄｅはオンではないと判別した場合には（Ｓ９６０２：Ｎｏ）、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値に基づいて、引き戻しゾーン中に実行される第２特別図柄の抽選回数を決定し（Ｓ９６０３）、決定した第２特別図柄の抽選回数に対応する演出態様を決定する（Ｓ９６０４）。

【３４０６】

次に、初回設定フラグ２２３ｄｅをオンに設定し（Ｓ９６０５）、Ｓ９６０６の処理に移行する。一方、Ｓ９６０２の処理において、初回設定フラグ２２３ｄｅがオンであると判別した場合には（Ｓ９６０２：Ｙｅｓ）、Ｓ９６０３～Ｓ９６０５の処理をスキップしてＳ９６０６の処理に移行する。

【３４０７】

Ｓ９６０６の処理では、示唆態様選択テーブル２２２ｄｂ（図２５１参照）を参照して、示唆態様を決定する（Ｓ９６０６）。次に、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値を１減算し（Ｓ９６０７）、減算後の時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が０であるか判別する（Ｓ９６０８）。減算後の時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が０であると判別した場合には（Ｓ９６０８：Ｙｅｓ）、引き戻しゾーン最終変動に対応する演出態様を決定し（Ｓ９６０９）、初回設定フラグ２２３ｄｅをオフに設定する（Ｓ９６１０）。そして、決定した演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ９６１１）、本処理を終了する。一方、Ｓ９６０８の処理において、減算後の時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が０ではないと判別した場合には（Ｓ９６０８：Ｎｏ）、Ｓ９６０９～Ｓ９６１０の処理をスキップし、上述したＳ９６１１の処理を実行し、本処理を終了する。

【３４０８】

一方、Ｓ９６０１の処理において、通常状態、又は、第２確変状態ではないと判別した場合には（Ｓ９６０１：Ｎｏ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値を１減算する（Ｓ９６１２）。次に、現在の遊技状態が時短状態であるか判別する（Ｓ９６１３）。現在の遊技状態が時短状態ではないと判別した場合、即ち、確変状態であると判別した場合には（Ｓ９６１３：Ｙｅｓ）、減算後の時短中カウンタ２２３ｄａの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９６１４）、チャンスタイム中演出設定処理を実行し（Ｓ９６１９）、上述したＳ９６１１の処理を実行し、本処理を終了する。チャンスタイム中演出設定処理（Ｓ９６１９）の詳細な説明については、図２７０を参照して後述する。

【３４０９】

一方、Ｓ９６１３の処理において、時短状態であると判別した場合には（Ｓ９６１３：Ｙｅｓ）、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンであるか判別する（Ｓ９６１５）。ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンではないと判別した場合には（Ｓ９６１５：Ｎｏ）、上述したＳ９６１４の処理に移行する。一方、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンであると判別した場合には（Ｓ９６１５：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１５０より少ない値であるか否かを判別する（Ｓ９６１６）。

【３４１０】

Ｓ９６１６の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１５０より少ない値であると判別した場合には（Ｓ９６１６：Ｙｅｓ）、残時短回数を示すための演出態様を決定し（Ｓ９６１７）、上述したＳ９６１４の処理に移行する。一方、Ｓ９６１６の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１５０より少ない値ではないと判別した場合には（Ｓ９６１６：Ｎｏ）次回大当たり当選まで時短状態が継続することを示す表示用コマンドを設定し（Ｓ９６１８）、チャンスタイム中演出設定処理（Ｓ９６１９）に移行する。

【３４１１】

図２７０は、チャンスタイム中演出設定処理（Ｓ９６１９）を示すためのフローチャートである。この、チャンスタイム中演出設定処理（Ｓ９６１９）は、特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）において、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に実行される変動演出の演出態様を設定するための処理であって、図２７０に示した通り、残期間表示の表示態様を更新するための処理が実行される。

【３４１２】

チャンスタイム中演出設定処理（Ｓ９６１９）では、まず、特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）のＳ９６１２の処理において減算した時短中カウンタ２２３ｄａの値が０であるか判別する（Ｓ９７０１）。減算後の時短中カウンタ２２３ｄａの値が０であると判別した場合には（Ｓ９７０１：Ｙｅｓ）、特図２保留を貯めさせるための案内態様を含む演出態様を決定し（Ｓ９７０２）、次に、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンであるか判別する（Ｓ９７０３）。

【３４１３】

Ｓ９７０３の処理において、ロング時短中フラグ２２３ｄｄがオンであると判別した場合には（Ｓ９７０３：Ｙｅｓ）、ロング時短中フラグ２２３ｄｄをオフに設定し（Ｓ９７０４）、変動パターンコマンドに対応する演出態様を決定し（Ｓ９７０５）、本処理を終了する。一方、Ｓ９７０１の処理において、減算後の時短中カウンタ２２３ｄａの値が０ではない（Ｓ９７０１：Ｎｏ）、或いは、Ｓ９７０３の処理において、ロング時短中フラグ２２３ｄｂがオンではないと判別した場合には（Ｓ９７０３：Ｎｏ）、上述したＳ９７０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【３４１４】

＜第５制御例の第１変形例＞

次に、図２７１から図２７７を参照して、上述した第５制御例の第１変形例について説明をする。上述した第５制御例では、通常状態が設定されている場合に実行される第２特別図柄抽選でのみ時短当選し得るように構成していた。これに対して、本第１変形例では、通常状態が設定されている場合に実行される第１特別図柄抽選でも時短当選し得るように構成している点で相違している。それ以外の構成については同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【３４１５】

上述した第５制御例では、普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）が設定されている状態で第２特別図柄抽選を実行する遊技を行わせ、普通図柄の高確率状態中に第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得可能に構成していた。そして、普通図柄の高確率状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を普通図柄の低確率状態が設定されている通常状態において実行した場合に、大当たり抽選に加え、時短抽選も実行されるように構成することで、遊技者に有利となる普通図柄の高確率状態中の遊技（有利遊技）を体験した遊技者に対して、有利遊技が終了した後に、通常時よりも高確率で有利遊技へと復帰し易い遊技（引き戻し遊技）を実行させることができるものであった。

【３４１６】

しかしながら、上述した第５制御例では、通常状態において実行される特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）にて大当たり当選し、普通図柄の高確率状態が設定された遊技（有利遊技）を実行しない限り、時短抽選の恩恵を受けることが出来ないため、時短抽選の恩恵を受けること無く遊技者が遊技に飽きてしまうという問題があった。

【３４１７】

これに対して、本第１変形例では、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選においても時短当選し得るように構成しているため、遊技者に対して時短抽選の恩恵を受け易くすることができる。

【３４１８】

さらに、上述した第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）よりも、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（時短状態）のほうが、普通図柄の

高確率状態が継続する期間（普図高確期間）が長くなり易くなるように構成していた。つまり、特別図柄抽選で時短当選した場合に、次の大当たり当選まで普図高確期間を継続させ易くするという特典を遊技者に付与可能に構成していた。

【３４１９】

これに対して、本第１変形例では、第１特別図柄抽選で時短当選した場合には、短期間（例えば、時短回数１回）の時短状態を設定可能に構成し、その短期間の時短状態が設定される期間（普図高確期間）において、第２特別図柄抽選の実行権利を獲得させる遊技を実行可能に構成している。つまり、本第１変形例では、上述した第５制御例における引き戻し遊技を、大当たり当選すること無く実行させ得るように構成している。このように構成することで、通常状態において実行される第１特別図柄抽選にて大当たり当選すること無く、通常状態中に第２特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。

【３４２０】

さらに、詳細な説明は省略するが、本第１変形例では、時短状態中に実行される第１特別図柄抽選の変動パターンとして、複数の変動時間を選択可能に構成している。本第１変形例では、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選にて時短当選すると、所定の変動時間の変動を経て時短当選を示すための表示態様（時短図柄）で第１特別図柄が停止表示された後に時短状態（時短回数１回）が設定され、次に実行される特別図柄変動が停止表示されるまでの間、時短状態が継続するように構成している。

【３４２１】

つまり、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間に対応して時短状態が継続する期間の長さが決定することになる。よって、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間が長ければ長い程、時短状態中に多くの特図２保留を獲得し易くなるため遊技者に有利な時短状態とすることができる。

【３４２２】

＜第５制御例の第１変形例の演出内容について＞

図２７１～図２７３を参照して、第５制御例の第１変形例のパチンコ機１０の第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される特徴的な演出内容について説明をする。

【３４２３】

まず、上述した第５制御例では、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が継続する期間（特図高確期間）と普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）が所定期間（例えば、特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が６０回変動されて、６０回目の特別図柄変動が停止するまでの期間）設定され、普図高確期間中には第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を獲得可能であり、特図高確期間および普図高確期間が終了し通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定された場合に、普図高確期間中に獲得した特図２保留に基づいて実行される第２特別図柄抽選（特図２抽選）の抽選結果が大当たり当選でなかった場合にのみ時短判定が実行され、時短判定によって時短当選した場合に時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される構成であった。

【３４２４】

なお、特図２保留とは、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合に、既に特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が変動中である場合に、第２特別図柄の抽選権利が保留されることであり、その抽選権利は最大４個まで保留（保留記憶）される。

【３４２５】

第５制御例では、通常状態が設定されている場合には、普通図柄の当たり確率が低確率であるため、時短状態に比べて普通図柄抽選（普図抽選）において当たり当選し難く、電動役物６４０ａが開放状態となる普通図柄の当たり遊技（普図当たり遊技）が実行され難いことから、第２入球口６４０に遊技球を入球させることが困難に構成されており、通常状態において特図２抽選が実行されるのは、上述のように、大当たり遊技終了後に設定される普図高確期間中に特図２保留を獲得し、特図高確期間および普図高確期間終了後に通常状態が設定された場合に、特図２保留が存在する場合のみであった。

【３４２６】
したがって、通常状態よりも有利な状態（例えば、時短状態）が設定されるためには、少なくとも１度は大当たりに当選しなければならず、第１入球口６４に遊技球が入球したことに基づいて実行される第１特別図柄抽選（特図１抽選）において大当たり当選できない遊技者は、不利な遊技状態である通常状態の遊技を長期間行うこととなるため、遊技意欲が低下してしまう虞があった。
【３４２７】
これに対して、第５制御例の第１変形例では、通常状態において、特図１抽選の抽選結果が大当たり当選でなかった場合においても時短判定が実行され、時短当選であった場合に、時短状態が所定期間（例えば、特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）が１回変動されて、その特別図柄の変動が停止するまでの期間）設定され、時短状態中に特図２保留を獲得可能である、つまり、大当たり当選しなくても特図２保留を獲得可能に構成している点で、第５制御例と相違する。
【３４２８】
具体的には、特図１抽選の抽選結果が大当たり当選でなかった場合に時短判定を実行し、この場合の時短当選確率を第２特別図柄の時短当選確率よりも低確率（例えば、第２特別図柄の時短当選確率を１／６、第１特別図柄の時短当選確率を１／２００）とする。また、第１特別図柄で時短当選した場合に付与される時短回数（時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が継続する期間）を第２特別図柄で時短当選した場合よりも少ない回数（例えば、第２特別図柄の時短当選時は特別図柄が１００００回変動されて、１００００回目の特別図柄変動が停止するまでの期間、第１特別図柄の時短当選時は特別図柄が１回変動されて、その特別図柄の変動が停止するまでの期間）とする。
【３４２９】
ここで、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中の第２特別図柄抽選（特図２抽選）における時短当選確率を、例えば、１／２００とした場合、普図高確期間中に第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を上限数（実施例では、最大４個）まで獲得したとしても、４回の特図２抽選で少なくとも１回時短当選する確率は約２％であり、特図高確期間および普図高確期間が終了し、通常状態が設定された場合に、特図２保留に基づく特図２抽選において時短当選することで有利状態が再度設定されることを遊技者はほとんど期待しないため、遊技者に通常状態中の特図２抽選を特別な期間であると思わせることが難しく、遊技者が普図高確期間が終了する最後の瞬間まで特図２保留を獲得しようと意欲的に遊技をしない虞がある。
【３４３０】
したがって、通常状態中の特図２抽選における時短当選確率は、普図高確期間中に特図２保留を上限数（本実施例では、最大４個）まで獲得した場合に、その獲得した特図２保留に基づく特図２抽選で時短当選が十分に期待できる確率（例えば、１／６）とするのが望ましく、このように構成することで、４回の特図２抽選で少なくとも１回時短当選する確率は約５０％となり、特図高確期間および普図高確期間が終了し、通常状態が設定されても、特図２保留に基づく特図２抽選において時短当選することで有利状態が再度設定されることを遊技者に期待させることが可能となり、通常状態中の特図２抽選が特別な期間であると思わせることで、普図高確期間が終了する最後の瞬間まで多くの特図２保留を獲得しようと意欲的に遊技をさせることができる。
【３４３１】
これに対して、通常状態中の第１特別図柄抽選（特図１抽選）における時短当選確率を、通常状態中の特図２抽選における時短当選確率と同確率または特図２抽選における時短当選確率よりも高確率とした場合、通常状態において頻繁に時短当選し、時短状態が設定され易くなることで、過度に遊技者に有利となってしまう虞がある。
【３４３２】
したがって、本実施例においては、通常状態中の特図１抽選における時短当選確率を、通常状態中の特図２抽選における時短当選確率よりも低く設定している。

【３４３３】
　また、詳細は後述するが、本実施例においては、特図１抽選において時短当選した場合に時短回数１回、つまり、特別図柄が１回変動されて、その特別図柄の変動が停止するまでの期間、時短状態が設定される構成としている。
【３４３４】
　例えば、時短回数が２回以上付与される場合、遊技者が正しく遊技していれば、特図２保留を上限まで獲得可能であるが、このような構成の場合、特図１抽選において時短当選した場合には毎回特図２保留を上限数まで獲得し得ることにより、時短当選のし易さは常に一定となり、特図１抽選において時短当選したことに基づいて設定される時短状態中の遊技が、単に特図２保留を上限数まで獲得するだけの単調な遊技になってしまう虞があった。
【３４３５】
　これに対して、第１特別図柄抽選（特図１抽選）において時短当選した場合に付与される時短回数が１回の場合、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている場合の特別図柄の変動時間、普通図柄の変動時間、或いは普通図柄抽選の当たり当選による特典として開放状態となる電動役物６４０ａの開放パターン、の組み合わせによって、遊技者が時短状態中に獲得可能な第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）の個数を異ならせることが可能となり、獲得し得る特図２保留数によって時短当選確率を可変させずに時短当選のし易さを異ならせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。
【３４３６】
　このように、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中の特図１抽選においても時短判定が実行され、時短当選した場合には、特図２保留を獲得可能な時短状態が設定されることで、長期間に渡って遊技者が大当たりに当選できない場合にも、特図２保留を獲得できる機会を得られるため、遊技者に不利な通常状態が長期間続くことによって遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。
【３４３７】
　以上のように、第５制御例の第１変形例では、通常状態中の特図１抽選においても時短判定が実行されるため、時短当選後に遊技状態を可変させることに伴い、遊技者の遊技方法も変わることから、遊技者に時短当選したことを分かり易く報知する必要がある。
【３４３８】
　また、通常状態中の特図１抽選で時短当選した場合に設定される時短状態と、通常状態中の第２特別図柄抽選（特図２抽選）で時短当選した場合に設定される時短状態と、で遊技の内容が異なる（特図１抽選における時短当選によって設定される時短状態では、特図２保留を多く獲得し、獲得した特図２保留に基づき実行される通常状態中の特図２抽選で時短当選を目指す遊技、特図２抽選で時短当選した場合に設定される時短状態では、特別図柄抽選の大当たり当選を目指す遊技）ため、遊技者が混乱しないように時短状態中の表示態様を異なる表示態様とし、どちらの特図抽選における時短当選に基づいて設定されている時短状態であるかを遊技者に分かり易くする必要がある。
【３４３９】
　以上を踏まえて、図２７１～図２７３を参照して、本第５制御例の第１変形例における演出例について説明する。
【３４４０】
　図２７１（ａ）は、通常状態において特図１抽選の抽選結果が大当たり当選、又は時短当選した場合の変動表示画面の一例である。図２７１（ａ）に示したように、通常状態において特図１抽選の抽選結果が大当たり当選、又は時短当選である場合には、主表示領域Ｄｍにうさぎのキャラクタ８０１と宝箱８１０ｅが表示され、副表示領域Ｄｓに「宝箱から「Ｖ」が出たら大当たり！！「時」が出たら時短ＧＥＴ！！宝箱を開けろ」と表示される。つまり、図２７１（ａ）が表示された時点では、大当たり、又は時短の何れに当選したのかが遊技者に分からないように構成している。

【３４４１】
このように構成することで、宝箱８１０ｅが表示された場合に、大当たり当選と時短当選のどちらかに当選したことを遊技者に期待させることが可能となり、宝箱８１０ｅが開くまでの期間、遊技者に大当たり当選と時短当選のどちらに当選したのかを予測させることで、遊技の興趣を向上させることが可能となる。
【３４４２】
図２７１（ｂ）は、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において第１特別図柄抽選（特図１抽選）の抽選結果が時短当選であった場合の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍには、図２７１（ａ）で表示された宝箱８１０ｅが開き、中から「時×１」と記載された玉ｔｍ１が出現する演出が実行され、副表示領域Ｄｓには「時短１回ＧＥＴ」と表示されることで、遊技者に時短当選したことを報知する構成としている。
【３４４３】
なお、特図１抽選の抽選結果が大当たり当選であった場合には、図２７１（ｂ）の主表示領域Ｄｍにおいて宝箱８１０ｅが開き、中から「Ｖ」と記載された玉が出現する演出が実行され、副表示領域において「おめでとう！大当たり！」と表示され、遊技者に大当たり当選したことを報知する。
【３４４４】
このように構成することで、変動中の第１特別図柄が停止した後に設定される遊技状態が大当たり遊技状態なのか時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）なのかを遊技者に分かり易くすることができる。
【３４４５】
なお、実施例では、大当たり当選、又は時短当選した場合に図２７１（ａ）および（ｂ）の演出が実行される構成としたが、特図１抽選の抽選結果が何れの判定においても外れであった場合の一部で図２７１（ａ）および（ｂ）の演出を実行しても良く、この場合、図２７１（ｂ）において外れであることを示す表示態様（例えば、宝箱８１０ｅの中身が空で副表示領域Ｄｓに「残念」と表示される）が表示される構成とする。
【３４４６】
なお、この場合、図２７１（ａ）で表示される宝箱８１０ｅの表示態様を可変させることで大当たり当選、又は時短当選の期待度を示唆しても良い（例えば、青色の宝箱８１０ｅが表示された場合には外れ当選である可能性が高く、金色の宝箱８１０ｅが表示された場合には何れかに当選している可能性が高いことを示す）。
【３４４７】
このように構成することで、長期間特図１抽選の抽選結果が何れの判定においても外れである状況が続き、演出が実行されないことで遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができる。
【３４４８】
なお、詳細は後述するが、小表示領域Ｄｍ１０は獲得した第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）の個数を表示するための表示領域であり、図２７１（ｂ）では、保留ｈ５および保留ｈ６が黒く表示され、保留ｈ７および保留ｈ８が白く表示され、黒く表示されている保留数に対応する特図１保留が存在していることを示している（図２７１（ｂ）の場合は、特図１保留が２つ存在している状態を示す）。すなわち、実施例は、特図１保留が存在する場合に、通常状態中の特図１抽選において時短当選した場合に実行される演出例である。
【３４４９】
ここで、有利状態（例えば、時短状態）が設定されている場合においては第１特別図柄よりも第２特別図柄の方が短い変動時間が設定され易い構成の遊技機が一般的である。このように構成することで、有利状態（例えば、時短状態）が設定されている場合には第２特別図柄抽選（特図２抽選）が主として実行されるため、抽選結果が外れであった場合の特別図柄の変動時間を短くすることで有利状態における遊技が間延びすることを抑制し、

遊技者が快適に遊技を行うことができる。

【３４５０】

しかしながら、本第５制御例の第１変形例において、特図１保留が存在しない状況で、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中の第１特別図柄抽選（特図１抽選）において時短当選した場合に、図２７１（ｂ）のように時短当選したことを報知すると、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されていることから遊技者は遊技機の盤面右側領域にある第２入球口６４０に向けて遊技球を発射する遊技（右打ち遊技）を開始し、第２入球口６４０に遊技球が入球したことに基づいて、第２特別図柄の変動が開始される。つまり、時短状態が設定されている状態で第１特別図柄よりも短い変動時間が設定され易い第２特別図柄が変動を開始することとなり、その第２特別図柄の変動が停止すると時短状態が終了するため、遊技者は第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を上限数まで獲得できない可能性が高くなり、遊技者に不利な状況となってしまう。

【３４５１】

また、時短状態において第１特別図柄よりも第２特別図柄の方が長い変動時間が設定され易い構成である場合、特図１抽選で時短当選したことに基づいて時短状態が設定されている場合に、第２特別図柄を変動させることで特図２保留を上限数まで獲得し易くなるため、通常状態における遊技中に第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）を獲得しないよう遊技球を１球ずつ発射させる不正な遊技を行う遊技者が現れる虞がある。

【３４５２】

したがって、特図１保留が存在しない状況で特図１抽選において時短当選した場合には、時短当選した第１特別図柄の変動を停止しても時短当選したことを報知せず（例えば、宝箱８１０ｅの中身が空である表示がされる）、次に第１入球口６４或いは、大２入球口６４０に遊技球が入球したことに基づいて特別図柄の変動が開始された場合に、時短状態中の演出（図２７２（ａ）参照）を実行する構成としても良い。

【３４５３】

このように構成することで、特図１保留が存在しない状況では特図１抽選において時短当選しても、遊技者は時短当選したか否かが分からず、第１入球口６４に遊技球を入球させる遊技（左打ち遊技）を継続するため、特図１抽選で時短当選したことに基づいて設定される時短状態中に、第１特別図柄による変動を実行させ易くすることができる。

【３４５４】

なお、特図１抽選における時短当選に基づいて設定される時短状態中に、第１特別図柄を変動させるために、遊技機の盤面右側領域にある第２入球口６４０よりも上部に第１特別図柄を変動させることが可能な始動口を設ける構成としても良い。

【３４５５】

図２７２（ａ）および（ｂ）を参照して、通常状態中に特図１抽選において時短当選したことに基づいて時短状態が設定されている場合に実行される演出について説明する。

【３４５６】

詳細は後述するが、第５制御例の第１変形例では、通常状態中に特図１抽選において時短当選した場合には、時短当選した第１特別図柄の変動が停止してから次に実行される１の特別図柄の変動が終了するまでの期間、時短状態が設定される。

【３４５７】

なお、上述したように、時短状態が設定されると、普通図柄の当たり確率がアップし、通常状態に比べて電動役物６４０ａが開放状態となる普図当たり遊技が実行され易いことから、第２入球口６４０へ遊技球が入球し易くなり、遊技者は特図２保留を獲得することが可能となる。

【３４５８】

そして、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）中に遊技者が獲得し得る特図２保留数は、特別図柄の変動時間、普通図柄の変動時間、普図当たり遊技による電動役物６４０ａの開放パターンの組み合わせによって可変させることが可能である。

【３４５９】
例えば、時短状態が設定されている場合の第１特別図柄の変動時間として３０秒が設定され、普通図柄の変動時間３秒、普図当たり遊技として電動役物６４０ａが１秒×２回開放状態となる場合には、最大で１２回電動役物６４０ａが開放状態となるため、遊技者は保留記憶可能な上限数（実施例では、４回）まで第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を獲得することが可能となる。
【３４６０】
一方、時短状態が設定されている場合の第１特別図柄の変動時間として５秒が設定され、普通図柄の変動時間４秒、普図当たり遊技として電動役物６４０ａが１秒×１回開放状態となる場合には、最大で１回しか第２入球口６４０へ遊技球を入球させることができないため、遊技者は特図２保留を１個しか獲得できない。
【３４６１】
そして、特別図柄の変動が停止し時短状態が終了すると、時短状態中に遊技者が獲得した特図２保留に基づいて、第２特別図柄抽選（特図２抽選）が実行される。
【３４６２】
なお、実施例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）における第２特別図柄の時短当選確率は第１特別図柄の時短当選確率よりも高く（実施例では、１／６）、時短当選時に付与される時短回数も多く（実施例では、１００００回）構成されている。
【３４６３】
即ち、時短中に獲得した特図２保留が多いほど、特図２抽選を多く受けることができるため、時短状態が設定されている場合の特別図柄の変動時間が長いほど、遊技者に有利となる。
【３４６４】
なお、時短状態が設定されている場合の特別図柄の変動時間、普通図柄の変動時間、或いは普図当たり遊技による電動役物６４０ａの開放パターンの何れかを固定値とする構成としても良い。
【３４６５】
図２７２（ａ）は、通常状態において時短当選した第１特別図柄が停止し、次に実行される第１特別図柄の変動時間として３０秒、普通図柄の変動時間として２秒、電動役物６４０ａの開放パターンとして１秒×１回が設定されている場合の時短状態中の表示画面である。
【３４６６】
小表示領域Ｄｍ１には第１特別図柄が変動表示されており、小表示領域Ｄｍ８には第２特別図柄が変動表示していないことを示す表示がされ、どちらの特別図柄が変動しているかを遊技者に分かり易くしている。
【３４６７】
小表示領域Ｄｍ４には時短状態が設定されていることに対応して、遊技者に遊技機の盤面右側領域にある第２入球口６４０へ向けて遊技球を発射させることを促す「右打ち」という表示がされ、副表示領域Ｄｓには「右打ちして保留を貯めてね！」と表示されることで、初めて遊技する遊技者でも遊技状態に適した遊技方法で遊技できるように構成している。
【３４６８】
主表示領域Ｄｍでは、中央部に「チャージ中制限時間内にカプセルを集めろ！」と表示され、うさぎのキャラクタ８０１がカプセルを獲得する演出（チャージ演出）が実行される。
【３４６９】
なお、カプセルは第２入球口６４０に遊技球が入球したことを報知するための表示であり、第２入球口６４０に遊技球が入球し、小表示領域Ｄｍ９の保留図柄が黒く点灯したことに合わせて、カプセルが１つ表示される。ここで、小表示領域Ｄｍ９は、遊技者が第２

入球口６４０に遊技球を入球させたことによって獲得した特図２保留数を示すための表示領域であり、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）が存在しない場合には保留ｈ１～保留ｈ４が白く表示され、遊技者が特図２保留を獲得した場合には、保留ｈ１から若い順に黒く点灯し、保留記憶が上限数まで貯まると保留ｈ１～保留ｈ４の全てが黒く点灯される。

【３４７０】

また、小表示領域Ｄｍ１０は、遊技者が第１入球口６４に遊技球を入球させたことによって獲得した第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）の個数を示すための表示領域であり、特図１保留が存在しない場合には、保留ｈ５～保留ｈ８が白く表示され、遊技者が特図１保留を獲得した場合には、保留ｈ５から若い順に黒く点灯し、特図１保留を上限数（実施例では、４回）まで獲得すると保留ｈ５～ｈ８の全てが黒く点灯する。

【３４７１】

つまり、図２７２（ａ）に示す例では、特図１保留を１個と特図２保留を１個獲得した状態であることを示している。このように構成することで、それぞれの特別図柄の保留の上限数と現在の特別図柄の保留獲得状況が遊技者に分かり易くなり、それぞれの特別図柄の保留数を上限数まで獲得した場合には遊技球が第１入球口６４、又は第２入球口６４０に入球してもそれぞれの特別図柄の抽選権利は保留されないため、保留獲得状況に応じて遊技者に第１入球口６４、又は第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための遊技を続行するか否かの判断を行わせ易くすることができる。

【３４７２】

なお、小表示領域Ｄｍ９において保留ｈ１～保留ｈ３が黒く表示されている状態で第２入球口６４０に遊技球が入球したことに基づいて保留ｈ４が黒く表示された場合、つまり、特図２保留が上限数である４個記憶された場合には、主表示領域Ｄｍにおいて「ＭＡＸ獲得完了！」の表示がされることにより、遊技者に特図２保留を上限数まで獲得したことを報知する。このように構成することで、特図２保留を上限数まで獲得したことが遊技者に分かり易くなり、遊技者を安心させることができる。

【３４７３】

小表示領域Ｄｍ５には、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が終了するまでの残時間、つまり、変動中の特別図柄の残変動時間が表示され、小表示領域Ｄｍ１１には「カプセル上限獲得期待度ＭＡＸ」と表示されている。小表示領域Ｄｍ１１に表示される内容は、時短状態中に獲得し得る特図２保留数に対応しており、図２７２（ａ）に示す例では、第１特別図柄の変動時間として３０秒、普通図柄の変動時間として２秒、電動役物６４０ａの開放パターンとして１秒×１回が設定されているため、上述の通り、特図２保留を上限数の４個まで獲得し得ることから「カプセル上限獲得期待度ＭＡＸ」と表示される。これに対して、第１特別図柄の変動時間として５秒、普通図柄の変動時間として３秒、電動役物６４０ａの開放パターンとして１秒×２回が設定された場合には、特図２保留を最大で１個しか獲得できないため、「カプセル上限獲得期待度低」の表示がされる。

【３４７４】

このように構成することで、小表示領域Ｄｍ１１の表示内容から遊技者が時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）中に獲得し得る特図２保留数を予測する楽しみを付与できるとともに、特別図柄の変動時間として短い変動時間が設定された場合に、遊技者に急いで遊技球を発射させることが可能となり、時短状態が設定されているにも関わらず、遊技球の発射が遅れたために遊技者が時短状態の遊技をし損なうという不具合を抑制することができる。

【３４７５】

なお、カプセル上限期待度の表示は高低が分かるものであれば良く、例えば、星の数で期待度を示唆しても良い。

【３４７６】

なお、実施例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中に第

１特別図柄抽選（特図１抽選）において時短当選した場合に、第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）が存在し、時短状態中にその特図１保留に基づいて第１特別図柄の変動が実行される場合を例として説明したが、時短当選した時点で特図１保留が存在しない場合には、チャージ演出は、次に第１入球口６４、又は第２入球口６４０に遊技球が入球し、第１特別図柄、又は第２特別図柄の何れかの変動が開始された時点で開始される。なお、時短状態は特図１保留が存在するか否かに関わらず、時短当選した第１特別図柄の変動が停止した時点で設定される。

【３４７７】

図２７２（ｂ）は、特別図柄の変動が停止し、時短状態が終了した場合に表示される表示画面の一例である。

【３４７８】

小表示領域Ｄｍ１には、第１特別図柄が停止表示されており、小表示領域Ｄｍ５においては、「残り０秒」と表示され、時短状態が設定されている期間が終了したことを報知している。

【３４７９】

小表示領域Ｄｍ９においては保留ｈ１～保留ｈ４が黒く点灯し、主表示領域Ｄｍの中央部に「Ｔｏｔａｌ４ＧＥＴ」という文字とカプセルｃｐ１～ｃｐ４が表示されることで、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を４個獲得したことが遊技者に報知される。カプセルｃｐ１～カプセルｃｐ４はそれぞれ保留１～保留４に対応しており、例えば、保留ｈ２（チャージ演出中に２番目に獲得した特図２保留）の保留情報を事前に判別した結果（先読み結果）、時短当選の期待度が高い場合には、カプセルｃｐ２が他のカプセルとは異なる表示態様（黒色のカプセル）で表示される。

【３４８０】

これにより、遊技者に特図２保留内に時短当選する可能性が高い保留が存在するという期待感を高めることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【３４８１】

また、主表示領域Ｄｍの中央部に「チャージ終了昇格チャンスゾーン突入！」と表示され、副表示領域Ｄｓには、「昇格チャンスゾーン中に「時」ＧＥＴのチャンス！」と表示されることで、時短状態が終了した後に第２特別図柄抽選（特図２抽選）が実行されることを示している。

【３４８２】

なお、上述のチャージ演出中にカプセルを獲得できなかった場合、即ち、特図２保留を１個も獲得できなかった場合には、チャージ演出終了後に昇格チャンスゾーンには突入せずに通常モードに移行する。

【３４８３】

なお、実施例では、小表示領域Ｄｍ９および小表示領域Ｄｍ１０において、特図１保留または特図２保留が存在しない場合にも保留ｈ１～保留ｈ８が白く表示されることで、それぞれ最大４個まで保留が可能であることを示す構成としたが、これに限ることなく、特図１保留または特図２保留が存在しない場合には、小表示領域Ｄｍ９または小表示領域Ｄｍ１０に何も表示せず、特別図柄の保留を獲得した場合に保留図柄が表示される構成としても良い。

【３４８４】

このように構成することで、遊技者にそれぞれの特別図柄の抽選権利を何個まで保留できるかが分かり難くなり、保留を上限数まで獲得した場合にも保留を上限数まで獲得したことに気付かせずに遊技球の発射を継続させることが可能となる。

【３４８５】

なお、実施例では、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている特別図柄の変動が停止した場合に、図２７２（ｂ）の表示画面が表示されている構成としているが、これに限らず、特別図柄の変動が停止するまでの残変動時間が残っている状態で第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を上限数まで獲得した場合に、図２

７２（ｂ）の表示画面を表示する構成としても良い。なお、このように構成する場合、第２入球口６４０に遊技球が入球するとカプセルの表示態様が可変し、特図２保留の大当たり当選期待度、或いは時短当選期待度が示唆される構成としても良い。

【３４８６】

このように構成することで、まだ特別図柄の変動時間が多く残っている状態で特図２保留を上限数まで獲得した遊技者に対して、第２入球口６４０に遊技球を入球させればカプセルの表示態様が可変するかもしれないと期待させることによって、特別図柄が変動を停止する最後の瞬間まで第２入球口６４０に遊技球を入球させる遊技を継続させることが可能となる。

【３４８７】

なお、実施例では、保留ｈ１～保留ｈ４にそれぞれ対応するカプセルｃｐ１～カプセルｃｐ４を表示する構成としたが、これに限ることなく、特図２保留を１個獲得しても４個獲得しても１個のカプセルしか表示されない構成としても良い。つまり、後述する昇格チャンスゾーンにおいて、保留１～保留４に基づく第２特別図柄抽選（特図２抽選）の抽選結果を１回のカプセル開放によって報知する。このように構成することで、チャージ演出中に特図２保留を何個獲得したかが遊技者に分かり難くなり、遊技者は獲得した特図２保留数を気にせずに昇格チャンスゾーン演出を楽しむことができる。

【３４８８】

なお、このように構成する場合、チャージ演出において、特図２保留を獲得した場合に、特図２保留を獲得したことを遊技者に分からないようにすることが望ましく、例えば、特図２保留を獲得した場合にカプセルは表示せず、小表示領域Ｄｍ９を表示しないことで特図２保留の獲得状況を分からないようにし、特図２保留を上限数まで獲得した場合にのみ、主表示領域Ｄｍに「ＭＡＸ獲得完了」の表示をする構成としても良い。

【３４８９】

このように構成することで、特図２保留の獲得状況が分かり難くなるため、チャージ演出中に特図２保留が思うように獲得できないことで遊技者が不満に思うことを抑制することができる。

【３４９０】

図２７３は昇格チャンスゾーン中に特図２保留に基づく特図２抽選で時短当選した場合に表示される表示画面の一例である。

【３４９１】

小表示領域Ｄｍ１では第１特別図柄が変動表示していないことを示す表示がされ、小表示領域Ｄｍ８では第２特別図柄が時短当選したことを示す表示態様が表示されている。

【３４９２】

また、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されているため、遊技者に第１入球口６４に向けて遊技球を発射することを促す「左打ち」という表示がされ、遊技者が誤った遊技方法で遊戯しないようにしている。

【３４９３】

主表示領域Ｄｍの中央部には、既に開放された状態であることを示す「済」と記載されたカプセルｃｐ１と、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）に基づく特図２抽選の結果が時短当選であったことを示す「時×１００００」と記載されたダイヤｄｙ１と開放されたカプセルｃｐ２と、まだ開放されていない状態のカプセルｃｐ３およびｃｐ４が表示されている。

【３４９４】

図２７３の例では、チャージ演出中に獲得した４つの特図２保留の内、最初に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選（特図２抽選）では大当たりおよび時短に当選せず、２番目に獲得した特図２保留に基づく特図２抽選で時短に当選したことを示している。

【３４９５】

なお、小表示領域Ｄｍ５には「あと３回」と表示され、特図２保留に基づく第２特別図柄の変動回数が残り３回であることを示しており、残り回数の表示は第２特別図柄の変動

表示が開始された場合に更新される。例えば、１つめの特図２保留に基づく第２特別図柄の変動表示が開始された時点では、「あと４回」と表示され、２つめの特図２保留に基づく変動表示が開始された時点で「あと３回」と表示される。

【３４９６】

また、小表示領域Ｄｍ９の表示は、特図２保留に基づいて新たに第２特別図柄の変動が開始された場合に、保留ｈ１に表示されていた保留表示が黒い表示から白い表示へと可変し、保留ｈ２が黒い表示である場合、つまり、特図２保留が他にも存在する場合には、保留ｈ１にシフトして表示され保留ｈ１が黒い表示となり、保留ｈ２が白い表示となる。その際、保留ｈ３、保留ｈ４が黒い表示である場合には、それぞれ、保留ｈ２と保留ｈ３にシフトして表示される。図２７３に示す例では、特図２保留に基づく第２特別図柄の変動が２回実行されたため、２つの保留ｈ３および保留ｈ４が白く表示されている。

【３４９７】

このように構成することで、特図２保留に基づく第２特別図柄の変動があと何回実行されるのかを遊技者に分かり易くすることができる。

【３４９８】

なお、図２７３では、特図２保留に基づく特図２抽選で時短当選した場合の演出例について説明したが、特図２保留に基づく特図２抽選で大当たり当選した場合には、カプセルの中身を異なる表示態様（例えば、「Ｖ」と記載された玉）として表示することで遊技者に大当たり当選を報知する構成としても良いし、カプセル自体を異なる表示態様（例えば、赤色のカプセル）で表示する構成としても良い。

【３４９９】

また、特図２保留に基づく特図２抽選の結果が何れの判定においても外れであった場合には、カプセルが開放された場合に中身が空である構成としても良いし、カプセルの中から外れを示す表示態様（例えば、「残念」と書かれた紙）を表示する構成としても良い。

【３５００】

また、実施例では、特図２保留の保留情報を事前に判別した結果（先読み結果）、時短当選する可能性が高い場合には、時短当選する可能性が高い特図２保留に対応するカプセルを異なる表示態様で表示する構成としたが、これに限るものではない。

【３５０１】

例えば、３番目に獲得した特図２保留の保留情報を先読みした結果、時短当選する可能性が高い場合に、２番目に獲得した特図２保留に基づくカプセル開放演出において、カプセルの中から「次回大チャンス！」と書かれた紙を出現させることで、次の第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）（つまり、３番目に獲得した特図２保留）に基づく特図２抽選において大当たり当選または時短当選する可能性が高いことを遊技者に示唆する構成としても良いし、或いは、２番目に獲得した特図２保留に基づくカプセル開放演出が終了した後に表示される「済」と書かれたカプセルの表示態様を異なる表示態様（例えば、「次回大チャンス」と書かれたカプセル）としても良い。

【３５０２】

このように構成することで、昇格チャンスゾーンにおいて表示態様が異なるカプセルが表示されている場合に、そのカプセルに対応する特図２保留の前に実行される特図２保留に基づく第２特別図柄の変動において、次に実行される特図２保留に関する情報が表示されるのではないかと期待させることが可能となり、通常の表示態様で表示されるカプセルの開放演出にも興味を持たせることができる。

【３５０３】

なお、昇格チャンスゾーンにおいて、特図２保留は獲得した順（ｈ１から若い順）に消化されていき、消化される特図２保留に対応するカプセルが順（カプセルｃｐ１から若い順）に開放される構成としたが、これに限ることなく、消化される特図２保留と開放されるカプセルが対応しない構成としても良い。例えば、最初に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選（特図２抽選）の抽選結果が時短当選であった場合に、カプセルｃｐ１ではなくカプセルｃｐ４が選択される場合には時短当選する可能性が高いことを示す構成

とすることで、遊技者にカプセルの表示態様だけでなくカプセルの開放順にも興味を持たせることが可能となり、更に遊技の興趣を向上させることができる。

【３５０４】

＜第５制御例の第１変形例における電気的構成について＞

次に、図２７４を参照して、本第１変形例における電気的構成について説明をする。本第１変形例では、上述した第５制御例に対して、第１特別図柄抽選において時短当選し得る点と、第１特別図柄抽選にて時短当選した場合に設定される時短種別を第２特別図柄抽選で時短当選した場合に設定される時短種別とは異ならせている点で相違している。また、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の変動時間を異ならせている点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３５０５】

図２７４（ａ）は、時短当たり乱数５ａテーブル２０２ｄａｅに規定されている内容を示した図である。図２７４（ａ）に示した通り、時短当たり乱数５ａテーブル２０２ｄａｅは、上述した第５制御例の時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに対して、第１特別図柄に対しても、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）時において時短当選の判定値を規定している点で相違し、それ以外は同一である。

【３５０６】

具体的には、特別図柄種別が第１特別図柄であって、設定されている遊技状態が特別図柄及び普通図柄の低確率状態（通常状態）である場合に、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１が「５１～５４」の範囲に時短当選する当たり判定値が規定されている。

【３５０７】

つまり、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲が９００個であるため、通常状態において実行される第１特別図柄抽選において、４／９００の確率で時短当選するように構成している。

【３５０８】

次に、図２７４（ｂ）を参照して、時短種別選択５ａテーブル２０２ｄａｆの内容について説明をする。図２７４（ｂ）は、時短種別選択５ａテーブル２０２ｄａｆに規定されている内容を示した図である。時短種別選択５ａテーブル２０２ｄａｆは、上述した第５制御例の時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに対して、第１特別図柄抽選で時短当選した場合に設定される時短種別を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【３５０９】

具体的には、特別図柄種別（特図種別）が第１特別図柄で有る場合は、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に関わらず、時短種別「時短Ｃ」が規定されている。この時短Ｃが設定された場合には、時短カウンタ２０３ｈの値に１が設定される。つまり、時短回数１回の時短状態が設定される。

【３５１０】

＜第５制御例の第１変形例における制御処理について＞

次に、図２７５から図２７７を参照して、本第１変形例における制御処理の処理内容について説明をする。本第１変形例では、上述した第５制御例に対して、主制御装置１１０にて実行される処理内容の一部と、音声ランプ制御装置１１３にて実行される処理内容の一部と、を変更している点で相違し、それ以外は同一である。ここでは、上述した第５制御例との相違点について説明をする。

【３５１１】

図２７５は、時短抽選処理５ａ（Ｓ８０２１）の処理内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理５ａ（Ｓ８０２１）では、上述した第５制御例の時短抽選処理５（Ｓ８００１）に対して、時短抽選（時短当選判定）を実行するための条件を異ならせている。つまり、上述した第５制御例では、実行されている特別図柄抽選の種別が第２特別図柄である場合のみ時短当否判定を実行する条件が成立し得るように制御処理を実行してい

た（Ｓ８１０１参照）のに対して、本第１変形例では、特別図柄種別に関わらず時短当否判定を実行する条件が成立し得るように構成している。即ち、上述した第５制御例の時短抽選処理５（Ｓ８００１）に対して、Ｓ８１０１の処理を削除している点で相違している。それ以外の処理内容は同一である。このように構成することで、第１特別図柄抽選においても時短当否判定を実行することが可能となる。

【３５１２】

図２７６は、時短状態演出設定処理５ａ（Ｓ９０２６）の処理内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理５ａ（Ｓ９０２６）は、上述した第５制御例の時短状態演出設定処理５（図２６６のＳ９００６参照）に対して、第１特別図柄抽選にて時短当選した場合に設定される時短種別（時短Ｃ）が設定された場合における処理内容（Ｓ９３２１，Ｓ９３２２）を追加した点で相違し、それ以外は同一であるため説明を省略する。

【３５１３】

時短状態演出設定処理５ａ（Ｓ９０２６）が実行されると、上述した第５制御例の時短状態演出設定処理５（図２６６のＳ９００６参照）と同一のＳ９３０１～Ｓ９３０８の処理を実行し、本処理を終了する。一方、Ｓ９３０６の処理において、時短種別が時短Ａでは無いと判別した場合は（Ｓ９３０６：Ｎｏ）、次に、時短種別が時短Ｃであるかを判別し（Ｓ９３２１）、時短Ｃであると判別した場合は（Ｓ９３２１：Ｙｅｓ）、チャージタイム（図２７２参照）に対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３２２）、本処理を終了する。

【３５１４】

図２７７は、特図１演出態様設定処理５ａ（Ｓ４９９３）の処理内容を示したフローチャートである。この特図１演出態様設定処理５ａ（Ｓ４９９３）では、上述した第５制御例における特図１演出態様設定処理５（図２６８のＳ４９８３）に対して、第１特別図柄抽選で時短当選した場合における演出態様を設定するための処理と、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の演出態様を設定するための処理を異ならせている点で相違している。

【３５１５】

特図１演出態様設定処理５ａ（Ｓ４９９３）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ９５０１）、０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ９５０１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値を１減算し（Ｓ９５０２）、従状態設定エリア２２３ｇから時短種別を読み出し（Ｓ９５２１）、読み出した時短種別が時短Ｃであるかを判別し（Ｓ９５２２）、時短Ｃである場合は、今回の特別図柄の残変動時間に対応する時短演出態様を決定し（Ｓ９５２３）、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ９５２４）、本処理を終了する。

【３５１６】

つまり、Ｓ９５２３にて決定された時短演出態様によって、図２７２（ａ）に示した小表示領域Ｄｍ５に表示される時短残期間を案内する表示態様が表示される。これにより、遊技者に対して時短状態が継続する残時間を分かり易く報知することができる。

【３５１７】

また、Ｓ９５２２の処理において時短Ｃでは無いと判別した場合は（Ｓ９５２２：Ｎｏ）、他の時短種別が設定されている状態で第１特別図柄変動が実行される場合であるため、減算後の時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９５２５）、Ｓ９５２４の処理へ移行する。

【３５１８】

一方、Ｓ９５０１の処理において、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂの値が０であると判別した場合、即ち、現在が時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ９５０１：Ｎｏ）、次いで、時短当選変動であるかを判別し（Ｓ９５２６）、時短当選変動であると判別した場合に（Ｓ９５２６：Ｙｅｓ）、時短当選を示すための演出態様を決定し（Ｓ９５２７）、Ｓ９５２４の処理へ移行する。ここで、Ｓ９５２７の処理において決定された演出態様

によって、図２７１（ｂ）に示した時短当選変動の変動演出が実行される。
【３５１９】
＜第５制御例の第２変形例＞
図２７８から図２８２を参照して、第５制御例の第２変形例について説明をする。上述した第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態（第１時短）を設定可能にし、且つ、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態（第２時短）を設定可能に構成していた。これにより、複数の契機で普通図柄の高確率状態を設定可能にすることができ、遊技のバリエーションを増加させることで遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるものであった。
【３５２０】
本第２変形例では、更なる興趣向上を目指すために、普通図柄の高確率状態が設定されている状態において実行される特別図柄抽選で大当たり当選した場合に付与される特典の内容を、普通図柄の高確率状態が設定された契機（第１時短又は第２時短）に応じて異ならせるように構成している。つまり、第１時短中に大当たり当選した場合と、第２時短中に大当たり当選した場合とで、同一の大当たり種別が設定された場合に付与される特典の内容を異ならせている。このように構成することで、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定された場合において、どの契機で時短状態が設定されたのかについても遊技者に興味を持たせることができるため、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【３５２１】
さらに、本第２変形例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技として、ラウンド数が少なく、且つ、１回のラウンド遊技の遊技時間が短い大当たり遊技（２Ｒ大当たり）を実行可能に構成し、その２Ｒ大当たり遊技が実行された後に、時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて時短状態が設定される場合、即ち、第１時短が設定される場合と、大当たり遊技が実行されること無く時短状態が設定される場合、即ち、第２時短が設定される場合とで、実行される遊技の内容の相違を遊技者に気付かれ難くすることができる。
【３５２２】
加えて、本第２変形例では、第１時短が設定される過程において実行される変動演出と、第２時短が設定される過程において実行される変動演出と、を同様の演出態様で実行可能に構成している。具体的には、第１時短が設定される大当たり当選（２Ｒ大当たり当選）したことを示すための特別図柄変動が開始されてから、その特別図柄変動が停止表示され、その後、２Ｒ大当たり遊技が終了するまでの第１期間と、第２時短が設定される時短当選したことを示すための特別図柄変動の変動時間である第２期間と、が略同期間となるように設定し、その期間を用いて共通の演出態様で演出を実行するように構成している。
【３５２３】
このように構成することで、第１時短が設定される場合と、第２時短が設定される場合とで、特別図柄変動が開始されてから、時短状態が設定されるまでの期間において共通の演出態様の演出を実行させることができるため、何れの契機で時短状態が設定されたのかを遊技者により分かり難くすることができる。
【３５２４】
＜第５制御例の第２変形例における演出内容について＞
図２７８および図２７９を参照して、第５制御例の第２変形例のパチンコ機１０の第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される特徴的な演出内容について説明をする。
【３５２５】
上述した第５制御例では、大当たり遊技終了後に付与される時短回数（普通図柄の高確率状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数）と、時短当選によって付与される時短回数に違いはあるものの、大当たり当選に基づいて設定されている時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）中に特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、時短当選に

基づいて設定されている時短状態中に特別図柄抽選で大当たり当選した場合とで、大当たり種別が同一であれば付与される特典（例えば、大当たり遊技終了後に付与される時短回数）も同一である構成であった。

【３５２６】

したがって、大当たり当選と時短当選のどちらを契機に時短状態が設定されたとしても、時短状態中に大当たり当選した場合の大当たり種別の割合や同一の大当たり種別であっても付与される特典に差がなく、単調な遊技となってしまう虞があった。

【３５２７】

これに対して、第５制御例の第２変形例では、大当たり当選に基づいて設定されている時短状態中に大当たり当選した場合と、時短当選に基づいて設定されている時短状態中に大当たり当選した場合とで、大当たり種別の割合や同一の大当たり種別であっても付与される特典が異なる構成としている点で第５制御例と相違する。

【３５２８】

このように構成することで、時短状態が設定されることとなった契機によって、遊技者に有利な特典が付与される大当たり種別（例えば、大当たり遊技のラウンド数が多い大当たり）の割合を可変させたり、同一の大当たり種別でも付与される特典を異ならせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【３５２９】

具体的には、第５制御例の第２変形例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において第１特別図柄抽選（特図１抽選）および第２特別図柄抽選（特図２抽選）において大当たり判定と時短判定が実行される構成であり、大当たり当選したことに基づいて第１時短状態を設定し、時短当選に基づいて第２時短状態を設定することが可能である。そして、例えば、第１時短状態が設定されている状態で大当たりＡに当選した場合には、大当たり遊技終了後に最大で１００回の時短回数が付与されるが、第２時短状態が設定されている状態で大当たりＡに当選した場合には、大当たり遊技終了後に最大で１００００回の時短回数が付与される。

【３５３０】

このように、大当たり当選した場合に設定されている遊技状態が第１時短状態か第２時短状態かによって、大当たり当選した場合に遊技者に付与される特典が異なり、第２時短状態が設定されている場合の方が、第１時短状態が設定されている場合よりも大当たり当選したことに基づいて有利な特典（例えば、大当たり遊技終了後に付与される時短回数が多い）が付与され易く構成されているため、遊技者は第１時短状態よりも第２時短状態が設定されることを期待しながら遊技を行うこととなる。

【３５３１】

なお、後述するが、第５制御例の第２変形例では、大当たり遊技中に賞球を獲得可能であり、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される１６Ｒ確変大当たりと、大当たり遊技中に賞球の獲得が困難であり、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される２Ｒ時短大当たりが用意されている。

【３５３２】

このため、大当たり当選した場合に選択された大当たり種別が２Ｒ時短大当たりであった場合に、大当たり当選したにも関わらず賞球を得ることができず、更に第２時短状態に比べて不利な第１時短状態が設定されることから、２Ｒ大当たりに当選した遊技者の遊技意欲を低下させる虞がある。

【３５３３】

したがって、第５制御例の第２変形例においては、第１時短状態が設定される２Ｒ時短大当たりに当選した場合と、第２時短状態が設定される時短当選した場合とで実行される演出を同一にし、２Ｒ時短大当たり当選か時短当選かを遊技者が判別し難くなるように構成している。

【３５３４】

このように構成することで、１６Ｒ確変大当たりに比べて不利な２Ｒ時短大当たりに当

選した場合であっても、時短当選ではないかと遊技者に期待させることが可能となり、２Ｒ時短大当たりに当選した場合の遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【３５３５】

図２７８（ａ）は、通常状態中の第１特別図柄抽選（特図１抽選）において第１時短状態が付与される大当たりに当選した場合に実行されるチャンスタイム獲得演出の一例である。

【３５３６】

主表示領域Ｄｍの中央部には、数字の「２」が２つ表示され、その間に「チャンスタイム」と記載された図柄が表示され、副表示領域Ｄｓには、「チャンスタイムＧＥＴ！！」と表示されており、この後にチャンスタイムに移行することを報知している。

【３５３７】

ここで、チャンスタイムとは、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されてから、時短状態が終了するまでの期間に表示される演出モードのことを示している。なお、第１時短状態と第２時短状態のどちらの時短状態が設定されている場合であっても、表示される演出モードはチャンスタイムとなる。したがって、表示される演出モードから現在設定されている時短状態が何れの時短状態かを遊技者が判別することができない構成としている。

【３５３８】

なお、チャンスタイム中に実行される演出を用いて、設定されている時短状態を示唆する構成としても良く、例えば、チャンスタイム中に表示される背景画像を複数用意し、第２時短状態が設定されている場合には第１時短状態が設定されている場合に比べて、特定の背景画像が設定され易い構成としても良い。

【３５３９】

このように構成することで、時短状態の種別を推測しようと遊技者にチャンスタイム中の表示態様に注目させることが可能となり、チャンスタイム中の遊技の興趣を向上させることができる。

【３５４０】

小表示領域Ｄｍ１には、第１特別図柄が２Ｒ時短大当たりに当選したことを示す表示態様が示されている。ここで、図２７８（ａ）においては、小表示領域Ｄｍ１における表示を遊技者が視認可能な大きさとしているが、遊技者が視認できないように構成（例えば、小表示領域Ｄｍ１を表示しない）することが望ましく、遊技者が視認できないように構成することで２Ｒ時短大当たり当選か時短当選かを遊技者が更に判別し難くすることができる。

【３５４１】

そして、第１特別図柄が２Ｒ時短大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が実行されるため、小表示領域Ｄｍ４には、遊技者に遊技機の盤面右側領域にある特定入賞口６５ａに向けて遊技球を発射する大当たり遊技中であることを報知するために「右打ち」と表示される。

【３５４２】

ここで、２Ｒ時短大当たりに当選した場合は、大当たり遊技における大当たり期間中に開閉板６５ｂが高速で開閉動作を２回行う。一方、時短当選した場合は大当たり遊技が実行されないため開閉板６５ｂが閉鎖状態のままとなる。つまり、遊技者は開閉板６５ｂの動作状況を確認することで２Ｒ時短大当たり当選か時短当選かが判別できてしまう。よって、本実施例では、これを抑制するためにチャンスタイム獲得演出においては画面を激しく発光させることで、遊技者が第３図柄表示装置８１に注目することで開閉板６５ｂに注目しないように構成している。

【３５４３】

なお、実施例では、画面を激しく発光させることで、遊技者が開閉板６５ｂに注目させない構成としているが、これに限るものではなく、ボタンを操作させる演出を実行することで遊技者をボタンに注目させる構成としても良いし、２Ｒ時短大当たり当選に基づく大

当たり遊技が実行される場合にのみ作動する小さな可変入賞装置を可変入賞装置６５よりも目立たない位置に設置する構成としても良い。

【３５４４】

図２７８（ｂ）は、通常状態の第１特別図柄において時短当選した場合に実行されるチャンスタイム獲得演出の一例である。

【３５４５】

２Ｒ時短大当たりに当選した場合と異なるのは、小表示領域Ｄｍ１において、時短当選したことを示すための表示態様が表示されている点であり、その他の表示は２Ｒ時短大当たりに当選した場合に表示される表示画面と同一である。

【３５４６】

なお、時短当選した第１特別図柄の変動が停止した場合にも、小表示領域Ｄｍ４において「右打ち」と表示されるが、これは時短状態が設定されているため、遊技者に遊技機の盤面右側領域にある第２入球口６４０へ向けて遊技球を発射させる遊技を行うよう促すための表示である。

【３５４７】

このように、２Ｒ時短大当たりに当選した場合と時短当選した場合のチャンスタイム獲得演出を同一の表示態様とし、どちらに当選したのかを遊技者が判別し難くすることで、２Ｒ大時短当たりに当選した場合にも、時短当選ではないかと遊技者に期待させることが可能となり、特別図柄抽選の抽選結果が２Ｒ時短大当たりであった場合に遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【３５４８】

ここで、２Ｒ時短大当たりに当選した場合にはチャンスタイム獲得演出中に大当たり遊技が実行されるが、時短当選した場合には大当たり遊技が実行されないため、同じタイミングで特別図柄の変動が停止した場合に、２Ｒ時短大当たりに当選した場合の方が時短当選した場合よりも大当たり遊技が実行される期間分、チャンスタイム獲得演出の表示からチャンスタイムが開始されるまでの期間が長くなり、チャンスタイム獲得演出の表示時間の長短で２Ｒ時短大当たりに当選したのか時短当選したのかを遊技者が判別できてしまう虞がある。

【３５４９】

そこで、第５制御例の第２変形例では、２Ｒ時短大当たりに当選した場合と時短当選した場合とでチャンスタイム獲得演出が開始されてから実際に特別図柄が変動を停止するまでの期間（確定期間）が異なる構成としている。

【３５５０】

図２７９を参照して、大当たり当選時の特別図柄の変動パターンと時短当選時の変動パターンについて説明する。

【３５５１】

図２７９（ａ）と（ｂ）に示すように、特別図柄の変動開始からチャンスタイム獲得演出が終了するまでの演出態様は同一である。しかし、図２７９（ａ）では、チャンスタイム獲得演出が開始されてから１秒後に特別図柄の変動が停止し、４秒間の大当たり遊技が実行されているのに対して、図２７９（ｂ）においては、チャンスタイム獲得演出が開始されてから約５秒後に特別図柄の変動が停止している。

【３５５２】

このように、２Ｒ時短大当たりに当選した場合よりも時短当選した場合のチャンスタイム獲得演出が開始されてから実際に特別図柄が変動を停止するまでの期間（確定期間）を長く設定する構成とすることによって、チャンスタイム獲得演出が表示されている間に大当たり遊技が実行された場合と、チャンスタイム獲得演出が表示されている間に大当たり遊技が実行されない場合とで、チャンスタイム獲得演出の表示時間が変わらないため、チャンスタイム獲得演出の表示時間の長短で遊技者が２Ｒ時短大当たり当選したのか時短当選したのかを判別し難くしている。

【３５５３】

なお、実施例では、２Ｒ時短大当たりに当選した場合と、時短当選した場合とで、異なる確定期間を設定する構成とし、チャンスタイム獲得演出の表示時間を同一とする構成としたが、これに限るものではない。

【３５５４】

例えば、２Ｒ時短大当たりに当選した場合と、時短当選した場合とで、確定期間は同一とし、時短当選した場合には特別図柄の変動が停止してから、次の特別図柄の変動が一定期間開始されない待機期間を設けることでチャンスタイム獲得演出の表示時間を同一とする構成としても良い。

【３５５５】

なお、実施例では、２Ｒ時短大当たりに当選した場合と時短当選した場合とが遊技者に判別し難く構成したが、これに限られるものではない。例えば、時短当選した特別図柄が変動している場合に、第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）が存在し、その特図１保留の保留情報に基づいて事前に判定した結果（先読み結果）が大当たり当選であった場合には、変動中の特別図柄において実行されるチャンスタイム獲得演出の表示態様を特殊な表示態様（例えば、「チャンスタイム」図柄を虹色で表示する）とし、遊技者に時短当選した後に大当たり当選することを示唆する構成としても良い。

【３５５６】

＜第５制御例の第２変形例における電気的構成について＞

次に、図２８０、図２８１を参照して第５制御例の第２変形例における電気的構成について説明をする。図２８０（ａ）は、時短当たり乱数５ｂテーブル２０２ｄｂｅの内容を示した図である。図２８０（ａ）に示した通り、時短当たり乱数５ｂテーブル２０２ｄｂｅは、上述した第５制御例の時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに対して、第１特別図柄抽選においても時短当選と判定される規定値を設定している点で相違し、それ以外は同一である。

【３５５７】

図２８０（ｂ）は、大当たり用５ｂテーブル２０２ｄｂｄ１の内容を示した図である。図２８０（ｂ）に示した通り、大当たり用５ｂテーブル２０２ｄｂｄ１は、上述した第５制御例の大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄの内容を第１特別図柄と第２特別図柄とで共通して参照されるように規定したものであり、大当たり当選時の遊技状態と、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、に応じて、大当たり種別と、各大当たり種別に対応する時短カウンタ２０３ｈの値と確変カウンタ２０３ｉの値とが規定されている。

【３５５８】

本第２変形例では、上述した通り、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態（第１時短）を設定可能にし、且つ、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態（第２時短）を設定可能に構成しており、図２８０（ｂ）に示した通り、大当たり用５ｂテーブル２０２ｄｂｄ１には、普通図柄の高確率状態の種別として第１時短が設定されている場合と、第２時短が設定されている場合とで、大当たり遊技終了後に設定される時短回数（時短カウンタ２０３ｈに設定する値）を異ならせている。

【３５５９】

また、図２８０（ｂ）に示した通り、本第２変形例では、大当たり当選した場合に選択される大当たり種別として、大当たり遊技が２ラウンドで、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が時短状態となる大当たりＢ５ｂを選択可能に構成している。ここで、大当たり種別として大当たりＢ５ｂが選択された場合に、図２７８、及び図２７９を参照して上述した演出、即ち、第１時短が設定されたか第２時短が設定されたかを遊技者に分かり難くする特定演出が実行される。

【３５６０】

つまり、第２時短が設定された場合と同一の遊技状態（時短状態）を設定可能とし、且つ、大当たり遊技期間が短い大当たり遊技を実行可能に構成している。このように構成することで、第１時短が設定されたか第２時短が設定されたかを遊技者に分かり難くするこ

とができる。
【３５６１】
図２８１は、時短種別選択５ｂテーブル２０２ｄｂｆの内容を示した図である。時短種別選択５ｂテーブル２０２ｄｂｆは、上述した第５制御例における時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに対して、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて規定している時短種別を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。
【３５６２】
図２８１に示した通り、本第２変形例では、第２時短が設定された場合の時短終了条件（時短カウンタ２０３ｈに設定する値）が、第１時短が設定された場合の時短終了条件（図２８０（ｂ）参照）と同一となるように構成している。具体的には、時短カウンタ２０３ｈの値に「５０」，「２００」，「１００００」のいずれかが設定される時短種別が選択されるように構成している。
【３５６３】
このように構成することで、例えば、特定演出が実行された後に、普通図柄の高確率状態が設定され、特別図柄変動回数が５０回に到達し普通図柄の高確率状態（時短状態）が低確率状態（通常状態）へと移行した場合において、先程まで第１時短が設定されていたか、第２時短が設定されていたかを遊技者に分かり難くすることができる。
【３５６４】
＜第５制御例の第２変形例における制御処理について＞
次に、図２８２を参照して本第２変形例のパチンコ機１０において実行される制御処理内容について説明をする。図２８２は、時短状態演出設定処理５ｂ（Ｓ９０５６）の内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理５ｂ（Ｓ９０５６）では、上述した第５制御例における時短状態演出設定処理（図２６６のＳ９００６参照）に対して、通常状態から時短状態へと遊技状態が移行したと判別した場合において実行される制御処理内容を異ならせている点で相違しており、具体的には、時短当選したと判別した時点において特図２保留内に大当たり当選があるかを先読み判別し（Ｓ９３５２）、大当たり当選を含む特図２保留があると判別した場合に特殊時短モードが実行されるように構成している。
【３５６５】
時短状態演出設定処理５ｂ（Ｓ９０５６）では、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態の読み出しを実行する（Ｓ９３０１）。次に、Ｓ９３０１の処理において読み出した変更前の遊技状態は確変状態であるか判別する（Ｓ９３０２）。変更前の遊技状態が確変状態であると判別した場合には（Ｓ９３０２：Ｙｅｓ）、準備タイム中に対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３０３）、本処理を終了する。
【３５６６】
一方、Ｓ９３０２の処理において、変更前の遊技状態は確変状態ではないと判別した場合には（Ｓ９３０２：Ｎｏ）、次に、変更前の遊技状態は通常状態であるか判別する（Ｓ９３０３）。変更前の遊技状態は通常状態であると判別した場合には（Ｓ９３０４：Ｙｅｓ）、受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａの値に設定する（Ｓ９３０５）。そして、今回設定された時短状態が時短当選を契機に設定された時短状態であるかを判別する（Ｓ９３５１）。
【３５６７】
Ｓ９３５１の処理において、時短当選を契機に設定された時短状態であると判別した場合には（Ｓ９３５１：Ｙｅｓ）、次に、第２特別図柄の保留内に大当たりに当選する保留があるか判別する（Ｓ９３５２）。大当たりに当選する保留があると判別した場合には（Ｓ９３５２：Ｙｅｓ）特殊時短モードに対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３５３）、本処理を終了する。一方、Ｓ９３５１の処理において、今回の抽選で時短当選していないと判別した場合（Ｓ９３５１：Ｎｏ）、或いは、Ｓ９３５２の処理において、第２特別図柄の保留内に大当たりに当選する保留がないと判別した場合には

（Ｓ９３５２：Ｎｏ）、時短モードに対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３５４）、本処理を終了する。

【３５６８】

＜第６制御例＞

次に、図２８３から図２９３を参照して、第６制御例について説明をする。上述した第５制御例、及び各変形例では、通常状態が設定されている状態で実行される特別図柄抽選において時短当選し得るように構成していた。これに対して、本第６制御例では、通常状態以外の遊技状態が設定されている状態においても特別図柄抽選で時短当選し得るように構成している点で大きく相違している。

【３５６９】

このように構成することで、例えば、時短状態が設定されている状態において、新たに時短当選した場合に、時短状態が継続する残期間を更新可能とすることができる。よって、時短状態がいつまで継続するかを遊技者に把握させ難くすることができる。

【３５７０】

また、時短状態が継続する残期間を更新させる場合において、現状の残期間よりも時短状態が継続する期間が長くなるように更新（有利更新）される場合と、短くなるように更新（不利更新）される場合とが発生するように構成している。つまり、時短抽選において時短当選するタイミングと、時短当選した場合に設定される時短回数（時短期間）とによって、時短当選が遊技者に有利な特典となる場合と、不利な特典となる場合が発生するように構成している。このように構成することで、時短当選を期待する遊技性と、時短当選を期待しない遊技性と、を備える斬新な遊技性を提供することができる。

【３５７１】

さらに、本第６制御例では、大当たり当選すること無く、連続して時短当選すればするほど遊技者に有利な時短状態が設定され易くなるように構成している。具体的には、遊技者の有利度合いを異ならせた時短種別が複数規定されており、時短状態中に時短当選する程、有利な時短種別が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、大当たり当選しない期間が長くなればなるほど、遊技者に有利な特典を付与し易くすることができる。

【３５７２】

加えて、遊技者に最も有利な時短種別が設定されている場合には、その時短種別よりも不利な時短種別が設定されている場合よりも、遊技者に不利な時短種別へと移行し易くなるように構成している。つまり、有利度合いを異ならせた複数段階の時短種別を有し、時短当選に基づいて徐々に有利度合いの高い時短種別が設定されていき、最高段階の時短種別に到達した場合には、最低段階の時短種別へと転落し易くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に有利な時短種別が過剰に長時間継続してしまうことを抑制することができる。

【３５７３】

＜第６制御例の演出内容について＞

ここで、図２８３、及び図２８４を参照して、本第６制御例における特徴的な演出内容について説明をする。図２８３（ａ）は、通常状態において時短当選し、時短種別として時短Ａが設定された場合の表示画面を示した図であり、図２８３（ｂ）は、時短Ａが設定されている状態で時短当選し、時短Ｂが設定された場合の表示画面を示した図である。

【３５７４】

また、図２８４（ａ）は、時短状態中に時短当選し、残時短回数（残時短期間）が増加する場合の表示画面の一例を示した図であり、図２８４（ｂ）は、時短状態中に時短当選し、残時短回数（残時短期間）が減少する場合の表示画面の一例を示した図である。

【３５７５】

図２８３に示した通り、本第６制御例では、時短状態中に実行される特別図柄抽選においても、時短当選判定を実行可能に構成しているため、時短状態中における特別図柄抽選の結果を示すための演出（袋８６３の中から抽選結果を示すアイコンが出現する演出）が

実行される。この場合、例えば、時短状態中における現在の残時短回数と、新たに当選した時短種別とを判別し、新たに当選した時短種別に対応して設定される時短回数が現在の残時短回数（Ｄｍ７参照）よりも多い場合は、図２８４（ａ）に示した通り、時短状態の残時短回数が増加することを示す演出が実行され、新たに当選した時短種別に対応して設定される時短回数が現在の残時短回数（Ｄｍ７参照）よりも少ない場合は、図２８４（ｂ）に示した通り、時短状態の残時短回数が減少することを示す演出が実行される。

【３５７６】

なお、本第６制御例では、時短状態中に時短当選した場合には、時短終了条件が成立し難い時短状態（時短Ｂ）が設定され易く（通常状態にて時短当選した場合よりも設定され易く）なるように構成している。そして、時短Ｂが設定されている状態で更に時短当選した場合には、次回大当たり当選まで時短状態が継続する（時短回数１００００回が設定される）有利時短が付与され易くなるように構成している。

【３５７７】

そして、時短Ｂが設定されている場合は、図２８３（ｂ）に示した通り、時短Ａが設定されている状態とは異なる表示態様で時短状態が設定されていることを遊技者に報知可能な表示態様が表示される。

【３５７８】

＜第６制御例におけるゲームフローについて＞

次に、図２８５を参照して、本第６制御例におけるゲームフローについて説明をする。図２８５は、本第６制御例におけるゲームフローを示した図である。図２８５に示した通り、上述した第５制御例に対して、通常状態以外の遊技状態において、時短当選の判定を実行可能にしている点と、時短当選の判定が実行される遊技状態に応じて、時短当選確率を異ならせている点と、時短状態として、大当たり当選時の特典の有利度合いを異ならせた複数の時短種別（時短Ａ、時短Ｂ）を設けている点とで相違している。

【３５７９】

＜第６制御例における電気的構成について＞

図２８６（ａ）は、時短当たり乱数６テーブル２０２ｅｅの内容を示した図である。図２８６（ａ）に示した通り、時短当たり乱数６テーブル２０２ｅｅは、上述した第５制御例の時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに対して、第１特別図柄抽選においても時短当選と判定される判定値を規定している点と、通常状態以外の遊技状態においても時短当選の判定値を規定している点と、遊技状態に応じて時短当選と判定される範囲（時短当選確率）を異ならせている点で相違している。

【３５８０】

このように構成することで、設定されている遊技状態と、実行される特別図柄抽選の種別に応じて時短当選確率を異ならせることができる。

【３５８１】

図２８６（ｂ）は、時短種別選択６テーブル２０２ｅｆの内容を示した図である。図２８６（ｂ）に示した通り、時短種別選択６テーブル２０２ｅｆは、上述した時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに対して、当選時の遊技状態に応じて各時短種別に対して設定される時短カウンタ２０３ｈの値、即ち、時短回数が異なるように規定している。

【３５８２】

このように構成することで、どの遊技状態が設定されているかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【３５８３】

図２８７は、大当たり用６テーブル２０２ｅｄの内容を示した図である。図２８７に示した通り、大当たり用６テーブル２０２ｅｄでは上述した大当たり用５テーブル２０２ｄｄに対して、大当たり当選時における遊技状態に応じて、各時短種別に対して設定される時短カウンタ２０３ｈの値、即ち、時短回数が異なるように規定している。具体的には、同一の遊技状態（時短状態）である時短Ｂが設定されている場合と、時短Ａが設定されている場合と、で大当たり遊技終了後に設定される時短回数を異ならせており、時短Ｂが設

定されている場合、即ち、時短状態中に時短当選した場合に設定され易い時短状態が設定されている場合のほうが、時短回数が多い時短状態が設定されやすくなるように構成している。なお、本第６制御例では、大当たり当選時における遊技状態に応じて、各時短種別に対して設定される時短カウンタ２０３ｈの値、即ち、時短回数が異なるように規定しているが、これに限ること無く、実行される大当たり遊技のラウンド数を、大当たり当選時における遊技状態に応じて異ならせるように構成しても良い。

【３５８４】

図２８８は、本第６制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を示した図である。図２８８に示した通り、本第６制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、時短モード格納エリア２２３ｅａを追加した点で、第５制御例と相違しており、それ以外は同一である。同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【３５８５】

時短モード格納エリア２２３ｅａは、設定された時短モードを格納するための記憶領域であって、時短状態演出設定処理６（図２９０のＳ９０７６参照）において設定された時短モードが記憶される（図２９０のＳ９３７２）。そして、時短状態中に実行される特別図柄変動の演出態様を設定する際に参照され、読み出された時短モードに対応する演出態様で変動演出が実行される。

【３５８６】

＜第６制御例における制御処理内容について＞

次に、図２８９から図２９３を参照して、本第６制御例にて実行される制御処理内容について説明をする。図２８９は、時短抽選処理６（Ｓ８０５６）の処理内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理６（Ｓ８０５６）は、上述した時短抽選処理５（Ｓ８０１６）に対して、時短抽選（時短当選判定）の実行条件が成立するか否かの判別を行うための処理を変更した点で相違している。つまり、図２８９に示した通り、実行される特別図柄抽選の殆どにおいて時短当否当選が実行されている。

【３５８７】

時短抽選処理６（Ｓ８０５６）では、まず、時短当たり乱数６テーブル２０２ｅｅ（図２８６（ａ）参照）に基づいて抽選結果を取得する（Ｓ８１５４）。次に取得した抽選結果は時短当選であるか判別する（Ｓ８１０５）。次に取得した抽選結果は時短当選であると判別した場合には（Ｓ８１０５：Ｙｅｓ）、取得した時短種別カウンタＣＣ１の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄をセットし（Ｓ８１０６）、本処理を終了する。一方、Ｓ８１０５の処理において、取得した抽選結果が時短当選ではないと判別した場合には（Ｓ８１０５：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７に特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｓ８１０７）、本処理を終了する。

【３５８８】

次に、図２９０は、時短状態演出設定処理６（Ｓ９０７６）の内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理６（Ｓ９０７６）では、上述した第５制御例における時短状態演出設定処理５（図２８２のＳ９０５６）に対して、今回受信した状態コマンドに含まれる時短種別を時短モード格納エリア２２３ｅａに格納するための処理を実行する点で相違し、それ以外は同一であるため、詳細な説明を省略する。

【３５８９】

次に、図２９１は、特図２演出態様設定処理６（Ｓ４９９７）の内容を示したフローチャートである。この特図２演出態様設定処理６（Ｓ４９９７）は、第２特別図柄変動に対応させた変動演出の演出態様を設定するための処理であり、上述した第５制御例における特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）に対して、時短状態中における演出態様を決定するためのモード別演出設定処理（Ｓ９６５１）を実行する点で相違し、それ以外は同一であるため、詳細な説明を省略する。

【３５９０】

ここで、図２９２を参照して、モード別演出設定処理（Ｓ９６５１）の内容について説

明をする。図２９２はモード別演出設定処理（Ｓ９６５１）の処理内容を示したフローチャートである。このモード別演出設定処理（Ｓ９６５１）では、図２８３及び図２８４を参照して上述した各種演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【３５９１】

モード別演出設定処理（Ｓ９６５１）では、まず、時短モード格納エリア２２３ｅａから現在の時短モードの読み出しを実行する（Ｓ９８０１）。次に、時短モード格納エリア２２３ｅａから読み出した現在の時短モードは、時短Ａであるか判別する（Ｓ９８０２）。現在の時短モードは、時短Ａであると判別した場合には（Ｓ９８０２：Ｙｅｓ）、今回の抽選が時短に当選する抽選か判別する（Ｓ９８０３）。

【３５９２】

時短に当選する抽選であると判別した場合には（Ｓ９８０３：Ｙｅｓ）、今回の抽選に基づいて付与される時短回数と、時短中カウンタ２２３ｄａの値とに基づいて、差分を算出する（Ｓ９８０４）。次に、算出した差分に基づいて残時短回数が減少するか判別する（Ｓ９８０５）。時短回数が減少しない、即ち、時短回数が増加すると判別した場合には（Ｓ９８０５：Ｎｏ）、残時短回数が増加することを示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９８０６）、Ｓ９８０９の処理に移行する。

【３５９３】

一方、Ｓ９８０５の処理において、差分に基づいて残時短回数が減少すると判別した場合には（Ｓ９８０５：Ｙｅｓ）、残時短回数が減少することを示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９８０７）、Ｓ９８０９の処理に移行する。一方、Ｓ９８０３の処理において、今回の抽選は時短当選する抽選ではないと判別した場合には（Ｓ９８０３：Ｎｏ）、Ｓ９８０４～Ｓ９８０７の処理をスキップし、Ｓ９８０９の処理に移行する。

【３５９４】

一方、Ｓ９８０２の処理において、読み出した現在の時短モードが時短Ａではないと判別した場合には（Ｓ９８０２：Ｎｏ）、時短Ｂ中演出設定処理を実行する（Ｓ９８０８）。時短Ｂ中演出設定処理（Ｓ９８０８）の詳細な説明については、図２９３を参照して後述する。次に、読み出した現在の時短モードと、抽選結果に基づいて設定される遊技状態との比較を実行し（Ｓ９８０９）、時短モードの切り替えがあるか判別する（Ｓ９８１０）。時短モードの切り替えがあると判別した場合には（Ｓ９８１０：Ｙｅｓ）、時短モードの切り替えに対応する演出態様を決定し（Ｓ９８１１）、本処理を終了する。一方、Ｓ９８１０の処理において、時短モードの切り替えがないと判別した場合には（Ｓ９８１０：Ｎｏ）、Ｓ９８１１の処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【３５９５】

次に、図２９３を参照して、時短Ｂ中演出設定処理（Ｓ９８０８）の処理内容について説明をする。図２９３は、時短Ｂ中演出設定処理（Ｓ９８０８）の内容を示したフローチャートである。図２９３に示した通り、時短Ｂ中演出設定処理（Ｓ９８０８）では、時短Ｂ中において時短当選した際に設定される時短種別を判別し、時短Ｂ以外、即ち、時短Ａが設定された場合において、直ぐに時短状態が終了することを示すための演出態様を設定するための処理が実行される（Ｓ９８５３）。

【３５９６】

時短Ｂ中演出設定処理（Ｓ９８０８）では、まず、今回の抽選が時短当選する抽選であるか判別する（Ｓ９８５１）。時短当選する抽選であると判別した場合には（Ｓ９８５１：Ｙｅｓ）、時短Ｂに当選する抽選であるか判別する（Ｓ９８５２）。時短Ｂに当選する抽選ではないと判別した場合には（Ｓ９８５２：Ｎｏ）、時短終了を示唆するための演出態様を決定し（Ｓ９８５３）、本処理を終了する。一方、時短Ｂに当選する抽選であると判別した場合には（Ｓ９８５２：Ｙｅｓ）、次回大当たりまでの時短継続に対応する演出態様を決定し（Ｓ９８５５）、本処理を終了する。

【３５９７】

一方、Ｓ９８５１の処理において、今回の抽選は時短当選する抽選ではないと判別した場合には（Ｓ９８５１：Ｎｏ）、大当たりに当選する抽選であるか判別する（Ｓ９８５４

）。大当たりに当選する抽選であると判別した場合には（Ｓ９８５４：Ｙｅｓ）、上述したＳ９８５５の処理を実行し、本処理を終了する。一方、大当たりに当選する抽選ではないと判別した場合には（Ｓ９８５４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３５９８】

＜第７制御例＞

次に、図２９４から図３２８を参照して、第７制御例の内容について説明をする。本第７制御例は、上述した第５制御例に対して、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選では無い（外れである）場合の一部において、小当たり当選し得るように構成し、小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることで大当たり遊技を実行可能に構成している点で相違している。

【３５９９】

加えて、上述した第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選していない場合にのみ時短当選の判定を実行するように構成していたのに対して、本第７制御例では、１回の特別図柄抽選で大当たり当選と、時短当選と、を重複して判定可能に構成している点で相違している。

【３６００】

さらに、上述した第５制御例では、大当たり当選の判定を実行した後に、時短当選の判定を実行するように構成し、時短当選した場合には、時短当選した特別図柄変動が停止表示されたタイミングにて時短状態を設定するように構成していたのに対して、本第７制御例では、大当たり当選の判定が実行される前に時短当選の判定を実行するように構成し、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選にて大当たり当選の判定が実行されるよりも前に時短状態を設定し、時短状態が設定されている状態で当該特別図柄抽選における大当たり当選の判定を実行し、当該特別図柄抽選の抽選結果を示すための特別図柄変動が実行されるタイミングにて時短状態を終了させることが可能に構成している。

【３６０１】

具体的には、通常状態における第１特別図柄抽選で時短当選した場合において、上述した通り、当該特別図柄抽選にて大当たり判定が実行されるタイミングを含む短期間の間、時短状態となるように構成している。つまり、上述した第５制御例では、次の大当たり当選に向けて遊技者に有利な遊技（特別図柄抽選を実行させ易い遊技）を、大当たり遊技を介すること無く所定期間（最大で１００００回）実行させるために特別図柄抽選にて時短当選可能な機能（時短期間設定機能）を設けていたのに対して、本第７制御例では、上述した時短期間設定機能に加え、通常状態において、特別図柄抽選を実行させ易くすること無く、特別図柄抽選による大当たり判定が実行されるタイミングが時短状態となるように構成することで通常状態にて実行される遊技（左打ち遊技）の最中に時短状態における特別図柄抽選の大当たり判定を実行可能にする機能（特殊抽選機能）を設けている。

【３６０２】

このように構成することで、遊技者に対して、特別図柄抽選で時短当選したことを把握され難くしながら時短状態における特別図柄抽選の大当たり判定を実行することができるため、特別図柄抽選の結果として意外性のある抽選結果を報知することが可能となる。

【３６０３】

また、本第７制御例では、第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に付与される特典を、通常状態にて大当たり当選した場合と、時短状態にて大当たり当選した場合とで、異ならせており、通常状態よりも時短状態で大当たり当選した場合のほうが、遊技者に有利な特典（例えば、ラウンド数の多い大当たり遊技）が付与されるように構成している。つまり、通常状態において実行される第１特別図柄抽選において、時短当選と大当たり当選とに重複当選した場合のほうが、大当たりのみ当選した場合よりも有利な特典が付与されることになる。

【３６０４】

加えて、本第７制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様として、時短当選の有無を示唆可能な示唆態様（報知態様）と、大当たり当選の有無を示唆可

能な示唆態様（報知態様）と、を設定可能に構成している。
【３６０５】
つまり、実行される変動演出の演出態様を把握することで実行中の特別図柄抽選に対して実行された大当たり判定の結果と、時短当選判定の結果と、を遊技者に予測させることが可能に構成している。さらに、変動演出として、時短当選の有無を報知するタイミングと、大当たり当選の有無を報知するタイミングを異ならせるように構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選に対して異なる複数の特典を付与するための判定を実行可能なパチンコ機１０において、少なくとも１の判定結果を把握（予測）した状態で、他の判定結果を示唆するための示唆態様を把握させることができる。
【３６０６】
また、本第７制御例では、時短当選の有無を示唆可能な示唆態様を含む演出（時短演出）の演出結果が、時短非当選を示唆する示唆態様を含む演出結果であった場合のほうが、時短演出が実行されない場合よりも大当たり当選の期待度が高くなるように構成している。このように、付与判定を異ならせた複数の特典を１回の特別図柄抽選にて付与可能な構成を用いたパチンコ機１０において、１の特典に対する付与判定の結果を示唆可能な判定結果示唆演出が実行された場合に、その判定結果示唆演出の演出結果が１の特典が付与されないことを示唆する演出結果であることで、判定結果示唆演出が実行されなかった場合に比べて他の特典が付与される期待度が高くなるように構成することで、判定結果示唆演出が実行された時点で、判定結果示唆演出が実行されなかった場合に比べて、何れかの特典が付与され易い状態であることを遊技者に報知することができる。
【３６０７】
以下、本第７制御例のパチンコ機１０について説明をするが、上述した各制御例と同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【３６０８】
まず、図２９４から図２９９を参照して、第７制御例におけるパチンコ機１０の構造について説明する。図２９４は第７制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図２９５は第７制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面視右下領域を拡大した拡大図であり、図２９６～図２９９は第７制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３に設けられたＶ入賞装置６５０の構造を模式的に示した模式図である。
【３６０９】
図２９４に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。
【３６１０】
遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図２を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。
【３６１１】
遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域

が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【３６１２】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図２４２参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図２９４の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図２９４の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【３６１３】

遊技領域の正面視右側上部（図２９４の右側上部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、主制御装置１１０（図２４２参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。第７制御例では、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、球が、第１入球口６４へ入賞したか、第２入球口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入球口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ａが作動し、一方で、球が、第２入球口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ｂが作動するように構成されている。

【３６１４】

また、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が時短大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として時短状態が設定される大当たり）に対応した図柄か普通大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として通常状態が設定される大当たり）に対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【３６１５】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、大当たり遊技のラウンド数が１５ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される１５Ｒ時短大当たり（１５Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が５ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される５Ｒ時短大当たり（５Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が５Ｒで大当たり終了後に時短状態が付与されない５Ｒ通常大当たり（５Ｒ時短無大当たり）が用意されている。

【３６１６】

また、大当たり抽選の抽選結果として上述した大当たりでは無い外れと判定された場合の一部において、上述した大当たりよりも遊技者に付与される特典が少ない（例えば、１ラウンドのみＶ入賞装置６５０を開放させる特典）小当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否か（小当たりであるか否か）が示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【３６１７】

ここで、「１５Ｒ時短大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後

に時短状態へ移行する大当たりのことであり、「５Ｒ時短大当たり」とは、最大ラウンド数が５ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことである。また、「５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が５ラウンドの大当たりの後に時短状態へと移行せずに通常状態へと移行する大当たりのことである。

【３６１８】

つまり、本パチンコ機１０では、特別図柄の大当たりに当選した場合に提供される大当たり遊技として、遊技者に最も多くの特典を付与可能な「１５Ｒ時短大当たり」と、その次に多い特典を付与可能な「５Ｒ時短大当たり」と、大当たり遊技のうち最も遊技者に付与される特典が少ない「５Ｒ通常大当たり」と、のうち、何れかの大当たり遊技が提供されるように構成されている。これにより、特別図柄の抽選において大当たりに当選した場合であっても付与され得る特典が異なる大当たり遊技のうち、最も多くの特典が付与される大当たり遊技が提供されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【３６１９】

なお、第７制御例では、大当たり遊技のラウンド数（大当たり遊技中に獲得可能な賞球数）と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の内容と、に応じて遊技者に付与される特典の大小を定義しているが、これに限ること無く、上述した条件以外を用いて遊技者に付与される特典の大小を定義しても良いし、特典に大小を定義付けることなく、異なる特典が付与されるように大当たり遊技の内容を異ならせるだけでも良い。

【３６２０】

また、「時短状態」とは、大当たり終了後に遊技者に付与される付加価値（特典）として、大当たり確率は通常状態と同じであるが、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態である。この第２入球口６４０へ球が入球し易い状態とするために、第７制御例では、第２図柄の変動時間を通常状態よりも短くし、且つ、第２図柄の抽選結果が当たりの場合に動作させる電動役物６４０ａの動作態様を通常状態よりも第２入球口６４０へ球が入球し易い期間が長くなるように設定している。なお、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態を設定するためにそれ以外の構成を用いても良く、上述した設定内容の一部のみを用いても良いし、上述した内容以外にも、第２図柄の当たり確率を通常状態よりも高く設定するように構成しても良い。

【３６２１】

加えて、本第７制御例では、第１入球口６４へと遊技球が入球した場合に実行契機が成立し得る第１特別図柄抽選、及び、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合に実行契機が成立し得る第２特別図柄抽選において、上述した大当たり当選、小当たり当選以外に時短当選し得るように構成している。具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で実行される特別図柄抽選（第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選）において、時短当選の判定が実行されるように構成している。

【３６２２】

ここで、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選において大当たり判定が実行されるよりも前に時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定され、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が開始されるタイミングにて、時短状態を終了させるか否かを判定する処理（更新処理７）が実行される。例えば、時短回数１（時短カウンタ２０３ｈの値が１）に設定される時短状態の場合は、時短当選した当該特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が開始されるタイミングで実行される更新処理７において、残時短回数（時短カウンタ２０３ｈの値）が更新（減算）され、時短終了条件が成立し、時短状態を終了させると判定される。一方、時短回数として複数回（例えば、１００回）の値が設定される時短状態の場合は、更新処理７によって実行される残時短回数の更新の結果に基づいて時短終了条件が成立するまで時短状態が継続する。

【３６２３】

つまり、本第７制御例にて用いられる時短状態の設定タイミングと、時短状態の終了タイミングと、を用いることにより、設定される時短回数に応じて、特別図柄抽選の大当たり判定タイミングのみ（特別図柄変動期間を除外して）時短状態を設定したり、特別図柄

変動期間を含めて時短状態を設定したりすることが可能となる。
【３６２４】
なお、同様の効果を奏する手法として、別の処理タイミングを設定しても良く、例えば、上述した第５制御例と同様に時短当選した当該特別図柄変動の停止タイミングに時短状態を設定し、次に実行される特別図柄変動が開始されるよりも前に時短状態の更新処理（時短状態を終了させるか否かを判定する処理）を実行可能に構成しても良い。このように構成した場合も、設定される時短回数を異ならせることで特別図柄変動期間が含まれるように時短状態を設定したり、特別図柄変動期間が含まれないように時短状態を設定したりすることが可能となる。なお、この場合、時短状態が設定された特別図柄変動が停止表示され、時短状態が設定された状態で次の特別図柄抽選が開始されない場合は、時短終了条件が成立し得ないため時短状態が継続することになる。
【３６２５】
よって、この場合、時短当選した特別図柄変動が停止表示されるまでに（時短状態が設定されるまでに）、次に実行される特別図柄抽選の実行権利（特図保留）を獲得しているかを判別し、特図保留を獲得していると判別した場合、即ち、時短状態が設定された後、ただちに次の特別図柄変動が開始され、時短状態が終了し得る場合のみ、時短当選したことを遊技者に報知するように構成すると良い。このように構成することで、時短当選したことを把握した遊技者が、第１特別図柄抽選を実行させること無く、右打ち遊技を行い、第２特別図柄抽選を実行させる行為を抑制することができる。
【３６２６】
さらに、詳細は後述するが、第７制御例では「時短状態」が終了する条件として、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて付与される時短状態に対しては、第１特別図柄および第２特別図柄の変動回数（合計変動回数）が第１所定回数（１００回）に到達した場合（第１終了条件）、或いは、特別図柄の抽選において小当たりに当選した（小当たり遊技が実行された）回数が第２所定回数（例えば、１回）に到達した場合（第２終了条件）の何れかの終了条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態から通常状態へと移行するように構成している。このように、遊技状態を時短状態から通常状態へと移行させるための終了条件を複数用意し、その複数の終了条件のうち何れかの終了条件が成立した場合に時短状態から通常状態へと移行させることで、時短状態が終了するタイミングを複数設定することが可能となり、遊技者に対して、通常状態よりも遊技者に有利な時短状態がいつまで継続するのかドキドキさせながら遊技を行わせることができる。
【３６２７】
さらに、第７制御例では特別図柄の抽選（第２特別図柄抽選）において当選し得る小当たりとして、複数の小当たり種別（例えば、小当たりＡ，Ｂ）が用意されており、各小当たり種別に対してそれぞれ第２終了条件が成立する回数が異ならせて設定されている。このように構成することで、時短状態中に当選した小当たり回数だけで時短状態が終了するか否かを予測することが困難となるため、遊技者に対して常に緊張感を持たせて時短遊技を行わせることができる。
【３６２８】
一方で、本第７制御例では、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて時短状態（第２時短）が設定された場合には、大当たり当選に基づいて時短状態（第１時短）が設定された場合とは異なる終了条件が設定されるように構成しており、具体的には、時短回数「１」が設定されるように構成している。つまり、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて設定される第１時短は、特別図柄抽選の大当たり判定のみ時短状態で実行させるための特殊抽選機能として時短状態が利用される。
【３６２９】
また、第７制御例では、小当たり遊技中に開放されるＶ入賞装置６５０内に特定領域を設け、小当たり遊技中に球が特定領域を通過することで（特定領域である特別排出流路６５０ｅ２に設けられたＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知することで）大当たり（所謂、２種当たり）となるように構成されている（図２９８参照）。加えて、詳細は後述するが、

当選した小当たりの小当たり種別に応じて小当たり遊技中に球が特定領域を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）が異なるように構成している。そして、各小当たり種別に対して設定される第２終了条件が成立する回数（小当たり回数）を、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行される小当たり種別の方が少なくなるように構成している。

【３６３０】

このように構成することで、時短遊技中において小当たりに当選した場合に２種当たりを獲得するためのＶ入賞期待度と、時短状態が終了するかもしれない不安感とを関連付けることができ、遊技者により意欲的に遊技を行わせることができる。

【３６３１】

なお、第７制御例では、特別図柄（第１特別図柄、第２特別図柄）の変動回数に対して、上述した通り第１所定回数（１００回）を終了条件（第１終了条件）として設定しているが、特別図柄の変動回数に対してそれ以外の終了条件を設定しても良く、例えば、第１特別図柄のみの変動回数が第３所定回数（例えば、５０回）となった場合や、第２特別図柄のみの変動回数が第４所定回数（例えば、８０回）となった場合に時短状態の終了条件が成立するように構成しても良い。また、上述した多数の終了条件の一部のみを用いても良いし、それぞれを適宜組み合わせても良い。

【３６３２】

遊技領域には、球が入賞することにより１０個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入球口６４及び第２入球口６４０への球の入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【３６３３】

第３図柄表示装置８１は１５インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図２４２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される（図１２２参照）。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。第７制御例の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図２４２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。

【３６３４】

つまり、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて第１図柄が可変表示（変動表示）されている期間（動的表示期間）に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が可変表示（変動表示）され、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて特別図柄の抽選結果を示す表示態様で第１図柄が停止表示されるタイミングに対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が特別図柄の抽選結果に応じた表示態様で停止表示される。

【３６３５】

即ち、判別条件（第１入球口６４或いは第２入球口６４０への球の入賞）が成立することに基づいて判別手段による判別が実行され（特別図柄の抽選が実行され）、所定の動的表示期間が経過するまで識別情報（第３図柄）が動的表示（変動表示）された後に、判別手段の判別結果（特別図柄の抽選結果）を示した表示態様（図柄の組み合わせ）で、識別情報（第３図柄）が停止表示される。これにより、遊技者は第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄を把握することで特別図柄の抽選結果を把握することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【３６３６】
なお、第３図柄表示装置８１に停止表示される第３図柄は、特別図柄の抽選結果に応じた表示態様であれば良く、特別図柄の抽選結果の一部（例えば、大当たり或いは外れ、時短当選といった当否判定結果のみ）に対応した表示態様でも良いし、特別図柄の抽選結果の詳細（例えば、当選した大当たりの種別）に対応した表示態様でも良い。また、特別図柄の抽選結果として、４種類の抽選結果（例えば、大当たり、小当たり、外れ、時短）を有する場合には、第３図柄の表示態様として、特別図柄の抽選結果が上述した３種類の抽選結果のうち特定の２種類（例えば、大当たり或いは小当たり）の何れかであることを示す表示態様を用いても良い。また、重複して当選可能な判定（例えば、大当たり安定、時短判定）にて重複して当選した場合には、重複当選を示すための表示態様を用いても良いし、重複当選したことに基づいて実行される遊技の内容が、大当たり当選のみに基づいて実行される遊技の内容と同一である場合には、同一の表示態様を用いても良い。
【３６３７】
また、第７制御例で用いられる表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良いし、パチンコ機１０に複数の表示装置を設けても良い。
【３６３８】
本第７制御例では時短状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合には、通常状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合よりも電動役物６４０ａを作動させる期間（電動役物６４０ａを突出させて球が第２入球口６４０に入球し易くする期間）が長くなるように構成している。これにより、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とすることができる。
【３６３９】
なお、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とするための構成は上述した内容に限られる物では無く、例えば、第２図柄の当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすといった構成を用いても良い。また、電動役物６４０ａの作動パターンを異ならせることにより時短状態を第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。
【３６４０】
さらに、設定される遊技状態に応じて第２図柄の変動表示にかかる時間を可変させ、且つ、電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を可変させる場合において、第２図柄の変動表示が開始される時点にて設定されている遊技状態に応じて第２図柄の変動表示時間を決定し、第２図柄の変動表示が停止し、当たりを示す第２図柄が表示されたタイミング（第２図柄の当たり遊技、即ち、電動役物６４０ａを作動させるタイミング）において設定されている遊技状態に応じて電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を決定するように構成しても良い。このように構成することで、例えば、時短状態中に変動が開始された第２図柄が通常状態中に当たりを示す表示態様で停止表示された場合に、通常状態中に対応する電動役物６４０ａの作動パターンで作動させることができる。よって、設定されている遊技状態と実行される電動役物の作動パターンとをより正確に対応付けることができる。
【３６４１】
なお、遊技状態と第２図柄の変動時間および電動役物６４０ａの作動パターンの関係は上述した内容以外を規定しても良く、例えば、第２図柄の変動開始タイミングと、電動役物６４０ａの作動開始タイミングとの何れか一方のタイミングにおいて遊技状態として時短状態が設定されていると判別した場合には、電動役物６４０ａの作動パターンとして遊技者に有利な作動パターン（時短状態中に実行される作動パターン）を設定するように構成しても良い。

【３６４２】
可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入球し得る第１入球口６４が配設されている。この第１入球口６４へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図２４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ａで示される。
【３６４３】
図２９４に示した通り、第１入球口６４は可変表示装置ユニット８０の左側を球が流下するように行われる遊技（所謂、左打ち遊技）の方が、可変表示装置ユニット８０の右側を球が流下するように行われる遊技（所謂、右打ち遊技）よりも球が入球し易くなるように遊技盤１３上に釘が植設されている。よって、第２入球口６４０に球が入球し難い遊技状態（通常状態）が設定されている場合には、第１入球口６４に球を入球させるために左打ち遊技が実行される。
【３６４４】
一方、第１入球口６４の正面視右方には、球が入球し得る第２入球口６４０が配設されている。この第２入球口６４０へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図２４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ｂで示される。
【３６４５】
また、第１入球口６４および第２入球口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、第７制御例においては、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。
【３６４６】
加えて、第７制御例では特別図柄の抽選契機（大当たりの抽選契機）となる球を検知するスイッチ（第１入球口スイッチ、第２入球口スイッチ）を入球口内に設けているため、特別図柄の抽選契機を獲得すると共に、賞球を獲得できる構成としているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、球が通過可能な領域（ゲート）を設け、その領域（ゲート）を通過する球を検知するスイッチ（検知手段）が球の通過を検知した場合に、特別図柄の抽選契機を獲得し得るように構成しても良い。なお、この場合、特別図柄の抽選契機となり得る領域（ゲート）を通過した球の少なくとも一部が入球可能となり、球が入球した場合に所定数（例えば５個）の賞球が払い出される入球口を設けると良い。このように構成することで、特別図柄の抽選契機の獲得回数と、賞球獲得回数とを異ならせることができるため、多様な遊技性を提供することができる。
【３６４７】
第２入球口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは遊技盤１３から手前側（図２９４の視点で手前側）に突出した突出状態（許容状態）と、遊技盤１３側に待避した待避状態（規制状態）と、に可変可能に構成されており、通常（第２図柄の当たりに当選していない場合）は電動役物６４０ａが待避状態（規制状態）となって、球が第２入球口６４０へ入球し難い状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、即ち、第２図柄の抽選において当たりに当選した場合は、電動役物６４０ａが突出状態（許容状態）となり、球が第２入球口６４０へ入球し易い状態となる。
【３６４８】

ここで、第７制御例のパチンコ機１０に設けられた第２入球口６４０への球流れについて説明をする。第７制御例では図２９４に示した通り、遊技盤１３の遊技領域の略中央位置に可変表示装置ユニット８０を配設し、遊技領域を可変表示装置ユニット８０の左方側（左打ち領域）と右方側（右打ち領域）とに区画しており、遊技者が操作ハンドル５１の操作量を調整することで発射された球の行き先を右打ち領域或いは左打ち領域へと打ち分けることが可能に構成している。以下、遊技者が操作ハンドル５１を操作して遊技領域のうち左打ち領域へと球を発射させる遊技を左打ち遊技、右打ち領域へと球を発射させる遊技を右打ち遊技と称す。

【３６４９】

第７制御例では、図２９４に示した通り、第２入球口６４０と、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａ、及び、電動役物６４０ａを動作させるか否かの抽選のトリガとなる普通図柄始動口（スルーゲート）６７が右打ち領域に配設されており、遊技状態として時短状態が設定されている場合には右打ち遊技が行われるように構成している。

【３６５０】

左打ち遊技により発射された球が第２入球口６４０に入球することが無いように可変表示装置ユニット８０の下方には釘が植設されており、左打ち遊技中に第２入球口６４０に球が入球することが無いように構成している。このように構成することで、左打ち遊技では第１特別図柄を変動させるために球を第１入球口６４へと入球させる遊技を行わせ、右打ち遊技では第２特別図柄を変動させるために球を第２入球口６４０へと入球させる遊技を行わせることができ、遊技方法に応じて異なる遊技性を適切に提供することができる。

【３６５１】

第７制御例のパチンコ機１０では、図２９４に示した通り、右打ち領域には、その上面が左下方向（図２９４の正面視で左下方向）に向けて下り傾斜しているＶ入賞装置６５０が配設され、そのＶ入賞装置６５０の上面を流下した球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過し、電動役物６４０ａに向けて流下するように各機構が配設されている。

【３６５２】

そして、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は、待機状態の電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて球が流下する。一方、電動役物６４０ａが突出状態に位置している場合は、電動役物６４０ａに到達した球が右下方向（図２の正面視で右下方向）に向けて流下する。そして、電動役物６４０ａの右端まで到達した球は第２入球口６４０へ入球し、電動役物６４０ａの右端に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合は、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球するように構成している。

【３６５３】

さらに、本パチンコ機１０は上述した電動役物６４０ａ、第２入球口６４０、一般入賞口６３を覆うように透過性のカバー部材６５５を設けている。このカバー部材６５５は入射する光を乱反射させるためのカット加工が表面に施されている。このカバー部材６５５を設けることで、遊技中はパチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）や第３図柄表示装置８１から発せられる様々な光によってカバー部材６５５の内部を遊技者に視認させ難くすることができる。よって、電動役物６４０ａの動作タイミングを図って右打ち遊技を行う行為を抑制することができる。

【３６５４】

また、遊技が行われていない状態（遊技機の電源がオフになっている状態）では、カバー部材への入射光が抑えられるため、カバー部材６５５の内部を容易に視認することができ、パチンコ機１０のメンテナンスを容易に行うことができる。なお、このようにカバー部材６５５を用いて内部の視認性を可変させる構成を用いる場合には、上述したように装飾用に発光する発光手段を利用可能に構成することで発光手段を共有することができ、パチンコ機１０を構成する部品点数を削減することができるが、カバー部材６５５の内部を視認困難とするための発光手段を専用に設けても良い。

【３６５５】

また、電動役物６４０ａの動作が行われる期間を含む所定期間の間カバー部材６５５の内部を視認困難にすればよく、例えば、電動役物６４０ａの動作が実行されると判別した場合（即ち、普通図柄の抽選により当たりに当選した場合）に、カバー部材６５５の表面に電動役物６４０ａが動作する旨を報知する文字（例えば、「オープン」）が表示されるように発光手段を制御し、その表示された文字により、カバー部材６５５の内部を視認困難にするように構成しても良い。これにより、電動役物６４０ａが動作することを遊技者に把握させるとともに、その詳細な動作タイミングを把握させ難くすることができる。

【３６５６】

ここで、図２９５を参照して、本パチンコ機１０の右打ち領域の構成について説明をする。図２９５に示した通り、右打ち遊技により発射された球のうち、スルーゲート６７を通過した球は、電動役物６４０ａが配設されている領域に向けて流下する。具体的に説明をすると、電動役物６４０ａは、５０ｍｍの長さを有し、その上面を球が流下可能な板状部材で構成され、右下方向（図２９５の正面視で右下方向）に向けて下り傾斜となるように遊技盤１３に配設されている。そして、スルーゲート６７を通過した球は電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍの範囲に該当する領域ａ（図２９５参照）に流下する。

【３６５７】

領域ａに到達した球は、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて流下する。一方、電動役物６４０ａが突出位置に位置している場合は電動役物６４０ａの上面を右端位置に向けて球が流下する。そして、領域ｂ（電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍから４０ｍｍが該当する領域）に球が到達した状態で電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合には、電動役物６４０ａの下方に設けられた一般入賞口６３に向けて球が流下するように構成されている。最後に、領域ｃ（電動役物６４０ａの右端から２０ｍｍが該当する領域）に球が到達すると、その球は第２入球口６４０へ入球するように構成されている。

【３６５８】

なお、本第７制御例では、遊技状態（普通図柄の確率状態）において電動役物６４０ａが連続して動作する期間が異なる様に構成されており、遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で電動役物６４０ａが動作する場合には、突出状態に位置する電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｂ（図２９５参照）に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変し、時短状態が設定されている状態では、電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｃ（図２９５参照）に到達するのに十分な期間の間、電動役物６４０ａが突出位置に位置するように構成されている。

【３６５９】

具体的には、電動役物６４０ａの動作期間（継続して突出状態に位置される期間）が、時短状態中は２秒、通常状態中は０．２秒となるように構成している。そして、電動役物６４０ａは図２９５に示した領域（領域ａから領域ｃまでの範囲）を球が流下するための流下期間が０．２秒よりも長く、且つ２秒よりも短くなるように構成されている（第７制御例では、０．８秒）。このように構成することで、通常状態中に右打ち遊技を行い、普通図柄の当たりに当選し、動作中の電動役物６４０ａの上面を球が流下する状態になった場合であっても、電動役物６４０ａの上面を流下する球が第２入球口６４０に到達するまでに電動役物６４０ａの動作が終了するため、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されることを確実に防止することができる。

【３６６０】

また、時短状態中においては、電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．４秒）よりも長い期間電動役物６４０ａを動作させるため、誘導状態（突出状態）である電動役物６４０ａの上面を流下した球が第２入球口６４０へ到達し易くし、第２特別図柄の抽選を実行され易くすることができる。

【３６６１】

さらに、時短状態中において、例えば、電動役物６４０ａが作動してから１．５秒後に電動役物６４０ａに到達した球は電動役物６４０ａの上面を流下し、領域ｂに到達したタ

イミングで電動役物６４０ａの作動が終了する（電動役物６４０ａが作動してから２秒経過する）ことになる。このような球は図３に示した通り、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球し、１０個の球が賞球として払い出される。このように、時短状態中において右打ち遊技をした場合には、電動役物６４０ａの作動タイミングと、電動役物６４０ａへの球の到達タイミングとによって、異なる入球口（第２入球口６４０或いは一般入賞口６３）へと球を誘導することができるように構成することで、遊技者に対して時短状態中に継続して右打ち遊技を行わせることができる。

【３６６２】

上述したように、一般入賞口６３への入球に応じた賞球数が１０個で、第２入球口６４０への入球に応じた賞球数が５個となるように構成しているため、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得る状態であれば、第２入球口６４０へ球が入球するほうが一般入賞口６３に球が入球するよりも遊技者に有利な特典（即ち、特図２の抽選および５個の賞球）を付与することができ、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得ない状態（特別図柄変動中）であれば、第２入球口６４０よりも一般入賞口６３に球が入球するほうが遊技者に有利な特典（即ち、１０個の賞球）を付与することができるように構成している。

【３６６３】

これにより、遊技の状況（特別図柄の変動の有無）に応じて、遊技者が入球を所望する入球口（多くの特典を獲得可能な入球口）が可変させることができるため、時短状態中における右打ち遊技を遊技者に楽しませることができる。また、電動役物６４０ａの一回の動作中に第２入球口６４０と、一般入賞口６３との両方に球を入球させるためには、右打ち遊技を継続して実行する必要があるため遊技の稼働を高めることができる。

【３６６４】

尚、第７制御例では時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと到達する期間（０．８秒）よりも十分に長い期間（２秒）を設定し、電動役物６４０ａが動作した場合に第２入球口６４０へ球を確実に入球させるように構成しているが、それ以外に、例えば、時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．８秒）よりも若干長い期間（例えば、０．９秒）となるように構成しても良い。このように構成することで、時短状態中においてスルーゲート６７に球を通過させた後、球の打ち出しを止め、電動役物６４０ａが動作したことを確認した後に再度球の打ち出しを開始する行為（所謂、止め打ち）を抑制することができるため、時短状態中において右打ち遊技を継続して行わせ遊技の稼働を向上させることができる。

【３６６５】

図２９４に戻り説明を続ける。図２９５を参照して上述した通り、右打ち遊技により発射された球は、まずＶ入賞装置６５０に到達する。次に、Ｖ入賞装置６５０の構成について説明をする。Ｖ入賞装置６５０は、球が入賞可能な開放状態と入賞困難な閉鎖状態とに可変可能に構成されているものであり、第２特別図柄の抽選結果が「小当たり」である場合にＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作し特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに球が入賞可能な開放状態へと可変するように構成されている。

【３６６６】

なお、特別図柄の「大当たり」に当選したうちの一部において、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を、上述した「小当たり」に当選した場合と同様に動作させるように構成してもよい。これにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作した場合に特別図柄の「大当たり」に当選したのか「小当たり」に当選したのかを把握し難くすることができる。

【３６６７】

ここで、図２９５～図２９９を参照してＶ入賞装置６５０の構成について詳細に説明をする。まず、図２９５に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを閉鎖している閉鎖状態である場合は、閉鎖状態である開閉扉６５０ｆ１の上面を球が流下可能に構成されており、Ｖ入賞装置６５０が閉鎖状態中にＶ入賞

装置６５０に到達した球は、開閉扉６５０ｆ１上を左下側（図２９５の正面視で左下側）に向けて流下し、スルーゲート６７に向けて流出される。一方、Ｖ入賞装置６５０が開放状態（即ち、小当たり遊技中）である場合は、球がＶ入賞装置６５０内へと入賞する。

【３６６８】

第７制御例では、小当たり遊技中におけるＶ入賞装置６５０の開放期間が０．１秒×１２回となるように構成されており、Ｖ入賞装置６５０が開放するタイミングにおいて開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、Ｖ入賞装置６５０へと入賞する。Ｖ入賞装置６５０に入賞した球は、第１規制部材６５１或いは第２規制部材６５２上を流下しながら検出口６５０ａ１（図２９８（ａ）参照）に向けて整列して流下するように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が開閉扉６５０ｆ１のどの位置からＶ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、円滑に球を流下させることができる。

【３６６９】

なお、第７制御例ではＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が継続して開放される期間を０．１秒に設定しているが、開閉扉６５０ｆ１の開放期間中に開閉扉６５０ｆ１上を流下している球がＶ入賞装置６５０へと入賞可能な期間であればその他の期間を設定しても良い。また、第７制御例では１回の小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を開放する回数を１２回としているが、それ以外の回数を設定しても良い。

【３６７０】

詳細は後述するが、第７制御例では小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を１回開放させてから次に開放させるまでの期間（開放間インターバル期間）として、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後には５秒が設定され、それ以外のタイミングでは０．５秒が設定されている。これは、小当たり遊技が行われている期間中にＶ入賞装置６５０へ球を入賞させ易くさせるためのものである。具体的には、小当たり遊技中において５回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合には、５回目の開放動作終了後の開放間インターバル期間中に、遊技者に右打ち遊技を強調して促す遊技案内表示を第３図柄表示装置８１に表示するように構成している。

【３６７１】

そして、第３図柄表示装置８１に表示された遊技案内表示を把握することで右打ち遊技を開始した場合にも、Ｖ入賞装置６５０へ球を入球させることができるように、開放間インターバル期間を通常よりも長く設定している。また、小当たり遊技中の１０回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合にも同様の制御処理が実行される。

【３６７２】

このように構成することで、小当たり遊技中に適切な遊技をしていない遊技者（右打ち遊技をしていない遊技者）に対しても適切な遊技を実行させ易くすることができる。このように、複数回の開放動作が実行される特定遊技（小当たり遊技）中において、一部の開放間インターバル期間を他よりも長く設定し、適正な遊技を行っていないと判別した場合に、適正な遊技内容を促すための遊技案内表示を表示可能とすることで、誤った遊技を行っている遊技者に対して、安心して遊技を行わせることができる。

【３６７３】

第７制御例では、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後に他よりも長い特別開放間インターバル期間を設定している。このように１回の小当たり遊技中に遊技者に遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設けることで、遊技者に適切な遊技をより行わせ易くすることができる。なお、遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設ける場合では少なくとも２回目移行の報知タイミングを、正常に遊技を行っている遊技者が到達し得ないタイミングに設定するとよい。即ち、詳細は後述するが、第７制御例では小当たり遊技中に継続して右打ち遊技を行うことにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１の１回の開放動作において少なくとも１個の球が入球し得るように構成されているため

、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っていれば、１０回目の開放動作中に小当たり遊技の終了条件となる入賞個数（１０個）に到達し、小当たり遊技が終了されることになる。

【３６７４】

つまり、小当たり遊技中の開放動作１０回目以降に実行される開放間インターバル期間は正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている場合には到達し得ないタイミングとなる。よって、このタイミングを利用して遊技案内表示を表示させるタイミングを設定することで、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている遊技者に対して無用に長い特別開放間インターバル期間が実行されることが無くなり、小当たり遊技を円滑に実行することができる。

【３６７５】

なお、第７制御例のように１回目の特別開放間インターバル期間を、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っても到達するタイミング（５回目の開放動作終了後）に設定する場合は、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されるタイミング（５回目の開放動作終了タイミング）、或いは、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されてから所定期間経過したタイミング（５回目の開放動作中に入球した球がＶ入賞装置６５０から排出されるまでに要する期間を経過したタイミング）においてＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知しているかを判別し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していると判別した場合は、１回目の特別開放間インターバル期間中にその旨を報知する報知演出を表示し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合は、上述したように遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に設定した特別開放間インターバル期間を遊技内容に応じて有効に用いることができる。

【３６７６】

さらに、２回目の特別開放間インターバル期間においては、既にＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知している場合にも遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に所定個数（１０個）の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させることなく小当たり遊技が終了してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【３６７７】

次に、図２９６を参照してＶ入賞装置６５０の構造について詳細に説明をする。図２９６は、このＶ入賞装置６５０の分解斜視図である。Ｖ入賞装置６５０は、図２９６に示すように、遊技盤１３の前面側に突出して配置される開口部形成部材６５０ｂ、その開口部形成部材６５０ｂの背面側に組み合わされて、Ｖ入賞装置６５０を遊技盤１３にビス留めするためのベース部材６５０ｃと、そのベース部材６５０ｃの背面側に配置されてベース部材６５０ｃの背面側よりパチンコ機１０の前面側に対してＬＥＤを点灯させるためのＬＥＤが複数配置されたＬＥＤ基板６５０ｄと、そのＬＥＤ基板６５０ｄをベース部材６５０ｃと狭持する裏カバー体６５０ｅと、開口部形成部材６５０ｂに形成されている特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを開閉するための開閉扉６５０ｆ１を有した開閉ユニット６５０ｆと、裏カバー体６５０ｅの背面側に組み合わされて流路を形成する流路カバー体６５０ｇと、裏カバー体６５０ｅと流路カバー体６５０ｇとで形成された流路に突出して遊技球の流路を切り替える切替部材６５０ｈと、その切替部材６５０ｈと係止されるリンク部材６５０ｉと、流路カバー体６５０ｇの背面側に配置される背面カバー体６５０ｊと、その背面カバー体６５０ｊの背面側に固定されて、リンク部材６５０ｉを作動させる流路ソレノイド６５０ｋと、その流路ソレノイド６５０ｋを背面側から覆って背面カバー体６５０ｊにビスにより固定するための固定用カバー体６５０ｍとで構成されている。

【３６７８】

図２９７は、Ｖ入賞装置６５０の断面図である。図２９７（ｃ）はＶ入賞装置６５０の上面図であり、図２９７（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＬｂ－Ｌｂ断面図である。図２９７（ｂ）に示すように、Ｖ入賞装置６５０には、遊技球が入球可能な開口部である特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが形成されている。特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａは、パチンコ機１０の上方を略長方形状の開口が形成されており、その開口を通過した遊技球が図

２９７（ｂ）の左方向に誘導されるように左下方に傾斜した底面が形成されている。底面の左端部には、遊技球の入賞を検知するための磁気センサ（球検知スイッチ）６５０ｃ１で構成された検出口６５０ａ１が配置されている。この検出口６５０ａ１を通過した遊技球は、図２９７（ａ）で示す裏カバー体６５０ｅの背面側に形成された振り分け流路へと誘導される。

【３６７９】

なお、図２９７（ｂ）に示すように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａの開口は、遊技盤１３側より出没可能なシャッター機構で構成された開閉扉６５０ｆ１により遊技球が入球可能な開放状態と入球不可能（入球困難）な閉鎖状態とに可変される。閉鎖状態では、開口が完全に開閉扉６５０ｆ１によって覆われ、開閉扉の上部を遊技球が転動可能に構成される。また、開放状態では、開閉扉６５０ｆ１は、ベース部材６５０ｃの内側（遊技盤１３の内部）に退避されることにより特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内から退避されるように構成されている。

【３６８０】

このように構成することで、時短遊技中と、大当たり遊技中と、小当たり遊技中とを継続して右打ち遊技させることができるため、遊技状態に応じて遊技方法を変更させる手間を軽減することができる。従って、より楽に遊技を行うことができる。

【３６８１】

また、開閉扉６５０ｆ１の開放状態においては、遊技球が流下する方向と直交する面をＶ入賞装置６５０の開口として構成できるので、遊技球を効率よく特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内に入賞させることができる。よって、小当たり遊技に要する時間を短くすることができ、遊技の効率化をはかることができる。

【３６８２】

図２９７（ａ）は、図２９７（ｂ）に示すＬａ－Ｌａ断面図である。図２９７（ａ）に示すように検出口６５０ａ１を有する磁気センサ６５０ｃ１は、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路側へと検出口６５０ａ１が傾くようにベース部材６５０ｃに固定されている。

【３６８３】

次に、図２９８を参照して、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路に誘導された遊技球が後述する通常排出流路６５０ｅ１と特別排出流路６５０ｅ２とに振り分けられる構成について説明する。

【３６８４】

図２９８（ａ）は、遊技球が特別排出流路６５０ｅ２に振り分けられるように切替部材６５０ｈが作動された状態を示す裏カバー体６５０ｅの背面図である。図２９８（ａ）に示すように、切替部材６５０ｈは、リンク部材６５０ｉの突部が挿入される係止穴６５０ｈ１と遊技球を誘導する誘導片６５０ｈ２とを有しており、流路カバー体６５０ｇに背面側より回動可能に軸支されている。ここで、流路カバー体６５０ｇには、この誘導片６５０ｈ２を挿通することが可能な開口部が設けられており、流路カバー体６５０ｇの背面側より振り分け流路内に誘導片６５０ｈを回動可能に配置することが可能に構成されている。

【３６８５】

図２９８（ａ）に示すように、検出口６５０ａ１より振り分け流路内に誘導された遊技球は、左斜め下方に配置された誘導片６５０ｈ２の上面に誘導されて特別排出流路６５０ｅ２に誘導される。特別排出流路６５０ｅ２を通過した遊技球は特別排出流路６５０ｅ２に設けられた遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成されたＶスイッチ６５０ｅ３により検出されてアウト球としてパチンコ機１０外へ排出される。

【３６８６】

ここで、詳細については後述するが、第７制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技中に上記したＶスイッチ６５０ｅ３を遊技球が通過することにより、小当たり遊技後に大当たり遊技が設定される。即ち、Ｖスイッチ６５０ｅ３は、大当たり遊技を開始させるためのトリガとして構成されている。また、切替部材６５０ｈは、小当たり中にＶ入

賞装置６５０に入賞した球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過可能な流路（特別排出流路６５０ｅ２）、或いはＶスイッチ６５０ｅ３を通過不可能（困難）な流路（通常排出流路６５０ｅ１）の何れかを連通させるためのものであって、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定することでＶ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下するように流路を切り替える（図２９８（ｂ）参照）ように構成している。

【３６８７】

第７制御例で用いられるパチンコ機１０は、通常に遊技を行っている間は流路ソレノイド６５０ｋがオフに設定されており、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように構成している。そして、小当たりに当選した場合に、図２５を参照して後述する開放シナリオテーブル２０２ｇに規定されている内容に従って流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定し、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下可能となるように構成している。このように、流路ソレノイド６５０ｋをオフに設定している場合に、パチンコ機１０において長期間維持される状態、即ち、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように切替部材６５０ｈを維持する状態（図２９８（ａ）参照）を提供するように構成することで、パチンコ機１０の使用電力を抑えることが出来る。

【３６８８】

このように、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０に入賞した遊技球の流下ルートにより小当たり遊技後に設定される遊技状態が可変されるので、小当たり遊技中にも遊技者の興趣を向上させることができる。なお、Ｖ入賞装置６５０の開口（特定入賞口）から特別排出流路６５０ｅ２の入り口（切替部材６５０ｈの誘導片６５０ｈ２により閉鎖される開口面）を通過するのに必要な時間は、最短でも１秒で構成されている。このように構成することで、小当たりに当選していないにも関わらず開閉扉６５０ｆ１が開放されたことを検知してから切替部材６５０ｈにより球の流下ルートを切り替えたとしても、確実に球が特別排出流路６５０ｅ２を流下する事態を抑制することができる。

【３６８９】

また、通常排出流路６５０ｅ１の端部には球の通過を検出可能な磁気センサで構成された排出確認スイッチ６５０ｅ４が設けられている。これにより、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されたかを排出確認スイッチ６５０ｅ４とＶスイッチ６５０ｅ３との合計により判別できる。なお、小当たり遊技の終了タイミング（小当たり遊技の終了条件（Ｖ入賞装置６５０に所定数（１０個）の入賞があった場合、或いは、Ｖ入賞装置６５０の開放シナリオが終了した場合）が成立した後に実行される小当たりエンディング期間を経過したタイミング）において、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されていない場合には、Ｖ入賞装置６５０内部の異常と判別し、外部に異常を報知したり、大当たり遊技や通常遊技が開始されないように遊技を停止させたりするように構成すると良い。これにより、パチンコ機１０の一部において異常が発生している状態で遊技が進行してしまい２次的な異常が発生してしまうことを抑制することができる。

【３６９０】

このように、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した遊技球が磁気センサ６５０ｃ１により検出され、それに基づいて、遊技者に特典として賞球（第７制御例では１球入賞に対して１０個の賞球）を払い出すことができる。また、その検出された後の遊技球を利用して、Ｖスイッチ６５０ｅ３に通過するか否かを振り分け可能に構成することで、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されるか否かを振り分けることができる。よって、大当たり遊技を付与するための専用の入賞口（特定領域）をＶ入賞装置６５０とは別に設ける必要がなく、遊技盤１３のスペースを有効に利用することができる。

【３６９１】

さらに、第７制御例では、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）に応じて、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定する期間やタイミングが異なる小当たり遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、小当たり

に当選した場合に実行される小当たり遊技の内容によって、その小当たり遊技中に球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）を異ならせることができる。よって、遊技者は小当たりに当選することだけではなく、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【３６９２】

次に、図２９９を参照して、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉する開閉扉６５０ｆ１の球流下面の構造について説明をする。図２９９（ａ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉扉６５０ｆ１が閉鎖している状態を平面視した模式図である。第７制御例の開閉扉６５０ｆ１は、図２９９（ａ）に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の上面に到達した球は、Ｖ入賞装置６５０上面の傾斜（図２９４参照）に沿って、Ｖ入賞装置６５０の右側上面６５０ｙ１から開閉扉６５０ｆ１の上面を介して左側上面６５０ｙ２を流下し、可変入賞装置６５に向けて流出するように構成されている。

【３６９３】

そして、開閉扉６５０ｆ１の上面には、球の流下を遅延させるための遅延部材として第１遅延部材６５０ｆａ、第２遅延部材６５０ｆｂ、第３遅延部材６５０ｆｃが設けられており、球が開閉扉６５０ｆ１上面を流下する流下期間が０．６秒となるように構成している。この流下期間（０．６秒）は、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが小当たり遊技によって複数回開放される際の間隔（閉鎖期間（０．５秒））よりも長くなるように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、小当たり遊技により特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放された場合に確実に入賞するように構成している。

【３６９４】

図２９９（ａ）に示した状態で、小当たり遊技が実行され、開閉扉６５０ｆ１が開放状態に可変すると、図２９９（ｂ）に示した状態へと移行する。図２９９（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａが開放している状態を平面視した模式図である。図２９９（ｂ）に示した通り、開閉扉６５０ｆ１は開放状態になると、遊技盤１３の内部に待避するように可動し、右側上面６５０ｙ１を流下した球が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞可能となるように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放状態となる。また、開閉扉６５０ｆ１上を流下中の球も、開閉扉６５０ｆ１が待避位置に位置することで、特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａへ入賞する。

【３６９５】

また、Ｖ入賞装置６５０には、開閉扉６５０ｆ１上を流下していた球がどの位置から特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、入賞後の球流れを円滑にするための第１規制部材６５１と、第２規制部材６５２が設けられており（図２９４参照）、開閉扉６５０ｆ１上面上流側で特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した球は第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を介して一列に整列させてから、球１個分の通路幅である検出口６５０ａ１に向けて流下するように構成されている。このように第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を設けることで、第１規制部材の下方位置に検出口６５０ａ１を設けたとしても、開閉扉６５０ｆ１から勢いよく入賞した球が直接検出口６５０ａ１に衝突することを防止することができるため、検出口６５０ａ１に設けられた球検知スイッチ６５０ｃ１が故障することを抑制することができる。加えて、球１個分の通路幅の検出口６５０ａ１を球が通過するまでに球を整列させるための流路（第１規制部材６５１、第２規制部材６５２上を流下する流路）を確保することができるため、Ｖ入賞装置６５０内で球詰まりが発生し、遊技に支障を来す事態が発生することを抑制することができる。

【３６９６】

以上、説明をしたように、第７制御例では判別手段の判別結果（特別図柄の抽選の結果）が所定の判別結果（小当たり）である場合に付与される特典遊技（小当たり遊技）において作動する可変部材（開閉扉６５０ｆ１）の開放間インターバル期間（０．５秒）よりも、その可変部材（開閉扉６５０ｆ１）上を球が流下するのに要する流下期間（０．６秒）が長くなるように構成しているため、小当たり遊技中の開放間インターバル（開閉扉６

５０ｆ１が閉鎖状態のタイミング）中に可変部材上を流下する球を確実に次の開放タイミングでＶ入賞装置６５０へ入賞させることができる。

【３６９７】

また、可変部材上を流下中の球のみを小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へ入賞させるだけでも小当たり遊技中に所定個数（１０個）を入賞させることができるように、１回の小当たり遊技における開放動作回数（１２回）を、小当たり遊技の終了条件入賞個数（１０個）よりも多く設定しているため、１回の開放期間（０．１秒）を短く設定したとしても、充分の入賞個数を確保することができる。加えて、１回の開放期間を長く設定しまうことにより、小当たり遊技中に過剰な個数の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させてしまうという事態が発生することを抑制することができる。

【３６９８】

＜第７制御例のパチンコ機１０における演出内容について＞

図３００～図３０２を参照して、第７制御例のパチンコ機１０にて実行される特徴的な演出内容について説明をする。

【３６９９】

上述した第５制御例では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ遊技球が入球したことを契機として実行される抽選（特別図柄抽選）における大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）において外れであった場合に、普通図柄の高確率状態を設定するための時短当選の判定（時短抽選）が実行される構成であったため、大当たり当選した場合には時短当選することがない構成であった。

【３７００】

これに対して、第７制御例では、特別図柄抽選において大当たり当選と時短当選が重複可能な構成としている点で第５制御例と相違する。

【３７０１】

具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）における第１特別図柄抽選において大当たり抽選が実行される前に時短抽選を実行し、時短当選した場合には時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、時短状態が設定されている期間中に大当たり抽選が実行され、その大当たり抽選が終了し第１特別図柄の変動が開始された時点で時短状態が終了する構成としている。つまり、時短当選により時短状態が設定されている期間は大当たり抽選が実行される期間のみとなる。

【３７０２】

そして、通常状態が設定されている場合と、時短状態が設定されている場合と、で大当たり当選した場合に決定される大当たり種別の割合が異なる構成としており、例えば、通常状態が設定されている期間で大当たり当選した場合に１５Ｒ大当たり（最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たり）が決定される割合は１０％であるのに対して、時短状態が設定されている期間で大当たり当選した場合に１５Ｒ大当たりが決定される割合は５０％となる。つまり、時短当選したことに基づいて時短状態が設定されている期間に大当たり当選すると、通常状態が設定されている期間に大当たり当選した場合よりも１５Ｒ大当たりが決定される可能性が高くなるため、時短当選と大当たり当選が重複した場合には遊技者に有利となる。

【３７０３】

なお、本実施例では、時短当選した場合に設定される時短状態では、時短当選してから次に第１特別図柄の変動が開始されるまでの僅かな期間しか時短状態が継続しないため、遊技者は第２入球口６４０に遊技球を入球させる遊技（右打ち遊技）を行うことはできないが、大当たり当選に基づいて設定される時短状態では、右打ち遊技を行うことが可能である。

【３７０４】

ここで、大当たり当選していない場合に遊技者に時短当選したことを報知した場合、遊技者に対して変動中の特別図柄が停止した後に設定される遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか遊技者が混乱してしまい、時短状態が設定されていると誤認した遊技者が誤っ

て右打ち遊技を行ってしまう虞がある。
【３７０５】
一方で、時短当選と大当たり当選が重複した場合は、時短当選したことを報知したことによって、変動中の特別図柄が停止した後に設定されるのが通常状態か時短状態か遊技者が混乱したとしても、大当たり当選したことが報知されることにより、遊技者に特別図柄停止後には大当たり遊技が実行されると認識させることができる。
【３７０６】
したがって、第７制御例においては、特別図柄抽選において時短当選と大当たり当選が重複した場合には時短当選したことを報知或いは示唆するが、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合には、時短当選したことを遊技者に報知或いは示唆しない構成としている。
【３７０７】
このように構成することで、時短当選と大当たり当選が重複した場合には、どの遊技状態が設定されている場合の大当たり当選であったかを遊技者が判別することが可能となる一方で、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合には、変動中の特別図柄が停止した後に設定される遊技状態を遊技者が誤認し、遊技者に誤った遊技方法で遊技させてしまうことを抑制することができる。
【３７０８】
図３００および図３０１を参照して、第１特別図柄の変動中に時短抽選結果を示唆する場合の表示画面について説明する。
【３７０９】
図３００（ａ）は、第１特別図柄の変動中に時短抽選結果示唆演出（時短抽選の結果を示唆するための演出）が実行される場合に表示される表示画面の一例である。本実施例では、特別図柄抽選において実行された時短抽選の抽選結果を遊技者に報知する場合には、「おみくじタイム演出」を実行する。おみくじタイム演出は、主表示領域Ｄｍに表示されるカプセルｃｐ５の中身によって時短当選か時短非当選かを遊技者に示唆する演出である。主表示領域Ｄｍには、閉じたカプセルｃｐ５とともに「この変動は時短当選かな？」と表示されることで、おみくじタイム演出が変動中の第１特別図柄が時短当選したか否かをカプセルｃｐ５の中身によって示唆する演出であることを遊技者に認識させることができる。
【３７１０】
ここで、おみくじタイム演出は第１特別図柄の変動毎に実行されるものではなく、時短当選した場合であってもおみくじタイム演出が実行されない場合もある構成としている。つまり、おみくじタイム演出が実行されなかった場合には、変動中の第１特別図柄が時短当選したのか否かを遊技者が認識できず、おみくじタイム演出が実行された場合には、変動中の第１特別図柄が時短当選したのか時短非当選であったのかを遊技者が認識できるように構成している。
【３７１１】
図３００（ｂ）は、第１特別図柄の変動中に時短当選したことを示唆する場合の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍでは、カプセルｃｐ５が開放され、中から「○」と書かれた紙ｋ１が出現する演出が実行される。紙ｋ１は変動中の第１特別図柄が時短当選したことを示すための表示態様であり、これにより遊技者は時短当選したことを認識することができる。
【３７１２】
なお、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）における第１特別図柄の変動中に時短当選したことが遊技者に示唆されるのは、時短当選と大当たり当選が重複した場合のみとしており、大当たり抽選（特別図柄抽選において実行される大当たりか否かの当否判定）の結果が外れであった場合には時短当選した場合であっても遊技者に時短当選したことが示唆されない（つまり、おみくじタイム演出が実行されない）。したがって、おみくじタイム演出において時短当選したことを示唆する紙ｋ１が表示された場合

には、大当たり当選したことを示す表示態様の第３図柄が表示される前に遊技者は大当たり当選したことを認識可能となる。

【３７１３】

なお、後述するが、本実施例では、通常状態が設定されている場合と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている場合と、で大当たりに当選した場合の大当たり種別の割合が異なり、通常状態中に大当たり当選した場合に１５Ｒ大当たり（最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たり）が決定される割合は１０％であるのに対して、時短状態中に大当たり当選した場合に１５Ｒ大当たりが決定される割合は５０％となる。

【３７１４】

したがって、実施例では、おみくじタイム演出において時短当選したことを示唆する紙ｋ１が表示された場合には、主表示領域Ｄｍに「スーパーチャンス到来！この変動で当たれば１５Ｒ大当たりの大チャンス！」と表示される「スーパーチャンス到来演出」が実行されることで、変動中の第１特別図柄が１５Ｒ大当たりに当選している可能性が高いことを遊技者に示唆し、おみくじタイム演出が終了してから大当たり抽選の結果が報知されるまでの期間で遊技者に１５Ｒ大当たりに当選していることを期待させることで遊技の興趣を向上させることができる。

【３７１５】

図３０１（ａ）は、第１特別図柄の変動中に時短非当選であったことを示唆する場合の表示画面の一例である。時短当選した場合と異なり、おみくじタイム演出においてカプセルｃｐ５の中から「×」と書かれた紙ｋ２が出現する演出が実行される。紙ｋ２は変動中の第１特別図柄が時短非当選であったことを示すための表示態様であり、これにより遊技者は時短非当選であったことを認識することができる。

【３７１６】

なお、後述するが、本実施例では、時短非当選であったことが遊技者に示唆されるのは、大当たりＡ（１５Ｒ時短有大当たり）に当選した場合と大当たり抽選が外れであった場合のみとしている。

【３７１７】

ここで、本実施例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）における第１特別図柄の大当たり種別として３つの大当たり種別が規定されており、「大当たりＡ」は大当たりのラウンド数が１５ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別であって、「大当たりＢ」は大当たりのラウンド数が５ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される大当たり種別であって、「大当たりＣ」は大当たりのラウンド数が５ラウンドであり、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される大当たり種別である。つまり、大当たりＡは大当たりＢ，Ｃよりも遊技者に付与される大当たり遊技のラウンド数が多く、大当たりＣと異なり大当たり遊技終了後には通常状態よりも有利な時短状態が設定されることから、最も有利な大当たり種別である。

【３７１８】

したがって、おみくじタイム演出において、時短非当選であったことを示唆する紙ｋ２が表示された場合には、主表示領域Ｄｍに「一か八か！大当たりＡ？ｏｒハズレ？」と表示される「一か八か演出」が実行されることで、最も有利な大当たりＡに当選している可能性が高いことを遊技者に示唆し、おみくじタイム演出が終了してから大当たり抽選（特別図柄抽選において実行される大当たりか否かの当否判定）の結果が報知されるまでの期間で遊技者に大当たりＡに当選していることを期待させることで遊技の興趣を向上させることができる。

【３７１９】

図３０１（ｂ）は、時短当選と大当たり当選が重複している場合の大当たり当選報知画面の一例である。小表示領域Ｄｍ１では第１特別図柄が大当たりに当選したことを示す表示態様で停止表示され、主表示領域Ｄｍでは、うさぎのキャラクタ８０１によって宝箱８

１０ｆを開放され、宝箱８１０ｆの中から「Ｖ」と書かれた玉ｔｍ２が出現する演出が実行される。玉ｔｍ２は、第１特別図柄が大当たりに当選したことを遊技者に報知するための表示態様であり、玉ｔｍ２が表示されることで遊技者は大当たりに当選したことを認識することができる。

【３７２０】

また、主表示領域Ｄｍには、図３００（ｂ）で示した「スーパーチャンス到来！この変動で当たれば１５Ｒ大当たりの大チャンス！」と表示されるスーパーチャンス到来演出が大当たり抽選の結果が報知される時にも継続して表示される。

【３７２１】

なお、時短非当選であったものの大当たりＢまたはＣに当選した場合には、図３０１（ｂ）の主表示領域Ｄｍにスーパーチャンス到来演出および一か八か演出のどちらも表示されていない状態でうさぎのキャラクタ８０１が宝箱８１０ｆを開放して玉ｔｍ２が出現する演出が実行される。一方、時短非当選であったが大当たりＡに当選し、上述したおみくじタイム演出中に一か八か演出が実行されている場合には、図３０１（ｂ）の大当たり当選報知画面においても、主表示領域Ｄｍには一か八か演出が継続して表示され、玉ｔｍ２が表示されたことで大当たりＡに当選したことを遊技者が認識することができる。

【３７２２】

なお、図３０１（ｂ）の大当たり当選報知画面が表示された後に、決定された大当たり種別を報知する演出を実行する（図示しない）。

【３７２３】

なお、変動中の第１特別図柄が時短非当選且つ大当たり非当選であった場合に、おみくじタイム演出が実行され、おみくじタイム演出において主表示領域Ｄｍに「一か八か！大当たりＡ？ｏｒハズレ？」と表示される一か八か演出が実行された場合には、図３０１（ｂ）においても主表示領域Ｄｍに一か八か演出が継続して表示される。この場合、宝箱８１０ｆの中から「残念」と書かれた玉が出現する演出が実行されることで、大当たり非当選であったことが遊技者に報知される。

【３７２４】

なお、実施例では、おみくじタイム演出によって時短抽選（特別図柄抽選において実行される普通図柄の高確率状態を設定するための時短当選の判定）の結果を示唆する構成としたが、これに限るものではなく、特定のキャラクタや背景画像を表示させることで時短抽選結果を遊技者が認識できる構成としても良い。

【３７２５】

また、例えば、図３００（ａ）に示すスーパーチャンス到来演出において、主表示領域Ｄｍに「スーパーチャンス到来！スーパーチャンス表示中に大当たり図柄が停止すれば、１５Ｒ大当たりの大チャンス！」と表示される構成とし、大当たり当選報知画面までスーパーチャンス到来演出が継続して表示されていれば、１５Ｒ大当たりが確定し、大当たり当選報知画面が表示される前にスーパーチャンス到来演出が終了した場合、つまり、図３０１（ｂ）においてスーパーチャンス到来演出が表示されていない場合には、１５Ｒ大当たりの可能性が低いことを遊技者に示唆する構成としても良い。

【３７２６】

このように構成することで、スーパーチャンス到来演出が実行されてから大当たり当選報知画面が表示されるまでの期間、遊技者にスーパーチャンス到来演出が継続して表示されることを期待させながら遊技を行わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができるとともに、スーパーチャンス到来演出が表示された状態で大当たり当選が報知されたにも関わらず、大当たり種別が１５Ｒ大当たりでなかった場合に、遊技者に不信感を与えてしまうことを抑制することができる。

【３７２７】

なお、図３０１（ｂ）において、玉ｔｍ２の表示態様によって大当たり種別を報知する構成としても良く、例えば、玉ｔｍ２の色が虹色であれば大当たりＡ（１５Ｒ時短有大当たり）、青色であれば大当たりＣ（５Ｒ時短無大当たり）であることを示す構成としても

良い。
【３７２８】
次に、図３０２を参照して、時短抽選および大当たり抽選に当選した場合の報知パターンについて説明する。図３０２は、時短抽選（特別図柄抽選において実行される普通図柄の高確率状態を設定するための時短当選の判定）または大当たり抽選（特別図柄抽選において実行される大当たりか否かの当否判定）に当選した場合の報知パターンの一例を示すタイミングチャートである。
【３７２９】
図３０２（ａ）は、時短当選と大当たり当選が重複した場合の報知パターンの一例であり、リーチ前演出期間において、おみくじタイム演出（図３００（ａ）参照）が実行され、時短当選したことを示唆するための表示態様である紙ｋ１（図３００（ｂ）参照）および「スーパーチャンス到来演出」（図３００（ｂ）参照）が表示されることで時短当選したことが遊技者に示唆され、リーチ演出期間を経て大当たり当選報知画面が表示されることで、大当たり当選したことが遊技者に報知される。したがって、時短当選と大当たり当選が重複した場合には、時短当選と大当たり当選が重複したことを遊技者が認識できることとなる。
【３７３０】
図３０２（ｂ）は時短当選したものの大当たり当選しなかった場合の報知パターンの一例であり、この場合には、図３０２（ａ）の場合とは異なり、リーチ前演出期間においておみくじタイム演出（図３００（ａ）参照）は実行されないため時短抽選の結果を遊技者が知ることはできず、リーチ演出後に第３図柄が大当たり非当選であることを示すための表示態様で表示されることで大当たり当選しなかったことが遊技者に報知される。したがって、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合には、遊技者は時短抽選の結果を知ることはできず、大当たり非当選であったことのみ認識することができる。
【３７３１】
図３０２（ｃ）は、時短非当選であったものの、大当たり当選した場合の報知パターンであり、上述した通り、大当たりＡに当選した場合の一部を除き、リーチ前演出期間においておみくじタイム演出（図３００（ａ））は実行されないため、３０２（ｂ）と同様に時短抽選の結果を遊技者が知ることはできず、リーチ演出後に第３図柄が大当たり当選したことを示すための表示態様で表示されることで大当たり当選したことのみが報知される。したがって、大当たり当選したものの時短非当選であった場合には、遊技者は時短抽選の結果を知ることはできず、大当たり当選したことのみ認識することができる。
【３７３２】
このように構成することで、時短当選と大当たり当選が重複した場合には、どの遊技状態が設定されている場合の大当たり当選であったかを遊技者が判別することが可能となる一方で、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合には、変動中の特別図柄が停止した後に設定される遊技状態を遊技者が誤認し、遊技者に誤った遊技方法で遊技させてしまうことを抑制することができる。
【３７３３】
なお、実施例では、時短当選を示唆する演出をリーチ前演出期間で実行する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、リーチ演出期間で時短当選示唆演出（時短当選したことを示唆するための演出）を実行しても良いし、大当たり当選報知画面が表示される期間において時短当選示唆演出を実行しても良い。
【３７３４】
このように構成することで、リーチ前演出期間で時短当選示唆演出が発生しなくても、大当たり当選したことが報知される画面においても時短当選示唆演出が実行される可能性があるため、リーチ前演出期間で時短当選示唆演出が出なかったとしても遊技者を落胆させることなく時短当選を期待させながら第１特別図柄の変動表示を楽しませることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【３７３５】

なお、実施例では、時短当選しても大当たり当選しなかった場合には、時短当選を報知しない構成としたが、これに限るものではなく、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合であっても、時短当選を報知する構成としても良い。例えば、実施例では、スーパーチャンス到来演出（図３００（ｂ）参照）が実行されるのは、時短当選と大当たり当選が重複した場合のみであったため、スーパーチャンス到来演出（図３００（ｂ）参照）が発生することで、遊技者は大当たり当選が報知される前に大当たり当選であることを知ることとなるが、時短当選したものの大当たり当選しなかった場合の一部でスーパーチャンス到来演出（図３００（ｂ））を実行する構成とすることで、スーパーチャンス到来演出（図３００（ｂ）参照）が発生しても大当たり当選が確定せず、大当たり抽選の結果が報知される最後の瞬間まで大当たり抽選の結果を予測させる楽しみを遊技者に付与することが可能となるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【３７３６】

＜第７制御例のパチンコ機１０における電気的構成について＞

次に、図３０３を参照して、本第７制御例のパチンコ機１０のＭＰＵ２０１が有する各カウンタについて説明する。なお、上述した各制御例にて用いられた各カウンタについては、カウンタの更新範囲を一部異ならせている点で相違しているが、基本的な構成は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【３７３７】

第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～９９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９９の値を取り得るカウンタの場合は９９９）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【３７３８】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～９９９の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１もまた、０～９９９の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、タイマ割込処理（図３１４参照）の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理７（図３２５参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【３７３９】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（第７制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４または第２入球口６４０に入賞したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａや、特別図柄保留球実行エリアに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。

【３７４０】

また、この第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａには、第１特別図柄用の第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１と、第２特別図柄用の第２特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ２との２種類が設けられており、大当たりとなる乱数の個数は同一であるが、小当たりとなる乱数の個数を異ならせて設定している（図３０５参照）。このように、小当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とで、遊技者への特典（大当たり又は小当たり）付与に対する期待度を異ならせることができる。この第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１と、第２特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ２とは、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。

【３７４１】

ここで、図３０５を参照して、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａについて説明する。図３０５（ａ）は、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａに規定されている内容を模式

的に示した模式図であり、図３０５（ｂ）は、第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１に規定されている内容を模式的に示した模式図であり、図３０５（ｃ）は、第２特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａは、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選において、大当たりと判定される乱数値（判定値）と小当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。

【３７４２】

具体的には、第１特別図柄の抽選を実行する場合には第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１が参照される。図３０５（ｂ）に示した通り、第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１は、乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値が大当たり以外（即ち、外れ）の判定値として規定されている。そして、第１特別図柄の抽選において第１当たり乱数カウンタＣ１の値が判別され、その値が「０～４」のいずれかである場合に大当たりであると判別される。

【３７４３】

第２特別図柄の抽選を実行する場合には第２特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ２が参照される。図３０５（ｃ）に示した通り、第２特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ２は、乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、「５～１４４」が小当たり判定値として規定されており、「１４５～９９９」がそれ以外（即ち、外れ）の判定値として規定されている。そして、第２特別図柄の抽選において第１当たり乱数カウンタＣ１の値が判別され、その値が「０～４」のいずれかである場合に大当たりと判別され、「５～１４４」のいずれかである場合に小当たりと判別される。

【３７４４】

第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄の大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（第７制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入賞したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納される。また、特別図柄の抽選（変動）を実行可能な状態（即ち、特別図柄の変動中及び大当たり遊技、小当たり遊技中以外の状態）では球が第１入球口６４或いは第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の特別図柄保留球実行エリアに格納される。

【３７４５】

ここで、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納された第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、特別図柄の大当たりや小当たりであると判別される乱数でなければ、即ち、特別図柄の外れであると判別される乱数であれば、第１図柄表示装置３７に表示される停止図柄に対応した表示態様は、特別図柄の外れ時のものとなる。

【３７４６】

一方で、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納された第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、特別図柄の大当たりとなる乱数であれば、第１図柄表示装置３７に表示される停止図柄に対応した表示態様は、特別図柄の大当たり時のものとなる。この場合、その大当たり時の具体的な表示態様は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納されている第１当たり種別カウンタＣ２の値が示す表示態様となる。

【３７４７】

第７制御例のパチンコ機１０における第１当たり乱数カウンタＣ１は、０～９９９の範囲の２バイトのループカウンタとして構成されている。この第１当たり乱数カウンタＣ１において、第１特別図柄、第２特別図柄の抽選時に、特別図柄の大当たりとなる乱数値は５個あり、その乱数値である「０～４」は、前述したように第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａの第１特別図柄乱数７テーブル２０２ｆａ１、第２特別図柄乱数７テーブル２０

２ｆａ２に格納されている。このように第７制御例のパチンコ機１０では乱数値の総数が１０００ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が５なので、特別図柄の大当たりとなる確率は、「１／２００」となる。

【３７４８】

第７制御例のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。第７制御例では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判別するように構成している。ここで、図３０６を参照して大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂの内容について説明をする。

【３７４９】

図３０６（ａ）は、大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３０６（ａ）に示した通り、第７制御例では、第１特別図柄（特図１）の抽選時に、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を判定する際に用いられる特図１大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ１と、第２特別図柄（特図２）の抽選時に、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を判定する際に用いられる特図２大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ２と、を有している。これにより、特図１の抽選により大当たりに当選した場合の大当たり種別と、特図２の抽選により大当たりに当選した場合の大当たり種別とを異ならせる、或いは、複数種類の大当たり種別のそれぞれが選択される割合を異ならせることができるため、第１特別図柄（特図１）を用いた遊技と、第２特別図柄（特図２）を用いた遊技とで異なる遊技性を遊技者に提供することができ遊技の興趣を向上することができる。

【３７５０】

次に、図３０６（ｂ）を参照して第１特別図柄（特図１）の抽選時に用いられる特図１大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ１について説明をする。図３０６（ｂ）は特図１大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ１に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３０６（ｂ）に示した通り、遊技状態として通常状態が設定されている場合に、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＡ」となり、「１０～４９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＢ」となり、「５０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＣ」となる。遊技状態として時短状態が設定されている場合に、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＤ」となり、「１０～４９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＡ」となり、「５０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＢ」となる。

【３７５１】

「大当たりＡ」は、大当たり遊技としてラウンド数が１５ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数が多い上に、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＡ」は、遊技者にとって最も有利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＡ」が選択される乱数値が１０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ」が選択される割合は１０％である。

【３７５２】

「大当たりＢ」は、大当たり遊技としてラウンド数が５ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数は上述した「大当たりＡ」よりも少ないが、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＢ」は、遊技者にとって有利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＢ」が選択される乱数値が４０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ」が選択される割合は４０％である。

【３７５３】
「大当たりＣ」は、大当たり遊技としてラウンド数が５ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が通常状態（非時短状態）に設定される大当たり種別である。ラウンド数も少なく、大当たり後に通常状態が設定されるので、「大当たりＣ」は、遊技者にとって不利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＣ」が選択される乱数値が５０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ」が選択される割合は５０％である。
【３７５４】
「大当たりＤ」は、大当たり遊技としてラウンド数が１５ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数が多い上に、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＤ」は、遊技者にとって最も有利な大当たり種別である。さらに、「大当たりＤ」は、上述した「大当たりＡ」に対して、終了し難い時短状態が設定されるように構成している。よって、同一内容の大当たり遊技が実行され、且つ、大当たり遊技終了後に同一の遊技状態が設定される「大当たりＡ」よりも、遊技者に有利な大当たり種別となる。
【３７５５】
以上、説明をしたように、第７制御例のパチンコ機１０では、通常状態が設定されている第１特別図柄（特図１）の抽選において大当たりに当選した場合の１０％の割合で１５ラウンドの大当たり遊技が選択され、９０％の割合で５ラウンドの大当たり遊技が選択される。また、５０％の割合で大当たり遊技終了後の遊技状態が時短状態へと移行する大当たりが選択される。
【３７５６】
一方、時短状態が設定されている状態で実行された第１特別図柄（特図１）の抽選において大当たりに当選した場合の５０％の割合で１５ラウンドの大当たり遊技が選択され、５０％の割合で５ラウンドの大当たり遊技が選択される。また、時短状態中に特図１抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に必ず時短状態が設定される。
【３７５７】
つまり、通常状態で大当たり当選するよりも時短状態で大当たり当選したほうが、大当たり遊技の内容、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の点で遊技者に有利となる。よって、大当たり当選時点の遊技状態としては、通常状態よりも時短状態のほうが遊技者に有利となる。
【３７５８】
次に、図３０６（ｃ）を参照して、第２特別図柄（特図２）の抽選時に用いられる特図２大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ２について説明をする。図３０６（ｃ）は特図２大当たり種別選択テーブル２０２ｆｂ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３０６（ｃ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＤ」となる。即ち、第２特別図柄（特図２）の抽選において大当たりに当選した場合は、大当たり種別として遊技者にとって最も有利な「大当たりＤ」が必ず選択されるように構成している。
【３７５９】
第７制御例では、大当たりの種類は４種類としたが、それに限らず、１種類でもよいし、５種類以上設けるように構成してもよい。また、第１特別図柄と第２特別図柄とで、同じ第１当たり種別カウンタＣ２の値であっても、異なる大当たり種別が選択されるように構成してもよい。このように構成することで、例えば、第２特別図柄で大当たりした場合に、よりラウンド数が多く実行される大当たり種別を設定しておくことで、第２特別図柄での当たりをより遊技者に期待させることができる。よって、高確率遊技状態での当たりをより遊技者に有利にすることができ、高確率状態中における遊技の趣向性を向上させることができる。従って、高確率状態へ移行させたいと遊技者に強く思わせることができ、より長く遊技を行わせることができる。

【３７６０】
　また、第１特別図柄と第２特別図柄とで選択される大当たり種別の種類と、各大当たり種別の選択率（振分率）を同一にし、各大当たり種別に対応させる第１当たり種別カウンタＣ２の範囲のみを異ならせるように構成しても良い。これにより特定のカウンタ値を狙って第１当たり種別カウンタＣ２の値を取得する不正行為が第１特別図柄と第２特別図柄との両方で実行されることを抑制することができる。
【３７６１】
　小当たり種別カウンタＣ５は、特別図柄の小当たりとなった場合に、小当たり種別を決定して、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。小当たり種別カウンタＣ５の値は、例えば、定期的に（第７制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納され、特別図柄の抽選（変動）を実行可能な状態（即ち、特別図柄の変動中及び大当たり遊技、小当たり遊技中以外の状態）において球が第１入球口６４或いは第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の特別図柄保留球実行エリアに格納される。
【３７６２】
　第７制御例のパチンコ機１０における小当たり種別カウンタＣ５の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。そして、第２特別図柄に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合に、実行される小当たりの種別を決定するための小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆ（図３０７参照）が主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に設定されている。
【３７６３】
　ここで、図３０７を参照して小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆの内容について説明をする。図３０７は小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３０７に示した通り、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆには第２特別図柄の小当たり種別として小当たりＡ，Ｂの２種類が小当たり種別カウンタＣ５の値により選択されるように規定されている。具体的には、取得している小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～８９」である場合の小当たり種別は、「小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）」となり、「９０～９９」のいずれかであった場合の小当たり種別は、「小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）」となる。
【３７６４】
　ここで、各小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）には、それぞれ小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０内のＶスイッチ６５０ｅ３を球が通過した場合に、その小当たり遊技終了後に実行される大当たり遊技の種別が設定されている。小当たりＡの場合には、大当たりＡ（１５Ｒ時短有大当たり）が設定されており、小当たりＡの実行後に、可変入賞装置６５が１５Ｒ開放状態に設定される大当たりが実行され、その後に時短状態（特別図柄の変動が１００回或いは、小当たりＡに１当選、或いは、小当たりＢに３回当選するまでの期間）が設定されるように構成されている。また、小当たりＢの場合には、大当たりＢ（５Ｒ時短有大当たり）が設定されており、小当たりＢの実行後に、可変入賞装置６５が５Ｒ開放状態に設定される大当たりが実行され、その後に時短状態（特別図柄の変動が１００回或いは、小当たりＡに１当選、或いは、小当たりＢに３回当選するまでの期間）が設定されるように構成されている。
【３７６５】
　このように、選択される小当たり種別によって、小当たり遊技終了後に実行される大当たり遊技の内容およびその大当たり遊技後に設定される遊技状態を異ならせることができる。具体的には、小当たりＡは、大当たり遊技において実行されるラウンド数が多く（１５Ｒ）、且つ、大当たり遊技終了後に遊技者に有利となる時短状態が設定されるため、遊技者にとって最も有利な小当たりとして設定されており、小当たりＢは、大当たり遊技において実行されるラウンド数は少なく（５Ｒ）、上述した小当たりＡよりも不利に設定さ

れているが、大当たり遊技後に時短状態が設定される。

【３７６６】

なお、詳細な説明は後述するが、第７制御例では、時短状態の終了条件として、第２特別図柄抽選の抽選結果に基づいて成立する時短終了条件（小当たりＡ当選の回数、或いは小当たりＢ当選の回数等）、或いは、特別図柄（第１特別図柄および第２特別図柄）の変動回数に基づいて成立する時短終了条件を設定可能に構成している。このように構成することで、第１特別図柄の保留球数が１以上ある状態で大当たりに当選し、大当たり終了後に時短状態が設定された場合において、大当たり終了後に第１特別図柄（特図１）の変動が実行されたとしても時短状態が終了することが無い。また、第２特別図柄（特図２）の変動が実行され、大当たり遊技を実行させることが可能な小当たり（小当たりＡ、小当たりＢ）に当選した場合には、特別図柄の変動回数に基づいて時短終了条件が成立するよりも前に時短終了条件が成立し時短状態を終了させることができるため、時短状態中に有利な小当たり（小当たりＡ）に当選するまで小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと通過させない遊技を第２終了条件が成立するまで繰り返し実行されることを抑制することができる。

【３７６７】

次に、図３０８（ａ）を参照して変動パターン７テーブル２０２ｆｄの内容について説明をする。図３０８（ａ）は変動パターン７テーブル２０２ｆｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３０８（ａ）に示した通り、変動パターン７テーブル２０２ｆｄには、遊技状態として通常状態を設定している状態で用いられる通常用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ１と、時短状態を設定している状態で用いられる時短用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ２とが規定されている。詳細については後述するが、第７制御例では遊技状態に応じて変動パターンを選択するために用いるデータテーブルを異ならせているため、遊技状態に応じて選択される変動パターン（変動時間）を異ならせることができる。

【３７６８】

図３０８（ｂ）は、変動パターン７テーブル２０２ｆｄに設けられる通常用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ１に規定された内容を模式的に示した模式図である。図３０８（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ１には、図柄種別、抽選結果、および変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲と、変動パターンとが対応付けて規定されている。

【３７６９】

具体的には、図３０８（ｂ）に示した通り、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、抽選結果が「外れ」であって、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に変動時間が７秒の短外れが対応付けて規定され、「１４０～１４９」の範囲に変動時間が２０秒のガセ外れが対応付けて規定され、「１５０～１７９」の範囲に変動時間が４０秒のノーマルリーチ各種が対応付けて規定され、「１８０～１９８」の範囲に変動時間が８０秒のスーパーリーチａが対応付けて規定されている。

【３７７０】

また、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、抽選結果が「大当たり」であって、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に変動時間が４０秒のノーマルリーチ各種が対応付けて規定され、「３０～１８９」の範囲に変動時間が８０秒のスーパーリーチが対応付けて規定され、「１９０～１９８」の範囲に変動時間が１４０秒のスペシャルリーチ各種が対応付けて規定されている。

【３７７１】

次に、図柄種別が第２特別図柄（特図２）、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１８０秒のロング外れが規定され、抽選結果が「大当たり、または小当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１８０秒のロング外れが規定されている。

【３７７２】
このように、特別図柄の抽選結果に応じて、変動時間が７秒～１８０秒の変動パターンのうち何れかの変動パターンが設定され、この変動パターンを示すコマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信することで、変動時間に対応する変動演出が第３図柄表示装置８１にて実行される。
【３７７３】
ここで、第７制御例では、上述した通り、遊技状態として通常状態が設定されている状態において右打ち遊技を実行した場合には第２入球口６４０に球が入球しないように構成されていることから、通常状態中は第１入球口６４に球を入球させる遊技、即ち、第１特別図柄の抽選を実行する遊技が行われるように構成されている。このように構成されている通常状態中において第２特別図柄の抽選が実行される場合としては、遊技者が不正に球を第２入球口６４０に入球させた場合であるため、通常状態における第２特別図柄の変動は長い変動時間を有する変動パターンが選択される。これにより、短期間の間に不正に第２特別図柄の抽選が行われる事態を抑制することができる。なお、通常状態中に第２特別図柄の抽選（変動）が実行されたと判別した場合は、その抽選結果が表示されるまでの期間（１８０秒間）を用いて、不正に第２特別図柄の抽選（変動）が実行されたことを外部に報知するように構成しても良い。また、不正に第２特別図柄の抽選（変動）が実行された場合には、その不正に実行された第２特別図柄の抽選（変動）結果として、外れの抽選（変動）結果を強制的に創出し、表示するように構成しても良い。
【３７７４】
図３０８（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ１にて選択される変動パターン（変動時間）は、図柄種別が特図１で抽選結果が外れの場合には７秒（選択割合が約７０％）、４０秒（選択割合が約１５％）、８０秒（選択割合が約１０％）、２０秒（選択割合が約５％）の順で選択され易くなるように規定されている。また、抽選結果が大当たりの場合には８０秒（選択割合が約８０％）、４０秒（選択割合が約１５％）、１４０秒（選択割合が約５％）の順で選択され易くなるように規定されている。
【３７７５】
このように、特別図柄の抽選結果と選択される変動パターン（変動時間）には関連性があり、特別図柄の抽選結果が大当たりの場合に選択される変動時間（変動パターン）の割合と、特別図柄の抽選結果が外れの場合に選択される変動時間（変動パターン）の割合とによって、特定の変動時間（変動パターン）が選択された場合における大当たり期待度を示唆することができるように構成している。このように構成することで、選択される変動時間（変動パターン）によって大当たりに当選しているか否かを遊技者に予測させることができる。
【３７７６】
なお、第７制御例では当選した大当たり種別に関わらず、同一の変動パターンテーブルを用いる構成としているが、これに限ること無く、大当たり種別が遊技者に有利となる大当たり（例えば、大当たりＡ）を示す大当たり種別である場合と、それ以外の大当たり（大当たりＢ、大当たりＣ）を示す大当たり種別である場合とで、異なる変動パターンテーブルを用いる構成としても良い。この場合、例えば、有利大当たり（大当たりＡ）を示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルよりも、それ以外の大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルのほうが短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成すると良い。これにより、実行される変動パターンに設定される変動時間が長ければ長いほど遊技者に有利となる遊技結果に期待することができるため、遊技者に対して特別図柄の変動時間に興味を持たせることができる。
【３７７７】
また、確変大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルよりも、通常大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルのほうが長い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成しても良い

、これにより、短い変動時間で大当たりに当選した場合に、遊技者に意外性のある遊技結果を提供することができ、短い変動時間が選択された場合であっても、最後まで期待を持たせることができる。

【３７７８】

次に、図３０９を参照して変動パターン７テーブル２０２ｆｄに設けられた時短用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ２の内容について説明をする。図３０９は時短用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ２に規定された内容を模式的に示した模式図である。図３０９に示した通り、時短用変動パターン７テーブル２０２ｆｄ２には、図柄種別、変動回数、抽選結果、および変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲と、変動パターンとが対応付けて規定されている。

【３７７９】

具体的には、図３０９に示した通り、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、変動回数が１～４回、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２秒の短外れが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２秒の短当たりが規定されている。図柄種別が第１特別図柄（特図１）、変動回数が５回以上、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２０秒の外れが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２０秒の当たりが規定されている。また、図柄種別が第２特別図柄（特図２）、変動回数が１回以上、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が３０秒の中外れが規定され、抽選結果が「小当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１６０」の範囲に変動時間が１０秒の短小当たりが規定され、「１６１～１９８」の範囲に変動時間が３０秒の中小当たりが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動時間が３０秒の中大当たりが規定されている。

【３７８０】

図３０３に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２３９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２３９）に達した後０に戻るループカウンタとして構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、第７制御例ではタイマ割込処理（図３１４参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の第２図柄保留球実行エリアに格納される。

【３７８１】

そして、普通図柄の当たりとなる乱数の値は、主制御装置のＲＯＭ２０２に格納される第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃによって設定されており、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃによって設定された当たりとなる乱数の値と一致する場合に、普通図柄（第２図柄）の当たりと判定する。なお、第７制御例では、普通図柄の当たりに当選する確率がパチンコ機１０の遊技状態に関わらず常に一定となるように構成しているが、それ以外の構成を用いても良い。

【３７８２】

例えば、第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃとして、普通図柄の低確率時（普通図柄の通常状態である期間）用と、その低確率時より普通図柄の当たりとなる確率の高い高確率時（普通図柄の時短状態である期間）用との２種類を設けても良い。この場合、それぞれに含まれる当たりとなる乱数の個数が異なるように設定する。このように、当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、普通図柄の低確率時と普通図柄の高確率時とで、当たりとなる確率を変更することができる。

【３７８３】

球が普通始動口６７を通過すると、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が取得されると共に、現在の遊技状態が時短状態であるかを判別し、遊技状態が時短状態であれば第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が３秒間実行される。一方、遊技状態が時短状態では無ければ第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が３０秒間実行される。

【３７８４】

取得された第２当たり乱数カウンタＣ４の値が「５～２０４」の範囲であれば当選と判定されて、第２図柄表示装置８３における変動表示が終了した後に、停止図柄（第２図柄）として「○」の図柄が点灯表示される。そして、第２図柄が停止表示（確定表示）された時点における遊技状態が時短状態であるかを判別し、第２図柄が停止表示（確定表示）された時点が時短状態であって、且つ、第２図柄の変動開始時点も時短状態である場合には第２入球口６４０が「２秒間×２回」開放されるように電動役物６４０ａを動作制御（ロング開放制御）する。一方、それ以外の場合は、第２入球口６４０が「０．２秒間×１回」だけ開放されるように電動役物６４０ａを動作制御（ショート開放制御）する。尚、第２入球口６４０開放時間や回数は任意に設定すれば良い。

【３７８５】

このように、普通図柄の変動時間、及び、当たり当選時における電動役物６４０ａの動作内容（第２入球口６４０の開放期間、開放回数）は、設定されている遊技状態によって可変されように構成されており、普通図柄の変動開始時における遊技状態が時短状態の場合は、通常状態の場合と比較して、変動表示の時間が「３０秒→３秒」と非常に短くなり、更に、時短状態が設定されている期間中に変動を開始した第２図柄の抽選結果が当たりであって電動役物６４０ａが動作を開始する時点も時短状態が設定されている場合は、それ以外の場合と比較して、第２入球口６４０の開放期間が「０．２秒×１回→２秒間×２回」と非常に長くなるので、第２入球口６４０へ球が入球し易い状態となる。尚、第２当たり乱数カウンタＣ４の値（乱数値）から、普通図柄の当たりか否かを判定する乱数値を格納したテーブル（図示せず）は、ＲＯＭ２０２内に設けられている。

【３７８６】

尚、第７制御例では、普通図柄（第２図柄）の変動開始時における遊技状態と、普通図柄の当たり当選に基づいて実行される電動役物６４０ａの動作開始タイミングにおける遊技状態とに応じて、第２図柄の変動時間、及び電動役物６４０ａの動作内容を異ならせて設定するように構成しているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、普通図柄（第２図柄）の変動開始タイミングから電動役物６４０ａの動作開始タイミングまでの間、継続して時短状態が設定されていることを判別する判別手段を設け、その判別手段の判別結果を用いて第２図柄の変動時間、及び電動役物６４０ａの動作内容を設定するように構成しても良い。

【３７８７】

上述したように、第７制御例では電動役物６４０ａの動作として遊技者に有利となる動作（ロング開放）を実行するためには、普通図柄変動開始時、及び電動役物６４０ａの動作開始時の何れタイミングにおいても時短状態が設定されている必要がある。このように構成することで、例えば、通常状態が設定されているタイミングで変動を開始した第２図柄が、時短状態が設定されているタイミングにて当たりを示す識別情報で停止表示した場合、或いは、時短状態が設定されているタイミングで変動を開始した第２図柄が、通常状態が設定されているタイミングにて当たりを示す識別情報で停止表示した場合といった、一つの第２図柄の抽選に基づいて実行される第２図柄の変動及び電動役物６４０ａの動作が複数の遊技状態を跨ぐ場合において、遊技者に有利となる電動役物６４０ａの動作制御（ロング開放）が実行されてしまうことを抑制することができる。よって、遊技者に対して過剰に有利な状態を提供することを防止することができる。

【３７８８】

第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２は、第２当たり乱数カウンタＣ４と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成され（値＝０～２３９）、タイマ割込処理（図３１４参

照）毎に１回更新されると共に、メイン処理７（図３２５参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【３７８９】

このように、ＲＡＭ２０３には種々のカウンタ等が設けられており、主制御装置１１０では、このカウンタ等の値に応じて大当たり抽選や第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行することができる。

【３７９０】

次に、図３０４（ａ）を参照して、第７制御例のパチンコ機１０に設けられる主制御装置１１０ＲＯＭ２０２の内容について、説明する。図３０４（ａ）に示した通り、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２には、固定値データの一部として、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａ、大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂ、第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃ、および変動パターン７テーブル２０２ｆｄ、時短付与７テーブル２０２ｆｅ、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆ、開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇ、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈ、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉが少なくとも記憶されている。

【３７９１】

尚、ＲＯＭ２０２に記憶されている固定値データのうち、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａ、大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂ、第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃ、変動パターン７テーブル２０２ｆｄ、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆについては、既にその詳細な内容について説明をしているため説明を省略する。

【３７９２】

時短付与７テーブル２０２ｆｅは、時短状態を終了させる複数の時短終了条件を、当選した大当たりの大当たり種別毎に異ならせて設定する際に参照されるデータテーブルであり、大当たり遊技が終了（大当たり遊技のエンディング期間が終了）した場合に（図３２６のＳ１６１２：Ｙｅｓ）参照され、大当たり種別に応じて異なる時短回数（時短終了条件）が設定される。

【３７９３】

ここで、図３０６（ｄ）を参照して時短付与７テーブル２０２ｆｅに規定されている内容について説明をする。図３０６（ｄ）は時短付与７テーブル２０２ｆｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。第７制御例では大当たり終了後に時短状態が設定される大当たり種別（大当たりＡ，Ｂ，Ｄ）と、大当たり終了後に時短状態が設定されない（通常状態が設定される）大当たり種別（大当たりＣ）とを有しており、図３０６（ｄ）に示した通り、各大当たり種別に対応させて複数の時短終了条件が規定されている。

【３７９４】

第７制御例では特別図柄の変動回数に応じて成立する第１時短終了条件と、特別図柄の抽選で小当たりＡに当選した回数に応じて成立する第２時短終了条件と、特別図柄の抽選で小当たりＢに当選した回数に応じて成立する第３時短終了条件と、を有している。

【３７９５】

図３０６（ｄ）に示した通り、時短付与７テーブル２０２ｆｅには複数の時短終了条件のそれぞれに対応した各種カウンタに設定する値が規定されており、上述した第１時短終了条件として設定する値は時短中カウンタ２０３ｈにセットされ、第２時短終了条件として設定する値は小当たりＡカウンタ２０３ｆｇにセットされ、第３時短終了条件として設定する値は小当たりＢカウンタ２０３ｆｈにセットされる。

【３７９６】

具体的には、大当たり種別が大当たりＡ及びＢの場合には、時短終了条件として、時短中カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１００」、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに「１」、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈに「３」の値をセットするように規定され、大当たりＤの場合には、時短終了条件として、時短中カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１００」、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに「２」、小当たりＢカウンタ２０３ｆ

ｈに「１０」の値をセットするように規定されている。
【３７９７】
なお、上述した通り、第７制御例では、大当たり種別が大当たりＣの場合では、大当たり遊技の終了後に時短状態が設定されないため、時短付与７テーブル２０２ｆｅの大当たりＣには上述した各種カウンタに対して設定する値が規定されていない。このように、当選した大当たり種別毎に大当たり遊技終了後に設定される時短状態の終了条件を異ならせることで、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される旨を事前に報知したとしても、具体的な時短内容を把握させ難くすることができるため、最後まで（時短状態が終了するまで）遊技意欲を高めた状態で遊技を行うことができる。
【３７９８】
なお、第７制御例では時短付与７テーブル２０２ｆｅを用いて設定される時短終了状態以外にも特別図柄の大当たりに当選した場合にも時短状態が終了するように構成しているが、この大当たり当選に基づいて成立する時短終了条件は、設定される大当たり種別に応じて異なるものでは無いため、時短付与７テーブル２０２ｆｅからは省略しているが、上述した時短終了条件（特図の大当たり当選に基づいて成立する時短終了条件）についても時短付与７テーブル２０２ｆｅに値を規定するように構成しても良い。
【３７９９】
さらに、本第７制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合にも時短状態（第２時短）を設定するように構成しているが、第２時短に対して設定される時短終了条件については、後述する時短種別選択７テーブル２０２ｆｉを参照して説明をする。なお、本第７制御例では、時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）に対する時短終了条件を、時短付与７テーブル２０２ｆｅでは無く、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉを参照して設定するように構成しているが、これに限ること無く、時短付与７テーブル２０２ｆｅに第２時短に対応する時短終了条件を規定するように構成しても良い。
【３８００】
また、第７制御例では複数の時短終了条件として、上述した第１時短終了条件～第３時短終了条件を有する構成を用いているが、それ以外の条件を時短終了条件として設定しても良く、例えば、第１特別図柄の変動回数が所定回数（例えば５０回）となった場合に成立する時短終了条件や、第２特別図柄の変動回数が所定回数（例えば８０回）となった場合に成立する時短終了条件や、小当たりに当選しＶ入賞装置が作動した回数（小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値を合算した回数）が所定回数（例えば、１０回）となった場合に成立する時短終了条件を設定しても良い。
【３８０１】
さらに、特別図柄の変動回数や抽選結果に基づかず、別の要因によって成立する時短終了条件を設定しても良く、例えば、普通図柄の変動回数や普通図柄の当たり当選回数（電動役物６４０ａの作動回数）が所定回数となった場合に成立する時短終了条件や、特定の入球口（例えば、一般入賞口６３）に入球した球数が所定個数（例えば、５０個）となった場合に成立する時短終了条件等を予め設定するように構成しても良い。
【３８０２】
上述したように、遊技者に有利な遊技状態である時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定し、その時短終了条件の何れかが設定した場合に時短状態が終了するように構成することで、時短状態がどれくらいの期間継続するのかを遊技者が事前に把握することが困難となるため単調な遊技が行われることを抑制することができる。
【３８０３】
さらに、第７制御例では複数の時短終了条件のうち何れかの時短終了条件が成立した場合に時短状態を終了させる制御を用いているが、これ以外にも例えば、複数の時短終了条件が所定数（例えば２つ）成立した場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。この場合、成立した時短終了条件の数を判別する成立数判別手段と、成立数判別手段により判別された成立数が所定数（例えば２つ）に到達したかを判別する条件到達判別手段と、を設け、条件到達判別手段により成立数が所定数（例えば２つ）に到達したと判別さ

れた場合に時短状態を終了（通常状態を設定）するように構成すると良い。
【３８０４】
　また、最初に成立した時短終了条件の内容を判別する内容判別手段を設け、その内容判別手段の判別結果に基づいて、条件到達判別手段の判別基準となる所定数（例えば２つ）を可変させる判別基準数可変手段を設けても良い。これにより、最初に成立した時短終了条件の種類に応じて、終了し易い時短状態や、終了し難い時短状態を設定することができるため、時短状態が設定された後でも遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。
【３８０５】
　上述した内容に加え、時短状態が設定されてからの所定期間（例えば、特別図柄の変動回数が１０回に到達するまで）を計測する所定期間計測手段と、その所定期間計測手段の計測結果を判別する結果判別手段とを設け、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別した場合には、上述した時短終了条件が成立したとしても所定期間が経過するまでは時短状態の終了を遅延させる時短終了遅延手段を設けても良いし、結果判別手段により現在が所定期間内であると判別した場合に成立した時短終了条件を無効にする終了条件無効手段を設けても良い。また、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別している間は時短終了条件の成立の有無判別や、各時短終了条件に対応して設定された各種カウンタの値を更新（減算）する処理を実行しないようにしても良い。
【３８０６】
　このように構成することで、時短状態が設定された直後に時短状態が終了してしまう事態を確実に防止することが出来ると共に、時短状態の終了タイミングを複雑に設定することができる。また、上述したように複数の時短終了条件が成立したことに基づいて時短状態を終了させる処理を用いる場合においては、複数の時短終了条件を、優先時短終了条件（例えば、特別図柄の変動回数が１００回に到達した場合に成立する時短終了条件）と、非優先時短終了条件（例えば、小当たり回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件）とを設定しておき、優先時短終了条件が成立した場合は直ちに時短状態を終了させ、非優先時短終了条件のみ複数成立した場合に時短状態を終了させるように構成すると良い。このように優先時短終了条件を設けることで、遊技者に対して過剰に時短状態を提供してしまうことを抑制することができる。
【３８０７】
　開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇは、特別図柄の抽選によって大当たり或いは小当たりに当選した場合に実行される当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）において、可変入賞装置６５、或いは、Ｖ入賞装置６５０の開放パターン（各入賞装置に設けられた各種ソレノイドを動作させるパターン）をシナリオ化した開放シナリオが記憶されるデータテーブルであって、当選した大当たりに設定されている大当たり種別、或いは、当選した小当たりに設定されている小当たり種別に対応させて開放シナリオの内容が規定されている。
【３８０８】
　このように、当選結果（大当たり或いは小当たり）および当たり種別（大当たり種別、小当たり種別）に応じて開放動作される入賞装置（可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０）や開放動作内容（開放シナリオ）を異ならせることで、特典遊技の有利度合を複数段階設定することができるため、大当たり又は小当たりに当選した後も、遊技者に対してどの種別の当たりに当選したのかを楽しませることができる。
【３８０９】
　開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇには、当選した当たり種別（大当たり種別、小当たり種別）に対応して当たり遊技中の開始インターバル期間（当たり遊技が開始されてから最初に入賞装置が開放動作するまでの期間）と、入賞装置の開放動作態様（開放動作される入賞装置の種別、１回の開放動作（ラウンド遊技）の秒数、総開放動作回数（ラウンド数））と、ラウンド間インターバル期間（ラウンド遊技間に設定される入賞装置が閉鎖される期間）と、終了インターバル期間（全てのラウンド遊技が終了してから、当たり遊技が終了するまでの期間（新たな特別図柄変動の開始を許容するまでの期間））と、Ｖ入賞

装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１あるいは特別排出流路６５０ｅ２を流下するように流路を切り替えるための流路ソレノイド６５０ｋのオンオフ切替動作態様が、それぞれ規定されている。

【３８１０】

具体的には、当選した当たり種別が大当たりＡに対応して、開始インターバル期間として「２秒」が、入賞装置の開放動作態様として「可変入賞装置６５」を「１５ラウンド」、１回のラウンド遊技として「継続して２９秒」開放する開放動作態様が、ラウンド間インターバル期間として「１秒」が、終了インターバル期間として「４秒」が規定されている。よって、大当たり種別が大当たりＡの大当たりに当選した場合は、可変入賞装置６５が１５ラウンド分開放される大当たり遊技が実行されることになり、遊技者に多くの賞球が払い出される大当たり遊技となる。さらに、大当たり種別が大当たりＡの場合には、大当たり遊技終了後に遊技者に有利となる遊技状態である時短状態が設定される大当たりであるため、大当たりＡは遊技者にとって最も有利となる特典が付与される大当たりである。

【３８１１】

次に、当たり種別が大当たりＢ，Ｃに対応して、開始インターバル期間として「２秒」が、入賞装置の開放動作態様として「可変入賞装置６５」を「５ラウンド」、１回のラウンド遊技として「継続して２９秒」開放する開放動作態様が、ラウンド間インターバル期間として「１秒」が、終了インターバル期間として「４秒」が規定されている。よって、大当たり種別が大当たりＢ，Ｃの大当たりに当選した場合は、可変入賞装置６５が５ラウンド分開放される大当たり遊技が実行されることになり、遊技者に対して大当たりＡに対応する大当たり遊技の約１／３の賞球が払い出される大当たり遊技となる。また、大当たり種別が大当たりＢの場合には、大当たり遊技終了後に遊技者に有利となる遊技状態である時短状態が設定され、大当たりＣの場合には、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されないように構成されているため、大当たりＢは大当たりＡよりも不利で大当たりＣよりも有利な特典が付与される大当たりとなる。

【３８１２】

当たり種別が大当たりＤに対応して、開始インターバル期間として「１秒」が、入賞装置の開放動作態様として「Ｖ入賞装置６５０」を「１ラウンド目」に開放動作し、「可変入賞装置６５」を「２～１５ラウンド目」に開放動作し、１回のラウンド遊技として、１ラウンド目は「０．１秒開放を０．５秒間の開放間インターバルを設けて１２回」開放し、２～１５ラウンド目は「２９秒間継続開放」する開放動作態様が、ラウンド間インターバル期間として、１ラウンド目終了後は「１０秒」、それ以外は「１秒」が、終了インターバル期間として「４秒」が規定されている。

【３８１３】

つまり、大当たりＤの開始インターバル期間と２ラウンド目が実行されるまでの期間（１ラウンド目のラウンド遊技内容（開閉動作態様）、及び、１ラウンド目終了後のラウンド間インターバル期間）に規定されている内容が、後述する小当たり遊技に規定されている内容と同一となるように構成している。このように構成することで、今回実行されている当たり遊技が大当たり遊技であるか小当たり遊技であるかを、１ラウンド目が終了するタイミングまで（小当たり遊技であればその小当たり遊技が終了するタイミングまで）遊技者に把握させ難くすることができる。これにより、小当たりに当選して小当たり遊技が実行されていると認識していた遊技者に対して意外性のある当たり遊技を提供することができる。

【３８１４】

なお、第７制御例では、大当たりＤは第２特別図柄によって大当たりに当選した場合に必ず選択される大当たり種別であり、且つ、第２特別図柄の抽選では殆どが小当たりに当選するように設定されている（図３０５（ｃ）参照）。よって、遊技状態として時短状態が設定され、第２特別図柄の変動を主に行う期間中は、特別図柄の変動が停止表示された後に何らかの当たり遊技が開始される。この場合において、大当たりに当選した場合も、

小当たりに当選した場合も、同一の開放動作から開始される当たり遊技を実行するため、遊技者により何れの当たり（大当たり又は小当たり）に当選したのかを把握させ難くすることができる。

【３８１５】

加えて、第２特別図柄の抽選においては、大当たりに当選する確率の方が小当たりに当選する場合よりも低くなるように設定されており、又、大当たりＤに対応する大当たり遊技の終了後には時短状態が付与されるように設定されている。よって、大当たりに当選した遊技者に対して、小当たりに当選した場合よりも不利な特典が提供されることが無いため、意外性のある遊技（大当たりＤに対応した大当たり遊技）を、遊技者に有利な遊技とすることができるため、遊技者をより興奮させることができる。

【３８１６】

なお、大当たりＤに当選した場合と、各種小当たりに当選した場合とでは、第３図柄表示装置８１にて表示される変動表示（変動演出）として同一の演出態様が実行されるようにし、且つ、特別図柄の抽選結果を示す第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様により遊技者に抽選結果を識別され難くするために、特別図柄の停止表示タイミングと、第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄の停止表示タイミングを異ならせたり、特別図柄の停止表示タイミングと第３図柄の停止表示タイミングは同期させるが、その停止表示タイミング或いはその前後の期間において、第３図柄の表示をそれ以外の期間よりも遊技者が識別し難くするために、表示態様や表示領域を可変させたり、特別図柄の停止表示タイミングにおいて、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに表示される演出用の図柄を第３図柄から普通図柄の変動表示に対応させた演出用普通図柄に切り替えたりすると良い。

【３８１７】

加えて、当たり遊技が実行された場合に開放動作する入賞装置（Ｖ入賞装置６５０）と第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂを離れて配設し、特別図柄の停止表示タイミング（何れかの当たりに当選したことを遊技者に報知するタイミング）に第３図柄表示装置８１にてＶ入賞装置６５０を遊技者に注目させる演出表示を実行したり、第７制御例のように第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示領域を第３図柄表示装置８１の表示領域よりも小さくし、第３図柄よりも第１図柄が視認し難くなるように構成すると良い。これにより、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりであるか小当たりであるかを第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの停止表示態様により識別され難くすることができ、当たり遊技中も継続して大当たりに当選したことを期待させることができる。

【３８１８】

当たり種別が小当たりＡ，Ｂに対応して規定される内容には、小当たり遊技（１ラウンド遊技）に加え、その小当たり遊技中にＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知することにより、小当たり遊技終了後に継続して実行される大当たり遊技（２～１５ラウンド遊技）の開放シナリオも併せて規定されている。これにより、当選した小当たり種別の小当たり遊技内容と、その小当たり遊技終了後に実行し得る大当たり遊技内容とを確実に対応付けすることができるため、適正な遊技を提供することができる。

【３８１９】

具体的には、当たり種別が小当たりＡに対して、小当たり遊技として、開始インターバル期間「１秒」が、入賞装置の開放動作態様「Ｖ入賞装置６５０」を「１ラウンド」開放が、１回のラウンド遊技「０．１秒開放を１２回」、開放間インターバル期間「５回目と１０回目の開放終了後以外に０．５秒（開放間インターバル１）、５回目と１０回目の開放終了後に５秒（開放間インターバル２）」が規定されている。

【３８２０】

そして、小当たり遊技終了後に実行され得る大当たり遊技として「可変入賞装置６５」が、「２～１５ラウンド目」に開放動作し、１回のラウンド遊技「２９秒間継続開放」が、ラウンド間インターバル期間として、１ラウンド目終了後は「１０秒」、それ以外は「１秒」が、開始インターバル「２秒」、終了インターバル期間「８秒」が規定されている。

【３８２１】
　また、当たり種別が小当たりＢに対して、小当たり遊技として、開始インターバル期間「１秒」が、入賞装置の開放動作態様「Ｖ入賞装置６５０」を「１ラウンド」開放が、１回のラウンド遊技「０．１秒開放を１２回」、開放間インターバル期間「５回目と１０回目の開放終了後以外に０．５秒（開放間インターバル１）、５回目と１０回目の開放終了後に５秒（開放間インターバル２）」が規定されている。
【３８２２】
　そして、小当たり遊技終了後に実行され得る大当たり遊技として「可変入賞装置６５」が、「２～５ラウンド目」に開放動作し、１回のラウンド遊技「２９秒間継続開放」が、ラウンド間インターバル期間として、１ラウンド目終了後は「１０秒」、それ以外は「１秒」が、開始インターバル「２秒」、終了インターバル期間「８秒」が規定されている。
【３８２３】
　つまり、小当たりＢに対応する小当たり遊技終了後に実行され得る大当たり遊技は、上述した小当たりＡに対応する大当たり遊技よりもラウンド遊技数が少なくなるように設定されている。また、小当たり種別が小当たりＢの場合には、対応する大当たり遊技終了後に遊技者に有利となる遊技状態である時短状態が設定されるように構成されているため、小当たりＢは小当たりＡよりも不利な特典が付与される小当たりとなる。
【３８２４】
　時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈは、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選において、時短当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（判定値）が遊技状態に対応させて規定されているデータテーブルである。ここで、図３１０（ａ）を参照して、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈの内容について説明をする。図３１０（ａ）は、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈに規定されている内容を示した図である。
【３８２５】
　具体的には、特別図柄種別に関わらず、遊技状態が通常状態（特別図柄及び普通図柄の低確率状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３，４，１４０～２８７」の範囲に時短当選の判定値として規定されており、それ以外の遊技状態に対しては、時短当選の判定値を設けないように構成されている。
【３８２６】
　ここで、本第７制御例では、１回の特別図柄抽選において大当たり当選の判定と時短当選の判定とを重複して実行可能に構成している。また、小当たり当選の判定と時短当選の判定とを重複して実行可能に構成している。よって、例えば、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３，４」である場合には、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａ（図３０５（ａ）参照）を用いて実行される大当たり判定において大当たりと判定され、且つ、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈ（図３１０（ａ）参照）を用いて実行される時短当選判定において時短当選と判定されるため、大当たりと時短とに重複当選することになる。同様に、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「１４０～１４４」である場合には、特別図柄２乱数７テーブル２０２ｆａ２（図３０５（ｃ）参照）を用いて実行される小当たり判定において小当たりと判定され、且つ、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈ（図３１０（ａ）参照）を用いて実行される時短当選判定において時短当選と判定されるため、小当たりと時短とに重複当選することになる。
【３８２７】
　上述した通り、本第７制御例では、時短当選の判定を実行した後に、大当たり（小当たり）判定を実行するように構成しているため、重複当選した場合には、時短状態において大当たり（小当たり）当選したことになる。よって、時短当選すること無く大当たり（小当たり）当選した場合に比べて遊技者に有利な特典を付与することができる。
【３８２８】
　なお、本第７制御例では、１回の特別図柄抽選において取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値を用いて、大当たり（小当たり）の判定と、時短当選の判定を実行するように構成し、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、何れの判定においても当選判定値

である場合に重複当選し得るように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄抽選の実行権利を獲得した際に、大当たり（小当たり）判定用の乱数カウンタの値と、時短当選用の乱数カウンタの値と、を別々に取得し、取得した各値を用いて大当たり（小当たり）判定と、時短当選判定を実行するように構成しても良い。

【３８２９】

時短種別選択７テーブル２０２ｆｉは、特別図柄抽選で時短当選した場合に設定される時短状態（第２時短）に対する時短終了条件を設定する際に参照されるデータテーブルであって、時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定されている。

【３８３０】

ここで、図３１０（ｂ）を参照して、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉの内容について説明をする。図３１０（ｂ）は、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉに規定されている内容を示した図である。図３１０（ｂ）に示した通り、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉには、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定されており、規定されている時短種別に対応する時短終了条件が規定されている。

【３８３１】

具体的には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の全範囲（「０～９９」）に対して時短種別として時短Ａが規定されている。そして、時短Ａに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１」が設定される時短終了条件が規定されている。つまり、特別図柄時短カウンタ２０３ｈの値を更新する処理が１回実行された時点で時短状態が終了する時短終了条件が設定される。よって、特別図柄抽選で時短当選した場合には、時短当選した時点で時短状態が設定され、その後当該特別図柄抽選における大当たり判定が実行され、当該特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が開始されるまでの間、時短状態が設定されることになる。

【３８３２】

つまり、特別図柄抽選で時短当選した場合には、特別図柄抽選における大当たり判定を時短状態中に実行させる（特殊抽選を実行させる）ためだけの時短状態を設定することができる。よって、特別図柄抽選で時短当選した場合には、遊技者に時短当選したことを気付かれること無く大当たり判定のみ時短状態中に実行することが可能となるため、大当たり当選した場合に遊技者に意外性のある特典（大当たり遊技内容、大当たり遊技終了後の時短状態）を付与することができる。

【３８３３】

なお、図３１０（ｂ）に示した通り、本第７制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合に時短種別として時短Ａが必ず設定されるように構成しているがこれに限ること無く、例えば、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に応じて時短Ａとは異なる時短種別を選択可能に構成しても良い。この場合、例えば、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９４」の範囲に対して時短種別として時短Ａを規定し、「９５～９９」の範囲に対して時短種別として時短Ａとは異なる時短Ｚを規定するように構成し、時短Ｚに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１００」が設定される時短終了条件を規定すると良い。

【３８３４】

このように構成することで、特別図柄抽選で時短当選した場合の一部において、特殊抽選を実行させるための時短状態では無く、第２特別図柄抽選を継続して実行させるための時短状態を設定することが可能となるため、遊技者に対してより意外性のある遊技を提供することができる。

【３８３５】

次に、図３０４（ｂ）を参照して、本第７制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図３０４（ｂ）は、第７制御例におけるパチンコ機１０のＲＡＭ２０３の構成を模式的に示した図である。図３０４（ｂ）に示すように、本第７制御例におけるＲＡＭ２０３は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、普通図柄保留球格納

エリア２０３ｃ、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆ、遊技状態格納エリア２０３ｇ、時短カウンタ２０３ｈ、大当たり開始フラグ２０３ｊ、大当たり中フラグ２０３ｋ、小当たり種別格納エリア２０３ｆａ、小当たり開始フラグ２０３ｆｂ、小当たり中フラグ２０３ｆｃ、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄ、Ｖフラグ２０３ｆｅ、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆ、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈ、その他メモリエリア２０３ｚを有している。

【３８３６】

つまり、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０のＲＡＭ２０３（図２４４（ｂ）参照）に対して、小当たり種別格納エリア２０３ｆａ、小当たり開始フラグ２０３ｆｂ、小当たり中フラグ２０３ｆｃ、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄ、Ｖフラグ２０３ｆｅ、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆ、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３８３７】

小当たり種別格納エリア２０３ｆａは、当選した小当たりに設定される小当たり種別を一時的に格納するための記憶領域であって、小当たりに当選したと判別した場合に（図３１７のＳ１０３０６：Ｙｅｓ）、取得した小当たり種別が一時的に格納される（図３１７のＳ１０３１０）。そして、小当たり遊技中においてＶ入賞装置６５０の開放数が所定数に到達し（図３２７のＳ１１７０７：Ｙｅｓ）、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンに設定されていないと判別した場合（図３２７のＳ１１７０８：Ｎｏ）に、格納されている小当たり種別が参照され（図３２７のＳ１１７０９）、参照した小当たり種別に対応した指示コマンドが設定される。なお、詳細な説明は省略するが、小当たり種別格納エリア２０３ｆａに格納された情報（小当たり種別を示すための情報）は、小当たり遊技終了時にクリアされるように構成されている。

【３８３８】

小当たり開始フラグ２０３ｆｂは、小当たり遊技の開始タイミングであることを示すフラグである。判定結果が小当たりである特別図柄の変動が停止されるタイミングでオンに設定される（図３２０のＳ１０４０４）。小当たり開始フラグ２０３ｆｂがオンであることが判別されて、小当たり遊技の開始タイミングであると識別されるとオフに設定される（図３２７のＳ１１７０３）。この小当たり開始フラグ２０３ｆｂは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【３８３９】

小当たり中フラグ２０３ｆｃは、小当たり遊技中であることを示すフラグである。判定結果が小当たりである特別図柄の変動が停止されるタイミングでオンに設定される（図３２０のＳ１０４０４）。一方、小当たりの終了タイミングであると判別された場合（設定されている小当たりのラウンド数の遊技が終了したと判別した場合）に、オフに設定される（図３２７のＳ１１７２０）。この小当たり中フラグ２０３ｆｃは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【３８４０】

Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄは、小当たり遊技が実行されている場合に、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球がＶスイッチ６５０ｅ３により検知された場合に設定される大当たり種別を判別するためのデータが記憶される記憶エリアである。Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄは、判定結果が小当たりとなる特別図柄の変動が停止する場合に、判定されている小当たり種別に対応した大当たり種別に対応するデータ値が記憶される（図３２０のＳ１０４０２）。Ｖ入賞装置６５０内の特別排出流路６５０ｅ２を球が流下し、Ｖスイッチ６５０ｅ３により球を検知すると、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄに記憶されているデータ値に対応する大当たり種別に対応するＶフラグ２０３ｆｅ

がオンに設定されるように構成されている。小当たり遊技の終了時に、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄに記憶されているデータ値がクリアされるように構成されている。このＶ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【３８４１】

Ｖフラグ２０３ｆｅは、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０内の特別排出流路６５０ｅ２を球が流下し、Ｖスイッチ６５０ｅ３により球が検知された場合に、実行している小当たり遊技の種別に対応した大当たり種別に対応したフラグがオンに設定されるものである。小当たり遊技の終了時に、このＶフラグ２０３ｆｅがオンであるかを判別し（図３２７のＳ１１７１６）、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンであると判別した場合に（図３２７のＳ１１７１６：Ｙｅｓ）、オンに設定されているフラグより実行される大当たり種別が判別されて対応する大当たり遊技の開始が設定される（図３２７のＳ１１７１８）。このＶフラグ２０３ｆｅは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【３８４２】

Ｖ通過フラグ２０３ｆｆは、小当たり遊技中において、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンに設定されている状態を判別するために用いられるフラグであって、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンに設定されている場合にオンに設定される。第７制御例では、小当たり遊技中においてＶ入賞装置６５０に入賞した球の殆どが特別排出流路６５０ｅ２を流下するように構成されており、特別排出流路６５０ｅ２に最初に入賞した球に対応したＶ通過処理（図３２３参照）においてオンに設定される（図３２３のＳ１１２０７）。

【３８４３】

そして、Ｖ通過処理（図３２３参照）では、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆがオンに設定しているか判別し（図３２３のＳ１１２０１）、オンに設定していると判別した場合は（図３２３のＳ１１２０１：Ｙｅｓ）、Ｖ通過処理（図３２３参照）のうちＳ１１２０２～Ｓ１１２０８の処理をスキップするように構成している。これにより、１回の小当たり遊技中にＶスイッチ６５０ｅ３が複数の球を検知した場合であっても、最初に検知した球に対応したＶ通過処理のみが実行されることになる。よって、小当たり遊技中に実行される処理を簡素化することが出来ると共に、音声ランプ制御装置１１３へＶ通過コマンドを複数回送信してしまい、音声ランプ制御装置１１３側でのＶ通過管理は煩雑になることを抑制することができる。

【３８４４】

時短カウンタ２０３ｈは、時短状態中に設定される時短終了条件の一つが成立するまでの特別図柄の変動回数を計測するためのカウンタであって、大当たり制御処理（図３２６のＳ１１５０４）において、エンディング演出の終了タイミング（大当たりの終了タイミング）であると判別された場合に（図３２６のＳ１１６１２：Ｙｅｓ）、時短付与７テーブル２０２ｆｅに規定されている値（１００）が設定される（図３２６のＳ１１６１４）。

【３８４５】

そして、特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４）にて実行される更新処理７（図３１９のＳ８２５３）においてカウンタの値が参照され（図３１９のＳ１０６０１）、カウンタの値が０よりも大きいと判別した場合に（図３１９のＳ１０６０１：Ｙｅｓ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の時短中カウンタ２０３ｋの値が０であると判別すると（図３１９のＳ１０６０４：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図３１９のＳ１０６０５）。なお、第７制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、小当たり当選回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、カウンタの値が０に設定（リセット）される（図３２１のＳ１０５０５）。

このように、複数の時短終了条件のうち、時短カウンタ２０３ｈの値を参照した時短終了条件（第１時短終了条件）以外の時短終了条件が成立した場合であっても、時短カウンタ２０３ｈの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず時短カウンタ２０３ｈの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。

【３８４６】

小当たりＡカウンタ２０３ｆｇは、時短状態中に設定される時短終了条件の一つが成立するまでの小当たり種別として小当たりＡが設定された小当たりの当選回数の計測するためのカウンタであって、大当たり制御処理７（図３２６のＳ１１５０４）において、エンディング演出の終了タイミング（大当たりの終了タイミング）であると判別された場合に（図３２６のＳ１１６１２：Ｙｅｓ）、時短付与７テーブル２０２ｆｅに規定されている値（１）が設定される（図３２６のＳ１１６１４）。

【３８４７】

そして、特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４）の小当たり開始設定処理（図３２０のＳ１０２２３）にて実行される小当たり用時短更新処理７（図３２１のＳ１０４０５）に今回当選した小当たりの小当たり種別が小当たりＡであると判別した場合に（図３２１のＳ１０５０２：Ｙｅｓ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の小当たりＡカウンタ２０３ｆｇの値が０であると判別すると（図３２１のＳ１０５０４：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図３２１のＳ１０５０７）。なお、第７制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、特別図柄変動回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、カウンタの値が０に設定（リセット）される（図３１９のＳ１０６０６）。このように、複数の時短終了条件のうち、小当たりＡカウンタ２０３ｍの値を参照した時短終了条件（第２時短終了条件）以外の時短終了条件が成立した場合であっても、小当たりＡカウンタ２０３ｍの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず小当たりＡカウンタ２０３ｍの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。

【３８４８】

小当たりＢカウンタ２０３ｆｈは、時短状態中に設定される時短終了条件の一つが成立するまでの小当たり種別として小当たりＢが設定された小当たりの当選回数の計測するためのカウンタであって、大当たり制御処理（図３２６のＳ１１５０４）において、エンディング演出の終了タイミング（大当たりの終了タイミング）であると判別された場合に（図３２６のＳ１１６１２：Ｙｅｓ）、時短付与７テーブル２０２ｆｅに規定されている値（３）が設定される（図３２６のＳ１１６１４）。

【３８４９】

そして、特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４）の小当たり開始設定処理（図３２０のＳ１０２２３）にて実行される小当たり用時短更新処理（図３２１のＳ１０４０５）に今回当選した小当たりの小当たり種別が小当たりＢであると判別した場合に（図３２１のＳ１０５１０：Ｙｅｓ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値が０であると判別すると（図３２１のＳ１０５１２：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図３２１のＳ１０５０７）。なお、第７制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、特別図柄変動回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、カウンタの値が０に設定（リセット

）される（図３１９のＳ１０６０６）。このように、複数の時短終了条件のうち、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値を参照した時短終了条件（第３時短終了条件）以外の時短終了条件が成立した場合であっても、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。

【３８５０】

次に、図３１１（ａ）を参照して、本第７制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＯＭ２２２について説明する。図３１１（ａ）は、本第７制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図３１１（ａ）に示した通り、本第７制御例のＲＯＭ２２２は、上述した第５制御例のＲＯＭ２２２（図２４９（ａ）参照）に対して、引き戻しモード選択テーブル２２２ｄａと、示唆態様選択テーブル２２２ｄｂとを削除し、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａを追加した点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３８５１】

抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａは、特別図柄変動の変動時間に対応して実行される変動演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、特別図柄抽選の結果（大当たり判定の判定結果と、時短当選判定の判定結果）を示唆（報知）するための態様として複数の態様の中から１の態様が選択される。この抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａは、第１特別図柄抽選の結果を示すための変動演出（特図１変動演出）の演出態様を設定するための特図１演出態様設定処理７（図３２８のＳ１４８９３参照）において参照される（図３２８のＳ１９５０２参照）。

【３８５２】

ここで、図３１２を参照して、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａに規定されている内容について説明をする。図３１２は、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａに規定されている内容を模式的に示した図である。図３１２に示した通り、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａには、大当たり判定時の遊技状態と、大当たり判定結果と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値とに対応させて異なる抽選結果報知態様が規定されており、選択された報知態様を用いて特別図柄抽選の結果を示すための演出態様が設定される。

【３８５３】

具体的には、大当たり判定時の遊技状態が通常状態、即ち、当該特別図柄抽選における時短当選判定において時短当選しなかった場合であって、大当たり判定結果が「大当たりＡ（１５Ｒ大当たり）」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～６４」の範囲に対して「時短当選示唆＋大当たり当選報知」が規定されており、「６５～７９」の範囲に対して「時短非当選示唆＋大当たり非当選報知」が規定されており、「８０～９９」の範囲に対して「大当たり当選報知」が規定されている。また、大当たり判定結果が「大当たりＢ，Ｃ（５Ｒ大当たり）」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」の範囲に対して「時短当選示唆＋大当たり当選報知」が規定されており、「５～９９」の範囲に対して「大当たり当選報知」が規定されている。大当たり判定結果が「外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９８」の範囲に対して「大当たり非当選報知」が規定されており、「９９」の値に対して「時短非当選示唆＋大当たり非当選報知」が規定されている。

【３８５４】

一方、大当たり判定時の遊技状態が時短状態、即ち、当該特別図柄抽選における時短当選判定において時短当選した場合であって、大当たり判定結果が「大当たりＡ，Ｄ（１５Ｒ大当たり）」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対

して「時短当選示唆＋大当たり当選報知」が規定されており、「９０～９９」の範囲に対して「大当たり当選報知」が規定されている。また、大当たり判定結果が「大当たりＢ，Ｃ（５Ｒ大当たり）」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「時短当選示唆＋大当たり当選報知」が規定されており、「８０～９９」の範囲に対して「大当たり当選報知」が規定されている。大当たり判定結果が「外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９」の範囲に対して「時短当選示唆＋大当たり非当選報知」が規定されており、「１０～９９」の値に対して「大当たり非当選報知」が規定されている。

【３８５５】

次に、図３１１（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図３１１（ｂ）に示すように、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、入賞情報格納エリア２２３ａ、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂ、変動開始フラグ２２３ｃ、停止種別選択フラグ２２３ｄ、演出カウンタ２２３ｅ、遊技状態格納エリア２２３ｆ、時短情報更新エリア２２３ｇ、仮当たり判定フラグ２２３ｈ、仮時短情報更新エリア２２３ｉ、仮時短終了フラグ２２３ｊ、時短下限フラグ２２３ｋ、準終了条件フラグ２２３ｍ、時短終了前変動フラグ２２３ｎ、状態演出カウンタ２２３ｏ、その他メモリエリア２２３ｚ、が少なくとも設けられている。

【３８５６】

入賞情報格納エリア２２３ａは、１つの実行エリアと、４つのエリア（第１エリア～第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、入賞情報がそれぞれ格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。この入賞情報格納エリア２２３ａには、音声ランプ制御装置１１３の入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）が実行される場合に、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに基づいた入賞情報が第１エリアから順に格納されていく、なお、主制御装置１１０から送信される入賞情報コマンドは、主制御装置１１０の先読み処理５（図２５９のＳ６５３）が実行された場合に設定され、主制御装置１１０のメイン処理７（図３２５参照）にて実行される外部出力処理（図３２５のＳ１１５０１）によって音声ランプ制御装置１１３へと送信される。

【３８５７】

この入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア～第４エリアに格納された各入賞情報は、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）が実行される毎に、１つずつシフト（第２エリアに格納されていた入賞情報を第１エリアに移行）される（図１８２のＳ４９０４，Ｓ４９０８参照）。これにより、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が何時実行されるのかを、音声ランプ制御装置１１３側で確実に把握することができる。

【３８５８】

また、入賞情報コマンドによって送信された入賞情報（特別図柄の先読み情報）を実行エリア（現在実行中の特別図柄変動に対応するエリア）までシフトさせることを可能に構成しているため、例えば、入賞情報コマンドを受信したことに基づいて、次に実行される特別図柄変動の開始タイミングから当該入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が終了するまでのタイミングまでの期間を用いた演出（所謂、先読み連続演出）を実行する際に、当該入賞情報コマンドに対応する入賞情報を上述した先読み連続演出が終了するまでの間、保持することができる。

【３８５９】

なお、第７制御例では入賞情報（第１入球口６４に球が入球した場合に取得し得る情報）を４つまで保留記憶可能に構成しているため、入賞情報格納エリア２２３ａが実行エリア以外に、第１エリア～第４エリアを有するように構成しているが、例えば、第２入球口６４０に球が入球した場合に取得し得る入賞情報（第２特別図柄に関わる入賞情報）も４つまで保留記憶可能に構成した場合には、入賞情報格納エリア２２３ａに、実行エリア以外に、第１特別図柄用の４つのエリア（保留情報エリア）と、第２特別図柄用の４つのエ

リア（保留情報エリア）を設けるように構成すれば良い。
【３８６０】
第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂは、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄと同様に、第１図柄表示装置３７（および第３図柄表示装置８１）で行われる変動演出（変動表示）であって、主制御装置１１０において保留されている変動演出の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。即ち、第１特別図柄に対応する保留球の数が、主制御装置１１０より出力される保留球数コマンドに基づいて設定される。
【３８６１】
上述したように、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０に直接アクセスして、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３に格納されている第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を取得することができない。よって、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０から送信される保留球数コマンドに基づいて保留球数をカウントし、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂにて、その第１特別図柄の保留球数を管理するようになっている。
【３８６２】
具体的には、主制御装置１１０では、第１入球口６４への入球によって変動表示の保留球数が加算された場合、又は、主制御装置１１０において特別図柄における変動表示が実行されて保留球数が減算された場合に、加算後または減算後の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３へ送信する。
【３８６３】
音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を取得して、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂに格納する（図２６２のＳ４１８２参照）。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂの値を更新するので、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄと同期させながら、その値を更新することができる。
【３８６４】
第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂの値は、第３図柄表示装置８１における保留球数図柄の表示に用いられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドの受信に応じて、そのコマンドにより示される保留球数を第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂに格納すると共に、格納後の第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂの値を表示制御装置１１４に通知するべく、表示用保留球数コマンドを表示制御装置１１４に対して送信する。
【３８６５】
表示制御装置１１４では、この表示用保留球数コマンドを受信すると、そのコマンドにより示される保留球数の値、即ち、音声ランプ制御装置１１３の第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂの値分の保留球数図柄を第３図柄表示装置８１の小領域Ｄｓ１に表示するように、画像の描画を制御する。上述したように、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｂは、主制御装置１１０の特別図柄保留球数カウンタ２０３ａと同期しながら、その値が変更される。従って、第３図柄表示装置８１に表示される保留球数図柄の数も、主制御装置１１０の特別図柄保留球数カウンタ２０３ａの値に同期させながら、変化させることができる。よって、第３図柄表示装置８１には、変動表示が保留されている保留球の数を正確に表示させることができる。
【３８６６】
なお、主制御装置から送信される保留球数コマンドに含まれる情報としては、実際の保留球数、即ち、特別図柄保留球数カウンタ２０３ａの値を示す情報でも良いし、特別図柄保留球数カウンタ２０３ａの値が１加算、或いは１減算されたことを示す情報でも良い。なお、保留球数コマンドとして特別図柄保留球数カウンタ２０３ａの値が１加算、或いは

１減算されたことを示す情報を送信する場合には、音声ランプ制御装置１１３に受信した保留球数コマンドに含まれる情報に基づいて現在の保留球数を演算管理する演算手段を設ければ良い。

【３８６７】

変動開始フラグ２２３ｃは、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドを受信した場合にオンされ（図２６２のＳ４２０４参照）、第３図柄表示装置８１における変動表示の設定がなされるときにオフされる（図１８２のＳ４９０２，Ｓ４９０６参照）。変動開始フラグ２２３ｃがオンになると、受信した変動パターンコマンドから抽出された変動パターンに基づいて、表示用変動パターンコマンドが設定される。

【３８６８】

ここで設定された表示用変動パターンコマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（図３２５のＳ１１５０１）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４では、この表示用変動パターンコマンドを受信することによって、この表示用変動パターンコマンドによって示される変動パターンで、第３図柄表示装置８１において第３図柄の変動表示が行われるように、その変動演出の表示制御が開始される。

【３８６９】

停止種別選択フラグ２２３ｄは、主制御装置１１０から送信される停止種別コマンドを受信した場合にオンされ（図２６２のＳ４２０７参照）、第３図柄表示装置８１における停止種別の設定がなされるときにオフされる（図１８２のＳ４９１０参照）。停止種別選択フラグ２２３ｄがオンになると、受信した停止種別コマンドから抽出された停止種別（大当たりの場合には大当たり種別）に基づいて、表示用停止種別が設定される（図１８２のＳ４９１１）。

【３８７０】

演出カウンタ２２３ｅは、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行される各種演出の演出内容を決定する際の抽選に使用されるカウンタであって、図示は省略したが、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理７（図３２５参照）が実行される毎に更新される。第７制御例では、演出カウンタ２２３ｅとして複数のループカウンタ（例えば、０～９９の範囲で繰り返し更新されるカウンタ）を有しており、各カウンタの値が同期すること無く更新するように構成されている。

【３８７１】

具体的には、例えば、メイン処理７（図３２５参照）が実行される毎に更新される値が異なるカウンタを複数設け、各カウンタの更新後の値が同期しないように構成している。さらに、各カウンタの値を演算することで別の値を算出し、その算出した値を用いて各種演出の演出内容を決定する際の抽選に使用する値として用いても良い。

【３８７２】

遊技状態格納エリア２２３ｆは、主制御装置１１０から遊技状態に関する状態コマンドを受信した場合に、その状態コマンドに対応する遊技状態を格納するための領域である。この遊技状態格納エリア２２３ｆに格納された情報（遊技状態）を参照することで、音声ランプ制御装置１１３側で現在の遊技状態を識別可能に構成している。

【３８７３】

なお、第７制御例では、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、パチンコ機１０の電源が遮断された場合にデータが消去されるため、停電等の発生による電源遮断時には遊技状態格納エリア２２３ｆに格納されている現在の遊技状態を示す情報も消去されることとなる。しかしながら、第７制御例では電源投入後に実行される主制御装置１１０の立ち上げ処理（主制御装置）７（図３２４参照）にて状態コマンドが設定されるため（図３２４のＳ１１４１２）、電源復旧後、直ちに遊技状態格納エリア２２３ｆに電源遮断前に設定されていた遊技状態を示す情報が格納されることになる。よって、パチンコ機１０に電源が投入されている状態では音声ランプ制御装置１１３側で常に遊技状態を識別するこ

とができる。また、主制御装置１１０において遊技状態を可変設定する場合にも、可変設定された後の遊技状態を示す状態コマンドが設定される（図３２１のＳ１０５０９、図３１９のＳ１０６０７、図３２６のＳ１１６１６等）。

【３８７４】

時短情報更新エリア２２３ｇは、時短状態の終了条件と、各終了条件に対する進捗状況（終了条件の対象となる事象（例えば、特別図柄の変動や小当たり、大当たりの当選）が実行された回数）とを格納するためのデータ領域である。この時短情報更新エリア２２３ａに格納される情報（時短状態の終了条件及び進捗状況）に基づいて第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される状態（状況）表示態様Ｄｍ３ａが選択される。この時短情報更新エリア２２３ｇは、主制御装置１１０から時短設定情報を含む時短関連コマンド、即ち、主制御装置１１０の大当たり制御処理７（図３２６のＳ１１５０４）にてエンディング演出の終了タイミングと判別し（図３２６のＳ１１６１２）、時短状態の終了条件を設定した場合に（図３２６のＳ１１６１４）設定される時短設定情報コマンドを受信した場合に、今回の時短状態を終了させるための終了条件が設定される。

【３８７５】

そして、音声ランプ制御装置１１３の時短更新処理（図６０のＳ２２１６参照）において、時短情報を更新させるための更新情報（特別図柄変動が実行されたことを示すための変動情報や、小当たりに当選したことを示すための小当たり情報）を受信したと判別した場合に（図６０のＳ２６０４：Ｙｅｓ、図６０のＳ２６１５：Ｙｅｓ）、受信した更新情報に対応させて現在の時短状況が更新される。

【３８７６】

この時短情報更新エリア２２３ｇ内のデータ領域について具体的に説明をすると、時短情報更新エリア２２３ｇには、時短状態の終了条件になり得る各項目（例えば、第１特別図柄の変動回数、第２特別図柄の変動回数、第１特別図柄の変動回数と第２特別図柄の変動回数とを合算した合算変動回数、小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）毎の当選回数（Ｖ入賞装置６００の動作を開始した回数）、小当たり当選回数（各小当たり種別の当選回数を合算した合算当選回数）等）に対応して情報を一時的に格納できるように形成されており、各項目に対して、時短設定情報（時短状態の終了条件が成立する回数）と、時短状態が継続して設定されている期間中における各項目の更新情報（実際に実行された回数を示す情報）と、がそれぞれ格納されるように構成されている。

【３８７７】

第７制御例では、この時短情報更新エリア２２３ｇに格納されている情報を用いて、複数の終了条件の中から他の終了条件よりも成立し易い終了条件を判別したり、各終了条件が成立するまでの残実行回数を判別したりするように構成している。さらに、時短情報更新エリア２２３ｇに格納されている時短設定情報や更新情報を用いて、例えば、時短設定情報に含まれる各項目の終了条件を示す値に対する更新情報が示す値の割合を算出し、時短進行度合いを数値（例えばパーセント）で表示するように構成しても良い。

【３８７８】

また、第７制御例では、時短情報更新エリア２２３ｇに格納される情報として、更新情報（既に実行された回数（変動回数、当選回数）を示す情報）を格納するように構成しているが、これに限ること無く、時短状態の終了条件が成立するまでの残回数を算出し、算出した残回数を示す情報を時短情報更新エリア２２３ｇに格納するように構成しても良い。

【３８７９】

上述した通り、第７制御例では、時短設定情報と、更新情報と、を区分けして記憶（格納）するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、時短設定情報として記憶した情報を直接更新するように構成しても良い。このように構成することで、時短情報更新エリア２２３ｇの容量を削減することができる。

【３８８０】

仮当たり判定フラグ２２３ｈは、特別図柄の抽選（変動）が実行される前の入賞情報（

保留記憶されている入賞情報）に大当たりに当選する入賞情報が含まれていることを示すためのフラグであって、オンに設定されることで保留記憶されている入賞情報に大当たりに当選する入賞情報が含まれていることを示すものである。この仮当たり判定フラグ２２３ｈは、主制御装置１１０の先読み処理５にて取得された入賞情報コマンドを、音声ランプ制御装置１１３側で受信した場合に実行される入賞情報関連処理において、主制御装置１１０から受信した入賞情報コマンドの入賞情報に当たり情報があると判別した場合に、オンに設定される。そして、入賞情報関連処理において参照され、オンに設定されていると判別した場合は、以降に受信した入賞情報コマンドに対する各種判別処理をスキップするように構成している。また、変動表示設定処理にて実行される演出設定処理においても参照され、オンに設定されていると判別した場合は、状態表示態様を示す表示用状態表示コマンドを設定するための処理をスキップするように構成している。

【３８８１】

以上、説明をしたように、受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報や、大当たり終了時点において保留記憶されている入賞情報の中に、大当たりに当選する入賞情報が含まれている場合には、それ以降に新たに受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報に対して大当たりに当選する入賞情報が含まれているかの判別や、現在設定されている遊技状態の終了条件が成立するか否かの判別を実行しないように構成している。つまり、大当たりに当選したことにより時短状態が終了すると判別された場合は、それ以降に獲得した入賞情報に基づいて、現在設定している時短状態が終了するか否かの判別が不要となるため、その不要な処理をスキップするように構成している。よって、音声ランプ制御装置１１３が実行する処理の処理負荷を軽減させることができる。

【３８８２】

なお、第７制御例では、新たな入賞情報コマンドを受信した場合と、大当たり遊技の終了した場合とで入賞情報の内容を判別する処理を実行するように構成しているが、それ以外のタイミングとして、例えば、停電等でパチンコ機１０の電源がオフとなった後に、主制御装置１１０の立ち上げ処理（主制御装置）７（図３２４参照）において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されている各入賞情報を示すための復帰時入賞情報コマンドを設定し、全て音声ランプ制御装置１１３へと送信するように構成し、音声ランプ制御装置１１３側で上述した復帰時入賞情報コマンドを受信した場合に、上述した入賞情報の内容を判別する処理を実行するように構成しても良い。

【３８８３】

また、第７制御例では、新たな入賞情報コマンドを受信した場合や、大当たり遊技が終了した場合に、必ず入賞情報の内容を判別する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、所定の禁止条件が成立している場合には入賞情報の内容を判別しないように構成しても良い。この場合、所定の禁止条件としては、例えば、パチンコ機１０が複数の演出モードを有しており、そのうちの１の演出モードが設定されている場合に成立する演出モード禁止条件や、特別図柄の抽選結果として大当たり以外（外れ）が所定回数（例えば、５００回）連続した場合に成立するハマリ中禁止条件や、入賞情報に含まれる大当たり抽選結果（当否判定結果）に基づいて複数の特別図柄変動に跨がって実行される連続演出が実行されている間に成立する連続演出中禁止条件や、その連続演出が終了してからの所定期間（例えば、特別図柄の変動が２回実行されるまでの期間）の間に成立する多発禁止条件等を設けると良い。

【３８８４】

このように構成することで、入賞情報に基づいて事前に判別された内容に応じた演出（所謂、先読み演出）を実行可能な期間と、実行不能な期間とを設定することができるため、遊技者に対して先読み演出が実行されなかった場合であっても大当たりへの期待感を維持することができる。なお、上述した禁止条件が成立している場合に、入賞情報の内容を判別する頻度を低くするように構成しても良いし、禁止条件が成立していない場合に、必ず入賞情報の内容を判別するのでは無く、入賞情報の内容を判別する頻度を高くするように構成しても良い。さらに、上述した禁止条件が成立しているか否かは遊技者に把握され

ないように構成すると良い。
【３８８５】
仮時短情報更新エリア２２３ｉは、入賞情報コマンドに含まれる入賞情報に応じて事前に更新させた時短情報（仮時短情報）を一時的に格納するためのデータ領域である。第７制御例では、この仮時短情報更新エリア２２３ｉに格納されている仮時短情報を参照して、時短状態が終了するタイミングを事前に判別可能に構成している。
【３８８６】
以上、説明をしたように、受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報によって、時短終了条件が成立する場合には、それ以降に新たに受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報に対して大当たりに当選する入賞情報が含まれているかの判別や、現在設定されている遊技状態の終了条件が成立するか否かの判別を実行しないように構成している。つまり、大当たりに当選したことにより時短状態が終了すると判別された場合は、それ以降に獲得した入賞情報に基づいて、現在設定している時短状態が終了するか否かの判別が不要となるため、その不要な処理をスキップするように構成している。よって、音声ランプ制御装置１１３が実行する処理の処理負荷を軽減させることができる。
【３８８７】
時短下限フラグ２２３ｋは、特別図柄の変動回数に基づいて成立する終了条件に対して、特別図柄の変動回数が所定回数に到達したことを示すためのフラグであって、オンに設定されることで、時短状態中の特別図柄の変動回数が所定回数に到達したことを示すためのものである。
【３８８８】
このように、時短終了条件が成立するまでの進行具合に応じてオンに設定されるフラグを設け、そのフラグの設定状況に応じて演出態様を可変させるように構成することで、遊技者に対して、時短終了条件が成立するタイミングを予測させることが可能となる。よって、時短状態の終了タイミングを示唆する演出の演出効果を高めることができる。
【３８８９】
なお、第７制御例では、時短終了条件が成立するまでの進行具合を２段階で判別するように構成しているが、より多くの段階を設けても良い。この場合、例えば、時短状態が設定されている状態において特別図柄の変動が１０回実行される毎にその状態を識別可能なフラグ（カウンタ）を設け、そのフラグ（カウンタ）に応じて演出態様を可変するように構成すれば良い。
【３８９０】
準終了条件フラグ２２３ｍは、特別図柄の抽選によって小当たりに当選したこと基づいて成立する終了条件に対して、特別図柄の変動回数が所定回数に到達したことを示すためのフラグであって、オンに設定されることで、時短状態中の特別図柄の変動回数が所定回数に到達したことを示すためのものである。
【３８９１】
時短終了前変動フラグ２２３ｎは、時短状態が終了する（時短終了条件が成立する）前の変動が実行されることを示すためのフラグであって、オンに設定されることで、時短状態が終了する１つ前の変動が実行されることを示すものである。具体的には、複数設定される時短状態の終了条件のうち、特別図柄の変動回数に基づいて設定される時短終了条件が成立するまでの期間（変動回数）が残り１回となった場合にオンに設定される。この時短終了前変動フラグ２２３ｎがオンに設定されている状態で変動表示設定処理（図１８２参照）を実行することで、当該変動が時短状態の最終変動と判別することが可能となり、時短状態の最終変動に対応した演出を実行することができる。
【３８９２】
なお、第７制御例では、時短が終了する前の変動が完了した（実行された）ことを判別するために、時短終了前変動フラグ２２３ｎを設定するようにしているが、それ以外にも、例えば、第２特別図柄の入賞情報を保留記憶可能な構成を設け、保留記憶されている入賞情報に対しても先読み処理５（図２５９参照）を実行するように構成し、その先読み処

理の結果を示す入賞コマンドを受信するように構成し、受信した入賞コマンドに基づいて、小当たり当選する第２特別図柄の入賞情報を事前に判別するように構成する。そして、事前判別の結果に基づいて、時短状態の終了条件が成立する小当たり当選が実行される特別図柄変動の前の変動が実行される場合に、時短終了前変動フラグ２２３ｎがオンになるような構成を追加しても良い。これにより、複数の時短終了条件を有する遊技機において、確実に時短終了条件が成立する１つ前の特別図柄変動を判別することができる。

【３８９３】

状態演出カウンタ２２３ｏは、音声ランプ制御装置１１３によって実行される各種演出の演出態様を設定する際に用いられる各種抽選に使用されるカウンタであって、図示は省略したが、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理が実行される毎に１ずつ更新される。状態演出カウンタ２２３ｏは、上述した演出カウンタ２２３ｅと同一のループカウンタで構成されている。なお、詳細な構成については、上述した演出カウンタ２２３ｅと同一であるため省略する。

【３８９４】

このように、特定の規則性（当否判定結果、各種フラグの設定状況）に応じて特定の表示態様を選択する場合において、ランダムに更新される値（状態演出カウンタ２２３ｏの値）に基づいて選択される表示態様を更に詳細に区分けするように構成することで、表示態様の多様化を図るとともに、選択される表示態様（第３図柄表示装置８１に表示される表示態様）によって現在の遊技状態（時短状態の更新状況）を遊技者に容易に把握されてしまうことを抑制することができる。

【３８９５】

その他メモリエリア２２３ｚは上述したデータ以外のデータを格納する領域として設けられており、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が使用するその他カウンタ値などを一時的に記憶しておくための領域である。

【３８９６】

次に図３１３を参照して、第７制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れについて説明をする。図３１３は、第７制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れを模式的に示した模式図である。図３１３に示した通り、第７制御例におけるパチンコ機１０は、上述したように通常状態中（通常状態中）は、左打ち遊技が行われ第１入球口６４を狙う特１（特図１）遊技が実行される。ここで、第１入球口６４へと遊技球が入球し、第１特別図柄抽選が実行されると、まず、時短当選の判定が行われる。そして、時短当選の判定にて時短当選しないと判定された場合は、遊技状態が通常状態のまま第１特別図柄抽選の大当たり判定が実行される。そして、通常状態において第１特別図柄の大当たりに当選すると、当選した大当たり種別によって大当たり終了後に異なる遊技状態へと移行する。

【３８９７】

具体的には、当選した大当たりの大当たり種別が大当たりＣ（全体の５０％）である場合は、大当たり終了後に再度通常状態が設定され、大当たり種別が大当たりＡまたは大当たりＢである場合は、大当たり終了後に通常状態よりも遊技者に有利な遊技状態である時短遊技状態（時短状態）へと移行する。

【３８９８】

なお、通常状態中において第２入球口６４０に球を入球させて第２特別図柄の抽選を実行し、大当たりに当選した場合はその大当たり終了後に遊技状態として、通常状態が設定されるように構成している。これは、図２９５を参照して上述した通り、第７制御例のパチンコ機１０は通常状態中（通常遊技中）に右打ち遊技を行ったとしても第２入球口６４０に球が入球しない（し難い）ように構成していることから、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行される行為を不正行為とみなし、不正行為を行った遊技者に対して有利な遊技を行わせないための対策である。後述するように、第７制御例では時短状態中では第１特別図柄の抽選よりも第２特別図柄の抽選の方が遊技者に有利な抽選（遊技）を行わせることができるように構成しているため、不正行為を行って第２特別図柄の抽選を行われる虞があった。そこで、上述した対策を施すことにより、不正行為により第２特別図柄

の抽選が行わせることを抑制することができる。
【３８９９】
さらに、第７制御例では、第２特別図柄の入賞情報（第２入球口６４０に球が入球した場合に取得される入賞情報）を保留記憶する構成を有していないため、例えば、時短状態中（電動役物６４０ａが突出位置に動作され易い状態中）に第２特別図柄の入賞情報を保留記憶し、その保留記憶された入賞情報に基づいて通常状態中の第２特別図柄の抽選（変動）が実行されてしまうことが無い。これにより、正常な遊技を行っている場合に、遊技状態として通常状態が設定されている状態において、第２特別図柄の抽選（変動）が実行されることを確実に防止することができる。
【３９００】
一方で、通常状態が設定されている状態で実行される第１特別図柄抽選において時短当選した場合（時短当選の判定で時短当選したと判定された場合）は、時短状態にて大当たり判定が実行される。この状態にて実行された大当たり判定にて大当たり当選した場合は、その大当たり遊技終了後に、１００％の割合で時短状態が設定される。また、第１特別図柄抽選において実行される時短当選の判定で時短当選した場合には、当該第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動が開始されるタイミングで時短状態が終了し、通常状態が設定されるように構成しているため、引き続き通常状態の遊技（左打ち遊技）が実行される。
【３９０１】
特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて時短状態が設定された場合には、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放動作（突出動作）により第２入球口６４０に容易に球を入球させることが可能な期間時短状態が継続するように時短状態が設定されるため、右打ち遊技が行われ第２入球口６４０を狙う特２遊技が実行される。
【３９０２】
ここで、第２特別図柄の抽選によって、小当たりに当選（当選確率１４０／１０００）した場合は、小当たり遊技としてＶ入賞装置６５０が開放動作され、Ｖ入賞装置６５０内のＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知することで（球が特定領域を通過することで）、大当たり遊技が開始される。第７制御例では、小当たり遊技経由で大当たり遊技が設定（実行）された場合には、その大当たり遊技終了後に、遊技状態として必ず時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、小当たり遊技経由の大当たりを獲得した遊技者に対して不快感を与えることを無くすことができる。
【３９０３】
なお、第７制御例では第２特別図柄の抽選によって、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）によって、その小当たり遊技中に球が特定領域を通過する可能性（Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知する可能性）が異なる小当たり遊技が実行されるように構成されている。
【３９０４】
加えて、第７制御例では、大当たり当選に基づいて設定された時短状態を終了させる終了条件（時短終了条件）として、特別図柄（第１特別図柄或いは第２特別図柄）の変動回数（抽選回数）が規定変動回数（１００回）に到達した場合に成立する変動回数終了条件（第１時短終了条件）と、特別図柄（第２特別図柄）の抽選の結果、小当たりに当選した当選回数（小当たり当選に基づいて動作されるＶ入賞装置６５０の動作回数）が規定動作回数に到達した場合に成立する動作回数終了条件（第２時短終了条件）と、が設定されている。
【３９０５】
また、第２時短終了条件は、更に、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（実行される小当たり遊技）に応じてそれぞれ設定されるように構成している。
【３９０６】
そして、時短状態が設定されている状態（状況）において、上述した第１時短終了条件、或いは、第２時短終了条件が成立するよりも前に、特別図柄の大当たり抽選に当選（１

種当たりに当選）、或いは、特別図柄の抽選にて小当たりに当選し、当選した小当たりに応じた小当たり遊技（小当たり種別に応じた小当たり遊技）中に、球を特定領域に通過させ大当たりを獲得（２種当たりを獲得）した場合には、時短状態が繰り返し設定される。

【３９０７】

一方、時短状態が設定されている状態（状況）において、１種当たり、或いは２種当たりを獲得する前に上述した第１時短終了条件（特別図柄の変動回数に応じた終了条件）或いは第２時短終了条件（小当たり当選（Ｖ入賞装置６５０の動作）に応じた終了条件）の何れかが成立した場合には、遊技状態が時短状態から通常状態へと移行（設定）される。

【３９０８】

このように構成された第７制御例のパチンコ機１０は、時短状態が設定されている場合に実行される第２特別図柄の抽選において小当たりに当選した場合に、時短状態を終了させる可能性（第２時短終了条件が成立する可能性）と、２種当たりを獲得する可能性の両方を遊技者に提供することができる。よって、時短状態中に実行される遊技（第２特別図柄の抽選）に対する遊技者の興味を高め、遊技の興趣を向上させることができる。

【３９０９】

さらに、第７制御例では図３１３に示した通り、時短状態が設定されている場合に第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合には、大当たり遊技終了後に遊技状態として時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、遊技状態として通常状態が設定されている状態、即ち、左打ち遊技が行われている状態であって、第１特別図柄の保留球数（保留記憶数）が上限数（４個）である場合に大当たりに当選し、その大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合に実行され得る「時短状態中における第１特別図柄変動（抽選）」において、大当たりに当選したとしても、遊技者に不利となる結果を遊技者に提供することを抑制することができる。

【３９１０】

＜第７制御例における主制御装置１１０により実行される制御処理について＞

次に、図３１４から図３２７のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２０１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理７と、定期的に（第７制御例では２ｍ秒間隔で）起動されるタイマ割込処理と、ＮＭＩ端子への停電信号ＳＧ１の入力により起動されるＮＭＩ割込処理とがあり、説明の便宜上、はじめにタイマ割込処理とＮＭＩ割込処理とを説明し、その後、立ち上げ処理（主制御装置）７とメイン処理７とを説明する。なお、本第７制御例における主制御装置１１０により実行される制御処理のうち、上述した第５制御処理と同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【３９１１】

図３１４は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。タイマ割込処理は、例えば２ミリ秒毎に実行される定期処理である。タイマ割込処理では、まず各種入賞スイッチの読み込み処理を実行する（Ｓ１０１０１）。即ち、主制御装置１１０に接続されている各種スイッチの状態を読み込むと共に、当該スイッチの状態を判定して検出情報（入賞検知情報）を保存する。

【３９１２】

次に、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を実行する（Ｓ１０１０２）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（第７制御例では９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。同様に、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（第７制御例では２３９）に達した際、０にクリアし、その第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値をＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【３９１３】

更に、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、第２当たり乱数カウンタＣ４、小当たり種別カウンタＣ５、時短種別選択カウンタＣＣ１の値（図示せず）の更新を実行する（Ｓ１０１０３）。具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、第２当たり乱数カウンタＣ４及び小当たり種別カウンタＣ５、時短種別選択カウンタＣＣ１の値（図示せず）をそれぞれ１加算すると共に、それらのカウンタ値が最大値（第７制御例ではそれぞれ、９９９，９９，９９，２３９，９９）に達した際、それぞれ０にクリアする。そして、各カウンタＣ１～Ｃ５，ＣＣ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【３９１４】

次に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて表示を行うための処理であると共に、第３図柄表示装置８１による第３図柄の変動パターンなどを設定する特別図柄変動処理７を実行する（Ｓ１０１０４）。その後、第１入球口６４への入賞（始動入賞）に伴う始動入賞処理を実行する（Ｓ１０１０５）。尚、特別図柄変動処理７の詳細は、図３１５を参照して後述する。

【３９１５】

始動入賞処理を実行した後は、第２図柄表示装置８３において表示を行うための処理である普通図柄変動処理を実行し（Ｓ１０１０６）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過に伴うスルーゲート通過処理を実行する（Ｓ１０１０７）。尚、始動入賞処理（Ｓ１０１０５）、普通図柄変動処理（Ｓ１０１０６）、及び、スルーゲート通過処理（Ｓ１０１０７）の詳細な内容については、上述した第５制御例における始動入賞処理、普通図柄変動処理、及び、スルーゲート通過処理と同一であるため、その詳細な説明を省略する。スルーゲート通過処理（Ｓ１０１０７）を実行した後は、Ｖ入賞装置６５０へのＶ入球に伴うＶ入口通過処理を実行する（Ｓ１０１０８）。その後、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞スイッチ（Ｖスイッチ）６５０ｅ３へのＶ入賞に伴うＶ通過処理を実行する（Ｓ１０１０９）。尚、Ｖ入口通過処理及びＶ通過処理の詳細は、図３２２及び図３２３を参照して後述する。

【３９１６】

次いで、発射制御処理を実行し（Ｓ１０１１０）、更に、定期的に実行すべきその他の処理を実行して（Ｓ１０１１１）、タイマ割込処理を終了する。なお、発射制御処理は、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、且つ、発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂが操作されていないことを条件に、球の発射のオン／オフを決定する処理である。主制御装置１１０は、球の発射がオンである場合に、発射制御装置１１２に対して球の発射指示をする。

【３９１７】

次に、図３１５を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動処理７（Ｓ１０１０４）について説明する。図３１５は、この特別図柄変動処理７（Ｓ１０１０４）を示すフローチャートである。この特別図柄変動処理７（Ｓ１０１０４）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の中で実行され、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて行う特別図柄（第１図柄）の変動表示や、第３図柄表示装置８１において行う第３図柄の変動表示などを制御するための処理である。

【３９１８】

この特別図柄変動処理７（Ｓ１０１０４）では、まず、今現在が、特別図柄の大当たり中であるか否かを判定する（Ｓ１０２０１）。特別図柄の大当たり中としては、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１において特別図柄の大当たり（特別図柄の大当たり遊技中も含む）を示す表示がなされている期間が含まれるものであり、大当たり遊技の開始を示す期間（オープニング期間）と、大当たり遊技中の期間（ラウンド遊技期間）と、ラウンド遊技期間が終了し、次に新たな特別図柄の抽選（変動）が開始されるまでの猶予期間（エンディング期間）と、が含まれる。

【３９１９】

ここで、現在が大当たり中であるか否かの判別をするために、具体的には、大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されているかを判別している。判別の結果、特別図柄の大当たり中（大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されている）と判別した場合は（Ｓ１０２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【３９２０】

特別図柄の大当たり中でなければ、即ち、大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｓ１０２０１：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中であるか否かを判定し（Ｓ１０２０２）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中でなければ（Ｓ１０２０２：Ｎｏ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）と第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を取得する（Ｓ１０２０３）。

【３９２１】

そして、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０より大きいか判別する（Ｓ１０２０４）。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０でなければ（Ｓ１０２０４：Ｙｅｓ）、即ち、変動（抽選）を開始させる第２特別図柄の保留球を確保している状態であれば、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を減算し（Ｓ１０２０５）、演算により変更された第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を示す保留球数コマンド（特図２保留球数コマンド）を設定する（Ｓ１０２０６）。Ｓ１０２０６の処理により特図２保留球数コマンドを設定した後は、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されたデータをシフトする（Ｓ１０２０７）。その後、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）、特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）の処理を実行し、本処理を終了する。

【３９２２】

一方、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０であると判別された場合には（Ｓ１０２０４：Ｎｏ）、現時点において変動（抽選）を開始させる第２特別図柄の保留球を確保していない状態であるため、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０より大きいか判別する（Ｓ１０２１１）。

【３９２３】

第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０であると判別された場合には（Ｓ１０２１１：Ｎｏ）、現時点において変動（抽選）を開始させる第１特別図柄の保留球を確保していない状態であるため、特別図柄変動を実行するための本処理を終了する。

【３９２４】

一方、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０でなければ（Ｓ１０２１１：Ｙｅｓ）、即ち、変動（抽選）を開始させる第１特別図柄の保留球を確保している状態であれば、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を減算し（Ｓ１０２１２）、演算により変更された第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を示す保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）を設定する（Ｓ１０２１３）。Ｓ１０２１３の処理により特図１保留球数コマンドを設定した後は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されたデータをシフトする（Ｓ１０２１４）。その後、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）、特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）の処理を実行し、本処理を終了する。

【３９２５】

Ｓ１０２０２の処理において、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中であれば（Ｓ１０２０２：Ｙｅｓ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行している変動表示の変動時間が経過したか否かを判別する（Ｓ１０２１１）。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行される変動表示の変動時間は、変動種別カウンタＣＳ１により選択された変動パターンに応じて決められており（変動パターンコマンドに応じて決められており）、この変動時間が経過していなければ（Ｓ１０２１５：Ｎｏ）、即ち、現在が特別図柄の変動期間中であれば、第１図柄表示装置の表示を更新し（Ｓ１０２１６）、本処理を終了する。

【３９２６】
一方、Ｓ１０２１５の処理において、実行している変動表示の変動時間が経過していれば（Ｓ１０２１５：Ｙｅｓ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの停止図柄に対応した表示態様（停止表示）を設定する（Ｓ１０２１７）。停止表示の設定は、図３１８を参照して後述する特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２５２）によって予め行われる。詳細な説明は省略するが、第７制御例では、Ｓ１０２１７の処理において設定された停止表示を所定期間（０．５秒）第１図柄表示装置に表示するように構成している。このように停止図柄の表示態様（停止表示）を所定期間継続して表示させることにより、変動中の図柄が一瞬表示された場合とは異なり、遊技者に対して確実に停止表示された第１図柄の内容を認識させることができる。

【３９２７】
上述した第１図柄の停止態様を表示する所定期間（確定期間）として、第７制御例では０．５秒を設定しているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、第１図柄が変動中であることを示すために点灯状態と消去状態とを繰り返す点滅表示を行う場合であれば、その点滅表示を行う際の１回の点灯表示期間（例えば、０．２秒）よりも長い期間を上述した確定期間として設定すれば良い。このように構成することで、第１図柄が変動中であるか停止中（確定中）であるかを遊技者に容易に判別させることができる。

【３９２８】
Ｓ１０２１７の処理が終了した後は、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行中の特別図柄の変動表示が開始された際に、特別図柄判定処理７（図３１７のＳ１０２０９参照）によって行われた特別図柄の抽選結果（今回の判別結果）が、特別図柄の大当たりであるかを判別する（Ｓ１０２１８）。今回の抽選結果が特別図柄の大当たりであると判別した場合は（Ｓ１０２１８：Ｙｅｓ）、大当たり開始フラグ２０３ｊと大当たり中フラグ２０３ｋとをオンに設定し（Ｓ１０２１９）、時短カウンタ２０３ｈを０に設定して（Ｓ１０２２０）、Ｓ１０２２１の処理へ移行する。Ｓ１０２２１の処理では、特図確定コマンドを設定し（Ｓ１０２２１）、本処理を終了する。

【３９２９】
つまり、第７制御例では、Ｓ１０２２０の処理にて説明をした通り、特別図柄の大当たりに当選した場合には、その特別図柄の変動が終了（第１図柄の確定表示が終了）してから、大当たり遊技が開始されるまでのタイミングで時短状態が終了するように構成している。なお、特別図柄の大当たりに当選したことに基づいて時短状態を終了させるタイミングについては、予め定められているタイミングで有れば良く、上述した第７制御例のように、特別図柄（第１図柄）の確定表示後以外にも、例えば、大当たりに当選した特別図柄の変動開始タイミングで時短状態を終了しても良いし、特別図柄が停止表示されたタイミング（確定表示が開始されるタイミング）で時短状態を終了しても良い。また、当選した大当たりに対応した大当たり遊技を開始するタイミングや大当たり遊技が開始されてから所定期間後（例えば、可変入賞装置６５が開放されるラウンド遊技開始タイミング）に時短状態を終了しても良いし、大当たり遊技が終了したタイミングで時短状態を終了しても良い。

【３９３０】
さらに、特別図柄の大当たりに当選したことに基づいて時短状態を終了させる終了タイミング（特別図柄の大当たりに当選した場合に成立する時短終了条件を成立させるタイミング）を、上述した複数のタイミングの中から１つだけ予め設定するように構成しても良いし、当選した大当たりの大当たり種別に応じて異なるタイミングで時短状態が終了するように構成しても良い。

【３９３１】
このように構成することで、例えば、特別図柄の変動開始タイミングで時短状態を終了させた場合には、遊技者に対して、時短状態が終了し（例えば、特別図柄の変動回数が規定回数（１００回）に到達し）通常状態が設定されたのか、それとも、時短状態中に大当たりに当選したことにより時短状態が終了したのかを分かり難くすることができる。よっ

て、時短状態が終了した際に実行される特別図柄変動に対応する第３図柄の演出表示（変動表示）の内容を遊技者に注視させることができ、演出効果を高めることができる。

【３９３２】

また、複数の大当たり種別毎に時短終了条件が成立するタイミング（大当たりに当選した場合に時短状態を終了させるタイミング）を異ならせるように設定することで、時短状態の終了タイミングに基づいて特別図柄の抽選結果（判別結果）が遊技者に把握されてしまうことを抑制することができる。なお、複数の大当たり種別毎に設定される時短終了条件が成立するタイミングの一部に、時短状態が終了したタイミングを遊技者が識別した場合に、今回の特別図柄の抽選結果（判別結果）が大当たりであることを遊技者に報知できるタイミング、即ち、大当たりに当選したことにより成立する時短終了条件が成立した場合にのみ時短状態が終了する大当たり専用の時短終了タイミングを設けても良い。

【３９３３】

このように構成することで、時短状態が終了するタイミングを把握することで、大当たりに当選したことをいち早く知ることができ、優越感に浸る期間を長くすることができる。また、このような効果をより奏するために、上述した大当たり専用の時短終了タイミングを、特別図柄変動が実行されてから特別図柄変動が終了するまでの変動期間のうち、前半期間に設定するように構成すると良い。

【３９３４】

一方、Ｓ１０２１８の処理において、今回の抽選結果が大当たりでないと判別された場合は（Ｓ１０２１８：Ｎｏ）、今回の抽選結果が小当たりであるか否かを判別する（Ｓ１０２２２）。Ｓ１０２２２の処理において、今回の抽選結果が小当たりであると判別された場合は（Ｓ１０２２２：Ｙｅｓ）、小当たり開始設定処理７を実行し（Ｓ１０２２３）、本処理を終了する。一方、Ｓ１０２２２の処理において、今回の抽選結果が小当たりでないと判別された場合は（Ｓ１０２２２：Ｎｏ）、小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）をスキップして、本処理を終了する。

【３９３５】

以上、説明をしたように、第７制御例の特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４）では、第１特別図柄の抽選（変動）条件の成立の有無よりも優先して（先に）、第２特別図柄の抽選（変動）条件の成立の有無を判別するように構成している（図３１５のＳ１０２０４の処理）。これは、遊技者にとって有利な特別図柄である第２特別図柄は遊技状態として時短状態が設定されている場合に変動可能（変動容易）となり、通常状態が設定されている場合は、変動不能（変動困難）となる第２特別図柄のほうが、第１特別図柄よりも変動（抽選）を実行し難い特別図柄となるように構成されているためである。

【３９３６】

このように構成されたパチンコ機１０において、万が一、第１特別図柄の抽選（変動）条件と、第２特別図柄の抽選（変動）条件が同時（主制御装置１１０のタイマ割込処理（図３１４参照）の処理期間である２ミリ秒分の誤差は含む）に成立した場合に、変動（抽選）が実行され難い第２特別図柄よりも優先して第１特別図柄の変動が開始されてしまうと、遊技者に対して不快感を与えてしまうことになる。さらに、第７制御例では第１特別図柄の抽選（変動）よりも第２特別図柄の抽選（変動）のほうが遊技者に有利となる抽選結果に当選し易くなるように（小当たりに当選し易くなるように）構成しているため、第１特別図柄の抽選（変動）条件と、第２特別図柄の抽選（変動）条件が同時（主制御装置１１０のタイマ割込処理（図３１４参照）の処理期間である２ミリ秒分の誤差は含む）に成立した場合に、変動（抽選）が実行され難い第２特別図柄よりも優先して第１特別図柄の変動が開始されてしまうと、より不快感を与えてしまうという問題があった。

【３９３７】

これに対して、第７制御例では、第１特別図柄、或いは第２特別図柄の変動を開始させる処理を実行する場合に、遊技者にとって付加価値の高い（小当たりの当選確率が第１特別図柄よりも高い、実際に抽選（変動）が実行され難い）特別図柄（第７制御例では第２特別図柄）の抽選（変動）条件を優先して（最初に）判別するように構成しているため、

上述した問題が発生することを抑制することができる。

【３９３８】

次に、図３１６を参照して、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）の処理内容について説明をする。図３１６は、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）の処理内容を示したフローチャートである。図３１６に示した通り、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）は、上述した第５制御例における時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）に対して、時短抽選を実行するための条件と、時短抽選の抽選結果（時短当選の有無）を判定する際に参照されるデータテーブルを異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【３９３９】

時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）が実行されると、まず、現在の遊技状態が通常状態であるかを判別し（Ｓ１８１０３）、通常状態では無い（時短状態である）と判別した場合は（Ｓ１８１０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、通常状態であると判別した場合は（Ｓ１８１０３：Ｙｅｓ）、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈに基づいて抽選結果（時短当選の判定結果）を取得し（Ｓ１８１０４）、時短当選したかを判別し（Ｓ１８１０５）、時短当選したと判別した場合は（Ｓ１８１０５：Ｙｅｓ）、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉに規定されている内容に基づいて時短カウンタ２０３ｈの値に１を設定し（Ｓ１８１０６）、本処理を終了する。また、Ｓ１８１０５の処理において時短当選していないと判別した場合は（Ｓ１８１０５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３９４０】

以上、説明をした通り、本第７制御例では、特別図柄種別に関わらず、特別図柄抽選が通常状態にて実行される場合を時短当選判定の実行条件としている。そして、本第７制御例におけるパチンコ機１０は、遊技状態として、通常状態と時短状態との２種類を設定可能に構成している。つまり、第７制御例では、時短状態が設定されていない状態で実行される特別図柄抽選の全てにおいて、時短当選の判定が実行されるように構成している。よって、遊技者に対して常に時短状態が設定される可能性を持たせたまま遊技を行わせることができる。

【３９４１】

なお、上述した通り、本第７制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合には、その時短当選に基づいて設定される時短状態が、当該特別図柄抽選にて大当たり判定が実行される期間のみ設定されるように構成していることから、大当たり当選しない限り時短当選したか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。

【３９４２】

次に、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）の処理内容について、図３１７を参照して説明をする。図３１７は、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）の処理内容を示したフローチャートである。特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）は、上述した特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４参照）において、時短抽選処理７（図３１６のＳ１０２０８参照）が実行された後に実行される処理であって、特別図柄抽選における大当たり判定（小当たり判定）を行うための処理が実行される。

【３９４３】

図３１７に示した通り、この特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）は、上述した第５制御例における特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１参照）に対して、小当たり判定された場合に実行される処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。なお、図３１７では、上述した特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１参照）と同一の処理内容に対して、説明の便宜上、異なる符号を付しているが記載内容が同一の処理についてはその処理内容は同一である。

【３９４４】

特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）が実行されると、まず、特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｓ１０３０１）、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆｈに基づいて抽選結果（大当たり（小当たり）判定結果）を取得し（Ｓ１０３０２）、取

得した抽選結果が大当たり当選であるかを判別する（Ｓ１０３０３）。大当たり当選であると判別した場合は（Ｓ１０３０３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｓ１０３０４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｓ１０３０５）、本処理を終了する。

【３９４５】

一方、Ｓ１０３０３の処理において大当たり当選していないと判別した場合は（Ｓ１０３０３：Ｎｏ）、次いで、小当たり当選しているかを判別し（Ｓ１０３０６）、小当たり当選していると判別した場合は（Ｓ１０３０６：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ１０３０７）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の小当たり図柄をセットし（Ｓ１０３０８）、本処理を終了する。

【３９４６】

なお、詳細な図示は省略しているが、Ｓ１０３０５の処理、及びＳ１０３０８の処理では、当該特別図柄抽選にて時短当選した場合と、時短当選していない場合とで異なる当たり図柄をセットするように構成している。つまり、第１図柄表示装置３７には、特別図柄抽選の抽選結果を示すための特別図柄の表示態様として、時短当選の有無と当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）の有無とを複合した表示態様を設定可能に構成している。

【３９４７】

次に、図３１８を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）について説明する。図３１８は、特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）の内容を示したフローチャートである。図３１８に示した通り、特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）では、特別図柄変動の開始を設定する前に更新処理７（Ｓ８２５３）を実行するように構成している。このように構成することで、特別図柄変動が開始されるよりも前に時短状態を終了させることができる。

【３９４８】

さらに、本第７制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動の変動パターンが選択されてから、実際に特別図柄変動が開始されるまでの間に、更新処理７（Ｓ８２５３）を実行するように構成している。よって、特別図柄抽選が実行された時点における遊技状態に対応させて特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動の変動パターンを選択することができるため、遊技者に対して、更新処理７（Ｓ８２５３）が実行されたことにより遊技状態が切り替わった場合であっても、実行される特別図柄変動の変動パターンによって現在の遊技状態を予測させ難くすることができる。

【３９４９】

また、時短状態が終了した後に実行される特別図柄変動であっても、その特別図柄変動に対応する特別図柄抽選が時短状態中に実行された場合であれば、特別図柄変動の変動パターンを時短状態中に参照されるデータテーブルを用いて決定することができるため、例えば、時短状態中に実行される特別図柄抽選に基づいてのみ付与可能な特典を有しているパチンコ機１０において、その特典が付与されることを示すための専用演出を時短状態中に選択される特別図柄変動の変動パターンに対応して規定しておくだけで円滑に専用演出を実行することができる。

【３９５０】

なお、これに限ること無く、例えば、図３１８のＳ８２５２の処理が実行されるよりも前に更新処理７（Ｓ８２５３）を実行するように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄変動の変動パターンを選択するよりも前に時短状態を終了させることが可能となるため、例えば、通常状態と時短状態とで異なる変動パターンを選択可能に構成されたパチンコ機１０において、選択された変動パターンに基づいて、時短状態中に特別図柄抽選の大当たり判定が実行されたか否かを判別されてしまうことを抑制することができる。

【３９５１】
特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２１０）が実行されると、まず、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ８２０１）。Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｓ８２０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂ（図３０６（ａ）参照）を参照して大当たり種別を決定し（Ｓ８２５１）、Ｓ８２０３の処理に移行する。
【３９５２】
一方、Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合には（Ｓ８２０１：Ｎｏ）、特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否か、即ち、特別図柄の小当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ８２０９）。Ｓ８２０９の処理において特別図柄の小当たりが設定されていると判別した場合には（Ｓ８２０９：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆ（図３０７参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ８２５４）、Ｓ８２０３の処理に移行する。
【３９５３】
また、Ｓ８２０９の処理において、特別図柄の小当たりが設定されていない、即ち、特別図柄の外れが設定されていると判別した場合には（Ｓ８２０９）、Ｓ８２５４の処理をスキップし、Ｓ８２０３の処理に移行する。
【３９５４】
Ｓ８２０３の処理では、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得する（Ｓ８２０３）。次に、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて現在の遊技状態（通常状態、時短状態）を特定し、特定した遊技状態に対応したデータテーブルを変動パターン選択７テーブル２０２ｆｄから読み出す（Ｓ８２５２）。
【３９５５】
そして、Ｓ８２０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｓ８２５２の処理で読み出した変動パターン選択７テーブル２０２ｆｄ（図３０８（ａ）参照）が有するデータテーブルとに基づいて変動パターンを選択し（Ｓ８２０５）、Ｓ８２０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｓ８２０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【３９５６】
次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｓ８２０７）、更新処理７を実行する（Ｓ８２５３）。更新処理７（Ｓ８２５３）の詳細な説明については、図３１９を参照して後述する。そして、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｓ８２０８）、本処理を終了する。Ｓ８２０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【３９５７】
次に、図３１９を参照して、特別図柄変動パターン選択処理７（図３１８のＳ１０２１０参照）にて実行される更新処理７（Ｓ８２５３）の処理内容について説明をする。図３１９は、更新処理７（Ｓ８２５３）の処理内容を示したフローチャートである。この更新処理７（Ｓ８２５３）では、上述した第５制御例における更新処理５（図２５６のＳ２５３参照）と同様に、遊技状態（時短状態）を終了させるための終了条件に関する情報を更新するための処理と、更新後の情報が終了条件を満たしているかを判別するための処理と、終了条件を満たしていると判別した場合に遊技状態（時短状態）を終了させる処理と、が実行される。
【３９５８】

図３１９に示した通り、本第７制御例では、遊技状態として通常状態と、時短状態と、を設定可能に構成しているため、更新処理７（Ｓ８２５３）では、時短状態を終了させるための時短終了条件に関する情報を更新し、更新後の情報に基づいた処理を実行するように構成している。つまり、時短カウンタ２０３ｈの値を減算し、時短終了条件が成立したかを判別し、その判別結果に基づいて時短状態を終了させる処理（時短終了条件が成立したか否かの判別を実行する際に参照される各種カウンタの値をクリアする処理）が実行される。

【３９５９】

この更新処理７（Ｓ８２５３）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の特別図柄変動処理７（図３１５参照）の中で実行される処理であり、時短回数を更新し、遊技状態を通常状態に設定するための処理である。

【３９６０】

更新処理７（Ｓ８２５３）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいか、即ち、現在が時短中であるかを判別する（Ｓ１０６０１）。Ｓ１０６０１の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きく無い（０である）、即ち、時短中ではないと判別した場合は（Ｓ１０６０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい、即ち、時短中であると判別した場合は（Ｓ１０６０１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｓ１０６０２）、Ｓ１０６０３の処理へ移行する。

【３９６１】

Ｓ１０６０３の処理では、演算により変更された（１減算された）時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｓ１０６０３）。ここで設定された残時短回数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、後述のメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。

【３９６２】

その後、時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別する（Ｓ１０６０４）。時短カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は（Ｓ１０６０４：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ１０６０５）、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇおよび小当たりＢカウンタ２０３ｆｈを０に設定する（Ｓ１０６０６）。次いで、現在の遊技状態が通常状態であることを示す状態コマンドを設定し（Ｓ１０６０７）、本処理を終了する。

【３９６３】

一方、Ｓ１０６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ１０６０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了し、特別図柄変動処理７（図３１５参照）へ戻る。

【３９６４】

以上、説明をしたとおり、第７制御例では、特別図柄の変動回数に基づいて成立する時短終了条件（変動回数終了条件）の成立の有無は、更新処理７（図３１９参照）により判別され、特別図柄の小当たり当選の当選回数に基づいて成立する時短終了条件（当選回数終了条件）の成立の有無は、小当たり用時短更新処理７（図３２１参照）により判別されるように構成している。そして、何れかの処理において、複数設定される時短終了条件のうち、何れかの時短終了条件が成立した場合には、他の時短終了条件に対応する時短情報の更新状況を示すための各種カウンタの値を全て時短終了条件が成立した状態を示すための値（０）に設定するように構成している。よって、何れの時短終了条件が成立した場合においても、時短状態を終了させるための処理内容を統一することができる。

【３９６５】

なお、第７制御例では、各時短終了条件に対応する時短情報の更新状況を示すために、時短状態が設定されたタイミングで各種カウンタに、各時短終了条件を示す値を設定し、各時短終了条件に対応する時短情報を判別した場合に、各種カウンタの値を減算し、減算した値が０となった場合に、対応する時短終了条件が成立したと判別する構成を用いてい

るが、それ以外にも、時短状態が設定された時点で各種カウンタの値を０にセットし、対応する時短情報を判別した場合に、カウンタの値を１加算し、加算後のカウンタの値が時短終了条件を示す値であると判別した場合に時短状態を終了するように構成しても良い。つまり、時短終了条件の成立の有無を判別する手段と、時短状態が設定されている状態において、各種時短終了条件に対応する時短情報（特別図柄の変動回数や小当たり当選回数等）を更新する更新手段と、を設ける構成であれば良い。

【３９６６】

次に、図３２０を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）について説明する。図３２０は、小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）を示したフローチャートである。この小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の特別図柄変動処理７（図３１５参照）の中で実行される処理であり、小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）に基づいて、小当たり遊技の開始を設定し、当選した小当たりに応じて時短情報を更新するための処理（当選回数終了条件に対する更新処理）が実行される。

【３９６７】

ここで、本パチンコ機１０は、小当たり遊技が開始されるとＶ入賞装置６５０を球が入賞可能（容易）な開放状態に可変し、そのＶ入賞装置６５０に入賞した球が特定領域（Ｖ入賞スイッチ（Ｖスイッチ）６５０ｅ３）を通過することで、その小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行（設定）されるよう構成されている。

【３９６８】

即ち、小当たり遊技が実行される遊技状態は、Ｖ入賞装置６５０に球が入賞可能となる（賞球を得ることが出来る）有利状態、且つ、通常遊技状態に比べて大当たり遊技が実行される可能性が高くなる有利状態となるよう構成されている。なお、詳細は後述するが第７制御例では、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ）に対応して異なる小当たり遊技が実行されるように構成されており、各小当たり種別に応じて、小当たり遊技中に球が特定領域を通過する可能性が異なるようにしている。

【３９６９】

このように構成することで、実行される小当たり遊技によって大当たり遊技（２種当たり）が実行（設定）される可能性（期待度）を可変させることができるため、遊技者に対して小当たりに当選するか否かだけでは無く、当選した小当たりの種別に対しても興味を持たせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【３９７０】

小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）が実行されると、まず、小当たり種別と対応した開放シナリオを設定する（Ｓ１０４０１）。その後、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄに小当たり種別に応じた大当たり種別を設定する（Ｓ１０４０２）。より具体的には、小当たり種別と小当たり種別選択テーブル２０２ｆｆに基づいて、Ｖ通過大当たり種別（小当たり遊技中に球が特定領域を通過した場合に設定（実行）される大当たり遊技）を判別する。上述したように、小当たり種別がＡであれば、大当たりＡ（１５ラウンド時短有大当たり）であると判別し、小当たり種別がＢであれば、大当たりＢ（５ラウンド時短有大当たり）であると判別する（図３０７参照）。つまり、第７制御例では、小当たり遊技中に球が特定領域を通過した場合に設定（実行）される大当たり（２種当たり）の大当たり遊技の内容と、特別図柄の抽選によって大当たり（１種当たり）に当選した場合に実行される大当たり遊技とで同一の大当たり遊技が実行されるように、２種当たりを獲得した場合に（特定領域を球が通過した場合に）、１種当たりにおいて設定される大当たり種別（大当たりＡ或いはＢ）が実行された小当たりの種別に応じて設定されるように構成されている。

【３９７１】

このように、２種当たりを獲得した場合に、大当たり種別を設定し、設定された大当たり種別に基づいて大当たり遊技を開始させる処理を実行することで、１種当たりに当選した場合と、２種当たりを獲得した場合とで、大当たり遊技に関する処理を共通化すること

ができ、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。
【３９７２】
なお、第７制御例の構成に限ること無く、１種当たりに当選した場合のみ、或いは、２種当たりに当選した場合のみ、実行され得る大当たり遊技を設定可能に構成しても良いし、１種当たりと２種当たりとで異なる大当たり遊技処理を実行するように構成しても良い。
【３９７３】
図３２０に戻り、説明を続ける。Ｓ１０４０２の処理を終えると、次いで、小当たり種別に基づいて、小当たりの開始を設定し（Ｓ１０４０３）、小当たり開始フラグ２０３ｆｂと小当たり中フラグ２０３ｆｃをオンに設定する（Ｓ１０４０４）。その後、小当たり用時短更新処理７を実行し（Ｓ１０４０５）、本処理を終了する。この小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）は、小当たりに当選した場合に成立し得る時短状態の終了条件である当選回数終了条件に対応する時短情報を更新するための処理と、時短情報を更新したことにより当選回数終了条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態から通常状態へと移行させるための処理と、を実行するためのものであって、その詳細は図３２１を参照して後述する。
【３９７４】
ここで、図３２１を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）について説明する。図３２１は、小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）の内容を示したフローチャートである。この小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の特別図柄変動処理７（図３１５参照）の小当たり開始設定処理７（図３２０参照）の中で実行される処理であり、当選した小当たりに基づいて時短情報を更新し、時短終了条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態から通常状態へと更新するための処理である。
【３９７５】
小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）では、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ１０５０１）。即ち、現在が時短状態であるかを判別する。Ｓ１０５０１の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合は（Ｓ１０５０１：Ｎｏ）、時短状態以外の遊技状態において小当たりに当選した状態であるため、時短情報を更新するために本処理を全てスキップし、本処理を終了する。なお、第７制御例では、時短状態が設定されている状態以外では小当たりに当選することが無いように（第２特別図柄の抽選（変動）が実行されないように）構成しているため、Ｓ１０５０１の処理にて時短状態が設定されていない状態であると判別した場合に、エラー報知（異常報知）を実行するためのエラーコマンドを設定するように構成しても良い。
【３９７６】
一方、Ｓ１０５０１の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい、即ち、時短状態が設定されている状態であると判別した場合は（Ｓ１０５０１：Ｙｅｓ）、次に、今回当選した小当たりの小当たり種別が「小当たりＡ」であるかを判別する（Ｓ１０５０２）。ここで、Ｓ１０５０２の処理では、特別図柄判定処理７（図３１７参照）のＳ１０３１０の処理において小当たり種別格納エリア２０３ｆａに格納された小当たり種別を読み出して判別を実行する。
【３９７７】
Ｓ１０５０２の処理において、今回の小当たり種別が「小当たりＡ」であると判別した場合は（Ｓ１０５０２：Ｙｅｓ）、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇの値を１減算し（Ｓ１０５０３）、減算後の小当たりＡカウンタ２０３ｆｇの値が０であるかを判別し（Ｓ１０５０４）、０であると判別した場合は（Ｓ１０５０４：Ｙｅｓ）、今回の小当たり当選で時短終了条件（小当たりＡに対応する当選回数終了条件）が成立した場合であるため、変動回数終了条件が成立するまでの期間を計測していた時短カウンタ２０３ｈの値を０に設定し（Ｓ１０５０５）、各種当選回数終了条件を計測していた小当たりＡカウンタ２０３

ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈのそれぞれの値を０に設定し（Ｓ１０５０６）、遊技状態として通常状態を設定する（Ｓ１０５０７）。

【３９７８】

上述したＳ１０５０５～Ｓ１０５０７の処理を実行することにより、複数設定される時短終了条件のうち、１つの時短終了条件が成立した場合に、他の時短終了条件が成立するまでの期間を計測するためのカウンタの値をそれぞれ時短終了条件が成立したことを示す値に設定することができるため、時短終了条件が成立した後に（遊技状態として通常状態が設定された後に）、時短情報を更新するための処理（小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈ、時短カウンタ２０３ｈの値を更新するための処理）が実行されることを確実に防止することができる。よって、不必要な処理が実行されることを抑制できるため、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。

【３９７９】

なお、第７制御例では、複数の時短終了条件のうち、何れかの終了条件が成立した場合に、複数の時短終了条件のそれぞれに対応する時短情報を更新するための各種カウンタの値を０（時短終了条件が成立したことを示す値）に設定するように構成するだけであるため、時短状態が終了した後に、前回の時短状態がどの時短終了条件が成立して終了したのかを判別することができないが、例えば、成立した時短終了条件を記憶可能な記憶手段を設け、過去に成立した時短終了条件の種別や成立回数を判別可能に構成しても良い。

【３９８０】

このように構成することで、例えば、成立し易い時短終了条件を、設計値から算出した算出結果と、実際の成立回数とに基づいて決定し、その決定した内容に基づいて遊技者に成立し易い時短終了条件を示唆（報知）するように構成することができる。さらに、１の時短終了条件が成立した場合における他の時短終了条件に対応する時短情報の更新状況（例えば、時短カウンタ２０３ｈの値が０になった時点における小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの各値）を記憶可能に構成し、最も成立し難い時短終了条件、即ち、複数の時短終了条件のうち、１の時短終了条件が成立した時点において、最も大きな値の時短情報を有する時短終了条件を判別するように構成しても良い。

【３９８１】

Ｓ１０５０７の処理を終えると、次に、減算された各小当たりカウンタの値に対応する残時短回数コマンドを設定し（Ｓ１０５０８）、現在の遊技状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ１０５０９）、本処理を終了する。ここで、Ｓ１０５０８及びＳ１０５０９で設定されたコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、後述のメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、受信した残時短回数コマンドに基づいて時短情報を管理し、時短状況（時短状態が終了するまでの期間）を示唆（報知）するための状態表示態様を設定する。また、受信した状態コマンドに基づいて現在の遊技状態を把握する。

【３９８２】

一方、Ｓ１０５０４の処理において、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇの値が０では無いと判別した場合は（Ｓ１０５０４：Ｎｏ）、今回の小当たり当選によって時短状態が終了しないため、時短状態を終了するためのＳ１０５０５～Ｓ１０５０７の処理をスキップしてＳ１０５０８の処理へ移行する。

【３９８３】

上述したＳ１０５０２の処理に戻り説明を続ける。Ｓ１０５０２の処理において、今回当選した小当たりの小当たり種別が「小当たりＡ」では無い（「小当たりＢ」である）と判別した場合は（Ｓ１０５０２：Ｎｏ）、次に、今回当選した小当たりの小当たり種別が「小当たりＢ」であるかを判別し（Ｓ１０５１０）、「小当たりＢ」であると判別した場合は（Ｓ１０５１０：Ｙｅｓ）、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値を１減算し（Ｓ１０５１１）、その後、減算した小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値が０であるかを判別する（Ｓ１０５１２）。

【３９８４】
　Ｓ１０５１２の処理において、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値が０であると判別した場合は（Ｓ１０５１２：Ｙｅｓ）、今回の小当たり当選で時短終了条件（小当たりＢに対応する当選回数終了条件）が成立した場合であるため、上述したＳ１０５０５の処理へ移行し、時短状態を終了させるための処理を実行する。
【３９８５】
　一方、Ｓ１０５１２の処理において、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値が０では無い（１以上である）と判別した場合は（Ｓ１０５１２：Ｎｏ）、今回の小当たり当選によって時短状態が終了しないため、時短状態を終了するためのＳ１０５０５～Ｓ１０５０７の処理をスキップしてＳ１０５０８の処理へ移行する。
【３９８６】
　Ｓ１０５１０の処理において、今回当選した小当たりの小当たり種別が「小当たりＢ」では無い場合は（Ｓ１０５１０：Ｎｏ）、今回の小当たり当選によって時短状態が終了しないため、時短状態を終了するためのＳ１０５０５～Ｓ１０５０７の処理をスキップしてＳ１０５０８の処理へ移行する。
【３９８７】
　以上説明をした通り、第７制御例では小当たりに当選した特別図柄の変動時間が経過した場合に、その小当たり当選に対応するカウンタの値を減算し、小当たり当選に基づいて成立する時短終了条件（当選回数終了条件）の成立の有無を判別するように構成している。このように構成することで、小当たり遊技が実行される前に当選回数終了条件により時短状態を終了させることが可能となる。よって、変動回数終了条件、当選回数終了条件の何れの時短終了条件が成立した場合であっても、時短状態を終了させるタイミングに大きな差が発生することを防止することができる。
【３９８８】
　具体的には、第７制御例では、変動回数終了条件、即ち、特別図柄の変動回数に基づいて成立する時短終了条件が成立した場合には、特別図柄（第１図柄）の確定表示が終了したタイミングで時短状態が終了するように構成され、当選回数終了条件、即ち、特別図柄の抽選で小当たりに当選した当選回数に基づいて成立する時短終了条件が成立した場合には、特別図柄（第１図柄）の確定表示後の、小当たり遊技の開始設定タイミングで時短状態が終了するように構成されている。
【３９８９】
　つまり、何れの時短終了条件が成立した場合であっても、対応する特別図柄の変動が停止した直後に時短状態が終了するように構成している。これにより、今回設定された時短状態がどの時短終了条件が成立して終了したのかを遊技者に分かり難くすることができる。なお、時短状態が終了したか否かを遊技者が判別するためには、例えば、普通図柄（第２図柄）の変動時間の長短や、電動役物６４０ａの開放パターンを識別する必要があるが、例えば、第７制御例のように小当たり開始設定時（小当たり遊技が開始される直前）に時短状態を終了するように設定することで、小当たり遊技が開始された直後には時短状態が終了したか否かを判別し難くすることができる。
【３９９０】
　なお、第７制御例では、複数の時短終了条件のうち、変動回数終了条件と当選回数終了条件との何れの終了条件が成立した場合にも、略同一のタイミング（遊技者が判別困難な程度の時間差を含む概念）で時短状態を終了させるように構成しているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、変動回数終了条件が成立した場合には特別図柄（第１図柄）の確定表示直後に時短状態を終了させ、当選回数終了条件が成立した場合には特別図柄（第１図柄）の確定表示後に実行される小当たり遊技終了後に時短状態を終了させるように構成しても良い。このように構成することで、小当たり遊技が実行されている期間中を時短状態とすることができる。
【３９９１】
　よって、小当たり遊技中は今回の小当たり当選によって時短状態が終了したのか否かを

遊技者が判別することができず、小当たり遊技が終了するまで（２種当たりを獲得したか否かの遊技結果が報知されるまで）、時短状態が終了したのか否かを分かり難くすることができる。さらに、第７制御例のように、小当たり遊技中に２種当たりを獲得可能な遊技性を有するパチンコ機１０では、小当たり遊技終了後に時短状態が終了したか否かを遊技者に報知するように構成することで、今回の小当たり遊技が時短状態を終了させる小当たり当選に基づくものでは？と予測しながらの遊技を行うことになるため、時短状態中に実行される小当たり遊技に対して常に意欲的に２種当たりを狙わせることができる。

【３９９２】

次に、図３２２を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるＶ入口通過処理（Ｓ１０１０８）について説明する。図３２２は、タイマ割込処理（図３１４参照）の中で実行されるＶ入口通過処理（Ｓ１０１０８）を示すフローチャートである。

【３９９３】

Ｖ入口通過処理（Ｓ１０１０８）では、まず球通過センサ（球検知スイッチ）６５０ｃ１がオンであるか否かを判定する（Ｓ１１１０１）。Ｓ１１１０１の処理において、球通過センサ６５０ｃ１がオンでないと判別された場合は（Ｓ１１１０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ１１１０１の処理において、球通過センサ６５０ｃ１がオンであると判別された場合（Ｓ１１１０１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞口６５０ａの開放期間中であるか否かを判別する（Ｓ１１１０２）。

【３９９４】

Ｓ１１１０２の処理において、Ｖ入賞口６５０ａの開放期間中であると判別された場合（Ｓ１１１０２：Ｙｅｓ）、Ｖ入口通過コマンドを設定し（Ｓ１１１０３）、本処理を終了する。ここで設定されたＶ入口通過コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３では、Ｖ入口通過コマンドを受信すると、Ｖ入口を通過した球をカウントすると共に、表示制御装置１１４へＶ入口通過に基づく演出を実行させるためのコマンドを送信する。これにより、Ｖ入賞装置６５０への入球に基づく小当たり遊技中の演出を実行することができる（図３１３参照）。

【３９９５】

一方、Ｖ入賞口６５０ａの開放期間中でないと判別された場合は（Ｓ１１１０２：Ｎｏ）、小当たり遊技でないにも関わらず、Ｖ入賞装置６５０へ球が入球した場合であるので、エラーコマンドを設定する（Ｓ１１１０４）。その後、流路ソレノイド２０９ａをオンに設定し（Ｓ１１１０５）、本処理を終了する。

【３９９６】

次に、図３２３を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるＶ通過処理（Ｓ１０１０９）について説明する。図３２３は、Ｖ通過処理（Ｓ１０１０９）を示すフローチャートである。このＶ通過処理（Ｓ１０１０９）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の中で実行される処理である。

【３９９７】

Ｖ通過処理では、まず、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆがオンであるか否かを判別する（Ｓ１１２０１）。Ｓ１１２０１の処理において、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆがオンであると判別された場合は（Ｓ１１２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ１１２０１の処理において、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆがオンでないと判別された場合は（Ｓ１１２０１：Ｎｏ）、Ｖ通過ありか否かを判別する（Ｓ１１２０２）。即ち、遊技球がＶ入賞装置６５０のＶ入賞スイッチ（Ｖスイッチ）６５０ｅ３を通過したか否かを判別する。Ｓ１１２０２の処理において、Ｖ通過なしと判別された場合は（Ｓ１１２０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【３９９８】

Ｓ１１２０２の処理において、Ｖ通過ありと判別された場合は（Ｓ１１２０２：Ｙｅｓ）、Ｖ通過有効期間中であるか否かを判別する（Ｓ１１２０３）。Ｖ通過有効期間中であ

ると判別された場合は（Ｓ１１２０３：Ｙｅｓ）、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄに格納されているＶ通過時大当たり種別値を取得し（Ｓ１１２０４）、取得したＶ通過大当たり種別を示すＶフラグ２０３ｆｅをオンに設定する（Ｓ１１２０５）。そして、Ｖ通過コマンドを設定する（Ｓ１１２０６）。

【３９９９】

次いで、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆをオンに設定し（Ｓ１１２０７）する。その後、時短カウンタ２０３ｈを０に設定して（Ｓ１１２０８）、本処理を終了する。

【４０００】

一方、Ｓ１１２０３の処理において、Ｖ通過有効期間中でないと判別された場合は（Ｓ１１２０３：Ｎｏ）、エラーコマンドを設定し（Ｓ１１２０９）、本処理を終了する。Ｖ通過有効期間中でない場合に、遊技球がＶ入賞スイッチ（Ｖスイッチ）６５０ｅ３を通過した場合は、不正にＶ入賞スイッチ６５０ｅ３へ球が入賞された場合であると考えられる。この場合、Ｓ１１２０９の処理においてエラーコマンドが設定されることにより、エラーの出力が実行され、不正行為を発見することができる。

【４００１】

次に、図３２４を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理（主制御装置）７について説明する。図３２４は、この立ち上げ処理（主制御装置）７を示すフローチャートである。この立ち上げ処理（主制御装置）７は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理では、まず、電源投入に伴う初期設定を実行する（Ｓ１１４０１）。例えば、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（第７制御例では１秒）を実行する（Ｓ１１４０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｓ１１４０３）。

【４００２】

その後は、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１２１参照）がオンされているか否かを判別し（Ｓ１１４０４）、オンされていれば（Ｓ１１４０４：Ｙｅｓ）、処理をＳ１１４１５へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｓ１１４０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１１４０５）、記憶されていなければ（Ｓ１１４０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＳ１１４１５へ移行する。

【４００３】

ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１１４０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｓ１１４０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｓ１１４０７：Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＳ１１４１５へ移行する。なお、図３２５のＳ１１５１５の処理で後述する通り、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。

【４００４】

Ｓ１１４１５の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｓ１１４１５）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１１４１６，Ｓ１１４１７）を実行する。

【４００５】

上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時

にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、ＲＡＭの初期化処理（Ｓ１１４１６，Ｓ１１４１７）を実行する。また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１１４１６，Ｓ１１４１７）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｓ１１４１６，Ｓ１１４１７）では、ＲＡＭ２０３の使用領域を０クリアし（Ｓ１１４１６）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｓ１１４１７）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、Ｓ１１４１０の処理へ移行する。

【４００６】

一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｓ１１４０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｓ１１４０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｓ１１４０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータを保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｓ１１４０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｓ１１４０９）、Ｓ１１４１０の処理へ移行する。払出制御装置１１１は、この払出復帰コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３に記憶されたデータを保持したまま、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。

【４００７】

Ｓ１１４１０の処理では、演出許可コマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信し、音声ランプ制御装置１１３および表示制御装置１１４に対して各種演出の実行を許可する。次いで、時短カウンタ２０３ｈの値を読み出し（Ｓ１１４１１）、読み出した値に基づく状態コマンドを設定する（Ｓ１１４１２）。そして、流路ソレノイド２０９ａをオフに設定する（Ｓ１１４１３）。その後、割込みを許可して（Ｓ１１４１４）、後述するメイン処理７に移行する。

【４００８】

次に、図３２５を参照して、上記した立ち上げ処理（主制御装置）７後に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理７について説明する。図３２５は、このメイン処理７を示すフローチャートである。このメイン処理７では遊技の主要な処理が実行される。その概要として、４ｍ秒周期の定期処理としてＳ１１５０１～Ｓ１１５０８の各処理が実行され、その残余時間でＳ１１５１１，Ｓ１１５１２のカウンタ更新処理が実行される構成となっている。

【４００９】

メイン処理７（図３２５参照）においては、まず、タイマ割込処理（図３１４参照）の実行中に、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶されたコマンド等の出力データをサブ側の各制御装置（周辺制御装置）に送信する外部出力処理を実行する（Ｓ１１５０１）。具体的には、タイマ割込処理（図３１４参照）におけるＳ１０１０１のスイッチ読み込み処理で検出した入賞検知情報の有無を判別し、入賞検知情報があれば払出制御装置１１１に対して獲得球数に対応する賞球コマンドを送信する。また、特別図柄変動処理７（図３１５参照）や始動入賞処理（図１６１参照）で設定された特図１保留球数コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信する。更に、この外部出力処理（Ｓ１１５０１）により、第３図柄表示装置８１による第３図柄の変動表示に必要な変動パターンコマンド、停止種別コマンド等を音声ランプ制御装置１１３に送信する。また、大当たり制御処理７（図３２６，Ｓ１１５０４）で設定されたオープニングコマンド（Ｓ１１６０２）、ラウンド数コマンド（Ｓ１１６０７）、エンディングコマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する（Ｓ１１６１１）。加えて、球の発射を行う場合には、発射制御装置１１２へ球発射信号を送信する。

【４０１０】

次に、変動種別カウンタＣＳ１の値を更新する（Ｓ１１５０２）。具体的には、変動種別カウンタＣＳ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（第７制御例では１９８

）に達した際、０にクリアする。そして、変動種別カウンタＣＳ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【４０１１】

変動種別カウンタＣＳ１の更新（Ｓ１１５０２）が終わると、払出制御装置１１１より受信した賞球計数信号や払出異常信号を読み込み（Ｓ１１５０３）、次いで、特別図柄の大当たり状態である場合に、大当たり演出の実行や、対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口（大開放口）６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放又は閉鎖するための大当たり制御処理を実行する（Ｓ１１５０４）。大当たり制御処理７（Ｓ１１５０４）では、大当たり状態のラウンド毎に対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放し、対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の最大開放時間が経過したか、又は対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）に球が規定数入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を閉鎖する。この対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の開放と閉鎖とを所定ラウンド数繰り返し実行する。尚、第７制御例では、大当たり制御処理７（Ｓ１１５０４）をメイン処理７（図３２５参照）において実行しているが、タイマ割込処理（図３１４参照）において実行しても良い。

【４０１２】

次に、特別図柄の小当たり状態である場合に、小当たりに応じた各種演出の実行や、対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放又は閉鎖するための小当たり制御処理７を実行する（Ｓ１１５０５）。小当たり制御処理７（Ｓ１１５０５）では、開放シナリオに基づいて対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放し、対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の最大開放時間が経過したか、又は対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）に球が規定数入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を閉鎖する。尚、第７制御例では、小当たり制御処理７（Ｓ１１５０５）をメイン処理７（図３２５参照）において実行しているが、タイマ割込処理（図３１４参照）において実行しても良い。

【４０１３】

次に、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開閉制御を行う電動役物開閉処理を実行する（Ｓ１１５０６）。電動役物開閉処理では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８２２の処理によって電動役物の開閉制御開始が設定された場合に、電動役物の開閉制御を開始する。尚、この電動役物の開閉制御は、普通図柄変動処理におけるＳ８２１の処理またはＳ８２３の処理で設定された開放時間および開放回数が終了するまで継続される。

【４０１４】

次に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ（図２参照）の表示を更新する第１図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１１５０７）。第１図柄表示更新処理（Ｓ１１５０７）では、特別図柄変動パターン選択処理７（図３１８参照）のＳ８２０６の処理によって変動パターンが設定された場合に、その変動パターンに応じた変動表示を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて開始する。第７制御例では、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂのＬＥＤの内、変動が開始されてから変動時間が経過するまでは、例えば、現在点灯しているＬＥＤが赤であれば、その赤のＬＥＤを消灯すると共に緑のＬＥＤを点灯させ、緑のＬＥＤが点灯していれば、その緑のＬＥＤを消灯すると共に青のＬＥＤを点灯させ、青のＬＥＤが点灯していれば、その青のＬＥＤを消灯すると共に赤のＬＥＤを点灯させる。

【４０１５】
なお、メイン処理７（図３２５参照）は４ｍ秒毎に実行されるが、そのメイン処理の実行毎にＬＥＤの点灯色を変更すると、ＬＥＤの点灯色の変化を遊技者が確認することができない。そこで、遊技者がＬＥＤの点灯色の変化を確認することができるように、メイン処理が実行される毎にカウンタ（図示せず）を１カウントし、そのカウンタが１００に達した場合に、ＬＥＤの点灯色の変更を行う。即ち、０．４ｓ毎にＬＥＤの点灯色の変更を行う。尚、カウンタの値は、ＬＥＤの点灯色が変更されたら、０にリセットされる。
【４０１６】
また、第１図柄表示更新処理（Ｓ１１５０７）では、特別図柄変動パターン選択処理７（図３１８参照）のＳ８２０６の処理によって設定された変動パターンに対応する変動時間が終了した場合に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ（図２９４参照）において実行されている変動表示を終了し、特別図柄判定処理７（図３１７参照）のＳ１０３０５、またはＳ１０３０８の処理によって設定された表示態様で、停止図柄（第１図柄）を第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに停止表示（点灯表示）する。
【４０１７】
次に、第２図柄表示装置８３の表示を更新する第２図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１１５０８）。第２図柄表示更新処理（Ｓ１１５０８）では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１５の処理またはＳ８１６の処理によって第２図柄の変動時間が設定された場合に、第２図柄表示装置８３において変動表示を開始する。これにより、第２図柄表示装置８３では、第２図柄としての「○」の図柄と「×」の図柄とを交互に点灯させる変動表示が行われる。また、第２図柄表示更新処理（Ｓ１１５０８）では、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１８の処理によって第２図柄表示装置８３の停止表示が設定された場合に、第２図柄表示装置８３において実行されている変動表示を終了し、普通図柄変動処理（図１６３参照）のＳ８１２の処理またはＳ８１３の処理によって設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）を第２図柄表示装置８３に停止表示（点灯表示）する。
【４０１８】
その後は、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１１５０９）、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ１１５０９：Ｎｏ）、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１は出力されておらず、電源は遮断されていない。よって、かかる場合には、次のメイン処理７の実行タイミングに至ったか否か、即ち今回のメイン処理７の開始から所定時間（第７制御例では４ｍ秒）が経過したか否かを判別し（Ｓ１１５１０）、既に所定時間が経過していれば（Ｓ１１５１０：Ｙｅｓ）、処理をＳ１１５０１へ移行し、上述したＳ１１５０１以降の各処理を繰り返し実行する。
【４０１９】
一方、今回のメイン処理７の開始から未だ所定時間が経過していなければ（Ｓ１１５１０：Ｎｏ）、所定時間に至るまで間、即ち、次のメイン処理７の実行タイミングに至るまでの残余時間内において、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２及び変動種別カウンタＣＳ１の更新を繰り返し実行する（Ｓ１１５１１，Ｓ１１５１２）。
【４０２０】
まず、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２との更新を実行する（Ｓ１１５１１）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、各カウンタ値が最大値（第７制御例では９９９、２３９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域にそれぞれ格納する。次に、変動種別カウンタＣＳ１の更新を、Ｓ１１５０２の処理と同一の方法によって実行する（Ｓ１１５１２）。
【４０２１】
ここで、Ｓ１１５０１～Ｓ１１５０８の各処理の実行時間は遊技の状態に応じて変化するため、次のメイン処理７の実行タイミングに至るまでの残余時間は一定でなく変動する

。故に、かかる残余時間を使用して第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を繰り返し実行することにより（Ｓ１１５１１）、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２（即ち、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値）をランダムに更新することができ、同様に変動種別カウンタＣＳ１についてもランダムに更新することができる。

【４０２２】

また、Ｓ１１５０９の処理において、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１１５０９：Ｙｅｓ）、停電の発生または電源のオフにより電源が遮断され、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が出力された結果、図１６５のＮＭＩ割込処理が実行されたということなので、Ｓ１１５１３以降の電源遮断時の処理が実行される。まず、各割込処理の発生を禁止し（Ｓ１１５１３）、電源が遮断されたことを示す電源断コマンドを他の制御装置（払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３等の周辺制御装置）に対して送信する（Ｓ１１５１４）。そして、ＲＡＭ判定値を算出して、その値を保存し（Ｓ１１５１５）、ＲＡＭ２０３のアクセスを禁止して（Ｓ１１５１６）、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。ここで、ＲＡＭ判定値は、例えば、ＲＡＭ２０３のバックアップされるスタックエリア及び作業エリアにおけるチェックサム値である。

【４０２３】

なお、Ｓ１１５０９の処理は、Ｓ１１５０１～Ｓ１１５０８で行われる遊技の状態変化に対応した一連の処理の終了時、又は、残余時間内に行われるＳ１１５１１とＳ１１５１２の処理の１サイクルの終了時となるタイミングで実行されている。よって、主制御装置１１０のメイン処理において、各設定が終わったタイミングで電源断の発生情報を確認しているので、電源遮断の状態から復帰する場合には、立ち上げ処理（主制御装置）７の終了後、処理をＳ１１５０１の処理から開始することができる。即ち、立ち上げ処理（主制御装置）７において初期化された場合と同様に、処理をＳ１１５０１の処理から開始することができる。よって、電源遮断時の処理において、ＭＰＵ２０１が使用している各レジスタの内容をスタックエリアへ退避したり、スタックポインタの値を保存しなくても、初期設定の処理（Ｓ１１４０１）において、スタックポインタが所定値（初期値）に設定されることで、Ｓ１１５０１の処理から開始することができる。従って、主制御装置１１０の制御負担を軽減することができると共に、主制御装置１１０が誤動作したり暴走することなく正確な制御を行うことができる。

【４０２４】

次に、図３２６のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり制御処理７（Ｓ１１５０４）を説明する。図３２６は、この大当たり制御処理７（Ｓ１１５０４）を示すフローチャートである。この大当たり制御処理７（Ｓ１１５０４）は、メイン処理７（図３２５参照）の中で実行され、パチンコ機１０が特別図柄の大当たり状態である場合に、大当たりに応じた各種演出の実行や、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口（大開放口）６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放又は閉鎖するための処理である。

【４０２５】

大当たり制御処理７（図３２６，Ｓ１１５０４）では、まず、特別図柄の大当たり開始タイミングであるかを判別する（Ｓ１１６０１）。具体的には、大当たり開始フラグ２０３ｊの設定状況を解析することにより判別する。この大当たり開始フラグ２０３ｊは、特別図柄変動処理７（図３１５参照）のＳ１０２１５の処理により大当たりの開始を設定した場合に、オンに設定される（Ｓ１０２１６）。Ｓ１１６０１の処理において、大当たりの開始タイミングであると判別した場合（大当たり開始フラグ２０３ｊがオンであると判別した場合）は（Ｓ１１６０１：Ｙｅｓ）、オープニングコマンドを設定し（Ｓ１１６０２）、次いで、大当たり開始フラグ２０３ｊをオフに設定して（Ｓ１１６０３）、本処理を終了する。

【４０２６】

一方、Ｓ１１６０１の処理において、特別図柄の大当たりの開始タイミングでは無い（大当たり開始フラグ２０３ｊがオフに設定されている）と判別した場合には（Ｓ１１６０１：Ｎｏ）、次に、現在が大当たり中であるかを判別する（Ｓ１１６０４）。特別図柄の大当たり中としては、第１図柄表示装置３７及び第３図柄表示装置８１において特別図柄の大当たり（特別図柄の大当たり遊技中も含む）を示す表示がなされている最中と、特別図柄の大当たり遊技終了後の所定時間の最中とが含まれるものであり、上述した大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されている期間が該当する。Ｓ１１６０４の処理において、特別図柄の大当たり中では無い（大当たり中フラグ２０３ｋがオフである）と判別した場合（Ｓ１１６０４：Ｎｏ）は、そのまま本処理を終了する。

【４０２７】

一方、Ｓ１１６０４の処理において、特別図柄の大当たり中である（大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されている）と判別した場合には（Ｓ１１６０４：Ｙｅｓ）、大当たり中における複数タイミングで実行される各種処理を実行するタイミングであるかを判別するための判別処理（Ｓ１１６０５～Ｓ１１６１２）が実行される。

【４０２８】

Ｓ１１６０４の処理において、現在が大当たり中であると判別した場合は（Ｓ１１６０４：Ｙｅｓ）、次に、現在が新たなラウンドの開始タイミングであるか判別する（Ｓ１１６０５）。このＳ１１６０５の処理では、今回の大当たり遊技に対応して設定される開放シナリオに基づいて現在のタイミングが新たなラウンドの開始タイミングであるかを判別する。Ｓ１１６０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングであると判別した場合には（Ｓ１１６０５：Ｙｅｓ）、開放シナリオテーブル２０２ｆｇに基づき、対応する入賞口（第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放し（Ｓ１１６０６）、新たに開始するラウンド数を示すラウンド数コマンドを設定する（Ｓ１１６０７）。ラウンド数コマンドを設定した後は、本処理を終了する。

【４０２９】

ここで設定されたラウンド数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、ラウンド数コマンドを受信すると、ラウンド数に応じた表示用ラウンド数コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４によって表示用ラウンド数コマンドが受信されると、第３図柄表示装置８１において新たなラウンド演出が開始される。

【４０３０】

なお、詳細な説明は省略するが、大当たりが継続して（例えば、複数の大当たり遊技が実行される間の特別図柄変動回数（抽選回数）が５０回未満の場合や、大当たり遊技中を挟んで時短状態が繰り返し設定されている期間中に）実行される場合には、音声ランプ制御装置１１３側にて継続して実行される大当たり遊技のラウンド数を累積して表示するように構成している。つまり、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から送信される状態コマンドや変動パターンコマンドに基づいて大当たりが継続して実行されていると判別する期間（連チャン期間）を設定する期間設定手段と、その期間設定手段によって設定された期間中に新たな大当たり遊技が実行された場合に、前に実行された大当たり遊技におけるラウンド遊技数（ラウンド数）に新たな大当たり遊技のラウンド遊技数（ラウンド数）を加算するラウンド数累積手段と、そのラウンド数累積手段により累積されたラウンド累積数に応じた表示用ラウンド数コマンドを表示制御装置１１４に送信し、大当たり遊技中の第３図柄表示装置８１に表示するラウンド累積数表示制御手段と、を有している。これにより、大当たりが長く継続していることを遊技者に認識させることができるので、遊技者の興趣を向上させることができる。

【４０３１】

一方、Ｓ１１６０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングでは無いと判別

した場合は（Ｓ１１６０５：Ｎｏ）、次に、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の閉鎖条件が成立したかを判別する（Ｓ１１６０８）。具体的には、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放した後に所定時間（例えば、３０秒）が経過した場合、または、可変入賞装置６５又はＶ入賞装置６５０に球が所定数（例えば、合計１０個）入賞した場合に、閉鎖条件が成立したと判別する。

【４０３２】

Ｓ１１６０８の処理において、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の閉鎖条件が成立したと判別した場合は（Ｓ１１６０８：Ｙｅｓ）、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を閉鎖して（Ｓ１１６０９）、本処理を終了する。一方、対応する入賞口（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａ又はＶ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）の閉鎖条件が成立していないと判別した場合には（Ｓ１１６０８：Ｎｏ）、次に、現在がエンディング演出の開始タイミングであるかを判別する（Ｓ１１６１０）。エンディング演出の開始タイミングは、１５ラウンド（今回の大当たり遊技において予め設定される最終ラウンド遊技）が終了して開閉扉６５０ｆ１が閉状態にされ、球はけ時間である待機時間（第７制御例では、３秒）が経過した場合に、エンディング演出の開始タイミングとして判別する。

【４０３３】

Ｓ１１６１０の処理において、エンディング演出の開始タイミングであると判別した場合は（Ｓ１１６１０：Ｙｅｓ）、エンディングコマンドを設定し（Ｓ１１６１１）、本処理を終了する。ここで設定されたエンディングコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、エンディングコマンドを受信すると、表示用エンディングコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４によって表示用エンディングコマンドが受信されると、第３図柄表示装置８１においてエンディング演出が開始される。

【４０３４】

一方、Ｓ１１６１０の処理において、エンディング演出の開始タイミングでないと判別した場合は（Ｓ１１６１０：Ｎｏ）、Ｓ１１６１２の処理において、エンディング演出の終了タイミングであるかを判別する（Ｓ１１６１２）。Ｓ１１６１２の処理において、エンディング演出の終了タイミングでないと判別した場合は（Ｓ１１６１２：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【４０３５】

Ｓ１１６１２の処理において、エンディング演出の終了タイミングであると判別した場合は（Ｓ１１６１２：Ｙｅｓ）、次に、実行中の大当たり種別が大当たりＡ～大当たりＤの何れであるかを判別する（Ｓ１１６１３）。このＳ１１６１３の処理では設定される大当たり種別を一時的に格納する格納エリア（図示しない）に格納されている大当たり種別が読み出される。

【４０３６】

次に、読み出した大当たり種別に基づいて、時短付与７テーブル２０２ｆｅを用いて対応する時短終了条件を設定する（Ｓ１１６１４）。具体的には、大当たり種別が大当たりＡ（１５Ｒ時短有大当たり）または大当たりＢ（５Ｒ時短有り大当たり）の場合は、時短カウンタ２０３ｈに１００を、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに１を、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈに３を、それぞれ設定する。また、大当たり種別が大当たりＤ（１５Ｒ時短有大当たり）の場合は、時短カウンタ２０３ｈに１００を、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに２を、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈに１０を、それぞれ設定する。

【４０３７】

なお、大当たり種別が大当たりＣ（５Ｒ時短無大当たり）の場合は、大当たり終了後に

時短状態が設定されない大当たり種別であるため、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈ、のそれぞれに値（時短終了条件）が設定されない用に構成している。上述したＳ１１６１４の処理を終えると、次に、Ｓ１１６１４の処理にて設定した時短終了条件を示す各種カウンタの値に対応した情報を示すための時短設定情報コマンドを設定する（Ｓ１１６１５）。

【４０３８】

ここで設定された時短設定情報コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、時短設定情報コマンドを受信すると、時短情報更新エリア２２３ｇおよび仮時短情報更新エリア２２３ｉに今回の時短状態の時短終了条件を示す時短情報を設定する。ここで設定された時短情報と、特別図柄の変動（抽選）に基づいて更新される時短状態の更新情報に基づいて、時短状態の残回数（残条件）を判別し、その残回数に基づいて様々な演出態様が第３図柄表示装置８１にて表示される。

【４０３９】

Ｓ１１６１５の処理を終えると、次に、大当たり後に設定される遊技状態に対応する状態コマンドを設定し（Ｓ１１６１６）、大当たりの終了を設定し（Ｓ１１６１７）、大当たり中フラグ２０３ｋをオフに設定し（Ｓ１１６１８）、本処理を終了する。

【４０４０】

以上、説明をした通り、第７制御例では、大当たりに当選した場合に設定される大当たり種別に応じて、時短状態の終了条件を異ならせて設定することができるように構成している。さらに、第７制御例では、第１特別図柄の抽選によって大当たりに当選した場合に比べて、第２特別図柄の抽選によって大当たりに当選した場合のほうが、時短状態の終了条件（時短終了条件）として成立し難い時短終了条件が設定されるように構成している。

【４０４１】

このように構成することで、時短状態が設定されている間の右打ち遊技中に、２種当たりでは無く１種当たりに当選した際の付加価値を遊技者に提供することができる。

【４０４２】

なお、第７制御例では、第１特別図柄の抽選によって大当たりに当選した場合に設定される大当たり種別（大当たりＡ、Ｂ）では、同一の時短終了条件が設定されるように構成しているが、それに限ること無く、例えば、大当たり種別が大当たりＡの場合のほうが成立し難い時短終了条件を設定するように構成しても良い。また、複数の時短終了条件の一部を大当たりＡのほうが成立し易くし、他を大当たりＢの方が成立し易くなるように設定しても良い。

【４０４３】

さらに、図３０６（ｄ）に示した通り、第７制御例では、時短状態を終了させるための時短終了条件として、特別図柄の変動回数に関する変動回数終了条件（時短カウンタ２０３ｈの値に基づいた終了条件）と、特別図柄の抽選の結果、小当たりに当選した当選回数に関する当選回数終了条件（各小当たりカウンタの値に基づいた終了条件）と、を設定するように構成している。

【４０４４】

加えて、当選回数終了条件として、小当たり当選時に設定される複数の小当たり種別に対応させた終了条件を設定するように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、特別図柄の変動回数が所定回数（１００回）に到達するまでの間に、どの小当たり種別に対応する小当たり遊技が実行され、あとどれくらいで時短状態が終了するのかを分かり難くすることができる。

【４０４５】

なお、第７制御例では、変動回数終了条件として特別図柄（第１特別図柄と第２特別図柄）の変動回数「１００回」のみを設定するように構成しているが、大当たり種別に応じて異なる変動回数終了条件を設定しても良い。また、変動回数終了条件として、第１特別

図柄の変動回数のみを計測する第１特別図柄変動計測手段を設け、その第１特別図柄変動計測手段の計測結果が所定結果となった場合に成立する第１特別図柄変動終了条件や、第２特別図柄の変動回数のみを計測する第２特別図柄変動計測手段を設け、その第２特別図柄変動計測手段の計測結果が所定結果となった場合に成立する第２特別図柄変動終了条件を設けても良い。

【４０４６】

さらに、第７制御例では、当選回数終了条件として各小当たり種別に対応させたカウンタ（小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈ）の計測結果に基づく終了条件を設定するように構成しているが、これに限ること無く、単に小当たりに当選した回数を合算した値に基づいて成立する時短終了条件を設定しても良いし、複数（３以上）の小当たり種別のうち、所定数（２つ）の小当たり種別が設定された小当たり遊技が実行された回数を合算して計測する手段を設け、その手段の計測結果に基づく終了条件を設定するように構成しても良い。

【４０４７】

また、第７制御例では、小当たり当選時に設定され得る小当たり種別の全てに対して、時短終了条件を設定するように構成しているが、これに限ることなく、小当たり当選時に何回設定されたとしても時短終了条件が成立し得ない小当たり種別として小当たり種別Ｚを設定可能に構成しても良い。これにより、時短状態中に小当たりに当選したことを遊技者が把握したとしても、今回の小当たりによって時短状態が終了に近づいているのかを判別し難くすることができる。

【４０４８】

加えて、上述した小当たり種別Ｚを設ける場合には、当選回数終了条件が設定されている小当たり遊技と同一内容の小当たり遊技を実行するように構成すると良い。このように構成することで、時短状態中に実行される小当たり遊技の遊技内容を識別したとしても、今回の小当たり遊技によって時短状態が終了に近づいているのかを判別し難くすることができる。

【４０４９】

このように、小当たりに当選したことを判別したり、或いは、小当たりに当選したことに基づいて実行される小当たり遊技の遊技内容を判別したりすることで、つまり、パチンコ機１０の遊技内容を判別することで、時短状態の進捗（終了に近づいているか否か）を把握困難とすることにより、時短状態の進捗（終了に近づいているか否か）を示唆（報知）する演出に対して、遊技者に強い興味を持たせることができる。なお、第７制御例において第３図柄表示装置８１で実行される演出の制御内容については、後述する音声ランプ制御装置１１３の制御処理説明の中で詳細に説明をする。

【４０５０】

次に、図３２７のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり制御処理７（Ｓ１１５０５）を説明する。図３２７は、この小当たり制御処理７（Ｓ１１５０５）を示すフローチャートである。この小当たり制御処理７（Ｓ１１５０５）は、メイン処理７（図３２５参照）の中で実行され、パチンコ機１０が特別図柄の小当たり状態である場合に、小当たりに応じた各種演出の実行や、対応する入賞口（Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放又は閉鎖するための処理である。

【４０５１】

小当たり制御処理７（図３２７，Ｓ１１５０５）では、まず、特別図柄の小当たりが開始されるかを判定する（Ｓ１１７０１）。具体的には、小当たり開始設定処理７（図３２０参照）のＳ１０４０４の処理により小当たり開始フラグ２０３ｆｂがオンに設定されていれば、特別図柄の小当たりが開始されると判定する。Ｓ１１７０１の処理において、特別図柄の小当たりが開始される場合には（Ｓ１１７０１：Ｙｅｓ）、オープニングコマンドを設定する（Ｓ１１７０２）。そして、小当たり開始フラグ２０３ｆｂをオフに設定して（Ｓ１１７０３）、本処理を終了する。

【４０５２】

一方、Ｓ１１７０１の処理において、特別図柄の小当たりが開始されない場合には（Ｓ１１７０１：Ｎｏ）、特別図柄の小当たり中であるかを判別する（Ｓ１１７０４）。特別図柄の小当たり中としては、第１図柄表示装置３７及び第３図柄表示装置８１において特別図柄の小当たり（特別図柄の小当たり遊技中も含む）を示す表示がなされている最中と、特別図柄の小当たり遊技終了後の所定時間の最中とが含まれる。Ｓ１１７０４の判別は小当たり中フラグ３０３ｆｃがオンに設定されているかを解析することで判別する。Ｓ１１７０４の処理において、特別図柄の小当たり中では無いと判別した場合は（Ｓ１１７０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【４０５３】

一方、Ｓ１１７０４の処理において、特別図柄の小当たり中であると判別した場合には（Ｓ１１７０４：Ｙｅｓ）、Ｓ１１７０５の処理を実行する。Ｓ１１７０５の処理では、Ｖ入賞口開放タイミングであるか判別する（Ｓ１１７０５）。Ｓ１１７０５の処理において、Ｖ入賞口開放タイミングであると判別した場合には（Ｓ１１７０５：Ｙｅｓ）、開放シナリオテーブル２０２ｆｇに基づき、対応する入賞口（Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａ）を開放し（Ｓ１１７０６）、今回が５回目又は１０回目の開放タイミングであるかを判別する（Ｓ１１７０７）。

【４０５４】

Ｓ１１７０７の処理において、今回が５回目又は１０回目の開放タイミングでは無いと判別した場合は（Ｓ１１７０７：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、Ｓ１１７０７の処理で今回が５回目又は１０回目の開放タイミングであると判別した場合は（Ｓ１１７０７：Ｙｅｓ）、次に、Ｓ１１７０８の処理において、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンに設定されているかを判別し（Ｓ１１７０８）、オンではない（オフである）と判別した場合には（Ｓ１１７０８：Ｎｏ）、小当たり種別格納エリア２０３ｆａに格納されている小当たり種別を読み出し（Ｓ１１７０９）、次いで、読み出した小当たり種別に対応する指示コマンドを設定する（Ｓ１１７１０）。

【４０５５】

Ｓ１１７１０の処理において設定される指示コマンドとしては、例えば、小当たり種別として小当たり遊技中に球が特定領域を通過し易い小当たり（例えば、小当たりＡ）と、小当たり遊技中に球が特定領域を通過し難い小当たり（例えば、小当たりＢ）と、によって第３図柄表示装置８１に表示する表示態様を異ならせるための指示コマンドが設定される。

【４０５６】

図３２７に戻り、説明を続ける。Ｓ１１７０５の処理において、Ｖ入賞口６５０ａの開放タイミングではないと判別した場合には（Ｓ１１７０５：Ｎｏ）、Ｖ入賞口６５０ａの閉鎖条件が成立したか、即ち、Ｖ入賞口６５０ａの閉鎖タイミングであるか判別する（Ｓ１１７１１）。Ｖ入賞口６５０ａの閉鎖タイミングであると判別した場合には（Ｓ１１７１１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞口６５０ａを閉鎖し（Ｓ１１７１２）、本処理を終了する。

【４０５７】

一方、Ｓ１１７１１の処理において、現在がＶ入賞口６５０ａの閉鎖タイミングでは無いと判別した場合には（Ｓ１１７１１：Ｎｏ）、次に、エンディング演出の開始タイミングであるかを判別する（Ｓ１１７１３）。Ｓ１１７１３の処理において、エンディング演出の開始タイミングであると判別した場合は（Ｓ１１７１３：Ｙｅｓ）、エンディングコマンドを設定し（Ｓ１１７１４）、本処理を終了する。ここで設定されたエンディングコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、エンディングコマンドを受信すると、表示用エンディングコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４によって表示用エンディングコマンドが受信されると、第３図柄表示装置８１においてエンディング演出が開始される。

【４０５８】

一方、Ｓ１１７１３の処理において、エンディング演出の開始タイミングでないと判別した場合は（Ｓ１１７１３：Ｎｏ）、Ｓ１１７１５の処理において、エンディング演出の終了タイミングであるかを判別する（Ｓ１１７１５）。Ｓ１１７１５の処理において、エンディング演出の終了タイミングでないと判別した場合は（Ｓ１１７１５：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【４０５９】

Ｓ１１７１５の処理において、エンディング演出の終了タイミングであると判別した場合は（Ｓ１１７１５：Ｙｅｓ）、Ｖフラグ２０３ｆｅがオンに設定されているかを判別し（Ｓ１１７１６）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ１１７１６：Ｙｅｓ）、Ｖフラグ２０３ｆｅの内容に対応する大当たり種別に基づく開放シナリオを設定し（Ｓ１１７１７）、大当たり開始フラグ２０３ｊ、大当たり中フラグ２０３ｋをオンに設定し（Ｓ１１７１８）、Ｖフラグ２０３ｆｅをオフに設定し（Ｓ１１７１９）、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆをオフに設定し（Ｓ１１７２０）、小当たり中フラグ２０３ｆｃをオフに設定し（Ｓ１１７２１）、本処理を終了する。

【４０６０】

次に、図３２８を参照して、本第７制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理内容について説明をする。図３２８は、特図１演出態様設定処理７（Ｓ１４９８３）の処理内容を示したフローチャートである。この特図１演出態様設定処理７（Ｓ１４９８３）では、時短状態中における第１特別図柄抽選に対応する変動演出の演出態様を設定するために、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａを参照して決定した演出態様を用いる処理（Ｓ１９５０２参照）を実行する。

【４０６１】

特図１演出態様設定処理７（Ｓ１４９８３）が実行されると、まず、現在の遊技状態が時短状態であるか判別する（Ｓ１９５０１）。現在の遊技状態が時短状態であると判別した場合には（Ｓ１９５０１：Ｙｅｓ）、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａ（図３１２参照）を参照して、報知態様を決定する（Ｓ１９５０２）。そして、Ｓ１９５０２の処理において決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ１９５０３）、本処理を終了する。一方、Ｓ１９５０１の処理において、現在の遊技状態が時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ１９５０１：Ｎｏ）、Ｓ１９５０２の処理をスキップし、上述したＳ１９５０３の処理を実行し、本処理を終了する。

【４０６２】

以上、説明をした通り、本第７制御例では、１回の特別図柄抽選において、大当たり当選の判定と、時短当選の判定とを何れも実行可能に構成し、大当たりと、時短とに重複して当選した場合において、遊技者に有利となる特典を付与可能に構成している点で、他の制御例とは異なる技術思想を有しているが、この第７制御例特有の技術思想を他の制御例に記載されているパチンコ機１０に適用しても良い。また、通常状態以外の遊技状態が設定されている場合においても時短当選の判定を実行可能に構成しても良い。

【４０６３】

また、本第７制御例では、特別図柄抽選に関する処理が実行された場合に、大当たり当選を判定する処理よりも前に時短当選を判定する処理を実行可能に構成し、時短当選した場合には、大当たり当選の判定が実行されるよりも前に時短状態を設定し、大当たり当選の判定が実行されてから、その判定結果を示すための特別図柄変動が開始されるまでの間に時短状態を終了させるように構成している。つまり、特別図柄抽選における大当たり当選の判定が実行される際の遊技状態を変更させる目的のみで時短状態を設定可能に構成している。

【４０６４】

このように構成することで、従来型のパチンコ機１０のように、特別図柄抽選を実行させ易くすることを目的として時短状態を設定する場合とは異なる目的で時短状態を用いることができるため、遊技者に対して多彩な遊技を提供することができる。

【４０６５】

なお、特別図柄抽選における大当たり当選の判定が実行される際の遊技状態を変更させる目的のみで時短状態を設定可能にする構成として、本第７制御例に記載されている構成以外の構成を用いても良く、例えば、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおいて時短状態を設定し、次の特別図柄抽選において大当たり当選の判定が実行された後に時短状態を終了させるように構成しても良い。

【４０６６】

この場合、特別図柄抽選の実行権利（特図保留）を獲得している場合には、時短状態が設定される期間が一瞬となるため、本第７制御例と同様に、特別図柄抽選における大当たり当選の判定が実行される際の遊技状態を変更させる目的で時短状態を設定することが可能となる。一方、特図保留を獲得していない場合は、次の特別図柄抽選が実行されるまでの間、時短状態が継続することになるため、特別図柄抽選を実行させ易い期間を設定することが可能となる。よって、特別図柄抽選を円滑に実行することができない遊技者に対してのみ、次の特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。

【４０６７】

また、本第７制御例では、１回の特別図柄抽選にて大当たり当選と、時短当選とに重複当選可能に構成し、重複当選した場合に、重複当選していない場合よりも遊技者に有利な特典を付与可能に構成しているが、これに限ること無く、重複当選した場合に、重複当選しなかった場合よりも遊技者に不利となる特典を付与可能に構成しても良い。

【４０６８】

また、重複当選し得る判定として、大当たり当選の判定、時短当選の判定、だけで無く、時短終了条件成立の判定や、転落抽選当選の判定を用いても良い。つまり、特定の実行契機が成立したことに基づいて複数種類の判定を実行可能に構成し、その複数種類の判定結果の組合せが所定の組合せとなった場合に、所定の組合せとは異なる組合せとなった場合とは異なる特典を付与可能に構成すれば良い。

【４０６９】

＜パチンコ機１０の遊技盤構成の変形例＞

次に、図３２９を参照して、パチンコ機１０の遊技盤１３の変形例について説明をする。上述した第５制御例から第７制御例においては、通常状態において第１入球口６４へと遊技球を入球させるための左打ち遊技を実行し、時短状態が設定された場合に入球し易くなる第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための右打ち遊技を実行可能な遊技盤１３を有していた。つまり、遊技状態に応じて第１特別図柄抽選を実行させる遊技と、第２特別図柄抽選を実行させる遊技とを切り替える遊技性を有したパチンコ機１０について説明をした。

【４０７０】

これに対して本変形例では、図３２９に示した通り、通常状態において、左打ち遊技を実行することで第１入球口６４へと遊技球を入球させて第１特別図柄抽選を実行可能にし、右打ち遊技を実行することで第２入球口１６４１へと遊技球を入球させて第２特別図柄抽選を実行可能に構成している。このように構成することで、同一の遊技状態が設定されている状態において遊技者が遊技方法（左打ち遊技、右打ち遊技）を選択することで（操作ハンドル２１を操作して発射強度を調整することで）、任意の特別図柄種別の特別図柄抽選を実行させることができるため、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。

【４０７１】

次に、図３２９に示した遊技盤１３を用いた斬新な遊技性について説明をする。

【４０７２】

＜遊技性１＞

上述した第７制御例にて用いた遊技性を有するパチンコ機１０において、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とで、同一の選択割合で大当たり当選するように構成し、加えて、第１特別図柄抽選において、大当たり当選に加えて時短当選の判定も実行可能に構成し、第２特別図柄抽選において、大当たり当選に加えて小当たり当選の判定も実行可能に構成する。そして、時短当選したことに基づいて時短状態が設定された場合には、第２入球

口１６４０へと遊技球が入球し易くなり、右打ち遊技を実行させ、小当たり当選によって大当たり遊技を狙わせる遊技を実行可能に構成する。

【４０７３】

このように構成することで、通常状態において、左打ち遊技によって、第１特別図柄の大当たり当選を経由して時短状態が設定されることを目指す、或いは、第１特別図柄の時短当選を経由して時短状態が設定されることを目指す遊技（第１遊技）と、右打ち遊技によって、第２特別図柄の大当たり当選を経由して時短状態が設定されることを目指す、或いは、第２特別図柄の小当たり当選を経由して時短状態が設定されることを目指す遊技（第２遊技）と、を遊技者に選択させることが可能となる。

【４０７４】

この場合、例えば、時短当選した場合に設定される時短状態（第２時短）は時短終了条件が成立し易くし、第２時短が設定された場合の約５０％の割合で、第２時短中に小当たり当選を経由して大当たり遊技が実行されるように構成し、第１特別図柄抽選で時短当選する確率を、第２特別図柄抽選で小当たり当選する確率よりも高くするように構成すると良い。

【４０７５】

このように構成することで、第２特別図柄抽選の小当たり当選を経由して大当たり遊技が実行される遊技過程を実行するために第１遊技を実行するか第２遊技を実行するかを遊技者の趣向に合わせて選択させることができる。なお、この場合、通常状態において左打ち遊技を行った場合と、右打ち遊技を行った場合とで、規定数の遊技球を発射した場合における獲得賞球数の割合が均等となるように、各入球口への遊技球の入球割合や、時短当選確率や、小当たり当選確率や、小当たり当選時における大当たり遊技の実行確率を規定すると良い。これにより、何れの遊技を実行した場合であっても、遊技者に公平な遊技を提供することができる。

【４０７６】

さらに、この場合、規定数の遊技球を発射した場合における獲得賞球数の割合が均等となるのに要する期間を第１遊技と第２遊技とで異ならせたり、獲得賞球数の偏差を異ならせたりするように構成すると良い。このように構成することで、遊技者の趣向に合った遊技を提供することができる。

【４０７７】

＜その他の遊技性：時短種別によって通常状態よりも不利な時短状態と有利な時短状態とを設定可能＞

上述した第５制御例のように、通常状態において実行される特別図柄抽選において大当たり当選経由で設定される時短状態（第１時短）と、時短当選経由で設定される時短状態（第２時短）とを設定可能に構成し、第２時短に当選した場合に設定される時短種別として遊技者に有利な第２時短Ａと、不利な第２時短Ｂと、を設定可能に構成する。

【４０７８】

第２時短Ａが設定された場合には、上述した第５制御例と同様に、特別図柄抽選を通常状態よりも実行され易くなるように電動役物６４０ａが開放動作する時短状態が設定される。一方で、第２時短Ｂが設定された場合には、通常状態と同程度の入球割合でしか第２入球口６４０へと遊技球が入球し得ない開放動作で電動役物６４０ａが開放動作制御される。

【４０７９】

そして、第２時短Ｂが設定された場合、即ち、通常状態以外の遊技状態では、時短当選判定が実行されないように構成する。このように構成することで、通常状態が設定された場合は、特別図柄抽選において大当たり当選判定と時短当選判定と、が実行される遊技となり、第２時短Ｂが設定された場合は、特別図柄抽選において大当たり当選判定のみが実行される遊技となる。つまり、通常状態に対して時短当選判定が実行されない分、第２時短Ｂのほうが遊技者に不利な遊技が実行されることになる。

【４０８０】

そして、第２時短Ｂに対して時短終了条件として異なる回数の特別図柄抽選回数（例えば、１０回、５０回、１００回）を設定可能に構成する。

【４０８１】

さらに、通常状態で実行される特別図柄抽選における抽選結果の選択割合として、大当たり当選する確率が１／２００とし、時短当選する確率が１９９／２００とする。そして、時短当選した場合に第２時短Ａが選択される割合を１０％、第２時短Ｂが選択される割合を９０％に設定する。つまり、通常状態において特別図柄抽選が実行された場合には、その抽選結果が大当たり当選以外である場合に、必ず時短当選するように構成する。

【４０８２】

このように構成することで、通常状態において特別図柄抽選が実行されるタイミングが、大当たり当選終了後第２時短Ｂの時短終了条件が成立し、通常状態が設定された場合における特別図柄抽選、即ち、特定周期において実行される特別図柄抽選のみとなる。これにより、遊技者に有利な特別図柄抽選（通常状態における特別図柄抽選）を、周期的に（第２時短Ｂの終了条件が成立する毎に）実行させることができる。

【４０８３】

また、第２時短Ｂの時短終了条件として異なる特別図柄抽選回数を設定可能に構成することで、遊技者に有利な特別図柄抽選が実行される周期を可変させることができるため、遊技者に意外性のある遊技を提供することができる。

【４０８４】

なお、この場合、図３２９を参照して上述した遊技盤１３の構成のように、通常状態において第１特別図柄抽選も第２特別図柄抽選も実行可能とするパチンコ機１０を用いた場合には、通常状態における第１特別図柄抽選と、第２特別図柄抽選とで、時短当選確率を異ならせたり、時短当選時に設定される時短種別の選択割合を異ならせたり、第２時短Ｂが設定された場合の時短終了条件の内容を異ならせたりするように構成すると良い。

【４０８５】

このように構成することで、周期的に実行される遊技者に有利な特別図柄抽選（通常状態における特別図柄抽選）が何れの種別の特別図柄で実行されるかに応じて、遊技者に有利な第２時短Ａが設定される確率を異ならせることができる。

【４０８６】

また、第２時短Ｂの時短終了条件として、特別図柄抽選の実行回数に基づいて成立する時短終了条件では無く、特別図柄抽選の結果が特定の判別結果（例えば、小当たり）である場合に成立する時短終了条件を設定可能に構成し、特別図柄抽選の抽選結果として、大当たり、時短当選とは異なる小当たりに当選し得るように構成しても良い。このように構成することで、第２時短Ｂが設定された場合に、いち早く第２時短Ｂを終了させて通常状態における特別図柄抽選を実行させようと、小当たり当選を目指すという斬新な遊技性を提供することができる。

【４０８７】

＜遊技性２：同時変動仕様の遊技機と、時短当選の組合せ＞

第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成し、両方の特別図柄が大当たりに当選した場合には、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）された側の特別図柄の抽選結果に基づく大当たり遊技を実行し、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）した時点で大当たり種別によっては、他方の特別図柄変動を抽選結果が外れであることを示す表示態様で強制的に停止表示するように構成している遊技機において、第１特別図柄抽選及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選判定を実行可能に構成する。

【４０８８】

そして、上述した第５制御例と同様に各特別図柄変動開始前に時短抽選（時短当選判定）を実行し、時短当選した場合には、特別図柄変動停止タイミングにて時短状態を設定する。この場合、第１特別図柄抽選で時短当選した場合は、第１特典となる時短状態が設定され、第２特別図柄抽選で時短当選した場合は、第１特典とは異なる第２特典となる時短

状態が設定される。
【４０８９】
さらに、時短当選している第１特別図柄変動中に実行された第２特別図柄抽選において、時短当選した場合には、第１特典及び第２特典よりも有利な第３特典が付与される時短状態を設定可能に構成する。このように構成することで、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成したパチンコ機１０において、各特別図柄抽選で時短当選するタイミングに応じて異なる特典が付与される時短状態を設定することが可能となる。
【４０９０】
付与される特典については、例えば、第１特典又は第２特典よりも時短終了条件が成立し難い第３特典としても良いし、第１特典又は第２特典よりも特別図柄抽選が実行され易い第３特典としても良い。
【４０９１】
さらに、第３特典の時短状態が設定されるタイミングは、並行して実行されている各特別図柄変動のうち、先に特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良いし、後に特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良い。また、停止表示タイミングの前後に関わらず、先に実行された特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良いし、後に実行された特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良い。また、特定の特別図柄種別が停止表示されたタイミングでも良い。
【４０９２】
このように構成することで、複数の特別図柄種別の抽選を同時に（並行して）実行可能なパチンコ機１０において各特別図柄の抽選で大当たりに当選してしまい、遊技者に対して同時に過剰な特典（大当たり遊技）が付与されてしまう事態の発生を抑制することができる。
【４０９３】
さらに、一方の特別図柄抽選で遊技者に不利となる大当たりに当選したとしても、その当選結果が停止表示（確定表示）されるまでに、他方の特別図柄抽選で遊技者に有利となる大当たりに当選させることが可能となる。この場合、特別図柄の抽選結果が停止表示されるまでの変動時間を用いて、遊技者に不利当たりに当選したことを示唆する変動演出を実行すると良い。これにより、遊技者に対して不利当たりに当選したのではと思わせることができるため、その変動時間中に他方の特別図柄抽選を意欲的に実行させることができる。
【４０９４】
加えて、遊技者に不利となる大当たりに当選した場合よりも、遊技者に有利となる大当たりに当選したほうが、短い変動時間が設定され易くなるように構成しても良い。これにより、不利当たりに当選した一方の特別図柄の変動中に他方の特別図柄抽選で有利当たりに当選させ、その当選結果を不利当たりの当選結果よりも先に停止表示（確定表示）させることができる。
【４０９５】
＜時短回数（普通図柄の高確率状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数）無限を設定可能な遊技機について＞
上述した第１から第４制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部において、その大当たり遊技終了後に特別図柄抽選が１００回実行されるまでの期間、普通図柄の高確率状態（時短状態）を設定可能に構成していたが、時短状態が継続する期間を特別図柄抽選が１００回実行されるまでに限らずに１００回以上の特別図柄抽選が実行されるまでとしても良く、無限（次回大当たりに当選するまで）としても良い。
【４０９６】
例えば、上述した第１制御例において、大当たり遊技終了後に設定される時短状態が終了する終了条件として設定される特別図柄変動回数として、第１変動回数と、その第１変動回数とは異なる第２変動回数と、を少なくとも含む複数の変動回数の中から１の特別図

柄変動回数を設定可能に構成し、第１変動回数を１００回、第２変動回数を２００回、第３変動回数を３００回、第４変動回数を５００回、第５変動回数を１００００回（実質次回大当たり当選まで）とする。

【４０９７】

第３図柄表示装置８１に表示される演出態様としては、時短状態が設定された時点では何れの終了条件が設定されていても「残り１００回」と表示され、１００回以上の変動回数（例えば、第４変動回数）が設定されている場合には、所定のタイミングで表示されている残り変動回数の値に所定回数を上乗せする演出（例えば、「＋３０回」）を実行する。

【４０９８】

このように構成することで、大当たり遊技終了後にスーパーチャンスモード（特別図柄抽選が５０回実行されるまでの期間限定の特別図柄の高確率状態（確変状態））が設定されなかった場合であっても、時短状態が継続する期間として１００００回の特別図柄変動が実行されるまでの期間が設定された場合には、確変状態が設定された場合よりも第２入賞口６４０へ球が入球し易い状態が長期間継続することにより、特別図柄の大当たり確率は低確率であるものの、獲得した遊技球数を維持したまま、より多くの特別図柄の大当たり抽選を実行させることが可能となり、大当たりに当選する可能性が高くなるため、大当たり遊技終了後にチャンスモード（時短状態）が設定されても、遊技者に長期間の時短状態が設定されることを期待させることで遊技意欲が低下することを抑制し、時短状態がいつまで継続するのかにも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【４０９９】

また、大当たり遊技中に遊技球が特定領域を通過することで確変状態が設定され、通過しなかった場合には時短状態が設定される構成であるため、特別図柄の高確率状態となるが普通図柄の高確率状態が継続する期間である時短回数が１００回の確変状態での遊技と、特別図柄の低確率状態が設定されるが普通図柄の高確率状態が継続する期間である時短回数が最大で１００００回付与される可能性がある時短状態での遊技と、の何れの遊技状態で遊技するかを遊技者に選択させることができる。

【４１００】

＜大当たり遊技終了後、終了条件が成立するまでの間、特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定される構成（所謂、ＳＴ仕様）を有する遊技機について＞

特別図柄抽選において大当たり当選した場合に、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定し、確変状態が設定されてからの特別図柄変動回数が特定回数（例えば、１００回）に到達した場合に確変状態の終了条件が成立する構成（所謂、ＳＴ仕様）の遊技機において、終了条件を複数規定し、その中から１つの終了条件を設定する構成としても良い。

【４１０１】

例えば、大当たり遊技終了後に設定される確変状態が終了する終了条件として設定される特別図柄変動回数として、第１変動回数と、その第１変動回数とは異なる第２変動回数と、を少なくとも含む複数の変動回数の中から１の特別図柄変動回数を設定可能に構成し、第１変動回数を１００回、第２変動回数を２００回、第３変動回数を３００回、第４変動回数を５００回、第５変動回数を１００００回（実質次回大当たり当選まで）とする。

【４１０２】

そして、第３図柄表示装置８１に表示される演出態様としては、確変状態が設定された時点では何れの終了条件が設定されていても「残り１００回」と表示され、終了条件として１００回以上の変動回数（例えば、第４変動回数）が設定されている場合には、所定のタイミングで表示されている残り変動回数の値に所定回数を上乗せする演出（例えば、「＋３０回」）を実行する。

【４１０３】

このように構成することで、確変状態が継続する残り期間が遊技者に分かり難くなるた

め、表示されている確変状態が終了するまでの残り期間（特別図柄の残変動回数）が少ない場合でも、遊技者に上乗せ演出が発生することを期待させることが可能となり、確変状態が終了する最後の瞬間まで確変状態が継続するかもしれないという期待感を持たせながら遊技を行わせることができる。

【４１０４】

なお、上述した構成を特別図柄の抽選で大当たりとなった場合、または特定領域へと遊技球が入球した場合に大当たりが付与される仕様の遊技機（所謂１種２種混合機）に適用しても良い。

【４１０５】

＜高確率状態を連続して設定可能な期間に上限を設ける機能（リミット機能）を有する遊技機について＞

なお、上述した時短回数無限を設定可能な構成を高確率状態を連続して設定可能な期間に上限を設ける機能（リミット機能）を有する遊技機に適用しても良い。

【４１０６】

ここで、リミット機能とは、大当たり遊技終了後に特別図柄または普通図柄の高確率状態（高確状態）が設定され得る大当たり種別の大当たりに当選した場合であっても、大当たり遊技終了後に特別図柄または普通図柄の低確率状態（低確状態）を設定させるための処理を実行させる閾値を指す。

【４１０７】

例えば、低確状態において大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定される種別の大当たり（確変大当たり）に当選し、確変リミット回数として３回がセットされた場合、確変状態が設定されてから３回連続で確変大当たりに当選した場合には、３回目の確変大当たり当選で確変リミットに到達し、大当たり遊技終了後に特別図柄の低確状態が設定される。

【４１０８】

なお、確変リミット回数とは、特別図柄の低確状態において大当たり当選し、その大当たりに基づいて実行された大当たり遊技の終了後に確変状態が設定される場合にセットされる値である。確変状態において、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される大当たりに当選し、その大当たり当選に基づいて実行された大当たり遊技の終了時に値が更新され、更新後の値を用いて確変リミットに到達したか否かの判別が実行される。

【４１０９】

従来の確変リミットを有する遊技機では、例えば、特別図柄の大当たりに当選した場合の大当たり種別の振分が、確変大当たり９０％、通常大当たり１０％であり、確変リミット回数３回とした場合に、低確状態において確変大当たりに当選し、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された後、３回連続で確変大当たりに当選した場合には、３回目の確変大当たりで確変リミットに到達し、３回目の大当たり遊技終了後に所定期間（例えば、特別図柄抽選が１００回実行されるまで）の時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、特別図柄の大当たりに当選しないまま所定期間が経過すると、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）に移行する。

【４１１０】

また、確変リミットに到達する前に通常大当たりに当選した場合にも、大当たり遊技終了後に所定期間（例えば、特別図柄抽選が１００回実行されるまで）の時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、特別図柄の大当たりに当選しないまま所定期間が経過すると、通常状態に移行する。なお、時短状態において確変大当たりに当選すると、新たに確変リミット回数３回がセットされる。

【４１１１】

つまり、従来の確変リミットを有する遊技機では、通常大当たりに当選した場合に確変リミット回数が解除されるものの、限られた期間内（例えば、特別図柄抽選が１００回実行されるまでの期間）に特別図柄の低確率状態で特別図柄の大当たりに当選しなければ通常状態に移行するため、遊技者にとっては、通常大当たりは確変大当たりよりも不利な大

当たりであり、確変状態が設定された後に確変大当たりが２回連続した場合、次回当選する大当たりが確変大当たりと通常大当たりの何れの大当たりであっても、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態は同じであるため、確変リミット到達までの残回数が１回の場合の確変状態において遊技者の遊技意欲が低下する虞があった。

【４１１２】

これに対して、時短回数無限（次回大当たりに当選するまで）が付与される通常大当たりを設定することで、確変状態が設定された後に通常大当たりに当選することによって、確変リミット回数が解除される特別図柄の低確率状態が設定されるものの、時短状態が次回大当たりまで継続するため、確変リミット到達までの残回数が１回の場合の確変状態においては、確変大当たりに当選するよりも通常大当たりに当選する方が遊技者に有利となり、確変リミット到達までの残回数が１回の場合の確変状態においても遊技者に通常大当たりに当選することを期待させることで遊技意欲が低下することを防ぎ、遊技の興趣を向上させることができる。

【４１１３】

なお、時短回数無限が付与される通常大当たりに当選する場合には、確変大当たりに当選した場合と異なる特殊演出（例えば、表示されている確変リミット到達までの残回数が巻き戻される演出等）を実行しても良い。

【４１１４】

＜第１特別図柄の抽選に基づく変動表示と、第２特別図柄の抽選に基づく変動表示とを同時に（並列して）実行可能な構成（所謂、同時変動方式）を有しない遊技機における大当たり２回ループが実行可能な構成について＞

第１特別図柄の抽選に基づく変動表示と、第２特別図柄の抽選に基づく変動表示とを同時に（並列して）実行可能な構成（所謂、同時変動方式）を有しない遊技機において、大当たり遊技終了後に特別図柄および普通図柄の高確率状態（確変状態）が次回大当たりに当選するまで設定される確変大当たりと、大当たり遊技終了後に所定期間（例えば、特別図柄抽選が１００回実行されるまで）特別図柄の低確率状態且つ普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定される通常大当たりの２つの大当たり種別を有する遊技機（所謂、確変ループ機。）が一般に知られている。

【４１１５】

従来の確変ループ機では、確変大当たりに当選した場合、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、あと１回の大当たり当選が確約されることとなるが、確変大当たりに当選した後に通常大当たりに当選すると、所定期間設定される時短状態に大当たり当選しなければ、通常状態が設定されるため、確変大当たりの割合を変えることなく、あと２回の大当たり当選を確約することはできなかった。

【４１１６】

しかし、上述した時短回数無限回（次回大当たりに当選するまで）を設定可能な構成とすることで、確変大当たりの割合を変えずに確変大当たりに当選した場合にあと２回の大当たり当選を確約することが可能となる。

【４１１７】

具体的には、確変状態が設定されている場合に通常大当たりに当選した場合には、時短回数無限（次回大当たりに当選するまで）の時短状態が設定され、通常状態または時短状態が設定されている場合に通常大当たりに当選した場合には時短回数無限よりも少ない期間（例えば、特別図柄抽選が２０回実行されるまで）の時短状態が設定される構成とする。

【４１１８】

このように構成することで、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合には、次回当選した大当たりが何れの大当たり種別であってもさらにもう１回の大当たりが確約されるため、１度確変大当たりに当選することであと２回の大当たりが確約されることとなる。したがって、確変大当たりに当選することで遊技者は多くの賞球を得ることが可能となるため、確変大当たりに当選することを期待して意欲的に遊技を行わせることができる

。
【４１１９】
＜時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定されている場合に、大当たり当選しても時短状態をリセットしない構成について＞
従来の遊技機において、大当たり遊技終了後に所定期間（例えば、特別図柄抽選が１００回実行されるまで）時短状態を設定し、時短状態中に大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が開始された場合に設定されていた時短状態を終了し、その大当たり遊技終了後に新たに所定期間の時短状態を設定する（時短状態をリセットする）構成が一般的である。
【４１２０】
このような構成の遊技機に対して、更なる興趣向上を目指すために、時短状態が設定されている場合に、大当たり当選しても時短状態をリセットしない構成とすることで、所定期間内に如何に多くの大当たりに当選できるかを遊技者に楽しませることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【４１２１】
具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において大当たりに当選した場合（初当たり）の大当たり遊技終了後に時短状態が設定され、時短状態が終了する終了条件として設定される特別図柄変動回数として、第１変動回数と、その第１変動回数とは異なる第２変動回数と、を少なくとも含む複数の変動回数の中から１の特別図柄変動回数を設定可能に構成し、第１変動回数を１００回、第２変動回数を３００回、第３変動回数を５００回、第４変動回数を１００００回（実質次回大当たり当選まで）とする。
【４１２２】
そして、例えば、終了条件として第３変動回数が設定されている場合に、２０回目に実行された特別図柄変動で大当たりに当選した場合、大当たり遊技開始時に時短状態を終了させない（リセットしない）ため、大当たり遊技終了後の時短状態の終了条件成立までの残変動回数は４８０回となる。
【４１２３】
このように、初当たりに基づいて設定されている時短状態が、時短状態中に大当たりに当選したことによって終了せず、初当たりに基づく大当たり遊技の終了後に設定された時短状態が新たに実行された大当たり遊技終了後にも引き継がれるため、初当たりに基づく大当たり遊技終了後に設定された時短状態の終了条件である変動回数が何回であるかによって遊技者が時短状態中に獲得し得る大当たり当選回数を異ならせることが可能となり、斬新な遊技を提供することができる。
【４１２４】
なお、時短状態を終了させる条件として、終了条件として設定された変動回数が０回になった場合（つまり、時短状態中に所定回数の特別図柄変動が実行された場合）と時短状態中の大当たり当選回数が特定回数に到達した場合、例えば、大当たり遊技終了後に時短状態が設定され、時短状態が設定されてから３回目の大当たりに当選した場合に、大当たり遊技開始時に時短状態を終了させ、その大当たり遊技終了後に新たに時短状態を設定する構成としても良い。
【４１２５】
このように構成することで、通常状態よりも有利な状態（例えば、時短状態）を継続させるために連チャンを目指すという斬新な遊技を提供することができ、更に遊技の興趣を向上させることができる。
【４１２６】
＜第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）よりも第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されているほうが遊技者に有利となる構成の遊技機について＞
遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、時短状

態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、第１確変状態、第２確変状態の少なくとも４つの遊技状態が設定可能であり、各遊技状態の遊技者の有利度合いとして、第１確変状態よりも、少なくとも、第２確変状態のほうが遊技者に有利な構成の遊技機にて、上述した特別図柄抽選において時短抽選（特別図柄抽選における時短状態を設定するか否かの判定）を実行する構成としても良い。

【４１２７】

具体的には、特別図柄の低確率状態と高確率状態での大当たり当選確率の差を少なく設定し（例えば、特別図柄の低確率状態での大当たり当選確率を１／５０．１、高確率状態での大当たり当選確率を１／５０）、第１特別図柄で大当たり当選した場合に第１確変大当たり（大当たり遊技終了後に第１確変状態が設定される大当たり種別）が決定される割合を９５％、時短大当たり（大当たり遊技終了後に時短状態が設定される大当たり種別）が決定される割合を５％とし、大当たり遊技中には賞球を得ることができない構成とする。

【４１２８】

なお、通常状態、時短状態、第１確変状態においては第１特別図柄抽選が主として実行され、第２確変状態においてのみ第２特別図柄抽選が実行される構成とする。

【４１２９】

そして、第２特別図柄抽選において大当たり当選しなかった場合にのみ、小当たり抽選（特別図柄抽選における小当たり当選か否かの判定）が実行され、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技によって遊技者は賞球を得ることができる。

【４１３０】

なお、通常状態における特別図柄抽選において大当たり当選しなかった場合には時短抽選を実行し、時短当選すると所定期間（例えば、特別図柄変動が２０回実行されるまでの期間）時短状態が設定される。

【４１３１】

また、通常状態において第１確変大当たりに当選した場合には、大当たり遊技終了後に第１確変状態が設定される。ここで、第１確変状態では特別図柄の高確率状態は次回大当たりに当選するまで継続するが、普通図柄の高確率状態は終了条件が成立すると低確率状態が設定される構成とし、終了条件として設定される特別図柄変動回数として、第１変動回数と、その第１変動回数とは異なる第２変動回数と、を少なくとも含む複数の変動回数の中から１の特別図柄変動回数を設定可能に構成し、例えば、第１変動回数を１回、第２変動回数を５０回、第３変動回数を１００回、第４変動回数を２００回、第５変動回数を３００回とする。

【４１３２】

このように構成することで、第１確変状態において普通図柄の高確率状態の終了条件が成立した場合に、特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態、つまり、遊技者に有利な第２確変状態が設定されることとなるため、第１確変状態においては大当たり当選せずに普通図柄の高確率状態が終了することを目指す斬新な遊技を遊技者に提供することができる。

【４１３３】

なお、第２特別図柄で大当たり当選した場合に第２確変大当たり（大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される大当たり）が決定される割合を９５％、時短大当たりが決定される割合を５％とする。

【４１３４】

なお、時短状態が設定されている場合に第１特別図柄が大当たり当選した場合には１００％第２確変状態が設定される構成とする。

【４１３５】

なお、普通図柄の高確率状態を連続して設定可能な期間に上限を設ける（時短リミット）構成としても良く、例えば、時短リミット回数を１０回とし、第１確変大当たりに１０回当選することで１０回目の大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される。このよう

に構成することで、大当たりを連チャンさせることで更に有利な遊技状態が設定されるという斬新な遊技を提供することが可能となり、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【４１３６】

なお、第１特別図柄抽選においても小当たり抽選を実行する構成としても良く、小当たり当選した場合に、少なくとも小当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される小当たり種別を含む複数の小当たり種別の中から小当たり種別が決定される構成としても良い。このように構成することで、第２確変状態へ移行する契機が増えるため、更に遊技の興趣を向上させることができる。

【４１３７】

なお、第１確変状態が設定されている場合に、設定されている普通図柄の高確率状態の終了条件が成立するまでの特別図柄の残変動回数を遊技者に示唆する演出を実行しても良い。例えば、終了条件として第５変動回数（変動回数３００回）が設定されている場合に、第３図柄表示装置８１において「３００ポイント貯めろ」と表示され、特別図柄の１変動毎に１ポイント貯まり、３００ポイント貯まった場合に、第２確変状態が設定される構成としても良い。この場合、第１確変状態において大当たり当選した場合には、獲得したポイントがリセット（つまり、０に戻る）される構成とする。

【４１３８】

なお、終了条件として、例えば、第１変動回数（変動回数１回）が設定されている場合にも、第３図柄表示装置８１において「３００ポイント貯めろ」と表示され、特別図柄の１変動が終了したら３００ポイント獲得できる構成としても良く、設定されている終了条件の変動回数に応じて特別図柄の１変動で付与されるポイント数を異ならせるように構成しても良い。

【４１３９】

このように構成することで、普通図柄の高確率状態の終了条件としてどの変動回数が設定されているのかを遊技者が分かり難くなるため、付与されるポイント数からどの変動回数が設定されているかを予測する楽しみを提供でき、遊技の興趣を向上させることができる。

【４１４０】

＜技術思想まとめ＞

次に、上述した各制御例に記載された各技術思想について簡単に説明をする。まず、時短中に獲得した特図２保留を用いた特図２抽選の実行回数が所定回数を超えると、特図２抽選により有利特典が付与される確率が高くなる技術思想について、上述した第５制御例のパチンコ機１０によれば、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合には、第２特別図柄抽選の実行権利を取得する手段を有し（情報を取得することが可能な取得手段）と、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を上限数（４個）まで保留記憶可能な手段を有する（取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段）。そして、保留記憶されている第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）に基づいて、第２特別図柄抽選が実行される（記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段）。そして、第２特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選（第１判別結果）であることに基づいて大当たり遊技（特定遊技）が実行される。そして、大当たり遊技が終了した後には、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなる普通図柄の高確率状態（特定設定）が、普通図柄の高確率状態を終了させるための終了条件（時短終了条件）が成立するまでの間継続する。また、第２特別図柄抽選では、大当たり当選の判定とは別に時短当選判定を実行可能に構成しており、時短当選判定において時短当選したと判別された場合は（第２判別結果であると判別された場合は）、大当たり遊技を実行すること無く、普通図柄の高確率状態（特定設定）を設定可能である。さらに、上述した第５制御例では、複数の遊技状態を設定可能に構成しているが、その中で、通常状態（特定期間）が設定されている状態においてのみ、時短当選判定を実行可能である。

【４１４１】

このように構成することで、第２特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態が設定される場合は、特別図柄変動の停止タイミングでは無く、大当たり遊技の終了タイミングにて普通図柄の高確率状態が設定され、第２特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態が設定される場合は、特別図柄変動の停止タイミングにて普通図柄の高確率状態が設定される。よって、普通図柄の高確率状態を設定されるタイミングを時短状態の設定契機に応じて異ならせることができる。

【４１４２】

また、時短当選判定を実行可能な期間（通常状態が設定されている期間）と、実行不可能な期間（通常状態が設定されていない期間）と、を設けることができるため、特別図柄抽選が実行される期間についても遊技者に興味を持たせることができる。なお、上述した第５制御例では、通常状態でのみ時短当選判定を実行するように構成しているが、時短当選判定を実行可能な期間と、実行しない期間と、を設ければ良く、例えば、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（通常状態、第２確変状態）において時短当選判定を実行可能とし、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（時短状態、確変状態）において時短当選判定を実行しないように構成しても良い。

【４１４３】

さらに、時短当否判定の実行の有無を設定されている遊技状態に応じて切り替えるのでは無く、時短当否判定において時短当選する確率を遊技状態に応じて異ならせても良く、例えば、通常状態が設定されている場合における時短当否判定では１／６の確率で時短当選し、それ以外の遊技状態においては、１／２００の確率で時短当選するように構成しても良い。このように構成することで、時短当選し易い遊技状態と、時短当選し難い遊技状態と、を設定することができるため、上述した技術思想と同様に効果、即ち、特別図柄抽選が実行される期間についても遊技者に興味を持たせることができる。

【４１４４】

さらに、上述した第５制御例では、遊技球が入球することにより、第１特別図柄抽選の実行契機となり得る第１入球口６４（遊技球が入球可能な第１入球手段）と、第２特別図柄抽選の実行契機となり得る第２入球口６４０（その第１入球手段とは異なる第２入球手段）と、を設けており、時短当選判定は、第２特別図柄抽選でのみ実行可能に構成している。

【４１４５】

つまり、第１特別図柄抽選では、何れの遊技状態が設定されていても時短当選判定が実行されず、第２特別図柄抽選では特定期間（通常状態）において時短当選判定を実行可能としている。このように構成することで、第１特別図柄抽選と、第２特別図柄抽選とで、ひいては、第１入球口６４への遊技球の入球と、第２入球口６４０への遊技球の入球とで、後に遊技者へと付与される価値の量を大きく異ならせることができる。

【４１４６】

なお、上述した第５制御例では、第１特別図柄抽選では時短当選判定を実行せずに、第２特別図柄抽選では特定期間（通常状態）において時短当選判定を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、第１特定期間（通常状態）においては第２特別図柄抽選のみ時短当選判定を実行し、第１特定期間とは異なる第２特定期間（第２確変状態）においては、第１特別図柄抽選のみが時短当選判定を実行可能に構成してもよい。このように構成することで、設定されている期間によって、第１入球口６４への遊技球の入球が、第２入球口６４０への遊技球の入球より遊技者に有利な価値を付与し易い状況と、第１入球口６４への遊技球の入球よりも、第２入球口６４０への遊技球の入球が遊技者に有利な価値を付与し易い状況と、を創出することが可能となる。よって、遊技者に対してより有利な価値が付与され易い遊技を実行しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【４１４７】

さらに、この場合、図３２９に示した変形例のように、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、第１入球口６４への遊技球の入球度合いと、第２入球口６４０への遊技球の入球度合いとが同様となるようにパチンコ機１０の遊技盤１３を構成すると良い。

このように構成することで、遊技者の判断によって、何れの入球口へと遊技球を入球させるかを選択することができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【４１４８】

さらに、各制御例に記載した通り、大当たり当選に基づいて設定される時短状態（第１時短）よりも、時短当選判定により時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）のほうが、遊技者に有利な時短状態、即ち、時短終了条件が成立し難い時短状態が設定され易くなるように構成している。つまり、時短状態の設定契機に応じて、設定された時短状態の有利度合いを異ならせるように構成している。これにより、時短状態（特定設定）が設定される期間（時短終了条件）を判別された判別結果（設定契機）により可変させることが可能となるので、遊技を多様にすることができ興趣をより向上できるという効果がある。

【４１４９】

この場合、時短状態が設定される前の遊技状態に応じて、第１時短よりも第２時短のほうが遊技者に有利な時短状態となる場合と、第２時短よりも第１時短のほうが遊技者に有利な時短状態となる場合と、を設けると良い。このように構成することで、どの状況で時短状態が設定されたかについても遊技者に興味を持たせることができる。

【４１５０】

より具体的には、例えば、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）が所定数を超えた場合のほうが、超えていない場合よりも、有利な時短状態となり易くなるように構成しても良い。

【４１５１】

次に、上述した第７制御例では、１回の特別図柄抽選において、大当たり当選と、時短当選とに重複して当選可能に構成している（図３１５参照）。これにより、大当たり当選（第１判別結果）と時短当選（第２判別結果）とを重複して判別することが可能に構成されているので、１回の特別図柄抽選において、大当たり当選、時短当選、大当たりと時短との両方に当選と、様々な抽選結果を期待することができる。さらに、第７制御例では、時短当選と大当たり当選とが重複した場合に、重複して当選しなかった場合よりも遊技者に有利な大当たり遊技が実行されるように構成している（図３０６（ｂ）参照）。よって、重複して判別されることで遊技者に有利となる種別の特定遊技が実行され易いので、遊技者に多様な判別結果に対応した特典を付与することで遊技を多様にすることができるという効果がある。

【４１５２】

なお、重複当選した場合のほうが、重複当選していない場合よりも、遊技者に有利な特典を付与する構成として、上述した第７制御例の構成以外を用いても良く、例えば、大当たり遊技が終了した後に設定される遊技状態が、重複当選した場合のほうが、重複当選していない場合よりも、有利な遊技状態（例えば、確変状態、時短状態等）を設定可能に構成しても良い。

【４１５３】

また、上述した第７制御例では、時短当選の判定（第２判別結果であるか否かの判別）を実行した後に、大当たり判定（第１判別結果であるか否かの判別）を実行するように構成しており、１の特別図柄抽選において、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選における大当たり判定を時短状態で実行することができるように構成している。このように構成することで、重複当選した場合に実行される特典遊技の有利度合いと、重複当選しなかった場合に実行される特典遊技の有利度合いと、を異ならせることができる。

【４１５４】

次に、上述した第５制御例の第２変形例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第１時短）と、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第２時短）と、で普通図柄の高確率状態が設定されている状態で大当たり当選した場合に遊技者に付与される特典の種別（大当たり遊技終了後に付与される時短回数）を異ならせている（図２８０（ｂ）参照）。よっ

て、設定種別（第１時短、第２時短）に応じて特典遊技の種別における選択割合（大当たり遊技の内容と、付与される時短回数）が可変されるので、同じ普通図柄の高確率状態（第２遊技状態）であっても遊技者へと付与される特典を異なるものとすることができ、遊技状態を多数設定しなくとも遊技を多様にして遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【４１５５】

なお、上述した第５制御例の第２変形例では、設定種別（第１時短と第２時短）とに応じて、付与される時短回数に差を設けているが、これに限ること無く、実行される大当たり遊技の内容（例えば、ラウンド遊技数）を異ならせるように構成しても良い。

【４１５６】

さらに、上述した第５制御例の第２変形例では、第１時短よりも第２時短が設定された場合、即ち、大当たり遊技が実行されること無く普通図柄の高確率状態が設定された場合のほうが、終了条件が成立し難い普通図柄の高確率状態が設定され易くなるように構成している。つまり、大当たり遊技中に賞球を獲得すること無く、普通図柄の高確率状態が設定された場合、即ち、第１時短よりも普通図柄の高確率状態が設定されるまでに付与される特典が少ない第２時短のほうが、普通図柄の高確率状態を長くすることができるため、遊技者に対して公平に特典を付与することができるという効果がある。

【４１５７】

さらに、上述した第５制御例の第２変形例では、上述した第５制御例や第５制御例の第１変形例と同様に、通常状態でのみ時短当選判定（第２判別結果の判別）を実行可能に構成している。換言すれば、通常状態以外では、時短当選判定が実行されることを規制している。よって、遊技状態に応じて時短当選判定が実行されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。

【４１５８】

加えて、上述した第５制御例の第２変形例では、第１時短が設定されたか第２時短が設定されたかを、遊技者に判別させ難くするように、特別図柄抽選の結果を示すための演出態様を設定可能に構成している（図２７８、及び図２７９参照）。つまり、第１時短が設定される場合には、特別図柄変動時間と、その後の大当たり遊技期間とを合算した第１期間に対して特定演出（図２７８（ａ）参照）を実行し、第２時短が設定される場合には、特別図柄変動時間（確定時間含む）である第２期間に対して特定演出（図２７８（ｂ）参照）を実行するように構成している。

【４１５９】

より具体的には、上述した第１期間と第２期間とが略同一期間となるように、各特別図柄抽選結果に対応させて変動時間や、大当たり遊技期間を予め規定しておき、特定演出の演出期間が同一となるように構成している。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される演出として、演出期間、及び、演出態様が同一の特定演出が実行された後に、普通図柄の高確率状態を示す演出が実行されることになる。よって、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行される演出を注視している遊技者に対して、何れの設定契機で普通図柄の高確率状態が設定されたのかを判別させ難くすることができる。

【４１６０】

次に、上述した第６制御例では、時短状態（第２遊技状態）中においても時短当選判定を実行可能に構成しており、時短状態（第２遊技状態）中に時短当選した場合には、時短終了条件が成立し難い（時短回数が多い、又は、時短当選確率が高い）時短種別の時短状態（第２遊技状態）を設定可能に構成している。

【４１６１】

これにより、時短状態が設定されている期間が長くなるほど、時短終了条件が成立し難い時短種別の時短状態が設定され易くなるため、特典遊技が実行され易くすることができる。

【４１６２】
なお、上述した第６制御例では、図２８６（ａ）に示した通り、設定されている遊技状態に応じて、時短当選確率を異ならせているが、時短当選確率を同一に規定しても良い。また、遊技状態に応じて時短当選確率を異ならせているが、それ以外に例えば、前回の大当たり遊技が実行されてからの特別図柄抽選回数に応じて時短当選確率を異ならせても良い。この場合、前回の大当たり遊技が実行されてからの特別図柄抽選回数が所定回数（例えば、２００回）を超えた場合に、時短当選確率が高くなるように構成すると良い。このように構成することで、特別図柄抽選で長時間大当たり当選していない遊技者に対して、大当たり遊技とは異なる時短当選という特典を付与し易くすることができる。なお、本技術思想は、他の制御例にも適用可能であることは言うまでも無い。
【４１６３】
図３２９を参照して説明をした遊技機では、第１判別を実行可能な第１判別手段（第１特別図柄抽選）と、その第１判別手段により実行される第１判別の結果が、第１判別結果（大当たり当選）であることに基づいて第１特典（大当たり遊技）を付与可能であり、第１判別の結果が、第１判別結果とは異なる第２判別結果（時短当選）であることに基づいて第２特典（普通図柄の高確率状態）を付与可能な第１特典付与手段と、第１判別とは異なる第２判別を実行可能な第２判別手段（第２特別図柄抽選）と、第２判別手段により実行される第２判別の結果が、第３判別結果（大当たり当選）であることに基づいて第１特典を付与可能であり、第２判別の結果が第３判別結果とは異なる第４判別結果（小当たり当選）であることに基づいて、第１特典及び第２特典とは異なる第３特典（小当たり遊技）を付与可能な第２特典付与手段と、を有し、第１判別手段により実行される第１判別に基づいて第３特典が付与されることが無く、且つ、第２判別手段により実行される第２判別に基づいて第２特典が付与されることが無いように構成されている。
【４１６４】
これにより、第１判別が実行された場合と、第２判別が実行された場合とで、異なる特典を付与可能に構成しているため、遊技者に対して、異なる判別を実行させようと意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技が単調となることを抑制できるという効果がある。
【４１６５】
上述した＜遊技性２＞に係る遊技機では、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成し、両方の特別図柄が大当たりに当選した場合には、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）された側の特別図柄の抽選結果に基づく大当たり遊技を実行し、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）した時点で大当たり種別によっては、他方の特別図柄変動を抽選結果が外れであることを示す表示態様で強制的に停止表示するように構成している遊技機において、第１特別図柄抽選及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選判定を実行可能に構成する。そして第１判別手段により第１条件が成立した（時短当選した）と判別されてから第１状態設定手段により第１有利状態（第１特典の時短状態）が設定されるまでの間に、第２判別手段により第２条件が成立した（時短当選した）と判別されたことに基づいて、第１有利状態、及び第２有利状態よりも遊技者に有利となる第３有利状態（第３特典の時短状態）を設定可能である。よって、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成したパチンコ機１０において、各特別図柄抽選で時短当選するタイミングに応じて異なる特典が付与される時短状態を設定することが可能となる。
【４１６６】
上述した＜その他の遊技性＞では、判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを少なくとも含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、遊技状態設定手段は、第１遊技状態（通常状態）が設定されている状態において実行された判別手段（特別図柄抽選）による判別の結果が第１判別結果とは異なる第２

判別結果（第２時短Ｂ当選）であることに基づいて第２遊技状態（第２時短Ｂ）を設定可能であり、第２遊技状態が設定されている状態において終了条件（時短終了条件）が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定可能であり、第１遊技状態が設定されている状態において実行された判別手段による判別の結果が第１判別結果及び第２判別結果とは異なる第３判別結果（第２時短Ａ当選）であることに基づいて、第２遊技状態よりも遊技者に有利な第３遊技状態（第２時短Ａ）を設定可能である。また、判別手段は、判別の結果が第２判別結果となる確率（選択割合９０％）よりも第３判別結果となる確率（選択割合１０％）のほうが低くなるように判別を実行可能である。

【４１６７】

さらに、終了条件（第２時短Ｂの時短終了条件）として、第２遊技状態が設定されている状態において実行される判別手段による判別の回数（特別図柄抽選回数）が所定回数に到達したことに基づいて成立可能な第１終了条件を少なくとも設定可能である。加えて、判別手段による判別の結果が特定判別結果（小当たり当選）であることに基づいて成立可能な第２終了条件を設定可能である。

【４１６８】

この場合、遊技状態設定手段により第２遊技状態を設定するための設定種別として、特典遊技実行手段の終了後に第２遊技状態を設定可能な第１設定（通常の時短状態）と、判別手段により実行される判別の結果が第１判別結果とは異なる第２判別結果（第２時短Ｂ当選）であることに基づいて特典遊技を実行すること無く、第２遊技状態（時短状態）を設定可能な第２設定と、を少なくとも設定可能な種別設定手段を有し、遊技状態設定手段は、種別設定手段により設定された設定種別（時短種別）に応じて、第１遊技状態（通常状態）よりも有利となる有利第２遊技状態（通常の時短状態）と、第１遊技状態よりも不利となる不利第２遊技状態（第２時短Ｂ）と、を設定可能である。

【４１６９】

＜第８制御例＞

次に、図３３０から図３３５を参照して、第８制御例について説明をする。上述した第５制御例は、普通図柄の低確率状態（通常状態）中に第２入球口６４０へと遊技球を入球させ難くし、普通図柄の高確率状態（時短状態）中に第２入球手段６４０へと遊技球を入球させ易くするように構成していた。さらに、通常状態にて実行される第２特別図柄抽選にて時短当選の判定（時短抽選）を実行するように構成していた。また、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）を、所定数（４個）を上限に記憶（保留記憶）可能に構成していた。

【４１７０】

このように構成された第５制御例におけるパチンコ機１０では、特図２保留を保留記憶している状態で普通図柄の高確率状態（時短状態）が終了し、普通図柄の低確率状態（通常状態）が設定されることにより、保留記憶されていた特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が普通図柄の低確率状態（通常状態）にて実行され、その通常状態中に実行された第２特別図柄抽選で時短当選した場合に、再度、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定されるように構成していた。

【４１７１】

つまり、普通図柄の高確率状態（時短状態）が終了し、普通図柄の低確率状態（通常状態）が設定されてから所定期間（特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が実行されている期間）が経過するまでの期間を、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定され易い期間（引き戻し期間）として設定可能に構成することで、普通図柄の高確率状態（時短状態）が終了した後も遊技者に意欲的に遊技を行わせることができるものであった。

【４１７２】

これに対して、本第８制御例では、通常状態において実行される第１特別図柄抽選、及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選の判定（時短抽選）を実行可能に構成し、高確率（外れ当選の殆ど）で時短当選するように構成し、時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）が、通常状態よりも遊技者に不利な遊技状態となるように

構成している点で相違している。
【４１７３】
加えて、本第８制御例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とが交互に実行され易くなるように遊技盤１３が構成されており、上述した第２時短の終了条件として、一方の種別の特別図柄抽選が連続して実行された場合に成立する終了条件が設定されるように構成している。
【４１７４】
このように構成された本第８制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態が設定されている状態にて実行される特別図柄抽選にて大当たり当選（大当たり確率１／３００）しなかった場合には、高確率（２９８／３００）で時短当選することより第２時短が設定される。そして、第２時短の終了条件が成立するまで、第２時短で特別図柄抽選が実行される。
【４１７５】
また、第２時短の終了条件として、第２時短中に実行された特別図柄抽選の合算回数が特定数（１００回）に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、所定の順序で特別図柄抽選が実行された場合に成立する第２時短終了条件とが設定されるように構成しており、第２時短終了条件は、第１時短終了条件が成立するよりも前に成立し得るように構成している。
【４１７６】
よって、第２時短が設定された場合には、いち早く第２時短を終了させるために第２時短終了条件を成立させようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。
【４１７７】
また、通常状態において実行される特別図柄抽選の種別に応じて、遊技者への有利度合いを異ならせるように構成しており、通常状態で実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の方が、通常状態で実行される第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、大当たり遊技終了後に有利な遊技状態を設定し易くなるように構成している。
【４１７８】
このように構成することで、第２時短が終了した後に実行される特別図柄抽選の種別に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【４１７９】
ここで、図３３１を参照して、振り分けユニット１０６４の構成について説明する。図３３１（ａ）～（ｂ）は、振り分けユニット１０６４の内部の構造を示した図である。実際には、この前面側にカバー体が配置されており、そのカバー体は、内部が透視可能な部材で構成されており、渦巻き状の柄が表面に内部が透視不可能または困難な着色されており、内部が視認し難くなるように構成されている。
【４１８０】
振り分けユニット１０６４の上部には、遊技球が入球可能な通過口１０６４ｂが設けられており、その通過口１０６４ｂを遊技球が通過したことを検知可能にする透過型の入球センサ１０６４ａが配置されている。通過口１０６４ｂを通過した遊技球は、振り分け部材９００によって、その下方に配置された第１入球口６４ａと第２入球口１６４１とに交互に振り分けられる。
【４１８１】
振り分け部材９００は、通過口へと入球した遊技球を振り分け部材９００の収容部９００ａまたは９００ｃで受ける。収容部９００ａで遊技球を受けた場合には、遊技球の重さにより、振り分け部材９００は、正面視（図３３１（ａ）参照）左回りに回転して、遊技球を第１入球口６４ａへと誘導する。ここで、振り分け部材９００は、それぞれ左右周りに約９０度回動可能に構成されており、収容部９００ａと収容部９００ｂとの境界壁には磁石９００ｂが設けられている。
【４１８２】
振り分けユニット１０６４の背面側に設けられるベース体には、振り分け部材９００の

磁石９０１ｂが通過口の中央線上の位置にベース側磁石９０１が配置されている。振り分け部材９００の磁石９００ｂとベース側磁石９０１とは互いに反発する極性になるように構成されている。詳細には、ベース側磁石９０１は、ベース体に固定された棒状の磁石で構成されており、先端部に磁極（Ｓ極またはＮ極）が発生するように構成されている。ベース側磁石９０１は、先端部を振り分け部材９００側に向くように配置されて固定されている。

【４１８３】

磁石９００ｂもベース側磁石９０１と同様に棒状で構成された磁石で構成され、先端部がベース側磁石９０１側に向くように、振り分け部材９００に固定されている。振り分け部材９００が回動し、収容部９００ａと収容部９００ｂの境界壁が真上（通過口の遊技球が約１球分入球可能な間隔の中心線上）に来る位置で、ベース側磁石９０１と振り分け部材９００の磁石９００ｂとが最も接近する（先端部同士が向かい合う）位置となる。ここで、互いの磁石は、極性が同じ（例えば、Ｎ極とＮ極）となるように配置されているので反発仕合、振り分け部材９００の境界壁が真上を向く位置で停止することが無く、左右どちらかに回動した位置に維持されることとなる。

【４１８４】

これにより、振り分け部材９００は、磁石９００ｂが通過口の中心線上となる位置（上方となる位置）となると、磁石９００ｂとベース側磁石９０１とが反発することにより、振り分け部材９００が左右どちらかに回転し、収容部９００ａと収容部９００ｂとのどちらかが、振り分けユニット６４０に入球してくる遊技球を受ける側（遊技機上方側）を向くようになる。よって、入球した遊技球が収容部９００ａと収容部９００ｂとの境界壁と当接して、球詰まりが発生するのを防止することができる。

【４１８５】

また、磁石９００ｂとベース側磁石９０１とが反発することで、例えば、収容部９００ａが遊技球を受けて左に約９０度回転して、遊技球を第１入球口６４ａへ誘導した後に、振り分け部材９００が右回転する（収容部９００ａが上方を向く）のを防止することができる。これにより、遊技球を第１入球口６４ａへ誘導した後には、収容部９００ｂが上方を向いた状態となり、次に振り分けユニット６４０に入球した遊技球は、収容部９００ｂが受けて、遊技球の重さにより振り分け部材９００が右に約９０度回転して、遊技球を第２入球口１６４１へ誘導する。このように、振り分け部材９００は、振り分けユニット６４０に入球する遊技球を第１入球口６４ａと第２入球口１６４１とに交互に誘導することができる。よって、均等に第１入球口６４ａと第２入球口１６４１とに遊技球を振り分けて入賞させることができ、後述する、第１入球口６４ａへの入賞に起因する抽選遊技（以下、第１抽選遊技）と第２入球口１６４１への入賞に起因する抽選遊技（以下、第２抽選遊技）とを効率良く実行することができる。

【４１８６】

右側第２入球口１６４０は、第２入球口１６４１と同様に遊技球が入球すると第２特別図柄の抽選が開始されることとなる入球口である。なお、第２特別図柄は、第２入球口１６４１と右側第２入球口１６４０とを合わせて保留球が４個となっている。

【４１８７】

また、振り分けユニット１０６４の通過口１０６４ｂ（遊技球が１球通過可能な大きさ）には、可変表示ユニット８０の右側を通過した遊技球も、左側を通過した遊技球も入球可能となっており、右側第２入球口１６４０には、右側を通過した遊技球のみが入球可能に構成されている。

【４１８８】

ここで、図３３１（ａ）は、振り分け部材９００が収容部９００ａを上方に向く位置に回動した状態で停止している場合を示した図である。この場合に通過口１０６４ｂを遊技球が通過すると、収容部９００ａに遊技球が収容され、遊技球の自重により振り分け部材９００を左回りに回動させて誘導部９００ｚ１に誘導されながら第１入球口６４ａに遊技球が誘導される。

【４１８９】
遊技球が振り分け部材９００により第１入球口６４ａへと振り分けられた後には、図３３１（ｂ）に示すように、収容部９００ｃが上方に向く位置で振り分け部材９００が停止される。その後、通過口１０６４ｂを遊技球が通過すると収容部９００ｃに収容され、第２入球口１６４１へと遊技球が振り分けられる。よって、交互に第１入球口６４ａと第２入球口１６４１とに振り分けることができる。
【４１９０】
また、図３３１（ｂ）に示した通り、振り分けユニット１０６４の通過口１０６１ｂから入球した遊技球のうち、振り分け部材９００によって第１入球口６４ａ、或いは、第２入球口１６４１へと適正に誘導することが出来なかった遊技球は、振り分けユニット１０６４の外壁部と、各入球口との間に形成された球排出経路を流下し、振り分けユニット１０６４の外部へと排出されるように構成している。
【４１９１】
このように構成することで、例えば、振り分けユニット１０６４の通過口１０６１ｂへと勢いよく流入した遊技球が振り分け部材９００と衝突し、誘導部９００ｚ１，９００ｚ２に誘導されること無く振り分けユニット１０６４内を流下する事象が発生した場合であっても、振り分けユニット１０６４内で球詰まりが発生することを抑制することができる。
【４１９２】
また、詳細な図示は省略するが、振り分け部材９００の位置（回動状況）は、回転センサ（図示せず）によって識別可能に構成されている。具体的には、振り分け部材９００の回転軸９００ｄの回転量を検知可能な回転センサが設けられており、その回転センサの検知結果に基づいて振り分け部材９００の位置を特定可能に構成している。そして、回転センサの検知結果に基づいて特定された振り分け部材９００の位置に基づいて、次に通過口１０６１ｂへと入球した遊技球が何れの入球口（第１入球口６４ａ、第２入球口１０６１）へと誘導されるかを判別可能に構成している。
【４１９３】
このように構成することで、同一種別の特図保留を連続して獲得可能な状態であるか否かを遊技者に報知するための報知演出や、同一種別の特図保留を連続して獲得させるための案内演出を実行することができるため、遊技者に対して、第２時短終了条件を成立させるための遊技を分かり易く行わせることができる。
【４１９４】
なお、本第５制御例では、回転センサを用いて振り分け部材９００の位置を特定可能な構成としたが、それに限らず、入球した入球口により振り分け部材９００の位置を毎回判別するように構成してもよい。具体的には、第１入球口６４ａに入球したことに基づいて、振り分け部材９００は収容部９００ｃが上方を向いている状態として特定し、第２入球口１６４１に入球したことに基づいて、振り分け部材９００は収容部９００ａが上方を向いている状態として特定するように構成する。このように構成することで、専用のセンサ等を設けなくても、振り分け部材９００の位置を特定することができる。また、振り分け部材９００が振動等で回動してしまったとしても、毎回入球口に入球する毎に、位置を更新して判別することで、正しく振り分け部材９００の位置を特定することができる。
【４１９５】
本第５制御例では、図３３１を参照して上述した通り、正常であれば、振り分けユニット１０６４内へと流入した遊技球が第１入球口６４ａと、第２入球口１６４１とに交互に誘導されるように構成し、各入球口へと遊技球が入球したことに基づいて新たな特図保留を獲得することができない場合に、振り分けユニット１０６４へと遊技球を入球させることで特図保留を獲得すること無く、振り分け部材９００の位置を可変させることにより、同一種別の特図保留を連続して獲得可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、振り分けユニット１０６４内へと流入した遊技球のうち一部の遊技球が振り分け部材９００に収容されること無く、第１入球口６４ａ、或いは、第２入球口２１６４へと入球し

得るように構成しても良い。
【４１９６】
　このように構成することで、振り分け部材９００を用いて第１特別図柄抽選に対応する特図保留（特図１保留）と、第２特別図柄抽選に対応する特図保留（特図２保留）とを交互に獲得可能な構成と、振り分け部材９００を用いること無く特図保留を獲得する構成と、を用いて不規則な順序で特図１保留と、特図２保留と、を獲得することが可能となる。よって、第２時短終了条件を成立させ易くすることができる。
【４１９７】
　図３３０に戻り、説明を続ける。遊技盤１３の右側領域には、右第２入球口１６４０と、その右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させることが可能な開状態と、その開状態よりも遊技球を入球させることが困難な閉状態とに可変可能な可変手段として電動役物１６４０ａと、が設けられている。
【４１９８】
　この電動役物１６４０ａは、上述した第５制御例における電動役物６４０ａと同様に、スルーゲート６７を遊技球が通過したことに基づいて実行される普通図柄抽選において当たり当選した場合に実行される当たり遊技（普図当たり遊技）によって、所定の可変パターンに従って閉状態から開状態へと可変されるように構成している。なお、普通図柄抽選に関する技術、及び、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される電動役物１６４０ａへの制御処理の内容については、上述した第５制御例において用いられる第１制御例におけるパチンコ機１０と同一であるため、その詳細な説明を省略する。
【４１９９】
　つまり、本第８制御例では、上述した第１制御例と同様に、普通図柄抽選で当たり当選した場合に、遊技球を右第２入球口１６４０へと入球させ易い普図当たり遊技（ロング開放当たり遊技）と、そのロング開放当たり遊技よりも右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させることが困難となる普図当たり遊技（通常開放当たり遊技）と、を実行可能に構成しており、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態、及び、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態の何れにおいても、ロング開放当たり遊技を実行可能に構成している。
【４２００】
　このように構成することで、遊技状態として、時短状態のうち遊技者に不利となる不利時短状態が設定されている場合において、普通図柄抽選で当たり当選し、ロング開放当たり遊技が実行されることで右第２入球口１６４０へと複数の遊技球を入球させることが可能となる。これにより、遊技球の入球順に従って特別図柄抽選が実行される本第８実施形態において、同一種別の特別図柄（第２特別図柄）を連続して実行させることが可能となり、不利時短状態を終了させるための時短終了条件（第２時短終了条件）を成立させ易くすることができる。
【４２０１】
　よって、普通図柄抽選で当たり当選しロング開放当たり遊技が実行されることによって、遊技特別図柄抽選を効率良く実行させるという特典に加え、不利時短状態を終了させるという特典を付与することができるため、遊技者に対して普通図柄抽選の結果に興味を持たせることができる。
【４２０２】
　なお、詳細な説明は後述するが、本第８制御例では、時短状態として、遊技者に有利となる時短状態（有利時短状態）と、遊技者に不利となる時短状態（不利時短状態）と、を実行可能に構成しており、特別図柄抽選の実行効率の点において、有利時短状態の方が不利時短状態よりも実行効率が高くなるように構成している。より具体的には、不利時短状態が設定されている状態では、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される普図当たり遊技中に右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させることが可能な期待度が、通常状態と同程度となるように構成している。
【４２０３】

さらに、特別図柄抽選において大当たり当選した場合に付与される特典（大当たり遊技内容、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態）の点において、有利時短状態の方が不利時短状態よりも遊技者に有利な特典が付与される（され易くなる）ように構成している。より具体的には、不利時短状態中に大当たり当選した場合に付与される特典は、通常状態中に大当たり当選した場合よりも遊技者に不利な特典が付与される（され易くなる）ように構成している。

【４２０４】

よって、通常状態、有利時短状態、不利時短状態の３つの遊技状態の中で、有利時短状態が遊技者に最も有利な遊技状態となり、次いで、通常状態が遊技者に有利な遊技状態となり、不利時短状態が最も遊技者に不利な遊技状態となるように構成している。

【４２０５】

加えて、本第８制御例では、有利時短状態を終了させるための時短終了条件（有利時短終了条件）の規定内容と、不利時短状態を終了させるための時短終了条件（不利時短終了条件）の規定内容と、を異ならせている。具体的には、有利時短終了条件、不利時短終了条件の何れにおいても、時短状態が設定されてから実行される特別図柄抽選の回数に基づいて成立する第１時短終了条件が規定されており、不利時短終了条件に対して、それに加え、時短状態中に実行される特別図柄抽選の実行順序に基づいて成立する第２時短終了条件が規定されている。

【４２０６】

また、上述した通り、本第８制御例では、振り分けユニット１０６４によって、第１入球口６４と、第２入球口１６４１とへ交互に遊技球が入球し易くなるように構成しているため、通常であれば、第１特別図柄抽選と、第２特別図柄抽選とが交互に実行されるように構成している。ここで、例えば、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいてロング開放当たり遊技が実行された場合には、右打ち遊技によって、右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させる遊技が実行されることから、第２特別図柄抽選が連続して実行される事象を創出することが可能となる。

【４２０７】

そして、本第８制御例では、時短状態中に実行される特別図柄抽選の実行順序に基づいて成立する第２時短終了条件として、同一種別の特別図柄抽選が連続して実行されたことに基づいて成立する第２時短終了条件を設定可能に構成している。よって、不利時短状態が設定されている遊技者に対して、第２時短終了条件を成立させるために、ロング開放当たり遊技が実行されることを期待しながら遊技を行わせることができる。

【４２０８】

また、同一種別の特別図柄抽選を連続して実行させるためには、ロング開放当たり遊技を実行させなくとも、例えば、新たな特図保留を獲得できない状態、つまり、上限数まで特図保留が保留記憶されている状態で振り分けユニット１０６４内へと遊技球を流入させる遊技を実行させることが考えられる。例えば、新たな特別図柄変動が実行され難い状態、例えば、大当たり遊技中に左打ち遊技を実行し、特図１保留および特図２保留を上限数まで獲得した状態で、さらに振り分けユニット１０６４内へと遊技球を流入させることで振り分け部材９００の位置を可変させる遊技を実行させることが考えられる。

【４２０９】

本第８制御例では、大当たり遊技中において、振り分け部材９００の位置を特定することにより、特図１保留と特図２保留の獲得状況（獲得順序）に基づいて、同一種別の特別図柄に対応する特図保留を連続して獲得可能な状態を創出するための案内演出（図３３３（ｂ）参照）を実行可能に構成している。このように構成することで、右打ち遊技が実行される大当たり遊技中において、実行される案内演出の内容に基づいて左打ち遊技を実行することにより遊技者に有利な遊技を実行させることができるという斬新な遊技性を提供することができる。

【４２１０】

＜第８制御例における演出内容について＞

ここで、図３３２～図３３３を参照して、本第８制御例におけるパチンコ機１０にて実行される演出内容について説明する。

【４２１１】

本第８制御例では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）とを設定可能に構成しており、さらに、時短状態として有利時短状態（大当たり遊技終了後に設定される時短状態、及び、時短当選した場合に低確率で設定される時短状態）と、不利時短状態（時短当選した場合に高確率で設定される時短状態）と、を設定可能に構成している。

【４２１２】

不利時短状態は、実際には普通図柄の高確率状態が設定されているが、有利時短状態と比べて右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させ難く構成しており、実質通常状態（普通図柄の低確率状態）と同程度しか右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させることが出来ない時短状態である。よって、時短状態が設定されている場合であっても、不利時短状態が設定されている場合には、通常状態が設定されている場合と同様に、右打ち遊技によって右第２入球口１６４０へと遊技球を入球させる遊技よりも、左打ち遊技によって振り分けユニット１０６４へと遊技球を流入させる遊技を行った方が、遊技者に有利な遊技となるように構成している。

【４２１３】

通常状態で特別図柄の大当たりに当選した場合には、不利時短状態で特別図柄の大当たりに当選した場合よりも有利な特典（例えば、大当たり遊技のラウンド数が多い等）が付与されるように構成している。したがって、不利時短状態は、通常状態よりも遊技者に不利な遊技状態となる。一方、有利時短状態は、右第２入球口１６４０へと遊技球を比較的入球させ易くなるように普図当たり遊技が実行されるように構成しており、右打ち遊技が遊技者に有利な遊技となるように構成している。よって、不利時短状態、通常状態、有利時短状態の順に遊技者に有利な遊技状態となる。

【４２１４】

詳細は後述するが、不利時短状態は、特別図柄抽選において実行される時短抽選において時短当選した場合にその変動表示が終了した後に設定され得る遊技状態であり、本第８制御例では、時短抽選において高い確率（２９９／３００）で時短当選する構成としている。不利時短状態の終了条件は不利時短に当選した特別図柄の種別によって異なり、第１特別図柄で不利時短当選した場合には、第１特別図柄の変動表示が１回実行された場合（即ち、第１特別図柄の変動表示が連続して実行された場合）、または第１特別図柄と第２特別図柄の変動表示が合算で１００回実行された場合に不利時短状態が終了する。一方、第２特別図柄で不利時短当選した場合には、第２特別図柄の変動表示が１回実行された場合（即ち、第２特別図柄の変動表示が連続して実行された場合）、または第１特別図柄と第２特別図柄の変動表示が合算で１００回実行された場合に不利時短状態が終了するように構成している。

【４２１５】

上述した通り、本制御例における遊技機１３では、振り分けユニット１０６４（図３３０参照）に入球した遊技球を振り分け部材９００（図３３１参照）によって、その下方に配置された第１入球口６４ａ（図３３１参照）と第２入球口１６４１（図３３１参照）とに交互に振り分け、第１入球口６４ａ（図３３１参照）に入賞した場合には第１特別図柄の抽選が実行され、第２入球口１６４１（図３３１参照）に入賞した場合には第２特別図柄の抽選が実行される。そして、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選はそれぞれ対応する入球口に遊技球が入賞した順で実行される。例えば、第１入球口６４ａ（図３３１参照）、第２入球口１６４１（図３３１参照）の順に入賞した場合には、第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選の順に実行される。このように第１特別図柄の抽選結果を示すための変動表示、或いは第２特別図柄の抽選結果を示すための変動表示の何れか一方が連続して実行され難く構成している。

【４２１６】
ここで、本制御例において、何れかの特別図柄種別の変動表示が連続して実行される場合の一例について説明する。遊技機１３では、上述したように、振り分け部材９００（図３３１参照）によって遊技球が第１入球口６４ａ（図３３１参照）と第２入球口１６４１（図３３１参照）とに振り分けられる構成であるが、各特別図柄の入賞情報はそれぞれ最大４個まで保留される。そして、各特別図柄の保留数が上限数（本制御例では、４個）に達している状態で、遊技球が対応する入球口に新たに入賞した場合には、その入賞情報は保留されない（以下、オーバーフロー入賞という）。そして、両特別図柄の保留数が上限数まで達している状態（本制御例では、第１特別図柄の保留数と第２特別図柄の保留数が合計８個貯まっている状態）で遊技球が振り分けユニット１０６４（図３３０参照）に入球した場合に、振り分け部材９００（図３３１参照）は８個目の保留の特別図柄種別に対応する入球口とは異なる入球口に遊技球を振り分けるが、オーバーフロー入賞となりその入賞情報は保留されない。なお、振り分け部材９００（図３３１参照）は、遊技球を振り分けたことにより位置が可変するため、次回振り分けユニット１０６４（図３３１参照）に入球した遊技球を、８個目の保留の特別図柄種別に対応する入球口に振り分けることが可能となり、８個目の保留と同種の特別図柄種別の変動表示を連続して実行することが可能となることで、不利時短状態を終了させることができる。このように構成することで、不利時短状態を終了させるために保留を貯めようと遊技者に遊技球の発射を意欲的に行わせることができる。

【４２１７】
なお、本制御例では、第１特別図柄および第２特別図柄の入賞情報は、最大４個まで保留されるように構成したが、最大保留球数は４個に限定されるものでなく、３個以下（例えば、２個）、又は、５個以上の保留球数（例えば、８個）に設定しても良い。また、小表示領域Ｄｍ１９における保留図柄の表示に代えて、保留球数を第３図柄表示装置８１の一部に数字で、或いは、４つに区画された領域を保留球数分だけ異なる態様（例えば、色や点灯パターン）にして表示するようにしても良い。また、第１図柄表示装置３７により保留球数が示されるので、第３図柄表示装置８１に保留球数を表示させないものとしてもよい。

【４２１８】
図３３２（ａ）は、不利時短状態でオーバーフロー入賞によって第２特別図柄保留を連続で獲得した場合に表示される表示画面の一例である。不利時短状態が設定されている場合には、小表示領域Ｄｍ１２においてチャンス変動までの残変動回数が表示され、それぞれの特別図柄の変動表示が実行されると１ずつ減算されて更新される。なお、本制御例におけるチャンス変動とは、通常状態中に実行された特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄の変動表示のことを指す。このように、現在の遊技状態が通常状態か不利時短状態かを遊技者が判別できる構成とし、チャンス変動までの残変動回数に応じて遊技を継続するか否かを遊技者が判断し易くしている。

【４２１９】
小表示領域Ｄｍ１では第１特別図柄が停止表示されており、小表示領域Ｄｍ２では第２特別図柄が変動表示中であり、どちらの特別図柄の変動中であるかを遊技者が容易に判別できる構成としている。

【４２２０】
小表示領域Ｄｍ１９には特別図柄の保留図柄が表示されており、斜線で塗られた丸が第１特別図柄の保留を示し、黒で塗られた丸が第２特別図柄の保留を示している。図３３２（ａ）に示した表示画面は、第１特別図柄の保留数が３個、第２特別図柄の保留数が４個であることを示しており、保留図柄ｈｒ６と保留図柄ｈｒ７は第２特別図柄の入賞情報を示す保留図柄であるため、第２特別図柄の変動表示が連続して実行されることとなる。上述したように、一方の特別図柄の変動表示が連続して実行された場合には不利時短状態が終了するため、保留図柄ｈｒ７に基づく特別図柄の変動停止により不利時短状態が終了し、保留図柄ｈｒ７に基づく特別図柄の変動停止後、次に実行される特別図柄の変動表示が

チャンス変動となる。
【４２２１】
ここで、小表示領域Ｄｍ１２に示す表示を特別図柄の変動表示が実行される毎に１ずつ減算する場合、保留図柄ｈｒ７に基づく特別図柄の変動表示が実行された場合に、「チャンス変動まであと７３回」と表示されることになり、実際にチャンス変動が実行されるまでの残変動回数と小表示領域Ｄｍ１２に表示される残変動回数とが一致せず、遊技者に遊技情報に対する不信感を与えてしまう虞がある。
【４２２２】
そこで、本制御例では、図３３２（ａ）に示すような不利時短状態の終了条件が成立することを先読みし、小表示領域Ｄｍ１２に表示されるチャンス変動までの残変動回数とチャンス変動が実行される（即ち、通常状態が設定される）までの残変動回数とが一致しない場合に、小表示領域Ｄｍ１２に表示されるチャンス変動までの残変動回数が短縮される演出を小表示領域Ｄｍ１７にて実行することで、実際にチャンス変動が実行されるまでの残変動回数と小表示領域Ｄｍ１２に表示される残変動回数とを一致させ、正しい遊技情報を提供する構成している。
【４２２３】
また、本制御例では、図３３２（ａ）に示す通り、保留図柄ｈｒ６と保留図柄ｈｒ７の上部に「ラッキー」と表示することで不利時短状態の終了条件が成立することを遊技者に事前に示唆する構成としている。このように構成することで、どの保留でチャンス変動が実行されるのかを遊技者が認識し易くなるため、遊技者が注目するべき変動を分かり易くすることができる。
【４２２４】
なお、本制御例では、小表示領域Ｄｍ１２においてチャンス変動までの残変動回数を表示し、特別図柄の変動表示が実行される毎に１ずつ減算される構成としたが、これに限るものではない。例えば、ポイントを貯める演出とし、特定数のポイント（例えば、１００ポイント）が貯まるとチャンス変動が実行される構成としても良い。この場合、特別図柄の変動表示が実行される毎に１ポイント加算され、同種の特別図柄の変動表示が連続して実行された場合には、ＭＡＸまでポイントが貯まる構成とすることで遊技者に違和感を与えない演出とすることができる。
【４２２５】
なお、本制御例では、同種の特別図柄の変動表示が連続して実行された後に不利時短状態が終了し、次に実行される特別図柄の変動表示をチャンス変動としたが、これに限るものではなく、同種の特別図柄の変動表示が連続する場合に、後に実行される特別図柄の変動表示開始時に不利時短状態を終了し、チャンス変動とする構成としても良い。
【４２２６】
図３３２（ｂ）は、普通図柄の当たりに当選し、普通図柄の当たり遊技として右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に付随する電動役物１６４０ａ（図３３０参照）がロング開放されている場合に表示される表示画面の一例である。小表示領域Ｄｍ１１に普通図柄の当たりに当選したことを示す表示態様が表示され、普通図柄の当たり遊技が実行されると、小表示領域Ｄｍ４には普通図柄の当たり遊技における遊技方法を遊技者に案内するために「右打ち」と表示され、小表示領域ｄｍ１８に右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に付随する電動役物１６４０ａ（図３３０参照）が開放状態であることを示す表示がされ、副表示領域Ｄｓに「右打ちして電チューを狙え」と表示される。これにより、遊技者に右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に向かって遊技球を発射する遊技を行うことを分かり易く案内し、遊技状態に適した遊技方法で遊技させることができる。
【４２２７】
ここで、右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に遊技球が入賞した場合には、第２特別図柄の入賞情報が保留される。図３３２（ｂ）の場合、小表示領域Ｄｍ１９に表示されている最後尾の保留図柄ｈｒ５は第２特別図柄の保留図柄であるため、右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に遊技球を入賞させると第２特別図柄の変動表示を連続して実

行させることが可能となり、不利時短状態を終了させることができる。したがって、遊技者に右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に遊技球を入賞させると有利となることを報知するために、主表示領域Ｄｍにて「チャンス変動ゲットのチャンス」と表示される。このように構成することで、右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に遊技球を入賞させようと強く思わせることが可能となり、意欲的に遊技を行わせることができる。

【４２２８】

なお、既に第２特別図柄の保留が３個貯まっている状態で小表示領域Ｄｍ１９に表示されている最後尾の保留図柄（例えば、保留図柄ｈｒ６）が第１特別図柄の保留図柄である場合には、右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に複数個の遊技球を入賞させても第２特別図柄の入賞情報は１個しか保留されないため、第２特別図柄の変動表示を連続して実行させることができない。したがって、右側第２入球口１６４０（図３３０参照）に遊技球を入賞させても不利時短状態の終了条件が成立し得ない場合には、異なる表示態様（例えば、「保留を貯めるチャンス」等の表示）を主表示領域Ｄｍに表示する構成としても良い。このように構成することで、適切な遊技情報を遊技者に提供することが可能となり、遊技情報の信頼性を高くすることができる。

【４２２９】

図３３３（ａ）は、不利時短状態が終了することを示唆する場合に表示される表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍ１２には「チャンス変動まであと３回」と表示されており、不利時短状態が設定されてからの第１特別図柄と第２特別図柄の変動表示が合算で９８回行われたことを示している。つまり、保留図柄ｈｒ２に基づく特別図柄の変動表示が終了すると第１特別図柄と第２特別図柄の変動表示が合算で１００回実行され、不利時短状態の終了条件が成立する。この場合、保留図柄ｈｒ３に基づく特別図柄の抽選は通常状態で実行されることとなるため、通常状態で特別図柄の抽選が実行されることを示唆するために保留図柄ｈｒ３は第１特別図柄の入賞情報に対応する保留図柄と第２特別図柄の入賞情報に対応する保留図柄とは異なる表示態様（白色の丸に星形の模様が表示された保留図柄）で表示され、保留図柄ｈｒ３の上部には「注目」と表示される。このように構成することで、遊技者は保留図柄ｈｒ３に基づく特別図柄の変動表示がチャンス変動であることを認識し易くなり、保留図柄ｈｒ３に基づく変動表示が実行されるまでの期間で遊技者の保留図柄ｈｒ３に基づいて実行される特別図柄の変動表示に対する期待感を高めることができる。

【４２３０】

また、主表示領域Ｄｍには「今回のチャンス変動はラッキー変動かも」と表示されているが、これは保留図柄ｈｒ３の入賞情報を先読みした結果を示唆するものであり、この場合、保留図柄ｈｒ３に基づく特別図柄の抽選結果が大当たり当選である可能性が高いことを示唆している。これにより、遊技者の保留図柄ｈｒ３に基づいて実行される特別図柄の変動表示に対する期待感を更に高めることができる。

【４２３１】

なお、本制御例では、主表示領域Ｄｍにおいて保留図柄ｈｒ３の先読み結果を示唆し、小表示領域Ｄｍ１９に表示される保留図柄ｈｒ３の表示態様によって保留図柄ｈｒ３に基づく特別図柄の抽選が通常状態で実行されることを示唆する構成としたが、これに限るものではない。保留図柄ｈｒ３の表示態様によって先読み結果も併せて示唆する構成としても良く、例えば、保留図柄の色を可変させることで大当たり当選の期待度を報知する構成としても良い。

【４２３２】

図３３３（ｂ）は、通常大当たりに当選したことに基づく大当たり遊技中のエンディング期間に表示される表示画面の一例である。小表示領域Ｄｍには通常大当たりに当選したことを示す表示態様が表示され、小表示領域Ｄｍ５には「エンディング」と表示されることで、大当たり遊技のエンディング期間であることを遊技者に報知している。

【４２３３】

詳細は後述するが、本制御例では、第１特別図柄で大当たり当選した方が、第２特別図

柄で大当たり当選した場合よりも遊技者に有利となるように構成している。そして、通常大当たり当選後の大当たり遊技が終了すると、大当たり遊技終了後最初の特別図柄の抽選は通常状態で実行される。したがって、副表示領域Ｄｓにおいて「ラッキー、通常変動が特図１から始まるよ」と表示することで、遊技者に大当たり遊技終了後の最初に実行される特別図柄の抽選が遊技者に有利な第１特別図柄で実行されることを事前に報知し、遊技者に大当たり遊技終了後の特別図柄の変動表示にも興味を持たせることができる。なお、大当たり遊技終了後の最初の特別図柄の抽選が第２特別図柄で実行される場合には、異なる表示態様（例えば、「ラッキー」を表示しない表示態様）が表示される。

【４２３４】

大当たり遊技中は特別図柄の変動表示が実行されないため、遊技者が保留を貯め易い期間である。上述したように、各特別図柄の保留数が上限数に達している場合に振り分けユニット１６４０（図３３０参照）に遊技球が入球すると入賞情報は保留されないが振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を可変させることができる。そして、本制御例では、振り分け部材９００の位置を、回転センサ９９０（図示しない）によって識別可能に構成されている。したがって、本制御例では、保留図柄ｈｒ８に対応する特別図柄種別と振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を識別し、オーバーフロー入賞により振り分け部材の位置を可変させる方が遊技者に有利となるか否かを報知する構成としている。

【４２３５】

具体的には、次回入賞情報が保留可能な状態となった場合に、小表示領域ｄｍ１９の最後尾に表示されている保留図柄に対応する特別図柄種別と同種の特別図柄種別の入賞情報が保留可能な状態ではない場合、つまり、オーバーフロー入賞により振り分け部材９００の位置を可変させることで同種の特別図柄種別の入賞情報が保留可能な状態とすることができる場合には、図３３３（ｂ）に示すように、主表示領域Ｄｍの中央部に「大当たりが終了するまでにへそに球を１個入れると大チャンス」と表示され、小表示領域Ｄｍ１８に現在の振り分け部材９００（図３３１参照）の位置に対応する模式図が表示されることで、遊技者に振り分けユニット１６４０（図３３０参照）に遊技球を入球させることを促す演出が実行される。このように構成することで、遊技者に大当たりのエンディング期間にも遊技球を発射させる遊技を楽しませることができる。

【４２３６】

なお、次回入賞情報が保留可能な状態となった場合に、小表示領域ｄｍ１９の最後尾に表示されている保留図柄に対応する特別図柄種別と同種の特別図柄種別の入賞情報が保留可能な状態である場合には、オーバーフロー入賞により振り分け部材９００（図３３１参照）の位置が可変することで、同種の特別図柄種別の入賞情報が保留可能な状態ではなくなってしまうため、主表示領域Ｄｍの中央部に「大当たりが終了するまでにへそに球を１個入れると大チャンス」の表示はされない。

【４２３７】

なお、次回入賞情報が保留可能な状態となった場合に、小表示領域ｄｍ１９の最後尾に表示されている保留図柄に対応する特別図柄種別と同種の特別図柄種別の入賞情報が保留可能な状態である場合には、主表示領域Ｄｍの中央部にオーバーフロー入賞が不利であることを報知する表示態様が表示される構成としても良い。このように構成することで、遊技者にオーバーフロー入賞が有利な状態であるか不利な状態であるかを判断させ易くなる。

【４２３８】

なお、本制御例では、回転センサ９９０によって、振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を判別する構成としたが、それに限らず、入球した入球口により振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を毎回判別するように構成してもよい。具体的には、第１入球口６４ａ（図３３１参照）に入球したことに基づいて、振り分け部材９００（図３３１参照）は収容部９００ｃ（図３３１参照）が上方を向いている状態として判別するように構成する。このように構成することで、専用のセンサ等を設けなくても、振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を判別できる。また、振り分け部材９００（図３３１参照）

が振動等で回動してしまったとしても、毎回入球口に入球する毎に、位置を更新して判別することで、正しく振り分け部材９００（図３３１参照）の位置を判別できる。

【４２３９】

＜第８制御例における電気的構成について＞

次に、図３３４から図３３８を参照して、本第８制御例における電気的構成の内容について説明をする。本第８制御例は、上述した第５制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成の一部、ＲＡＭ２０３の構成の一部、及び音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違している。なお、上述した第５制御例と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【４２４０】

まず、図３３４（ａ）を参照して、本第８制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。本第８制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０のＲＯＭ２０２（図２４４（ａ）参照）に対して、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂに代えて変動パターン選択８テーブル２０２ｇｂを、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄに代えて大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄを、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに代えて時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅを、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに代えて時短種別選択８テーブル２０２ｇｆを設けた点で相違している。

【４２４１】

大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄは、上述した大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄと同様に、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定される大当たり種別を選択する際に参照されるデータテーブルである。上述した第５制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図１大当たり用５テーブル２０２ｄｄ１と、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される特図２大当たり用５テーブル２０２ｄｄ２と、を有していたが、本第８制御例では、特別図柄種別に関わらず同一の振り分け内容で大当たり種別を選択するように構成しているため、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄが参照される。

【４２４２】

ここで、図３３５（ａ）を参照して、大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄの詳細な内容について説明をする。図３３５（ａ）は、大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄの内容を模式的に示した図である。図３３５（ａ）に示した通り、大当たり種別選択８テーブル２０２ｇｄには、大当たり当選した時点において設定されている遊技状態と、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、に対応付けて大当たり種別（大当たりＡ８、大当たりＢ８）が規定されている。

【４２４３】

具体的には、大当たり当選時の遊技状態が通常（通常状態）では、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９４」の範囲に対して「大当たりＡ８」が、「９５～９９」の範囲に対して「大当たりＢ８」が、それぞれ規定されている。また、大当たり当選時の遊技状態が通常（通常状態）以外、即ち、時短状態、又は確変状態では、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して「大当たりＡ８」が、「５０～９９」の範囲に対して「大当たりＢ８」が、それぞれ規定されている。

【４２４４】

大当たり種別「大当たりＡ８」は、大当たりのラウンド数が１６ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「６０」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「６０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｉの値に「０」が設定される。

【４２４５】
第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ８」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）は、通常状態では９５個（０～９４）であるので、通常状態において特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、「大当たりＡ８」が決定される割合は９５％（９５／１００）である。一方、通常状態以外では５０個（０～４９）であるので、通常状態以外の遊技状態において特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、「大当たりＡ８」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。
【４２４６】
大当たり種別「大当たりＢ８」は、大当たりのラウンド数が６ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「６０」が、確変カウンタ２０３ｉの値に「６０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変カウンタ２０３ｉの値に「０」が設定される。
【４２４７】
第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ８」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）は、通常状態では５個（９５～９９）であるので、通常状態において特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、「大当たりＢ８」が決定される割合は５％（５／１００）である。一方、通常状態以外では５０個（５０～９９）であるので、通常状態以外の遊技状態において特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、「大当たりＢ８」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。
【４２４８】
つまり、本第８制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合において、設定されている遊技状態に応じて設定される大当たり種別の選択割合を異ならせており、通常状態中に大当たり当選した場合の方が、通常状態以外で大当たり当選した場合よりも、遊技者に有利な大当たり種別（大当たりＡ８）が選択され易くなるように構成している。
【４２４９】
このように構成することで、通常状態中に多くの特別図柄抽選が実行されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせることができる。
【４２５０】
次に、時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅについて説明をする。この時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅは、特別図柄抽選の結果が大当たり当選以外（外れ）である場合に実行される時短判定にて参照されるデータテーブルであって、時短当選の有無を判定するために用いられるものである。
【４２５１】
ここで、図３３５（ｂ）を参照して、時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅの内容について説明をする。図３３５（ｂ）は、時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３３５（ｂ）に示した通り、時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅには、特別図柄種別（特図種別）と、遊技状態と、に対応させて時短当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（範囲）が規定されている。
【４２５２】
具体的には、特別図柄種別が第１特別図柄抽選で、遊技状態が通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）の場合には、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３～８９９」の範囲が時短当選の判定値として規定されている。また、遊技状態が通常状態以外である場合には、時短当選の判定値が規定されていない（図では「－」で表示）。同様に、特別図柄種別が第２特別図柄抽選で、遊技状態が通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）の場合には、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３～８９９」の範囲が時短当選の判定値として規定されている。また、遊技状態が通常状態以外である場合には、時短当選の判定値が規定されていない（図では「－」で表示）。

【４２５３】
ここで、本第８制御例では、特別図柄抽選において時短当選の判定（時短抽選）が、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった場合、即ち、大当たり抽選で外れ当選した場合に実行されるように構成しており、通常状態において実行される特別図柄抽選にて大当たり当選したと判別される第１当たり乱数カウンタＣ１の値として「０～２」の範囲が規定されている（第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａ参照）ことから、通常状態において実行される特別図柄抽選にて大当たり当選しなかった場合には、必ず時短当選するように構成している。
【４２５４】
なお、本第８制御例では、上述した通り、通常状態において実行される特別図柄抽選において外れ当選した場合には必ず時短当選するように時短当たり乱数８テーブル２０２ｇｅの内容を規定しているが、これに限ること無く、通常状態において実行される特別図柄抽選において外れ当選した場合の一部となるように時短当選の判定値の範囲を規定するように構成しても良い。このように構成することで、時短当選すること無く特別図柄抽選を連続して実行させることが可能となる。
【４２５５】
また、本第８制御例では、図３３５（ｂ）に示した通り、時短当選の判定値を特別図柄種別に関わらず同一としているが、これに限ること無く、特別図柄種別に応じて異なる判定値を規定しても良い。例えば、通常状態中に第１特別図柄抽選が実行された場合の方が、第２特別図柄抽選が実行された場合よりも、時短当選し難くなるように構成しても良い。このように、通常状態中に実行される特別図柄抽選の種別に応じて、時短当選する確率を異ならせることにより、実行される特別図柄抽選の種別によって、通常状態中に連続して実行される特別図柄抽選の回数を異ならせ易くすることができるため、遊技者に対して、通常状態中に何れの特別図柄種別の特別図柄抽選が実行されたのか（されるのか）について興味を持たせることができる。
【４２５６】
なお、通常状態中に実行される特別図柄抽選の種別に応じて、時短当選する確率を異ならせる場合には、複数の特別図柄種別のうち、通常状態中に遊技者に有利となる特別図柄抽選が実行される（大当たり当選時に遊技者に有利な特典が付与され易い）特別図柄種別（例えば、第１特別図柄）の方が、時短当選し難くなるように構成すると良い。このように構成することで、通常状態中に第１特別図柄抽選が実行されることで、その抽選結果が大当たり当選である場合には、遊技者に有利となる特典が付与され易く、且つ、大当たり当選以外である場合には、再度、通常状態にて特別図柄抽選を実行させ易くすることができるため、遊技者により有利な特別図柄種別とすることができる。
【４２５７】
また、本第８制御例のように、基本的に第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とが交互に実行され易くなるように構成し、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが遊技者に不利な特別図柄抽選が実行されるように構成している場合には、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選の方が、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選よりも時短当選し難くなるように構成しても良い。このように構成することで、通常状態が設定された状態で最初に実行される特別図柄抽選が第２特別図柄抽選であったとしても、その後、通常状態を継続したまま第１特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。このように構成することで、例えば、不利時短状態を終了させ、不利時短状態よりも遊技者に有利となる通常状態が設定された場合に、遊技者に不利となる第２特別図柄抽選が１回実行されただけで再度不利時短状態が設定されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【４２５８】
また、図３３５（ｂ）に示した通り、本第８制御例では、通常状態が設定されている場合のみ時短当選の判定（時短抽選）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、他の遊技状態が設定されている場合であっても、時短当選の判定（時短抽選）を実行

するように構成しても良い。
【４２５９】
例えば、時短状態のうち、遊技者に不利となる不利時短状態（特定の時短種別に時短当選した場合に設定される時短状態）が設定されている場合にも、時短当選の判定（時短抽選）を実行可能に構成し、不利時短状態中に時短当選した場合には、即座に時短終了条件が成立する短縮時短状態が設定されるように構成すると良い。このように構成することで、不利時短状態中の遊技を行っている遊技者に対して、不利時短状態を終了させるために、時短終了条件の成立を目指す遊技と、時短当選を目指す遊技と、を並行して実行させることができる。
【４２６０】
それ以外にも、不利時短状態中に時短当選した場合には、大当たり遊技終了後に設定される時短状態（有利時短状態）へと移行するように構成しても良いし、有利時短状態中にも時短当選の判定（時短抽選）を実行可能に構成し、有利時短状態中に時短当選した場合には、不利時短状態へと移行するように構成しても良い。
【４２６１】
このように、既に時短状態が設定されている状況で時短当選の判定（時短抽選）を実行可能に構成し、時短当選した場合に、設定されている時短状態とは有利度合いを異ならせた時短状態へと移行可能に構成することで、時短当選した方が良い期間（不利時短状態が設定されている期間）と、時短当選しない方が良い期間（有利時短状態が設定されている期間）と、を設けることができる。なお、本第８制御例では、通常状態中に時短当選することで、有利時短状態よりも不利時短状態が設定され易くなるように構成しているため、通常状態が設定されている期間は、時短当選しない方が良い期間となる。
【４２６２】
この場合、例えば、時短当選の結果を遊技者に示唆するための演出の内容を、時短当選の結果に加え、設定されている遊技状態に応じて異ならせるように構成すると良く、時短当選した方が良い期間（不利時短状態が設定されている期間）にて時短当選した場合には、遊技者を祝福する演出態様を設定し、時短当選しない方が良い期間（有利時短状態が設定されている期間）にて時短当選した場合には、遊技者を落胆させる演出態様を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、同一の時短抽選の結果に対して、遊技者の有利度合いに対応させた演出態様で演出を実行することができるため、遊技者に分かり易く遊技を提供することができる。
【４２６３】
図３３４（ａ）に戻り説明を続ける。変動パターン選択８テーブル２０２ｇｂは、上述した第５制御例における変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂと同様に、特別図柄抽選の結果を示すために実行される特別図柄変動の変動パターンが規定されているデータテーブルであって、遊技状態として、確変状態、或いは時短状態が設定されている状態で参照されるデータテーブルとして、確変・時短用８テーブル２０２ｄｂ２（図２４８（ａ）参照）に代えて確変・時短用８テーブル２０２ｄｂ２（図３３６（ａ）参照）を設けている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。
【４２６４】
ここで、図３３６（ａ）を参照して、確変・時短用８テーブル２０２ｄｂ２の詳細な内容について説明をする。図３３６（ａ）は、確変・時短用８テーブル２０２ｄｂ２に規定されている内容を模式的に示した図である。図３３６（ａ）に示した通り、確変・時短用８テーブル２０２ｄｂ２には、獲得している特図保留数（特図１保留数、特図２保留数）に応じて異なる変動時間の変動パターンが規定されている点で相違している。
【４２６５】
なお、図３３６（ａ）に示した通り、本第８制御例では、上述した各制御例と同様に、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に応じて異なる変動時間の変動パターンが規定されているが、変動種別カウンタＣＳ１の値の各範囲に対して規定される変動パターンに関する図示を省略している。

【４２６６】
具体的には、時短種別が「大当たり後時短（大当たり遊技終了後に設定される普通図柄の高確率状態）」中は、特図１保留数（０～４）、特図２保留数（０～４）の各値、及び、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に対応して様々な変動パターンが規定されており、選択された変動パターンに応じて「５～９０秒」の変動時間で特別図柄変動が実行されるように構成している。詳細な説明は省略するが、上述した各制御例と同様に、特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合のほうが、大当たり当選していない場合よりも長い変動時間（９０秒）に対応する変動パターンが選択され易くなるように、変動種別カウンタＣＳ１の値と、特別図柄抽選の結果と、に対応付けて各種変動パターンが規定されている。
【４２６７】
また、特図保留数が多い方が、少ない場合よりも短い変動時間（例えば５秒）に対応する変動パターンが選択され易くなるように、変動種別カウンタＣＳ１の値と、特図保留数の値と、に対応付けて各種変動パターンが規定されている。
【４２６８】
次に、時短種別が「時短Ａ８」中は、特図１保留数が「０～２」で、特図２保留数が「０～２」の場合は、「５～９０秒」の変動時間に対応した各種変動パターンが規定されており、特図１保留数が「０～２」で、特図２保留数が「３，４」の場合は、「５～６０秒」の変動時間に対応した各種短変動パターンが規定されている。また、特図１保留数が「３」で、特図２保留数が「０～２」の場合は、「５～６０秒」の変動時間に対応した各種短変動パターンが規定されており、特図１保留数が「３」で、特図２保留数が「３，４」の場合は、「５秒」の変動時間に対応した短変動パターンが規定されている。
【４２６９】
さらに、また、特図１保留数が「４」で、特図２保留数が「０～２」の場合は、「５～６０秒」の変動時間に対応した各種短変動パターンが規定されており、特図１保留数が「３」で、特図２保留数が「３，４」の場合は、「５秒」の変動時間に対応した短変動パターンが規定されている。
【４２７０】
ここで、本第８制御例では、第１入球口６４、第２入球口１６４１、右第２入球口１６４０へと遊技球が入球した順（入賞順）に対応させて特別図柄抽選を実行するように構成しており、獲得している特図１保留数と特図２保留数とに基づいて変動パターンを選択するように構成しており、各特図保留数が少ない場合よりも、多い場合のほうが、短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成している。このように構成することで、特図保留数を多く獲得している状態のほうが、短い変動時間で特別図柄抽選を実行させ易くすることができるため、特図１保留数と特図２保留数とが何れも上限数に到達する事態を発生させ難くすることができる。
【４２７１】
このように構成することで、特図１保留数と特図２保留数とが何れも上限数に到達している状態で振り分けユニット１０６４へと遊技球を流入させ、振り分け部材９００の位置を可変させることにより同一種別の特図保留を連続して獲得する遊技を行わせ難くすることができる。
【４２７２】
なお、特図保留数が上限数に近い状態であっても、低確率（例えば、１／１００）で比較的長い変動時間の変動パターンを選択可能に構成しても良い。このように構成することで、一時的に特図保留数を上限数に到達させた状態で振り分けユニット１０６４へと遊技球を流入させ易い期間を創出することが可能となる。
【４２７３】
次に、時短種別が「時短Ｂ８」中は、特図１保留数（０～４）、特図２保留数（０～４）の各値、及び、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に対応して様々な変動パターンが規定されており、選択された変動パターンに応じて「５～６０秒」の変動時間で特別図柄

変動が実行されるように構成している。詳細な説明は省略するが、上述した各制御例と同様に、特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合のほうが、大当たり当選していない場合よりも長い変動時間（９０秒）に対応する変動パターンが選択され易くなるように、変動種別カウンタＣＳ１の値と、特別図柄抽選の結果と、に対応付けて各種短変動パターンが規定されている。

【４２７４】

時短種別選択８テーブル２０２ｇｆは、時短当選した場合に設定される時短種別を選択する際に参照されるデータテーブルであって、上述した第５制御例における時短種別選択５テーブル２０２ｄｆ（図２４８（ｂ）参照）に代えて設けられているものである。

【４２７５】

ここで、図３３６（ｂ）を参照して、時短種別選択８テーブル２０２ｇｆの詳細な内容について説明をする。図３３６（ｂ）は、時短種別選択８テーブル２０２ｇｆに規定されている内容を示した図である。

【４２７６】

図３３６（ｂ）に示した通り、本第８制御例では、第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選し得るように構成しており（図３３５（ａ）参照）、時短種別の選択割合を、第１特別図柄抽選で時短当選した場合と、第２特別図柄抽選で時短当選した場合とで異ならせるように構成している。

【４２７７】

具体的には、図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」の場合は、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９５」の範囲に対して時短種別「時短Ａ８ａ」が、「９６～９９」の範囲に対して時短種別「時短Ｂ８」が規定されており、図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」の場合は、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９８」の範囲に対して時短種別「時短Ａ８ｂ」が、「９９」の値に対して時短種別「時短Ｂ８」が規定されている。

【４２７８】

ここで、本第８制御例では、時短種別として「時短Ａ８（時短Ａ８ａ、時短Ａ８ｂ）」が設定された場合には、通常状態よりも遊技者に不利となる不利時短状態が設定され、「時短Ｂ８」が設定された場合には、通常状態よりも遊技者に有利となる有利時短状態が設定されるように構成している。なお、不利時短状態における各種制御内容、即ち、通常状態よりも遊技者に不利となるように普通図柄の高確率状態中の遊技を実行する制御内容については、上述した各制御例において説明をした各技術を採用するため、その詳細な説明を省略するが、例えば、普通図柄抽選で当たり当選する確率は通常状態よりも高確率となるが、実行される普図当たり遊技の開放パターンが遊技球を右第２入球口１６４０へと入球させることが困難となる開放パターンで実行されたり、普通図柄の変動時間として通常状態よりも長い変動時間が選択され易く構成したりすれば良い。

【４２７９】

また、通常状態よりも遊技者に不利となる不利時短状態の定義としては、特別図柄抽選を通常状態よりも実行させ難くすることで遊技者に不利とする技術思想は勿論のこと、特別図柄抽選の実行のし易さは同等、或いは、若干通常状態のほうが実行し難い場合であっても、実行される特別図柄抽選に基づいて付与される特典を遊技者に不利とする技術思想も勿論含まれる。

【４２８０】

「時短Ａ８ａ」が設定された場合、即ち、特図１抽選で時短当選した場合の９５％は、不利時短状態が設定される。そして、不利時短状態の終了条件として、時短状態中に実行される特別図柄抽選の回数が１００回に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、時短状態が設定された後に実行される特別図柄抽選が特図１抽選である場合に成立する第２時短終了条件と、が設定される。つまり、特図１保留を２個連続で獲得している場合、即ち、特図１抽選が連続して実行される場合において、第２時短終了条件が成立するように構成している。

【４２８１】
このように構成することで、特図１抽選で時短当選し不利時短状態が設定された場合には、その時短当選した特図１抽選の次に実行される特別図柄抽選の種別が特図１抽選である場合には、不利時短状態中に実行される１回目の特図抽選によって不利時短状態を終了させ、通常状態を設定することができる。よって、遊技者に対して、第１時短終了条件が成立するよりも前に第２時短終了条件が成立することを目指して遊技を行わせることができる。
【４２８２】
なお、本第８制御例では、不利時短状態中に実行される１回目の特図抽選の種別に応じて第２時短終了条件が成立し得るように構成しているが、第１時短終了条件が成立するよりも前に、実行される特別図柄抽選の実行順序に応じて成立し得るものであれば、それ以外の内容を第２時短終了条件として規定しても良い。
【４２８３】
例えば、不利時短状態中において所定の規則に従って複数の特図抽選が実行された場合に成立する第２時短終了条件を規定しても良いし、連続する複数の特図抽選の結果や、連続する複数の特図抽選の結果を示すための特別図柄変動の各変動パターンが所定の規則に該当する場合に成立する第２時短終了条件を規定しても良い。このように構成することで、どのタイミングで第２時短終了条件が成立し、不利時短状態が終了するのかを遊技者に分かり難くすることができる。
【４２８４】
つまり、図３３６（ｂ）に示した通り、本第８制御例では、特図１（第１特別図柄）抽選で時短当選した場合の方が、特図２（第２特別図柄）抽選で時短当選した場合よりも、遊技者に有利となる有利時短状態が設定され易くなる（時短Ｂ８を選択し易くなる）ように構成している。このように構成することで、通常状態において実行される特別図柄抽選の種別に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【４２８５】
図３３４（ｂ）は、本第８制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成を示した図である。図３３４（ｂ）に示した通り、上述した第５制御例におけるＲＡＭ２０３（図２４４（ｂ）参照）に対して、変動実行フラグ２０３ｇａ、変動順格納エリア２０３ｇｂ、時短短縮フラグ２０３ｇｃを追加した点で相違している。それ以外は同一であり、同一の内容には同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【４２８６】
変動実行フラグ２０３ｇａは、第１特別図が優先に変動されるか、第２特別図柄が優先に変動されるかを示すフラグである。なお、このフラグは、電断時にもバックアップされる領域であり、ＲＡＭクリア等された初期状態では、第１特別図柄が優先に設定されている。
【４２８７】
変動順序格納エリア２０３ｇｂは、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａと、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂと、に記憶されている各保留データ（保留図柄）について入賞順序を記憶するエリアである。この変動順序格納エリア２０３ｇｂには、８個の記憶エリアが設定されており入賞した順に先の記憶エリアに順序が記憶される。なお、特別図柄の変動開始に基づいて、記憶エリアもシフトされる。
【４２８８】
時短短縮フラグ２０３ｇｃは、遊技者に不利となる時短状態である不利時短状態（時短種別「時短Ａ８」が設定される時短状態）を短縮させることが可能な期間であることを示すためのフラグであって、不利時短状態を短縮させることが可能な期間である場合にオンに設定される。この時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されている間は、不利時短状態を短縮させるための条件（第２時短終了条件）の成立有無を判別するための処理が実行される。
【４２８９】

次に、図３３７、及び、図３３８を参照して、本第８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有する電気的構成の内容について、上述した第５制御例と相違する点を中心に説明する。なお、上述した第５制御例と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【４２９０】

まず、図３３７（ａ）を参照して、本第８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図３３７（ａ）は、本第８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている構成を模式的に示した図である。図３３７（ａ）に示した通り、本第８制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２２２（図２４９（ａ）参照）に対して、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａを追加した点で相違している。

【４２９１】

先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａは、獲得した特図保留に対する先読み結果を示すための演出（先読み演出）として実行される先読み保留演出（図３３３（ａ）参照）における保留図柄の表示態様を選択する際に参照されるデータテーブルである。本第８制御例では、先読み処理を実行することにより、通常状態中に実行される特別図柄抽選に対応する特図保留を特定可能に構成し、その特図保留に対して先読み保留演出を実行可能に構成している。

【４２９２】

ここで、図３３８を参照して先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａの詳細な内容について説明をする。図３３８は、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａに規定されている内容を模式的に示した図である。図３３８に示した通り、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａには、先読み保留演出の対象となる特図保留に対応する特図種別と、その特図保留に対応する先読み結果（事前判別結果）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値と、に基づいて保留図柄の表示態様が決定されるように各パラメータが規定されている。

【４２９３】

具体的には、特図種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、先読み結果が「大当たり」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「２つ星」が、「８０～９９」の範囲に対して「３つ星」が、それぞれ保留図柄の表示態様として規定されており、先読み結果が「時短Ｂ８」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して「２つ星」が、「５０～９９」の範囲に対して「１つ星」が、それぞれ保留図柄の表示態様として規定されており、先読み結果が「時短Ａ８ａ」、或いは、「外れ」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に対して「１つ星」が保留図柄の表示態様として規定されている。

【４２９４】

つまり、先読み保留演出の対象となる保留図柄の表示態様として、表示される星の数が多くなるほど、遊技者に有利となる特別図柄抽選が通常状態において実行されることを遊技者に示唆可能な先読み保留演出が実行されるように構成している。

【４２９５】

なお、本第８制御例では、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａを用いて選択された表示態様が、そのまま対象となる保留図柄の表示態様となるように表示用コマンドを設定し、通常の表示態様から、先読み保留演出の演出結果を示す表示態様へと保留図柄の表示態様が可変するように構成しているが、これに限ること無く、図３３８を参照して選択された表示態様を、先読み保留演出の最終演出結果として一時的に記憶し、先読み保留演出として、最終的に記憶されている最終演出結果となるように段階的に先読み保留演出の対象となる特図保留の表示態様を可変させるように先読み保留演出を実行するように構成しても良い。この場合、例えば、先読み保留演出の対象となる特図保留に対応する特別図柄抽選よりも前に特別図柄抽選が実行される毎に先読み保留演出の対象となる特図保留の表示態様が可変されるように構成すると良く、この場合、先読み保留演出が実行されてから実際に対象となる特図保留に対応する特別図柄抽選が実行されるまでの間に、多くの特別

図柄抽選が実行される場合の方が、少ない場合よりも最終演出結果に対応する表示態様へと保留図柄の表示態様を可変させ易くなるように構成すると良い。

【４２９６】

このように構成することで、遊技者に対して、常に多くの特図保留を獲得しておこうと意欲的に遊技を行わせることができる。また、先読み保留演出が実行される時点において獲得済みの特図保留数に基づいて、先読み保留演出の演出結果を異ならせ易くすることができるため、例えば、獲得済みの特図保留数に応じて、先読み保留演出の実行有無を判別したり、先読み保留演出の演出結果の内容を可変させること無く、バリエーションに富んだ先読み保留演出を実行し易くすることができる。

【４２９７】

特図種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、先読み結果が「大当たり」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に対して「２つ星」が保留図柄の表示態様として規定されており、先読み結果が「時短Ｂ８」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～２９」の範囲に対して「２つ星」が、「３０～９９」の範囲に対して「１つ星」が、それぞれ保留図柄の表示態様として規定されており、先読み結果が「時短Ａ８ｂ」、或いは、「外れ」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の範囲に対して「１つ星」が保留図柄の表示態様として規定されている。

【４２９８】

本第８制御例では、図３３５（ａ）及び図３３６（ｂ）を参照して上述した通り、通常状態において実行される特別図柄抽選のうち、第１特別図柄抽選の方が、第２特別図柄抽選よりも遊技者に有利な特別図柄抽選が実行されるように構成しており、図３３８に示した通り、先読み保留演出も、対象となる特図保留が特図１保留である場合の方が、特図２保留である場合よりも、遊技者に有利な演出結果（星の数が多い表示態様）となり易くなるように構成している。

【４２９９】

このように構成することで、先読み保留演出の演出結果と、演出対象となる特図保留の種別と、を参照することで先読み結果をより詳細に予測させることが可能となる。

【４３００】

なお、本第８制御例では、図３３３に示した通り、獲得済みの特図保留の種別を遊技者が把握可能となるように、特図１保留に対応する保留図柄と、特図２保留に対応する保留図柄と、が異なる表示態様で表示されるように構成しているが、これに限ること無く、特図１保留に対応する保留図柄と、特図２保留に対応する保留図柄とで同一の表示態様、或いは、遊技者が視認困難な程度の差の表示態様で表示するように構成しても良い。このように構成することで、どのタイミングで第２時短終了条件が成立するのかを遊技者に予測させ難くすることができると共に、先読み保留演出の表示態様に基づいて先読み結果を予測させ難くすることができる。よって、先読み保留演出に対象となる特図保留に対応する特別図柄抽選が実際に実行されるまで遊技者に継続して遊技に興味を持たせ続けることができる。

【４３０１】

さらに、本第８制御例では、通常状態中に実行される特別図柄抽選に対応する特図保留に対してのみ先読み保留演出を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、時短状態（不利時短状態）中に実行される特別図柄抽選に対応する特図保留に対しても先読み保留演出と同等の演出（疑似先読み保留演出）を実行可能に構成しても良い。

【４３０２】

この疑似先読み保留演出を実行する場合には、先読み保留演出と同様に特定の保留図柄に対して表示態様を決定し、図３３３（ａ）に示した通り、特定の保留図柄の表示態様を可変させた疑似先読み保留演出を実行する。そして、疑似先読み保留演出の対象となる特定の保留図柄に対応する特別図柄抽選が実行された場合に、その特図変動期間中に実行される演出として、疑似先読み保留演出が実行されていたことを遊技者に報知するための疑

似先読み保留演出の演出結果を表示するように構成すると良い。
【４３０３】
このように構成することで、不利時短状態が長時間継続する場合においても、先読み保留演出と同等の疑似先読み保留演出を実行することで遊技者に対して飽きの来ない遊技を提供し易くすることができる。また、この場合、先読み結果が大当たり当選である特図保留に対応する保留図柄の方が、先読み結果が大当たり当選では無い特図保留に対応する保留図柄よりも疑似先読み保留演出の対象となり易くなるように構成すると良い。これにより、疑似先読み保留演出が実行されていたことを遊技者に報知するための疑似先読み保留演出の演出結果が表示された場合であっても、大当たり当選している可能性を高めることができるため遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。
【４３０４】
次に、図３３７（ｂ）を参照して、本第８制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図３３７（ｂ）は、本第８制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を示した図である。
【４３０５】
図３３７（ｂ）に示した通り、本第８制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図２４９（ｂ）参照）に対して、振り分け状態格納エリア２２３ｇａ、保留態様格納エリア２２３ｇｂ、不利時短中フラグ２２３ｇｃを追加した点で相違している。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【４３０６】
振り分け状態格納エリア２２３ｇａは、振り分けユニット１０６４内に設けられた振り分け部材９００の位置（振り分け状態）を示すための情報を記憶する記憶エリアである。この振り分け状態格納エリア２２３ｇａには、次に振り分けユニット１０６４へと流入した遊技球が第１入球口６４、第２入球口１６４１の何れに入球するのかを特定するための情報が記憶される。
【４３０７】
本第８制御例では、図３３１（ａ）に示した通り、振り分けユニット１０６４の通過口１０６４ｂを通過した遊技球を検知するための検知手段として入球センサ１０６４ａが設けられており、音声ランプ制御装置１１３が入球センサ１０６４ａの検知結果を判別可能に構成している。そして、主制御装置１１０から出力される入賞コマンドと、入球センサ１０６４ａの検知結果とに基づいて、振り分け部材９００の位置（振り分け状態）を特定可能に構成し、その特定結果に応じた画像アイコンを第３図柄表示装置８１の表示面に表示可能に構成している（図３３３（ｂ）の表示領域Ｄｍ１８参照）。
【４３０８】
これにより、遊技者に対して、次に振り分けユニット１０６４へと遊技球を流入させた場合に、何れの入球口（第１入球口６４、第２入球口１６４１）へと遊技球が誘導されるのかを遊技者に把握させ易くすることができる。
【４３０９】
よって、例えば、大当たり遊技中に複数の遊技球を振り分けユニット１０６４へと流入させるための左打ち遊技を実行し、振り分け部材９００の位置（振り分け状態）に応じて表示される画像アイコンの態様から次に振り分けユニット１０６４へと流入した遊技球が何れの入球口（第１入球口６４、第２入球口１６４１）へと入球するかを判別することで、既に獲得済みの特図保留のうち最後に獲得した特図保留（入賞情報格納エリア２２３ｂの記憶領域のうち、８個目の記憶領域に入賞情報が記憶されている特図保留）に対応する特別図柄種別と同一の特別図柄種別の抽選権利を獲得可能な入球口へと遊技球が誘導される振り分け状態を創出させ易くすることができる。
【４３１０】

なお、本第８制御例では、入球センサ１０６４ａの検知結果と、入賞コマンドに含まれる情報とに基づいて振り分け部材９００の位置（振り分け状態）を特定可能に構成しているがこれに限ること無く、振り分け部材９００の位置（振り分け状態）を直接検知可能な検知手段を設けても良い。

【４３１１】

保留態様格納エリア２２３ｇｂは、先読み保留演出により設定された保留態様を一時的に記憶しておくための記憶領域であって、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａを参照して選択された保留態様（表示態様）が、対応する特図保留を特定するための情報と共に記憶される。そして、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図３４６参照）にて実行される保留個数表示更新処理（図３４６のＳ４１０６参照）において、記憶された情報が読み出される。

【４３１２】

また、詳細な説明は省略するが、保留態様格納エリア２２３ｇｂに情報が記憶されている期間は、新たな先読み保留演出の実行を制限するように構成している。つまり、先読み保留演出が実行されている期間は、獲得している特図保留が全て消化されるまでに時短状態が終了し、通常状態が設定される状態であるため、それ以降に実行される特図抽選に基づいて遊技状態が移行することを先読みしてしまうと、先読み結果と実際の遊技状態移行とが相違する可能性が高くなり、遊技者に対して信頼度の高い演出を実行し難くなるため、先読み保留演出の実行中は、実行中の先読み保留演出の対象となる特図保留以降の特図保留の先読み結果に基づいて遊技状態の移行内容を特定する処理を実行しないように構成している。これにより、音声ランプ制御装置１１３の処理負荷を軽減することができる。

【４３１３】

不利時短中フラグ２２３ｇｃは、時短状態のうち不利時短状態が設定されていることを示すためのフラグであって、時短種別「時短Ａ８ａ」、又は「時短Ａ８ｂ」が設定された場合にオンに設定される。そして、入賞コマンド処理８（図３５１のＳ４２９２参照）において、ロング開放当たり遊技が実行されることを示す普図用入賞情報コマンドを受信した場合に、不利時短中フラグ２２３ｇｃの設定状況が判別され（図３５１のＳ４４５１）、オンに設定されていると判別した場合に（図３５１のＳ４４５１：Ｙｅｓ）、普図ロング開放当たり遊技（電チューロング開放）が実行されることを示唆するための演出に対応した表示用コマンドが設定される（図３５１のＳ４４０５）。これにより、図３３２に示した通り、不利時短状態を終了させるための第２時短終了条件が成立し易い状態となることを遊技者に分かり易く報知することができる。そして、不利時短状態が終了したことを示す状態コマンドを受信したと判別した場合に（図３４８のＳ９０５１：Ｙｅｓ）、オフに設定される（図３４８のＳ９０５２）。

【４３１４】

＜第８制御例における主制御装置の制御処理内容について＞

次に、図３３９から図３４５を参照して、本第８制御例における主制御装置１１０の制御処理内容のうち、上述した第５制御例とは異なる点を中心に説明をする。本第８制御例のパチンコ機１０は、上述した第５制御例のパチンコ機１０に対して、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選の実行順序を決定する処理と、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立したか否かの判定を行う処理と、遊技球が始動入賞した場合に実行される処理と、の内容を異ならせている。

【４３１５】

具体的には、特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に代えて特別図柄変動処理８（図３３９のＳ１０１５４参照）を、始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５参照）に代えて始動入賞処理８（図３４４のＳ１０１９５参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【４３１６】

まず、図３３９を参照して、特別図柄変動処理８（Ｓ１０１５４）の内容について説明をする。図３３９は、特別図柄変動処理８（Ｓ１０１５４）の処理内容を示したフローチ

ャートである。図３３９に示した通り、特別図柄変動処理８（Ｓ１０１５４）は、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に対して、新たな特別図柄変動を開始させるために実行される処理の内容と、実行中の特別図柄変動が停止表示する際に実行される処理の内容と、を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４３１７】

特別図柄変動処理８（Ｓ１０１５４）が実行されると、まず、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）と同一のＳ２０１～Ｓ２０３の処理が実行される。その後、変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）を実行する。この変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）の詳細については、図３４０を参照して後述するが、新たに実行する特別図柄変動の種別を判定するための処理が実行される。

【４３１８】

Ｓ１０２５１の処理を終えると、次に、新たに実行される特別図柄変動の種別が特図２（第２特別図柄）であるかを判別し（Ｓ１０２５２）、特図２であると判別した場合は（Ｓ１０２５２：Ｙｅｓ）、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）と同一のＳ２０５～Ｓ２０７、及び、Ｓ２５１，Ｓ２５２の処理を実行し、本処理を終了する。

【４３１９】

一方、Ｓ１０２５２の処理において、特図２では無いと判別した場合は（Ｓ１０２５２：Ｎｏ）、次に、新たに実行される特別図柄変動の種別が特図１（第１特別図柄）であるかを判別し（Ｓ１０２５３）、特図１であると判別した場合は（Ｓ１０２５３：Ｙｅｓ）、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）と同一のＳ２１１～Ｓ２１３、及び、Ｓ２５１，Ｓ２５２の処理を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ１０２５３の処理において、特図１では無いと判別した場合は（Ｓ１０２５３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【４３２０】

また、Ｓ２０２の処理において、変動中であると判別した場合は（Ｓ２０２：Ｙｅｓ）、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）と同一の処理に対して、更新処理５（図２５２のＳ２５３）に代えて更新処理８（Ｓ１０２５４）を実行し、時短設定処理５（図２５２のＳ２５４）に代えて時短設定処理８（Ｓ１０２５５）を実行し、本処理を終了する。

【４３２１】

次に、図３４０を参照して、特別図柄変動処理８（図３３９のＳ１０１５４参照）にて実行される変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）の詳細な説明をする。図３４０は、変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）の処理内容を示したフローチャートである。この変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）は、第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１で行われる特別図柄変動を、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの、どちらの実行エリアに格納された各種カウンタの値に基づいて実行するかを判定するための処理である。

【４３２２】

変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）では、まず、変動実行フラグ２０３ｇａに０を設定することで、初期化を行い（Ｓ１０２７１）、変動順格納エリア２０３ｇｂのデータを取得する（Ｓ１０２７２）。その後、変動順格納エリア２０３ｇｂのデータをシフトする（Ｓ１０２７３）。Ｓ３１０２７３の処理では、変動順格納エリア２０３ｇｂの第１エリア～第８エリアに格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、第１エリア→実行エリア、第２エリア→第１エリア、第３エリア→第２エリア、第４エリア→保留第３エリア、第５エリア→第４エリア、第６エリア→第５エリア、第７エリア→保留第６エリア、第８エリア→保留第７エリア、といった具合に各エリア内のデータをシフトする。データをシフトした後は、実行エリアのデータが特図１（１）であるか否かを判定する（Ｓ１０２７４）。

【４３２３】
　Ｓ１０２７４の処理にて、実行エリアのデータが特図１（１）であると判定された場合（Ｓ１０２７４：Ｙｅｓ）、変動実行フラグ２０３ｇａを特図１で変動実行（１）に設定し（Ｓ１０２７５）、本処理を終了し、特別図柄変動処理へ戻る。
【４３２４】
　一方、実行エリアのデータが特図１（１）でないと判定された場合（Ｓ１０２７４：Ｎｏ）、実行エリアのデータが特図２（２）であるか否かを判定する（Ｓ１０２７６）。Ｓ１０２７６の処理にて、実行エリアのデータが特図２（２）であると判定された場合（Ｓ１０２７６：Ｙｅｓ）、変動実行フラグ２０３ｇｂを特図２で変動実行に設定し（Ｓ１０２７７）、本処理を終了し、特別図柄変動処理へ戻る。
【４３２５】
　Ｓ１０２７６の処理にて、実行エリアのデータが特図２（２）でないと判定された場合（Ｓ１０２７６：Ｎｏ）、変動実行する保留球が無いため、変動実行フラグ２０３ｇｂが初期状態のまま、本処理を終了し、特別図柄変動処理へ戻る。
【４３２６】
　上述した通り、変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）を実行することで、変動順格納エリア２０３ｇｂに格納されている各種保留記憶（特図保留）を、格納した順に特別図柄変動させることができる。
【４３２７】
　次に、図３４１を参照して、時短抽選処理８（Ｓ８０７６）の処理内容について説明をする。図３４１は、時短抽選処理８（Ｓ８０７６）の処理内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理８（Ｓ８０７６）は、特別図柄変動処理８（図３３９のＳ１０１５４参照）の特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１参照）にて実行される時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）に代えて実行されるものであって、時短抽選（時短当選の判定）を実行するための条件を遊技仕様に対応させて変更している点で相違している。
【４３２８】
　具体的には、時短抽選処理８（Ｓ８０７６）が実行されると、今回実行される特別図柄変動の種別に関わらず（時短抽選処理５（図２５４参照）にて実行される特別図柄変動の種別を判別するためのＳ８１０１の処理を実行すること無く）、上述した時短抽選処理５（図２５４のＳ８１０１参照）と同一のＳ８１０３～Ｓ８１０６の処理を実行し、本処理を終了する。
【４３２９】
　つまり、本第８制御例では、図３３５（ｂ）を参照して上述した通り、特別図柄の種別に関わらず、通常状態が設定されている場合には時短抽選（時短当選の判定）を実行するように構成しているため、時短抽選処理８（Ｓ８０７６）では、新たに実行される特別図柄変動の種別に関わらず、新たに特別図柄変動が実行される時点の遊技状態のみを判別して時短抽選（時短当選の判定）を実行するか否かを判定している。
【４３３０】
　このように、時短抽選処理８（Ｓ８０７６）では、時短抽選（時短当選の判定）の実行条件（時短抽選実行条件）が成立しているか否かを判定する処理と、時短抽選実行条件が成立している場合に時短抽選（時短当選の判定）を実行する処理と、を実行するように構成しているが、時短抽選実行条件が成立しているか否かを判定する処理の内容は、パチンコ機１０の遊技仕様に応じて適宜変更すれば良く、例えば、通常状態に加えて、特定の遊技状態（例えば、不利時短状態等）で設定されている場合にも時短抽選を実行するように構成した場合には、Ｓ８１０３の処理に、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されているかを判別する処理を加えれば良い。
【４３３１】
　次に、図３４２を参照して、更新処理８（Ｓ２７３）の処理内容について説明をする。図３４２は、更新処理８（Ｓ２７３）の処理内容を示したフローチャートである。この更

新処理８（Ｓ２７３）は、上述した第５制御例における更新処理５（図２５６のＳ２５３参照）に対して、時短終了条件が成立したかを判別するための処理として新たな処理を追加した点で相違している。

【４３３２】

具体的には、更新処理８（Ｓ２７３）が実行されると、まず、時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ８３５１）、時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ８３５１：Ｙｅｓ）、時短短縮フラグ２０３ｇｃをオフに設定し（Ｓ８３５２）、次いで、時短終了条件が成立しているかを判別し（Ｓ８３５３）、時短終了条件が成立していると判別した場合は（Ｓ８３５３：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を０にリセットし（Ｓ８３５４）、時短短縮を示すコマンドを決定し（Ｓ８３５５）、その後、上述した更新処理５（図３４２のＳ２５３参照）と同一のＳ８３０１～Ｓ８３０６の処理を実行し、確変カウンタ２０３ｉ、時短カウンタ２０３ｈの値、各種値を更新した後の遊技状態、時短短縮の有無を示す状態コマンドを設定し（Ｓ８３５６）、本処理を終了する。

【４３３３】

また、Ｓ８３５１の処理において、時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されていない場合（Ｓ８３５１：Ｎｏ）、Ｓ８３５３の処理において、時短終了条件が成立していないと判別した場合（Ｓ８３５３：Ｎｏ）は、そのままＳ８３０１の処理へ移行し、上述した更新処理５（図３４２のＳ２５３参照）と同一のＳ８３０１～Ｓ８３０６の処理を実行し、確変カウンタ２０３ｉ、時短カウンタ２０３ｈの値、各種値を更新した後の遊技状態、時短短縮の有無を示す状態コマンドを設定し（Ｓ８３５６）、本処理を終了する。

【４３３４】

更新処理８（Ｓ２７３）にて示した通り、本第８制御例では、時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されている場合、即ち、時短種別「時短Ａ８」が設定される不利時短状態が設定された場合において、不利時短状態が設定されてから所定期間の間のみ、特殊な時短終了条件が成立し得るように構成しており、その期間限定で成立し得る時短終了条件が成立したか否かを判別可能に構成している。

【４３３５】

具体的には、時短抽選によって時短当選し不利時短状態が設定された場合には、時短当選した特別図柄種別と同一種別の特別図柄変動が、時短状態（不利時短状態）が設定されてから１回目の特別図柄変動として実行された場合に時短終了条件が成立するように構成している。このように構成することで、不利時短状態を短縮して終了させることが可能となるため、遊技者に対して意欲的に遊技を行わせることができる。

【４３３６】

次に、図３４３を参照して、時短設定処理８（Ｓ１０２５５）の処理内容について説明をする。図３４３は、時短設定処理８（Ｓ１０２５５）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理８（Ｓ１０２５５）は、上述した時短設定処理５（図２５７のＳ２５４参照）に対して、時短当選した場合に時短短縮フラグ２０３ｇｃをオンに設定する処理（Ｓ８３７１）を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【４３３７】

具体的には、上述した時短設定処理５（図２５７のＳ２５４参照）と同一のＳ８３５１，Ｓ８３５２の処理を実行した後、時短短縮フラグ２０３ｇｃをオンに設定し（Ｓ８３７１）、その後、Ｓ８３５３，Ｓ８３５４の処理を実行し、本処理を終了する。

【４３３８】

このように構成することで、時短状態が設定される場合のうち、時短当選した場合のみ（時短抽選に当選した場合のみ）時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されるため、更新処理８（図３４２のＳ２７３参照）にて時短状態を短縮させるための時短終了条件（第２時短終了条件）が成立したか否かの判別処理が無用に実行される（時短種別「時短Ａ８」が設定されることの無い大当たり当選に基づいて設定された時短状態（遊技時短状態）

中に実行される）ことを抑制することができる。
【４３３９】
なお、図３４３に示した通り、本第８制御例では、時短当選した場合に必ず時短短縮フラグ２０３ｇｃがオンに設定されるように構成しているが、これに限ること無く、不利時短状態（時短種別「時短Ａ８」）が設定されたか否かを判別し、不利時短状態（時短種別「時短Ａ８」）が設定されたと判別した場合に時短短縮フラグ２０３ｇｃをオンに設定するように構成しても良い。
【４３４０】
次に、図３４４を参照して始動入処理８（Ｓ１０１９５）の処理内容について説明をする。図３４４は始動入処理８（Ｓ１０１９５）の処理内容を示したフローチャートである。この始動入処理８（Ｓ１０１９５）は、上述した始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５参照）に対して、変動順格納エリア２０３ｇｂに情報を格納する処理を追加した点と、先読み処理の処理内容を変更した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【４３４１】
具体的には、始動入処理８（Ｓ１０１９５）が実行されると、上述した始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５参照）と同一のＳ６０１～Ｓ６５１の処理を実行し、Ｓ６５１の処理を終えた後に、変動順格納エリア２０３ｇｂの最初のエリアへ特図１（１）を設定し（Ｓ６７１）、Ｓ６０７の処理へ移行する。なお、Ｓ６７１の処理では、第１特別図柄保留球カウンタ２０３ｄまたは第２特別図柄保留球カウンタ２０３ｅの値を参照し、その合計値が１であれば、第１エリアを最初のエリアとする。同様に、その値が２であれば第２エリアを、その値が３であれば第３エリアを、その値が４であれば第４エリアを、それぞれ最初のエリアとする。この変動順格納エリア２０３ｇｂに設定された値を上述した変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）にて判別することにより、本第８制御例のように始動口が第１特別図柄を変動させるものと、第２特別図柄を変動させるものとの２種類の変動がある場合でも、始動口に入賞した順序で変動を開始させることができる。
【４３４２】
次いで、上述した始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５参照）と同一のＳ６０７～Ｓ６５２の処理を実行する。Ｓ６５２の処理を終えると、変動順格納エリア２０３ｇｂの最初のエリアへ特図２（２）を設定し（Ｓ６７２）、先読み処理８を実行し（Ｓ６７３）、本処理を終了する。なお、Ｓ６７２の処理では、第１特別図柄保留球カウンタ２０３ｄまたは第２特別図柄保留球カウンタ２０３ｅの値を参照し、その合計値が１であれば、第１エリアを最初のエリアとする。同様に、その値が２であれば第２エリアを、その値が３であれば第３エリアを、その値が４であれば第４エリアを、それぞれ最初のエリアとする。この変動順格納エリア２０３ｇｂに設定された値を上述した変動実行判定処理８（Ｓ１０２５１）にて判別することにより、本第８制御例のように始動口が第１特別図柄を変動させるものと、第２特別図柄を変動させるものとの２種類の変動がある場合でも、始動口に入賞した順序で変動を開始させることができる。
【４３４３】
次に、図３４５を参照して、先読み処理８（Ｓ６７３）の処理内容について説明をする。図３４５は、先読み処理８（Ｓ６７３）の処理内容を示したフローチャートである。この先読み処理８（Ｓ６７３）では、上述した第５制御例における先読み処理５（図２５９のＳ６５３参照）に対して、先読みされた入賞情報に対応する特別図柄抽選が実行される場合の遊技状態を特定し、その特定した情報（当該保留変動時における遊技状態を示す情報）を含む入賞コマンドを設定するように構成している点で相違し、それ以外は同一であるためその詳細な説明を省略する。
【４３４４】
次に、図３４６～図３５５を参照して、本第８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理の内容について説明をする。本第８制御例では、上述した第５制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図３４６参

照）にて実行される処理として、液晶演出実行管理処理８（図３５４のＳ４１８１）と、先行入賞検出処理８（図３５５のＳ４１８２）と、コマンド判定処理８（図３４７のＳ４１８３参照）と、変動表示設定処理８と、を実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容についてはその詳細な説明を省略する。

【４３４５】

まず、図３４６を参照して、本第８制御例における音声ランプ制御装置１１３のメイン処理の処理内容について説明をする。図３４６は、メイン処理の処理内容を示したフローチャートである。図３４６に示した通り、本第１０制御例では、上述した第５制御例における音声ランプ制御装置１１３のメイン処理に対して液晶演出実行管理処理８（図３５４のＳ４１８１）と、先行入賞検出処理８（図３５５のＳ４１８２）と、コマンド判定処理８（図３４７のＳ４１８３参照）と、変動表示設定処理８と、を実行する点で相違した処理が実行される。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４３４６】

次に、図３４７を参照して、コマンド判定処理８（Ｓ４１８３）の処理内容について説明をする。図３４７は、コマンド判定処理８（Ｓ４１８３）の処理内容を示したフローチャートである。このコマンド判定処理８（Ｓ４１８３）では、上述した第５制御例のコマンド判定処理５（図２６２のＳ４１８２参照）に対して、状態コマンド受信処理５（Ｓ４２８２）に代えて状態コマンド受信処理８（図３４８のＳ４２９１参照）を、入賞コマンド処理（Ｓ４２１２参照）に代えて入賞コマンド処理８（図３５１のＳ４２９２参照）を、大当たり関連処理（Ｓ４２１８）に代えて大当たり関連処理８（Ｓ４２９３）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４３４７】

次に、図３４８を参照して、状態コマンド受信処理８（Ｓ４２９１）の処理内容について説明をする。図３４８は、状態コマンド受信処理８（Ｓ４２９１）の処理内容を示したフローチャートである。図３４８に示した通り、状態コマンド受信処理８（Ｓ４２９１）では、上述した第５制御例における状態コマンド受信処理５（図２６５のＳ４２８２参照）に対して、主制御装置１１０から受信した状態コマンドに含まれる情報に基づいて遊技状態が通常状態へと変更されたと判別した場合（Ｓ９００３：Ｙｅｓ）に実行される処理内容と、主制御装置１１０から受信した状態コマンドに含まれる情報に基づいて遊技状態が時短状態へと変更されたと判別した場合（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）に実行される処理内容と、を異ならせている点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるためその詳細な説明を省略する。

【４３４８】

状態コマンド受信処理８（Ｓ４２９１）が実行されると、上述した第５制御例における状態コマンド受信処理５（図２６５のＳ４２８２参照）と同一のＳ９００１からＳ９００３の処理が実行される。そして、Ｓ９００３の処理において、遊技状態が通常状態へと変更されたと判別した場合（Ｓ９００３：Ｙｅｓ）は、次に、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ９０５１）、オンに設定されていると判別した場合（Ｓ９０５１：Ｙｅｓ）は、不利時短中フラグ２２３ｇｃをオフに設定し（Ｓ９０５２）、通常状態演出設定処理８を実行し（Ｓ９０５３）、本処理を終了する。一方、Ｓ９０５１の処理において、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ９０５１：Ｎｏ）、Ｓ９０５２の処理をスキップして、本処理を終了する。なお、通常状態演出設定処理８（Ｓ９０５３）の詳細な内容については、図３４９を参照して後述する。

【４３４９】

Ｓ９００３の処理において、通常状態へと変更されていないと判別した場合は（Ｓ９００３：Ｎｏ）、次に、遊技状態が時短状態へと変更されたかを判別し（Ｓ９００５）、変更されていないと判別した場合は（Ｓ９００５：Ｎｏ）、上述した第５制御例における状

態コマンド受信処理５（図２６５のＳ４２８２参照）と同一のＳ９００７～Ｓ９０１０の処理を実行し、本処理を終了する。

【４３５０】

一方、Ｓ９００５の処理において、時短状態に変更されたと判別した場合は、時短状態演出設定処理８を実行し（Ｓ９０５４）、その後、本処理を終了する。ない、時短状態演出設定処理８（Ｓ９０５４）の内容については、図３５０を参照して後述する。

【４３５１】

次に、図３４９を参照して、状態コマンド受信処理８（図３４８のＳ４２９１）にて実行される通常状態演出設定処理８（Ｓ９０５３）の処理内容について説明をする。図３４９は、通常状態演出設定処理８（Ｓ９０５３）の処理内容を示したフローチャートである。この通常状態演出設定処理８（Ｓ９０５３）は、上述した通常状態演出設定処理（図２６４のＳ９００４）に対して、不利時短状態から通常状態へと移行した場合における処理内容を追加した点で相違しており、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４３５２】

通常状態演出設定処理８（Ｓ９０５３）が実行されると、まず、従状態設定エリア２２３ｇから今回設定された遊技状態の前に設定されていた遊技状態（変更前の遊技状態）を読み出し（Ｓ９１０１）、変更前の遊技状態が不利時短状態であるかを判別する（Ｓ９１５１）。Ｓ９１５１の処理において、不利時短状態であると判別した場合は（Ｓ９１５１：Ｙｅｓ）、チャンス変動に対応する演出モード用表示コマンドを設定し（Ｓ９１５２）、本処理を終了する。一方、Ｓ９１５１の処理において、不利時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ９１５１：Ｎｏ）、上述した通常状態演出設定処理（図２６４のＳ９００４参照）と同一のＳ９１０２～Ｓ９１０４の処理を実行し、本処理を終了する。

【４３５３】

Ｓ９１５２に処理において演出モード用表示コマンドを設定することにより、不利時短状態の時短終了条件が成立したことに基づいて通常状態が設定されたことを示す表示態様で第３図柄表示装置８１の表示画面の背景画像が表示される。これにより、次に実行される特別図柄変動が、通常状態にて実行される特別図柄変動（抽選）であることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【４３５４】

次に、図３５０を参照して、状態コマンド受信処理８（図３４８のＳ４２９１）にて実行される時短状態演出設定処理８（Ｓ９０５４）の処理内容について説明をする。図３５０は、時短状態演出設定処理８（Ｓ９０５４）の処理内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理８（Ｓ９０５４）は、上述した時短状態演出設定処理（図２６６のＳ９００参照）に対して、通常状態から時短状態へと移行した場合における処理内容を変更している点で相違しており、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４３５５】

時短状態演出設定処理８（Ｓ９０５４）が実行されると、まず、時短状態演出設定処理（図２６６のＳ９００参照）と同一のＳ９３０１～Ｓ９３０４の処理を実行する。そして、Ｓ９３０４の処理において、変更前の遊技状態が通常状態であると判別した場合は（Ｓ９３０４：Ｙｅｓ）、今回受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａの値に設定し（Ｓ９３０５）、その後、今回設定された時短状態の時短種別が時短Ａ８であるかを判別し（Ｓ９３８１）、時短Ａ８であると判別した場合は（Ｓ９３８１：Ｙｅｓ）、不利時短中フラグ２２３ｇｃをオンに設定し（Ｓ９３８２）、不利時短中に対応する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ９３８３）、本処理を終了する。一方、Ｓ９３８１の処理において、今回設定された時短状態の時短種別が時短Ａ８では無いと判別した場合は（Ｓ９３８２：Ｙｅｓ）、Ｓ９３８２，Ｓ９３８３の処理をスキップして本処理を終了する。

【４３５６】

次に、図３５１を参照して入賞コマンド処理８（Ｓ４２９２）の処理内容について説明をする。図３５１は、入賞コマンド処理８（Ｓ４２９２）の処理内容を示したフローチャートである。この入賞コマンド処理８（Ｓ４２９２）は、上述した入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）に対して、普図用入賞情報コマンドを受信した場合における処理内容と、特図用入賞情報コマンドを受信した場合における処理内容と、を変更した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、その詳細な内容の説明を省略する。

【４３５７】

入賞コマンド処理８（Ｓ４２９２）が実行されると、まず、上述した入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）と同一のＳ４４０１～Ｓ４４０３の処理を実行する。そして、Ｓ４４０３の処理において、当たり情報ありと判別した場合、即ち、今回受信した普図用入賞情報コマンドに普通図柄抽選で当たり当選することを示す当たり情報が含まれていると判別した場合（Ｓ４４０３；Ｙｅｓ）は、次に、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４４５１）、オンに設定されていると判別した場合（Ｓ４４５１：Ｙｅｓ）は、電チューロング開放を示唆するための表示用コマンドを設定する（Ｓ４４０５）。

【４３５８】

つまり、本第８制御例では、不利時短状態が設定されている状態にて獲得した普図用入賞情報の中に、普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示す情報（特定の普図当たり情報）が含まれている場合に、遊技者に対して普図ロング開放当たり（電チューロング開放）を示唆するための演出が実行されるように構成している。このように構成することで、不利時短状態の遊技を実行している遊技者に対して、連続して同一種別の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）を実行させることが可能な機会が訪れることを、実際に普図ロング開放当たり遊技が実行されるよりも前に報知することができるため、不利時短状態が終了する（短縮される）ことを期待しながら遊技を行わせることができる。

【４３５９】

さらに、本第８制御例のように、不利時短状態が設定されている場合に実行される遊技方法（左打ち遊技）と、普図ロング開放当たり遊技中に実行される遊技方法（右打ち遊技）と、を異ならせるように遊技盤１３が構成されているパチンコ機１０においては、実際に普図ロング開放当たり遊技が実行されるよりも前から普図ロング開放当たり遊技が実行されることを遊技者に報知可能とすることで、遊技者に対して遊技方法を変更させるための猶予期間を設定することができるため、遊技者に対して、普図ロング開放当たり遊技に対応する遊技を実行させ易くすることができる。

【４３６０】

なお、本第８制御例では、普通図柄に関する入賞情報コマンドを受信したことに基づいて普図ロング開放当たり（電チューロング開放）を示唆するための演出が実行されるように構成している。つまり、普図ロング開放当たりに当選する普通図柄抽選が実行されるよりも前に遊技者に対して普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示唆可能に構成しているが、これに限ること無く、普図ロング開放当たりに当選する普通図柄抽選が実行されてからその抽選結果が停止表示されるまでの期間（普図当たり変動期間）を用いて遊技者に対して普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示唆可能に構成しても良い。

【４３６１】

さらに、普通図柄に関する入賞情報コマンドを受信する毎に普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示す情報が含まれているかを判別し、普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示す情報が含まれていると判別した場合において、その普図ロング開放当たり遊技が実行されるまでの期間を算出可能な算出手段を設け、その算出手段により算出された期間に基づいて、普図ロング開放当たり遊技が実行されることを遊技者に示唆するための演出が実行される期間を決定するように構成しても良い。この場合、例えば、普図当たり変動期間が所定期間（例えば、１０秒）よりも短い場合には、普図当たり変動が実行されるよりも前の段階、例えば、普図ロング開放当たり遊技が実行されることを示す普通図柄に関する入賞情報コマンドを受信した段階から演出を実行可能に構成すれば良い。

【４３６２】
次に、図３５２を参照して、入賞コマンド処理８（図３５１のＳ４２９２参照）にて実行される特図用入賞情報コマンド処理８（Ｓ４４５１）の処理内容について説明をする。図３５２は、特図用入賞情報コマンド処理８（Ｓ４４５１）の処理内容を示したフローチャートである。この特図用入賞情報コマンド処理８（Ｓ４４５１）は、特別図柄に関する入賞情報コマンドを受信した場合に実行される処理であって、入賞情報コマンドに含まれている情報、例えば、当たり当選を示すための情報に基づいて、その入賞情報に対応する特別図柄抽選が実行されるよりも前にその入賞情報コマンドに含まれる情報を遊技者に示唆するための演出（先読み演出）の演出態様を設定するための処理が実行される。
【４３６３】
本第８制御例では、この特図用入賞情報コマンド処理８（Ｓ４４５１）を実行することにより、入賞情報コマンドに含まれている当たり当選を示すための情報に対応させて保留図柄の表示態様を可変させたり、入賞情報コマンドに含まれている特別図柄種別を示すための情報に対応させて保留図柄の表示態様を可変させたりすることができる。
【４３６４】
さらに、本第８制御例では、特定の遊技状態（通常状態）にて実行される特別図柄抽選に対応する特図保留がどれであるかを遊技者に示唆可能とするために、特別図柄に関する入賞情報コマンドを受信した場合において、受信した入賞情報コマンドに対応する特別図柄抽選が実行される際の遊技状態を事前に判別可能に構成している。
【４３６５】
このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される特図保留の表示態様を確認することで、遊技者に対して、特図保留に対応する特別図柄抽選が実行される際の遊技状態を遊技者に予測させることができる。
【４３６６】
具体的には、特図用入賞情報コマンド処理８（Ｓ４４５１）が実行されると、まず、従状態設定エリア２２３ｇに設定されている情報に基づいて現在の遊技状態を抽出（特定）し（Ｓ４５０１）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ４５５１）。時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４５５１：Ｙｅｓ）、次に、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４５５２）、オンに設定されていると判別した場合（Ｓ４５５２：Ｙｅｓ）、即ち、今回受信した入賞情報コマンドが、不利時短状態中に受信した入賞情報コマンドである場合には、不利時短状態を終了させるための時短終了条件の成立有無を予測し（Ｓ４５５３）、Ｓ４５５３の処理にて予測された時短終了条件の成立有無の結果に基づいて、時短終了条件が成立するか（今回受信した入賞情報コマンドに対応する特別図柄抽選が通常状態にて実行される特別図柄抽選であるか）を判別する（Ｓ４５５４）。
【４３６７】
Ｓ４５５４の処理において、通常状態にて実行される特別図柄抽選であると判別した場合は（Ｓ４５５４：Ｙｅｓ）、先読み保留態様選択テーブル２２２ｇａを参照して対応する保留図柄の表示態様（星の数）を決定し（Ｓ４５５５）、決定した保留態様（保留図柄の表示態様）を示すための情報を保留態様格納エリア２２３ｇｂに格納する（Ｓ４５５６）。そして、受信した特図用入賞情報コマンドに含まれる情報に基づいて表示用コマンド（Ｓ４５５５の処理において決定された表示態様を示すための表示用コマンドも含む）を設定し（Ｓ４５０７）、本処理を終了する。
【４３６８】
一方、Ｓ４５５１の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きく無いと判別された場合（Ｓ４５５１：Ｎｏ）、Ｓ４５５２の処理において、不利時短中フラグ２２３ｇｃがオンに設定されていないと判別された場合（Ｓ４５５２：Ｎｏ）、Ｓ４５５４の処理において、時短終了条件が成立しないと判別された場合（Ｓ４５５４：Ｎｏ）はそのままＳ４５０７の処理へ移行する。
【４３６９】

次に、コマンド判定処理８（図３４７のＳ４１８３参照）にて実行される大当たり関連処理８（Ｓ４２９３）について説明をする。この大当たり関連処理８（Ｓ４２９３）では、上述した大当たり関連処理（図１８０のＳ４２１８参照）に対して、エンディングコマンドを受信したと判別した場合（図１８０のＳ４７１４：Ｙｅｓ）に実行されるエンディング処理（図１８０のＳ４７１５参照）に代えて、エンディング処理８（Ｓ４２９３）を実行する点で相違し、それ以外は同一の処理が実行される。ここで、図３５３を参照して、エンディング処理８（Ｓ４２９３）にて実行される処理内容について説明をする。図３５３は、エンディング処理８（Ｓ４２９３）の処理内容を示したフローチャートである。

【４３７０】

エンディング処理８（Ｓ４２９３）では、上述したエンディング処理（図１８１のＳ４７１５参照）に対して、大当たり遊技終了後（小当たり遊技終了後）の１回目に実行される特別図柄抽選の種別を、遊技者に報知するための次回変動特図種別報知演出の演出態様を設定するための処理を追加した点で相違している。

【４３７１】

具体的には、図３５３に示した通り、エンディング処理８（Ｓ４２９３）が実行されると、上述したエンディング処理（図１８１のＳ４７１５参照）と同一のＳ４８０１～Ｓ４８０３の処理を実行した後に、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている情報に基づいて次回変動の特図種別（特別図柄種別）を読み出し（Ｓ４８５１）、読み出した特図種別を示すための表示用コマンドを設定する（Ｓ４８５２）。そして、エンディング表示の実行を設定し（Ｓ４８０４）、本処理を終了する。

【４３７２】

Ｓ４８５２の処理において読み出した特図種別を示すための表示用コマンドを設定することにより、図３３３（ｂ）に示した通り、大当たり遊技終了後１回目に実行される特別図柄抽選の特図種別を遊技者に示すための表示態様を表示することが可能となる。また、Ｓ４８５１の処理において、入賞情報格納エリア２２３ａに情報が格納されていないと判別した場合、即ち、１つも特図保留を獲得していない場合には、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている情報に基づいて大当たり遊技終了後１回目に実行される特別図柄抽選の特図種別を遊技者に報知することができないため、エンディング画面にて大当たり遊技終了後１回目に実行される特別図柄抽選の特図種別を遊技者に示すための表示態様を表示するための処理がスキップされる。

【４３７３】

なお、これに限ること無く、例えば、後述する先行入賞検出処理８（図３５５のＳ４１８２参照）の処理結果に基づいて、次に実行される特別図柄抽選の特図種別を予測し、その予測結果に基づく表示態様を表示させるための表示用コマンドを設定するように構成しても良い。

【４３７４】

次に、図３５４を参照して、液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）の処理内容について説明をする。図３５４は、液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）の処理内容を示したフローチャートである。この液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）では、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期させた値がセットされる変動時間カウンタ（図示せず）の値を更新する処理が実行され、更新後の値に対応する演出態様を決定するための処理が実行される。

【４３７５】

液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）が実行されると、まず変動時間カウンタの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ５５４０１）、０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ５５４０１：Ｙｅｓ）、変動時間カウンタの値を更新し（Ｓ５４０２）、更新後のカウンタ値に対応する演出態様を設定（決定）し（Ｓ５５４０２）、その他演出に関する更新処理を実行し（Ｓ５４０７）、更新結果に基づく演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５４０８）、本処理を終了する。

【４３７６】
このように構成することで、特別図柄変動が実行されてから所定時間（例えば、３０秒）の経過を契機に特定の演出（例えば、遊技者に現在の遊技状態を示唆するための示唆演出）を実行させることが可能となる。この場合、今回設定された特別図柄変動の変動時間に関わらず、示唆演出の実行契機を設定可能に構成し、今回設定された特別図柄変動の変動時間が、示唆演出の実行契機となる経過時間よりも長い場合にのみ示唆演出が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、設定された変動パターンによって、示唆演出が実行されるか否かを決定することができる。
【４３７７】
さらに、示唆演出が実行される表示領域を、変動演出が実行される表示領域と重複するように構成し、示唆演出の実行契機が成立し、示唆演出が第３図柄表示装置８１の表示面に表示されるタイミングにて実行中の変動演出の演出態様によって、示唆演出の演出内容を遊技者が視認可能な状況と、視認困難（視認不可能）な状況と、を創出可能に構成しても良い。このように構成することで、実行中の特別図柄変動の変動時間、及び、実行中の変動演出の内容と、に応じて遊技者が視認可能な示唆演出が実行されるか否かを決定することが可能となる。
【４３７８】
また、図３５４では、液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）の処理内容として、特別図柄変動の変動時間に対応する値がセットされた変動時間カウンタの値を更新し、その更新後の値に対応する演出態様を設定（決定）する処理内容を示しているが、特別図柄変動の変動時間以外の時間経過に対応した値をセット可能なカウンタを設け、そのカウンタの更新内容に対応させた演出態様を設定（決定）可能に構成しても良い。
【４３７９】
例えば、大当たり遊技が開始されてからの経過時間を計測可能なカウンタの値を更新する処理や、特定の演出が実行されてからの経過時間を計測可能なカウンタの値を更新する処理を実行し、その更新結果に対応する演出態様を設定（決定）する処理を実行しても良い。また、液晶演出実行管理処理８（Ｓ４１８１）にて、各種カウンタの値を更新し、更新結果が実行条件を満たしているか否かの判別を行い、実行条件を満たしている場合に実行条件が成立したことを示すためのフラグをオンに設定する処理のみを実行し、実行条件が成立したことを示すためのフラグがオンに設定されていることを条件に、他の処理（例えば、変動表示設定処理）にて特定の演出を実行するための処理を実行可能に構成しても良い。
【４３８０】
次に、図３５５を参照して、先行入賞検出処理８（Ｓ４１８２）の処理内容について説明をする。図３５５は、先行入賞検出処理８（Ｓ４１８２）の処理内容を示したフローチャートである。この先行入賞検出処理８（Ｓ４１８２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図３４６参照）の中で実行され、上述したように、入球センサ１０６４ａによる入球検出があった場合に、その入球検出された遊技球が入賞し得る入球口が第１入球口６４ａまたは第２入球口１６４１であるかを予測するための処理と、実際に何れかの入球口へと入球した場合に、次に振り分け装置１０６４へと入球する遊技球が何れの入球口へと入球し得るかを示すために振り分け部材９００の状態（位置）を特定するための処理が実行される。
【４３８１】
先行入賞検出処理８（Ｓ４１８２）では、まず、球が振り分け装置１０６４へと入球したか否かを入球センサ１０６４ａによって判別する（Ｓ９９０１）。球が振り分け装置１０６４へと入球していないと判別された場合は（Ｓ９９０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、球が振り分け装置１０６４へ入球したと判別された場合は（Ｓ９９０１：Ｙｅｓ）、遊技球が第１入球口６４ａまたは第２入球口１６４１のどちらに入球するかを予測する（Ｓ９９０２）。入球先の予測の方法としては、振り分け部材９００の軸に搭載されている傾きを検知するセンサ（図示せず）により、振り分け部材９００の向きを傾

きから算出することで予測する。なお、入球先の予測のための振り分け部材９００の向きの検出は、傾きを検知するセンサによるものでなくても良く、例えば、磁石とホールセンサを用いるものであっても良い。また、入賞先の予測は、上述したように振り分け部材９００の向きは左右交互となっているので、入賞回数に基づいて入賞先を予測するようにしても良く、その場合センサを不要とすることができる。

【４３８２】

次に、Ｓ９９０２の処理により球が第１入球口６４へ入賞すると予測されたか否かを判定し（Ｓ９９０３）、球が第１入球口６４へ入賞しないと予測された場合は（Ｓ９９０３：Ｎｏ）、Ｓ９９０５の処理へ移行する。一方、球が第１入球口６４へ入賞すると予測された場合は（Ｓ９９０３：Ｙｅｓ）、振り分け状態格納エリア２２３ｇａに、次に振り分け装置１０６４に入球した遊技球が第２入球口１６４１へと入賞し得る（する可能性が高い）ことを示す第２入球口側情報を格納し（Ｓ９９０４）、Ｓ９９０５の処理へ移行する。

【４３８３】

Ｓ９９０５の処理では、Ｓ９９０２の処理により球が第２入球口１６４１へ入賞すると予測されたか否かを判定し（Ｓ９９０５）、球が第２入球口１６４１へ入賞しないと予測された場合は（Ｓ９９０５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、球が第２入球口１６４１へ入賞すると予測された場合は（Ｓ９９０２：Ｙｅｓ）、振り分け状態格納エリア２２３ｇａに、次に振り分け装置１０６４に入球した遊技球が第１入球口６４へと入賞し得る（する可能性が高い）ことを示す第１入球口側情報を格納し（Ｓ９９０６）、本処理を終了する。

【４３８４】

以上、説明をした通り、本第８制御例では、通常状態において実行される特別図柄抽選によって、時短当選の判定が実行され、高確率で時短当選し得るように構成している。よって、通常状態における特別図柄抽選が実行され難くなるという斬新な遊技性を提供することができる。

【４３８５】

また、時短当選の判定により時短当選した場合には、通常状態よりも不利となる不利時短状態と、通常状態よりも有利となる有利時短状態との何れかが設定されるように構成している。そして、不利時短状態が設定された場合には、時短終了条件が成立するまで、通常状態の特別図柄抽選が実行されないように構成している。そして、時短終了条件として、特定の順序で特別図柄抽選が実行された場合に成立する時短終了条件と、特別図柄抽選の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する時短終了条件と、を設定可能に構成している。

【４３８６】

よって、不利時短状態が設定されている場合には、特別図柄抽選を実行すればするほど、時短終了条件が成立し易くすることができるため、不利時短状態中の遊技を行っている遊技者に対して、継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【４３８７】

なお、本第８制御例では、不利時短状態を終了させるための時短終了条件として、特別図柄抽選の実行回数が１００回に到達した場合に成立する変動回数終了条件を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、設定される時短種別に応じて変動回数終了条件として設定される特別図柄抽選の実行回数（時短回数）を異ならせるように構成しても良い。

【４３８８】

この場合、例えば、時短種別として時短ＡＡ８、時短ＢＢ８、時短ＣＣ８と設定可能に構成し、時短ＡＡ８に対して変動回数終了条件として時短回数「１００回」、時短ＢＢ８に対して変動回数終了条件として時短回数「２００回」。時短ＣＣ８に対して変動回数終了条件として時短回数「３００回」を設定するように構成すると良い。このように構成することで、設定される時短種別に応じて、不利時短状態の継続期間を異ならせることがで

きる。
【４３８９】
なお、この場合、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される残時短回数として、時短回数「１００回」が設定された場合に対応する残時短回数を初期表示として表示可能に構成し、不利時短状態における遊技の経過に応じて残時短回数の表示を増加させるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して不利時短状態がいつ終了するのかを判別させ難くすることができる。
【４３９０】
本第８制御例では、第２特別図柄抽選において不利時短当選した場合には、その不利時短状態が終了するまでの間、第１特別図柄抽選においても、通常状態よりも不利となる特別図柄抽選が実行されるように構成している。換言すれば、１の特別図柄抽選の結果に応じて、他の特別図柄抽選に対してペナルティを課すことができるように構成している。
【４３９１】
＜第９制御例＞
次に、図３５６～図３７５を参照して、第９制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第９制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例と同様に、特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に大当たり遊技が実行され、遊技領域（大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置（アタッカー）３６５０内の領域）に設けられた特定領域（Ｖゲート）に遊技球が入球（通過）することによって、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定される仕様を採用している。また、上述した第５制御例と同様に、通常状態にて実行される特別図柄抽選の抽選結果が外れである場合に、時短図柄当選の判定を実行可能に構成している。
【４３９２】
本第９制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態における特別図柄抽選で時短当選した場合に、遊技者に最も有利となる遊技状態（第２時短状態）が設定されるように構成している。このように構成することで、通常状態を遊技している遊技者に対して、特別図柄抽選で大当たり当選し、大当たり遊技による賞球を獲得しながら通常状態よりも有利となる確変状態へと遊技状態が移行することを目指す遊技と、通常状態における特別図柄抽選で時短当選し、遊技者に最も有利となる遊技状態（第２時短状態）が設定されることを目指す遊技と、を並行して実行させることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。
【４３９３】
さらに、本第９制御例では、遊技者に最も有利となる遊技状態（第２時短状態）への移行契機が時短当選のみとなるように構成し、且つ、時短当選の判定（時短抽選）が通常状態でのみ実行されるように構成しているため、通常状態よりも遊技者に有利となる確変状態が設定された場合には、その確変状態から第２時短状態へと遊技状態を移行させることができないように構成している。
【４３９４】
また、本第９制御例では、確変状態よりも第２時短状態のほうが遊技者に有利な遊技状態とするために、確変状態中に実行され易い特別図柄抽選の種別と、時短状態中に実行され易い特別図柄抽選の種別とを異ならせるように構成している。
【４３９５】
具体的には、普通図柄の高確率状態が設定される確変状態中は、通常状態よりも特別図柄抽選が実行され易く、且つ、第２特別図柄抽選よりも第１特別図柄抽選のほうが実行され易くなるように構成している。また、普通図柄の高確率状態が設定される時短状態中は、通常状態よりも特別図柄抽選が実行され易く、且つ、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが実行され易くなるように構成している。そして、第１特別図柄抽選よりも、第２特別図柄抽選のほうが、遊技者に有利となる特別図柄抽選を実行可能に構成している。
【４３９６】

このように構成することで、通常状態よりも遊技者に有利な遊技状態として、確変状態と、時短状態と、を設定可能に構成し、さらに、確変状態よりも遊技者に有利となる時短状態として第２時短状態を設定することが可能となる。

【４３９７】

本第９制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０と相違する点は、遊技盤１３の構成を変更した点と、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の構成の一部を変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の構成の一部を変更した点と、各種制御処理の内容を一部変更した点である。なお、上述した第５制御例と同一の内容についてはその説明を省略する。

【４３９８】

＜第９制御例におけるパチンコ機１０の盤面構成について＞

まず、図３５６～図３６１を参照して、本第９制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。本第９制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成に対して、普通電動役物３０７１の内部（普通電動役物３０７１が開状態となった場合に遊技球が流下可能となる（流下し易くなる）遊技領域）に各種非電作動口を設けた点、及び、各種非電作動口へと遊技球が入球した場合に、その入球した遊技球によって作動する各種非電動役物を設けた点と、各種非電動役物が作動することによって入球可能となる入球口を設けた点で大きく相違している。

【４３９９】

詳細な説明は、図３５６を参照して後述するが、本第９制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得可能な入球手段（右第１入球口３０６４）に付随する非電動役物（特図１非電動役物３０６４ａ）と、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得可能な入球手段（第２入球口３０６５）に付随する非電動役物（非電動役物３０６５ａ）を設けており、何れの非電動役物も、普通電動役物３０７１の内部に設けられた対応する非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）に遊技球が入球した場合に作動するように構成している。

【４４００】

そして、遊技状態として普通図柄の高確率状態（時短状態、確変状態）が設定された場合に実行され易くなる普図当たり遊技の種別によって、普図当たり遊技中に普図電動役物３０７１の内部へと流入した遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球し易い第１普図当たり遊技と、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し易い第２普図当たり遊技と、を実行可能に構成している。

【４４０１】

さらに、本第９制御例では、普通図柄の高確率状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の低確率状態が設定されている場合よりも普図当たり遊技が実行され易くなる（普図当たり遊技中に遊技球を普通電動役物３０７１の内部へと入球させ易くなる）ように構成しており、普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技として、第１普図当たり遊技のほうが第２普図当たり遊技よりも実行され易い時短状態（第１時短状態）と、第１普図当たり遊技よりも第２普図当たり遊技のほうが実行され易い時短状態（第２時短状態）と、を普図当たり当選した場合に設定されている遊技状態に応じて決定可能に構成している。

【４４０２】

このように構成することで、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態の種別によって、その普通図柄の高確率状態中に実行され易い特別図柄抽選の種別を異ならせることができる。

【４４０３】

また、本第９制御例では、第１特別図柄抽選が実行された場合よりも第２特別図柄抽選が実行された場合のほうが遊技者に有利な抽選となるように構成している。このように構

成することで、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態に応じて遊技者に対して有利度合いの異なる遊技を実行させることが可能となるため、遊技者に対して普通図柄の高確率状態が設定されたか否かだけで無く、設定された遊技状態の種別についても興味を持たせることができる。

【４４０４】

加えて、本第９制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態として、時短状態が設定された場合に、第２特別図柄抽選が実行され易く、確変状態が設定された場合に、第１特別図柄抽選が実行され易くなるように構成している。そして、時短状態が設定された場合の一部（第２時短状態が設定された場合）において、その第２時短状態を終了させるための時短終了条件として、成立し難い条件（時短回数１００００回）を設定するように構成している。つまり、第２時短状態が設定された場合には、実質次回の大当たり遊技が実行されるまで時短状態が継続するように構成している。さらに、第２時短状態中に実行され易くなる第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、高確率（９０％）の確率で大当たり遊技終了後に第２時短状態が設定されるように構成している。

【４４０５】

このように構成することで、確変状態よりも特別図柄抽選で大当たり当選する確率が低確率となる時短状態においても、その遊技状態を終了させること無く次の大当たり遊技を目指す遊技を遊技者に行わせ易くすることができると共に、大当たり当選した場合に付与される特典を、確変状態よりも遊技者に有利なものとすることができる。

【４４０６】

ここで、図３５６を参照して、本第９制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。図３５６は、本第９制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３を模式的に示した正面図である。図３５６に示した通り、本第９制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成（図２３４参照）に対して、遊技盤１３の下方領域、及び、右側領域の構成を異ならせている点で相違している。それ以外の構成については同一であり、同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４４０７】

図３５６に示した通り、可変表示ユニット８０の下方に形成される遊技盤１３の下方領域には、第１特別図柄抽選の実行権利を獲得可能な第１入球口６４が設けられている。そして、可変表示ユニット８０の右側に形成される遊技盤１３の右側領域には、作動装置３０７０と、特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａと、スルーゲート６７と、が設けられている。

【４４０８】

作動装置３０７０は、その内部に遊技球が流下可能な流路が形成されており、当該流路を流下した遊技球が入球可能な特図１非電作動口３０７３ａと、特図２非電作動口３０７３ｂと、を有するものである。そして、作動装置３０７０の内部へと遊技球を流入させるための開口部に普通電動役物３０７１が付設されている。

【４４０９】

普通電動役物３０７１は、普通図柄の抽選（スルーゲート６７を遊技球が通過したことに基づいて実行される抽選）で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技によって開放動作されるものである。なお、普通図柄の抽選、及び、普図当たり遊技に基づく普通電動役物３０７１に対する開放制御処理の内容については、上述した第５制御例における普通電動役物６４０ａに対する開放制御処理の内容と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【４４１０】

特図１非電作動口３０７３ａは、特図１非電動役物３０６４ａと作動用機構（図示せず）で接続されており、特図１非電動役物３０６４ａが閉鎖している間に特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球が入球すると、その入球した遊技球の自重により作動用機構が作動し、特図１非電動役物３０６４ａが機械的に開放されるように構成している。つまり、特

図１非電作動口３０７３ａは、特図１非電動役物３０６４ａを開放させるための手段となる。

【４４１１】

同様に特図２非電作動口３０７３ｂは、特図２非電動役物３０６５ａと作動用機構（図示せず）で接続されており、特図２非電動役物３０６５ａが閉鎖している間に特図１非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球すると、その入球した遊技球の自重により作動用機構が作動し、特図２非電動役物３０６５ａが機械的に開放されるように構成している。つまり、特図２非電作動口３０７３ｂは、特図２非電動役物３０６５ａを開放させるための手段となる。

【４４１２】

なお、作動装置３０７０へと流入した遊技球に基づいて作動可能な特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａの詳細な説明については、図３５７から図３５９を参照して後述する。

【４４１３】

また、上述した通り、非電動役物（特図１非電動役物３０６４ａ、及び、特図２非電動役物３０６５ａ）は、電気的な制御では無く、遊技球の自重に基づく機械的作用によって開閉作動するように構成している。よって、電気的に開閉制御させる電動役物（例えば、普通電動役物３０７１や、可変入賞装置３６５０の開閉扉３６５０ｆ等）のように、パチンコ機１０の主制御装置１１０等により開閉制御が実行されることが無いため、主制御装置１１０等により、その開閉状況が管理されることが無い。

【４４１４】

そこで、本第９制御例では、各非電動役物（特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａ）の実際の作動状況を検知するための検知センサ（図示せず）を設け、各非電動役物（特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａ）の作動状況（開閉状況）を検知可能に構成している。

【４４１５】

そして、検知センサの検知結果に基づいて、特図１非電動役物３０６４ａが作動している（開放している）こと、或いは、特図２非電動役物３０６５ａが作動している（開放している）ことが、特図１非電報知ランプ３０６４ｂや特図２非電報知ランプ３０６５ｂによって遊技者に報知される。これにより、遊技者に対して、各非電動役物の作動状況を分かり易く報知することができる。

【４４１６】

なお、本第９制御例では、特図１非電報知ランプ３０６４ｂ、特図２非電報知ランプ３０６５ｂによって、対応する非電動役物が作動している（開放している）か否かを遊技者に報知するように構成しているが、それ以外の状況を報知可能な報知手段を設けても良く、例えば、特図１非電動役物３０６４ａが作動し易い状況であるか、特図２非電動役物３０６５ａが作動し易い状況であるかを遊技者に報知（示唆）可能な報知手段を設けても良い。この場合、例えば、普通図柄抽選で当たり当選した場合に設定された普図当たり種別に基づいて、何れの非電動役物を作動させ易い（何れの非電作動口へと遊技球を入球させ易い）普図当たり遊技が実行されるかを遊技者に報知（示唆）するための報知手段を設けると良い。

【４４１７】

このように構成することで、実際に特図非電動役物が作動するよりも前のタイミング、例えば、普通図柄抽選が実行されてから普図当たり抽選の結果が停止表示されるまでの第１期間、普図当たり抽選の結果が停止表示されてから普図当たり遊技が実行されるまでの第２期間、普図当たり遊技が実行されてから作動装置３０７０へと遊技球が流入するまでの第３期間、普図当たり遊技が実行されてから非電作動口へと遊技球が入球するまでの第４期間、作動装置３０７０へと遊技球が流入してから非電作動口へと遊技球が入球するまでの第５期間、非電作動口へと遊技球が入球してから非電動役物が作動するまでの第６期間の何れか１の期間、或いは、複数の期間を選択して組み合わせた合算期間において、遊

技者に対して、作動される（開放される）非電動役物の種別を報知することが可能となる。よって、報知手段によって示唆された内容に基づいて、後に実行される遊技の内容を遊技者に把握（予測）させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【４４１８】

また、普図当たり抽選が実行されてから作動装置３０７０へと遊技球が流入するまでの何れかの期間（上述した第１期間、第２期間、第３期間に相当）において報知手段による報知を実行する場合には、遊技者に対して、報知手段の報知内容に基づいて、作動装置３０７０へと遊技球を流入させるか否かを選択させることが可能となる。つまり、非電動役物を開放させ易い有利遊技状態（例えば、時短状態）が設定されている場合において、何れか１の非電動役物（例えば、特図１非電動役物３０６４ａ）が作動している場合に入球可能となる入球手段（例えば、右第１入球口３０６４）へと遊技球を入球させた場合（第１特別図柄抽選を実行させた場合）に、有利遊技状態が終了してしまうが、他の非電動役物（例えば、特図２非電動役物３０６５ａ）が作動している場合に入球可能となる入球手段（第２入球口３０６５）へと遊技球を入球させた場合（第２特別図柄抽選を実行させた場合）には、有利遊技状態が終了することが無い状態において、上述した報知手段による報知を実行可能に構成することで、有利遊技状態を継続させるか否かを遊技者に選択させることが可能となる。つまり、遊技者に遊技方法（遊技球発射の有無）を選択させることにより、後に実行される遊技の結果を大きく異ならせることができる。これにより、より有利な遊技が実行されることを目指す遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【４４１９】

さらに、この場合、１の入球手段へと遊技球を入球させた場合に、他の入球手段へと遊技球を入球させた場合よりも遊技者に有利な遊技が実行されるが、有利遊技状態を終了させ易くなり、他の入球手段へと遊技球を入球させた場合に、１の入球手段へと遊技球を入球させた場合よりも遊技者に不利な遊技が実行されるが、有利遊技状態を終了させ難くなるように各入球手段に遊技球が入球した場合に付与される特典（例えば、特別図柄抽選）の内容や、有利遊技状態の終了条件を既定すると良い。

【４４２０】

ここで、各非電動役物の作動状況を検知するための検知センサについて、具体的に説明をすると、非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）へと入球した遊技球が接触することで作動する作動機構（特図１作動用機構３０７４、特図２作動用機構３０７５）が作動位置（非電動役物を作動（開放）させる位置）に位置していることを検知可能な箇所に検知手段（近接センサ）を設け、その検知手段により作動機構が作動位置に位置していることが検知された場合（検知手段から出力される検知信号に基づいて判別手段が判別した場合）に、非電動役物が開放されていると特定可能に構成している。

【４４２１】

なお、各非電動役物の作動状況を管理するための手法としては、上述したような実際の非電動役物３０６５ａの作動状況を検知する手法以外を用いても良く、例えば、普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球を検知する検知手段を設け、その検知手段による検知結果、及び、普図当たり種別に基づいて、何れの非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）へと遊技球が入球したかを判定し、その判定結果に基づいて各非電動役物の作動状況を特定するように構成しても良い。この場合、特定された非電動役物の作動状況と、取得した入賞情報とに基づいて各非電動役物の閉鎖条件が成立したか否かを判定することで、各非電動役物の作動状況を特定するように構成すると良い。このように構成することで、非電動役物の作動状況を管理するためだけに専用の検知手段を設ける必要がなくなるため、製造コストを抑えることができる。

【４４２２】

また、この場合、非電動役物が作動している場合と作動していない場合とで入球のし易さが異なる入球手段への遊技球の入球を検知し、その検知結果と、非電動役物の作動状況として特定している内容と、を比較し、特定内容が正常か否かを判定する管理処理を設け

ると良い。
【４４２３】
次に、図３５７から図３５９を参照して、本第９制御例におけるパチンコ機１０の右側領域に形成された各種構成の詳細な内容について説明をする。図３５７（ａ）は、図３５６に示した遊技盤１３の右側領域を拡大した拡大図である。図３５７（ａ）に示した通り、遊技盤１３の右側領域には、上下方向に遊技球流下流路が形成されており、右側領域に向けて発射された遊技球（右打ち遊技によって発射された遊技球）が遊技球流下流路を流下し、最終的にアウト口６６へと流入するように構成している。
【４４２４】
この遊技球流下流路には、複数の釘が縦方向（図３５７の視点で上下方向）に複数植設されており、この植設された複数の釘によって、遊技球流下流路を左側流路（複数の釘と、可変表示ユニット８０との間に形成された流路）と、右側流路（複数の釘の右側に形成された流路）とに区画形成されている。
【４４２５】
図３５７（ａ）に示した通り、遊技球流下流路を左側流路と右側流路とに区画するための複数の釘は、左側流路を流下している遊技球の右側流路への流入、及び、右側流路を流下している遊技球の左側流路への流入が可能となるように、遊技球が通過可能な通過領域を形成するように植設されている。
【４４２６】
遊技球流下流路の左側、即ち、左側流路を流下する遊技球のほうが、右側流路を流下する遊技球よりも流入し易い位置に作動装置３０７０が設けられており、遊技球流下流路の右側、即ち、右側流路を流下する遊技球のほうが、左側流路を流下する遊技球よりも流入し易い位置に特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａが設けられている。
【４４２７】
このように左側流路と右側流路とを形成することにより、右打ち遊技によって発射された遊技球が流下する経路を複数設けることができるため、例えば、右側領域に設けられた複数の装置（作動装置３０７０、特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａ等）が入球可能な状態（開放状態）となった場合に、右側領域の上流側に設けられた装置に対してのみ遊技球が入球してしまい、下流側に設けられた装置に対する遊技球の入球が発生し難くなることで、遊技の進行が遅延してしまう事態が発生することを抑制することができる。
【４４２８】
ここで、作動装置３０７０の詳細な構成について説明をする。作動装置３０７０は、普通図柄抽選で当たり当選した場合（普図当たり遊技が実行された場合）に、遊技球が入球可能な状態となり、（即ち、普通電動役物３０７１が開放され）、作動装置３０７０の内部に設けられている２つの非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）のうち、何れかへと遊技球が入球することにより、対応する非電動役物（特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａ）が開状態となる。
【４４２９】
作動装置３０７０の内部へと流入した遊技球は第１流路３０７０ａを流下して、可動片３０７２へと到達する。この可動片３０７２は、普図当たり遊技が実行される場合に予め定められた開閉パターンで可変制御されるものであって、第１流路３０７０ａを流下してきた遊技球を第２流路３０７０ｂへと流入させることが可能な開放位置と、第１流路３００ａを流下してきた遊技球を受け止め、第３流路３０７０ｃに向けて流下させることが可能な閉鎖位置と、に可変可能に構成されている。なお、普図当たり遊技が実行されていない状態（非普図当たり遊技状態）では、可動片３０７２は閉鎖位置に位置するように構成している。
【４４３０】
つまり、この可動片３０７２は、所定条件が成立した場合（普図当たり遊技が実行され

た場合）に、第２流路３０７０ｂへの遊技球の流入を許容する手段となる。本第９制御例では、普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技における普通電動役物３０７１の開放動作内容を、普図当たり種別に応じて異ならせるように構成している。具体的には、普図当たり遊技が実行されてから普通電動役物３０７１が開放状態となるまでの期間（オープニング期間）の長さを異ならせている。一方、可動片３０７２は、普図当たり種別に関わらず、普図当たり遊技が実行されてから、予め定められた可変パターンで可変制御されるように構成している。

【４４３１】

そして、普図当たり種別に応じて、オープニング期間の長さを異ならせることにより、普図当たり遊技が実行されてから遊技球が可動片３０７２へと到達するまでに要する期間の長さを異ならせることで、可動片３０７２へと到達した遊技球が第２流路３０７０ｂへと誘導され易い普図当たり遊技と、可動片３０７２へと到達した遊技球が第３流路３０７０ｃへと誘導され易い普図当たり遊技と、を実行可能に構成している。

【４４３２】

第２流路８０７０ｂの下流側には、特図１非電作動口３０７３ａが設けられており、第２流路８０７０ｂを流下した遊技球の全てが特図１非電作動口３０７３ａに入球するように構成している。特図１非電作動口３０７３ａは、特図１非電動役物３０６４ａと特図１作動用機構３０７４を介して接続されており、遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球した場合に、その入球した遊技球が作動用機構３０７４に接触し、遊技球の自重によって作動用機構３０７４を作動させ、閉状態である特図１非電動役物３０６４ａを開状態へと可変させるように構成している。

【４４３３】

なお、特図１非電動役物３０６４ａが開状態である場合には、作動用機構３０７４が開状態に作動しているため、特図１非電作動口３０７３ａへと入球した遊技球が作動用機構３０７４と接触することが無いように構成している。つまり、特図１非電作動口３０７３ａは、閉状態である特図１非電動役物３０６４ａを開状態へと可変させるための手段であって、電気的駆動源を用いること無く、特図１非電動役物３０６４ａを可変させるための手段である。

【４４３４】

特図１非電動役物３０６４ａは、右第１入球口３０６４に付設された非電動役物であって、右第１入球口３０６４へと遊技球を入球させることが可能な開状態と、その開状態よりも遊技球を入球させることが困難な閉状態とに可変可能に構成されている。この特図１非電動役物３０６４ａは、特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球が入球したことに基づいて作動用機構３０７４が作動することにより、閉状態から開状態へと可変される。そして、開状態へと可変された後に、右第１入球口３０６４へと遊技球が２個入球したことに基づいて、開状態から閉状態へと可変される。

【４４３５】

具体的には、右第１入球口３０６４へと入球した球を一時的に保持可能な保持手段（図示せず）が右第１入球口３０６４の内部に設けられており、その保持手段に遊技球が２個保持されると、その自重により保持されていた遊技球が遊技機外部へと遊技球を排出するための排出経路へと流出するように構成してあり、その排出経路へと排出される遊技球が接触するように閉鎖機構（図示せず）が設けられている。

【４４３６】

この閉鎖機構に遊技球が接触することにより、閉鎖機構が作動し、開状態であった特図１非電動役物３０６４ａが閉状態へと可変されるように構成している。

【４４３７】

以上、説明をした通り、特図１非電動役物３０６４ａは、閉状態から開状態へと可変される場合も、開状態から閉状態へと可変される場合も、何れにおいても電気的な制御を用いること無く、流下する遊技球の自重を用いて機械的に可変させるように構成している。

【４４３８】

第３流路３０７０ｃの下流側には、特図２非電作動口３０７３ｂが設けられており、第３流路８０７０ｃを流下した遊技球の全てが特図２非電作動口３０７３ｂに入球するように構成している。特図２非電作動口３０７３ｂは、特図２非電動役物３０６５ａと特図２作動用機構３０７５を介して接続されており、遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂへと入球した場合に、その入球した遊技球が特図２用作動用機構３０７５に接触し、遊技球の自重によって特図２用作動用機構３０７５を作動させ、閉状態である特図２非電動役物３０６５ａを開状態へと可変させるように構成している。

【４４３９】

なお、特図２非電動役物３０６５ａが開状態である場合には、特図２用作動用機構３０７５が開状態に作動しているため、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球した遊技球が特図２用作動用機構３０７５と接触することが無いように構成している。つまり、特図２非電作動口３０７３ｂは、閉状態である特図２非電動役物３０６５ａを開状態へと可変させるための手段であって、電気的駆動源を用いること無く、特図２非電動役物３０６５ａを可変させるための手段である。

【４４４０】

特図２非電動役物３０６４ｂは、第２入球口３０６５に付設された非電動役物であって、第２入球口３０６５へと遊技球を入球させることが可能な開状態と、その開状態よりも遊技球を入球させることが困難な閉状態とに可変可能に構成されている。この特図２非電動役物３０６５ａは、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球したことに基づいて特図２用作動用機構３０７５が作動することにより、閉状態から開状態へと可変される。そして、開状態へと可変された後に、第２入球口３０６５へと遊技球が２個入球したことに基づいて、開状態から閉状態へと可変される。

【４４４１】

具体的には、第２入球口３０６５へと入球した球を一時的に保持可能な保持手段（図示せず）が第２入球口３０６５の内部に設けられており、その保持手段に遊技球が２個保持されると、その自重により保持されていた遊技球が遊技機外部へと遊技球を排出するための排出経路へと流出するように構成してあり、その排出経路へと排出される遊技球が接触するように閉鎖機構（図示せず）が設けられている。

【４４４２】

この閉鎖機構に遊技球が接触することにより、閉鎖機構が作動し、開状態であった特図２非電動役物３０６５ａが閉状態へと可変されるように構成している。

【４４４３】

以上、説明をした通り、特図２非電動役物３０６５ａは、閉状態から開状態へと可変される場合も、開状態から閉状態へと可変される場合も、何れにおいても電気的な制御を用いること無く、流下する遊技球の自重を用いて機械的に可変させるように構成している。

【４４４４】

次に、図３５７（ｂ）を参照して、普図当たり遊技中における遊技球の流下内容について説明をする。図３５７（ｂ）は、普図当たり遊技中に遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球が入球する場合の球流れを模式的に示した図である。

【４４４５】

図３５７（ｂ）に示した通り、普図当たり遊技が実行されると、予め定められた開放パターンで普通電動役物３０７１が開放動作される。そして、普通電動役物３０７１が開状態へと可変されると、開状態である普通電動役物３０７１（図３５７（ｂ）参照）によって誘導された遊技球が開放位置に位置している可動片３０７２を通過して特図１非電作動口３０７３ａへと入球する。特図１非電作動口３０７３ａに遊技球が入球すると、特図１作動用機構３０７４が作動し、特図１非電動役物３０６４ａが開状態（図３５７（ｂ）の実線参照）となる。

【４４４６】

特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変されると、右側流路を塞ぐ位置まで特図１非電動役物３０６４ａが可変されるため、右打ち遊技によって発射され、右側流路３０

６０を流下した遊技球のうち、右側流路を流下する遊技球の殆どが右第１入球口３０６４へと入球する。

【４４４７】

図３５７（ｂ）に示した通り、本第９制御例では、普通電動役物３０７１は左側流路に対して設けられ、特図１非電動役物３０６４ａは右側流路に対して設けられ、さらに、普通電動役物３０７１のほうが特図１非電動役物３０６４ａよりも上流側に設けられているため、特図１非電動役物３０６４ａの可変状況によって、普通電動役物３０７１への遊技球の流入割合が異なることが無い。よって、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変されることにより、普図当たり遊技中の遊技球を作動装置３０７０へと流入させることができず、遊技を円滑に進行することができない事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【４４４８】

また、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変されている間に、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能な普図当たり遊技が実行されたとしても、特図１非電動役物３０６４ａによって作動装置３０７０への遊技球の入球が規制されないため、確実に特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能となる。

【４４４９】

加えて、本第９制御例では、右側領域３０６０を流下する遊技球が２つの流路（左側流路、右側流路）を流下するように構成しているため、上流側に設けられた普図電動役物３０７１が開状態となったとしても、右側流路を流下する遊技球を、下流側に設けられた特図１非電動役物３０６４ａへと到達させ易くすることができる。つまり、普図電動役物３０７１と特図１非電動役物３０６４ａとが共に開状態となった場合において、右側領域３０６０を流下する遊技球が１つの流路を流下させる構成を用いたパチンコ機１０に対して、何れの役物に対しても遊技球を到達させ易くすることができる。

【４４５０】

そして、開状態である特図１非電動役物３０６４ａへと遊技球が２個入球すると、図３５８（ａ）に示した通り、非電動役物３０６４ａの閉鎖条件が成立し、非電動役物３０６４ａが開状態から閉状態へと可変される。

【４４５１】

ここで、上述した通り、本第９制御例では、特図１非電動役物３０６４ａが開状態である場合にも、作動装置３０７０へと遊技球を入球させることが可能となるように構成しているため、例えば、特図１非電動役物３０６４ａが開状態のまま遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球する場合が発生し得る。この場合、遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球したとしても、その入球した遊技球によって特図１作動用機構３０７４が作動されないように構成しているため、特図１非電動役物３０６４ａは開状態が継続される。また、開状態である特図１非電動役物３０６４ａの閉鎖条件となる入球数の値もそのまま継続される。つまり、特図１非電動役物３０６４ａが開状態のまま、新たな遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球したとしても、遊技者に何ら特典が付与されることが無い。

【４４５２】

このように構成することで、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変された場合には、次の遊技球が特図１非電作動口３０７３ａに入球するまでの間に、特図１非電動役物３０６４ａが付設される右第１入球口３０６４へと遊技球を所定数（２個）入球させようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【４４５３】

なお、本第９制御例では、上述した通り、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変されている状態において、作動装置３０７０へと遊技球を入球させることが可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、特図１非電動役物３０６４ａよりも下流側であって、特図１非電動役物３０６４ａが開状態である場合のほうが、閉状態である場合よりも到達し難い位置に作動装置３０７０（普通電動役物３０７１）を設けるように構成し

ても良い。このように構成することで、特図１非電動役物３０６４ａが開状態である期間は、開状態では無い期間よりも、作動装置３０７０への遊技球の入賞数を抑えることが可能となる。

【４４５４】

次に、図３５８（ａ）を参照して、特図１非電動役物３０６４ａが開状態である場合に右打ち遊技によって発射された遊技球の球流れについて説明をする。図３５８（ａ）は、開状態である特図１非電動役物３０６４ａへと遊技球が入球した場合の流れを模式的に示した図である。図３５８（ａ）に示した通り、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変（作動）している状態では、右第１入球口３０６４へと遊技球が入球容易な状態となり、その右第１入球口３０６４へと遊技球が入球すると、特図１非電動役物３０６４ａに接続されている閉鎖機構（図示せず）が作動し、特図１非電動役物３０６４ａが閉状態へと可変（作動）する。

【４４５５】

次に、図３５８（ｂ）を参照して、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球した場合における各種機構の動作内容について説明をする。図３５８（ｂ）は、普図当たり遊技中に遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球する場合の球流れを模式的に示した図である。

【４４５６】

図３５８（ｂ）に示した通り、普図当たり遊技が実行されると、予め定められた開放パターンで普通電動役物３０７１が開放動作される。そして、普通電動役物３０７１が開状態へと可変されると、開状態である普通電動役物３０７１（図３５８（ｂ）参照）によって誘導された遊技球が閉鎖位置に位置している可動片３０７２の上面を流下して第３流路３０７０ｃを流下し、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球する。特図２非電作動口３０７３ｂに遊技球が入球すると、特図２作動用機構３０７５が作動し、特図２非電動役物３０６５ａが開状態（図３５８（ｂ）の実線参照）となる。

【４４５７】

特図２非電動役物３０６５ａが開状態へと可変されると、右側流路を塞ぐ位置まで特図２非電動役物３０６５ａが可変されるため、右打ち遊技によって発射され、右側領域３０６０を流下した遊技球のうち、右側流路を流下する遊技球の殆どが第２入球口３０６５へと入球する。

【４４５８】

図３５８（ｂ）に示した通り、本第９制御例では、普通電動役物３０７１は左側流路に対して設けられ、特図２非電動役物３０６５ａは右側流路に対して設けられ、さらに、普通電動役物３０７１のほうが特図２非電動役物３０６５ａよりも上流側に設けられているため、特図２非電動役物３０６５ａの可変状況によって、普通電動役物３０７１への遊技球の流入割合が異なることが無い。よって、特図２非電動役物３０６５ａが開状態へと可変されることにより、普図当たり遊技中の遊技球を作動装置３０７０へと流入させることができず、遊技を円滑に進行することができない事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【４４５９】

さらに、本第９制御例では、特図２非電動役物３０６５ａよりも上方に特図１非電動役物３０６４ａを配設しているため、例えば、特図２非電動役物３０６５ａが開状態である場合に、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと可変（作動）した場合には、右打ち遊技によって発射された遊技球が、第２入球口３０６５よりも、右第１入球口３０６４へと優先して入球するように構成している。

【４４６０】

このように構成することで、第１特別図柄抽選よりも遊技者に有利な抽選が実行される第２特別図柄抽選が過剰に実行されること、即ち、第２入球口３０６５へと遊技球が過剰に入球してしまうことを抑制することができる。さらに、右第１入球口３０６４が開状態である限り、第２入球口３０６５へと遊技球を入球させ難くすることができるため、特図

２非電動役物３０６５ａの開状態を長期間継続させ易くすることができるため、例えば、時短状態が終了する間際において特図２非電動役物３０６５ａが開状態へと可変（作動）した場合に、第２入球口３０６５へと遊技球が入球するよりも前に、特図１非電動役物３０６４ａが開状態となるように遊技を行い、特図１非電動役物３０６４ａを開状態へと可変（作動）させることで、時短状態が終了した後にも、特図２非電動役物３０６５ａの開状態を維持させることが可能となる。

【４４６１】

よって、遊技者に対して、時短状態が終了した時点における遊技状況（特図２非電動役物３０６５ａの開閉状況）を遊技者に有利な遊技状況とするために意欲的に遊技を行わせることができる。

【４４６２】

次に、図３６０及び図３６１を参照して、本第９制御例における普図当たり遊技の遊技内容について説明をする。図３６０は、普図当たり開放パターンＡ（第１時短状態中に設定され易い開放パターン）が設定された場合の普図当たり遊技の流れを示した図であり、図３６１は、普図当たり開放パターンＢ（第２時短状態中に設定され易い開放パターン）が設定された場合の普図当たり遊技の流れを示した図である。

【４４６３】

本第９制御例では、普通図柄抽選で当たり当選した場合に設定される普図当たり種別（当選時の遊技状態）に応じて、普図当たり遊技の動作内容を異ならせることにより、普図当たり遊技中における作動装置３０７０へと遊技球の流入タイミングを異ならせるように構成している。そして、作動装置３０７０への遊技球の流入タイミングに応じて、作動装置３０７０へと流入した遊技球が、特図２非電作動口３０７３ｂよりも特図１非電作動口３０７３ａへと入球し易い普図当たり遊技（普図当たり開放パターンＡが設定された普図当たり遊技）と、特図１非電作動口３０７３ａよりも特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し易い普図当たり遊技（普図当たり開放パターンＢが設定された普図当たり遊技）と、を実行可能に構成している。

【４４６４】

さらに、遊技状態として時短状態が設定される場合に、普図当たり種別として、普図当たり開放パターンＢよりも普図当たり開放パターンＡが設定され易い時短種別（第１時短状態）と、普図当たり開放パターンＡよりも普図当たり開放パターンＢが設定され易い時短種別（第２時短状態）と、を設定可能に構成している。

【４４６５】

このように構成することで、通常状態よりも作動装置３０７０へと遊技球を入球させ易くすることが可能な（単位時間当たりにおける普図当たり遊技にて普通電動役物３０７１が開状態となる期間が、通常状態よりも長くすることが可能な）時短状態が設定された場合に、第１特別図柄抽選が第２特別図柄抽選よりも実行され易くなる第１時短状態（不利時短状態）と、第２特別図柄抽選が第１特別図柄抽選よりも実行され易くなる第２時短状態（有利時短状態）と、を設定することが可能となる。

【４４６６】

普図当たり遊技は、普図当たり遊技が実行されてから普通電動役物３０７１が開状態へと可変されるまでの期間（オープニング期間）と、普通電動役物３０７１が開状態となる期間（開放期間）と、普通電動役物３０７１の開状態を終了させるための終了条件が成立し、開状態から閉状態へと可変してから普図当たり遊技を終了させるまでの期間（エンディング期間）とから構成されており、各期間に対して所定時間（所定条件）が予め定められて規定されており、規定された内容で普通電動役物３０７１の開放動作が実行されるように構成している。さらに、作動装置３０７０内に設けられた可動片３０７２（図７８０参照）を予め定められた可動パターンで可動させる可動制御が実行されるように構成している。

【４４６７】

まず、図３６０を参照して、普図当たり開放パターンＡが設定されている場合に実行さ

れる普図当たり遊技の流れについて説明をする。具体的には、普図当たり開放パターンＡが設定されている場合に実行される普図当たり遊技では、図３６０に示した通り、普図当たり遊技として、オープニング期間（ＯＰ期間）が３秒、開放期間が２．５秒、エンディング期間（ＥＤ期間）が１秒の普図当たり遊技が実行される。そして、可動片３０７２に対して、可動片３０７２が開放状態となる開期間が０．５秒経過した後に、１．５秒の間、可動片３０７２が閉鎖状態となる閉期間となる可動制御が実行される。

【４４６８】

つまり、普図当たり開放パターンＡの普図当たり遊技では、作動装置３０７０へと流入した遊技球を特図２非電作動口３０７３ｂへと誘導可能な状態（可動片３０７２が閉鎖状態）が設定される期間（普図当たり遊技が実行されてから０．５秒から２秒の間の期間）が経過した後に、普通電動役物３０７１の開放期間が設定されることになる。よって、普図当たり開放パターンＡの普図当たり遊技が実行され、普通電動役物３０７１が開状態となる開放期間中に作動装置３０７０へと流入した遊技球は、その全て（殆ど）が、開放状態の可動片３０７２を通過し、特図１非電作動口３０７３ａへと入球することになる。特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球が入球した場合には、特図１非電動役物３０６４ａが開状態へと作動するため、普図当たり開放パターンＡの普図当たり遊技は、第１特別図柄抽選を実行させ易い普図当たり遊技となる。

【４４６９】

なお、本第９制御例では、普通電動役物３０７１の開状態を終了させるための終了条件として、予め定められた時間（２．５秒）が経過した場合に成立する時間終了条件に加え、作動装置３０７０へと流入した遊技球（開状態である普通電動役物３０７１を通過した遊技球）の数が２個を越えた場合に成立する入球終了条件も設定されるように構成している。このように構成することで、１回の普図当たり遊技において多くの遊技球が作動装置３０７０内へと流入することを抑制することができるため、例えば、作動装置３０７０内で遊技球が詰まったり、可動片３０７２に衝突する遊技球の数が増加することにより可動片３０７２が故障（破損）し易くなったりすることを抑制することができる。

【４４７０】

さらに、遊技球を継続して発射させた場合には、６０秒間で最大１００個の遊技球を発射可能に構成しているため、普図当たり遊技中に継続して右打ち遊技を実行することで、時間終了条件よりも先に入球終了条件が成立し易くなるように構成しているため、遊技球を継続して発射させる右打ち遊技を実行した場合のほうが、普図当たり遊技を早く終了させることが可能となる。よって、例えば、普図当たり開放パターンＡの普図当たり遊技のほうが、後述する普図当たり開放パターンＢの普図当たり遊技よりも実行され易い時短種別（時短Ｂ）が設定されている時短状態において、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立するまでの間により多くの普通図柄抽選を実行させ、１回でも多く、第２特別図柄抽選を実行させようと遊技者に対して継続して遊技球を発射させることが可能となるため、遊技の稼働を向上させることができる。

【４４７１】

加えて、時短終了条件が成立する直前に特図２非電動役物３０６５ａを開状態へと作動させた場合には、時短終了条件が成立し遊技状態が時短状態から通常状態へと移行した後に第２特別図柄抽選を実行させ易くすることができるため、時短終了条件が成立する直前まで、遊技者に対して、特図２非電動役物３０６５ａを開状態へと作動させるために、第２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能となる普図当たり開放パターンＢの普図当たり遊技が実行されることを期待して遊技を行わせることができる。

【４４７２】

次に、普図当たり開放パターンＢが設定されている場合に実行される普図当たり遊技の流れについて説明をする。具体的には、普図当たり開放パターンＢが設定されている場合に実行される普図当たり遊技では、図３６１に示した通り、普図当たり遊技として、オープニング期間（ＯＰ期間）が０．５秒、開放期間が２．５秒、エンディング期間（ＥＤ期間）が１秒の普図当たり遊技が実行される。そして、可動片３０７２に対して、可動片３

０７２が開放状態となる開期間が０．５秒経過した後に、１．５秒の間、可動片３０７２が閉鎖状態となる閉期間となる可動制御が実行される。

【４４７３】

つまり、普図当たり開放パターンＢの普図当たり遊技では、作動装置３０７０へと流入した遊技球を特図２非電作動口３０７３ｂへと誘導可能な状態（可動片３０７２が閉鎖状態）が設定される期間（普図当たり遊技が実行されてから０．５秒から２秒の間の期間）中に、普通電動役物３０７１の開放期間が設定されることになる。よって、普図当たり開放パターンＢの普図当たり遊技が実行され、普通電動役物３０７１が開状態となる開放期間中に作動装置３０７０へと流入した遊技球は、その全て（殆ど）が、閉鎖状態の可動片３０７２の上面を流下し、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球することになる。特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球した場合には、特図２非電動役物３０６５ａが開状態へと作動するため、普図当たり開放パターンＢの普図当たり遊技は、第２特別図柄抽選を実行させ易い普図当たり遊技となる。

【４４７４】

以上、説明をした通り、本第９制御例では、普図当たり種別に応じて、普図当たり遊技におけるオープニング期間の長さを異ならせることにより、普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球が入球し得る（入球し易い）特図非電作動口の種別を異ならせるように構成している。この場合、普図当たり遊技のオープニング期間の長さ以外の普図当たり遊技内容を普図当たり種別に対して共通化したとしても、普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球が入球し得る（入球し易い）特図非電作動口の種別を確実に異ならせることが可能となるため、時短状態が設定された場合に、異なる種別の特別図柄抽選を実行させ易くするという斬新な遊技性を、パチンコ機１０の処理負荷を軽減させながら実行することができる。

【４４７５】

なお、時短状態が設定された場合に、異なる種別の特別図柄抽選を実行させ易くするという斬新な遊技性を実現するための構成はこれに限ること無く、例えば、普図当たり種別に応じて普図当たり遊技における普通電動役物３０７１の開放パターンを異ならせることにより、作動装置３０７０へと流入した遊技球が入球し得る（入球し易い）特図非電作動口の種別を異ならせるように構成しても良いし、普図当たり種別に応じて可動片３０７２の可動パターンを異ならせることで作動装置３０７０へと流入した遊技球が入球し得る（入球し易い）特図非電作動口の種別を異ならせるように構成しても良い。

【４４７６】

また、本第９制御例では、作動装置３０７０へと流入した遊技球が、何れかの特図非電作動口へと入球するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、作動装置３０７０に流入した遊技球を、再度遊技領域へと排出するための排出口を設けても良いし、作動装置３０７０内に遊技球が入球することにより所定数（例えば、１０個）の賞球が払い出される入賞口を設け、作動装置３０７０へと流入した遊技球の一部が特図非電作動口へと入球すること無く、入賞口へと入賞するように構成しても良い。

【４４７７】

このように構成することで、普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと遊技球が流入した場合であっても、何れの特図非電動役物も開状態へと作動しないパターンを創出することが可能となるため、遊技者に対して、普図当たり遊技が実行された場合に、何れかの特図非電動役物が開状態となるという一定の関係性を与えてしまうことを抑制することができるので、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【４４７８】

また、上述した通り、非電動役物の性質上、特図非電動役物が開状態である場合に対応する特図非電作動口へと遊技球が入球しても何ら影響が無いため、特図非電動役物が開状態である場合において、普図当たり遊技が実行されることに対して遊技者の興味が低くなる虞があったが、作動装置３０７０の内部に上述した入賞口及び、入賞口へと遊技球を入賞させることが可能な流路を設けることにより、作動装置３０７０へと流入した遊技球に

よって、特図非電動役物を開状態へと作動（可変）させるだけでは無く、賞球が付与される可能性があるため、特図非電動役物が開状態である場合における普図当たり遊技に対しても遊技者に興味を持たせることができる。

【４４７９】

なお、この場合、特図非電動役物が開状態である場合のほうが、特図非電動役物が閉状態である場合よりも、対応する特図非電作動口へと入球し得る遊技球が上述した入賞口へと入賞し易くなるように構成すると良く、例えば、特図非電作動口を遊技球が通過可能な構成（例えば、歯車構成）とし、特図非電動役物が閉状態である場合には、特図非電作動口へと入球した遊技球が作動用機構に当接し、作動用機構を作動させると共に、その遊技球がパチンコ機１０の外部へと排出されるように構成し、特図非電動役物が開状態である場合には、特図非電作動口へと入球した遊技球が作動用機構に当接すること無く、入賞口に向かって流下するように構成すると良い。このように構成することで、特図非電動役物が開状態である場合のほうが、特図非電動役物が閉状態である場合よりも、普図当たり遊技中において多くの賞球を獲得し易くすることが可能となる。

【４４８０】

よって、特図非電動役物が開状態である場合の普図当たり遊技を、賞球獲得の点において遊技者に有利な遊技とすることができるため、特図非電動役物の開閉状況に関わらず、普図当たり遊技が実行されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【４４８１】

まず、図３６０を参照して普図当たり開放パターンＡの内容について説明をする。図３６０に示した通り、普図当たり遊技が実行されると、オープニング期間の計測が開始されると共に、可動片３０７２を可変制御するためのシナリオが更新される。

【４４８２】

可動片３０７２の可変制御は、普図当たり種別に関わらず常に一定に規定されており、普図当たり遊技が開始されてから０．５秒経過してから１．５秒間の間、可動片３０７２を閉鎖位置へと位置させるシナリオが規定されている。つまり、普図当たり遊技が実行される毎に、１．５秒間の閉期間が所定タイミング（普図当たり遊技が実行されてから０．５秒後）に設定されるようにシナリオが規定されている。

【４４８３】

そして、普図当たり開放パターンＡは、普図当たり遊技が実行されてから普通電動役物３０７１を開状態へと可変させるまでの期間（オープニング期間）として３秒が規定されており、その後、普通電動役物３０７１を開状態へと可変される期間（開放期間）として２．５秒が規定されており、開放期間が経過してから普図当たり遊技を終了させるまでの期間（エンディング期間）として、１秒が規定されている。つまり、普図当たり開放パターンＡが設定された場合には、普図当たり遊技の遊技期間が最長で６．５秒となるように普図当たり遊技のシナリオが規定されている。

【４４８４】

なお、上述した普図当たり遊技における開放期間（２．５秒）は、時間経過以外の条件によっても終了させることが可能に構成されており、具体的には、開放期間中に作動装置３０７０へと流入した遊技球の個数が所定数（２個）に到達した場合（入賞数終了条件が成立した場合）に、開放期間の時間経過を待たずに開放期間を終了させるように構成している。つまり、普図当たり遊技が実行された場合に、普図当たり遊技が実行されていない場合に比べて遊技球が入球し易くなる領域（作動装置３０７０の内部）への遊技球の流入数（入球数）が所定数に到達することで普図当たり遊技を終了させることができるように構成している。このように構成することで、１回の普図当たり遊技に対して遊技者に付与可能な特典量に上限を設けることができるため、遊技者に過剰に特典が付与されてしまうことを抑制することができる。

【４４８５】

また、入賞数終了条件を成立させることにより普図当たり遊技を終了させることで、普

図当たり遊技の遊技期間を、時間経過に基づいて普図当たり遊技を終了させる場合よりも短くすることができるため、結果として、単位時間当たりにおける普通図柄の抽選回数を増加させることが可能となる。よって、例えば、主として特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球を入球させることが可能な普図当たり開放パターンＡが設定され易い時短状態において、時短状態が終了するまでに、１回でも多く第２特別図柄抽選を実行させる（特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能な普図当たり遊技を実行させる）ことを目指して、遊技者に継続して遊技を行わせることができるため、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。

【４４８６】

特に、普図当たり開放パターンＡが設定され易い時短状態において、第１特別図柄の保留記憶（特図１保留）数が上限数（４個）に到達している状態、即ち、これ以上、右第１入球口３０６４に遊技球を入球させたとしても新たな特図１保留を獲得（記憶）することが出来ない状態では、無駄な遊技球を発射させないために遊技球を発射させる遊技（右打ち遊技）を一時的に中断する行為が一般的に実行されるが、本第９制御例におけるパチンコ機１０では、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）を獲得するために、遊技者に対して継続して遊技を行う行為を選択させることができる。よって、遊技者に対して、無駄に遊技球を使用しない遊技と、有利な特典が付与されることを目指して無駄に遊技球を使用する遊技と、を選択させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【４４８７】

図３６０に示した通り、普図当たり開放パターンＡが設定された場合には、オープニング期間として３秒が設定されるため、オープニング期間が経過するまでの間に、可動片３０７２の閉期間が終了することになる。よって、普図当たり開放パターンＡが設定された普図当たり遊技が実行された場合には、普通電動役物３０７１が開放され、作動装置３０７０へと流入した遊技球が、第１流路３０７０ａ、第２流路３０７０ｂを流下して特図１非電作動口３０７３ａへと入球することになる（図３５７（ｂ）参照）。

【４４８８】

次に、図３６１を参照して、普図当たり開放パターンＢが設定された場合の普図当たり遊技の流れについて説明をする。本第９制御例では、普図当たり開放パターンＡと、普図当たり開放パターンＢと、で普図当たり遊技のオープニング期間の長さを異ならせているだけであり、それ以外は同一内容の普図当たり遊技が実行されるように構成している。同一内容については、その詳細な説明を省略する。

【４４８９】

図３６１に示した通り、普図当たり開放パターンＢには、普図当たり遊技のオープニング期間として、０．５秒が規定されているため、可動片３０７２が閉鎖位置に位置している期間中に作動装置３０７０へと流入した遊技球を可動片３０７２へと到達させることができる。

【４４９０】

以上、説明をした通り、本第９制御例では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な抽選が実行されるように構成しており、普図当たり当選した場合に設定される普図当たり種別に応じて、普図当たり遊技中に遊技球が入球し易い非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）を異ならせるように構成している。

【４４９１】

そして、遊技者に有利な第２特別図柄抽選の実行形機となる特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球可能となる普図当たり遊技（普図当たり開放パターンＢが設定される普図当たり遊技）のほうが、普図当たり遊技の遊技期間が短くなるように構成している。

【４４９２】

このように構成することで、時短状態の種別として、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させ易い時短種別である時短Ｂが設定された場合には、普図当たり遊技を効率良く実行させることができるため、遊技者に円滑に時短状態中の遊技を実行させること

ができる。
【４４９３】
一方、時短状態の種別として、遊技者に不利な第１特別図柄抽選の実行形機となる特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球が入球可能となる普図当たり遊技（普図当たり開放パターンＡが設定される普図当たり遊技）が実行され易い時短Ａが設定された場合には、普図当たり遊技のオープニング期間が長くなる分、１回の普図当たり遊技に要する期間が長くなるため、時短状態中における普図当たり遊技の実行回数（普通図柄抽選の実行回数）が過剰に増加してしまうことを抑制することができる。
【４４９４】
加えて、普図当たり開放パターンＡが設定された場合には、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能な期間が経過してから普図電動役物３０７１が開放されるように構成しているため、普図当たり開放パターンＡの普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂに入球してしまう事態が発生することを抑制することができる。
【４４９５】
つまり、設定される普図当たり開放パターンに応じて、作動装置３０７０へと遊技球が流入可能な期間（普通電動役物３０７１の開放期間）と、可動片３０７２が閉鎖位置に位置する期間（可動片３０７２の閉期間）と、の重複度合いを異ならせることで、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能な普図当たり遊技（有利普図当たり遊技）と、特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが困難な普図当たり遊技（不利普図当たり遊技）と、を設定可能な手法として、本第９制御例にて用いた手法、即ち、普図当たり遊技のオープニング期間の長さを普図当たり種別に応じて異ならせ、短いオープニング期間が設定される普図当たり遊技が有利普図当たり遊技となり、長いオープニング期間が設定される普図当たり遊技が不利普図当たり遊技となる手法以外の手法として、短いオープニング期間が設定される普図当たり遊技が不利普図当たり遊技となり、長いオープニング期間が設定される普図当たり遊技が有利普図当たり遊技となるように構成しても良い。
【４４９６】
しかしながら、この場合、不利普図当たり遊技によって作動装置３０７０へと遊技球が流入するタイミングよりも時系列的に後のタイミングで可動片３０７２が閉鎖位置に位置することになるため、例えば、不利普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球が作動装置３０７０内の遊技領域に滞留することで、可動片３０７２が閉鎖位置へと位置した後に可動片３０７２に遊技球が到達する虞がある。
【４４９７】
これに対して、本第９制御例にて用いた手法では、不利普図当たり遊技によって作動装置３０７０へと遊技球が流入するタイミングよりも前に可動片３０７２が閉鎖位置に位置する閉期間が終了するため、不利普図当たり遊技によって作動装置３０７０へと流入した遊技球が作動装置３０７０内の遊技領域に滞留したとしても、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球してしまうことを抑制することができる。よって、例えば、不利普図当たり遊技によって作動装置３０７０へと流入した遊技球を意図的に作動装置３０７０内に滞留させる不正行為を実行され難くすることができる。
【４４９８】
なお、図３６０及び図３６１を参照して上述した通り、本第９制御例では、普図当たり遊技中に作動装置３０７０へと流入した遊技球が確実に特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し得ない普図当たり開放パターンＡと、確実に特図２非電作動口３０７３ｂへと入球する普図当たり開放パターンＢと、を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、同一の普図当たり開放パターンが設定された場合において、作動装置３０７０へと遊技球が流入するタイミングや、作動装置３０７０へと流入した遊技球が可動片３０７２に到達するまでに要した期間に応じて、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し得る場合と、し得ない場合と、が切り替わるように構成しても良い。

【４４９９】
この場合、例えば、普図当たり遊技中における普通電動役物３０７１の開放期間（２．５秒）のうち一部の期間（最初の０．５秒間や最後の０．５秒間）に作動装置３０７０へと遊技球を流入させた場合に、その遊技球が閉鎖位置に位置している可動片３０７２へと到達可能となるように構成すると良い。このように構成することで、作動装置３０７０へと遊技球を流入させるタイミングによって特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球が入球するか否かが決定されるため、遊技者に対して、どのタイミングで作動装置３０７０へと遊技球が入球するかについて興味を持たせることができる。
【４５００】
また、それ以外の構成として、例えば、作動装置３０７０へと流入した遊技球が流下可能な複数の流路を、作動装置３０７０の内部に形成し、遊技球が流下する流路に応じて可動片３０７２へと到達するまでに要する期間を異ならせるように構成し、作動装置３０７０へと流入してから可動片３０７２へと到達するまでに要する期間が所定期間以内である場合に閉鎖位置に位置している可動片３０７２へと到達可能となるように構成したり、作動装置３０７０へと流入してから可動片３０７２へと到達するまでに要する期間が所定期間以上である場合に閉鎖位置に位置している可動片３０７２へと到達可能となるように構成したりしても良い。このように構成することで、作動装置３０７０へと流入した遊技球が可動片３０７２へと到達するまでの挙動に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【４５０１】
なお、本第９制御例では、上述した通り、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態（確変状態、時短状態）の種別によって、実行され易くなる特別図柄抽選の種別を異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、普通図柄の高確率状態（時短状態）中に普図当たり当選した場合に設定される普図当たり種別によって、実行され易くなる特別図柄抽選の種別を異ならせるように構成しても良い。
【４５０２】
また、本第９制御例では、実行される普図当たり遊技の開放パターンに対応させて遊技球が入球可能となる非電作動口の種別が決定されるように構成しているが、これに限ること無く、実行される普図当たり遊技の開放パターンに応じて遊技球が入球し易くなる非電作動口の種別を異ならせるように構成しても良い。つまり、何れの開放パターンで普図当たり遊技が実行された場合であっても、何れの非電作動口にも遊技球が入球し得るように構成し、各非電作動口への入球のし易さを普図当たり遊技の開放パターンに対応させて可変可能に構成しても良い。
【４５０３】
＜第９制御例における遊技状態の遷移内容について＞
次に、図３６２を参照して、本第９制御例のパチンコ機１０における遊技状態の遷移内容について説明をする。図３６２は、本第９制御例のパチンコ機１０における遊技状態の遷移内容を示したゲームフローである。
【４５０４】
本第９制御例では、遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）と、の３つの遊技状態を設定可能に構成し、さらに、時短状態が設定されることとなる契機（時短設定契機）に応じて、時短終了条件が比較的成立し易い第１時短状態と、時短終了条件が比較的成立し難い第２時短状態と、を設定可能に構成している。具体的には、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて時短状態が設定される場合よりも、時短当選の判定（時短抽選）で時短当選したことに基づいて時短状態が設定される場合の方が遊技者に有利な第２時短状態が設定され易くなるように構成している。
【４５０５】
よって、遊技者に対して、時短状態が設定されるか否かだけで無く、時短状態がどの時

短設定契機に基づいて設定されたのかについても興味を持たせることができる。
【４５０６】
まず、通常状態における遊技内容について説明をする。図３６２に示した通り、本第９制御例のパチンコ機１０は、左打ち遊技によって発射された遊技球が流下可能な遊技領域（左打ち領域）、即ち、可変表示ユニット８０の左側に形成される遊技領域を流下した遊技球が入球可能な位置に第１入球口６４が設けられており、第１入球口６４に遊技球が入球した場合には、第１特別図柄抽選が実行される。一方、通常状態において右打ち遊技を行ったとしても、普通図柄の低確率状態が設定されている通常状態では、普通図柄抽選で当たり当選する確率が低確率（１／２４０）であり、作動装置３０７０へと遊技球を流入させ難いことから、右第１入球口３０６４や第２入球口３０６５へと遊技球を入球させ難い状態となる。よって、通常状態中は左打ち遊技が遊技者に有利な遊技となる。
【４５０７】
第１特別図柄抽選では、２７／８１９２の確率で大当たり当選する大当たり抽選（大当たり当選判定）が実行され、さらに、１／８１９２の確率で時短当選する時短抽選（時短当選判定）が実行されるように構成している。ここで、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として大当たりＡ、大当たりＢが設定されるように構成しており、大当たりＡ（選択割合７０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、確変状態（宇宙モード）が設定される。一方、大当たりＢ（選択割合３０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第１時短状態（チャレンジモード）が設定される。
【４５０８】
確変状態（宇宙モード）中は、普通図柄の高確率状態が設定されており、普通図柄抽選で当たり当選する確率が高確率（２３９／２４０）となるため、右打ち遊技によって作動装置３０７０へと遊技球を流入させ、何れかの非電作動口へと遊技球を入球させることにより右第１入球口３０６４、或いは第２入球口３０６５へと遊技球を入球させる遊技を実行し易い状態となる。よって、確変状態（宇宙モード）中は、右打ち遊技が遊技者に有利な遊技となる。
【４５０９】
確変状態（宇宙モード）中は、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球し易くなるように構成しているため、基本的には第１特別図柄抽選が実行される。第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、上述した通り、大当たり種別として大当たりＡ，大当たりＢが設定されるため、大当たりＡ（選択割合７０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、再度確変状態（宇宙モード）が設定され、大当たりＢ（選択割合３０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第１時短状態（チャレンジモード）が設定される。
【４５１０】
第１時短状態（チャレンジモード）中は、普通図柄の高確率状態が設定されており、普通図柄抽選で当たり当選する確率が高確率（２３９／２４０）となるため、上述した確変状態と同様に、右打ち遊技によって作動装置３０７０へと遊技球を流入させ、何れかの非電作動口へと遊技球を入球させることにより右第１入球口３０６４、或いは第２入球口３０６５へと遊技球を入球させる遊技を実行し易い状態となる。よって、第１時短状態（時短Ａモード）中は、右打ち遊技が遊技者に有利な遊技となる。
【４５１１】
第１時短状態（チャレンジモード）中は、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し易くなるように構成しているため、基本的には第２特別図柄抽選が実行される。第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として大当たりＡ、大当たりＣが設定されるように構成しており、大当たりＡ（選択割合１０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第１時短状態（チャレンジモード）が設定される。一方、大当たりＣ（選択割合９０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第２時短状態（天国モード）が設定される。
【４５１２】

第２時短状態（天国モード）中は、上述した第１時短状態（チャレンジモード）と、同様に、普通図柄の高確率状態が設定されており、普通図柄抽選で当たり当選する確率が高確率（２３９／２４０）となるため、上述した確変状態と同様に、右打ち遊技によって作動装置３０７０へと遊技球を流入させ、何れかの非電作動口へと遊技球を入球させることにより右第１入球口３０６４、或いは第２入球口３０６５へと遊技球を入球させる遊技を実行し易い状態となる。よって、第１時短状態（時短Ａモード）中は、右打ち遊技が遊技者に有利な遊技となる。

【４５１３】

第２時短状態（天国モード）中は、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し易くなるように構成しているため、基本的には第２特別図柄抽選が実行される。第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として大当たりＡ、大当たりＣが設定されるように構成しており、大当たりＡ（選択割合１０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第１時短状態（チャレンジモード）が設定される。一方、大当たりＣ（選択割合９０％）が設定された場合には、大当たり遊技終了後に、第２時短状態（天国モード）が設定される。

【４５１４】

ここで、本第９制御例では、第１時短状態と、第２時短状態とで、時短終了条件の成立のし易さを異ならせており、第１時短状態の方が第２時短状態よりも時短終了条件が成立し易くなるように構成している。具体的には、第１時短状態は、時短状態を終了させるための時短終了条件として、第１特別図柄抽選の実行回数と、第２特別図柄抽選の実行回数と、を合算した合算抽選回数が１０回に到達した場合に成立する時短終了条件が設定されており、大当たり遊技が実行されること無く、時短終了条件が成立した場合には、遊技状態が通常状態へと移行する。

【４５１５】

一方、第２時短状態は、時短状態を終了させるための時短終了条件として、第１特別図柄抽選の実行回数と、第２特別図柄抽選の実行回数と、を合算した合算抽選回数が１００００回に到達した場合に成立する時短終了条件が設定されており、大当たり遊技が実行されること無く、時短終了条件が成立した場合には、遊技状態が通常状態へと移行する。本第８制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が約２７／８１９２となるように構成しているため、第２時短状態が設定された場合には、実質、次回大当たり当選するまで時短状態が継続することになる。

【４５１６】

＜第９制御例における演出内容について＞

次に、図３６３および図３６４を参照して、本第９制御例のパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。具体的には、通常状態中における時短当選を示すための時短当選演出の内容や、各遊技状態に対応した演出モード画面の内容について説明をする。なお、上述した各実施形態と同一の演出要素については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【４５１７】

まず、図３６３（ａ）を参照して、通常状態で時短図柄当たり（時短当選）した場合の演出内容について説明をする。図３６３（ａ）は、通常状態で時短図柄当たり（時短当選）した場合に第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される一例を示した図である。

【４５１８】

本第９制御例では、通常状態中にのみ時短抽選を実行可能に構成している。具体的には、通常状態中に実行された特別図柄抽選の結果が大当たり当選では無い（外れである）場合に、時短当選の有無を判定可能に構成しており、特別図柄抽選が実行された場合の１／８１９２という低確率で時短当選するように構成している。そして、時短当選した場合には、対象となる特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動を停止表示した後に時短状態（第２時短状態）が設定されるように構成している。ここで、本第９制御例では、第２時短状態が遊技者に最も有利な遊技状態となるように構成しているため、通常状態中の遊

技を行っている遊技者は、特別図柄抽選で大当たり当選することを目指しながらも、時短当選を目指すことが可能となる。

【４５１９】

そして、特別図柄抽選で時短当選した場合には、図３６３（ａ）に示した通り、第３図柄表示装置８１の表示画面がブラックアウトする画像が表示される。本第８制御例では、上述した各制御例と同様に、特別図柄変動の変動パターンを決定（選択）する際に、時短当選の有無を参照しないように構成している。具体的には、時短当選の有無に関わらず、特別図柄抽選の結果が外れに対応した変動パターンが決定されるように構成している。

【４５２０】

このように構成することで、実行される特別図柄変動の変動パターンから時短当選の有無を遊技者に予測され難くすることができる。また、上述した各制御例と同様に通常状態において特別図柄抽選の結果が外れの場合には、異なる変動時間の変動パターンが選択されるように構成していることから、時短当選した特別図柄変動の変動パターンも異なる変動時間が設定されることになる。

【４５２１】

さらに、本第９制御例のように、時短当選したことを示す特別図柄変動に対応する変動演出として、特定の画像（ブラックアウト画像）を特別図柄の停止コマンドを受信するまで継続して表示するように構成することで、異なる変動時間の変動パターンが選択された場合であっても、音声ランプ制御装置１１３にて設定される変動演出として、時短当選に対応する変動演出を決定する処理を簡素化することができる。

【４５２２】

なお、本第９制御例では、時短当選に対応する変動演出（特別図柄変動中に第３図柄表示装置８１に表示される演出）として、図３６３（ａ）に示した表示画面を必ず表示するように構成することで、音声ランプ制御装置１１３の処理負荷を軽減させるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、時短当選に対応する変動演出として、主制御装置１１０から出力された変動パターンコマンド（外れ当選を示す変動パターンコマンド）に基づく変動演出（特別図柄抽選の結果が外れであることを示すための変動演出）を設定し、設定された変動演出の実行期間中における特定タイミング（例えば、変動演出が実行されてから５秒経過したタイミングや、変動演出の演出態様が進展するタイミング（リーチ表示タイミング）や、外れを示す組合せで第３図柄を停止表示させるタイミング）から、ブラックアウト画像を表示するように構成しても良い。

【４５２３】

このように構成することで、特別図柄抽選が外れであることを示すための変動演出が実行されている最中、つまり、遊技者の遊技意欲が低下し易い期間において、遊技者に最も有利な特典（時短当選）が付与されることを報知することができるため、特別図柄抽選の結果が外れである可能性が高い変動演出が実行されている間も、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【４５２４】

また、通常の変動演出が実行されている期間中に時短当選を示す演出を割り込ませる手法としては、上述した通り、予め定められた特定タイミングにて時短当選を示す演出を割り込ませる手法以外にも、例えば、遊技者に対して枠ボタン２２を操作させる操作演出が実行される場合には、その操作演出の演出結果の一部として、時短当選を示す演出を割り込ませるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者が操作手段（枠ボタン２２）を操作することに基づいて、時短当選の有無を報知するための演出を実行することができるため、遊技者に対して意欲的に操作手段を操作させることが可能となる。

【４５２５】

次に、図３６３（ｂ）を参照して、第２時短状態（天国モード）中における演出内容について説明をする。図３６３（ｂ）は、第２時短状態（天国モード）中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【４５２６】

図３６３（ｂ）に示した通り、第２時短状態（天国モード）が設定されると、主表示領域Ｄｍの背面画像として、天国を模した背面画像が表示されるように構成している。そして、小表示領域Ｄｍ３１には、大当たり当選した場合に、再度、第２時短状態（天国モード）が設定される確率（継続率）を示すための案内態様として「継続率９０％」の文字が表示されている。そして、副表示領域には、大当たり当選した後に第２時短状態（天国モード）が設定されなかった場合（継続しなかった場合）における遊技内容を説明するための案内態様として「終了しても行き先は宇宙だよ」のコメントが表示されている。

【４５２７】

また、主表示領域Ｄｍの左側に形成される小表示領域Ｄｍ３２には、各遊技状態に対応した演出モード（天国、宇宙、通常）が、遊技者への有利度合いに対応させた順序で表示されている。本第９制御例では、遊技者に有利な遊技状態である程、地面から離れた（標高の高い）場所が演出モードの背景となるように構成しており、最も遊技者に有利な遊技状態（第２時短状態）に対して天国モードが、次に遊技者に有利な遊技状態（確変状態）に対して宇宙モードが設定されるように構成している。

【４５２８】

このように、複数の演出モードの態様と、遊技者への有利度合いとに関連性を持たせるように構成することで、遊技者に対して表示されている演出モードが有利であるか否かを視覚的に判別させ易くすることができる。加えて、小表示領域Ｄｍ３２に表示される案内態様によって、設定可能（移行可能）な演出モードの全容と、現在設定されている演出モードと、各演出モードの有利度合いと、を遊技者に視覚的に把握させ易くすることができるため、遊技者に対して、現在設定されている演出モードが継続した方が良いのか、より有利な演出モードへと移行した方が良いのかを容易に判別することができ、遊技者に分かり易い遊技を提供し易くすることができる。

【４５２９】

なお、図３６３（ｂ）に示した通り、第２時短状態（天国モード）中は、時短回数として１００００回が設定されており、実際には、特別図柄抽選で大当たり当選すること無く、１００００回の特別図柄抽選が実行されたことに基づいて時短終了条件が成立し、通常状態へと移行するように構成しているが、特別図柄抽選で大当たり当選すること無く、１００００回の特別図柄抽選が実行される割合はごく僅かであるため、時短終了条件が成立するまでの特別図柄抽選の実行回数（残時短回数）を表示しないように構成している。

【４５３０】

このように構成することで、第２時短状態（天国モード）が次回の大当たり当選まで継続すると遊技者に思わせ易くすることができる。なお、万が一、第２時短状態における残時短回数が所定数（例えば、５０回）に到達した場合には、第２時短状態が終了する虞があることを遊技者に報知するための注意喚起画像と、残時短回数と、を表示する注意演出を実行するように構成すると良い。このように構成することで、何の前触れも無く第２時短状態が終了してしまい遊技者が困惑してしまうことを抑制することができる。

【４５３１】

次に、図３６４（ａ）を参照して、確変状態（宇宙モード）中の表示画面の内容について説明をする。図３６４（ａ）は、確変状態（宇宙モード）中の表示画面に表示される表示内容の一例を示した図である。図３６４（ａ）に示した通り、確変状態中は、右打ち遊技によって第１特別図柄抽選が実行され易くなるように構成していることから、小表示領域Ｄｍ１には第１特別図柄変動が実行中であることを示すための表示態様（図では矢印３本で表示）が表示されている。そして、主表示領域Ｄｍの背景画像として、宇宙を模した背景画像が表示され、現在の演出モードを示すための案内態様として「宇宙モード」の文字が表示されている。

【４５３２】

そして、小表示領域Ｄｍ３１には、大当たり遊技終了後に再度確変状態（宇宙モード）が設定される確率（継続率）を示すための案内態様として「継続率７０％」の文字が表示されている。また、小表示領域Ｄｍ３２には、現在の遊技状態が確変状態であることを遊

技者に分かり易く報知するの表示態様が表示されている。この宇宙モードが設定されている遊技状態、即ち、確変状態は、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が高確率（１／６０）となり、次回大当たり当選するまで確変状態が継続するように構成している。つまり、確変状態（宇宙モード）が設定された場合には、上述した第２時短状態（天国モード）が設定された場合と同様に、次の大当たり遊技が実行されるまで継続して遊技者に有利な遊技（特別図柄抽選を実行し易い遊技）が実行されることになることから、遊技者に有利な遊技状態となる。

【４５３３】

次に、図３６４（ｂ）を参照して、第１時短状態（チャレンジモード）が設定された場合に実行される演出内容について説明をする。図３６４（ｂ）は、第１時短状態（チャレンジモード）中に表示される表示画面の一例を示した図である。図３６４（ｂ）に示した通り、第１時短状態（チャレンジモード）が設定されると、ロケット１８５１によって高度（標高）を徐々に高くするための演出が実行されるように構成している。そして、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選（１０回）の残回数を示すため表示態様が小表示領域Ｄｍ８に表示され、副表示領域Ｄｓには「天国まで届け」のコメントが表示されており、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選によって、大当たり当選を目指す遊技に対応した演出が実行される。

【４５３４】

つまり、第１時短状態中は、第２特別図柄抽選の結果に基づいて、ロケット１８５１の上昇度合いを可変させた変動演出が実行され、大当たり当選した場合にはロケット１８５１が天国に到達した演出が実行される。そして、第１時短状態の時短終了条件が成立する第２特別図柄変動、即ち、時短最終変動の抽選結果が外れである場合には、ロケット１８５１が故障して通常背景（例えば、地面）に落下する演出が実行され、第１時短状態の終了後に通常状態が設定されることを遊技者に案内するように構成している。

【４５３５】

また、第１時短状態中に実行された第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合には、ロケット１８５１が宇宙を彷徨ったまま宇宙モードへと移行する演出が実行される。このように構成することで、チャレンジモード中は複数回の特別図柄抽選が実行される期間を跨いだ期間演出を継続して実行することができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【４５３６】

＜第９制御例における電気的構成について＞

次に、図３６５から図３７５を参照して、本第９制御例のパチンコ機１０における電気的構成について説明をする。本第９制御例では、上述した第５制御例のパチンコ機に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成の一部、ＲＡＭ２０３の構成の一部、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【４５３７】

まず、図３６５から図３６７を参照して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図３６５（ａ）は、本第９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図３６５（ａ）に示した通り、本第９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図２４４（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａに代えて第１当たり乱数９テーブル２０２ｈａを、第１当たり種別選択５テーブル２０２ｄｂに代えて大当たり種別選択９テーブル２０２ｈｂが設けられている点、及び、普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆ、及び時短当たり乱数テーブル２０２ｈｅが追加されている点で相違している。

【４５３８】

普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆは、普通図柄の抽選で当たり（普図当たり）

当選した場合に、その普図当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。詳細な内容については、図３６７（ｂ）を参照して後述するが、普通図柄の抽選で当たり当選した場合には、この普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆが参照されて、当選時の遊技状態と、取得した普図当たり種別カウンタＣ６の値に対応する普図当たり種別が決定される。この普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆに規定されている内容については、図３６７を参照して後述する。

【４５３９】

ここで、普図当たり種別カウンタＣ６は、他の各種カウンタ（第１当たり乱数カウンタＣ１等）と同様に、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理によって定期的に値が更新されるカウンタである。具体的には、タイマ割込処理が実行される毎に、普図当たり種別カウンタＣ６の値を１加算すると共に、カウンタ値が最大値（本実施形態では９９）に達した際、最小値０にクリアする。つまり、普図当たり種別カウンタＣ６は、「０～９９」の範囲をループしながら値が更新されるものである。そして、更新後の値が、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納される。普図当たり当選した場合には、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納されている普図当たり種別カウンタＣ６が読み出され、普図当たり種別を決定する際に参照される。

【４５４０】

次に、図３６５（ｂ）を参照して、本第９制御例における第１当たり乱数９テーブル２０２ｈａについて説明する。図３６５（ｂ）は、本第９制御例における第１当たり乱数９テーブル２０２ｈａの規定内容を示した図である。

【４５４１】

図３６５（ｂ）に示した通り、第１当たり乱数９テーブル２０２ｈａは、上述した第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａ（図２４５（ａ）参照）に対して、大当たり当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値の範囲を異ならせている点で相違している。また、本第９制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を異ならせている。具体的には、上述した第５制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を「０～８９９」の９００個に規定しているが、本第９制御例では、「０～８１９１」の８１９２個に規定している。このように構成することで、第１当たり乱数カウンタＣ１の値を参照して決定される各種判定において、より低確率な判定結果を規定することができる。なお、本第９制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を異ならせているだけであり、第１当たり乱数カウンタＣ１の値を更新するための処理や、更新後の値を格納する構成については同一であるためその詳細な説明を省略する。

【４５４２】

具体的には、特別図柄の確率状態が「低確率」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～２６」の範囲に対して抽選結果「大当たり」が、「２７～８１９１」の範囲に対して抽選結果「外れ」が規定されており、「高確率」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～１３６」の範囲に対して抽選結果「大当たり」が、「１３７～８１９１」の範囲に対して抽選結果「外れ」が規定されている。

【４５４３】

つまり、特別図柄の確率状態が「低確率」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値が８１９２個に対して、大当たりと判定される値が２７個であるため、大当たり当選確率が２７／８１９２（約１／３００）となる。一方、特別図柄の確率状態が「高確率」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値が８１９２個に対して、大当たりと判定される値が１３７個であるため、大当たり当選確率が１３７／８１９２（約１／６０）となる。

【４５４４】

次に、図３６６（ａ）を参照して、本第９制御例における大当たり種別選択９テーブル２０２ｈｂについて説明する。図３６６（ａ）は、大当たり種別選択９テーブル２０２ｈｂの規定内容を示した図である。図３６６（ａ）に示した通り、大当たり種別選択９テーブル２０２ｈｂには、第１特別図柄（特図１）に対応した大当たり種別として、大当たり

Ａ９，Ｂ９の２種類が、第２特別図柄（特図２）に対応した大当たり種別として、大当たりＡ９，Ｃ９の２種類が設けられている。

【４５４５】

図３６６（ａ）に示した通り、特別図柄の種別として、特図１（第１特別図柄）に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～６９」の範囲には、「大当たりＡ９」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ９」は、ラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として確変状態が設定される大当たり種別（９ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ９」となるカウンタ値は７０個なので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ９」が決定される割合は７０％（７０／１００）である。

【４５４６】

図３６６（ａ）に示した通り、第１特別図柄に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「７０～９９」の範囲には、「大当たりＢ９」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＢ９」は、ラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第１時短状態が設定される大当たり種別（９ラウンド第１時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＢ９」となるカウンタ値は３０個なので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ９」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【４５４７】

また、特別図柄の種別として、特図２（第２特別図柄）に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９」の範囲には、「大当たりＡ９」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ９」は、ラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として確変状態が設定される大当たり種別（９ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ９」となるカウンタ値は１０個なので、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ９」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。

【４５４８】

図３６６（ａ）に示した通り、第２特別図柄に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１０～９９」の範囲には、「大当たりＣ９」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＣ９」は、ラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態が設定される大当たり種別（９ラウンド第２時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＣ９」となるカウンタ値は９０個なので、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ９」が決定される割合は９０％（９０／１００）である。

【４５４９】

次に、図３６６（ｂ）を参照して、時短当たり乱数９テーブル２０２ｈｅの詳細な内容について説明をする。図３６６（ｂ）は、時短当たり乱数９テーブル２０２ｈｅに規定されている内容を模式的に示した図である。この時短当たり乱数９テーブル２０２ｈｅは、上述した第５制御例における時短当たり乱数５テーブル２０２ｇｅに対して、時短当選し得る第１当たり乱数カウンタＣ１の値を異ならせている点と、第２特別図柄抽選においても時短当選し得る第１当たり乱数カウンタＣ１の値を規定している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４５５０】

具体的には、通常状態が設定されている場合には、第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選の何れにおいても第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「８１９２」に対して時短当選と判定される判定値が規定されている。つまり、本第９制御例では、通常状態において実行される特別図柄抽選において１／８１９２の確率で時短当選するように構成している。なお、時短当選した場合には、必ず時短種別として第２時短（時短Ｂ）が設定されるように構成しているため、時短当選した後は、第２時短状態（天国モード）へと移行する。

【４５５１】

次に、図３６７を参照して、普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆの詳細な内容について説明をする。図３６７は、普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆに規定されている内容を示した図である。この普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆは、普通図柄抽選で当たり当選した場合において設定される普図当たり種別を決定する際に参照されるデータテーブルであって、設定されている遊技状態と、取得した普図当たり種別カウンタＣ６の値とに対応付けて異なる普図当たり種別（普図当たりＡ、普図当たりＢ）がそれぞれ規定されている。

【４５５２】

具体的には、図３６７に示した通り、遊技状態が「確変」、又は「第１時短」であって、取得した普図当たり種別カウンタＣ６の値が「０～９９」の範囲には、普図当たり種別として「普図当たりＡ」が決定されるように構成されており、遊技状態が「第２時短」であって、取得した普図当たり種別カウンタＣ６の値が「０～９９」の範囲には、普図当たり種別として「普図当たりＢ」が決定されるように構成している。

【４５５３】

ここで、普図当たり種別の内容について説明をする。本実施形態では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合と、普通図柄の高確率状態が設定されている場合とで、普図当たり遊技における普通電動役物３０７１の開放パターンを異ならせており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも、１回の普図当たり遊技において普通電動役物３０７１が開状態となる期間が短くなるように構成している。これにより、普通図柄の高確率状態のほうが、普通図柄の低確率状態よりも、作動装置３０７０へと遊技球を入球させ易くすることが可能となる。

【４５５４】

上述した通り、作動装置３０７０の内部には、右第１入球口３０６４に付随する特図１非電動役物３０６４ａを閉状態から開状態へと作動させるための特図１非電作動口３０７３ａや、第２入球口３０６５に付随する特図２非電動役物３０６５ａを閉状態から開状態へと作動させるための特図２非電作動口３０７３ｂが配設されていることから、作動装置３０７０へと遊技球を流入させ易い状態（普通図柄の高確率状態）のほうが、作動装置３０７０へと遊技球を流入させ難い状態（普通図柄の低確率状態）よりも、特別図柄の抽選を実行させ易い遊技状態となるため、遊技者に有利な遊技状態となる。

【４５５５】

さらに、本第９制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される時短状態において、異なる時短種別を設定可能に構成しており、設定された時短種別に応じて、普通図柄抽選で当たり当選した場合に決定される普図当たり種別の選択割合を異ならせるように構成している。本第９制御例では、図３６７（ｂ）に示した通り、普図当たり種別として「普図当たりＡ」、「普図当たりＢ」を選択可能に構成している。

【４５５６】

そして、普図当たり種別として「普図当たりＡ」が決定された場合と、「普図当たりＢ」が決定された場合とで、１回の普図当たり遊技において普通電動役物３０７１が開状態となる期間の長さを変えること無く、普図当たり遊技が実行されてから普通電動役物３０７１が開状態となるまでの期間（オープニング期間）の長さを異ならせるように構成している。つまり、何れの普図当たり種別が決定された場合であっても、通常状態（普通図柄の低確率状態）において実行される普図当たり遊技よりも、遊技球を作動装置３０７０へと流入させ易い普図当たり遊技が実行されるが、決定された普図当たり種別に応じて、作動装置３０７０への遊技球の流入タイミングを異ならせるように構成し、流入タイミングを異ならせることにより、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球し易い普図当たり遊技と、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球し易い普図当たり遊技と、を実行可能に構成している。

【４５５７】

具体的には、普図当たり種別として「普図当たりＡ」が設定された場合には、作動装置３０７０内へと流入した遊技球が可動片３０７２に到達し得る期間において、可動片３０

７２が開状態となり易くなるように普図当たり遊技のオープニング期間が設定され、「普図当たりＢ」が設定された場合には、作動装置３０７０内へと流入した遊技球が可動片３０７２に到達し得る期間において、可動片３０７２が閉状態となり易くなるように普図当たり遊技のオープニング期間が設定されている。

【４５５８】

なお、本第９制御例では、図３６０及び図３６１を参照して上述した通り、普図当たり遊技として、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球する普図当たり遊技（普図当たりＡの普図当たり遊技）と、作動装置３０７０へと流入した遊技球が特図２非電作動口３０７３ｂへと入球する普図当たり遊技（普図当たりＢの普図当たり遊技）と、を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、普図当たり遊技によって普通電動役物３０７１が開状態となる開放期間のうち、第１期間内に遊技球を作動装置３０７０へと流入させた場合には特図２非電作動口３０７３ｂへと遊技球を入球させることが可能となり、第１期間とは異なる第２期間内に遊技球を作動装置３０７０へと流入させた場合には特図１非電作動口３０７３ａへと遊技球を入球させることが可能となる普図当たり遊技（例えば、普図当たり種別「普図当たりＣ」）を実行可能に構成しても良い。

【４５５９】

このように構成することで、設定された普図当たり種別に応じて遊技球が入球し得る非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）が決定されるのでは無く、遊技球の流下状況（作動装置３０７０への流入タイミングや、作動装置３０７０内での流下速度や流下経路等）に応じて入球し得る非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）が決まるため、遊技者に対して、何れかの非電作動口（特図１非電作動口３０７３ａ、特図２非電作動口３０７３ｂ）へと遊技球が入球するまで何れの特別図柄抽選（第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選）が実行され易くなるのかを把握させ難くすることができる。

【４５６０】

なお、本第９制御例では、図３６７に示した通り、設定されている遊技状態に応じて、設定される普図当たり種別を確実に異ならせるように普図当たり種別選択９テーブル２０２ｈｆの内容を規定しているが、これに限ること無く、第２時短状態が設定されている場合のほうが、普図当たりＢの普図当たり種別が選択され易くなる範囲において、第２時短状態が設定されていない場合であっても普図当たりＢを選択可能に構成しても良い。このように構成することで、第１特別図柄抽選が主に実行される普通図柄の高確率状態において、突然、第２特別図柄抽選が実行される状況を創出することができるため、遊技者に意外性のある遊技を提供することができる。

【４５６１】

次に、図３６８を参照して、本第９制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明する。図３６８は、本第９制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図３６８に示した通り、本第９制御例におけるＲＡＭ２０３の構成は、上述した第５制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図２４４（ｂ）参照）に対して、特図２変動回数カウンタ２０３ｐａが追加されている点で相違している。その他の構成については上述した第５制御例におけるＲＡＭ２０３の構成と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【４５６２】

大当たり種別格納エリア２０３ｅｂは、大当たりに当選した場合に、当該当選した大当たりの種別を示すデータを一時的に格納しておくための記憶領域である。この大当たり種別格納エリア２０３ｅｂには、特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に、大当たり種別に対応するデータが格納される。この大当たり種別格納エリア２０３ｅｂに格納されたデータは、当選した大当たりの終了タイミングまで保持され、大当たり終了後の遊技状態を、大当たり種別に応じて設定するために用いられる。なお、大当たり種別格納エリア２０３ｅｂの詳細な内容については、第９実施形態に上述した内容と同一であるため、その説

明を省略する。
【４５６３】
次に、図３６９（ａ）を参照して、本第９制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の構成について説明する。図３６９（ａ）は、本第９制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示したブロック図である。図３６９（ａ）に示した通り、本第９制御例におけるＲＯＭ２２２の構成は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２２２の構成に対して、期待度選択テーブル２２２ｐａが追加されている点でのみ相違している。この期待度選択テーブル２２２ｐａは、時短種別「時短Ａ」、即ち、主として第１特別図柄抽選が実行される時短状態が設定されている状態において、第２特別図柄抽選が比較的実行され難い「時短Ａ１」が設定されているか、比較的実行され易い「時短Ａ２」が設定されているかを遊技者に示唆するためのモード種別示唆演出（図７９１（ｂ）参照）の演出態様（演出により示唆される期待度）を決定するために参照されるデータテーブルである。
【４５６４】
ここで、上述した通り、本第９制御例では、第２特別図柄抽選よりも第１特別図柄抽選が実行され易い時短状態として、「時短Ａ」を設定可能に構成している。さらに、「時短Ａ」として、第２特別図柄抽選が比較的実行され難い「時短Ａ１」が設定されているか、比較的実行され易い「時短Ａ２」を設定可能に構成している。そして、「時短Ａ」が設定されている場合には、何れの時短種別（時短Ａ１、時短Ａ２）が設定されている場合も共通のモード演出（時短Ａモード）を実行するように構成している。
【４５６５】
このように構成することで、時短Ａモードの演出が実行された遊技者に対して、設定されている時短種別が「時短Ａ１」であるか「時短Ａ２」であるかを予測させる楽しみを提供することができる。また、時短Ａモードの演出が実行されている状態で、モード示唆演出を実行可能に構成しているため、時短Ａモードの演出が実行されている状態において、遊技者に対して実際に設定されている時短種別（時短Ａ１、時短Ａ２）を予測するための要素を提供することができる。
【４５６６】
ここで、この期待度選択テーブル２２２ｐａの詳細について、図３６９（ｂ）を参照して説明する。図３６９（ｂ）は、期待度選択テーブル２２２ｐａの規定内容を示した図である。図３６９（ｂ）に示した通り、この期待度選択テーブル２２２ｐａは、時短種別毎に、期待度の種別（時短Ａ２の時短種別が設定されている期待度）と、演出抽選カウンタ２２３ｅａの値の範囲とが対応付けて規定されている。具体的には、図３６９（ｂ）に示した通り、時短種別「時短Ａ１」（時短Ａのうち、第２特別図柄抽選が実行される確率が比較的低い時短種別）に対しては、演出抽選カウンタ２２３ｅａの値が「０～４」の範囲に高期待度用の演出態様が対応付けて規定され、「５～４９」の範囲に中期待度用の演出態様が対応付けて規定され、「５０～９９」の範囲に低期待度用の演出態様が対応付けて規定されている。
【４５６７】
演出抽選カウンタ２２３ｅａは、「０～９９」の１００個の値を取り得るので、時短種別Ａ１となった場合に高期待度用、中期待度用、および低期待度用の演出態様が決定される割合は、それぞれ５％（５／１００）、４５％（４５／１００）、および５０％（５０／１００）である。
【４５６８】
また、図３６９（ｂ）に示した通り、時短種別「時短Ａ２」（時短Ａのうち、第２特別図柄抽選が実行される確率が比較的高い時短種別）に対しては、演出抽選カウンタ２２３ｅａの値が「０～１９」の範囲に高期待度用の演出態様が対応付けて規定され、「２０～７９」の範囲に中期待度用の演出態様（図示せず）が対応付けて規定され、「８０～９９」の範囲に低期待度用の演出態様が対応付けて規定されている。
【４５６９】

演出抽選カウンタ２２３ｅｋａは、「０～９９」の１００個の値を取り得るので、時短Ａ２となった場合に高期待度用、中期待度用、および低期待度用の演出態様が決定される割合は、それぞれ２０％（２０／１００）、６０％（６０／１００）、および２０％（２０／１００）である。これらの規定内容から、高期待度用の演出態様は、時短Ａ２が設定されている場合に選択され易くなる一方で、時短Ａ１が設定されている場合に選択し難くなると言える。また、中期待度用の演出態様は、時短Ａ１、時短Ａ２の何れが設定されている場合にも比較的高い割合で選択され、低期待度用の演出態様は、時短Ａ２が設定されている場合に選択され難く、時短Ａ１が選択されている場合に選択され易くなる。よって、高期待度用の演出態様が実行された場合には、設定されている時短種別が時短Ａ２である可能性が高いということを示唆することが可能となる一方で、低期待度用の演出態様が実行された場合には、設定されている時短種別が時短Ａ１である可能性が高いということを示唆することが可能となる。また、中期待度用の演出態様が実行された場合には、設定されている時短種別が時短Ａ１、時短Ａ２の何れの可能性もあるということを示唆することが可能となる。これにより、演出態様により示唆された期待度に応じて、遊技者に対して時短状態中における第２特別図柄抽選の実行期待度を予測させることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【４５７０】

次に、図３７０を参照して、本第９制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の構成について説明する。図３７０は、ＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図３７０に示した通り、本第９制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第５制御例におけるＲＡＭ２２３の構成に対して、演出抽選カウンタ２２３ｈａ、残時短回数カウンタ２２３ｈｂ、特図１非電開放中フラグ２２３ｈｃ、特図２非電開放中フラグ２２３ｈｄ、初期変動待機フラグ２２３ｈｅが追加されている点で相違している。

【４５７１】

演出抽選カウンタ２２３ｈａは、上述した期待度選択テーブル２２２ｐａから１の演出態様（期待度種別）を選択するために用いるカウンタである。この演出抽選カウンタ２２３ｈａは、「０～９９」の範囲で値が更新される。特殊小当たり演出の演出態様（期待度種別）を選択する場合は、期待度選択テーブル２２２ｐａに規定された乱数値（カウンタ値）と、この演出抽選カウンタ２２３ｈａの値と比較されて、対応する１の演出態様（期待度種別）が選択される。この演出抽選カウンタ２２３ｈａは、例えばメイン処理１７（図８０７参照）の中で１ｍｓ毎に更新される。

【４５７２】

残時短回数カウンタ２２３ｈｂは、時短状態中における残時短回数を計測するためのカウンタである。

【４５７３】

特図１非電開放中フラグ２２３ｈｃは、特図１非電動役物３０６４ａが作動していることを示すためのフラグであり。特図１非電動役物３０６４ａが開状態（作動中）である場合にオンに設定され、閉状態（未作動中）である場合にオフに設定されるフラグである。

【４５７４】

特図２非電開放中フラグ２２３ｈｄは、特図２非電動役物３０６５ａが作動していることを示すためのフラグであり。特図２非電動役物３０６５ａが開状態（作動中）である場合にオンに設定され、閉状態（未作動中）である場合にオフに設定されるフラグである。

【４５７５】

初期変動待機フラグ２２３ｈｅは、大当たり遊技が終了してから１回目の特別図柄変動が実行されるまでの期間を示すためのフラグであって、大当たり遊技が終了した場合にオンに設定される。そして、大当たり遊技終了後、１回目の特別図柄変動が実行された場合にオフに設定される。つまり、大当たり遊技が終了してから１回目の特別図柄変動が実行されるまでの間、オンに設定されるフラグである。

【４５７６】

この初期変動待機フラグ２２３ｈｅは、大当たり遊技終了時に表示される遊技説明画面を継続して表示する期間を判別する際に参照される。

【４５７７】

なお、本制御例では、大当たり遊技終了後に、実行される特別図柄種別に関わらず、１回目の特別図柄抽選が実行された場合に、初期変動待機フラグ２２３ｈｅをオフに設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技終了後に設定される時短状態の時短種別が「時短Ａ」の場合は、１回目の第１特別図柄変動が実行されるまで、「時短Ｂ」の場合は、１回目の第２特別図柄変動が実行されるまでを初期変動待機フラグ２２３ｈｅがオンに設定される期間として設定しても良い。つまり、設定される時短状態の時短種別に応じて、初期変動待機フラグ２２３ｈｅをオフに設定するための特別図柄変動種別を異ならせるように構成しても良く、設定される時短種別によって主として実行される特別図柄種別に対応した特別図柄変動が実行されるまで初期変動待機フラグ２２３ｈｅをオンに設定するように構成しても良い。

【４５７８】

＜第９制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図３７１から図３７５を参照して、本第９制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理の内容のうち、特徴的な内容について説明をする。なお、上述した第５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。また、上述した第５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容と同一の内容である制御処理のうち、一部の制御処理に対して、説明の便宜上、異なる符号を付している箇所があるが、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【４５７９】

図３７１は、コマンド判定処理９（Ｓ５４１１２）の内容を示したフローチャートである。このコマンド判定処理９（Ｓ５４１１２）では、上述したコマンド判定処理に対して、状態コマンドを受信したと判別した場合（Ｓ４３０９：Ｙｅｓ）に、状態コマンド処理９を実行する点（Ｓ５４３０１）と、時短関連コマンドを受信したと判別した場合（５４３０３：Ｙｅｓ）に、時短関連処理９を実行する（Ｓ５４３０４）処理を実行する点で相違している。それ以外は同一である。

【４５８０】

ここで、図３７２を参照して、状態コマンド処理９（Ｓ５４３０１）の内容について説明をする。図３７２は、状態コマンド処理９（Ｓ５４３０１）の内容を示したフローチャートである。この状態コマンド処理９（Ｓ５４３０１）は、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に状態コマンドが含まれている場合に実行される処理であって、主制御装置１１０にて設定されている遊技状態に基づく演出態様を設定するための処理や、時短状態が設定された場合における残時短回数（時短終了条件）を設定するための処理が実行される。

【４５８１】

状態コマンド処理９（Ｓ５４３０１）が実行されると、まず、遊技状態を示すコマンドを受信したかを判別し（Ｓ５４３５１）、受信したと判別した場合は（Ｓ５４３５１：Ｙｅｓ）、遊技状態更新処理９を実行し（Ｓ５４３５２）、Ｓ５４３５３へ移行する。また、受信していないと判別した場合は（Ｓ５４３５１：Ｎｏ）、次に、時短回数の設定を示すコマンドを受信したかを判別し（Ｓ５４３５３）、受信したと判別した場合は（Ｓ５４３５３：Ｙｅｓ）、遊技状態格納エリア２２３ｉに格納されている時短種別を読み出し（Ｓ５４３５４）、読み出した時短種別が「時短Ａ」であるかを判別し（Ｓ５４３５５）、「時短Ａ」であると判別した場合は（Ｓ５４３５５：Ｙｅｓ）、残時短回数カウンタ２２３ｐａの値に「１００００」を設定し、Ｓ５４３５８の処理へ移行する。一方、「時短Ａ」では無い（「時短Ｂ」である）と判別した場合は（Ｓ５４３５５：Ｎｏ）、残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値に１０を設定し（Ｓ５４３５７）、Ｓ５４３５８の処理へ移行す

る。
【４５８２】
つまり、残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値には、時短種別に対応した残時短回数（時短終了条件）が設定される（Ｓ５４３５６，Ｓ５４３５７）。ここで、設定された残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値は、時短状態が設定されている場合に第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される小領域Ｄｍ６の残時短回数として表示される。なお、本第９制御例では、第２時短状態の時短終了条件として残時短回数カウンタ２２３ｈｂに「１００００」の値が設定されるように構成している。つまり、１００００回の特別図柄抽選において大当たり当選しなかった場合に成立する時短終了条件が設定されるように構成している。
【４５８３】
この場合、時短状態における特別図柄抽選は、２７／８１９２の確率で大当たり当選するため、実質、時短終了条件が成立するまでに略確実に大当たり当選することになる。よって、第２時短状態が設定された場合には、残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値が所定数（例えば、１００）に到達するまでは、第３図柄表示装置８１の表示画面に残時短回数を更新表示する処理を実行しないように構成し、代わりに、「∞」の文字を継続して表示するように構成している。
【４５８４】
このように構成することで、遊技者が時短状態の残時短回数に興味を持たない期間（残時短回数を多く残っている期間）において、特別図柄抽選が実行される毎に残時短回数を示す表示態様を更新表示する処理を実行する手間を省くことができ、音声ランプ制御装置１１３の処理負荷を軽減させることができる。
【４５８５】
なお、この場合、大当たり当選した後に、今回の第２時短状態において実行された特別図柄抽選の実行回数を遊技者に結果表示の一部として表示するように構成しても良い。このように構成することで、実際に実行した遊技の分析を遊技者に行わせ易くすることができる。
【４５８６】
このように、主として実行される特別図柄抽選の種別を異ならせた普通図柄の高確率状態を設定可能なパチンコ機１０において、主として成立し易い時短終了条件を成立させるための要素を残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値に設定するように構成することで、残時短回数を更新表示すための処理は、残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値に対する更新内容に基づいて実行すれば良く、残時短回数を示す表示態様を更新させるための処理を簡素化することができる。
【４５８７】
Ｓ５４３５８の処理では、状態コマンドに含まれるその他の情報に対応する処理を実行し（Ｓ５４３５８）、本処理を終了する。
【４５８８】
次に、図３７３を参照して、遊技状態更新処理９（Ｓ５４３５２）の内容について説明をする。図３７３は、遊技状態更新処理９（Ｓ５４３５２）の内容を示したフローチャートである。この遊技状態更新処理９（Ｓ５４３５２）では、状態コマンド処理９（図３７２のＳ５４３０１参照）において遊技状態を示すコマンドを受信した場合に実行される処理であって、移行前の遊技状態と、移行後の遊技状態とに基づいた処理が実行される。
【４５８９】
遊技状態更新処理９（Ｓ５４３５２）が実行されると、まず、今回受信した状態コマンドに基づいて、現在の遊技状態を示すための情報を遊技状態格納エリア２２３ｉに格納し（Ｓ４４０１）、通常状態へ移行したかを判別する（Ｓ５４４０１）。Ｓ５４４０１の処理において、通常状態へと移行したと判別した場合、即ち、今回受信した状態コマンドに通常状態を示すコマンドが含まれていると判別した場合は（Ｓ５４４０１：Ｙｅｓ）、残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値を０にクリアする（Ｓ５４４０２）。

【４５９０】
次に、特図２保留（第２特別図柄の保留記憶）があるかを判別し（Ｓ５４４０４）、特図２保留が無いと判別した場合は（Ｓ５４４０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【４５９１】
一方、Ｓ５４４０４の処理において、特図２保留があると判別した場合は（Ｓ５４４０４：Ｙｅｓ）、特図２保留数に対応する回数の引き戻し演出を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５４４０５）、本処理を終了する。
【４５９２】
つまり、Ｓ５４４０４からＳ５４４０５の処理では、主として第１特別図柄抽選が実行される「時短Ａ（時短Ａモード）」が終了した時点で特図２保留を獲得している場合において、通常状態へと移行してから優先して実行される第２特別図柄抽選に対して専用の演出（引き戻し演出）を実行するための処理が実行される。
【４５９３】
このように構成することで、引き戻し演出が実行されている最中が、遊技者に特別な状態であることを分かり易く報知することができる。
【４５９４】
Ｓ５４４０１の処理において、通常状態への移行では無いと判別した場合は（Ｓ５４４０１：Ｎｏ）、次に、時短状態への移行であるかを判別し（Ｓ５４４０６）、時短状態への移行では無いと判別した場合は（Ｓ５４４０６：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【４５９５】
一方、時短状態への移行であると判別した場合は（Ｓ５４４０６：Ｙｅｓ）、初期変動待機フラグ２２３ｈｅをオンに設定し（Ｓ５４４０７）、時短種別に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ５４４０８）、本処理を終了する。
【４５９６】
つまり、上述したＳ５４４０７，Ｓ５４４０８の処理では、大当たり遊技が終了し、時短状態が設定された場合において、大当たり遊技のエンディング期間中に表示された遊技説明画面の表示を、大当たり遊技終了後も継続して実行させるための処理が実行される。
【４５９７】
次に、図３７４を参照して、時短関連処理９（Ｓ５４３０４）の内容について説明をする。図３７４は、時短関連処理９（Ｓ５４３０４）の内容を示したフローチャートである。この時短関連処理９（Ｓ５４３０４）では、時短状態中に実行される特別図柄抽選に基づいて演出態様を決定するための処理が実行される。
【４５９８】
時短関連処理９（Ｓ５４３０４）が実行されると、まず、遊技状態格納エリア２２３ｉから現在の時短種別を読み出す（Ｓ５４６０１）。次に、現在の時短種別が「時短Ａ」であるかを判別し（Ｓ５４６０２）、現在の時短種別が「時短Ａ」であると判別した場合に（Ｓ５４６０２：Ｙｅｓ）、受信したコマンドが特図２変動関連（第２特別図柄変動の実行に関連）するコマンドであるかを判別する（Ｓ５４６０３）。
【４５９９】
Ｓ５４６０３の処理において、特図２変動関連であると判別した場合は（Ｓ５４６０３：Ｙｅｓ）、次に、従特図２変動回数カウンタ２２３ｐｂの値を１加算し（Ｓ５４６０４）、加算後の従特図２変動回数カウンタ２０３ｐｂの値が５よりも大きいかを判別する（Ｓ５４６０５）。Ｓ５４５０５の処理において、５よりも大きいと判別した場合は（Ｓ５４５６０５：Ｙｅｓ）、特図２変動回数が上限突破したことを示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５４６０６）、Ｓ５４６０９の処理へ移行する。
【４６００】
Ｓ５４６０６の処理において表示用コマンドが設定されると、第２特別図柄抽選が実行され難い時短Ａが設定された時短状態において、時短Ｂに対して設定される時短終了条件である「第２特別図柄抽選の実行回数５回」よりも多くの第２特別図柄抽選が実行されたことを祝福するための表示態様が設定される。

【４６０１】
一方、Ｓ５４６０２の処理において、今回読み出した時短種別が「時短Ａ」では無いと判別した場合は（Ｓ５４６０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【４６０２】
Ｓ５４６０９の処理では、受信した情報に基づいて残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値を更新し（Ｓ５４６０９）、更新後の残時短回数カウンタ２２３ｈｂの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５４６１０）、本処理を終了する。
【４６０３】
次に、図３７５を参照して、非電状況管理処理（Ｓ５４１０２）の内容について説明をする。図３７５は、非電状況管理処理（Ｓ５４１０２）の内容を示したフローチャートである。この非電状況管理処理（Ｓ５４１０２）では、パチンコ機１０に設けられた検知手段から出力される検知信号に基づいて、特図１非電動役物３０６４ａ、及び特図２非電動役物３０６５ａの作動状況を管理するための処理が実行される。
【４６０４】
従来より、遊技球が入球することで抽選（例えば、特別図柄抽選）を実行可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球を入球させることが可能な第１位置（開状態）と、第１位置よりも遊技球を入球させることが困難な第２位置（閉状態）と、に可変可能な可変手段（例えば、普通電動役物）と、を設け、当たり遊技（例えば、普通図柄抽選にて当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技）によって可変手段を可変動作させることにより、入球手段へと遊技球を入球させる遊技を実行可能に構成したパチンコ機がある。
【４６０５】
さらに、遊技状態として、当たり遊技が実行され易い、或いは、１回の当たり遊技において可変手段を第１位置に位置させる期間が長くなり易い有利遊技状態、即ち、入球手段へと遊技球を入球させ易くすることが可能な有利遊技状態（例えば、時短状態）を設定可能に構成したパチンコ機がある。
【４６０６】
このように構成された従来型のパチンコ機では、有利遊技状態が設定された場合は、有利遊技状態以外の遊技状態（例えば、通常状態）が設定されている場合に比べて、入球手段へと遊技球を入球させ易くすることができるため、遊技者に対して有利遊技状態が設定されることを期待させながら意欲的に遊技を行わせることができるものであった。
【４６０７】
しかしながら、従来型のパチンコ機では、入球手段へと遊技球を入球させた場合に実行される抽選が１種類であったため、その抽選の内容を過剰に遊技者に有利な内容にしてしまうと、有利遊技状態が設定された場合に遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうことになり、一方で、抽選の内容を遊技者への有利度合いが低い内容にしてしまうと、遊技者に対して有利遊技状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせ難くなるという問題があった。
【４６０８】
また、遊技者への有利度合いを高めた抽選内容に設定しておき、有利遊技状態が設定される頻度、即ち、遊技者に対して容易に入球手段へと遊技球を入球させることが可能な遊技状態が設定される頻度を低くする仕様を用いることも考えられるが、この場合、有利遊技状態が設定されるまでに要する遊技期間が長くなってしまい、有利遊技状態以外の遊技状態での遊技を行っている遊技者が、有利遊技状態が設定されるまでに遊技に飽きてしまうという問題があった。
【４６０９】
これに対して、本第９制御例では、有利遊技状態が設定されたことにより遊技球が入球し易くなった入球手段へと遊技球が入球した場合に、複数種類の抽選が実行され易くなるように構成している。そして、実行され易くなる複数種類の抽選に対して、遊技者への有利度合いを異ならせている。
【４６１０】

より具体的には、入球手段へと入球した遊技球の挙動（流下結果）に応じて、有利度合いの低い第１特別図柄抽選、或いは有利度合いの高い第２特別図柄抽選を実行させる（させ易くする）ことが可能となるように構成している。このように構成することで、有利遊技状態（時短状態）が設定されることで遊技者に対して特別図柄抽選を実行させ易くする期間を所定期間提供しながらも、その期間中に実行される（実行され易くする）特別図柄抽選の種別を切り替えることにより、有利遊技状態（時短状態）中に遊技者に付与される特典の有利度合いを異ならせることができるため、遊技者に対して過剰に有利な遊技を提供してしまうことを抑制することができる。

【４６１１】

さらに、詳細な説明は図３５６を参照して上述した通り、本第９制御例では、普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技中に遊技球が入球し易くなる領域内（作動装置３０７０内）に特図１非電動役物３０６４ａを作動させる契機となる特図１非電作動口３０７３ａと、特図２非電動役物３０６５ａを作動させる契機となる特図２非電作動口３０７３ｂと、を設け、普図当たり遊技の動作パターンに応じて遊技球が特図１非電作動口３０７３ａ、或いは特図２非電作動口３０７３ｂの何れかへと振り分けられるように構成している。

【４６１２】

そして、遊技球が特図１非電作動口３０７３ａへと入球した場合には特図１非電動役物３０６４ａが作動することで、第１特別図柄抽選の実行契機となる右第１入球口３０６４へと遊技球が入球し易い状態となり、特図２非電作動口３０７３ｂへと入球した場合には特図２非電動役物３０６５ａが作動することで、第２特別図柄抽選の実行契機となる第２入球口３０６５へと遊技球が入球し易い状態となるように構成している。さらに、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な抽選が実行されるように構成しており、特図１非電動役物３０６４ａと、特図２非電動役物３０６５ａとが共に作動している状態では、遊技球が第２入球口３０６５へと到達し難くなるように構成している。

【４６１３】

具体的には、第２入球口３０６５へと遊技球が到達し得る流路を作動中の特図１非電動役物３０６４ａが遮るように構成している。よって、特図１非電動役物３０６４ａと、特図２非電動役物３０６５ａとが共に作動している状態では、遊技球が第２入球口３０６５よりも第１入球口３０６４へと入球し易くなるように構成している。

【４６１４】

さらに、本第９制御例では、有利遊技状態を終了させるための終了条件として、有利遊技状態中に実行された特別図柄抽選の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する終了条件を設定している。このように構成することで、有利遊技状態中に第２特別図柄抽選のみを実行させる遊技を実行させ難くすることができる。

【４６１５】

加えて、本第９制御例では、パチンコ機１０の遊技盤１３のうち右側領域にスルーゲート６７、普通電動役物３０７１、特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａを配設しているため、例えば、各非電動役物へと遊技球を到達させること無く、スルーゲート６７、及び、普通電動役物３０７１に向けて遊技球を発射させ難くすることができる。よって、遊技者にとって有利な抽選が実行される第２入球口３０６５へと遊技球を入球させることが可能な状態（特図２非電動役物３０６５ａが作動している状態）となるまで、右第１入球口３０６４へと遊技球を入球させずに遊技を行わせ難くすることができる。

【４６１６】

つまり、スルーゲート６７、普通電動役物３０７１、特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａのうち、いずれかの装置に向けて遊技球を発射させた場合に、他の装置へと遊技球が入球され得るように構成している。このように構成することで、特定の装置に対してのみ遊技球を入球させる遊技を遊技者に実行されてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【４６１７】
なお、本第９制御例では、スルーゲート６７、普通電動役物３０７１、特図１非電動役物３０６４ａ、特図２非電動役物３０６５ａの全てを遊技盤１３の右側領域に設けているが、これに限ること無く、上述した各種装置の少なくとも複数が同一の流下経路を流下した遊技球が入球し得る位置に配設されるように構成すれば良い。
【４６１８】
＜第１０制御例＞
次に、図３７６から図３９５を参照して、第１０制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第１０制御例は、上述した第７制御例と同様に、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選では無い（外れである）場合の一部において、小当たり当選し得るように構成し、小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることで大当たり遊技を実行可能な遊技性（所謂、１種２種タイプ）を有している。そして、時短状態が設定された場合に、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）を獲得し易い時短状態と、獲得し難い時短状態と、を設定可能に構成している。
【４６１９】
本第１０制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第７制御例におけるパチンコ機１０に対して、特図２保留を所定数（４個）を上限に記憶可能に構成した点と、各遊技状態において大当たり当選に基づいて大当たり遊技が実行された後、或いは、小当たり当選に基づいて大当たり遊技が実行された後に設定される遊技状態を異ならせている点で相違している。さらに、時短状態中に実行される演出の内容を変更している点で相違している。
以下に、本第１０制御例に対して、上述した第７制御例との相違点を主に説明をする。なお、上述した第７制御例と同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。
【４６２０】
上述した第７制御例（各変形例も含む）におけるパチンコ機１０では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、が少なくとも設定可能に構成されており、時短状態中において実行される普図当たり遊技（普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される当たり遊技）によって電動役物６４０ａが開放動作され、第２入球口（入賞口）６４０へと球が入球され易くなるように構成していた。
【４６２１】
そして、第２入球口（入賞口）６４０へと球が入球したことに基づいて実行される特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）で大当たり以外の抽選結果（例えば、小当たり当選）となった場合に、小当たり遊技が実行され、その小当たり遊技中に遊技球が特定領域を通過した場合に（小当たり遊技終了時に、特定領域を遊技球が通過したことを示す情報が記憶されている場合に）、大当たり遊技が実行されるように構成していた。加えて、第２特別図柄の抽選契機を、所定数（例えば、４個）を上限に保留記憶可能に構成することで、時短状態（普通図柄の高確率状態）中に第２特別図柄の抽選契機を保留記憶させることにより、普通図柄の高確率状態が終了した後も（普通図柄の低確率状態へと移行した後も）、第２特別図柄抽選を実行可能に構成しているため、例えば、時短状態が終了し、通常状態へと遊技状態が移行した場合であっても、通常よりも有利な通常状態（第２特別図柄の抽選契機を保留記憶している通常状態）における遊技を遊技者に実行させることが可能となるため、遊技者に有利な遊技状態である時短状態が終了してしまった遊技者に対して、通常よりも大当たり遊技が実行される可能性を高めた状態を維持することができ、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができるものであった。
【４６２２】
しかしながら、上述した各制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態中に正常に遊技を実行している遊技者に対して、第２特別図柄の抽選契機を獲得した状態で時短状態を終了させるために、時短状態中において普図当たり確率を高め、且つ、可変手段が開放動作される期間を長くした普図当たり遊技が実行されるように構成していることから、時短状態が終了した時点において獲得済みの第２特別図柄の抽選契機の数（特図２保留数）が

常に同一の数となってしまい、遊技者に意外性のある遊技を提供することができないという問題があった。

【４６２３】

また、時短状態が終了した時点において獲得済みの特図２保留数が常に同一となる場合では、遊技者に過剰に有利となる遊技が実行されてしまうことを抑制するためには、時短状態が終了した後に実行される第２特別図柄抽選の実行回数も含めて、時短状態が設定される割合を予め低く規定したり、第２特別図柄抽選にて小当たり当選する確率を予め低く規定したりする必要がある。よって、遊技者に対して時短状態中の遊技を実行させ難くなり、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【４６２４】

これに対して、本第１０制御例では、時短状態として、特図２保留を獲得し易い時短状態（有利時短状態）と、特図２保留を獲得し難い時短状態（不利時短状態）と、を設定可能に構成している。このように構成することで、設定された時短状態の種別に応じて、時短状態が終了した時点における特図２保留数を異ならせ易くすることが可能となる。よって、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される割合を高めたとしても、遊技者に過剰に有利な遊技が実行されることを抑制することができるため、遊技者に対して時短状態中の遊技を実行させ易くすることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【４６２５】

さらに、本第１０制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が実行された場合には、その大当たり遊技の終了後に不利時短状態が設定され、特別図柄抽選で小当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が実行された場合には、その大当たり遊技の終了後に有利時短状態を設定可能に構成している。

【４６２６】

つまり、大当たり遊技の実行契機に応じて、大当たり遊技終了後に設定される時短状態の有利度合いを異ならせるように構成している。このように構成することで、何れの実行契機に基づいて大当たり遊技が実行されたのかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【４６２７】

なお、本第１０制御例では、上述した通り、大当たり遊技の実効契機に応じて、有利時短状態と不利時短状態との設定割合を異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技が実行される時点の遊技状態（大当たり当選時の遊技状態）に応じて、有利時短状態と不利時短状態との設定割合を異ならせるように構成しても良い。この場合、例えば、遊技状態として通常状態が設定されている状態で大当たり遊技が実行された場合よりも、時短状態が設定されている状態で大当たり遊技が実行された場合のほうが、有利時短状態が設定される割合が高くなるように構成すると良い。これにより、遊技者に最も不利な遊技状態では、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合であっても、不利時短状態が設定され易いため、時短状態が終了し易いが、時短状態中に大当たり遊技が実行され、再度、時短状態が設定された場合には、有利時短状態が設定され易くなるため、大当たり遊技を介して時短状態をループさせ易くすることができる。

【４６２８】

このように構成することで、遊技者に対して、有利度合いの異なる遊技を段階的に実行させることができるため、最も有利度合いの高い遊技を実行しようと意欲的に遊技を行わせることができる。なお、本第１０制御例では、上述した各制御例と同様に、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利となる抽選が実行されるように構成していることから、特図２保留を獲得している状態で終了し易い時短状態（有利時短状態）のほうが、特図２保留を獲得していない状態で終了し易い時短状態（不利時短状態）よりも遊技者に有利となるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第１特別図柄抽選のほうが第２特別図柄抽選よりも遊技者に有利となるように構成し、特図２保留を獲得している状態で終了し易い時短状態よりも、特図２保留を獲得していない状態で終了し易い時短状態のほうが遊技者に有利となるように構成しても良い。

【４６２９】
上述した各制御例のパチンコ機１０では、通常状態よりも遊技者に有利となる時短状態を終了させる特別図柄変動の回数として、大当たり種別に応じて異なる回数を設定可能にすることで、時短状態がいつまで継続するかを遊技者に分かり難くしたものがある。これにより、遊技者に対して、時短状態がより長く継続することを期待させながら遊技を行わせることができるようにしていた。
【４６３０】
また、上述した各制御例のパチンコ機１０では、時短状態を終了させる回数目の特別図柄変動（時短終了条件が成立する特別図柄変動）における特別図柄変動の停止タイミングにて時短状態を終了させるように構成していた。
【４６３１】
これに対して、本第１０制御例では、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立した場合において、対応する特別図柄変動の開始タイミングで時短状態を終了させるように構成している。さらに、時短状態を終了させるための時短終了条件として、第２特別図柄変動が１回実行されることにより成立する時短終了条件を設定可能に構成している。つまり、第２特別図柄変動が１回実行されることにより成立する時短終了条件が設定された場合には、時短状態中に１回目の第２特別図柄変動が実行されるまでは時短状態が継続し、１回目の第２特別図柄変動が実行される場合、例えば、第２特別図柄抽選の抽選権利（特図２保留）を有していない状態で時短状態が設定された場合には、時短状態中に第２入球口６４０へと遊技球が入球し、第２特別図柄抽選が実行される場合に、時短状態が終了するように構成している。
【４６３２】
このように構成することで、時短状態が設定された場合において、第２特別図柄抽選を確実に実行させることができると共に、時短状態中において特図２保留を獲得するための期間を短くすることができる。つまり、本第１０制御例では、第２特別図柄変動が１回実行されることにより成立する時短終了条件が設定される時短状態が、遊技者に不利となる不利時短状態となる。
【４６３３】
また、本第１０制御例では、時短状態を終了させるための時短終了条件として、第２特別図柄変動が２回実行されることにより成立する時短終了条件も設定可能に構成している。この場合、２回目の第２特別図柄変動が開始されるまでの間、時短状態を継続させることが可能となるため、１回目の第２特別図柄変動の変動期間中は第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い期間となる。つまり、本第１０制御例では、第２特別図柄変動が２回実行されることにより成立する時短終了条件が設定される時短状態が、遊技者に有利となる有利時短状態となる。
【４６３４】
なお、本第１０制御例では、上述した通り、時短終了条件が成立する特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態を終了させるように構成し、且つ、時短状態中のおける１回目の特別図柄変動において成立し得る時短終了条件を設定可能に構成することで、特図２保留を獲得することが困難な時短状態（不利時短状態）を設定可能としているが、これに限ること無く、例えば、上述した各制御例と同様に、時短終了条件が成立する特別図柄変動の停止タイミングにて時短状態を終了させるように構成されたパチンコ機１０において、時短終了条件が成立する特別図柄変動の変動パターンとして、短い変動時間（例えば、０．１秒）が設定される短変動パターンと、長い変動時間（例えば、６０秒）が設定される長変動パターンと、を選択可能に構成しても良い。
【４６３５】
このように構成することで、選択される変動パターンによって、有利時短状態と、不利時短状態と、を切り替えることが可能となる。つまり、時短状態の時短終了条件として同一内容の時短終了条件が設定された場合において、設定される変動パターンに応じて、特図２保留の獲得のし易さを異ならせることができる。

【４６３６】
さらに、この場合。大当たり当選（小当たり当選）した時点における遊技状態に応じて異なる種別の時短状態を設定可能に構成し、設定される時短種別によって、上述した短変動パターンと、長変動パターンとの選択割合を異ならせたり、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数に基づいて短変動パターンが選択され易い期間と、長変動パターンが選択され易い期間と、を設定可能に構成したりしても良い。
【４６３７】
このように構成することで、１の時短状態が設定されてから、その時短状態が終了するまでの期間において、有利時短状態と、不利時短状態と、を切り替えることが可能となるため、遊技者に対して時短状態が終了する最後の瞬間まで、有利時短状態による遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。
【４６３８】
また、本第１０制御例の技術と、上述した各制御例の技術と、を組み合わせることにより、時短状態において実行される特別図柄変動の開始タイミングや停止タイミングといった様々なタイミングで時短状態を終了させることが可能となるように構成しても良い。このように、時短終了条件が成立した場合において、実際に時短状態を終了させるタイミングを可変させるように構成することにより、遊技者に対して、どのタイミングで時短状態が終了するのかを把握させ難くすることができるため、意外性のある遊技を提供することができる。
【４６３９】
＜第１０制御例における遊技盤１３の構成について＞
まず、図３７６から図３８０を参照して、本第１０制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。本第１０制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第７制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３（図２９４参照）に対して、小当たり遊技中に開放動作されるＶ入賞装置６５０の配設位置及び、構造を変更した点と、スルーゲート６７、第２入球口６４０の配設位置を変更した点と、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの構造を変更した点と、遊技盤１３の右側領域の構成を変更した点と、で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【４６４０】
図３７６に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側に取り付けられる。
【４６４１】
この第１図柄表示装置３７には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７が配設されている。第１図柄表示装置３７は、主制御装置１１０で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本制御例では、球が、第１入球口６４へ入球（入賞）した場合に、第１図柄表示装置３７が作動するように構成されている。つまり、第１図柄表示装置３７は、第１入球口６４に球が入球した場合に実行される第１特別図柄抽選（特図１抽選）の抽選結果を示すための表示手段である。また、球が第２入球口６４０へ入球（入賞）した場合にも、第１図柄表示装置３７が作動するように構成されている。つまり、第１図柄表示装置３７は、第２入球口６４０に球が入球した場合に実行される第２特別図柄抽選（特図２抽選）の抽選結果を示すための表示手段でもある。なお、本制御例では、特別図柄の種別が２種類のパチンコ機１０を用いているが、これに限ること無く、特別図柄の種別が１種類のパチンコ機１０を用いても良い。
【４６４２】
また、第１図柄表示装置３７は、ＬＥＤにより、パチンコ機１０の遊技状態（例えば、

通常状態、時短状態等）の何れであるかを点灯状態により示したり、特別図柄（第１図柄）が変動中（抽選結果を示すための図柄の組み合わせを停止表示させるための動的表示中）であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が遊技者に有利な当たりに対応した図柄か不利な当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。また、特別図柄の変動を一時的に停止（中断）させている状態であることも点灯状態にて示すことが可能に構成している。複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。なお、本実施形態では、発光手段（７セグメント表示装置）の発光色の組み合わせにより各種遊技状態を報知するように構成しているが、遊技者が各種遊技状態を識別可能な構成であれば良く、例えば、発光手段が点灯している期間と消灯している期間との長さ（点滅態様）を可変させることにより各種遊技状態を報知するように構成しても良い。

【４６４３】

本パチンコ機１０では、第１入球口６４、或いは、第２入球口６４０へ入球（入賞）があったことを契機として抽選（特別図柄の抽選）が行われる。そして、その特別図柄の抽選では、小当たり当選しているか否かの当否判定（当たり抽選）を行う。ここで、小当たりに当選したと判定されたことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技である小当たり遊技が実行される。

【４６４４】

そして、小当たり遊技中にはＶ入賞装置６５０が予め定められた内容（シナリオ）で開放動作され、Ｖ入賞装置６５０へと球を入賞させ易い状態が提供される。この小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと入賞した球が、後述する特定領域（Ｖ入賞口１６５０）へと入賞すると、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が実行される。この大当たり遊技中は、可変入賞装置６５が予め定められた内容（シナリオ）で開放動作され、可変入賞装置６５へと球を入賞させ易い状態が提供される。

【４６４５】

本制御例では、小当たり遊技よりも、大当たり遊技のほうが、その遊技中に遊技者が獲得可能な賞球数の総数が多くなるように構成されている。つまり、遊技者が獲得する賞球数の点において、小当たり遊技よりも、大当たり遊技のほうが遊技者に有利な特典遊技となる。なお、小当たり遊技のほうが、大当たり遊技よりも遊技者が獲得可能な賞球数の総数が多くなるように構成しても良い。このように、実行される特典遊技に応じて異なる有利度合いの特典を付与可能に構成することで、遊技者に対してどの特典遊技が実行されるのかを楽しませながら遊技を行わせることができる。

【４６４６】

また、本制御例では、大当たり遊技が実行されると、大当たり遊技実行前の遊技状態とは異なる遊技状態（例えば、通常状態）が設定され、大当たり遊技終了後には、実行された大当たり遊技に係わる情報（例えば、小当たり種別（大当たり種別）や、当たり当選（小当たり当選）時の遊技状態）に基づいて、新たな遊技状態を設定可能に構成している。一方、小当たり遊技が実行された場合には、その小当たり遊技実行前の遊技状態が小当たり遊技中も継続し、小当たり遊技終了後も継続するように構成している。つまり、遊技者に対して有利度合いが高い（賞球数が多い）大当たり遊技中は、遊技者に不利な遊技状態である通常状態を設定することで、大当たり遊技中において、遊技者に過剰な特典が提供されてしまうことを抑制するのに対して、大当たり遊技よりも有利度合いが低い小当たり遊技が実行された場合には、遊技状態が変更されないように構成している。

【４６４７】

このように構成することで、有利度合いが低い小当たり遊技が実行されたことを契機に遊技状態が変更されてしまうことを抑制することができる。なお、これに限ること無く、大当たり遊技と同様に小当たり遊技中に遊技者に不利な遊技状態（通常状態）が設定されるように構成しても良いし、小当たり当選した種別に基づいて、小当たり遊技終了後の遊

技状態を決定するように構成しても良い。また、当たり遊技中（大当たり遊技中、小当たり遊技中）の遊技結果に基づいて、当たり遊技終了後に設定される遊技状態を決定するように構成しても良く、この場合、当たり遊技（特典遊技）中に球を入球させ易くなる可変入賞装置６５やＶ入賞装置６５０（可変入球手段）に入球した球が、可変入球手段内に設けられた特定領域を通過したか否かを判別し、その判別結果に基づいて当たり遊技終了後に設定される遊技状態の種別を異ならせるよう構成すると良く、例えば、特定領域を通過した場合に、特定領域を通過しなかった場合よりも遊技者に有利となる遊技状態を設定したり、特定領域を通過した場合に、特定領域を通過しなかった場合よりも遊技者に不利となる遊技状態を設定したりするように構成すると良い。これにより、当たり遊技中において、当たり遊技終了後に有利な遊技状態が設定されることを目指した遊技を行わせることが可能となり、遊技者に意欲的の遊技を行わせることができる。

【４６４８】

加えて、遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が設定されている状態で当たり遊技が実行され、その当たり遊技終了後にも遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が設定される事象が連続して所定回数（例えば、５回）実行されている状態で当たり遊技が実行された場合に、その当たり遊技終了後に強制的に遊技者に不利な遊技状態（通常状態）が設定されるように構成しても良い。これにより、遊技者に対して有利な遊技状態が過剰に継続してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【４６４９】

大当たり遊技が実行されると、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに球を容易に入賞させることが可能な開放状態となり、特定入賞口６５ａに球を入賞させることで多くの賞球を短期間で獲得可能な遊技が実行される。この大当たり遊技は、特別図柄の抽選結果が所定期間（例えば２秒間）停止表示（確定表示）された後に（場合に）実行されるものであり、所定時間（例えば１秒）のオープニング期間（可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに球を入球させ難い閉鎖状態が設定される期間）と、開放状態が設定されるラウンド遊技期間と、１のラウンド遊技期間が終了した後に、次のラウンド遊技が開始されるまでの所定期間（例えば、０．５秒）、閉鎖状態が設定されるインターバル期間と、最後のラウンド遊技期間が終了した後に、所定期間（例えば、２秒）の閉鎖状態が設定されるエンディング期間と、からなる大当たり遊技期間が設定される。

【４６５０】

このように、大当たり遊技の開始タイミングに合わせて、オープニング期間を設定することにより、大当たり遊技中において特定入賞口６５ａが開放状態となるタイミングに合わせて球を任意の方向に向けて発射させる準備を行うことができるため、大当たり遊技を円滑に行わせることができる。また、このオープニング期間を、今回の大当たり遊技の遊技内容を遊技者に報知する期間として用いることができるため、分かり易い遊技を提供することができる。

【４６５１】

また、大当たり遊技の最終期間としてエンディング期間を設定することにより、最後のラウンド遊技が終了した直後から、新たな特別図柄の抽選が実行されることを抑制することができるため、大当たり遊技の終了後に実行される遊技に向けて、球を任意の方向に向けて発射させる準備を行うことができるため、遊技の切り替えを円滑に行わせることができる。

【４６５２】

なお、本制御例では、小当たり遊技中に球が特定領域（Ｖ入賞口１６５０）へと入賞したことに基づいて、その小当たり遊技終了後に大当たり遊技を実行可能に構成している。よって、小当たり遊技の最終期間としてエンディング期間を設定することにより、小当たり遊技中に実行される遊技（左打ち遊技）から大当たり遊技中に実行される遊技（右打ち遊技）へと切り替える準備期間を設けることができるため、遊技者に対して遊技の切り替えを円滑に行わせることができる。

【４６５３】

なお、大当たり遊技の各期間（オープニング期間、ラウンド期間、エンディング期間）の長さについては、特別図柄抽選時（小当たり当選時）、特別図柄抽選の結果が停止表示されたタイミング、小当たり遊技開始時、小当たり遊技終了時、大当たり遊技開始時、大当たり遊技終了時の何れかにおいて設定されている遊技状態や、当選した大当たりの種別に応じて異なる長さを設定しても良く、例えば、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容（遊技方法）として、大当たり遊技前の遊技内容（遊技方法）とは異なる遊技内容（遊技方法）が設定される大当たりに当選した場合には、その大当たり遊技のエンディング期間（例えば、１０秒）が、他の大当たり遊技のエンディング期間（例えば、２秒）よりも長くなるように設定しておき、そのエンディング期間中に遊技者に対して大当たり遊技終了後に実行される遊技内容を事前に案内する演出を実行可能に構成すると良い。これにより、遊技者に対して分かり易い遊技を提供することができる。

【４６５４】

一方、大当たり遊技開始前の遊技内容（遊技方法）と、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容（遊技方法）とが同一となる大当たり遊技が実行される場合には、その大当たり遊技のエンディング期間（例えば、１秒）を、他の大当たり遊技のエンディング期間（例えば、２秒）よりも短くなるように設定するように構成すると良い。これにより、遊技者に対して効率良く遊技を行わせることができる。

【４６５５】

また、大当たり遊技前の遊技内容（遊技方法）と、大当たり遊技終了後に実行される遊技内容（遊技方法）とを実際に判別する構成を用いること無く、例えば、実行される大当たり遊技の種別（小当たり種別）と、大当たり遊技前に設定されている遊技状態とに基づいて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を予め規定しておき、その規定内容に応じて、各大当たり遊技のエンディング期間の長さを設定するように構成しても良い。

【４６５６】

本第１０制御例では、遊技状態として、「通常状態」、「時短状態」の何れかが設定されるように構成している。通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）では、特別図柄の大当たり確率が（３０／１０００）に設定され、普通図柄の当たり確率が低確率（３／３００）に設定される遊技状態であり、時短状態は、特別図柄の大当たり確率が（３０／１０００）に設定され、普通図柄の当たり確率が高確率（１５０／３００）に設定される遊技状態である。

【４６５７】

本制御例では、時短状態が設定された後、所定の終了条件（時短終了条件）が成立した場合に、遊技状態が時短状態から通常状態へと移行するように構成しており、上述した時短回数とは、時短終了条件を示すものである。つまり、時短回数１回とは、時短状態が設定されてから大当たり遊技が実行されること無く、特別図柄の抽選が１回実行される場合に時短終了条件が成立することを示すものである。

【４６５８】

さらに、本第１０制御例では、特別図柄変動を開始するタイミングにおいて時短終了条件が成立するかを判別可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して、時短状態がいつまで継続するのかを判別させ難くすることができる。

【４６５９】

なお、本実施形態では、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中の特別図柄抽選の回数に関する条件（時短回数）を規定しているが、時短終了条件としてそれ以外の構成を用いても良く、例えば、特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果（特定の外れ）である回数が所定回数（例えば、３回）に到達した場合に成立する時短終了条件や、時短状態が設定されてからの経過時間が所定時間（例えば、１００秒）経過した場合に成立する時短終了条件や、時短状態中に球が特定の入球口（例えば、一般入球口６３ａ）に入球した個数が所定個数（例えば、５個）に到達した場合に成立する終了条件を設定しても良い。

【４６６０】

また、時短終了条件が成立したかを判別するタイミングと、時短状態を終了させるタイミングとを異ならせても良く、例えば、特別図柄変動を開始するタイミングにおいて、今回の特別図柄変動によって時短終了条件が成立したかを判別し、時短終了条件が成立したと判別された場合に、特定条件の成立の有無に応じて、特別図柄変動が開始されるよりも前に時短状態を終了させたり、特別図柄変動が開始されてから停止されるまでの期間（特別図柄変動の停止表示タイミングも含む）のうち、所定タイミングで時短状態を終了させたりするように構成しても良い。これにより、時短終了条件が成立したかを判別するための処理を実行するタイミングを統一化することができるため、時短状態を終了させるための制御処理を簡素化することができる。

【４６６１】

なお、上述した特定条件（時短終了条件が成立した場合において、時短状態を終了させるタイミングを決定するための要素）としては、大当たり遊技の実行契機となった特別図柄抽選（小当たり当選した特別図柄抽選）が実行された時点において設定されている遊技状態の種別（通常状態、又は時短状態）や、設定された小当たり種別や、大当たり遊技の種別に基づいて成立する条件を設定すれば良く、例えば、小当たり当選時の遊技状態が通常状態である場合と、時短状態である場合と、で同一の小当たり種別（大当たり種別）が設定され、同一の時短終了条件が設定された場合であっても、時短状態を終了させるタイミングを異ならせるように構成すれば良い。

【４６６２】

本第１０制御例におけるパチンコ機１０も、上述した第７制御例のパチンコ機１０と同様に、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、普電入賞装置６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態（開放状態）となる当たり遊技（普図当たり遊技）が実行されるよう構成している。

【４６６３】

第２図柄の変動表示にかかる時間（普図変動時間）は、普通図柄の確率状態（低確率状態、高確率状態）に応じて、異なる長さの変動時間が規定されており、普通図柄の低確率状態では、１０秒の普図変動時間が、普通図柄の高確率状態では１秒の普図変動時間が設定されるように構成されている。これにより、普通図柄の低確率状態（通常状態）中において、頻繁に普図当たり遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【４６６４】

なお、本第１０制御例とは異なる構成を用いても良く、例えば普通図柄の確率状態に関わらず、常に同一の普図変動時間（例えば、１秒）が設定されるように構成しても良い。このように構成することで、例えば、普通図柄の低確率状態中（通常状態中）に普図当たり遊技が実行され難くするために、普通図柄の変動表示にかかる時間（普図変動時間）が時短状態中よりも通常状態中のほうが長くなるように構成したパチンコ機１０において、普通図柄の当たり遊技（普図当たり遊技）が実行され難い通常状態（普通図柄の低確率状態）から、普図当たり遊技が実行され易い時短状態（普通図柄の高確率状態）へと遊技状態が移行する場合に、通常状態中に実行された長時間の普通図柄変動（時短状態中よりも遊技者に不利となる普図当たり遊技）の実行中に時短状態へと移行してしまい、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態中の普通図柄抽選が実行されない期間が長時間設定されてしまうことを抑制することができる。

【４６６５】

この場合、普通図柄の低確率状態において普通図柄抽選が最高で１秒に１回実行されることになるため、普通図柄の低確率状態中（通常状態中）にて普図当たり遊技が実行され易くなるため、普通図柄の低確率状態中（通常状態中）における普図当たりに当選する確率を低く設定すれば良い。

【４６６６】

本制御例では、通常状態と時短状態とで、実行される普図当たり遊技の遊技内容（電動役物６４０ａの開放動作パターン）を異ならせるように構成している。つまり、通常状態

中に実行される普図当たり遊技よりも、時短状態中に実行される普図当たり遊技のほうが、遊技者に有利な普図当たり遊技、即ち、球が、第２入球口６４０へと入球し易くなるように構成している。具体的には、通常状態が設定されている場合は、４．１秒間のオープニング期間（電動役物６４０ａの閉鎖期間）を経て、０．１秒の開放期間が設定される普図当たり遊技（通常普図当たり遊技）が実行され、時短状態が設定されている場合は、１秒のオープニング期間（電動役物６４０ａの閉鎖期間）を経て、３秒の開放期間が設定される普図当たり遊技（時短普図当たり遊技）が実行される。

【４６６７】

次に、図３７６を参照して、電動役物６４０ａの構成について説明をする。本第１０制御例における電動役物６４０ａは、遊技盤１３に埋設している埋設状態（制限状態）と、遊技盤１３から突出している突出状態（誘導状態）と、に変位可能に構成されており、普図当たり遊技が実行されていない場合は、埋設状態（閉状態）に位置するように構成している。そして、普図当たり遊技が実行されると、予め定められた可変パターンに基づいて所定期間（最大で３秒間）の間、突出状態（誘導状態）へと変位する。

【４６６８】

ここで、電動役物６４０ａの変位状態の用語について説明をする。電動役物６４０ａの閉状態とは、球を第２入球口６４０へ入球させるための流路（電動役物６４０ａ上に形成される流路）が閉ざされた状態、即ち、電動役物６４０ａが遊技盤１３内に埋設している状態を示すために用いられる用語であり、機能的な表現として、制限状態（第２入球口６４０への球の入球を制限する状態）という用語を用いる場合もある。

【４６６９】

また、電動役物６４０ａの開状態とは、球を第２入球口６４０へ入球させるための流路（電動役物６４０ａ上に形成される流路）が開放された状態、即ち、電動役物６４０ａが遊技盤１３から突出している状態を示すために用いられる用語であり、機能的な表現として、誘導状態（第２入球口６４０へと球を誘導可能な状態）という用語を用いる場合もある。

【４６７０】

図３７６に示した通り、電動役物６４０ａが誘導状態に位置している場合は、左打ち遊技によって発射された球の殆どが、誘導状態に位置する電動役物６４０ａの上面に形成された流路に流れ込むように電動役物６４０ａが配設されている。電動役物６４０ａの上面に形成された流路は、第２入球口６４０へと向かって下り傾斜する球流下面が形成されており、電動役物６４０ａの上面に到達した球は第２入球口６４０へと流下する。

【４６７１】

詳細は後述するが、本制御例では、普図当たり遊技中に球が第２入球口６４０へと１個入賞したことを契機に、普図当たり遊技を終了させるように構成している。よって、１回の普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと入賞可能な球数は最大で１個になる。

【４６７２】

図３７６を参照して上述した通り、本制御例では、通常状態が設定されている遊技状態中も、時短状態が設定されている遊技状態中も、遊技者に有利となる遊技方法が同一（左打ち遊技）となるように構成している。このように構成されたパチンコ機１０では、通常状態中にも普通図柄の抽選契機が成立し（スルーゲート６７への球通過が発生し）、普通図柄の抽選が実行される。そして、普通図柄抽選の結果、当たり当選した場合には、左打ち遊技によって発射された球が到達可能な遊技領域に設けられた電動役物６４０ａが開放制御されるため、通常普図当たり遊技の実行中において、球が第２入球口６４０へと入球してしまう虞があった。

【４６７３】

これに対して、本制御例のパチンコ機１０は、通常状態中に普図当たり遊技が実行されたとしても、普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと球が入球し得ないように構成している。具体的には、球が電動役物６４０ａの上面を流下し、第２入球口６４０に到達するまでに要する時間が約１秒となるように構成しているのに対して、通常状態中における普

図当たり遊技によって電動役物６４０ａが誘導状態となる期間が０．２秒となるように構成している。

【４６７４】

このように構成することで、通常状態（普通図柄の低確率状態）と、時短状態（普通図柄の高確率状態）と、で同一の遊技方法で遊技を実行する構成を有するパチンコ機１０、即ち、通常状態においても、普図当たり遊技に当選し得るパチンコ機１０において、通常状態中に第２入球口６４０へと球が入球してしまうことを抑制することができる。

【４６７５】

普通図柄始動口（スルーゲート）６７は、可変表示装置ユニット８０の左側の領域（左側領域）において遊技盤１３に組み付けられ、遊技盤に発射された球のうち、遊技盤１３の左側領域を流下する球の殆ど（約１００％）が通過可能に構成されている。普通図柄始動口（スルーゲート）６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。この第２図柄の当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【４６７６】

球の普通図柄始動口（スルーゲート）６７の通過回数は、合計で最大１回まで保留され、その保留球数が上述した第２図柄保留ランプ８４において表示される。第２図柄保留ランプ８４は、最大保留数分の１つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【４６７７】

図３７６に戻り説明を続ける。可変表示装置ユニット８０の左方（図３７６の視点で左方）には、左打ち遊技によって発射され左側領域を流下する球が入賞し得るようにＶ入賞装置６５０が設けられている。ここで、図３７７から図３８０を参照して、Ｖ入賞装置６５０の具体的な構成、及び、Ｖ入賞装置６５０内に入賞した球の流れについて説明をする。本制御例では、特別図柄抽選で小当たり当選した場合に、Ｖ入賞装置６５０を開放動作させる小当たり遊技が実行されるように構成している。そして、Ｖ入賞装置６５０内に設けられたＶ入賞口１６５０に球が入賞することで大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）が実行されるように構成している。

【４６７８】

本制御例は、特別図柄抽選によって大当たり当選することが無く、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に球が特定領域（Ｖ入賞口１６５０）を通過（入賞）したことに基づいて、大当たり遊技が実行されるように構成している。このように、第１条件（小当たり当選）と、第２条件（特定領域の通過）を段階的に成立させることにより遊技者に有利となる特典遊技（大当たり遊技）を実行させるように構成することで、遊技者に飽きの来ない遊技を提供することができる。

【４６７９】

なお、これに加え、特別図柄抽選で大当たり当選するように構成しても良い。この場合、特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に成立する大当たり遊技（特図大当たり遊技）の実行契機に加え、特定の入賞口（Ｖ入賞口１６５０）に球が入賞した場合に成立する大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）の実行契機を有することになる。このように、大当たり遊技を実行させるための契機を複数設けることにより、遊技者に対して飽きの来ない遊技を提供することができる。

【４６８０】

まず、図３７７を参照して、Ｖ入賞装置６５０の構成について説明をする。Ｖ入賞装置６５０には、Ｖ入賞装置６５０内に球が入賞し易い開放状態と、その開放状態よりも球が入賞し難い閉鎖状態とに可変可能な開閉扉６５０ａが設けられている。この開閉扉６５０ａは、遊技盤１３の左側領域を流下する球が到達し得る位置（図３７６参照）に設けられており、小当たり遊技が実行される場合に開放状態へと可変される。

【４６８１】

Ｖ入賞装置６５０内には、開放状態中の開閉扉６５０ａを通過した球が流下する第１流路６５０ｂが第１隔壁６５０ｋ１と第２隔壁６５０ｋ２との間の空間に形成され、その第１流路６５０ｂを流下した球（流下期間０．５秒）が到達する位置に貯留弁６６０ａが設けられている。この貯留弁６６０ａの上面には球を１個貯留可能な貯留部が形成されており、小当たり遊技中に最初にＶ入賞装置６５０に入賞した球が貯留部に一時的に貯留するように構成している。また、貯留弁６６０ａの上方には貯留センサ６５０ｓが設けられており、球が貯留部に貯留されていることを検知可能に構成している。さらに、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球を検知するための球検知センサ６５０ｓ２が第１流路６５０ｂの上流側に設けられており、球検知センサ６５０ｓ２が球を検知したことに基づいて、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと入賞した球数を計測すると共に、入賞した球に対する賞球払出制御が実行される。このように、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が直後に流下する位置に球検知センサ６５０ｓ２を設けることにより、Ｖ入賞装置６５０へと規定数以上の球が入賞してしまう事態を抑制することができると共に、小当たり遊技中の賞球を遊技者に即座に付与することができる。

【４６８２】

また、第１流路６５０ｂと連通するように第２流路６５０ｃが形成されており、第２流路６５０ｃの下流側には、第１アウト口１１６３ａが設けられている。図３７７に示した通り、第２流路６５０ｃは、第１流路６５０ｂを流下した球が直接流入するのでは無く、貯留弁６６０ａの貯留部に球が貯留されている状態で、第１流路６５０ｂを流下した後続の球が、貯留弁６６０ａの貯留部に貯留されている球と接触し、第２流路６５０ｃへと誘導されるように構成している。第２流路６５０ｃの下流側に設けられた第１アウト口１１６３ａは、入球した球をパチンコ機１０の外部へと排出するための入球口であって、第２流路６５０ｃを流下（流下期間０．１秒）し、第１アウト口１１６３ａに入球した球は、図示しない球排出経路を流下してパチンコ機１０の外部へと排出される。

【４６８３】

詳細な説明は後述するが、貯留弁６６０ａは、小当たり遊技の進行に応じて（小当たり遊技が実行される動作シナリオに対応させて）、球を貯留可能な貯留状態と、その貯留状態よりも球を貯留し難い解除状態と、に可変動作されるように構成している。この貯留弁６６０ａが解除状態に位置すると、第１流路６５０ｂと、第３流路６５０ｄと、が連通し、第１流路６５０ｂを流下した球、又は、貯留弁６６０ａの貯留部に貯留されていた球が第３流路６５０ｄを流下する。この第３流路６５０ｄは、第１隔壁６５０ｋ１の下端側と、第３隔壁６５０ｋ３との間の空間に形成された幅が約１５ミリの垂直方向に直線状に形成された流路である。

【４６８４】

第３流路６５０ｄの下流側が臨む位置には、第１可動弁６６０ｂが配設されている。この第１可動弁６６０ｂは、パチンコ機１０に電源が投入されたことを契機に予め定められた可動パターンで、第３流路６５０ｄを流下した球を受け止め可能な誘導位置（突出位置）と、第３流路６５０ｄを流下した球を受け止め不可能な通過位置（埋没位置）と、に可動するように構成している。具体的には、主制御装置１１０の入出力ポート２０５に接続され、主制御装置１１０によって駆動制御される第１可動弁ソレノイド２０９ｄの動作に応じて可動するように構成しており、第１可動弁ソレノイド２０９ｄがオンに設定された場合（通電させた場合）に、第１可動弁６６０ｂがＶ入賞装置６５０内から退避する通過位置（遊技盤１３に埋没する位置）へと可動し、第１可動弁ソレノイド２０９ｄがオフに設定された場合（電気を遮断させた場合）に、第１可動弁６６０ｂがＶ入賞装置６５０内に突出する誘導位置（遊技盤１３から突出する位置）へと可動するように構成している。

【４６８５】

誘導位置（突出位置）に位置する第１可動弁６６０ｂは、その上面を球が流下可能に構成されており、図３７７に示した通り、第１可動弁６６０ｂの上面の下流端側が第４流路６５０ｅに向けて下り傾斜するように構成している。よって、第１可動弁６６０ｂが誘導位置（突出位置）に位置した状態で第３流路６５ｄを流下した球（流下期間０．２秒）は

、第１可動弁６６０ｂの上面を第４流路６５０ｅに向けて流下することになる。第４流路６５０ｅの下流側には第２アウト口１１６３ｂが設けられており、第４流路６５０ｅを流下した球（流下期間０．２秒）は第２アウト口１１６３ｂに入球する。この第２アウト口１１６３ｂは、上述した第１アウト口１１６３ａと同様に、入球した球をパチンコ機１０の外部へと排出させるための入球口であって、第２アウト口１１６３ｂに入球した球は図示しない球排出経路を流下し、パチンコ機１０の外部へと排出される。

【４６８６】

一方、第１可動弁６６０ｂが通過位置に位置している状態では、第３流路６５０ｄと、第５流路６５０ｆとが連通し、第３流路６５０ｄを流下した球（流下期間０．２秒）が第５流路６５０ｆ（流下期間０．１秒）へと流入する。そして、第５流路６５０ｆの下流側にはＶ入賞口１６５０が設けられている。Ｖ入賞口１６５０は、大当たり遊技を実行するための契機となり得る入賞口であって、大当たり遊技が実行されていない状態で球がＶ入賞口１６５０に入賞すると、その入賞情報が記憶され（大当たり遊技の実行権利を獲得し）、実行中の小当たり遊技終了後に、大当たり遊技が実行される。

【４６８７】

図３７７に示した通り、Ｖ入賞装置６５０内には、第１アウト口１１６３ａと、第２アウト口１１６３ｂとが設けられている。このように構成することで、貯留弁６６０ａが貯留状態である場合にＶ入賞装置６５０に入賞した球が、貯留弁６６０ａが解除状態となった場合に球が通過し得る流路（第３流路６５０ｄ、第４流路６５０ｅ、第５流路６５０ｆ）へと流入することを確実に防止することができる。なお、本制御例の構成に限ること無く、例えば、第１アウト口１１６３ａを排除し、第２流路６５０ｃと、第４流路６５０ｅと、を連通させ、貯留弁６６０ａが貯留状態であって、第２流路６５０ｃを流下した球が、第２アウト口１１６３ｂへと入球するように構成しても良い。この場合、図３７７では垂直方向に直線的に設けられている第３隔壁６５０ｋ３を、上端側から下端側に向けて図３７７の視点で右下方向へと傾けて、即ち、隔壁６５０ｋ３の下端側方向に向けての延長線上が第４隔壁６５０ｋ４の右側（図３７７の視点で右側）となるように設けると良い。このように構成することで、第２流路６５０ｃを流下した球が第５流路６５０ｆへと流入してしまう事態を抑制することができる。

【４６８８】

このように、本制御例では、小当たり遊技中に球がＶ入賞口１６５０へと入賞したことを契機として大当たり遊技を実行させる。以降、実行契機を区分けして大当たり遊技を説明する際に、Ｖ入賞口１６５０へと入賞したことを契機として実行される大当たり遊技のことをＶ大当たり遊技とも称す。

【４６８９】

上述した通り、本制御例のＶ入賞装置６５０は、小当たり遊技が実行されることで球が入賞可能な開放状態となり、貯留弁６６０ａに貯留された１個の球のみが第３流路６５０ｄを流下するように構成し、第３流路６５０ｄを流下した球が第１可動弁６６０ｂに到達した際における第１可動弁６６０ｂの稼働状況に応じて、Ｖ入賞口１６５０に球が入賞するか否かが決定するように構成している。

【４６９０】

なお、本第１０制御例では、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと遊技球を入球させることで、その遊技球が確実にＶ入賞口１６５０へと入球し得るように第１可動弁６６０ｂが稼働するように構成しているが、これに限ること無く、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと遊技球を入球させた場合に、Ｖ入賞口１６５０へと遊技球が入球しする場合と、入球しない場合とが発生するように第１可動弁６６０ｂの可動内容を規定しても良く、例えば、第１可動弁６６０ｂは、誘導位置に位置する時間（球がＶ入賞口１６５０へと入賞し得ない時間）が６秒に対して、通過位置に位置する時間（球がＶ入賞口１６５０へと入賞し得る時間）が１秒となる可動パターンで常時可動するように構成しても良い。これにより、第３流路６５０ｄを流下した球がＶ入賞口１６５０へと入賞する割合は、約１／６とすることができる。

【４６９１】
次に、図３７８から図３８０を参照して、本第１０制御例とは異なり、Ｖ入賞口１６５０へと遊技球が入球可能な小当たり遊技と、入球できない小当たり遊技と、を実行可能に構成した変形例における、小当たり遊技の実行中におけるＶ入賞装置６５０に入賞した球流れの内容について説明をする。なお、以降の説明においては、１回の小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０へと複数個の球を入賞させたとしても、第３流路６５０ｄを流下させる球数が１個となるように貯留弁６６０ａが動作制御される場合を例に挙げて説明をする。まず、図３７８を参照して、小当たり遊技の前半期間（貯留弁６６０ａが貯留状態である期間）における球流れについて説明をする。図３７８は、小当たり遊技のうち、貯留弁６６０ａが貯留状態である場合におけるＶ入賞装置６５０内の球流れを示す模式図である。詳細な説明は後述するが、貯留弁６６０ａは、小当たり遊技が実行されてから、Ｖ入賞装置６５０が閉鎖状態となるまでの間、貯留状態となるように動作制御されるように構成している。そして、貯留弁６６０ａが貯留状態中に複数の球がＶ入賞装置６５０に入賞した場合には、最初に入賞した球Ｐ１が貯留弁６６０ａに形成される貯留部に貯留され、次点で入賞した球Ｐ２は、貯留弁６６０ａに貯留されている球Ｐ１と当接し、第２流路６５０ｃを流下し、アウト口１１６３ａに入球する。

【４６９２】
このように、貯留弁６６０ａが貯留状態である場合は、貯留弁６６０ａの貯留部に貯留された球Ｐ１以外の入賞球（例えば、球Ｐ２）が、全てアウト口１１６３ａに入球するように構成しているため、複数の球がＶ入賞装置６５０内に滞留することが無い。また、貯留弁６６０ａは、Ｖ入賞装置６５０のＶ開閉扉６５０ａが閉鎖状態となってから（閉鎖状態にさせるための動作制御を実行してから）、貯留状態が解除されるため、１回の役物当たり遊技にて第３流路６５０ｄを流下させる球数を確実に１個にすることが可能となる。

【４６９３】
このように構成することで、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと球を入賞させるタイミングや、入賞数に応じて、Ｖ入賞口１６５０への球の入賞のし易さが可変することが無いため、全ての遊技者に対して公平な遊技を提供することができる。

【４６９４】
なお、これに限ること無く、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと球を入賞させる入賞数に応じて、Ｖ入賞口１６５０への球の入賞のし易さが可変するように構成しても良く、例えば、Ｖ入賞装置６５０へと入賞した球を貯留可能な貯留部を６個設け、Ｖ入賞装置６５０へと入賞した球が６個の貯留部の何れかに振り分けられる振分部材（クルーン等）を設ける。そして、６個の貯留部のうち、特定の貯留部に貯留された球のみが、貯留部の貯留状態が解除された場合にＶ入賞口１６５０へと入球可能とし、特定の貯留部以外の貯留部に貯留された球（最大で５個）は、各貯留部の貯留状態が解除された場合に第２アウト口１１６３ｂへと入球するように構成する。加えて、既に球が貯留されている貯留部に向けて、振分部材によって次の球が振り分けられた場合には、既に貯留状態の球に衝突し、隣接する別の貯留部に貯留されるように各貯留部間を連通する流路を設ける。

【４６９５】
このように構成することで、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと球を入賞させる入賞数に応じて、Ｖ入賞口１６５０への入賞割合を異ならせることができるため、遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【４６９６】
このように構成した場合であっても、１回の小当たり遊技中におけるアウト口へと球を流下させる貯留部の貯留状態を解除する回数を小当たり種別に応じて異ならせることにより、実質のＶ入賞口１６５０への入賞割合を異ならせることができる。

【４６９７】
次に、図３７９を参照して、貯留弁６６０ａが貯留状態から解除状態へと移行した際の球流れ（役物当たり遊技の後半期間）の内容について説明をする。図３７９は、小当たり遊技のうち、貯留弁６６０ａが貯留状態から解除状態へと移行した場合における球流れを

示す模式図である。図３７９に示した通り、Ｖ開閉扉６５０ａが閉鎖状態となり、新たな球がＶ入賞装置６５０に入賞し得ない状態となった後に、貯留弁６６０ａが解除状態（図では点線で表示）へと移行すると、貯留弁６６０ａの貯留部に貯留されていた球Ｐ１（図３７８参照）が、第３流路６５０ｄを流下する。図３７９に示した状態では、第１可動弁６６０ｂが誘導位置に位置しているため、球Ｐ１が第１可動弁６６０ｂの上面に形成された下り傾斜を転動し、第４流路６５０ｅを流下し、第２アウト口１１６３ｂに入球する。

【４６９８】

一方、貯留弁６６０ａの貯留部に貯留されていた球Ｐ１（図３７８参照）が、第３流路６５０ｄを流下し、第１可動弁６６０ｂに到達したタイミングで、第１可動弁６６０ｂが通過位置に位置している場合の球流れについて、図３８０を参照して説明をする。図３８０は、小当たり遊技のうち、貯留弁６６０ａが貯留状態から解除状態へと移行した場合における球流れを示す模式図である。図３８０に示した通り、第３流路６５０ｄを流下した球が第１可動弁６６０ｂに到達したタイミングにおいて、第１可動弁６６０ｂが通過位置に位置している場合は、第５流路６６０ｆを流下し、Ｖ入賞口１６５０へと入賞する。

【４６９９】

なお、本第１０制御例では、図３７６から図３８０を参照して上述した通り、通常状態において第１入球口６４へと遊技球を入球させるための遊技も、時短状態において第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための遊技も、左打ち遊技を遊技者に行わせるように構成し、さらに、小当たり遊技中も左打ち遊技を行わせ、大当たり遊技中のみ右打ち遊技を行わせるように構成しているが、これに限ること無く、上述した各制御例と同様に、通常状態と時短状態とで遊技者に対して異なる遊技方法で遊技を行わせるように構成しても良い。

【４７００】

＜第１０制御例における演出内容について＞

次に、図３８１から図３８３を参照して、本第１０制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１０制御例では、時短状態中において獲得した特図２保留が上限数（４個）に到達した場合に、その特図２保留に対する先読み結果を示す情報に基づいて、遊技者に対して、大当たり遊技（小当たり当選に基づく大当たり遊技）を実行させることが可能な回数を報知可能に構成している。

【４７０１】

具体的には、第２特別図柄抽選が実行された場合には、必ず大当たり当選、或いは、小当たり当選するように規定しており、且つ、小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中に正常に遊技を行うことで確実に特定領域へと遊技球を通過せることが可能に構成している。

【４７０２】

つまり、本第１０制御例では、獲得済みの特図２保留の数だけ、大当たり遊技を実行可能な権利を獲得する遊技性の遊技が実行されることになり、例えば、特図２保留を４個獲得している状態では、後４回の大当たり遊技を実行させることが可能な状態となる。また、本第１０制御例では、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として、通常状態と、時短状態とを設定可能に構成しており、さらに、時短状態として、特図２保留を獲得し難い不利時短状態と、その不利時短状態よりも特図２保留を獲得し易い有利時短状態と、を設定可能に構成している。

【４７０３】

そして、時短状態中において所定条件（特図２保留が上限に到達）が成立した場合に、獲得済みの特図２保留の先読み結果に基づいて、大当たり遊技終了後に有利時短状態が設定されるか否かを判別し、その判別結果も踏まえて、遊技者に対して大当たり遊技を実行させることが可能な権利数を報知可能に構成している。

【４７０４】

このように、獲得済みの特図２保留の数に加え、獲得済みの特図２保留に対応する特別

図柄抽選の結果に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態まで予測した上で、大当たり遊技を実行させることが可能な回数（大当たり実行可能回数）を報知可能に構成することで、獲得済みの特図２保留よりも多い数の大当たり実行可能回数を報知することが可能となる。

【４７０５】

さらに、本第１０制御例では、大当たり実行可能回数として遊技者に報知する回数を、特図２保留が上限に到達した時点における遊技状態や、先読み結果に基づいて異ならせるように構成している。つまり、大当たり実行可能回数として最大数以外の回数を遊技者に報知可能に構成している。このように構成することで、報知された大当たり実行可能回数に基づいて後に実行される遊技の内容を遊技者に完全に把握されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【４７０６】

加えて、本第１０制御例では、特図２保留を獲得可能な時短状態の最終変動期間中において、特図２保留を上限数まで獲得していない状態であっても、最終変動の抽選結果や、獲得済みの特図２保留の先読み結果に基づいて特図２保留を獲得させるための案内演出の演出態様を可変させたり、案内演出とは異なる演出を実行可能に構成している。

【４７０７】

ここで、従来型のパチンコ機１０のうち、本第１０制御例と同様の遊技性を有しているパチンコ機１０では、特図２保留を獲得し易い時短状態における特別図柄の最終変動期間（時短最終変動期間）において、特図２保留を上限数まで獲得させるための案内演出を実行することで、時短状態中に遊技者に付与される特典（特図２保留を獲得し易くする特典）を最大限に生かした遊技を遊技者に行わせるものがある。

【４７０８】

しかしながら、上述した従来側のパチンコ機１０では、例えば、時短最終変動の抽選結果や、時短最終変動の後に実行される第２特別図柄抽選（通常状態中に実行される特図２保留に対応する第２特別図柄抽選）の結果に関わらず、案内演出が実行されるため、今回の時短最終変動期間にて特図２保留数を上限数まで獲得しなくとも、その後に実行される第２特別図柄抽選の結果に基づいて、再度、特図２保留を獲得可能な時短状態が設定される場合等において、遊技者に無用に遊技球を発射させる遊技を行わせることになり、遊技者に対して適正な遊技を案内することが出来ていないという問題があった。

【４７０９】

これに対して、本第１０制御例では、時短最終変動期間中に実行される演出態様を決定する際に、時短最終変動に対応する第２特別図柄抽選の結果と、獲得済みの特図２保留に対応する先読み結果とに基づいて、時短最終変動期間が経過した後に、再度、特図２保留を獲得可能な時短状態が設定されるか否かを判別し、その判別結果に基づいて、案内演出の実行の有無を異ならせるように構成している。

【４７１０】

このように構成することで、遊技者に対して、無用に特図２保留数を上限に到達させるための遊技を行わせることを抑制した案内演出を実行することができる。

【４７１１】

加えて、本第１０制御例では、時短最終変動期間が経過した後に実行され得る遊技の内容（特図２保留の獲得難度）に応じて、案内演出の演出態様を可変するように構成しており、例えば、時短最終変動の抽選結果が小当たり当選で、且つ、小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に通常状態が設定される場合の方が、時短最終変動の抽選結果が小当たり当選で、且つ、小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に特図２保留を獲得することが困難な時短状態（不利時短状態）である場合よりも、遊技者に対して特図２保留を獲得する案内態様を強調した案内演出を実行するように構成している。

【４７１２】

このように、時短最終変動期間中に実行される案内演出の演出態様として案内態様に強

弱を設けるように構成することで、常に単調な案内演出を実行する場合に比べて、特図２保留を獲得しなければ遊技者に不利となる期間中に特図２保留を獲得しないまま、その期間が終了してしまい遊技者に不利な遊技を実行させてしまうことを抑制することができる。

【４７１３】

本第１０制御例では、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり遊技終了後に、特図２保留を獲得困難な時短状態（不利時短状態）、或いは、特図２保留を獲得し易い時短状態（有利時短状態）と、を設定可能に構成している。

【４７１４】

具体的には、不利時短状態が設定された場合には、時短状態中に実行される１回目の第２特別図柄変動が開始されるタイミングで時短状態が終了するように構成し、有利時短状態が設定された場合には、時短状態中に実行される２回目の第２特別図柄変動が開始されるタイミングで時短状態が終了するように構成している。このように構成することで、不利時短状態が設定された場合には、特図２保留を獲得すること無く、第２特別図柄抽選が１回のみ実行される時短状態が設定され、有利時短状態が設定された場合には、特図２保留を上限数獲得可能な時短状態が設定される。

【４７１５】

まず、図３８１（ａ）を参照して、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合の演出内容を説明する。図３８１（ａ）は、特図１抽選で大当たり当選した後に設定される時短状態（初当たり状態）における１回目の第２特別図柄変動中に表示される表示画面の一例を示した図である。図３８１（ａ）に示した通り、実行中の第２特別図柄変動の抽選結果が、不利時短状態が設定される抽選結果（不利抽選結果）であるか、有利時短状態が設定される抽選結果（有利抽選結果）であるかを示すための時短演出が実行される。

【４７１６】

図３８１（ａ）に示した例によれば、不利抽選結果に対応する表示態様として「Ｖ」を模したアイコン１８００ａと、有利抽選結果に対応する表示態様として「Ｖ×５」を模したアイコン１８００ｂとが表示されている。そして、アイコン１８００ｂが選択された場合には、超チャンスモードへと移行することを案内するための案内態様として「超チャンスモード」が表示され、副表示領域Ｄｓには、アイコン１８００ｂが選択された場合に大当たり遊技の実行権利を５個獲得（５連チャン可能）することを案内するための案内態様として「Ｖ×５なら５連チャン」のコメントが表示される。

【４７１７】

次に、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の結果に基づいて実行される大当たり遊技中の演出内容について図３８１（ｂ）を参照して説明をする。図３８１（ｂ）は、特図２大当たり遊技中に表示される表示画面の一例を示した図である。図３８１（ｂ）に示した通り、大当たり遊技のエンディング画面にて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を事前に遊技者に報知するための報知演出が実行される。

【４７１８】

次に、図３８２（ａ）を参照して、有利時短状態中の演出内容について説明をする。図３８２（ａ）は、有利時短状態であることを示す超チャンスモード中の表示画面の一例を示した図である。図３８２（ａ）に示した通り、超チャンスモードは複数回の第２特別図柄変動が実行されるまで時短状態が継続するように構成しており、第２特別図柄変動の変動期間中に特図２保留を獲得可能に構成している。よって、副表示領域Ｄｓには、現在が特図２保留を容易に獲得可能な状況であること、及び、遊技者に対して特図２保留を獲得させることを促すために「右打ちしてＶを貯めろ」のコメントが表示されている。

【４７１９】

そして、小表示領域Ｄｍ９には、獲得済みの特図２保留数に対応させて増減するＶアイコンが表示される。このＶアイコンは、特図２保留と同数を上限に表示可能に構成しており、特図２保留を獲得する毎に、第１ＶアイコンＨｒ１～第４ＶアイコンＨｒ４の順に表示される。図３８２（ａ）に示した例では、特図２保留を２つ獲得している状態であるた

め、第１Ｖアイコンｈｒ１と、第２Ｖアイコンｈｒ２とが表示されている。
【４７２０】
その後、遊技者が特図２保留を上限数まで獲得すると、図３８２（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ９の情報に、特図２保留を上限数獲得したことを示すための上限報知態様として「ＭＡＸ」を模したアイコンｈｘが表示され、主表示領域Ｄｍの中央部に宝箱１８１０が出現する演出が実行されると共に、「宝箱が出現」の文字が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、実行中の演出の進展内容を遊技者に説明するための案内態様として「中身は何だろう」の文字が表示される。これにより、宝箱１８１０が開放される演出がこの後実行されることを遊技者に分かり易く報知することができる。
【４７２１】
次に、図３８３（ａ）に示した通り、宝箱１８１０が開放されると、宝箱１８１０の中から中身１８１０ａが出現する演出が実行され、その中身１８１０ａの表示態様によって、現時点で遊技者が獲得している大当たり遊技の実行権利数を報知している。つまり、図３８３（ａ）に示した例では、４個目の特図２保留の先読み結果が、有利時短状態が設定される小当たり当選であるため、実行中の第２特別図柄抽選の結果に基づく大当たり遊技（１回）と、獲得済みの特図２保留に対応する第２特別図柄抽選の結果に基づく大当たり遊技（４回）と、４個目の特図２保留に対応する第２特別図柄抽選の結果に基づく大当たり遊技の終了後に実行される第２特別図柄抽選の結果に基づく大当たり遊技（１回）と、その変動中に獲得可能な特図２保留に対応する大当たり遊技（４回）と、を合わせた１０回の大当たり遊技実行権利を獲得したことを報知するための表示態様「Ｖ×１０」で中身１８１０ａが表示されている。
【４７２２】
このように構成することで、本第１０制御例では、既に獲得済みの大当たり遊技の実行権利数だけで無く、獲得済みの大当たり遊技の実行権利に基づいて実行され得る大当たり遊技終了後の遊技内容まで予測した上で、遊技者に対して獲得し得る大当たり遊技の実行権利に関する情報を報知することができるため、一度に保留記憶可能な特図２保留数（４個）よりも多くの数の大当たり遊技の実行権利数を遊技者に事前報知可能となる。よって、遊技者に対して、大当たり遊技の実行権利がどのようにして発生するのか（獲得し得るのか）を予測させ難くすることができ、飽きの来ない遊技を提供することができる。
【４７２３】
なお、本第１０制御例では、小当たり遊技中に適正な遊技（右打ち遊技）を実行した場合には、ほぼ大当たり遊技を実行させることが可能に構成しているため、事前に遊技者に対して報知した大当たり遊技の実行権利数と同数の大当たり遊技を遊技者に提供可能となるが、例えば、小当たり遊技中に適正な遊技（右打ち遊技）を行わなかったことにより小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることができず、大当たり遊技が実行されなかった場合には、事前報知されている大当たり遊技の実行権利数を減少させる演出を実行するように構成すると良い。
【４７２４】
このように構成することで、実行した遊技の内容によって実行される大当たり遊技の回数が減少したことを遊技者に分かり易く報知することができる。この場合、大当たり遊技の実行権利数が減少した（実行権利が消滅した）経緯を遊技者に把握させるための情報を報知可能に構成すると良い。これにより、大当たり遊技の実行権利数が残存している場合において、大当たり遊技の実行権利数が再度減少してしまう事態が発生してしまうことを抑制することができる。
【４７２５】
本第１０制御例では、小当たり遊技中に適正な遊技（右打ち遊技）を実行した場合には、ほぼ大当たり遊技を実行させることが可能に構成しているため、事前に遊技者に対して報知した大当たり遊技の実行権利数と同数の大当たり遊技を遊技者に提供可能であるため、算出された大当たり遊技の実行権利数の全てを遊技者に事前報知するように構成しているが、これに限ること無く、既に獲得済みの大当たり遊技の実行権利数だけで無く、獲得

済みの大当たり遊技の実行権利に基づいて実行され得る大当たり遊技終了後の遊技内容まで予測した上で、遊技者に対して獲得し得る大当たり遊技の実行権利数を算出し、その算出結果の一部を遊技者に事前報知するように構成しても良い。

【４７２６】

これにより、例えば、小当たり遊技が実行された場合の約１／２の確率で大当たり遊技が実行されるように構成されたパチンコ機１０において、遊技者に対して獲得し得る大当たり遊技の実行権利数として算出された数の１／２の数を遊技者に事前報知するように構成した場合に、実際に実行された小当たり遊技の回数と、大当たり遊技の回数とに基づいて、事前報知された大当たり遊技の実行権利数を増加させたり減少させたりするための更新処理を実行可能にすることで、遊技者に対して、大当たり遊技が実行され得る回数を予測させ易くすること共に、予測に用いた情報の信頼性を高めることができる。

【４７２７】

図３８３（ｂ）に戻り説明を続ける。図３８３（ｂ）は、有利時短状態であることを示す超チャンスモード中における第２特別図柄の最終変動期間中に表示される表示画面の一例を示した図である。本第１０制御例では、有利時短状態が設定されている期間は、有利時短状態が設定されていない期間よりも、遊技球を第２入球口６４０へと入球させ易くなるように構成しており、有利時短状態の終了条件が成立する第２特別図柄変動期間中（最終変動期間中）は、図３８２（ａ）に示した通り、遊技者に対して第２入球口６４０へと遊技球を入球させることを促すための案内報知を実行可能に構成しているが、最終変動期間となる特別図柄変動が実行される際に既に獲得済みの特図２保留の中に大当たり遊技終了後に有利時短状態が設定される当たり当選に対応する特図２保留が存在している場合には、上述した案内報知を実行すること無く、図３８３（ｂ）に示した通り、遊技者を祝福するための演出態様が設定されるように構成している。

【４７２８】

つまり、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立する特別図柄変動期間中において、特図２保留を上限数獲得していない状態であっても特定条件が成立している場合には、特図２保留を上限数まで獲得させることを促すための案内報知を実行しないように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、無用に特図２保留を上限数まで獲得させるための遊技を行わせることを抑制することができる。

【４７２９】

＜第１０制御例における遊技状態の遷移について＞

次に、図３８４を参照して、本第１０制御例における遊技状態の遷移内容について説明をする。図３８４は、遊技状態の遷移内容を示したゲームフローである。図３８４に示した通り、本第１０制御例では、上述した第７制御例と同様に、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成しており、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、遊技者に左打ち遊技を実行可能に構成している。

【４７３０】

パチンコ機１０の初期状態としては、特図１保留、及び、特図２保留を獲得していない状態で通常状態（第１通常状態）が設定される。この第１通常状態では、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させるための遊技が行われる。この第１通常状態では、特別図柄の低確率状態が設定されているため、３０／１０００の確率で大当たり当選する第１特別図柄抽選が実行される。

【４７３１】

ここで、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として「大当たりＡ」が設定される。大当たり種別「大当たりＡ」が設定された大当たり遊技の終了後には時短状態が設定される。

【４７３２】

本第１０制御例では、遊技者への遊技度合いを異ならせた時短状態を設定可能に構成しており、遊技者に有利となる第２時短状態（有利時短状態）と、その第２時短状態（有利

時短状態）よりも遊技者に不利となる第１時短状態（不利時短状態）と、を設定可能に構成している。より具体的には、時短状態が設定されている期間中における特図２保留の獲得のし易さを異ならせることにより、時短状態における遊技度合いを異ならせており、遊技者に有利となる第２時短状態（有利時短状態）が設定された場合には、その時短期間中に第２入球口６４０へと遊技球を複数個入球させることが容易となるように構成している。一方で、第１時短状態（不利時短状態）が設定された場合には、その時短期間中に第２入球口６４０へと遊技球を複数個入球させることが困難となるように構成している。

【４７３３】

つまり、第１時短状態（不利時短状態）が設定された場合と、第２時短状態（有利時短状態）が設定された場合とで、時短状態中における特図２保留球の獲得のし易さを異ならせることにより遊技者への有利度合いを異ならせるように構成している。

【４７３４】

本制御例のパチンコ機１０は、遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）とを設定可能に構成している。通常状態は普通図柄の低確率状態が設定されているため、普図当たりに当選し難く、且つ、普図当たりに当選した場合であっても、電動役物６４０ａの動作期間が短く第２入球口６４０へと球を入球させ難い（させることが出来ない）遊技状態となる。よって、左打ち遊技によって第１入球口６４へと球を入球させ、第１特別図柄抽選を実行する遊技が主として行われる。

【４７３５】

そして、第１入球口６４へと球が入球すると、３０／１０００の確率で大当たりに当選する第１特別図柄抽選（特図１抽選）が実行される。特図１抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として大当たりＡが設定され、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される。

【４７３６】

次に、本第１０制御例のパチンコ機１０における時短状態の内容について説明をする。図３８４に示した通り、本制御例では、時短状態として第１時短状態と第２時短状態とを設定可能に構成している。ここで、第１時短状態と第２時短状態との違いについて説明をする。第１時短状態と第２時短状態とは、何れも特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態が設定される時短状態であって、特別図柄抽選の当たり確率、普通図柄抽選の当たり確率は同一である。さらに、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動の変動パターンの選択割合も同一である。

【４７３７】

唯一の相違点は、時短状態が終了する（通常状態へと移行する）タイミングであり、第１時短状態では、第２特別図柄抽選が１回実行された場合に、その第２特別図柄変動の開始タイミングで時短状態が終了するように構成されており、第２時短状態では、第２特別図柄抽選が２回実行された場合に、その第２特別図柄変動の開始タイミングで時短状態が終了するように構成されている。

【４７３８】

つまり、第１時短状態よりも第２時短状態のほうが、第２特別図柄変動の変動期間分、時短状態を長く設定することができるため、遊技者に有利な時短状態といえる。さらに、本制御例では、１回の普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと入球可能な球数が１個となるように構成されており、且つ、第２特別図柄変動が１回実行された場合に時短終了条件が成立するように構成しているため、第１時短状態が設定された場合には、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）を獲得していない状態で時短状態が終了し易くなる。一方、第２時短状態が設定された場合には、第２特別図柄変動の変動期間中も継続して時短状態となるため、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）を獲得した状態で時短状態を終了させ易くなる。即ち、時短状態が終了した時点における特図２保留の獲得状況の点から見ても、第１時短状態よりも第２時短状態のほうが遊技者に有利な時短状態といえる。

【４７３９】

そして、詳細は後述するが、第１時短状態に実行される第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、５％の割合で第２時短状態が設定され得る小当たり遊技が選択されるように構成している。即ち、通常状態では第２時短状態よりも第１時短状態へと移行し易く、第１時短状態では、通常状態よりも高確率で第２時短状態へと移行し易くなるように構成している。よって、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、遊技者に最も有利となる第２時短状態への移行割合を異ならせた遊技状態（通常状態、第１時短状態）を段階的に移行させることができるため、第２時短状態が設定されるまでに遊技に飽きてしまうことを抑制することができる。また、通常状態よりも第２時短状態へと移行し易い遊技状態へと移行した場合に、遊技を止め難くすることができるため、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。

【４７４０】

第１時短状態では、左打ち遊技によってスルーゲート６７に球を通過させ、普通図柄抽選を実行し、普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと球を入球させる遊技が実行される。そして、第２入球口６４０へと球が入球した場合には、９７０／１０００の確率で小当たり当選し、３０／１０００の確率で大当たり当選する第２特別図柄抽選が実行される。この第１時短状態中は、第２特別図柄抽選が１回実行されたことに基づいて時短終了条件が成立し、時短終了条件が成立した第２特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動（第２特別図柄変動）の開始タイミングにて時短状態が終了するように構成している。これにより、特図２保留を獲得できないまま時短状態が終了し易くなるため、時短状態の設定後、第２特別図柄抽選を１回のみ実行可能な遊技状態となる。

【４７４１】

本第１０制御例では、時短状態中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、必ず、大当たり当選、或いは、小当たり当選するように構成しており、小当たり遊技が実行された場合には、正常に遊技を実行した場合には、確実に大当たり遊技の実行権利（Ｖ入賞口１６５０への遊技球の入賞）を獲得可能に構成している。つまり、第２特別図柄抽選の実行回数と、大当たり遊技の実行回数と、を同一数とすることができる。よって、第１時短状態よりも、特図２保留を獲得可能な第２時短状態が設定されることを目指した遊技が行われる。

【４７４２】

時短状態中において、特図２抽選で小当たり当選した場合に設定される小当たり種別は、それぞれ選択割合を異ならせており、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される小当たりＡの選択割合が８０％、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される小当たりＢの選択割合が１５％、大当たり遊技終了後に第２時短状態が設定される小当たりＣの選択割合が５％となるように構成している。

【４７４３】

つまり、第１時短状態が設定された場合には、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される小当たりＢが選択されるまで、第２特別図柄抽選を実行させる遊技を継続して行わせることができる。

【４７４４】

そして、第１時短状態に実行される第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、５％の割合で第２時短状態が設定され得る小当たり遊技が選択されるように構成している。即ち、通常状態では第２時短状態よりも第１時短状態へと移行し易く、第１時短状態では、通常状態よりも高確率で第２時短状態へと移行し易くなるように構成している。よって、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、遊技者に最も有利となる第２時短状態への移行割合を異ならせた遊技状態（通常状態、第１時短状態）を段階的に移行させることができるため、第２時短状態が設定されるまでに遊技に飽きてしまうことを抑制することができる。また、通常状態よりも第２時短状態へと移行し易い遊技状態へと移行した場合に、遊技を止め難くすることができるため、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。

【４７４５】

第２時短状態中は、上述した第１時短状態に対して、２回目の第２特別図柄抽選が実行された場合に時短終了条件が成立し、時短終了条件が成立した第２特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態が終了するように構成している。つまり、時短終了条件が成立するまでの第２特別図柄変動の変動期間中を時短状態とすることができるため、その変動期間中に特図２保留を獲得することが可能となり、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させ易くすることができる。よって、第２時短状態は第１時短状態よりも遊技者に有利な遊技状態となる。

【４７４６】

なお、第２時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の結果に基づく遊技状態の移行内容については、上述した第１時短状態と同一であるため、その詳細な説明を省略する。そして、第２時短状態が終了した時点、即ち、時短終了条件が成立した第２特別図柄変動が停止表示された場合において、特図２保留を獲得していない場合は、上述した第１時短状態の終了時と同様に第１通常状態中へと移行する。

【４７４７】

一方、時短終了条件が成立した第２特別図柄変動が停止表示された場合において、特図２保留を獲得している場合は、遊技状態として通常状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行される第２通常状態へと移行する。この第２通常状態では、継続して超チャンスモードが設定される。

【４７４８】

通常状態において第２特別図柄抽選が実行された場合には、時短状態中と同一の確率（９７０／１０００）で小当たり当選する特別図柄抽選が実行される。そして、時短状態中における第２特別図柄抽選と同一の選択割合で小当たり種別が選択される。つまり、多くの特図２保留を獲得した状態であれば、大当たり遊技終了後に通常状態が設定されたとしても、高確率で時短状態へと復帰させ易くすることができる。

【４７４９】

なお、本第１０制御例では、通常状態における小当たり種別の選択割合と、時短状態における小当たり種別の選択割合と、を同一に設定しているが、これに限ること無く、一方の遊技状態の方が、他方の遊技状態よりも遊技者に有利な小当たり種別が選択され易くなるように構成しても良く、例えば、通常状態が設定されている場合の方が遊技者に有利な小当たり種別（小当たりＣ）を選択させ易くするように構成すると良い。このように構成することで、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選よりも、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な遊技状態とすることが可能となる。よって、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させることの有利度合いを高めることができるため、第１時短状態と、第２時短状態との有利度合いの差を大きくし易くすることができる。

【４７５０】

＜第１０制御例の電気的構成について＞

次に、図３８５から図３９０を参照して、本第１０制御例のパチンコ機１０における電気的構成について説明をする。本第１０制御例のパチンコ機１０は、上述した第７制御例のパチンコ機１０における電気的構成に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の一部構成、及び、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更している点で相違し、それ以外が同一である。同一の要素については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４７５１】

まず、図３８５を参照して、本第１０制御例における主制御装置１１０の電気的構成について説明をする。図３８５（ａ）は、本第１０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。図３８５（ａ）に示した通り、本制御例のＲＯＭ２０２は、上述した第７制御例のＲＯＭ２０２（図３０４（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａに代えて第１当たり乱数１

０テーブル２０２ｉａを、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆに代えて小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆを、時短付与７テーブル２０２ｆｅに代えて時短付与１０テーブル２０２ｉｅを設けた点と、小当たりシナリオ１０テーブル２０２ｉｉを新たに追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、説明の便宜上、上述した第７制御例のＲＯＭ２０２（図３０４（ａ）参照）では図示している各種構成のうち、図３８５（ａ）にてその図示を省略しているものもあるが、適用が困難な構成以外はその図示を省略しているものである。

【４７５２】

第１当たり乱数１０テーブル２０２ｉａは、上述した第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａ（図３０５（ａ）参照）に対して、大当たりと判別される規定値と、小当たり当選と判別される規定値を異ならせた点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については詳細な説明を省略する。

【４７５３】

ここで、図３８６を参照して、第１当たり乱数１０テーブル２０２ｉａに規定されている内容について説明をする。図３８６（ａ）は、第１当たり乱数１０テーブル２０２ｉａの内容を模式的に示した模式図である。図３８６（ａ）に示した通り、第１当たり乱数１０テーブル２０２ｉａは、第１特別図柄（特図１）の当たり抽選の際に参照される特別図柄１乱数１０テーブル２０２ｉａ１と、第２特別図柄（特図２）の当たり抽選を実行する際に参照される特別図柄２乱数１０テーブル２０２ｉａ２とを有している。

【４７５４】

次に、図３８６（ｂ）を参照して、特別図柄１乱数１０テーブル２０２ｉａ１に規定されている内容について説明をする。図３８６（ｂ）は、特別図柄１乱数１０テーブル２０２ｉａ１に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３８６（ｂ）に示した通り、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る「０～９９９」の範囲のうち、「０～２９」の範囲に対して「大当たり」が規定されている。即ち、本第１０制御例では、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりに当選する確率が３／１００（３０／１０００）となる。

【４７５５】

次いで、図３８６（ｃ）を参照して、特別図柄２乱数１０テーブル２０２ｉａ２に規定されている内容について説明をする。図３８６（ｃ）は、特別図柄２乱数１０テーブル２０２ｉａ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図３８６（ｃ）に示した通り、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る「０～９９９」の範囲のうち、「０～２９」の範囲に対して「大当たり」が規定され、「３０～９９９」の値に「小当たり」が規定されている。即ち、本第１０制御例では、特図２の抽選で大当たりに当選する確率が約３／１００（３０／１０００）、小当たりに当選する確率が９７／１００（９７０／１０００）となる。

【４７５６】

本第１０制御例では、小当たり当選と判定される判定値の種類や数を遊技状態に関わらず一定値にしているが、これに限ること無く、遊技状態に応じて、小当たりに当選する確率が高くなる高確率状態（特別図柄の高確率状態）と、低くなる低確率状態（特別図柄の低確率状態）と、を設定するように構成しても良い。また、本第１０制御レ井では、第２特別図柄抽選のみ小当たり当選と判定され得るように構成しているが、第１特別図柄抽選においても小当たり当選し得るように特別図柄１乱数１０テーブル２０２ｉａ１の内容を規定しても良く、この場合、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とで小当たり当選する確率を同一にしても良いし、異ならせても良い。

【４７５７】

小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆは、第２特別図柄抽選（特図２抽選）にて小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別を選択する際に参照されるデータテーブルである。この小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆは、上述した第７制御例の小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆ（図３０７参照）に対して、規定される小当たり種別

の内容を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。

【４７５８】

ここで、図３８７を参照して、小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆについて説明をする。図３８７は、小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆの内容を示した模式図である。本第１０制御例では、設定される小当たり種別に応じて、小当たり遊技中に実行条件が成立したことに基づいて実行される大当たり遊技の終了後における時短状態の有利度合いを異ならせるように構成している。より具体的には、設定される小当たり種別に応じて有利時短状態、或いは、不利時短状態を設定可能に構成している。

【４７５９】

具体的には、第１特別図柄の小当たり種別としては、上記した小当たりＡ、小当たりＢ、及び小当たりＣの３種類が小当たり種別カウンタＣ５の値により選択されるように設定されており、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～７９」の範囲に対して「小当たりＡ（Ｖ通過時５Ｒ大当たりＡ）」が規定されており、「８０～９４」の範囲に対して「小当たりＢ（Ｖ通過時５Ｒ大当たりＢ）」が規定されており、「９５～９９」の範囲に対して「小当たりＣ（Ｖ通過時５Ｒ時短無し大当たりＣ）」が規定されている。

【４７６０】

ここで、各小当たり種別には、それぞれ小当たり遊技においてＶ入賞口１６５０へ遊技球が入球した場合に、その後に実行される大当たり遊技の種別（大当たり種別）が設定されている。「小当たりＡ」に対しては、大当たり種別として「大当たりＡ」が設定されており、「小当たりＢ」に対しては、「大当たりＢ」が設定されており、「小当たりＣ」に対しては、「大当たりＣ」が設定されている。

【４７６１】

本第１０制御例では、「大当たりＡ」～「大当たりＣ」の何れの大当たり種別が設定された場合であっても、大当たり遊技として可変入賞装置６５を開放されるラウンド遊技を５回実行させる大当たり遊技（５ラウンド遊技）を実行し、大当たり遊技の終了後に、時短状態が設定されるように構成している。そして、詳細な説明は図３８８を参照して後述するが、設定される大当たり種別に応じて、時短状態を終了させるための時短終了条件として、異なる内容の時短終了条件が設定されるように構成している。

【４７６２】

つまり、小当たり当選した場合に設定される小当たり種別に応じて、時短終了条件のみを異ならせた特典遊技（大当たり遊技、時短状態中の遊技）を提供するように構成している。このように構成することで、小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の内容によって、大当たり種別を遊技者に特定されてしまい、後に設定される時短状態が有利時短状態であるか不利時短状態であるかを遊技者に事前に予測されてしまうことを抑制することができる。

【４７６３】

なお、本第１０制御例では、小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の内容が、小当たり種別に関わらず同一（５ラウンド（Ｒ）大当たり遊技）となるように構成しているが、これに限ること無く、小当たり種別に応じて異なる内容の大当たり遊技を実行可能に構成しても良い。この場合、遊技者に不利となる不利時短状態が設定される大当たり種別と、遊技者に有利となる有利時短状態が設定される大当たり種別の少なくとも一部とで同一の大当たり遊技内容の大当たり遊技が実行されるように構成すると良い。

【４７６４】

このように構成することで、大当たり遊技終了後に設定される時短状態が有利時短状態であるか不利時短状態であるかを大当たり遊技が実行されている最中に遊技者に判別させ難くする大当たり遊技と、大当たり遊技終了後に設定される時短状態が有利時短状態であることを大当たり遊技が実行されている最中に遊技者に判別させ易くする大当たり遊技（有利時短状態が設定される大当たり種別のみ実行可能な大当たり遊技）と、を実行することができるため、どのような内容の大当たり遊技が実行されるのかについて遊技者に興味

を持たせることができる。

【４７６５】

時短付与１０テーブル２０２ｉｅは、大当たり遊技終了時に設定する時短状態の終了条件（時短終了条件）が予め規定されているデータテーブルであって、各大当たり種別に対応させた時短付与内容（時短終了条件）が規定されているものである。この時短付与１０テーブル２０２ｉｅは、時短状態を終了させるための複数の時短終了条件を設定する際に参照されるデータテーブルであり、大当たり遊技が終了（大当たり遊技のエンディング期間が終了）した場合に参照され、大当たり種別に応じて異なる時短回数（時短終了条件）が設定される。

【４７６６】

ここで、図３８８を参照して時短付与１０テーブル２０２ｉｅに規定されている内容について説明をする。図３８８は時短付与１０テーブル２０２ｉｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。本制御例では、第１特別図柄変動と第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する第１時短終了条件（時短カウンタ２０３ｈにセットされる値）と、第２特別図柄変動の回数に基づいて成立する第２時短終了条件（特図２変動回数カウンタにセットされる値）と、を設定可能に構成している。

【４７６７】

具体的には、特別図柄抽選で大当たり当選した場合、或いは、小当たり種別「小当たりＡ」が設定された場合に設定される「大当たりＡ」に対しては、第１時短終了条件として、時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、第２時短終了条件として、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値に「１」が規定されている。つまり、「大当たりＡ」に対応する時短状態が設定された場合には、第１特別図柄変動の実行回数と、第２特別図柄変動の実行回数との合算回数が１０回に到達した場合に第１時短終了条件が成立し、第２特別図柄変動の実行回数が１回に到達した場合に第２時短終了条件が成立する時短状態が設定される。なお、上述した通り、本第１０制御例では、時短終了条件が成立する特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態を終了させるように構成していることから、「大当たりＡ」に対応する時短状態が設定された場合には、時短状態が設定されてから１回目の第２特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態が終了することになる。よって、遊技者に不利となる不利時短状態となる。

【４７６８】

なお、本第１０制御例では、時短状態中において正常に遊技を実行する場合において先に成立し得る第２時短終了条件と、その第２時短終了条件よりも成立し難い第１時短終了条件を設定するように構成している。そして、第１時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」をセットするように規定されている。この「１０」の値は、特図１保留の上限数「４」よりも大きな値となるように規定されている。よって、特図１保留を上限数記憶している状態で時短状態が設定され、第２特別図柄変動が実行されるよりも前に、全ての特図１保留が消化されたとしても時短状態が終了することが無い。また、時短状態中において第１特別図柄抽選のみを実行する行為が行われた場合には、第１特別図柄変動の回数が１０回に到達した時点で時短状態を終了させることができるため、正常では無い遊技が継続して実行されることを抑制することができる。なお、本制御例では、時短状態が設定される全ての大当たり種別に対して、第１時短終了条件として同一の値をセットするように構成しているが、これに限ること無く、異なる値をセットするように構成しても良い。

【４７６９】

小当たり種別「小当たりＢ」が設定された場合に設定される「大当たりＢ」に対しては、第１時短終了条件として、時短カウンタ２０３ｈの値に「０」が、第２時短終了条件として、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値に「０」が規定されている。つまり、「大当たりＢ」が設定された場合には、大当たり遊技終了後に通常状態が設定されるように構成している。なお、上述した通り、本第１０制御例では、通常状態が設定される場合よりも時短状態が設定される場合の方が、遊技者に有利な遊技（第２特別図柄抽選）を実行さ

せ易く構成していることから、「大当たりＢ」は、遊技者に最も不利となる大当たり種別となる。

【４７７０】

小当たり種別「小当たりＣ」が設定された場合に設定される「大当たりＣ」に対しては、第１時短終了条件として、時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、第２時短終了条件として、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値に「２」が規定されている。つまり、「大当たりＣ」に対応する時短状態が設定された場合には、第１特別図柄変動の実行回数と、第２特別図柄変動の実行回数との合算回数が１０回に到達した場合に第１時短終了条件が成立し、第２特別図柄変動の実行回数が２回に到達した場合に第２時短終了条件が成立する時短状態が設定される。なお、上述した通り、本第１０制御例では、時短終了条件が成立する特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態を終了させるように構成していることから、「大当たりＣ」に対応する時短状態が設定された場合には、時短状態が設定されてから２回目の第２特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態が終了することになる。つまり、時短状態が設定されてから１回目の第２特別図柄変動の変動期間中は時短状態が継続し、普図当たり遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなる期間となる。よって、遊技者に有利となる有利時短状態となる。

【４７７１】

また、本制御例では複数の時短終了条件として、上述した第１時短終了条件、第２時短終了条件を有する構成を用いているが、それ以外の条件を時短終了条件として設定しても良く、例えば、第１特別図柄の変動回数が所定回数（例えば５０回）となった場合に成立する時短終了条件や、第２特別図柄の変動回数が所定回数（例えば８０回）となった場合に成立する時短終了条件や、小当たりに当選しＶ入賞装置６５０が作動した回数が所定回数（例えば、１０回）となった場合に成立する時短終了条件を設定しても良い。

【４７７２】

さらに、特別図柄の変動回数や抽選結果に基づかず、別の要因によって成立する時短終了条件を設定しても良く、例えば、普通図柄の変動回数や普通図柄の当たり当選回数（電動役物６４０ａの作動回数）が所定回数となった場合に成立する時短終了条件や、特定の入球口（例えば、一般入賞口６３）に入球した球数が所定個数（例えば、５０個）となった場合に成立する時短終了条件等を予め設定するように構成しても良い。

【４７７３】

上述したように、遊技者に有利な遊技状態である時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定し、その時短終了条件の何れかが設定した場合に時短状態が終了するように構成することで、時短状態がどれくらいの期間継続するのかを遊技者が事前に把握することが困難となるため単調な遊技が行われることを抑制することができる。

【４７７４】

さらに、複数の時短終了条件が所定数（例えば２つ）成立した場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。この場合、成立した時短終了条件の数を判別する成立数判別手段と、成立数判別手段により判別された成立数が所定数（例えば２つ）に到達したかを判別する条件到達判別手段と、を設け、条件到達判別手段により成立数が所定数（例えば２つ）に到達したと判別された場合に時短状態を終了（通常状態を設定）するように構成すると良い。

【４７７５】

また、最初に成立した時短終了条件の内容を判別する内容判別手段を設け、その内容判別手段の判別結果に基づいて、条件到達判別手段の判別基準となる所定数（例えば２つ）を可変させる判別基準数可変手段を設けても良い。これにより、最初に成立した時短終了条件の種類に応じて、終了し易い時短状態や、終了し難い時短状態を設定することができるため、時短状態が設定された後でも遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【４７７６】

上述した内容に加え、時短状態が設定されてからの所定期間（例えば、特別図柄の変動回数が１０回に到達するまで）を計測する所定期間計測手段と、その所定期間計測手段の

計測結果を判別する結果判別手段とを設け、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別した場合には、上述した時短終了条件が成立したとしても所定期間が経過するまでは時短状態の終了を遅延させる時短終了遅延手段を設けても良いし、結果判別手段により現在が所定期間内であると判別した場合に成立した時短終了条件を無効にする終了条件無効手段を設けても良い。また、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別している間は時短終了条件の成立の有無判別や、各時短終了条件に対応して設定された各種カウンタの値を更新（減算）する処理を実行しないようにしても良い。

【４７７７】

このように構成することで、時短状態が設定された直後に時短状態が終了してしまう事態を確実に防止することが出来ると共に、時短状態の終了タイミングを複雑に設定することができる。また、上述したように複数の時短終了条件が成立したことに基づいて時短状態を終了させる処理を用いる場合においては、複数の時短終了条件を、優先時短終了条件（例えば、特別図柄の変動回数が１００回に到達した場合に成立する時短終了条件）と、非優先時短終了条件（例えば、小当たり回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件）とを設定しておき、優先時短終了条件が成立した場合は直ちに時短状態を終了させ、非優先時短終了条件のみ複数成立した場合に時短状態を終了させるように構成すると良い。このように優先時短終了条件を設けることで、遊技者に対して過剰に時短状態を提供してしまうことを抑制することができる。

【４７７８】

図３８５（ｂ）に戻り、本第１０制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図３８５（ｂ）は、第１０制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０が有するＲＡＭ２０３に規定されている内容を模式的に示した図である。図３８５（ｂ）に示した通り、本第１０制御例では、上述した第７制御例におけるＲＡＭ２０３（図３０４（ｂ）参照）に対して、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【４７７９】

なお、遊技状態格納エリア２０３ｇは、上述した各制御例と同様に主制御装置１１０から受信した状態コマンドに含まれている遊技状態を示す情報が格納される記憶領域であって、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納されている情報に基づいて、設定されている遊技状態（通常状態、時短状態）に加え、その遊技状態の種別（不利時短状態（第１時短状態）、有利時短状態（第２時短状態））も判別可能に構成されている。

【４７８０】

特図２変動回数カウンタ２０３ｉａは、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の変動回数が第２時短終了条件を満たしているかを判別する際に参照されるカウンタであって、時短状態が設定される場合に第２時短終了条件に対応する値がセットされる。そして、時短状態中に第２特別図柄変動を開始させるための制御処理が実行される毎に、値が減算されていき、減算後の値が第２時短終了条件を満たしているか（０であるか）が判別される。

【４７８１】

このように構成することで、設定される時短状態の種別によって第２時短終了条件の内容を異ならせた場合であっても、時短状態を設定する際に特図２変動回数カウンタ２０３ｉａにセットする値の内容を異ならせるだけで良く、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。

【４７８２】

次に、図３８９（ａ）を参照して、本第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図３８９（ａ）は、第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成を模式的に示した模式図である。図３８９（ａ）に示した通り、本第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２は、上述した第７制御例のＲＯＭ２２２（図３１１（ａ）参照）に対して、抽選結果報知

態様選択テーブル２０２ｆａを削除した点と、最終変動演出選択テーブル２２２ｉａと、告知対象選択テーブル２２２ｉｂとを設けた点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の内容については同一の符号を付してその説明を省略する。

【４７８３】

最終変動演出選択テーブル２２２ｉａは、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の最終変動（特図２時短最終変動）中に実行される変動演出（最終変動演出）の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立する１つ前の特図２変動の変動演出パターンを決定する際に参照される。

【４７８４】

本第１０制御例では、上述した通り、時短状態を終了させるタイミングが特別図柄変動の開始タイミングとなるため、時短終了条件が成立する１つ前の特別図柄変動の変動期間が、遊技者に対して特図２保留を獲得させるための最後のチャンスとなる。よって、本第１０制御例では、時短終了条件が成立する１つ前の特別図柄変動の変動期間が時短最終変動期間となり、その時短最終変動期間において最終変動演出が実行されるように構成している。

【４７８５】

具体的には、主制御装置１１０により実行される更新処理１０（図３９３参照）によって、時短カウンタ２０３ｈの値や、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値が更新され、更新された後の特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値を示す残時短回数コマンドが設定される（図３９３のＳ１０６０３参照）。そして、主制御装置１１０から出力された残時短回数コマンドを音声ランプ制御装置１１３が受信することにより、音声ランプ制御装置１１３側で現在設定されている時短状態に対して時短終了条件が成立するまでの残情報（残時短回数）を特定可能に構成している。

【４７８６】

ここで、残時短回数として１回、即ち、今回受信した残時短回数コマンドに対応する特別図柄変動の次に実行される特別図柄変動によって時短終了条件が成立する状態であると判別した場合、具体的には、時短カウンタ２０３ｈの値、或いは、特図２変動回数カウンタ２０３ｉａの値として「１」を示す情報を残時短回数コマンドとして受信した場合に、対応する特別図柄変動（時短最終変動）の変動期間を時短最終変動期間として特定し、その時短最終変動期間に対して時短最終変動演出の演出態様を決定するように構成している。

【４７８７】

このように構成することで、時短終了条件が成立した特別図柄変動の開始タイミングにおいて時短状態を終了させる処理を実行する場合であっても、遊技者に対して、特図２保留を獲得させることを促す演出（保留獲得演出）を実行する期間を確保し易くすることができる。

【４７８８】

なお、本第１０制御例では、時短終了条件が成立した特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態を終了させるように構成しているため、時短終了条件が成立した特別図柄変動の変動期間中は、特図２保留を獲得することが困難な遊技状態（通常状態）となることから、時短終了条件が成立する特別図柄変動の１つ前の特別図柄変動期間中において時短最終変動演出を実行するように構成しているが、例えば、時短状態を終了させるタイミングとして特別図柄変動の停止タイミングが規定されているパチンコ機１０であれば、時短終了条件が成立した特別図柄変動の変動期間を時短最終変動期間として特定し、その時短最終変動期間に対して時短最終変動演出の演出態様を決定するように構成すれば良い。

【４７８９】

また、時短最終変動演出の演出期間としては、少なくとも、上述した時短最終変動期間に該当する期間の少なくとも一部と重複していれば良く、時短最終変動期間の一部期間のみを演出期間とした時短最終変動演出を実行するように構成しても良いし、時短最終変動期間の一部期間と、時短最終変動期間とは異なる期間と、を跨ぐように時短最終変動演出

を実行するように構成しても良い。
【４７９０】
ここで、図３９０を参照して、最終変動演出選択テーブル２２２ｉａに規定されている内容について説明をする。図３９０は、最終変動演出選択テーブル２２２ｉａに規定されている内容を模式的に示した図である。本第１０制御例では、図３８２（ａ）、或いは、図３８３（ｂ）に示した通り、時短最終変動演出として異なる情報を遊技者に付与可能な演出態様を設定可能に構成している。例えば、時短最終変動演出が実行されている期間中において、特図２保留の獲得を促す保留獲得演出（図３８２（ａ）参照）に対応する演出態様と、獲得済みの特図２保留の中に遊技者に有利な特典を付与可能な情報が含まれていることを報知するための祝福演出（図３８３（ｂ）参照）に対応する演出態様と、を設定可能に構成している。
【４７９１】
この最終変動演出選択テーブル２２２ｉａには、図３９０（ａ）に示した通り、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）と、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）と、取得した演出カウンタ２２３ｅの値とに対応させて最終変動演出の演出態様が規定されている。
【４７９２】
具体的には、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が「大当たり」、或いは「小当たりＣ」であり、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）が「１～３」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｅの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様として「ゴール」（図３８３（ｂ）参照）が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ弱」（図３８２（ａ）参照）が、それぞれ規定されており、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）が「０」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｅの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ弱」（図３８２（ａ）参照）が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様として「ゴール」（図３８３（ｂ）参照）が、それぞれ規定されている。
【４７９３】
また、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が「小当たりＡ」であり、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）が「０～３」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｅの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ弱」（図３８２（ａ）参照）が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ強」が、それぞれ規定されている。
【４７９４】
さらに、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が「小当たりＢ」であり、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）が「１～３」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｅの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ強」が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ弱」（図３８２（ａ）参照）が、それぞれ規定されており、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動の変動演出を決定する際の特図２保留数（特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ１の値）が「０」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｅの値が「０～９９」の範囲に対して、演出態様として「貯めろ強」が規定されている。
【４７９５】
ここで、本第１０制御例では、小当たり種別として「小当たりＣ」が設定される場合には、その小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に第２時短状態（有利時短状態）が設定されるように構成している。つまり、「小当たりＣ」に当選している場

合には、後に、特図２保留を獲得可能な期間を有する時短状態が設定されるように構成している。よって、時短最終変動演出の演出態様として、時短最終変動演出の演出期間中において特図２保留の獲得を遊技者に促すことの無い祝福演出（「ゴール」）に対応する演出態様が設定され得るように構成している。

【４７９６】

このように構成することで、時短状態が終了することを示す時短最終変動期間において、遊技者に対して特図２保留を獲得させるために無用に遊技球を発射させる遊技を促すことを抑制することができる。さらに、既に獲得済みの特図２保留数の数に応じて、祝福演出（「ゴール」）に対応する演出態様が設定される割合を異ならせるように構成しており、獲得済みの特図２保留数が少ない場合よりも、多い場合の方が、祝福演出（「ゴール」）に対応する演出態様が設定され易くなるように構成している。

【４７９７】

つまり、最終変動演出期間中において特図２保留を獲得するために遊技球を発射した場合において、遊技者に付与される特典が少ない状態（新たに獲得可能な特図２保留数が少ない状態）の方が、保留獲得演出が実行され難くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して特図２保留を獲得させるために無用に遊技球を発射させる遊技を促すことをより抑制することができる。

【４７９８】

さらに、本第１０制御例では、再度、有利時短状態が設定される可能性が高い状態（小当たりＣ当選している状態）であっても、低確率で保留獲得演出が実行されるように構成しているため、時短最終変動演出の演出態様によって、後の遊技内容を遊技者に確実に把握されてしまうことを抑制することができる。

【４７９９】

一方、本第１０制御例では、小当たり種別として「小当たりＢ」が設定される場合には、その小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に時短状態が設定されない（通常状態が設定される）ように構成している。つまり、「小当たりＢ」に当選している場合には、後に、特図２保留を獲得可能な期間が設定されないように構成している。よって、時短最終変動演出の演出態様として、時短最終変動演出の演出期間中において特図２保留の獲得を遊技者に促す演出態様が設定され得るように構成している。

【４８００】

このように構成することで、遊技者に対して、特図２保留を獲得し得る最後の期間中において、特図２保留を確実に獲得させ易くすることができる。また、本第１０制御例では、遊技者に特図２保留を獲得させることを促すための保留獲得演出の演出態様として、特図２保留の獲得を促す弱演出態様（「貯めろ弱」）と、その弱演出態様よりも特図２保留の獲得を強く促す強演出態様（「貯めろ強）と、を設定可能に構成しており、大当たり遊技終了後に不利時短状態が設定される場合（小当たりＡに当選した場合）と、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される場合（小当たりＢに当選した場合）と、で保留獲得演出の演出態様として、強演出態様が設定される割合を異ならせるように構成している。

【４８０１】

つまり、不利時短状態が設定された場合には、特図２保留を新たに獲得することは困難であるが、例えば、特図２保留を１個も獲得していない状態で不利時短状態が設定された場合には、新たに第２特別図柄抽選を１回実行可能に構成している。即ち、大当たり遊技終了後に通常状態が設定された場合と、不利時短状態が設定された場合と、では、何れも新たに特図２保留を獲得することが困難な遊技状態となるが、不利時短状態の方が、新たに第２特別図柄抽選を実行させ易い遊技状態となる。そして、新たに第２特別図柄抽選が実行されることにより、その抽選結果に基づいて有利時短状態が設定される可能性があることから、通常状態が設定される「小当たりＢ」よりも、不利時短状態が設定される「小当たりＣ」のほうが、後に有利時短状態が設定される可能性が高くなる。

【４８０２】

よって、本第１０制御例では、小当たりＡに当選した場合よりも、小当たりＢに当選し

た場合の方が、遊技者に対して特図２保留の獲得を強く促す演出態様（貯めろ強）が設定され易くなるように構成している。

【４８０３】

ここで、従来のパチンコ機１０では、時短状態において特図２保留を獲得することが可能となる最終期間（時短最終変動期間）において、無条件で遊技者に対して特図２保留を獲得させることを促す演出（保留獲得演出）が実行されるように構成されていた。しかしながら、時短最終変動期間に対応する特別図柄抽選の結果によっては、時短最終変動期間中において特図２保留を獲得することのメリットが無く、無用に遊技球を発射してしまうというデメリットのみが発生する場合があった。

【４８０４】

そして、実際に特図２保留を獲得した方が良い状況（例えば、そのまま時短状態が終了し、特図２保留を新たに獲得することが出来なくなる状況）と、特図２保留を獲得するメリットが低い状況（例えば、実行中の特別図柄抽選が大当たり当選（小当たり当選）しており、その抽選結果に基づいて実行される大当たり遊技の終了後に、再度、特図２保留を容易に獲得することが可能な時短状態が設定される状況）と、で同一態様の保留獲得演出が実行されることから、保留獲得演出が実行された場合において、新たに特図２保留を獲得しようとする遊技意欲が徐々に低下してしまう問題が発生する虞があった。

【４８０５】

これに対して、本第１０制御例では、保留獲得演出の演出態様として、遊技者に対して特図２保留を獲得させることを促す程度を異ならせた演出態様を設定可能に構成し、実際に特図２保留を獲得した方が良い状況（例えば、そのまま時短状態が終了し、特図２保留を新たに獲得することが出来なくなる状況）において、遊技者に特図２保留を獲得すること強く促す演出態様（貯めろ強）が設定され易くなるように構成している。

【４８０６】

このように構成することで、通常実行される保留獲得演出とは異なる演出態様であって、且つ、特図２保留の獲得が強く促されている演出態様で実行される保留獲得演出を見た遊技者に対して、意欲的に特図２保留を獲得するための遊技を行わせることができる。

【４８０７】

なお、特図２保留の獲得を強く促す演出態様としては、例えば、図３８２（ａ）に示した通常の保留獲得演出の演出態様に対して、小表示領域Ｄｍ４の表示領域を大きくすることにより「左打ち」の文字を大きく表示したり、副表示領域Ｄｓに表示されるコメントとして「左打ちしてＶを貯めろ」に代えて「必ず左打ちしてください」のコメントを表示したりすることで、遊技者に遊技球の発射を強く促す、即ち、通常の保留獲得演出において遊技者に提供される情報の表示態様を異ならせることにより、遊技者に遊技球の発射を強く促すように構成しても良いし、図３８２（ａ）に示した表示画面（通常の保留獲得演出の表示画面）では遊技者に提供されることの無い新たな情報（例えば、今回の特図変動期間が終了すると、特図２保留を獲得可能な期間が設定されないことを示すための情報）を遊技者に提供可能な演出態様を設定するように構成しても良い。加えて、パチンコ機１０から出力される音声や、パチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）を用いた追加演出を実行することにより、実際に特図２保留を獲得した方が良い状況（例えば、そのまま時短状態が終了し、特図２保留を新たに獲得することが出来なくなる状況）であることを遊技者に分かり易く報知するように構成しても良い。

【４８０８】

なお、本第１０制御例では、図３９０（ａ）に示した通り、時短最終変動演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）と、獲得済みの特図２保留数と、に基づいて、時短最終変動演出の演出態様を決定可能に構成しているが、それ以外の情報に基づいて時短最終変動演出の演出態様を決定可能に構成しても良く、例えば、獲得済みの特図２保留に対する先読み結果（事前判別結果）に関する情報に基づいて演出態様を決定可能に構成しても良い。

【４８０９】

この場合、当該特別図柄抽選の結果（当否判定結果）と、獲得済みの特図２保留に対する先読み結果（事前判別結果）と、に基づいて、後に有利時短状態が設定されるか否かを判別し、その判別結果に基づいて時短最終変動演出の演出態様を決定するように構成すれば良い。このように構成することで、より精度を高めた時短最終変動演出を実行することが可能となる。

【４８１０】

告知対象選択テーブル２２２ｉｂは、遊技者に対して獲得済み（獲得予定を含む）の大当たり遊技の実行権利数を報知するための報知演出（図３８３（ａ）参照）の演出態様（報知数）を決定する際に参照されるデータテーブルであって、報知演出の実行条件が成立し、報知演出の演出態様を決定するための情報を特定する際に参照される（図３９４のＳ２０１０８参照）。

【４８１１】

ここで、図３９０（ｂ）を参照して、告知対象選択テーブル２２２ｉｂに規定されている内容について説明をする。図３９０（ｂ）は、告知対象選択テーブル２２２ｉｂに規定されている内容を模式的に示した図である。図３９０（ｂ）に示した通り、告知対象選択テーブル２２２ｉｂには、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている保留記憶情報を読み出した結果（有利時短状態が設定される小当たり種別「小当たりＣ」に対応する保留記憶情報が格納されている位置（記憶エリア）と、「小当たりＣ」に対応する保留記憶情報の数）と、に基づいて、報知演出の対象とする（告知対象とする）保留記憶情報を異ならせて規定している。

【４８１２】

ここで、入賞情報格納エリア２２３ａは、上述した通り、１つの実行エリアと、４つの保留エリア（第１エリア～第４エリア）とを特別図柄に対して有しており、これらの各エリアには、主制御装置１１０から出力された入賞情報コマンドに含まれる入賞情報が第１エリアから順に保留記憶情報として格納されるように構成している。つまり、入賞情報格納エリア２２３ａには、第２特別図柄に対応する保留記憶情報として、第２特別図柄抽選が実行される順に保留記憶情報が記憶されるように構成している。

【４８１３】

よって、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報を読み出すことにより、小当たりＣに当選する保留記憶情報の数と、小当たりＣに当選する保留記憶情報に基づく第２特別図柄抽選が実行される順序と、を特定することが可能となる。

【４８１４】

詳細な説明は省略するが、入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア（エリア１）には、次に実行される第２特別図柄抽選に対応する保留記憶情報が格納され、次いで、第２エリア（エリア２）、第３エリア（エリア３）、第４エリア（エリア４）の順で保留記憶情報が格納される。本第１０制御例では、入賞情報を獲得した順に特別図柄抽選が実行されるように構成しているため、第１エリア（エリア１）に格納されている保留記憶情報が最初に格納された保留記憶情報となり、第４エリア（エリア２）に格納されている保留記憶情報が最後に格納された保留記憶情報となる。

【４８１５】

図３９０（ｂ）に示した通り、告知対象選択テーブル２２２ｉｂには、最終小当たりＣ保留格納位置と、保留内小当たりＣ保留数と、に対応付けて告知対象とする小当たりＣ保留を決定するように構成している。最終小当たりＣ保留格納位置とは、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている複数の第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ当選する保留記憶情報を特定し、その特定した保留記憶情報の中で最も後に格納された保留記憶情報が記憶されている保留エリア（第１エリア～第４エリア）を示すものである。

【４８１６】

つまり、最終小当たりＣ保留格納位置が「１」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａ

の保留エリアのうち、第１エリア（エリア１）にのみ小当たりＣ当選する保留記憶情報（小当たりＣ保留）が格納されている状態であることを示し、最終小当たりＣ保留格納位置が「２」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａの保留エリアのうち、最後に小当たりＣ保留が格納されたエリアが第２エリア（エリア２）であることを示している。なお、最終小当たりＣ保留格納位置は、最後に格納された小当たりＣ保留の位置を特定しているだけであり、最終小当たりＣ保留格納位置が「２」の場合は、第１エリア（エリア１）に小当たりＣ保留が格納されている場合と、格納されていない場合と、が存在する。

【４８１７】

同様に、最終小当たりＣ保留格納位置が「３」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａの保留エリアのうち、最後に小当たりＣ保留が格納されたエリアが第３エリア（エリア３）であることを示している。なお、最終小当たりＣ保留格納位置は、最後に格納された小当たりＣ保留の位置を特定しているだけであり、最終小当たりＣ保留格納位置が「３」の場合は、第１エリア（エリア１）、或いは第２エリア（エリア２）に小当たりＣ保留が格納されている場合と、格納されていない場合と、が存在する。

【４８１８】

また、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａの保留エリアのうち、最後に小当たりＣ保留が格納されたエリアが第４エリア（エリア４）であることを示している。なお、最終小当たりＣ保留格納位置は、最後に格納された小当たりＣ保留の位置を特定しているだけであり、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」の場合は、第１エリア（エリア１）、第２エリア（エリア２）、第３エリア（エリア３）のそれぞれに小当たりＣ保留が格納されている場合と、格納されていない場合と、が存在する。

【４８１９】

また、最終小当たりＣ保留格納位置は、上述した通り、最後に格納された小当たりＣ保留の位置を特定するだけのものであり、獲得済みの特図２保留数（入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報の総数）を特定するものでは無い。よって、獲得済みの特図２保留数が「１」である場合も、「４」である場合も、保留エリアの第１エリア（エリア１）のみに小当たりＣ保留が格納されている場合には、最終小当たりＣ保留格納位置が「１」と特定される。

【４８２０】

保留内小当たりＣ保留数は、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ保留に対応する保留記憶情報（小当たりＣ当選する保留記憶情報）の数を示すものであって、保留内小当たりＣ保留数が「１」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ保留に対応する保留記憶情報が１個であり、保留内小当たりＣ保留数が「２」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ保留に対応する保留記憶情報が２個であり、保留内小当たりＣ保留数が「３」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ保留に対応する保留記憶情報が３個であり、保留内小当たりＣ保留数が「４」の場合は、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄に対応する保留記憶情報のうち、小当たりＣ保留に対応する保留記憶情報が４個であることを示している。

【４８２１】

次に、図３９０（ｂ）を参照して、告知対象選択テーブル２２２ｉｂに規定されている内容を具体的に説明する。図３９０（ｂ）に示した通り、最終小当たりＣ保留格納位置が「１」に対しては、保留内小当たりＣ保留数を特定すること無く、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア１（第１エリア）」が規定される。つまり、最終小当たりＣ保留格納位置が「１」の場合は、それ以外に小当たりＣ保留が存在しない状態であることから、そのまま「エリア１（第１エリア）」に格納されている小当たりＣ保留を報知演出による告知対象として決定する。

【４８２２】
　また、最終小当たりＣ保留格納位置が「２」に対しては、保留内小当たりＣ保留数が「１」の場合、即ち、保留エリアのうち「第２エリア（エリア２）」にのみ小当たりＣ保留が格納されている場合には、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア１（第１エリア）」が特定される。この場合、「エリア１（第１エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていない状態であるため、報知演出として、小当たりＣに当選することを前提とした大当たり遊技の実行権利数では無く、「エリア１（第１エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいて算出される大当たり遊技の実行権利数が報知演出の報知数として決定される。
【４８２３】
　このように構成することで、報知演出によって報知された大当たり遊技の実行権利数と、実際に獲得している（獲得予定を含む）大当たり遊技の実行権利数とを乖離させた報知演出を実行可能とすることができるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。
【４８２４】
　保留内小当たりＣ保留数が「２」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア２（第２エリア）」が特定される。この場合、「エリア２（第２エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されているため、現時点における最大数の大当たり遊技の実行権利数を報知演出の報知数として設定することが可能となる。
【４８２５】
　次に、最終小当たりＣ保留格納位置が「３」に対しては、保留内小当たりＣ保留数が「１」の場合、即ち、保留エリアのうち「第３エリア（エリア３）」にのみ小当たりＣ保留が格納されている場合には、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア３（第３エリア）」が特定される。この場合、「エリア３（第３エリア）」には、最後に格納された小当たりＣ保留が格納されているため、現時点における最大数の大当たり遊技の実行権利数を報知演出の報知数として設定することが可能となる。
【４８２６】
　また、保留内小当たりＣ保留数が「２」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア２（第２エリア）」が特定される。この場合、「エリア２（第２エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていない場合と、格納されている場合とが生じる。具体的に説明をすると、最終小当たりＣ保留格納位置が「３」であることから、保留エリアのうち「エリア３（第３エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていることは確定している。そして、保留内小当たりＣ保留数が「２」であることから、「エリア３（第３エリア）」よりも先に保留記憶情報が格納されている「エリア２（第２エリア）」、或いは「エリア１（第１エリア）」の何れかに小当たりＣ保留が格納されていることになる。
【４８２７】
　ここで、小当たりＣ保留が「エリア２（第２エリア）」に格納されている場合は、告知対象とする「エリア２（第２エリア）」に小当たりＣ保留が格納されている状態であるため、「エリア２（第２エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数（小当たりＣ当選に基づいて設定される有利時短状態中に獲得可能な大当たり遊技の実行権利数を含む報知数）が報知演出の報知数として設定される。一方、小当たりＣ保留が「エリア１（第１エリア）」に格納されている場合は、告知対象とする「エリア２（第２エリア）」に小当たりＣ保留が格納されていない状態であるため、「エリア２（第２エリア）」に格納されている保留記憶情報（小当たりＡ、小当たりＢ、或いは大当たり）に基づいた報知数が報知演出の報知数として設定される。
【４８２８】
　また、保留内小当たりＣ保留数が「３」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア１（第１エリア）」が特定される。この場合、「エリア１（第１エリア）」には、小当たりＣ保留が確実に格納されている状態となる。具体的に説明をすると、最終小当たりＣ保留格納位置が「３」であることから、保留エリアのうち「エリア３（第３エリ

ア）」には、小当たりＣ保留が格納されていることは確定している。そして、保留内小当たりＣ保留数が「３」であることから、「エリア３（第３エリア）」よりも先に保留記憶情報が格納されている「エリア２（第２エリア）」、或いは「エリア１（第１エリア）」に２つの小当たりＣ保留が格納されている状態のみが該当するため、「エリア１（第１エリア）」には、小当たりＣ保留が確実に格納されている状態となる。この場合、告知対象とする「エリア１（第１エリア）」に小当たりＣ保留が格納されている状態であるため、「エリア１（第１エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数（小当たりＣ当選に基づいて設定される有利時短状態中に獲得可能な大当たり遊技の実行権利数を含む報知数）が報知演出の報知数として設定される。なお、この場合、「エリア１（第１エリア）」よりも後のエリアに小当たりＣ保留が格納されている状態であり、「エリア３（第３エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数が現時点において報知演出にて報知可能な大当たり遊技の実行権利数の最大数となる。このように、大当たり遊技の実行権利数として報知可能な最大数とは異なる数を報知演出として報知可能に構成することで、遊技者に実際に実行される大当たり遊技の回数（連チャン数）を予測させる楽しみを提供することができる。

【４８２９】

同様に、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」に対しては、保留内小当たりＣ保留数が「１」の場合、即ち、保留エリアのうち「第４エリア（エリア４）」にのみ小当たりＣ保留が格納されている場合には、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア４（第４エリア）」が特定される。この場合、「エリア４（第４エリア）」には、最後に格納された小当たりＣ保留が格納されているため、現時点における最大数の大当たり遊技の実行権利数を報知演出の報知数として設定することが可能となる。

【４８３０】

また、保留内小当たりＣ保留数が「２」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア３（第３エリア）」が特定される。この場合、「エリア３（第３エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていない場合と、格納されている場合とが生じる。具体的に説明をすると、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」であることから、保留エリアのうち「エリア４（第４エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていることが確定している。そして、保留内小当たりＣ保留数が「２」であることから、「エリア４（第４エリア）」よりも先に保留記憶情報が格納されている「エリア３（第３エリア）」，「エリア２（第２エリア）」、或いは「エリア１（第１エリア）」の何れかに小当たりＣ保留が格納されていることになる。

【４８３１】

ここで、小当たりＣ保留が「エリア３（第３エリア）」に格納されている場合は、告知対象とする「エリア３（第３エリア）」に小当たりＣ保留が格納されている状態であるため、「エリア３（第３エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数（小当たりＣ当選に基づいて設定される有利時短状態中に獲得可能な大当たり遊技の実行権利数を含む報知数）が報知演出の報知数として設定される。一方、小当たりＣ保留が「エリア１（第１エリア）」、或いは「エリア２（第２エリア）」に格納されている場合は、告知対象とする「エリア３（第３エリア）」に小当たりＣ保留が格納されていない状態であるため、「エリア３（第３エリア）」に格納されている保留記憶情報（小当たりＡ、小当たりＢ、或いは大当たり）に基づいた報知数が報知演出の報知数として設定される。

【４８３２】

保留内小当たりＣ保留数が「３」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア２（第２エリア）」が特定される。この場合、「エリア２（第２エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていない場合と、格納されている場合とが生じる。具体的に説明をすると、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」であることから、保留エリアのうち「エリア４（第４エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていることが確定している。そして、保留内小当たりＣ保留数が「３」であることから、「エリア４（第４エリア）」よりも先に保留記憶情報が格納されている「エリア３（第３エリア）」，「エリア２（第２

エリア）」、或いは「エリア１（第１エリア）」のうち、２つのエリアに小当たりＣ保留が格納されていることになる。

【４８３３】

ここで、小当たりＣ保留が「エリア２（第２エリア）」に少なくとも格納されている場合は、告知対象とする「エリア２（第２エリア）」に小当たりＣ保留が格納されている状態であるため、「エリア２（第２エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数（小当たりＣ当選に基づいて設定される有利時短状態中に獲得可能な大当たり遊技の実行権利数を含む報知数）が報知演出の報知数として設定される。一方、小当たりＣ保留が「エリア１（第１エリア）」、及び「エリア３（第３エリア）」に格納されている場合は、告知対象とする「エリア２（第２エリア）」に小当たりＣ保留が格納されていない状態であるため、「エリア２（第２エリア）」に格納されている保留記憶情報（小当たりＡ、小当たりＢ、或いは大当たり）に基づいた報知数が報知演出の報知数として設定される。

【４８３４】

また、保留内小当たりＣ保留数が「４」の場合は、告知対象とする小当たりＣ保留として「エリア１（第１エリア）」が特定される。この場合、「エリア１（第１エリア）」には、小当たりＣ保留が確実に格納されている状態となる。具体的に説明をすると、最終小当たりＣ保留格納位置が「４」であることから、保留エリアのうち「エリア４（第４エリア）」には、小当たりＣ保留が格納されていることは確定している。そして、保留内小当たりＣ保留数が「４」であることから、「エリア４（第４エリア）」よりも先に保留記憶情報が格納されている「エリア３（第３エリア）」，「エリア２（第２エリア）」，「エリア１（第１エリア）」に３つの小当たりＣ保留が格納されている状態のみが該当するため、「エリア１（第１エリア）」には、小当たりＣ保留が確実に格納されている状態となる。この場合、告知対象とする「エリア１（第１エリア）」に小当たりＣ保留が格納されている状態であるため、「エリア１（第１エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数（小当たりＣ当選に基づいて設定される有利時短状態中に獲得可能な大当たり遊技の実行権利数を含む報知数）が報知演出の報知数として設定される。なお、この場合、「エリア１（第１エリア）」よりも後のエリアに小当たりＣ保留が格納されている状態であり、「エリア４（第４エリア）」に格納されている保留記憶情報に基づいた報知数が現時点において報知演出にて報知可能な大当たり遊技の実行権利数の最大数となる。このように、大当たり遊技の実行権利数として報知可能な最大数とは異なる数を報知演出として報知可能に構成することで、遊技者に実際に実行される大当たり遊技の回数（連チャン数）を予測させる楽しみを提供することができる。

【４８３５】

次に、図３８９（ｂ）を参照して、本第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図３８９（ｂ）は、第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した模式図である。図３８９（ｂ）に示した通り、本第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、上述した第７制御例のＲＡＭ２２３（図３１１（ｂ）参照）に対して、状態格納エリア２２３ｉａと、時短最終変動フラグ２２３ｉｂと、実行済フラグ２２３ｉｃとを設けた点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の内容については同一の符号を付してその説明を省略する。

【４８３６】

なお、本第１０制御例では、入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報の種類を上述した第７制御例に対して増加している点でも相違している。具体的には、本第１０制御例では、遊技者に対して獲得済みの大当たり遊技の実行権利数の少なくとも一部を報知するための報知演出を実行可能に構成しており、告知対象選択テーブル２２２ｉａを参照して決定した保留記憶情報に基づいて、大当たり遊技の実行権利数を報知するように構成している。そして、入賞情報格納エリア２２３ａには、告知対象選択テーブル２２２ｉａを参照して決定された保留記憶情報に対して、告知対象であることを示すための情報を格納

するように構成している。
【４８３７】
このように構成することで、第２特別図柄抽選が実行され、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている保留記憶情報の記憶エリアがシフトした場合であっても、どの保留記憶情報が告知対象となっているかを容易に判別することが可能となる。
【４８３８】
本第１０制御例では、大当たり遊技の実行権利数を報知するための報知演出が実行された場合には、その報知演出の対象となる特図２保留に対応する特別図柄抽選が実行されるまで新たな報知演出を実行しないように構成することで、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数の全てが報知演出によって報知されたと遊技者に思わせるように構成している。
【４８３９】
このように、報知演出の対象となる特図２保留に対応する特別図柄抽選が実行されるまで新たな報知演出を実行しないように制御するために、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている保留記憶情報の中に報知演出の告知対象を示す情報が含まれているかを判別するように構成している。これにより、報知演出の終了タイミングを容易に判別することが可能となる。
【４８４０】
なお、本第１０制御例では、報知演出の実行期間中に新たな報知演出が実行されることを規制するように構成しているが、これに限ること無く、新たな報知演出を実行可能に構成しても良い。この場合、例えば、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数のうち、報知演出によって報知されていない数が所定数（例えば、５個）を超えた場合に追加実行条件が成立したと判別し、報知演出が実行中であるか否かに関わらず、新たな報知演出が実行可能となるように構成すると良い。
【４８４１】
このように構成することで、報知演出によって報知されない大当たり遊技の実行権利数が増加してしまい、遊技者が報知演出に対して興味を持たなくなり、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。また、追加実行条件としては、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数のうち、報知演出によって報知されていない数に基づいて成立する条件以外に、例えば、保留記憶情報に含まれている情報の中に特定情報（例えば、遊技者に有利な大当たり遊技が実行されることを示す情報や、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が遊技者に有利な遊技状態となることを示す情報）が所定個数（例えば、２個）含まれていると判別した場合に成立する条件を設けても良い。
【４８４２】
さらに、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数を報知演出によって報知するための報知態様を遊技者に選択可能に構成し、例えば、第１報知態様を遊技者が選択した場合には、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数の全てが遊技者に報知されるように構成し、第２報知態様を遊技者が選択した場合には、本第１０制御例のように、一部の実行権利数をランダムに選択して遊技者に報知されるように構成し、第３報知態様を遊技者が選択した場合には、最小限の実行権利数、即ち、獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数を有しているか否かの結果のみが遊技者に報知されるように構成しても良い。この場合、第１報知態様が選択された場合には、新たな特図２保留を獲得することで、報知演出により報知された獲得済み（獲得予定も含む）の大当たり遊技の実行権利数が増加するように、新たな報知演出が実行されることになる。
【４８４３】
状態格納エリア２２３ｉａは、主制御装置１１０から出力される状態コマンドに含まれる情報を一時的に記憶するための記憶領域である。この情報格納エリア２２３ａに格納されている情報を読み出すことにより、音声ランプ制御装置１１３側において、現在設定されている遊技状態、及び、その種別（有利時短状態、不利時短状態）を特定可能に構成している。さらに、情報格納エリア２２３ａには、現在設定されている遊技状態に関する情

報を記憶可能な記憶エリアと、過去に設定されていた遊技状態に関する情報を記憶可能な過去記憶エリアとが設けられている。そして、過去記憶エリアは、最大で３つ前の遊技状態に関する情報まで記憶可能な記憶領域（第１過去記憶エリア～第３過去記憶エリア）を有しており、主制御装置１１０から遊技状態の変更を示す状態コマンドを受信した場合に、受信した状態コマンドに対応する情報が記憶エリアに格納され、それ以前に記憶エリアに格納されていた情報が第１過去記憶エリアにシフトし、第１過去記憶エリアに記憶されていた情報が第２過去記憶エリアへ、第２過去記憶エリアに記憶されていた情報が第３過去記憶エリアへとシフトされ、第３過去記憶エリアに格納されていた情報が消去されるように構成している。

【４８４４】

このように、過去に設定されていた遊技状態を一時的に記憶可能に構成することにより、複数回の遊技状態の移行内容に応じた演出や、過去に設定されていた遊技状態に応じた演出を実行することが可能となるため、遊技者に対して多彩な演出を提供することができる。

【４８４５】

時短最終変動フラグ２２３ｉｂは、時短最終変動演出を実行するための特別図柄変動期間を示すためのフラグであって、時短最終変動演出を実行するための特別図柄変動期間に対応する特別図柄変動が実行される場合にオンに設定されるものである。

【４８４６】

本第１０制御例では、時短終了条件が成立した特別図柄変動の開始タイミングにて時短状態を終了させるように構成しているため、時短終了条件が成立した特別図柄変動の変動期間中は、特図２保留を獲得することが困難な遊技状態（通常状態）となることから、時短終了条件が成立する特別図柄変動の１つ前の特別図柄変動が実行される場合に時短最終変動フラグ２２３ｉｂがオンに設定され、時短終了条件が成立する特別図柄変動の１つ前の特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおいてオフに設定される。

【４８４７】

実行済フラグ２２３ｉｃは、報知演出が実行されていることを示すためのフラグであって、報知演出が実行される場合にオンに設定される。そして、報知演出の告知対象となる保留記憶情報に対応する特別図柄変動が実行された場合（対応する特別図柄変動の変動演出を設定した場合）にオフに設定される。本第１０制御例では、実行済フラグ２２３ｉｃがオンに設定されている間は、新たな報知演出が実行されないように構成している。

【４８４８】

＜第１０制御例における主制御装置１１０の制御処理について＞

次に、図３９１から図３９３を参照して、本第１０制御例における主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。本第１０制御例では、上述した第７制御例に対して、特別図柄変動処理７（図３１５参照）に代えて、特別図柄変動処理１０（図３９１参照）を、特別図柄変動パターン選択処理７（図３１８参照）に代えて、特別図柄変動パターン選択処理１０（図３９２参照）を、更新処理７（図３１９参照）に代えて、更新処理１０（図３９３参照）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした内容と同一の要素について詳細な説明を省略している箇所については、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした内容が適用されるものである。また、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした技術思想については、本第１０制御例にも当然適用されるものであり、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした変形例や追加例についても本第１０制御例に当然適用されるものである。

【４８４９】

まず、図３９１を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動処理１０（Ｓ１０１５４）について説明する。図３９１は、この特別図柄変動処理１０（Ｓ１０１５４）を示すフローチャートである。この特別図柄変動処理１０（Ｓ１

０１５４）は、タイマ割込処理（図３１４参照）の中で実行され、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて行う特別図柄（第１図柄）の変動表示や、第３図柄表示装置８１において行う第３図柄の変動表示などを制御するための処理である。

【４８５０】

この特別図柄変動処理１０（Ｓ１０１５４）では、まず、今現在が、特別図柄の大当たり中であるか否かを判定する（Ｓ１０２０１）。特別図柄の大当たり中としては、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１において特別図柄の大当たり（特別図柄の大当たり遊技中も含む）を示す表示がなされている期間が含まれるものであり、大当たり遊技の開始を示す期間（オープニング期間）と、大当たり遊技中の期間（ラウンド遊技期間）と、ラウンド遊技期間が終了し、次に新たな特別図柄の抽選（変動）が開始されるまでの猶予期間（エンディング期間）と、が含まれる。

【４８５１】

ここで、現在が大当たり中であるか否かの判別をするために、具体的には、大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されているかを判別している。判別の結果、特別図柄の大当たり中（大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されている）と判別した場合は（Ｓ１０２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【４８５２】

特別図柄の大当たり中でなければ、即ち、大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｓ１０２０１：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中であるか否かを判定し（Ｓ１０２０２）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中でなければ（Ｓ１０２０２：Ｎｏ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）と第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を取得する（Ｓ１０２０３）。

【４８５３】

そして、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０より大きいか判別する（Ｓ１０２０４）。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０でなければ（Ｓ１０２０４：Ｙｅｓ）、即ち、変動（抽選）を開始させる第２特別図柄の保留球を確保している状態であれば、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を減算し（Ｓ１０２０５）、演算により変更された第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を示す保留球数コマンド（特図２保留球数コマンド）を設定する（Ｓ１０２０６）。Ｓ１０２０６の処理により特図２保留球数コマンドを設定した後は、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されたデータをシフトする（Ｓ１０２０７）。その後、時短抽選処理７（Ｓ１０２０８）、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）、特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）の処理を実行し、本処理を終了する。

【４８５４】

一方、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０であると判別された場合には（Ｓ１０２０４：Ｎｏ）、現時点において変動（抽選）を開始させる第２特別図柄の保留球を確保していない状態であるため、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０より大きいか判別する（Ｓ１０２１１）。

【４８５５】

第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０であると判別された場合には（Ｓ１０２１１：Ｎｏ）、現時点において変動（抽選）を開始させる第１特別図柄の保留球を確保していない状態であるため、特別図柄変動を実行するための本処理を終了する。

【４８５６】

一方、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０でなければ（Ｓ１０２１１：Ｙｅｓ）、即ち、変動（抽選）を開始させる第１特別図柄の保留球を確保している状態であれば、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を減算し（Ｓ１０２１２）、演算により変更された第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を示す保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）を設定する（Ｓ１０２１３）。Ｓ１０２１３の処理により特図１保留球数コマンドを設定した後は、第１特別図柄保留球格納エリ

ア２０３ａに格納されたデータをシフトする（Ｓ１０２１４）。その後、特別図柄判定処理７（Ｓ１０２０９）、特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）の処理を実行し、本処理を終了する。

【４８５７】

Ｓ１０２０２の処理において、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示態様が変動中であれば（Ｓ１０２０２：Ｙｅｓ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行している変動表示の変動時間が経過したか否かを判別する（Ｓ１０２１１）。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行される変動表示の変動時間は、変動種別カウンタＣＳ１により選択された変動パターンに応じて決められており（変動パターンコマンドに応じて決められており）、この変動時間が経過していなければ（Ｓ１０２１５：Ｎｏ）、即ち、現在が特別図柄の変動期間中であれば、第１図柄表示装置の表示を更新し（Ｓ１０２１６）、本処理を終了する。

【４８５８】

一方、Ｓ１０２１５の処理において、実行している変動表示の変動時間が経過していれば（Ｓ１０２１５：Ｙｅｓ）、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの停止図柄に対応した表示態様（停止表示）を設定する（Ｓ１０２１７）。停止表示の設定は、図３９２を参照して後述する特別図柄変動パターン選択処理７（Ｓ１０２５２）によって予め行われる。詳細な説明は省略するが、第１０制御例では、Ｓ１０２１７の処理において設定された停止表示を所定期間（０．５秒）第１図柄表示装置に表示するように構成している。このように停止図柄の表示態様（停止表示）を所定期間継続して表示させることにより、変動中の図柄が一瞬表示された場合とは異なり、遊技者に対して確実に停止表示された第１図柄の内容を認識させることができる。

【４８５９】

上述した第１図柄の停止態様を表示する所定期間（確定期間）として、第１０制御例では０．５秒を設定しているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、第１図柄が変動中であることを示すために点灯状態と消去状態とを繰り返す点滅表示を行う場合であれば、その点滅表示を行う際の１回の点灯表示期間（例えば、０．２秒）よりも長い期間を上述した確定期間として設定すれば良い。このように構成することで、第１図柄が変動中であるか停止中（確定中）であるかを遊技者に容易に判別させることができる。

【４８６０】

Ｓ１０２１７の処理が終了した後は、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行中の特別図柄の変動表示が開始された際に、特別図柄判定処理７（図３１７のＳ１０２０９参照）によって行われた特別図柄の抽選結果（今回の判別結果）が、特別図柄の大当たりであるかを判別する（Ｓ１０２１８）。今回の抽選結果が特別図柄の大当たりであると判別した場合は（Ｓ１０２１８：Ｙｅｓ）、大当たり開始フラグ２０３ｊと大当たり中フラグ２０３ｋとをオンに設定し（Ｓ１０２１９）、時短カウンタ２０３ｈを０に設定して（Ｓ１０２２０）、Ｓ１０２２１の処理へ移行する。Ｓ１０２２１の処理では、特図確定コマンドを設定し（Ｓ１０２２１）、本処理を終了する。

【４８６１】

つまり、第１０制御例では、Ｓ１０２２０の処理にて説明をした通り、特別図柄の大当たりに当選した場合には、その特別図柄の変動が終了（第１図柄の確定表示が終了）してから、大当たり遊技が開始されるまでのタイミングで時短状態が終了するように構成している。なお、特別図柄の大当たりに当選したことに基づいて時短状態を終了させるタイミングについては、予め定められているタイミングで有れば良く、上述した第１０制御例のように、特別図柄（第１図柄）の確定表示後以外にも、例えば、大当たりに当選した特別図柄の変動開始タイミングで時短状態を終了しても良いし、特別図柄が停止表示されたタイミング（確定表示が開始されるタイミング）で時短状態を終了しても良い。また、当選した大当たりに対応した大当たり遊技を開始するタイミングや大当たり遊技が開始されてから所定期間後（例えば、可変入賞装置６５が開放されるラウンド遊技開始タイミング）に時短状態を終了しても良いし、大当たり遊技が終了したタイミングで時短状態を終了し

ても良い。
【４８６２】
さらに、特別図柄の大当たりに当選したことに基づいて時短状態を終了させる終了タイミング（特別図柄の大当たりに当選した場合に成立する時短終了条件を成立させるタイミング）を、上述した複数のタイミングの中から１つだけ予め設定するように構成しても良いし、当選した大当たりの大当たり種別に応じて異なるタイミングで時短状態が終了するように構成しても良い。
【４８６３】
このように構成することで、例えば、特別図柄の変動開始タイミングで時短状態を終了させた場合には、遊技者に対して、時短状態が終了し（例えば、特別図柄の変動回数が規定回数（１００回）に到達し）通常状態が設定されたのか、それとも、時短状態中に大当たりに当選したことにより時短状態が終了したのかを分かり難くすることができる。よって、時短状態が終了した際に実行される特別図柄変動に対応する第３図柄の演出表示（変動表示）の内容を遊技者に注視させることができ、演出効果を高めることができる。
【４８６４】
また、複数の大当たり種別毎に時短終了条件が成立するタイミング（大当たりに当選した場合に時短状態を終了させるタイミング）を異ならせるように設定することで、時短状態の終了タイミングに基づいて特別図柄の抽選結果（判別結果）が遊技者に把握されてしまうことを抑制することができる。なお、複数の大当たり種別毎に設定される時短終了条件が成立するタイミングの一部に、時短状態が終了したタイミングを遊技者が識別した場合に、今回の特別図柄の抽選結果（判別結果）が大当たりであることを遊技者に報知できるタイミング、即ち、大当たりに当選したことにより成立する時短終了条件が成立した場合にのみ時短状態が終了する大当たり専用の時短終了タイミングを設けても良い。
【４８６５】
このように構成することで、時短状態が終了するタイミングを把握することで、大当たりに当選したことをいち早く知ることができ、優越感に浸る期間を長くすることができる。また、このような効果をより奏するために、上述した大当たり専用の時短終了タイミングを、特別図柄変動が実行されてから特別図柄変動が終了するまでの変動期間のうち、前半期間に設定するように構成すると良い。
【４８６６】
一方、Ｓ１０２１８の処理において、今回の抽選結果が大当たりでないと判別された場合は（Ｓ１０２１８：Ｎｏ）、今回の抽選結果が小当たりであるか否かを判別する（Ｓ１０２２２）。Ｓ１０２２２の処理において、今回の抽選結果が小当たりであると判別された場合は（Ｓ１０２２２：Ｙｅｓ）、小当たり開始設定処理７を実行し（Ｓ１０２２３）、本処理を終了する。一方、Ｓ１０２２２の処理において、今回の抽選結果が小当たりでないと判別された場合は（Ｓ１０２２２：Ｎｏ）、小当たり開始設定処理７（Ｓ１０２２３）をスキップして、本処理を終了する。
【４８６７】
以上、説明をしたように、第１０制御例の特別図柄変動処理１０（図３９１のＳ１０１０４）では、第１特別図柄の抽選（変動）条件の成立の有無よりも優先して（先に）、第２特別図柄の抽選（変動）条件の成立の有無を判別するように構成している（図３９１のＳ１０２０４の処理）。これは、遊技者にとって有利な特別図柄である第２特別図柄は遊技状態として時短状態が設定されている場合に変動可能（変動容易）となり、通常状態が設定されている場合は、変動不能（変動困難）となる第２特別図柄のほうが、第１特別図柄よりも変動（抽選）を実行し難い特別図柄となるように構成されているためである。
【４８６８】
このように構成されたパチンコ機１０において、万が一、第１特別図柄の抽選（変動）条件と、第２特別図柄の抽選（変動）条件が同時（主制御装置１１０のタイマ割込処理（図３１４参照）の処理期間である２ミリ秒分の誤差は含む）に成立した場合に、変動（抽選）が実行され難い第２特別図柄よりも優先して第１特別図柄の変動が開始されてしまう

と、遊技者に対して不快感を与えてしまうことになる。さらに、第１０制御例では第１特別図柄の抽選（変動）よりも第２特別図柄の抽選（変動）のほうが遊技者に有利となる抽選結果に当選し易くなるように（小当たりに当選し易くなるように）構成しているため、第１特別図柄の抽選（変動）条件と、第２特別図柄の抽選（変動）条件が同時（主制御装置１１０のタイマ割込処理（図３１４参照）の処理期間である２ミリ秒分の誤差は含む）に成立した場合に、変動（抽選）が実行され難い第２特別図柄よりも優先して第１特別図柄の変動が開始されてしまうと、より不快感を与えてしまうという問題があった。

【４８６９】

これに対して、第１０制御例では、第１特別図柄、或いは第２特別図柄の変動を開始させる処理を実行する場合に、遊技者にとって付加価値の高い（小当たりの当選確率が第１特別図柄よりも高い、実際に抽選（変動）が実行され難い）特別図柄（第１０制御例では第２特別図柄）の抽選（変動）条件を優先して（最初に）判別するように構成しているため、上述した問題が発生することを抑制することができる。

【４８７０】

次に、図３９２を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）について説明する。図３９２は、特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）の内容を示したフローチャートである。図３９２に示した通り、特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）では、特別図柄変動の開始を設定する前に更新処理１０（Ｓ８２７２）を実行するように構成している。このように構成することで、特別図柄変動が開始されるよりも前に時短状態を終了させることができる。

【４８７１】

特別図柄変動パターン選択処理１０（Ｓ１０２５１）が実行されると、まず、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ８２０１）。Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｓ８２０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別として大当たりＡを決定し（Ｓ８２７１）、Ｓ８２０３の処理に移行する。

【４８７２】

一方、Ｓ８２０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合には（Ｓ８２０１：Ｎｏ）、特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否か、即ち、特別図柄の小当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ８２０９）。Ｓ８２０９の処理において特別図柄の小当たりが設定されていると判別した場合には（Ｓ８２０９：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択１０テーブル２０２ｉｆ（図３８７参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ８２７３）、Ｓ８２０３の処理に移行する。

【４８７３】

また、Ｓ８２０９の処理において、特別図柄の小当たりが設定されていない、即ち、特別図柄の外れが設定されていると判別した場合には（Ｓ８２０９：Ｎｏ）、Ｓ８２７３の処理をスキップし、Ｓ８２０３の処理に移行する。

【４８７４】

Ｓ８２０３の処理では、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得する（Ｓ８２０３）。次に、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて現在の遊技状態を特定し、特定した遊技状態に対応したデータテーブルを変動パターン選択７テーブル２０２ｆｄから読み出す（Ｓ８２５２）。

【４８７５】

そして、Ｓ８２０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｓ８２５２の処理で読み出した変動パターン選択７テーブル２０２ｆｄ（図３０８（ａ）参照）が有するデータテーブルとに基づいて変動パターンを選択し（Ｓ８２０５）、Ｓ８２０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｓ８２０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理に

て音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【４８７６】
次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｓ８２０７）、更新処理１０を実行する（Ｓ８２７２）。更新処理１０（Ｓ８２７２）の詳細な説明については、図３９３を参照して後述する。そして、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｓ８２０８）、本処理を終了する。Ｓ８２０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。
【４８７７】
なお、これに限ること無く、例えば、図３９２のＳ８２５２の処理が実行されるよりも前に更新処理１０（Ｓ８２７２）を実行するように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄変動の変動パターンを選択するよりも前に時短状態を終了させることが可能となるため、例えば、通常状態と時短状態とで異なる変動パターンを選択可能に構成されたパチンコ機１０において、選択された変動パターンに基づいて、時短状態中に特別図柄抽選の大当たり判定が実行されたか否かを判別されてしまうことを抑制することができる。
【４８７８】
図３１９は、更新処理１０（Ｓ８２７２）の処理内容を示したフローチャートである。この更新処理１０（Ｓ８２７２）では、図３１９に示した通り、時短カウンタ２０３ｈの値を減算し、時短終了条件が成立したかを判別し、その判別結果に基づいて時短状態を終了させる処理（時短終了条件が成立したか否かの判別を実行する際に参照される各種カウンタの値をクリアする処理）が実行される。
【４８７９】
更新処理１０（Ｓ８２７２）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいか、即ち、現在が時短中であるかを判別する（Ｓ１０６０１）。Ｓ１０６０１の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きく無い（０である）、即ち、時短中ではないと判別した場合は（Ｓ１０６０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい、即ち、時短中であると判別した場合は（Ｓ１０６０１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｓ１０６０２）、Ｓ１０６０３の処理へ移行する。
【４８８０】
Ｓ１０６０３の処理では、演算により変更された（１減算された）時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｓ１０６０３）。ここで設定された残時短回数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、メイン処理７（図３２５参照）の外部出力処理（Ｓ１１５０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。
【４８８１】
その後、時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別する（Ｓ１０６０４）。時短カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は（Ｓ１０６０４：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ１０６０５）、次いで、現在の遊技状態が通常状態であることを示す状態コマンドを設定し（Ｓ１０６０７）、本処理を終了する。
【４８８２】
一方、Ｓ１０６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ１０６０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了し、特別図柄変動パターン選択処理１０（図３９２参照）へ戻る。
【４８８３】
＜第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞
次に、図３９４から図３９５を参照して、本第１０制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。本第１０制御例では、

上述した第７制御例に対して、保留球数コマンド処理１０（図３９４参照）と、特図２演出態様設定処理１０（図３９５参照）とを実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした内容と同一の要素について詳細な説明を省略している箇所については、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした内容が適応されるものである。また、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした技術思想については、本第１０制御例にも当然適用されるものであり、上述した各制御例、及び各実施形態において説明をした変形例や追加例についても本第１０制御例に当然適用されるものである。

【４８８４】

まず、図３９４を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される保留球数コマンド処理１０（Ｓ２０１０１）について説明をする。図３９４は、保留球数コマンド処理１０（Ｓ２０１０１）の内容を示したフローチャートである。

【４８８５】

保留球数コマンド処理１０（Ｓ２０１０１）が実行されると、まず、実行済フラグ２２３ｉｃがオンであるか判別する（Ｓ２０１０２）。実行済フラグ２２３ｉｃがオンであると判別した場合には（Ｓ２０１０２：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。一方、実行済フラグ２２３ｉｃがオンではないと判別した場合には（Ｓ２０１０２：Ｎｏ）、今回主制御装置１１０より受信したコマンドから保留情報を抽出し、対応する値を対応する特別図柄保留球数カウンタ（特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｂ、或いは、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｂ１）に格納する（Ｓ２０１０３）。

【４８８６】

次に、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｂ１の値が４であるか判別する（Ｓ２０１０４）。特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｂ１の値が４ではないと判別した場合には（Ｓ２０１０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｂ１の値が４であると判別した場合には（Ｓ２０１０４：Ｙｅｓ）入賞情報格納エリア２２３ａから第２特別図柄の保留記憶情報の読み出しを実行する（Ｓ２０１０５）。そして、読み出した保留記憶情報に小当たりＣに対応する保留記憶情報があるか判別する（Ｓ２０１０６）。読み出した保留記憶情報に小当たりＣに対応する情報がないと判別した場合には（Ｓ２０１０６：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【４８８７】

一方、Ｓ２０１０６の処理において、Ｓ２０１０５の処理において読み出した保留記憶情報から小当たりＣに対応する情報があると判別した場合には（Ｓ２０１０６：Ｙｅｓ）、現在の遊技状態が第２時短状態であるか判別する（Ｓ２０１０７）。現在の遊技状態が第２時短状態であると判別した場合には（Ｓ２０１０７：Ｙｅｓ）、告知対象選択テーブル２２２ｉｂ（図３９０（ｂ）参照）より告知対象となる小当たりＣ保留を決定し（Ｓ２０１０８）、Ｓ２０１０９の処理に移行する。一方、Ｓ２０１０７の処理において、現在の遊技状態が第２確変状態中ではないと判別した場合には（Ｓ２０１０７：Ｎｏ）、最後に獲得した小当たりＣ保留を告知対象に決定し（Ｓ２０１１２）、Ｓ２０１０９の処理に移行する。

【４８８８】

Ｓ２０１０９の処理では、Ｓ２０１０８、或いは、Ｓ２０１１２の処理において決定した小当たりＣ保留の格納位置に対応する連チャン数を示す表示態様を決定し（Ｓ２０１０９）、入賞情報格納エリア２２３ａに告知対象情報を追加する（Ｓ２０１１０）。そして、実行済フラグ２２３ｉｃをオンに設定し（Ｓ２０１１１）、本処理を終了する。

【４８８９】

次に、図３９５を参照し、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される特図２演出態様設定処理１０（Ｓ１４９９４）について説明する。図３９５は、特図２演出態様設定処理１０（Ｓ１４９９４）の内容を示したフローチャートである。

【４８９０】

特図２演出態様設定処理１０（Ｓ１４９９４）が実行されると、まず、遊技状態が時短状態であるか判別する（Ｓ１９５５１）。遊技状態が時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ１９５５１：Ｎｏ）、Ｓ１９５５２～Ｓ１９５５５の処理をスキップし、Ｓ１９５５６の処理に移行する。一方、遊技状態が時短状態であると判別した場合には（Ｓ１９５５１：Ｙｅｓ）、今回の変動が時短の最終変動であるか判別する（Ｓ１９５５２）。今回の変動が時短の最終変動ではないと判別した場合には（Ｓ１９５５２：Ｎｏ）、Ｓ１９５５３～ＳＳ１９５５５の処理をスキップし、Ｓ１９５５６の処理に移行する。

【４８９１】

一方、Ｓ１９５５２の処理において、今回の変動が時短状態の最終変動であると判別した場合には（Ｓ１９５５２：Ｙｅｓ）、状態格納エリア２２３ｉａから時短状態の読み出しを実行する（Ｓ１９５５４）。そして、読み出した時短状態が第２時短状態であるか判別する（Ｓ１９５５４）。読み出した最終変動演出選択テーブル（図３９０（ａ）参照）を参照して演出態様を決定し（Ｓ１９５５５）、Ｓ１９５５６の処理に移行する。一方、読み出した遊技状態が第２時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ１９５５４：Ｎｏ）、Ｓ１９５５５の処理をスキップし、Ｓ１９５５６の処理に移行する。

【４８９２】

次に、実行済フラグ２２３ｉｃはオンであるか判別する（Ｓ１９５５６）。実行済フラグ２２３ｉｃがオンであると判別した場合には（Ｓ１９５５６：Ｙｅｓ）、今回の対象変動が告知対象であるか判別する（Ｓ１９５５７）。今回の対象変動は告知対象であると判別した場合には（Ｓ１９５５７：Ｙｅｓ）、実行済フラグ２２３ｉｃをオフに設定し（Ｓ１９５５８）、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ１９５５９）、本処理を終了する。

【４８９３】

一方、Ｓ１９５５６の処理において、実行済フラグ２２３ｉｃがオンではないと判別した場合（Ｓ１９５５６：Ｎｏ）、或いは、Ｓ１９５５７の処理において今回の対象変動が告知対象ではないと判別した場合には（Ｓ１９５５７：Ｎｏ）、上述したＳ１９５５９の処理を実行し、本処理を終了する。

【４８９４】

＜第１１制御例＞

次に、図３９６から図４０５を参照して、第１１制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第１１制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第７制御例と同様に、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選では無い（外れである）場合の一部において、小当たり当選し得るように構成し、小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることで大当たり遊技を実行可能な遊技性（所謂、１種２種タイプ）を有している。

【４８９５】

本第１１制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第７制御例におけるパチンコ機１０に対して大きく相違する点は、遊技者に対して、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）において、第１特別図柄抽選を実行させるための遊技（左打ち遊技）と、第２特別図柄抽選を実行させるための遊技（右打ち遊技）と、選択可能に構成している点と、第１特別図柄抽選の結果に基づいて時短状態が設定された場合と、第２特別図柄抽選の結果に基づいて時短状態が設定された場合とで、時短状態の遊技性を異ならせている点で相違している。

【４８９６】

上述した第７制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態中は第１特別図柄抽選の実行契機となる第１入球口６４への遊技球の入球を目指す左打ち遊技が遊技者に最も有利な遊技方法となるように、通常状態中では第１特別図柄抽選のほうが第２特別図柄抽選よりも実行され易くなるように遊技盤１３を構成していた。そして、時短状態が設定された場合には、第２特別図柄抽選の実行契機となる第２入球口６４０への遊技球の入球を目指す右打ち遊技が遊技者に最も有利な遊技方法となるように、時短状態中では第１特別図柄抽

選よりも第２特別図柄抽選のほうが実行され易くなるように遊技盤１３を構成していた。
【４８９７】
つまり、上述した第７制御例におけるパチンコ機１０は、設定されている遊技状態に応じて遊技者に有利となる遊技方法が予め規定されており、その遊技方法に沿った遊技を遊技者が実行するように構成していた。このように構成することで、遊技者に対して分かり易い遊技を提供することが可能となるが、遊技者に対して定められた遊技方法にて遊技を実行させることになるため遊技者が遊技に飽きてしまうという問題を有していた。
【４８９８】
これに対して、本第１１制御例におけるパチンコ機１０は、通常状態が設定されている状態で、第１特別図柄抽選の実行を目指す遊技（左打ち遊技）と、第２特別図柄抽選の実行を目指す遊技（右打ち遊技）と、を遊技者が選択可能となるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して遊技方法を選択させることができるため、様々な遊技方法で遊技を実行することが可能となる。よって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【４８９９】
加えて、本第１１制御例では、通常状態において第１特別図柄抽選を実行させる左打ち遊技を実行した場合と、第２特別図柄抽選を実行させる右打ち遊技を実行した場合とで、獲得可能な遊技球数（賞球数）の期待値は同程度となるが、その期待値分の遊技球数（賞球数）を獲得するまでの過程が異なるように構成している。簡単に説明をすると、左打ち遊技を実行した場合には、遊技者に有利な遊技状態である時短状態が比較的設定され難いが、一度時短状態が設定されると、その時短状態が継続し易くなり、右打ち遊技を実行した場合には、左打ち遊技を実行した場合よりも時短状態が設定され易く、その時短状態が継続し難くなるように構成している。
【４９００】
このように構成することで、遊技者の都合に合わせた遊技を遊技者自身に選択させることができるため、遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。
【４９０１】
まず、図３９６を参照して、本第１１制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３の構成について説明をする。図３９６は、本第１１制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３の構成を示した正面図である。図３９６に示した通り、本第１１制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３は、上述した第７制御例のパチンコ機１０における遊技盤１３の構成（図２９４参照）に対して、遊技盤１３の右側領域（右打ち遊技によって発射された遊技球が流下する可変表示ユニット８０よりも右側の領域）の構成を異ならせている点と、遊技者に対して遊技方法を示すための指標（表示態様）を遊技盤１３に形成される遊技領域の上側に付している点と、で相違している。なお、上述した第７制御例と同一の構成については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【４９０２】
図３９６に示した通り、遊技盤１３に形成される遊技領域（発射した遊技球が通過可能な領域）のうち、上側（可変表示ユニット８０の上方）の領域には、遊技方法（左打ち遊技、右打ち遊技）に対応する態様として、カメを模した態様ｋ１と、サメを模した態様ｋ２と、が付されている。態様ｋ１は、左打ち遊技に対応する態様であって、態様ｋ１を目指して遊技球を発射させることで、遊技者に左打ち遊技を行わせることが可能となる可変表示ユニット８０の左上方の位置に付されている。
【４９０３】
一方、態様ｋ２は、右打ち遊技に対応する態様であって、態様ｋ２を目指して遊技球を発射させることで、遊技者に右打ち遊技を行わせることが可能となる可変表示ユニット８０の右上方の位置に付されている。このように構成することで、遊技者に対して操作ハンドル２２に対する操作内容（回転量）では無く、実際に発射された遊技球の軌跡を目で追いながら遊技方法を調整することが可能となるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【４９０４】
なお、遊技者に対して実行中の遊技方法を報知するための手法として別の手法を用いても良く、例えば、遊技盤１３に形成される遊技領域のうち、左打ち遊技によって発射された遊技球が流下し得る左側領域（可変表示ユニット８０の左側に形成される遊技領域）に遊技球を検知可能な検知手段を設け、その検知手段が遊技球を検知したことに基づいて左打ち遊技が実行されていることを遊技者に報知する報知手段を設けても良いし、右打ち遊技によって発射された遊技球が流下し得る右側領域（可変表示ユニット８０の右側に形成される遊技領域）に遊技球を検知可能な検知手段を設け、その検知手段が遊技球を検知したことに基づいて右打ち遊技が実行されていることを遊技者に報知する報知手段を設けても良い。

【４９０５】
次に、図３９６を参照して、遊技盤１３の右側領域の構成について説明をする。本第１１制御例では、遊技盤１３の右側領域に第２特別図柄抽選を実行させるための入球口（始動入球口）として、第２入球口１６４０と、右第２入球口１６４１と、を配設している。

【４９０６】
第２入球口１６４０には、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される当たり遊技（普図当たり遊技）にて開閉作動する電動役物１６４０ａが付随しており、設定されている遊技状態に応じて遊技球を入球させ易い状態（普通図柄の高確率状態）と、遊技球を入球させ難い状態（普通図柄の低確率状態）と、を創出可能に構成している。なお、普通図柄抽選の内容や、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される当たり遊技（普図当たり遊技）において開閉作動される電動役物１６４０ａの動作制御内容等については、上述した各制御例において説明をした電動役物制御の内容と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【４９０７】
一方、右第２入球口１６４１は、設定されている遊技状態に関わらず、右打ち遊技によって発射された遊技球が一定の割合で入球し得るように配設されており、本第１１制御例では、左打ち遊技によって発射された遊技球が第１入球口６４へと入球する割合と、同程度の入球割合となるように右第２入球口１６４１が配設されている。このように構成することで、通常状態において左打ち遊技によって実行される第１特別図柄抽選と、右打ち遊技によって実行される第２特別図柄抽選と、を同程度の頻度で実行させることができるため、遊技者が何れの遊技方法を選択した場合であっても、違和感無く遊技を行わせることができる。

【４９０８】
また、時短状態が設定された場合には、右打ち遊技を実行することにより、第２入球口１６４０へと遊技球を入球させ易くすることができるように普通図柄の高確率状態に基づく普通図柄抽選、及び、電動役物１６４０ａを開閉動作させる普図当たり遊技が実行されるため、時短状態中は右打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となる。なお、普通図柄の高確率状態に基づく普通図柄抽選、及び、電動役物１６４０ａを開閉動作させる普図当たり遊技の内容については、上述した第７制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【４９０９】
さらに、遊技盤１３の右側領域下方には、小当たり遊技中に開放動作されるＶ入賞装置１６５０と、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置１０６５が配設されている。このＶ入賞装置１６５０は、上述した第７制御例における第２可変入賞装置６５０（図２９４参照）と同一内容であり、可変入賞装置１６５０は、上述した第７制御例における可変入賞装置６５（図２９４参照）と同一内容であり、その詳細な説明を省略する。

【４９１０】
＜第１１制御例における電気的構成について＞
次に、図３９８～図４０１を参照して、本第１１制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明をする。本第１１制御例のパチンコ機１０は、上述した第７制御例の

パチンコ機１０における電気的構成に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の一部構成、及び、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更している点で相違し、それ以外が同一である。同一の要素については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【４９１１】

まず、図３９８を参照して、本第１１制御例における主制御装置１１０の電気的構成について説明をする。図３９８（ａ）は、本第１１制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。図３９５（ａ）に示した通り、本制御例のＲＯＭ２０２は、上述した第７制御例のＲＯＭ２０２（図３０４（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａに代えて第１当たり乱数１１テーブル２０２ｊａを、小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆに代えて小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆを、時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈに代えて時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈを、時短種別選択７テーブル２０２ｆｉに代えて時短種別選択１１テーブル２０２ｉｉを設けた点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、説明の便宜上、上述した第７制御例のＲＯＭ２０２（図３０４（ａ）参照）では図示している各種構成のうち、図３８５（ａ）にてその図示を省略しているものもあるが、適用が困難な構成以外はその図示を省略しているものである。

【４９１２】

第１当たり乱数１１テーブル２０２ｊａは、上述した第１当たり乱数７テーブル２０２ｆａ（図３０５（ａ）参照）に対して、第２特別図柄抽選の際に参照される特別図柄２乱数７テーブル２０２ｆａ２に代えて特別図柄２乱数１１テーブル２０２ｊａ２を設けた点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については詳細な説明を省略する。

【４９１３】

ここで、図３９９（ａ）を参照して、特別図柄２乱数１１テーブル２０２ｊａ２に規定されている内容について説明をする。図３９９（ａ）は、特別図柄２乱数１１テーブル２０２ｊａ２の内容を模式的に示した模式図である。図３９９（ａ）に示した通り、特別図柄２乱数１１テーブル２０２ｊａ２は、第２特別図柄（特図２）の当たり抽選を実行する際に参照されるデータテーブルである。

【４９１４】

具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る「０～９９９」の範囲のうち、「０～４」の範囲に対して「大当たり」が規定され、「５～５４」の値に「小当たり」が規定されている。即ち、本第１１制御例では、特図２の抽選で大当たりに当選する確率が約１／２００（５／１０００）、小当たりに当選する確率が１／２０（５０／１０００）となる。

【４９１５】

小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆは、第２特別図柄抽選（特図２抽選）にて小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別を選択する際に参照されるデータテーブルである。この小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆは、上述した第７制御例の小当たり種別選択７テーブル２０２ｆｆ（図３０７参照）に対して、規定される小当たり種別の選択割合を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。

【４９１６】

ここで、図３９９（ｂ）を参照して、小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆについて説明をする。図３９９（ｂ）は、小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆの内容を示した模式図である。取得した小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４」の範囲に対して「小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）」が規定されており、「５～９９」の範囲に対して「小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）」が規定されている。

【４９１７】

時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈは、特別図柄抽選にて実行される時短当選判定（時短抽選）にて参照されるデータテーブルであって、上述した時短当たり乱数７テーブル２０２ｆｈ（図３１０（ａ）参照）に対して、時短当選に対応する判定値を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。

【４９１８】

ここで、図４００を参照して時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈに規定されている内容について説明をする。図４００は時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図４００（ａ）に示した通り、時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈには、遊技状態が通常状態（特別図柄及び普通図柄の低確率状態）に対してのみ時短当選判定の判定値が規定されており、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「９００～９４９」の範囲に対して、時短当選する判定値が規定されている。つまり、第１当たり乱数カウンタＣ１の値の取り得る値が１０００個に対して、時短当選と判定される判定値の数が５０個であるため、通常状態中に時短当選する確率は、１／２０（５０／１０００）となる。なお、図４００（ａ）に示した通り、通常状態以外の遊技状態では、時短当選することは無い。なお、これに限ること無く、低確率（例えば、１／１０００）の確率で、通常状態以外の遊技状態においても時短当選するように構成しても良い。

【４９１９】

時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉは、特別図柄抽選で時短当選した場合に設定される時短状態に対する時短終了条件を設定する際に参照されるデータテーブルであって、時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定されている。本第１１制御例では、第１特別図柄抽選で時短当選した場合と、第２特別図柄抽選で時短当選した場合とで、異なる時短種別が選択されるように構成している。

【４９２０】

ここで、図４００（ｂ）を参照して、時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉの内容について説明をする。図４００（ｂ）は、時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉに規定されている内容を示した図である。図４００（ｂ）に示した通り、時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉには、時短当選した特別図柄の種別と、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定されており、規定されている時短種別に対応する時短終了条件、及び、時短リミット設定の有無が規定されている。

【４９２１】

具体的には、第１特別図柄抽選で時短当選した場合は、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の全範囲（「０～９９」）に対して時短種別として時短Ａ１１が規定されている。そして、時短Ａに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「２００」が、時短リミットの設定「なし」が設定される時短終了条件が規定されている。つまり、特別図柄時短カウンタ２０３ｈの値を更新する処理が２００回実行された時点で時短状態が終了する時短終了条件が設定される。

【４９２２】

一方、第２特別図柄抽選で時短当選した場合は、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の全範囲（「０～９９」）に対して時短種別として時短Ｂ１１が規定されている。そして、時短Ｂに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「２００」が、時短リミットの設定「あり」が設定される時短終了条件が規定されている。つまり、特別図柄時短カウンタ２０３ｈの値を更新する処理が２００回実行された時点で時短状態が終了する時短終了条件が設定されると共に、時短状態が連続して設定される回数が所定回数（１０回）に到達した場合に、時短リミットに到達し、通常状態が設定されるように構成している。

【４９２３】

よって、特別図柄抽選で時短当選した場合には、時短リミットの設定がされない第１特別図柄抽選の方が、第２特別図柄抽選よりも遊技者に有利な時短状態を設定することができるように構成している。これにより、時短抽選が実行される通常状態において、左打ち

遊技を行うことで大当たり抽選と、遊技者に有利な時短抽選を実行するか、右打ち遊技を行うことで、大当たり抽選、小当たり抽選と、遊技者に不利な時短抽選を実行するかを遊技者に選択させ難くすることができ、遊技者に対して遊技方法を選択させる楽しみを提供することができる。

【４９２４】

図３９８（ｂ）に戻り、本第１１制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図３９８（ｂ）は、第１１制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０が有するＲＡＭ２０３に規定されている内容を模式的に示した図である。図３９８（ｂ）に示した通り、本第１１制御例では、上述した第７制御例におけるＲＡＭ２０３（図３０４（ｂ）参照）に対して、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【４９２５】

時短リミット回数カウンタ２０３ｊａは、普通図柄の高確率状態が連続して設定される回数を計測するためのカウンタである。ここで、本第１１制御例におけるパチンコ機１０は、大当たり遊技中を除いて、普通図柄の低確率状態が設定されること無く、普通図柄の高確率状態が連続して設定される回数（普通連続設定回数）を計測可能に構成しており、その普通連続設定回数が所定数（１０回）に到達した場合（時短リミットに到達した場合）に、普通図柄の高確率状態を設定可能な条件が成立している場合であっても、普通図柄の低確率状態を強制的に設定する処理（時短リミット処理）を実行可能に構成し、遊技者に対して有利な遊技状態（第１確変状態）が過剰に連続して設定されてしまうことを抑制している。

【４９２６】

この時短リミット回数カウンタ２０３ｊａには、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選によって時短当選した場合に、初期値として「１０」がセットされる（図４０２のＳ１８１８２参照）。そして、普通連続設定回数が更新される毎にカウンタの値が減算され（図４０５のＳ１３１０４参照）、時短リミットに到達したか否かの判別処理にて減算後のカウンタ値が参照される（図４０５のＳ１３１０７参照）。そして、時短リミットに到達した場合や、実行中の大当たり種別が普通図柄の低確率状態を設定するものである場合に時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０にクリアされる。

【４９２７】

この時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を示す情報は、大当たり終了処理において、音声ランプ制御装置１１３へと出力するために状態コマンドとして設定される。

【４９２８】

なお、本第１１制御例では、上述した通り、普通連続設定回数を計測するための時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に、時短リミットに到達するまでの普通連続設定回数をセットし、普通連続設定回数が減算される毎に、カウンタ値を減算するように構成しているが、これに限ること無く、普通図柄の高確率状態が設定された場合に時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に「１」をセットし、以降、普通連続設定回数が更新される毎に、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を１加算するように構成し、加算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が時短リミットに到達したことを示す値（例えば、１０）であるかを判別し、その判別の結果が時短リミットに到達したことを示す判別結果である場合に、時短リミット処理を実行するように構成しても良い。

【４９２９】

このように構成した場合、例えば、特別図柄の高確率状態が連続して設定されている期間内において第２特別条件（例えば、特定の大当たり種別の大当たりに当選）が成立した場合に、時短リミットの成立条件（到達条件）を変更させるように構成した場合であっても、変更後の成立条件（到達条件）と、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値とを比較するだけで、時短リミットに到達したか否かを判別することが可能となる。

【４９３０】

なお、上述した例示内容における特別条件が成立した場合に、時短リミットの成立条件を、変更前よりも成立し難くするように変更しても良いし、変更前よりも成立し易くするように変更しても良い。また、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合に、現時点における時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が時短リミットの成立条件（到達条件）を満たしているか否かを即座に判別するように構成しても良いし、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合であっても、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの成立条件（到達条件）を満たしているか否かの判別は大当たり遊技終了時に実行するように構成しても良い。特に、後者の場合は、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合において直ちに普図図柄の高確率状態が終了してしまうことを抑制すると共に、普通図柄の高確率状態が設定されている期間中に特別図柄抽選の大当たり当選が最低限（１回分）保証されることになるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【４９３１】

本第１１制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される契機として、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａに値を設定する契機（時短リミットをセットする契機）と、設定しない契機（時短リミットを設定しない契機）と、を設けている。このように構成することで、遊技者に対して、どのような契機で時短状態が設定されたのかについても興味を持たせることができる。

【４９３２】

さらに、本第１１制御例では、大当たり遊技の終了後に普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定される場合であっても、その大当たり遊技の実行契機に応じて、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を更新（減算）する場合と、更新（減算）しない場合とを設けるように構成している。具体的には、特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり当選に基づいて実行された大当たり遊技の終了後に時短状態が設定される場合であっても時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を更新すること無く、特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、その小当たり当選に基づいて実行された大当たり遊技の終了後に時短状態が設定される場合に時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を更新（減算）するように構成している。

【４９３３】

このように構成することで、大当たり遊技の実行契機として成立し難い契機（大当たり当選）の方が、成立し易い契機（小当たり当選）の方が遊技者に不利とすることができる。よって、小当たり当選し易い時短状態中において大当たり当選を目指しながら意欲的に遊技を行わせることができる。また、成立し易い大当たり遊技の実行契機が所定回数（１０回）実行されるまでの期間に、成立し難い大当たり遊技の実行契機を成立させることを目指す、ひいては、成立し易い大当たり遊技の実行契機が成立しないことを期待するという斬新な遊技性を遊技者に提供することができる。

【４９３４】

なお、本第１１制御例では、大当たり遊技の実行契機として成立し難い契機（大当たり当選）が成立した場合の特典として、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を更新しない特典を付与するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技の実行契機として成立し難い契機（大当たり当選）が成立した場合に、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を増加させたり、初期値に戻したりする処理を実行可能に構成しても良い。

【４９３５】

次に、図４０１を参照して、本第１１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図４０１は、第１１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した模式図である。図４０１に示した通り、本第１１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、上述した第７制御例のＲＡＭ２２３（図３１１（ｂ）参照）に対して、残時短回数カウンタ２２３ｊａ、時短リミットフラグ２２３ｊｂと、を設けた点で相違している。それ以外の構成は同一で

あり、同一の内容については同一の符号を付してその説明を省略する。
【４９３６】
残時短回数カウンタ２２３ｊａは、主制御装置１１０において設定された時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に対応させた値が設定されるカウンタであって、時短リミットに到達するまでの期間（普図高確率状態を連続して設定可能な残数）を示すためのものである。
【４９３７】
この残時短回数カウンタ２２３ｊａは、音声ランプ制御装置１１３のコマンド判定処理にて実行される状態コマンド処理において、リミット関連コマンドを受信した場合に実行されるリミット情報更新処理において時短リミットを設定する時短種別に関する情報を含むコマンドを受信した場合に対応する値（１０）がセットされ、時短リミット回数コマンドを受信した場合に、既にセットされている値が１減算される。
【４９３８】
この残時短回数カウンタ２２３ｊａの値は、各遊技状態における演出モードを決定する処理を実行する場合に、参照される。そして、音声ランプ制御装置１１３の状態コマンド処理において、遊技状態コマンドを受信した場合に実行される遊技状態更新処理において普通図柄の低確率状態が設定されたことを示すコマンドを受信したと判別された場合に、値が０にクリア（セット）される。
【４９３９】
時短リミットフラグ２２３ｊｂは、時短リミットに到達したことを示すためのフラグであって、コマンド判定処理にて実行される状態コマンド処理において、リミット関連コマンドを受信した場合に実行されるリミット情報更新処理において、時短リミットに到達したことを示すための時短リミット到達コマンドを受信した場合オンに設定される。
【４９４０】
＜第１１制御例における主制御装置の制御処理内容について＞
次に、図４０２～図４０５を参照して、本第１１制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第１１制御例では、上述した第７制御例に対して、大当たり遊技を跨いで遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が継続する期間に上限を設定可能に構成している点で大きく相違している。
【４９４１】
まず、図４０２を参照して時短抽選処理１１（Ｓ１０２８８）の内容について説明をする。図４０２は時短抽選処理１１（Ｓ１０２８８）の処理内容を示したフローチャートである。図４０２に示した通り、時短抽選処理１１（Ｓ１０２８８）は、上述した時短抽選処理７（図３１６のＳ１０２０８参照）に対して、時短当選したと判別した場合に（Ｓ１８１０５：Ｙｅｓ）、今回の時短当選が第２特別図柄抽選での時短当選であるかを判別し（Ｓ１８１８１）、第２特別図柄抽選での時短当選であると判別した場合（Ｓ１８１８１：Ｙｅｓ）に、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に「１０」を設定する（Ｓ１８１８２）処理を追加している。
【４９４２】
このように構成することで、通常状態における時短抽選で時短当選した場合であって、且つ、その時短当選した特別図柄種別が第２特別図柄である場合にのみ、時短リミットを設定することが可能となる。
【４９４３】
次に、図４０３を参照して、大当たり制御処理１１（Ｓ１１５７４）の処理内容について説明をする。図４０３は、大当たり制御処理１１（Ｓ１１５７４）の処理内容を示したフローチャートである。この大当たり制御処理１１（Ｓ１１５７４）では、上述した各制御例における大当たり制御処理に対して、エンディング演出の終了タイミングにて大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）を実行する点で相違し、それ以外は同一であるため、詳細な説明を省略する。
【４９４４】

次に、図４０４を参照して、大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）の処理内容について説明をする。図４０４は、大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）の処理内容を示したフローチャートである。この大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）では、大当たり遊技が終了時実行されるものであって、時短リミットを更新するための処理と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を決定し、決定内容に従った遊技状態を設定するための処理が実行される。

【４９４５】

大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）が実行されると、まず、時短リミット更新処理を実行する（Ｓ１３００１）。この時短リミット更新処理（Ｓ１３００１）の詳細な内容については図４０５を参照して後述する。次いで、大当たり終了後に設定される遊技状態を示す情報を遊技状態格納エリアに格納し（Ｓ１３００２）、実行中の大当たり種別に対応する時短回数を決定し（Ｓ１３００３）、決定した時短回数を時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｓ１３００４）、設定内容に対応する時短設定情報コマンドを設定し（Ｓ１３００５）、大当たり後の遊技状態と、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値とに対応する状態コマンドを設定し（Ｓ１３００６）、本処理を終了する。

【４９４６】

次に、大当たり終了１１処理（図４０４のＳ１１６５１参照）内の一処理である時短リミット更新処理（Ｓ１３００１）の詳細について説明する。図４０５は、時短リミット更新処理（Ｓ１３００１）の内容を示したフローチャートである。この時短リミット更新処理（Ｓ１３００１）では、当選した大当たり種別や時短種別に基づいて、普通図柄の高確率状態を設定するための処理と、連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な上限値を設定したり、設定済の上限値に対する残回数数を更新するための処理とが実行される。

【４９４７】

時短リミット更新処理（Ｓ１３００１）では、まず、実行中の特別図柄の大当たり種別の読み出しを実行する（Ｓ１３１０１）。次に、Ｓ１３１０１の処理において読み出した実行されている大当たり種別が、大当たり終了後に、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定される大当たり種別であるか判別する（Ｓ１３１０２）。大当たり終了後に、普通図柄の高確率状態が設定される大当たり種別であると判別した場合には（Ｓ１３１０２：Ｙｅｓ）、今回の大当たり遊技が小当たり当選に基づく大当たり遊技であるかを判別する（Ｓ１３１０３）。

【４９４８】

なお、Ｓ１３１０３の処理では、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納されている過去の遊技状況に基づく情報によって大当たり遊技の実行契機が判別される。Ｓ１３１０３の処理において、小当たり当選に基づく大当たり遊技であると判別した場合は（Ｓ１３１０３：Ｙｅｓ）、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値であるか判別する（Ｓ１３１０４）。時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値ではない、即ち、大当たり当選時における普通図柄の確率状態が低確率状態であると判別した場合には（Ｓ１３１０４：Ｎｏ）、時短リミット回数カウンタ２０３の値に連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な値が設定されていないため、そのまま本処理を終了する。

【４９４９】

一方、Ｓ１３１０４の処理において、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｓ１３１０４：Ｙｅｓ）、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を１減算し（Ｓ１３１０６）、次に、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０であるか否かを判別する（Ｓ１３１０７）。減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０であると判別した場合には（Ｓ１３１０７：Ｙｅｓ）、連続して普通図柄の高確率状態が設定できる上限値に達したため、時短リミット到達フラグをオンに設定し（Ｓ１３１０８）、本処理を終了する。一方、Ｓ１３１０７の処理において、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０ではないと判別した場合には（Ｓ１３１０７：Ｎｏ）、そのまま、本処理を終了する。

【４９５０】

以上、説明をした通り、本第１１制御例では、通常状態が設定されている状態で、第１特別図柄抽選の実行を目指す遊技（左打ち遊技）と、第２特別図柄抽選の実行を目指す遊技（右打ち遊技）と、を遊技者が選択可能となるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して遊技方法を選択させることができるため、様々な遊技方法で遊技を実行することが可能となる。よって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【４９５１】

加えて、本第１１制御例では、通常状態において第１特別図柄抽選を実行させる左打ち遊技を実行した場合と、第２特別図柄抽選を実行させる右打ち遊技を実行した場合とで、獲得可能な遊技球数（賞球数）の期待値は同程度となるが、その期待値分の遊技球数（賞球数）を獲得するまでの過程が異なるように構成している。簡単に説明をすると、左打ち遊技を実行した場合には、遊技者に有利な遊技状態である時短状態が比較的設定され難いが、一度時短状態が設定されると、その時短状態が継続し易くなり、右打ち遊技を実行した場合には、左打ち遊技を実行した場合よりも時短状態が設定され易く、その時短状態が継続し難くなるように構成している。

【４９５２】

このように構成することで、遊技者の都合に合わせた遊技を遊技者自身に選択させることができるため、遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【４９５３】

さらに、本第１１制御例では、通常状態において左打ち遊技を実行した場合には、特別図柄抽選において大当たり当選を目指す遊技と、時短当選を目指す遊技とを遊技者に行わせ、右打ち遊技を実行した場合には、特別図柄抽選において大当たり当選、小当たり当選、時短当選を目指す遊技を遊技者に行わせるように構成している。つまり、大当たり遊技の実行のさせ易さの点では、左打ち遊技よりも右打ち遊技のほうが遊技者に大当たり遊技を実行させ易くすることができるように構成している。一方、左打ち遊技によって実行される第１特別図柄抽選で時短当選した場合のほうが、右打ち遊技によって実行される第２特別図柄抽選で時短当選した場合よりも、遊技者に有利な時短状態を設定可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して、遊技方法を選択させる楽しみを提供させることができる。

【４９５４】

本第１１制御例では、普通図柄の高確率状態が連続して設定される回数に上限（時短リミット）を設定可能に構成している。これにより、遊技者に有利な遊技状態が過剰に連続することを抑制することができる。さらに、本第１１制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される契機に応じて、時短リミットを設定するか否かの判別が実行されるように構成している。つまり、普通図柄の高確率状態の設定契機によって、時短リミットが設定される場合と、設定されない場合と、を創出することができるように構成している。よって、遊技者に対して、時短リミットが設定されること無く時短状態が設定されることを期待しながら遊技を行わせることができる。

【４９５５】

さらに、時短リミットが設定された状態であっても、大当たり遊技の実行契機に応じて、普通図柄の高確率状態が連続して設定される回数の更新を行う場合と、行わない場合と、を創出することができるように構成している。よって、遊技者に対して、時短リミットに到達するまでの残回数が更新されること無く大当たり遊技が実行されることを期待しながら遊技を行わせることができる。

【４９５６】

なお、本第１１制御例では、普通図柄の高確率状態が連続して設定される回数に対して上限（時短リミット）を設定可能な構成を用いているが、遊技者に有利な遊技状態が連続して設定されることを抑制するための機能として、別の構成を用いても良く、例えば、特別図柄の高確率状態を設定可能なパチンコ機１０であれば、特別図柄の高確率状態が連続して設定される回数に上限（確変リミット）を設定可能に構成しても良い。

【４９５７】
さらに「特別図柄の高確率状態」が連続して設定される回数（特図連続設定回数）に対する上限と、「普通図柄の高確率状態」が連続して設定される回数（普図連続設定回数）に対する上限と、を分けて更新管理可能に構成しても良く、例えば、遊技者に有利な遊技状態である「第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）」が設定されることが決定している状態において、特図連続設定回数が上限に到達した場合（確変リミットに到達した場合）には、「特別図柄の高確率状態」を「特別図柄の低確率状態」と変更した「時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）」を、普図連続設定回数が上限に到達した場合（時短リミットに到達した場合）には「普通図柄の高確率状態」を「普通図柄の低確率状態」へと変更した「第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）」を設定可能に構成しても良い。
【４９５８】
さらに、特別図柄の高確率状態を連続して設定可能な回数（特図連続設定回数）が、普通図柄の高確率状態を連続して設定可能な回数（普図連続設定回数）よりも多くなるように構成している。加えて、特別図柄の高確率状態が連続して設定される特図高確期間のうち、第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている第１期間よりも、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている第２期間よりも、遊技者に多くの賞球を付与可能に構成しても良い。
【４９５９】
このように構成することで、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で大当たり当選し、第１確変状態が設定された場合に、まず第１期間が時短リミットに到達するまで設定され、その後、第２期間が設定されることになる。
【４９６０】
よって、遊技者に対して多くの賞球を付与可能な第１遊技を第１期間実行させた後に、賞球の付与が困難な第２遊技を第２期間実行させることが可能となるため、第１遊技が過剰に連続して実行されてしまい、遊技者に過剰に賞球が付与されてしまう事態が発生することを抑制することができる。
【４９６１】
さらに、第１遊技を実行可能な第１期間の長さが、第１確変状態が設定されてから時短リミットに到達するまで（第２確変状態が設定されるまで）の期間（大当たり当選１０回分）とし、第２遊技を実行可能な第２期間の長さを、第２確変状態が設定されてから、確変リミットに到達するまでの期間（大当たり当選３０回分）とするように構成しても良い。このように、特図高確期間内において設定される第１期間、及び第２期間の長さを、大当たり当選回数に基づいて設定可能に構成することで、特図高確期間が設定される期間の長さを管理可能となる。
【４９６２】
より具体的には、第１確変状態が設定される第１期間は、主として実行される第２特別図柄抽選の変動時間を、第２特別図柄抽選の結果に関わらず、常に一定（１秒）とし、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技の内容（ラウンド遊技数）を、常に一定（１０ラウンド）としている。つまり、実行される特別図柄変動の変動パターンや、実行される大当たり遊技の内容によって、第１期間の長さが異なることが無いように構成しても良い。
【４９６３】
このように構成することで、特別図柄の高確率状態（大当たり確率３０／１０００）において、１０回大当たり当選するまでの期間（特別図柄変動回数）に対応した長さで第１期間を設定することができる。
【４９６４】
また、第２確変状態が設定される第２期間は、主として実行される第１特別図柄抽選の変動時間を、第１特別図柄抽選の結果に関わらず、常に一定（０．１秒）とし、第１特別

図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技の内容（ラウンド遊技数）を、常に一定（２ラウンド）としている。つまり、実行される特別図柄変動の変動パターンや、実行される大当たり遊技の内容によって、第２期間の長さが異なることが無いように構成しても良い。

【４９６５】

このように構成することで、特別図柄の高確率状態（大当たり確率３０／１０００）において、３０回大当たり当選するまでの期間（特別図柄変動回数）に対応した長さで第２期間を設定することができる。

【４９６６】

さらに、特図高確期間の一部期間である第１期間中において遊技者に多くの賞球を付与可能とすることで出玉を増加させ、特図高確期間の他の期間である第２期間中においては、遊技者に付与される賞球を少なくすることで出玉の増減が抑制されるように構成しても良い。

【４９６７】

このように構成することで、特図高確期間が設定される特定期間において、付与可能な適正な出玉増加量を、第１期間中に偏らせるように構成した場合、即ち、第１期間のみを見た場合には過剰に多くの出玉を遊技者に付与可能に構成した場合であっても、特図高確期間全体における出玉増加量でみた場合には、適正の出玉増加量とすることができるため、遊技者に対して、意外性のある出玉増加遊技を実行可能に構成しながらも、結果として遊技者に過剰な出玉が付与されないようにすることができる。

【４９６８】

また、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で大当たり当選した場合のほうが、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）で大当たり当選した場合よりも、大当たり遊技終了後に第１確変状態が設定され易くなるように構成している。つまり、大当たり当選し難いが、大当たり当選した場合に遊技者に最も有利な第１遊技状態へと移行し易い遊技状態と、大当たり当選し易いが、大当たり当選した場合に遊技者に最も有利な第１遊技状態へと移行し難い遊技状態と、を設定可能に構成しても良い。

【４９６９】

このように構成することで、設定される遊技状態に応じて、遊技者に目指させる遊技目的を異ならせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制し易くすることができる。

【４９７０】

第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている状態において、先に確変リミットに到達した場合と、先に時短リミットに到達した場合と、確変リミット、時短リミットに同時に到達した場合と、で大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせるように構成しても良い。

【４９７１】

このように構成することで、同一種別の大当たり（例えば、第１確変状態が設定される第１確変大当たり）に当選した場合であっても、各リミットの到達状況に応じて、異なる遊技状態を設定することができるため、遊技者に様々な遊技を提供し易くすることができる。

【４９７２】

また、上述した構成を用いることにより、何れのリミットにも到達していない場合において、大当たり遊技終了後に同一の遊技状態（例えば、第１確変状態）が設定される割合を高めた（必ず設定される）場合であっても、設定割合の高い遊技状態（例えば、第１確変状態）が長期間に渡って連続して設定されてしまい、遊技が単調となってしまい遊技意欲が低下してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【４９７３】

さらに、確変リミット、時短リミットに同時に到達した場合において遊技者に有利な特

殊状態（特殊モード）を設定可能に構成しても良い。つまり、特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態が設定されている第１確変状態において、確変リミット、時短リミットに同時に到達したことに基づいて通常状態が設定される場合には、通常の通常状態よりも遊技者に有利な通常状態（特殊通常状態）が設定されるように構成している。このように構成することで、各図柄の確率状態を高確率状態から低確率状態へと強制的に移行させる契機（各リミット）が成立した場合においても、特殊条件が成立した場合には、遊技者に有利な遊技状態へと移行することが可能となる。

【４９７４】

よって、確変リミット、又は時短リミットに到達しないことを期待させる遊技と、同時に到達することを期待させる遊技と、を遊技者に重複して実行させることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【４９７５】

上述した通り、大当たり当選した大当たり種別以外に、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態（遊技状況）を決定するための要素（各リミット）を有している場合には、同一お大当たり種別の大当たり遊技が実行された後に、様々な遊技状態を大当たり遊技終了後に何れの遊技状態が設定されるのかを遊技者が事前に把握することが困難であるという問題があった。

【４９７６】

これに対して、設定されている遊技状態と、確変リミットに到達するまでの残回数（残大当たり回数）と、時短リミットに到達するまでの残回数（残大当たり回数）と、に基づいて演出態様を異ならせるように構成しても良い。

【４９７７】

このように構成することで、実行される演出の内容に基づいて、今後の遊技内容を予測させることが可能となるため、遊技者に分かり易い遊技を提供し易くすることができる。

【４９７８】

なお、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定される場合に主として実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部において、大当たり遊技終了後に第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、第２確変状態が設定されている状態で大当たり当選した場合には、その大当たり遊技終了後に必ず第２確変状態が設定されるように構成しても良い。

【４９７９】

このように構成することで、特別図柄の高確率状態が継続して設定される特図高確期間中において、第２確変状態が設定された場合、即ち、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される大当たり種別が設定された場合、或いは、第１確変状態が連続して設定されたことにより時短リミットに到達し大当たり遊技終了後に第２確変状態が強制的に設定された場合（確変リミット処理によって第２確変状態が設定された場合）において、確変リミットに到達するまでの期間を確実に第２確変状態とすることができる。よって、遊技者に有利な有利遊技状態（第１確変状態）が設定された後に、不利遊技状態（第２確変状態）を所定期間の間、確実に設定し易くすることができる。

【４９８０】

さらに、この場合、第２確変状態が設定された契機に応じて、第２確変状態中に大当たり当選した場合に設定される大当たり種別を異ならせるように構成しても良く、例えば、確変リミット処理によって第２確変状態が設定された場合のほうが、大当たり種別に基づいて第２確変状態が設定された場合よりも、大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される大当たり種別が設定され易くなるように構成しても良い。

【４９８１】

このように構成することで、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で大当たり当選し、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態

が設定された場合において、確変リミットに到達するまでの間、遊技者に有利な有利遊技状態である第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されること無く遊技者に過剰に不利な遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【４９８２】

さらに、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、その大当たり遊技終了後に必ず特別図柄の高確率状態が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり当選した場合の一部において特別図柄の低確率状態が設定されるように構成しても良い。また、本第１実施形態では、複数の遊技状態を設定可能に構成し、設定された遊技状態に応じて有利度合いの異なる遊技を実行可能に構成している。具体的には、遊技者への有利度合が、第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が最も遊技者に有利な遊技状態となり、次いで、特殊状態（特殊モード）が設定された通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）、通常状態の順となるように各遊技状態を構成したが、これに限ること無く、各々の遊技状態において実行される遊技内容を異ならせることにより、各遊技状態における遊技者の有利度合いを異ならせるように構成しても良い。

【４９８３】

＜第１２制御例＞

次に、図４０６～図４３８を参照して、第１２制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１１制御例では、第１特別図柄と第２特別図柄の一方が変動表示されている期間は、他方の特別図柄の大当たり抽選が実行されない構成であった。これに対して、本第１２制御例は、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）している点で相違している。

【４９８４】

このように構成することで、所定時間内に、より多くの特別図柄の抽選遊技を実行させることができ、遊技者に大当たりが所定時間内に付与される確率が高くできる。従って、遊技者は、効率よく遊技を行うことができる。

【４９８５】

また、上述した第１１制御例では、第１特別図柄抽選においてのみ時短抽選が実行される構成であったが、本第１２制御例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選の両方で時短抽選を実行可能に構成し、第１特別図柄または第２特別図柄の一方のみが時短当選した場合よりも、一方の特別図柄が時短当選し、その特別図柄の変動表示が停止するまでの期間で、他方の特別図柄でも時短当選した場合に遊技者に有利な特典が付与されるように構成している点で相違している。

【４９８６】

詳細は後述するが、本第１２制御例では、通常状態において第１特別図柄または第２特別図柄が時短当選した場合に時短Ａ状態が設定される。一方、通常状態において第１特別図柄が時短当選した場合には、長時間（３００秒）の変動時間が設定され（時短当選変動状態）、第１特別図柄の変動が終了するまで（つまり、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまで）の期間で第２特別図柄が時短当選した場合には、時短Ａ状態よりも遊技者に有利な時短Ｂ状態が設定される。

【４９８７】

このように構成することで、一方の特別図柄が時短当選した場合に、他方の特別図柄でも時短当選することで遊技者に有利な特典が付与されるため、一方の特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す特別図柄の変動中に、他方の特別図柄でも時短当選したいと遊技者に思わせることで、意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【４９８８】

加えて、大当たり遊技終了後に時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定され得る大当たり種別の大当たりに当選した場合であっても、大当たり遊技終了後に通常状態（普通図

柄の低確率状態）を設定させるための処理を実行する構成としている。
【４９８９】
このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が長時間に渡って継続することで遊技者が過剰に有利になることを抑制し、遊技者の射幸心の向上を抑制することができる。
【４９９０】
また、同時変動仕様の遊技機において、一方の特別図柄抽選において大当たり（または小当たり）に当選した場合に、他方の特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄させる）か、或いは、仮停止させる（中断させる）かの一方のみを実行する仕様であることが一般的であるが、本第１２制御例では、大当たり種別（または小当たり種別）によって、他方の特別図柄の変動表示を強制停止させるか、仮停止させるかを決定する構成としている。つまり、他方の特別図柄の変動を強制停止させる（破棄させる）大当たり種別と、他方の特別図柄の変動表示を仮停止させる（中断させる）大当たり種別が規定されている。
【４９９１】
このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態が設定されている状態において、一方の特別図柄が停止表示されることにより遊技者に不利な遊技状態が設定され得る場合に、他の特別図柄の変動を破棄することができる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定されることを防ぐことができるが、他の特別図柄を中断させる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定され得る状況が継続するので、大当たり当選した場合に、遊技者に他の特別図柄の変動を破棄できたか否かに興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【４９９２】
ここで、本第１２制御例のパチンコ機１０の概要について説明する。本第１２制御例のパチンコ機１０の大当たり確率は１／５０であり、第１特別図柄と第２特別図柄で共通である。また、時短当選確率は１／５０であり、第１特別図柄と第２特別図柄で共通である。また、小当たり確率は１／５０であるが、小当たり抽選は第２特別図柄のみで実行される。
【４９９３】
詳細は後述するが、大当たりに当選した場合に決定される大当たり種別は、第１特別図柄と第２特別図柄とで異なるテーブル（図４１０、４１１参照）によって決定され、第１特別図柄で大当たり当選した場合には、遊技状態に関わらず、１００％大当たりＡ（５Ｒ時短Ａ大当たり）が決定される。一方、第２特別図柄で大当たり当選した場合、図４１１に示す通り、遊技状態に応じて大当たり種別が決定される。図４１１に示す通り、通常状態において第２特別図柄が大当たりに当選した場合には、１００％大当たりＡが設定される。つまり、通常状態においては、第１特別図柄と第２特別図柄とで大当たり当選した場合に決定される大当たり種別は同一である。
【４９９４】
なお、第２特別図柄では小当たり抽選も実行され、小当たり当選し、小当たり遊技において特定領域１６５０に遊技球が入球すると大当たりＡよりも有利な大当たりＢまたはＣとなるため、第１特別図柄よりも第２特別図柄の方が遊技者に有利な特別図柄であると言える。
【４９９５】
本第１２制御例のパチンコ機１０では、通常状態（普通図柄の低確率状態）と時短状態（普通図柄の高確率状態）とで、第１特別図柄の変動時間と第２特別図柄の変動時間が異なり、通常状態では、第２特別図柄の変動時間よりも第１特別図柄の変動時間の方が短く設定されるため、第１特別図柄の方が先に停止し易い。時短状態では、第１特別図柄の変動時間よりも第２特別図柄の変動時間の方が短く設定されるため、第２特別図柄の方が先に停止し易い。
【４９９６】

このように構成することで、通常状態では第２特別図柄抽選の実行回数を抑制し、遊技者が過剰に有利になることを抑制し、時短状態では第２特別図柄よりも先に第１特別図柄が停止することで遊技者に比較的不利な遊技状態が設定されることを抑制することができ、メリハリのある遊技を提供することが可能となる。

【４９９７】

なお、通常状態では、第１特別図柄の変動時間よりも第２特別図柄の変動時間の方が短く設定され、時短状態では、第２特別図柄の変動時間よりも第１特別図柄の変動時間の方が短く設定される構成としても良い。

【４９９８】

ここで、本第１２制御例のパチンコ機１０において設定される遊技状態について説明する。本第１２制御例では、遊技状態として、通常状態（普通図柄の低確率状態）と、時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定可能である。時短状態には、時短状態が設定されてからの特別図柄の変動が５回実行されると終了する時短Ａ状態と、時短状態が設定されてからの特別図柄の変動が１００００回実行されると終了する時短Ｂ状態の２つの時短種別があり、時短Ａ状態が設定された場合に、５回の特別図柄抽選で大当たり（大当たり当選確率：１／５０）または小当たり（小当たり当選確率１／５０）に当選する確率は約１８％と低く、時短Ｂ状態が設定された場合には、ほぼ１００％大当たりまたは小当たりに当選可能であるため、時短Ａ状態よりも時短Ｂ状態の方が遊技者に有利な時短種別である。

【４９９９】

本第１２制御例のパチンコ機１０では、通常状態において第１特別図柄または第２特別図柄が大当たり当選した場合の大当たり遊技終了後に設定される遊技状態は時短Ａ状態のみである。また、第１特別図柄または第２特別図柄の一方のみが時短当選した場合に設定される遊技状態は時短Ａ状態のみであり、時短Ｂ状態は設定されない。

【５０００】

ここで、本第１２制御例では、図４１４に示す通り、通常状態において第１特別図柄が時短当選した場合に、第１特別図柄の変動時間として長時間（３００秒）が設定される構成としている。そして、図４１６に示す通り、第１特別図柄の長時間変動中（時短当選変動状態）は、第２特別図柄の変動時間として極めて短い変動時間（０．５秒）が設定される。これにより、時短当選変動状態では、通常状態に比べて第２特別図柄抽選を多く実行可能となる。

【５００１】

そして、図４１１に示す通り、時短当選変動状態中に第２特別図柄が大当たり当選した場合には、１００％大当たりＢ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が決定され、大当たり遊技終了後に時短Ｂ状態が設定される。また、時短当選変動状態中に第２特別図柄が時短当選すると時短Ｂ状態が設定される。

【５００２】

このように構成することで、第１特別図柄が時短当選した場合に、その第１特別図柄が停止表示されるまでの期間で可能な限り多くの第２特別図柄抽選を実行させ、時短Ｂ状態を設定させようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５００３】

なお、詳細は後述するが、時短当選変動状態において、第２特別図柄の大当たり（又は小当たり）当選、或いは時短当選により時短Ｂ状態が設定された場合に、時短当選した第１特別図柄の変動表示が継続して実行され、その第１特別図柄が停止表示された場合には、設定されている時短Ｂ状態が破棄され、新たに時短Ａ状態が設定される。つまり、時短Ｂ状態は第１特別図柄が停止表示されるまでの期間しか継続しないこととなる。

【５００４】

一方、時短当選した第１特別図柄の変動表示を破棄することができれば、後述する時短リミット到達まで時短Ｂ状態での遊技を実行することが可能となり、大量の賞球を得ることができる。なお、時短リミットとは、大当たり遊技終了後に時短状態が設定され得る大

当たり種別の大当たりに当選した場合であっても、大当たり遊技終了後に非時短状態を設定させるための処理を実行させる閾値を指す。

【５００５】

このように、本第１２制御例のパチンコ機１０では、同じ時短Ｂ状態であっても、第１特別図柄の破棄を目指す遊技と、時短リミット到達まで連チャンさせることで大量の賞球を得ることを目指す遊技の異なる遊技性を遊技者に提供することが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５００６】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄が時短当選した場合に時短当選変動状態を設定する構成としたが、これに限るものではなく、第２特別図柄が時短当選した場合にも時短当選変動状態を設定する構成としても良い。この場合、特別図柄種別によって時短当選変動の変動時間を異ならせる構成とすることで、特別図柄種別によって遊技者に比較的有利な時短当選変動状態と比較的不利な時短当選変動状態とを設けることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【５００７】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄と第２特別図柄の一方のみが時短当選した場合に設定される時短種別を時短Ａ状態としたが、これに限るものではなく、第１特別図柄のみが時短当選した場合と、第２特別図柄のみが時短当選した場合と、で異なる時短種別の時短状態を設定する構成としても良く、例えば、第２特別図柄が時短当選した場合には、時短Ａ状態よりも遊技者に有利であるが、時短Ｂ状態よりも遊技者に不利な時短Ｃ状態（例えば、時短回数が１００回）を設定する構成としても良い。

【５００８】

次に、図４０６を参照して、本第１２制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。図４０６は、本第１２制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３を模式的に示した正面図である。図４０６に示した通り、本第１２制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第１１制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成（図３９６参照）と同一の構成であるため、その詳細な説明を省略する。

【５００９】

＜第１２制御例における電気的構成について＞

次に、図４０７から図４１６を参照して、本第１２制御例における電気的構成について説明をする。本第１２制御例では、上述した第１１制御例に対して、主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２およびＲＡＭ２０３の構成の一部を変更している点で相違する。それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５０１０】

図４０７に示す通り、本第１２制御例における主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２は、上述した第１実施形態における主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２に対して、第１当たり乱数１１テーブル２０２ｊａに代えて第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａを、大当たり種別選択７テーブル２０２ｆｂに代えて、大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂを、第２当たり乱数７テーブル２０２ｆｃに代えて、第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃを、変動パターン７テーブル２０２ｆｄに代えて、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄを、小当たり種別選択１１テーブル２０２ｊｆに代えて、小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆを、時短当たり乱数１１テーブル２０２ｊｈに代えて、時短スター委乱数１２テーブル２０２ｋｈを、時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉに代えて、時短種別選択１２テーブル２０２ｋｉを用いている点と、時短付与７テーブル２０２ｆｅと、時短種別選択１１テーブル２０２ｊｉを削除した点と、小当たり乱数１２テーブル２０２ｋｅを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５０１１】

次に、ＲＡＭ２０３の詳細について、図４０８を参照して説明する。図４０８は、主制

御装置１１０のＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。上述した第１１制御例に対して、特図１変動時間タイマ２０３ｋａと、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂと、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃと、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄと、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅと、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆと、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇと、時短リミット到達フラグ２０３ｋｈと、を追加して点で相違する。それ以外の構成については、上述した第１１制御例と同一であるため、その詳細な説明は省略する。

【５０１２】

特図１変動時間タイマ２０３ｋａ、および特図２変動時間タイマ２０３ｋｂは、それぞれ第１特別図柄、および第２特別図柄の変動時間を計時するためのタイマであり、第１特別図柄、および第２特別図柄の変動パターンが選択された場合に、選択された変動パターンに対応する変動時間が設定される。この特図１変動時間タイマ２０３ｋａ、および特図２変動時間タイマ２０３ｋｂの計時結果によって各特別図柄の変動時間が終了したか否かが判別される（図４２４のＹ７０１、図４３３のＹ９０１参照）。

【５０１３】

特図１仮停止フラグ２０３０ｋｃは、特図１の変動時間の更新（減算）を停止する期間を示すフラグであって、オンに設定されている場合に変動時間の更新（減算）を停止し、オンに設定された状態からオフに設定された場合に、停止されていた変動時間の更新（減算）が再開されるものである。

【５０１４】

この特図１仮停止フラグ２０３ｋｃは、抽選結果が大当たりＤ以外の大当たりである第２特別図柄（特図２）の変動を停止する際にオンに設定され（図４３３のＹ９０３）、第１特別図柄変動実行中処理１２（図２３５参照）および第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４、Ｙ７０８参照）において参照される。参照した結果、オンに設定されている場合には、特図１に対応する第１図柄表示装置の表示を変動中と同様に更新する処理が実行される。つまり、特図１仮停止フラグ２０３０ｂｃがオンに設定されている間は、変動時間の更新（減算）は停止しているが、第１図柄表示装置は変動表示が継続して実行される状態となる。これにより、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されたことにより、特図１の変動が強制停止されていないことを報知することができる。そして、第１特別図柄変動実行中処理１２（図４２３参照）においてオンに設定されていると判別された場合に（図４２３のＹ２８０１：Ｙｅｓ）、オフに設定される（図４２３のＹ２８０３）。なお、詳細な説明および図示は省略するが、この特図１仮停止フラグ２０３ｋｃは、第２特別図柄（特図２）の抽選結果が小当たりである場合にも大当たりである場合と同一の処理が実行されオンに設定される。

【５０１５】

特図２仮停止フラグ２０３ｋｄは、特図２の変動時間の更新（減算）を停止する期間を示すフラグであって、オンに設定されている場合に変動時間の更新（減算）を停止し、オンに設定された状態からオフに設定された場合に、停止されていた変動時間の更新（減算）が再開されるものである。

【５０１６】

この特図２仮停止フラグ２０３ｋｄは、抽選結果が大当たりである第１特別図柄（特図１）の変動を停止する際にオンに設定され（図４２４のＹ７０３）、第２特別図柄変動実行中処理１２（図４３２参照）および第２特別図柄変動停止処理１２（図４３参照）において参照される。なお、本処理において参照される内容については、上述した特図１仮停止フラグ２０３ｋｃと同一であるため、その説明を省略する。そして、第２特別図柄変動実行中処理１２（図４３２参照）においてオンに設定されていると判別された場合に（図４３２のＹ２９０１：Ｙｅｓ）、オフに設定される（図４３２のＹ２９０３）。

【５０１７】

特図１変動停止フラグ２０３ｋｅは、変動中の第１特別図柄を強制停止するタイミングであることを示すフラグである。この特図１変動停止フラグ２０３ｋｅは、第２特別図柄に対して、大当たりＤまたは小当たりＢの変動が停止される場合にオンに設定される（図

４３３のＹ９０５、図４３５のＹ９３２参照）。一方、第１特別図柄の変動中に、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンであると判別された場合にオフに設定される（図４２５のＹ７２２参照）。これにより、第２特別図柄の大当たりＤまたは小当たりＢの変動が先に停止するタイミングに合わせて、第１特別図柄を強制的に停止させることができる。

【５０１８】

特図２変動停止フラグ２０３ｋｆは、変動中の第２特別図柄を強制停止するタイミングであることを示すフラグである。この特図２変動停止フラグ２０３ｋｆは、第１特別図柄が時短当選し、変動表示が開始される場合にオンに設定される（図４２１のＹ４０５）。一方、第２特別図柄の変動中に、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであると判別された場合にオフに設定される（図４３４のＹ６３２）。これにより、第１特別図柄が時短当選し、変動が開始されたタイミングに合わせて、第２特別図柄を強制的に停止させることができる。

【５０１９】

時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇは、時短当選した第１特別図柄が変動表示中であること（即ち、時短当選変動状態であること）を示すフラグである。この時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇは、第１特別図柄抽選の結果が時短当選であった場合に、オンに設定される（図４２１のＹ４０３参照）。一方、時短当選した第１特別図柄が停止表示され、時短Ａ状態が設定される場合（図４２６のＹ８３５２参照）と、第２特別図柄が大当たりＤまたは小当たりＢに当選し、第１特別図柄の変動が破棄された場合（図４２５のＹ７２６参照）にオフに設定される。これにより、第１特別図柄が時短当選し、その第１特別図柄の変動が終了するまでの期間で時短当選変動状態を設定することができる。

【５０２０】

時短リミット到達フラグ２０３ｋｈは、普通図柄の高確率状態が連続して設定された回数（普図連続設定回数）が上限値に到達したことを示すためのフラグであり、普図連続設定回数が上限値に到達し、普通図柄の高確率状態を強制的に低確率状態へと変更する状態となった場合にオンに設定されるものである。

【５０２１】

次に、図４０９（ａ）を参照して、第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａに規定されている内容について説明をする。図４０９（ａ）は、第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａに規定に規定されている内容を模式的に示した図である。本第１２制御例は、図４０９（ａ）に示す通り、第１特別図柄と第２特別図柄で大当たり当選確率は同一であり、１８／９００（即ち、１／５０）の確率で大当たりに当選する。

【５０２２】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄と第２特別図柄とで大当たり確率を同一の確率としたが、これに限るものではなく、第１特別図柄と第２特別図柄とで異なる大当たり確率となるように構成しても良い。

【５０２３】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、何れの遊技状態においても大当たり確率が可変しない構成としたが、これに限るものではなく、特定の大当たり種別が決定された場合に、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（所謂、確変状態）を設定する構成としても良い。

【５０２４】

次に、図４０９（ｂ）を参照して、ＲＯＭ２０２に規定されている、第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃの内容について説明をする。図４０９（ｂ）は、第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃの内容を模式的に示した図である。第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃは、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「０～２」が規定されている。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「０～１４９」が規定されている。本第１２制御例のパチンコ機１０では、普通入賞口６７を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と

、第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。

【５０２５】

ここで、図４０６を参照して、本第１２制御例のパチンコ機１０では、普通図柄抽選で当たり当選した場合に、遊技盤１３の右側領域に配設されている電動役物１６４０ａが開放動作し、右第２入球口１６４０に入球可能となるように構成している。

【５０２６】

従って、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定されると、電動役物１６４０ａが開放動作し易くなり、右第２入球口１６４０へと遊技球が入球し易くなるため、通常状態に比べて第２特別図柄抽選が実行され易くなる。

【５０２７】

次に、図４０９（ｃ）を参照して、時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈの内容について説明をする。図４０９（ｃ）は、時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈの内容を模式的に示した図である。図４０９（ｃ）に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄および第２特別図柄の両方で時短抽選が実行される。各特別図柄での時短当選確率は共通であり、１８／９００（１／５０）である。なお、時短抽選は通常状態でのみ実行され、時短状態では時短抽選が実行されない構成としている。

【５０２８】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄と第２特別図柄とで、時短当選確率を同一とする構成としたが、これに限るものではなく、第１特別図柄のよりも第２特別図柄の方が時短当選確率が高くなるように構成としても良いし、低くなるように構成しても良い。

【５０２９】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、通常状態でのみ時短抽選が実行される構成としたが、これに限るものではなく、時短状態においても時短抽選が実行される構成としても良い。

【５０３０】

次に、４０９（ｄ）を参照して、小当たり乱数１２テーブル２０２ｋｅの内容について説明する。図４０９（ｄ）は、小当たり乱数１２テーブル２０２ｋｅの内容を模式的に示した図である。図４０９（ｄ）に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第２特別図柄のみ小当たり抽選が実行される。小当たり当選確率は１８／９００（１／５０）である。

【５０３１】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第２特別図柄の小当たり抽選を実行する構成としたが、これに限るものではなく、第１特別図柄でも小当たり抽選を実行する構成としても良い。

【５０３２】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、大当たり当選確率、時短当選確率、小当たり当選確率の何れも１／５０であるが、これに限るものではなく、大当たり当選確率、時短当選確率、小当たり当選確率を全て異なる確率で構成しても良い。例えば、大当たり当選確率を１／３００、時短当選確率を１／３０、小当たり当選確率を１／１００としても良い。

【５０３３】

次に、図４１０（ａ）を参照して、大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂの内容について説明をする。図４１０（ａ）は、図４１０（ａ）は、大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂの内容を模式的に示した図である。大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂには、特図１大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ１と特図２用大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ２が規定されている。

【５０３４】

図４１０（ｂ）は、大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂに規定されている特図１

大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ１の内容を模式的に示した図である。図４１０（ｂ）に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０において、第１特別図柄が大当たり当選した場合には、１００％大当たりＡが選択される。大当たりＡは、５ラウンドの大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に時短Ａ状態が設定される大当たり種別である。なお、大当たりＡの大当たり遊技終了後には、時短カウンタ２０３ｈのカウンタ値として５回がセットされる。

【５０３５】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄の大当たり種別は１種類としたが、これに限るものではなく、複数種類の大当たり種別を設定しても良い。また、遊技状態に応じて選択される大当たり種別が異なる構成としても良い。

【５０３６】

図４１１は大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂに規定されている特図２大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ２の内容を模式的に示した図である。第２特別図柄で大当たり当選した場合には、大当たり当選時に設定されている遊技状態と、遊技状態が変更されてからの第２特別図柄の変動回数と、第１当たり種別カウンタＣＳ２の値に応じて大当たり種別を選択する。なお、変動回数のカウントは、例えば、時短Ｂ状態において大当たりに当選し、大当たり遊技終了後に再度時短Ｂ状態が設定される場合にもリセットされる。

【５０３７】

まず、遊技状態が通常状態の場合には、非時短当選変動状態と時短当選変動状態とがあり、非時短当選変動状態とは、時短当選変動状態フラグ２０ｋｇがオフである状態、即ち、時短当選した第１特別図柄が変動表示されていない状態である。時短当選変動状態は、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンである状態、即ち、時短当選した第１特別図柄が変動表示中である状態である。通常状態の非時短当選変動状態では、第２特別図柄の変動回数に関わらず、１００％大当たりＡ（５Ｒ時短Ａ大当たり）が選択され、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈのカウンタ値に５がセットされる。通常状態の時短当選変動状態では、第２特別図柄の変動回数に関わらず、１００％大当たりＢ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択され、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈのカウンタ値に１０００００がセットされる。

【５０３８】

このように、通常状態においては、大当たり当選時に時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであるか否かで遊技者に付与される特典が異なるように構成することで、第２特別図柄抽選のみを実行させる遊技を行う遊技者が過剰に有利になることを抑制している。

【５０３９】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、通常状態においては第２特別図柄の変動回数に関わらず、１００％大当たりＡ（または大当たりＢ）が選択される構成としたが、これに限るものではなく、複数の大当たり種別の中から変動回数に応じて大当たり種別が選択される構成としても良い。例えば、通常状態の非時短当選変動状態において、大当たりＡ、大当たりＢの何れかを選択可能に構成し、０～５０回転目までは大当たりＢよりも大当たりＡが選択され易く、５１回転目以降は大当たりＡよりも大当たりＢが選択され易い構成としても良い。このように構成することで、通常状態において外れ当選が続いた場合であっても、遊技者に有利な大当たり種別が選択され易くなるので、遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【５０４０】

また、０～５０回転目までは大当たりＢよりも大当たりＡが選択され易く、５１～１００回転目までは大当たりＡよりも大当たりＢが選択され易く、１０１～１５０回転目までは大当たりＢよりも大当たりＡが選択され易い、といったような特定の期間で選択され易い大当たり種別が可変する構成としても良い。このように構成することで、周期的に遊技者に有利な期間が発生し、遊技者に第２特別図柄の変動回数にも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５０４１】

次に、時短状態には、時短Ａ状態と時短Ｂ状態とがあり、時短Ａ状態においては第２特別図柄の変動回数に関わらず５０％で大当たりＢ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択され、５０％で大当たりＣ（５Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択される。時短Ｂ状態においては、第２特別図柄の変動回数に応じて選択される大当たり種別が可変し、０～５０回転目までは１００％大当たり（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択され、５１回転目以降は５０％で大当たりＢ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択され、５０％で大当たりＤ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が選択される。大当たりＢと大当たりＤは、ともに１０ラウンドの大当たり遊技と、大当たり遊技終了後に時短Ｂ状態が設定される大当たり種別であるが、大当たりＢに当選した場合には変動中の第１特別図柄を仮停止させる（中断させる）処理を実行し、大当たりＤに当選した場合には変動中の第１特別図柄を強制的に停止させる（破棄させる）処理を実行する点で異なる大当たり種別となっている。つまり、第２特別図柄の外れ当選が特定回数まで続いた場合には、第１特別図柄の変動表示を破棄させ易くなる。

【５０４２】

このように構成することで、時短当選した第１特別図柄が変動表示されている状態で第２特別図柄の外れ当選が続き、第１特別図柄の変動時間が残り少なくなった場合でも、第１特別図柄の変動を破棄できる可能性が高くなるので、第２特別図柄の外れ当選が続いた場合に遊技者の遊技意欲を向上させることができる。

【５０４３】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、時短Ｂ状態の場合のみ、第２特別図柄の変動回数に応じて選択され易い大当たり種別を可変させる構成としたが、これに限るものではなく、時短Ａ状態においても第２特別図柄の変動回数に応じて選択され易い大当たり種別を可変させる構成としても良い。

【５０４４】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、０～５０回転目までは１００％大当たりＢが選択される構成としたが、これに限るものではなく、０～５０回転目であっても異なる大当たり種別に当選可能な構成としても良く、例えば、８０％で大当たりＢが選択され、２０％で大当たりＤが選択される構成としても良い。このように構成することで、時短Ｂ状態が設定されたばかりの期間においても遊技者に大当たりＤに当選し、第１特別図柄の変動表示を破棄できるかもしれないと期待させながら遊技を行わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５０４５】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、「０～５０回転目まで」と「５１回転目以降」とで、選択され易い大当たり種別を切り替える構成としたが、これに限るものではなく、例えば、０～５０回転目までは大当たりＤよりも大当たりＢが選択され易く、５１～１００回転目までは大当たりＢよりも大当たりＤが選択され易く、１０１～１５０回転目までは大当たりＤよりも大当たりＢが選択され易い、といったような特定の期間で選択され易い大当たり種別を可変させる構成としても良い。このように構成することで、周期的に遊技者に有利な期間が発生し、遊技者に第２特別図柄の変動回数にも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５０４６】

次に、図４１２を参照して、小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆの内容について説明をする。図４１２は、小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆの内容を模式的に示した図である。図４１２に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０では、２種類の小当たり種別が規定されている。なお、上述したように、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第２特別図柄のみ小当たり抽選が実行される構成である。

【５０４７】

小当たりＡは、小当たり当選時の８０％で選択される小当たり種別であり、小当たり遊技において特定領域１６５０ａを通過（Ｖ通過）した場合に、大当たりＣ（５Ｒ時短Ｂ大当たり）が付与される。詳細は後述するが、本第１２制御例のパチンコ機１０では、小当たり種別によって、実行中の第１特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄する）

場合と、仮停止させる（中断させる）場合とがあり、小当たりＡが実行される場合には、実行中の第１特別図柄の変動を仮停止させる（中断させる）処理を行う。

【５０４８】

一方、小当たりＢは、小当たり当選時の２０％で選択される小当たり種別であり、小当たり遊技においてＶ通過した場合に、大当たりＢ（１０Ｒ時短Ｂ大当たり）が付与される。小当たりＢが実行される場合には、実行中の第１特別図柄の変動を強制的に停止させる（破棄する）処理を実行する。なお、本第１２制御例のパチンコ機１０における小当たり種別は２種類としたが、これに限るものではなく、３種類以上の小当たり種別を設けても良い。

【５０４９】

次に、図４１３を参照して、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄの内容について説明をする。図４１３は、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄの内容を模式的に示した図である。変動パターン１２テーブル２０２ｋｄには、通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１、時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２、時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３が規定されており、それぞれの変動パターンテーブルは遊技状態に応じて参照される。

【５０５０】

図４１４は、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄに規定されている、通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１の内容を模式的に示した図である。通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１では、特別図柄の図柄種別と、抽選結果と、変動種別カウンタＣＳ１の値と、に基づいて変動パターンが設定される。

【５０５１】

具体的には、図柄種別が「第１特別図柄」では、当否判定結果が「外れ」の場合、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に、変動時間が７秒（７０００ミリ秒）の「短外れ」が規定されており、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「１４０～１４９」の範囲に、変動時間が２０秒（２００００ミリ秒）の「ガセ外れ」が規定されており、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「１５０～１７９」の範囲に、変動時間が４０秒（４００００ミリ秒）の「ノーマルリーチ各種」が規定されており、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「１８０～１８９」の範囲に、変動時間が８０秒（８０００ミリ秒）の「スーパーリーチ」が規定されている。また、当否判定結果が「当たり」の場合、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に、変動時間が４０秒（４００００ミリ秒）の「ノーマルリーチ」が規定されており、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「３０～１８９」の範囲に、変動時間が８０秒（８００００ミリ秒）の「スーパーリーチ」が規定されており、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「１９０～１９８」の範囲に、変動時間が１４０秒（１４０００００ミリ秒）の「スペシャルリーチ」が規定されている。また、当否判定結果が「時短当選」の場合は、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲に、変動時間が３００秒の「ロング時短当たり」が規定されている。

【５０５２】

一方、図柄種別が「第２特別図柄」では、当否判定結果が「外れ」の場合、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲に、変動時間が６００秒（６０００００ミリ秒）の「ロング外れ」が規定されており、当否判定結果が「時短当選」の場合、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲に、変動時間が６００秒（６０００００ミリ秒）の「時短当たり」が規定されており、当否判定結果が「大当たり、小当たり」の場合、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲に、変動時間が６００秒（６０００００ミリ秒）の「ロング当たり」が規定されている。

【５０５３】

このように、本第１２制御例のパチンコ機１０では、通常状態においては第２特別図柄よりも第１特別図柄の方が短い変動時間が設定され易い構成としている。これは、第２特別図柄のみ小当たり抽選を実行する構成であり、小当たり当選した場合には、遊技者に最

も有利な時短Ｂ状態が設定されることから、第２特別図柄の変動時間を長くすることで遊技効率を悪くし、第２特別図柄抽選のみを実行させる遊技を行う遊技者が過剰に有利になることを抑制するためである。

【５０５４】

また、第１特別図柄の抽選結果が「時短当選」である場合には、「ロング時短当たり」が設定される。ロング時短当たり変動中は、時短当選変動状態となり、ロング時短当たりが設定された第１特別図柄が停止表示される（或いは、破棄される）までは、時短当選変動状態用パターンテーブル２０２ｋｄ３が参照され、第２特別図柄の変動が短変動（０．５秒）となるため、複数回の第２特別図柄抽選が実行可能となる。なお、ロング時短当たり変動中（時短当選変動状態中）に大当たり（または、小当たり）当選、時短当選に基づいて時短状態が設定された場合にもロング時短当たり変動が継続している期間は、時短当選変動状態用パターンテーブル２０２ｋｄ３が参照される。

【５０５５】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄が時短当選した場合には、１００％「ロング時短当たり」が設定される構成であったが、これに限るものではなく、複数の変動パターンの中から変動種別カウンターＣＳ１の値に基づいて選択する構成としても良い。例えば、５０％で変動時間３００秒の「ロング時短当たり」が選択され、３０％で変動時間が２００秒の「ショート時短当たり」が選択され、２０％で変動時間が５００秒の「スーパー時短当たり」が選択される構成としても良い。このように構成することで、選択された第１特別図柄の変動時間によって、時短当選変動状態における遊技者の有利不利を可変させることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５０５６】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄が時短当選した場合にのみ時短当選変動状態となる構成としたが、これに限るものではなく、第２特別図柄で時短当選した場合にも時短当選変動状態が設定可能な構成としても良く、この場合、特別図柄の図柄種別によって時短当選した場合の変動時間を異ならせる（例えば、第１特別図柄の場合は変動時間３００秒、第２特別図柄の場合は変動時間６００秒）構成とすることで、どちらの特別図柄で時短当選したかによって遊技者に有利な時短当選変動状態と、遊技者に比較的不利な時短当選変動状態を設定可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５０５７】

図４１５は、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄに規定されている、時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２の内容を模式的に示した図である。時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２では、特別図柄の図柄種別と、抽選結果と、変動種別カウンタＣＳ１の値と、に基づいて変動パターンが設定される。

【５０５８】

時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２は、遊技状態として時短状態が設定されている場合に参照される変動パターン１２テーブルであり、時短Ａ状態と時短Ｂ状態で共通である。なお、上述したように、第１特別図柄のロング時短当たり変動が実行されている場合には、時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２ではなく、時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３が参照される。

【５０５９】

図４１５に示す通り、時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２では、第１特別図柄が長変動（６００秒）となり、第２特別図柄が短変動（３～５秒）となる。上述したように、時短Ｂ状態が設定されている状態で第１特別図柄が大当たり当選した場合には、時短Ｂ状態よりも遊技者に不利な時短Ａ状態が設定されるため、第２特別図柄の変動が先に停止表示され易く構成することで、遊技者に有利な時短Ｂ状態が継続して設定され易くなるようにしている。

【５０６０】

図４１６は変動パターン１２テーブル２０２ｋｄに規定されている、時短当選変動状態

用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３の内容を模式的に示した図である。時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３では、特別図柄の図柄種別と、抽選結果と、変動種別カウンタＣＳ１の値と、に基づいて変動パターンが設定される。

【５０６１】

図４１６に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０では、時短当選変動状態が設定されている場合には、第２特別図柄の抽選結果が何れの判定であっても短変動（０．５秒）が設定される。時短当選変動状態では、時短当選した第１特別図柄が停止表示されると終了してしまうため、時短当選変動状態における遊技効率を高めるために、第２特別図柄の変動時間が短くし、多くの第２特別図柄抽選を実行可能に構成している。

【５０６２】

なお、時短当選変動状態では第１特別図柄が既に変動中であり、第１特別図柄の変動が終了すると時短当選変動状態も終了するため、時短当選変動状態において第１特別図柄の変動パターンが設定されることはない。従って、時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３では第２特別図柄の変動パターンのみを選択する構成としている。

【５０６３】

なお、上述したように、遊技状態が通常状態または時短状態であっても、第１特別図柄のロング時短当たり変動中（時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンに設定されている場合）には、変動パターン選択時には、時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ３が参照される。

【５０６４】

＜第１２制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図４１６～図４３７を参照して、第１２制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行される各種制御処理について説明を行う。本第１２制御例における主制御装置１１０の制御処理は、上述した第５制御例における主制御装置１１０の制御処理に対して、特別図柄変動処理５（図２５２参照）に代えて特別図柄変動処理１２（図４１６参照）、更新処理５（図２５６参照）に代えて遊技状態更新処理１２（図４２２参照）、大当たり制御処理５（図２６０参照）に代えて大当たり制御処理１２（図４３５参照）を実行する点で相違し、その他は同一の処理が実行される。なお、同一の処理については同一の符号を付し、その詳細な説明を省略する。

【５０６５】

上述したように、本第１２制御例では、上述した第５制御例に対して、特別図柄（以下、特図と称す）である第１特別図柄（以下、特図１と称す）と、第２特別図柄（以下、特図２と称す）とが同時に（並行して）変動表示を実行可能に構成している点で大きく相違している。

【５０６６】

まず、図４１７を参照して、本第１２制御例における特別図柄変動処理１２（Ｙ１０４）の内容について説明をする。図４１６は特別図柄変動処理１２（Ｙ１０４）の内容を示すフローチャートである。特別図柄変動処理１２（Ｙ１０４）が実行されると、まず、現在が大当たり又は小当たり中であるかを判別し、（Ｙ２３１）。大当たり中又は小当たり中であると判別した場合は（Ｙ２３１：Ｙｅｓ）、次に、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２３２）。このＹ２３２の処理では、一方の特図が当たりを示す図柄で停止表示されたことにより、変動中の他方の特図変動時間の減算を中断している状態かを判別している。Ｙ２３２の処理において、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２３２：Ｙｅｓ）、仮停止されている特図に対応する第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｙ２３３）、即ち、変動時間の減算が中断されている特図に対して、第１図柄表示装置３７の変動表示を継続させる処理を実行して、本処理を終了する。これにより、特図変動を強制停止していないことを遊技者に報知することができる。

【５０６７】

一方、Ｙ２３１の処理において、現在が大当たり又は小当たり中であると判別した場合は（Ｙ２３１：Ｎｏ）、特図１変動時間タイマ２０３ｋａの値が０よりも大きいか（即ち、特図１が変動中であるか）を判別し（Ｙ２３４）、特図１変動時間タイマ２０３ｋａの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合は（Ｙ２３４：Ｎｏ）、第１特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３７）と同一の処理を実行し、その後、特図２に関する変動処理を実行するＹ２３８に移行する。

【５０６８】

Ｙ２３４の処理において、特図１変動時間タイマ２０３ｋａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｙ２３４：Ｙｅｓ）、第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）を実行する。この第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）は、特図１変動中の処理を実行するものであり、図４２２を参照してその詳細な説明を後述する。

【５０６９】

第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）を終えると、次に、第１特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２３６）を実行し、その後、Ｙ２３８へ移行する。

【５０７０】

Ｙ２３８～Ｙ２４１の処理では、特図１に対して実行したＹ２３４～Ｙ２３７と同一の処理が実行される。Ｙ２３８の処理が実行されると、まず、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂの値が０よりも大きいか（即ち、特図２が変動中であるか）を判別し（Ｙ２３８）、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合は（Ｙ２３８：Ｎｏ）、第２特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３９）を実行し、その後、本処理を終了する。

【５０７１】

一方、Ｙ２３８の処理において、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｙ２３８：Ｙｅｓ）、第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）を実行する。この第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）は、特図２変動中の処理を実行するものであり、図４３１を参照してその詳細な説明を後述する。

【５０７２】

第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）を終えると、次に、第２特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２４１）を実行し、本処理を終了する。

【５０７３】

次に、図４１８を参照して、特別図柄変動処理１２（図４１７、Ｙ１０４）の一処理である第１特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３７）について説明する。図２３７は、この第１特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３７）を示すフローチャートである。

【５０７４】

第１特別図柄変動開始処理１２（図４１７、Ｙ２３７）では、まず、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンであるか判別する（Ｙ３０１）。Ｙ３０１の処理において、特図１仮停止フラグがオンであると判別した場合には（Ｙ３０１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。

【５０７５】

一方、Ｙ３０１の処理において、特図１仮停止フラグがオンでないと判別した場合には（Ｙ３０１：Ｎｏ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を取得し（Ｙ３０２）、取得した第１特別図柄保留球数カウンタの値（Ｎ１）が０より大きい値であるか判別する（Ｙ３０３）。Ｙ３０３の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０より大きいと判別した場合には（Ｙ３０３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１減算して（Ｙ３０４）、減算後の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３に通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｙ３０５）。

【５０７６】

ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理（図１１９参照）の外部出力処理（Ｙ２００１）において、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信さ

れる。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２３０の第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに格納する。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を更新するので、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値と同期させながら、その値を更新することができる。

【５０７７】

Ｙ３０５の処理が終了すると、次に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａのデータを一つ前のデータにシフトする（Ｙ３０６）。より具体的には、保留エリア１→実行エリア、保留エリア２→保留エリア１、保留エリア３→保留エリア２、保留エリア４→保留エリア３といった具合に各エリア内のデータをシフトする。

【５０７８】

Ｙ３０６の処理が終了すると、次いで、第１特別図柄判定処理１２を実行する（Ｙ３０７）。この第１特別図柄判定処理１２（図４１８、Ｙ３０７）については、詳しく後述するが、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアにシフトされた第１当たり乱数カウンタＣ１の値に基づいて、設定されている遊技状態に基づいて、大当たりか否かの大当たり判定を実行するための処理である。なお、遊技状態更新処理１２（Ｙ３０９）をＹ３０７の処理の前に実行しても良く、このように構成することで、遊技状態が更新された後に特別図柄抽選が実行されることとなる。

【５０７９】

Ｙ３０７の処理が終了すると、次に、第１特別図柄変動パターン選択処理１２を実行する（図４２０、Ｙ３０８）。詳細については後述するが、この第１特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ３０８）は、第１特別図柄の当否判定結果、および第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアに格納された変動種別カウンタＣＳ１の値に基づいて変動パターンを選択するための処理である。

【５０８０】

第１特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ３０８）が終了すると、次いで、遊技状態更新処理１２を実行する（Ｙ３０９）。この遊技状態更新処理１２（図４２１、Ｙ３０９）は、詳細については後述するが、パチンコ機１０の状態を示す各種カウンタ（時短カウンタ２０３ｈ）の値を更新することにより、パチンコ機１０の状態を更新するための処理である。Ｙ３０９の処理が終了すると、特図１待受フラグ２０３０ｉをオフに設定すると共に、オフを示す特図１待機コマンドを設定して（Ｙ３１０）、本処理を終了する。

【５０８１】

一方、Ｙ３０３の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｙ３０３：Ｎｏ）、特図１待受フラグ２０３０ｉがオンであるか否か判別し（Ｙ３１１）、オンであると判別した場合は（Ｙ３１１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。Ｙ３１１の処理において、オフである（即ち、オンでない）と判別した場合は（Ｙ３１１：Ｎｏ）、特図１待受フラグ２０３０ｉをオンに設定し（Ｙ３１２）、オンを示す特図１待機コマンドを設定（Ｙ３１３）した後、本処理を終了する。

【５０８２】

次に、図４１９を参照して、第１特別図柄判定処理１２（Ｙ３０７）の処理内容について説明をする。図４１９は、第１特別図柄判定処理１２（Ｙ３０７）の処理内容を示したフローチャートである。この第１特別図柄判定処理１２（Ｙ３０７）は、上述した第５制御例の特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１）に代えて実行されるものであり、特別図柄抽選における大当たり判定に加え、時短当選の判定（特図１時短抽選処理１２）が実行される。

【５０８３】

第１特別図柄判定処理１２（Ｙ３０７）が実行されると、まず、第１特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｙ８００１）、第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８００２）、抽選結果が大当たりであると判定

した場合は（Ｙ８００３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｙ８００４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｙ８００５）、現在の遊技状態を示す値を当選時状態格納エリアに格納し（Ｙ８００６）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｙ８００３：Ｎｏ）、特図１時短抽選処理１２を実行し（Ｙ８００７）、本処理を終了する。

【５０８４】

ここで、特図１時短抽選処理１２（Ｙ８００７）は、今回の特別図柄抽選における時短当選の判定を実行するための処理である。つまり、本第１２制御例では、第１特別図柄抽選において、まず、大当たり当選の判定を実行し（Ｙ８００３）、大当たり当選した場合には、時短当選の判定を実行することなく特別図柄抽選を終了し、大当たり当選していない場合にのみ時短当選の判定を実行するように構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、複数の特典（特別図柄の大当たり当選、時短当選）を遊技者に付与することが無いため、遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうことを抑制することができる。

【５０８５】

次に、図４２０を参照して、第１特別図柄変動開始処理１２（図４１８、Ｙ２３７）の一処理である第１特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ３０８）について説明する。図４２０はこの第１特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ３０８）を示すフローチャートである。

【５０８６】

第１特別図柄変動パターン選択処理１２（図４２０、Ｙ３０８）では、まず、第１特別図柄判定処理１２（図４１９、Ｙ３０７）において、第１特別図柄の抽選結果が大当たりと判定されたか、即ち、第１特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｙ５０１）。

【５０８７】

Ｙ５０１の処理において、第１特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｙ５０１：Ｙｅｓ）、上述した第１特別図柄判定処理１２（図４１９参照）におけるＹ８００５の処理で取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、特図１大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ（図４１０（ｂ）参照）より大当たり種別を決定し（Ｙ５０２）、Ｙ５０３の処理へ移行する。

【５０８８】

一方、Ｙ５０１の処理において、第１特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｙ５０１：Ｎｏ）、Ｙ５０２の処理をスキップして、Ｙ５０３の処理へ移行する。

【５０８９】

Ｙ５０３の処理では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアから変動種別カウンタＣＳ１の値を取得する（Ｙ５０３）。次いで、遊技状態に応じた変動パターン選択テーブル（図４１３～４１６参照）を読み出して（Ｙ５０４）、Ｙ５０５の処理へ移行する。なお、遊技状態は、時短当選変動フラグの値と、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて判別される。Ｙ５０５の処理では、読み出した変動パターン選択テーブルから変動種別カウンタＣＳ１の値に対応する変動パターンを選択し（Ｙ５０５）、その後、選択した変動パターンに基づいて、特図１変動パターンコマンドを設定する（Ｙ５０６）。

【５０９０】

Ｙ５０６の処理が終了すると、停止図柄を示す特図１停止種別コマンドを設定する（Ｙ５０７）。次いで、第１図柄表示装置３７で第１特別図柄の変動開始を設定し（Ｙ５０８）、本処理を終了する。

【５０９１】

次に、図４２１を参照して、特図１時短抽選処理１２（Ｙ８００７）の処理内容について説明をする。図４２１は、特図１時短抽選処理１２（Ｙ８００７）の内容を示したフロ

ーチャートである。
【５０９２】
特図１時短抽選処理１２（Ｙ８００７）が実行されると、まず、時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈに基づいて抽選結果（時短当選判定結果）を取得し（Ｙ４０１）、時短当選しているかを判別し（Ｙ４０２）、時短当選していると判別した場合は（Ｙ４０２：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇをオンに設定し（Ｙ４０３）、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ａをセットし（Ｙ４０４）、特図２変動停止フラグｋｆをオンに設定し（Ｙ８１０５）、本処理を終了する。
【５０９３】
一方、Ｙ４０２の処理において時短当選していない（Ｙ４０２：Ｎｏ）と判別した場合は、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｙ４０６）、本処理を終了する。
【５０９４】
次に、図４２２を参照して、遊技状態更新処理１２（Ｙ３０９）の内容について説明をする。図４２２は、遊技状態更新処理１２（Ｙ３０９）の内容を示すフローチャートである。
【５０９５】
遊技状態更新処理１２（Ｙ３０９）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値であるかが判別され（Ｙ６０１）、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値であると判別された場合には（Ｙ６０１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｙ６０２）、時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｙ６０３）。次に、時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別し（Ｙ６０４）、０であると判別した場合には（Ｙ６０４：Ｙｅｓ）、時短遊技が付与されていない状態（即ち、通常状態）であるため、通常状態を示す状態コマンドを設定し（Ｙ６０５）、本処理を終了する。
【５０９６】
一方、Ｙ６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合（Ｙ６０４：Ｎｏ）は、Ｙ６０５の処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。
【５０９７】
次に、図４２３を参照して、特別図柄変動処理１２（図４１７のＹ１０４参照）において実行される第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）の内容について説明をする。図４２３は、第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）の内容を示すフローチャートである。この第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）では、特図１の変動時間の減算を中断している場合にその減算を再開する処理、および、変動時間を減算する処理が実行される。
【５０９８】
第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）が実行されると、まず、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２８０１）。ここで、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されている状態で本処理が実行される場合について簡単に説明をする。特図１仮停止フラグ２０３ｋｃは、特図１が変動中において、特図２が特定の当たり（大当たりＡ～Ｃ、又は小当りＡ）を示す図柄で停止表示される場合にオンに設定されるものである。そして、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されると、その処理内で大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されるため、主制御装置１１０にて２ミリ秒毎に実行されるタイマ割込処理がループし、次回（特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定された２ミリ秒後）の特別図柄変動処理１２（図４１７）が実行される際には、Ｙ２３１の処理において大当たり中であると判別されるため、第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）が実行されることがない。そして、大当たり遊技（又は小当り遊技）が終了し、Ｙ２３１の処理において大当たり中（又は小当り中）では無いと判別されることで、第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）が実行されることになる。

このように構成することで、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されている状態で第１特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２３５）が実行される状態が、大当たり（又は小当り）遊技が終了し、変動時間の減算を中断していた特図変動の変動時間の減算を再開するタイミングとなるように構成している。

【５０９９】

図４２３に戻り説明を続ける。Ｙ２８０１の処理において、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２８０１：Ｙｅｓ）、次に、特図１変動再開コマンドを設定し（Ｙ２８０２）、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃをオフに設定し（Ｙ２８０３）、Ｙ２８０４へ移行する。一方、Ｙ２８０１の処理において、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｙ２８０１：Ｎｏ）、Ｙ２８０２，Ｙ２８０３の処理をスキップしてＹ２８０４の処理へ移行する。

【５１００】

Ｙ２８０４の処理では特図１変動時間タイマ２０３ｋａを１減算して更新し（Ｙ２８０４）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｙ２８０５）、本処理を終了する。

【５１０１】

次に、図４２４を参照して、特別図柄変動処理１２（図４１７、Ｙ１０４）の一処理である第１特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２３６）について説明する。図４２４はこの第１特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２３６）を示すフローチャートである。

【５１０２】

第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４、Ｙ２３６）では、まず、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミングであるか否かを判別する（Ｙ７０１）。Ｙ７０１の処理において、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミングであると判別した場合には（Ｙ７０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄（特図１）の大当たりが設定されているか判別する（Ｙ７０２）。第１特別図柄の大当たりが設定されていると判別した場合には（Ｙ７０２：Ｙｅｓ）、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄをオンに設定する（Ｙ７０３）。図示は省略したが、Ｙ７０３の処理が実行されると、特図２変動停止フラグ２０３ｋｄがオンになったことを示す特図２変動停止コマンドが設定される。

【５１０３】

Ｙ７０３の処理を終えると、設定されている停止種別を示す特図１停止種別コマンドを設定する（Ｙ７０４）。そして、選択されている大当たり種別に基づいた大当たりシナリオが設定される（Ｙ７０５）。その後、第１特別図柄を確定停止することを音声ランプ制御装置１１３に対して指示するための特図１確定コマンドを設定する（Ｙ７０６）。そして、第１特別図柄表示装置３７で変動表示している第１特別図柄の変動表示を停止する処理を実行し（Ｙ７０７）、本処理を終了する。

【５１０４】

一方、Ｙ７０２の処理において、第１特別図柄の大当たりが設定されていなければ（Ｙ７０２：Ｎｏ）、第１特別図柄の時短当選が設定されているかを判別する（Ｙ７１０）。Ｙ７１０の処理において、時短当選が設定されていると判別した場合（Ｙ７１０：Ｙｅｓ）には、時短設定処理１２（Ｙ７１１）を実行し、Ｙ７０６の処理に移行する。この時短設定処理１２（Ｙ７１１）では、当選した時短種別に対応した時短状態の設定に関する処理が実行される。なお、この時短設定処理１２（Ｙ７１１）については、図４２６を参照して詳細について後述する。

【５１０５】

一方、Ｙ７０１の処理において、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミングでないと判別した場合には（Ｙ７０１：Ｎｏ）、次いで、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンであるか否かを判別する（Ｙ７０８）。Ｙ７０８の処理において特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオフであると判別された場合は（Ｙ７０８：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【５１０６】

一方、Ｙ７０８の処理において特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンであると判別した場合は（Ｙ７０８：Ｙｅｓ）、第２特別図柄が大当たりまたは小当たりで停止された場合であるので、実行中の第１特別図柄に基づく変動を停止（仮停止）させるために、特図１強制停止処理１２を実行する（Ｙ７０９）。尚、この特図１強制停止処理１２の詳細については、図４２５を参照して後述する。

【５１０７】

このように、第１特別図柄停止処理１２（Ｙ２３６）では、変動表示中の第１特別図柄の規定の変動時間が経過した場合に（Ｙ７０１：Ｙｅｓ）、第１抽選遊技の判定結果を示す図柄で変動表示を停止する処理（Ｙ７０３からＹ７０７またはＹ７１１）が実行される。また、第２特別図柄が大当たり（または小当たり）を示す図柄で変動停止され、第２抽選遊技の大当たり遊技（または小当たり遊技）が実行される場合に（Ｙ７０８：Ｙｅｓ）、変動表示中の第１特別図柄を強制的に停止する処理（Ｙ７０９）が実行される。なお、第１特別図柄が大当たり（または小当たり）を示す図柄で変動停止された場合には（Ｙ７０２：Ｙｅｓ）、変動表示中の第２特別図柄の変動を中断（仮停止）するように構成してもよい。

【５１０８】

次に、図４２５を参照して、第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４、Ｙ２３６）の一処理である特図１強制停止処理１２（Ｙ７０９）について説明する。図４２５は、この特図１強制停止処理１２（Ｙ７０９）を示すフローチャートである。

【５１０９】

特図１強制停止処理１２（図４２５、Ｙ７０９）では、まず、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンであるかを判別する（Ｙ７２１）。特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンであると判別した場合（Ｙ７２１：Ｙｅｓ）には、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅをオフに設定し（Ｙ７２２）、次に、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅのオフを示す特図１変動停止コマンドを設定する（Ｙ７２３）。そして、第１特別図柄の変動種別を外れに設定し（Ｙ７２４）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇはオンであるかを判別する（Ｙ７２５）。なお、図示しないが、Ｙ７２５の処理の前に第１図柄表示装置３７の第１特別図柄を外れ図柄で変動停止させ、第１特別図柄の特図１確定コマンドを設定する。

【５１１０】

Ｙ７２５の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンである（即ち、第１特別図柄抽選の結果が時短当選であった場合）と判別した場合（Ｙ７２５：Ｙｅｓ）には、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇをオフに設定し（Ｙ７２６）、本処理を終了する。一方、Ｙ７２５の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンでない（即ち、第１特別図柄抽選の結果が時短当選ではなかった場合）には（Ｙ７２５：Ｎｏ）、Ｙ７２６をスキップし、本処理を終了する。

【５１１１】

なお、第１特別図柄の変動を破棄することが可能な大当たりＤに当選可能なのは時短Ｂ状態が設定されている場合のみであるため、通常状態において第２特別図柄の大当たり当選に基づいて時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオフに設定されることはない構成としているが、これに限るものではなく、例えば、通常状態において大当たりＤに当選可能な構成としても良い。その場合、Ｙ７２５の処理の後に、通常状態において大当たりＤに当選した場合にスペシャルフラグをオンに設定する処理を設けて、時短Ｂ状態よりも有利な遊技状態（例えば、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態））が設定される構成としても良い。このように構成することで、通常状態の時短当選変動状態において大当たりＤに当選した場合と、時短状態の時短当選変動状態において大当たりＤに当選した場合とで、異なる遊技状態が設定され、遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【５１１２】

一方、Ｙ７２１の処理において、特図１変動時間フラグ２０３ｋｅがオンでないと判別された場合（Ｙ７２１：Ｎｏ）は、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃがオンである場合であ

るため、第１特別図柄の変動を仮停止（中断）させるコマンドを設定し（Ｙ７２９）、本処理を終了する。

【５１１３】

このように、本第１２制御例では、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃまたは特図１変動停止フラグ２０３ｋｅがオンにされる（第２特別図柄で大当たりまたは小当たりとなる変動が停止するタイミング）と、第１特別図柄の変動時間が未経過であっても強制的に変動を中断、或いは外れの判定結果として強制停止される。これにより、第１特別図柄と第２特別図柄で同時に抽選結果が変動表示されていても、一方の抽選結果のみ対する小当たりや大当たりを実行すればよく、射幸性を抑制することができる。さらに、遊技の効率を上げることができる。

【５１１４】

また、本第１２制御例では、第２特別図柄の大当たりまたは小当たりの種別によって第１特別図柄の変動を強制的に外れとして停止させる場合と、仮停止（中断）させる場合と、を設ける構成としている。

【５１１５】

上述したように本第１２制御例では、時短状態の種別として、時短Ａと時短Ｂを設定可能である。そして、時短Ａは時短回数が５回（図４１１参照）であり、時短回数５回で第２特別図柄が大当たり（当選確率１／５０）または小当たり（当選確率１／５０）に当選する確率は約１８％と低確率であるため、時短Ａ状態中の第２特別図柄での大当たりまたは小当たり当選はほとんど期待できない。一方、時短Ｂは時短回数が１００００回（図４１１参照）であるため、時短Ｂが設定されると高確率で次回の大当たりまたは小当たり当選が期待できる。したがって、時短Ａ状態よりも時短Ｂ状態の方が遊技者に有利な時短状態であると言える。

【５１１６】

ここで、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによって時短Ｂ状態が設定された場合に、第１特別図柄の変動を強制的に外れ図柄として停止させることができずに時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示された場合には、設定されている時短Ｂ状態が破棄され、新たに時短Ａ状態が設定される。つまり、この場合、時短Ｂ状態が継続するのは、時短当選した第１特別図柄の変動時間（本第１２制御例では、３００秒）が経過するまでの期間のみとなり、時短リミットに到達する前に時短状態が終了してしまう可能性が高くなる。

【５１１７】

一方、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによって時短Ｂ状態が設定された場合に、特定の大当たり（大当たりＤ）または小当たり（小当たりＢ）に当選し、第１特別図柄の変動を強制的に外れ図柄として停止させることができた場合には、時短リミット到達まで時短Ｂ状態を継続させることが可能となり、遊技者は大量の賞球を獲得可能となる。

【５１１８】

このように、本第１２制御例では、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによって時短Ｂ状態が設定された場合に、変動表示されている第１特別図柄を強制的に外れとして停止（破棄）し、有利な時短状態を継続させることができるかという新たな遊技性を遊技者に提供することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【５１１９】

次に、図４２６を参照して、時短設定処理１２（Ｙ７１１）の処理内容について説明を

する。図４２６は、時短設定処理１２（Ｙ７１１）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理１２（Ｙ７１１）では、時短当選判定により時短当選した場合に時短状態を設定するための処理が実行される。時短設定処理１２（Ｙ７１１）が実行されると、まず、今回の時短種別が時短Ａであるかを判別し（Ｙ８３５１）、時短Ａであると判別した場合に（Ｙ８３５１：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇをオフに設定する（Ｙ８３５２）し、決定された時短種別に対応する値を時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｙ８３５３）、遊技状態格納エリアに時短状態を設定し（Ｙ８３５４）、時短カウンタ２０３ｈの値、時短種別遊技状態（時短状態を示す情報と、設定された時短種別を示す情報）を示す状態コマンドを設定し（Ｙ８３５５）、本処理を終了する。

【５１２０】

一方、Ｙ８３５１の処理において、時短Ａではないと判別した場合（即ち、時短Ｂである場合）は（Ｙ８３５１：Ｎｏ）、Ｙ８３５２の処理をスキップし、Ｙ８３５３の処理を行う。なお、図示しないが、Ｙ８３５３の処理では、時短カウンタ２０３ｈの値をクリアした後、決定された時短種別に対応する値を新たに設定する。したがって、時短当選に基づいて時短Ａ状態が設定される場合に、既に時短カウンタ２０３ｈに時短Ｂに対応する値（例えば、１００００回）が設定されている場合には、時短Ｂに対応する値を破棄し、時短Ａに対応する値（５回）を設定する。

【５１２１】

このように、本第１２制御例では、時短当選契機に応じて、異なるタイミングで時短状態が設定されるように構成しており、特別図柄抽選で時短当選した場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングにて時短状態が設定され、特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて時短状態が設定される場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングでは無く、大当たり遊技終了タイミングで時短状態が設定される。

【５１２２】

このように構成することで、時短状態が設定されるタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して飽き難い遊技を提供することができる。

【５１２３】

次に、図４２７を参照して、特別図柄変動処理１２（図４１７、Ｙ１０４）の一処理である第２特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３９）について説明する。図２３９は、この第２特別図柄変動開始処理１２（Ｙ２３９）を示すフローチャートである。

【５１２４】

第２特別図柄変動開始処理１２（図４２７、Ｙ２３９）では、まず、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンであるか判別する（Ｙ８３１）。Ｙ８３１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンであると判別した場合には（Ｙ８３１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。

【５１２５】

一方、Ｙ８３１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンでないと判別した場合には（Ｙ８３１：Ｎｏ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）を取得し（Ｙ８３２）、取得した第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０より大きい値であるか判別する（Ｙ８３３）。Ｙ８３３の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０より大きいと判別した場合には（Ｙ８３３：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）を１減算して（Ｙ８３４）、減算後の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３に通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｙ８３５）。

【５１２６】

ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理において、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２３０の第２特別図柄保留球数カウンタ２２

３ｄに格納する。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｄの値を更新するので、主制御装置１１０の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値と同期させながら、その値を更新することができる。

【５１２７】

Ｙ８３５の処理が終了すると、次に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂのデータを一つ前のデータにシフトする（Ｙ８３６）。より具体的には、保留エリア１→実行エリア、保留エリア２→保留エリア１、保留エリア３→保留エリア２、保留エリア４→保留エリア３といった具合に各エリア内のデータをシフトする。

【５１２８】

Ｙ８３６の処理が終了すると、次いで、第２特別図柄判定処理１２を実行する（Ｙ８３７）。この第２特別図柄判定処理１２（図４２８、Ｙ８３７）については、詳しく後述するが、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアにシフトされた第１当たり乱数カウンタＣ１の値に基づいて、設定されている遊技状態に基づいて、大当たりか否かの大当たり判定を実行するための処理である。

【５１２９】

Ｙ８３７の処理が終了すると、次に、第２特別図柄変動パターン選択処理１２を実行する（図４３１、Ｙ８３８）。詳細については後述するが、この第２特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ８３８）は、第２特別図柄の当否判定結果、および第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアに格納された変動種別カウンタＣＳ１の値に基づいて変動パターンを選択するための処理である。

【５１３０】

第２特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ８３８）が終了すると、次いで、遊技状態更新処理１２を実行する（Ｙ８３９（Ｙ３０９））。この遊技状態更新処理１２（図４２１、Ｙ８３９（Ｙ３０９））は、第１特別図柄において実行されるものと同一の処理が実行され、細部は図４２２を参照して説明しているため、詳細な説明は省略する。Ｙ８３９の処理が終了すると、特図２待受フラグをオフに設定すると共に、オフを示す特図１待機コマンドを設定して（Ｙ８４０）、本処理を終了する。なお、遊技状態更新処理１２（Ｙ８３９）をＹ８３７の処理の前に実行しても良く、このように構成することで、遊技状態が更新された後に特別図柄抽選が実行されることとなる。

【５１３１】

一方、Ｙ８３３の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｙ８３３：Ｎｏ）、特図２待受フラグがオンであるか否か判別し（Ｙ８４１）、オンであると判別した場合は（Ｙ８４１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。Ｙ８４１の処理において、オフである（即ち、オンでない）と判別した場合は（Ｙ８４１：Ｎｏ）、特図２待受フラグをオンに設定し（Ｙ８４２）、オンを示す特図２待機コマンドを設定（Ｙ８４３）した後、本処理を終了する。

【５１３２】

次に、図４２８を参照して、第２特別図柄判定処理１２（Ｙ８３７）の処理内容について説明をする。図４２８は、第２特別図柄判定処理１２（Ｙ８３７）の処理内容を示したフローチャートである。この第２特別図柄判定処理１２（Ｙ８３７）では、上述した第１特別図柄判定処理１２（図４１９のＹ３０７）とは異なり、特別図柄抽選における大当たり判定において外れであると判定された場合に、時短当選の判定（特図２時短抽選処理１２）に加えて小当たり当選の判定（小当たり抽選処理１２）が実行される。

【５１３３】

第２特別図柄判定処理１２（Ｙ８３７）が実行されると、まず、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアのデータを取得し（Ｙ８１０１）、第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８１０２）、抽選結果が大当たりであると判定した場合は（Ｙ８１０３：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｙ８１０４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に

基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｙ８１０５）、現在の遊技状態を示す値を当選時状態格納エリアに格納し（Ｙ８１０７）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｙ８１０３：Ｎｏ）、特図２時短抽選処理１２を実行し（Ｙ８１０６）、本処理を終了する。

【５１３４】

このように、本第１２制御例では、第２特別図柄の大当たり抽選において大当たり判定でなかった場合には、時短抽選と小当たり抽選が実行される構成となっているため、第１特別図柄に比べて遊技者に有利な状態（時短状態）となる契機が多く設定されており、第２特別図柄は第１特別図柄よりも有利な特別図柄であるといえる。なお、上述したように、通常状態における第２特別図柄の変動時間は長時間（６００秒）が設定され、通常状態で第２特別図柄抽選のみを実行しようとする遊技者の遊技効率が悪くなるように構成している。

【５１３５】

また、細部については後述するが、特図２時短抽選処理１２（Ｙ８１０６）では、特図１時短抽選処理１２（図４２１のＹ８００７）と異なり、時短当選した場合に、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであるか否かによって設定する時短種別を決定する。具体的には、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンである場合にのみ時短Ｂ状態が設定される。つまり、時短当選したことを示す第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄が時短当選した場合にのみ時短Ｂ状態が設定され、それ以外の場合には時短Ａ状態が設定される構成としている。このように構成することで、時短当選変動状態でない場合に第２特別図柄が時短当選しても遊技者に有利な時短状態である時短Ｂ状態は設定されないため、第１特別図柄を変動させない状態で第２特別図柄抽選のみを実行する遊技者が過剰に有利になることを抑制することができる。

【５１３６】

次に、図４２９を参照して、特図２時短抽選処理１２（Ｙ８１０７）の処理内容について説明をする。図４２９は、特図２時短抽選処理１２（Ｙ８１０７）の内容を示したフローチャートである。

【５１３７】

特図２時短抽選処理１２（Ｙ８１０７）が実行されると、まず、時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈに基づいて抽選結果（時短当選判定結果）を取得し（Ｙ８２０１）、時短当選しているかを判別し（Ｙ８２０２）、時短当選していると判別した場合は（Ｙ８２０２：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであるかを判別し（Ｙ８２０３）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであると判別された場合（Ｙ８２０３：Ｙｅｓ）には、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ｂをセットし（Ｙ８２０５）、本処理を終了する。

【５１３８】

Ｙ８２０２の処理において時短当選していない（Ｙ８２０２：Ｎｏ）と判別した場合は、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｙ８２０６）、本処理を終了する。

【５１３９】

Ｙ８２０３の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオフであると判別された場合（Ｙ８２０３：Ｎｏ）には、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ａをセットし（Ｙ８２０４）、本処理を終了する。

【５１４０】

このように本第１２制御例では、時短当選変動状態フラグｋｇがオンの場合（即ち、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄の変動表示が実行中である場合）のみ、第２特別図柄が時短当選した場合に時短Ｂ状態が設定される構成としている。このように構成することで、時短当選変動状態でない場合に第２特別図柄が時短当選しても遊技者に有利な時短状態である時短Ｂ状態は設定されないため、第１特別図柄を変

動させない状態で第２特別図柄抽選のみを実行する遊技者が過剰に有利になることを抑制することができる。また、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間内で、第２特別図柄の時短当選を目指すという新たな遊技性を遊技者に提供することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【５１４１】

次に、図４３０を参照して、第２特別図柄判定処理１２（図４２８、Ｙ８３７）の一処理である小当たり抽選処理１２（Ｙ８１０８）について説明する。図４３０はこの小当たり抽選処理１２（Ｙ８１０８）を示すフローチャートである。

【５１４２】

小当たり抽選処理１２（図４３０、Ｙ８１０８）では、まず、第２特別図柄の抽選結果が時短当選と判定されたか、即ち、第２特別図柄の時短当選が設定されているか否かを判別する（Ｙ８３０１）。

【５１４３】

Ｙ８３０１の処理において、第２特別図柄の時短当選が設定されていると判別された場合には、（Ｙ８３０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【５１４４】

一方、Ｙ８３０１の処理において、第２特別図柄の時短当選が設定されていないと判別された場合には、（Ｙ８３０１：Ｎｏ）、小当たり乱数１２テーブルに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８３０２）、小当たり当選であると判別された場合には（Ｙ８３０４：Ｙｅｓ）、小当たり種別カウンタＣ５の値を取得し、小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆから小当たり種別を選択し、第１図柄表示装置に表示する特別図柄の小当たり図柄をセットする（Ｙ８３０５）。一方、Ｙ８３０４の処理において、小当たり当選ではないと判別された場合には（Ｙ８３０４：Ｎｏ）、Ｙ８３０５の処理をスキップし、本処理を終了する。

【５１４５】

このように、本第１２制御例では、１度の第２特別図柄抽選において大当たり当選、時短当選、小当たり当選が重複しないことで、遊技者に複数の特典が付与されることを抑制し、遊技者が過剰に有利にならないように構成している。

【５１４６】

なお、大当たり当選または小当たり当選と、時短当選が重複する構成としても良く、この場合、例えば、大当たり当選と時短当選が重複した場合には、大当たり当選のみした場合よりも大当たり遊技終了後に有利な時短状態が設定される構成とすることで、同種の大当たり種別の大当たりに当選した場合でも、時短当選したか否かで、大当たり遊技終了後の遊技状態に多様性を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５１４７】

次に、図４３１を参照して、第２特別図柄変動開始処理１２（図４２７、Ｙ２３９）の一処理である第２特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ８３８）について説明する。図４３１はこの第２特別図柄変動パターン選択処理１２（Ｙ８３８）を示すフローチャートである。

【５１４８】

第２特別図柄変動パターン選択処理１２（図４３１、Ｙ８３８）では、まず、第２特別図柄判定処理１２（図４２８、Ｙ８１０３）において、第１特別図柄の抽選結果が大当たりと判定されたか、即ち、第２特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｙ９２１）。

【５１４９】

Ｙ９２１の処理において、第２特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｙ９２１：Ｙｅｓ）、上述した第２特別図柄判定処理１２（図４２８参照）におけるＹ８１０５の処理で取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、特図２大当たり用１２テーブル２０２ｋｂ２（図４１１参照）より大当たり種別を決定し（Ｙ９２２

）、Ｙ９２３の処理へ移行する。
【５１５０】
一方、Ｙ９２１の処理において、第２特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｙ９２１：Ｎｏ）、Ｙ９２２の処理をスキップして、Ｙ９２３の処理へ移行する。
【５１５１】
Ｙ９２３の処理では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアから変動種別カウンタＣＳ１の値を取得する（Ｙ９２３）。次いで、遊技状態に応じた変動パターンテーブル（図４１３～４１６参照）を読み出して（Ｙ９２４）、Ｙ９２５の処理へ移行する。なお、遊技状態は、時短当選変動フラグの値と、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて判別される。Ｙ９２５の処理では、読み出した変動パターンテーブルから変動種別カウンタＣＳ１の値に対応する変動パターンを選択し（Ｙ９２５）、その後、選択した変動パターンに基づいて、特図２変動パターンコマンドを設定する（Ｙ９２６）。
【５１５２】
Ｙ９２６の処理が終了すると、停止図柄を示す特図２停止種別コマンドを設定する（Ｙ９２７）。次いで、第１図柄表示装置３７で第２特別図柄の変動開始を設定し（Ｙ９２８）、本処理を終了する。
【５１５３】
次に、図４３２を参照して、特別図柄変動処理１２（図４１７のＹ１０４参照）において実行される第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）の内容について説明をする。図４３２は、第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）の内容を示すフローチャートである。この第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）では、第２特別図柄の変動時間の減算を中断している場合にその減算を再開する処理、および、変動時間を減算する処理が実行される。
【５１５４】
第２特別図柄変動実行中処理（Ｙ２４０）が実行されると、まず、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２９０１）。ここで、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されている状態で本処理が実行される場合について簡単に説明をする。上述したように特図２仮停止フラグ２０３ｋｄは、特図２が変動中において、特図１が当たり（大当たり）を示す図柄で停止表示される場合にオンに設定されるものである。そして、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されると、その処理内で大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されるため、主制御装置１１０にて２ミリ秒毎に実行されるタイマ割込処理がループし、次回（特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定された２ミリ秒後）の特別図柄変動処理１２（図４１７、Ｙ１０４）が実行される際には、Ｙ２３１の処理において大当たり中であると判別されるため、第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）が実行されることがない。そして、大当たり遊技が終了し、Ｙ２３１の処理において大当たり中では無いと判別されることで、第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）が実行されることになる。このように構成することで、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されている状態で第２特別図柄変動実行中処理１２（Ｙ２４０）が実行される状態が、大当たり遊技が終了し、変動時間の減算を中断していた特図変動の変動時間の減算を再開するタイミングとなるように構成している。
【５１５５】
図４３２に戻り説明を続ける。Ｙ２９０１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２９０１：Ｙｅｓ）、次に、特図２変動再開コマンドを設定し（Ｙ２９０２）、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄをオフに設定し（Ｙ２９０３）、Ｙ２９０４へ移行する。一方、Ｙ２９０１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｙ２９０１：Ｎｏ）、Ｙ２９０２，Ｙ２９０３の処理をスキップしてＹ２９０４の処理へ移行する。
【５１５６】

Ｙ２９０４の処理では特図２変動時間タイマ２０３ｋｂを１減算して更新し（Ｙ２９０４）、第１図柄表示装置の表示を更新し（Ｙ２９０５）、本処理を終了する。

【５１５７】

次に、図４３３を参照して、第２特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２４１）の内容について説明をする。図４３３は、第２特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２４１）の内容を示すフローチャートである。この第２特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２４１）は、特図２の変動を停止する際の処理を実行するものであって、上述した第１特別図柄変動停止処理（図４２４参照）に対して、特図２の抽選結果が大当たりであった場合において、特図１の変動を中断させる（変動時間の減算を中断させる）構成に加えて、特図２の抽選結果が特定の大当たり種別（大当たりＤ）であった場合には、特図１の変動を強制停止する構成を設けた点と、特図２の抽選結果が小当たりの場合に実行される処理を追加した点で相違している。

【５１５８】

第２特別図柄変動停止処理１２（Ｙ２４１）が実行されると、まず、第２特別図柄の変動時間が終了したか否かが判別される（Ｙ９０１）。第２特別図柄の変動時間が終了したか否かは、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂのカウンタ値が０であるか否かによって判別される。

【５１５９】

Ｙ９０１の処理において変動時間が終了したと判別された場合には（Ｙ９０１：Ｙｅｓ）、第２特別図柄（特図２）の抽選結果が大当たりであるかを判別し（Ｙ９０２）、大当たりではない（外れである）と判別した場合は（Ｙ９０２：Ｎｏ）、次いで、特図２の抽選結果が小当たりであるかを判別する（Ｙ９１２）。Ｙ９１０の処理において、小当たりではないと判別した場合は（Ｙ９１２：Ｎｏ）、次いで、特図２の抽選結果が時短当選であるかを判別する（Ｙ９１４）。時短当選ではないと判別した場合は、第２特別図柄の確定コマンドをセットし（Ｙ９０８）、第１図柄表示装置の第２特別図柄の変動を停止し（Ｙ９０９）、本処理を終了する。

【５１６０】

Ｙ９１４の処理において、時短当選であると判別された場合には（Ｙ９１４：Ｙｅｓ）、時短設定処理１２が実行され（Ｙ９１５）、その後、Ｙ９０８の処理を行う。なお、時短設定処理１２は、上述した第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４、Ｙ２３６）の一処理として実行される時短設定処理１２（Ｙ７１１）と同一の処理であるため、詳細な説明は省略する。

【５１６１】

Ｙ９１２の処理において、小当たり当選であると判別された場合には（Ｙ９１２：Ｙｅｓ）、特図２小当たり停止処理１２を実行し（Ｙ９１３）、その後、Ｙ９０８の処理を行う。特図２小当たり停止処理１２（Ｙ９１３）は、当選した小当たりの小当たり種別によって、第１特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄させる）か、仮停止させる（中断させる）か、を設定する処理を実行するものであり、詳細な説明は図４３５を参照して後述する。

【５１６２】

Ｙ９０２の処理において、大当たりであると判別した場合には（Ｙ９０２：Ｙｅｓ）、大当たり種別が大当たりＤであるかを判別し（Ｙ９０３）、大当たりＤではないと判別された場合（Ｙ９０３：Ｎｏ）には、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃをオンに設定し（Ｙ９０４）、設定されている停止種別を示す特図２停止種別コマンドを設定し（Ｙ９０６）、大当たりシナリオを設定し（Ｙ９０７）し、その後、Ｙ９０８、Ｙ９０９の処理を行う。

【５１６３】

一方、Ｙ９０３の処理において、大当たりＤであると判別された場合には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し（Ｙ９０５）、Ｙ９０６～Ｙ９０９の処理を実行する。

【５１６４】

このように本第１２制御例のパチンコ機１０では、大当たり種別が大当たりＤである場

合には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し、それ以外の大当たり種別の場合には、特図１仮停止フラグ２０３ｋｃをオンに設定することで、大当たり種別によって第１特別図柄の変動が強制的に停止される（破棄される）場合と、仮停止される（中断される）場合とを可変させることができる。

【５１６５】

なお、図４１１に示す通り、第２特別図柄が大当たりした場合に決定される大当たり種別は、実行された第２特別図柄の変動回数によって異なり、大当たりＤは５１回転目以降に大当たり当選した場合に、決定され易い構成としている。このように構成することで、第２特別図柄で大当たり当選できずに外れ当選が続いた場合（所謂、ハマった場合）であっても、遊技者に有利な大当たり種別が決定され易くなるため、ハマった場合の遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【５１６６】

Ｙ９０１の処理において、実行中の第２特別図柄に基づく変動の終了タイミングでないと判別した場合には（Ｙ９０１：Ｎｏ）、次いで、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄまたは特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであるか否かを判別する（Ｙ９１０）。Ｙ９１０の処理において特図２仮停止フラグ２０３ｋｄまたは特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオフであると判別された場合は（Ｙ９１０：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【５１６７】

一方、Ｙ９１０の処理において特図２仮停止フラグ２０３ｋｄまたは特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであると判別した場合は（Ｙ９１０：Ｙｅｓ）、第１特別図柄が大当たりで停止された場合または時短当選した場合であるので、実行中の第２特別図柄に基づく変動を停止（仮停止）させるために、特図２強制停止処理１２を実行する（Ｙ９１１）。尚、この特図２強制停止処理１２の詳細については、図４３４を参照して後述する。

【５１６８】

このように、第２特別図柄停止処理１２（Ｙ２４１）では、変動表示中の第２特別図柄の規定の変動時間が経過した場合に（Ｙ９０１：Ｙｅｓ）、第２特別図柄抽選遊技の判定結果を示す図柄で変動表示を停止する処理が実行される。また、第１特別図柄が大当たりを示す図柄で変動停止され、第１特別図柄の大当たり遊技が実行される場合、または第１特別図柄が時短当選し、時短当選変動状態が設定される場合に（Ｙ９１０：Ｙｅｓ）、変動表示中の第２特別図柄を強制的に停止する処理（Ｙ９１１）が実行される。

【５１６９】

次に、図４３４を参照して、第２特別図柄変動停止処理１２（図４３３、Ｙ２４１）の一処理である特図２強制停止処理１２（Ｙ９１１）について説明する。図４３４は、この特図２強制停止処理１２（Ｙ９１１）を示すフローチャートである。

【５１７０】

特図２強制停止処理１２（図４３４、Ｙ９１１）では、まず、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであるかを判別する（Ｙ６３１）。特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであると判別した場合（Ｙ６３１：Ｙｅｓ）には、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆをオフに設定し（Ｙ６３２）、次に、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆのオフを示す特図２変動停止コマンドを設定する（Ｙ６３３）。そして、第２特別図柄の変動種別を外れに設定する（Ｙ６３４）。なお、図示しないが、Ｙ６３４の処理の後に第１図柄表示装置３７の第２特別図柄を外れ図柄で変動停止させ、第２特別図柄の特図２確定コマンドを設定する。

【５１７１】

一方、Ｙ６３１の処理において、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンでないと判別された場合（Ｙ６３１：Ｎｏ）は、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンである場合であるため、第２特別図柄の変動を仮停止（中断）させるコマンドを設定し（Ｙ６３５）、本処理を終了する。

【５１７２】

このように、本第１２制御例では、特図２仮停止フラグ２０３ｋｄがオンにされる（第

１特別図柄で大当たりとなる変動が停止するタイミング）と、第２特別図柄の変動時間が未経過であっても強制的に変動を中断して強制停止される。これにより、第１特別図柄と第２特別図柄で同時に抽選結果が変動表示されていても、一方の抽選結果のみに対する大当たり遊技を実行すればよく、射幸性を抑制することができる。さらに、遊技の効率を上げることができる。

【５１７３】

また、本第１２制御例では、第１特別図柄が時短当選した場合の第１特別図柄の変動開始時に、第２特別図柄の変動停止フラグｋｆをオンにする構成としている。本第１２制御例では、上述したように、通常状態においては第２特別図柄の変動時間は長時間（６００秒）が設定されるため、第１特別図柄が時短当選した時点で既に第２特別図柄の変動表示が開始されている場合に、そのまま第２特別図柄の変動が継続されると、設定された時短当選変動状態が変動中の第２特別図柄の停止表示前に終了してしまい、遊技者が時短当選変動状態で第２特別図柄の抽選を実行することができないという不具合が生起し得る。

【５１７４】

ここで、第１特別図柄が時短当選した場合の第１特別図柄の変動開始時に、第２特別図柄の変動停止フラグｋｆをオンにする構成とすることで、時短当選した第１特別図柄の変動が開始された場合に、変動中の第２特別図柄の変動が破棄されるため、時短当選変動状態で新たに第２特別図柄の抽選を受けることができ、遊技者が時短当選変動状態で第２特別図柄の抽選を実行することができないという不具合を防ぐことができる。

【５１７５】

次に、図４３５を参照して、第２特別図柄変動停止処理１２（図４３３、ｙ２４１）の一処理である特図２小当たり停止処理１２（Ｙ９１３）について説明をする。図４３５は特図２小当たり停止処理１２（Ｙ９１３）の内容を示すフローチャートである。

【５１７６】

特図２小当たり停止処理１２（図４３５、Ｙ９１３）では、まず、小当たり種別が小当たりＢであるか判別し（Ｙ９３１）、小当たりＢであると判別された場合（Ｙ９３１：Ｙｅｓ）には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し（Ｙ９３２）、特図１変動停止フラグ２０３ｋｅのオンを示す特図１変動停止コマンドを設定する（Ｙ９３３）。そして、選択されている小当たり種別に対応する小当たりシナリオを設定し（Ｙ９３４）、本処理を終了する。

【５１７７】

一方、Ｙ９３１の処理において、小当たりＢでないと判別された場合（Ｙ９３１：Ｎｏ）には、特図１仮停止フラグｋｃをオンに設定し、（Ｙ９３７）、特図１仮停止フラグｋｃのオンを示す特図１仮停止コマンドを設定し（Ｙ９３８）、Ｙ９３４の処理を行う。

【５１７８】

このように、本第１２制御例では、特定の大当たり種別だけでなく、特定の小当たり種別によっても、変動中の第１特別図柄を破棄させることが可能に構成されている。これにより、遊技者に小当たり種別にも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【５１７９】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、小当たりＢ当選を示す第２特別図柄の変動停止時に特図１変動停止フラグをオンに設定する構成としたが、これに限るものではなく、小当たりＢに当選した第２特別図柄の変動開始時に特図１変動停止フラグをオンに設定する構成としても良い。また、小当たり遊技の開始時に第１特別図柄を破棄する構成としても良いし、小当たり遊技の終了時に破棄する構成としても良い。

【５１８０】

次に、図４３６を参照して、メイン処理において実行される大当たり制御処理１２（Ｙ１００４）の内容について説明をする。図４３６は大当たり制御処理１２（Ｙ１００４）の内容を示すフローチャートである。この大当たり制御処理１２（Ｙ１００４）は、上述した第１１制御例の大当たり制御処理１１（図４０３参照）の大当たり終了処理１１（Ｓ

１１６５１）に代えて、大当たり終了処理１２（Ｙ１１６１３）を実行する点でのみ相違し、その他の処理は第１１制御例と同一であるため、その詳細な説明は省略する。

【５１８１】

次に、図４３７を参照して、大当たり終了処理１２（Ｙ１１６１３）の内容について説明する。図４３７は大当たり終了処理１２（Ｙ１１６１３）の内容を示すフローチャートである。大当たり終了処理１２が実行されると、まず、時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）が実行される。時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）の詳細な説明については、図４３８を参照して後述するが、連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な上限値を時短リミット回数カウンタ２０３ｊａにセットしたり、設定済の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を更新（減算）したりするための処理を実行する。

【５１８２】

ここで、図４３８を参照して、大当たり終了処理１２（図４３７のＹ１１６１３参照）内の一処理である時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）の詳細について説明する。図４３８は、時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）の内容を示したフローチャートである。この時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）では、連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な上限値を設定したり、設定済の上限値に対する残回数数を更新するための処理が実行される。

【５１８３】

時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）では、まず、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値であるか判別する（Ｙ３００１）。時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値ではない、即ち、大当たり当選時における普通図柄の確率状態が低確率状態であると判別した場合には（Ｙ３００１：Ｎｏ）、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な値が設定されていないため、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に１０を設定し（Ｙ３００５）、時短フラグをオンに設定する（Ｙ３００６）。そして、本処理を終了する。

【５１８４】

一方、Ｙ３００１の処理において、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｙ３００１：Ｙｅｓ）、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値を１減算し（Ｙ３００２）、次に、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０であるか否かを判別する（Ｙ３００３）。減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０であると判別した場合には（Ｙ３００３：Ｙｅｓ）、連続して普通図柄の高確率状態が設定できる上限値に達したため、時短リミット到達フラグ２０３ｋｈをオンに設定し（Ｙ３００４）、本処理を終了する。一方、Ｙ３００４の処理において、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が０ではないと判別した場合には（Ｙ３００４：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【５１８５】

なお、本実施形態では、時短リミット回数として１０回が設定されるよう構成したが、これに限ることなく、２０回や３０回など、複数の設定回数の中から決定するよう構成してもよい。

【５１８６】

図４３７に戻り説明を続ける。時短リミット更新処理１２（Ｙ２７０１）を実行した後、時短リミット到達フラグ２０３ｋｈはオンであるかを判別し（Ｙ２７０２）、時短リミット到達フラグ２０３ｋｈがオンであると判別された場合（Ｙ２７０２：Ｙｅｓ）には、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）を示す情報を遊技状態格納エリア２０３ｇに格納し（Ｙ２７０３）、大当たり遊技終了後の遊技状態に対応する状態コマンドを設定し（Ｙ２７０７）し、本処理を終了する。

【５１８７】

一方、Ｙ２７０２の処理において、時短リミット到達フラグ２０３ｋｈがオンではないと判別された場合（Ｙ２７０２：Ｎｏ）には、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として時短状態（普通図柄の高確率状態）を示す情報を遊技状態格納エリア２０３ｇに格

納し、（Ｙ２７０４）、図４１０および図４１１に示す大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂに基づき、実行中の大当たり種別に対応する時短回数を時短カウンタ２０３ｈのカウンタ値に設定し（Ｙ２７０５）、設定内容に対応する時短設定情報コマンドを設定し（Ｙ２７０６）、Ｙ２７０７の処理を行う。

【５１８８】

このように、本第１２制御例のパチンコ機１０では、大当たり遊技終了後に連続して時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定可能な上限値を定め、遊技者に有利な状態が連続して設定される回数を制限することで、過剰に賞球を得ることにより遊技者の射幸心を煽ることを抑制することができる。

【５１８９】

なお、本第１２制御例のパチンコ機１０では、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定されない構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される構成としても良い。

【５１９０】

なお、図示しないが、本第１２制御例のパチンコ機１０における第３図柄表示装置８１において実行される演出の内容について説明する。従来のパチンコ機では、特定の結果を示すための特別図柄（例えば、大当たり図柄）が停止表示されたことを契機に、対応する遊技状態が設定されるものが一般的である。例えば、特別図柄が大当たり当選した場合に、大当たり当選したことを示す特別図柄の変動表示中の演出によって、遊技者は大当たり当選ではないかと予測し、特別図柄が停止表示され、大当たり当選であることを示す表示態様が表示されることで遊技者は大当たり当選したことを認識することができる。この場合、特別図柄の停止表示後に異なる遊技状態が設定されることを遊技者が事前に予測することができるため、円滑に遊技状態の変化に対応することができる。

【５１９１】

一方、本第１２制御例のパチンコ機１０では、上述したように、第１特別図柄が時短当選し、その第１特別図柄の変動が開始された場合に、時短当選変動状態が設定される。図４０６に示す通り、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄抽選の始動契機となる第１入球口６４は、遊技球が盤面の左側領域を流下した場合と、右側領域を流下した場合の何れであっても入球可能な位置に配置されているが、第２特別図柄の始動契機となる第２入球口１６４１は、遊技球が盤面の右側領域を流下した場合のみ入球可能な位置に配置されている。

【５１９２】

これにより、例えば、遊技球の盤面の左側領域を流下させて第１入球口６４へ入球させる遊技（所謂、左打ち遊技）を行っている遊技者が時短当選した場合に、時短当選変動状態が設定されているにも関わらず左打ち遊技を継続して行うと、第２特別図柄抽選を実行しないまま時短当選変動状態が終了してしまうという不具合が生起し得る。

【５１９３】

従って、本第１２制御例のパチンコ機１０では、第１特別図柄が時短当選した場合に、その第１特別図柄が停止表示される前に時短当選し、時短当選変動状態中であることを報知する演出を実行する。

【５１９４】

具体的には、第１特別図柄が時短当選した場合に、その第１特別図柄の変動表示が開始されると、所定時間経過した時点（例えば、１０秒経過後）で疑似図柄が停止し、時短当選変動状態が設定されたことを示す表示態様が表示され（例えば、「時短当選変動ゾーン突入」）、遊技者に第２入球口１６４１を狙って遊技球を発射させるために「右打ち」と表示される。

【５１９５】

このように表示されることで、遊技者は時短当選変動状態が設定されたことを認識し、遊技状態に適した遊技方法で遊技を行うことができる。なお、併せて、時短当選変動状態中に第２特別図柄で大当たり（または小当たり）当選または時短当選することで時短Ｂ状

態が設定されることを遊技者に報知する表示を行うと良い。

【５１９６】

また、通常状態において保留されている第１特別図柄の入賞情報（特図１保留）の中に時短当選する入賞情報が存在することを、その入賞情報を先読みした結果判別した場合には、時短当選する第１特別図柄の変動の直前に実行された第１特別図柄の停止表示画面で、次の第１特別図柄の変動において時短当選変動状態が設定されることを報知する構成を加えても良い。つまり、特図１保留が存在する場合には、時短当選変動状態が設定される直前の第１特別図柄の変動において次の変動が時短当選変動状態であることを報知し、特図１保留が存在しない場合には、時短当選変動状態が設定される第１特別図柄の変動の開始から所定時間経過後に時短当選変動状態が設定されていることを報知する構成とする。

【５１９７】

このように、特図１保留が存在しない場合には、時短当選変動が開始されてから時短当選変動状態であることが報知されるまでの変動時間のロスがあるが、特図１保留が存在する場合には、事前に時短当選変動状態が設定されることが報知されるので、時短当選変動が開始されてから時短当選変動状態であることが報知されるまでの変動時間のロスが無くなる。よって、遊技者は、時短当選変動状態における変動時間のロスを無くすために、常に保留を貯めた状態を維持させようと思わせることで、意欲的に遊技を行わせることができる。

【５１９８】

なお、時短当選変動状態における第１特別図柄の変動時間を遊技者に分かり易く報知する構成としても良い。

【５１９９】

以上、説明したように、本第１２制御例は、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成し、両方の特別図柄が大当たりに当選した場合には、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）された側の特別図柄の抽選結果に基づく大当たり遊技を実行し、先に特別図柄変動が停止（特別図柄の確定表示）した時点で大当たり種別によっては、他方の特別図柄変動を抽選結果が外れであることを示す表示態様で強制的に停止表示するように構成している遊技機において、第１特別図柄抽選及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選判定を実行可能に構成している。

【５２００】

そして、上述した第５制御例と同様に各特別図柄変動開始前に時短抽選（時短当選判定）を実行し、時短当選した場合には、特別図柄変動停止タイミングにて時短状態を設定する。この場合、第１特別図柄または第２特別図柄の一方のみが時短当選した場合には、第１特典となる時短状態が設定される。なお、第１特別図柄抽選で時短当選した場合は、第１特典となる時短状態（時短Ａ状態）が設定され、第２特別図柄抽選で時短当選した場合は、第１特典とは異なる第２特典となる時短状態（時短Ｃ）が設定される構成としても良い。

【５２０１】

さらに、時短当選している第１特別図柄変動中に実行された第２特別図柄抽選において、時短当選した場合には、第１特典及び第２特典よりも有利な第３特典が付与される時短状態（時短Ｂ状態）を設定可能に構成している。このように構成することで、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成したパチンコ機１０において、各特別図柄抽選で時短当選するタイミングに応じて異なる特典が付与される時短状態を設定することが可能となる。

【５２０２】

付与される特典については、例えば、第１特典又は第２特典よりも時短終了条件が成立し難い第３特典としても良いし、第１特典又は第２特典よりも特別図柄抽選が実行され易い第３特典としても良い。

【５２０３】

さらに、第３特典の時短状態が設定されるタイミングは、並行して実行されている各特

別図柄変動のうち、先に特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良いし、後に特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良い。また、停止表示タイミングの前後に関わらず、先に実行された特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良いし、後に実行された特別図柄変動が停止表示されたタイミングでも良い。また、特定の特別図柄種別が停止表示されたタイミングでも良い。

【５２０４】

このように構成することで、複数の特別図柄種別の抽選を同時に（並行して）実行可能なパチンコ機１０において各特別図柄の抽選で大当たりに当選してしまい、遊技者に対して同時に過剰な特典（大当たり遊技）が付与されてしまう事態の発生を抑制することができる。

【５２０５】

さらに、一方の特別図柄抽選で遊技者に不利となる大当たりに当選したとしても、その当選結果が停止表示（確定表示）されるまでに、他方の特別図柄抽選で遊技者に有利となる大当たりに当選させることが可能となる。この場合、特別図柄の抽選結果が停止表示されるまでの変動時間を用いて、遊技者に不利当たりに当選したことを示唆する変動演出を実行すると良い。これにより、遊技者に対して不利当たりに当選したのではと思わせることができるため、その変動時間中に他方の特別図柄抽選を意欲的に実行させることができる。

【５２０６】

加えて、遊技者に不利となる大当たりに当選した場合よりも、遊技者に有利となる大当たりに当選したほうが、短い変動時間が設定され易くなるように構成しても良い。これにより、不利当たりに当選した一方の特別図柄の変動中に他方の特別図柄抽選で有利当たりに当選させ、その当選結果を不利当たりの当選結果よりも先に停止表示（確定表示）させることができる。

【５２０７】

なお、本第１２制御例では、時短当選した特別図柄を長変動させ、時短当選変動状態を設定する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、大当たり当選した特別図柄を長変動させて、大当たり当選変動状態を設定し、大当たり当選変動状態中は他方の特別図柄が短変動となる構成とすることで、小当たり遊技による賞球の獲得を可能としても良い。

【５２０８】

＜第１３制御例＞

次に、図４３９から図４６３を参照して、第１３制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の一部構成を変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更した点とで相違している。また、主制御装置１１０のＭＰＵが実行する制御内容と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御内容の一部を変更した点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５２０９】

上述した第５制御例では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）を設定可能に構成し、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技の終了後に、各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させることを可能に構成していた。また、上述した大当たり遊技の終了後、及び、他の終了条件（例えば、特別図柄抽選の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する終了条件）が成立した場合に、各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を高確率状態から低確率状態へと移行させることを可能に構成していた。

【５２１０】
さらに、上述した第５制御例では、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させるための契機として、特別図柄抽選の大当たり当選以外の契機を設け、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選とは異なる抽選結果（外れ）の一部において、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機が成立するように構成していた。
【５２１１】
つまり、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった遊技者に対しても、普通図柄の高確率状態が設定される特典を付与可能に構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、大当たり遊技が実行される抽選結果と、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される抽選結果とを遊技者に別々に提供することができるため、遊技者に対して有利となる抽選結果種別の多様化を図りやすくすることができるものであった。
【５２１２】
しかしながら、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０においても、実行される特別図柄抽選の抽選結果に基づいて特典が付与される性質上、特別図柄抽選が複数回実行されたにも関わらず、何れの特典も付与されないという事態が長時間継続し得るものであり、実行される特別図柄抽選の結果によっては、遊技者の遊技意欲を低下させてしまうという問題があった。
【５２１３】
これに対して、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、特別図柄抽選が実行された回数（特別図柄抽選回数）が所定条件を満たした場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選を実行させる遊技を長時間実行した遊技者に対して、特別図柄抽選の結果に関わらず特典を付与することができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【５２１４】
ここで、特別図柄抽選が実行された回数（特別図柄抽選回数）が所定条件を満たした場合に付与される特典（天井特典）とは、抽選結果が大当たり当選以外（外れ）となる特別図柄抽選が連続して所定回数（例えば、５００回）実行された場合に付与される特典であって、特別図柄抽選を比較的実行させ易くする遊技状態（第３時短状態）が設定されるように構成している。
【５２１５】
つまり、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）における特別図柄抽選において、５００回連続で大当たり当選しなかった場合（ハマリ回数が５００回に到達した場合）に、天井特典が付与され、遊技者に有利となる遊技状態（第３時短状態）が設定されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選において大当たり当選しない遊技が長時間継続している遊技者に対して、遊技を継続させ易くすることができ、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。
【５２１６】
また、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選回数が多いパチンコ機１０（所謂、ハマリ台）であっても、天井特典が付与されることを目的としている新たな遊技者により遊技が実行されるため、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。特に、大当たり当選確率が異なる複数段階の設定値を設定可能に構成されているパチンコ機１０において、大当たり当選確率が比較的低い設定値（低設定）のパチンコ機１０であっても、天井特典が付与されることを目的としている遊技者が継続して遊技を実行し得るため、低設定のパチンコ機１０を設置することによりパチンコ機１０の稼働が著しく低下してしまうことを抑制することができる。
【５２１７】
また、本第１３制御例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている場合の一部、具体的には、時短抽選に当選したことに基づいて設定される時短状態が設定されている場合（第１時短状態）と、で略同一内容の遊技が実行される

ように構成しており、現在設定されている遊技状態が通常状態であるのか第１時短状態であるのかを遊技者に把握させ難くするように構成している。

【５２１８】

そして、天井特典が付与される（第３時短状態が設定される）条件が成立した時点における遊技状態（ハマリ回数が５００回に到達した時点における遊技状態）に応じて、天井特典として付与される特典の内容を異ならせている。具体的には、通常状態が設定されている状態で天井特典が付与されるよりも、第１時短状態が設定されている状態で天井特典が付与される場合のほうが、遊技者に有利な特典（終了し難い第３時短状態）が付与されるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して設定されている遊技状態を予測する楽しみを提供することができる。

【５２１９】

さらに、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、特別図柄抽選が実行される場合において高確率（１／２）で時短当選するように構成されており、時短当選した場合の殆どで、短期間（特別図柄変動１回分）の第１時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、天井特典が付与されるまでの間に、遊技状態として、通常状態と、第１時短状態とが頻繁に切り替わることになる。よって、天井特典が付与される条件が成立した時点における遊技状態を遊技者に予測させ難くすることができる。

【５２２０】

また、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄抽選が実行された場合において、天井特典が付与されるまでの特別図柄抽選の回数が更新される遊技状態（有効遊技状態）と、更新されない遊技状態（無効遊技状態）と、を設定可能に構成している。

【５２２１】

具体的には、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）を設定可能に構成しており、第２確変状態が設定されている場合には、通常状態、及び、第１時短状態と同様の遊技（左打ち遊技）が実行されるように構成している。つまり、遊技者に対して、設定されている遊技状態が通常状態であるか、第１時短状態であるか、第２確変状態であるかを判別させ難くするように構成している。

【５２２２】

そして、第２確変状態が設定されている状態が無効遊技状態となり、第２確変状態中に特別図柄抽選が実行された場合には、天井特典が付与されるまでの特別図柄抽選の回数が更新されないように構成している。

【５２２３】

このように構成することで、左打ち遊技を実行している遊技者（通常状態、第１時短状態、第２確変状態の何れかの遊技を実行している遊技者）に対して、現在が有効遊技状態であるか無効遊技状態であるかを判別させ難くすることができるため、天井特典が付与されるまでに必要となる特別図柄抽選の回数を遊技者に予測させ難くすることができる。また、第２確変状態が設定される期間の長さに応じて、天井特典が付与される条件を満たす特別図柄抽選回数（前回の大当たり遊技が終了してから実行される特別図柄抽選回数）を異ならせることができるため、天井特典が付与される特別図柄抽選回数として同一の回数（例えば、５００回）のみを規定した場合であっても、多様なタイミングで天井特典を付与させることができ、天井特典が付与されることを目指す遊技者に対して、天井特典が付与されるまでの特別図柄抽選回数を予測させる楽しみを提供することができる。

【５２２４】

また、上述した第５制御例では、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させることにより、特別図柄抽選が比較的実行され易い遊技（右打ち遊技）を実行可能に構成していたが、本第１３制御例では、上述した第５制御例にて用いた構成に加え、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させること無く、特別図柄抽選が比較的実行され易い遊技（右打ち遊技）を実行されることが可能に構成している。

【５２２５】

具体的には、天井特典として付与される第３時短状態では、普通図柄の低確率状態を設定したまま、普通図柄の変動時間のみを可変させることにより、特別図柄抽選が比較的実行され易い遊技（右打ち遊技）を実行可能に構成している。つまり、本第１３制御例では、通常状態よりも特別図柄抽選が実行され易い遊技状態として、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（第２時短状態）と、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（第３時短状態）と、を設定可能に構成している。

【５２２６】

このように構成することで、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行するための契機（例えば、大当たり当選）が成立していない状況においても、特別図柄抽選の実行のされ易さを異ならせる（特別図柄抽選が比較的実行され難い状態から、特別図柄抽選が比較的実行され易い状態へと移行させる）ことが可能となるため、遊技者に対して多様なタイミングで特別図柄抽選の実行のされ易さを異ならせた遊技を提供することができる。

【５２２７】

なお、上述した第５制御例では、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合よりも、特別図柄抽選が実行され易い遊技状態として、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（時短状態、確変状態）のみを設定可能に構成していたため、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態を、特別図柄抽選が実行され易い遊技状態（時短状態、右打ち遊技状態）と称していたが、本第１３制御例では、上述した通り、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態の一部（第１時短状態）において、特別図柄抽選の実行のされ易さが通常状態と同一となるように構成し、且つ、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態の一部（第２時短状態）において、通常状態よりも特別図柄抽選を実行させ易くなるように構成している。

【５２２８】

よって、実際に設定されている各図柄の確率状態を説明するのでは無く、単に特別図柄抽選の実行のし易さを説明する際には、普通図柄の確率状態に関わらず、特別図柄抽選の実行のし易さが通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と同一（同程度）となる遊技状態（第１時短状態、第２確変状態）を通常状態、或いは、左打ち遊技状態と称し、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）よりも特別図柄抽選が実行され易い遊技状態（第２時短状態、第３時短状態）を時短状態、或いは、右打ち遊技状態と称して説明をする。

【５２２９】

また、本第１３制御例では、左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２確変状態）中に実行される特別図柄抽選の結果に基づいて、天井特典と同様の特典を付与可能に構成している。具体的には、左打ち遊技状態中に実行される特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部において、他の大当たり当選よりも大当たり遊技が実行される期間（ラウンド遊技数）が短く、且つ、大当たり遊技終了後に、天井特典として付与可能な第３時短状態と同一の時短終了条件（時短回数）が設定される第２時短状態を設定可能に構成している。更に、左打ち遊技状態中に実行される特別図柄抽選で時短当選した場合の一部において、第２時短状態を設定可能に構成し、時短当選に基づいて第２時短状態が設定された場合に、天井特典として付与可能な第３時短状態と同一の時短終了条件（時短回数）を設定可能に構成している。

【５２３０】

このように構成することで、左打ち遊技を実行している遊技者に対して、天井特典の付与条件が成立するよりも前に、天井特典と同等の特典を付与することが可能となるため、天井特典の付与条件を把握させ難くすることができる。また、特別図柄抽選で大当たり当選、或いは、時短当選したことに基づいて第２時短状態が設定される事象を、天井特典の付与条件が成立し第３時短状態が設定されたと遊技者に思わせることができるため、天井特典の付与条件として、少ない特別図柄抽選回数が設定される場合があると思い込んでいる遊技者に対して、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数が

、天井特典の付与条件が成立する特別図柄抽選の回数と乖離している状態であっても、天井特典が付与されることを目指して意欲的に遊技を行わせることができ、遊技の稼働を向上させることができる。

【５２３１】

また、詳細な説明は後述するが、本第１３制御例では、左打ち遊技中において、天井特典の付与条件が成立するまでの残期間（残特別図柄抽選回数）を遊技者に示唆するための示唆演出（天井到達示唆演出）を実行可能に構成している。このように構成することで、天井到達示唆演出の演出結果に基づいて天井特典の付与条件が成立し易い（間もなく成立する）状況であるか否かを遊技者に予測させることが可能となるため、天井特典が付与されることを期待しながら長時間の遊技を行わせ易くすることができる。

【５２３２】

なお、この天井到達示唆演出の演出態様を決定する際には、天井特典の付与条件が成立するまでの情報に加え、上述した天井特典として付与され得る第３時短状態と同様の第２時短状態が設定される条件の成立の有無に関する情報も加味して演出態様が決定されるように構成している。このように構成することで、天井特典として付与され得る第３時短状態と同様の第２時短状態が設定される条件を満たした場合には、天井到達示唆演出として、天井特典の付与条件が成立する可能性が高い状況である場合と同一の演出態様が決定されることになる。よって、特別図柄抽選で大当たり当選、或いは、時短当選したことに基づいて天井特典と同様の第２時短状態が設定される事象を、天井特典の付与条件が成立し第３時短状態が設定されたと遊技者に思わせ易くすることができる。

【５２３３】

＜第１３制御例の演出内容について＞

まず、図４３９から図４４１を参照して、本第１３制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０に対して、特別図柄抽選の実行回数に基づいて遊技者に有利な遊技状態（右打ち遊技状態）を設定可能に構成している。

【５２３４】

具体的には、特別図柄抽選の実行回数が所定回数（５００回）に到達したと判別された場合に、その特別図柄抽選（５００回目の特別図柄抽選）の抽選結果を示すための特別図柄変動が停止表示された後に、救済措置として天井特典を付与可能に構成している。本第１３制御例では、天井特典として、左打ち遊技状態よりも特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）を実行させ易くすることが可能な右打ち遊技状態（第３時短状態）が設定される特典を付与するように構成している。

【５２３５】

そして、左打ち遊技状態（例えば、通常状態や第１時短状態）中において、特別図柄抽選が実行された場合に、天井特典が付与されるまでの期間（特別図柄抽選回数）を遊技者に予測させるための演出として、天井到達示唆演出を実行可能に構成している。このように構成することで、天井到達示唆演出の演出態様を把握することにより、天井特典が付与されるまでの期間（特別図柄抽選回数）を遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。

【５２３６】

また、実際に天井特典が付与されるよりも前に、間もなく天井特典が付与されることを（付与される可能性が高いことを）、遊技者に把握させることができるため、何の前触れも無く天井特典が付与されてしまい、遊技者が天井特典の恩恵を受け難くなる事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【５２３７】

本第１３制御例では、天井到達示唆演出の演出態様として、天井特典が付与される期待度が高い「示唆強」の演出態様と、その「示唆強」の演出態様よりも、天井特典が付与される期待度が低い「示唆弱」の演出態様と、を少なくとも設定可能に構成しており、後述

する天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａ（図４４８参照）を用いて、演出態様が選択されるように構成している。具体的な説明は、図４４８を参照して後述するが、本第１３制御例では、天井到達示唆演出の演出態様を選択する際に、前回の大当たり遊技終了後に実行された特別図柄抽選回数、即ち、抽選結果が大当たり以外（外れ）となる特別図柄抽選が連続して実行された回数（ハマリ回数）と、天井到達示唆演出が実行される変動演出の対象となる特別図柄抽選の結果と、に基づいて演出態様を選択するように構成している。

【５２３８】

このように、ハマリ回数に基づいて演出態様を選択するように構成することで、天井特典が付与されるまでの実際の期間（残ハマリ回数）に基づいて天井到達示唆演出の演出態様を選択することができるため、遊技者に対して信頼度の高い演出を実行することができる。また、本第１３制御例では、特別図柄抽選の結果に基づいて（大当たり抽選、時短抽選の結果に基づいて）天井特典と同様の特典を付与可能に構成しており、天井到達示唆演出の対象となる特別図柄抽選の結果が天井特典と同様の特典を付与する可能性がある場合にも、天井特典が付与される期待度が高い「示唆強」の演出態様が選択され易くなるように構成している。

【５２３９】

このように構成することで、特別図柄抽選の結果に基づいて（大当たり抽選、時短抽選の結果に基づいて）天井特典と同様の特典が付与される場合においても遊技者に対して、天井特典が付与されたと思わせ易くすることができる。よって、予め定められている天井特典の付与条件（特別図柄抽選回数）が成立するタイミングよりも多くのタイミングにて天井特典が付与されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【５２４０】

天井到達示唆演出では、図４３９に示した通り、天井到達後の演出モード（天井中モード）にて表示されるキャラクタが表示画面に表示される演出が実行されるように構成しており、図４３９（ａ）は、天井到達示唆演出の演出態様として、天井特典が付与されるまでの期間が短い場合よりも、長い場合のほうが選択され易い演出態様である「示唆弱」が設定された場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図４３９（ｂ）は、天井到達示唆演出の演出態様として、天井特典が付与されるまでの期間が長い場合よりも、短い場合のほうが選択され易い演出態様である「示唆強」が設定された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５２４１】

「示唆弱」の演出態様が設定された天井到達示唆演出が実行されると、図４３９（ａ）に示した通り、天使を模したキャラクタ８０９が第３図柄表示装置８１の表示画面上を横切る演出が実行される。そして、副表示領域Ｄｓには、天井到達示唆演出が実行されたことを遊技者に案内するための案内態様として「天使発見！天井？・・・」のコメントが表示される。

【５２４２】

ここで、上述した通り、図４３９（ａ）に示した演出態様「示唆弱」は、天井到達示唆演出として設定される演出態様としては天井到達の期待度が低い演出態様であるが、本第１３制御例では、天井到達示唆演出が実行される頻度が、天井特典が付与されるまで（天井到達するまで）の期間が短くなるほど高くなるように構成している。よって、図４３９（ａ）に示した演出態様「示唆弱」であっても、天井到達示唆演出が実行されただけで天井特典が付与されるまでの期間が短いことを遊技者に期待させながら遊技を行わせることができる。

【５２４３】

図４３９（ａ）に示した表示画面は、前回の大当たり遊技終了後から２５０回目の特別図柄抽選の抽選結果を示すための特別図柄変動中の表示画面であって、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数を示すためのハマリ回数報知態様として

小表示領域Ｄｍ７に「２５０回」が表示されている。つまり、本第１３制御例では、左打ち遊技状態が継続している期間における特別図柄抽選回数の累積値（ハマリ回数）を遊技者に把握させ易くするために、ハマリ回数を示す表示態様を表示可能に構成している。

【５２４４】

このように構成することで、実行される天井到達示唆演出の演出態様と、小表示領域Ｄｍ７に表示されているハマリ回数と、に基づいて天井特典が付与されるまでの期間（天井到達までの期間）を遊技者に予測させ易くすることができる。

【５２４５】

また、図４３９（ａ）に示した通り、左打ち遊技状態において、主として実行される第１特別図柄抽選の保留記憶（特図１保留）に対応させた保留アイコンｈｒ１～ｈｒ４が小表示領域Ｄｍ９に表示されるように構成しており、図４３９（ａ）に示した例では、特図１保留を３個獲得している状態（小表示領域Ｄｍ１ａ参照）であるため、小表示領域Ｄｍ９には３個の保留アイコンｈｒ１～ｈｒ３が表示されている。

【５２４６】

一方、天井到達示唆演出の演出態様として「示唆強」が設定された場合には、図４３９（ｂ）に示した通り、「示唆演出弱」よりも遊技者に対して天井到達示唆演出が実行される期待度が高いことを示すための演出が実行される。

【５２４７】

図４３９（ｂ）は、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数が４９９回目となる特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動中の表示画面であって、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数を示すためのハマリ回数報知態様として小表示領域Ｄｍ７に「４９９回」が表示されている。そして、今回実行されている天井到達示唆演出が「示唆強」であることを示すための表示態様として、「示唆弱」のキャラクタ８０９（図４３９（ａ）参照）よりも、豪華なキャラクタ８０９ｚが表示される。このように、天井到達示唆演出の演出態様として、天井特典が付与され易い（されるまでの期間が短い）場合に設定され易い演出態様「示唆強」のほうが、他の演出態様「示唆弱」よりも、見た目上で豪華なキャラクタを表示するように構成することで、天井到達示唆演出が実行された場合に表示されるキャラクタの態様によって、天井特典が付与され易い（されるまでの期間が短い）状況であるか否かを視覚的に判別させ易くすることができる。

【５２４８】

加えて、副表示領域Ｄｓには、今回実行された天井到達示唆演出が「示唆強」であることを遊技者に案内するための案内態様として「大天使だ！天井までもうすぐ」のコメントが表示される。このように構成することにより、天井特典が付与され易い（されるまでの期間が短い）状況であるか否かを遊技者に判別させ易くすることができる。

【５２４９】

また、図４３９（ｂ）に示した表示画面では、特図１保留を２個獲得している状態（小表示領域Ｄｍ１ａ参照）であるため、小表示領域Ｄｍ９には２個の保留アイコンｈｒ１，ｈｒ２が表示されている。

【５２５０】

なお、天井特典が付与されるタイミングが近付いていることを、表示画面の主表示領域Ｄｍにて実行される天井到達示唆演出にて実行するのでは無く、小表示領域Ｄｍ９に表示される保留アイコンの表示態様を可変させることで示唆可能に構成しても良く、例えば、獲得済みの特図１保留のうち、左打ち遊技状態中に消化される特図１保留の範囲を特定する特定手段を設け、その特定手段によって特定された範囲と、それ以外の範囲とで、保留アイコンの表示態様を異ならせたり、表示される保留アイコンの大きさを異ならせたり、表示される領域を異ならせたりするように構成しても良い。

【５２５１】

また、保留アイコンを用いて実行される先読み演出として、大当たり当選する期待度が高い表示態様が、天井特典が付与されるよりも前に実行される第１特別図柄抽選に対応す

る特図１保留の保留アイコンに設定される場合と、天井特典が付与された後に実行される第１特別図柄抽選に対応する特図１保留の保留アイコンに設定される場合と、で異なる表示態様を設定可能に構成しても良い。

【５２５２】

さらに、天井特典が付与される前に大当たり当選する場合と、天井特典が付与された後に大当たり当選する場合とで、大当たり当選に基づいて付与される特典の内容を異ならせるように構成されたパチンコ機１０であれば、大当たり当選に基づいて付与される特典の内容を示唆可能な表示態様で保留アイコンを表示するように構成すると良い。このように構成することで、保留アイコンを用いた先読み演出によって、大当たり当選期待度と、天井特典付与の期待度と、を組合せた情報を遊技者に提供することができる。

【５２５３】

加えて、先読み演出として、天井特典が付与されるタイミングを示唆するための第１示唆態様と、大当たり当選を示唆するための第２示唆態様と、時短抽選による時短当選を示唆するための第３示唆態様と、をそれぞれ保留アイコンの表示態様として設定可能に構成して場合において、１の保留アイコンの表示態様として、上述した２つ以上の示唆態様を組み合わせた組合せ表示態様を表示可能に構成すると良い。また、この場合、異なる組合せに対応する組合せ表示態様として同一（遊技者が識別困難な程度の相違も含む概念）の表示態様を設定可能に構成すると良い。

【５２５４】

このように構成することで、先読み演出として表示された保留アイコンの表示態様に基づいて、後の遊技状況を遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。また、他の表示画面に表示されている各種情報（例えば、スタート回数等）を含めて複合的に遊技状況を判別することにより、先読み演出として表示された保留アイコンの表示態様が示す後の遊技状況を予測する精度を高めることができる。

【５２５５】

次に、天井特典が付与される場合に実行される演出の演出内容について説明をする。図４４０（ａ）は、実行中の特別図柄変動が停止表示した後に天井特典（右打ち遊技状態）が設定される特別図柄変動（天井到達変動）中に表示される表示画面の一例を示した図であって、図４４０（ｂ）は、天井特典として付与された右打ち遊技状態中（天井中モード）に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５２５６】

ここで、本第１３制御例では、左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態）中に大当たり当選すること無く、特別図柄抽選が所定回数（例えば、５００回）実行された場合に、天井特典（右打ち遊技状態）を設定可能に構成している。また、天井特典が設定される場合において設定されている遊技状態（通常状態、又は第１時短状態）に応じて、天井特典の内容（遊技者への有利度合い）を異ならせるように構成している。

【５２５７】

そして、天井特典が付与されることを報知するための天井到達変動演出の演出態様によって、今回付与される天井特典の内容の少なくとも一部を遊技者に報知するように構成している。このように構成することで、天井特典が付与される時点で遊技者に対して天井特典が付与されることを報知するだけで無く、その内容も報知することができるため、分かり易い遊技を提供することができる。

【５２５８】

具体的には、図４４０（ａ）に示した通り、天井到達変動演出が実行されると、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの背景画像として天井中モードに対応する天国背景が表示され、小表示領域Ｄｍ７には天井に到達した（する）ことを示すための表示態様として「天井！？」の文字が表示される。そして、天井到達示唆演出にて表示されたキャラクタ８０９が、天井特典が付与されることを祝福する演出態様で天井到達変動演出が実行される。また、今回の天井特典の内容を報知するための情報「１００」を含む表示態様で宝箱８１０の中身８１０ａが表示される。

【５２５９】
さらに、主表示領域Ｄｍの右下側には、天井特典として右打ち遊技状態（第３時短状態）が設定された後の遊技方法を遊技者に案内するための案内態様として「右打ちしてね」のコメントが表示される。また、副表示領域Ｄｓには、天井特典が付与されることを示唆するための報知態様として、「天井到達！！時短１００ＧＥＴ！！」のコメントが表示される。
【５２６０】
図４４０（ａ）に示した通り、天井特典の付与条件が成立した特別図柄変動の変動期間中に実行される天井到達変動演出では、小表示領域Ｄｍ７に前回の大当たり遊技終了後からの特別図柄抽選回数を示す情報（図４３９（ａ）の小表示領域Ｄｍ７に表示される情報）が表示されないように構成している。このように構成することで、天井到達変動演出が実行された特別図柄抽選回数を遊技者が容易に判別し難くすることができる。よって、天井特典が付与される条件が成立し得る特別図柄抽選回数を把握するためには、天井到達変動演出が実行されるよりも前の特別図柄抽選回数を常に把握する必要があり、遊技者に対して、左打ち遊技状態中においても第３図柄表示装置８１に表示される表示態様に常に興味を持たせ易くすることができる。
【５２６１】
また、上述した天井到達変動演出は、前回の大当たり遊技終了後から実行された特別図柄抽選の抽選回数が天井特典の付与条件が成立する回数（５００回）となった場合だけで無く、天井特典と同様の特典（右打ち遊技状態）が付与される大当たりに当選した場合や、天井特典と同様の特典（右打ち遊技状態）が付与される特定の時短に当選した場合にも実行されるように構成している。
【５２６２】
このように構成することで、遊技者に対して、今回付与される特典が天井特典であるか否かを判別させ難くすることができる。なお、複数の特典付与過程にて図４４０（ａ）に示した天井到達変動演出を実行することで、遊技者に対して、実際に付与される特典の種別を判別させ難くする場合には、特典の種別に応じて実行される天井到達変動演出の演出態様の少なくとも一部を変更するように構成すると良い。このように構成することで実行される天井到達変動演出の演出態様の若干の違いを識別可能な遊技者に対してのみ今回付与される特典の種別を判別させることが可能となる。
【５２６３】
また、実行される天井到達変動演出の演出態様を変えること無く、天井到達変動演出が実行される演出期間、即ち、天井到達変動演出が実行される特別図柄変動の変動時間を異ならせるように構成しても良く、例えば、天井特典が付与されることとなる特別図柄変動の変動時間（外れ当選した特別図柄変動の変動時間）を基本時間（例えば、１０秒）とした場合において、大当たり当選に基づいて天井到達変動演出が実行される場合の特別図柄変動の変動時間（特定の大当たり当選に対応する特別図柄変動の変動時間）が１１秒、時短当選に基づいて天井到達変動演出が実行される場合の特別図柄の変動時間（特定の時短当選に対応する特別図柄変動の変動時間）が１２秒となるように構成しても良い。このように構成することで、同一の演出態様で天井到達変動演出を実行させながら、天井到達変動演出の演出期間を付与される特典の種別に応じて異ならせることができる。よって、天井到達変動演出を実行するための演出データの増加を抑制しながらも、付与される特典の種別に応じて異なる態様の天井到達変動演出を実行させることが可能となるため、実行される天井到達変動演出の若干の違い（演出期間の違い）を識別可能な遊技者に対してのみ今回付与される特典の種別を判別させることが可能となる。
【５２６４】
なお、詳細な説明は省略するが、本第１３制御例では、図４４０（ａ）に示した天井到達変動演出を、天井特典が付与されない場合においても実行可能に構成している。この場合に実行される天井到達変動演出（ガセ天井到達演出）では、図４４０（ａ）に示した表示画面と同様に、天井中モードの背景画像（天国画像）が表示され、キャラクタ８０９が

登場し、宝箱８１０を開放しようとする演出が実行される。そして、宝箱８１０の中から天井特典が付与されないことを示す表示態様（「残念」の文字が付された中身８１０ａ）が表示された後、背景画像が通常の背景画像へと切り替わる演出が実行される。

【５２６５】

このガセ天井到達演出の実行期間のうち、天井特典が付与される場合に実行される天井特典演出と同一の演出態様を用いて演出が実行されている間は、副表示領域Ｄｓにて天井特典が付与される可能性が高いことを示す態様として「天井到達！？」のコメントが表示され、ガセ天井到達演出の演出結果を示す演出が実行されると、副表示領域Ｄｓにて天井特典が付与されないことを示す態様として「残念！！」のコメントが表示される。

【５２６６】

このように、実際に天井特典が付与されることの無い状況にてガセ天井到達演出を実行可能に構成することで、天井到達演出の演出結果として天井特典が付与されないことを示す演出結果を一時的に表示した後に、天井特典が付与されない演出が実行される演出態様（復活演出）が実行される場合において、実行中の天井到達演出が、実際に天井特典が付与されることの無いことを示すガセ天井到達演出であると思わせ易くすることができる。

【５２６７】

上述した通り、本第１３制御例では、天井到達演出（ガセ天井到達演出を含む）が実行された場合であっても、天井特典が付与されることを報知するものでは無く、天井特典が付与される可能性があることを遊技者に示すだけである。よって、図４４０（ａ）に示した第３図柄表示装置８１の表示画面の小表示領域Ｄｍ７には「天井！？」の表示態様、即ち、天井特典が付与される可能性があることを示す表示態様が表示される。換言すれば、図４４０（ａ）に示した第３図柄表示装置８１の表示画面の小表示領域Ｄｍ７に表示される「天井！？」の文字のうち「！？」の文字は、天井特典が付与されることを確定報知するものでは無いことを示す表示態様となる。なお、本制御例、及び、他の制御例においても、表示画面に表示される文字として「！？」が表示される場合には、その文字が付随する対象が確定している状態では無いことを示すものとして用いている。

【５２６８】

また、本第１３制御例では、図４３９（ａ）、及び図４３９（ｂ）に示した通り、左打ち遊技状態中は、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄変動回数（スタート回数）を表示するように構成し、天井特典が付与されるまで（天井特典の付与条件が成立するまで）に必要となる特別図柄変動回数（残変動回数）を表示しないように構成しているが、これに限ること無く、例えば、天井特典が付与されるまでの残変動回数を報知可能に構成しても良い。このように構成することで、天井特典が付与されるまでに必要とされる特別図柄変動回数を把握した上で、遊技を継続するか否かを遊技者に選択させることができる。

【５２６９】

また、天井特典が付与されるまでに必要とされる特別図柄変動回数（残変動回数）に対応した情報（例えば、残り回数）を遊技者に報知可能に構成した場合には、実際の残変動回数とは異なる値に対応した演出用情報（例えば、残り回数よりも多い回数）を表示画面に表示するように構成し、実際に天井特典が付与される時点で表示画面に表示されている演出用情報が、天井特典が付与されるまでに必要とされる残変動回数が０であることを示す演出用情報となるように構成しても良い。

【５２７０】

この場合、例えば、天井特典が付与されるまでの残変動回数が２００回である場合において、表示画面に表示される演出用情報として「残り３００回」の表示態様を表示する。つまり、実際の残変動回数よりも大きい残り回数を演出用情報として表示する。そして、実行される特別図柄変動の変動時間が長い場合や、大当たり当選の期待度が高い演出態様で変動演出が実行された場合や、遊技者が操作手段を操作可能な操作演出が実行され、その操作演出中に遊技者が操作手段を操作した場合といった更新条件が成立したことに基づいて、表示画面に表示されている演出用情報が示す値が、実際の残変動回数に近付くよう

に更新（減算）されるように構成すると良い。

【５２７１】

このように構成することで、演出用情報として表示されている残り回数を、特別図柄抽選の実行回数よりも大きく減算させることが可能となるため、遊技者に対して、実行される演出の演出結果によって、天井特典が付与され易くなった（天井特典が付与されるまでの残変動回数が短縮された）と思わせることが可能となり、演出効果を高めることができる。

【５２７２】

また、演出用情報として表示されている残り回数を、特別図柄抽選の実行回数よりも大きく減算させることが可能に構成することで、天井特典が付与されるよりも前に、特別図柄抽選の結果が、天井特典と同等の特典（第２時短状態）を付与可能な抽選結果（大当たりＣ１３当選、或いは、第２時短状態が設定される時短当選）となる場合に、その特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄が停止表示されるまでに、演出用情報として表示されている残り回数を、天井特典が付与されるまでに必要とされる残変動回数が０であることを示す演出用情報へと大幅に更新（減算）する演出を遊技者に違和感を与えること無く実行させ易くすることができる。

【５２７３】

このように構成することで、天井特典と同等の特典（第２時短状態）が付与される場合に実行される演出の内容と、天井特典が付与される場合に実行される演出の内容とが乖離してしまうことを抑制することがでるため、遊技者に対して、何れの特典が付与されたのかを分かり難くすることができる。よって、様々なタイミング（ハマり回数）で天井特典が付与されると思わせながら遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【５２７４】

次に、天井特典（第３時短状態が設定される右打ち遊技状態）が付与されている期間を示すための天井中モードでは、図４４０（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにてウサギを模したキャラクタ８０１が、天国を飛び回る演出が実行され、現在が天井中モードであることを示すための「天井中」の文字が表示される。そして、遊技者に対して遊技方法を案内するための案内表示態様として、小表示領域Ｄｍ４には「右打ち」の文字が表示され、天井特典が終了するまでの残期間を報知するための残期間表示態様として、小表示領域Ｄｍ７に「ラスト９０回」の文字が表示されている。

【５２７５】

図４４０（ｂ）に示した表示画面は、天井到達変動演出にて天井特典の内容として、時短回数１００回が付与されることを示す「１００」が表示された（図４４０（ａ）参照）後、特別図柄抽選が１０回実行された時点の表示画面であるため、天井特典が付与された時点にて遊技者に報知された天井特典の内容を示す「１００」の値が、特別図柄抽選が実行される毎に減算されていき「９０」が表示されている。

【５２７６】

このように、天井特典が終了するまでの期間（天井中モードが継続する期間）を遊技者に報知することで、天井特典が急に終了してしまうことを抑制することができる。また、本第１３制御例では、左打ち遊技状態が設定されている場合よりも、右打ち遊技状態が設定されている場合の方が、大当たり当選した場合に遊技者に付与される特典（大当たり遊技内容や大当たり遊技終了後に設定される遊技状態）として、遊技者に有利となる有利特典が付与され易くなるように構成している。よって、副表示領域Ｄｓには「今大当たりするといいことあるよ！」のコメントが表示される。

【５２７７】

詳細な説明は後述するが、本第１３制御例では、通常状態や第１時短状態が設定されている左打ち遊技状態と、第３時短状態が設定されている右打ち遊技状態と、では、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が同一（５／１０００）となるように構成しており、通常状態や第１時短状態が設定されている左打ち遊技状態にて、大当たり当選しない特別図柄抽選を連続で５００回実行した場合に天井特典の付与条件が成立し、天井特典として第３

時短状態（右打ち遊技状態）が設定されるように構成している。そして、左打ち遊技状態よりも右打ち遊技状態の方が、大当たり当選時に遊技者に有利となる特典を付与し易くなるように構成している。

【５２７８】

つまり、上述した右打ち遊技状態中において、天井特典が付与されるまでの残期間（残特別図柄抽選回数）が少なくなった場合には、左打ち遊技状態中に実行される特別図柄抽選にて大当たり当選することを期待するのでは無く、特別図柄抽選で大当たり当選しないことを期待しながら遊技を行わせ、右打ち遊技状態が設定された後に特別図柄抽選で大当たり当選することを期待させるという斬新な遊技性を提供することができる。ここで、従来型のパチンコ機１０では、設定されている遊技状態に応じて大当たり当選に基づいて付与される特典に対して有利度合いを異ならせるものはあるが、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、特別図柄抽選で大当たり当選する場合の方が、大当たり当選しない場合よりも特典が付与される点で遊技者に有利となるように構成しているため、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、遊技者に対して特別図柄抽選で大当たり当選を目指すという単調な遊技性を有するものであった。

【５２７９】

これに対して、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、特別図柄抽選の抽選結果では無く、抽選回数に基づいて特典を付与可能に構成している。具体的には、通常状態、或いは第１時短状態が設定されている左打ち遊技状態中に、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選すること無く５００回実行された場合に右打ち遊技状態（第３時短状態）が設定されるように構成している。そして、通常状態、或いは、第１時短状態が設定されている場合よりも、第３時短状態が設定されている状態で大当たり当選した場合のほうが、ラウンド遊技数が多い大当たり遊技が実行され易くなるように構成している。

【５２８０】

このように構成することで、遊技者に対して、通常状態、或いは第１時短状態が設定されている左打ち遊技状態中に実行された特別図柄抽選の回数が５００回に近付いた場合に、実行される特別図柄抽選にて大当たり当選しないことを期待するという斬新な遊技性を提供することができる。つまり、遊技者が特別図柄抽選を実行する遊技期間の一部を、大当たり当選を期待しない特殊期間として設定することが可能となるように構成している。

【５２８１】

よって、遊技者に対して、特別図柄抽選で大当たり当選することを期待する遊技期間と、特別図柄抽選で大当たり当選しない（外れ当選する）ことを期待する遊技期間（特殊期間）と、を提供することができるため、常に大当たり当選を目指す従来型のパチンコ機１０よりも遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【５２８２】

次に、図４４１を参照して、天井中モードの残期間が上乗せされる場合の演出（上乗せ演出）について説明をする。図４４１は、天井中モードの残期間を示すための情報（残回数）表示が加算（上乗せ）される上乗せ演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５２８３】

本第１３制御例では、天井特典が付与される場合に実行される天井到達変動演出（図４４０（ａ）参照）において、今回付与される特典の内容（時短回数）を遊技者に報知可能に構成しているが、天井到達変動演出にて報知される特典の内容（時短回数）は、内部的に設定される時短回数を上限に、専用の選択テーブル（天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂ）を参照して決定するように構成している。

【５２８４】

そして、天井到達変動演出にて報知される特典の内容（時短回数）と、内部的に設定されている時短回数とに差が生じた場合には、天井中モード中に、天井中モードの残期間（図４４０（ｂ）の小表示領域Ｄｍ７に表示される残回数）を増加（上乗せ）する上乗せ演出を実行するように構成している。このように構成することで、天井中モードが設定され

た遊技者に対して、天井中モードが継続する最低限の期間を把握させた状態で安心して遊技を行わせることができると共に、天井中モードが継続する期間が延長されることを期待しながら遊技を行わせることができる。

【５２８５】

さらに、本第１３制御例では、天井特典が付与される時点において設定されている遊技状態に応じて天井特典として付与される特典の内容を異ならせるように構成しており、具体的には、特別図柄変動の開始時における天井特典の付与判定処理が実行されるタイミングにおいて設定されている遊技状態が通常状態である場合には、天井特典として時短回数が１００回の右打ち遊技状態（第３時短状態）が設定され、特別図柄変動の開始時における天井特典の付与判定処理が実行されるタイミングにおいて設定されている遊技状態が第１時短状態である場合には、天井特典として時短回数が３００回の右打ち遊技状態（第３時短状態）が設定されるように構成している。

【５２８６】

つまり、通常状態にて天井特典が付与されるよりも、第１時短状態にて天井特典が付与される場合の方が、遊技者に有利な天井特典が付与されるように構成している。そして、天井到達変動演出にて報知される天井特典の内容（時短回数）として、時短回数が３００回の天井特典が付与された場合において、遊技者に不利となる天井特典の内容（時短回数１００回）を報知可能に構成している。

【５２８７】

このように構成することで、天井到達変動演出が実行された時点において、今回付与された天井特典が遊技者に有利な天井特典（時短回数３００回）であるか、遊技者に不利な天井特典（時短回数１００回）であるかを遊技者に把握させ難くすることができる。なお、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、天井到達変動演出にて報知される天井特典の内容が、実際に設定される天井特典の内容の範囲内となるように構成し、遊技者に対して報知された内容に従って安心して遊技を行わせることを可能にしているが、これに限ること無く、天井到達変動演出にて報知される天井特典の内容（時短回数）を、天井中モードが設定されている期間において減算する減算演出を実行するように構成しても良い。

【５２８８】

例えば、遊技者に不利な天井特典（時短回数１００回）が設定された場合において、天井到達変動演出にて遊技者に有利な天井特典（時短回数３００回）が付与されたことを示すための情報を報知し（小表示領域Ｄｍ７に「３００回」と表示し）、天井中モードにて、小表示領域Ｄｍ７に表示されている情報（残時短回数）を、特別図柄抽選の実行回数よりも多く減算させるように構成しても良い。このように構成することで、何れの天井特典が付与される場合であっても、天井到達変動演出にて遊技者に有利な天井特典（時短回数３００回）が設定された可能性があることを遊技者に把握させることができるため、実際に有利な天井特典が付与されていることに期待しながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【５２８９】

なお、上述した通り、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、通常状態が設定されている場合と、第１時短状態が設定されている場合とで、同一内容の遊技（左打ち遊技）が実行されるように構成しており、左打ち遊技が実行される左打ち遊技状態中は、同一内容の変動演出が実行されるように構成している。つまり、左打ち遊技状態中において設定されている遊技状態を遊技者が識別することが困難となるように構成している。よって、左打ち遊技状態中に天井特典の付与条件が成立した場合には、天井特典として付与される特典の内容（時短回数）が何れであるのかを遊技者に把握させ難くすることができるため、天井到達変動演出にて報知される天井特典の内容に興味を持たせることができる。

【５２９０】

また、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態、及び、第１時短状態が設定されている場合において実行される特別図柄抽選において大当たり当選しなかった場合に、時短当選の判定（時短抽選）を実行するように構成しており、その時短当選の判定

（時短抽選）の結果が当たりである場合には、時短当選した特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が停止表示された後に、大当たり遊技を介すること無く時短状態（第１時短状態、第２時短状態）を設定可能に構成している。

【５２９１】

そして、時短抽選の結果に基づいて第１時短状態が設定された場合には、第１時短状態を終了させるための時短終了条件として、特別図柄変動が１回実行された場合に成立する時短終了条件が設定されるように構成している。

【５２９２】

つまり、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、左打ち遊技状態中において、遊技状態が通常状態と第１時短状態とに頻繁に切り替わるように構成している。このように構成することで、天井特典の付与条件（特別図柄抽選５００回）が成立する時点において設定されている遊技状態を異ならせ易くすることができるため、天井特典として付与される特典の内容（時短回数）を遊技者により分かり難くすることができる。

【５２９３】

図４４１に示した表示画面は、天井特典として遊技者に有利な天井特典（時短回数３００回）が設定された状態で、天井到達変動演出にて遊技者に不利な天井特典（時短回数１００回）に対応する特典の内容を示す表示態様が表示され（図４４０（ａ）参照）、天井中モードにて１００回の特別図柄抽選が実行された（小表示領域Ｄｍ７に表示される残時短回数が１回（ラスト））時点における表示画面であって、小表示領域Ｄｍ７には、天井中モードの最終期間であることを示すための「ラスト」が表示されている。そして、天井中モードの残期間を上乗せさせるための上乗せ演出として、キャラクタ８０９が天井中モードの残期間を延長させるため上乗せ態様８０９ａが表示される演出が実行される。

【５２９４】

図４４１では、上乗せ態様８０９ａとして、天井中モードの残期間が特別図柄抽選２００回分延長されることを示すための「＋２００」が表示されている。そして、上乗せ態様８０９ａが小表示領域Ｄｍ７に向かって移動し、小表示領域Ｄｍ７に表示される残期間が「ラスト２００回」へと可変される上乗せ演出が実行される。そして、副表示領域Ｄｓには、天井中モードが延長することを案内する案内態様と、延長内容を示すための案内態様として「天井延長！！プラス２００回！！」の文字が表示される。

【５２９５】

なお、図４４１に示した例では、天井中モードの最終期間（小表示領域Ｄｍ７に「ラスト」が表示される特別図柄変動期間）において上乗せ演出が実行された場合における表示画面を示しているが、上乗せ演出を天井中モードの最終期間以外に実行しても良く、例えば、天井中モードの残期間として所定期間（例えば、残り時短回数９０回）を示す情報が小表示領域Ｄｍ７に表示されている状態（図４４０（ｂ）参照）にて上乗せ演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、どのタイミングで上乗せ演出が実行されるかを遊技者に予測させ難くすることができるため、天井中モード中に実行される演出に対して継続して興味を持たせることができる。

【５２９６】

また、図４４１に示した通り、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、上乗せ演出として専用の演出が実行されるように構成しているが、上乗せ演出の一部演出態様が他の演出の演出態様と同一となるように構成しても良く、例えば、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出において対象となる特別図柄抽選の結果が外れである場合に、特別図柄抽選の結果が外れであることを示すと共に、天井中モードの残期間が延長されることを示すための情報を含む表示態様を表示させるように構成しても良い。このように構成することで、天井中モード中に実行される各種演出（変動演出等）にて天井中モードの残期間が延長されることを示す演出結果が表示される可能性を残すことができるため、天井中モード中に実行される各種演出に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【５２９７】

さらに、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、天井中モード期間中に天井中モ

ードの残期間を延長させるための上乗せ演出を実行するように構成しているが、天井中モードの終了を示す表示態様が表示された後に、天井中モードが再度設定される復活演出を実行可能に構成しても良い。この場合、例えば、図４４１に示した天井中モードの最終変動演出にて上乗せ演出を実行せずに、一旦、天井中モードの終了を示す終了画面を表示し、左打ち遊技状態が設定されることを示唆する演出（例えば、「左打ちに戻してください」との案内報知が設定された場合に実行される演出の一部演出）を実行した後に、天井中モードが終了していないことを示す演出（「天井中モード突入！！右打ち遊技を継続してください」との案内報知を含む演出）を実行し、天井中モードの残期間を示すための表示態様として小表示領域Ｄｍ７に「残り２００回」を表示するように構成すると良い。

【５２９８】

このように構成することで、天井中モードが単に継続したのでは無く、１の天井中モードが終了した後に、新たな天井中モードが設定されたと遊技者に思わせることができるため、遊技者に対して天井中モードが設定される条件（第３時短状態の付与条件）を分かり難くすることができる。よって、左打ち遊技状態の遊技を実行している遊技者に対して、第３時短状態（右打ち遊技状態）が設定されることを期待させながら継続して遊技を行わせることができる。

【５２９９】

＜第１３制御例における遊技状態の遷移について＞

次に、図４４２を参照して、本第１３制御例における遊技状態の遷移内容について説明をする。図４４２は、本第１３制御例のパチンコ機１０における遊技状態の遷移内容を示した図である。図４４２に示した通り、本第１３制御例におけるパチンコ機１０は、第１特別図柄抽選の実行契機となる第１入球口６４（図２３４参照）へと遊技球を入球させることを目指して遊技盤１３に形成される遊技領域のうち、左側領域（可変表示ユニット８０よりも左側）に向けて遊技球を発射させる左打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となる左打ち遊技状態と、第２特別図柄抽選の実行契機となる第２入球口６４０（図２３４参照）へと遊技球を入球させることを目指して遊技盤１３に形成される遊技領域のうち、右側領域（可変表示ユニット８０よりも右側）に向けて遊技球を発射させる右打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となる右打ち遊技状態と、を設定可能に構成している。

【５３００】

より具体的には、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合は左打ち遊技状態となり、第２時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）、第３時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合は右打ち遊技状態となるように構成している。

【５３０１】

ここで、第１時短状態と、第２時短状態とは、共に、特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態であるが、普通図柄変動の変動時間（普図変動時間）として異なる長さの普図変動時間が設定されるように構成しており、第１時短状態が設定された場合には、普通図柄の低確率状態が設定されている場合よりも高確率で普通図柄抽選にて当たり当選するが、当たり当選に基づいて実行される普図当たり遊技中に遊技球が第２入球口６４０へと入球し難くなるように普図変動時間が規定されている。よって、第１時短状態が設定されている状態では、普通図柄の高確率状態が設定されているにも関わらず、右打ち遊技よりも左打ち遊技の方が遊技者に有利な遊技方法となる。

【５３０２】

また、第３時短状態とは、特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態が設定される遊技状態であるが、普通図柄変動の変動時間として専用の変動時間を設定可能に構成することで、左打ち遊技によって発射された遊技球が第１入球口６４へと入球する割合よりも、右打ち遊技によって発射された遊技球が第２入球口６４０へと入球する割合の方が高くなる遊技状態である。よって、第３時短状態が設定されている状態では、普通図柄の低確

率状態が設定されているにも関わらず、左打ち遊技よりも右打ち遊技の方が遊技者に有利な遊技方法となる。

【５３０３】

まず、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中における遊技内容について説明をする。通常状態は、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させることで第１特別図柄抽選を主として実行させる遊技（特図１遊技）が行われる遊技状態である。通常状態中に第１特別図柄抽選が実行されると、１／２００の確率で大当たり当選し、大当たり当選しなかった場合において１／２の確率で時短当選する特別図柄抽選が実行される。

【５３０４】

通常状態にて実行される第１特別図柄抽選において大当たり当選した場合には、４種類の大当たり種別（大当たりＡ１３、大当たりＢ１３、大当たりＣ１３、大当たりＤ１３）のうち、何れかの大当たり種別が設定されるように構成しており、大当たり種別の選択割合として、大当たりＡ１３が２０％、大当たりＢ１３が３０％、大当たりＣ１３が３０％、大当たりＤ１３が２０％の選択割合となるように規定されている。

【５３０５】

大当たり種別として、大当たりＡ１３が設定された場合には、ラウンド遊技数が１０ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される。大当たりＢ１３が設定された場合には、ラウンド数が１０ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に第２時短状態が設定される。大当たりＣ１３が設定された場合には、ラウンド数が２ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に第２時短状態が設定される。大当たりＤ１３が設定された場合には、ラウンド数が１０ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される。

【５３０６】

一方、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選において大当たり当選すること無く、時短当選した場合には、その第１特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が停止表示された後に時短状態が設定される。本第１３制御例では、特別図柄抽選において時短当選した場合には、２種類の時短種別のうち何れかの時短種別が設定されるように構成しており、第１時短状態が設定される時短種別の選択割合が９９％、第２時短状態が設定される時短種別の選択割合が１％となるように構成している。なお、図４４２に示した図では、遊技状態の主な遷移の流れを示しているため、時短当選した場合には第１時短状態へと移行する流れのみを示しているが、実際には、時短当選時の１％にて第２時短状態へと移行する。

【５３０７】

次に、時短当選した場合において設定される第１時短状態について説明をする。第１時短状態は、上述した通り、特別図柄抽選の低確率状態、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態ではあるが普通図柄の変動時間として、後述する第２時短状態よりも短い変動時間（０．１秒）が設定される変動時間短縮（変短）状態が設定されることにより、右打ち遊技を実行したとしても第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが困難となるように構成している。よって、通常状態と同様に左打ち遊技が右打ち遊技よりも遊技者に有利な遊技状態となる。

【５３０８】

なお、本第１３制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される遊技状態であることから、遊技状態を示す用語としては第１時短状態と称すが、実際には、通常状態と同一の遊技が実行される遊技状態であることから、遊技内容を示すための用語として、通常状態を第１通常モード、第１時短状態を第２通常モードと称す場合もある。

【５３０９】

この第１時短状態は、特別図柄抽選で時短当選した場合にのみ設定される遊技状態であって、時短当選にて第１時短状態が設定された場合には、第１時短状態を終了させるため

の時短終了条件として「時短回数１回」が設定される。なお、第１時短状態中に特別図柄抽選が実行された場合にも、通常状態と同一の時短抽選（時短当選の判定）が実行されるように構成しており、第１時短状態中に時短当選した場合にも、上述した通常状態と同一の選択割合、同一の内容で時短種別が選択されるように構成している。

【５３１０】

つまり、第１時短状態中に実行される１回目の特別図柄抽選の抽選結果が大当たり、時短の何れにも当選しなかった場合には、その抽選結果を示すための特別図柄変動が停止表示された後に時短終了条件が成立し、通常状態が設定される。一方、第１時短状態中に実行される１回目の特別図柄抽選の抽選結果が時短当選である場合には、特別図柄変動が停止表示されたタイミングで新たな第１時短状態が設定されるため、第１時短状態が繰り替えし設定されることになる。よって、第１時短状態が設定されると、特別図柄抽選にて時短当選する限り、第１時短状態における特別図柄抽選が継続し、特別図柄抽選にて時短当選しなかった場合に、通常状態における特別図柄抽選が実行されるように構成している。

【５３１１】

このように構成することで、左打ち遊技状態中において、通常状態と、第１時短状態と、を頻繁に切り替えることが可能となる。また、左打ち遊技が実行される通常状態（第１通常モード）と、第１時短状態（第２通常モード）では、第３図柄表示装置８１を用いて実行される変動演出も同一の演出態様が設定されるように構成している。よって、通常状態と第１時短状態の何れが設定されているかを遊技者に把握させ難くすることができる。

【５３１２】

さらに、本第１３制御例では、通常状態、或いは第１時短状態にて抽選結果が外れとなる特別図柄抽選が連続して実行された回数（ハマリ回数）が５００回に到達した場合に、天井特典として第３時短状態が設定されるように構成している。詳細は後述するが、第３時短状態が設定された場合には、上述した第２時短状態と同様に、第２入球口６４０へと遊技球を入球させる右打ち遊技を行った方が、第１入球口６４へと遊技球を入球させる左打ち遊技を行うよりも遊技者に有利となる右打ち遊技状態となるように構成している。

【５３１３】

加えて、左打ち遊技状態中に実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）が、天井特典が付与される回数に到達した時点で設定されている遊技状態に応じて、天井特典の内容を異ならせるように構成しており、通常状態が設定されている場合よりも、第１時短状態が設定されている場合の方が遊技者に有利となる天井特典が付与されるように構成している。

【５３１４】

つまり、本第１３制御例のパチンコ機１０では、左打ち遊技状態中に通常状態と第１時短状態とが頻繁に切り替わり、且つ、通常状態と第１時短状態の何れが設定されているかを遊技者に把握させ難く構成しているため、天井特典として第３時短状態が設定される場合において、何れの遊技状態（通常状態、第１時短状態）から第３時短状態へと移行したのかを遊技者に把握させ難くすることができる。

【５３１５】

図４４２に戻り、説明を続ける。第１時短状態中に第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合には、上述した通常状態中に第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合と同一の４種類の大当たり種別（大当たりＡ１３、大当たりＢ１３、大当たりＣ１３、大当たりＤ１３）のうち、何れかの大当たり種別が設定されるように構成している。そして、通常状態にて大当たり当選した場合とは異なる選択割合で各大当たり種別が選択されるように構成しており、大当たり種別の選択割合として、大当たりＡ１３が５０％、大当たりＢ１３が２０％、大当たりＣ１３が１０％、大当たりＤ１３が２０％の選択割合となるように規定している。

【５３１６】

本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり当選した場合に設定されている遊技状態と、設定された大当たり種別に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状

態を異ならせるように構成しており、第１時短状態中に大当たり当選し、大当たり種別として、大当たりＡ１３が設定された場合には、大当たり遊技終了後に通常状態が設定され、大当たりＢ１３、及び大当たりＣ１３が設定された場合には、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定され、大当たりＤ１３が設定された場合には、大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定されるように構成している。

【５３１７】

つまり、第１時短状態で大当たり当選した場合は、５０％の割合で大当たり遊技終了後に通常状態が設定され、３０％の割合で大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定され、２０％の割合で大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定されることになる。よって、通常状態で大当たり当選した場合よりも、第１時短状態で大当たり当選した場合の方が、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の面で遊技者に不利な特典が付与されることになる。

【５３１８】

以上、説明をした通り、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態、或いは、第１時短状態が設定されている状態で実行される特別図柄抽選のハマリ回数（外れ当選した特別図柄抽選が連続して実行される回数）が特定回数（５００回）に到達した場合に、天井特典として、左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態）よりも遊技者に有利となる右打ち遊技状態（第３時短状態）を設定可能に構成しており、天井特典が付与される場合に設定されている遊技状態が通常状態である場合よりも、第１時短状態である場合の方が、遊技者に有利となる天井特典（時短終了条件が成立し難い第３時短状態）を設定可能に構成している。一方で、左打ち遊技状態中に実行される特別図柄抽選で大当たり当選した場合に付与される特典（大当たり特典）としては、第１時短状態が設定されている場合よりも、通常状態が設定されている場合の方が、遊技者に有利となる大当たり特典（大当たり遊技終了後に右打ち遊技状態が設定され易い特典）が付与され易くなるように構成している。

【５３１９】

よって、左打ち遊技状態中において設定される遊技状態として、通常状態の方が第１時短状態よりも遊技者に有利となる期間（天井特典が付与されるハマリ回数に到達するまでの期間）と、第１時短状態の方が通常状態よりも遊技者に有利となる期間（天井特典が付与されるハマリ回数に到達した期間）と、が創出されるため、単に何れか一方の遊技状態が設定されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせる場合に比べて、遊技状況に応じて設定されることを期待する遊技状態の種別を異ならせることができる分、遊技の興趣を向上させることができる。

【５３２０】

次に、通常状態にて実行された特別図柄抽選で大当たり当選し、大当たり種別として大当たりＢ１３，Ｃ１３の何れかが設定された場合には、その大当たり遊技の終了後に第２時短状態が設定される。この第２時短状態は、上述した第５制御例のパチンコ機１０において設定される時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と同様に、普通図柄抽選の当たり確率が、普通図柄の低確率状態（通常状態、第２確変状態等）よりも高く設定され、継続して右打ち遊技を実行した場合において、普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと遊技球を容易に入球させることが可能となるように普図変動時間が設定される。

【５３２１】

この第２時短状態は、特別図柄抽選で大当たり当選し、特定の大当たり種別（大当たりＢ１３，Ｃ１３）が設定された場合、或いは、図４４２では図示を省略したが時短抽選にて時短当選した場合の一部（１％）において設定される遊技状態である。なお、本第１３制御例では、第２時短状態が設定されている場合に時短抽選が実行されないように構成している。よって、遊技者に有利となる第２時短状態中に実行される時短抽選にて時短当選し、第２時短状態よりも遊技者に不利となる第１時短状態が設定されてしまうことを抑制することができる。

【５３２２】
本第１３制御例では、第２時短状態の設定契機に応じて、第２時短状態を終了させるための時短終了条件の内容を異ならせて設定可能に構成しており、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に大当たりＢ１３が設定された場合には、時短終了条件として時短１００回が、大当たりＣ１３が設定された場合には、時短終了条件として時短３００回が設定されるように構成している。また、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて第２時短状態が設定される場合には、時短終了条件として時短３００回が設定されるように構成している。
【５３２３】
このように第２時短状態の設定契機に応じて、第２時短状態を終了させるための時短終了条件の内容を異ならせることで、第２時短状態が設定された場合に、いつまで第２時短状態が継続するのかを遊技者に分かり難くすることができる。
【５３２４】
通常状態、或いは、第１時短状態が設定されている状態で実行される特別図柄抽選のハマリ回数（外れ当選した特別図柄抽選が連続して実行される回数）が特定回数（５００回）に到達すると、第３時短状態が設定される。第３時短状態は天井特典として設定される遊技状態であって、特別図柄抽選の結果に基づいて設定されることの無い特殊遊技状態である。
【５３２５】
第３時短状態は、特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態が設定される遊技状態であるが、右打ち遊技をした場合における第２入球口６４０への遊技球の入球割合が上述した第２時短状態と同一になるように構成している。具体的には、本第１３制御例のパチンコ機１０は、普通図柄の低確率状態時における当たり当選確率が、普通図柄の高確率状態時における当たり当選確率に比べて若干低確率となる程度にしか差を設けておらず、且つ、第３時短状態が設定されている状態と、第２時短状態が設定されている状態とで、普通図柄変動の変動時間や、普図当たり遊技中に実行される電動役物の開放動作パターンとが同一に設定されている。よって、第２時短状態が設定されている場合と、第３時短状態が設定されている場合とでは、遊技者に対して同一の遊技（右打ち遊技）が実行されることになる。このように構成することで、右打ち遊技を実行している遊技者に、現在設定されている遊技状態が第２時短状態であるのか第３時短状態であるのかを把握させ難くすることができる。
【５３２６】
上述した通り、本第１３制御例では、通常状態、或いは、第１時短状態において実行された特別図柄抽選において連続して大当たり当選しなかった回数（ハマリ回数）が規定回数（５００回）に到達したことを契機に第３時短状態（右打ち遊技状態）が設定される特典（天井特典）を付与可能に構成している。
【５３２７】
さらに、通常状態、或いは、第１時短状態において実行された特別図柄抽選において大当たり当選した場合の一部（大当たりＣ１３が設定される大当たり当選）にて、他の大当たり当選に比べて少ないラウンド数の大当たり遊技（２ラウンド大当たり）を実行し、その大当たり遊技終了後に第３時短状態と同様の遊技（右打ち遊技）を遊技者に行わせる第２時短状態（右打ち遊技状態）が設定されるように構成している。加えて、通常状態、或いは、第１時短状態にて実行された特別図柄抽選において時短当選した場合の一部（第２時短状態が設定される時短当選）にて、時短当選したことを示すための特別図柄変動が停止表示された後に第３時短状態と同様の遊技（右打ち遊技）を遊技者に行わせる第２時短状態（右打ち遊技状態）が設定されるように構成している。
【５３２８】
つまり、左打ち遊技状態中における特別図柄抽選の実行回数（ハマリ回数）が天井特典の付与条件を満たした場合、或いは、左打ち遊技状態にて実行される特別図柄抽選の結果（大当たり当選の有無、時短当選の有無）が特定の抽選結果である場合に遊技者に有利と

なる右打ち遊技状態を設定可能に構成している。そして、右打ち遊技状態が設定されることを示すための演出として、上述した何れの契機が成立した場合であっても同一内容の演出を実行することで遊技者に対して右打ち遊技状態が設定される契機を把握させ難くすることができるように構成している。

【５３２９】

このように構成することで、右打ち遊技状態を設定するための成立契機に応じて有利度合いの異なる右打ち遊技状態を設定可能に構成したパチンコ機１０において、設定される右打ち遊技状態が遊技者に有利な遊技状態であるかを事前に判別させ難くすることができる。

【５３３０】

＜第１３制御例における電気的構成について＞

次に、図４４３から図４４９を参照して、本第１３制御例における電気的構成について説明をする。本第１３御例では、上述した第５制御例のパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成の一部、ＲＡＭ２０３の構成の一部、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【５３３１】

まず、図４４３から図４４６を参照して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図４４３（ａ）は、本第１３制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図４４３（ａ）に示した通り、本第１３制御例におけるＲＯＭ２０２の構成は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図２４４（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａに代えて第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａを、第２当たり乱数テーブル２０２ｃに代えて第２当たり乱数１３テーブル２０２ｌｃを、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄに代えて大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄを、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに代えて時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅを、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに代えて時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆを設けている点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。

【５３３２】

なお、詳細な説明は省略するが、本第１３制御例におけるパチンコ機１０では、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂに規定されている変動パターン（変動時間）の一部を、上述した第５制御例と異ならせており、第５制御例における変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂが有する通常・第２確変用５テーブル２０２ｄｂ１に代えて、左打ち遊技状態用１３テーブル（図示せず）を設けている。そして、左打ち遊技状態用１３テーブルには、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合、時短当選である場合、大当たりにも時短にも当選していない場合の何れにおいても変動時間が１５秒の特殊変動パターンが選択され得るように変動パターンが規定されている。

【５３３３】

つまり、特別図柄抽選の結果に関わらず、同一の変動時間（１５秒）の変動パターンが選択されるように構成している。このように構成することで、特別図柄が停止表示されるよりも前に設定されている特別図柄変動の変動パターンを特定することにより特別図柄抽選の結果を遊技者に把握されてしまうことを抑制することができる。

【５３３４】

本第１３制御例では、特別図柄変動の変動パターンとして特殊変動パターン（変動時間１５秒）が選択され、選択された変動パターンを示すための情報を含む変動パターンコマンドを音声ランプ制御装置１１３側が受信した場合に、演出期間が１５秒の天井到達示唆演出を実行するように構成している。つまり、天井到達示唆演出は特別図柄変動の変動パターンとして特殊変動パターンが選択された場合に実行される演出となる。

【５３３５】

このように主制御装置１１０から出力された変動パターン種別に対応させた変動演出（天井到達示唆演出）を実行可能とすることで、音声ランプ制御装置１１３側において受信した変動パターンに対応した変動演出を決定するための処理を軽減させることが可能となる。また、天井到達示唆演出が実行される特別図柄変動の変動時間を１５秒に固定することができるため、天井到達示唆演出の演出期間を特別図柄抽選の抽選結果に関わらず１５秒に固定することができる。よって、天井到達示唆演出の演出態様に対応する演出データの量を削減し易くすることができる。

【５３３６】

次に、図４４４（ａ）を参照して、本第１３制御例における第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａについて説明する。図４４４（ａ）は、本第１３制御例における第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａの規定内容を示した図である。

【５３３７】

図４４４（ａ）に示した通り、第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａは、上述した第１当たり乱数５テーブル２０２ｄａ（図２４５（ａ）参照）に対して、大当たり当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値の範囲を異ならせている点で相違している。また、本第９制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を異ならせている。具体的には、上述した第５制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を「０～８９９」の９００個に規定しているが、本第１３制御例では、「０～９９９」の１０００個に規定している。このように構成することで、第１当たり乱数カウンタＣ１の値を参照して決定される各種判定において、より低確率な判定結果を規定することができる。なお、本第１３制御例では、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る範囲を異ならせているだけであり、第１当たり乱数カウンタＣ１の値を更新するための処理や、更新後の値を格納する構成については同一であるためその詳細な説明を省略する。

【５３３８】

具体的には、特別図柄の確率状態が「低確率状態」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～４」の範囲に対して抽選結果「大当たり」が、「５～９９９」の範囲に対して抽選結果「外れ」が規定されており、「高確率状態」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～１９」の範囲に対して抽選結果「大当たり」が、「２０～９９９」の範囲に対して抽選結果「外れ」が規定されている。

【５３３９】

つまり、特別図柄の確率状態が「低確率状態」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値が１０００個に対して、大当たりと判定される値が５個であるため、大当たり当選確率が５／１０００（１／２００）となる。一方、特別図柄の確率状態が「高確率状態」である場合には、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値が１０００個に対して、大当たりと判定される値が２０個であるため、大当たり当選確率が２０／１０００（１／５０）となる。

【５３４０】

次に、図４４４（ｂ）を参照して、本第１３制御例における第２当たり乱数１３テーブル２０２ｌｃについて説明する。図４４４（ｂ）は、第２当たり乱数１３テーブル２０２ｌｃの規定内容を示した図である。この第２当たり乱数１３テーブル２０２ｌｃは、上述した第２当たり乱数テーブル２０２ｃと同様に、普通図柄抽選の抽選結果を決定する際に参照されるデータテーブルであって、第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る値の範囲（０～２９９）に対して、普通図柄の確率状態毎に当たりと判定される値が規定されている。

【５３４１】

具体的には、図４４４（ｂ）に示した通り、普通図柄の確率状態が「低確率状態」である場合には、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が「０～２９８」の範囲に対して抽選結果「当たり」が、「２９９」の値に対して抽選結果「外れ」が規定されており、「高確率状態」である場合には、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が「０～２９９」の範囲、即ち、全範囲に対して抽選結果「当たり」が規定されている。

【５３４２】
つまり、本第１３制御例では、普通図柄の確率状態に関わらず、普通図柄抽選が実行された場合には、その殆どで当たり当選するように構成している。このように構成することで、普通図柄抽選の結果に応じて（普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技の実行有無に応じて）、現在設定されている普通図柄の確率状態が「低確率状態」であるか「高確率状態」であるかを判別させ難くすることができる。
【５３４３】
なお、本第１３制御例では、普通図柄の確率状態に関わらず、普通図柄抽選で当たり当選する確率を高く設定することにより、現在設定されている普通図柄の確率状態が「低確率状態」であるか「高確率状態」であるかを判別させ難くしているが、これに限ること無く、普通図柄の「低確率状態」と、「高確率状態」とで、当たりと判定される第２当たり乱数カウンタＣ４の値の範囲がほぼ同一となるように規定すれば良い。
【５３４４】
また、詳細な説明は省略するが、図４４４（ｂ）に示した通り、本第１３制御例では、普通図柄の「高確率状態」が設定されている場合には、普通図柄抽選で外れ当選すること無く、普通図柄の「低確率状態」が設定されている場合には、普通図柄抽選にて低確率（１／３００）で外れ当選するように構成している。よって、普通図柄抽選にて外れ当選したことを把握することにより、普通図柄の「低確率状態」が設定されていることを把握することが可能となる。このように構成することで、普通図柄抽選の抽選結果が外れとなるか否かについて遊技者に興味を持たせることができる。
【５３４５】
なお、この場合、普通図柄変動の変動パターンとして、普通図柄抽選の結果が外れである場合に設定される変動パターンとして、普通図柄抽選の結果が当たりである場合に設定される変動パターンよりも、変動時間（普通図柄変動時間）が長い変動パターンが設定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、普通図柄抽選で当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技が実行されない期間が長くなるほど、普通図柄の低確率状態が設定されている可能性が高くなるため、普通図柄の確率状態を把握しようとしている遊技者に対して、普図当たり遊技の実行頻度について興味を持たせることができる。
【５３４６】
次に、図４４４（ｃ）を参照して、時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅについて説明をする。この時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅは、特別図柄抽選の結果が大当たり当選以外（外れ）である場合に実行される時短判定（時短抽選）にて参照されるデータテーブルであって、上述した時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅ（図２４５（ｃ）参照）に対して、時短当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（範囲）が規定されている条件（特別図柄種別、遊技状態）を異ならせている点で相違している。
【５３４７】
具体的には、特別図柄種別は「共通」で、遊技状態として、通常状態、或いは、第１時短状態である場合には、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「５００～９９９」の範囲が時短当選の判定値として規定されている。また、遊技状態が通常状態、第１時短状態以外である場合には、時短当選の判定値が規定されていない（図では「－」で表示）。
【５３４８】
ここで、本第１３制御例では、特別図柄抽選において時短当選の判定（時短抽選）が、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった場合、即ち、大当たり抽選で外れ当選した場合に実行されるように構成しており、通常状態、或いは、第１時短状態で特別図柄抽選が実行された場合には、１／２の確率で時短当選するように構成している。つまり、本第１３制御例では、特別図柄の確率状態として低確率状態が設定される遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２時短状態、第３時短状態）のうち、一部の遊技状態において時短抽選にて時短当選し得るように構成している。また、普通図柄の確率状態として高確率状態が設定

される遊技状態（第１時短状態、第２時短状態）のうち、一部の遊技状態において時短抽選にて時短当選し得るように構成している。

【５３４９】

このように、各図柄（特別図柄、普通図柄）に対して設定される確率状態に応じて時短抽選にて時短当選し得るか否かを規定するのでは無く、設定されている遊技状態に応じて時短抽選にて時短当選し得るか否かを規定しているため、遊技者に対して、時短当選し得る特別図柄抽選が実行されているか否かを判別させ難くすることができる。

【５３５０】

さらに、本第１３制御例では、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させる遊技が主な遊技となる左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２確変状態）のうち、一部の左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態）において時短抽選にて時短当選し得るように構成している。そして、左打ち遊技状態のうち第２確変状態が設定されている場合には、時短当選し得ないように構成している。そして、左打ち遊技状態が設定されている場合には、遊技者に対して実際に設定されている遊技状態が判別され難くなるように構成している。よって、左打ち遊技状態中の遊技を実行している遊技者に対して、常に時短抽選が実行されていると思わせ易くすることができる。

【５３５１】

なお、詳細な説明は後述するが、本第１３制御例では、時短抽選にて時短当選し得る遊技状態以外の遊技状態が設定されている場合には、時短抽選（時短当選の判定）が実行されないようにすることで確実に時短当選し得ないように構成しているが、これに限ること無く、何れの遊技状態が実行される場合であっても時短抽選が実行されるように構成し、時短当選し得ない遊技状態に対して、時短抽選の結果として時短当選と判定される判定値を設定しないように構成しても良い。

【５３５２】

次に、図４４５を参照して、本第１３制御例における大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄについて説明する。図４４５は、大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄの規定内容を示した図である。図４４５に示した通り、大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄには、第１特別図柄、第２特別図柄に対して共通の大当たり種別が規定されている。つまり、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、共通のデータテーブルを参照して大当たり種別が選択される。

【５３５３】

本第１３制御例では、大当たり当選した場合に設定される大当たり種別として大当たりＡ１３、大当たりＢ１３、大当たりＣ１３、大当たりＤ１３、大当たりＥ１３の５種類の大当たり種別が設けられており、大当たり当選した時点で設定されている遊技状態に応じて、各大当たり種別の選択割合を異ならせている。また、大当たり当選時の遊技状態に応じて、同一の大当たり種別が設定された場合における時短カウンタ２０３ｈの値、及び、時短状態の種別を異ならせている。

【５３５４】

具体的には、図４４５に示した通り、大当たり当選時の遊技状態が「通常状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、「大当たりＡ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として通常状態が設定される大当たり種別（１０ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ１３」となるカウンタ値は２０個なので、通常状態における特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３５５】

大当たり当選時の遊技状態が「通常状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、「大当たりＢ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＢ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技

状態として第２時短状態（時短１００回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＢ１３」となるカウンタ値は３０個なので、通常状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ１３」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【５３５６】

また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～７９」の範囲には、「大当たりＣ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＣ１３」は、ラウンド数が２ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態（時短３００回）が設定される大当たり種別（２ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＣ１３」となるカウンタ値は３０個なので、通常状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ１３」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【５３５７】

そして、大当たり当選時の遊技状態が「通常状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲には、「大当たりＤ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＤ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２確変状態（確変３０回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＤ１３」となるカウンタ値は２０個なので、通常状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＤ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３５８】

つまり、通常状態における特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり遊技終了後に左打ち遊技状態（通常状態、第２確変状態）が設定される割合が４０％、右打ち遊技状態（第２時短状態）が設定される割合が６０％となる。また、大当たり遊技終了後に左打ち遊技状態が設定される大当たり種別（大当たりＡ１３、大当たりＤ１３）は、何れも同一内容の大当たり遊技（１０ラウンド大当たり遊技）が実行されるため、大当たり遊技終了後に左打ち遊技状態が設定された場合に、通常状態、第２確変状態の何れが設定されているのかを分かり難くすることができる。

【５３５９】

また、大当たりＣ１３が決定された場合には、他の大当たり種別に対応する大当たり遊技よりも少ないラウンド数（２ラウンド）の大当たり遊技が実行され、遊技者に対して大当たり遊技が実行される（されている）ことを把握させ難くなるように構成している。詳細な説明は省略するが、大当たりＣ１３が設定される大当たりに当選した場合には、他の大当たり種別が設定される大当たりに当選した場合に比べて、大当たり当選したことを遊技者に把握させ難い演出態様で変動演出が実行されるように構成している。具体的には、天井特典が付与される際に実行される天井到達示唆演出が実行されるように構成している。

【５３６０】

このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部、即ち、大当たり種別として大当たりＣ１３が設定される大当たりに当選した場合には、大当たり当選したのでは無く、天井特典が付与される遊技状況であると遊技者に思わせ易くすることができる。よって、大当たりＣ１３が設定される大当たりに当選することで、予め定められている天井特典の付与条件（ハマリ回数５００回）を成立させること無く、天井特典と同等の特典（時短３００回）を遊技者に付与することができるため、遊技者に対して、天井特典が付与されるタイミングを予測させ難くすることができる。これにより、左打ち遊技状態中において、天井特典が付与される付与条件として、異なるハマリ回数が設定され得ると思わせることが可能となり、天井特典が付与されることを期待させながら継続して遊技を行わせることができる。

【５３６１】
　また、大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定された場合には、第２確変状態が終了し、通常状態へと移行するまでの間（確変カウンタ２０３ｉの値が０になるまでの間）、時短抽選が実行されず、且つ、特別図柄抽選が実行されたとしても、天井特典を付与させるためのハマリ回数が加算されないように構成している。つまり、第２確変状態が設定される場合は、大当たり遊技終了後に５３０回の特別図柄抽選が実行された時点でハマり回数が５００回に到達し、天井特典が付与されることになるため、天井特典付与の観点からは、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される場合よりも遊技者に不利となる。
【５３６２】
　また、第２確変状態が設定されている期間は、時短当選の判定（時短抽選）が実行されないため、時短抽選が実行される通常状態が設定されている期間に対して、時短当選した場合の一部（０．１％）にて第２時短状態（時短３００回）が設定されることを目指す遊技が実行されない分、第２時短状態設定の観点からは遊技者に不利な遊技状態となる。
【５３６３】
　一方で、第２確変状態中は特別図柄の高確率状態が設定されるため、第２確変状態中に実行される特別図柄抽選は１／５０の確率で大当たり当選することになる。よって、第２確変状態が設定されている期間は、通常状態が設定されている場合よりも特別図柄抽選で大当たり当選を目指す観点では遊技者に有利な遊技状態となる。
【５３６４】
　次に、図４４５に示した通り、大当たり当選時の遊技状態が「第１時短状態（第２通常モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲には、「大当たりＡ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として通常状態が設定される大当たり種別（１０ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ１３」となるカウンタ値は５０個なので、第１時短状態における特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ１３」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。
【５３６５】
　大当たり当選時の遊技状態が「第１時短状態（第２通常モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～６９」の範囲には、「大当たりＢ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＢ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第１時短状態（時短１００回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＢ１３」となるカウンタ値は２０個なので、第１時短状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。
【５３６６】
　また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「７０～７９」の範囲には、「大当たりＣ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＣ１３」は、ラウンド数が２ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第１時短状態（時短３００回）が設定される大当たり種別（２ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＣ１３」となるカウンタ値は１０個なので、第１時短状態（第２通常モード）における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ１３」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。
【５３６７】
　そして、大当たり当選時の遊技状態が「第１時短状態（第２通常モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲には、「大当たりＤ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＤ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２確変状態（確変３０回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得

る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＤ１３」となるカウンタ値は２０個なので、第１時短状態（第２通常モード）における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＤ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３６８】

つまり、第１時短状態（第２通常モード）における特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり遊技終了後に左打ち遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２確変状態）が設定される割合が１００％となる。よって、第１時短状態（第２通常モード）中は、大当たり当選した場合であっても、その大当たり遊技終了後に、特別図柄抽選を左打ち遊技状態よりも実行させ易い右打ち遊技状態が設定されないため、通常状態よりも遊技者に不利な遊技状態となる。

【５３６９】

また、上述した通り、通常状態では、大当たりＣ１３が設定される大当たりに当選した場合に第２時短状態が設定されるため、天井特典の付与条件が成立していない状況であっても、天井特典と同等の特典（時短３００回の第２時短状態）を遊技者に付与可能であったのに対して、第１時短状態では、大当たりＣ１３が設定される大当たりに当選した場合であっても、第２時短状態では無く、第１時短状態が設定されるため、大当たり当選に基づいて天井特典と同等の特典（時短３００回の第２時短状態）を遊技者に付与することができない。

【５３７０】

次に、大当たり当選時の遊技状態が「第２時短状態（時短モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９」の範囲には、「大当たりＡ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として通常状態が設定される大当たり種別（１０ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ１３」となるカウンタ値は１０個なので、第２時短状態における特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ１３」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。

【５３７１】

大当たり当選時の遊技状態が「第２時短状態（時短モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１０～５９」の範囲には、「大当たりＢ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＢ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態（時短１００回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＢ１３」となるカウンタ値は５０個なので、第２時短状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ１３」が決定される割合は５０％（５０／１００）である。

【５３７２】

また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「６０～７９」の範囲には、「大当たりＣ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＣ１３」は、ラウンド数が２ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態（時短３００回）が設定される大当たり種別（２ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＣ１３」となるカウンタ値は２０個なので、第２時短状態（時短モード）における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３７３】

そして、大当たり当選時の遊技状態が「第２時短状態（時短モード）」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲には、「大当たりＤ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＤ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２確変状態（確変３０回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１

００個のカウンタ値のうち、「大当たりＤ１３」となるカウンタ値は２０個なので、第２時短状態（時短モード）における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＤ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３７４】

つまり、第２時短状態中に実行された特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり遊技終了後に左打ち遊技状態（通常状態、第２確変状態）が設定される割合が３０％、右打ち遊技状態（第２時短状態）が設定される割合が７０％となる。また、大当たり遊技終了後に普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定される場合には、第１時短状態（特別図柄抽選の実行のし易さが通常状態と同程度の時短状態）では無く、第２時短状態（特別図柄抽選の実行のし易さが通常状態よりも高い時短状態）が必ず設定される。

【５３７５】

よって、第２時短状態は、上述した通常状態、及び、第１時短状態よりも、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に遊技者に有利な特典が付与され易い遊技状態となる。

【５３７６】

次に、大当たり当選時の遊技状態が「第２確変状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲には、「大当たりＡ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＡ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として通常状態が設定される大当たり種別（１０ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＡ１３」となるカウンタ値は３０個なので、第２確変状態における特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ１３」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【５３７７】

大当たり当選時の遊技状態が「第２確変状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～４９」の範囲には、「大当たりＢ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＢ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態（時短１００回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＢ１３」となるカウンタ値は２０個なので、第２確変状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ１３」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【５３７８】

また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～７９」の範囲には、「大当たりＣ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＣ１３」は、ラウンド数が２ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２時短状態（時短３００回）が設定される大当たり種別（２ラウンド時短大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＣ１３」となるカウンタ値は３０個なので、第２確変状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ１３」が決定される割合は３０％（３０／１００）である。

【５３７９】

そして、大当たり当選時の遊技状態が「第２確変状態」に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～８９」の範囲には、「大当たりＤ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＤ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２確変状態（確変３０回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＤ１３」となるカウンタ値は１０個なので、第２確変状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＤ１３」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。

【５３８０】

さらに、大当たり当選時の遊技状態が「第２確変状態」に対して、第１当たり種別カウ

ンタＣ２の値が「９０～９９」の範囲には、「大当たりＥ１３」が対応付けられて規定されている。この「大当たりＥ１３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり遊技終了後の遊技状態として第２確変状態（確変１００回）が設定される大当たり種別（１０ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値のうち、「大当たりＥ１３」となるカウンタ値は１０個なので、第２確変状態における特別図柄抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＥ１３」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。

【５３８１】

上述した通り、第２確変状態が設定されている場合に大当たり当選した場合に、大当たり遊技終了後に第２確変状態が設定される大当たり種別を複数選択可能に構成されており、選択された大当たり種別に応じて、確変回数（第２確変状態が継続する期間の長さ）を異ならせるように構成している。上述した通り、第２確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数は、天井特典を付与させるためのハマリ回数の値に加算されないため、第２確変状態が継続する期間の長さに応じて、前回の大当たり遊技終了後から天井特典が付与されるまでの期間（特別図柄抽選回数）を異ならせることができる。よって、遊技者に対して、天井特典が付与されるまでの特別図柄抽選の残期間を容易に把握させ難くすることができる。

【５３８２】

なお、図４４５に示した通り、本第１３制御例では、第２確変状態が設定されている場合にのみ、確変回数（確変カウンタ２０３ｉに設定される値）を異ならせた第２確変状態が設定される大当たり（大当たりＤ１３、大当たりＥ１３）に当選し得るように構成しているが、これに限ること無く、他の遊技状態が設定されている状態で大当たり当選した場合においても、異なる確変回数が設定される大当たり種別を設定可能に構成しても良い。

【５３８３】

また、本第１３制御例では、第２確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数は、天井特典を付与させるためのハマリ回数の値に加算されないように構成しているが、実行された特別図柄抽選の回数が、天井特典を付与させるためのハマリ回数の値に加算されない遊技状態として他の遊技状態を設定可能に構成しても良く、例えば、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選の回数がハマリ回数の値に加算されないように構成しても良い。

【５３８４】

このように構成することで、大当たり当選すること無く実行される複数回の特別図柄抽選にて時短当選し第１時短状態が設定されるほど、天井特典の付与条件を成立させ難くすることができる。また、本第１３制御例では、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態（第２確変状態）中に実行される特別図柄抽選の回数が天井特典を付与させるためのハマリ回数の値に加算されないように構成しているため、予め定められている第２確変状態が継続する期間（確変カウンタ２０３ｉの値が０になるまでの期間）分、天井特典が付与されるタイミングを遅らせることが可能となるが、予め定められた期間（第２確変状態が継続する期間）しか天井特典が付与されるタイミングを遅らせることが出来ないため、長時間パチンコ機１０を遊技している遊技者に対して、天井特典が付与されるタイミングを予測され易くなるという問題があった。

【５３８５】

これに対して、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選の回数がハマリ回数の値に加算されないように構成した場合には、通常状態、或いは、第１時短状態中に実行された時短抽選の結果に応じて、大当たり遊技が終了してから天井特典の付与条件が成立するハマリ回数に到達するまでの間に、第１時短状態が設定される期間の長さを異ならせることができるため、ハマリ回数の値に更新されない特別図柄抽選の実行回数が予め定められた回数では無く、時短抽選の結果に応じて可変させることが可能となる。よって、天井特典が付与されるタイミングを遊技者に予測させ難くすることができる。

【５３８６】

次に、図４４６（ａ）を参照して、時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆの内容につい

て説明をする。図４４６（ａ）は、時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆに規定されている内容を示した図である。この時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆは、大当たり当選に基づくこと無く時短状態が設定される場合、具体的には、時短抽選にて時短当選した場合や、天井特典の付与条件が成立した場合において、設定される時短状態の種別（第１時短状態～第３時短状態）の決定する際に参照されるデータテーブルであって、時短当選した場合における時短種別を決定する際に参照される時短当選用１３テーブル２０２ｌｆ１と、天井用１３テーブル２０２ｌｆ２とが規定されている。

【５３８７】

ここで、時短当選時に参照される時短当選用１３テーブル２０２ｌｆ１に規定されている内容について、図４４６（ｂ）を参照して説明をする。図４４６（ｂ）は、時短当選用１３テーブル２０２ｌｆ１に規定されている内容を示すための図である。図４４６（ｂ）に示した通り、時短当選用１３テーブル２０２ｌｆ１には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対して異なる時短種別が規定されている。具体的には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９９８」の範囲に対して時短種別「第１時短」が規定されており、「９９９」の範囲に対して時短種別「第２時短」が規定されている。そして、「第１時短」が選択された場合には第１時短状態が設定され、その第１時短状態の時短終了条件として、時短カウンタ２０３ｈの値に「１」が設定される時短終了条件が規定されている。また、「第２時短」が選択された場合には第２時短状態が設定され、その第２時短状態の時短終了条件として、時短カウンタ２０３ｈの値に「３００」が設定される時短終了条件が規定されている。

【５３８８】

つまり、時短当選した場合に第１時短状態が設定される割合が９９．９％となり、時短当選した場合に第２時短状態が設定される割合が０．１％となるように構成している。そして、時短当選に基づいて、第１時短状態が設定された場合には、特別図柄抽選が１回実行された時点で時短終了条件が成立する。ここで、本第１３制御例では、第１時短状態中も時短抽選を実行可能に構成しているため、第１時短状態が設定された状態で実行される特別図柄抽選にて時短当選した場合には、新たな時短状態が設定されることになる。よって、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選にて時短当選し、時短種別として「第１時短」が設定された場合には、特別図柄変動が停止表示した後に第１時短状態が設定されるため、時短終了条件として時短１回（時短カウンタ２０３ｈの値が「１」）が設定される第１時短状態にて連続して特別図柄抽選が実行される。

【５３８９】

一方、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選にて時短当選しなかった場合には、その特別図柄変動が停止表示した時点で第１時短状態が終了し、通常状態が設定されることになる。よって、次の特別図柄抽選が通常状態にて実行されることになる。

【５３９０】

このように構成することで、大当たり当選すること無く特別図柄抽選を連続して実行する左打ち遊技期間（ハマリ期間）において、通常状態と第１時短状態とを頻繁に切り替えながら遊技者に遊技を行わせることができる。また、１回の時短抽選の結果だけで無く、連続して実行される複数回（２回）の時短抽選の結果に応じて、特別図柄抽選が実行される遊技状態が切り替わるように構成しているため、連続して実行される複数回の特別図柄抽選に興味を持たせることができる。

【５３９１】

次に、図４４６（ｃ）を参照して、天井特典が付与される際（第３時短状態が設定される際）における時短種別を決定する際に参照される天井用１３テーブル２０２ｌｆ２の内容について説明をする。図４４６（ｃ）は、天井用１３テーブル２０２ｌｆ２に規定されている内容を示した図である。この天井用１３テーブル２０２ｌｆ２は、時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆが有するデータテーブルであって、天井特典の付与条件が成立した場合に、今回設定される時短種別（時短回数）を決定するために参照される。

【５３９２】

図４４６（ｃ）に示した通り、天井用１３テーブル２０２ｌｆ２には、天井到達時（天井特典の付与条件成立時）における遊技状態に応じて異なる内容の天井特典（時短回数）が規定されており、具体的には、天井到達時の遊技状態が通常状態である場合には、時短カウンタ２０３ｈの値として「１００」が、天井到達時の遊技状態が第１時短状態である場合には、時短カウンタ２０３ｈの値として「３００」がそれぞれ規定されている。なお、天井特典の付与条件が成立した場合には、普通図柄の高確率状態が設定されること無く普通図柄の低確率状態が設定されたまま右打ち遊技状態となる第３時短状態が設定される。

【５３９３】

つまり、特別図柄抽選の実行回数に基づいて左打ち遊技状態よりも遊技者に特別図柄抽選を実行させ易くする右打ち遊技状態を設定する場合には、各種図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を可変させること無く右打ち遊技状態を設定することができる。よって、特別図柄抽選の結果（大当たり抽選の結果、時短抽選の結果）に基づくこと無く各種図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を可変させる処理を実行するための処理負荷を軽減することができる。

【５３９４】

なお、本第１３制御例では、上述した通り、天井特典の付与条件が成立した場合には、各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を可変させること無く、遊技者に特典を付与可能に構成しているが、これに限ること無く、天井特典の付与条件が成立したことに基づいて各図柄（特別図柄、普通図柄）の確率状態を可変させる（遊技者に不利な確率状態から遊技者に有利な確率状態へと可変させる）特典を付与するように構成しても良い。

【５３９５】

この場合、天井特典の付与条件が成立した場合に、第３時短状態では無く、第２時短状態が設定されるように構成すると良い。これにより、右打ち遊技状態中に設定される遊技状態を第２時短状態のみとすることができるため、遊技状態を管理するための処理を簡素化することができる。

【５３９６】

次に、図４４３（ｂ）を参照して、本第１３制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図４４３（ｂ）は、本第１３制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成を示した図である。図４４３（ｂ）に示した通り、上述した第５制御例におけるＲＡＭ２０３（図２４４（ｂ）参照）に対して、特図抽選カウンタ２０３ｌａ、第１天井待機フラグ２０３ｌｂ、第２天井待機フラグ２０３ｌｃを追加した点で相違している。それ以外は同一であり、同一の内容には同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５３９７】

特図抽選カウンタ２０３ｌａは、特別図柄の低確率状態中に実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）を計測するためのカウンタであって、天井特典特別図柄抽選の実行回数が天井特典の付与条件を満たしているか否かを判別する際にカウンタ値が参照される。

【５３９８】

具体的には、特別図柄変動処理１３（図４５０のＳ３０１０４参照）の特別図柄判定処理１３（図４５１のＳ３０２５１参照）にて実行される天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）にて特別図柄の低確率状態が設定されていると判別された場合（図４５２のＳ３８１０２：Ｙｅｓ）、即ち、特別図柄の低確率状態中に特別図柄抽選（特別図柄変動）が開始される場合に、カウンタの値が１加算される（図４５２のＳ３８１０３）。そして、特別図柄抽選の結果が大当たり当選であることを示すための態様で特別図柄が停止表示される場合（図４５０のＳ２１７：Ｙｅｓ）、或いは、天井特典が付与される場合（図４５５のＳ３８３５１：Ｙｅｓ、或いは、図４５５のＳ３８３５８：Ｙｅｓ）に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が０にクリアされる。

【５３９９】

本第１３制御例では、天井特典の付与条件が成立したか否かを判別する際に、特別図柄

の低確率状態中に実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）を参照するように構成しており、特別図柄の低確率状態中に実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）が５００回に到達した場合に天井特典が付与されるように構成している。特図抽選カウンタ２０３ｌａの値は、上述した通り、実行された特別図柄抽選の回数と同期するのでは無く、ハマリ回数と同期してカウンタの値が加算されるように構成している。

【５４００】

なお、本第１３制御例では、特別図柄の低確率状態中に実行された特別図柄抽選の回数をハマリ回数として加算するように構成しているが、天井特典の付与条件として既定されるハマリ回数を加算させる条件を異ならせても良く、例えば、複数の特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）のうち、特定の特別図柄種別（第１特別図柄）に対する特別図柄抽選が実行される場合にのみ特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を加算（ハマリ回数を加算）させるように構成しても良いし、特定の遊技状態（例えば、通常状態）が設定されている状態で特別図柄抽選が実行された場合の方が、他の遊技状態（例えば、第１時短状態）が設定されている状態で特別図柄抽選が実行された場合よりも、１の特別図柄抽選が実行されることに基づいて加算される特図抽選カウンタ２０３ｌａの値（ハマリ回数）が多くなるように構成しても良い。このように構成することで、天井特典が付与されるまでに必要となる特別図柄抽選の残実行回数（残ハマリ回数）を遊技者により把握させ難くすることができる。

【５４０１】

さらに、本第１３制御例では、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を加算させる条件のみを規定しており、大当たり当選した場合（天井特典の付与条件がクリアされた場合）、天井特典が付与された場合に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を０にクリアするように構成している。よって、ハマリ回数が５００回に到達し、天井特典として第３時短状態（時短１００回、又は３００回）が設定される際に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が０にクリアされ、その後、第３時短状態にて特別図柄抽選が実行される毎に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が加算されるように構成している。よって、天井特典として第３時短状態が設定されてから、再度、ハマリ回数が５００回に到達した場合、即ち、前回の大当たり遊技が終了してからのハマリ回数が１０００回に到達した場合には、２回目の天井特典が付与されるように構成している。

【５４０２】

このように構成することで、天井特典として付与された第３時短状態が設定されている期間においても大当たり当選しなかった遊技者に対して、再度、天井特典を付与可能とすることができる。また、本第１３制御例では、天井特典が付与されるタイミングにて特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が０にクリアされるため、時短回数１００回の第３時短状態が設定された場合には、その第３時短状態が終了した時点で特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が１００となり、時短回数３００回の第３時短状態が設定された場合には、その第３時短状態が終了した時点で特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が３００となる。よって、２回目の天井特典を目指す遊技を行う場合には、１回目の天井特典を目指す遊技よりも左打ち遊技状態にて実行させる特別図柄抽選の回数を少なくし易くすることができる。

【５４０３】

なお、本第１３制御例では、天井特典が付与されるハマリ回数を５００回に規定しており、２回目以降の天井特典に対してもハマリ回数が５００回に到達した場合に天井特典の付与条件が成立するように構成しているが、これに限ること無く、ハマリ回数が５００回に到達した場合に１回目の天井特典が付与され、次に、１回目の天井特典が付与されてからのハマリ回数が３００回に到達した場合、即ち、前回の大当たり遊技が終了してからのハマリ回数が８００回に到達した場合に、２回目の天井特典が付与されるように構成しても良い。

【５４０４】

このように構成することで、例えば、１回目の天井特典として時短回数３００回の第３時短状態が設定された場合には、その第３時短状態の終了条件（３００回の特別図柄抽選

）が成立した直後に２回目の天井特典を付与することが可能となり、継続して第３時短状態を設定することができ、遊技者に継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【５４０５】

また、本第１３制御例では、特別図柄抽選が実行された場合に、設定されている遊技状態に応じて、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を加算する、或いは加算しない処理が実行されるように構成しているが、これに加えて、実行される特別図柄抽選が特定条件を満たした場合に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を減算する処理を実行可能に構成しても良い。

【５４０６】

第１天井待機フラグ２０３ｌｂは、通常状態が設定されている状態で天井特典の付与条件が成立したことを示すためのフラグであって、天井特典の付与条件が成立した場合（特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達した場合）にオンに設定される。そして、特別図柄変動を停止表示する際に実行される時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４）において、第１天井待機フラグ２０３ｌｂの設定状況が判別され（図４５５のＳ３８３５１）、オンに設定されていると判別した場合は（図４５５のＳ３８３５１：Ｙｅｓ）、天井特典の内容として、天井特典の付与条件が成立した時点の遊技状態が通常状態である場合に対応する特典（時短１００回）が付与され（図４５５のＳ３８３５２）、その後、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオフに設定される。

【５４０７】

第２天井待機フラグ２０３ｌｃは、第１時短状態が設定されている状態で天井特典の付与条件が成立したことを示すためのフラグであって、天井特典の付与条件が成立した場合（特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達した場合）にオンに設定される。そして、特別図柄変動を停止表示する際に実行される時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４）において、第２天井待機フラグ２０３ｌｃの設定状況が判別され（図４５５のＳ３８３５８）、オンに設定されていると判別した場合は（図４５５のＳ３８３５８：Ｙｅｓ）、天井特典の内容として、天井特典の付与条件が成立した時点の遊技状態が第１時短状態である場合に対応する特典（時短３００回）が付与され（図４５５のＳ３８３５９）、その後、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオフに設定される。

【５４０８】

本第１３制御例では、天井特典の付与条件が成立したか否かを判別する処理（天井判定処理）を、特別図柄変動の開始タイミングにて実行し、実際に天井特典を付与する処理（時短設定処理）を、特別図柄変動の停止タイミングにて実行するように構成している。そして、特別図柄変動の開始タイミングにて実行された天井判定処理の結果を、第１天井待機フラグ２０３ｌｂ、或いは第２天井待機フラグ２０３ｌｃの設定状況に基づいて、特別図柄変動の停止タイミングにて実行される時短設定処理にて判別可能に構成している。

【５４０９】

このように構成することで、例えば、特別図柄変動の実行期間中に遊技状態が切り替わる遊技性を有するパチンコ機１０や、天井判定処理が実行されてから特別図柄変動が開始されるまでの間に遊技状態が切り替わる遊技性を有するパチンコ機１０や、特別図柄変動が停止表示されてから時短設定処理が実行されるまでの間に遊技状態が切り替わる遊技性を有するパチンコ機１０を用いた場合であったとしても、適正な天井特典を付与することができる。

【５４１０】

次に、図４４７から図４４９を参照して、本第１３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有する電気的構成の内容について、上述した第５制御例と相違する点を中心に説明する。なお、上述した第５制御例と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【５４１１】

まず、図４４７（ａ）を参照して、本第１３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図４４７（ａ）は、本

第１３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている構成を模式的に示した図である。図４４７（ａ）に示した通り、本第１３制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２２２（図２４９（ａ）参照）に対して、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａと、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂを追加した点で相違している。

【５４１２】

天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａは、左打ち遊技状態中の特別図柄変動に対応する変動演出として天井到達示唆演出が実行される場合において、その天井到達示唆演出の演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルである。本第１３制御例では、天井特典が付与されるハマリ回数に到達するまでの期間において、天井特典が付与されるまでの残期間を遊技者に示唆するための天井到達示唆演出を実行可能に構成している。

【５４１３】

このように天井到達示唆演出を実行することにより、左打ち遊技を実行している遊技者に対して、天井特典が付与されるまでの残期間を予測させることが可能となり、天井特典が付与されることを期待させながら遊技を行わせることができる。また、本第１３制御例では、天井到達示唆演出として、天井特典が付与されるまでの残期間だけでは無く、特別図柄抽選の結果に基づいて天井特典と同等の特典（第２時短状態）が設定されることも示唆可能に構成している。これにより、遊技者にとって想定外のタイミング（例えば、大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数が２０回程度のタイミング）にて天井特典が付与される可能性が高いことを示す天井到達示唆演出が実行され、その天井到達示唆演出が実行された後に、第２時短状態が設定されるという意外性のある遊技を提供することができる。

【５４１４】

このように構成することで、遊技者に対して、天井特典が付与されるハマリ回数として、少ないハマリ回数が設定される場合があるのではと思わせることができ、遊技者に対して意欲的に左打ち遊技を実行させることができる。さらに、天井特典（第３時短状態）は、特別図柄抽選の実行回数に基づいて付与（設定）されることから、天井特典が付与されるまでの残期間が特定され易いのに対して、天井特典と同等の特典（第２時短状態）は、特別図柄の抽選結果に基づいて付与（設定）されることから、その付与タイミングが第３時短状態よりもランダムになり易い性質を持つ。よって、遊技者に対して、天井特典（第３時短状態）、或いは天井特典と同等の特典（第２時短状態）が設定される右打ち遊技状態へとどのタイミングで移行するのかを分かり難くすることができるため、右打ち遊技状態へと移行するタイミングをいち早く把握しようと、実行される天井到達示唆演出の演出態様に興味を持たせることができる。

【５４１５】

ここで、図４４８を参照して天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａの詳細な内容について説明をする。図４４８は、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａに規定されている内容を模式的に示した図である。図４４８に示した通り、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａには、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と、獲得している特図保留（特別図柄の保留記憶）に対応する先読み結果（事前判別結果）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値と、に対応付けて天井到達示唆演出の演出態様として２種類の演出態様がそれぞれ規定されている。

【５４１６】

具体的には、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「０～２００」であって、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選を示す情報が含まれている場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が、「８０～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が天井到達示唆演出の演出態様として規定されており、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選を示す情報が含まれていない場合（それ以外）には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演

出の演出態様として規定されている。
【５４１７】
　また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「２０１～４６０」であって、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選を示す情報が含まれている場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が、「８０～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されており、先読み結果に「時短当選」を示す情報が含まれている場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が、「２０～３９」の範囲に対して「示唆態様（弱）」が、「４０～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されており、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選、及び「時短当選」を示す情報が含まれていない場合（それ以外）には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」の範囲に対して「天井示唆（弱）」が、「５～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されている。
【５４１８】
　さらに、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「４６１～４９５」であって、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選を示す情報が含まれている場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が、「２０～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されており、先読み結果に「時短当選」を示す情報が含まれている場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～３９」の範囲に対して「天井示唆（弱）」が、「４０～９９」の範囲に対して「示唆態様（強）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されており、先読み結果に「大当たりＣ１３」の大当たり当選、及び「時短当選」を示す情報が含まれていない場合（それ以外）には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して「天井示唆（弱）」が、「５０～６９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が、「７０～９９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、天井到達示唆演出の演出態様として規定されている。
【５４１９】
　最後に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「４９６～５００」の場合には、先読み結果に関わらず、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９」の範囲に対して「示唆態様無し（図では「－」で表示）」が、「１０～３９」の範囲に対して「天井示唆（弱）」が、「４０～９９」の範囲に対して「天井示唆（強）」が天井到達示唆演出の演出態様として規定されている。
【５４２０】
　つまり、天井特典が付与されるハマリ回数までの残期間が少ないほど、つまり、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が大きいほど、天井示唆態様が設定され易く、且つ、示唆態様として残期間が少ないことを強調して示唆するための「天井示唆（強）」が設定され易くなるように天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａの内容が規定されている。また、天井特典と同等の特典（第２時短状態）が設定される「大当たりＣ１３」に当選する特図保留を有している場合には、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値に関わらず「天井示唆（強）」が選択され易くなるように規定されている。よって、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて右打ち遊技状態（第２時短状態）が設定される場合であっても、大当たり当選する特別図柄変動が実行されるよりも前に、その旨を遊技者に示唆することが可能となる。
【５４２１】
　さらに、先読み結果として時短当選を示す情報が含まれている場合には、時短当選に基づいて第２時短状態が設定される可能性が若干ではあるが残されているため、先読み結果として時短当選を示す情報が含まれていない場合よりも、天井示唆態様が設定され易くなるように構成している。なお、本第１３制御例では、時短抽選で時短当選した場合の一部

（０．０１％）にて第２時短状態（右打ち遊技状態）を設定可能に構成している。そして、天井到達示唆演出の演出態様を選択する際に用いる情報として、時短抽選によって第２時短状態が設定される時短に当選したか否かの情報を用いるのでは無く、単に時短当選したか否かの情報を用いるように構成している。

【５４２２】

このように構成することで、第２時短状態（右打ち遊技状態）が設定されることの無い時短に当選した場合と、第２時短状態（右打ち遊技状態）が設定される時短に当選した場合とで、同一の選択割合で天井到達示唆演出の演出態様（示唆態様）が選択されることになる。よって、右打ち遊技状態が設定されない場合であっても、適度な割合で天井示唆態様を含む天井到達示唆演出（所謂、ガセ演出）を実行することができる。

【５４２３】

なお、本第１３制御例の内容に限定されること無く、例えば、第２時短状態が設定される時短に当選することを示す先読み結果を有している場合に、第２時短状態が設定される時短に当選することを示す先読み結果を有していない場合によりも、天井示唆態様が設定され易くなるように構成しても良い。

【５４２４】

天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂは、天井特典を付与する条件が成立した特別図柄変動にて実行される天井到達時演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、今回付与される天井特典の内容（時短回数）と、天井特典を付与する条件が成立した特別図柄変動が示す特別図柄抽選の結果（大当たり、外れ）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値と、に基づいて異なる演出態様が規定されている。

【５４２５】

天井到達時演出が実行されると、図４４０（ａ）に示した通り、天井特典が付与されることを示す態様と、天井特典の内容（時短回数）を示す態様と、を含んだ演出態様で天井到達時演出が実行される。これにより、遊技者に対して天井特典が付与されること（第３時短状態が設定されること）を、実際に天井特典が付与されるよりも前に把握させることができる。

【５４２６】

また、天井特典の付与条件が成立する特別図柄変動にて大当たり当選した場合、即ち、天井特典が付与されること無く大当たり遊技が開始される場合には、天井到達時演出の演出態様として、天井特典が付与されないことを示すための演出態様が設定されるように構成している。このように構成することで、天井特典（例えば、時短３００回）が付与されることを報知した直後に、右打ち遊技を行うこと無く大当たり遊技が実行されてしまい、遊技者に違和感を与えてしまうことを抑制することができる。

【５４２７】

なお、本第１３制御例では、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が天井特典の付与条件を満たした場合（５００に到達した場合）に天井到達時演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、特図抽選カウンタ２２３ｌｃの値が所定値（例えば、１００の倍数）となった場合に、天井到達時演出を実行するように構成し、実際に天井特典の付与条件が成立していない場合には、天井特典が付与されないことを示すための演出態様が設定されるように構成しても良い。このように構成することで、天井特典が付与されないことを示すための演出態様で天井到達時演出が実行された場合に、大当たり当選している可能性を残すことができるため、演出効果を高めることができる。

【５４２８】

ここで、図４４９を参照して、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂに規定されている内容について説明をする。図４４９は、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂに規定されている内容を示した図である。図４４９に示した通り、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂには、天井特典（時短回数）と、対象となる特別図柄抽選の結果と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値と、に対応付けて演出態様（演出Ａ～演出Ｃ）が規定されており、各演出態様に対応させて、天井時短カウンタ２２３ｌａに設定する値と、後乗せフラ

グ２２３ｌｂの設定内容とが規定されている。
【５４２９】
具体的には、付与される天井特典の内容が「時短１００」である場合、即ち、通常状態中に天井特典の付与条件が成立した場合であって、特別図柄抽選の結果が「大当たり」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「演出Ａ」が規定されている。この場合は、天井到達時演出として天井特典が付与されないことを示す天井未到態様が設定される。そして、天井時短カウンタ２２３ｌａには値がセットされず、後乗せフラグ２２３ｌｂがオフに設定される（オンに設定されない）。
【５４３０】
詳細な説明は後述するが、天井時短カウンタ２２３ｌａは、遊技者に予め報知されている天井特典の内容（時短回数）に関する値を計測するためのカウンタであって、天井到達時演出の演出態様が設定された場合に値がセットされる。そして、特別図柄変動が実行される毎に値が減算され、減算後の値が０となった際に、天井特典として付与された第３時短状態の残時短回数が判別され、残時短回数が存在する場合に、その残時短回数に対応した演出（上乗せ演出）が実行される。
【５４３１】
後乗せフラグ２２３ｌｂは、天井到達時演出にて設定された天井時短カウンタ２２３ｌａの値が、天井特典として付与された第３時短状態の時短回数を示す値では無いことを示すためのフラグであって、天井特典として付与された第３時短状態の時短回数を示す値以外の値（第３時短状態の時短回数よりも少ない回数に対応する値）が天井時短カウンタ２２３ｌａの値にセットされた場合にオンに設定されるものである。
【５４３２】
つまり、特別図柄抽選の結果が「大当たり」である場合には、天井特典として付与される第３時短状態による遊技を実行することができない状態であるため、天井到達時演出の演出態様として、天井特典が付与されないことを示す「演出Ａ」の演出態様が設定され、天井時短カウンタ２２３ｌａの値がセットされること無く、後乗せフラグ２２３ｌｂがオフのままとなる。
【５４３３】
一方、天井特典の内容が「時短１００」で特別図柄抽選の結果が「外れ」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、演出態様「演出Ａ」が設定され、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に「１」がセットされ、後乗せフラグ２２３ｌｂがオンに設定されるように規定されている。
【５４３４】
この場合、実際には、天井特典として第３時短状態（時短１００回）が付与される状態であるが、天井到達時演出として、天井特典が付与されないことを示す演出が実行され、天井到達時演出の終了後に、時短１００回を上乗せ報知する上乗せ演出（図４４１参照）が実行される。このように、実際に天井特典が付与される場合であっても天井到達時演出にて天井特典が付与されないことを示す「演出Ａ」の演出態様を設定可能に構成することで、天井特典の付与条件が成立する特別図柄抽選の抽選結果が、天井特典が付与され無くなる抽選結果（大当たり当選）である場合以外でも、天井特典が付与されないことを示す天井到達時演出を実行することが可能となるため、「演出Ａ」の演出態様が設定された天井到達時演出の実行頻度を高めることができる。
【５４３５】
また、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～９９」の範囲に対して、演出態様「演出Ｂ」が設定される。この演出態様「演出Ｂ」は、天井到達時演出として、天井特典が付与されることを示す態様と、天井特典として付与される特典の内容が「時短１００回」であることを示す態様と、を含む演出が実行される演出態様である。この場合、天井特典として付与される特典の内容（時短１００回）と、天井到達時演出にて遊技者に報知される特典の内容（時短１００回）と、一致することから、上乗せ演出が実行されることが

無いため、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に「１０１」がセットされ、後乗せフラグ２２３ｌｂがオフに設定される。

【５４３６】

次に、付与される天井特典の内容が「時短３００」である場合、即ち、第１時短状態中に天井特典の付与条件が成立した場合であって、特別図柄抽選の結果が「大当たり」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「演出Ａ」が規定されている。この場合は、天井到達時演出として天井特典が付与されないことを示す天井未到態様が設定される。そして、天井時短カウンタ２２３ｌａには値がセットされず、後乗せフラグ２２３ｌｂがオフに設定される（オンに設定されない）。

【５４３７】

また、特別図柄抽選の結果が「外れ」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、演出態様「演出Ａ」が設定され、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に「１」がセットされ、後乗せフラグ２２３ｌｂがオンに設定されるように規定されている。

【５４３８】

この場合、実際には、天井特典として第３時短状態（時短３００回）が付与される状態であるが、天井到達時演出として、天井特典が付与されないことを示す演出が実行され、天井到達時演出の終了後に、時短３００回を上乗せ報知する上乗せ演出（図４４１参照）が実行される。このように、実際に天井特典が付与される場合であっても天井到達時演出にて天井特典が付与されないことを示す「演出Ａ」の演出態様を設定可能に構成することで、天井特典の付与条件が成立する特別図柄抽選の抽選結果が、天井特典が付与され無くなる抽選結果（大当たり当選）である場合以外でも、天井特典が付与されないことを示す天井到達時演出を実行することが可能となるため、「演出Ａ」の演出態様が設定された天井到達時演出の実行頻度を高めることができる。

【５４３９】

また、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～４９」の範囲に対して、演出態様「演出Ｂ」が設定される。この演出態様「演出Ｂ」は、天井到達時演出として、天井特典が付与されることを示す態様と、天井特典として付与される特典の内容が「時短１００回」であることを示す態様と、を含む演出が実行される演出態様である。この場合、天井特典として付与される特典の内容（時短３００回）と、天井到達時演出にて遊技者に報知される特典の内容（時短１００回）とが一致しておらず、天井到達時演出にて報知された時短期間に対応する天井中モード演出（図４４０（ｂ）参照）の終了時に、時短回数２００回を上乗せする上乗せ演出が実行されるため、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に「１０１」がセットされ、後乗せフラグ２２３ｌｂにオンが設定される。

【５４４０】

さらに、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「５０～９９」の範囲に対して、演出態様「演出Ｃ」が設定される。この演出態様「演出Ｃ」は、天井到達時演出として、天井特典が付与されることを示す態様と、天井特典として付与される特典の内容が「時短３００回」であることを示す態様と、を含む演出が実行される演出態様である。この場合、天井特典として付与される特典の内容（時短３００回）と、天井到達時演出にて遊技者に報知される特典の内容（時短３００回）とが、一致することから、上乗せ演出が実行されることが無いため、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に「３０１」がセットされ、後乗せフラグ２２３ｌｂがオフに設定される。

【５４４１】

次に、図４４７（ｂ）を参照して、本第１３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図４４７（ｂ）は、本第１３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を示した図である。

【５４４２】

図４４７（ｂ）に示した通り、本第１３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図２４９（ｂ）参照）に対して、天井時短カウンタ２２３ｌａ、後乗せフラグ２２３ｌｂ、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃを追加した点で相違している。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５４４３】

天井時短カウンタ２２３ｌａは、遊技者に予め報知されている天井特典の内容（時短回数）に関する値を計測するためのカウンタであって、天井到達時演出の演出態様が設定された場合に値がセットされる。そして、特別図柄変動が実行される毎に値が減算され、減算後の値が１となった際に、天井特典として付与された第３時短状態の残時短回数が判別され、残時短回数が存在する場合に、その残時短回数に対応した演出（上乗せ演出）が実行される。

【５４４４】

天井時短カウンタ２２３ｌａは、天井到達時演出（第３時短状態が設定される直前の特別図柄変動に対応する演出）が実行される際に値がセットされるため、第３時短状態の時短回数として天井到達時演出にて報知する値に１を加算した値がセットされ（図４６３のＳ３４５０３参照）、天井時短カウンタ２２３ｌａの値がセットされている状態で特別図柄変動に対応する変動演出を設定する毎にその値が１減算される（図４６２のＳ３４４０８参照）。これにより、天井到達時演出にて遊技者に報知された第３時短状態の残時短回数が１回（ラスト）となる特別図柄変動の変動演出が設定されるタイミングを、天井時短カウンタ２２３ｌａの値を用いて判別することができる（図４６２のＳ３４４１０参照）。

【５４４５】

後乗せフラグ２２３ｌｂは、天井到達時演出にて設定された天井時短カウンタ２２３ｌａの値が、天井特典として付与された第３時短状態の時短回数を示す値では無いことを示すためのフラグであって、天井特典として付与された第３時短状態の時短回数を示す値以外の値（第３時短状態の時短回数よりも少ない回数に対応する値）が天井時短カウンタ２２３ｌａの値にセットされた場合にオンに設定されるものである。

【５４４６】

この後乗せフラグ２２３ｌｂは、実際に設定される天井特典の内容（時短回数）と、天井到達時演出の演出態様とに対応させて、オンに設定され（図４６３のＳ３４５０４）、天井時短カウンタ２２３ｌａの値が１となった場合に（図４６２のＳ３４４１０：Ｙｅｓ）、フラグの設定状況が判別される（図４６２のＳ３４４１１）。これにより、天井到達時演出にて遊技者に報知された第３時短状態の時短回数（天井時短カウンタ２２３ｌａの値）が、実際に設定された第３時短状態の時短回数と一致しているか否かの判別をすることができ、一致していない場合（後乗せフラグ２２３ｌｂがオンに設定されている場合）には、上乗せ演出が実行される。

【５４４７】

特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃは、天井特典の付与条件を成立させるための特別図柄抽選の実行回数（ハマリ回数）を計測するためのカウンタであって、主制御装置１１０にて計測される特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示すためのコマンドを受信した場合に（図４５９のＳ９０９３：Ｙｅｓ）、受信したコマンドが示す値が設定される（図４５９のＳ９０９４参照）。そして、天井到達示唆演出の演出態様を決定する際に参照される（図４６３のＳ３４５０８参照）。

【５４４８】

＜第１３制御例における主制御装置１１０により実行される制御処理について＞

次に、図４５０～図４５７を参照して、第１３制御例における主制御装置１１０の制御処理内容のうち、上述した第５制御例とは異なる点を中心に説明をする。本第１３制御例のパチンコ機１０は、上述した第５制御例のパチンコ機１０に対して、特別図柄抽選の実

行回数に基づいて天井特典を付与するか否かを決定する処理と、天井特典を付与するための処理とを追加した点と、時短抽選を実行可能な遊技状態を異ならせた点と、普通図柄抽選に基づく処理の内容を詳細に説明している点で相違している。

【５４４９】

具体的には、特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に代えて特別図柄変動処理１３（図４５０のＳ３０１０４参照）と、普通図柄変動処理１３（図４５６のＳ３０１０６参照）、及び、立ち上げ処理（図４５７参照）を図示した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【５４５０】

まず、図４５０を参照して、特別図柄変動処理１３（Ｓ３０１０４）の内容について説明をする。図４５０は、特別図柄変動処理１３（Ｓ３０１０４）の処理内容を示したフローチャートである。図４５０に示した通り、特別図柄変動処理１３（Ｓ３０１０４）は、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に対して、特別図柄判定処理５（図２５２のＳ２５１）に代えて、特別図柄判定処理１３（Ｓ３０２５１）を、特別図柄変動パターン選択処理５（図２５２のＳ２５２参照）に代えて、特別図柄変動パターン選択処理１３（Ｓ３０２５２）を、時短設定処理５（図２５２のＳ２５４）に代えて、時短設定処理１３（Ｓ３０２５４）を、実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【５４５１】

次に、図４５１を参照して、特別図柄判定処理１３（Ｓ３０２５１）の処理内容について説明をする。図４５１は、特別図柄判定処理１３（Ｓ３０２５１）の処理内容を示したフローチャートである。図４５１に示した通り、特別図柄判定処理１３（Ｓ３０２５１）が実行されると、まず、特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｓ８００１）、第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａに基づいて抽選結果（大当たり）判定結果）を取得し（Ｓ８００２）、取得した抽選結果が大当たり当選であるかを判別する（Ｓ８００３）。大当たり当選であると判別した場合は（Ｓ８００３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｓ８００４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｓ８００５）、本処理を終了する。

【５４５２】

一方、Ｓ８００３の処理において大当たり当選していないと判別した場合は（Ｓ８００３：Ｎｏ）、次いで、天井判定処理１３を実行し（Ｓ３８０５１）、その後、時短抽選処理１３を実行し（Ｓ３８００６）、本処理を終了する。つまり、本第１３制御例にて実行される特別図柄判定処理１３（Ｓ３０２５１）は、上述した第５制御例にて実行される特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１参照）に対して、天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）を追加し、時短抽選処理５（図２５３のＳ８００６）に代えて時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）を設けた点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【５４５３】

次に、図４５２を参照して、天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）の内容について説明をする。図４５２は、天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）の処理内容を示したフローチャートである。この天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）では、今回実行される特別図柄抽選が、天井特典を付与するための付与条件（ハマリ回数）を更新可能な特別図柄抽選であるかを判別し、判別結果に基づいて付与条件（ハマリ回数）を更新するための処理と、更新後のハマリ回数によって天井特典の付与条件が成立したかを判別するための処理と、天井特典の付与条件が成立したことを示すための情報を天井特典の設定条件が成立するまで保持するための処理とが実行される。

【５４５４】

天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）が実行されると、まず、遊技状態格納エリア２０３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ３８１０１）、現在の遊技状態が特別図柄の低確率

状態であるかを判別する（Ｓ３８１０２）。特別図柄の低確率状態であると判別した場合は（Ｓ３８１０２：Ｙｅｓ）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値の１を加算し（Ｓ３８１０３）、加算後の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達したかを判別する（Ｓ３８１０４）。

【５４５５】

Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達していないと判別した場合は（Ｓ３８１０４：Ｎｏ）、現在の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報を含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１０５）、本処理を終了する。Ｓ３８１０５の処理によって設定された状態コマンドは、上述した第５制御例にて設定される他の状態コマンドと同様に音声ランプ制御装置１１３へと出力される。音声ランプ制御装置１１３側では、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す状態コマンドを受信した場合に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が更新される。これにより、音声ランプ制御装置１１３側においても、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値、即ち、ハマリ回数を判別可能となる。

【５４５６】

一方、Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００であると判別した場合、即ち、天井特典の付与条件が成立したと判別した場合は（Ｓ３８１０４：Ｙｅｓ）、次に、現在の遊技状態、即ち、天井特典の付与条件が成立した時点における遊技状態が通常状態であるかを判別し（Ｓ３８１０６）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ３８１０６：Ｙｅｓ）、第１天井待機フラグ２０３ｌｂをオンに設定し（Ｓ３８１０７）、天井待機中を示す情報と、天井種別（第１天井）を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１０８）、本処理を終了する。

【５４５７】

また、Ｓ３８１０６の処理において、現在が通常状態では無い、即ち、第１時短状態、第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ３８１０６：Ｎｏ）、第２天井待機フラグ２０３ｌｃをオンに設定し（Ｓ３８１０９）、Ｓ３８１０８の処理へ移行する。一方で、Ｓ３８１０２の処理において、特別図柄の低確率状態では無いと判別した場合、即ち、ハマリ回数の更新条件を満たしていないと判別した場合は（Ｓ３８１０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【５４５８】

以上、説明をした通り、本第１３制御例では、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の実行回数（ハマり回数）が規定値（５００回）に到達した場合に、天井特典の付与条件を成立させるように構成し、実行される特別図柄抽選の全てに対応させてハマり回数を更新（加算）するのでは無く、ハマり回数の更新条件を満たす特別図柄抽選が実行された場合に（図４５２のＳ３８１０２：Ｙｅｓに相当）、ハマり回数（特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値）を更新（加算）するように構成している。

【５４５９】

このように構成することで、大当たり遊技終了後に実行された特別図柄抽選回数と、ハマり回数とを異ならせることができるため、天井特典の付与条件が成立するハマり回数として特定回数（５００回）を規定している場合であっても、ハマり回数が特定回数となるまでに実行される特別図柄抽選回数を異ならせることが可能となる。よって、遊技者に対して、どのタイミング（特別図柄抽選回数）で天井特典が付与されるのかを予測させ難くすることができる。

【５４６０】

なお、本第１３制御例では、図４５２に示した通り、特別図柄の低確率状態中に特別図柄抽選が実行された場合にはハマり回数が更新され、特別図柄の高確率状態中に特別図柄抽選が実行された場合にはハマり回数が更新されないように構成している。つまり、ハマり回数の更新条件として、特別図柄の低確率状態が設定されていることが更新条件となるように構成しているが、ハマり回数の更新条件はこれに限ること無く、例えば、特定の遊技状態（第１時短状態）が設定されている場合にはハマり回数の更新条件が成立しないよ

うに構成しても良いし、特定の特別図柄種別（第２特別図柄）の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が実行される場合にはハマり回数の更新条件が成立しないように構成しても良いし、特別図柄抽選の抽選結果が、特定の抽選結果となった場合に、それ以降の所定期間（特別図柄抽選が１０回実行されるまでの期間）は、ハマり回数の更新条件が成立しないように構成しても良い。このように構成することで、ハマり回数が特定回数となるまでに実行される特別図柄抽選回数を異ならせることが可能となる。よって、遊技者に対して、どのタイミング（特別図柄抽選回数）で天井特典が付与されるのかを予測させ難くすることができる。

【５４６１】

また、本第１３制御例では、図４５２に示した通り、ハマり回数の更新条件が成立した場合には、特別図柄抽選が１回実行される毎に、ハマり回数を１回更新（加算）するように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄抽選１回に対して、ハマり回数を２回以上、或いは、１回未満（０．５回）更新するように構成しても良いし、特別図柄抽選１回に対して、ハマり回数を減算するように構成しても良い。このように構成した場合も、どのタイミング（特別図柄抽選回数）で天井特典が付与されるのかを予測させ難くすることができる。

【５４６２】

次に、図４５３を参照して、時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）の処理内容について説明をする。図４５３は、時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）の処理内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）は、上述した第５制御例にて実行される時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）に代えて実行されるものであって、時短抽選（時短当選の判定）を実行するための条件を遊技仕様に対応させて変更している点で相違している。

【５４６３】

具体的には、時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）が実行されると、遊技状態格納エリア２０３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ８１０２）、現在の遊技状態が通常状態、又は第１時短状態であるかを判別する（Ｓ３８１５１）。そして、現在の遊技状態が通常状態、又は第１時短状態であると判別した場合は（Ｓ３８１５１：Ｙｅｓ）、時短抽選の実行条件が成立しているため、時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅに基づいて時短抽選の抽選結果を取得し（Ｓ３８１５２）、その後、上述した時短抽選処理５（図２５４のＳ８１０１参照）と同一のＳ８１０５，Ｓ８１０６の処理を実行し、本処理を終了する。

【５４６４】

一方、Ｓ３８１５１の処理において、現在の遊技状態が通常状態、又は第１時短状態では無い、即ち、時短抽選の実行条件が成立していない遊技状態であると判別した場合は（Ｓ３８１５１：Ｎｏ）、時短抽選を実行すること無く、本処理を終了する。

【５４６５】

次に、図４５４を参照して、特別図柄変動パターン選択処理１３（Ｓ３０２５２）の処理内容について説明をする。図４５４は、特別図柄変動パターン選択処理１３（Ｓ３０２５２）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理１３（Ｓ３０２５２）は、上述した第５制御例にて実行される特別図柄変動パターン選択処理５（図２５５のＳ２５２参照）に対して、大当たり当選時において大当たり種別を決定するために参照するデータテーブルを、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄ（図２４６参照）から大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄに変更した処理を実行する点（Ｓ３８２５１）と、時短当選時において時短種別を決定するために参照するデータテーブルを、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆ（図２４８（ｂ）参照）から時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆに変更した処理を実行する点（Ｓ３８２５３）と、特別図柄変動の変動パターンを選択する際に参照されるデータテーブルを、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂ（図２４７参照）から変動パターン選択１３テーブル２０２ｄｂに変更した処理を実行する点（Ｓ３８２５２参照）とで相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【５４６６】
次に、図４５５を参照して、時短設定処理１３（Ｓ３０２５４）の内容について説明をする。図４５５は、時短設定処理１３（Ｓ３０２５４）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理１３（Ｓ３０２５４）では、上述した時短設定処理５（図２５７のＳ２５４参照）に対して、天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）にて天井特典の付与条件が成立していることを示す情報が設定された場合（第１天井待機フラグ２０３ｌｂ、又は、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオンに設定された場合）において時短状態（第３時短状態）を設定するための処理を追加している点で相違している。
【５４６７】
また、１の特別図柄抽選の実行に基づいて、天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）による天井特典の付与条件の成立と、時短抽選による時短当選とが、重複した場合には、天井特典の付与条件の成立に基づく時短状態の設定が優先して処理され、時短当選に関わる情報を破棄するための処理が実行されるように、複数の時短状態の設定に対して予め優先順位を設けている点で相違している。
【５４６８】
時短設定処理１３（Ｓ３０２５４）が実行されると、まず、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３８３５１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３８３５１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値に１００を設定し（Ｓ３８３５２）、第１天井待機フラグ２０３ｌｂをオフに設定し（Ｓ３８３５３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を設定し（Ｓ３８３５４）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８３５５）、第３時短状態を示す情報と、時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８３５６）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアし（Ｓ３８３５７）、本処理を終了する。
【５４６９】
Ｓ３８３５１の処理において、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３８３５１：Ｎｏ）、次に、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３８３５８）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３８３５８：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値に３００を設定し（Ｓ３８３５９）、第２天井待機フラグ２０３ｌｃをオフに設定し（Ｓ３８３６０）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を設定し（Ｓ３８３５４）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８３５５）、第３時短状態を示す情報と、時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８３５６）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアし（Ｓ３８３５７）、本処理を終了する。
【５４７０】
そして、Ｓ３８３５８の処理において、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオンに設定されていないと判別した場合、即ち、今回実行された特別図柄抽選に基づいて、天井特典の付与条件が成立していないと判別した場合は（Ｓ３８３５８：Ｎｏ）、上述した第５制御例における時短設定処理５（図２５７のＳ２５４参照）と同一のＳ８３５１～Ｓ８３５４の処理を実行し、本処理を終了する。
【５４７１】
以上、説明をした通り、本第１３制御例では、特別図柄変動が停止表示される場合に実行される制御処理（時短設定処理１３（Ｓ３０２５４））にて時短状態の設定条件が成立しているか（時短状態が設定可能な抽選結果であるか、或いは、各種天井待機フラグの何れかがオンに設定されているか）を判別し、設定条件が成立していると判別した場合に、時短状態を設定するように構成しているが、時短状態を設定するタイミングとして別のタイミングを採用しても良く、例えば、特別図柄変動が開始されるタイミング（特別図柄変動を開始させるための処理を実行するタイミング）にて時短状態の設定条件が成立しているかを判別し、設定条件が成立していると判別した場合に、時短状態を設定するように構成しても良い。
【５４７２】

また、時短状態の設定条件が成立してから、次の特別図柄抽選が実行されるまでの間に時短状態が設定されれば良く、例えば、時短状態の設定条件が成立した際に時間経過を計測可能な計測手段（タイマ）に対して所定の値をセットし、計測手段にセットされた値に対応した時間が経過した場合に時短状態を設定可能に構成しても良いし、時短状態の設定条件が成立している場合（各種天井待機フラグの何れかがオンに設定されている場合）に、定期的に設定抽選（例えば、主制御装置１１０にて定期的に実行されるメイン処理にて実行される抽選）を実行可能に構成し、その設定抽選に当選したタイミングで時短状態を設定するように構成しても良い。このように、時短状態の設定条件が成立してから、次の特別図柄抽選が実行されるまでの期間の範囲内において様々なタイミングで時短状態を設定可能に構成することで、遊技者に対して時短状態が設定されるタイミングを把握させ難くすることができる。

【５４７３】

また、本第１３制御例では、時短状態を設定させるための時短設定条件を複数設定可能に構成しており、１回の特別図柄抽選に基づいて、複数の時短設定条件が重複して成立し得るように構成している。具体的には、特別図柄抽選の抽選結果に基づいて成立する抽選結果時短設定条件と、特別図柄抽選の実行回数に基づいて成立する抽選回数時短設定条件と、を設定可能に構成している。

【５４７４】

そして、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され易い時短設定条件（抽選回数時短設定条件）の成立有無を優先して判別可能に構成し、抽選回数時短設定条件が成立していると判別した場合に、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され難い抽選結果時短設定条件の成立有無に関わらず抽選回数時短設定条件の成立に基づく時短状態を設定可能に構成している。

【５４７５】

このように構成することで、複数の時短設定条件が重複して成立した場合であっても遊技者に有利となる時短状態を優先して設定し易くすることができるため、遊技者に対して、不利な遊技が実行され易くなることを抑制することができる。

【５４７６】

なお、複数の時短設定条件が重複して成立し得るように構成されたパチンコ機１０において、上述した本第１３制御例とは異なる時短状態の設定方法を採用しても良く、例えば、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され難い時短設定条件（抽選結果時短設定条件）の成立有無を優先して判別可能に構成し、抽選結果時短設定条件が成立していないと判別した場合に、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され易い抽選回数時短設定条件の成立有無を判別可能に構成し、抽選回数時短設定条件が成立していると判別した場合に抽選回数時短設定条件の成立に基づく時短状態を設定可能に構成してもよい。

【５４７７】

つまり、複数の時短設定条件が重複して成立した場合には、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され難い時短設定条件（抽選結果時短設定条件）の成立に基づく時短状態が設定され、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され易い時短設定条件（抽選回数時短設定条件）のみが成立している場合に、遊技者にとって有利となる時短状態（右打ち遊技状態）が設定され易い時短設定条件（抽選回数時短設定条件）の成立に基づく時短状態が設定されるように構成しても良い。

【５４７８】

このように構成することで、複数の時短設定条件が重複して成立する場合よりも、特定の時短設定条件のみが成立する場合の方が、遊技者に有利な時短状態を設定し易くすることができる。つまり、特定の時短設定条件が成立することとなる特別図柄抽選に基づいて、他の時短設定条件が成立しないことを遊技者に期待させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【５４７９】

この場合、例えば、特定の時短設定条件（抽選回数時短設定条件）が成立する特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動演出（天井到達演出）と、特定の時短設定条件（抽選回数時短設定条件）が成立しない特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動演出（通常演出）と、で、他の時短設定条件（抽選結果時短設定条件）が成立するか否か（例えば、時短抽選で時短当選するか否か）の結果を示すための演出態様を異ならせると良く、天井到達演出では、時短当選しない方が、時短当選した場合よりも結果的に有利な時短状態が設定され易くなるため、時短抽選の結果が外れ当選である場合の方が、時短抽選の結果が時短当選である場合よりも、遊技者を祝福する演出態様が設定され易く、通常演出では、時短当選した方が、時短当選しない場合よりも時短状態が設定され易くなるため、時短抽選の結果が時短当選である場合の方が、時短抽選の結果が外れ当選である場合よりも、遊技者を祝福する演出態様が設定され易くなるように構成すると良い。

【５４８０】

このように構成することで、遊技者に対しては、自身に有利な遊技状況が設定され易いか否かを実行される演出の内容を把握することで容易に把握させることができるため、分かり易い遊技を提供することができる。

【５４８１】

また、複数の時短設定条件が重複して成立した場合にのみ特殊時短状態（第４時短条件）を設定可能に構成しても良い。

【５４８２】

次に、図４５６を参照して、普通図柄変動処理１３（Ｓ３０１０６）の内容について説明をする。図４５６は、普通図柄変動処理１３（Ｓ３０１０６）の処理内容を示したフローチャートである。この普通図柄変動処理１３（Ｓ３０１０６）は、上述した各制御例において図示を省略していた処理内容を図示したものである。

【５４８３】

本第１３制御例を含む各制御例において、普通図柄の高確率状態が設定されている状態において、普図当たり遊技中に遊技球を第２入球口６４０へと入球させ易い遊技状態（本制御例では、第２時短状態）と、普図当たり遊技中に遊技球を第２入球口６４０へと入球させ難い遊技状態（本制御例では、第１時短状態）と、を設定可能に構成している。

【５４８４】

具体的には、時短抽選によって時短当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第１時短状態）と、大当たり当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第２時短状態）と、で異なる長さの普通図柄変動時間が設定されるように構成している。

【５４８５】

そして、第１時短状態が設定された場合は、図４５６のＳ３０８０７に示した通り、非常に短時間（０．１秒）の普通図柄変動時間が設定されるように構成している。このように構成することで、普通図柄抽選の実行契機となるスルーゲート６７を遊技球が通過してから、その通過した遊技球が電動役物６４０ａへと到達するまでに、普通図柄の当たり遊技（普図当たり遊技）を終了させることが可能となり、遊技球が第２入球口６４０へと入球し難い時短状態となる。

【５４８６】

一方で、第２時短状態が設定された場合は、図４５６のＳ３０８０５に示した通り、短時間（１秒）の普通図柄変動時間が設定されるように構成している。このように構成することで、普通図柄抽選の実行契機となるスルーゲート６７を遊技球が通過してから、その通過した遊技球が電動役物６４０ａへと到達するタイミングが、普通図柄の当たり遊技（普図当たり遊技）中とさせることが可能となり、遊技球が第２入球口６４０へと入球し易い時短状態となる。

【５４８７】

さらに、本第１３制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている状態において、第２入球口６４０へと遊技球を上述した第２時短状態と同程度入球させることが可能な第

３時短状態を設定可能に構成している。具体的には、第３時短状態が設定されている場合は、図４５６のＳ３０８０５に示した通り、短時間（１秒）の普通図柄変動時間が設定されるように構成している。そして、普通図柄抽選の当たり確率が、普通図柄の低確率状態（２９９／３００）、普通図柄の高確率状態（２９９／３００）となるように構成している。

【５４８８】

よって、普通図柄の低確率状態が設定されている場合であっても、普通図柄の変動時間として、第２時短状態と同一の長さとすることにより、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い遊技状態（右打ち遊技状態）を設定することが可能となる。

【５４８９】

なお、普通図柄の低確率状態が設定される通常状態や第２確変状態においては、図４５６のＳ３０８０８に示した通り、他の遊技状態よりも長い変動時間（６０秒）が普通図柄変動時間として設定されるため、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ難くなり、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させた方が特別図柄抽選を実行させ易い遊技状態（左打ち遊技状態）となる。

【５４９０】

また、図４５６のＳ３０８０９、及びＳ３０８１０に示した通り、普通図柄の高確率状態が設定されている場合の方が、普通図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、普図当たり遊技において電動役物６４０ａが開放状態となる時間が長くなるように構成しているが、何れの場合であっても、普通図柄変動時間として１秒が設定される場合には、第２入球口６４０へと遊技球が入球可能となるため、第２時短状態と、第３時短状態とでは、同程度の遊技球を第２入球口６４０へと入球させることができる。

【５４９１】

次に、図４５７を参照して、本第１３制御例における主制御装置１１０の立ち上げ処理について説明をする。図４５７は、本第１３制御例における主制御装置１１０の立ち上げ処理の処理内容を示したフローチャートである。図４５７に示した通り、本第１３制御例における主制御装置１１０の立ち上げ処理では、パチンコ機１０が正常に立ち上がったと判別した場合に（Ｓ１７０７：Ｙｅｓ）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報を含む状態コマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信する処理（Ｓ３１７０１）と、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納されている情報を含む状態コマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信する処理（Ｓ３１７０２）と、を実行する点で、上述した各制御例における立ち上げ処理と相違している。それ以外は同一である。

【５４９２】

このように構成することで、パチンコ機１０の電源供給が断たれた場合であっても、電源供給が復帰した時点で、パチンコ機１０の遊技状況を示す情報を音声ランプ制御装置１１３へと送信することが可能となる。よって、パチンコ機１０の遊技状況に基づいて実行される演出を適正に設定し易くすることができる。

【５４９３】

＜第１３制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図４５８から図４６３を参照して、本第１３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理の内容について説明をする。本第１３制御例では、上述した第５制御例に対して、コマンド判定処理１３（図４５８のＳ３４１８２参照）と、変動表示設定処理１３（図４６１のＳ３４１１３参照）と、を実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容についてはその詳細な説明を省略する。

【５４９４】

まず、図４５８を参照して、コマンド判定処理１３（Ｓ３４１８２）の処理内容について説明をする。図４５８は、コマンド判定処理１３（Ｓ３４１８２）の処理内容を示したフローチャートである。このコマンド判定処理１３（Ｓ３４１８２）では、上述した第５制御例のコマンド判定処理５（図２６２のＳ４１８２参照）に対して、状態コマンド受信

処理５（Ｓ４２８２）に代えて状態コマンド受信処理１３（図４５９のＳ３４２５１参照）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【５４９５】

次に、図４５９を参照して、状態コマンド受信処理１３（Ｓ３４２５１）の処理内容について説明をする。図４５９は、状態コマンド受信処理１３（Ｓ３４２５１）の処理内容を示したフローチャートである。図４５９に示した通り、状態コマンド受信処理１３（Ｓ３４２５１）では、上述した第５制御例における状態コマンド受信処理５（図２６３のＳ４２８２参照）に対して、主制御装置１１０から受信した状態コマンドに含まれる情報に基づいて遊技状態が時短状態へと変更されたと判別した場合（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）に実行される処理内容を変更した点と、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報を含む状態コマンドを受信した場合の処理を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるためその詳細な説明を省略する。

【５４９６】

状態コマンド受信処理１３（Ｓ３４２５１）が実行されると、上述した第５制御例における状態コマンド受信処理５（図２６５のＳ４２８２参照）と同一のＳ９００１，Ｓ９００２の処理が実行される。その後、Ｓ９００５の処理が実行され、遊技状態が時短状態へと変更されたと判別した場合（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）は、時短状態演出設定処理１３を実行し（Ｓ９０９１）、その後、Ｓ９０９３の処理へ移行する。時短状態演出設定処理１３（Ｓ９０９１）の内容については、図４６０を参照して後述する。

【５４９７】

また、Ｓ９００５の処理において、時短状態に変更していないと判別した場合は（Ｓ９００５：Ｎｏ）、変更後の遊技状態に対応する背面種別を示すための表示用背面画像変更コマンドを設定し（Ｓ９０９２）、Ｓ９０９３の処理へ移行する。

【５４９８】

Ｓ９０９３の処理では、今回受信した状態コマンドに、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報、即ち、ハマリ回数を示す情報が含まれているかを判別し（Ｓ９０９３）、含まれていると判別した場合は（Ｓ９０９３：Ｙｅｓ）、受信した値に対応する値を特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に設定し（Ｓ９０９４）、本処理を終了する。一方、Ｓ９０９３の処理において、ハマリ回数を示す情報が含まれていないと判別した場合は（Ｓ９０９３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【５４９９】

次に、図４６０を参照して、状態コマンド受信処理１３（図４５９のＳ３４２５１参照）にて実行される時短状態演出設定処理１３（Ｓ９０９１）の処理内容について説明をする。図４６０は、時短状態演出設定処理１３（Ｓ９０９１）の処理内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理１３（Ｓ９０９１）は、上述した時短状態演出設定処理（図２６６のＳ９００６参照）に対して、通常状態から時短状態へと移行した場合における処理内容を変更している点で相違しており、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【５５００】

時短状態演出設定処理１３（Ｓ９０９１）が実行されると、まず、従状態設定エリア２２３ｇから、変更前の遊技状態を読み出し（Ｓ３４３０１）、変更前の遊技状態が通常状態であるかを判別する（Ｓ３４３０２）。Ｓ３４３０２の処理において、通常状態であると判別した場合は（Ｓ３４３０２：Ｙｅｓ）、今回受信したコマンドに含まれる時短種別を示す情報が、第１時短状態を示す情報であるかを判別し（Ｓ３４３０３）、第１時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ３４３０３：Ｎｏ）、受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａの値に設定し（Ｓ３４３０４）、その後、今回設定された時短状態の時短種別が第３時短状態であるかを判別し（Ｓ３４３０５）、第３時短状態であると判別した場合は（Ｓ３４３０５：Ｙｅｓ）、天井モードに対応する背面種別（図４４０（ｂ）参照）を示すための表示用背面画像変更コマンドを設定し（Ｓ３４３０６）

、本処理を終了する。
【５５０１】
　また、Ｓ３４３０５の処理において、今回設定された時短状態の時短種別が第３時短状態では無いと判別した場合（Ｓ３４３０５：Ｎｏ）は、次に、今回設定された時短状態の時短種別が大当たりＣ１３に基づく大当たり遊技終了後に設定された第２時短状態であるかを判別し（Ｓ３４３０７）、大当たりＣ１３に基づく大当たり遊技終了後に設定された第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ３４３０７：Ｙｅｓ）、上述したＳ３４３０６の処理を実行し、本処理を終了する。
【５５０２】
　Ｓ３４３０７の処理において、大当たりＣ１３に基づく大当たり遊技終了後に設定された第２時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ３４３０７：Ｎｏ）、次に、時短当選後に設定された第２時短状態であるかを判別し（Ｓ３４３０８）、時短当選後に設定された第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ３４３０８：Ｙｅｓ）、上述したＳ３４３０６の処理を実行し、本処理を終了する。そして、Ｓ３４３０８の処理において、時短当選後に設定された第２時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ３４３０８：Ｎｏ）、設定された時短種別に対応する背面種別を示すための表示用背面画像変更コマンドを設定し（Ｓ３４３０９）、本処理を終了する。
【５５０３】
　このように構成することで、天井特典が付与され第３時短状態が設定された場合に実行される天井中モードの背面画像を、大当たり種別「大当たりＣ１３」に基づく大当たり遊技終了後に設定される第２時短状態、及び、時短抽選にて時短当選した場合の一部（０．１％）にて設定される第２時短状態が設定された場合にも表示することが可能となる。これにより、遊技者に対して、天井特典の付与条件が成立することなく設定される上述した第２時短状態が設定された場合であっても、天井特典の付与条件が成立したと思わせることができるため、天井特典が様々なタイミングで付与されることに期待しながら遊技を行わせることができる。
【５５０４】
　次に、図４６１を参照して、変動表示設定処理１３（Ｓ３４１１３）の内容について説明をする。図４６１は、変動表示設定処理１３（Ｓ３４１１３）の処理内容を示したフローチャートである。この変動表示設定処理１３（Ｓ３４１１３）は、上述した変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）に対して、変動演出の演出態様を設定するために、特図１演出態様設定処理（図１８２のＳ４９０３）、及び特図２演出態様設定処理（図１８２のＳ４９０７）に代えて、演出態様設定処理１３（図４６１のＳ４９９１）を実行するように構成した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【５５０５】
　なお、本第１３制御例では、第１特別図柄の変動演出の演出態様を設定する処理と、第２特別図柄の変動演出の演出態様を設定する処理とが同一処理となるため、何れの特別図柄の変動演出の演出態様を設定する場合にも、演出態様設定処理１３（図４６１のＳ４９９１参照）が実行される。
【５５０６】
　次に、図４６２を参照して、演出態様設定処理１３（Ｓ４９９１）の内容について説明をする。図４６２は、演出態様設定処理１３（Ｓ４９９１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出態様設定処理１３（Ｓ４９９１）は、特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定するための処理が実行されるものであって、演出態様を設定する対象となる特別図柄抽選の結果や、設定されている遊技状態に応じて、様々な演出態様を設定するための処理が実行される。また、第３図柄表示装置８１の表示面にて特別図柄抽選の実行回数を示すための表示態様や、特定の遊技状態（例えば、第３時短状態）が継続し得る残期間（残時短回数）を示すための表示態様が表示されている場合において、その表示態様が示す値を更新するための処理が実行される。

【５５０７】
演出態様設定処理１３（Ｓ４９９１）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいか、即ち、現在が第２時短状態、或いは、第３時短状態であるかを判別し（Ｓ３４４０１）、０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ３４４０１：Ｎｏ）、通常モード用演出設定処理１３を実行し（Ｓ３４４０２）、その後、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ３４４０７）、本処理を終了する。
【５５０８】
一方、Ｓ３４４０１の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ３４４０１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値を１減算し（Ｓ３４４０３）、次に、天井時短カウンタ２２３ｌａの値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ３４４０４）。天井時短カウンタ２２３ｌａの値が０よりも大きく無い、即ち、天井中モードが設定されていない右打ち遊技状態（第２時短状態）であると判別した場合は（Ｓ３４４０４：Ｎｏ）、減算後の時短中カウンタ２２３ｄａの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３４４０５）、各種カウンタの値に対応する演出態様を決定し（Ｓ３４４０６）、上述したＳ３４４０７の処理へ移行し、本処理を終了する。
【５５０９】
Ｓ３４４０４の処理において、天井時短カウンタ２２３ｌａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ３４４０４：Ｙｅｓ）、天井時短カウンタ２２３ｌａの値を１減算し（Ｓ３４４０８）、減算後の天井時短カウンタ２２３ｌａの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３４４０９）、減算後の天井時短カウンタ２２３ｌａの値が１であるかを判別する（Ｓ３４４１０）。
【５５１０】
Ｓ３４４１０の処理において、天井時短カウンタ２２３ｌａの値が１では無い、即ち、天井中モードの最終変動では無いと判別した場合は（Ｓ３４４１０：Ｎｏ）、上述したＳ３４４０６，Ｓ３４４０７の処理を実行し、本処理を終了する。一方、Ｓ３４４１０の処理において、天井時短カウンタ２２３ｌａの値が１である（即ち、天井中モードの最終変動である）と判別した場合は（Ｓ３４４１０：Ｙｅｓ）、次に、後乗せフラグ２２３ｌｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３４４１１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３４４１１：Ｙｅｓ）、後乗せフラグ２２３ｌｂをオフに設定し（Ｓ３４４１２）、時短中カウンタ２２３ｄａの値に対応した値を天井時短カウンタ２２３ｌａの値に加算し（Ｓ３４４１３）、残時短回数表示が増加する後乗せ演出（上乗せ演出）の演出態様を決定し（Ｓ３４４１４）、上述したＳ３４４０７の処理を実行し、本処理を終了する。
【５５１１】
また、Ｓ３４４１１の処理において、後乗せフラグ２２３ｌｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４４１１：Ｎｏ）、天井中モードが設定されている第３時短状態、第２時短状態が終了する特別図柄変動に対応する変動演出となるため、天井中モード（天井モード）が終了することを示す演出態様を決定し（Ｓ３４４１５）、上述したＳ３４４０７の処理を実行し、本処理を終了する。
【５５１２】
次に、図４６３を参照して、通常モード用演出設定処理１３（Ｓ３４４０２）の内容について説明をする。図４６３は、通常モード用演出設定処理１３（Ｓ３４４０２）の処理内容を示したフローチャートである。この通常モード用演出設定処理１３（Ｓ３４４０２）では、特別図柄変動が停止表示された際に、天井中モード（天井モード）が設定されることを示すための天井到達時演出の演出態様を決定する処理と、左打ち遊技状態が設定されている状態にて実行される特別図柄変動に対応して実行される変動演出として、天井特典が付与されるまでの残期間を遊技者に示唆することが可能な天井到達示唆演出の演出態様を決定するための処理が実行される。
【５５１３】
通常モード用演出設定処理１３（Ｓ３４４０２）が実行されると、まず、特図抽選回数

カウンタ２２３ｌｃの値が５００であるか、即ち、今回実行される特別図柄抽選によって、天井特典の付与条件が成立するかを判別する（Ｓ３４５０１）。Ｓ３４５０１の処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００であると判別した場合は（Ｓ３４５０１：Ｙｅｓ）、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂを参照して、天井到達時演出の演出態様を決定し（Ｓ３４５０２）、決定した演出態様に対応した値を、天井時短カウンタ２２３ｌａの値に設定し（Ｓ３４５０３）、決定した演出態様に対応させた後乗せフラグ２２３ｌｂの設定状況を決定し（Ｓ３４５０４）、本処理を終了する。

【５５１４】

また、Ｓ３４５０１の処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００では無い、即ち、天井特典の付与条件が成立しないと判別した場合には（Ｓ３４５０１：Ｎｏ）、次に、今回の特別図柄変動が、大当たりＣ１３に当選する特別図柄変動であるかを判別し（Ｓ３４５０５）、大当たりＣ１３に当選する特別図柄変動であると判別した場合は（Ｓ３４５０５：Ｙｅｓ）、特別図柄変動の停止表示後に疑似的に天井モード（天井中モード）となる第２時短状態が設定されるため、上述したＳ３４５０２～Ｓ３４５０４の処理を実行し、本処理を終了する。

【５５１５】

また、Ｓ３４５０５の処理において、大当たりＣ１３に当選する特別図柄変動では無いと判別した場合は（Ｓ３４５０５：Ｎｏ）、次に、今回の特別図柄変動が、第２時短状態が設定される時短当選変動であるかを判別し（Ｓ３４５０６）、第２時短状態が設定される時短当選変動であると判別した場合は（Ｓ３４５０６：Ｙｅｓ）、特別図柄変動の停止表示後に疑似的に天井モード（天井中モード）となる第２時短状態が設定されるため、上述したＳ３４５０２～Ｓ３４５０４の処理を実行し、本処理を終了する。

【５５１６】

Ｓ３４５０６の処理において、第２時短状態が設定される時短当選変動では無いと判別した場合、即ち、今回の特別図柄変動が停止表示された後に、天井中モード（天井モード）が設定されることの無い特別図柄変動であると判別した場合は（Ｓ３４５０６：Ｎｏ）、次に、今回の特別図柄変動が特殊変動（１５秒変動）であるかを判別し（Ｓ３４５０７）、特殊変動（１５秒変動）であると判別した場合は（Ｓ３４５０７：Ｙｅｓ）、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａを参照して、示唆演出の演出態様を決定し（Ｓ３４５０８）、本処理を終了する。また、Ｓ３４５０７の処理において特殊変動（１５秒変動）では無いと判別した場合は（Ｓ３４５０７：Ｎｏ）、受信した変動パターンに対応した演出態様を決定し（Ｓ３４５０９）、本処理を終了する。

【５５１７】

＜第１３制御例における第１変形例について＞

次に、図４６４から図４７０を参照して、上述した第１３制御例の第１変形例について説明をする。上述した第１３制御例では、遊技状態が通常状態、或いは、第１時短状態の場合に時短抽選を実行可能に構成し、時短抽選で時短当選し、第１時短状態が設定された場合には、時短回数１回の第１時短状態が設定されるように構成していた。そして、通常状態又は第１時短状態が設定されている間に、大当たり当選すること無く、特別図柄抽選が５００回実行されることで天井特典の付与条件が成立し、天井特典として第３時短状態が設定されるように構成していた。

【５５１８】

加えて、天井特典の付与条件が成立した場合に設定されている遊技状態に応じて、天井特典として付与される特典の内容を異ならせるように構成し、通常状態が設定されている状態で天井特典の付与条件が成立した場合には、時短１００回の第３時短状態が設定され、第１時短状態が設定されている状態で天井特典の付与条件が成立した場合には、時短３００回の第３時短状態が設定されるように構成していた。

【５５１９】

つまり、上述した第１３制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選を目指す従来型の遊技性に加え、大当たり当選しない期間が長時間継続した場合に、特別図柄抽選の実行回数

に基づいて付与される天井特典を目指す遊技を遊技者に実行させることができるものであった。

【５５２０】

さらに、時短抽選の結果に基づいて、通常状態と、第１時短状態と、を頻繁に切り替えることで、天井特典として付与される特典の内容（時短回数）が、遊技者に有利な有利特典（時短３００回）となるか、有利特典よりは不利となる不利特典（時短１００回）となるかを遊技者に予測させ難くすることができるものであった。

【５５２１】

これに対して、本第１変形例では、時短抽選で時短当選する確率を低確率（１／５００）に設定し、通常状態のみ時短抽選を実行可能に構成し、時短当選した場合には、天井特典の付与条件となる特別図柄抽選の実行回数（ハマリ回数）よりも多い時短回数の第１時短状態が設定されるように構成している。

【５５２２】

つまり、本第１変形例では、通常状態にて時短当選し、第１時短状態が設定された場合には、大当たり当選しない限り、天井特典の付与条件が成立するまで第１時短状態が継続するように構成している。このように構成することで、時短抽選に当選したことによる付加価値として、天井特典で有利特典が付与されるため遊技者に対して、天井特典を目指した遊技を意欲的に実行させることができる。

【５５２３】

さらに、本第１変形例では、左打ち遊技状態が実行されている期間において、現在設定されている遊技状態が通常状態であるか、第１時短状態であるかを遊技者に予測させるための遊技状態示唆演出を実行可能に構成している。

【５５２４】

このように構成することで、大当たり当選すること無く、左打ち遊技状態を長時間遊技している遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を予測させ易くすることができるため、天井特典の付与条件が成立するまでの残期間と、現在の遊技状態とを鑑みて、遊技を続行するか否かを選択させることができる。また、天井特典の付与条件が成立するまでの残期間が長い状況であっても、第１時短状態が設定されている可能性が高いことを示す演出態様で遊技状態示唆演出が実行された場合には、有利特典を目指した遊技を遊技者に行わせ易くすることができるため、左打ち遊技状態が実行されている期間において、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出が実行されない場合に比べて、パチンコ機１０の稼働を向上させ易くすることができる。

【５５２５】

＜第１３制御例の第１変形例にて実行される演出内容について＞

まず、図４６４を参照して、本第１３制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１３制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０は、上述した第１３制御例におけるパチンコ機１０に対して、左打ち遊技状態にて実行される時短抽選の結果に基づいて第１時短状態が設定されている間は時短抽選が実行されず、且つ、第１時短状態として天井特典が付与されるハマリ回数（５００回）よりも多い１０００回の時短回数が設定されるように構成している。

【５５２６】

よって、左打ち遊技状態にて実行される時短抽選の結果に基づいて第１時短状態が設定されると、その時点で、天井特典として有利特典（時短３００回の第３時短状態）が設定されることが確定する。

【５５２７】

そこで、本第１変形例では、左打ち遊技状態中において、第１時短状態が設定されているか否かを遊技者に予測させるための遊技状態示唆演出を実行可能に構成している。図４６４（ａ）は、遊技状態示唆演出の演出画面の一例を示した図であって、図４６４（ｂ）は、左打ち遊技状態において、第１時短状態が設定されている可能性が高いことを遊技者

に示唆するための示唆演出中における表示画面の一例を示した図である。
【５５２８】
図４６４（ａ）に示した通り、遊技状態示唆演出が実行されると、主表示領域Ｄｍの中央部に複数の領域が形成されたルーレット８６１が回転表示され、指標８６３に対応する位置に停止した領域が演出結果となる遊技状態示唆演出が実行される。ルーレット８６１には、第１時短状態が設定されていることを示す「準備」の表示態様が表示されている第１領域８６２ａ、第１時短状態が設定されている可能性を示唆する「チャンス」の表示態様が表示されている第２領域８６２ｂ、大当たり当選を示す「Ｖ」の表示態様が表示されている第３領域８６２ｃ、何れの情報も示唆することのない「？」の表示態様が表示されている第４領域８６２ｄの４つの領域が占有範囲を異ならせて形成されている。
【５５２９】
そして、主表示領域Ｄｍには、遊技状態示唆演出が実行されていることを示すための「状態示唆チャンス」の文字が表示され、副表示領域Ｄｓには、遊技状態示唆演出の演出内容を遊技者に説明するための説明態様として「どこで止まるかな？「準備」で止まれば「天井準備」へ、「Ｖ」で止まれば「大当たり！」」のコメントが表示されている。
【５５３０】
ここで、本第１変形例では、天井特典が付与されるまでの残期間の長さや、実行される特別図柄抽選の結果に基づいて、遊技状態示唆演出の実行頻度や、演出態様を異ならせるように構成しており、天井特典が付与されるまでの残期間が短くなるほど、又は、特定回数目（例えば、５０の倍数）の特別図柄抽選であるほど、実際に設定されている遊技状態を把握し易い演出態様で遊技状態示唆演出が実行されるように構成している。
【５５３１】
このように構成することで、設定されている遊技状態を把握しようとする遊技者に対して、次の特定回数目の特別図柄抽選が実行されるまで遊技を行わせ易くすることができるため、パチンコ機１０の稼働を向上させ易くすることができる。また、図４６４（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍに形成される小表示領域Ｄｍ７には、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数が表示されるように構成しており、図４６４（ａ）に示した図では、２５０回目の特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動期間中を示している。
【５５３２】
そして、遊技状態示唆演出にて第１領域８６２ａが、指標８６３に対応する位置に停止表示された場合には、図４６４（ｂ）に示した通り、天井準備モードが設定される。この天井準備モードは、第１時短状態が設定されていることを示すための演出モードであって、小表示領域Ｄｍ７には、前回の大当たり遊技終了後から実行された特別図柄抽選の回数では無く、天井特典が付与されるまでの残期間（残特別図柄変動回数）が表示され、天井モード（天井中モード）中に出現するキャラクタ８０９が表示される。また、副表示領域Ｄｓには、天井準備モードの演出内容を説明するための説明態様として、「あと９０回ハマったら、時短３００回ＧＥＴ」の文字が表示される。このように構成することで、遊技状態示唆演出にて、現在設定されている遊技状態を遊技者に示唆するだけで無く、天井特典が付与されるまでの残期間を遊技者に報知することが可能となるため、天井特典の付与を目指した遊技者に対して意欲的に遊技を行わせることができる。
【５５３３】
＜第１３制御例の第１変形例における電気的構成について＞
次に、図４６５～図４６７を参照して、本第１変形例における電気的構成について説明をする。本第１３制御例の第１変形例は、上述した第１３制御例に対して、時短抽選の当選確率を低確率に変更した点と、時短当選時に設定される時短回数を異ならせた点と、で主制御装置１１０の電気的構成を異ならせており、遊技状態示唆演出の演出態様を決定するためのデータテーブルを追加した点と、天井準備モードが設定されている状態を示すためのフラグを追加した点で、音声ランプ制御装置１１３の電気的構成を異ならせている。それ以外の要素については同一であり、同一の内容については、その説明を省略する。

【５５３４】
まず、図４６５（ａ）を参照して、時短当たり乱数１３ａテーブル２０２ｌａｅの内容について説明をする。図４６５（ａ）は、時短当たり乱数１３ａテーブル２０２ｌａｅに規定されている内容を示した図である。この時短当たり乱数１３ａテーブル２０２ｌａｅは、上述した時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅ（図４４４（ｃ）参照）に対して、時短抽選で当り当選する判定値の数を異ならせている点で相違している。
【５５３５】
具体的には、特別図柄種別は「共通」で、遊技状態として、通常状態である場合には、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「９９８，９９９」の範囲が時短当選の判定値として規定されている。また、遊技状態が通常状態以外である場合には、時短当選の判定値が規定されていない（図では「－」で表示）。
【５５３６】
このように構成することで、時短抽選で時短当選し得る遊技状態が通常状態のみとなり、さらに、時短抽選で時短当選させ難くすることができる。よって、時短抽選で時短当選したことによる付加価値として遊技者に有利な有利特典（時短３００回の第３時短状態）を付与可能に構成したとしても、遊技者に対して過剰に有利特典が付与されてしまうことを抑制することができる。
【５５３７】
次に、図４６５（ｂ）を参照して、時短当選用１３ａテーブル２０２ｌａｆ１の内容について説明をする。図４６５（ｂ）は、時短当選用１３ａテーブル２０２ｌａｆ１に規定されている内容を示した図である。図４６５（ｂ）に示した通り、時短当選用１３ａテーブル２０２ｌａｆ１は、上述した第１３制御例の時短当選用１３テーブル２０２ｌｆ１に対して、各時短種別に対して設定される時短回数（時短カウンタ２０３ｈにセットする値）を異ならせており、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。
【５５３８】
具体的には、時短種別として第１時短状態が設定された場合には、時短回数として「１０００回」が設定される点で相違している。このように構成することで、時短当選して第１時短状態が設定された場合に、ハマリ回数を超えるまで継続して第１時短状態を設定することができる。
【５５３９】
次に、図４６６（ａ）を参照して、本第１変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。本第１変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２は、上述した第１３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２（図４４７（ａ）参照）に対して、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａに代えて、遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａを設けた点で相違し、それ以外は同一である。
【５５４０】
遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａは、遊技状態示唆演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、通常モード（通常状態、第１時短状態、第２確変状態）中において、特殊変動（１５秒変動）の変動パターンが選択された場合に参照される（図４７０のＳ３４５３２参照）。
【５５４１】
ここで、図４６７を参照して、遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａに規定されている内容について説明をする。図４６７は、遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａに規定されている内容を示した図である。図４６７に示した通り、遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａには、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と、設定されている遊技状態と、当該変動に対応する特別図柄抽選の結果と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値に対応させて異なる示唆態様（演出態様）が規定されている。

【５５４２】
この遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａを参照して決定された演出態様で遊技状態示唆演出の演出態様、即ち、図４６４（ａ）を参照して説明をした遊技状態示唆演出にて、最終的に指標８６３に対応して停止表示される領域８６２ａ～８６２ｄが決定される。
【５５４３】
具体的には、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「１～２００までの５０の倍数以外」であって、第１通常モード（通常状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「８０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「９０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。
【５５４４】
また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「１～２００までの５０の倍数以外」であって、第２通常モード（第１時短状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「８０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「５０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。
【５５４５】
次に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「５０，１００，１５０，２００」であって、第１通常モード（通常状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「Ｖ」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～３９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「４０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。
【５５４６】
また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「５０，１００，１５０，２００」であって、第２通常モード（第１時短状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「Ｖ」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「２０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。
【５５４７】
特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「２０１～４９０までの５０の倍数以外」であって、第１通常モード（通常状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「９０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。
【５５４８】
また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「２０１～４９０までの５０の倍数以外」であって、第２通常モード（第１時短状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「９０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス

」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「２０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。

【５５４９】

次に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「２５０，３００，３５０，４００，４５０」であって、第１通常モード（通常状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「Ｖ」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、演出態様「？」が、「５０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。

【５５５０】

また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「２５０，３００，３５０，４００，４５０」であって、第２通常モード（第１時短状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「Ｖ」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が、「５０～９９」の範囲に対して、演出態様「準備」が規定されている。

【５５５１】

そして、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「４９１～５００」であって、第１通常モード（通常状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～６９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「７０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。

【５５５２】

また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が「４９１～５００」であって、第２通常モード（第１時短状態）が設定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して、演出態様「Ｖ」が、「８０～９９」の範囲に対して、演出態様「チャンス」が規定されており、当該変動の特別図柄抽選の結果が「大当たり以外」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９８」の範囲に対して、演出態様「準備」が規定されており、「９９」の値に対して、演出態様「チャンス」が規定されている。

【５５５３】

ここで、演出態様「Ｖ」が決定された場合は、図４６４（ａ）に示した遊技状態示唆演出として、最終的に指標８６３に対応する位置に、Ｖが表示されている領域８６２ｃが停止表示される演出が実行され、演出態様「チャンス」が決定された場合は、図４６４（ａ）に示した遊技状態示唆演出として、最終的に指標８６３に対応する位置に、チャンスが表示されている領域８６２ｂが停止表示される演出が実行され、演出態様「？」が決定された場合は、図４６４（ａ）に示した遊技状態示唆演出として、最終的に指標８６３に対応する位置に、「？」が表示されている領域８６２ｄが停止表示される演出が実行され、演出態様「準備」が決定された場合は、図４６４（ａ）に示した遊技状態示唆演出として、最終的に指標８６３に対応する位置に、準備が表示されている領域８６２ａが停止表示される演出が実行される。

【５５５４】

以上、説明をした通り、遊技状態示唆演出では、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が大きいほど、つまり、天井特典が付与されるまでの残期間が少ないほど、現在設定されている遊技状態に対応した示唆態様が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、左打ち遊技状態を長時間遊技している遊技者に対して、徐々に現在設定

されている遊技状態の予測精度を高めさせることができるため、継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【５５５５】

また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が特定の値（５０の倍数）のタイミングで遊技状態示唆演出の実行条件が成立した場合には、他のタイミングで遊技状態示唆演出が実行される場合よりも、現在設定されている遊技状態を把握し易い演出が実行され易くなるように構成している。このように構成することで、現在設定されている遊技状態を把握しようとする遊技者に対して、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が特定の値となるまで特別図柄抽選を実行させようと継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【５５５６】

次に、図４６６（ｂ）を参照して、本第１変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。本第１変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第１３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図４４７（ｂ）参照）に対して、報知済フラグ２２３ｌａａを追加した点で相違している。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５５５７】

報知済フラグ２２３ｌａａは、遊技状態示唆演出において、第１時短状態が設定されていることを示す報知が実行されたことを示すためのフラグであって、遊技状態示唆演出の演出結果として天井準備モード（図４６４（ｂ）参照）が設定される場合にオンに設定される（図４７０のＳ３４５３４参照）。そして、報知済フラグ２２３ｌａａの設定状況は、遊技状態示唆演出を実行するか否かを決定する際に参照され（図４７０のＳ３４５３１参照）、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されている場合には（図４７０のＳ３４５３１：Ｙｅｓ）、新たな遊技状態示唆演出が実行されないように構成している。このように構成することで、既に、第１時短状態が設定されていることを報知している状態において、無用に遊技状態示唆演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【５５５８】

＜第１３制御例の第１変形例における主制御装置１１０の制御処理について＞

次に、図４６８を参照して、本第１変形例における主制御装置１１０にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第１変形例は、上述した第１３制御例に対して、時短抽選の実行条件を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、その詳細な説明を省略する。

【５５５９】

ここで、図４６８を参照して、時短抽選処理１３ａ（Ｓ３８００６ａ）の内容を説明する。図４６８は、本第１変形例における時短抽選処理１３ａ（Ｓ３８００６ａ）の処理内容を示したフローチャートである。図４６８に示した通り、時短抽選処理１３ａ（Ｓ３８００６ａ）は、上述した第１３制御例の時短抽選処理１３（Ｓ３８００６）に対して、遊技状態が通常状態である場合にのみ時短抽選の実行条件が成立する点（Ｓ３８１５１ａ：Ｙｅｓ）と、時短抽選時に参照されるデータテーブルを、時短当たり乱数１３ａテーブル２２２ｉａｅとしている点（Ｓ３８１５２ａ）で相違しており、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【５５６０】

＜第１３制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図４６９および図４７０を参照して、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理内容について説明をする。本第１変形例では、上述した第１３制御例に対して、時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）に代えて、時短状態演出設定処理１３ａ（図４６９のＳ９０９１ａ参照）を実行する点と、通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）に代えて、通常モード用演出設定処理１３ａ（図４７０のＳ３４４０２ａ参照）を実行する点と、で相違している。それ

以外は同一であるため、その説明を省略する。
【５５６１】
まず、図４６９を参照して、時短状態演出設定処理１３ａ（Ｓ９０９１ａ）の処理内容について説明をする。図４６９は、時短状態演出設定処理１３ａ（Ｓ９０９１ａ）の処理内容を示したフローチャートである。図４６９に示した通り、時短状態演出設定処理１３ａ（Ｓ９０９１ａ）が実行されると、上述した時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）と同一のＳ３４３０１～Ｓ３４３０４の処理が実行される。
【５５６２】
そして、Ｓ３４３０５の処理において、第３時短状態と判別した場合（Ｓ３４３０５：Ｙｅｓ）、Ｓ３４３０７の処理において、大当たりＣ１３後の第２時短状態と判別した場合（Ｓ３４３０７：Ｙｅｓ）、時短当選後の第２時短状態と判別した場合（Ｓ３４３０８：Ｙｅｓ）に、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３４３３１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３４３３１：Ｙｅｓ）、報知済フラグ２２３ｌａａをオフに設定し（Ｓ３４３３２）、上述した時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）と同一のＳ３４３０６の処理を実行し、本処理を終了する。
【５５６３】
また、Ｓ３４３３１の処理において、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４３３１：Ｎｏ）、Ｓ３４３３２の処理をスキップして、上述した時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）と同一のＳ３４３０６の処理を実行し、本処理を終了する。このように構成することで、報知済フラグ２２３ｌａａを確実にオフに設定することができる。
【５５６４】
次に、図４７０を参照して、通常モード用演出設定処理１３ａ（Ｓ３４４０２ａ）の処理内容について説明をする。図４７０は、通常モード用演出設定処理１３ａ（Ｓ３４４０２ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この通常モード用演出設定処理１３ａ（Ｓ３４４０２ａ）は、上述した第１３制御例における通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）に対して、通常モードにおいて特殊変動（１５秒変動）が実行される場合に演出態様を設定するための処理内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その説明を省略する。
【５５６５】
通常モード用演出設定処理１３ａ（Ｓ３４４０２ａ）が実行されると、まず、上述した第１３制御例における通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）と同一のＳ３４５０１～Ｓ３４５０７の処理を実行し、Ｓ３４５０７の処理にて１５秒変動（特殊変動）であると判別した場合に（Ｓ３４５０７：Ｙｅｓ）、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されているかを判別する（Ｓ３４５３１）。
【５５６６】
Ｓ３４５３１の処理において、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４５３１：Ｎｏ）、第１時短状態が設定されていることを遊技者に報知するための天井準備モードが設定されていない状態であるため、遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル２２２ｌａａを参照して、示唆演出（遊技状態示唆演出）の演出態様を決定し（Ｓ３４５３２）、その後、今回決定した演出態様が天井準備態様であるかを判別し（Ｓ３４５３３）、天井準備態様であると判別した場合は（Ｓ３４５３３：Ｙｅｓ）、報知済フラグ２２３ｌａａをオンに設定する（Ｓ３４５３４）。
【５５６７】
そして、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値を読み出し（Ｓ３４５３５）、読み出した値が５００になるまでの残回数、即ち、天井特典の付与条件が成立するまでのハマリ回数の残回数を算出し（Ｓ３４５３６）、算出した残回数を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３４５３７）、本処理を終了する。Ｓ３４５３７の処理によって設定された表示用コマンドを表示制御装置１１４側で受信することにより、図４６４（ｂ）に示した表示

画面にて小表示領域Ｄｍ７に表示される天井到達までの残回数が表示される。
【５５６８】
なお、詳細な説明は省略するが、Ｓ３４５３６の処理によって算出された残回数は、専用のカウンタ（残回数カウンタ）に設定され、特別図柄抽選が実行される毎に、設定された値が１減算され、減算後の値を示すための表示用コマンドが表示制御装置１１４へと出力されるように構成している。これにより、天井準備モードが設定された場合には、特別図柄抽選が実行される毎に、天井までの残回数を示す値が、徐々に減算表示されるため、遊技者に対して、天井特典が付与されるタイミングが近付いていることを容易に把握させることができる。
【５５６９】
また、Ｓ３４５３１の処理において、報知済フラグ２２３ｌａａがオンに設定されていると判別した場合（Ｓ３４５３１：Ｙｅｓ）は、すでに天井準備モードが設定されている状態であるため、遊技状態示唆演出を実行するための処理をスキップして、Ｓ３４５３５の処理へ移行する。
【５５７０】
また、Ｓ３４５３３の処理において、天井準備態様以外の演出態様を決定したと判別した場合は（Ｓ３４５３３：Ｎｏ）、新たな遊技状態示唆演出を実行可能な状態であるため、Ｓ３４５３４の処理をスキップして、Ｓ３４５３５の処理へ移行する。
【５５７１】
以上、説明をした通り、本第１３制御例の第１変形例では、時短抽選で時短当選する確率を低確率（１／５００）に設定し、通常状態のみ時短抽選を実行可能に構成し、時短当選した場合には、天井特典の付与条件となる特別図柄抽選の実行回数（ハマリ回数）よりも多い時短回数の第１時短状態が設定されるように構成し、通常状態にて時短当選し、第１時短状態が設定された場合には、大当たり当選しない限り、天井特典の付与条件が成立するまで第１時短状態が継続するように構成している。
【５５７２】
このように構成することで、時短抽選に当選したことによる付加価値として、天井特典で有利特典が付与されるため遊技者に対して、天井特典を目指した遊技を意欲的に実行させることができる。
【５５７３】
なお、本第１３制御例の第１変形例では、第１時短状態中には時短抽選を実行しないように構成しているが、第１時短状態中においても、時短抽選を実行可能に構成し、第１時短状態中に時短当選した場合には、天井特典の付与条件となる特別図柄抽選の実行回数（ハマリ回数）よりも多い時短回数の第１時短状態が新たに設定されるように構成し、天井特典の付与条件が成立するまでに時短当選した回数に応じて、天井特典として付与される特典の内容（時短回数）を異ならせるように構成しても良い。この場合、時短当選回数が多い程、天井特典として付与される時短回数が多くなるように構成すると良い。このように構成することで、時短抽選に当選したことによる付加価値をより高めることができる。また、天井特典として付与される時短回数が少なくなるように構成しても良い。
【５５７４】
さらに、本第１３制御例の第１変形例では、上述した第１３制御例と同様に、通常状態と第１時短状態とが切り替わった場合でも、ハマり回数は継続して更新（加算）されるように構成しているが、これに限ること無く、通常状態から第１時短状態へと遊技状態が切り替わる場合や、第１時短状態から通常状態へと遊技状態が切り替わる場合には、ハマり回数をリセットするように構成しても良い。
【５５７５】
このように構成した場合であっても、本第１３制御例の第１変形例では、通常状態にて時短当選した場合に、天井特典が付与される特別図柄抽選回数（ハマリ回数５００回）よりも大きな値の時短回数の第１時短状態が設定されるため、確実に天井特典を付与することができる。

【５５７６】
なお、本第１３制御例の第１変形例では、通常状態にて時短当選した場合に、天井特典が付与される特別図柄抽選回数（ハマリ回数５００回）よりも大きな値の時短回数を有する第１時短状態が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、通常状態にて時短当選した場合の一部において、天井特典が付与される特別図柄抽選回数（ハマリ回数５００回）よりも小さな値の時短回数（例えば、１００回、１５０回等）を有する第１時短状態を設定可能に構成しても良い。
【５５７７】
このように構成することで、通常状態にて時短当選したタイミング（時短当選時のハマり回数）や、時短当選に基づいて設定される時短状態種別によって、第１時短状態が設定される時点において、第１時短状態中に天井特典が付与されることが確定するか否かを決定することができる。そして、この場合、通常状態にて実行される演出として、時短当選時に第１時短状態が設定される各時短状態種別の選択割合に基づいて、時短当選時に設定される第１時短状態が天井到達時まで継続し得る期待度を示唆可能な示唆演出と、時短当選時において、今回設定される第１時短状態が天井到達時まで継続し得る期待度を示唆可能な示唆演出と、を実行可能に構成すると良い。このように構成することで、通常状態において実行される時短抽選に対して、その時短抽選結果が遊技者に有利となるか否かを遊技者に予測させながら遊技を行わせることができる。
【５５７８】
また、本第１変形例では、左打ち遊技状態が実行されている期間において、現在設定されている遊技状態が通常状態であるか、第１時短状態であるかを遊技者に予測させるための遊技状態示唆演出を実行可能に構成している。
【５５７９】
このように構成することで、大当たり当選すること無く、左打ち遊技状態を長時間遊技している遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を予測させ易くすることができるため、天井特典の付与条件が成立するまでの残期間と、現在の遊技状態とを鑑みて、遊技を続行するか否かを選択させることができる。また、天井特典の付与条件が成立するまでの残期間が長い状況であっても、第１時短状態が設定されている可能性が高いことを示す演出態様で遊技状態示唆演出が実行された場合には、有利特典を目指した遊技を遊技者に行わせ易くすることができるため、左打ち遊技状態が実行されている期間において、現在設定されている遊技状態を示唆するための演出が実行されない場合に比べて、パチンコ機１０の稼働を向上させ易くすることができる。
【５５８０】
＜第１３制御例の第１変形例における演出変形例について＞
次に、図４６４（ａ）を参照して説明をした第１３制御例の第１変形例にて実行される演出の変形例について説明をする。上述した第１３制御例の第１変形例では、左打ち遊技状態において、現在設定されている遊技状態が通常状態であるか第１時短状態であるかを遊技者に示唆するための遊技状態示唆演出を実行可能に構成していた。
【５５８１】
そして、遊技状態示唆演出として、図４６４（ａ）に示した表示画面が表示される演出を実行可能に構成していた。上述した通り、第１３制御例の第１変形例にて実行される遊技状態示唆演出では、天井特典の付与条件となる特別図柄抽選回数（ハマり回数）が近付く程、現在設定されている遊技状態を遊技者が把握し易い態様で遊技状態示唆演出が実行されるように構成することで、遊技者に対して継続して遊技を行わせ易くするものであったが、天井特典の付与条件となる特別図柄抽選回数（ハマり回数）が遠い状態では、遊技状態示唆演出の演出結果として、何れの遊技状態が設定されているのかを遊技者が把握困難な演出結果（指標８６３に対応する位置に「？」が付された領域８６２ｄが停止する演出結果）が実行され易くなり、演出効果が低下してしまうという問題があった。
【５５８２】
また、遊技状態示唆演出の演出結果として、何れの遊技状態が設定されているのかを遊

技者が把握困難な演出結果（指標８６３に対応する位置に「？」が付された領域８６２ｄが停止する演出結果）となる遊技状態示唆演出が連続して複数回実行される場合であっても、同様の演出が繰り返し実行されるだけであり、実行される演出が単調となるという問題があった。

【５５８３】

これに対して、本演出変形例では、遊技状態示唆演出の演出態様の一部（ルーレット８６１の態様）を上述した第１３制御例の第１変形例とは異ならせている。具体的には、上述した第１３制御例の第１変形例において「？」が付された領域８６２ｄに対して、本演出変形例では、「インジケータ」が設けられている。このインジケータには１０個の目盛りが付されていて、領域８６２ｄの一端側（領域８６２ｃと隣接する側）から順に、１目盛り単位で値が上昇するように表示態様が可変されるように構成している。

【５５８４】

そして、遊技状態示唆演出の演出結果として「？」が選択された場合には、指標８６３に対応する位置に「インジケータ」が付された領域８６２ｄが位置した場合（表示された場合）に、領域８６２ｄに付された「インジケータ」が１目盛り毎上昇し、「インジケータ」の可変後の表示態様が、領域８６２ｄの他端側（領域８６２ｄに隣接する側）に設けられた最大値まで上昇した場合に、「準備」が付された領域８６２ａが指標８６３に対応する位置に位置した（表示された）場合と同一の演出結果となるように構成している。

【５５８５】

つまり、特定期間（天井特典が付与されるまでの期間）中に実行された特定演出（遊技状態示唆演出）の演出結果として、特定の演出結果（「？」が表示される演出結果）となる（なった）回数を記憶する記憶手段を設け、その記憶手段に記憶されている情報（特定の演出結果となった演出回数）に基づいて、特定演出（遊技状態示唆演出）の演出態様を可変可能に構成している。よって、同一の演出態様が繰り返し実行されてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【５５８６】

さらに、記憶手段に記憶されている回数が所定回数を満たした場合には、特定の演出結果を示すための表示領域を、特定の演出結果よりも遊技者に有利となる他の演出結果（「準備」）を示すための表示領域へと可変させることができるため、特定の演出結果となる遊技状態示唆演出が連続して実行される程、他の演出結果となる遊技状態示唆演出の実行頻度を高くすることができ、遊技者に対して遊技状態示唆演出が繰り返し実行されることを期待させることができる。

【５５８７】

なお、本演出変形例では、「インジケータ」が最大値まで上昇した場合に、「インジケータ」が付された領域８６２ｄが示す遊技状態示唆演出の演出結果を異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、「インジケータ」が付された領域８６２ｄのうち、既に値が上昇している領域の範囲を、他の演出結果を示すための領域として表示するように構成しても良い。この場合、「インジケータ」が示す値が上昇する毎に、他の演出結果を示す領域が徐々に拡大していくため、遊技者に対して遊技状態示唆演出が繰り返し実行されることを期待させることができる。

【５５８８】

また、上述した第１３制御例の第１変形例、及び、本演出変形例では、遊技状態示唆演出中に最初に表示されるルーレット９６１の表示態様として１種類の表示態様（図４６４（ａ）参照）を示しているが、これに限ること無く、遊技状態示唆演出が最初に実行された時点におけるハマり回数（天井特典が付与されるまでの残特別図柄変動回数）に基づいて、遊技状態示唆演出中に最初に表示されるルーレット９６１の表示態様を異ならせても良い。このように構成することで、遊技状態示唆演出の演出結果が表示されるよりも前に、表示されているルーレット９６１の表示態様に基づいて、天井特典が付与されるまでの残期間を遊技者に予測させることが可能となる。

【５５８９】

＜第１３制御例に関する別技術思想について＞

上述した第１３制御例、及び、第１３制御例の第１変形例では、天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異なる天井特典として、時短回数の異なる第３時短状態を設定可能に構成しているが、遊技者に付与される天井特典の内容として別の特典を付与可能に構成しても良く、例えば、天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて、時短状態中に実行され易い特別図柄抽選の種別を異ならせるように構成しても良く、例えば、通常状態にて天井特典が付与される場合には、第２特別図柄抽選よりも第１特別図柄抽選の方が実行され易くなる時短状態が設定され、第１時短状態にて天井特典が付与される場合には、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選の方が実行され易くなる時短状態が設定されるように構成しても良い。

【５５９０】

このように構成することで、天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて、天井特典が付与されている期間中に実行される特別図柄抽選の回数を異ならせるのでは無く、天井特典が付与されている期間中に実行される特別図柄抽選の結果を異ならせることができる。

【５５９１】

また、他の天井特典として、電動役物１６４０が開放する期間の長さを、天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異ならせるように構成しても良い。この場合、例えば、時短状態中における普通図柄抽選の当たり確率を天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異ならせて設定したり、時短状態中における普通図柄変動の変動時間を天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異ならせて設定したり、時短状態中における普図当たり遊技にて、電動役物１６４０が開放状態となる期間の長さを天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異ならせて設定したりすると良い。このように構成することで、天井特典の内容によって、天井特典中に払い出される賞球数の数を異ならせることができる。さらに、この場合、天井特典として付与される特典の一部において、天井特典中に発射した遊技球の個数よりも、天井特典中に払い出された賞球の個数の方が多くなる時短状態を設定可能に構成しても良い。

【５５９２】

また、天井特典中に発射した遊技球の個数よりも、天井特典中に払い出された賞球の個数の方が多くなる時短状態を天井特典として付与可能に構成した場合には、その遊技球の増加割合を、天井特典が付与されるまでのハマリ回数に応じて決定すれば良く、天井特典が付与されるまでのハマり回数が多い程、天井特典が付与されるまでに多くの遊技球を使用しているため、天井特典中に、天井特典が付与されるまでに使用した遊技球の３割程度が持ち玉として増加し得るように構成すると良い。このように構成することで、天井特典を目指した遊技を遊技者に行わせ易くすることができる。

【５５９３】

さらに、上述した第１３制御例、及び、第１３制御例の第１変形例では、天井特典が付与される時点にて設定されている遊技状態に応じて異なる天井特典として、主制御装置１１０の制御処理内容を異ならせる特典（異なる時短回数を設定する特典）を付与可能に構成しているが、これに限ること無く、音声ランプ制御装置１１３の制御処理範囲において付与可能な特典を天井特典として設けても良く、例えば、特別図柄抽選の結果を示すために実行される変動演出として、天井特典が付与されている場合の方が、付与されていない場合よりも実行され易い出現頻度の低いプレミア演出を実行させ易くするように構成しても良いし、異なる大当たり確率を複数段階に設定可能な設定機能を有しているパチンコ機１０においては、設定されている設定値を遊技者に示唆可能な設定示唆演出を、天井特典が付与されている場合の方が、付与されていない場合よりも実行させ易くするように構成しても良い。このように構成した場合であっても、天井特典が付与されているパチンコ機１０にて遊技を行おうと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【５５９４】

また、上述した第１３制御例では、天井特典が付与されるまでの間、通常状態と、第１時短状態とが頻繁に切り替わるように構成しているため、上述した第１３制御例の第１変形例のように、天井特典が付与されるまでの期間において、設定されている遊技状態を遊技者に示唆（報知）可能な演出（遊技状態示唆演出）を実行しないように構成しているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態を遊技者に示唆（報知）可能な演出（遊技状態示唆演出）を実行するように構成しても良い。この場合、所定期間の間、継続して同一の遊技状態が設定されていることを判別した場合に、その旨を報知可能に構成すると良い。このように構成することで、例えば、天井特典として遊技者に有利な特典が付与される第１時短状態が終了しないように不正な遊技を行っている遊技者を特定し易くすることができる。

【５５９５】

＜第１４制御例について＞

次に、図４７１から図４８０を参照して、本第１４制御例について説明をする。上述した第１３制御例におけるパチンコ機１０は、特別図柄抽選が実行された回数（特別図柄抽選回数）が所定条件を満たした場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選を実行させる遊技を長時間実行した遊技者に対して、特別図柄抽選の結果に関わらず特典を付与することができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるものであった。

【５５９６】

しかしながら、抽選結果が大当たり当選以外（外れ）となる特別図柄抽選が連続して実行される回数（ハマリ回数）が所定回数（例えば、５００回）に到達した場合に、天井特典が付与されることから、遊技者に対して、天井特典が付与されるタイミングを予測され易く、天井特典が付与され難い期間においてパチンコ機１０の稼働が低下してしまうという問題があった。

【５５９７】

これに対して、第１４制御例は、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、高確率（９００／１０００）で時短当選する時短抽選にて、第２条件が成立した場合（外れ当選した場合）に、天井特典を付与可能に構成している。これにより、天井特典が付与されるタイミングに不規則性を持たせ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【５５９８】

また、本第１４制御例では、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、第２条件が成立するまでの期間が所定期間（特図変動２００回）を超えた場合に、より遊技者に有利となる特典（第２天井特典）を付与可能に構成している。

【５５９９】

このように構成することで、天井特典を付与するための第１条件が成立した後、第２条件が成立するまでの期間が長くなったとしても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【５６００】

＜第１４制御例における演出内容について＞

まず、図４７１及び図４７２を参照して、本第１４制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第１３制御例におけるパチンコ機１０に対して、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立してから、第２条件（時短外れ）が成立するまでの期間として、天井発動期間を設定し、その天井発動期間において、時短抽選で外れ当選することが遊技者に有利な抽選結果となることを示す演出（天井発動モード）を実行可能に構成している点で相違している。

【５６０１】

図４７１（ａ）は、天井発動期間が設定された場合に表示される表示画面の一例を示した図であって、図４７１（ｂ）は、天井発動期間中に実行される天井発動モードの演出画

面の一例を示した図である。
【５６０２】
図４７１（ａ）に示した通り、前回の大当たり遊技終了後から実行された特別図柄抽選の回数が５００回に到達し、天井特典を付与するための第１条件が成立すると（５００回目の特別図柄変動が停止表示されると）、主表示領域Ｄｍに「天井発動モード突入！時短図柄の停止確率大幅ＵＰ」の文字が表示され、次の特別図柄変動（５０１回目の特別図柄変動）から天井発動モードが設定されることが報知される。また、主表示領域Ｄｍの右下に形成された小表示領域Ｄｍ４には、天井発動モード中における遊技方法が左打ちであることを案内するための案内態様として「左打ちを続けてね」の文字が表示される。
【５６０３】
ここで、従来のパチンコ機１０では、演出モード（実行される演出の内容）が切り替わるタイミングに合わせて、遊技者に実行させる遊技方法を切り替えさせる遊技（例えば、左打ち遊技から右打ち遊技へと切り替えさせる遊技）を実行するものが知られている。この場合、遊技者に対して遊技方法が切り替わることを案内するための案内報知を実行することで遊技者に対して分かり易く遊技方法を切り替えさせる手法が用いられている。
【５６０４】
このようなパチンコ機１０が主流となった現状において、遊技方法が切り替えること無く演出モード（実行される演出の内容）が切り替わった場合に、遊技者に対して遊技方法が切り替わることを案内するための案内報知が実行されていない場合であっても、遊技者が遊技方法を切り替えてしまい遊技者に不利な遊技を実行させてしまうという問題があった。
【５６０５】
これに対して、本第１３制御例では、図４７１（ａ）に示した通り、同一の遊技方法が継続する旨を遊技者に案内するための案内態様を報知可能に構成している。よって、遊技者に対して不利な遊技を実行させてしまうことを抑制することができる。
【５６０６】
そして、副表示領域Ｄｓには、天井発動モード中の遊技方法を案内するための「時短図柄が揃うと、時短突入！！」のコメントと、天井発動モード中において追加で付与され得る特典の存在を示唆するための「スタートが７００回を超えると・・・大チャンス！？」のコメントが表示される。
【５６０７】
天井発動モードが設定されると、図４７１（ｂ）に示した通り、有効ラインＬＺ上に３枚のカードが特定の組合せで停止表示した場合に、対応する特典（大当たり、時短）が付与されることを示す変動演出が実行される。本制御例では、左ラインＬＬと、中ラインＣＬと、右ラインＲＬとのそれぞれに、少なくとも「ハズレ」に対応するハズレカード（ＬＬ３，ＣＬ３，ＲＬ３）と、「大当たり」に対応するＶカード（ＬＬ１，ＣＬ１，ＲＬ１）と、「天井特典」に対応する時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）と、を含む複数のカード列が形成され、各カード列が上から下へと変動表示される変動演出が実行される。
【５６０８】
そして、各図柄列に表示された時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）が有効ラインＬＺ上に３枚停止表示された場合に、天井特典として時短状態が付与されることを報知可能とし、各図柄列に表示されたＶカード（ＬＬ１，ＣＬ１，ＲＬ１）が有効ラインＬＺ上に３枚停止表示された場合に、大当たり当選に基づく特典が付与されることを報知可能としている。
【５６０９】
ここで、上述した通り、天井発動モード中において天井特典が付与される条件は、時短抽選で時短当選しない（外れ当選する）ことであるため、特別図柄抽選の結果が完全外れ（大当たり、時短の何れにも非当選）である場合に、各図柄列に表示された時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）が有効ラインＬＺ上に３枚停止表示される演出が実行されることとなる。

【５６１０】
　また、図４７２（ａ）は、天井発動期間の長さが所定期間（特図変動２００回）を超え、第２天井特典を付与可能な状態であることを示す超天井発動モード中の表示画面の一例を示した図であり、図４７２（ｂ）は、天井発動モードにて時短抽選で外れ当選した場合の表示画面の一例を示した図である。
【５６１１】
　図４７２（ａ）に示した通り、天井発動モードが設定されてから所定期間の特別図柄抽選が実行されると、天井特典が付与される条件が成立した場合に、通常の天井特典よりも遊技者に有利な第２天井特典が付与される状態であることを示すための超天国発動モードが表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、天井特典として、時短回数が多い第３時短状態が設定されることを示すための「時短が超時短にパワーアップ」のコメントが表示されると共に、時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）の表示態様として「超」の文字が追加された表示態様が表示される。
【５６１２】
　このように構成することで、遊技者に対して第２天井特典の付与可能な条件が成立したことを分かり易く報知することができる。
【５６１３】
　そして、天井発動モード中に実行された特別図柄抽選の結果が完全外れである場合（図４７２（ｂ）の小表示領域Ｄｍ１参照）には、図４７２（ｂ）に示した通り、各図柄列に表示された時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）が有効ラインＬＺ上に３枚停止表示され、天井特典が付与された場合に表示されるキャラクタ８０９が天井特典が付与されることを祝福する演出が実行される。
【５６１４】
　＜第１４制御例における電気的構成について＞
　次に、図４７３から図４７５を参照して、本第１４制御例における電気的構成について説明をする。本第１４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第１３制御例に対して、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成では、時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅに代えて、時短当たり乱数１４テーブル２０２ｍｅを、時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆに代えて、時短種別選択１４テーブル２０２ｍｆを設けている点で相違し、それ以外は同一である。
【５６１５】
　また、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３の構成では、図４７３（ｂ）に示した通り、新たに第３天井待機フラグ２０３ｍａを追加している点で相違し、それ以外は同一である。さらに、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成では、図４７５に示した通り、新たに、天井発動モード中フラグ２２３ｍａを追加している点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成についてはその説明を省略する。
【５６１６】
　時短当たり乱数１４テーブル２０２ｍｅは、図４７４（ａ）に示した通り、時短抽選にて時短当選する確率を異ならせている点で、時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅ（図４４４（ｃ）参照）と相違している。具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が取り得る「０～９９９」の範囲のうち、「１００～９９９」の範囲に対して、時短当選の判定値を設定している。つまり、本第１４制御例では、時短抽選が実行された場合に、高確率（９００／１０００の確率）で時短当選するように構成されている。
【５６１７】
　また、時短種別選択１４テーブル２０２ｍｆは、上述した時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆ（図４４６（ａ）参照）に対して、天井用１３テーブル２０２ｌｆ２に代えて、天井用１４テーブル２０２ｍｆ２を設けている点で相違している。ここで、図４７４（ｂ）を参照して、天井用１４テーブル２０２ｍｆ２の内容について説明をする。図４７４（ｂ）は、天井用１４テーブル２０２ｍｆ２に規定されている内容を示した図である。
【５６１８】

図４７４（ｂ）に示した通り、天井用１４テーブル２０２ｍｆ２には、天井特典（第３時短状態）が設定される時点におけるハマリ回数に応じて、時短カウンタ２０３ｈに設定される値を異ならせており、ハマリ回数が７００回までは、天井特典（第１天井特典）として、第２時短状態（時短回数３００回）が、ハマリ回数が７００回を超えた場合は、天井特典（第２天井特典）として、第２時短状態（時短回数１０００回）が、設定されるように規定されている。

【５６１９】

このように、天井特典（第３時短状態）が設定されるまでの期間が長くなるほど、遊技者に有利な特典が付与されるように構成することで、長時間大当たり当選していない遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【５６２０】

第３天井待機フラグ２０３ｍａは、ハマり回数が７００回を超えたことを示すためのフラグであって、ハマリ回数が７００回を超えた場合にオンに設定されるものである。そして、天井特典を設定する際に第３天井待機フラグ２０３ｍａの設定状況が判別され、オンに設定されていると判別された場合には、ハマリ回数７００回に応じた天井特典（第２天井特典）が設定される。そして、天井特典が付与された場合、或いは、大当たり当選した場合にオフに設定される。

【５６２１】

天井発動モード中フラグ２２３ｍａは、天井発動モード中であることを示すためのフラグであって、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した場合にオンに設定される。そして、天井発動モード中フラグ２２３ｍａの設定状況に応じて、通常モードにおける演出態様が設定される（図４８０のＳ３４５７１参照）。

【５６２２】

＜第１４制御例における主制御装置１１０の制御処理について＞

次に、図４７６、及び図４７７を参照して、本第１４制御例のパチンコ機１０にて実行される主制御装置１１０の制御処理の内容について説明をする。本第１４制御例では、上述した第１３制御処理に対して、天井特典の付与条件の成立を判別するための処理と、天井特典の付与条件が成立したことに基づいて設定される第３時短状態を設定するための処理とを異ならせている。具体的には、天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）に代えて天井判定処理１４（図４７６のＳ３８０７１参照）を、時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４参照）に代えて、時短設定処理１４（図４７７のＳ３０２７４参照）を実行する点で相違している。

【５６２３】

本第１４制御例では、上述した第１３制御例に対して、天井特典を付与させるための条件を異ならせており、具体的には、第１条件（ハマり回数）と、第２条件（時短非当選）と、が共に成立した場合に天井特典（第３時短状態）が設定されるように構成している。このように構成することで、外れ当選した特別図柄抽選の実行回数（ハマり回数）が予め定められた回数（５００回）に到達したことに基づいて天井特典が付与される場合に比べて、天井特典が付与されるタイミングをランダムに設定することが可能となる。

【５６２４】

さらに、天井特典の付与させるための第１条件として通常第１条件（５００回ハマり）と、その通常第１条件よりも後に設定される特殊第１条件（７００回ハマり）と、を設定可能に構成しており、通常第１条件が成立している状態で実行される特別図柄抽選に基づいて天井特典が付与されること無く特殊第１条件が成立した場合には、通常第１条件のみが成立している状態で天井特典（第３時短状態（時短３００回））が付与される場合よりも遊技者に有利となる第２天井特典（第３時短状態（時短１０００回））を付与可能に構成している。

【５６２５】

このように構成することで、通常第１条件が成立している状態で実行される時短抽選にて外れ当選しない遊技、即ち、天井特典が付与されない遊技が長時間継続している遊技者

に対して、遊技意欲を低下させること無く継続して遊技を行わせることが可能となる。
【５６２６】
なお、本第１４制御例では、通常第１条件のみが成立している状態で天井特典が付与される場合よりも、特殊第１条件が成立している状態で天井特典が付与される場合のほうが、遊技者に有利な天井特典（第２天井特典）を付与可能に構成しているが、これに限ること無く、通常第１条件のみが成立している状態で天井特典が付与される場合の方が、特殊第１条件が成立している状態で天井特典が付与される場合のよりも、遊技者に有利な天井特典（第２天井特典）を付与可能に構成しても良い。このように構成することで、通常第１条件が成立してから特殊第１条件が成立するまでの間に、天井特典が付与されることを期待しながら遊技者により意欲的に遊技を行わせることができる。
【５６２７】
また、通常第１条件のみが成立する期間と、特殊第１条件が成立する期間と、を交互に設定可能に構成しても良く、例えば、ハマり回数の下一桁が「１～５」の間は、通常第１条件のみが成立し、「６～０」の間は、特殊第１条件が成立する期間となるように構成しても良い。このように構成することで、最初に通常第１条件が成立するハマリ回数５００回を超えてからは、どのタイミングで第２条件が成立するのか（時短抽選で時短外れとなるか）について遊技者に興味を持たせることができる。
【５６２８】
さらに、本第１４制御例では、ハマり回数を更新させるための特別図柄抽選の抽選結果に基づいて時短当選の判定を実行するように構成している。つまり、特別図柄抽選が実行されることにより、第１条件に関する要素（ハマり回数）が更新され、且つ、第２条件の成立有無（時短抽選結果）が判定されるように構成している。このように構成することで、第１条件に関する要素（ハマリ回数）を更新させること無く、第２条件を成立させるための遊技を実行することが出来ないため、遊技者に有利な天井特典が付与される状況（特殊第１条件が成立している状況）にて第２条件の判定のみが繰り返し実行されることを抑制することができる。また、遊技者に不利な天井特典が付与される状況（通常第１条件のみが成立している状況）にて第２条件の判定のみが繰り返し実行されてしまい、遊技者に不利な天井特典が高確率で付与されてしまうことを抑制することができる。
【５６２９】
まず、図４７６を参照して、天井判定処理１４（Ｓ３８０７１）の処理内容について説明をする。図４７６は、天井判定処理１４（Ｓ３８０７１）の処理内容を示したフローチャートである。天井判定処理１４（Ｓ３８０７１）では、上述した天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）に対して、特殊第１条件（７００回ハマり）が成立したかの判別を実行している点と、特殊第１条件が成立した場合における処理内容を異ならせている点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるため、詳細な説明を省略する。
【５６３０】
天井判定処理１４（Ｓ３８０７１）が実行されると、上述した天井判定処理１３（図４５２のＳ３８０５１参照）と同一のＳ３８１０１～Ｓ３８１０９の処理を実行する。そして、Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００では無い（５００回ハマり目の特別図柄抽選では無い）と判別した場合は（Ｓ３８１０４：Ｎｏ）、次に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が７００であるか（７００回ハマり目の特別図柄抽選であるか）を判別する（Ｓ３８１７１）。
【５６３１】
Ｓ３８１７１の処理において、７００では無いと判別した場合は（Ｓ３８１７１：Ｎｏ）、Ｓ３８１０５の処理へ移行し、本処理を終了する。一方、７００であると判別した場合は、特殊第１条件が成立した場合であるため（Ｓ３８１７１：Ｙｅｓ）、第３天井待機フラグ２０３ｍａをオンに設定し（Ｓ３８１７２）、第２天井待機フラグ２０３ｌｃをオフに設定し（Ｓ３８１７３）、Ｓ３８１０８の処理へ移行し、本処理を終了する。
【５６３２】
第２天井待機フラグ２０３ｌｃ、又は第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定され

ている状態で特別図柄変動が停止表示されることで、時短状態として、オンに設定されている天井待機フラグの種別に応じた時短種別（時短回数）が設定される。つまり、本第１４制御例では、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値に応じて、異なる種別の天井待機フラグをオンに設定することにより、時短状態として異なる種別の時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、ハマり回数に応じて異なる時短状態を設定することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまわない遊技を提供することができる。

【５６３３】

なお、本第１４制御例では、特別図柄抽選により外れ当選した回数が所定回数連続した場合（遊技者に不利な抽選結果が連続した場合）において、天井特典を付与可能に（天井待機フラグをオンに設定するように）構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技の終了後や、パチンコ機１０の電源を立ち上げてからの所定期間において、天井待機フラグ（特殊天井待機フラグ）をオンに設定可能に構成しても良い。

【５６３４】

このように構成することで、パチンコ機１０の遊技期間として特殊期間（特殊天井待機フラグ）が設定されている状態において、天井特典が付与され易い期間を設けることができるため、他の期間が設定されている場合よりも遊技者に有利な遊技を提供し易くすることができる。

【５６３５】

次に、図４７７を参照して、時短設定処理１４（Ｓ３０２７４）の処理内容について説明をする。図４７７は、時短設定処理１４（Ｓ３０２７４）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理１４（Ｓ３０２７４）では、上述した時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４参照）に対して、対象となる特別図柄抽選にて時短当選した場合は天井特典が付与されないようにしている点と、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されている場合の処理を追加した点と、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオンに設定されている場合に付与される特典の内容を変更した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５６３６】

時短設定処理１４（Ｓ３０２７４）が実行されると、まず、今回の抽選結果が時短当選であるかを判別し（Ｓ８３５１）、時短当選であると判別した場合は（Ｓ８３５１：Ｙｅｓ）、上述した時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４参照）と同一のＳ８３５２～Ｓ８３５４の処理を実行し、本処理を終了する。

【５６３７】

つまり、上述した第１３制御例の時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４参照）では、時短抽選の結果よりも、遊技者に有利な特典が付与され易い天井特典付与を優先して実行しているのに対して、本第１４制御例では、時短抽選の結果が時短当選である場合に、天井特典付与よりも優先して時短当選に基づく処理を実行するように構成している。

【５６３８】

このように構成することで、天井特典を付与することが可能な状態（各種天井待機フラグがオンに設定されている状態）であっても、特別図柄抽選の抽選結果が時短当選し続ける限り、天井特典が付与されない（され難い）ようにすることができる。よって、天井特典が付与されるタイミングを、天井特典を付与することが可能な状態（各種天井待機フラグがオンに設定されている状態）が設定されてからもランダムにすることができるため、遊技者に天井特典が付与されることを期待しながら継続して長時間遊技を行わせることができる。

【５６３９】

なお、本第１４制御例では、特別図柄抽選にて時短当選した場合には、必ず、天井特典が付与されないように構成しているが、これに限ること無く、例えば、時短当選した場合に設定される時短種別として特定時短種別が設定された場合には、時短当選に基づいて時短状態を設定する処理よりも、天井特典を付与するための処理を優先して実行するように

構成しても良い。このように構成することで、天井特典を付与するための条件をより複雑にすることができるため、天井特典を付与することが可能な状態（各種天井待機フラグがオンに設定されている状態）が設定されてから、天井特典が付与されるまでのタイミングをよりランダムにすることができる。

【５６４０】

さらに、時短当選結果と、天井特典付与とを複合した処理を実行可能に構成しても良く、例えば、時短当選した場合に設定される時短種別として特定時短種別が設定された場合には、時短非当選時に設定される天井特典よりも、有利な天井特典が設定されるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して、時短抽選の結果と、天井特典の付与と、を複合した遊技性を提供することができる。

【５６４１】

図４７７に戻り、説明を続ける。Ｓ８３５１の処理において、時短当選していないと判別した場合は（Ｓ８３５１：Ｎｏ）、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３８３５１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３８３５１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値に３００を設定し（Ｓ３８３７４）、第１天井待機フラグ２０３ｌｂをオフに設定し（Ｓ３８３５３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を設定し（Ｓ３８３５４）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８３５５）、第３時短状態を示す情報と、時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８３５６）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアし（Ｓ３８３５７）、本処理を終了する。

【５６４２】

また、Ｓ３８３５１の処理において、第１天井待機フラグ２０３ｌｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３８３５１：Ｎｏ）、次に、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３８３５８）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３８３５８：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値に３００を設定し（Ｓ３８３５９）、第２天井待機フラグ２０３ｌｃをオフに設定し（Ｓ３８３６０）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を設定し（Ｓ３８３５４）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８３５５）、第３時短状態を示す情報と、時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８３５６）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアし（Ｓ３８３５７）、本処理を終了する。

【５６４３】

そして、Ｓ３８３５８の処理において、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３８３５８：Ｎｏ）、次に、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３８３７１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３８３７１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値に１００００を設定し（Ｓ３８３７２）、第３天井待機フラグ２０３ｍａをオフに設定し（Ｓ３８３７３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を設定し（Ｓ３８３５４）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８３５５）、第３時短状態を示す情報と、時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８３５６）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアし（Ｓ３８３５７）、本処理を終了する。また、Ｓ３８３７１の処理において、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３８３７１：Ｎｏ）、即ち、今回実行された特別図柄抽選に基づいて、天井特典の付与条件が成立していないと判別した場合は、そのまま本処理を終了する。

【５６４４】

次に、図４７８から図４８０を参照して、本第１４制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理について説明をする。本第１４制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理は、上述した第１３制御例に対して、天井特典を付与するための第１条件（５００回ハマり）が成立してから実際に天井特典が付与されるまで（時短非当選で成立する第２条件が成立するまで）の期間を遊技者に報知するための期間演出（天井発動モード）に関する処理と、天井発

動モード中に時短抽選の結果を遊技者に示唆するための示唆演出に関する処理とで相違している。

【５６４５】

具体的には、状態コマンド受信処理１３（図４５９のＳ３４２５１参照）に代えて、状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）を、通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）に代えて、通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【５６４６】

まず、図４７８を参照して、状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）の処理内容について説明をする。図４７８は、状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）の制御内容を示したフローチャートである。この状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）では、上述した第１３制御例にて実行される状態コマンド受信処理１３（図４５９のＳ３４２５１参照）に対して、遊技状態が時短状態に変更されたと判別した場合に実行する処理として、時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１）に代えて時短状態演出設定処理１４（図４７９のＳ３９０９１参照）を実行する点と、天井特典を付与するための第１条件（５００回ハマり）が成立してから実際に天井特典が付与されるまで（時短非当選で成立する第２条件が成立するまで）の期間を遊技者に報知するための期間演出（天井発動モード）を実行するために、第２天井待機フラグ２０３ｌｃがオン、或いは、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されているかを判別する処理を実行可能に構成している点で相違している。それ以外は同一であり、同一の処理内容については説明を省略する。

【５６４７】

状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）が実行されると、上述した第１３制御例にて実行される状態コマンド受信処理１３（図４５９のＳ３４２５１参照）と同一のＳ９００１～Ｓ９０９４の処理が実行される。そして、Ｓ９００５の処理において時短状態に変更されたと判別した場合は（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）、時短状態演出設定処理１４を実行し（Ｓ３９０９１）、Ｓ９０９３の処理へ移行する。この時短状態演出設定処理１４（Ｓ３９０９１）の内容については、図４７９を参照して後述する。

【５６４８】

また、Ｓ９０９３の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報が無いと判別した場合（Ｓ９０９３：Ｎｏ）、或いは、Ｓ９０９３の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報があると判別し（Ｓ９０９３：Ｙｅｓ）、受信した値に対応する値を特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値に設定した場合（Ｓ９０９４）、即ち、主制御装置１１０にて計測される特図抽選カウンタ２０３ｌａの値と、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値とを同期させるための処理が終了すると、次に、受信した状態コマンドが第２天井待機、第３天井待機を示す情報（第２天井待機フラグ２０３ｌｃ、又は、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されていることを示す情報）を有しているかを判別し（Ｓ９０９５）、有していると判別した場合は（Ｓ９０９５：Ｙｅｓ）、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオンに設定し（Ｓ９０９６）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ９０９５の処理において、受信した状態コマンドが第２天井待機、第３天井待機を示す情報（第２天井待機フラグ２０３ｌｃ、又は、第３天井待機フラグ２０３ｍａがオンに設定されていることを示す情報）を有していないと判別した場合は（Ｓ９０９５：Ｎｏ）、Ｓ９０９６の処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【５６４９】

このように、状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）を実行すると、主制御装置１１０から出力された状態コマンドに含まれる情報に基づいて、天井特典を付与するための第１条件が成立している状態（ハマり回数が５００回以上）を判別し、第１条件が成立している場合には、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオンに設定されるように構成している。

【５６５０】
そして、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されている場合に専用の演出を実行することで、遊技者に対して、現在が天井特典を付与するための第１条件が成立している状態（ハマり回数が５００回以上）を報知可能に構成している。これにより遊技者に天井特典が付与され易い状態（第１条件が成立していない場合よりも付与され易い状態）であることを分かり易く報知することができるため、天井特典が付与されることを目指して意欲的に遊技を行わせることができる。
【５６５１】
次に、図４７９を参照して、状態コマンド受信処理１４（図４７８のＳ３４２７１参照）にて実行される時短状態演出設定処理１４（Ｓ３９０９１）の制御処理について説明をする。図４７９は、時短状態演出設定処理１４（Ｓ３９０９１）の処理内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理１４（Ｓ３９０９１）では、上述した第１３制御例にて実行される時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）に対して、天井特典（第３時短状態）が付与される（設定される）場合に、天井特典を付与するための第１条件が成立している状態であることを示すための天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオフに設定する処理を追加する点で相違している。それ以外は同一であり、同一の内容についてはその説明を省略する。
【５６５２】
図４７９に示した通り、時短状態演出設定処理１４（Ｓ３９０９１）が実行されると、上述した第１３制御例にて実行される時短状態演出設定処理１３（図４６０のＳ９０９１参照）と同一のＳ３４３０１～Ｓ３４３０９の処理を実行する。そして、Ｓ３４３０５の処理において、第３時短状態が設定された（天井特典が付与された）と判別した場合は（Ｓ３４３０５：Ｙｅｓ）、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３４３７１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３４３７１：Ｙｅｓ）、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオフに設定し（Ｓ３４３７２）、Ｓ３４３０６の処理に移行する。また、Ｓ３４３７１の処理において、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４３７１：Ｎｏ）、Ｓ３４３７２の処理をスキップして、Ｓ３４３０６の処理へ移行する。
【５６５３】
このように構成することで、天井特典が付与されたにも関わらず、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されたままの状態が継続し、天井発動モード中を示す演出（図４７１（ｂ）参照）が実行されてしまい遊技者に分かり難い演出が実行されてしまうことを抑制することができる。
【５６５４】
なお、本第１４制御例では、上述した第１３制御例と同様に、天井特典として所定期間の右打ち遊技状態（第３時短状態）を付与可能に構成しており、且つ、遊技者に付与される有利度合いが天井特典と同一となる特典（右打ち遊技状態が設定される第２時短状態）を、特別図柄抽選の結果に基づいて付与可能に構成している。このように構成することで、天井特典を付与するための第１条件（ハマり回数）が成立するよりも前に、右打ち遊技状態を設定することが可能となるため、遊技者に対して右打ち遊技状態（天井特典）が付与されるタイミングを予測させ難くすることができる。
【５６５５】
ここで、本第１４制御例では、天井特典を付与するための第１条件が成立した場合に、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオンに設定することで、天井特典が付与される可能性が高い期間演出（天井発動モード演出）を実行可能に構成しているが、別の契機（大当たりＣ１３当選、或いは、第２時短状態が設定される時短当選）によって右打ち遊技状態が設定される場合には、天井発動モード中演出が実行され無いため、天井発動モード演出が実行されるか否かによって、右打ち遊技状態が設定された場合に、その契機を遊技者に予測されてしまうという問題があった。
【５６５６】

この問題を解決するために、例えば、天井特典を付与するための第１条件が成立した場合に、所定の抽選を実行し、その抽選結果が特定結果である場合に、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオンに設定するように構成すると良い。このように構成することで、天井発動モード演出が実行された場合には、天井特典が付与されたことにより右打ち遊技状態が設定されたことを遊技者に容易に把握されてしまうが、天井特典を付与するための第１条件が成立した場合であっても、天井発動モード演出を実行させないことが可能となるため、上述した第１４制御例におけるパチンコ機１０よりも、右打ち遊技状態が設定された場合にその契機を遊技者に予測され難くすることができる。

【５６５７】

また、保留記憶されている特別図柄抽選の抽選権利（特図保留）に含まれている情報（抽選情報）を、特別図柄抽選が実行されるよりも前に（先に）事前判別可能（先読み可能）に構成し、その事前判別結果として、右打ち遊技状態が設定される特別図柄抽選結果を示すための情報が含まれている場合には、その右打ち遊技状態が設定される特別図柄抽選結果を示すための情報が含まれている特別図柄抽選が実行されるまでの期間の少なくとも一部を含む演出期間を用いて、天井発動モード演出を実行するように構成しても良い。

【５６５８】

このように構成することで、天井特典の付与とは異なる契機（大当たりＣ１３当選、或いは、第２時短状態が設定される時短当選）によって右打ち遊技状態が設定される場合であっても、天井発動モード演出を実行することが可能となるため、上述した第１４制御例におけるパチンコ機１０よりも、右打ち遊技状態が設定された場合にその契機を遊技者に予測され難くすることができる。

【５６５９】

また、この場合、天井特典の付与とは異なる契機（大当たりＣ１３当選、或いは、第２時短状態が設定される時短当選）によって右打ち遊技状態が設定される場合において天井発動モード演出が実行される割合を、前回の大当たり遊技が終了してからの特別図柄抽選回数（ハマり回数）に基づいて異ならせると良く、例えば、特別抽選回数（ハマり回数）の下一桁が「０」である場合や、下二桁が「００」である場合、即ち、ハマり回数が切りの良い回数となる場合に、他の場合よりも天井発動モード演出が実行され易くなるように構成すると良い。

【５６６０】

このように構成することで、特別図柄抽選の結果に基づいて右打ち遊技状態（第２遊技状態）が設定される場合において、ハマリ回数が切りの良い場合に天井発動モード演出を実行し、天井特典が付与される場合と同様の演出過程を経て右打ち遊技状態を設定し易くすることができる。よって、天井特典を付与するための第１条件が成立したのか、事前判別の結果、天井発動モード演出が実行されたのかを遊技者に分かり難くすることができる。

【５６６１】

次に、図４８０を参照して、通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）の処理内容について説明をする。図４８０は、通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）の処理内容を示したフローチャートである。この通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）では、上述した通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）に対して、天井特典を付与するための第１条件（５００回ハマり）が成立した状態（天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されている状態）にて実行する演出を設定するための処理を実行する点で相違している。それ以外は同一であり、同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【５６６２】

通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）が実行されると、上述した第１３制御例の通常モード用演出設定処理１３（図４６３のＳ３４４０２参照）と同一のＳ３４５０１～Ｓ３４５０６の処理を実行し、Ｓ３４５０６の処理において、第２時短（第２時短状態）が設定される時短当選変動では無いと判別した場合（Ｓ３４５０６：

Ｎｏ）には、次に、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されているかを判別する（Ｓ３４５７１）。

【５６６３】

Ｓ３４５７１の処理において、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３４５７１：Ｙｅｓ）、今回の抽選結果が大当たりであるかを判別し（Ｓ３４５７２）、大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ３４５７２：Ｎｏ）、次いで、今回の抽選結果が時短当選しているかを判別する（Ｓ３４５７３）。時短当選していないと判別した場合、即ち、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されている状態で、通常状態が設定される場合には（Ｓ３４５７８：Ｎｏ）、特別図柄変動の停止後に天井特典（第３時短状態）が設定されるため、天井発動モード演出として、時短に対応する第３図柄（装飾図柄）を停止表示させるための演出態様を決定し（Ｓ３４５７８）、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオフに設定し（Ｓ３４５７９）、本処理を終了する。

【５６６４】

Ｓ３４５７８の処理において決定された演出態様に基づく変動演出が実行されると、図４７２（ｂ）に示した通り、天井特典が付与されることを示すための「時短」の装飾図柄（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）が停止表示される変動演出が実行される。このように、本第１４制御例では、特別図柄抽選の結果が大当たり当選も、時短当選もしない外れ（完全外れ）である場合であっても、特定の演出状態が設定されている場合には、遊技者に有利となる特典が付与されることを示すための表示態様で装飾図柄を停止表示させるように構成している。

【５６６５】

このように構成することで、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出において、特別図柄抽選の結果に対応する組合せで装飾図柄を停止表示させるのでは無く、実行された特別図柄抽選の結果に基づいて付与される特典の内容を示す装飾図柄を停止表示させることができるため、遊技者に分かり易い変動演出を実行することができる。

【５６６６】

なお、本第１４制御例では、特別図柄抽選の結果が大当たり当選も、時短当選もしない外れ（完全外れ）であることが、遊技者に有利となる状態（天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されている状態）と、不利となる状態（天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されていない状態）と、を有しており、設定されている状態に応じて、特別図柄抽選の結果が完全外れであることを示すための装飾図柄の停止表示態様を異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、設定されている状態に関わらず、特別図柄抽選の結果が完全外れであることを示すための装飾図柄の停止表示態様として同一の表示態様が設定されるように構成しても良い。

【５６６７】

この場合、装飾図柄の停止表示態様を用いること無く、特別図柄抽選の結果が完全外れであることに基づいて遊技者に有利な特典（天井特典）が付与されることを示すための報知演出を実行すれば良い。このように構成することで、特別図柄抽選の結果と、設定されている状態とに基づいて、装飾図柄の停止表示態様を異ならせて決定する処理を省略することができる。

【５６６８】

なお、図４７２（ｂ）に示した通り、装飾図柄の停止表示態様によって、特別図柄抽選の結果では無く、特別図柄抽選の結果に基づいて後に付与される特典の内容を遊技者に報知可能に構成した場合には、装飾図柄とは異なる第２装飾図柄（第４図柄）の停止表示態様を、特別図柄抽選の結果を示す停止表示態様（図４７２（ｂ）では「３４２」）で表示されると良い。これにより、特別図柄抽選の結果を示すための情報を遊技者に報知することが可能となる。

【５６６９】

さらに、図４７２（ｂ）に示した通り、本第１４制御例では、第３図柄表示装置８１の

表示面には、装飾図柄の停止表示態様の方が、第２装飾図柄の停止表示態様よりも大きく表示されるように構成している。このように構成することで、第２装飾図柄の停止表示態様よりも、装飾図柄の停止表示態様を遊技者が把握し易くなるため、装飾図柄と、第２装飾図柄とを表示可能に構成した場合であっても、遊技者に分かり易い変動演出を実行することができる。

【５６７０】

図４８０に戻り、説明を続ける。Ｓ３４５７３の処理において、時短当選していると判別した場合は（Ｓ３４５７３：Ｙｅｓ）、時短当選に基づいて第１時短状態が設定されるかを判別し（Ｓ３４５７４）、第１時短状態が設定されると判別した場合は（Ｓ３４５７４：Ｙｅｓ）、「外れ」に対応する第３図柄（装飾図柄）を停止表示させるための演出態様を決定し（Ｓ３４５７５）、次に、抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が７００であるかを判別し（Ｓ３４５７６）、７００であると判別した場合は（Ｓ３４５７６：Ｙｅｓ）、超天井発動モードを示すための演出態様を決定し（Ｓ３４５７７）、本処理を終了する。

【５６７１】

一方、Ｓ３４５７２の処理において大当たり当選と判別した場合（Ｓ３４５７２：Ｙｅｓ）、或いは、Ｓ３４５７４の処理において第１時短状態以外の時短状態（第２時短状態）が設定されると判別した場合（Ｓ３４５７４：Ｎｏ）、即ち、天井特典を付与すること無く、天井発動モード演出が終了する場合には、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオフに設定し（Ｓ３４５８０）、Ｓ３４５０９の処理を実行し、本処理を終了する。この場合、例えば、大当たり当選した場合には、「Ｖ」に対応する第３図柄（装飾図柄）を停止表示させるための演出態様が決定され、大当たり当選したことを示すための停止表示態様で第３図柄（装飾図柄）が停止表示されることで天井発動モード演出が終了し、時短当選に基づいて第２時短状態が設定される場合には、「時短」に対応する第３図柄（装飾図柄）を停止表示させるための演出態様が決定され、あたかも、天井特典が付与されたかのような変動演出を実行した後に天井発動モード演出が終了する。

【５６７２】

このように構成することで、天井発動モード演出中において、天井特典が付与されるよりも前に、天井発動モード演出を終了させる終了条件が成立した場合であっても、遊技者に違和感を与えること無く天井発動モード演出を終了させることができる。

【５６７３】

以上、説明をした通り、本第１４制御例は、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、高確率（９００／１０００）で時短当選する時短抽選にて、第２条件が成立した場合（外れ当選した場合）に、天井特典を付与可能に構成している。これにより、天井特典が付与されるタイミングに不規則性を持たせ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【５６７４】

また、本第１４制御例では、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、第２条件が成立するまでの期間が所定期間（特図変動２００回）を超えた場合に、より遊技者に有利となる特典（第２天井特典）を付与可能に構成している。

【５６７５】

このように構成することで、天井特典を付与するための第１条件が成立した後、第２条件が成立するまでの期間が長くなったとしても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【５６７６】

なお、本第１４制御例では、第２天井特典が付与される条件（ハマリ回数７００回）を予め規定しているが、これに限ること無く、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した時点において実行される特殊抽選の結果に基づいて、第２天井特典が付与される条件となるハマリ回数を決定するように構成しても良く、特殊抽選の結果が第１結果である場合にはハマり回数７００回を、第１結果とは異なる第２結果である場合にはハマリ回数５０１回を、第１結果、第２結果とは異なる第３結果である場合には

ハマり回数８００回を決定するように構成しても良い。
【５６７７】
　このように、第２天井特典が付与される条件を予め規定するのでは無く、ハマリ回数が更新されている期間中に決定可能に構成し、決定される第２天井特典の付与条件として、成立し易い（ハマり回数が少ない）付与条件と、成立し難い（ハマり回数が多い）付与条件と、を設定可能に構成することで、第２天井特典が付与され易い遊技と、第２天井特典が付与され難い遊技と、を実行させることが可能となり、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【５６７８】
　また、本第１４制御例では、図４７１、及び図４７２を参照して上述した通り、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立していることを示す天井発動モード中においては、「天井特典」に対応する時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）を表示し、第２天井特典を付与するための第１条件（ハマり回数７００回）が成立していることを示す超天井発動モード中においては、「第２天井特典」に対応する超時短カード（ＬＬ２，ＣＬ２，ＲＬ２）を表示するように構成し、遊技者に対して、現在の遊技状況を分かりやすく報知していたが、これに加え、天井発動モード中において、第２天井特典を付与するための第１条件（ハマり回数７００回）が成立するまでの残期間を示唆可能な示唆態様を表示可能に構成しても良い。
【５６７９】
　例えば、天井発動モードが設定されてから、超天井発動モードが設定されるまでの期間（天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立してから、第２天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数７００回）が成立するまでの期間）を、第２天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残期間の長さに対応させて複数の期間（第１期間～第３期間）に区分けし、第２天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残期間が最も長い第１期間においては、図４７１（ｂ）に示した演出を実行し、第２天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残期間が第１期間よりも短い第２期間においては、右ラインＲＬに、超時短カードＲＬ２を追加した演出を実行し、第２天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残期間が第２期間よりも短い第３期間においては、右ラインＲＬと、中ラインＣＬに、超時短カードＲＬ２，ＣＬ２を追加した演出を実行するように構成すると良い。
【５６８０】
　このように構成することで、天井発動モード中に変動表示される各種図柄（カード）として、超天井発動モード中に所定の組合せ（３つ揃い）で停止表示可能なカード種別（超時短カード）を徐々に増加させていくことが可能となるため、遊技者に対して、超天井発動モードが間も無く発動するのではと思わせることができる。なお、この場合、天井発動モード中に変動表示される各図柄列が複数の時短カードを有している場合には、既に変動表示されている時短カードの一部を超時短カードへと切り替えるように構成しても良い。このように構成することで、各図柄列が有するカード数を増加させること無く、超時短カードを変動表示させることが可能となる。
【５６８１】
　また、この場合、時短カード、又は超時短カードが３枚停止表示される組合せを天井発動モード中において天井特典が付与されることを示す停止図柄の組合せとして設定すると良い。このように構成することで、天井発動モード中における各種カードの変動表示制御を代えること無く、単に時短カードの表示態様を超時短カードの表示態様へと切り替えるだけの処理を実行するだけで、遊技者に対して、超天井発動モードが間も無く発動するのではと思わせることができる。
【５６８２】
　＜第１４制御例の第１変形例について＞
　次に、図４８１から図４９０を参照して、本第１４制御例の第１変形例について説明をする。上述した第１４制御例は、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００

回）が成立した後、高確率（９００／１０００）で時短当選する時短抽選にて、第２条件が成立した場合（外れ当選した場合）に、天井特典を付与可能に構成することで、天井特典が付与されるタイミングに不規則性を持たせ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるものであった。

【５６８３】

しかしながら、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、第２条件が成立するまでの期間が長期間となり、遊技者に天井特典を付与することが出来ないという問題が発生する場合があった。

【５６８４】

これに対して、本第１４制御例の第１変形例では、通常状態において時短抽選で当選した場合に、時短回数の異なる第１時短状態を設定可能に構成し、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、設定されている第１時短状態が終了することで第２条件が成立し、天井特典が付与されるように構成している。

【５６８５】

つまり、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間を、第１時短状態として設定される時短回数や、第１時短状態が設定されるタイミングによって多様化させることができると共に、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間に上限を設定することが可能に構成している。

【５６８６】

このように構成することで、天井特典が付与されるタイミングに不規則性を持たせ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させながらも、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間に上限を設定することで、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【５６８７】

また、本第１変形例では、天井特典を付与するための第１条件が成立するよりも前から、第２条件が成立するタイミングを事前に判別可能に構成している。具体的には、第１条件が成立するタイミングまで（ハマリ回数が５００回に到達するまで）の残期間（残変動回数）が５０回の時点で、第１時短状態の残時短回数が１００回である場合には、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が、特別図柄変動５０回分になると、予め判別することが可能となる。

【５６８８】

よって、天井特典が付与されるタイミングを示すための示唆演出を、第１条件が成立するよりも前から実行することが可能となる。さらに、天井特典を付与するための第１条件が成立するよりも前の段階で、新たに第１時短状態を設定可能な状態、即ち、通常状態中において、第１時短状態として設定される時短回数が、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が長くなる時短回数であるか、比較的短くなる時短回数であるかを遊技者に報知することもできる。

【５６８９】

このように構成することで、天井特典を付与するための複数の条件の何れも成立していない時点から、天井特典が付与され得るタイミングを遊技者に予測させながら遊技を行わせ易くすることができる。

【５６９０】

＜第１４制御例の第１変形例における演出内容について＞

まず、図４８１を参照して、本第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１４制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０は、上述した第１４制御例におけるパチンコ機１０に対して、左打ち遊技状態にて実行される時短抽選の結果に基づいて第１時短状態が設定されている間は時短抽選が実行されず、且つ、第１時短状態の時短回数として異なる時短回数を設定可能に構成している点で相違している。

【５６９１】

つまり、天井特典を付与することが可能な第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した後、設定されている第１時短状態が終了することにより、天井特典を付与するための第２条件が成立し、天井特典が付与されるように構成している。

【５６９２】

このように構成することで、第１条件が成立した時点において設定されている第１時短状態の残時短回数が、天井特典が付与されるまでの残期間として予め設定されるため、上述した第１４制御例におけるパチンコ機１０のように、第１条件が成立したにも関わらず、第２条件が長時間成立しない事態を発生させ難くすることができる。

【５６９３】

また、上述した第１４制御例と同様に、天井特典を付与することが可能な第１条件（ハマリ回数５００回）が成立したことを示すための期間演出（天井発動モード演出）を実行可能に構成し、その天井発動モード演出にて、天井特典が付与されるまでの残期間に基づく演出を実行可能に構成している。

【５６９４】

ここで、本第１４制御例における第１変形例では、天井発動モード演出が実行される期間の長さが、第１時短状態の残時間（残時短回数）となるため、その長さを事前に判別することが可能となる。そして、天井発動モード演出の演出期間として設定される期間の長さに応じた演出を実行可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して天井特典が付与されるまでの期間を予測させることができるため、遊技を継続するか否かの選択を遊技者に行わせ易くすることができる。

【５６９５】

また、本第１４制御例の第１変形例では、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が所定期間（例えば、特別図柄抽選４回）以内である場合に、第１条件が成立したことを遊技者に報知するための報知態様として、通常とは異なる特殊演出態様を設定可能に構成している。このように構成することで、第２条件が成立するタイミングが遊技者に有利なタイミング（第１条件の成立直後のタイミング）であることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【５６９６】

加えて、本第１４制御例の第１変形例においても、第１条件が成立した後に、第２条件が成立すること無く、右打ち遊技状態が設定される場合（大当たり当選や時短当選に基づいて第２時短状態が設定される場合）において、遊技者に対して、第２条件が成立する場合に設定される演出態様を設定可能に構成している。このように構成することで、右打ち遊技状態が設定される契機を遊技者に判別させ難くすることができる。

【５６９７】

本第１４制御例の第１変形例では、天井発動モード演出が実行されると、図４８１に示した演出が実行される。図４８１（ａ）は、第１条件が成立したことを示すための天井発動モード演出にて表示される表示画面の一例を示した図であり、図４８１（ｂ）は、第１条件が成立した時点において、第２条件が成立することが確定している場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５６９８】

そこで、本第１変形例では、左打ち遊技状態中において、第１時短状態が設定されているか否かを遊技者に予測させるための遊技状態示唆演出を実行可能に構成している。図４８１（ａ）は、遊技状態示唆演出の演出画面の一例を示した図であって、図４８１（ｂ）は、左打ち遊技状態において、第１時短状態が設定されている可能性が高いことを遊技者に示唆するための示唆演出中における表示画面の一例を示した図である。

【５６９９】

図４８１（ａ）に示した通り、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立すると、天井発動モード演出としてドキドキゾーンが設定される。このドキドキゾーン中は、主表示領域Ｄｍに扉８７１が出現し、特別図柄抽選が実行される毎に、ウサギ８０１が鍵を用いて扉８７１を開ける演出が実行される。

【５７００】
副表示領域Ｄｓには、ドキドキゾーン中の演出内容を説明するための態様として「鍵を使って扉を開けろ、扉が開けば時短突入」のコメントが表示され、遊技者に対して、扉８７１が開けば特典が付与されることを分かり易く報知している。
【５７０１】
主表示領域Ｄｍの右下側に形成される小表示領域Ｄｍ９には、獲得済みの第１特別図柄抽選の抽選権利（特図１保留）に対応させた保留アイコンｈｒ１～ｈｒ４が表示可能に構成されており、図４８１（ａ）に示した図では、特図１保留を４個獲得していることに対応させて４つの保留アイコンｈｒ１～ｈｒ４が表示されている。
【５７０２】
この保留アイコンｈｒ１～ｈｒ４は、獲得済みの特図１保留に対応した数が表示されるように構成しており、１個目の特図１保留（第１特図１保留）に対応させて第１保留アイコンｈｒ１が、２個目の特図１保留（第２特図１保留）に対応させて第２保留アイコンｈｒ２が、３個目の特図１保留（第３特図１保留）に対応させて第３保留アイコンｈｒ３が、４個目の特図１保留（第４特図１保留）に対応させて第４保留アイコンｈｒ４が表示される。
【５７０３】
そして、ドキドキゾーン中に新たな特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）が実行されると、第１保留アイコンｈｒ１として表示されていた鍵を使用して扉８７１を開放させる演出が実行されると共に、第２保留アイコンｈｒ２として表示されていた鍵が第１保留アイコンｈｒ１へとシフトし、以下、第３保留アイコンｈｒ３として表示されていた鍵が第２保留アイコンｈｒ２へとシフトし、第４保留アイコンｈｒ４として表示されていた鍵が第３保留アイコンｈｒ３へとシフトし、第４保留アイコンｈｒ４が表示されない表示画面となる。この場合、新たな特図１保留を獲得した場合に、第４保留アイコンｈｒ４が表示される。
【５７０４】
図４８１に示した図では、第４保留アイコンｈｒ４のみが、他の保留アイコン（第１保留アイコンｈｒ１～第３保留アイコンｈｒ３）とは異なる表示態様で表示されており、第１保留アイコンｈｒ１～第３保留アイコンｈｒ３は通常鍵を示す表示態様で、第４保留アイコンｈｒ４は特殊鍵を示す表示態様で表示されている。
【５７０５】
詳細な説明は後述するが、第１保留アイコンｈｒ１～第４保留アイコンｈｒ４の表示態様は、通常は通常鍵を示す表示態様が設定されるように構成しており、第２条件が成立する特別図柄変動に対応する特図保留や、大当たり当選（時短当選）する特図保留に対して、特殊鍵を示す表示態様が設定され易くなるように構成している。そして、特殊鍵を示す表示態様で表示されている保留アイコンを用いた変動演出では、通常鍵を示す表示態様で表示されている保留アイコンを用いた変動演出よりも、扉８７１が開放する演出結果となる変動演出が実行され易くなるように構成している。このように構成することで、保留アイコンの表示態様について遊技者に興味を持たせることができる。
【５７０６】
また、天井特典を付与するための第１条件が成立しドキドキゾーンが設定された直後に第２条件が成立する場合には、図４８１（ａ）に示した演出（鍵を用いて扉を開放させる演出）では無く、図４８１（ｂ）に示した特殊演出を実行可能に構成している。
【５７０７】
図４８１（ｂ）に示した特殊演出では、ドキドキゾーン中の通常演出で表示される扉８７１（図４８１（ａ）参照）に代えて、自動ドア８７１が表示される。そして副表示領域Ｄｓには、間もなく天井特典（第３時短状態）が付与されることを遊技者に案内するための案内態様として「大ラッキー！！近付くだけで扉が開くよ」のコメントが表示される。
【５７０８】
そして、特殊演出中は、第２条件が成立する特別図柄変動が表示されるまでウサギ８０

１が自動ドア８７１に近付いていく演出が実行され、第２条件が成立する特別図柄変動にて自動ドア８７１が開き、天井特典が付与されることを報知する演出が実行される。このように構成することで、ドキドキゾーンが設定された場合に表示される扉の種別によって、天井特典が付与されるまでの残期間の長さを遊技者に視覚的に判別させ易くすることができる。

【５７０９】

また、自動ドア８７１が表示される特殊演出を実行可能に構成することで、例えば、ハマリ回数５０１回目の特別図柄変動が実行されることで第２条件が成立する場合に通常演出（図４８１（ａ）参照）が実行される事態、即ち、遊技者が通常演出の演出内容を把握する間も無く１個目の鍵で扉８７１が開いてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【５７１０】

以上、説明をした通り、本第１４制御例の第１変形例では、天井特典を付与するための第１条件が成立した時点において、第２条件が成立するまでの残期間を判別可能に構成しているため、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの残期間の長さに応じた演出（天井発動モード演出）を実行することが可能となる。このように構成することで、天井発動モード演出の演出内容に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【５７１１】

なお、本第１４制御例の第１変形例では、ハマり回数が規定回数（５００回）に到達した場合に、天井発動モード演出を実行し、天井発動モード演出の演出期間（第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの残期間）に応じた演出態様を設定するように構成し、天井発動モード演出の演出期間が所定期間以内（例えば、特別図柄抽選４回分以内）である場合において、特殊演出態様が設定された天井発動モード演出（図４８１（ｂ）参照）を実行可能に構成することで、天井発動モード演出が実行される場合において、どの演出態様が設定されるのか遊技者に興味を持たせることができるものであった。

【５７１２】

しかしながら、本第１４制御例の第１変形例では、ハマり回数が規定回数（５００回）に到達した場合に天井発動モード演出が実行されるため、ハマり回数が５０１回～５０４回となる特別図柄変動にて第２条件が成立する場合に特殊演出態様が設定可能となり、特殊演出態様が設定され難いという問題があった。

【５７１３】

この問題を解決するために、例えば、天井発動モード演出を実行するタイミングを、第２条件の成立タイミングに基づいて決定するように構成しても良く、例えば、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した場合であっても、天井発動モード演出を実行せず、その後、第２条件が成立するまでの残期間が所定期間以内（例えば、特別図柄抽選４回分以内）となった場合に、天井発動モード演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、天井発動モード演出として特殊演出態様を設定し易くすることができる。また、第１条件の成立期間と、天井発動モード演出の演出期間とを異ならせることにより、後に実行される遊技の内容を遊技者に判別させ難くすることができる。

【５７１４】

なお、本第１４制御例の第１変形例では、ハマり回数が規定回数（５００回）に到達した場合に、天井発動モード演出を実行し、天井発動モード演出の演出期間（第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの残期間）に応じた演出態様を設定することで、遊技者に対して、天井特典が付与されるまでの残期間を予測させる演出を実行可能に構成しているが、第１条件が成立するよりも前の期間において、第２条件が成立するまでの残期間を遊技者に予測させることが可能となる各種演出を実行しても良い。

【５７１５】

例えば、通常状態において実行される時短抽選によって時短当選した場合に、今回設定される第１時短状態の時短回数と、第１条件が成立するまでの残ハマり回数と、に基づい

て、今回設定される第１時短状態が、第１条件が成立した後に終了するか否かを判別し、第１条件が成立した後に終了すると判別した場合には、第１条件が成立してから第１時短状態が終了するまでの期間の長さに対応した演出（時短当選時演出）を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、第１条件が成立するよりも前に、天井特典が付与され易い（第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が短い）遊技状況であるか否かを遊技者に予測させることが可能となる。

【５７１６】

また、第１条件が成立する前に今回設定される第１時短状態が終了すると判別した場合には、今回設定される第１時短状態が終了してから第１条件が成立するまでの残期間を特定し、その特定した残期間の長さが、第１時短状態として設定され得る時短回数のうち、最も少ない時短回数よりも長いか否かを判別し、今回設定される第１時短状態が終了してから第１条件が成立するまでの残期間の長さが、第１時短状態として設定され得る時短回数のうち、最も少ない時短回数よりも短いと判別した場合と、長いと判別した場合とで、異なる態様の演出（時短当選時演出）を実行可能に構成しても良い。

【５７１７】

このように構成することで、次に設定される第１時短状態が終了するタイミングと、天井特典を付与するための第１条件が成立するタイミングと、に関する情報を遊技者に報知することができるため、天井特典が付与され易い（第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が短い）遊技状況であるか否かを遊技者に予測させることが可能となる。

【５７１８】

例えば、通常状態において計測されているハマり回数と、時短当選した場合に設定され得る第１時短状態の時短回数とに基づいて、時短当選した場合に遊技者に有利となり易い期間と、遊技者に不利となり易い期間と、を遊技者に報知可能な演出を実行可能に構成すると良い。

【５７１９】

具体的には、本第１４制御例では、図４８３に示した通り、第１時短状態が設定された場合には、時短回数として「１００」～「３００」の範囲を設定可能に構成しており、その殆どが約１００単位（１００回、２００回、３００回）で設定されるように構成している。そして、天井特典を付与するための第１条件としてハマリ回数５００回が設定されている。よって、通常状態において計測されているハマり回数が、２００回付近、３００回付近、４００回付近となる期間が、天井特典を付与するための第１条件が成立した直後に終了する第１時短状態を設定可能な期間（有利期間）となる。一方で、通常状態において計測されているハマり回数が４５０回～４９９回となる期間では、天井特典を付与するための第１条件が成立してから第１時短状態が終了するまでの期間が長くなる期間（不利期間）となる。

【５７２０】

よって、通常状態において計測されているハマり回数が、２０１回～２２０回、３０１回～３２０回、４０１回～４２０回なる期間を有利期間として設定し、遊技者に対して、時短当選した場合に遊技者に有利となり易い有利期間であることを示す演出を実行可能に構成する。より具体的には、第３図柄表示装置８１の表示面に現在が有利期間であることを示すための案内態様として「有利ゾーン」と表示し、有利ゾーン中に特別図柄抽選が実行された場合に、ウサギ８０１がゴルフで球を打つ演出が実行される。そして、特別図柄抽選の結果が完全外れ（大当たり、時短、共に非当選）である場合には、「もう１回」と表示され、次の特別図柄抽選に対応する演出で再度球を打つ演出が実行される。

【５７２１】

そして、特別図柄抽選にて大当たり当選した場合、或いは、時短当選にて第２時短状態が設定される場合には、ウサギ８０１が打ったゴルフ球がカップインするホールインワン演出が実行され、カップから取り出したボールに付されているアイコンが「Ｖ」である場合は大当たり当選が報知され、「時短」である場合には、時短当選に基づく第２時短状態

の設定が報知される。
【５７２２】
　また、特別図柄抽選にて時短当選した場合には、今回の時短当選によって設定される第１時短状態の時短回数と、天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残ハマリ回数との差分を算出し、算出された差分が、第１条件が成立してから実行される特別図柄変動５回以内に第１時短状態が終了する場合、即ち、設定されている有利ゾーンに対して最適な第１時短状態が設定された場合には、第３図柄表示装置８１の表示画面にて、カップの近くに打ったゴルフ球が位置し、「ナイスショット！！ニアピン賞獲得」の文字が表示されるニアピン演出が実行される。このニアピン演出が実行された場合には、ニアピン賞のトロフィーが、天井特典が付与されるまで、或いは、大当たり遊技が実行されるまで第３図柄表示装置８１の表示画面に継続して表示されるように構成する。このように構成することで、パチンコ機１０の遊技状況として、天井特典を付与するための第１条件が成立した直後（特別図柄変動５回以内）に天井特典が付与される遊技状況であることを遊技者に分かり易く報知することができる。
【５７２３】
　また、算出された差分（今回の時短当選によって設定される第１時短状態の時短回数と、天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残ハマリ回数との差分）が、第１条件が成立してから実行される特別図柄変動２０回以内に第１時短状態が終了する場合、即ち、設定されている有利ゾーンに対して適切な第１時短状態が設定された場合には、第３図柄表示装置８１の表示画面にて、グリーン上にゴルフ球が位置し、「ナイスショット！！」の文字が表示されるグリーンオン演出が実行される。このグリーンオン演出が実行された場合には、ニアピン賞演出とは異なり、天井特典が付与されるまで、或いは、大当たり遊技が実行されるまで第３図柄表示装置８１の表示画面に継続して特定態様（トロフィー等）が表示されることが無いように構成する。このように構成することで、グリーンオン演出を体験した遊技者のみが、パチンコ機１０の遊技状況として、天井特典を付与するための第１条件が成立した直後（特別図柄変動２０回以内）に天井特典が付与される遊技状況であることを遊技者に分かり易く報知することができる。
【５７２４】
　一方で、算出された差分（今回の時短当選によって設定される第１時短状態の時短回数と、天井特典を付与するための第１条件が成立するまでの残ハマリ回数との差分）が、第１条件が成立してから実行される特別図柄変動２０回以内に第１時短状態が終了しない場合、即ち、設定されている有利ゾーンに対して適切な第１時短状態が設定されなかった場合のうち、第１条件が成立してから第１時短状態が設定されるまでの期間の長さが、特別図柄変動２０回よりも長い場合には、キャラクタ８０１が打ったゴルフ球がＯＢとなるＯＢ演出が実行され、その後、有利ゾーンが終了する。このＯＢ演出が実行された場合には、パチンコ機１０の遊技状況として、第１条件が成立してから第１時短状態が終了するまでの期間が長いことを示す演出であるため、ＯＢ演出が実行されたことを確認した遊技者は、他のパチンコ機１０への移動を含めて今後の遊技方針を決定し易くなる。
【５７２５】
　このＯＢ演出が実行されたことを履歴として表示しないように構成することで、実際に遊技を行っている遊技者のみ知り得る情報（ＯＢ演出の有無）を提供することができるため、遊技を実行している遊技者に対して、遊技を実行していない遊技者よりも有利な情報を提供することが可能となる。なお、ＯＢ演出が実行されたことを履歴表示可能に構成し、後でＯＢ演出の実行の有無を確認可能に構成しても良い。
【５７２６】
　また、第１条件が成立するよりも前に第１時短状態が終了する場合には、フェアウェイ上にゴルフ球が位置し、「次回アプローチ対決」の文字を表示する第１打演出が実行し、有利ゾーンを終了させる。
【５７２７】
　この場合、第１打演出が実行されたことを示す情報を記憶可能な記憶手段を設け、次の

有利ゾーンが設定される場合に、記憶手段に第１打演出が実行されたことが記憶されている場合には、アプローチ演出が実行される。そして、その有利ゾーン中に新たな時短当選で第１時短状態が設定された場合には、上述した演出の決定方法と同一の手法で各演出を決定し、決定した演出が実行される。

【５７２８】

以上、上述した演出を実行することで、遊技者に対して、天井特典が付与されるタイミングを示唆可能な示唆演出として、天井特典を付与するための第１条件が成立するよりも前の段階と、第１条件が成立した後の段階とで異なる演出を実行可能となり、遊技者に対して遊技意欲を低下させること無く継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【５７２９】

また、実行される各種演出によって、天井特典が付与されるタイミングが遊技者に不利となるタイミング（天井特典を付与するための第１条件が成立してから天井特典が付与されるまでの期間が長くなるタイミング）を示唆することができるため、パチンコ機１０を遊技する遊技者に対して、天井特典の付与を目指した遊技を継続するか否かの判断を多様なタイミングで行わせることができる。よって、天井特典の付与を目指した遊技を継続するか否かの判断基準の異なる遊技者が入れ替わりながらパチンコ機１０の遊技を行わせ易くすることができるため、パチンコ機１０の遊技の稼働を高め易くすることができる。

【５７３０】

＜第１４制御例の第１変形例における電気的構成について＞

次に、図４８２から図４８５を参照して、本第１４制御例の第１変形例における電気的構成について説明をする。本第１４制御例の第１変形例では、上述した第１４制御例に対して、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成の一部と、音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成の一部と、ＲＡＭ２２３の構成の一部と、を変更している点で相違している。それ以外の構成は同一であるためその説明を省略する。

【５７３１】

まず、図４８２を参照して、本第１４制御例の第１変形例における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図４８２は、本第１４制御例の第１変形例における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成を示した図である。図４８２に示した通り、本第１４制御例の第１変形例では、上述した第１４制御例における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成（図４７３（ａ）参照）に対して、時短種別選択１４テーブル２０２ｍｆに代えて時短種別選択１４ａテーブル２０２ｍａｆを設けている点で相違し、それ以外は同一である。

【５７３２】

時短種別選択１４ａテーブル２０２ｍａｆは、上述した第１４制御例の時短種別選択１４テーブル２０２ｍｆに対して、時短抽選で時短当選した場合の時短種別を決定する際に参照される時短用１３テーブル２０２ｌｆ１に代えて時短当選用１４ａテーブル２０２ｍａｆ１を設けている点で相違している。この時短当選用１４ａテーブル２０２ｍａｆ１は、第１時短状態が設定される時短種別の種類として、５種類の時短種別が規定されており、設定される時短種別に応じて異なる回数の時短回数が設定されるように構成している。

【５７３３】

ここで、図４８３を参照して、時短種別選択１４ａテーブル２０２ｍａｆが有する時短当選用１４ａテーブル２０２ｍａｆ１の内容について説明をする。図４８３は、時短当選用１４ａテーブル２０２ｍａｆ１に規定されている内容を示した図である。図４８３に示した通り、時短当選用１４ａテーブル２０２ｍａｆ１には、合計で６種類の時短種別が規定されており、時短当選したことに基づいて第１時短状態が設定される時短種別が５種類、第２時短状態が設定される時短種別が１種類規定されている。

【５７３４】

なお、第２時短状態が設定される時短種別は、その選択割合や、設定される時短回数が上述した第１４制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。一方、第１時短状態が設定される時短種別の種類を増加させており、設定される時短種別に応じて、最大で

３００回、最小で１００回の時短回数が設定されるように構成している。
【５７３５】
具体的には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の取り得る「０～９９９」の範囲のうち、「０～９９」の範囲には、時短回数１００（時短カウンタ２０３ｈの値に１００が設定される）であって、第１時短状態が設定される時短種別が、「１００～１９９」の範囲には、時短回数１０１（時短カウンタ２０３ｈの値に１０１が設定される）であって、第１時短状態が設定される時短種別が、「２００～２９９」の範囲には、時短回数１０２（時短カウンタ２０３ｈの値に１０２が設定される）であって、第１時短状態が設定される時短種別が、「３００～５９９」の範囲には、時短回数２００（時短カウンタ２０３ｈの値に２００が設定される）であって、第１時短状態が設定される時短種別が、「６００～８９９」の範囲には、時短回数３００（時短カウンタ２０３ｈの値に３００が設定される）であって、第１時短状態が設定される時短種別が、「９００～９９９」の範囲には、時短回数３００（時短カウンタ２０３ｈの値に３００が設定される）であって、第２時短状態が設定される時短種別が、それぞれ規定されている。
【５７３６】
ここで、図４８３に示した通り、本第１４制御例の第１変形例では、第１時短状態に設定される時短回数として、下一桁の値が若干異なるだけで時短種別が複数規定されている。本第１４制御例の第１変形例では、上述した通り、天井特典を付与することが可能な第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した時点で設定されている第１時短状態の残時短回数が０となり通常状態が設定される場合に、天井特典を付与可能に構成している。
【５７３７】
つまり、第１条件が成立した時点における第１時短状態の残時短回数に応じて、天井特典が付与されるタイミングが異なることになる。この場合、第１時短状態の時短回数として設定可能な値を所定間隔（例えば、５０回）で異ならせて規定した場合には、特定の時短回数が終了し得る付近の特別図柄抽選回数が終了した時点で、次に時短状態が終了し得るタイミングが特別図柄抽選５０回分程度後になるため、天井特典が付与されることを期待しながら継続して遊技を行わせ難いという問題があった。
【５７３８】
これに対して、本第１変形例では、時短回数を若干異ならせた時短種別を設定可能に構成しているため、天井特典が付与されることを期待しながら継続して遊技を行わせ易くすることができる。更に、本第１変形例では、上述した第１４制御例と同様に、特別図柄抽選で時短当選した場合に第１時短状態を設定可能に構成し、特別図柄抽選にて実行される時短抽選において時短当選する確率が９９０／１０００となるように構成しているため、大当たり遊技終了後の１回目の特別図柄抽選において時短当選しない可能性も約１％存在する。
【５７３９】
つまり、大当たり遊技終了後に、ハマり回数の計測が新たに開始されるのに対して、第１時短状態の残時短回数が０となるタイミングは、第１時短状態が設定されるタイミングと、設定された第１時短状態の時短種別によって異ならせることが可能となる。このように構成することで、ハマり回数が第１条件（５００回）を満たした場合における第１時短状態の残時短回数の値を異ならせ易くすることができ、遊技者に対して、第２条件が成立するタイミングを予測させ難くすることができる。
【５７４０】
また、第１時短状態の時短回数として最大で３００回を設定可能に構成している。この３００回の時短回数は、通常第１条件（ハマリ回数５００回）が成立してから特殊第１条件（ハマリ回数７００回）が成立するまでに要する特別図柄抽選の回数よりも大きな値が設定されている。
【５７４１】
このように構成することで、第１条件（ハマリ回数５００回）が成立するまでに新たに第１時短条件が設定されるタイミングや、設定される時短種別に応じて、第２天井特典が

設定され易い状況（通常第１条件が成立してから特殊第１条件が成立するまでの間に第１時短状態が終了し得ない（し難い）状況）を創出可能に構成している。よって、上述した第１４制御例に対して、第２天井特典を実行させ易くすることができる。

【５７４２】

次に、図４８４、及び、図４８５を参照して、本第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図４８４（ａ）は、本第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図４８４（ａ）に示した通り、本第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２は、ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａを設けている点で上述した第１４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成と異ならせている。それ以外は同一であるためその詳細な説明を省略する。

【５７４３】

ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａは、ドキドキゾーンが設定される場合の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルである。

【５７４４】

ここで、図４８５を参照して、ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａに規定されている内容について説明をする。図４８５は、ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａに規定されている内容を示した図である。

【５７４５】

図４８５に示した通り、ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａには、ドキドキゾーンが設定される時点における残時短回数（第１時短状態の残時短回数）と、獲得済みの特図保留（特図１保留）に対する先読み結果（事前判別結果）と、取得した演出カウンタ２２３ｆの値とに対応させて異なる演出態様が規定されている。

【５７４６】

具体的には、残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「１」、即ち、第１条件が成立した特別図柄変動の次変動にて第２条件が成立し、天井特典が付与される場合には、先読み結果、及び、取得した演出カウンタ２２３ｆの値に関わらず、演出態様として「自動ドア」が規定されている。ここで、演出態様「自動ドア」が決定された場合には、図４８１（ｂ）に示した特殊演出が実行される。

【５７４７】

次に、残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「２」で、先読み結果が「全外れ」、即ち、ドキドキゾーンが設定される時点において獲得済みの特図保留（特図１保留）に対する先読み結果（事前判別結果）として、大当たり当選を示す情報、又は、第２時短状態が設定される時短当選を示す情報が含まれていないと判別された場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「保２強カギ」が、「５０～８９」の範囲に対して、「ノーマル」が、「９０～９９」の範囲に対して「自動ドア」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７４８】

ここで、「保２強カギ」の演出態様が決定された場合は、第２保留アイコンｈｒ２に対して通常鍵とは異なる特殊鍵の表示態様（図４８１（ａ）の第４保留アイコンｈｒ４の表示態様に相当）が表示される。

【５７４９】

一方で、先読み結果が「当たりあり」、即ち、ドキドキゾーンが設定される時点において獲得済みの特図保留（特図１保留）に対する先読み結果（事前判別結果）として、大当たり当選を示す情報、又は、第２時短状態が設定される時短当選を示す情報が含まれていると判別された場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「５０～９９」の範囲に対して、「保２強カギ」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５０】

ここで、先読み結果が「当たりあり」となった場合であっても、残回数カウンタ２２３

ｍａａの値に対応した保留アイコンに対して「強カギ」が決定されるように構成している。この場合、第２条件が成立するよりも前に「当たり当選」する特別図柄抽選が実行された場合には、その特別図柄抽選に対応する保留アイコンが示す通常鍵を使用した演出として扉８７１が開放する演出が実行される。このように構成することで、通常鍵を使用した演出においても扉８７１が開放する演出を容易に実行させることが可能となる。

【５７５１】

また、第２条件が成立してから（天井特典が付与されてから）「当たり当選」する特別図柄抽選が実行される場合には、ドキドキゾーンが終了してから当たり当選する特別図柄抽選が実行されるため、ドキドキゾーン中における演出に違和感を与えることが無い。

【５７５２】

また、残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「３」で、先読み結果が「全外れ」、即ち、ドキドキゾーンが設定される時点において獲得済みの特図保留（特図１保留）に対する先読み結果（事前判別結果）として、大当たり当選を示す情報、又は、第２時短状態が設定される時短当選を示す情報が含まれていないと判別された場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「保３強カギ」が、「５０～８９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「９０～９９」の範囲に対して「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５３】

一方で、先読み結果が「当たりあり」、即ち、ドキドキゾーンが設定される時点において獲得済みの特図保留（特図１保留）に対する先読み結果（事前判別結果）として、大当たり当選を示す情報、又は、第２時短状態が設定される時短当選を示す情報が含まれていると判別された場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「９０～９９」の範囲に対して、「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５４】

また、残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「４」で、先読み結果が「全外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「保４強カギ」が、「５０～９９」の範囲に対して、「自動ドア」が、それぞれ演出態様として規定されている。一方で、先読み結果が「当たりあり」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「保４強カギ」が、「５０～８９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「９０～９９」の範囲に対して、「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５５】

さらに、残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「５～２０」で、先読み結果が「全外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、「チャンス」が、「９０～９９」の範囲に対して、「ランダム強カギ」が、それぞれ演出態様として規定されている。一方で、先読み結果が「当たりあり」の場合、即ち、第２条件が成立するよりも前に（第１時短状態が終了するよりも前に）、当たり当選する特別図柄抽選にてドキドキゾーンが終了する場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「ノーマル」が、「５０～８９」の範囲に対して、「当保強カギ」が、「９０～９９」の範囲に対して、「自動ドア」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５６】

ここで、演出態様として「チャンス」が設定された場合には、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される扉８７１の表示態様として、通常の扉（図４８１（ａ）参照）よりも若干豪華な扉（チャンス扉）を示す表示態様が設定される。このように構成することで、通常の扉８７１が表示される場合よりも、扉が開放し易い状況（第２条件が成立し易い状況）であることを遊技者に対して視覚的に判別させ易くすることができる。

【５７５７】

また、演出態様として「ランダム強カギ」が設定された場合は、獲得済みの特図保留に

対応して表示される保留アイコンのうち、ランダムに抽選された１の保留アイコンに対して「強カギ」の表示態様が設定される。このように構成することで、特殊鍵を使用した演出にて扉８７１が開放されない演出（失敗演出）を設定することができる。

【５７５８】

残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「２１～１００」で、先読み結果が「全外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「チャンス」が、「５０～９９」の範囲に対して、「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。一方で、先読み結果が「当たりあり」の場合、即ち、第２条件が成立するよりも前に（第１時短状態が終了するよりも前に）、当たり当選する特別図柄抽選にてドキドキゾーンが終了する場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「当保強カギ」が、「５０～８９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「９０～９９」の範囲に対して、「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７５９】

残回数カウンタ２２３ｍａａの値が「１０１～３００」で、先読み結果が「全外れ」の場合は、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～８９」の範囲に対して、「ノーマル」が、「９０～９９」の範囲に対して、「チャンス」が、それぞれ演出態様として規定されている。一方で、先読み結果が「当たりあり」の場合、即ち、第２条件が成立するよりも前に（第１時短状態が終了するよりも前に）、当たり当選する特別図柄抽選にてドキドキゾーンが終了する場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「自動ドア」が、「５０～８９」の範囲に対して、「当保強カギ」が、「９０～９９」の範囲に対して、「ノーマル」が、それぞれ演出態様として規定されている。

【５７６０】

図４８４（ｂ）に戻り、説明を続ける。図４８４（ｂ）は、本第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を示した図である。本第１４制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、上述した第１４制御例に対して、残回数カウンタ２２３ｍａａと、ドキドキ中フラグ２２３ｍａｂを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素についてはその説明を省略する。

【５７６１】

残回数カウンタ２２３ｍａａは、第１時短状態の時短回数を計測するためのカウンタであって、第１時短状態が設定されたことを示す状態コマンドを受信した場合に、設定される時短回数に対応する値がセットされる。そして、第１時短状態中に特別図柄抽選が実行される毎に値が更新（減算）される。この残回数カウンタ２２３ｍａａの値は、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した時点で参照され、残回数カウンタ２２３ｍａａの値に基づいて、天井特典を付与するための第２条件（第１時短状態の終了）が成立するまでの残期間が算出される。そして、第１時短状態が終了した場合に値が０にクリアされる。

【５７６２】

ドキドキ中フラグ２２３ｍａｂは、ドキドキゾーンの演出態様が決定され、ドキドキゾーンの演出が実行されている期間であることを示すためのフラグであって、ドキドキゾーンの演出態様が決定された場合にオンに設定される。ドキドキ中フラグ２２３ｍａｂがオンに設定されている間は、新たに、ドキドキゾーンの演出態様を決定する処理が実行されないように構成している。このように構成することで、遊技者に分かり易い演出を実行することができる。そして、ドキドキゾーンの演出期間が終了した場合にオフに設定される。

【５７６３】

＜第１４制御例の第１変形例における制御処理について＞

次に、図４８６～図４９０を参照して、本第１４制御例の第１変形例における制御処理について説明をする。本第１４制御例の第１変形例では、上述した第１４制御例に対して、主制御装置１１０にて実行される制御処理として、時短抽選を実行するための処理内容と、天井特典を付与するための処理内容と、時短状態を設定するための処理内容と、を異

ならせている点、音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理として、通常状態、及び、時短状態にて実行される変動演出を設定するための処理内容を異ならせている点で相違している。

【５７６４】

具体的には、主制御装置１１０にて実行される処理として、上述した第１４制御例にて実行される時短抽選処理１３（図４５３のＳ３８００６参照）に代えて、時短抽選処理１４ａ（図４８６のＳ３８０５６ａ）を、天井判定処理１４（図４７６のＳ３８０７１参照）に代えて、天井判定処理１４ａ（図４８７のＳ３８０７１ａ）を、時短設定処理１４（図４７７のＳ３０２７４参照）に代えて、時短設定処理１４ａ（図４８８のＳ３０２７４ａ）を実行する点で相違している。また、音声ランプ制御装置１１３にて実行される処理として、上述した第１４制御例にて実行される時短状態演出設定処理１４（図４７９のＳ３９０９１参照）に代えて時短状態演出設定処理１４ａ（図４８９のＳ３９０９１ａ）を、通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）に代えて、通常モード用演出設定処理１４ａ（図４９０のＳ３４４７２ａ参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容については説明を省略する。

【５７６５】

まず、図４８６を参照して、時短抽選処理１４ａ（Ｓ３８０５６ａ）の処理内容について説明をする。図４８６は、時短抽選処理１４ａ（Ｓ３８０５６ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短抽選処理１４ａ（Ｓ３８０５６ａ）は、上述した第１４制御例にて実行される時短抽選処理１３（図４５３のＳ３８００６参照）に対して、時短抽選を実行可能な遊技状態の種別を異ならせている点と、時短当選の判定を行う際に参照されるデータテーブルを異ならせている点と、で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【５７６６】

図４８６に示した通り、時短抽選処理１４ａ（Ｓ３８０５６ａ）が実行されると、まず、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納されている現在設定されている遊技状態を示す情報を読み出し（Ｓ８１０２）、現在設定されている遊技状態が通常状態であるかを判別する（Ｓ３８１５１ａ）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ３８１５１ａ：Ｙｅｓ）、時短当たり乱数１４テーブル２０２ｍｅに基づいて抽選結果（時短当選の判定結果）を取得し（Ｓ３８１５２ａ）、上述した第１４制御例にて実行される時短抽選処理１３（図４５３のＳ３８００６参照）と同一のＳ８１０５、及びＳ８１０６の処理を実行し、本処理を終了する。一方、Ｓ３８１５１ａの処理において、通常状態では無いと判別した場合は（Ｓ３８１５１ａ：Ｎｏ）、時短抽選を実行すること無く、本処理を終了する。

【５７６７】

つまり、本第１４制御例の第１変形例では、時短抽選を実行可能な遊技状態として通常状態のみが規定されており、通常状態以外の遊技状態が設定されている場合には、時短抽選が実行されないように構成している。このように構成することで、遊技者にとって最も不利な遊技状態であった通常状態のみ遊技者に有利となる特典（第２時短状態）を付与し得る機会（時短抽選）を提供することができるため、通常状態中の遊技を行っている遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【５７６８】

また、上述した第１４制御例とは異なり、第１時短状態が設定されている状態にて時短抽選が実行されないように構成しているため、時短抽選にて時短当選したことに基づいて第１時短状態が設定された場合には、設定された第１時短状態に対応する時短回数を消化することで確実に通常状態を設定することが可能となる。よって、第１時短状態が継続する最長期間を第１時短状態が設定される時点で予め設定することができるため、遊技者に対して、無用に長時間の間、第１時短状態中の遊技を実行させてしまうことを抑制することができる。また、第１時短状態が設定される時点で予め設定された第１時短状態が継続する最長期間の長さに基づいて、遊技者に対して第１時短状態が終了するまでの期間の長さを示唆する演出（ドキドキゾーン）を実行することが可能となる。

【５７６９】
次に、図４８７を参照して、天井判定処理１４ａ（Ｓ３８０７１ａ）の処理内容について説明をする。図４８７は、天井判定処理１４ａ（Ｓ３８０７１ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この天井判定処理１４ａ（Ｓ３８０７１ａ）は、上述した第１４制御例にて実行される天井判定処理１４（図４７６のＳ３８０７１参照）に対して、天井特典を付与するための第１条件（ハマり回数５００回）に関する情報（ハマり回数）を更新させる条件を異ならせている点で相違し、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容には同一の符号を付して、その説明を省略する。
【５７７０】
図４８７に示した通り、天井判定処理１４ａ（Ｓ３８０７１ａ）が実行されると、上述した第１４制御例にて実行される天井判定処理１４（図４７６のＳ３８０７１参照）のうち、Ｓ３８１０２の処理を削除した制御処理が実行される。具体的には、Ｓ３８１０１の処理を実行した後、Ｓ３８１０２の処理を実行すること無く、Ｓ３８１０３の処理へ移行するように構成している。
【５７７１】
つまり、天井判定処理１４ａ（Ｓ３８０７１ａ）では、設定されている遊技状態に関わらず、特別図柄抽選が実行される毎に、ハマり回数が加算されるように構成している。このように構成することで、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立するタイミングを固定し易くすることができるため、天井特典を付与するための第２条件（第１時短状態の終了）が成立するタイミングについて遊技者に興味を持たせ易くすることができる。
【５７７２】
次に、図４８８を参照して、時短設定処理１４ａ（Ｓ３０２７４ａ）の処理内容について説明をする。図４８８は、時短設定処理１４ａ（Ｓ３０２７４ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理１４ａ（Ｓ３０２７４ａ）は、上述した第１４制御例にて実行される時短設定処理１４（図４７７のＳ３０２７４参照）に対して、遊技状態として通常状態が設定されている場合のみ、新たな時短状態を設定可能に構成している点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については、同一の符号を付して説明を省略する。
【５７７３】
図４８８に示した通り、時短設定処理１４ａ（Ｓ３０２７４ａ）が実行されると、現在が通常状態であるかを判別し（Ｓ３８５７１）、通常状態では無いと判別した場合は（Ｓ３８５７１：Ｎｏ）、時短状態を設定するための各種処理をスキップして、本処理を終了する。一方、通常状態であると判別した場合は（Ｓ３８５７１：Ｙｅｓ）、上述した時短設定処理１４（図４７７のＳ３０２７４参照）と同一のＳ８３５１～Ｓ３８３５７の処理を実行し、本処理を終了する。
【５７７４】
このように、新たな時短状態を設定するための処理を、特定の遊技状態（通常状態）が設定されている場合のみ実行可能に構成し、特定の遊技状態（通常状態）が設定されているかの判別を最初に実行することにより、無用な処理が実行され難くすることができる。
【５７７５】
なお、図４８８に示した通り、本第１４制御例の第１変形例では、通常状態が設定されている場合にて、時短抽選の結果に基づく時短状態の設定を、天井特典に基づく時短状態の設定よりも優先して実行するように構成しているが、これに限ること無く、天井特典に基づく時短状態の設定を、時短抽選の結果に基づく時短状態の設定よりも優先して実行可能に構成しても良い。この場合、上述した第１３制御例にて実行される時短設定処理１３（図４５５のＳ３０２５４参照）と同様に、天井特典を付与するための条件（各種天井待機フラグの設定状況）を判別する処理を先に実行し、天井特典を付与するための条件が成立していない場合（各種天井待機フラグの何れもオンに設定されていない場合）に、時短抽選の結果に基づく時短状態を設定するための処理を実行するように構成すれば良い。

【５７７６】
　このように構成することで、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立している状態で、既に設定されている第１時短状態が終了した場合に必ず天井特典を付与することができる。
【５７７７】
　さらに、本第１４制御例の第１変形例では、通常状態が設定されている場合以外は、新たな時短状態を設定するための条件が成立している場合（各種天井待機フラグの何れかがオンに設定されている場合）であっても、新たな時短状態を設定すること無く、通常状態が設定されるまで、新たな時短状態を設定するための権利を持ち越すように構成している（時短持ち越し機能を有している）。
【５７７８】
　この時短持ち越し機能を別の用途に適用しても良く、例えば、第２時短状態や確変状態といった右打ち遊技状態が設定されている状態において、天井特典の付与条件が成立した場合に、現在設定されている遊技状態に基づく右打ち遊技状態が終了した後に、天井特典に基づく右打ち遊技状態を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、遊技者に有利となる右打ち遊技状態が継続する期間を長くすることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させ易くすることができる。
【５７７９】
　また、右打ち遊技状態中であれば何れのタイミングで天井特典の付与条件を成立させたとしても、同一の特典（右打ち遊技状態終了後の天井特典付与）を提供することができるため、遊技者に対して付与される天井特典の内容が過剰に有利になったり、過剰に不利になったりしてしまうことを抑制することができる。
【５７８０】
　さらに、右打ち遊技状態中においても時短抽選を実行可能に構成し、その時短抽選にて第２時短状態が設定される時短種別に当選した場合に、右打ち遊技状態が終了した後に、時短当選に基づく第２時短状態を設定するように構成しても良い。この場合、本第１４制御例の第１変形例のように、時短当選時の一部において第２時短状態が設定される時短種別（有利時短）が設定されるように構成しているパチンコ機１０では、有利時短に当選するまでは（有利時短以外の時短に当選した場合であっても）繰り返し時短抽選を実行可能に構成し、有利時短に当選したことを条件に時短抽選を実行しないように構成すると良い。
【５７８１】
　さらに、時短当選した結果を複数持ち越し可能に構成しても良く、例えば、右打ち遊技状態中に実行される時短抽選にて５回時短当選した場合には、その５回の時短当選に基づく時短状態を順に設定するように構成しても良い。
【５７８２】
　次に、図４８９を参照して、時短状態演出設定処理１４ａ（Ｓ３９０９１ａ）の処理内容について説明をする。図４８９は、時短状態演出設定処理１４ａ（Ｓ３９０９１ａ）の処理内容を示した図である。この時短状態演出設定処理１４ａ（Ｓ３９０９１ａ）では、上述した時短状態演出設定処理１４（図４７９のＳ３９０９１参照）に対して、第１時短状態が設定された場合に設定される時短回数を計測するための処理を追加した点で相違しており、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して説明を省略する。
【５７８３】
　図４８９に示した通り、時短状態演出設定処理１４ａ（Ｓ３９０９１ａ）が実行されると、上述した時短状態演出設定処理１４（図４７９のＳ３９０９１参照）と同一のＳ３４３０１～Ｓ３４３０３の処理を実行し、Ｓ３４３０３の処理において、第１時短状態が設定されたと判別した場合に（Ｓ３４３０３：Ｙｅｓ）、受信したコマンドに含まれる時短回数を残回数カウンタ２２３ｍａａの値に設定し（Ｓ３４３９１）、その後、上述した時短状態演出設定処理１４（図４７９のＳ３９０９１参照）と同一のＳ３４３０５～Ｓ３４

３０９の処理を実行して本処理を終了する。
【５７８４】
このように、本第１４制御例の第１変形例では、第１時短状態の残時短回数を残回数カウンタ２２３ｍａａの値を用いて計測することにより、第１時短状態の残期間を判別可能に構成している。これにより、天井特典を付与するための第２条件（第１時短状態の終了）が成立するまでの期間を判別し、その判別結果に基づく演出を実行することができる。
【５７８５】
次に、図４９０を参照して、通常モード用演出設定処理１４ａ（Ｓ３４４７２ａ参照）の処理内容について説明をする。図４９０は、通常モード用演出設定処理１４ａ（Ｓ３４４７２ａ参照）の処理内容を示したフローチャートである。この通常モード用演出設定処理１４ａ（Ｓ３４４７２ａ参照）では、上述した通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）に対して、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されている場合、即ち、天井特典を付与するための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立した場合に実行される制御処理の内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。
【５７８６】
図４９０に示した通り、通常モード用演出設定処理１４ａ（Ｓ３４４７２ａ参照）が実行されると、まず、上述した通常モード用演出設定処理１４（図４８０のＳ３４４７２参照）と同一のＳ３４５０１～Ｓ３４５７１の処理を実行する。
【５７８７】
そして、Ｓ３４５７１の処理において、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３４５７１：Ｙｅｓ）、残回数カウンタ２２３ｍａａの値を更新し（Ｓ３４５９１）、ドキドキゾーン演出選択テーブル２２２ｍａａを参照して、ドキドキゾーンの演出態様を決定し（Ｓ３４５９２）、天井発動モード中フラグ２２３ｍａをオフに設定し（Ｓ３４５９３）、ドキドキ中フラグ２２３ｍａｂをオンに設定し（Ｓ３４５９４）、本処理を終了する。
【５７８８】
一方、Ｓ３４５７１の処理において、天井発動モード中フラグ２２３ｍａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４５７１：Ｎｏ）、次に、ドキドキ中フラグ２２３ｍａｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３４５９５）、オンに設定されている、即ち、既にドキドキゾーンが設定されていると判別した場合は（Ｓ３４５９５：Ｙｅｓ）、ドキドキゾーンの演出態様の更新を決定し（Ｓ３４５９６）、本処理を終了する。また、Ｓ３４５９５の処理においてドキドキ中フラグ２２３ｍａｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３４５９５：Ｎｏ）、今回受信した変動パターンに対応した演出態様を決定し（Ｓ３４５０９）、本処理を終了する。
【５７８９】
以上、説明をした通り、本第１４制御例の第１変形例では、時短抽選で時短当選した場合に、所定回数の第１時短状態（１００回～３００回の第１時短状態）を設定可能に構成し、天井特典を付与させるための第１条件（ハマリ回数５００回）が成立している状態で、第１時短状態が終了した場合（残時短回数が０となった場合）に第２条件が成立し、天井特典を付与可能に構成している。
【５７９０】
このように構成することで、第１時短状態が終了するタイミングに応じて、天井特典が付与されるタイミングを異ならせることができるため、天井特典が付与されるタイミングを遊技者に分かり難くすることができる。
【５７９１】
なお、本第１４制御例の第１変形例では、第１時短状態を終了させるための第１時短終了条件として、特別図柄変動回数に基づいて成立する第１時短終了条件を設定するように構成しているが、これに限ること無く、第１時短終了条件が成立するよりも前に、特別図柄抽選の抽選結果に基づいて成立し得る第２時短終了条件を設けてもよく、例えば、特別

図柄抽選の抽選結果が特定抽選結果（大当たり当選以外の特定の抽選結果）となった回数が所定回数（例えば、２回）となった場合に、第２時短終了条件が成立し、第１時短状態を終了させるように構成しても良い。

【５７９２】

このように構成することで、第１時短終了条件が成立する特別図柄変動回数（時短回数）が実行されるよりも前に、第１時短状態を終了させることができるため、天井特典が付与されるタイミングを遊技者に分かり難くすることができる。

【５７９３】

さらに、本第１４制御例の第１変形例では、第１時短状態が設定されている状態では時短抽選が実行されないように構成しているが、これに限ること無く、第１時短状態が設定されている状態でも時短抽選が実行されるように構成し、第１時短状態が設定されている状態で実行された時短抽選で時短当選した場合に、新たに当選した第１時短状態の時短回数を設定する（時短カウンタ２０３ｈの値にセットする）ように構成しても良いし、新たに当選した第１時短状態の時短回数が、既に設定されている第１時短状態の残時短回数よりも少ないかを判別可能に構成し、判別結果に基づいて時短カウンタ２０３ｈの値を決定するように構成しても良い。この場合、例えば、時短カウンタ２０３ｈの値として、遊技者に有利となる方に対応させた値を決定すると良く、本第１４制御例の第１変形例に適用する場合であれば、第１条件が成立した後は、時短カウンタ２０３ｈの値が少なくなる方の時短回数に対応させて時短カウンタ２０３ｈの値を決定するように構成すれば良い。このように構成することで、第１条件が成立してから第２条件が成立するまでの期間が無用に長くなる事態が頻繁に発生してしまうことを抑制することができる。

【５７９４】

以上、説明をした通り、上述した第１４制御例、及び、第１４制御例の第１変形例では、天井特典を付与するための条件として第１条件（ハマリ回数５００回）と、第２条件（第１時短状態の終了）と、を設けており、何れの条件も成立した場合に天井特典が付与されるように構成している。よって、第１条件として設定されている特別図柄抽選回数（ハマり回数）に到達したタイミングと、実際に天井特典が付与されるタイミングと、を容易に異ならせることが可能となる。

【５７９５】

このように構成することで、天井特典が付与されるハマり回数として異なる回数を設定可能に構成し、設定条件が成立した場合において、異なるハマり回数の中から１のハマり回数を決定するといった複雑な処理を実行すること無く、様々なタイミング（特別図柄抽選回数）で天井特典を付与することができる。

【５７９６】

なお、上述した第１４制御例、及び、第１４制御例の第１変形例では、特別図柄抽選回数に関わらず、特別図柄抽選の結果（時短抽選の結果）に基づいて第１時短状態を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、天井特典を付与するための第１条件が成立した時点において通常状態が設定されている場合には、必ず第１時短状態が設定されるように構成しても良い。

【５７９７】

また、上述した第１４制御例、及び、第１４制御例の第１変形例では、第１時短状態が設定されている状態では、天井特典として第３時短状態が設定されないように構成している。つまり、第１時短状態は、第３時短状態が設定されるタイミングを遅延させる遅延状態ともいえる。また、第３時短状態が設定されることを規制する規制状態ともいえる。

【５７９８】

また、第１時短状態は、予め設定されている時短回数分、特別図柄抽選が実行されたことに基づいて終了するように構成している。つまり、第１時短状態を終了させるための手段は、第３時短状態が設定されることが規制されている規制状態（規制期間）を解除する解除手段ともいえる。

【５７９９】

なお、第１時短状態（遅延状態、規制状態）を解除する手法として、上述した第１４制御例、及び、第１４制御例の第１変形例では、特別図柄抽選回数に基づいて成立する条件が成立した場合に、第１時短状態（遅延状態、規制状態）を解除するように構成しているが、これに限ること無く、上述した各制御例にて用いられている時短状態を終了させるための時短終了条件を適宜適用しても良い。

【５８００】

＜第１５制御例について＞

次に、図４９１から図５０３を参照して、第１５制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第１５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の一部構成を変更した点と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の一部構成を変更した点とで相違している。また、主制御装置１１０のＭＰＵが実行する制御内容と、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御内容の一部を変更した点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【５８０１】

上述した第５制御例では、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させるための契機として、特別図柄抽選の大当たり当選以外の契機を設け、特定の特別図柄（第２特別図柄）の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）の抽選結果が大当たり当選とは異なる抽選結果（外れ）の一部において、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機が成立するように時短抽選を実行可能に構成していた。

【５８０２】

本第１５制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第５制御例と同様に、第２特別図柄抽選でのみ時短抽選を実行可能に構成し、通常状態と、第２確変状態とで、少なくとも時短抽選を実行可能に構成している。

【５８０３】

そして、時短状態（第２時短状態）が設定されている場合に、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなるように構成し、且つ、第２特別図柄抽選よりも優先して第１特別図柄抽選が実行されるように構成している。加えて、本第１５制御例では、大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されるように構成し、特別図柄の高確率状態が継続する期間（確変期間）と、普通図柄の高確率状態が継続する期間（時短期間）との長さを異ならせて設定することができるように構成している。

【５８０４】

具体的には、確変期間の継続期間の方が、時短期間の継続期間よりも長くなるように大当たり遊技終了後に確変状態を設定可能に構成しており、この場合、大当たり遊技終了後の遊技状態が、特別図柄抽選の実行回数が増加するにつれ、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と順に移行するように構成している。

【５８０５】

さらに、第２確変状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行される場合よりも、通常状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行される方が、遊技者に有利な時短抽選が実行されるように構成している。

【５８０６】

このように構成することで、確変状態中（第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い右打ち遊技状態中）において、獲得した第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）が、第２確変状態中に実行されることが無いように、第２確変状態中に第１入球口６４へと遊技球を入球させ、第１特別図柄の保留記憶（特図１保留）が途切れないようにするという斬新な遊技性を遊技者に提供することができる。

【５８０７】
＜第１５制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について＞
まず、図４９１を参照して、本第１５制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成について説明をする。上述した第５制御例におけるパチンコ機１０は、通常状態において第１入球口６４へと遊技球を入球させるための左打ち遊技を実行し、時短状態が設定された場合に入球し易くなる第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための右打ち遊技を実行可能な遊技盤１３（図２３４参照）を有していた。そして、図２３４に示した通り、右打ち遊技によって発射された遊技球が流下可能となる遊技領域（右側領域）には、遊技球が入球することで第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得可能な入球手段を設けておらず、右打ち遊技中は、新たな特図１保留を獲得し難い遊技状態となるように構成していた。
【５８０８】
ここで、本第１５制御例のパチンコ機１０は、上述した通り、確変状態中において右打ち遊技を実行することで特図２保留を獲得し、確変状態が終了してから所定期間が経過するまでの間、第２特別図柄抽選よりも優先して実行される第１特別図柄抽選を実行させることで特図２保留を消化しなければ遊技者に有利な特典を付与可能に構成している。そして、特図２保留を獲得し易い確変状態中において右打ち遊技を実行した場合であっても、新たに特図１保留を獲得することができるように遊技盤１３を構成している。このように構成することで、特図１保留を獲得したまま確変状態を終了させ易くすることができる。
【５８０９】
図４９１は、本第１５制御例のパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成を示す正面図である。本第１５制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成（図２３４参照）に対して、遊技盤１３上に形成される遊技領域のうち、右側領域に配設された各種装置の構成を異ならせ、右打ち遊技状態中においても特図１保留を獲得可能に構成している点で相違している。なお、右側領域以外の構成については同一であり、同一の構成については同一の符号を付してその説明を省略する。
【５８１０】
図４９１に示した通り、本第１５制御例では、遊技球が入球することで、第１特別図柄抽選の実行権利を獲得可能な入球手段として、遊技盤１３の左側領域を流下した遊技球の方が、遊技盤１３の右側領域を流下した遊技球よりも入球し易い第１入球口６４と、遊技盤１３の右側領域を流下した遊技球の方が、遊技盤１３の左側領域を流下した遊技球よりも入球し易い右第１入球口６４ｂと、を有しており、第１入球口６４が遊技盤１３の下方領域（可変表示ユニット８０の下方側に形成される遊技領域）に配設され、右第１入球口６４ｂが遊技盤１３の右側領域に配設されている。
【５８１１】
第１入球口６４、及び、右第１入球口６４ｂは、何れも遊技球が入球することで４個の賞球が払い出されるように構成しており、左打ち遊技を実行した場合には、２５０個の遊技球を全て使用（途中で払い出された賞球の使用も含む）するまでに約２０個の遊技球を第１入球口６４へと入球させることが可能となるように第１入球口６４が配設されている。
【５８１２】
一方、右打ち遊技を実行した場合には、２５０個の遊技球を全て使用（途中で払い出された賞球の使用も含む）するまでに約１５個の遊技球を右第１入球口６４ｂへと入球させることが可能となるように右第１入球口６４ｂが配設されている。
【５８１３】
ここで、左側領域には、第１入球口６４以外に遊技球が入球することで１０個の賞球が払い出される一般入球口６３が配設されており、左側領域を流下する遊技球のうち、第１入球口６４へと入球することが出来なかった遊技球が一般入球口６３へと入球した場合にも賞球が払い出されるように構成しているため、右打ち遊技を実行するよりも左打ち遊技

を実行した場合の方が、特定数の遊技球を発射した場合において、遊技球が常時入球可能な入球口（一般入球口６３、第１入球口６４、右第１入球口６４ｂ）への遊技球の入球に基づく賞球を多く獲得し易くなるように構成している。

【５８１４】

よって、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなる普通図柄の高確率状態が設定されていない（普通図柄の低確率状態が設定されている）通常状態においては、右打ち遊技を実行する場合よりも、左打ち遊技が実行される場合の方が、遊技者に有利な遊技となる。

【５８１５】

図４９１に示した通り、遊技盤１３の右側領域には、第２特別図柄抽選を実行させるための入球口（始動入球口）である第２入球口１６４０と、第２入球口１６４０に付設される電動役物１６４０ａと、遊技球が通過（入球）することで普通図柄抽選の実行権利を獲得可能なスルーゲート６７と、第１特別図柄抽選を実行させるための入球口（始動入球口）である右第１入球口６４ｂと、大当たり遊技が実行されることで遊技球が入球（入賞）可能となる可変入賞装置１０６５と、が配設されている。

【５８１６】

第２入球口１６４０には、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される当たり遊技（普図当たり遊技）にて開閉作動する電動役物１６４０ａが付随しており、設定されている遊技状態に応じて遊技球を入球させ易い状態（普通図柄の高確率状態）と、遊技球を入球させ難い状態（普通図柄の低確率状態）と、を創出可能に構成している。なお、普通図柄抽選の内容や、普通図柄抽選で当たり当選したことに基づいて実行される当たり遊技（普図当たり遊技）において開閉作動される電動役物１６４０ａの動作制御内容等については、上述した各制御例において説明をした電動役物制御の内容と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【５８１７】

次に、右打ち遊技によって発射された遊技球の流れについて説明をする。図４９１に示した通り、右打ち遊技によって発射された遊技球は、遊技盤１３の右側領域に植設されている複数の釘によって流下方向を変更しながら流下する。そして、第２入球口１６４０が配設されている第１流路、又は、スルーゲート６７及び右第１入球口６４ｂが配設されている第２流路に約９対１の割合で振り分けられ、さらに下流方向へと流下する。

【５８１８】

第２流路への流入口は、２つの釘の間隙ｓｕ１によって形成されており、右側領域を流下した遊技球のうち、間隙ｓｕ１を通過しなかった遊技球が第１流路を流下するように構成している。間隙ｓｕ１の開口幅は、間隙ｓｕ１を形成する釘の配置位置によって拡縮するため、例えば、間隙ｓｕ１を形成する釘の配置位置が間隙ｓｕ１の開口幅を狭くする方向へと移動した場合には、右側領域を流下した遊技球が第２流路を流下し難くなり、第１流路を流下し易くなる。一方で、間隙ｓｕ１を形成する釘の配置位置が間隙ｓｕ１の開口幅を広くする方向へと移動した場合には、右側領域を流下した遊技球が第２流路を流下し易くなり、第１流路を流下し難くなる。

【５８１９】

第１流路を流下する遊技球は、電動役物１６４０ａが付随する第２入球口１６４０に到達し、普図当たり遊技によって電動役物１６４０ａが開状態へと動作している場合には、遊技盤１３から突出した電動役物１６４０ａによって遊技球が第２入球口１６４０へと誘導され、第２入球口１６４０に入球する。また、第２入球口１６４０へと遊技球が到達したタイミングにて普図当たり遊技が実行されていない（電動役物１６４０ａが閉状態である）場合には、電動役物１６４０ａが遊技盤１３内に埋設されているため、遊技球が電動役物１６４０ａを通過し、可変入賞装置１０６５に向けて流下する。

【５８２０】

第２流路を流下する遊技球は、第２流路内に植設された釘によって、スルーゲート６７が設けられた第３流路と、右第１入球口６４ｂが設けられた第４流路へと約１対１の割合

で振り分けられる。第４流路への流入口は、２つの釘の間隙ｓｕ２によって形成されており、第２流路を流下する遊技球のうち、間隙ｓｕ２を通過しなかった遊技球が第３流路を流下するように構成している。間隙ｓｕ２の開口幅は、間隙ｓｕ２を形成する釘の配置位置によって拡縮するため、例えば、間隙ｓｕ２を形成する釘の配置位置が間隙ｓｕ２の開口幅を狭くする方向へと移動した場合には、第２流路を流下した遊技球が第４流路を流下し難くなり、第３流路を流下し易くなる。一方で、間隙ｓｕ２を形成する釘の配置位置が間隙ｓｕ２の開口幅を広くする方向へと移動した場合には、第２流路を流下した遊技球が第４流路を流下し易くなり、第３流路を流下し難くなる。

【５８２１】

そして、第３流路を流下する遊技球は、スルーゲート６７を通過し、可変入賞装置１０６５に向けて流下し、第４流路を流下した遊技球は、その殆どが右第１入球口６４ｂへと入球する。なお、第４流路を流下した遊技球の一部が、右第１入球口６４ｂへと入球すること無く、可変入賞装置１０６５に向けて流下し得るように、第４流路には排出口が設けられている。このように構成することで、右第１入球口６４ｂの開口部付近で遊技球が滞留（球詰まりが発生）した場合であっても、その後、第４流路へと流入する遊技球を流下させることが可能となる。

【５８２２】

以上、説明をした通り、本第１５制御例のパチンコ機１０は、右側領域を流下する遊技球が、所定の割合で第２入球口１６４０、スルーゲート６７、右第１入球口６４ｂへと入球し得るように構成されており、右側領域を１００個の遊技球が流下した場合には、そのうちの９０個が、第２入球口１６４０が配設される第１流路を流下し、１０個が第２流路を流下する。そして、第２流路を流下する１０個の遊技球のうち、５個が第３流路を流下しスルーゲート６７を通過する。また、残りの５個が第４流路を流下し第１入球口６４ｂへと入球するように構成されている。

【５８２３】

通常状態が設定されている場合には、普通図柄抽選で当り当選した場合であっても、第２入球口１６４０へと遊技球を入球させることが困難な普図当たり遊技（電動役物１６４０ａが開状態となる期間が短い（０．１秒）普図当たり遊技）が実行されるように構成しているため、通常状態において右打ち遊技を実行し、右側領域へと遊技球を流下させた場合には、右第１入球口６４ｂへと遊技球が入球した場合に払い出される賞球（４個）のみが払い出されることになる。

【５８２４】

よって、通常状態において右打ち遊技を実行した場合には、発射された遊技球の約５％が右第１入球口６４ｂへと入球し得るように構成しているため、２５０個の遊技球を全て使用（途中で払い出された賞球の使用も含む）した場合に、約１５個の遊技球を右第１入球口６４ｂへと入球させることが可能となる。

【５８２５】

なお、間隙ｓｕ１、或いは、間隙ｓｕ２の開口幅が狭くなるように各種釘の配置位置を調整することにより、右打ち遊技によって発射された遊技球が右第１入球口６４ｂへと入球する割合を低く調整することが可能であるが、このように各種釘の配置位置を調整した場合には、第２入球口１６４０、又はスルーゲート６７に入球する遊技球の割合が高くなるように構成している。

【５８２６】

ここで、詳細な説明は省略するが、本第１５制御例では、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）にて普通図柄抽選で当り当選した場合には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）にて普通図柄抽選で当り当選した場合よりも、第２入球口１６４０へと遊技球が入球し易い普図当たり遊技を実行可能に構成している。

【５８２７】

つまり、特図２保留を獲得した状態で確変状態を終了させ難くするために、右打ち遊技

によって特図１保留を獲得させ難くなるように各種釘の配置位置を調整した場合には、右打ち遊技によってスルーゲート６７、第２入球口１６４０へと遊技球を入球（通過）させ易くなるため、第２確変状態中に右打ち遊技を行うことで新たな特図２保留を獲得し易くすることができる。

【５８２８】

また、第２確変状態中に新たな特図２保留を獲得させ難くするために、右打ち遊技によってスルーゲート６７、及び、第２入球口１６４０へと遊技球を入球させ難くするように各種釘の配置位置を調整した場合には、右第１入球口６４ｂへと遊技球が入球し易くなるように構成している。

【５８２９】

上述した通り、本第１５制御例のパチンコ機１０は、左打ち遊技を実行した場合には、特図２保留を獲得出来ない（困難となる）ように構成し、基本的には、左打ち遊技を実行した場合の方が、右打ち遊技を実行する場合よりも特図１保留を獲得し易くなるように構成しているため、特図２保留を獲得した状態で確変状態が終了した場合には、確変状態終了後に設定される第２確変状態中は左打ち遊技を実行することで、新たな特図１保留を獲得し、第２確変状態が終了するまで特図２保留を保持することを目指す遊技を遊技者に行わせるものであるが、確変状態中に実行された右打ち遊技の結果に応じて、第２確変状態中において多種多様な遊技を遊技者に行わせることが可能となる。

【５８３０】

例えば、遊技盤１３の右側領域の構成として、通常よりも右第１入球口６４ｂへと遊技球が入球し易くなるように各種釘の配置位置が調整されている場合には、第２確変状態中において、左打ち遊技によって特図１保留の獲得を目指す遊技と、右打ち遊技によって特図１保留を獲得しながら、低確率ではあるが新たな特図２保留の獲得を目指す遊技との何れかを遊技者に選択させることができる。

【５８３１】

また、遊技盤１３の右側領域の構成として、通常よりも右第１入球口６４ｂへと遊技球が入球し難くなるように各種釘の配置位置が調整されている場合には、確変状態の終了時点で特図２保留を保持していれば、第２確変状態中において特図１保留を獲得し易い左打ち遊技を遊技者に実行させ、確変状態の終了時点で特図２保留を保持していなければ、第２確変状態中において左打ち遊技よりも特図１保留を獲得し難いが、新たな特図２保留を獲得可能な右打ち遊技を遊技者に実行させることが可能となる。

【５８３２】

このよう構成することで、遊技者に対して様々な遊技方法を試行錯誤しながら遊技を行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【５８３３】

この場合、確変状態の終了時点にて獲得済みの特図１保留数と、特図２保留数とに基づいて、確変状態終了後に設定される第２確変状態における遊技方法として遊技者に有利となる遊技方法を決定し、決定した遊技方法を示すため情報を遊技者に報知可能に構成しても良い。

【５８３４】

具体的には、確変状態の終了時点にて特図２保留を獲得していないと判別した場合は、新たに特図２保留を獲得することが可能な右打ち遊技を第２確変状態中の遊技方法として報知し、確変状態の終了時点にて特図２保留を獲得していると判別した場合は、特図１保留を獲得し易い左打ち遊技を第２確変状態中の遊技方法として報知するように構成すれば良い。このように構成することで、第２確変状態中に遊技者に不利な遊技が行われてしまうことを抑制することができる。

【５８３５】

以上、説明をした通り、本第１５制御例では、図４９１に示した遊技盤１３を用いることで、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得し易い遊技状態（確変状態）に

て実行される右打ち遊技中であっても、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得可能に構成している。

【５８３６】

このように構成することで、第１特別図柄抽選の方が、第２特別図柄抽選よりも優先して実行されるパチンコ機１０において、特図１保留と特図２保留と、を共に獲得している状態で、確変状態を終了させ易くすることができる。よって、確変状態が終了し、確変状態よりも新たな特図２保留を獲得し難い遊技状態（第２確変状態）が設定された後も、優先して実行される第１特別図柄抽選を連続して実行させ易くすることができるため、獲得済みの特図２保留を消化すること無く、新たな特図２保留を獲得し難い遊技状態での遊技を継続させ易くすることができる。

【５８３７】

なお、本第１５制御例のように、右打ち遊技によって特図１保留を獲得可能な構成を用いること無く、別の構成を用いて、本第１５制御例と同様の遊技性を創出可能に構成しても良く、例えば、上述した第５制御例のパチンコ機１０が有する遊技盤１３（図２３４）を用いた場合には、確変状態中は右打ち遊技を実行することで第２特別図柄抽選が実行され易くし、確変状態にて実行される最後の特図変動（特図最終変動）の変動時間として長時間（例えば、１８０秒）の変動時間が設定されるように構成し、その特図最終変動中において、保留記憶可能な上限数（本第１５制御例では１個）の特図２保留獲得を案内する第１演出（右打ち演出）と、保留記憶可能な上限数（本第１５制御例では４個）の特図１保留獲得を案内する第２演出（左打ち演出）と、を実行可能に構成してもよい。

【５８３８】

さらに、図４９１に示した通り、遊技盤１３の右側領域下方には、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置１０６５が配設されている。この可変入賞装置１０６５は、上述した第７制御例における可変入賞装置６５（図２９４参照）と同一内容であり、その詳細な説明を省略する。

【５８３９】

＜第１５制御例における演出内容について＞

次に、図４９２及び図４９３を参照して、本第１５制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第１５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第５制御例におけるパチンコ機１０に対して、確変状態が終了した後に、第２確変状態が設定されるように、確変期間が時短期間よりも長くなるように構成している。

【５８４０】

そして、確変状態中に獲得した特図２保留が第２確変状態中に消化されること無く、第２確変状態が終了した後に設定される通常状態まで特図２保留を保持することにより、遊技者に有利な第２特別図柄抽選を実行可能に構成している。

【５８４１】

ここで、特図２保留を有している状態で、第２確変状態が設定された場合に実行されるキープゾーン演出の演出内容について図４９２を参照して説明をする。図４９２（ａ）は、キープゾーン演出中に表示される表示画面の一例を示した図であって、図４９２（ｂ）は、キープゾーン演出の終了画面として、特図２保留を獲得している状態で第２確変状態が終了することを示す成功演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５８４２】

図４９２（ａ）に示した通り、確変状態中に獲得した特図２保留を保持した状態で第２確変状態が設定されると、キープゾーン演出が実行される。キープゾーン演出が実行されると、主表示領域Ｄｍの右下方にコンベア１０８０２が表示され、コンベア１０８０２上面に載置されている複数のエサを模したエサアイコンｈｒ１～ｈｒ５が、コンベア１０８０２の動きに連動して右から左へと移動する演出が実行される。そして、コンベア１０８０２の左側にはコンベア１０８０２から排出されるエサを待ち構えているサカナ１０８０

１が表示され、コンベア１０８０２から排出されたエサを食べる演出が実行される。
【５８４３】
ここで、コンベア１０８０２の上面に載置される複数のエサは、特図１保留と、特図２保留と、に対応して表示されるように構成しており、図４９２（ａ）に示した表示画面では、小領域Ｄｍ１ａに示した通り、特図１保留を２個獲得している状態であるため、特図１保留に対応したエサが２個（エサアイコンｈｒ１，ｈｒ２）表示されている。そして、小領域Ｄｍ８ａに示した通り、特図２保留を１個獲得している状態であるため、特図２保留に対応したエサ（ＳＰの文字が付してあるエサ）が１個（エサアイコンｈｒ５）表示されている。
【５８４４】
そして、小領域Ｄｍ１に示した通り、第１特別図柄変動が実行中であるため、実行中の特別図柄種別を示すためのエサアイコンｈｒ０（第１特別図柄に対応する表示態様のエサ）がサカナ１０８０１に食べられている演出が実行されている。
【５８４５】
本第１５制御例では、第１特別図柄抽選が第２特別図柄抽選よりも優先して実行されるように構成しているため、第１入球口６４へと遊技球が入球し、新たな特図１保留を獲得する毎に、特図２保留に対応するエサアイコンｈｒ５よりもコンベア１０８０２の下流側（サカナ１０８０１に近い位置）に新たなエサアイコンｈｒ１～ｈｒ４が追加されるようにウサギ８０１がコンベア１０８０２の上面にエサを放り投げる演出が実行される。
【５８４６】
そして、主表示領域Ｄｍの上側には、キープゾーン演出が実行されていることを示す「キープゾーン」の文字が表示され、キープゾーン演出中の遊技内容を遊技者に案内するための案内態様として「魚がお腹一杯になるまでエサをあげろ！！」の文字が表示される。また、副表示領域Ｄｓには、より詳細な遊技方法を示すための案内態様として「ＳＰのエサが食べられないように、特図１保留を貯めてね」のコメントが表示される。
【５８４７】
また、コンベア１０８０２の上方には、コンベア１０８０２の動作状況を遊技者に報知するための信号機１０８０３が表示されている。この信号機１０８０３は、コンベア１０８０２が動作している状況を示す「ＧＯ」の表示領域と、コンベア１０８０２が動作していない（停止している）状況を示す「ＳＴＯＰ」の表示領域と、を有しており、コンベア１０８０２の動作状況に対応させて何れかの表示領域が点灯表示される。
【５８４８】
さらに、遊技者に遊技方法（左打ち遊技、右打ち遊技）を案内するための案内表示領域として、小表示領域Ｄｍ４には「左打ち」が表示される。本第１５制御例では、基本的には、左打ち遊技中は遊技方法を遊技者に案内するための報知をせず、右打ち遊技が遊技者に有利となる場合に、「右打ち」の表示を小表示領域Ｄｍ４に表示するように構成しているが、キープゾーン演出中は、遊技球を発射しない場合に、左打ち遊技を実行する場合よりも遊技者に不利な遊技が実行され易くなることから、小表示領域Ｄｍ４に「左打ち」を表示するように構成している。
【５８４９】
上述したキープゾーン演出では、１の特別図柄変動が終了し、次の特別図柄変動が開始される毎に、新たなエサ（図ではエサアイコンｈｒ１）がサカナ１０８０１に食べられる演出が実行される。つまり、サカナ１０８０１に食べられているエサアイコンｈｒ０が実行中の特別図柄変動に関する情報を示す態様（実行中保留）となり、コンベア１０８０２上を移動するエサのうち、サカナ１０８０１に最も近いエサを示すエサアイコンｈｒ１が、次に実行される特別図柄変動に関する情報を示す態様（第１特図保留）となる。
【５８５０】
また、コンベア１０８０２の動作内容は、実行中の第１特別図柄変動の変動時間や、獲得済みの特図１保留に対応する特別図柄変動の変動時間に基づいて決定されるように構成しており、例えば、実行中の第１特別図柄変動の変動時間や、獲得済みの特図１保留に対

応する特別図柄変動の変動時間が短い場合、即ち、短時間で特図２保留が消化され得る場合には、コンベア１０８０２の動作速度が上がり、実行中の第１特別図柄変動の変動時間や、獲得済みの特図１保留に対応する特別図柄変動の変動時間が長い場合、即ち、特図２保留が消化され得るタイミングまで時間的に余裕がある場合には、コンベア１０８０２の動作速度が低下したり、一時的にコンベア１０８０２が停止したりするように構成している。

【５８５１】

このように構成することで、残りのエサの数（表示されているエサアイコンｈｒ１～ｈｒ４の数）だけで無く、コンベア１０８０２の動作状況に基づいて、特図２保留が消化される（エサアイコンｈｒ５がサカナ１０８０１に食べられてしまう）までの期間を遊技者に予測させることが可能となり、予測結果に基づいて新たな特図１保留を獲得するための左打ち遊技を実行させることができる。

【５８５２】

また、詳細な説明は省略するが、キープゾーン演出中において実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり遊技終了後に確変状態が設定されるように構成しているため、獲得済みの特図２保留を通常状態まで保持することが困難となる。よって、キープゾーン演出中において実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、キープゾーン演出を終了させる終了演出が実行されるように構成している。

【５８５３】

具体的には、特図１保留に対応するエサアイコンｈｒ１～ｈｒ４の表示態様として、毒入りのエサを設定可能に構成し、サカナ１０８０１が毒入りのエサを食べた場合に、遠くに逃げ出してしまう演出が実行されるように構成している。また、毒入りのエサを模したエサアイコンは、大当たり当選していない場合にも低確率で表示されるように構成し、大当たり当選を示す情報を有していない特図１保留に対応するエサの表示態様として毒入りのエサを模した表示態様が設定された場合には、サカナ１０８０１が毒入りのエサを避ける演出が実行されるように構成している。

【５８５４】

このように構成することで、キープゾーン演出中における第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、遊技者に違和感を与えること無くキープゾーン演出を終了させることが可能となる。また、実際に大当たり当選していない特図１保留に対しても、大当たり当選している場合に設定される表示態様（毒入りのエサを示す表示態様）を設定可能に構成しているため、遊技者に違和感を与えること無く毒入りのエサを示す表示態様でエサアイコンを表示することができる。

【５８５５】

そして、特図２保留を獲得した状態で第２確変状態が終了することが確定した場合、即ち、第２特別図柄抽選よりも優先して実行される第１特別図柄抽選の保留記憶（特図１保留）数が、第２確変状態が終了するまでに要する特別図柄抽選回数を上回っており、且つ、獲得済みの特図１保留内に大当たり当選を示す情報が含まれていない場合には、図４９２（ｂ）に示した通り、サカナ１０８０１がお腹一杯になり、満足して帰って行く演出が終了し、コンベア１０８０２が停止表示され、信号機１０８０３は、コンベア１０８０２が停止していることを示すための表示領域「ＳＴＯＰ」が点灯表示される。

【５８５６】

そして、小表示領域Ｄｍ４には、遊技者が遊技球の発射を一時的に停止させることを促す案内表示態様として「休憩！？」が表示される。これにより、第２確変状態が終了し、遊技者に有利な第２特別図柄抽選が実行される通常状態が設定された後も左打ち遊技が継続されることにより第１特別図柄抽選が実行され（新たな特図１保留を獲得し続け）、第２特別図柄抽選が実行されない期間が長くなることを抑制することができる。

【５８５７】

なお、図４９２（ｂ）に示した表示画面では、遊技者に対して遊技球の発射を禁止させる程の強制力が無い表示態様が小表示領域Ｄｍ４に表示されているが、これに限ること無

く、遊技者に対して遊技球の発射を直接的に禁止させる表示態様（例えば、「ＳＰエサが無くなるまで遊技球の発射を止めてください」との表示）を表示するように構成しても良い。

【５８５８】

図４９２（ｂ）に示した通り、キープゾーン演出が成功した場合には、次の遊技内容を遊技者に案内するための案内態様として、副表示領域Ｄｓにて「大成功！！残ったＳＰエサを食べちゃおう」のコメントが表示される。図４９２（ｂ）に示した状態から遊技球の発射を中断し、新たな特図保留を獲得すること無く、第２特別図柄抽選が実行されると、図４９３（ａ）に示した演出が実行される。

【５８５９】

図４９３（ａ）は、通常状態において第２特別図柄変動が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図４９２（ｂ）に示した通り、特図２保留に対応するエサアイコンｈｒ５を残した状態で、天井中モード演出が終了すると、通常状態が設定された後に、ウサギ８０１が特図２保留に対応するエサを食べる演出が実行される。ここで、ウサギ８０１がエサを全て食べきると、通常状態中に実行された第２特別図柄抽選の結果として、時短状態に当選したことを示す演出が設定される。

【５８６０】

一方、キープゾーン演出中に新たな特図１保留を獲得することができず、特図２保留が消化され、第２確変状態中に第２特別図柄変動が実行されると、図４９３（ｂ）に示した終了演出が実行される。図４９３（ｂ）は、第２確変状態中に第２特別図柄変動が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図４９３（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ８には、第２特別図柄変動が実行されていることを示すための表示態様（図では矢印で表示）が表示され、小表示領域Ｄｍ８ａには、特図２保留の獲得数が０でありことを示す「０」が表示されている。そして、主表示領域Ｄｍでは、お腹を空かせたサカナ１０８０１が「エサが足り無い」と怒りながらウサギ８０１を襲う演出が実行され、副表示領域Ｄｓには、キープゾーン演出が終了したことを示す「キープゾーン終了」のコメントが表示される。

【５８６１】

なお、本第１５制御例では、第２確変状態が継続する期間が、大当たり種別に応じて異ならせることができるように構成しており、第２確変状態が継続する期間が最長で特図抽選４０回、最短で特図抽選１回となるように構成している。よって、図４９２（ａ）に示した表示画面では、キープゾーン演出が継続する期間（サカナ１０８０１がお腹一杯になるまでの期間）を遊技者に把握させないように、第２確変状態が継続する期間（第２確変状態の残期間）を報知しないように構成している。

【５８６２】

また、本第１５制御例にて実行されるキープゾーン演出では、キープゾーン演出の演出態様（例えば、サカナ１０８０１の表示態様や、コンベア１０８０２の速度等）を異ならせることで、第２確変状態の残期間を示唆可能に構成している。

【５８６３】

このように構成することで、キープゾーン演出の継続期間を遊技者に分かり易く報知することができるため、第２確変状態が終了するまで特図２保留を保持しようと意欲的に遊技を行わせることができる。また、第２確変状態の残期間を示すための表示態様を専用に表示するのでは無く、例えば、サカナ１０８０１の態様を異ならせて設定可能にすることで、第２確変状態の残期間を遊技者に示唆可能に構成しても良い。この場合、サカナ１０８０１の態様として、小食気味の態様と、大食漢の態様と、を設定可能に構成し、小食気味の態様の方が、第２確変状態の残期間が少ない場合に設定され易くなるように構成しても良い。

【５８６４】

なお、本第１５制御例のキープゾーン演出とは異ならせ、キープゾーン演出中に第２確変状態が終了するまでの情報（残確変回数）を表示可能に構成し、第２確変状態中に特別

図柄抽選が実行される毎に残確変回数がカウントダウン表示されるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して、第２確変状態が終了するまでに実行される特別図柄抽選の実行回数を分かり易く報知することができる。

【５８６５】

また、この場合、第２確変状態を終了させるための第２確変終了条件が成立するまでの残情報（残確変回数）とは異なる情報（疑似残確変回数）を表示するように構成し、第２確変状態中における特別図柄抽選の実行回数を示す情報の更新内容とは異ならせて疑似残確変回数を更新させる疑似残確変回数更新演出を実行可能に構成しても良い。

【５８６６】

具体的には、第２確変状態が終了するまでの残確変回数が４０回である場合に、第３図柄表示装置８１の表示画面に、第２確変状態が終了するまでの情報として、疑似残確変回数「５０回」に対応する情報を表示し、実際に第２確変状態が終了する場合に、疑似残確変回数が示す情報が、第２確変状態の終了を示す表示態様（例えば、「ラスト」の表示態様）で表示されるように構成する。そして、第２確変状態中に実行された特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動時間として、所定期間（３０秒）よりも長い変動時間が設定された場合には、その特別図柄変動期間中に、疑似残確変回数を少なくとも２以上更新（減算）させる疑似残確変回数減算演出を実行するように構成する。

【５８６７】

このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される疑似残確変回数が「ラスト（０）」となった場合に、実際に第２確変状態が終了するように構成しながら、第２確変状態が設定される初期段階においては、実際の残確変回数よりも大きい値の疑似残確変回数を表示することが可能となるため、遊技者に対して、第２確変状態が継続する期間の長さを分かり難くすることができる。

【５８６８】

さらに、１の特別図柄抽選の実行に基づいて、疑似残確変回数を２以上減算させることが可能となるため、疑似残確変回数が表示されている第２確変状態にて、第２確変状態がいち早く終了すること（疑似残確変回数が大幅に減算されること）を期待しながら遊技者に継続して遊技を行わせることができる。

【５８６９】

また、この場合、特図１保留の事前判別結果に基づいて、第２確変状態中に第１特別図柄抽選で大当たり当選すると判定された場合には、その大当たり当選する第１特別図柄抽選の抽選結果（大当たり当選を示す抽選結果）が停止表示されるまでの期間を用いて、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている疑似残確変回数が「ラスト（０）」となるように疑似残確変回数減算演出を実行可能に構成すると良い。

【５８７０】

このように構成することで、どのような契機（確変回数消化、又は大当たり当選）で第２確変状態が終了する場合であっても、疑似残確変回数として「ラスト（０）」を表示した後に、第２確変状態を終了させることができるため、遊技者に違和感の無い演出を提供することができる。また、疑似残確変回数として実際の残確変回数よりも大きい回数を設定可能に構成し、特別図柄抽選が１回実行される場合に、疑似残確変回数の値を２以上更新（減算）可能としているため、第２確変状態中に大当たり当選した場合以外でも、疑似残確変回数を大きく減算させることが可能となる。

【５８７１】

＜第１５制御例における電気的構成について＞

次に、図４９４から図４９８を参照して、本第１５制御例における電気的構成について説明をする。本第１５制御例では、上述した第５制御例のパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成の一部、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【５８７２】
まず、図４９４から図４９６を参照して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図４９４（ａ）は、本第１５制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図４９４（ａ）に示した通り、本第１５制御例におけるＲＯＭ２０２の構成は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図２４４（ａ）参照）に対して、第２当たり乱数テーブル２０２ｃに代えて第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃを、大当たり種別選択５テーブル２０２ｄｄに代えて大当たり種別選択１５テーブル２０２ｎｄを、時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅに代えて時短当たり乱数１５テーブル２０２ｎｅを、時短種別選択５テーブル２０２ｄｆに代えて時短種別選択１５テーブル２０２ｎｆを設けている点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。
【５８７３】
まず、図４９４（ｂ）を参照して、本第１５制御例における第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃについて説明する。図４９４（ｂ）は、第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃの規定内容を示した図である。この第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃは、上述した第２当たり乱数テーブル２０２ｃと同様に、普通図柄抽選の抽選結果を決定する際に参照されるデータテーブルであって、第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る値の範囲（０～２９９）に対して、普通図柄の確率状態毎に当たりと判定される値が規定されている。
【５８７４】
具体的には、図４９４（ｂ）に示した通り、普通図柄の確率状態が「低確率状態」である場合には、第２当たり乱数カウンタＣ４の値の全範囲に対して抽選結果「当たり」が、となる判定値が規定されておらず、全範囲に対して抽選結果「外れ」が規定されており、「高確率状態」である場合には、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が「０～１４９」の範囲に対して抽選結果「当たり」が規定されている。
【５８７５】
つまり、本第１５制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合には、普通図柄抽選にて当たり当選しないように構成している。このように構成することで、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で普図当たり遊技が実行され、第２入球口６４０へと遊技球が入球する事象が発生することを確実に抑制することができる。
【５８７６】
なお、本第１５制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合に実行される普通図柄抽選で当たり当選しないように第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃの内容が規定されているが、普通図柄の低確率状態において普図当たり遊技が頻繁に実行されることを抑制すれば良く、低確率で当たり当選し得るように第２当たり乱数１５テーブル２０２ｎｃの内容を規定しても良い。
【５８７７】
また、上述した各制御例の何れで用いている技術思想である、普図当たり遊技が実行された場合であっても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ難くする技術思想を転用しても勿論良い。
【５８７８】
次に、図４９４（ｃ）を参照して、時短当たり乱数１５テーブル２０２ｎｅについて説明をする。この時短当たり乱数１５テーブル２０２ｎｅは、特別図柄抽選の結果が大当たり当選以外（外れ）である場合に実行される時短判定（時短抽選）にて参照されるデータテーブルであって、上述した時短当たり乱数５テーブル２０２ｄｅ（図２４５（ｃ）参照）に対して、時短当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（範囲）が規定されている条件（特別図柄種別、遊技状態）を異ならせている点で相違している。
【５８７９】
具体的には、特別図柄種別が「第２特別図柄」であれば、遊技状態に関わらず、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３～８９９」の範囲が時短当選の判定値として規

定されている。また、特別図柄種別が「第１特別図柄」に対しては、時短当選の判定値が規定されていない（図では「－」で表示）。

【５８８０】

次に、図４９５を参照して、本第１５制御例における大当たり種別選択１５テーブル２０２ｎｄについて説明する。図４９５（ａ）は、大当たり種別選択１５テーブル２０２ｎｄの規定内容を示した図である。図４９５（ａ）に示した通り、大当たり種別選択１５テーブル２０２ｎｄは、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に参照される特図１大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ１と、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合に参照される特図２大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ２と、を有しており、大当たり当選した特別図柄種別に対応したデータテーブルを参照して大当たり種別が決定される。

【５８８１】

まず、図４９５（ｂ）を参照して、特図１大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ１の内容について説明をする。図４９５（ｂ）は、特図１大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ１に規定されている内容を示した模式図である。上述した通り、この特図１大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ１は、第１特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に設定する大当たり種別を選択するためのデータテーブルであって、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて異なる大当たり種別が規定されているものである。

【５８８２】

具体的には、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ１５」が、「５０～８９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ１５」が、「９０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＣ１５」が規定されている。

【５８８３】

「大当たりＡ１５」は、６ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別であって、確変期間を示すための確変カウンタ２０３ｉの値に１００が設定され、時短期間を示すための時短カウンタ２０３ｈの値に６０が設定される。つまり、大当たりＡ１５に基づく大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数が、６０回に到達した場合に、遊技状態が確変状態から第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）へと移行される大当たり種別である。

【５８８４】

「大当たりＢ１５」は、６ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別であって、確変期間を示すための確変カウンタ２０３ｉの値に８０が設定され、時短期間を示すための時短カウンタ２０３ｈの値に６０が設定される。つまり、大当たりＢ１５に基づく大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数が、２０回に到達した場合に、遊技状態が確変状態から第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）へと移行される大当たり種別である。

【５８８５】

「大当たりＣ１５」は、６ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される大当たり種別であって、確変期間を示すための確変カウンタ２０３ｉの値に６１が設定され、時短期間を示すための時短カウンタ２０３ｈの値に６０が設定される。つまり、大当たりＣ１５に基づく大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、確変状態中に実行された特別図柄抽選の回数が、１回に到達した場合に、遊技状態が確変状態から第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）へと移行される大当たり種別である。

【５８８６】

次に、図４９５（ｃ）を参照して、特図２大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ２の内容について説明をする。図４９５（ｃ）は、特図２大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ２に規定されている内容を示したフローチャートである。この特図２大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ２は、上述した特図１大当たり用１５テーブル２０２ｎｄ１に対して、大当たり種別を設定する対象となる特別図柄の種別を変更した点と、各大当たり種別に対して規定されている各種パラメータを異ならせている点で相違しているが、その詳細な設定内容については、詳細な説明を省略する。

【５８８７】

次に、図４９６を参照して、時短種別選択１５テーブル２０２ｎｆの内容について説明をする。図４９６は、時短種別選択１５テーブル２０２ｎｆに規定されている内容を示した図である。図４９６に示した通り、時短種別選択１５テーブル２０２ｎｆには、時短当選した時点における遊技状態に対応させて異なる時短種別と、時短回数が規定されている。

【５８８８】

具体的には、時短当選時の遊技状態が「通常状態」である場合には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、時短種別として「第２時短」が規定されており、時短カウンタ２０３ｈの値に「５００」が設定されるように構成している。また、時短当選時の遊技状態が「第２確変状態」である場合には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、時短種別として「第１時短」が規定されており、時短カウンタ２０３ｈの値に「１００００」が設定されるように構成している。

【５８８９】

つまり、確変状態中に獲得した特図２保留を通常状態が設定されるまで保持し、通常状態中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、高確率で時短当選し（図４９４（ｂ）参照）、時短種別として、右打ち遊技状態である第２時短状態（左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させるよりも、右打ち遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させる方が効率良く特別図柄抽選を実行させることが可能となる時短状態）が時短回数５００で設定される。

【５８９０】

一方、第２確変状態中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、高確率で時短当選し（図４９４（ｂ）参照）、時短種別として、左打ち遊技状態である第１時短状態（左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させる方が、右打ち遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させるよりも効率良く特別図柄抽選を実行させることが可能となる時短状態）が時短回数１００００で設定される。

【５８９１】

このように構成することで、確変状態中に獲得した特図２保留が実行される遊技状態に応じて、遊技者への有利度合いを大きく異ならせることができる。また、第２確変状態中も、通常状態中も、新たに第２特別図柄抽選の保留記憶（特図２保留）を獲得し難い普通図柄の低確率状態が設定されているため、確変状態が終了した後に、新たな特図２保留を獲得することが出来ないことから、確変状態中に獲得した特図２保留が消化されないように、第２特別図柄抽選よりも優先して実行される第１特別図柄抽選の保留記憶（特図１保留）をより多く獲得しようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【５８９２】

次に、図４９７、及び図４９８を参照して、本第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有する電気的構成の内容について、上述した第５制御例と相違する点を中心に説明する。なお、上述した第５制御例と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【５８９３】

まず、図４９７（ａ）を参照して、本第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図４９７（ａ）は、本

第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている構成を模式的に示した図である。図４９７（ａ）に示した通り、本第１５制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第５制御例におけるＲＯＭ２２２（図２４９（ａ）参照）に対して、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａを追加した点で相違している。

【５８９４】

キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａは、特図２保留を獲得している状態で実行される、第２確変状態の１回目の第１特別図柄変動に対応して設定されるキープゾーン演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルである。

【５８９５】

ここで、図４９８を参照して、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａの内容について説明をする。図４９８は、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａに規定されている内容を示した図である。図４９８に示した通り、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａには、第２確変状態が継続する期間の長さと、キープゾーン演出の演出態様を決定する際に実行される第１特別図柄変動の変動時間の長さと、取得した演出カウンタ２２３ｆとに対応付けて、異なる演出態様（示唆態様）が規定されており、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａを参照して決定された演出態様に基づいたキープゾーン演出が実行される。

【５８９６】

具体的には、第２確変状態の残期間が「４０」の場合、即ち、大当たりＡ１５に当選した場合に設定される第２確変状態に対して設定されるキープゾーン演出では、実行される第１特別図柄変動の変動時間が「短時間（６０秒以内）」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～７９」の範囲に対して、コンベア１０８０２が高速に移動する「高速」示唆態様１と、大食いなサカナ１０８０１を示す「大食漢」示唆態様２が規定されており、「８０～９９」の範囲に対して、コンベア１０８０２が高速に移動する「高速」示唆態様１と、小食なサカナ１０８０１を示す「小食」示唆態様２が規定されている。

【５８９７】

そして、実行される第１特別図柄変動の変動時間が「長時間（６０秒より長い）」場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、コンベア１０８０２が低速に移動する「低速」示唆態様１と、小食なサカナ１０８０１を示す「小食」示唆態様２が規定されている。

【５８９８】

また、第２確変状態の残期間が「２０」の場合、即ち、大当たりＢ１５に当選した場合に設定される第２確変状態に対して設定されるキープゾーン演出では、実行される第１特別図柄変動の変動時間が「短時間（６０秒以内）」である場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～３９」の範囲に対して、コンベア１０８０２が高速に移動する「高速」示唆態様１と、大食いなサカナ１０８０１を示す「大食漢」示唆態様２が規定されており、「４０～９９」の範囲に対して、コンベア１０８０２が高速に移動する「低速」示唆態様１と、小食なサカナ１０８０１を示す「小食」示唆態様２が規定されている。

【５８９９】

そして、実行される第１特別図柄変動の変動時間が「長時間（６０秒より長い）」場合には、取得した演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９９」の全範囲に対して、コンベア１０８０２が低速に移動する「低速」示唆態様１と、小食なサカナ１０８０１を示す「小食」示唆態様２が規定されている。

【５９００】

最後に、第２確変状態の残期間が「１」の場合、即ち、大当たりＣ１５に当選した場合に設定される第２確変状態に対して設定されるキープゾーン演出では、実行される第１特別図柄変動の変動時間が、及び、取得した演出カウンタ２２３ｆの値に関わらず、コンベア１０８０２が低速に移動する「低速」示唆態様１と、特殊な金色のサカナ１０８０１を

示す「プレミア」示唆態様２が規定されている。
【５９０１】
つまり、第２確変状態を終了させるための終了条件が成立し難い程（第２確変状態の残期間が長く設定されている程）、エサを多く食べるサカナ１０８０１が表示され易く、第２確変状態中に実行される第１特別図柄抽選の変動時間が短い、即ち、新たな特図１保留を獲得する期間が短い程、コンベア１０８０２が高速移動し易くなるように各演出態様が規定されている。
【５９０２】
このように構成することで、キープゾーン演出の演出内容に基づいて、今回設定された第２確変状態における特図２保留を保持する難易度を遊技者に把握させることが可能となる。
【５９０３】
次に、図４９７（ｂ）を参照して、本第１５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。本第１５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図２４９（ｂ）参照）に対して、第２確変中カウンタ２２３ｎａ、キープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂ、キープ確定フラグ２２３ｎｃを追加した点で相違している。同一の内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【５９０４】
第２確変中カウンタ２２３ｎａは、第２確変状態が継続する期間を計測するためのカウンタであって、第２確変状態演出設定処理１５（図５０１のＳ９０５８参照）において、確変状態から第２確変状態へと遊技状態が移行したと判別された場合に（図５０１のＳ９４０２：Ｙｅｓ）、確変カウンタ２０３ｉに対応する値が設定される（図５０１のＳ９４５１参照）。そして、第１特別図柄抽選が実行される毎に値が１減算され（図５０２のＳ９５６６参照）、獲得済みの特図２保留が第２確変状態中に消化されないことを判別する際に参照される（図５０２のＳ９５７３参照）。
【５９０５】
キープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂは、キープゾーン演出の演出態様が設定され、キープゾーン演出が実行されていることを示すためのフラグであって、第２確変状態へと移行した後の１回目の第１特別図柄抽選に対応させてキープゾーン演出の演出態様が決定された場合にオンに設定される。キープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂがオンに設定されることにより、第２確変状態中において２回目以降の第１特別図柄抽選に対応した変動演出を設定する際に、新たなキープゾーン演出の演出態様を決定する処理が実行されてしまうことを抑制している。
【５９０６】
キープ確定フラグ２２３ｎｃは、キープゾーン演出中において、特図２保留が第２確変状態中に消化されることが無い（通常状態へと移行するまで特図２保留を保持できる）ことが確定したことを示すためのフラグであって、特図２保留が第２確変状態中に消化されることが無い（通常状態へと移行するまで特図２保留を保持できる）ことが確定した場合にオンに設定される。このキープ確定フラグがオンに設定されることで、特図２保留が第２確変状態中に消化されることが無い状況であることを示すためのキープ確定演出が実行される。
【５９０７】
ここで、キープ確定演出としては、例えば、図４９２（ａ）に示した表示画面に表示されている特図２保留に対応するエサ（ＳＰが付されたエサアイコンｈｒ５）がコンベアから浮上し、サカナ１０８０１に近付かない演出が実行され、「ＳＰエサのストック成功」の文字が表示される演出が実行される。これにより、ＳＰエサがサカナ１０８０１に食べられることが無い状況に到達したことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【５９０８】
＜第１５制御例における主制御装置１１０の制御処理について＞
次に、図４９９、及び図５００を参照して、本第１５制御例における主制御装置１１０の制御処理内容のうち、上述した第５制御例とは異なる点を中心に説明をする。本第１５制御例のパチンコ機１０は、上述した第５制御例のパチンコ機１０に対して、第１特別図柄抽選の方が、第２特別図柄抽選よりも優先して実行されるように構成している点と、時短抽選の実行条件を異ならせている点で相違している。
【５９０９】
具体的には、特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に代えて特別図柄変動処理１５（図４９９のＳ１５１０４参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。
【５９１０】
まず、図４９９を参照して、特別図柄変動処理１５（Ｓ１５１０４）の内容について説明をする。図４９９は、特別図柄変動処理１５（Ｓ１５１０４）の処理内容を示したフローチャートである。図４９９に示した通り、特別図柄変動処理１５（Ｓ１５１０４）は、上述した特別図柄変動処理５（図２５２のＳ１０４参照）に対して、Ｓ２０３の処理を終えた後に、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０よりも大きいかを判別し（Ｓ１５２０４）、０よりも大きいと判別した場合に（Ｓ１５２０４：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１減算し（Ｓ１５２０５）、第１特別図柄抽選を実行するためのＳ２０６～Ｓ２０７の処理を実行するように構成している。
【５９１１】
そして、Ｓ１５２０４の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０よりも大きく無いと判別した場合に（Ｓ１５２０４：Ｎｏ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０よりも大きいかを判別し（Ｓ１５２１０）、０よりも大きいと判別した場合に（Ｓ１５２１０：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ２）を１減算し（Ｓ１５２１１）、第２特別図柄抽選を実行するためのＳ２１２～Ｓ２１３の処理を実行するように構成している。それ以外の処理内容については同一であるため、その詳細な説明を省略する。
【５９１２】
上述した通り、本第１５制御例では、上述した第５制御例に対して、第１特別図柄抽選が第２特別図柄抽選よりも優先して実行されるように構成している。このように構成することで、特図１保留を獲得している状態を継続させることにより、特図２保留を獲得している状態を保持することが可能となる。
【５９１３】
次に、図５００を参照して、時短抽選処理１５（Ｓ８０８６）の内容について説明をする。図５００は、時短抽選処理１５（Ｓ８０８６）の処理内容を示したフローチャートである。図５００に示した通り、時短抽選処理１５（Ｓ８０８６）は、上述した時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）に対して、時短抽選を実行可能な遊技状態を異ならせている点と、時短抽選における時短当選の判定にて参照されるデータテーブルを異ならせている点で相違している。
【５９１４】
具体的には、時短抽選処理１５（Ｓ８０８６）が実行されると、まず、上述した時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）と同一のＳ８１０１～Ｓ８１０２の処理を実行する。そして、現在の遊技状態が通常状態、又は第２確変状態であるかを判別し（Ｓ８１８３）、現在の遊技状態が通常状態、又は第２確変状態であると判別した場合は（Ｓ８１８３：Ｙｅｓ）、時短当たり乱数１５テーブル２２２ｎｅを参照して時短当選の判定を実行する（Ｓ８１８４）。その後、上述した時短抽選処理５（図２５４のＳ８００６参照）と同一のＳ８１０５、及びＳ８１０６の処理を実行し、本処理を終了する。
【５９１５】
以上、説明をした通り、本第１５制御例では、通常状態だけで無く、第２確変状態にお

いても時短抽選を実行可能に構成している。そして、上述した通り、通常状態において時短抽選が実行された方が、第２確変状態において時短抽選が実行された場合よりも、時短当選時に遊技者に有利な特典を付与するように構成している。このように、複数の遊技状態において時短抽選を実行可能に構成し、時短抽選が実行される遊技状態に応じて、時短当選時に付与される特典を異ならせることにより、遊技者に対して、どのタイミング（遊技状態）で時短抽選が実行されるのかに興味を持たせることができる。

【５９１６】

なお、本第１５制御例では、確変状態中に獲得した特図２保留を第２確変状態が終了するまで保持することで、遊技者に有利な特典を付与可能にすることで、第２特別図柄抽選を実行させないことを目指すという斬新な遊技性を提供可能とするために、通常状態において時短抽選が実行された方が、第２確変状態において時短抽選が実行された場合よりも、時短当選時に遊技者に有利な特典を付与するよう構成しているが、これに限ること無く、例えば、第２確変状態中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、時短抽選が実行されないように構成しても良い。このように構成した場合には、確変状態中に獲得した特図２保留を第２確変状態が終了するまで保持することで、時短抽選の実行という付加価値を、遊技者に付与することが可能となる。

【５９１７】

＜第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図５０１から図５０３を参照して、本第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理のうち、上述した第５制御例とは異なる特徴的な内容について説明をする。本第１５制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理では、第２確変状態中実行されるキープゾーン演出の演出態様を決定するための各種処理を実行する点で上述した第５制御例とは異なる制御処理を実行するように構成している。

【５９１８】

まず、図５０１を参照して、第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）の内容について説明をする。図５０１は、第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）の処理内容を示したフローチャートである。この第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）では、第２確変状態が設定された場合において、キープゾーン演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【５９１９】

第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）が実行されると、まず、従状態設定エリア２２３ｇから変更前の遊技状態を読み出し（Ｓ９４０１）、読み出した遊技状態が確変状態であるかを判別する（Ｓ９４０２）。Ｓ９４０２の処理において確変状態であると判別した場合は（Ｓ９４０２：Ｙｅｓ）、大当たり遊技終了後に確変状態が設定され、確変期間よりも先に時短期間が終了し、第２確変状態が設定された場合であるため、残りの確変回数に対応する値（確変カウンタ２０３ｉの値）を、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値に設定し（Ｓ９４５１）、次いで、第２特別図柄抽選カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０よりも大きいか、即ち、特図２保留を獲得している状態であるかを判別する（Ｓ９４５２）。

【５９２０】

Ｓ９４５２の処理において、Ｎ２が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ９４５２：Ｙｅｓ）、確変カウンタ２０３ｉの値を読み出し（Ｓ９４５３）、キープゾーン演出選択テーブル２２２ｎａを参照して、演出態様を決定し（Ｓ９４５４）、キープ演出中フラグ２２３ｎｂをオンに設定し（Ｓ９４５５）、本処理を終了する。

【５９２１】

一方で、Ｓ９４５２の処理において、Ｎ２が０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ９４５２：Ｎｏ）、確変状態中に特図２保留を獲得していない状態で、第２確変状態へと移行した場合であるため、キープゾーン演出を実行すること無く、通常状態への移行に対応する演出態様を決定し（Ｓ９４５６）、本処理を終了する。

【５９２２】

次に、図５０２を参照して、特図１演出態様設定処理（Ｓ１５４８３）の内容について説明をする。図５０２は、特図１演出態様設定処理（Ｓ１５４８３）の内容を示したフローチャートである。この特図１演出態様設定処理（Ｓ１５４８３）は、第１特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を決定するための処理が実行されるものであって、特に、第２確変状態中における第１特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を決定するための処理の内容が、上述した第５制御例とは相違している。なお、上述した第５制御例における特図１演出態様設定処理に対応する処理とその処理内容が同一である場合には、その詳細な説明を省略する。

【５９２３】

特図１演出態様設定処理（Ｓ１５４８３）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ９５０１）、０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ９５０１：Ｙｅｓ）、そのまま、上述した第５制御例と同一のＳ９５０２～Ｓ９５０４の処理を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ９５０１の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きく無い、即ち、確変状態、第２時短状態の何れでも無い場合は（Ｓ９５０１：Ｎｏ）、次に、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ９５６５）、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ９５６５：Ｙｅｓ）、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値を１減算する（Ｓ９５６６）。次に、キープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂがオンであるかを判別し（Ｓ９５７１）、オンに設定されている場合は（Ｓ９５７１：Ｙｅｓ）、次いで、キープ確定フラグ２２３ｎｃがオンに設定されているかを判別する（Ｓ９５７２）。

【５９２４】

Ｓ９５７２の処理において、キープ確定フラグ２２３ｎｃがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ９５７２：Ｎｏ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値以上であるかを判別し（Ｓ９５７３）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値以上であると判別した場合は（Ｓ９５７３：Ｙｅｓ）、次に、獲得済みの特図１保留内に、大当たり当選を示す情報が含まれているかを判別し（Ｓ９５７４）、含まれていないと判別した場合は（Ｓ９５７４：Ｎｏ）、キープゾーン演出を完走することを示す演出態様を決定し（Ｓ９５７５）、キープ確定フラグ２２３ｎｃをオンに設定して（Ｓ９５７６）、処理をＳ９５７８へと移行する。これに対し、Ｓ９５７３の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値未満であると判別した場合（Ｓ９５７３：Ｎｏ）、およびＳ９５７４の処理において、獲得済みの特図１保留内に、大当たり当選を示す情報が含まれていると判別した場合は（Ｓ９５７４：Ｙｅｓ）、対応するキープゾーン演出の演出態様を決定して（Ｓ９５７７）、処理をＳ９５７８へと移行する。また、Ｓ９５７２の処理において、キープ確定フラグ２２３ｎｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ９５７２：Ｙｅｓ）、Ｓ９５７３～Ｓ９５７７の格処理をスキップして、処理をＳ９５７８へと移行する。

【５９２５】

Ｓ９５７８の処理では、更新後の第２確変中カウンタ２２３ｎａの値が０に到達したかを判別し（Ｓ９５７８）、０に到達したと判別した場合は（Ｓ９５７８：Ｙｅｓ）、キープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂをオフに設定し（Ｓ９５７９）、決定した演出態様を示す表示用パターンコマンドを設定し（Ｓ９５０４）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ９５６５の処理において、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値が０であると判別した場合（Ｓ９５６５：Ｎｏ）、およびＳ９５７１の処理においてキープゾーン演出中フラグ２２３ｎｂがオフであると判別した場合は（Ｓ９５６５：Ｎｏ）、Ｓ９５７２～Ｓ９５７９の格処理をスキップして、そのまま処理をＳ９５０４へと移行する。

【５９２６】

次に、図５０３を参照して、特図２演出態様設定処理１５（Ｓ１５４８７）の内容について説明をする。図５０３は、特図２演出態様設定処理１５（Ｓ１５４８７）の処理内容を示したフローチャートである。この特図２演出態様設定処理１５（Ｓ１５４８７）は、

上述した特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）に対して、通常状態、或いは、第２確変状態中に実行される変動演出に対応する演出態様を決定するための処理の内容を異ならせている点で相違している。

【５９２７】

具体体には、特図２演出態様設定処理１５（Ｓ１５４８７）が実行されると、上述した特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）と同一のＳ９６０１の処理を実行する。Ｓ９６０１の処理において、通常状態、又は、第２確変状態では無いと判別した場合は（Ｓ９６０１：Ｎｏ）、上述した特図２演出態様設定処理５（図２６９のＳ４９８７参照）と同一のＳ９６１１～Ｓ９６１９の処理を実行し、本処理を終了する。

【５９２８】

一方で、Ｓ９６０１の処理において、現在が、通常状態、又は、第２確変状態であると判別した場合は（Ｓ９６０１：Ｙｅｓ）、キープ演出中フラグ２２３ｎｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ９６５１）、キープ演出中フラグ２２３ｎｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ９６５１：Ｎｏ）、次に、キープ確定フラグ２２３ｎｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ９６５２）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ９６５２：Ｙｅｓ）、キープ確定フラグ２２３ｎｃをオフに設定し（Ｓ９６５３）、時短付与を示唆する演出態様を決定し（Ｓ９６５４）、Ｓ９６１１の処理を実行し、本処理を終了する。

【５９２９】

また、Ｓ９６５２の処理において、キープ確定フラグ２２３ｎｃがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ９６５２：Ｎｏ）、Ｓ９６５３の処理をスキップしてＳ９６５４の処理へ移行する。

【５９３０】

一方、Ｓ９６５１の処理において、キープ演出中フラグ２２３ｎｂがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ９６５１：Ｙｅｓ）、キープ演出の終了に対応する演出態様を決定し（Ｓ９６５５）、キープ演出中フラグ２２３ｎｂをオフに設定し（Ｓ９６５６）、Ｓ９６１１の処理へ移行する。つまり、キープ演出が実行されている最中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、キープ演出の終了に対応する演出態様が決定され、図４９２（ｂ）に示した表示画面を含む終了演出が実行される。

【５９３１】

以上、説明をした通り、本第１５制御例におけるパチンコ機１０は、複数の図柄種別を用いて当たり抽選を実行可能に構成し、１の図柄種別を用いた当たり抽選が、他の図柄種別を用いた当たり抽選よりも優先して実行可能に構成し、他の図柄種別の当たり抽選を実行するための抽選権利を獲得し易い第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも抽選権利を獲得し難い第２遊技状態と、を設定可能に構成している。

【５９３２】

そして、獲得した抽選権利を、所定数（例えば、１個）を上限に記憶可能な記憶手段を設け、第１遊技状態中に記憶手段に記憶された他の図柄種別の抽選権利を、第２遊技状態が設定されてから所定期間（例えば、当たり抽選４０回分）経過するまで記憶し続け、所定期間が経過してから他の図柄種別の当たり抽選を実行することにより、所定期間が経過するよりも前に他の図柄種別の当たり抽選を実行する場合よりも、遊技者に有利な特典が付与され易くなるように構成している。

【５９３３】

このように構成することで、記憶手段に既に記憶されている抽選権利を用いた当たり抽選を所定期間実行させないことで有利な特典を獲得し易くすることができるという今までに無い斬新な遊技性を提供することができる。

【５９３４】

また、第１５制御例では、１の図柄種別の抽選権利を最大で４個記憶手段に記憶可能に構成し、記憶手段に記憶可能な他の図柄種別の抽選権利の数が、１の図柄種別の抽選権利の数よりも少なくなるように（１個のみ記憶可能となるように）構成している。よって、

第１遊技状態が終了してから、１回でも他の図柄種別の当たり抽選が実行されてしまうことで、有利な特典を獲得する権利が消滅してしまうため、緊張感を持って遊技を行わせることができる。また、１の図柄種別の抽選権利を複数個記憶可能に構成しているため、第２遊技状態が設定されてから、１の図柄種別の抽選権利を獲得する遊技を継続して実行させ易くすることができると共に、１の図柄種別の抽選権利を複数記憶させておくことで、他の図柄種別の当たり抽選を実行させ難くすることができる。

【５９３５】

なお、本第１５制御例では、他の図柄種別の抽選権利を１個のみ記憶手段に記憶させることができるように構成しているが、これに限ること無く、複数個記憶可能に構成しても良い。

【５９３６】

また、第２遊技状態において実行される１の図柄種別の当たり抽選の結果を示すための図柄変動時間として、長さの異なる変動時間を設定可能に構成している。よって、変動時間の長い図柄変動が実行される方が、記憶手段に記憶されている１の図柄種別の抽選権利を全て使用するまでの期間を長くすることができるため、新たに１の図柄種別の抽選権利を記憶手段に記憶させ易くすることができる。よって、長い変動時間の図柄変動が実行されることを期待しながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【５９３７】

また、本第１５制御では、第１遊技状態が終了し、第２遊技状態が設定されてから、遊技者に有利な特典が付与され易くなるまでの期間を、異ならせることが可能となるように構成している。具体的には、当たり抽選で当り当選した場合に実行される当たり遊技の終了後に第１遊技状態が設定され、当たり当選した場合に設定される当たり種別に応じて、第１遊技状態が継続する期間の長さや、第２遊技状態が設定されてから、遊技者に有利な特典が付与され易くなるまでの期間の長さを異ならせて設定することができるように構成している。

【５９３８】

このように構成することで、遊技者に有利な特典が付与され易くなるまでの期間を遊技者に把握させ難くすることができるため、遊技者に飽きの来ない遊技を提供し易くすることができる。

【５９３９】

また、本第１５制御例に用いた遊技性に、上述した第１４制御例で用いた遊技性、即ち、当たり当選すること無く、当たり抽選が所定回数実行された場合に、遊技者に有利な特典（天井特典）が付与される遊技性を適用しても良い。

【５９４０】

この場合、例えば、第２遊技状態中に実行される当たり抽選で連続して外れ当選した回数（ハマリ回数）が、所定回数に到達した場合に、第１遊技状態を設定可能に構成し、その第１遊技状態中に他の図柄種別の抽選権利を記憶手段に記憶させることで、遊技者に有利な特典が付与され易くなるまで他の図柄種別の抽選権利を保持する遊技を再度実行可能に構成しても良い。

【５９４１】

また、他の図柄種別の抽選権利を保持した状態で、１の図柄種別の当たり抽選を所定回数実行することで、天井特典として、第３遊技状態を設定可能に構成し、その第３遊技状態中に他の図柄種別の当たり抽選を実行することで、遊技者に有利な特典が付与され易くなるように構成しても良い。

【５９４２】

さらに、本第１５制御例では、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、所定期間が経過（第２確変状態が終了し、通常状態が設定されるまで経過）した後に第２特別図柄抽選が実行されることで遊技者に有利な特典（第２時短状態）が付与され易くなるように構成しているが、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、所定期間が経過（第２確変状態が終了し、通常状態が設定される

まで経過）した時点で特図２保留を獲得している場合、即ち、第２遊技状態が設定されてから所定期間が経過した以降に第２特別図柄抽選が実行される権利を得ている場合に、遊技者に有利な特典を付与可能に構成しても良く、例えば、特別図柄抽選で大当たり当選する確率を異ならせた複数の設定値を設定可能なパチンコ機１０において、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、所定期間が経過（第２確変状態が終了し、通常状態が設定されるまで経過）した時点で特図２保留を獲得している場合に、獲得済みの特図２保留の数を示すための保留図柄の表示態様を、設定されている設定値に対応させた表示態様へと切り替える演出を実行可能に構成しても良い。

【５９４３】

以上、説明をした第１５制御例では、第１遊技状態（特図２保留を獲得し易い遊技状態）が終了し、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、所定期間が経過（第２確変状態が終了し、通常状態が設定されるまで経過）した後に第２特別図柄抽選が実行されることで、所定期間が経過するまでに（第２確変状態中に）第２特別図柄抽選が実行される場合よりも、遊技者に有利な特典（第２時短状態）が付与され易くなるように構成しているが、これに限ること無く、第１遊技状態（特図２保留を獲得し易い遊技状態）が終了し、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、第２特別図柄抽選が実行されることで、第１遊技状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行される場合よりも、遊技者に有利な特典（第２時短状態）が付与され易くなるように構成しても良い。

【５９４４】

また、本第１５制御例では、第１遊技状態（特図２保留を獲得し易い遊技状態）として、確変状態を、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）として、第２確変状態、或いは、通常状態を設定可能に構成しているが、これに限ること無く、上述した各制御例において設定される各種遊技状態を、第１遊技状態よりも第２遊技状態の方が相対的に特定の特別図柄種別に対する特図保留を獲得し易くなるように適宜設定すれば良く、例えば、第１遊技状態として時短状態（第２時短状態）を、第２遊技状態として第１時短状態や通常状態を設定するように構成しても良い。

【５９４５】

また、本第１５制御例では、特図２保留を最大で１個獲得可能に構成しているが、複数個の特図２保留を獲得可能に構成しても良く、この場合、第２確変状態が終了するまでの残期間（特別図柄変動回数）と、獲得済みの特図１保留数と獲得済みの特図２保留数の合算値と、を比較し、第２確変状態が終了してから第２特別図柄抽選が実行され得る状況であるかを判別可能に構成し、第２確変状態が終了してから第２特別図柄抽選が実行され得る状況であると判別した場合に、上述したキープ確定演出を実行可能に（キープ確定フラグ２２３ｎｃをオンに設定するように）構成すれば良い。

【５９４６】

このように構成することで、キープゾーン演出にて複数個のＳＰエサ（特図２保留に対応したエサアイコン）を表示することができるため、演出効果を高めることができる。

【５９４７】

＜第１５制御例の第１変形例について＞

次に、第１５制御例にて用いた遊技性を異なる遊技仕様のパチンコ機１０に適用した場合の変形例について説明をする。本第１５制御例の第１変形例では、上述した第１５制御例に対して、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）している点で相違している。

【５９４８】

このように構成することで、所定時間内に、より多くの特別図柄の抽選遊技を実行させることができ、遊技者に大当たりが所定時間内に付与される確率が高くできる。従って、遊技者は、効率よく遊技を行うことができる。

【５９４９】

なお、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可

能な構成（所謂、同時変動仕様）については、上述した第１２制御例と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【５９５０】

＜第１５制御例の第１変形例にて実行される演出内容について＞

次に、図６１６を参照して、本第１５制御例の第１変形例にて実行される演出のうち、上述した第１５制御例とは異なる演出内容について説明をする。

【５９５１】

まず、上述した第１５制御例にて用いた遊技性と、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行させることが可能な構成とを組み合わせた場合における特徴的な遊技性について説明をする。

【５９５２】

上述した第１５制御例では、第１特別図柄抽選を、第２特別図柄抽選よりも優先して実行させることが可能となるように構成し、さらに、第２遊技状態（特図２保留を獲得し難い遊技状態）が設定されてから、所定期間が経過（第２確変状態が終了し、通常状態が設定されるまで経過）した後に第２特別図柄抽選が実行されることで遊技者に有利な特典（第２時短状態）が付与され易くなるように構成しているが、本第１５制御例の第１変形例では、設定される遊技状態に応じて、第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動の変動時間と、第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動時間と、を設定される遊技状態に応じて異ならせるように構成しており、特図２保留を獲得し易い遊技状態（第１遊技状態）では、第１特別図柄変動よりも、第２特別図柄変動の方が短い変動時間が設定され易く、特図２保留を獲得し難い遊技状態（第２遊技状態）では、第１特別図柄変動の方が、第２特別図柄変動よりも短い変動時間が設定され易くなるように構成している。

【５９５３】

また、本第１５制御例の第１変形例では、特図２保留を４個を上限に保留記憶可能に構成している。

【５９５４】

そして、第１遊技状態（確変状態）中に獲得した特図２保留が、第２遊技状態（第２確変状態）中に全て消化されるよりも前に、第２遊技状態（第２確変状態）中に実行された特別図柄抽選回数が所定回数（残確変回数）に到達することで、第２確変状態が終了した後に、遊技者に有利となる第２特別図柄抽選を実行可能に構成している。

【５９５５】

このように構成された第１５制御例の第１変形例では、キープゾーン演出として、実行される特別図柄抽選に種別に対応させて、特図１保留に対応するエサアイコンと、特図２保留に対応するエサアイコンと、が重複してサカナ１０８０１に与えられる演出が実行される。そして、獲得している特図２保留に対応するエサアイコンを全て消費するまでに、特図１保留に対応するエサアイコンを用いてサカナ１０８０１のお腹を一杯にすることを目指す演出が実行される。

【５９５６】

上述した通り、本第１５制御例の第１変形例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とが並行して実行されるように構成しているため、上述した第１５制御例のように特図１保留を途切らせること無く遊技を行ったとしても、第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動時間が短い場合や、第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動の変動時間が長い場合には、第２確変状態中に全ての特図２保留を消化してしまう虞があった。

【５９５７】

よって、本第１５制御例の第１変形例では、各特別図柄種別に対する特別図柄変動の変動時間に対して遊技者が興味を持つことになる。そこで、本第１５制御例の第１変形例にて実行されるキープゾーン演出では、エサアイコンの演出態様として、対応する特別図柄変動の変動時間に基づいた演出態様を上述した第１５制御例よりも複数種類決定可能に構

成している。
【５９５８】
図６１６（ａ）は、本第１５制御例の第１変形例にて実行されるキープゾーン演出中に実行される表示画面の一例を示した図である。図６１６（ａ）に示した通り、本第１５制御例の第１変形例にて実行されるキープゾーン演出は、上述した第１５制御例にて実行されるキープゾーン演出に対して、複数のエサアイコン（ｈｒ０、ｈｒ０ａ）をサカナ１０８０１が同時に捕食する演出が実行される点と、特図２保留に対応するエサアイコンの表示数を増加させた点と、各エサアイコンの表示態様を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の表示態様については、その説明を省略する。
【５９５９】
本第１５制御例の第１変形例は、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動とを重複して実行可能に構成しているため、実行中の第１特別図柄変動に対応するエサアイコンｈｒ０と、実行中の第２特別図柄変動に対応するエサアイコンｈｒ０ａとをサカナ１０８０１がまとめて食べる演出が実行される。そして、コンベア１０８０２の上には、特図１保留に対応したエサアイコンｈｒ１とエサアイコンｈｒ２が、特図２保留に対応したエサアイコンｈｒ１ａと、エサアイコンｈｒ２ａが表示されている。
【５９６０】
本第１５制御例の第１変形例では、各特図保留に対応する特図変動時間の長さに応じて、対応するエサアイコンの表示態様を異ならせるように構成している。具体的には、特別図柄変動に対応するエサアイコンとして、変動時間が１０秒未満の場合は、小さなエサを模した表示態様（エサアイコンｈｒ１参照）が表示され、変動時間が１８０秒以上の場合は、堅いエサを模した表示態様が表示される。このように構成することで、表示されるエサアイコンの表示態様を把握することで、特別図柄変動の変動時間を遊技者に予測させ易くすることができる。
【５９６１】
なお、上述した通り、本第１変形例では、第２確変状態中において第１特別図柄変動として短い変動時間が設定された場合のほうが、遊技者に有利な第１特別図柄変動となるため、小さなエサを模した表示態様のエサアイコンが表示された方が、小さなエサを模した表示態様のエサアイコンが表示されていない場合よりも遊技者に有利な遊技状況となる。
【５９６２】
一方、第２特別図柄変動に対応するエサアイコンとして、変動時間が３０秒未満の場合は、小さなエサを模した表示態様が表示され、変動時間が３００秒以上の場合は、堅いエサを模した表示態様（エサアイコンｈｒ１ａ参照）が表示される。このように構成することで、表示される第２特別図柄変動に対応するエサアイコンの表示態様を把握することで、第２特別図柄変動の変動時間を遊技者に予測させ易くすることができる。
【５９６３】
なお、上述した通り、本第１変形例では、第２確変状態中において第２特別図柄変動として長い変動時間が設定された場合のほうが、遊技者に有利な第２特別図柄変動となるため、堅いエサを模した表示態様のエサアイコンが表示された方が、堅いエサを模した表示態様のエサアイコンが表示されていない場合よりも遊技者に有利な遊技状況となる。
【５９６４】
さらに、獲得済みの特図２保留のうち、最後に消化される特図２保留を除いた特図２保留に対応する第２特別図柄変動の変動時間の合計時間と、実行中の第２特別図柄変動の残変動時間と、の合算時間が、所定時間（通常に遊技をしていれば、第１特別図柄抽選によって第２確変状態を終了させることが可能となる期間）を超えていると判別した場合には、第２確変状態が終了する時点において特図２保留を獲得している状態となる可能性が高いことを示す特殊演出が実行されるように構成している。
【５９６５】
具体的には、図６１６（ａ）に示した通り、最新の特図２保留に対応するエサアイコンｈｒ２ａが宙に浮き上がり、コンベア１０８０２が稼働している状態でも表示位置が動か

ない演出が実行されるように構成している。このように構成することで、特殊演出が実行された場合に、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【５９６６】

なお、この特殊演出が実行されている間は、通常のキープゾーン演出に比べて、遊技者に対して、特図１保留を獲得する遊技を継続することを強調して案内する強調案内報知が実行されるように構成している。このように構成することで、特殊演出の実行中に遊技を一旦中断してしまい、第１特別図柄抽選が実行されない期間が続くことで、第２確変状態中に全ての特図２保留が消化されてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【５９６７】

なお、上述した例では、獲得済みの特図２保留のうち、最後に消化される特図２保留を除いた特図２保留に対応する第２特別図柄変動の変動時間の合計時間と、実行中の第２特別図柄変動の残変動時間と、の合算時間を算出するように構成しているが、第２確変状態が終了する時点において特図２保留を獲得している状態となる可能性が高い状況であることを判別可能に構成すれば良く、例えば、実行中の第２特別図柄変動の残変動時間が、通常に遊技をしていれば、第１特別図柄抽選によって第２確変状態を終了させることが可能となる期間よりも長いか否かのみを判別したり、獲得済みの特図２保留のうち、最後に消化される特図２保留を除いた特図２保留に、第１特別図柄抽選によって第２確変状態を終了させることが可能となる期間よりも長い変動時間に対応する情報が含まれているかを判別したりするように構成しても良い。

【５９６８】

加えて、本第１５制御例の第１変形例では、キープゾーン演出中に第１特別図柄変動（抽選）が実行されない期間が所定期間継続したと判別した場合に、遊技者に対して、特図１保留を獲得する遊技を促す案内演出を実行可能に構成している。

【５９６９】

ここで、キープゾーン演出中において、第１特別図柄変動が実行されない場合に表示される表示内容について図６１６（ｂ）を参照して説明をする。図６１６（ｂ）は、図６１６（ａ）に示した状態から時間が経過し、キープゾーン演出中に第１特別図柄変動が実行されていない場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【５９７０】

図６１６（ｂ）に示した通り、キープゾーン演出中に特図１保留が無くなり、第２特別図柄変動のみが実行されている場合には、遊技者に対して、特図１保留を獲得するための案内を強調するために、小表示領域Ｄｍ４に表示される遊技方法を案内する演出を強調した表示態様（図では２重枠で表示）を表示し、副表示領域Ｄｓには「特図１保留が無いよ！急いで特図１保留を貯めてね」の文字が表示される強調案内報知が実行される。

【５９７１】

また、コンベア１０８０２上では、第２特別図柄変動のみが進行していることを示すために、図６１６（ａ）に対して、特図２保留に対応するエサアイコンｈｒ１ａがサカナ１０８０１に近付く演出が実行される。なお、エサアイコンｈｒ２ａは、特殊演出が実行されているため、図６１６（ａ）と同じ位置に表示されている。このように構成することで、特殊演出の実行中に遊技を一旦中断してしまい、第１特別図柄抽選が実行されない期間が続くことで、第２確変状態中に全ての特図２保留が消化されてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【５９７２】

なお、図６１６（ｂ）に示した状態から、新たに特図１保留を獲得しない状態が継続し、エサアイコンｈｒ２ａに対応する第２特別図柄変動が実行されるまでに、第２確変状態が終了し得ない状況となった場合、即ち、エサアイコンｈｒ２ａに対応する第２特別図柄変動が実行されるまでの残時間（エサアイコンｈｒ１ａに対応する第２特別図柄変動が終了するまでの残期間）内に、実行することが可能な第１特別図柄抽選回数が、第２確変状態を終了させるための残確変回数に到達し得ないと判別された場合には、特殊演出が終了し、エサアイコンｈｒ２ａがコンベア１０８０２の稼働に伴って移動する通常表示に切り

替わる。
【５９７３】
本第１５制御例の第１変形例では、特図２保留を複数個保留記憶可能に構成しており、特図１保留を獲得していない状況が発生した場合であっても、実行中の第２特別図柄変動が停止表示されるまでは、獲得済みの特図２保留を用いた新たな第２特別図柄変動が実行されないように構成している。つまり、第２確変状態中においては、第２確変状態を終了させるために、より短い変動時間の第１特別図柄変動が実行され、且つ、第２確変状態中に全ての特図２保留が消化され難くするために、より長い変動時間の第２特別図柄変動が実行されることが遊技者にとって最も有利な遊技内容となるように構成している。
【５９７４】
よって、キープゾーン演出において、短い変動時間の第１特別図柄変動に対しては、遊技者に有利となるアイコン種別が設定され易くなる。また、長い変動時間の第２特別図柄変動に対しては、遊技者に有利となるアイコン種別が設定され易くなる。
【５９７５】
このように構成することで、キープゾーン演出中により多くの特図１保留を獲得しようと意欲的に遊技を行わせることができる。
【５９７６】
ここで、本第１５制御例の第１変形例における第２確変状態中の特別図柄変動の変動パターンとして決定され得る変動時間について説明をする。図示は省略するが、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態中に実行される第１特別図柄変動の変動パターンと、第２特別図柄変動の変動パターンとを選択する際に、専用の変動パターンテーブルを参照するように構成している。
【５９７７】
図示は省略するが、第２確変状態中に参照される第２確変変動パターンテーブルには、第１特別図柄変動として比較的短い変動時間の変動パターンが選択され易く、且つ、第２特別図柄変動として比較的長い変動時間の変動パターンが選択され易い、有利テーブルと、第１特別図柄変動として比較的短い変動時間の変動パターンが選択され難く、且つ、第２特別図柄変動として比較的長い変動時間の変動パターンが選択され難い、不利テーブルと、を有しており、第２確変状態の設定契機（大当たり種別）や、参照する変動パターンテーブルを決定するための決定抽選の結果に基づいて、いずれかのテーブルが決定されるように構成している。
【５９７８】
有利テーブルには、第１特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が１秒～６０秒の変動パターンが、第２特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が１００秒～３００秒の変動パターンが、選択され得るように規定されている。そして、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）の記憶数（特図１保留数）と、取得した変動パターン種別カウンタＣＳ１の値に応じて異なる変動パターンが選択されるように構成している。
【５９７９】
より具体的には、特図１保留数が多い程、第１特別図柄変動の変動パターンとして変動時間が短い変動パターンが選択され易く、第２特別図柄変動の変動パターンとして変動時間が長い変動パターンが選択され易くなるように規定している。
【５９８０】
不利テーブルには、第１特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が１秒～４５秒の変動パターンが、第２特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が３０秒～３００秒の変動パターンが、選択され得るように規定されている。そして、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）の記憶数（特図１保留数）と、取得した変動パターン種別カウンタＣＳ１の値に応じて異なる変動パターンが選択されるように構成している。
【５９８１】
より具体的には、特図１保留数が多い程、第１特別図柄変動の変動パターンとして変動時間が短い変動パターンが選択され易く、第２特別図柄変動の変動パターンとして変動時

間が長い変動パターンが選択され易くなるように規定している。
【５９８２】
以上、説明をした通り、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態中において実行される各種特別図柄変動の変動パターンとして、遊技者に有利な変動パターンが選択され易い状態と、選択され難い状態と、を参照される変動パターンテーブルの種別に応じて切り替えることができるように構成している。このように構成することで、キープゾーン演出の成功割合を参照される変動パターンテーブルの種別に応じて異ならせることができる。
【５９８３】
なお、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態が設定される場合の遊技状況（大当たり種別）に応じて、参照される変動パターンテーブルの種別を決定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第２確変状態中に実行された特別図柄抽選の実行回数に対応させて参照される変動パターンテーブルの種別が切り替わるようにシナリオを構成しても良い。
【５９８４】
また、本第１５制御例の第１変形例では、第１特別図柄変動の変動パターンと、第２特別図柄変動の変動パターンとが規定されている変動パターンテーブルを参照するように構成しているが、これに限ること無く、第１特別図柄変動の変動パターンのみが規定されている変動パターンテーブルと、第２特別図柄変動の変動パターンのみが規定されている変動パターンテーブルとを設け、各変動パターンテーブルに対して、遊技者への有利度合いが異なるテーブルを設け、遊技状況に応じて、特別図柄種別毎に、参照される変動パターンテーブルの種別を異なるように構成しても良い。このように構成することで、第２確変状態中に実行される各種特別図柄変動の変動パターンの組み合わせをより多種多様にすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【５９８５】
＜第１５制御例の第１変形例にて実行される主制御装置１１０の制御処理について＞
次に、図６１７を参照して、本第１５制御例の第１変形例にて実行される主制御装置１１０の制御処理のうち、特徴的な処理内容について説明をする。本第１５制御例の第１変形例では、上述した第１５制御例に対して、第１特別図柄の変動表示と、第２特別図柄の変動表示と、を同時に（並行して）実行可能に構成している点で相違している。
【５９８６】
また、遊技状態が切り替わる場合、具体的には、特別図柄抽選が実行されたことに基づいて第２確変状態が終了した場合に、実行中の特別図柄変動を破棄する処理を実行する点で、上述した第１２制御例、及び第１５制御例と相違している。このように構成することで、長時間の第２特別図柄変動が実行されている状態で通常状態が設定されたとしても、長時間の第２特別図柄変動を途中で破棄することが可能となり、通常状態において新たな第２特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。
【５９８７】
なお、本第１５制御例の第１変形例のように、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）されたパチンコ機１０においては、天井特典が付与されるタイミングや、時短抽選にて時短当選した場合に、実行中の特別図柄変動を破棄するように構成しても良いし、破棄すること無く実行中の特別図柄変動を継続させるように構成しても良い。
【５９８８】
なお、本第１５制御例の第１変形例と、上述した第１５制御例との相違点のうち、上述した第１２制御例に記載されている各種制御処理内容を転用可能な箇所については、その説明を省略する。つまり、ここでは、上述した遊技状態が切り替わる場合、具体的には、特別図柄抽選が実行されたことに基づいて第２確変状態が終了した場合に、実行中の特別図柄変動を破棄する処理（状態移行時変動破棄処理）について図６１７を参照して説明をする。

【５９８９】
図６１７は、状態移行時変動破棄処理（ＹＳ１０１）の処理内容を示したフローチャートである。この状態移行時変動破棄処理（ＹＳ１０１）は、主制御装置１１０のＭＰＵ１０１にて実行されるタイマ割込処理（図１５６参照）にて実行される処理であって、遊技状態が移行した際に特定条件を満たした場合に、実行中の特別図柄変動を破棄するための処理が実行されるものである。
【５９９０】
状態移行時変動破棄処理（ＹＳ１０１）が実行されると、まず、遊技状態に変更があったかを判別し（ＹＳ２０１）、遊技状態に変更が無いと判別した場合は（ＹＳ２０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、ＹＳ２０１の処理において、遊技状態に変更があったと判別した場合は（ＹＳ２０１：Ｙｅｓ）、次に、第２確変状態から通常状態への変更であるかを判別し（ＹＳ２０２）、第２確変状態から通常状態への変更では無いと判別した場合は（ＹＳ２０２：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【５９９１】
ＹＳ２０２の処理において、第２確変状態から通常状態への変更であると判別した場合は（ＹＳ２０２：Ｙｅｓ）、現在が特図変動中であるかを判別し（ＹＳ２０３）、特図変動中では無いと判別した場合は（ＹＳ２０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、ＹＳ２０３の処理において、現在が特図変動中であると判別した場合は（ＹＳ２０３：Ｙｅｓ）、実行されている特図変動が大当たり変動であるかを判別し（ＹＳ２０４）、大当たり変動中では無いと判別した場合は（ＹＳ２０４：Ｎｏ）、特図変動中の特別図柄種別に対応する変動停止フラグ（特図１変動停止フラグ２０３ｋｅ、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆ）をオンに設定し（ＹＳ２０５）、本処理を終了する。
【５９９２】
ＹＳ２０５の処理を実行することにより、次に実行される特別図柄変動処理１２（図４１７のＹ１０４参照）において、実行中の特別図柄変動が外れを示す表示態様で強制的に停止表示される。
【５９９３】
また、ＹＳ２０４の処理において、大当たり変動中であると判別した場合は（ＹＳ２０４：Ｙｅｓ）、特殊継続コマンドを設定し（ＹＳ２０６）、本処理を終了する。ＹＳ２０６の処理によって設定された特殊継続コマンドを音声ランプ制御装置１１３側で受信することにより、第２確変状態から通常状態へと移行するタイミングにおいて大当たり変動が実行されていることを遊技者に示す祝福演出が実行される。
【５９９４】
以上、説明をした通り、本第１５制御例の第１変形例では、遊技状態が移行するタイミングにおいて実行中の特別図柄変動を破棄することが可能である。よって、移行前の遊技状態において長時間の特別図柄変動が実行されている特別図柄種別（例えば、第２特別図柄）が、移行後の遊技状態では、短時間の特別図柄変動が実行され易くなることで、遊技状態の移行に基づいて遊技性を異ならせることが可能なパチンコ機１０において、遊技状態の移行に伴って新たな特別別図柄変動を実行させ易くすることができるため、遊技性に沿った適正な遊技を提供し易くすることができる。
【５９９５】
また、上述した第１２制御例のように、特別図柄変動の開始、又は停止に基づいて実行中の特別図柄変動を破棄するのでは無く、遊技状態の移行に基づいて特別図柄変動を破棄するように構成しているため、例えば、特別図柄変動の開始、または停止に関わらず遊技状態が移行する場合（変動開始から５秒後に遊技状態が移行したり、普通図柄抽選の結果に基づいて遊技状態が移行したりする場合）においても、遊技状態の移行タイミングに対応させて実行中の特別図柄変動を破棄することができる。加えて、遊技状態が移行するタイミングにおいて複数種別の特別図柄が特別図柄変動中である場合であっても、特別図柄変動中の全ての特別図柄種別に対して、特別図柄変動を破棄することができる。
【５９９６】

なお、本第１５制御例の第１変形例では、遊技状態が第２確変状態から通常状態へと切り替わる際に、実行中の特別図柄変動を破棄する処理を実行可能に構成しているが、遊技状態の移行に基づいて実行中の特別図柄変動を破棄する処理を、他に転用しても良く、例えば、上述した第１３制御例や第１４制御例のように、天井特典が付与されることに基づいて実行中の特別図柄変動を破棄する処理を実行するように構成しても良い。

【５９９７】

＜第１５制御例の第１変形例にて実行される音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図６１８を参照して、本第１５制御例の第１変形例において実行されるキープゾーン演出の演出態様を決定する処理のうち、特徴的な処理内容について説明をする。本第１５制御例の第１変形例では、上述した第１５制御例に対して、キープゾーン演出が実行されている状態（第２確変状態）中に全ての特図２保留を消化させないための遊技方法を異ならせている点で相違している。

【５９９８】

具体的には、上述した第１５制御例では、第１特別図柄抽選が第２特別図柄抽選よりも優先して実行されるように構成しているため、キープゾーン演出中において、第１特別図柄抽選が継続して実行される限り（特図１保留が途切れ無い限り）、キープゾーン演出が終了するまで（第２確変状態が終了するまで）、特図２保留が消化されない（第２特別図柄抽選が実行されない）ように構成されていた。これに対して、本第１５制御例の第１変形例では、第１特別図柄の変動表示と、第２特別図柄の変動表示と、を同時に（並行して）実行可能に構成しているため、特図１保留を常に保持している状態であっても、実行される第１特別図柄変動の変動時間が長く、実行される第２特別図柄変動の変動時間が短い場合には、第２確変状態が終了するまでに、特図２保留が全て消化されてしまう虞がある。

【５９９９】

そこで、本第１５制御例では、実行中の特別図柄変動（第１特別図柄変動、第２特別図柄変動）の変動時間と、獲得済みの特図保留（特図１保留、特図２保留）に対応する特別図柄変動（第１特別図柄変動、第２特別図柄変動）の変動時間と、に基づいて、キープゾーン演出の演出態様（エサアイコンの表示態様）を異ならせるように構成している。

【６０００】

このように構成することで、実行されるキープゾーン演出の演出態様に基づいて、特図２保留を保持したままキープゾーン演出を終了させる難易度を遊技者に予測させることが可能となる。

【６００１】

図６１８は、第２確変状態演出設定処理１５ａ（ＹＳ９０５８）の処理内容を示したフローチャートである。図６１８に示した通り、第２確変状態演出設定処理１５ａ（ＹＳ９０５８）は、上述した第１５制御例にて実行される第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）に対して、エサアイコンの表示態様を決定するための処理を追加している点で相違し、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【６００２】

第２確変状態演出設定処理１５ａ（ＹＳ９０５８）が実行されると、まず、上述した第１５制御例にて実行される第２確変状態演出設定処理１５（Ｓ９０５８）と同一のＳ９４０１～Ｓ９４５６の処理を実行する。そして、Ｓ９４５５の処理を終えると、次に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されている情報、及び第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている情報のうち、最新の特図２保留（最後に格納された特図２保留）以外の情報を読み出し（ＹＳ９００１）、読み出した情報のそれぞれに含まれる変動時間に対応して、各エサアイコンの表示態様を決定する（ＹＳ９００２）。

【６００３】

ＹＳ９００２の処理によって、図６１６（ａ）に示した通り、各エサアイコンに対して

異なる表示態様（小さいエサアイコン、堅いエサアイコン）を表示することが可能となる。

【６００４】

次に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂから読み出した情報（第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている情報のうち、最新の特図２保留（最後に格納された特図２保留）以外の情報）に含まれる変動時間の合計を算出し（ＹＳ９００３）、算出した変動時間と、実行中の特図２変動の残時間と、を合算する（ＹＳ９００４）。つまり、ＹＳ９００４の処理では、獲得済みの特図２保留のうち、最後の特図２保留が消化される（特別図柄変動が実行される）までの残時間が算出される。

【６００５】

そして、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値（第２確変状態の残期間）に対応する基準時間を読み出し（ＹＳ９００５）、ＹＳ９００４の処理で算出された合算時間が、ＹＳ９００５の処理で読み出された基準時間よりも長いかを判別し（ＹＳ９００６）、長いと判別した場合、即ち、正常に遊技を行った場合において、最後の特図２保留が消化されるよりも前に、第２確変状態が終了する可能性が高いと判別した場合は（ＹＳ９００６：Ｙｅｓ）、最新の特図２保留（最後に消化される特図２保留）に対応するエサアイコンの表示態様として特殊態様を決定する（ＹＳ９００７）。ＹＳ９００７の処理において特殊態様が決定されることで、図６１６（ａ）に示したエサアイコンｈｒ２ａの表示態様（コンベア１０８０２から浮いている特殊演出）が実行される。ＹＳ９００７の処理を終えると、今回の処理で決定した表示態様（演出態様）を示すための表示用コマンドを設定し（ＹＳ９００９）、本処理を終了する。

【６００６】

一方、ＹＳ９００６の処理において、ＹＳ９００４の処理で算出された合算時間が、ＹＳ９００５の処理で読み脱された基準時間よりも短いと判別した場合、即ち、正常に遊技を行った場合において、最後の特図２保留が消化されるよりも前に、第２確変状態が終了する可能性が高くないと判別した場合は（ＹＳ９００６：Ｎｏ）、最新の特図２保留（最後に消化される特図２保留）に対応するエサアイコンの表示態様として通常態様を決定し（ＹＳ９００８）、今回の処理で決定した表示態様（演出態様）を示すための表示用コマンドを設定し（ＹＳ９００９）、本処理を終了する。

【６００７】

以上、説明をした通り、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態（キープゾーン演出）が設定される時点で格納されている特図保留、及び、実行中の特別図柄変動に関する変動時間を先読みし、獲得済みの特図２保留の少なくとも１つが、第２確変状態終了後に消化（特別図柄抽選の実行）され易い状態であるか否かを判別し、その判別結果に基づいた表示態様でキープゾーン演出を実行可能に構成している。

【６００８】

このように構成することで、今回実行されるキープゾーン演出が成功しやすいか否かを遊技者に予測させることができるため、演出効果を高めることができる。

【６００９】

また、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態終了後に消化（特別図柄抽選の実行）され易い状態であるか否かの判別方法として、第２確変状態の残期間（第２確変中カウンタ２２３ｎａの値）に対応する基準時間を用いているがこれに限ること無く、特図２保留内に特定の変動時間以上の情報を含む特図保留があるかを判別し、その判別結果に基づいて、第２確変状態終了後に消化（特別図柄抽選の実行）され易い状態であるか否かを判別するように構成しても良い。

【６０１０】

また、詳細な説明は省略するが、本第１５制御例の第１変形例では、第２確変状態中において定期的（新たな特図保留を獲得した場合、新たな特別図柄変動が実行される場合、所定時間が経過した場合）において、第２確変中カウンタ２２３ｎａの値と、変動時間に関連する新たな情報（獲得した特図保留に含まれる変動時間情報や、実際に特別図柄変動

が実行される場合に決定された変動時間と、先読み（事前判別）時に読み出した変動時間との差分を示す情報）と、に基づいてキープゾーン演出の演出態様を更新（補正）する処理を実行するように構成している。

【６０１１】

本処理を実行することにより、例えば、特殊演出（特殊態様）が実行されている状態において、遊技者が遊技を中断し、第１特別図柄変動が実行されない期間が発生したり、特別図柄変動の変動パターンとして低確率で設定され得る遊技者に不利な変動時間が選択された場合において、キープゾーン演出の演出態様を補正することが可能となる。よって、実際に発生し得る第２確変状態終了時の遊技状態に適した演出を実行し易くすることができる。

【６０１２】

＜第１６制御例＞

次に、図５０４から図５４７を参照して、第１６制御例におけるパチンコ機１０について説明する。本第１６制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第１３制御例と同様に、所定回数（例えば、５００回）の特別図柄の抽選で連続して大当たり当選以外の抽選結果（外れ）となった場合に、遊技者に有利となる遊技状態（第３時短状態）を設定する構成を前提として、パチンコ機１０と電気的に接続されている各種装置（データ表示装置２６２、ホールコンピュータ２６３等）に対する外部信号の出力方式について説明する。

【６０１３】

また、本第１６制御例では、パチンコ機１０と電気的に接続されている所定装置（例えば、データ表示装置２６２）の視認態様に連動させているかのような演出態様の特定演出を実行可能に構成している。より具体的には、本第１６制御例のパチンコ機１０では、遊技者に有利な状態（例えば、大当たりや時短状態）となることを報知するための演出の一種として、有利な状態へと移行したことを所定期間秘匿しておき、有利な状態へ移行後に所定契機で所定装置（例えば、データ表示装置２６２）を視認することを促す演出態様の表示装置連動演出を実行可能に構成している。現在一般的に流通している、接続されているパチンコ機１０から受信する各種信号に基づいてパチンコ機１０の遊技状況に関する各種データ（大当たり間の抽選回数や大当たり回数、総抽選回数等）を表示するためのデータ表示装置２６２においては、有利な状態（大当たり遊技状態や確変遊技状態、時短遊技状態等）が設定されている場合に、有利な状態となっていることを文字や装飾ランプの発光等によって報知可能に構成されているものがほとんどであるため、表示装置連動演出を実行することによって、あたかもパチンコ機１０とデータ表示装置２６２とが連動して演出を行っているかのような極めて斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０１４】

また、本第１６制御例では、通常遊技状態において主として実行される第１特別図柄の抽選結果として、ほとんど賞球を得ることができない（ラウンド数が少なく、各ラウンドにおける特定入賞口６５ａの開放期間も短い）大当たり（特殊大当たり）を設けている。この特殊大当たりは、大当たり終了後の遊技状態が通常遊技状態に設定されるため、基本的に、第３時短状態が設定されるまでの抽選回数（天井抽選回数到達に係る特典付与までの残回数）をリセットする役割を担っている。更に、本第１６制御例では、特別図柄の外れの一部として、特定入賞口６５ａの開閉動作を伴い、且つ、当該開閉動作が特殊大当たり時に設定される開閉動作（特定開閉動作）と共通となる小当たり抽選結果を設ける構成としている。つまり、特定入賞口６５ａの開閉動作からは特殊大当たりと区別困難な抽選結果であり、且つ、第３時短状態が設定されるまでの抽選回数がリセットされない抽選結果を設ける構成としている。これらにより、特定入賞口６５ａが特定開閉動作で開閉される毎に、第３時短状態が付与されるまでの抽選回数がリセットされた可能性があると遊技者に認識させることができるので、第３時短状態が付与されるまでの残抽選回数（天井抽選回数到達に係る特典付与までの残回数）を遊技者に把握困難とすることができるので、残抽選回数を予測させる遊技性を付与することができる。

【６０１５】
更に、本第１６制御例では、天井抽選回数における特別図柄の変動時間を、抽選結果によらず、予め定められた特定期間（３０秒間）に固定化することにより、第３時短状態へと移行するのか、天井抽選回数で丁度大当たりに当選したのかを分かり難くする構成としている。このように構成することで、第３時短状態へと移行することに対する期待感をより長く遊技者に対して抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【６０１６】
この第１６制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１３制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２、およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１３制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１３制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。
【６０１７】
まず、図５０４を参照して、本第１６制御例におけるパチンコ機１０に対して電気的に接続されるデータ表示装置２６２について説明する。図５０４（ａ）は、データ表示装置２６２が接続されたパチンコ機１０がホールに複数並べて設置されている状態における島設備の外観を例示した図である。図５０４（ａ）に例示した通り、ホールにおいてパチンコ機１０が設置された状態では、基本的に、各パチンコ機１０の真上にデータ表示装置２６２が設置される。このデータ表示装置２６２は、例えば、パチンコ機１０の遊技状況に関する各種のデータ等を表示するためのデータ表示部２７６と、ＬＥＤ等の発光装置で構成され、発光により所定の報知を行う電飾部２７８と、データ表示部２７６の表示内容を切り替えるための遊技者による入力操作を受け付け可能な入力装置２７７と、で少なくとも構成されている。このデータ表示装置２６２に表示される各種データによって、遊技者が遊技を行うパチンコ機１０を選択する際や、遊技中のパチンコ機１０において遊技を続行するか否かの判断を行う際の判断基準を提供することができる。なお、詳細については後述するが、本第１６制御例におけるパチンコ機１０は、データ表示装置２６２等の所定装置に対して、大当たりに当選したことを示す大当たり信号１や、大当たり終了後に普通図柄の時短状態に移行したことを示す大当たり信号２、第３時短状態に移行したことを示す大当たり信号３等の各種の信号を外部出力可能に構成されている。データ表示装置２６２は、接続されているパチンコ機１０から受信した外部出力信号によって大当たりの当選状況や遊技状態等の遊技の状況を監視、収集して、一部のデータをデータ表示部２７６において表示可能に構成されている。
【６０１８】
次に、図５０４（ｂ）を参照して、データ表示装置２６２のデータ表示部２７６に表示される各種データの表示例について説明する。図５０４（ｂ）に示した通り、データ表示装置２６２のデータ表示部２７６は、例えば、右表示領域２７６Ｒと左表示領域２７６Ｌとに表示領域が区分されており、左表示領域２７６Ｌに対しては、例えば、当日の初当たり回数（通常状態または第３時短状態において大当たりに当選した回数）が表示される。図５０４（ｂ）の例では、初当たりが１２回発生し、左表示領域２７６Ｌに対して「初当たり１２回」という文字が表示されている場合を例示している。また、右表示領域２７６Ｒに対しては、例えば、現在の抽選回数（前回の大当たり終了後からの変動回数）を示す表示や、５回前までの初当たりにおける当選時の抽選回数や当該初当たりから通常状態に移行するまでの間に当選した大当たりの回数（所謂、連チャン回数）等が表示される。

【６０１９】
具体的には、図５０４（ｂ）に示した通り、右表示領域２７６Ｒにおける下方に、「現在」という文字、「１」という文字、「２」という文字、「３」という文字、「４」という文字、および「５」という文字が表示される。また、これらの文字の上方には、特別図柄の抽選回数を示す棒グラフ、および抽選回数を示す数字が表示される。「現在」の文字の上方に表示されている棒グラフ、および数字は、前回の大当たり終了後を起点とした特別図柄の抽選回数を示しており、「１」～「５」の文字の上方に表示されている棒グラフ、および数字は、１回前～５回前に初当たり（通常状態または第３時短状態における大当たり）に当選した際の特別図柄の抽選回数を示している。また、「１」～「５」の文字の上方、且つ、棒グラフの下方に表示されている文字（「４回」、「１回」、「１回」、「６回」、および「１回」という文字）については、それぞれ１～５回前の初当たりが発生してから通常状態へと移行するまでの間に当選した大当たりの連続回数（連チャン回数）を示している。つまり、普通図柄の時短状態に設定される遊技状態（第１確変状態、第２時短状態）が途切れることなく大当たりに当選した回数を示している。これらの表示内容により、遊技者に対してパチンコ機１０の傾向（大当たりに当選した抽選回数の傾向や連チャン回数の傾向等）を容易に把握させることができるので、遊技者に対して遊技を行うパチンコ機１０を選択する際や、パチンコ機１０における遊技を継続するか否かの判断を行う際の判断基準を提供することができる。よって、遊技者の利便性を向上させることができる。以降の説明では、説明の簡素化のため、右表示領域２７６Ｒに表示される表示内容のことを遊技履歴と称する。

【６０２０】
また、データ表示部２７６の表示内容は、入力装置２７７に対する入力操作によって変更可能に構成されている。ここで、入力装置２７７は、左入力部２７７ａ、表示切替用入力部２７７ｂ、キャンセル入力部２７７ｃ、および右入力部２７７ｄで少なくとも構成されており、左入力部２７７ａ、および右入力部２７７ｄを押下（入力操作）することにより、右表示領域２７６Ｒに表示される遊技履歴の表示範囲を可変させることができる。具体的には、右入力部２７７ｄを押下する毎に、時間的に古い履歴（初当たり当選時の抽選回数を示す表示と連チャン回数を示す文字との組み合わせ）が表示される。即ち、図５０４（ａ）の状態で右入力部２７７ｄを押下する毎に、各履歴が左側に１つずつシフトされる。これに伴って、右端に時間的により古い履歴が表示されると共に、左端に表示されていた履歴の表示が消去される。逆に、左入力部２７７ａを押下する毎に、各履歴が右側に１つずつシフトされていき、左端に時間的により新しい履歴が表示されると共に右端に表示されていた履歴の表示が消去される。なお、遊技履歴は、最大で１０回前の履歴まで記憶されるように構成されている。

【６０２１】
表示切替用入力部２７７ｂは、押下（入力操作）によってデータ表示部２７６の表示内容を別日の履歴に切り替えることが可能な入力部である。表示切替用入力部２７７ｂを押下する毎に、データ表示部２７６の表示内容が、１日前の初当たり回数データおよび遊技履歴データ、２日前の初当たり回数データおよび遊技履歴データ、３日前の初当たり回数データおよび遊技履歴データ、・・・といった具合に更新されていく。また、キャンセル入力部２７７ｃを押下することで、当日の初当たり回数データおよび遊技履歴データが表示された状態に戻すことができる。これらの機能によって、遊技者に対してパチンコ機１０に関するより多くの情報を提供することができるので、遊技者の利便性をより向上させることができる。

【６０２２】
次に、図５０５、および図５０６を参照して、パチンコ機１０が特定の状態に移行した場合におけるデータ表示装置２６２の視認態様（データ表示部２７６の表示態様、および電飾部２６２の発光態様）について説明する。まず、図５０５（ａ）は、パチンコ機１０が大当たり遊技状態に移行した場合における、当該パチンコ機１０に電気的に接続されているデータ表示装置２６２の視認態様を示した図である。データ表示装置２６２に接続さ

れているパチンコ機１０が大当たりに当選すると、パチンコ機１０から大当たり当選を示すための大当たり１信号が出力される。この大当たり１信号を受信したことを契機として、図５０５（ａ）に示した通り、データ表示装置２６２の視認態様が大当たり遊技状態用の視認態様に設定される。具体的には、例えば、データ表示部２７６に表示されていた遊技履歴が消去されて、「大当たり！」という文字がデータ表示部２７６の全体に渡って表示される。また、電飾部２７８を構成する右電飾部２７８Ｒ、および左電飾部２７８Ｌが通常時（データ表示部２７６に遊技履歴が表示されている状態）よりも明るく発光した見た目となる。これらの視認態様（大当たり用視認態様）により、パチンコ機１０が大当たり遊技状態に移行したということを容易に理解させることができる。なお、大当たり１信号は、大当たり遊技状態が終了されるまでの間出力され続けるように構成されている。データ表示装置２６２では、大当たり１信号の出力が終了されるまでの間、大当たり用視認態様を継続させるように構成されている。

【６０２３】

次に、大当たり終了後にパチンコ機１０が普通図柄の時短状態に移行した場合における、当該パチンコ機１０に電気的に接続されているデータ表示装置２６２の視認態様について説明する。図５０５（ｂ）は、大当たり終了後に普通図柄の時短状態（第１確変状態、第２時短状態のいずれか）が設定された場合におけるデータ表示装置２６２の視認態様の一例を示した図である。データ表示装置２６２に接続されているパチンコ機１０が大当たり終了後に普通図柄の時短状態に移行すると、パチンコ機１０から普通図柄の時短状態への移行を示すための大当たり２信号の出力が開始される。この大当たり２信号は、普通図柄の時短状態が終了するまで（即ち、大当たりに当選するか、時短回数が経過して通常遊技状態に移行するまで）の間出力され続ける。データ表示装置２６２は、大当たり１信号の出力が終了されると共に大当たり２信号の出力が開始されたことを契機として、図５０５（ｂ）に示した通り、データ表示装置２６２の視認態様が時短状態用の視認態様に設定される。具体的には、例えば、データ表示部２７６に表示されていた大当たり用視認態様が消去されて、「連チャン中！」という文字がデータ表示部２７６の全体に渡って表示される。また、電飾部２７８を構成する右電飾部２７８Ｒ、および左電飾部２７８Ｌが通常時（データ表示部２７６に遊技履歴が表示されている状態）よりも明るく発光した見た目となる。これらの視認態様（時短状態用の視認態様）により、パチンコ機１０が大当たり終了後の普通図柄の時短状態に移行したということを容易に理解させることができる。

【６０２４】

次に、特別図柄の抽選回数が天井抽選回数（５００回）に到達して第３時短状態に移行した場合におけるデータ表示装置２６２の視認態様について説明する。図５０６は、パチンコ機１０が第３時短状態に移行した後における、当該パチンコ機１０に電気的に接続されているデータ表示装置２６２の視認態様を示した図である。データ表示装置２６２に接続されているパチンコ機１０が第３時短状態に当選すると、パチンコ機１０から普通図柄の時短状態に移行したことを示す大当たり２信号の出力が開始される。また、天井抽選回数到達に係る時短状態への移行であることを示すための大当たり３信号が所定期間（０．２秒間）の間出力される。これらの信号出力の組み合わせによって、データ表示装置２６２は、天井抽選回数に係る第３時短状態への移行を容易に判別することができるため、データ表示装置２６２の視認態様が第３時短状態用の視認態様に設定される。具体的には、例えば、データ表示部２７６に表示されていた遊技履歴が消去されて、「救済発動中」という文字がデータ表示部２７６の全体に渡って表示される。また、電飾部２７８を構成する右電飾部２７８Ｒ、および左電飾部２７８Ｌが通常時（データ表示部２７６に遊技履歴が表示されている状態）よりも明るく発光した見た目となる。これらの視認態様（第３時短状態用の視認態様）により、パチンコ機１０が天井抽選回数に到達して、第３時短状態に移行したということを容易に理解させることができる。

【６０２５】

このように、データ表示装置２６２の視認態様をパチンコ機１０の状態にリンクさせて可変させることができるので、遊技者に対してパチンコ機１０の状態をより分かり易く報

知することができる。よって、遊技者の利便性を向上させることができる。
【６０２６】
次に、図５０７から図５０９を参照して、本第１６制御例のパチンコ機１０において実行される特徴的な演出態様について説明する。まず、図５０７を参照して、データ表示装置連動型の大当たり報知演出について説明する。このデータ表示装置連動型の大当たり報知演出は、変動表示演出において第３図柄が外れの組み合わせで停止表示された後で、データ表示装置２６２に注目させる演出態様が設定される演出である。特別図柄の抽選で大当たりに当選していれば、データ表示装置２６２に対して大当たり１信号が出力されるため、データ表示装置２６２が大当たり用視認態様に設定されることにより遊技者に対して大当たりとなったことを理解させることができる一方で、抽選結果が外れであれば、データ表示装置２６２に対して大当たり１信号が出力されず、大当たり用視認態様に設定されることもない（遊技履歴が表示された状態のままとなる）ため、遊技者に対して大当たりにならなかったことを理解させることができる。
【６０２７】
図５０７（ａ）は、データ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行される可能性があることを遊技者に示唆する演出（データ表示装置連動演出の煽り演出）の実行中における第３図柄表示装置８１の表示態様を示した図である。このデータ表示装置連動演出の煽り演出は、変動種別が完全外れ以外の変動種別（ＳＰリーチ当たり、ＳＰリーチ外れ、スーパーリーチ当たり、スーパーリーチ外れ、ノーマルリーチ当たり、ノーマルリーチ外れ）に対応する変動表示態様の一部として実行され得る演出であり、変動時間が経過する（特別図柄が確定表示される）５秒前から実行される演出である。
【６０２８】
図５０７（ａ）に示した通り、データ表示装置連動演出の煽り演出が実行されると、主表示領域における右上に対して、天使を模したキャラクタ８０９が出現する演出が行われた後、キャラクタ８０９が所持しているステッキから、主表示領域Ｄｍにおける上方に向けて光８０９Ｌを放つ演出が実行される。また、キャラクタ８０９に対して正面視左方に対して、縦長略楕円形形状で構成され、「光れ！」という文字が付された吹き出し画像８０９Ｆが表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「データランプが光ればボーナス確定！？」という文字が表示される。これらの表示内容によって、あたかも、天使を模したキャラクタ８０９がパチンコ機１０の真上に設置されたデータ表示装置（データランプ）２６２に対して光８０９Ｌを放つことにより、データ表示装置（データランプ）２６２の電飾部２７８を発光させようとしているかのように遊技者に思わせることができる。また、キャラクタ８０９の放つ光８０９Ｌによって電飾部２７８が発光した場合に、大当たり遊技が実行される（ボーナスが確定する）ということを遊技者に対して容易に理解させることができる。
【６０２９】
図５０７（ｂ）は、データ表示装置連動演出の煽り演出が実行された後、実際に大当たりが報知された場合（データ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行された場合）における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図５０７（ｂ）に示した通り、データ表示装置連動型の大当たり報知演出では、まず、大当たり開始タイミング（大当たりのオープニング期間の開始時）において、大当たり開始を示す信号（大当たり１信号）が所定装置（データ表示装置２６２、ホールコンピュータ２７２等）に対して出力されることで、大当たり１信号を受信したデータ表示装置２６２の視認態様が大当たり用視認態様に設定される。つまり、データ表示装置連動演出の煽り演出においてキャラクタ８０９等によって示唆されていた通りに、データ表示装置２６２の電飾部２７８が光った見た目となる。これに伴って、図５０７（ｂ）に示した通り、リーチ外れの形で停止表示されていた第３図柄の上方から、リーチがかかっていた図柄と同一の第３図柄が降下してきて、停止表示されていた中図柄と降下してきた第３図柄とが置き換わる（停止表示されていた中図柄が押し退けられる）演出が実行される。つまり、あたかもデータ表示装置２６２から当たりとなる第３図柄が下方に放出されて、当該第３図柄が中図柄と置き換わっ

たかのような演出が実行される。また、天使を模したキャラクタ８０９の左上に対して、「やったね！」という文字が付された吹き出し画像８０９Ｆが表示されると共に、主表示領域Ｄｍの上方から光が漏れ出てくるかのような表示態様に設定される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ボーナス確定！」という文字が表示される。これらの表示態様により、あたかもデータ表示装置２６２とパチンコ機１０とが連動して１の演出態様を形成しているかのような斬新な演出態様を実現することができる。また、あたかもデータ表示装置２６２によって抽選結果を大当たりに書き替えたかのような斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０３０】

なお、現状、データ表示装置２６２として、仕様の異なる様々な装置が普及しており、遊技履歴の表示内容や大当たり用視認態様等の視認態様も装置毎に様々となっている。このため、同一のデータ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行されたとしても、当該データ表示装置連動型の大当たり報知演出が実行されたパチンコ機１０と電気的に接続されているデータ表示装置２６２の種別が異なれば、大当たり用視認態様についても異なった視認態様となるため、全く異なる印象を遊技者に対して抱かせることが可能となる。よって、データ表示装置連動型の大当たり報知演出の演出態様を増加させなくても、データ表示装置２６２の種別数によって演出態様を多様化させることができるので、パチンコ機１０の記憶容量を節約しつつ、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０３１】

次に、図５０８（ａ）を参照して、本第１６制御例における小ボーナス演出について説明する。ここで、本第１６制御例では、上述した通り、右打ちしたとしてもほとんど賞球を得ることができない特定開閉動作で特定入賞口６５ａが開閉動作される特殊大当たり、および小当たりの抽選結果が設けられている。本制御例においては、これらの遊技者にとって特定入賞口６５ａの開閉動作の見た目等から区別し難い抽選結果を、まとめて「小ボーナス」と称することにする。これに対し、特殊大当たり以外の比較的多量の賞球を得ることが可能な大当たり（大当たりＡ１７～Ｅ１６）のことを、「通常ボーナス」と称する。

【６０３２】

図５０８（ａ）は、小ボーナスに対応する変動表示演出の終了時（第３図柄の停止時）における表示態様を示した図である。図５０８（ａ）に示した通り、本第１６制御例では、小ボーナス（特殊大当たり、小当たり）に当選すると、主表示領域ｄｍの右図柄列、中図柄列、および左図柄列に対してそれぞれ同一の偶数の数字を模した第３図柄が停止表示される。図５０８（ａ）の例では、「２」の数字を模した第３図柄が右図柄列、中図柄列、および左図柄列に停止表示された場合を例示している。また、主表示領域Ｄｍの左上に、「右打ち」という文字が付された小表示領域Ｄｍ４が形成される。更に、図５０８（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｓに対して、「小ボーナス」という文字が表示される。これらの表示内容により、抽選結果が小ボーナスになったということを遊技者に容易に理解させることができる。

【６０３３】

これに対し、図示については省略するが、ボーナス（大当たりＡ１６～Ｅ１６のいずれか）に当選した場合は、同一の奇数の数字を模した第３図柄が右図柄列、中図柄列、および左図柄列に停止表示される。よって、停止表示された第３図柄の種別によって容易にボーナスの種別を判別することができるので、遊技者の利便性を向上させることができる。

【６０３４】

なお、上述した通り、通常遊技状態において特殊大当たりに当選すると、特殊大当たりの終了後も通常遊技状態が設定される上に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が０クリアされてしまう一方で、小当たりに当選した場合は、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が維持されるため、特殊大当たりに当選するよりも、小当たりに当選した方が、第３時短状態へと移行するまでの抽選回数がリセットされない分遊技者にとって有利となる。

【６０３５】

本第１６制御例では、通常状態において第３図柄表示装置８１の小表示領域Ｄｍ７に対して、大当たり終了後の特別図柄の抽選回数ではなく、最後のボーナスが終了した後の抽選回数を「ボーナス間」の回数として表示させる構成としている。つまり、大当たりだけでなく、小当たり当選でも表示上の抽選回数がリセットされるように構成されている。このように構成することで、特殊大当たりと小当たりとをより区別し難くすることができるので、天井抽選回数までの残りの抽選回数を予測する遊技性を付加することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０３６】

次に、図５０８（ｂ）を参照して、天井抽選回数（５００回）目に実行される変動表示演出において設定される演出態様について説明する。図５０８（ｂ）は、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出が実行されている場合における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図５０８（ｂ）に示した通り、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出では、リーチ演出が発生する。ここで、本第１６制御例では、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出で必ずリーチ演出を発生させるために、天井抽選回数（５００回）目の特別図柄の抽選が実行された場合は、抽選結果によらず、３０秒間のスーパーリーチ変動に対応する変動時間が設定されるように構成している。これにより、リーチ演出の演出時間を確実に確保することができる。これらの表示内容により、リーチ演出によって天井抽選回数到達に係る第３時短状態への移行が報知される可能性があるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、天井抽選回数（５００回）目の特別図柄の抽選結果が外れだった場合は、基本的に、時短図柄当選時と同様の第３図柄の組み合わせ（図２７８参照）が停止表示されて時短状態への移行が報知される。即ち、リーチ演出が発生した後で、中図柄列に「チャンスタイム」という文字が付された図柄が停止表示されることで時短状態への移行が報知される。これにより、遊技者に対して天井抽選回数に到達したことに基づいて第３時短状態へと移行した（大当たりを契機とする時短状態への移行ではない）ということを容易に理解させることができる。

【６０３７】

また、図５０８（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける左上に対して、「天井！？」という文字が付された小表示領域Ｄｍ７が形成される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「右打ち厳禁！左打ち！」という文字が表示される。この副表示領域Ｄｓの表示内容により、第３時短状態へと移行すると予測した遊技者が、第３時短状態へと移行する前（通常遊技状態）から右打ちを開始してしまうことを抑制することができる。ここで、第３時短状態へと移行する前（通常遊技状態）から右打ちを開始してしまうと、通常遊技状態の間に遊技球がスルーゲート６７を通過して普通図柄の変動表示が開始されてしまう可能性がある。そして、本第１６制御例では、普通図柄の通常状態（通常遊技状態）における普通図柄の変動時間が３０秒に設定されるように構成している。このため、例えば、変動停止の直前（第３時短状態へと移行する直前）に遊技球がスルーゲート６７を通過してしまう（普通図柄の変動が開始されてしまう）と、第３時短状態へと移行した後で、約３０秒間の間、普通図柄の当たりとなり得ない状態となってしまう。一旦設定された普通図柄の変動時間は、変動中に遊技状態が変わったとしても変更されることが無いためである。このため、第３時短状態への移行が報知されたにもかかわらず、比較的長い期間、普通電動役物６４０ａが開放されない不利な状況に設定されてしまう可能性があり、第３時短状態の恩恵を受けられないことに対する不満感を遊技者に対して抱かせてしまう可能性がある。これに対して本第１６制御例では、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出において、右打ちを行わないように遊技者に促す表示を副表示領域Ｄｓに対して行うことができるので、第３時短状態に移行する前から遊技者が右打ちを行ってしまうことを抑制することができる。よって、第３時短状態に移行する前に普通図柄の変動表示が開始されてしまい、当該変動表示が終了するまでの比較的長い期間の間、第３時短状態の恩恵（右打ちした遊技球が第２入球口６４０へと入球し易くなる）を受けられなくなってしまうことを抑制することができる。

【６０３８】

なお、本第１６制御例では、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出以外でも、天井抽選回数への到達を示唆する演出態様（図５０８（ｂ）参照）の変動表示演出を実行する場合がある。より具体的には、ボーナス後に１又は複数回の小ボーナスに当選していた場合であって、少なくとも１の小ボーナスが特殊大当たりであり、且つ、最後に当選したボーナス後の抽選回数が５００回に到達した場合、および最後に当選したボーナスよりも後に当選した小ボーナスの終了後における抽選回数が５００回に到達した場合である。つまり、遊技者の視点（小ボーナスが特殊大当たりであるか小当たりであるかを判別できない視点）において、天井抽選回数に到達している可能性がある。つまり、ボーナス後に特殊大当たりに当選していれば、当該特殊大当たりと小当たりとを遊技者は判別できないため、実際には特殊大当たりの時点で特図抽選カウンタ２０３ｌａの値がリセットされていたとしても、リセットされたことに対する確信を遊技者が得ることは困難であるため、特殊大当たりよりも前に当選したボーナスの終了後の抽選回数が５００回に到達した場合に、遊技者に対して天井抽選回数への到達を期待させることができる。よって、このタイミングで天井抽選回数への到達を示唆する演出態様（図５０８（ｂ）参照）を設定することにより、天井抽選回数に到達することに対する期待感をより長く遊技者に抱かせ続けることができる。

【６０３９】

同様に、ボーナス後の抽選回数が５００回を超えた場合には、５００回の間に当選したいずれかの小ボーナスが特殊大当たりであることは確定するが、複数の小ボーナスに当選していた場合、遊技者の視点ではいずれの小ボーナスが特殊大当たりであったのかを特定することが困難となる。よって、ボーナスに当選するか、天井抽選回数に到達するまでの間、各小ボーナスの当選からの抽選回数が５００回になる毎に、天井抽選回数への到達を示唆する演出態様（図５０８（ｂ）参照）を実行する構成としている。このように構成することで、天井抽選回数に到達することに対する期待感をより長く遊技者に抱かせ続けることができる。

【６０４０】

次に、図５０９を参照して、本第１６制御例における特徴的な演出態様の一種である、データ表示装置連動型の時短発動演出について説明する。このデータ表示装置連動型の時短発動演出は、通常遊技状態において大当たりを介さずに（時短図柄当選、若しくは天井抽選回数に到達したことに基づいて）時短状態へと移行することを報知する演出であり、上述したデータ表示装置連動型の大当たり報知演出（図５０７（ｂ）参照）と同様に、パチンコ機１０とパチンコ機１０に対して電気的に接続されているデータ表示装置２６２とが連動した演出を実行しているかのような演出態様の演出である。まず、図５０９（ａ）を参照して、データ表示装置連動型の時短発動演出が実行される可能性があることを遊技者に示唆する演出（データ表示装置連動演出の煽り演出）の実行中における第３図柄表示装置８１の表示態様を示した図である。このデータ表示装置連動演出の煽り演出は、ＳＰリーチ外れ、またはスーパーリーチ外れに対応する変動表示態様の一部として実行され得る演出であり、時短図柄当選、若しくは天井抽選回数到達に基づいて時短状態へと移行する可能性があることを示唆するための演出である。このデータ表示装置連動演出の煽り演出は、大当たりを示唆するデータ表示装置連動演出の煽り演出（図５０７（ａ）参照）と同様に、変動時間が経過する（特別図柄が確定表示される）５秒前から実行される演出である。なお、上述した第１３制御例と同様に、外れの抽選結果には時短図柄当選も含まれる。また、上述した通り、天井抽選回数（５００回）目の特別図柄の抽選に係る変動パターンは必ず３０秒間のスーパーリーチ変動が選択されるため、天井抽選回数（５００回）目の変動表示演出としても、データ表示装置連動演出の煽り演出が実行される可能性がある。

【６０４１】

図５０９（ａ）に示した通り、データ表示装置連動演出の煽り演出が実行されると、主表示領域における右上に対して、天使を模したキャラクタ８０９が出現する演出が行われた後、キャラクタ８０９が所持しているステッキから、主表示領域Ｄｍにおける上方に向

けて光８０９Ｌを放つ演出が実行される。また、キャラクタ８０９に対して正面視左方に対して、縦長略楕円形形状で構成され、「光れ！」という文字が付された吹き出し画像８０９Ｆが表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「データランプが光ればチャンスタイムＧＥＴ！？」という文字が表示される。これらの表示内容によって、あたかも、天使を模したキャラクタ８０９がパチンコ機１０の真上に設置されたデータ表示装置（データランプ）２６２に対して光８０９Ｌを放つことにより、データ表示装置（データランプ）２６２の電飾部２７８を発光させようとしているかのように遊技者に思わせることができる。また、キャラクタ８０９の放つ光８０９Ｌによって電飾部２７８が発光した場合に、時短状態に移行する（チャンスタイムになる）ということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【６０４２】

図５０９（ｂ）は、データ表示装置連動演出の煽り演出が実行された後、実際に時短状態への移行が報知された場合（データ表示装置連動型の時短発動演出が実行された場合）における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図５０９（ｂ）に示した通り、データ表示装置連動型の時短発動演出では、まず、時短状態への移行タイミングにおいて、時短状態中であることを示す信号（大当たり２信号）、および大当たりを介さずに時短状態へと移行したことを示す信号（大当たり３信号）が所定装置（データ表示装置２６２、ホールコンピュータ２７２等）に対して出力されることで、大当たり２信号、および大当たり３信号を受信したデータ表示装置２６２の視認態様が時短状態用の視認態様に設定される。つまり、データ表示装置連動演出の煽り演出においてキャラクタ８０９等によって示唆されていた通りに、データ表示装置２６２の電飾部２７８が光った見た目となる。これに伴って、図５０９（ｂ）に示した通り、リーチ外れの形で仮停止されていた第３図柄の上方から、「チャンスタイム」と記載された第３図柄が降下してきて、停止表示されていた中図柄と降下してきた第３図柄とが置き換わる（停止表示されていた中図柄が押し退けられる）演出が実行される。つまり、あたかもデータ表示装置２６２から「チャンスタイム」と記載された第３図柄が下方に放出されて、当該第３図柄が中図柄と置き換わったかのような演出が実行される。また、天使を模したキャラクタ８０９の右上に対して、「やったね！」という文字が付された吹き出し画像８０９Ｆが表示されると共に、主表示領域Ｄｍの上方から光が漏れ出てくるかのような表示態様に設定される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「チャンスタイムＧＥＴ！」という文字が表示される。これらの表示態様により、あたかもデータ表示装置２６２とパチンコ機１０とが連動して１の演出態様を形成しているかのような斬新な演出態様を実現することができる。また、あたかもデータ表示装置２６２によって時短状態に移行させたかのような斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０４３】

次に、図５１０を参照して、本第１６制御例における保留変化演出について説明する。ここで、保留変化演出とは、小表示領域Ｄｍ９に対して表示される保留球数図柄の表示態様を先読み結果に応じて可変させる演出のことである。図５１０（ａ）に示した通り、本第１６制御例においては、保留球数図柄の表示態様として、少なくとも６種類の表示態様が設けられている。より具体的には、図５１０（ａ）に示した通り、黒塗りの円形の図柄で構成される通常（デフォルト）の表示態様（ノーマル保留）と、白抜きの円形の内側に×が記された図柄で構成され、比較的大当たりとなる期待度も時短状態となる期待度も低いことを示唆する表示態様（変化１保留）と、白抜きの円を模した図柄で構成され、大当たりとなる期待度が中程度であるが、時短状態となる期待度が低いことを示唆する表示態様（変化２保留）と、二重丸を模した図形で構成され、比較的大当たりとなる期待度は高いが、時短状態となる期待度は低いことを示唆する表示態様（変化３保留）と、白抜きの円形の内側に十字が記された図形で構成され、大当たりとなる期待度は低いが時短状態となる期待度が高いことを示唆する表示態様（変化４保留）と、白抜きの円形の内側に星を模した図形が記載された図柄で構成され、大当たりと時短状態とのどちらかの先読み結果

となった場合にのみ表示され得る表示態様（変化５保留）と、の６種類が設けられている。

【６０４４】

本第１６制御例では、通常状態において第１特別図柄の始動入賞を検出すると、当該始動入賞に基づいて取得された各種カウンタ値（乱数値）から抽選結果を先読みして、先読み結果に応じた抽選確率で、始動入賞に基づいて増加した保留球を示す保留球数図柄の表示態様が決定される。これにより、特別図柄の抽選が実際に開始されるよりも前から、大当たりとなる期待感や時短状態となる期待感を遊技者に対して抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。なお、抽選結果（変動種別）毎の各表示態様の選択比率については、図５２１を参照して後述する。

【６０４５】

次に、図５１０（ｂ）を参照して、本第１６制御例において保留変化演出が抑制される条件について説明する。ここで、上述した通り、本第１６制御例では、パチンコ機１０の初期化後、若しくは大当たり終了後において、予め定められている天井抽選回数（５００回）に渡って連続して大当たりとは異なる抽選結果（時短図柄当選および小当たり当選を含む外れ抽選結果）となった場合に、天井抽選回数（５００回）目の変動表示の終了後に第３時短状態へと移行する構成としている。つまり、天井抽選回数の前後において、左打ちにより主として第１特別図柄の抽選を実行させることにより遊技を進行させる通常遊技状態から、右打ちにより主として第２特別図柄の抽選を実行させることにより遊技を進行させる第３時短状態に切り替わる。本第１６制御例では、この遊技状態の切り替わりを跨いでノーマル保留以外の表示態様の保留球数図柄（変化１～変化５）が表示され続けることを抑制する構成としている。

【６０４６】

ここで、本第１６制御例では、特に第１特別図柄について、時短状態中に大当たりとなった方が、時短状態の終了後に大当たりとなるよりも有利度合いが高くなるように構成している。より具体的には、通常遊技状態において第１特別図柄の抽選で特殊大当たりに当選した場合は、大当たり終了後も通常遊技状態が設定されるが、時短状態の間に特殊大当たりに当選すると、大当たり終了後も時短状態が設定されるように構成されている。加えて、本第１６制御例では、第１３制御例等と同様に、第１特別図柄の抽選よりも第２特別図柄の抽選の方が優先的に実行されるように構成されている。つまり、第１特別図柄の保留球と第２特別図柄の保留球とが共に１個以上保留されている状況において新たに特別図柄の抽選条件が成立した場合（変動表示が終了した場合や、大当たりが終了した場合等）に、第２特別図柄の保留球に基づく特別図柄の抽選を優先して実行するように構成されている。このため、時短状態において第１特別図柄の保留球と第２特別図柄の保留球とが共に１以上保留されている状況下においては、ある程度、第１特別図柄の保留球に基づく抽選を実行させるタイミングを遊技者が調整可能となる。このため、第１特別図柄の保留球数図柄として、比較的大当たりの期待度が高い変化３や変化５の表示態様の保留球数図柄が表示された状態で第３時短状態へと移行すると、第２特別図柄の抽選を実行させずに期待度が高い保留球に基づく抽選結果を確認しようと遊技者に思わせてしまう可能性がある。つまり、時短状態の間に大当たりとなる方が有利度合いが高くなる第１特別図柄の抽選において、大当たり期待度が高い保留球に基づく抽選を第３時短状態が終了する前に実行させておこうと思わせてしまう可能性がある。つまり、第３時短状態への以降の前後で変化保留を表示させ続けると、遊技者にとって過剰に有利となってしまう虞がある。

【６０４７】

そこで、本第１６制御例では、第３時短状態に切り替わるタイミングを跨いでノーマル保留以外の表示態様の保留球数図柄（変化１～変化５）が表示され続けること（および時短状態の間に第１特別図柄の保留変化演出が実行されること）を抑制するために、保留変化演出の禁止状態（特図１先読み演出禁止状態）を設定する構成としている。より具体的には、図５１０（ｂ）に示した通り、天井抽選回数（５００回）目の特別図柄の抽選に対応する始動入賞を検出し、当該始動入賞に基づく保留球数図柄の表示態様を決定してから

、天井抽選回数（５００回）到達に基づいて設定された第３時短状態が終了するまでの間、特図１先読み演出禁止状態を設定する構成としている。このように構成することで、天井抽選回数に到達する前に保留され、天井抽選回数到達後（第３時短状態へ移行した後）に特別図柄の抽選に用いられる第１特別図柄の保留球の抽選実行タイミングが第３時短状態中となるように故意に遊技球の発射間隔を調節したり、逆に、第１特別図柄の保留球の抽選実行タイミングが第３時短状態中とならないように故意に遊技球の発射間隔を調節する遊技方法が成り立たなくなるように構成することができる。よって、遊技者にとって過剰に有利となりすぎることを抑制することができる。

【６０４８】

次に、図５１１を参照して、本第１６制御例における各遊技状態の間の移行方法について説明する。ここで、図５１１に示した通り、本第１６制御例では、遊技状態として通常状態、第１確変状態、第２時短状態、および第３時短状態の４種類の遊技状態が設けられている。通常状態は、第１３制御例と同様に、特別図柄の低確率状態、および普通図柄の低確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動しない遊技状態で構成されている。つまり、左打ちにより有利度合いが低い第１特別図柄の抽選を実行させることで遊技を進行させる必要がある遊技者にとって不利な遊技状態で構成されている。

【６０４９】

また、第１確変状態は、特別図柄の高確率状態、および普通図柄の高確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成され、大当たり当選確率が高い上に右打ちにより有利な第２特別図柄の抽選を頻繁に実行させることができる遊技者にとって最も有利な遊技状態で構成される。また、第２時短状態は、特別図柄の低確率状態、および普通図柄の高確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されるので、大当たり確率が低い分、第１確変状態よりは有利度合いが低いものの、右打ちにより第２特別図柄の抽選が頻繁に実行される分、通常状態よりは有利度合いが高い遊技状態で構成される。

【６０５０】

更に、第３時短状態は、特別図柄の低確率状態、および普通図柄の低確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されている。つまり、第２時短状態に対して、普通図柄の当たり確率が低い分、有利度合いが低くなるが、通常状態よりは有利度合いが高い遊技状態で構成される。ここで、本第１６制御例では、第１３制御例と同様に、普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１個しか異ならないように構成している。このため、有利度合いの差（第２時短状態に対して第３時短状態の有利度合いが低いこと）を遊技者が体感困難にすることができる。よって、第３時短状態に移行した場合に、第２時短状態に移行した場合と同等の価値を得たかのように遊技者に思わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０５１】

まず、図５１１の上部を参照して、通常状態から他の遊技状態への移行方法について説明する。図５１１の上部に示した通り、通常状態から他の状態へは、大当たりに当選した場合、時短図柄に当選した場合、および大当たりに当選することなく天井抽選回数に到達した場合に移行する可能性がある。具体的には、図５１１の上部に示した通り、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に８０％の割合で決定される大当たりＡ１６に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が遊技者にとって最も有利な第１確変状態に設定される。また、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に１０％の割合で決定される大当たりＢ１６に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第１確変状態よりも有利度合いが低い第２時短状態に設定される。また、通常状態において第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合にも、同様に第２時短状態に設定される。更に、通常状態において天井抽選回数に到達した場合は、第３時短状態に設定される。一方で、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に１０％の割合で決定される特殊大当たりに当選した場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度通常状態に設定される

（通常状態をループする）。このため、通常状態においては、基本的に特別図柄の抽選で大当たりに当選して、第１確変状態へと移行させることを期待する遊技性となる。また、大当たりに当選せずにある程度の抽選回数が経過した（所謂、ハマりが発生した）場合は、天井抽選回数に到達することにも期待して遊技を行わせることができる。

【６０５２】

次に、図５１１の中央左側を参照して、第１確変状態から他の遊技状態への移行方法について説明する。図５１１の中央左側に示した通り、第１確変状態から他の遊技状態へは、大当たりに当選するか、または前回の大当たり終了後に設定された確変回数が経過した（確変カウンタ２０３ｉの値が０になった）場合に移行する可能性がある。より具体的には、図５１１の中央左側に示した通り、第１確変状態において第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に２０％の割合で決定される大当たりＥ１６に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態に設定される。また、第１確変状態において確変回数が経過する（確変カウンタ２０３ｉの値が０になる）と、遊技状態が通常状態に設定される。一方で、第１確変状態において第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に８０％の割合で決定される大当たりＣ１６，Ｄ１６のどちらかに当選すると、大当たり終了後の遊技状態が再度第１確変状態に設定される（第１確変状態をループする）。よって、第１確変状態においては、確変回数が経過する前に大当たりに当選し、且つ、大当たりＣ１６，Ｄ１６に当選することを期待する遊技性となる。

【６０５３】

なお、第２確変状態においても左打ちを行うことで第１特別図柄の抽選が実行され得るように構成されている。第１特別図柄の抽選で大当たりＢ１６又は特殊大当たりが決定された場合には、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態に設定される。一方、第１特別図柄の抽選で大当たりＡ１６が決定された場合には、第１確変状態をループする。なお、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合は、既に普通図柄の時短状態が設定されているため遊技状態が変更されることはない。厳密に言えば、時短図柄に当選すると時短回数が１００回に再セットされる（時短カウンタ２０３ｈに１００がセットされる）一方で、時短図柄当選により確変回数（確変カウンタ２０３ｉの値）は変更されないため、この場合は確変回数と時短回数とがずれるという事象が発生する。よって、図示については省略したが、このイレギュラーな事象が発生した場合にのみ、第１確変状態において確変回数が経過しても時短回数が残存しているという状況が発生し、第２時短状態へと移行する。

【６０５４】

次に、図５１１の第１確変状態よりも右側部分を参照して、第２時短状態および第３時短状態から他の遊技状態への移行方法について説明する。なお、第２時短状態と第３時短状態とで、他の遊技状態への移行方法はほぼ共通となるため、ここではまとめて時短状態として説明を行う。図５１１の中央右側部分に示した通り、時短状態から他の遊技状態へは、大当たりに当選するか、または時短回数が経過した（時短カウンタ２０３ｈの値が０になった）場合に移行する可能性がある。より具体的には、図５１１の中央右側部分に示した通り、時短状態において第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に８０％の割合で決定される大当たりＣ１６，Ｄ１６のいずれかとなった場合に、大当たり終了後の遊技状態が第１確変状態に設定される。また、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に２０％の割合で決定される大当たりＥ１６に当選した場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度、第２時短状態に設定される（大当たり当選時の時短状態が第２時短状態であった場合は第２時短状態をループし、第３時短状態である場合は第２時短状態に移行する）。また、時短回数が経過した場合は、通常状態へと直接移行する。なお、図示については省略したが、第３時短状態において遊技者が左打ちを行う等により第１特別図柄の抽選が実行され、且つ、時短図柄に当選した場合は、第２時短状態に移行する。

【６０５５】

このように、本第１６制御例では、大当たりに当選した場合、時短図柄に当選した場合、および天井抽選回数に到達した場合等、様々な契機で遊技状態が変更される。よって、

より多くのタイミングで有利度合いが高い遊技状態への移行を期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６０５６】

＜第１６制御例における電気的構成＞

次に、図５１２を参照して、本第１６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明する。図５１２は、本第１６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。図５１２に示した通り、本第１６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成は、上述した第１３制御例（および第１制御例）における電気的構成（図１３７参照）に対して、主制御装置１１０の入出力ポート２０５、および払出制御装置１１１の入出力ポート２１５に対して、外部出力端子板２６１が接続されている点でのみ相違している。その他の構成については上述した第１３制御例（および第１制御例）における電気的構成（図１３７参照）と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６０５７】

本第１６制御例のパチンコ機１０では、この外部出力端子板２６１を介して、始動入賞を示す情報や、賞球の個数を示す情報、大当たり遊技の実行中であるか否か等の遊技の状況に応じた情報をパチンコ機１０の外部へと出力可能に構成されている。外部出力されたデータは、外部出力端子板２６１と電気的に接続されているデータ表示装置２６２、およびホールコンピュータ２６３によって受信される。データ表示装置２６２は、電気的に接続されている１のパチンコ機１０から出力された情報を集計すると共に、集計したデータを遊技履歴としてデータ表示部２７６に表示可能に構成されている。また、ホールコンピュータ２６３は、ホールに設置されている複数のパチンコ機１０に対して電気的に接続され、各パチンコ機１０から出力された情報を個別に集計可能に構成されている。より具体的には、ホールコンピュータ２６３の有するハードディスク２８９（図５１３参照）に、ホールに設置されている各パチンコ機１０に対応するデータ格納エリアが設けられており、外部出力端子板２６１よりデータを受信する度に、データを出力したパチンコ機１０に対応するデータ格納エリアの内容を更新する。このデータ格納エリアに記憶された内容に基づいて、各パチンコ機１０の遊技履歴（日にち毎の大当たり回数や変動回数、各大当たりにおいて遊技球が入球した抽選装置７００の入球口等）、出玉率、稼働率、不正行為や異常の有無等を把握できるように構成されている。

【６０５８】

なお、外部出力端子板２６１は、ＣＮ１～ＣＮ１１の１１の出力チャンネルを有して構成されている。これらの１１チャンネルからは、それぞれＨ出力の信号（例えば、５ボルトの出力）、またはＬ出力の信号（例えば、０ボルトの出力）のうち、いずれかの信号を出力可能に構成されている。なお、これら各チャンネルは、遊技状態や遊技の状況等の遊技の情報を出力するためのピンの他に、グランドピンが設けられている。即ち、各チャンネルは２本のピンで１組となっている。上記グランドピンは、外部出力端子板２６１の共通のグランドに接続されており、常に０ボルトが出力されるように構成されている。データ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３は、このグランドピンから出力される０ボルトの基準電圧と、情報を出力するためのピンから出力される電圧とを比較することにより、情報を出力するためのピンの状態がＨ出力の状態であるかＬ出力の状態であるかを容易に判別することができる。なお、必ずしも各チャンネルにグランドピンを設ける必要はない。例えば、０ボルトの基準電圧を出力するための専用チャンネルを設けてもよい。これにより、各チャンネルのピン数を１本ずつ削減できるので、ハーネスの本数、およびコネクタ数を削減することにより、パチンコ機１０のコストダウンを図ることができる。

【６０５９】

次に、図５１３を参照して、本第１６制御例におけるパチンコ機１０、データ表示装置２６２、およびホールコンピュータ２６３で構成される遊技システムの構成について説明する。図５１３に示した通り、パチンコ機１０の外部出力端子板２６１と、データ表示装置２６２およびホールコンピュータ２６３とは、電気的に接続されている。即ち、データ

表示装置２６２の入出力ポート２７５、およびホールコンピュータ２６３の入出力ポートに対して、外部出力端子板２６１へと続く信号線が接続されている。

【６０６０】

また、図５１３に示した通り、データ表示装置２６２は、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２７１が搭載されている。ＭＰＵ２７１には、該ＭＰＵ２７１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２７２と、そのＲＯＭ２７２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２７３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。また、データ表示装置２６２の入出力ポート２７５に対しては、例えば、液晶ディスプレイ等で構成され、遊技履歴等のデータを表示することが可能に構成されたデータ表示部２７６と、データ表示部２７６の表示内容を切り替えるための入力操作を受付可能な入力装置２７７と、ＬＥＤ等の発光部材で構成された電飾部２７８と、が少なくとも接続されている。ＭＰＵ２７１は、ＲＯＭ２７２およびＲＡＭ２７３に格納されているデータに基づいて、データ表示部２７６の表示内容を制御すると共に、入力装置２７７に対する入力操作の有無を監視して、入力操作を検出した場合にデータ表示部２７６の表示内容を切り替える。また、外部出力端子板２６１から出力される各種信号を監視して、ＲＡＭ２７３に記憶される遊技履歴の情報を更新すると共に、データ表示部２７６の表示態様を更新したり、電飾部２７８の発光態様を更新したりする。これらにより、パチンコ機１０の遊技履歴をタイムラグ無くデータ表示部２７６に表示させておくことができるので、遊技者の利便性を向上させることができる。

【６０６１】

また、図５１３に示した通り、ホールコンピュータ２６３は、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２８１が搭載されている。ＭＰＵ２８１には、該ＭＰＵ２８１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２８２と、そのＲＯＭ２８２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２８３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。また、ホールコンピュータ２６３の入出力ポート２８５に対しては、所定の音声を出力可能なスピーカー２８６と、液晶ディスプレイ等で構成され、遊技履歴等のデータを表示することが可能に構成されたディスプレイ２８７と、キーボード等で構成され、ディスプレイ２８７に対する表示内容を切り替えるため等の入力操作を受付可能な入力装置２８８と、が少なくとも接続されている。更に、ホールコンピュータ２６３には、ホールに設置されている複数のパチンコ機１０の遊技履歴を個別二集計するためのハードディスク２８９が内蔵されている。ＭＰＵ２８１は、ＲＯＭ２８２、ＲＡＭ２８３、およびハードディスク２８９に格納されているデータに基づいて、ディスプレイ２８７の表示内容を制御すると共に、入力装置２８８に対する入力操作の有無を監視して、入力操作を検出した場合にデータ表示部２８７の表示内容を切り替える。また、外部出力端子板２６１から出力される各種信号を監視して、ハードディスク２８９に記憶される遊技履歴の情報を更新すると共に、ディスプレイ２８７の表示態様を更新したり、スピーカー２８６から出力される音声を制御する。これらにより、ホールに設置されている複数のパチンコ機１０の遊技履歴や遊技状況をタイムラグ無くディスプレイ２８７に表示させておくことができるので、ホールコンピュータの操作者（主にホールの店員等）の利便性を向上させることができる。

【６０６２】

次に、外部出力端子板２６１からパチンコ機１０の外部へと出力される信号の詳細について、図５１４を参照して説明を行う。図５１４に示した通り、外部出力端子板２６１には、ＣＮ１～ＣＮ１１までの１１チャンネルが設けられており、各チャンネルから遊技の状況に応じた信号が出力される。具体的には、ＣＮ１からは、パチンコ機１０から払い出された賞球が１０球となったことを示す払出信号が出力される。この払出信号は、払い出した賞球数が１０球となる毎にＨ出力が０．２秒間継続するように構成されている（図５８のＳ２９０６参照）。ホールコンピュータ２６２は、この払出信号に基づいて各パチン

コ機１０から払い出された賞球数を把握可能に構成されている。これにより、各パチンコ機１０の出玉率やホールの売り上げを算出することができる。

【６０６３】

外部出力端子板２６１のＣＮ２からは、パチンコ機１０の内枠１２が開放されているか否かを示す内枠開放信号が出力される。この内枠開放信号は、内枠１２が開放状態の間、その出力がＨに設定され、内枠１２が閉鎖状態の間、その出力がＬに設定される。ホールコンピュータ２６３は、この内枠開放信号に基づいて、各パチンコ機１０の内枠１２が不正遊技者によって開放されているか否かを把握することができるので、不正行為を抑制することができる。

【６０６４】

外部出力端子板２６１のＣＮ３からは、パチンコ機１０の前面枠１４が開放されているか否かを示す扉開放信号が出力される。この扉開放信号は、前面枠１４が開放状態の間、その出力がＨに設定され、前面枠１４が閉鎖状態の間、その出力がＬに設定される。ホールコンピュータ２６３は、この扉開放信号に基づいて、各パチンコ機１０の前面枠１４が不正遊技者によって開放されているか否かを把握することができるので、不正行為を抑制することができる。

【６０６５】

外部出力端子板２６１のＣＮ４からは、特別図柄の変動が停止したことを示す図柄停止信号が出力される。この図柄停止信号は、特別図柄の変動が停止することに基づいて、１秒間Ｈ出力の状態に設定される（図３１のＳ２１２参照）。ホールコンピュータ２６２は、図柄停止信号に基づいて各パチンコ機１０の特別図柄の変動回数を把握することができる。

【６０６６】

外部出力端子板２６１のＣＮ５からは、第１入球口６４または第２入球口６４０に対する始動入賞を検出したことを示す信号である始動入賞信号が出力される。この始動入賞信号は、始動入賞を検出する毎に出力がＨに設定される。また、Ｈ出力は０．２秒間継続するように構成されている。ホールコンピュータ２６３は、この始動入賞信号に基づいて各パチンコ機１０の始動入賞を把握可能に構成されている。

【６０６７】

外部出力端子板２６１のＣＮ６からは、アウト口６６へと入球した遊技球が１０球となる毎に出力がＨとなる（ハイ出力となる）アウト球検出信号が出力される。このアウト球検出信号は、１０球のアウト球を検出する度に０．２秒間Ｈ出力の状態に保たれた後にＬ出力状態に設定される。ホールコンピュータ２６３は、このアウト球検出信号に基づいて、各パチンコ機１０のアウト球数を把握可能に構成されている。

【６０６８】

外部出力端子板２６１のＣＮ７からは、パチンコ機１０が大当たり状態中であるか否かを示す大当たり１信号が出力される。この大当たり１信号は、特別図柄の大当たりの間、その出力がＨに設定され、大当たり以外の状態の場合に、その出力がＬに設定される。ホールコンピュータ２６３は、この大当たり１信号に基づいて、各パチンコ機１０の大当たり回数や、不正行為の有無を判別することができる。具体的には、この大当たり１信号がＨ出力の状態に設定されると、ホールコンピュータ２６３は、パチンコ機１０の大当たり回数に１を加算し、大当たり回数をリアルタイムで把握することができるように構成されている。この大当たり回数に基づいて、異常な回数の大当たりが発生している場合には、異常や不正行為の可能性があると判断し、異常を報知することができる。

【６０６９】

外部出力端子板２６１のＣＮ８からは、パチンコ機１０が普通図柄の時短状態中であるか否かを示す大当たり２信号が出力される。この大当たり２信号は、普通図柄の時短状態に設定されている間、その出力がＨに設定され、普通図柄の時短状態以外の状態の場合に、その出力がＬに設定される。ホールコンピュータ２６３は、この大当たり２信号に基づいて、各パチンコ機１０の連チャン回数や、不正行為の有無を判別することができる。具

体的には、この大当たり２信号がＨ出力の状態の間に大当たりに当選して大当たり１信号が出力されると、ホールコンピュータ２６３は、パチンコ機１０の連チャン回数に１を加算し、大当たりの連チャン回数をリアルタイムで把握することができるように構成されている。この大当たりの連チャン回数に基づいて、異常な回数の連チャン大当たりが発生している場合には、異常や不正行為の可能性があると判断し、異常を報知することができる。

【６０７０】

外部出力端子板２６１のＣＮ９からは、パチンコ機１０が大当たり状態である場合、第３時短状態の開始時および終了時を示す大当たり３信号が出力される。この大当たり３信号は、大当たり１信号と同様に大当たり遊技の実行中にその出力がＨに設定されるのに加え、天井抽選回数に到達して第３時短状態が開始される場合、および第３時短状態が終了される場合に０．２秒間の間その出力がＨに設定される。この大当たり３信号により、大当たり遊技状態であることを示す情報、天井抽選回数到達に係る第３時短状態が開始されたことを示す情報、および第３時短状態が終了されたことを示す情報を、１のチャンネルのみで信号出力態様を異ならせて出力することができる。

【６０７１】

なお、大当たり１信号と同様に、大当たり遊技の実行中もＣＮ９をＨ出力の状態とすることにより、外部出力端子板２６１を介して電気的に接続されている所定装置（データ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３）のスペックに応じて受信する情報を選択させることができる。即ち、本パチンコ機１０に搭載されている、天井抽選回数到達に基づいて時短状態へと移行させる機能は、大当たりを介さずに有利な遊技状態へと移行させるという非常に特殊な機能であり、所定装置のスペックによっては、天井抽選回数到達に基づく時短状態への移行を正常なものとして取り扱うことができない虞がある。つまり、大当たりを示す信号を受信せずに時短状態を示す信号が受信されると、不正により大当たりを介さずに時短状態に移行されたと判別されたり、パチンコ機１０に異常が発生した出力無効と判別されてしまう虞がある。よって、本第１６制御例では、大当たり３信号として、大当たり遊技の実行中だけでなく、天井抽選回数に到達した際もＨ出力の状態に設定される信号を設ける構成とすることで、天井抽選回数に到達したことに基づいて移行する時短状態を、外部出力端子板２６１に接続されている所定装置のスペックによらず、正常なものとして取り扱わせることができる。つまり、大当たりを示す信号を受信せずに時短状態を示す信号を受信した場合に、不正や異常と判断する仕様であっても、大当たり３信号を大当たりを示す信号として入力しておけば、天井抽選回数に到達した場合にも、疑似的に、大当たりとなった後で時短状態に移行したかのような信号出力態様を実現することができる。つまり、大当たりを示す大当たり３信号が０．２秒間Ｈ出力の状態に設定されると共に、時短状態への移行を示す大当たり２信号がＨ出力の状態に設定されるので、正当な時短状態への移行と判断させることができる。よって、天井抽選回数到達に基づいて設定された時短状態が不正や異常と判断されてしまうことを抑制することができる。なお、天井抽選回数到達に基づく時短状態を識別可能な仕様の所定装置の場合は、大当たり３信号の出力期間を判別することで、天井抽選回数に到達したことに基づくＨ出力であるのか、大当たり当選に基づくＨ出力であるのかを区別することができる。よって、所定装置のスペックによらず、天井抽選回数に到達したことに基づく時短状態への移行を正当なものとして取り扱わせることができる。

【６０７２】

外部出力端子板２６１のＣＮ１０からは、遊技球が各種入賞口へと入賞したことに基づいて払い出すべき賞球が１０球となったことを示す入賞検出信号が出力される。この入賞検出信号は、払い出すべき賞球数が１０球となる毎にＨ出力が０．２秒間継続するように構成されている。ホールコンピュータ２６３は、この入賞検出信号に基づいて各パチンコ機１０の賞球数を把握可能に構成されている。

【６０７３】

外部出力端子板２６１のＣＮ１１からは、セキュリティ関連の各種信号が出力される。

より具体的には、パチンコ機１０に対して電源が投入されたことに基づいて、ＣＮ１１の出力が０．２秒間の間Ｈに設定される（電源オン信号）。ホールコンピュータ２６３は、ＣＮ１１がＨ出力となっている期間を計測し、Ｈ出力の期間が０．２秒間であれば、パチンコ機１０に対して電源が投入されたということを判別することができる。また、パチンコ機１０の電源が遮断されたことに基づいて、ＣＮ１１の出力が０．４秒間の間Ｈに設定される（電源オフ信号）。ホールコンピュータ２６３は、ＣＮ１１がＨ出力となっている期間を計測し、Ｈ出力の期間が０．４秒間であれば、パチンコ機１０の電源が遮断されたということを判別することができる。なお、本第１６制御例では、ホールコンピュータ２６３において、電源が遮断された際の遊技状態を記憶しておき、パチンコ機１０に対する電源の投入を検出した際は、記憶しておいた電源遮断時の遊技状態と電源が投入された際の遊技状態とが一致するかを比較する構成としている。つまり、電源投入時に何らかの不正な方法で有利な遊技状態に変更されている可能性があるか否かを判別し、遊技状態が不一致である場合は異常を報知する構成としている。このように構成することで、パチンコ機１０の遊技状態を不正に有利な遊技状態（大当たり遊技状態や第１確変状態）に変更する不正行為に対する抑制を図ることができる。

【６０７４】

なお、大当たり状態中（大当たり１信号がＨ出力の間）に電源が遮断され、再度電源が投入された場合は、電源が遮断されている間にオフ（Ｌ出力の状態）に設定されていた大当たり１信号（ＣＮ７）が再度Ｈ出力の状態となる。この場合に、ホールコンピュータ２６３が大当たり回数を加算してしまうと、実際の大当たり回数とホールコンピュータ２６３が把握する大当たり回数とがずれてしまう。そこで、本第１６制御例のパチンコ機１０では、電源投入時の遊技状態と、前回の電源遮断時の遊技状態とが共に大当たり状態であると判別した場合には、電源が遮断される前から続く大当たり状態であると判別して電源投入時に大当たり回数を加算しない構成としている。よって、ホールコンピュータ２６３に対して大当たりの回数を正確に把握させることができる。

【６０７５】

加えて、外部出力端子板２６１のＣＮ１１は、パチンコ機１０に対して各種の異常（磁気異常、電波異常、スイッチ異常、異常入賞等）が検出された際にもＨ出力の状態に設定される。なお、各種異常を検出した際は、異常が解消されるまでの間、その出力がＨに設定され続ける。ホールコンピュータ２６３は、ＣＮ１１のＨ出力の状態が０．４秒を超えて継続した場合に、異常が発生していると判別することができるので、異常を迅速にスピーカー２８６やディスプレイ２８７において操作者に報知することができる。よって、パチンコ機１０に発生した異常を迅速に解消させることができる。

【６０７６】

このように、本第１６制御例におけるパチンコ機１０では、外部出力端子板２６１のＣＮ１～ＣＮ１１の１１チャンネルのそれぞれから、遊技の状況に応じた信号を出力することによって、パチンコ機１０の外部に設けられた所定装置（データ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３）が遊技の状況を把握することができるように構成されている。データ表示装置２６２は、接続されているパチンコ機１０から出力される各種信号に基づいて遊技の状況を把握し、遊技履歴の表示を更新したり、有利な遊技状態に移行したことを視認態様によって報知することができる。ホールコンピュータ２６３は、各パチンコ機１０から出力される各種信号に基づいて遊技の状況を把握し、各パチンコ機１０の出玉率を把握したり、各パチンコ機１０に対する不正行為の有無を判別したりできる。

【６０７７】

次に、図５１５を参照して、通常遊技中における外部出力端子板２６１の信号出力態様の一例について説明する。図５１５では、ＣＮ４、およびＣＮ７～ＣＮ９の信号出力態様について説明する。図５１５に示した通り、大当たりとなるまでの間は、特別図柄の変動停止タイミングとなる毎に、ＣＮ４が１秒間の間Ｈ出力の状態に設定される。このＣＮ４の出力態様によって、データ表示装置２６２およびホールコンピュータ２６３は、特別図柄の変動回数をカウントすることができる。なお、この間、ＣＮ７～ＣＮ９はＬ出力の状

態が維持される。そして、図５１５に示した通り、特別図柄の抽選で大当たりとなり、当該大当たり当選に基づく大当たり変動の停止タイミングとなってＣＮ４が１秒間のＨ出力状態に設定された後で大当たり遊技の開始タイミングになると、ＣＮ４がＬ出力の状態に設定されると共に、ＣＮ７およびＣＮ９がＨ出力の状態に設定される。このＨ出力の状態は、大当たりの終了タイミングになるまで継続する。これらのＣＮ７およびＣＮ９の出力によって、データ表示装置２６２およびホールコンピュータ２６３は、パチンコ機１０が大当たり状態であることを判別することができる。

【６０７８】

そして、大当たりの終了タイミング（大当たり後の普通図柄の時短状態の設定タイミング）になると、ＣＮ７およびＣＮ９がＬ出力の状態に設定されると共に、ＣＮ８がＨ出力の状態に設定される。このＣＮ８のＨ出力の状態は、大当たり状態に移行するか、普通図柄の通常状態が設定される遊技状態に移行するまでの間維持される。つまり、大当たり終了後の遊技状態が第１確変状態であれば、第１確変状態の間に大当たりに当選して大当たり遊技が開始されるか、第１確変状態において確変回数が経過して通常遊技状態に移行するまでの間、Ｈ出力の状態が維持される。また、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態であれば、第２時短状態の間に大当たりに当選して大当たり遊技が開始されるか、第２時短状態において時短回数が経過して通常遊技状態に移行するまでの間、Ｈ出力の状態が維持される。このＣＮ８の出力態様とＣＮ７およびＣＮ９の出力態様との兼ね合いから、データ表示装置２６２およびホールコンピュータ２６３は、所謂連チャン回数を正確に把握することができる。つまり、ＣＮ８がＬ出力の状態になったと同時にＣＮ７およびＣＮ９がＨ出力の状態に切り替われば、普通図柄の時短状態が設定される遊技状態の間に連チャンが発生したと判別して連チャン回数に１を加算することができる一方で、ＣＮ７およびＣＮ９の状態がＬ出力のままであれば、連チャンが終了したと判別することができる。よって、パチンコ機１０の遊技履歴を正確に判断することができる。

【６０７９】

更に、通常遊技中に天井抽選回数に到達した場合は、第３時短状態への移行タイミングでＣＮ８がＨ出力の状態に設定されると共に、ＣＮ９が０．２秒間Ｈ出力の状態に設定される。つまり、ＣＮ９から大当たり状態に移行した場合には出力され得ない長さ（大当たりのオープニング期間よりも大幅に短い長さ）のＨ出力信号を出力することにより、今回のＨ出力が大当たりを契機とする信号出力ではないということをデータ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３に対して把握させることが可能となる。つまり、大当たりを介さずに時短状態に移行した（天井抽選回数到達により第３時短状態に移行した）ということをデータ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３に対して把握させることができる。

【６０８０】

次に、図５１６を参照して、電源投入時の信号出力態様の一例について説明する。図５１６では、電源投入時が第３時短状態（天井抽選回数到達に基づいて移行した時短状態）中である場合の信号出力態様の一例を示した図である。図５１６に示した通り、パチンコ機１０に対して電源が投入されると、当該電源投入を示すためにセキュリティ信号（ＣＮ１１）が０．２秒間、Ｈ出力の状態に設定される。また、電源投入時の遊技状態が第３時短状態である場合、時短状態中であることを示すための大当たり２信号（ＣＮ８）の出力がＨに立ち上がると共に、第３時短状態であることを示すための大当たり３信号（ＣＮ９）が０．２秒間、Ｈ出力の状態に設定される。これらの信号出力態様により、電源投入時の遊技状態が天井抽選回数への到達に基づいて移行した時短状態（第３時短状態）であるということをデータ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３に対して正確に通知することができる。つまり、電源投入時の状態が普通図柄の時短状態に設定される遊技状態である場合に、大当たり遊技終了後に設定された時短状態（第１確変状態、第２時短状態のいずれか）であるのか、天井抽選回数到達に基づく時短状態（第３時短状態）であるのかを区別して通知することができる。よって、電源の遮断中に不正行為によって遊技状態が変更された可能性があるか否かをホールコンピュータ２６３においてより正確に判別する

ことができるので、不正行為に対する抑制を図ることができる。
【６０８１】
次に、図５１７（ａ）を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図５１７（ａ）は、本第１６制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図５１７（ａ）に示した通り、本第１６制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第１３制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図４４３（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数１３テーブル２０２ｌａに代えて第１当たり乱数１６テーブル２０２ｐａが設けられている点、変動パターン選択５テーブル２０２ｄｂに代えて変動パターン選択１６テーブル２０２ｐｂが設けられている点、大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄに代えて大当たり種別選択テーブル２０２ｐｄが設けられている点、時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅに代えて時短当たり乱数１６テーブル２０２ｐｅが設けられている点で相違している。また、時短種別選択１３テーブル２０２ｌｆが削除されている点でも相違している。その他の構成については上述した第１３制御例におけるＲＯＭ２０２と同一であるため、その詳細な説明については省略する。
【６０８２】
まず、図５１８（ａ）を参照して、本第１６制御例における第１当たり乱数１６テーブル２０２ｐａの詳細について説明する。図５１８（ａ）は、本第１６制御例における第１当たり乱数１６テーブル２０２ｐａの規定内容を示した図である。図５１８（ａ）に示した通り、本第１６制御例における第１当たり乱数１６テーブル２０２ｐａには、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）に加え、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）も規定されている。具体的には、特別図柄の低確率状態、高確率状態に共通で、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「２０～４４」の範囲に対して、小当たりの抽選結果が対応付けて規定されている。第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～９９９」の１０００個のカウンタ値（乱数値）のうち、小当たりと判定されるカウンタ値（乱数値）の個数が「２０～４４」の２５個であるので、特別図柄の抽選で小当たりと判定される確率は１／４０である。この小当たりは、外れ抽選結果の一種であり、上述した通り、特殊大当たり特別困難な開閉動作（特定開閉動作）が特定入賞口６５ａに設定される抽選結果である。この特殊大当たり特別困難な小当たり抽選結果を設けることにより、天井抽選回数までの残り回数がどれだけ残っているのかを遊技者に分かり難くすることができる。つまり、特定開閉動作が実行された（小ボーナスに当選した）場合に、特殊大当たりとなって特図抽選カウンタ２０３ｌａの値がリセットされた（天井抽選回数までの残り回数が５００にリセットされた）のか、小当たりとなって特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が１加算された（天井抽選回数までの残り回数が１減算された）のかを遊技者に分かり難くすることができるので、天井抽選回数までの残り回数を遊技者に予測させる遊技性を付加することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、大当たりと判定されるカウンタ値（乱数値）については、上述した第１３制御例と共通であるため、ここではその詳細な説明については省略する。
【６０８３】
次に、図５１８（ｂ）を参照して、本第１６制御例における変動パターン選択１６テーブル２０２ｐｂの詳細について説明する。図５１８（ｂ）は、本第１６制御例における変動パターン選択１６テーブル２０２ｐｂの構成を示したブロック図である。図５１８（ｂ）に示した通り、本第１６制御例における変動パターン選択１６テーブル２０２ｐｂは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に、特別図柄の抽選結果に応じて変動パターンを選択するための通常用１６テーブル２０２ｐｂ１と、第１確変状態、第２時短状態、および第３時短状態のいずれかにおいて特別図柄の抽選が実行された場合に、特別図柄の抽選結果に応じて変動パターンを選択するための確変・時短用１６テーブル２０２ｐｂ２と、で少なくとも構成されている。
【６０８４】
図５１８（ｃ）を参照して、通常用１６テーブル２０２ｐｂ１の詳細について説明する。図５１８（ｃ）は、この通常用１６テーブル２０２ｐｂ１の規定内容を示した図である

。図５１８（ｃ）に示した通り、通常用１６テーブル２０２ｐｂ１には、変動回数および特別図柄の抽選結果に対応させて、各種変動パターンがそれぞれ規定されており、その変動パターンのそれぞれに対して、変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲が対応付けられている。具体的には、変動回数（特図抽選カウンタ２０３ｌａの値）が５００の場合（即ち、天井抽選回数到達時）は、抽選結果によらず、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（０～１９８）に対して、変動時間が３０秒間のスーパーリーチ変動が対応付けられている。このため、天井抽選回数到達時は、３０秒間の変動時間が必ず設定されるため、天井抽選回数に到達したか否かを示すための演出の演出期間を確実に確保することができる。

【６０８５】

また、天井抽選回数以外の変動回数においては、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒のノーマル（リーチ）が対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「２０～１６９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパー（リーチ）が対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１７０～１９８」に対して、変動パターンとして変動時間が５５秒のＳＰ（リーチ）が対応付けて規定されている。

【６０８６】

また、特別図柄の抽選結果が特殊当たり又は小当たりである（即ち、小ボーナスである）場合、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（０～１９８）に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒間のノーマル（リーチ）が対応付けて規定されている。このため、小ボーナスに当選した場合は、必ず変動時間が１５秒間に設定される。これにより、有利度合いが低い小ボーナスにおいて長い変動時間（３０秒間や５５秒間）が設定されてしまい、ボーナスや第１確変状態への移行を期待させてしまうことを抑制することができ、比較的あっさりと小ボーナスの当選を報知することができるので、遊技者に対して過剰な期待感を抱かせてしまうことを抑制することができる。

【６０８７】

また、特別図柄の抽選結果（当否判定結果）が外れ（時短）、即ち、当否判定結果が時短当選である場合、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１６９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパー（リーチ）が対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１７０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５５秒のＳＰ（リーチ）が対応付けて規定されている。よって、有利な第２時短状態へと移行する場合に、比較的長い変動時間を設定することができるので、長い変動時間の変動表示が実行された場合に、遊技者の大当たりや時短状態への移行に対する期待感をより向上させることができる。

【６０８８】

また、特別図柄の抽選結果（当否判定結果）が外れである場合、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒間の短外れが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１５０～１８９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の長外れが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１９０～１９６」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒のノーマルリーチ外れが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値「１９７」に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒のスーパーリーチ外れが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値「１９８」に対して、変動パターンとして変動時間が５５秒間のＳＰリーチ外れが対応付けて規定されている。よって、抽選結果が単なる外れの場合には、変動時間が短い短外れ又は長外れの選択割合が極めて高くなるので、変動時間が長い変動表示が実行された場合に、大当たりや時短当選に対する期待感を向上させることができる。

【６０８９】

なお、図示については省略したが、確変・時短用１６テーブル２０２ｐｂ２については

、通常用１６テーブル２０２ｐｂ１よりも特別図柄の抽選結果が外れとなった場合に短外れや長外れの選択割合が高くなるように構成されている。これにより、第１確変状態、第２時短状態、および第３時短状態における平均の変動時間を短くすることができるので、有利な普通図柄の時短状態が設定される遊技状態における遊技効率を向上させることができる。よって、普通図柄の時短状態が設定される遊技状態における有利度合いをより高めることができる。

【６０９０】

次に、図５１９（ａ）を参照して、上述した大当たり種別選択１６テーブル２０２ｐｄの詳細について説明する。この大当たり種別選択１６テーブル２０２ｐｄは、第１３制御例における大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄ（図４４５参照）と同様に、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、大当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図５１９（ａ）に示した通り、本第１６制御例における大当たり種別選択１６テーブル２０２ｐｄには、第１特別図柄の大当たり種別として、大当たりＡ１６、大当たりＢ１６、および特殊大当たりの３種類の大当たり種別が規定されている。また、第２特別図柄の大当たり種別として、大当たりＣ１６～Ｅ１６の３種類の大当たり種別が規定されている。

【６０９１】

図５１９（ａ）に示した通り、第１特別図柄に対する規定内容として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～７９」の範囲に対して、「大当たりＡ１６」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ１６」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態が確変回数８０回の第１確変状態に設定される大当たり種別である。即ち、大当たり終了時に時短カウンタ２０３ｈ、および確変カウンタ２０３ｉに対して共にカウンタ値８０が設定される大当たり種別である。本第１６制御例においては、第１確変状態が最も有利な遊技状態として構成されるため、大当たりＡ１６は、第１特別図柄の大当たりの中で最も有利な大当たり種別である。また、ラウンド数としても、第１特別図柄の大当たり種別の中では最もラウンド数の多い（賞球面で有利な）大当たり種別となるが、第２特別図柄の各大当たりに比較すると、ラウンド数が少ない（賞球面で不利な）大当たり種別となる。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ１６」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「０～７９」の８０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に大当たり種別として「大当たりＡ１６」が決定（特定）される割合は８０％（８０／１００）である。

【６０９２】

また、図５１９（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～８９」の範囲に対して、「大当たりＢ１６」が対応付けて規定されている。この「大当たりＢ１６」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態が時短回数１００回の第２時短状態に設定される大当たり種別である。即ち、大当たり終了時に時短カウンタ２０３ｈに対してカウンタ値１００が設定される大当たり種別である。本第１６制御例では、第１確変状態よりも第２時短状態の方が、特別図柄の大当たりとなる確率が低くなる（第１確変状態の大当たり確率が１／５０に対し、第２時短状態の大当たり確率は１／２００）ため、時短回数が２０回多いことを加味しても、「大当たりＢ１６」は、大当たり終了後の遊技状態の面で、「大当たりＡ１６」よりも有利度合いが低い（不利な）大当たり種別となる。また、ラウンド数の面では、「大当たりＡ１６」と並んで第１特別図柄の大当たり種別の中では最もラウンド数の多い（賞球面で有利な）大当たり種別となるが、第２特別図柄の各大当たりに比較すると、ラウンド数が少ない（賞球面で不利な）大当たり種別となる。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ１６」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「８０～８９」の１０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に大当たり種別として「大当たりＢ１６」が決定（特定）される割合は１０％（１０／１００）である。

【６０９３】
　また、図５１９（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９０～９９」の範囲に対して、「特殊大当たり」が対応付けて規定されている。この「特殊大当たり」は、特定入賞口６５ａの開閉動作として小当たり遊技と共通の特定開閉動作（賞球をほとんど得ることができない開閉動作）が設定される大当たり種別あり、大当たり終了後の遊技状態が通常状態に設定される大当たり種別である。このため、「特殊大当たり」は、ラウンド数の面でも大当たり終了後の遊技状態の面でも遊技者にとって最も有利度合いが低い大当たり種別として構成される。なお、大当たり当選時の遊技状態が通常状態以外の遊技状態（普通図柄の時短状態が設定される遊技状態）であった場合は、特殊大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態に設定される。これは、第１特別図柄の保留球が１以上存在する状態で普通図柄の時短状態が設定される遊技状態に移行し、その後に第１特別図柄の保留球に基づく抽選で特殊大当たりとなった場合に通常状態に移行させる構成とした場合、遊技者にとって過剰に不利となってしまう可能性があるため、これを救済する趣旨である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「特殊大当たり」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「９０～９９」の１０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に大当たり種別として「特殊大当たり」が決定（特定）される割合は１０％（１０／１００）である。
【６０９４】
　一方、第２特別図柄に対する規定内容として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して、「大当たりＣ１６」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ１６」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、「大当たりＡ１６」と同様に、大当たり終了後の遊技状態が確変回数８０回の第１確変状態に設定される大当たり種別である。この「大当たりＣ１６」は、全ての大当たり種別の中でラウンド数が最も多く、且つ、大当たり終了後の遊技状態についても最も有利な第１確変状態に設定されるため、全ての大当たりの中で最も有利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＣ１６」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「０～４９」の５０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に大当たり種別として「大当たりＣ１６」が決定（特定）される割合は５０％（５０／１００）である。
【６０９５】
　また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～７９」の範囲に対して、「大当たりＤ１６」が対応付けて規定されている。この「大当たりＤ１６」は、ラウンド数が６ラウンドであり、「大当たりＡ１６」や「大当たりＣ１６」と同様に、大当たり終了後の遊技状態が確変回数８０回の第１確変状態に設定される大当たり種別である。この「大当たりＤ１６」は、「大当たりＣ１６」に次いでラウンド数が多く、且つ、大当たり終了後の遊技状態が最も有利な第１確変状態に設定されるため、「大当たりＣ１６」に次いで有利となる大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＤ１６」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「５０～７９」の３０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に大当たり種別として「大当たりＤ１６」が決定（特定）される割合は３０％（３０／１００）である。
【６０９６】
　また、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲に対して、「大当たりＥ１６」が対応付けて規定されている。この「大当たりＥ１６」は、ラウンド数が６ラウンドであり、「大当たりＢ１６」と同様に、大当たり終了後の遊技状態が時短回数１００回の第２時短状態に設定される大当たり種別である。この「大当たりＥ１６」は、「大当たりＤ１６」と同様に、「大当たりＣ１６」に次いでラウンド数が多い大当たり種別であるが、大当たり終了後の遊技状態の面では「大当たりＢ１６」と同様に、比較的有利度合いが低い大当たり種別である。

【６０９７】
次に、図５１９（ｂ）を参照して、上述した時短当たり乱数１６テーブル２０２ｐｅの詳細について説明する。この時短当たり乱数１６テーブル２０２ｐｅは、上述した第１３制御例における時短当たり乱数１３テーブル２０２ｌｅ（図４４４（ｃ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で時短当選と判定される判定値（乱数値）が規定されているデータテーブルである。図５１９（ｂ）に示した通り、本第１６制御例では、第１特別図柄の抽選で時短当選と判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）として、「９９８，９９９」の２個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～９９９」の１０００個の乱数値（カウンタ値）のうち、時短当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２個であるため、第１６制御例において第１特別図柄の抽選が実行された場合に時短当選と判定される確率は１／５００（２／１０００）である。一方で、図５１９（ｂ）に示した通り、第２特別図柄に対しては、時短当選と判定される乱数値（カウンタ値）が対応付けられていないため、第２特別図柄の抽選で時短当選と判定される可能性は０である。
【６０９８】
次に、図５１７（ｂ）を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図５１７（ｂ）は、本第１６制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図５１７（ｂ）に示した通り、本第１６制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第１３制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図４４３（ｂ）参照）に対して、天井時短フラグ２０３ｐａと、アウト球カウンタ２０３ｐｂと、が追加されている点で相違している。また、第１天井待機フラグ２０３ｌｂ、および第２天井待機フラグ２０３ｌｃが削除されている点でも相違している。その他の構成については上述した第１３制御例におけるＲＡＭ２０３と同一であるため、その詳細な説明については省略する。
【６０９９】
天井時短フラグ２０３ｐａは、現在の遊技状態が天井抽選回数に到達したことに基づいて設定された時短状態（第３時短状態）であるか否かを示すためのフラグである。この天井時短フラグ２０３ｐａがオンであれば、第３時短状態であることを意味し、オフであれば、現在の遊技状態が第３時短状態ではないことを意味する。この天井時短フラグ２０３ｐａは、初期状態がオフに設定され、天井抽選回数に到達して第３時短状態が設定された場合にオンに設定される（図５２６のＳ３８１１６Ａ参照）。また、大当たりに当選した場合、および第３遊技状態の間に大当たりに当選することなく時短回数（１００回）が経過した場合にオフに設定される（図５２５のＳ８３１２Ａ参照）。この天井時短フラグ２０３ｐａの状態によって第２時短状態であるか第３時短状態であるかを容易に識別することができるため、第２時短状態では普通図柄の高確率状態に対応する抽選確率で普通図柄の抽選を実行することができる一方で、第３時短状態では普通図柄の低確率状態に対応する抽選確率で普通図柄の抽選を実行することができる。よって、遊技状態毎に適切な普通図柄の抽選を実行することができる。
【６１００】
アウト球カウンタ２０３ｐｂは、アウト口６６へと入球した遊技球（アウト球）の個数をカウントするためのカウンタである。このアウト球カウンタ２０３ｐｂは、初期値が０に設定されており、アウト球を検出する毎に値が１ずつ加算して更新される（図５２９のＳ１４２Ａ）。また、アウト球カウンタ２０３ｐｂの値が１０に更新される（１０個のアウト球を検出する）と、値が０クリアされる（図５２９のＳ１４４Ａ）。このアウト球カウンタ２０３ｐｂの値が１０になる毎に、外部出力端子板２６１からアウト球検出信号（ＣＮ６）を出力することができるので、パチンコ機１０のアウト球数をホールコンピュータ２６３等のパチンコ機１０に接続されている所定装置が正確に把握することができる。
【６１０１】
次に、図５２０（ａ）を参照して、本第１６制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の詳細について説明する。図５２０（ａ）は、本第１６

制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示したブロック図である。図５２０（ａ）に示した通り、本第１６制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第１３制御例におけるＲＯＭ２２２の構成（図４４７（ａ）参照）に対して、保留態様選択テーブル２２２ｐａと、時短示唆演出選択テーブル２２２ｐｂと、が追加されている点で相違している。また、天井到達示唆演出選択テーブル２２２ｌａと、天井到達時演出選択テーブル２２２ｌｂと、が削除されている点でも相違している。

【６１０２】

まず、図５２１を参照して、上述した保留態様選択テーブル２２２ｐａの詳細について説明する。この保留態様選択テーブル２２２ｐａは、新たな始動入賞を検出した際に、当該始動入賞に基づいて取得された各種カウンタ値の先読み結果に応じて、当該始動入賞により増加した保留球を示す保留球数図柄の表示態様を選択するために参照されるデータテーブルである。図５２１は、この保留態様選択テーブル２２２ｐａの規定内容を示した図である。図５２１に示した通り、この保留態様選択テーブル２２２ｐａは、新たな始動入賞に基づいて取得された各種カウンタ値（乱数値）に基づく先読み結果（変動種別）毎に、保留球数図柄の表示態様として設定され得る６種類の表示態様（図５１０（ａ）参照）のそれぞれを選択すると判定される判定値（演出カウンタ２２３ｆの値）の範囲が対応付けて規定されている。

【６１０３】

具体的には、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「ＳＰリーチ当たり」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様（デフォルトの表示態様）が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５～１９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様（大当たり期待度も、時短期待度も共に低いことを示唆する表示態様）が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～４４」の範囲に対して、「変化２」の表示態様（大当たり期待度が中程度で、時短期待度が低いことを示唆する表示態様）が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「４５～８４」の範囲に対して、「変化３」の表示態様（大当たり期待度が高く、時短期待度が低いことを示唆する表示態様）が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「８５～８９」の範囲に対して、「変化４」の表示態様（大当たり期待度が低く、時短期待度が高いことを示唆する表示態様）が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９０～９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様（大当たり又は時短状態への移行のいずれかが確定する表示態様）が対応付けて規定されている。演出カウンタ２２３ｆは「０～９９」の１００個の値を取り得るので、先読み結果が「ＳＰリーチ当たり」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が５％、「変化１」が１５％、「変化２」が２５％、「変化３」が４０％、「変化４」が５％、「変化５」が１０％である。つまり、「ＳＰリーチ当たり」に対応する始動入賞を検出した場合は、「変化２」や「変化３」が選択される割合が比較的高くなる一方で、「ノーマル保留」や「変化４」が選択される割合が比較的低くなる。

【６１０４】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「スーパーリーチ当たり」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「１０～２９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「３０～５９」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「６０～８９」の範囲に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９０～９３」の範囲に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９４～９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様が対応付けて規定されている。よって、先読み結果が「スーパーリーチ当たり」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が１０％、「変化１」が２０％、「変化２」が３０％、「変化３」が３０％、「変化４」が４％、「変化５」が６％である。つまり、「スーパーリーチ当たり」に対応する始動入賞を

検出した場合は、「変化１」や「変化２」や「変化３」が選択される割合が比較的高くなる一方で、「変化４」が選択される割合が比較的低くなる。また、「ＳＰリーチ当たり」に比較して「ノーマル保留」や「変化１」の選択割合が高くなる。

【６１０５】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「ノーマルリーチ当たり」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～４４」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「４５～７９」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「８０～９６」の範囲に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値「９７」に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９８，９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様が対応付けて規定されている。よって、先読み結果が「ノーマルリーチ当たり」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が２０％、「変化１」が２５％、「変化２」が３５％、「変化３」が１７％、「変化４」が１％、「変化５」が２％である。つまり、「ノーマルリーチ当たり」に対応する始動入賞を検出した場合は、「ＳＰリーチ当たり」や「スーパーリーチ当たり」に比較して、「ノーマル保留」、「変化１」、「変化２」の選択割合が高くなり、「変化３」、「変化４」、「変化５」の選択割合が低くなる。

【６１０６】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「ＳＰリーチ時短」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５～１９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～４４」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「４５～６４」の範囲に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「６５～８９」の範囲に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９０～９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様が対応付けて規定されている。よって、先読み結果が「ＳＰリーチ時短」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が５％、「変化１」が１５％、「変化２」が２５％、「変化３」が２０％、「変化４」が２５％、「変化５」が１０％である。つまり、「ＳＰリーチ時短」に対応する始動入賞を検出した場合は、当たり変動に対応する始動入賞を検出した場合よりも、「変化４」の選択割合が大幅に高くなる。

【６１０７】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「スーパーリーチ時短」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「１０～２９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「３０～６４」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「６５～７９」の範囲に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「８０～９３」の範囲に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９４～９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様が対応付けて規定されている。よって、先読み結果が「スーパーリーチ時短」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が１０％、「変化１」が２０％、「変化２」が３５％、「変化３」が１５％、「変化４」が１４％、「変化５」が６％である。つまり、「スーパーリーチ時短」に対応する始動入賞を検出した場合についても、当たり変動に対応する始動入賞を検出した場合よりも、「変化４」の選択割合が高くなる。

【６１０８】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「ＳＰリーチ外れ」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「１０～３９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「４０～７９」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「８０～９８」の範囲に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値「９９」に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定されている。一方、「変化５」の表示態様に対しては演出カウンタ２２３ｆの値が対応付けられていない。よって、先読み結果が「ＳＰリーチ外れ」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が１０％、「変化１」が３０％、「変化２」が４０％、「変化３」が１９％、「変化４」が１％、「変化５」が０％である。つまり、「ＳＰリーチ外れ」に対応する始動入賞を検出した場合は、ＳＰリーチ当たりやＳＰリーチ時短に対応する始動入賞を検出した場合よりも、「変化３」の選択割合が低くなり、「ノーマル保留」や「変化１」の選択割合が高くなる。また、「変化５」が選択されなくなる。よって、ＳＰリーチまで発展した場合は、保留球数図柄の表示態様が「ノーマル保留」や「変化１」である場合は、当たりとなる期待度が比較的低くなる一方で、「変化３」である場合は当たりとなる期待度が比較的高くなる。また、「変化５」であれば大当たりと時短図柄とのどちらかが確定する。

【６１０９】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「スーパーリーチ外れ」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～１９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「２０～７４」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「７５～９８」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値「９９」に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定されている。一方、「変化４」や「変化５」の表示態様に対しては演出カウンタ２２３ｆの値が対応付けられていない。よって、先読み結果が「スーパーリーチ外れ」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が２０％、「変化１」が５５％、「変化２」が２４％、「変化３」が１％、「変化４」および「変化５」が０％である。つまり、「スーパーリーチ外れ」に対応する始動入賞を検出した場合は、スーパーリーチ当たりやスーパーリーチ時短に対応する始動入賞を検出した場合よりも、「変化３」の選択割合が低くなり、「ノーマル保留」や「変化１」の選択割合が高くなる。また、「変化４」や「変化５」が選択されなくなる。よって、スーパーリーチまで発展した場合は、保留球数図柄の表示態様が「ノーマル保留」や「変化１」である場合は、当たりとなる期待度が比較的低くなる一方で、「変化３」である場合は当たりとなる期待度が比較的高くなる。また、「変化５」であれば大当たりと時短図柄とのどちらかが確定する。

【６１１０】

また、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が「ノーマルリーチ外れ」、「ノーマルリーチ小当たり」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５０～９４」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「９５～９９」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定されている。一方、「変化３」、「変化４」、および「変化５」の表示態様に対しては演出カウンタ２２３ｆの値が対応付けられていない。よって、先読み結果が「ノーマルリーチ外れ」、「ノーマルリーチ小当たり」の場合に各表示態様が設定される割合は、「ノーマル保留」が５０％、「変化１」が４５％、「変化２」が５％、「変化３」、「変化４」、および「変化５」が０％である。つまり、「ノーマルリーチ外れ」、「ノーマルリーチ小当たり」に対応する始動入賞を検出した場合は、スーパーリーチ当たりやスーパーリーチ時短に対応する始動入賞を検出した場合よりも、「ノーマル保留」や「変化１」の選択割合が高くなる。また、「変化３」や「変化４」や「変化５」が選

択されなくなる。よって、「変化３」から「変化５」のいずれかとなって小ボーナス当選が報知された場合は、当該小ボーナスが特殊大当たりであったことが確定する。

【６１１１】

更に、図５２１に示した通り、変動種別（先読み結果）が天井抽選回数到達に伴う「スーパーリーチ外れ」に対する規定内容として、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～３９」の範囲に対して、「ノーマル保留」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「４０～４９」の範囲に対して、「変化１」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５０～５３」の範囲に対して、「変化２」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５４」に対して、「変化３」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「５５～８４」の範囲に対して、「変化４」の表示態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆの値が「８５～９９」の範囲に対して、「変化５」の表示態様が対応付けて規定されている。天井抽選回数目の特別図柄の抽選結果が外れとなる（第３時短状態へと移行する）場合は、当たりとなる（第３時短状態へと移行しない）場合（即ち、スーパーリーチ当たりの変動種別に対応する始動入賞を検出した場合）に比較して、「ノーマル保留」、「変化４」、および「変化５」の選択割合が大幅に高くなる。このため、第３時短状態へと移行することを期待する遊技者に対して、天井抽選回数目の特別図柄抽選に対応する保留球数図柄の表示態様が「ノーマル保留」、「変化４」、および「変化５」のいずれかとなることを期待させることができる。

【６１１２】

このように、本第１６制御例では、始動入賞に基づく先読み結果に応じて、保留球数図柄の表示態様を決定することで大当たり期待度や時短期待度を遊技者に示唆可能に構成しているので、保留球数図柄の表示態様に注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６１１３】

次に、図５２２を参照して、上述した時短示唆演出選択テーブル２２２ｐｂの詳細について説明する。この時短示唆演出選択テーブル２２２ｐｂは、時短状態へと移行することを示唆する示唆演出（図４３９（ａ），（ｂ）参照）の実行割合を各種条件毎に規定したデータテーブルである。図５２２に示した通り、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が４９６～５００の状況下においては、小ボーナスの当選状況によらず、演出カウンタ２２３ｆが「０～５９」の範囲に対して、「時短示唆（強）」の示唆態様が対応付けて規定され、演出カウンタ２２３ｆが「６０～８９」の範囲に対して、「時短示唆（弱）」の示唆態様が対応付けて規定されている。一方、演出カウンタ２２３ｆが「９０～９９」の範囲には、示唆態様が対応付けられていない。よって、天井抽選回数に到達する４回前から天井抽選回数目のそれぞれの変動表示演出では、６０％の割合で「時短示唆（強）」（図４２９（ｂ）参照）が発生し、３０％の割合で「時短示唆（弱）」（図４２９（ａ）参照）が発生する。

【６１１４】

また、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が４９６～５００以外の値である場合（天井抽選回数に到達するまでの変動回数が５回以上の状況）においては、前回のボーナス後の抽選回数、および直近５００回の特別図柄の抽選のうち実行されたタイミングが最も時間的に古い小ボーナスの終了後の抽選回数に応じて示唆態様の選択割合が可変する。具体的には、前回のボーナス後の抽選回数、および直近５００回の特別図柄の抽選のうち実行されたタイミングが最も時間的に古い小ボーナスの終了後の抽選回数のどちらかが４９６～５００の範囲内である場合（即ち、遊技者の視点で天井抽選回数に到達するまでの変動回数が４回以内の可能性がある状況下）においては、特別図柄の抽選結果「確変当たり」または「時短当たり」に対して、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」に「時短示唆（弱）」の示唆態様が対応付けて規定され、「５～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、ボーナス当選の場合は、５％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。

【６１１５】

また、特別図柄の抽選結果「時短当選」に対して、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４９」に「時短示唆（強）」が対応付けて規定され、「５０～７４」に「時短示唆（弱）」が対応付けて規定され、「７５～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、時短当選の場合には５０％の割合で「時短示唆（強）」が発生し、２５％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。また、これら以外の抽選結果（小ボーナスまたは外れ）に対しては、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」に「時短示唆（強）」が対応付けて規定され、「５～４９」に「時短示唆（弱）」が対応付けて規定され、「５０～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、小ボーナス若しくは外れの場合には５％の割合で「時短示唆（強）」が発生し、４５％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。

【６１１６】

これに対し、前回のボーナス後の抽選回数、および直近５００回の特別図柄の抽選のうち実行されたタイミングが最も時間的に古い小ボーナスの終了後の抽選回数のいずれも４９６～５００の範囲内ではない場合（即ち、遊技者の視点で天井抽選回数に到達するまでの変動回数が４回以内の可能性がない状況下）においては、特別図柄の抽選結果「確変当たり」または「時短当たり」に対して、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～４」に「時短示唆（弱）」の示唆態様が対応付けて規定され、「５～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、ボーナス当選の場合は、５％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。

【６１１７】

また、特別図柄の抽選結果「時短当選」に対して、演出カウンタ２２３ｆの値が「０～２４」に「時短示唆（強）」が対応付けて規定され、「２５～４９」に「時短示唆（弱）」が対応付けて規定され、「５０～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、時短当選の場合には２５％の割合で「時短示唆（強）」が発生し、２５％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。また、これら以外の抽選結果（小ボーナスまたは外れ）に対しては、演出カウンタ２２３ｆの値「０」に「時短示唆（強）」が対応付けて規定され、「１～４」に「時短示唆（弱）」が対応付けて規定され、「５～９９」には示唆態様が対応付けられていない。つまり、小ボーナス若しくは外れの場合には１％の割合で「時短示唆（強）」が発生し、４％の割合で「時短示唆（弱）」が発生する。

【６１１８】

このように、本第１６制御例では、天井抽選回数までの残り回数が５回以上の場合であっても、遊技者の視点で天井抽選回数までの残り回数が４回以内の可能性がある状況下と、４回以内の可能性がない状況下とで外れおよび小ボーナス時の示唆態様の選択割合を大きく異ならせている。即ち、遊技者の視点で天井抽選回数までの残り回数が４回以内の可能性がある状況下では、示唆態様が発生し易くなるように構成している。このように構成することで、実際には天井抽選回数までの残り回数が５回以上あったとしても、天井抽選回数に到達することに対する期待感を抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６１１９】

次に、図５２０（ｂ）を参照して、本第１６制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図５２０（ｂ）は、本第１６制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図５２０（ｂ）に示した通り、本第１６制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１３制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図４４７（ｂ）参照）に対して、ボーナス間カウンタ２２３ｐａと、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂと、先読み抑制フラグ２２３ｐｃと、普図変動時間タイマ２２３ｐｄと、連動演出フラグ２２３ｐｅと、が追加されている点で相違している。

【６１２０】

ボーナス間カウンタ２２３ｐａは、ボーナス（いずれかの大当たりおよび小当たり）が終了した後で実行された特別図柄の抽選回数をカウントするカウンタである。このボーナス間カウンタ２２３ｐａは、主制御装置１１０から特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が通知される毎に値が１ずつ加算されて更新され（図５３７のＳ９０１５Ａ参照）、大当たり

又は小当たりに当選することで０クリアされる（図５３９のＳ４７２４Ａ、図５４０のＳ４７５３Ａ参照）。このボーナス間カウンタ２２３ｐａに同期させて、通常状態におけるボーナス間の抽選回数の表示回数が更新される。これにより、天井抽選回数までの残り回数を分かり難くすることができるので、天井抽選回数までの残り回数を予測する遊技性を付加することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６１２１】

ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂは、直近５００回以内の特別図柄の抽選の範囲におけるボーナス（通常ボーナスおよび小ボーナス）の当選履歴を示す情報を格納するための記憶領域である。このボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂは、大当たり又は小当たり（ボーナス）に当選する毎に、当選したボーナスの情報が格納される（図５３９のＳ４７２６Ａ，Ｓ４７２７Ａ、図５４０のＳ４７５４Ａ参照）。また、主制御装置１１０側において特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が更新されたことがコマンドにより通知される毎に、更新後のカウンタ値に応じてデータが更新される（図５３７のＳ９０１５Ａ参照）。通常状態においては、このボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータから通常ボーナス又は小ボーナスの終了後における抽選回数を判別することができ、遊技者の視点で天井抽選回数間際の可能性がある抽選回数（通常ボーナス後に特殊大当たりに１回以上当選した状況下における通常ボーナス後５００回間際、および小ボーナス後５００回間際の抽選回数）において、天井抽選回数間際の可能性を示唆する演出を実行することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６１２２】

先読み抑制フラグ２２３ｐｃは、第１特別図柄の始動入賞を検出した場合に、保留変化演出等の先読み演出の実行を抑制するか否かを示すフラグである。この先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンであれば、先読み演出を禁止するべき状態であることを意味し、オフであれば、先読み演出を許容する状態であることを意味する。この先読み抑制フラグ２２３ｐｃは、先読みにより天井抽選回数へと到達する（第３時短状態への移行が確定した）と判別された場合にオンに設定され（図５３８のＳ４４２８Ａ参照）、大当たり当選時、および第３時短状態の終了時（図５３７のＳ９０１３Ａ参照）にオフに設定される。第３時短状態への移行が確定した場合に第１特別図柄の先読み演出を禁止することにより、第３時短状態へと移行した後で右打ちをせずに敢えて第１特別図柄の抽選を実行させた方がよいのか、第１特別図柄の抽選を実行させずに第２特別図柄の抽選を開始させた方がよいのかの判断材料を遊技者が得ることを不可能とすることができるので、知識の深い遊技者と浅い遊技者とで遊技方法により有利度合いに大幅に差が生じてしまうことを抑制することができる。

【６１２３】

普図変動時間タイマ２２３ｐｄは、主制御装置１１０において実行される普通図柄の変動表示における変動時間をカウントするためのタイマである。この普図変動時間タイマ２２３ｐｄは、主制御装置１１０において普通図柄の抽選が実行され、当該抽選結果に応じて決定された普図変動パターンが普図変動パターンコマンドによって通知された場合に、当該通知された普図変動パターンに対応する変動時間を示すタイマ値が設定される（図５４１のＳ４２５２Ａ参照）。天井抽選回数（５００回）目の変動表示の実行中においては、この普図変動時間タイマ２２３ｐｄのタイマ値が示す残変動時間に応じて、実行中の変動表示演出の演出態様を可変させる（書き替える）か否かが判別される。即ち、変動中の特定タイミング（例えば、特別図柄の変動時間が経過する５秒前）で普図変動時間タイマ２２３ｐｄの値を参照して、特図変動が終了した後も比較的長い期間（例えば、５秒以上）普通図柄の変動表示が継続されると判別された場合は、第３時短状態への移行を報知するタイミングを遅らせる構成としている。このように構成することで、普通電動役物６４０ａが開放され得ない普通図柄の変動表示中に遊技者が右打ちを行ってしまい、遊技球を無駄に消費してしまうことを抑制することができる。

【６１２４】

連動演出フラグ２２３ｐｅは、データ表示装置連動型の演出が設定されているか否かを示すフラグである。この連動演出フラグ２２３ｐｅがオンであれば、データ表示装置連動型の演出（大当たり報知、時短発動演出）が設定されていることを意味し、オフであれば、データ表示装置連動型の演出が設定されていないことを示す。この連動演出フラグ２２３ｐｅは、主制御装置１１０から変動パターンコマンドを受信して、当該変動パターンコマンドに応じて変動表示態様を決定する毎に、当該決定した変動表示態様に応じて状態が更新される（図５４２のＳ３４５２０Ａ参照）。即ち、データ表示装置連動型の変動表示態様が決定された場合はオンに設定され、決定されなかった場合はオフに設定される。

【６１２５】

＜第１６制御例における主制御装置の制御処理について＞

次いで、図５２３～図５３３を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。具体的には、本第１６制御例では、タイマ割込処理（図５２３参照）、立ち上げ処理（図５３２参照）の内容が第１３制御例（第１制御例）から変更されている点で相違する。その他の構成については、第１３制御例と同一であるので、その詳細な説明については省略する。

【６１２６】

まず、図５２３を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理について説明する。図５２３は、このタイマ割込処理の内容を示したフローチャートである。本第１６制御例におけるタイマ割込処理（図５２３参照）では、第１３制御例（および第１制御例）におけるタイマ割込処理（図１５６参照）に対して、特別図柄変動処理１３（図４５１参照）が特別図柄変動処理１６（図５２４参照）に変更されている点、および、スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）の終了後に、外端出力設定処理（Ｓ１１２Ａ）を実行する点で相違する。詳細については図５２８から図５３１を参照して後述するが、外端出力設定処理（Ｓ１１２Ａ）は、パチンコ機１０に対して電気的に接続されている所定装置（データ表示装置２６２、ホールコンピュータ２６３等）に対して、外部出力端子板２６１から外部出力する信号の出力を制御するための処理である。なお、その他の処理については、第１３制御例（および第１制御例）におけるタイマ割込処理（図１５６参照）と同一であるので、その詳細な説明については省略する。

【６１２７】

次に、図５２４を参照して、本第１６制御例におけるタイマ割込処理（図５２３参照）の中の一処理である特別図柄変動処理１６（Ｓ１１１Ａ）について説明する。図５２４は、この特別図柄変動処理１６（Ｓ１１１Ａ）の内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動処理１６のうち、Ｓ２０１～Ｓ２０７、Ｓ２１０～Ｓ２１８、Ｓ２２０、およびＳ３０２１９の各処理では、それぞれ第１３制御例における特別図柄変動処理１３（図４５０参照）の、Ｓ２０１～Ｓ２０７、Ｓ２１０～Ｓ２１８、Ｓ２２０、およびＳ３０２１９の各処理と同一の処理が実行される。

【６１２８】

また、本第１６制御例における特別図柄変動処理１６（Ｓ１１１Ａ）では、Ｓ２０７又はＳ２１３の処理が終了すると、第１３制御例における特別図柄判定理１３（図４５０のＳ３０２５１参照）、および特別図柄変動パターン選択処理１３（図４５０のＳ３０２５２参照）に代えて、特別図柄判定処理１６（Ｓ２３１Ａ）、および特別図柄変動パターン選択処理１６（Ｓ２３２Ａ）を実行する。図示については省略したが、本第１６制御例における特別図柄判定処理１６（Ｓ２３１Ａ）は、上述した第１３制御例における特別図柄判定処理１３（図４５１参照）に対して、天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）が削除されている点でのみ相違する。なお、本第１６制御例では、第１３制御例における天井判定処理１３（Ｓ３８０５１）に相当する天井判定処理１６を、後述する更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）の中で実行する構成としている。また、図示については省略したが、本第１６制御例における特別図柄変動パターン選択処理１６（Ｓ２３２Ａ）は、上述した第１３制御例における特別図柄変動パターン選択処理１３（図４５４参照）に対して、処理内で参照す

る各種データテーブルが本第１６制御例用のデータテーブル置き換わっている点で相違する。つまり、大当たり種別選択１３テーブル２０２ｌｄに代えて大当たり種別選択１６テーブル２０２ｐｄを参照する点、変動パターン選択１３テーブル２０２ｌｂに代えて変動パターン選択１６テーブル２０２ｐｂを参照する点で相違する。また、本第１６制御例では時短種別が１種類（時短回数１００回の時短図柄）のみとなっていることに伴って、Ｓ８２０９，Ｓ３８２５３の各処理が削除されている点でも相違する。

【６１２９】

また、本第１６制御例における特別図柄変動処理１６（Ｓ１１１Ａ）では、Ｓ２１７の処理において今回の特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別された場合に（Ｓ２１７：Ｎｏ）、第１３制御例における更新処理５（図４５０のＳ２５３参照）、および時短設定処理１３（図４５０のＳ３０２５４参照）に代えて、更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）、および時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）を実行し、処理をＳ２２０へと移行する。この更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）の詳細については、図５２５、および図５２６を参照して後述する。また、時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）の詳細については、図５２７を参照して後述する。

【６１３０】

また、本制御例の特別図柄変動処理１６（Ｓ１１１Ａ）では、Ｓ２２０の処理を実行した後に、外部出力端子板２６１のＣＮ４から図柄停止信号が１秒間出力される（ＣＮ４の出力が１秒間Ｈ出力になる）ように設定し（Ｓ２３５Ａ）、本処理を終了する。

【６１３１】

次いで、図５２５を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動処理１６（図５２４参照）の中の一処理である更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）について説明する。図５２５は、この更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）の内容を示したフローチャートである。

【６１３２】

この更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）のうち、Ｓ８３０１～Ｓ８３０７の各処理では、それぞれ第１３制御例（および第５制御例）における更新処理５（図２５６参照）のＳ８３０１～Ｓ８３０７の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における更新処理１６（Ｓ２３３Ａ）では、Ｓ８３０６の処理を実行した後に、天井時短フラグ２０３ｐａがオンであるか否かを判別し（Ｓ８３１１Ａ）、天井時短フラグ２０３ｐａがオンであると判別した場合には（Ｓ８３１１Ａ：Ｙｅｓ）、天井時短フラグ２０３ｐａをオフに設定し（Ｓ８３１２Ａ）、次いで、大当たり３信号（ＣＮ９）を０．２秒間出力するように設定して（Ｓ８３１３Ａ）、処理をＳ８３０７へと移行する。一方、Ｓ８３１１Ａの処理において、天井時短フラグ２０３ｐａがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ８３１１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ８３１２Ａ、およびＳ８３１３Ａの処理をスキップして、そのまま処理をＳ８３０７へと移行する。

【６１３３】

また、本第１６制御例における更新処理１６（図５２５参照）では、Ｓ８３０７の処理が終了した後に、天井判定処理１６を実行し（Ｓ８３１４Ａ）、本処理を終了する。この天井判定処理１６（Ｓ８３１４Ａ）は、上述した第１３制御例における天井判定処理１３（図４５２参照）と同様に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を更新して、天井抽選回数に対応するカウンタ値（抽選回数）に到達した場合に第３時短状態を設定するための処理である。この天井判定処理１６（Ｓ８３１４Ａ）について、図５２６を参照して説明する。図５２６は、この天井判定処理１６（Ｓ８３１４Ａ）の内容を示したフローチャートである。

【６１３４】

この天井判定処理１６（Ｓ８３１４Ａ）のうち、Ｓ３８１０１～Ｓ３８１０５の各処理では、それぞれ第１３制御例における天井判定処理１３（図４５２参照）のＳ３８１０１～Ｓ３８１０５の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における天井判定処理１６（Ｓ８３１４Ａ）では、Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選カウンタ２

０３ｌａの値が５００であると判別した場合に（Ｓ３８１０４：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈに１００を設定し（Ｓ３８１１１Ａ）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を示すデータを設定し（Ｓ３８１１２Ａ）、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８１１３Ａ）、第３時短状態を示す情報と時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１１４Ａ）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値をクリアする（Ｓ３８１１５Ａ）。Ｓ３８１１５Ａの処理の後に、天井時短フラグ２０３ｐａをオンにし（Ｓ３８１１６Ａ）、大当たり３信号（ＣＮ９）を０．２秒間出力するように設定して（Ｓ３８１１７Ａ）、本処理を終了する。

【６１３５】

つまり、上述した第１３制御例では、変動開始時に天井抽選回数に到達したか否かを判別し、天井抽選回数に到達した場合に、変動停止時に第３時短状態を設定する処理を実行する構成としていたが、本第１６制御例では、変動停止時に天井判定処理１６（図５２６参照）を実行して、天井抽選回数に到達したか否かの判別、および第３時短状態の設定をまとめて行う構成としている。このように構成することで、制御処理を簡素化することができる。

【６１３６】

次いで、図５２７を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動処理１６（図５２４）の一処理である時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）について説明する。図５２７は、この時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）の内容を示したフローチャートである。

【６１３７】

この時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）のうち、Ｓ８３５１～Ｓ８３５４の各処理では、それぞれ第１３制御例における時短設定処理１３（図４５５参照）のＳ８３５１～Ｓ８３５４の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における時短設定処理１６（Ｓ２３４Ａ）では、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が１００であるか否かを判別する（Ｓ８３６１Ａ）。Ｓ８３６１Ａの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が１００であると判別した場合は（Ｓ８３６１Ａ：Ｙｅｓ）、この時短設定処理１６（図５２７参照）の前に実行された天井判定処理１６（図５２６参照）において天井抽選回数に到達したことに基づいて第３時短状態が設定されていたことを意味するため、時短当選により重複して時短状態が設定されることを避けるため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ８３６１Ａの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が１００ではないと判別した場合は（Ｓ８３６１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ８３５１の処理へと移行する。

【６１３８】

次いで、図５２８（ａ）を参照して、本第１６制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理（図５２３）の一処理である外端出力設定処理（Ｓ１１２Ａ）について説明する。図５２８（ａ）は、この外端出力設定処理（Ｓ１１２Ａ）の内容を示したフローチャートである。この外端出力設定処理（Ｓ１１２Ａ）では、まず、パチンコ機１０に各種異常が発生しているか否かを判別し、異常が発生している場合に外部出力端子板２６１から異常（エラー）を示す信号を外部出力するためのエラー信号処理を実行し（Ｓ１２１Ａ）、次いで、アウト球の検出個数を監視して特定個数毎にアウト球検出信号を外部出力端子板２６１から外部出力するためのアウト球検出信号処理を実行する（Ｓ１２２Ａ）。アウト球検出信号処理（Ｓ１２２Ａ）が終了すると、次いで、第１入球口６４や第２入球口６４０への始動入賞を監視して、始動入賞を検出した場合に始動口信号を外部出力端子板２６１から外部出力するための始動口信号処理を実行し（Ｓ１２３Ａ）、次いで、内枠１２および前面枠１４の開閉状態を監視して、開閉状態を示す信号を外部出力端子板２６１から外部出力するための開放信号処理を実行して（Ｓ１２４Ａ）、本処理を終了する。各処理の詳細な説明については、図５２８（ｂ）、図５２９～図５３１を参照して後述する。

【６１３９】

次に、図５２８（ｂ）を参照して、外端出力設定処理（図５２８参照）の１処理である

エラー信号処理（Ｓ１２１Ａ）について説明する。図５２８は、エラー信号処理（Ｓ１２１Ａ）を示したフローチャートである。このエラー信号処理（Ｓ１２１Ａ）では、まず、各種エラー（磁気異常、電波異常、スイッチ異常、異常入賞等）を検出したかどうかを判別し（Ｓ１３１Ａ）、各種エラーを検出した場合には（Ｓ１３１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、セキュリティ信号（ＣＮ１１）の出力を開始し（Ｓ１３２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ１３１Ａの処理において、各種エラーを検出していない場合には（Ｓ１３１Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。各種エラーを検出している場合は、時間の定めなくセキュリティ信号が出力され続けるため、ホールコンピュータ２６３において、エラーの発生を報知させ続けることができる。よって、各種エラーの発生をホールの店員等に確実に認識させることができるので、各種エラーを迅速に解消させることができる。

【６１４０】

次に、図５２９を参照して、外端出力設定処理（図５２８参照）の１処理であるアウト球検出信号処理（Ｓ１２２Ａ）について説明する。図５２９は、アウト球検出信号処理（Ｓ１２２Ａ）を示したフローチャートである。このアウト球検出信号処理（Ｓ１２２Ａ）は、アウト球の検出個数を監視して、アウト球が特定個数検出される毎にアウト球検出信号（ＣＮ２）の出力を設定するための処理である。

【６１４１】

このアウト球検出信号処理（Ｓ１２２Ａ）では、まず、アウト口６６へと入球した遊技球（アウト球）があるか否かを判別し（Ｓ１４１Ａ）、アウト球があると判別した場合は（Ｓ１４１Ａ：Ｙｅｓ）、アウト球カウンタ２０３ｐｂの値に１を加算する（Ｓ１４２Ａ）。次いで、加算後のアウト球カウンタ２０３ｐｂの値が１０であるか否かを判別し（Ｓ１４３Ａ）、１０であると判別した場合は（Ｓ１４３Ａ：Ｙｅｓ）、アウト球カウンタ２０３ｐｂの値に０を設定することでアウト球カウンタ２０３ｐｂを初期化し（Ｓ１４４Ａ）、アウト球検出信号（ＣＮ６）がＨ出力の状態であるか否かを判別する（Ｓ１４５Ａ）。

【６１４２】

Ｓ１４５Ａの処理において、アウト球検出信号（ＣＮ６）がＨ出力の状態であると判別した場合は（Ｓ１４５Ａ：Ｙｅｓ）、現在出力中のアウト球検出信号（ＣＮ６）のＨ出力期間が終了し、所定期間（０．２秒間）が経過してから、今回検出した１０球目のアウト球に対応するアウト球検出信号の出力を設定するための処理を行う。具体的には、現在Ｈ出力状態に設定されているアウト球検出信号（ＣＮ６）がＬ出力状態となるまでの残りの期間を取得する（Ｓ１４７Ａ）。そして、取得した残り期間に基づいて、今回検出した１０球目のアウト球に対応して出力するアウト球検出信号に対して遅延時間を設定し（Ｓ１４８Ａ）、本処理を終了する。例えば、Ｈ出力中のアウト球検出信号（ＣＮ６）がＬ出力状態となるまでの残り期間が０．１秒であると判別した場合は、次にアウト球検出信号（ＣＮ６）をＨ出力の状態とするまでの遅延時間として、０．３秒（Ｈ出力の状態の残り期間０．１秒間＋Ｌ出力期間０．２秒間）を設定する。このように、０．２秒間のＬ期間を設定することにより、短期間に連続的にアウト球を検出したとしても、アウト球検出信号（ＣＮ２）がＨ出力の状態に設定された回数を所定装置（ホールコンピュータ２６３等）が正確に把握することができる。

【６１４３】

一方、Ｓ１４５Ａの処理において、アウト球検出信号（ＣＮ６）がＨ出力の状態でない（即ち、Ｌ出力の状態である）と判別した場合は（Ｓ１４５Ａ：Ｎｏ）、アウト球検出信号（ＣＮ６）が０．２秒間Ｈ出力の状態となるように設定して（Ｓ１４６Ａ）、本処理を終了する。なお、アウト球検出信号（ＣＮ６）がＬ出力の状態であっても（Ｓ１４５Ａ：Ｎｏ）、Ｌ出力の状態に設定されてから０．２秒以内である場合には、Ｌ出力の状態を０．２秒間継続させた後でＨ出力の状態とするように設定する。このように、各Ｈ出力期間の間に最低０．２秒間のＬ期間を確保することで、短期間に連続的にアウト球を検出したとしても、アウト球検出信号（ＣＮ６）がＨ出力の状態に設定された回数をホールコンピュータ２６３等のパチンコ機１０に電気的に接続されている所定装置が正確に把握するこ

とができる。
【６１４４】
　Ｓ１４１Ａの処理において、アウト球が検出されなかった場合（Ｓ１４１Ａ：Ｎｏ）、および、Ｓ１４３Ａの処理において、アウト球カウンタ２０３ｐｂの値が１０未満であった場合には（Ｓ１４３Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ１４９Ａへと移行する。このＳ１４９Ａの処理では、Ｈ出力状態の設定を遅延させている検出結果が存在するか否かを判別する（Ｓ１４９Ａ）。
【６１４５】
　そして、Ｈ出力の設定を遅延させている検出結果が存在しないと判別した場合は（Ｓ１４９Ａ：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、Ｈ出力の設定を遅延させている検出結果が存在すると判別した場合は（Ｓ１４９Ａ：Ｙｅｓ）、設定されている遅延期間が経過したか否かを判別し（Ｓ１５０Ａ）、遅延期間を経過していないと判別した場合は（Ｓ１５０Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。Ｓ１５０Ａの処理において、遅延期間を経過したと判別した場合は（Ｓ１５０Ａ：Ｙｅｓ）、アウト球検出信号（ＣＮ６）をＨ出力の状態に設定し（Ｓ１５１Ａ）、本処理を終了する。
【６１４６】
　次いで、図５３０を参照して、外端出力信号処理（図５２８（ａ）参照）の１処理である始動口信号処理（Ｓ１２３Ａ）について説明する。図５３０は、始動口信号処理（Ｓ１２３Ａ）を示したフローチャートである。この始動口信号処理（Ｓ１２３Ａ）は、各始動口（第１入球口６４、第２入球口６４０）への始動入賞を監視して、始動入賞を検出する毎に始動口信号（ＣＮ５）の出力を設定するための処理である。
【６１４７】
　この始動口信号処理（Ｓ１２３Ａ）では、まず、第１入球口６４又は第２入球口６４０への入賞（始動入賞）を検出したか否かを判別する（Ｓ１６１Ａ）。具体的には、タイマ割込処理（図５２３参照）のスイッチ読み込み処理（Ｓ１０１）において保存された各種スイッチの検出情報を読み出して、第１入球口６４又は第２入球口６４０への入賞を示す検出情報が記憶されているか否かを判別する。
【６１４８】
　Ｓ１６１Ａの処理において、第１入球口６４又は第２入球口６４０への入賞を検出したと判別した場合は（Ｓ１６１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、始動口信号（ＣＮ５）の状態がＨ出力の状態であるか否かを判別し（Ｓ１６２Ａ）、Ｈ出力の状態であると判別した場合は（Ｓ１６２Ａ：Ｙｅｓ）、現在出力中の始動口信号（ＣＮ５）のＨ出力期間が終了し、所定期間（０．２秒間）が経過してから、今回検出した始動入賞に対応する始動口信号の出力を設定するための処理を行う。具体的には、現在Ｈ出力状態に設定されている始動口信号（ＣＮ５）がＬ出力状態となるまでの残りの期間を取得する（Ｓ１６４Ａ）。そして、取得した残り期間に基づいて、今回検出した始動入賞に対応して出力する始動口信号に対して遅延時間を設定し（Ｓ１６５Ａ）、本処理を終了する。例えば、Ｈ出力中の始動口信号（ＣＮ５）がＬ出力状態となるまでの残り期間が０．１秒であると判別した場合は、次に始動口信号（ＣＮ５）をＨ出力の状態とするまでの遅延時間として、０．３秒（Ｈ出力の状態の残り期間０．１秒間＋Ｌ出力期間０．２秒間）を設定する。このように、０．２秒間のＬ期間を設定することにより、短期間で連続的に始動入賞を検出したとしても、始動口信号（ＣＮ５）がＨ出力の状態に設定された回数をホールコンピュータ２６３等のパチンコ機１０に電気的に接続されている所定装置が正確に把握することができる。
【６１４９】
　一方、Ｓ１６２Ａの処理において、始動口信号（ＣＮ５）がＨ出力の状態でない（即ち、Ｌ出力の状態である）と判別した場合は（Ｓ１６２Ａ：Ｎｏ）、始動口信号（ＣＮ５）が０．２秒間Ｈ出力の状態となるように設定して（Ｓ１６３Ａ）、本処理を終了する。なお、始動口信号（ＣＮ５）がＬ出力の状態であっても（Ｓ１６２Ａ：Ｎｏ）、Ｌ出力の状態に設定されてから０．２秒以内である場合には、Ｌ出力の状態を０．２秒間継続させた後でＨ出力の状態とするように設定する。このように、各Ｈ出力期間の間に最低０．２秒

間のＬ期間を確保することで、短期間に連続的に始動入賞を検出したとしても、始動口信号（ＣＮ５）がＨ出力の状態に設定された回数を外部装置が正確に把握することができる。

【６１５０】

Ｓ１６１Ａの処理において、始動入賞が検出されなかった場合は（Ｓ１６１Ａ：Ｎｏ）、Ｈ出力状態の設定を遅延させている検出結果が存在するか否かを判別する（Ｓ１６６Ａ）。そして、Ｈ出力の設定を遅延させている検出結果が存在しないと判別した場合は（Ｓ１６６Ａ：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、Ｈ出力の設定を遅延させている検出結果が存在すると判別した場合は（Ｓ１６６Ａ：Ｙｅｓ）、設定されている遅延期間が経過したか否かを判別し（Ｓ１６７Ａ）、遅延期間を経過していないと判別した場合は（Ｓ１６７Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ１６７Ａの処理において、遅延期間を経過したと判別した場合は（Ｓ１６７Ａ：Ｙｅｓ）、始動口信号（ＣＮ５）をＨ出力の状態に設定し（Ｓ１６８Ａ）、本処理を終了する。

【６１５１】

次いで、図５３１を参照して、外端出力信号処理（図５２８（ａ）参照）の１処理である開放信号処理（Ｓ１２４Ａ）について説明する。図５３１は、開放信号処理（Ｓ１２４Ａ）を示したフローチャートである。この開放信号処理（Ｓ１２４Ａ）は、上述した通り、内枠１２および前面枠１４の開閉状態を示す内枠開放信号（ＣＮ２）、および扉開放信号（ＣＮ３）の出力を設定するための処理である。

【６１５２】

この開放信号処理（Ｓ１２４Ａ）では、まず、内枠１２が開放されたか否かを判別し（Ｓ１７１Ａ）、内枠１２が開放されたと判別した場合は（Ｓ１７１Ａ：Ｙｅｓ）、内枠開放信号（ＣＮ２）をＨ出力の状態に設定して（Ｓ１７２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ１７１Ａの処理において、内枠１２が開放されたことを検出しなかった場合は（Ｓ１７１Ａ：Ｎｏ）、次いで、内枠１２が閉鎖されたことを検出したか否かを判別し（Ｓ１７３Ａ）、内枠１２が閉鎖されたと判別した場合は（Ｓ１７３Ａ：Ｙｅｓ）、Ｈ出力の状態に設定されている内枠開放信号（ＣＮ２）をＬ出力の状態に設定し（Ｓ１７４Ａ）、本処理を終了する。

【６１５３】

Ｓ１７３Ａの処理において、内枠１２が閉鎖されたことを検出しなかった場合は（Ｓ１７３Ａ：Ｎｏ）、次いで、前面枠１４が開放されたことを検出したか否かを判別する（Ｓ１７５Ａ）。Ｓ１７５Ａの処理の結果、前面枠１４が開放されたと判別した場合は（Ｓ１７５Ａ：Ｙｅｓ）、扉開放信号（ＣＮ３）をＨ出力の状態に設定して（Ｓ１７６Ａ）、本処理を終了する。一方、前面枠１４が開放されたことを検出しなかった場合は（Ｓ１７５Ａ：Ｎｏ）、次いで、前面枠１４が閉鎖されたことを検出したか否かを判別し（Ｓ１７７Ａ）、閉鎖されたと判別した場合は（Ｓ１７７Ａ：Ｙｅｓ）、Ｈ出力の状態に設定されている扉開放信号（ＣＮ３）をＬ出力の状態に設定し（Ｓ１７８Ａ）、本処理を終了する。また、Ｓ１７７Ａの処理において、前面枠１４が閉鎖されたことを検出しなかった場合は（Ｓ１７７Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【６１５４】

このように、本第１６制御例のパチンコ機１０では、タイマ割込処理（図５２３参照）の実行間隔である２ｍｓおきに、外端出力信号処理（図５２８（ａ）参照）が実行され、パチンコ機１０の遊技の状況に応じた情報が、外部出力端子版２６１よりホールコンピュータ２６３等の所定装置に対して出力される。ホールコンピュータ２６３等の所定装置は、外部出力端子版２６１から出力された情報に基づいて、パチンコ機１０の遊技の状況をリアルタイムで把握することができる。これにより、各パチンコ機１０の出玉率や稼働状況、異常や不正行為の有無等を正確に管理することができる。

【６１５５】

次に、図５３２を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理について説明する。図５３２は、こ

の立ち上げ処理の内容を示したフローチャートである。
【６１５６】
この立ち上げ処理のうち、Ｓ１７０１～Ｓ１７１４、Ｓ３１７０１およびＳ３１７０２の各処理では、それぞれ第１３制御例における立ち上げ処理（図４５７参照）のＳ１７０１～Ｓ１７１４、Ｓ３１７０１およびＳ３１７０２の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の立ち上げ処理では、Ｓ１７０９の処理を実行した後、電源投入時（立ち上げ時）のパチンコ機１０の状態を示す各種データを外部出力端子板２６１から所定装置に対して出力するための立ち上げ時信号出力処理を実行し（Ｓ１７２１Ａ）、処理をＳ３１７０１へと移行する。この立ち上げ時信号出力処理（Ｓ１７２１Ａ）の詳細について、図５３３を参照して説明する。図５３３は、立ち上げ時信号出力処理（Ｓ１７２１Ａ）を示したフローチャートである。
【６１５７】
この立ち上げ時信号出力処理（Ｓ１７２１Ａ）では、まず、セキュリティ信号（ＣＮ１１）を０．２秒間出力するように設定し（Ｓ１７３１Ａ）、次いで、大当たり中フラグ２０３ｋがオンであるか否かを判別する（Ｓ１７３２Ａ）。Ｓ１７３２Ａの処理において、大当たり中フラグ２０３ｋがオンであると判別した場合は（Ｓ１７３２Ａ：Ｙｅｓ）、現在が大当たり遊技の実行中であることを意味するため、大当たり１信号（ＣＮ７）、大当たり３信号（ＣＮ９）の出力を開始することで大当たり遊技の実行中であることを所定装置に対して通知して（Ｓ１７３３Ａ）、Ｓ１７３４Ａの処理へと移行する。一方、Ｓ１７３２Ａの処理において、大当たり中フラグ２０３ｋがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合は（Ｓ１７３２Ａ：Ｎｏ）、大当たり遊技の実行中ではない（通常遊技中である）ことを意味するため、Ｓ１７３３Ａの処理をスキップして、処理をＳ１７３４Ａへと移行する。
【６１５８】
Ｓ１７３４Ａの処理では、確変カウンタ２０３ｉの値が１以上であるか否かを判別し（Ｓ１７３４Ａ）、１以上であると判別した場合は（Ｓ１７３４Ａ：Ｙｅｓ）、処理をＳ１７３６Ａへと移行する。一方、Ｓ１７３４Ａの処理において、確変カウンタ２０３ｉの値が１以上ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ１７３４Ａ：Ｎｏ）、時短カウンタ２０３ｈの値が１以上であるか否かを判別し（Ｓ１７３５Ａ）、１以上ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ１７３５Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ１７３５Ａの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が１以上であると判別した場合には（Ｓ１７３５Ａ：Ｙｅｓ）、処理をＳ１７３６Ａへと移行する。確変カウンタ２０３ｉの値と時短カウンタ２０３ｈとの一方の値が１以上である（即ち、普通図柄の時短状態に設定される遊技状態である）と判別した場合に実行されるＳ１７３６Ａの処理では、大当たり２信号（ＣＮ８）の出力を開始する（Ｓ１７３６Ａ）。Ｓ１７３６Ａの処理が終了すると、次いで、天井時短フラグ２０３ｐａがオンであるか否かを判別し（Ｓ１７３７Ａ）、天井時短フラグ２０３ｐａがオンである（つまり、現在が天井抽選回数到達に基づいて設定された第３時短状態である）と判別した場合には（Ｓ１７３７Ａ：Ｙｅｓ）、大当たり３信号（ＣＮ９）を０．２秒間出力するように設定し（Ｓ１７３８Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ１７３７Ａの処理において、天井時短フラグ２０３ｐａがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ１７３７Ａ：Ｎｏ）、Ｓ１７３８Ａの処理をスキップし、本処理を終了する。Ｓ１７３８Ａの処理で第３時短状態である場合にのみ大当たり３信号（ＣＮ９）を０．２秒間出力する構成とすることで、電源投入時（立ち上げ時）の遊技状態が大当たり終了後に設定された普通図柄の時短状態であるのか、天井抽選回数到達に基づいて設定された普通図柄の時短状態であるのかを、所定装置に対して容易に把握させることができる。
【６１５９】
＜第１６制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞
次に、図５３４から図５４２を参照して、本第１６制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。本第１６制御例では、

上述した第１３制御例に対して、メイン処理の内容が変更された点と、演出設定処理１３（図４６２参照）の１処理である通常モード用演出設定処理１６の内容が変更された点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした内容と同一の要素について詳細な説明を省略している箇所については、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした内容が適応されるものである。また、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした技術思想については、本第１６制御例にも当然適用されるものであり、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした変形例や追加例についても本第１６制御例に当然適用されるものである。

【６１６０】

まず、図５３４を参照して、本第１６制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理について説明をする。図５３４は、このメイン処理の内容を示したフローチャートである。本第１６制御例におけるメイン処理（図５３４参照）では、第１３制御例（および第１制御例）におけるメイン処理（図１７４参照）に対して、演出更新処理（図１７４参照）に代えて演出更新処理１６（Ｓ４１２１Ａ）が実行される点、およびコマンド判定処理（図１７４参照）に代えてコマンド判定処理１６（Ｓ４１２２Ａ）が実行される点でのみ相違する。その他の処理については、第１３制御例（および第１制御例）と同一であるので、その詳細な説明については省略する。

【６１６１】

まず、図５３５を参照して、メイン処理の中の１処理である演出更新処理１６（Ｓ４１２１Ａ）について説明する。図５３５は、この演出更新処理１６（Ｓ４１２１Ａ）を示したフローチャートである。この演出更新処理１６（Ｓ４１２１Ａ）では、まず、特別図柄の変動表示演出が実行中であるか否かを判別し（Ｓ４１５１Ａ）、変動表示演出の実行中ではないと判別した場合は（Ｓ４１５１Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、変動表示演出の実行中であると判別した場合は（Ｓ４１５１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００であるか否かを判別し（Ｓ４１５２Ａ）、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００ではないと判別した場合には（Ｓ４１５２Ａ：Ｎｏ）、次いで、現在実行中の変動表示演出において報知される特別図柄の抽選結果が時短図柄であるか否かを判別する（Ｓ４１５３Ａ）。Ｓ４１５３Ａの処理において、特図の抽選結果が時短図柄ではないと判別した場合には（Ｓ４１５３Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【６１６２】

一方、Ｓ４１５３の処理において、実行中の変動表示演出に対応する抽選結果が時短図柄であると判別した場合（Ｓ４１５３Ａ：Ｙｅｓ）、およびＳ４１５２Ａの処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００であると判別した場合には（Ｓ４１５２Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、特別図柄の抽選結果が大当たりに対応する抽選結果であるか否かを判別する（Ｓ４１５４Ａ）。Ｓ４１５４Ａの処理において、抽選結果が大当たりに対応する抽選結果であると判別した場合は（Ｓ４１５４Ａ：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ４１５４Ａの処理において、抽選結果が大当たりに対応する抽選結果ではないと判別した場合は（Ｓ４１５４Ａ：Ｎｏ）、実行中の変動表示演出の残変動時間が５秒であるか否かを判別し（Ｓ４１５５Ａ）、特図の残変動時間が５秒ではないと判別した場合には（Ｓ４１５５Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【６１６３】

これに対し、Ｓ４１５５Ａの処理において、実行中の変動表示演出の残変動時間が５秒であると判別した場合には（Ｓ４１５５Ａ：Ｙｅｓ）、普通図柄の残変動時間が１０秒以上であるか否かを普図変動時間タイマ２２３ｐｄの値を参照して判別し（Ｓ４１５６Ａ）、普通図柄の残変動時間が１０秒以上ではないと判別した場合には（Ｓ４１５６Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ４１５６Ａの処理において、普通図柄の残変動時間が１０秒以上であると判別した場合には（Ｓ４１５６Ａ：Ｙｅｓ）、現在実行中の変動表示演出が表示装置連動型演出を伴う変動表示態様であるか否かを判別し（Ｓ４１５７

Ａ）、表示装置連動型演出を伴う変動表示態様ではないと判別した場合には（Ｓ４１５７Ａ：Ｎｏ）、変動表示態様を表示装置連動型の時短発動演出に書き替えて（Ｓ４１５８Ａ）、時短発動煽り演出の演出期間を普通図柄の残変動時間に設定し（Ｓ４１５９Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４１５７Ａの処理において、実行中の変動表示演出が表示装置連動型演出を伴う変動表示態様であると判別した場合には（Ｓ４１５７Ａ：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【６１６４】

このように、本第１６制御例では、時短状態へと移行した後で５秒以上の比較的長い時間、普通図柄の変動が実行され続ける（右打ちしても第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができない期間が比較的長く継続する）と変動終了の５秒前に判別した場合は、時短状態へと移行することを報知するタイミングを遅らせる構成としている。つまり、実際に時短状態の恩恵が得られる状態となってから（右打ちにより第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となってから）、時短発動演出を実行する構成としている。これにより、普通図柄の変動中に遊技者が無駄に右打ちを行ってしまうことを抑制することができる。

【６１６５】

次に、図５３６を参照して、メイン処理の１処理であるコマンド判定処理１６（Ｓ４１２２Ａ）について説明する。図５３６は、このコマンド判定処理１６（Ｓ４１２２Ａ）を示したフローチャートである。このコマンド判定処理１６（Ｓ４１２２Ａ）のうち、Ｓ４２０１、Ｓ４２０３～Ｓ４２１１、Ｓ４２１３、Ｓ４２１４、Ｓ４２１７およびＳ４２１９の各処理では、それぞれ第１３制御例におけるコマンド判定処理１３（図４５８参照）のＳ４２０１、Ｓ４２０３～Ｓ４２１１、Ｓ４２１３、Ｓ４２１４、Ｓ４２１７およびＳ４２１９の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例のコマンド判定処理１６（Ｓ４１２２Ａ）では、Ｓ４２０１の処理において、状態コマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４２０１：Ｙｅｓ）、第１３制御例における状態コマンド受信処理１３（図４５９参照）に代えて状態コマンド受信処理１６を実行し（Ｓ４２２１Ａ）、本処理を終了する。この状態コマンド受信処理１６（Ｓ４２２１Ａ）の詳細については、図５３７を参照して後述する。

【６１６６】

また、本第１６制御例におけるコマンド判定処理１６（図５３６参照）では、Ｓ４２１１の処理において、入賞コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２１１：Ｙｅｓ）、第１３制御例（および第１制御例）における入賞コマンド処理（図１７７参照）に代えて入賞コマンド処理１６を実行し（Ｓ４２２２Ａ）、本処理を終了する。また、本第１６制御例におけるコマンド判定処理１６（図５３６参照）では、Ｓ４２１７の処理において、大当たり関連コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２１７：Ｙｅｓ）、上述した第１３制御例（および第１制御例）における大当たり関連処理（図１８０参照）に代えて大当たり関連処理１６を実行し（Ｓ４２２３Ａ）、本処理を終了する。

【６１６７】

一方、Ｓ４２１７の処理において、大当たり関連のコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２１７：Ｎｏ）、次いで、普通図柄の抽選関連のコマンドを受信したか否かを判別する（Ｓ４２２４Ａ）。Ｓ４２２４Ａの処理において、普通図柄の抽選関連のコマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４２２４Ａ：Ｙｅｓ）、普通図柄の抽選関連のコマンドの種別に応じた制御を実行するための普図関連処理を実行し（Ｓ４２２５Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４２２４Ａの処理において、普通図柄の抽選関連のコマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４２２４Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ４２１９へと移行する。なお、入賞コマンド処理１６（Ｓ４２２２Ａ）、大当たり関連処理１６（Ｓ４２２３Ａ）および普図関連処理（Ｓ４２２５Ａ）の詳細については、図５３８、図５３９および図５４１を参照して後述する。

【６１６８】

次に、図５３７を参照して、コマンド判定処理１６（図５３６参照）の中の１処理であ

る状態コマンド受信処理１６（Ｓ４２２１Ａ）について説明する。図５３７は、この状態コマンド受信処理１６（Ｓ４２２１Ａ）を示したフローチャートである。

【６１６９】

この状態コマンド受信処理１６（Ｓ４２２１Ａ）のうち、Ｓ９００１、Ｓ９００２、Ｓ９０９２およびＳ９０９３の各処理では、それぞれ上述した第１３制御例における状態コマンド受信処理１３（図４５９参照）のＳ９００１、Ｓ９００２、Ｓ９０９２およびＳ９０９３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における状態コマンド受信処理１６（Ｓ４２２１Ａ）では、Ｓ９０９２の処理が終了すると、次いで、受信した状態コマンドにより通常状態への変更が通知されたか否かを判別する（Ｓ９０１１Ａ）。

【６１７０】

Ｓ９０１１Ａの処理において、通常状態への変更が通知されたと判別した場合には（Ｓ９０１１Ａ：Ｙｅｓ）、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンであるか否かを判別し（Ｓ９０１２Ａ）、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンであると判別した場合には（Ｓ９０１２Ａ：Ｙｅｓ）、先読み抑制フラグ２２３ｐｃをオフに設定し（Ｓ９０１３Ａ）、処理をＳ９０９３へと移行する。一方、Ｓ９０１１Ａの処理において、通常状態への変更が通知されていないと判別した場合（Ｓ９０１１Ａ：Ｎｏ）、および、Ｓ９０１２Ａの処理において、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ９０１２Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９０９３へと移行する。

【６１７１】

また、本第１６制御例における状態コマンド受信処理１６（図５３７参照）では、Ｓ９０９３の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報があると判別した場合に（Ｓ９０９３：Ｙｅｓ）、受信した値に対応する値を特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値に設定し（Ｓ９０１４Ａ）、ボーナス間カウンタ２２３ｐａ、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータを更新して（Ｓ９０１５Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ９０９３の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報が通知されていないと判別した場合には（Ｓ９０９３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【６１７２】

次に、図５３８を参照して、コマンド判定処理１６（図５３６参照）の１処理である入賞コマンド処理１６（Ｓ４２２２Ａ）について説明する。図５３８は、この入賞コマンド処理１６（Ｓ４２２２Ａ）を示したフローチャートである。

【６１７３】

この入賞コマンド処理１６（Ｓ４２２２Ａ）のうち、Ｓ４４０１およびＳ４４１３の各処理では、それぞれ第１３制御例（および第１制御例）における入賞コマンド処理（図１７７参照）のＳ４４０１およびＳ４４１３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における入賞コマンド処理１６（Ｓ４２２２Ａ）では、Ｓ４４０１の処理を実行後、今回の入賞情報コマンドにより通知された入賞情報が第１特別図柄の入賞情報であるか否かを判別し（Ｓ４４２１Ａ）、第１特別図柄の入賞情報であると判別した場合には（Ｓ４４２１Ａ：Ｙｅｓ）、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンであるか否かを判別し（Ｓ４４２２Ａ）、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンであると判別した場合には（Ｓ４４２２Ａ：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ４４２１Ａの処理において、特図１の入賞情報ではないと判別した場合（Ｓ４４２１Ａ：Ｎｏ）、および、Ｓ４４２２Ａの処理において、先読み抑制フラグ２２３ｐｃがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ４４２２Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ４４２３Ａへと移行する。

【６１７４】

Ｓ４４２３Ａの処理では、保留態様選択テーブル２２２ｐａ（図５２１参照）を読み出して（Ｓ４４２３Ａ）、次に、抽選対象の入賞情報が示す変動種別に応じて今回の入賞情報に対応する保留球数図柄の表示態様を特定し（Ｓ４４２４Ａ）、特定した表示態様の保留球数図柄の表示を設定し（Ｓ４４２５Ａ）、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値との和が５００であるか否かを判別する（Ｓ４４２６Ａ）。

【６１７５】
Ｓ４４２６Ａの処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値との和が５００ではないと判別した場合には（Ｓ４４２６Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ４４１３へと移行する。一方、Ｓ４４２６Ａの処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値との和が５００であると判別した場合には（Ｓ４４２６Ａ：Ｙｅｓ）、入賞情報格納エリア２２３ｂに大当たりに対応する入賞情報があるかを判別し（Ｓ４４２７Ａ）、入賞情報格納エリア２２３ｂに大当たりに対応する入賞情報がないと判別した場合には（Ｓ４４２７Ａ：Ｎｏ）、天井抽選回数に到達することを意味し、第３時短状態が設定されることを意味するので、先読み抑制フラグ２２３ｐｃをオンに設定し（Ｓ４４２８Ａ）、処理をＳ４４１３へと移行する。

【６１７６】
一方、Ｓ４４２７Ａの処理において、入賞情報格納エリア２２３ｂに大当たりに対応する入賞情報があると判別した場合には（Ｓ４４２７Ａ：Ｙｅｓ）、第３時短状態が設定されることなく大当たり遊技が実行されることを意味するため、Ｓ４４２８Ａの処理をスキップし、Ｓ４４１３へと移行する。

【６１７７】
この入賞コマンド処理１６（図５３８参照）を実行することにより、天井抽選回数目に抽選が実行される外れに対応する保留球を獲得した時点で、先読み抑制フラグ２２３ｐｃをオンにしておくことができるので、その後に第１特別図柄の保留球を獲得したとしても、先読み演出（保留変化演出）が実行されることを抑制することができる。これにより、第３時短状態へと移行した後で消化される第１特別図柄の保留球数図柄の表示態様に応じて、当該第１特別図柄の保留球に対応する抽選を第３時短状態の間に実行させるか否かを調節させる変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。

【６１７８】
次に、図５３９を参照して、コマンド判定処理１６（図５３６参照）の１処理である大当たり関連処理１６（Ｓ４２２３Ａ）について説明する。図５３９は、大当たり関連処理１６（Ｓ４２２３Ａ）を示したフローチャートである。

【６１７９】
この大当たり関連処理１６（Ｓ４２２３Ａ）のうち、Ｓ４７０１、Ｓ４７０９、Ｓ４７１０、Ｓ４７１４およびＳ４７１５の各処理では、それぞれ第１３制御例（および第１制御例）における大当たり関連処理（図１８０参照）のＳ４７０１、Ｓ４７０９、Ｓ４７１０、Ｓ４７１４およびＳ４７１５の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１６制御例における大当たり関連処理１６（Ｓ４２２３Ａ）では、Ｓ４７０１の処理において、大当たり開始コマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４７０１：Ｙｅｓ）、連動演出フラグ２２３ｐｅがオンであるか否かを判別し（Ｓ４７２１Ａ）、連動演出フラグ２２３ｐｅがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ４７２１Ａ：Ｎｏ）、大当たり種別に応じたオープニング演出を示す表示用オープニングコマンドを設定し（Ｓ４７２２Ａ）、処理をＳ４７２４Ａへと移行する。一方、Ｓ４７２１Ａの処理において、連動演出フラグ２２３ｐｅがオンであると判別した場合には（Ｓ４７２１Ａ：Ｙｅｓ）、データ表示装置連動型の大当たり報知演出を示す表示用オープニングコマンドを設定し（Ｓ４７２３Ａ）、処理をＳ４７２４へと移行する。

【６１８０】
Ｓ４７２２Ａ、またはＳ４７２３Ａの処理後に実行されるＳ４７２４Ａの処理では、ボーナス間カウンタ２２３ｐａの値をリセットし（Ｓ４７２３Ａ）、次に、今回開始される大当たりが特殊大当たりであるか否かを判別し（Ｓ４７２５Ａ）、特殊大当たりであると判別した場合には（Ｓ４７２５Ａ：Ｙｅｓ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂに今回の特殊大当たりの当選情報を格納し（Ｓ４７２６Ａ）、本処理を終了する。一方、特殊大当たりではないと判別した場合には（Ｓ４７２５Ａ：Ｎｏ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂに通常ボーナスの当選情報を格納し（Ｓ４７２７Ａ）、本処理を終了する。

【６１８１】
　また、第１３制御例（および第１制御例）における大当たり関連処理（図１８０参照）のＳ４７１１～Ｓ４７１３の処理は、本制御例では削除している。Ｓ４７１４の処理において、エンディングコマンドを受信しなかったと判別した場合には（Ｓ４７１４：Ｎｏ）、小当たり関連のコマンドを受信したかを判別し（Ｓ４７２８Ａ）、小当たり関連のコマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４７２８Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり関連の各種コマンドの種別に応じた制御を行うための小当たり関連処理を実行し（Ｓ４７２９Ａ）、本処理を終了する。一方、小当たり関連のコマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４７２８Ａ：Ｎｏ）、本処理を終了する。なお、小当たり関連処理（Ｓ４７２９Ａ）の詳細については、図５４０を参照して後述する。
【６１８２】
　次に、図５４０を参照して、大当たり関連処理１６（図５３９参照）の１処理である小当たり関連処理（Ｓ４７２９Ａ）について説明する。図５４０は、この小当たり関連処理（Ｓ４７２９Ａ）を示したフローチャートである。
【６１８３】
　この小当たり関連処理（Ｓ４７２９Ａ）では、まず、小当たり開始コマンドを受信したか否かを判別し（Ｓ４７５１Ａ）、小当たり開始コマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４７５１Ａ：Ｙｅｓ）、小当たりのオープニング演出を示す表示用小当たり開始コマンドを設定し（Ｓ４７５２Ａ）、ボーナス間カウンタ２２３ｐａの値をリセットし（Ｓ４７５３Ａ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂに今回の小当たりの当選情報を格納して（Ｓ４７５４Ａ）、本処理を終了する。
【６１８４】
　一方、Ｓ４７５１Ａの処理において、小当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４７５１Ａ：Ｎｏ）、次いで、小当たり用エンディングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ４７５５Ａ）、小当たり用エンディングコマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４７５５Ａ：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、小当たり用エンディングコマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４７５５Ａ：Ｙｅｓ）、小当たりのエンディング演出を示す表示用小当たりエンディングコマンドを設定し（Ｓ４７５６Ａ）、本処理を終了する。
【６１８５】
　次に、図５４１を参照して、コマンド判定処理１６（図５３６参照）の１処理である普図関連処理（Ｓ４２２５Ａ）について説明する。図５４１は、普図関連処理（Ｓ４２２５Ａ）を示したフローチャートである。
【６１８６】
　この普図関連処理（Ｓ４２２５Ａ）では、まず、普図変動パターンコマンドを受信したか否かを判別し（Ｓ４２５１Ａ）、普図変動パターンコマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ４２５１Ａ：Ｙｅｓ）、通知された普図変動パターンに対応する変動時間を普図変動時間タイマ２２３ｐｄに設定し（Ｓ４２５２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４２５１Ａの処理において、普図変動パターンコマンドを受信していないと判別した場合には（Ｓ４２５１Ａ：Ｎｏ）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｓ４２５３Ａ）、本処理を終了する。
【６１８７】
　次に、図５４２を参照して、演出態様設定処理１３（図４６２参照）の中で第１３制御例における通常モード用演出設定処理１３（図４６３参照）に代えて実行される通常モード用演出設定処理１６（Ｓ３４４２１Ａ）について説明する。図５４２は、この通常モード用演出設定処理１６（Ｓ３４４２１Ａ）を示したフローチャートである。
【６１８８】
　この通常モード用演出設定処理１６（Ｓ３４４２１Ａ）は、第１３制御例における通常モード用演出設定処理１３（図４６３参照）と同様に、通常モードにおける変動表示態様を決定するために実行される処理である。本第１６制御例における通常モード用演出設定

処理１６（Ｓ３４４２１Ａ）では、まず、時短示唆演出選択テーブル２２２ｐｂを読み出し（Ｓ３４５１１Ａ）、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値とボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータとに対応する示唆演出の演出態様を決定し（Ｓ３４５１２Ａ）、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００であるか否かを判別する（Ｓ３４５１３Ａ）。特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００ではないと判別した場合には（Ｓ３４５１３Ａ：Ｎｏ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータを読み出し（Ｓ３４５１４Ａ）、前回の通常ボーナス後の抽選回数が５００であるか否かを判別する（Ｓ３４５１５Ａ）。前回の通常ボーナス後の抽選回数が５００ではないと判別した場合には（Ｓ３４５１５Ａ：Ｎｏ）、最古の小ボーナス後の抽選回数が５００であるか否かを判別し（Ｓ３４５１６Ａ）、最古の小ボーナス後の抽選回数が５００であると判別した場合には（Ｓ３４５１６Ａ：Ｙｅｓ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂから最古の小ボーナスの履歴を削除し（Ｓ３４５１７Ａ）、次いで、右打ちを行わないように促す表示態様を設定し（Ｓ３４５１８Ａ）、処理をＳ３４５１９Ａへと移行する。

【６１８９】

一方、Ｓ３４５１３Ａの処理において、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００であると判別した場合（Ｓ３４５１３Ａ：Ｙｅｓ）、およびＳ３４５１５Ａの処理において、前回の通常ボーナス後の抽選回数が５００であると判別した場合には（Ｓ３４５１５Ａ：Ｙｅｓ）、処理をＳ３４５１８Ａへと移行する。また、Ｓ３４５１６Ａの処理において、最古の小ボーナス後の抽選回数が５００ではないと判別した場合には（Ｓ３４５１６Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３４５１７ＡおよびＳ３４５１８Ａの処理をスキップし、処理をＳ３４５１９Ａへと移行する。

【６１９０】

Ｓ３４５１８Ａの処理を実行した後、受信した変動パターンに対応した演出態様を決定し（Ｓ３４５１９Ａ）、決定した演出態様に応じて連動演出フラグ２２３ｐｅを更新し（Ｓ３４５２０Ａ）、本処理を終了する。この通常モード用演出設定処理１６（図５４２参照）を実行することにより、遊技者の視点で天井抽選回数に到達した可能性がある変動表示演出において、右打ちしないように報知する演出を実行することができるので、実際には天井抽選回数に到達していなかったとしても、天井抽選回数に到達していることを期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６１９１】

＜第１６制御例におけるデータ表示装置の制御処理について＞

次に、図５４３～５４４を参照して、本制御例におけるデータ表示装置２６２のＭＰＵ２７１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図５４３を参照して、データ表示装置２６２のＭＰＵ２７１によって実行されるメイン処理について説明する。図５４３は、このメイン処理を示したフローチャートである。このメイン処理では、データ表示装置２６２と電気的に接続されているパチンコ機１０から受信した各種信号に基づいて、データ表示部２７６に表示するデータ（パチンコ機１０の遊技の状況に対応するデータ）を更新したり、パチンコ機１０の遊技状態に応じて視認態様を可変させる制御を実行するための処理である。

【６１９２】

このメイン処理では、まず、初期設定の処理が実行される（Ｓ１０１Ｄ）。次いで、表示装置信号受信処理を実行する（Ｓ１０２Ｄ）。次に、データ表示装置２６２のデータ表示部２７６の表示内容を更新するための表示更新処理を実行する（Ｓ１０３Ｄ）。そして、遊技者が入力装置２７７に対して入力操作を行ったか否かを判別し、入力操作があった場合には当該操作に応じた処理を実行するための操作手段入力監視処理を行う（Ｓ１０４Ｄ）。

【６１９３】

次に、電源断の発生情報があるか否かを判別し（Ｓ１０５Ｄ）、電源断の発生情報があれば（Ｓ１０５Ｄ：Ｙｅｓ）、電源断処理を実行し（Ｓ１０７Ｄ）、以降は電源が完全に

遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。
【６１９４】
　Ｓ１０５Ｄの処理において、電源断の発生情報が記憶されていないと判別した場合は（Ｓ１０５Ｄ：Ｎｏ）、次いで、Ｓ１０１Ｈの処理の終了時、または前回のＳ１０２Ｈの処理の開始時から１ｍｓ経過したか否かを判別し（Ｓ１０６Ｄ）、１ｍｓが経過していないと判別した場合は（Ｓ１０６Ｄ：Ｎｏ）、処理をＳ１０６Ｄへと戻す。一方、Ｓ１０６Ｄの処理において、１ｍｓが経過したと判別した場合は（Ｓ１０６Ｄ：Ｙｅｓ）、Ｓ１０２Ｄの処理に戻り、Ｓ１０２Ｄ～Ｓ１０４Ｄの処理が繰り返し実行される。
【６１９５】
　次に、図５４４のフローチャートを参照して、メイン処理（図５４３参照）の中の１処理である表示装置信号受信処理（Ｓ１０２Ｄ）について説明を行う。この表示装置信号受信処理（Ｓ１０２Ｄ）では、パチンコ機１０から受信した各種信号に応じた処理が実行される。
【６１９６】
　表示装置信号受信処理（Ｓ１０２Ｄ）では、まず、パチンコ機１０の外部出力端子板２６１のＣＮ１～ＣＮ１１より外部出力信号（Ｈ出力の状態の各種信号）を受信したか否かを判別し（Ｓ２０１Ｄ）、外部出力信号を受信していなければ（Ｓ２０１Ｄ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了してメイン処理（図５４３参照）へと戻る。
【６１９７】
　一方、Ｓ２０１Ｄの処理において、外部出力信号を受信したと判別した場合は（Ｓ２０１Ｄ：Ｙｅｓ）、次いで、外部出力信号として電源オン信号を受信した（即ち、ＣＮ１１が０．２ｓ間のＨ出力状態となった）か否かを判別する（Ｓ２０２Ｄ）。そして、電源オン信号を受信したと判別した場合は（Ｓ２０２Ｄ：Ｙｅｓ）、次いで、ＣＮ７～ＣＮ９の出力から現在の状態を特定し（Ｓ２０３Ｄ）、特定した状態に応じてデータ表示部２７６、電飾部２７７の態様を更新し（Ｓ２０４Ｄ）、本処理を終了する。
【６１９８】
　一方、Ｓ２０２Ｄの処理において、電源オン信号を受信していない（即ち、ＣＮ１１から０．２のＨ出力信号を受信していない）と判別した場合は（Ｓ２０２Ｄ：Ｎｏ）、電源オン信号以外の信号に応じて各種データカウンタ値を更新し（Ｓ２０５Ｄ）、受信した信号に応じてデータ表示部２７６の表示内容の更新を設定し（Ｓ２０６Ｄ）、本処理を終了する。
【６１９９】
　＜第１６制御例におけるホールコンピュータの制御処理について＞
　次に、図５４５～５４７を参照して、本制御例におけるホールコンピュータ２６３のＭＰＵ２８１によって実行される各種制御処理について説明する。
【６２００】
　まず、図５４５を参照して、ホールコンピュータ２６３のＭＰＵ２８３によって実行されるメイン処理について説明する。図５４５は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理では、パチンコ機１０から受信した各種信号に基づいて、各パチンコ機１０の遊技の状況に対応するデータを更新したり、各パチンコ機１０に対して異常や不正行為の有無を判別したりする。
【６２０１】
　このメイン処理では、まず、初期設定の処理を実行する（Ｓ１０１Ｈ）。次いで、各パチンコ機１０から受信した信号に応じた処理を実行する信号受信処理が行われ（Ｓ１０２Ｈ）、次に、ホールコンピュータ２６３に設けられたディスプレイ２８７の表示を更新する表示更新処理を実行する（Ｓ１０３Ｈ）。そして、ホールコンピュータ２６３の操作者がホールコンピュータ２６３の入力装置２８８に対する入力操作を行ったか否かを判別し、入力操作があった場合には当該操作に応じた処理を実行する操作手段入力監視処理を行う（Ｓ１０４Ｈ）。
【６２０２】

次に、パチンコ機１０に対して電源が投入された場合に、前回の電源断時における遊技状態と、今回の電源投入時における遊技状態とを比較し、異常の有無を判別する復電時比較処理を実行する（Ｓ１０５Ｈ）。そして、電源断の発生情報があるか否かを判別し（Ｓ１０６Ｈ）、電源断の発生情報があれば（Ｓ１０６Ｈ：Ｙｅｓ）、電源断処理を実行し（Ｓ１０８Ｈ）、以降は電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。

【６２０３】

Ｓ１０６Ｈの処理において、電源断の発生情報が記憶されていないと判別した場合は（Ｓ１０６Ｈ：Ｎｏ）、次いで、１ｍｓが経過したか否かを判別し（Ｓ１０７Ｈ）、１ｍｓ経過していないと判別した場合は（Ｓ１０７Ｈ：Ｎｏ）、処理をＳ１０７Ｈに戻す。一方、Ｓ１０７Ｈの処理において、１ｍｓが経過したと判別した場合は（Ｓ１０７Ｈ：Ｙｅｓ）、Ｓ１０２Ｈの処理に戻り、Ｓ１０２Ｈ～Ｓ１０５Ｈの処理が繰り返し実行される。

【６２０４】

次に、図５４６のフローチャートを参照して、メイン処理（図５４５参照）の中の１処理である信号受信処理（Ｓ１０２Ｈ）について説明を行う。この信号受信処理（Ｓ１０２Ｈ）では、パチンコ機１０から受信した各種信号に応じた処理が実行される。

【６２０５】

信号受信処理（Ｓ１０２Ｈ）では、まず、ホールコンピュータ２６３に接続されているいずれかのパチンコ機１０の外部出力端子板２６１のＣＮ１～ＣＮ１１より外部出力信号（Ｈ出力の状態の各種信号）を受信したか否かが判別され（Ｓ２０１Ｈ）、外部出力信号を受信していなければ（Ｓ２０１Ｈ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了してメイン処理（図５４５参照）へと戻る。

【６２０６】

一方、Ｓ２０１Ｈの処理において、外部出力信号を受信したと判別した場合は（Ｓ２０１Ｈ：Ｙｅｓ）、次いで、外部出力信号が出力されたパチンコ機１０から電源オン信号を受信した（即ち、ＣＮ１１から０．２ｓのＨ出力信号を受信した）か否かを判別する（Ｓ２０２Ｈ）。そして、電源オン信号を受信していない（即ち、ＣＮ１１から０．２ｓのＨ出力信号を受信していない）と判別した場合は（Ｓ２０２Ｈ：Ｎｏ）、次いで、電源オフ信号を受信した（即ち、ＣＮ１１から０．４ｓのＨ出力信号を受信した）か否かを判別する（Ｓ２０３Ｈ）。Ｓ２０３Ｈの処理において、電源オフ信号を受信した（即ち、ＣＮ１１から０．４ｓのＨ出力信号を受信した）と判別した場合には（Ｓ２０３Ｈ：Ｙｅｓ）、信号を出力したパチンコ機に対応する電断時情報格納エリアに対して現在（電源遮断時）の遊技状態に対応する情報を格納し（Ｓ２０４Ｈ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２０３Ｈの処理において、電源オフ信号を受信していない（即ち、ＣＮ１１から０．４ｓのＨ出力信号を受信していない）と判別した場合には（Ｓ２０３Ｈ：Ｎｏ）、信号を出力したパチンコ機に対応するデータ格納エリアの情報を更新し（Ｓ２０４Ｈ）、本処理を終了する。例えば、ホールに設置されている第１のパチンコ機１０（１番台）の大当たり１信号（ＣＮ７）がＨ出力の状態であり、他の外部出力信号がＬ出力の状態であると判別した場合は、第１のパチンコ機１０（１番台）に対応するデータ格納エリアに対して大当たり中であることを示す情報を格納する。なお、外部出力信号を受信したパチンコ機１０の種別（台番号）は、ホールコンピュータ２６３に対する接続端子の種別（外部出力信号を受信した端子の位置）によって特定される。

【６２０７】

Ｓ２０２Ｈの処理において、電源オン信号を受信した（即ち、ＣＮ１１から０．２ｓのＨ出力信号を受信した）と判別した場合は（Ｓ２０２Ｈ：Ｙｅｓ）、次いで、外部出力信号を出力したパチンコ機１０に対応するデータ格納エリアの立ち上げフラグ（対応するパチンコ機１０が電源投入に基づく立ち上げ中であるか否かを示すフラグ）がオンであるか否かを判別する（Ｓ２０６Ｈ）。Ｓ２０６Ｈの処理による判別の結果、立ち上げフラグがオフであると判別した場合は（Ｓ２０６Ｈ：Ｎｏ）、外部出力信号を受信したパチンコ機１０に対応する復電時情報格納エリアの情報を更新し（Ｓ２０７Ｈ）、ディスプレイ２８

７の表示内容の更新を設定し（Ｓ２０８Ｈ）、外部出力信号を受信したパチンコ機１０に対応する立ち上げフラグをオンに設定して（Ｓ２０９Ｈ）、本処理を終了する。

【６２０８】

次いで、図５４７のフローチャートを参照して、復電時比較処理（Ｓ１０５Ｈ）について説明する。この復電時比較処理（Ｓ１０５Ｈ）は、ＭＰＵ２８１によって実行されるメイン処理の中の１処理であり、パチンコ機１０に対して電源が投入された場合に、前回の電源断時における遊技状態と、今回の電源投入時における遊技状態とを比較し、異常の有無を判別する処理である。

【６２０９】

この復電時比較処理（Ｓ１０５Ｈ）では、まず、立ち上げフラグがオンであるか否かを判別し（Ｓ３０１Ｈ）、立ち上げフラグがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｓ３０１Ｈ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ３０１Ｈの処理において、立ち上げフラグがオンであると判別した場合は（Ｓ３０１Ｈ：Ｙｅｓ）、次いで、電断時情報格納エリアの情報と、復電時情報格納エリアの情報とを比較し（Ｓ３０２Ｈ）、比較した情報が一致するか否かを判別する（Ｓ３０３Ｈ）。

【６２１０】

Ｓ３０３Ｈの処理において、比較した情報が一致しないと判別した場合には（Ｓ３０３Ｈ：Ｎｏ）、異常の報知を設定し（Ｓ３０４Ｈ）、処理をＳ３０５Ｈへと移行する。一方、Ｓ３０３Ｈの処理において、比較した情報が一致すると判別した場合には（Ｓ３０３Ｈ：Ｙｅｓ）、Ｓ３０４Ｈの処理をスキップして、処理をＳ３０５Ｈへと移行する。Ｓ３０５Ｈの処理では、立ち上げフラグをオフに設定し（Ｓ３０５Ｈ）、本処理を終了する。

【６２１１】

この復電時比較処理（図５４７参照）を実行することにより、ホールコンピュータ２６３に接続されているいずれかのパチンコ機１０に対して電源が投入されたことによりホールコンピュータ２６３に対して電源投入信号が出力された場合に、当該パチンコ機１０の電源遮断時の遊技状態を示すデータと、今回の電源投入時の遊技状態を示すデータとを比較することができるので、遊技状態が変わっているという異常事態が発生した場合に、そのことをホールコンピュータ２６３側で電源投入直後に把握することができる。よって、パチンコ機１０の電源が遮断されている間に遊技状態を書き替える（例えば、不正に大当たり状態に設定する）等の不正行為に対する抑制を図ることができる。

【６２１２】

以上説明した通り、本第１６制御例におけるパチンコ機１０では、パチンコ機１０と電気的に接続されている所定装置（例えば、データ表示装置２６２）の視認態様に連動させているかのような演出態様の特定演出（データ表示装置連動型演出）を実行可能に構成している。より具体的には、本第１６制御例のパチンコ機１０では、遊技者に有利な状態（例えば、大当たりや時短状態）となることを報知するための演出の一種として、有利な状態へと移行したことを所定期間秘匿しておき、有利な状態へ移行後に所定契機で所定装置（例えば、データ表示装置２６２）を視認することを促す演出態様の表示装置連動演出を実行可能に構成している。現在一般的に流通している、接続されているパチンコ機１０から受信する各種信号に基づいてパチンコ機１０の遊技状況に関する各種データ（大当たり間の抽選回数や大当たり回数、総抽選回数等）を表示するためのデータ表示装置２６２においては、有利な状態（大当たり遊技状態や確変遊技状態、時短遊技状態等）が設定されている場合に、有利な状態となっていることを文字や装飾ランプの発光等によって報知可能に構成されているものがほとんどであるため、表示装置連動演出を実行することによって、あたかもパチンコ機１０とデータ表示装置２６２とが連動して演出を行っているかのような極めて斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２１３】

また、本第１６制御例では、通常遊技状態において主として実行される第１特別図柄の抽選結果として、ほとんど賞球を得ることができない（ラウンド数が少なく、各ラウンド

における特定入賞口６５ａの開放期間も短い）大当たり（特殊大当たり）、および特殊大当たりと共通の特定入賞口６５ａの開放パターン（特定開閉動作）が設定される小当たりを設ける構成とし、特殊大当たりとなったのか小当たりとなったのかを遊技者が判別困難となるように構成している。これらの抽選結果により、特定入賞口６５ａが特定開閉動作で開閉される毎に、天井抽選回数に到達する（第３時短状態が付与される）までの抽選回数が特殊大当たり当選によってリセットされた可能性があると遊技者に認識させることができるので、第３時短状態が付与されるまでの残抽選回数（天井抽選回数到達に係る特典付与までの残回数）を遊技者に把握困難とすることができる。よって、残抽選回数を予測させる遊技性を付与することができる。

【６２１４】

また、本第１６制御例では、天井抽選回数における特別図柄の変動時間を、抽選結果によらず、予め定められた特定期間（３０秒間）に固定化することにより、第３時短状態へと移行するのか、天井抽選回数で丁度大当たりに当選したのかを分かり難くする構成としている。このように構成することで、第３時短状態へと移行することに対する期待感をより長く遊技者に対して抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２１５】

また、本第１６制御例では、天井抽選回数に到達する前に保留され、天井抽選回数到達後に設定される第３時短状態において消化される保留球に対する保留変化演出の実行を抑制する構成としている。このように構成することで、第３時短状態へと移行した後に消化される第１特別図柄の保留球を、第２特別図柄の始動入賞を発生させないことで敢えて第３時短状態の間に消化させることで有利度合いを高めようとしたり、逆に、急いで第２特別図柄の保留球を獲得し、その後に第２特別図柄の保留球をきらさないように遊技を行うことにより、第１特別図柄の保留球を敢えて第３時短状態が終了してから消化させることで有利度合いを高めようとする変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。

【６２１６】

また、本第１６制御例では、大当たり遊技状態に移行する場合、および第３時短状態に移行する場合に、外部出力端子板２６１における共通の信号出力チャンネル（ＣＮ９）から出力態様を異ならせて信号を出力する構成としている。これにより、信号出力チャンネルの個数を削減することができるので、部品点数の増加によりパチンコ機１０の原価率がアップしてしまうことを抑制することができる。ここで、本第１６制御例では、大当たり１信号と同様に、大当たり遊技の実行中もＣＮ９をＨ出力の状態とすることにより、外部出力端子板２６１を介して電気的に接続されている所定装置（データ表示装置２６２やホールコンピュータ２６３）のスペックに応じて受信する情報を選択させることができる。即ち、本パチンコ機１０に搭載されている、天井抽選回数到達に基づいて時短状態へと移行させる機能は、大当たりを介さずに有利な遊技状態へと移行させるという非常に特殊な機能であり、所定装置のスペックによっては、天井抽選回数到達に基づく時短状態への移行を正常なものとして取り扱うことができない虞がある。つまり、大当たりを示す信号を受信せずに時短状態を示す信号が受信されると、不正により大当たりを介さずに時短状態に移行されたと判別されたり、パチンコ機１０に異常が発生した出力無効と判別されてしまう虞がある。よって、本第１６制御例では、大当たり３信号として、大当たり遊技の実行中だけでなく、天井抽選回数に到達した際もＨ出力の状態に設定される信号を設ける構成とすることで、天井抽選回数に到達したことに基づいて移行する時短状態を、外部出力端子板２６１に接続されている所定装置のスペックによらず、正常なものとして取り扱わせることができる。つまり、大当たりを示す信号を受信せずに時短状態を示す信号を受信した場合に、不正や異常と判断する仕様であっても、大当たり３信号を大当たりを示す信号として入力しておけば、天井抽選回数に到達した場合にも、疑似的に、大当たりとなった後で時短状態に移行したかのような信号出力態様を実現することができる。つまり、大当たりを示す大当たり３信号が０．２秒間Ｈ出力の状態に設定されると共に、時短状態への移行を示す大当たり２信号がＨ出力の状態に設定されるので、正当な時短状態への移行

と判断させることができる。よって、天井抽選回数到達に基づいて設定された時短状態が不正や異常と判断されてしまうことを抑制することができる。なお、天井抽選回数到達に基づく時短状態を識別可能な仕様の所定装置の場合は、大当たり３信号の出力期間を判別することで、天井抽選回数に到達したことに基づくＨ出力であるのか、大当たり当選に基づくＨ出力であるのかを区別することができる。よって、所定装置のスペックによらず、天井抽選回数に到達したことに基づく時短状態への移行を正当なものとして取り扱わせることができる。

【６２１７】

なお、本第１６制御例では、パチンコ機１０に電源が投入された際に、遊技状態を示す信号を外部出力端子板２６１から外部出力する構成としているが、これに加えて、電源投入時が通常状態である場合に、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を外部出力する構成としてもよい。この場合、１の信号出力チャンネル（例えば、ＣＮ９）から、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を９ビットのデータを示す信号として出力する構成としてもよい。より具体的には、例えば、大当たり１信号も大当たり２信号も出力されていない（大当たり遊技状態でも時短状態でもない）状況下において、大当たり３信号を所定期間（例えば、０．４秒間）Ｈ出力に設定することで、以降にＣＮ９から出力される大当たり３信号が特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示すデータであることを所定装置に対して通知する。そして、０．２秒単位で特図抽選カウンタ２０３ｌａの１ビット目～９ビット目のデータを順に出力する。より具体的には、特図抽選カウンタ２０３ｌａの対象のビットが１であれば、ＣＮ９の出力を０．２秒間Ｈ出力に設定し、０であれば、ＣＮ９の出力を０．２秒間Ｌ出力に設定する。そして、出力が終了した後で、０．２秒とも０．４秒とも異なる出力期間（例えば、０．６秒）のＨ出力の信号を出力することで、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示すデータの出力が終了したことを所定装置に対して通知するように構成してもよい。このように構成することで、所定装置（ホールコンピュータ２６３等）側で外部出力端子板２６１の出力を監視するだけで、電源投入時における抽選回数を容易に把握することができる。

【６２１８】

更に、この場合において、パチンコ機１０の電源が遮断された場合にも、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を同様の方式で通知する構成としてもよい。このように構成することで、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を電源の遮断時および電源の投入時に所定装置に対して出力することができるので、電源の遮断中に特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が不正に書き替えられる不正行為が行われた場合に、そのことを所定装置側で発見し易く構成することができる。つまり、電源遮断時の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値と、次の電源投入時の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値とを比較する機能をホールコンピュータ２６３等の所定装置に搭載しておくことにより、特図抽選カウンタ２０３ｌａの齟齬を容易に所定装置側で発見することができるので、不正行為の有無を電源投入時に判別することができる。よって、不正行為に対する抑制を図ることができる。

【６２１９】

本第１６制御例では、大当たり１信号とは別で大当たり３信号を設ける構成としていたが、大当たり１信号と大当たり３信号とを１の信号出力チャンネル（ＣＮ７）から出力する構成としてもよい。このように構成することで、信号出力チャンネルの個数を削減することができる。

【６２２０】

本第１６制御例では、天井抽選回数到達前の通常遊技状態で特殊大当たりに当選するか、天井抽選回数到達後の第３時短状態で特殊大当たりに当選するかによって有利度合いを異ならせることにより、トータルとして、天井抽選回数を経過してから第１特別図柄の抽選で大当たりになった方が有利度合いが高くなるように構成していたが、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合の有利度合いを異ならせる方法はこれに限られるものではない。例えば、通常遊技状態において第１特別図柄の抽選で大当たりとなるよりも、天井抽選回数に到達した後で設定される第３時短状態の間に第１特別図柄の抽選で大当たりに当

選した場合の方が確変大当たりの割合が高くなる（第２確変状態へと移行し易くなる）ように構成してもよい。このように構成することで、天井抽選回数に到達することをより強く期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【６２２１】

本第１６制御例では、小ボーナスを設けることで、天井抽選回数までの残りの抽選回数を分かり難くする構成としていたが、天井抽選回数までの残りの抽選回数を分かり難くする方法はこれに限られるものではない。例えば、大当たり種別に応じて、大当たり終了後の天井抽選回数を異ならせることで、天井抽選回数としていくつが設定されているのかを分かり難くする構成としてもよい。また、小ボーナスが特殊大当たりであるか小当たりであるかは、第１図柄表示装置３７に表示される第１図柄の種別を視認することで把握可能となってしまう。そこで、例えば、小ボーナスに対応する停止図柄が第１図柄表示装置３７において停止表示されるタイミングで、第１図柄表示装置３７の表示を消去したり、共通の図柄を仮で表示させたり、第１図柄表示装置３７の前面に所定の可動役物を可動させることで第１図柄表示装置３７を隠す構成としてもよい。このように構成することで、小ボーナスが特殊大当たりであるか小当たりであるかをより分かり難くすることができるので、天井抽選回数までの残り回数をより分かり難く構成することができる。また、電源が投入されてから少なくとも１回目の変動表示が開始されるまでの間においても、同様の制御を行う構成としてもよい。ここで、電源投入時にパチンコ機１０が初期化されている（ＲＡＭクリアスイッチ１２２が押下されている）と、第１図柄表示装置３７の表示内容もクリアされる一方で、電源投入時にパチンコ機１０が初期化されていない場合は、第１図柄表示装置３７の表示内容が電源遮断時の表示内容に復帰される挙動が通常である。この場合、ホールの営業時間外にホールの店員等がパチンコ機１０を初期化してしまうと、翌営業日に遊技者が第１図柄表示装置３７を視認するだけで、天井抽選回数までの残りの抽選回数がリセットされているのか前日の営業終了時のまま維持されているのかを容易に判別することが可能となる。即ち、第１図柄表示装置３７の表示内容がクリアされていれば、天井抽選回数までの残りの抽選回数がリセットされていると判断して、当該パチンコ機１０で遊技を開始することを回避される可能性がある。このような状況が生じてしまうことを避けるために、電源投入時には、初期化の有無によらず、第１図柄表示装置３７の表示を消去したり、初期化の有無によらない共通の図柄を仮で表示させたり、最初に特別図柄の変動表示が開始されるまで第１図柄表示装置３７の前面に所定の可動役物を可動させることで第１図柄表示装置３７を隠す構成としてもよい。このように構成することで、パチンコ機１０が初期化されたのか否かを遊技者が判別し難く構成することができるので、初期化されたパチンコ機１０の稼働率が低下してしまうことを抑制することができる。

【６２２２】

本第１６制御例では、図５０９（ａ）に示したように、キャラクタ８０９が第３図柄表示装置８１における上方に光８０９を放つことで、間接的にパチンコ機１０の上方に注目させて、パチンコ機１０の真上に設置されることが一般的であるデータ表示装置２６２に注目させる（視認させる）ことにより、データ表示装置２６２の視認態様によって抽選結果（有利な状態に移行するか否か）を遊技者に報知する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、より直接的な表現でデータ表示装置２６２に注目することを促す演出（例えば、第３図柄表示装置８１に対して、「台の上を見ろ！」という文字が表示される演出等）を実行してもよい。このように構成することで、遊技者に対してより確実にデータ表示装置２６２を視認させることができるので、データ表示装置連動型演出の演出効果をより向上させることができる。

【６２２３】

本第１６制御例では、天井抽選回数に到達する前に獲得（始動入賞が検出）され、大当たり終了後に特別図柄の抽選に用いられる保留球（天井抽選回数を跨ぐ保留球）に対する保留予告演出の実行を抑制する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、保留予告演出として、複数の保留球が存在し、且つ、少なくとも１の保留球数図柄に対してノーマル保留とは異なる表示態様が設定されている状態において、ノーマル保留とは

異なる表示態様に設定されている１の保留球数図柄の表示態様と、ノーマル保留の表示態様に設定されている１の保留球数図柄の表示態様と、を入れ替える演出を設ける構成としてもよい。つまり、保留変化演出を、保留変化演出の対象として決定した保留球数図柄とは異なる保留球数図柄に対して一旦設定する構成とし、その保留変化演出が実行された後の所定のタイミング（例えば、次の変動開始時や、保留変化演出の対象として決定された保留球に基づく変動表示中等）で、保留変化演出の対象として決定されていた保留球数図柄の表示態様がノーマル保留とは異なる表示態様に設定されるように、仮でノーマル保留とは異なる表示態様に設定されていた保留球数図柄と表示態様を入れ替える演出を実行してもよい。この場合において、天井抽選回数を跨ぐ保留球についても、保留変化演出の実行を許容する構成としておき、天井抽選回数目の変動表示が終了するまでに、天井抽選回数目の抽選に用いられる保留球に対応する保留球数図柄と表示態様を入れ替える構成としてもよい。つまり、天井抽選回数目に消化される保留球に対応する保留球数図柄は、基本的にノーマル保留の表示態様に設定しておき、その後に第１特別図柄の保留球が増加した場合は、保留変化演出の実行可否の抽選を通常時と同様に実行し、ノーマル保留以外の表示態様の保留変化演出が実行された場合には、保留球数図柄の表示態様を入れ替える演出を実行することにより、天井抽選回数に到達した後に消化される第１特別図柄の保留球数図柄の表示態様をノーマル保留の表示態様に統一する構成としてもよい。このように構成することで、上述した第１６制御例と同様に、第１特別図柄の保留球を第３時短状態中に消化させた方が良いか否かの判断材料が無い状態で第３時短状態を開始させることができる。

【６２２４】

本第１６制御例では、大当たり終了後や時短図柄当選に基づいて設定される第２時短状態と、天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される第３時短状態とで、第３時短状態の方が若干有利度合いが低いが、当該有利度合いの差を遊技者が体感困難となる程度の微差に留める構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、第３時短状態の方が明確に有利度合いが低くなるように構成してもよい。具体的には、例えば、普通図柄の低確率状態（通常遊技状態、第３時短状態）における普通図柄の当たり確率を普通図柄の高確率状態（第２確変状態、第２時短状態）に対して大幅に低く（例えば、１／１００）構成してもよい。つまり、通常状態および第３時短状態では、共に普通図柄の抽選でほぼ当たりにならないように構成することで、左打ちにより第１特別図柄の抽選を実行させることで遊技を進行する遊技状態として構成してもよい。このように構成したとしても、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合における有利度合いを第３時短状態の方が高くなるように構成しておけば、天井抽選回数へと到達することを期待させる遊技性を維持することができる。また、天井抽選回数到達後も不利な左打ち遊技を維持する構成とすることで、天井抽選回数に到達する前後で有利度合いが大幅に変化してしまうことを抑制することができる。よって、第３時短状態の存在によってパチンコ機１０の出球性能が向上しすぎてしまい、過度に遊技者に有利となってしまったり、第３時短状態での出率を他の要素（例えば、大当たり確率や各入賞口への入球に対する賞球の払出個数、大当たりのラウンド数や確変割合等）でカバーしようとして、結果的に遊技者にとって過度に不利となってしまうことを抑制することができる。

【６２２５】

＜第１６制御例の変形例＞

次に、図６１４、および図６１５を参照して、上述した第１６制御例の変形例について説明する。上述した第１６制御例では、大当たりを報知するための演出および時短状態を報知するための演出として、データ表示装置２６２を視認することを促す演出を実行する構成としていた。これに加えて本変形例では、データ表示装置２６２を物理的に秘匿することが可能な位置まで出没動作可能な上部役物ＵＹをパチンコ機１０の上部に搭載する構成とし、上部役物ＵＹによってデータ表示装置２６２の視認態様を秘匿することでデータ表示装置連動型の演出が実行されているのか否かを遊技者に対してより分かり難くする構成としている。具体的には、図６１４に示すとおり、本変形例では、変動表示演出に伴う

興趣演出の一環として、パチンコ機１０の上部において出没動作を実行可能な上部役物ＵＹを設ける構成としている。この上部役物ＵＹは、通常時はパチンコ機１０の内部に収納された状態（原点位置）が維持され、主として、大当たりに当選する期待度が高い「ＳＰリーチ」の変動パターンが選択された場合に、変動表示演出の後半で上方に上昇する上昇動作を行い、データ表示装置２６２の前面を覆い隠す位置（張り出し位置）にて制止する。この上部役物ＵＹがデータ表示装置２６２の前面で制止する状態は、基本的に、変動表示演出が完全に終了するまでの間維持される。

【６２２６】

そして、本変形例では、大当たり演出の一種として、大当たり遊技のオープニング期間まで上部役物ＵＹを張り出し位置に維持しておくと共に、第３図柄表示装置８１において第３図柄を外れの組み合わせで停止表示させる演出を実行する（図６１５（ａ）参照）。そして、その後にデータ表示装置２６２に注目させる演出（図５０７（ａ）参照）を実行した後で、上部役物ＵＹが原点位置へと下降していくことで、データ表示装置２６２の前面が露出され、データ表示装置２６２に設定されている大当たり用視認態様が視認可能となる演出が実行される。大当たり用視認態様が視認可能となったことに基づいて、第１６制御例におけるデータ表示連動型演出と同様に、パチンコ機１０側でも大当たり当選を報知する。このように構成することで、データ表示装置２６２の視認態様を確認困難とすることができるので、大当たりや時短状態への移行をパチンコ機１０側において報知するタイミングを遅らせたとしても、大当たりや時短状態へと移行していることに気付かれにくく構成することができる。よって、データ表示装置連動型演出の演出効果をより高めることができると共に、報知タイミングの自由度をより向上させることができる。

【６２２７】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、パチンコ機１０の第３図柄表示装置８１において、外部出力端子板２６１を介してパチンコ機１０と電気的に接続されている所定装置（データ表示装置２６２等）に対して注目する（視認する）ことを遊技者に示唆する表示態様を表示させ、所定装置においてパチンコ機１０が所定の有利状態（大当たり状態、普通図柄の時短状態）となっていることを示すための所定の視認態様（大当たり用視認態様、時短状態用の視認態様）に設定されるか否かによって、所定の有利状態となったか否かを報知するデータ表示装置連動型演出を実行する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、データ表示装置２６１とは別の、パチンコ機１０が所定の有利状態となることを示す所定の信号を受信したことを契機として、所定の有利状態となることを示す視認態様に設定され得る所定装置（例えば、所定の有利状態となることを示す所定の信号を受信したことを契機として所定の表示態様に設定される表示装置や、所定の発光態様に設定される発光装置、所定の変位態様で変位（可動）される変位装置等）に対して注目する（視認する）ように促す表示態様を第３図柄表示装置８１において表示させることにより、所定装置と第３図柄表示装置８１とで連動型の演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、パチンコ機１０の直上に設置されることが大半であるデータ表示装置２６２に比較して、設置位置の自由度を高めることができるので、演出態様を多様化させることができる。

【６２２８】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、天井抽選回数までの残り回数がリセットされない小当たりに当選した場合にも、第３図柄表示装置８１に表示されるボーナス間回数をリセットする構成としていたが、上述したデータ表示装置２６２等の遊技履歴を表示することが可能な所定装置が接続されているパチンコ機１０においては、データ表示装置２６２に表示される遊技履歴を視認することで、前回の大当たりが終了した後で実行された特別図柄の抽選回数を把握できてしまう。つまり、データ表示装置２６２を視認することで、天井抽選回数に到達するまでの残りの抽選回数を把握可能となってしまう。これに対して、上述した第１６制御例の変形例における上部役物ＵＹを設けた上で、当該上部役物２６２の初期配置（原点位置）を図６１４に示す配置（データ表示装置２６２の前面が上部役物ＵＹによって遮蔽され、データ表示装置２６２を視認することが困難となる位

置）に設定することにより、データ表示装置２６２を視認することで天井抽選回数までの残りの抽選回数を把握することを物理的に困難となるように構成してもよい。このように構成することで、天井抽選回数に到達するまでの残りの抽選回数を、第３図柄表示装置８１に表示されるボーナス間回数のみから遊技者に判断させることができるので、天井抽選回数に到達するまでの残り回数を予測させる遊技性をより楽しませることができる。

【６２２９】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、右打ちしなければ遊技球が入球し得ない位置（入球困難な位置）にのみスルーゲート６７を設け、天井抽選回数目の変動表示演出中に故意に右打ちを開始しなければ、天井抽選回数目の変動表示中に普通図柄の変動表示が開始されないように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、左打ちされた遊技球も右打ちされた遊技球も入球可能な位置にスルーゲート６７や第２入球口６４０を設ける構成としてもよい。このように構成した場合、特別図柄の変動停止の前後に渡って普通図柄の変動表示が継続するという状況が発生し易くなるが、上述した第１６制御例のように、普通図柄の残変動時間に応じて時短状態への移行を報知するタイミングをずらす（遅らせる）ことにより、無駄球が生じてしまうことを抑制することができる。

【６２３０】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、第３時短状態中に時短図柄に当選すると、第２時短状態が設定されると共に、第２時短状態において天井抽選回数に到達すると、第３時短状態が設定される（時短状態が上書きされる）ように構成していたが、必ずしも時短種別を上書きする必要はない。例えば、有利度合いが高い（普通図柄の当たりとなる確率が高い）第２時短状態において天井抽選回数に到達した場合は、第２時短状態を維持したまま、時短回数のみを天井抽選回数到達に基づく時短状態に対応する時短回数（１００回）に更新するように構成してもよい。このように構成することで、天井抽選回数に到達した時点の遊技状態によらず、天井抽選到達前の遊技状態よりも有利度合いが低くなってしまうことを抑制することができるので、天井抽選回数に到達するタイミングによらず、遊技者を喜ばせることができる。

【６２３１】

上述した第１６制御例、およびその変形例において、第３時短状態の間に時短図柄に当選して第２時短状態に移行した（これに伴って時短回数が１００に増加した）場合や、第２時短状態の間に天井抽選回数に到達して第３時短状態に移行した（これに伴って時短回数が１００に増加した）場合に、時短回数が増加したことを示す特別な演出態様の演出を実行する構成としてもよい。具体的には、例えば、時短状態中の時短図柄当選に対応する変動表示演出や、時短状態中の天井抽選回数目の変動表示演出において、表示領域Ｄｍ７に表示される時短状態が終了するまでの残り回数を示す数字が１００に増加する（時短回数が回復する）演出を実行する構成としてもよいし、所謂巻き戻し再生のような表示態様を設定することで、時短状態の開始時まで時間が戻ったかのような内容演出を実行してもよい。このように構成することで、より多彩な演出態様を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。なお、この場合において、時短回数の残回数がより少ない状態で時短状態の設定条件が成立するほど、豪華な（派手な）演出態様が設定され易くなるように構成してもよい。時短回数が少ない状態で時短状態の設定条件が成立して時短回数が１００回に再セットされると、有利な時短状態をより多く得したかのように遊技者に思わせることができるので、この場合により豪華な演出を実行することにより、遊技者に対してより大きな喜びや満足感を抱かせることができる。

【６２３２】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、天井抽選回数目に特別図柄の抽選に用いられる保留球を取得したことに基づいて、保留変化演出等の先読み演出が禁止される状態を設定する構成としていたが、先読み演出が禁止される状態を設定する条件はこれに限られるものではない。例えば、時短図柄当選に対応する保留球が保留されたことに基づいて、先読み演出が禁止される状態を設定してもよいし、特殊大当たり以外の大当たりに対応する保留球が保留された（即ち、大当たり終了後に普通図柄の時短状態が設定される遊

技状態に移行する種別の大当たり保留が保留された）ことに基づいて、先読み演出が禁止される状態を設定してもよい。このように構成することで、天井抽選回数到達に基づいて第３時短状態が設定された場合と同様に、第１特別図柄の保留球を１以上有した状態で時短状態に移行した場合に、第１特別図柄の保留球が大当たりとなるか否かを遊技者が予測困難とすることができるので、大当たりになりそうだと予測した場合にのみ時短状態中に第１特別図柄の保留球が消化され、大当たりとならなそうだと予測した場合は第２特別図柄の抽選が実行されるように遊技方法を切り替える変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。また、時短状態に移行する場合以外にも、先読み演出が禁止される状態を設定する構成としてもよい。より具体的には、例えば、ノーマル保留以外の表示態様（変化１～変化５のいずれか）に設定される保留変化演出が決定されてから、当該ノーマル保留以外の表示態様の保留球に基づく変動表示演出が終了するまでの間、先読み演出が禁止される状態を設定してもよい。このように構成することで、ノーマル保留以外の表示態様の保留球数図柄が複数表示されてしまい、いずれの保留球に基づく変動表示演出に注目すればよいのかを遊技者が迷ってしまい、各保留球に基づく変動表示演出に対して集中することが困難になってしまうことを抑制することができる。

【６２３３】

上述した第１６制御例、およびその変形例では、天井抽選回数目に特別図柄の抽選に用いられる保留球が保留された場合に、その後に取得された第１特別図柄の保留球に対応する保留球数図柄に対してノーマル保留以外の表示態様が設定されることを抑制する構成としていたが、これに限られるものではなく、例えば、第３時短状態に移行した後で消化される第１特別図柄の保留球に対応する保留球数図柄は、ノーマル保留、および変化１～変化５のいずれとも異なる特定の表示態様に設定する構成としてもよい。このように構成した場合も、時短状態中に消化させた方が有利となるか否かを遊技者が予測困難とすることができるので、大当たりになりそうだと予測した場合にのみ時短状態中に第１特別図柄の保留球が消化され、大当たりとならなそうだと予測した場合は第２特別図柄の抽選が実行されるように遊技方法を切り替える変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。また、上述した第１６制御例、およびその変形例とは逆に、保留変化演出を通常時と同様に許容する構成としてもよい。この場合において、大当たりとなる可能性や時短図柄当選となる可能性を示唆する表示態様だけでなく、時短状態中に大当たりに当選すると有利になる大当たり種別（特殊大当たり）の可能性が高いこと（つまり、時短状態中に消化された方が有利度合いが高くなる可能性が高いこと）を示唆する表示態様や、時短状態中に消化されるよりも、時短状態が終了してから消化された方が有利度合いが高くなる可能性が高いことを示唆する表示態様を設ける構成としてもよい。このように構成することで、遊技者にとって最も有利なタイミングで第１特別図柄の保留球を消化させることができる。

【６２３４】

＜第１７制御例＞

次に、図５４８から図５７５を参照して、第１７制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１２制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成した上で、第１特別図柄抽選及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選判定を実行可能に構成している。また、上述した第１２制御例では、時短状態として有利度合い（時短回数）が異なる複数の時短状態（時短Ａ、時短Ｂ）を設ける構成とすることで、遊技者の興趣向上を図っていた。

【６２３５】

これに対して本第１７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態として、有利度合いが低い第１特別図柄の抽選が実行され易い時短状態（第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａ）と、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が実行され易い時短状態（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）と、を設ける構成とし、天井抽選回数に到達した場合は、まず第３時短状態Ｂが設定されるように構成する一方で、通常状態において大当たりに当選した場合は、大当たり終了後の時短状態が高い割合で有利度合いの低い第２時短状態Ａに設定されるように構成した。このように構成することで、大当たりに当選するよりも、天井抽選回数

に到達することをより強く期待して遊技を行わせることができる。

【６２３６】

また、本第１７制御例では、時短状態中に時短図柄に当選した場合に、当選した時短図柄に対応する時短回数が上乗せされるように構成している。そして、第２特別図柄の抽選では、第１特別図柄の抽選よりも高確率（例えば、９０％の割合）で時短図柄に当選するように構成している。また、第２時短状態Ｂまたは第３時短状態Ｂに移行した場合、特定回数（例えば、１０回）の特別図柄の抽選が実行されることで第２時短状態Ａまたは第３時短状態Ａに移行する構成としている。つまり、第２時短状態Ｂまたは第３時短状態Ｂの間は、第２特別図柄の抽選が実行される毎に高確率で時短図柄に当選して時短回数が上乗せされていくため、特定回数の特別図柄の抽選が経過した後に移行する第２時短状態Ａまたは第３時短状態Ａの継続回数を可変させることができるという斬新な遊技性を実現している。

【６２３７】

この第１７制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１２制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、パチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２、およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１２制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１２制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【６２３８】

まず、図５４８を参照して、本第１７制御例におけるパチンコ機１０の盤面構成について説明する。図５４８は、本第１７制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図である。図５４８に示した通り、本第１７制御例における遊技盤１３では、第１２制御例における遊技盤１３（図４０６参照）に対して、第１入球口６４の直下に小当たり用可変入賞装置２６５０が設けられている点で相違している。この小当たり用可変入賞装置２６５０の上方は第１入球口６４および釘によって塞がれており、遊技球が入球困難に配置されている。この小当たり用可変入賞装置２６５０は、第１特別図柄の抽選が小当たりとなった場合に開放される可変入賞装置である。つまり、第１特別図柄の抽選結果が小当たりになったとしても、遊技球を小当たり用可変入賞装置２６５０へと入球させることが困難となるため、本第１７制御例における第１特別図柄の小当たりは、ほぼ、一般的な遊技機における外れと同様の価値となる。本第１７制御例において第１特別図柄の小当たりを設けている意義は、第２特別図柄のロング変動を強制的に外れで停止させる機能にある。

【６２３９】

ここで、本第１７制御例では、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを並列して実行可能に構成した上で、両方の特別図柄が変動中に一方の特別図柄が大当たり若しくは小当たりとなった場合に、実行中の他方の特別図柄の変動表示を外れ図柄で強制的に停止表示させる仕様を採用している。そして、第１特別図柄の抽選では高確率（４９／５０）で小当たりに当選する構成としている。このように構成することで、通常状態において右打ちを行って第２特別図柄の抽選が実行され、６００秒間のロング変動が設定されたとしても、第１特別図柄の抽選を実行することにより、６００秒間を待つこと無く、第２特別図柄のロング変動を外れ図柄で強制停止させることができる。よって、第２特別図柄の抽選が延々と実行され続けてしまう不具合を抑制することができる。

【６２４０】

また、本第１７制御例における遊技盤１３は、第１２制御例における遊技盤１３に対し

て、可変入賞装置１０６５が削除され、Ｖ入賞装置１６５０に可変入賞装置１０６５の役割（大当たりの各ラウンドで所定期間開放される大入賞口としての役割）も兼ねさせている点でも相違している。これにより、遊技盤１３の盤面構成をシンプルにすることができる。

【６２４１】

更に、本第１７制御例における遊技盤１３は、上述した第１２制御例における右側第２入球口１６４０と右側第２入球口１６４０を開閉する電動役物１６４０ａとに代えて、右側第１入球口６４ｒと右側第１入球口６４ｒを開閉する電動役物６４ｒａと、が設けられている点でも相違する。この右側第１入球口６４ｒは、第１入球口６４と同様に、第１特別図柄の抽選契機となる始動入賞口の一種として構成される。また、電動役物６４ｒａは、普通図柄の抽選で当たりとなった場合に、遊技状態に応じた開放パターンで開閉制御される。

【６２４２】

次に、図５４９、および図５５０を参照して、本第１７制御例における特徴的な演出態様について説明する。ここで、上述した通り、本第１７制御例では、主として有利度合いが低い（ほぼ時短図柄に当選しない）第１特別図柄の抽選が実行される時短状態Ａ（第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａ）と、主として有利度合いが高い（高確率で時短図柄に当選する上に、小当たりに当選した場合に実質的に大当たりも確定する）第２特別図柄の抽選が実行される時短状態Ｂ（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）と、の２種類の時短状態が設けられている。そして、本第１７制御例では、時短状態において時短図柄に当選した場合に、当該当選した時短図柄に対応する時短回数を上乗せする制御を採用すると共に、時短状態Ｂにおいて特定回数（例えば、１１回）の特別図柄の抽選が実行されることで時短状態Ａに移行する構成としている。つまり、時短図柄に当選し易い時短状態Ｂにおいて時短図柄当選によって多くの時短回数が上乗せされるほど、その後（特定回数経過後）に移行する時短状態Ａの時短回数が多くなるという極めて特殊、且つ、斬新な遊技性を実現する構成としている。つまり、時短状態Ｂは、実質的な大当たりの当選確率が高い（小当たりに当選した場合も実質的に大当たりが確定する）第２特別図柄の抽選が主として実行される極めて有利度合いが高い状態であることに加え、その後に移行する時短状態Ａの継続回数を決定するための状態でもある。

【６２４３】

この時短状態Ｂにおける演出態様について、図５４９、および図５５０を参照して説明する。図５４９（ａ）は、天井抽選回数（本第１７制御例では１５０回）に渡って大当たりとは異なる抽選結果（即ち、小当たり含む外れ）となり、第３時短状態へと移行した後において第３図柄表示装置８１で実行される演出態様の一例を示した図である。上述した通り、第３時短状態に移行すると、まず、主として第２特別図柄の抽選が実行される第３時短状態Ｂが設定され、第３時短状態Ｂにおいて特定回数の特別図柄の変動表示が実行されることで第３時短状態Ａに移行する。図５４９（ａ）は、第３時短状態Ｂの間の表示態様を示した図である。

【６２４４】

図５４９（ａ）に示した通り、第３時短状態Ｂにおいては、主表示領域Ｄｍの上方に「～上乗せＲＵＳＨ～」という文字が表示されると共に、第２特別図柄の抽選が実行される毎に、ウサギを模したキャラクタ８０１が天使を模したキャラクタ８０９から宝箱８１０の中に入っている特典を付与される演出が実行される。図５４９（ａ）では、宝箱８１０の中から時短回数５回が上乗せされた（時短回数が５回の時短図柄に当選した）ことを示す、「５」という数字が付された図柄を含む中身８１０ａがキャラクタ８０１に付与された場合を例示している。また、図５４９（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける左上には、「右打ち」という文字が付された小表示領域Ｄｍ４と、その小表示領域Ｄｍ４の下方に、「ラスト８回」という文字が付された小表示領域Ｄｍ７と、その小表示領域Ｄｍ７の下方に、「ストック５０＋１０回」という文字が付された小表示領域Ｄｍ１３と、が形成される。

【６２４５】
小表示領域Ｄｍ７は、時短状態Ｂが終了される（時短状態Ａに移行する）までの残りの第２特別図柄の抽選回数を示す表示内容が表示され、時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選が実行される毎に値が１ずつ減算表示される。また、小表示領域Ｄｍ１３は、時短状態Ａに移行後の時短回数を示す表示内容が表示され、左側には時短状態Ｂに移行した時点で確定している時短回数が、右側には時短状態Ｂにおいて時短図柄当選により獲得（上乗せ）した時短回数が、それぞれ表示される。つまり、図５４９（ａ）の例では、天井抽選回数に到達した（第３時短状態Ｂに移行した）時点で、５０回の時短状態Ａが保証されており、更に、第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選することにより１０回分の時短回数の獲得（上乗せ）に成功したという状況を例示している。なお、本第１７制御例では、天井抽選回数到達に係る第３時短状態の時短回数は一律６１回に設定される。このうち１１回が第３時短状態Ｂに設定され、５０回が第３時短状態Ａに設定される。

【６２４６】
また、副表示領域Ｄｓには、「チャンスタイム回数を増やせ！」という文字が表示される。これらの表示内容により、第２特別図柄の抽選が実行される毎にチャンスタイム（時短状態Ａ）の時短回数が上乗せ（ストック）されていくということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、本第１７制御例では、時短状態において、右打ちにより第１入球口６４ｒにも第２入球口１６４１にも頻繁に遊技球が入球するように構成されている。このため、第３時短状態Ｂに移行した後で右打ちを行うと、第２特別図柄の抽選だけでなく、第１特別図柄の抽選もほぼ確実に実行される。ここで、本第１７制御例では、第１特別図柄と第２特別図柄とを同時に変動表示させることが可能な同時変動仕様を採用しており、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の変動表示を開始させることおよび第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の変動表示を開始させることの両方が許容されている。また、時短状態Ｂにおいては、第１特別図柄に対して比較的長い変動時間（例えば、１２０秒）が設定されるように構成している。このため、第１特別図柄の変動表示が１回実行されている間に、第２特別図柄による抽選遊技を時短状態Ａへと移行するまでの残り回数分実行させることができる。時短状態Ｂの継続回数を１１回という中途半端な回数にしているのは、第１特別図柄の抽選１回分と、第２特別図柄の抽選１０回分とを合算していることによる。これにより、時短状態Ａへと移行するまでの間の第２特別図柄の抽選回数を、きりの良い回数である１０回に設定することができる。

【６２４７】
図５４９（ｂ）は、本第１７制御例における第３時短状態Ｂで、１１回目の変動表示が終了した後における演出態様を示した図である。第３時短状態Ｂにおいて１１回目の変動表示が終了すると、その後に移行する第３時短状態Ａの時短回数を報知する演出が実行される。具体的には、図５４９（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける中央部分に、時短回数を示す文字が表示される。図５４９（ｂ）の例では、「ＴＯＴＡＬ１１０回」という文字が表示された場合を例示しており、時短状態Ｂの開始時から確定していた５０回の時短回数に加え、時短状態Ｂの間に６０回の時短回数を上乗せした状況が例示されている。また、副表示領域Ｄｓに対して、「チャンスタイム突入」という文字が表示される。これらの表示内容により、第３時短状態Ａの時短回数を遊技者に対して容易に理解させることができる。

【６２４８】
次に、図５５０を参照して、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）の間に大当たりまたは小当たりに当選した場合の演出態様について説明する。本第１７制御例では、時短状態Ｂの間に大当たりに当選するか、小当たり当選後にＶ入賞が発生して大当たりに当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態に設定される。この第２時短状態では、天井抽選回数到達に基づく第３時短状態と同様に、まず、１１回の時短状態Ｂが設定された後で、時短状態Ａへと移行する。よって、遊技者の視点で見ると、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）の間に大当たりに当選すると、大当たり後に時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）が再度開始されるかのような動きとなる。更に、第２特別図柄の大当たり後における時短回数は８６

回が設定されるように構成されているため、時短状態Ｂで消化する１１回を除くと、時短状態Ｂの後で移行する時短状態Ａの時短回数として７５回が保証されている状態で時短状態Ｂが最初から再開される。よって、天井抽選回数到達に伴う第３時短状態よりも多い時短回数が設定されるため、時短状態Ｂの間に大当たりになることを期待させることができる。

【６２４９】

図５５０に示した通り、時短状態Ｂの間に大当たりまたは小当たりに当選すると、宝箱８１０から「ＲＵＳＨ」という文字が付された図柄を含む中身８１０ａが出現して、キャラクタ８０１に付与される演出が実行される。また、小表示領域Ｄｍ１３に表示される時短回数を示す表示が「ストック７５回」という表示内容に変更される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「上乗せＲＵＳＨ再セット確定！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、７５回の時短回数を獲得した上で、上乗せＲＵＳＨを最初からやり直すことができるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２５０】

次に、図５５１を参照して、本第１７制御例における遊技状態間の移行方法について説明する。図５５１に示した通り、本第１７制御例では、遊技状態として通常状態、第２時短状態Ａ、第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ａ、および第３時短状態Ｂの５種類の遊技状態が設けられている。通常状態は、普通図柄の低確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動しない遊技状態で構成されている。つまり、左打ちにより有利度合いが低い第１特別図柄の抽選を実行させることで遊技を進行させる必要がある遊技者にとって不利な遊技状態で構成されている。

【６２５１】

また、第２時短状態Ａは、普通図柄の高確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されるため、右打ちにより右側第１入球口６４ｒにも第２入球口１６４１にも遊技球が頻繁に入球するが、第２特別図柄の変動時間として極めて長い変動時間（例えば、６００秒）が設定されるため、右側第１入球口６４ｒへの入球に基づく第１特別図柄の抽選ばかりが実行される遊技状態で構成される。また、第２時短状態Ｂは、第２時短状態Ａと同様に普通図柄の高確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されるが、第２時短状態Ａとは異なり、第１特別図柄の変動時間が長くなると共に第２特別図柄の変動時間が大幅に短くなるため、第２入球口１６４１への入球に基づく第２特別図柄の抽選ばかりが実行される遊技状態で構成される。ここで、第１特別図柄の抽選よりも第２特別図柄の抽選の方が有利度合いが高いため、第２時短状態Ａよりも、第２時短状態Ｂの方が有利度合いが高い遊技状態となる。

【６２５２】

また、第３時短状態Ａは、特別図柄の低確率状態、および普通図柄の低確率状態に設定され、普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されている。また、第２時短状態Ａと同様に、右打ちにより右側第１入球口６４ｒにも第２入球口１６４１にも遊技球が頻繁に入球するが、第２特別図柄の変動時間として極めて長い変動時間（例えば、６００秒）が設定されるため、右側第１入球口６４ｒへの入球に基づく第１特別図柄の抽選ばかりが実行される遊技状態で構成される。つまり、第２時短状態Ａに対して、普通図柄の当たり確率が低い分、有利度合いが低くなるが、通常状態よりは有利度合いが高い遊技状態で構成される。ここで、本第１７制御例では、第１６制御例と同様に、普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１個しか異ならないように構成している。このため、有利度合いの差（第２時短状態Ａに対して第３時短状態Ａの有利度合いが低いこと）を遊技者が体感困難にすることができる。よって、第３時短状態Ａに移行した場合に、第２時短状態Ａに移行した場合と同等の価値を得たかのように遊技者に思わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２５３】

更に、第３時短状態Ｂは、第３時短状態Ａと同様に普通図柄の低確率状態に設定され、

普通図柄の変動短縮機能（変短）が作動する遊技状態で構成されるが、第３時短状態Ａとは異なり、第１特別図柄の変動時間が長くなると共に第２特別図柄の変動時間が大幅に短くなるため、第２入球口１６４１への入球に基づく第２特別図柄の抽選ばかりが実行される遊技状態で構成される。よって、第３時短状態Ｂは、第３時短状態Ａよりも有利度合いが高い遊技状態となる。

【６２５４】

まず、図５５１の上部を参照して、通常状態から他の遊技状態への移行方法について説明する。図５５１の上部に示した通り、通常状態から他の遊技状態へは、大当たりに当選した場合、および大当たりに当選することなく天井抽選回数に到達した場合に移行する可能性がある。具体的には、図５５１の上部に示した通り、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に９０％の割合で決定される大当たりＡ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ａに設定される。また、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に１０％の割合で決定される大当たりＢ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ａよりも有利度合いが高い第２時短状態Ｂに設定される。更に、通常状態において大当たりに当選することなく天井抽選回数（１５０回）に到達した場合は、第３時短状態Ｂに設定される。第２時短状態Ｂと第３時短状態Ｂとは有利度合いがほぼ同等であり、第２時短状態Ａは第２時短状態Ｂや第３時短状態Ｂよりも有利度合いが明確に低い遊技状態で構成されるため、通常状態においては、有利度合いが低い第２時短状態Ａに移行する可能性が高い大当たり当選よりも、大当たりに当選せずに天井抽選回数に到達することをより強く期待して遊技を行わせることができる。つまり、大当たりに当選しないことをより強く期待しながら遊技を行う斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２５５】

次に、図５５１の中段左側を参照して、第２時短状態Ａから他の遊技状態への移行方法について説明する。図５５１の中段左側に示した通り、第２時短状態Ａから他の遊技状態へは、大当たりに当選した場合、大当たりに当選することなく時短回数が経過した場合、および大当たりに当選することなく天井抽選回数に到達した場合に移行する可能性がある。具体的には、図５５１に示した通り、第２時短状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に１０％の割合で決定される大当たりＢ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ｂに設定される。また、第２時短状態Ａにおいて時短回数が経過した場合は、遊技者に不利な通常状態に設定される。更に、第２時短状態Ａにおいて大当たりに当選することなく天井抽選回数（１５０回）に到達した場合は、第２時短状態Ｂに設定される。なお、時短状態Ａのまま天井抽選回数に到達するためには、一旦第２時短状態Ｂへと移行し、当該第２時短状態Ｂにおいて天井抽選回数を超える抽選回数分の時短回数を上乗せした状態で時短状態Ａへと移行し、更に、大当たりに当選することなく天井抽選回数に到達する必要がある。第２時短状態Ｂへと移行する場合に大当たり終了時に付与される時短回数は６１回又は８６回であるため、天井抽選回数を超える時短回数を上乗せするためには、第２時短状態Ｂの間に最低でも６４回以上の上乗せを発生させる必要がある。しかしながら、１の第２特別図柄の抽選で上乗せされる時短回数は８０％が５回であり、１０回以上の時短回数が上乗せされる割合は２０％しかないため、そもそも天井抽選回数を超える時短回数を上乗せすることが困難となる。更に、大当たりに当選せずに天井抽選回数まで到達するという事象もそもそも比較的起り難い事象であるため、第２時短状態Ａを維持したまま天井抽選回数（大当たり終了後１５０回）に到達するケースは極めて希であるといえる。

【６２５６】

これらに対し、第２時短状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に９０％の割合で決定される大当たりＡ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が再度、第２時短状態Ａに設定される（第２時短状態Ａをループする）。よって、第２時短状態Ａにおいては、基本的に大当たりに当選すること、および大当たりに当選した場合に低い割合（１０％の割合）で決定される大当たりＢ１７が決定されることを期待して遊技

を行う遊技性となる。

【６２５７】

次に、図５５１の下段左側を参照して、第２時短状態Ｂから他の遊技状態への移行方法について説明する。図５５１の下段左側に示した通り、第２時短状態Ｂから他の遊技状態へは、大当たりにも小当たりにも当選することなく特定回数（６回又は１１回）の特別図柄の抽選が実行された場合にのみ移行する可能性がある。具体的には、図５５１の下段左側に示した通り、第２時短状態Ｂにおいて特定回数（６回又は１１回）の特別図柄の抽選が終了すると、第２時短状態Ｂよりも有利度合いが低い第２時短状態Ａへと移行する。これに対し、第２時短状態Ｂにおいて特定回数の特別図柄の抽選が実行されるよりも前に第２特別図柄の抽選で大当たりに当選するか、または実質的に大当たりが確定する小当たりとなって大当たりに当選すると、大当たり終了後の遊技状態が再度、第２時短状態Ｂに設定される（最も有利な第２時短状態Ｂをループする）。よって、第２時短状態Ｂにおいては、特定回数の特別図柄の抽選が終了するまでに大当たりまたは小当たりに当選することを期待して遊技を行う遊技性となる。なお、第２特別図柄の抽選で大当たりと小当たりとのどちらかとなる確率は１／１０であり、特定回数の特別図柄の抽選が終了するまでにおける第２特別図柄の抽選回数は基本的に５回又は１０回となるので、第２時短状態Ｂをループする可能性は、第２特別図柄の抽選回数が５回の場合におよそ４１％、第２特別図柄の抽選回数が１０回の場合におよそ６５％となる。なお、上述した通り、第２時短状態Ｂの間に大当たりにも小当たりにも当選しなかったとしても、第２時短状態Ｂにおいては第２特別図柄の抽選毎に高確率で時短回数を５回以上獲得（上乗せ）することができるので、特定回数の特別図柄の抽選が終了した後で設定される第２時短状態Ａの有利度合い（継続回数）を、通常（大当たりＡ１７に当選したことに基づいて設定された第２時短状態Ａ）よりも高くすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２５８】

次に、図５５１の中段右側を参照して、第３時短状態Ｂから他の遊技状態への移行方法について説明する。図５５１の中段右側に示した通り、第３遊技状態Ｂから他の遊技状態へは、大当たりまたは小当たりに当選した場合、および大当たりにも小当たりにも当選することなく特定回数（１１回）の特別図柄の抽選が実行された場合に移行する可能性がある。具体的には、図５５１の中段右側に示した通り、第３時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選で大当たりに当選するか、または実質的に大当たりが確定する小当たりとなって大当たりに当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ｂに設定される。また、第３時短状態Ｂにおいて特定回数（１１回）の特別図柄の抽選が終了すると、第３時短状態Ｂよりも有利度合いが低い第３時短状態Ａへと移行する。よって、第３時短状態Ｂにおいては、特定回数（１１回）以内の特別図柄の抽選で大当たり又は小当たりのどちらかに当選することを強く期待して遊技を行わせることができる。なお、上述した第２時短状態Ｂと同様に、第３時短状態Ｂにおいては第２特別図柄の抽選毎に高確率で時短回数を５回以上獲得（上乗せ）することができるので、特定回数の特別図柄の抽選が終了した後で設定される第３時短状態Ａの有利度合い（継続回数）を向上させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２５９】

次に、図５５１の下段右側を参照して、第３時短状態Ａから他の遊技状態への移行方法について説明する。図５５１の下段右側に示した通り、第３時短状態Ａから他の遊技状態へは、大当たりに当選した場合、大当たりに当選することなく時短回数が経過した場合、および大当たりに当選することなく天井抽選回数に到達した場合に移行する可能性がある。具体的には、図５５１に示した通り、第３時短状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に９０％の割合で決定される大当たりＡ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ａに設定される。また、第３時短状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に１０％の割合で決定される大当たりＢ１７に当選すると、大当たり終了後の遊技状態が第２時短状態Ｂに設定される。また、第３時短

状態Ａにおいて時短回数が経過した場合は、遊技者に不利な通常状態に設定される。更に、第３時短状態Ａにおいて大当たりに当選することなく天井抽選回数（１５０回）に到達した場合は、第３時短状態Ｂに設定される。なお、第２時短状態Ａと同様に、第３時短状態Ａにおいて天井抽選回数に到達するのは極めて希なケース（第３時短状態Ｂにおいて６５回以上の時短回数の上乗せを発生させた上で、天井抽選回数までハマらなければ起き得ない事象）である。このため、第３時短状態Ａにおいては、第２時短状態Ａと同様に、基本的に大当たりに当選すること、および大当たりに当選した場合に低い割合（１０％の割合）で決定される大当たりＢ１７が決定されることを期待して遊技を行う遊技性となる。

【６２６０】

このように、本第１７制御例では、５種類の遊技状態を互いに行き来する遊技性となる上に、同じ時短状態であっても、時短状態Ａ（第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａ）と時短状態Ｂ（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）とで大幅に有利度合いおよび遊技性を異ならせる構成としているので、遊技にメリハリをつけることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２６１】

＜第１７制御例における電気的構成＞

次に、図５５２を参照して、本第１７制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図５５２は、本第１７制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図５５２に示した通り、本第１７制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第１２制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図４０７参照）に対して、大当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｂに代えて大当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｂが設けられている点、第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃに代えて第２当たり乱数１７テーブル２０２ｑｃが設けられている点、変動パターン１２テーブル２０２ｋｄに代えて変動パターン１７テーブル２０２ｑｄが設けられている点、小当たり乱数１２テーブル２０２ｋｅに代えて小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅが設けられている点、小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆに代えて小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆが設けられている点、時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈに代えて時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈが設けられている点、時短当たり種別選択テーブル２０２ｑｉが追加されている点、および変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊが追加されている点である。その他の構成については上述した第１２制御例におけるＲＯＭ２０２と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６２６２】

まず、図５５４（ａ）を参照して、本第１７制御例における大当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｂの詳細について説明する。図５５４（ａ）は、本第１７制御例における大当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｂの構成を示したブロック図である。図５５４（ａ）に示した通り、本第１７制御例における大当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｂは、第１特別図柄の大当たり種別を選択するために参照される特図１大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ１と、第２特別図柄の大当たり種別を選択するために参照される特図２大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ２と、で少なくとも構成されている。

【６２６３】

図５５４（ｂ）は、特図１大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ１の規定内容を示した図である。図５５４（ｂ）に示した通り、本第１７制御例における特図１大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ１には、第１特別図柄の大当たり種別として、「大当たりＡ１７」と、「大当たりＢ１７」と、の２種類が規定されている。即ち、特図１大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ１において、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～８９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ１７」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ１７」が対応付けて規定されている。

【６２６４】

「大当たりＡ１７」は、大当たりのラウンド数が５ラウンドであり、大当たり終了後の

遊技状態が時短回数５１回の第２時短状態Ａ（主として第１特別図柄の抽選が実行される時短状態）に設定される種別の大当たりである。また、「大当たりＢ１７」は、大当たりのラウンド数が５ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態が時短回数５６回の第２時短状態Ｂ（主として第２特別図柄の抽選が実行される時短状態）に設定される種別の大当たりである。なお、第２時短状態Ｂにおいて１１回の特別図柄の抽選が実行されると、第２時短状態Ａへと移行し、以降は基本的に、時短回数が経過（終了）するか大当たりに当選するまでの間、第２時短状態Ａが維持される。上述した通り、第２時短状態Ａよりも第２時短状態Ｂの方が遊技者にとって有利度合いが高いため、「大当たりＢ１７」の方が「大当たりＡ１７」よりも有利度合いが高い大当たり種別となる。なお、「大当たりＡ１７」には第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち９０個の乱数値が対応付けられている一方で、「大当たりＢ１７」には１０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けられているので、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に、９０％の割合で「大当たりＡ１７」となり、１０％の割合で「大当たりＢ１７」となる。

【６２６５】

次に、図５５４（ｃ）を参照して、上述した特図２大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ２の詳細について説明する。図５５４（ｃ）は、この特図２大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ２の規定内容を示した図である。図５５４（ｃ）に示した通り、本第１７制御例における特図２大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ２には、第２特別図柄の大当たり種別として、「大当たりＣ１７」と、「大当たりＤ１７」と、「大当たりＥ１７」と、の３種類が規定されている。即ち、特図２大当たり用１７テーブル２０２ｑｂ２において、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～８４」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＣ１７」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８５～８９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＤ１７」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＥ１７」が対応付けて規定されている。

【６２６６】

図５５４（ｃ）に示した通り、「大当たりＣ１７」と、「大当たりＤ１７」と、「大当たりＥ１７」とは、それぞれ大当たりのラウンド数が１５ラウンド、８ラウンド、４ラウンドと異なっているが、大当たり終了後の遊技状態としては時短回数８６回の第２時短状態Ｂが共通して設定される。よって、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選すると、１００％の割合で有利度合いが高い第２時短状態Ｂが設定されるので、第２特別図柄の抽選の方が第２特別図柄の抽選よりも有利度合いが高くなる。なお、「大当たりＣ１７」には第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち８５個の乱数値が対応付けられ、「大当たりＤ１７」には５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けられ、「大当たりＥ１７」には１０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けられているので、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に、８５％の割合で「大当たりＣ１７」となり、５％の割合で「大当たりＤ１７」となり、１０％の割合で「大当たりＥ１７」となる。

【６２６７】

このように、本第１７制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりになったとしても、有利な第２時短状態Ｂへと１０％の割合でしか移行しないのに対し、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合は、必ず有利な第２時短状態Ｂが設定されるように構成されているので、第２特別図柄の抽選が実行された場合により強く大当たりに当選することを期待させることができる。よって、遊技にメリハリをつけることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２６８】

次に、図５５５（ａ）を参照して、本第１７制御例における第２当たり乱数１７テーブル２０２ｑｃの詳細について説明する。この第２当たり乱数１７テーブル２０２ｑｃは、上述した第１２制御例における第２当たり乱数１２テーブル２０２ｋｃと同様に、普通図

柄の抽選を行う際に参照され、普通図柄の当たりとなる乱数値（第２当たり乱数カウンタＣ２のカウンタ値）が規定されたデータテーブルである。

【６２６９】

より具体的には、図５５５（ａ）に示した通り、普通図柄の低確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）として、「０～２９８」の２９９個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている一方で、普通図柄の高確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）として、「０～２９９」の３００個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。第２当たり乱数カウンタＣ４は「０～２９９」の範囲の値を取り得るので、普通図柄の低確率状態で普通図柄の当たりとなる確率は２９９／３００であり、普通図柄の高確率状態で普通図柄の当たりとなる確率は１（３００／３００）である。つまり、本第１７制御例では、普通図柄の低確率状態であっても、ほぼ毎回の普通図柄の抽選で当たりと判定されるように構成されている。これは、第２時短状態と第３時短状態との有利度合いの差をほぼ無くす目的である。このように構成することで、天井抽選回数に到達して第３時短状態に移行した場合における有利度合いを第２時短状態とほぼ同等にすることができるので、天井抽選回数に到達することをより強く期待して遊技を行わせることができる。

【６２７０】

なお、通常状態においても右打ちによりスルーゲート６７を通過させて普通図柄の抽選を実行させることにより高確率で普通図柄の当たりとなるが、通常状態では普通図柄の変動短縮機能が作動しない上に、電動役物６４ｒａの開放期間も短くなる（例えば、０．１秒間になる）ため、右打ちを行い続けたとしても右側第１入球口６４ｒへと遊技球を入球させることはほとんどできない。つまり、左打ちにより第１入球口６４を狙って遊技球を発射し続けるよりも遊技効率が悪くなるので、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。

【６２７１】

次に、図５５５（ｂ）を参照して、本第１７制御例における変動パターン１７テーブル２０２ｑｄの詳細について説明する。この変動パターン１７テーブル２０２ｑｄは、上述した第１２制御例における変動パターン１７テーブル２０２ｋｄと同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に、当該抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図５５５（ｂ）は、本第１７制御例における変動パターン１７テーブル２０２ｑｄの構成を示したブロック図である。

【６２７２】

図５５５（ｂ）に示した通り、本第１７制御例における変動パターン１７テーブル２０２ｑｄは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される通常用テーブル２０２ｑｄ１と、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａ（第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａ）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される特１時短用テーブル２０２ｑｄ２と、第２特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ｂ（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される特２時短用テーブル２０２ｑｄ３と、で少なくとも構成されている。ここで、通常用テーブル２０２ｑｄ１に関しては、上述した第１２制御例における通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１（図４１４参照）と同等の規定内容となるため、ここではその詳細な説明については省略する。なお、本第１７制御例では、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選する可能性が無い点、特別図柄の抽選で高確率で小当たりを伴う外れとなる点で第１２制御例と相違している。このため、本第１７制御例の通常用テーブル２０２ｑｄ１の第１特別図柄の小当たりに係る規定内容は、第１２制御例の通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１における第１特別図柄の外れに係る規定内容と同一になる。

【６２７３】

次に、図５５５（ｃ）を参照して、上述した変動パターン１７テーブル２０２ｑｄを構

成する特１時短用テーブル２０２ｑｄ２の詳細について説明する。図５５５（ｃ）は、この特１時短用テーブル２０２ｑｄ２の規定内容を示した図である。図５５５（ｃ）に示した通り、第１特別図柄の抽選結果が外れ（小当たり）に対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲（０～１９８）に対して、変動パターンとして変動時間が３秒間の短外れが対応付けて規定されている。また、第１特別図柄の抽選結果が大当たりに対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒間の短当たりが対応付けて規定されている。

【６２７４】

これに対して、図５５５（ｃ）に示した通り、第２特別図柄の抽選結果が時短当選に対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲（０～１９８）に対して、変動パターンとして変動時間が６００秒間のロング外れが対応付けて規定されている。また、第２特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりに対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が６００秒間のロング当たりが対応付けて規定されている。このため、特１時短用テーブル２０２ｑｄ１が参照される第２時短状態Ａおよび第３時短状態Ａでは、右打ちにより第１特別図柄の抽選が実行される毎に、５秒以下の短い変動時間が設定される一方で、第２特別図柄の抽選が実行されると抽選結果によらず極めて長い６００秒間の変動時間が設定されるため、第１特別図柄の抽選ばかりが実行される遊技状態を形成することができる。なお、上述した通り、本第１７制御例では、時短状態において右打ちを行うと、右側第１入球口６４ｒと第２入球口１６４１との両方に頻繁に遊技球が入球し、且つ、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを並列して実行可能に構成されているので、時短状態Ａでは第２特別図柄がロング変動している間に第１特別図柄の抽選を複数回実行することができる。つまり、主として第１特別図柄の抽選により遊技を進行する遊技状態として構成されている。

【６２７５】

なお、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３に関しては、上述した第１２制御例の時短状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ２（図４１５参照）に対して、第１特別図柄の変動時間が抽選結果によらず１２０秒間となっている点で相違するのみであるため、ここではその詳細な説明については省略する。この特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照される遊技状態（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）では、第１特別図柄のロング変動（１２０秒）が行われている間に第２特別図柄の５秒以下の変動を連続して実行させることができるため、主として第２特別図柄の抽選により遊技を進行する遊技状態を形成する。なお、第１特別図柄の変動時間を第１２制御例における６００秒間から１２０秒間に変更しているのは、時短状態Ｂにおいて当たりとならずに時短状態Ａへと移行した場合に、第１特別図柄の抽選が長い時間残ってしまい、第１特別図柄の抽選を実行することができない期間が長く継続してしまうことを回避する趣旨である。一方で、第１特別図柄の抽選時間を短くしすぎると、第２時短状態Ｂや第３時短状態Ｂにおいて第１特別図柄の抽選が複数回実行されてしまい、第２特別図柄の抽選回数が減ってしまう可能性があるため、ある程度長い１２０秒という期間を設定している。

【６２７６】

次に、図５５６（ａ）を参照して、小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅの詳細について説明する。この小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅは、上述した第１２制御例における小当たり乱数１２テーブル２０２ｋｅ（図４０９（ｄ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で小当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１のカウンタ値）が規定されているデータテーブルである。図５５６（ａ）は、本第１７制御例における小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅの規定内容を示した図である。図５５６（ａ）に示した通り、本第１７制御例では、第１特別図柄と第２特別図柄とで、対応付けられている乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１のカウンタ値）を異ならせている。つまり、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とで、小当たりに当選する確率を異ならせている。

【６２７７】

より具体的には、図５５６（ａ）に示した通り、第１特別図柄の抽選で小当たりと判定

される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「１８～８９９」が規定されている一方で、第２特別図柄の抽選で小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「１８～８９」が規定されている。第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～８９９」の９００個の乱数値（カウンタ値）のうち、第１特別図柄の抽選および第２特別図柄の抽選で小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）はそれぞれ８８２個、および７２個であるので、第１特別図柄の抽選で小当たりとなる確率は４９／５０（８８２／９００）であり、第２特別図柄の抽選で小当たりとなる確率は２／２５（７２／９００）である。特別図柄の抽選で大当たりとなる確率が１／５０であることを加味すると、第１特別図柄の抽選では、大当たり若しくは小当たりのどちらかに当選する。また、第２特別図柄の抽選では、１／１０（２／２５＋１／１０）の確率で大当たり若しくは小当たりに当選する。ここで、詳細については後述するが、第１特別図柄の小当たりは、大当たりに当選し得ない（Ｖ入賞が発生し得ない）不利な小当たり種別のみが選択されるため、他の制御例における外れと実質的に同一である。一方で、第２特別図柄の小当たりは、小当たり遊技中に右打ちを行うことでほぼ確実にＶ入賞が発生して大当たりに当選する有利な小当たり種別のみが選択される。よって、第１特別図柄の大当たり確率は、小当たりの影響を受けないため、１／５０となるに対し、第２特別図柄の大当たり確率は、実質的に大当たりと小当たりとの合算の確率となるため、１／１０となる。よって、第１特別図柄の抽選よりも第２特別図柄の抽選の方が遊技者に有利となる。

【６２７８】

次に、図５５６（ｂ）を参照して、本第１７制御例における小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆの詳細について説明する。この小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆは、上述した第１２制御例における小当たり種別選択１２テーブル２０２ｋｆと同様に、特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に、小当たりの種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図５５６（ｂ）は、この小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆの規定内容を示した図である。図５５６（ｂ）に示した通り、本第１７制御例における小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆには、第１特別図柄の小当たり種別として、「小当たりＡ１７」の一種類のみが規定されている一方で、第２特別図柄の小当たり種別として、「小当たりＢ１７」～「小当たりＤ１７」の３種類が規定されている。

【６２７９】

「小当たりＡ１７」は、小当たり用入賞装置２６５０が開閉される小当たりである。つまり、大当たりの当選契機となる特定領域１６５０ａが設けられているＶ入賞装置１６５０が開放されない小当たりであるため、大当たりに当選する（Ｖ入賞が発生する）可能性がない小当たり種別である。また、「小当たりＢ１７」～「小当たりＤ１７」は、いずれもＶ入賞装置１６５０が開放される種別の小当たりであり、右打ちにより特定領域１６５０ａへと容易に遊技球を入球させることができるため、実質的に大当たり当選が確定する小当たり種別である。また、「大当たりＢ１７」は、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＣ１７（１５ラウンド特図２時短大当たり）が実行され、「大当たりＣ１７」は、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＤ１７（８ラウンド特図２時短大当たり）が実行され、「大当たりＤ１７」は、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＥ１７（４ラウンド特図２時短大当たり）が実行される。このため、第２特別図柄の小当たりの中では、「小当たりＢ１７」が最も有利度合いが高く、「小当たりＤ１７」が最も有利度合いが低くなる。

【６２８０】

図５５６（ｂ）に示した通り、「小当たりＡ１７」には、小当たり種別カウンタＣ５の取り得る全範囲（０～９９）の値が対応付けられている。よって、第１特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合は、必ずＶ入賞が発生し得ない「小当たりＡ１７」が決定される。よって、第１特別図柄の小当たりは、実質的に他の制御例における外れと同等の抽選結果となる。

【６２８１】

また、図５５６（ｂ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容として、小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４９」の範囲に対して、「小当たりＢ１７」が対応付けて

規定され、小当たり種別カウンタＣ５の値が「５０～６９」の範囲に対して、「小当たりＣ１７」が対応付けて規定され、小当たり種別カウンタＣ５の値が「７０～９９」の範囲に対して、「小当たりＤ１７」が対応付けて規定されている。このため、第２特別図柄の抽選で小当たりとなった場合に「小当たりＢ１７」が決定される割合は５０％であり、「小当たりＣ１７」が決定される割合は２０％であり、「小当たりＤ１７」が決定される割合は３０％である。第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、最も有利な「大当たりＡ１７」の振り分けが８５％に設定されていた（図５５４（ｃ）参照）ことを鑑みると、第２特別図柄の抽選で大当たりになった方が、小当たりに当選してＶ入賞を発生させた場合よりも有利度合いが高くなり易く設定されているといえる。よって、時短状態Ｂにおいては、確率の高い（２／２５の）小当たりよりも、確率の低い（１／５０の）大当たりに当選することをより強く期待して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２８２】

次に、図５５６（ｃ）を参照して、本第１７制御例における時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈの詳細について説明する。この時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈは、上述した第１２制御例における時短当たり乱数１２テーブル２０２ｋｈと同様に、特別図柄の抽選で時短図柄当選と判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１のカウンタ値）が規定されているデータテーブルである。図５６６（ｃ）は、この時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈの規定内容を示した図である。図５５６（ｃ）に示した通り、本第１７制御例では、第２特別図柄の抽選で時短当選と判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）として、「９０～８９９」の８１０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～８９９」の９００個の乱数値（カウンタ値）のうち、時短当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が８１０個であるため、第１７制御例において第２特別図柄の抽選が実行された場合に時短当選と判定される確率は９／１０（８１０／９００）である。一方で、図５５６（ｃ）に示した通り、第１特別図柄に対しては、時短当選と判定される乱数値（カウンタ値）が対応付けられていないため、第１特別図柄の抽選で時短当選と判定される可能性は０である。

【６２８３】

このように、本第１７制御例では、第２特別図柄の抽選が実行された場合に高確率（９／１０の確率）で時短図柄に当選する構成としている。このように構成することで、主として第２特別図柄の抽選が実行される時短状態Ｂにおいて、限られた抽選回数において、ほぼ毎変動で時短図柄に当選して時短回数を上乗せすることができる。よって、時短状態Ａにおける有利度合いを、時短状態Ａよりも前に設定される時短状態Ｂにおける抽選内容に応じて決定することができるという、極めて特殊、且つ、斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２８４】

次に、図５５７（ａ）を参照して、本第１７制御例におけるＲＯＭ２０２に追加されている時短当たり種別選択テーブル２０２ｑｉの詳細について説明する。この時短当たり種別選択テーブル２０２ｑｉは、時短図柄に当選した場合に、時短図柄の種別を選択するために参照されるデータテーブルである。図５５７（ａ）に示した通り、この時短当たり種別選択テーブル２０２ｑｉには、時短図柄の種別（時短当たり種別）と、第１当たり種別カウンタＣ２の値と、が対応付けて規定されている。具体的には、図５５７（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値「０」に対して、時短当たり種別として時短回数が５０回の「時短図柄Ａ」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１～１９」の範囲に対して、時短当たり種別として時短回数が１０回の「時短図柄Ｂ」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～９９」の範囲に対して、時短当たり種別として時短回数が５回の「時短図柄Ｃ」が対応付けて規定されている。

【６２８５】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の乱数値（カウンタ値）のうち、

「時短図柄Ａ」、「時短図柄Ｂ」、および「時短図柄Ｃ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）はそれぞれ１個、１９個、および８０個であるので、第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ａ」が決定される割合は１％であり、「時短図柄Ｂ」が決定される割合は１９％であり、「時短図柄Ｃ」が決定される割合は８０％である。よって、第２特別図柄の抽選が実行される時短状態Ｂ（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）においては、時短図柄に当選した場合に１％の割合で時短回数が５０回上乗せされ（時短図柄Ａが決定され）、１９％の割合で時短回数が１０回上乗せされ（時短図柄Ｂが決定され）、８０％の割合で時短回数が５回上乗せされる（時短図柄Ｃが決定される）。これにより、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨの実行中）に上乗せされる時短回数にバリエーションを設けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２８６】

次に、図５５７（ｂ）を参照して、本第１７制御例におけるＲＯＭ２０２に追加されている変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊの詳細について説明する。この変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊは、前回の大当たり種別、現在設定されている遊技状態、および大当たり終了後における特別図柄の抽選回数に応じて、参照される変動パターンテーブルの種別（通常用テーブル２０２ｑｄ１、特１時短用テーブル２０２ｑｄ２、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３のいずれか）が規定されているデータテーブルである。特別図柄の抽選が実行されると、この変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊを用いて、変動パターン（変動時間）を選択するために参照される変動パターンテーブルの種別を決定し、その決定した変動パターンテーブルを参照して変動パターンが選択される。

【６２８７】

図５５７（ｂ）は、この変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊの規定内容を示した図である。図５５７（ｂ）に示した通り、この変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊには、前回の大当たり種別、現在設定されている遊技状態、および大当たり終了後における特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）の組み合わせ毎に、参照する変動パターンテーブルの種別が対応付けて規定されている。

【６２８８】

具体的には、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」、現在の遊技状態が通常状態という状況において、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が５２～１５０の範囲、および２１２～３００の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定されている。よって、これらの抽選回数の範囲内で特別図柄の抽選が実行された場合は、通常用テーブル２０２ｑｄ１が参照されて変動パターン（変動時間）が選択される。一方、その他の範囲には変動パターンテーブルが対応付けられていない。これは、大当たりＡ１７の終了後１回～５１回の範囲は、必ず第２時短状態に設定される（大当たりＡ１７の終了時に時短カウンタ２０３ｈの値に５１が設定される）し、大当たりＡ１７の終了後１５１回～２１１回の範囲は、必ず天井抽選回数到達に基づいて第３時短状態に設定されるので、通常状態で特別図柄の抽選が実行される可能性がないためである。

【６２８９】

なお、本第１７制御例では、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が３００に到達した場合（当たりに当選せずに特別図柄の抽選回数が３００回に到達した場合）に、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値を１５０に更新する構成としている。つまり、天井抽選回数に到達した後で、更に１又は複数回天井抽選回数に到達した場合についても、天井抽選回数に到達する毎に第３時短状態Ｂを設定することができる。よって、所謂大ハマりが発生したとしても、遊技者にとって過剰に不利となることを抑制することができる。また、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊに対して、３００回を超える特図抽選回数のシナリオを規定する必要がなくなるため、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊのデータ量を低減することができる。よって、ＲＯＭ２０２の容量を削減することができる。

【６２９０】

図５５７（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」、現在の遊技

状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１～５１の範囲、および１６３～３００の範囲に対して、特１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１５１～１６２の範囲に対して、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、大当たりＡ１７の終了後５１回以内の抽選回数、および１６３回以上では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、大当たりＡ１７の終了後１５１回～１６２回の抽選回数では、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。

【６２９１】

また、図５５７（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＢ１７」、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」である場合と同一の変動パターンシナリオが規定されている。つまり、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が５２～１５０の範囲、および２１２～３００の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定されている。よって、これらの抽選回数の範囲内で特別図柄の抽選が実行された場合は、通常用テーブル２０２ｑｄ１が参照されて変動パターン（変動時間）が選択される。これに対し、大当たり種別が「大当たりＢ１７」、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が７～１５０の範囲、および１６３～３００の範囲に対して、特１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１～６の範囲、および１５１～１６２の範囲に対して、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、大当たりＢ１７の終了後７回～１５０回の抽選回数、および１６３回以上の抽選回数では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、大当たりＢ１７の終了後１回～６回、および１５１回～１６２回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。なお、「大当たりＡ１７」と異なり、抽選回数が５２回～１５０回の範囲でも時短状態が継続する可能性があるのは、大当たり終了直後の第２時短状態Ｂにおいて上乗せされる時短回数次第で天井抽選回数を超える時短回数を上乗せする可能性があるためである。

【６２９２】

また、図５５７（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＣ１７」～「大当たりＥ１７」のいずれか、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」や「大当たりＢ１７」である場合と同一の変動パターンシナリオが規定されている。つまり、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が５２～１５０の範囲、および２１２～３００の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定されている。よって、これらの抽選回数の範囲内で特別図柄の抽選が実行された場合は、通常用テーブル２０２ｑｄ１が参照されて変動パターン（変動時間）が選択される。これに対し、大当たり種別が「大当たりＣ１７」～「大当たりＥ１７」のいずれか、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１２～１５０の範囲、および１６３～３００の範囲に対して、特１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１～１１の範囲、および１５１～１６２の範囲に対して、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、大当たりＣ１７～大当たりＥ１７の終了後１２回～１５０回の抽選回数、および１６３回以上の抽選回数では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、大当たりＣ１７～大当たりＥ１７の終了後１回～１１回、および１

５１回～１６２回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。なお、「大当たりＢ１７」と同様に、「大当たりＣ１７」～「大当たりＥ１７」においても、大当たり終了直後の第２時短状態Ｂが設定されるため、当該第２時短状態Ｂにおいて上乗せされる時短回数次第で天井抽選回数を超える時短回数を上乗せする可能性がある。

【６２９３】

また、図５５７（ｂ）に示した通り、大当たりに未当選の状況（パチンコ機１０を初期化した後、大当たりに１回も当選していない状況）で、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１～１５０の範囲、および２１２～３００の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定されている。よって、これらの抽選回数の範囲内で特別図柄の抽選が実行された場合は、通常用テーブル２０２ｑｄ１が参照されて変動パターン（変動時間）が選択される。これに対し、大当たりに未当選で、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１６３～３００の範囲に対して、特１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（特図抽選カウンタ２０３ｑａの値）が１５１～１６２の範囲に対して、特２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、パチンコ機１０の初期化後１６３回以上の抽選回数では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、パチンコ機１０の初期化後１５１回～１６２回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。

【６２９４】

このように、本第１７制御例では、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊによって変動パターンシナリオを規定し、前回の大当たり種別、現在の遊技状態、および特別図柄の抽選回数に応じた変動パターンテーブルを選択する構成としているので、比較的複雑な遊技状態の移行方式を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６２９５】

次に、図５５３を参照して、本第１７制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図５５３は、本第１７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図５５３に示した通り、本第１７制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第１２制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図４０８参照）に対して、特図抽選カウンタ２０３ｑａと、大当たりフラグ２０３ｑｂと、特図１小当たりフラグ２０３ｑｃと、特図２小当たりフラグ２０３ｑｄと、が追加されている点で相違している。また、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈが削除されている点でも相違している。

【６２９６】

特図抽選カウンタ２０３ｑａは、大当たり終了後（若しくはパチンコ機１０の初期化後）に実行された特別図柄の抽選回数をカウントするためのカウンタである。この特図抽選カウンタ２０３ｑａは、特別図柄の変動表示の開始を設定するタイミングで値が１ずつ加算して更新される（図５６４のＳ３８１０３参照）。この特図抽選カウンタ２０３ｑａの値を参照して、天井抽選回数への到達有無を判別したり、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊから抽選回数に対応する変動パターンテーブルの選択処理が実行される。

【６２９７】

大当たりフラグ２０３ｑｂは、特別図柄の抽選で大当たりとなった場合にオンに設定されるフラグである（図５６１のＹ８０１１、図５６８のＹ８１１１参照）。この大当たりフラグ２０３ｑｂは、大当たりに対応する停止図柄の表示を設定する際にオフに設定される（図５６５のＹ７２７、図５７１のＹ９２５参照）。この大当たりフラグ２０３ｑｂは

、第１特別図柄用の大当たりフラグと、第２特別図柄用の大当たりフラグとが設けられており、第１特別図柄用の大当たりフラグがオンの状態で、且つ、第２特別図柄の変動表示が実行中の場合に第１特別図柄の変動表示の変動時間が終了すると、第２特別図柄を外れ図柄で強制停止させる処理が実行される（図５６５のＹ７２６参照）。また、第２特別図柄用の大当たりフラグがオンの状態で、且つ、第１特別図柄の変動表示が実行中の場合に第２特別図柄の変動表示の変動時間が終了すると、第１特別図柄を外れ図柄で強制停止させる処理が実行される（図５７１のＹ９２４参照）。これにより、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選との一方が大当たりとなり、他方が大当たりまたは小当たりとなった場合に、大当たりと大当たり、若しくは大当たりと小当たりが重複して開始されてしまう不具合を防止することができる。

【６２９８】

特図１小当たりフラグ２０３ｑｃは、第１特別図柄の抽選で小当たりとなった場合にオンに設定されるフラグである（図５６２のＹ８０５５参照）。この特図１小当たりフラグ２０３ｑｃは、第１特別図柄の小当たりに対応する停止図柄の表示を設定する際にオフに設定される（図５６６のＹ７５９参照）。特図１小当たりフラグ２０３ｑｄがオンの状態で、且つ、第２特別図柄の変動表示が実行中の場合に第１特別図柄の変動表示の変動時間が終了すると、第２特別図柄を外れ図柄で強制停止させる処理が実行される（図５６６のＹ７５３参照）。これにより、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選との一方が小当たりとなり、他方が大当たりまたは小当たりとなった場合に、小当たりと大当たり、若しくは小当たりと小当たりが重複して開始されてしまう不具合を防止することができる。

【６２９９】

特図２小当たりフラグ２０３ｑｄは、第２特別図柄の抽選で小当たりとなった場合にオンに設定されるフラグである（図５６２のＹ８０５５参照）。この特図２小当たりフラグ２０３ｑｄは、第２特別図柄の小当たりに対応する停止図柄の表示を設定する際にオフに設定される（図５６６のＹ７５９参照）。特図１小当たりフラグ２０３ｑｄがオンの状態で、且つ、第２特別図柄の変動表示が実行中の場合に第１特別図柄の変動表示の変動時間が終了すると、第２特別図柄を外れ図柄で強制停止させる処理が実行される（図５７３のＹ９５９参照）。これにより、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選との一方が小当たりとなり、他方が大当たりまたは小当たりとなった場合に、小当たりと大当たり、若しくは小当たりと小当たりが重複して開始されてしまう不具合を防止することができる。

【６３００】

次に、図５５８を参照して、本第１７制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図５５８は、本第１７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図５５８に示した通り、本第１７制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１２制御例（および第５制御例）におけるＲＡＭ２２３の構成（図２４９（ｂ）参照）に対して、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃ、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａ、ベース回数カウンタ２２３ｑｂ、上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃが追加されている点で相違する。また、時短抽選回数カウンタ２２３ｄｂ、モード種別格納エリア２２３ｄｃ、ロング時短中フラグ２２３ｄｄ、初回設定フラグ２２３ｄｅが削除されている点でも相違する。

【６３０１】

特図抽選カウンタ２２３ｌｃは、上述した第１３制御例等の特図抽選カウンタ２２３ｌｃと同一の機能を有するカウンタである。即ち、主制御装置１１０内のＲＡＭ２２３に設けられている特図抽選カウンタ２０３ｑａの値に同期して更新されるカウンタであり、主制御装置１１０から状態コマンドによって特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が通知される毎に値が更新される。この特図抽選カウンタ２２３ｌｃによって、主制御装置１１０側で把握する大当たり終了後の特別図柄の抽選回数と、音声ランプ制御装置１１３側で把握する大当たり終了後の特別図柄の抽選回数とを常に一致させることができる。

【６３０２】

上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａは、上乗せＲＵＳＨ（時短状態Ｂ）が終了するま

での残り回数を示すカウンタである。この上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａは、初期値が０に設定されており、時短状態Ｂ（第２時短状態、第３時短状態のどちらか）が設定されると、設定契機に応じたカウンタ値（時短状態Ａへと移行するまでの特別図柄の抽選回数に応じた値）が設定される。即ち、天井抽選回数（１５０回）到達に基づく時短状態Ｂへの移行、または、大当たりＣ１７～Ｅ１７に当選したことに基づく時短状態Ｂへの移行の場合は、時短状態Ｂの抽選回数が１１回に設定されるので、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａに対して１１が設定される（図５７４のＳ９３１４Ａ参照）。また、大当たりＢ１７に当選したことに基づく時短状態Ｂへの移行の場合は、時短状態Ｂの抽選回数が６回に設定されるので、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａに対して６が設定される（図５７４のＳ９３１７Ａ参照）。また、上乗せＲＵＳＨにおいて特別図柄の抽選が１回時実行される毎に、値が１ずつ減算して更新される。この上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａの値に応じて、上乗せＲＵＳＨ終了までの残り回数の表示が設定される。

【６３０３】

ベース回数カウンタ２２３ｑｂは、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）が終了した後で移行する時短状態Ａの時短回数のうち、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）に突入した時点で既に確定している（保証されている）時短回数（ベースの時短回数）を示すカウンタである。このベース回数カウンタ２２３ｑｂは、初期値が０に設定されており、時短状態Ｂへと移行した場合に、当該移行に伴って設定される時短回数から時短状態Ｂの間の特別図柄の抽選回数を減じた値が設定される。より具体的には、大当たりＣ１７～Ｅ１７のいずれかに当選したことに基づいて時短状態Ｂが設定された場合は、このベース回数カウンタ２２３ｑｂに対して７５が設定される（図５７４のＳ９３１６Ａ参照）。また、大当たりＢ１７に当選したことに基づいて時短状態Ｂが設定された場合、および天井抽選回数に到達したことに基づいて時短状態Ｂが設定された場合は、このベース回数カウンタ２２３ｑｂに対して５０が設定される（図５７４のＳ９３１８Ａ参照）。このベース回数カウンタ２２３ｑｂに設定された値が、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）の間、小表示領域Ｄｍ１３における左側に表示され続ける。

【６３０４】

上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃは、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）において上乗せされた時短回数をカウントするためのカウンタである。この上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃは、初期値が０に設定されており、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）において第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選し、時短回数が上乗せされる（時短カウンタ２０３ｈに対して当選した時短図柄に応じた時短回数が加算される）毎に、当該上乗せされた時短回数に応じたカウンタ値が加算して更新される（図５７５のＳ９６２９Ａ参照）。この上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃに設定された値が、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）の間、小表示領域Ｄｍ１３における右側に表示され続ける。

【６３０５】

＜第１７制御例における主制御装置の制御処理について＞

次いで、図５５９～図５７３を参照して、第１７制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種処理について説明する。具体的には、本第１７制御例では、第１２制御例における特別図柄変動処理１２（図４１７参照）に代えて特別図柄変動処理１７（図５５９参照）を実行する点で相違する。その他の構成については、第１２制御例と同一であるので、その詳細な説明は省略する。なお、特別図柄変動処理１２（図４１７参照）から特別図柄変動処理１７（図５５９参照）への変更は、主として、一方の特別図柄の変動表示中に他方の特別図柄が大当たりまたは小当たり図柄で停止表示された場合に、変動表示中の一方の特別図柄を外れ図柄で強制的に停止表示させる仕様への変更に伴うものである。

【６３０６】

まず、図５５９を参照して、本第１７制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される特別図柄変動処理１７（Ｙ１１１）について説明する。図５５９は、この特別図柄変動処理１７（Ｙ１１１）の内容を示したフローチャートである。この特別図

柄変動処理１７（Ｙ１１１）のうち、Ｙ２３１、Ｙ２３４およびＹ２３８の各処理では、それぞれ第１２制御例における特別図柄変動処理１２（図４１７参照）の、Ｙ２３１、Ｙ２３４およびＹ２３８の各処理と同一の処理が実行される。

【６３０７】

また、本制御例の特別図柄変動処理１７（Ｙ１１１）では、Ｙ２３４の処理において、特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０より大きい値ではない（即ち０である）と判別した場合には（Ｙ２３４：Ｎｏ）、第１２制御例における第１特別図柄変動開始処理１２（図４１８参照）に代えて第１特別図柄変動開始処理１７を実行し（Ｙ２５１）、処理をＹ２３８へと移行する。この第１特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５１）の詳細については、図５６０を参照して後述する。

【６３０８】

一方、Ｙ２３４の処理において、特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０より大きい値であると判別した場合には（Ｙ２３４：Ｙｅｓ）、特図１変動時間タイマ２０３ｋａを減算して更新し（Ｙ２５２）、第１図柄表示装置の第１特別図柄の表示を更新し（Ｙ２５３）、次いで、上述した第１２制御例における第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４参照）に代えて第１特別図柄変動停止処理１７を実行し（Ｙ２５４）、処理をＹ２３８へと移行する。この第１特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５４）の詳細については、図５６４を参照して後述する。

【６３０９】

また、本第１７制御例における特別図柄変動処理１７（図５５９参照）では、Ｙ２３８の処理において、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂは０より大きい値ではない（即ち０である）と判別した場合には（Ｙ２３８：Ｎｏ）、上述した第１２制御例における第２特別図柄変動開始処理１２（図４２７参照）に代えて第２特別図柄変動開始処理１７を実行し（Ｙ２５５）、本処理を終了する。この第２特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５５）の詳細については、図５６７を参照して後述する。

【６３１０】

一方、Ｙ２３８の処理において、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂが０より大きい値であると判別した場合には（Ｙ２３８：Ｙｅｓ）、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂを減算して更新し（Ｙ２５６）、第１図柄表示装置の第２特別図柄の表示を更新し（Ｙ２５７）、上述した第１２制御例における第２特別図柄変動停止処理１２（図４３３参照）に代えて第２特別図柄変動停止処理１７を実行し（Ｙ２５８）、本処理を終了する。第２特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５８）の詳細については、図５７１を参照して後述する。

【６３１１】

次いで、図５６０を参照して、本第１７制御例における特別図柄変動処理１７（図５５９）の一処理である第１特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５１）について説明する。図５６０は、この第１特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５１）の内容を示したフローチャートである。

【６３１２】

この第１特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５１）のうち、Ｙ３０２～Ｙ３０６およびＹ３０９の各処理では、それぞれ第１２制御例における第１特別図柄変動開始処理１２（図４１８参照）のＹ３０２～Ｙ３０６およびＹ３０９の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５１）では、第１２制御例における第１特別図柄変動開始処理１２（図４１８参照）のＹ３０１の処理が削除されている。また、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）では、Ｙ３０６の処理を実行した後、第１２制御例における第１特別図柄判定処理１２（図４１９参照）に代えて、第１特別図柄判定処理１７を実行し（Ｙ３２１）、第１２制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１２（図４２０参照）に代えて第１特別図柄変動パターン選択処理１７を実行し（Ｙ３２２）、処理をＹ３０９へと移行する。更に、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）では、Ｙ３０９の処理が終了すると、次いで、天井抽選回数に到達したか否かを判定して、天井抽

選回数に到達した場合に第３時短状態を設定するための天井判定処理１７を実行し（Ｙ３２３）、本処理を終了する。第１特別図柄判定処理１７（Ｙ３２１）、第１特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ３２２）、天井判定処理１７（Ｙ３２３）の詳細については、図５６１、図５６３、および図５６４を参照して後述する。

【６３１３】

次いで、図５６１を参照して、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）の一処理である第１特別図柄判定処理１７（Ｙ３２１）について説明する。図５６１は、この第１特別図柄判定処理１７（Ｙ３２１）の内容を示したフローチャートである。

【６３１４】

この第１特別図柄判定処理１７（Ｙ３２１）のうち、Ｙ８００１～Ｙ８００６の各処理では、それぞれ第１２制御例における第１特別図柄判定処理１２（図４１９参照）のＹ８００１～Ｙ８００６の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第１特別図柄判定処理１７（Ｙ３２１）では、Ｙ８００３において、抽選結果が大当たりであると判別した場合には、（Ｙ８００３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂをオンに設定し（Ｙ８０１１）、処理をＹ８００４へと移行する。一方、抽選結果が大当たりではないと判別した場合には、（Ｙ８００３：Ｎｏ）、小当たり抽選処理１７を実行し（Ｙ８０１２）、本処理を終了する。

【６３１５】

次いで、図５６２を参照して、本第１７制御例における第１特別図柄判定処理１７（図５６１）の一処理である小当たり抽選処理１７（Ｙ８０１２）について説明する。図５６２は、この小当たり抽選処理１７（Ｙ８０１２）の内容を示したフローチャートである。

【６３１６】

この小当たり抽選処理１７（Ｙ８０１２）では、まず、今回の特別図柄の抽選結果が時短当選であるか否かを判別する（Ｙ８０５１）。Ｙ８０５１の処理において、抽選結果が時短当選であると判別した場合には（Ｙ８０５１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。一方、時短当選ではないと判別した場合には（Ｙ８０５１：Ｎｏ）、小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８０５２）、抽選結果が小当たり当選であるか否かを判別し（Ｙ８０５３）、抽選結果が小当たり当選ではないと判別した場合には（Ｙ８０５３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、抽選結果が小当たり当選であると判別した場合には（Ｙ８０５３：Ｙｅｓ）、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値に基づいて、小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆから小当たり種別を選択し、第１図柄表示装置に表示する特別図柄の小当たり図柄をセットし（Ｙ８０５４）、今回小当たりに当選した特別図柄に対応する小当たりフラグをオンに設定し（Ｙ８０５５）、本処理を終了する。一方、Ｙ５０５３の処理において、抽選結果が小当たり当選ではないと判別した場合には（Ｙ８０５３：Ｎｏ）、Ｙ８０５４およびＹ８０５５の処理をスキップし、本処理を終了する。

【６３１７】

次いで、図５６３を参照して、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）の一処理である第１特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ３２２）について説明する。図５６３は、この第１特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ３２２）の内容を示したフローチャートである。

【６３１８】

この第１特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ３２２）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理では、それぞれ第１２制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１２（図４２０参照）のＹ５０１～Ｙ５０３およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第１特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ３２２）では、Ｙ５０３の処理を実行した後、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊを参照して現在の特図抽選カウンタ２０３ｑａの値に対応する変動パターン選択テーブルを特定し（Ｙ５１１）、特定した変動パターン選択テーブルを読み出し（Ｙ

５１２）、処理をＹ５０５へと移行する。
【６３１９】
次いで、図５６４を参照して、本第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）の一処理である天井判定処理１７（Ｙ３２３）について説明する。図５６４は、この天井判定処理１７（Ｙ３２３）の内容を示したフローチャートである。
【６３２０】
この天井判定処理１７（Ｙ３２３）では、まず、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値に１を加算し（Ｓ３８１０３）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が３００であるか否かを判別し（Ｓ３８１２１Ａ）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が３００であると判別した場合には（Ｓ３８１２１Ａ：Ｙｅｓ）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値を１５０に更新し（Ｓ３８１２２Ａ）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値を示す情報を含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１０５）、本処理を終了する。一方で、Ｓ３８１２１Ａの処理において、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が３００ではないと判別した場合には（Ｓ３８１２１Ａ：Ｎｏ）、次いで、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が１５１であるか否かを判別し（Ｓ３８１２３Ａ）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が１５１ではないと判別した場合には（Ｓ３８１２３Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ３８１０５へ移行する。
【６３２１】
これに対し、Ｓ３８１２３Ａの処理において、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が１５１であると判別した場合には（Ｓ３８１２３Ａ：Ｙｅｓ）、天井抽選回数に到達したことを意味するため、時短カウンタ２０３ｈに６１を加算することで第３時短状態を設定し（Ｓ３８１２４Ａ）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を示す情報を設定する（Ｓ３８１１２Ａ）。次に、今回の時短抽選に関する情報をクリアし（Ｓ３８１１３Ａ）、第３時短状態を示す情報と時短回数を示す情報とを含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１１４Ａ）、本処理を終了する。
【６３２２】
次いで、図５６５を参照して、本第１７制御例における特別図柄変動処理１７（図５５９）の一処理である第１特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５４）について説明する。図５６５は、この第１特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５４）の内容を示したフローチャートである。
【６３２３】
この第１特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５４）のうち、Ｙ７０１およびＹ７０４～Ｙ７０７の各処理では、それぞれ第１２制御例における第１特別図柄変動停止処理１２（図４２４参照）のＹ７０１およびＹ７０４～Ｙ７０７の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第１特別図柄変動停止処理１７（Ｙ２５４）では、Ｙ７０１の処理において、変動時間が終了していないと判別した場合は（Ｙ７０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｙ７０１の処理において、変動時間が終了したと判別した場合は（Ｙ７０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄の大当たりフラグ２０３ｑｂがオンであるか否かを判別し（Ｙ７２１）、第１特別図柄の大当たりフラグ２０３ｑｂがオンではないと判別した場合には（Ｙ７２１：Ｎｏ）、今回の第１特別図柄の抽選結果が大当たりではないことを意味するため、特図１外れ停止処理を実行し（Ｙ７２２）、本処理を終了する。なお、特図１外れ停止処理（Ｙ７２２）の詳細については、図５６６を参照して後述する。
【６３２４】
一方、Ｙ７２１の処理において、第１特別図柄の大当たりフラグ２０３ｑｂがオンであると判別した場合には（Ｙ７２１：Ｙｅｓ）、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂが０より大きい値であるか否かを判別し（Ｙ７２３）、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂが０より大きい値である（つまり、第２特別図柄の変動表示中である）と判別した場合には（Ｙ７２３：Ｙｅｓ）、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆをオンに設定し（Ｙ７２４）、特図２の変動停止を示す特図２変動停止コマンドを設定し（Ｙ７２５）、第１図柄表示装置の第２特別図柄を外れ図柄で停止表示し（Ｙ７２６）、処理をＹ７２７へと移行する。
【６３２５】

一方、Ｙ７２３の処理において、特図２変動時間タイマ２０３ｋｂが０である（つまり、第２特別図柄の変動表示中ではない）と判別した場合には（Ｙ７２３：Ｎｏ）、Ｙ７２４～Ｙ７２６の処理をスキップし、処理をＹ７２７へと移行する。次に、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂをオフに設定し（Ｙ７２７）、処理をＹ７０４へと移行する。

【６３２６】

次いで、図５６６を参照して、本第１７制御例における第１特別図柄変動停止処理１７（図５６５）の一処理である特図１外れ停止処理（Ｙ７２２）について説明する。図５６６は、この特図１外れ停止処理（Ｙ７２２）の内容を示したフローチャートである。

【６３２７】

この特図１外れ停止処理（Ｙ７２２）では、まず、特図１小当たりフラグ２０３ｑｃがオンであるか否かを判別し（Ｙ７５１）、特図１小当たりフラグ２０３ｑｃがオンであると判別した場合には（Ｙ７５１：Ｙｅｓ）、特図２変動停止コマンドを設定し（Ｙ７５２）、第１図柄表示装置の第２特別図柄を外れ図柄で停止表示し（Ｙ７５３）、小当たりシナリオを設定する（Ｙ７５４）。次いで、小当たり開始フラグ２０３ｆｂをオンに設定し（Ｙ７５５）、小当たり中フラグ２０３ｆｃをオンに設定し（Ｙ７５６）、特図１確定コマンドをセットする（Ｙ７５７）。次いで、第１図柄表示装置の第１特別図柄を小当たり図柄で変動停止し（Ｙ７５８）、特図１小当たりフラグ２０３ｑｃをオフに設定し（Ｙ７５９）、本処理を終了する。一方、Ｙ７５１の処理において、特図１小当たりフラグ２０３ｑｃがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｙ７５１：Ｎｏ）、特図１確定コマンドをセットし（Ｙ７６０）、第１図柄表示装置の第１特別図柄を外れ図柄で変動停止し（Ｙ７６１）、本処理を終了する。

【６３２８】

次いで、図５６７を参照して、本第１７制御例における特別図柄変動処理１７（図５５９）の一処理である第２特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５５）について説明する。図５６７は、この第２特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５５）の内容を示したフローチャートである。

【６３２９】

この第２特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５５）のうち、Ｙ８３２～Ｙ８３６およびＹ８３９（Ｙ３０９）の各処理では、それぞれ第１２制御例における第２特別図柄変動開始処理１２（図４２７参照）のＹ８３２～Ｙ８３６およびＹ８３９（Ｙ３０９）の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第２特別図柄変動開始処理１７（Ｙ２５５）では、まず、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであるか否かを判別し（Ｙ８５１）、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンであると判別した場合には（Ｙ８５１：Ｙｅｓ）、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆをオフに設定し（Ｙ８５２）、本処理を終了する。一方、特図２変動停止フラグ２０３ｋｆがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｙ８５１：Ｎｏ）、処理をＹ８３２へと移行する。

【６３３０】

また、Ｙ８３６の処理を実行した後、第２特別図柄判定処理１７を実行し（Ｙ８５３）、第２特別図柄変動パターン選択処理１７を実行し（Ｙ８５４）、次いで、Ｙ８３９（Ｙ３０９）を実行し、天井判定処理１７を実行し（Ｙ８５５（Ｙ３２３））、本処理を終了する。なお、第２特別図柄判定処理１７（Ｙ８５３）および第２特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ８５４）の詳細については、図５６８および図５７０を参照して後述する。また、天井判定処理１７（Ｙ８５５（Ｙ３２３））は、上述した図５６４と同一の内容のため、その説明を省略する。

【６３３１】

次いで、図５６８を参照して、本第１７制御例における第２特別図柄変動開始処理１７（図５６７）の一処理である第２特別図柄判定処理１７（Ｙ８５３）について説明する。図５６８は、この第２特別図柄判定処理１７（Ｙ８５３）の内容を示したフローチャートである。

【６３３２】
この第２特別図柄判定処理１７（Ｙ８５３）のうち、Ｙ８１０１～Ｙ８１０６の各処理では、それぞれ第１２制御例における第２特別図柄判定処理１２（図４２８参照）のＹ８１０１～Ｙ８１０６の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第２特別図柄判定処理１７（Ｙ８５３）では、Ｙ８１０３の処理において、抽選結果が大当たりであると判別した場合には（Ｙ８１０３：Ｙｅｓ）、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂをオンに設定し（Ｙ８１１１）、処理をＹ８１０４へと移行する。一方、Ｙ８１０３の処理において、抽選結果が大当たりではないと判別した場合には（Ｙ８１０３：Ｎｏ）、特図２時短抽選処理１７を実行し（Ｙ８１１２）、小当たり抽選処理１７を実行し（Ｙ８１１３（Ｙ８０１２））、本処理を終了する。なお、特図２時短抽選処理１７（Ｙ８１１２）の詳細については、図５６９を参照して後述する。また、小当たり抽選処理１７（Ｙ８１１３（Ｙ８０１２））は、上述した図５６２と同一の内容のため、その詳細な説明については省略する。

【６３３３】
次いで、図５６９を参照して、本第１７制御例における第２特別図柄判定処理１７（図５６８）の一処理である特図２時短抽選処理１７（Ｙ８１１２）について説明する。図５６９は、この特図２時短抽選処理１７（Ｙ８１１２）の内容を示したフローチャートである。

【６３３４】
この特図２時短抽選処理１７（Ｙ８１１２）のうち、Ｙ８２０２およびＹ８２０６の各処理では、それぞれ第１２制御例における特図２時短抽選処理１２（図４２９参照）のＹ８２０２およびＹ８２０６の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の特図２時短抽選処理１７（Ｙ８１１２）では、まず、時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８２１１）、処理をＹ８２０２へと移行する。また、本第１７制御例における特図２時短抽選処理１７（図５６９参照）では、Ｙ８２０２の処理において、抽選結果が時短当選であると判別した場合には（Ｙ８２０２：Ｙｅｓ）、第１図柄表示装置に表示する特別図柄として時短図柄をセットし（Ｙ８２１２）、本処理を終了する。

【６３３５】
次いで、図５７０を参照して、本第１７制御例における第２特別図柄変動開始処理１７（図５６７）の一処理である第２特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ８５４）について説明する。図５７０、この第２特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ８５４）の内容を示したフローチャートである。

【６３３６】
この第２特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ８５４）のうち、Ｙ９２１～Ｙ９２８の各処理では、それぞれ第１２制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理１２（図４３１参照）のＹ９２１～Ｙ９２８の各処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の第２特別図柄変動パターン選択処理１７（Ｙ８５４）では、Ｙ９２３の処理を実行した後、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊ（図５５７（ｂ）参照）を参照して現在の特図抽選カウンタ２０３ｑａの値と現在の遊技状態と前回の大当たり種別とに対応する変動パターン選択テーブルを特定し（Ｙ９３１）、特定した変動パターン選択テーブルを読み出し（Ｙ９３２）、処理をＹ９２４へと移行する。

【６３３７】
次いで、図５７１を参照して、本第１７制御例における特別図柄変動処理１７（図５５９）の一処理である第２特別図柄変動停止処理１７（Ｙ５２８）について説明する。図５７１、この第２特別図柄変動停止処理１７（Ｙ５２８）の内容を示したフローチャートである。

【６３３８】
この第２特別図柄変動停止処理１７（Ｙ５２８）のうち、Ｙ９０１、Ｙ９０６～Ｙ９０９、およびＹ９１４の各処理では、それぞれ第１２制御例における第２特別図柄変動停止

処理１２（図４３３参照）のＹ９０１、Ｙ９０６～Ｙ９０９、およびＹ９１４の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１７制御例における第２特別図柄変動停止処理１７（Ｙ５２８）では、Ｙ９０１の処理において、変動時間の終了タイミングであると判別した場合は（Ｙ９０１：Ｙｅｓ）、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂがオンであるか否かを判別し（Ｙ９２１）、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂがオンであると判別した場合には（Ｙ９２１：Ｙｅｓ）、次いで、特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０より大きい値であるか否かを判別する（Ｙ９２２）。特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０より大きい値であると判別した場合には（Ｙ９２２：Ｙｅｓ）、第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の大当たり図柄の停止表示タイミングになったことを意味するため、実行中の第１特別図柄の変動を停止表示させるべく、特図１の変動停止を示す特図１変動停止コマンドを設定し（Ｙ９２３）、第１図柄表示装置の第１特別図柄を外れ図柄で停止表示し（Ｙ９２４）、次いで、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂをオフに設定し（Ｙ９２５）、処理をＹ９０６へと移行する。一方、Ｙ９２２の処理において、特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合には（Ｙ９２２：Ｎｏ）、Ｙ９２３，Ｙ９２４の処理をスキップし、処理をＹ９２５へと移行する。

【６３３９】

一方、Ｙ９２１の処理において、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｑｂがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｙ９２１：Ｎｏ）、Ｙ９１４の処理を実行し、Ｙ９１４の処理において、第２特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合には（Ｙ９１４：Ｙｅｓ）、第１２制御例における時短設定処理１２（図４２６参照）に代えて時短設定処理１７を実行し（Ｙ９２６）、処理をＹ９０８へと移行する。一方、第２特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合には（Ｙ９１４：Ｎｏ）、特図２外れ停止処理を実行し（Ｙ９２７）、本処理を終了する。なお、時短設定処理１７（Ｙ９２６）および特図２外れ停止処理（Ｙ９２７）の詳細については、図５７２および図５７３を参照して後述する。

【６３４０】

次いで、図５７２を参照して、本第１７制御例における第２特別図柄変動停止処理１７（図５７１）の一処理である時短設定処理１７（Ｙ９２６）について説明する。図５７２、この時短設定処理１７（Ｙ９２６）の内容を示したフローチャートである。

【６３４１】

この時短設定処理１７（Ｙ９２６）は、上述した第１２制御例における時短設定処理１２（図４２６参照）と同様に、特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、時短図柄に対応する時短状態の設定を行うための処理である。この第１７制御例における時短設定処理１７（図５７２参照）のうち、Ｙ８３５４，Ｙ８４５５の各処理では、それぞれ第１２制御例における時短設定処理１２（図４２６参照）のＹ８３５４，Ｙ８４５５の各処理と同一の処理が実行される。また、本第１７制御例における時短設定処理１７（図５７２参照）では、まず、今回当選した時短図柄に対応する値を時短カウンタ２０３ｈに加算し（Ｙ８３６１）、処理をＹ８３５４へと移行する。

【６３４２】

このように、本第１７制御例では、時短図柄に当選する毎に、時短図柄に対応する時短回数を時短カウンタ２０３ｈに加算していくことができるので、９０％の割合で時短当選する第２特別図柄の抽選が実行され易い時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選が実行される毎に、ほぼ毎回時短回数が上乗せされていく斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６３４３】

次いで、図５７３を参照して、本第１７制御例における第２特別図柄変動停止処理１７（図５７１）の一処理である特図２外れ停止処理（Ｙ９２７）について説明する。この特図２外れ停止処理（Ｙ９２７）は、第２特別図柄の外れ（小当たり含む）図柄の停止表示を設定するための処理である。図５７３は、この特図２外れ停止処理（Ｙ９２７）の内容

を示したフローチャートである。
【６３４４】
この特図２外れ停止処理（Ｙ９２７）では、まず、特図２小当たりフラグ２０３ｑｄがオンであるか否かを判別し（Ｙ９５１）、特図２小当たりフラグ２０３ｑｄがオンであると判別した場合には（Ｙ９５１：Ｙｅｓ）、特図１変動停止コマンドを設定し（Ｙ９５２）、第１図柄表示装置の第１特別図柄を外れ図柄で停止表示し（Ｙ９５３）、小当たりシナリオを設定する（Ｙ９５４）。次に、小当たり開始フラグ２０３ｆｂをオンに設定し（Ｙ９５５）、小当たり中フラグ２０３ｆｃをオンに設定し（Ｙ９５６）、特図２確定コマンドをセットする（Ｙ９５７）。そして、第１図柄表示装置の第２特別図柄を小当たり図柄で変動停止し（Ｙ９５８）、特図２小当たりフラグ２０３ｑｄをオフに設定し（Ｙ９５９）、本処理を終了する。
【６３４５】
一方、Ｙ９５１の処理において、特図２小当たりフラグ２０３ｑｄがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合には（Ｙ９５１：Ｎｏ）、特図２確定コマンドをセットし（Ｙ９６０）、第１図柄表示装置の第２特別図柄を外れ図柄で変動停止し（Ｙ９６１）、本処理を終了する。
【６３４６】
この特図２外れ停止処理（図５７３参照）を実行することにより、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選して、当該小当たり当選に基づく小当たり図柄を停止表示させる際に、第１特別図柄の変動表示を外れ図柄で停止表示させることができる。これにより、第１特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりである場合に、大当たりと小当たり、若しくは小当たりと小当たりとが重複して実行されてしまうことを抑制することができる。
【６３４７】
＜第１７制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞
次に、図５７４から図５７５を参照して、本第１７制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。本第１７制御例では、上述した第１２制御例（および第５制御例）に対して、状態コマンド受信処理５（図２６３参照）の１処理である時短状態演出設定処理５（Ｓ９０１１Ａ）の内容が変更された点、特図２演出態様設定処理５（図２６９参照）の内容が変更された点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした内容と同一の要素について詳細な説明を省略している箇所については、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした内容が適応されるものである。また、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした技術思想については、本第１７制御例にも当然適用されるものであり、上述した各制御例、及び各制御例において説明をした変形例や追加例についても本第１７制御例に当然適用されるものである。
【６３４８】
まず、図５７４を参照して、本第１７制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される時短状態演出設定処理１７（Ｓ９０１１Ａ）について説明をする。図５７４は、この時短状態演出設定処理１７（Ｓ９０１１Ａ）の内容を示したフローチャートである。この時短状態演出設定処理１７（Ｓ９０１１Ａ）では、まず、受信したコマンドに含まれる時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａの値に設定し（Ｓ９３１１Ａ）、次いで、時短状態Ｂに変更したか否かを判別し（Ｓ９３１２Ａ）、時短状態Ｂに変更していないと判別した場合には（Ｓ９３１２Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【６３４９】
一方、Ｓ９３１２Ａの処理において、時短状態Ｂに変更したと判別した場合には（Ｓ９３１２Ａ：Ｙｅｓ）、大当たりＢ１７を契機とする時短状態であるか否かを判別し（Ｓ９３１３Ａ）、大当たりＢ１７を契機とする時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ９３１３Ａ：Ｎｏ）、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａに１１を設定し（Ｓ９３１４Ａ）、天井到達を契機とする時短状態であるか否かを判別する（Ｓ９３１５Ａ）。天井到達を

契機とする時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ９３１５Ａ：Ｎｏ）、ベース回数カウンタ２２３ｑｂに７５を設定し（Ｓ９３１６Ａ）、処理をＳ９３１９Ａへと移行する。

【６３５０】

一方、Ｓ９３１３Ａにおいて、大当たりＢ１７を契機とする時短状態であると判別した場合には（Ｓ９３１３Ａ：Ｙｅｓ）、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａに６を設定し（Ｓ９３１７Ａ）、ベース回数カウンタ２２３ｑｂに５０を設定し（Ｓ９３１８Ａ）、処理をＳ９３１９Ａへと移行する。また、Ｓ９３１５Ａの処理において、天井到達を契機とする時短状態であると判別した場合は（Ｓ９３１５Ａ：Ｙｅｓ）、処理をＳ９３１８Ａへと移行する。次に、各カウンタ値に応じて上乗せＲＵＳＨの残り回数および初期ストック回数の表示を設定し（Ｓ９３１９Ａ）、本処理を終了する。

【６３５１】

次に、図５７５を参照して、本第１７制御例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される特図２演出態様設定処理１７（Ｓ４９９１Ａ）について説明をする。図５７５は、この特図２演出態様設定処理１７（Ｓ４９９１Ａ）の内容を示したフローチャートである。

【６３５２】

この特図２演出態様設定処理１７（Ｓ４９９１Ａ）のうち、Ｓ９６１１の処理では、第１２制御例における特図２演出態様設定処理５（図２６９参照）のＳ９６１１の処理と同一の処理が実行される。また、本制御例の特図２演出態様設定処理１７（Ｓ４９９１Ａ）では、まず、時短状態であるか否かを判別し（Ｓ９６２１Ａ）、時短状態ではないと判別した場合には（Ｓ９６２１Ａ：Ｎｏ）、受信した変動パターンに対応した演出態様を決定し（Ｓ６９２２Ａ）、Ｓ９６１１の処理を実行し、本処理を終了する。一方、時短状態であると判別した場合には（Ｓ９６２１Ａ：Ｙｅｓ）、時短状態Ａであるか否かを判別し（Ｓ９６２３Ａ）、時短状態Ａであると判別した場合には（Ｓ９６２３Ａ：Ｙｅｓ）、上乗せＲＵＳＨ終了後１回目の特図２変動であるかを判別し（Ｓ９６２４Ａ）、上乗せＲＵＳＨ終了後１回目の特図２変動であると判別した場合には（Ｓ９６２４Ａ：Ｙｅｓ）、特図１の残変動時間の終了まで継続するチャンスタイム突入表示（図５４９（ｂ）参照）を設定し（Ｓ９６２５Ａ）、ＴＯＴＡＬ回数として、ベース回数カウンタ２２３ｑｂの値と上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃの値とを加算した値の表示を設定し（Ｓ９６２６Ａ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。一方、Ｓ９６２４Ａの処理において、上乗せＲＵＳＨ終了後１回目の特図２変動ではないと判別した場合には（Ｓ９６２４Ａ：Ｎｏ）、Ｓ９６２５ＡおよびＳ９６２６Ａの処理をスキップし、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。

【６３５３】

一方、Ｓ９６２３Ａの処理において、時短状態Ａではないと判別した場合には（Ｓ９６２３Ａ：Ｎｏ）、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ９６２７Ａ）、時短図柄当選であると判別した場合には（Ｓ９６２７Ａ：Ｙｅｓ）、当選した時短図柄に応じた上乗せ回数を報知する変動表示態様（図５４９（ａ）参照）を決定し（Ｓ９６２８Ａ）、当選した時短図柄に対応する時短回数を時短中カウンタ２２３ｄａおよび上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃに加算し（Ｓ９６２９Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。一方、Ｓ９６２７Ａの処理において、時短当選ではない（即ち、大当たりまたは実質的に大当たりが確定する小当たりである）と判別した場合には（Ｓ９６２７Ａ：Ｎｏ）、上乗せＲＵＳＨの再セットを報知する変動表示態様（図５５０参照）を決定し（Ｓ９６３０Ａ）、上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃの値を０クリアし（Ｓ９６３１Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。

【６３５４】

この特図２演出態様設定処理１７（図５７５参照）を実行することにより、時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選が実行されて時短図柄に当選する毎に、時短図柄に対応する時短回数の上乗せを報知することができる。よって、ほぼ毎変動で時短図柄が上乗せされるという極めて斬新な演出態様を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【６３５５】
以上説明した通り、本第１７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態として、有利度合いが低い第１特別図柄の抽選が実行され易い時短状態（第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａ）と、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が実行され易い時短状態（第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂ）と、を設ける構成とし、天井抽選回数に到達した場合は、まず第３時短状態Ｂが設定されるように構成する一方で、通常状態において大当たりに当選した場合は、大当たり終了後の時短状態が高い割合で有利度合いの低い第２時短状態Ａに設定されるように構成した。このように構成することで、大当たりに当選するよりも、天井抽選回数に到達することをより強く期待して遊技を行わせることができる。
【６３５６】
また、本第１７制御例では、時短状態中に時短図柄に当選した場合に、当選した時短図柄に対応する時短回数が上乗せされるように構成している。そして、第２特別図柄の抽選では、第１特別図柄の抽選よりも高確率（例えば、９０％の割合）で時短図柄に当選するように構成している。また、第２時短状態Ｂまたは第３時短状態Ｂに移行した場合、特定回数（例えば、１０回）の特別図柄の抽選が実行されることで第２時短状態Ａまたは第３時短状態Ａに移行する構成としている。つまり、第２時短状態Ｂまたは第３時短状態Ｂの間は、第２特別図柄の抽選が実行される毎に高確率で時短図柄に当選して時短回数が上乗せされていくため、特定回数の特別図柄の抽選が経過した後に移行する第２時短状態Ａまたは第３時短状態Ａの継続回数を時短状態Ｂの間に実行される特別図柄の抽選結果に応じて可変させることができるという斬新な遊技性を実現している。
【６３５７】
なお、本第１７制御例では、第１特別図柄の小当たりとして、Ｖ入賞が発生し得ない「小当たりＡ１７」のみを設ける構成としていたが、第１特別図柄の小当たりでも、一部はＶ入賞が発生し得るように構成してもよい。そして、天井間際（例えば、天井抽選回数に到達するまでの抽選回数が残り５回以内）にＶ入賞が発生し得る第１特別図柄の小当たりの抽選結果がある場合は、小当たりにおいてＶ入賞を発生させないように促す演出を実行する構成としてもよい。つまり、特に、Ｖ入賞を発生させることで第２時短状態Ａが設定される「大当たりＡ１７」に当選する種別の小当たりとなった場合、Ｖ入賞を発生させて第２時短状態Ａに移行するよりも、天井抽選回数に到達して第３時短状態Ｂへと移行した方が有利になる可能性が高くなるので、係る場合には、Ｖ入賞を避けるように遊技者に促す斬新な演出を実行してもよい。このように構成することで、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【６３５８】
本第１７制御例では、時短状態Ｂ（上乗せＲＵＳＨ）において第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選する毎に、当選した時短図柄に対応する時短回数を上乗せする演出を実行する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、時短状態Ｂにおいて途中まで（例えば、９回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまで）は時短回数の上乗せ回数を報知せずに秘匿し、所定の報知タイミング（例えば、時短状態Ｂにおける最後の第２特別図柄の変動表示に係る変動表示演出）で上乗せ回数をまとめて報知する構成としてもよい。このように構成することで、どれだけの時短回数が上乗せされているかを所定の報知タイミングまで遊技者に予測させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、この場合において、特別図柄の抽選が実行される毎に、上乗せされた時短回数を示唆する演出を実行してもよいし、時短回数に関する情報を一切示唆しない構成としてもよい。前者の場合は、時短回数の上乗せ状況を予測し易くすることができるし、後者の場合は、報知タイミングとなるまで、第２特別図柄の抽選で大当たりとなるか否かに注目して遊技を行わせることができる。
【６３５９】
本第１７制御例では、第２特別図柄の抽選で１／１０の確率で大当たり又は小当たりに当選し、９／１０の確率で時短図柄に当選する構成としていたが、これに限られるものではない。所定の確率（例えば、１／２の確率）で時短図柄に当選するように構成してもよ

い。つまり、本第１７制御例では、単なる外れの抽選結果を設けていなかったが、外れを設ける構成としてもよい。このように構成することで、時短状態Ｂにおいて時短図柄に当選するだけで遊技者を喜ばせることができるので、時短状態Ｂにおける遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【６３６０】

上述した第１３から第１７制御例では、天井抽選回数に到達した場合に第３時短状態へと移行させる構成としていたが、天井抽選回数に到達した場合に設定される遊技状態は第３時短状態に限られるものではなく、任意の遊技状態に設定することができる。具体的には、例えば、第３時短状態よりも有利な第２時短状態へと移行させる構成としてもよいし、より有利な第２確変状態へと移行させる構成としてもよい。このように構成することで、天井抽選回数到達時の有利度合いを可変させることができるので、設計の自由度を高めることができる。

【６３６１】

上述した第１３から第１７制御例では、固定の天井抽選回数に到達した場合に有利な遊技状態（第３時短状態）へと移行する構成としていたが、天井抽選回数を固定化しなくてもよい。例えば、天井抽選回数として設定され得る回数を複数（例えば、５０回、３００回、５００回、１０００回等）設ける構成とし、パチンコ機１０が初期化された（ＲＡＭクリアスイッチ１２２をオンにした状態で電源が投入された）場合や大当たり終了時に、天井抽選回数を抽選により決定する構成としてもよい。このように構成することで、天井抽選回数として少ない抽選回数が選択されることを期待して遊技を行わせる遊技性を付加することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。この場合において、パチンコ機１０が初期化された場合（例えば、初期化後１回目の変動表示演出中）や大当たり終了時（例えば、エンディング演出中や終了後１回目の変動表示演出中）に、天井抽選回数を示唆する演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、天井抽選回数を示唆する演出から天井抽選回数を予測する遊技性を更に付加することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、例えば、大当たりの種別毎に、大当たり終了後の天井抽選回数を異ならせる構成としてもよい。このように構成することで、大当たりの種別により注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。なお、この場合において、ラウンド数および大当たり終了後の遊技状態が共通で、大当たり終了後の天井抽選回数が異なる大当たり種別を設けてもよい。具体的には、例えば、４ラウンド時短大当たりとして、天井抽選回数が１００回の種別と１０００回の種別とを設けたり、８ラウンド時短大当たりとして天井抽選回数が４００回の種別と６００回の種別とを設けたりしてもよい。このように構成することで、４ラウンド時短大当たりとなった場合に、天井抽選回数が少ない可能性があるので、遊技者の興趣を向上させることができる。また、８ラウンド時短大当たりとなった場合に、１０００回という極めて多い天井抽選回数が設定される可能性が無くなるため、安心して遊技を行わせることができる。

【６３６２】

上述した第１３から第１７制御例では、パチンコ機１０が初期化された場合にＲＡＭ２０３も初期化されることに伴って、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値がリセットされるように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、パチンコ機１０が初期化された場合でも、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値がリセットされないように構成してもよい。このように構成することで、遊技者が初期化された可能性が高い（例えば、大当たりや第２確変状態の間にパチンコ機１０が設置されているホールの閉店時間となってしまった場合等）パチンコ機１０での遊技を避けることを抑制することができるので、初期化された可能性の有無によらず、パチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６３６３】

＜第１８制御例＞

次に、図５７６から図６０６を参照して、第１８制御例の内容について説明をする。本第１８制御例は、上述した第７制御例に対して、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ

を有し、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合に既に特別図柄の変動表示中であれば、第２特別図柄の入賞情報（特図２保留）を所定数（本第１８制御例では、上限４個まで）格納（保留記憶）可能に構成している点で相違している。

【６３６４】

加えて、本第１８制御例では、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の抽選結果を事前に判別（先読み）した結果、小当たり当選である保留（Ｖ保留）が存在する場合には、Ｖ保留が存在することを報知するための演出を実行可能に構成している点で相違している。

【６３６５】

具体的には、大当たり遊技が開始された場合に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の抽選結果を先読みした結果、Ｖ保留が存在する場合には、Ｖ保留が存在することを示す報知態様である「Ｖアイコン」を獲得する演出（Ｖアイコン獲得演出）が実行される。獲得したＶアイコンはＶ保留に基づく特別図柄の変動表示開始まで第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍにおいて縮小して表示され、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示中に拡大表示される（以下、Ｖアイコンの発動と言う。）ことによって、遊技者にこの変動で小当たり当選することを報知する。

【６３６６】

このように構成することで、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に実行される特別図柄の抽選において小当たり当選することが事前に報知されるため、大当たり遊技終了後に小当たり当選することなく規定変動回数に到達し時短状態が終了するのではないかという遊技者の不安を抑制することができる。

【６３６７】

ここで、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留保留記憶）されている特図２保留の抽選結果を先読みした結果、Ｖ保留が存在する場合には必ずＶアイコン獲得演出が実行される構成とすると、Ｖアイコン獲得演出が実行されなかった場合には、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の中にＶ保留は存在しない（即ち、全て外れである）ことが明かとなり、遊技者を落胆させてしまう虞がある。

【６３６８】

このため、本第１８制御例では、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の抽選結果を先読みした結果、Ｖ保留が存在する場合の一部でＶアイコン獲得演出を実行する構成としている。

【６３６９】

このように構成することで、大当たり遊技の実行中にＶアイコン獲得演出が実行されなかった場合であっても、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留に基づく特別図柄の変動表示が終了するまでは、遊技者に小当たり当選するかもしれないという期待を持たせることができる。

【６３７０】

また、本第１８制御例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、その特別図柄の変動表示においてＶアイコンの発動を実行するか否かを決定することが可能な構成としている。

【６３７１】

具体的には、Ｖ保留（小当たり当選する保留）に基づく特別図柄の変動表示を開始する場合に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の中に他にもＶ保留があるか否かを判別し、Ｖ保留が存在する場合には、Ｖアイコンの発動（Ｖアイコンを拡大表示し、小当たり当選であることを報知すること）を実行せずに、後に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示開始までＶアイコンの縮小表示を継続可能に構成している。

【６３７２】

このように構成することで、Ｖアイコンを獲得した状態において特別図柄の変動表示中

にＶアイコンの発動が実行されなかった場合であっても小当たりに当選する可能性があるため、特別図柄の変動表示終了までＶアイコンが発動されない場合であっても、小当たり当選するかもしれないという期待を遊技者に持たせることができる。

【６３７３】

また、このように構成することで、例えば、大当たり遊技中にはＶ保留が１個しか存在しなかったが、大当たり遊技終了後からＶ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始されるまでの期間で新たに第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにＶ保留が格納（保留記憶）された場合に、Ｖアイコンの発動対象をその新たなＶ保留に切り替えることが可能となる。これにより、Ｖアイコン獲得演出が実行された時点で先読みされている特図２保留の最後尾の保留がＶ保留である場合であっても、そのＶ保留に基づく特別図柄の変動表示中にＶアイコンが発動されるとは限らず、Ｖアイコンが発動されないことで連チャン（小当たり当選が連続すること）することが確定するため、遊技者にＶアイコンが発動されないことを期待させることによって遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【６３７４】

なお、本第１８制御例では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに複数のＶ保留が格納（保留記憶）されており、Ｖアイコンが表示されている場合に、先に消化されるＶ保留をＶアイコンの発動対象とするか、後に消化されるＶ保留をＶアイコンの発動対象とするか、を先に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に決定する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、予め、先に消化されるＶ保留でＶアイコンの発動が実行され易い設定とするか、後に消化されるＶ保留でＶアイコンの発動が実行され易い設定とするか、を遊技者の好みに合わせてボタン操作によって選択することが可能な構成としても良い。

【６３７５】

加えて、本第１８制御例では、Ｖアイコン獲得演出が実行される割合が、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の数と、Ｖ保留の位置に応じて異なる構成としている。

【６３７６】

具体的には、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の先頭の特図２保留（第１保留）がＶ保留である場合に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の数が少ないほどＶアイコン獲得演出が実行され易い。また、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留が４個格納（保留記憶）されている場合には、先に消化される特図２保留がＶ保留である場合よりも、後に消化される特図２保留がＶ保留である場合の方が、Ｖアイコン獲得演出の実行される割合を高く構成している。

【６３７７】

このように構成することで、Ｖアイコンの発動が実行された場合に、そのＶアイコンを獲得したＶアイコン獲得演出の実行時点では先読みされていない特図２保留が多く残り易くなるため、Ｖアイコンの発動後に残っている特図２保留の抽選結果を予測させ難くすることができる。

【６３７８】

なお、本第１８制御例では、第１保留がＶ保留（小当たり当選する保留）である場合に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の数が少ないほどＶアイコン獲得演出が実行され易い構成としたが、これに限るものではなく、特図２保留の数が多いほどＶアイコン獲得演出が実行され易い構成としても良い。

【６３７９】

なお、本第１８制御例では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留が４個格納（保留記憶）されている場合には、先に消化される特図２保留がＶ保留である場合よりも、後に消化される特図２保留がＶ保留である場合の方が、Ｖアイコン獲得演出の実行される割合を高く構成したが、これに限るものではなく、後に消化される特図２保留がＶ保留である場合よりも、先に消化される特図２保留がＶ保

留である場合の方が、Ｖアイコン獲得演出の実行される割合を高く構成しても良い。
【６３８０】
なお、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されているＶ保留の数が多いほどＶアイコン獲得演出が実行され易い構成としても良い。
【６３８１】
加えて、本第１８制御例では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに複数のＶ保留が格納（保留記憶）されている場合に、先に消化されるＶ保留においてＶアイコンの発動を実行するか否かを、変動パターンに応じて決定する構成としている。
【６３８２】
具体的には、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに複数のＶ保留が格納（保留記憶）されている場合に、先に消化されるＶ保留において、特定の変動パターンが設定されなかった場合にはＶアイコンの発動を実行する構成とし、Ｖアイコンの発動が実行されない場合に参照される演出態様設定テーブルとは特定演出態様の設定割合が異なる特定演出態様設定テーブルが参照される。なお、特定演出態様とは、例えば、大当たりまたは小当たり当選の場合のみ実行される演出（所謂、プレミア演出）や、抽選結果が外れであることを示す表示態様を表示した後に大当たりまたは小当たり当選を示す表示態様に可変させる演出（所謂、復活演出）を指す。
【６３８３】
このように構成することで、実行される演出態様からＶアイコンが発動されるか否かを遊技者が予測し易くなるため、遊技者に対して実行される演出に興味を持たせることが可能となり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制することができる。
【６３８４】
なお、本第１８制御例では、Ｖアイコンの発動が実行される場合には、プレミア演出や復活演出が実行され難い構成としたが、これに限るものではなく、プレミア演出や復活演出が実行され易い構成としても良い。また、例えば、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに複数のＶ保留（小当たり当選する保留）が格納（保留記憶）されている場合の一部で、後に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始されるまでの期間はＶアイコンの発動を禁止する期間を設定可能に構成しても良く、この場合、Ｖアイコンの発動が禁止されていることを示すための表示態様（例えば、Ｖアイコンに鎖を巻いてロックする表示態様）を表示する構成としても良い。このように構成することで、Ｖアイコンの発動が禁止されている期間に小当たり当選の期待度が高い演出が実行された場合に、Ｖアイコンの発動が実行されない小当たり当選への期待度を高めることができるため、遊技者にＶアイコンの発動が禁止されている期間における演出に対する興味を持たせることが可能となる。
【６３８５】
なお、１の特別図柄の変動表示中に、Ｖアイコンの発動が実行され易いタイミングと、Ｖアイコンの発動が実行され難いタイミングと、を有する構成としても良く、例えば、特別図柄の変動表示中にリーチ演出が実行される場合に、特別図柄の変動表示開始からリーチ演出開始までの期間の方が、リーチ演出開始から特別図柄の停止表示までの期間よりもＶアイコンの発動が実行され易い構成とすることで、リーチ演出開始までにＶアイコンの発動が実行されなければ遊技者に連チャンへの期待を持たせることが可能となるため、特別図柄の変動表示が開始した直後にＶアイコンが発動されなかった場合であっても、遊技者にリーチになるか否かに興味を持たせることができる。
【６３８６】
なお、本第１８制御例では、大当たり遊技中にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを、保留記憶されている特図２保留を先読みした結果、Ｖ保留が存在するか否かによって決定する構成としたが、これに限るものではない。大当たり遊技中にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを、保留記憶されている特図１保留（第１特別図柄の入賞情報）の先読み結果に基づいて決定する構成としても良いし、特図２保留と特図１保留の両方の先読み結果によって決定する構成としても良い。また、特図２保留の中にＶ保留が存在する場合と

、特図１保留の中にＶ保留が存在する場合と、で表示されるＶアイコンの表示態様を異ならせる構成としても良い。

【６３８７】

以下、本第１８制御例のパチンコ機１０について説明をするが、上述した各制御例と同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【６３８８】

＜第１８制御例におけるパチンコ機１０の盤面構成について＞

まず、図５７６から図５８１を参照して、第１８制御例におけるパチンコ機１０の構造について説明する。図５７６は第１８制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図５７７は第１８制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面視右下領域を拡大した拡大図であり、図５７８～図５８１は第１８制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３に設けられたＶ入賞装置６５０の構造を模式的に示した模式図である。

【６３８９】

図５７６に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【６３９０】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図５７６を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【６３９１】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【６３９２】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図２４２参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図５７６の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図５７６の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【６３９３】

遊技領域の正面視右側上部（図５７６の右側上部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、主制御装置１１０（図２４２参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。第１８制御例では、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、球が、第１入球口６４へ入賞し

たか、第２入球口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入球口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ａが作動し、一方で、球が、第２入球口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ｂが作動するように構成されている。

【６３９４】

また、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動表示中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が時短大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として時短状態が設定される大当たり）に対応した図柄か普通大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として通常状態が設定される大当たり）に対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【６３９５】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、大当たり遊技のラウンド数が１６ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される１６Ｒ時短大当たり（１６Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が１０ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される１０Ｒ時短大当たり（１０Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が７ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される７Ｒ時短大当たり（７Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が７Ｒで大当たり終了後に時短状態が付与されない７Ｒ通常大当たり（７Ｒ時短無大当たり）が用意されている。

【６３９６】

また、大当たり抽選の抽選結果として上述した大当たりでは無い外れと判定された場合の一部において、上述した大当たりよりも遊技者に付与される特典が少ない（例えば、１ラウンドのみＶ入賞装置６５０を開放させる特典）小当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂには、変動表示終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否か（小当たりであるか否か）が示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【６３９７】

ここで、「１６Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が１６ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり、「１０Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が１０ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり、「７Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が７ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり。また、「７Ｒ時短無大当たり」は、最大ラウンド数が７ラウンドの大当たりの後に時短状態へと移行せずに通常状態へと移行する大当たりのことである。

【６３９８】

つまり、本パチンコ機１０では、特別図柄の大当たりに当選した場合に提供される大当たり遊技として、遊技者に最も多くの特典を付与可能な「１６Ｒ時短有大当たり」と、その次に多い特典を付与可能な「１０Ｒ時短有大当たり」と、その次に多い特典を付与可能な「７Ｒ時短有大当たり」と、大当たり遊技のうち最も遊技者に付与される特典が少ない「７Ｒ時短無大当たり」と、のうち、何れかの大当たり遊技が提供されるように構成されている。これにより、特別図柄の抽選において大当たりに当選した場合であっても付与され得る特典が異なる大当たり遊技のうち、最も多くの特典が付与される大当たり遊技が提供されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【６３９９】

なお、第１８制御例では、大当たり遊技のラウンド数（大当たり遊技中に獲得可能な賞球数）と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の内容と、に応じて遊技者に付与される特典の大小を定義しているが、これに限ること無く、上述した条件以外を用いて遊技者に付与される特典の大小を定義しても良いし、特典に大小を定義付けることなく、異なる特典が付与されるように大当たり遊技の内容を異ならせるだけでも良い。

【６４００】

また、「時短状態」とは、大当たり終了後に遊技者に付与される付加価値（特典）として、大当たり確率は通常状態と同じであるが、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態である。この第２入球口６４０へ球が入球し易い状態とするために、第１８制御例では、第２図柄の変動時間を通常状態よりも短くし、且つ、第２図柄の抽選結果が当たりの場合に動作させる電動役物６４０ａの動作態様を通常状態よりも第２入球口６４０へ球が入球し易い期間が長くなるように設定している。なお、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態を設定するためにそれ以外の構成を用いても良く、上述した設定内容の一部のみを用いても良いし、上述した内容以外にも、第２図柄の当たり確率を通常状態よりも高く設定するように構成しても良い。

【６４０１】

加えて、本第１８制御例では、第１入球口６４へと遊技球が入球した場合に実行契機が成立し得る第１特別図柄抽選、及び、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合に実行契機が成立し得る第２特別図柄抽選において、上述した大当たり当選、小当たり当選以外に時短当選し得るように構成している。具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で実行される特別図柄抽選（第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選）において、時短当選の判定が実行されるように構成している。

【６４０２】

ここで、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選において大当たり判定が実行されるよりも前に時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定され、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄の変動表示が開始されるタイミングにて、時短状態を終了させるか否かを判定する処理（更新処理１８）が実行される。例えば、時短回数１（時短カウンタ２０３ｈの値が１）に設定される時短状態の場合は、時短当選した当該特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄の変動表示が開始されるタイミングで実行される更新処理１８において、残時短回数（時短カウンタ２０３ｈの値）が更新（減算）され、時短終了条件が成立し、時短状態を終了させると判定される。一方、時短回数として複数回（例えば、１００回）の値が設定される時短状態の場合は、更新処理１８によって実行される残時短回数の更新の結果に基づいて時短終了条件が成立するまで時短状態が継続する。

【６４０３】

つまり、本第１８制御例にて用いられる時短状態の設定タイミングと、時短状態の終了タイミングと、を用いることにより、設定される時短回数に応じて、特別図柄抽選の大当たり判定タイミングのみ（特別図柄変動期間を除外して）時短状態を設定したり、特別図柄変動期間を含めて時短状態を設定したりすることが可能となる。

【６４０４】

なお、同様の効果を奏する手法として、別の処理タイミングを設定しても良く、例えば、上述した第５制御例と同様に時短当選した当該特別図柄変動の停止タイミングに時短状態を設定し、次に実行される特別図柄変動が開始されるよりも前に時短状態の更新処理（時短状態を終了させるか否かを判定する処理）を実行可能に構成しても良い。このように構成した場合も、設定される時短回数を異ならせることで特別図柄変動期間が含まれるように時短状態を設定したり、特別図柄変動期間が含まれないように時短状態を設定したりすることが可能となる。なお、この場合、時短状態が設定された特別図柄変動が停止表示され、時短状態が設定された状態で次の特別図柄抽選が開始されない場合は、時短終了条件が成立し得ないため時短状態が継続することになる。

【６４０５】

よって、この場合、時短当選した特別図柄変動が停止表示されるまでに（時短状態が設

定されるまでに）、次に実行される特別図柄抽選の実行権利（特図保留）を獲得しているかを判別し、特図保留を獲得していると判別した場合、即ち、時短状態が設定された後、ただちに次の特別図柄変動が開始され、時短状態が終了し得る場合のみ、時短当選したことを遊技者に報知するように構成すると良い。このように構成することで、時短当選したことを把握した遊技者が、第１特別図柄抽選を実行させること無く、右打ち遊技を行い、第２特別図柄抽選を実行させる行為を抑制することができる。

【６４０６】

さらに、詳細は後述するが、第１８制御例では「時短状態」が終了する条件として、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて付与される時短状態に対しては、第１特別図柄および第２特別図柄の変動回数（合計変動回数）が第１所定回数（例えば、１００回）に到達した場合（第１終了条件）、或いは、特別図柄の抽選において小当たりに当選した（小当たり遊技が実行された）回数が第２所定回数（例えば、１回）に到達した場合（第２終了条件）の何れかの終了条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態から通常状態へと移行するように構成している。このように、遊技状態を時短状態から通常状態へと移行させるための終了条件を複数用意し、その複数の終了条件のうち何れかの終了条件が成立した場合に時短状態から通常状態へと移行させることで、時短状態が終了するタイミングを複数設定することが可能となり、遊技者に対して、通常状態よりも遊技者に有利な時短状態がいつまで継続するのかドキドキさせながら遊技を行わせることができる。

【６４０７】

さらに、第１８制御例では特別図柄の抽選（第２特別図柄抽選）において当選し得る小当たりとして、複数の小当たり種別（例えば、小当たりＡ，Ｂ、Ｃ）が用意されており、各小当たり種別に対してそれぞれ第２終了条件が成立する回数が異ならせて設定されている。このように構成することで、時短状態中に当選した小当たり回数だけで時短状態が終了するか否かを予測することが困難となるため、遊技者に対して常に緊張感を持たせて時短遊技を行わせることができる。

【６４０８】

一方で、本第１８制御例では、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて時短状態（第２時短）が設定された場合には、大当たり当選に基づいて時短状態（第１時短）が設定された場合とは異なる終了条件が設定されるように構成しており、具体的には、時短回数「１」が設定されるように構成している。つまり、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて設定される第１時短は、特別図柄抽選の大当たり判定のみ時短状態で実行させるための特殊抽選機能として時短状態が利用される。

【６４０９】

また、第１８制御例では、小当たり遊技中に開放されるＶ入賞装置６５０内に特定領域を設け、小当たり遊技中に球が特定領域を通過することで（特定領域である特別排出流路６５０ｅ２に設けられたＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知することで）大当たり（所謂、２種当たり）となるように構成されている（図５８０参照）。加えて、詳細は後述するが、当選した小当たりの小当たり種別に応じて小当たり遊技中に球が特定領域を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）が異なるように構成している。そして、各小当たり種別に対して設定される第２終了条件が成立する回数（小当たり回数）を、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行される小当たり種別の方が少なくなるように構成している。

【６４１０】

このように構成することで、時短遊技中において小当たりに当選した場合に２種当たりを獲得するためのＶ入賞期待度と、時短状態が終了するかもしれない不安感とを関連付けることができ、遊技者により意欲的に遊技を行わせることができる。

【６４１１】

なお、第１８制御例では、特別図柄（第１特別図柄、第２特別図柄）の変動回数に対して、上述した通り第１所定回数（例えば、１００回）を終了条件（第１終了条件）として設定しているが、特別図柄の変動回数に対してそれ以外の終了条件を設定しても良く、例えば、第１特別図柄のみの変動回数が第３所定回数（例えば、５０回）となった場合や、

第２特別図柄のみの変動回数が第４所定回数（例えば、８０回）となった場合に時短状態の終了条件が成立するように構成しても良い。また、上述した多数の終了条件の一部のみを用いても良いし、それぞれを適宜組み合わせても良い。

【６４１２】

遊技領域には、球が入賞することにより１０個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入球口６４及び第２入球口６４０への球の入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【６４１３】

第３図柄表示装置８１は１５インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図２４２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される（図１２２参照）。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。第１８制御例の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図２４２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。

【６４１４】

つまり、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて第１図柄が可変表示（変動表示）されている期間（動的表示期間）に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が可変表示（変動表示）され、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて特別図柄の抽選結果を示す表示態様で第１図柄が停止表示されるタイミングに対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が特別図柄の抽選結果に応じた表示態様で停止表示される。

【６４１５】

即ち、判別条件（第１入球口６４或いは第２入球口６４０への球の入賞）が成立することに基づいて判別手段による判別が実行され（特別図柄の抽選が実行され）、所定の動的表示期間が経過するまで識別情報（第３図柄）が動的表示（変動表示）された後に、判別手段の判別結果（特別図柄の抽選結果）を示した表示態様（図柄の組み合わせ）で、識別情報（第３図柄）が停止表示される。これにより、遊技者は第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄を把握することで特別図柄の抽選結果を把握することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【６４１６】

なお、第３図柄表示装置８１に停止表示される第３図柄は、特別図柄の抽選結果に応じた表示態様であれば良く、特別図柄の抽選結果の一部（例えば、大当たり或いは外れ、時短当選といった当否判定結果のみ）に対応した表示態様でも良いし、特別図柄の抽選結果の詳細（例えば、当選した大当たりの種別）に対応した表示態様でも良い。また、特別図柄の抽選結果として、４種類の抽選結果（例えば、大当たり、小当たり、外れ、時短）を有する場合には、第３図柄の表示態様として、特別図柄の抽選結果が上述した３種類の抽選結果のうち特定の２種類（例えば、大当たり或いは小当たり）の何れかであることを示す表示態様を用いても良い。また、重複して当選可能な判定（例えば、大当たり判定、時短判定）にて重複して当選した場合には、重複当選を示すための表示態様を用いても良いし、重複当選したことに基づいて実行される遊技の内容が、大当たり当選のみに基づいて実行される遊技の内容と同一である場合には、同一の表示態様を用いても良い。

【６４１７】

また、第１８制御例で用いられる表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良いし、パチンコ機１０に複数の表示装置を設けても良い。

【６４１８】

本第１８制御例では時短状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合には、通常状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合よりも電動役物６４０ａを作動させる期間（電動役物６４０ａを突出させて球が第２入球口６４０に入球し易くする期間）が長くなるように構成している。これにより、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とすることができる。

【６４１９】

なお、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とするための構成は上述した内容に限られる物では無く、例えば、第２図柄の当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすといった構成を用いても良い。また、電動役物６４０ａの作動パターンを異ならせることにより時短状態を第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【６４２０】

さらに、設定される遊技状態に応じて第２図柄の変動表示にかかる時間を可変させ、且つ、電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を可変させる場合において、第２図柄の変動表示が開始される時点にて設定されている遊技状態に応じて第２図柄の変動表示時間を決定し、第２図柄の変動表示が停止し、当たりを示す第２図柄が表示されたタイミング（第２図柄の当たり遊技、即ち、電動役物６４０ａを作動させるタイミング）において設定されている遊技状態に応じて電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を決定するように構成しても良い。このように構成することで、例えば、時短状態中に変動が開始された第２図柄が通常状態中に当たりを示す表示態様で停止表示された場合に、通常状態中に対応する電動役物６４０ａの作動パターンで作動させることができる。よって、設定されている遊技状態と実行される電動役物の作動パターンとをより正確に対応付けることができる。

【６４２１】

なお、遊技状態と第２図柄の変動時間および電動役物６４０ａの作動パターンの関係は上述した内容以外を規定しても良く、例えば、第２図柄の変動開始タイミングと、電動役物６４０ａの作動開始タイミングとの何れか一方のタイミングにおいて遊技状態として時短状態が設定されていると判別した場合には、電動役物６４０ａの作動パターンとして遊技者に有利な作動パターン（時短状態中に実行される作動パターン）を設定するように構成しても良い。

【６４２２】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入球し得る第１入球口６４が配設されている。この第１入球口６４へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図２４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ａで示される。

【６４２３】

図５７６に示した通り、第１入球口６４は可変表示装置ユニット８０の左側を球が流下するように行われる遊技（所謂、左打ち遊技）の方が、可変表示装置ユニット８０の右側を球が流下するように行われる遊技（所謂、右打ち遊技）よりも球が入球し易くなるように遊技盤１３上に釘が植設されている。よって、第２入球口６４０に球が入球し難い遊技状態（通常状態）が設定されている場合には、第１入球口６４に球を入球させるために左打ち遊技が実行される。

【６４２４】
一方、第１入球口６４の正面視右方には、球が入球し得る第２入球口６４０が配設されている。この第２入球口６４０へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図２４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ｂで示される。
【６４２５】
また、第１入球口６４および第２入球口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、第１８制御例においては、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。
【６４２６】
加えて、第１８制御例では特別図柄の抽選契機（大当たりの抽選契機）となる球を検知するスイッチ（第１入球口スイッチ、第２入球口スイッチ）を入球口内に設けているため、特別図柄の抽選契機を獲得すると共に、賞球を獲得できる構成としているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、球が通過可能な領域（ゲート）を設け、その領域（ゲート）を通過する球を検知するスイッチ（検知手段）が球の通過を検知した場合に、特別図柄の抽選契機を獲得し得るように構成しても良い。なお、この場合、特別図柄の抽選契機となり得る領域（ゲート）を通過した球の少なくとも一部が入球可能となり、球が入球した場合に所定数（例えば５個）の賞球が払い出される入球口を設けると良い。このように構成することで、特別図柄の抽選契機の獲得回数と、賞球獲得回数とを異ならせることができるため、多様な遊技性を提供することができる。
【６４２７】
第２入球口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは遊技盤１３から手前側（図５７６の視点で手前側）に突出した突出状態（許容状態）と、遊技盤１３側に待避した待避状態（規制状態）と、に可変可能に構成されており、通常（第２図柄の当たりに当選していない場合）は電動役物６４０ａが待避状態（規制状態）となって、球が第２入球口６４０へ入球し難い状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、即ち、第２図柄の抽選において当たりに当選した場合は、電動役物６４０ａが突出状態（許容状態）となり、球が第２入球口６４０へ入球し易い状態となる。
【６４２８】
ここで、第１８制御例のパチンコ機１０に設けられた第２入球口６４０への球流れについて説明をする。第１８制御例では図５７６に示した通り、遊技盤１３の遊技領域の略中央位置に可変表示装置ユニット８０を配設し、遊技領域を可変表示装置ユニット８０の左方側（左打ち領域）と右方側（右打ち領域）とに区画しており、遊技者が操作ハンドル５１の操作量を調整することで発射された球の行き先を右打ち領域或いは左打ち領域へと打ち分けることが可能に構成している。以下、遊技者が操作ハンドル５１を操作して遊技領域のうち左打ち領域へと球を発射させる遊技を左打ち遊技、右打ち領域へと球を発射させる遊技を右打ち遊技と称す。
【６４２９】
第１８制御例では、図５７６に示した通り、第２入球口６４０と、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａ、及び、電動役物６４０ａを動作させるか否かの抽選のトリガとなる普通図柄始動口（スルーゲート）６７が右打ち領域に配設されており、遊技状態として時短状態が設定されている場合には右打ち遊技が行われるように構成している。

【６４３０】
左打ち遊技により発射された球が第２入球口６４０に入球することが無いように可変表示装置ユニット８０の下方には釘が植設されており、左打ち遊技中に第２入球口６４０に球が入球することが無いように構成している。このように構成することで、左打ち遊技では第１特別図柄を変動させるために球を第１入球口６４へと入球させる遊技を行わせ、右打ち遊技では第２特別図柄を変動させるために球を第２入球口６４０へと入球させる遊技を行わせることができ、遊技方法に応じて異なる遊技性を適切に提供することができる。
【６４３１】
第１８制御例のパチンコ機１０では、図５７６に示した通り、右打ち領域には、その上面が左下方向（図５７６の正面視で左下方向）に向けて下り傾斜しているＶ入賞装置６５０が配設され、そのＶ入賞装置６５０の上面を流下した球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過し、電動役物６４０ａに向けて流下するように各機構が配設されている。
【６４３２】
そして、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は、待機状態の電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて球が流下する。一方、電動役物６４０ａが突出状態に位置している場合は、電動役物６４０ａに到達した球が右下方向（図５７６の正面視で右下方向）に向けて流下する。そして、電動役物６４０ａの右端まで到達した球は第２入球口６４０へ入球し、電動役物６４０ａの右端に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合は、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球するように構成している。
【６４３３】
さらに、本パチンコ機１０は上述した電動役物６４０ａ、第２入球口６４０、一般入賞口６３を覆うように透過性のカバー部材６５５を設けている。このカバー部材６５５は入射する光を乱反射させるためのカット加工が表面に施されている。このカバー部材６５５を設けることで、遊技中はパチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）や第３図柄表示装置８１から発せられる様々な光によってカバー部材６５５の内部を遊技者に視認させ難くすることができる。よって、電動役物６４０ａの動作タイミングを図って右打ち遊技を行う行為を抑制することができる。
【６４３４】
また、遊技が行われていない状態（遊技機の電源がオフになっている状態）では、カバー部材への入射光が抑えられるため、カバー部材６５５の内部を容易に視認することができ、パチンコ機１０のメンテナンスを容易に行うことができる。なお、このようにカバー部材６５５を用いて内部の視認性を可変させる構成を用いる場合には、上述したように装飾用に発光する発光手段を利用可能に構成することで発光手段を共有することができ、パチンコ機１０を構成する部品点数を削減することができるが、カバー部材６５５の内部を視認困難とするための発光手段を専用に設けても良い。
【６４３５】
また、電動役物６４０ａの動作が行われる期間を含む所定期間の間カバー部材６５５の内部を視認困難にすればよく、例えば、電動役物６４０ａの動作が実行されると判別した場合（即ち、普通図柄の抽選により当たりに当選した場合）に、カバー部材６５５の表面に電動役物６４０ａが動作する旨を報知する文字（例えば、「オープン」）が表示されるように発光手段を制御し、その表示された文字により、カバー部材６５５の内部を視認困難にするように構成しても良い。これにより、電動役物６４０ａが動作することを遊技者に把握させるとともに、その詳細な動作タイミングを把握させ難くすることができる。
【６４３６】
ここで、図５７７を参照して、本パチンコ機１０の右打ち領域の構成について説明をする。図５７７に示した通り、右打ち遊技により発射された球のうち、スルーゲート６７を通過した球は、電動役物６４０ａが配設されている領域に向けて流下する。具体的に説明をすると、電動役物６４０ａは、５０ｍｍの長さを有し、その上面を球が流下可能な板状部材で構成され、右下方向（図５７７の正面視で右下方向）に向けて下り傾斜となるよう

に遊技盤１３に配設されている。そして、スルーゲート６７を通過した球は電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍの範囲に該当する領域ａ（図５７７参照）に流下する。

【６４３７】

領域ａに到達した球は、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて流下する。一方、電動役物６４０ａが突出位置に位置している場合は電動役物６４０ａの上面を右端位置に向けて球が流下する。そして、領域ｂ（電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍから４０ｍｍが該当する領域）に球が到達した状態で電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合には、電動役物６４０ａの下方に設けられた一般入賞口６３に向けて球が流下するように構成されている。最後に、領域ｃ（電動役物６４０ａの右端から２０ｍｍが該当する領域）に球が到達すると、その球は第２入球口６４０へ入球するように構成されている。

【６４３８】

なお、本第１８制御例では、遊技状態（普通図柄の確率状態）において電動役物６４０ａが連続して動作する期間が異なる様に構成されており、遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で電動役物６４０ａが動作する場合には、突出状態に位置する電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｂ（図５７７参照）に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変し、時短状態が設定されている状態では、電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｃ（図５７７参照）に到達するのに十分な期間の間、電動役物６４０ａが突出位置に位置するように構成されている。

【６４３９】

具体的には、電動役物６４０ａの動作期間（継続して突出状態に位置される期間）が、時短状態中は２秒、通常状態中は０．２秒となるように構成している。そして、電動役物６４０ａは図５７７に示した領域（領域ａから領域ｃまでの範囲）を球が流下するための流下期間が０．２秒よりも長く、且つ２秒よりも短くなるように構成されている（第１８制御例では、０．８秒）。このように構成することで、通常状態中に右打ち遊技を行い、普通図柄の当たりに当選し、動作中の電動役物６４０ａの上面を球が流下する状態になった場合であっても、電動役物６４０ａの上面を流下する球が第２入球口６４０に到達するまでに電動役物６４０ａの動作が終了するため、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されることを確実に防止することができる。

【６４４０】

また、時短状態中においては、電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．４秒）よりも長い期間電動役物６４０ａを動作させるため、誘導状態（突出状態）である電動役物６４０ａの上面を流下した球が第２入球口６４０へ到達し易くし、第２特別図柄の抽選を実行され易くすることができる。

【６４４１】

さらに、時短状態中において、例えば、電動役物６４０ａが作動してから１．５秒後に電動役物６４０ａに到達した球は電動役物６４０ａの上面を流下し、領域ｂに到達したタイミングで電動役物６４０ａの作動が終了する（電動役物６４０ａが作動してから２秒経過する）ことになる。このような球は図５７７に示した通り、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球し、１０個の球が賞球として払い出される。このように、時短状態中において右打ち遊技をした場合には、電動役物６４０ａの作動タイミングと、電動役物６４０ａへの球の到達タイミングとによって、異なる入球口（第２入球口６４０或いは一般入賞口６３）へと球を誘導することができるように構成することで、遊技者に対して時短状態中に継続して右打ち遊技を行わせることができる。

【６４４２】

上述したように、一般入賞口６３への入球に応じた賞球数が１０個で、第２入球口６４０への入球に応じた賞球数が５個となるように構成しているため、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得る状態であれば、第２入球口６４０へ球が入球するほうが一般入賞口６３に球が入球するよりも遊技者に有利な特典（即ち、特図２の抽選および５個の賞球）を付与することができ、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得ない状態（特別図柄変

動中）であれば、第２入球口６４０よりも一般入賞口６３に球が入球するほうが遊技者に有利な特典（即ち、１０個の賞球）を付与することができるように構成している。

【６４４３】

これにより、遊技の状況（特別図柄の変動の有無）に応じて、遊技者が入球を所望する入球口（多くの特典を獲得可能な入球口）を可変させることができるため、時短状態中における右打ち遊技を遊技者に楽しませることができる。また、電動役物６４０ａの一回の動作中に第２入球口６４０と、一般入賞口６３との両方に球を入球させるためには、右打ち遊技を継続して実行する必要があるため遊技の稼働を高めることができる。

【６４４４】

尚、第１８制御例では時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと到達する期間（０．８秒）よりも十分に長い期間（２秒）を設定し、電動役物６４０ａが動作した場合に第２入球口６４０へ球を確実に入球させるように構成しているが、それ以外に、例えば、時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．８秒）よりも若干長い期間（例えば、０．９秒）となるように構成しても良い。このように構成することで、時短状態中においてスルーゲート６７に球を通過させた後、球の打ち出しを止め、電動役物６４０ａが動作したことを確認した後に再度球の打ち出しを開始する行為（所謂、止め打ち）を抑制することができるため、時短状態中において右打ち遊技を継続して行わせ遊技の稼働を向上させることができる。

【６４４５】

図５７６に戻り説明を続ける。図５７７を参照して上述した通り、右打ち遊技により発射された球は、まずＶ入賞装置６５０に到達する。次に、Ｖ入賞装置６５０の構成について説明をする。Ｖ入賞装置６５０は、球が入賞可能な開放状態と入賞困難な閉鎖状態とに可変可能に構成されているものであり、第２特別図柄の抽選結果が「小当たり」である場合にＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作し特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに球が入賞可能な開放状態へと可変するように構成されている。

【６４４６】

なお、特別図柄の「大当たり」に当選したうちの一部において、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を、上述した「小当たり」に当選した場合と同様に動作させるように構成してもよい。これにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作した場合に特別図柄の「大当たり」に当選したのか「小当たり」に当選したのかを把握し難くすることができる。

【６４４７】

ここで、図５７７～図５７８を参照してＶ入賞装置６５０の構成について詳細に説明をする。まず、図５７７に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを閉鎖している閉鎖状態である場合は、閉鎖状態である開閉扉６５０ｆ１の上面を球が流下可能に構成されており、Ｖ入賞装置６５０が閉鎖状態中にＶ入賞装置６５０に到達した球は、開閉扉６５０ｆ１上を左下側（図５７７の正面視で左下側）に向けて流下し、スルーゲート６７に向けて流出される。一方、Ｖ入賞装置６５０が開放状態（即ち、小当たり遊技中）である場合は、球がＶ入賞装置６５０内へと入賞する。

【６４４８】

第１８制御例では、小当たり遊技中におけるＶ入賞装置６５０の開放期間が０．１秒×１２回となるように構成されており、Ｖ入賞装置６５０が開放するタイミングにおいて開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、Ｖ入賞装置６５０へと入賞する。Ｖ入賞装置６５０に入賞した球は、第１規制部材６５１或いは第２規制部材６５２上を流下しながら検出口６５０ａ１（図５８０（ａ）参照）に向けて整列して流下するように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が開閉扉６５０ｆ１のどの位置からＶ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、円滑に球を流下させることができる。

【６４４９】

なお、第１８制御例ではＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が継続して開放される期間を０．１秒に設定しているが、開閉扉６５０ｆ１の開放期間中に開閉扉６５０ｆ１上を流下している球がＶ入賞装置６５０へと入賞可能な期間であればその他の期間を設定しても良い。また、第１８制御例では１回の小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を開放する回数を１２回としているが、それ以外の回数を設定しても良い。

【６４５０】

上述した第７制御例と同様に、第１８制御例では小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を１回開放させてから次に開放させるまでの期間（開放間インターバル期間）として、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後には５秒が設定され、それ以外のタイミングでは０．５秒が設定されている。これは、小当たり遊技が行われている期間中にＶ入賞装置６５０へ球を入賞させ易くさせるためのものである。具体的には、小当たり遊技中において５回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合には、５回目の開放動作終了後の開放間インターバル期間中に、遊技者に右打ち遊技を強調して促す遊技案内表示を第３図柄表示装置８１に表示するように構成している。

【６４５１】

そして、第３図柄表示装置８１に表示された遊技案内表示を把握することで右打ち遊技を開始した場合にも、Ｖ入賞装置６５０へ球を入球させることができるように、開放間インターバル期間を通常よりも長く設定している。また、小当たり遊技中の１０回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合にも同様の制御処理が実行される。

【６４５２】

このように構成することで、小当たり遊技中に適切な遊技をしていない遊技者（右打ち遊技をしていない遊技者）に対しても適切な遊技を実行させ易くすることができる。このように、複数回の開放動作が実行される特定遊技（小当たり遊技）中において、一部の開放間インターバル期間を他よりも長く設定し、適正な遊技を行っていないと判別した場合に、適正な遊技内容を促すための遊技案内表示を表示可能とすることで、誤った遊技を行っている遊技者に対して、安心して遊技を行わせることができる。

【６４５３】

第１８制御例では、上述した第７制御例と同様に、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後に他よりも長い特別開放間インターバル期間を設定している。このように１回の小当たり遊技中に遊技者に遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設けることで、遊技者に適切な遊技をより行わせ易くすることができる。なお、遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設ける場合では少なくとも２回目移行の報知タイミングを、正常に遊技を行っている遊技者が到達し得ないタイミングに設定するとよい。即ち、上述した第７制御例と同様に、第１８制御例では小当たり遊技中に継続して右打ち遊技を行うことにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１の１回の開放動作において少なくとも１個の球が入球し得るように構成されているため、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っていれば、１０回目の開放動作中に小当たり遊技の終了条件となる入賞個数（１０個）に到達し、小当たり遊技が終了されることになる。

【６４５４】

つまり、小当たり遊技中の開放動作１０回目以降に実行される開放間インターバル期間は正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている場合には到達し得ないタイミングとなる。よって、このタイミングを利用して遊技案内表示を表示させるタイミングを設定することで、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている遊技者に対して無用に長い特別開放間インターバル期間が実行されることが無くなり、小当たり遊技を円滑に実行することができる。

【６４５５】

なお、第１８制御例のように１回目の特別開放間インターバル期間を、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っても到達するタイミング（５回目の開放動作終了後）に設定す

る場合は、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されるタイミング（５回目の開放動作終了タイミング）、或いは、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されてから所定期間経過したタイミング（５回目の開放動作中に入球した球がＶ入賞装置６５０から排出されるまでに要する期間を経過したタイミング）においてＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知しているかを判別し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していると判別した場合は、１回目の特別開放間インターバル期間中にその旨を報知する報知演出を表示し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合は、上述したように遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に設定した特別開放間インターバル期間を遊技内容に応じて有効に用いることができる。

【６４５６】

さらに、２回目の特別開放間インターバル期間においては、既にＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知している場合にも遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に所定個数（１０個）の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させることなく小当たり遊技が終了してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【６４５７】

次に、図５７８を参照してＶ入賞装置６５０の構造について詳細に説明をする。図５７８は、このＶ入賞装置６５０の分解斜視図である。Ｖ入賞装置６５０は、図５７８に示すように、遊技盤１３の前面側に突出して配置される開口部形成部材６５０ｂ、その開口部形成部材６５０ｂの背面側に組み合わされて、Ｖ入賞装置６５０を遊技盤１３にビス留めするためのベース部材６５０ｃと、そのベース部材６５０ｃの背面側に配置されてベース部材６５０ｃの背面側よりパチンコ機１０の前面側に対してＬＥＤを点灯させるためのＬＥＤが複数配置されたＬＥＤ基板６５０ｄと、そのＬＥＤ基板６５０ｄをベース部材６５０ｃと狭持する裏カバー体６５０ｅと、開口部形成部材６５０ｂに形成されている特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを開閉するための開閉扉６５０ｆ１を有した開閉ユニット６５０ｆと、裏カバー体６５０ｅの背面側に組み合わされて流路を形成する流路カバー体６５０ｇと、裏カバー体６５０ｅと流路カバー体６５０ｇとで形成された流路に突出して遊技球の流路を切り替える切替部材６５０ｈと、その切替部材６５０ｈと係止されるリンク部材６５０ｉと、流路カバー体６５０ｇの背面側に配置される背面カバー体６５０ｊと、その背面カバー体６５０ｊの背面側に固定されて、リンク部材６５０ｉを作動させる流路ソレノイド６５０ｋと、その流路ソレノイド６５０ｋを背面側から覆って背面カバー体６５０ｊにビスにより固定するための固定用カバー体６５０ｍとで構成されている。

【６４５８】

図５７９は、Ｖ入賞装置６５０の断面図である。図５７９（ｃ）はＶ入賞装置６５０の上面図であり、図５７９（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＬｂ－Ｌｂ断面図である。図５７９（ｂ）に示すように、Ｖ入賞装置６５０には、遊技球が入球可能な開口部である特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが形成されている。特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａは、パチンコ機１０の上方を略長方形状の開口が形成されており、その開口を通過した遊技球が図５７９（ｂ）の左方向に誘導されるように左下方に傾斜した底面が形成されている。底面の左端部には、遊技球の入賞を検知するための磁気センサ（球検知スイッチ）６５０ｃ１で構成された検出口６５０ａ１が配置されている。この検出口６５０ａ１を通過した遊技球は、図５７９（ａ）で示す裏カバー体６５０ｅの背面側に形成された振り分け流路へと誘導される。

【６４５９】

なお、図５７９（ｂ）に示すように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａの開口は、遊技盤１３側より出没可能なシャッター機構で構成された開閉扉６５０ｆ１により遊技球が入球可能な開放状態と入球不可能（入球困難）な閉鎖状態とに可変される。閉鎖状態では、開口が完全に開閉扉６５０ｆ１によって覆われ、開閉扉の上部を遊技球が転動可能に構成される。また、開放状態では、開閉扉６５０ｆ１は、ベース部材６５０ｃの内側（遊技盤１３の内部）に退避されることにより特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内から退避されるように構成されている。

【６４６０】
このように構成することで、時短遊技中と、大当たり遊技中と、小当たり遊技中とを継続して右打ち遊技させることができるため、遊技状態に応じて遊技方法を変更させる手間を軽減することができる。従って、より楽に遊技を行うことができる。
【６４６１】
また、開閉扉６５０ｆ１の開放状態においては、遊技球が流下する方向と直交する面をＶ入賞装置６５０の開口として構成できるので、遊技球を効率よく特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内に入賞させることができる。よって、小当たり遊技に要する時間を短くすることができ、遊技の効率化をはかることができる。
【６４６２】
図５７９（ａ）は、図５７９（ｂ）に示すＬａ－Ｌａ断面図である。図５７９（ａ）に示すように検出口６５０ａ１を有する磁気センサ６５０ｃ１は、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路側へと検出口６５０ａ１が傾くようにベース部材６５０ｃに固定されている。
【６４６３】
次に、図５８０を参照して、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路に誘導された遊技球が後述する通常排出流路６５０ｅ１と特別排出流路６５０ｅ２とに振り分けられる構成について説明する。
【６４６４】
図５８０（ａ）は、遊技球が特別排出流路６５０ｅ２に振り分けられるように切替部材６５０ｈが作動された状態を示す裏カバー体６５０ｅの背面図である。図５８０（ａ）に示すように、切替部材６５０ｈは、リンク部材６５０ｉの突部が挿入される係止穴６５０ｈ１と遊技球を誘導する誘導片６５０ｈ２とを有しており、流路カバー体６５０ｇに背面側より回動可能に軸支されている。ここで、流路カバー体６５０ｇには、この誘導片６５０ｈ２を挿通することが可能な開口部が設けられており、流路カバー体６５０ｇの背面側より振り分け流路内に誘導片６５０ｈを回動可能に配置することが可能に構成されている。
【６４６５】
図５８０（ａ）に示すように、検出口６５０ａ１より振り分け流路内に誘導された遊技球は、左斜め下方に配置された誘導片６５０ｈ２の上面に誘導されて特別排出流路６５０ｅ２に誘導される。特別排出流路６５０ｅ２を通過した遊技球は特別排出流路６５０ｅ２に設けられた遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成されたＶスイッチ６５０ｅ３により検出されてアウト球としてパチンコ機１０外へ排出される。
【６４６６】
ここで、上述した第７制御例と同様に、第１８制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技中に上記したＶスイッチ６５０ｅ３を遊技球が通過することにより、小当たり遊技後に大当たり遊技が設定される。即ち、Ｖスイッチ６５０ｅ３は、大当たり遊技を開始させるためのトリガとして構成されている。また、切替部材６５０ｈは、小当たり中にＶ入賞装置６５０に入賞した球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過可能な流路（特別排出流路６５０ｅ２）、或いはＶスイッチ６５０ｅ３を通過不可能（困難）な流路（通常排出流路６５０ｅ１）の何れかを連通させるためのものであって、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定することでＶ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下するように流路を切り替える（図５８０（ｂ）参照）ように構成している。
【６４６７】
第１８制御例で用いられるパチンコ機１０は、通常に遊技を行っている間は流路ソレノイド６５０ｋがオフに設定されており、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように構成している。そして、小当たりに当選した場合に、上述した開放シナリオテーブル２０２ｇに規定されている内容に従って流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定し、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下可能となるように構成している。このように、流路ソレノイド６５０ｋをオフに設定している場合に、パチンコ機１０において長期間維持される状態、即ち、Ｖ入賞装置６５０に入賞した

球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように切替部材６５０ｈを維持する状態（図５８０（ａ）参照）を提供するように構成することで、パチンコ機１０の使用電力を抑えることが出来る。

【６４６８】

このように、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０に入賞した遊技球の流下ルートにより小当たり遊技後に設定される遊技状態が可変されるので、小当たり遊技中にも遊技者の興趣を向上させることができる。なお、Ｖ入賞装置６５０の開口（特定入賞口）から特別排出流路６５０ｅ２の入り口（切替部材６５０ｈの誘導片６５０ｈ２により閉鎖される開口面）を通過するのに必要な時間は、最短でも１秒で構成されている。このように構成することで、小当たりに当選していないにも関わらず開閉扉６５０ｆ１が開放されたことを検知してから切替部材６５０ｈにより球の流下ルートを切り替えたとしても、確実に球が特別排出流路６５０ｅ２を流下する事態を抑制することができる。

【６４６９】

また、通常排出流路６５０ｅ１の端部には球の通過を検出可能な磁気センサで構成された排出確認スイッチ６５０ｅ４が設けられている。これにより、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されたかを排出確認スイッチ６５０ｅ４とＶスイッチ６５０ｅ３との合計により判別できる。なお、小当たり遊技の終了タイミング（小当たり遊技の終了条件（Ｖ入賞装置６５０に所定数（１０個）の入賞があった場合、或いは、Ｖ入賞装置６５０の開放シナリオが終了した場合）が成立した後に実行される小当たりエンディング期間を経過したタイミング）において、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されていない場合には、Ｖ入賞装置６５０内部の異常と判別し、外部に異常を報知したり、大当たり遊技や通常遊技が開始されないように遊技を停止させたりするように構成すると良い。これにより、パチンコ機１０の一部において異常が発生している状態で遊技が進行してしまい２次的な異常が発生してしまうことを抑制することができる。

【６４７０】

このように、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した遊技球が磁気センサ６５０ｃ１により検出され、それに基づいて、遊技者に特典として賞球（第１８制御例では１球入賞に対して１０個の賞球）を払い出すことができる。また、その検出された後の遊技球を利用して、Ｖスイッチ６５０ｅ３に通過するか否かを振り分け可能に構成することで、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されるか否かを振り分けることができる。よって、大当たり遊技を付与するための専用の入賞口（特定領域）をＶ入賞装置６５０とは別に設ける必要がなく、遊技盤１３のスペースを有効に利用することができる。

【６４７１】

さらに、第１８制御例では、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ，Ｃ）に応じて、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定する期間やタイミングが異なる小当たり遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、小当たりに当選した場合に実行される小当たり遊技の内容によって、その小当たり遊技中に球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）を異ならせることができる。よって、遊技者は小当たりに当選することだけではなく、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【６４７２】

次に、図５８１を参照して、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉する開閉扉６５０ｆ１の球流下面の構造について説明をする。図５８１（ａ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉扉６５０ｆ１が閉鎖している状態を平面視した模式図である。第１８制御例の開閉扉６５０ｆ１は、図５８１（ａ）に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の上面に到達した球は、Ｖ入賞装置６５０上面の傾斜（図５７６参照）に沿って、Ｖ入賞装置６５０の右側上面６５０ｙ１から開閉扉６５０ｆ１の上面を介して左側上面６５０ｙ２を流下し、可変入賞装置６５に向けて流出するように構成されている。

【６４７３】

そして、開閉扉６５０ｆ１の上面には、球の流下を遅延させるための遅延部材として第１遅延部材６５０ｆａ、第２遅延部材６５０ｆｂ、第３遅延部材６５０ｆｃが設けられており、球が開閉扉６５０ｆ１上面を流下する流下期間が０．６秒となるように構成している。この流下期間（０．６秒）は、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが小当たり遊技によって複数回開放される際の間隔（閉鎖期間（０．５秒））よりも長くなるように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、小当たり遊技により特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放された場合に確実に入賞するように構成している。

【６４７４】

図５８１（ａ）に示した状態で、小当たり遊技が実行され、開閉扉６５０ｆ１が開放状態に可変すると、図５８１（ｂ）に示した状態へと移行する。図５８１（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａが開放している状態を平面視した模式図である。図５８１（ｂ）に示した通り、開閉扉６５０ｆ１は開放状態になると、遊技盤１３の内部に待避するように可動し、右側上面６５０ｙ１を流下した球が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞可能となるように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放状態となる。また、開閉扉６５０ｆ１上を流下中の球も、開閉扉６５０ｆ１が待避位置に位置することで、特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａへ入賞する。

【６４７５】

また、Ｖ入賞装置６５０には、開閉扉６５０ｆ１上を流下していた球がどの位置から特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、入賞後の球流れを円滑にするための第１規制部材６５１と、第２規制部材６５２が設けられており（図５７６参照）、開閉扉６５０ｆ１上面上流側で特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した球は第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を介して一列に整列させてから、球１個分の通路幅である検出口６５０ａ１に向けて流下するように構成されている。このように第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を設けることで、第１規制部材の下方位置に検出口６５０ａ１を設けたとしても、開閉扉６５０ｆ１から勢いよく入賞した球が直接検出口６５０ａ１に衝突することを防止することができるため、検出口６５０ａ１に設けられた球検知スイッチ６５０ｃ１が故障することを抑制することができる。加えて、球１個分の通路幅の検出口６５０ａ１を球が通過するまでに球を整列させるための流路（第１規制部材６５１、第２規制部材６５２上を流下する流路）を確保することができるため、Ｖ入賞装置６５０内で球詰まりが発生し、遊技に支障を来す事態が発生することを抑制することができる。

【６４７６】

以上、説明をしたように、第１８制御例では判別手段の判別結果（特別図柄の抽選の結果）が所定の判別結果（小当たり）である場合に付与される特典遊技（小当たり遊技）において作動する可変部材（開閉扉６５０ｆ１）の開放間インターバル期間（０．５秒）よりも、その可変部材（開閉扉６５０ｆ１）上を球が流下するのに要する流下期間（０．６秒）が長くなるように構成しているため、小当たり遊技中の開放間インターバル（開閉扉６５０ｆ１が閉鎖状態のタイミング）中に可変部材上を流下する球を確実に次の開放タイミングでＶ入賞装置６５０へ入賞させることができる。

【６４７７】

また、可変部材上を流下中の球のみを小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へ入賞させるだけでも小当たり遊技中に所定個数（１０個）を入賞させることができるように、１回の小当たり遊技における開放動作回数（１２回）を、小当たり遊技の終了条件入賞個数（１０個）よりも多く設定しているため、１回の開放期間（０．１秒）を短く設定したとしても、充分の入賞個数を確保することができる。加えて、１回の開放期間を長く設定しまうことにより、小当たり遊技中に過剰な個数の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させてしまうという事態が発生することを抑制することができる。

【６４７８】

＜第１８制御例のパチンコ機１０における演出内容について＞

図５８２～図５８３を参照して、第１８制御例のパチンコ機１０にて実行される特徴的

な演出内容について説明をする。

【６４７９】

上述した第７制御例では、第２特別図柄の入賞情報（第２入球口６４０に球が入球した場合に取得される入賞情報）を保留記憶しない構成であった。これに対して、第１８制御例では、第２特別図柄の入賞情報（以下、特図２保留）を保留記憶することが可能に構成し、大当たり遊技開始までに保留記憶されている特図２保留の抽選結果を事前に判別（先読み）し、小当たり当選する保留（Ｖ保留）が存在する場合には、Ｖ保留が存在することを報知するための演出を大当たり遊技中に実行することが可能に構成している点で第７制御例と相違する。

【６４８０】

具体的には、時短状態（普通図柄の高確率状態）において特図２保留を所定個数（本第１８制御例では、上限４個）まで第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに保留記憶可能に構成し、特別図柄が大当たり当選または小当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が開始される場合に、保留記憶されている特図２保留の抽選結果を先読みし、その中にＶ保留が存在する場合には、Ｖ保留が存在することを示すＶアイコンを獲得する演出（Ｖアイコン獲得演出）が実行される。そして、獲得したＶアイコンは、Ｖ保留が消化されるまで第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに縮小表示され、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示中にＶアイコンが拡大表示される（以下、Ｖアイコンの発動と言う。）ことによって、変動表示中の特別図柄が小当たりに当選していることを特別図柄が停止表示される前に遊技者に報知する。したがって、Ｖアイコンが縮小表示されている期間は、保留記憶されている特図２保留の何れかで小当たりに当選することが保証されており、大当たりまたは小当たりに当選することなく規定変動回数に到達し時短状態が終了することがないため、遊技者は安心して時短状態の遊技を楽しむことができる。

【６４８１】

ここで、本第１８制御例における時短状態（普通図柄の高確率状態）において実行される演出の概要について説明する。本第１８制御例では、時短状態が設定されると、勇者を模したキャラクタ８０２がダンジョン内を進む演出が実行され、恐竜を模した敵キャラクタ８０４に遭遇するとリーチとなり、バトル演出が開始される。このバトル演出において、キャラクタ８０２が敵キャラクタ８０４に勝利すれば大当たり当選または小当たり当選したことが報知される。

【６４８２】

図５８２（ａ）を参照して、本第１８制御例における大当たり遊技中に実行されるＶアイコン獲得演出の表示画面について説明する。図５８２（ａ）は、大当たり遊技中にＶアイコン獲得演出が実行される場合の表示画面の一例である。本第１８制御例では、Ｖアイコン獲得演出の実行が設定された場合に、大当たり遊技のエンディング期間において、通常のエンディング演出に代えてＶアイコン獲得演出が実行される構成としている。このようにエンディング期間でＶアイコン獲得演出が実行されることにより、大当たり遊技の最終ラウンドが終了してから最初の特別図柄の変動表示が開始されるまでの期間が間延びしていると感じさせ難くすることができる。

【６４８３】

小表示領域Ｄｍ８には特別図柄が大当たり当選したことを示す表示態様が表示されており、特別図柄の大当たりに当選したことを遊技者が認識できるように構成している。また、小表示領域Ｄｍ４には「右打ち」と表示されることで、大当たり遊技における遊技方法を遊技者に分かり易く案内する構成としている。

【６４８４】

小表示領域Ｄｍ１４には、通常状態（普通図柄の低確率状態）において大当たり当選してから現在までの大当たり当選回数が表示されることで、連チャン（大当たり当選が連続すること）すればするほど大当たり当選回数が多く表示されるため、遊技者に優越感を与えることができる。

【６４８５】

小表示領域Ｄｍ１５には、実行中の大当たり遊技のラウンド数が表示される。図５８２（ａ）では、エンディング期間であることを示す「ＥＤ」と表示され、遊技者に対してエンディング期間であることを分かり易く報知している。

【６４８６】

小表示領域Ｄｍ９には、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに保留記憶されている特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）に対応する保留図柄が表示される。図５８２（ａ）では、第１保留図柄ｈｒ１、第２保留図柄ｈｒ２、第３保留図柄ｈｒ３、がそれぞれ白色の保留図柄で表示され、第４保留図柄ｈｒ４が黒色の保留図柄で表示されている。本第１８制御例では、白色の保留図柄よりも黒色の保留図柄の方が大当たり当選または小当たり当選している可能性が高いことを示す構成としている。したがって、図５８２（ａ）では、第１保留図柄ｈｒ１～第３保留図柄ｈｒ３よりも、第４保留図柄ｈｒ４の方が大当たり当選または小当たり当選している可能性が高い状態を示している。

【６４８７】

なお、大当たり遊技終了後、特別図柄の変動表示が開始される場合に、第１保留図柄ｈｒ１から若い順に保留図柄が消化され、第１保留図柄ｈｒ１が消化されると、第２保留図柄ｈｒ２が第１保留図柄ｈｒ１の位置にシフトして表示され、第２保留図柄ｈｒ２がシフトしたことで空いたスペースに第３保留図柄ｈｒ３がシフトして表示される。同様に、第４保留図柄ｈｒ４も第３保留図柄ｈｒ３の空いたスペースにシフトして表示される。第４保留図柄ｈｒ４がシフトしたことで空いたスペースは、新たな特図２保留が記憶されるまでは空白となり、新たな特図２保留が記憶された場合に、対応する保留図柄が表示される。

【６４８８】

Ｖアイコン獲得演出が設定されると、大当たり遊技のエンディング期間において主表示領域Ｄｍでキャラクタ８０２が宝箱８１０を発見する演出が開始され、宝箱８１０の中から「Ｖ」と表示されたＶ剣８０３が出現する演出が実行される。また、副表示領域Ｄｓでは、「Ｖアイコン獲得」と表示されることで、Ｖアイコン獲得演出が実行されたことを遊技者に分かり易く報知する構成としている。このＶ剣８０３は、保留記憶されている特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）の中にＶ保留（小当たり当選する保留）が存在することを遊技者に報知するためのＶアイコンであり、大当たり遊技終了後の特別図柄の変動表示が実行される期間も主表示領域Ｄｍに縮小表示される。

【６４８９】

なお、本第１８制御例では、Ｖアイコン獲得演出が設定された場合のみ、図５８２（ａ）に示す宝箱８１０を発見する演出を実行する構成としたが、これに限るものではなく、通常のエンディング演出においても宝箱８１０を発見する構成としても良い。この場合、宝箱８１０の中からＶと表示されていない剣が出現する構成としても良い。また、剣の表示態様によって、保留内での大当たり当選または小当たり当選の期待度を示す構成としても良い。また、本第１８制御例では、大当たり遊技のエンディング期間においてＶアイコン獲得演出を実行する構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技のオープニング期間で実行しても良いし、大当たり遊技の特定ラウンドで実行する構成としても良い。このように、複数のタイミングでＶアイコン獲得演出が実行される構成とすることで、大当たり遊技期間における遊技が単調になることを抑制することができる。

【６４９０】

なお、大当たり遊技の特定ラウンドで図５８２（ａ）に示すキャラクタ８０２が宝箱８１０を発見する演出を実行する構成としても良く、この場合、宝箱８１０の中からＶ剣８０３が出現するパターンと、ラウンド数が追加されることを示す表示態様（例えば、追加されるラウンド数が表示された玉）が出現するパターンと、を設けても良い。このように構成することで、Ｖアイコン獲得演出が実行される条件が成立していない場合であっても宝箱８１０を発見する演出が実行されることで、遊技者にＶアイコンの獲得を期待させることができるとともに、Ｖアイコンが獲得できなかった場合にはラウンド数が追加されるため、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【６４９１】
次に、図５８２（ｂ）を参照して、大当たり遊技終了後、４回目の特別図柄の変動表示でＶ保留（小当たり当選する保留）が消化される場合のバトル演出の表示画面の一例である。
【６４９２】
小表示領域Ｄｍ６には、Ｖアイコン獲得演出において獲得したＶ剣８０３が縮小表示されており、「Ｖ獲得中」と表示されることで、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留が存在していることを遊技者に報知している。
【６４９３】
主表示領域Ｄｍでは、キャラクタ８０２が敵キャラクタ８０４に遭遇するバトル演出が開始され、副表示領域Ｄｓに「敵を倒せば大当たり？」と表示され、キャラクタ８０２が敵キャラクタ８０４に勝利すれば大当たり当選または小当たり当選であると遊技者が容易に認識することができる構成としている。
【６４９４】
図５８３（ａ）は、バトル演出中にＶアイコンの発動が実行された場合の表示画面の一例である。本第１８制御例では、Ｖアイコンの発動が実行されると、小表示領域Ｄｍ６に縮小表示されていたＶ剣８０３が主表示領域Ｄｍに拡大表示され、キャラクタ８０２がＶ剣８０３を使って敵キャラクタ８０４に勝利する演出が実行される。この場合、副表示領域Ｄｓに、「Ｖアイコン発動」と表示され、Ｖアイコンの発動が実行されたことを遊技者に分かり易く報知している。
【６４９５】
このように、Ｖアイコンの発動が実行される（Ｖ剣８０３が拡大表示される）と、その特別図柄は必ず小当たり当選を示す表示態様で停止表示される。したがって、Ｖアイコンが発動された場合、遊技者は特別図柄が停止表示されるより前にその特別図柄の変動表示が小当たり当選することを認識することができる。
【６４９６】
図５８３（ｂ）は、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、残りの特図２保留の中に他のＶ保留が存在する場合の、バトル演出の表示画面の一例である。この場合、図５８３（ａ）とは異なり、キャラクタ８０２が敵キャラクタ８０４に一度敗北した後、復活して勝利する復活演出が実行される。復活演出が実行される場合は、図５８３（ｂ）に示す通り、Ｖ剣８０３とは異なるノーマル剣８０５を使ってキャラクタ８０２がキャラクタ８０４に勝利する。したがって、Ｖ剣８０３はそのまま小表示領域Ｄｍ６に継続して縮小表示され、この特別図柄が小当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技終了後も、継続して縮小表示される。
【６４９７】
このように、Ｖ保留（小当たり当選する保留）が消化される場合に、残りの特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）の中に他のＶ保留が存在する場合にはＶアイコンの発動が実行されないことで、遊技者に残りの特図２保留で連チャン（小当たり当選が連続すること）することを報知することができる。
【６４９８】
また、図５８２（ａ）のように、Ｖアイコン獲得演出が実行された時点で保留記憶されていた特図２保留の最後尾の特図２保留（図５８２（ａ）の第４保留図柄ｈｒ４）のみがＶ保留である場合には、第４保留図柄ｈｒ４に対応する特図２保留の特別図柄の変動表示が開始されるまでＶアイコンが発動しないことにより、第４保留図柄ｈｒ４に対応する特図２保留で小当たり当選することが遊技者にとって明らかであり、その特別図柄の変動表示においてどのような演出が実行されても小当たり当選することに変わりはないため、実行される演出に対する遊技者の興味が薄れる虞があるが、本第１８制御例のように、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留があれば、Ｖアイコンを発動しないことが可能な構成とし、Ｖアイコンの発動対象をＶアイコン獲得演出が実行された時点では存在していなかった特図２保留に切り替え

ることで、第４保留図柄ｈｒ４の特別図柄の変動表示中にＶアイコンの発動が実行されないことを遊技者に期待させることが可能となり、その変動表示において実行される演出に対する興味を持たせることができる。

【６４９９】

なお、本第１８制御例では、保留記憶されている特図２保留の中に複数のＶ保留が存在する場合であっても、Ｖアイコンを１つだけ表示する構成としたが、これに限るものではなく、Ｖ保留の数に対応する複数のＶアイコンを表示する構成としても良い。

【６５００】

または、複数のＶ保留が存在する場合に、先に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示においてＶアイコンの発動が実行された後に、そのＶアイコンが小表示領域Ｄｍ６に再び縮小表示される構成としても良い。或いは、図５８３（ａ）において、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留が存在する場合には、保留内のＶ保留が消化されるまでの期間、キャラクタ８０２がＶ剣８０３を持った状態を継続させても良い。

【６５０１】

このように、１のＶ保留消化に基づいて発動されたＶアイコンが、次のＶ保留が消化されるまで継続表示されることが可能な構成することで、Ｖアイコンが発動されたＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技中に新たにＶアイコン獲得演出が実行されない場合であっても、発動されたＶアイコンが継続して表示されるのではないかと遊技者に期待させることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【６５０２】

なお、キャラクタ８０２が使用する武器の種類（色や形状が異なる剣）や、敵キャラクタの種類（角の数や大きさが異なる敵キャラクタ）によって、Ｖアイコンが発動される期待度を示唆する構成としても良い。このように構成することで、Ｖアイコンが発動されるか否かを遊技者が予測し易くなるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【６５０３】

なお、本第１８制御例では、剣を模したＶアイコンを表示する構成としたが、これに限るものではなく、保留内にＶ保留が存在することを遊技者が認識できる表示態様であれば良い。

【６５０４】

なお、保留内にＶ保留が１個しか存在しない場合と、複数のＶ保留が存在する場合と、でＶアイコン獲得演出において表示されるＶ剣８０３や宝箱８１０の表示態様を異ならせる構成としても良い。或いは、複数種類のＶアイコン獲得演出の演出態様の中から、保留内に存在するＶ保留の数に基づいて演出態様を決定する構成としても良い。このように構成することで、Ｖアイコン獲得演出が単調になることを抑制することができる。

【６５０５】

＜第１８制御例のパチンコ機１０における電気的構成について＞

次に、図５８４を参照して、本第１８制御例のパチンコ機１０のＭＰＵ２０１が有する各カウンタについて説明する。なお、上述した各制御例にて用いられた各カウンタに対して、カウンタの更新範囲を一部異ならせている点で相違しているが、基本的な構成は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【６５０６】

第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～９９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９９の値を取り得るカウンタの場合は９９９）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【６５０７】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～９９９の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウン

タＣＩＮＩ１もまた、０～９９９の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、タイマ割込処理（図３１４参照）の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理７（図３２５参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【６５０８】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（第１８制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４または第２入球口６４０に入賞したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａや、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、特別図柄保留球実行エリアに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。

【６５０９】

また、この第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａには、第１特別図柄用の特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１と、第２特別図柄用の特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２との２種類が設けられており、大当たりとなる乱数の個数は同一であるが、小当たりとなる乱数の個数を異ならせて設定している（図５８６参照）。このように、小当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とで、遊技者への特典（大当たり又は小当たり）付与に対する期待度を異ならせることができる。この特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１と、特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２とは、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。

【６５１０】

ここで、図５８６を参照して、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａについて説明する。図５８６（ａ）は、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａに規定されている内容を模式的に示した模式図であり、図５８６（ｂ）は、特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１に規定されている内容を模式的に示した模式図であり、図５８６（ｃ）は、特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａは、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選において、大当たりと判定される乱数値（判定値）と小当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。

【６５１１】

具体的には、第１特別図柄の抽選を実行する場合には特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１が参照される。図５８６（ｂ）に示した通り、特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１は、乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値が大当たり以外（即ち、外れ）の判定値として規定されている。そして、第１特別図柄の抽選において第１当たり乱数カウンタＣ１の値が判別され、その値が「０～４」のいずれかである場合に大当たりであると判別される。

【６５１２】

第２特別図柄の抽選を実行する場合には特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２が参照される。図５８６（ｃ）に示した通り、特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２は、乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、「５～１４４」が小当たり判定値として規定されており、「１４５～９９９」がそれ以外（即ち、外れ）の判定値として規定されている。そして、第２特別図柄の抽選において第１当たり乱数カウンタＣ１の値が判別され、その値が「０～４」のいずれかである場合に大当たりと判別され、「５～１４４」のいずれかである場合に小当たりと判別される。

【６５１３】

第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄の大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（

第１８制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入賞したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納される。また、特別図柄の抽選（変動）を実行可能な状態（即ち、特別図柄の変動中及び大当たり遊技、小当たり遊技中以外の状態）では球が第１入球口６４或いは第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の特別図柄保留球実行エリアに格納される。

【６５１４】

ここで、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納された第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、特別図柄の大当たりや小当たりであると判別される乱数でなければ、即ち、特別図柄の外れであると判別される乱数であれば、第１図柄表示装置３７に表示される停止図柄に対応した表示態様は、特別図柄の外れ時のものとなる。

【６５１５】

一方で、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納された第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、特別図柄の大当たりとなる乱数であれば、第１図柄表示装置３７に表示される停止図柄に対応した表示態様は、特別図柄の大当たり時のものとなる。この場合、その大当たり時の具体的な表示態様は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは特別図柄保留球実行エリアに格納されている第１当たり種別カウンタＣ２の値が示す表示態様となる。

【６５１６】

第１８制御例のパチンコ機１０における第１当たり乱数カウンタＣ１は、０～９９９の範囲の２バイトのループカウンタとして構成されている。この第１当たり乱数カウンタＣ１において、第１特別図柄、第２特別図柄の抽選時に、特別図柄の大当たりとなる乱数値は５個あり、その乱数値である「０～４」は、前述したように第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａの特別図柄１乱数１８テーブル２０２ｒａ１、特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２に格納されている。このように第１８制御例のパチンコ機１０では乱数値の総数が１０００ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が５なので、特別図柄の大当たりとなる確率は、「１／２００」となる。

【６５１７】

第１８制御例のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。第１８制御例では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判別するように構成している。ここで、図５８７を参照して大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂの内容について説明をする。

【６５１８】

図５８７（ａ）は、大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図５８７（ａ）に示した通り、第１８制御例では、第１特別図柄（特図１）の抽選時に、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を判定する際に用いられる特図１大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ１と、第２特別図柄（特図２）の抽選時に、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を判定する際に用いられる特図２大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ２と、を有している。これにより、特図１の抽選により大当たりに当選した場合の大当たり種別と、特図２の抽選により大当たりに当選した場合の大当たり種別とを異ならせる、或いは、複数種類の大当たり種別のそれぞれが選択される割合を異ならせることができるため、第１特別図柄（特図１）を用いた遊技と、第２特別図柄（特図２）を用いた遊技とで異なる遊技性を遊技者に提供することができ遊技の興趣を向上することができる。

【６５１９】

次に、図５８７（ｂ）を参照して第１特別図柄（特図１）の抽選時に用いられる特図１大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ１について説明をする。図５８７（ｂ）は特図１大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ１に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図５８７（ｂ）に示した通り、遊技状態として通常状態が設定されている場

合に、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＡ」となり、「１０～４９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＢ」となり、「５０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＣ」となる。遊技状態として時短状態が設定されている場合に、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＤ」となり、「１０～４９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＡ」となり、「５０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＢ」となる。

【６５２０】

「大当たりＡ」は、大当たり遊技としてラウンド数が１６ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数が多い上に、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＡ」は、遊技者にとって最も有利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＡ」が選択される乱数値が１０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＡ」が選択される割合は１０％である。

【６５２１】

「大当たりＢ」は、大当たり遊技としてラウンド数が７ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数は上述した「大当たりＡ」よりも少ないが、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＢ」は、遊技者にとって有利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＢ」が選択される乱数値が４０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＢ」が選択される割合は４０％である。

【６５２２】

「大当たりＣ」は、大当たり遊技としてラウンド数が７ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が通常状態（非時短状態）に設定される大当たり種別である。ラウンド数も少なく、大当たり後に通常状態が設定されるので、「大当たりＣ」は、遊技者にとって不利な大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個のカウンタ値（乱数値）のうち、「大当たりＣ」が選択される乱数値が５０個なので、第１特別図柄（特図１）の抽選で大当たりとなった場合に「大当たりＣ」が選択される割合は５０％である。

【６５２３】

「大当たりＤ」は、大当たり遊技としてラウンド数が１６ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数が多い上に、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＤ」は、遊技者にとって最も有利な大当たり種別である。さらに、「大当たりＤ」は、上述した「大当たりＡ」に対して、終了し難い時短状態が設定されるように構成している。よって、同一内容の大当たり遊技が実行され、且つ、大当たり遊技終了後に同一の遊技状態が設定される「大当たりＡ」よりも、遊技者に有利な大当たり種別となる。

【６５２４】

以上、説明をしたように、第１８制御例のパチンコ機１０では、通常状態が設定されている第１特別図柄（特図１）の抽選において大当たりに当選した場合の１０％の割合で１６ラウンドの大当たり遊技が選択され、９０％の割合で７ラウンドの大当たり遊技が選択される。また、５０％の割合で大当たり遊技終了後の遊技状態が時短状態へと移行する大当たりが選択される。

【６５２５】

一方、時短状態が設定されている状態で実行された第１特別図柄（特図１）の抽選において大当たりに当選した場合の５０％の割合で１６ラウンドの大当たり遊技が選択され、５０％の割合で７ラウンドの大当たり遊技が選択される。また、時短状態中に特図１抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技の終

了後に必ず時短状態が設定される。
【６５２６】
つまり、通常状態で大当たり当選するよりも時短状態で大当たり当選したほうが、大当たり遊技の内容、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の点で遊技者に有利となる。よって、大当たり当選時点の遊技状態としては、通常状態よりも時短状態のほうが遊技者に有利となる。
【６５２７】
次に、図５８７（ｃ）を参照して、第２特別図柄（特図２）の抽選時に用いられる特図２大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ２について説明をする。図５８７（ｃ）は特図２大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ２に規定されている内容を模式的に示した模式図である。図５８７（ｃ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２において、乱数値が「０～９９」のいずれかであった場合の大当たり種別は「大当たりＥ」となる。「大当たりＥ」は、大当たり遊技としてラウンド数が１０ラウンドで、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別である。ラウンド数は上述した「大当たりＡ」よりも少ないが、大当たり後の遊技状態が遊技者にとって有利な時短状態に設定されるので、「大当たりＥ」は、遊技者にとって有利な大当たり種別である。即ち、第２特別図柄（特図２）の抽選において大当たりに当選した場合は、大当たり種別として遊技者にとって有利な「大当たりＥ」が必ず選択されるように構成している。
【６５２８】
第１８制御例では、大当たりの種類は５種類としたが、それに限らず、４種類以下でもよいし、６種類以上設けるように構成してもよい。また、第１特別図柄と第２特別図柄とで、同じ第１当たり種別カウンタＣ２の値であっても、異なる大当たり種別が選択されるように構成してもよい。このように構成することで、例えば、第２特別図柄で大当たりした場合に、よりラウンド数が多く実行される大当たり種別を設定しておくことで、第２特別図柄での当たりをより遊技者に期待させることができる。よって、高確率遊技状態での当たりをより遊技者に有利にすることができ、高確率状態中における遊技の趣向性を向上させることができる。従って、高確率状態へ移行させたいと遊技者に強く思わせることができ、より長く遊技を行わせることができる。
【６５２９】
また、第１特別図柄と第２特別図柄とで選択される大当たり種別の種類と、各大当たり種別の選択率（振分率）を同一にし、各大当たり種別に対応させる第１当たり種別カウンタＣ２の範囲のみを異ならせるように構成しても良い。これにより特定のカウンタ値を狙って第１当たり種別カウンタＣ２の値を取得する不正行為が第１特別図柄と第２特別図柄との両方で実行されることを抑制することができる。
【６５３０】
小当たり種別カウンタＣ５は、特別図柄の小当たりとなった場合に、小当たり種別を決定して、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。小当たり種別カウンタＣ５の値は、例えば、定期的に（第１８制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納され、特別図柄の抽選（変動）を実行可能な状態（即ち、特別図柄の変動中及び大当たり遊技、小当たり遊技中以外の状態）において球が第１入球口６４或いは第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の特別図柄保留球実行エリアに格納される。
【６５３１】
第１８制御例のパチンコ機１０における小当たり種別カウンタＣ５の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。そして、第２特別図柄に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合に、実行される小当たりの種別を決定するための小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆ（図５８８参照）が主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に設定されている。

【６５３２】
ここで、図５８８を参照して小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆの内容について説明をする。図５８８は小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図５８８に示した通り、小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆには第２特別図柄の小当たり種別として小当たりＡ，Ｂ，Ｃの３種類が小当たり種別カウンタＣ５の値により選択されるように規定されている。具体的には、取得している小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４９」である場合の小当たり種別は、「小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）」となり、「５０～７９」のいずれかであった場合の小当たり種別は、「小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）」となり、「８０～９９」のいずれかであった場合の小当たり種別は、「小当たりＣ（Ｖ通過時大当たりＥ）」となる。
【６５３３】
ここで、各小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ，Ｃ）には、それぞれ小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０内のＶスイッチ６５０ｅ３を球が通過した場合に、その小当たり遊技終了後に実行される大当たり遊技の種別が設定されている。小当たりＡの場合には、大当たりＡ（１６Ｒ時短有大当たり）が設定されており、小当たりＡの実行後に、可変入賞装置６５が１６Ｒ開放状態に設定される大当たりが実行され、その後に時短状態（特別図柄の変動が７回或いは、小当たりＡに２回当選、小当たりＢに５回当選、或いは、小当たりＣに３回当選するまでの期間）が設定されるように構成されている。また、小当たりＢの場合には、大当たりＢ（７Ｒ時短有大当たり）が設定されており、小当たりＢの実行後に、可変入賞装置６５が７Ｒ開放状態に設定される大当たりが実行され、その後に時短状態（特別図柄の変動が７回或いは、小当たりＡに２回当選、小当たりＢに５回当選、或いは、小当たりＣに３回当選するまでの期間）が設定されるように構成されている。また、小当たりＣの場合には、大当たりＥ（１０Ｒ時短有大当たり）が設定されており、小当たりＣの実行後に、可変入賞装置６５が１０Ｒ開放状態に設定される大当たりが実行され、その後に時短状態（特別図柄の変動が７回或いは、小当たりＡに２回当選、小当たりＢに５回当選、或いは、小当たりＣに３回当選するまでの期間）が設定されるように構成されている。
【６５３４】
このように、選択される小当たり種別によって、小当たり遊技終了後に実行される大当たり遊技の内容を異ならせることができる。具体的には、小当たりＡは、大当たり遊技において実行されるラウンド数が多い（１６Ｒ）ため、遊技者にとって最も有利な小当たりとして設定されており、小当たりＢは、大当たり遊技において実行されるラウンド数は少なく（７Ｒ）、上述した小当たりＡよりも不利に設定されている。
【６５３５】
なお、本第１８制御例では、各小当たり種別によって、小当たり遊技を経由した大当たり遊技の終了後に設定される時短状態の時短終了条件を同一としたが、これに限るものではなく、小当たり種別によって、設定される時短状態の時短終了条件を異ならせる構成としても良い。
【６５３６】
なお、詳細な説明は後述するが、第１８制御例では、時短状態の終了条件として、第２特別図柄抽選の抽選結果に基づいて成立する時短終了条件（小当たりＡ当選の回数、小当たりＢ当選の回数、或いは小当たりＣ当選の回数等）、或いは、特別図柄（第１特別図柄および第２特別図柄）の変動回数に基づいて成立する時短終了条件を設定可能に構成している。このように構成することで、第１特別図柄の保留球数が１以上ある状態で大当たりに当選し、大当たり終了後に時短状態が設定された場合において、大当たり終了後に第１特別図柄（特図１）の変動が実行されたとしても時短状態が終了することが無い。また、第２特別図柄（特図２）の変動が実行され、大当たり遊技を実行させることが可能な小当たり（小当たりＡ、小当たりＢ、小当たりＣ）に当選した場合には、特別図柄の変動回数に基づいて時短終了条件が成立するよりも前に時短終了条件が成立し時短状態を終了させることができるため、時短状態中に有利な小当たり（小当たりＡ）に当選するまで小当た

り遊技中に遊技球を特定領域へと通過させない遊技を第２終了条件が成立するまで繰り返し実行されることを抑制することができる。

【６５３７】

次に、図５８９（ａ）を参照して変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄの内容について説明をする。図５８９（ａ）は変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図５８９（ａ）に示した通り、変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄには、遊技状態として通常状態を設定している状態で用いられる通常用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ１と、時短状態を設定している状態で用いられる時短用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ２とが規定されている。詳細については後述するが、第１８制御例では遊技状態に応じて変動パターンを選択するために用いるデータテーブルを異ならせているため、遊技状態に応じて選択される変動パターン（変動時間）を異ならせることができる。

【６５３８】

図５８９（ｂ）は、変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄに設けられる通常用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ１に規定された内容を模式的に示した模式図である。図５８９（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ１には、図柄種別、抽選結果、および変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲と、変動パターンとが対応付けて規定されている。

【６５３９】

具体的には、図５８９（ｂ）に示した通り、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、抽選結果が「外れ」であって、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に変動時間が７秒の短外れが対応付けて規定され、「１４０～１４９」の範囲に変動時間が２０秒のガセ外れが対応付けて規定され、「１５０～１７９」の範囲に変動時間が４０秒のノーマルリーチ各種が対応付けて規定され、「１８０～１９８」の範囲に変動時間が８０秒のスーパーリーチが対応付けて規定されている。

【６５４０】

また、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、抽選結果が「大当たり」であって、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に変動時間が４０秒のノーマルリーチ各種が対応付けて規定され、「３０～１８９」の範囲に変動時間が８０秒のスーパーリーチが対応付けて規定され、「１９０～１９８」の範囲に変動時間が１４０秒のスペシャルリーチ各種が対応付けて規定されている。

【６５４１】

次に、図柄種別が第２特別図柄（特図２）、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１８０秒のロング外れが規定され、抽選結果が「大当たり、または小当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１８０秒のロング当たりが規定されている。

【６５４２】

このように、特別図柄の抽選結果に応じて、変動時間が７秒～１８０秒の変動パターンのうち何れかの変動パターンが設定され、この変動パターンを示すコマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信することで、変動時間に対応する変動演出が第３図柄表示装置８１にて実行される。

【６５４３】

図５８９（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ１にて選択される変動パターン（変動時間）は、図柄種別が特図１で抽選結果が外れの場合には７秒（選択割合が約７０％）、４０秒（選択割合が約１５％）、８０秒（選択割合が約１０％）、２０秒（選択割合が約５％）の順で選択され易くなるように規定されている。また、抽選結果が大当たりの場合には８０秒（選択割合が約８０％）、４０秒（選択割合が約１５％）、１４０秒（選択割合が約５％）の順で選択され易くなるように規定されている。

【６５４４】
このように、特別図柄の抽選結果と選択される変動パターン（変動時間）には関連性があり、特別図柄の抽選結果が大当たりの場合に選択される変動時間（変動パターン）の割合と、特別図柄の抽選結果が外れの場合に選択される変動時間（変動パターン）の割合とによって、特定の変動時間（変動パターン）が選択された場合における大当たり期待度を示唆することができるように構成している。このように構成することで、選択される変動時間（変動パターン）によって大当たりに当選しているか否かを遊技者に予測させることができる。
【６５４５】
なお、第１８制御例では当選した大当たり種別に関わらず、同一の変動パターンテーブルを用いる構成としているが、これに限ること無く、大当たり種別が遊技者に有利となる大当たり（例えば、大当たりＡ）を示す大当たり種別である場合と、それ以外の大当たり（大当たりＢ、大当たりＣ）を示す大当たり種別である場合とで、異なる変動パターンテーブルを用いる構成としても良い。この場合、例えば、有利大当たり（大当たりＡ）を示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルよりも、それ以外の大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルのほうが短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成すると良い。これにより、実行される変動パターンに設定される変動時間が長ければ長いほど遊技者に有利となる遊技結果に期待することができるため、遊技者に対して特別図柄の変動時間に興味を持たせることができる。
【６５４６】
また、確変大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルよりも、通常大当たりを示す大当たり種別に当選した場合に用いられる変動パターンテーブルのほうが長い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成しても良く、これにより、短い変動時間で大当たりに当選した場合に、遊技者に意外性のある遊技結果を提供することができ、短い変動時間が選択された場合であっても、最後まで期待を持たせることができる。
【６５４７】
次に、図５９０を参照して変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄに設けられた時短用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ２の内容について説明をする。図５９０は時短用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ２に規定された内容を模式的に示した模式図である。図５９０に示した通り、時短用変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ２には、図柄種別、変動回数、抽選結果、および変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲と、変動パターンとが対応付けて規定されている。
【６５４８】
具体的には、図５９０に示した通り、図柄種別が第１特別図柄（特図１）、変動回数が１～４回、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２秒の短外れが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が２秒の短大当たりが規定されている。図柄種別が第１特別図柄（特図１）、変動回数が５回以上、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１０秒の外れが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１０秒の当たりが規定されている。また、図柄種別が第２特別図柄（特図２）、変動回数が１回以上、抽選結果が「外れ」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の範囲、即ち、全範囲に変動時間が１０秒の外れが規定され、抽選結果が「小当たり」である場合は、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１６０」の範囲に変動時間が１０秒の短小当たりが規定され、「１６１～１９８」の範囲に変動時間が３０秒の長小当たりが規定され、抽選結果が「大当たり」である場合は、変動時間が３０秒の長大当たりが規定されている。

【６５４９】
図５８４に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２３９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２３９）に達した後０に戻るループカウンタとして構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、第１８制御例ではタイマ割込処理（図３１４参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の第２図柄保留球実行エリアに格納される。
【６５５０】
そして、普通図柄の当たりとなる乱数の値は、主制御装置のＲＯＭ２０２に格納される第２当たり乱数１８テーブル２０２ｒｃによって設定されており、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、第２当たり乱数１８テーブル２０２ｒｃによって設定された当たりとなる乱数の値と一致する場合に、普通図柄（第２図柄）の当たりと判定する。なお、第１８制御例では、普通図柄の当たりに当選する確率がパチンコ機１０の遊技状態に関わらず常に一定となるように構成しているが、それ以外の構成を用いても良い。
【６５５１】
例えば、第２当たり乱数１８テーブル２０２ｒｃとして、普通図柄の低確率時（普通図柄の通常状態である期間）用と、その低確率時より普通図柄の当たりとなる確率の高い高確率時（普通図柄の時短状態である期間）用との２種類を設けても良い。この場合、それぞれに含まれる当たりとなる乱数の個数が異なるように設定する。このように、当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、普通図柄の低確率時と普通図柄の高確率時とで、当たりとなる確率を変更することができる。
【６５５２】
球が普通始動口６７を通過すると、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が取得されると共に、現在の遊技状態が時短状態であるかを判別し、遊技状態が時短状態であれば第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が３秒間実行される。一方、遊技状態が時短状態では無ければ第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が３０秒間実行される。
【６５５３】
取得された第２当たり乱数カウンタＣ４の値が「５～２０４」の範囲であれば当選と判定されて、第２図柄表示装置８３における変動表示が終了した後に、停止図柄（第２図柄）として「○」の図柄が点灯表示される。そして、第２図柄が停止表示（確定表示）された時点における遊技状態が時短状態であるかを判別し、第２図柄が停止表示（確定表示）された時点が時短状態であって、且つ、第２図柄の変動開始時点も時短状態である場合には第２入球口６４０が「２秒間×２回」開放されるように電動役物６４０ａを動作制御（ロング開放制御）する。一方、それ以外の場合は、第２入球口６４０が「０．２秒間×１回」だけ開放されるように電動役物６４０ａを動作制御（ショート開放制御）する。尚、第２入球口６４０開放時間や回数は任意に設定すれば良い。
【６５５４】
このように、普通図柄の変動時間、及び、当たり当選時における電動役物６４０ａの動作内容（第２入球口６４０の開放期間、開放回数）は、設定されている遊技状態によって可変されように構成されており、普通図柄の変動開始時における遊技状態が時短状態の場合は、通常状態の場合と比較して、変動表示の時間が「３０秒→３秒」と非常に短くなり、更に、時短状態が設定されている期間中に変動を開始した第２図柄の抽選結果が当たりであって電動役物６４０ａが動作を開始する時点も時短状態が設定されている場合は、それ以外の場合と比較して、第２入球口６４０の開放期間が「０．２秒×１回→２秒間×２回」と非常に長くなるので、第２入球口６４０へ球が入球し易い状態となる。尚、第２当たり乱数カウンタＣ４の値（乱数値）から、普通図柄の当たりか否かを判定する乱数値を格納したテーブル（図示せず）は、ＲＯＭ２０２内に設けられている。

【６５５５】
尚、第１８制御例では、普通図柄（第２図柄）の変動開始時における遊技状態と、普通図柄の当たり当選に基づいて実行される電動役物６４０ａの動作開始タイミングにおける遊技状態とに応じて、第２図柄の変動時間、及び電動役物６４０ａの動作内容を異ならせて設定するように構成しているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、普通図柄（第２図柄）の変動開始タイミングから電動役物６４０ａの動作開始タイミングまでの間、継続して時短状態が設定されていることを判別する判別手段を設け、その判別手段の判別結果を用いて第２図柄の変動時間、及び電動役物６４０ａの動作内容を設定するように構成しても良い。
【６５５６】
上述したように、第１８制御例では電動役物６４０ａの動作として遊技者に有利となる動作（ロング開放）を実行するためには、普通図柄変動開始時、及び電動役物６４０ａの動作開始時の何れタイミングにおいても時短状態が設定されている必要がある。このように構成することで、例えば、通常状態が設定されているタイミングで変動を開始した第２図柄が、時短状態が設定されているタイミングにて当たりを示す識別情報で停止表示した場合、或いは、時短状態が設定されているタイミングで変動を開始した第２図柄が、通常状態が設定されているタイミングにて当たりを示す識別情報で停止表示した場合といった、一つの第２図柄の抽選に基づいて実行される第２図柄の変動及び電動役物６４０ａの動作が複数の遊技状態を跨ぐ場合において、遊技者に有利となる電動役物６４０ａの動作制御（ロング開放）が実行されてしまうことを抑制することができる。よって、遊技者に対して過剰に有利な状態を提供することを防止することができる。
【６５５７】
第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２は、第２当たり乱数カウンタＣ４と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成され（値＝０～２３９）、タイマ割込処理（図３１４参照）毎に１回更新されると共に、メイン処理７（図３２５参照）の残余時間内で繰り返し更新される。
【６５５８】
このように、ＲＡＭ２０３には種々のカウンタ等が設けられており、主制御装置１１０では、このカウンタ等の値に応じて大当たり抽選や第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行することができる。
【６５５９】
次に、図５８５（ａ）を参照して、第１８制御例のパチンコ機１０に設けられる主制御装置１１０ＲＯＭ２０２の内容について、説明する。図５８５（ａ）に示した通り、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２には、固定値データの一部として、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａ、大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ、第２当たり乱数１８テーブル２０２ｒｃ、および変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ、時短付与１８テーブル２０２ｒｅ、小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆ、開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇ、時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈ、時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉが少なくとも記憶されている。
【６５６０】
尚、ＲＯＭ２０２に記憶されている固定値データのうち、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａ、大当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｂ、第２当たり乱数１８テーブル２０２ｒｃ、変動パターン選択１８テーブル２０２ｒｄ、小当たり種別選択１８テーブル２０２ｒｆについては、既にその詳細な内容について説明をしているため説明を省略する。
【６５６１】
時短付与１８テーブル２０２ｒｅは、時短状態を終了させる複数の時短終了条件を、当選した大当たりの大当たり種別毎に異ならせて設定する際に参照されるデータテーブルであり、大当たり遊技が終了（大当たり遊技のエンディング期間が終了）した場合に（図３２６のＳ１６１２：Ｙｅｓ）参照され、大当たり種別に応じて異なる時短回数（時短終了

条件）が設定される。
【６５６２】
ここで、図５８７（ｄ）を参照して時短付与１８テーブル２０２ｒｅに規定されている内容について説明をする。図５８７（ｄ）は時短付与１８テーブル２０２ｒｅに規定されている内容を模式的に示した模式図である。第１８制御例では大当たり終了後に時短状態が設定される大当たり種別（大当たりＡ，Ｂ，Ｄ，Ｅ）と、大当たり終了後に時短状態が設定されない（通常状態が設定される）大当たり種別（大当たりＣ）とを有しており、図５８７（ｄ）に示した通り、各大当たり種別に対応させて複数の時短終了条件が規定されている。
【６５６３】
第１８制御例では特別図柄の変動回数に応じて成立する第１時短終了条件と、特別図柄の抽選で小当たりＡに当選した回数に応じて成立する第２時短終了条件と、特別図柄の抽選で小当たりＢに当選した回数に応じて成立する第３時短終了条件と、特別図柄の抽選で小当たりＣに当選した回数に応じて成立する第４時短終了条件と、を有している。
【６５６４】
具体的には、大当たり種別が大当たりＡ，Ｂ及びＥの場合には、時短終了条件として、時短中カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「７」、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに「２」、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈに「５」、小当たりＣカウンタ２０３ｒａに「３」の値をセットするように規定され、大当たりＤの場合には、時短終了条件として、時短中カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１００」、小当たりＡカウンタ２０３ｆｇに「４」、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈに「１０」、小当たりＣカウンタ２０３ｒａに「７」の値をセットするように規定されている。
【６５６５】
なお、上述した通り、第１８制御例では、大当たり種別が大当たりＣの場合では、大当たり遊技の終了後に時短状態が設定されないため、時短付与１８テーブル２０２ｒｅの大当たりＣには上述した各種カウンタに対して設定する値が規定されていない。このように、当選した大当たり種別毎に大当たり遊技終了後に設定される時短状態の終了条件を異ならせることで、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される旨を事前に報知したとしても、具体的な時短内容を把握させ難くすることができるため、最後まで（時短状態が終了するまで）遊技意欲を高めた状態で遊技を行うことができる。
【６５６６】
なお、第１８制御例では時短付与１８テーブル２０２ｒｅを用いて設定される時短終了状態以外にも特別図柄の大当たりに当選した場合にも時短状態が終了するように構成しているが、この大当たり当選に基づいて成立する時短終了条件は、設定される大当たり種別に応じて異なるものでは無いため、時短付与１８テーブル２０２ｒｅからは省略しているが、上述した時短終了条件（特図の大当たり当選に基づいて成立する時短終了条件）についても時短付与１８テーブル２０２ｒｅに値を規定するように構成しても良い。
【６５６７】
さらに、本第１８制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合にも時短状態（第２時短）を設定するように構成しているが、第２時短に対して設定される時短終了条件については、後述する時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉを参照して説明をする。なお、本第１８制御例では、時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）に対する時短終了条件を、時短付与１８テーブル２０２ｒｅでは無く、時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉを参照して設定するように構成しているが、これに限ること無く、時短付与１８テーブル２０２ｒｅに第２時短に対応する時短終了条件を規定するように構成しても良い。
【６５６８】
また、第１８制御例では複数の時短終了条件として、上述した第１時短終了条件～第４時短終了条件を有する構成を用いているが、それ以外の条件を時短終了条件として設定しても良く、例えば、第１特別図柄の変動回数が所定回数（例えば５０回）となった場合に

成立する時短終了条件や、第２特別図柄の変動回数が所定回数（例えば８０回）となった場合に成立する時短終了条件や、小当たりに当選しＶ入賞装置が作動した回数（小当たりＡカウンタ２０３ｆｇ、小当たりＢカウンタ２０３ｆｈの値、小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値を合算した回数）が所定回数（例えば、１０回）となった場合に成立する時短終了条件を設定しても良い。

【６５６９】

さらに、特別図柄の変動回数や抽選結果に基づかず、別の要因によって成立する時短終了条件を設定しても良く、例えば、普通図柄の変動回数や普通図柄の当たり当選回数（電動役物６４０ａの作動回数）が所定回数となった場合に成立する時短終了条件や、特定の入球口（例えば、一般入賞口６３）に入球した球数が所定個数（例えば、５０個）となった場合に成立する時短終了条件等を予め設定するように構成しても良い。

【６５７０】

上述したように、遊技者に有利な遊技状態である時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定し、その時短終了条件の何れかが設定した場合に時短状態が終了するように構成することで、時短状態がどれくらいの期間継続するのかを遊技者が事前に把握することが困難となるため単調な遊技が行われることを抑制することができる。

【６５７１】

さらに、第１８制御例では複数の時短終了条件のうち何れかの時短終了条件が成立した場合に時短状態を終了させる制御を用いているが、これ以外にも例えば、複数の時短終了条件が所定数（例えば２つ）成立した場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。この場合、成立した時短終了条件の数を判別する成立数判別手段と、成立数判別手段により判別された成立数が所定数（例えば２つ）に到達したかを判別する条件到達判別手段と、を設け、条件到達判別手段により成立数が所定数（例えば２つ）に到達したと判別された場合に時短状態を終了（通常状態を設定）するように構成すると良い。

【６５７２】

また、最初に成立した時短終了条件の内容を判別する内容判別手段を設け、その内容判別手段の判別結果に基づいて、条件到達判別手段の判別基準となる所定数（例えば２つ）を可変させる判別基準数可変手段を設けても良い。これにより、最初に成立した時短終了条件の種類に応じて、終了し易い時短状態や、終了し難い時短状態を設定することができるため、時短状態が設定された後でも遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【６５７３】

上述した内容に加え、時短状態が設定されてからの所定期間（例えば、特別図柄の変動回数が１０回に到達するまで）を計測する所定期間計測手段と、その所定期間計測手段の計測結果を判別する結果判別手段とを設け、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別した場合には、上述した時短終了条件が成立したとしても所定期間が経過するまでは時短状態の終了を遅延させる時短終了遅延手段を設けても良いし、結果判別手段により現在が所定期間内であると判別した場合に成立した時短終了条件を無効にする終了条件無効手段を設けても良い。また、結果判別手段により、現在が所定期間内であると判別している間は時短終了条件の成立の有無判別や、各時短終了条件に対応して設定された各種カウンタの値を更新（減算）する処理を実行しないようにしても良い。

【６５７４】

このように構成することで、時短状態が設定された直後に時短状態が終了してしまう事態を確実に防止することが出来ると共に、時短状態の終了タイミングを複雑に設定することができる。また、上述したように複数の時短終了条件が成立したことに基づいて時短状態を終了させる処理を用いる場合においては、複数の時短終了条件を、優先時短終了条件（例えば、特別図柄の変動回数が１００回に到達した場合に成立する時短終了条件）と、非優先時短終了条件（例えば、小当たり回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件）とを設定しておき、優先時短終了条件が成立した場合は直ちに時短状態を終了させ、非優先時短終了条件のみ複数成立した場合に時短状態を終了させるように構成すると良い。このように優先時短終了条件を設けることで、遊技者に対して過剰に時短状態を提供し

てしまうことを抑制することができる。
【６５７５】
開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇは、上述した第７制御例の開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇと同一であるため、その詳細な説明は省略する。
【６５７６】
時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈは、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選において、時短当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値（判定値）が遊技状態に対応させて規定されているデータテーブルである。ここで、図５９１（ａ）を参照して、時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈの内容について説明をする。図５９１（ａ）は、時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈに規定されている内容を示した図である。
【６５７７】
具体的には、特別図柄種別に関わらず、遊技状態が通常状態（特別図柄及び普通図柄の低確率状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３，４，１４０～２８７」の範囲に時短当選の判定値として規定されており、それ以外の遊技状態に対しては、時短当選の判定値を設けないように構成されている。
【６５７８】
ここで、本第１８制御例では、１回の特別図柄抽選において大当たり当選の判定と時短当選の判定とを重複して実行可能に構成している。また、小当たり当選の判定と時短当選の判定とを重複して実行可能に構成している。よって、例えば、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３，４」である場合には、第１当たり乱数１８テーブル２０２ｒａ（図５８６（ａ）参照）を用いて実行される大当たり判定において大当たりと判定され、且つ、時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈ（図５９１（ａ）参照）を用いて実行される時短当選判定において時短当選と判定されるため、大当たりと時短とに重複当選することになる。同様に、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「１４０～１４４」である場合には、特別図柄２乱数１８テーブル２０２ｒａ２（図５８６（ｃ）参照）を用いて実行される小当たり判定において小当たりと判定され、且つ、時短当たり乱数１８テーブル２０２ｒｈ（図５９１（ａ）参照）を用いて実行される時短当選判定において時短当選と判定されるため、小当たりと時短とに重複当選することになる。
【６５７９】
上述した通り、本第１８制御例では、時短当選の判定を実行した後に、大当たり（小当たり）判定を実行するように構成しているため、重複当選した場合には、時短状態において大当たり（小当たり）当選したことになる。よって、時短当選すること無く大当たり（小当たり）当選した場合に比べて遊技者に有利な特典を付与することができる。
【６５８０】
なお、本第１８制御例では、１回の特別図柄抽選において取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値を用いて、大当たり（小当たり）の判定と、時短当選の判定を実行するように構成し、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、何れの判定においても当選判定値である場合に重複当選し得るように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄抽選の実行権利を獲得した際に、大当たり（小当たり）判定用の乱数カウンタの値と、時短当選用の乱数カウンタの値と、を別々に取得し、取得した各値を用いて大当たり（小当たり）判定と、時短当選判定を実行するように構成しても良い。
【６５８１】
時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉは、特別図柄抽選で時短当選した場合に設定される時短状態（第２時短）に対する時短終了条件を設定する際に参照されるデータテーブルであって、時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定されている。
【６５８２】
ここで、図５９１（ｂ）を参照して、時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉの内容について説明をする。図５９１（ｂ）は、時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉに規定されている内容を示した図である。図５９１（ｂ）に示した通り、時短種別選択１８テーブル２０２ｒｉには、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に対応させて時短種別が規定さ

れており、規定されている時短種別に対応する時短終了条件が規定されている。
【６５８３】
具体的には、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の全範囲（「０～９９」）に対して時短種別として時短Ａが規定されている。そして、時短Ａに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１」が設定される時短終了条件が規定されている。つまり、時短カウンタ２０３ｈの値を更新する処理が１回実行された時点で時短状態が終了する時短終了条件が設定される。よって、特別図柄抽選で時短当選した場合には、時短当選した時点で時短状態が設定され、その後当該特別図柄抽選における大当たり判定が実行され、当該特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が開始されるまでの間、時短状態が設定されることになる。
【６５８４】
つまり、特別図柄抽選で時短当選した場合には、特別図柄抽選における大当たり判定を時短状態中に実行させる（特殊抽選を実行させる）ためだけの時短状態を設定することができる。よって、特別図柄抽選で時短当選した場合には、遊技者に時短当選したことを気付かれること無く大当たり判定のみ時短状態中に実行することが可能となるため、大当たり当選した場合に遊技者に意外性のある特典（大当たり遊技内容、大当たり遊技終了後の時短状態）を付与することができる。
【６５８５】
なお、図５９１（ｂ）に示した通り、本第１８制御例では、特別図柄抽選で時短当選した場合に時短種別として時短Ａが必ず設定されるように構成しているがこれに限ること無く、例えば、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値に応じて時短Ａとは異なる時短種別を選択可能に構成しても良い。この場合、例えば、取得した時短種別選択カウンタＣＣ１の値が「０～９４」の範囲に対して時短種別として時短Ａを規定し、「９５～９９」の範囲に対して時短種別として時短Ａとは異なる時短Ｚを規定するように構成し、時短Ｚに対応する時短終了条件として時短カウンタ２０３ｈ（第１時短終了条件）に「１００」が設定される時短終了条件を規定すると良い。
【６５８６】
このように構成することで、特別図柄抽選で時短当選した場合の一部において、特殊抽選を実行させるための時短状態では無く、第２特別図柄抽選を継続して実行させるための時短状態を設定することが可能となるため、遊技者に対してより意外性のある遊技を提供することができる。
【６５８７】
次に、図５８５（ｂ）を参照して、本第１８制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図５８５（ｂ）は、第１８制御例におけるパチンコ機１０のＲＡＭ２０３の構成を模式的に示した図である。図５８５（ｂ）に示すように、本第１８制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第７制御例に対して、小当たりＣカウンタ２０３ｒａを追加して点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【６５８８】
小当たりＣカウンタ２０３ｒａは、時短状態中に設定される時短終了条件の一つが成立するまでの小当たり種別として小当たりＣが設定された小当たりの当選回数を計測するためのカウンタであって、大当たり制御処理７（図３２６のＳ１１５０４）において、エンディング演出の終了タイミング（大当たりの終了タイミング）であると判別された場合に（図３２６のＳ１１６１２：Ｙｅｓ）、時短付与１８テーブル２０２ｒｅに規定されている値（１）が設定される（図３２６のＳ１１６１４）。
【６５８９】
そして、特別図柄変動処理７（図３１５のＳ１０１０４）の小当たり開始設定処理（図３２０のＳ１０２２３）にて実行される小当たり用時短更新処理７（図３２１のＳ１０４０５）に代えて実行される小当たり用時短更新処理１８（図５９７のＳ４０４０５）において今回当選した小当たりの小当たり種別が小当たりＢではないと判別した場合に（図５

９７のＳ４０５１０：Ｎｏ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値が０であると判別すると（図５９７のＳ４０５１４：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図５９７のＳ４０５０７）。なお、第１８制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、特別図柄変動回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、カウンタの値が０に設定（リセット）される（図５９６のＳ４０６０６）。このように、複数の時短終了条件のうち、小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値を参照した時短終了条件（第４時短終了条件）以外の時短終了条件が成立した場合であっても、小当たりＣカウンタ２０３ｆｒａの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。

【６５９０】

次に、図５９２（ａ）を参照して、本第１８制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＯＭ２２２について説明する。図５９２（ａ）は、本第１８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図５９２（ａ）に示した通り、本第１８制御例のＲＯＭ２２２は、上述した第７制御例のＲＯＭ２２２（図３１１（ａ）参照）に対して、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａと、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂと、を追加した点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【６５９１】

ここで、図５９３（ａ）を参照して、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａに規定されている内容について説明をする。図５９３（ａ）は、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａに規定されている内容を模式的に示した図である。図５９３（ａ）に示した通り、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａには、通常用演出態様設定テーブル２２２ｒａ１と、時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２と、時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３と、が規定されている。

【６５９２】

通常用演出態様設定２２２ｒａ１（図示しない）は、通常状態（普通図柄の低確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。主制御装置１１０において設定された変動パターン種別と、演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて演出態様を設定するものである。

【６５９３】

図５９３（ｂ）は、時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２の内容を示した図である。時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２は、時短状態（普通図柄の高確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に、参照されるテーブルである。主制御装置１１０において設定された変動パターン種別と、演出カウンタＣＳ１の値と、に基づいて演出態様を設定する。

【６５９４】

図５９３（ｃ）、時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３の内容を示した図である。時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３は、時短状態（普通図柄の高確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に、参照されるテーブルである。主制御装置１１０において設定された変動パターン種別と、演出カウンタＣＳ１の値と、に基づいて演出態様を設定する。

【６５９５】

詳細は後述するが、本第１８制御例では、時短状態において、上述したＶアイコンの発

動（小当たり当選する保留（Ｖ保留）が存在することを報知するＶアイコンが拡大表示されることにより、実行中の特別図柄の変動表示において小当たり当選することを遊技者に報知すること）が実行される場合には時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３を参照し、それ以外の場合には、時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２を参照する構成としている。

【６５９６】

例えば、時短状態において、変動パターン種別として「長小当たり」が設定された場合に、時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ３では「勝利」が選択される確率が１５０／１９９（約７５％）、「復活勝利」が選択される確率が４０／１９９（約２０％）、「プレミア演出」が選択される確率が９／１９９（約５％）である。一方、時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３では、「勝利」が選択される確率が１９０／１９９（約９５％）、「復活勝利」が選択される確率が９／１９９（約５％）であり、プレミア演出は選択されない。

【６５９７】

このように構成することで、演出態様によってＶアイコンが発動されるか否かを遊技者が予測し易くなり、演出態様に興味を持たせることが可能となる。

【６５９８】

なお、本第１８制御例では、Ｖアイコンの発動が実行される場合と、Ｖアイコンの発動が実行されない場合と、で選択される演出態様の割合を異ならせる構成としたが、これに限るものではなく、Ｖアイコンの発動が実行される場合にのみ選択可能な演出態様を設けても良い。

【６５９９】

次に、図５９４を参照して、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂについて説明する。Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂは、大当たり遊技が開始された場合に、保留記憶されている特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）の中に小当たり当選する保留（Ｖ保留）が存在する場合に、大当たり遊技のエンディング期間においてＶアイコン獲得演出を実行するか否か決定するために参照されるテーブルである。

【６６００】

図５９４に示す通り、Ｖ保留の位置と、保留数と、演出カウンタＣＳ１の値と、に基づいて、Ｖアイコン獲得演出を実行するか否かが決定される。Ｖ保留の位置は、Ｖ保留が入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア～第４エリアのどのエリアに格納されているかによって決まり、例えば、第４エリアに格納されている特図２保留がＶ保留である場合には、保留４の欄が参照される。

【６６０１】

なお、本第１８制御例では、Ｖ保留が第４エリアに格納されている場合に最もＶアイコン獲得演出が実行され易く、次いで第３エリア、第２エリア、第１エリアの順に実行され易く構成している。

【６６０２】

このように構成することで、Ｖ保留が消化されるまでに新たに特図２保留を獲得する期間を遊技者に付与できるため、Ｖアイコンが発動された時点で、そのＶアイコンを獲得したＶアイコン獲得演出の実行時点では先読みされていない特図２保留を多く残し易くなるため、Ｖアイコンが発動された後の特図２保留の抽選結果を遊技者が予測し難くさせることができる。

【６６０３】

また、Ｖ保留が第１エリアに格納されている場合には、保留数によってＶアイコン獲得演出の実行され易さが可変し、保留数が１の場合の方が、保留数が４の場合よりもＶアイコン獲得演出が実行され易く構成している。

【６６０４】

このように構成することで、Ｖアイコン獲得演出によって獲得したＶアイコンが、大当たり遊技終了後の特別図柄の変動表示中に発動された場合に、Ｖアイコンが発動された時

点で残っている特図２保留の内、そのＶアイコンを獲得したＶアイコン獲得演出の実行時点では先読みされていない特図２保留を多く残し易くなるため、Ｖアイコンが発動された後の特図２保留の抽選結果を遊技者が予測し難くさせることができる。

【６６０５】

なお、これに限るものではなく、Ｖ保留が第１エリアに格納されている場合に最もＶアイコン獲得演出が実行され易く、次いで第２エリア、第３エリア、第４エリアの順に実行され易く構成しても良い。また、Ｖ保留が第１エリアに格納されている場合に、保留数が１の場合の方が、保留数が４の場合よりもＶアイコン獲得演出が実行され難く構成しても良い。

【６６０６】

次に、図５９２（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図５９２（ｂ）に示すように、本第１８制御例の音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、上述した第７制御例に対して、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａと、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂと、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃと、を追加した点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【６６０７】

Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂは、細部は後述するが、Ｖアイコン獲得演出設定処理（図６０２参照）でオンに設定され、エンディング処理（図６０３参照）においてオフに設定される。

【６６０８】

Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃは、エンディング処理（図６０３参照）においてＶアイコン獲得演出が実行される場合にオンに設定され、オンに設定されている期間は、大当たり遊技が終了してもＶアイコンが縮小表示され、時短用演出態様設定処理（図６０６参照）においてＶアイコンの発動が実行される場合にオフに設定される。

【６６０９】

次に図５９５を参照して、第１８制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れについて説明をする。図５９５は、第１８制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れを模式的に示した模式図である。図５９５に示した通り、第１８制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第７制御例に対して、第２特別図柄の入賞情報を第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに保留記憶することが可能な構成であるため、時短状態（普通図柄の高確率状態）で特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）を獲得した状態で、時短終了条件が成立した場合に、通常遊技状態（普通図柄の低確率状態）において特図２保留での大当たり当選、または小当たり当選が可能となる。したがって、このような場合には、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される点と、小当たりＣが追加された点で第７制御例とは相違しており、その他の遊技の流れは同一であるため、その詳細な説明は省略する。

【６６１０】

＜第１８制御例における主制御装置１１０により実行される制御処理について＞

次に、図５９６から図６０６のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。なお、上述した第７制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１にて実行される制御処理内容と同一の内容については、その詳細な説明を省略する。また、上述した第７制御例における主制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容と同一の内容である制御処理のうち、一部の制御処理に対して、説明の便宜上、異なる符号を付している箇所があるが、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【６６１１】

まず、図５９６を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される更新処理１８（Ｓ４８２５３）について説明する。図５９６は、この更新処理１８（Ｓ４８２５３）を示すフローチャートである。この更新処理１８（Ｓ４８２５３）は、上述した第７制御例の特別図柄変動パターン選択処理７（図３１８のＳ１０２１０）において実行さ

れる更新処理７（Ｓ８２５３）に代えて実行される処理であり、更新処理７（図３１９のＳ８２５３）に対して、小当たりＣに関連する構成を追加した点で相違しており、その他の処理は同一である。

【６６１２】

具体的には、図５９６のＳ４０６０５の処理（第７制御例における図３１９のＳ１０６０５の処理に相当）を実行した後に、小当たりＡカウンタ、小当たりＢカウンタ、小当たりＣカウンタを０に設定する（Ｓ４０６０６）構成を追加している。

【６６１３】

次に、図５９７を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり用時短更新処理１８（Ｓ４０４０５）について説明する。図５９７は、この小当たり用時短更新処理１８（Ｓ４０４０５）を示すフローチャートである。この小当たり用時短更新処理１８（Ｓ４０４０５）は、上述した第７制御例の小当たり開始設定処理（図３２０のＳ１０２２３）において実行される小当たり用時短更新処理７（Ｓ１０４０５）に代えて実行される処理であり、小当たり用時短更新処理７（図３２１のＳ１０４０５）に対して、小当たりＣに関連する処理を追加した点で相違しており、その他の処理は同一である。

【６６１４】

具体的には、Ｓ４０５０５の処理（第７制御例における図３２１のＳ１０５０５の処理に相当）を実行した後、小当たりＡカウンタ、小当たりＢカウンタ、小当たりＣカウンタを０に設定する（Ｓ４０５０６）構成を追加している。

【６６１５】

また、Ｓ４０５１０の処理（第７制御例における図３２１のＳ１０５１０の処理に相当）において、小当たりＢではないと判別された場合（Ｓ４０５１０：Ｎｏ）に、小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値を１減算し（Ｓ４０５１３）、小当たりＣカウンタ２０３ｒａが０であるかを判別する（Ｓ４０５１４）。Ｓ４０５１４の処理において、小当たりＣカウンタ２０３ｒａの値が０であると判別された場合には（Ｓ４０５１４：Ｙｅｓ）、Ｓ４０５０５の処理へ移行し、Ｓ４０５１４の処理において、小当たりカウンタ２０３ｒａの値が０ではないと判別された場合には（Ｓ４０５１４：Ｎｏ）、Ｓ４０５０８の処理へ移行する構成を追加している。

【６６１６】

次に、図５９８を参照して始動入賞処理１８（Ｓ４０１０５）の処理内容について説明をする。図５９８は、始動入賞処理１８（Ｓ４０１０５）の処理内容を示したフローチャートである。この始動入賞処理１８（Ｓ４０１０５）では、上述した始動入賞処理５（図２５８のＳ１９５参照）に対して、遊技球が第２入球口６４０に入球した場合に、小当たり種別カウンタＣ５の値を第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納する点（Ｓ４０７１２）と、先読み処理５（Ｓ６５３）に代えて先読み処理１８（Ｓ４０７１３）を実行する点で相違しているだけであり、それ以外の処理内容は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【６６１７】

次いで、図５９９を参照して先読み処理１８（Ｓ４０７１３）の処理内容について説明をする。図５９９は、先読み処理１８（Ｓ４０７１３）の処理内容を示したフローチャートである。この先読み処理１８（Ｓ４０７１３）が実行されると、まず、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された格納エリアから各種カウンタ値である、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１、小当たり種別カウンタＣ５の各値を読み出す（Ｓ４０８０１）。そして、読み出したデータを先読み保留記憶エリアの空いている記憶エリアのうち、入賞順序がもっとも小さいエリアに記憶する（Ｓ４０８０２）。

【６６１８】

次に、新たに先読み保留記憶エリアに記憶された各カウンタ値に基づいて、当否判定結果を判定する。なお、ここでは、特別図柄の低確率状態である場合の当否判定と、特別図

柄の高確率状態である場合の当否判定との両方が判別される。これは、新たな保留記憶が発生したタイミング（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留（入賞情報）が記憶されたタイミング）と、今回新たに保留された入賞情報に基づいて大当たり判定が実行されるタイミングとにはタイムラグが発生することから、今回新たに保留された入賞情報に基づく大当たり判定が実行されるタイミングで設定されている遊技状態（特別図柄の確率状態）を予測することが困難だからである。

【６６１９】

次に、当否判別結果が大当たりであるか否かを判別する（Ｓ４０８０３）。判別結果が大当たりであると判別した場合は（Ｓ４０８０３：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、大当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ４０８０４）、その後、本処理を終了する。

【６６２０】

一方、Ｓ４０８０３の処理における判別結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ４０８０３：Ｎｏ）、次いで、小当たり当選かを判別し（Ｓ４０８０５）、小当たり当選していないと判別した場合は（Ｓ４０８０５：Ｎｏ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、外れ当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ４０８０７）、その後、本処理を終了する。

【６６２１】

一方、Ｓ４０８０５の処理において小当たり当選と判別した場合は（Ｓ４０８０５：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、小当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ４０８０６）、本処理を終了する。

【６６２２】

ここで、Ｓ４０８０４、Ｓ４０８０６、或いはＳ４０８０７の処理で設定された入賞コマンドは、上述した当否判定結果を示すための情報（当否判定結果に基づいて異なる意味を持たせる情報）に加え、共通情報として、Ｓ４０８０１の処理によって読み出された各種カウンタ値の値を示すための情報も含んで設定される。そして、本処理で設定された入賞コマンドが主制御装置１１０のメイン処理（図３２５参照）にて実行される外部出力処理（Ｓ１１５０１）によって音声ランプ制御装置１１３に対して出力される。

【６６２３】

音声ランプ制御装置１１３側では、入賞コマンドを受信した場合に、入賞コマンドに含まれる各種情報に基づいて、保留球の表示態様を可変させて（例えば、保留球の色を通常とは異なる色で可変して）表示させたり、変動開始前に予告図柄等を表示して遊技者に当否判定結果（大当たり当否、小当たり当選当否）を示唆したりする演出（先読み演出）を実行できる。

【６６２４】

なお、本制御例では、特別図柄の確率状態が１つ（特別図柄の低確率状態）しかないため、入賞コマンドに設定する情報（当否判定結果）を遊技状態に関わらず設定することができるが、例えば、特別図柄の確率状態を複数（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）有する遊技機においては、特別図柄の高確率状態の場合の当否判定結果と、特別図柄の低確率状態の場合の当否判定結果とを判別し、各判別の結果に基づいた入賞コマンドを設定するように構成しても良いし、特別図柄が高確率状態であっても、低確率状態であっても大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）を規定し、その判定値を読み出した場合のみ特別図柄の大当たりを示す入賞コマンドを設定するように構成しても良い。

【６６２５】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側に対して、特定の大当たりや時短当選であることを事前判別した場合のみ大当たりや時短当選を示す入賞コマンドを出力することになるため、先読み演出が実行されない特別図柄変動に対して、大当たり当選の期待感を持たせることができる。

【６６２６】
さらに、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている保留記憶（入賞情報）に基づく特別図柄の抽選が行われる際の遊技状態を正確に判別して、その遊技状態に基づいて当否判定を実行するように構成してもよい。この場合には、変動パターンの選択を保留球数によって可変するのではなく、変動開始時の保留球数に関わらず一定の変動パターンを選択するように構成することで判別が可能となる。先読みを実行する場合に、その保留球が変動開始されるまでの変動順序を保留記憶されている情報に基づいて判別することで変動開始時の遊技状態を判別できる。
【６６２７】
また、本第１８制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留記憶（入賞情報）が格納（記憶）された場合に、その入賞情報に基づく先読み処理を実行し、その先読み処理の中で当否判定を事前に予測する構成を用いているが、これに限ること無く、主制御装置１１０の先読み処理において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たに格納（記憶）された入賞情報（保留記憶）の内容（各カウンタ値）を示す情報を入賞コマンドとして設定し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した入賞コマンドに含まれる情報に基づいて当否判定結果を予測するように構成しても良い。
【６６２８】
このように構成することで、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、音声ランプ制御装置１１３側で、先読み演出を実行するか否かを判別する処理を実行し、先読み演出を実行すると判別した場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる情報を解析（当否判定結果の予測）するように構成すると良い。これにより、先読み演出を実行しない場合には、具体的な先読み処理（当否判定結果の予測）が実行されないため、パチンコ機１０にて無駄な制御が実行されることを抑制することができる。また、無題に実行された先読み処理の結果を遊技者に不正に取得されてしまう不具合を抑制することができる。
【６６２９】
次に、図６００から図６０６を参照して、本第１８制御例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理内容について説明をする。本第１８制御例では、上述した第７制御例に対して、コマンド判定処理１８（図６００参照）と、大当たり関連処理１８（図６０１参照）と、変動表示設定処理１８（図６０４参照）と、を追加した点で相違しており、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【６６３０】
図６００を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理１８（Ｓ４４１１２）について説明する。図６００は、このコマンド判定処理１８（Ｓ４４１１２）を示したフローチャートである。このコマンド判定処理１８（Ｓ４４１１２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）の中で実行され、上述したように、主制御装置１１０から受信したコマンドを判定するための処理である。
【６６３１】
コマンド判定処理では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド記憶領域から、未処理のコマンドのうち主制御装置１１０より受信した最初のコマンドを読み出し、解析して、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信したか否かを判定する（Ｓ４４３０１）。Ｓ４４３０１の処理において、変動パターンコマンドを受信したと判定した場合には（Ｓ４４３０１：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３に設けられた変動開始フラグ２２３ｃをオンし（Ｓ４４３０２）、また、受信した変動パターンコマンドから変動パターン種別を抽出して（Ｓ４４３０３）、本処理を終了する。ここで抽出された変動パターン種別は、ＲＡＭ２２３に記憶され、後述の変動表示設定処理１８（図６０４参照）が実行される場合に

参照される。そして、表示制御装置１１４に対して変動演出の開始とその変動パターン種別を通知する表示用変動パターンコマンドを設定するために用いられる。

【６６３２】

一方、Ｓ４４３０１の処理において、変動パターンコマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４４３０１：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より停止種別コマンドを受信したか否かを判定する（Ｓ４４３０４）。そして、停止種別コマンドを受信した場合には（Ｓ４４３０４：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３の停止種別選択フラグ２２３ｄをオンに設定し（Ｓ４４３０５）、受信した停止種別コマンドから停止種別を抽出して（Ｓ４４３０６）、本処理を終了する。ここで抽出された停止種別は、ＲＡＭ２２３に記憶され、後述の変動表示設定処理１８（図６０４参照）が実行される場合に参照される。そして、表示制御装置１１４に対して変動演出の停止種別を通知する表示用停止種別コマンドを設定するために用いられる。

【６６３３】

一方、Ｓ４４３０４の処理において、停止種別コマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４４３０４：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より保留球数コマンドを受信したか否かを判定する（Ｓ４４３０７）。そして、保留球数コマンドを受信したと判定した場合には（Ｓ４４３０７：Ｙｅｓ）、受信した保留球数コマンドに含まれている値、即ち、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｂの値（第１特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ１）、または第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｒａの値（第２特別図柄に基づく変動表示の保留回数Ｎ２）を抽出し、これを音声ランプ制御装置１１３の第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｄ、または第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｅに格納する（Ｓ４４３０８）。また、Ｓ４４３０８の処理では、更新された特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａの値を表示制御装置１１４へ通知するための表示用保留球数コマンドを設定する。Ｓ４４３０８の処理の終了後は、本処理を終了する。

【６６３４】

ここで、保留球数コマンドは、遊技球が第１入球口６４、若しくは第２入球口６４０に入賞（始動入賞）したとき、または特別図柄の抽選が行われたときに主制御装置１１０から送信されるので、始動入賞が検出される毎に、又は、特別図柄の抽選が行われる毎に、Ｓ４４３０８の処理によって音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、および特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａの値を主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値、および第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値に合わせることができる。よって、ノイズなどの影響により、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、および特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａの値が主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、および第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値とずれても、始動入賞の検出時や特別図柄の抽選時に、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、および特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａの値を修正し、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、および第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値に合わせることができる。尚、Ｓ４４３０８の処理が実行されると、更新された特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、および特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｒａの値を表示制御装置１１４へ通知するための表示用保留球数コマンドが設定される。これにより、表示制御装置１１４では、保留球数に応じた保留球数図柄が第３図柄表示装置８１に表示される。

【６６３５】

一方、Ｓ４４３０７の処理において、保留球数コマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４４３０７：Ｎｏ）、次いで、入賞情報コマンドを受信したか否かを判別する（Ｓ４４３１１）。Ｓ４４３１１の処理において、入賞情報コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４４３１１：Ｙｅｓ）、受信した入賞情報コマンドにより通知された情報（新たな始動入賞を検出した入球口の種別、および抽選結果を示す情報）を、入賞情報格納エリア２２３ａの対応する記憶領域に格納して（Ｓ４４３１２）、本処理を終了する。

【６６３６】
　Ｓ４４３１１の処理において、入賞情報コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４４３１１：Ｎｏ）、次いで、大当たりに関連するコマンド（大当たり開始コマンド、ラウンド数コマンド、エンディングコマンドのいずれか）を受信したか否かを判定する（Ｓ４４３１３）。そして、大当たりに関連するコマンドを受信したと判定した場合には（Ｓ４４３１３：Ｙｅｓ）、大当たりに関連するコマンドの種別に対応する制御を実行するための大当たり関連処理１８を実行して（Ｓ４４３１４）、本処理を終了する。この大当たり関連処理１８（Ｓ４４３１４）の詳細については、図６０１を参照して後述する。
【６６３７】
　一方、Ｓ４４３１３の処理において、大当たりに関連するコマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４４３１３：Ｎｏ）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｓ４４３１５）、本処理を終了する。Ｓ４４３１５の処理では、その他のコマンドが、音声ランプ制御装置１１３で用いるコマンドであればそのコマンドに対応した処理を行い、処理結果をＲＡＭ２２３に記憶し、表示制御装置１１４で用いるコマンドであればそのコマンドを表示制御装置１１４に送信するように、コマンドの設定を行うものである。
【６６３８】
　次に、図６０１を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される大当たり関連処理１８（Ｓ４４３１４）について説明する。図６０１は、この大当たり関連処理１８（Ｓ４４３１４）を示したフローチャートである。
【６６３９】
　大当たり関連処理１８では、まず、大当たり開始コマンドを受信したか否かを判定し（Ｓ４２１０１）、大当たり開始コマンドを受信していれば（Ｓ４２１０１：Ｙｅｓ）、オープニング演出を開始させるための表示用オープニングコマンドを設定する（Ｓ４２１０６）。Ｓ４２１０６の処理で設定された表示用オープニングコマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）のコマンド出力処理（Ｓ４１１２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用オープニングコマンドを受信すると、第３図柄表示装置８１において大当たりの開始を報知するためのオープニング演出を開始する。
【６６４０】
　Ｓ４２１０６の処理の後、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンであるか否かが判別される（Ｓ４２１０７）。Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンであると判別された場合には（Ｓ４２１０７：Ｙｅｓ）、Ｓ４２１０８の処理をスキップし、本処理を終了する。
【６６４１】
　なお、細部は後述するが、本第１８制御例では、Ｖ保留（小当たり当選する保留）に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、残りの特図２保留の中にＶ保留が存在する場合には、獲得したＶアイコンを発動させずに小当たり当選を報知可能に構成している。したがって、大当たり遊技の開始時点でＶアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンである場合というのは、以前に実行された大当たり遊技においてＶアイコンを獲得し、そのＶアイコンが発動されずに小当たり当選した場合であり、Ｖアイコンが発動されなかったことで遊技者は連チャン（小当たり当選が連続すること）することを既に認識しているため、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンの場合には、Ｖアイコン獲得演出（図５８２（ａ）参照）を実行しない構成としている。
【６６４２】
　なお、本第１８制御例では、大当たり遊技の開始時点で既にＶアイコンが表示されている場合には、その大当たり遊技中にＶアイコン獲得演出を実行しない構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技の開始時点で既にＶアイコンが表示されている場合であってもＶアイコン獲得演出（図５８２（ａ）参照）を実行する構成としても良い。例えば、大当たり遊技の開始時点で既にＶアイコンが表示されており、かつ、残りの特図２保

留（第２特別図柄の入賞情報）の中に複数のＶ保留が存在する場合には、新たにＶアイコン獲得演出を実行し、Ｖアイコンが追加される構成としても良い。

【６６４３】

Ｓ４２１０７の処理において、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンではないと判別された場合には（Ｓ４２１０７：Ｎｏ）、Ｖアイコン獲得演出設定処理を実行する（Ｓ４２１０８）。Ｖアイコン獲得演出設定処理の細部は、図６０２を参照して後述する。

【６６４４】

一方、Ｓ４２１０１の処理において、大当たり開始コマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４２１０１：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０よりラウンド数コマンドを受信したか否かを判定する（Ｓ４２１０２）。そして、ラウンド数コマンドを受信したと判定した場合には（Ｓ４２１０２：Ｙｅｓ）、受信したラウンド数コマンドからラウンド数を抽出し、その抽出したラウンド数に応じた表示用ラウンド数コマンドを設定する（Ｓ４２１０４）。ここで設定された表示用ラウンド数コマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１７４参照）のコマンド出力処理（Ｓ４１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用ラウンド数コマンドを受信すると、第３図柄表示装置８１において新たなラウンド演出を開始する。Ｓ４２１０４の処理後は、本処理を終了する。

【６６４５】

一方、Ｓ４２１０２の処理において、ラウンド数コマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４２１０２：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０よりエンディングコマンドを受信したか否かを判定する（Ｓ４２１０３）。そして、エンディングコマンドを受信したと判定した場合には（Ｓ４２１０３：Ｙｅｓ）、エンディング演出の演出態様を設定するためのエンディング処理を実行し（Ｓ４２１０５）、本処理を終了する。エンディング処理（Ｓ４２１０５）の細部については、図６０３を参照して後述する。

【６６４６】

一方、Ｓ４２１０３の処理において、エンディングコマンドを受信していないと判定した場合には（Ｓ４２１０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。この大当たり関連処理１８（図６０１参照）を実行することにより、大当たりに関連する各種のコマンドに応じて適切な制御を実行することができる。

【６６４７】

なお、本第１８制御例では、大当たり遊技開始コマンドを受信した場合にＶアイコン獲得演出設定処理（Ｓ４２１０８）が実行される構成としたが、これに限るものではなく、ラウンド数コマンドを受信した場合に実行する構成としても良いし、エンディングコマンドを受信した場合に実行する構成としても良い。このように構成することで、大当たり遊技の実行中に獲得した特図２保留の抽選結果も先読み可能となる。

【６６４８】

次に、図６０２を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるＶアイコン獲得演出設定処理（Ｓ４２１０８）について説明する。図６０２は、Ｖアイコン獲得演出設定処理（Ｓ４２１０８）を示したフローチャートである。このＶアイコン獲得演出設定処理（Ｓ４２１０８）は、大当たり関連処理１８（図６０１参照）において実行される処理であり、大当たり遊技のエンディング期間においてＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定するための処理である。

【６６４９】

Ｖアイコン獲得演出設定処理が実行されると、まず、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている第２特別図柄の入賞情報が取得される（Ｓ４２２０１）。ここで、入賞情報格納エリア２２３ａは、１つの実行エリアと、４つのエリア（第１エリア～第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、入賞情報がそれぞれ格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。この入賞情報格納エリア２２３ａには、音声ラン

プ制御装置１１３の入賞コマンド処理（図１７７のＳ４２１２参照）が実行される場合に、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに基づいた入賞情報が第１エリアから順に格納されていく。なお、主制御装置１１０から送信される入賞情報コマンドは、主制御装置１１０の先読み処理１８（図５９９のＳ４０７１３）が実行された場合に設定され、主制御装置１１０のメイン処理７（図３２５参照）にて実行される外部出力処理（図３２５のＳ１１５０１）によって音声ランプ制御装置１１３へと送信される。

【６６５０】

この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。この入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア～第４エリアに格納された各入賞情報は、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）が実行される毎に、１つずつシフト（第２エリアに格納されていた入賞情報を第１エリアに移行）される（図１８２のＳ４９０４，Ｓ４９０８参照）。これにより、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が何時実行されるのかを、音声ランプ制御装置１１３側で確実に把握することができる。

【６６５１】

Ｓ４２２０１において入賞情報を取得すると、次に第４エリアに格納されている入賞情報（保留４）が小当たり当選であるか否かを判別する（Ｓ４２２０２）。保留４が小当たり当選ではない場合、或いは、保留４がない場合（即ち、第４エリアに入賞情報が格納されていない場合）には（Ｓ４２２０２：Ｎｏ）、第３エリアに格納されている入賞情報（保留３）が小当たり当選しているか否かを判別する（Ｓ４２２０６）。保留３が小当たり当選ではない場合、或いは、保留３がない場合（即ち、第３エリアに入賞情報が格納されていない場合）には（Ｓ４２２０６：Ｎｏ）、第２エリアに格納されている入賞情報（保留２）が小当たり当選しているか否かを判別する（Ｓ４２２０７）。保留２が小当たり当選ではない場合、或いは、保留２がない場合（即ち、第２エリアに入賞情報が格納されていない場合）には（Ｓ４２２０７：Ｎｏ）、第１エリアに格納されている入賞情報（保留１）が小当たり当選しているか否かを判別する（Ｓ４２２０８）。保留１が小当たり当選ではない場合、或いは、保留１がない場合（即ち、第１エリアに入賞情報が格納されていない場合）には（Ｓ４２２０８：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【６６５２】

一方、Ｓ４２２０２の処理において、保留４が小当たり当選であると判別された場合には（Ｓ４２２０２：Ｙｅｓ）、上述したＶアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）を参照し、エンディング期間にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定する。保留４が小当たり当選であると判別された場合は、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）の保留４の欄を参照して、演出カウンタＣＳ１の値と保留数に基づいて、Ｖアイコン獲得演出の有無を決定する。

【６６５３】

また、Ｓ４２２０６の処理において、保留３が小当たり当選であると判別された場合には（Ｓ４２２０６：Ｙｅｓ）、上述したＶアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）を参照し、エンディング期間にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定する。保留３が小当たり当選であると判別された場合は、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）の保留３の欄を参照して、演出カウンタＣＳ１の値と保留数に基づいて、Ｖアイコン獲得演出の有無を決定する。

【６６５４】

また、Ｓ４２２０７の処理において、保留２が小当たり当選であると判別された場合には（Ｓ４２２０７：Ｙｅｓ）、上述したＶアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）を参照し、エンディング期間にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定する。保留３が小当たり当選であると判別された場合は、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）の保留２の欄を参照して、演出カウンタＣＳ１の値と保留数に基づいて、Ｖアイコン獲得演出の有無を決定する。

【６６５５】
　また、Ｓ４２２０８の処理において、保留１が小当たり当選であると判別された場合には（Ｓ４２２０８：Ｙｅｓ）、上述したＶアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）を参照し、エンディング期間にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定する。保留１が小当たり当選であると判別された場合は、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂ（図５９４参照）の保留１の欄を参照して、演出カウンタＣＳ１の値と保留数に基づいて、Ｖアイコン獲得演出の有無を決定する。
【６６５６】
　このように、本第１８制御例では、大当たり遊技終了後に最も後に消化される特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）から順に抽選結果を事前に判別（先読み）し、Ｖ保留があればその時点でＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定する構成としている。例えば、保留２と保留４にＶ保留が存在する場合には、保留４が小当たりであると判別された時点で、Ｖアイコン獲得演出を設定するか否かが決定される。この場合に、Ｖアイコン獲得演出を実行しないと決定された場合には、保留２がＶ保留であっても、新たにＶアイコン獲得演出を実行するか否かの判別を実行しない構成としている。
【６６５７】
　なお、本第１８制御例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、獲得したＶアイコンを発動させるか否かを決定する構成としているため、例えば、保留４がＶ保留であることに基づいてＶアイコン獲得演出が実行された場合であっても、保留２のＶ保留が消化される場合に、Ｖアイコンを発動させることが可能である。
【６６５８】
　なお、本第１８制御例では、大当たり遊技終了後に最も後に消化される特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）から順に抽選結果を判別する構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技終了後に最も先に消化される特図２保留から順に抽選結果を判別する構成としても良い。また、１つでもＶ保留が存在すれば、その後の特図２保留の抽選結果は判別しない構成としたが、判別する構成としても良い。
【６６５９】
　Ｓ４２２０３の処理が終了すると、Ｓ４２２０４の処理が実行される。Ｓ４２２０４の処理では、Ｓ４２２０３の処理において決定されたエンディング期間に実行される演出態様がＶアイコン獲得演出ありであるか否かが判別され、Ｖアイコン獲得演出ありではない場合には（Ｓ４２２０４：Ｎｏ）、Ｓ４２２０５の処理をスキップし、本処理を終了する。
【６６６０】
　一方、Ｓ４２２０４の処理において、Ｖアイコン獲得演出ありと判別された場合には（Ｓ４２２０４：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂをオンに設定し（Ｓ４２２０５）、本処理を終了する。
【６６６１】
　次に、図６０３を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるエンディング処理（Ｓ４２１０５）について説明する。図６０３は、エンディング処理（Ｓ４２１０５）を示したフローチャートである。このエンディング処理（Ｓ４２１０５）は、大当たり関連処理１８（図６０１参照）において実行される処理であり、大当たり遊技のエンディング期間における演出を実行するための処理である。
【６６６２】
　エンディング処理（Ｓ４２１０５）が実行されると、まず、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂはオンか否かが判別される（Ｓ４２３０１）。Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂがオンではないと判別された場合には（Ｓ４２３０１：Ｎｏ）、通常の表示用エンディング演出実行コマンドを設定（Ｓ４２３０５）し、本処理を終了する。
【６６６３】
　一方、Ｓ４２３０１の処理において、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂがオンであると判別された場合には（Ｓ４２３０１：Ｙｅｓ）、表示用Ｖアイコン獲得演出実行

コマンドを設定し（Ｓ４２３０２）、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂをオフに設定し（Ｓ４２３０３）、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃをオンに設定し（Ｓ４２３０４）、本処理を終了する。

【６６６４】

なお、本第１８制御例では、大当たり遊技のエンディング期間においてＶアイコン獲得演出を実行する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、小当たり遊技において遊技球がＶスイッチ６５０ｅ３（図５８０（ａ）参照）を通過した場合に実行しても良いし、大当たり遊技のエンディング期間以外の期間で実行する構成としても良い。或いは、特別図柄の変動表示中にＶアイコン獲得演出を実行する構成としても良い。また、Ｖアイコン獲得演出の実行タイミングを複数設定し、どのタイミングで実行するかをランダムに設定可能な構成としても良い。このように構成することで、どのタイミングでＶアイコン獲得演出が実行されるかを遊技者が予測できないので、遊技が単調になることを抑制することができる。

【６６６５】

次に、図６０４を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される変動表示設定処理１８（Ｓ４４１１３）について説明する。図６０４は、変動表示設定処理１８（Ｓ４４１１３）を示したフローチャートである。この変動表示設定処理１８（Ｓ４４１１３）は、メイン処理（図１７４参照）において実行される処理であり、第３図柄表示装置８１において変動演出を実行させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し設定する。

【６６６６】

変動表示設定処理１８では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられた変動開始フラグ２２３ｃがオンか否かを判別する（Ｓ４２４０１）。そして、変動開始フラグ２２３ｃがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合は（Ｓ４２４０１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、Ｓ４２４０７の処理へ移行する。一方、Ｓ４２４０１の処理において、変動開始フラグ２２３ｃがオンであると判別された場合は（Ｓ４２４０１：Ｙｅｓ）、変動開始フラグ２２３ｃをオフし（Ｓ４２４０２）、次いで、コマンド判定処理１８（図６００参照）のＳ４４３０３の処理において、変動パターンコマンドから抽出した変動演出における変動パターン種別を、ＲＡＭ２２３より取得する（Ｓ４２４０３）。

【６６６７】

そして、第３図柄表示装置８１において実行される演出の演出態様を設定するための演出態様選択処理１８（Ｓ４２４０４）を実行する。この演出態様選択処理１８（Ｓ４２４０４）の細部については、図６０５を参照して後述する。

【６６６８】

そして、Ｓ４２４０４において設定された演出態様に基づいて、表示制御装置１１４へ通知するための表示用変動パターンコマンドを生成して、そのコマンドを表示制御装置１１４へ送信するために設定する（Ｓ４２４０５）。表示制御装置１１４では、この表示用変動パターンコマンドを受信することによって、この表示用変動パターンコマンドによって示される変動パターンで、第３図柄表示装置８１において第３図柄の変動表示が行われるように、その変動演出の表示制御が開始される。

【６６６９】

次いで、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されたデータをシフトして（Ｓ４２４０６）、処理をＳ４２４０７へと移行する。Ｓ４２４０６の処理では、入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア～第４エリアに格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、第１エリア→実行エリア、第２エリア→第１エリア、第３エリア→第２エリア、第４エリア→第３エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトする。

【６６７０】

Ｓ４２４０６の処理では、ＲＡＭ２３３に設けられた停止種別選択フラグ２２３ｄがオ

ンか否かを判別する（Ｓ４２４０７）。そして、停止種別選択フラグ２２３ｄがオンではない（即ち、オフである）と判別された場合（Ｓ４２４０７：Ｎｏ）、主制御装置１１０より停止種別コマンドを受信していない状態であるので、この変動表示設定処理１８（図６０４参照）を終了し、メイン処理に戻る。

【６６７１】

一方、停止種別選択フラグ２２３ｄがオンであると判別された場合（Ｓ４２４０７：Ｙｅｓ）、停止種別選択フラグ２２３ｄをオフに設定し（Ｓ４２４０８）、次いで、コマンド判定処理１８（図６００参照）のＳ４４３０６の処理において、停止種別コマンドから抽出された変動演出における停止種別を、ＲＡＭ２２３より取得する（Ｓ４２４０９）。次に、Ｓ４２４０９の処理で取得した停止種別に基づいて、表示用停止種別コマンドを設定し（Ｓ４２４１０）、本処理を終了する。表示制御装置１１４では、この表示用停止種別コマンドを受信することによって、この表示用停止種別コマンドによって示される停止種別で、第３図柄表示装置８１において第３図柄の停止表示が行われるように制御される。

【６６７２】

次に、図６０５を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される演出態様選択処理１８（Ｓ４２４０４）について説明する。図６０５は、演出態様選択１８（Ｓ４２４０４）を示したフローチャートである。この演出態様選択処理１８（Ｓ４２４０４）は、変動表示設定処理１８（図６０４参照）において実行される処理であり、第３図柄表示装置８１において実行される演出の演出態様を設定するための処理である。

【６６７３】

演出態様選択処理１８（Ｓ４２４０４）が実行されると、まず、遊技状態が時短状態（普通図柄の高確率状態）であるか否かが判別される（Ｓ４２５０１）。現在の遊技状態は、遊技状態格納エリア２２３ｆに格納されている情報に基づいて判別され、遊技状態が時短状態ではない（即ち、通常状態（普通図柄の低確率状態））と判別された場合には（Ｓ４２５０１：Ｎｏ）、変動表示設定処理１８（図６０４参照）のＳ４２４０３の処理において抽出した変動パターンに基づいて、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａに規定されている通常用演出態様設定テーブル２２２ｒａ１（図示しない）を参照して演出態様を設定し（Ｓ４２５０３）、本処理を終了する。

【６６７４】

一方、Ｓ４２５０１の処理において、時短状態であると判別された場合には（Ｓ４２５０１：Ｙｅｓ）、時短用演出態様設定処理を実行し（Ｓ４２５０２）、本処理を終了する。

【６６７５】

次に、図６０６を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される時短用演出態様設定処理（Ｓ４２５０２）について説明する。図６０６は、時短用演出態様設定処理（Ｓ４２５０２）を示したフローチャートである。この時短用演出態様設定処理（Ｓ４２５０２）は、演出態様選択処理１８（図６０５参照）において実行される処理であり、時短状態が設定されている場合に、第３図柄表示装置８１において実行される演出の演出態様を設定するための処理である。

【６６７６】

時短用演出態様設定処理（Ｓ４２５０２）が実行されると、まず、これから開始される特別図柄の抽選結果は小当たりか否かが判別される（Ｓ４２６０１）。小当たりではないと判別された場合には（Ｓ４２６０１：Ｎｏ）、変動表示設定処理１８（図６０４参照）のＳ４２４０３の処理において抽出された変動パターンと、演出カウンタＣＳ１の値と、に基づき時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２から演出態様を決定し（Ｓ４２６０９），本処理を終了する。

【６６７７】

一方、Ｓ４２６０１の処理において、小当たりであると判別された場合には（Ｓ４２６

０１：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンであるか否かが判別される（Ｓ４２６０２）。Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンではない（即ち、オフである）と判別された場合には、Ｓ４２６０９の処理へ移行する。なお、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオフである状態というのは、Ｖアイコンを獲得していない状態である。

【６６７８】

Ｓ４２６０２の処理において、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンであると判別された場合には（Ｓ４２６０２：Ｙｅｓ）、入賞情報格納エリア２２３ａの入賞情報を取得し（Ｓ４２６０３）、取得した入賞情報の中に小当たり当選する保留（Ｖ保留）があるか否かを判別する（Ｓ４２６０４）。Ｖ保留がない場合には（Ｓ４２６０４：Ｎｏ）、Ｖアイコンの発動演出（図５８３（ａ）参照）の実行を設定し（Ｓ４２６０５）、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃをオフに設定し（Ｓ４２６０６）、変動表示設定処理１８（図６０４参照）のＳ４２４０３の処理において抽出された変動パターンと、演出カウンタＣＳ１の値と、に基づき時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３から演出態様を決定し（Ｓ４２６０７），本処理を終了する。

【６６７９】

一方、Ｓ４２６０４の処理において、Ｖ保留があると判別された場合には（Ｓ４２６０４：Ｙｅｓ）、変動表示設定処理１８（図６０４参照）のＳ４２４０３の処理において抽出された変動パターンが長小当たりの変動パターンであるか否かを判別し（Ｓ４２６０８）、長小当たりの変動パターンではない場合には（Ｓ４２６０８：Ｎｏ）、Ｓ４２６０５の処理へ移行する。Ｓ４２６０８の処理において、長小当たりの変動パターンであると判別された場合には（Ｓ４２６０８：Ｙｅｓ）、Ｓ４２６０９の処理へ移行する。

【６６８０】

このように、本第１８制御例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、残りの特図２保留の中にＶ保留があるか否か、また、Ｖ保留が存在する場合には、これから実行される特別図柄の変動の変動パターンが特定の変動パターンであるかを判別し、Ｖアイコンを発動させるか否かを決定する構成とし、Ｖアイコンが発動される場合と、Ｖアイコンが発動されない場合と、で異なる演出態様設定テーブルを参照する構成としている。

【６６８１】

このように、Ｖアイコンを獲得している状態でＶ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、Ｖアイコンを発動させるか否かを決定可能な構成としているため、そのＶアイコンを獲得したＶアイコン獲得演出の実行時点では存在していなかった特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）をＶアイコンの発動対象とすることが可能となる。

【６６８２】

ここで、例えば、Ｖアイコン獲得演出の実行時点で先読みされている特図２保留の中で最も後に消化される特図２保留（例えば、保留４）のみがＶ保留であった場合に、その特図２保留の消化までＶアイコンは発動されないことから、Ｖアイコンが発動されなくても保留４の特図２保留に基づく特別図柄の変動開始時点で、遊技者はこの変動が小当たり当選であることを認識し、どのような演出が実行されても小当たり当選であることに変わりはないため、その変動中に実行される演出に興味を持たない虞がある。

【６６８３】

しかし、本第１８制御例のように、Ｖアイコンを獲得したＶアイコン獲得演出の実行時点では存在していなかった特図２保留をＶアイコンの発動対象とすることが可能な構成とすることで、上述のようなＶアイコンが発動されるか否かに関わらず小当たり当選であることが判明している場合の特別図柄の変動表示においても、Ｖアイコンが発動されなければ、新たに獲得した残りの特図２保留の中にＶ保留が存在していることが判明する（即ち、連チャン（小当たり当選が連続すること）することが確定する）ため、遊技者にＶアイコンが発動されるか否かに興味を持たせることが可能となり、その変動中に実行される演出に注目させることができる。

【６６８４】

また、本第１８制御例では、Ｖアイコンが発動される場合と、Ｖアイコンが発動されない場合と、で参照される演出態様設定テーブルが異なる構成としている。具体的には、Ｖアイコンが発動される場合に参照される時短用演出態様設定Ｂテーブル２２２ｒａ３では、Ｖアイコンが発動されない場合に参照される時短用演出態様設定Ａテーブル２２２ｒａ２に比べて、長小当たりにおいて復活演出が選択される割合が低く設定され、プレミア当たりが選択されない構成としている。

【６６８５】

このように構成することで、実行された演出態様によってＶアイコンが発動されるか否かを遊技者が予測し易くなり、Ｖアイコンを獲得した状態においても特別図柄の変動表示中に実行される演出に興味を持たせることで、遊技が単調になることを抑制することができる。

【６６８６】

以上、説明をした通り、本第１８制御例では、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）の抽選結果を事前に判別（先読み）した結果、小当たり当選である保留（Ｖ保留）が存在する場合には、Ｖ保留が存在することを報知するための演出を実行可能に構成している点で、他の制御例とは異なる技術思想を有しているが、この第１８制御例特有の技術思想を他の制御例に記載されているパチンコ機１０に適用しても良い。

【６６８７】

なお、本第１８制御例では、保留記憶されている特図２保留の抽選結果を先読みした結果に基づいてＶアイコン獲得演出を設定する構成としたが、これに限るものではなく、保留記憶されている第１特別図柄の入賞情報（特図１保留）を先読みした結果に基づいてＶアイコン獲得演出を設定する構成としても良いし、特図１保留と特図２保留の両方を先読みした結果に基づいてＶアイコン獲得演出を設定する構成としても良い。

【６６８８】

なお、本第１８制御例では、Ｖアイコン獲得演出を大当たり遊技中に実行する構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技が実行されている期間ではない期間に実行可能な構成としても良い。例えば、特別図柄の変動表示中にＶアイコン獲得演出を実行する構成としても良い。このように構成することで、抽選結果が外れであることを示すための特別図柄の変動表示においてＶアイコン獲得演出が実行された場合に、外れであることを示すための特別図柄が停止表示されても、遊技者の遊技意欲を低下させることを抑制することができる。また、小当たり遊技が実行されている期間にＶアイコン獲得演出を実行する構成としても良い。

【６６８９】

なお、本第１８制御例では、Ｖ保留を小当たり当選する保留としたが、これに限るものではなく、大当たり当選する保留をＶ保留としても良い。または、Ｖ保留を時短当選する保留としても良い。

【６６９０】

なお、本第１８制御例では、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留が存在することを示すための報知態様として「Ｖアイコン」を表示する構成としたが、これに限るものではなく、キャラクタを用いて報知する構成としても良いし、背景を可変させることで報知する構成としても良く、遊技者に対してＶ保留が存在することを報知することができる表示態様であれば良い。

【６６９１】

なお、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留がある場合に、Ｖアイコンを表示する構成、即ち、遊技者に有利な情報を報知するための報知態様を表示する構成としたが、これに限るものではなく、遊技者に不利な情報を報知するための報知態様を表示する構成としても良い。例えば、第１特別図柄よりも第２特別図柄が優先して消化される構成で、第１特別図柄における大当たり当選と、第２特別図柄における大当たり当選と、で遊技者に有利な遊技状態（例えば、確変状態（特別図柄の高確率状態））が

設定される割合が異なる遊技機（所謂、Ｖ確変機）において、通常状態（特別図柄の低確率状態）で第１特別図柄の確変大当たり（大当たり遊技終了後に確変状態が設定される大当たり種別）に当選した場合に、保留記憶されている第１特別図柄の中に通常大当たり（大当たり遊技終了後に通常状態が設定される大当たり種別）に当選する保留が存在する場合には、通常大当たりに当選する保留が存在することを報知するための報知態様（例えば、「危険」と表示されたアイコン等）を表示する構成としても良い。このように構成することで、第１特別図柄の保留を消化すると不利になることを遊技者に認識させることが可能となり、第２特別図柄の保留を途切れさせないように遊技を行わせることができる。

【６６９２】

また、保留内で第２時短終了条件～第４時短終了条件の何れかが成立することを事前に報知する報知態様を表示可能な構成としても良い。このように構成することで、時短終了条件が成立した後に特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）が残っていれば、その残り保留での小当たり当選が期待できるため、保留内で時短終了条件が成立することを遊技者が事前に認識できることにより、時短終了条件が成立する特別図柄の変動表示が終了するまでに、遊技者に特図２保留を上限まで貯めようと思わせることができる。

【６６９３】

なお、特別図柄抽選において外れ当選が所定回数連続した場合に遊技者に有利な特典（例えば、時短状態が設定される）が付与される（所謂、天井）遊技機において、天井に到達する所定回数前に有利な特典が付与されることを予告するアイコン（例えば、時短アイコン）を表示する構成としても良い。この場合、天井到達前に時短当選し、天井到達によって付与される時短状態と同等の時短状態が設定された場合には、時短アイコンを発動させることなく時短状態を設定し、時短当選によって付与された時短状態が終了した後に、時短アイコンを発動させる時短状態を設定可能に構成しても良い。なお、時短当選によって、天井のカウントがリセットされる仕様の遊技機では、天井到達の所定回数前であることに基づいて表示された時短アイコンを、時短当選の特別図柄の変動表示において発動させても良い。

【６６９４】

なお、Ｖアイコン獲得演出の導入部分の演出（図５８２（ａ）に示す、キャラクタ８０２が宝箱８１０を発見する演出）と、ラウンド数追加演出の導入部分の演出を同一の演出とし、Ｖアイコン獲得演出と、ラウンド数追加演出と、に分岐可能な演出（例えば、宝箱８１０の中身からＶアイコン、または追加されるラウンド数を示すアイコンの何れかが出現する演出）を実行する構成としても良い。このように構成することで、保留内にＶ保留が存在しない場合であっても、遊技者にＶアイコンの獲得を期待させることができるとともに、Ｖアイコンが獲得できなかった場合であっても、大当たり遊技のラウンド数が追加されるので、遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。なお、宝箱の中からＶアイコンと追加されるラウンド数を示すアイコンの両方が出現する演出パターンを設けても良い。

【６６９５】

なお、上述した導入部分の演出は、これに限るものではなく、例えば、遊技者にボタン操作を促す演出を実行し、遊技者がボタンを操作した場合に、Ｖアイコン、または追加されるラウンド数を示すアイコンの何れかを獲得する構成としても良い。

【６６９６】

＜第１８制御例の第１変形例＞

次に、図６０７から図６１３を参照して、第１８制御例の第１変形例について説明をする。上述した第１８実施形態では、大当たり遊技中に第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている第２特別図柄の入賞情報（特図２保留）の抽選結果を事前に判別（先読み）した結果、小当たり当選する保留（Ｖ保留）が存在する場合に、Ｖアイコン獲得演出を実行する構成であった。

【６６９７】

これに対して、本第１変形例では、大当たり遊技中に第２特別図柄保留球格納エリア２

０３ｂに格納されている特図２保留を先読みした結果、Ｖ保留が存在し、かつ、そのＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が特定ラウンド数（本第１変形例では１６ラウンド）以上である場合に、Ｖアイコン獲得演出を実行する構成としている。

【６６９８】

具体的には、大当たり遊技中に保留記憶されている特図２保留を先読みした結果、小当たりＡ（遊技球がＶスイッチ６５０ｅ３（図５８０参照）を通過（Ｖ通過）すると大当たりＡ（１６Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）に当選するＶ保留が少なくとも１個存在する場合には、Ｖアイコン獲得演出を実行する。また、小当たりＡに当選するＶ保留が存在しない場合であっても、小当たりＢ（Ｖ通過で大当たりＢ（７Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）に当選するＶ保留が存在し、かつ、小当たりＣ（Ｖ通過で大当たりＥ（１０Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）に当選するＶ保留も存在する場合には、Ｖアイコン獲得演出が実行される。つまり、Ｖアイコン獲得演出が実行された場合には、保留記憶されている特図２保留において、少なくとも１６ラウンド分の大当たり遊技の実行が保証される。

【６６９９】

このように構成することで、Ｖアイコンが発動されたＶ保留の抽選結果が遊技者にとって最も有利な小当たりＡ当選ではなかった場合には、連チャン（小当たり当選が連続すること）が保証され、少なくとも１７ラウンド以上の大当たり遊技の実行が確定するため、遊技者を落胆させず、遊技意欲の低下を抑制することが可能となる。

【６７００】

＜第１８制御例の第１変形例の演出内容について＞

図６０７～図６０８を参照して、本第１変形例において実行される特徴的な演出内容について説明する。図６０７（ａ）は、本第１変形例において実行されるＶアイコン獲得演出の表示画面の一例である。上述した第１８制御例におけるＶアイコン獲得演出とは異なり、うさぎを模したキャラクタ８０１が花を模したＶアイコンである花８０６を獲得する演出が実行される。小表示領域Ｄｍ９には、黒色の第１保留図柄ｈｒ１と、白色の第２保留図柄ｈｒ２、第３保留図柄ｈｒ３、第４保留図柄ｈｒ４が表示されている。

【６７０１】

上述したように、本第１変形例では、大当たり遊技中に第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている特図２保留を先読みした結果、Ｖ保留が存在し、かつ、そのＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が特定ラウンド数（本第１変形例では１６ラウンド）以上である場合に、Ｖアイコン獲得演出が実行される。図６０７（ａ）は、第１保留図柄ｈｒ１が小当たりＡに当選するＶ保留であり、その他の保留は外れの場合を示している。なお、図６０７（ａ）では、説明の便宜上、特図２保留の抽選結果や、小当たり種別に対応して保留図柄を異なる表示態様としたが、これに限るものではない。

【６７０２】

ここで、本第１変形例におけるＶアイコンについて説明する。本第１変形例におけるＶアイコンは花を模した表示態様となっており、花８０６を４枚の花びら８０６ａ～８０６ｄが囲む表示態様で構成されている。この４枚の花びら８０６ａ～８０６ｄは、Ｖ保留に基づいて特別図柄の変動表示が実行される場合に、当選した小当たり種別に対応して消化され、全ての花びらが消化された場合に花８０６本体も消える（即ち、連チャンの保証がなくなる。）。

【６７０３】

図６０７（ｂ）を参照して、具体的なＶアイコン発動の流れを説明する。図６０７（ｂ）は、小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ（１６Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）に当選する場合の特別図柄の変動表示中にＶアイコンが発動された場合の表示画面の一例である。図６０７（ｂ）では、小当たりＡに当選するため、花８０６に付随する花びら８０６ａ～８０６ｄの全てが消化される（散る）演出が実行される。即ち、本第１変形例においては、Ｖアイコンである花８０６本体ではなく、付随する花びら８０６ａ～８０６ｄが消

化される（散る）ことでＶアイコンが発動されたことを遊技者に報知する構成としている。

【６７０４】

したがって、図６０８（ａ）に示すように、Ｖ保留によって当選した小当たり種別が小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ（７Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）である場合には、花びら８０６ａのみが消化され、花びら８０６ｂ～８０６ｄは継続して花８０６に付随した状態となる。この場合、小当たりＢ当選のＶ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始された時点において、残りの特図２保留の中に他のＶ保留が存在していることが保証される。

【６７０５】

なお、図６０８（ａ）の小表示領域Ｄｍ９に表示されている第２保留図柄ｈｒ２の表示態様は小当たりＣ（Ｖ通過時大当たりＥ（１０Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）当選のＶ保留を示し、第４保留図柄ｈｒ４には特図２保留が存在していないことを示す表示がされている。したがって、図６０８（ａ）の場合、花８０６が表示されている期間で、７ラウンドの大当たりと１０ラウンドの大当たりが実行され、その合計ラウンド数は１７ラウンドとなる。つまり、遊技者に最も有利な大当たりＡが実行される場合よりも、実行される合計ラウンド数が多くなるため、花８０６が表示されている場合には、遊技者に対して当選する小当たり種別にも興味を持たせることが可能となる。

【６７０６】

図６０８（ｂ）は、Ｖアイコンの発動後にそのＶアイコンの発動をキャンセルする演出が実行される場合の表示画面の一例である。細部は後述するが、図６０８（ａ）と同様に、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示中に、花びら８０６ａが消化された場合に、残りの特図２保留の中にＶ保留が存在し、そのＶ保留の合計ラウンド数が１６ラウンド以上である場合には、花びら８０６ａが花８０６に戻る演出（巻き戻し演出）が実行される。

【６７０７】

これにより、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始された直後にＶアイコンが発動された場合においても、巻き戻し演出が発生することを遊技者に期待させることで、その特別図柄の変動表示が終了するまで演出に注目させることが可能となる。

【６７０８】

なお、本第１変形例では、Ｖアイコンを花の表示態様としたが、これに限るものではなく、保証されるラウンド数を遊技者に報知できる表示態様であれば良く、例えば、インジケータを用いる構成としても良い。

【６７０９】

また、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留が存在し、そのＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技のラウンド数が１６ラウンド以上である場合には、巻き戻し演出を実行する構成としたが、これに限るものではなく、Ｖアイコンの発動が実行されない構成としても良い。また、例えば、新たにＶ保留を獲得した場合には、花びらが新たに追加される構成としても良い。

【６７１０】

なお、本第１８制御例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が実行されている期間にのみ花びら８０６ａ～８０６ｄが消化される構成としたが、これに限るものではない。例えば、Ｖ保留が消化されたことに基づいて実行される大当たり遊技中に花びらが消化される構成とし、大当たり遊技中に花びらが全て消化されなければ連チャンが確定する構成としても良い。このように構成することで、遊技者に花びらが消化されないことを期待させながら大当たり遊技を実行させることが可能となり、大当たり遊技が単調になることを抑制することができる。

【６７１１】

なお、本第１８制御例では、保留内にＶ保留が存在することをＶアイコンによって報知する構成としたが、これに限るものではなく、保留内にＶ保留が存在する期待度が高いことを報知する構成としても良い。例えば、「Ｖ？」と表示された花が表示され、その花が

表示されている期間にリーチ演出が実行されると小当たり当選が確定する構成とし、花に付随する花びらが所定のタイミング（例えば、外れを示す表示態様が表示された場合）で消化される演出が実行され、付随する花びらが全て消化されると花も消化される構成とすることで、花が表示されている期間中にリーチ演出が発生することを遊技者に期待させ、Ｖ保留ではない保留に基づく特別図柄の変動表示に対しても興味を持たせることが可能となる。

【６７１２】

＜第１８制御例の第１変形例の電気的構成について＞

次に、図６０９～図６１０を参照して、本第１変形例における電気的構成について説明をする。本第１変形例では、上述した第１８制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【６７１３】

まず、図６０９を参照して、本第１変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図６０９（ａ）は、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている内容を模式的に示した図である。図６０９（ａ）に示した通り、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２は、上述した第１８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に対して、演出態様選択１８テーブル２２２ｒａに代えて演出態様選択１８ａテーブル２２２ｒｄを設けた点と、Ｖアイコン獲得演出設定テーブル２２２ｒｂを削除した点と、Ｖアイコン表示態様設定テーブル２２２ｒｃを追加した点とで相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【６７１４】

演出態様選択１８ａテーブル２２２ｒｄ（図示しない）は、特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。主制御装置１１０において設定された変動パターン種別と、演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて演出態様を設定する。

【６７１５】

図６１０は、Ｖアイコン表示態様設定テーブル２２２ｒｃに規定されている内容を模した図である。詳細な説明は、図６１３を参照して後述するが、Ｖ保留（小当たり当選する保留）に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、後述するＶアイコン表示終了カウンタの値と、その変動表示において当選する小当たり種別と、に基づいてＶアイコンの表示態様を可変させるために参照されるテーブルである。例えば、Ｖアイコン獲得演出が実行された大当たり遊技の終了後に、小当たりＢ当選のＶ保留が消化された場合には、Ｖアイコン表示終了カウンタ値（本第１変形例では、最大１６）から実行されるラウンド数に対応した値である７が減算され、Ｖアイコン表示終了カウンタ値が９となる。したがって、この場合には、Ｖアイコンの表示態様として、花びらが１枚消化される演出が実行される。

【６７１６】

なお、Ｖアイコン表示終了カウンタ値が０になった場合には、表示されている花８０６（図６０７（ａ）参照）に付随する花びら８０６ａ～８０６ｄが何枚残っていても全ての花びらが消化され、花８０６も非表示となる。

【６７１７】

次に、図６０９（ｂ）を参照して、本第１変形例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３に規定されている内容について説明をする。図６０９（ｂ）は、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に規定されている内容を模式的に示した図である。図６０９（ｂ）に示した通り、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第１８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３に対して、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄを追加した点とで相違し、それ以外は同一である。同一の内容につい

ては、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【６７１８】
Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄは、エンディング処理ａ（図６１２参照）においてＶアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンに設定された場合にカウンタ値が設定され、時短用演出態様設定処理ａ（図６１３参照）において、Ｖ保留に基づいて小当たり当選した場合にカウンタ値が更新されていき、カウンタ値が０になるとＶアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオフに設定される。
【６７１９】
＜第１８制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞
次に、図６１１～図６１３を参照して、本第１変形例における主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。本第１変形例では、上述した第１８制御例に対し、Ｖアイコン獲得演出設定処理に代えてＶアイコン獲得演出設定処理ａ（図６１１参照）と、エンディング処理に代えてエンディング処理ａ（図６１２参照）と、時短用演出態様設定処理に代えて時短用演出態様設定処理ａ（図６１３参照）と、を実行する点で相違し、その他の処理は同一である。同一の部分には同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【６７２０】
まず、図６１１を参照して、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるＶアイコン獲得演出設定処理ａ（Ｓ４２１１０）について説明する。図６１１は、Ｖアイコン獲得演出設定処理ａ（Ｓ４２１１０）の内容を示したフローチャートである。Ｖアイコン獲得演出設定処理ａ（Ｓ４２１１０）は、上述した第１８制御例におけるＶアイコン獲得演出設定処理（図６０２のＳ４２１０８参照）に代えて実行される処理であり、大当たり遊技中に、保留記憶されている第２特別図柄の入賞情報（特図２保留）を事前に判別（先読み）した結果、小当たり当選する保留（Ｖ保留）が存在し、かつ、そのＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が特定のラウンド数以上であれば、大当たり遊技のエンディング期間においてＶアイコン獲得演出を実行するための処理を実行する。
【６７２１】
Ｖアイコン獲得演出設定処理ａ（Ｓ４２１１０）が実行されると、まず、入賞情報格納エリア２２３ａの第２特別図柄の入賞情報が取得される（Ｓ４３６０１）。ここで、入賞情報格納エリア２２３ａは、１つの実行エリアと、４つのエリア（第１エリア～第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、入賞情報がそれぞれ格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。この入賞情報格納エリア２２３ａの第１エリア～第４エリアに格納された各入賞情報は、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）が実行される毎に、１つずつシフト（第２エリアに格納されていた入賞情報を第１エリアに移行）される（図１８２のＳ４９０４，Ｓ４９０８参照）。これにより、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が何時実行されるのかを、音声ランプ制御装置１１３側で確実に把握することができる。
【６７２２】
Ｓ４３６０１の処理において入賞情報を取得した後、その入賞情報の中に小当たり当選する保留（Ｖ保留）があるか否かを判別する（Ｓ４３６０２）。Ｖ保留がないと判別された場合には（Ｓ４３６０２：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、Ｖ保留があると判別された場合には（Ｓ４３６０２：Ｙｅｓ）、Ｖ保留の中に小当たりＡに当選するＶ保留があるか否かが判別される（Ｓ４３６０３）。小当たりＡに当選するＶ保留があると判別された場合には（Ｓ４３６０３：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン獲得演出実行フラグ２２３ｒｂをオンに設定し（Ｓ４３６０７）、本処理を終了する。
【６７２３】
なお、上述したように、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留内のＶ保留

に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が１６ラウンド以上であれば、Ｖアイコン獲得演出が実行される。したがって、小当たりＡに当選する場合には、小当たり遊技中にＶ通過（遊技球がＶスイッチ６５０ｅ３（図５８０参照）を通過すること）することで大当たりＡ（１６Ｒ時短有大当たり、図５８８参照）が実行されるため、小当たりＡに当選するＶ保留があれば、Ｖアイコン獲得演出が実行されることとなる。

【６７２４】

一方、Ｓ４３６０３の処理において、小当たりＡに当選するＶ保留がないと判別された場合には（Ｓ４３６０３：Ｎｏ）、小当たりＣに当選するＶ保留があるか否かが判別される（Ｓ４３６０４）。小当たりＣに当選するＶ保留があると判別された場合には（Ｓ４３６０４：Ｙｅｓ）、Ｖ保留が少なくとも２個あるか否かが判別される（Ｓ４３６０６）。Ｖ保留が２個以上あると判別された場合には（Ｓ４３６０６：Ｙｅｓ）、Ｓ４３６０７の処理へ移行する。

【６７２５】

上述したように、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留内のＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が１６ラウンド以上であれば、Ｖアイコン獲得演出が実行される。小当たりＣに当選する場合には、小当たり遊技中にＶ通過することで大当たりＥ（１０Ｒ時短有大当たり、図５８８参照）が実行され、本第１変形例では、最も大当たり遊技のラウンド数が少ない大当たり種別であっても７ラウンドの大当たり遊技が実行されるため、小当たりＣ当選のＶ保留を含めて２個以上のＶ保留があれば、合計ラウンド数は１６ラウンド以上となる。

【６７２６】

一方、Ｓ４３６０４の処理において、小当たりＣ当選のＶ保留がないと判別された場合には（Ｓ４３６０４：Ｎｏ）、小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ（７Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）当選のＶ保留のみが存在することになるため、Ｖ保留数が少なくとも３個以上存在するか否かが判別される（Ｓ４３６０５）。Ｖ保留数が３個以上であると判別された場合には（Ｓ４３６０５：Ｙｅｓ）、Ｓ４３６０７の処理が実行される。一方、Ｖ保留数が３個以上ではない（即ち、３個未満である）と判別された場合には（Ｓ４３６０５：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【６７２７】

上述したように、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留内のＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が１６ラウンド以上であれば、Ｖアイコン獲得演出が実行される。小当たりＢに当選する場合には、小当たり遊技中にＶ通過することで大当たりＢ（７Ｒ時短有大当たり、図５８８参照）が実行されるため、小当たりＢ当選のＶ保留が３個以上あれば、合計ラウンド数は１６ラウンド以上となる。

【６７２８】

このように、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留内のＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が１６ラウンド以上であれば、Ｖアイコン獲得演出が実行される構成としている。これにより、Ｖアイコン獲得演出が実行された場合に保留内の特図２保留で最低１６ラウンドの大当たり遊技が遊技者に保証される。

【６７２９】

ここで、例えば、大当たり遊技終了後に最初に消化されるＶ保留が小当たりＡに当選するＶ保留であった場合には、そのＶ保留の消化に基づいて１６ラウンドの大当たり遊技が実行されるため、連チャン（小当たり当選が連続すること）は保証されない。

【６７３０】

一方、大当たり遊技終了後に最初に消化されるＶ保留が小当たりＣに当選するＶ保留であった場合には、そのＶ保留の消化に基づいて１０ラウンドの大当たり遊技が実行されても、１６ラウンドには達しないため連チャンが保証される。この場合、次のＶ保留が遊技者にとって比較的不利な小当たりＢに当選するＶ保留であっても、合計ラウンド数は１７ラウンドとなり、遊技者にとって最も有利な小当たりＡに当選した場合よりも、多くの大当たり遊技ラウンドが実行されることとなる。

【６７３１】
更に、大当たり遊技終了後に最初に消化されるＶ保留が小当たりＢに当選するＶ保留であった場合には、そのＶ保留の消化に基づいて７ラウンドの大当たり遊技が実行されても、１６ラウンドには達しないため連チャンが保証され、次のＶ保留でも小当たりＢに当選した場合には、そのＶ保留の消化に基づいて７ラウンドの大当たり遊技が実行されても、合計ラウンド数が１６ラウンドには達しないため更に連チャンが保証される。この場合、３回連続で小当たりＢに当選した場合であっても合計ラウンド数は２１ラウンドとなる。
【６７３２】
このように、本第１変形例においては、Ｖアイコンが表示されている状態で最も有利な小当たり種別に当選するよりも、比較的不利な小当たり種別に当選する場合の方が、連チャンへの期待度が高くなり、遊技の興趣を向上させることができる。
【６７３３】
なお、本第１変形例では、合計ラウンド数が１６ラウンド以上の場合にＶアイコン獲得演出を実行する構成としたが、これに限るものではなく、合計ラウンド数を１５ラウンド以下、或いは、１７ラウンド以上のラウンド数で設定しても良い。或いは、特定の小当たり種別の組み合わせとなる場合、例えば、小当たりＡ当選のＶ保留と、小当たりＢ当選のＶ保留と、小当たりＣ当選のＶ保留と、がそれぞれ１個ずつ存在する場合に、Ｖアイコン獲得演出が実行される構成としても良い。
【６７３４】
なお、本第１変形例では、特図２保留の中に存在するＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が特定ラウンド数以上の場合には、必ずＶアイコン獲得演出が実行される構成としたが、これに限るものではなく、合計ラウンド数が特定ラウンド数以上である場合にＶアイコン獲得演出を実行するか否かを決定するための抽選を実行し、合計ラウンド数が特定ラウンド数以上である場合の一部ではＶアイコン獲得演出を実行しない構成としても良い。このように構成することで、大当たり遊技中にＶアイコン獲得演出が実行されない場合であっても、大当たり遊技終了後の特別図柄の変動表示において、遊技者に小当たりＡ当選への期待を持たせることができる。
【６７３５】
次に、図６１２を参照して、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるエンディング処理ａ（Ｓ４２１０９）について説明する。図６１２は、エンディング処理ａ（Ｓ４２１０９）の内容を示したフローチャートである。エンディング処理ａ（Ｓ４２１０９）は、上述した第１８制御例におけるエンディング処理（図６０３のＳ４２１０５参照）に対し、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンに設定された場合にＶアイコン表示終了カウンタの値を設定する点で相違する。その他の処理については同一であるため、同一の符号を付し、その詳細な説明は省略する。
【６７３６】
エンディング処理ａ（Ｓ４２１０９）では、Ｓ４２３０４の処理が終了した後に、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄに「１６」を設定する（Ｓ４２３０６）。この「１６」は、最低限保証されるラウンド数に対応する値であり、大当たり遊技終了後の遊技において、Ｖ保留が消化されるとＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄのカウンタ値が減算され、カウンタ値が「０」以下になった場合に、Ｖアイコン（本第１変形例では、花８０６（図６０７（ａ）参照））の表示が終了する。
【６７３７】
なお、本第１変形例では、エンディング処理ａにおいてＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄに最初に設定するカウンタ値を「１６」で固定としたが、これに限るものではなく、特図２保留の中に存在するＶ保留に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数に対応する値を設定する構成としても良い。例えば、小当たりＣ（Ｖ通過時、大当たりＥ（１０Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）と小当たりＢ（Ｖ通過時、大当たりＢ（１７Ｒ時短有大当たり）、図５８８参照）に当選するＶ保留がそれぞれ１個ずつ存在する場合には、カウンタ値として「１７」を設定する構成としても良い。

【６７３８】
次に、図６１３を参照して、本第１変形例における音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される時短用演出態様設定処理ａ（Ｓ４２５０４）について説明する。図６１３は、時短用演出態様設定処理ａ（Ｓ４２５０４）の内容を示したフローチャートである。この時短用演出態様設定処理ａ（Ｓ４２５０４）は、上述した第１８制御例における時短用演出態様設定処理（図６０６参照）に代えて実行される処理である。上述した第１８制御例では、Ｖアイコンが表示されている期間において、Ｖアイコンの発動は一度しか実行されない構成であった。これに対して、本第１変形例では、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が「０」以下になるまでは複数回Ｖアイコンの発動が実行可能に構成されている。

【６７３９】
時短用演出態様設定処理ａ（Ｓ４２５０４）が実行されると、まず、これから開始される特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かが判別される（Ｓ４２６０１）。小当たりではないと判別された場合には（Ｓ４２６０１：Ｎｏ）、演出態様選択１８ａテーブルを参照して変動表示設定処理１８（図６０４参照）のＳ４２４０３において取得した変動パターン種別に対応する演出態様を設定する（Ｓ４２６１０）。

【６７４０】
一方、Ｓ４２６０１の処理において、小当たりであると判別された場合には（Ｓ４２６０１：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンに設定されているか否かが判別される（Ｓ４２６０２）。Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンではないと判別された場合には（Ｓ４２６０２：Ｎｏ）、Ｓ４２６１０の処理へ移行する。

【６７４１】
Ｓ４２６０２の処理において、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃがオンであると判別された場合には（Ｓ４２６０２：Ｙｅｓ）、小当たりＡであるか否かが判別される（Ｓ４２６１１）。小当たりＡであると判別された場合には（Ｓ４２６１１：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値を１６減算する（Ｓ４２６１２）。その後、減算した後のＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が０以上であるか否かが判別され（Ｓ４２６１３）、０以上ではないと判別された場合には（Ｓ４２６１３：Ｎｏ）、Ｖアイコン表示フラグ２２３ｒｃをオフに設定し（Ｓ４２６１４）、Ｖアイコン表示態様設定テーブル２２２ｒｃ（図６１０参照）を参照し、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値に対応するＶアイコンの表示態様を設定する（Ｓ４２６１５）。一方、Ｓ４２６１３の処理において、０以上であると判別された場合には（Ｓ４２６１３：Ｙｅｓ）、Ｓ４２６１４の処理をスキップし、Ｓ４２６１５の処理へ移行する。

【６７４２】
Ｓ４２６１１の処理において、小当たりＡではないと判別された場合には（Ｓ４２６１１：Ｎｏ）、入賞情報格納エリア２２３ａの入賞情報を取得し（Ｓ４２６１６）、残りの特図２保留内における合計ラウンド数が１６ラウンド以上であるか否かが判別される（Ｓ４２６１７）。１６ラウンド以上であると判別された場合には（Ｓ４２６１７：Ｙｅｓ）、Ｖアイコンの巻き戻し演出態様を設定し（Ｓ４２６２１）、Ｓ４２６１０の処理へ移行する。

【６７４３】
一方、Ｓ４２６１７の処理において、１６ラウンド以上ではないと判別された場合には（Ｓ４２６１７：Ｎｏ）、これから開始される特別図柄の抽選結果は小当たりＢ当選であるか否かが判別される（Ｓ４２６１８）。小当たりＢであると判別された場合には（Ｓ４２６１８：Ｙｅｓ）、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値を７減算し（Ｓ４２６２０）、Ｓ４２６１３の処理へ移行する。

【６７４４】
Ｓ４２６１８の処理において、小当たりＢ当選ではないと判別された場合（即ち、小当たりＣ当選である場合）には（Ｓ４２６１８：Ｎｏ）、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値を１０減算し（Ｓ４２６１９）、Ｓ４２６１３の処理へ移行する。

【６７４５】
このように、本第１変形例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、当選する小当たり種別によってＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値を減算し、減算された後のＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値に対応するＶアイコンの可変表示態様を設定する構成としている。
【６７４６】
また、本第１変形例では、小当たりＡに当選する場合にはＶアイコンの巻き戻し演出が実行されず、小当たりＢまたはＣに当選する場合にはＶアイコンの巻き戻し演出が実行され得る構成としている。このように構成することで、Ｖアイコンを獲得した状態で遊技者にとって最も有利な小当たりＡに当選した場合には必ずＶアイコンの表示を終了させることができる。一方で、Ｖアイコンを獲得した状態で遊技者に比較的不利な小当たりＢまたは小当たりＣに当選した場合には、小当たりＡに当選した場合よりもＶアイコンが継続して表示される期間を長くすることができる。これにより、Ｖアイコンによって、１回の小当たり当選しか保証されない小当たり種別と、複数回の小当たり当選が保証される小当たり種別と、を設定することが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【６７４７】
なお、本第１変形例では、当選した小当たり種別が小当たりＡである場合には、巻き戻し演出が実行されない構成としたが、これに限るものではなく、Ｓ４２６１１の処理の前にＳ４２６１６とＳ４２６１７の処理を実行し、Ｖアイコンの巻き戻し演出を実行可能に構成しても良い。
【６７４８】
なお、本第１変形例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される場合に、残りの特図２保留でＶアイコン獲得演出の実行条件が成立している場合には、必ずＶアイコンの巻き戻し演出が実行される構成としたが、これに限るものではなく、残りの特図２保留でＶアイコン獲得演出の実行条件が成立している場合の一部でＶアイコンの巻き戻し演出が実行される構成としても良い。また、これから変動表示される特別図柄の小当たり種別によって、Ｖアイコンの巻き戻し演出が実行される割合を可変させる構成としても良く、例えば、小当たりＡ当選のＶ保留に基づいて特別図柄の変動表示が実行される場合よりも、小当たりＢ当選のＶ保留に基づいて特別図柄の変動表示が実行される場合の方がＶアイコンの巻き戻し演出を設定し易く構成しても良い。
【６７４９】
また、本第１変形例では、Ｖ保留に基づく特別図柄の変動表示が開始される時点でＶアイコンの巻き戻し演出を設定する構成としたが、これに限るものではない。例えば、特別図柄の変動表示中にＶアイコンの発動演出が実行された後、その変動表示が停止するまでの間に、新たにＶ保留を獲得し、Ｖアイコンの巻き戻し演出を実行する条件が成立した場合にＶアイコンの巻き戻し演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、Ｖアイコンが発動された特別図柄の変動表示中においても、遊技者に保留を貯めようと思わせることが可能になり、遊技効率を向上させることができる。
【６７５０】
また、本第１変形例では、Ｖアイコンを獲得している状態で新たにＶ保留を獲得した場合であってもＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が加算されない構成としたが、これに限るものではなく、新たにＶ保留を獲得した場合に、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値を加算する構成としても良い。例えば、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が「９」である場合に、小当たりＢ当選のＶ保留を新たに獲得した場合には、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値に「７」加算し、「１６」としても良い。この場合、表示されているＶアイコンの表示態様を加算された後のＶアイコン表示終了カウンタの値に対応するＶアイコンの表示態様に可変させる演出（例えば、花びらを追加する演出）を実行する構成としても良い。
【６７５１】
また、Ｓ４２６１７の処理において、表示されているＶアイコンの表示態様に対応する

カウンタの値と、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値と、に差が生じている場合に、巻き戻し演出を設定する構成としても良い。例えば、表示されているＶアイコンの表示態様として花びらが３枚消化されている状態（小当たりＢに２回当選し、Ｖアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が「２」の状態）で、新たに小当たりＢに当選するＶ保留を獲得したことに基づいてＶアイコン表示終了カウンタ２２３ｒｄの値に「７」が加算され、表示終了カウンタ２２３ｒｄの値が「９」となった場合に、先に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示においてＶアイコンの巻き戻し演出を設定する構成としても良い。或いは、先に消化されるＶ保留に基づく特別図柄の変動表示においては、Ｖアイコンの発動演出を実行しない構成としても良い。

【６７５２】

以上、説明をした通り、本第１８制御例の第１変形例では、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている特図２保留の抽選結果を事前に判別（先読み）した結果、保留内の小当たり当選保留（Ｖ保留）に基づいて実行される大当たり遊技の合計ラウンド数が特定のラウンド数である場合に、その特定ラウンド数の大当たり遊技が保証されることを遊技者に報知するように構成している点で、他の制御例とは異なる技術思想を有しているが、この第１８制御例の第１変形例特有の技術思想を他の制御例に記載されているパチンコ機１０に適用しても良い。

【６７５３】

なお、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留の抽選結果を先読みした結果に基づいてＶアイコン獲得演出を設定する構成としたが、これに限るものではなく、保留記憶されている第１特別図柄の入賞情報（特図１保留）を先読みした結果に基づいてＶアイコン獲得演出を設定する構成としても良い。また、特図１保留と特図２保留の両方を先読みした結果に基づいて、Ｖアイコン獲得演出を設定する構成としても良い。

【６７５４】

なお、本第１変形例では、Ｖアイコン獲得演出を大当たり遊技中に実行する構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技が実行されている期間ではない期間に実行可能な構成としても良い。例えば、特別図柄の変動表示中にＶアイコン獲得演出を実行する構成としても良い。このように構成することで、抽選結果が外れであることを示すための特別図柄の変動表示においてＶアイコン獲得演出が実行された場合に、外れであることを示すための特別図柄が停止表示されても、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【６７５５】

なお、本第１変形例では、Ｖ保留を小当たり当選する保留としたが、これに限るものではなく、大当たり当選する保留をＶ保留としても良い。または、Ｖ保留を時短当選する保留としても良い。

【６７５６】

なお、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留が存在することを示すための報知態様として「Ｖアイコン」を表示する構成としたが、これに限るものではなく、Ｖアイコンの代わりにキャラクタを用いて報知する構成としても良いし、背景を可変させる構成としても良く、最低限保証されている大当たりラウンド数を遊技者が認識できる表示態様であれば良い。

【６７５７】

なお、本第１変形例では、保留記憶されている特図２保留の中にＶ保留がある場合に、Ｖアイコンを表示する構成、即ち、遊技者に有利な情報を報知するための報知態様を表示する構成としたが、これに限るものではなく、遊技者に不利な情報を報知するための報知態様を表示する構成としても良い。例えば、本第１変形例では、時短状態中に小当たりＡに２回当選した場合、または、小当たりＣに３回当選した場合に時短状態が終了するため、保留内に小当たりＡに当選するＶ保留が２個存在する場合、または小当たりＣに当選するＶ保留が３個存在する場合には、保留内で時短終了条件が成立することを予告するアイコン（例えば、ドクロマークのアイコン）を表示する構成としても良い。

【６７５８】
このように構成することで、時短終了条件が成立した後に特図２保留（第２特別図柄の入賞情報）が残っていれば、その残り保留での小当たり当選が期待できるため、保留内で時短終了条件が成立することを遊技者が事前に認識できることにより、時短終了条件が成立する特別図柄の変動表示が終了するまでに、遊技者に特図２保留を上限まで貯めようと思わせることができる。
【６７５９】
なお、保留内に存在するＶ保留の小当たり種別によって、Ｖアイコンの表示態様を異ならせる構成としても良い。例えば、小当たりＡ当選のＶ保留が存在する場合よりも、小当たりＢまたはＣ当選のＶ保留が存在する場合の方が、花８０６に付随する花びらの数が多くなり易い構成としても良い。或いは、花びらの色によって、連チャン（小当たり当選が連続すること）期待度を示唆する構成としても良い。
【６７６０】
＜第１９制御例＞
次に、図６１９から図６３６を参照して、第１９制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１６制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄の抽選で規定回数（例えば、５００回）に渡って連続して大当たりとならなかった場合、および特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、直接的に（大当たり遊技を介さずに）時短遊技状態を設定する構成としていた。
【６７６１】
この第１６制御例におけるパチンコ機１０に対して、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、下記の相違点１～３を有している。即ち、相違点１として、時短図柄当選に基づく変動表示演出の実行中に、変動表示態様の一種として、時短回数を報知（示唆）する演出を実行する構成としている。そして、時短図柄に当選し、当該時短図柄当選に基づいて直接的に設定される時短状態の時短回数（大当たりに当選しない場合に時短状態が終了される特別図柄の変動回数）が、天井抽選回数までの残りの抽選回数よりも多い（時短図柄当選に基づいて設定される時短状態の時短回数内で天井抽選回数に到達する）場合には、報知（示唆）される時短回数として、時短図柄当選に基づいて設定される時短回数よりも多い時短回数が報知され得る特殊な演出制御を実行するように構成した。より具体的には、時短状態において大当たりに当選しないと仮定した場合に、時短図柄当選から実際に時短状態が途切れる（通常状態に移行する）までの特別図柄の抽選回数（つまり、時短図柄当選に基づく時短状態中に天井抽選回数に到達する場合は、天井抽選回数到達に基づく時短状態が終了するまでの抽選回数）を加味して見た目上の時短回数を報知する構成としている。このように構成することで、時短図柄当選に基づいて設定される時短回数よりも多い時短回数を報知可能なケースを発生させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【６７６２】
また、上述した第１６制御例に対する相違点２として、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたとしても、天井抽選回数までの残りの抽選回数がクリアされることを抑制すると共に、変動パターン群（変動パターン選択テーブル）を切り替え設定するためのカウンタ値のデータも保持する（変動パターンシナリオの進行状況を保持する）ように構成している。このように構成することで、ＲＡＭクリア等の処理が実行された場合であっても特別図柄の変動が規定回数実行された（天井抽選回数に到達した）場合に時短状態を設定することができる上に、ＲＡＭクリア操作の有無によらず、天井抽選回数までの各変動回数において好適な変動パターン選択テーブル（変動パターン群）を用いて変動パターン（変動時間）を設定することができる。よって、天井抽選回数に到達するまでの間、段階的に期待感を高めていく遊技性を、ＲＡＭクリア操作の有無によらず実現することができる。また、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたとしても天井抽選回数までの残りの抽選回数が増加することがないため、ＲＡＭクリア操作が行われた可能性が高いパチンコ機１０（例えば、前日のホールの閉店時に

通常状態以外の有利な状態となっていた場合等）において遊技を敬遠されてしまうことを抑制することができる。

【６７６３】

更に、上述した第１６制御例に対する相違点３として、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄の変動回数が大当たりの判定がされることなく、規定回数（天井抽選回数）に到達し、その次の特別図柄の変動表示が停止する毎に時短遊技状態（天井遊技状態）が大当たり遊技を経ずに設定される構成を前提として、天井抽選回数に到達することで天井抽選回数までの残り回数がリセットされるように構成した。つまり、天井抽選回数に到達した後において、更に天井抽選回数分の特別図柄の抽選が実行されることで、再度、時短遊技状態（天井遊技状態）が設定されるように構成した。これにより、天井抽選回数到達に基づいて設定された時短遊技状態の間に大当たりに当選することができずに通常状態に移行（転落）してしまったとしても、再度天井抽選回数に到達すること（再度の天井発動）を遊技者に目指させることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下し難い遊技性を実現することができる。また、これに伴って、本第１９制御例では、天井抽選回数に到達したことに基づいて変動パターンシナリオを再設定する構成とした。つまり、天井抽選回数に到達したことに基づいて、次の天井抽選回数到達までに渡る各変動回数と、参照する変動パターン選択テーブルと、の対応関係を再設定する構成とした。このように構成することで、天井抽選回数に未到達であるか、１回以上天井抽選回数に到達して時短状態をスルーしたかによらず、天井抽選回数までの残りの抽選回数が特定回数（残り１５０回、１００回、および５０回）となった場合に特殊な変動パターンを選択することができる。つまり、天井抽選回数までの残りの抽選回数が特定回数となった場合に天井煽り演出を実行することができるので、１回以上天井抽選回数に到達したか否かによらず、天井抽選回数に到達するまでの間に遊技者の期待感を段階的に向上させていく遊技性を実現することができる。

【６７６４】

この第１９制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１６制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１６制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１６制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【６７６５】

＜第１９制御例における演出について＞

次に、図６１９～図６２２を参照して、上記した相違点１における第３図柄表示装置８１で表示される演出態様について説明する。なお、本制御例の主要な構成を演出態様の詳細な説明をする前に簡潔に説明すると、大当たり遊技が実行されずに規定回数の特別図柄の変動が実行される（特別図柄の抽選回数が天井抽選回数に到達する）と、規定回数における変動が終了し、その次に実行される特別図柄の変動表示における変動停止タイミングで、電動役物６４０ａの開放頻度が高く、開放期間が長く設定されることで第２入球口６４０への入球確率が高く設定される遊技状態となる時短遊技状態（天井遊技状態）が特別図柄の変動が最長で１００回実行されるまで継続して設定される。なお、本制御例では、天井遊技状態の他に、時短当選図柄に特別図柄の変動開始毎に実行される抽選において当選することで設定される突然時短遊技状態が大当たり遊技の実行がなくとも設定可能に構成されている。

【６７６６】

以下に、図６２２に示した天井遊技状態が設定されるまでに第３図柄表示装置８１で実行される演出態様と、図６１９～図６２１までに示した第３図柄表示装置８１で表示される演出態様と、をそれぞれ説明する。

【６７６７】

図６２２は、時短図柄に当選したことに基づく時短状態の間に規定回数（天井抽選回数）に到達し、時短状態が重複して設定される場合における演出態様の推移を示下図である。図６２２では、天井抽選回数に到達するまでの残りの特別図柄の抽選回数が２５回となったタイミングで時短回数が５０回の時短図柄に当選した場合を例示して、演出態様と特別図柄の抽選回数との対応関係を示している。

【６７６８】

規定回数（本制御例では、５００回）まで残り２５回となった変動回数４７５回目（大当たり遊技が実行されずに変動された回数）の変動開始時の抽選において、時短図柄当選し、その特別図柄の変動表示中（動的表示中）に図６１９（ａ）に示す時短図柄当選演出が実行される。図６１９（ａ）は、時短図柄当選演出の一例を示した演出態様図である。時短図柄当選すると、その特別図柄の変動が開始されると、特別図柄（第３図柄）の変動表示領域Ｄｍ１が右上に縮小表示される。特別図柄が変動表示されていた表示領域（変動表示領域Ｄｍ１よりも大きい表示領域）には、ウサギのキャラクタ８０１が表示され、その上方に付与される時短遊技状態の変動回数（特別図柄の変動回数）を示唆する態様８１１ａ～８１１ｄが複数回転して表示される。そのさらに上方には、「～チャンスタイム待機中～」という時短図柄当選したことを示すための態様が表示され、遊技者が時短図柄当選したことが識別可能に構成されている。

【６７６９】

時短図柄当選して突然時短遊技状態（時短遊技状態）が設定される場合には、抽選により複数の変動回数が１の変動回数が決定されて、その変動回数に対応した特別図柄の変動が実行されるまで時短遊技状態が継続して設定される。なお、設定された変動回数が実行される前に大当たりに当選した場合には、その大当たり抽選により抽選された遊技状態が大当たり遊技後に設定される為、設定された変動回数が実行されるよりも前に時短遊技状態が終了してしまうことになる場合もあり得る。

【６７７０】

また、図６１９（ａ）に示すように、第３図柄表示装置８１の左上領域の小表示領域Ｄｍ４には、「右打ち」という文字が表示され、第３図柄表示装置８１の右側（右打ち領域）を遊技球が通過するように遊技球を遊技者に発射させるように示唆する報知態様が表示されている。なお、本制御例では、時短図柄当選した特別図柄の変動から右打ち報知することで、時短図柄当選したことを遊技者にさらに分かり易く報知したが、それに限らず、右打ち報知を突然時短遊技状態が設定される次の変動（４７６回目）の特別図柄の変動開始から報知するように構成してもよい。このように構成することで、遊技者により有利な報知をすることができる。また、図６１９（ａ）に示すように、副表示領域Ｄｓ（表示領域の下方）には、保留図柄の表示が非表示にされ、「チャンスタイムの回数を決めろ！」という突然時短遊技状態が継続される変動回数を示唆するための態様が候補の中から決定されることを示唆するための文字表示がされる。

【６７７１】

ここで、図６１９（ａ）の演出態様が実行されている状態で、特別図柄の変動時間が経過（変動時間が終了したタイミング）する直前（変動停止５秒前等）となると、図６１９（ｂ）に示すように表示されていた突然時短遊技状態が継続される変動回数の候補８１１ａ～８１１ｄのうち、１の変動回数が決定される。図６１９（ｂ）の例では、１００回の変動回数が継続回数として報知されている。なお、本制御例では、遊技者に報知される変動回数は実際に決定されている変動回数（突然時短遊技状態が継続されるまでの実際の変動回数）以下の変動回数が演出上の変動回数として報知されるように構成されている。このように構成することで、演出上の変動回数が０回となった場合にも、時短遊技状態が継続することを遊技者に期待させることが可能となり、演出態様を多様化することができる

。時短遊技状態が継続して実行される演出上の変動回数が決定されると、副表示領域Ｄｍ４にも演出上の変動回数が決定されたことを示すための態様（「１００回ＧＥＴ！！」という文字表示）がされる。また、特別図柄の変動が停止表示されて外れを示す組み合わせ態様で小領域Ｄｍ１に停止表示される。

【６７７２】

図６１９（ｂ）に示すように、突然時短遊技状態の演出上の変動回数候補８１１ａ～８１１ｄが回転表示されている状態から、特別図柄の変動時間が経過する直前のタイミングとなると、ウサギ８０１が上方にジャンプしてパンチをし、一つの演出上の変動回数態様を叩いて決定し、その変動回数態様（変動回数図柄）が拡大して表示される。その他の変動回数態様は、表示領域外の方向へと縮小されながら飛び散ることで、決定された変動回数態様を分かり易くなるように構成されている。

【６７７３】

なお、本実施形態では、特別図柄の変動時間に対応して自動的に変動回数態様が決定される構成としたが、それに限らず、遊技者が枠ボタン２２を押下するか、枠ボタン２２の有効時間が経過（有効時間が終了したタイミング）すると、図６１９（ｂ）に示すように表示されていた突然時短遊技状態が継続される変動回数の候補８１１ａ～８１１ｄのうち、１の変動回数が決定されるように構成してもよい。

【６７７４】

ここで、図６２２に示すように、実際に時短当選図柄で当選した突然時短遊技状態が継続される特別図柄の変動回数は、ここで示した例では、５０回であるが、演出上の変動回数態様として１００回が決定される。これは、実際に決定された５０回の特別図柄が変動されるよりも前に天井遊技状態が設定されるまでの２６回が経過して、天井遊技状態として時短遊技状態が２６回経過した時点で残り回数が１００回に更新されるため、実際には時短図柄に当選してから１２６回の特別図柄の変動表示が終了するまでの間、時短状態が継続する挙動となるため、１２６回以下の回数である１００回を決定しても、演出上の矛盾が発生しないためである。

【６７７５】

このように構成することで、実際の突然時短遊技状態が継続される変動回数は５０回であっても、演出上の変動回数を決定する演出において、５０回を越える候補の変動回数態様を決定することが可能となり、遊技者により有利な報知を行うことができ、遊技の興趣をより向上できる。さらに、後述する演出であるが、実際の変動回数が５０回のところ、１００回を報知しても、突然時短遊技状態の開始から天井遊技状態の終了までの総変動回数は最大で１２６回であることから、報知した演出上の１００回よりも多くなり、途中の演出として最大２６回分を上乗せ演出として使用することが可能となる。これにより、実際の時短遊技状態（突然時短遊技状態または天井遊技状態）が継続される変動回数が遊技者に分かり難くでき、無限に残りの変動回数が上乗せされる期待感を持たせることができる。

【６７７６】

次に、図６２２における変動回数が４７６回目（残時短回数（突然時短遊技状態が継続される特別図柄の残りの変動回数）が５０回）より実行される突然時短遊技状態中に実行される演出であるチャンスタイム中演出について説明する。図６２０（ａ）は、このチャンスタイム中演出の態様における一例を示した図である。チャンスタイム中（突然時短遊技状態が設定されている期間）となると、表示領域の右打ち報知が実行される小領域Ｄｍ４の下方の小領域Ｄｓ７に演出上の残時短回数が表示される。図６２０（ａ）では、演出上の残時短回数が０回となった場合の特別図柄の変動表示が停止したタイミング（小領域Ｄｓ１で表示された特別図柄（第２特別図柄）が停止されたタイミング）の態様を示している。主表示領域Ｄｍには、ウサギのキャラクタ８０１と天使のキャラクタ８０９とが表示され、宝箱８１０を空けて残時短回数の上乗せが実行されるか否かの演出が実行され、宝箱８１０が空いたタイミングで中より煙と上乗せされる演出上の残時短回数を示す「１０」を示す上乗せ態様８１０ａが表示される。副表示領域Ｄｓには、残時短回数が上乗せ

されたことを示す態様である「チャンスタイム上乗せ！」という文字が表示される。
【６７７７】
残時短回数の上乗せがされる上乗せ態様８１０ａが表示された後には、上乗せ態様８１０ａの時短回数を示す数字（１０）が小領域Ｄｓ７まで移動される演出がされた後に、小領域Ｄｓ７の残時短回数が１０回に更新される。このように演出されることで、表示された上乗せ態様８１０ａが残時短回数を増加させる演出であったことを分かり易く報知することができる。また、チャンスタイム中の演出としては、ウサギのキャラクタ８０１がダッシュする演出が主表示領域Ｄｍに表示され、宝箱８１０を探す演出等が特別図柄の変動中に実行される。このように構成することで、突然時短遊技状態では、主に第２特別図柄の変動が実行され、その変動時間は、通常遊技状態よりも短い変動時間が選択され易くされるが、複数の特別図柄の変動時間を利用して、一貫性のある分かり易い演出をすることができる。また、特別図柄の抽選結果が大当たりとなった場合には、宝箱８１０の中から「Ｖ」という文字が表示され、大当たりであることを示すための態様が表示される。その後、特別図柄が停止した後に大当たり遊技が開始される。
【６７７８】
また、チャンスタイム中に時短図柄に当選（大当たり遊技が実行されずに、特別図柄の変動停止時に突然時短遊技状態（時短遊技状態）が設定される抽選結果）した場合には、宝箱８１０から新たに決定された継続時短回数（天井遊技状態が継続される特別図柄の変動回数）または、継続時短回数とその後に設定される天井遊技状態との継続時短回数との情報を判別して上乗せ態様が決定されて報知される。
【６７７９】
なお、本制御例では、チャンスタイム中に時短図柄に当選する構成としたが、それに限らず、突然時短遊技状態（チャンスタイム中）となった場合には、突然時短遊技状態が終了するまで時短図柄に当選しないように制御してもよい。この場合には、時短図柄の抽選を実行しなくても良いし、時短図柄の抽選に当選した場合には無効とする制御を実行してもよい。
【６７８０】
なお、チャンスタイム中演出において、宝箱８１０が表示される演出は、特別図柄の変動開始タイミングで宝箱８１０の演出が実行されていないことを条件に演出抽選が実行され、宝箱８１０の演出を実行すると決定された場合に実行されるように構成されている。この場合には、演出上の残時短回数と実際の残時短回数との差分が大きい程、宝箱８１０の演出を実行すると決定される確率が高く設定されるように構成されている。さらに、宝箱８１０の演出が実行される決定された場合には、残時短回数の差分と、保留球の先読み結果とに基づいて宝箱８１０が空いた場合に実行される演出態様の内容が決定される。なお、この場合に、演出態様なしが決定されると、宝箱８１０が空かない演出が実行されるように構成されている。なお、演出態様なしが決定されると、宝箱８１０が空かないように構成したが、空いて煙のみが報知されるように構成してもよい。また、宝箱８１０の演出の実行を決定する場合に、所定の確率で宝箱８１０が空くか空かないかも決定するように構成してもよい。
【６７８１】
次に、図６２２における５０１回目の特別図柄の変動が停止したタイミングで天井遊技状態（継続時短回数１００回）が設定される。ここで、突然時短遊技状態から天井遊技状態へと移行するが、第３図柄表示装置８１で表示される演出態様は、先に説明したチャンスタイム中演出が継続して実行される。
【６７８２】
次に、図６２２における特別図柄の変動回数が５７５回の場合に上乗せ演出として先に説明した図６２０（ａ）の演出態様が実行される例が示してある。ここでは、特別図柄の５７５回目の変動が実行される際の抽選で宝箱の演出を実行すると決定され、上乗せ態様として１０回が決定されたことで図６２０（ａ）に示すように上乗せ回数が１０回を示す上乗せ態様が実行される。その後、特別図柄の変動回数が５７６回目からはチャンスタイ

ム中演出が継続して実行される。その後、５９５回目（天井遊技状態の残時短回数が６回）の特別図柄の変動では終了待機演出が実行される。本第１９制御例では、上乗せ演出として、１０の倍数の回数を上乗せするように構成されているため、表示上の時短回数が０回になった時点で、実際の時短状態の残回数に１０未満の端数の残回数が生じる可能性がある。よって、この端数の時短残回数を消化している間は、終了待機演出として残時短回数が報知されない表示態様が設定される。これにより、いつまで時短状態が継続するか分からないドキドキ感を遊技者に対して抱かせることができる。

【６７８３】

図６２０（ｂ）は、この終了待機演出において第３図柄表示装置８１で表示される演出態様の一例を示した図である。終了待機演出は、小表示領域Ｄｍ４の下方の小表示領域Ｄｍ７に残時短回数が０回まで更新された後に、演出上の残時短回数も識別することができない「ラスト？？？回」という表示がされる。まｍた、主表示領域Ｄｍには、ウサギ８０１がダッシュする雲の一部に穴８１２が空き、落ちると天井遊技状態（時短遊技状態）が終了することを示す演出が実行される。主表示領域Ｄｍの上部には演出上の残時短回数が０回未満となり、残り回数を示唆する態様が識別不能とされる期間であることを示す「～終了待機中～」という文字の態様が表示される。小表示領域Ｄｍ１には、第２特別図柄が縮小して変動表示され、副表示領域Ｄｓには、特別図柄の変動表示が停止する毎に天井遊技状態が終了してしまう可能性のある期間であることを示す「終了待機ゾーン」の文字が表示される。このように構成することで、遊技者は、演出上の残時短回数が０回となっても天井遊技状態が終了することなく、次の特別図柄の変動でも継続されて、演出上の残時短回数が識別困難となる「ラスト？？？回」という文字表示で報知されることで、特別図柄の変動が停止する毎に天井遊技状態が終了してしまう危機感を感じ、終了しなかった場合の安堵感とのコントラストを楽しむことができ、遊技の興趣を向上することができる。

【６７８４】

図６２２に示すように特別図柄の変動回数が６００回（天井遊技状態の残時短回数１回）となるとその変動が停止するタイミングで天井遊技状態が終了し、通常遊技状態へと移行されるタイミングとなり、特別図柄の変動中に終了演出が実行される。図６２１は、この終了演出において第３図柄表示装置８１で表示される演出態様の内容の一例を示した図である。終了演出態様では、特別図柄の変動開始から先に説明した終了待機演出と同様にウサギ８０１が穴の空いた雲の上をダッシュする演出がされ、特別図柄の変動停止５秒前に図６２１に示すように穴８１２から落ちる演出が実行される。また、小表示領域Ｄｍ７には、「ラスト？？？回」という演出上の残時短回数が識別困難な態様が表示され、特別図柄の変動表示は、変動時間が仮停止され、変動時間が経過するのを待機されている（小表示領域Ｄｍ１参照）。また、副表示領域Ｄｓには、チャンスタイム（天井遊技状態（時短遊技状態））が終了したことを示す「チャンスタイム終了！」の文字が表示される。また、主表示領域Ｄｍの上部には、「～終了～」の文字が表示されチャンスタイムの終了を示す報知がされている。

【６７８５】

このように、上記した相違点１の構成により規定回数の残り回数が、時短図柄当選し、突然時短遊技状態が継続して設定される変動回数よりも少なくなった場合には、時短図柄当選時に、その後に設定される天井遊技状態が継続される変動回数も加味した変動回数を設定可能な時短回数として演出を実行するように構成した。このように構成することで、実際に付与される時短回数よりも多くの残時短回数を時短図柄当選に基づいたタイミングで報知することも可能であるし、実際の回数よりも多い残時短回数となるように上乗せ演出を実行することも可能となるので、遊技者に実際の回数が何回であるか予想させ難くできる。また、遊技者が想定外となる残時短回数が報知されるので、遊技者に新鮮味のある演出を提供することができる。

【６７８６】

＜相違点２および３における演出について＞

次に、図６２３～図６２５を参照して、上記した相違点２および３における第３図柄表

示装置８１で表示される演出の一例について説明する。上記した相違点２では、ラムクリアの操作がされて電源が投入されても天井遊技状態が設定される規定回数をカウントするためのカウンタの値を初期化がされず、カウント値が保持されるので、そのカウント値の値に基づいて特別図柄を変動表示するための変動パターン群（変動パターンシナリオ）が切り替えられる。また、上記した相違点３では、天井遊技状態が設定され、設定された時短回数が実行されたことに基づいて通常遊技状態へ移行した後に、再度、規定回数の特別図柄の変動が実行され天井遊技状態へ移行する場合に、天井遊技状態に移行する毎に変動パターン群（変動パターンシナリオ）を切り替えて特定の変動パターンが選択され易くするように構成されている。

【６７８７】

図６２３（ａ）および（ｂ）は、規定回数目の特別図柄の変動が停止表示され、その次の１変動目に実行される変動パターンの演出の一例を示した図である。規定回数目の特別図柄の変動が停止表示されることに基づいて、特別図柄の変動パターンを決定するための変動パターン群が天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４（図６２８（ｃ）参照）が選択されるように設定される。天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４（変動パターン群）から選択される変動パターンは、図６２３（ａ）に示すように第３図柄表示装置８１の表示領域の右上の小表示領域Ｄｓ１に特別図柄が縮小して変動表示され、主表示領域Ｄｍにはウサギのキャラクタ８０１が表示され、ウサギ８０１の右上方には、天使のキャラクタ８０９が文字情報の表示されたボードを持って表示される。ボードには、天井遊技状態に到達するまでの遊技状態を示すための「天井までの軌跡」という文字情報が表示され、さらに、天井遊技状態が設定されるまでに実行された小当たり遊技の回数（小ボーナス：２回の文字表示）と、特別図柄の変動回数（スタート回数：５００回の文字表示）とが文字表示されている。また、小表示領域Ｄｍ７には、「天井！？」という規定回数の特別図柄の変動が実行されたことを示唆するための態様が文字情報で表示委されている。また、副表示領域Ｄｓには、「天井到達！！チャンスタイムＧＥＴ！」という規定回数の特別図柄の変動が実行されたことを示すための報知態様が文字情報で表示される。

【６７８８】

図６２３（ａ）でしたした態様が１０秒間表示（動的表示）された後には、図６２３（ｂ）に示す演出態様が表示される。図６２３（ａ）の演出態様が表示された後に表示される図６２３（ｂ）に示す演出態様は、特別図柄の変動は、小表示領域Ｄｍ１で継続して変動表示されており、主表示領域Ｄｍでは、ウサギのキャラクタ８０１が継続して表示され、天使のキャラクタ８０９が持っていたボードが非表示となり、天使８０９から「チャンスタイム中に当たると大チャンス！？」というコメント表示を吹き出しで表示されて、天井遊技状態で大当たりの抽選がされると、遊技者に通常遊技状態よりも有利となることを示唆するための態様が報知される。

【６７８９】

ここで、本制御例では、天井遊技状態中に大当たりとなると、遊技者に有利となる大当たり種別が通常遊技状態で大当たりとなるよりも選択され易く設定されている。これにより、天井遊技状態が設定される１００回の特別図柄が抽選される間に大当たりとなると有利となることを促す演出を実行することで、天井遊技状態中に大当たりとなった場合に、より興趣を向上させることができる。さらに、天井遊技状態に移行することを遊技者に期待させることができるので、遊技者が継続して規定回数まで特別図柄の変動が実行されることを目指して長期間遊技を行わせることができる。

【６７９０】

また、図６２３（ｂ）に示すように、小表示領域Ｄｍ４には、「右打ち」という文字表示がされ、天井遊技状態に移行するため、右打ち遊技を実行させることを示唆するための報知が実行される。また、小表示領域Ｄｍ７には、「ラスト１００回」という文字表示がされ、残時短回数の報知が実行される。また、副表示領域Ｄｓには、「天井到達！！チャンスタイムＧＥＴ！」という規定回数の特別図柄の変動が実行されたことを示すための報知態様が文字情報で表示される。

【６７９１】
このように構成することで、天井遊技状態が設定されるための規定回数（本制御例では、５００回）が経過して、５０１回目となると、変動パターンテーブルが切り替えられることで、５０１回目の変動を専用の変動パターンを実行することができ、天井遊技状態に移行することを事前に報知して、天井遊技状態での遊技方法等を分かり易く報知することができる。
【６７９２】
図６２４（ａ）および（ｂ）を参照して、本制御例における上記した相違点２および３における特別図柄の変動回数に基づいて変動パターンテーブルが切り替えられることで実行される天井遊技状態が設定されるための規定回数までの残り回数を示唆するための演出について説明する。図６２４（ａ）は、天井遊技状態が設定される規定回数に到達したことへの期待度が低い場合に実行される弱煽り演出態様の一例を示した図である。
【６７９３】
図６２４（ａ）に示すように、表示領域における右上に配置された小表示領域Ｄｍ１では、特別図柄が縮小して変動表示され、主表示領域Ｄｍでも大きい特別図柄が変動表示されている。主表示領域Ｄｍの右下には、保留図柄ｈｒ１、ｈｒ２（黒丸図柄）が表示され、保留球数が２個であることが報知されている。主表示領域Ｄｍには、天使のキャラクタ８０９が表示され、コメント表示で「近づいている・・・？」という規定回数までの残り回数への期待度を示すための態様が表示される。小表示領域Ｄｍ７には「ボーナス間３５０回」という大当たり遊技が実行されてからの特別図柄の変動が実行された回数を示唆するための態様が表示されている。また、副表示領域Ｄｓには、「天使出現！」という文字表示がされ、規定回数までの報知がされる予告態様が実行されていることを示唆するための態様が文字表示で報知されている。
【６７９４】
このように、ラムクリアが実行されても初期化されない大当たりが実行されてから特別図柄の変動回数をカウント値に基づいて変動パターンテーブルが決定され、所定の変動回数で規定回数に到達することへの期待度を示した予告演出を実行することで、予告演出より規定回数に到達するまでの残回数を遊技者が予測して遊技を行うことができ、遊技を継続するか否かの判断を行う楽しみを与えることができる。
【６７９５】
次に、図６２４（ｂ）を参照して、規定回数に到達することへの期待度が高い強煽り演出態様の一例について説明する。強煽り演出態様では、小表示領域Ｄｍ７に「ボーナス間４５０回」という大当たり遊技が実行されてから特別図柄の変動回数が４５０回であることを示唆する態様が文字表示される。また、主表示領域Ｄｍには、特別図柄の変動表示に加えて、天使のキャラクタ８０９とは異なる大天使のキャラクタ８０９ｚが表示され、コメント表示で「大接近中！！」という天井遊技状態が設定される規定回数までの残り回数が少ないことへの期待度が高いことを示唆するための態様が文字表示される。
【６７９６】
詳細は、後述するが、本制御例では、ラムクリアが実行されてもリセットされない大当たり遊技間の特別図柄の変動回数をカウントするための特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に基づいて変動パターンテーブルが切り替えて設定される。本制御例では、図６２９（ｂ）の変動パターンシナリオ１９テーブル２０２ｓｊで規定されているように、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が３５０、４００、４５０・・・というように５０回毎に天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が設定されるように構成されている。天井煽り用テーブルでは、抽選により変動パターンが設定されているように割り当てられており、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が規定回数（５００回、１０００回・・・）に近い程、先に説明した強煽り演出態様が決定される割合が高くなるように設定されている。このように構成することで、強煽り演出態様が実行された場合に、残り回数が少ないことを期待させることができ、遊技者に継続して遊技を行わせることができる。また、上述した第１６制御例と同様に、本第１９制御例でも、小ボーナス（特殊大当たりおよび小当たり）を搭載しており、表

示上の抽選回数（ボーナス間の抽選回数）は小ボーナス当選でリセットされるように構成している。つまり、天井抽選回数までの残回数がリセットされない小当たりでも見た目上の抽選回数（ボーナス間回数）が０にリセットされるため、表示上の抽選回数から完全に天井抽選回数までの残回数を見抜くことが困難に構成している。係る状況下において、天井抽選回数が近づくほど大天使のキャラクタ８０９ｚが表示される天井煽り演出を設定する構成とすることにより、演出態様から天井抽選回数までの残り回数を遊技者に予測させる遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６７９７】

次に、図６２５を参照して、天井遊技状態に１度移行した後に、継続回数まで特別図柄の変動が実行され、通常遊技状態に移行した後、再度大当たり遊技が実行されることなく規定回数まで残り１５０回となる特別図柄の変動回数が８５０回目となり、天井煽りテーブル２０２ｓｂ３が設定され、選択された変動パターンにより実行される演出態様の一例を示した図である。図６２５に示すように、主表示領域Ｄｍに特別図柄の変動表示に加え、天使のキャラクタ８０９が表示され、コメントとして「再び近づいている・・・？」という２度目の天井遊技状態が設定される規定回数の残り回数を示唆するための態様が文字表示される。このように、大当たり遊技が実行されずに、連続して天井遊技状態が設定される場合には、１回目の天井煽りの演出態様とは異なる演出態様が実行されるようにされているので、再度天井遊技状態が設定されることへの期待度であることを認識して遊技を行うことができ、大当たり遊技が実行される確率等を遊技者が判別して継続して遊技を行うかの判断をすることができる。

【６７９８】

＜第１９制御例における電気的構成について＞

次に、図６２６～図６３０を参照して、本第１９制御例における電気的構成について説明する。なお、第１６制御例と相違する点についてのみ説明し、同一の内容については、図示とその説明を省略する。

【６７９９】

図６２６（ａ）は、本第１９制御例における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。本第１９制御例では、第１当たり乱数１９テーブル２０２ｓａ、変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂ、時短当たり種別選択１９テーブル２０２ｓｉ、変動パターンシナリオ１９テーブル２０２ｓｊの内容が変更されている。

【６８００】

図６２７は、第１当たり乱数１９テーブル２０２ｓａの内容を模式的に示した模式図である。第１当たり乱数１９テーブル２０２ｓａは、第１入球口６４または第２入球口６４０に遊技球が入球したことに基づいて取得された第１当たり乱数カウンタＣ１の当否判定（判別）を実行するための情報が設定されている。遊技状態として通常遊技状態や時短遊技状態（突然時短遊技状態、天井遊技状態を含む）として大当たりの判定確率が低確率に設定されている低確率状態である場合と、確変遊技状態（潜伏確変遊技状態）として大当たりの判定確率が低確率状態よりも高く設定される高確率状態である場合とでそれぞれ設定として１～６までのそれぞれに対して大当たりと判定する設定値（判定値）が設定されている。図６２７に示すように、低確率状態である場合には、設定１に対して０～４、設定２に対して０～５、設定３に対して０～６、設定４に対して０～７、設定５に対して０～８、設定６に対して０～９、がそれぞれ判定値として設定されている。また、高確率状態である場合には、設定１に対して０～１９、設定２に対して０～２３、設定３に対して０～２７、設定４に対して０～３１、設定５に対して０～３６、設定６に対して０～３９、がそれぞれ判定値として設定されている。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の４０～６４までのそれぞれの値が、小当たりと判定されるように判定値が設定されている。

【６８０１】

次に、図６２８を参照して、変動パターン選択１０テーブル２０２ｓｂについて説明する。変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂは、取得された特別図柄の変動開始時にお

いて取得された変動種別カウンタＣＳ１の値と、特別図柄の当否判定結果、現在の保留球数に基づいて変動パターンを選択するための変動パターンテーブル（変動パターン群）を決定するための選択テーブルである。選択される変動パターンテーブルは、現在設定されている遊技状態の種別（通常遊技状態、時短遊技状態、突然時短遊技状態、天井遊技状態、確変遊技状態）や特別図柄の変動回数等に基づいて１の変動パターンテーブルが決定される。なお、本制御例では、上記したように変動パターンテーブルを選択したが、それに限らず、所定の抽選を実行して、変動パターンテーブルの種別を決定してもよいし、大当たり遊技の終了タイミングや、小当たり遊技の実行後に１の変動パターンテーブルを所定の選択確率で実行した選択抽選の結果や、遊技状態や、特別図柄の変動回数や、大当たり、小当たりの回数情報や、天井遊技状態までの残変動回数、天井遊技状態に移行した回数情報等のいずれかまたはそのうちのいくつかを組み合わせた情報に基づいて選択するように構成してもよい。

【６８０２】

図６２８（ａ）は、変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂの内容を模式的に示した模式図である。変動パターン選択１０テーブル２０２ｓｂには、通常用１９テーブル２０２ｓｂ１、確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３，天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４がそれぞれ設定されている。

【６８０３】

通常用１９テーブル２０２ｓｂ１と確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２とは、図示は省略するが、簡略的に説明すると、通常用１９テーブル２０２ｓｂ１は、通常遊技状態が設定されている場合に、変動パターンの選択がされるテーブルとして設定されるテーブルである。大当たり判定の結果（当たり、外れ、小当たり）、現在の保留球数、取得している変動種別カウンタＣＳ１の値に対応して複数の変動パターンが設定されている。なお、各変動パターンには、予め特別図柄の変動時間（変動パターンの実行期間）が設定されていることから、変動パターンの選択は、変動期間（動的表示期間）の選択と言い換えることもできる。このように構成することで、１の当否判定結果が表示されるまでの期間を設計上で設定しておくことができるので、時間当たりに抽選される回数を制限することが可能となり、遊技の射幸性を調整して設計することができる。

【６８０４】

確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２は、確変遊技状態、時短遊技状態である場合に変動パターンを選択するための変動パターンテーブルとして選択されるものであり、確変遊技状態、時短遊技状態のそれぞれに対応して、当否判定結果、現在の保留個数、変動種別カウンタＣＳ１の値とに対応して複数の変動パターンがそれぞれ設定されている。なお、確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２に設定されている変動パターンは、通常用１９テーブルに設定されている変動パターンよりも変動時間が短く設定されており、短時間に多くの抽選を実行させることが可能となっている。

【６８０５】

次に、図６２８（ｂ）を参照して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３について説明する。図６２８（ｂ）は、この天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３の内容を模式的に示した模式図である。この天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３は、大当たり遊技が実行された後の特別図柄の変動回数（大当たり遊技が実行されていない遊技機では遊技開始から特別図柄の変動回数）が３５０回、４００回、４５０回である場合に選択されるテーブルである。なお、選択するための変動回数の判別は、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に基づいて選択される。

【６８０６】

天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３は、特別図柄の当否判定結果（当たり、特殊当たり、小当たり、外れ（時短図柄当選時）、外れ）に対応してそれぞれ変動種別カウンタＣＳ１の値が割り当てられており、その変動種別カウンタＣＳ１の値に対応して複数の変動パターンがそれぞれ設定されている。天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３で選択される各変動パターンでは、先に説明した天井煽り用の演出（図６２４および６２５）が実行されるよう

に構成されている。
【６８０７】
次に、図６２８（ｂ）を参照して、天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４について説明する。図６２８（ｂ）は、この天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４の内容を模式的に示した模式図である。天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４は、天井遊技状態が設定される規定回数に特別図柄の変動回数が達し、その次の特別図柄の変動が実行される際（即ち、５０１回目）に選択される変動パターンテーブルである。
【６８０８】
天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４は、特別図柄の当否判定結果（当たり、特殊当たり、当たりおよび特殊当たり以外）に対応してそれぞれ変動種別カウンタＣＳ１の値が割り当てられており、その変動種別カウンタＣＳ１の値に対応して複数の変動パターンがそれぞれ設定されている。天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４で選択される各変動パターンでは、先に説明した天井到達時用の演出（図６２３）が実行されるように構成されている。
【６８０９】
次に、図６２９（ａ）を参照して、時短当たり種別選択１９テーブル２０２ｓｉについて説明する。図６２９（ａ）は、時短当たり種別選択１９テーブル２０２ｓｉの内容を模式的に示した模式図である。この時短当たり種別選択１９テーブル２０２ｓｉは、当否判定の抽選において、時短図柄当選した場合に、天井時短遊技状態が継続して設定される特別図柄の変動回数（時短回数）を選択するためのデータテーブル（抽選テーブル）である。始動入賞時に取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応して時短図柄の種別がそれぞれ設定されている。
【６８１０】
詳細には、図６２９（ａ）に示すように、第１当たり種別カウンタＣ２の値が０である場合には時短図柄Ａ（時短回数１００回）が選択され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が１～１９である場合には時短図柄Ｂ（時短回数５０回）が選択され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が２０～９９である場合には時短図柄Ｃ（時短回数３０回）が選択されるように構成されている。
【６８１１】
次に、図６２９（ｂ）を参照して、変動パターンシナリオ１９テーブルｓｊについて説明する。図６２９（ｂ）は、変動パターンシナリオ１９テーブルｓｊの内容を模式的に示した模式図である。この変動パターンシナリオ１９テーブルｓｊは、大当たり遊技が実行されてからの特別図柄の変動回数（特図抽選カウンタ２０３ｌａの値）に基づいて変動パターンテーブルを選択するためのデータが規定されたデータテーブルである。このシナリオテーブルは、天井遊技状態に未到達時である場合には、天井未到達に対応したシナリオテーブルが後述するシナリオ格納エリア２０３ｓｂに格納されて、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に基づいて変動パターン種別が選択される。一方、天井遊技状態に到達し、設定された時短遊技状態（天井遊技状態）が終了した場合には、天井到達に対応したシナリオテーブルがシナリオ格納エリア２０３ｓｂに格納されて、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に基づいて変動パターン種別が選択される。
【６８１２】
図６２９（ｂ）に示すように、天井未到達時のシナリオは、通常状態（通常遊技状態）と通常状態以外とでそれぞれシナリオが設定されている。通常状態である場合には、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値（大当たり遊技後からの特別図柄の変動回数）が１～３４９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、３５０である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、３５１～３９９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、４００である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、４０１～４４９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、４５０である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、４５１～５００である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択されるように設定さ

れている。なお、通常状態以外である場合には、常に確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２が選択されるように設定されている。

【６８１３】

一方、天井到達時のシナリオは、通常状態（通常遊技状態）と通常状態以外とでそれぞれシナリオが設定されている。通常状態である場合には、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値（大当たり遊技後からの特別図柄の変動回数）が１である場合には、天井到達時用（天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４）が選択され、２～３４９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、３５０である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、３５１～３９９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、４００である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、４０１～４４９である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択され、４５０である場合には、天井煽り用（天井煽り用テーブル２０３ｓｂ３）が選択され、４５１～５００である場合には、通常用（通常用１９テーブル２０２ｓｂ１）が選択されるように設定されている。なお、通常状態以外である場合には、常に確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２が選択されるように設定されている。

【６８１４】

このように構成することで、天井到達時毎（大当たりの遊技後から特別図柄の変動回数が５００回実行される毎）にその次の変動パターンとして天井到達時専用の変動パターンとすることができ、遊技者に天井遊技状態へ移行することを分かり易く報知でき、いきなり大当たり遊技も実行されずに遊技状態が移行することへの違和感を抑制できる。

【６８１５】

また、図６２９に示した通り、天井未到達用の変動パターンシナリオも、天井到達用の変動パターンシナリオも、通常状態におけるシナリオと通常状態以外の遊技状態におけるシナリオとの２つが一組として構成されている。つまり、変動パターンシナリオを設定する（シナリオ格納エリア２２３ｓｂに格納する）際は、通常状態におけるシナリオと通常状態以外の遊技状態におけるシナリオとの２つを一組で設定する構成とし、通常状態の間は、設定されている一組のシナリオのうち通常状態用のシナリオを参照して特別図柄の抽選回数に対応する変動パターン選択テーブルの種別を特定する一方で、通常状態とは異なる遊技状態（確変状態や時短状態）の間は、設定されている一組のシナリオのうち通常状態以外用のシナリオを参照して特別図柄の抽選回数に対応する変動パターン選択テーブルの種別を特定する構成としている。つまり、遊技状態が途中で変更された場合（例えば、通常状態において時短図柄に当選して時短状態に変更された場合等）においても、変動パターンシナリオを参照する際の特別図柄の抽選回数（変動回数）をリセットせずに、設定されている一組のシナリオのうち対応する遊技状態用のシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定することができるので、他の遊技状態に移行せずに通常状態が続いた場合でも、時短状態に１又は複数回移行して通常状態が設定された場合であっても、通常状態に滞在している間は、前回の大当たり終了後からの特別図柄の抽選回数と、参照する変動パターン選択テーブルの種別との対応関係を共通化することができる。よって、通常状態が設定された経緯によらず、天井抽選回数までの残り回数が特定回数（１５０回、１００回、および５０回）となった場合に天井煽り用の変動パターンを選択することができ、天井煽り用の演出を実行することができる。よって、通常状態における演出態様を好適に設定することができる。

【６８１６】

次に、図６２６（ｂ）を参照して、本第１９制御例における主制御装置１１０のＲＡＭ２０３について説明する。本第１９制御例におけるＲＡＭ２０３は、第１６制御例に対して天井時短待機フラグ２０３ｓａと、シナリオ格納エリア２０３ｓｂとが追加されている店で相違している。同一の構成については、その説明を省略する。

【６８１７】

なお、特図抽選カウンタ２０３ｌａは、通常のラムクリアが実行されてもリセットがさ

れず、バックアップした値が保持されるように構成した。この特図抽選カウンタ２０３ｌａは、特殊ラムクリアとして、ラムクリアして電源投入後、電源断させ、５秒以内に再度ラムクリアして電源投入を行うことでリセットされるように構成されている。

【６８１８】

天井待機フラグ２０３ｓａは、特別図柄の変動回数が、天井遊技状態が設定される規定回数まで到達したことを示すフラグである。規定回数まで到達した場合にオンに設定され、天井遊技状態に移行した場合にオフに設定される。

【６８１９】

シナリオ格納エリア２０３ｐｂは、変動パターンシナリオ１９テーブルより取得した天井未到達用のシナリオか、天井到達用のシナリオを格納するためのエリアである。ラムクリアされても、特殊ラムクリアが実行されるまで情報がバックアップされて保持される領域である。

【６８２０】

次に、図６３０を参照して、本第１９制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３について説明する。図６３０は、ＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図６３０に示した通り、本第１９制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１６制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図５２０（ｂ）参照）に対して、時短表示回数カウンタ２２３ｓａと、天井到達済みフラグ２２３ｓｂと、が追加されている点で相違している。

【６８２１】

時短表示回数カウンタ２２３ｓａは、時短状態の表示上の残りの抽選回数を示すカウンタであり、時短状態が設定される際に、当該設定される時短状態の時短回数に対応するカウンタ値が設定される。また、例外的に、時短図柄当選に基づいて設定される時短状態中に天井抽選回数に到達する可能性がある（当たりに当選しなければ時短回数内に天井抽選回数に到達する）場合は、時短図柄当選に基づく時短状態が開始されてから天井抽選回数到達に基づいて設定される時短状態が終了するまでの判別回数に応じたカウンタ値が設定される（図６３６のＳ３４５５８Ａ，Ｓ３４５５９Ａ参照）。時短状態が継続している間は、この時短表示回数カウンタ２２３ｓａのカウンタ値に応じた時短回数が残りの時短回数として第３図柄表示装置８１に表示される。

【６８２２】

天井到達済フラグ２２３ｓｂは、前回の大当たり終了後に天井抽選回数到達に基づく時短状態（天井遊技状態）に１回以上移行済みであるか否かを示すフラグである。この天井到達済フラグ２２３ｓｂがオンであれば、天井遊技状態に移行済みであることを意味し、オフであれば、天井遊技状態が未設定であることを意味する。この天井到達済フラグ２２３ｓｂは、初期値がオフに設定されており、天井抽選回数に到達した場合にオンに設定される（図６３５のＳ３４５２１Ａ参照）。天井煽り用の変動パターンが変動パターンコマンドにより通知された場合は、この天井到達済フラグ２２３ｓｂの状態を参照して、天井煽り用の演出として天井未到達時用の演出態様（図６２４（ａ），（ｂ）参照）を設定するか、１回以上天井遊技状態が終了した場合用の演出態様（図６２５参照）を設定するかが切り替えられる（図６３７のＳ３４５７３Ａ参照）。

【６８２３】

＜第１９制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図６３１～６３３を参照して、本第１９制御例における主制御装置１１０により実行される制御処理について説明する。なお、第１６制御例と同一の内容については、その図示と説明を省略する。

【６８２４】

図６３１は、第１９制御例における主制御装置１１０により実行される天井判定処理１９（Ｓ８３２１Ａ）の制御処理の内容を示したフローチャートである。この天井判定処理１９は、天井遊技状態が設定される規定回数まで特図抽選カウンタ２０３ｌａ（大当たり遊技後の特別図柄の変動回数）が到達したかを判別して、到達した場合には、天井遊技状態を設定するための処理が実行される。

【６８２５】
天井判定処理１９が実行されると、まず、遊技状態格納エリア２０３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ３８１０１）、現在の遊技状態が特別図柄の低確率状態であるかを判別する（Ｓ３８１０２）。特別図柄の低確率状態であると判別した場合は（Ｓ３８１０２：Ｙｅｓ）、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値の１を加算し（Ｓ３８１０３）、天井時短待機フラグ２０３ｓａがオンであるか判別される（Ｓ３８１２１Ａ）。この天井時短待機フラグ２０３ｓａは、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が規定回数である５００となった場合にオンに設定されるフラグであり、天井遊技状態を設定するための規定回数まで特別図柄の変動が実行されたことを示している（オンである場合）。天井時短待機フラグ２０３ｓａがオフである場合には（Ｓ３８１２１Ａ：Ｎｏ）、加算後の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達したかを判別する（Ｓ３８１０４）。
【６８２６】
Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００に到達していないと判別した場合は（Ｓ３８１０４：Ｎｏ）、現在の特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報を含む状態コマンドを設定し（Ｓ３８１０５）、本処理を終了する。Ｓ３８１０５の処理によって設定された状態コマンドは、上述した第５制御例にて設定される他の状態コマンドと同様に音声ランプ制御装置１１３へと出力される。音声ランプ制御装置１１３側では、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す状態コマンドを受信した場合に、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が更新される。これにより、音声ランプ制御装置１１３側においても、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値、即ち、ハマリ回数を判別可能となる。
【６８２７】
一方、Ｓ３８１０４の処理において、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値が５００であると判別した場合には（Ｓ３８１０４：Ｙｅｓ）、遊技状態格納エリア２０３ｇに第３時短状態を示すデータを設定し（Ｓ３８１１２Ａ）、今回の時短抽選に基づく情報をクリアする処理を実行し（Ｓ３８１１３Ａ）、第３時短状態を示す情報と、時短回数（１００回）を示す情報とを含む状態コマンドを設定する（Ｓ３８１１４Ａ）。特図抽選カウンタ２０３ｌａの値に１加算して更新し（Ｓ３８１２４Ａ）、天井時短待機フラグ２０３ｓａをオンに設定して（Ｓ３８１２５Ａ）、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに天井到達後用のシナリオを変動パターンシナリオ１９テーブル２０２ｓｊから選択して設定する（Ｓ３８１２６Ａ）。大当たり３信号（ＣＮ９）を０．２秒間出力するように設定する（Ｓ３８１７Ａ）。その後、この処理を終了する。
【６８２８】
一方、Ｓ３８１２１Ａの処理において、天井時短待機フラグ２０３ｓａがオンであると判別された場合には（Ｓ３８１２１Ａ：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈに１００を設定し（Ｓ３８１２２Ａ）、天井待機フラグ２０３ｓａおよび天井時短フラグ２０３ｐａをオンに設定し（Ｓ３８１２３Ａ）、この処理を終了する。
【６８２９】
次に、図６３２を参照して、本第１９制御例における主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理について説明する。図６３２は、この立ち上げ処理を示すフローチャートである。なお、図１６６を参照して説明した内容を重複する部分があるが、理解を容易にするために再度説明する。
【６８３０】
この立ち上げ処理は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理（図６３２）では、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｓ１７０１）。例えば、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（本制御例では１秒）を実行する（Ｓ１７０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｓ１７０３）。
【６８３１】

その後は、設定キーがオン位置まで回された状態であるか判別する（Ｓ１７５１Ａ）。設定キーがオン位置である場合には、設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）の処理を実行した後に、処理を終了する。なお、設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）については、詳細を後述するが、ＲＡＭクリアの操作がされている場合には、初期化の処理がされた後に、遊技機の設定（１～６）に関する処理が実行される。一方、設定キーがオフ位置である場合には、Ｓ１７０４の処理を実行する。Ｓ１７０４の処理では、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１２１参照）がオンされているか否かを判別し（Ｓ１７０４）、オンされていれば（Ｓ１７０４：Ｙｅｓ）、処理をＳ１７１２へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１７０５）、記憶されていなければ（Ｓ１７０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＳ１７１２へ移行する。

【６８３２】

ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｓ１７０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｓ１７０７：Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＳ１７１２へ移行する。なお、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。

【６８３３】

Ｓ１７１２の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｓ１７１２）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２０３の初期化処理として使用ＲＡＭ領域のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期化（クリア）処理（Ｓ１７５３Ａ）を実行する。その後、ＲＡＭ２２２のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期設定として、初期データが設定される（Ｓ１７５４Ａ）。

【６８３４】

上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、ＲＡＭ２０３の初期化処理として使用ＲＡＭ領域のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期化（クリア）処理（Ｓ１７５３Ａ）を実行する。その後、ＲＡＭ２２２のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期設定として、初期データが設定される（Ｓ１７５４Ａ）。その後、Ｓ１７１０の処理を実行する。

【６８３５】

また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、Ｓ１７１２，Ｓ１７５３Ａ，Ｓ１７５４Ａの処理を実行した後にＳ１７１０の処理へ移行する。

【６８３６】

一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｓ１７０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータを保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｓ１７０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｓ１７０９）、Ｓ１７２１Ａの処理へ移行する。Ｓ１７２１Ａの処理では、立ち上げ時信号出力処理（Ｓ１７２１Ａ）が実行される。この立ち上げ時信号出力処

理（Ｓ１７２１Ａ）については、上述した第１６制御例における図５３３の処理と同一の処理であるので、その図示と説明を省略する。

【６８３７】

立ち上げ時信号出力処理（Ｓ１７２１Ａ）の実行後には、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を示す情報を含む状態コマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信する処理（Ｓ３１７０１）と、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納されている情報を含む状態コマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信する処理（Ｓ３１７０２）が実行される。

【６８３８】

次に、音声ランプ制御装置１１３に対して、各種演出を実行することを許可する演出許可コマンドを出力する（Ｓ１７１０）。その後、割込みを許可し（Ｓ１７１１）、後述するメイン処理に移行する。

【６８３９】

次に、図６３３を参照して、本第１０制御例における主制御装置１１０に実行される立ち上げ処理（図６３２）内の一処理である設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）について説明する。図６３３は、この設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）の制御内容を示したフローチャートである。設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）では、主に遊技機の設定を変更、確認するための処理が実行される。

【６８４０】

まず、設定値制御処理（Ｓ１７５２Ａ）では、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオン（操作されている）か判別される（Ｓ１７６１Ａ）。ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンであると判別された場合には（Ｓ１７６１Ａ：Ｙｅｓ）、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信し（Ｓ１７１２）、ＲＡＭ２０３の初期化処理として使用ＲＡＭ領域のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期化（クリア）処理（Ｓ１７６３Ａ）を実行する。その後、ＲＡＭ２２２のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａおよびシナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の領域を初期設定として、初期データが設定される（Ｓ１７６４Ａ）。

【６８４１】

その後、設定の変更が実行される状態であることを示すための設定変更状態を示す状態コマンドが設定される（Ｓ１７６５Ａ）。設定スイッチがオンであるか判別する（Ｓ１７６６Ａ）。設定スイッチがオンであると判別した場合には（Ｓ１７６６Ａ：Ｙｅｓ）、設定値格納エリアのデータを設定された設定種別に更新する（Ｓ１７６７Ａ）。設定キーはオフ位置であるか判別され（Ｓ１７６８Ａ）、設定キーがオフ位置であると判別された場合には（Ｓ１７６８Ａ：Ｙｅｓ）、この処理を終了する。一方、設定キーがオン位置であると判別された場合には（Ｓ１７６８：Ｎｏ）、Ｓ１７６６Ａ，Ｓ１７６７ＡおよびＳ１７６８Ａまでの処理を設定キーがオフ位置となるまで繰り返し実行される。

【６８４２】

一方、Ｓ１７６１Ａの処理においてＲＡＭ消去スイッチがオフであると判別した場合には（Ｓ１７６１Ａ：Ｎｏ）、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｓ１７６９Ａ）、設定値格納エリアのデータを読み出し（Ｓ１７７０Ａ），読み出したデータに対応する設定値を設定表示装置に表示し（Ｓ１７７１Ａ）、設定確認状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ１７７２Ａ）、設定キーがオフであるか判別する（Ｓ１７７３Ａ）。設定キーがオフ位置であると判別した場合には（Ｓ１７７３Ａ：Ｙｅｓ）、この処理を終了する。設定キーがオン位置であると判別した場合には（Ｓ１７７３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ１７７３Ａの処理が、設定キーがオン位置となるまで繰り返し実行される。

【６８４３】

次に、図６３４～図６３７を参照して、本第１９制御例における音声ランプ制御装置１１３により実行される制御処理について説明する。なお、第１６制御例と同一の内容については、図示とその説明は省略する。

【６８４４】
図６３４を参照して、音声ランプ制御装置１１３により実行される演出態様設定処理１９（Ｓ５００１Ａ）について説明する。図６３４は、この演出態様設定処理１９（Ｓ５００１Ａ）の制御処理の内容を示したフローチャートである。
【６８４５】
この演出態様設定処理１９（Ｓ５００１）は、特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定するための処理が実行されるものであって、演出態様を設定する対象となる特別図柄抽選の結果や、設定されている遊技状態に応じて、様々な演出態様を設定するための処理が実行される。
【６８４６】
演出態様設定処理１９（Ｓ５００１Ａ）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいか、即ち、現在が第２時短状態、或いは、第３時短状態であるかを判別し（Ｓ３４４０１）、０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ３４４０１：Ｎｏ）、通常モード用演出設定処理１９を実行し（Ｓ３４４３１Ａ）、その後、本処理を終了する。
【６８４７】
一方、Ｓ３４４０１の処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ３４４０１：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果（判別結果）が大当たりであるか判別し（Ｓ３４４３２Ａ）、大当たりであると判別した場合には（Ｓ３４４３２Ａ：Ｙｅｓ）、大当たり当選を示す演出態様を設定し（Ｓ３４３３Ａ）、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、この処理を終了する。一方、Ｓ３４４３２Ａの処理において、抽選結果が大当たり以外であると判別した場合には（Ｓ３４４３２：Ｎｏ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値を１減算し（Ｓ３４４０３）、天井到達時用の変動パターンが設定されているか判別し（Ｓ３４４３４Ａ）、天井到達時用の変動パターンが設定されていると判別した場合には（Ｓ３４４３４Ａ：Ｙｅｓ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータに基づいて天井到達時用の演出態様を設定し（Ｓ３４４３５Ａ）、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、本処理を終了する。
【６８４８】
一方、天井到達時用の変動パターンでないと判別した場合（Ｓ３４４３４Ａ：Ｎｏ）、時短表示回数カウンタの値が０より大きい値であるか、即ち、演出上の残時短回数が０より大きい値であるか判別する（Ｓ３４４３６Ａ）。時短表示回数カウンタの値が０以下であると判別した場合には（Ｓ３４４３６Ａ：Ｎｏ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０であるか判別し（Ｓ３４４３７：Ｙｅｓ）、０であると判別した場合には（Ｓ３４４３７Ａ：Ｙｅｓ）、チャンスタイム（時短遊技状態）が終了することを示す演出態様を決定し（Ｓ３４４３８Ａ）、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、本処理を終了する。一方、Ｓ３４４３７Ａの処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０でないと判別した場合には（Ｓ３４４３７Ａ：Ｎｏ）、チャンスタイムの終了を回避する演出態様（ウサギのキャラクタが雲の穴か落ちない演出態様等（図６２０（ｂ）参照））決定され（Ｓ３４４３９Ａ）、Ｓ３４４０７の処理が実行された後に、本処理を終了する。
【６８４９】
また、Ｓ３４４３６Ａの処理において、時短表示回数カウンタ２２３ｓａの当たりが０より大きい値であると判別した場合には（Ｓ３４４３６Ａ：Ｙｅｓ）、時短表示回数カウンタ２２３ｓａの値を１減算し、減算後の時短表示回数カウンタ２２３ｓａの値を示すための表示用コマンドを設定する（Ｓ３４４４１Ａ）。その後、時短表示回数カウンタ２２３ｓａの値が０であるか判別し（Ｓ３４４４２Ａ）、時短表示回数カウンタ２２３ｓａの値が０であると判別した場合には（Ｓ３４４４２：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１０より大きい値であるか判別し（Ｓ３４４４４Ａ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１０より大きい値であると判別した場合には（３４４４４Ａ：Ｙｅｓ）、時短回数として時短中カウンタの値以下の１０の倍数のうち、最大の値が上乗せされる演出態様を決定する（Ｓ３４４４８Ａ）。その後、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、本処理を終

了する。Ｓ３４４０７の処理では、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドが設定される。

【６８５０】

一方、Ｓ３４４４２Ａの処理において、時短表示回数カウンタ２２３ｓａの値が０でないと判別した場合には（Ｓ３４４４２Ａ：Ｎｏ）、受信した変動パターンに応じたチャンスタイム用の演出態様を決定し（Ｓ３４４４３Ａ）、その後、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、本処理を終了する。また、Ｓ３４４４４Ａの処理において、時短中カウンタ２２３ｄａの値が１０以下であると判別した場合には（Ｓ３４４４４Ａ：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｄａの値が０であるか判別し（Ｓ３４４４５Ａ）、０である場合には（Ｓ３４４４５Ａ：Ｙｅｓ）、チャンスタイム（時短遊技状態）が終了することを示す演出態様が決定される（Ｓ３４４４７Ａ）。その後、Ｓ３４４０７の処理が実行され、本処理を終了する。一方、Ｓ３４４４５Ａの処理において、時短中カウンタ２２３ｄａが０でないと判別した場合には（Ｓ３４４５Ａ：Ｎｏ）、終了待機ゾーン（図６２０（ｂ）参照）への移行を示す演出態様を決定する（Ｓ３４４６Ａ）。その後、Ｓ３４４０７の処理を実行した後に、本処理を終了する。

【６８５１】

次に、図６３５を参照して、先に説明した演出態様設定処理１９（Ｓ５００１：図６３４）内の一処理である通常モード用演出設定処理（Ｓ３４４３１Ａ）の処理について説明する。図６３５は、この通常モード用演出設定処理（Ｓ３４４３１Ａ）の制御処理の内容を示したフローチャートである。この通常用演出設定処理（Ｓ３４４３１Ａ）では、天井遊技状態が設定されるまでに実行される演出態様を設定するための処理が実行される。

【６８５２】

通常モード用演出設定処理１９（Ｓ３４４３１Ａ）では、まず、時短示唆演出選択テーブル２２２ｐｂを読み出し（Ｓ３４５１１Ａ）、特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値と、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータとに対応する示唆演出の演出態様を決定する（Ｓ３４５１２Ａ）。特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値は天井遊技状態が設定される規定回数を示す５００であるか判別する（Ｓ３４１３Ａ）。特図抽選回数カウンタ２２３ｌｃの値が５００である場合には（Ｓ３４５１３Ａ：Ｙｅｓ）、天井遊技状態を設定するための規定回数に特別図柄の変動回数が達しているので、天井遊技状態に移行することを示すための天井到達済フラグ２２３ｓｂをオンに設定した後に、Ｓ３４５１８Ａの処理へと移行する。

【６８５３】

一方、Ｓ３４５１３Ａの処理において、特図抽選カウンタ２２３ｌｃの値が５００でない場合には（Ｓ３４５１３Ａ：Ｎｏ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂのデータを読み出し（Ｓ３４５１４Ａ）、前回の通常ボーナス後の抽選回数は５００であるか判別する（Ｓ３４５１５Ａ）。抽選回数が５００であると判別した場合には（Ｓ３４５１５Ａ：Ｙｅｓ）、Ｓ３４５１８Ａの処理へ移行する。一方、Ｓ３４５１５Ａの処理において、抽選回数が５００でないと判別した場合には（Ｓ３４５１５Ａ：Ｎｏ）、最古の小ボーナス後の抽選回数は５００であるか判別する（Ｓ３４５１６Ａ）。抽選回数が５００でないと判別した場合には（Ｓ３４５１６Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３４５２２の処理へ移行する。一方、抽選回数が５００であると判別した場合には（Ｓ３４５１６Ａ：Ｙｅｓ）、ボーナス履歴格納エリア２２３ｐｂから最古の小ボーナスの履歴を削除し（Ｓ３４５１７）、Ｓ３４５１８の処理へ移行する。

【６８５４】

Ｓ３４５１８Ａの処理では、右打ち遊技を行わないように促す表示態様を設定し（Ｓ３４５１８Ａ）、Ｓ３４５２２Ａへ移行する。Ｓ３４５２２Ａでは、変動パターン設定処理が実行される（Ｓ３４５２２Ａ）。その後、決定した演出態様に応じて連動演出フラグ２２３ｐｅを更新し（Ｓ３４５２０Ａ）、本処理を終了する。なお、変動パターン設定処理（Ｓ３４５２２Ａ）については、図６３６を参照して、詳細を後述する。

【６８５５】

次に、図６３６を参照して、先に説明した通常用演出設定処理１９（Ｓ３４４３１：図６３５）内の一処理である変動パターン設定処理（Ｓ３４５２２）について説明する。図６３６は、この変動パターン設定処理（Ｓ３４５２２Ａ）の制御処理の内容を示したフローチャートである。

【６８５６】

変動パターン設定処理（Ｓ３４５２２Ａ）では、まず、特別図柄の当否判定結果は、時短図柄当選であるか判別する（Ｓ３４５５１Ａ）。当否判定結果が時短図柄当選であると判別した場合には（Ｓ３４５５１Ａ：Ｙｅｓ）、今回の時短図柄に対応する時短回数は、天井抽選回数（天井遊技状態が設定される規定回数）までの残回数以上であるか判別する（Ｓ３４５５３Ａ）。残回数以上であると判別された場合には（Ｓ３４５５３Ａ：Ｙｅｓ）時短回数カウンタに天井時短（天井遊技状態）が終了するまでの特別図柄の抽選回数を示す値を設定する（Ｓ３４５５６Ａ）。時短回数カウンタの値が１５０未満であるか判別する（Ｓ３４５５７Ａ）。時短回数カウンタの値が１５０未満であると判別した場合には（Ｓ３４５５７Ａ：Ｙｅｓ）、時短回数１５０回が報知される演出態様を決定し（Ｓ３４５５９Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ３４５５７Ａの処理において、時短回数カウンタの値が１５０未満でないと判別した場合には（Ｓ３４５５７Ａ：Ｎｏ）、時短回数１００回が報知される演出態様を決定し（Ｓ３４５５８Ａ）、本処理を終了する。

【６８５７】

また、Ｓ３４５５３Ａの処理において、今回の時短図柄に対応する時短回数は、天井抽選回数（天井遊技状態が設定される規定回数）までの残回数以上でないと判別した場合には（Ｓ３４５５３Ａ：Ｎｏ）、時短図柄に対応する時短回数が報知される演出態様を決定し（Ｓ３４５５４Ａ）、時短回数カウンタに選択された時短図柄Ａ～Ｃのいずれかに対応する時短回数の値を設定する（Ｓ３４５５５Ａ）。その後、本処理を終了する。

【６８５８】

Ｓ３４５５１Ａの処理において、時短図柄当選でないと判別した場合には（Ｓ３４５５１Ａ：Ｎｏ）、天井関連演出設定処理を実行する（Ｓ３４５５２Ａ）。

【６８５９】

図６３７は、音声ランプ制御装置１１３により実行される天井関連演出設定処理（Ｓ３４５５２Ａ）の内容を示したフローチャートである。この天井関連演出設定処理（Ｓ３４５５２Ａ）では、受信した変動パターンコマンドが天井煽り用の変動パターンである場合に、天井到達済みフラグにより天井遊技状態に既に移行したことがあるか否かを判別して、対応した演出態様を実行するための設定が実行される。

【６８６０】

まず、天井関連演出設定処理（Ｓ３４５５２）では、受信した変動パターンコマンドが天井煽り用の変動パターンであるか判別する（Ｓ３４５７１Ａ）。天井煽り用の変動パターンであると判別した場合には（Ｓ３４５７１Ａ：Ｙｅｓ）、天井遊技状態に移行したことがあるか否かを示す天井到達済みフラグ２２３ｓｂがオンであるは判別する（Ｓ３４５７４Ａ）。天井到達済みフラグ２２３ｓｂがオンであると判別した場合には（Ｓ３４５７３Ａ：Ｙｅｓ）、再天井に対応する天井煽り用の演出態様を抽選により決定する。ここでは、図６２５に示したような演出態様が決定される。その後、この処理を終了する。

【６８６１】

一方、Ｓ３４５７１Ａの処理において、天井煽り用の変動パターンでないと判別した場合には（Ｓ３４５７１Ａ：Ｎｏ）、受信した変動パターンコマンドに対応した変動パターンを選択し、この処理を終了する。Ｓ３４５７３Ａの処理において天井到達済フラグ２２３ｓｂがオフであると判別した場合には（Ｓ３４５７３Ａ：Ｎｏ）、初回の天井に対応した天井煽り用の演出態様（図６２４参照）が決定され（Ｓ３４５７５Ａ）、この処理を終了する。

【６８６２】

以上説明した通り、第１９制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄の抽選で規定回数（例えば、５００回）に渡って連続して大当たりとならなかった場合、および特別図

柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、直接的に（大当たり遊技を介さずに）時短遊技状態を設定する仕様を前提として、時短図柄当選に基づく変動表示演出の実行中に、変動表示態様の一種として、時短回数を報知（示唆）する演出を実行する構成としている。そして、時短図柄に当選し、当該時短図柄当選に基づいて直接的に設定される時短状態の時短回数（大当たりに当選しない場合に時短状態が終了される特別図柄の変動回数）が、天井抽選回数までの残りの抽選回数よりも多い（時短図柄当選に基づいて設定される時短状態の時短回数内で天井抽選回数に到達する）場合には、報知（示唆）される時短回数として、時短図柄当選に基づいて設定される時短回数よりも多い時短回数が報知され得る特殊な演出制御を実行するように構成した。より具体的には、時短状態において大当たりに当選しないと仮定した場合に、時短図柄当選から実際に時短状態が途切れる（通常状態に移行する）までの特別図柄の抽選回数（つまり、時短図柄当選に基づく時短状態中に天井抽選回数に到達する場合は、天井抽選回数到達に基づく時短状態が終了するまでの抽選回数）を加味して見た目上の時短回数を報知する構成としている。このように構成することで、時短図柄当選に基づいて設定される時短回数よりも多い時短回数を報知可能なケースを発生させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６８６３】

また、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたとしても、天井抽選回数までの残りの抽選回数がクリアされることを抑制すると共に、変動パターン群（変動パターン選択テーブル）を切り替え設定するためのカウンタ値のデータも保持する（変動パターンシナリオの進行状況を保持する）ように構成している。このように構成することで、ＲＡＭクリア等の処理が実行された場合であっても特別図柄の変動が規定回数実行された（天井抽選回数に到達した）場合に時短状態を設定することができる上に、ＲＡＭクリア操作の有無によらず、天井抽選回数までの各変動回数において好適な変動パターン選択テーブル（変動パターン群）を用いて変動パターン（変動時間）を設定することができる。よって、天井抽選回数に到達するまでの間、段階的に期待感を高めていく遊技性を、ＲＡＭクリア操作の有無によらず実現することができる。また、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたとしても天井抽選回数までの残りの抽選回数が増加することがないため、ＲＡＭクリア操作が行われた可能性が高いパチンコ機１０（例えば、前日のホールの閉店時に通常状態以外の有利な状態となっていた場合等）において遊技を敬遠されてしまうことを抑制することができる。

【６８６４】

また、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、大当たりが終了し、新たな変動パターンシナリオが設定されたことを契機として、変動パターンシナリオの進行状況（特別図柄の抽選（変動）回数）を管理するための特定のカウンタ（特図抽選カウンタ２０３ｌａ）のカウンタ値を特定の更新条件（特別図柄の抽選の実行条件）が成立する毎に更新していき、特定のカウンタの値が予め定められた規定回数（天井抽選回数）に対応するカウンタ値（第１のカウンタ値）に更新された場合に、新たな変動パターンシナリオを設定する制御（特定の制御）を実行すると共に特定のカウンタの値を第１のカウンタ値未満の値である第２のカウンタ値（例えば、０）に更新する構成としている。より具体的には、大当たりに当選する毎に特定のカウンタの値を０クリアすると共に、新たな変動パターンシナリオを設定し、特別図柄の抽選が実行される毎に、特定のカウンタの値を１ずつ加算して更新していき、特定のカウンタの値が天井抽選回数に対応する５００に更新されたことに基づいて特定のカウンタの値を０クリアすると共に特定の制御を実行する構成としている。より詳述すると、特別図柄の変動回数が大当たりの判定がされることなく、規定回数（天井抽選回数）に到達し、その次の特別図柄の変動表示が停止する毎に時短遊技状態（天井遊技状態）が大当たり遊技を経ずに設定される構成を前提として、天井抽選回数に到達することで天井抽選回数までの残り回数がリセットされるように構成した。つまり、天井抽選回数に到達した後において、更に天井抽選回数分の特別図柄の抽選が実行されることで、再度、時短遊技状態（天井遊技状態）が設定されるように構成した。これにより、天井抽選回数到達に基づいて設定された時短遊技状態の間に大当たりに当選することがで

きずに通常状態に移行（転落）してしまったとしても、再度天井抽選回数に到達すること（再度の天井発動）を遊技者に目指させることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下し難い遊技性を実現することができる。また、これに伴って、本第１９制御例では、天井抽選回数に到達したことに基づいて変動パターンシナリオを再設定する構成とした。つまり、天井抽選回数に到達したことに基づいて、次の天井抽選回数到達までに渡る各変動回数と、参照する変動パターン選択テーブルと、の対応関係を再設定する構成とした。このように構成することで、天井抽選回数に未到達であるか、１回以上天井抽選回数に到達して時短状態をスルーしたかによらず、天井抽選回数までの残りの抽選回数が特定回数（残り１５０回、１００回、および５０回）となった場合に特殊な変動パターンを選択することができる。つまり、天井抽選回数までの残りの抽選回数が特定回数となった場合に天井煽り演出を実行することができるので、１回以上天井抽選回数に到達したか否かによらず、天井抽選回数に到達するまでの間に遊技者の期待感を段階的に向上させていく遊技性を実現することができる。

【６８６５】

また、本第１９制御例におけるパチンコ機１０では、変動パターンシナリオ（変動パターンを選択するための変動パターン選択テーブルの種別と、特別図柄の抽選回数との対応関係を規定したデータテーブル）として、通常状態におけるシナリオと通常状態以外の遊技状態におけるシナリオとを一組で設定する（シナリオ格納エリア２２３ｓｂに格納する）構成とし、通常状態の間は、設定されている一組のシナリオのうち通常状態用のシナリオを参照して特別図柄の抽選回数に対応する変動パターン選択テーブルの種別を特定する一方で、通常状態とは異なる遊技状態（確変状態や時短状態）の間は、設定されている一組のシナリオのうち通常状態以外用のシナリオを参照して特別図柄の抽選回数に対応する変動パターン選択テーブルの種別を特定する構成としている。つまり、遊技状態が途中で変更された場合（例えば、通常状態において時短図柄に当選して時短状態に変更された場合等）においても、変動パターンシナリオを参照する際の特別図柄の抽選回数（変動回数）をリセットせずに、設定されている一組のシナリオのうち対応する遊技状態用のシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定することができるので、他の遊技状態に移行せずに通常状態が続いた場合でも、時短状態に１又は複数回移行して通常状態が設定された場合でも、通常状態に滞在している間は、前回の大当たり終了後からの特別図柄の抽選回数と、参照する変動パターン選択テーブルの種別との対応関係を共通化することができる。よって、通常状態が設定された経緯によらず、天井抽選回数までの残り回数が特定回数（１５０回、１００回、および５０回）となった場合に天井煽り用の変動パターンを選択することができ、天井煽り用の演出を実行することができる。言い換えれば、本第１９制御例では、変動毎に通常状態用の変動パターンシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定する制御を実行する状態（通常状態）において、遊技状態の変更条件が成立した場合に、変動毎に変更後の遊技状態に対応する変動パターンシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定する制御を実行し、変更後の遊技状態の終了条件が成立して再度通常状態に戻る場合は、通常状態用の変動パターンシナリオにおける遊技状態が変更されていた間に実行された特別図柄の抽選回数を加味した特別図柄の抽選回数から、変動パターン選択テーブルの特定を再開する構成としている。つまり、他の遊技状態に設定されたタイミングおよび抽選回数によらず、通常状態が設定されており、前回の大当たり（若しくは天井抽選回数への到達）後の特別図柄の抽選回数が共通であれば、同じ変動パターン選択テーブルを参照して変動パターンを選択する構成としている。これにより、通常状態が設定された経緯によらず、天井抽選回数までの残り回数が特定回数（１５０回、１００回、および５０回）となった場合に天井煽り用の変動パターンを選択することができ、天井煽り用の演出を実行することができる。よって、通常状態における演出態様を好適に設定することができる。

【６８６６】

なお、本第１９制御例では、大当たり終了後、大当たりに当選せずに最初に天井抽選回数に到達した場合に設定される時短状態と、２回目以降に天井抽選回数に到達した場合に

設定される時短状態とで全く同一の有利度合いとなるように構成していたが、これに限られるものではなく、これらの有利度合いを異ならせる構成としてもよい。より具体的には、初回の天井遊技状態と２回目以降の天井遊技状態とで、時短回数を異ならせることで有利度合いを異ならせる構成としてもよいし、例えば、上述した第１７制御例のように、時短状態Ａ（主として有利度合いが低い第１特別図柄の抽選が実行される時短状態）と時短状態Ｂ（主として有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が実行される時短状態）とを設ける構成とし、初回の天井遊技状態と２回目以降の天井遊技状態とで設定される時短状態の種別を異ならせる構成とすることで有利度合いを異ならせる構成としてもよい。また、この場合において、初回の天井遊技状態よりも２回目以降の天井遊技状態を有利にしてもよいし、初回の天井遊技状態の方が有利となるように構成してもよい。２回目以降の天井遊技状態の方が有利度合いが高くなるように構成することで、１回目の天井遊技状態において大当たりに当選せずに通常遊技状態へと移行してしまったとしても、２回目のより有利度合いが高い天井遊技状態を目指させることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションを維持することができる。また、１回目の天井遊技状態の方が有利度合いが高くなるように構成することで、天井遊技状態をスルーした後において、次の天井抽選回数を心の支えとして、大当たりに当選するまで遊技を辞めない遊技方法の選択を抑制させることができる。よって、遊技者が遊技に過剰にのめり込んでしまうことを防止することができる。

【６８６７】

本第１９制御例では、設定変更が行われたか否かによらず、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合にも、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を電源遮断時の値のまま保持する構成とし、天井抽選回数までの残回数が増加しないように構成していた。即ち、ＲＡＭクリア操作を伴わない電源投入と、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入とで、電源投入後の天井抽選回数までの残りの抽選回数を共通とする構成としていたが、天井抽選回数までの残回数以外の要素についても共通化してもよい。具体的には、例えば、電源投入時における第１図柄表示装置３７の表示態様を共通化してもよい。より具体的には、例えば、電源が投入されてから少なくとも１回目の変動表示が開始されるまでの間において、第１図柄表示装置３７の表示を消去したり、共通の図柄を仮で表示させたり、第１図柄表示装置３７の前面に所定の可動役物を可動させることで第１図柄表示装置３７を隠す構成としてもよい。このように構成することで、単に電源が投入されただけであるのか、ＲＡＭクリア操作を伴って電源が投入されたのかをより判別し難くすることができる。この場合において、変動表示の実行中である状況下で電源が遮断され、単に電源投入のみを行った（即ち、ＲＡＭクリア操作が行われなかった）場合にも、変動表示を再開させずに上述した制御（第１図柄表示装置３７の表示を消去したり、共通の図柄を仮で表示させる制御）を実行してもよい。また、逆に、電源遮断時における特別図柄の状態（例えば、変動表示の実行中であるか否か等）を示す情報を、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われてもクリアされないように保持しておき、前回の電源遮断時に変動表示の実行中であったと判別される場合は、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合にも、電源投入時に第１図柄表示装置３７において変動表示が疑似的に再開されたかのような表示態様を設定する構成としてもよい。また、前回の電源遮断時が大当たり遊技状態であると判別される場合は、第１図柄表示装置３７において疑似的に大当たり遊技中であることを示す表示態様を設定する構成としてもよい。このように構成することで、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたのか、ＲＡＭクリア操作を伴わない電源投入が行われたのかを遊技者が判別し難くなるように構成することができるので、ＲＡＭクリア操作が行われたか否かを遊技者に予測させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６８６８】

本第１９制御例では、天井抽選回数に到達した場合に特図抽選カウンタ２０３ｌａの値を０にクリアすることで次の天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを再セットすると共に天井抽選回数までの残回数をリセットする構成としていたが、これに限られるも

のではない。例えば、変動パターンシナリオの進行状況を管理するためのカウンタを別で設け、天井抽選回数に到達した場合は変動パターンシナリオの進行状況を管理するためのカウンタを０にクリアするのではなく、特定値に戻す（例えば、天井抽選回数の半分である２５０に戻す）構成としてもよい。このように構成することで、初回の天井抽選回数到達までのシナリオとは大きく異なる変動パターンシナリオにすることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６８６９】

本第１９制御例では、大当たりが終了し、新たな変動パターンシナリオが設定されたことを契機として、特定のカウンタ（特図抽選カウンタ２０３ｌａ）のカウンタ値を特定の更新条件（特別図柄の抽選の実行条件）が成立する毎に更新していき、特定のカウンタの値が予め定められた規定回数（天井抽選回数）に対応するカウンタ値（第１のカウンタ値）に更新された場合に、新たな変動パターンシナリオを設定する制御（特定の制御）を実行すると共に特定のカウンタの値を第１のカウンタ値未満の値である第２のカウンタ値（例えば、０）に更新する構成としていたが、特定のカウンタは変動パターンシナリオの進行状況を管理するためのカウンタに限られるものではないし、特定の制御は変動パターンシナリオを設定する制御に限られるものではなく、パチンコ機１０に搭載されている他のカウンタおよび制御に本第１９制御例の制御を転用してもよい。例えば、特別図柄の抽選を実行するための第１当たり乱数カウンタＣ１を特定のカウンタに採用してもよいし、変動パターンを選択するための変動種別カウンタＣＳ１を特定のカウンタに採用してもよいし、音声ランプ制御装置１１３側において演出態様を選択するためのカウンタに採用してもよい。また、当たり遊技を実行する制御処理を特定の制御として採用してもよいし、変動パターンを選択する処理を特定の制御として採用してもよいし、変動パターンコマンドにより音声ランプ制御装置１１３に対して通知された変動種別に応じた演出態様を決定する制御を特定の制御として採用してもよいし、入賞情報コマンドにより音声ランプ制御装置１１３に対して通知された先読み結果に応じた演出態様を決定する制御を特定の制御として採用してもよい。

【６８７０】

本第１９制御例では、変動毎に通常状態用の変動パターンシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定する制御を実行する状態（通常状態）において、遊技状態の変更条件が成立した場合に、変動毎に変更後の遊技状態に対応する変動パターンシナリオを参照して変動パターン選択テーブルを特定する制御を実行し、変更後の遊技状態の終了条件が成立して再度通常状態に戻る場合は、通常状態用の変動パターンシナリオにおける遊技状態が変更されていた間に実行された特別図柄の抽選回数を加味した特別図柄の抽選回数から、変動パターン選択テーブルの特定を再開する構成としていたが、本制御は、変動パターンシナリオから変動パターン選択テーブルを特定する制御に限られるものではない。第１の制御と第２の制御とを所定の順序で実行している間に優先度が高い第３の制御の実行条件が成立した場合に、第１の制御および第２の制御よりも第３の制御を優先的に実行する状況が生じるものであれば採用することができる。例えば、楽曲等の音声を再生する制御の実行中に優先順位が高い音声の再生条件が成立した場合に、当該優先順位が高い音声を再生している間も、元々再生されていた楽曲を音量０の状態で再生させておき、優先順位が高い音声の再生が終了した時点で元々再生されていた楽曲の音量を通常の音量に戻すことで、優先順位が高い音声の出力期間も加味して元々再生されていた音声を続きから再生させる制御としてもよい。

【６８７１】

＜第２０制御例＞

次に、図６３８から図６４９を参照して、第２０制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１７制御例では、変動パターンシナリオとして、天井抽選回数に２回到達する回数（即ち、３００回）までの範囲の特別図柄の抽選回数に渡るシナリオを予め規定しておく構成とし、大当たりに当選せずに２回目の天井抽選回数に到達した場合は、特図抽選カウンタ２０３ｑａのカウンタ値を初回の天井抽選回数到達に対応するカウ

ンタ値（即ち、１５０）に更新する構成としていた。つまり、１度天井抽選回数に到達した後は、変動パターンシナリオのうち特図抽選回数が１５０回～３００回の範囲（天井抽選回数到達に基づく時短状態が発動してから次の天井抽選回数に到達するまでの抽選回数の範囲）のシナリオを繰り返すように構成することで、特別図柄の抽選回数が３００回を超える範囲の変動パターンシナリオを省略可能に構成し、ＲＯＭ２０２の記憶容量を削減する構成としていた。また、変動パターンシナリオから変動パターンを特定する際の特別図柄の抽選回数を判断するためのカウンタとして、天井抽選回数への到達有無を判別するための特図抽選カウンタ２０３ｑａを用いる構成とすることにより、ＲＡＭクリア操作（即ち、ＲＡＭクリアスイッチ１２２をオンにする操作）を伴う電源投入の有無によらず、特別図柄の変動回数と変動パターンシナリオの進行状況とを常に一致させる構成としていた。

【６８７２】

これに対して本第２０制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄の抽選回数をカウントするためのカウンタ（特図抽選カウンタ２０３ｑａ）と、変動パターンシナリオから変動パターンを特定する際の特別図柄の抽選回数を判断するためのカウンタ（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂ）とを別々に設ける構成とし、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンの状態でパチンコ機１０に対して電源が投入された場合には、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値のみがリセットされ、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値が保持されるように構成している。つまり、変動パターンシナリオの進行状況が電源遮断時の状態から保持されたまま、天井抽選回数までの残り回数のみがリセットされるように構成している。加えて、本第２０制御例では、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンの状態でパチンコ機１０に対して電源が投入された後における特別図柄の抽選で最初に大当たりとは異なる特定の抽選結果（例えば、小当たりに対応する抽選結果）となったことに基づいて、天井抽選回数までの抽選回数に渡る変動パターンシナリオを設定する構成としている。また、本第２０制御例では、電源投入後１回目の特別図柄の抽選を契機として確実に変動パターンシナリオを設定するために、上述した第１７制御例と同様に、第１特別図柄の抽選が大当たり又は小当たりのどちらかとなる仕様を採用している。より詳述すると、第１７制御例と同様に、所謂１種２種混合機の仕様を採用すると共に、第１特別図柄の抽選が実行されると１／５０（１８／９００）の確率で大当たりに当選し、１／４９（８７２／９００）の確率で賞球をほとんど得ることができない上にＶ入賞を発生させることも困難（不可能な）な種別の小当たりに当選する構成としている。このように構成することで、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンの状態でパチンコ機１０に対して電源が投入されてから１回第１特別図柄の抽選が実行されることにより、変動パターンシナリオを再セットすることができるので、天井抽選回数までに渡る変動パターン演出を好適に実行させることができる。

【６８７３】

この第２０制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１７制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１７制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１７制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【６８７４】

まず、図６３８を参照して、本第２０制御例における特徴的な演出態様について説明する。上述した通り、本第２０制御例では、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンされた状態でパチンコ機１０に対して電源が投入された場合に、天井抽選回数までの残回数はリセッ

トする一方で、変動パターンシナリオの進行状況は保持する構成とし、電源投入後、初回の小当たり当選に基づいて、天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオをセットする構成としている。また、上述した通り、本第２０制御例では、第１特別図柄の抽選が実行されると大当たりまたは小当たりのどちらかに必ず当選するように構成している。これにより、電源投入後、初回の第１特別図柄の抽選が大当たりであれば、他の制御例と同様に天井抽選回数までの残回数がリセットされると共に当該リセットされた残回数に応じた変動パターンシナリオを再セットすることができる一方で、初回の第１特別図柄の抽選が大当たり以外の抽選結果となった場合（即ち、小当たりとなった場合）であっても、天井抽選回数までの抽選回数に渡る変動パターンシナリオを設定することができる。図６３８では、初回の第１特別図柄の抽選が大当たりとは異なる特定の抽選結果（即ち、小当たり）となって変動パターンシナリオを新たに設定する条件が成立した場合の演出態様を示している。

【６８７５】

図６３８（ａ）は、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンされた状態でパチンコ機１０に対して電源が投入され、初回の第１特別図柄の抽選結果が小当たりとなった場合の変動表示態様の一例を示した図である。図６３８（ａ）に示した通り、電源投入後、初回の第１特別図柄の抽選結果が小当たりになると、主表示領域Ｄｍにおいて第３図柄の変動表示が実行されると共に、主表示領域Ｄｍの下部に、布団８５２、布団８５２の中で眠るウサギを模したキャラクタ８０１、およびアラームを鳴らす目覚まし時計８５１が表示される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「起床待機中・・・」という文字が表示される。これらの表示内容により、ウサギのキャラクタ８０１が起床することで何かが起きるということを遊技者に対して容易に認識させることができる。

【６８７６】

図６３８（ｂ）は、初回の第１特別図柄の抽選結果が小当たりとなった場合の変動表示態様のうち、変動停止時の表示態様の一例を示した図である。図６３８（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の小当たり（即ち、実質的に他の制御例における外れと同等の抽選結果）に対応する変動表示の停止タイミングになると、主表示領域Ｄｍにおいて第３図柄が外れの組み合わせで停止表示されると共に、ウサギのキャラクタ８０１が布団８５２をはね除ける表示態様が表示される。また、ウサギのキャラクタ８０１の左側に吹き出しを模した吹き出し画像ＦＤが表示されると共に、吹き出し画像ＦＤに対して、「出発だ！」という文字が表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「起床完了！」という文字が表示される。これらの表示内容により、パチンコ機１０において内部的に何らかの準備が整ったということを遊技者に対して示唆することができる。また、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンされた状態で電源が投入された場合に、初回の特別図柄の抽選に基づく変動表示態様において特別な演出態様を発生させる構成とすることにより、ＲＡＭクリアが行われたか否かを遊技者に対して容易に判別させることができる。つまり、天井抽選回数までの残回数がクリアされているか否かを、初回の第１特別図柄の抽選により判別可能に構成しているので、電源投入後、少なくとも１回特別図柄の抽選を実行させてみたいと遊技者に思わせることができる。よって、ホールの開店直後におけるパチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。また、上述した第１９制御例のように、複数段階の設定に変更可能な仕様のパチンコ機１０であれば、ＲＡＭクリアが行われたことが確定する演出態様を設ける構成とすることにより、設定変更の可能性の有無まで遊技者に判別させることができる。よって、ホールの開店直後におけるパチンコ機１０の稼働率をより向上させることができる。

【６８７７】

なお、本第２０制御例では、ウサギを模したキャラクタ８０１が起床することでパチンコ機１０の内部的に何がセットされたのかを明示しない構成としていたが、演出態様により変動パターンシナリオが設定されたことを明示してもよい。このように構成することで、何らかの有利な状態に移行したと遊技者に勘違いさせてしまうことを抑制できる。

【６８７８】

＜第２０制御例における電気的構成＞

次に、図６３９を参照して、本第２０制御例におけるＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図６３９は、本第２０制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図６３９に示した通り、本第２０制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第１７制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図５５２参照）に対して、変動パターンシナリオ１７テーブル２０２ｑｊに代えて変動パターンシナリオ２０テーブル２０２ｔｊが設けられている点で相違している。また、変動パターン１７テーブル２０２ｑｄの規定内容についても一部変更となっている。その他の構成については、上述した第１７制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。この変動パターンシナリオ２０テーブル２０２ｔｊの詳細について、図６４１、および図６４２を参照して説明する。

【６８７９】

図６４１（ａ）は、本第２０制御例における変動パターンシナリオテーブル２０２ｔｊの構成を示したブロック図である。この変動パターンシナリオテーブル２０２ｔｊは、上述した第１７制御例における変動パターンシナリオ１７テーブル２０２ｑｊと同様に、特別図柄の抽選回数毎に参照する変動パターンテーブルが対応付けて規定されているデータテーブルである。図６４１（ａ）に示した通り、本第２０制御例における変動パターンシナリオテーブル２０２ｔｊは、大当たり終了後における特別図柄の抽選回数と参照すべき変動パターンテーブルの種別との対応関係を規定した当たり後用テーブル２０２ｔｊ１と、ＲＡＭクリア後、初回の第１特別図柄の小当たり当選後における特別図柄の抽選回数と参照すべき変動パターンテーブルの種別との対応関係を規定した小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２と、天井抽選回数に到達した後における特別図柄の抽選回数と参照すべき変動パターンテーブルの種別との対応関係を規定した天井到達用テーブル２０２ｔｊ３と、で少なくとも構成されている。まず、図６４１（ｂ）を参照して、上述した当たり後用テーブル２０２ｔｊ１の詳細について説明する。

【６８８０】

図６４１（ｂ）は、この当たり後用テーブル２０２ｔｊ１の規定内容を示した図である。図６４１（ｂ）に示した通り、本第２０制御例における当たり後用テーブル２０２ｔｊ１は、前回実行された大当たり遊技の種別毎に、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ）と現在の遊技状態との組み合わせに対応する変動パターンテーブルの種別が対応付けて規定されている。

【６８８１】

より具体的には、図６４１（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」、現在の遊技状態が通常状態という状況において、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～９９の範囲、１０１～１３９の範囲、および１４１～１５０の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定されている。よって、これらの抽選回数の範囲内で特別図柄の抽選が実行された場合は、通常用テーブル２０２ｑｄ１が参照されて変動パターン（変動時間）が選択される。一方、特別図柄の抽選回数が１００、および１４０に対しては、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。この天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３は、上述した第１９制御例における変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂに設けられていた天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３と同一のデータテーブルであり、図示については省略したが、本第２０制御例における変動パターン１７テーブル２０２ｑｄにも追加されている。なお、上述した通り、本第２０制御例における第１特別図柄の小当たりは、他の制御例における外れに相当する抽選結果であるため、本第２０制御例において第１特別図柄の小当たりとなった場合は、外れ抽選結果に対応する振り分けで変動パターンが選択される。つまり、変動時間が１５秒間のノーマルリーチ外れ、若しくは変動時間が３０秒間のスーパーリーチ外れのどちらかが必ず選択されるように構成されている。よって、１５秒間や３０秒間の変動時間の変動表示演出が設定された場合に、天井抽選回数が近いと遊技者に思わせることができるので、遊技者の天井抽選回数到達に対する期待感を向上させることができる。なお、本第２０制

御例では、天井抽選回数に到達した場合に変動パターンシナリオが天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４を参照するシナリオに切り替わるため、当たり後用テーブル２０２ｔｊ１には天井抽選回数までの範囲のシナリオのみが規定されている。

【６８８２】

また、図６４１（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）によらず、特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定されている。よって、大当たりＡ１７が終了してから天井抽選回数に到達するまでの間は、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。

【６８８３】

また、図６４１（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＢ１７」、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」である場合と同一の変動パターンシナリオが規定されている。つまり、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～９９の範囲、１０１～１３９の範囲、および１４１～１５０の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が１００および１４０に対して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。これに対し、大当たり種別が「大当たりＢ１７」、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が７～１５０の範囲に対して、特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～６の範囲に対して、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、大当たりＢ１７の終了後７回～１５０回の抽選回数では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、大当たりＢ１７の終了後１回～６回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。

【６８８４】

また、図６４１（ｂ）に示した通り、前回の大当たり種別が「大当たりＣ１７～Ｅ１７」、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、前回の大当たり種別が「大当たりＡ１７」や「大当たりＢ１７」である場合と同一の変動パターンシナリオが規定されている。つまり、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～９９の範囲、１０１～１３９の範囲、および１４１～１５０の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が１００および１４０に対して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。これに対し、大当たり種別が「大当たりＣ１７～Ｅ１７」、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１２～１５０の範囲に対して、特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～１１の範囲に対して、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定されている。よって、大当たりＣ１７～Ｅ１７の終了後１２回～１５０回の抽選回数では、時短状態が継続する（時短回数が残っている）限り特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が参照されるため、第１特別図柄の抽選が主として実行される時短状態Ａを形成する。また、大当たりＢ１７の終了後１回～１１回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な状態を形成する。

【６８８５】

次に、図６４２（ａ）を参照して、上述した変動パターンシナリオテーブル２０２ｔｊを構成するデータテーブルの１つである小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２の詳細について説明する。この小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２は、上述した通り、ＲＡＭクリア操

作を伴う電源投入後、最初に第１特別図柄の小当たりに当選した場合に設定される変動パターンシナリオを規定したデータテーブルである。より具体的には、図６４２（ａ）に示した通り、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～９９、１０１～１３９、および１４１～１５０範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が１００および１４０に対して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。一方で、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～１５０の全範囲に対して、特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定されている。よって、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、１５０回（天井抽選回数以下の抽選回数）で時短状態に移行した場合は、比較的有利度合いが低い時短状態Ａを形成する。なお、本第２０制御例は、第１７制御例をベースにしており、第１特別図柄の抽選に時短図柄当選の振り分けがないため、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、１５０回以内に時短状態に移行するケースとしては、第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選する場合のみである。つまり、時短状態でないにもかかわらず右打ちにより第２特別図柄の抽選を実行させる変則的な遊技方法を行った場合であるため、基本的に発生しないケースである。

【６８８６】

次に、図６４２（ｂ）を参照して、上述した変動パターンシナリオテーブル２０２ｔｊを構成するデータテーブルの１つである天井到達用テーブル２０２ｔｊ３の詳細について説明する。この天井到達用テーブル２０２ｔｊ３は、上述した通り、特別図柄の抽選回数が天井抽選回数に到達した場合に設定される変動パターンシナリオを規定したデータテーブルである。より具体的には、図６４２（ｂ）に示した通り、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１～９９、１０１～１３９、および１４１～１５０範囲に対して、通常用テーブル２０２ｑｄ１が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が１００および１４０に対して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。一方で、現在の遊技状態が時短状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１に対して、天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が２～１２の範囲に対して、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）が１３～１５０の範囲に対して、特図１時短用テーブル２０２ｑｄ２が対応付けて規定されている。よって、天井抽選回数に到達した後、１回目の特別図柄の抽選が当たりとならなかった場合は、必ず変動時間が３０秒間のスーパーリーチ変動が設定される。つまり、天井抽選回数に到達したことを祝福する演出態様等の各種の報知を行うための十分な演出期間を確保することができるので、演出態様を好適に設定することができる。また、天井抽選回数に到達した後、２回～１２回の抽選回数では、特図２時短用テーブル２０２ｑｄ３が参照されるため、時短状態Ｂを形成する。よって、主として第２特別図柄の抽選が実行される極めて有利な時短状態Ｂを形成する。また、１３回以降の抽選回数では、時短回数が残っている限り、主として第１特別図柄の抽選が実行される比較的有利度合いが低い時短状態Ａを形成する。更に、時短回数が０になると、通常状態用のシナリオが参照されるため、天井到達後、１００回目や１４０回目の特別図柄の抽選が当たりとならなかった場合は、天井煽り用の演出を実行することができる。よって、再度の天井抽選回数への到達を遊技者に対して期待させることができる。

【６８８７】

このように、本第２０制御例では、変動パターンシナリオを参照する際の特図抽選回数を、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値によって把握する構成とし、当該シナリオ用カウンタ２０３ｔｂはＲＡＭクリア操作を伴う電源投入を行った場合にも値が保持されるように構成している。そして、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われ、初回の第１特別図柄の抽選が小当たりであった場合には、小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を変動パターンシナリオとして設定する構成としている。このように構成することで、ＲＡＭクリア操

作によってシナリオ用カウンタ２０３ｔｂを初期化しなくても、天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを好適に設定し直すことができる。よって、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入の有無によらず、天井抽選回数までに渡る演出態様を好適に設定することができる。

【６８８８】

次に、図６４０を参照して、本第２０制御例におけるＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図６４０は、本第２０制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図６４０に示した通り、本第２０制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第１７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図５５３参照）に対して、天井時短待機フラグ２０３ｓａ、シナリオ格納エリア２０３ｓｂ、初回小当たりフラグ２０３ｔａ、およびシナリオ用カウンタ２０３ｔｂが追加されている点で相違する。その他の構成については、上述した第１７制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６８８９】

天井時短待機フラグ２０３ｓａは、上述した第１９制御例におけるＲＡＭ２０３に追加されていた天井時短待機フラグ２０３ｓａと同一であり、天井抽選回数に到達したことに基づいて時短状態の設定条件が成立した場合に、当該時短状態の発生を天井抽選回数目の変動表示が終了した後で１回目に実行される変動表示の終了まで待機させるためのフラグである。また、シナリオ格納エリア２０３ｓｂは、上述した第１９制御例におけるＲＡＭ２０３に追加されていたシナリオ格納エリア２０３ｓｂと同一であり、現在設定されている変動パターンシナリオを示すデータを格納するための記憶領域である。

【６８９０】

初回小当たりフラグ２０３ｔａは、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンされた状態で電源が投入された後（ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後）、１回以上第１特別図柄の小当たりとなったか否かを示すフラグである。この初回小当たりフラグ２０３ｔａがオンであれば、１回以上小当たりに当選済みであることを意味し、オフであれば、１回も小当たりに当選していないことを意味する。この初回小当たりフラグ２０３ｔａは、初期値がオフに設定されており、第１特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合にオンに設定される（図６４６のＹ７７３参照）。第１特別図柄の抽選で小当たりとなった場合には、この初回小当たりフラグ２０３ｔａの状態が参照されて、ＲＡＭクリア後１回目の小当たり当選であるか否かが判別される。初回の小当たりである場合は、天井抽選回数（１５０回）までの範囲の変動パターンシナリオが上書きされる。

【６８９１】

シナリオ用カウンタ２０３ｔｂは、変動パターンシナリオに応じた変動パターンテーブルを選択する際に、現在の特別図柄の抽選回数を判別するためのカウンタである。このシナリオ用カウンタ２０３ｔｂは、ＲＡＭクリア後、最初に第１特別図柄の小当たりに当選して小当たり終了後用の変動パターンシナリオ（小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２）を設定した場合に値が１に設定される（図６４６のＹ７７３参照）。また、大当たり終了時や天井抽選回数到達時に、対応する変動パターンシナリオを設定するとともに値が０にリセットされる（図６４５のＳ３８１３３Ａ、図６４８のＹ２７１２参照）。また、特別図柄の変動開始時に値に１が加算される（図６４４のＹ５２１参照）。このシナリオ用カウンタ２０３ｔｂによって特別図柄の抽選回数を管理する構成とすることで、天井抽選回数に到達する５０回前や１０回前に、天井抽選回数が近づいていることを示すための変動パターンを設定することができる。よって、天井抽選回数までの間の遊技者の期待感を好適に向上させることができる。

【６８９２】

次に、図６４３を参照して、本第２０制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図６４３は、本第２０制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図６４３に示した通り、本第２０制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図５５

８参照）に対して、シナリオセット済フラグ２２３ｔａが追加されている点でのみ相違している。このシナリオセット済フラグ２２３ｔａは、パチンコ機１０に対してＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後で、変動パターンシナリオが１回以上設定されたか否かを示すフラグであり、オンであれば変動パターンシナリオが１回以上設定されたことを意味し、オフであれば変動パターンシナリオが未設定であることを意味する。このシナリオセット済フラグ２２３ｔａは、初期値がオフに設定されており、ＲＡＭクリア操作を伴わずに電源が投入された場合や、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、最初に変動パターンシナリオが設定された場合にオンに設定される（図６４９のＳ９１１４Ａ、図６５０のＳ９５１５Ａ参照）。第１特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合は、このシナリオセット済フラグ２２３ｔａを参照して、シナリオセット済フラグ２２３ｔａがオフである場合は、今回の小当たりにより変動パターンシナリオの再設定が行われることを意味するため、起床完了演出（図６３８（ｂ）参照）を実行することによりパチンコ機１０の内部制御として何らかの設定が完了したことを遊技者に対して示唆することができる。よって、パチンコ機１０の内部状態をある程度遊技者に対して把握させることができる。

【６８９３】

＜第２０制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図６４４から図６４８を参照して、本第２０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種処理について説明する。まず、図６４４を参照して、本第２０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２０（Ｙ３３１）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動パターン選択処理２０（Ｙ３３１）は、上述した第１７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６４参照）に代えて実行される処理であり、上述した第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６４参照）と同様に、第１特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために実行される処理である。

【６８９４】

この第２０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２０（図６４４参照）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５１２の各処理では、それぞれ上述した第１７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６３参照）のＹ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５１２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２０（図６４４参照）では、Ｙ５０３の処理が終了すると、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値に１を加算して更新し（Ｙ５２１）、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに格納されているデータに対応する変動パターンシナリオから更新後のシナリオカウンタ２０３ｔｂの値に対応する変動パターン選択テーブルを特定して（Ｙ５２２）、処理をＹ５１２へと移行する。

【６８９５】

この第１特別図柄変動パターン選択処理２０（図６４４参照）を実行することで、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂを、特図抽選カウンタ２０３ｑａとは独立して更新していき、当該独立して更新された特図抽選カウンタ２０３ｑａの値に応じて変動パターンシナリオから対応する変動パターン選択テーブルを正確に特定することができる。

【６８９６】

次に、図６４５を参照して、本第２０制御例における天井判定処理２０（Ｙ３３２）の詳細について説明する。この天井判定処理２０（Ｙ３３２）は、上述した第１７制御例における天井判定処理１７（図５６４参照）に代えて実行される処理であり、天井判定処理１７（図５６４参照）と同様に、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値に応じて天井抽選回数への到達有無を判定するための処理である。図６４５は、この天井判定処理２０（Ｙ３３２）を示すフローチャートである。

【６８９７】

この第２０制御例における天井判定処理２０（図６４５参照）のうち、Ｓ３８１０３，Ｓ３８１０５，Ｓ３８１１２Ａ～Ｓ３８１１４Ａ，Ｓ３８１２３Ａ、およびＳ３８１２４Ａの各処理では、それぞれ第１７制御例における天井判定処理１７（図５６４参照）のＳ

３８１０３，Ｓ３８１０５，Ｓ３８１１２Ａ～Ｓ３８１１４Ａ，Ｓ３８１２３Ａ、およびＳ３８１２４Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例では、Ｓ３８１２１Ａ，Ｓ３８１２２Ａの各処理が削除されている。

【６８９８】

また、本第２０制御例における天井判定処理２０（図６４５参照）では、Ｓ３８１２３Ａの処理において特図抽選カウンタ２０３ｑａの値が１５１に更新されたと判別した場合に（Ｓ３８１２３Ａ：Ｙｅｓ）、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値を１に更新し（Ｓ３８１３１Ａ）、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに対して天井到達用テーブル２０２ｔｊ３を示すデータを格納することで天井到達用テーブル２０２ｔｊ３を参照する変動パターンシナリオを設定する（Ｓ３８１３２Ａ）。次いで、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値を０クリアして（Ｓ３８１３３Ａ）、本処理を終了する。

【６８９９】

次に、図６４６を参照して、本第２０制御例における特図１外れ停止処理２０（Ｙ７３１）の詳細について説明する。この特図１外れ停止処理２０（Ｙ７３１）は、上述した第１７制御例における特図１外れ停止処理１７（図５６６参照）に代えて実行される処理であり、第１７制御例における特図１外れ停止処理１７（図５６６参照）と同様に、第１特別図柄の外れに対応する変動表示の変動時間が経過した場合に外れ図柄の停止表示を設定するための処理である。

【６９００】

この第２０制御例における特図１外れ停止処理２０（図６４６参照）のうち、Ｙ７５１～Ｙ７６１の各処理では、それぞれ上述した第１７制御例の特図１外れ停止処理１７（図５６６参照）のＹ７５１～Ｙ７６１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例における特図１外れ停止処理２０（図６４６参照）では、Ｓ７５９の処理が終了すると、初回小当たりフラグ２０３ｔａがオンであるか否かを判別し（Ｙ７７１）、初回小当たりフラグ２０３ｔａがオンであると判別した場合は（Ｙ７７１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【６９０１】

一方、Ｙ７７１の処理において、初回小当たりフラグ２０３ｔａがオフであると判別した場合は（Ｙ７７１：Ｎｏ）、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後、初回の第１特別図柄の小当たりに対応する変動表示が終了したことを意味するため、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに対して小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を示すデータを格納することで小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を参照する変動パターンシナリオを設定し（Ｙ７７２）、初回小当たりフラグ２０３ｔａをオンに設定すると共にシナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値を１に設定して（Ｙ７７３）、本処理を終了する。

【６９０２】

この特図１外れ停止処理２０（図６４６参照）を実行することにより、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に、第１特別図柄の抽選が１回実行されることで、確実に、天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを設定することができる。また、Ｙ７７１の処理において、初回小当たりフラグ２０３ｔａがオンであり、既に変動パターンシナリオを設定済みである状況下で第１特別図柄の小当たりに当選した場合に、変動パターンシナリオを再設定することを抑制することができるので、変動パターンシナリオの設定タイミングを共通化する（ＲＡＭクリア操作後、初回の抽選時）ことができる。

【６９０３】

次に、図６４７を参照して、本第２０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理の詳細について説明する。この立ち上げ処理は、上述した第１７制御例（および第１制御例）における立ち上げ処理（図１６６参照）と同様に、パチンコ機１０に対して電源が投入された場合に実行される処理である。

【６９０４】

この第２０制御例における立ち上げ処理２０（図６４７参照）のうち、Ｓ１７０１～Ｓ１７１２の各処理では、それぞれ第１７制御例（および第１制御例）における立ち上げ処

理のＳ１７０１～Ｓ１７１２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例における立ち上げ処理（図６４７参照）では、Ｓ１７１２の処理が終了すると、使用ＲＡＭ領域のうちシナリオ格納エリア２０３ｓｂ、およびシナリオ用カウンタ２０３ｔｂ以外の記憶領域をクリアし（Ｓ１７６１Ａ）、ＲＡＭ２０３のうちシナリオ格納エリア２０３ｓｂ、およびシナリオ用カウンタ２０３ｔｂ以外の記憶領域に対して初期値を設定して（Ｓ１７６２Ａ）、処理をＳ１７１０へと移行する。

【６９０５】

この第２０制御例における立ち上げ処理（図６４７参照）を実行することにより、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に、設定されている変動パターンシナリオの情報（シナリオ格納エリア２０３ｓｂのデータ）、および変動パターンシナリオの進行状況（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値）を電源遮断時の状態に保持したまま、ＲＡＭ２０３の他のデータを初期化することができる。

【６９０６】

次に、図６４８を参照して、本第２０制御例における大当たり終了処理２０（Ｙ１１６２１）の詳細について説明する。この大当たり終了処理２０（Ｙ１１６２１）は、上述した第１７制御例（および第１２制御例）における大当たり終了処理１２（図４３７参照）に代えて実行される処理であり、大当たり終了処理１２（図４３７参照）と同様に、大当たり終了に基づく各種設定を行うための処理である。

【６９０７】

この第２０制御例における大当たり終了処理２０（図６４８参照）のうち、Ｙ２７０４～Ｙ２７０７の各処理では、それぞれ上述した第１７制御例（および第１２制御例）における大当たり終了処理２０（図４３７参照）のＹ２７０４～Ｙ２７０７の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例における大当たり終了処理２０（図６４８参照）では、Ｙ２７０７の処理が終了すると、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに対して今回の大当たり種別に対応する変動パターンシナリオを示すデータを格納し（Ｙ２７１１）、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂを０にリセットして（Ｙ２７１２）、本処理を終了する。

【６９０８】

＜第２０制御例における音声ランプ制御装置の制御処理＞

次に、図６４９、および図６５０を参照して、本第２０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図６４９を参照して、本第２０制御例における通常状態演出設定処理２０（Ｓ９０１１Ａ）の詳細について説明する。この通常状態演出設定処理２０（Ｓ９０１１Ａ）は、上述した第１７制御例（および第５制御例）における通常状態演出設定処理（図２６４参照）に代えて実行される処理であり、通常状態演出設定処理（図２６４参照）と同様に、遊技状態として状態コマンドにより通常状態が通知された場合における演出態様を設定するための処理である。

【６９０９】

この通常状態演出設定処理２０（図６４９参照）が実行されると、まず、パチンコ機１０に対する電源投入時の遊技状態として通常状態が通知されたか否かを判別し（Ｓ９１１１Ａ）、電源投入に基づいて通知された通常状態ではないと判別した場合は（Ｓ９１１１Ａ：Ｎｏ）、通常状態に対応する演出モード用の表示コマンドを設定して（Ｓ９１１２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ９１１１Ａの処理において、電源投入に基づいて通知された通常状態であると判別した場合は（Ｓ９１１１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入により通常状態に設定されたのか否かを判別し（Ｓ９１１３Ａ）、ＲＡＭクリア操作を伴わない電源投入であると判別した場合は（Ｓ９１１３Ａ：Ｎｏ）、シナリオセット済フラグ２２３ｔａをオンに設定して（Ｓ９１１４Ａ）、処理をＳ９１１２Ａへと移行する。

【６９１０】

これに対し、Ｓ９１１３Ａの処理において、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入であると判別した場合は（Ｓ９１１３Ａ：Ｙｅｓ）、起床待機中モード用の表示コマンドを設定す

ることで、特別図柄の抽選が実行された場合に起床待機中演出（図６３８（ａ）参照）が実行されるように設定し（Ｓ９１１５Ａ参照）、本処理を終了する。この通常状態演出設定処理２０（図６４９参照）を実行することにより、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に、シナリオセット済フラグ２２３ｔａをオフ状態としたまま、起床待機中モード用の演出態様を設定することができる。

【６９１１】

次に、図６５０を参照して、本第２０制御例における特図１演出態様設定処理２０（Ｓ４９９１Ａ）の詳細について説明する。この特図１演出態様設定処理２０（Ｓ４９９１Ａ）は、第１７制御例（および第５制御例）における特図１演出態様設定処理５（図２６８参照）に代えて実行される処理であり、特図１演出態様設定処理５（図２６８９参照）と同様に、第１特別図柄の変動表示態様を設定するための処理である。図６５０は、この特図１演出態様設定処理２０（Ｓ４９９１Ａ）を示すフローチャートである。

【６９１２】

この第２０制御例における特図１演出態様設定処理２０（図６５０参照）のうち、Ｓ９５０１～Ｓ９５０４の各処理では、それぞれ第１７制御例（および第５制御例）における特図１演出態様設定処理５（図２６８参照）のＳ９５０１～Ｓ９５０４の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２０制御例における特図１演出態様設定処理２０（図６５０参照）では、Ｓ９５０１～Ｓ９５０３の各処理が終了すると、次いで、シナリオセット済フラグ２２３ｔａがオンであるか否かを判別し（Ｓ９５１１Ａ）、シナリオセットフラグ２２３ｔａがオンであれば（Ｓ９５１１Ａ：Ｙｅｓ）、変動パターンコマンドにより通知された変動パターン種別に応じた変動表示態様を決定して（Ｓ９５１２Ａ）、処理をｓ９５０４へと移行する。

【６９１３】

一方、Ｓ９５１１Ａの処理において、シナリオセット済フラグ２２３ｔａがオフであると判別した場合は（Ｓ９５１１Ａ：Ｎｏ）、次いで、今回の変動パターンコマンドが小当たりに対応する変動パターンコマンドであるか否かを判別し（Ｓ９５１３Ａ）、小当たりに対応する変動パターンコマンドではない（即ち、大当たりに対応する変動パターンコマンドである）と判別した場合は（Ｓ９５１３Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９５１２Ａへと移行する。これに対し、Ｓ９５１３Ａの処理において、小当たりに対応する変動パターンコマンドであると判別した場合は（Ｓ９５１３Ａ：Ｙｅｓ）、起床完了演出（図６３８（ｂ）参照）を伴う変動表示態様を決定し（Ｓ９５１４Ａ）、シナリオセット済フラグ２２３ｔａをオンに設定して（Ｓ９５１５Ａ）、処理をＳ９５０４へと移行する。

【６９１４】

この特図１演出態様設定処理２０（図６５０参照）を実行することにより、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、初回の第１特別図柄の抽選で小当たりとなった場合に、起床完了演出を実行することができるので、パチンコ機１０の内部制御として何らかの設定が行われたということを遊技者に対して示唆することができる。

【６９１５】

以上説明した通り、本第２０制御例におけるパチンコ機１０では、通常遊技中に比較的頻繁に成立する第１条件の成立（第１特別図柄の小当たり当選）に基づいて、予め定められた特定制御（新たな変動パターンシナリオの設定）を実行し、一旦特定制御が実行された後は、第１条件が成立しても特定制御が実行されることを回避（抑制）可能に構成した。つまり、特定条件が成立していない状況下において第１条件が成立した場合にのみ、特定制御の実行を許容し、特定条件が成立している状況下で第１条件が成立したとしても、特定制御の実行を回避する特徴的な制御を行う構成としている。より具体的には、本第２０制御例では、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンの状態でパチンコ機１０に対して電源が投入された後（ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後）における特別図柄の抽選で最初に大当たりとは異なる抽選結果（例えば、小当たりに対応する抽選結果）となったことを第１条件の成立として、天井抽選回数までの抽選回数に渡る変動パターンシナリオを設定する構成とする一方で、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、既に１回以上小当たりに当選

している状況下（特定条件が成立している状況下）では、小当たりに当選したとしても変動パターンシナリオの設定を回避する構成としている。つまり、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、初回の特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり終了時に大当たり種別に応じた変動パターンシナリオを設定する一方で、大当たりとは異なる抽選結果（小当たり）となった場合についても、天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを設定する構成とした。また、一旦変動パターンシナリオが設定された後は、変動パターンシナリオが上書きされないように規制する構成とした。これにより、ＲＡＭクリア操作を伴う電源が投入された場合に、初回の特別図柄の抽選が実行されることにより、ほぼ確実に、変動パターンシナリオを設定することができる。よって、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入の有無によらず、天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを好適に設定することができる。なお、これに伴って、本第２０制御例では、特別図柄の抽選回数をカウントするためのカウンタ（特図抽選カウンタ２０３ｑａ）と、変動パターンシナリオから変動パターンを特定する際の特別図柄の抽選回数を判断するためのカウンタ（シナリオ用カウンタ２０３ｔｂ）とを別々に設ける構成とし、ＲＡＭクリアスイッチ１２２がオンの状態でパチンコ機１０に対して電源が投入された場合には、特図抽選カウンタ２０３ｑａの値のみがリセットされ、シナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値が保持されるように構成している。

【６９１６】

また、本第２０制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に、何らかの設定が待機されていることを示唆する第１の演出態様（起床待機中モード）を設定し、第１の演出態様の実行中に第１特別図柄の抽選が実行された場合に、何らかの設定が行われたことを遊技者に示唆可能な第２の演出態様（起床演出）を実行する構成としている。このように構成することで、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われたか否かを遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、ＲＡＭクリア操作が行われたか否かを判別するために、ホールの開店後、初回の特別図柄の抽選が実行されていないパチンコ機１０において少なくとも１回の特別図柄の抽選を実行させようと思わせることができるので、ホールの開店後におけるパチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９１７】

なお、本第２０制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後で、初回の第１特別図柄の抽選が実行されて変動パターンシナリオが設定されたことを示唆する演出として第２の演出態様（起床演出）を実行する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に設定され得る天井抽選回数が複数設けられている仕様を前提として、天井抽選回数が再設定されたことを遊技者に示唆する演出として第２の演出態様（起床演出）を実行する構成としてもよい。このように構成することで、遊技者の有利度合いに直接的に影響する設定内容が設定されたことを示す演出として第２の演出態様を構成することができる。この場合において、天井抽選回数としていずれの値が設定されたのかを示唆する演出を第２の演出態様において実行する構成としてもよい。このように構成することで、第２の演出態様を確認したいとより強く遊技者に思わせることができるので、ホールの開店後におけるパチンコ機１０の稼働率をより向上させることができる。また、例えば、第１９制御例等のように、複数段階のいずれかの設定に変更可能な仕様において、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入時に設定変更も行われた場合に第２の演出態様を実行する構成としてもよい。この場合は、第２の演出態様が実行されることで設定変更がなされたことを遊技者が把握することができるので、遊技者の利便性を向上させることができる。

【６９１８】

なお、本第２０制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後、最初に第１特別図柄の小当たりとなった（第１条件が成立した）ことに基づいて、小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を参照して変動パターン選択テーブルを特定する変動パターンシナリオを設定すると共にシナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値をリセットする制御（特定制御）を実行する一方で、２回目以降の小当たり当選時は特定制御の実行を回避（抑制）する構

成としていたが、特定制御の実行及び回避の条件はこれに限られるものではない。例えば、２以上の特定回数（例えば、１０回）に渡って連続して第１特別図柄の小当たりに当選した場合に特定制御を実行するように構成してもよい。また、特定制御の実行条件（第１条件）として、小当たりに代えて、例えば、単なる外れを採用してもよいし、特定の変動種別（例えば、短外れやノーマルリーチ外れ等）を採用してもよいし、所定の大当たり種別の大当たり当選を採用してもよい。このように様々な制御および条件を特定制御および第１条件として許容することで、開発の自由度を向上させることができる。

【６９１９】

本第２０制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後、最初に第１特別図柄の小当たりとなった（第１条件が成立した）ことに基づいて、小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を参照して変動パターン選択テーブルを特定する変動パターンシナリオを設定すると共にシナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値をリセットする制御（特定制御）を実行する一方で、２回目以降の小当たり当選時は特定制御の実行を回避（抑制）する構成としていたが、最初は新たな変動パターンシナリオの設定（特定制御の実行）が回避される（電源遮断時の変動パターンシナリオ及びシナリオの進行状況が引き継がれる）状態を設定し、所定の解除条件の成立（例えば、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後、天井抽選回数未満の特定回数（例えば、１００回）の特別図柄の抽選が実行されたこと）を契機として、特定制御の実行が許容される状態を形成する構成としてもよい。このように構成した場合、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた時点で天井抽選回数までの残り回数はリセットされる一方で、１００回の特別図柄の抽選が実行されるまでは、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われていても、ＲＡＭクリア操作を伴わない電源投入が行われていれも、変動パターンの選択傾向が共通の傾向となるため、ＲＡＭクリア操作の有無を遊技者に把握し難く構成することができる。なお、この場合、特定制御として設定する変動パターンシナリオは、特定回数目の特別図柄の抽選回数から天井抽選回数目の特別図柄の抽選回数までに渡るシナリオを用意しておけば足りるので、ＲＯＭ２０２の記憶容量を削減することができるという副次的な効果も得られる。

【６９２０】

本第２０制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた後、最初に第１特別図柄の小当たりとなった（第１条件が成立した）ことに基づいて、小当たり後用テーブル２０２ｔｊ２を参照して変動パターン選択テーブルを特定する変動パターンシナリオを設定すると共にシナリオ用カウンタ２０３ｔｂの値をリセットする制御（特定制御）を実行する一方で、２回目以降の小当たり当選時は、回避条件が成立していると判別して特定制御の実行を回避（抑制）する構成としていたが、第１条件、特定制御、および回避条件はこれらに限定されるものではない。パチンコ機１０において成立し得る他の条件を第１条件や回避条件として採用してもよいし、搭載している他の制御を特定制御として採用してもよい。例えば、音声ランプ制御装置１１３側の演出制御に採用してもよい。より具体的には、例えば、上述した第１６制御例における保留変化演出の設定を特定制御として採用し、第１条件を新たな始動入賞に基づく入賞情報コマンドの受信として採用してもよい。この場合、回避条件としては、例えば、保留変化演出が既に設定されている間の状態を設定してもよいし、大当たり遊技の実行中を設定してもよい。このように構成することで、保留変化演出が実行されるタイミングを好適に設定することができる。

【６９２１】

＜第２１制御例＞

次いで、図６５１から図６６４を参照して、第２１制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１９制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり終了後の抽選回数をカウントするためのカウンタ（特図抽選カウンタ２０３ｌａ）のカウンタ値によって天井抽選回数への到達有無を判別すると共に、変動パターンシナリオから変動パターン選択テーブルを特定する際の変動回数（特別図柄の抽選回数）を判別する構成としていた。そして、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合であっても、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値がクリアされずに保持されるように構成していた。つまり、パチンコ

機１０の電源が遮断されたり、ＲＡＭクリア操作が行われたりしたとしても、天井抽選回数までの残りの抽選回数や変動パターンシナリオの進行状況がクリアされずに保持されるように構成していた。そして、第１９制御例では、変動パターンシナリオとして、大当たり終了時または天井抽選回数到達時に、通常状態用の変動パターンシナリオと通常状態以外の遊技状態用の変動パターンシナリオとをセットで設定する構成とし、遊技状態が通常状態であれば設定されている変動パターンシナリオのうち通常状態用の規定内容を参照して変動パターン選択テーブルを特定する一方、通常状態以外の遊技状態であれば通常状態以外用の規定内容を参照して変動パターン選択テーブルを特定する構成としていた。つまり、変動パターンシナリオの設定タイミングを天井抽選回数がリセットされるタイミングに統一することで、大当たり終了後の遊技状態によらず、通常状態に移行した場合における天井抽選回数までに渡る変動パターンシナリオを共通化することを可能に構成した。つまり、通常状態において天井抽選回数までの残りの抽選回数が１５０回、１００回、および５０回になると、常に、天井煽り用の特殊な変動パターンが選択され易くなるように構成していた。

【６９２２】

これに対して本第２１制御例では、天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される時短状態や、時短図柄に当選したことに基づいて設定される時短状態の終了を契機として、変動パターンシナリオを切り替える構成とし、これらの時短状態終了後における所定回数の特別図柄の抽選に渡って変動パターンの選択比率を通常と異ならせるように構成した。つまり、抽選結果と各種変動パターンの選択比率との対応関係を通常と異ならせることで変動時間の傾向を異ならせ、変動時間に応じて設定される変動表示態様も異ならせることにより、特殊な演出モードを形成するように構成した。このように構成することで、大当たりを介さずに設定された時短状態が終了した（賞球を何ら獲得することなく有利な時短状態が終了した）場合に、特殊な演出モードを形成することで、遊技者の落胆を緩和すると共に、特殊な演出モードが終了するまでの間、遊技を継続しようと思わせることを可能に構成した。これにより、時短状態の終了後におけるパチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９２３】

この第２１制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１９制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１９制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１９制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【６９２４】

まず、図６５１、および図６５２を参照して、本第２１制御例における特徴的な演出態様について説明する。ここで、本第２１制御例では、時短図柄に当選したことに基づいて発動した時短状態、または天井抽選回数に到達したことに基づいて発動した時短状態のいずれかが終了したことに基づいて、変動パターンシナリオを再設定する構成としている。より具体的には、時短状態が終了したことに基づいて、特殊な演出モードを形成すべく、通常とは異なる選択比率で各種変動パターンが選択される特殊な状態を所定期間（特別図柄の抽選が２０回終了するまでの間）形成する構成としている。まず、図６５１（ａ）を参照して、本第２１制御例において時短図柄に当選したことに基づいて発動した時短状態、または天井抽選回数に到達したことに基づいて発動した時短状態のいずれかが終了した後の演出態様について説明する。なお、以降の説明では、説明の簡略化のため、時短図柄

に当選したことに基づいて発動した時短状態、および天井抽選回数に到達したことに基づいて発動した時短状態（大当たりを介さずに直接移行する時短状態）のことを、まとめて通常時短と称する。本第２０制御例では、通常時短が終了した時点で第２特別図柄の保留球が１以上存在する場合に、通常時短が終了した後の通常状態において第２特別図柄の保留球を消化しきるまでの期間を利用して、通常時短状態の終了を示す演出態様を実行する構成としている。なお、通常時短状態においては、右打ちを行い続けることにより、ほぼ、通常時短状態の終了時に第２特別図柄の保留球が上限個数（４個）まで貯まった状態となる。図６５１（ａ）は、この通常時短状態の終了を示す演出態様（通常時短状態用のエンディング演出）の演出態様の一例を示した図である。

【６９２５】

図６５１（ａ）に示した通り、通常時短状態が終了すると、第２特別図柄の保留球が消化されるまでの間に渡って、主表示領域Ｄｍにおける中央部分にウサギを模したキャラクタ８０１がうなだれて落涙する表示態様が表示されると共に、キャラクタ８０１の上方に「～ＥＮＤ～」という文字が表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「チャンスタイム終了・・・」という文字が表示される。これらの表示態様により、通常時短状態が完全に終了してしまったことを遊技者に対して容易に理解させることができる。また、図６５１（ａ）に示した通り、通常時短状態用のエンディング演出の実行中は、主表示領域Ｄｍの右上における比較的狭い範囲（遊技者が認識し難い範囲）において、第２特別図柄の変動表示が実行されるように構成されている。

【６９２６】

なお、図示については省略したが、通常時短状態用のエンディング演出（通常時短終了演出）の実行中に第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合は、当該大当たり変動において天使を模したキャラクタ８０９が出現してウサギのキャラクタ８０１に対して大当たりを通知する比較的短い演出時間の演出が実行される。また、通常時短状態の終了時に第２特別図柄の保留球が存在せず、第１特別図柄の保留球のみが存在する場合は、１つめの第１特別図柄の保留球に基づく変動表示期間を用いて通常時短状態用のエンディング演出を実行するように制御する。更に、通常時短終了時に第１特別図柄の保留球も第２特別図柄の保留球も存在しない場合は、通常時短終了時に通常時短終了演出を開始させ、新たな特別図柄の抽選が実行された時点で通常時短状態用のエンディング演出（通常時短終了演出）を打ち切る構成としている。これにより、通常時短状態の終了時における保留球の個数によらず、通常時短状態用のエンディング演出（通常時短終了演出）を実行することができる。

【６９２７】

次に、図６５１（ｂ）を参照して、通常時短終了後、特別図柄の抽選が２０回終了するまで（且つ、通常時短終了演出の終了後）における演出態様について説明する。図６５１（ｂ）は、通常時短終了後、特別図柄の抽選が２０回終了するまで（且つ、通常時短終了演出の終了後）における演出態様を示した図である。ここで、詳細については後述するが、本第２１制御例では、通常時短が終了してから特別図柄の抽選が２０回終了するまでの間、第１特別図柄の外れとなった場合の変動時間として短い変動時間（例えば、５秒間）が選択される割合が大幅に上昇する（１５秒以上の変動時間が選択される割合が大幅に低くなる）ように変動パターンシナリオを設定する構成としている。つまり、外れで長い変動時間が選択され難くなることにより、相対的に、長い変動時間となった場合に大当たりや時短図柄当選となる期待度が上昇する構成としている。この特殊な変動パターンシナリオが設定されている間（通常時短終了後、２０回の特別図柄の抽選が終了するまで）は、図６５１（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおいて、ウサギを模したキャラクタ８０１が岩山をよじ登る演出態様が表示されると共に、キャラクタ８０１の上方に、「～修行ゾーン～」という文字が表示される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「リーチ発生で大チャンス！？」という文字が表示される。これらの表示内容により、特殊な変動パターンシナリオが設定されている（特殊な演出モードが設定されている）こと、および長い変動時間が設定された（リーチが発生する変動種別が選択された）場合の大当たり期待度が通

常よりも高くなるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。
【６９２８】
図６５２は、特殊な演出モード（修行ゾーン演出）が設定されている間に通常時短状態への移行条件が再度成立した（天井抽選回数に到達するか、時短図柄に当選した）場合における演出態様の一例を示した図である。図６５２では、天井抽選回数に到達して１００回の時短回数が付与された場合を例示している。図６５２に示した通り、特殊な演出モード（修行ゾーン演出）において通常時短状態への移行条件が成立した場合には、主表示領域Ｄｍにおいて、キャラクタ８０１が岩山を登りきって岩山の頂上に到達する演出が実行される。また、岩山の頂上の周囲には、チャンスタイム中の演出においてウサギを模したキャラクタ８０１が滞在するのと同じ雲が一面に広がっている表示態様に設定される。更に、副表示領域Ｄｓにおいて、「チャンスタイム１００回ゲット！」という文字が表示される。これらの表示内容により、通常時短状態に突入するということを遊技者に対して容易に理解させることができる。
【６９２９】
次に、図６５３を参照して、通常時短状態が終了する前後における演出態様の推移について、大当たり後２５０回目の特別図柄の変動表示が終了することで時短状態が終了する場合を例にとって説明する。図６５３に示した通り、大当たり後２５０回目の特別図柄の抽選で通常時短状態が終了する場合、２５０回目（即ち、通常時短状態における最後）の変動表示演出における演出態様として、上述した第１９制御例と同様に、チャンスタイム（時短状態）の終了を示す演出態様（図６２１参照）を伴う変動表示演出が実行される。また、通常時短状態における最後の変動表示演出が終了し、右打ちにより第２特別図柄の抽選が実行され易い遊技状態が終了すると、通常時短状態の間に保留されていた第２特別図柄の保留球に基づく変動表示が全て終了するまでの期間を用いて、通常時短状態のエンディング演出（図６５１（ａ）参照）が実行される。これにより、通常時短状態が終了したことをより強調することができる。なお、詳細については後述するが、通常時短終了後の変動パターンシナリオとして、時短終了後の特別図柄の抽選回数が１回～４回の範囲では、第２特別図柄の外れの変動時間が１秒間に固定化されるように構成されている。このため、第２特別図柄の保留球が外れである場合は、第２特別図柄の保留球数×１秒間の演出期間で通常時短状態のエンディング演出が実行されることになるため、通常時短状態のエンディング演出は最大（保留が４個貯まっている状況）で４秒間となる。
【６９３０】
また、図６５３に示した通り、第２特別図柄の保留球を消化しきって通常時短状態のエンディング演出が終了すると、特殊な演出モードであることを示す修行ゾーン演出が実行される。この修行ゾーン演出は、通常時短状態の終了後２０回の特別図柄の抽選が終了するまで継続する。この修行ゾーン演出が実行される２０回の変動回数の間は、第１特別図柄の抽選で外れとなった場合に１５秒以上の変動時間（リーチ演出が発生する変動時間）の変動種別が選択される割合が通常よりも大幅に低くなる。言い換えれば、リーチ演出が発生した場合に大当たりとなる期待度が通常よりも大幅に高くなるため、リーチ演出が発生することを遊技者に対してより強く期待させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、通常とは異なる遊技性（リーチ演出の期待度が大幅にアップする遊技性）となるため、遊技者に対して目新しさを感じさせることができ、修行ゾーン演出が実行されている間は遊技を継続しようと思わせることができる。よって、通常時短状態が終了した直後に遊技を辞めてしまうことを抑制し、パチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。なお、特別図柄の抽選が２０回終了して、修行ゾーン演出が終了すると、通常モード用の演出が実行される状態に移行する。
【６９３１】
このように、本第２１制御例では、通常時短状態が終了したことを契機として専用の変動パターンシナリオ（後述する時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３（図６５７参照）を参照して変動パターン選択テーブルを特定するシナリオ）を設定することにより、通常時短状態が終了して通常状態に移行した後において、通常時短状態のエンディング演出の実行

期間を確保したり、第２特別図柄の保留球を消化した後で、特殊な演出モード（リーチ演出が発生した場合の大当たり期待度が跳ね上がる遊技性のモード）に移行させることを可能としている。これにより、通常時短状態が終了した後における遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【６９３２】

なお、この場合、天井抽選回数までの残回数を考慮せずに、単純に通常時短状態の終了に基づいて専用の変動パターンシナリオを設定する構成としているため、弊害として、上述した第１９制御例のように、大当たり終了後（若しくはＲＡＭクリア操作を伴う電源投入後）の抽選回数が特定回数（３５０回、４００回、および４５０回）において天井煽り用の特殊な変動パターンを選択することが困難となる。これについては、開発者がどちらの制御を重視するかに応じて任意に選択することができる。

【６９３３】

＜第２１制御例における電気的構成＞

次に、図６５４（ａ）を参照して、本第２１制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図６５４（ａ）は、本第２１制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図６５４（ａ）に示した通り、本第２１制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第１９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図６２６（ａ）参照）に対して、変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂに代えて変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂが設けられている点、および変動パターンシナリオ１９テーブル２０２ｓｊに代えて変動パターンシナリオ２１テーブル２０２ｕｊが設けられている点でのみ相違する。その他の構成については上述した第１９制御例におけるＲＯＭ２０２と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６９３４】

まず、図６５５（ａ）を参照して、本第２１制御例における変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂの詳細について説明する。図６５５（ａ）は、本第２１制御例における変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂの構成を示したブロック図である。図６５５（ａ）に示した通り、本第２１制御例における変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂは、上述した第１９制御例における変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂ（図６２８（ａ）参照）に対して、時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５と時短終了後用テーブル２０２ｕｂ６とが追加されている点で相違している。その他の構成については上述した第１９制御例における変動パターン選択１９テーブル２０２ｓｂと同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６９３５】

まず、図６５５（ｂ）を参照して、本第２１制御例における変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂを構成するデータテーブルの１つである時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５の詳細について説明する。この時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５は、通常時短状態の終了後特別図柄の抽選回数が４回以内の範囲において参照される変動パターン選択テーブルであり、通常時短状態の終了時に貯まっていた第２特別図柄の保留球を消化する際の外れ時の変動時間を１秒間に固定化するためのデータテーブルである。

【６９３６】

図６５５（ｂ）は、この時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５の規定内容を示した図である。図６５５（ｂ）に示した通り、時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５には、特別図柄の種別および特別図柄の抽選結果毎に、各種変動パターンに対応する変動種別カウンタＣＳ１の値の範囲が対応付けられている。具体的には、特別図柄の種別が第１特別図柄である場合に、特別図柄の抽選結果「大当たり」に対して、変動種別カウンタＣＳ１の値が０～１４９の範囲に変動時間が１５秒のノーマルリーチ当たりが対応付けて規定され、１５０～１９８の範囲に変動時間が３０秒のスーパーリーチ当たりが対応付けて規定されている。また、第１特別図柄の抽選結果が「特殊当たり」および「小当たり」に対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動時間が１５秒間のノーマルリーチ当たりが対応付けて規定されている。また、特別図柄の抽選結果「時短図柄当選」に対

しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動時間が１５秒間のノーマルリーチが対応付けて規定されている。更に、第１特別図柄の抽選結果「外れ」に対しては、変動種別カウンタＣＳ１の値が０～１９６の範囲に変動時間が５秒の短外れが対応付けて規定され、１９７，１９８の範囲に変動時間が１５秒のノーマルリーチ外れが対応付けて規定されている。このため、時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５が参照される状況下において第１特別図柄の抽選が実行されると、外れの場合に１５秒以上の変動時間の変動種別が選択される割合が極めて低くなる（２／１９９になる）。よって、第１特別図柄の抽選が実行された場合には、リーチ演出が発生するだけで大当たりとなることに対する期待感を大きく向上させることができる。

【６９３７】

また、図６５５（ｂ）に示した通り、特別図柄の種別が第２特別図柄である場合には、特別図柄の抽選結果「大当たり」に対して、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動時間が５秒間の短当たりが対応付けて規定されている。一方、第２特別図柄の抽選結果「外れ」に対しては、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る全範囲に対して、変動時間が１秒間の「超短外れ」が対応付けて規定されている。このため、通常時短状態の終了後、４回以内の特別図柄の抽選が第２特別図柄により実行された場合には、抽選結果が大当たりになると、必ず５秒間の変動時間が設定され、外れになると必ず１秒間の変動時間が設定される。これにより、通常時短終了時に貯まっていた第２特別図柄の保留球を消化する際の消化時間を固定化することができるので、通常時短状態の終了後におけるエンディング演出の演出期間を確保することができる。

【６９３８】

次に、図６５５（ｃ）を参照して、本第２１制御例における変動パターン選択２１テーブル２０２ｕｂを構成するデータテーブルの１つである時短終了後用テーブル２０２ｕｂ６の詳細について説明する。この時短終了後用テーブル２０２ｕｂ６は、通常時短状態の終了後特別図柄の抽選回数が５回から２０回の範囲において参照される変動パターン選択テーブルであり、リーチ演出が発生した場合の大当たり期待度が通常よりも大幅に向上する特殊な演出モードを形成するために参照されるデータテーブルである。図６５５（ｃ）に示した通り、この時短終了後用テーブル２０２ｕｂは、時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５（図６５５（ｂ）参照）における第１特別図柄に対応する規定内容が、第１特別図柄および第２特別図柄に共通する規定内容として設定されている。よって、この時短終了後用テーブル２０２ｕｂ６が参照された場合、特別図柄の外れにおいて１５秒以上の変動時間の変動種別が選択される割合が極めて低くなる（２／１９９になる）。よって、特別図柄の抽選が実行された場合には、リーチ演出が発生するだけで大当たりとなることに対する期待感を大きく向上させることができる斬新な遊技性を実現することができる。これにより、通常時短状態が終了した後も、少なくとも特別図柄の抽選が２０回実行されるまでは遊技を継続しようと遊技者に思わせることができるので、パチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９３９】

次に、図６５６（ａ）を参照して、本第２１制御例における変動パターンシナリオ２１テーブル２０２ｕｊの詳細について説明する。図６５６（ａ）は、本第２１制御例における変動パターンシナリオ２１テーブル２０２ｕｊの構成を示したブロック図である。図６５６（ａ）に示した通り、本第２１制御例における変動パターンシナリオ２１テーブル２０２ｕｊは、大当たり終了を契機として設定される変動パターンシナリオを規定したデータテーブルである当たり後用テーブル２０２ｕｊ１と、天井抽選回数に到達したことを契機として設定される変動パターンシナリオを規定したデータテーブルである天井到達後用テーブル２０２ｕｊ２と、通常時短状態（時短図柄当選に基づく時短状態、および天井抽選回数到達に基づく時短状態）が終了したことを契機として設定される変動パターンシナリオを規定したデータテーブルである時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３と、で少なくとも構成されている。まず、図６５６（ｂ）を参照して、当たり後用テーブル２０２ｕｊ１の詳細について説明する。図６５６（ｂ）は、この当たり後用テーブル２０２ｕｊ１の規

定内容を示したブロック図である。

【６９４０】

図６５６（ｂ）に示した通り、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値）が１～３４９、３５１～３９９、４０１～４４９、および４５１～５００の範囲に対して、通常用１９テーブル２０２ｓｂ１が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が３５０、４００、および４５０に対して、天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３が対応付けて規定されている。一方で、現在の遊技状態が通常状態以外の遊技状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値）が１～５００の全範囲に対して、確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２が対応付けて規定されている。よって、大当たり終了後においては、遊技状態が通常状態であれば、天井抽選回数までの残回数が１５０回、１００回、および５０回となる毎に、天井煽り用の特殊な変動パターンが選択されることにより、天井煽り用の演出（図６２４、図６２５参照）を実行することができる。

【６９４１】

次に、図６５６（ｃ）を参照して、上述した天井到達後用テーブル２０２ｕｊ２の詳細について説明する。図６５６（ｃ）は、この天井到達後用テーブル２０２ｕｊ２の規定内容を示した図である。図６５６（ｃ）に示した通り、天井到達後用テーブル２０２ｊ２には、通常状態以外の遊技状態に対するシナリオのみが対応付けられている。つまり、天井抽選回数到達に基づいて設定された時短回数の通常時短状態が終了するか、通常時短状態の間に時短図柄に当選して設定された通常時短状態が終了するまでの間の状態に対するシナリオのみが規定されている。これは、上述した通り、通常時短状態が終了するタイミング（即ち、通常状態に移行するタイミング）で、通常時短終了時用の変動パターンシナリオ（時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３を参照する変動パターンシナリオ）に切り替えられるため、通常状態において天井到達後用テーブル２０２ｕｊ２を参照する可能性が無いためである。

【６９４２】

図６５６（ｃ）に示した通り、現在の遊技状態が通常状態以外の遊技状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値）が１に対して、天井到達時用テーブル２０２ｓｂ４が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が２～５００の範囲に対して、確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２が対応付けて規定されている。よって、第１９制御例と同様に、天井抽選回数に到達して時短状態に設定された後、１回目の変動表示における変動時間を、外れの場合に３０秒間に固定化することができるので、時短状態に突入したことに基づいて実行される各種の報知を行うための演出期間を十分に確保することができる。

【６９４３】

次に、図６５７を参照して、上述した時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３の詳細について説明する。図６５７は、この時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３の規定内容を示した図である。図６５７に示した通り、現在の遊技状態が通常状態という状況においては、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値）が１～４の範囲に対して、時短終了報知用テーブル２０２ｕｂ５（図６５５（ｂ）参照）が対応付けて記載され、特別図柄の抽選回数（シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値）が５～２０の範囲に対して、時短終了後用テーブル２０２ｕｂ６（図６５５（ｃ）参照）が対応付けて規定され、特別図柄の抽選回数が２１回以降の範囲に対して、通常用１９テーブル２０２ｓｂ１が対応付けて規定されている。これに対し、現在の遊技状態が通常状態以外という状況においては、特別図柄の抽選回数によらず、確変・時短用１９テーブル２０２ｓｂ２が対応付けて規定されている。

【６９４４】

通常時短状態の終了後に時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３を参照する変動パターンシナリオを設定する構成とすることで、通常時短状態が終了してから第２特別図柄の保留球を全て消化するまでの間の期間で通常時短状態のエンディング演出を実行することができ

る。また、通常時短状態が終了してから２０回の特別図柄の抽選が終了するまでの間、リーチ演出が発生した際の大当たり期待度が大きく向上する特殊なモードを形成することができる。よって、通常時短状態の終了後、２０回の特別図柄の抽選が終了するまでは少なくとも遊技を継続しようと遊技者に対して思わせることができるので、パチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９４５】

次に、図６５４（ｂ）を参照して、本第２１制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図６５４（ｂ）は、本第２１制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図６５４（ｂ）に示した通り、本第２１制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第１９制御例におけるＲＡＭ２０３の構成に対して、シナリオ用カウンタ２０３ｕａと、通常時短フラグ２０３ｕｂと、が追加されている点でのみ相違している。

【６９４６】

シナリオ用カウンタ２０３ｕａは、上述した第２０制御例におけるシナリオ用カウンタ２０３ｔｂと同様に、変動パターンシナリオに応じた変動パターンテーブルを選択する際に、現在の特別図柄の抽選回数を判別するためのカウンタである。つまり、本第２１制御例では、上述した第２０制御例と同様に、特図抽選カウンタ２０３ｌａとシナリオ用カウンタ２０３ｔｂとを別々に設ける構成とし、別々に更新する制御を採用している。具体的には、本第２１制御例におけるシナリオ用カウンタ２０３ｔｂは、各種変動パターンシナリオを設定する際に値が０にリセットされ（図６６０のＳ８３２３Ａ、図６６１のＳ３８１３１Ａ参照）、特別図柄の変動パターンを選択する際に値が１ずつ加算して更新される（図６５９のＳ３８２６３）。このシナリオ用カウンタ２０３ｕａを参照して現在設定されている変動パターンシナリオから対応する変動パターン選択テーブルを特定する構成としている。

【６９４７】

通常時短フラグ２０３ｕｂは、時短状態が大当たり終了後に設定された時短状態であるか通常時短状態（時短図柄当選に基づく時短状態、若しくは天井抽選回数到達に基づく時短状態）であるかを示すフラグである。この通常時短フラグ２０３ｕｂがオンであれば、通常時短状態であることを意味し、オフであれば、大当たり終了後に設定された時短状態であることを意味する。この通常時短フラグ２０３ｕｂは、初期値がオフに設定されており、通常時短状態へと移行する際にオンに設定される（図６６１のＳ３８１３２Ａ参照）。また、通常時短状態の終了時にオフに設定される（図６６０のＳ８３２２Ａ参照）。この通常時短フラグ２０３ｕｂがオンの状態で時短状態が終了した場合は、通常時短状態が終了したと判別して、変動パターンテーブルが再セットされる。即ち、通常時短状態のエンディング演出や、リーチ演出が高期待度となる演出モード等を実現可能な変動パターンシナリオを設定することができるので、通常時短状態の終了後において、遊技者が遊技を辞めたいと思い難く構成することができる。よって、パチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９４８】

次に、図６５８を参照して、本第２１制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図６５８は、本第２１制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図６５８に示した通り、本第２１制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１９制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図６３０参照）に対して、演出モードフラグ２２３ｕａが追加されている点でのみ相違している。その他の構成については上述した第１９制御例におけるＲＡＭ２２３と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【６９４９】

演出モードフラグ２２３ｕａは、現在の演出モードを示すフラグである。この変動パターンコマンドに応じて変動表示態様を決定する際は、この演出モードフラグ２２３ｕａにより示される演出モードに応じた変動表示態様が選択される。

【６９５０】
＜第２１制御例における主制御装置の制御処理について＞
次に、図６５９から図６６２を参照して、本第２１制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図６５９を参照して、本第２１制御例における特別図柄変動パターン選択処理２１（Ｓ３０２６１Ａ）の詳細について説明する。この特別図柄変動パターン選択処理２１（Ｓ３０２６１Ａ）は、上述した第１９制御例（および第１３制御例）における特別図柄変動パターン選択処理１３（図４５４参照）に代えて実行される処理であり、特別図柄変動パターン選択処理１３（図４５４参照）と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に、抽選結果に応じた変動パターンを設定するための処理である。図６５９は、この特別図柄変動パターン選択処理２１（Ｓ３０２６１Ａ）を示したフローチャートである。
【６９５１】
この第２１制御例における特別図柄変動パターン選択処理２１（図６５９参照）のうち、Ｓ８２０１，Ｓ８２０３、およびＳ８２０５～Ｓ８２０９の各処理では、それぞれ上述した第１９制御例における特別図柄変動パターン選択処理１９（図４５４参照）のＳ８２０１，Ｓ８２０３、およびＳ８２０５～Ｓ８２０９の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２１制御例における特別図柄変動パターン選択処理２１（図６５９参照）では、Ｓ８２０１の処理において特別図柄の抽選結果が大当たりであると判別された場合（Ｓ８２０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別選択１６テーブル２０２ｐｄより今回の大当たり種別を決定し（Ｓ３８２６１Ａ）、処理をＳ８２０３へと移行する。
【６９５２】
また、本第２１制御例における特別図柄変動パターン選択処理２１（図６５９参照）では、Ｓ８２０９の処理において、時短図柄当選に対応する抽選結果であると判別した場合に（Ｓ８２０９：Ｙｅｓ）、時短当たり種別選択１９テーブル２０２ｓｉ（図６２９（ａ）参照）を参照して時短当たりの種別を特定し（Ｓ３８２６２Ａ）、処理をＳ８２０３へと移行する。
【６９５３】
更に、本第２１制御例における特別図柄変動パターン選択処理２１（図６５９参照）では、Ｓ８２０３の処理が終了すると、シナリオ用カウンタ２０３ｕａの値に１を加算して更新し（Ｓ３８２６３Ａ）、次に、シナリオ格納エリア２０３ｓｂのデータに基づいて現在設定されている変動パターンシナリオを読み出す（Ｓ３８２６４Ａ）。Ｓ３８２６４Ａの処理が終了すると、読み出した変動パターンシナリオに基づいて現在の遊技状態、特別図柄の抽選結果、およびシナリオ用カウンタ２０３ｕａの値に対応する変動パターン選択テーブルを特定して（Ｓ３８２６５Ａ）、処理をＳ８２０５へと移行する。
【６９５４】
次に、図６６０を参照して、本第２１制御例における更新処理２１（Ｓ２４１Ａ）について説明する。この更新処理２１（Ｓ２４１Ａ）は、上述した第１９制御例（および第１６制御例）における更新処理１６（図５２５参照）に代えて実行される処理であり、更新処理１６（図５２５参照）と同様に、特別図柄の変動停止時に遊技状態の更新を行うための処理である。
【６９５５】
この第２１制御例における更新処理２１（図６６０参照）のうち、Ｓ８３０１～Ｓ８３０７、およびＳ８３１３の各処理では、それぞれ第１９制御例（および第１６制御例）における更新処理１６（図５２５参照）のＳ８３０１～Ｓ８３０７、およびＳ８３１３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２１制御例における更新処理２１（図６６０参照）では、Ｓ８３０６の処理が終了すると、通常時短フラグ２０３ｕｂがオンであるか否かを判別し（Ｓ８３２１）、オンであると判別した場合は（Ｓ８３２１：Ｙｅｓ）、次いで、シナリオ格納エリア２０３ｓｂに対して時短終了後用テーブル２０２ｕｊ３を参照して変動パターン選択テーブルを特定するシナリオを示すデータを格納する（Ｓ８３２２Ａ）。Ｓ８３２２Ａの処理が終了すると、通常時短フラグ２０３ｕｂをオフに設定し（Ｓ

８３２３）、シナリオ用カウンタ２０３ｓａの値を０にリセットして（Ｓ８３２４Ａ）、処理をＳ８３１３へと移行する。これに対し、Ｓ８３２１Ａの処理において、通常時短フラグ２０３ｕｂがオフであると判別した場合は、処理をＳ８３０７へと移行する。

【６９５６】

また、本第２１制御例における更新処理２１（図６６０参照）では、Ｓ８３０７の処理が終了すると、上述した第１９制御例における天井判定処理１９（図６３１参照）に代えて天井判定処理２１を実行し（Ｓ８３２５）、本処理を終了する。この天井判定処理２１（Ｓ８３２５）の詳細については、図６６１を参照して後述する。

【６９５７】

この更新処理２１（図６６０参照）を実行することにより、通常時短状態が終了した場合に、時短終了後用の変動パターンシナリオを設定することができるので、通常時短状態のエンディング演出やリーチ演出に発展した際の期待度が向上する特殊モード等を形成することができる。

【６９５８】

次に、図６６１を参照して、上述した天井判定処理２１（Ｓ８３２５Ａ）の詳細について説明する。この天井判定処理２１（Ｓ８３２５Ａ）は、上述した通り、第１９制御例における天井判定処理１９（図６３１参照）に代えて実行される処理であり、天井判定処理１９（図６３１参照）と同様に、特別図柄の抽選回数から天井抽選回数への到達有無を判別し、天井抽選回数に到達した場合に時短状態を発生させるための処理である。

【６９５９】

この第２１制御例における天井判定処理２１（図６６１参照）のうち、Ｓ３８１０１～Ｓ３８１０５，Ｓ３８１１２Ａ～Ｓ３８１１４Ａ，Ｓ３８１１７Ａ，Ｓ３８１２１Ａ～Ｓ３８１２３Ａ、およびＳ３８１２６Ａの各処理では、上述した第１９制御例における天井判定処理１９（図６３１参照）におけるＳ３８１０１～Ｓ３８１０５，Ｓ３８１１２Ａ～Ｓ３８１１４Ａ，Ｓ３８１１７Ａ，Ｓ３８１２１Ａ～Ｓ３８１２３Ａ、およびＳ３８１２６Ａの各処理と同一の処理が実行される。

【６９６０】

また、本第２１制御例における天井判定処理２１（図６６１参照）では、Ｓ３８１１４Ａの処理が終了すると、特図抽選カウンタ２０３ｌａの値、およびシナリオ用カウンタ２０３ｕａの値を０にクリアし（Ｓ３８１３１）、天井時短待機フラグ２０３ｓａ、および通常時短フラグ２０３ｕｂをオンに設定して（Ｓ３８１３２）、処理をＳ３８１２６Ａへと移行する。

【６９６１】

次に、図６６２を参照して、本第２１制御例における立ち上げ処理の詳細について説明する。この立ち上げ処理は、上述した第１９制御例における立ち上げ処理と同様に、パチンコ機１０に対する電源投入に基づいて実行される処理である。図６６２は、この第２１制御例における立ち上げ処理を示すフローチャートである。

【６９６２】

この第２１制御例における立ち上げ処理のうち、Ｓ１７０１～Ｓ１７１２，Ｓ１７２１Ａ，Ｓ１７５１Ａ，Ｓ１７５２Ａ，Ｓ３１７０１Ａ、およびＳ３１７０２Ａの各処理では、それぞれ第１９制御例における立ち上げ処理（図６３２参照）のＳ１７０１～Ｓ１７１２，Ｓ１７２１Ａ，Ｓ１７５１Ａ，Ｓ１７５２Ａ，Ｓ３１７０１Ａ、およびＳ３１７０２Ａの各処理と同一の処理が実行される。

【６９６３】

また、本第２１制御例における立ち上げ処理（図６６２参照）では、Ｓ１７１２の処理が終了すると、ＲＡＭ２０３の使用ＲＡＭ領域のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａ、シナリオ用カウンタ２０３ｕａ、シナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の記憶領域をクリアし（Ｓ１７６１Ａ）、ＲＡＭ２０３のうち、特図抽選カウンタ２０３ｌａ、シナリオ用カウンタ２０３ｕａ、シナリオ格納エリア２０３ｓｂ以外の記憶領域に対して初期値を設定して（Ｓ１７６２Ａ）、処理をＳ１７１０へと移行する。これにより、ＲＡＭクリア操作を

伴う電源投入が行われた場合にも、天井抽選回数までの残りの抽選回数や変動パターンシナリオの進行状況等を維持することができる。

【６９６４】

＜第２１制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図６６３、および図６６４を参照して、本第２１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図６６３を参照して、本第２１制御例における演出態様設定処理２１（Ｓ５０１１Ａ）について説明する。この演出態様設定処理２１（Ｓ５０１１Ａ）は、上述した第１９制御例における演出態様設定処理１９（図６３４参照）に代えて実行される処理であり、第１９制御例における演出態様設定処理１９（図６３４参照）と同様に、変動パターンコマンドを受信した場合に、当該受信した変動パターンコマンドにより通知された変動種別に応じた変動表示態様を設定するための処理である。

【６９６５】

この第２１制御例における演出態様設定処理２１（図６６３参照）のうち、Ｓ３４４０１，Ｓ３４４０３，Ｓ３４４０７、およびＳ３４４３１Ａ～Ｓ３４４４８Ａの各処理では、それぞれ第１９制御例における演出態様設定処理１９（図６３４参照）のＳ３４４０１，Ｓ３４４０３，Ｓ３４４０７、およびＳ３４４３１Ａ～Ｓ３４４４８Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２１制御例における演出態様設定処理２１（図６６３参照）では、Ｓ３４４４７Ａの処理が終了すると、演出モードフラグ２２３ｕａを通常時短状態のエンディング演出用の値に更新して（Ｓ３４４５１Ａ）、処理をＳ３４４０７へと移行する。

【６９６６】

次に、図６６４を参照して、本第２１制御例における天井関連演出設定処理２１（Ｓ３４５６１Ａ）の詳細について説明する。この天井関連演出設定処理２１（Ｓ３４５６１Ａ）は、上述した第１９制御例における天井関連演出設定処理（図６３７参照）に代えて実行される処理であり、第１９制御例における天井関連演出設定処理（図６３７参照）と同様に、天井に関連する演出態様を設定するための処理である。

【６９６７】

この第２１制御例における天井関連演出設定処理２１（図６６４参照）のうち、Ｓ３４５７１Ａ、およびＳ３４５７３Ａ～Ｓ３４５７５Ａの各処理では、それぞれ上述した第１９制御例における天井関連演出設定処理（図６６４参照）のＳ３４５７１Ａ、およびＳ３４５７３Ａ～Ｓ３４５７５Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２１制御例における天井関連演出設定処理２１（図６６４参照）では、Ｓ３４５７１Ａの処理において今回の変動パターンが天井煽り用の変動パターンではないと判別した場合に（Ｓ３４５７１Ａ：Ｎｏ）、受信した変動パターンと演出モードフラグ２２３ｕａが示す演出モードとに応じた演出態様を決定し（Ｓ３４５８１Ａ）、演出モードの切り替わりタイミングであるか否かを判別する（Ｓ３４５８２Ａ）。具体的には、演出モードが通常時短状態の終了後のエンディング演出用のモードであり、第２特別図柄の保留球が０になった場合は、修行ゾーンを示す状態に更新し、通常時短状態の終了後における特別図柄の抽選回数が２０回となった場合は、通常の演出モードを示す状態に更新する。

【６９６８】

Ｓ３４５８２Ａの処理において、演出モードの切り替わりタイミングであると判別した場合は（Ｓ３４５８２Ａ：Ｙｅｓ）、演出モードフラグ２２３ｕａを切り替わり後の演出モードに対応する状態に更新して（Ｓ３４５８３Ａ）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ３４５８２Ａの処理において、演出モードの切り替わりタイミングではないと判別した場合は（Ｓ３４５８２Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３４５８３Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【６９６９】

以上説明した通り、本第２１制御例におけるパチンコ機１０では、天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される時短状態や、時短図柄に当選したことに基づいて設定され

る時短状態（通常時短状態）の終了を契機として、変動パターンシナリオを切り替える構成とし、変動時間に応じて設定される変動表示態様も異ならせることにより、特殊な演出モードを形成するように構成した。このように構成することで、大当たりを介さずに設定された時短状態が終了した（賞球を何ら獲得することなく有利な時短状態が終了した）場合に、特殊な演出モードを形成することで、遊技者の落胆を緩和すると共に、特殊な演出モードが終了するまでの間、遊技を継続しようと思わせることを可能に構成した。これにより、時短状態の終了後におけるパチンコ機１０の稼働率を向上させることができる。

【６９７０】

なお、本第２１制御例では、大当たり終了時、天井抽選回数到達時、および通常時短状態の終了時に変動パターンシナリオを再設定する構成としていたが、これに限られるものではない。大当たり終了後に設定される時短状態が終了した場合にも、変動パターンシナリオを再セットする構成としてもよい。このように構成することで、大当たり終了後に設定された時短状態が終了した場合にも、特殊な演出モードを形成することができるので、特殊な演出モードが設定されている間は、遊技を継続しようと思わせ易く構成することができる。よって、パチンコ機１０の稼働率をより向上させることができる。なお、大当たり終了後に設定される時短状態の終了タイミングは固定化されている（大当たり終了後１００回で終了する）ため、時短状態や確変状態が終了した時点における天井抽選回数までの残回数は毎回共通（４００回）となる。よって、大当たり終了後の時短状態が終了した場合に設定する変動パターンシナリオにおいては、シナリオセット後の抽選回数が２５０回、３００回、及び３５０回で天井煽り用の変動パターンテーブル（天井煽り用テーブル２０２ｓｂ３）を参照する構成とすることで、天井抽選回数までの残回数が１５０回、１００回、および５０回のタイミングで天井煽り用の演出を実行することができる。つまり、上述した第１９制御例や第２１制御例と同一の挙動を実現することができる。

【６９７１】

上述した第１９制御例から第２１制御例では、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に、ＲＡＭ２０３の一部のデータが初期化されることを回避する構成としていた。この場合において、初期化されることを回避するデータを格納するアドレスを固定化する構成としてもよい。つまり、第１９制御例において初期化が回避されるシナリオ格納エリア２０３ｓｂおよび特図抽選カウンタ２０３ｌａ、第２０制御例において初期化が回避されるシナリオ格納エリア２０３ｓｂおよびシナリオ用カウンタ２０３ｔｂ、第２１制御例において初期化が回避される特図抽選カウンタ２０３ｌａ、シナリオ格納エリア２０３ｓｂ、およびシナリオ用カウンタ２０３ｕａを、ＲＡＭ２０３の固定のアドレス範囲に格納する構成としてもよい。このように構成した場合、少なくとも第１９制御例から第２１制御例の各仕様のうち１の仕様のパチンコ機１０をベースとして、他の仕様のパチンコ機１０を開発する際に、プログラムの転用を容易にすることができる。つまり、主制御装置１１０の立ち上げ処理（図６３７、図６４７、図６６２参照）に対応するプログラムを転用先の仕様に合わせて書き替える際に、ＲＡＭクリア操作を伴う電源投入が行われた場合に初期化が回避されるアドレス範囲を共通化することができるので、この部分のプログラムを変更する必要がなくなり、プログラム開発者の手間を少なくすることができる。また、プログラムの変更する必要がなくなることにより、初期化が回避されるアドレスとしてプログラム開発段階で誤ったアドレスに書き替えられてしまうことを抑制できるので、パチンコ機１０の誤動作を抑制することができる。

【６９７２】

＜第２２制御例＞

次に、図６６５から図７３４を参照し、第２２制御例におけるパチンコ機１０について説明する。従来より、遊技者が選択ボタン（操作手段）を操作することにより、パチンコ機１０の光量（ＬＥＤの輝度や、液晶ディスプレイのバックライトの明るさ）を調整可能な光量調整機能を有するものがある。この光量調整機能を用いることにより、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出や、大当たり当選時に実行される大当たり遊技中の大当たり遊技演出や、設定されている遊技状態を示すための状態演出の明るさ（装飾用ＬＥＤの

輝度や、第３図柄表示装置８１として用いられる液晶ディスプレイのバックライトの明るさ）を、遊技者が任意の明るさに調整することができるため、遊技者が所望する快適な演出を提供することができるものであった。しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、待機期間（特別図柄抽選が実行されておらず、且つ、当たり遊技が実行されていない期間）中において光量を調整可能とするものが一般的であり、光量調整機能を用いて光量を調整する時点において発光している装飾用ＬＥＤの輝度や、待機画面が表示されている液晶ディスプレイのバックライトの明るさの可変度合いを目視確認しながら所望する光量へと調整するものであった。

【６９７３】

ここで、近年、遊技者が遊技を実行していない待機画面（デモ画面）表示中は、パチンコ機１０全体の光量を抑えることで、パチンコ機１０の省エネ化を図るものがある。また、遊技者の遊技中であっても、実行される演出に対する大当たり期待度に対応させて、パチンコ機１０全体の光量を可変させることにより、遊技者に対してメリハリのある演出を実行可能とすると共に、実行中の演出の内容に遊技者を注視させるタイミング（例えば、大当たり当選の有無を報知するタイミングや、当たり遊技の内容を報知するタイミング）においてはパチンコ機１０全体の光量を高めることにより遊技者が演出を見逃してしまうことを抑制可能に構成しているものがある。

【６９７４】

このように構成された従来型のパチンコ機１０では、待機画面中であるパチンコ機１０の光量、即ち、遊技中とは異なる（遊技中よりも低く設定されている）光量を基準に光量調整操作を行うことになるため、実際に遊技を実行した場合に、所望する光量と設定した光量とが乖離していることに気付き、再度、遊技者に光量調整操作を行わせてしまうという問題があった。

【６９７５】

これに対して、本第２２制御例では、待機画面中に実行される光量調整操作時に、比較的高輝度なＬＥＤが設けられた装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を光量調整位置へと可動させ、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）のＬＥＤを発光させた状態で光量調整可能に構成している。つまり、遊技が実行されていない状態であっても、変動演出に用いられる装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を用いて光量調整可能に構成している。このように構成することで、遊技者の所望する光量へと適切に調整し易くすることができる。

【６９７６】

また、本第２２制御例では、実際の変動演出にて可変される可変位置（第３図柄表示装置８１の表示面を覆う位置）へと装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を可変させた状態を環境調整位置とし、環境調整位置に位置する装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）に備えられている発光手段（ＬＥＤ）を発光させるように構成している。

【６９７７】

従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様として、大当たり当選の有無を報知するタイミングや、大当たり当選の期待度が高い演出態様へと変動演出の内容が切り替わるか否かを報知するタイミングにおいて、装飾用可動役物を可動させることで遊技者に実行中の変動演出を注視させるものがある。この場合、パチンコ機１０に設けられた装飾用の発光手段（ＬＥＤ）の光量を高めた発光演出を併せて実行するのが一般的である。

【６９７８】

つまり、本第２２制御例によれば、実際の変動演出にて装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を可動させた状態と同様の状態を疑似的に再現し、その状態において光量調整操作を実行可能に構成している。このように構成することで、眩しすぎる演出が実行されることを抑制するために、光量調整操作を実行し、光量を下げようとする遊技者に対して、比較的光量の高い演出を基準に光量調整を行わせることが可能となるため、遊技者の所望する光量へと適切に調整し易くすることができる。

【６９７９】

また、本第２２制御例では、待機画面中だけで無く、特別図柄変動が実行されている最中や、大当たり遊技が実行されている最中、即ち、遊技者が遊技を実行している遊技期間内においても光量調整操作を実行可能に構成しており、遊技期間中において光量調整操作を実行した場合には、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置へと可動させること無く、光量調整が実行されるように構成している。このように構成することで、遊技期間中に実行される光量調整操作に基づいて装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動してしまい、変動演出の一環として装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動したと遊技者に誤解を与えてしまうことを抑制することができる。

【６９８０】

ここで、遊技者が待機画面表示中に光量調整操作を実行している状態、即ち、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置に位置している状態で操作ハンドル２１を操作し、第１入球口６４へと遊技球を入球させた場合には、光量調整操作中に第１特別図柄変動が開始し、第３図柄表示装置８１の表示画面では、実行された第１特別図柄変動に対応する変動演出が実行される事象が発生することになる。

【６９８１】

この場合、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置に位置させた状態を、光量調整操作が終了するまで継続させてしまうと、環境調整位置に位置している装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行されている変動演出と重なってしまい、遊技者に分かり難い演出を提供してしまうという問題があった。また、変動演出の一環として装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動し得る位置を環境調整位置としているため、光量調整操作に基づいて環境調整位置に位置している装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が、変動演出として可動していると遊技者に誤解を与えてしまうという問題があった。

【６９８２】

そこで、本第２２制御例では、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置に位置している状態で特別図柄変動が開始された場合（遊技が実行された場合）には、光量調整操作を継続させながら、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置から初期位置（格納位置）へと可動させるように構成している。

【６９８３】

このように構成することで、待機画面中に光量調整操作を実行している最中に特別図柄変動が開始された場合であっても、違和感の無い演出を遊技者に提供することができる。

【６９８４】

より具体的に説明をすると、特別図柄変動が実行されることに基づいて装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置から初期位置（格納位置）へと可動させる場合には、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を可動させる前に、光量確認用として発光させていた装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）の発光手段（ＬＥＤ）を消灯させる消灯制御を実行し、ＬＥＤが全消灯している状態で装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を初期位置へと可動させる可動制御を実行するように構成している。

【６９８５】

このように構成することで、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置から初期位置へと可動させている間は、装飾用可動役物の発光手段（ＬＥＤ）が点灯していない状態とすることができるため、変動演出の一環として装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動していないことを遊技者に分かり易く把握させることができる。

【６９８６】

また、本第２２制御例では、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置に位置している状態で実行された光量調整操作が完了し、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が初期位置（格納位置）へと格納された場合には、その後１０秒間の間、剣役物Ｙｍ３が可動されない期間を設定可能に構成している。

【６９８７】

具体的には、待機画面中における光量調整操作が完了した直後に、再度、光量調整操作

を実行した場合には、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動すること無く、光量調整操作画面が表示される態様の光量調整操作が実行されることになる。また、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置に位置している状態で特別図柄変動が開始された場合（遊技が実行された場合）には、その特別図柄変動に対応する変動演出の演出パターンとして、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が可動されることの無い演出パターンが決定されるように構成している。

【６９８８】

このように構成することで、短期間の間に装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）に対する可動制御が実行されてしまうことを抑制することができるため、剣役物Ｙｍ３が頻繁に可動してしまい、剣役物Ｙｍ３が故障してしまう事態が発生することを抑制することができる。加えて、剣役物Ｙｍ３が可動可能な状態となるよりも前に次の剣役物Ｙｍ３に対する可動制御が実行され、剣役物Ｙｍ３の可動期間にズレが発生したり、正常な可動動作が実行されなかったりする事態が発生することを抑制することができる。

【６９８９】

次に、上述した各制御例では、獲得した保留球数を示す保留図柄を液晶画面に表示させ、その保留球の抽選結果を先読み（事前判別）した結果に基づいてその保留球に対応する保留図柄の表示態様を変化させることで、遊技者に対して先読みの結果を報知する演出（保留変化演出）を第３図柄表示装置８１のみで行う構成であった。

【６９９０】

これに対して、本第２２制御例のパチンコ機１０では、この保留変化演出が実行される場合に、役物を用いて第３図柄表示装置８１に表示されている変化対象の保留図柄以外の保留図柄を覆い隠す構成としている。このように構成することで、どの保留図柄が変化対象なのかを遊技者に対して明確にすることができる。

【６９９１】

より具体的に説明すると、本第２２制御例における保留変化演出では、２つの装飾用可動役物（左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２、図６７２（ｂ）参照）によって、表示装置において保留図柄が表示されている表示領域を覆い隠すことが可能に構成しており、この装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）の可変位置によって、保留図柄の表示領域を、遊技者が視認可能な部分と視認困難な部分に分けることが可能である。これにより、変化対象の保留図柄が表示された表示領域のみを遊技者に視認可能な状態とし、変化対象の保留図柄を遊技者に分かり易くすることができる。

【６９９２】

ここで、従来より、派手なエフェクトを用いた保留変化演出を実行し、遊技者を保留変化演出に注目させるものがある。例えば、変化対象の保留図柄を激しく発光させた後、保留図柄の表示態様を変化させる演出である。このような保留変化演出において、変化対象の保留図柄の他に保留図柄が表示されている場合に、保留変化演出のエフェクトが変化対象の保留図柄に隣接して表示されている保留図柄に重なって表示されることで、遊技者に変化対象の保留図柄を勘違いさせてしまう虞がある。もし、表示されている複数の保留図柄の内、変化対象の保留図柄に隣接する保留図柄が変化した方が遊技者にとって望ましい状態（例えば、変化対象の保留図柄が白色の保留図柄（通常保留図柄）で、隣接する保留図柄が緑色の保留図柄（変化すると最も大当たり期待度が高い赤色の保留図柄になる保留図柄））である場合に、このような勘違いが生起することで、遊技者をぬか喜びさせることになり、遊技者の遊技意欲低下に繋がる虞があった。

【６９９３】

これに対して、本第２２制御例のパチンコ機１０では、保留変化演出においてチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を用いて、第３図柄表示装置８１に表示されている変化対象以外の保留図柄を覆い隠す構成とすることで、どの保留図柄が変化対象なのかを遊技者に明確にし、遊技者が変化対象の保留図柄を勘違いすることを抑制することができる。

【６９９４】

また、本第２２制御例では、保留変化演出が開始されるまでは装飾用可動役物（チェン

ジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）を第３図柄表示装置８１と重ならない位置である初期位置（図６６９（ａ）参照）とし、保留変化演出が開始されると、初期位置から装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）の動作シナリオに応じた動作位置に動作をする構成としている。

【６９９５】

具体的には、装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）は初期位置から直接、変化対象以外の保留図柄が表示されている表示領域を視認困難な状態とするのではなく、段階的に視認可能な保留図柄を、４個から２個、そして２個から１個へと狭めていく動作を行う構成としている。

【６９９６】

このように構成することで、保留変化演出の開始から保留変化演出の終了までの期間で遊技者にどの保留図柄が変化するのか段階的に予測させる楽しみを提供することが可能となり、遊技者に装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）がどのように動くのかに興味を持たせることで、遊技の興趣を向上させることができる。

【６９９７】

さらに、本第２２制御例では、保留図柄が複数表示されている場合に、隣接する保留図柄の表示態様が、変化対象の保留図柄の表示態様に反映される構成としている。

【６９９８】

より具体的に説明すると、本第２２制御例では、１つの保留図柄に対して全７色（白、青、黄、紫、緑、赤、虹）の中から１色が付与され、付与された色がその保留図柄の保留色となる。本第２２制御例における保留変化演出では、変化対象の保留図柄の保留色を、隣接する保留図柄の保留色から移植させることによって可変させることが可能であり、例えば、変化対象の保留図柄が「青」であり、１つ前に表示されている保留図柄が「黄」である場合には、変化対象の保留図柄に１つ前の保留図柄から「黄」が移植されることによって、変化対象の保留図柄が「緑」に可変し、１つ前の保留図柄は「白」に可変する。なお、この場合、保留色「緑」は、保留色「青」と「白」よりも大当たり当選の期待度が高い場合に表示され易い保留色であるため、「緑」は「青」と「白」よりも上位の保留色となる。

【６９９９】

一方、変化対象の保留図柄が「青」であり、１つ前の保留図柄が「白」である場合には、保留色が移植されても上位の保留色に変化し得ないが、変化対象の保留図柄の次に表示される保留図柄の保留色が「黄」であれば、変化対象の保留図柄に次の保留図柄から「黄」が移植されることによって、変化対象の保留図柄を「緑」とすることが可能な構成としている。

【７０００】

このように構成することで、表示されている保留図柄の保留色が大当たり当選の期待度の低い保留色であっても、新たに保留図柄を獲得することにより、上位の保留色に可変させることができるかもしれないと遊技者に思わせることが可能となり、保留図柄を獲得するために意欲的に遊技を行わせることができる。

【７００１】

＜第２２制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について＞

図６６５は、第２２制御例におけるパチンコ機１０の正面図であり、図６６６はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図６６７はパチンコ機１０の背面図である。

【７００２】

図６６５に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図６６５参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【７００３】
内枠１２には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤１３（図６６６参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、球を遊技盤１３の正面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図６８７参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の正面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。
【７００４】
内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図６６５参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。
【７００５】
正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。
【７００６】
正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図６６５参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａへと案内される。また、上皿１７の上面には、演出ボタン２２（図６６８（ａ）参照）と選択スイッチ６００（図６６８（ｂ）参照）が設けられている。この演出ボタン２２は、例えば、後述する第３図柄表示装置８１（図６６６参照）で表示される演出や背景などを可変させる場合などに、遊技者により操作される。
【７００７】
選択スイッチ６００は、図６６８（ｂ）に示すように、演出等の選択を決定する決定スイッチ６００ａ、上方向の選択を指示するための上スイッチ６００ｂ、右方向の選択を指示するための右スイッチ６００ｃ、下方向の選択を指示するための下スイッチ６００ｄ、左方向の選択を指示するための左スイッチ６００ｅで構成されている。
【７００８】
正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図６６５参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。
【７００９】
また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３正面の貼着スペースＫ１（図６６６参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。
【７０１０】

窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【７０１１】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その左側部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【７０１２】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。

【７０１３】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿（図示せず）が取り付けられている。

【７０１４】

図６６６に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（可動部材３１０を図示し、その他は図示せず）の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、第１可変入賞装置６５、第２可変入賞装置（図示せず）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図６６５参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、第１可変入賞装置６５、第２可変入賞装置（図示せず）、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【７０１５】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図６６５参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図６６６を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【７０１６】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図６６５参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【７０１７】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図６８７参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図６６６の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図６６６の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【７０１８】

遊技領域の正面視左側下部（図６６６の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図６８７参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本第２２制御例では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【７０１９】

また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【７０２０】

尚、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【７０２１】

ここで、「１０Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１０ラウンドの大当たりの後に特別図柄の高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「３Ｒ確変大当たり」と

は、最大ラウンド数が３ラウンドの大当たりの後に特別図柄の高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「３Ｒ時短大当たり」は、最大ラウンド数が３ラウンドの大当たりの後に、特別図柄の低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【７０２２】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【７０２３】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【７０２４】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物６４０ａを開放する回数はせず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【７０２５】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【７０２６】

第３図柄表示装置８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図６８７参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図６８７参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１

図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【７０２７】

第２図柄表示装置は、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【７０２８】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【７０２９】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【７０３０】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【７０３１】

普通図柄始動口（スルーゲート）６７は、可変表示装置ユニット８０の下側の領域における右方において遊技盤に組み付けられ、遊技盤に発射された球のうち、遊技盤の右方を流下する球の一部が通過可能に構成されている。普通図柄始動口（スルーゲート）６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【７０３２】

球の普通図柄始動口（スルーゲート）６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【７０３３】

なお、第２図柄の変動表示は、本第２２制御例のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。

また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、複数（例えば、２つ）であっても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の右方に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【７０３４】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図６８７参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。

【７０３５】

一方、第１入賞口６４の正面視右方には、球が入賞し得る第２入賞口６４０が配設されている。この第２入賞口６４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図６８７参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。

【７０３６】

また、第１入賞口６４および第２入賞口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本第２２制御例においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。

【７０３７】

第２入賞口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【７０３８】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【７０３９】

ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率は、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０にあるような電動役物は有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【７０４０】

よって、通常中においては、第２入賞口６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場

合が多く、第２入賞口６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【７０４１】

一方、確変中や時短中は、普通図柄始動口（スルーゲート）６７に球を通過させることで、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【７０４２】

このように、本第２２制御例のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【７０４３】

第１入賞口６４の下方右側には第１可変入賞装置６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）６５ａが設けられている。パチンコ機１０においては、第１入賞口６４又は第２入賞口６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【７０４４】

この特定入賞口６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【７０４５】

第１可変入賞装置６５は、具体的には、特定入賞口６５ａを覆う横長矩形状の開閉板と、その開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイド（図示せず）とを備えている。特定入賞口６５ａは、通常時は、球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。大当たりの際には大開放口ソレノイドを駆動して開閉板を正面下側に傾倒し、球が特定入賞口６５ａに入賞しやすい開状態を一時的に形成し、その開状態と通常時の閉状態との状態を交互に繰り返すように作動する。

【７０４６】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の下方右側や、第１入賞口６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニット８０の左方でも良い。

【７０４７】

遊技盤１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図６６５参照）を通じて視認することができる。

【７０４８】

遊技盤１３には、第１アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，６４０にも入賞しなかった球は、第１アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。第１アウト口７１は、第１入賞口６４の下方に配設される。

【７０４９】

遊技盤１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。本実施形態においては、風車の内の一つ（可動部材３１０と称す）が遊技盤１３の正面視左側上方に配設され、図６６６において図示されている。

【７０５０】

図６６７に示すように、パチンコ機１０の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【７０５１】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【７０５２】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【７０５３】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【７０５４】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図６８７参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技

ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【７０５５】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図６８７参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【７０５６】

次に、図６６９を参照して、本第２２制御例における装飾用可動役物について説明する。本第２２制御例では、装飾用可動役物として、左チェンジ役物Ｙｍ１、右チェンジ役物Ｙｍ２、剣役物Ｙｍ３を有している。チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２は、本第２２制御例における保留変化演出において使用される装飾用可動役物であり、保留変化演出が実行されていない場合は格納状態となり、図６６９（ａ）に示す通り、第３図柄表示装置８１の下方に格納されているため（初期位置）、遊技者が第３図柄表示装置８１において実行される変動演出を視認し易く構成している。

【７０５７】

一方、保留変化演出が実行される場合には、図６６９（ｂ）に示す通り、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が第３図柄表示装置８１の表示領域と一部重なる状態となる。本第２２制御例では、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が第３図柄表示装置８１の表示領域と一部重なることで、重なる表示領域に表示されている保留図柄を覆い隠し、視認困難な状態とすることが可能となる。なお、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の詳細な動作パターンについては、図６９７を参照して後述する。

【７０５８】

剣役物Ｙｍ３は、特別図柄の変動演出の一部として使用されるだけでなく、デモ演出中に遊技者が光量調整を実行する場合に調整用役物として可動され、それ以外の場合は格納状態となり、格納状態である場合には、図６６９（ａ）に示す通り、第３図柄表示装置８１の右側に格納されているため（初期位置）、遊技者が第３図柄表示装置８１において実行される変動演出を視認し易く構成している。

【７０５９】

一方、剣役物Ｙｍ３が可動状態となった場合には、図６６９（ｂ）に示す通り、初期位置から第３図柄表示装置８１の表示領域に一部重なる位置（環境調整位置）に出現し、遊技者は剣役物Ｙｍ３を視認可能となり、第３図柄表示装置８１の剣役物Ｙｍ３が重なっている表示領域を視認困難になる。なお、本第２２制御例における剣役物Ｙｍ３を使用した変動演出態様は、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合に設定され易く構成しており、変動演出中に剣役物Ｙｍ３が可動状態となることで、第３図柄表示装置８１のみで実行される演出よりも迫力のある演出を提供することが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【７０６０】

図６７０は、第１可変入賞装置６５の断面図である。図６７０（ｃ）は第１可変入賞装置６５の上面図であり、図６７０（ｂ）は、第１可変入賞装置６５のＬｂ－Ｌｂ断面図である。図６７０（ｂ）に示すように、第１可変入賞装置６５には、遊技球が入球可能な開口部である第１特定入賞口６５ａが形成されている。第１特定入賞口６５ａは、パチンコ機１０の上方を略長方形状の開口が形成されており、その開口を通過した遊技球が図６７０（ｂ）の左方向に誘導されるように左下方に傾斜した底面が形成されている。底面の左端部には、遊技球の入賞を検知するための磁気センサで構成された検出口６５ａ１が配置されている。この検出口６５ａ１を通過した遊技球は、図６７１（ｂ）で示す裏カバー体

６５ｅの背面側に形成された振り分け流路へと誘導される。
【７０６１】
なお、図６７０（ｂ）に示すように第１特定入賞口６５ａの開口は、遊技盤１３側より出没可能なシャッター機構で構成された開閉扉６５ｆ１により遊技球が入球可能な開放状態と入球不可能（入球困難）な閉鎖状態とに可変される。閉鎖状態では、開口が完全に開閉扉６５ｆ１によって覆われ、開閉扉の上部を遊技球が転動可能に構成される。また、開放状態では、開閉扉６５ｆ１は、ベース部材６５ｃの内側（遊技盤１３の内部）に退避されることにより第１特定入賞口６５ａ内から退避されるように構成されている。
【７０６２】
このように構成することで、第１可変入賞装置６５の開口が閉鎖されている場合には、遊技球が第１可変入賞装置６５の上面を転動して、第２入球口６４０側へと誘導されるように構成されている。よって、時短遊技中（確変遊技中含む）にも、右打ちした状態のまま、第２始動口６４０へと遊技球を入球させることが可能となり、大当たり遊技後に直ちに左打ちへと遊技方法を変更させる手間を軽減できる。従って、より楽に遊技を行うことができる。
【７０６３】
また、開放状態においては、遊技球が流下する方向と直交する面を第１可変入賞装置６５の開口として構成できるので、より多くの遊技球が効率よく第１特定入賞口６５ａ内に入賞できる。よって、大当たり遊技に要する時間を短くすることができ、遊技の効率化をはかることができる。
【７０６４】
図６７０（ａ）は、図６７０（ｂ）に示すＬａ－Ｌａ断面図である。図６７０（ａ）に示すように検出口６５ａ１を有する検出スイッチ６５ｃ１は、裏カバー体６５ｅの振り分け流路側へと検出口６５ａ１が傾くようにベース部材６５ｃに固定されている。
【７０６５】
図６７１を参照して、裏カバー体６５ｅの振り分け流路に誘導された遊技球が後述する通常排出口６５ｅ１と特別排出口６５ｅ２とに振り分けられる構成について説明する。
【７０６６】
図６７１（ａ）は、遊技球が特別排出口６５ｅ２に振り分けられるように切替部材６５ｈが作動された状態を示す裏カバー体６５ｅの背面図である。図６７１（ａ）に示すように、切替部材６５ｈは、リンク部材６５ｉの突部が挿入される係止穴６５ｈ１と遊技球を誘導する誘導片６５ｈ２とを有しており、流路カバー体６５ｇに背面側より回動可能に軸支されている。ここで、流路カバー体６５ｇには、この誘導片６５ｈ２を挿通することが可能な開口部が設けられており、流路カバー体６５ｇの背面側より振り分け流路内に誘導片６５ｈ２を回動可能に配置することが可能に構成されている。
【７０６７】
図６７１（ａ）に示すように、検出口６５ａ１より振り分け流路内に誘導された遊技球は、左斜め下方に配置された誘導片６５ｈ２の上面に誘導されて特別排出口６５ｅ２に誘導される。特別排出口６５ｅ２を通過した遊技球は特別排出口６５ｅ２に設けられた遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成された確変スイッチ６５ｅ３により検出されてアウト球としてパチンコ機１０外へ排出される。
【７０６８】
ここで、詳細については後述するが、本第２２制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり遊技中に上記した確変スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過することにより、大当たり遊技後の遊技状態が高確率遊技状態（確変遊技状態）に設定される。即ち、確変スイッチ６５ｅ３は、確変遊技状態を付与するための入賞口として構成されている。また、切替部材６５ｈは、大当たり後の遊技状態を低確率遊技状態（通常遊技状態ＳＴ１）か確変遊技状態かに振り分けるための構成となる。
【７０６９】
このように、大当たり遊技中に第１特定入賞口６５ａに入賞した遊技球の流下ルートに

より大当たり遊技後に設定される遊技状態が可変されるので、大当たり遊技中にも遊技者の興趣を向上させることができる。なお、第１可変入賞装置６５の開口から特別排出口６５ｅ２の入り口（切替部材６５ｈの誘導片６５ｈ２により閉鎖さる開口面）を通過するのに必要な時間は、最短でも１秒で構成されている。切替部材６５ｈの作動は、大当たり種別により作動タイミングと作動時間が設定されている。本第２２制御例では、大当たりＡ、大当たりＣ、大当たりＤに当選した場合には、１４ラウンド目の開始における第１可変入賞装置６５の開放タイミングに合わせて切替部材６５ｈが５秒間作動されるように構成されている。また、大当たりＢ、大当たりＥに当選した場合には、１４ラウンド目の開始における第１可変入賞装置６５の開放タイミングに合わせて切替部材６５ｈが０．５秒間作動されるように構成されている。

【７０７０】

よって、大当たりＡでは、第１可変入賞装置６５に入賞した遊技球が確変スイッチ６５ｅ３を通過することが可能に構成されているが、大当たりＢでは、確変スイッチ６５ｅ３を通過することが不可能に構成されている。よって、大当たり種別により確変付与割合を制御することができ、過剰に有利不利が発生してしまわないように構成できる。

【７０７１】

図６７１（ｂ）を参照して、通常排出口６５ｅ１に遊技球が誘導される場合について説明する。図６７１（ｂ）は、流路ソレノイド６５ｋが非作動であり、特別排出口６５ｅ２の入り口の開口面を切替部材６５ｈの誘導片６５ｈ２が塞いでいる状態を示す図である。

【７０７２】

検出口６５ａ１より振り分け流路に誘導された遊技球は、切替部材６５ｈの誘導片６５ｈ２の上面に誘導されて通常排出口６５ｅ１に誘導される。この通常排出口６５ｅ１の端部には遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成された球排出口スイッチ６５ｅ４が設けられている。これにより、第１可変入賞装置６５内に入球した遊技球が全て排出されたかを球排出口スイッチ６５ｅ４と確変スイッチ６５ｅ３との合計により判別できる。よって、１４ラウンド前に入賞した遊技球が排出されていない状態で１４ラウンド目に入賞して、大当たりＢであっても確変スイッチ６５ｅ３に入賞する不具合を抑制できる。

【７０７３】

このように、第１可変入賞装置６５内に第１特定入賞口６５ａに入賞した遊技球が検出スイッチ６５ｃ１により検出され、それに基づいて、遊技者に特典として賞球（本実施形態では１球入賞に対して１５個の賞球）を払い出すことができる。また、その検出された後の遊技球を利用して、確変スイッチ６５ｅ３に通過するか否かを振り分け可能に構成することで、確変遊技状態を付与するか否かの抽選も実行することができる。よって、確変遊技状態を付与するための専用の入賞口を第１可変入賞装置６５とは別に設ける必要がなく、遊技盤１３のスペースを有効に利用することができる。

【７０７４】

＜第２２制御例における演出内容について＞

ここで、図６７２から図６８６を参照して、本第２２制御例におけるパチンコ機１０で実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。まず、図６７２～図６７７を参照して、装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）を用いた保留変化演出の内容について説明する。上述したように、本第２２制御例では、保留変化演出が実行される場合に、変化対象の保留図柄以外の保留図柄をチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって隠すことによって、どの保留図柄が変化対象であるのかを遊技者に分かり易くする構成としている。そして、保留変化演出において、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が段階的に変化対象以外の保留図柄を隠すように動作することで、遊技者に変化対象がどの保留図柄であるのか予測させる楽しみを提供することができる。以下、本第２２制御例にて実行される保留変化演出の具体的な内容について説明する。

【７０７５】

図６７２（ａ）は、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が格納された状態における特別図柄変動中の表示画面の一例である。図６７２（ａ）に示す通り、主表示領域Ｄｍにおける正面

視右上には小表示領域Ｄｍ１が形成されている。この小表示領域Ｄｍ１は、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すための識別情報（第４図柄）が表示される領域であって、特別図柄（特図）の抽選状況を示すための第４図柄（特図１第４図柄）が小表示領域Ｄｍ１に表示されるように構成している。

【７０７６】

このように小表示領域Ｄｍ１を設けることにより、特別図柄の抽選状況を遊技者に報知することができる。なお、詳細は後述するが、本第２２制御例のパチンコ機１０では、第４図柄を数字を用いた表示態様で示しており、小表示領域Ｄｍ１にて第４図柄を変動表示させることで（図６７２（ａ）の小表示領域Ｄｍ１参照）、特別図柄が変動している状況を示し、小表示領域Ｄｍ１にて第４図柄を停止表示させることで（図６７８（ａ）の小表示領域Ｄｍ１参照）、特別図柄の抽選結果を示すように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第４図柄として丸印とバツ印といった図形を模した表示態様や、複数の色を示す表示態様を用いて、数字や、色を可変させる表示態様によって特別図柄が変動していることを示し、特定の図柄や色を示す表示態様を停止表示させることで、特別図柄の抽選結果を示すように構成しても良い。

【７０７７】

さらに、本第２２制御例では、第４図柄を用いて、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄が抽選中（変動中）であるか否かのみを報知するように構成しても良い。また、図６７２（ａ）に示した通り、本第２２制御例では、特別図柄の抽選状況を示すための第４図柄が表示される第４図柄表示領域（小表示領域Ｄｍ１）を主表示領域Ｄｍの右上側に形成する例を示しているが、この第４図柄表示領域が形成される位置や、大きさを、主表示領域Ｄｍの中央部分で実行される変動演出の演出態様に応じて可変させるように構成しても良い。

【７０７８】

このように構成することで、第４図柄表示領域によって、変動演出が実行される領域が制限されてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。なお、この場合、小表示領域Ｄｍ１を第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍから削除し、可変表示装置ユニット８０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）を用いて第４図柄の変動表示を実行するように構成しても良い。

【７０７９】

また、主表示領域Ｄｍの左上側には、現在設定されている遊技状態における遊技方法を遊技者に案内するための案内報知態様が表示される小表示領域Ｄｍ４が形成され、図６７２（ａ）に示した例では、設定されている遊技状態が通常遊技状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）であることから、遊技者に第１特別図柄抽選を実行させるための遊技（左打ち遊技）を案内するために、小表示領域Ｄｍ４に「左打ち」の文字が表示されている。このように、通常遊技状態中の遊技方法を表示可能に構成することで、遊技者に対して、分かり易い遊技を提供することができる。

【７０８０】

なお、確変遊技状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）又は時短遊技状態（特別得柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）である場合には、遊技者に第２特別図柄抽選を実行させるための遊技（右打ち遊技）を案内するために、小表示領域Ｄｍ４に「右打ち」の文字が表示される。

【７０８１】

また、主表示領域Ｄｍの中央上側では、第４図柄の変動表示に対応して装飾的な表示を行うものである第３図柄が変動表示される。このように第３図柄が主表示領域Ｄｍの中央上側に表示されることで、遊技者は、小表示領域Ｄｍ１に表示される第４図柄を見ることなく、主表示領域Ｄｍにおいて実行される変動演出と、第３図柄によって示される特別図柄の抽選状況を同時に見ながら遊技を行うことができる。

【７０８２】

次に、主表示領域Ｄｍの中央下側は、現在実行中の特別図柄に対応する保留図柄が表示される領域である表示領域ＨＲ１が形成される。表示領域ＨＲ１には、実行中の保留図柄が表示される領域であることを示す「ＮＯＷ」という文字が表示される。これにより、表示領域ＨＲ１は、実行中の保留図柄が表示される領域であることを遊技者に分かり易く認識させることができる。また、実行中保留図柄ｈｒ０が表示されることで、遊技者が実行中保留図柄ｈｒ０の表示態様から実行中の特別図柄の抽選結果を予測し易くなり、実行中保留図柄ｈｒ０が表示されていない場合には特別図柄抽選遊技が実行されていないことを遊技者に分かり易くすることができる。

【７０８３】

なお、本第２２制御例では、実行中保留図柄ｈｒ０とその他の保留図柄を異なる表示領域で表示する構成としたが、遊技者が実行中保留図柄ｈ０を識別できる構成であれば良く、例えば、同じ表示領域に表示し、実行中保留図柄ｈｒ０とその他の保留図柄の大きさを異ならせることで遊技者が識別可能な構成としても良い。

【７０８４】

表示領域ＨＲ１の下側には、獲得中の保留球の個数に対応した保留図柄が表示される領域である表示領域ＨＲ２が形成される。この表示領域ＨＲ２には、左から順に１～４の数字が表示されており、どの保留図柄から順番に消化されるのかを遊技者に分かり易く報知している。

【７０８５】

表示領域ＨＲ２には第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４が表示されており、それぞれ異なる色が付与されている。第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４は、それぞれ第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｖａ（第２特別図柄保留球格納エリアｖｂ）の保留エリア１～保留エリア４に格納されている保留球に対応しており、遊技者が保留球を獲得した場合には第１保留図柄ｈｒ１から若い順に保留図柄が表示され、保留球の個数が減少すると（保留球が消化されると）、それに合わせて保留図柄の表示位置が可変する。具体的には、実行中保留図柄ｈｒ０に対応する特別図柄変動が終了すると、第１保留図柄ｈｒ１の位置に表示されていた保留図柄は実行中保留図柄ｈｒ０が表示されていた位置にシフトし、第２保留図柄ｈｒ２の位置に表示されていた保留図柄は第１保留図柄ｈｒ１が表示されていた位置にシフトする。そして、第３保留図柄ｈｒ３の位置に表示されていた保留図柄は第２保留図柄ｈｒ２が表示されていた位置に、第４保留図柄ｈｒ４の位置に表示されていた保留図柄は第３保留図柄ｈｒ３が表示されていた位置にそれぞれシフトする。

【７０８６】

ここで、図６７７（ａ）を参照して、本第２２制御例における保留図柄の表示態様について説明する。図６７７（ａ）は、保留図柄の色と大当たり当選期待度との関係を示した図である。図６７７（ａ）に示す通り、「虹」が最も大当たり当選期待が高く、次に「赤」、「緑」の順に期待度が高くなり、「白」、「青」、「黄」、「紫」は同程度の期待度となっている。なお、後述する保留演出設定処理２２（図７２２，Ｆ２５０４参照）において保留変化演出を実行しないと決定された場合には、保留色「白」が設定される構成としており、保留色「白」は標準の保留色である。

【７０８７】

図６７７（ｂ）は、保留図柄の色の可変パターンの一例を示したものである。図６７７（ｂ）に示す通り、保留色「虹」は、「白」を除く３種類以上の異なる保留色の要素を合成すると可変する保留色である。保留色「赤」は、「紫」から「紫」を構成する要素の１つである「青」を他の保留図柄に移植することで可変する保留色である。保留色「緑」は、保留色「青」の要素と「黄」の要素を合成することで可変する保留色である。このように、複数の保留図柄の色を合成してより上位の表示態様（色）に可変可能な構成とすることで、現在表示されている保留図柄がいずれも大当たり当選期待度の低い保留図柄であっても、それらを構成する要素が組み合わさることでより上位の保留図柄に可変することを遊技者に期待させることができるため、表示されている保留図柄の表示態様から可変可能な保留図柄の表示態様を遊技者に予測させることが可能となり、遊技の興趣を向上させる

ことができる。
【７０８８】
上述したように、本第２２制御例では、隣接する保留図柄の色の要素が合成される構成である。従って、例えば、第１保留図柄ｈｒ１が「紫」、第２保留図柄ｈｒ２が「青」である場合に、次に表示される保留図柄（この場合、第３保留図柄ｈｒ３）の色が「白」、「紫」、「青」以外であれば「虹」への可変が可能であり、「黄」であれば「緑」への可変も可能であることから、遊技者に対して次に表示される保留図柄の色は何色かにも興味を持たせることが可能となり、保留球を獲得するために意欲的に遊技を行わせることができる。
【７０８９】
図６７２（ａ）に戻り説明を続ける。上述したように、「白」、「青」、「黄」、「紫」は同程度の期待度であるため、図６７２（ａ）に示す例では、どの保留図柄も大当たり当選の期待度が変わらない状態である。なお、図６７２（ａ）に示す例では、第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４それぞれが異なる表示態様（色）で表示されているが、本第２２制御例では、保留図柄の表示態様（色）を特別図柄抽選の結果に基づいてランダムで決定しているため、例えば、「白」「白」「白」「白」のように、同じ色が連続する場合もある。
【７０９０】
図６７２（ａ）に示すように、第３図柄表示装置８１の下方には、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が格納されている（初期位置）。チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２は、表示領域ＨＲ２の大きさと同じ大きさの役物、或いは、表示領域ＨＲ２の大きさよりも大きな役物で構成し、少なくともチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２と重なる表示領域ＨＲ２に表示されている保留図柄が遊技者に視認困難な状態となるように構成する。このチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２は、本第２２制御例において、保留変化演出が実行される場合に可動状態となるため、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動状態となった場合には、遊技者に保留変化演出が実行されることを報知することができる。チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の動作パターンについて、図６７２（ｂ）～図６７４（ａ）を参照して説明する。
【７０９１】
図６７２（ｂ）は、保留変化演出が開始され、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動を開始した場合の表示画面の一例である。図６７２（ｂ）に示すように、左チェンジ役物Ｙｍ１は左にスライドした後、第１保留図柄ｈｒ１を隠す位置に、右チェンジ役物Ｙｍ２は右にスライドした後、第４保留図柄ｈｒ４を隠す位置に、それぞれ移動する（第１動作）。第１動作が終了した時点では、第２保留図柄ｈｒ２と第３保留図柄ｈｒ３のどちらが変化対象の保留図柄なのか遊技者には分からない状態となる。従って、遊技者にどちらの保留図柄が変化対象なのかを予測する楽しみを提供することができる。
【７０９２】
図６７３（ａ）は、第１動作が終了してから第２動作が実行された場合の表示画面の一例である。第２動作では、右チェンジ役物Ｙｍ２が正面視左方向にスライドし、第３保留図柄ｈｒ３を隠す動作が実行される。そして、主表示領域Ｄｍでは、右チェンジ役物Ｙｍ２の動作と連動して、表示領域ＨＲ２から第３保留図柄ｈｒ３の保留色「青」が第２保留図柄ｈｒ２に移植されたように見せる演出が実行され、図６７３（ｂ）に示すように、第２保留図柄ｈｒ２の「黄」に第３保留図柄ｈｒ３の「青」が移植され、「緑」に可変する演出が実行される。このように、表示領域ＨＲ２に表示されている変化対象以外の保留図柄がチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって隠されることで、変化対象の保留図柄を遊技者に分かり易くすることができる。
【７０９３】
その後、左チェンジ役物Ｙｍ１は下降した後に正面視右方向にスライドし、右チェンジ役物Ｙｍ２はそのまま下降して格納状態（初期位置）に戻る（第３動作）。
【７０９４】
図６７４（ａ）は、図６７３（ｂ）の状態からチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が初期位置

に戻った時の表示画面の一例である。図６７２（ａ）の状態と異なり、表示領域ＨＲ２に表示されている第２保留図柄ｈｒ２が「黄」から「緑」に、第３保留図柄ｈｒ３が「青」から「白」に可変している。これにより、表示領域ＨＲ２に表示されている保留図柄の内、第２保留図柄ｈｒ２に対応する保留球が大当たり当選の期待度が高いことを遊技者は予測できる。

【７０９５】

ここで、例えば、第２保留図柄ｈｒ２の保留変化シナリオとして保留変化シナリオ８（図６９５参照）が設定され、第１保留図柄ｈｒ１の保留色が「黄」、第２保留図柄ｈｒ２の保留色が「青」、第３保留図柄ｈｒ３の保留色が「赤」で表示されている場合に、第１保留図柄ｈｒ１と第３保留図柄ｈｒ３の保留色を構成する要素を第２保留図柄ｈｒ２に移植し、保留色を「虹」に可変する保留変化演出が実行された後に、第１保留図柄ｈｒ１と第３保留図柄ｈｒ３の保留色をそのまま（即ち、第１保留図柄ｈｒ１は「黄」、第３保留図柄ｈｒ３は「赤」のまま）とした場合、実際には、第２保留図柄ｈｒ２のみが大当たり当選であるにも関わらず、遊技者に第２保留図柄ｈｒ２と第３保留図柄ｈｒ３が大当たり当選する期待度が高いと誤解を与えてしまう。これを防ぐために、本第２２制御例では、保留図柄の色を構成する要素が移植された場合には、移植されたことに対応する色に可変して表示する構成としている。

【７０９６】

図６７４（ｂ）は、保留図柄の保留色の一部が隣の保留図柄に移植される場合の表示画面の一例である。第１動作が終了した時点では、表示領域ＨＲ２には第２保留図柄ｈｒ２が「紫」の表示態様で、第３保留図柄ｈｒ３が「白」の表示態様で表示されている。その後、第２動作が開始されると、左チェンジ役物Ｙｍ１が正面視右方向にスライドし、第２保留図柄ｈｒ２を隠す動作を行う。この時に、主表示領域Ｄｍでは、図６７５（ａ）に示すように、第２保留図柄ｈｒ２の「紫」から「紫」を構成する成分の一つである「青」が第３保留図柄ｒ３に移植される演出が実行される。そして、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が初期位置に戻ると、第２保留図柄ｈｒ２が「赤」、第３保留図柄ｈｒ３が「青」に可変した状態となる。従って、この場合は、チェンジ役物Ｙｍ１によって隠された第２保留図柄ｈｒ２の方が、他の保留図柄よりも大当たり当選の期待度が高い状態となる。

【７０９７】

なお、本第２２制御例では、保留図柄を構成する色のみを移植する構成としたが、これに限るものではなく、保留図柄そのものを移植する構成としても良い。具体的には、図６７３（ａ）の状態で、第３保留図柄ｈｒ３の位置に表示されていた保留図柄が第２保留図柄ｈｒ２に移植される演出が実行され、保留変化演出終了後の表示領域ＨＲ２の第３保留図柄ｈｒ３の位置には、元々第４保留図柄ｈｒ４の位置に表示されていた保留図柄を表示させ、第４保留図柄ｈｒ４の位置を空白（何の保留図柄も表示されていない状態）とし、第２保留図柄ｈｒ２に対応する保留球に基づく特別図柄変動が実行される場合に、第２保留図柄ｈｒ２に対応する保留球の抽選結果と第３保留図柄ｈｒ３に対応する保留球の抽選結果をまとめて報知する構成としても良い。このように構成することで、遊技者に対して外れ当選であることが報知される回数を減らすことができるので、遊技者に実際の大当たり当選確率よりも高い確率で大当たり当選しているかのように思わせることができる。

【７０９８】

なお、図６７５（ａ）の状態で、第２保留図柄ｈｒ２から移植される移植色ｈｒ２ａを「赤」とするパターンも設定しており、この場合は、第３保留図柄ｈｒ３が他の保留図柄よりも大当たり当選の期待度が高い保留図柄となる。このように構成することで、遊技者にチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の動きだけでなく、第３図柄表示装置８１で行われる演出にも興味を持たせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【７０９９】

図６７６（ａ）は、図６７４（ｂ）の状態から、第２動作が実行されても、隠された方の保留図柄が移植されずに、変化対象の保留図柄が単独で変化する場合の表示画面の一例である。第２保留図柄ｈｒ２が隠されたにも関わらず、色が移植されず、第３保留図柄ｈ

ｒ３が「緑」に可変している。このように、保留変化のパターンを多様に設定することで、保留変化演出が単調にならず遊技者が早期に飽きることを抑制することができる。

【７１００】

上述したように、本第２２制御例では、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を用いて変化対象以外の保留図柄を隠すことにより、変化対象の保留図柄を遊技者に明確にすることができるものである。このように、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって第３図柄表示装置８１の保留図柄表示領域の一部分を隠すため、第３図柄表示装置８１で発光等のエフェクトを用いた保留変化演出が実行される場合に、変化対象の保留図柄に対するエフェクトがその他の保留図柄に重なる場合であっても、その他の保留図柄がチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって隠されることで、遊技者にどの保留図柄が変化対象なのかを明確にすることができる。

【７１０１】

なお、本第２２制御例では、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって隠す構成としたが、これに限るものではなく、例えば、第３図柄表示装置８１においてシャッターを模した表示によって、変化対象以外の保留図柄を隠す構成としても良いし、第３図柄を拡大表示させることで変化対象以外の保留図柄を隠す構成としても良い。

【７１０２】

また、本第２２制御例では、第２保留図柄ｈｒ２の色を第３保留図柄ｈｒ３に移植するパターンと、第３保留図柄ｈｒ３の色を第２保留図柄ｈｒ２に移植するパターンのみを説明したが、これに限るものではなく、例えば、第２保留図柄ｈｒ２の色を第１保留図柄ｈｒ１に移植するパターンを設定しても良いし、第３保留図柄ｈｒ３の色を第４保留図柄ｈｒ４に移植するパターンを設定しても良い。

【７１０３】

なお、本第２２制御例では、変化対象の保留図柄と隣接する保留図柄の色を合成する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、第４保留図柄ｈｒ４の色を第１保留図柄ｈｒ１に移植するパターンを設ける構成としても良い。

【７１０４】

なお、本第２２制御例では、保留図柄の色をランダムに付与する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、保留球数に応じて色を付与する構成としても良い。具体的には、保留球数が２個の場合には、第１保留図柄ｈｒ１に「白」、第２保留図柄ｈｒ２に「紫」を表示し、保留球が１個消化され、保留球数が１個になると、第２保留図柄ｈｒ２に表示されていた「紫」保留図柄が、第１保留図柄ｈｒ１にシフトする場合に「白」保留図柄に可変する。保留球数が４個の場合には、第１保留図柄ｈｒ１に「白」、第２保留図柄ｈｒ２に「紫」、第３保留図柄ｈｒ３に「黄」を表示し、第４保留図柄ｈｒ４に「青」を表示する。この場合、第１保留図柄ｈｒ１と第２保留図柄ｈｒ２の位置で保留変化演出が実行される場合には、遊技者にいずれかの保留図柄が「赤」への変化を期待させることが可能であり、第３保留図柄ｈｒ３の位置で保留変化演出が実行される場合には、遊技者に「虹」、又は、「緑」への変化を期待させることが可能であり、第４保留図柄ｈｒ４の位置で保留変化演出が実行される場合には、遊技者に「緑」への変化を期待させることができる。

【７１０５】

このように、通常は表示領域ＨＲ２のそれぞれの保留図柄が表示される位置に対応して色が付与される構成とすることで、変化対象の保留図柄が変化する時の位置によって可変する保留色が異なるため、遊技者に保留変化演出が実行される位置にも興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上することができる。

【７１０６】

次に、図６７８～図６８０を参照して、本第２２制御例で実行される光量調整機能の内容について説明する。本第２２制御例では、パチンコ機１０の遊技環境（音量・光量）を遊技者が調整できる環境調整機能を有しており、待機画面中（デモ演出中）に光量調整を実行する場合には、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置（図６７８（ｂ）参

照）に可変させることにより、実際の変動演出にて装飾用可動役物を可動させた状態と同様の状態を疑似的に再現し、その状態において光量調整操作を実行可能に構成している。

【７１０７】

図６７８（ａ）は、特別図柄の変動が実行されていない待機期間において表示されるデモ画面（デモ画面）の一例である。主表示領域Ｄｍの正面視右下側には、選択ボタン６００を模した表示用選択ボタンＳｗ１～Ｓｗ５が表示される小表示領域Ｄｍ３が形成される。この小表示領域Ｄｍ３には、遊技環境を調整するための操作方法を遊技者に案内するための案内態様として「ボタンを押すと調整できるよ」という文字が表示され、表示用上ボタンＳｗ１には「＋」、表示用下ボタンＳｗ３には「－」が表示され、表示用上ボタンＳｗ１の上側に「音量」と表示されることにより、上ボタン６００ｂと下ボタン６００ｄを操作することで音量を調整できることを遊技者に分かり易く報知できる。

【７１０８】

また、表示用右ボタンＳｗ２には「＋」、表示用左ボタンＳｗ４には「－」が表示され、表示用右ボタンＳｗ２の右側に「光量」と表示されることで、右ボタン６００ｃと左ボタン６００ｅを操作することで光量を調整できることが遊技者に分かり易く報知できる。

【７１０９】

主表示領域Ｄｍの正面視左下側には、現在設定中の音量と光量を遊技者に示すための環境情報報知態様である音量ゲージ小ｇａ１と光量ゲージ小ｇａ２が表示されている。この音量ゲージ小ｇａ１と、光量ゲージ小ｇａ２は、５段階で構成されており、それぞれのゲージの左側には「ＭＩＮ」、右側には「ＭＡＸ」と表示され、遊技者が選択ボタン６００を操作した場合に、環境設定値ｇａ１ａ，ｇａ２ａが連動して可変することで、遊技者の好みの遊技環境と現在の遊技環境との差を分かり易くすることができる。

【７１１０】

主表意領域Ｄｍの下方に形成される副表示領域Ｄｓには、遊技情報を表示するための遊技情報表示態様である「デモ演出中」という文字が表示されることで、現在特別図柄の変動が実行されていない待機期間中であることを遊技者に分かり易く報知している。

【７１１１】

図６７８（ｂ）は、遊技者が待機期間中に光量調整を行うためのボタン操作をした場合の光量調整画面の一例である。図６７８（ｂ）に示す例は、遊技者が左ボタン６００ｅを操作したことに基づいて、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置に可変した状態である。遊技者の左ボタン６００ｅの操作に連動して光量ゲージ小ｇａ２の光量設定値ｇａ２ａが１段階減少する。なお、剣役物Ｙｍ３に付随するＬＥＤのＬＥＤ設定値Ｙｍ３ａも５段階で可変する構成であり、光量ゲージ小ｇａ２と連動して可変する。

【７１１２】

このように構成することで、遊技が実行されていない状態であっても、変動演出に用いられる装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を用いて光量調整可能であるため、遊技者の所望する光量へと適切に調整し易くすることができる。

【７１１３】

主表示領域Ｄｍの正面視右上側には、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置に可変される場合に、光量調整用の模擬可動であることを報知するための報知態様を表示する表示領域ＨＲ３が形成される。表示領域ＨＲ３には「光量調整用役物可動中」という文字が表示されることで、今回の剣役物Ｙｍ３の可動は変動演出に関連するものではないことを遊技者に分かり易く報知し、遊技者に誤解を与えない構成としている。

【７１１４】

図６７９（ａ）は、光量調整が終了し、遊技者が決定ボタン６００ａを操作した場合の調整終了画面の一例である。遊技者が決定ボタン６００ａを操作すると、光量ゲージ小ｇａ２の上側に、環境調整が終了したことを示すための案内態様である環境調整終了表示ｃｍ１が表示される。これにより、遊技者は現在表示されている光量設定値ｇａ２ａの値が設定されたことを認識することができる。

【７１１５】

また、遊技者が決定ボタン６００ａを操作したことに基づいて、剣役物Ｙｍ３は環境調整位置から初期位置（図６６９（ａ）参照）に可変する。

【７１１６】

ここで、光量調整終了前に特別図柄の変動が開始された場合、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置にある状態では、剣役物Ｙｍ３が第３図柄表示装置８１と重なってしまい、遊技者が第３図柄表示装置８１において実行される変動演出を視認し難いという不具合が生じる。

【７１１７】

これに対して、本第２２制御例では、光量調整中に特別図柄の変動が開始された場合には、光量調整を継続して実行しつつも、剣役物Ｙｍ３を環境調整位置から初期位置へと可変させる構成としている。具体的には、図６７９（ｂ）に示すように、特別図柄の変動開始に合わせて、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置から初期位置へと可変し、光量ゲージ小ｇａ２が光量ゲージ大ｇａ３に切り替わる。このように光量ゲージ大ｇａ３に切り替わることで、剣役物Ｙｍ３が初期位置へと可変しても光量調整が継続していることを遊技者に認識させることができる。

【７１１８】

また、剣役物Ｙｍ３が初期位置へと可変する動作が変動演出中に実行されると、遊技者に今回の剣役物Ｙｍ３の動作が変動演出の一環であるという誤解を与える虞がある。従って、本第２２制御例では、特別図柄の変動開始に基づいて剣役物Ｙｍ３が可変した場合には、決定ボタン６００ａの操作によって剣役物Ｙｍ３が可変した場合と異なり、剣役物Ｙｍ３に付随するＬＥＤを全消灯させた後に初期位置へと可変させる構成としている。このように構成することで、変動演出の一環として剣役物Ｙｍ３可動していないことを遊技者に分かり易く把握させることができる。

【７１１９】

図６８０は、剣役物Ｙｍ３の可動が制限されている場合の光量調整画面の一例である。本第２２制御例では、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置から初期位置へと可変した場合に、一定期間（１０秒間）は剣役物Ｙｍ３の可動を制限する構成としている。このように構成することで、変動演出の一環として剣役物Ｙｍ３を可動させる演出態様が設定された場合に、環境調整位置から初期位置へと可変している期間に演出の実行タイミングとなってしまい、剣役物Ｙｍ３が不自然な動作を行ったり、剣役物Ｙｍ３に負荷がかかり故障したりすることを抑制することができる。

【７１２０】

待機期間中に剣役物Ｙｍ３の可動が制限されている場合、即ち、光量調整を終了した遊技者が再度光量調整を実行した場合には、主表示領域Ｄｍの中央上側に剣役物Ｙｍ３が作動制限中であることを示すための案内態様を表示する表示領域ＨＲ４が形成される。表示領域ＨＲ４には、「役物作動制限中」という文字が表示されることにより、遊技者に対して剣役物Ｙｍ３が可動しないのは故障のためではないということを分かり易く報知できる。

【７１２１】

次に、図６８１～６３７を参照して、本第２２制御例にて実行されるリーチ演出の一つであるシャッター閉鎖リーチ演出の内容について説明する。シャッター閉鎖リーチ演出は、１つのリーチ演出を６段階に区切り、最終段階（６段階目）まで到達することができれば（即ち、所定回数シャッターが開閉すれば）、大当たり当選であることが報知されるリーチ演出である。以下、シャッター閉鎖リーチ演出の具体的な内容について説明する。

【７１２２】

まず、図６８１～図６８２を参照して、シャッター閉鎖リーチ演出の基本パターンについて説明する。

【７１２３】

図６８１（ａ）は、シャッター閉鎖リーチ演出開始時の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍの正面視左側と正面視右側には、次の段階に進むことができるか否かを煽るためのシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が表示され、主表示領域Ｄｍの中央上側には、演出の進捗度

合いを報知するための案内態様が表示される表示領域ＨＲ４が形成される。また、副表示領域Ｄｓには、演出の成功条件を報知するための遊技情報報知態様が表示される。表示領域ＨＲ４に「シャッター閉鎖で継続１／６」という文字が表示され、副表示領域Ｄｓに「完走できれば大当たり」と言う文字が表示されることにより、主表示領域Ｄｍに表示されているシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖することで段階が進み、表示領域ＨＲ４の表示が「６／６」になれば大当たりであることを遊技者に分かり易く報知できる。

【７１２４】

また、主表示領域Ｄｍの中央部には第３図柄として「３」図柄が２つと、第３図柄が変動中であることを示す下向きの矢印が表示されており、「３」図柄のリーチ状態であることを示している。

【７１２５】

図６８１（ａ）に示すように、シャッター閉鎖リーチ演出では、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２がガタガタと振動している状態が、次の段階に進むか否かの分岐演出であり、次の段階に進む場合には、図６８１（ｂ）に示すように、シャッターＳｔ１とＳｔ２が閉鎖することにより、シャッターＳｔ１に表示されていた「継」の文字Ｓｔ１ａと、シャッターＳｔ２に表示されていた「続」の文字Ｓｔ２ａが合体することで「継続」となり、演出が継続することを遊技者に分かり易く報知する構成としている。

【７１２６】

また、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２の閉鎖に合わせて表示領域ＨＲ４に表示される演出の進捗度合いが「１／６」から「２／６」に可変することにより、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖したことで次の段階に進んだことを遊技者が認識できる。

【７１２７】

一方、図示しないが、分岐演出において次の段階に進まない場合には、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖されることなく振動が止まり、演出の終了を示す終了態様（例えば、「失敗」の文字）が表示される。このように構成することで、リーチ演出が終了したことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【７１２８】

図６８２（ａ）は、シャッター閉鎖リーチ演出の５段階目まで到達した場合の表示画面の一例である。図６８１（ａ）の状態とは異なり、主表示領域Ｄｍの中央部には、第３図柄として「７」図柄がリーチ状態で表示され、シャッターＳｔ１に表示される「継」の文字Ｓｔ１ａが「祝」の文字Ｓｔ１ｂに、シャッターＳｔ２に表示される「続」の文字Ｓｔ２ａが「福」の文字Ｓｔ２ｂにそれぞれ可変している。このように、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２の文字が次の段階に進むことを示す「継続」から大当たり当選であることを示す「祝福」に可変することで、次にシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖すると大当たりであることを遊技者に分かり易く報知している。

【７１２９】

ここで、本第２２制御例のシャッター閉鎖リーチ演出では、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖する毎に、主表示領域Ｄｍに停止表示されている第３図柄の数字が１ずつ加算されていく構成としている。従って、図６８２（ａ）に示す例では、図６８１（ａ）の状態からシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が４回閉鎖しているため、「３」図柄に４加算され「７」図柄に可変している。従って、５段階目でシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖した場合には、主表示領域Ｄｍに停止表示されている第３図柄の数字は「８」図柄となり、図６８２（ｂ）に示すように、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２が完全開放され、２つの「８」図柄の間に大当たり当選であることを示す報知態様ｎｚ１が表示されることで大当たり当選が報知される。

【７１３０】

本第２２制御例では、シャッター閉鎖リーチの１段階目で停止表示されている第３図柄の数字は、特別図柄の当否判定結果に基づいてランダムに決定する構成であり、例えば、シャッター閉鎖リーチ演出の１段階目で停止表示されている第３図柄の数字が「２」図柄であれば、最終段階（６段階目）到達時に「７」図柄が表示されることになる。

【７１３１】
なお、後述するが、本第２２制御例では、停止表示されている第３図柄の数字によって遊技者が大当たり種別を予測できる構成としており、「７」図柄は、大当たり遊技のラウンド数が最も多く、大当たり遊技終了後に確変遊技状態が設定される大当たり種別である「大当たりＡ」に当選した場合のみ表示される第３図柄種別であり、それ以外の図柄は、大当たりＡよりも大当たり遊技のラウンド数が少ない大当たり種別である「大当たりＢ」と、大当たりＡよりも大当たり遊技のラウンド数が少なく、大当たり遊技終了後に確変遊技状態が設定されない「大当たりＣ」に当選したことを示している。
【７１３２】
このように、１段階目で停止表示されている第３図柄の数字から、遊技者は最終段階到達時に表示される第３図柄の数字を予測することができるため、シャッター閉鎖リーチの１段階目で停止表示されている第３図柄の数字に興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【７１３３】
以上、シャッター閉鎖リーチ演出の基本パターンについて説明した。上述したように、シャッター閉鎖リーチ演出の基本パターンは、遊技者に対して最終段階まで到達できるか否かを楽しませるものである。しかしながら、単に分岐演出においてシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖するか否かを見せるだけでは、単調な演出となってしまい、遊技者が早期に演出に飽きてしまうという問題があった。
【７１３４】
この問題に対して、本第２２制御例では、最終段階に到達するまでの過程で実行される演出の態様によって、最終段階で実行される演出の態様が可変する構成を加えている。図６８３を参照して、シャッター閉鎖リーチ演出の特殊パターンの一例について説明する。
【７１３５】
図６８３（ａ）は、シャッター閉鎖リーチ演出の３段階目でカプセル獲得演出が発生した場合の表示画面の一例である。シャッター閉鎖リーチの２段階目の分岐演出においてシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖した後、シャッター閉鎖リーチの３段階目が開始されるとカプセルＣｐ１を獲得する演出が実行される場合がある。このカプセルＣｐ１は３段階目の時点では中身が何か分からない態様で表示される。カプセルＣｐ１を獲得すると、主表示領域Ｄｍの正面視右下側にカプセル保有数を報知するための遊技情報報知態様を表示する表示領域ＨＲ４が形成される（図６８３（ｂ）参照）。
【７１３６】
そして、図６８３（ｂ）に示すように、５段階目の分岐演出において、表示領域ＨＲ４に表示されているカプセルＣｐ１が開放され、カプセルＣｐ１の中からＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａが飛び出し、主表示領域Ｄｍに停止表示されている第３図柄の数字に貼り付く演出が実行される。このＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａは、現在表示されている図柄の数字を、シャッターＳｔ１，Ｓｔ２が閉鎖しても更新させないことができるものであり、この場合、５段階目の分岐演出が成功すると、６段階目で「７」図柄によって大当たり当選が報知される。
【７１３７】
なお、カプセルＣｐ１の中身は、ＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａだけでなく、他にも「カギ」を模した表示態様が選択されるパターンを規定している。このカギが選択された場合には、カギの使用が成功した段階でシャッターＳｔ１，Ｓｔ２が完全開放され、その時点で表示されている図柄の数字によって大当たり当選であることが報知される。
【７１３８】
なお、カプセルＣｐ１からＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａ等のアイテムが出現した場合であっても、大当たり当選が報知されない場合（即ち、外れ当選である場合）もあるため、遊技者に対してカプセルＣｐ１を獲得できるか、カプセルＣｐ１の中身は何か、アイテムの使用は成功するかといった興味を持たせることが可能となり、遊技者がシャッター閉鎖リーチに早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【７１３９】

このように、本第２２制御例では、シャッター閉鎖リーチ演出の演出態様を可変させるための演出可変態様であるカプセルＣｐ１を獲得可能な構成を加えることで、シャッター閉鎖リーチ演出の１段階目では表示される図柄の数字、３段階目ではカプセル獲得演出の有無、４段階目と５段階目ではカプセルＣｐ１の中身にそれぞれ興味を持たせることが可能であるため、シャッター閉鎖リーチ演出の開始から終了まで遊技者の演出に対する注目を持続させることができる。

【７１４０】

次に、図６８４～図６８６を参照して、本第２２制御例にて実行されるリーチ演出の一つであるムービー実行リーチ演出について説明する。このムービー実行リーチ演出は、前半部分と後半部分に分かれており、リーチ演出の前半部分終了時に後半部分の演出に移行するか否かの分岐演出が実行される。この分岐演出が成功すると、リーチ演出の後半部分であるスペシャルムービーが開始される。そして、スペシャルムービーが終了すると大当たり当選であることが報知される。

【７１４１】

図６８４（ａ）は、ムービー実行リーチ演出の分岐演出が実行された場合の表示画面である。主表示領域Ｄｍの中央部に演出ボタン２２を模した表示用演出ボタンＳｗ６が表示され、その下にＳＷ有効期間を示すための報知態様である有効期間ゲージｇａ４が表示される。この有効期間ゲージｇａ４は、残有効期間を示すための残有効期間ｇａ４ａと、経過時間を示すための経過時間ｇａ４ｂで構成され、時間の経過に合わせて残有効期間ｇａ４ａの表示部分が減少し、経過時間ｇａ４ｂの表示部分が増加することで、遊技者に演出ボタン２２の操作が有効となる残り期間を報知ずる構成としている。

【７１４２】

また、副表示領域Ｄｓには、ムービー実行リーチ演出の成功条件となる遊技情報を示すための案内態様である「ボタンＰＵＳＨでスペシャルムービー開始？」という文字が表示される。主表示領域Ｄｍの中央に表示される表示用演出ボタンＳｗ６と、その上に遊技者に演出ボタンの操作を促すための示唆態様である下向きの矢印が表示されることに加えて、副表示領域Ｄｓの案内態様が表示されることで、遊技者に演出ボタン２２を操作すると演出が発展する可能性があることを分かり易く報知している。

【７１４３】

図６８４（ｂ）は、分岐演出中に演出ボタン２２が操作された場合のスペシャルムービー終了時の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍの中央上側には、スペシャルムービーが終了したことを示す報知態様を表示するための表示領域ＨＲ４が形成される。この表示領域ＨＲ４に「スペシャルムービー終了」と表示されることで、遊技者はスペシャルムービーが終了したことを容易に認識することができる。

【７１４４】

なお、本第２２制御例では、スペシャルムービーが終了した場合に表示領域ＨＲ４において報知態様を表示する構成としたが、これに限るものではなく、遊技者にスペシャルムービーが終了したことを認識させることができる態様であれば良い。

【７１４５】

ここで、本第２２制御例におけるムービー実行リーチ演出のスペシャルムービーは、遊技者がＳＷ有効期間中に演出ボタン２２を操作しなかった場合を想定してムービーの再生時間を設定している。このように構成することで、遊技者が演出ボタン２２を操作しなかった場合にスペシャルムービーが特別図柄の変動時間内で終了しないという不具合が生じない。一方で、ＳＷ有効期間中に遊技者が演出ボタン２２を操作した場合には、遊技者が演出ボタン２２を操作した時点からスペシャルムービーが開始されるため、スペシャルムービー終了時に特別図柄の変動時間が終了していない状態となる。このため、本第２２制御例では、スペシャルムービー終了時に特別図柄の変動が終了していない場合には、スペシャルムービー終了時から特別図柄の変動停止までの間、仮停止した図柄を揺れ待機させる構成としている。

【７１４６】

従って、遊技者がＳＷ有効期間中に演出ボタン２２を操作しなかった場合には、図６８５に示すように、スペシャルムービー終了に合わせて、小表示領域Ｄｍ１に表示されている第４図柄も大当たり当選を示す表示態様で停止し、第３図柄も大当たり当選を示す表示態様で停止して、副表示領域Ｄｓに大当たり当選を示すための報知態様が表示されることで、遊技者に大当たり当選であることが報知される。

【７１４７】

一方、ＳＷ有効期間中に遊技者が演出ボタン２２を操作した場合には、図６８４（ｂ）に示すように、小表示領域Ｄｍ１では第４図柄が変動中であっても、スペシャルムービー終了に合わせて第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で仮停止し、副表示領域Ｄｓには大当たり当選を示すための報知態様が表示される。このように、ムービー実行リーチ演出では、ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２を操作した遊技者に、特別図柄の変動停止前に大当たり当選であることが報知される。

【７１４８】

図６８６は、スペシャルムービーの演出時間と特別図柄の変動時間との関係を示したタイミングチャートである。上述したように、分岐演出中に演出ボタン２２が操作された場合にはスペシャルムービー終了から変動停止までの期間に図柄揺れ期間が設定され、大当たり報知が変動停止よりも前に実行されることが示されている。

【７１４９】

＜第２２制御例における電気的構成について＞

次に、図６８７を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図６８７は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【７１５０】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【７１５１】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【７１５２】

主制御装置１１０では、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。そして、ＲＡＭ２０３には、これらの処理を制御するための各種カウンタが設けられている。ここで、図６８８を参照して、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等について説明する。図６８８は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等を模式的に示した模式図である。これらのカウンタ等は、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定などを行うために、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１で使用される。

【７１５３】

特別図柄の抽選や、第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１の表示の設定には、特別図柄の抽選に使用する第１当たり乱数カウンタＣ１と、特別図柄の大当たり種別を選択するために使用する第１当たり種別カウンタＣ２と、特別図柄における外れの停止

種別を選択するために使用する停止種別選択カウンタ（Ｃ３）と、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と、変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。

【７１５４】

また、普通図柄の抽選には、第２当たり乱数カウンタＣ４が用いられ、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値設定には第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２と、普通図柄の変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。これら各カウンタは、更新の都度、前回値に１が加算され、最大値に達した後０に戻るループカウンタとなっている。

【７１５５】

各カウンタは、例えば、タイマ割込処理（図６９８参照）の実行間隔である２ミリ秒間隔で更新され、また、一部のカウンタは、メイン処理（図７０９参照）の中で不定期に更新されて、その更新値がＲＡＭ２０３の所定領域に設定されたカウンタ用バッファに適宜格納される。ＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第１球口６４への入球に対応する第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａと、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第２入球口６４０への入球に対応する第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂと、が設けられており、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａには、第１入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び変動種別カウンタＣＳ１の各値がそれぞれ格納され、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂには、第２入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、及び、変動種別カウンタＣＳ１の各値が格納される。

【７１５６】

そして、特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａの保留第１エリアに格納されている各種値、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂの保留第１エリアに格納されている各種値のうち、次に抽選が実行される特別図柄種別に対応する特別図柄の情報を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始される。

【７１５７】

なお、本第２２制御例では、特別図柄の種別が２種類（第１特別図柄、第２特別図柄）の構成を用いているが、これに限ること無く、特別図柄の種別を１種類としても良い。そして、第１特別図柄の始動条件（変動条件）、或いは、第２特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、対応する特別図柄種別の特別図柄保留球格納エリアの保留第１エリアに格納されている各種値を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始されるように構成すれば良い。このように構成することで、複数の特別図柄種別を用いたパチンコ機１０であっても、各々の特別図柄変動を円滑に実行することができる。

【７１５８】

さらに、本第２２制御例のように、複数の特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）を有するパチンコ機１０であれば、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成しても良く、この場合、各特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂ）がそれぞれ特別図柄実行エリアを有するように構成すれば良い。これにより、各特別図柄の始動条件が成立した場合に、速やかに次の特別図柄変動を実行させることができる。

【７１５９】

また、本第２２制御例では、特別図柄の抽選結果が大当たりと外れのみとなるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の抽選結果が外れである場合の一部において、大当たり当選時よりも少ない特典（大当たり当選時とは異なる特典）を遊技者に付与可能な小当たりに当選し得るように構成しても良い。このように構成することで

、大当たり当選しなかった場合であっても、遊技者に特典を付与する機会を設けることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。この場合、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に、小当たり種別カウンタを設け、取得した小当たり種別カウンタの値を特別図柄保留球格納エリアに格納可能に構成し、特別図柄の抽選を実行する場合に参照するように構成すれば良い。

【７１６０】

加えて、特別図柄抽選で小当たり当選可能に構成した場合には、例えば、大当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、小当たり当選に基づく遊技状態の移行内容と、を異ならせるように構成しても良く、例えば、大当たり当選した場合は、大当たり遊技の開始時に遊技状態を通常状態へと移行させ、さらに、設定された大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に新たな遊技状態を設定可能に構成し、小当たり当選した場合は、小当たり当選時の遊技状態を維持したまま小当たり遊技を実行し、その小当たり遊技終了後も遊技状態を移行させないように構成しても良い。

【７１６１】

このように構成することで、当選した当たり種別（大当たり、小当たり）に応じて、遊技状態の移行の有無や、移行内容を異ならせることができるため、バリエーションに富んだ遊技を提供することができる。

【７１６２】

さらに、本第２２制御例のＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１エリア）からなるスルーゲート６７への入球（球の通過）に対応する普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃが設けられており、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃには、スルーゲート６７への入球タイミングに合わせて、第２当たり乱数カウンタＣ４、及び普図変動種別カウンタＣＳ２の各値がそれぞれ格納される。

【７１６３】

そして、普通図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃの保留第１エリアに格納されている各種値を普通図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた普通図柄変動が開始される。

【７１６４】

次に、図６８８を参照して、各カウンタについて詳しく説明する。第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～９９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９９の値を取り得るカウンタの場合は９９９）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【７１６５】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～３９９の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１もまた、０～３９９の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、タイマ割込処理（図６９８参照）の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理（図７０９参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【７１６６】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（本第２２制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａに、第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数テーブル２０２ｖａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。

【７１６７】
ここで、図６９０を参照して、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａについて説明する。図６９０は、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａに規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数テーブル２０２ｖａは、特別図柄の抽選において、大当たりと判別される乱数値（判定値）が規定されたテーブルである。
【７１６８】
具体的には、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａには、大当たりと判定される判定値を遊技状態（特別図柄の確率状態）に応じて異ならせて規定している。図６９０に示した通り、遊技状態として特別図柄の低確率状態（通常状態、時短状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～４」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「５～９９９」）が外れの判定値として規定されている。また、遊技状態として特別図柄の高確率状態（確変状態）に対しては、第１当たり乱数カウンタＣ１の値のうち「０～１９」が大当たり判定値として規定されており、それ以外の値（「２０～９９９」）が外れの判定値として規定されている。つまり、第１当たり乱数テーブル２０２ａの更新範囲は「０～９９９」の１０００個であるため、特別図柄の低確率状態において、大当たりと判定される確率は１／２００（１０００個のうち５個）となり、特別図柄の高確率状態において、大当たりと判定される確率は１／５０（１０００個のうち２０個）となる。
【７１６９】
なお、本第２２制御例では、２種類の大当たり確率が遊技状態に応じて設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たりに当選する確率を遊技状態に関わらず同一の確率となるように構成しても良いし、３種類以上の大当たり確率が設定されるように構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄の状態と、普通図柄の状態と、を組み合わせることによって設定される最大で４種類の遊技状態毎に特別図柄の大当たり確率を異ならせるように構成しても良いし、単純に、特別図柄の状態を高確率状態、通常確率状態、低確率状態のように３種類以上設定可能にし、各状態に対して異なる大当たり確率を設定するように構成しても良い。
【７１７０】
また、本第２２制御例では、特別図柄の抽選結果として、「大当たり」と「外れ」の２種類の抽選結果が判定されるように構成しているが、これに加えて、第３の抽選結果として、「外れ」の１種として「小当たり」を判定可能に構成しても良い。この「小当たり」に当選した場合には、可変入賞装置６５を「大当たり」よりも短い期間（１ラウンド分）開放させる小当たり遊技が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合において、少量の特典（賞球）を遊技者に付与することができる。なお、「小当たり」を「外れ」の１種とする場合には、遊技者に対して小当たり遊技による賞球を付与可能であるが、大当たり当選していないため、遊技状態を可変させる（当選時の遊技状態とは異なる遊技状態を設定する）処理が実行されないように構成すると良い。これにより、大当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、小当たり当選に基づいて遊技者に付与される特典と、を明確に異ならせることができる。
【７１７１】
上述した通り、特別図柄の抽選結果として「小当たり」に当選し得るように構成する場合は、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａに「小当たり」に対応する第１当たり乱数カウンタＣ１の値を規定するように構成すれば良い。このように構成することで、特別図柄の大当たり抽選と小当たり抽選と、を同一の処理で実行することができるため、大当たり抽選と小当たり抽選とを異なる処理で実行する場合に比べ、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、１つの特別図柄抽選において、大当たりと小当たりとに重複して当選してしまうことを禁止することができる。
【７１７２】
第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄の大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ず

つ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（本第２２制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａに、第２入球口６４０へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに格納される。

【７１７３】

本第２２制御例のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本実施形態では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、第１当たり種別選択テーブル２０２ｓｃを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判別するように構成している。ここで、図６９１（ａ）を参照して大当たり種別選択テーブル２０２ｓｂの内容について説明をする。

【７１７４】

図６９１（ａ）は、第１当たり種別選択テーブル２０２ｖｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。上述した通り、この第１当たり種別選択テーブル２０２ｖｂは、第１特別図柄の抽選または第２特別図柄の抽選で大当たり当選した場合に設定する大当たり種別を選択するためのデータテーブルであって、取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて異なる大当たり種別が規定されているものである。

【７１７５】

具体的には、第１特別図柄（特図１）の大当たり種別としては、第１当たり種別カウンタＣ２の値（更新範囲「０～９９」）が「０」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ」は、大当たりのラウンド数が１０ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｓｈの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１７６】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＡ」が決定される割合は１％（１／１００）である。

【７１７７】

第１当たり種別カウンタＣ２の値（更新範囲「０～９９」）が「１」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＢ」は、大当たりのラウンド数が３ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｓｈの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１７８】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＢ」が決定される割合は１％（１／１００）である。

【７１７９】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＣ」が対応付けて規定されている。この

「大当たりＣ」は、大当たりのラウンド数が３ラウンドであり、通常大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１００」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される大当たり種別である。

【７１８０】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＣ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が９８個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＣ」が決定される割合は９８％（９８／１００）である。

【７１８１】

即ち、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定され得る２個の大当たり種別（大当たりＢ、大当たりＣ）は、大当たり遊技のラウンド数は同一であるが、大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖへの球の通過させ易さを異ならせており、「大当たりＢ」のほうが「大当たりＣ」よりも大当たり遊技中に球を特定ゲートへと流下させ易い大当たり遊技が実行されるように構成している。よって、「大当たりＢ」は、「大当たりＣ」よりも有利な大当たり種別となる。

【７１８２】

次に、第２特別図柄（特図２）の大当たり種別として、特別当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２４」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ」は、大当たりのラウンド数が１０ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｓｈの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１８３】

特別当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が２５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＡ」が決定される割合は２５％（２５／１００）である。

【７１８４】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２５～４１」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＢ」は、大当たりのラウンド数が３ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１８５】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１２個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＢ」が決定される割合は１２％（１２／１００）である。

【７１８６】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「４２～５１」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＤ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＤ」は、大当たりのラウンド数が２ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート

）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。
【７１８７】
　第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＤ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＤ」が決定される割合は１０％（１０／１００）である。
【７１８８】
　また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５２～６８」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＥ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＥ」は、大当たりのラウンド数が４ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。
【７１８９】
　第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１７個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＥ」が決定される割合は１７％（１７／１００）である。
【７１９０】
　また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「６９～８２」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＦ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＦ」は、大当たりのラウンド数が５ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。
【７１９１】
　第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＦ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１４個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＦ」が決定される割合は１４％（１４／１００）である。
【７１９２】
　また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８３～９０」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＧ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＧ」は、大当たりのラウンド数が６ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。
【７１９３】
　第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＧ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が８個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＧ」が決定される割合は８％（８／１００）である。
【７１９４】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９１～９７」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＨ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＨ」は、大当たりのラウンド数が７ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１９５】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＨ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が７個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＨ」が決定される割合は７％（７／１００）である。

【７１９６】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９８」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＩ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＩ」は、大当たりのラウンド数が８ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１９７】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＩ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＩ」が決定される割合は１％（１／１００）である。

【７１９８】

また、図６９１（ａ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＪ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＪ」は、大当たりのラウンド数が９ラウンドであり、確変大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短中カウンタ２０３ｖｔの値に「１２０」が、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「１２０」が設定される大当たり種別である。なお、確変大当たり遊技中に可変入賞装置６５内に設けられた特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下（通過）しなかった場合は（非Ｖ時は）、大当たり遊技終了後に確変中カウンタ２０３ｖｕの値に「０」が設定される。

【７１９９】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＪ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＪ」が決定される割合は１％（１／１００）である。

【７２００】

即ち、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定され得る９個の大当たり種別（大当たりＡ、大当たりＢ、大当たりＤ、大当たりＥ、大当たりＦ、大当たりＧ、大当たりＨ、大当たりＩ大当たりＪ）は、何れも確変大当たり遊技が実行されるが、大当たり遊技のラウンド数を異ならせており、最も多くのラウンド遊技が実行される「大当たりＡ」が最も遊技者に有利な大当たり種別となり、「大当たりＤ」が最も遊技者に不利な大当たり種別となる。

【７２０１】

以上、説明をした通り、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、必ず確変大当

たり遊技が実行されるため、２％の割合で確変大当たり遊技が実行される第１特別図柄抽選よりも、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の面では、有利な大当たり種別となる。

【７２０２】

図６８８に戻り説明を続ける。変動種別カウンタＣＳ１は、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり１９８）に達した後０に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳ１によって、いわゆる短時間外れ、長時間外れ、ノーマルリーチ、スーパーリーチ等の大まかな表示態様（変動時間）が決定される。表示態様の決定は、具体的には、図柄変動の変動時間の決定である。変動種別カウンタＣＳ１により決定された変動時間に基づいて、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４により第３図柄表示装置８１で表示される第３図柄のリーチ種別や細かな図柄変動態様が決定される。変動種別カウンタＣＳ１の値は、後述するメイン処理（図７０９参照）が１回実行される毎に１回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でも繰り返し更新される。尚、変動種別カウンタＣＳ１の値（乱数値）から、図柄変動の変動時間を一つ決定する乱数値を格納した変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ（図６９２参照）は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。

【７２０３】

ここで、図６９２を参照して、変動パターンテーブル２０２ｓｃについて説明する。この変動パターンテーブル２０２ｓｃは、図６９２（ａ）に示すように、大当たり用変動パターンテーブル２０２ｖｃ１（図６９２（ｂ）参照）と、外れ（通常）用変動パターンテーブル２０２ｓｃ２（図６９２（ｃ）参照）と、外れ（確変・時短）用変動パターンテーブル２０２ｓｃ３（図６９２（ｄ）参照）とが少なくとも規定されている。

【７２０４】

まず、図６９２（ｂ）を参照して、大当たり用テーブル２０２ｓｃ１について説明する。図６９２（ｂ）は、この大当たり用変動パターンテーブル２０２ｖｃ１の内容を模式的に示した模式図である。大当たり用変動パターンテーブル２０２ｖｃ１は、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合に、選択される変動パターンの種別（変動時間）が規定されたデータテーブルである。大当たりの変動パターンとしては、ノーマルリーチ各種（３０秒）、スーパーリーチ各種（６０秒）、スペシャルリーチ（９０秒）がそれぞれ規定されている。大当たり用変動パターンテーブル２０２ｖｃ１には、変動種別カウンタＣＳ１の値毎に、各変動パターンが対応付けられている。

【７２０５】

具体的には、変動種別カウンタＣＳ１の値の判定値として「０～５０」の範囲にはノーマルリーチ各種（３０秒）の変動パターンが対応付けられ、「５１～１７９」の範囲にはスーパーリーチ各種（６０秒）の変動パターンが対応付けられ、「１８０～１９８」の範囲にはスペシャルリーチ各種（９０秒）の変動パターンが対応付けられている。主制御装置１１０のＭＰＵ２０１は、特別図柄の抽選結果が大当たりとなる場合の変動パターンを選択する場合に、取得している変動種別カウンタＣＳ１の値に対応する判定値が設定されている変動パターンを大当たり用変動パターンテーブル２０２ｖｃ１より選択する。

【７２０６】

図６９２（ｃ）は、外れ用（通常）変動パターンテーブル２０２ｖｃ２の内容を模式的に示した模式図である。外れ用（通常）変動パターンテーブル２０２ｖｃ２は、特別図柄の低確率状態において、特別図柄の抽選結果が外れであった場合に選択される変動パターンの種別（変動時間）が規定されたデータテーブルである。特別図柄の抽選結果が外れである場合には、上述したように、図示しない停止種別選択テーブルより停止種別が完全外れ（非リーチ）であるか、リーチ外れ（リーチ共通）であるかが停止種別選択カウンタＣ３の値によって決定される。具体的には、例えば、特別図柄の低確率状態において停止種別選択カウンタＣ３の値が「０～７９」の範囲にあれば完全外れを設定し、「８０～９９」の範囲にあれば外れリーチ（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ）を設定する。

【７２０７】

ここで、変動パターン種別が、完全外れである場合には、変動時間が比較的短い短外れ（７秒）と、変動時間が比較的長い長外れ（１０秒）のいずれかが設定される。短外れ（７秒）に対しては、「０～９８」が、長外れ（１０秒）に対しては、「９９～１９８」が変動種別カウンタＣＳ１の判定値として設定されている。

【７２０８】

また、外れリーチに対しては、変動種別カウンタＣＳ１の判定値が「０～１４９」の範囲には外れのノーマルリーチ各種（３０秒）が、「１５０～１９７」の範囲には外れのスーパーリーチ各種（６０秒）が、「１９８」には外れのスペシャルリーチ各種（９０秒）がそれぞれ設定されている。

【７２０９】

このように、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１は、通常遊技状態時に特別図柄の抽選結果が外れである場合には、停止種別が決定され、外れ用（通常）変動パターンテーブル２０２ｖｃ２より取得している変動種別カウンタＣＳ１の値に基づいて、外れ用（通常）変動パターンテーブル２０２ｖｃ２より変動パターンを選択する。

【７２１０】

図６９２（ｄ）は、外れ用（確変・時短）変動パターンテーブル２０２ｓｃ３の内容を模式的に示した模式図である。この外れ用（確変・時短）変動パターンテーブル２０２ｓｃ３は、特別図柄の確変状態において、特別図柄の抽選が外れとなった場合に選択される変動パターンの種別（変動時間）が規定されたデータテーブルである。この外れ用（確変・時短）変動パターンテーブル２０２ｓｃ３では、設定されている変動種別カウンタＣＳ１の値が、上述した外れ用（通常）変動パターンテーブル２０２ｖｃ２とは異なっている。

【７２１１】

なお、上述したように、遊技状態が確変遊技状態である場合には、図示しない停止種別選択テーブルにより停止種別選択カウンタＣ３の値が「０～８９」の範囲にあれば、完全外れが決定され、「９０～９９」の範囲にあれば外れリーチ（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ）が決定される。

【７２１２】

このように、通常遊技状態よりも確変遊技状態、または、時短遊技状態である場合には、外れである場合にリーチとなる確率が低く設定されている。よって、確変時に外れの変動時間が長くなってしまい、大当たりとなるまでの期間が長くなってしまうことを抑制できる。よって、大当たりし易い確変遊技状態時に遊技が間延びしてしまい、遊技者が退屈に感じる不具合を抑制できる。

【７２１３】

図６８８に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２９９）に達した後０に戻るループカウンタとして構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、本実施形態ではタイマ割込処理（図６９８参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃに格納される。

【７２１４】

そして、普通図柄の当たりとなる乱数の値は、主制御装置のＲＯＭ２０２に格納される第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄによって設定されており、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄによって設定された当たりとなる乱数の値と一致する場合に、普通図柄（第２図柄）の当たりと判定する。また、この第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄは、普通図柄の低確率時用と、その低確率時より普通図柄の当たりとなる確率の高い高確率時用との２種類に分けられ、それぞれに含まれる大当たりとなる乱数の個数が異なって設定されている。このように、当たりとなる乱数の個数を異ならせ

ることにより、普通図柄の低確率時と普通図柄の高確率時とで、当たりとなる確率が変更される。

【７２１５】

この第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄに規定されている内容について、図６９１（ｂ）を参照して説明をする。図６９１（ｂ）は、第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図６９１（ｂ）に示した通り、普通図柄の低確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～２」の値に普図当たりが規定され、普通図柄の高確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～１４９」の範囲に普図当たりが規定されている。

【７２１６】

つまり、本第２２制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／１００）が低確率に設定されている。これにより、普通図柄の低確率状態である通常状態と、普通図柄の高確率状態である時短状態と、で同一の遊技方法（左打ち遊技）が実行される本実施形態において、通常状態中に普図当たりに当選し難くすることができるため、通常状態中に普図当たり遊技が実行され第２入球口６４０内に球が入球する事態を発生し難くすることができる。一方、普通図柄の高確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／２）が高確率に設定されている。これにより、時短状態中において普通図柄の当たり当選に基づく普図当たり遊技を実行し易くすることができる。

【７２１７】

また、本第２２制御例では、設定されている遊技状態に応じて普通図柄抽選の結果を示すための普通図柄変動の変動時間として異なる長さの変動時間が設定されるように構成されており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも長い変動時間（例えば、１０秒）が設定されるように構成している。このように、普通図柄抽選で当たり当選する確率と、普通図柄変動の変動時間の長さと、を遊技状態に応じて可変させることにより、普通図柄抽選で当たり当選し、第２入球口６４０へと球を入球させ易い遊技状態（確変状態、時短状態）を容易に設定することができる。

【７２１８】

さらに、本第２２制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で実行された普通図柄抽選にて当たり当選した場合に、第２入球口６４０へと球を複数個入球させることが可能な動作態様（ロング開放）で電動役物６４０ａが開放動作される普図当たり遊技を実行可能に構成している。よって、普通図柄抽選で当たり当選し難い遊技状態（通常状態）であっても、一時的に第２入球口６４０へと球を入球させ易くすることができるため、どのような遊技状態が設定されている状態であっても、遊技者に対して第２特別図柄抽選が実行される可能性を残すことができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【７２１９】

第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２は、第２当たり乱数カウンタＣ４と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成され（値＝０～２９９）、タイマ割込処理（図６９８参照）毎に１回更新されると共に、メイン処理（図７０９参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【７２２０】

このように、ＲＡＭ２０３には種々のカウンタ等が設けられており、主制御装置１１０では、このカウンタ等の値に応じて大当たり抽選や第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行することができる。

【７２２１】

図６８７に戻り説明を続ける。ＲＯＭ２０２は、図６８８に図示した各種カウンタに対応して規定される各種データテーブル等を有している。ここで、図６８９（ａ）を参照して、本第２２制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容に

ついて説明をする。図６８９（ａ）は、本第２２制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。

【７２２２】

図６８９（ａ）に示した通り、本第２２制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２は、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａ、第１当たり種別選択テーブル２０２ｖｂ、変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ、第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄを少なくとも有している。なお、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａ、第１当たり種別選択テーブル２０２ｖｂ、変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ、第２当たり乱数テーブル２０２ｖｄについては、図６８８に図示した各種カウンタを説明する際に上述したため、その説明を省略する。

【７２２３】

図６８７に戻り、説明を続ける。ＲＡＭ２０３は、図６８８に図示した各種カウンタのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。

【７２２４】

なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【７２２５】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図１６７参照）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図１６６参照）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図７０７参照）が即座に実行される。

【７２２６】

また、ＲＡＭ２０３は、図６８９（ｃ）に示すように、特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａ、特別図柄２保留球格納エリア２０３ｖｂ、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃ、特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄ、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆ、確変フラグ２０３ｖｇ、確変設定フラグ２０３ｖｈ、確変通過カウンタ２０３ｖｉ、入賞個数カウンタ２０３ｖｊ、動作カウンタ２０３ｖｋ、報知カウンタ２０３ｖｍ、残球タイマフラグ２０３ｖｎ、残球タイマ２０３ｖｏ、確変有効フラグ２０３ｖｐ、確変有効タイマ２０３ｖｒ、排出個数カウンタ２０３ｖｓ、時短中カウンタ２０３ｖｔ、確変中カウンタ２０３ｖｕ、その他メモリエリア２０３ｖｚを少なくとも有している。

【７２２７】

特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａは、図６８８に示すように１つの実行エリアと、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、第１入賞口６４に入賞したことに基づいて取得された第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２の各値がそれぞれ格納される。

【７２２８】

より具体的には、球が第１入賞口６４へ入賞（始動入賞）したタイミングで、各カウンタＣ１～Ｃ３の各値が取得され、その取得されたデータが、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）の空いているエリアの中で、エリア番号（第１～第４）の小さいエリアから順番に記憶される。つまり、エリア番号の小さいエリアほど、時間的に古い

入賞に対応するデータが記憶され、保留第１エリアには、時間的に最も古い入賞に対応するデータが記憶される。尚、４つの保留エリアの全てにデータが記憶されている場合には、新たに何も記憶されない。

【７２２９】

その後、主制御装置１１０において、特別図柄の抽選が行われる場合には、特別図柄１保留球格納エリア２０３ａの保留第１エリアに記憶されている各カウンタＣ１～Ｃ３の各値が、実行エリアへシフトされ（移動させられ）、その実行エリアに記憶された各カウンタＣ１～Ｃ３の各値に基づいて、特別図柄の抽選などの判定が行われる。

【７２３０】

尚、保留第１エリアから実行エリアへデータをシフトすると、保留第１エリアが空き状態となる。そこで、他の保留エリア（保留第２エリア～保留第４エリア）に記憶されている入賞のデータを、エリア番号の１小さい保留エリア（保留第１エリア～保留第３エリア）に詰めるシフト処理が行われる。本実施形態では、特別図柄１保留球格納エリア２０３ａにおいて、入賞のデータが記憶されている保留エリア（第２保留エリア～第４保留エリア）についてのみデータのシフトが行われる。

【７２３１】

特別図柄２保留球格納エリア２０３ｖｂは、特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａに対して、第２入賞口６４０への入賞に対して取得されたカウンタ値がそれぞれ記憶される点で異なるのみで、その他の構成については、同一であるので、詳細な説明については省略する。

【７２３２】

普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃは、特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａまたは特別図柄２保留球格納エリア２０３ｖｂと同様に、１つの実行エリアと、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）とを有している。これらの各エリアには、第２当たり乱数カウンタＣ４が格納される。

【７２３３】

より具体的には、球が左右何れかの普通始動口６７を通過したタイミングで、カウンタＣ４の値が取得され、その取得されたデータが、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）の空いているエリアの中で、エリア番号（第１～第４）の小さいエリアから順番に記憶される。つまり、特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａと同様に、入賞した順序が保持されつつ、入賞に対応するデータが格納される。尚、４つの保留エリアの全てにデータが記憶されている場合には、新たに何も記憶されない。

【７２３４】

その後、主制御装置１１０において、普通図柄の当たりの抽選が行われる場合には、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃの保留第１エリアに記憶されているカウンタＣ４の値が、実行エリアへシフトされ（移動させられ）、その実行エリアに記憶されたカウンタＣ４の値に基づいて、普通図柄の当たりの抽選などの判定が行われる。

【７２３５】

尚、保留第１エリアから実行エリアへデータをシフトすると、保留第１エリアが空き状態となるので、特別図柄１保留球格納エリア２０３ｖａの場合と同様に、他の保留エリアに記憶されている入賞のデータを、エリア番号の１小さい保留エリアに詰めるシフト処理が行われる。また、データのシフトも、入賞のデータが記憶されている保留エリアについてのみ行われる。

【７２３６】

特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄは、第１入賞口６４への入球（始動入賞）に基づいて第１図柄表示装置３７で行われる第１特別図柄（第１図柄）の変動表示（第３図柄表示装置８１で行われる変動表示）の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。この特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄは、初期値がゼロに設定されており、第１入賞口６４へ球が入球して変動表示の保留球数が増加する毎に、最大値４まで１加算される（図７０３のＦ６０４参照）。一方、特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖ

ｄは、新たに特別図柄の変動表示が実行される毎に、１減算される（図６９９のＦ２１１参照）。

【７２３７】

この特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値（特別図柄における変動表示の保留回数Ｎ）は、特別図柄１保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に通知される（図６９９のＦ２１２、図７０３のＦ６０５参照）。特別図柄１保留球数コマンドは、特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値が変更される度に、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３に対して送信されるコマンドである。

【７２３８】

音声ランプ制御装置１１３は、特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値が変更される度に、主制御装置１１０より送信される特別図柄１保留球数コマンドによって、主制御装置１１０に保留された変動表示の保留球数そのものの値を取得することができる。これにより、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂによって管理される変動表示の保留球数が、ノイズ等の影響によって、主制御装置１１０に保留された実際の変動表示の保留球数からずれてしまった場合であっても、次に受信する保留球数コマンドによって、そのずれを修正することができる。

【７２３９】

なお、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドに基づいて保留球数を管理し、保留球数が変化する度に表示制御装置１１４に対して、保留球数を通知するための表示用保留球数コマンドを送信する。表示制御装置１１４は、この表示用保留球数コマンドによって通知された保留球数を基に、第３図柄表示装置８１の保留球数図柄（保留図柄）を表示する。

【７２４０】

特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅは、特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄに対して、第２入賞口６４０に入賞して、保留された保留球の数が格納される点で相違する点で異なるので、その詳細な説明については省略する。なお、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅの値が変更されると、特別図柄２保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に対して通知される。

【７２４１】

普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆは、普通始動口６７における球の通過に基づいて第２図柄表示装置８３で行われる普通図柄（第２図柄）の変動表示の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆは、初期値がゼロに設定されており、球が普通始動口６７を通過して変動表示の保留球数が増加する毎に、最大値４まで１加算される（図７０６のＦ９０４参照）。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆは、新たに普通図柄（第２図柄）の変動表示が実行される毎に、１減算される（図７０５のＦ８０５参照）。

【７２４２】

球が左右何れかの普通始動口６７を通過した場合に、この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（普通図柄における変動表示の保留回数Ｍ）が４未満であれば、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が取得され、その取得されたデータが、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃに記憶される（図７０６のＦ９０５）。一方、球が左右いずれかの普通始動口６７を通過した場合に、この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値が４であれば、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃには新たに何も記憶されない（図７０６のＦ９０３：Ｎｏ）。

【７２４３】

確変フラグ２０３ｖｇは、現在の遊技状態が確変遊技状態（確変遊技状態）であるか否かを示すフラグである。確変フラグ２０３ｖｇがオンに設定されていると、遊技状態が確変遊技状態であることを示し、オフであると低確率遊技状態（時短遊技状態含む）であることを示している。本第２２制御例では、大当たり遊技終了時に後述する確変設定フラグ２０３ｖｈがオンに設定されている場合に確変フラグ２０３ｖｇがオンに設定される（図

７１２のＦ１３０４参照）。一方、大当たり遊技が開始される場合にオフに設定される。なお、初期化された状態では、オフに設定され、通常の電源断が発生した場合には、電源断直前の状態がバックアップされるように構成されている。

【７２４４】

確変設定フラグ２０３ｖｈは、大当たり遊技後に遊技状態を確変遊技状態に移行させるか否かを示すフラグである。本パチンコ機１０では、遊技状態が確変遊技状態に設定されるか否かは、大当たり遊技中に確変スイッチ６５ｅ３（図６７１（ａ）参照）に遊技球が通過したか否かにより決定される。ここで、この確変スイッチ６５ｅ３に遊技球が通過すると確変設定フラグ２０３ｖｈがオンに設定される（図７１４のＦ１２４２）。一方、この確変設定フラグ２０３ｖｈは、確変フラグ２０３ｖｇがオンに設定される（図７１２のＦ１３０６）のに基づいて、オフに設定される。なお、この確変設定フラグ２０３ｖｈは、電源断時にはバックアップされ、復帰時（電源投入時）には電源断直前の状態に設定される。また、初期化された状態ではオフに設定される。

【７２４５】

なお、電源投入時に確変設定フラグ２０３ｖｈがオンに設定されている場合には、確変スイッチ６５ｅ３に電源断前に通過したかを判別して、通過していると判別できた場合に、確変設定フラグ２０３ｖｈを正式にオンに設定して復帰するように構成してもよい。この場合、電源断前に確変スイッチ６５ｅ３を通過しているかの判別は、後述する確変通過カウンタ２０３ｖｉが０より大きい値であるかにより判別できる。このように構成することで、電源断されている状態で、確変設定フラグ２０３ｖｈのみをオンに書き換えて電源を再投入されるような不正を判別して、遊技店側の被害を低減することができる。

【７２４６】

確変通過カウンタ２０３ｖｉは、大当たり遊技中の１つのラウンド（本第２２制御例では、大当たりＡ，Ｂ、Ｄ～Ｊでの２ラウンド）で確変スイッチ６５ｅ３を通過した遊技球の数をカウントするためのカウンタである。なお、この確変通過カウンタ２０３ｖｉと後述する排出個数カウンタ２０３ｖｓとの合計により第１可変入賞装置６５に入賞した遊技球が全て排出されたかを判別することができる。この確変通過カウンタ２０３ｖｉは、確変スイッチ６５ｅ３を通過した場合に１ずつ加算されて更新される（図７１４のＦ１２４１）。また、第１可変入賞装置６５に入賞した遊技球の数と排出個数が一致するかの処理を実行した後に、初期値である「０」にリセットされる（図７１５のＦ１２７１）。なお、この確変通過カウンタ２０３ｖｉは、電源断時にはバックアップされる。また、初期化された状態では、０に設定される。

【７２４７】

入賞個数カウンタ２０３ｖｊは、大当たり遊技における１つのラウンドで第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａに入賞した遊技球の数（即ち、第１可変入賞装置６５に入球した遊技球の数）をカウントするためのカウンタである。具体的には、第１可変入賞装置６５に設けられた検出口６５ａ１（図６７１参照）を遊技球が通過したと検出されることに基づいて、１ずつ加算されて更新される（図７７のＦ１２３３）。一方、１つのラウンドが終了した場合に、第１可変入賞装置６５に入賞した個数（入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値）と排出された個数（排出個数カウンタ２０３ｖｓと確変通過カウンタ２０３ｖｉとの合計値）とが一致しているか判別（図７１５のＦ１２６７）された後に、初期値である「０」にリセットされる。なお、この入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値は、電源断時にはバックアップされる。また、初期化された状態では、０に設定される。

【７２４８】

動作カウンタ２０３ｖｋは、流路ソレノイド（確変ソレノイド）６５ｋがオン（励磁）に設定される時間を計時（カウント）するためのカウンタである。本パチンコ機１０では、大当たりＡでは、２ラウンドの開始に基づいて流路ソレノイド６５ｋが５秒間オンに設定され、大当たりＣでは２ラウンドの開始に基づいて流路ソレノイド６５ｋが０．５秒間オンに設定される。動作カウンタ２０３ｖｋには、大当たりＡでは、２ラウンドの開始データとして５秒に対応するカウンタ値が設定され、大当たりＣでは０．５秒に対応するカ

ウンタ値が設定される（図７１１のＦ１２０２）。一方、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１１の実行する入賞処理２２（図７１４、Ｆ１１１５）のＦ１２３９の処理において１ずつ減算されて更新される。また、この動作カウンタ２０３ｖｋの値が０と判別されること（図７１４のＦ１２４３：Ｙｅｓ）に基づいて、流路ソレノイド６５ｋがオフに設定される。なお、この動作カウンタ２０３ｖｋは、電源断時にはバックアップされ、初期化された状態では、初期値である０が設定される。このように、動作カウンタ２０３ｖｋを設定して流路ソレノイド６５ｋを制御することで、確変スイッチ６５ｅ３への入賞を大当たり種別により制御できる。

【７２４９】

報知カウンタ２０３ｖｍは、遊技者の注意を惹きつけるための報知演出（本第２２制御例では、「液晶を見て」という音声）を出力するタイミングを判別するためのカウンタである。本第２２制御例では２ラウンド目の終了タイミング（第１可変入賞装置６５に１０球入賞か３０秒が経過）に１秒間に対応する報知カウンタ２０３ｖｍが設定される。この報知カウンタ２０３ｖｍは、主制御装置１１０の報知処理（図７１３、Ｆ１１１４）のＦ１２２４の処理により１ずつ減算されて更新される。報知カウンタ２０３ｖｍが０となることに基づいて、音声ランプ制御装置１１３に対して出力される報知コマンドが設定される。音声ランプ制御装置１１３では、このコマンドを受信すると上記した音声を出力する為の処理が実行される。

【７２５０】

このように構成することで、流路ソレノイド６５ｋが動作される２ラウンド目の開始前に「液晶を見て」という音声が出力されるので、遊技者は、液晶に相当する第３図柄表示装置８１を注視する。２ラウンド目には、流路ソレノイド６５ｋが作動するので、その作動を遊技者に注視されると、実行されている大当たり種別を流路ソレノイド６５ｋの動作期間により判別されてしまう。遊技者には大当たり遊技の終了まで確変遊技状態が付与されることへの期待を持ち続けさせるために、切替部材６５ｈ（図６７１（ａ）参照）の動きを遊技者が見え難くするような報知演出が実行されている。しかしながら、２ラウンド目が終了した場合に、インターバル表示中に切替部材６５ｈを遊技者が見てしまう虞があるので、そのインターバル期間中に、音声により第３図柄表示装置８１を注視するように報知する報知演出が実行される。これにより、インターバル演出が実行された後に、表示される表示内容に遊技者の注意を惹きつけることができ、切替部材６５ｈの動作から遊技者の注意をそらすことができる。

【７２５１】

なお、本第２２制御例では、第３図柄表示装置８１を見せるように報知することで、切替部材６５ｈから遊技者の注意をそらすように構成したが、それに限らず、２ラウンド開始前に、第１可変入賞装置６５に遊技者の手をかざすように報知することで、切替部材６５ｈの動きを遊技者の手によって隠れるように報知してもよい。また、第３図柄表示装置８１に限らず、装飾ランプ３４等を遊技者に見るように報知することで、遊技者の注意をそらすように構成してもよい。さらに、２ラウンド中に、３次元コード等を表示させて、携帯電話で読み取るように促す報知をすることで、遊技者の注意をそらすように構成してもよい。本第２２制御例では、注意をそらす演出は、切替部材６５ｈの動作が終了するまでの最長時間（２ラウンド開始から５秒間）が設定される。これにより、報知時間により大当たりＡであるか大当たりＢであるかが判別される不具合を抑制できる。

【７２５２】

残球タイマフラグ２０３ｖｎは、１のラウンドで第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｆ１が閉鎖したことを示すフラグである。この残球タイマフラグ２０３ｖｎがオンに設定されていると、１のラウンドで第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｆ１が開放状態から閉鎖状態に設定されたことを示している。この残球タイマフラグ２０３ｖｎがオンに設定されることで、後述する残球タイマ２０３ｖｏが１ずつ加算されて更新される（図７１５のＦ１２６４参照）。残球タイマ２０３ｖｏは、開閉扉６５ｆ１が閉鎖されてからの時間を判別するためのカウンタであり、第１可変入賞装置６５内の遊技球が排出されるのに必要な

時間が経過したかを判別するためのカウンタである。
【７２５３】
残球タイマ２０３ｖｏは、予め設定されている１のラウンドが終了して第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｆ１が閉鎖した場合に、第１可変入賞装置６５に入賞した遊技球が排出されるのに必要な時間が経過したかを判別するためのカウンタである。本第２２制御例では、第１可変入賞装置８１に入賞した遊技球が排出されるまでに必要な時間は２秒であり、本第２２制御例では、予め３秒に対応するカウンタ値が残球タイマ２０３ｖｏの上限値として設定されている。この残球タイマ２０３ｖｏの上限値（本第２２制御例では、３秒）となったことに基づいて、第１可変入賞装置６５への入賞個数とその排出個数とが一致しているかの判別が実行される（図７１５のＦ１２６７）。一致しない場合には、エラーコマンドが設定されて、その旨が報知される。よって、第１可変入賞装置６５内に遊技球が球詰まりしていることを早期に知らせることができる。よって、不正に第１可変入賞装置６５内に遊技球を残存させておき、２ラウンドの開始タイミングで衝撃等を与えて、実際よりも早く切替部材６５ｈまで遊技球を到達させて、大当たりＢであっても確変スイッチ６５ｅ３に遊技球を通過させる不正を抑制できる。
【７２５４】
なお、入賞個数と排出個数が一致しない場合には、専用のフラグをオンに設定しておき、そのフラグがオンである場合には確変スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過しても確変設定フラグ２０３ｖｈをオンに設定しない構成にしてもよい。このように構成することで、不正に確変遊技状態が付与されることを抑制できる。
【７２５５】
確変有効フラグ２０３ｖｐは、流路ソレノイド６５ｋがオフに設定された後に、遊技球が確変スイッチ６５ｅ３に通過した場合に、その通過を有効とするか否かを判別するためのフラグである。この確変有効フラグ２０３ｖｐがオンに設定されている場合には、流路ソレノイド６５ｋがオンであることに基づいて、特別排出口６５ｅ２（図６７１（ａ）参照）に流入した遊技球が確変スイッチ６５ｅ３を通過するのに必要な時間以下であることを示している。即ち、確変有効フラグ２０３ｖｐがオンである期間は、確変スイッチ６５ｅ３に遊技球が通過することが正常な期間であることを示している。
【７２５６】
確変有効タイマ２０３ｖｒは、上述した確変有効フラグ２０３ｖｐがオンに設定されてからの時間をカウントする為のカウンタである。この確変有効タイマ２０３ｖｒにより流路ソレノイド６５ｋがオフとなった後に、確変スイッチ６５ｅ３を正常に通過するのに必要な期間を判別（計測）することができる。本第２２制御例では、特別排出口６５ｅ２に入球した遊技球が確変スイッチ６５ｅ３を通過するのに要する時間は１秒である。確変有効タイマ２０３ｖｒの上限値は１．２秒に対応するカウンタ値に設定されており、それ以後に確変スイッチ６５ｅ３を通過しても不正と判別して通過と判別しない。
【７２５７】
これにより、切替部材６５ｈが特別排出口６５ｅ２に誘導しない状態で、不正に特別排出口６５ｅ２に入球させて確変スイッチ６５ｅ３に遊技球を通過させたり、確変スイッチ６５ｅ３の下方よりピアノ線等で遊技球を押し上げて通過させたり、電波等により磁気センサーを通過と誤検出させたりする不正による被害を抑制できる。
【７２５８】
排出個数カウンタ２０３ｖｓは、１のラウンドで排出確認スイッチ６５ｅ４（図６７１（ａ）参照）を通過した遊技球の数をカウントするためのカウンタである。この排出個数カウンタ２０３ｖｓは、第１可変入賞装置６５に入賞した遊技球の数と排出個数とが判別された後に初期値である０にリセットされる（図７１５のＦ１２７１）。
【７２５９】
時短中カウンタ２０３ｖｔは、時短遊技状態における残りの特別図柄の変動回数をカウントするためのカウンタである。この時短中カウンタ２０３ｖｔは、大当たり遊技終了時に確変設定フラグがオフである場合に、１００が設定される。即ち、本第２２制御例では

、大当たり遊技後に確変遊技状態に設定されない場合には、１００回の時短遊技状態に移行する。

【７２６０】

確変中カウンタ２０３ｖｕは、確変遊技状態における残りの特別図柄の変動回数をカウントするためのカウンタである。この確変中カウンタ２０３ｖｕは、大当たり遊技終了時に確変設定フラグがオンである場合に、１２０が設定される。即ち、本第２２制御例では、大当たり遊技終了後に確変遊技状態が設定される場合には、１２０回の確変遊技状態に移行する。

【７２６１】

その他メモリエリア２０３ｖｚは、遊技に必要なその他のデータや、カウンタ、フラグ等が設定（記憶）される。

【７２６２】

図６８７に戻って説明を続ける。払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【７２６３】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【７２６４】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【７２６５】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【７２６６】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（スピーカ３０８など）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等

を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【７２６７】

図６８７に示す通り、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２Ａ（演出ボタン２２、選択ボタン６００）、駆動モータ群が接続されている。この駆動モータ群には剣役物用モータ７７１と、チェンジ役物用モータ７７３，７７４と、その他モータが含まれている。

【７２６８】

上述した各モータはステッピングモータとモータドライバとにより構成されており、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１から各モータドライバに対して動作内容を設定する動作コマンド（動作（回転）速度（ｐｐｓ）、動作ステップ数と、および動作（回転）方向を指定可能なコマン）が出力される。この音声ランプ制御装置１１３から出力されるモータ動作コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に格納される動作シナリオテーブル２２２ｖｆに規定される内容を参照して設定される。

【７２６９】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２Ａからの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２Ａが操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた後面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた後面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、後面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の後面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【７２７０】

なお、遊技者によって枠ボタン２２Ａが操作された場合に、図示しない演出用の役物を駆動させるためにその他装置２２８へ役物駆動コマンドを送信したり、枠ボタン２２Ａへの操作内容に対応した音声を音声出力装置２２６に出力させるための音声出力コマンドを設定したり、枠ボタン２２Ａへの操作内容に対応した発光態様でランプ表示装置２２７を発光させるためのランプ出力コマンドを設定したりするように構成しても良い。

【７２７１】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【７２７２】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０からのコマンドや、音声ランプ制御装置１１３に接続された各種装置等の状況に応じてエラーを判定し、そのエラーの種別を含めてエラーコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４では、受信したエラーコマンドによって示されるエラー種別（例えば、振動エラー）に応じたエラーメッセージ画像を第３図柄表示装置８１に遅滞無く表示させる制御が行われる。

【７２７３】

ここで、本第２２制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲ

ＯＭ２２２に規定されている内容について説明をする。音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２には、図６９３（ａ）に示すように、変動パターン選択テーブル２２２ｖａと、保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂと、保留色選択テーブル２２２ｖｃと、保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄと、シャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅと、動作シナリオテーブル２２２ｖｆと、が少なくとも記憶されている。

【７２７４】

変動パターン選択テーブル２２２ｖａは、図示しない変動パターン選択用のカウンタ値に各変動パターンの種別（ど外れ、リーチ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【７２７５】

変動パターン選択テーブル２２２ｖａは、図示しない変動パターン選択用のカウンタ値に各変動パターンの種別（ど外れ、リーチ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【７２７６】

保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂは、第１演出カウンタ２２３ｖｆのカウンタ値に保留変化演出の態様（実行しない、単独保留変化演出、複合保留変化演出）がそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より特図用の入賞コマンドを受信した場合に、この保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂに基づいて、その入賞情報に対応する保留図柄に対して保留変化演出を実行するか否かを決定する。

【７２７７】

ここで、図６９４（ａ）を参照して、保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂの内容について説明する。図６９４（ａ）は、保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂの内容を模式的に示した模式図である。図６９４（ａ）に示す通り、本第２２制御例では、第１演出カウンタ２２３ｖｆのカウンタ値に基づいて、主制御装置１１０から受信した特図用の入賞コマンドに対応する保留図柄に対して保留変化演出を実行するか否かを決定する。

【７２７８】

第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～２９」の範囲に対して「保留変化演出を実行しない」が対応付けて規定され、「３０～８９」の範囲に対して「単独保留変化演出」が対応付けて規定され、「９０～９８」の範囲に対して「複合保留変化演出」が対応付けて規定されている。

【７２７９】

ここで、単独保留変化演出とは、主制御装置１１０から特図用の入賞コマンドを受信した場合に、保留図柄の表示開始時の保留色を、保留色選択テーブル２２２ｖｃから決定された保留色で表示する演出である。なお、保留変化演出が実行されない場合には、保留色として「白」が設定される。

【７２８０】

また、複合保留変化演出とは、複数の保留図柄を用いた保留変化演出であり、予め設定された保留変化シナリオに基づいて、特別図柄の変動開始時に表示されている複数の保留図柄の保留色を可変させる演出である。

【７２８１】

図６９３（ａ）に戻り説明を続ける。保留色選択テーブル２２２ｖｃは、第２演出カウンタ２２３ｖｇのカウンタ値に保留色がそれぞれ設定されている。この保留色選択テーブル２２２ｖｃは、単独保留変化演出が実行される場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の色を決定するために参照されるテーブルである（図７２２のＦ２５５９参照）。

【７２８２】

ここで、図６９４（ｂ）を参照して、保留色選択テーブル２２２ｖｃの内容について説明する。図６９４（ｂ）は保留色選択テーブル２２２ｖｃの内容を模式的に示した模式図である。図６９４（ｂ）に示す通り、本第２２制御例では、当否判定の結果と、第２演出カウンタ２２３ｖｇのカウンタ値に基づいて、保留図柄の保留色が決定される。

【７２８３】

当否判定結果が「当たり」である場合、第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～２９」の範囲に対して保留色「白」が対応付けて規定され、「３０～５９」の範囲に対して保留色「青」が対応付けて規定され、「６０～８９」の範囲に対して保留色「黄色」が対応付けて規定され、「９０～１１９」の範囲に対して保留色「紫」が対応付けて規定され、「１２０～１７９」の範囲に対して保留色「緑」が対応付けて規定され、「１８０～１９４」の範囲に対して保留色「赤」が対応付けて規定され、「１９５～１９８」の範囲に対して保留色「虹」が対応付けて規定されている。当否判定結果が「当たり」である場合には、いずれの保留色が選択されても保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定され、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに「当たり保留」であることを示す情報が格納される。

【７２８４】

保留演出情報格納エリア２２３ｖｌは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられており、保留図柄に対して保留変化演出を実行するための保留演出情報を格納するものである。

【７２８５】

保留演出制限中フラグ２２３ｖｍは、保留変化演出の対象となる保留図柄が表示されている期間に、他の保留図柄を対象とする保留変化演出が新たに設定されないようにするためのフラグである。上述したように、本第２２制御例では、対象保留図柄の保留色と、前後の保留図柄の保留色を組み合わせる保留変化演出を実行する（図６７２～図６７７参照）。この保留変化演出では、予め定められた保留変化シナリオに対応する動作シナリオで左チェンジ役物Ｙｍ１と、右チェンジ役物Ｙｍ２が可動するため、例えば、保留変化演出の対象である保留図柄の次の保留図柄にも異なる保留変化シナリオが設定された場合に、保留変化演出の実行タイミングが重なってしまい、遊技者に誤った遊技情報を与えてしまう虞があるため、これを防ぐために、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンである期間は、新たに保留変化演出が実行されない構成としている。

【７２８６】

一方、当否判定結果が「外れ」である場合、第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～４９」の範囲に対して保留色「白」が対応付けて規定され、「５０～１４９」の範囲に対して保留色「青」が対応付けて規定され、「１５０～１７４」の範囲に対して保留色「黄」が対応付けて規定され、「１７５～１９４」の範囲に対して保留色「紫」が対応付けて規定され、「１９５～１９７」の範囲に対して保留色「緑」が対応付けて規定され、「１９８」の範囲に対して保留色「赤」が対応付けて規定されている。当否判定結果が「外れ」である場合には、いずれの保留色が選択されても、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍはオフに設定され、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには選択された保留色に対応する保留色情報が格納される。

【７２８７】

図６９４（ｂ）に示す通り、当否判定結果が「当たり」である場合には、当否判定結果が「外れ」である場合よりも保留色「緑」および「赤」が選択される範囲が多く、また、「虹」が選択可能な構成となっている。このように、当否判定結果が「当たり」の場合と

、「外れ」の場合とで選択され易い保留色を設定することで、表示される保留図柄の保留色に基づいて、遊技者が当否判定結果を予測することができる。

【７２８８】

なお、本第２２制御例では、保留色を７色としたが、これに限るものではなく、６色以下でも良いし、８色以上でも良い。

【７２８９】

図６９３（ａ）に戻り、説明を続ける。保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄは、複合保留変化演出が実行される場合に、当否判定結果と、１つ前の保留色と、第２演出カウンタ２２３ｖｇの値に基づいて、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色や、保留変化シナリオ等の保留演出情報を決定するために参照されるテーブルである。

【７２９０】

ここで、図６９５を参照して、保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄの内容について説明する。図６９５は、保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄの内容を模式的に示した模式図である。図６９５に示す通り、保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄは、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる当否判定結果と、１つ前の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色と、第２演出カウンタ２２３ｖｇの値に基づいて、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色を決定し、保留変化演出制限中フラグ２２３ｓｍと、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンにするか否かを設定する。また、保留変化シナリオを設定し、その保留図柄に基づく特別図柄の変動が開始されるまでの期間中の所定のタイミングで保留色が変化する演出を実行するための情報を保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納する。

【７２９１】

なお、後保留設定フラグ２２３ｖｎは、音声ランプ制御装置１１３に設けられており、複合保留変化演出の保留変化シナリオが設定された場合に、次に受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色を強制的に決定するためのフラグである。複合保留変化演出設定処理２２（図７２３のＦ２５１７参照）において特定の保留変化シナリオが決定された場合にオンされ（図７２３のＦ２６０５参照）、次に受信した入賞コマンドの保留色を決定した場合にオフされる（図７２２のＦ２５５３参照）。

【７２９２】

図６９５に戻り説明を続ける。当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～４９」の範囲であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「紫」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「紫」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ１」が格納される。保留変化シナリオ１は、対象保留図柄の保留色「紫」の１つ前の保留図柄の保留色が「白」であるため、左チェンジ役物Ｙｍ１によって、１つ前の保留図柄が隠された場合に、何の色も移植されず、保留図柄の保留色が変わらないシナリオである。なお、この場合、次に受信した入賞コマンドに対する保留色の指定はされないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７２９３】

本第２２制御例では、「白」保留図柄を隠した場合に、保留図柄の保留色が変わらない構成としたが、これに限るものではなく、変化対象の保留図柄単独で保留変化演出を実行する構成としても良い。

【７２９４】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「５０～８９」の範囲であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「紫」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「紫」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ２」が格納される。保留変化シナリオ２

は、対象保留図柄の保留色「紫」の１つ前の保留図柄の保留色が「白」であるため、右チェンジ役物Ｙｍ１によって、対象保留図柄が隠された場合に、対象保留図柄「紫」から「青」が１つ前の保留図柄に移植され、対象保留図柄が「赤」に、１つ前の保留図柄が「青」に可変するシナリオである。なお、この場合、次に受信した入賞コマンドに対する保留色の指定はされないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７２９５】

このように、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって隠された方の保留図柄が大当たり当選期待度の高い表示態様に可変可能な構成であるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。

【７２９６】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「９０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「青」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ３」が格納される。保留変化シナリオ３は、対象保留図柄の保留色「青」に、次の保留図柄の保留色である「黄」が移植され、対象保留図柄は「緑」に可変し、次の保留図柄の保留色が「黄」から「白」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「黄」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７２９７】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～６９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「黄」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ４」が格納される。保留変化シナリオ４は、対象保留図柄の保留色「黄」に、１つ前の保留図柄の保留色である「青」を移植し、１つ前の保留図柄は「白」に可変し、対象保留図柄の保留色が「黄」から「緑」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７２９８】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「７０～１４９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「紫」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ５」が格納される。保留変化シナリオ５は、対象保留図柄の保留色「白」に、次の保留図柄の保留色である「紫」から「赤」が移植され、対象保留図柄は「赤」に可変し、次の保留図柄の保留色が「紫」から「青」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「紫」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７２９９】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１５０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「黄」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「赤」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ６」が格納される。保留変化シナリオ６は、対象保留図柄の保留色「黄」に、１つ前の保留図柄の保留色である「青」と、次の保留図柄の保留色である「赤」が移植され、対象保留図柄は「虹」に可変し、１つ前の保留図柄の保留色が「青」から「

白」、次の保留図柄の保留色が「赤」から「白」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「赤」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７３００】

このように、大当たり当選期待度の高い表示態様の保留図柄（赤保留図柄）が表示されても、別の保留図柄に移植されることで、更に大当たり当選期待度の高い表示態様の保留図柄（虹保留図柄）となることが可能な構成であり、最初に大当たり当選期待度の高い表示態様の保留図柄が表示されても、どの保留図柄に移植されるか保留変化演出が実行されるまで分からないため、大当たり当選期待度の高い表示態様の保留柄以前に獲得している保留球に基づく抽選遊技が消化試合になることを抑制することができる。

【７３０１】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「黄」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１４９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「青」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ７」が格納される。保留変化シナリオ７は、対象保留図柄の保留色「青」に、１つ前の保留図柄の保留色である「黄」を移植し、１つ前の保留図柄は「白」に可変し、対象保留図柄の保留色が「緑」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３０２】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「黄」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１５０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「青」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「赤」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ８」が格納される。保留変化シナリオ８は、対象保留図柄の保留色「青」に、次の保留図柄の保留色である「赤」を移植し、対象保留図柄は「紫」に可変し、次の保留図柄の保留色が「白」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「赤」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７３０３】

なお、上述したように、本第２２制御例では、保留色「紫」よりも保留色「赤」の方が大当たり当選期待度の高い表示態様であり、保留図柄の表示態様が下位の表示態様に可変した後に外れが報知されると遊技者の遊技意欲を激しく低下させてしまう虞があるが、本第２２制御例では、大当たり当選の場合のみ、下位の表示態様に可変可能な構成としている。このように構成することで、遊技者に意外性のある遊技を提供することができる。

【７３０４】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「紫」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ９」が格納される。保留変化シナリオ９は、対象保留図柄の保留色「白」に、１つ前の保留図柄の保留色「紫」から「赤」が移植され、対象保留図柄の保留色が「赤」に、１つ前の保留図柄の保留色が「青」に可変するシナリオである。なお、この場合、次に受信した入賞コマンドに対する保留色の指定はされないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３０５】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「紫」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１００～１４９」であれば、受信した入賞コマンドに

対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ１０」が格納される。保留変化シナリオ１０は、対象保留図柄の保留色「白」が単独で「緑」に可変するシナリオである。なお、この場合、次に受信した入賞コマンドに対する保留色の指定はされないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３０６】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「紫」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１５０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「緑」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「緑」が格納される。なお、この場合、保留変化シナリオは設定されず、また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３０７】

当否判定結果が「当たり」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「黄」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ１１」が格納される。保留変化シナリオ１１は、対象保留図柄の保留色「黄」に、１つ前の保留図柄の保留色である「赤」と、次の保留図柄の保留色である「青」が移植され、対象保留図柄は「虹」に可変し、１つ前の保留図柄の保留色が「赤」から「白」、次の保留図柄の保留色が「青」から「白」に可変するシナリオである。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「青」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７３０８】

当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１４９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」が格納される。なお、この場合、保留変化シナリオは設定されず、また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３０９】

当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１５０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「青」、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ３」が格納される。この場合、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が「黄」に指定されているため、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオンに設定する。

【７３１０】

当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１６９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」が格納される。なお、この場合、保留変化シナリオは設定されず、また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。

【７３１１】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「青」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１７０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「黄」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「黄」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ４」が格納される。また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１２】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「黄」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１６９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」が格納される。なお、この場合、保留変化シナリオは設定されず、また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１３】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「黄」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１７０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「青」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「青」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ７」が格納される。また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１４】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「紫」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１２９」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」が格納される。なお、この場合、保留変化シナリオは設定されず、また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１５】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「紫」である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「１３０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ９」が格納される。また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１６】
当否判定結果が「外れ」であり、１つ前の保留図柄の保留色が「白、青、黄、紫」以外である場合に第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１９８」であれば、受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色として「白」が決定され、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオフに設定される。また、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌには、保留色として「白」、保留変化シナリオとして「保留変化シナリオ８」が格納される。また、次の入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色が指定されていないため、後保留設定フラグ２２３ｖｎはオフの状態が維持される。
【７３１７】
このように、本第２２制御例では、保留変化演出の保留変化シナリオが設定された後に

獲得された保留図柄も保留変化演出の一部として組み込むことが可能に構成されており、次の保留図柄を獲得したことによって対象保留図柄の保留色が可変するパターンも存在するため、遊技者に保留色が可変することを期待させることで、保留図柄を獲得しようと思わせることができる。

【７３１８】

図６９３（ａ）に戻り説明を続ける。シャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅは、本第２２制御例において特別図柄の変動演出の一つとして実行される「シャッター閉鎖リーチ」の演出態様を設定するために参照されるテーブルである。なお、シャッター閉鎖リーチの内容は上述の通りである。

【７３１９】

ここで、図６９６を参照して、シャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅの内容について説明をする。図６９６は、シャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅの規定内容を模式的に示した模式図である。このシャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅは、その変動における特別図柄の当否判定結果と、当たり種別と、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値に基づいて演出態様を決定する。

【７３２０】

当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＡ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～１４９」であれば、「閉鎖リーチ１」が決定される。閉鎖リーチ１は初期図柄として「２」図柄が設定され、シャッターが閉鎖される毎に図柄が１ずつ大きくなる。従って、最終段階（６段階目）に到達した場合には、「７」図柄が３つ揃った状態で表示される。

【７３２１】

一方、当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＢ、Ｃ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～１４９」であれば、「閉鎖リーチ４」が決定される。閉鎖リーチ４は初期図柄として「３」図柄が設定され、シャッターが閉鎖される毎に図柄が１ずつ大きくなる。従って、最終段階（６段階目）に到達した場合には、「８」図柄が３つ揃った状態で表示される。

【７３２２】

なお、本第２２制御例では、当たり種別が大当たりＡである場合のみ「７」図柄が３つ揃った状態で表示され、当たり種別が大当たりＢ、Ｃである場合には「７」図柄以外の図柄が３つ揃った状態で表示される構成としている。本第２２制御例では、大当たりＡの方が大当たりＢ、Ｃよりも大当たり遊技のラウンド数が多いため、遊技者にとってはシャッター閉鎖リーチにおいて「７」図柄が３つ揃った状態となった方が、それ以外の図柄が表示されるよりも有利となる。このように、シャッター閉鎖リーチでは、初期図柄として設定された図柄の種別によって、遊技者が当たり種別を予測することが可能となるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【７３２３】

当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＡ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１５０～１７４」であれば、「閉鎖リーチ２」が決定される。閉鎖リーチ２は初期図柄として「３」図柄が設定され、シャッターが閉鎖される毎に図柄が１ずつ大きくなる。従って、最終段階（６段階目）に到達した場合には、「８」図柄が３つ揃った状態で表示される。しかしながら、閉鎖リーチ２では、３段階目到達時に「ＨＯＬＤ」カプセルが付与される。この「ＨＯＬＤ」カプセルは、上述したように５段階目到達時に使用され、５段階目到達時点で表示されている図柄（この場合は「７」図柄）が６段階目到達時まで維持される。従って、閉鎖リーチ２では、初期図柄として「３」図柄が設定されたものの、最終段階に到達した場合に「７」図柄が３つ揃った状態となる。

【７３２４】

また、当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＡ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１７５～１９８」であれば、「閉鎖リーチ３」が決

定される。閉鎖リーチ３は初期図柄として「３」図柄が設定され、シャッターが閉鎖される毎に図柄が１ずつ大きくなる。従って、最終段階（６段階目）に到達した場合には、「８」図柄が３つ揃った状態で表示される。しかしながら、閉鎖リーチ３では、３段階目到達時に「カギ」カプセルが付与される。この「カギ」カプセルが付与された場合は、５段階目でシャッターを完全開放させる演出が実行される。従って、５段階目到達時点で表示されている図柄（この場合は「７」図柄）が３つ揃った状態で表示される。従って、閉鎖リーチ３では、初期図柄として「３」図柄が設定されたものの、「７」図柄が３つ揃った状態となる。

【７３２５】

また、当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＢ、Ｃ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１５０～１７４」であれば、「閉鎖リーチ５」が決定される。閉鎖リーチ５は初期図柄として「２」図柄が設定されるものの、４段階目到達時から６段階目到達時まで「５」図柄のまま図柄が可変しない態様となっている。従って、６段階目到達時に「５」図柄が３つ揃った状態が表示される。

【７３２６】

当否判定結果が「当たり」であり、当たり種別が「大当たりＢ、Ｃ」である場合に、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１７５～１９８」であれば、「閉鎖リーチ６」が決定される。閉鎖リーチ６では、初期図柄として「２」図柄が設定され、シャッターが閉鎖される毎に図柄が１ずつ大きくなる。従って、最終段階（６段階目）に到達した場合には、「７」図柄が３つ揃った状態で表示されるが、閉鎖リーチ３と同様に、３段階目到達時に「カギ」カプセルが付与され、５段階目でシャッターを完全開放させる演出が実行される。従って、５段階目到達時点で表示されている図柄（この場合は「６」図柄）が３つ揃った状態で表示される。従って、閉鎖リーチ６では、初期図柄として「２」図柄が設定されたものの、「６」図柄が３つ揃った状態となる。なお、閉鎖リーチ２，３及び６で付与されるカプセルの中身は、５段階目到達時まで遊技者に分からないように構成している。

【７３２７】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９９」であれば、「閉鎖リーチ７」が決定される。閉鎖リーチ７は、初期図柄として「２」図柄、または、「３」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、２段階目から３段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。

【７３２８】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１００～１５９」であれば、「閉鎖リーチ８」が決定される。閉鎖リーチ８は、初期図柄として「２」図柄、または、「３」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、３段階目から４段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。また、３段階目到達時にカプセル付与失敗の演出が実行される。

【７３２９】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１６０～１６９」であれば、「閉鎖リーチ９」が決定される。閉鎖リーチ９は、初期図柄として「２」図柄、または、「３」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、４段階目から５段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。

【７３３０】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１７０～１７９」であれば、「閉鎖リーチ１０」が決定される。閉鎖リーチ１０は、初期図柄として「２」図柄、または、「３」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、５段階目から６段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。

【７３３１】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１８０～１８９

」であれば、「閉鎖リーチ１１」が決定される。閉鎖リーチ１１は、初期図柄として「２」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、５段階目から６段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。また、４段階目から５段階目に移行する場合に、「５」図柄が更新されない。

【７３３２】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１９０～１９４」であれば、「閉鎖リーチ１２」が決定される。閉鎖リーチ１２は、初期図柄として「３」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、５段階目から６段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。また、３段階目到達時に「ＨＯＬＤ」カプセルが付与され、５段階目において使用されるものの、６段階目に到達しないため、大当たり当選を報知する表示態様が表示されない。

【７３３３】

当否判定結果が「外れ」であり、第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「１９５～１９８」であれば、「閉鎖リーチ１３」が決定される。閉鎖リーチ１３は、初期図柄として「２」図柄が設定され、シャッター閉鎖時に図柄が大きくなる。しかしながら、５段階目から６段階目に移行する時に失敗を示す表示態様が表示され、演出が終了する。また、３段階目到達時に「カギ」カプセルが付与され、５段階目において使用されるものの、カギが合わない演出が実行され、シャッターを完全開放させる演出が実行されないため、大当たり当選を報知する表示態様が表示されない。

【７３３４】

このように、本第２２制御例におけるシャッター閉鎖リーチでは、遊技者に対して、単に最終段階まで到達できるかどうかだけでなく、シャッター閉鎖リーチ開始時の初期図柄の種別や、３段階目でカプセルが付与されるか否かや、段階が進んでも図柄が更新されない状態とならないかに興味を持たせることで、遊技者が早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７３３５】

図６９３（ａ）に戻り説明を続ける。動作シナリオテーブル２２２ｖｆは、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２の動作シナリオを設定するためのテーブルである。動作シナリオ種別は、後述する変動開始時保留演出実行処理２２（図７３０のＦ３１０９参照）において、複合保留変化演出が実行される場合に設定されている保留変化シナリオに対応する動作シナリオが設定される。

【７３３６】

ここで、図６９７を参照して、動作シナリオテーブル２２２ｖｆの内容について説明をする。図６９７は、動作シナリオテーブル２２２ｖｆの規定内容を模式的に示した模式図である。この動作シナリオテーブル２２２ｖｆには、動作シナリオ種別毎に動作パターンが規定されている。

【７３３７】

動作シナリオ１は、第２保留ｈｒ２（図６７２（ａ）参照）を変化対象とした保留変化演出が実行される場合に使用される動作シナリオである。第１動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１が初期位置から上昇することで第１保留ｈｒ１を隠し、右チェンジ役物Ｙｍ２が初期位置から上昇することによって第４保留ｈｒ４を隠し、第２保留ｈｒ２と第３保留ｈｒ３のみが表示される位置となる（図６７２（ｂ）参照）。その後、第２動作として、右チェンジ役物Ｙｍ２が左方向に可動することで第３保留ｈｒ３を隠す（図６７３（ａ）参照）。なお、この時に、第３図柄表示装置８１の表示領域ＨＲ２では、保留変化シナリオに基づいて第３保留ｈｒ３の保留色が第２保留ｈｒ２に移植される演出が実行される。その後、第３動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２は、第２動作位置から下降し、初期位置に戻る。

【７３３８】

動作シナリオ２は、第３保留ｈｒ３（図６７２（ａ）参照）を変化対象とした保留変化演出が実行される場合に使用される動作シナリオである。第１動作として、左チェンジ役

物Ｙｍ１が初期位置から上昇することで第１保留ｈｒ１を隠し、右チェンジ役物Ｙｍ２が初期位置から上昇することによって第４保留ｈｒ４を隠し、第２保留ｈｒ２と第３保留ｈｒ３のみが表示される位置となる（図６７２（ｂ）参照）。その後、第２動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１が右方向に可動することで第２保留ｈｒ２を隠す（図６７５（ａ）参照）。なお、この時に、第３図柄表示装置８１の表示領域ＨＲ２では、保留変化シナリオに基づいて第２保留ｈｒ２の保留色が第３保留ｈｒ３に移植される演出が実行される。その後、第３動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２は、第２動作位置から下降し、初期位置に戻る。

【７３３９】

動作シナリオ３は、第２保留ｈｒ２（図６７２（ａ）参照）を変化対象とした保留変化演出が実行される場合に使用される動作シナリオである。第１動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１が初期位置から上昇し、右チェンジ役物Ｙｍ２が初期位置から上昇することによって第４保留ｈｒ４を隠し、第１保留ｈｒ１と第２保留ｈｒ２と第３保留ｈｒ３が表示される位置となる（図示しない）。その後、第２動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１が右方向に可動することで第１保留ｈｒ１を隠し、右チェンジ役物Ｙｍ２が左方向に可動することで第３保留ｈｒ３を隠す（図示しない）。なお、この時に、第３図柄表示装置８１の表示領域ＨＲ２では、保留変化シナリオに基づいて第１保留ｈｒ１と第３保留ｈｒ３の保留色が第２保留ｈｒ２に移植される演出が実行される。その後、第３動作として、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２は、第２動作位置から下降し、初期位置に戻る。

【７３４０】

このように、本第２２制御例では、保留変化シナリオに対応する動作パターンで左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２を可動させることにより、第３図柄表示装置８１と左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２が連動した保留変化演出を実行可能に構成している。保留変化演出が実行される場合に、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２の動作パターンによって変化する保留図柄が変わるため、遊技者に左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２の動作パターンに興味を持たせることが可能となる。

【７３４１】

次に、図６８７（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図６８７（ｂ）に示すように、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、入賞情報格納エリア２２３ｖａ、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃ、変動開始フラグ２２３ｖｄ、停止種別選択フラグ２２３ｖｅ、第１演出カウンタ２２３ｖｆ、第２演出カウンタ２２３ｖｇ、従状態格納エリア２２３ｖｈ、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉ、制限タイマ２２３ｖｊ、環境情報格納エリア２２３ｖｋ、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌ、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍ、後保留設定フラグ２２３ｖｎ、演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐ、時短中カウンタ２２３ｖｑ、確変中カウンタ２２３ｓｒ、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓ、Ｖ入賞フラグ２２３ｖｔ、Ｖ報知フラグ２２３ｖｕ、ムービー中フラグ２２３ｖｖ、揺れ待機フラグ２２３ｖｗ、調整期間中フラグ２２３ｖｘ、経過タイマ２２３ｖｙ、その他メモリエリア２２３ｖｚが少なくとも設けられている。以下に、本第２２制御例の音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の詳細について説明する。

【７３４２】

入賞情報格納エリア２２３ｖａは、１つの実行エリアと、４つのエリア（第１エリア～第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、入賞情報がそれぞれ格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報により、保留球の抽選結果等が変動開始前に音声ランプ制御装置１１３により判別できる。

【７３４３】

特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂは、主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄと同様に、第１図柄表示装置３７（および第３図柄表示装置８１）で行われる変動演出（変動表示）であって、主制御装置１１０において保留されている変動演出の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。即ち、第１特別図柄

に対応する保留球の数が、主制御装置１１０より出力される保留球数コマンドに基づいて設定される。

【７３４４】

上述したように、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０に直接アクセスして、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３に格納されている特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値を取得することができない。よって、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０から送信される保留球数コマンドに基づいて保留球数をカウントし、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂにて、その第１特別図柄の保留球数を管理するようになっている。

【７３４５】

具体的には、主制御装置１１０では、第１入賞口６４への入球によって変動表示の保留球数が加算された場合、又は、主制御装置１１０において特別図柄における変動表示が実行されて保留球数が減算された場合に、加算後または減算後の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３へ送信する。

【７３４６】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから、主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値を取得して、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂに格納する（図７１８のＦ２２１０参照）。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂの値を更新するので、主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄと同期させながら、その値を更新することができる。

【７３４７】

特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂの値は、第３図柄表示装置８１における保留球数図柄の表示に用いられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドの受信に応じて、そのコマンドにより示される保留球数を特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂに格納すると共に、格納後の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂの値を表示制御装置１１４に通知するべく、表示用保留球数コマンドを表示制御装置１１４に対して送信する。

【７３４８】

表示制御装置１１４では、この表示用保留球数コマンドを受信すると、そのコマンドにより示される保留球数の値、即ち、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂの値分の保留球数図柄を第３図柄表示装置８１の表示領域ＨＲ４に表示するように、画像の描画を制御する。上述したように、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂは、主制御装置１１０の特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓａと同期しながら、その値が変更される。従って、第３図柄表示装置８１に表示される保留球数図柄の数も、主制御装置１１０の特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓａの値に同期させながら、変化させることができる。よって、第３図柄表示装置８１には、変動表示が保留されている保留球の数を正確に表示させることができる。

【７３４９】

特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃは、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂに対して、第２特別図柄に対応する保留球の数が主制御装置１１０から出力される保留球数コマンドに基づいて記憶される点で異なるのみであるので、その詳細な説明については省略する。

【７３５０】

変動開始フラグ２２３ｖｄは、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドを受信した場合にオンされ（図７１８のＦ２２０４参照）、第３図柄表示装置８１における変動表示の設定がなされるときにオフされる（図７２８のＦ２９０７参照）。変動開始フラグ２２３ｖｄがオンになると、受信した変動パターンコマンドから抽出された変動パターンに基づいて、表示用変動パターンコマンドが設定される。

【７３５１】
ここで設定された表示用変動パターンコマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図７１７参照）のコマンド出力処理（Ｆ２１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４では、この表示用変動パターンコマンドを受信することによって、この表示用変動パターンコマンドによって示される変動パターンで、第３図柄表示装置８１において第３図柄の変動表示が行われるように、その変動演出の表示制御が開始される。
【７３５２】
停止種別選択フラグ２２３ｖｅは、主制御装置１１０から送信される停止種別コマンドを受信した場合にオンされ（図７１８のＦ２２０７参照）、第３図柄表示装置８１における停止種別の設定がなされるときにオフされる（図７２８のＦ２９１２参照）。停止種別選択フラグ２２３ｖｅがオンになると、受信した停止種別コマンドから抽出された停止種別（大当たりの場合には大当たり種別）に基づいて、停止種別がそのまま設定される。
【７３５３】
第１演出カウンタ２２３ｖｆは、予告演出や、各種抽選に使用されるカウンタである。０～１９８の範囲で繰り返し更新される。図示は省略したが、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理（図７１７参照）が実行される毎に１ずつ更新される。
【７３５４】
第２演出カウンタ２２３ｖｇは、本第２２制御例の保留変化演出における保留図柄の色（保留色）を設定するために使用されるカウンタである。０～１９８の範囲で繰り返し更新される。図示は省略したが、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理（図７１７参照）が実行される毎に１ずつ更新される。
【７３５５】
従状態格納エリア２２３ｖｈは、主制御装置１１０から送信される状態コマンドが示す情報に対応する遊技状態が格納される現状態エリアと、１つ前に現状態エリアに格納されていた遊技状態を格納する前状態エリアとを有する。この現状態エリアに格納されている遊技状態により、現在設定されている遊技状態を音声ランプ制御装置１１３により判別できる。
【７３５６】
調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉは、剣役物Ｙｍ３（調整用役物）が環境調整位置へと可変される場合にオンされ（図７３２のＦ３３０８参照）、特別図柄の変動表示が開始される場合にオフされる（図７２８のＦ２９０３参照）。この調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンに設定されることで、音声ランプ制御装置１１３により剣役物Ｙｍ３が環境調整位置にあることを判別することができる。これにより、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置にある状態で特別図柄の変動が開始された場合には、剣役物Ｙｍ３を初期位置に可変させる処理が実行され、第３図柄表示装置８１において実行される特別図柄の変動表示が環境調整位置にある剣役物Ｙｍ３によって視認困難な状態になることを防ぐことができる。
【７３５７】
制限タイマ２２３ｖｊは、剣役物Ｙｍ３（調整用役物）が環境調整位置から初期位置へと可変された場合に、剣役物Ｙｍ３の可動を一定時間（本第２２制御例では、１０秒間）制限するためのタイマである。剣役物Ｙｍ３を初期位置へと可動させるための動作シナリオを設定した場合にタイマの値が設定され（図７２７のＦ２９０６、図７３４のＦ３５０７参照）、タイマの値は音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理（図７１７参照）が実行される毎に１ずつ更新される。この制限タイマ２２３ｖｊの値が０秒以上である場合には、特別図柄の変動演出を設定する際に決定可能な演出態様の候補から剣役物Ｙｍ３を動作させる演出態様が排除される（図７２８のＦ３００９参照）。
【７３５８】
このように、剣役物Ｙｍ３が環境調整位置から初期位置へと可変された場合に、剣役物

Ｙｍ３の可動を一定時間制限することで、剣役物Ｙｍ３が頻繁に可動することで生じる負荷を軽減することができる。

【７３５９】

環境情報格納エリア２２３ｖｋは、遊技者による音量調整ボタン、または、光量調整ボタンの操作によって調整された環境情報を格納するためのエリアである。この環境情報格納エリア２２３ｖｋに格納されている環境情報は、遊技者のボタン操作内容に対応して更新されるため（図７３１のＦ３３１１参照）、遊技者の好みに合わせた遊技環境を提供することができる。

【７３６０】

保留演出情報格納エリア２２３ｖｌは、保留演出における各保留図柄の色、保留変化シナリオに関する情報を格納するためのエリアである。主制御装置１１０からの入賞コマンドを受信した場合に、その入賞コマンドに対応する保留演出情報を決定し、この保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納される。

【７３６１】

保留演出情報格納エリア２２３ｖｌは、上述の通り、保留図柄に対して保留変化演出を実行するための保留演出情報を格納するものである。

【７３６２】

保留演出制限中フラグ２２３ｖｍは、保留変化演出の対象となる保留図柄が表示されている期間に、他の保留図柄を対象とする保留変化演出が新たに設定されないようにするためのフラグである。上述したように、本第２２制御例では、対象保留図柄の保留色と、前後の保留図柄の保留色を組み合わせる保留変化演出を実行する（図６７２～図６７７参照）。この保留変化演出では、予め定められた保留変化シナリオに対応する動作シナリオで左チェンジ役物Ｙｍ１と、右チェンジ役物Ｙｍ２が可動するため、例えば、保留変化演出の対象である保留図柄の次の保留図柄にも異なる保留変化シナリオが設定された場合に、保留変化演出の実行タイミングが重なってしまい、遊技者に誤った遊技情報を与えてしまう虞があるため、これを防ぐために、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンである期間は、新たに保留変化演出が実行されない構成としている。

【７３６３】

後保留設定フラグ２２３ｖｎは、上述の通り、複合保留変化演出の保留変化シナリオが設定された場合に、次に受信した入賞コマンドに対応する保留図柄の保留色を強制的に決定するためのフラグである。複合保留変化演出設定処理２２（図７２３のＦ２５１７参照）において特定の保留変化シナリオが決定された場合にオンされ（図７２３のＦ２６０５参照）、次に受信した入賞コマンドの保留色を決定した場合にオフされる（図７２２のＦ２５５３参照）。

【７３６４】

演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐは、演出ボタン２２が有効として判別される期間が記憶される記憶される記憶エリアである。本第２２制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための演出態様が設定された場合に、演出パターンに対応した操作有効期間の設定情報をこの演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに格納する（図７２９のＦ３１０６参照）。

【７３６５】

時短中カウンタ２２３ｖｑは、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される期間を計測するためのカウンタであって、普通図柄の高確率状態が設定される場合に（大当たり遊技終了後に）、予め定められた値（本第２２制御例では「１００」、又は、「１２０」）が設定される。そして、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が１以上である状態で特別図柄変動が実行されると、その値が１減算され、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が「０」となった場合に、普通図柄の低確率状態へと移行したと判別する。また、時短中カウンタ２２３ｖｑの値に基づいて、普通図柄の高確率状態における詳細な期間を判別するように構成している。

【７３６６】

確変中カウンタ２２３ｓｒは、確変状態が継続する期間を計測するためのカウンタであって、状態コマンド受信処理２２（図７１９のＦ２２０２参照）において、遊技状態が確変状態へと移行したと判別された場合に（図７１９のＦ２３０８：Ｙｅｓ）、カウンタ値として「１２０」が設定される（図７１９のＦ６７３参照）。そして、確変中カウンタ２２３ｓｒの値が１以上である状態で特別図柄変動が実行されると、その値が１減算され、確変中カウンタ２２３ｓｒの値が「０」となった場合に、特別図柄の低確率状態へと移行したと判別する。また、確変中カウンタ２２３ｓｒの値に基づいて、特別図柄の高確率状態における詳細な期間を判別するように構成している。

【７３６７】

Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓは、主制御装置１１０から大当たり開始コマンドを受信した場合に、その大当たり開始コマンドに含まれる大当たり種別情報が大当たりＡである場合にオンされ（図７２５のＦ２７０６参照）、Ｖ入賞コマンドを受信した場合にオフにされる（図７２０のＦ２４０６参照）。このＶ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンの場合には、大当たり遊技中の特定ラウンド（本第２２制御例では、２ラウンド目）においてＶ演出が実行される。なお、Ｖ入賞コマンドとは、特定領域（Ｖゲート）６５ｖを球が流下したことを通知するためのコマンドである。

【７３６８】

Ｖ入賞フラグ２２３ｖｔは、主制御装置１１０からＶ入賞コマンドを受信した場合にオンされ（図７２０のＦ２４０４参照）、エンディング処理２２においてオフされる（図７２６のＦ２８０２参照）。このＶ入賞フラグ２２３ｖｔは、可変入賞装置６５内に配設された特定領域（Ｖゲート）６５Ｖを遊技球が通過したことを音声ランプ制御装置１１３により判別するためのフラグであり、Ｖ演出の実行中に（Ｖゲート）６５Ｖを遊技球が通過した場合と、通過しなかった場合とでエンディング演出の後半期間の表示態様を切り替えることができる。

【７３６９】

Ｖ報知フラグ２２３ｖｕは、主制御装置１１０からＶ入賞コマンドを受信した場合に、Ｖ入賞を報知するための表示用コマンドを設定した場合にオンされ（図７２０のＦ２４０８参照）、主制御装置１１０から遊技状態を確変状態に変更する状態コマンドを受信した場合にオフされる（図７１９のＦ２３１１参照）。

【７３７０】

ムービー中フラグ２２３ｖｖは、ムービー実行リーチにおける演出用ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２が操作された場合にオンされる（図７３３のＦ３４０４参照）。このムービー中フラグ２２３ｖｖがムービー終了時にオンである場合には、特別図柄の変動時間がまだ経過していないことを示しており、その場合にはムービー終了時の表示態様が、特別図柄の変動時間が経過するまでの間、揺れ表示態様に設定される（図７３４のＦ３５１２参照）。

【７３７１】

揺れ待機フラグ２２３ｖｗは、ムービー実行リーチにおいてムービー終了から特別図柄の変動時間が経過するまでの間、揺れ表示態様が設定された場合にオンされ（図７３４のＦ３５１３）、主制御装置１１０から停止コマンドを受信した場合にオフされる（図７２４のＦ２６５３参照）。この揺れ待機フラグ２２３ｖｗがオンである場合に、音声ランプ制御装置１１３が主制御装置１１０から停止コマンドを受信すると、大当たり当選を示す表示態様を示すための表示用コマンドが設定される（図７２４のＦ２６５２参照）。

【７３７２】

調整期間中フラグ２２３ｖｘは、環境情報調整画面が表示される場合にオンされる（図７３１のＦ３３０４参照）。この調整期間中フラグ２２３ｖｘは、遊技者が音量調整、または、光量調整を実行中であることを示すためのフラグである。

【７３７３】

経過タイマ２２３ｖｙは、調整情報調整画面が表示を開始してから一定時間（本第２２制御例では１０秒）経過した場合に環境調整終了を示す表示態様を表示するために設定さ

れるタイマである。この経過タイマ２２３ｖｙのタイマ値は、演出ボタン２２、又は、選択ボタン６００が操作された場合に対応するタイマ値が設定され、演出更新処理２２が実行される毎に「１」ずつ更新される。

【７３７４】

その他メモリエリア２２３ｖｚは、その他、主制御装置１１０より受信したコマンドを、そのコマンドに対応した処理が行われるまで一時的に記憶するコマンド記憶領域（図示せず）などを有している。なお、コマンド記憶領域はリングバッファで構成され、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ　Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ　Ｏｕｔ）方式によってデータの読み書きが行われる。

【７３７５】

図６８７に戻り説明を続ける。表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【７３７６】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図６６７参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【７３７７】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【７３７８】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図６６７参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【７３７９】

＜第２２制御例における主制御装置により実行される制御処理について＞

次に、図６９８から図７１５のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰ

Ｕ２０１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２０１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理と、定期的に（本制御例では２ｍ秒間隔で）起動されるタイマ割込処理と、ＮＭＩ端子への停電信号ＳＧ１の入力により起動されるＮＭＩ割込処理とがあり、説明の便宜上、はじめにタイマ割込処理とＮＭＩ割込処理とを説明し、その後、立ち上げ処理とメイン処理とを説明する。

【７３８０】

本第２２制御例では、上述した通り、第１特別図柄の抽選権利（特図１保留）と、第２特別図柄の抽選権利（特図２保留）と、を共に記憶している状態において、第２特別図柄の抽選を優先的に実行するように構成している。また、大当たり遊技が実行されている間に、可変入賞装置６５内に配設された特定領域（Ｖゲート）６５Ｖに球を通過させることにより、大当たり遊技の終了後に特別図柄の高確率状態が設定されるように構成している。さらに、遊技者に有利な遊技状態である確変状態を終了させるための終了条件として、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に成立する終了条件以外に、特別図柄抽選が所定回数（例えば、１００回）実行された場合に成立する終了条件を設けるように構成している。

【７３８１】

図６９８は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。タイマ割込処理は、例えば２ミリ秒毎に実行される定期処理である。タイマ割込処理では、まず各種入賞スイッチの読み込み処理を実行する（Ｆ１０１）。即ち、主制御装置１１０に接続されている各種スイッチの状態を読み込むと共に、当該スイッチの状態を判定して検出情報（入賞検知情報）を保存する。

【７３８２】

次に、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を実行する（Ｆ１０２）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。同様に、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９）に達した際、０にクリアし、その第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値をＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【７３８３】

更に、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、第２当たり乱数カウンタＣ４の更新を実行する（Ｆ１０３）。具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、第２当たり乱数カウンタＣ４をそれぞれ１加算すると共に、それらのカウンタ値が最大値（本制御例ではそれぞれ、９９９，９９，９９９）に達した際、それぞれ０にクリアする。そして、各カウンタＣ１，Ｃ２，Ｃ４の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【７３８４】

次に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて表示を行うための処理であると共に、第３図柄表示装置８１による第３図柄の変動パターンなどを設定する特別図柄変動処理２２を実行する（Ｆ１０４）。その後、第１入球口６４への球の入球（始動入賞）や第２入球口６４０への球の入球（始動入賞）に伴う始動入賞処理２２を実行する（Ｆ１０５）。尚、特別図柄変動処理２２、始動入賞処理２２の詳細は、図６９９～図７０４を参照して後述する。

【７３８５】

始動入賞処理２２を実行した後は、第２図柄表示装置において表示を行うための処理である普通図柄変動処理２２を実行し（Ｆ１０６）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過に伴うスルーゲート通過処理２２を実行する（Ｆ１０７）。尚、普通図柄変動処理２２、及び、スルーゲート通過処理２２の詳細は、図７０５および図７０６を参照して後述する。スルーゲート通過処理２２を実行した後は、次いで、発射制御処理を

実行し（Ｆ１０８）、更に、定期的に実行すべきその他の処理を実行して（Ｆ１０９）、タイマ割込処理を終了する。なお、発射制御処理は、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、且つ、発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂが操作されていないことを条件に、球の発射のオン／オフを決定する処理である。主制御装置１１０は、球の発射がオンである場合に、発射制御装置１１２に対して球の発射指示をする。

【７３８６】

次に、図６９９を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である特別図柄変動処理２２（Ｆ１０４）を説明する。図６９９は、この特別図柄変動処理２２（Ｆ１０４）を示すフローチャートである。特別図柄変動処理２２（図６９９のＦ１０４参照）は、特別図柄を、取得した各カウンタ値に基づいて、各種判定（当否判定）や決定を行い、所定の制御によりその決定された変動表示態様で、第１図柄表示装置３７に変動表示を可能に制御したり、第３図柄表示装置８１にて第３図柄、第４図柄の変動表示演出を実行させるための各種コマンドを設定したり、判定結果（当否判定結果）を示す表示態様で停止表示させるための制御が実行される。以下、特別図柄変動処理２２（図６９９のＦ１０４参照）について説明する。

【７３８７】

この特別図柄変動処理２２（Ｆ１０４）では、まず、今現在が、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であるかを判別する（Ｆ２０１）。具体的には、大当たり中フラグ２０３ｖｖがオンであるかを判別する。判別の結果、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であれば（Ｆ２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【７３８８】

Ｆ２０１の処理において、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）ではないと判別した場合は（Ｆ２０１：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であるか否かを判定し（Ｆ２０２）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中でなければ（Ｆ２０２：Ｎｏ）、即ち、新たな特別図柄抽選（変動）を実行可能な状態であれば、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（第１特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ１）と、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（第２特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ２）を取得する（Ｆ２０３）。次に、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（Ｎ２）が０よりも大きいかを判別する（Ｆ２０４）。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（Ｎ２）が０でなければ（Ｆ２０４：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（Ｎ２）を１減算し（Ｆ２０５）、演算により変更された第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｆ２０６）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｓｃに格納する。

【７３８９】

Ｆ２０６の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに格納されたデータをシフトする（Ｆ２０７）。Ｆ２０７の処理では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂの保留第１エリア～保留第４エリアに格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、保留第１エリア→実行エリア、保留第２エリア→保留第１エリア、保留第３エリア→保留第２エリア、保留第４エリア→保留第３エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトし、Ｆ２０８の処理へ移行する。

【７３９０】

一方、Ｆ２０４の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（Ｎ２）が０である場合は（Ｆ２０４：Ｎｏ）、Ｆ２０３の処理で取得した第１特別図柄保留球

数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）が０よりも大きいかを判別する（Ｆ２１０）。
【７３９１】
Ｆ２１０の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｆ２１０：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｆ２１０の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）が０でない（即ち、１以上である）と判別した場合は（Ｆ２１０：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）を１減算し（Ｆ２１１）、演算により変更された第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｆ２１２）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄保留球数カウンタ２２３ｓｃに格納する。
【７３９２】
Ｆ２１２の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａに格納されたデータを、Ｆ２０７の処理と同一の手法によりシフトして（Ｆ２１３）、処理をＦ２０８の処理へと移行する。Ｆ２０７、またはＦ２１３の処理後に実行されるＦ２０８の処理では、特別図柄大当たり判定処理２２を実行し（Ｆ２０８）、次いで、特別図柄変動パターン選択処理２２を実行し（Ｆ２０９）、その後、本処理を終了する。この特別図柄大当たり判定処理２２（Ｆ２０８）および特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）の詳細については図７００および図７０１を参照して後述する。
【７３９３】
Ｆ２０２の処理において、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であれば（Ｆ２０２：Ｙｅｓ）、次いで、変動時間が経過したか否かを判別する（Ｆ２１４）。変動時間が経過していなければ（Ｆ２１４：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｆ２１５）、その後、本処理を終了する。Ｆ２１５の処理では、特別図柄の変動時間を計測するための変動時間カウンタの値が更新され、更新後の変動時間カウンタの値に対応させて第１図柄表示装置８１の表示が更新される。この変動時間カウンタには、特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）にて選択された変動パターンに対応する変動時間を示す値が、特別図柄変動の開始タイミングでセットされ、その後、Ｆ２１５の処理を実行する毎に更新（減算）される。一方、Ｆ２１４の処理で変動時間が経過したと判別された場合は（Ｆ２１４：Ｙｅｓ）、即ち、Ｆ２１５の処理で更新された変動時間カウンタの値が０である場合は、第１図柄表示装置３７の停止図柄に対応した表示態様を設定する（Ｆ２１６）。停止図柄の設定は、特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）によって予め行われる。この特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）が実行されると、実行エリアに格納された各種カウンタの値に基づいて、特別図柄の抽選が行われる。より具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値に応じて特別図柄の大当たりか否かが決定されると共に、特別図柄の大当たりである場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて大当たりＡ～Ｅのいずれかが決定される。
【７３９４】
尚、本第２２制御例では、大当たりＡになる場合には、第１図柄表示装置３７において青色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＢになる場合には赤色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＣとなる場合には、緑色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＤとなる場合には、青色のＬＥＤと緑色のＬＥＤを点灯させる。また、外れである場合には赤色のＬＥＤと緑色のＬＥＤとを点灯させる。なお、各ＬＥＤの表示は、次の変動表示が開始される場合に点灯が解除されるが、変動の停止後数秒間のみ点灯させるものとしても良い。
【７３９５】
Ｆ２１６の処理が終了した後は、第１図柄表示装置３７において実行中の変動表示が開始されたときに、特別図柄変動開始処理２２によって行われた特別図柄の抽選結果（今回

の抽選結果）が、特別図柄の大当たりであるかを判定する（Ｆ２１７）。今回の抽選結果が特別図柄の大当たりであれば（Ｆ２１７：Ｙｅｓ）、大当たり開始フラグ２０３ｖｗをオンに設定し（Ｆ２１８）、時短カウンタ２０３ｓｈ、確変カウンタ２０３ｓｉの値をクリア（０に設定）し（Ｆ２１９）、Ｆ２２０の処理へと移行する。Ｓ２２０の処理によって、大当たり開始フラグ２０３ｖｗがオンに設定されると、主制御装置１１０にて実行されるメイン処理の大当たり制御処理２２（図７１０のＦ１００４参照）が実行された場合に、Ｆ１１０１：Ｙｅｓへ分岐して、オープニングコマンドが設定される（Ｆ１１０２）。その結果、第３図柄表示装置８１において、大当たり演出が開始される。

【７３９６】

Ｆ２１７の処理において、今回の抽選結果が特別図柄の外れであれば（Ｆ２１７：Ｎｏ）、Ｆ２１８，Ｆ２１９の処理をスキップして、更新処理２２を実行し（Ｆ２２１）、その後、Ｆ２２０へと移行する。

【７３９７】

ここで設定された状態コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理（Ｆ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、状態コマンドを受信すると、状態コマンドに含まれる遊技状態を取得する。これにより、音声ランプ制御装置１１３の把握する状態を、実際のパチンコ機１０の状態に一致させることができる。Ｓ２２０の処理では、特図確定コマンドを設定し（Ｆ２２０）、本処理を終了する。

【７３９８】

次に、図７００を参照して、特別図柄変動処理２２（図６９９のＦ１０４）の一処理である特別図柄大当たり判定処理２２（Ｆ２０８）について説明する。図７００は、この特別図柄大当たり判定処理２２（Ｆ２０８）を示すフローチャートである。

【７３９９】

特別図柄大当たり判定処理２２（図７００のＦ２０８）では、まず、特別図柄保留球実行エリア（図示せず）に記憶されている各カウンタ値を取得する（Ｆ３０１）。そして、第１当たり乱数テーブル２０２ｖａ（図６９０参照）に基づいて、Ｆ３０１の処理で取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値が大当たり判定値と一致するか否かを判定し、その抽選結果（判定結果）を取得する（Ｆ３０２）。

【７４００】

Ｆ３０２の処理を終えると、次に、今回の抽選結果が大当たりであるかを判別し（Ｆ３０３）、大当たりであると判別した場合は（Ｆ３０３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｆ３０４）、取得した当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｆ３０５）、本処理を終了する。一方、Ｆ３０３の処理において今回の抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｆ３０３：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７に特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｆ３０６）、本処理を終了する。

【７４０１】

次に、図７０１を参照して、特別図柄変動処理２２（図６９９のＦ１０４）の一処理である特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）について説明する。図７０１はこの特別図柄変動パターン選択処理２２（Ｆ２０９）を示すフローチャートである。

【７４０２】

特別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１のＦ２０９）では、まず、特別図柄大当たり判定処理２２（図７００のＦ２０８）において、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｆ４０１）。

【７４０３】

Ｆ４０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｆ４０１：Ｙｅｓ）、第１当たり種別選択テーブル２０２ｖｂ（図６９１参照）と、取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値とに基づいて、大当たり種別を決定する（Ｆ

４０２）。次いで、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得し（Ｆ４０３）、遊技状態格納エリア２０３ｓｇに記憶されている情報に対応する現在の遊技状態（通常状態、潜伏状態、確変状態）に対応した変動パターン選択テーブル２０２ｖｃを読み出す（Ｆ４０４）。

【７４０４】

そして、Ｆ４０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｆ４０４の処理で読み出した変動パターン選択テーブル２０２ｖｃとに基づいて変動パターンを選択し（Ｆ４０５）、Ｆ４０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｆ４０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理（図７０９のＦ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【７４０５】

次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｆ４０７）、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｆ４０８）、選択した変動パターンの変動時間を示す値を特図変動時間カウンタ（図示せず）の値にセットし（Ｆ４０９）、本処理を終了する。Ｆ４０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理（図７０９）の外部出力処理（図７０９のＦ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【７４０６】

一方、Ｆ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｆ４０１：Ｎｏ）、Ｆ４０２の処理をスキップしてＦ４０３の処理へ移行する。

【７４０７】

次に、図７０２を参照して、特別図柄変動処理２２（図６９９のＦ１０４参照）にて実行される更新処理２２（Ｆ２２１）の内容について説明をする。図７０２は、更新処理２２（Ｆ２２１）の内容を示したフローチャートである。この更新処理２２（Ｆ２２１）では、特別図柄変動の変動時間が経過した場合（変動停止時）に実行される処理であって、確変状態が継続して設定される期間の残期間を更新したり、時短状態が継続して設定される期間の残期間を更新したりするための処理が実行される。

【７４０８】

更新処理２２（Ｆ２２１）が実行されると、まず確変カウンタ２０３ｓｉの値が０よりも大きい、即ち、現在が特別図柄の高確率状態であるかを判別し（Ｆ５０１）、確変カウンタ２０３ｓｉの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｆ５０１：Ｙｅｓ）、確変カウンタ２０３ｓｉの値を１減算（更新）し（Ｆ５０２）、次いで、更新後の確変カウンタ２０３ｓｉの値が０であるかを判別し（Ｆ５０３）、０であると判別した場合は（Ｆ５０３：Ｙｅｓ）、遊技状態格納エリア２０３ｓｇに時短状態を設定し（Ｆ５０４）、Ｆ５０５の処理へ移行する。また、Ｆ５０１の処理において確変カウンタ２０３ｓｉの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合（Ｆ５０１：Ｎｏ）は、現在が特別図柄の高確率状態では無いため、確変カウンタ２０３ｓｉの値を更新するための上述したＦ５０２～Ｆ５０４の処理をスキップしてＦ５０５の処理へ移行する。

【７４０９】

また、Ｆ５０３の処理において、確変カウンタ２０３ｓｉの値が０では無い、即ち、確変カウンタ２０３ｓｉの値が０よりも大きく、確変状態（特別図柄の高確率状態）が継続する場合も（Ｆ５０３：Ｎｏ）、Ｆ５０４の処理をスキップしてＦ５０５の処理へ移行する。

【７４１０】

Ｆ５０５の処理では、時短カウンタ２０３ｓｈの値が０よりも大きいかを判別し、０よりも大きいと判別した場合、即ち、現在が普通図柄の高確率状態である場合は（Ｆ５０５

：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｓｈの値を１減算し（Ｆ５０６）、減算後の時短カウンタ２０３ｓｈの値が０であるかを判別する（Ｆ５０７）。Ｆ５０７の処理において時短カウンタ２０３ｓｈの値が０であると判別した場合は、遊技状態格納エリア２０３ｓｇに通常状態を設定し（Ｆ５０８）、確変カウンタ２０３ｓｉの値、時短カウンタ２０３ｓｈの値、現在の遊技状態を示す状態コマンドを設定し（Ｆ５０９）、本処理を終了する。また、Ｆ５０５の処理において時短カウンタ２０３ｓｈの値が０よりも大きく無い（０である）と判別した場合（Ｆ５０５：Ｎｏ）、或いは、Ｆ５０７の処理において時短カウンタ２０３ｓｈの値が０では無いと判別した場合（Ｆ５０７：Ｎｏ）は、そのままＦ５０９の処理へ移行する。

【７４１１】

次に、図７０３を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理（図６９８）の一処理である始動入賞処理２２（Ｆ１０５）を説明する。図７０３は、この始動入賞処理２２（Ｆ１０５）を示すフローチャートである。始動入賞処理２２（図７０３のＦ１０５）は、第１入球口６４、第２入球口６４０のいずれかにに球が入球（始動入賞）したか判別して、始動入賞した場合には、保留上限個数（第１入球口６４、第２入球口６４０に最大４個）まで、取得した各カウンタ値を第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂにそれぞれ格納する処理である。

【７４１２】

また、保留球に基づいて取得された各カウンタ値が、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂにそれぞれ記憶されると、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂのそれぞれに記憶されている各カウンタ値に基づいて、事前に当否判定結果や選択される変動パターン等を予測する処理（所謂、先読み処理）が実行される。以下、始動入賞処理２２（図７０３のＦ１０５）について説明する。

【７４１３】

始動入賞処理２２（図７０３のＦ１０５）では、まず、球が第１始動口である第１入球口６４に入球（始動入賞）したか否かを判別する（Ｆ６０１）。ここでは、第１入球口６４内に設けられた球検知スイッチ（図示せず）への球の入球を検出する。球が第１入球口６４に入球した（始動入賞があった）と判別する（Ｆ６０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）を取得し（Ｆ６０２）、その取得した値（Ｎ１）が４未満であるかを判別する（Ｆ６０３）。

【７４１４】

つまり、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値である４個よりも少ない状態であるか（即ち、保留個数が上限値まで記憶されていないか）が判別される。取得した値（Ｎ１）が４未満であると判別した場合には（Ｆ６０３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）を１加算し（Ｆ６０４）、音声ランプ制御装置１１３に対して第１入球口６４の保留個数（第１特別図柄の抽選権利保留数）を通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｆ６０５）。

【７４１５】

そして、各種カウンタ値（第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１）の各値をカウンタ用バッファから読み出し（取得して）、ＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球実行エリアの対応する保留球数の記憶エリアに各々保留（格納）し（Ｆ６０６）、Ｆ６０７の処理へ移行する。

【７４１６】

また、Ｆ６０１の処理で球が第１入球口６４に入球していないと判別した場合（Ｆ６０１：Ｎｏ）、或いは、Ｆ６０３の処理で、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値であると判別した場合（Ｆ６０３：Ｎｏ）は、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を加算する処理をスキップして、Ｆ６０７の処理へ移行する。

【７４１７】

次に、Ｆ６０７～Ｆ６１２までの各処理については、Ｆ６０１～Ｆ６０６までの各処理で実行された第１始動口（第１入球口６４）への球の入賞に対して行われた処理と同様の処理が、第２入球口６４０に対して実行される処理であることが相違するのみであるので、詳細な説明は省略する。

【７４１８】

Ｆ６０１～Ｆ６１２までの各処理を実行後、先読み処理を実行し（Ｆ６１３）、本処理を終了する。

【７４１９】

この先読み処理２２（Ｆ６１３）については、図７０４を参照して後述するが、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された各カウンタ値から当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理が実行される。なお、本制御例では、新たに記憶された各カウンタ値に基づいて当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、新たな始動入賞があった場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに記憶（格納）されている全ての保留記憶に対して当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しても良い。

【７４２０】

また、本第２２制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに新たな情報（入賞情報）を格納する場合、即ち、特別図柄の抽選権利を新たに獲得した場合に、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別する構成としているが、これに限ること無く、例えば、球がスルーゲート６７を通過した場合や、普通図柄の抽選結果に応じて、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別するように構成しても良い。

【７４２１】

上述した通り、本第２２制御例では、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）または第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｅの値（Ｎ２）を加算した場合に、加算された入賞に関する情報（入賞情報）に基づいた先読み処理２２（Ｆ６１３）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、Ｆ６０３の処理で第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｓｄの値（Ｎ１）が上限数（４）であると判別した場合（Ｆ６０３：Ｎｏ）、即ち、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に先読み処理２２（Ｆ６１３）を実行することができるように構成しても良い。これにより、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態においても、先読み処理を実行させるために遊技者に継続して遊技を行わせることができる。また、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に付加価値を付与することができるため、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球が入球した際に遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【７４２２】

次に、図７０４を参照して、始動入賞処理２２（図７０４のＦ１０５）の一処理である先読み処理２２（Ｆ６１３）について説明する。図７０４は、この先読み処理２２（Ｆ６１３）を示すフローチャートである。

【７４２３】

先読み処理２２（図７０４のＦ６１３）では、まず、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに記憶された格納エリアから各種カウンタ値である、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１の各値を読み出す（Ｆ７０１）。そして、読み出したデータを先読み保留記憶エリアの空いている記憶エリアのうち、入賞順序がもっとも小さいエリアに記憶する（Ｆ７０２）。

【７４２４】

次に、新たに先読み保留記憶エリアに記憶された各カウンタ値に基づいて、当否判定結

果を判定する。なお、ここでは、特別図柄の低確率状態である場合の当否判定と、特別図柄の高確率状態である場合の当否判定との両方が判別される。これは、新たな保留記憶が発生したタイミング（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに新たな保留（入賞情報）が記憶されたタイミング）と、今回新たに保留された入賞情報に基づいて大当たり判定が実行されるタイミングとにはタイムラグが発生することから、今回新たに保留された入賞情報に基づく大当たり判定が実行されるタイミングで設定されている遊技状態（特別図柄の確率状態）を予測することが困難だからである。

【７４２５】

次に、当否判別結果が大当たりであるか否かを判別する（Ｆ７０３）。判別結果が大当たりであると判別した場合は（Ｆ７０３：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、大当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｆ７０４）、その後、本処理を終了する。

【７４２６】

一方、Ｆ７０３の処理における判別結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｆ７０３：Ｎｏ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、外れ当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｆ７０５）、その後、本処理を終了する。

【７４２７】

ここで、Ｆ７０４、或いはＦ７０５の処理で設定された入賞コマンドは、上述した当否判定結果を示すための情報（当否判定結果に基づいて異なる意味を持たせる情報）に加え、共通情報として、Ｆ７０１の処理によって読み出された各種カウンタ値の値を示すための情報も含んで設定される。そして、本処理で設定された入賞コマンドが主制御装置１１０のメイン処理（図７０９参照）にて実行される外部出力処理（Ｆ１８０１）によって音声ランプ制御装置１１３に対して出力される。

【７４２８】

音声ランプ制御装置１１３側では、入賞コマンドを受信した場合に、入賞コマンドに含まれる各種情報に基づいて、保留球の表示態様を可変させて（例えば、保留球の色を通常とは異なる色で可変して）表示させたり、変動開始前に予告図柄等を表示して遊技者に当否判定結果を示唆したりする演出（先読み演出）を実行できる。

【７４２９】

なお、本第２２制御例では、特別図柄の確率状態が１つ（特別図柄の低確率状態）しかないため、入賞コマンドに設定する情報（当否判定結果）を遊技状態に関わらず設定することができるが、例えば、特別図柄の確率状態を複数（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）有する遊技機においては、特別図柄の高確率状態の場合の当否判定結果と、特別図柄の低確率状態の場合の当否判定結果とを判別し、各判別の結果に基づいた入賞コマンドを設定するように構成しても良いし、特別図柄が高確率状態であっても、低確率状態であっても大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）を規定し、その判定値を読み出した場合のみ特別図柄の大当たりを示す入賞コマンドを設定するように構成しても良い。

【７４３０】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側に対して、特定の大当たりであることを事前判別した場合のみ大当たりを示す入賞コマンドを出力することになるため、先読み演出が実行されない特別図柄変動に対して、大当たり当選の期待感を持たせることができる。

【７４３１】

さらに、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに格納（記憶）されている保留記憶（入賞情報）に基づく特別図柄の抽選が行われる際の遊技状態を正確に判別して、その遊技状態に基づいて当否判定を実行するように構成してもよい。この場合には、変動パターンの選択を保留球数によって可変するのではなく、変動開始時の保留球数に関わらず一定の変動パターンを選択するように構成す

ることで判別が可能となる。先読みを実行する場合に、その保留球が変動開始されるまでの変動順序を保留記憶されている情報に基づいて判別することで変動開始時の遊技状態を判別できる。

【７４３２】

また、本第２２制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに新たな保留記憶（入賞情報）が格納（記憶）された場合に、その入賞情報に基づく先読み処理を実行し、その先読み処理の中で当否判定を事前に予測する構成を用いているが、これに限ること無く、主制御装置１１０の先読み処理において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｓａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｓｂに新たに格納（記憶）された入賞情報（保留記憶）の内容（各カウンタ値）を示す情報を入賞コマンドとして設定し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した入賞コマンドに含まれる情報に基づいて当否判定結果を予測するように構成しても良い。

【７４３３】

このように構成することで、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、音声ランプ制御装置１１３側で、先読み演出を実行するか否かを判別する処理を実行し、先読み演出を実行すると判別した場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる情報を解析（当否判定結果の予測）するように構成すると良い。これにより、先読み演出を実行しない場合には、具体的な先読み処理（当否判定結果の予測）が実行されないため、パチンコ機１０にて無駄な制御が実行されることを抑制することができる。また、無題に実行された先読み処理の結果を遊技者に不正に取得されてしまう不具合を抑制することができる。

【７４３４】

次に、図７０５を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である普通図柄変動処理２２（Ｆ１０６）について説明する。図７０５は、この普通図柄変動処理２２（Ｆ１０６）を示すフローチャートである。普通図柄変動処理２２（Ｆ１０６）は、第２図柄（普通図柄）の変動表示や、電動役物６４０ａの開放時間などを制御するための処理であり、普通図柄変動（抽選）に関連する様々な処理（普通図柄変動を実行する処理、実行する普通図柄変動の変動態様（変動時間）を設定する処理、実行中の普通図柄変動を更新する処理、普通図柄変動を停止させる処理、普通図柄抽選の結果が当たりである場合に実行される普図当たり遊技の遊技内容を決定する処理）が実行される処理である。

【７４３５】

この普通図柄変動処理２２（図７０５のＦ１０６）では、まず、今現在が、普通図柄（第２図柄）の当たり中であるかを判別する（Ｆ８０１）。普通図柄（第２図柄）の当たり中としては、第２図柄表示装置８３において当たりを示す表示がなされてから（当たり図柄が停止表示してから）電動役物６４０ａの開閉制御がなされている最中まで（当たり遊技が終了するまで）が含まれる。普通図柄（第２図柄）の当たり中であると判別した場合には（Ｆ８０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【７４３６】

一方、普通図柄（第２図柄）の当たり中でないと判別した場合には（Ｆ８０１：Ｎｏ）、第２図柄表示装置８３の普通図柄が変動表示中であるかを判別する（Ｆ８０２）。普通図柄の変動表示中では無い、即ち、現在が新たな普通図柄変動（抽選）を実行可能な状態であると判別した場合は（Ｆ８０２：Ｎｏ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）を取得し（Ｆ８０３）、その値が０よりも大きいかを判別する（Ｆ８０４）。

【７４３７】

Ｆ８０４の処理で普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）が０であると判別された場合には（Ｆ８０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｆ８０４：Ｙｅｓ）、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）を１減算する（Ｆ８０５）。つまり、Ｆ８０

４の処理において新たな普通図柄変動を実行するための条件（普通図柄変動に用いるための入賞情報が保留記憶されていること）が成立していると判別された場合は、保留記憶されている入賞情報を用いて普通図柄変動を実行するため、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値を１減算する。

【７４３８】

次に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃに格納されたデータをシフトする（Ｆ８０６）。Ｆ８０６の処理では、普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃの普通図柄保留１～普通図柄保留４に格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、普通図柄保留１→実行エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトする。データをシフトした後は、普通図柄保留球実行エリア（図示せず）に格納されている第２当たり乱数カウンタＣ４の値を取得する（Ｆ８０７）。

【７４３９】

次に、時短カウンタ２０３ｓｈがオンであるか否か、即ち、現在が普通図柄の高確率状態（時短中）であるか否かを判別し（Ｆ８０８）、時短カウンタ２０３ｓｈがオンに設定されていると判別した場合は（Ｆ８０８：Ｙｅｓ）、高確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｓｃ（図６９１（ｂ）参照）の当たり判定値に基づいて当否判定結果（抽選結果）を取得し（Ｆ８０９）、Ｆ８１１の処理へ移行する。一方、時短カウンタ２０３ｓｈがオフであると判別した場合は（Ｆ８０８：Ｎｏ）、低確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｓｃ（図６９１（ｂ）参照）の当たり判定値に基づいて、当否判定結果が取得され（Ｆ８１０）、Ｆ８１１の処理へ移行する。

【７４４０】

Ｆ８１１の処理では、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりであるかを判別し（Ｆ８１１）、当たりであると判別した場合は（Ｆ８１１：Ｙｅｓ）、当たり時の表示態様である「○」の表示態様を設定し（Ｆ８１２）、Ｆ８１４の処理へ移行する。一方、Ｆ８１１の処理で、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｆ８１１：Ｎｏ）、外れ時の表示態様である「×」の表示態様を設定し（Ｆ８１３）、Ｆ８１４の処理へ移行する。

【７４４１】

Ｆ８１４の処理では、現在の遊技状態が時短中（普通図柄の高確率状態）であるかを時短カウンタ２０３ｓｈの値を参照して判別し（Ｆ８１４）、時短中（普通図柄の高確率状態）であると判別した場合は（Ｆ８１４：Ｙｅｓ）、普通図柄の変動時間を３秒に設定し（Ｆ８１５）、本処理を終了する。一方、Ｆ８１４の処理で時短中（普通図柄の高確率状態）では無いと判別した場合は（Ｆ８１４：Ｎｏ）、普通図柄の変動時間を１０秒に設定し（Ｆ８１６）、本処理を終了する。

【７４４２】

なお、本第２２制御例では、上述した通り、設定される普通図柄の確率状態に応じて、普通図柄の変動時間を異ならせているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態に関わらず、常に変動時間として３秒が設定されるように構成してもよい。このように構成することで、遊技状態が切り替わるタイミングにおいて、具体的には、一般的に長い変動時間が設定され易い通常状態（普通図柄の低確率状態）から、短い変動時間が設定され易い時短状態（普通図柄の高確率状態）へと遊技状態が切り替わる大当たり遊技終了のタイミングにおいて、長い変動時間の普通図柄変動が実行されており、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態中の普通図柄抽選が実行されない事態が発生することを抑制することができる。

【７４４３】

なお、普通図柄の変動時間の設定方法については、本制御例の構成に限ること無く、遊技状態に応じて変動時間を異ならせたり、普図保留球数に応じて変動時間を異ならせたり、取得した所定値に応じて変動時間を異ならせたりしても良く、例えば、本制御例では、普通図柄変動の変動時間を、設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）と、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（普図保留数）と、に基づいて可変設

定するように構成しても良い。さらに、設定された普通図柄の変動時間によって、第２入球口６４０への球の入球のし易さが異なるように構成しても良い。

【７４４４】

このように、設定される普通図柄の変動時間の長さに応じて、第２入球口６４０への球の入球具合を可変させるように構成することで、第２入球口６４０への球の入球のし易さを遊技状態に応じて容易に可変することができるため、様々な遊技性を創り出すことができる。

【７４４５】

一方、Ｆ８０２の処理において、普通図柄（第２図柄）が変動表示中ではないと判別した場合には（Ｆ８０２：Ｎｏ）、第２図柄表示装置８３において実行している普通図柄の変動時間が経過したかを判別し（Ｆ８１７）、変動時間が経過していないと判別した場合は（Ｆ８１７：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【７４４６】

一方、Ｆ８１７の処理において変動時間が経過していると判別した場合は（Ｆ８１７：Ｙｅｓ）、次に、第２図柄表示装置８３の停止表示を設定する（Ｆ８１８）。Ｆ８１８の処理では、今回の普通図柄の抽選が当たりである場合には、第２図柄表示装置８３には「○」図柄が停止表示（点灯表示）されるように設定する。一方、普通図柄の抽選が外れである場合には、第２図柄表示装置８３には「×」図柄が停止表示（点灯表示）される。つまり、上述したＦ８１２、或いはＦ８１３の処理で設定された表示態様を停止表示させるための設定が行われる。

【７４４７】

Ｆ８１８の処理により、停止表示を設定すると、第２図柄表示装置８３における変動表示が終了し、Ｆ８１２の処理、或いはＦ８１３の処理で設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）が第２図柄表示装置８３に停止表示（点灯表示）される。

【７４４８】

次に、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであるかを判別する（Ｆ８１９）。普通図柄の抽選結果が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｆ８１９：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであると判別した場合には（Ｆ８１９：Ｙｅｓ）、現在の遊技状態が時短中（普通図柄の高確率状態）であるかを時短カウンタ２０３ｓｈの値を参照して判別し（Ｆ８２０）、時短中（普通図柄の高確率状態）であると判別した場合は（Ｆ８２０：Ｙｅｓ）、普図当たり遊技の遊技内容として、電動役物６４０ａの開放時間が１秒間×２回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｆ８２３）、Ｆ８２２の処理へ移行する。

【７４４９】

一方、Ｆ８２０の処理で時短中（普通図柄の高確率状態）では無いと判別した場合は（Ｆ８２０：Ｎｏ）、普図当たり遊技の遊技内容として、電動役物６４０ａの開放時間が５秒間×１回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｆ８２１）、Ｆ８２２の処理へ移行する。

【７４５０】

Ｆ８２２の処理では、Ｆ８２１、或いはＦ８２３の処理において設定されたシナリオに基づいて電動役物６４０ａの開閉制御開始を設定し（Ｆ８２２）、本処理を終了する。

【７４５１】

次に、本第２２制御例における電動役物６４０ａの開閉制御態様（開放パターン）について説明をする。本第２２制御例のパチンコ機１０では、普通図柄の当否判定を行うタイミング（Ｆ８０８～Ｆ８１１の処理を行うタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミング（Ｆ８１７の処理で変動時間が経過したと判別したタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。

【７４５２】

即ち、本第２２制御例では、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）と、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）とが独立して実行されるように構成されており、さらに、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果に基づいて普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）が可変するように構成している。よって、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）が実行されている期間中に並行して実行される特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果によっては、普通図柄の当否判定を行うタイミングでは普通図柄の高確率状態が設定され、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでは普通図柄の低確率状態が設定される場合が発生する。

【７４５３】

このような状況において、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングにて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定してしまうと、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で、電動役物６４０ａがロング開放（普通図柄の高確率状態中が設定されている場合に実行される開放パターン）してしまうという問題があった。

【７４５４】

そこで、本第２２制御例では、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）を判別し、その判別結果に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。これにより、設定されている遊技状態に応じた開放パターンで電動役物６４０ａを開放させることができる。

【７４５５】

なお、本第２２制御例では、普通図柄の当否判定を行うタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングで普通図柄の高確率状態が設定されており、且つ普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでも普通図柄の高確率状態が設定されている場合にのみ、電動役物６４０ａがロング開放するように構成しても良いし、普通図柄の当否判定を行うタイミングで設定されている遊技状態に基づいて、電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しても良い。

【７４５６】

また、詳細な説明は省略しているが、普通図柄変動処理２２（図７０５のＦ１０６参照）において決定された各種情報（普通図柄抽選の結果、普通図柄変動の変動時間、普図当たりシナリオ等）は、それぞれ各種情報の内容を示すコマンドが設定され、主制御装置１１０のメイン処理（図７０９参照）の外部出力処理（図７０９のＦ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【７４５７】

次に、図７０６を参照してスルーゲート通過処理２２（Ｆ１０７）の内容について説明をする。図７０６は、スルーゲート通過処理２２（Ｆ６６０参照）の内容を示したフローチャートである。このスルーゲート通過処理２２（Ｆ１０７）は、タイマ割込処理（図６９８参照）の中で実行され、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過の有無を判断し、球の通過があった場合に、第２当たり乱数カウンタＣ４が示す値を取得し実行エリアに格納するための処理である。また、取得した普通当たり乱数カウンタＣ５の値を用いて、実際の当否判定が実行されるよりも前に（普通図柄変動処理２２（図７０５のＦ１０６参照）にて当否判定（Ｆ８１１参照）が実行されるよりも前に）、抽選結果（当否判定結果）を事前に取得するための処理である。

【７４５８】

スルーゲート通過処理２２（Ｆ１０７）では、まず、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したか否かを判定する（Ｆ９０１）。ここでは、普通図柄始動口（スルー

ゲート）６７における球の通過を３回のタイマ割込処理にわたって検出する。そして、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したと判定されると（Ｆ９０１：Ｙｅｓ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）を取得し（Ｆ９０２）、次いで、その取得した普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないか（普通図柄の保留球数が上限値に到達していないか）を判別する（Ｆ９０３）。

【７４５９】

Ｆ９０３の処理で、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）が４よりも大きい（上限値の４である）と判別した場合は（Ｆ９０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないと判別した場合は（Ｆ９０３：Ｙｅｓ）、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｖｆの値（Ｍ）に１を加算し（Ｆ９０４）、第２当たり乱数カウンタＣ４の値を普通図柄保留球格納エリア２０３ｖｃに格納し（Ｆ９０５）、本処理を終了する。

【７４６０】

次に、図７０７を参照して、ＮＭＩ割込処理について説明をする。図７０７は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるＮＭＩ割込処理を示すフローチャートである。ＮＭＩ割込処理は、停電の発生等によるパチンコ機１０の電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される処理である。このＮＭＩ割込処理により、電源断の発生情報がＲＡＭ２０３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子に出力される。すると、ＭＰＵ２０１は、実行中の制御を中断してＮＭＩ割込処理を開始し、電源断の発生情報の設定として、電源断の発生情報をＲＡＭ２０３に記憶し（Ｆ１６０１）、ＮＭＩ割込処理を終了する。

【７４６１】

なお、上記のＮＭＩ割込処理は、払出発射制御装置１１１でも同様に実行され、かかるＮＭＩ割込処理により、電源断の発生情報がＲＡＭ２１３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から払出制御装置１１１内のＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子に出力され、ＭＰＵ２１１は実行中の制御を中断して、ＮＭＩ割込処理を開始するのである。

【７４６２】

次に、図７０８を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理２２について説明する。図７０８は、この立ち上げ処理２２を示すフローチャートである。

【７４６３】

この立ち上げ処理２２は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理２２（図７０８）では、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｆ１７０１）。例えば、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（本制御例では１秒）を実行する（Ｆ１７０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｆ１７０３）。

【７４６４】

その後は、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２（図６６７参照）がオンされているか否かを判別し（Ｆ１７０４）、オンされていれば（Ｆ１７０４：Ｙｅｓ）、処理をＦ１７１２へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｆ１７０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｆ１７０５）、記憶されていなければ（Ｆ１７０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＦ１７１２へ移行する。

【７４６５】

ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｆ１７０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｆ１７０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｆ１７０７：

Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＦ１７１２へ移行する。なお、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。

【７４６６】

Ｆ１７１２の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｆ１７１２）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１７１３、Ｆ１７１４）を実行する。

【７４６７】

上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１７１３、Ｆ１７１４）を実行する。

【７４６８】

また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１７１３、Ｆ１７１４）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｆ１７１３、Ｆ１７１４）では、ＲＡＭ２０３の使用領域を０クリアし（Ｆ１７１３）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｆ１７１４）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、Ｆ１７１０の処理へ移行する。

【７４６９】

一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｆ１７０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｆ１７０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｆ１７０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータを保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｆ１７０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｆ１７０９）、Ｆ１７１０の処理へ移行する。払出制御装置１１１は、この払出復帰コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３に記憶されたデータを保持したまま、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。

【７４７０】

次に、音声ランプ制御装置１１３に対して、各種演出を実行することを許可する演出許可コマンドを出力する（Ｆ１７１０）。その後、割込みを許可し（Ｆ１７１１）、後述するメイン処理に移行する。

【７４７１】

次に、図７０９を参照して、上記した立ち上げ処理後に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理について説明する。図７０９は、このメイン処理を示すフローチャートである。このメイン処理では、大別して、カウンタの更新処理と、電源断時処理とが実行される。

【７４７２】

メイン処理（図７０９参照）においては、まず、タイマ割込処理（図６９８参照）の中でＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶されたコマンド等の出力データをサブ側の各制御装置（周辺制御装置）に送信する外部出力処理を実行する（Ｆ１８０１）。具体的には、タイマ割込処理（図６９８参照）におけるスイッチ読み込み処理で検出した入賞検知情報の有無を判別し、入賞検知情報があれば払出制御装置１１１に対して獲得球数に対応する賞球コマンドを送信する。また、特別図柄変動処理２２（図

６９９参照）や始動入賞処理２２（図７０３参照）で設定された保留球数コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信する。更に、この外部出力処理（図７０９のＦ１８０１）により、主制御装置１１０の各種処理にて設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信し、第３図柄表示装置８１にて表示される各種演出（変動演出、装飾演出等）を設定するための情報とする。また、大当たり制御処理２２（図７１０参照）で設定されたオープニングコマンド、ラウンド数コマンド、エンディングコマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。さらに、その他制御処理において設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。加えて、球の発射を行う場合には、発射制御装置１１２へ球発射信号を送信する。

【７４７３】

次に、変動種別カウンタＣＳ１の値を更新する（Ｆ１８０２）。具体的には、変動種別カウンタＣＳ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本第２２制御例では１９８）に達した際、０にクリアする。そして、変動種別カウンタＣＳ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【７４７４】

変動種別カウンタＣＳ１の更新が終わると、払出制御装置１１１より受信した賞球計数信号や払出異常信号を読み込み（Ｆ１８０３）、次いで、特別図柄の大当たり状態である場合に、音声ランプ制御装置１１３にて大当たり演出を実行させるためのコマンドの設定や、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａを開放動作するための大当たり制御処理を実行する（Ｆ１８０４）。

【７４７５】

大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）の詳細な内容については、図７１０～図７１５を参照して後述するが、この大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）では、大当たり状態のラウンド毎に特定入賞口６５ａ（以下、入賞口等と称す）を開放し、入賞口等（特定入賞口６５ａ）の最大開放時間が経過したか、又は入賞口等（特定入賞口６５ａ）に球が規定数入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると入賞口等（特定入賞口６５ａ）を閉鎖する。この入賞口等（特定入賞口６５ａ）の開放と閉鎖とを所定ラウンド数繰り返し実行する。尚、本制御例では、大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）をメイン処理において実行しているが、タイマ割込処理において実行しても良い。

【７４７６】

次いで、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開閉制御を行う電動役物開閉処理を実行する（Ｆ１８０６）。電動役物開閉処理では、普通図柄変動処理２２（図７０５参照）のＦ８２２の処理によって電動役物の開閉制御開始が設定された場合に、電動役物の開閉制御を開始する。尚、この電動役物の開閉制御は、普通図柄変動処理２２におけるＦ８２１の処理、Ｆ８２３の処理、によって設定された期間が終了するまで継続される。

【７４７７】

次に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示を更新する第１図柄表示更新処理を実行する（Ｆ１８０７）。第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１のＦ２０９）によって変動パターンが設定された場合に、その変動パターンに応じた変動表示を、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて開始する。本第２２制御例では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７ＢのＬＥＤの内、変動が開始されてから変動時間が経過するまでは、例えば、現在点灯しているＬＥＤが赤であれば、その赤のＬＥＤを消灯すると共に緑のＬＥＤを点灯させ、緑のＬＥＤが点灯していれば、その緑のＬＥＤを消灯すると共に青のＬＥＤを点灯させ、青のＬＥＤが点灯していれば、その青のＬＥＤを消灯すると共に赤のＬＥＤを点灯させる。

【７４７８】

なお、メイン処理は４ミリ秒毎に実行されるが、そのメイン処理の実行毎にＬＥＤの点灯色を変更すると、ＬＥＤの点灯色の変化を遊技者が確認することができない。そこで、遊技者がＬＥＤの点灯色の変化を確認することができるように、メイン処理が実行される

毎にカウンタ（図示せず）を１カウントし、そのカウンタが１００に達した場合に、ＬＥＤの点灯色の変更を行う。即ち、０．４ｓ毎にＬＥＤの点灯色の変更を行う。尚、カウンタの値は、ＬＥＤの点灯色が変更されたら、０にリセットされる。

【７４７９】

また、第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１のＦ２０９）によって設定された変動パターンに対応する変動時間が終了した場合に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて実行されている変動表示を終了し、特別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１のＦ２０９参照）のＦ４０７で設定された表示態様で、停止図柄を第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂに停止表示（点灯表示）する。

【７４８０】

さらに、本第２２制御例では、一方の特別図柄が大当たりを示す表示態様（大当たり図柄）で停止表示された場合に、他方の特別図柄を、外れを示す表示態様（外れ図柄）で停止表示させるように構成しており、そのための停止表示も実行される。

【７４８１】

次に、第２図柄表示装置の表示を更新する第２図柄表示更新処理を実行する（Ｆ１８０８）。第２図柄表示更新処理では、普通図柄変動処理２２（図７０５参照）のＦ８１５の処理、Ｆ８１６の処理によって第２図柄の変動時間が設定された場合に、第２図柄表示装置において変動表示を開始する。これにより、第２図柄表示装置では、第２図柄としての「○」の図柄と「×」の図柄とを交互に点灯させる変動表示が行われる。また、第２図柄表示更新処理（Ｆ１８０８）では、普通図柄変動処理２２（図７０５参照）のＦ８１８の処理によって第２図柄表示装置の停止表示が設定された場合に、第２図柄表示装置において実行されている変動表示を終了し、普通図柄変動処理２２（図７０５参照）のＦ８１２の処理またはＦ８１３の処理によって設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）を第２図柄表示装置に停止表示（点灯表示）する。

【７４８２】

その後は、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｆ１８０９）、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｆ１８０９：Ｎｏ）、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１は出力されておらず、電源は遮断されていない。よって、かかる場合には、次のメイン処理の実行タイミングに至ったか否か、即ち今回のメイン処理の開始から所定時間（本制御例では４ｍ秒）が経過したか否かを判別し（Ｆ１８１０）、既に所定時間が経過していれば（Ｆ１８１０：Ｙｅｓ）、処理をＦ１８０１へ移行し、上述したＦ１８０１以降の各処理を繰り返し実行する。

【７４８３】

一方、今回のメイン処理の開始から未だ所定時間が経過していなければ（Ｆ１８１０：Ｎｏ）、所定時間に至るまで間、即ち、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間内において、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２及び変動種別カウンタＣＳ１の更新を繰り返し実行する（Ｆ１８１１，Ｆ１８１２）。

【７４８４】

まず、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２との更新を実行する（Ｆ１８１１）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９、９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域にそれぞれ格納する。次に、変動種別カウンタＣＳ１の更新を、Ｆ１８１１の処理と同一の方法によって実行する（Ｆ１８１２）。なお、このＦ１８１２の処理では、変動種別カウンタＣＳ１の値と同様に普図変動種別カウンタＣＳ２の値も更新される。

【７４８５】

ここで、Ｆ１８０１～Ｆ１８０８の各処理の実行時間は遊技の状態に応じて変化するため、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間は一定でなく変動する。故に

、かかる残余時間を使用して第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を繰り返し実行することにより、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２（即ち、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値）をランダムに更新することができ、同様に変動種別カウンタＣＳ１、普図変動種別カウンタＣＳ２の値についてもランダムに更新することができる。よって、特別図柄や普通図柄の抽選に関する判定値を更新するための処理内容を把握され難くすることができ、当たりに対応する判定値が取得されるタイミングを狙った不正遊技が実行されることを抑制することができる。

【７４８６】

また、Ｆ１８０９の処理において、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｆ１８０９：Ｙｅｓ）、停電の発生または電源のオフにより電源が遮断され、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が出力された結果、図１６５のＮＭＩ割込処理が実行されたということなので、Ｆ１８１３以降の電源遮断時の処理が実行される。まず、各割込処理の発生を禁止し（Ｆ１８１３）、電源が遮断されたことを示す電源断コマンドを他の制御装置（払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３等の周辺制御装置）に対して送信する（Ｆ１８１４）。そして、ＲＡＭ判定値を算出して、その値を保存し（Ｆ１８１５）、ＲＡＭ２０３のアクセスを禁止して（Ｆ１８１６）、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。ここで、ＲＡＭ判定値は、例えば、ＲＡＭ２０３のバックアップされるスタックエリア及び作業エリアにおけるチェックサム値である。

【７４８７】

なお、Ｆ１８０９の処理は、Ｆ１８０１～Ｆ１８０８で行われる遊技の状態変化に対応した一連の処理の終了時、又は、残余時間内に行われるＦ１８１１とＦ１８１２の処理の１サイクルの終了時となるタイミングで実行されている。よって、主制御装置１１０のメイン処理において、各設定が終わったタイミングで電源断の発生情報を確認しているので、電源遮断の状態から復帰する場合には、立ち上げ処理の終了後、処理をＦ１８０１の処理から開始することができる。即ち、立ち上げ処理において初期化された場合と同様に、処理をＦ１８０１の処理から開始することができる。よって、電源遮断時の処理において、ＭＰＵ２０１が使用している各レジスタの内容をスタックエリアへ退避したり、スタックポインタの値を保存しなくても、初期設定の処理（図７０８，Ｆ１７０１）において、スタックポインタが所定値（初期値）に設定されることで、Ｆ１８０１の処理から開始することができる。従って、主制御装置１１０の制御負担を軽減することができると共に、主制御装置１１０が誤動作したり暴走したりすることなく正確な制御を行うことができる。

【７４８８】

次に、図７１０のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）を説明する。図７１０は、この大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）を示すフローチャートである。この大当たり制御処理２２（Ｆ１８０４）は、メイン処理（図７０９参照）の中で実行され、パチンコ機１０が特別図柄の大当たり状態である場合に、大当たりに応じた各種演出の実行や、特定入賞口（大開放口）６５ａを開放又は閉鎖するための処理である。

【７４８９】

大当たり制御処理２２（図７１０，Ｆ１８０４）では、まず、特別図柄の大当たりが開始されるかを判定する（Ｆ１１０１）。具体的には、特別図柄変動処理２２（図６９９参照）のＦ２１８またはＦ２２０の処理が実行され、特別図柄の大当たりの開始が設定されていれば、特別図柄の大当たりが開始されると判定する。Ｆ１１０１の処理において、特別図柄の大当たりが開始される場合には（Ｆ１１０１：Ｙｅｓ）、オープニングコマンドを設定し（Ｆ１１０２）、大当たり開始フラグ２０３ｖｗをオフに設定し、大当たり中フラグ２０３ｖｖをオンに設定して（Ｆ１１０３）、本処理を終了する。

【７４９０】

一方、Ｆ１１０１の処理において、特別図柄の大当たりが開始されない場合には（Ｆ１１０１：Ｎｏ）、特別図柄の大当たり中であるかを判定する（Ｆ１１０４）。特別図柄の大当たり中としては、第１図柄表示装置３７及び第３図柄表示装置８１において特別図柄の大当たり（特別図柄の大当たり遊技中も含む）を示す表示がなされている最中と、特別図柄の大当たり遊技終了後の所定時間の最中とが含まれる。Ｆ１１０３の処理において、特別図柄の大当たり中でなければ（Ｆ１１０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【７４９１】

一方、Ｆ１１０４の処理において、特別図柄の大当たり中であると判別した場合には（Ｆ１１０４：Ｙｅｓ）、Ｆ１１０５の処理を実行する。Ｆ１１０５の処理では、新たなラウンドの開始タイミングであるか判別する（Ｆ１１０５）。Ｆ１１０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングであると判別した場合には（Ｆ１１０５：Ｙｅｓ）、大当たり動作設定処理２２を実行する（Ｆ１１０６）。

【７４９２】

ここで、図７１１を参照して、大当たり動作設定処理２２について説明する（Ｆ１１０６）。図７１１は、この大当たり動作設定処理２２（Ｆ１１０６）の内容を示したフローチャートである。大当たり動作設定処理２２（図７１１、Ｆ１１０６）では、まず、開始する大当たりのラウンド数に対応した開放動作を設定されている開放シナリオから読み込む（Ｆ１２０１）。流路ソレノイド（確変ソレノイド）６５ｋの開放動作をＦ１２０１で読み込んだデータに基づいて設定する（Ｆ１２０２）。第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｆ１の開放動作をＦ１２０１の処理で読み込んだデータにより設定する。その後、この処理を終了する。なお、Ｆ１２０２の処理では、１ラウンド毎の流路ソレノイド６５ｋの動作、開閉扉６５ｆ１の動作が設定される。

【７４９３】

このように、各ラウンドの開始毎に、第１可変入賞装置６５の各動作が設定されるので、予期せぬ電源断が大当たり遊技中に発生しても、大当たり遊技が途中で終了してしまうような不具合を抑制できる。

【７４９４】

図７１０に戻って説明を続ける。Ｆ１１０５の処理において、新たなラウンドの開始タイミングでないと判別した場合には（Ｆ１１０５：Ｎｏ）、開閉扉６５ｆ１、流路ソレノイド（確変ソレノイド）６５ｋの動作タイミングであるか判別する（Ｆ１１０７）。動作タイミングであると判別した場合には（Ｆ１１０７：Ｙｅｓ）、開放ソレノイド６５ｆ２をオンに設定する（Ｆ１１０８）。その後、流路ソレノイド（確変ソレノイド）６５ｋをオンに設定する（Ｆ１１０９）。その後、この処理を終了する。

【７４９５】

一方、Ｆ１１０６の処理において、開放動作のタイミングでないと判別した場合には（Ｆ１１０７：Ｎｏ）、エンディング演出の開始タイミングであるか判別する（Ｆ１１１０）。エンディング演出の開始タイミングは、特別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１参照）のＦ４０２で決定された大当たり種別に対応する最終ラウンドが終了して開閉扉６５ｆ１が閉状態にされ、球はけ時間である待機時間（本実施形態では、３秒）が経過した場合に、エンディング演出の開始タイミングとして判別する。エンディング演出の開始タイミングであると判別した場合には（Ｆ１１１０：Ｙｅｓ）エンディングコマンドを設定して（Ｆ１１１１）、この処理を終了する。ここで設定されたエンディングコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、エンディングコマンドを受信すると、表示用エンディングコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４によって表示用エンディングコマンドが受信されると、第３図柄表示装置８１において大当たりの終了を示すエンディング演出が開始される。

【７４９６】

一方、Ｆ１１１０の処理において、現在実行されているエンディング期間の開始タイミ

ングではないと判別した場合は（Ｆ１１１０：Ｎｏ）、次に、大当たりの終了タイミングであるかを判別する（Ｆ１１１２）。ここで、大当たりの終了タイミングとは、エンディング演出の実行期間が経過した場合を示す。Ｆ１１１２の処理において、大当たりの終了タイミングであると判別した場合は（Ｆ１１１２：Ｙｅｓ）、大当たり終了後の遊技状態を設定するための大当たり終了処理２２を実行し（Ｆ１１１３）、本処理を終了する。この大当たり終了処理２２の詳細については図７１２を参照して後述する。一方、Ｆ１１１２の処理において、大当たり終了のタイミングではないと判別した場合には（Ｆ１１１２：Ｎｏ）、報知処理２２を実行する（Ｆ１１１４）。報知処理２２の詳細については図７１３を参照して後述する。

【７４９７】

報知処理２２（図７１３、Ｆ１１１４）が実行されると、特定入賞口６５ａへの入賞に応じた制御を行うための入賞処理２２を実行し（Ｆ１１１５）、特定入賞口６５ａに対して入球した球が正常に排出されたかを判別するための異常処理２２を実行し（Ｆ１１１６）、その後、本処理を終了する。入賞処理２２および異常処理２２の詳細については図７１４および図７１５を参照して後述する。

【７４９８】

次に、図７１１のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり動作設定処理２２（Ｆ１１０６）の詳細について説明する。図７１１は、この大当たり動作設定処理２２（Ｆ１１０６）を示すフローチャートである。この大当たり動作設定処理２２（Ｆ１１０６）は、大当たり制御処理の中で実行され、上述した通り、ラウンド数に応じた特定入賞口６５ａの開閉動作を設定するための処理である。

【７４９９】

この大当たり動作設定処理２２（図７１１参照）が開始されると、まず、ラウンド数に対応した開放動作を読み込み（Ｆ１２０１）、確変ソレノイドの開放動作を設定して（Ｆ１２０２）、可変入賞装置６５の大開放口６５ｃの開放動作を設定し（Ｆ１２０３）、本処理を終了する。なお、図示しないが、Ｆ１２０１の処理では、新たに開始するラウンド数を示すラウンド数コマンドを設定する。

【７５００】

ここで設定されたラウンド数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理（Ｓ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、ラウンド数コマンドを受信すると、新たに開始されたラウンド数を第３図柄表示装置８１において表示するための表示用ラウンド数コマンドを設定する。これにより、大当たりのラウンド数に合わせて第３図柄表示装置８１の表示内容を更新することができる。

【７５０１】

ここで、詳細な説明は省略するが、本制御例では、１回の大当たり遊技中に複数回実行されるラウンド遊技のうち、特定のラウンド数（２ラウンド目）に実行されるラウンド遊技の内容を、大当たり種別に応じて異ならせており、具体的には、特定の大当たり種別（確変大当たり）の場合のみ、２ラウンド目のラウンド遊技として、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下させ易くなるように切替弁６５ｙを動作させるラウンド遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、長期間実行される大当たり遊技のうち、特定の期間のみ球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下させる確率を高めることができるため、遊技者が集中力を切らすこと無く大当たり遊技中の遊技を実行することができる。

【７５０２】

なお、本第２２制御例では、大当たりＡに当選した場合の大当たり遊技における２ラウンド目が実行される場合に、第３図柄表示装置８１の表示面にて遊技者に対して特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させるチャンス期間であることを示すための案内報知態様として「Ｖを狙え」の文字が表示されるＶ報知演出を実行可能に構成している。これに

より、遊技者に対して、長期間実行される大当たり遊技のうち、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させ易い特定の期間を分かり易く報知することができる。さらに、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を流下したことを検知手段が検知したことに基づいて、第３図柄表示装置８１の表示面に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を流下したことを案内するための案内報知態様として「ＶＧＥＴ」の文字が表示されるように構成している。これにより、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される条件を満たしたことを分かり易く報知することができる。

【７５０３】

なお、上述した案内報知の報知態様を、条件成立に応じて可変させても良く、例えば、特定ゲートへと球を流下させ易い特定期間の経過時間、或いは残時間に基づいて「Ｖを狙え」の文字色を可変させたり、表示領域の大きさを可変させたり、より強調した内容の文字（例えば「早くＶを狙うんだ」）に可変させたりすると良い。これにより、特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと球を流下させ易い状況にて遊技者が球を発射しない事態が発生することを抑制することができる。

【７５０４】

また、本第２２制御例では、可変入賞装置６５へと入賞した球の流路を切り替えるためのＶ役物として切替弁６５ｙを設け、その切替弁６５ｙの動作パターンを可変させることで球が特定ゲートへと流下しやすい期間とし難い期間とを設定可能としているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技開始時から共通の動作パターンで切替弁６５ｙを動作させるように構成し、特定入賞口６５ａが開放状態となるタイミングを大当たり種別によって可変させることにより、球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと流下しやすい期間とし難い期間とを設定可能に構成しても良い。これにより、切替弁６５ｙの動作パターンを共通化することができるため、切替弁６５ｙの動作内容を把握されたとしても今回の大当たり遊技が球を特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）へと通過させ易い大当たり遊技であるか否かを遊技者に把握され難くすることができる。また、切替弁６５ｙの動作内容を統一化することができるため、Ｖソレノイド２０９ａに対する負荷を軽減することができ、Ｖ役物（切替弁６５ｙ）の故障を抑制することができる。

【７５０５】

この大当たり動作設定処理（図７１１参照）を実行することにより、大当たりの各ラウンドにおいて特定入賞口６５ａを開放することができると共に、２ラウンド目に特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を球が通過可能に設定することができる。これにより、大当たりＡ，Ｃ～Ｅでは、２ラウンド目に遊技者が球を発射するだけで、ほぼ確実に球が特定領域（Ｖゲート６５Ｖ）を通過するので、大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定することができる。

【７５０６】

次に、図７１２のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される大当たり終了処理２２（Ｆ１１１３）の詳細について説明する。図７１２は、この大当たり終了処理２２（Ｆ１１１３）を示すフローチャートである。この大当たり終了処理２２（Ｆ１１１３）は、大当たり制御処理２２（図７１０のＦ１８０４参照）の中で実行され、上述した通り、大当たり終了後の遊技状態を設定するための処理である。

【７５０７】

この大当たり終了処理２２（Ｆ１１１３）では、まず、確変設定フラグ２０３ｓｍがオンであるかを判別する（Ｆ１３０１）。Ｆ１３０１の処理において、確変設定フラグ２０３ｓｍがオンであると判別した場合は（Ｆ１３０１：Ｙｅｓ）、大当たり中にＶゲート（特定領域）６５ｖを球が通過したことを意味するので、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に１２０を設定し（Ｆ１３０２）、時短中カウンタ２０３ｖｔの値に１２０を設定し（Ｆ１３０３）、確変フラグ２０３ｖｇをオンに設定して（Ｆ１３０４）、Ｆ１３０５の処理へ移行する。一方、Ｆ１３０１の処理において、確変設定フラグ２０３ｓｍがオフであれば（Ｆ１３０１：Ｎｏ）、時短中カウンタ２０３ｖｔの値に１００を設定し、Ｓ２１０５の処理へ移行する。

【７５０８】
Ｓ２１０５の処理では、時短中カウンタ２０３ｖｔの値、確変中カウンタ２０３ｖｕの値に基づいて、状態コマンドを設定する（Ｆ１３０５）。ここで設定された状態コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理（Ｆ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、状態コマンドを受信すると、その状態コマンドで通知された遊技状態に合わせて従状態設定エリア２２３ｓｈを更新する。これにより、音声ランプ制御装置１１３において、パチンコ機１０の遊技状態を正確に把握することができる。次いで、大当たり中フラグ２０３ｖｖおよび確変設定フラグ２０３ｖｈを共にオフに設定して（Ｆ１３０６）、本処理を終了する。
【７５０９】
この大当たり終了処理２２（図７１２参照）を実行することにより、大当たり遊技中にＶゲート（特定領域）６５ｖを球が通過したか否かに応じて大当たり終了後の遊技状態を正確に設定することができる。
【７５１０】
報知処理２２（Ｆ１１１４）では、まず、報知カウンタ２０３ｖｍの値が０より大きい値であるか判別する（Ｆ１２２１）。報知カウンタ２０３ｖｍの値が０であると判別した場合には（Ｆ１２２１：Ｎｏ）、２ラウンド目の終了タイミングであるか判別する（Ｆ１２２２）。２ラウンド目の終了タイミングの判別は、２ラウンド目において、１０球入賞したことを検知した場合または３０秒が経過したと判別した場合によって判別を行う。２ラウンド目の終了タイミングであると判別した場合には（Ｆ１２２２：Ｙｅｓ）、報知カウンタ２０３ｖｍに２秒に対応するカウンタ値を設定する。その後、この処理を終了する。一方、Ｆ１２２２の処理において、２ラウンド目の終了タイミングでないと判別した場合には（Ｆ１２２２：Ｎｏ）、この処理を終了する。ここで、Ｆ１２２３で２秒のカウンタが設定されることで、２ラウンドが終了した後の球はけ時間であるインターバル時間の３秒間中に報知カウンタ２０３ｖｍが０となり、液晶を見てという音声が出力される。よって、２ラウンド目に流路ソレノイド６５ｋが動作するが、遊技者は２ラウンド終了後のインターバル時間より液晶に注意が惹きつけられるので、第１可変入賞装置６５の切替部材６５ｈの動きを識別されて、大当たり種別を遊技者に識別されてしまうことを抑制できる。よって、遊技者は、大当たり遊技の終了まで、確変遊技状態が付与されることを期待して遊技を行うことができる。
【７５１１】
なお、本第２２制御例では、報知カウンタ２０３ｖｍを設けることにより、インターバル時間の終了１秒前より２ラウンド目に跨って液晶に注意を惹きつける演出を行うようにしたがそれに限らず、２ラウンド目より継続的に実行してもよい。
【７５１２】
一方、Ｆ１２２１の処理において、報知カウンタ２０３ｖｍの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｆ１２２１：Ｙｅｓ）、報知カウンタ２０３ｖｍの値を－１して更新する（Ｆ１２２４）。更新後の報知カウンタ２０３ｖｍの値が０であるか判別する（Ｆ１２２５）。報知カウンタ２０３ｖｍの値が０であると判別した場合には（Ｆ１２２５：Ｙｅｓ）、報知コマンドを設定する（Ｆ１２２６）。その後、この処理を終了する。この報知コマンドにより音声ランプ制御装置１１３により、「液晶を見て」という音声の出力の設定が実行される。
【７５１３】
次に、図７１４のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される入賞処理２２（Ｆ１１１５）の詳細について説明する。図７１４は、この入賞処理２２（Ｆ１１１５）を示すフローチャートである。この入賞処理２２（Ｆ１１１５）は、大当たり制御処理２２（図７１０参照）の中で実行され、上述した通り、特定入賞口６５ａへの入賞に応じた制御を行うための処理である。
【７５１４】

入賞処理２２（図７１４、Ｆ１１１５）では、まず、ラウンド有効期間であるか判別する（Ｆ１２３１）。ラウンド有効期間とは、ラウンド遊技が設定されている期間、即ち、開放扉６５ｆ１の開放状態からインターバル期間（３秒）が終了するまでの期間である。ラウンド有効期間外であると判別した場合には（Ｆ１２３１：Ｎｏ）、この処理を終了する。一方、ラウンド有効期間内であると判別した場合には（Ｆ１２３１：Ｙｅｓ）、特定入賞口６５ａの検出スイッチ６５ｃ１を通過したか判別される。特定入賞口６５ａの検出スイッチ６５ｃ１を通過したと判別した場合には（Ｆ１２３２：Ｙｅｓ）、入賞個数カウンタ２０３ｖｊを１加算して更新する（Ｆ１２３３）。その後、Ｆ１２３４の処理を実行する。一方、検出スイッチ６５ｃ１を通過していないと判別した場合には（Ｆ１２３２：Ｎｏ）、Ｆ１２３４の処理を実行する。

【７５１５】

Ｆ１２３４の処理では、入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値が１０以上であるか判別する（Ｆ１２３４）。入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値が１０以上であると判別した場合には（Ｆ１２３４：Ｙｅｓ）、特定入賞口６５ａの開閉扉６５ｆ１の閉鎖を設定する（Ｆ１２３６）。その後、残球タイマフラグ２０３ｖｎをオンに設定する（Ｆ１２３７）。その後、Ｆ１２３８の処理を実行する。この残球タイマフラグ２０３ｖｎがオンに設定されることで、開閉扉２０３ｎが閉鎖されてから球はけ時間中であることが判別できる。

【７５１６】

一方、Ｆ１２３４の処理において、入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値が１０未満であると判別した場合には、ラウンド時間（本実施形態では、３０秒）が経過したか判別する（Ｆ１２３５）。ラウンド時間が経過したと判別した場合には（Ｆ１２３５：Ｙｅｓ）、Ｆ１２３６の処理を実行する。一方、ラウンド時間が経過していないと判別した場合には（Ｆ１２３５：Ｎｏ）、Ｆ１２３８の処理を実行する。

【７５１７】

Ｆ１２３８の処理では、動作カウンタ２０３ｖｋの値が０より大きい値であるか判別する（Ｆ１２３８）。動作カウンタ２０３ｖｋの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｆ１２３８：Ｙｅｓ）、動作カウンタ２０３ｖｋの値を－１して更新する（Ｆ１２３９）。確変スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過したか判別する（Ｆ１２４０）。確変通過スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過したと判別した場合には（Ｆ１２４０：Ｙｅｓ）、確変通過カウンタ２０３ｖｉの値に１加算して更新する（Ｆ１２４１）。確変設定フラグ２０３ｖｈをオンに設定し（Ｆ１２４２）、Ｖ入賞コマンドを設定し（Ｆ１２４３）、その後、Ｆ１２４４の処理を実行する。一方、Ｆ１２４０の処理において、確変スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過していないと判別した場合には（Ｆ１２４０：Ｎｏ）、Ｆ１２４４の処理を実行する。Ｆ１２４４の処理では、動作カウンタ２０３ｖｋが０であるか判別する（Ｆ１２４４）。動作カウンタ２０３ｖｋが０であると判別した場合には、流路ソレノイド６５ｋをオフに設定する（Ｆ１２４５）。確変有効フラグ２０３ｖｐをオンに設定する（Ｆ１２４６）。その後、この処理を終了する。ここで、確変有効フラグ２０３ｖｐがオンに設定されることで、切替部材６５ｈが切り替えられた後も、特別流路６５ｅ２に残存している遊技球が確変スイッチ６５ｅ３を通過した場合には、確変遊技が設定されるように制御できる。

【７５１８】

一方、Ｆ１２３８の処理において、動作カウンタ２０３ｖｋが０であると判別した場合には（Ｆ１２３８：Ｎｏ）、確変有効フラグ２０３ｖｐがオンであるか判別する（Ｆ１２４７）。確変有効フラグ２０３ｖｐがオフである場合には（Ｆ１２４７：Ｎｏ）、この処理を終了する。一方、確変有効フラグ２０３ｖｐがオンであると判別した場合には（Ｆ１２４７：Ｙｅｓ）、確変有効タイマ２０３ｖｒに１加算して更新する（Ｆ１２４８）。確変有効タイマの値が上限値（本実施形態では、１．２ｓ）であるか判別する（Ｆ１２４９）。確変有効タイマ２０３ｖｒが上限値であると判別した場合には（Ｆ１２４９：Ｙｅｓ）、確変有効フラグ２０３ｖｐをオフに設定する（Ｆ１２５０）。確変有効タイマ２０３ｖｒを初期値である０にリセットする（Ｆ１２５１）。その後、この処理を終了する。一

方、Ｆ１２４９の処理において、確変有効タイマ２０３ｖｒが上限値でないと判別した場合には（Ｆ１２４９：Ｎｏ）、Ｆ１２４０の処理を実行する。
【７５１９】
これにより、確変有効タイマ２０３ｖｒが上限値でないと、確変スイッチ６５ｅ３を遊技球が通過したか判別されるので、球はけの時間を考慮して確変遊技状態を設定できる。また、有効と判別される時間に上限があるので、不正に確変スイッチ６５ｅ３に遊技球を通過させて確変遊技状態が付与されることを抑制できる。
【７５２０】
次に、図７１５のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される異常処理２２（Ｆ１１１６）を説明する。図７１５は、この異常処理２２（Ｆ１１１６）の内容を示したフローチャートである。異常処理２２（Ｆ１１１６）では、不正に確変スイッチ６５ｅ３を通過させられていないかを監視する処理を実行する。
【７５２１】
異常処理２２（図７１５、Ｆ１１１６）では、まず、ラウンド有効期間であるか判別する（Ｆ１２６１）。ラウンド有効期間外である場合には（Ｆ１２６１：Ｎｏ）、この処理を終了する。一方、ラウンド有効期間内であると判別した場合には（Ｆ１２６１：Ｙｅｓ）、球排出口スイッチ６５ｅ４を遊技球が通過したか判別する（Ｆ１２６２）。球排出口スイッチ６５ｅ４を遊技球が通過したと判別した場合には（Ｆ１２６２：Ｙｅｓ）、球排個数カウンタ２０３ｓの値を１加算して更新する（Ｆ１２６３）。その後、Ｆ１２６４の処理を実行する。一方、球排出口スイッチ６５ｅ４を遊技球が通過していないと判別した場合には（Ｆ１２６２：Ｎｏ）、Ｆ１２６４の処理を実行する。
【７５２２】
Ｆ１２６４の処理では、残球タイマフラグ２０３ｎがオンであるか判別する（Ｆ１２６４）。残球タイマフラグ２０３ｖｎがオフであると判別した場合には（Ｆ１２６４：Ｎｏ）、この処理を終了する。一方、残球タイマフラグ２０３ｖｎがオンであると判別した場合には（Ｆ１２６４：Ｙｅｓ）、球はけ時間の期間中であるので、残球タイマ２０３ｖｏを１加算して更新する（Ｆ１２６５）。残球タイマ２０３ｖｏは上限値（本第２２制御例では、３秒）が経過したか判別する（Ｆ１２６６）。上限値でないと判別した場合には（Ｆ１２６６：Ｎｏ）、この処理を終了する。一方、上限値であると判別した場合には（Ｆ１２６６：Ｙｅｓ）、排出個数（確変通過カウンタ２０３ｖｉと排出個数カウンタ２０３ｖｓとの合計値）と入賞個数（入賞個数カウンタ２０３ｖｊの値）とが一致するか判別する（Ｆ１２６７）。
【７５２３】
一致すると判別した場合には（Ｆ１２６７：Ｙｅｓ）、Ｆ１２６９の処理を実行する。一方、一致しないと判別した場合には（Ｆ１２６７：Ｎｏ）、エラーコマンドを設定する（Ｆ１２６８）。その後、Ｆ１２６９の処理を実行する。エラーコマンドを音声ランプ制御装置１１３が受信することにより、エラー表示（例えば、入賞個数不一致エラーの文字を表示）がされ、ホールコンピュータに対して、エラー信号の出力がされる。よって、第１可変入賞装置６５内に不正に遊技球を残存させて、大当たりＣであっても確変スイッチ６５ｅ３に遊技球を通過させる不正を抑制できる。
【７５２４】
Ｆ１２６９の処理では、残球タイマフラグ２０３ｖｎをオフに設定し（Ｆ１２６９）、残球タイマ２０３ｖｏを初期値である０にリセットする（Ｆ１２７０）。その後、入賞個数カウンタ２０３ｖｊ、排出個数カウンタ２０３ｖｓ、確変通過カウンタ２０３ｖｉが初期値にそれぞれリセットされ（Ｆ１２７１）、その後、この処理を終了する。
【７５２５】
＜第２２制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞
次に、図７１６から図７３４を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２２１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理

とがある。
【７５２６】
まず、図７１６を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される立ち上げ処理を説明する。図７１６は、この立ち上げ処理を示したフローチャートである。この立ち上げ処理は電源投入時に起動される。
【７５２７】
立ち上げ処理が実行されると、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｆ２００１）。具体的には、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。その後、電源断処理中フラグがオンしているか否かによって、今回の立ち上げ処理が瞬間的な電圧降下（瞬間的な停電、所謂「瞬停」）によって、Ｆ２１１７の電源断処理（図７１７参照）の実行途中に開始されたものであるか否かが判断される（Ｆ２００２）。図７１７を参照して後述する通り、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から電源断コマンドを受信すると（図７１７のＦ２１１４参照）、Ｆ２１１７の電源断処理を実行する。かかる電源断処理の実行前に、電源断処理中フラグがオンされ、該電源断処理の終了後に、電源断処理中フラグはオフされる。よって、Ｆ２１１７の電源断処理が実行途中であるか否かは、電源断処理中フラグの状態によって判断できる。
【７５２８】
電源断処理中フラグがオフであれば（Ｆ２００２：Ｎｏ）、今回の立ち上げ処理は、電源が完全に遮断された後に開始されたか、瞬間的な停電が生じた後であってＦ２１１７の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始されたものである。よって、これらの場合には、ＲＡＭ２２３のデータが破壊されているか否かを確認する（Ｆ２００３）。
【７５２９】
ＲＡＭ２２３のデータ破壊の確認は、次のように行われる。即ち、ＲＡＭ２２３の特定の領域には、Ｆ２００６の処理によって「５５ＡＡｈ」のキーワードとしてのデータが書き込まれている。よって、その特定領域に記憶されるデータをチェックし、該データが「５５ＡＡｈ」であればＲＡＭ２２３のデータ破壊は無く、逆に「５５ＡＡｈ」でなければＲＡＭ２２３のデータ破壊を確認することができる。ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されれば（Ｆ２００３：Ｙｅｓ）、Ｆ２００４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。一方、ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されなければ（Ｆ２００３：Ｎｏ）、Ｆ２００８へ移行する。
【７５３０】
なお、今回の立ち上げ処理が、電源が完全に遮断された後に開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードは記憶されていないので（電源断によってＲＡＭ２２３の記憶は喪失するから）、ＲＡＭ２２３のデータ破壊と判断され（Ｆ２００３：Ｙｅｓ）、Ｆ２００４へ移行する。一方、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＦ２１１７の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域には「５５ＡＡｈ」のキーワードが記憶されているので、ＲＡＭ２２３のデータは正常と判断されて（Ｆ２００３：Ｎｏ）、Ｆ２００８へ移行する。
【７５３１】
電源断処理中フラグがオンであれば（Ｆ２００２：Ｙｅｓ）、今回の立ち上げ処理は、瞬間的な停電が生じた後であって、Ｆ２１１７の電源断処理の実行途中に、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にリセットがかかって開始されたものである。かかる場合は電源断処理の実行途中なので、ＲＡＭ２２３の記憶状態は必ずしも正しくない。よって、かかる場合には制御を継続することはできないので、処理をＳ１４０４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。
【７５３２】

Ｓ２００４の処理では、ＲＡＭ２２３の全範囲の記憶領域をチェックする（Ｆ２００４）。チェック方法としては、まず、１バイト毎に「０ＦＦｈ」を書き込み、それを１バイト毎に読み出して「０ＦＦｈ」であるか否かを確認し、「０ＦＦｈ」であれば正常と判別する。かかる１バイト毎の書き込み及び確認を、「０ＦＦｈ」に次いで、「５５ｈ」、「０ＡＡｈ」、「００ｈ」の順に行う。このＲＡＭ２２３の読み書きチェックにより、ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域が０クリアされる。

【７５３３】

ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域について、読み書きチェックが正常と判別されれば（Ｆ２００５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードを書き込んで、ＲＡＭ破壊チェックデータを設定する（Ｆ２００６）。この特定領域に書き込まれた「５５ＡＡｈ」のキーワードを確認することにより、ＲＡＭ２２３にデータ破壊があるか否かがチェックされる。一方、ＲＡＭ２２３のいずれかの記憶領域で読み書きチェックの異常が検出されれば（Ｆ２００５：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の異常を報知して（Ｆ２００７）、電源が遮断されるまで無限ループする。ＲＡＭ２２３の異常は、表示ランプ３４により報知される。なお、音声出力装置２２６により音声を出力してＲＡＭ２２３の異常報知を行うようにしても良いし、表示制御装置１１４にエラーコマンドを送信して、第３図柄表示装置８１にエラーメッセージを表示させるようにしてもよい。

【７５３４】

Ｆ２００８の処理では、電源断フラグがオンされているか否かを判別する（Ｆ２００８）。電源断フラグはＦ２１１７の電源断処理の実行時にオンされる（図７１７のＦ２１１６参照）。つまり、電源断フラグは、Ｆ２１１７の電源断処理が実行される前にオンされるので、電源断フラグがオンされた状態でＦ２００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＦ２１１７の電源断処理の実行を完了した状態で開始された場合である。従って、かかる場合には（Ｆ２００８：Ｙｅｓ）、音声ランプ制御装置１１３の各処理を初期化するためにＲＡＭの作業エリアをクリアし（Ｆ２００９）、ＲＡＭ２２３の初期値を設定した後（Ｆ２０１０）、割込み許可を設定して（Ｆ２０１１）、メイン処理へ移行する。なお、ＲＡＭ２２３の作業エリアとしては、主制御装置１１０から受信したコマンド等を記憶する領域以外の領域をいう。

【７５３５】

一方、電源断フラグがオフされた状態でＦ２００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、例えば電源が完全に遮断された後に開始されたためにＦ２００４からＦ２００６の処理を経由してＦ２００８の処理へ至ったか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始された場合である。よって、かかる場合には（Ｆ２００８：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の作業領域のクリア処理であるＦ２００９をスキップして、処理をＦ２０１０へ移行し、ＲＡＭ２２３の初期値を設定した後（Ｆ２０１０）、割込み許可を設定して（Ｆ２０１１）、メイン処理へ移行する。

【７５３６】

なお、Ｆ２００９のクリア処理をスキップするのは、Ｆ２００４からＦ２００６の処理を経由してＦ２００８の処理へ至った場合には、Ｆ２００４の処理によって、既にＲＡＭ２２３のすべての記憶領域はクリアされているし、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって、立ち上げ処理が開始された場合には、ＲＡＭ２２３の作業領域のデータをクリアせず保存しておくことにより、音声ランプ制御装置１１３の制御を継続できるからである。

【７５３７】

次に、図７１７を参照して、音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理後に音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理について説明する。図７１７は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理が実行されると、まず、メイン処理が開始されてから、又は、今回のＦ２１０１の処理が実行されてから１ｍ秒以上が経過したか否かが判別され（Ｆ２１０１）、１ｍ秒以上経過していなければ（Ｆ２

１０１：Ｎｏ）、Ｆ２１０２～Ｆ２１１１の処理を行わずにＦ２１１２の処理へ移行する。Ｆ２１０１の処理で、１ｍ秒経過したか否かを判別するのは、Ｆ２１０２～Ｆ２１１１が主に表示（演出）に関する処理であり、短い周期（１ｍ秒以内）で編集する必要がないのに対して、Ｆ２１１２のコマンド判定処理２２や、Ｆ２１１３の変動表示設定処理２２を短い周期で実行する方が好ましいからである。Ｆ２１１２の処理が短い周期で実行されることにより、主制御装置１１０から送信されるコマンドの受信洩れを防止でき、Ｆ２１１３の処理が短い周期で実行されることにより、コマンド判定処理２２によって受信されたコマンドに基づき、変動演出に関する設定を遅滞なく行うことができる。

【７５３８】

Ｆ２１０１の処理で１ｍ秒以上経過していれば（Ｆ２１０１：Ｙｅｓ）、まず、Ｆ２１０３～Ｆ２１１３の処理によって設定された、表示制御装置１１４に対する各種コマンドを、表示制御装置１１４に対して送信する（Ｆ２１０２）。次いで、表示ランプ３４の点灯態様の設定や後述するＦ２１０８の処理で編集されるランプの点灯態様となるよう各ランプの出力を設定し（Ｆ２１０３）、その後電源投入報知処理を実行する（Ｆ２１０４）。電源投入報知処理は、電源が投入された場合に所定の時間（例えば３０秒）電源が投入されたことを知らせる報知を行うものであり、その報知は音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７により行われる。また、第３図柄表示装置８１の画面において電源が供給されたことを報知するようコマンドを表示制御装置１１４に送信するものとしても良い。なお、電源投入時でなければ、電源投入報知処理による報知は行わずにＦ２１０５の処理へ移行する。

【７５３９】

Ｆ２１０５の処理では客待ち演出処理が実行され、その後、保留個数表示更新処理が実行される（Ｆ２１０６）。客待ち演出処理では、パチンコ機１０が遊技者により遊技されない時間が所定時間経過した場合に、第３図柄表示装置８１の表示をタイトル画面に切り替える設定などが行われ、その設定がコマンドとして表示制御装置１１４に送信される。保留個数表示更新処理では、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂの値に応じて保留ランプ（図示せず）を点灯させる処理が行われる。

【７５４０】

その後、枠ボタン入力監視・演出処理２２が実行される（Ｆ２１０７）。この枠ボタン入力監視・演出処理２２は、演出効果を高めるために遊技者に操作される枠ボタン２２Ａが押されたか否かの入力を監視し、枠ボタン２２Ａの入力が確認された場合に対応した演出を行うよう設定する処理である。この処理では、枠ボタン２２Ａの遊技者による操作が検出されると、表示制御装置１１４に対して枠ボタン２２Ａの操作に対応する表示用コマンドを設定する。尚、この枠ボタン入力監視・演出処理２２の詳細については、図７３１を参照して後述する。

【７５４１】

枠ボタン入力監視・演出処理２２が終わると、ランプ編集処理を実行し（Ｆ２１０８）、その後音編集・出力処理を実行する（Ｆ２１０９）。ランプ編集処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう電飾部２９～３３の点灯パターンなどが設定される。音編集・出力処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう音声出力装置２２６の出力パターンなどが設定され、その設定に応じて音声出力装置２２６から音が出力される。

【７５４２】

Ｆ２１０９の処理後、液晶演出実行管理処理が実行される（Ｆ２１１０）。液晶演出実行管理処理では、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間が設定される。この液晶演出実行監視処理で設定された時間に基づいてＦ２００８のランプ編集処理が実行される。なお、Ｆ２００９の音編集・出力処理も第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間で実行される。

【７５４３】

液晶演出実行管理処理の後に、演出更新処理２２が実行される（Ｆ２１１１）。演出更新処理２２では、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の各種カウンタ、及び、各種タイマの値を更新するための処理が実行される。なお、演出更新処理２２の詳細については、図７３４を参照して後述する。

【７５４４】

演出更新処理２２の後に、主制御装置１１０より受信したコマンドに応じた処理を行うコマンド判定処理２２を行う（Ｆ２１１２）。このコマンド判定処理２２の詳細については、図７１８を参照して後述する。

【７５４５】

次に、Ｆ２１１３の処理へ移行する。Ｆ２１１３の処理では、変動表示設定処理２２が実行される（Ｆ２１１３）。変動表示設定処理２２では、第３図柄表示装置８１において変動演出を実行させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドが生成されて設定される。その結果、そのコマンドが表示制御装置１１４に送信される。尚、この変動表示設定処理２２の詳細については、図７１８を参照して後述する。

【７５４６】

そして、変動表示設定処理２２が終わると、ワークＲＡＭ２３３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（Ｆ２１１４）。電源断の発生情報は、主制御装置１１０から電源断コマンドを受信した場合に記憶される。Ｆ２１１４の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｆ２１１４：Ｙｅｓ）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（Ｆ２１１６）、電源断処理を実行する（Ｆ２１１７）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（Ｆ２１１８）、その後、処理を、無限ループする。電源断処理では、割込処理の発生を禁止すると共に、各出力ポートをオフして、音声出力装置２２６およびランプ表示装置２２７からの出力をオフする。また、電源断の発生情報の記憶も消去する。

【７５４７】

一方、Ｆ２１１４の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｆ２１１４：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３に記憶されるキーワードに基づき、ＲＡＭ２２３が破壊されているか否かが判別され（Ｆ２１１５）、ＲＡＭ２２３が破壊されていなければ（Ｆ２１１５：Ｎｏ）、Ｆ２１０１の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、ＲＡＭ２２３が破壊されていれば（Ｆ２１１５：Ｙｅｓ）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。ここで、ＲＡＭ破壊と判別されて無限ループするとメイン処理が実行されないので、その後、第３図柄表示装置８１による表示が変化しない。よって、遊技者は、異常が発生したことを知ることができるので、ホールの店員などを呼びパチンコ機１０の修復などを頼むことができる。また、ＲＡＭ２２３が破壊されていると確認された場合に、音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７によりＲＡＭ破壊の報知を行うものとしても良い。

【７５４８】

次に、図７１８を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理２２（Ｆ２１１２）について説明する。図７１８は、このコマンド判定処理２２（Ｆ２１１２）を示したフローチャートである。このコマンド判定処理２２（Ｆ２１１２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図７１７参照）の中で実行され、上述したように、主制御装置１１０から受信したコマンドを判定する。

【７５４９】

コマンド判定処理２２（図７１８，Ｆ２１１２）では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド記憶領域から、未処理のコマンドのうち主制御装置１１０より受信した最初のコマンドを読み出し、解析して、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信したか否かを判定する（Ｆ２２０１）。状態コマンドを受信した場合には（Ｆ２２０１：Ｙｅｓ）、状態コマンド受信処理２２を実行し（Ｆ２２０２）、その他のコマンドに応じた処

理を実行し（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。この状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）は、主制御装置１１０において遊技状態が変更された場合に、第３表示制御装置８１に変更された遊技状態に対応する表示モードを設定するための処理である。なお、状態コマンド受信処理２２の詳細は、図７１９を参照して後述する。

【７５５０】

また、その他のコマンドが、音声ランプ制御装置１１３で用いるコマンドであればそのコマンドに対応した処理を行い、処理結果をＲＡＭ２２３に記憶し、表示制御装置１１４で用いるコマンドであればそのコマンドを表示制御装置１１４に送信するように、コマンドの設定を行うものである。

【７５５１】

一方、状態コマンドを受信していない場合には（Ｆ２２０３：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信したか否かを判定する（Ｆ２２０３）。そして、変動パターンコマンドを受信した場合には（Ｆ２２０３：Ｙｅｓ）、変動開始フラグ２２３ｖｄをオンに設定し（Ｆ２２０４）、受信した変動パターンコマンドから変動パターンを抽出して（Ｆ２２０５）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。

【７５５２】

一方、変動パターンコマンドを受信していない場合には（Ｆ２２０３：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より停止種別コマンドを受信したか否かを判定する（Ｆ２２０６）。そして、停止種別コマンドを受信した場合には（Ｆ２２０６：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３の停止種別選択フラグ２２３ｖｅをオンに設定し（Ｆ２２０７）、受信した停止種別コマンドから停止種別を抽出して（Ｆ２２０８）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。ここで抽出された停止種別は、ＲＡＭ２２３に記憶され、後述の変動表示設定処理２２（図７２７参照）が実行される場合に参照される。そして、表示制御装置１１４に対して変動演出の停止種別を通知する表示用停止種別コマンドを設定するために用いられる。

【７５５３】

一方、停止種別コマンドを受信していない場合には（Ｆ２２０６：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より保留球数コマンドを受信したか否かを判定する（Ｆ２２０９）。そして、保留球数コマンドを受信した場合には（Ｆ２２０９：Ｙｅｓ）、受信した保留球数コマンドが特図１保留球数コマンドであるか、特図２保留球数コマンドであるかを判別して、そのコマンドに含まれている値、即ち、主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄの値（特別図柄における変動表示の保留回数Ｎ１）、または、主制御装置１１０の特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅの値（特別図柄における変動表示の保留回数Ｎ２）を抽出し、これを音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂ、または、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃに格納する（Ｆ２２１０）。また、Ｆ２２１０の処理では、更新された特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃの値をそれぞれ表示制御装置１１４へ通知するための表示用保留球数コマンドを設定する。Ｆ２２１０の処理の終了後は、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。

【７５５４】

ここで、特図１保留球数コマンド又は特図２保留球数コマンドは、球が第１入賞口６４又は第２入賞口６４０に入賞（始動入賞）したとき、又は、特別図柄の抽選が行われたときに主制御装置１１０から送信されるので、始動入賞が検出される毎に、又は、特別図柄の抽選が行われる毎に、Ｆ２２１０の処理によって音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃの値を主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄ、特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅの値に合わせることができる。よって、ノイズなどの影響により、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂまたは特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃの値が主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄまたは特別図

柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅの値とずれても、始動入賞の検出時や特別図柄の抽選時に、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂまたは特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃの値を修正し、主制御装置１１０の特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｖｄまたは特別図柄２保留球数カウンタ２０３ｖｅの値に合わせることができる。尚、Ｆ２２１０の処理が実行されると、更新された特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｖｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｖｃの値を表示制御装置１１４へ通知するための表示用保留球数コマンドが設定される。これにより、表示制御装置１１４では、保留球数に応じた保留球数図柄が第３図柄表示装置８１に表示される。

【７５５５】

Ｆ２２０９の処理において、保留球数コマンドを受信していない場合には（Ｆ２２０９：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０より入賞コマンドを受信したか判別する（Ｆ２２１１）。入賞コマンドを受信したと判別した場合には（Ｆ２２１１：Ｙｅｓ）、入賞コマンド処理２２を実行し（Ｆ２２１２）、その他のコマンドに応じた処理を実行して（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。この入賞コマンド処理２２は、主制御装置１１０から特別図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される入賞コマンド（入賞情報コマンド）や、普通図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される普図用入賞情報コマンドや、大当たり遊技中に球が特定ゲート（確変スイッチ）を流下（通過）した場合に設定されるＶ入賞コマンドを受信した場合に実行される処理である。なお、入賞コマンド処理２２の詳細は、図７２０を参照して後述する。

【７５５６】

次に、Ｆ２２１１の処理において、入賞コマンドを受信していないと判別した場合には（Ｆ２２１１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より停止コマンドを受信したか判別する（Ｆ２２１３）。停止コマンドを受信したと判別した場合には（Ｆ２２１３：Ｙｅｓ）、停止コマンド処理２２を実行し、その他のコマンドに応じた処理を実行して（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。この停止コマンド処理２２は、主制御装置１１０から停止コマンドを受信した場合、即ち、特別図柄の停止タイミングにおける各種処理を実行するものである。なお、停止コマンド処理２２の詳細は、図７２４を参照して後述する。

【７５５７】

一方、Ｆ２２１３の処理において、停止コマンドを受信していないと判別した場合には（Ｆ２２１３：Ｎｏ）、大当たり関連コマンドを受信したか判別する（Ｆ２２１５）。大当たり関連コマンドを受信したと判別した場合には（Ｆ２２１５：Ｙｅｓ）、大当たり関連処理を実行し（Ｆ２２１６）、その他のコマンドに応じた処理を実行して（Ｆ２２１７）、メイン処理に戻る。この大当たり関連処理は、大当たりに当選した場合に実行される大当たり遊技に対応した演出表示を第３図柄表示装置８１に実行させるための処理を行うものであり、大当たりに当選した場合に、主制御装置１１０から送信される様々なコマンドに対応した処理が実行される。なお、大当たり関連処理の詳細は、図７２５を参照して後述する。

【７５５８】

次に、図７１９を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）について説明する。図７１９は、この状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）を示したフローチャートである。この状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理２２（図７１８参照）の中で実行されるものであって、設定されている遊技状態に応じて第３図柄表示装置８１に表示される表示モードを異ならせて設定するための処理を実行するものである。以下、状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）の詳細を説明する。

【７５５９】

状態コマンド受信処理２２（Ｆ２２０２）が実行されると、まず、現在設定されている遊技状態が変更されるか否かを判別する（Ｆ２３０１）。ここでは、従状態格納エリア２２３ｖｈに設定されている遊技状態と、今回受信した状態コマンドが示す遊技状態とが、

相違するか否かが判別される。Ｆ２３０１の処理において、遊技状態に変更がないと判別した場合は（Ｆ２３０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。遊技状態に変更があると判別した場合は（Ｆ２３０１：Ｙｅｓ）、変更後の遊技状態が通常状態であるかを判別する（Ｆ２３０２）。

【７５６０】

Ｆ２３０２の処理において、変更後の遊技状態が通常状態であると判別した場合（今回受信した状態コマンドが通常状態を示すコマンドである場合）は（Ｆ２３０２：Ｙｅｓ）、通常モードを示す表示用コマンドを設定し（Ｆ２３０３）、Ｆ２３０４の処理へ移行する。

【７５６１】

Ｆ２３０２の処理において、変更後の遊技状態が通常状態では無いと判別した場合（今回受信した状態コマンドが通常状態を示すコマンドでは無い場合）は（Ｆ２３０２：Ｎｏ）、次いで、変更後の遊技状態が時短状態であるかを判別し（Ｆ２３０５）、遊技状態が時短状態である（今回受信した状態コマンドが時短状態を示すコマンドである）と判別した場合は（Ｆ２３０５：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｖｑの値に１００を設定し（Ｆ２３０６）、チャンスモードを示す表示用コマンドを設定し（Ｆ２３０７）、Ｆ２３０４の処理へ移行する。

【７５６２】

Ｆ２３０５の処理において、遊技状態が時短状態はないと判別した場合は（Ｆ２３０５：Ｎｏ）、次いで、変更後の遊技状態が確変状態であるかを判別し（Ｆ２３０８）、遊技状態が確変状態である（今回受信した状態コマンドが確変状態を示すコマンドである）と判別した場合は（Ｆ２３０８：Ｙｅｓ）、確変中カウンタ２２３ｓｒの値に１２０を設定し（Ｆ２３０９）、Ｖ報知フラグ２２３ｖｕがオンであるか否かを判別する（Ｆ２３１０）。Ｖ報知フラグ２２３ｖｕがオフの場合は（Ｆ２３１０：Ｎｏ）、上述したＦ２３０６の処理へ移行する。Ｖ報知フラグ２２３ｖｕがオンである場合は（Ｆ２３１０：Ｙｅｓ）、Ｖ報知フラグ２２３ｖｕをオフに設定し（Ｆ２３１１）、スーパーチャンスモードを示す表示用コマンドを設定し（Ｆ２３１２）、Ｆ２３０４の処理へ移行する。

【７５６３】

Ｆ２３０４の処理では、従状態設定エリア２２３ｓｈの現状態エリアに設定されている遊技状態を過去状態エリアに設定し（Ｆ２３０４）、従状態設定エリア２２３ｓｈの現状態エリアに受信した状態コマンドが示す情報に対応する遊技状態を設定し（Ｆ２３０４）、本処理を終了する。

【７５６４】

ここで、Ｆ２３０３、Ｆ２３０７およびＦ２３１２の処理で設定されたコマンドが表示制御装置１１４に通知されることにより遊技状態に対応した変動演出表示が実行されることになる。このように、本第２２制御例では、音声ランプ制御装置１１３にて、主制御装置１１０から出力された状態コマンドに基づいて第３図柄表示装置８１の表示領域にて表示される各種表示態様の種別（モード、背景）を設定し、その種別を示すコマンドを表示制御装置１１４へと出力するように構成している。

【７５６５】

このように構成することで、例えば、音声ランプ制御装置１１３側で設定されている遊技状態に対してそれぞれ変動演出表示の表示態様を設定する必要を無くすことが可能となる。つまり、現在設定されている遊技状態に対応する各種表示態様の種別を示すコマンド（種別コマンド）と、特別図柄の変動表示に対応する変動パターンコマンド（共通コマンド）とを表示制御装置１１４に出力するだけで、表示制御装置１１４側で受信した種別コマンドと、共通コマンドとに基づいて、現在の遊技状態と受信した変動パターンとに対応した表示態様で第３図柄表示装置８１に表示させる表示データを設定することができる。よって、音声ランプ制御装置１１３の処理負荷を軽減させることができる。

【７５６６】

なお、上述したように、音声ランプ制御装置１１３から受信した複数のコマンドを表示

制御装置１１４側で組み合わせることにより第３図柄表示装置８１に表示させる表示データを設定するように構成した場合には、表示制御装置１１４側から音声ランプ制御装置１１３側へと設定後の表示データの内容を示す情報（確認情報）を出力するように構成し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した確認情報が適正であるかを判別する判別手段を設け、その判別結果が適正では無いと判別した場合に、適正な情報を示す簡易的な表示用変動パターンコマンドを設定し、既に設定されている表示データの内容を簡易的な表示データに書き換えるように構成すると良い。

【７５６７】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３が主制御装置１１０から受信した各種コマンドに対して適正な表示データが設定されなかった場合に、適正な情報を示す簡易的な表示データを設定することができ、その簡易的な表示データに基づく変動演出表示を表示することができる。よって、実際の遊技結果（特別図柄の抽選結果）とは異なる内容の変動演出表示が実行されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、上述した簡易的な表示データにとしては、例えば、どの遊技状態にも対応しない特殊モード（例えば、黒背景のモード）を表示する表示データや、第４図柄の変動表示を実行する表示データといった、通常の変動演出表示にて用いる表示データよりもデータ量の少ない表示データを用いれば良い。

【７５６８】

なお、本第２２制御例では、上述した構成を用いているがこれに限ること無く、音声ランプ制御装置１１３側で、現在の遊技状態と、受信した変動パターンとに基づいた表示用変動パターンコマンドを設定するように構成しても良い。

【７５６９】

次に、図７２０を参照して、コマンド判定処理２２（図７１８のＦ２１１２参照）にて実行される入賞コマンド処理２２（Ｆ２２１２参照）の内容を説明する。図７２０は、入賞コマンド処理２２（Ｆ２２１２）の内容を示したフローチャートである。この入賞コマンド処理２２（Ｆ２２１２）は、主制御装置１１０から特別図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される入賞コマンド（入賞情報コマンド）や、普通図柄抽選の抽選権利を獲得した場合に設定される普図用入賞情報コマンドや、大当たり遊技中に球が特定ゲート（確変スイッチ）を流下（通過）した場合に設定されるＶ入賞コマンドを受信した場合に実行される処理である。

【７５７０】

入賞コマンド処理２２（Ｆ２２１２）が実行されると、まず、今回受信した入賞コマンド（入賞情報コマンド）の情報を入賞情報格納エリア（入賞情報記憶エリア）２２３ｂの対応する領域に格納（設定）し（Ｆ２４０１）、特図用入賞情報コマンド処理を実行する（Ｆ２４０２）。なお、特図用入賞情報コマンド処理の詳細は、図７２１を参照して後述する。

【７５７１】

特図用入賞情報コマンド処理が終わると、次いで、今回受信したコマンドはＶ入賞コマンド（入賞処理２２（図７１４のＦ１１１５参照）にて確変スイッチ（特定ゲート）へと球が流下した場合に設定されるコマンド（Ｆ１２４３参照））であるかを判別する（Ｆ２４０３）。受信したコマンドがＶ入賞コマンドである場合には（Ｆ２４０３：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞フラグ２２３ｖｔをオンに設定し（Ｆ２４０６）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンであるか判別する（Ｆ２４０５）。Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンである場合には（Ｆ２４０７：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓをオフに設定し（Ｆ２４０６）、Ｖ入賞を報知するための表示用コマンドを設定する（Ｆ２４０７）。そして、Ｖ報知フラグ２２３ｖｕをオンに設定し（Ｆ２４０８）、その他の処理を実行して（Ｆ２４０９）、本処理を終了する。

【７５７２】

一方、Ｆ２４０３の処理において、受信したコマンドはＶ入賞コマンドではない場合には（Ｆ２４０３：Ｎｏ）、Ｆ２４０５～Ｆ２４０８の処理をスキップし、Ｆ２４０９の処

理へ移行する。
【７５７３】
　また、Ｆ２４０５の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンでない場合には（Ｆ２４０５：Ｎｏ）、Ｆ２４０６～Ｆ２４０８の処理をスキップし、Ｆ２４０９の処理へ移行する。
【７５７４】
　Ｆ２４０９の処理では、その他の処理を実行し（Ｓ４４１３）、本処理を終了する。
【７５７５】
　次に、図７２１を参照して、入賞コマンド処理２２（図７２０のＦ２２１２）にて実行される特図用入賞情報コマンド処理２２（Ｆ２４０２）の内容を説明する。図７２１は、特図用入賞情報コマンド処理２２（Ｆ２４０２）の内容を示したフローチャートである。
【７５７６】
　特図用入賞情報コマンド処理２２（Ｆ２４０２）が実行されると、まず、今回受信した入賞コマンドは特図用の入賞コマンドであるか判別する（Ｆ２５０１）。受信したコマンドが特図用入賞コマンドである場合には（Ｆ２５０１：Ｙｅｓ）、従状態設定エリア２２３ｓｈに設定されている情報に基づいて現在の遊技状態を抽出し（Ｆ２５０２）、通常遊技状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）を示す情報であるか判別する（Ｆ２５０３）。通常遊技状態である場合には（Ｆ２５０３：Ｙｅｓ）、保留演出設定処理２２を実行し（Ｆ２５０４）、Ｆ２５０５の処理へ移行する。この保留演出設定処理２２は、上述した保留変化演出の演出内容を設定するための処理である。保留演出設定処理２２の詳細は、図７２２を参照して後述する。一方、通常遊技状態でない場合には（Ｆ２５０３：Ｎｏ）、Ｆ２５０４の処理をスキップし、Ｆ２５０５の処理へ移行する。
【７５７７】
　なお、本第２２制御例では、遊技状態として通常遊技状態が設定されている場合に保留変化演出を実行可能な構成としているが、これに限るものではなく、確変状態及び時短状態においても保留演出を実行可能な構成としても良い。
【７５７８】
　Ｆ２５０５の処理では、受信した特図用入賞情報コマンドに含まれる情報に基づいた表示用コマンドを設定し（Ｆ２５０５）、本処理を終了する。
【７５７９】
　次に、図７２２を参照して、特図用入賞コマンド処理２２（図７２１のＦ２４０２）にて実行される保留演出設定処理２２（Ｆ２５０４）の内容を説明する。図７２２は、保留演出設定処理２２（Ｆ２５０４）の内容を示したフローチャートである。
【７５８０】
　保留演出設定処理２２（Ｆ２５０４）が実行されると、まず、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンであるか判別する（Ｆ２５５１）。上述したように、後保留設定フラグ２２３ｖｎは複合保留変化演出の保留変化シナリオが設定され、変化対象の保留球の次に獲得した保留球の保留図柄の色が指定されている場合にオンに設定される。従って、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンである場合には（Ｆ２５５１：Ｙｅｓ）、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留演出情報に基づいて、対応する保留図柄の色を決定し（Ｆ２５５２）、後保留フラグ２２３ｓｎをオフに設定して（Ｆ２５５３）、決定した保留図柄の表示態様（色）を示すための表示用コマンドを設定し、Ｆ２５５５の処理へ移行する。
【７５８１】
　一方、Ｆ２５５１の処理において、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンでない場合には（Ｆ２５５１：Ｎｏ）、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍはオンであるか判別する（Ｆ２５５６）。保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンである場合には（Ｆ２５５６：Ｙｅｓ）、保留変化演出を新たに設定することが制限されている期間であるため、保留変化演出の設定に関連する処理をスキップし、Ｆ２５５５の処理へ移行する。
【７５８２】

Ｆ２５５６の処理において、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍがオンでない場合には（Ｆ２５５６：Ｎｏ）、保留変化演出抽選テーブル２２２ｖｂ（図６９４（ａ）参照）を参照して、保留変化演出実行の有無を決定する（Ｆ２５５７）。そして、Ｆ２５５７の処理において、単独保留変化演出の実行が決定されたかを判別し（Ｆ２５５８）、単独保留変化演出の実行が決定された場合には（Ｆ２５５８：Ｙｅｓ）、保留色選択テーブル２２２ｖｃ（図６９４（ｂ）参照）を参照して、今回の入賞コマンドに対応する保留図柄の色を決定し（Ｆ２５５９）、決定した保留演出情報を保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納する（Ｆ２５６０）。その後、決定した内容に対応させて保留演出制限中フラグ２２３ｖｍを設定し（Ｆ２５６１）、Ｆ２５５４の処理へ移行する。

【７５８３】

一方、Ｆ２５５８の処理において、単独保留変化演出は実行されないと判別した場合には（Ｆ２５５８：Ｎｏ）、Ｆ２５５７の処理において複合保留変化演出の実行が決定されたかを判別する（Ｆ２５６２）。複合保留変化演出の実行が決定された場合には（Ｆ２５６２：Ｙｅｓ）、複合保留変化演出設定処理２２を実行し（Ｆ２５６３）、Ｆ２５５４の処理に移行する。

【７５８４】

ここで、図７２３を参照して、複合保留変化演出設定処理２２について説明する。図７２３は、複合保留変化演出設定処理２２の内容を示したフローチャートである。

【７５８５】

複合保留変化演出設定処理２２（Ｆ２５１７）が実行されると、まず、保留変化シナリオ選択テーブル２２２ｖｄ（図６９５参照）を参照して保留変化シナリオを決定し（Ｆ２６０１）、Ｆ２６０１の処理で決定した内容に対応する保留図柄の色を決定する（Ｆ２６０２）。そして、Ｆ２６０１の処理で決定した内容用を示す保留演出情報を保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納する（Ｆ２６０３）。その後、Ｆ２６０１の処理で決定した内容に対応させて、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍを設定し（Ｆ２６０４）、Ｆ２６０１の処理で決定した内容に対応させて後保留設定フラグ２２３ｖｎを設定して（Ｆ２６０５）、保留演出設定処理２２（図７２２参照）に戻る。

【７５８６】

図７２２に戻り説明を続ける。Ｆ２５６２の処理において、複合保留変化演出は実行されないと判別した場合には（Ｆ２５６２：Ｎｏ）、Ｆ２５５５の処理に移行する。

【７５８７】

Ｆ２５５５の処理では、今回受信した特図用入賞情報コマンドに含まれる情報に基づいた表示用コマンドを設定し（Ｆ２５５５）、Ｆ２５５５の処理終了後、特図用入賞情報コマンド処理２２に戻る。

【７５８８】

次に、図７２４を参照して、コマンド判定処理２２（図７１８のＦ２１１２参照）にて実行される停止コマンド処理２２（Ｆ２２１４）の内容について説明する。図７２４は、停止コマンド処理２２（Ｆ２２１４）の内容を示したフローチャートである。主制御装置１１０から停止コマンドを受信した場合、即ち、特別図柄の停止タイミングにおける各種処理を実行するものである。

【７５８９】

停止コマンド処理２２（Ｆ２２１４）が実行されると、まず、揺れ待機フラグ２２３ｖｗはオンであるか判別する（Ｆ２６５１）。揺れ待機フラグ２２３ｖｗがオンである場合には（Ｆ２６５２：Ｙｅｓ）、大当たり当選を示す表示態様（本第２２制御例では、「祝福」の表示）を示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ２６５２）、揺れ待機フラグ２２３ｖｗをオフに設定して（Ｆ２６５３）、Ｆ２６５４の処理へ移行する。一方、Ｆ２６５１の処理において、揺れ待機フラグ２２３ｖｗがオンでない場合には（Ｆ２６５１：Ｎｏ）、Ｆ２６５２、Ｆ２６５３の処理をスキップし、Ｆ２６５４の処理を実行する。

【７５９０】

Ｆ２６５４の処理では、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留演出

情報を読み出し（Ｆ２６５４）、変動実行中の特別図柄に対応する保留図柄を変化対象とする保留変化シナリオはあるか判別し（Ｆ２６５５）、変動実行中の特別図柄に対応する保留図柄を変化対象とする保留変化シナリオがある場合には（Ｆ２６５５：Ｙｅｓ）、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍをオフに設定し（Ｆ２６５６）、第３図柄の停止表示を決定して（Ｆ２６５７）、本処理を終了する。一方、Ｆ２６５５の処理において、変動実行中の特別図柄に対応する保留図柄を変化対象とする保留変化シナリオがない場合には（Ｆ２６５５：Ｎｏ）、Ｆ２６５６の処理をスキップし、Ｆ２６５７の処理へ移行する。

【７５９１】

次に、図７２６を参照して、大当たり関連処理２２（Ｆ２２１６）の内容について説明をする。図７２６は、大当たり関連処理（Ｆ２２１６）の内容を示したフローチャートである。大当たり関連処理（Ｆ２２１６）では、大当たりに当選した場合に実行される大当たり遊技に対応した演出表示を第３図柄表示装置８１に実行させるための処理を行うものであり、大当たりに当選した場合に、主制御装置１１０から送信される様々なコマンドに対応した処理が実行される。

【７５９２】

大当たり関連処理２２（Ｆ２２１６）では、まず、今回受信したコマンドが、大当たり開始コマンドであるかを判別する（Ｆ２７０１）。大当たり開始コマンドであると判別した場合には（Ｆ２７０１：Ｙｅｓ）、表示用大当たり開始コマンドを設定する（Ｆ２７０２）。ここで設定される表示用大当たり開始コマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図７１７参照）のコマンド出力処理（Ｆ２１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用大当たり開始コマンドを受信すると、大当たりの開始を示唆する演出を第３図柄表示装置８１に表示する。

【７５９３】

次いで、今回の大当たり種別が大当たりＣ（３Ｒ時短大当たり）であるかを判別し（Ｆ２７０３）、大当たりＣであると判別した場合は（Ｆ２７０３：Ｙｅｓ）、チャンスモード突入ことを示すエンディング表示態様を設定し（Ｆ２７０４）、本処理を終了する。一方、大当たりＣでは無いと判別した場合（Ｆ２７０３：Ｎｏ）、今回の大当たり種別が大当たりＡ（１０Ｒ確変大当たり）であるかを判別し（Ｆ２５０５）、大当たりＡではないと判別した場合（Ｆ２７０５：Ｎｏ）、即ち、大当たりＢ（３Ｒ確変大当たり）である場合には、Ｆ２７０４の処理へ移行する。

【７５９４】

ここで、本第２２制御例におけるチャンスモードは、設定されている遊技状態が確変遊技状態か、時短遊技状態かを遊技者が識別できないモードとして構成しており、このように構成することで、大当たり遊技終了後に設定される表示モードがスーパーチャンスモード（確変遊技状態が設定されている場合のみ設定される表示モード）ではなくても、確変状態が設定されていることを期待させることで遊技者の遊技意欲低下を抑制することができるものである。

【７５９５】

しかしながら、確変大当たりに当選した場合に実行される大当たり遊技中にＶ演出（遊技者に特定領域（Ｖゲート）６５ｖに向けて遊技球の発射を促すための演出）が実行されることで、遊技者は確変大当たりに当選したことを認識できるため、Ｖ演出が実行されなかった大当たり遊技終了後に設定されるチャンスモードは確変遊技状態ではないと分かってしまう虞があった。

【７５９６】

このため、本第２２制御例では、確変大当たりである大当たりＢに当選した場合には、その大当たり遊技実行中にＶ演出を実行しない構成としている。このように構成することで、遊技者に今回のチャンスモードは確変遊技状態か、時短遊技状態かを分かり難くし、確変状態が設定されていることを期待させることで遊技者の遊技意欲低下を抑制することができる。

【７５９７】
一方で、Ｆ２７０５の処理において、大当たりＡであると判別した場合には（Ｆ２７０５：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓオンに設定し（Ｆ２７０６）、スーパーチャンスモード突入（確変状態が設定される）ことを示すエンディング表示態様を設定し（Ｆ２７０７）、本処理を終了する。
【７５９８】
このように、本第２２制御例では、図７２５を参照して上述した通り、設定される大当たり種別（大当たりＡ、大当たりＢ、大当たりＣ）に応じて異なるエンディング表示態様が設定されており、大当たり遊技が開始されるタイミングにて今回実行される大当たり遊技のエンディング期間に対応させたエンディング表示態様を予め設定するように構成している。このように構成することで、各種制御（大当たり遊技の進行状況に応じて可変表示させる大当たり遊技情報の可変表示制御（例えば、獲得した賞球数を示すための情報を表示させる制御や実行中のラウンド遊技数を示すための情報を表示させる制御）や、大当たり遊技中に可変入賞装置６５へと入賞した球数に応じて賞球を払い出すための賞球払出制御）が頻繁に実行される大当たり遊技期間中にエンディング表示態様を設定するための表示制御を実行する必要が無くなるため、音声ランプ制御装置１１３、表示制御装置１１４の処理負荷を軽減させることができる。なお、本第２２制御例では、大当たり遊技の開始タイミングにてエンディング表示態様を設定する処理を実行しているが、これに限ること無く、大当たり遊技が実行されることが確定している特別図柄の大当たり変動中にエンディング表示態様を設定しても良いし、大当たり遊技期間のうち、制御処理が少ない期間に実行される音声ランプ制御装置１１３のメイン処理の残余期間を用いて設定するように構成しても良い。
【７５９９】
一方、Ｆ２７０１の処理にて、大当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｆ２７０１：Ｎｏ）、次に、ラウンド数コマンドを受信したかを判別し（Ｆ２７０８）、ラウンド数コマンドを受信したと判別した場合は（Ｆ２７０８：Ｙｅｓ）、ラウンド数に基づいて表示用ラウンド数コマンドを設定し（Ｆ２７１０）、今回のラウンド数が２ラウンド（Ｖラウンド）であるかを判別する（Ｆ２７１０）。２ラウンド（Ｖラウンド）であると判別した場合は（Ｆ２７１０：Ｙｅｓ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンであるか否かを判別する（Ｆ２７１１）。Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンであると判別した場合は（Ｆ２７１１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞を案内する表示用コマンドを設定し（Ｆ２７１２）、本処理を終了する。また、Ｆ２７１０の処理で今回のラウンド数が２ラウンド（Ｖラウンド）では無い、即ち、２ラウンド目以外のラウンド遊技が開始されると判別した場合と（Ｆ２７１０：Ｎｏ）、Ｆ２７１１の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオフであると判別した場合も（Ｆ２７１１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【７６００】
Ｆ２７０８の処理でラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｆ２７０８：Ｎｏ）、次に、エンディングコマンドを受信したかを判別し（Ｆ２７１３）、受信したと判別した場合は（Ｆ２７１３：Ｙｅｓ）、エンディング処理２２を実行し（Ｆ２７１４）、本処理を終了する。また、Ｆ２７１３の処理にてエンディングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｆ２７１３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【７６０１】
次に、図７２７を参照して、エンディング処理２２（Ｆ２７１４）の処理について説明をする。図７２７は、エンディング処理２２（Ｆ２７１４）の内容を示したフローチャートである。このエンディング処理２２（Ｆ２７１４）は、上述した大当たり関連処理２２（図７２５のＦ２２１６参照）にてエンディングコマンドを受信したと判別した場合に実行される処理であって、エンディング期間中に実行されるエンディング表示態様を最終的に決定するための処理を実行するものである。
【７６０２】
エンディング処理２２（Ｆ２７１４）が実行されると、まず、Ｖ入賞フラグ２２３ｖｔ

がオンに設定されているかを判別し（Ｆ２８０１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｆ２８０１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞フラグ２２３ｖｔをオフに設定し（Ｆ２８０２）、既に設定されているエンディング表示態様に対応するエンディング表示の実行を設定し（Ｆ２８０５）、本処理を終了する。また、Ｆ２８０１の処理においてＶ入賞フラグ２２３ｖｔがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｆ２８０１：Ｎｏ）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンであるかを判別し（Ｆ２８０３）、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオフであると判別した場合は（Ｆ２８０３：Ｎｏ）、そのままＦ２８０４の処理へ移行する。

【７６０３】

一方、Ｆ２８０３の処理において、Ｖ演出実行フラグ２２３ｖｓがオンであると判別した場合は（Ｆ２８０３：Ｙｅｓ）、エンディング期間のうち、後半期間（７秒）の表示態様を切り替えるための表示切替コマンドを設定し（Ｆ２８０４）、Ｆ２８０５の処理へ移行する。

【７６０４】

Ｆ２８０４の処理において表示切替コマンドが設定されると、表示制御装置１１４へと通知され、予めスーパーチャンスモードが設定されることに対応して設定されていたエンディング期間の後半期間の表示態様を、チャンスモードが設定されることに対応する表示態様へと切り替える処理が実行される。本第２２制御例では、この表示切替コマンドに基づいて切り替えられる表示態様の表示期間を一定（７秒）にしているため、容易に表示態様を切り替えることができる。

【７６０５】

次に、図７２８を参照して、変動表示設定処理２２（Ｆ２１１３）の内容について説明をする。図７２７は、変動表示設定処理２２（Ｆ２１１３）の内容を示したフローチャートである。この変動表示設定処理２２（Ｆ２１１３）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図７１７参照）の中で実行され、第３図柄表示装置８１において変動演出を実行させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し設定する。

【７６０６】

変動表示設定処理２２（Ｆ２１１３）では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられた変動開始フラグ２２３ｖｄがオンかを判別する（Ｆ２９０１）。そして、変動開始フラグ２２３ｖｄがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｆ２９０１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、Ｆ２９１１の処理へ移行する。一方、変動開始フラグ２２３ｖｄがオンであると判別した場合（Ｆ２９０１：Ｙｅｓ）、次に、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉはオンであるか判別する（Ｆ２９０２）。調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンである場合（Ｆ２９０２：Ｙｅｓ）、調整用可動役物（剣役物Ｙｍ３）が調整位置にある状態（図６７８（ｂ）参照）であるので、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉをオフに設定し（Ｆ２９０３）、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）に付随するＬＥＤを全消灯させるためのランプ制御用コマンドを設定する（Ｆ２９０４）。その後、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を初期位置（図６６９（ａ）参照）へと可動させるための役物動作シナリオを設定し（Ｆ２９０５）、制限タイマ２２３ｖｊに１０秒に対応する値を設定して（Ｆ２９０６）、Ｆ２９０７の処理へ移行する。

【７６０７】

このように、本第２２制御例では、特別図柄の変動表示が実行されていない待機期間中に遊技者が剣役物Ｙｍ３を用いた光量調整を実行している場合に、特別図柄の変動表示が開始されると、遊技者が変動演出を視認し易いように剣役物Ｙｍ３を格納させるための処理を実行する構成としている。また、この際に、剣役物Ｙｍ３が発光した状態で調整位置から初期位置へと戻る動作を行うと、その動作が変動演出における演出の一部であると遊技者に誤解を与える虞があるため、それを抑制するために、剣役物Ｙｍ３が調整位置から初期位置へと戻る動作をする前に、剣役物Ｙｍ３に付随するＬＥＤを全消灯することにより、今回の剣役物Ｙｍ３の動作は変動演出とは関係がないことを遊技者に分かり易くする

ことができる。
【７６０８】
なお、剣役物Ｙｍ３が調整位置にある状態で開始された特別図柄の抽選結果が大当たり当選であった場合には、剣役物Ｙｍ３に付随するＬＥＤを全消灯させるのではなく、例えば、虹色に発光させてから初期位置へと戻す構成としても良い。
【７６０９】
一方、Ｆ２９０２の処理において、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンでない場合には（Ｆ２９０２：Ｎｏ）、Ｆ２９０３～Ｆ２９０６の処理をスキップし、Ｆ２９０７の処理に移行する。
【７６１０】
Ｆ２９０７の処理では、変動開始フラグ２２３ｖｄをオフに設定し（Ｆ２９０７）、次いで、コマンド判定処理２２（図７１８のＦ２２０３参照）のＦ２２０５の処理で抽出した変動パターンを取得する（Ｆ２９０８）。そして、表示制御装置１１４へ通知するための表示用変動パターンコマンドを取得した変動パターン種別に基づいて生成するための変動演出設定処理２２を実行し（Ｆ２９０９）、表示用変動パターンコマンドを設定して（Ｆ２９１０）、Ｆ２９１１の処理へ移行する。変動演出設定処理２２（Ｆ２９０９）の詳細については図７２８を参照して後述する。
【７６１１】
Ｆ２９１１の処理では、ＲＡＭ２２３に設けられた停止種別選択フラグ２２３ｖｅがオンかを判別する（Ｆ２９１１）。そして、停止種別選択フラグ２２３ｖｅがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｆ２９１１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より停止種別コマンドを受信していない状態であるので、そのまま本処理を終了する。一方、停止種別選択フラグ２２３ｖｅがオンであると判別した場合（Ｆ２９１１：Ｙｅｓ）、オンに設定されている停止種別選択フラグ２２３ｖｅをオフに設定し（Ｆ２９１２）、次いで、コマンド判定処理２２（図７１８のＳ２１１２参照）のＳ２２０８の処理において抽出した停止種別を取得し（Ｆ２９１３）、抽出した停止種別をそのまま設定する（Ｆ２９１４）。その後、表示用停止種別コマンドを設定して（Ｆ２９１５）、本処理を終了する。
【７６１２】
次に、図７２８を参照して、変動表示設定処理２２（図７２７のＦ２１１３参照）にて実行される変動演出設定処理２２（Ｆ２９０９）の内容について説明する。図７２８は、変動演出設定処理２２（Ｆ２９０９）の内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理２２（Ｆ２９０９）は、変動表示設定処理２２（図７２７のＦ２１１３参照）にて、特別図柄の変動演出を設定する際に実行されるものであって、設定されている遊技状態に対応した変動演出の演出態様を設定するための処理が実行される。
【７６１３】
変動演出設定処理２２（Ｆ２９０９）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が０以上であるか判別する（Ｆ３００１）。時短中カウンタｓｑの値が０以上ではない場合（Ｆ３００１：Ｎｏ）、即ち、表示モードとしてチャンスモードが設定されている場合にはＦ３００２、Ｆ３００３の処理をスキップし、Ｆ３００４の処理に移行する。一方、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が０以上である場合（Ｆ３００１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｖｑの値を１減算し（Ｆ３００２）、減算後の時短中カウンタ２２３ｖｑの値を示すための表示用コマンドを設定して（Ｆ３００３）、Ｆ３００４の処理に移行する。
【７６１４】
Ｆ３００４の処理では、確変中カウンタ２２３ｓｒの値が０以上であるか判別する（Ｆ３００４）。確変中カウンタ２２３ｓｒの値が０以上ではない場合（Ｆ３００４：Ｎｏ）、即ち、確変遊技状態が設定されてない場合には、Ｆ３００５～Ｆ３００７の処理をスキップし、Ｆ３００８の処理に移行する。
【７６１５】
一方、Ｆ３００４の処理において、確変中カウンタ２２３ｓｒの値が０以上である場合

には（Ｆ３００４：Ｙｅｓ）、確変中カウンタ２２３ｓｒの値を１減算し（Ｆ３００５）、次いで、表示モードとしてスーパーチャンスモードが設定されているか判別する（Ｆ３００６）。スーパーチャンスモードが設定されている場合には（Ｆ３００６：Ｙｅｓ）、減算後の確変中カウンタ２２３ｓｒの値を示すための表示用コマンドを設定する。一方、Ｆ３００６の処理において、スーパーチャンスモードが設定されていない場合には（Ｆ３００６：Ｎｏ）、Ｆ３００７の処理をスキップし、Ｆ３００８の処理へ移行する。

【７６１６】

Ｆ３００８の処理では、制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上であるか判別する（Ｆ３００８）。制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上である場合（Ｆ３００８：Ｙｅｓ）、即ち、剣役物Ｙｍ３が調整位置から初期位置に戻ってから１０秒経過していない場合には、決定可能な演出態様の候補から剣役物Ｙｍ３の動作を含む演出態様の排除を決定する（Ｆ３００９）。一方、制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上ではない場合（Ｆ３００８：Ｎｏ）、Ｆ３００９の処理をスキップし、Ｆ３０１０に移行する。

【７６１７】

このように、本第２２制御例では、剣役物Ｙｍ３が可動した後、一定期間（１０秒）経過するまでは、剣役物Ｙｍ３を可動させる演出態様が選択されない構成としている。このように構成することで、短期間の間に剣役物Ｙｍ３に対する可動制御が実行されてしまうことを抑制することができるため、剣役物Ｙｍ３が頻繁に可動してしまい、剣役物Ｙｍ３が故障してしまう事態が発生することを抑制することができる。加えて、剣役物Ｙｍ３が可動可能な状態となるよりも前に次の剣役物Ｙｍ３に対する可動制御が実行され、剣役物Ｙｍ３の可動期間にズレが発生したり、正常な可動動作が実行されなかったりする事態が発生することを抑制することができる。

【７６１８】

Ｆ３０１０の処理では、従状態格納エリア２２３ｖｈに格納されている遊技状態を読み出し（Ｆ３０１０）、遊技状態が時短遊技状態であるか判別する（Ｆ３０１１）。時短遊技状態である場合には（Ｆ３０１１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が１であるか判別し（Ｆ３０１２）、１である場合には（Ｆ３０１２：Ｙｅｓ）、演出結果がチャンスモード終了となる時短終了示唆演出の演出態様を決定して（Ｆ３０１３）、Ｆ３０１４の処理に移行する。一方、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が１ではないと判別した場合には（Ｆ３０１２：Ｎｏ）、Ｆ３０１３の処理をスキップし、Ｆ３０１４の処理へ移行する。Ｆ３０１４の処理では、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する演出態様を決定し、Ｆ３０１９の処理へ移行する。

【７６１９】

Ｆ３０１１の処理において、時短遊技状態ではないと判別した場合には（Ｆ３０１１：Ｎｏ）、確変遊技状態であるか判別する（Ｆ３０１３）。確変状態であると判別した場合には（Ｆ３０１５：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が１であるか判別して（Ｆ３０１６）、１である場合には（Ｆ３０１６：Ｙｅｓ）、演出結果がスーパーチャンスモード昇格となる時短終了示唆演出の演出態様を決定し（Ｆ３０１７）、Ｆ３０１４の処理へ移行する。

【７６２０】

このように、本第２２制御例では、大当たりＢ（３Ｒ確変大当たり）に当選したことに基づいて確変遊技状態が設定された場合には、大当たり遊技終了後にチャンスモードが設定されても、所定回数（１００回）の特別図柄の変動表示が実行されると、スーパーチャンスモードに昇格する構成としている。このように構成することで、チャンスモードの最終変動においてスーパーチャンスモードに昇格するかもしれないと遊技者に思わせることが可能となり、チャンスモードの残回数が０回となった場合に遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【７６２１】

Ｆ３０１５の処理において、確変遊技状態ではないと判別された場合には（Ｆ３０１５：Ｎｏ）、通常遊技状態が設定されているため、通常状態演出態様決定処理２２が実行さ

れる（Ｆ３０１８）。ここで、図７２９を参照して、通常状態演出態様決定処理２２（Ｆ３０１８）の内容について説明する。図７２９は、通常状態演出態様決定処理２２（Ｆ３０１８）の内容を示したフローチャートである。

【７６２２】

通常状態演出態様決定処理２２（Ｆ３０１８）が実行されると、まず、変動表示設定処理２２（図７２７のＦ２１１３）のＦ２９０８の処理において取得した変動パターンに基づいて、変動パターン選択テーブル（図示しない）を参照して、変動演出種別を決定する（Ｆ３１０１）。そして、決定された変動演出態様はシャッター閉鎖リーチであるか判別する（Ｆ３１０２）。シャッター閉鎖リーチが決定された場合には（Ｆ３１０２：Ｙｅｓ）、特別図柄抽選の結果と第１演出カウンタ２２３ｖｆの値に基づいて、シャッター閉鎖リーチ選択テーブル２２２ｖｅ（図６９６参照）を参照して、演出態様を決定し（Ｆ３１０３）、Ｆ３１０８の処理へ移行する。

【７６２３】

一方、Ｆ３１０２の処理において、シャッター閉鎖リーチではないと判別した場合には（Ｆ３１０２：Ｎｏ）、ムービー実行リーチであるか判別する（Ｆ３１０４）。ムービー実行リーチであると判別した場合には（Ｆ３１０４：Ｙｅｓ）、特別図柄抽選の結果を示すための演出態様を決定し（Ｆ３１０５）、演出パターンに対応した操作有効期間の設定情報を演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに格納して（Ｆ３１０６）、Ｆ３１０８の処理へ移行する。

【７６２４】

Ｆ３１０４の処理において、ムービー実行リーチではないと判別した場合には（Ｆ３１０４：Ｎｏ）、その他、決定された変動演出種別に対応する演出態様を決定し（Ｆ３１０７）、Ｆ３１０８の処理へ移行する。Ｆ３１０８の処理では、変動開始時保留演出実行処理２２（Ｆ３１０８）を実行する。なお、変動開始時保留演出実行処理２２の内容は、図７３０を参照して後述する。その後、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し、本処理を終了する。

【７６２５】

このように、本第２２制御例では、通常遊技状態において、確変遊技状態及び時短遊技状態よりも多様なリーチ演出を実行可能に構成しているため、確変遊技状態及び時短遊技状態よりも遊技者に不利な通常遊技状態での遊技に遊技者が早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７６２６】

次に、図７３０を参照して、変動開始時保留演出実行処理２２の内容について説明する。図７３０は、変動開始時保留演出実行処理２２の内容を示したフローチャートである。この変動開始時保留演出実行処理２２（Ｆ３１０９）は、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留変化シナリオに基づいて複合保留変化演出を実行するための処理である。

【７６２７】

変動開始時保留演出設定処理２２（Ｆ３１０９）が実行されると、まず、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留演出情報を読み出し（Ｆ３２０１）、保留変化シナリオ情報があるか判別する（Ｆ３２０２）。保留変化シナリオがない場合には（Ｆ３２０２：Ｎｏ）、複合保留変化演出が設定されていないため、本処理を終了する。一方、保留変化シナリオ情報がある場合には（Ｆ３２０２：Ｙｅｓ）、今回の特別図柄の変動時間は１０秒以上であるか判別する（Ｆ３２０３）。変動時間が１０秒以上ではない場合には（Ｆ３２０３：Ｎｏ）、本処理を終了する。

【７６２８】

このように、本第２２制御例では、変動時間が１０秒以上である場合のみ保留変化シナリオに対応する複合保留変化演出を実行する構成としている。これは、本第２２制御例で実行される保留変化演出では、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２を動作させた演出であることから、保留変化演出が実行され、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役

物Ｙｍ２が可動してから格納状態となるまでの期間に特別図柄の変動が終了し、左チェンジ役物Ｙｍ１と右チェンジ役物Ｙｍ２が可動状態のまま次の変動が開始されることを防ぐためである。

【７６２９】

Ｆ３２０３の処理において、変動時間が１０秒以上である場合には（Ｆ３２０３：Ｙｅｓ）、格納されている保留変化シナリオは１，４，７，９のいずれかであるか判別する（Ｆ３２０４）。保留変化シナリオが１，４，７，９のいずれかである場合には（Ｆ３２０４：Ｙｅｓ）、保留変化の対象保留図柄は第３保留図柄ｈｒ３（図６７２参照）であるかを判別し（Ｆ３２０５）、第３保留図柄ｈｒ３である場合には（Ｆ３２０５：Ｙｅｓ）、役物動作シナリオ２（図６９７参照）を決定し（Ｆ３２０６）、Ｆ３２０７の処理へ移行する。一方、保留変化の対象保留図柄が第３保留図柄ｈｒ３ではない場合には、本処理を終了する。

【７６３０】

なお、保留変化シナリオ１，４，７，９はいずれも、保留変化の対象保留図柄の色に、その１つ前の保留図柄の色を移植するシナリオであるため、保留変化の対象保留図柄の１つ前の保留図柄を左チェンジ役物Ｙｍ１によって隠す動作が行われる。なお、保留変化シナリオ２は、保留変化の対象保留をチェンジ役物Ｙｍ２で隠すことにより、対象保留の色を可変する特殊なシナリオである。

【７６３１】

Ｆ３２０４の処理において、保留変化シナリオは１，２，４，７，９のいずれでもない場合には（Ｆ３２０４：Ｎｏ）、保留変化の対象保留図柄は第２保留図柄ｈｒ２（図６７２参照）であるか判別する（Ｆ３２１０）。第２保留図柄ｈｒ２ではない場合には（Ｆ３２１０：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、第２保留図柄ｈｒ２であると判別した場合には（Ｆ３２１０：Ｙｅｓ）、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンであるか判別する（Ｆ３２１１）。後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンである場合（Ｆ３２１１：Ｙｅｓ）、即ち、保留変化の対象保留図柄に対応する保留球を獲得してから次の保留球を獲得していない状態である場合には、後保留設定フラグ２２３ｖｎをオフに設定し（Ｆ３２１５）、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留変化シナリオをクリアして（Ｆ３２１６）、本処理を終了する。

【７６３２】

このように、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンである場合には、複合保留変化演出を実行しない構成とするのは、保留変化シナリオ１，４，７，９以外の保留変化シナリオがいずれも保留変化の対象保留図柄の後に獲得した保留図柄の色に、保留変化の対象保留図柄の色を移植するシナリオであるためであり、このように構成することで、遊技者に対して不自然な演出が実行されることを抑制することができる。

【７６３３】

Ｆ３２１１の処理において、後保留設定フラグ２２３ｖｎがオンではない場合には（Ｆ３２１１：Ｎｏ）、次に、格納されている保留変化シナリオが５，９のいずれかであるか判別する（Ｆ３２１２）。保留変化シナリオが６，１１のいずれかではないと判別した場合には（Ｆ３２１２：Ｎｏ）、役物動作シナリオ１を決定し（Ｆ３２１３）、Ｆ３２０７の処理に移行する。上述したように、保留変化シナリオ３，５，８，１０はいずれも保留変化の対象保留図柄の後に獲得した保留図柄の色を、保留変化の対象保留図柄の色に移植するシナリオであるため、右チェンジ役物Ｙｍ２によって保留変化の対象保留図柄を隠す動作が行われる。

【７６３４】

一方、Ｆ３２１２の処理において、保留変化シナリオ６，１１のいずれかであると判別した場合には（Ｆ３２１４：Ｙｅｓ）、役物動作シナリオ３（図６９７参照）を決定し（Ｆ３２１４）、Ｆ３２０７の処理に移行する。なお、保留変化シナリオ６，１１はいずれも、保留変化の対象保留図柄の前後の保留図柄の色を対象保留図柄に移植するシナリオであるため、役物動作シナリオ３では第１保留図柄ｈｒ１を左チェンジ役物Ｙｍ１で隠し、

第３保留図柄ｈｒ３を右チェンジ役物Ｙｍ２で隠す動作を行う。
【７６３５】
Ｆ３２０７の処理では、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている保留変化シナリオに対応する演出態様を決定し（Ｆ３２０７）、決定した演出態様を示す表示用パターンコマンドを設定する（Ｆ３２０８）。そして、決定した役物動作シナリオを示す役物動作用コマンドを設定し（Ｆ３２０９）、保留演出制限中フラグ２２３ｖｍをオフに設定して（Ｆ３２１７）、本処理を終了する。
【７６３６】
このように、本第２２制御例では、予め設定されている保留変化シナリオに基づいて、その変動において保留変化シナリオに対応する保留変化演出の実行可否を判別し、実行可能であれば保留変化演出を実行する構成としている。このように構成することで、保留変化演出の実行中に特別図柄の変動が終了することによって生じる不具合や、遊技者に対して不自然な演出が実行されることを抑制することができる。
【７６３７】
次に、図７３１を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される枠ボタン入力監視・演出処理２２（Ｆ２１０７）について説明する。図７３１は、この枠ボタン入力監視・演出処理２２（Ｆ２１０７）を示したフローチャートである。この枠ボタン入力監視・演出処理２２（Ｆ２１０７）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図７１７参照）の中で実行され、第３図柄表示装置８１において演出効果を高めるために遊技者の操作に応じた演出を実行させるために、枠ボタン２２Ａの操作に基づいて表示用コマンドを生成し設定する。
【７６３８】
枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１，Ｆ２１０７）では、まず、音量調整ボタン（上ボタン６００ｂ、又は、下ボタン６００ｄ）又は、光量調整ボタン（右ボタン６００ｃ、又は、左ボタン６００ｅ）への操作があったか判別する（Ｆ３３０１）。操作があった場合には（Ｆ３３０１：Ｙｅｓ）、調整期間中フラグ２２３ｖｘがオンであるか判別し（Ｆ３３０２）、オンでない場合には（Ｆ３３０２：Ｎｏ）、環境情報調整画面の表示を決定し（Ｆ３３０３）、調整期間中フラグ２２３ｖｘをオンに設定して（Ｆ３３０４）、経過タイマ２２３ｖｙに１０秒に対応する値をセットする（Ｆ３３０５）。
【７６３９】
その後、待機期間中であるか判別し（Ｆ３３０６）、待機期間中であると判別した場合には（Ｆ３３０６：Ｙｅｓ）、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置（図６７８（ｂ）参照）へと可変させるための動作シナリオを設定し（Ｆ３３０７）、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉをオンに設定する（Ｆ３３０８）。そして、調整用役物可動中であることを示すための態様（図６７８の表示領域ＨＲ３の表示）を決定し（Ｆ３３０９）、Ｆ３３１０の処理へ移行する。
【７６４０】
一方、Ｆ３３０６の処理において、待機期間中ではないと判別した場合には（Ｆ３３０６：Ｎｏ）、即ち、特別図柄の変動表示中、或いは、大当たり遊技中であるため、Ｆ３３０７～Ｆ３３０９の処理をスキップし、Ｆ３３１０の処理へ移行する。このように、本第２２制御例では、待機期間以外の期間に選択ボタン６００が操作された場合には、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置に可変させない構成とすることで、変動演出に調整用役物（剣役物Ｙｍ３）が重なって遊技者が変動演出を視認できないという不具合が生起しない構成としている。
【７６４１】
なお、本第２２制御例では、待機期間以外の期間で選択ボタン６００が操作された場合には、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置に可変させない構成としたが、これに限るものではなく、例えば、調整用役物Ｙｍ３を環境調整位置に可変させ、特別図柄の変動演出を調整用役物（剣役物Ｙｍ３）と重ならない位置に縮小表示させる構成としても良い。

【７６４２】
Ｆ３３０２の処理において、調整期間中フラグ２２３ｖｘがオンである場合には（Ｆ３３０２：Ｙｅｓ）、既に環境情報調整画面の表示がされている状態であるため、環境情報格納エリア２２３ｖｋに格納されている環境情報をボタン操作内容に対応させて更新し（Ｆ３３１１）、更新後の環境情報に対応する態様を決定する（Ｆ３３１２）。そして、経過タイマ２２３ｖｙに１０秒に対応する値を再セットし（Ｆ３３１３）、Ｆ３３１０の処理へ移行する。
【７６４３】
Ｆ３３０１の処理において、音量調整ボタン（上ボタン６００ｂ、又は、下ボタン６００ｄ）又は、光量調整ボタン（右ボタン６００ｃ、又は、左ボタン６００ｅ）への操作がなかった場合には（Ｆ３３０１：Ｎｏ）、決定ボタン６００ａの操作があったか判別する（Ｆ３３１４）。決定ボタン６００ａの操作があった場合には（Ｆ３３１４：Ｙｅｓ）、決定ボタン操作処理２２（Ｆ３３１５）を実行し、Ｆ３３１０の処理へ移行する。なお、決定ボタン操作処理２２の内容は、図７３２を参照して後述する。
【７６４４】
一方、Ｆ３３１４の処理において、決定ボタンの操作がなかった場合には（Ｆ３３１４：Ｎｏ）、演出ボタン操作処理２２を実行し（Ｆ３３１６）、Ｆ３３１０の処理を実行する。Ｆ３３１０の処理では、決定した態様に対応する表示用コマンドを設定し（Ｆ３３１０）、本処理を終了する。なお、演出ボタン操作処理２２の内容は、図７３３を参照して後述する。
【７６４５】
次に、図７３２を参照して、枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）にて実行される決定ボタン操作処理２２（Ｆ３３１５）の内容について説明する。図７３２は、決定ボタン操作処理２２の内容を示したフローチャートである。
【７６４６】
決定ボタン操作処理２２（Ｆ３３１５）が実行されると、まず、調整期間中フラグ２２３ｖｘがオンであるか判別する（Ｆ３３５１）。調整期間中フラグ２２３ｖｘがオンでないと判別した場合には（Ｆ３３５１：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、調整期間中フラグ２２３ｖｘがオンである場合には（Ｆ３３５１：Ｙｅｓ）、経過タイマの値を１にセットし（Ｆ３３５２）、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンであるか判別する（Ｆ３３５３）。調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンでない場合には（Ｆ３３５３：Ｎｏ）、本処理を終了する。
【７６４７】
一方、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンである場合には（Ｆ３３５２：Ｙｅｓ）、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置にある状態であるため、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を初期位置へと可変させるための動作シナリオを設定し（Ｆ３３５４）、環境調整の終了を示す表示態様（図６７９（ａ）の環境調整終了表示ｃｍ１）を決定する（Ｆ３３５５）。そして、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉをオフに設定し（Ｆ３３５６）、制限タイマ２２３ｖｊに１０秒に対応する値をセットして（Ｆ３３５７）、本処理を終了する。
【７６４８】
なお、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）が環境調整位置にある場合に、特別図柄の変動表示が開始された場合には、調整用役物Ｙｍ３に付随するＬＥＤを全消灯させる処理（図７２７のＦ２９０４参照）を実行したが、決定ボタンが操作されたことに対応して調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置から初期位置へと可変させる場合には、まだ特別図柄の変動演出が実行されていない状態であり、遊技者に対して調整用役物（剣役物Ｙｍ３）の動作が変動演出の一部であると誤解させる虞がないため、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）に付随するＬＥＤを全消灯させずに初期位置へと可変させる。
【７６４９】
また、決定ボタン操作処理２２において、経過タイマ２２３ｖｙの値を１に設定するこ

とで、次の演出更新処理２２（図７３４のＦ２１１１参照）が実行された時に経過タイマ２２３ｖｙの値を０にすることができるため、調整期間中フラグ２２３ｖｘをオフに設定する処理を統一することができる。

【７６５０】

次に、図７３３を参照して、枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）にて実行される演出ボタン操作処理２２（Ｆ３３１９）の内容について説明する。図７３３は、演出ボタン操作処理２２（Ｆ３３１９）の内容を示したフローチャートである。

【７６５１】

演出ボタン操作処理２２（Ｆ３３１９）が実行されると、まず、演出ボタン２２の操作があったか判別する（Ｆ３４０１）。演出ボタン２２の操作がなかった場合には（Ｆ３４０１：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、演出ボタン２２の操作があった場合には（Ｆ３４０１：Ｙｅｓ）、演出用ＳＷ有効期間中であるか判別する（Ｆ３４０２。）演出用ＳＷ有効期間は、演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに記憶されている情報に基づいて設定される。演出用ＳＷ有効期間中であると判別した場合には（Ｆ３４２：Ｙｅｓ）、ムービー再生態様を決定し（Ｆ３４０３）、ムービー中フラグ２２３ｖｖをオンに設定する（Ｆ３４０４）。その後、その他演出ボタン押下に対応する演出態様を決定し（Ｆ３４０５）、本処理を終了する。

【７６５２】

Ｆ３４０２の処理において、演出用ＳＷ有効期間中ではないと判別した場合には（Ｆ３４０２：Ｎｏ）、Ｆ３４０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【７６５３】

次に、図７３４を参照して、演出更新処理２２（Ｆ２１１１）の内容について説明する。図７３４は、演出更新処理２２（Ｆ２１１１）の内容を示したフローチャートである。演出更新処理２２（Ｆ２１１１）が実行されると、まず、経過タイマ２２３ｖｙの値が０以上であるか判別する（Ｆ３５０１）。

【７６５４】

経過タイマ２２３ｖｙの値が０以上である場合には（Ｆ３５０１：Ｙｅｓ）、経過タイマ２２３ｖｙの値を更新し（Ｆ３５０２）、更新した経過タイマ２２３ｖｙの値が０であるか判別する（Ｆ３５０３）。経過タイマ２２３ｖｙの値が０でない場合には（Ｆ３５０３：Ｎｏ）、Ｆ３５１０の処理へ移行する。

【７６５５】

一方、経過タイマ２２３ｖｙの値が０である場合には（Ｆ３５０３：Ｙｅｓ）、環境調整終了を示す表示態様（図６７９の環境調整終了表示ｃｍ１）を設定し（Ｆ３５０４）、調整期間中フラグ２２３ｖｘをオフに設定する（Ｆ３５０５）。そして、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンであるか判別する（Ｆ３５０６）。調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンでない場合には（Ｆ３５０６：Ｎｏ）、Ｆ３５１０の処理に移行する。調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉがオンである場合には（Ｆ３５０６：Ｙｅｓ）、調整用役物（剣役物Ｙｍ３）を初期位置へと可動させるための動作シナリオを設定し（Ｆ３５０７）、調整用役物可動中フラグ２２３ｖｉをオフに設定して（Ｆ３５０８）、制限タイマ２２３ｖｊに１０秒に対応する値をセットし（Ｆ３５０９）、Ｆ３５１０の処理に移行する。

【７６５６】

Ｆ３５０１の処理において、経過タイマ２２３ｖｙの値が０以上でない場合（Ｆ３５０１：Ｎｏ）、即ち、環境情報調整画面が表示されていない状態である場合には、Ｆ３５０２～Ｆ３５０９の処理をスキップし、Ｆ３５１０の処理へ移行する。

【７６５７】

Ｆ３５１０の処理では、制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上であるか判別し（Ｆ３５１０）、制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上である場合には（Ｆ３５１１：Ｙｅｓ）、制限タイマ２２３ｖｊの値を更新し（Ｆ３５１１）、Ｆ３５１２の処理に移行する。一方、Ｆ

３５１０の処理において、制限タイマ２２３ｖｊの値が０以上ではない場合（Ｆ３５１０）、即ち、制限タイマ２２３ｖｊに値が設定されていない状態である場合には、Ｆ３５１２の処理に移行する。

【７６５８】

Ｆ３５１２の処理では、ムービー実行リーチにおいてムービーの実行が終了したか判別する（Ｆ３５１２）。ムービーの実行が終了していない場合には（Ｆ３５１２：Ｎｏ）、Ｆ３５１７の処理に移行する。一方、ムービーの実行が終了した場合には（Ｆ３５１２：Ｙｅｓ）、ムービー中フラグ２２３ｖｖがオンであるか判別する（Ｆ３５１３）。ムービー中フラグ２２３ｖｖがオンでない場合には（Ｆ３５１３：Ｎｏ）、ムービー実行リーチが実行されていない場合であるので、Ｆ３５１４～Ｆ３５１６の処理をスキップし、Ｆ３５１７の処理に移行する。

【７６５９】

Ｆ３５１３の処理において、ムービー中フラグ２２３ｖｖがオンである場合には（Ｆ３５１３：Ｙｅ数）、揺れ表示態様（図６８４（ｂ）に示す、第３図柄が揺れている表示態様）を設定し（Ｆ３５１４）、揺れ待機フラグ２２３ｖｗをオンに設定し（Ｆ３５１５）、ムービー中フラグ２２３ｖｖをオフに設定して（Ｆ３５１６）、Ｆ３５１７の処理に移行する。

【７６６０】

Ｆ３５１７の処理では、その他各種カウンタ、及び各種タイマの更新処理を実行し（Ｆ３５１７）、本処理を終了する。

【７６６１】

以上説明した通り、本第２２制御例におけるパチンコ機１０では、獲得した保留球に対応する保留図柄の表示態様を可変する演出（保留変化演出）が実行される場合に、変化対象以外の保留図柄を装飾用可動役物（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）によって隠す構成とした。このように構成することで、遊技者に変化対象である保留図柄がどれであるかを明確にすることできる。

【７６６２】

また、装飾用可動役物（装飾用可動役物Ｙｍ１，Ｙｍ２）が変化対象以外の保留図柄を隠す動作を行う場合に、段階的に変化対象以外の保留図柄を隠す動作を行う構成としている。このように構成することで、保留変化演出の開始から保留変化演出が終了するまでの期間で、遊技者に対してどの保留図柄が変化対象となるのかを予測する楽しみを提供することができる。

【７６６３】

なお、本第２２制御例では、装飾用可動役物によって変化対象以外の保留図柄を隠す構成としたが、これに限るものではなく、第３図柄表示装置８１において変化対象以外の保留図柄が表示されている表示領域を視認できなくするための遮断態様（例えば、シャッターを模した表示態様等）を表示する構成としても良い。或いは、第３図柄を利用して、変化対象以外の保留図柄を隠す構成としても良い。

【７６６４】

＜第２２制御例の変形例＞

次に、図７９７を参照して、上述した第２制御例の変形例について説明する。上述した第２２制御例では、パチンコ機１０の光量調整機能を有し、待機期間中に実行される光量調整に際して、特別図柄の変動演出で使用される装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）を環境調整位置に可変させて、装飾用可動役物（剣役物Ｙｍ３）に付随するＬＥＤによって光量調整が可能な構成であった。これに対して、第２２制御例の変形例では、剣役物Ｙｍ３の代わりに大剣役物Ｙｍ４を用いて光量調整を行う点で相違している。

【７６６５】

ここで、近年、第３図柄表意装置８１の表示領域の大部分を隠す大きさの装飾用可動役物を搭載したパチンコ機１０が知られている。このようなパチンコ機１０において、待機期間中に実行されるデモ演出に合わせて装飾用可動役物を可動させるものがある。このよ

うに構成することで、装飾用可動役物をデモ演出において可動させることで、遊技者に対して遊技中に実行される変動演出のイメージを抱き易くし、この装飾用可動役物を用いた変動演出を見てみたいと思わせることにより、遊技者の遊技意欲を向上させることができるものであった。

【７６６６】

しかしながら、かかるパチンコ機１０では、デモ演出の実行中に光量調整を行おうとした場合に、装飾用可動役物が動作シナリオに沿って可動するため、液晶ディスプレイに表示される光量調整用のインジケータが視認し難くなり、光量調整の妨げとなってしまうという問題があった。このような問題に対して、本第２２制御例の変形例について、図７９７を参照して説明する。

【７６６７】

図７９７（ａ）は、デモ演出中に装飾用可動役物（大剣役物Ｙｍ４）が可動した状態のパチンコ機１０の一例である。図７９７（ａ）に示すように、大剣役物Ｙｍ４が可動状態となると、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの大部分が視認困難となる。遊技者が選択ボタン６００を操作していない状態では、この大剣役物Ｙｍ４が設定された動作シナリオに沿って動作を行う。この動作シナリオは、第２２制御例の客待ち演出処理において設定される（図７１７，Ｆ２１０５参照）。

【７６６８】

一方、遊技者が選択ボタン６００を操作すると、操作した時の大剣役物Ｙｍ４の動作パターンと大剣役物Ｙｍ４の位置に対応した光量調整が実行される構成としている。より具体的には、第２２制御例の枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１，Ｆ２１０７参照）のＦ３３０６の処理において、待機期間中であると判別された場合に（Ｆ３３０６：Ｙｅｓ）、大剣役物Ｙｍ４の位置が初期位置（第３図柄表示装置８１と重ならない格納状態の位置）であるかを判別する。初期位置である場合には、大剣役物Ｙｍ４を環境調整位置ａ（図７５１（ａ）に示す位置）に可変させずに、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに光量ゲージ大ｇａ３（図６７９（ｂ）参照）を表示させる処理を行う。

【７６６９】

一方、初期位置ではない場合には、大剣役物Ｙｍ４が環境調整位置ａであるか判別する。大剣役物Ｙｍ４が環境調整位置ａである場合には、大剣役物Ｙｍ４を環境調整位置で停止させた状態とし、大剣役物Ｙｍ４に付随するＬＥＤを用いた光量調整を行うための処理を行う。

【７６７０】

本第２２制御例の変形例では、大剣役物Ｙｍ４が環境調整位置ａではない場合には、大剣役物Ｙｍ４が動作中であることから、大剣役物Ｙｍ４を初期位置、又は、環境調整位置ａに可変させるまでの間、光量調整の開始を待機（遅延）させるため、遊技者に待機（遅延）中であることを報知するための報知態様（例えば、大剣役物Ｙｍ４と重なっていない第３図柄表示装置８１の表示領域に「光量調整準備中」という文字を表示）を表示させるための処理を行う。

【７６７１】

次に、大剣役物Ｙｍ４の動作パターンが初期位置から環境調整位置ａに可変する動作パターン（動作パターンＡ）であるかを判別する。動作パターンＡである場合には、大剣役物Ｙｍ４を環境調整位置ａにて停止させ、設定されている動作シナリオを破棄（又は、中断）する処理を行い、遊技者に待機（遅延）中であることを報知するための報知態様を非表示とする処理を行う。一方、大剣役物Ｙｍ４の動作パターンが動作パターンＡではない場合、即ち、環境調整位置ａから初期位置へ可変する動作パターン（動作パターンＢ）である場合には、大剣役物Ｙｍ４が初期位置にて停止させ、主表示領域Ｄｍに光量ゲージｇａ３を表示させる処理を行い、遊技者に待機（遅延）中であることを報知するための報知態様を非表示とする処理を行う。

【７６７２】

このように構成することで、動作シナリオに沿った動作パターンで動作している大剣役

物Ｙｍ４に対して、異なる動作パターンを設定し直す処理を省くことができる。
【７６７３】
なお、大剣役物Ｙｍ４の動作中の位置に応じて初期位置に可変させるか、環境調整位置ａに可変させるかを決定する構成としても良い。例えば、動作パターンＡが設定されている場合であっても、現在の大剣役物Ｙｍ４の位置が環境調整位置ａよりも初期位置に近い場合には、初期位置に可変させることで、光量調整開始を待機させる期間を短縮することができる。
【７６７４】
図７９７（ｂ）は、光量調整中に特別図柄の変動が開始された場合の表示画面の一例である。上述した本第２２制御例では、装飾用可動役物が環境調整位置にある状態で特別図柄の変動が開始された場合には、装飾用可動役物を環境調整位置から初期位置へと可変させる構成であった。これに対して、第２２制御例の変形例では、図７９７（ｂ）に示すように、光量調整が終了するまでの期間は、大剣役物Ｙｍ４を環境調整位置ｂ（図７９７（ｂ）の位置）に可変させ、特別図柄の変動を主表示領域Ｄｍの正面視左側の表示領域ＨＲ７で縮小表示する構成としている。そして、遊技者が決定ボタン６００ａを操作し、光量調整が終了した場合に大剣役物Ｙｍ４を格納状態（第３図柄表示装置８１の液晶ディスプレイに重ならない位置）に可変させる。
【７６７５】
なお、大剣役物Ｙｍ４が環境調整位置ｂにある場合（即ち、特別図柄の変動中に光量調整が実行されている場合）で、例えば、特別図柄の変動演出の態様として大当たり当選期待度の高い大剣役物Ｙｍ４を使用する変動演出態様が選択された場合、或いは、大当たり当選期待度の高いリーチ演出（スペシャルリーチ等）が実行される変動パターンが選択された場合には、光量調整が終了する前（即ち、遊技者の決定ボタン６００ａの操作によらず）に大剣役物Ｙｍ４を格納状態に可変させ、特別図柄の変動演出が表示される表示領域ＨＲ７を拡大表示させる構成としても良い。このように構成することで、遊技者が大当たり当選期待度の高い演出を見逃すことを抑制することができる。また、光量調整中の大剣役物Ｙｍ４の動作にも興味を持たせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。
【７６７６】
次に、図７９８、図７９９を参照して、本第２２制御例にて実行するシャッター閉鎖リーチ演出の変形例について説明する。上述したシャッター閉鎖リーチ演出（図６８１～図６８３参照）では、シャッターが閉鎖することで次の段階に進み、最終段階に到達した場合、或いは、途中の段階で入手したアイテムによってシャッターが完全開放された場合に、大当たり当選であることが報知される構成であった。これに対して、シャッター閉鎖リーチ演出の変形例では、最終段階に到達した場合に大当たり当選であることが報知されるとは限らず、どの段階においても大当たり当選であることが報知され得る構成としている点で大きく相違している。また、シャッターの色によってリーチ状態における変動中の中図柄が停止する時の図柄種別を示唆し、シャッターが閉鎖する回数で最終的に停止表示される第３図柄種別を示唆する構成としている。より具体的には、図７９８、図７９９を参照して説明する。
【７６７７】
図７９８（ａ）は、リーチ状態となった場合に、シャッター閉鎖リーチ演出変形例の発展煽りが発生した場合の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍの中央には、３つの図柄列の内、２つの図柄列に第３図柄が「１１」で停止表示されている状態で残り１つの図柄列では第３図柄（最終停止図柄）が変動表示されているリーチ状態が表示され、主表示領域Ｄｍの中央上側には、リーチ状態であることを遊技者に報知するための案内態様が表示される表示領域ＨＲ４が形成される。このように構成することで、リーチ状態であることを遊技者に分かり易くすることができる。
【７６７８】
また、主表示領域Ｄｍの左右端には、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４がガタガタと振動した

態様で表示され、副表示領域Ｄｓには、遊技者に演出に関連する遊技情報を報知するための報知態様である「シャッターが閉まればシャッター閉鎖リーチに発展」という文字が表示される。このように構成することで、主表示領域Ｄｍに表示されているシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖すると上位のリーチ演出（シャッター閉鎖リーチ演出）に発展することを遊技者に分かり易くすることができる。

【７６７９】

なお、図７９８（ａ）に示す例では、主表示領域Ｄｍの中央部の２つの図柄列に第３図柄が「１１」で停止表示されているが、本第２２制御例では、「１」～「８」の数字の中から特別図柄の抽選結果に基づいて数字を設定する構成としている。

【７６８０】

図７９８（ｂ）は、シャッター閉鎖リーチ演出へと発展した場合の表示画面の一例である。図７９８（ｂ）に示すように、主表示領域Ｄｍでは、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第１表示態様であることを示すための「青」という文字Ｓｔ３ａ，Ｓｔ４ａが表示されたシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖する演出が実行され、副表示領域Ｄｓには、遊技者に演出に関連する遊技情報を報知するための報知態様である「シャッター閉鎖リーチ開始、偶数図柄がチャンス」という文字が表示される。

【７６８１】

ここで、シャッター閉鎖リーチ演出の変形例では、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様として、「青」という文字が表示された第１表示態様と、「赤」という文字が表示された第２表示態様のいずれかを設定する構成としている。第１表示態様が表示された場合には最終停止図柄が偶数の数字図柄で停止することを示唆し、第２表示態様が表示された場合には最終停止図柄が奇数の数字図柄で停止することを示唆する。図７９８（ｂ）に示す例では、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４に「青」という文字Ｓｔ３ａ，Ｓｔ４ａが表示されている（即ち、第１表示態様である）ため、副表示領域Ｄｓには「偶数図柄がチャンス」という報知態様が表示される。一方、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４に「赤」という文字が表示されている場合（即ち、第２表示態様である場合）、副表示領域Ｄｓには「奇数図柄がチャンス」という報知態様が表示される。

【７６８２】

また、シャッター閉鎖リーチ演出の変形例では、シャッターが完全開放された時点で最終停止図柄が停止表示される構成としており、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第１表示態様で表示されている場合には、最終停止図柄として「２，４，６，８」のいずれかの数字が停止表示され、第２表示態様で表示されている場合には、最終停止図柄として「１，３，７，９」のいずれかの数字が停止表示される。

【７６８３】

なお、シャッター閉鎖リーチ演出の変形例では、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様を２種類としたが、これに限るものではなく、３種類以上としても良い。例えば、「虹」という文字が表示されたシャッターＳｔ３，Ｓｔ４の第３表示態様を設定可能に構成しても良く、第３表示態様が表示された場合は、偶数回、奇数回何れの回でシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が完全開放しても大当たり当選であることが報知される。

【７６８４】

また、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様として、「青」（または、「赤」）という文字Ｓｔ３ａ，Ｓｔ４ａを表示せずに、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の色を青色（または、赤色）にすることで遊技者がどの表示態様であるか識別可能な構成としても良い。

【７６８５】

一方、シャッター閉鎖リーチ演出変形例の発展煽り（図７９９（ａ）参照）が失敗した場合には、外れ当選であることを示す組み合わせとなる最終停止図柄が停止表示され、シャッター閉鎖リーチ演出への発展が失敗したことを示すための報知態様（例えば、「失敗」の文字）が表示される。

【７６８６】

図７９９（ａ）は、図７９８（ｂ）の状態から、シャッター閉鎖リーチ演出変形例にお

ける分岐演出が実行されている場合の表示画面の一例である。主表示領域Ｄｍでは、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖した状態（図７９８（ｂ）参照）から、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が半開の状態となり、ガタガタと振動することによって再度閉鎖するか否かを煽る演出が実行される。

【７６８７】

また、主表示領域Ｄｍの中央部には、３つの図柄列の内、２つの図柄列に第３図柄が「２２」で停止表示されている状態で残り１つの図柄列では第３図柄（最終停止図柄）が変動表示されているリーチ状態が表示される。

【７６８８】

また、主表示領域Ｄｍの中央上側には、現在到達している段階と、最終段階を示すための案内態様が表示される表示領域ＨＲ４には、「シャッターが閉鎖すれば継続２／６」と表示される。このように構成することで、現在がシャッター閉鎖リーチ演出の２段階目であり、今回のシャッター閉鎖リーチ演出が最大で６段階目まであることを遊技者に分かり易くすることができる。

【７６８９】

なお、シャッター閉鎖リーチ演出変形例では、最終段階が６段階目のパターンと、最終段階が５段階目のパターンの内のいずれかを設定可能に構成している。

【７６９０】

ここで、シャッター閉鎖リーチ演出では、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖されると、次の段階に進むとともに、主表示領域Ｄｍの中央部に停止表示されている第３図柄の数字に１加算される。図７９９（ａ）に示す例では、図７９８（ａ）の状態からシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が１回閉鎖されたため、図７９８（ａ）の主表示領域Ｄｍの中央部で停止表示していた第３図柄「１」に１が加算され、図７９９（ａ）に示すように「２」となる。

【７６９１】

図７９９（ａ）に示す例では、６段階目が最終段階であるため、６段階目到達までにシャッターＳｔ３，Ｓｔ４の閉鎖が５回実行される。従って、最終段階まで到達した場合には、主表示領域Ｄｍの中央部に停止表示されている第３図柄が「６６」となる。そして、上述したように、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第１表示態様で表示されている場合には最終停止図柄が偶数数字であるため、最終段階に到達した場合には大当たり当選であることが報知される可能性が高いことを遊技者に示唆している。

【７６９２】

一方、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様が第２表示態様で表示されている場合には最終停止図柄が奇数数字であるため、最終段階まで到達した場合には大当たり当選であることが報知される可能性が低いことを遊技者に示唆している。従って、この場合は、最終段階に到達する前の奇数段階でシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が完全開放された場合に、大当たり当選であることが報知される可能性が高いことを遊技者に示唆している。

【７６９３】

図７９９（ｂ）は、４段階目でシャッターが完全開放された時の表示画面の一例である。図７９９（ｂ）に示す例では、表示領域ＨＲ４に現在の段階が４段階目であることを遊技者に報知するための案内態様として「４／６」という文字が表示され、主表示領域Ｄｍでは、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖状態（図７９８（ｂ）参照）から完全に開放される演出が実行される。そして、主表示領域Ｄｍに表示される第３図柄が大当たり当選であることを報知するための表示態様である「４４４」で表示され、副表示領域Ｄｓには大当たり当選したことを示すための報知態様である「大当たり」という文字が表示されることで、遊技者に４段階目でシャッターＳｔ３，Ｓｔ４が完全開放される演出が実行され、大当たり当選となったことを分かり易く報知している。

【７６９４】

なお、上述したように、特別図柄の抽選結果が大当たり当選ではない場合には、シャッターが完全開放された時に、主表示領域Ｄｍに表示される第３図柄が外れ当選であることを報知するための表示態様（例えば、「４５４」）で表示され、副表示領域Ｄｓには外れ

当選であることを報知するための報知態様（例えば、「残念」の文字）が表示される。
【７６９５】
以上説明したように、シャッター閉鎖リーチの変形例では、シャッター閉鎖リーチ演出の開始時に主表示領域Ｄｍの中央部に停止表示される第３図柄の種類という情報と、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様の種類という情報と、表示領域ＨＲ４に表示される最終段階のパターンという情報を段階的に表示することで、遊技者にそれらの情報を組み合わせて停止表示される第３図柄を予測する楽しみを提供することができる。
【７６９６】
シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様によって遊技者にとって有利な段階と不利な段階が示唆されており、有利な段階ではシャッターが完全開放することを期待させ、不利な段階ではシャッターが閉鎖することを期待させることで、遊技者に対して最後まで飽きること無くリーチ変動演出を実行させることができる。
【７６９７】
なお、図７９９（ａ）に示す例では、表示領域ＨＲ４にて、現在到達している段階と、最終段階を示すための案内態様が表示される構成としたが、これに限るものではなく、現在のシャッター閉鎖回数に対応する数字と最大で閉鎖され得る回数を表示する構成としても良い。
【７６９８】
また、図６８３を参照して説明したカプセルＣｐ１を獲得する演出を実行する構成としても良い。例えば、図６８３（ｂ）に示すＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａが使用された場合には、主表示領域Ｄｍにて現在停止表示されている第３図柄の数字が次の段階に進んでも維持されることになるため、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様に対応する第３図柄が表示されている場合（例えば、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第１表示態様である場合に停止表示されている第３図柄が偶数数字である場合）にＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａが使用されることで大当たり当選である可能性が高くなる。一方で、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様に対応していない第３図柄が表示されている場合（例えば、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第１表示態様である場合に停止表示されている第３図柄が奇数数字である場合）にＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａが使用されると、大当たり当選である可能性が低くなる。このように、ＨＯＬＤ券Ｃｐ１ａの使用タイミングによっても、遊技者の有利不利を可変させることができるため、更に遊技の興趣を向上させることができる。
【７６９９】
なお、例えば、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様として第２表示態様が設定され（即ち、奇数数字の第３図柄がチャンスとなる場合）、５段階目到達時点で主表示領域Ｄｍに「５５」の第３図柄が停止表示されている場合には、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が閉鎖された時点でリーチ状態の第３図柄は「６６」で、最終停止図柄が奇数数字となることを遊技者が認識しているため、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が完全開放される前に外れ当選であると分かってしまい、シャッター閉鎖リーチの最後まで遊技者の期待感を持続させることができない虞がある。一方で、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様は、最終停止図柄の種別（偶数・奇数）を示唆するものであるため、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４が第２表示態様である場合に最終停止図柄として偶数数字の第３図柄を停止表示させると、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様によって示唆される情報の信憑性が損なわれてしまう。このため、シャッターＳｔ３，Ｓｔ４の表示態様が示す情報と、大当たり当選であることを報知するための表示態様が対応していない場合には、図６８２（ｂ）に示す「大当たり」という文字が表示された中図柄ｎｚ１を最終停止図柄として停止表示することで、遊技者に違和感を与えることなく、意外性のある抽選結果報知を行うことが可能となるため、遊技者にシャッター閉鎖リーチの最後まで遊技者の期待感を持続させることができる。
【７７００】
＜第２３制御例＞
次に、図７３５から図７５５を参照して、第２３制御例について説明をする。本第２３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０に対

して、実行される変動演出に対する大当たり当選の期待度が異なる演出モードを遊技者が任意に選択可能（演出カスタム可能）に構成している点と、実行中の特別図柄変動が大当たり当選している期待度を高めるための変動演出として、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる実行中保留変化演出を実行可能に構成している点と、で相違している。それ以外の内容については同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【７７０１】

従来より、実行される変動演出の各演出態様が示す大当たり当選の期待度を異ならせるための選択操作（演出カスタム操作）を実行可能なパチンコ機１０がある。ここで、大当たり当選の期待度とは、対象となる演出態様が設定された変動演出が実行された場合における大当たり当選の期待度を示すものであって、対象となる演出態様が大当たり当選した場合に実行される変動演出（大当たり変動演出）の演出態様として設定される割合と、外れ当選した場合に実行される変動演出（外れ変動演出）の演出態様として設定される割合と、に基づいて特定されるものであり、大当たり変動演出中に設定される割合が高い程、又は、外れ変動演出中に設定される割合が低い程、大当たり当選の期待度が高い演出態様となるものである。一方で、大当たり変動演出中に設定される割合が低い程、又は、外れ変動演出中に設定される割合が高い程、大当たり当選の期待度が低い演出態様となるものである。

【７７０２】

つまり、大当たり変動演出の演出態様として特定演出態様が選択される割合を高める、或いは、外れ変動演出の演出態様として特定演出態様が選択される割合を低くすることによって、特定演出態様に対する大当たり当選期待度が高くなる。よって、大当たり当選期待度が高く設定される演出態様は、大当たり当選していない場合には設定され難くすることが可能となる。一方、大当たり当選期待度が低く設定される演出態様は、大当たり当選している場合には設定され難くすることが可能となる。

【７７０３】

本第２３制御例では、上述した各制御例と同様に、特別図柄抽選にて大当たり当選する確率よりも、大当たり当選しない確率（外れ当選する確率）の方が高くなるように構成している。よって、大当たり当選の期待度を高く設定する場合よりも、大当たり当選の期待度を低く設定した場合のほうが外れ変動演出として実行され易くなる分、実行頻度を高くすることができる。

【７７０４】

このように演出カスタム操作を実行可能に構成することで、特定の演出態様（例えば、チャンス予告）が設定された場合における大当たり当選の期待度を設定されている演出モードによって異ならせることが可能となるため、例えば、大当たり当選の有無に関わらず、特定の演出態様が設定される変動演出を体験したい遊技者は、各演出態様に対する大当たり当選の期待度を下げるように演出カスタム操作を実行することで、様々な演出態様が設定される変動演出の実行頻度を高めることができる。一方で、大当たり当選の有無に注視している遊技者は、特定の演出態様（例えば、チャンス予告）が設定される変動演出の大当たり当選の期待度を高めるように演出カスタム操作を実行することで、大当たり当選している可能性が高いことを実行される演出の内容によって事前に把握することができる。

【７７０５】

ここで、従来型のパチンコ機１０では、特別図柄変動中において上述した演出カスタム操作を実行した場合には、実行中の特別図柄変動の変動演出が停止表示された後に、実行した演出カスタム操作に対応する演出モードを設定可能とするものが一般的である。つまり、従来型のパチンコ機１０では、特別図柄変動の開始タイミングにおいて当該特別図柄変動期間中に実行される変動演出の演出態様を決定し、決定した演出態様に基づいた変動演出を実行するように構成しているため、実行中の変動演出に対して途中で演出態様を切り替えることが出来ず、次の特別図柄変動に対応する変動演出から設定された演出モードに対応した演出態様を設定するものが一般的であった。

【７７０６】
この場合、遊技者が演出カスタム操作を実行するタイミングと、演出カスタム操作の実行に基づいて演出モードを切り替えるタイミングとが乖離してしまい、遊技者の所望する変動演出が実行され難くなるという問題があった。
【７７０７】
これに対して、本第２３制御例では、特別図柄変動が実行されている期間中に演出カスタム操作を実行した場合において、実行中の特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を、演出カスタム操作に基づいて新たに設定された演出モードに対応させることが可能に構成している。このように構成することで、遊技者が演出カスタム操作を実行するタイミングと、演出カスタム操作の実行に基づいて演出モードを切り替えるタイミングとが乖離してしまうという従来の問題を解決することができる。
【７７０８】
さらに、本第２３制御例では、演出カスタム操作にて選択可能な演出モードの種類を、演出カスタム操作が実行されるタイミングに応じて異ならせるように構成している。具体的には、大当たり変動中に演出カスタム操作が実行された場合に選択可能となる特殊演出モード（プレミアムモード）を搭載している。このように構成することで、演出カスタム操作を実行することによって大当たり当選の有無を遊技者に把握させることが可能となるため、大当たり当選の有無をいち早く把握しようとする遊技者に対して演出カスタム操作を意欲的に行わせることができる。
【７７０９】
さらに、本第２３制御例では、演出カスタム操作によって新たな演出モードを決定する際の決定操作（決定ボタン６００ａの押下）を実行したことに基づいて、実行中の特別図柄変動が大当たり変動であることを遊技者に報知可能な報知演出を実行可能に構成している。
【７７１０】
つまり、本第２３制御例では、演出カスタム操作にて演出モードを選択する操作を実行した場合（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅを操作した場合）に、大当たり変動中であることを遊技者に報知可能とする第１報知演出と、演出カスタム操作にて演出モードを決定する操作を実行した場合（決定ボタン６００ａを押下した場合）に、大当たり変動中であることを遊技者に報知可能とする第２報知演出と、を実行可能に構成している。
【７７１１】
このように構成することで、第１報知演出が実行された場合には、実行中の特別図柄変動（大当たり当選する特別図柄変動）に対して、演出モードとして特殊演出モード（プレミアムモード）を選択し、通常では見ることの出来ない演出を見るか、敢えて、特殊演出モード（プレミアムモード）を選択せず、通常実行される変動演出を安心しながら見るかを選択させることが可能となり、遊技者の趣向に合った演出を提供し易くすることができる。
【７７１２】
また、第２報知演出は、演出カスタム操作の決定操作に基づいて実行されるため、演出モードを切り替えようと決定操作を実行した遊技者に対して意外性のある演出を提供することができる。
【７７１３】
そして、本第２３制御例では、第１報知演出と第２報知演出とを組み合わせて実行可能に構成しているため、特別図柄変動中に演出カスタム操作を実行する遊技者に対して、演出モードの選択操作段階にて大当たり変動であるか否かを報知可能にし、さらに、演出モードの選択操作段階にて大当たり変動であることを示す第１報知演出が実行されなかった場合であっても、演出モードの決定操作段階にて第２報知演出を実行可能としている。
【７７１４】
このように構成することで、特別図柄変動中に演出カスタム操作を実行することで、様々なタイミングにて大当たり変動中であることを報知することができるため演出効果を高

めることができる。
【７７１５】
さらに、本第２３制御例では、演出カスタム操作によって特定の演出態様が設定された場合における大当たり当選期待度が他の演出モード（通常モード）よりも高くなる演出モード（チャンスアップモード）を決定した場合の方が、他の演出モード（通常モード）を決定した場合よりも第２報知演出が実行され易くなるように構成している。つまり、いち早く大当たり当選の有無を把握（予測）したい遊技者が所望する演出モード種別が決定された場合に、第２報知演出が比較的実行され易くなるように構成している。このように構成することで、遊技者の趣向に合った演出をより実行させ易くすることができる。
【７７１６】
次に、本第２３制御例では、上述した通り、実行中の変動演出の演出パターン（リーチ態様）が、大当たり当選期待度の高い演出パターンへと進行した場合（発展した場合）に、保留図柄表示を非表示にするように構成している。つまり、第３図柄表示装置８１の表示面において実行されている演出が、実行中の特別図柄変動の結果を示すための変動演出であることを遊技者に分かり易く報知するために、保留図柄表示を非表示とするように構成している。
【７７１７】
そして、保留図柄を非表示にする演出態様として、上述した第２２制御例において保留変化演出が実行される場合と同様にチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出態様を設定し、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動した直後には、保留図柄の表示態様を変化させるための保留変化演出が実行されたのか、保留図柄を非表示にする演出が実行されたのかを遊技者に把握させ難くするように構成している。
【７７１８】
このように構成することで、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動した場合に、演出の対象が何れであるかを予測する楽しみを遊技者に提供することができる。
【７７１９】
さらに、本第２３制御例では、変動演出として保留図柄を非表示にするためにチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出態様が設定される際に、保留図柄表示として３色以上の表示態様で保留図柄が表示されている場合であり、且つ、実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合に、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が全ての保留図柄表示を隠すと共に、実行中の特別図柄変動に対応する実行保留図柄（実行中保留図柄）の表示態様を、大当たり当選を示す表示態様（虹色）へと可変させる演出を実行可能に構成している。
【７７２０】
このように構成することで、単に保留図柄表示を非表示にするための演出（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出）に対して、実行中の特別図柄変動の抽選結果を報知する機能を持たせることができるため、遊技者に対して意外性のある演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。
【７７２１】
＜第２３制御例における演出内容について＞
ここで、図７３５から図７４０を参照して、本第２３制御例におけるパチンコ機１０で実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。本第２３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０に対して、実行される変動演出に対する大当たり当選期待度を異ならせることが可能な演出モード選択機能（演出カスタム機能）を有しており、演出モードを選択するための演出カスタム操作に基づいた演出を実行可能に構成している点と、実行中の特別図柄変動に対応する変動演出として、保留図柄表示を非表示にする演出を実行可能に構成している点と、で相違している。
【７７２２】
まず、図７３５から図７３８を参照して、演出カスタム操作に基づいて実行される演出

内容について説明をする。詳細な説明は、図７３７を参照して後述するが、本第２３制御例では、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードとして、４種類の演出モード（ノーマルモード、チャンスアップモード、確変告知モード、プレミアムモード）を選択可能に構成しており、特別図柄変動が実行されていない状態、或いは、特別図柄変動が実行されている状態において演出モードを選択するための演出カスタム操作を実行可能に構成している。

【７７２３】

図７３５（ａ）は、遊技状態として通常状態が設定されており、且つ、演出モードとしてノーマルモードが設定されている状態であって、特別図柄変動に対応する変動演出の後半期間中（リーチ成立後）に演出カスタム操作によってチャンスアップモードを決定した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【７７２４】

図７３５（ａ）に示した通り、遊技状態として通常状態が設定されている場合には、上述した第２２制御例と同様に、遊技者が有利となる遊技方法を案内するための遊技方法案内態様として、第３図柄表示装置８１の表示画面の左上側に形成される小表示領域Ｄｍ４に「左打ち」の文字が表示されており、通常状態中は左打ち遊技、即ち、可変表示ユニット８０（図６２０参照）の左側に形成された遊技領域（左側領域）に向けて遊技球を発射させる左打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法であることを遊技者に報知している。

【７７２５】

詳細な説明は省略するが、本第２３制御例では設定される遊技状態や大当たり遊技の有無に関わらず、遊技方法案内態様が表示される小表示領域Ｄｍ４は常に表示画面の同一位置（左上位置）に形成されるように構成している。このように構成することで、パチンコ機１０の遊技に不慣れな遊技者に対して、常に同じ位置で遊技方法の案内を表示することができるため、分かり易い遊技を提供することができる。

【７７２６】

なお、本第２３制御例では、上述した第２２制御例と同様に、遊技者が有利となる遊技方法（左打ち遊技、右打ち遊技）を示すための遊技方法案内態様（左打ち、右打ち）を常に小表示領域Ｄｍ４に表示するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、左打ち遊技が実行されることを通常遊技とし、小表示領域Ｄｍ４に遊技方法案内態様が表示されていない状態を通常遊技（左打ち遊技）が遊技者に有利となる遊技状態とし、通常遊技とは異なる遊技方法（右打ち遊技）が遊技者に有利となった場合に、小表示領域Ｄｍ４にて「右打ち」の文字を表示するように構成しても良い。このように構成することで、通常遊技（左打ち遊技）が遊技者に有利となる遊技状態では、遊技方法案内態様（左打ち）を表示する必要が無くなるため、第３図柄表示装置８１の表示面の表示領域を他の用途（例えば、変動演出）に用いることができる。

【７７２７】

また、小表示領域Ｄｍ４に遊技方法案内態様を常時表示させるのでは無く、遊技者に有利となる遊技方法を遊技者が把握したい場合にのみ小表示領域Ｄｍ４に遊技方法案内態様を表示するように構成しても良く、例えば、操作手段（枠ボタン２２）に対して所定の操作（長押し）を実行した場合に、小表示領域Ｄｍ４に遊技方法案内態様が表示されるように構成しても良い。このように構成することで、パチンコ機１０の遊技に不慣れな遊技者に対しては、小表示領域Ｄｍ４に遊技方法案内態様が表示させることで分かり易く遊技を行わせると共に、熟練の遊技者に対しては、遊技方法案内態様が表示され得る表示領域も利用した迫力のある演出（小表示領域Ｄｍ４が形成されている場合よりも実行領域が大きい演出）を実行させることで演出効果を高めることができる。なお、この場合、操作手段への操作に基づいて、小表示領域Ｄｍ４の表示、非表示を切り替えるのでは無く、小表示領域Ｄｍ４の大きさを可変させるように構成しても良い。

【７７２８】

図７３５（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ４の下方には、小表示領域Ｄｍ１５が形成され、現在設定されている演出モードを示すための設定中モード表示態様として「ノー

マルモード設定中」の文字が表示されている。図７３５（ａ）は、演出モードとしてノーマルモードが設定されている状態における表示画面を示しているため、小表示領域Ｄｍ１５には、ノーマルモードが設定されていることを示す「ノーマルモード設定中」の文字が表示されている。なお、チャンスアップモードが設定されている場合には、小表示領域Ｄｍ１５に「チャンスアップモード設定中」の文字が、確変告知モードが設定されている場合には、小表示領域Ｄｍ１５に「確変告知モード設定中」の文字が、プレミアムモードが設定されている場合には、小表示領域Ｄｍ１５に「プレミアムモード設定中」の文字が表示される。このように構成することで、現在設定されている演出モードを遊技者が一目で把握することができる。

【７７２９】

主表示領域Ｄｍの右下側には、演出カスタム操作に関連する各種態様が表示されている。本第２３制御例では、光量調整操作や音量調整操作を実行していない状態で中ボタン６００ａを押下することで、演出モードを選択操作可能な演出カスタム状態が設定され、演出カスタム状態中に右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅを押下することで、演出モードを選択可能に構成している。そして、所望する演出モードを選択した状態で中ボタン６００ａを操作（押下）することで、選択している演出モードを設定可能に構成している。

【７７３０】

演出カスタム状態が設定されると、図７３５（ａ）に示した通り、表示領域ＨＲ６が形成され選択中の演出モードが表示される。そして、表示領域ＨＲ６の上側には、小表示領域Ｄｍ１６が形成され、演出カスタム状態中における操作方法、即ち、演出モードを選択するための操作方法を示すための案内態様として「左右ボタン＋中ボタンでモードを切り替えるよ」の文字が表示される。

【７７３１】

なお、詳細な図示は省略するが、演出カスタム状態が設定されるまでの間、即ち、演出モードを選択するために中ボタン６００ａを押下するまでの間は、小表示領域Ｄｍ１５の下側に、演出カスタム状態を設定するための操作方法を遊技者に案内するための案内態様として「中ボタンを押下すると、演出モード選択画面が表示されるよ」の文字が表示されるように構成している。つまり、現在設定されている演出モードを示すための小表示領域Ｄｍ１５の近傍に、演出モードを変更するための操作方法が表示されるように構成している。このように構成することで、現在設定されている演出モードを把握した遊技者に対して、演出モードを変更可能な機能を有している点と、演出モードを変更させるための操作方法とを分かり易く報知することができる。

【７７３２】

演出カスタム状態が設定されると、表示領域ＨＲ６には現在設定されている演出モードを示すための表示態様が表示される。そして、表示領域ＨＲ６の左方には左矢印ＬＹが表示され、表示領域ＨＲ６の右方には右矢印ＲＹが表示される。この左矢印ＬＹ、及び右矢印ＲＹは、表示領域ＨＲ６に表示されている演出モードを他の演出モードへと切り替えるための切替操作を案内するための表示態様であり、遊技者が右ボタン６００ｃを操作した場合に、右矢印ＲＹが発光表示され、左ボタン６００ｅを操作した場合に、左矢印ＬＹが発光表示される。

【７７３３】

右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅを操作することで、現在設定されている演出モードとは異なる演出モードが表示領域ＨＲ６に表示されるように構成している。図７３５（ａ）に示した通り、本第２３制御例では、表示領域ＨＲ６には１つの演出モードしか表示されないように構成しており、次に、右ボタン６００ｃを操作した場合に、何れの演出モードを示す表示態様が表示領域ＨＲ６に表示されるのかを遊技者に把握させないように構成している。

【７７３４】

ここで、本第２３制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり変動中に演出モードを

変更するための演出カスタム操作が実行された場合において、特殊演出モード（プレミアムモード）を選択可能に構成している。よって、今回の演出カスタム操作において選択され得る演出モードの種類が遊技者に容易に把握されないようにするために、演出モードの選択操作を実行するまでは表示領域ＨＲ６に次の演出モードを表示しないように構成している。このように構成することで、特殊演出モード（プレミアムモード）を選択可能な状態であるか否かを把握するために遊技者に対して意欲的に演出モードの選択操作を実行させることができる。

【７７３５】

なお、演出カスタム状態が設定されている状態における表示領域ＨＲ６の表示内容はこれに限ること無く、例えば、現在選択している演出モードを示す表示態様に加え、左ボタン６００ｅを操作した場合に選択される演出モードを示す表示態様の少なくとも一部と、右ボタン６００ｃを操作した場合に選択される演出モードを示す表示態様の少なくとも一部と、が表示領域ＨＲ６に表示されるように構成しても良い。

【７７３６】

このように構成することで、任意の演出モードを選択しようとする遊技者に対して、効率良く演出カスタム操作を実行させることができる。

【７７３７】

そして、演出カスタム操作によって、所望する演出モードを示すための表示態様が表示領域ＨＲ６に表示された状態で再度中ボタン６００ａを押下することで、演出モードの切り替え操作が完了する。

【７７３８】

図７３５（ａ）は、演出カスタム操作によって異なる演出モードが決定された時点において即座に演出モードを切り替えることができないことを示すための表示画面を示しており、予備表示領域ＨＲ６ａには、演出モードの切り替え操作を正常に受け付けた状態であって、演出モードが切り替わっていないことを示すための待機態様として「スタンバイ中」の文字が表示されている。

【７７３９】

この待機態様「スタンバイ中」を表示することにより、遊技者に対して演出モードの切り替え操作が正常に行われたことを報知することができるため、演出モードの切り替え操作を実行したにも関わらず、小表示領域Ｄｍ１５に表示される演出モードが切り替わらない状況に対して、パチンコ機１０が故障しているのではと誤解を与えてしまうことを抑制することができる。

【７７４０】

なお、図７３５（ａ）では、表示領域ＨＲ６の近傍に予備表示領域ＨＲ６ａを形成することで、表示領域ＨＲ６の表示内容を把握しながら演出モードの切り替え操作を実行した遊技者に対して、「スタンバイ中」であることを把握させ易くするように構成しているが、予備表示領域ＨＲ６ａの形成位置を、小表示領域Ｄｍ１５の近傍、或いは、小表示領域Ｄｍ１５と表示位置を重複させるように形成しても良い。このように構成することで、演出モードの切り替え操作を実行したことに基づいて、演出モードが切り替わったか否かを把握するために小表示領域Ｄｍ１５の表示内容を確認しようとする遊技者に対して、「スタンバイ中」であることを把握させ易くすることができる。

【７７４１】

一方で、演出モードの切り替え操作を実行したタイミングにおいて、即座に演出モードを切り替え可能な場合には、図７３５（ｂ）に示した表示画面が表示される。図７３５（ｂ）は、遊技状態として通常状態が設定されており、且つ、演出モードとしてノーマルモードが設定されている状態であって、特別図柄変動に対応する変動演出の前半期間中（リーチ成立前）に演出カスタム操作によってチャンスアップモードを決定した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【７７４２】

図７３５（ｂ）に示した通り、演出モード切り替え操作を実行したことに基づいて、即

座に演出モードが切り替わる場合には、予備表示領域ＨＲ６ａには、演出モードが切り替わったことを示すための案内態様として「セット完了」の文字が表示され、小表示領域Ｄｍ１５には、切り替わった演出モードを示す「チャンスアップモード設定中」の文字が表示される。

【７７４３】

詳細な説明は後述するが、本第２３制御例では、特別図柄変動が実行されている状態で演出カスタム操作を実行した場合に、実行中の変動演出の経過状況に応じて演出モードを切り替えるタイミングを異ならせるように構成している。また、選択した演出モードの種別に応じて演出モードを切り替えるタイミングを異ならせるように構成している。加えて、後に実行される変動演出の内容に応じて演出モードを切り替えるタイミングを異ならせるように構成している。

【７７４４】

このように特別図柄変動中に演出カスタム操作を実行した場合において、様々な要因によって演出モードを切り替えるタイミングを異ならせることで、遊技者に対して、演出モードが切り替わるタイミングと、実行中の変動演出の内容とを複合して実行中の変動演出の結果を予測させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【７７４５】

次に、図７３６を参照して、演出カスタム状態における演出モードの選択操作中に表示される表示内容について説明をする。図７３６（ａ）は、特別図柄抽選の結果が外れであることを示すための外れ変動中に演出モードを選択する場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【７７４６】

図７３６（ａ）に示した表示例は、演出モードとして「チャンスアップモード」が設定されている状態であって、演出カスタム操作によって「確変告知モード」を選択している状態から、さらに左ボタン６００ｅを操作して「ノーマルモード」を選択する状態を示した表示例である。従って、図７３６（ａ）では、小表示領域Ｄｍ１５に「チャンスアップモード設定中」の文字が表示されている。そして、左ボタン６００ｅが操作されたことを示す態様で左矢印ＬＹが表示されると共に、表示領域ＨＲ６には、選択している演出モードが「確変告知モード」から「ノーマルモード」へと切り替わったことを示す表示態様として、「確変告知モード」を示す表示態様の一部（図では「告知モード」の表示）と、「ノーマルモード」を示す表示態様の一部（図では「ノーマル」の表示）とが表示されている。図７３６（ａ）に示した状態は、左ボタン６００ｅを操作したことにより、表示領域ＨＲ６に表示されている表示態様が左方向へとスクロール移動している最中の表示態様を示しており、表示領域ＨＲ６に「ノーマルモード」が表示されるまでスクロール表示される。

【７７４７】

なお、図７３６（ａ）では、演出カスタム状態中に、左ボタン６００ｅを操作することで表示領域ＨＲ６に表示されている表示態様を左方向へとスクロール移動させている場合の表示例を示しているが、右ボタン６００ｃを操作することで演出モードを選択する場合には、右ボタン６００ｃが操作されたことを示すための表示態様で右矢印ＲＹが表示されると共に、表示領域ＨＲ６の表示態様が右方向へとスクロール移動する表示が実行される。

【７７４８】

また、本第２３制御例では、図７３５（ａ）に示した通り、表示領域ＨＲ６には選択中の演出モードを示すための表示態様のみが表示されるように構成しており、遊技者が操作手段（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）を操作し、表示領域ＨＲ６に表示されている表示態様をスクロール移動させない限り、今回の演出カスタム状態において選択可能である全ての演出モードを把握できないように構成している。そして、詳細な説明は、図７３７を参照して後述するが、本第２３制御例では、演出カスタム状態を設定するタイミングに応じて、選択可能な演出モードの種類を異ならせるように構成している。

【７７４９】
よって、様々な演出モードでの遊技を所望する遊技者に対して、演出カスタム状態を設定するための操作（中ボタン６００ａの操作）を、様々なタイミングで実行させ易くすることができる。よって、遊技者を、操作手段を操作させる遊技に積極的に参加させ易くすることができる。
【７７５０】
さらに、本第２３制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり変動中に演出カスタム状態を設定した場合の一部において、大当たり変動が実行されていない場合には選択することが出来ない（選択し難い）専用の演出モード（プレミアムモード）を選択可能に構成している。このように構成することで、演出モードを選択するための選択操作を実行したことに基づいて、特別図柄抽選の結果を、特別図柄変動が停止表示されるよりも前に遊技者に報知することが可能となるため、特別図柄抽選の結果をいち早く把握したい遊技者に対して、積極的に演出カスタム状態を設定させることができる。
【７７５１】
加えて、本第２３制御例では、演出カスタム状態が設定された場合において、選択中の演出モード以外の演出モードを示すための表示態様が表示領域ＨＲ６に表示されないように構成している。このように構成することで、演出カスタム状態を設定しただけでは他に設定可能な演出モードを把握することが出来ないため、遊技者に対して演出カスタム状態を設定するための操作（中ボタン６００ａの操作）を実行させるだけで無く、演出モードを選択するための操作（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅの操作）を実行させ易くすることができる。よって、遊技者を、操作手段を操作させる遊技に積極的に参加させ易くすることができる。
【７７５２】
なお、本第２３制御例では、上述した通り、１の演出モードを示すための表示態様のみを表示領域ＨＲ６に表示させるように構成しているが、これに限ること無く、選択中の演出モードを示すための表示態様に加え、右ボタン６００ｃを操作した場合に選択される演出モードや、左ボタン６００ｅを操作した場合に選択される演出モードを、遊技者が右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅを操作する前に遊技者が把握できるように表示領域ＨＲ６に対応する表示態様の少なくとも一部を表示させるように構成しても良い。このように構成することで、所望する演出モードを遊技者に選択させ易くすることができる。
【７７５３】
次に、図７３６（ｂ）を参照して、「プレミアムモード」を選択可能な状態において演出カスタム操作を実行した場合の演出内容について説明をする。図７３６（ｂ）は、特別図柄抽選の結果が大当たりであることを示すための大当たり変動中に演出モードを選択する場合に表示される表示画面の一例を示した図である。本第２３制御例では、大当たり遊技終了後に遊技者に有利な遊技状態である確変状態が設定される大当たり種別である「大当たりＡ」に当選している大当たり変動中において、演出カスタム操作を実行した場合に、大当たり変動中以外では選択することができない演出モード「プレミアムモード」を選択可能に構成している。
【７７５４】
よって、「プレミアムモード」を選択可能な状態で演出カスタム操作（演出カスタム状態中における右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ操作）が実行された場合には、表示領域ＨＲ６に「プレミアムモード」に対応する表示態様が表示される。上述した通り、本第２３制御例では、表示領域ＨＲ６には選択中の演出モードを示すための表示態様しか表示されないため、演出カスタム状態において遊技者が操作手段（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）を操作した場合に、初めて、「プレミアムモード」に対応する表示態様が表示領域ＨＲ６に表示されることになる。
【７７５５】
このように構成することで、単に演出モードを変更することを目的として演出カスタム

操作を実行している遊技者に対して、実行中の特別図柄変動の結果を報知することが可能となるため、意外性のある演出を提供することができる。また、実行中の特別図柄変動の変動結果（特別図柄抽選の抽選結果）を、いち早く把握しようとする遊技者に対して、積極的に演出カスタム操作を行わせることができる。

【７７５６】

さらに、本第２３制御例では、演出カスタム状態を設定しただけでは「プレミアムモード」を選択可能な状態であるか否かを遊技者が把握できないように構成しているため、例えば、遊技中に遊技者が誤って中ボタン６００ａを操作してしまい、意図すること無く演出カスタム状態が設定された場合であっても、演出カスタム状態が設定されたことに基づいて表示される表示態様（表示領域ＨＲ６に表示される表示態様）によって、実行中の特別図柄変動の変動結果を遊技者に報知してしまうことを抑制することができる。

【７７５７】

なお、図７３６（ｂ）に示した表示例では、表示領域ＨＲ６に表示される演出モードに対応する表示態様として、対応する演出モードを示すための識別情報（演出モードを示すための文字）を異ならせているだけであり、それ以外は同一の表示態様を示しているが、これに限ること無く、遊技者に有利となる演出モード（例えば、「プレミアムモード」）に対応する表示態様を、他の演出モードに対応する表示態様よりも遊技者が注視し易くするために装飾を施した表示態様としても良い。このように構成することで、遊技者にとって有利となる演出モードを選択可能な状態であることを遊技者に視覚的に報知可能となり、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【７７５８】

ここで、図７３７を参照して、演出カスタム操作によって選択可能となる演出モードの選択範囲について説明をする。図７３７（ａ）は、特別図柄抽選の結果が外れであることを示すための外れ変動中に設定される演出モードの選択範囲を模式的に示した図であって、図７３７（ｂ）は、特別図柄抽選の結果が大当たりであることを示すための大当たり変動中に設定され得る演出モードの選択範囲を模式的に示した図である。

【７７５９】

図７３７（ａ）に示した通り、外れ変動中は、演出モードとして、「ノーマルモード」、「チャンスアップモード」、「確変告知モード」の３種類を選択可能な通常選択範囲（通常演出モード選択エリア）が設定され、図７３７（ｂ）に示した通り、大当たり変動中は、演出モードとして、「ノーマルモード」、「チャンスアップモード」、「確変告知モード」、「プレミアムモード」の４種類を選択可能な特殊選択範囲（特殊演出モード選択エリア）が設定され得るように構成している。

【７７６０】

詳細な説明は後述するが、本第２３制御例のパチンコ機１０が有する音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２には、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａが設けられており、この演出カスタム情報テーブル２２２ｗａには、各演出モードに対応する演出規定情報と、遊技者が演出カスタム操作を実行した場合に選択される演出モードの選択順序を示す情報とが規定されている。図７３７に示した演出モード選択エリアは、この演出カスタム情報テーブル２２２ｗａに規定されている演出モードの選択順序を模式的に示したものである。

【７７６１】

本第２３制御例では、遊技者が中ボタン（決定ボタン）６００ａを押下し、演出カスタム状態が設定されたタイミングにおける遊技状況（大当たり変動中であるか否か）に基づいて、選択可能な演出モードの種別を決定するように構成しており、遊技者が中ボタン（決定ボタン）６００ａを押下し、演出カスタム状態が設定されたタイミングが遊技者に最も有利な特典が付与される大当たり（大当たり遊技のラウンド数が１０ラウンドで、大当たり遊技終了後の遊技状態が確変状態となる大当たりＡ）に当選する特別図柄変動中であって、且つ、「プレミアムモード」を選択可能にするか否かを決定するための抽選に当選した場合に、演出モードとして「プレミアムモード」が選択可能となる。

【７７６２】
そして、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードが決定されると、その選択範囲内において、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａに規定されている選択順序に従って、演出モードを選択可能になる。よって、特別図柄抽選の結果が外れ当選であることを示すための特別図柄変動期間中に演出カスタム操作として右ボタン６００ｃを操作した場合には、「確変告知モード」、「チャンスアップモード」、「ノーマルモード」の順に演出モードが選択される。そして、「ノーマルモード」が選択されている状態で、さらに、右ボタン６００ｃを操作した場合には、ロータリー式に「確変告知モード」が選択される。このように構成することで、演出カスタム状態において、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅの何れかのみを操作した場合であっても、確実に選択可能な選出モードを全て選択することができるため、演出カスタム状態中に複数の操作手段（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）を操作することが煩わしいと感じる遊技者に対しても、演出カスタム操作を確実に実行させることができる。
【７７６３】
なお、本第２３制御例では、演出カスタム状態が設定されると、現在設定している演出モードを示すための表示態様が表示領域ＨＲ６に最初に表示されるように構成している。よって、例えば、「チャンスアップモード」が設定されている外れ変動中に演出カスタム状態を設定した場合には、表示領域ＨＲ６には「チャンスアップモード」の表示態様が表示されることになる。そして、右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅの操作内容に応じて、図７３７（ａ）に示した順序に従って、演出モードが選択され、選択された演出モードに対応する表示態様が表示領域ＨＲ６に表示される。このように構成することで、演出モードを変更するための操作を、表示領域ＨＲ６に表示される表示態様に基づいて実行することができるため、遊技者に分かり易く演出カスタム操作を行わせることができる。
【７７６４】
また、「プレミアムモード」を選択可能な状態で、演出カスタム操作として左ボタン６００ｅを操作した場合には、「ノーマルモード」、「チャンスアップモード」、「確変告知モード」、「プレミアムモード」の順に演出モードが選択される。そして、「プレミアムモード」が選択されている状態で、さらに、左ボタン６００ｅを操作した場合には、ロータリー式に「ノーマルモード」が選択される。このように構成することで、演出カスタム状態において、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅの何れかのみを操作した場合であっても、確実に選択可能な選出モードを全て選択することができるため、演出カスタム状態中に複数の操作手段（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）を操作することが煩わしいと感じる遊技者に対しても、演出カスタム操作を確実に実行させることができる。
【７７６５】
なお、本第２３制御例では、図７３７に示した通り、複数の演出モードを予め定められた選択順序に基づいて遊技者に選択させるように構成しているが、これに限ること無く、演出モードを選択するための操作を実行した場合に、選択可能な複数の演出モードの中からランダム（順不同）で１の演出モードを選択可能に構成しても良い。このように構成することで、現在選択可能な演出モードの種別を遊技者に把握させ難くすることができるため、「プレミアムモード」が選択可能であるか否かを把握させるために遊技者に操作手段をより多く操作させ易くすることができる。
【７７６６】
次に、図７３８を参照して、演出モードの切り替え操作（演出カスタム操作）を実行した場合（決定ボタン６００ａを操作した場合）に実行される演出内容について説明をする。図７３８は、演出モードの切り替え操作を実行した際に、大当たり当選を報知する報知演出（第２報知演出）が実行される例を示した図である。
【７７６７】
図７３５（ａ）を参照して上述した通り、通常であれば、変動演出の後半期間において、演出カスタム操作を実行した場合には、実行中の変動演出が終了するまで（実行中の特

別図柄変動が停止表示されるまで）、演出モードが切り替わること無く、予備表示領域ＨＲ６ａに「スタンバイ中」が表示されるように構成しているが、変動演出の後半期間において実行される演出カスタム操作が所定条件を満たしている場合には、図７３８に示した通り、変動演出が実行されている最中に演出モードを切り替え可能に構成している。

【７７６８】

具体的には、大当たり変動に対応する変動演出の後半期間であって、演出カスタム操作によって切り替え後の演出モードとして「チャンスアップモード」を決定した場合に、所定条件が成立し、変動演出が実行されている最中に演出モードを切り替え可能に構成している。そして、この場合、演出モードが切り替わったことを示すための表示態様として予備表示領域ＨＲ６ａに「セット完了」が表示されると共に、音声出力装置２２６に接続されるスピーカー部３０８から大当たり当選を示すための「おめでとう」の音声Ｋｅ１が出力されるように構成している。

【７７６９】

このように、特別図柄変動中に実行される演出カスタム操作によって大当たり変動であることを報知可能に構成することで、演出カスタム操作を実行するタイミングに応じて、演出モードを切り替える以外の特典を付与することが可能となるため、遊技者に対して様々なタイミングで演出カスタム操作を実行させることが可能となる。

【７７７０】

なお、本第２３制御例では、大当たり変動に対応する変動演出の後半期間であって、演出カスタム操作によって切り替え後の演出モードとして「チャンスアップモード」を決定した場合に、遊技者に特典を付与するための所定条件が成立し、「おめでとう」の音声が出力されることで大当たり当選を報知する特典が遊技者に付与されるように構成しているが、大当たり当選を報知する態様は、これに限ること無く、例えば、演出カスタム操作に用いられる操作手段（決定ボタン６００ａ等）に発光手段（ＬＥＤ等）を設け、所定条件が成立した場合に操作手段を特定態様（例えば、虹色）で発光させるように構成しても良い。

【７７７１】

さらに、演出カスタム操作が実行されることによって所定条件が成立した場合に付与される特典として大当たり当選を報知する特典以外の特典を付与可能に構成しても良く、例えば、現在設定されている遊技状態を報知する特典を付与したり、異なる大当たり確率を設定可能な設定機能（詳細は、後述する第２４制御例参照）を有するパチンコ機１０であれば現在設定されている設定値を示唆するための特典を付与したりするように構成しても良い。

【７７７２】

このように構成することにより、本第２３制御例では、大当たり変動中のみ所定条件が成立し得るものであったが、それ以外の場合であっても所定条件を成立させることが可能となり、様々なタイミングにおいて演出カスタム操作に基づいて特典を付与することが可能となる。

【７７７３】

以上、説明をした通り、本第２３制御例では、様々な演出モードを遊技者に選択させることが可能に構成している。このように構成することで、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７７７４】

また、本第２３制御例では、選択した演出モードに応じて、同一の演出態様で演出（予告演出）が実行された場合における当たり当選の期待度を異ならせるように構成している。このように構成することで、遊技者が所望する遊技内容に応じた遊技を実行させ易くすることができる。

【７７７５】

さらに、本第２３制御例では、大当たり変動中において演出モードを切り替えるための操作（演出カスタム操作）を実行した場合に、大当たり変動中以外において演出モードを

切り替えるための操作（演出カスタム操作）を実行した場合には選択することができない演出モードを選択可能に構成している。つまり、演出カスタム操作を実行するタイミングが所定条件を満たしている場合には、所定条件を満たしていない場合では選択することが出来ない演出モードを選択可能に構成している。

【７７７６】

このように構成することで、遊技者に対して、様々なタイミングで演出カスタム操作を実行させ易くすることができ、遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７７７７】

なお、本第２３制御例では、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードを異ならせるための所定条件として、大当たり変動中であるか否かに関する情報を用いているが、これに限ること無く、特別図柄変動が実行されている状態と、特別図柄変動が実行されていない状態とで、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードの種別を異ならせても良いし、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選回数が所定回数（例えば、５００回）を超えた場合と、超えていない場合とで、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードの種別を異ならせても良いし、設定されている遊技状態に応じて、演出カスタム操作によって選択可能な演出モードの種別を異ならせても良い。

【７７７８】

また、過去に設定していた演出モードの履歴に応じて選択可能な演出モードの種別を異ならせても良い。この場合、例えば、初期状態としては、演出モードＡ、演出モードＢ、演出モードＣを選択可能に構成し、その状態で演出モードＡを選択した場合には、次に選択可能な演出モードとして、演出モードＡ１、演出モードＡ２、演出モードＡ３を選択可能に構成すると良い。このように構成することで、演出モードを選択した履歴に応じて、選択可能な演出モードを異ならせることができるため、全ての演出モードで遊技を実行したい遊技者に対して、様々な演出モードを設定させることができる。

【７７７９】

次に、図７３９、図７４０を参照して、実行中の特別図柄変動に対応する変動演出であって、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を用いて保留図柄表示を非表示にし、実行中保留図柄のみを表示させる実行中保留演出の演出内容について説明をする。図７３９（ａ）は、実行中保留演出が開始され、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が第３図柄表示装置８１の表示画面の一部を隠すように可動している状態を示す図であって、図７３９（ｂ）は、実行中保留演出として、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が保留図柄の表示領域（表示領域ＨＲ２）を全て隠すように可動している状態を示す図である。

【７７８０】

本第２３制御例では、上述した通り、実行中の変動演出の演出パターン（リーチ態様）が、大当たり当選期待度の高い演出パターンへと進行した場合（発展した場合）に、保留図柄表示を非表示にするように構成している。つまり、第３図柄表示装置８１の表示面において実行されている演出が、実行中の特別図柄変動の結果を示すための変動演出であることを遊技者に分かり易く報知するために、保留図柄表示を非表示とするように構成している。

【７７８１】

そして、保留図柄を非表示にする演出態様として、上述した第２２制御例において保留変化演出が実行される場合と同様にチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出態様を設定し、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動した直後には、保留図柄の表示態様を変化させるための保留変化演出が実行されたのか、保留図柄を非表示にする演出が実行されたのかを遊技者に把握させ難くするように構成している。

【７７８２】

このように構成することで、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動した場合に、演出の対象が何れであるかを予測する楽しみを遊技者に提供することができる。

【７７８３】

さらに、本第２３制御例では、変動演出として保留図柄を非表示にするためにチェンジ

役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出態様が設定される際に、保留図柄表示として３色以上の表示態様で保留図柄が表示されている場合であり、且つ、実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合に、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が全ての保留図柄表示を隠すと共に、実行中の特別図柄変動に対応する実行保留図柄（実行中保留図柄）の表示態様を、大当たり当選を示す表示態様（虹色）へと可変させる演出を実行可能に構成している。

【７７８４】

このように構成することで、単に保留図柄表示を非表示にするための演出（チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる演出）に対して、実行中の特別図柄変動の抽選結果を報知する機能を持たせることができるため、遊技者に対して意外性のある演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。

【７７８５】

実行中保留演出が開始されると、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が格納位置から第３図柄表示装置８１の表示面の一部を覆う可動位置へと可動する可動動作が実行される。この実行中保留演出は、実行中の変動演出の演出態様が大当たり当選期待度の低い第１演出態様（例えば、ノーマルリーチ態様）から、その第１演出態様よりも大当たり当選期待度の高い第２演出態様（例えば、スーパーリーチ態様）へと切り替わるタイミングに併せて実行されるものである。つまり、実行中保留演出によってチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動することにより、実行中の変動演出の演出態様が切り替わることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【７７８６】

実行中保留演出では、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が上述した第２２制御例における保留変化演出と同様に、保留図柄が表示されている表示領域ＨＲ２の一部を覆うように可動し、図７３９（ａ）に示した状態となる。このように構成することで、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動契機が保留変化演出なのか実行中保留演出なのかを遊技者に判別させ難くすることができる。

【７７８７】

このチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動態様は、表示領域ＨＲ２に表示されている保留図柄の数や、表示態様に応じて異ならせることができるように構成しており、図７３９（ａ）に示した表示例では、表示領域ＨＲ２に４つの保留図柄が表示されている状態であって、且つ、第１保留図柄ｈｒ１が「黄」、第２保留図柄ｈｒ２が「青」、第３保留図柄ｈｒ３が「緑」、第４保留図柄ｈｒ４が「赤」の表示態様で表示されている状態、即ち、第１保留図柄ｈｒ１～第３保留図柄ｈｒ３が異なる３色で表示されている状態であり、第４保留図柄ｈｒ４のみがチェンジ役物Ｙｍ２によって隠されている場合の例を示している。

【７７８８】

そして、実行中保留演出が進行すると、図７３９（ｂ）に示した通り、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が表示領域ＨＲ２を全て覆う第２可動位置へと可動する可動動作を実行すると共に、第３図柄表示装置８１の表示面に対して、第２可動位置へとチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動したことに対応する装飾表示（図では黒色の暗転表示）を実行する。そして、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動位置から第２可動位置へと可動したことにより隠された複数の保留図柄（第１保留図柄ｈｒ１～第３保留図柄ｈｒ３）の表示態様に関する表示要素（各保留図柄の色を示す要素）に対応する付加図柄が表示領域ＨＲ１に表示されている実行中保留ｈｒ０に向かって放出される演出が実行される。

【７７８９】

図７３９（ｂ）では、表示領域ＨＲ２に表示されていた第１保留図柄ｈｒ１，第２保留図柄ｈｒ２，第４保留図柄ｈｒ４が表示領域ＨＲ２から放出され、実行中保留図柄ｈｒ０に吸収される演出例を示している。なお、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が第２可動位置へと可動したことに基づいて表示領域ＨＲ２から放出される付加図柄の表示態様として、図７３９（ｂ）に示した通り、表示領域ＨＲ２に表示されていた保留図柄の表示態様をそのまま用いても良いし、保留図柄の表示態様を構成する特定の要素（色情報）のみを示した

表示態様を用いても良い。図７３９（ｂ）に示した通り、実行中保留図柄ｈｒ０が表示される表示領域ＨＲ１は、表示領域ＨＲ２の中央部上方に形成されており、且つ、左チェンジ役物Ｙｍ１と、右チェンジ役物Ｙｍ２とが第２可動位置へと可動した場合に当接する位置の上方に設けられている。よって、実行中保留演出が実行され、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が第２可動位置へと可動する演出と、表示領域ＨＲ２に表示されていた保留図柄（第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）が放出され、表示領域ＨＲ１に表示されている実行中保留図柄ｈｒ０に吸収される演出とに関連性があることを遊技者に把握させ易くすることができる。

【７７９０】

そして、表示領域ＨＲ２に表示されていた第１保留図柄ｈｒ１，第２保留図柄ｈｒ２，第４保留図柄ｈｒ４が実行中保留図柄ｈｒ０に吸収されることで、図７４０に示した通り、実行中保留図柄ｈｒ０の表示態様が「白」から「虹」へと変化し、実行中保留演出が終了する。実行中保留図柄ｈｒ０の表示態様が「虹」へと変化することにより、実行中の特別図柄変動が大当たり当選していることを遊技者に報知することができる。また、実行中保留演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果となった場合には、第３図柄表示装置８１の表示面において、その演出結果に対応する装飾態様（図７４０では、星の表示態様）が表示される。

【７７９１】

実行中保留演出は、実行中の特別図柄変動に対応する変動演出が演出結果を報知するよりも前の時点（実行中の変動演出の演出態様が大当たり当選期待度の低い第１演出態様（例えば、ノーマルリーチ態様）から、その第１演出態様よりも大当たり当選期待度の高い第２演出態様（例えば、スーパーリーチ態様）へと切り替わるタイミング）に併せて実行されるものであるため、図７４０では、実行中保留演出の演出結果に関わらず、予め設定されていた変動演出が継続して実行されており、副表示領域Ｄｓには、ノーマルリーチからＳＰリーチ（スーパーリーチ）へと演出態様が切り替わったことを報知するための表示態様である「ＳＰリーチ」が表示されている。

【７７９２】

つまり、実行中保留演出の演出結果として、遊技者に有利な演出結果（実行中保留図柄ｈｒ０が虹色に変化する演出結果）が表示された場合には、変動演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果となることを事前に把握した状態で変動演出を見ることができるため、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。また、変動演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果となることを事前に把握することができるため、変動演出の演出態様として、なるべく大当たり期待度の低い演出態様が設定され、頻繁に体験することができない演出結果が報知（表示）されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【７７９３】

図７４０に示した実行中保留演出が終了すると、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が初期位置へと可動し、表示領域ＨＲ２が遊技者に視認可能な状態となる。この場合には、実行中保留演出が実行される前に表示されていた保留図柄（第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）の表示態様（色）が、全てデフォルトの表示態様（白）で表示される。このように構成することで、各保留図柄に対して実行された保留変化演出によって付された表示態様（色）が、実行中保留演出に用いられたと遊技者に思わせ易くすることができるため、各保留図柄に対する保留変化演出と、実行中保留演出とに関連性を持たせ易くすることができる。また、図７４０に示した通り、実行中保留演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果である場合には、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示されるまで実行中保留演出が継続し、第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示された場合に、実行中保留演出が終了するように構成している。

【７７９４】

よって、大当たり遊技終了後に実行される特別図柄抽選に用いられる保留情報に対応する保留図柄の表示態様を、一旦、デフォルト（白）の表示態様をすることができるため、

例えば、大当たり遊技終了前と、終了後とで、特別図柄抽選の結果が変更される場合（特別図柄の確率状態が切り替わる場合）であっても、大当たり遊技前に実行された保留変化演出によって設定された表示態様が大当たり遊技終了後も継続して表示されてしまい、遊技者に分かり難い予告演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【７７９５】

次に、図７４１から図７４３を参照して、本第２３制御例における演出カスタム操作の実行タイミングのうち、特別図柄変動期間中における演出カスタム操作の実行タイミングと、演出カスタム操作が実行された特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定する流れについて説明をする。

【７７９６】

上述した通り、本第２３制御例では、特別図柄変動期間中に演出カスタム操作を実行可能に構成しており、演出カスタム操作の実行タイミングに応じて、特別図柄変動期間中であっても演出モードを切り替え可能に構成している。ここでは、特別図柄変動期間中において演出モードを切り替え可能な場合と、切り替え出来ない場合と、の違いについて説明をする。

【７７９７】

まず、図７４１を参照して、特別図柄変動期間に対応して実行される変動演出の演出態様を決定する流れについて説明をする。図７４１は、特図変動中に変動演出を設定する流れを示した図である。図７４１では、変動演出の演出態様を決定する基本的な流れを説明するために、特図変動中に演出カスタム操作を実行しない場合の流れを示している。

【７７９８】

よって、図７４１（ａ）に示した通り、対応する特図変動期間中は常に演出モードとして「ノーマルモード」が設定されている。図７４１（ｂ）に示した通り、変動時間が３０秒の特別図柄変動の開始タイミングにおいて、対応する変動演出の演出態様として、全体の演出パターン（演出Ａ）と、前半期間（１０秒間）にて実行されるチャンスアップ演出（前半予告態様）の種別（青）が決定され、特別図柄変動の開始に対応させて変動演出が実行される。そして、図７４１（ｃ）に示した通り、変動演出（演出Ａ）が開始されてから６秒が経過すると、２秒間の前半予告が実行され、前半予告が終了してから２秒経過後（前半期間の経過タイミング）、即ち、特別図柄変動が開始されてから１０秒が経過したタイミングにて、後半期間（２０秒間）にて実行されるチャンスアップ演出（後半予告態様）の種別（青）が決定される。

【７７９９】

つまり、本第２３制御例では、１の特別図柄変動に対応した変動演出の演出態様を、複数のタイミングで決定するように構成している。このように構成することで、１の変動演出が実行されている変動演出期間中に成立した要件に応じて、実行中の変動演出の少なくとも一部の演出態様を決定することが可能となるため、要件の成立に対応させた演出態様を遅滞無く決定させ易くすることができる。

【７８００】

なお、本第２３制御例では、１の変動演出を前半期間と、後半期間との２つの演出期間に区分けし、各演出期間において実行される予告演出の態様（予告態様）を異なるタイミングで決定するように構成しているが、１の変動演出を３つ以上の演出期間に区分けするように構成しても良い。このように、変動演出を複数の演出期間に区分けする程、１の演出期間の長さを短くし易くすることができるため、変動演出中に成立した要件に応じた予告態様を遅滞無く決定させ易くすることができる。

【７８０１】

また、本第２３制御例では、１の変動演出が実行されるタイミングにおいて、１の変動演出期間全体に渡って実行される変動演出の演出パターン（演出態様）を決定しておき、変動演出期間のうち特定期間（変動演出が開始されてから６秒経過した後の２秒間である第１予告期間と、変動演出が開始されてから２８秒が経過した後の２秒間である第２予告期間）にて実行される予告演出の態様（予告態様）を、異なるタイミングで決定可能に構

成している。このように構成することで、１の変動演出期間全体に渡って実行される演出パターン（演出態様）を継続して実行しながらも、予告演出の態様（予告態様）を異なるタイミングで設定することができるため、遊技者に違和感の無い演出を実行することができる。

【７８０２】

なお、本第２３制御例では、１の特別図柄変動に対応して実行される変動演出の演出期間に対して、その演出期間全体に渡って実行される演出パターン（演出態様）を予め（変動演出の開始タイミングで）設定し、その演出期間のうち、特定期間内で実行される予告演出の演出態様（予告態様）を、異なるタイミングで適宜決定するように構成しているが、これに限ること無く、複数の特別図柄変動に対応して実行される変動演出の演出期間に対して、その演出期間全体に渡って実行される演出パターン（演出態様）を予め（変動演出の開始タイミングで）設定し、その演出期間のうち、特定期間内で実行される予告演出の演出態様（予告態様）を、異なるタイミングで適宜決定するように構成しても良いし、複数の特別図柄変動が実行され得る演出期間（例えば、設定している遊技状態を示すための状態演出が実行される演出期間）に対して、その演出期間全体に渡って実行される演出パターン（例えば、背景演出）を予め（遊技状態が設定されるタイミングで）設定し、その演出期間のうち、特定期間内で実行される演出の演出態様（例えば、変動演出の演出態様）を、異なるタイミングで適宜決定するように構成しても良い。

【７８０３】

次に、図７４２を参照して、特図変動中に変動演出を設定する流れと、変動演出の前半期間において演出カスタム操作を実行した場合の演出モードの移行について説明をする。図７４２は、特図変動中に変動演出を設定する流れと、変動演出の前半期間において演出カスタム操作を実行した場合の演出モード移行の流れと、を示した図である。

【７８０４】

上述した図７４１に対して、図７４２では、変動演出の前半期間中に演出カスタム操作が実行され、変動演出期間中に演出モードが切り替わる点で相違している。具体的には、図７４２（ａ）に示した通り、対応する特図変動が実行される時点では演出モードとして「ノーマルモード」が設定されている。そして、図７４２（ｂ）に示した通り、変動時間が３０秒の特別図柄変動の開始タイミングにおいて、対応する変動演出の演出態様として、全体の演出パターン（演出Ａ）と、前半期間（１０秒間）にて実行されるチャンスアップ演出（前半予告態様）の種別（青）が決定される。そして、図７４２（ｃ）に示した通り、変動演出（演出Ａ）が開始されてから６秒が経過すると、２秒間の前半予告が実行される。

【７８０５】

そして、変動演出の前半期間中に演出カスタム操作を実行し、「チャンスアップモード」を選択した場合には、前半期間が経過するよりも前に、後半期間に実行される予告演出（後半予告態様）を決定する処理が実行される。図７４２（ｂ）では、演出カスタム操作を実行したタイミングにて後半予告態様として（赤）が決定された例を示している。この後半予告態様（赤）は、「チャンスアップモード」を設定した場合に実行可能な演出態様であるため、図７４２（ａ）に示した通り、演出カスタム操作を実行したタイミングで演出モードが「ノーマルモード」から「チャンスアップモード」へと切り替わったことを示すための表示態様が表示される。

【７８０６】

一方、図７４２の流れに対して、変動演出の前半期間中に演出カスタム操作を実行し、「チャンスアップモード」を選択した場合に、実行された後半期間に実行される予告演出（後半予告態様）を決定する処理によって、後半予告態様として（青）が決定された場合には、この後半予告態様（青）は、「チャンスアップモード」を設定した場合に実行不可能な演出態様であるため、図７４３（ａ）に示した通り、演出カスタム操作を実行したタイミングでは、「ノーマルモード」が継続して表示され、次変動から「チャンスアップモード」へと切り替わることを示すための表示態様が表示される。

【７８０７】
つまり、本第２３制御例では、変動演出が実行されている期間中に演出カスタム操作を実行した場合に、残りの残期間中に実行される変動演出の演出態様に応じて演出カスタム操作に基づいて演出モードが切り替わったことを報知するタイミングを異ならせている。具体的には、演出カスタム操作を実行した場合に、残りの残期間中に実行される変動演出の演出態様が変更後の演出モードに適合する演出態様である場合には、即座に演出モードが切り替わったことを報知し、残りの残期間中に実行される変動演出の演出態様が変更後の演出モードに適合しない演出態様である場合、或いは、設定される演出モードに関わらず共通して実行され易い演出態様である場合には、残期間経過後に演出モードが切り替わったことを報知するように構成している。
【７８０８】
このように構成することで、変動演出中に演出カスタム操作を実行した場合において、その演出カスタム操作に基づいてどのタイミングで演出モードが切り替わるのかについて遊技者に興味を持たせることができる。また、本第２３制御例では、演出カスタム操作を実行した後に実行される予告演出の演出態様に応じて、演出カスタム操作によって演出モードが切り替わったことを報知するタイミングを異ならせているため、例えば、演出カスタム操作によって、予告演出が実行されるだけで大当たり当選期待度が高いことを報知可能な演出モードである「チャンスアップモード」を設定した場合において、変動演出期間中に演出モードが切り替わったことが報知されるだけで、実行中の変動演出が大当たり当選を示す演出結果である可能性が高いと遊技者に予測させ易くすることができる。
【７８０９】
＜第２３制御例における電気的構成について＞
次に、図７４４から図７４７を参照して、本第２３制御例における電気的構成について説明をする。本第２３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部と、ＲＡＭ２２３の構成の一部と、を変更している点で相違しており、それ以外の構成は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。
【７８１０】
まず、図７４４を参照して、本第２３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図７４４は、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成を模式的に示した図である。図７４４に示した通り、本第２３制御例では、上述した第２２制御例に対して、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａと、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂと、を追加した点で相違しており、それ以外の構成については同一である。同一の構成については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【７８１１】
演出カスタム情報テーブル２２２ｗａは、遊技者が選択可能な各演出モードに対応する情報が規定されているデータテーブルであって、演出カスタム操作によって演出モードが決定（設定）された場合に、決定（設定）された演出モードに対応する情報を読み出す際に参照される。ここで読み出された情報は、後述するカスタム情報格納エリア２２３ｗｂに格納され、変動演出の演出態様を決定する際に参照される。
【７８１２】
ここで、図７４５を参照して、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａに規定されている内容について説明をする。図７４５は、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａに規定されている内容を示すための図である。図７４５に示した通り、演出カスタム情報テーブル２２２ｗａには、遊技者が選択可能な４種類のカスタム種別（演出モード種別）に対して、演出カスタム操作によって選択可能となる選択条件と、選択された場合における演出態様の設定内容（規定内容）とが規定されている。
【７８１３】

本第２３制御例では、演出カスタム操作を実行することで最大で４種類の演出モード種別（カスタム種別）を選択可能に構成しており、選択された演出モード種別（カスタム種別）に応じて、実行される演出（先読み演出、予告演出等）の実行頻度や、当たり当選に対する期待度を異ならせることができるように構成している。

【７８１４】

より具体的には、演出モード種別（カスタム種別）に応じて、保留変化演出の実行頻度、確変報知演出の実行頻度、後半予告演出の実行頻度が異なるように各演出モード種別（カスタム種別）に対して、演出態様の設定条件が規定されている。

【７８１５】

図７４５に示した通り、カスタム種別（演出モード種別）「ノーマルモード」に対しては、選択条件として「常時」が規定されている。つまり、「ノーマルモード」は、演出カスタム操作によって常に選択可能なカスタム種別（演出モード種別）として規定されている。そして、保留変化演出の実行頻度「中」、確変報知の実行頻度「中」、後半予告演出の実行頻度「中」が規定されている。つまり、「ノーマルモード」が選択されている場合には、通常頻度で各種演出が実行されるように構成している。

【７８１６】

そして、カスタム種別（演出モード種別）「チャンスアップモード」に対しては、選択条件として「常時」が規定されている。つまり、「チャンスアップモード」は、演出カスタム操作によって常に選択可能なカスタム種別（演出モード種別）として規定されている。そして、保留変化演出の実行頻度「低」、確変報知の実行頻度「中」、後半予告演出の実行頻度「低」が規定されている。つまり、「チャンスアップモード」が選択されている場合には、「ノーマルモード」が選択されている場合よりも、保留変化演出や後半予告演出の実行頻度が低くなるように構成している。

【７８１７】

本第２３制御例では、各種演出の実行頻度が低く設定されているほど、実行された場合における大当たり当選の期待度が高くなるように構成している。つまり、大当たり当選時における演出態様を選択する選択割合を変更すること無く、外れ当選時における演出態様の選択割合を変更することで各種演出の実行頻度を変更するように構成している。よって、「ノーマルモード」に対して「チャンスアップモード」が選択されている場合には、保留変化演出や後半予告演出が実行された場合における大当たり当選の期待度を高めることができる。

【７８１８】

次に、カスタム種別（演出モード種別）「確変告知モード」に対しては、選択条件として「常時」が規定されている。つまり、「確変告知モード」は、演出カスタム操作によって常に選択可能なカスタム種別（演出モード種別）として規定されている。そして、保留変化演出の実行頻度「中」、確変報知の実行頻度「高」、後半予告演出の実行頻度「中」が規定されている。つまり、「確変告知モード」が選択されている場合には、「ノーマルモード」と同一頻度で保留変化演出や後半予告演出が実行され、確変報知の実行頻度が高くなるように構成している。

【７８１９】

最後に、カスタム種別（演出モード種別）「プレミアムモード」に対しては、選択条件として「大当たり変動中の一部」が規定されている。つまり、「プレミアムモード」は、演出カスタム操作が大当たり変動中の一において実行された場合に選択可能なカスタム種別（演出モード種別）として規定されている。

【７８２０】

この「プレミアムモード」が選択された場合には、実行中の変動演出の残期間や、既に設定されている演出態様の内容に関わらず、大当たり変動が停止表示されるまでの期間を用いて特別な専用演出（祝福演出）が実行されるように構成している。よって、保留変化演出、及び、後半予告演出が実行されることが無く、保留変化演出の実行頻度「－」、後半予告演出の実行頻度「－」が規定されている。また、「プレミアムモード」は、大当た

り遊技終了後に確変状態が設定される大当たり種別「大当たりＡ」が設定されている場合のみ選択可能となるように構成しているため、「プレミアムモード」が選択された場合に実行される特別な専用演出（祝福演出）が、確変状態が設定されることを示すための確変報知の機能を有することになるため、確変報知として「確定報知」が規定されている。

【７８２１】

なお、本第２３制御例では、上述した４種類の演出モードを選択可能に構成しているが、遊技者が選択可能な演出モードとして５種類以上の演出モードを選択可能に構成しても良い。この場合、選択可能とする演出モードとして、例えば、大当たり当選の期待度を示唆するための演出（予告演出）が実行されない（実行され難い）演出モード（サイレントモード）を設定可能に構成しても良い。このような演出モードを設けることにより、大当たり当選するか否かを遊技者に事前に判別させ難くすることができるため、常に大当たり当選を期待しながら遊技を行わせることができる。また、特定の識別情報の表示態様を段階的に可変させることで大当たり期待度を段階的に示唆可能な演出を実行可能なパチンコ機１０であれば、大当たり期待度を段階的に示すための表示態様を入れ替えた演出モード（ハプニングモード）を設定可能に構成しても良い。例えば、大当たり当選期待度を、保留図柄の色を段階的に変化させることで遊技者に示唆可能な保留変化演出を実行可能なパチンコ機１０において、通常であれば、保留図柄の色が「青→緑→赤→虹」の順で大当たり当選期待度が高くなるのに対して、上述したハプニングモードが設定されることで、「虹→赤→緑→青」の順で大当たり当選期待度が高くなるように構成すると良い。

【７８２２】

このように構成することで、設定される演出モードに応じて、識別情報の表示態様と、大当たり期待度と、の関係性を異ならせることができるため、通常であれば、外れ当選し易い演出が大当たり当選し易い演出となり、通常であれば、大当たり当選し易い演出が外れ当選し易い演出となる。よって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７８２３】

後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂは、変動演出の後半期間にて実行される後半予告の演出態様（予告態様）を決定する際に参照されるデータテーブルであって、対象となる変動演出の演出パターンに対応させて異なる予告態様が規定されており、演出更新処理２３（図７５４のＦ２１６１参照）において実行される変動演出更新処理２３（図７５５のＦ３５５１参照）にて、変動演出の前半期間終了タイミングであると判別した場合（図７５５のＦ３９０２：Ｙｅｓ）に、後半予告演出の演出態様を決定するために参照される。また、変動演出の前半期間中において演出カスタム操作を実行し、演出モードを切り替えた場合（図７５２のＦ３７０９：Ｙｅｓ）にも、後半予告演出の演出態様を決定するために参照される。

【７８２４】

ここで、図７４６を参照して、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂに規定されている内容について説明をする。図７４６は、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂに規定されている内容を示した図である。図７４６に示した通り、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂには、現在設定されているカスタム種別（演出モード種別）と、当否判定結果（対象となる変動演出に対応する特別図柄抽選の抽選結果）と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値と、実行演出（対象となる変動演出の演出パターン）とに対応付けて異なる後半予告演出の演出態様（予告態様）が規定されている。

【７８２５】

図７４６に示した通り、変動演出として実行される演出パターンには「演出Ａ」と「演出Ｂ」があり、実行される変動演出の演出パターンに応じて、変動演出期間の後半期間にて実行される予告演出の回数を異ならせている。具体的には、演出パターンとして「演出Ａ」が設定された場合には、後半期間に予告演出が１回、「演出Ｂ」が設定された場合には、後半期間に予告演出が２回実行可能となるように構成している。このように構成することで、実行される変動演出の演出パターンに応じて後半期間に実行される予告演出の実

行回数を異ならせることができ、演出効果を高めることができる。
【７８２６】
具体的には、カスタム種別（演出モード種別）として「ノーマルモード」、或いは、「確変告知モード」が設定されている場合、即ち、後半予告演出の実行頻度「中」であるカスタム種別（演出モード種別）が設定されている場合であって、当否判定結果が「当たり」の場合は、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ａ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～３９」の範囲に対して、後半第１予告「青」が、「４０～６９」の範囲に対して、後半第１予告「緑」が、「７０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「赤」が、規定されており、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ｂ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～３９」の範囲に対して、後半第１予告「青」、後半第２予告「赤」が、「４０～６９」の範囲に対して、後半第１予告「緑」、後半第２予告「緑」が、「７０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「緑」、後半第２予告「赤」が規定されている。
【７８２７】
また、当否判定結果が「外れ」の場合は、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ａ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～３９」の範囲に対して、後半第１予告「青」が、「４０～６９」の範囲に対して、後半第１予告「緑」が、「７０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「赤」が、規定されており、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ｂ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～３９」の範囲に対して、後半第１予告「青」、後半第２予告「赤」が、「４０～６９」の範囲に対して、後半第１予告「緑」、後半第２予告「緑」が、「７０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「緑」、後半第２予告「赤」が規定されている。
【７８２８】
ここで、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂに規定されている各予告態様の種別について説明をする。図７４６に示した通り、本第２３制御例では、各予告態様の種別に応じて大当たり（当たり）当選の期待度が異なるように構成しており、「青」、「緑」、「赤」の順に当たり当選の期待度が高くなるように構成している。
【７８２９】
具体的には、演出パターンとして「演出Ａ」が実行されている場合における後半第１予告では、予告態様「青」は、当否判定結果が「当たり」の場合の４０／９０の割合で選択され、「外れ」の場合の３０／９９で選択され、予告態様「緑」は、当否判定結果が「当たり」の場合の３０／９０の割合で選択され、「外れ」の場合の９／９９で選択され、予告態様「赤」は、当否判定結果が「当たり」の場合の２９／９０の割合で選択され、「外れ」の場合には選択されないように構成している。
【７８３０】
つまり、当たり当選している場合における各予告態様の選択比率に対して、外れ当選している場合における各予告態様の選択比率を大きく異ならせることにより、各予告態様が設定された場合における当たり当選の期待度を異ならせるように構成しており、予告態様「青」が最も当たり当選期待度が低く、次いで、予告態様「緑」、予告態様「赤」の順に当たり当選期待度が高くなるように構成している。
【７８３１】
そして、予告態様「青」や「緑」に対して、予告態様「赤」は、当たり当選している場合にのみ選択されるように構成している。このように構成することで、演出モード種別として「ノーマルモード」や「確変告知モード」が設定されている場合には、当否判定結果が「当たり」である場合も、「外れ」である場合も、様々な予告態様の後半予告演出が実行され易く、遊技者が遊技に早期に飽きることの無い演出を提供することができる。
【７８３２】
一方で、カスタム種別（演出モード種別）として「チャンスアップモード」が設定されている場合、即ち、後半予告演出の実行頻度「低」であるカスタム種別（演出モード種別）が設定されている場合であって、当否判定結果が「当たり」の場合は、実行中の変動演

出の演出パターンが「演出Ａ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して、後半第１予告「無」が、「６０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「赤」が規定されており、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ｂ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して、後半第１予告「無」、後半第２予告「無」が、「６０～７９」の範囲に対して、後半第１予告「無」、後半第２予告「赤」が、「８０～９８」の範囲に対して、後半第１予告「赤」、後半第２予告「赤」が規定されている。

【７８３３】

また、当否判定結果が「外れ」の場合は、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ａ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して、後半第１予告「無」が、「９５～９８」の範囲に対して、後半第１予告「赤」が規定されており、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ｂ」であれば、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して、後半第１予告「無」、後半第２予告「無」が、「９５～９８」の範囲に対して、後半第１予告「無」、後半第２予告「赤」が規定されている。

【７８３４】

つまり、「チャンスアップモード」が設定されている場合には、「ノーマルモード」や「確変告知モード」が設定されている場合よりも後半予告演出が実行され難く（予告態様が設定され難く）、後半予告演出が実行された（予告態様が設定された）時点において、当たり当選の期待度を高めることが可能となる。よって、いち早く大当たり当選の有無を遊技者に予測させ易くすることができる。

【７８３５】

なお、本第２３制御例では、図７４６を参照して上述した通り、様々な予告態様で後半予告演出が実行される「ノーマルモード」、「確変告知モード」では当たり当選している場合のみ予告態様「赤」が設定され、特定の予告態様のみで後半予告演出が実行される「チャンスアップモード」では当たり当選していない場合にも予告態様「赤」が設定されるように構成している。つまり、「ノーマルモード」、「確変告知モード」が設定されている場合には、後半予告演出が実行される（予告態様が設定される）だけでは当たり当選の期待度が低く、特定の予告態様「赤」が設定された場合に当たり当選の期待度が高くなるのに対して、「チャンスアップモード」が設定されている場合には、後半予告演出が実行される（予告態様が設定される）だけで当たり当選の期待度が高くなる一方、外れ当選している場合の一部において特定の予告態様「赤」が設定されるように構成している。

【７８３６】

このように構成することで、設定している演出モード種別（カスタム種別）に応じて、後半予告演出に関する注視ポイントを異ならせることができるため、遊技者に対して様々な演出モード種別（カスタム種別）で遊技を行わせ易くすることができる。

【７８３７】

次に、カスタム種別（演出モード種別）として「プレミアムモード」が設定されている場合、即ち、大当たり変動中である場合は、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ａ」、「演出Ｂ」の何れであっても、実行され得る後半予告演出に対して、予告態様「虹」が必ず設定されるように構成している。つまり、上述した通り、「プレミアムモード」は、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される大当たり種別「大当たりＡ」が設定される大当たり変動中のみ選択可能なカスタム種別（演出モード種別）であることから、「プレミアムモード」を選択した時点で、遊技者に大当たり変動中であることが報知されているため、「プレミアムモード」が設定された以降に後半予告演出を設定する場合には、大当たり当選していることを示すための特殊予告態様「虹」が必ず設定されるように構成している。

【７８３８】

このように構成することで、「プレミアムモード」が設定されたことにより、大当たり当選することを把握している遊技者に対して、大当たり当選期待度の高低を示す予告態様

（例えば、「青」、「緑」）で後半予告演出が実行されてしまい、大当たり当選していないのでは？と困惑させてしまうことを抑制することができる。

【７８３９】

次に、図７４７を参照して、本第２３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の内容について説明をする。図７４７は、本第２３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を示した図である。図７４７に示した通り、本第２３制御例では、上述した第２２制御例に対して、演出カスタム中フラグ２２３ｗａ、カスタム情報格納エリア２２３ｗｂ、モード変更待機フラグ２２３ｗｃ、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄ、後半予告情報格納エリア２２３ｗｅを追加している点で相違している。それ以外の要素については同一であり、同一の要素については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【７８４０】

演出カスタム中フラグ２２３ｗａは、遊技者が演出モード種別を変更するための演出カスタム操作を実行している状態であることを示すためのフラグであって、演出カスタム操作を実行している間、オンに設定される。この演出カスタム中フラグ２２３ｗａは、遊技者が音量調整操作や光量調整操作（環境調整操作）を実行していない状態で決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作（押下）し、演出モード種別を選択可能な状態（演出カスタム状態）が設定された場合（図７５３のＦ３８０６参照）にオンに設定され、演出カスタム状態中において、演出モード種別を決定するための決定ボタン（中ボタン）６００ａが操作された場合にオフに設定される（図７５２のＦ３７０７参照）。

【７８４１】

このように、演出カスタム状態であることを判別可能な演出カスタム中フラグ２２３ｗａを設けることにより、右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅを操作した場合における制御処理の内容を、演出カスタム中フラグ２２３ｗａの設定状況に応じて異ならせることができる。具体的には、演出カスタム中フラグ２２３ｗａがオンに設定されている状態、即ち、演出カスタム状態である場合には、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅが操作されたことに基づいて、演出モード種別を選択可能な選択制御を実行し、演出カスタム中フラグ２２３ｗａがオフに設定されている状態、即ち、演出カスタム状態では無い場合には、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅが操作されたことに基づいて、光量レベルを選択可能な選択制御を実行することができる。

【７８４２】

このように構成することで、同一の操作手段（右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）を用いて、異なる選択制御を実行することが可能となるため、様々な遊技環境（光量レベル、音量レベル、演出モード等）を変更するための操作を遊技者に実行させることが可能なパチンコ機１０において、各変更操作に対応させて専用の操作手段を設ける場合よりも、操作手段の種類を削減することができる。よって、操作手段を設けるための領域を確保し易くすることができる。また、同一の領域に対して備えられる操作手段の種類を削減することにより、１つの操作手段（押下ボタン）を大きく設計することが可能となるため、遊技者が操作し易い操作手段を提供し易くすることができる。

【７８４３】

さらに、本第２３制御例では、各遊技環境を変更するための変更状態（光量調整操作状態、演出カスタム状態）を、遊技者が決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作することにより終了させることができるように構成している。つまり、遊技者が任意の遊技環境を決定した段階で、各変更状態を終了させることができるように構成している。よって、各変更状態が設定された場合において、経過時間に基づいて設定された変更状態が終了する制御を実行する場合に比べて、変更状態が設定されている期間を短くすることができるため、短時間の間に複数種類の遊技環境を変更させ易くすることができる。

【７８４４】

カスタム情報格納エリア２２３ｗｂは、演出カスタム操作によって選択された演出モード種別（カスタム種別）を示すための情報が一時的に記憶される記憶領域であって、演出

カスタム状態中において遊技者が左右ボタン（６００ｃ，６００ｅ）を操作し、遊技モードを選択する毎に、選択された遊技モードを示すための情報が記憶される。カスタム情報格納エリア２２３ｗｂに格納された情報（選択された演出モードを示すための情報）は、変動演出の演出態様を決定する際に参照される。

【７８４５】

このカスタム情報格納エリア２２３ｗｂに記憶されている情報は、パチンコ機１０への電源供給が停止されることに基づいてクリアされ、電源供給が開始された場合に実行される立ち上げ処理によって「ノーマルモード」に対応する初期情報が記憶されるように構成している。よって、パチンコ機１０への電源供給が開始された初期状態では、演出モード種別として「ノーマルモード」が設定されることになる。

【７８４６】

このように構成することで、演出モードを変更することに興味の無い遊技者に対しては、各種演出が均等に実行される演出モードを用いてパチンコ機１０の遊技を実行させることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７８４７】

モード変更待機フラグ２２３ｗｃは、演出カスタム状態中において演出カスタム操作を実行し、現状とは異なる演出モードを決定してから、実際に演出モードが切り替わったことを示す表示態様が表示されるまでの期間を示すためのフラグであって、現状とは異なる演出モードを決定したタイミングでオンに設定され、実際に演出モードが切り替わったことを示すための表示態様が表示されるまでオン状態が継続するように構成している。

【７８４８】

本第２３制御例では、モード変更待機フラグ２２３ｗｃがオンに設定されたことに基づいて、第３図柄表示装置８１の表示画面には、演出モードの変更条件が成立していることを待機している「待機中」の画像が表示されるように構成している。このように構成することで、演出カスタム操作を正常に実行したにも関わらず、演出モードが切り替わっていない状況であるか、そもそも演出カスタム操作が正常に実行されず、演出モードが切り替わっていないのかを遊技者に容易に把握させることができる。

【７８４９】

後半予告設定済フラグ２２３ｗｄは、変動演出の後半期間に実行される後半予告演出の演出態様が決定されていることを示すためのフラグであって、変動演出の実行中であって、変動演出の前半期間が経過するまでに、演出カスタム操作の実行に基づいて後半予告演出の演出態様が決定された場合にオンに設定される。そして、変動演出の前半期間において設定状況が判別され、オンに設定されていないと判別した場合は変動演出の前半期間経過時に後半予告演出の演出態様が決定される。一方、オンに設定されていると判別した場合は、変動演出の前半期間経過時における後半予告演出の演出態様を決定する処理がスキップされる。

【７８５０】

本第２３制御例では、１の変動演出（１の特別図柄変動に対応して設定される変動演出）として設定される複数の演出態様を、１のタイミング（例えば、変動演出の開始タイミング）で全て決定するのでは無く、一部の演出態様を変動演出が実行された以降に決定可能に構成している。具体的には、１の変動演出の実行期間を前半期間と後半期間とに区分けし、後半期間に実行される予告演出（後半予告演出）の演出態様を、前半期間経過時に決定するように構成している。このように構成することで、変動演出の前半期間において発生した各種事象（例えば、演出モードの変更操作や、新たな特図保留の獲得等）に対応させた演出態様を後半予告演出の演出態様として決定することが可能となるため、１の変動演出として設定される複数の演出態様を、変動演出の開始タイミングにおいて全て決定する場合に比べて、変動演出中に各種事象（例えば、演出モードの変更操作や、新たな特図保留の獲得等）が発生した場合において、発生した事象に対応する演出態様をいち早く（変動演出実行期間中に）決定し易くすることができる。

【７８５１】

さらに、変動演出期間の前半期間が経過するよりも前に、演出カスタム操作を実行することで演出モードを変更した場合には、その時点で変更後の演出モードに基づいて後半予告演出の演出態様を決定可能に構成している。そして、後半予告演出の演出態様が変更後の演出モードの内容と合致していると判別した場合には、演出カスタム操作を実行した時点で演出モードが切り替わったことを示すための表示態様（「セット完了」）を表示し、後半予告演出の演出態様が変更後の演出モードの内容と合致していないと判別した場合には、演出モードの切り替えを待機していることを示す表示態様（「待機中」）を表示するように構成している。このように構成することで、変動演出期間中において演出カスタム操作を実行した遊技者に対して、演出モードが切り替わるのを実行中の変動演出が終了するまで待機させること無く、即座に演出モードの切り替え表示を実行することができる。さらに、演出モードの切り替え表示が実行された直後に、切り替わった（変更した）演出モードに対応する演出態様で予告演出（後半予告演出）が実行されるため、演出モードが切り替わったことを遊技者に実感させ易くすることができる。

【７８５２】

なお、本第２３制御例では、変動演出の前半期間中において演出カスタム操作を実行した場合に、変動演出期間中に実行される予告演出のうち、演出態様（予告態様）が決定されていない予告演出（後半予告演出）に対して、変更後の演出モードに基づいて演出態様を決定する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、変動演出の開始タイミングにおいて、変動演出期間中に実行される各種予告演出の演出態様（予告態様）を決定しておき、演出カスタム操作によって演出モードを切り替えるための操作を実行した時点において、まだ実行されていない予告演出に対して設定済の演出態様（予告態様）の内容を判別し、判別された演出態様（予告態様）の内容が、変更後の演出モードと合致する場合には、演出モードの切り替え表示を実行し、合致しない場合は、演出モード切り替えの待機表示を実行するように構成しても良い。

【７８５３】

つまり、予め設定されている予告演出の演出態様が、演出カスタム操作に基づいて設定される演出モードの内容と合致している場合のみ、演出モード変更を受け付けた表示を実行するように構成すると良い。このように構成することで、演出モードの切り替え表示が実行された直後に、切り替わった（変更した）演出モードに対応する演出態様で予告演出（後半予告演出）が実行されるため、演出モードが切り替わったことを遊技者に実感させ易くすることができる。

【７８５４】

後半予告情報格納エリア２２３ｗｅは、変動演出期間の前半期間中に決定された後半予告演出の演出態様を示すための情報を一時的に記憶するための記憶領域であって、前半期間中に演出カスタム操作が実行され、前半期間が経過するよりも前に後半予告演出の演出態様（予告態様）が決定された場合に、その決定された演出態様（予告態様）を示すための情報が格納される（図７５２のＦ３７１１参照）。そして、変動演出期間の前半期間が経過し、後半予告演出の演出態様（予告態様）を設定されるタイミングにおいて、すでに後半予告演出の演出態様（予告態様）が決定されていると判別した場合（図７５５のＦ３９０３：Ｙｅｓ）に、後半予告情報格納エリア２２３ｗｅに格納されている情報が読み出され、読み出された情報に基づいた演出態様（予告態様）が設定される（図７５５のＦ３９０５）。

【７８５５】

＜第２３制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図７４８から図７５５を参照して、本第２３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御処理のうち、上述した第２２制御例と相違する制御処理の内容について説明をする。本第２３制御例では、上述した通り、実行される予告演出に対する当たり当選期待度を異ならせた複数の演出モードを選択可能に構成している点と、保留図柄を非表示にする演出（実行中保留演出）を実行可能に構成している点と、で上述した第２２制御例と相違しており、その相違点に関する制御処理が

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される点で、上述した第２２制御例と相違している。

【７８５６】

具体的には、変動開始時保留演出実行処理２２（図７３０のＦ３１０９参照）に代えて変動開始時保留演出実行処理２３（図７４８のＦ３１５９参照）を、枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）に代えて枠ボタン入力監視・演出処理２３（図７５０のＦ２１３７参照）を、決定ボタン操作処理２２（図７３２のＦ３３１５参照）に代えて決定ボタン操作処理２３（図７５１のＦ３３３２参照）を、演出更新処理２２（図７３４ののＦ２１１１参照）に代えて演出更新処理２３（図７５４のＦ２１６１参照）を、実行する点で相違しており、それ以外の制御処理内容は同一である。同一の制御内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【７８５７】

まず、図７４８を参照して、変動開始時保留演出実行処理２３（Ｆ３１５９）について説明をする。図７４８は、変動開始時保留演出実行処理２３（Ｆ３１５９）の処理内容を示したフローチャートである。図７４８に示した通り、本第２３制御例では、上述した第２２制御例の変動開始時保留演出実行処理２２（図７３０のＦ３１９０９参照）に対して、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに保留変化シナリオを示す情報が無いと判別した場合に（Ｆ３２０１：Ｎｏ）、実行中保留図柄（図７３９の表示領域ＨＲ１に表示される実行保留ｈｒ０）の表示態様を変化させる実行中保留変化演出を設定するための実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【７８５８】

ここで、図７４９を参照して、実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）の処理内容について説明をする。図７４９は、実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）の処理内容を示したフローチャートである。この実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）では、実行中保留演出の演出態様を設定するための処理が実行される。

【７８５９】

実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）が実行されると、まず、今回の変動演出の演出パターンが、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる可動演出であるかを判別し（Ｆ３６０１）、可動演出であると判別した場合は（Ｆ３６０１：Ｙｅｓ）、保留演出情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている情報を読み出し（Ｆ３６０２）、読み出した情報の中に、保留変化シナリオを示す情報があるか、即ち、獲得済みの保留図柄の中に保留変化演出の実行契機となる保留図柄が存在するかを判別する（Ｆ３６０３）。

【７８６０】

Ｆ３６０３の処理において、保留変化シナリオを示す情報が無いと判別した場合は（Ｆ３６０３：Ｎｏ）、次に、獲得済の保留図柄（第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）が３色以上の表示態様で表示されているかを判別する（Ｆ３６０４）。Ｆ３６０４の処理では、保留情報格納エリア２２３ｖｌに格納されている各保留図柄の表示態様を示す情報（保留色情報）に基づいて、表示されている保留図柄の表示態様（色）が判別される。

【７８６１】

Ｆ３６０４の処理において、３色以上の保留図柄が表示されていると判別した場合は（Ｆ３６０４：Ｙｅｓ）、次に、今回の変動演出に対応する特別図柄変動が大当たり変動であるかを判別し（Ｆ３６０５）、大当たり変動であると判別した場合は（Ｆ３６０５：Ｙｅｓ）、実行中保留変化演出を示すための表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｆ３６０６）、役物動作シナリオ４を決定し（Ｆ３６０７）、決定した役物動作シナリオを示す役物動作用コマンドを設定し（Ｆ３６０８）、本処理を終了する。

【７８６２】

ここで、Ｆ３６０５の処理では、主制御装置１１０から受信した変動パターンコマンドに含まれる情報に基づいて今回の変動演出が大当たり変動に対応する変動演出である否か

が判別される。つまり、主制御装置１１０から出力される変動パターンコマンドは、今回の特別図柄変動の変動パターンとして、特別図柄変動の変動時間を示すための情報と、特別図柄抽選の結果を示すための情報と、を少なくとも含む情報が設定されている。

【７８６３】

なお、本第２３制御例では、上述した第２２制御例と同様に、特別図柄抽選の結果が大当たり当選しているか否かを、特別図柄変動の変動時間によって遊技者に把握されてしまうことを抑制するために、特別図柄抽選の結果に関わらず同一長さの変動時間（変動パターン）を設定可能に構成しているため、変動パターンコマンドには、今回設定された変動パターン（変動時間）を示す情報とは別に、特別図柄抽選の結果を示すための情報を含ませるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、設定された変動パターン（変動時間）の長さに基づいて、特別図柄抽選の結果を音声ランプ制御装置１１３側で判別可能な場合、即ち、特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、外れ当選した場合とで異なる長さの変動時間を設定するように構成している場合は、特別図柄抽選の結果を示すための情報を別途設定する必要は無く、特別図柄変動の変動時間の長さ（変動パターン）を示す情報のみを変動パターンコマンドに含ませるように構成すれば良い。なお、この場合、特別図柄抽選の結果に基づいて設定される長さの異なる変動時間（変動パターン）として、大当たり当選時に設定される各種変動パターンに対して、外れ当選時に設定される各種変動パターンの長さを若干（遊技者が違いを判別困難な程度）異ならせるように構成すると良く、例えば、大当たり当選時に設定可能となる変動パターンとして変動時間が６０秒の変動パターンを有している場合には、外れ当選時に設定可能となる変動パターンとして変動時間が６０．５秒の変動パターンを有するように構成すると良い。

【７８６４】

このように構成することで、変動パターンコマンドには設定された変動パターン（変動時間）を示すための情報を含ませるだけで、今回設定される変動演出が、大当たり当選している特別図柄変動に対応させて実行される変動演出であるか、大当たり当選していない（外れ当選している）特別図柄変動に対応させて実行される変動演出であるかを、音声ランプ制御装置１１３側にて容易に判別可能とすることができると共に、設定された変動パターンの相違（変動時間の相違）を、遊技者に気付かれ難くすることができる。

【７８６５】

また、大当たり変動と外れ変動とで略同一の長さの変動時間を設定可能に構成しているため、大当たり変動中に実行される変動演出と、外れ変動中に実行される変動演出と、で演出結果のみを異ならせ、それ以外は同一の変動演出を実行させ易くすることができる。

【７８６６】

ここで、図７４９にて説明をした実行中保留変化演出設定処理２３（Ｆ３２５１）にて設定される役物動作シナリオ（役物動作シナリオ４）の内容について説明をする。この役物動作シナリオは、上述した第２２制御例と同様に、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を所定態様で動作させるためのシナリオであって、動作シナリオ２３テーブル２２２ｗｆに予め規定されているものである。なお、動作シナリオ２３テーブル２２２ｗｆには、上述した第２２制御例と同一内容の役物動作シナリオ１～役物動作シナリオ３に加え、実行中保留変化演出中に選択され得る役物動作シナリオ４に対応する情報が規定されており、役物動作シナリオ４が設定された場合には、まず、表示領域ＨＲ２に表示される複数（最大で４個）の保留図柄のうち、特定の３つの保留図柄（３色の保留図柄）以外を隠した第１特定位置へとチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動し（図７３９（ａ）参照）、その後、表示領域ＨＲ２に表示されている保留図柄（第１保留図柄～第４保留図柄）を全て隠す第２特定位置までチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させ（図７３９（ｂ）参照）、その後、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を初期位置（格納位置）へと可動するようにチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動制御される。

【７８６７】

そして、実行中保留演出が実行された場合には、上述した役物動作シナリオ４に対応するチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動状況に対応させて第３図柄表示装置８１の表示面に

て保留図柄を非表示にし、実行中保留図柄の表示態様を可変させる演出（図７３９、図７４０参照）が実行される。

【７８６８】

なお、本第２３制御例では、保留図柄の表示領域ＨＲ２が視認困難となる位置までチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる可動演出を実行し、表示領域ＨＲ２に表示されていた保留図柄がチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって視認困難となるタイミングに合わせて、表示領域ＨＲ２に表示されていた保留図柄の表示態様を用いて、実行中保留図柄の表示態様を可変させる演出を実行することにより、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動によって、単に保留図柄が見え難くなってしまうのでは無く、実行中保留図柄を変化させるためにチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させたように遊技者に思わせることができるため、演出効果を高めることができる。

【７８６９】

ここで、本第２３制御例では、保留図柄の表示領域ＨＲ２が視認困難となる位置までチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる例を示しているが、これに限ること無く、例えば、第３図柄表示装置８１の表示面で実行される第３図柄の変動表示位置までチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させることにより、遊技者に対して、実行中の特別図柄が当たり当選している期待度が高いことを示唆するように構成しても良い。この場合、保留図柄が表示される表示領域ＨＲ２に加え、実行中保留図柄ｈｒ０が表示される表示領域ＨＲ１も可動したチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２によって視認困難となってしまい、実行中保留図柄の表示態様も含めて、実行中の特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させ難くなるという問題があった。

【７８７０】

この場合、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動演出が実行されることに対応させて、実行中保留図柄の表示位置（表示領域ＨＲ１が形成される位置）を可変させると良く、例えば、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動領域以外に表示領域ＨＲ１を形成するように構成すると良い。これにより、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動した状態であっても、実行中保留図柄を確実に視認させることができるため、遊技者に対して、実行中の特別図柄抽選の結果を予測させ易くすることができる。

【７８７１】

しかしながら、上述した構成を用いた場合、つまり、実行中保留図柄が表示されている状態で、実行中保留図柄が表示される表示領域ＨＲ１の形成位置を変更した場合には、変更後の表示領域ＨＲ１に表示される保留図柄が、実行中保留図柄であるか、実行前の保留図柄であるかを遊技者が判別し難くなるという問題があった。つまり、実行中保留図柄ｈｒ０が「白」の表示態様で表示されており、且つ、第１保留図柄ｈｒ１も「白」の表示態様で表示されている状態において、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が可動し、第１保留図柄ｈｒ１が表示されている表示領域ＨＲ２と、実行中保留図柄ｈｒ０が表示されている表示領域ＨＲ１と、がチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２に覆われた場合に、表示領域ＨＲ２を非表示にし、表示領域ＨＲ１を別の表示位置（可動中のチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２と重複しない表示位置）に形成し、実行中保留図柄ｈｒ０を「白」の表示態様で表示した場合には、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動に併せて第１保留図柄ｈｒ１が非表示となることから、表示されている「白」の表示態様の保留図柄が、実行中保留図柄ｈｒ０であるか第１保留図柄ｈｒ１であるかを遊技者が即座に判別することが出来ないという問題があった。

【７８７２】

よって、この場合は、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が表示領域ＨＲ２を覆うタイミングに対応させて、表示領域ＨＲ２に表示されている保留図柄（第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）が非表示となることを示す演出態様を設定し、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２が表示領域ＨＲ１を覆うタイミングに対応させて表示領域ＨＲ１の位置が移動することを示す演出態様を設定するように構成すると良い。このように構成することで、保留図柄の表示位置を移動させた後でも、表示されている保留図柄が実行中保留図柄であるか、実行前の保留図柄であるかを遊技者に把握させ易くすることができる。

【７８７３】
次に、図７５０を参照して、枠ボタン入力監視・演出処理２３（Ｆ２１３７）の処理内容について説明をする。図７５０は、枠ボタン入力監視・演出処理２３（Ｆ２１３７）の処理内容を示したフローチャートである。図７５０に示した通り、枠ボタン入力監視・演出処理２３（Ｆ２１３７）では、上述した第２２制御例の、枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）に対して、演出モードを選択するための演出カスタム操作（演出カスタム選択）に関する処理を追加した点と、決定ボタン（中ボタン）６００ａを押下した場合に実行される決定ボタン操作処理２２（Ｆ３３１５）に代えて、決定ボタン操作処理２３（Ｆ３３３２）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【７８７４】
枠ボタン入力監視・演出処理２３（Ｆ２１３７）が実行されると、まず、演出カスタム選択処理２３を実行し（Ｆ３３３１）、Ｆ３３３１の処理を終えると、次いで、上述した枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）と同一のＦ３３０１～Ｆ３３１４の処理を実行する。そして、Ｆ３３１４の処理において、決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作したと判別した場合は（Ｆ３３１４：Ｙｅｓ）、決定ボタン操作処理２３を実行し（Ｆ３３３２）、Ｆ３３１０を実行し、本処理を終了する。

【７８７５】
また、Ｆ３３１４の処理において、決定ボタン（中ボタン）６００ａが操作されていないと判別した場合は（Ｆ３３１４：Ｎｏ）、上述した第２２制御例の枠ボタン入力監視・演出処理２２（図７３１のＦ２１０７参照）と同一のＦ３３１６の処理（演出ボタン操作処理２２）を実行し、その後、Ｆ３３１０の処理を実行し、本処理を終了する。

【７８７６】
次に、図７５１を参照して、演出カスタム選択処理２３（Ｆ３３３１）の処理内容について説明をする。図７５１は、演出カスタム選択処理２３（Ｆ３３３１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出カスタム選択処理２３（Ｆ３３３１）では、演出カスタム状態中における操作手段（中ボタン６００ａ、右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）への操作内容に基づいて演出モードを選択するための処理が実行される。

【７８７７】
演出カスタム選択処理２３（Ｆ３３３１）が実行されると、まず、演出カスタム中フラグ２２３ｗａがオンに設定されているかを判別し（Ｆ３７０１）、オンに設定されていないと判別した場合、即ち、演出カスタム状態では無いと判別した場合は（Ｆ３７０１：Ｎｏ）、操作手段（中ボタン６００ａ、右ボタン６００ｃ、左ボタン６００ｅ）の操作によって、演出モードの選択制御では無く、他の選択制御（例えば、光量調整）を実行させるため、演出カスタム選択処理２３（Ｆ３３３１）の全処理をスキップして本処理を終了する。

【７８７８】
一方、Ｆ３７０１の処理において、演出カスタム中フラグ２２３ｗａがオンに設定されていると判別した場合は（Ｆ３７０１：Ｙｅｓ）、次に、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅへの操作があったかを判別し（Ｆ３７０２）、操作があったと判別した場合は（Ｆ３７０２：Ｙｅｓ）、判別された操作内容に対応させて選択中の演出モードを更新し（Ｆ３７０３）、更新した演出モードを示すための情報をカスタム情報格納エリア２２３ｗｂに格納し（Ｆ３７０４）、更新した演出モードを示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３７０５）、Ｆ３７０６の処理へ移行する。

【７８７９】
Ｆ３７０５の処理において設定された表示用コマンドに対応させて、第３図柄表示領域８１の表示面に形成される表示領域ＨＲ６（図７３５（ａ）参照）に表示される表示態様（選択中の演出モードを示すための表示態様）が決定される。なお、この状態は、演出モードの変更候補が表示領域ＨＲ６に表示されているだけであり、演出カスタム操作によっ

て変更後の演出モードが決定されていない状態である。この状態において、遊技者が決定ボタン（中ボタン）６００ａを押下することにより、表示領域ＨＲ６に表示されている表示態様に対応する演出モードを決定するための決定処理が実行される。

【７８８０】

一方、Ｆ３７０２の処理において、右ボタン６００ｃ、或いは、左ボタン６００ｅへの操作が無いと判別した場合は（Ｆ３７０２：Ｎｏ）、次に、決定ボタン（中ボタン）６００ａへの操作があるかを判別し（Ｆ３７０６）、決定ボタン（中ボタン）６００ａへの操作があったと判別した場合、即ち、演出カスタム状態にて変更後の演出モードを決定するための操作が実行された場合は（Ｆ３７０６：Ｙｅｓ）、演出カスタム中フラグ２２３ｗａをオフに設定し（Ｆ３７０７）、現在が特図変動中（特別図柄変動中）であるかを判別し（Ｆ３７０８）、特図変動中であると判別した場合は（Ｆ３７０８：Ｙｅｓ）、現在が変動前半期間（変動演出の前半期間）であるかを判別する（Ｆ３７０９）。

【７８８１】

Ｆ３７０９の処理において、変動前半期間であると判別した場合は（Ｆ３７０９：Ｙｅｓ）、カスタム情報格納エリア２２３ｗｂに格納されている情報に対応する演出モード（表示領域ＨＲ６に表示されている演出モード）に基づいて、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂを参照して後半予告演出の演出態様を決定し（Ｆ３７１０）、後半予告情報格納エリア２２３ｗｅに、決定した演出態様を示すための情報を格納する（Ｆ３７１１）。

【７８８２】

なお、図７４６を参照して説明をした通り、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂには、後半予告演出を実行しないことを示す内容（図では「無し」と記載）も規定されており、「無し」が決定された場合には、後半予告演出が実行されないように構成している。よって、Ｆ３７１０の処理では、後半予告演出の実行の有無、及び、実行する場合における演出態様（予告態様）を決定する処理を実行している。そして、Ｆ３７１１の処理では、Ｆ３７１０の処理結果、即ち、後半予告演出の実行の有無、及び、後半予告演出として設定される演出態様を示す情報が後半予告情報格納エリア２２３ｗｅに格納される。つまり、Ｆ３７１１の処理では、後半予告演出を実行しないことを示す情報も格納されることになる。

【７８８３】

Ｆ３７１１の処理を終えると、次に、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄをオンに設定し（Ｆ３７１２）、Ｆ３７１０の処理において決定された後半予告演出の演出態様と、更新後の演出モードの種別とが適合しているかを判別し（Ｆ３７１３）、適合していると判別した場合は（Ｆ３７１３：Ｙｅｓ）、演出モードが変更されることを示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３７１９）、本処理を終了する。

【７８８４】

また、Ｆ３７１３の処理において、適合していないと判別した場合は（Ｆ３７１３：Ｎｏ）、次変動から（実行中の特別図柄変動が停止表示された後から）演出モードが変更されることを示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３７１４）、モード変更待機フラグ２２３ｗｃをオンに設定し（Ｆ３７１５）、本処理を終了する。

【７８８５】

一方、Ｆ３７０９の処理において、現在が変動前半期間では無い、即ち、特図変動中における変動後半期間であると判別した場合は（Ｆ３７０９：Ｎｏ）、実行中の特別図柄変動が、大当たりＡが設定される大当たり変動であるかを判別し（Ｆ３７１６）、大当たりＡ変動であると判別した場合は（Ｆ３７１６：Ｙｅｓ）、演出モードが変更されることを示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３７１７）、大当たり当選を示す音声用コマンドを設定し（Ｆ３７１８）、本処理を終了する。

【７８８６】

最後に、Ｆ３７０６の処理において、決定ボタン（中ボタン）６００ａへの操作が無いと判別した場合は（Ｆ３７０６：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【７８８７】

次に、図７５２を参照して、決定ボタン操作処理２３（Ｆ３３３２）の処理内容について説明をする。図７５２は、決定ボタン操作処理２３（Ｆ３３３２）の処理内容を示したフローチャートである。この決定ボタン操作処理２３（Ｆ３３３２）は、遊技者が決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作（押下）したことに基づく処理が実行されるものであって、上述した決定ボタン操作処理２２（図７３２のＦ３３１５参照）に対して、調整期間中フラグ２２３ｓｘがオンに設定されていない状態、即ち、光量調整や音量調整が実行されていない状態で決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作した場合に実行される処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【７８８】

決定ボタン操作処理２３（Ｆ３３３２）が実行されると、まず、期間調整中フラグ２２３ｖｘがオンに設定されているかを判別し（Ｆ３３５１）、オンに設定されていないと判別した場合、即ち、光量調整や音量調整が実行されていない状態で遊技者が決定ボタン（中ボタン）６００ａを操作（押下）したと判別した場合は（Ｆ３３５１：Ｎｏ）、演出カスタム実行処理２３を実行し（Ｆ３３７１）、その後、本処理を終了する。一方、Ｆ３３５１の処理において、期間調整中フラグ２２３ｖｘがオンに設定されていると判別した場合は（Ｆ３３５１；Ｙｅｓ）、上述した第２２制御例の決定ボタン操作処理２２（図７３２のＦ３３１５参照）と同一のＦ３３５２～Ｆ３３５７の処理を実行し、本処理を終了する。

【７８８９】

ここで、図７５３を参照して、演出カスタム実行処理２３（Ｆ３３７１）の処理内容について説明をする。図７５３は、演出カスタム実行処理２３（Ｆ３３７１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出カスタム実行処理２３（Ｆ３３７１）では、演出カスタム状態、即ち、演出モードの選択操作を実行可能な状態を設定するための処理が実行される。

【７８９０】

演出カスタム実行処理２３（Ｆ３３７１）が実行されると、まず、現在が大当たりＡ変動中であるかを判別し（Ｆ３８０１）、大当たりＡ変動中であると判別した場合は（Ｆ３８０１：Ｙｅｓ）、プレミアムモードを選択可能にするか否かの抽選を実行し（Ｆ３８０２）、Ｆ３８０２の抽選で当選したかを判別する（Ｆ３８０３）。Ｆ３８０３の処理で当選したと判別した場合は（Ｆ３８０３：Ｙｅｓ）、演出カスタム操作で選択可能な対象である演出カスタム選択対象「プレミアムモード有り」（図７３８（ｂ）参照）を決定し（Ｆ３８０４）、Ｆ３８０６の処理へ移行する。

【７８９１】

一方、Ｆ３８０３の処理で非当選と判別した場合は（Ｆ３８０３：Ｎｏ）、演出カスタム選択対象「通常」（図７３８（ａ）参照）を決定し（Ｆ３８０５）、Ｆ３８０６の処理へ移行する。なお、Ｆ３８０１の処理において、大当たりＡ変動中では無い、即ち、演出モードとして「プレミアムモード」を選択可能とする条件を満たしていないと判別した場合は（Ｆ３８０１：Ｎｏ）、そのまま、Ｆ３８０５の処理へ移行し、演出カスタム選択対象「通常」（図７３８（ａ）参照）が決定される。

【７８９２】

次に、Ｆ３８０６の処理では、演出カスタム中フラグ２２３ｗａをオンに設定し（Ｆ３８０６）、演出カスタム中を示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３８０７）、本処理を終了する。

【７８９３】

次に、図７５４を参照して、演出更新処理２３（Ｆ２１６１）の処理内容について説明をする。図７５４は、演出更新処理２３（Ｆ２１６１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出更新処理２３（Ｆ２１６１）は、上述した第２２制御例にて実行される演出更新処理２２（図７３４のＦ２１１１参照）に対して、変動演出に関する更新処理（変動演出更新処理２３）を実行する点で相違しており、それ以外は同一である。同一の

処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【７８９４】
演出更新処理２３（Ｆ２１６１）が実行されると、まず、上述した演出更新処理２２（図７３４のＦ２１１１参照）と同一のＦ３５０１～Ｆ３５１６の処理を実行し、次に、変動演出更新処理２３を実行し（Ｆ３５５１）、その後、Ｆ３５１７の処理を実行し、本処理を終了する。
【７８９５】
ここで、図７５５を参照して、変動演出更新処理２３（Ｆ３５５１）の処理内容について説明をする。図７５５は、変動演出更新処理２３（Ｆ３５５１）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出更新処理２３（Ｆ３５５１）では、変動演出が実行されてからの経過時間に基づく処理が実行される。本第２３制御例では、変動演出の演出態様の一部（後半期間に実行される予告演出の演出態様）を、変動演出の実行後（前半期間の経過時点）に設定可能に構成している。このように構成することで、変動演出が実行された後に、演出態様の決定条件の一部（演出モード種別）が変更されたとしても、実行中の変動演出に設定される演出態様の一部を、変更された決定条件に対応させて設定することが可能となる。よって、変更された決定条件に対応した変動演出を即座に実行することができるため、演出モードを選択する操作（演出カスタム操作）を実行したにも関わらず、変更後の演出モードに対応した演出態様が決定されるまでに時間を要してしまい、遊技者の演出モードを変更しようとする意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【７８９６】
変動演出更新処理２３（Ｆ３５５１）が実行されると、まず、実行中の変動演出の演出パターンが「演出Ａ」、或いは「演出Ｂ」であるかを判別する（Ｆ３９０１）。ここで、演出パターン「演出Ａ」、「演出Ｂ」は、変動演出の後半期間における予告演出の演出態様を前半期間経過時に決定することが予め規定されている演出パターンである。
【７８９７】
Ｆ３９０１の処理において、演出パターン「演出Ａ」、「演出Ｂ」であると判別した場合は（Ｆ３９０１：Ｙｅｓ）、次に、前半期間終了のタイミングであるかを判別し（Ｆ３９０２）、前半期間終了のタイミングであると判別した場合は（Ｆ３９０２：Ｙｅｓ）、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄがオンに設定されているかを判別する（Ｆ３９０３）。
【７８９８】
Ｆ３９０３の処理において、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄがオンに設定されていると判別した場合、即ち、前半期間中において、演出モードの変更操作（演出カスタム操作）が実行され、その実行タイミングにおいて既に後半予告演出の演出態様（予告態様）が決定されていると判別した場合は（Ｆ３９０３：Ｙｅｓ）、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄをオフに設定し（Ｆ３９０７）、後半予告情報格納エリア２２３ｗｅに格納されている後半予告演出の演出態様を示す情報を読み出し（Ｆ３９０８）、後半予告演出の演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３９０６）、本処理を終了する。
【７８９９】
一方、Ｆ３９０３の処理において、後半予告設定済フラグ２２３ｗｄがオンに設定されていないと判別した場合、即ち、前半期間中において、演出モードの変更操作（演出カスタム操作）が実行されていないと判別した場合は（Ｆ３９０３：Ｎｏ）、カスタム情報格納エリア２２３ｗｂから現在のカスタム情報（演出モード）を特定し（Ｆ３９０４）、特定したカスタム情報（演出モード）に基づいて、後半予告演出選択テーブル２２２ｗｂを参照して後半予告演出の演出態様を決定し（Ｆ３９０５）、後半予告演出の演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｆ３９０６）、本処理を終了する。
【７９００】
また、Ｆ３９０１の処理において、演出パターン「演出Ａ」、「演出Ｂ」では無いと判別した場合、即ち、実行中の変動演出の演出パターンが、変動演出中に新たな演出態様を決定可能な演出パターンでは無いと判別した場合（Ｆ３９０１：Ｎｏ）、或いは、現在が、前半期間終了のタイミングでは無いと判別した場合（Ｆ３９０２：Ｎｏ）は、後半予告

演出に関する演出態様を設定すること無く、本処理を終了する。

【７９０１】

＜第２４制御例＞

次に、図７５６から図７８２を参照して、第２４制御例について説明をする。本第２４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０に対して、同一の確率状態（低確率状態、或いは、高確率状態）において特別図柄抽選で大当たり当選する確率を異ならせて設定可能な設定変更機能を有している点と、音声出力装置２２６に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種キャラクタに対応したボイスデータを予め記憶させておき、音声ランプ制御装置１１３から出力されるボイスコマンドに基づいて、パチンコ機１０から出力される音声（ボイス）の種別を切り替え可能に構成している点と、で大きく相違している。さらに、実行される演出に関しては、設定変更機能によって設定された設定値を遊技者に示唆可能な設定示唆演出と、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される保留図柄（表示領域ＨＲ２に表示される第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）の表示位置がシフトされる際に対象となる保留情報に大当たり情報が含まれているか否かを示唆可能な保留シフト演出と、を実行可能に構成している点で相違している。

【７９０２】

従来より、パチンコ機１０の遊技には様々なキャラクタが用いられており、その中で特定のキャラクタの音声（ボイス）を用いて、遊技状況を案内したり、賑やかしの音声を出力したりすることで、演出効果を高めているものがある。しかしながら、常に特定のキャラクタの音声（ボイス）が出力されるだけでは、長時間遊技を行っている遊技者は出力されるボイスの種別に馴れてしまい、演出効果が低下してしまうという問題があった。

【７９０３】

また、出力される音声の内容（セリフ）が同一の場合、その音声が示す遊技に対する意味合いが常に同一であるため、音声の内容（セリフ）についても、長時間遊技をしている遊技者は飽きてしまい、演出効果が低下してしまうという問題があった。

【７９０４】

これに対して、本第２４制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が停止表示された場合に、その停止表示された第３図柄の組合せに基づいて、異なる種別のボイスで音声を出力可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果に基づいて様々な種別のボイスを出力することが可能となるため、長時間遊技を実行している遊技者に対しても演出効果が低下することを抑制することができる。

【７９０５】

さらに、本第２４制御例では、停止表示された第３図柄の組合せに基づいて出力される音声の内容（セリフ）を決定可能に構成している。具体的には、大当たり当選した場合に停止表示される第３図柄の組合せ（ぞろ目）や、リーチハズレで停止表示される第３図柄の組合せや、リーチ状態になること無く停止表示される第３図柄の組合せ（バラケ目）によって、異なる内容の音声を出力可能に構成している。このように構成することで、出力される音声の内容（セリフ）が単調になることを抑制することができる。

【７９０６】

加えて、特別図柄抽選の結果が遊技者に不利となる抽選結果（外れ）である場合において、遊技者に特典（設定示唆）を付与可能な音声（セリフ）を出力可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果が遊技者に不利となる抽選結果（外れ）であったとしても、遊技者に有利な特典を付与することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７９０７】

さらに、大当たり当選期待度の高い演出（例えば、特定図柄（７図柄）でのリーチ演出）が実行されたにも関わらず、大当たり当選していなかった場合、つまり、遊技者に対して大当たり当選している可能性が極めて高い演出が実行されたにも関わらず、演出結果が外れとなった場合において、遊技者により有利となる特典（例えば、設定報知）を付与可

能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果が遊技者に不利となる抽選結果（外れ）であったとしても、遊技者に有利な特典を付与することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【７９０８】

また、本第２４制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報（数字アイコン）と、キャラクタとで１つの第３図柄が形成されるように構成しており、その組合せを切り替え可能に構成している。つまり、特定の数字アイコン（例えば、７）に付随するキャラクタの種別を異ならせることが可能に構成している。そして、音声として出力されるセリフの内容として、第３図柄に付随するキャラクタを示唆するセリフを出力可能に構成している。

【７９０９】

このように構成することで、同一のキャラクタを示唆するセリフが出力された場合であっても、そのキャラクタに付随する数字アイコンの種別を異ならせることにより、そのセリフの意味合いを大きく異ならせることができる。よって、長時間遊技を行っている遊技者に対して、同一内容のセリフが出力された場合において、そのセリフが示唆するキャラクタが有利なキャラクタであるか否かを予測する楽しみを提供することができる。

【７９１０】

加えて、本第２４制御例では、第３図柄の停止表示態様に対応させてボイス種別が決定されるように構成し、特定の停止表示態様（大当たり当選を示す第３図柄の停止表示態様）に基づいてボイス種別が決定された場合には、そのボイス種別に基づく音声出力を特定期間継続させるか否かを遊技者に選択させることが可能に構成している。このように構成することで、遊技者がお気に入りのキャラクタが付された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示された場合には、お気に入りのキャラクタのボイス種別に基づく音声出力を長時間実行させることが可能となる。

【７９１１】

まず、図７５６を参照して、本第２４制御例におけるパチンコ機１０の背面側の構造について説明をする。図７５６は、第２４制御例のパチンコ機１０の背面側の構成を模式的に示した背面図である。図７５６に示した通り、本第２４制御例のパチンコ機１０は、上述した第２２制御例のパチンコ機に対して、設定値を表示させることが可能な設定値表示装置１１０ａと、設定変更動作（および設定確認動作）を受け付ける状態と、受け付けない状態（通常遊技状態）とを切り替えることが可能な設定キー１１０ｂと、設定変更動作を受け付ける状態（設定変更状態）において操作者（例えば、パチンコ機１０を設置しているホールの店員）の操作に応じてパチンコ機１０の設定値を変更することが可能な設定スイッチ１１０ｃと、で少なくとも構成されている設定変更機構を主制御装置１１０に設けている点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【７９１２】

ここで、図７５７を参照して、設定変更機構を用いた設定変更の方法、および設定確認の方法について、詳細に説明をする。まず、図７５７（ａ）～（ｄ）を参照して、設定変更機構を用いたパチンコ機１０の設定変更手順について説明する。図７５７（ａ）～（ｄ）に示した通り、パチンコ機１０の設定を変更するためには、まず、パチンコ機１０の電源が遮断された状態において、設定キー１１０ｂを時計回りに回動することによりＯＮ位置へと回動させる（図７５７（ａ）参照）。つまり、設定変更を行うためには、まず、パチンコ機１０の電源を遮断しておく必要がある。次に、設定キー１１０ｂをＯＮ側に回動させた状態でＲＡＭクリアスイッチ１２２をオンにしてパチンコ機１０の電源を投入する（図７５７（ｂ）参照）。これにより、電源投入後のパチンコ機１０の状態が設定変更中であることを示す設定変更状態に設定される。設定変更状態になると、４桁の７セグメントディスプレイで構成された設定値表示装置１１０ａの各桁に対して、「－」が表示される。この表示内容により、設定変更状態に正常に遷移したということを操作者（例えば、ホールの店員）に対して容易に理解させることができる。

【７９１３】
設定変更状態に移行すると、設定スイッチ１１０ｃを押下する毎に、設定値が１ずつ切り替わる（図７５７（ｃ）参照）。なお、本第２４制御例では、設定１～３の３種類の設定値が設けられており、数値が大きくなる程大当たり確率が高くなるように構成されている。即ち、設定１の大当たり確率が最も低く（例えば、低確率状態で１／２６２、高確率（確変）状態で１／６５）、設定３の大当たり確率が最も高くなる（例えば、低確率状態で１／２１８、高確率状態で１／５５）ように構成されている。設定変更状態では、設定スイッチ１１０ｃを押下する毎に、設定が１→２→３→１・・・といった具合に変更されていく。また、設定値が３の状態で設定スイッチ１１０ｃが押下された場合は、設定値が１に戻るようにロータリー式で構成されている。また、設定スイッチ１１０ｃが押下される毎に、設定値表示装置１１０ａに対して現在の設定値を示す数字が表示される。なお、図７５７（ｃ）は、設定値が「３」に設定されている状態における表示態様を示した図である。図７５７（ｃ）に示した通り、設定スイッチ１１０ｃに対する押下操作によって設定値が３に切り替えられると、設定値表示装置１１０ａにおける下１桁に対して、設定３を示す「３」という数字が表示される。

【７９１４】
操作者が所望の設定値への切り替え動作を完了した後は、設定キー１１０ｂを反時計回りに回動させて設定キー１１０ｂをＯＦＦ位置に配置させることにより、設定変更状態が終了する（図７５７（ｄ）参照）。なお、設定キー１１０ｂは、鍵型のキー部と、キー部に合致する鍵穴形状の鍵穴部と、で構成されており、キー部を取り外すことができる。これにより、操作者（例えば、ホールの店員）が設定変更動作を行う際にのみキー部を鍵穴部に挿入し、設定変更動作を終了した際にはキー部を取り外して保管しておくことができる。これにより、不正遊技者等が営業中にパチンコ機１０の設定を不正に変更することを抑制することができるので、ホールに対して不測の不利益を被らせてしまうことを防止することができる。

【７９１５】
そして、設定変更動作が終了することで、主制御装置１１０の初期設定処理が再開される。再開後の初期設定処理では、設定変更動作が完了したことを示す設定変更完了コマンドや、設定変更動作によって決定した設定値を示す設定値コマンドを音声ランプ制御装置１１３へと送信するための処理が実行される。また、設定変更動作が終了するまで待機される音声ランプ制御装置１１３の初期設定処理を再開させるためのコマンド（初期化コマンド）を送信するための処理が実行される。

【７９１６】
次に、図７５７（ｅ）～（ｇ）を参照して、設定確認を行うための手順（設定確認動作）について説明する。設定確認を行うためには、まず、設定変更動作と同様に、パチンコ機１０の電源が遮断された状態において、設定キー１１０ｂをＯＮ位置に回動させる（図７５７（ｅ）参照）。そして、ＲＡＭクリアスイッチ１２２をオンにせずに（即ち、オフの状態のままで）パチンコ機１０の電源を投入することにより、設定確認状態に設定される（図７５７（ｆ）参照）。設定確認状態に移行すると、設定値表示装置１１０ａに対して現在設定されている設定値が表示される。図７５７（ｆ）の例では、設定値として「３」が設定されている状態を示している。操作者による設定の確認が終了すると、設定キー１１０ｂをＯＮ側に回動することで設定確認状態が終了されて通常遊技が可能な状態に移行される（図７５７（ｇ）参照）。

【７９１７】
なお、本第２４制御例では、設定キー１１０ｂと設定スイッチ１１０ｃとを別々に設ける構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、設定スイッチ１１０ｃを削除して、設定キー１１０ｂの回動量に応じて設定を変更することができるように構成してもよい。より具体的には、設定キー１１０ｂを６０度回動させる毎に、設定が１→２→３→１・・・設定キー１１０ｂのキー部を鍵穴部から引き抜くことで通常遊技が可能な状態に戻すように構成してもよい。このように構成することで、設定変更機構の構成を簡素化

することができるので、部品点数の削減を図ることができる。よって、パチンコ機１０の原価率を低減させることができる。

【７９１８】

本第２４制御例では、図７５７に示した通り、パチンコ機１０の背面側、即ち、遊技中の遊技者が視認し得ない位置に設定変更機構を設けている。よって、遊技中に設定変更機構が操作されてしまうことを確実に抑制することができる。また、実際に設定変更動作を行う場合には、パチンコ機１０の背面側に設けられている設定キー１１０ｂや設定スイッチ１１０ｃを操作するために内枠１２および正面枠１４を開放する必要があるが、これらが開放した状態においては、内枠１２および外枠１４が開閉軸のみによって支持された比較的不安定な状態となる。このような状況にてパチンコ機１０の電源を投入し、パチンコ機１０に設けられた装飾用の役物の復帰動作が実行してしまうと、開閉軸等に過剰な負荷が掛ってしまい破損を招来してしまう可能性がある。

【７９１９】

これに対して、本実施形態では、音声ランプ制御装置１１３の初期設定処理が待機される待機処理が終了した後に、役物の復帰動作が実行されるように構成している。つまり、設定変更動作中に役物の復帰動作が実行されることが無いように構成している。このように構成することで、設定変更動作中に役物の復帰動作が実行されてしまい、パチンコ機１０が破損してしまう事態が発生することを抑制することができる。また、操作者が設定スイッチ１１０ｃを操作している最中に役物の復帰動作が実行される場合に比べて、設定変更動作中にパチンコ機１０が振動し難くすることができるため、設定スイッチ１１０ｃの誤操作が発生し難くすることができる。

【７９２０】

本実施形態では設定変更動作を実行する場合に、必ずＲＡＭクリアスイッチ１２２をオンに設定するように構成しているため、例えば、遊技者に有利な確変状態が設定されている状態を維持したまま設定変更動作を行うことができない。つまり、設定変更操作が実行された後に設定される遊技状態が初期状態（通常状態）となる。よって、設定変更動作が行われた後に実行される遊技に対して、設定値に基づく大当たり確率の相違以外の遊技条件を統一することができるため、遊技者に対して公平な遊技を提供し易くすることができる。

【７９２１】

＜第２４制御例における演出内容について＞

次に、図７５８から図７６０を参照して、本第２４制御例のパチンコ機１０において実行される各種演出のうち特徴的な演出内容について説明をする。本第２４制御例のパチンコ機１０では、第３図柄表示装置８１に停止表示された複数の第３図柄の表示態様の組合せに基づいて、異なるボイス種別で音声出力が実行されるボイス演出を実行可能に構成している。また、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される保留図柄（表示領域ＨＲ２に表示される第１保留図柄ｈｒ１～第４保留図柄ｈｒ４）の表示位置がシフトされる際に対象となる保留情報に大当たり情報が含まれているか否かを示唆可能な保留シフト演出と、を実行可能に構成している。

【７９２２】

まず、図７５８（ａ）を参照して、特別図柄変動の開始タイミングにおける演出例について説明をする。図７５８（ａ）は、特別図柄変動の開始タイミングにおける第３図柄と、スピーカー部３０８から出力される音声を示した図である。図７５８（ａ）に示した通り、本第２４制御例では、変動演出に用いられる第３図柄の表示態様が、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報である「数字部（数字アイコン）」と、装飾用のキャラクタ部（キャラアイコン）とから形成されるように構成しており、基本パターンとして、各数字部に対応させて異なるキャラアイコンが付された基本第３図柄が形成され、基本第３図柄を用いた変動演出が実行される。

【７９２３】

基本第３図柄の表示態様を具体的に説明すると、数字アイコン「１」には、タコを模し

たキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ１が基本第３図柄として形成され、数字アイコン「４」には、サメを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ４が基本第３図柄として形成される。なお、基本第３図柄の表示データは、表示制御装置１１４が有するキャラクタＲＯＭ２３４に予め格納されており、基本第３図柄以外の表示態様である特殊第３図柄を用いるための専用コマンドが出力されない限り、基本第３図柄の表示態様を用いた変動演出が実行されるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、変動表示されるキャラアイコンを把握するだけで特別図柄抽選の結果を把握させ易くすることができるため遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【７９２４】

ここで、本第２４制御例では、基本第３図柄に代えて、数字アイコンの種別と、キャラアイコンの種別との組合せを異ならせた特殊第３図柄を変動表示可能に構成している。具体的には、図７５８（ａ）に示した通り、数字アイコン「３」に、タコを模したキャラアイコンが付された特殊第３図柄を表示可能に構成している。このように構成することで、変動表示される第３図柄に付されたキャラアイコンを確認するだけでは数字アイコンの種別（特別図柄抽選の結果を示すための識別情報）を把握することができない事象を発生させることができるため、遊技者に意外性のある変動演出結果を提供することができる。

【７９２５】

さらに、本第２４制御例では、表示画面上に表示されている第３図柄（基本第３図柄、特殊第３図柄）に付されているキャラアイコンの種別（キャラ種別）に対応させた音声を出力可能に構成しており、その音声を用いて、次変動にて停止表示される第３図柄に付されたキャラクタ種別を遊技者に示唆可能に構成している。加えて、特殊第３図柄が用いられる変動表示が実行される場合には、図７５８（ａ）に示した通り、その特殊第３図柄の表示態様を一旦遊技者に報知してから、変動演出を開始させるように構成している。このように構成することで、音声によって実行される示唆演出の演出結果を遊技者に予測させ易くすることができる。

【７９２６】

具体的には、図７５８（ａ）に示した通り、特別図柄変動の開始に対応して変動演出が実行される場合には、前回の特別図柄変動に対応した第３図柄が停止表示されている状態から、変動演出が開始される。この場合に、特殊第３図柄を用いた変動演出が実行される場合には、第３図柄Ｄ３に示した通り、数字アイコン「３」にカメを模したキャラアイコンを付した特殊第３図柄を表示させた状態で変動演出が実行される。そして、スピーカー部３０８からは、今回実行される変動演出の演出結果を示すための第３図柄の停止表示態様を示唆するための示唆演出として「タコ君次は当たるかなー、カメ君いくよ」の音声が出力される。

【７９２７】

この示唆演出によって、今回実行される変動演出の演出結果を示すための第３図柄の停止表示態様として、タコのキャラアイコン、又はカメのキャラアイコンが付された第３図柄が停止表示される可能性が高いことが遊技者に示唆される。遊技者は示唆演出として出力された音声の内容を把握することにより、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示される可能性を算出しながら（予測しながら）遊技を行うことが可能となる。ここで、上述した通り、本第２４制御例では、特殊第３図柄を表示可能に構成しているため、上述した示唆演出により遊技者に提供される内容（停止表示され得るキャラアイコン種別）に基づいて予想し得る第３図柄の停止表示パターンを増加させることが可能となり、遊技者に今後の遊技内容（演出結果）を予測する楽しみを増大させることができる。

【７９２８】

さらに、特殊第３図柄が用いられる場合には、図７５８（ａ）に示した通り、変動演出が開始される前に、特殊第３図柄が用いられることを遊技者に報知可能な報知演出を実行可能に構成している。そして、報知演出として、実際に用いられる特殊第３図柄の表示態様の少なくとも一部を遊技者に報知可能に構成している。このように構成することで、特殊第３図柄の表示態様も含めて、示唆演出により遊技者に提供される内容（停止表示され

得るキャラアイコン種別）に基づいて第３図柄の停止表示パターンを予測することが可能となるため、予測精度を高め易くすることができる。

【７９２９】

なお、図７５８（ａ）に示した図では、特殊第３図柄が用いられることを示すために、実際に用いられる特殊第３図柄の表示態様を表示可能に構成しているが、これに限ること無く、基本第３図柄とは異なる組合せの特殊第３図柄が用いられた変動演出が実行されることを示すだけの報知演出（例えば、キャラシャッフル中の文字表示）を実行するように構成しても良い。

【７９３０】

さらに、図７５８（ａ）に示した図では、特殊第３図柄が１種類表示される例を示しているが、１の変動演出において用いられる特殊第３図柄の種類を２種類以上としても良い。この場合、１の変動演出において用いられる特殊第３図柄の表示態様を、変動演出が開始されるよりも前に全て遊技者に報知可能に構成しても良いし、少なくとも一部のみを遊技者に報知可能に構成しても良い。

【７９３１】

また、本第２４制御例では、パチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３が有するＭＰＵ２２１により実行される処理によって、特殊第３図柄を用いるか否か、或いは、用いられる特殊第３図柄の表示態様を決定するように構成しているが、これに限ること無く、遊技者が任意の組合せで特殊第３図柄を生成することができるように構成しても良い。

【７９３２】

次に、図７５８（ｂ）を参照して、音声出力を用いる別の演出内容について説明をする。図７５８（ｂ）は、前回の変動演出の結果を示す第３図柄の停止表示態様が、特定の停止表示態様（７リーチハズレ）であった場合における、次変動中に実行される音声演出を示した図である。上述した通り、本第２４制御例では、前回の変動演出の結果として停止表示された第３図柄に付されたキャラアイコン種別（キャラ種別）に応じた音声を用いた音声演出を、前回の変動演出が終了した後に実行可能に構成している。さらに、前回の変動演出の結果として停止表示された第３図柄の組合せに応じた特典を音声演出によって遊技者に付与可能に構成している。

【７９３３】

具体的には、図７５８（ｂ）は、前回実行された変動演出の結果が「７リーチ外れ」であるため、後述するボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａを参照して選択されたキャラボイス（７リーチキャラ）が設定されている状態であるため、変動演出が実行されている間、表示領域ＨＲ３０に、現在設定されている音声データ（キャラボイス）を示すための案内態様として「キャラボイス７キャラ」が表示されている。そして、スピーカー部３０８からは、「７リーチ外れ」に対応する音声演出として遊技者に付与される特典である設定示唆演出「今日の運勢は大吉だよ」の音声が出力される。

【７９３４】

このように構成することで、次の変動演出が実行されたことにより、前回の変動演出にて停止表示された第３図柄の停止表示態様を視認できなくなったとしても、音声出力されているキャラボイスがどのキャラアイコンに対応したものであるかを遊技者に把握させ易くすることができる。

【７９３５】

次に、特別図柄変動に対応させて実行される変動演出の演出結果を示すための第３図柄が停止表示された状態が継続する状態、即ち、次の特別図柄抽選が実行されない状態（待機状態））における音声演出の内容について、図７５９（ａ）を参照して説明をする。図７５９（ａ）は、待機状態中（デモ演出中）に実行される音声演出の内容を示した図である。図７５９（ａ）に示した通り、前回の変動演出の演出結果として数字アイコン「１」にタコを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ１と、数字アイコン「４」にサメを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ４と、数字アイコン「３」にカメを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ３と、が停止表示された状態で待機状態が設定される

と、通常であれば、停止表示されている３つの第３図柄のうち、左側の図柄列（最初に停止表示される図柄列）に停止表示された第３図柄Ｄ１に付されたキャラ種別に対応するキャラボイス（ボイスデータ）で待機状態中における音声演出が実行される。このように、待機状態中に出力される音声のボイスデータを、停止表示されている第３図柄（前回の変動演出の演出結果を示すために停止表示された第３図柄）の種別に応じて異ならせることができるため、遊技者に対して多彩な演出（音声演出）を実行することができ、演出効果を高めることができる。

【７９３６】

本第２４制御例では、上述した通り、実行される音声演出に用いられるボイスデータの種別を、停止表示された第３図柄に付されたキャラクタ種別に応じて異ならせることができるように構成している。そして、第３図柄が停止表示される毎にボイスデータの種別が切り替わってしまうことを抑制するために、音声出力に用いられるボイスデータを所定条件が成立するまで固定可能に構成している。具体的には、大当たり当選を示す表示態様で第３図柄が停止表示された場合には、その第３図柄に対応するキャラ種別のボイスデータを用いた音声出力を、次に大当たり図柄が停止表示されるまでの間、継続して実行可能に構成している。つまり、大当たり当選を示す表示態様で第３図柄が停止表示された場合には、大当たり当選以外を示す表示態様で第３図柄が停止表示された場合とは異なる特典として、同一のボイスデータを継続して出力可能とする特典を付与可能に構成している。

【７９３７】

このように構成することで、遊技者が所望するお気に入りのキャラクタ種別が付された第３図柄で大当たりすることを遊技者に期待させながら遊技を行わせることができる。また、特別図柄抽選が実行される毎にボイスデータが切り替わってしまい、統一性の無い音声演出が実行され演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【７９３８】

図７５９（ｂ）に示した通り、ボイスデータが固定されている場合には、主表示領域Ｄｍの右側の表示領域ＨＲ３０に現在設定されているボイスデータを示すための表示態様として「キャラボイス７キャラ」が表示されると共に、その上方に形成される表示領域ＨＲ３１に、ボイスデータが固定されている状態であることを示すための「ボイス固定中」の表示態様が表示される。これにより、現在が「７キャラ」に対応するボイスデータが固定されていることを遊技者に分かり易く把握させることができる。

【７９３９】

さらに、表示領域ＨＲ３２には、ボイスデータが固定されている状態を解除するための遊技方法（操作方法）を案内するための表示態様として、演出ボタン２２を模したボタンアイコンを表示し、「ボタン押下でボイス固定解除出来るよ」の文字が表示される。これにより、現在固定されているボイスデータに基づく音声出力を解除可能であることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【７９４０】

図７５９（ｂ）に示した例では、７キャラに対応する第３図柄で大当たり当選し、「７キャラ」のボイスデータが固定されているため、大当たり遊技終了後に複数回特別図柄抽選を実行し、前回の変動演出の演出結果として数字アイコン「１」にタコを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ１と、数字アイコン「４」にサメを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ４と、数字アイコン「３」にカメを模したキャラアイコンが付された第３図柄Ｄ３と、が停止表示された状態で待機状態が設定された場合であっても、その待機状態中に「７キャラ」のボイスデータを用いた音声演出が実行される。

【７９４１】

詳細は後述するが、本制御例では、「７キャラボイス」を用いた音声演出が実行される場合には、特典としてパチンコ機１０に設定されている設定値を示唆可能な設定示唆演出を実行可能に構成しているため、待機状態中実行される音声演出の一部において設定示唆演出が実行される場合がある。設定示唆演出が実行された場合には、図７５９（ｂ）に示した通り、図７５８（ｂ）に示した例と同様にスピーカー部３０８から「今日の運勢は大

吉だよ」という音声が出力され、設定値が遊技者に有利な設定値であることを報知している。

【７９４２】

このように、本第２４制御例では、第３図柄の停止表示態様に応じて異なるボイスデータで音声演出を実行するだけで無く、第３図柄の停止表示態様の種別に応じ専用の特典を付与することができるため、停止表示される第３図柄の表示態様に応じた演出を実行可能となり、演出効果を高めることができる。

【７９４３】

次に、図７６０を参照して、本第２４制御例における保留図柄を用いた演出（先読み演出）のうち、保留図柄の表示位置が移行（シフト）する際に実行される保留シフト時チャンス演出の演出内容について説明をする。図７６０（ａ）は、保留変化演出の実行対象となる保留図柄が表示領域ＨＲ２に表示されている画面（保留変化前兆表示画面）であって、特別図柄変動が実行されている状態に表示される表示画面の一例を示した図であって、図７６０（ｂ）は、保留変化演出の実行対象となる保留図柄が表示領域ＨＲ２に表示されている画面（保留変化前兆表示画面）であって、特別図柄変動が実行されていない状態（特別図柄が停止表示されている状態）に表示される表示画面の一例を示した図であって、図７６０（ｃ）は、保留変化演出の実行対象となる保留図柄が表示位置をシフトする場合に実行される保留シフト時チャンス演出の一例を示した図であって、図７６０（ｄ）は、保留変化演出の実行対象となる保留図柄が表示位置をシフトする場合に実行される保留シフト時チャンス演出の一例を示した図である。

【７９４４】

上述した第２２制御例では、保留変化演出が実行されるまで、保留変化演出の対象となる保留図柄を遊技者が把握し難くなるように、保留変化演出が実行されるまでは、保留図柄の表示態様を保留変化演出の対象とならない保留図柄の表示態様と同一の表示態様を用いていた。これに対して、本第２４制御例では、保留変化演出の対象となる保留図柄を、保留変化演出が実行されるよりも前に、遊技者が識別可能となるように専用の表示態様（前兆表示態様）を設定可能に構成している。

【７９４５】

具体的には、図７６０（ａ）に示した通り、上述した第２２制御例と同様に、通常の保留図柄は、色付きの表示態様（第１保留図柄ｈｒ１、第２保留図柄ｈｒ２、第４保留図柄ｈｒ４）で表示されるが、保留変化演出の対象となる保留図柄に対しては、通常の表示態様とは異なる表示態様として、第３保留図柄ｈｒ３に示したとおり、渦巻き状の表示態様（前兆表示態様）で表示されるように構成している。このように構成することで、保留変化演出が実行されるよりも前に、保留変化演出が実行される可能性があることを遊技者に示唆することができるため、演出効果を高めることができる。

【７９４６】

さらに、図７６０（ａ）に示した通り、前兆表示態様は、特別図柄変動が実行されている最中、即ち、保留図柄の表示位置が移行（シフト）しない間、右回りに回転表示されるように構成している。このように前兆表示態様を動的表示（回転表示）させることにより、静的表示（停止表示）されている通常の保留図柄との違いを遊技者に分かり易くすることができる。

【７９４７】

そして、図７６０（ｂ）に示した通り、実行中の特別図柄変動が停止表示され、新たな特別図柄変動（第１保留図柄ｈｒ１に対応する保留情報（入賞情報）を用いた特別図柄変動）が実行される場合には、上述した第２２制御例と同様に、各保留図柄の表示位置をシフトする（第１保留図柄ｈｒ１が、実行中保留図柄が表示される表示領域ＨＲ１（図６７２参照）へとシフト移動し、次いで、表示領域ＨＲ２に表示される各保留図柄の表示位置が一つ左にシフト移動する）演出が実行される。

【７９４８】

ここで、特別図柄変動の変動時間は、特別図柄抽選の結果に応じて様々な変動時間が設

定されるように構成しているため、特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおける前兆保留図柄の表示態様が異なってしまう事象が発生する。具体的には、前兆表示態様が第１態様から第２態様を経て第１態様へと動的表示される表示態様を繰り返し実行するものであれば、特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおいて、前兆保留図柄が第１態様で表示されている場合もあれば、第２態様で表示されている場合もある。

【７９４９】

本第２４制御例では、動的（回転）表示される前兆表示態様が付された前兆保留図柄を、特別図柄変動の停止表示タイミングで静的（停止）表示させるように構成している。具体的には、動的表示されている前兆表示態様を、所定の初期停止態様（第１態様）で表示させるように構成している。そして、保留図柄をシフト移行させる演出を実行する場合には、前兆表示態様の保留図柄に対して、初期停止態様（第１態様）の状態から様々な動作演出が実行される演出パターンを設定可能に構成している。

【７９５０】

このように構成することで、保留図柄のシフト演出を実行する場合に設定される演出パターンを、初期停止態様から開始される演出パターンのみとすることができるため、保留図柄のシフト移行時における前兆表示態様の動的位置（動作位置）に対応させて演出パターンを設ける場合に比べて、少なくすることができる。

【７９５１】

詳細な説明は後述するが、本第２４制御例では、前兆保留図柄がシフト移行する際に保留シフト時チャンス演出を実行可能に構成しており、保留シフト時チャンス演出として設定される演出態様の種別に応じて、大当たり当選の期待度や、設定値を遊技者に示唆可能に構成している。つまり、動的表示されている前兆保留図柄を停止表示させるタイミングよりも、前兆保留図柄がシフト移行するタイミングの方が、遊技者が前兆保留図柄を注視することになる。よって、特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおいて前兆保留図柄がどの態様で表示されているかに関わらず強制的に初期停止態様（第１態様）で停止表示させたとしても、遊技者に違和感を与え難くすることができる。

【７９５２】

なお、本第２４制御例では、特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおける前兆保留図柄の表示態様に関わらず、特別図柄変動が停止表示されると、前兆保留図柄を強制的に初期停止態様で停止表示させるように構成し、前兆保留図柄がシフト移行する際には、初期停止態様から開始される演出パターンを設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、初期停止態様として少なくとも２種類の停止態様（第１初期停止態様、第２初期停止態様）を設定可能に構成し、特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおける前兆保留図柄の表示態様に基づいて、何れかの初期停止態様を設定するように構成し、前兆保留図柄がシフト移行する際に実行される演出パターンとして、第１初期停止態様から開始される演出パターンと、第２初期停止態様から開始される演出パターンと、を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、動的表示している前兆保留図柄を停止表示させる際にも遊技者に違和感を与え難くすることができる。

【７９５３】

さらに、特別図柄変動が停止表示される直前から、前兆保留図柄がシフト移行されるまでの間の期間（例えば、特別図柄の確定表示期間）において、動的表示中の前兆保留図柄が初期停止態様に対応する第１態様で表示されたと判別した場合に、前兆保留図柄を停止表示させるように構成しても良い。つまり、特別図柄変動の停止表示タイミングと前兆保留図柄の停止表示タイミングとをズラすことで、違和感無く前兆保留図柄の動的表示を終了させるように構成しても良い。この場合、特別図柄の確定表示期間よりも、前兆保留図柄の動的表示期間（第１態様から動的表示され、再度第１態様となるまでの期間）の方が短くなるように構成すると良い。このように構成することで、特別図柄が確定表示されている期間内において、前兆保留図柄を第１態様で違和感無く停止表示させることができる。

【７９５４】

図７６０（ｃ）は、保留シフト時チャンス演出の演出態様として「ジャンプ」が設定された場合における表示領域ＨＲ２付近の表示画面の一例を示した図である。図７６０（ｃ）に示した通り、保留シフト時チャンス演出が実行されると、前兆保留図柄のみ、他の保留図柄とは異なる演出態様（動的表示態様）でシフト移行する。図７６０（ｃ）では、前兆保留図柄である第３保留図柄ｈｒ３が、表示領域ＨＲ２の上方へ飛び出した後、シフト先の表示位置へと移動する演出態様を示している。つまり、前兆保留図柄のみ、他の保留図柄よりも移動距離が長くなる演出態様を示している。よって、保留シフト時チャンス演出の演出態様として「ジャンプ」が設定された場合には、前兆保留図柄が表示領域ＨＲ２の外部を移動している間に、他の保留図柄がシフト先の表示位置（表示領域）への移行が完了し、次いで、前兆保留図柄がシフト先の表示位置（表示領域）へと移行する演出が実行される。

【７９５５】

このように構成することで、通常の保留図柄と、前兆保留図柄とで、表示位置（表示領域）のシフト移行が完了するタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して、前兆保留図柄の演出態様をより注視させることができる。また、通常の保留図柄よりも、前兆保留図柄の方が、表示位置（表示領域）のシフト移行が完了するタイミングを遅らせている。即ち、前兆保留図柄がシフト移行するのに要する期間を、通常の保留図柄がシフト移行するのに要する期間よりも長くなるように構成しているため、保留シフト時チャンス演出の演出期間をより長くすることができる。

【７９５６】

次に、図７６０（ｄ）は、保留シフト時チャンス演出の演出態様として「高速」が設定された場合における表示領域ＨＲ２付近の表示画面の一例を示した図である。図７６０（ｄ）に示した通り、保留シフト時チャンス演出が実行されると、前兆保留図柄のみ、他の保留図柄とは異なる演出態様（動的表示態様）でシフト移行する。図７６０（ｄ）では、前兆保留図柄である第３保留図柄ｈｒ３が、他の通常保留図柄よりも早く、シフト先の表示位置へと移動する演出態様を示している。よって、保留シフト時チャンス演出の演出態様として「高速」が設定された場合には、他の保留図柄がシフト先の表示位置（表示領域）への移行が完了するよりも前に、前兆保留図柄がシフト先の表示位置（表示領域）へと移行するため、同一の表示位置（表示領域）に、複数（２つ）の保留図柄（の少なくとも一部）が一時的に表示されることになる。このように構成することで、遊技者に対して、違和感を与えることができ、演出効果を高めることができる。

【７９５７】

なお、本第２４制御例における前兆保留図柄の表示態様を、上述した第２２制御例において適用しても良い。このように構成することで、保留変化演出の対象となる保留図柄を遊技者に分かり易く報知することができる。

【７９５８】

また、本第２４制御例において、上述した第２２制御例と同様に前兆保留図柄を用いること無く、シフト時チャンス演出の実行タイミングにおいて、対象となる保留図柄のみシフト移行時の演出態様として、図７６０（ｃ）、図７６０（ｄ）に示した演出態様を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して意外性のある演出を提供することができる。

【７９５９】

また、本第２４制御例では、前兆保留図柄のみシフト時チャンス演出を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、前兆保留図柄にてシフト時チャンス演出が実行される場合に、同一の演出態様を用いて、他の保留図柄もシフト移行するように構成しても良い。このように構成することで、表示領域ＨＲ２に表示されている複数の保留図柄に対して通常とは異なる演出態様（「ジャンプ」、「高速」）を設定することができるため、遊技者に対してシフト時チャンス演出が実行されたことを分かり易く報知することができる。

【７９６０】

＜第２４制御例における電気的構成について＞

次に、図７６１を参照して、本第２４制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明する。図７６１は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。図７６１に示した通り、本第２４制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成は、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成（図６８７参照）に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１にバスライン２０４を介して接続されている入出力ポート２０５に、設定値表示装置１１０ａ、設定スイッチ１１０ｃ、設定キー１１０ｂが接続され、ＭＰＵ２０１は設定キー１１０ｂや設定スイッチ１１０ｃへの操作に応じて出力される信号に基づいて設定値を変更する処理や、設定値を表示する処理を実行する点で相違している。なお、設定キー１１０ｂや設定スイッチ１１０ｃを用いた各種操作の内容や、設定値表示装置１１０ａに表示される表示内容については、図７５７を参照して上述したため、その説明を省略する。

【７９６１】

次に、図７６２を参照して、本第２４制御例のパチンコ機１０における音声出力装置２２６の電気的構成について説明をする。図７６２は、音声出力装置２２６の電気的構成を簡易的に示したブロック図である。図７６２に示した通り、音声出力装置２２６は、音声ランプ制御装置１１３とデータの送受信が可能に接続されている。

【７９６２】

図７６２に示した通り、音声出力装置２２６は、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ３０１が搭載されている。ＭＰＵ３０１には、当該ＭＰＵ３０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データ（ボイスデータ）を記憶したＲＯＭ３０２と、そのＲＯＭ３０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３とが内蔵されている。

【７９６３】

音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１は、入出力ポート３０５、および音声合成部３０６と電気的に接続されている。音声ランプ制御装置１１３から音声出力装置２２６に対して、音声データを指定するコマンドを受信した場合には、そのコマンドが入出力ポート３０５を介してＭＰＵ３０１へ入力される。また、音声ランプ制御装置１１３によって指定された音声データは、ＲＯＭ３０２から読み出されて、音声合成部３０６の、音声種別に対応するチャンネルに対して出力される。

【７９６４】

音声合成部３０６は、各チャンネルに入力された音声データを合成して、合成音声データとしてアンプ部３０７へと出力する公知の音声合成ＬＳＩで構成されている。合成音声データは、アンプ部３０７によって増幅され、スピーカー部３０８に入力される。これにより、スピーカー部３０８から、音声ランプ制御装置１１３によって指定された各種音声を出力することができる。なお、本第２４制御例では、音声合成部３０６によって生成された合成音声データを、アンプ部３０７だけでなく、公知のＡＣ－ＤＣコンバータで構成されたＡＤＣ３０９に対しても入力する構成としている。このＡＤＣ３０９は、アナログデータである合成音声データを、デジタルデータに変換してＭＰＵ３０１に対して出力可能に構成されている。

【７９６５】

より具体的には、ＡＤＣ３０９は、比較器３０９ａ１～３０９ａ１５と、デコード部３０９ｂとを少なくとも有している。各比較器３０９ａ１～３０９ａ１５は、それぞれ受信したアナログデータの振幅（電圧）が、各比較器３０９ａ１～３０９ａ１５に対応する電圧よりも大きいか否かを判別することができる。なお、各比較器３０９ａ１～３０９ａ１５に対応する電圧としては、７ボルトから－７ボルトまでの範囲で１ボルトずつ設定されている。各比較器３０９ａ１～３０９ａ１５は、対応する電圧値よりも合成音声データの電圧値の方が大きい場合に、Ｌを出力し、合成音声データの方が小さければＨを出力する構成となっている。

【７９６６】

デコード部３０９ｂは、各比較器３０９ａ１～３０９ａ１５の出力の組み合わせから、

今回の合成音声データの電圧値の範囲を特定して、４ビットのデジタル値に変換する。即ち、電圧が低い範囲の順に、「００００Ｂ」から「１１１１Ｂ」までのデジタル値に変換する。具体的には、例えば、合成音声データの電圧値が７ボルトよりも大きい場合には、デジタル値として「１１１１Ｂ」が出力される。また、例えば、合成音声データの電圧値が３ボルトより大きく、４ボルト以下である場合には、デジタル値として「１０１１Ｂ」が出力される。

【７９６７】

ＭＰＵ３０１では、ＡＤＣ３０９から出力された合成後の音声データを所定期間（例えば、０．１秒間）に渡ってサンプリングして、その平均値（平均の振幅）を音声ランプ制御装置１１３に対して出力する構成としている。音声ランプ制御装置１１３は、受信した平均の振幅から、対応する振動強度（ＤＵＴＹ比）を特定する。そして、その特定した振動強度（ＤＵＴＹ比）で音声ランプ制御装置１１３の入出力ポート２２５に接続されている駆動モータ７７０のうち、振動付与用モータ（図示せず）を駆動させるための動作コマンドをモータ制御用ＩＣに対して設定する。これにより、スピーカー部３０８から出力される音声に合わせて、振動強度を可変させることができるので、臨場感のある演出を提供することができる。

【７９６８】

なお、本第２４制御例では、ＡＤＣ３０９から出力されたデジタル値をＭＰＵ３０１に出力する構成としているが、直接入出力ポート３０５に対して出力することで、デジタル値をそのまま音声ランプ制御装置１１３に対して出力する構成としてもよい。そして、振動演出を伴う変動演出を実行する場合には、音声ランプ制御装置１１３側において、デジタル値を所定期間（例えば、０．１秒間）に渡ってサンプリングすることで平均の振幅を算出する構成としてもよい。そして、算出した平均の振幅に応じた振動強度（ＤＵＴＹ比）をモータ制御用ＩＣに対して動作コマンドで通知する構成としてもよい。これにより、ＭＰＵ３０１の処理負荷を軽減することができる。

【７９６９】

本第２４制御例では、合成音声データを、振幅の絶対値の平均値に変換して、その平均値に基づいて振動強度（ＤＵＴＹ比）を特定する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、サンプリングを行う所定期間（例えば、０．１秒間）における絶対値の最大値を、音声出力装置２２６から音声ランプ制御装置１１３に対して出力する構成としてもよいし、実効値（振幅の最大値を２の平方根で除算した値）を算出して音声出力装置２２６から音声ランプ制御装置１１３に対して出力する構成としてもよい。

【７９７０】

また、音声ランプ制御装置１１３から出力されるボイスコマンドに対応させて、振動付与用モータを駆動させるための動作コマンドの種別を可変設定するように構成しても良く、例えば、高い音域のボイスデータを指定するためのボイスコマンドが設定された場合には、短い振幅に応じた振動強度を動作コマンドとして設定し、低い音域のボイスデータを指定するためのボイスコマンドが設定された場合には、長い振幅に応じた振動強度を動作コマンドとして設定するように構成しても良い。

【７９７１】

このように構成することで、ボイスデータの種別を異ならせたことにより実行される音声出力に対して、より明確な差を設けることができる。

【７９７２】

次に、図７６３を参照して、本第２４制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成のうち、特別図柄大当たり乱数テーブル２０２ｘａの内容について説明をする。本第２４制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２は、上述した第２２制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２に対して、特別図柄抽選の当否判定（大当たり判定）を決定する際に参照されるデータテーブルを異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。

【７９７３】
ここで、図７６３を参照して、特別図柄大当たり乱数テーブル２０２ｘａに規定されている内容について説明をする。この特別図柄大当たり乱数テーブル２０２ｘａは、特別図柄の抽選を実行する際に参照されるデータテーブルであり、大当たりと判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値の範囲が、特別図柄の状態、および設定値毎に規定されている。図７６３は、この特別図柄大当たり乱数テーブル２０２ａの規定内容を示した図である。
【７９７４】
図７６３に示した通り、特別図柄の低確率状態において特別図柄の大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）として、設定値「１」に対して「０～２４９」の２５０個が設定され、設定値「２」に対して「０～２７４」の２７５個が設定され、設定値「３」に対して、「０～２９９」の３００個が設定されている。一方、図７６３に示した通り、確変遊技状態（特別遊技状態）において特別図柄の大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）としては、設定値「１」に対して「０～９９９」の１０００個が設定され、設定値「２」に対して「０～１０９９」の１１００個が設定され、設定値「３」に対して「０～１１９９」の１２００個が設定されている。
【７９７５】
本第２４制御例では、第１当たり乱数カウンタの取り得る値が「０～６５５３５」の６５５３６通りであることから、設定「１」が設定されている場合であって、特別図柄の低確率状態では大当たり当選する確率（大当たり確率）が約１／２６２となり、特別図柄の高確率状態では大当たり確率が約１／６５となる。また、設定「２」が設定されている場合であって、特別図柄の低確率状態では大当たり確率が約１／２３８となり、特別図柄の高確率状態では大当たり確率が約１／６０となる。また、設定「３」が設定されている場合であって、特別図柄の低確率状態では大当たり確率が約１／２１８となり、特別図柄の高確率状態では大当たり確率が約１／５５となる。
【７９７６】
よって、設定「１」が最も大当たり当選し難い設定値（不利設定値）となり、設定「３」が最も大当たり当選し易い設定値（有利設定値）となる。そして、上述した通り、本第２４制御例では、何れの設定値が設定されている場合であっても、特別図柄の低確率状態における大当たり確率に対して特別図柄の高確率状態における大当たり確率が４倍となるように構成している。つまり、何れの設定値が設定されている場合であっても、特別図柄の低確率状態から特別図柄の高確率状態へと移行した場合に、同一の特典（大当たり当選し易くするための特典）を遊技者に提供するように構成している。このように構成することで、複数段階の設定値を設定可能に構成したパチンコ機１０において、特別図柄の確率状態が切り替わる際に付与される特典を設定値に関わらず均一にすることができるため、設定値に応じて遊技内容が過剰に異なってしまうことを抑制することができる。
【７９７７】
なお、設定値に応じて、特別図柄の低確率状態から特別図柄の高確率状態へと移行した場合に付与される特典内容を異ならせても良く、例えば、設定「１」よりも設定「３」のほうが、特別図柄の低確率状態から特別図柄の高確率状態へと移行した場合における大当たり確率の可変度合いが大きくなるように構成しても良く、設定「１」の場合は、特別図柄の低確率状態における大当たり確率に対して特別図柄の高確率状態における大当たり確率が４倍となり、設定「３」の場合は、特別図柄の低確率状態における大当たり確率に対して特別図柄の高確率状態における大当たり確率が６倍となるように構成しても良い。このように構成することで、不利設定である設定「１」に対する有利設定である設定「３」の有利度合いをより大きくすることができるため、遊技者に対して、有利な設定値が設定されているパチンコ機１０にて遊技を行おうと意欲的に遊技を行わせることができる。
【７９７８】
本第２４制御例では、パチンコ機１０に設けられた設定値を３段階としているが、これに限ること無く、設定値を２段階にしても良いし、４段階以上（例えば、６段階）にして

も良い。さらに、本第２４制御例では、特別図柄の大当たり確率に設定差を設けているが、これに限ること無く、例えば、大当たり確率や小当たり確率や確変状態の設定確率や確変状態が継続する期間や、大当たり遊技の遊技内容といった遊技の有利度合いを可変可能な各種要素に対して設定差を設けるように構成しても良い。このような場合であっても、設定される設定値に応じて遊技者に異なる有利度合いを提供することができるため、遊技者に対して、有利な設定値が設定されているパチンコ機１０にて遊技を行おうと意欲的に遊技を行わせることができる。

【７９７９】

次に、図７６４を参照して、本第２４制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図７６４は、ＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図７６４に示した通り、本第２４制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第２２制御例におけるＲＡＭ２０３（図６８９（ｂ）参照）に対して、設定値格納エリア２０３ｘａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【７９８０】

設定値格納エリア２０３ｘａは、パチンコ機１０の設定値に対応するデータを格納しておくための記憶領域である。より具体的には、設定値格納エリア２０３ｘａにデータとして「００Ｈ」が格納されていれば、設定値「１」が設定されていることを示し、データとして「０１Ｈ」が格納されていれば、設定値「２」が設定されていることを示し、データとして「０２Ｈ」が格納されていれば、設定値「３」が設定されていることを示す。特別図柄の抽選を実行する際は、この設定値格納エリア２０３ｘａのデータを読み出して、その読み出したデータが示す設定値に対応する抽選確率で特別図柄の抽選（大当たり抽選）を実行する。即ち、特別図柄大当たり乱数テーブル２０２ｘａ（図７６３参照）のうち、設定値格納エリア２０３ｘａのデータが示す設定値に対応する乱数値の範囲と、実行エリアに格納されている第１当たり乱数カウンタＣ１の値とを比較することにより特別図柄の抽選を実行する。なお、設定値格納エリア２０３ｘａの値は、初期値が「００Ｈ」に設定されており、設定変更状態において設定スイッチ１１０ｃが押下（操作）される毎に、「０１Ｈ」→「０２Ｈ」と「０１Ｈ」ずつ値が更新され、データが「０２Ｈ」の状態で更に設定スイッチ１１０ｃが押下されると、データが「０１Ｈ」に更新される。なお、ＲＡＭクリアスイッチ１２２の押下を伴って電源が投入されると、ＲＡＭ２０３のデータは全て初期値にリセット（クリア）される。よって、単にＲＡＭクリア操作のみを行った場合、設定値格納エリア２０３ｇの値も初期値である「００Ｈ」にリセットされる。即ち、設定変更動作を実行せずに、単にＲＡＭクリア動作のみを行ったとしても、設定１には変更することができる。これにより、ホールの利便性を向上させることができる。

【７９８１】

次に、図７６５を参照して、本第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図７６５は、本第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図７６５に示した通り、本第２４制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２は、上述した第２２制御例の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２（図６９３（ａ）参照）に対して、ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａと、保留アクション選択テーブル２２２ｘｂと、を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【７９８２】

ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａは、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される第３図柄のキャラクタに対応したボイス種別を選択する際に参照されるデータテーブルである。本第２４制御例では、第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄の種別として、特別図柄抽選の結果に対応した「１」～「７」の７つの数字アイコンの何れかと、７種類のキャラクタ（「１キャラ」～「７キャラ」）との何れかが組み合わさった第３図柄が停止表示されるように構成している。

【７９８３】
基本的には、数字アイコン「１」と、キャラクタ「１キャラ」とが組み合わさって「第１第３図柄」が、数字アイコン「２」と、キャラクタ「２キャラ」とが組み合わさって「第２第３図柄」が、数字アイコン「３」と、キャラクタ「３キャラ」とが組み合わさって「第３第３図柄」が、数字アイコン「４」と、キャラクタ「４キャラ」とが組み合わさって「第４第３図柄」が、数字アイコン「５」と、キャラクタ「５キャラ」とが組み合わさって「第５第３図柄」が、数字アイコン「６」と、キャラクタ「６キャラ」とが組み合わさって「第６第３図柄」が、数字アイコン「７」と、キャラクタ「７キャラ」とが組み合わさって「第７第３図柄」が、それぞれ形成されるように構成している。
【７９８４】
さらに、第３図柄の組合せ変更条件（例えば、特別図柄変動回数が所定回数（５００回）に到達した場合に成立する変更条件や、大当たり当選回数が所定回数（５回）に到達した場合に成立する変更条件等）が成立した場合には、第３図柄を形成する数字アイコンに対して異なる種別のキャラクタが組み合わされる特殊第３図柄を形成可能に構成している。
【７９８５】
そして、本第２４制御例では、停止表示した第３図柄の数字アイコンの種別に関わらず、キャラクタ種別に応じたボイスデータを音声出力装置２２６から出力される音声に用いることが可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選が実行される毎に（遊技を実行する毎に）、異なる種別のボイスデータを用いた音声がパチンコ機１０から出力されるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【７９８６】
さらに、本第２４制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示された第３図柄の組合せ（キャラクタ種別の組合せ）に応じて、専用の特典を付与可能に構成している。具体的には、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示された場合には、その第３図柄に付随しているキャラクタ種別に対応するボイスデータに基づく音声出力を継続させて遊技を行うか否かを遊技者が選択可能な特典を付与可能とし、第３図柄表示装置８１の表示面に特定の組合せ（例えば、リーチハズレ）で第３図柄が停止表示した場合には、そのリーチ状態となっている第３図柄に付随しているキャラクタ種別に対応するボイスデータに基づく音声によって、パチンコ機１０に設定されている設定値（「１」～「３」）を示唆可能なセリフが発せられる設定示唆特典を付与可能に構成している。
【７９８７】
このように構成することで、特別図柄抽選の結果が大当たり当選であることにのみ注視していた遊技者に対して、当たり当選以外の特典が付与されることを期待しながら特別図柄抽選の結果（第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示される第３図柄の停止表示態様）を注視させることが可能となる。よって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【７９８８】
加えて、本第２４制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄として、数字アイコンの種別と、キャラクタ種別とを通常とは異ならせた特殊第３図柄を停止表示可能に構成している。さらに、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示される第３図柄に付随するキャラクタを示唆可能なセリフを音声出力可能に構成している。
【７９８９】
つまり、音声出力されたセリフに基づいて次に停止表示される第３図柄種別を遊技者に予測させることが可能に構成しながらも、第３図柄として数字アイコンの種別と、キャラクタ種別とを通常とは異ならせた特殊第３図柄を表示可能に構成しているため、例えば、「１キャラ」が数字アイコン「１」に対応する第３図柄と、数字アイコン「３」に対応する第３図柄とに付随している状態では、「１キャラ」が停止表示されることを示唆するセリフが音声出力された場合において、遊技者に対して、数字アイコン「１」に対応する第３図柄が停止表示するのか数字アイコン「３」に対応する第３図柄が停止表示するのかを

予測させる楽しみを提供することができる。
【７９９０】
ここで、図７６６を参照して、本第２４制御例においてボイスデータを決定する際に参照されるデータテーブルであるボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａの内容について説明をする。図７６６はボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａに規定されている内容を示した図である。
【７９９１】
ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａは、第３図柄が停止表示された場合に実行される停止コマンド処理２４（図７７７のＦ２２７３参照）において、停止表示されている第３図柄の停止表示態様に基づいて対応するボイスコマンドを決定する際に参照される（図７７７のＦ２６７２参照）。図７６６に示した通り、停止表示された第３図柄に付随されているキャラクタ種別に応じて、各キャラクタ種別に対応するボイスデータを特定するためのボイスコマンドが規定されている。また、停止表示された第３図柄に付随されているキャラクタ種別の組合せに応じた特典も規定されている。
【７９９２】
ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａを参照してボイスコマンドを決定すると、決定したボイスコマンドに対応する音声用ボイスコマンドが音声出力装置２２６に対して出力される。そして、音声出力装置２２６では、受信したボイスコマンドに基づいて、対応するボイスデータを特定し、特定したボイスデータを用いて遊技用の共通音声が出力される。つまり、パチンコ機１０から常時出力される内容の音声のボイスデータのみを変更させることが可能となる。
【７９９３】
さらに、音声出力装置２２６が受信したボイスコマンドに特定のセリフ出力を示す情報が含まれている場合には、対応するセリフデータを読み出して、受信したボイスデータを用いて受信したセリフを出力することが可能に構成している。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示される第３図柄の停止表示態様（キャラクタ種別）によって、パチンコ機１０から出力される音声のボイスデータを異ならせるだけで無く、専用のセリフを出力することも可能となるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【７９９４】
加えて、本第２４制御例では、特定のボイスコマンド専用のセリフとして、遊技者に有利な情報（例えば、設定値情報）を示唆可能なセリフも含んでいるため、様々なボイスデータで音声が出力されることによる演出効果の向上に加え、遊技者に有利な特典を付与可能となるため、遊技者に対してボイスデータが変更されることに興味を持たせることができる。
【７９９５】
次に、ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａに規定されている内容について図７６６を参照して詳細に説明をする。図７６６に示した通り、ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａには、停止表示された第３図柄種別として、大当たり当選を示す第３図柄種別と、リーチハズレを示す第３図柄種別と、完全外れ（バラケ目）を示す第３図柄種別と、が大別され、大別された第３図柄種別毎に異なる特典を付与可能に構成している。そして、大別された第３図柄種別のそれぞれに対して、実際に停止表示された第３図柄種別（キャラクタ種別）に対応するボイスが規定されている。
【７９９６】
具体的には、第３図柄種別が「大当たり」、即ち、同一の数字アイコンが３つ並んで停止表示された場合は、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「１キャラ」に対して、選択ボイス「１キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド１」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「２キャラ」に対して、選択ボイス「２キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド２」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「３キャラ」

に対して、選択ボイス「３キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド３」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「４キャラ」に対して、選択ボイス「４キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド４」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「５キャラ」に対して、選択ボイス「５キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド５」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「６キャラ」に対して、選択ボイス「６キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド６」が規定されており、停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「７キャラ」に対して、選択ボイス「７キャラ」を特定するためのボイスコマンド「コマンド７」が規定されている。

【７９９７】

そして、第３図柄種別が「大当たり」である場合には、付与される特殊特典として、設定されたボイスデータを継続設定可能な特殊特典が規定されている。つまり、特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、その大当たり図柄に付されているキャラクタに対応したボイスデータで後の遊技（大当たり中の遊技や、大当たり遊技終了後の遊技）に関する音声出力が実行されるように構成している。本第２４制御例では、次に大当たり当選するまでの期間、同一のボイスデータを用いた音声出力が継続されるように構成している。このように構成することで、お気に入りのキャラクタに対応するボイスデータが特定されたにも関わらず、即座に別のボイスデータが特定されてしまうことを抑制することができる。

【７９９８】

また、本第２４制御例では、特定のボイスデータに対応する音声出力を継続させる特典を、大当たり当選した場合に付与可能に構成しているため、様々な遊技音声をお気に入りのキャラクタに対応するボイスデータで出力させることを希望する遊技者に対して、特定のキャラクタ種別が付された第３図柄で大当たり表示されることを期待しながら継続して遊技を行わせることができる。

【７９９９】

なお、本第２４制御例では、大当たり当選（大当たり図柄の停止表示）に基づいて特定されたボイスデータを用いた音声出力を次の大当たり当選まで継続するように構成しているが、これに限ること無く、遊技者が操作手段（例えば、演出ボタン２２）を操作することによって、大当たり当選したことに基づいて付与される特殊特典をクリアするように構成しても良い。このように構成することで、遊技者が所望しないボイスデータが特定されるキャラクタが付された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示された場合であっても、そのボイスデータに基づく音声出力が長時間継続してしまうことを抑制することができる。

【８０００】

さらに、本第２４制御例では、大当たり当選（大当たり図柄の停止表示）に基づいて特定されたボイスデータを用いた音声出力を次の大当たり当選まで継続するように構成することで、お気に入りのキャラクタに対応するボイスデータが特定されるまで遊技者に継続して遊技を行わせ易くするものであるが、これに限ること無く、例えば、大当たり当選した回数や、遊技時間（特別図柄抽選回数）に基づいて、大当たり当選する場合に停止表示される第３図柄に付されるキャラクタ種別を遊技者が任意に選択可能に構成しても良い。このように構成することで、長時間遊技を行い、何回も大当たり当選したにも関わらず、お気に入りのキャラクタが付された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示されず、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８００１】

次に、第３図柄種別として「リーチハズレ」、即ち、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示される複数の第３図柄のうち、一部の第３図柄が大当たり当選を示す組合せで停止表示された状態（リーチ状態）が表示された後、残りの第３図柄が大当たり当選を示す組合せとは異なる表示態様で停止表示された場合は、リーチ状態で表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「７キャラ」に対して、選択ボイス「リーチキャラ（７キ

ャラ）」を特定するためのボイスコマンド「コマンド８」が規定されており、リーチ状態で表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「７を除く奇数キャラ（１キャラ、３キャラ、５キャラ）」に対して、選択ボイス「リーチキャラ（１キャラ、３キャラ、５キャラ）」を特定するためのボイスコマンド「コマンド９」～「コマンド１１」が規定されており、リーチ状態で表示されている第３図柄に付されているキャラクタが「偶数キャラ（２キャラ、４キャラ、６キャラ）」に対して、選択ボイス「リーチキャラ（２キャラ、４キャラ、６キャラ）」を特定するためのボイスコマンド「コマンド１２」～「コマンド１４」が規定されている。

【８００２】

そして、第３図柄種別が「リーチハズレ」である場合には、パチンコ機１０に設定されている設定値を示唆可能なセリフ出力（会話セリフ）を特殊特典として付与可能な情報が規定されている。ここで、詳細な説明は省略するが、本第２４制御例では、リーチ状態となった第３図柄の種別に応じて、大当たり当選の期待度を異ならせており、数字アイコン「７」が付された第３図柄がリーチ状態となる「７リーチ」が成立した場合には、他の第３図柄がリーチ状態となる場合よりも大当たり当選の期待度が高くなるように構成している。具体的には、「７リーチ」が成立した場合の約９０％が大当たり当選するように構成している。

【８００３】

このように構成することで、リーチ状態となった第３図柄の種別に応じて、全ての第３図柄が停止表示されるよりも前に大当たり当選の期待度を遊技者に予測させることができる。また、同一の演出態様の変動演出（リーチ演出）が実行された場合であっても、リーチ状態となった第３図柄の種別によって大当たり当選の期待度を異ならせることが可能となる。よって、大当たり期待度の異なる変動演出を、同一の演出態様を用いて提供することができるため、変動演出に用いられる画像データ（リーチ映像データ）の量を削減することができる。

【８００４】

このように構成されたパチンコ機１０では、大当たり当選の期待度が高い第３図柄の種別でリーチ状態（７リーチ状態）が表示された後、外れ当選を示す表示態様で第３図柄が停止表示された場合、即ち、大当たり当選の期待度が高い変動演出が実行されたにも関わらず、外れ当選した場合に、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうという問題があった。

【８００５】

これに対して、本第２４制御例では、大当たり当選の期待度が高いにも関わらず、外れ当選した場合に停止表示される第３図柄の組合せ（７リーチハズレ）で第３図柄が停止表示された場合に、大当たり当選とは異なる特典（設定示唆）を遊技者に提供可能に構成している。このように構成することで遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【８００６】

また、本第２４制御例では、大当たり当選を示す組合せで第３図柄が停止表示された場合における第３図柄の種別に応じて、設定される大当たり種別（通常（時短）大当たり、確変大当たり）を遊技者に示唆可能に構成しており、停止表示された第３図柄の種別が数字アイコン「奇数（１，３，５，７）」である場合の方が、数字アイコン「偶数（２，４，６）」である場合よりも遊技者に有利な大当たり（確変大当たり）に当選した可能性が高くなるように構成している。

【８００７】

よって、第３図柄表示装置８１にリーチハズレを示す組合せで第３図柄が停止表示される場合において、数字アイコン「奇数」のリーチ状態がリーチハズレになった場合と、数字アイコン「偶数」のリーチ状態がリーチハズレになった場合とで、遊技者の遊技意欲の低下度合いが異なるものであった。

【８００８】

ここで、本第２４制御例では、停止表示された第３図柄種別が「リーチハズレ」である場合に付与される特殊特典の内容を、「リーチハズレ」となった第３図柄の種別に応じて異ならせるように構成しており、「リーチハズレ」の表示態様で第３図柄が停止表示された場合における遊技者の遊技意欲の低下度合いが高い程、即ち、大当たり当選の期待度が高いリーチ状態で外れ当選したり、大当たり当選時に遊技者に有利な特典が付与され易い第３図柄のリーチ状態で外れ当選したりする方が、遊技者に有利となる特殊特典が付与されるように構成している。

【８００９】

より具体的には、図７６６に示した通り、「リーチハズレ」の対象が「７リーチ」である場合には、パチンコ機１０に設定されている設定値を分かり易く報知する「設定示唆強」の音声出力（図７５８（ｂ）参照）を実行可能な特殊特典が規定されており、「リーチハズレ」の対象が「７以外の奇数リーチ」である場合には、パチンコ機１０に設定されている設定値を示唆可能な「設定示唆弱」の音声出力を実行可能な特殊特典が規定されており、「リーチハズレ」の対象が「偶数リーチ」である場合には、パチンコ機１０に設定されている設定値が示唆されることの無い賑やかし用の音声出力を実行可能な特殊特典が規定されている。

【８０１０】

このように構成することで、遊技者に対して、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様であるか否かだけで無く、どの第３図柄種別で停止表示されたかについても興味を持たせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。また、遊技者に有利な特殊特典を付与可能な第３図柄の停止表示態様として「リーチハズレ」を規定しているため、例えば、第３図柄の停止表示態様に関わらず、第３図柄が全て停止表示したタイミングにおいて、所定の確率で特殊特典（設定示唆）を付与可能に構成する場合に対して、特殊特典が付与される可能があることを特殊特典が付与されるよりも前（リーチ状態が成立した時点）に遊技者に把握させることができるため、特殊特典が急に付与されてしまい、特殊特典として付与された情報を遊技者が把握し損なう事態が発生することを抑制することができる。

【８０１１】

また、遊技者に有利な特殊特典を付与可能な第３図柄の停止表示態様として「リーチハズレ」を規定しているため、第３図柄の変動演出として、大当たり当選の期待度が高くなる程、大当たり当選していなかった場合（外れ当選した場合）に特殊特典を付与し易くすることが可能となる。よって、遊技者の遊技意欲が過剰に低下してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８０１２】

なお、本第２４制御例では、第３図柄種別の大別として「リーチハズレ」を規定し、リーチ状態となった第３図柄の種別（リーチ種別）に応じて付与される特殊特典の内容を異ならせるように構成しているが、この構成に加え、「リーチハズレ」となった場合における最終停止第３図柄の種別に応じて、更に第３図柄種別を細分化し、付与される特殊特典の内容を異ならせるように構成しても良い。

【８０１３】

この場合、例えば、同一種別のリーチ状態（例えば、「５リーチ」）であって、最終停止第３図柄が、リーチ状態である第３図柄「５」に近い（例えば、「４」や「６」）である場合の方が、リーチ状態である第３図柄「５」に近くない（例えば、「１」や「２」）場合よりも遊技者に有利な特殊特典が付与され易くなるように構成すると良い。

【８０１４】

つまり、近年のパチンコ機１０では、変動表示中の第３図柄がリーチ状態となった場合に実行されるリーチ演出において、大当たり当選期待度が高いリーチ演出（高リーチ演出）が実行された場合は、大当たり当選するか否かの演出結果が表示される直前において、大当たり当選に対応する第３図柄の組合せ（「５５５」）が停止表示されるか否かを遊技者に煽るために、リーチ状態である第３図柄「５」と、その前後に表示される第３図柄「

４」や「６」との何れが停止表示されるかを分かり難くする演出が実行されるように構成し、大当たり当選期待度が低いリーチ演出（低リーチ演出）が実行された場合は、遊技者に過度に大当たり当選を期待させることを抑制するために、リーチハズレ時における最終停止第３図柄を、リーチ状態である第３図柄とは大きく異ならせるように構成するものが一般的である。

【８０１５】

よって、第３図柄種別として規定される「リーチハズレ」を、「リーチハズレ（１コマズレ）」と、「リーチハズレ（それ以外）」と細分化して規定することにより、大当たり当選の期待度が高いリーチ演出が実行されたにも関わらず、外れ当選した場合に特殊特典を付与させ易くすることができる。

【８０１６】

また、本第２４制御例では、設定されている遊技状態に関わらず、図７６６に示したボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａを参照してボイスコマンドを決定するように構成しているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態に応じて異なるボイスコマンドが決定されるようにボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａの内容を規定しても良い。この場合、例えば、設定されている遊技状態に応じて、リーチ状態が成立する確率を異ならせているパチンコ機１０であれば、リーチ状態が成立し難い遊技状態が設定されている場合の方が、リーチ状態が成立し易い遊技状態が設定されている場合よりも、「リーチハズレ」において特殊特典が付与され易くなるように規定したり、設定されている遊技状態が遊技者に有利な遊技状態（例えば、確変状態）である場合には、設定されている遊技状態が遊技者に不利な遊技状態（例えば、通常状態）である場合よりも、全体的に特殊特典が付与され難くなるように規定したりしても良い。

【８０１７】

図７６６に戻り説明を続ける。第３図柄種別として「バラケ目」、即ち、リーチ状態が成立すること無く外れ当選を示すための組合せで第３図柄が停止表示された場合には、左停止図柄（図７５８（ａ）の図柄Ｄ１参照）に表示されているキャラクタ種別（図７５８（ａ）では「タコ」）に対応するボイスデータが特定され、停止表示されている第３図柄のキャラクタ種別の組合せ（図７５８（ａ）では「タコ、サメ、カメ」の組合せ）に対応させたセリフを音声出力可能な特殊特典が付与されるボイスコマンド（コマンド１５・・・）が規定されている。なお、本第２４制御例では、第３図柄種別として「バラケ目」が停止表示された場合に付与可能な特殊特典として、賑やかし用のセリフが音声出力される特殊特典と、次変動にて停止表示されるキャラクタ種別を示唆するためのセリフが音声出力される特殊特典と、を付与可能に構成している。

【８０１８】

このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に停止表示される第３図柄が「バラケ目」が停止表示された場合であっても、その停止表示態様（左停止図柄）に対応したボイスデータを用いた音声出力や、停止表示態様の組合せに対応した会話セリフの音声出力を実行することが可能となるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。さらに、「バラケ目」に基づいて音声出力される会話セリフの一部において、次変動における停止図柄種別（停止表示される第３図柄のキャラクタ種別）を示唆するための特殊特典が付与されるため、特別図柄抽選の結果をいち早く把握しようとする遊技者に対して、音声出力される会話セリフの内容に興味を持たせることができる。

【８０１９】

さらに、本第２４制御例では、数字アイコンとキャラクタ種別とを通常とは異ならせた特殊第３図柄を表示可能に構成しているため、変動における停止図柄種別（停止表示される第３図柄のキャラクタ種別）を示唆するための特殊特典が付与された場合において、停止表示される第３図柄のキャラクタ種別に基づいて、停止表示される第３図柄の種別（数字アイコンの種別）を、予測する楽しみを提供することができる。

【８０２０】

保留アクション選択テーブル２２２ｘｂは、表示領域ＨＲ２に表示される保留図柄、即

ち、獲得済みの特別図柄抽選の実行権利数を示すための表示態様を移動させる際の動作パターンを決定する際に参照されるデータテーブルであって、新たな特別図柄変動の開始に基づいて、保留図柄の表示領域をシフトさせる場合における動作態様（アクション）を決定する際に参照される（図７７９のＦ４１０１参照）。

【８０２１】

ここで、上述した第２２制御例では、特別図柄抽選の実行権利を含む保留情報を、各特別図柄種別に対して最大で４個記憶（保留記憶）可能に構成し、その記憶されている保留情報の数を遊技者に示すための保留図柄を第３図柄表示装置８１の表示面に形成される表示領域ＨＲ２に表示可能に構成している。そして、新たな特別図柄抽選が実行される際には、保留記憶されている保留情報に含まれる情報に基づいて特別図柄抽選が実行されるように構成している。つまり、保留情報には、後に実行される特別図柄抽選において大当たり判定を行う際に参照される情報（取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が既に格納された状態で保留記憶されている。よって、上述した第２２制御例では、特別図柄抽選が実行されていない保留情報（第３図柄表示装置８１の表示面に形成された表示領域ＨＲ２に表示される保留図柄に対応する保留情報）に含まれている情報を事前に判別し、大当たり当選する可能性を示唆するための保留変化演出（図６７２～図６７６参照）を実行可能に構成している。

【８０２２】

しかしながら、表示領域ＨＲ２に表示される保留図柄は、新たな特別図柄変動が実行される毎に、保留図柄の表示位置がシフトしていくため、上述した第２２制御例のように保留図柄の表示位置を固定させた状態でチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させる保留変化演出を実行する場合には、所定期間（１０秒）以上の変動パターンで特別図柄変動が実行される場合、即ち、所定期間（１０秒）の間、保留図柄の表示位置が変わらないという条件が成立した場合にのみ保留変化演出が実行可能となり、その条件が成立していない場合には、保留変化演出を実行することができないという問題があった。

【８０２３】

これに対して、例えば、上述した第２２制御例に用いられた保留変化演出、即ち、チェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２を可動させることによって、保留変化し得る保留図柄を特定する保留変化演出を、保留図柄の表示位置がシフトする場合も継続して実行可能に構成するには、実行される特別図柄変動の変動時間に基づいて保留図柄の表示位置がシフトするタイミングを特定し、その特定したタイミングに合わせてチェンジ役物Ｙｍ１，Ｙｍ２の可動位置を制御する必要があり、保留変化演出を実行するための制御処理内容が莫大になるという問題があった。また、短時間の特別図柄変動が連続して実行された場合には、保留変化演出が実行されている際中に、保留変化演出の対象となる保留図柄に対応する保留情報を用いた特別図柄抽選が実行されてしまうという問題があった。

【８０２４】

これに対して、本第２４制御例では、保留図柄の表示態様を可変させるための保留変化演出の実行条件が成立している状態であって、且つ、実行される（実行中の）特別図柄変動の変動時間として短時間（例えば、５秒）が設定される（された）場合に、保留図柄の表示位置をシフト移動させる動作の動作パターン（アクション）を異ならせる保留アクション演出を実行することにより、保留変化演出の対象となる保留図柄の大当たり当選期待度を遊技者に報知可能に構成している。

【８０２５】

このように構成することで、保留図柄が特定の表示位置に所定期間（例えば、１０秒）維持されない状況（特別図柄の短時間変動が実行される状況）が発生した場合であっても、遊技者に対して保留情報に対する事前判別結果を分かり易く報知することができる。

【８０２６】

さらに、本第２４制御例では、保留アクション演出として実行される保留アクションの態様と、対象となる保留情報に基づく特別図柄抽選の結果とに基づいて、パチンコ機１０に設定されている設定値を示唆可能に構成している。具体的には、大当たり当選の期待度

が高い保留アクション態様（例えば、ジャンプ態様）が実行されたにも関わらず、その保留アクション演出の対象となる保留情報に基づく特別図柄抽選の結果が外れ当選である場合には、遊技者に有利となる設定値（設定「３」）が設定されている可能性が高いことを遊技者に示唆可能に構成している。このように構成することで、保留図柄の表示位置がシフト移動する場合に実行される保留アクション態様に対してより興味を持たせることができる。

【８０２７】

ここで、図７６７を参照して、保留アクション選択テーブル２２２ｘｂに規定されている内容について説明をする。図７６７は、保留アクション選択テーブル２２２ｘｂに規定されている内容を示した図である。図７６７に示した通り、保留アクション選択テーブル２２２ｘｂには、保留アクション演出の対象となる保留図柄のシフト移動時に実行されるアクション態様として複数種類のアクション態様（通常、高速、ジャンプ）が、対象保留先読み結果（対象となる保留情報に対する事前判別結果）、保留変化シナリオ設定の有無、設定値と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値とに対応付けて規定されている。

【８０２８】

具体的には、保留アクション演出の対象となる保留図柄に対応する保留情報（入賞情報）の先読み結果（事前判別結果）が、大当たり当選であり、当該保留図柄に対して保留変化演出を実行するための情報（保留シナリオ情報）が設定されている状態で、設定値「１」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が規定されている。また、設定値「２」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が規定されている。また、設定値「３」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「高速」が規定されている。

【８０２９】

一方、保留アクション演出の対象となる保留図柄に対応する保留情報（入賞情報）の先読み結果（事前判別結果）が、大当たり当選であり、当該保留図柄に対して保留変化演出を実行するための情報（保留シナリオ情報）が設定されていない状態で、設定値「１」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「高速」が規定されている。また、設定値「２」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が規定されている。また、設定値「３」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「通常」が規定されている。

【８０３０】

さらに、保留アクション演出の対象となる保留図柄に対応する保留情報（入賞情報）の先読み結果（事前判別結果）が、外れ当選であり、当該保留図柄に対して保留変化演出を実行するための情報（保留シナリオ情報）が設定されている状態で、設定値「１」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「通常」が規定されている。また、設定値「２」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「

０～５９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が規定されている。また、設定値「３」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「通常」が規定されている。

【８０３１】

一方、保留アクション演出の対象となる保留図柄に対応する保留情報（入賞情報）の先読み結果（事前判別結果）が、外れ当選であり、当該保留図柄に対して保留変化演出を実行するための情報（保留シナリオ情報）が設定されていない状態で、設定値「１」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「高速」が規定されている。また、設定値「２」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「通常」が規定されている。また、設定値「３」が設定されている場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５９」の範囲に対して保留アクション「通常」が、「６０～８９」の範囲に対して保留アクション「高速」が、「９０～９８」の範囲に対して保留アクション「ジャンプ」が規定されている。

【８０３２】

次に、図７６８を参照して、本第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図７６８は、本第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３の構成を示した図である。図７６８に示した通り、本第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３は、上述した第２２制御例における音声ランプ制御装置１１３が有するＲＡＭ２２３（図６９３（ｂ）参照）に対して、設定値格納エリア２２３ｘａと、設定変更中フラグ２２３ｘｂと、ボイス固定フラグ２２３ｘｃと、を追加している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【８０３３】

設定値格納エリア２２３ｘａは、主制御装置１１０から出力される設定値に関する情報を受信した場合に、その情報に基づいた設定値を格納するための記憶領域である。具体的には、主制御装置１１０の立ち上げ処理２４（図７７０参照）にて設定値に関する情報を含む状態コマンドが設定され（図７７０のＳ１７５３参照）、その状態コマンドを受信した場合に、受信した状態コマンドに含まれる情報に基づいて設定値を特定し、特定した設定値を示す情報が設定値格納エリア２２３ｘａに格納される。

【８０３４】

そして、設定値格納エリア２２３ｘａに格納された情報が、設定示唆演出の演出態様を決定する際に参照される。詳細な説明は後述するが、本制御例では、設定値を変更するための設定変更操作を実行する場合に、必ずパチンコ機１０の電源を投入する動作を必要とするように構成し、且つ、設定変更操作が完了した後に、設定値に関する情報を含む状態コマンドが設定されるように構成している。さらに、パチンコ機１０に電源が投入される毎に（主制御装置１１０の立ち上げ処理２４（図７７０参照）が実行される毎に）、設定値に関する情報を含む状態コマンドが主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へと出力されるように構成している。このように構成することで、電源投入時という限定されたタイミングでのみ設定値に関する情報を主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へと出力するように構成したとしても、音声ランプ制御装置１１３側で現在の設定値を確実に把握させることができる。

【８０３５】

また、設定値に関する情報が出力される機会を最小限に抑えることにより、設定値に関

する情報を不正に取得する行為が行われることを抑制することができる。さらに、本実施形態では、パチンコ機１０に設定される設定値を示す信号を直接外部に出力するのでは無く、設定値に関する情報を出力するように構成しているため、万が一、不正に取得されたとしても、その情報が示す設定値を特定し難くなるため、設定値に関する情報を不正に取得する行為が行われることを抑制することができる。加えて、本実施形態では、遊技状態を示すための状態コマンドの一部（例えば、状態コマンドを生成するための８ビットのうち空きビットとなり易い上位ビット）を用いて設定値に関する情報を設定するように構成しているため、設定値に関する情報を単独で出力する場合よりも、出力された情報が示す設定値を特定し難くなるため、設定値に関する情報を不正に取得する行為が行われることを抑制することができる。

【８０３６】

さらに、設定値を示す値では無く、設定値を示すための情報を、設定値格納エリア２２３ｘａに格納するように構成しているため、設定値格納エリア２２３ｘａに格納されている情報を不正に取得された場合であっても、出力された情報が示す設定値を特定し難くなるため、設定値に関する情報を不正に取得する行為が行われることを抑制することができる。

【８０３７】

なお、本制御例では、設定値に関する情報（設定値を示すための情報）を格納するための記憶領域として設定値格納エリア２２３ｘａという専用の記憶領域を設けているが、これに限ること無く、他の記憶エリアの一部（空き領域）を用いて設定値を示すための情報を記憶するように構成し、設定値に関する情報（設定値を示すための情報）が格納されている記憶領域を示すアドレスを特定の領域に記憶させるように構成しても良く、この場合、定期的、或いは不規則に設定値に関する情報（設定値を示すための情報）を記憶する領域を変更させるように構成すると良い。

【８０３８】

また、設定値に関する情報（設定値を示すための情報）を記憶する記憶領域の仕様に対応させて予め定められた規則に従って設定値に関する情報を加工するように構成すると良い。このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に記憶されている情報に基づいて設定値を不正に取得されてしまう事態が発生し難くすることができる。

【８０３９】

設定変更中フラグ２２３ｘｂは、現在が設定変更中であることを示すためのフラグであって、設定変更中であることを示す変更中コマンドが主制御装置１１０から出力された場合に、オンに設定される（図７７３のＦ２０７２参照）。そして、設定変更が完了したことを示す変更完了コマンドを受信したと判別した場合にオフに設定される（図７７３のＦ２０７４参照）。

【８０４０】

この設定変更中フラグ２２３ｘｂを設けることにより、主制御装置１１０にて実行される設定変更操作の操作状況を音声ランプ制御装置１１３側で把握することが可能となるため、設定変更操作が完了するまでの間実行される待機処理（図７７３のＦ２０５１参照）の処理を設定変更操作の操作状況に応じて切り替えることができる。よって、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理の処理負荷を軽減させることができる。

【８０４１】

ボイス固定フラグ２２３ｘｃは、音声出力されるボイスデータが変更されない期間を示すためのフラグであって、音声出力されるボイスデータが変更されない期間が設定された場合にオンに設定されるものである。本第２４制御例では、第３図柄が停止表示された場合に、その停止表示されている第３図柄に付されているキャラクタ種別に対応するボイスデータを用いてパチンコ機１０から出力される音声の種別を決定可能に構成している。そして、大当たり当選したことを示すための第３図柄が停止表示された場合には、次に大当

たり当選するまでの間、大当たり当選したことを示すための第３図柄に付されたキャラクタ種別に対応するボイスデータを用いた音声出力を継続して実行可能に構成している。

【８０４２】

ボイス固定フラグ２２３ｘｃは、第３図柄を停止表示させるための停止コマンドを受信した場合に実行される停止コマンド処理２４（図７７７のＦ２２７３参照）において、停止表示させる第３図柄が大当たり当選を示す第３図柄（大当たり当選変動に対応する第３図柄）であると判別した場合にオンに設定され（図７７７のＦ２６７５）、その設定状況が停止コマンドを受信する毎に判別される（図７７７のＦ２６７１参照）。ここで、ボイス固定フラグ２２３ｘｃがオンに設定されていると判別された場合は（図７７７のＦ２６７１：Ｙｅｓ）、今回の第３図柄停止表示に対して新たなボイスコマンドを特定するための処理がスキップされる。そして、大当たり当選変動に対応する停止種別を設定する際にオフに設定される（図７７６のＦ４００３参照）。

【８０４３】

なお、詳細な説明は省略するが、本第２４制御例では、遊技者が操作手段（演出ボタン２２）を操作することにより、オンに設定されているボイス固定フラグ２２３ｘｃをオフに設定することが可能に構成している。このように構成することで、遊技者が意図しないキャラクタ種別が付された第３図柄で大当たり当選した場合に、長時間の間、意図しないキャラクタ種別に対応したボイスデータを用いた音声出力が継続してしまうことを抑制することができる。

【８０４４】

次に、図７６９を参照して、本第２４制御例における音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１に設けられたＲＯＭ３０２の構成について説明する。図７６９（ａ）は、ＲＯＭ３０２の構成を示したブロック図である。図７６９（ａ）に示した通り、ＲＯＭ３０２には、音声ファイル記憶エリア３０２ｘａが少なくとも設けられている。

【８０４５】

音声ファイル記憶エリア３０２ｘａには、パチンコ機１０で実行される各種演出において楽曲や効果音等を出力するために用いる音声ファイル（音声データ）に加え、キャラクタ種別に対応するボイスデータが記憶されている記憶領域である。各種演出の実行が音声ランプ制御装置１１３により通知された場合には、この音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから演出に対応する音声ファイルが読み出され、音声合成部３０６の対応するチャンネルに出力される。

【８０４６】

また、ボイスデータの種別を示すための音声用ボイスコマンドが音声ランプ制御装置１１３により通知された場合には、この音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから、ボイスコマンドに対応するボイスデータが読み出され、音声合成部３０６の対応するチャンネルに出力される。

【８０４７】

さらに、音声ファイル記憶エリア３０２ｘａには、音声用ボイスコマンドが音声ランプ制御装置１１３により通知された場合において出力される専用の音声ファイルが記憶されており、ボイスデータの種別を示すための音声用ボイスコマンドが音声ランプ制御装置１１３により通知された場合には、この音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから、ボイスコマンドに対応する専用の音声ファイルが読み出され、音声合成部３０６の対応するチャンネルに出力される。

【８０４８】

次に、図７６９（ｂ）を参照して、音出力装置１３２に設けられたＲＡＭ３０３の構成について説明する。図７６９（ｂ）は、ＲＡＭ３０３の構成を示したブロック図である。図７６９（ｂ）に示した通り、ＲＡＭ３０３は、コマンド記憶領域３０３ｘａと、選択中ボイス格納エリア３０３ｘｂと、が少なくとも設けられている。

【８０４９】

コマンド記憶領域３０３ａは、音声ランプ制御装置１１３から音声出力装置２２６へ出

力された各種コマンドがそのコマンドに対する処理が実行されるまで一時的に記憶され領域である。詳細には、リングバッファで構成され、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ　Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ　Ｏｕｔ）方式によってデータの読み書きが行われる。音声出力装置２２６のコマンド判定処理（図７８１のＦ６００２参照）が実行されると、コマンド記憶領域３０３ａに記憶された未処理のコマンドのうち、最初に格納されたコマンドが読み出され、コマンド判定処理によって、そのコマンドが解析されて、そのコマンドに応じた処理が行われる。

【８０５０】

選択中ボイス格納エリア３０３ｘｂは、音声ランプ制御装置１１３から通知された音声用ボイスコマンドに対応して、音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから読み出されたボイスデータの種別を記憶するための記憶領域である。音声ランプ制御装置１１３から音声用ボイスコマンドが出力された場合には、音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから受信した音声用ボイスコマンドに対応するボイスデータの種別が記憶され、その後、音声出力装置２２６にて新たな音声を出力する処理を実行する際には、選択中ボイス格納エリア３０３ｘｂに格納されているボイスデータの種別を示す情報に基づいて出力させる音声のボイスデータが形成される。

【８０５１】

＜第２４制御例における主制御装置１１０の制御処理について＞

次に、図７７０を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理２４について説明する。図７７０は、この立ち上げ処理を示すフローチャートである。この立ち上げ処理は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理では、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｆ１７０１）。初期設定処理（Ｆ１７０１）では、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（本実施形態では１秒）を実行する（Ｆ１７０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｆ１７０３）。

【８０５２】

次に、設定キー１１０ｂがオン位置に配置されているか否かを判別する（Ｆ１７５１）。Ｆ１７５１の処理において、設定キー１１０ｂがオン位置に配置されていると判別した場合は（Ｆ１７５１：Ｙｅｓ）、設定変更状態、若しくは設定確認状態に設定されていることを意味するため、これらの状態に対応する制御を行うための設定値制御処理を実行し（Ｆ１７５２）、後述するＦ１７１０の処理へ移行する。この設定値制御処理（Ｆ１７５２）の詳細については、図７７１を参照して後述する。一方、Ｆ１７５１の処理において、設定キー１１０ｂがオン位置ではないと判別した場合には（Ｆ１７５１：Ｎｏ）、Ｆ１７０４の処理に移行する。

【８０５３】

Ｆ１７０４の処理では、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２（図７５６参照）がオンされているか否かを判別し（Ｆ１７０４）、オンされていれば（Ｆ１７０４：Ｙｅｓ）、処理をＦ１７１２へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｆ１７０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｆ１７０５）、電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｆ１７０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＦ１７１２へ移行する。

【８０５４】

ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｆ１７０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｆ１７０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｆ１７０７：Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＦ１７１２へ移行する。なお、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き

込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。

【８０５５】

Ｆ１７１２の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｆ１７１２）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１７１３，Ｆ１７１４）を実行する。

【８０５６】

上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、ＲＡＭの初期化処理（Ｆ１７１３，Ｆ１７１４）を実行する。また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１７１３，Ｆ１７１４）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｆ１７１３，Ｆ１７１４）では、ＲＡＭ２０３の使用領域を０クリアし（Ｆ１７１３）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｆ１７１４）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、Ｆ１７１０の処理へ移行する。

【８０５７】

一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｆ１７０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｆ１７０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｆ１７０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータを保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｆ１７０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｆ１７０９）、Ｆ１７１０の処理へ移行する。払出制御装置１１１は、この払出復帰コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３に記憶されたデータを保持したまま、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。

【８０５８】

Ｆ１７１０の処理では、演出許可を示す初期化コマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信し、音声ランプ制御装置１１３および表示制御装置１１４に対して各種演出の実行を許可する。次いで、現在の遊技状態を示す情報と、現在の設定値に関する情報と、を含む状態コマンドを設定し（Ｆ１７５３）、割込み許可を設定し（Ｆ１７１２）、メイン処理に移行する。

【８０５９】

次に、図７７１を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理２４（図７７０参照）の中の一処理である設定値制御処理（Ｆ１７５２）の内容について説明をする。図７７１は、設定値制御処理（Ｆ１７５２）の詳細な内容を示したフローチャートである。

【８０６０】

図７７１に示した通り、設定値制御処理（Ｆ１７５２）では、まず、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図７５６参照）がオンされているか否かを判別し（Ｆ１９０１）、オンされていれば（Ｆ１９０１：Ｙｅｓ）、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｆ１９０２）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｆ１９０３、Ｆ１９０４）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｆ１９０３、Ｆ１９０４）では、ＲＡＭ２０３の使用領域をクリアし（Ｆ１９０３）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｆ１９０４）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、設定変更

中を示す変更中コマンドを送信し（Ｆ１９０５）、処理をＦ１９０６へと移行する。
【８０６１】
　Ｆ１９０６の処理では、設定スイッチ１１０ｃがオンさたか（押下されたか）否かを判別する（Ｆ１９０６）。Ｆ１９０６の処理において、設定スイッチ１１０ｃがオンされた（押下された）と判別した場合は（Ｆ１９０６：Ｙｅｓ）、設定値格納エリア２０３ｘａのデータを１加算することにより更新し（Ｆ１９０７）、Ｆ１９０８の処理へ移行する。一方、Ｆ１９０６の処理において、設定スイッチがオフであると判別した場合は（Ｆ１９０６：Ｎｏ）、Ｆ１９０７の処理をスキップし、Ｆ１９０８の処理へ移行する。
【８０６２】
　Ｆ１９０８の処理では、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されているか否かを判別し（Ｆ１９０８）。設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されていると判別した場合は（Ｆ１９０８：Ｙｅｓ）、設定変更完了を示す変更完了コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信し（Ｆ１９０９）、本処理を終了する。即ち、設定変更状態を終了して、立ち上げ処理２４（図７７０参照）へと戻る。これにより、通常の遊技が可能な遊技可能状態に移行させることができる。
【８０６３】
　一方、Ｆ１９０８の処理において、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されていないと判別した場合は（Ｆ１９０８：Ｎｏ）、Ｆ１９０６の処理へと戻る。つまり、Ｆ１９０８の処理において設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されたと判別されるまで、Ｆ１９０６～Ｆ１９０８の各処理が繰り返される。
【８０６４】
　また、Ｆ１９０１の処理において、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていないと判別した場合は（Ｆ１９０１：Ｎｏ）、まず、払出制御装置１１１へ払出復帰コマンドを送信し（Ｆ１９１０）、次いで、設定値格納エリア２０３ｘａのデータを読み出す（Ｆ１９１１）。Ｆ１９１１の処理が終了すると、次に、読み出したデータに対応する設定値を設定値表示装置１１０ａに表示させ（Ｆ１９１２）、設定確認状態を示す状態コマンドを設定して（Ｆ１９１３）、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されているか否かを判別する（Ｆ１９１４）。Ｆ１９１４の処理において、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されていると判別した場合には（Ｆ１９１４：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。つまり、遊技可能状態に移行させる。一方、Ｆ１９１４の処理において、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されていないと判別した場合は（Ｆ１９１４：Ｎｏ）、Ｆ１９１４の処理を繰り返し実行する。つまり、設定キー１１０ｂがオフ位置に配置されるまで、設定確認状態を継続させる。
【８０６５】
　この設定値制御処理（Ｆ１７５２：図７７１参照）を実行することにより、設定変更状態において設定スイッチ１１０ｃに対する操作に応じて設定値を可変させることができる。また、設定確認状態において、設定スイッチ１１０ｂがオフ位置に配置されるまで、設定値表示装置１１０ａに対して設定値を表示させ続けることができる。
【８０６６】
　＜第２４制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞
　次に、図７７２から図７７９を参照して、本第２４制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第２４制御例では、上述した第２２制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理の内容に対して、立ち上げ処理（図７１６参照）に代えて立ち上げ処理２４（図７７２参照）を実行する点、コマンド判定処理（図７１８のＦ２１１２参照）に代えて、コマンド判定処理２４（図７７４のＦ２１７２参照）を実行する点、状態コマンド受信処理（図７１９のＦ２２０２参照）に代えて状態コマンド受信処理２４（図７７５のＦ２２７１参照）を、実行する点と、主制御装置１１０から停止種別コマンドを受信した場合に停止図柄種別設定処理２４（図７７６のＦ２２７２参照）を実行する点と、で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容については

、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【８０６７】
まず、図７７２を参照して、立ち上げ処理２４の処理内容について説明をする。図７７２は立ち上げ処理２４の処理内容を示したフローチャートである。図７７２に示した通り、立ち上げ処理２４は、上述した第２２制御例にて実行される立ち上げ処理（図７１６参照）に対して、ＲＡＭの初期値設定を実行するＦ２０１０の処理を実行する前に待機処理（Ｆ２０５１）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【８０６８】
ここで、立ち上げ処理２４（図７７２参照）にて実行される待機処理（Ｆ２０５１）の処理内容について、図７７３を参照して説明をする。図７７３は、待機処理（Ｆ２０５１）の処理内容を示したフローチャートである。この待機処理（Ｆ２０５１）では、設定変更操作が実行されている場合において、設定変更操作が完了するまでの間、音声ランプ制御装置１１３による立ち上げ処理２４の進行を待機させるための処理が実行される。
【８０６９】
待機処理（Ｆ２０５１）が実行されると、まず、変更中コマンドを受信したかを判別し（Ｆ２０７１）、受信したと判別した場合は（Ｆ２０７１：Ｙｅｓ）、設定変更中フラグ２２３ｘｂをオンに設定し（Ｆ２０７２）、次いで、変更完了コマンドを受信したかを判別する（Ｆ２０７３）。
【８０７０】
Ｆ２０７３の処理において、変更完了コマンドを受信したと判別した場合、即ち、設定変更操作が完了したことを示すコマンドを受信したと判別した場合は（Ｆ２０７３：Ｙｅｓ）、設定変更中フラグ２２３ｘｂをオフに設定し（Ｆ２０７４）、立ち上げ処理２４へ移行する。一方で、Ｆ２０７３の処理において変更完了コマンドを受信していないと判別した場合、即ち、設定変更操作が完了したことを示すコマンドを受信していない場合は（Ｆ２０７３：Ｎｏ）、変更完了コマンドを受信するまで、Ｆ２０７３の処理をループさせる。このように構成することで、設定変更操作中に音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理２４（図７７２参照）が終了してしまうことを抑制することができる。
【８０７１】
また、Ｆ２０７１の処理において、変更中コマンドを受信していないと判別した場合、即ち、設定変更操作が実行されていない場合は（Ｆ２０７１）、Ｆ２０７２～Ｆ２０７４の処理をスキップして、立ち上げ処理２４へ移行する。このように構成することで、パチンコ機１０の電源投入時に設定変更操作を実行していない場合は、無用に音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理を待機させることが無くなるため、パチンコ機１０の電源投入時に実行される各種処理（各制御装置における立ち上げ処理）を迅速に完了させ易くすることができる。
【８０７２】
次に、図７７４を参照して、本第２４制御例におけるコマンド判定処理２４（Ｆ２１７２）の処理内容について説明をする。図７７４は、コマンド判定処理２４（Ｆ２１７２）の処理内容を示したフローチャートである。図７７４に示した通り、コマンド判定処理２４（Ｆ２１７２）は、上述した第２２制御例におけるコマンド判定処理（図７１８のＦ２１１２参照）に対して、状態コマンドを受信した場合に実行される処理を、状態コマンド受信処理２２（図７１９のＦ２２０２参照）から状態コマンド受信処理２４（図７７５のＦ２２７１）に変更した点と、停止種別コマンドを受信した場合に、停止図柄種別決定処理２４（図７７６のＦ２２７２参照）を実行する点と、停止コマンドを受信した場合に実行される処理を、停止コマンド処理２２（図７２４のＦ２２１４参照）から停止コマンド処理２４（図７７７のＦ２２７３参照）に変更した点と、で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【８０７３】

次に、図７７５を参照して、状態コマンド受信処理２４（Ｆ２２７１）の処理内容について説明をする。図７７５は、状態コマンド受信処理２４（Ｆ２２７１）の処理内容を示したフローチャートである。この状態コマンド受信処理２４（Ｆ２２７１）は、上述した第２２制御例におけるコマンド判定処理（図７１８のＦ２１１２参照）に対して、設定値情報を受信したと判別した場合に実行される処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８０７４】

コマンド判定処理（図７１８のＦ２１１２参照）が実行されると、まず、設定値情報を受信したかを判別し（Ｆ２３７１）、設定値情報を受信したと判別した場合に（Ｆ２３７１：Ｙｅｓ）、受信したコマンドに含まれる設定値情報を設定値格納エリア２２３ｘａに格納し（Ｆ２３７２）、Ｆ２３０１の処理へ移行する。

【８０７５】

Ｆ２３７１の処理において、設定値情報を受信していないと判別した場合（Ｆ２３７１：Ｎｏ）、或いは、Ｆ２３７２の処理を終えると、上述した第２２制御例におけるコマンド判定処理（図７１８のＦ２１１２参照）と同一のＦ２３０１～Ｆ２３１２の処理を実行し、本処理を終了する。

【８０７６】

上述した通り、Ｆ２３７２の処理によって、設定値情報を設定値格納エリア２２３ｘａに格納することで、設定されている設定値を示唆するための設定示唆演出を設定する際に、現在設定されている設定値に基づく演出態様を確実に設定することができる。

【８０７７】

次に、図７７６を参照して、停止図柄種別設定処理２４（Ｆ２２７２）の処理内容について説明をする。図７７６は、停止図柄種別設定処理２４（Ｆ２２７２）の処理内容を示したフローチャートである。この停止図柄種別設定処理２４（Ｆ２２７２）では、主制御装置１１０から受信した停止種別コマンド（大当たり、リーチ外れ、バラケ目）に基づいて、今回停止表示させる第３図柄の種別を設定するための処理が実行される。

【８０７８】

停止図柄種別設定処理２４（Ｆ２２７２）が実行されると、まず、停止種別選択フラグをオンに設定し（Ｆ４００１）、今回の停止図柄種別が「大当たり」であるかを判別し（Ｆ４００２）、「大当たり」であると判別した場合は（Ｆ４００２：Ｙｅｓ）、ボイス固定フラグ２２３ｘｃをオンに設定する。つまり、大当たり当選時に付与される特典を設定する（Ｆ４００３）。

【８０７９】

次に、大当たり種別が「大当たりＡ」、即ち、遊技者に有利となる大当たりであるかを判別し（Ｆ４００４）、「大当たりＡ」であると判別した場合は（Ｆ４００４；Ｙｅｓ）、第３図柄の種別を決定する抽選によって、奇数の数字を示す数字アイコンが付された第３図柄（奇数当たり図柄）を決定し、決定した第３図柄種別に対応する停止種別を設定し（Ｆ４００５）、その後、Ｆ４０１０の処理へ移行する。

【８０８０】

一方、Ｆ４００４の処理において、大当たり種別が「大当たりＡ」では無いと判別した場合は（Ｆ４００４：Ｎｏ）、第３図柄の種別を決定する抽選によって、偶数の数字を示す数字アイコンが付された第３図柄（偶数当たり図柄）を決定し、決定した第３図柄種別に対応する停止種別を設定し（Ｆ４００５）、その後、Ｆ４０１０の処理へ移行する。

【８０８１】

また、Ｆ４００２の処理において、今回の停止図柄種別が「大当たり」では無いと判別した場合は（Ｆ４００２：Ｎｏ）、受信した停止種別が「リーチ外れ」であるかを判別し（Ｆ４００７）、「リーチ外れ」であると判別した場合は（Ｆ４００７：Ｙｅｓ）、第３図柄の種別を決定する抽選によって、リーチハズレに対応する停止種別を設定し（Ｆ４００８）、その後、Ｆ４０１０の処理へ移行する。Ｆ４００７の処理において「リーチ外れ」ではないと判別した場合は（Ｆ４００７：Ｎｏ）、変動種別に対応したはずれ図柄の停

止種別を設定し（Ｆ４００９）、Ｆ４０１０の処理へ移行する。
【８０８２】
つまり、本第２４制御例では、「大当たりＡ」に当選した場合のみ、奇数図柄が付された第３図柄が大当たり当選を示すための表示態様で停止表示されるように構成している。よって、第３図柄に付される複数の数字（数字アイコン）は、大当たり当選時における大当たり種別を示唆可能な識別情報となる。そして、偶数の数字が付された第３図柄よりも、奇数の数字が付された第３図柄の方が、遊技者に有利となる大当たり当選に対応づけられていることから、遊技者に有利な第３図柄となる。
【８０８３】
Ｆ４０１０の処理では、キャラ変更抽選が実行され（Ｆ４０１０）、次に、キャラ変更抽選に当選したかを判別し（Ｆ４０１１）、当選したと判別した場合は（Ｆ４０１１：Ｙｅｓ）、当選内容に対応させた特殊第３図柄の表示を決定し（Ｆ４０１２）、決定した内容に対応する表示用コマンドを設定し（Ｆ４０１３）、本処理を終了する。一方、Ｆ４０１１の処理において、当選していないと判別した場合は（Ｆ４０１１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【８０８４】
なお、本第２４制御例では、特殊第３図柄（基本第３図柄に対して、数字アイコンの種別と、キャラクタ種別とを異ならせて表示される第３図柄）の表示決定を、抽選によって実行するように構成しているが、これに限ること無く、遊技者が任意に選択可能に構成しても良い。この場合、特殊第３図柄の表示決定の有無を遊技者に選択可能に構成しても良いし、特殊第３図柄の組合せ（特定の数字アイコンに対して付されるキャラクタ種別の決定や、特定のキャラクタ種別に対して付される数字アイコン種別の決定）も遊技者が選択可能に構成しても良い。さらに、遊技者が特殊第３図柄の組合せを選択（決定）可能に構成する場合には、遊技者が選択（決定）した特殊第３図柄の表示態様を、変動表示される第３図柄とは別に表示可能に構成し、遊技者が任意に特殊第３図柄の表示態様を確認できるように構成すると良い。
【８０８５】
次に、図７７７を参照して、停止コマンド処理２４（Ｆ２２７３）の処理内容について説明をする。図７７７は、停止コマンド処理２４（Ｆ２２７３）の処理内容を示したフローチャートである。図７７７に示した通り、停止コマンド処理２４（Ｆ２２７３）は、上述した第２２制御例における停止コマンド処理２２（図７２４のＦ２２１４参照）に対して、ボイスデータの設定に関する処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【８０８６】
停止コマンド処理２４（Ｆ２２７３）が実行されると、まず、上述した第２２制御例の停止コマンド処理２２（図７２４のＦ２２１４参照）と同一のＦ２６５１～Ｆ２６５６の処理を実行する。そして、Ｆ２６５６の処理を終えると、ボイス固定フラグ２２３ｘｃがオンに設定されているかを判別し（Ｆ２６７１）、オンに設定されていないと判別した場合は（Ｆ２６７１：Ｎｏ）、ボイスコマンド選択テーブル２２２ｘａを参照してボイスコマンドを決定し（Ｆ２６７２）、決定したボイスコマンドを示すための音声用ボイスコマンドを設定し（Ｆ２６７３）、Ｆ２６７４の処理へ移行する。一方、Ｆ２６７１の処理において、ボイス固定フラグ２２３ｘｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｆ２６７１：Ｙｅｓ）、今回の停止表示に基づいて新たなボイスデータを決定する必要が無いため、Ｆ２６７２，Ｆ２６７３の処理をスキップしてＦ２６７４の処理へ移行する。
【８０８７】
Ｆ２６７４の処理では、今回停止表示される第３図柄が大当たり停止であるか（大当たり当選した特別図柄に対応する第３図柄停止であるか）を判別し（Ｆ２６７４）、大当たり当選であると判別した場合は（Ｆ２６７４：Ｙｅｓ）、ボイス固定フラグ２２３ｘｃをオンに設定し（Ｆ２６７５）、Ｆ２６５７の処理を実行し、本処理を終了する。Ｆ２６７４の処理において大当たり当選では無いと判別した場合は（Ｆ２６７４：Ｎｏ）、Ｆ２６

７５の処理をスキップしてＦ２６５７の処理を実行し、本処理を終了する。
【８０８８】
次に、図７７８を参照して、変動開始時保留演出実行処理２４（Ｆ３１７９）の処理内容について説明をする。図７７８は、変動開始時保留演出実行処理２４（Ｆ３１７９）の処理内容を示したフローチャートである。図７７８に示した通り、変動開始時保留演出実行処理２４（Ｆ３１７９）は、上述した第２２制御例における変動開始時保留演出実行処理２２（Ｆ３１０９）に対して、変動時間が１０秒未満であると判別した場合（Ｆ３２０３：Ｎｏ）において保留アクション決定処理（Ｆ３２７１）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【８０８９】
ここで、図７７９を参照して、保留アクション決定処理（Ｆ３２７１）の処理内容について説明をする。図７７９は、保留アクション決定処理（Ｆ３２７１）の処理内容を示したフローチャートである。この保留アクション決定処理（Ｆ３２７１）では、実行される特別図柄変動の変動時間が短く（１０秒未満）、保留図柄を同一の表示領域に維持させた状態で保留変化演出（第２２制御例参照）を実行することが困難な場合において、シフト時チャンス演出を設定するための処理が行われる。
【８０９０】
図７７９に示した通り、保留アクション決定処理（Ｆ３２７１）が実行されると、まず、保留アクション選択テーブル２２２ｘｂを参照して保留アクションを決定し（Ｆ４１０１）、決定した保留アクションに対応する演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｆ４１０２）、本処理を終了する。
【８０９１】
＜音声出力装置２２６における制御処理について＞
次に、図７８０から図７８２を参照して、本第２４制御例における音声出力装置２２６にて実行される制御処理の内容について説明をする。
【８０９２】
まず、図７８０（ａ）を参照して、音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１により実行されるメイン処理について説明する。図７８０（ａ）は、このメイン処理の内容を示したフローチャートである。
【８０９３】
この音声出力装置２２６のメイン処理が実行されると、まず、コマンド判定処理（Ｆ６００２）の中で合成音声データを所定期間（０．１秒間）サンプリングすることで得られた平均の振幅に基づいて生成される合成音声コマンドを音声ランプ制御装置１１３に対して送信するためのコマンド出力処理を実行する（Ｆ６００１）。次に、音声ランプ制御装置１１３や、ＡＤＣ３０９から受信したコマンドに応じた処理を行うコマンド判定処理を実行する（Ｆ６００２）。このコマンド判定処理（Ｆ６００２）の詳細については、図７８１を参照して後述する。Ｆ６００２の処理後、演出に応じた音声データ（音声ファイル）を再生する音声設定処理を実行する（Ｆ６００３）。この音声設定処理（Ｆ６００３）の詳細については、図７８２を参照して後述する。
【８０９４】
Ｆ６００３の処理が終わると、ワークＲＡＭ３０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（Ｆ６００４）。Ｆ６００４の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｆ６００４：Ｙｅｓ）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（Ｆ６００６）、電源断処理を実行する（Ｆ６００７）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（Ｆ６００８）、その後、処理を無限ループする。
【８０９５】
一方、Ｆ６００４の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｆ６００４：Ｎｏ）、ＲＡＭ３０３に記憶されるキーワードに基づき、ＲＡＭ３０３が破壊されているか否かが判別され（Ｆ６００５）、ＲＡＭ３０３が破壊されていなければ（Ｆ６００５：Ｎ

ｏ）、Ｆ６００１の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、ＲＡＭ３０３が破壊されていれば（Ｆ６００５：Ｙｅｓ）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。

【８０９６】

次に、図７８０（ｂ）を参照して、音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１により実行されるコマンド割込処理について説明する。図７８０（ｂ）は、このコマンド割込処理の内容を示したフローチャートである。

【８０９７】

このコマンド割込処理（図７８０（ｂ）参照）は、音声ランプ制御装置１１３からコマンドを受信する毎に実行する処理である。

【８０９８】

このコマンド割込処理では、受信したコマンドデータを抽出し、ＲＡＭ３０３に設けられたコマンドバッファ領域に、その抽出したコマンドデータを順次格納して（Ｆ６５０１）、終了する。このコマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納された各種コマンドは、後述するコマンド判定処理によって読み出され、そのコマンドに応じた処理が行われる。

【８０９９】

次に、図７８１を参照して、音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１により実行されるメイン処理（図７８０参照）内の一処理であるコマンド判定処理（Ｆ６００２）について説明する。図７８１は、このコマンド判定処理（Ｆ６００２）の内容を示したフローチャートである。

【８１００】

コマンド判定処理（Ｆ６００２）では、まず、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがあるか否かを判別し（Ｆ６１０１）、未処理の新規コマンドがなければ（Ｆ６１０１：Ｎｏ）、コマンド判定処理を終了してメイン処理に戻る。一方、未処理の新規コマンドがあれば（Ｆ６１０１：Ｙｅｓ）、オン状態で新規コマンドを処理したことを示す新規コマンドフラグをオンに設定し（Ｆ６１０２）、次いで、コマンドバッファ領域に格納されている未処理のコマンドすべてについて、そのコマンドの種別を解析する（Ｆ６１０３）。

【８１０１】

そして、未処理のコマンドの中に、まず、音声用変動パターンコマンドがあるか否かを判別する（Ｆ６１０４）。この音声用変動パターンコマンドは、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理２２（図７２７のＦ２１１３参照）の中で、変動パターンの詳細な表示態様を選択したタイミング（図７２７のＦ２９１０参照）で、あわせて、その表示態様に対応して再生すべき音声の種別および出力タイミングを通知するために設定される。

【８１０２】

Ｆ６１０４の処理において、未処理のコマンドの中に音声用変動パターンコマンドがあると判別されると（Ｆ６１０４：Ｙｅｓ）、通知された変動パターンコマンドの実行中に用いる楽曲、効果音を特定し（Ｆ６１０５）、特定した楽曲、効果音の出力チャンネル、出力タイミングを設定して（Ｆ６１０６）、Ｆ６１０１の処理へ戻る。

【８１０３】

Ｆ６１０４の処理において、音声用変動パターンコマンドがないと判別されると（Ｆ６１０４：Ｎｏ）、次いで、未処理のコマンドの中に、ボイスコマンド（音声用ボイスコマンド）があるか否かを判別する（Ｆ６１０７）。この音声用ボイスコマンドは、音声ランプ制御装置１１３の停止コマンド処理２４（図７７７参照）の中で、停止表示された第３図柄に付されているキャラクタ種別に基づくボイスデータを決定する処理（図７７７のＦ２６７２参照）に応じて生成され、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図７１７参照）のコマンド出力処理（Ｆ２１０２）によって音声出力装置２２６に対して出力される。

【８１０４】

Ｆ６１０７の処理において、未処理のコマンドの中に音声用ボイスコマンドがあると判別した場合は（Ｆ６１０７：Ｙｅｓ）、通知されたボイス種別に対応するボイスデータを特定（取得）し（Ｆ６１０８）、特定したボイスデータを選択中ボイス格納エリア３０３ｘｂに格納し（Ｆ６１０９）、今回受信した音声用ボイスコマンドに特殊特典を付与するための情報が含まれているかを判別する（Ｆ６１１０）。特殊特典ありと判別した場合は（Ｆ６１１０：Ｙｅｓ）、対応する特典音声を音声ファイル記憶エリア３０２ｘａから読み出し、特典音声の出力タイミングを設定し（Ｆ６１１１）、Ｓ６１０１の処理へ戻る。

【８１０５】

次に、図７８２を参照して、音声出力装置２２６のＭＰＵ３０１により実行されるメイン処理（図７８０参照）内の一処理である音声設定処理（Ｆ６００３）の詳細について説明する。図７８２は、この音声設定処理（Ｆ６００３）の内容を示したフローチャートである。

【８１０６】

音声設定処理（Ｆ６００３）では、まず、楽曲の出力（再生）タイミングであるか判別する（Ｆ６２０１）。Ｆ６２０１の処理において、楽曲の出力タイミングであると判別した場合は（Ｆ６２０１：Ｙｅｓ）、今回の楽曲に対応する音声ファイルを読み出し（Ｆ６２０２）、読み出した音声ファイルを、対応するチャンネルに出力し（Ｆ６２０３）、楽曲出力中フラグをオンに設定して（Ｆ６２０４）、Ｆ６２０５の処理へ移行する。なお、音声ファイルを出力するチャンネルは、ファイル毎に予め定められており、例えば、変動演出に用いる楽曲の音声ファイルは、チャンネル１に対して出力することが予め設定されている。

【８１０７】

一方、Ｆ６２０１の処理において、楽曲の出力タイミングでないと判別した場合は（Ｆ６２０１：Ｎｏ）、Ｆ６２０２からＦ６２０４の処理をスキップして、Ｆ６２０５の処理へ移行する。

【８１０８】

Ｆ６２０５の処理では、効果音の出力タイミングであるか否かを判別する（Ｆ６２０５）。効果音の出力タイミングでなければ（Ｆ６２０５：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、効果音の出力タイミングであれば（Ｆ６２０５：Ｙｅｓ）、今回の効果音に対応する音声ファイルを読み出し（Ｆ６２０６）、読み出した音声ファイルを対応するチャンネルに出力して（Ｆ６２０７）、特典音声の出力タイミングであるか判別する（Ｆ６２０８）。Ｆ６２０８の処理において、特典音声の出力タイミングでは無いと判別した場合は（Ｆ６２０８：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｆ６２０８の処理において、特典音声の出力タイミングであると判別した場合は（Ｆ６２０８：Ｙｅｓ）、今回の特典音声に対応する音声ファイルを読み出し（Ｆ６２０９）、読み出した音声ファイルを対応するチャンネルに出力し（Ｆ６２１０）、本処理を終了する。

【８１０９】

＜第２５制御例＞

次に、図７８３から図７９４を参照して、第２５制御例について説明をする。従来より、複数（３個）の第３図柄を特定の組合せ（同一図柄）で停止表示させることで大当たり当選したことを示す変動演出であって、複数の第３図柄の一部（例えば、３個の第３図柄のうち２個）が大当たり当選を示す特定の組合せの一部を示す態様で停止表示され、残りの第３図柄（例えば、３個の第３図柄のうち残りの１個）を変動表示されている状態（所謂、リーチ状態）にて、残りの第３図柄が何れの態様で停止表示されるかを遊技者に煽るための変動演出（リーチ変動演出）を実行するものが知られている。

【８１１０】

そして、リーチ変動演出として、停止表示され得る第３図柄の種別数を変動表示される第３図柄の種別数よりも限定した範囲で遊技者に対して報知し、その報知された第３図柄種別の中から１の第３図柄を停止表示させるリーチ変動演出を実行するものがある。

【８１１１】

このように構成することで、リーチ変動演出中において変動表示されている第３図柄（最終停止図柄）が停止表示されるよりも前に、停止表示される第３図柄の種別を遊技者に予測させ易くすることができるため、例えば、報知された内容が、大当たり当選したことを示す組合せで最終停止図柄が停止表示される可能性が高いことを示すものであった場合（最終停止図柄として停止表示され得る第３図柄の種別として報知された第３図柄種別のうち、大当たり当選を示す第３図柄種別の占有率が高い場合）には、大当たり当選への期待感を高めながら遊技者にリーチ変動演出を注視させることができ、演出効果を高めることができるものであった。

【８１１２】

加えて、リーチ変動演出中に停止表示され得る第３図柄の種別数を変動表示される第３図柄の種別が同一の態様が複数報知されるように構成しているものも知られている。具体的には、例えば、「１１１」の組合せで第３図柄が停止表示した場合に大当たり当選を示すものであって、２個の第３図柄が「１１」で停止表示されている状態で残り１個の第３図柄（最終停止図柄）が変動表示されているリーチ状態において、最終停止図柄の停止表示態様候補として、大当たり当選を示す「１」が２個、外れ当選を示す「２」が３個の計５個の候補を最終停止図柄が停止表示されるよりも前に報知可能なものが知られている。

【８１１３】

このように構成することで、最終停止図柄の停止表示態様候補全体に対して、当たり当選を示す停止表示態様が占める割合を容易に異ならせることができるため、実行中の変動演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果であるか、外れ当選を示す演出結果であるかを遊技者に対して事前に予測させ易くすることができるものであった。

【８１１４】

しかしながら、上述したリーチ変動演出では、演出結果が大当たり当選を示す演出結果となる場合には、事前に報知される最終停止図柄の停止表示態様として、大当たり当選を示す停止表示態様が占める割合を高くすることで、遊技者の大当たり当選への期待度を徐々に高める演出を提供することができる一方で、演出結果が大当たり当選では無い場合には、事前に報知される最終停止図柄の停止表示態様として、大当たり当選を示す停止表示態様が占める割合が低くなってしまい、リーチ変動演出の演出結果が停止表示（最終停止図柄が停止表示）されるよりも前に遊技者の遊技意欲を低下させてしまうという問題があった。

【８１１５】

これに対して、本第２５制御例では、特定のリーチ状態において、最終停止図柄の停止表示態様候補を報知した後に、リーチ状態として表示されている第３図柄の種別を可変可能に構成している。具体的には、「２２」のリーチ状態中に報知される最終停止図柄の停止表示態様候補として「１，１，１，２，２」が報知された後に、リーチ状態の態様を「２２」から「１１」へと切り替え可能に構成している。

【８１１６】

つまり、特定のリーチ状態では外れ当選を示す最終停止図柄の停止表示態様が、当たり当選を示す最終停止図柄の停止表示態様となるようにリーチ状態中の第３図柄種別を異ならせるように構成している。

【８１１７】

このように構成することで、最終停止図柄の停止表示態様候補が報知された時点で当たり当選を示す停止表示態様が占める割合が低い場合であっても、リーチ状態の第３図柄種別が切り替わり、当たり当選を示す停止表示態様が占める割合が増加する可能性を残すことが可能となるため、遊技者に対して最後まで飽きること無くリーチ変動演出を実行させることができる。

【８１１８】

さらに、本第２５制御例では、特定のリーチ状態において、最終停止図柄の停止表示態様候補を報知した後に、リーチ状態として表示されている第３図柄の種別を増加可能に構成している。具体的には、「２２」のリーチ状態中に報知される最終停止図柄の停止表示

態様候補として「１，１，１，２，３」が報知された後に、リーチ状態の態様を「２２」（シングルリーチ）から「１１」と「２２」（ダブルリーチ）へと切り替え可能に構成している。

【８１１９】

このように構成することで、最終停止図柄の停止表示態様候補が報知された時点で当たり当選を示す停止表示態様が占める割合が低い場合であっても、リーチ状態となる第３図柄種別数を増加させ、当たり当選を示す停止表示態様が占める割合が増加する可能性を残すことが可能となるため、遊技者に対して最後まで飽きること無くリーチ変動演出を実行させることができる。

【８１２０】

従来より、特別図柄抽選の抽選結果を示すための識別情報（特別図柄）が変動表示されている期間中に、液晶ディスプレイで構成された表示画面（第３図柄表示装置）にて、特別図柄に対応させた第３図柄を変動表示させる変動演出を実行するパチンコ機１０がある。この従来型のパチンコ機１０では、実行される変動演出の内容によって特別図柄抽選の結果が遊技者に有利な抽選結果（大当たり当選）であるか、遊技者に不利な抽選結果（外れ当選）であるかを、抽選結果が報知されるよりも前に遊技者に予測させるものが一般的であり、対応する特別図柄抽選の結果に基づいて異なる演出態様の変動演出を実行可能にすることで、大当たり当選している場合の方が、大当たり当選していない場合（外れ当選している場合）よりも実行され易い変動演出（有利変動演出）と、大当たり当選している場合よりも、大当たり当選していない場合（外れ当選している場合）の方が実行され易い変動演出（不利変動演出）と、を実行可能にするものが知られている。

【８１２１】

さらに、パチンコ機１０では、大当たり当選した場合において、遊技者に有利な特典が付与される遊技特性上、特別図柄抽選において大当たり当選する確率が、外れ当選する確率よりも低く設定されていることが一般的であり、特別図柄抽選の結果が外れ当選となる遊技を遊技者が長時間継続して実行した場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制するために、不利変動演出の演出態様として多種多様な演出態様を設定可能に構成し、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制しているものがある。

【８１２２】

このように構成された、従来型のパチンコ機１０によれば、変動演出の演出態様としてより多くの演出態様を決定可能に構成するほど、遊技者が遊技に飽き難くすることができるが、設定される演出態様が増加する分、変動演出を実行するために必要となる表示データの容量が増加してしまい、製造コストが増加してしまうという問題があった。

【８１２３】

これに対して、本第２５制御例では、変動演出の演出態様として設定される表示データを変えること無く、表示領域の縮尺を可変させることで遊技者に対して異なる変動演出を提供可能に構成している。具体的には、表示制御装置１１４に対して、表示領域の縮尺を変更させるための縮尺コマンドを送信することで、第３図柄表示装置８１の表示画面に全体に表示されていた表示画像が縮小され、表示画面の一部領域に表示されたり、第３図柄表示装置８１の表示画面の一部領域に表示されていた表示画像が表示画面全体を占めるように拡大表示されたりすることができるように構成している。また、表示画像の縮尺を変更するだけで無く、表示画像にひねりを加えたり、奥行き方向への立体バランスを可変させたりすることができるように構成している。

【８１２４】

このように構成することで、変動演出の表示データを増加させること無く、遊技者に対して多くの表示態様で変動演出を体験させることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことの無いパチンコ機１０を提供することができる。

【８１２５】

加えて、本第２５制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示画像を形成するために複数の画層（レイヤ）を有しており、上述した表示領域の縮尺設定を、各

画層に対して設定可能に構成している。このように構成することで、例えば、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各種画像のうち、実行中の変動演出に対応する表示画像が表示される画層と、遊技に関する情報（例えば、保留図柄数を示す保留情報や、時短回数を示す時短情報等）に対応する表示画像が表示される画層と、を異ならせて形成し、変動演出に対応する表示画像が表示される画層のみに対して、縮尺設定を実行することができる。よって、表示画像の縮尺を異ならせることで遊技者に対して斬新な演出を提供しながらも、遊技者に報知すべき情報（遊技情報）に対応する表示画像（例えば、時短回数表示や、保留図柄表示）を縮尺させること無く継続して表示させることができるため、遊技者に多彩な演出を提供しながらも、遊技に関する情報を分かり易く報知することができる。

【８１２６】

さらに、本第２５制御例におけるパチンコ機１０では、変動演出に対応する画層（変動表示用画層）として、複数の画層を有しており、例えば、少なくとも第３図柄が変動表示される主画層と、その主画層よりも背面側に形成され、変動演出の背景画像が表示される副画層と、を有している。そして、主画層が正常の尺度で縮尺設定されている場合は、副画層に表示される表示態様を遊技者が視認し難くなるように構成している。

【８１２７】

そして、主画層に対して表示領域を縮小させるための縮尺設定が実行された場合には、第３図柄表示装置８１の表示面である表示領域よりも小さい領域で、主画層に表示される表示画像が表示されるため、第３図柄表示装置８１の表示面である表示領域のうち、縮小された主画層に表示される表示画像が表示されていない領域（空き表示領域）から、副画層に表示されている表示画像を遊技者が視認可能となるように構成している。

【８１２８】

このように構成することで、表示画像を単に縮尺するだけで無く、新たな表示態様（副画層に表示されている表示態様）を、遊技者に視認させることができるため、より演出効果を高めることができる。

【８１２９】

また、本第２５制御例におけるパチンコ機１０では、実行されている変動演出に対して、様々なタイミングで表示画像の尺度を変更するための縮尺設定を実行可能に構成している。このように構成することで、どのタイミングで、表示画像を縮尺させる縮尺演出が実行されるかを遊技者に把握させ難くすることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【８１３０】

さらに、本第２５制御例では、実行中の変動演出が大当たり当選している場合の方が、大当たり当選していない場合よりも、上述した縮尺演出が実行され易くなるように構成している。このように構成することで、縮尺演出が実行されることを遊技者に期待させながら遊技を行わせることができる。

【８１３１】

なお、この場合、縮尺演出が実行される場合において、表示領域が縮小される画層（主画層）よりも背面側に形成される画層（副画層）のうち、縮小された主画層と重複しない表示領域、即ち、主画層の表示領域が縮小された場合に遊技者が視認することができる表示領域に、縮尺演出が実行されていることを遊技者に報知するための表示態様（例えば、「縮尺演出実行中」の表示）や、大当たり当選している期待度が高いことを示すための表示態様（例えば、「チャンス」の表示）が表示されるように、副画層に対して表示態様を予め設定しておくように構成すると良い。

【８１３２】

このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている表示画像の尺度を異ならせる演出（縮尺演出）が実行された場合に、パチンコ機１０が故障したと遊技者に思われることを抑制することができる。また、縮尺演出が実行された場合に、視認可能となる情報として、遊技者に有利となる情報を遊技者に提供することができるため

、縮尺演出が実行されることを遊技者により期待させながら遊技を行わせることができる。

【８１３３】

ここで、本第２５制御例のように、第３図柄表示装置８１の表示面に表示させる表示画像を構成する表示データを変更すること無く、表示画像が表示される表示領域を縮尺する設定を実行可能に構成した場合、設定された尺度に対応して表示画像に表示される表示態様（例えば、第３図柄を示す数字アイコン）の尺度も変更されるため、縮尺前と、縮尺後で縦横比を異ならせた場合には、表示される表示態様の縦横比も変更することになる。この場合、大当たり当選の有無を遊技者に示唆するための変動演出として数字アイコン（第３図柄）が表示されている最中に縮尺演出が実行された場合には、第３図柄として表示されている数字が変形し、遊技者が誤認してしまうという問題があった。

【８１３４】

また、複数の第３図柄がリーチ状態で停止表示され、残りの第３図柄が変動表示している状態のうち、残りの第３図柄（変動表示している第３図柄）がコマ送り（リーチ成立ライン上で各第３図柄が仮停止しながら変動する態様）で変動表示している状態において縮尺演出が実行された場合に、リーチ成立ライン上に仮停止している第３図柄の種別（数字の種類）を遊技者が誤認してしまうという問題があった。

【８１３５】

加えて、変動演出として、変動演出期間中に第３図柄を外れを示す組合せで仮停止させ、その後、第３図柄を再度変動表示させることで大当たり期待度の高い演出（発展演出）を実行させる変動演出を実行可能なパチンコ機１０において、第３図柄が仮停止している状態で縮尺演出を実行された場合には、仮停止している第３図柄が変形することで、遊技者が第３図柄の種別（数字の種類）を誤認してしまうという問題があった。

【８１３６】

上述したように、遊技者が第３図柄の種別（数字の種類）を誤認する事態が発生した場合には、外れを示す第３図柄の組合せが表示されている場合であっても、あたかも第３図柄が大当たり当選を示す組合せで表示されていると誤認してしまい、大当たり遊技が実行されないことに対して不信感を与えてしまうという問題が発生する虞があった。

【８１３７】

具体的には、数字の「９」に対応する第３図柄がリーチ状態となり、残りの第３図柄がリーチ成立ライン上に「８」を仮停止している状態で縮尺演出が実行された場合に、変形した「９」の表示態様と、「８」の表示態様が判別し難くなり、同一種別の第３図柄が成立ライン上に停止表示されている（大当たり当選を示す組み合わせで第３図柄が停止表示されている）と遊技者に誤認を与えてしまうという問題が発生する虞があった。

【８１３８】

このような問題に対して、本第２５制御例では、全ての第３図柄が成立ライン上に停止表示（仮停止表示含む）されている状態、或いは、全ての第３図柄が成立ライン上に停止表示（仮停止表示含む）される直前の状態にて縮尺演出が実行される場合には、少なくとも最後に停止表示される第３図柄（最終第３図柄）を遊技者が視認困難となる表示制御を実行可能に構成している。

【８１３９】

具体的には、第３図柄が表示される主画層（レイヤ）の前面側に、常に透過率１００％の予備画層を設けておき、縮尺演出が実行される場合において、主画層と予備画層とに対して同一の縮尺設定を実行可能に構成している。そして、縮尺演出が実行される場合において主画層にて実行されている変動演出の演出パターンを判別し、実行されている変動演出の演出パターンが、上述した問題が発生し得る演出パターンであると判別した場合には、予備画層の表示領域のうち、主画層における最終第３図柄の表示領域と重複する表示領域の超過率を低下させ、最終第３図柄を遊技者が視認困難となるように構成している。

【８１４０】

このように構成することで、縮尺演出が実行された状態で最終第３図柄の表示態様を遊

技者が視認し難くなるため、成立ライン上に停止表示（仮停止表示含む）されている第３図柄の組合せを遊技者が誤認してしまうという問題が発生してしまうことを抑制することができる。

【８１４１】

このように、主画層と予備画層とに対して同一の尺度で表示領域を縮尺させるように構成することで、どのような尺度で縮尺演出が実行されたとしても、予備画層に表示される表示態様を用いて、主画層の任意の箇所を非表示（視認し難い状態）にすることができる。

【８１４２】

さらに、本第２５制御例では、予備画層の表示領域のうち、少なくとも主画層における最終第３図柄の表示領域と重複する表示領域に、大当たり当選の期待度が高いことを遊技者に示すための表示態様（例えば、「チャンス」の文字）が表示される表示制御を予め実行しておき、縮尺演出が実行されることに基づいて予備画層の一部領域の透過率を低下させた場合に、予備画層に表示されている大当たり当選の期待度が高いことを遊技者に示すための表示態様（例えば、「チャンス」の文字）が遊技者に視認可能な態様で表示されるように構成している。

【８１４３】

＜第２５制御例における演出内容について＞

次に、図７８３から図７８７を参照して、本第２５制御例のパチンコ機１０にて実行される特徴的な演出の内容について説明をする。本第２５制御例では、リーチ状態が表示された後に、最終的に停止表示される第３図柄（最終停止第３図柄）の種別を示唆するための図柄アイコンを複数表示し、その表示された複数の図柄アイコンのうち、何れか１つの図柄アイコンに対応する第３図柄を最終的に停止表示させる図柄ストックリーチ演出を実行可能に構成している。

【８１４４】

このように構成することで、リーチ状態が成立した後に、最終停止第３図柄として停止表示され得る候補を遊技者に報知することができるため、今回の変動演出の演出結果を遊技者に予測させ易くすることができる。

【８１４５】

ここで、図７８３から図７８４を参照して、図柄ストックリーチ演出の演出内容について説明をする。図７８３（ａ）は、図柄ストックリーチ演出が開始された直後に表示される表示画面の一例を示した図であって、図７８３（ｂ）は、図柄ストックリーチ演出にて複数の図柄アイコンをストックした時点において表示される表示画面の一例を示した図であって、図７８４（ａ）は、ストックされた複数の図柄アイコンが、一旦、表示画面上から非表示となる場合の表示画面の一例を示した図であって、図７８４（ｂ）は、図柄ストックリーチ演出の演出結果を示した表示画面の一例を示した図である。

【８１４６】

図７８３（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの上方に、現在がリーチ状態あることを示すための表示態様「２↓２」の表示態様で第３図柄が変動表示し、リーチ状態を示す表示態様で表示されている第３図柄の近傍に形成された表示領域ＨＲ３に、リーチ状態であることを示すための案内態様である「リーチ」の文字が表示されている状態で、図柄ストックリーチ演出が開始されると、副表示領域Ｄｓには、図柄ストックリーチ演出の演出内容を案内するための案内態様として「図柄をストックしろ」のコメントが表示されると共に、主表示領域Ｄｍの下方にて、キャラクタ８０１が図柄アイコンを貯める演出が実行される。

【８１４７】

図７８３（ａ）に示した例では、既に１個の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ）を獲得している（貯めている）状態を示している。図柄アイコンには、対応する第３図柄の種別を遊技者が認識可能な表示態様が付されており、図７８３（ａ）に示した第１図柄アイコン８０２ａは、「１」の第３図柄に対応していることを示すための表示態様「１

」が付されている。本第２５制御例では、最終停止第３図柄の表示態様を示唆するための表示態様として、図柄アイコンを表示可能に構成しており、図柄アイコンの表示態様は、対応する第３図柄の種別を遊技者に把握させることが可能であり、且つ、図柄アイコンが第３図柄では無いことを遊技者に把握させることが可能となる表示態様で形成される。

【８１４８】

具体的には、図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ）は、丸いボーールを模した球体の中に対応する第３図柄の種別（数字）を示すマークを付した表示態様で形成されている。このように構成することで、第３図柄がリーチ状態中に図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ）が表示された場合に、図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ）事態が最終停止第３図柄であると遊技者に誤解を与えてしまうことを抑制することができる。

【８１４９】

また、図７８３（ａ）に示した通り、第３図柄の変動表示領域とは大きく異なる箇所に図柄アイコンを表示するように構成している。このように構成することで、変動演出が実行されている際中に、図柄アイコンが１つ（例えば、第１図柄アイコン８０２ａ）表示された場合において、リーチ状態である第３図柄（２個）と、図柄アイコン（１個）を組み合わせて大当たり当選を示す組合せで第３図柄が停止表示されたと遊技者に誤解を与えてしまうことを抑制することができる。

【８１５０】

次に、図柄ストックリーチ演出において、複数の図柄アイコンを獲得（ストック）すると、図７８３（ｂ）に示した通り、複数の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ～第４図柄アイコン８０２ｄ）が表示される。本第２５制御例では、図柄アイコンの最大ストック数が４個であるため、図７８３（ｂ）に示した状態が図柄アイコンを最大数ストックした状態となる。よって、副表示領域Ｄｓには、最大数の図柄アイコンを獲得（ストック）したことを案内するための案内態様として「ストック完了」のコメントが表示される。

【８１５１】

このように構成することで、図柄ストックリーチ演出中において、ストックした図柄アイコンの数が最大数であるか否かを遊技者に分かり易く報知することができるため、図柄アイコンのストック数がこれ以上増えることの無い状態においても、更に図柄アイコンがストックされることを無用に期待してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８１５２】

また、第１図柄アイコン８０２ａと第２図柄アイコン８０２ｂとの間にキャラクタ８０１を位置させることにより、３つの図柄アイコンが横並びに表示されることが無いように構成している。このように構成することで、同一の第３図柄種別（例えば「１」）に対応する図柄アイコンが他の表示態様を挟むこと無く横並びに表示されてしまい、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示していると遊技者に誤解を与えてしまうことを抑制することができる。

【８１５３】

なお、図７８３（ｂ）に示した例では、４個の図柄アイコンが直線上に表示されているため、例えば、キャラクタ８０１の右側に表示されている第１図柄アイコン８０２ａと、第４図柄アイコン８０２ｄと、が同一の第３図柄種別を示すための表示態様で表示されている合には、第１図柄アイコン８０２ａと、第４図柄アイコン８０２ｄとで、新たなリーチ成立ラインが成立したのではと遊技者に誤解を与えてしまうという問題があった。

【８１５４】

そこで、図７８３（ｂ）に示したように、複数の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ～第４図柄アイコン８０２ｄ）が表示された場合には、各図柄アイコンが直線上に位置しないように、各図柄アイコンの表示位置を決定すると良い。このように構成することで、表示画面上に複数の図柄アイコンが表示されたとしても、新たなリーチ成立ラインが成立したと遊技者に誤解を与え難くすることができる。また、これ以外にも、各図柄アイコンの表示態様を異ならせたり、大きさを異ならせたりするように構成しても良い。この

ような構成を用いた場合であっても、新たなリーチ成立ラインが成立したと遊技者に誤解を与え難くすることができる。

【８１５５】

その後、図柄ストックリーチ演出にてストック（獲得）を上限数獲得した場合には、図７８４（ａ）に示した通り、獲得した図柄アイコンが上昇し、一旦表示領域から外れる演出が実行される。そして、その後、獲得した図柄アイコンを再度表示画面上に表示させるアクションをキャラクタ８０１が実行すると共に、ストックされた図柄アイコンの何れかに対応する第３図柄が最終停止第３図柄として停止表示される。

【８１５６】

ここで、上述した図柄ストックリーチ演出では、演出結果が大当たり当選を示す演出結果となる場合には、事前に表示される図柄アイコンの種別として、大当たり当選を示す第３図柄に対応する図柄アイコンが占める割合を高くすることで、遊技者の大当たり当選への期待度を徐々に高める演出を提供することができる一方で、演出結果が大当たり当選では無い場合には、事前に表示される図柄アイコンの種別として、大当たり当選を示す第３図柄に対応する図柄アイコンが占める割合が低くなってしまい、図柄ストックリーチ演出の演出結果が停止表示（最終停止第３図柄が停止表示）されるよりも前に遊技者の遊技意欲を低下させてしまうという問題があった。

【８１５７】

これに対して、本第２５制御例では、ストックされた図柄アイコンを用いて、リーチ状態が成立している第３図柄の種別も変更可能に構成している。この場合、図７８４（ｂ）にでは、図７８４（ａ）に示した状態では、「２↓２」のリーチ状態が表示されていたが、図柄アイコンによって、「１↓１」のリーチ状態へと切り替わり、最終停止第３図柄として「１」が停止表示され、遊技者に対して大当たり当選したことを示すための組合せで第３図柄を停止表示している。

【８１５８】

つまり、図柄ストックリーチ演出の前半期間においては、外れ当選を示す最終停止第３図柄に対応する図柄アイコンが、当たり当選を示す最終停止第３図柄に対応する図柄アイコンへと切り替わるように構成している。

【８１５９】

このように構成することで、図柄ストックリーチ演出にて図柄アイコンが全て表示された時点で当たり当選を示す図柄アイコンが占める割合が低い場合であっても、リーチ状態の第３図柄種別が切り替わり、当たり当選を示す図柄アイコンが占める割合が増加する可能性を残すことが可能となるため、遊技者に対して最後まで飽きること無く図柄ストックリーチ演出を実行させることができる。

【８１６０】

なお、図示は省略しているが、本第２５制御例では、図柄ストックリーチ演出として、図柄アイコンを全て表示した後に、リーチ状態として表示されている第３図柄の種別を増加させる演出態様を設定可能に構成している。具体的には、図７８４（ａ）に示した「２↓２」のリーチ状態から、図柄アイコンを用いて、リーチ状態の態様を「１１」と「２２」（ダブルリーチ）へと切り替え可能に構成している。

【８１６１】

このように構成することで、最終停止第３図柄の停止表示態様候補である図柄アイコンが全て表示された時点で当たり当選を示す図柄アイコンが占める割合が低い場合であっても、リーチ状態となる第３図柄種別数を増加させることで、当たり当選を示す図柄アイコンが占める割合を増加させる可能性を残すことが可能となるため、遊技者に対して最後まで飽きること無く図柄ストックリーチ演出を実行させることができる。

【８１６２】

次に、図７８５、及び、図７８６を参照して、本第２５制御例における画面プレス演出の演出内容について説明をする。本第２５制御例では、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される表示画像を作成した後、その表示画像を加工する加工処理を実行可能に構成

している。そして、その加工処理を、表示画像全体では無く、表示画像に表示される各種スプライトを、複数の画層単位に区分けし、各画層に対応させて加工処理を実行可能に構成している。

【８１６３】

具体的には、図７８５（ａ）に示した通り、表示画像を形成する画層として、後面側から副画層ｆｒ、主画層ｓｒ、予備画層ｙｒ、本画層ｈｒを少なくとも設けている。通常第３図柄表示装置８１に表示され、遊技者が視認可能となる表示画像は、第３図柄の変動演出等の主演出が表示される主画層ｓｒと、遊技結果に関わる第４図柄が表示される本画層ｈｒとに生成される表示画像によって形成される。

【８１６４】

副画層ｆｒは、常に、主画層ｓｒに表示される表示画像によって、遊技者からは視認困難となるように構成されており、例えば、主画層ｓｒに対して表示領域を縮小させる加工処理が施された場合にのみ、遊技者に視認可能となる。また、予備画層ｙｒは、通常時は透過率１００％が設定されており、予備画層ｙｒに表示されている表示画像を遊技者が視認できないように構成している。この予備画層ｙｒは、主画層ｓｒとセットで加工処理が実行されるように規定されている。

【８１６５】

つまり、主画層ｓｒに対して縮小率Ａ％の加工処理を実行した場合には、予備画層ｙｒに対しても縮小率Ａ％の加工処理が実行されるように構成している。よって、主画層ｓｒに表示される表示画像と、予備画層ｙｒに表示される表示画像とは、加工処理の処理内容に関わらず、常に表示位置が同期するように構成している。そして、予備画層ｙｒに対しては、加工処理として透過率を可変させる加工処理が実行されるように構成している。このように構成することで、例えば、縦横比を異ならせるための加工処理を、主画層ｓｒに対して実行した場合に、主画層ｓｒに表示される第３図柄の表示態様が変形し、遊技者が停止表示されている第３図柄の種別を誤認してしまう虞がある場合には、予備画層ｙｒの透過率を下げる（０％）にすることで、変形した第３図柄を隠すことが可能となる。

【８１６６】

次に、図７８５（ｂ）を参照して、予備画層ｙｒの表示画像について説明をする。図７８５（ｂ）に示した通り、予備画層ｙｒは、主画層ｓｒに表示される第３図柄の表示領域（少なくとも第３図柄のうち、最終停止される第３図柄が表示される表示領域）と表示位置が重複する領域に目隠し用の表示画像が表示される画層である。本第２５制御例では、予備画層ｙｒに対して、常に表示処理が実行され、透過率１００％が設定されている。そして、大当たり当選期待度が高い変動演出として、主画層ｓｒの縦横比が変形する画面プレス演出が実行された場合に、透過率を１００％から０％へと可変させる加工処理が施される。よって、図７８５（ｂ）に示した通り、目隠し用の表示画像として、遊技者に対して大当たり当選の期待度が高いことを示すための表示態様として「チャンス」の文字を付した表示画像が表示されている。

【８１６７】

次に、主画層ｓｒには、上述した各制御例にて実行される様々な変動演出に対応する表示画像が表示される（図７８５（ｃ）参照）。そして、副画層ｆｒには、図７８５（ｂ）に示した通り、大当たり当選期待度が高い変動演出として、主画層ｓｒの縦横比が変形する画面プレス演出が実行された場合に対応する表示画像が常に表示されている。なお、図示は省略しているが、本画層ｈｒには、遊技結果に関わる遊技情報（特別図柄抽選の結果を示す情報や、エラー表示）が表示される。この本画層ｈｒが、表示画像に対する加工処理が一切施されることの無い画層である。このように構成することで、表示画像の尺度を変更させる加工処理を実行した場合であっても、遊技に関わる重要な情報を常に同一態様で報知することができる。

【８１６８】

ここで、図７８６を参照して、画面プレス演出の内容について説明をする。図７８６（ａ）は、画面プレス演出が開始される直前における通常表示画面を示した図であって、図

７８６（ｂ）は、画面プレス演出中の表示画面の一例を示した図である。図７８６（ａ）に示した図は、何れの画層に対しても加工処理が実行されていない状態である。よって、副画層ｆｒの表示画像を視認することができず、且つ、予備画層ｙｒの表示画像も視認できない状態である。なお、この状態であっても、副画層ｆｒ、予備画層ｙｒに対しては表示処理が実行されている。

【８１６９】

そして、画面プレス演出が実行されると、主画層ｓｒ、及び、予備画層ｙｒに対して、尺度Ａ（通常縦横比が１：２に対して、１：８とする尺度）の加工処理が施され、主画層ｓｒの表示領域（表示画像）が通常時に対して、上下方向につぶれた変動演出が実行される。この場合、主画層ｓｒに表示されている第３図柄「９」や「８」が見た目上、「０」に近い表示態様となるため、図７８６（ａ）に示した第３図柄の表示態様のまま、プレス演出が実行されてしまうと、「０」が付された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示したと誤解してしまう虞がある。よって、図７８６（ｂ）に示した通り、主画層ｓｒ、及び、予備画層ｙｒに対して、尺度Ａ（通常縦横比が１：２に対して、１：８とする尺度）の加工処理には、予備画層ｙｒの透過率を０％にする加工情報が含まれており、中図柄「８」に対応する位置に予備画層ｙｒの表示画像が表示される。これにより、「０」が付された第３図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示したと遊技者が誤認してしまうことを抑制している。

【８１７０】

さらに、予備画層ｙｒの表示画像として「チャンス」の文字が付された表示画像を遊技者に視認させるようにしているため、単に第３図柄を目隠しするだけでなく、大当たり当選の期待度が高いことを示すための表示態様としても用いることができる。

【８１７１】

そして、主画層ｓｒに対して加工処理が施されことにより生じた空き表示領域には、副画層ｆｒの表示画像が遊技者に視認可能な状態で表示される。副画層ｆｒには、主画層ｓｒが潰されたことに対する演出効果を高めるための表示画像（矢印）が表示されている。また、「画面プレス演出発生」の文字が表示されている。このように構成することで、主画層ｓｒの表示領域が急に変形した場合において、パチンコ機１０が故障したと遊技者が誤解してしまうことを抑制することができる。

【８１７２】

＜第２５制御例における音声ランプ制御装置１１３の電気的構成について＞

次に、図７８７を参照して、本第２５制御例の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図７８７は、本第２５制御例の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図７８７に示した通り、本第２５制御例の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２は、上述した第２２制御例の音声ランプ制御装置１１３が有するＲＯＭ２２２（図６９３（ａ）参照）に対して、図柄ストックリーチ選択テーブル２２２ｙａを追加している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８１７３】

図柄ストックリーチ選択テーブル２２２ｙａは、図柄ストックリーチ演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、遊技状態として通常状態が設定されている場合における特別図柄変動に対応する変動演出を設定するための通常状態演出態様決定処理２５（図７９１のＦ３０９８参照）において、変動演出種別が図柄ストックリーチであると判別された場合（図７９１のＦ３１９１：Ｙｅｓ）に、参照される。

【８１７４】

ここで、図７８８を参照して、図柄ストックリーチ選択テーブル２２２ｙａの内容について説明をする。図７８８は、図柄ストックリーチ選択テーブル２２２ｙａに規定されている内容を示した図である。図７８８に示した通り、当否判定結果や、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値に応じて、異なる演出パターンが規定されている。ここで、本第２５制御例では、奇数図柄の方が、偶数図柄よりも遊技者に有利な大当たりに当選してい

ることを報知し易く構成している。よって、図柄ストックリーチの演出態様として、奇数図柄「１．１」のリーチ状態から「２．２」のリーチ状態へと切り替わることが無いように各演出パターンを規定している。このように構成することで、変動演出が進行する過程で遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８１７５】

＜第２５制御例における表示制御装置１１４の電気的構成について＞

次に、図７８９を参照して、本第２５制御例における表示制御装置１１４の電気的構成について説明をする。本第２５制御例における表示制御装置１１４は、上述した第１制御例における表示制御装置１１４に対して、キャラクタＲＯＭ２３４が有するＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに画像加工データ記憶エリア２３４ａ３を設けた点と、ワークＲＡＭ２３３に加工情報格納エリア２３３ａａを設けた点と、で相違している。

【８１７６】

画像加工データ記憶エリア２３４ａ３は、描画リストに基づいて第１フレームバッファ２３６ｂ、或いは第２フレームバッファ２３６ｃに格納された描画情報に基づいて表示処理される表示画像、即ち、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示画像全体に対して、その表示画像の尺度や傾きを変更するための加工情報（画像加工データ）が記憶されている記憶領域である。

【８１７７】

本第２５制御例では、表示制御装置１１４が有する画像コントローラ２３７によって生成される表示画像に対して、画像加工データ記憶エリア２３４ａ３から読み出した加工情報に基づく加工処理を実行可能に構成している。このように構成することで、同一の描画処理によって生成された表示画像の見た目を容易に異ならせることが可能となる。よって、描画処理の処理負荷を増加させること無く、表示態様を異ならせた表示画像を第３図柄表示装置８１の表示面に表示させることができる。

【８１７８】

加工情報格納エリア２３３ａａは、画像加工データ記憶エリア２３４ａ３から読み出された加工情報を一時的に記憶するための記憶領域である。表示制御装置１１４が表示処理を実行する場合には、第１フレームバッファ２３６ｂ、或いは第２フレームバッファ２３６ｃの何れかに対して、描画リストに基づいて描画情報を格納する処理と並行して、他方のフレームバッファに既に格納されている描画情報と、加工情報格納エリア２３３ａａに格納されている加工データとに基づいた表示処理が実行される。

【８１７９】

次に、図７９０を参照して、本第２５制御例における表示制御装置１１４にて生成される描画リストの内容について説明をする。図７９０は、本第２５制御例における描画リストを模式的に示した図である。

【８１８０】

図７９０に示した通り、本第２５制御例では、１フレーム分の画像の描画に用いられる全スプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を生成すると共に、その詳細情報をスプライト毎に並び替え、レイヤ種別を大別させた状態で描画リストを作成している点で上述した第１制御例と異ならせている。つまり、上述した第１制御例と同様に、ＭＰＵ２３１により描画リストを生成するにあたり、１フレーム分の画像の中で、最も背面側に配置すべきスプライトから前面側に配置すべきスプライト順に並び替えて、それぞれのスプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を記述するように構成しており、そのスプライト順に対して、レイヤ種別を規定するように構成している。そして、レイヤ種別単位で画像加工処理を実行可能に構成している。

【８１８１】

具体的には、図７９０に示した通り、レイヤ種別として、背面側から順に、副画層ｆｒ、主画層ｓｒ、予備画層ｙｒ、本画層ｈｒが規定されている。

【８１８２】

＜第２５制御例における音声ランプ制御装置１１３の処理内容について＞

次に、本第２５制御例における音声ランプ制御装置１１３の処理内容について説明をする。本第２５制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理は、上述した第２２制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理に対して、通常状態演出態様決定処理２２（図７２８のＦ３０１８参照）に代えて、通常状態演出態様決定処理２５（図７９１のＦ３０９８参照）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８１８３】

ここで、図７９１を参照して、通常状態演出態様決定処理２５（Ｆ３０９８）の処理内容について説明をする。図７９１は、通常状態演出態様決定処理２５（Ｆ３０９８）の処理内容を示したフローチャートである。この通常状態演出態様決定処理２５（Ｆ３０９８）では、変動演出種別として、図柄ストックリーチが決定された場合と、加工リーチが決定された場合とで、実行される制御処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８１８４】

通常状態演出態様決定処理２５（Ｆ３０９８）が実行されると、まず、上述した通常状態演出態様決定処理２２（図７２９のＦ３０１８参照）と同一のＦ３１０１～Ｆ３１０６の処理を実行する。そして、Ｆ３１０４の処理において、ムービー実行リーチでは無いと判別した場合（Ｆ３１０４：Ｎｏ）は、次に、今回の変動演出種別が図柄ストックリーチであるかを判別し（Ｆ３１９１）、図柄ストックリーチであると判別した場合は（Ｆ３１９１：Ｙｅｓ）、図柄ストックリーチ選択テーブル２２２ｙａを参照して演出態様を決定し（Ｆ３１９２）、Ｆ３１０８の処理へ移行する。

【８１８５】

また、Ｆ３１９１の処理において、図柄ストックリーチでは無いと判別した場合は（Ｆ３１９１：Ｎｏ）、次に、今回の変動演出種別が加工リーチであるかを判別し（Ｆ３１９３）、加工リーチであると判別した場合は（Ｆ３１９３：Ｙｅｓ）、対応する加工コマンド（画像加工情報及び、画像を加工する演出期間を示す情報を含むコマンド）を設定し（Ｆ３１９４）、Ｆ３１０８の処理へ移行する。一方、Ｆ３１９４の処理において、加工リーチでは無いと判別した場合は（Ｆ３１９４：Ｎｏ）、上述した通常状態演出態様決定処理２２（図７２９のＦ３０１８参照）と同一のＦ３１０７～Ｆ３１０８の処理を実行し本処理を終了する。

【８１８６】

Ｆ３１９４の処理において設定された加工コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図７１７参照）にて実行されるコマンド出力処理（図７１７のＦ２１０２参照）によって、表示制御装置１１４へと出力される。表示制御装置１１４側では、加工コマンドを受信した場合に、受信した加工コマンドに含まれる情報から表示画像を加工するための加工情報と、表示画像が加工される演出期間を示す期間情報と、を特定し、特定した加工情報に対応する加工データを、画像加工データ記憶エリアから読み出し、読み出した加工データ及び、期間情報を加工情報格納エリア２３３ａａに格納する。

【８１８７】

そして、表示処理を実行する際に加工情報格納エリア２３３ａａに格納されている各種情報に基づいて画層種別（レイヤ種別）単位で画像加工処理を施し、表示画面に表示画像を表示する。このように構成することで、表示画像を形成する複数の画層のうち、一部の画層（例えば、主画層ｓｒ）のみ縮小加工を施すことにより、主画層ｓｒよりも背面側に形成される副画層ｆｒに表示される表示画像を遊技者に視認させることが可能となる。

【８１８８】

このように構成することで、同一の描画リストを用いて形成される表示画像を用いて異なる表示態様を表示させることが可能となるため、演出効果を高めることができる。

【８１８９】

次に、図７９２から図７９４を参照して、本第２５制御例における表示制御装置１１４にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第２５制御例では、上述した第１

制御例における表示制御装置１１４の制御処理内容に対して、コマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２）に代えてコマンド判定処理２５（図７９２のＦ６３０２参照）を実行する点と、描画処理に代えて描画処理２５（図７９４のＦ６３０６参照）を実行する点と、で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８１９０】

まず、図７９２を参照して、コマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）の処理内容について説明をする。図７９２は、コマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）の処理内容を示したフローチャートである。このコマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）は、上述した第１制御例におけるコマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２参照）に対して、加工コマンドを受信した場合に実行する処理を追加した点で相違しており、それ以外は同一である。なお、図７９２に示したコマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）では、上述したコマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２）に対して、説明の便宜上、各処理内容に対して付している符号のうちアルファベットを「Ｓ」から「Ｆ」へと変更しているが、数字が同一の制御処理は同一の内容であるため、その詳細な説明を省略している。

【８１９１】

図７９２に示した通り、コマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）が実行されると、まず、上述したコマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２）と同一のＦ６４０１～Ｆ６４１７の処理を実行する。そして、Ｆ６４１６の処理において、表示用報知コマンドが無いと判別した場合は（Ｆ６４１６：Ｎｏ）、次に、未処理のコマンドの中に加工コマンドがあるかを判別し（Ｆ６４５１）、加工コマンドがあると判別した場合は（Ｆ６４５１：Ｙｅｓ）、加工コマンド処理を実行し（Ｆ６４５２）、その後、Ｆ６４０１へと移行する。

【８１９２】

一方、Ｆ６４５１の処理において、加工コマンドが無いと判別した場合は（Ｆ６４５１：Ｎｏ）、上述したコマンド判定処理（図１９０のＳ６３０２）と同一のＦ６４２０～Ｆ６４２２の処理を実行し、その後、Ｆ６４０１へと移行する。

【８１９３】

次に、コマンド判定処理２５（Ｆ６３０２）において実行される加工コマンド処理（Ｆ６４５２）の処理内容について、図７９３を参照して説明をする。図７９３は、加工コマンド処理（Ｆ６４５２）の処理内容を示したフローチャートである。この加工コマンド処理（Ｆ６４５２）では、音声ランプ制御装置１１３から出力された加工コマンド（表示画像を形成する各画層（副画層ｆｒ、主画層ｓｒ、予備画層ｙｒ、本画層ｈｒ）単位で設定される加工情報と、各画層を加工する演出期間を示す情報を含むコマンド）に基づいて、表示画像を加工する際に用いる加工情報を設定するための処理が実行される。

【８１９４】

加工コマンド処理（Ｆ６４５２）が実行されると、まず。今回受信した加工コマンドに対応した加工情報を、画像加工データ記憶エリア２３４ａ３より読み出し（Ｆ６９０１）、読み出した情報に含まれる加工情報と、その実行期間（演出期間）とを、加工情報格納エリア２３３ａａに設定し（Ｆ６９０２）、本処理を終了する。本処理を実行することにより、表示処理を実行する際に、表示画像を形成する各画層に対して、各画層単位で加工（縮尺変更や傾き変更や透過率変更等）を施すことが可能となる。

【８１９５】

次に、図７９４を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１で実行されるＶ割込処理の一処理である描画処理２５（Ｆ６３０６）の詳細について説明する。図７９４は、この描画処理２５（Ｆ６３０６）を示すフローチャートである。この描画処理２５（Ｆ６３０６）は、上述した第１制御例における描画処理（図２０１のＳ６３０６参照）に対して、加工情報に基づく表示処理を実行する点で相違し、それ以外は同一である。なお、図７９４に示した描画処理２５（Ｆ６３０６）では、上述した描画処理（図２０１のＳ６３０６参照）に対して、説明の便宜上、各処理内容に対して付している符号のうちアルファベットを「Ｓ」から「Ｆ」へと変更しているが、数字が同一の制御処理は同一の内容である

ため、その詳細な説明を省略している。
【８１９６】
描画処理２５（Ｆ６３０６）が実行されると、まず、上述した第１制御例における描画処理（図２０１のＳ６３０６参照）におけるＳ７８０１～Ｓ７８０３と同一のＦ７８０１～Ｆ７８０３の処理を実行する。その後、加工情報格納エリア２３３ａａに表示画像を加工するための情報が格納されているかを判別し（Ｆ７８５１）、情報があると判別した場合は（Ｆ７８５１：Ｙｅｓ）、本処理において描画リストに基づいて画像の描画処理が実行されたフレームバッファとは異なる側のフレームバッファに展開されている画像情報に対して、加工処理を実行し（Ｆ７８５２）、第３図柄表示装置８１に表示し（Ｆ７８５３）、本処理を終了する。一方、Ｆ７８５１の処理において、加工情報格納エリア２３３ａａに情報が無いと判別した場合は、本処理において描画リストに基づいて画像の描画処理が実行されたフレームバッファとは異なる側のフレームバッファに展開されている画像情報をそのまま第３図柄表示装置８１に表示させる表示処理を実行し（Ｆ７８５４）、本処理を終了する。
【８１９７】
このように構成することで、同一の描画リストに基づいてフレームバッファに展開した画像情報を用いて、加工情報に基づく加工処理を実行することにより、多彩な表示態様を第３図柄表示装置８１に表示させることが可能となる。よって、演出効果を高めることができる。
【８１９８】
また、本第２５制御例では、表示画像全体に対してでは無く、レイヤ種別（画層種別）単位で加工処理を実行可能に構成しているため、特定の画層（主画層ｓｒ）に対して表示領域が縮小する加工処理を実行することで、特定の画層（主画層ｓｒ）よりも背面側に形成される画層（副画層ｆｒ）の表示態様を遊技者に視認させることが可能となる。よって、同一の描画リストに基づいてフレームバッファに展開した画像情報を用いて、表示態様を大きく異ならせた表示画像を表示させることが可能となる。
【８１９９】
さらに、装飾用の第３図柄（数字アイコン）が表示される主画層ｓｒの表示画像に対して縦横比を異ならせる加工処理を実行した場合には、主画層ｓｒに表示される第３図柄（数字アイコン）の縦横比も変形し、遊技者が識別困難な第３図柄が表示されてしまう虞があるが、本第２５制御例では、主画層ｓｒの全面側に、主画層ｓｒと同一の加工処理が施される予備画層ｙｒを設けており、主画層ｓｒに対して、縦横比を変形させる加工処理が施された場合に、予備画層ｙｒの表示態様を用いて、縦横比が変形した第３図柄を遊技者が視認困難となるように構成している。このように構成することで、外れ当選していることを示すための第３図柄が停止表示しているにも関わらず、大当たり当選していることを示すための第３図柄が停止表示していると遊技者に誤解を与えてしまうことを抑制することができる。
【８２００】
加えて、本第２５制御例では、予備画層ｙｒの表示領域のうち、主画層ｓｒにて第３図柄（最終停止第３図柄）が停止表示される表示位置と重複する位置に対して、第３図柄を見えにくくするための表示態様を配置しておき、常時、予備画層ｙｒの透過率を１００％とすることで、通常であれば、予備画層ｙｒに表示されている表示態様を遊技者が視認できないように構成し、主画層ｓｒに対して、縦横比を変形させる加工処理が施された場合に、予備画層ｙｒの透過率を０％にすることで、変形した最終停止第３図柄を遊技者が視認できないように構成している。このように構成することで、変形した最終停止第３図柄を隠すための表示態様についても予め描画リストに基づいて展開しておくことが可能となるため、加工処理の有無に基づいて異なる描画リストを生成する手間を省略することができる。
【８２０１】
＜第２５制御例の第１変形例について＞

次に、図７９５、及び図７９６を参照して、上述した第２５制御例の第１変形例について説明をする。本第２５制御例の第１変形例では、上述した第２５制御例において実行された図柄ストックリーチ演出の演出態様を異ならせている点で相違している。それ以外の内容は同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【８２０２】

上述した第２５制御例では、図７８３、及び図７８４を参照して上述した通り、図柄ストックリーチ演出として、リーチ状態中に最終停止第３図柄の停止表示態様候補となる複数の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ～第４図柄アイコン８０２ｄ）を表示させ（図７８３（ｂ）参照）、その複数の図柄アイコンを一旦表示領域外へと持ち上げる演出（図７８４（ａ）参照）を実行した後に、キャラクタ８０１のアクション（剣を振り下ろす動作）に併せて、複数の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ～第４図柄アイコン８０２ｄ）のうち、何れかの図柄アイコンが示す第３図柄の表示態様で最終停止第３図柄を停止表示させる演出を実行するように構成していた。また、キャラクタ８０１のアクション（剣を振り下ろす動作）に併せて、複数の図柄アイコン（第１図柄アイコン８０２ａ～第４図柄アイコン８０２ｄ）によって、リーチ状態である第３図柄の表示態様まで切り替える演出（図７８４（ｂ）参照）を実行するように構成していた。

【８２０３】

つまり、上述した第２５制御例における図柄ストックリーチ演出では、獲得（ストック）した複数の図柄アイコンの内容を遊技者に把握させた後に、一旦非表示にし、再度表示させる状態において、最終停止第３図柄のみをストックされた図柄アイコンの何れかに対応させて停止表示させる演出、或いは、リーチ状態の第３図柄も含めてストックされた図柄アイコンの何れかに対応させて停止表示させる演出の何れかを実行するものであった。

【８２０４】

このように、ストックした全ての図柄アイコンを遊技者に把握させた後に、一旦、非表示とすることで、図柄アイコンを用いてどのような演出結果が表示されるのかを分かり難くすることができ、意外性のある演出結果を提供し易くすることができるものであった。

【８２０５】

よって、例えば、図柄ストックリーチ演出が実行され、獲得（ストック）した複数の図柄アイコンとして、現在のリーチ状態において大当たり当選となる第３図柄に対応する表示態様の図柄アイコンを数多く獲得している場合には、図柄ストックリーチ演出として、最終停止第３図柄のみがストックされた図柄アイコンに対応した停止表示態様となる演出が実行されることを遊技者に期待させ、現在のリーチ状態において大当たり当選とはならない第３図柄に対応する表示態様の図柄アイコンを数多く獲得している場合であっても、図柄ストックリーチ演出として、リーチ状態を示す第３図柄の表示態様も含めてストックされた図柄アイコンに対応した停止表示態様となる演出が実行されることを期待させることができるため、図柄ストックリーチ演出の演出結果が停止表示されるまで、大当たり当選を期待させながら演出を楽しませることができるものであった。

【８２０６】

しかしながら、上述した第２５制御例にて実行される図柄ストックリーチ演出では、最終停止第３図柄のみが図柄アイコンに対応した表示態様で停止表示されるタイミングと、リーチ状態である第３図柄の種別が図柄アイコンに対応した種別（表示態様）へと切り替え表示されるタイミングと、が何れも、一旦、図柄アイコンを非表示にした後であるため、図柄ストックリーチ演出の進行に併せて段階的に大当たり期待度を異ならせ難いという問題があった。

【８２０７】

これに対して、本第２５制御例の第１変形例における図柄ストックリーチ演出では、複数の図柄アイコンを表示した状態から、その複数の図柄アイコンを一旦表示領域外へと持ち上げる演出において、表示画面に表示されている複数の図柄アイコンのうち一部を表示画面に残表示させ、残表示させた図柄アイコンを用いて、リーチ状態を示す第３図柄の種別を増加させる演出を実行可能に構成している。

【８２０８】
このように構成することで、図柄ストックリーチ演出が実行された場合において、獲得（ストック）した図柄アイコンの種別に対して、まず遊技者に興味を持たせ、次に、図柄アイコンを持ち上げる演出（表示されている図柄アイコンを非表示にする演出）の演出態様に興味を持たせ、最後に、図柄ストックリーチ演出の演出結果に興味を持たせることができる。よって、図柄ストックリーチ演出が実行される演出期間において、様々なタイミングで遊技者が演出内容に注視するタイミングを設定することが可能となり、遊技者に対して継続して興味を持たせる演出を実行することができ演出効果を高めることができる。
【８２０９】
本第２５制御例の第１変形例では、図柄ストックリーチ演出が実行されると、上述した第２５制御例における図柄ストックリーチ演出と同様に、リーチ状態中の第３図柄表示とは別に、第１図柄アイコン８０２ａが表示される。図７９５に示した例では、第３図柄種別「９」に対応した表示態様「９」で第１図柄アイコン８０２ａが表示されている。つまり、図７９５に示した例では、リーチ状態を示す第３図柄の種別が「１」であるため、第１図柄アイコン８０２ａの表示態様が示す「９」に対応する第３図柄が最終停止第３図柄として停止表示された場合には外れ当選を示す第３図柄の組合せとなる。
【８２１０】
このように、本変形例では、図柄ストックリーチ演出が実行された場合において、最初に表示される図柄アイコンの種別が、リーチ状態である第３図柄に対して外れ当選となる第３図柄の種別に対応した種別となるように構成している。このように構成することで、図柄ストックリーチ演出において１個目の図柄アイコンが停止表示された場合（図７９５（ａ）に示した状態）において、表示画面に表示されているリーチ状態である第３図柄（２つ）と、図柄アイコン（１つ）と、の合計３つの図柄に付される表示態様が同一の表示態様となり、遊技者に大当たり当選したのではと誤解を与えてしまうことを抑制することができる。
【８２１１】
＜第２６制御例＞
次に、図８００から図８２７を参照して、本第２６制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第２６制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第２２制御例におけるパチンコ機１０に対して、遊技状態として通常状態が設定されている状態において実行される変動演出として新たな変動演出を追加した点と、時短状態が設定されている状態において実行される変動演出として新たな変動演出を追加している点で相違している。
【８２１２】
ここで、本第２６制御例におけるパチンコ機１０において実行される変動演出のうち、上述した第２２制御例とは異なる変動演出について簡単に説明をする。
【８２１３】
従来より、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいた操作演出を実行可能なパチンコ機１０がある。また、操作演出の演出態様として、例えば、敵キャラの体力値を減少させる演出態様（以下、ゲージ減少演出）がある。
【８２１４】
このゲージ減少演出を操作演出の演出態様として実行する場合には、所定の操作有効期間中に、遊技者に操作手段（枠ボタン２２等）を操作させることで、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示されている体力値（ＨＰゲージ）を徐々に減少させていく演出が実行され、実行される操作演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果（例えば、大当たり当選を示す演出結果）である場合には、敵キャラの体力値（ＨＰゲージ）が０となり敵キャラを討伐する演出が実行される一方、実行される操作演出の演出結果が遊技者に不利な演出結果（例えば、外れ当選を示す演出結果）である場合には、敵キャラの体力値（ＨＰゲージ）が残った状態で敵キャラから反撃される演出が実行されるように構成される。
【８２１５】
つまり、上述したゲージ減少演出が実行された場合には、操作有効期間中におけるＨＰ

ゲージの減少度合いに興味を持たせるものであった。しかしながら、上述した通り、従来型のゲージ減少演出では、演出結果に応じて、最終的に減少させることが可能な体力値が決定されるため、遊技者は操作手段への操作に基づいて体力値の減少度合いのみに注視することとなり、ゲージ減少演出中に体力値の減少が途中で停止してしまうと、今回の演出結果が遊技者に不利な演出結果であることを演出結果が表示されるよりも前に容易に予測されてしまい、演出効果を高めることができないという問題があった。

【８２１６】

これに対して、本第２６制御例では、ゲージ減少演出が実行されている操作有効期間の一部期間において、演出結果に関わらず、体力値が減少されない非減少期間を設定可能に構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出中に体力値の減少が途中で停止された場合であっても、遊技者に有利となる演出結果となる可能性を残すことができるため、遊技者に対してゲージ減少演出を最後まで楽しませることができる。

【８２１７】

具体的には、操作手段への操作に基づいて体力値を減少させる毎に、非減少期間を設定するか否かの突入抽選を実行し、突入抽選に当選した場合に非減少期間を設定するように構成している。そして、非減少期間が設定された場合には、所定時間の経過、或いは、非減少期間を解除するか否かの解除抽選に当選するまで、体力値を減少させることが無い演出が実行されるように構成している。このように、ゲージ減少演出が実行されている間にも体力値の減少度合いを可変させるための処理を追加するように構成することで、遊技者が操作手段に対して同一の操作を行った場合であっても、ゲージ減少演出における体力値の減少パターンをゲージ減少演出実行時に予め定めた演出パターンにのみ基づいて設定する場合に比べて増加させ易くすることができるため演出効果を高めることができる。

【８２１８】

また、本第２６制御例では、解除抽選の当選確率を、非減少期間が設定された時点における残体力値と、実行中のゲージ減少演出の演出結果とに基づいて異ならせるように構成しており、残体力値が大きい程、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出の序盤で非減少期間が設定された場合には、ゲージ減少演出の終盤で非減少期間が設定された場合よりも解除抽選に当選し易くすることができるため、ゲージ減少演出が実行されたにも関わらず、即座に設定された非減少期間が長時間継続してしまい、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。

【８２１９】

さらに、実行中のゲージ減少演出の演出結果が有利な演出結果となる場合の方が、演出結果が不利な演出結果となる場合よりも解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。ここで、本第２６制御例では、ゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果となる場合の方が、遊技者に不利となる演出結果となる場合よりも、ゲージ減少演出にて体力値を大きく減少させる（残体力値を０にする）演出が実行され易くなるように構成している。つまり、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な体力値が大きい程、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出の演出結果が有利な演出結果となるゲージ減少演出にて非減少期間が設定された場合には、ゲージ減少演出の演出結果が不利な演出結果となるゲージ減少演出にて非減少期間が設定された場合よりも解除抽選に当選し易くすることができるため、体力値を大きく減少させることができるゲージ減少演出が実行されたにも関わらず、非減少期間が長時間継続してしまい、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。

【８２２０】

加えて、本第２６制御例では、非減少期間が継続する期間に上限（リミット）を設け、解除抽選に当選すること無く非減少期間が上限に到達した場合には強制的に非減少期間を解除するように構成している。このように構成することで、非減少期間が解除されるタイミングをランダムにするために解除抽選を用いた場合であっても、解除抽選に当選するこ

と無くゲージ減少演出が終了するまで非減少期間が継続してしまい、ゲージ減少演出の演出効果が著しく低下してしまう事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【８２２１】

さらに、本第２６制御例では、非減少期間が解除され、体力値を減少させることが可能な減少期間が設定された場合に、設定されていた非減少期間の長さに応じて体力値を減少させる追加減少演出を実行可能に構成している。具体的には、今回のゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果にて非減少期間が設定されたり、ゲージ減少演出の序盤にて非減少期間が設定されたりした場合、即ち、解除抽選の当選確率が高く設定された場合において非減少期間が長時間継続した場合には、非減少期間が解除された場合に実行される追加減少演出にて体力値を大きく減少させることが可能となるように構成している。

【８２２２】

このように構成することで、非減少期間が長時間継続した場合であっても、追加減少演出によって体力値を大きく減少させることが可能となるため、非減少期間が長時間継続している遊技者に対しても、実行中のゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果となることを期待させながら遊技を行わせることができる。また、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。

【８２２３】

加えて、本第２６制御例では、ゲージ減少演出中における遊技者の操作手段への操作方法に応じて、体力値を減少させるための演出パターンを異ならせるように構成している。具体的には、ゲージ減少演出における操作有効期間中に遊技者が操作手段を継続して押下した場合（所謂、長押し操作を実行した場合）と、操作手段を連続して押下した場合（所謂、連打操作を実行した場合）と、で体力値を減少させる演出を実行可能に構成しており、長押し操作を実行した場合には、上述した非減少期間を設定可能な演出パターンが決定され、連打操作を実行した場合には、上述した非減少期間が設定されることの無い（突入抽選を実行しない）演出パターンが決定されるように構成している。

【８２２４】

このように構成することで、同一の演出結果を示すためのゲージ減少演出における体力値の減少過程を、操作手段の操作方法に応じて異ならせることが可能となる。よって、様々な演出パターンでゲージ減少演出を実行させたい遊技者に対して異なる操作方法で操作手段を操作させ易くすることができるため、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８２２５】

また、本第２６制御例では、操作手段への長押し操作を中止することによっても、非減少期間を強制的に解除可能に構成している。つまり、遊技者に対して、操作手段を操作（押下）させることを促すゲージ減少演出中において、操作手段への操作を中止させる選択肢を遊技者に提供可能に構成している。このように構成することで、操作手段に対する操作方法の選択肢を増加させることができる。

【８２２６】

なお、本第２６制御例では、ゲージ減少演出に長押し操作を実行した場合には、長押し操作の継続時間に応じて体力値を減少させる演出シナリオが進展するように構成しており、継続時間が長くなる程、体力値が減少し易くなる演出シナリオが設定され易くなるように構成している。そして、途中で実行中の長押し操作を中止した場合には、押下継続時間の更新が中断され、再度長押し操作を実行した場合には、中断中の押下継続時間を引き継いで更新可能に構成している。よって、途中で長押し操作を中断した場合であっても、継続して操作手段を操作させ易くすることができる。

【８２２７】

また、上述した通り、操作手段への長押し操作を中止することによっても、非減少期間を強制的に解除可能に構成し、且つ、途中で実行中の長押し操作を中止した場合には、押

下継続時間の更新が中断され、再度長押し操作を実行した場合には、中断中の押下継続時間を引き継いで更新可能に構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出中に長押し操作を実行している遊技者に対して、長押し操作を継続して実行する場合よりも、途中で一旦長押し操作を中断し、再度、長押し操作を実行した場合の方が、非減少期間が短くなり、ゲージ減少演出において体力値を大きく減少させることが可能となり得る状況を提供することが可能となる。

【８２２８】

また、従来より、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出を、様々な演出態様で実行することにより、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選以外（外れ）の抽選結果となる期間が長時間継続した場合であっても、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制しているパチンコ機１０がある。このような従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の抽選結果が外れである場合に選択される割合と、特別図柄抽選の抽選結果が大当たりである場合に選択される割合と、の比率を示す大当たり当選期待度を異ならせた様々な演出態様を決定可能に構成し、変動演出に対応する特別図柄抽選の結果と、変動演出の演出態様を決定するための演出抽選結果と、に基づいて演出態様を決定可能に構成することで、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選以外（外れ）の抽選結果となる遊技が複数回連続した場合であっても、遊技者に対して、大当たり期待度を異ならせた様々な変動演出を実行させることができるため、遊技者に対して適度に大当たりへと期待感を持たせながら遊技を行わせることができるものであった。

【８２２９】

しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の抽選結果が外れであることを示すための変動演出の演出態様を抽選（演出抽選）で決定しているため、場合によっては、長時間の間、大当たり当選期待度が低い変動演出しか実行されず遊技者が遊技に飽きてしまい易くなるという問題があった。また、大当たり当選期待度が高くなるように選択割合が規定されている演出態様を短期間で複数回選択してしまい、遊技者に不信感を与えてしまうという問題があった。

【８２３０】

これに対して、本第２６制御例では、過去に実行された変動演出の演出態様に関する情報（演出履歴情報）と、特別図柄抽選の抽選結果が外れであることを示すための変動演出（外れ変動演出）が連続して実行された回数（連続外れ回数）に関する情報と、に基づいて、変動演出の演出態様を決定可能に構成している。

【８２３１】

具体的には、連続外れ回数の増加に基づいて特定のカウンタ値（実行演出カウンタの値）を加算し、実行演出カウンタの値が特定値（例えば、５０）に到達した場合には、変動演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルとして、通常時に参照されるデータテーブル（通常時演出態様選択テーブル）とは異なる特殊演出態様選択テーブルを参照するように構成し、大当たり期待度が高い演出態様を、通常時よりも決定し易くするように構成している。

【８２３２】

このように構成することで、定期的に大当たり期待度が高い演出態様の変動演出を実行させることができるため、大当たり当選期待度が低い変動演出しか実行されず遊技者が遊技に飽きてしまう事態を発生させ難くすることができる。

【８２３３】

さらに本第２６制御例では、上述した実行演出カウンタの値を減算する処理を実行可能に構成しており、例えば、外れ変動演出の演出態様として、大当たり当選期待度が高い演出態様が決定された場合には、決定された演出態様に応じて実行演出カウンタの値を減算するように構成している。具体的には、大当たり当選期待度が比較的高い演出態様を外れ変動演出の演出態様として決定した場合には、実行演出カウンタの値を３０減算するように構成している。

【８２３４】

このように構成することで、大当たり当選期待度が高い演出態様で外れ変動演出が実行された直後に、特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様が決定される外れ変動演出が実行されてしまうことを抑制することができるため、大当たり当選期待度が高い演出態様で外れ変動演出が連続して実行されてしまい、遊技者に不信感を与えてしまうことを抑制することができる。

【８２３５】

また、本第２６制御例では、上述した実行演出カウンタの値を特別図柄変動の実行回数以上の加算する処理を実行可能に構成しており、例えば、外れ変動演出の演出態様として、遊技者の遊技意欲が低下し得る演出態様、例えば、段階的に当たり期待度が上昇していくチャンスアップ演出の演出態様として、最も当たり期待度が低い段階の演出態様が設定された場合（チャンスアップ演出が実行されたにも関わらず、チャンスアップ演出が実行されなかった場合のほうが当たり期待度が高くなる場合）には、通常の特別図柄変動が実行された場合に加算される「１」の値よりも大きな「２」の値が実行演出カウンタに加算されるように構成している。

【８２３６】

このように構成することで、チャンスアップ演出が実行されること無く淡々と特別図柄変動が実行され続ける場合よりも、大当たり期待度の低い（チャンスアップ演出が実行されない場合よりも低い）チャンスアップ演出が実行された場合の方が、短い間隔で大当たり当選期待度が高い演出態様で外れ変動演出を実行させ易くすることができる。

【８２３７】

加えて、本第２６制御例では、特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様を決定する際に、過去に実行された外れ変動演出の演出態様に関する情報に基づいて決定される演出態様の種別を異ならせるように構成している。具体的には、通常時に参照される通常時演出態様選択テーブルを参照して決定された大当たり当選期待度の高い演出態様を、特殊演出態様選択テーブルを参照して決定させ難くなるように構成している。このように構成することで、外れ変動演出に対して同一の演出態様を決定させ難くすることができるため、通常の大当たり当選期待度が規定されている通常時演出態様選択テーブルとは異なる内容で各種演出態様が規定されている特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様を決定可能に構成したとしても、特定の演出態様に対する大当たり当選期待度が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【８２３８】

＜第２６制御例にて実行される演出内容について＞

次に、図８００から図８０９を参照して、本第２６制御例におけるパチンコ機１０において実行される特徴的な演出の内容について説明をする。まず、図８００から図８０６を参照して、時短状態中に実行されるバトル演出の内容について説明をする。このバトル演出は、１の特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動期間中に実行される変動演出であって、味方キャラと敵キャラとのバトルが行われ、最終的に敵キャラの体力値（ＨＰ値）が０まで減少した場合（敵キャラを倒した場合）に、大当たり当選を示す演出態様（勝利態様）の演出結果が表示され、最終的に敵キャラの体力値（ＨＰ値）が１以上である場合に、外れ当選を示す演出態様（敗北態様）の演出結果が表示される演出である。

【８２３９】

このバトル演出では、味方キャラの仲間が敵キャラを攻撃する先制攻撃演出（第１パート演出）と、味方キャラが直接敵キャラを攻撃する攻撃演出（第２パート演出）とを実行可能に構成されており、バトル演出が実行される場合には、上述した第２パート演出は必ず実行され、上述した第１パート演出は、決定されたバトル演出の演出パターンに応じて実行の有無が決定されるように構成している。

【８２４０】

そして、第１パート演出が実行されるバトル演出（第１パート演出と、第２パート演出が実行されるバトル演出）の方が、第１パート演出が実行されないバトル演出（第２パート演出のみが実行されるバトル演出）よりも、特別図柄抽選で大当たり当選している場合

に選択され易くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出中に第１パート演出が実行されることを期待させながら遊技者にバトル演出を注視させることができる。

【８２４１】

さらに、第１パート演出が実行されるバトル演出が実行された場合には、第１パート演出にて敵キャラのＨＰ値を減少させる程、大当たり当選の期待度が高くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出として第１パート演出が実行された場合、即ち、第１パート演出が実行されることの無いバトル演出よりも大当たり期待度が高いバトル演出が実行された場合において、次に、第１パート演出にて敵キャラに与えるダメージ量（減少させるＨＰ値）に興味を持たせることができる。

【８２４２】

ここで、バトル演出が実行された場合に第３図柄表示装置８１に表示される表示内容について説明をする。図８００（ａ）は、バトル演出が開始された場合に表示される表示画面の一例を示した図であって、図８００（ｂ）は、バトル演出にて味方キャラの仲間が先制攻撃を行った場合（第１パート演出が実行された場合）に表示される表示内容の一例を示した図である。

【８２４３】

図８００（ａ）に示した通り、バトル演出が開始されると、第３図柄表示装置８１の表示画面に形成される主表示領域Ｄｍに、勇者を模した味方キャラ８０１ａが表示され、その次に怪獣を模した敵キャラ８８０ａが表示されることで味方キャラ８０１ａと、敵キャラ８８０ａとが対峙している表示画面が表示される。そして、表示された敵キャラ８８０ａに対応した体力値（ＨＰ値）を示すための表示態様としてＨＰゲージ８９０が表示され、そのＨＰゲージ８９０の上方には、バトル演出の演出内容を案内するための案内態様として「敵を倒せ！！」の文字が表示される。この表示によって、実行中の演出（バトル演出）が敵キャラ８８０ａを倒すことを目的とした演出であることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【８２４４】

そして、主表示領域Ｄｍの下方に形成される副表示領域Ｄｓには、バトル演出の演出内容をより詳細に説明するための詳細案内態様として「敵のＨＰゲージを０まで削れば大当たり」の文字が表示される。本第２６制御例では、上述した各制御例と同様に、第３図柄表示装置８１の表示面を、変動演出（バトル演出）が実行される表示領域（主表示領域Ｄｍ）と、変動演出（バトル演出）が実行されない表示領域（副表示領域Ｄｓ）と、に区画し、実行中の演出の内容を文字で詳細に説明する詳細案内態様を、変動演出（バトル演出）が実行されない表示領域（副表示領域Ｄｓ）に表示するように構成している。

【８２４５】

このように構成することで、動画像（アニメーション）を用いて実行される変動演出の実行領域と、静止画像（文字）を用いて実行される案内報知と、を遊技者に選択して注視させ易くすることができる。

【８２４６】

図８００（ａ）に示した通り、ＨＰゲージ８９０の右端上部には、敵キャラ８８０ａのＨＰの上限値を示す「ＭＡＸ」が表示され、ＨＰゲージ８９０の左端上部には、敵キャラ８８０ａのＨＰの下限値を示す「０」が表示されており、敵キャラ８８０ａへの攻撃が実行されていない状態では、敵キャラ８８０ａのＨＰが上限値であるため、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値８９０ａがＨＰゲージ８９０の全領域を占める状態で表示されている。

【８２４７】

なお、本第２６制御例では、図８００（ａ）に示した通り、現状のＨＰ値を示すための指標として、ＨＰ値が上限であることを示す「ＭＡＸ」の指標と、ＨＰ値が下限であることを示す「０」の指標のみを表示しているが、これに限ること無く、例えば、ＨＰゲージ８９０の中間地点にＨＰ値が上限の半分であることを示すための指標として「５０％」の指標を表示するように構成しても良いし、より細分化した指標を表示するように構成して

も良い。

【８２４８】

このように構成することで、バトル演出中に減少する敵キャラ８８０ａのＨＰ値をより明確に把握させることが可能となる。また、ＨＰ値の上限値、及び下限値だけで無く、その間の値を示す指標を表示することにより、ＨＰゲージ８９０が示す残ＨＰ値の減少度合いを把握させ易くすることができる。具体的には、ＨＰゲージ８９０の中間位置に、ＨＰ値が上限値の半分であることを示す「５０％」の指標が表示されている場合には、ＨＰゲージ８９０の全領域が、減少したＨＰ値に対して均等に減少するものであることを遊技者に予測させ易くすることができる。

【８２４９】

本第２６制御例では、バトル演出にて対峙する敵キャラ８８０ａを異なる種別から決定可能に構成しており、選択された敵キャラ８８０ａの種別に応じて、ＨＰ値の上限を異ならせるように構成している。よって、バトル演出が実行された場合には、先に同一のキャラが登場する味方キャラ８０１ａを先に表示させた状態で、敵キャラ８８０ａを登場させるように構成している。このように構成することで、バトル演出が開始されてから、今回のバトル演出にて対峙する敵キャラ８８０ａの種別を報知するまでの期間を長くすることができるため、遊技者が実行される演出に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【８２５０】

また、本第２６制御例では、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を示すためのＨＰゲージ８９０を用いて敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を報知する際に、ＨＰ値の上限値を１００とした百分率（％）で表示するように構成している。よって、ＨＰ値の上限値が異なる敵キャラ８８０ａが表示された場合であっても、ＨＰゲージ８９０の表示態様を変更すること無くバトル演出を実行することができる。しかしながら、この場合、異なる種別の敵キャラ８８０ａが登場したとしても、ＨＰゲージ８９０の表示態様を見ただけではＨＰ値の上限値が高い敵キャラ８８０ａなのか低い敵キャラ８８０ａなのかを遊技者が容易に判別することが出来ないという問題が発生するため、敵キャラ８８０ａの種別としてＨＰ値の上限値が高い敵キャラ８８０ａが表示された場合には、表示される敵キャラ８８０ａの近傍に、ＨＰ値の上限値が他よりも高い敵キャラ８８０ａであることを報知するための報知態様として「強敵出現」の文字を表示すると良い。一方、ＨＰ値の上限値が他の敵キャラ８８０ａよりも低い敵キャラ８８０ａが表示された場合には、表示される敵キャラ８８０ａの近傍に、ＨＰ値の上限値が他よりも低い敵キャラ８８０ａであることを報知するための報知態様として「弱小出現」の文字を表示すると良い。このように構成することで、バトル演出中において敵キャラ８８０ａが表示された時点で今回のバトル演出の演出結果を予測させ易くすることができる。

【８２５１】

さらに、同様の効果を奏するための別の手法として、ＨＰゲージ８９０に表示される「ＭＡＸ」に付随させて、登場した敵キャラ８８０ａのＨＰ値の上限値を示す数値を表示するように構成しても良いし、バトル演出にて出現し得る敵キャラ８８０ａの全種別に対して、倒し易さランク（大当たり当選時に選択され易いランク）を付して表示するように構成しても良い。また、ＨＰ値の上限値に応じてＨＰゲージ８９０の表示態様（長さ）を異ならせるように構成しても良い。

【８２５２】

バトル演出にて第１パート演出（仲間が敵に対して先制攻撃を実行する演出）が実行されると、図８００（ｂ）に示した通り、ネコを模した仲間キャラ８０１ｃが敵キャラ８８０ａに襲いかかる演出が実行され、仲間キャラ８０１ｃの攻撃によって敵キャラ８８０ａに与えたダメージに応じてＨＰゲージ８９０に表示される残ＨＰ値が減少表示される。具体的には、図８００を用いて表示された敵キャラ８８０ａはＨＰ値の上限が「１００」であり、仲間キャラ８０１ｃによる先制攻撃によって「４０」のダメージを与えたため、残ＨＰ値８９０ａが占める表示領域が、ＨＰゲージ８９０全体の６０％まで減少表示される

。そして、ＨＰゲージ８９０の表示領域のうち、残ＨＰ値８９０ａが表示されていない表示領域には、減少した敵キャラ８８０ａのＨＰ値を示すダメージ量８９０ｂが表示される。つまり、ＨＰゲージ８９０の表示領域は、常に、残ＨＰ値８９０ａと、ダメージ量８９０ｂとの何れかの表示領域となるように構成している。

【８２５３】

このように構成することで、敵キャラ８８０ａに対して既に与えたダメージ量と、残りのＨＰ値とを遊技者に比較させることができるため、残りのＨＰ値を全て削るために必要な攻撃内容（演出内容）を予測させ易くすることができる。

【８２５４】

そして、副表示領域Ｄｓには、今回のバトル演出において第１パート演出が実行されたことを遊技者に示すための案内報知態様として「先制攻撃！！敵にダメージを与えた！！」の文字が表示される。

【８２５５】

なお、本第２６制御例では、ダメージ量８９０ｂを継続して表示するように構成することで、残ＨＰ値が減少した状態において、ＨＰ値が上限値である場合と比してどの程度ＨＰ値が減少しているのかを遊技者に分かり易く報知するように構成しているが、これに限ること無く、既に与えたダメージ量８９０ｂを表示しないように構成しても良い。この場合、表示画面に残ＨＰ値に対応する表示態様のみを表示すれば良いため、既に与えたダメージ量を累積して管理する処理を省くことが出来る分、バトル演出における敵キャラ８８０ａのＨＰ値に関する情報を表示するための制御処理を簡素化することができる。

【８２５６】

また、本第２６制御例では、図８００（ｂ）に示した通り、敵キャラ８８０ａを攻撃したことにより減少させた敵キャラ８８０ａのＨＰ値（ダメージ量）を数値で表示すること無く、ＨＰゲージ８９０の減少度合いで遊技者にダメージ量（残ＨＰ値）を報知するように構成することで、具体的な数値を表示するための表示制御や、具体的な数値を算出するための処理を簡素化しているが、これに限ること無く、敵キャラ８８０ａを攻撃したことにより減少させた敵キャラ８８０ａのＨＰ値（ダメージ量）を数値で表示するように構成しても良い。

【８２５７】

そして、第１パート演出が終了すると、次に、味方キャラ８０１ａが直接敵キャラ８８０ａを攻撃する第２パート演出が実行される。この第２パート演出では、遊技者による演出ボタン２２への操作に基づいて敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値８９０ａを減少させる演出が実行される。次に、図８０１及び図８０２を参照して、バトル演出における第２パート演出中に表示される表示内容について説明をする。図８０１（ａ）は、バトル演出における第２パート演出が開始された時点において表示される表示画面の一例を示した図であり、図８０１（ｂ）は、バトル演出における第２パート演出中に演出ボタン２２に対して連打操作が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図８０２は、バトル演出における第２パート演出中に演出ボタン２２に対して長押し操作が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【８２５８】

図８０１（ａ）に示した通り、第２パート演出が実行されると、味方キャラ８０１ａが直接敵キャラ８８０ａと戦う演出が主表示領域Ｄｍにて実行される。この第２パート演出は、図８００を参照して上述した第１パート演出が終了した後に実行される演出であるため、ＨＰゲージ８９０に表示される残ＨＰ値８９０ａは、図８００（ｂ）に示した値が継続して表示されている。

【８２５９】

そして、表示領域Ｄｍの左側には、遊技者に演出ボタン２２を操作させる操作演出が開始されることを示唆するための示唆態様として、演出ボタン２２を模した表示用演出ボタンＳｗ６と、操作演出の有効期間（操作有効期間）を示すための有効期間ゲージｇａ４が表示される。さらに、操作演出中の操作内容を案内するための案内態様として「連打準備

」の文字が表示される。つまり、図８０１（ａ）に示した示唆態様を、実際に操作演出が開始されるよりも前に表示することにより、遊技者に対して、演出ボタン２２を連打操作する必要がある操作演出が間も無く開始されることを遊技者に分かり易く報知することができるため、操作演出が開始されるよりも前に連打操作に対する準備を行わせることができる。よって、急に操作演出が開始されてしまい、有効期間の初期段階において演出ボタン２２を操作できない事態が発生することを抑制することができる。

【８２６０】

なお、本第２６制御例では、図８０１（ａ）に示した通り、操作演出が開始されることを示唆するための示唆態様を表示可能に構成しているが、これに加えて、操作演出が開始されるタイミングを示すためのカウントダウン表示を実行しても良い。このように構成することで、遊技者に対して操作演出が開始されるタイミングをより分かり易く報知することができる。

【８２６１】

さらに、実際に操作演出における有効期間（操作有効期間）が設定されるよりも前の所定期間（例えば、０．５秒間）を含んだ態様で有効期間ゲージの減算を開始させる（操作演出を開始する）ように構成しても良い。つまり、操作演出が開始されたことを即座に把握した遊技者が最初に演出ボタン２２を押下するまでの反応時間分、実際に有効期間が設定されるタイミングよりも前倒しで操作演出を開始させる（有効期間ゲージの減算を開始させる）ように構成しても良い。このように構成することで、有効期間が設定された直後から遊技者に演出ボタン２２を押下させ易くすることができるため、操作演出を最大限楽しませることができる。

【８２６２】

ここで、図８０１（ａ）に示した通り、本第２６制御例では、演出ボタン２２を連打操作させる操作演出を実行するように構成している。ここで、近年のパチンコ機１０では、操作手段（演出ボタン２２）を連打操作する代わりに、長押し操作した場合であっても、内部的に連打操作と同様の押下制御を実行可能なものがある。このように構成することで、操作手段を短期間で複数回操作する必要がある連打操作を実行することが困難な遊技者に対しても、操作手段を継続して押下し続けるだけで連打操作した場合と同様の演出を提供することができるため演出効果を高めることができるものであった。

【８２６３】

しかしながら、連打操作の代わりに長押し操作を実行した場合には、長押し操作が継続している期間において常に遊技者が高速連打操作（例えば、０．５秒に１回の間隔で演出ボタン２２を押下する連打操作）している状況と同一の押下制御が実行されるため、所定の有効期間（例えば、１０秒）の間に実行された演出ボタン２２の押下回数（連打回数）に基づいて障害物を徐々に破壊していく操作演出において、通常の連打操作を実行する場合に比べて、長押し操作を実行した場合の方が短期間で押下回数（連打回数）が増加していき、操作演出の演出結果（今回の操作演出における障害物の最終破壊態様）が早期に表示され易くなり、有効期間を存分に用いた操作演出を提供することができない事態が発生してしまうという問題があった。また、長押し操作時の押下制御として、演出ボタン２２が押下された場合と同一の押下制御が実行される間隔を広げてしまうと、有効期間内において操作演出の演出結果を表示させることができない（今回の操作演出における障害物の最終破壊態様を表示させるために必要とされる回数分の押下制御を実行することができない）という問題が発生してしまう虞があった。

【８２６４】

一方で、長押し操作が実行された場合に実行される押下制御（高速連打操作時の押下制御）の内容を基準に連打操作演出における障害物の破壊態様を決定してしまうと、通常の連打操作（例えば、１秒に１回の間隔で演出ボタン２２を押下する連打操作）を実行している遊技者に対して、操作演出の演出結果を表示させることができない（今回の操作演出における障害物の最終破壊態様を表示させるために必要とされる回数分の押下制御を実行することができない）という問題が発生してしまう虞があった。

【８２６５】
つまり、演出ボタン２２を連打操作させる連打操作演出を実行可能であって、演出ボタン２２への連打操作に加え、演出ボタン２２への長押し操作を実行した場合にも連打操作演出を進展させることが可能な機能を有しているパチンコ機１０において、演出ボタン２２を連打操作した場合と、演出ボタン２２を長押し操作した場合とで同様の押下制御を実行してしまうと、連打操作演出中に演出ボタン２２を連打操作する遊技者と、長押し操作する遊技者の両者に対して好適な演出（連打操作演出）を提供することが困難になるという問題があった。
【８２６６】
これに対して、本第２６制御例では、連打操作演出中に演出ボタン２２を長押し操作した場合には、長押し操作が継続している期間の長さに応じて、決定された演出シナリオに沿って、所定間隔（例えば、０．５秒間隔）で演出態様（ＨＰゲージ）を可変（減少）させていく演出が実行されると共に、演出態様を可変させない非可変期間（非減少期間）を設定可能に構成している。
【８２６７】
このように構成することで、連打操作を実行する場合よりも、短い期間で演出態様を可変させ易い長押し操作を実行した場合において、遊技者による演出ボタン２２への操作（押下）を有効に判別可能な有効期間（操作有効期間）中に、演出態様が可変することの無い期間を設けることができる。よって、長押し操作を実行した場合であっても、今回の操作演出の演出結果が多くの残期間を残した状態で表示されてしまい操作演出の演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。
【８２６８】
本第２６制御例では、図８０１（ｂ）に示した通り、バトル演出における第２パート演出にて連打操作を実行した場合には、選択ボタン２２への押下操作に応じて敵キャラ８８０ａの体力値を減少させる（ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの表示領域が徐々に短くなる）演出が実行される。具体的には、本第２６制御例では、第２パート演出が実行される期間中に遊技者による演出ボタン２２の操作（押下）が有効に判別される期間として３秒の有効期間が設定されるように構成しており、有効期間がセットされると（遊技者が演出ボタン２２を操作可能な期間に突入すると）、有効期間がセットされる前段階であることを示す「連打準備」（図８０１（ａ）参照）に代えて、「連打！！」の文字が表示される。
【８２６９】
さらに、表示用演出ボタンＳｗ６の下方に表示されている有効期間ゲージｇａ４が時間経過に合わせて可変表示される。図８０１（ｂ）に示した通り、有効期間ゲージｇａ４は、全ての表示領域の大きさ（長さ）を用いて、今回の有効期間の長さを示しており、有効期間がセットされた直後、残有効期間が減少していない状態では、残有効期間ｇａ４ａが有効期間ゲージｇａ４の全領域を占めるように表示され（例えば、図８０１（ａ）参照）、その後、時間経過に応じて有効期間ゲージｇａ４の右端から左端に向けて残有効期間ｇａ４ａの表示領域が徐々に小さく（短く）なるように有効期間ゲージｇａ４の表示態様が可変表示される。そして、有効期間ゲージｇａ４の表示領域のうち、残有効期間ｇａ４ａが表示されていない表示領域には有効期間がセットされてからの経過時間を示す経過時間ｇａ４ｂが表示される。
【８２７０】
つまり、有効期間がセットされてからの経過時間が長くなればなるほど（有効期間の残期間が短く）、有効期間ゲージｇａ４の表示領域のうち、残有効期間ｇａ４ａが占める割合が小さく（短く）なり、経過時間ｇａ４ｂが占める割合が大きく（長く）なるように有効期間ｇａ４ａの表示態様が可変表示されるように構成している。
【８２７１】
このように構成することで、遊技者は有効期間ｇａ４の表示の表示態様を確認するだけで、今回の操作演出における有効期間の残時間を容易に把握することができる。さらに、

今回セットされた有効期間の長さに対応する情報（有効期間ゲージｇａ４の表示態様）と、既に経過した時間を示す情報（経過時間ｇａ４ｂの表示態様）と、が合わせて表示されるため、遊技者は、有効期間がセットされてからの経過時間の長さに基づいて、有効期間の残時間の長さをより詳細に把握することができる。

【８２７２】

本第２６制御例では、図８０１（ｂ）に示した通り、有効期間の残期間の長さに対応する情報（残有効期間ｇａ４ａの表示態様）と、今回セットされた有効期間の長さに対応する情報（有効期間ゲージｇａ４の表示態様）と、既に経過した時間を示す情報（経過時間ｇａ４ｂの表示態様）と、を有効期間中において継続して表示することで遊技者に対して有効期間の残時間を把握させ易くするように構成しているが、これに限ること無く、有効期間の残時間のみを示す情報（残有効期間ｇａ４ａの表示態様）のみを可変表示するように構成しても良い。

【８２７３】

なお、バトル演出の第２パート演出において連打操作を実行した場合におけるＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａを減少表示させる流れについては、図８０２（ａ）を参照して後述する。

【８２７４】

次に、図８０２を参照して、バトル演出の第２パート演出において長押し操作を実行した場合における表示画面の一例について説明をする。図８０２に示した通り、第２パート演出において長押し操作を実行した場合には、連打操作を実行した場合と同一の演出画面が表示される。なお、表示用演出ボタンＳｗ６の表示態様のみ連打操作時と異ならせており、現在が長押し操作中であることを示すために、表示用演出ボタンＳｗ６の表示態様として継続して押下されている状態を示す表示態様が表示され、上方には、現在が長押し操作中（長押し操作判定がされている状態）であることを示す「連打（長押し中）」の文字が表示される。

【８２７５】

このように構成することで、連打操作演出である第２パート演出において、正常に長押し操作が判定されていることを遊技者に分かり易く報知することができる。よって、第２パート演出中に演出ボタン２２を長押し操作したにも関わらず一定期間ＨＰゲージ８９０の表示態様が可変しない事態、即ち、残ＨＰ値８９０ａを減少させる抽選に連続して当選しなかった場合であっても、長押し操作が無効と判定されていないことを分かり易く理解させることができる。

【８２７６】

さらに、本第２６制御例では、長押し操作中であると判定された場合には、残ＨＰ値８９０ａを減少させる抽選の結果に関わらず、味方キャラ８０１ａと敵キャラ８８０ａとが戦う動画像（アニメーション）を主表示領域Ｄｍの右側にて表示するように構成している。このように連打操作演出中において遊技者が演出ボタン２２を適正に操作（連打操作、或いは、長押し操作）していることを報知可能に構成することにより、演出ボタン２２を適正に操作していない遊技者には提供されることの無い特典映像を提供することができるため、ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａを減少させる（０にする）以外の目的で遊技者に操作手段（演出ボタン２２）を操作させ易くすることができる。

【８２７７】

よって、例えば、今回のバトル演出の演出結果が敵キャラ８８０ａに敗北する演出結果、即ち、残ＨＰ値８９０ａが０にならない演出結果であったとしても、操作手段（演出ボタン２２）を操作することにより、特典映像を提供することができるため、遊技者の操作手段を操作する意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【８２７８】

また、特典映像に含まれる情報として、パチンコ機１０の遊技に関する情報を提供可能に構成すると良く、例えば、特別図柄抽選によって大当たり当選する確率を複数の設定値から設定可能な設定機能を有している場合には、再生される特典映像に現在設定されてい

る設定値に対応する情報を含ませるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して貴重な映像を提供するだけで無く、遊技に役に立つ情報を獲得させることが可能となるため、特典映像を見ようと意欲的に操作手段を操作させることができる。

【８２７９】

次に、図８０３、及び図８０４を参照して、バトル演出におけるＨＰゲージ８９０の表示態様変化の流れについて説明をする。図８０３は、演出ボタン２２を連打操作した場合におけるＨＰゲージ８９０の表示態様変化の流れを示したものである。図８０３（ａ）に示した状態で演出ボタン２２への操作（押下）が判別されると、減少抽選が実行され、減少抽選の結果、減少値「Ａ」が決定された場合には、ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの表示領域を小さく（残ＨＰ値が減少値「Ａ」分減少したことを示す表示態様）するための可変表示が実行される。そして、残ＨＰ値８９０ａの表示領域が小さくなった箇所には、ダメージ量８９０ｂが表示される。このように構成することで、遊技者に対して、敵キャラ８８０ａにどの程度ダメージを与えたのかを分かり易く報知することができる。

【８２８０】

一方、演出ボタン２２に対して長押し操作を実行した場合には、図８０４に示した通り、非減少期間が設定されるように構成されている。図８０４（ａ）に示した状態で長押し操作が実行され、減少値「Ａ」及び、非減少期間が設定されると、ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの表示領域を小さく（残ＨＰ値が減少値「Ａ」分減少したことを示す表示態様）するための可変表示が実行される。そして、残ＨＰ値８９０ａの表示領域が小さくなった領域に、非減少期間が設定されていることを示す非減少期間８９０ｃが表示される（図８０４（ｂ）参照）。

【８２８１】

非減少期間は、解除抽選による解除当選、上限期間の経過、長押し操作のキャンセルの何れかの終了条件を満たした場合に解除されるように構成しており、非減少期間が上限期間（２秒）に到達するまでの残期間を示すように、非減少期間８９０ｃの表示領域が小さくなる演出が実行される。そして、非減少期間が解除されるタイミングでは、ＨＰゲージ８９０の表示領域が残ＨＰ値８９０ａ、及び、ダメージ量８９０ｂによって表示される。

【８２８２】

非減少期間８９０ｃの表示領域は、非減少期間が上限期間（２秒）に到達するまでの残期間に対応させて均等に減少するように構成している。よって、非減少期間８９０ｃの表示態様の可変状況に基づいて非減少期間が継続し得る最大の残期間を遊技者に予測させることができる。また、上限期間の経過以外の終了条件が成立した場合には、非減少期間８９０ｃの表示態様（表示領域の大きさ）に関わらず、０．１秒で非減少期間８９０ｃの表示領域が非表示となる消去演出が実行され、非減少期間８９０ｃが表示されていた領域がダメージ量８９０ｂの表示領域へと切り替わる。このように構成することで、非減少期間が解除されたことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【８２８３】

そして、非減少期間を解除させるための複数の終了条件のうち、特定の終了条件（解除抽選に当選、上限期間の経過）が成立した場合には、演出ボタン２２への操作に基づくこと無く、残ＨＰ値を減少させるための追加減少演出が実行される。ここで、追加減少演出として減少値「Ｂ」が決定された場合には、図８０４（ｄ）に示した通り、非減少期間８９０ｃが非表示となり、ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの表示領域を小さく（残ＨＰ値が減少値「Ｂ」分減少したことを示す表示態様）するための可変表示が実行される。

【８２８４】

なお、本第２６制御例では、非減少期間８９０ｃが表示されている状態におけるバトル演出として、非減少期間８９０ｃが設定されたタイミングにおける攻撃内容に対応したバトル演出を継続して実行するように構成しているが、これに限ること無く、非減少期間８９０ｃが解除されるまでの残時間や、解除条件が成立したか否かの判別結果を示すための演出態様で非減少期間８９０ｃ中のバトル演出の演出態様を決定しても良い。

【８２８５】

つまり、非減少期間の解除条件として、解除抽選で当選した場合には、解除抽選で当選したことを示すための演出態様（例えば、一旦、キャラ同士が対峙する間隔を広げて、次の攻撃に備える演出態様）と、解除抽選で当選しなかったことを示すための演出態様（例えば、キャラ同士が膠着している演出態様）と、を決定可能に構成すると良い。このように構成することで、主表示領域Ｄｍにて実行されるバトル演出の内容を把握することでも非減少期間が終了し易い状態であるか否かを遊技者に予測させることが可能となる。

【８２８６】

次に、図８０５から図８０８を参照して、討伐リーチ演出の演出内容について説明をする。図８０５（ａ）は、討伐リーチ演出の開始時に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０５（ｂ）は、討伐リーチ演出における１回目の攻撃を開始する際に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０６（ａ）は、討伐リーチ演出における１回目の攻撃中に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０６（ｂ）は、討伐リーチ演出における２回目の攻撃を開始する際に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０７（ａ）は、討伐リーチ演出における２回目の攻撃中に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０７（ｂ）は、討伐リーチ演出における３回目の攻撃を開始する際に表示される表示内容の一例を示した図であって、図８０８は、討伐リーチ演出における３回目の攻撃中に表示される表示内容の一例を示した図である。

【８２８７】

討伐リーチが実行されると、主表示領域Ｄｍに表示領域ＨＲ５０が形成され、討伐リーチ中に実行される３回の攻撃演出の履歴を示すための表示態様が表示される。図８０５（ａ）は、１回目の攻撃演出が実行されるよりも前の段階を示す表示画面であるため、１回目の攻撃演出履歴を示す１回目履歴ＨＲ５０ａ、２回目の攻撃演出履歴を示す２回目履歴ＨＲ５０ｂ、３回目の攻撃演出履歴を示す３回目履歴ＨＲ５０ｃの何れにも履歴を示す表示態様が表示されていない。

【８２８８】

また、討伐リーチでは、３体の敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを討伐する演出が実行され、各敵キャラ８８０ａ～８８０ｃの体力値（ＨＰ値）を示すＨＰゲージ８８１ａ～８８１ｃが各敵キャラ８８０ａ～８８０ｃに近接して表示される。そして、今回の攻撃演出にて攻撃を行う味方キャラクタを決定するための演出として、第１味方キャラ８０１ａと、第２味方キャラ８０１ｂとが、交互に拡大される味方キャラ決定演出が表示されている。

【８２８９】

討伐リーチ演出として、様々な種別の味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを３回攻撃する演出が実行される。

【８２９０】

味方キャラ８０１ａの種別としては、１体の敵キャラに対して大きなダメージを与え易い勇者を模した第１味方キャラ８０１ａと、複数体の敵キャラに対してダメージを与え易いウサギを模した第２味方キャラ８０１ｂと、を選択可能に構成している。このように攻撃を実行する味方キャラの種別に対応させて実行し易い攻撃内容を異ならせるように構成することで、討伐リーチ演出中に既に実行された攻撃の内容（各敵キャラの残ＨＰ値）に基づいて、攻撃を実行する味方キャラの種別に対する期待度を異ならせることができる。

【８２９１】

つまり、討伐リーチ演出における１回目、及び、２回目の攻撃を味方キャラ８０１ｂが実行した場合には、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃのそれぞれが残ＨＰ値の低い状態となり易く、その場合、３回目（最後）の攻撃を実行する味方キャラの種別が味方キャラ８０１ｂである場合の方が、味方キャラ８０１ａである場合よりも討伐リーチ演出の演出結果として、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを全て討伐する演出結果とし易くすることができる。また、１回目、及び、２回目の攻撃を味方キャラ８０１ａが実行した場合には、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃのうち、２体の敵キャラが討伐されている状態で３回目の攻撃を実行し易くすることができるため、３回目の攻撃を実行する味方キャラの種別が味方キャラ８０１ａである場合の方が、味方キャラ８０１ｂである場合よりも討伐リーチ演出の演出結

果として、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを全て討伐する演出結果とし易くすることができる。

【８２９２】

図８０５（ｂ）は、１回目の攻撃演出として、第１味方キャラが決定された後に、攻撃内容を決定するための攻撃内容決定演出が実行されている表示画面である。図８０５（ｂ）に示した通り、第１味方キャラ８０１ａが決定された場合には、攻撃内容決定演出として、先に攻撃数を示す情報が表示され、次に、ダメージ量を示す情報が表示されるように構成している。図８０５（ｂ）では、表示領域ＨＲ５１に形成される攻撃数ルーレットＨＲ５１ａが「１」で停止表示され、ダメージ量ルーレットＨＲ５１ｂが「変動中」の状態を示している。

【８２９３】

図８０５（ｂ）に示した状態から所定時間が経過すると、ダメージ量ルーレットＨＲ５１ｂが今回の攻撃演出で実行される攻撃に対応するダメージ量を示す表示態様（例えば、大、中、小等）で停止表示され、攻撃内容演出が終了する。

【８２９４】

攻撃内容演出が終了すると、次に、図８０６（ａ）に示した攻撃演出が実行される。この攻撃演出では、主表示領域Ｄｍの中央付近で、攻撃内容演出の演出結果に対応した攻撃が実行される。図８０６（ａ）では、表示領域ＨＲ５１に形成される攻撃数ルーレットＨＲ５１ａが「１」で停止表示され、ダメージ量ルーレットＨＲ５１ｂが「大」で停止表示された場合であるため、敵キャラ８８０ａ一体に対して、大ダメージを与える攻撃演出が表示される。そして、今回の攻撃内容を案内するため案内態様として副表示領域Ｄｓには「怪獣Ａに大ダメージ」の文字が表示される。

【８２９５】

２回目、３回目の攻撃演出を実行する場合にも、同様の演出表示が実行されるように構成しており、図８０６（ｂ）では、２回目の攻撃演出として、第２味方キャラ８０１ｂが決定されている状態を示している。第２味方キャラ８０１ｂが決定された場合には、攻撃内容決定演出として、後に攻撃数を示す情報が表示され、先に、ダメージ量を示す情報が表示されるように構成している。つまり、攻撃を行う味方キャラの種別に応じて、攻撃内容演出にて遊技者に報知される情報の順序を異ならせている。図８０６（ｂ）では、表示領域ＨＲ５１に形成される攻撃数ルーレットＨＲ５１ａが「変動中」の状態で、ダメージ量ルーレットＨＲ５１ｂが「中」で停止表示している。

【８２９６】

２回目の攻撃内容演出が終了すると、次に、図８０７（ａ）に示した攻撃演出が実行される。この攻撃演出では、主表示領域Ｄｍの中央付近で、攻撃内容演出の演出結果に対応した攻撃が実行される。図８０７（ａ）では、表示領域ＨＲ５１に形成される攻撃数ルーレットＨＲ５１ａが「３」で停止表示され、ダメージ量ルーレットＨＲ５１ｂが「中」で停止表示された場合であるため、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃに対して、中ダメージを与える攻撃演出が表示される。そして、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が０になったため、副表示領域Ｄｓには「１体撃破残り２体」の文字が表示される。

【８２９７】

さらに、本第２６制御例では、１回目の攻撃キャラと、２回目の攻撃キャラが異なる場合にのみ、３回目の攻撃演出として、複数の味方キャラが攻撃を行うダブル攻撃演出を実行可能に構成している。

【８２９８】

図８０７（ｂ）は、ダブル攻撃演出が実行される場合における攻撃内容演出を示している。このダブル攻撃演出は、他の攻撃演出よりも多くの敵キャラに大ダメージを与え易い演出であって、対応する特別図柄抽選の結果が大当たりである場合の方が、外れである場合よりも選択され易くなるように構成している。図８０７（ｂ）に示した通り、味方キャラ決定演出が終了するよりも前に、攻撃内容演出の演出結果が表示され、そのまま、図８０８に示した通り、複数の味方キャラによって攻撃が実行される。

【８２９９】
このように構成することで、攻撃演出が実行されるまでの演出（味方キャラ決定演出、攻撃内容演出）において、攻撃演出に用いられる情報がどのような順序で表示されるのかについて遊技者に興味を持たせることが出来るため、演出効果を高めることができる。
【８３００】
なお、上述した通り、決定した味方キャラに対応させて攻撃内容演出の表示順序を規定する場合には、通常とは異なる表示順序で攻撃内容演出が表示される演出パターンが一部実行されるように構成すると良い。このように構成することで、攻撃演出に用いられる各種演出要素（味方キャラ種別、攻撃数、ダメージ量）を遊技者に予測させ難くすることができる。また、通常とは異なる表示順序で攻撃内容演出が表示される演出パターンは、対応する特別図柄抽選の結果が大当たりである場合の方が、外れである場合よりも選択され易くなるように構成すると良い。これにより、通常とは異なる演出態様で攻撃演出が実行されたことに気付いた遊技者に、大当たり当選への期待感を持たせながら討伐リーチ演出を楽しませることができる。
【８３０１】
なお、この討伐リーチ演出では、攻撃を実行する味方キャラの種別に応じて異なる内容の攻撃を実行可能に構成しており、上述した通り、味方キャラ８０１ａが選択された場合には、攻撃対象となる敵キャラの数（攻撃数）として、「１」が他の数よりも選択され易く、攻撃対象に対して与えるダメージの量として、「大ダメージ」が他のダメージ量（中ダメージ、小ダメージ等）よりも選択され易くなるように構成している。よって、攻撃を実行する味方キャラの種別として味方キャラ８０１ａが選択された場合には、遊技者は、攻撃数よりも、ダメージ量に注視することになる。そこで、図８０５（ｂ）に示した通り、味方キャラ８０１ａが選択された場合には、今回の攻撃の内容を順に示すための示唆態様の表示順として「攻撃数」、「ダメージ量」の表示順序が決定される。
【８３０２】
一方、味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、攻撃対象となる敵キャラの数（攻撃数）として、複数の数が単数よりも選択され易く、攻撃対象に対して与えるダメージの量として、「中ダメージ」が他のダメージ量（大ダメージ、小ダメージ）よりも選択され易くなるように構成している。よって、攻撃を実行する味方キャラの種別として味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、遊技者は、ダメージ量よりも攻撃数に注視することになる。そこで、図８０６（ｂ）に示した通り、味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、今回の攻撃の内容を順に示すための示唆態様の表示順として「ダメージ量」、「攻撃数」の表示順序が決定される。
【８３０３】
上述した通り、本第２６制御例にて実行される討伐リーチ演出では、攻撃を実行する味方キャラの種別として、異なる攻撃内容が選択され易い味方キャラの種別を決定可能に構成し、決定された味方キャラの種別に応じて、攻撃内容を示すための示唆態様の表示順序を異ならせるように構成している。具体的には、攻撃内容を決定する複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のそれぞれを示唆態様として表示可能であって、表示される複数の示唆態様の表示順序として、決定された味方キャラの種別が得意とする要素が、それ以外の要素よりも後に表示される表示順序が決定されるように構成している。
【８３０４】
このように構成することで、何れの味方キャラの種別が決定された場合であっても、遊技者が注視する示唆態様が表示されるタイミングを遅らせることができるため、遊技者に対して長期間の間、討伐リーチ演出を楽しませることができる。
【８３０５】
なお、本第２６制御例では、決定された味方キャラの種別に応じて、示唆態様の表示順序を決定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、攻撃内容を示す複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のうち、遊技者に有利な内容が決定された要素に対応する示唆態様の表示順序を、それ以外の要素よりも後にする表示順序を決定したり、攻撃内容

を示す複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のうち、遊技者に有利な内容が決定された要素に対応する示唆態様の表示順序を、それ以外の要素よりも先にする表示順序を決定したりするように構成しても良い。このように構成することで、先に表示された示唆態様の内容に基づいて、次に表示される示唆態様の内容を予測させる楽しみを提供することができる。

【８３０６】

次に、図８０９を参照して、本第２６制御例において実行されるチャンス予告演出の内容について説明をする。図８０９は、チャンス予告演出の対象態様の一例を示す図である。本第２６制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出に用いられる対象態様の表示態様を可変させることで、大当たり当選の期待度を示唆するためのチャンス予告演出を実行可能に構成している。

【８３０７】

例えば、図８０９に示した通り、様々なコメントが表示されるコメント表示部ＨＲ５２の表示態様（コメント表示態様Ｃｈ１）を可変させるチャンス予告演出や、実行中の保留図柄ｈｒ０の表示態様（実行中保留表示態様Ｃｈ２）を可変させるチャンス予告演出や、変動表示に用いられるキャラ８０１の表示態様（キャラ表示態様Ｃｈ３）を可変させるチャンス予告演出等を実行可能に構成している。

【８３０８】

各対象態様の表示態様を初期態様（デフォルト）を含め４段階に可変表示可能に構成しており、初期態様が「ＬＶ１」となり、「ＬＶ２」，「ＬＶ３」，「ＬＶ４」とレベルが上昇する毎に大当たり期待度が高くなるように構成している。例えば、チャンス予告演出の対象態様であるコメント表示態様Ｃｈ１（図８０９参照）は、設定される段階レベルに応じて、コメント表示部ＨＲ５２の背景色を可変表示させるチャンス予告演出が実行されるように構成しており、「ＬＶ１」は背景色「白色」、「ＬＶ２」は背景色「黄色」、「ＬＶ３」は背景色「赤色」、「ＬＶ４」は背景色「虹色」が表示されるように構成している。

【８３０９】

さらに、本第２６制御例では、チャンス予告演出が実行されない期間が所定期間継続した場合に、強制的にチャンス予告演出を実行可能に構成している。

【８３１０】

ここで、図８１０を参照して、強制的にチャンス予告演出を実行する流れについて説明をする。図８１０は、特別図柄変動回数と、実行されるチャンスアップ演出の流れを示した図である。特別図柄変動の実行に応じて、変動演出の演出態様を設定する際にチャンス予告演出を実行するか否かの抽選が実行される。そして、チャンス予告演出の実行抽選に当選しなかった場合は、演出実行カウンタ２２３ａａｈに１が加算される（図８１０（ａ），（ｂ）参照）。そして、加算後の演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が５０に到達した場合には、強制的にチャンス予告演出が実行される。

【８３１１】

また、チャンス予告演出の実行抽選に当選し、決定されたチャンス予告演出の演出態様が、大当たり期待度の低い態様（ＬＶ２）である場合には、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値に、通常の「１」に加え、低期待度態様「１」が加算される。つまり、１回の特別図柄変動で演出実行カウンタ２２３ａａｈの値に「２」が加算される（図８１０（ｂ）参照）。このように構成することで、特別図柄変動の変動回数と、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値との更新内容を異ならせることができるため、強制的にチャンス予告演出が実行されたのか、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行されたのかを分かり難くすることができる。

【８３１２】

さらに、図８１０（ｃ）に示した通り、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行された場合であって、外れ変動演出に対して大当たり期待度の高い態様（ＬＶ４）が設定された場合には、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を減算（

３０減算）するように構成している。このように構成することで、外れ変動演出にて過剰に期待度の高いチャンス予告演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【８３１３】

なお、本第２６制御例では、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を、特別図柄抽選が実行される毎に加算するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、設定された特別図柄変動の変動パターン（変動時間）を管理する管理手段を設け、特別図柄変動が所定時間（例えば、１０秒）実行される毎に、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を加算するように構成しても良い。

【８３１４】

このように構成することで、実行される特別図柄変動の変動パターン（変動時間）の内容に応じて、特別図柄抽選１回に対する演出実行カウンタ２２３ａａｈの加算回数を異ならせることができるため、強制的にチャンス予告演出が実行されたのか、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行されたのかを分かり難くすることができる。

【８３１５】

また、特別図柄抽選の実行回数に関わらず、所定間隔（特別図柄変動が実行されている遊技時間に対して所定間隔）でチャンス予告演出を強制的に実行することができるため、チャンス予告演出が実行されない遊技時間が長時間継続してしまうことを抑制することができる。

【８３１６】

さらに、設定されている遊技状態に応じて、決定される特別図柄変動の変動パターンを異ならせ、例えば、通常状態が設定されている場合よりも、時短状態が設定されている場合の方が、短い変動時間が設定され易くなるように構成し、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値に基づいて強制的にチャンス予告演出を実行可能に構成することで、設定されている遊技状態に応じて、強制的にチャンス予告演出が実行される頻度を異ならせることができる。この場合、遊技者に有利となる遊技状態が設定されている場合の方が、遊技者に不利となる遊技状態が設定されている場合よりも、短い変動時間の変動パターンが設定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に不利な遊技状態が設定されている場合の方が、少ない特別図柄抽選の実行回数で強制的にチャンス予告演出を実行させ易くすることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【８３１７】

また、特別図柄抽選の実行権利（特図保留）を記憶可能なパチンコ機１０であって、記憶されている特図保留の数が少ない場合の方が、多い場合よりも長い変動時間の変動パターンが選択され易く構成し、多くの特図保留を獲得できていない場合の方が、多くの特図保留を獲得するように遊技を行った場合よりも、少ない特別図柄抽選の実行回数で強制的にチャンス予告演出を実行させ易くするように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄抽選が頻繁に実行されないことによって、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【８３１８】

さらに、特別図柄変動に対応させて実行される変動演出の演出内容に応じて、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値の更新内容を異ならせても良く、例えば、１の特別図柄変動中に、特別図柄変動に対応して変動表示される第３図柄を一旦仮停止させた後に、再始動させる疑似変動演出を実行可能なパチンコ機１０であれば、実際の特別図柄変動回数では無く、第３図柄の変動回数（再始動含む）に基づいて演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新（加算）するように構成しても良い。このように構成することで、実行される変動演出の演出内容に応じて、強制的にチャンス予告演出が実行される頻度を異ならせることができる。

【８３１９】

さらに、本第２６制御例では、特別図柄抽選が実行される毎に（演出実行カウンタ２２

３ａａｈの値を更新（加算）させるための更新条件が成立する毎に）、カウンタの値を「１」加算するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、所定条件が成立した場合において、所定条件が成立していない場合に比べて、更新条件が成立した場合に更新される演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を異ならせても良く、通常状態が設定されている場合には、更新条件が成立した場合に演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「１」加算し、時短状態が設定されている場合には、更新条件が成立した場合に演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「２」加算するように構成しても良い。また、遊技者に最も有利な遊技状態である確変状態が設定されている場合には、更新条件が成立した場合に演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「１」減算するように構成しても良い。

【８３２０】

このように構成することで、設定されている遊技状態に応じて、強制的にチャンス予告演出が実行される頻度を異ならせることができる。また、短時間で大当たり当選し易い確変状態が設定されている場合には、強制的にチャンス予告演出が実行され難く構成することができ、遊技者に対して無用にチャンス予告演出を実行してしまうことを抑制することができる。

【８３２１】

なお、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新するための更新条件が成立した場合において更新させる値を異ならせる条件として、設定されている遊技状態以外の条件を設けても良く、例えば、同一遊技状態において切り替え設定可能な演出モードを複数有し、１の演出モードが設定されている場合と、１の演出モードとは異なる他の演出モードが設定されている場合とで、更新条件が成立した場合における演出実行カウンタ２２３ａａｈ更新内容を異ならせても良い。このように構成することで、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値として大きい値が加算される演出モードが設定されている場合には、他の演出モードが設定されている場合よりも、チャンス予告演出が実行され易くなる。よって、演出モードが切り替わったことにより、遊技者に提供される演出の内容を異ならせ易くすることができるため、演出効果を高めることができる。

【８３２２】

また、本第２６制御例では、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新するための更新条件が成立した場合に、予め規定されている値を加算（減算）するように構成しているが、これに限ること無く、更新条件が成立した場合に、今回の更新内容（演出実行カウンタ２２３ａａｈの加算値、減算値）を決定する処理を実行するように構成しても良い。このように構成することで、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を遊技者に予測させ難くすることができるため、チャンス予告演出が実行された場合に、強制的にチャンス予告演出が実行されたのか、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行されたのかを分かり難くすることができる。

【８３２３】

一方、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を遊技者に示唆可能な示唆演出を実行可能に構成しても良い。この場合、現在の演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を示唆する第１示唆演出、或いは、チャンス予告演出の実行条件が成立する（演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が５０に到達する）までの残数を示唆する第２示唆演出、或いは、強制的にチャンス予告演出が実行されるまでの残情報を示唆する第３示唆演出の何れか、又は、全てを実行可能に構成すると良い。

【８３２４】

このように構成することで、遊技者に対して、強制的にチャンス予告演出が実行されるタイミングを予測させることが可能となるため、チャンス予告演出が実行された場合に、強制的にチャンス予告演出が実行されたのか、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行されたのかを予測させ易くすることができるため、例えば、強制的にチャンス予告演出が実行されると予測したタイミングとは異なるタイミングでチャンス予告演出が実行された場合に、チャンス予告演出抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行されたことを予測し易くすることができるため、チャンス予告演

出が実行されるタイミングについて遊技者に興味を持たせることができる。
【８３２５】
なお、この場合、上述した第１示唆演出から第３示唆演出を、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値に基づいて強制的に実行される全てのチャンス予告演出に対してでは無く、一部に対して実行するように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して、何れの契機で実行されたチャンス予告演出であるかを把握し易いチャンス予告演出と、把握し難いチャンス予告演出とを混在させ易くすることができるため、予測する楽しみを増加させることができる。
【８３２６】
＜第２６制御例における電気的構成について＞
次に、図８１１を参照して、本第２６制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成のうち、上述した第２２制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２と異なる内容について説明をする。
【８３２７】
長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａは、バトル演出の第２パート演出（連打操作演出）中に遊技者が長押し操作をした場合におけるＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの減少シナリオが複数規定されているデータテーブルであって、第２パート演出中における操作有効期間中に長押し操作が実行されたと判別した場合に減少シナリオ決定するために参照される。
【８３２８】
本第２６制御例では、連打操作演出における遊技者による操作手段（演出ボタン２２）への操作内容に応じて、異なる態様で残ＨＰ値８９０ａが減少するように構成しており、連打操作演出中に長押し操作をした場合には、長押し判定されている期間の長さに応じて残ＨＰ値８９０ａが減少するように構成している。一方、連打操作演出中に連打操作を実行した場合には、操作手段（演出ボタン２２）が押下されたと判定される毎に残ＨＰ値８９０ａを減少させるか否かを決定する抽選を実行し、その抽選に当選した場合に残ＨＰ値８９０ａを減少させるように構成している。
【８３２９】
このように構成することで、遊技者に対して、連打操作演出の演出結果が表示されるまでの過程を、連打操作演出に遊技者が実行した操作手段への操作方法に応じて異ならせることが可能となる。よって、様々な過程を楽しみたい遊技者に対して異なる操作方法で操作手段を操作させることができるため、遊技者が早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【８３３０】
ここで、図８１３を参照して、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａに規定されている内容について説明をする。図８１３は、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａに規定されている規定内容を模式的に示した図である。図８１３に示した通り、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａには、当否判定結果と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値と、に対応させて異なるシナリオ種別が規定されている。
【８３３１】
各シナリオ種別には、長押し期間の経過に応じて、ＨＰ値を減少させる傾向を異ならせたシナリオが規定されている。そして、残ＨＰ値と、最終ＨＰ値と、に基づいて各タイミングにおけるＨＰ値の減少値が決定される。
【８３３２】
具体的には、今回のバトル演出が実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が、「当たり」であって、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～１９」の範囲に対しては「当たりシナリオ１」が、「２０～６９」の範囲に対しては「当たりシナリオ２」が、「７０～９８」の範囲に対しては「当たりシナリオ３」が、規定されており、今回のバトル演出が実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が、「外れ」であって、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０

～１９」の範囲に対しては「外れシナリオ１」が、「２０～６９」の範囲に対しては「外れシナリオ２」が、「７０～９８」の範囲に対しては「外れシナリオ３」が、規定されている。

【８３３３】

ここで、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａに規定されている各種シナリオ（演出シナリオ）の詳細な内容について説明をする。「当たりシナリオ１」、及び「外れシナリオ１」は、長押し操作が継続して実行されている経過時間中において、前半期間の方が、後半期間よりも残ＨＰを大きく減少させ易くなるようにシナリオ内容（先行型）が規定されており、長押し継続期間が０．５秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が１秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が１．５秒に到達した時点では「減少：大」、長押し継続期間が２秒に到達した時点では「上限」が規定されている。つまり、操作有効期間中に長押し継続期間を最大で３秒とすることができるにも関わらず、長押し継続期間が２秒に到達した時点で、残ＨＰ値を上限まで減少させるシナリオ内容が規定されている。

【８３３４】

このように構成することで、操作有効期間の残時間を残した状態で、長押し操作を継続しているにも関わらず、残ＨＰ値を減少させることができない期間を形成することができるため、上述した非減少期間が設定された場合に、遊技者に対して、非減少期間が設定されたのか、残ＨＰ値が上限値に到達したのかを遊技者に分かり難くすることができる。よって、残ＨＰ値が上限値に到達した場合であっても、再度残ＨＰ値が減少される可能性に期待しながら継続して演出ボタン２２（操作手段）を操作させることができる。

【８３３５】

「当たりシナリオ２」、及び「外れシナリオ２」は、長押し操作が継続して実行されている経過時間中において、平均的に残ＨＰを減少させ易くなるようにシナリオ内容（バランス型）が規定されており、長押し継続期間が０．５秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が１秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が１．５秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が２秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が２．５秒に到達した時点では「減少：中」、長押し継続期間が３秒に到達した時点では「上限」が規定されている。つまり、長押し継続期間の長さに応じて、徐々に残ＨＰ値が減少する演出が実行される。

【８３３６】

このように構成することで、操作有効期間が設定されてから即座に長押し操作を実行しない限り、残ＨＰ値を上限まで減少させ難くすることができるため、遊技者に当否判定結果を予測させ難くすることができる。

【８３３７】

「当たりシナリオ３」、及び「外れシナリオ３」は、長押し操作が継続して実行されている経過時間中において、前半期間よりも後半期間の方が残ＨＰを大きく減少させ易くなるようにシナリオ内容（後半型）が規定されており、長押し継続期間が０．５秒に到達した時点では「減少：小」、長押し継続期間が１秒に到達した時点では「減少：小」、長押し継続期間が１．５秒に到達した時点では「減少：小」、長押し継続期間が２秒に到達した時点では「減少：小」、長押し継続期間が２．５秒に到達した時点では「減少：大」、長押し継続期間が３秒に到達した時点では「上限」が規定されている。つまり、長押し継続期間の長さに応じて、徐々に残ＨＰ値が大きく減少される演出が実行される。

【８３３８】

以上、説明をした通り、本第２６制御例では、バトル演出中の操作有効期間内において、長押し操作を実行した場合には、長押し操作が実行されたと判別した際に、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａを参照して演出シナリオを決定し、決定されたシナリオを参照して長押し継続期間に応じて残ＨＰ値を減少させる演出が実行されるように構成している。このように構成することで、バトル演出中の操作有効期間内にて連打操作を実行した場合とは異なる演出パターンで残ＨＰ値を減少させる演出を実行させ易くすることがで

きるため、遊技者に対して、演出ボタン２２（操作手段）に対する操作方法を選択させる楽しみを提供し易くすることができる。

【８３３９】

図８１１に戻り、説明を続ける。外れ時最終ＨＰ選択テーブル２２２ａａｂは、バトル演出の演出結果として、敵キャラ８８０ａのＨＰゲージ８９０の最終表示態様（減少させることが可能なＨＰ値の上限値）を決定する際に参照されるデータテーブルである。

【８３４０】

ここで、バトル演出は、上述した通り、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を徐々に減少させていく演出であって、対応する特別図柄抽選の結果が大当たりである場合には、当たり演出結果として敵キャラ８８０ａを倒す（ＨＰ値を０まで減少させる）演出結果が決定され、対応する特別図柄抽選の結果が外れである場合には、外れ演出結果として敵キャラ８８０ａを倒すことができない（ＨＰ値を０まで減少させることができない）演出結果が決定されるように構成している。

【８３４１】

さらに、本第２６制御例では、外れ演出結果が表示される場合において、減少させることが可能となる敵キャラ８８０ａのＨＰ値として複数の値の中から１の値を決定可能に構成している。このように構成することで、外れ演出結果となるバトル演出が実行された場合であっても、減少させることが可能なＨＰ値を異ならせることができる。

【８３４２】

加えて、本第２６制御例では、長押し操作を実行した場合において所定期間（最大で２秒）の間、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させることが出来ない非減少期間を設定可能に構成している。よって、バトル演出の最中において操作手段を操作しているにも関わらず、敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少しない事態が発生した場合に、実行中のバトル演出の演出結果が外れ演出結果であって、これ以上ＨＰ値を減少させることが出来ない状況であるのか、非減少期間が設定されているためＨＰ値８９０ａを減少させることが出来ない状況であるのかを遊技者に分かり難くすることができる。

【８３４３】

よって、有効期間が経過する最後まで、遊技者に対して操作手段を意欲的に操作させることが可能となる。

【８３４４】

ここで、図８１４（ａ）を参照して、外れ時最終ＨＰ選択テーブル２２２ａａｂの内容について説明をする。図８１４（ａ）は、外れ時最終ＨＰ選択テーブル２２２ａａｂに規定されている内容を模式的に示した図である。図８１４（ａ）に示した通り、外れ時最終ＨＰ選択テーブル２２２ａａｂには、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値に対応させて様々な最終ＨＰ値が規定されている。

【８３４５】

具体的には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～４」の範囲に対しては、最終ＨＰ値として「５０」が、「５～１４」の範囲に対しては、最終ＨＰ値として「３０」が、「１５～２４」の範囲に対しては、最終ＨＰ値として「２０」が、「２５～４４」の範囲に対しては、最終ＨＰ値として「１０」が、「４５～９８」の範囲に対しては、最終ＨＰ値として「５」がそれぞれ規定されている。

【８３４６】

例えば、最終ＨＰ値として「５０」が選択された場合には、バトル演出の第２パート演出中に演出ボタン２２を操作したとしても、残ＨＰ値が５０を下回ることが無いため、残ＨＰ値８９０ａが５０を示す表示態様（０とＭＡＸの中間位置までを占める表示態様）から可変表示（減少表示）されることが無い演出が実行されることになる。よって、選択された最終ＨＰ値に応じて、第２パート演出中において演出ボタン２２を操作しているにも関わらずＨＰ値を減少させることが出来ない状況を様々なタイミング（異なる残ＨＰ値）で発生させることが可能となる。

【８３４７】

よって、バトル演出の最終ＨＰ値として小さいＨＰ値が選択された場合には、最終ＨＰ値として大きいＨＰ値が選択された場合よりも、ＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａの表示領域を小さく（短く）する演出を進行させることが可能となるため、実行中のバトル演出の演出結果が大当たり当選に対応する演出結果（ＨＰ値が０になる演出結果）となることを期待させ易くすることができる。

【８３４８】

ここで、バトル演出の演出結果が大当たり当選以外（外れ当選）であることを示す演出結果、即ち、最終ＨＰ値として「０」以外が選択されたバトル演出が実行された場合であっても、大当たり当選に対応する演出結果（ＨＰ値が０になる演出結果）が表示されることを期待させるために、最終的に減少させることが可能なＨＰ値（最終ＨＰ値）を異ならせて設定可能にすることが考えられる。

【８３４９】

つまり、バトル演出の演出結果が外れ当選である場合において、ＨＰ値を「０」近くまで減少させることが可能なバトル演出（最終ＨＰ値として小さな値（「５」等）が設定されたバトル演出）と、ＨＰ値を「０」近くまで減少させることが出来ないバトル演出（最終ＨＰ値として大きな値（「５０」等）が設定されたバトル演出）と、を実行可能にすることで、外れ当選である場合に常に一定のＨＰ値（例えば、「５」）までＨＰ値を減少させることが可能なバトル演出が実行される場合と比べて、所定のＨＰ値（例えば、「５」）まで減少させることが出来ないバトル演出が実行される分、バトル演出にて所定のＨＰ値（例えば、「５」）までＨＰ値が減少した場合における大当たり当選の期待度を高めることができる。

【８３５０】

このように構成することで、遊技者に対してＨＰ値が「０」となるか否かだけでなく、ＨＰ値の減少過程についても興味を持たせることができるため、バトル演出が実行される長期間の間、実行される演出の内容に対して遊技者を注視させることができる。

【８３５１】

なお、上述した通り、最終的に減少させることが可能なＨＰ値（最終ＨＰ値）を異ならせて設定可能に構成した場合には、少なくとも、他の演出結果よりも最終ＨＰ値として大きな値（例えば、「５０」等）が設定されるバトル演出を実行させる必要がある。そして、最終ＨＰ値として大きなＨＰ値が設定されたバトル演出が実行された場合には、他のバトル演出よりも早い段階でＨＰ値が最終ＨＰ値に到達してしまうことで、遊技者に対して、実行中のバトル演出の演出結果が外れ演出結果であることを早期に把握されてしまうという問題があった。

【８３５２】

これに対して本第２６制御例では、操作手段への操作に基づいてＨＰ値を減少させることが可能な操作演出期間中に、操作手段を操作したにも関わらず、且つ、最終ＨＰ値に到達していないにも関わらず、ＨＰ値を減少させることが出来ない（困難となる）期間として、非減少期間を設定可能に構成している。

【８３５３】

このように非減少期間を設定可能に構成することにより、最終ＨＰ値に到達していない状態であっても非減少期間が設定されている間、ＨＰ値の減少を止めることができるため、バトル演出中において、操作手段を操作したにも関わらずＨＰ値が減少しない事態が生じたとしても、最終ＨＰ値に到達したのか、非減少期間が設定されたのかを遊技者に把握させ難くすることができる。よって、バトル演出中にＨＰ値が再度減少される（非減少期間が解除される）ことを期待させることができ、演出効果を高めることができる。

【８３５４】

図８１４（ａ）に示した通り、本第２６制御例では、特別図柄抽選の結果が外れ当選であることを示すバトル演出（外れバトル演出）の最終ＨＰ値として、「５」，「１０」，「２０」，「３０」，「５０」の５種類を決定可能に構成し、最終ＨＰ値として小さい値の方が、大きい値よりも選択され易くなるように構成しており、外れバトル演出が実行さ

れた場合の約５％で最終ＨＰ値「５０」が、約１０％で最終ＨＰ値「３０」が、約１０％で最終ＨＰ値「２０」が、約２０％で最終ＨＰ値「１０」が、約５５％で最終ＨＰ値「５」が、選択されるように構成している。

【８３５５】

よって、バトル演出が実行された場合には、ＨＰ値「５０」，「３０」，「２０」，「１０」，「５」の何れかまでＨＰ値が減少する毎に、その段階でＨＰ値の減少が終了してしまうか否か（最終ＨＰ値であるか否か）に興味を持たせることができると共に、ＨＰ値の減少が継続した場合において大当たり当選の期待度を高めさせることができる。

【８３５６】

突入抽選テーブル２２２ａａｃは、遊技者による操作手段（演出ボタン２２）への操作に基づいて演出態様を可変させる（ＨＰ値を減少させる）ことが可能な操作演出（バトル演出）における操作有効期間（有効期間）中に、演出態様が可変されることの無い非可変期間（非減少期間）を設定するか否かを決定するための突入抽選を実行する際に参照されるデータテーブルであって、バトル演出の第２パート演出中に遊技者による操作手段への操作に基づいて敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させることを決定した場合に参照される。

【８３５７】

突入抽選テーブル２２２ａａｃを参照して実行される突入抽選に当選した場合には、非減少期間が設定される。この非減少期間中は、遊技者が操作手段を操作したとしてもその操作に基づいてＨＰ値が減少されないように構成している。非減少期間が設定されている間は、非減少期間を解除するか否かを決定するための解除抽選が所定間隔（０．５秒間隔）で実行されるように構成しており、解除抽選に当選した場合、或いは、予め定められている非減少期間の上限期間（３秒）が経過した場合に、非減少期間が解除されるように構成している。

【８３５８】

ここで、図８１４（ｂ）を参照して、突入抽選テーブル２２２ａａｃの詳細な内容について説明をする。図８１４（ｂ）は、突入抽選テーブル２２２ａａｃに規定されている内容を模式的に示した図である。図８１４（ｂ）に示した通り、突入抽選テーブル２２２ａａｃには、当否判定結果（特別図柄抽選結果）と、現時点における残ＨＰ値と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値とに対応させて、突入抽選の結果（当選、非当選）が規定されている。

【８３５９】

具体的には、当否判定結果が「当たり」で、残ＨＰ値が「１００」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値の取り得る全範囲「０～９８」に対して、突入抽選「非当選」が規定されている。つまり、残ＨＰ値が「１００」、即ち、敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少していない状態では非減少期間が設定されることが無いように構成している。このように構成することで、バトル演出が実行されたにも関わらず、操作手段への操作に基づいてＨＰ値を減少させること無くバトル演出が終了してしまい、遊技者の操作手段を操作しようとする操作意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８３６０】

また、残ＨＰ値が「９９～７０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～７９」の範囲に対して「非当選」が、「８０～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「６９～４０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５４」の範囲に対して「非当選」が、「５５～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「３９～２０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～３４」の範囲に対して「非当選」が、「３５～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「１９～１」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値の取り得る全範囲「０～９８」に対して、突入抽選「当選」が規定されている。

【８３６１】

同様に、当否判定結果が「外れ」で、残ＨＰ値が「１００」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値の取り得る全範囲「０～９８」に対して、突入抽選「非当選」が規定されており、残ＨＰ値が「９９～７０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して「非当選」が、「９５～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「６９～４０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～７９」の範囲に対して「非当選」が、「８０～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「３９～２０」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～５４」の範囲に対して「非当選」が、「５５～９８」の範囲に対して「当選」が規定されており、残ＨＰ値が「１９～１」の範囲である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して「非当選」が、「９５～９８」の範囲に対して「当選」が規定されている。

【８３６２】

つまり、本第２６制御例では、残ＨＰ値が小さくなるほど突入抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出が実行されたにも関わらず、ＨＰ値をあまり減少させていない状態で非減少期間が設定されてしまうことを抑制することができる。

【８３６３】

また、特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合の方が、外れ当選している場合よりも、突入抽選の当選確率が高くなるように構成している。つまり、最終ＨＰ値として「０」が設定されるバトル演出（当たりバトル演出）が実行される場合の方が、最終ＨＰ値として「０」以外の値が設定されるバトル演出（外れバトル演出）が実行される場合よりも、非減少期間が設定され易くなるように構成している。

【８３６４】

このように構成することで、何れの演出結果が設定されるバトル演出であっても、ＨＰ値が「０」となるよりも前の所定タイミングにて、ＨＰ値が減少しない期間（非減少期間が設定される期間、最終ＨＰ値に到達した以降の期間）を設定し易くすることができる。よって、ＨＰ値が減少しない期間が設定された時点で実行中のバトル演出の演出結果を予測させ難くすることができる。

【８３６５】

さらに、ＨＰ値が減少しない期間が設定された場合であっても、再度、ＨＰ値を減少させる期間が設定される可能性を残すことができるため、ＨＰ値が減少しない期間が設定された後も、再度ＨＰ値が減少することを期待しながらバトル演出を続行（操作手段への操作を続行）させることができる。

【８３６６】

また、詳細な説明は後述するが、本第２６制御例では、１回の操作有効期間（有効期間）に対して、非減少期間を１回のみ設定可能に構成している。つまり、操作有効期間中であって、１度も非減少期間が設定されていない状態においてのみ突入抽選を実行可能に構成している。よって、１回の操作有効期間内で非減少期間が複数回設定されてしまい、ＨＰ値を減少させることが可能な期間が殆ど設定されること無く操作有効期間が経過してしまうことを抑制することができる。

【８３６７】

解除抽選テーブル２２２ａａｄは、設定されている非減少期間を解除するための解除抽選を実行する際に参照されるデータテーブルである。解除抽選は非減少期間が設定されている間、所定間隔（０．５秒間隔）で実行されるものであって、非減少期間中の経過時間が長くなる程（残操作有効期間が短くなる程）、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、非減少期間が無用に長く継続してしまうことを抑制することができる。

【８３６８】

なお、本第２６制御例では、非減少期間が継続する期間に操作有効期間（５秒）よりも

短い期間で上限を設けており、非減少期間が３秒継続した場合に、非減少期間の上限に到達し非減少期間が終了するように構成している。つまり、非減少期間を解除するための解除抽選に当選すること無く、繰り返し解除抽選が実行される事態が発生した場合であっても、時間経過に基づいて非減少期間を終了させることができるように構成している。このように構成することで、非減少期間が無用に長く継続してしまうことを抑制することができる。

【８３６９】

また、非減少期間が設定された時点における残ＨＰ値の値が大きい場合の方が、残ＨＰ値の値が小さい場合よりも、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、残ＨＰ値が大きい状態で非減少期間が設定された場合の方が、非減少期間が長時間継続し難くすることができる。

【８３７０】

追加減少値選択テーブル２２２ａａｅは、非減少期間が解除された場合に付与されるＨＰ値の減少値を決定する際に参照されるデータテーブルであって、非減少期間を終了させるための終了条件（解除抽選の当選、時間経過）が成立した場合に参照される。本第２６制御例におけるパチンコ機１０は、残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達していない状態であっても、操作手段への操作に基づいてＨＰ値が減少されることの無い非減少期間を設定可能に構成しており、バトル演出中の操作有効期間内において操作手段を操作したにも関わらず残ＨＰ値が減少しない事態が発生した場合であっても、残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達したか否かを遊技者に把握させ難くするように構成している。

【８３７１】

そして、操作有効期間内に非減少期間が設定された場合、即ち、操作手段への操作に基づいて残ＨＰ値を減少させることが可能な期間が短くなった場合であっても、操作有効期間内に残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達し易くするために、非減少期間が終了した時点において、操作手段への操作に基づくこと無く、残ＨＰ値を減少させる追加減少演出を実行可能に構成している。このように構成することで、非減少期間が設定された場合であっても、操作有効期間に残ＨＰ値を最終ＨＰ値へと到達させ易くすることができるため、最終ＨＰ値が「０」に設定される演出結果を表示可能なバトル演出、即ち、大当たり当選を示すバトル演出が実行されたにも関わらず、操作有効期間内に残ＨＰ値を「０」まで減少させることが出来ず、遊技者の操作手段をしようとする意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８３７２】

ここで、追加減少演出にて減少させるＨＰ値を決定する際に参照される追加減少値選択テーブル２２２ａａｅに規定されている詳細な内容について、図８１６を参照して説明をする。図８１６は、追加減少値選択テーブル２２２ａａｅの規定内容を模式的に示した図である。図８１６に示した通り、追加減少値選択テーブル２２２ａａｅには、実行中のバトル演出の演出結果に対応する特別図柄抽選の当否判定結果、残ＨＰ値と、最終ＨＰ値との差分を示す差分ＨＰ値、非減少期間が継続した期間の長さを示すための非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値、及び、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値に対応させて、異なる減少値が規定されている。

【８３７３】

具体的には、当否判定結果が「当たり」で、差分ＨＰ値が「１～１９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「５」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１９８」の範囲に対して減少値「５」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「５」が、「１８０～１９８」

の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値に関わらず、減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。

【８３７４】

ここで、減少値「差分ＨＰ全て」とは、算出された差分ＨＰ値と同一の値を示すものである。つまり、追加減少演出にて減少させるＨＰ値として「差分ＨＰ全て」が選択された場合には、追加減少演出にて減少させることが可能な全ＨＰ値を減少させる演出が実行されることになる。例えば、最終ＨＰ値が「０」に設定される当たりバトル演出において、追加減少演出にて減少させるＨＰ値として「差分ＨＰ全て」が選択された場合には、追加減少演出によって敵キャラ８８０ａが倒れる演出（残ＨＰ値を０まで減少する演出）が実行される。このように、ＨＰ値を減少させることが出来ない非減少期間が設定された場合であっても、非減少期間が解除された場合に実行される追加減少演出の演出態様によっては、非減少期間が設定されない場合よりも非減少期間が設定された場合の方がバトル演出の演出結果を遊技者に早期に報知可能となるように構成することで、非減少期間が設定されたことによって遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８３７５】

一方、最終ＨＰ値が「０」以外に設定される外れバトル演出において、追加減少演出にて減少させるＨＰ値として「差分ＨＰ全て」が選択された場合には、追加減少演出によって敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を最終ＨＰ値まで減少させる演出が実行される。このように構成することで、追加減少演出にてＨＰ値を大きく減少させることができるため、残り期間で残ＨＰ値を「０」まで減少させることができるのではと思わせ、意欲的に操作手段を操作させることができる。

【８３７６】

また、非減少期間が解除されたタイミングで「差分ＨＰ全て」を減少値とした追加減少演出が実行されることで、残ＨＰ値が最終ＨＰ値へと減少されるため、追加減少演出が実行される前の期間（非減少期間）と、追加減少演出が実行された後の期間（残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達した後の期間）と、を共に、ＨＰ値を減少させることが出来ない期間とすることができる。このように構成することで、遊技者に対して、操作手段への操作に基づいてＨＰ値を減少させることが出来ない期間が継続している状態において、途中でＨＰ値を減少させる演出が割り込む可能性があると思わせることができる。よって、残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達してしまい、操作手段を操作したとしても残ＨＰ値を減少させることが出来ない状況が継続する事態が発生した場合であっても、遊技者に対して、残ＨＰ値が減少する可能性を持たせながらバトル演出を注視させることができる。

【８３７７】

つまり、本第２６制御例では、差分ＨＰ値が同一の範囲内である場合には、非減少期間が長くなる程、非減少期間が解除された場合に実行される追加減少演出にて減少されるＨＰ値が大きくなり易くなるように構成している。このように構成することで、非減少期間が長く設定されたことによりバトル演出にてＨＰ値を最終ＨＰ値へと減少させることが出来ない事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【８３７８】

また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が上限に到達した場合、即ち、非減少期間中に実行される解除抽選に当選すること無く、非減少期間の上限期間に到達してしまった場合には、途中で解除抽選に当選した場合よりも、ＨＰ値を大きく減少させる追加減少演出が実行され易くなるように構成している。このように構成することで、非減少期間が設定された場合において、いち早く非減少期間が解除されることを所望する遊技と、非減少期間が上限まで継続することを所望する遊技と、を遊技者に行わせることができる。

【８３７９】

図８１６に戻り、追加減少値選択テーブル２２２ａａｅに規定されている内容について引き続き説明をする。当否判定結果が「当たり」で、差分ＨＰ値が「２０～６９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第

２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「１０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１５」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されている。

【８３８０】

当否判定結果が「当たり」で、差分ＨＰ値が「７０～９９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「２０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「２５」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「２０」が規定されている。

【８３８１】

以上、説明をした通り、追加減少値選択テーブル２２２ａａｅには、対応する特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が同一である場合であって、且つ、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が同一の範囲内である場合には、追加減少演出が実行される時点における差分ＨＰ値が大きくなる程、追加減少演出にて減少させることが可能なＨＰ値として大きな値が選択され易くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出の操作有効期間において、ＨＰ値を殆ど減少させていない状態で非減少期間が設定された場合には、ＨＰ値を減少させた状態で非減少期間が設定された場合よりも、追加減少演出にてＨＰ値を大きく減少させることができるため、操作有効期間中に非減少期間が設定されたとしても、遊技者に違和感を与えること無く、非減少期間が解除された以降も演出ボタン２２への操作を継続させ易くすることができる。

【８３８２】

また、差分ＨＰ値が大きい場合よりも小さい場合の方が追加減少演出にて減少させるＨＰ値（減少値）として差分ＨＰ値が選択される割合が高くなるように構成している。このように構成することで、差分ＨＰ値が大きい状態、即ち、バトル演出が実行されてからＨＰ値が減少されていない状態において非減少期間が設定された場合には、非減少期間が解除された場合に実行される追加減少演出にて、最終ＨＰ値までＨＰ値が減少され難くすることができる。よって、バトル演出中に遊技者が演出ボタン２２を操作したことに基づいてＨＰ値を減少させる機会を無用に排除してしまうことを抑制することができる。

【８３８３】

一方、当否判定結果が「外れ」で、差分ＨＰ値が「１～１９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２

２３ｖｇの値に関わらず、即ち、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１９８」の全範囲に対して減少値「０」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「５」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「３」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。

【８３８４】

また、当否判定結果が「外れ」で、差分ＨＰ値が「２０～６９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１９８」の範囲に対して減少値「５」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１５」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１５」が規定されている。

【８３８５】

当否判定結果が「外れ」で、差分ＨＰ値が「７０～９９」の範囲内であり、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１～５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１７９」の範囲に対して減少値「０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１０」が規定されている。また、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「５０１～１５００」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１０」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「１５」が規定されており、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１５０１～２９９９」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１７９」の範囲に対して減少値「１５」が、「１８０～１９８」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「３０００」、即ち、上限に到達した場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対して減少値「０」が、「１００～１９８」の範囲に対して減少値「差分ＨＰ全て」が規定されている。

【８３８６】

以上、説明をした通り、実行中のバトル演出が外れバトル演出である場合には、当たりバトル演出である場合よりも、ＨＰ値を減少させる追加減少演出が実行され難くなるように構成している。このように構成することで、当たりバトル演出よりも大きな値が最終ＨＰ値として設定される外れバトル演出において、追加減少演出によってＨＰ値が減少してしまい、バトル演出中に遊技者が演出ボタン２２を操作したことに基づいてＨＰ値を減少させる機会を無用に排除してしまうことを抑制することができる。

【８３８７】

なお、本第２６制御例では、図８１６に示した通り、追加減少演出にて減少させるＨＰ値（減少値）として「０」を選択可能に構成している。減少値「０」が選択された場合には、非減少期間が解除されたことを示す演出のみが実行され、味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる演出が実行されない演出態様が設定されるように構成している。このように構成することで、減少値「０」が選択された場合であっても、遊技者に対して非減少期間が解除されたことを分かり易く報知することができる。

【８３８８】

なお、減少値「０」が設定された場合に実行される追加減少演出の演出態様として、別の演出態様を設定するように構成しても良く、例えば、味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａに向かって攻撃を仕掛けるが、敵キャラ８８０ａが攻撃を避けることでＨＰ値が減少しないことを示す演出態様を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、追加減少演出が実行される場合において、選択された減少値に関わらず、味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａを攻撃する演出が実行されるため、減少値「０」が選択されたことを気付かれ難くすることができる。また、この場合、演出ボタン２２への操作に基づいて敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる演出の一部においても、敵キャラ８８０ａが味方キャラ８０１ａの攻撃を避ける演出態様が設定されるように構成すると良い。このように構成することで、追加減少演出以外の演出においても減少値「０」に対応した演出を実行することができるため、追加減少演出にて減少値「０」に対応した演出が実行された場合であっても、遊技者に違和感を与え難くすることができる。

【８３８９】

チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆは、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出において、大当たり当選の期待度を高めるためのチャンスアップ演出を実行するか否かを決定する際に参照されるデータテーブルである。本第２６制御例では、上述した各制御例と同様に、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へと特別図柄抽選の結果を示すための変動パターンコマンドが出力されると、音声ランプ制御装置１１３において、受信した変動パターンコマンドに対応する表示用変動パターン（変動演出の演出パターン）を設定する処理が実行される。

【８３９０】

この表示用変動パターンの種別は、主制御装置１１０にて設定された変動パターンコマンドに含まれる情報に基づいて決定されるものであり、設定される種別に応じて、大当たり当選期待度が異なるものである。具体的には、主制御装置１１０のタイマ割込処理（図６９８参照）にて実行される特図別図柄変動パターン選択処理２２（図７０１のＦ２０９参照）において、変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ（図６９２参照）を参照して変動パターンを選択（決定）する処理（図７０１のＦ４０３～Ｆ４０５参照）を実行し、選択された変動パターンを示すための特図変動パターンコマンドが設定される（図７０１のＦ４０６参照）。

【８３９１】

変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ（図６９２参照）には、特別図柄抽選の結果や、設定されている遊技状態に対応させて異なるデータテーブルが規定されており、各条件に応じて異なる変動パターン（変動時間）を選択するように構成されている。より具体的には、同一の遊技状態（例えば、通常状態）においては、変動パターンとして変動時間が長い（９０秒）変動パターンは、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合の方が、外れ当選である場合よりも選択され易くなるように規定されており、一方、変動時間が短い（７秒）変動パターンは、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合よりも、外れ当選である場合の方が選択され易くなるように規定されている。つまり、選択された変動パターン（変動時間）によって、大当たり当選の期待度を異なるように構成している。

【８３９２】

ここで、主制御装置１１０から出力される変動パターンコマンド（特図変動パターンコマンド）を受信した場合に音声ランプ制御装置１１３にて設定される表示用変動パターン（変動演出の演出パターン）は、少なくとも、特別図柄変動の変動時間の長さに対応した

演出パターンが設定されるように構成している。つまり、変動時間が９０秒の変動パターンを示す変動パターンコマンドを受信した場合には、９０秒間の変動演出が実行される演出態様に対応する演出パターン（変動パターン）が決定され、決定された演出パターンに対応する表示用変動パターンコマンドが設定されるように構成している。よって、音声ランプ制御装置１１３にて設定される変動パターン（演出パターン）の種別に応じて大当たり当選の期待度が異なる。

【８３９３】

チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆには、チャンス予告抽選の当選確率が、音声ランプ制御装置１１３にて設定される変動パターン種別毎に異ならせるように規定しており、大当たり当選期待度が高い変動パターン（長時間の特図変動に対応する演出パターン）の方が、大当たり当選期待度が低い変動パターン（短時間の特図変動に対応する演出パターン）よりもチャンス予告抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、チャンス予告が実行された場合における大当たり当選期待度を高めることが可能となるため、チャンス予告演出は大当たり当選する期待度が高いことを示すための演出態様となる。

【８３９４】

ここで、図８１７（ａ）を参照して、チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆの詳細な内容について説明をする。図８１７（ａ）は、チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆに規定されている内容を模式的に示した図である。図８１７（ａ）に示した通り、チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆには、今回の変動演出に対応する当否判定結果（特別図柄抽選の抽選結果）と、今回の変動演出の変動パターン種別（演出パターンの種別）と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値とに基づいてチャンス予告抽選の当否が規定されている。

【８３９５】

具体的には、当否判定結果が「当たり」であって、選択されている変動パターン種別が「変動パターン１」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９８」の全範囲に対して、チャンス予告抽選「当選」が規定されている。また、変動パターン種別が「変動パターン２」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して、チャンス予告抽選「当選」が、「９５～９８」の範囲に対して、チャンス予告抽選「非当選」が規定されている。そして、選択されている変動パターン種別が、変動パターン種別「変動パターンｎ」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して、チャンス予告抽選「非当選」が、「９５～９８」の範囲に対して、チャンス予告抽選「当選」が規定されている。

【８３９６】

一方、当否判定結果が「外れ」であって、選択されている変動パターン種別が「変動パターン２」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９４」の範囲に対して、チャンス予告抽選「当選」が、「９５～９８」の範囲に対して、チャンス予告抽選「非当選」が規定されている。そして、選択されている変動パターン種別が、変動パターン種別「変動パターンｎ＋１」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値が「０～９８」の全範囲に対して、チャンス予告抽選「非当選」が規定されている。

【８３９７】

ここで、音声ランプ制御装置１１３にて選択可能な変動パターン（演出パターン）の種別は、主制御装置１１０から出力される変動パターンコマンドに含まれる情報（変動種別を示す情報）に基づいて決定されるものであり、決定された変動パターン（演出パターン）に応じた変動演出が第３図柄表示装置８１の表示面にて実行されるものである。

【８３９８】

また、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制するために、近年では、音声ランプ制御装置１１３にて決定される変動パターン（演出パターン）の種別を多く設けるものが主流となっている。この場合、主制御装置１１０から特定変動パターンコマンドが出力

されると、その特定変動パターンコマンドに含まれる特定情報と、音声ランプ制御装置１１３にてランダムに更新される演出乱数値と、に基づいて異なる種別の変動パターン（演出パターン）を選択可能に構成すると良い。

【８３９９】

このように構成することで、主制御装置１１０にて設定される変動パターンの種類よりも、音声ランプ制御装置１１３にて設定される変動パターン（演出パターン）の種類を多くし易くすることができる。よって、容量に制限のある主制御装置１１０にて選択される変動種別の種類を増加させること無く、実行される変動演出の種類を増加させることができる。

【８４００】

図８１７（ａ）に示したチャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆでは、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合の方が、特別図柄抽選の結果が外れである場合よりも、選択され易い順で各変動パターン種別が規定されている。具体的には、「変動パターン１」が、最も大当たり当選時に選択される割合が高い（大当たり当選時のみ選択される）変動パターンであって、「変動パターンｎ＋１」が最も大当たり当選時に選択される割合が低い（外れ当選時のみ選択される）変動パターンである。

【８４０１】

ここで、本第２６制御例では、音声ランプ制御装置１１３にて選択される変動パターン種別の中に、大当たり当選した場合にのみ選択される変動パターン（変動パターン１）と、大当たり当選していない場合にのみ選択される変動パターン（変動パターンｎ＋１）を、有している。つまり、大当たり当選した特別図柄抽選に対応する変動パターン種別は、「変動パターン１」～「変動パターンｎ」までの範囲から選択され、外れ当選した特別図柄抽選に対応する変動パターン種別は、「変動パターン２」～「変動パターンｎ＋１」までの範囲から選択されるように構成している。

【８４０２】

そして、「変動パターン２」～「変動パターンｎ」は、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合も、外れ当選である場合も、選択され得る変動パターン種別となり、「変動パターン２」から昇順で大当たり期待度が高くなるように構成されている。

【８４０３】

このように構成することで、選択される変動パターン種別として、大当たり確定の変動パターンと、外れ確定の変動パターンと、を設けることができるため、大当たり、外れ何れもあり得る変動パターンのみを設けた場合に比べて、変動パターン（演出パターン）を選択する際の振り分けが偏ってしまい、予め規定されている変動パターン種別に対する大当たり当選期待度とは異なる頻度で変動演出が実行され難くすることができる。

【８４０４】

チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇは、チャンス予告抽選に当選した場合に実行されるチャンス予告の演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルである。本第２６制御例では、１の変動演出において、複数のチャンス予告を実行可能に構成しており、例えば、図８０９を参照して上述した通り、様々なコメントが表示されるコメント表示部ＨＲ５２の表示態様（コメント表示態様ｃｈ１）を可変させるチャンス予告演出や、実行中の保留図柄ｈｒ０の表示態様（実行中保留表示態様）を可変させるチャンス予告演出や、変動表示に用いられるキャラ８０１の表示態様（キャラ表示態様ｃｈ３）を可変させるチャンス予告演出等を実行可能に構成している。

【８４０５】

そして、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇには、実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果と、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値とに対応させて、何れの表示態様をどの程度可変させるかを示す情報（可変後のレベル情報）を含む態様変化シナリオ（変化シナリオ）が規定されている。加えて、強制的にチャンス予告演出を実行すると判定された変動演出に対して、実行される変動演出に対応する特別図柄抽選の結果と、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値とに対応させて、特殊変化シナリオが規定さ

れている。
【８４０６】
ここで、本第２６制御例では、大当たり当選すること無く実行される複数回の特別図柄変動（外れ変動）に対応する変動演出（外れ変動演出）の実行回数や、実行内容に応じて、強制的にチャンス予告演出を実行可能に構成している。例えば、大当たり当選すること無く、外れ変動演出が５０回連続で実行される場合であって、且つ、その５０回の外れ変動演出の演出態様として、チャンス予告演出が一度も実行されなかった場合には、次に実行される外れ変動演出の演出態様として、チャンス予告演出を含む演出態様が強制的に選択されるように構成している。
【８４０７】
このように構成することで、チャンス予告演出が実行されない外れ変動演出が連続して実行されてしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【８４０８】
加えて、本第２６制御例では、過去に実行された変動演出に用いられたチャンス予告演出の演出態様に関する情報を記憶可能な記憶手段を有しており、強制的にチャンス予告演出を実行すると決定された変動演出に用いられるチャンス予告演出の演出態様を、記憶手段が記憶している情報に基づいて選択可能に構成している。例えば、大当たり当選する確率が高い（大当たり期待度が高い）チャンス予告演出の演出態様（チャンス態様）が外れ変動演出の演出態様として選択されたことを示す情報が記憶手段に記憶されている状態で、強制的にチャンス予告演出を選択する際には、強制的にチャンス予告演出が実行される変動演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果となる（当たり変動演出である）場合には、記憶手段に記憶されている情報に含まれる演出態様をチャンス予告演出の演出態様として選択可能に構成している。このように構成することで、大当たり当選する確率が高い（大当たり期待度が高い）チャンス予告演出の演出態様（チャンス態様）が連続した外れ変動演出の演出態様として設定されてしまい、遊技者に不信感を与えてしまう事態が発生すること抑制することができる。
【８４０９】
一方、強制的にチャンス予告演出実行される変動演出の演出結果が外れを示す演出結果となる（外れ変動演出である）場合には、記憶手段に記憶されている情報に含まれる演出態様以外の演出態様をチャンス予告演出の演出態様として選択可能に構成している。このように構成することで、大当たり当選する確率が高い（大当たり期待度が高い）チャンス予告演出の演出態様（チャンス態様）が連続した外れ変動演出の演出態様として設定されてしまい、遊技者に不信感を与えてしまう事態が発生することを抑制することができる。
【８４１０】
さらに、本第２６制御例では、記憶手段に記憶されている情報に基づいて、前回の当たり変動演出にて用いられたチャンス予告演出の演出態様を読み出し、読み出した演出態様を、強制的にチャンス予告演出が実行される外れ変動演出の演出態様として設定可能に構成している。
【８４１１】
このように構成することで、チャンス予告演出の演出態様のうち、一部の演出態様が当たり変動演出の演出態様としてのみ偏って選択され続けてしまうことを抑制することができるため、チャンス予告演出の演出態様として選択可能な複数の演出態様のそれぞれに対する大当たり当選への期待度を適正に維持することができる。
【８４１２】
なお、前回の当たり変動演出にて設定されたチャンス予告演出の演出態様を、強制的にチャンス予告演出が実行される外れ変動演出の演出態様として設定可能な構成を用いた場合であって、例えば、前回の当たり変動演出にて設定されたチャンス予告演出の演出態様が当たり変動演出に対してのみ選択可能に規定されている場合には、その演出態様を特殊仕様として外れ変動演出に用いても良い。このように構成することで、予め定められている規定内容とは異なる変動演出を実行することが可能となるため、実行される変動演出の

バリエーションを増加させることができる。また、前回の当たり変動演出にて設定されたチャンス予告演出の演出態様が当たり変動演出に対してのみ選択可能に規定されている場合には、前々回の当たり変動演出にて設定されたチャンス予告演出の演出態様を、強制的にチャンス予告演出が実行される外れ変動演出の演出態様として設定可能とするために、記憶手段に複数の情報を記憶させることができるように構成しても良い。

【８４１３】

ここで、図８１７（ｂ）を参照して、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇの詳細な内容について説明をする。図８１７（ｂ）は、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに規定されている内容を模式的に示した図である。図８１７（ｂ）に示した通り、特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が「当たり（通常）」であって、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対しては「変化シナリオ１」が、「１００～１５９」の範囲に対しては「変化シナリオ２」が、「１６０～１８９」の範囲に対しては「変化シナリオ３」が、「１９０～１９６」の範囲に対しては「変化シナリオ４」が、「１９７，１９８」の範囲に対しては「変化シナリオ５」が、それぞれ規定されている。また、特別図柄抽選の結果（当否判定結果）が「外れ（通常）」であって、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲に対しては「変化シナリオ６」が、「１００～１５９」の範囲に対しては「変化シナリオ７」が、「１６０～１８９」の範囲に対しては「変化シナリオ８」が、「１９０～１９５」の範囲に対しては「変化シナリオ９」が、「１９６，１９７」の範囲に対しては「変化シナリオ１０」が、「１９８」の値に対しては「変化シナリオ１１」がそれぞれ規定されている。

【８４１４】

ここで、特別図柄抽選の結果（当否判定結果）の「当たり（通常）」、及び「外れ（通常）」とは、チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆを参照して実行されるチャンス予告抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出が実行される通常パターンを示すものであって、チャンス予告抽選に当選した場合においてチャンス予告演出の演出態様を選択する場合には、特別図柄抽選の結果（当否判定結果）の「当たり（通常）」、及び「外れ（通常）」の何れかから演出態様が選択される。

【８４１５】

次に、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに規定されている各態様変化シナリオのうち、チャンス予告演出が通常パターンで実行される場合に選択される態様変化シナリオ（「変化シナリオ１」～「変化シナリオ１１」）の内容について説明をする。この態様変化シナリオは、変動演出中に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される複数の態様のうち、チャンス予告演出の対象となる対象態様（コメント表示部ＨＲ５２、実行中保留図柄ｈｒ０、キャラ８１０）の表示態様（コメント表示態様Ｃｈ１、実行中保留表示態様Ｃｈ２、キャラ表示態様Ｃｈ３）を可変させるための情報のうち、少なくとも、可変させることが可能な段階レベルの上限値が規定されているものである。

【８４１６】

本第２６制御例では、各対象態様の表示態様を初期態様（デフォルト）を含め４段階に可変表示可能に構成しており、初期態様が「ＬＶ１」となり、「ＬＶ２」，「ＬＶ３」，「ＬＶ４」とレベルが上昇する毎に大当たり期待度が高くなるように構成している。例えば、チャンス予告演出の対象態様であるコメント表示態様Ｃｈ１（図８０９参照）は、設定される段階レベルに応じて、コメント表示部ＨＲ５２の背景色を可変表示させるチャンス予告演出が実行されるように構成しており、「ＬＶ１」は背景色「白色」、「ＬＶ２」は背景色「黄色」、「ＬＶ３」は背景色「赤色」、「ＬＶ４」は背景色「虹色」が表示されるように構成している。

【８４１７】

なお、図８１７（ｂ）に示したチャンス態様選択テーブル２２２ａａｇには、態様変化シナリオに含まれる情報として、可変させることが可能な段階レベルの上限値を記載しているが、それ以外にも、例えば、初期態様「ＬＶ１」から上限値の段階レベル（例えば「ＬＶ３」）へと可変させるための過程（「ＬＶ１」から「ＬＶ３」へと直接可変させる過

程、又は、「ＬＶ１」、「ＬＶ２」、「ＬＶ３」の順に可変させる過程、又は、初期態様「ＬＶ１」を表示させること無く「ＬＶ３」を表示させる過程等）を示す情報や、段階レベルを可変させるタイミング（例えば、対象態様が表示された直後や、表示されてから所定期間経過後等）を示す情報も含まれている。これにより、設定された変化シナリオを参照することで各対象態様の表示態様を適正に可変表示させることができる。

【８４１８】

具体的には、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇは、図８１７（ｂ）に示した通り、チャンス予告演出抽選に当選した場合に参照される通常データテーブルと、強制的にチャンス予告演出を実行する実行条件が成立した場合に参照される強制データテーブルと、を有しており、当否判定結果と、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値とに対応させて異なる態様変化シナリオが規定されている。

【８４１９】

図８１７（ｂ）に示した通り、段階レベル「ＬＶ４」は、大当たり当選している場合にのみ決定される段階レベルとなっており、他の段階レベルに対して選択され難く構成している。このように構成することで、段階レベル「ＬＶ４」のチャンス予告演出が実行された場合には、特別図柄変動が停止表示されるよりも前に、大当たり当選していることを遊技者に把握させることができる。

【８４２０】

また、特別図柄変動期間中において、時系列的に実行されるチャンス予告演出の対象態様（ｃｈ１～ｃｈ３）のうち、先に実行される対象態様（コメント表示態様ｃｈ１）よりも、後に実行される対象態様（キャラ表示態様ｃｈ３）の方が、段階レベル「ＬＶ４」が決定され易くなるように構成している。このように構成することで、特別図柄変動が実行された直後に、段階レベル「ＬＶ４」のチャンス予告演出が実行されてしまい、遊技者が実行中の変動演出に興味を持たない事態が発生することを抑制することができる。

【８４２１】

次に、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇが有する強制データテーブルの内容について説明をする。当否判定結果が「当たり」である場合には、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～１９８」、即ち、全範囲に対して、態様変化シナリオとして「特殊変化シナリオ１」が規定されている。また、当否判定結果が「外れ」であって、取得した第２演出カウンタ２２３ｖｇの値が「０～９９」の範囲には、態様変化シナリオとして「特殊変化シナリオ２」が規定され、「１００～１５９」の範囲には、態様変化シナリオとして「特殊変化シナリオ３」が規定され、「１６０～１９８」の範囲には、態様変化シナリオとして「特殊変化シナリオ４」が規定されている。

【８４２２】

ここで、「特殊変化シナリオ１」が設定された場合、即ち、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が５０に到達した特別図柄抽選が当たり当選である場合には、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている前回外れ高レベル対象態様と同一の高レベル対象態様が規定されている変化シナリオが決定される。

【８４２３】

つまり、強制的にチャンス予告演出が実行される大当たり変動では、段階レベルが高レバル（「ＬＶ３」）であるにも関わらず、当否判定結果が外れである場合のチャンス予告演出に用いられた対象態様が強制的に実行される。このように構成することで、パチンコ機１０で実行されるチャンス予告演出の段階レベルが高くなる程、大当たり当選の可能性が高くなり易くすることができる。

【８４２４】

なお、「特殊変化シナリオ１」が設定された場合において参照されるチャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている情報として、前回用いられた高レベル対象態様がチャンス予告演出抽選に当選して実行されたもので無く、強制的に実行されるチャンス予告演出にて実行されたものを参照するように構成すると良い。つまり、上述した通り、チャンス予告演出抽選に当選した場合には、上述した通常データテーブルを参照して各対

象態様の段階レベルが決定されるため、多少の偏りは発生し得るが、基本的には、段階レベルが高くなる程、大当たり当選の可能性が高くなるように規定されている。

【８４２５】

しかしながら、強制的にチャンス予告演出を実行する場合には、特別図柄抽選の結果が外れであった場合でも、強制的に高い段階レベルが決定されるため、パチンコ機１０全体において、対象態様の段階レベルと、大当たり当選の期待度とのバランスを崩し易くなる。よって、「特殊変化シナリオ１」が設定された場合に、前回、強制的に実行されるチャンス予告演出にて実行された対象態様を採用するように構成することで、パチンコ機１０で実行されるチャンス予告演出の段階レベルが高くなる程、大当たり当選の可能性が高くなり易くすることができる。

【８４２６】

「特殊変化シナリオ２」が設定された場合には、高レベル（「ＬＶ３」）の段階レベルが含まれる「変化シナリオ８」～「変化シナリオ１１」の何れかが抽選で決定される。このように構成することで、強制的にチャンス予告演出が実行される場合であっても、チャンス予告演出抽選に当選した場合に決定される変化シナリオと同一内容のチャンス予告演出を実行することができるため、遊技者に対して、チャンス予告演出の実行契機を把握させ難くすることができる。

【８４２７】

「特殊変化シナリオ３」が設定された場合には、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている前回外れ高レベル対象態様とは異なる対象態様の段階レベルが高レベル（ＬＶ３）に規定されている変化シナリオが決定される。このように構成することで、同一の対象態様のみ強制的に高い段階レベルとする外れチャンス予告演出が実行されてしまい、対象態様の段階レベルと、大当たり当選の可能性とのバランスが大きく崩れてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８４２８】

「特殊変化シナリオ４」が設定された場合には、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている前回当たり高レベル対象態様と同一の対象態様の段階レベルが高レベル（ＬＶ３）に規定されている変化シナリオが決定される。このように構成することで、同一の対象態様のみ強制的に高い段階レベルとする当たりチャンス予告演出が頻繁に実行されてしまい、対象態様の段階レベルと、大当たり当選の可能性とのバランスが大きく崩れてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８４２９】

なお、本第２６制御例では、「特殊変化シナリオ１，３，４」が設定された場合に、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている前回のチャンス予告演出に用いられた情報を参照して変化シナリオを決定するように構成しているが、これに限ること無く、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている前回のチャンス予告演出に用いられた高レベル対象態様のみを参照し、個々の対象態様に対して、段階レベルを決定するように構成しても良い。

【８４３０】

また、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに過去複数回のチャンス予告演出の情報を格納させ、前回では無く、２回以上前に実行されたチャンス予告演出に関する情報に基づいて演出態様を決定可能に構成しても良いし、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに、設定されている遊技状態や演出モードに関する遊技情報を対応付けて記憶させておき、特殊変化シナリオが決定された時点における遊技状態や演出モードと同一条件にて過去に実行されたチャンス予告演出に関する情報に基づいて演出態様を決定可能に構成しても良い。このように構成することで、遊技状態や演出モードに応じて、チャンス予告演出の期待度や、対象態様の種類を異ならせた場合であっても、遊技状態や演出モードに対応させて強制的にチャンス予告演出を実行させ易くすることができる。

【８４３１】

さらに、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに記憶されている履歴情報を、所定

時間経過（１時間経過）や、待機画面が表示されたことを条件に消去可能に構成しても良い。このように構成することで、異なる遊技者の遊技履歴に影響された演出態様で強制的にチャンス予告演出が実行されてしまうことを抑制することができる。また、この場合、「特殊変化シナリオ」が決定された場合には、通常データテーブルを参照して、演出態様を決定するように構成すれば良い。

【８４３２】

さらに、本第２６制御例では、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が所定値に到達し、強制的にチャンス予告演出を実行する場合に、強制データテーブルを参照するように構成しているが、これに限ること無く、チャンス予告演出抽選に当選する毎に、異なる内容が規定されている複数のチャンス態様選択テーブル２２２ａａｇの何れかを決定し、決定された種類のチャンス態様選択テーブル２２２ａａｇを参照して、チャンス予告演出の演出態様を決定するように構成し、複数のチャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに対して、抽選で演出態様を決定するデータテーブル（通常データテーブル）と、強制的に特定の演出態様を決定するデータテーブル（強制データテーブル）と、の比率を異ならせて規定しても良い。

【８４３３】

このように構成することで、演出実行カウンタ２２３ａａｈの構成を用いること無く、チャンス予告演出が所定回数実行された場合に、いずれかのチャンス予告演出の演出態様を、強制データテーブルを参照して決定することができるため、段階レベルの高い演出態様でチャンス予告演出が実行されない期間が長時間継続してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８４３４】

また、本第２６制御例では、段階レベルの高い演出態様のチャンス予告演出を、定期的に実行させる技術思想を用いているが、これに限ること無く、段階レベルの低い演出態様のチャンス予告演出を、定期的に実行させる技術思想に適用しても良い。このように構成することで、段階レベルの低い演出態様のチャンス予告演出が実行される回数を増加させ易くすることができるため、結果として、対象態様の段階レベルと、大当たり当選の可能性とのバランスが大きく崩れてしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８４３５】

次に、図８１２を参照して、本第２６制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。本第２６制御例のパチンコ機１０のＲＡＭ２２３は、上述した第２２制御例のパチンコ機１０におけるＲＡＭ２２３に対して、バトル演出中における各種演出を実行するための情報を管理するために、非減少期間中フラグ２２３ａａａ、非減少期間カウンタ２２３ａａｂ、非減少期間設定済フラグ２２３ａａｃ、残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄ、長押し中フラグ２２３ａａｅ、長押しカウンタ２２３ａａｆ、長押しシナリオ格納エリア２２３ｉを追加した点と、強制的にチャンス予告演出を実行させるための情報を管理するために、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇ、演出実行カウンタ２２３ａａｈを追加した点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８４３６】

非減少期間中フラグ２２３ａａａは、バトル演出における操作有効期間中に非減少期間が設定されていることを示すためのフラグであって、非減少期間が設定された場合にオンにセットされる。この非減少期間中フラグ２２３ａａａがオンに設定されている間は、長押し操作を継続して実行していたとしても、その操作期間が無効とする処理が実行される。つまり、操作有効期間中であっても、非減少期間が設定されている間は、長押し操作に基づいて敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減算されることが無い。

【８４３７】

非減少期間は、終了条件（所定期間の経過、解除抽選の当選、長押し操作の中止）の何れかが成立した場合に終了するように構成されており、非減少期間が終了した場合に非減

少期間中フラグ２２３ａａａがオフに設定される。
【８４３８】
非減少期間カウンタ２２３ａａｂは、非減少期間が継続している期間を計測するためのカウンタであって、非減少期間が設定された場合にカウンタ値として「１」がセットされる。そして、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値が「１」以上である場合には、１ミリ秒毎に実行される音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図７１７参照）にて実行される演出更新処理２６（図８２６のＦ２１７１参照）が実行される毎に、カウンタ値に「１」が加算される（図８２７のＦ４７１３参照）。
【８４３９】
この非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値は、非減少期間が継続する長さが上限値（３秒）に到達したか否かを判定する際に参照される。また、非減少期間が終了（解除）された際に実行される追加減少演出におけるＨＰ値の減少値を決定する際に参照される。
【８４４０】
非減少期間設定済フラグ２２３ａａｃは、１回のバトル演出において、既に非減少期間が設定されたことを示すためのフラグであって、設定された非減少期間が終了（解除）された場合にオンに設定される。そして、バトル演出における操作有効期間中に遊技者が長押し操作を実行し、非減少期間の突入抽選を実行するか否かを判定する際に参照される。
【８４４１】
本第２６制御例では、１回のバトル演出において、非減少期間が２回以上設定されることが無いように構成している。つまり、非減少期間の突入抽選を実行するか否かを判定する際に非減少期間設定済フラグ２２３ａａｃがオンに設定されているかを判定し、オンに設定されていると判定された場合には突入抽選が実行されないように構成している（図８２７のＦ４７０７：Ｎｏの処理）。
【８４４２】
このように構成することで、１回のバトル演出において非減少期間が複数回設定されてしまい、操作手段（演出ボタン２２）への操作に基づいて敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる機会を減少させてしまい、遊技者の操作手段を操作する操作意欲が低下してしまうことを抑制することができる。加えて、本第２６制御例では、遊技者が長押し操作を終了させる（演出ボタン２２から手を離す）ことで非減少期間を解除可能に構成しているため、非減少期間が設定された場合において、遊技者に長押し操作を終了させて早期に非減少期間を終了（解除）させることで、操作手段への操作に基づいて敵のＨＰ値を減少させることを目指す遊技、或いは、長押し操作を継続することで別の終了条件（解除抽選の当選、上限期間の経過）が成立するまで非減少期間を継続させることで追加減少演出を実行させることを目指す遊技、を選択させることが可能となる。
【８４４３】
このように構成することで、長押し操作が有効となる操作演出（バトル演出の操作有効期間中）において、遊技者に長押し操作を継続するか、一旦中断し、再度長押し操作を実行するかを選択させることができるという斬新な遊技性を提供することができる。また、操作手段への操作に基づいて演出態様（敵キャラ８８０ａのＨＰ値）を可変させるという視点では、長押し操作を中断した場合の方が、非減少期間を早期に終了させ易いため遊技者に有利な遊技となる。
【８４４４】
なお、本第２６制御例では、１回のバトル演出において非減少期間が設定される回数の上限を１回としているが、これに限ること無く、非減少期間を２回以上設定可能に構成しても良い。この場合、１回目の非減少期間と、２回目の非減少期間とで、突入条件や解除条件を異ならせると良く、例えば、バトル演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果（当たり当選を示す演出結果）となる場合の方が、不利な演出結果（外れを示す演出結果）となる場合よりも、２回目の非減少期間が設定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、バトル演出の操作有効期間中において、敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少しない期間が複数回設定されることを遊技者に期待させる。即ち、従来であれば、

操作手段を操作することにより、演出態様（ＨＰ値）がより多く可変（減少）することを遊技者に期待させる操作演出において、操作手段への操作に基づいて演出態様（ＨＰ値）が減少しないことにも期待させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【８４４５】

残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄは、バトル演出における敵キャラ８８０ａのＨＰ値を記憶するための記憶領域であって、バトル演出の演出態様（敵キャラ種別）を決定した際に、決定した演出態様（敵キャラ種別）に対応するＨＰ値（ＭＡＸ値）を示すための情報が記憶される（図８１９のＦ４２０７参照）。さらに、実行されるバトル演出の最終結果、即ち、減少させることが可能となる敵キャラの最終ＨＰ値を示すための情報が記憶される（図８１９のＦ４２１０参照）。加えて、遊技者が操作手段を操作（連打操作、長押し操作）したことに基づいて決定されたＨＰ値の減少値に関する情報や、追加減少演出にて決定されたＨＰ値の減少値に関する情報も記憶される。

【８４４６】

この残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄに記憶されている各情報を読み出すことにより、現時点における敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値や、ＨＰ差分値（残ＨＰ値と最終ＨＰ値との差分値）を算出可能となる。

【８４４７】

長押し中フラグ２２３ａａｅは、長押し操作が実行されていることを示すためのフラグであって、遊技者が操作手段（演出ボタン２２）を操作した際に出力される情報（演出ボタン２２が押下されたことを検知可能な検知手段が、押下を検知した際に出力する出力信号等）に基づいて、長押し操作が実行されていると判定した場合にオンに設定される。なお、演出ボタン２２に対する遊技者の操作が、押下操作であるか長押し操作であるかの判定は、演出ボタン２２が継続して押下状態となる期間の長さに基づいて判定するように構成しており、詳細な内容については、上述した制御例にて説明をしているため省略する。なお、上述した制御例に記載されている内容以外の手法であっても、周知公用の技術を用いて異なる操作方法を判別可能に構成しても良い。

【８４４８】

長押しカウンタ２２３ａａｆは、長押し操作の継続期間を計測するためのカウンタであって、長押し操作の実行が判定された場合（長押し中フラグ２２３ａａｅがオンに設定された場合）にカウンタ値として「１」がセットされる。そして、長押しカウンタ２２３ａａｆの値が「１」以上である場合には、１ミリ秒毎に実行される音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図７１７参照）にて実行される演出更新処理２６（図８２６のＦ２１７１参照）において、カウンタ値に「１」が加算される（図８２７のＦ４７０３参照）。

【８４４９】

この長押しカウンタ２２３ａａｆの値は、長押し操作中における敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる演出シナリオを更新させるために用いられる。そして、操作有効期間が終了した場合に０にクリアされる。

【８４５０】

本第２６制御例では、長押し中フラグ２２３ａａｅがオンに設定されている状態（長押し操作が継続している状態）であっても、非減少期間が設定されている間は、長押しカウンタ２２３ａａｆの値が更新されることが無いように構成している（図８２７のＦ４７０１：Ｙｅｓ）。また、一旦長押し操作を中断しても、操作有効期間が終了するまでは、長押しカウンタ２２３ａａｆの値がクリアされないように構成している。

【８４５１】

よって、遊技者が長押し操作中に誤って手を離してしまっても、再度、演出ボタン２２を長押し操作することで、演出シナリオの更新に基づいて実行される演出を継続して実行させることが可能となる。なお、この場合、再度、演出ボタン２２への操作に対して、再度長押し判定を実行する必要があるため、演出ボタン２２を押下した全期間に対する演出シナリオの更新期間（長押し操作が判定されている期間）が、一度も長押し操作を中断しなかった場合に比べて若干短くなるが、遊技者が長押し操作中に誤って手を離した場合に

、長押しカウンタ２２３ａａｆの値が０にクリアされてしまう仕様よりは確実に、演出シナリオを更新させ易くすることができる。

【８４５２】

長押しシナリオ格納エリア２２３ａａｉは、バトル演出の操作有効期間中における遊技者の操作手段への操作方法が、長押し操作であると判定した場合に決定される演出シナリオを格納するための記憶領域である。長押し操作が実行されている間は、この長押しシナリオ格納エリア２２３ａａｉに格納されている演出シナリオに基づいて演出態様（敵キャラ８８０ａのＨＰ値）の可変表示が実行される。

【８４５３】

なお、本第２６制御例では、長押し操作中における演出態様（ＨＰ値）を、長押し操作が実行されている期間の時間経過（長押しカウンタ２２３ａａｆの値）に基づいて可変させるように構成しているが、これに限ること無く、別の手法を用いて長押し操作中における演出態様（ＨＰ値）を可変させるように構成しても良い。

【８４５４】

例えば、長押し操作が実行されている期間の長さに対応して、演出ボタン２２が疑似的に押下された回数（疑似押下回数）を決定し、その疑似押下回数に基づいて長押し操作中における演出態様（ＨＰ値）の可変態様を決定するように構成しても良い。

【８４５５】

チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇは、変動演出の演出態様としてチャンス予告演出を実行する場合において決定されたチャンス予告演出の演出態様（チャンス態様）を示すための情報（チャンス態様情報）を記憶するための記憶領域であって、変動演出に対応するチャンス態様情報が記憶されるものである。このチャンス態様は、変動演出の演出態様を設定する処理（通常状態演出態様決定処理２６（図８２１のＦ３０５３参照））において実行されるチャンスアップ演出決定処理２６（図８２３のＦ３１５３参照）にて決定され、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに格納される。

【８４５６】

チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに格納されたチャンス態様情報は、変動演出の実行中に読み出され、対象態様の可変タイミングが到来した場合に、対象態様の表示態様を可変させるための表示用コマンドが設定される。このチャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇには、過去に設定されたチャンス態様情報を複数個（３個）記憶可能な過去情報領域を有しており、実行中の変動演出に対応するチャンス態様情報に加え、過去に実行された変動演出に対応するチャンス態様情報も所定期間記憶可能に構成している。

【８４５７】

そして、本第２６制御例では、チャンス態様を決定する際に特定条件を満たしている場合には、チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに記憶されている過去情報を参照してチャンス態様を決定可能に構成している。このように構成することで、同一のチャンス態様が連続して決定されてしまい、バリエーションに乏しいチャンス予告演出が実行されてしまい演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【８４５８】

演出実行カウンタ２２３ａａｈは、強制的にチャンス予告演出を実行させるための実行条件が成立したか否かを判別する際に参照されるカウンタであって、変動演出が実行される毎にカウンタ値が「１」されるものである。さらに、実行される変動演出の演出態様に応じて、カウンタ値を加算、或いは減算する更新処理が実行され、カウンタ値が「５０」に到達した場合に、強制的にチャンス予告演出を実行させるための実行条件が成立したと判定される。そして、強制的にチャンス予告演出を実行させるための演出態様を決定した場合に「０」にクリアされる。

【８４５９】

＜第２６制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理内容について＞

次に、図８１８から図８２７を参照して、本第２６制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御処理の内容について、上述した第

２２制御例と相違する点を中心に説明をする。なお、上述した第２２制御例と同一の処理内容については、その説明を省略する。

【８４６０】

まず、図８１８を参照して、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）の処理内容について説明をする。図８１８は、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）の処理内容を示したフローチャートである。図８１８に示した通り、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）では、上述した第２２制御例における変動演出設定処理２２（図７２８のＦ２９０９参照）に対して、各遊技状態において実行される処理内容（Ｆ３０５１～Ｆ３０５３）を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。

【８４６１】

変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）が実行されると、まず、上述した変動演出設定処理２２（図７２８のＦ２９０９参照）と同一のＦ３００１～Ｆ３０１１の処理を実行する。そして、Ｆ３０１１の処理において、現在の遊技状態が時短状態であると判別した場合は（Ｆ３０１１：Ｙｅｓ）、時短状態中に実行される変動演出の演出態様を決定するための時短状態演出態様決定処理２６を実行し（Ｆ３０５１）、その後、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｆ３０１９）、本処理を終了する。尚、時短状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５１）の詳細な内容については、図８１９を参照して後述する。

【８４６２】

一方、Ｆ３０１１の処理において、時短状態では無いと判別した場合は（Ｆ３０１１：Ｎｏ）、次に、現在の遊技状態が確変状態であるかを判別し（Ｆ３０１５）、確変状態であると判別した場合は（Ｆ３０１５：Ｙｅｓ）、確変状態中に実行される変動演出の演出態様を決定するための確変状態演出態様決定処理２６を実行し（Ｆ３０５２）、その後、上述したＦ３０１９の処理を実行し、本処理を終了する。尚、確変状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５２）の詳細な内容については、図８２０を参照して後述する。

【８４６３】

また、Ｆ３０１５の処理において、確変状態では無いと判別した場合は（Ｆ３０１５：Ｎｏ）、現在の遊技状態が時短状態では無く、且つ、確変状態では無い場合、即ち、通常状態が設定されている場合であるため、通常状態中に実行される変動演出の演出態様を決定するための通常状態演出態様決定処理２６を実行し（Ｆ３０５３）、その後、上述したＦ３０１９の処理を実行し、本処理を終了する。尚、通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）の詳細な内容については、図８２１を参照して後述する。

【８４６４】

本第２６制御例では、パチンコ機１０に設定され得る遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）の３種類の遊技状態を設定可能に構成している。そして、新たな特別図柄抽選を実行可能な状態においては、上述した３種類の遊技状態のうち、何れかの遊技状態が必ず設定されているように構成している。従って、音声ランプ制御装置１１３が特別図柄抽選の実行を示す変動パターンコマンドを受信した場合に実行される変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）において、現在の遊技状態が時短状態でも確変状態でも無いと判別した場合（Ｆ３０１５：Ｎｏ）は通常状態が設定されていることになるため、通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）が実行される。

【８４６５】

なお、本第２６制御例のパチンコ機１０にて実行される処理内容に代えて、現在の遊技状態が時短状態でも確変状態でも無いと判別した場合（Ｆ３０１５：Ｎｏ）に、現在の遊技状態が通常状態であるかを判別する処理を実行するように構成し、通常状態であると判別した場合に通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）を実行するように構成しても良い。そして、この場合、現在の遊技状態が、時短状態でも確変状態でも通常状態でも無いと判別した場合は、現在の遊技状態を正常に判別できなかったことを示すエラーコマン

ドを設定するように構成し、エラーコマンドが設定された場合は、特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定すること無く、特別図柄変動が実行されていることを示す表示態様と、正常に変動演出の演出態様が設定されなかったことを示す表示態様と、を表示するように構成すると良い。

【８４６６】

このように構成することで、現在の遊技状態を正常に判別できなかった場合において、設定されている遊技状態とは異なる遊技状態にて実行される変動演出の演出態様が設定されてしまい、遊技者に違和感を与えてしまうことを抑制することができる。

【８４６７】

次に、図８１９を参照して、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）において、時短状態が設定されている場合の変動演出を設定する際に実行される時短状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５１）の処理内容について説明をする。図８１９は、時短状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５１）の処理内容を示したフローチャートである。

【８４６８】

本第２６制御例では、時短状態中において、バトル演出リーチ（図８００から図８０２参照）を実行可能に構成している点で上述した第２２制御例と相違しており、図８１９に示した通り、時短状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５１）では、バトル演出リーチの演出態様を決定する処理が実行される。

【８４６９】

具体的には、時短状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５１）が実行されると、まず、時短中カウンタ２２３ｖｐの値が１であるかを判別し（Ｆ４２０１）、時短中カウンタ２２３ｖｐの値が１であると判別した場合は（Ｆ４２０１：Ｙｅｓ）、変動演出の演出結果がチャンスモード終了となる時短終了示唆演出の演出態様を決定し（Ｆ４２０２）、本処理を終了する。

【８４７０】

ここで、本第２６制御例では、上述した第２２制御例と同様に、時短状態が設定されている間は、設定されている遊技状態を示唆するためのモード演出として「チャンスモード」が設定されるように構成している。この「チャンスモード」は、確変状態が設定されている場合の一部においても設定されるように構成している。そして、時短状態にて実行される最後の特別図柄変動（時短最終変動）に対応する変動演出（時短状態が設定されてから１００回目の特別図柄変動に対応する変動演出）では、時短状態の終了に対応させて「チャンスモード」が終了することを示す演出態様の時短終了示唆演出が実行されるように構成している。一方で、確変状態として「チャンスモード」が設定されている場合には、確変状態が設定されてから１００回目の特別図柄変動に対応する変動演出、即ち、時短状態が設定されている状態であれば時短最終変動に対応する変動演出として、「チャンスモード」が「スーパーチャンスモード」へと昇格することを示す演出態様の時短終了示唆演出が実行されるように構成している。

【８４７１】

具体的には、時短終了示唆演出の序盤では、実行中の変動演出が終了することにより「チャンスモード」が終了することを遊技者に案内するための案内態様（「チャンスモード終了」の文字）と、「チャンスモード」が終了した後のモード演出として通常状態に対応するモード演出（通常モード）、或いは、確変状態に対応するモード演出（スーパーチャンスモード）の何れかが設定されることを示唆するための示唆態様（「コインを投げて、表が出ればスーパーチャンスモード突入！裏が出れば残念通常モード」の文字と、コインを投げるアニメーション）とが、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される。

【８４７２】

その後、時短状態が設定されている場合には、時短状態演出態様決定処理２６（図８１９のＦ３０５１参照）のＦ４２０２にて決定された演出態様によって、投げたコインが裏となるアニメーションが実行され、「チャンスモード」から「通常モード」へと移行することを示す変動演出が実行される。一方、確変状態が設定されている場合には、後述する

確変状態演出態様決定処理２６（図８２０のＦ３０５２参照）のＦ４３０２にて決定された演出態様によって、投げたコインが表となるアニメーションが実行され、「チャンスモード」から「スーパーチャンスモード」へと移行することを示す変動演出が実行される。

【８４７３】

このように構成することで、時短最終変動、或いは、時短最終変動に対応する特別図柄変動が実行された場合において、同一の演出態様で時短終了示唆演出を開始することができるため、「チャンスモード」における特別図柄の最終変動が開始されたとしても、遊技者に対して現在設定されている遊技状態が時短状態であるか確変状態であるかを把握させ難くすることができる。

【８４７４】

なお、本第２６制御例では、時短終了示唆演出を、「チャンスモード」における特別図柄の最終変動が実行される期間を用いて実行するように構成しているが、これに限ること無く、少なくとも特別図柄の最終変動を含む複数の特別図柄変動期間を用いて時短終了示唆演出を実行するように構成しても良い。この場合、例えば、「チャンスモード」における残り３回分の特別図柄変動の変動期間を用いて時短終了示唆演出を実行するように構成すると良い。即ち、「チャンスモード」中に主として特別図柄変動が実行される第２特別図柄の保留記憶の上限数よりも少ない特別図柄変動数を、時短終了示唆演出が実行される演出期間として規定し、時短終了示唆演出が開始され得る第２特別図柄変動が実行される時点において獲得済みの第２特別図柄の保留記憶数が「チャンスモード」が終了するまでに要する特別図柄変動回数よりも多いと判別した場合に、時短終了示唆演出を実行するように構成すると良い。

【８４７５】

このように構成することで、時短終了示唆演出が開始されてから「チャンスモード」が終了するまでの間、連続して複数回の第２特別図柄変動が実行されることが確定している場合において時短終了示唆演出を実行可能に構成することができるため、時短終了示唆演出が実行されている最中に特別図柄変動が実行されない事態が発生してしまい、時短終了示唆演出が間延びしてしまうことを抑制することができる。

【８４７６】

また、時短終了示唆演出が開始される特別図柄変動の変動パターン（変動時間）と、獲得済みの第２特別図柄保留に含まれる入賞情報を先読みすることで特定した特別図柄変動の変動パターン（変動時間）と、に基づいて、時短終了示唆演出の演出期間を確定することができるため、「チャンスモード」が終了するタイミング、即ち、「チャンスモード」が終了することとなる特別図柄変動が停止表示するタイミングに対応させて時短終了示唆演出の演出結果を遊技者に報知しやすくすることができる。

【８４７７】

なお、「チャンスモード」が終了する特別図柄変動を少なくとも含む複数回の特別図柄変動（例えば、チャンスモードが終了する特別図柄変動が実行されるまでの残回数が０～３回となる特別図柄変動）において、特別図柄抽選の結果が大当たり以外である場合には、同一の変動時間（例えば、１０秒）が設定されるように構成することで、獲得済みの第２特別図柄保留に含まれる入賞情報に基づいて後に実行される特別図柄変動の変動パターン（変動時間）を先読みしなくても時短終了示唆演出の演出期間を決定可能に構成しても良い。

【８４７８】

また、時短終了示唆演出が実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合には、時短終了示唆演出の演出結果として「チャンスモード」から「大当たり遊技」へと移行することを遊技者に示す特殊演出態様を決定可能に構成し、特殊演出態様が決定された場合には、現在設定されている遊技状態が時短状態であるか確変状態であるかを遊技者に把握させ難くするように構成しても良いし、確変状態が設定されている場合であっても、時短状態中に大当たり当選したと思わせる演出態様を決定可能に構成しても良い。このように構成することで、特別図柄の低確率状態が設定される時短

状態において大当たり当選したと思わせることができる。
【８４７９】
図８１９に戻り説明を続ける。Ｆ４２０１の処理において、時短中カウンタ２２３ｖｐの値が１では無いと判別した場合、即ち、時短中カウンタ２２３ｖｐの値が１よりも大きいと判別した場合は（Ｆ４２０１：Ｎｏ）、取得した変動パターンに基づいて変動パターン選択テーブル２２２ｖａを参照して、変動演出種別を決定する（Ｆ４２０３）。なお、Ｆ４２０３にて実行される具体的な処理内容、即ち、主制御装置１１０から出力された変動パターンコマンドに基づいて、変動演出の種別（例えば、リーチ種別等）を決定するための処理内容については上述した各制御例と同一であるため、その説明を省略する。
【８４８０】
次に、Ｆ４２０３の処理において決定された変動演出種別がバトル演出リーチであるかを判別し（Ｆ４２０４）、変動演出種別がバトル演出リーチでは無いと判別した場合は（Ｆ４２０４：Ｎｏ）、Ｆ４２０３の処理において決定された変動演出種別に対応する演出態様を決定し（Ｆ４２０５）、本処理を終了する。
【８４８１】
一方、Ｆ４２０４の処理において、変動演出種別がバトル演出リーチであると判別した場合は（Ｆ４２０４：Ｙｅｓ）、バトル演出の演出態様を抽選で決定する（Ｆ４２０６）。Ｆ４２０６の処理では、バトル演出における味方キャラ８０１ａの種別、敵キャラ８８０ａの種別、第１パート演出（図８００（ｂ）参照）の有無、が抽選にて決定される。
【８４８２】
ここで、Ｆ４２０６の処理によって決定される演出態様の詳細について説明をする。本第２６制御例では、バトル演出リーチの演出態様として、対応する特別図柄抽選の結果に基づいて「当たりバトル演出リーチ」と、「外れバトル演出リーチ」と、を決定可能に構成している。「当たりバトル演出リーチ」が決定された場合には、演出結果として、敵キャラ８８０ａ（図８００参照）のＨＰゲージ８９０が「０」となる演出結果（勝利演出）が実行され、「外れバトル演出リーチ」が決定された場合には、演出結果として、敵キャラ８８０ａのＨＰゲージ８９０が「０」とならない演出結果（敗北演出）が実行されるように構成している。
【８４８３】
さらに、バトル演出リーチが実行されてから、演出結果が表示されるまでの間の期間において表示される各種表示態様を、対応する特別図柄抽選の結果に応じて異ならせて決定可能に構成している。具体的には、「当たりバトル演出リーチ」の方が、「外れバトル演出リーチ」よりも、味方キャラ８０１ａとして勇者を模したキャラクタが選択され易く、且つ、第１パート演出が実行され易く、且つ、ＨＰ値の少ない敵キャラ８８０ａが選択され易くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出リーチが実行された場合において、実行されるバトル演出リーチの演出内容を把握することにより、今回の演出結果が勝利演出であるか敗北演出であるかを遊技者に予測させることができるため、バトル演出が実行されている演出期間において、勝利演出が実行される当たりバトル演出リーチにて選択され易い表示態様が表示されることを期待させながらバトル演出リーチに注視させることができる。
【８４８４】
加えて、このバトル演出リーチでは、対応する特別図柄抽選の結果に応じて決定される各種表示態様が同時に表示されるのでは無く、表示タイミングをズラして表示されるように構成している。具体的には、バトル演出リーチが開始された後、最初に味方キャラ８０１ａが表示された後に、敵キャラ８８０ａが表示される。その後、第１パート演出が実行される。このように、特別図柄抽選の結果に応じて表示される態様の選択割合を異ならせた表示態様を、タイミングをズラして表示させるように構成することで、同時に表示させる場合に比べて長時間の間、バトル演出リーチの演出内容に興味を持たせ易くすることができる。
【８４８５】

なお、本第２６制御例では、対応する特別図柄抽選の結果に応じて異なる態様を表示可能な表示態様のそれぞれに対して、当たりバトル演出リーチである場合の方が、外れバトル演出リーチである場合よりも選択され易い態様を規定しているが、これに限ること無く、特別図柄抽選の結果に応じて各種表示態様の組合せの選択割合を異ならせるように構成しても良く、当たりバトル演出リーチである場合の方が、外れバトル演出リーチである場合よりも選択され易い各種表示態様の組合せとして、最初に表示される表示態様（味方キャラ８０１ａ）の種別として、単体の表示態様としては、外れバトル演出リーチである場合の方が、当たりバトル演出リーチである場合よりも選択され易い表示態様の種別を含む組合せを規定すると良い。このように構成することで、バトル演出リーチが開始されてから最初に表示される味方キャラ８０１ａの種別が何れの種別であったとしても、当たりバトル演出リーチであることに対して継続して期待させることができる。

【８４８６】

次に、Ｆ４２０６の処理によって決定される各種表示態様の具体的な内容について説明をする。まず、味方キャラ８０１ａ（図８００参照）の種別について説明をする。バトル演出リーチでは、味方キャラ８０１ａとして、勇者を模した第１味方キャラ（図８００（ａ）参照）と、ウサギを模した第２味方キャラ（図示せず）と、の何れかが表示されるように構成しており、第１味方キャラの方が、第２味方キャラよりも、当たりバトル演出リーチの演出態様として選択され易くなるように構成している。一方で、第２味方キャラの方が、第１味方キャラよりも、外れバトル演出リーチの演出態様として選択され易くなるように構成している。よって、バトル演出リーチが開始された場合には、最初に味方キャラ８０１ａの種別として何れのキャラが表示されるかに興味を持たせることができる。

【８４８７】

ここで、味方キャラ８０１ａの種別として勇者を模した第１味方キャラが選択された場合は、ウサギを模した第２味方キャラよりも１回の攻撃で敵キャラ８８０ａのＨＰ値を大きく減少させることが可能に構成している。つまり、当たりバトル演出リーチである場合に選択され易い第１味方キャラの方が、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を大きく減少させる攻撃を実行し易くなるように構成している。このように構成することで、バトル演出リーチにおける敵キャラ８８０ａのＨＰゲージ８９０（残ＨＰ値８９０ａ）が減少するほど当たりバトル演出リーチである可能性を高くすることができるため、バトル演出リーチを見ている遊技者に対して、選択された味方キャラ８０１ａの種別が遊技者に有利となる（当たりバトル演出リーチであることを示唆する）種別であることを把握させ易くすることができる。

【８４８８】

なお、本第２６制御例では、第１味方キャラ、第２味方キャラの何れもバトル演出リーチの種別（当たりバトル演出リーチ、外れバトル演出リーチ）に関わらず選択されるように構成し、その選択割合を異ならせるように構成しているが、これに加え、例えば、当たりバトル演出リーチのみ選択され得る第３味方キャラや、外れバトル演出リーチのみ選択され得る第４味方キャラを選択可能に構成しても良い。このように構成することで、バトル演出リーチが開始されてから直ぐに、演出結果（勝利演出、敗北演出）を遊技者に把握させることが可能となるため、バトル演出リーチが実行される毎に当たりバトル演出リーチであることを過度に期待させてしまうことを抑制することができる。

【８４８９】

また、実行中のバトル演出リーチの演出結果を遊技者が把握するタイミングを、実行されるバトル演出リーチの演出態様に応じて異ならせることができるため、実行中のバトル演出リーチの演出結果をいち早く把握したい遊技者に対して、実行されるバトル演出リーチの演出内容をより注視させることができる。

【８４９０】

次に、敵キャラ８８０ａ（図８００（ａ）参照）の種別について説明をする。バトル演出リーチでは、敵キャラ８８０ａとして、ＨＰ値が最も低い敵キャラＡ（図８００（ａ）参照）、ＨＰ値が敵キャラＡよりも高い敵キャラＢ（図示せず）、ＨＰ値が最も高い敵キ

ャラＣ（図示せず）の何れかが表示されるように構成しており、当たりバトル演出リーチである場合の方が、外れバトル演出リーチである場合よりも、敵キャラＡが選択され易く、敵キャラＣが選択され難くなるように構成している。

【８４９１】

次に、表示される敵キャラ８８０ａの種別に対応させたＨＰゲージ８９０の表示態様について説明をする。本第２６制御例にて実行されるバトル演出リーチでは、図８００（ａ）に示した通り、表示している敵キャラ８８０ａのＨＰ値の数値を具体的に表示するのでは無く、ＨＰ値「０」とＨＰ値「ＭＡＸ」を示す指標のみを付したＨＰゲージ８９０を表示するように構成している。そして、ＨＰ値が異なる敵キャラ８８０ａが表示された場合であっても、同一の長さのＨＰゲージ８９０が表示され、ＨＰ値が減少していない状態（「ＭＡＸ」状態）では、残ＨＰ値８９０ａがＨＰゲージ８９０全体を占める表示態様（図８００（ａ）参照）が表示されるように構成している。

【８４９２】

つまり、例えば、敵キャラＡのＨＰ値が「５０」で、敵キャラＣのＨＰ値が「１５０」である場合には、何れの種別の敵キャラ８８０ａが表示された場合であっても、同一の長さでＨＰゲージ８９０が表示される。そして、味方キャラ８０１ａが攻撃を行い敵キャラ８８０ａに「２５」のダメージを与えると、敵キャラＡが選択されている場合には、残ＨＰ値が「２５（５０－２５）」となるため、ＨＰゲージ８９０の１／２の位置まで残ＨＰ値８９０ａが減少する演出が実行され、敵キャラＣが選択されている場合には、残ＨＰ値が「１２５（１５０－２５）」となるため、ＨＰゲージ８９０の５／６の位置までしか残ＨＰ値８９０ａが減少しない演出が実行されることとなる。

【８４９３】

このように構成することで、バトル演出リーチを初めて体験する遊技者に対して、敵キャラ８８０ａの種別によって設定されるＨＰ値が異なっていることを気付かせ難くすることができると共に、味方キャラ８０１ａが攻撃を行った場合におけるＨＰゲージ８９０に表示される残ＨＰ値８９０ａの減少度合いを異ならせることができるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。また、バトル演出リーチを何回も経験している遊技者に対しては、敵キャラ８８０ａの種別が表示された時点でＨＰ値を把握させることができるため、今回のバトル演出リーチが当たりバトル演出リーチである可能性が高いか否かをいち早く予測させることができる。

【８４９４】

次に、第１パート演出（図８００（ｂ）参照）に関する決定内容について説明をする。Ｆ４２０６の処理では、上述した味方キャラ８０１ａ、及び、敵キャラ８８０ａの表示態様種別に加え、第１パート演出の実行の有無についても決定可能に構成している。具体的には、抽選で決定された味方キャラ８０１ａの種別と、敵キャラ８８０ａの種別と、対応する特別図柄抽選の結果と、に基づいて第１パート演出の実行の有無が決定されるように構成しており、例えば、当たりバトル演出リーチの演出態様において、味方キャラ８０１ａとして第２味方キャラ（敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値８９０ａを減少させ難い種別）、敵キャラ８８０ａとして敵キャラＣ（ＨＰ値が高い種別）が選択された場合、即ち、バトル演出リーチ中において敵キャラ８８０ａのＨＰ値を「０」にすることが、他の組合せよりも困難となる組合せとなった場合に、第１パート演出の実行を決定するように構成している。

【８４９５】

このように構成することで、味方キャラ８０１ａの種別と、敵キャラ８８０ａの種別とを、個々に選択した場合であっても、遊技者に違和感を与えること無くバトル演出リーチを実行することが可能となる。

【８４９６】

より具体的には、第２味方キャラが選択された場合には、バトル演出中に最大でＨＰ値を「１００」減少可能な演出が実行されるように構成し、第１味方キャラが選択された場合にはバトル演出中に最大でＨＰ値を「１５０」減少可能な演出が実行されるように構成

する。つまり、第１味方キャラが選択された場合には、敵キャラ８８０ａの種別として何れの種別（敵キャラＡ（ＨＰ値「５０」）～敵キャラＣ（ＨＰ値「１５０」））が選択された場合であっても敵キャラ８８０ａのＨＰ値を「０」まで減少させることが可能となり、第２味方キャラが選択された場合には、敵キャラ８８０ａの種別として敵キャラＡ、又は敵キャラＢが選択された場合には、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を「０」まで減少させることが可能となり、敵キャラＣが選択された場合には、第２味方キャラの攻撃のみでＨＰ値を「０」まで減少させることができない（困難となる）ように構成している。

【８４９７】

そして、味方キャラ８０１ａの種別と、敵キャラ８８０ａの種別と、を決定し、味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させるＨＰ値を決定（攻撃態様を決定）した後に、減少後のＨＰ値（残ＨＰ値）の値を算出し、算出した残ＨＰ値が演出結果（当たりｏｒ外れ）と示しているかを判別し、演出結果を示している（当たりバトル演出リーチであれば残ＨＰ値「０」、外れバトル演出リーチであれば残ＨＰ値「０」以外）と判別した場合には、第１パート演出を実行せず、演出結果を示していない（当たりバトル演出リーチであるにも関わらず、算出された残ＨＰ値が「０」以外である）場合には、算出した残ＨＰ値が「０」となるように敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる第１パート演出の実行を決定するように構成している。

【８４９８】

また、例えば、外れバトル演出リーチであるにも関わらず、算出した残ＨＰ値が「０」となる場合には、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を上昇させる回復演出や、味方キャラ８０１ａによって減少させるＨＰ値を小さくする補正演出を実行することで、外れバトル演出リーチが実行された場合において敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」とならないように構成している。

【８４９９】

このように構成することで、味方キャラ８０１ａの種別と、敵キャラ８８０ａの種別とをランダムに決定可能に構成し、且つ、味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させる敵キャラ８８０ａのＨＰ値を決定された各種キャラの種別に基づいて決定することにより実行されるバトル演出リーチの演出結果と対応しない状況が発生した場合であっても、遊技者に違和感を与えること無く演出結果を報知することができる。

【８５００】

ここで、バトル演出リーチの演出結果に基づいて味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させる敵キャラ８８０ａのＨＰ値を決定するように構成した場合には、味方キャラ８０１ａが実行する攻撃演出のみでバトル演出リーチの演出結果を確実に報知することが可能となるため、第１パート演出や回復演出や補正演出を実行する必要が無くなり、演出態様を決定するための処理を軽減することができるが、この場合、味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させるＨＰ値がバトル演出リーチの演出結果に応じて異なってしまうため、同一の攻撃態様が選択された場合において減少させるＨＰ値が異なってしまうことから、選択された攻撃態様を把握することで減少するＨＰ値を遊技者に予測させ難くなってしまう。よって、バトル演出リーチの演出態様（攻撃態様）に対して遊技者が興味を持たなくなってしまい演出効果が低下してしまうという問題が発生する。

【８５０１】

これに対して、本第２６制御例では、味方キャラ８０１ａの攻撃では、選択された攻撃態様に対応した分のＨＰ値のみが減少するように構成し、減少後のＨＰ値（残ＨＰ値）と、演出結果を示す残ＨＰ値とが乖離する場合には、別の演出（第１パート演出、回復演出）を実行するように構成している。よって、バトル演出リーチの演出内容（攻撃態様）に基づいて、ＨＰゲージ８９０に表示される残ＨＰ値８９０ａが減少するよりも前に減少後の残ＨＰ値８９０ａを予測させ易くすることができる。よって、バトル演出リーチの演出結果をいち早く察知しようとする遊技者に対して、実行中のバトル演出リーチの演出内容を注視させ易くすることができる。

【８５０２】

以上、説明をした通り、本第２６制御例では、バトル演出リーチとして、実際に敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる演出が実行されるよりも前の時点で表示される味方キャラ８０１ａ、敵キャラ８８０ａの種別に応じて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にし易い組合せであるか否かを遊技者に予測させることが可能となるように構成している。このように構成することで、どのような組合せでバトル演出リーチが進行するのかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【８５０３】

なお、本第２６制御例では、上述した通り、選択された味方キャラ８０１ａの種別（勇者、又はウサギ）によって、味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させることが可能となる敵キャラ８８０ａのＨＰ値の最大値を異ならせ、選択された敵キャラ８８０ａの種別（敵キャラＡ～敵キャラＣ）によって、ＨＰ値の上限（ＭＡＸ値）を異ならせることで、表示された各キャラの種別に基づいて敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にし易い組合せであるか否かを遊技者に予測させることが可能となるように構成しているが、これに限ること無く、味方キャラ８０１ａの攻撃によって減少させることが可能となる敵キャラ８８０ａのＨＰ値の最小値を異ならせたり、１回のバトル演出中に実行される攻撃回数（敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる回数）を異ならせたり、選択された敵キャラ８８０ａの種別（敵キャラＡ～敵キャラＣ）によってＨＰ値の減少度合い（防御力）を異ならせたりするように構成しても良い。このように構成した場合であっても、バトル演出リーチとして、実際に敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる演出が実行されるよりも前の時点で表示される味方キャラ８０１ａ、敵キャラ８８０ａの種別に応じて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にし易い組合せであるか否かを遊技者に予測させることが可能となるように構成している。このように構成することで、どのような組合せでバトル演出リーチが進行するのかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【８５０４】

加えて、バトル演出リーチの演出態様として、決定された各キャラ種別が遊技者に有利となる種別（当たりバトル演出リーチの方が、外れバトル演出リーチよりも選択され易い種別）であったり、決定された各キャラ種別の組合せが遊技者に有利となる組合せ（当たりバトル演出リーチの方が、外れバトル演出リーチよりも選択され易い組合せ）であったりした場合において、有利な演出態様が決定されたことを示すための案内態様として「チャンスアップ」の文字を第３図柄表示装置８１の表示面に表示するように構成すると良い。これにより、今回のバトル演出リーチの演出態様が遊技者に有利な演出態様であることを分かり易く報知することができる。

【８５０５】

また、案内態様を表示するタイミングとしては、遊技者に有利な演出態様が表示されると同時のタイミングでも良いし、それ以外にも、遊技者に有利な演出態様が表示された後に案内態様を表示するように構成しても良い。この場合、表示された演出態様を確認するだけで有利な演出態様であることを把握可能な遊技者に対して、案内態様が表示されたことによって有利な演出態様であることを把握する遊技者よりも早い段階で今回実行された演出が遊技者に有利な演出であることを気付かせることができる。

【８５０６】

一方、有利な演出態様が決定されたことを示すための案内態様である「チャンスアップ」の文字を、対応する演出態様が表示されるよりも前の時点で表示するように構成しても良い。このように構成することで、有利な演出態様が表示されることを事前に遊技者に把握させた状態で有利な演出態様を表示させることができる。よって、有利な演出態様としてどのような演出態様が表示されるのかについて遊技者に興味を持たせることができる。さらに、有利度合いを異ならせた複数の演出態様を決定可能に構成されているパチンコ機１０であれば、より有利度合いの高い演出態様が表示されることを期待しながら進行する演出を注視させることができる。

【８５０７】

図８１９に戻り説明を続ける。Ｆ４２０６の処理にて決定された各種演出態様のうち、

決定された敵キャラ８８０ａの種別に対応したＨＰ値（ＭＡＸ値）を残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄに格納する（Ｆ４２０７）。つまり、Ｆ４２０６の処理において敵キャラ８８０ａの種別として、「敵キャラＡ」を決定した場合には、残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄにＨＰ値「５０」に対応する情報を、「敵キャラＢ」を決定した場合には、残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄにＨＰ値「１００」に対応する情報を、「敵キャラＣ」を決定した場合には、残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄにＨＰ値「１５０」に対応する情報を格納する。

【８５０８】

次いで、今回のバトル演出における最終ＨＰ値を決定するために、まず、今回の変動演出が当たり変動演出であるかを判別し（Ｆ４２０８）、当たり変動演出であると判別した場合は（Ｆ４２０８：Ｙｅｓ）、最終ＨＰ値として「０」を決定し（Ｆ４２１１）、決定した最終ＨＰ値を残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄに格納する（Ｆ４２１０）。

【８５０９】

一方、Ｆ４２０８の処理において、今回の変動演出が当たり変動演出では無い（外れ変動演出である）と判別した場合は（Ｆ４２０８：Ｎｏ）、外れ時最終ＨＰ選択テーブル２２２ａａｄを参照して最終ＨＰ値を決定し（Ｆ４２０９）、Ｆ４２１０の処理へ移行する。上述した通り、本第２６制御例では、バトル演出の演出態様を決定する際において、敵キャラ８８０ａのＨＰ値の上限値（ＭＡＸ値）と、下限値（最終ＨＰ値）と、を異なる抽選で決定するように構成している。このように構成することで、敵キャラ８８０ａのＨＰ値の上限値（ＭＡＸ値）と、下限値（最終ＨＰ値）と、を１の抽選で決定する場合に比べて、各抽選結果を組み合わせて演出パターンを生成することが出来る分、同数の演出パターンを実行可能とする場合において、予め記憶させておく演出パターンのデータ量を削減することができる。

【８５１０】

加えて、本第２６制御例におけるバトル演出では、差分ＨＰ値（残ＨＰ値と最終ＨＰ値との差分値）に基づいて演出態様を決定可能に構成しているため、例えば、ＨＰの上限値が同一となる敵キャラ８８０ａが選択された場合であって、残ＨＰが同一の状況であっても、最終ＨＰ値が異なっていれば差分ＨＰ値も異なるため、実行される演出の態様を異ならせることができる。よって、見た目上同一条件である場合に実行される演出のバリエーションを増加させ易くすることができる。

【８５１１】

Ｆ４２１０の処理を終えると、次に、演出パターンに対応した操作有効期間の設定情報を演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに格納し（Ｆ４２１２）、本処理を終了する。ここで、演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐの内容について説明をする。この演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐには、操作有効期間が設定され得る演出種別毎に操作有効期間が設定される期間（開始タイミングと終了タイミング）を示すための設定情報と、操作有効期間が設定される期間の２秒前を示す準備情報と、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される有効期間ゲージｇａ４（図８０１（ａ）参照）や、表示用演出ボタンＳｗ６（図８０１（ａ）参照）の表示態様に関する表示情報と、を記憶可能に構成している。

【８５１２】

そして、演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに記憶されている準備情報に基づいて、実際に操作有効期間が設定されるよりも前に準備画面（図８０１（ａ）参照）を表示する。この準備画面（図８０１（ａ）参照）に表示される表示態様は、演出用ＳＷ有効時間記憶エリア２２３ｖｐに格納されている表示情報に基づいて設定される。

【８５１３】

ここで、本第２６制御例では、バトル演出中に設定される操作有効期間の長さを、バトル演出の演出結果に基づいて決定可能に構成しており、例えば、バトル演出の演出結果が当たり当選に対応する演出結果（当たりバトル演出）となる場合の方が、長い操作有効期間が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、最終ＨＰ値として「０」が設定される当たりバトル演出の方が、最終ＨＰ値として「０」よりも大きな値

が設定される外れバトル演出よりも、操作有効期間の長さを長くすることができるため、操作手段への操作に基づいてＨＰ値を減少させる演出を実行させ易くすることができる。

【８５１４】

また、本第２６制御例では、実際に設定される操作有効期間の長さと、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様（有効期間ゲージｇａ４（図８０１（ａ）参照）や、表示用演出ボタンＳｗ６（図８０１（ａ）参照）の表示態様）を異ならせることが可能に構成している。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様に基づいて遊技者に演出結果を早期に判別されてしまうことを抑制することができる。

【８５１５】

次に、図８２０を参照して、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）において、確変状態が設定されている場合の変動演出を設定する際に実行される確変状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５２）の処理内容について説明をする。図８２０は、確変状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５２）の処理内容を示したフローチャートである。

【８５１６】

本第２６制御例では、大当たり遊技終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成している。この確変状態は、特別図柄の低確率状態が設定される通常状態、及び、時短状態よりも、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選となる確率が高確率に設定されるため、１回の特別図柄抽選が実行された場合における大当たり当選の期待度の点で他の遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態となる。また、普通図柄の低確率状態が設定される通常状態よりも、特別図柄抽選を実行させ易くなるため、特別図柄抽選の実行のし易さの点で通常状態よりも遊技者に有利な遊技状態となる。よって、本第２６制御例では、確変状態が最も遊技者に有利な遊技状態となる。

【８５１７】

本第２６制御例では、確変状態が設定されている状態で大当たり当選した場合、或いは、特定数（１２０回）の特別図柄抽選が実行された場合に、確変状態が終了するように構成している。そして、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合には、設定されている遊技状態を示唆するためのモード演出として、確変状態が設定されていることを示唆（報知）可能な「スーパーチャンスモード演出」、或いは、時短状態又は確変状態が設定されていることを示唆（報知）可能な「チャンスモード演出」が実行されるように構成している。

【８５１８】

具体的には、大当たり当選する特別図柄変動が開始されてから大当たり遊技が終了するまでの間に、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることが報知された場合、即ち、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されることを遊技者に把握させるための演出（確変昇格演出や、確変状態が設定される大当たり（確変大当たり）に対応する第３図柄（例えば、７７７）の停止表示等）が実行された場合には、大当たり遊技終了後に「スーパーチャンスモード演出」が実行される。

【８５１９】

一方、大当たり当選する特別図柄変動が開始されてから大当たり遊技が終了するまでの間に、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確変状態であることを遊技者に把握させるための演出が実行されず、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確変状態であるか時短状態であるかを遊技者が把握困難な場合の少なくとも一部において、大当たり遊技終了後に「チャンスモード演出」が実行される。

【８５２０】

このように構成することで、確変状態が設定されることが事前に報知された場合には、現在設定されている遊技状態が確変状態であることを遊技者に分かり易く報知することで安心して遊技を行わせることができると共に、確変状態が設定されることが事前に報知されなかった場合には、確変状態が設定されているか否かを把握させ難くする演出（時短状態、又は、確変状態が設定されていることを報知する演出）ことで、時短状態が設定され

ている場合であっても、確変状態が設定されていることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【８５２１】

ここで、本第２６制御例では、時短状態が継続する最大期間として特別図柄変動１００回が規定されており、確変状態が継続する最大期間として特別図柄変動１２０回が規定されている。よって、時短状態が設定されているか確変状態が設定されているかを分かり難くする「チャンスモード演出」が実行された場合には、「チャンスモード演出」の最終期間（１００回目の特別図柄変動期間）において、「チャンスモード演出」が終了することを遊技者に案内するための時短終了示唆演出を実行し、その時短終了示唆演出の演出結果として、確変状態に対応する「スーパーチャンスモード演出」へとモード演出が移行（昇格）することを示す演出結果が実行される。

【８５２２】

つまり、本第２６制御例では、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が確変状態である場合に設定されるモード演出の種別によって、確変状態が設定されていることを遊技者に報知するタイミングを異ならせるように構成している。このように構成することで、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されたことを様々なタイミングで遊技者に報知することが可能となるため、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されたことを期待させながら遊技者に継続して遊技を行わせることができる。

【８５２３】

なお、本第２６制御例では、大当たり遊技終了後に設定されるモード演出の種別に応じて確変状態が設定されていることを遊技者に報知するタイミングを異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、確変状態が設定されている状態で「チャンスモード演出」が実行されている場合において、特別図柄抽選が実行される毎に確変状態であることを報知するための報知演出を実行するか否かを決定する報知抽選を実行し、報知抽選に当選した場合に確変状態が設定されていることを報知する報知演出を実行するように構成しても良いし、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）に対して所定の操作が行われたと判別した場合に上述した報知演出を実行するように構成しても良い。この場合であっても、確変状態が設定されていることを報知するための報知演出を実行させる実行条件を様々なタイミングで成立させることが可能となる。

【８５２４】

さらに、本第２６制御例では、確変状態中に実行可能な特別図柄変動回数（抽選回数）の残回数が２０回以下となる期間、即ち、確変状態が設定されてから１００回の特別図柄変動（抽選）が実行されてからの期間（確変後半期間）と、確変状態が設定されてから１００回の特別図柄変動（抽選）が実行されるまでの期間（確変前半期間）と、で特別図柄抽選の結果を遊技者に報知するための報知態様を異ならせており、確変前半期間では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出を１の特別図柄抽選が実行される毎に実行し、確変後半期間では、複数回の特別図柄抽選の結果を示すためのモード変動演出を、複数の特別図柄変動を跨いで実行するように構成している。

【８５２５】

つまり、１の変動演出の演出結果が１の特別図柄抽選の抽選結果に基づいて決定される第１状況と、１の変動演出の演出結果が複数の特別図柄抽選の抽選結果に基づいて決定される第２状況と、を創出可能に構成している。このように構成することで、第１状況では、変動演出の実行回数と特別図柄抽選の実行回数とを同期させることができるため、遊技者に対して特別図柄抽選の実行回数を容易に把握させることができる。一方で、第２状況では、変動演出の実行回数よりも多くの特別図柄抽選を実行させることができるため、遊技者に対して特別図柄抽選の実行回数を把握させ難くすることができる。また、１の変動演出の演出結果を用いて複数回の特別図柄抽選の結果を報知することができるため、特別図柄抽選の結果が大当たり以外（外れ）であることを遊技者に報知する回数を、特別図柄抽選が実行される毎に特別図柄抽選の結果を報知する場合に比べて減少させることができる。

【８５２６】
図８２０に示した通り、確変状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５２）では、時短状態であるか確変状態であるのかを遊技者に分かり難くするためのモード演出であるチャンスモードの最終変動が実行される場合、即ち、時短中カウンタ２２３ｖｑの値が１であると判別した場合（Ｆ４３０１：Ｙｅｓ）において、変動演出の演出結果がスーパーチャンスモード昇格となる時短終了示唆演出の演出態様を決定し（Ｆ４３０２）、Ｆ４３１１の処理へ移行する点では、上述した第２２制御例と同一の処理が実行される。
【８５２７】
確変状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５２）では、上述した第２２制御例における確変状態中の演出態様を決定する処理に対して、確変状態の残期間（確変中カウンタ２２３ｖｒの値）に応じて、異なるモード演出を実行する点で相違している。
【８５２８】
本第２６制御例では、大当たり遊技の終了後に確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されると、その後、特別図柄抽選が１２０回実行される、或いは、特別図柄抽選が１２０回実行されるよりも前に大当たり当選するまで確変状態が継続するように構成している。具体的には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される場合には、確変中カウンタ２２３ｖｒの値に「１２０」をセットする。そして、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１」以上である状態で特別図柄変動が実行されたことに基づいて確変中カウンタ２２３ｖｒの値が１減算される。これにより、確変中カウンタ２２３ｖｒの値を読み出すことで確変状態の残期間（残確変回数）を判別可能に構成している。
【８５２９】
そして、本第２６制御例では、残確変回数が２０回を下回ると、複数回の特別図柄抽選結果を１の期間演出の演出結果を用いて遊技者に報知するモード演出が実行されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果が外れであることを示す変動演出が実行され難くなり、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、複数回の特別図柄抽選が実行される期間を跨いで１の期間演出を実行可能に構成しているため、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に把握させ難くすることができる。
【８５３０】
具体的には、図８２０に示した通り、時短中カウンタ２２３ｖｐの値が「１」では無いと判別した場合は（Ｆ４３０１：Ｎｏ）、次に、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０」であるかを判別し（Ｆ４３０３）、「２０」であると判別した場合は（Ｆ４３０３：Ｙｅｓ）、第１モード変動演出の演出態様を決定し（Ｆ４３０４）、その後、変動パターンコマンドが示す基本コマンドに対応する演出態様を決定し（Ｆ４３１１）、本処理を終了する。
【８５３１】
また、Ｆ４３０３の処理において、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０」では無いと判別した場合は（Ｆ４３０３：Ｎｏ）、次に、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１４」であるかを判別し（Ｆ４３０５）、「１４」であると判別した場合は（Ｆ４３０５：Ｙｅｓ）、第２モード変動演出の演出態様を決定し（Ｆ４３０６）、上述したＦ４３１１の処理を実行し、その後、本処理を終了する。
【８５３２】
一方、Ｆ４３０５の処理において、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１４」では無いと判別した場合は（Ｆ４３０５：Ｎｏ）、次に、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「７」であるかを判別し（Ｆ４３０７）、「７」であると判別した場合は（Ｆ４３０７：Ｙｅｓ）、第３モード変動演出の演出態様を決定し（Ｆ４３０８）、その後、上述したＦ４３１１の処理を実行し、本処理を終了する。
【８５３３】
Ｆ４３０７の処理において、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「７」では無いと判別した場合は（Ｆ４３０７：Ｎｏ）、次に、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１」であるか

を判別し（Ｆ４３０９）、「１」であると判別した場合は（Ｆ４３０９：Ｙｅｓ）、確変終了を示すための演出態様を決定し（Ｆ４３１０）、その後、Ｆ４３１１の処理を実行して本処理を終了する。また、Ｆ４３０９の処理において、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１」では無いと判別した場合、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１」以上であって、且つ、「１」，「７」，「１４」，「２０」の何れでも無いと判別した場合は（Ｆ４３０９：Ｎｏ）、新たなモード変動演出（モード演出）を決定する状況では無いため、各種モード変動演出の演出態様を決定するための各種処理をスキップしてＦ４３１１の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５３４】

本第２６制御例では、図８２０のＦ４３０３～Ｆ４３１０の処理が実行されることにより、残確変回数が２０回～１５回までの６回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第１モード演出が実行され、残確変回数が１４回～８回までの７回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第２モード演出が実行され、残確変回数が７回～１回までの７回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第３モード演出が実行されるように構成している。

【８５３５】

加えて、本第２６制御例では、各モード演出の演出態様（演出結果）を、既にモード演出が実行されている状態において新たに獲得した情報（保留記憶した入賞情報）に基づいて決定可能に構成している。より具体的には、第１モード演出が実行される最終変動（残確変回数が１５回となる特図変動）が開始される際に、入賞情報格納エリア２２３ｖａに格納されている情報（保留記憶情報）を読み出し、格納されている保留記憶情報に基づいて特別図柄抽選の結果を事前に判別する（先読みする）。そして、事前判別の結果、大当たり当選に対応する保留記憶情報を獲得していると判別した場合には、第１モード演出の演出結果を、大当たり当選を示す演出結果に書き換え、第１モード演出を、大当たり当選する特別図柄変動が停止表示されるまで延長して実行するように構成している。

【８５３６】

このように、第１モード演出（期間演出）を実行した後に獲得した情報に基づいて、第１モード演出（期間演出）の対象となる特別図柄抽選回数を可変可能に構成することで、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に把握させ難くすることができる。

【８５３７】

なお、本第２６制御例では、先読み結果に基づいて１の期間演出が実行される期間を可変可能に構成しているがこれに限ること無く、ランダムに期間を決定するように構成しても良いし、遊技者が任意の期間を選択可能に構成しても良い。また、先読み（事前判別）を実行するタイミングを、予め定められているモード演出の対象期間における最後の特別図柄変動が開始されるタイミングでは無く、それよりも前の特別図柄変動が開始されるタイミングにしても良いし、最後の特別図柄変動が開始されてから所定期間経過後（演出結果が遊技者に報知されるよりも前の特定タイミング）としても良い。さらに、事前判別を実行する際において、獲得済みの保留記憶情報の全てを事前判別しても良いし、特定の範囲のみ（例えば、入賞情報格納エリア２２３ｖａに格納された順が古い２個）事前判別を実行するように構成しても良い。

【８５３８】

加えて、事前判別の結果、大当たり当選に対応する保留記憶情報を獲得していると判別した場合に、期間演出を延長させるか否かの抽選を実行し、その抽選結果に基づいて、期間演出の演出結果を書き換えるか否かを決定したり、期間演出を延長させるか否かを決定したりするように構成しても良い。

【８５３９】

次に、図８２１を参照して、通常状態が設定されている状態で実行される変動演出の演出態様を決定するための通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）の詳細について説明をする。図８２１は、通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）の処理内容を示し

たフローチャートである。この通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）は、上述した通常状態演出態様決定処理２２（図７２９のＦ３０１８参照）に対して、決定された変動演出種別が討伐リーチ（図８０５参照）である場合に実行される討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）を追加した点と、大当たり当選の期待度が比較的高い状態であることを遊技者に示唆するためのチャンスアップ演出の演出態様を決定するためのチャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）を追加した点と、で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【８５４０】

通常状態演出態様決定処理２６（Ｆ３０５３）が実行されると、まず、上述した通常状態演出態様決定処理２２（図７２９のＦ３０１８参照）と同一のＦ３１０１～Ｆ３１０６の処理を実行する。そして、Ｆ３１０４の処理において、今回決定された変動演出種別がムービー実行リーチでは無いと判別した場合は（Ｆ３１０４：Ｎｏ）、次に、今回決定された変動演出種別が討伐リーチであるかを判別し（Ｆ３１５１）、討伐リーチであると判別した場合は（Ｆ３１５１：Ｙｅｓ）、討伐リーチ演出決定処理２６を実行し（Ｆ３１５２）、Ｆ３１５３の処理へ移行する。なお、討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）の詳細な内容については、図８２２を参照して後述する。

【８５４１】

一方、Ｆ３１５１の処理において、今回決定された変動演出種別が討伐リーチでは無いと判別した場合は（Ｆ３１５１：Ｎｏ）、その他、決定された変動演出種別に対応する演出態様を決定し（Ｆ３１０７）、その後、チャンスアップ演出決定処理２６を実行し（Ｆ３１５３）、各処理によって決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｆ３１０９）、本処理を終了する。

【８５４２】

なお、チャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）の詳細な内容については、図８２３を参照して後述するため、ここでは詳細な説明を省略するが、チャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）は、同一の変動演出種別が決定された場合に設定される同一の演出態様に対して、遊技者に大当たり当選の期待度を予測させるための追加情報を付与するための処理を実行するものであって、例えば、演出態様に含まれる１の表示要素の色を可変させることによって大当たり当選の期待度を報知可能な場合であれば、可変させる色の種別を決定するための処理が行われる。また、変動演出種別に対応して設定される演出態様に対して、追加情報を含む新たな演出態様を追加表示することによって大当たり当選の期待度を高めたチャンスアップ演出を実行するための処理が行われる。

【８５４３】

このように構成することで、見た目上は殆ど同じ演出態様の変動演出が実行された場合であっても、その変動演出を構成する複数の表示要素の一部のみを可変したり、その変動演出を構成する複数の表示要素に新たな表示要素を追加したりすることで遊技者に当たり当選の期待度を予測させることが可能となる。よって、遊技者に対して、実行中の変動演出を構成する複数の表示要素に対して、何らかの変化が無いかを注視させることができるため変動演出の演出効果を高めることができる。

【８５４４】

次に、図８２２を参照して、討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）の処理内容について説明をする。図８２２は、討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）の処理内容を示したフローチャートである。この討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）では、討伐リーチ演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【８５４５】

討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）が実行されると、まず、対応する特別図柄の抽選結果と、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値とに基づいて、討伐リーチ演出における各回の演出態様（攻撃キャラ、攻撃内容）と、討伐リーチ演出の演出結果を決定し（Ｆ４４０１）、決定した内容（演出態様）に基づいて、示唆態様の表示順を決定し（

Ｆ４４０２）、決定した態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｆ４４０３）、本処理を終了する。

【８５４６】

ここで、討伐リーチ演出決定処理２６（Ｆ３１５２）の各種処理にて決定される内容について具体的に説明をする。まずは、Ｆ４４０１の処理によって決定される各種内容について説明をする。本第２６制御例では、図８０５（ａ）を参照して上述した通り、討伐リーチ演出として、様々な種別の味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを３回攻撃する演出が実行される。

【８５４７】

味方キャラ８０１ａの種別としては、１体の敵キャラに対して大きなダメージを与え易い勇者を模した味方キャラ８０１ａと、複数体の敵キャラに対してダメージを与え易いウサギを模した味方キャラ８０１ｂと、を選択可能に構成している。このように攻撃を実行する味方キャラの種別に対応させて実行し易い攻撃内容を異ならせるように構成することで、討伐リーチ演出中に既に実行された攻撃の内容（各敵キャラの残ＨＰ値）に基づいて、攻撃を実行する味方キャラの種別に対する期待度を異ならせることができる。

【８５４８】

つまり、討伐リーチ演出における１回目、及び、２回目の攻撃を味方キャラ８０１ｂが実行した場合には、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃのそれぞれが残ＨＰ値の低い状態となり易く、その場合、３回目（最後）の攻撃を実行する味方キャラの種別が味方キャラ８０１ｂである場合の方が、味方キャラ８０１ａである場合よりも討伐リーチ演出の演出結果として、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを全て討伐する演出結果とし易くすることができる。また、１回目、及び、２回目の攻撃を味方キャラ８０１ａが実行した場合には、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃのうち、２体の敵キャラが討伐されている状態で３回目の攻撃を実行し易くすることができるため、３回目の攻撃を実行する味方キャラの種別が味方キャラ８０１ａである場合の方が、味方キャラ８０１ｂである場合よりも討伐リーチ演出の演出結果として、敵キャラ８８０ａ～８８０ｃを全て討伐する演出結果とし易くすることができる。

【８５４９】

なお、この討伐リーチ演出では、攻撃を実行する味方キャラの種別に応じて異なる内容の攻撃を実行可能に構成しており、上述した通り、味方キャラ８０１ａが選択された場合には、攻撃対象となる敵キャラの数（攻撃数）として、「１」が他の数よりも選択され易く、攻撃対象に対して与えるダメージの量として、「大ダメージ」が他のダメージ量（中ダメージ、小ダメージ等）よりも選択され易くなるように構成している。よって、攻撃を実行する味方キャラの種別として味方キャラ８０１ａが選択された場合には、遊技者は、攻撃数よりも、ダメージ量に注視することになる。そこで、図８０５（ｂ）に示した通り、味方キャラ８０１ａが選択された場合には、今回の攻撃の内容を順に示すための示唆態様の表示順として「攻撃数」、「ダメージ量」の表示順序が決定される。

【８５５０】

一方、味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、攻撃対象となる敵キャラの数（攻撃数）として、複数の数が単数よりも選択され易く、攻撃対象に対して与えるダメージの量として、「中ダメージ」が他のダメージ量（大ダメージ、小ダメージ）よりも選択され易くなるように構成している。よって、攻撃を実行する味方キャラの種別として味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、遊技者は、ダメージ量よりも攻撃数に注視することになる。そこで、図８０６（ｂ）に示した通り、味方キャラ８０１ｂが選択された場合には、今回の攻撃の内容を順に示すための示唆態様の表示順として「ダメージ量」、「攻撃数」の表示順序が決定される。

【８５５１】

上述した通り、本第２６制御例にて実行される討伐リーチ演出では、攻撃を実行する味方キャラの種別として、異なる攻撃内容が選択され易い味方キャラの種別を決定可能に構成し、決定された味方キャラの種別に応じて、攻撃内容を示すための示唆態様の表示順序

を異ならせるように構成している。具体的には、攻撃内容を決定する複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のそれぞれを示唆態様として表示可能であって、表示される複数の示唆態様の表示順序として、決定された味方キャラの種別が得意とする要素が、それ以外の要素よりも後に表示される表示順序が決定されるように構成している。

【８５５２】

このように構成することで、何れの味方キャラの種別が決定された場合であっても、遊技者が注視する示唆態様が表示されるタイミングを遅らせることができるため、遊技者に対して長期間の間、討伐リーチ演出を楽しませることができる。

【８５５３】

なお、本第２６制御例では、決定された味方キャラの種別に応じて、示唆態様の表示順序を決定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、攻撃内容を示す複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のうち、遊技者に有利な内容が決定された要素に対応する示唆態様の表示順序を、それ以外の要素よりも後にする表示順序を決定したり、攻撃内容を示す複数の要素（攻撃数、ダメージ量）のうち、遊技者に有利な内容が決定された要素に対応する示唆態様の表示順序を、それ以外の要素よりも先にする表示順序を決定したりするように構成しても良い。このように構成することで、先に表示された示唆態様の内容に基づいて、次に表示される示唆態様の内容を予測させる楽しみを提供することができる。

【８５５４】

次に、図８２３を参照して、チャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）の処理内容について説明をする。図８２３は、チャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）の処理内容を示したフローチャートである。このチャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）では、チャンス予告演出を実行するか否かを決定する処理と、実行する場合における演出態様を決定する処理と、が実行される。

【８５５５】

チャンスアップ演出決定処理２６（Ｆ３１５３）が実行されると、まず、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が「５０」であるかを判別し（Ｆ４５０１）、「５０」であると判別した場合は（Ｆ４５０１：Ｙｅｓ）、強制的にチャンス予告演出を実行するための実行条件が成立した場合であるため、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに含まれる強制パターンのデータテーブルを参照して、チャンス予告演出の演出態様を決定し（Ｆ４５０２）、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「０」にクリアする（Ｆ４５０３）。その後、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｆ４５１０）、本処理を終了する。

【８５５６】

また、Ｆ４５０１の処理において、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が「５０」では無いと判別した場合は（Ｆ４５０１：Ｎｏ）、次に、チャンス予告抽選テーブル２２２ａａｆを参照してチャンス予告抽選を実行し（Ｆ４５０４）、Ｆ４５０４の処理にて実行されたチャンス予告抽選に当選したかを判別する（Ｆ４５０５）。Ｆ４５０５の処理においてチャンス予告抽選に当選しなかったと判別した場合は（Ｆ４５０５：Ｎｏ）、実行される変動演出にてチャンス予告演出が実行されないため、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を１更新（加算）し（Ｆ４５０６）、上述したＦ４５１０の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５５７】

一方、Ｆ４５０５の処理において、チャンス予告抽選に当選したと判別した場合は（Ｆ４５０５：Ｙｅｓ）、チャンス態様選択テーブル２２２ａａｇに含まれる通常パターンのデータテーブルを参照して、チャンス予告演出の演出態様を決定し（Ｆ４５０７）、決定した演出態様を示す情報をチャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納し（Ｆ４５０８）、決定されたチャンス予告演出の演出態様に対応させて演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新し（Ｆ４５０９）、上述したＦ４５１０の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５５８】
ここで、Ｆ４５０９にて実行される処理内容について、詳細に説明をする。本第２６制御例では、変動演出が実行される毎に、チャンス予告演出を実行するか否かを決定するチャンス予告抽選を実行し、チャンス予告抽選に当選した場合に成立する通常実行条件、或いは、連続して実行される変動演出の演出態様に基づいて演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新し、更新した演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が所定値（「５０」）に到達した場合に成立する強制実行条件の何れかが成立した場合に、チャンス予告演出を実行可能に構成している。
【８５５９】
そして、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値は、通常であれば、変動演出の演出態様を決定する毎に「１」加算されるように構成している。つまり、変動演出の実行回数に基づいて強制実行条件が成立し、チャンス予告演出が実行されるように構成している。しかしながら、変動演出が実行される毎に演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「１」加算するだけでは、強制実行条件が成立する演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「５０」に規定している場合であれば、変動演出が５０回実行される毎に強制的にチャンス予告演出が実行されることとなり、遊技者に対して、今回実行されたチャンス予告演出が、強制的に実行されたものであることを容易に把握されてしまうという問題があった。
【８５６０】
これに対して、本第２６制御例では、変動演出の演出態様として設定された内容に基づいて、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新する内容を異ならせるように構成している。具体的には、チャンス予告演出の演出態様として、大当たり期待度の低い演出態様（ＬＶ１，ＬＶ２）が設定された場合には、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「２」加算するように構成し、チャンス予告演出の演出態様として、大当たり期待度の高い演出態様（ＬＶ４）が設定された場合には、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を「３０」減算するように構成している。
【８５６１】
このように、実行される変動演出の演出態様に応じて、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を不規則に増減させるように構成することで、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が「５０」に到達するまでに要する変動演出の実行回数を、遊技者に把握させ難くすることができる。よって、チャンス予告演出が実行された場合に、その実行契機がチャンス予告抽選に当選したことに基づくもの、即ち、特別図柄抽選の結果に基づいて成立したものであるか、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が所定値に到達したことに基づくもの、即ち、変動演出の実行履歴に基づいて成立したものであるかを遊技者に分かり難くすることで、強制的に実行されたチャンス予告演出として大当たり期待度の高い演出態様が設定された場合であっても、チャンス予告抽選に当選して実行されたチャンス予告演出であると思わせることで演出効果を高めることができる。
【８５６２】
なお、本第２６制御例では、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が「５０」に到達した場合に強制実行条件が成立し、チャンス予告演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、強制実行条件が成立する演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を可変可能に構成しても良く、例えば、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が０にクリアされた場合に、次に強制実行条件が成立する値を複数の値（「１０」，「３０」，「５０」）の中から決定するように構成しても良い。このように構成することで、強制実行条件が成立するタイミングを遊技者により把握させ難くすることができる。
【８５６３】
また、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値が所定値（例えば、１０の倍数）に到達した場合に、強制実行条件を成立させるか否かを決定する抽選を実行し、その抽選に当選した場合に強制実行条件を成立させるように構成しても良い。このように構成した場合であっても、強制実行条件が成立するタイミングを遊技者により把握させ難くすることができる。

【８５６４】
　また、本第２６制御例では、変動演出の実行回数、及び、実行されたチャンス予告演出の演出態様に応じて、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を更新させる内容を異ならせるように構成しているが、それ以外の要因に基づいて演出実行カウンタ２２３ａａｈの更新内容を異ならせるように構成しても良く、例えば、変動演出の演出態様や、特別図柄変動期間に応じて、演出実行カウンタ２２３ａａｈの更新内容を異ならせても良い。さらに、変動演出に実行回数では無く、強制実行条件が成立してからの経過時間に基づいて次の強制実行条件を成立させるタイミングを決定可能に構成しても良い。
【８５６５】
　本第２６制御例では、強制実行条件が成立した場合に、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を０にクリアするように構成しているが、これに限ること無く、強制実行条件が成立した場合に、演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を所定数減算させる減算処理を実行可能に構成し、減算処理にて減算される演出実行カウンタ２２３ａａｈの値を複数の中から決定可能に構成しても良い。このような構成を用いた場合であっても、強制実行条件が成立する間隔を異ならせ易くすることができる。
【８５６６】
　次に、図８２４を参照して、演出ボタン操作処理２６（Ｆ３３７９）の処理内容について説明をする。図８２４は、演出ボタン操作処理２６（Ｆ３３７９）の処理内容を示したフローチャートである。この演出ボタン操作処理２６（Ｆ３３７９）では、遊技者が演出ボタン２２を操作したことに基づく各種処理が実行され、上述した第２２制御例の演出ボタン操作処理２２（図７３３のＦ３３１９参照）に対して、バトル演出中に設定される操作有効期間中に演出ボタン２２を操作した際に実行される処理内容を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容に対しては同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【８５６７】
　演出ボタン操作処理２６（Ｆ３３７９）が実行されると、まず、演出ボタン２２への操作があるかを判別する（Ｆ３４５１）。このＦ３４５１の処理では、演出ボタン２２が押下されている状態であるかが判別される。Ｆ３４５１の処理において、演出ボタン２２が操作されていない（押下されていない）状態であると判別した場合は（Ｆ３４５１：Ｎｏ）、次に、非減少期間中フラグ２２３ａａａがオンに設定されているかを判別し（Ｆ３４５２）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｆ３４５２：Ｙｅｓ）、非減少期間中フラグ２２３ａａａをオフに設定し、非減少期間カウンタ２２３ａａｂの値を「０」にクリアし（Ｆ３４５３）、非減少期間設定済フラグ２２３ａａｃをオンに設定し（Ｆ３４５４）、その後、上述した演出ボタン操作処理２２（図７３３のＦ３３１９参照）と同一のＦ３４０５の処理を実行し、本処理を終了する。
【８５６８】
　ここで、Ｆ３４５２からＦ３４５４の処理内容について詳細に説明をする。本第２６制御例では、バトル演出リーチにおいて味方キャラ８０１ａが敵キャラ８８０ａを攻撃する際に、遊技者に演出ボタン２２を操作させる操作演出が実行されるように構成している（図８０１（ｂ）参照）。そして、この操作演出中は、遊技者が演出ボタン２２を操作したことが有効に判別される操作有効期間が設定され、操作有効期間が設定されている状態で遊技者が演出ボタン２２を操作することによって、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるゲージ減少演出が実行される。
【８５６９】
　本第２６制御例では、バトル演出リーチ中の操作有効期間内にて、遊技者が演出ボタン２２を連打操作した場合も、長押し操作した場合も、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるゲージ減少演出を実行可能に構成しており、操作有効期間中に実行される演出ボタン２２への操作内容に基づいてゲージ減少演出の演出態様を異ならせるように構成している。具体的には、操作有効期間中の演出ボタン２２に対して長押し操作を実行した場合には、長押し操作の経過時間に対応させて敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少するゲージ減少演

出シナリオが決定されると共に、ＨＰ値が減少する毎に、ＨＰ値の減少を所定期間中断させる非減少期間を設定するか否かの抽選が実行される。そして、非減少期間が設定された場合には、非減少期間中フラグ２２３ａａａがオンに設定され、所定期間が経過した場合、非減少期間を解除するための解除抽選に当選した場合、長押し操作を終了した場合の何れかによって非減少期間が終了するように構成している。

【８５７０】

Ｆ３４５２の処理では、演出ボタン２２が操作されていない状態（Ｆ３４５１：Ｎｏ）にて、非減少期間中フラグ２２３ａａａがオンに設定されているかを判別していることから、非減少期間が設定されている状態において、遊技者が長押し操作を終了した（演出ボタン２２から手を離した）かを判別していることになる。よって、Ｆ３４５２の処理において、非減少期間中フラグ２２３ａａａがオンに設定されていると判別した場合、即ち、非減少期間が設定されている状態で遊技者が演出ボタン２２から手を離した場合には、非減少期間を解除するための処理（Ｆ３４５３）が実行される。このように構成することで、演出ボタン２２を長押し操作したことに基づいて非減少期間が設定された場合において、遊技者に長押し操作を継続するか否かを選択させるという斬新な遊技性を提供することができる。

【８５７１】

また、本第２６制御例では、非減少期間が解除された場合に、非減少期間設定済フラグ２２３ａａｃをオンに設定することで、１回の操作有効期間中に非減少期間が複数回設定されることが無いように構成している。このように構成することで、バトル演出リーチ中に設定される操作有効期間中に非減少期間が複数回設定されてしまい、演出ボタン２２に対して長押し操作を実行した遊技者に対して、敵キャラ８８０ａのＨＰ値が殆ど減少すること無くバトル演出リーチが終了してしまう事態を発生させ難くすることができる。

【８５７２】

なお、本第２６制御例では、１の操作有効期間内にて設定され得る非減少期間の回数に対して制限を設けることで、１の操作有効期間内における非減少期間の占有割合が過剰に高くなってしまうことを抑制しているが、同一の効果を奏するために別の手法を用いても良く、例えば、非減少期間が設定されている期間の長さを計測可能な計測手段を設け、１の操作有効期間内において、所定期間以上の非減少期間が設定されてしまうことを抑制するために計測手段によって計測された期間の長さ（既に設定されている非減少期間の長さ）に基づいて非減少期間の設定の有無を決定可能に構成しても良い。

【８５７３】

また、本第２６制御例では、操作有効期間中に非減少期間が設定され得る第１操作（長押し操作）と、非減少期間が設定されない第２操作（連打操作）と、を実行可能に構成し、何れの操作を実行した場合であっても、敵キャラ８８０のＨＰ値を減少させることが可能に構成しているが、これに限ること無く、第１操作を実行した場合と、第２操作を実行した場合とで、非減少期間が設定される確率を異ならせるように構成しても良い。

【８５７４】

さらに、連打操作に基づいて非減少期間を設定可能に構成する場合には、例えば、操作有効期間中における演出ボタン２２に対する押下回数や押下間隔に基づいて非減少期間が設定される確率を異ならせるように構成すると良い。このように構成することで、操作有効期間中に連打操作を実行する場合において、非減少期間が設定され易い状況と、され難い状況とを、演出ボタン２２を押下する間隔や回数に応じて創出することができるため、遊技者に対して連打操作の操作内容にも興味を持たせることができる。

【８５７５】

また、この場合、非減少期間が設定され易い状況や、設定され難い状況を遊技者に報知可能な報知手段を設けると良い。このように構成することで、遊技者の所望する操作演出（バトルリーチの操作有効期間中の演出）を実行させ易くすることができる。

【８５７６】

図８２４に戻り説明を続ける。Ｆ３４５１の処理において、演出ボタン２２が操作され

ていないと判別した場合は（Ｆ３４２１：Ｎｏ）、次に、ムービー演出用ＳＷ有効期間中であるかを判別し（Ｆ３４５５）、ムービー演出用ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２が操作されたと判別した場合（Ｆ３４５５：Ｙｅｓ）は、ムービーの再生態様を決定し（Ｆ３４０３）、ムービー中フラグをオンに設定する（図８２４のＦ３４０４参照）。

【８５７７】

一方、Ｆ３４５５の処理において、ムービー演出用ＳＷ有効期間では無いと判別した場合（Ｆ３４５５：Ｎｏ）は、次に、バトル演出用ＳＷ有効期間中であるかを判別し（Ｆ３４５６）、バトル演出用ＳＷ有効期間中であると判別した場合は（Ｆ３４５６：Ｙｅｓ）、次に、長押し中フラグ２２３ａａｅがオンに設定されているかを判別し（Ｆ３４５８）、長押し中フラグ２２３ａａｅがオンに設定されていると判別した場合は（Ｆ３４５７：Ｙｅｓ）、長押し操作を継続して実行している状態であるため、そのままＦ３４０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５７８】

一方、Ｆ３４５７の処理において、長押し中フラグ２２３ａａｅがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｆ３４５７：Ｎｏ）、演出ボタン２２に対して実行した操作内容を示す情報に基づいてボタン操作態様を決定し（Ｆ３４５８）、次に、Ｆ３４５８の処理にて決定されたボタン操作態様が長押し操作であるかを判定し（Ｆ３４５９）、長押し操作であると判定した場合は（Ｆ３４５９：Ｙｅｓ）、長押し操作中における演出態様を設定するための長押し時演出設定処理２６を実行し（Ｆ３４６３）、上述したＦ３４０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５７９】

また、Ｆ３４５９の処理において、ボタン操作態様が長押し操作では無いと判定した場合、即ち、連打操作であると判定された場合は（Ｆ３４５９：Ｎｏ）、今回のボタン押下によって減少されるＨＰ値を決定するための減少抽選を実行し（Ｆ３４６０）、Ｆ３４６０の処理にて実行された減少抽選の結果に基づいて残ＨＰ値を算出し、算出した値を残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄに格納し（Ｆ３４６１）、減少抽選の抽選結果に対応した演出態様を決定し（Ｆ３４６２）、Ｆ３４０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【８５８０】

ここで、バトル演出リーチ中に設定されるＳＷ有効期間（操作有効期間）中に連打操作を実行した場合における敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させる流れについて、実行される処理内容に沿って詳細に説明をする。バトル演出リーチ中に設定されるＳＷ有効期間（操作有効期間）中に連打操作を実行したと判定された場合、即ち、演出ボタン２２を連続して押下している期間が、長押し操作と判定される判定期間よりも短いと判別された場合は（Ｆ３４５９：Ｎｏ）、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるための減少抽選を実行する。

【８５８１】

この減少抽選は、減少させるＨＰ値（減少ＨＰ値）として「０」～「５」の何れかの値を決定するための抽選が実行されるものであって、図示しない減少値抽選テーブルに基づいて減少ＨＰ値が決定される。減少値抽選テーブルには、取得した第１演出カウンタ２２３ｖｆの値と、ＳＷ有効期間の残期間の長さと、残ＨＰ値と、に対応させて異なる減少ＨＰ値が規定されている。

【８５８２】

具体的には、残ＨＰ値が大きい方が、残ＨＰ値が少ない場合よりも減少ＨＰ値として大きな値が設定され易くなるように各種減少ＨＰ値が規定されている。このように構成することで、連打操作に基づいて減少する敵キャラ８８０ａのＨＰ値の傾向を把握することにより、残ＨＰ値を遊技者に予測させることが可能となる。上述した通り、本第２６制御例では、対応する特別図柄抽選の結果に基づいて、バトル演出リーチにおける敵キャラ８８０ａの最終ＨＰ値を決定するように構成しており、対応する特別図柄抽選の結果が当たり当選している場合の方が、特別図柄抽選の結果が外れである場合よりも、最終ＨＰ値として小さい値が決定されるように構成しているため、大当たり当選した場合には、残ＨＰ値

（現在のＨＰ値と、最終ＨＰ値との差分値）が大きくなり易くなる。
【８５８３】
つまり、連打操作に基づいて減少する敵キャラ８８０ａのＨＰ値の傾向を把握し、残ＨＰ値を遊技者に予測することで、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かまでも予測することが可能となる。よって、遊技者に対して残ＨＰ値を意欲的に予測させることで、バトル演出リーチの演出内容に遊技者を注視させることができ、演出効果を高めることができる。
【８５８４】
さらに、減少値抽選テーブルは、バトル演出リーチにおけるＳＷ有効期間の残期間が短い方が、残期間が長い場合に比べて、残ＨＰ値が同一である場合において、減少ＨＰ値として大きな値が決定され易くなるように規定している。このように構成することで、ＳＷ有効期間内に遊技者が連打操作を実行した場合において、連打操作によって敵キャラ８８０ａのＨＰ値が最終ＨＰ値まで減少すること無くＳＷ有効期間が経過してしまう事態が発生することを抑制することができる。
【８５８５】
加えて、減少値抽選テーブルは、バトル演出リーチにおけるＳＷ有効期間の残期間が長い方が、残期間が短い場合に比べて、減少ＨＰ値として小さな値が決定され易くなるように規定している。このように構成することで、ＳＷ有効期間の残期間が十分に残っている状態で、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達してしまい（即ち、これ以上残ＨＰ値を減少させることができない状態に比較的早い段階で到達したことにより、遊技者に連打操作を促す演出が長時間実行されてしまい）、遊技者の演出ボタン２２を操作する操作意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。
【８５８６】
なお、本第２６制御例では、バトル演出リーチにおける連打操作時に決定される減少ＨＰ値を、減少値抽選テーブルを参照して決定するように構成しているが、この構成以外の制御処理を実行して減少ＨＰ値を決定可能に構成しても良い。例えば、敵キャラ８８０ａのＨＰ値（例えば、１００）と、最終ＨＰ値（例えば、０）との間に含まれる所定の指標ＨＰ値（例えば、５０）を少なくとも１つ決定し、残ＨＰ値が指標ＨＰ値よりも小さくならないように制限（規制）される規制期間を設定可能に構成しても良い。
【８５８７】
より具体的には、ＳＷ有効期間として３秒が設定される場合に、最初の２秒を規制期間として設定することで、ＳＷ有効期間が設定されてから懸命に連打操作を実行した場合であっても、ＳＷ有効期間が設定されてから２秒が経過するまでは、残ＨＰ値が指標ＨＰ値よりも小さくならないように構成しても良い。このように構成することで、ＳＷ有効期間の残期間を十分に残した状態で残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達してしまうことを抑制することができる。また、規制期間が経過するまでに残ＨＰ値が指標ＨＰ値に到達した場合には、規制期間が経過するまでの間、残ＨＰ値が減少せず、規制期間が経過した後に、残ＨＰ値が指標ＨＰ値から最終ＨＰ値に向けて減少される演出が実行されることから、遊技者に対して、所定期間残ＨＰ値が減少しない期間が継続した場合であっても、その後、再度、残ＨＰ値が減少し得る状況を創出することができるため、連打操作に基づいて残ＨＰ値が減少しない状況が所定期間継続した場合であっても、遊技者に対して継続して連打操作を実行させ易くすることができる。
【８５８８】
なお、この場合、例えば、指標ＨＰ値に到達し、規制期間が経過するまでの間、残ＨＰ値が減少しない状況が発生している状態で遊技者が連打操作を中断した場合には、規制期間が経過した後、または、規制期間が経過する直前において、遊技者に対して連打操作を促す演出を実行するように構成すると良い。つまり、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が減少しなくなった（残ＨＰ値が指標ＨＰ値に到達するよりも前の状況に対して、連打操作に基づいて残ＨＰ値が減少し難くなった）状態から、連打操作に基づいて残ＨＰ値を比較的減少させ易い状態へと移行したことを遊技者に報知可能に構成すると良い。

【８５８９】
このように構成することで、規制期間が経過するまでに残ＨＰ値が指標ＨＰ値に到達した後も継続して連打操作を実行している遊技者だけで無く、規制期間が経過するまでに残ＨＰ値が指標ＨＰ値に到達したことにより連打操作を中断した遊技者に対しても、規制期間が経過した後に、残ＨＰ値を最終ＨＰ値に向けて減少させる演出を実行させ易くすることができる。
【８５９０】
上述した例では、指標ＨＰ値として１の値が決定される例を示しているが、これに限ること無く、指標ＨＰ値として２以上の値を決定するように構成しても良い。また、指標ＨＰ値として２以上の値を決定可能に構成した場合には、決定された指標ＨＰ値の各値に対して、異なる規制期間を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、ＳＷ有効期間中の連打操作を意欲的に実行する遊技者に対して、ＳＷ有効期間の残範囲を用いて、残ＨＰ値を段階的に減少させながら最終ＨＰ値に到達させ易くすることが可能となる。
【８５９１】
また、指標ＨＰ値を決定し、決定された指標ＨＰ値に対応させて規制期間を設定可能に構成した場合であっても、遊技者の連打操作の操作速度が、ＳＷ有効期間中に規制期間の間に指標ＨＰ値まで到達し得ない（し難い）操作速度（比較的遅い操作速度）である場合には、規制期間の間に指標ＨＰ値に到達することなく、ＳＷ有効期間の全体に渡って、残ＨＰ値が最終ＨＰ値となるまで継続的に敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少していく演出態様となる。よって、遊技者の連打操作の操作速度に応じて、規制期間内に指標ＨＰ値まで到達し得る操作速度（例えば、操作間隔が０．５秒以下の比較的高速な操作速度）であるか、到達し得ない（し難い）操作速度であるかに応じて、敵キャラ８８０ａのＨＰ値が減少していく際のＨＰ値の推移を異ならせることができるので、操作速度によって好みのＨＰ値の推移の態様を遊技者自身に選択させる遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【８５９２】
さらに、決定された指標ＨＰ値の値や、設定された規制期間の長さに基づいて、対応する特別図柄抽選の結果や、現在設定されている遊技状態といった、遊技者に有利となる特典情報を報知可能に構成すると良い。このように構成することで、いち早く残ＨＰ値が指標ＨＰ値へと減少するように遊技者に対して意欲的に連打操作を実行させることが可能となる。また、この場合、指標ＨＰ値の値として、対応する特別図柄抽選の結果が外れである場合に決定され得る最終ＨＰ値の値と同一の値を決定可能に構成すると良い。このように構成することで、連打操作しているにも関わらず残ＨＰ値が減少しない（し難い）状態が発生した場合において、現在のＨＰ値が、指標ＨＰ値であるか最終ＨＰ値であるかを遊技者に把握させ難くすることができる。
【８５９３】
また、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合の方が、外れ当選である場合よりも、規制期間として長い期間が設定され易くなるように構成しても良い。このように構成することで、残ＨＰ値が指標ＨＰ値に到達してから規制期間が経過するまでの期間が長いほど、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選している可能性を高くすることができる。よって、残ＨＰ値が最終ＨＰ値に到達してしまい、これ以上残ＨＰ値を減少させることができない状態となった遊技者に対しても、長い規制期間が設定されているのではと思わせることができるため、バトル演出リーチの演出結果を遊技者に早期に把握されてしまうことを抑制することができる。
【８５９４】
一方で、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合の方が、外れ当選である場合よりも、規制期間として短い期間が設定され易くなるように構成しても良い。このように構成することで、バトル演出リーチのＳＷ有効期間全体における規制期間が占める割合を少なくすることができるため、連打操作によって残ＨＰ値を減少させ易くすることができる。

【８５９５】
　また、本第２６制御例では、バトル演出リーチ中に連打操作を行った場合に、各押下タイミングで敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させるための減少抽選を実行するように構成しているが、これに限ること無く、連打操作によって演出ボタン２２を押下した回数をカウントする押下回数計測手段を設け、押下回数計測手段によって計測された押下回数が特定回数（例えば、５の倍数に対応する回数）に到達したと判別された場合に、減少抽選を実行するように構成しても良い。このように構成することで、連打操作において、残ＨＰ値を減少させることが可能な第１押下操作と、残ＨＰ値を減少させることが困難な第２押下操作と、を設けることができるため、連打操作中に演出ボタン２２をより多く押下した遊技者の方が、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を最終ＨＰ値へと到達させ易くすることができる。
【８５９６】
　さらに、バトル演出リーチ中に連打操作を行った場合における敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値の減少過程を、予め定められた押下シナリオに基づいて決定するように構成しても良い。この場合、バトル演出リーチの実行を決定したタイミングにて、複数種別の押下シナリオの中から１の種別の押下シナリオを決定し、決定された押下シナリオに規定されている内容に応じて、押下回数計測手段によって計測された押下回数を参照して減少ＨＰ値を決定するように構成しても良い。このように構成することで、ＳＷ有効期間の全体を用いて残ＨＰ値を最終ＨＰ値に到達させ易くすることができる。加えて、複数種別の押下シナリオとして、例えば、演出ボタン２２の押下回数が少ない期間（ＳＷ有効期間の序盤）の方が、押下回数が多い期間（ＳＷ有効期間の終盤）よりも大きな減少ＨＰ値が規定されている第１押下シナリオと、演出ボタン２２の押下回数が少ない期間（ＳＷ有効期間の序盤）よりも、押下回数が多い期間（ＳＷ有効期間の終盤）の方が大きな減少ＨＰ値が規定されている第２押下シナリオと、を少なくとも含む複数の押下シナリオの中から１の押下シナリオを決定可能に構成すると良い。
【８５９７】
　このように構成することで、決定された押下シナリオの種別によって、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値の減少過程が明らかに異なるバトル演出リーチを実行させ易くすることができるため、遊技者がバトル演出リーチに早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【８５９８】
　また、上述した例では、バトル演出リーチ中に演出ボタン２２を連打操作した場合における敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値の減少過程を決定するための押下シナリオとして、演出ボタン２２の押下回数（連打回数）に対応付けて減少ＨＰ値が規定されている押下シナリオ（第１押下シナリオ、第２押下シナリオ）を設けているが、これに加えて、或いは、これに代えて、バトル演出リーチのＳＷ有効期間の残期間に対応付けて減少ＨＰ値が規定されている押下シナリオ（第３押下シナリオ）を設けても良い。
【８５９９】
　そして、第３押下シナリオには、ＳＷ有効期間の残期間に対して、０．０５秒単位で減少ＨＰ値を規定しておき、演出ボタン２２を押下操作したと判別（押下判定）された時点におけるＳＷ有効期間の残期間に対応する減少ＨＰ値を決定するように構成すると良い。このように構成することで、減少ＨＰ値が規定されている各期間にて演出ボタン２２の押下判定がされた場合に、減少ＨＰ値をより多く減少させることが可能となるため、意欲的に連打操作を実行する遊技者（短い間隔で演出ボタン２２を押下する遊技者）の方が、残ＨＰ値を減少させ易くすることができる。
【８６００】
　さらに、この場合、各減少ＨＰ値が規定される残期間の単位が、演出ボタン２２を押下判定可能な間隔よりも短くなり得るように第３押下シナリオを規定すると良い。即ち、ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２を最速で連打操作した場合であっても、第３押下シナリオに規定されている全ての減少ＨＰ値が決定されることが無いように構成すると良い。この

ように構成することで、バトル演出リーチ中に演出ボタン２２を意欲的に連打操作する遊技者であっても、その連打操作による演出ボタン２２の押下タイミングに応じて、異なる減少ＨＰ値が決定されるため、バトル演出リーチの演出態様（残ＨＰ値の減少過程）を異ならせることができる。よって、バトル演出リーチの演出態様が単調となってしまい、遊技者の演出ボタン２２を操作する意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【８６０１】

次に、図８２４のＦ３４６２の処理では、図８０１（ｂ）に示したＨＰゲージ８９０の残ＨＰ値８９０ａを可変（減少）させる演出態様に加え、残ＨＰ値に応じて敵キャラ８８０ａの表示態様を可変させるダメージ演出態様や、１回の減少抽選にて決定された減少ＨＰ値が通常よりも大きな値（例えば、「５」）であることを遊技者に報知するための大ダメージ報知演出態様や、残ＨＰ値が特定値（例えば、「３３」，「７７」といったぞろ目）となり、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選であることを示すための大当たり報知演出態様等が設定される。

【８６０２】

具体的には、ダメージ演出態様としては、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値がＭＡＸ値の１／２以下になったことを示すための第１ダメージ演出態様と、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値がＭＡＸ値の１／４以下になったことを示すための第２ダメージ演出態様とを設定可能に構成しており、第１ダメージ演出態様が設定された場合には、図８０１（ｂ）に示した通り、敵キャラ８８０ａの表示態様として、「ツノが折れた」表示態様が表示される。また、図示はしないが、第２ダメージ演出態様が設定された場合には、敵キャラ８８０ａの表示態様として、「全身が傷付いた」表示態様が表示される。

【８６０３】

このように構成することで、ＨＰゲージ８９０の可変度合いだけで無く、敵キャラ８８０ａの表示態様によっても残ＨＰ値を遊技者に予測させることが可能となる。また、この場合、バトル演出リーチにおける１回の攻撃によって、ＨＰゲージ８９０の表示態様が可変するタイミングと、敵キャラ８８０ａの表示態様が可変するタイミングとを、異ならせるように構成すると良く、この場合、ＨＰゲージ８９０の表示態様が可変するよりも前に、敵キャラ８８０ａの表示態様が可変するように構成すると良い。

【８６０４】

つまり、遊技者に対して敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を分かり易く示すためのＨＰゲージ８９０の表示態様よりも、それ以外の表示態様の可変内容を把握した方が、いち早く敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が特定の値となったことを遊技者に把握させることができるように構成すると良い。このように構成することで、ＨＰゲージ８９０の表示態様を確認することで敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を把握する遊技者よりも、敵キャラ８８０ａの表示態様と、残ＨＰ値との関係を把握し、敵キャラ８８０ａの表示態様が可変したことに基づいて残ＨＰ値を把握可能な遊技者の方が、攻撃された後の敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を早く把握することが可能となるため、敵キャラ８８０ａの表示態様と、残ＨＰ値との関係を把握しようとバトル演出リーチの演出内容に注視させることができる。

【８６０５】

また、大ダメージ報知演出態様として、減少抽選によって残ＨＰ値を減少させる減少ＨＰ値として「５」が決定された場合に第３図柄表示装置８１の表示面に、減少ＨＰ値として大きな値が決定されたことを示すための「クリティカルヒット」の文字が表示される。このように大ダメージ報知演出態様を表示することで、今回の攻撃で通常よりも大きなダメージを敵キャラ８８０ａに与えたことを遊技者に報知することができる。よって、初めてパチンコ機１０を遊技する遊技者、即ち、バトル演出リーチの体験回数が少なく、１回の攻撃で減少させる敵キャラ８８０ａのＨＰ値を相対的に判別困難な遊技者に対しても、今回の攻撃が特別であることを分かり易く報知することができる。

【８６０６】

次に、大当たり報知演出態様について説明をする。本第２６制御例では、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合の方が、外れである場合よりも、敵キャラ８８

０ａの残ＨＰ値が特定値（例えば、「３３」，「７７」といったぞろ目）となり易くなるように構成している。そして、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が特定値となった場合において、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合の少なくとも一部において、その時点で大当たり当選していることを遊技者に報知するための大当たり報知演出態様を第３図柄表示装置８１の表示面に表示可能に構成している。

【８６０７】

具体的には、大当たり報知演出態様を実行するための実行条件が成立した場合には、味方キャラ８０１ａ（図８０１（ａ）参照）の表示態様として、通常とは異なる特殊態様（例えば、虹色のエフェクトを纏った表示態様）が表示され、特殊態様の味方キャラ８０１ａによって敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」になる攻撃演出が実行されるように構成している。つまり、大当たり報知演出態様の実行条件が成立した場合には、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」となるよりも前に、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」となることを報知可能に構成している。

【８６０８】

このように構成することで、バトル演出リーチにおいて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」になることを目指す遊技に加え、特定値（例えば、「３３」，「７７」といったぞろ目）となることを目指す遊技を遊技者に行わせることができるため、演出効果を高めることができる。また、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」になる前に大当たり当選していることを把握することが可能となるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。

【８６０９】

なお、大当たり報知演出態様の実行条件が成立してから、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にするまでの間に実行される味方キャラ８０１ａの攻撃として、大当たり報知演出態様の実行条件が成立しなかった場合と同様に、減少抽選に基づく攻撃を引き続き実行するように構成しても良い。この場合、敵キャラ８８０ａの最終ＨＰ値が「０」であることを把握している状態で、遊技者に連打操作を継続させることができるため、安心して演出ボタン２２を操作させることができる。

【８６１０】

また、大当たり報知演出態様の実行条件が成立したことを契機に、ＳＷ有効期間を破棄し、演出ボタン２２への操作に関わらず特殊攻撃が実行されるように構成しても良い。このように構成することで、大当たり報知演出態様の実行条件が成立してから、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にするまでの一連の演出を特殊演出として実行することが可能となるため、分かり易い演出を遊技者に提供することができる。

【８６１１】

以上、説明をした通り、本第２６制御例では、バトル演出中の操作有効期間中における演出ボタン２２への操作内容に基づいて、連打操作（押下操作）が実行されたのか、長押し操作が実行されているのかを判別する処理を実行し、判別結果に基づいて、バトル演出の演出態様を可変させるための異なる処理が実行されるように構成している。ここで、連打操作が実行されていると判定した場合は、押下判定される毎にＨＰ値の減少値を決定するための減少抽選を実行する。

【８６１２】

そして、減少抽選の抽選結果に対応する減少値を残ＨＰ値から減算し、減算結果を残ＨＰ値として残ＨＰ記憶エリア２２３ａａｄに格納すると共に、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減算するための演出態様と、ＨＰゲージ８９０の表示態様を可変させるための演出態様と、を少なくとも含む演出態様を示すための表示用コマンドを設定する。

【８６１３】

次に、図８２５を参照して、演出ボタン操作処理２６（図８２４のＦ３３７９参照）にて実行される長押し時演出設定処理２６（Ｆ３４６３）の処理内容について説明をする。図８２５は、長押し時演出設定処理２６（Ｆ３４６３）の処理内容を示したフローチャートである。この長押し時演出設定処理２６（Ｆ３４６３）では、長押し操作に基づいてＨ

Ｐ値を減少させるための演出シナリオを決定するための処理と、長押し操作期間を計測するための各種処理が実行される。

【８６１４】

本第２６制御例では、バトル演出リーチのＳＷ有効期間中における演出ボタン２２への操作方法に応じて、異なる制御を用いて敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるように構成している。そして、演出ボタン２２への操作方法として、連打操作と長押し操作とを有効に判別可能に構成している。

【８６１５】

具体的には、連打操作を実行した場合には、上述した通り、連打操作として演出ボタン２２を押下した場合に実行される減少抽選の抽選結果に基づいて減少ＨＰ値を決定し、決定された減少ＨＰ値に対応させて敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させる演出が実行される。一方で、長押し操作を実行した場合には、バトル演出リーチのＳＷ有効期間中に長押し操作が実行されていると判別した場合に、長押し操作時における敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値の減少過程が規定されているシナリオ（演出シナリオ）を決定し、長押し操作が継続している間、決定した演出シナリオに規定されている内容を参照して敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させる演出が実行される。

【８６１６】

つまり、バトル演出リーチのＳＷ有効期間中にどの操作方法で演出ボタン２２を操作するかを遊技者に選択させることで、異なる演出態様のバトル演出リーチを実行させることが可能となる。このように構成することで、遊技者に対して異なる演出態様でバトル演出リーチを実行させ易くすることができるため、演出効果を高めることができる。

【８６１７】

さらに、本第２６制御例では、バトル演出リーチの演出態様として、長押し操作時に実行される演出態様を決定する演出シナリオを、バトル演出リーチを実行するタイミングでは無く、長押し操作が実行されるタイミングで決定可能に構成している。つまり、バトル演出リーチ中に連打操作を行った場合には、長押し操作時における演出シナリオを決定すること無く、バトル演出リーチが進展するように構成している。

【８６１８】

このように構成することで、実際の演出に用いられることの無い演出データ（長押し操作時の演出シナリオ）を予め決定する処理を実行する必要が無くなるため、バトル演出リーチを実行するための処理負荷を軽減することができる。

【８６１９】

長押し時演出設定処理２６（Ｆ３４６３）が実行されると、まず、長押し演出シナリオテーブル２２２ａａａを参照して、長押し時の演出シナリオを決定し（Ｆ４６０１）、決定した演出シナリオを長押しシナリオ格納エリア２２３ａａｉに格納する（Ｆ４６０２）。

【８６２０】

そして、長押し中フラグ２２３ａａｅをオンに設定し（Ｆ４６０３）、長押しカウンタ２２３ａａｆの値に「１」をセットし（Ｆ４６０４）、本処理を終了する。

【８６２１】

以上、説明をした通り、演出ボタン操作処理２６（図８２４のＦ３３７９参照）において、バトル演出リーチ中に設定される操作有効期間（バトル演出用ＳＷ有効期間）にて長押し操作が実行されていると判定された場合（Ｆ３４５９：Ｙｅｓ）に実行される長押し時演出設定処理２６（Ｆ３４６３）にて、長押し操作時の演出シナリオ（敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるシナリオ）を決定するように構成しているため、バトル演出リーチ中における操作有効期間中に遊技者が連打操作を行った場合には、長押し操作時の演出シナリオ（敵キャラ８８０ａのＨＰ値を減少させるシナリオ）が設定されることが無い。

【８６２２】

このように構成することで、１の操作有効期間において、連打操作と長押し操作とを判別可能であって、判別された操作内容に応じて異なる態様の演出を実行可能に構成された

パチンコ機１０において、遊技者が連打操作を行った場合に参照する演出データと、遊技者が長押し操作を行った場合に参照する演出データと、を遊技者が実際に実行する操作内容に関わらず、操作有効期間が設定されたタイミングで決定する場合に比べて、不要となり得る演出データ（長押し操作用の演出データ）を決定する処理を省くことができる分、処理負荷を軽減することができる。

【８６２３】

なお、本第２６制御例では、長押し操作を実行した場合に参照される演出シナリオを、操作有効期間が設定されたことを契機に決定するのでは無く、操作有効期間中に長押し操作が実際に実行されたことを契機に決定するように構成することで、不要な演出シナリオを決定する手間を省略しているが、これに限ること無く、例えば、操作有効期間が設定されたことを契機に、長押し操作時に参照される演出シナリオを決定する処理を実行し、操作有効期間中に連打操作が実際に実行されたことを契機に連打操作を実行した場合に参照される演出シナリオを決定可能に構成しても良い。また、操作有効期間が設定されたことを契機には何れの演出シナリオも決定すること無く、各操作が実際に実行された場合に、実行された各操作に用いられる演出シナリオを決定するように構成しても良い。

【８６２４】

また、本第２６制御例では、長押し操作を実行した場合に参照される演出シナリオを、長押し操作を実行した場合に決定する処理を行い、その操作有効期間が経過するまでは、途中で長押し操作を中断したとしても、同一の演出シナリオが参照されるように構成している。そして、長押し操作を中断した場合には、演出シナリオを更新させるためのカウンタ値の更新も中断し、再度、長押し操作を実行した場合には、中断しているカウンタ値の更新を再開するように構成している。

【８６２５】

このように構成することで、操作手段（演出ボタン２２）の操作を誤ってしまい、一旦手を離してしまったとしても、再度長押し操作を実行することで、操作演出を継続させることが可能となる。

【８６２６】

更に、本第２６制御例では、バトル演出リーチのＳＷ有効期間中に長押し操作を実行し、決定された演出シナリオを参照して敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させている最中に、長押し操作を中断し、連打操作へと切り替えた場合に、長押し操作時に減少させた敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値に基づいて、減少抽選によって減少ＨＰ値を決定可能に構成している。また、バトル演出リーチのＳＷ有効期間中に連打操作を実行し、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させた後に、長押し操作を実行した場合には、長押し操作の実行時に決定された演出シナリオの内容と、残ＨＰ値とに基づいて、減少ＨＰ値を決定可能に構成している。

【８６２７】

つまり、ＳＷ有効期間中に遊技者が演出ボタン２２への操作方法を切り替えた場合であっても、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を継続して減少させることが可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して、ＳＷ有効期間中に実行する演出ボタン２２の操作方法を選択させるだけで無く、ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２の操作方法を切り替える操作を行わせることで、バトル演出リーチ中の演出態様を大きく異ならせることができるため、遊技者に演出ボタン２２を意欲的に操作させることが可能となる。

【８６２８】

なお、本第２６制御例では、上述した通り、ＳＷ有効期間中に選択ボタン２２への操作方法を異ならせた場合であっても、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を継続して減少させることが可能となるように構成しているが、これに限ること無く、ＳＷ有効期間中に選択ボタン２２への操作方法を異ならせた場合には、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値をＭＡＸ値まで復活させて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させる演出を最初から実行させるように構成しても良い。このように構成することで、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」にさせるために、同一の操作方法で演出ボタン２２を遊技者に操作させ易くすることができる

。また、実行中のバトル演出リーチの演出態様に不満を持った遊技者に対して、別の演出態様でバトル演出リーチをやり直させることが可能となる。この場合、ＳＷ有効期間の残期間も初期値に戻すように構成しても良いし、操作方法を切り替えた時点における残期間よりも所定期間長くなるように構成しても良い。このように構成することで、切り替えた後の操作方法に基づくバトル演出リーチを遊技者に楽しませ易くすることができる。

【８６２９】

図８２７に示した通り、本第２６制御例では、長押し操作時に参照される演出シナリオとして、複数の演出シナリオから１の演出シナリオを決定可能に構成し、定期的に更新される長押しカウンタ２２３ａａｆの値に基づいて決定された演出シナリオを参照して敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させるように構成しているが、これに限ること無く、長押しカウンタ２２３ａａｆの値を更新する頻度を異ならせても良い。

【８６３０】

具体的には、長押しカウンタ２２３ａａｆの値を更新する頻度として、通常である第１頻度と、通常よりも早く値が更新される第２頻度と、通常よりも遅く値が更新される第３頻度と、を含む複数の頻度の中から１の頻度を決定可能に構成し、決定された頻度に基づいて長押しカウンタ２２３ａａｆの値を更新するように構成しても良い、この場合、図８２５のＦ４６０４の処理を終えた後に、長押しカウンタ２２３ａａｆの更新頻度を決定するための処理を実行し、決定後の更新頻度を一時的に記憶手段に記憶させ、後述する長押し中処理（図８２７のＦ３５５１参照）にて加算される値を、記憶手段に記憶させている更新頻度に基づいて異ならせるように構成すると良く、例えば、更新頻度として第１頻度が記憶されている場合には、長押しカウンタ２２３ａａｆの値に「２」を、更新頻度として第２頻度が記憶されている場合には、長押しカウンタ２２３ａａｆの値に「３」を、更新頻度として第３頻度が記憶されている場合には、長押しカウンタ２２３ａａｆの値に「１」を加算する処理を実行可能に構成すると良い。

【８６３１】

このように構成することで、定期的に実行される長押しカウンタ２２３ａａｆの値を更新（加算）する処理にて更新（加算）する値を異ならせるだけで、異なる頻度で長押しカウンタ２２３ａａｆの値を更新することが可能となるため、同一の演出シナリオが決定された場合であっても、バトル演出リーチの演出態様を異ならせることができる。また、演出シナリオを決定する処理と、長押しカウンタ２２３ａａｆの更新頻度を決定する処理を別々に実行するのでは無く、各演出シナリオに対して、長押しカウンタ２２３ａａｆの更新頻度を規定しておき、決定された演出シナリオに応じて更新頻度を決定するように構成しても良い。

【８６３２】

次に、図８２６を参照して、演出更新処理２６（Ｆ２１７１）の処理内容について説明をする。図８２６は、演出更新処理２６（Ｆ２１７１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出更新処理２６（Ｆ２１７１）では、上述した第２２制御例に対して、長押し中に関する処理を追加した点で相違している。

【８６３３】

ここで、演出更新処理２６（Ｆ２１７１）において実行される長押し中処理２６（Ｆ３５５１）の処理内容について、図８２７を参照して説明をする。図８２７は、長押し中処理２６（Ｆ３５５１）の処理内容を示したフローチャートである。この長押し中処理２６（Ｆ３５５１）では、長押し操作を継続して実行している期間を更新する処理と、長押し操作中に非減少期間を設定するか否かを決定するための処理と、非減少期間が終了した際に実行される追加減少演出の演出態様を決定するための処理と、が実行される。

【８６３４】

以上、説明をした通り、本第２６制御例では、ゲージ減少演出（バトル演出）が実行されている操作有効期間の一部期間において、演出結果に関わらず、体力値が減少されない非減少期間を設定可能に構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出（バトル演出）中に体力値の減少が途中で停止された場合であっても、遊技者に有利となる演

出結果となる可能性を残すことができるため、遊技者に対してゲージ減少演出を最後まで楽しませることができる。

【８６３５】

具体的には、操作手段への操作に基づいて体力値を減少させる毎に、非減少期間を設定するか否かの突入抽選を実行し、突入抽選に当選した場合に非減少期間を設定するように構成している。そして、非減少期間が設定された場合には、所定時間の経過、或いは、非減少期間を解除するか否かの解除抽選に当選するまで、体力値を減少させることが無い演出が実行されるように構成している。このように、ゲージ減少演出が実行されている間にも体力値の減少度合いを可変させるための処理を追加するように構成することで、遊技者が操作手段に対して同一の操作を行った場合であっても、ゲージ減少演出における体力値の減少パターンをゲージ減少演出実行時に予め定めた演出パターンにのみ基づいて設定する場合に比べて増加させ易くすることができるため演出効果を高めることができる。

【８６３６】

また、本第２６制御例では、解除抽選の当選確率を、非減少期間が設定された時点における残体力値と、実行中のゲージ減少演出の演出結果とに基づいて異ならせるように構成しており、残体力値が大きい程、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出の序盤で非減少期間が設定された場合には、ゲージ減少演出の終盤で非減少期間が設定された場合よりも解除抽選に当選し易くすることができるため、ゲージ減少演出が実行されたにも関わらず、即座に設定された非減少期間が長時間継続してしまい、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。

【８６３７】

さらに、実行中のゲージ減少演出の演出結果が有利な演出結果となる場合の方が、演出結果が不利な演出結果となる場合よりも解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。ここで、本第２６制御例では、ゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果となる場合の方が、遊技者に不利となる演出結果となる場合よりも、ゲージ減少演出にて体力値を大きく減少させる（残体力値を０にする）演出が実行され易くなるように構成している。つまり、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な体力値が大きい程、解除抽選の当選確率が高くなるように構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出の演出結果が有利な演出結果となるゲージ減少演出にて非減少期間が設定された場合には、ゲージ減少演出の演出結果が不利な演出結果となるゲージ減少演出にて非減少期間が設定された場合よりも解除抽選に当選し易くすることができるため、体力値を大きく減少させることができるゲージ減少演出が実行されたにも関わらず、非減少期間が長時間継続してしまい、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。

【８６３８】

加えて、本第２６制御例では、非減少期間が継続する期間に上限（リミット）を設け、解除抽選に当選すること無く非減少期間が上限に到達した場合には強制的に非減少期間を解除するように構成している。このように構成することで、非減少期間が解除されるタイミングをランダムにするために解除抽選を用いた場合であっても、解除抽選に当選すること無くゲージ減少演出が終了するまで非減少期間が継続してしまい、ゲージ減少演出の演出効果が著しく低下してしまう事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【８６３９】

さらに、本第２６制御例では、非減少期間が解除され、体力値を減少させることが可能な減少期間が設定された場合に、設定されていた非減少期間の長さに応じて体力値を減少させる追加減少演出を実行可能に構成している。具体的には、今回のゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果にて非減少期間が設定されたり、ゲージ減少演出の序盤にて非減少期間が設定されたりした場合、即ち、解除抽選の当選確率が高く設定された場合において非減少期間が長時間継続した場合には、非減少期間が解除された場合に実行される追加減少演出にて体力値を大きく減少させることが可能となるように構成してい

る。
【８６４０】
このように構成することで、非減少期間が長時間継続した場合であっても、追加減少演出によって体力値を大きく減少させることが可能となるため、非減少期間が長時間継続している遊技者に対しても、実行中のゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果となることを期待させながら遊技を行わせることができる。また、今回のゲージ減少演出にて減少させることが可能な値まで体力値を減少させることができない事態が頻繁に発生することを抑制することができる。
【８６４１】
加えて、本第２６制御例では、ゲージ減少演出中における遊技者の操作手段への操作方法に応じて、体力値を減少させるための演出パターンを異ならせるように構成している。具体的には、ゲージ減少演出における操作有効期間中に遊技者が操作手段を継続して押下した場合（所謂、長押し操作を実行した場合）と、操作手段を連続して押下した場合（所謂、連打操作を実行した場合）と、で体力値を減少させる演出を実行可能に構成しており、長押し操作を実行した場合には、上述した非減少期間を設定可能な演出パターンが決定され、連打操作を実行した場合には、上述した非減少期間が設定されることの無い（突入抽選を実行しない）演出パターンが決定されるように構成している。
【８６４２】
このように構成することで、同一の演出結果を示すためのゲージ減少演出における体力値の減少過程を、操作手段の操作方法に応じて異ならせることが可能となる。よって、様々な演出パターンでゲージ減少演出を実行させたい遊技者に対して異なる操作方法で操作手段を操作させ易くすることができるため、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。
【８６４３】
さらに、本第２６制御例では、体力値が減少されない非減少期間の長さに応じてゲージ減少演出の演出結果を示唆可能に構成している。具体的には、非減少期間中に味方キャラが力を貯める演出（チャージ演出）が実行され、非減少期間の長さが長くなるほど、チャージ演出にて貯まる力が大きくなり易くなるように構成している。そして、チャージ演出中に貯めた力が大きいほど、非減少期間の経過後に体力値を大きく減少させる演出が実行され易くなるように構成している。
【８６４４】
このように構成することで、ゲージ減少演出期間中に非減少期間を設定した場合であっても、遊技者が実行されているゲージ減少演出に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【８６４５】
加えて、本第２６制御例では、演出結果が遊技者に不利となる演出結果となるゲージ減少演出において、チャージ演出を終了させること無く、ゲージ減少演出を終了させることが可能に構成している。つまり、チャージ演出にて力を貯めたにも関わらず、その力を利用して敵キャラを攻撃すること無くゲージ減少演出の演出結果が表示される演出パターンを設定可能に構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出の演出結果が遊技者に不利となる場合であっても、チャージ演出を実行させ易くすることができるため、演出効果を高めることができる。
【８６４６】
また、本第２６制御例では、操作手段への長押し操作を中止することによっても、非減少期間を強制的に解除可能に構成している。つまり、遊技者に対して、操作手段を操作（押下）させることを促すゲージ減少演出中において、操作手段への操作を中止させる選択肢を遊技者に提供可能に構成している。このように構成することで、操作手段に対する操作方法の選択肢を増加させることができる。
【８６４７】
なお、本第２６制御例では、ゲージ減少演出に長押し操作を実行した場合には、長押し

操作の継続時間に応じて体力値を減少させる演出シナリオが進展するように構成しており、継続時間が長くなる程、体力値が減少し易くなる演出シナリオが設定され易くなるように構成している。そして、途中で実行中の長押し操作を中止した場合には、押下継続時間の更新が中断され、再度長押し操作を実行した場合には、中断中の押下継続時間を引き継いで更新可能に構成している。よって、途中で長押し操作を中断した場合であっても、継続して操作手段を操作させ易くすることができる。

【８６４８】

また、上述した通り、操作手段への長押し操作を中止することによっても、非減少期間を強制的に解除可能に構成し、且つ、途中で実行中の長押し操作を中止した場合には、押下継続時間の更新が中断され、再度長押し操作を実行した場合には、中断中の押下継続時間を引き継いで更新可能に構成している。このように構成することで、ゲージ減少演出中に長押し操作を実行している遊技者に対して、長押し操作を継続して実行する場合よりも、途中で一旦長押し操作を中断し、再度、長押し操作を実行した場合の方が、非減少期間が短くなり、ゲージ減少演出において体力値を大きく減少させることが可能となり得る状況を提供することが可能となる。

【８６４９】

さらに、本第２６制御例では、ゲージ減少演出の実行期間中において、遊技者による操作手段への操作が有効に判別される有効期間（操作有効期間）を表示するように構成している。そして、表示される操作有効期間の長さを異ならせるように構成している。具体的には、ゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果である場合の方が、遊技者に不利となる演出結果よりも長い操作有効期間を示す表示が実行され易くなるように構成している。

【８６５０】

このように構成することで、ゲージ減少演出にて敵キャラの体力値を減少させるよりも前（操作有効期間を示す表示態様が表示された時点）に、今回の演出結果を遊技者に予測させ易くすることができる。また、操作手段への操作（長押し操作）に基づいて敵キャラの体力値を減少させる演出にて体力値の減少度合い（経過時間と減少値との関係性）だけで無く、体力値を減少させることが可能な残時間（残操作有効期間）の長さも考慮して演出結果を予測させることになるため、演出結果を遊技者に予測させるための要素を増加させる分、演出結果を予測させ難くすることができ、実行される演出（ゲージ減少演出）の演出効果を高めることができる。

【８６５１】

さらに、本第２６制御例では、ゲージ減少演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果である場合と、遊技者に不利となる演出結果である場合と、で同一の演出シナリオ（操作手段への操作時間に応じた体力値の減少値）を設定可能に構成し、設定される操作有効時間の長さに応じて、最終的に表示可能な体力値を異ならせるように構成している。

【８６５２】

このように構成することで、同一の演出シナリオを用いて、異なる演出結果を創出することができるため、ゲージ減少演出を実行する際に用いられる演出データ（演出シナリオ）として、遊技者に有利となる演出結果専用の演出シナリオと、遊技者に不利となる演出結果専用の演出シナリオと、のみを用いた場合よりも、ゲージ減少演出に関する演出データ（演出シナリオ）の量を削減することができる。

【８６５３】

また、従来より、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出を、様々な演出態様で実行することにより、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選以外（外れ）の抽選結果となる期間が長時間継続した場合であっても、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制しているパチンコ機１０がある。このような従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の抽選結果が外れである場合に選択される割合と、特別図柄抽選の抽選結果が大当たりである場合に選択される割合と、の比率を示す大当たり当選期待度を異ならせた様々な演出態様を決定可能に構成し、変動演出に対応する特別図柄抽選の結果と、変動演出の演出態様

を決定するための演出抽選結果と、に基づいて演出態様を決定可能に構成することで、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選以外（外れ）の抽選結果となる遊技が複数回連続した場合であっても、遊技者に対して、大当たり期待度を異ならせた様々な変動演出を実行させることができるため、遊技者に対して適度に大当たりへと期待感を持たせながら遊技を行わせることができるものであった。

【８６５４】

しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の抽選結果が外れであることを示すための変動演出の演出態様を抽選（演出抽選）で決定しているため、場合によっては、長時間の間、大当たり当選期待度が低い変動演出しか実行されず遊技者が遊技に飽きてしまい易くなるという問題があった。また、大当たり当選期待度が高くなるように選択割合が規定されている演出態様を短期間で複数回選択してしまい、遊技者に不信感を与えてしまうという問題があった。

【８６５５】

これに対して、本第２６制御例では、過去に実行された変動演出の演出態様に関する情報（演出履歴情報）と、特別図柄抽選の抽選結果が外れであることを示すための変動演出（外れ変動演出）が連続して実行された回数（連続外れ回数）に関する情報と、に基づいて、変動演出の演出態様を決定可能に構成している。

【８６５６】

具体的には、連続外れ回数の増加に基づいて特定のカウンタ値（実行演出カウンタの値）を加算し、実行演出カウンタの値が特定値（例えば、１００）に到達した場合には、変動演出の演出態様を決定する際に参照されるデータテーブルとして、通常時に参照されるデータテーブル（通常時演出態様選択テーブル）とは異なる特殊演出態様選択テーブルを参照するように構成し、大当たり期待度が高い演出態様を、通常時よりも決定し易くするように構成している。

【８６５７】

このように構成することで、定期的に大当たり期待度が高い演出態様の変動演出を実行させることができるため、大当たり当選期待度が低い変動演出しか実行されず遊技者が遊技に飽きてしまう事態を発生させ難くすることができる。

【８６５８】

さらに本第２６制御例では、上述した実行演出カウンタの値を減算する処理を実行可能に構成しており、例えば、外れ変動演出の演出態様として、大当たり当選期待度が高い演出態様が決定された場合には、決定された演出態様に応じて実行演出カウンタの値を減算するように構成している。具体的には、大当たり当選期待度が比較的高い演出態様を外れ変動演出の演出態様として決定した場合には、実行演出カウンタの値を３０減算するように構成している。

【８６５９】

このように構成することで、大当たり当選期待度が高い演出態様で外れ変動演出が実行された直後に、特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様が決定される外れ変動演出が実行されてしまうことを抑制することができるため、大当たり当選期待度が高い演出態様で外れ変動演出が連続して実行されてしまい、遊技者に不信感を与えてしまうことを抑制することができる。

【８６６０】

加えて、本第２６制御例では、特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様を決定する際に、過去に実行された外れ変動演出の演出態様に関する情報に基づいて決定される演出態様の種別を異ならせるように構成している。具体的には、通常時に参照される通常時演出態様選択テーブルを参照して決定された大当たり当選期待度の高い演出態様を、特殊演出態様選択テーブルを参照して決定させ難くなるように構成している。このように構成することで、外れ変動演出に対して同一の演出態様を決定させ難くすることができるため、通常の大当たり当選期待度が規定されている通常時演出態様選択テーブルとは異なる内容で各種演出態様が規定されている特殊演出態様選択テーブルを参照して演出態様を決定

可能に構成したとしても、特定の演出態様に対する大当たり当選期待度が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【８６６１】

従来より、１の演出を実行する前に、その演出にて用いられる複数の情報（演出要素）を遊技者に順に報知することで、後に実行される演出の内容を遊技者に予測させる報知演出を実行するものがある。具体的には、敵キャラを攻撃するバトル演出を実行する場合において、バトル演出に用いられる味方キャラの種別を示す情報を報知し、次いで、味方キャラがバトル演出にて用いる武器の種別を示す情報を報知する報知演出を実行し、その報知演出にて報知された演出要素を用いたバトル演出を実行するものがある。このように構成することで、後に実行されるバトル演出の内容を徐々に遊技者に報知することができるため、何の前ぶれも無くバトル演出を実行する場合に比べて、遊技者が後に実行されるバトル演出の内容を予測可能な期間（報知演出期間）を設けた分、実行される演出に興味を持たせる期間を長くすることができ、演出効果を高めることができるものであった。

【８６６２】

しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、報知演出によって演出要素が報知される順序が固定されているため、例えば、先に報知される演出要素の内容が遊技者に不利となる演出結果となる場合の方が、遊技者に有利となる演出結果となる場合よりも選択され易い演出要素である場合に、その時点で後に実行されるバトル演出への期待感が大幅に減少してしまい、遊技意欲が早期に低下してしまうという問題があった。

【８６６３】

これに対して、本第２６制御例では、討伐リーチ演出における報知演出にて遊技者に報知する複数の情報の報知順序を異ならせることが可能となるように構成している。具体的には、報知演出にて報知可能な複数の情報のうち、後に実行される攻撃演出の演出結果を遊技者に予測させ易い情報の方が、攻撃演出の演出結果を遊技者に予測させ難い情報よりも後に報知され易くなるように構成している。

【８６６４】

具体的には、攻撃演出に用いられる味方キャラの種別として、少なくとも、第１味方キャラと第２味方キャラとを決定可能に構成し、第１味方キャラは第１演出要素よりも第２演出要素の方がバトル演出の演出結果を予測させ易い情報となり、第２味方キャラは第２演出要素よりも第１演出要素の方がバトル演出の演出結果を予測させ易い情報となるように構成し、第１味方キャラが決定された場合には、第１演出要素に関する情報を報知した後に第２演出要素に関する情報を報知し、第２味方キャラが決定された場合には、第２演出要素に関する情報を報知した後に第１演出要素に関する情報を報知するように構成している。

【８６６５】

このように構成することで、報知演出の途中段階で後に実行されるバトル演出への期待感が大幅に減少してしまい、遊技意欲が早期に低下してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【８６６６】

従来より、特定期間（例えば、特別図柄抽選が１０回実行される期間）中に実行される複数回の特別図柄抽選の結果を、１のモード演出を用いて報知可能に構成したパチンコ機１０として、第１特定期間（例えば、特別図柄抽選１回目～５回目）にて第１モード演出を実行し、第２特定期間（例えば、特別図柄抽選６回目～１０回目）にて第２モード演出を実行するものがある。このような従来型のパチンコ機１０では、１のモード演出によって複数回の特別図柄抽選の結果を報知することができるため、１のモード演出の対象となる複数回の特別図柄抽選に遊技者に有利となる抽選結果（例えば、大当たり当選）が含まれていれば、モード演出の演出結果として遊技者に有利となる演出結果を表示することが可能となる。よって、実行される特別図柄抽選毎にその抽選結果を示すための演出を実行する場合に比べて、特別図柄抽選の結果が遊技者に不利となる抽選結果（例えば、外れ当選）を示す演出（外れ演出）が実行される回数を削減することができるため、遊技者に不

利となる抽選結果を示す演出（外れ演出）が多く実行されることにより遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるものであった。

【８６６７】

しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、各モード演出にて抽選結果が示唆される特別図柄抽選の回数が固定されているため、各モード演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果となる確率が常に固定されるものであった。よって、各モード演出のうち、演出結果に影響を与える特別図柄抽選の回数が多いモード演出は、演出結果に影響を与える特別図柄抽選の回数が少ないモード演出よりも、遊技者に有利となる演出結果が表示され易くなってしまい、様々なモード演出において遊技者に有利となる演出結果が表示されることを期待する遊技者に対して、偏った演出を提供し易くなり演出効果が低下してしまうという問題があった。

【８６６８】

これに対して、本第２６制御例では、残確変回数が２０回を下回ると、複数回の特別図柄抽選結果を１の期間演出の演出結果を用いて遊技者に報知するモード演出が実行されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果が外れであることを示す変動演出が実行され難くなり、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、複数回の特別図柄抽選が実行される期間を跨いで１の期間演出を実行可能に構成しているため、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に把握させ難くすることができる。

【８６６９】

具体的には、本第２６制御例では、図８２０のＦ４３０３～Ｆ４３１０の処理が実行されることにより、残確変回数が２０回～１５回までの６回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第１モード演出が実行され、残確変回数が１４回～８回までの７回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第２モード演出が実行され、残確変回数が７回～１回までの７回の特別図柄抽選の結果を示す特別図柄変動期間を用いて期間演出として第３モード演出が実行されるように構成している。

【８６７０】

加えて、本第２６制御例では、各モード演出の演出態様（演出結果）を、既にモード演出が実行されている状態において新たに獲得した情報（保留記憶した入賞情報）に基づいて決定可能に構成している。より具体的には、第１モード演出が実行される最終変動（残確変回数が１５回となる特図変動）が開始される際に、入賞情報格納エリア２２３ｖａに格納されている情報（保留記憶情報）を読み出し、格納されている保留記憶情報に基づいて特別図柄抽選の結果を事前に判別する（先読みする）。そして、事前判別の結果、大当たり当選に対応する保留記憶情報を獲得していると判別した場合には、第１モード演出の演出結果を、大当たり当選を示す演出結果に書き換え、第１モード演出を、大当たり当選する特別図柄変動が停止表示されるまで延長して実行するように構成している。

【８６７１】

このように、第１モード演出（期間演出）を実行した後に獲得した情報に基づいて、第１モード演出（期間演出）の対象となる特別図柄抽選回数を可変可能に構成することで、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に把握させ難くすることができる。

【８６７２】

なお、本第２６制御例では、先読み結果に基づいて１の期間演出が実行される期間を可変可能に構成しているがこれに限ること無く、ランダムに期間を決定するように構成しても良いし、遊技者が任意の期間を選択可能に構成しても良い。また、先読み（事前判別）を実行するタイミングを、予め定められているモード演出の対象期間における最後の特別図柄変動が開始されるタイミングでは無く、それよりも前の特別図柄変動が開始されるタイミングにしても良いし、最後の特別図柄変動が開始されてから所定期間経過後（演出結果が遊技者に報知されるよりも前の特定タイミング）としても良い。さらに、事前判別を

実行する際において、獲得済みの保留記憶情報の全てを事前判別しても良いし、特定の範囲のみ（例えば、入賞情報格納エリア２２３ｖａに格納された順が古い２個）事前判別を実行するように構成しても良い。

【８６７３】

加えて、事前判別の結果、大当たり当選に対応する保留記憶情報を獲得していると判別した場合に、期間演出を延長させるか否かの抽選を実行し、その抽選結果に基づいて、期間演出の演出結果を書き換えるか否かを決定したり、期間演出を延長させるか否かを決定したりするように構成しても良い。

【８６７４】

従来より、遊技者に操作手段（演出ボタン２２）を操作させるための操作演出を実行可能に構成し、操作演出が実行される場合において、操作手段への操作が有効に判別される期間（有効期間）を遊技者に報知可能に構成したものがある。このように構成することで、遊技者に対して、有効期間の残期間を把握させ易くすることができ、操作演出の演出態様と、有効期間の残期間とに基づいて、操作演出の演出結果を予測させることができるものであった。

【８６７５】

しかしながら、従来型のパチンコ機１０では、操作演出の演出結果に関わらず、操作手段への操作が有効に判別される期間（有効期間）として同一の長さの有効期間が設定されるため、設定されている有効期間を報知してしまうと、有効期間の残期間を把握させ易くすることができ、操作演出の演出態様と、有効期間の残期間とに基づいて、今回の演出結果が遊技者に不利となる演出結果であることが早期に判別されてしまい、遊技者の操作手段を操作する意欲を低下させてしまうという問題があった。

【８６７６】

これに対して、本第２６制御例では、操作演出の演出結果に応じて、設定される有効期間の長さを異ならせることができるように構成している。そして、遊技者に報知する報知期間の長さとして、実際に設定される有効期間よりも短い期間を報知可能に構成している。

【８６７７】

なお、上述した第２６制御例では、バトル演出中における非減少期間の設定方法として、残ＨＰ値を減少させる条件が成立した場合に、非減少期間を決定するか否かの抽選を実行するように構成しているが、これに限ること無く、減少される残ＨＰ値の量に基づいて、非減少期間を決定するか否かを決定可能に構成しても良い。

【８６７８】

この場合、例えば、１回の攻撃で残ＨＰ値を大きく減少させる演出（強攻撃演出）が決定された場合の方が、１回の攻撃で残ＨＰ値を小さく減少させる演出（弱攻撃演出）が決定された場合よりも、非減少期間が設定され易くなるように構成しても良い。

【８６７９】

また、バトル演出中における非減少期間の設定方法として、残ＨＰ値を減少させる条件が成立した場合に、毎回、非減少期間を設定するように構成し、設定される非減少期間の長さを異ならせるように構成しても良い。

【８６８０】

加えて、操作有効期間の開始タイミングに合わせて非減少期間を設定し、非減少期間が解除されない限り、ＨＰ値が減少しないように構成しても良い。この場合、対応する特別図柄抽選の結果に基づいて、非減少期間が解除されるタイミング（解除されやすいタイミング）を異ならせるように構成すると良い。このように構成することで、どのタイミングから残ＨＰ値の減少が開始されたのかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【８６８１】

また、残ＨＰ値を減少させる条件の成立の有無に関わらず、操作有効期間における特定タイミングにて非減少期間が所定期間設定されるように構成しても良い。また、１の操作有効期間に対して、非減少期間を２回以上設定可能に構成しても良い。

【８６８２】
＜第２７制御例＞
次いで、図８２８から図８６１を参照して、第２７制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第１７制御例では、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）した上で、時短状態の種別に応じて、抽選が実行され易い特別図柄の種別を異ならせる構成としていた。即ち、第２時短状態Ａ、第３時短状態Ａにおいては、有利度合いが低い第１特別図柄の抽選が実行され易い時短状態を形成する一方で、第２時短状態Ｂ、第３時短状態Ｂにおいては、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が実行され易い時短状態を形成する構成としていた。
【８６８３】
これに対して本第２７制御例では、時短状態の設定契機（大当たり種別）に応じて第１特別図柄の抽選頻度（選択される変動時間の傾向）を異ならせることにより、時短状態の終了までに実行される第２特別図柄の抽選回数を異ならせる構成とした。より具体的には、時短終了条件として、第１特別図柄の抽選が第１回数（例えば、５０回）実行されることで成立する第１終了条件と、または第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選が合計で第１回数よりも多い第２回数（例えば、１００回）実行されることで成立する第２終了条件と、を設ける構成とし、基本的に第１終了条件により時短状態が終了するように構成した。つまり、基本的に、時短状態が設定されてから第１特別図柄の抽選が第１回数終了するまでの間が時短状態となるように構成した。そして、時短状態の設定契機に応じて時短状態中の第１特別図柄の平均変動時間を異ならせる構成とすることにより、有利な第２特別図柄の抽選が実行される回数の異なる複数の時短状態を形成する構成とし、実質的に、有利度合い（時短状態の間に大当たりに当選する可能性）の異なる複数の時短状態を形成している。これにより、時短状態が設定された場合に、更に、いずれの種別の時短状態が設定されたのかに注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【８６８４】
また、本第２７制御例では、第２特別図柄の抽選でのみ小当たりに当選し得るように構成し、上述した第１７制御例等と同様に、小当たりに当選し、小当たり遊技の実行中に右打ちを行いつづけることにより、ほぼ、Ｖ入賞を発生させて大当たり遊技を実行させることが可能に構成している。つまり、第２特別図柄の抽選では、大当たりに当選した場合だけでなく、小当たりに当選した場合も実質的に大当たりが確定する構成としている。そして、本第２７制御例では、通常状態において、基本的に第２特別図柄の抽選が実行された場合に極めて長い変動時間（例えば、１０分間）が設定されるように構成することで第２特別図柄の抽選が実行され難く構成しておく一方で、時短状態終了後の特定回数の第２特別図柄の抽選に限り、変動時間が短くなるように構成した。これにより、時短状態終了後において特定回数分の第２特別図柄の抽選機会を確保することができる。
【８６８５】
ここで、従来より、有利度合いが異なる複数の特別図柄（第１特別図柄、および第１特別図柄よりも有利度合いが高い第２特別図柄）を設け、不利な遊技状態の間は不利な第１特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し難くなる）一方で、有利な遊技状態へと移行した場合は有利な第２特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し易くなる）制御を採用している遊技機が広く一般的に知られている。係る従来型の遊技機の中には、有利状態な遊技状態における最後の変動表示の実行中に有利度合いが高い第２特別図柄の始動入賞を発生させることを促す演出を実行することで第２特別図柄の保留球を貯めさせて、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の抽選の抽選結果および第２特別図柄の保留球の抽選結果の中に当たりに対応する抽選結果が含まれているか否かを報知する演出を実行するものも存在する。しかしながら、本第２７制御例のように、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能な同時変動仕様を採用した場合、有利な遊技状態において第２特別図柄

の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が複数回実行される可能性も、第２特別図柄の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が全く実行されない可能性もあるため、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が残り１回の状態となった場合に、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の変動表示の可能性が高いと判断して第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を実行したにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の抽選が実行されずに時短状態が次の第２特別図柄の抽選まで継続してしまったり、逆に、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が比較的多く残っていた（例えば、８回等）ため、保留球を貯めさせる演出を実行しなかったにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の変動が頻繁に実行されて第２特別図柄の変動表示が終了するよりも前に有利な遊技状態が終了してしまったりする可能性があり、第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を適正なタイミングで実行することが困難になってしまう可能性がある。

【８６８６】

これに対して本第２７制御例では、第２特別図柄の抽選契機となる始動入賞口としての第２入球口６４０を、遊技状態によらず、右打ちをするだけで容易に遊技球が入球可能となる始動入賞口として構成した上で、通常状態では基本的に第２特別図柄の変動時間が極めて長い時間に設定されるように制御することで通常状態において有利な第２特別図柄の抽選が実行されることを抑制しつつ、有利な時短状態が終了した後の特定回数の第２特別図柄の抽選のみ、変動時間を短くすることにより、時短状態の終了直後に実行された第２特別図柄の変動表示において保留球を貯めさせる演出を実行可能に構成している。このように構成することで、保留球を貯めさせる演出を確実に実行できると共に、実行中および保留されている第２特別図柄の抽選の中に当たりがあるか否かを示す一連の演出もより確実に実行することができるので、演出態様を好適に設定することができる。

【８６８７】

この第２７制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第１７制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、パチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２、およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第１７制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第１７制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【８６８８】

まず、図８２８を参照して、本第２７制御例におけるパチンコ機１０の盤面構成について説明する。図８２８は、本第２７制御例における遊技盤１３の正面図である。図８２８に示した通り、本第２７制御例における遊技盤１３では、第１７制御例における遊技盤１３（図５４８参照）に対して、第１７制御例における第１入球口６４の直下に設けられていた小当たり用可変入賞装置２６５０が削除されている点で相違している。また、図８２８に示した通り、可変表示装置ユニット８０の正面視右側に形成されている流路において、上流側に普通図柄の抽選契機となるスルーゲート６７が配置され、スルーゲート６７の下流に電動役物６４ｒａによって開閉される右第１入球口６４ｒが設けられている。この右第１入球口６４ｒは、第１入球口６４と同様に、第１特別図柄の抽選契機となる始動入賞口の１つとして構成されている。電動役物６４ｒａは、通常時は右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球し難い閉鎖位置に維持されており、普通図柄の抽選で当たりとなった場合に所定期間、右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球可能となる開放位置に変位（可変）するように構成されている。

【８６８９】
このため、普通図柄の当たりが発生し易い（通常状態に比較して普通図柄の当たり確率が高くなり、普通図柄の変動時間が短くなり、普通図柄の当たり時の電動役物６４ｒａの開放時間が長くなる）時短状態においては、継続して右打ちを行い続けることにより頻繁に右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球する。更に、図８２８に示した通り、右第１入球口６４ｒの直下には、遊技球が入球可能な第２入球口６４０が設けられている。この第２入球口６４０は、第２特別図柄の抽選契機となる始動入賞口として構成されている。右第１入球口６４ｒと異なり、第２入球口６４０は、入球を妨げるものが何ら存在しないため、電動役物６４ｒａが開放され難い通常状態であっても、右打ちを行うことで容易に入球させることが可能となっている。なお、時短状態では、普通図柄の当たりとなる毎に上流側の第１入球口６４ａへと遊技球が入球し易い状態を形成するため、通常状態に比較すると遊技球が第２入球口６４０へと入球し難くなるが、時短状態における第２特別図柄の変動時間（本第２７制御例では１０秒間固定）の間に５個前後の遊技球が入球する設計となっているため、時短状態において継続的に右打ちを行っている場合に、第２特別図柄の保留球が０になるという事象はほぼ発生しない。よって、本第２７制御例では、時短状態の間に右第１入球口６４ｒにも第２入球口６４０にも頻繁に遊技球が入球するため、第１特別図柄の抽選も第２特別図柄の抽選も頻繁に実行される状態を形成する。

【８６９０】
なお、本第２７制御例では、特別図柄の大当たり確率が１／２００に設定され、第２特別図柄の小当たり確率が１／２０に設定されている。このため、小当たり当選し得ない第１特別図柄の抽選が実行されても１／２００の確率でしか大当たりに当選しないのに対し、特別図柄の抽選で大当たりおよび実質的に大当たりが確定する小当たりのいずれにも当選し得る第２特別図柄の抽選が実行された場合は、実質的に１１／２００の確率で大当たりに当選する。このため、時短状態においてより多く第２特別図柄の抽選が実行されるほど、大当たりに当選する可能性が高くなる。よって、第２特別図柄の抽選がより多く実行されることを遊技者に期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８６９１】
また、図８２８に示した通り、本第２７制御例では、Ｖ入賞装置６５０の下流側に対して、大当たり遊技中に開放動作される可変入賞装置１０６５が配設されている。この可変入賞装置１６５０は、上述した第１２制御例等に設けられていた可変入賞装置１０６５（図４０６参照）と同一であるため、その詳細な説明については省略する。

【８６９２】
次に、図８２９から図８３３を参照して、本第２７制御例における特徴的な演出態様について説明する。まず、図８２９および図８３０（ａ）を参照して、本第２７制御例における大当たり遊技の実行中における演出態様について説明する。ここで、上述した通り、本第２７制御例では、時短状態の終了までに実行される第２特別図柄の抽選回数の平均値が異なる複数の時短状態を設ける構成としている。より具体的には、第１特別図柄の変動時間が平均１．４秒程度に設定されるため、時短状態に移行してから平均６６．８秒程度で第１の時短終了条件（第１特別図柄の抽選５０回）が成立して時短状態が終了される時短状態（Ｅランクラッシュ）と、第１特別図柄の変動時間が平均２秒程度に設定されるため、時短状態に移行してから平均９９．４秒程度で第１の時短終了条件（第１特別図柄の抽選５０回）が成立して時短状態が終了される時短状態（Ｄランクラッシュ）と、第１特別図柄の変動時間が平均３．２秒程度に設定されるため、時短状態に移行してから平均１５５．３秒程度で第１の時短終了条件（第１特別図柄の抽選５０回）が成立して時短状態が終了される時短状態（Ｃランクラッシュ）と、第１特別図柄の変動時間が平均３．８秒程度に設定されるため、時短状態に移行してから平均１８６．２秒程度で第１の時短終了条件（第１特別図柄の抽選５０回）が成立して時短状態が終了される時短状態（Ｂランクラッシュ）と、第１特別図柄の変動時間が平均６．２秒程度に設定されるため、時短状態に移行してから平均３０２．３秒程度で第１の時短終了条件（第１特別図柄の抽選５０回

）が成立して時短状態が終了される時短状態（Ａランクラッシュ）と、時短状態中の第１特別図柄の変動時間が必ずロング変動（２５０秒）となるため、時短中にほぼ第２特別図柄の抽選ばかりを実行させることができる時短状態（Ｓランクラッシュ）と、の６つの時短状態（ラッシュのランク）が設けられている。上でも少し触れたが、本第２７制御例では、第２特別図柄の変動時間が１０秒間に固定化されるため、時短状態における第２特別図柄の抽選回数は、第１の時短終了条件が成立するまでの期間が長いほど多くなる。つまり、第１の時短終了条件が成立するまでの期間が長いほど大当たり期待度が高くなる。なお、第１特別図柄の大当たり、第２特別図柄の大当たり、および第２特別図柄の小当たりを全て加味すると、時短状態が開始されてから時短状態終了後、特定回数（５回）の第２特別図柄の抽選が終了するまでの間に大当たりに当選する割合は、Ｅランクラッシュで約５９．８％、Ｄランクラッシュで約６６．６％、Ｃランクラッシュで約７５．６％、Ｂランクラッシュで約７９．５％、Ａランクラッシュで約８９．４％、Ｓランクラッシュで約９９．７％である。このため、大当たり終了後によりランクの高いラッシュが付与されることを一つの目的として遊技を行わせることができる。本第２７制御例では、この大当たり後に付与される時短状態（ラッシュ）のランクを予め報知する演出（ランクアップ演出）を大当たりのオープニング期間の間に実行する構成としている。

【８６９３】

図８２９（ａ）は、大当たりのオープニング演出として実行されるランクアップ演出の演出態様を示した図である。このランクアップ演出が実行されると、図８２９（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの小表示領域Ｄｍ１に対して、今回の大当たりを報知する際に停止表示された第３図柄が縮小表示される。図８２９（ａ）では、「４」の数字を模した第３図柄揃いによって大当たりが報知された場合を例示している。また、小表示領域Ｄｍ２に対して、大当たり遊技の実行中における遊技方法を示す「右打ち」という文字が表示される。更に、主表示領域Ｄｍにおいて、大量の敵が生息する洞窟ＤＧから１のザコ敵のキャラクタＺＥが１体出現して、その出現したザコ敵のキャラクタＺＥと冒険者のキャラクタ８０１とが戦う演出が実行される。また、図８２９（ａ）に示した通り、ザコ敵のキャラクタＺＥを冒険者のキャラクタ８０１が倒すことができた場合は、討伐したザコ敵のキャラクタＺＥが「ＲＡＮＫ　ＵＰ」という文字が付されたランクアップ画像（ランクアップアイコン）ＲＧをドロップする演出が実行される。また、主表示領域Ｄｍの情報に形成された表示領域ＨＲ３に対して、これまでに獲得したランクアップ画像ＲＧの個数を示す画像が表示される。図８２９（ａ）では、今回討伐したザコ敵のキャラクタＺＥがドロップしたランクアップ画像ＲＧによって２個目のランクアップ画像ＲＧを獲得した場合を例示している。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「敵を倒す毎にランクアップをストック！？」という文字が表示される。これらの表示内容により、ザコ敵のキャラクタＺＥを討伐するほどランクアップ画像ＲＧを多く獲得できる（ストックできる）ということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８６９４】

図８２９（ｂ）は、ザコ敵のキャラクタＺＥと戦う演出が終了した後で実行される、ストックしたランクアップ画像ＲＧを消費してランクを上げる演出の演出態様の一例を示した図である。ここで、本第２７制御例では、ランクアップ画像ＲＧを用いてランクを上げる対象として、ボーナスランクとラッシュランクとの２種類が設けられている。ボーナスランクは大当たりのラウンド数にリンクしており、ランクがＡ～Ｄの４種類設けられている。ボーナスランクのＡランクは１２ラウンドに対応し、Ｂランクは８ラウンドに対応し、Ｃランクは６ラウンドに対応し、Ｄランクは４ラウンドに対応している。また、上述した通り、ラッシュランクはＳ～Ｅの６種類が設けられている。

【８６９５】

図８２９（ｂ）に示した通り、ランクアップ画像ＲＧを消費してランクを上げる演出が実行されると、表示領域ＨＲ３に表示されていたランクアップ画像ＲＧの個数が１個減らされると共に、主表示領域Ｄｍにおいてランクアップ画像ＲＧが真っ二つに割れてボーナスランク若しくはラッシュランクを示す画像が出現する演出が実行される。図８２９（ｂ

）では、真っ二つに割れたランクアップ画像ＲＧから「ＢＯＮＵＳ　ＲＡＮＫ」との文字が付されたボーナスランク画像ＢＲＧが出現した場合を例示している。この場合、ボーナスランクが１ランク（段階）以上上昇することを意味する。また、主表示領域Ｄｍの右側には、現在のボーナスランクおよびラッシュランクを示す情報を表示するための表示領域ＨＲ３３が形成される。図８２９（ｂ）の例では、今回獲得したボーナスランク画像ＢＲＧによってボーナスランクがＣランクに上昇（ランクアップ）し、ラッシュランクはＥランクのままとなっている状態を例示している。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ストックを消費してボーナスランク、ラッシュランクを上げろ！」との文字が表示される。これらの表示内容により、ボーナスランクおよびラッシュランクのどちらかが１ランク以上上昇する演出が、ストックされたランクアップ画像ＲＧの個数分実行されるということを容易に理解させることができる。

【８６９６】

なお、ランクアップの回数や各ランクがいずれのランクまでランクアップするかについては、大当たり種別によって予め定められている。例えば、大当たりのラウンド数が６ラウンドで、大当たり終了後にＡランクラッシュに移行する大当たり種別（大当たりＫ２８）の場合、オープニング演出の前半において５個のランクアップ画像を獲得し、後半においてボーナスランクが１ランク上昇してＣランクとなり、ラッシュランクが４ランク上昇してＡランクとなる演出が設定される。ただし、各ランクアップ画像ＲＧを消費した場合にいずれのランクを上昇させるかについては、演出毎に抽選により決定される。例えば、ボーナスランクもラッシュランクも今回の大当たり種別に対応するランクまで上昇しきっていないうちは、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出の実行時に５０％の割合でボーナスランクに振り分けられ、５０％の割合でラッシュランクに振り分けられるように抽選される。これに対し、一方のランクが上限値まで上昇しきったあとは、上限値に未到達のランクに必ず振り分けられる。これにより、ランクアップにランダム性を持たせることができるので、いずれのランクが上昇するのかに注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、１の大当たりでより多くの賞球を獲得したいと考える遊技者に対しては、ラッシュランクよりもボーナスランクにより多くのランクアップ画像ＲＧが消費されて欲しいと願いながら遊技を行わせることができる一方で、大当たりの連チャンが発生する可能性が高くなる方がよいと考える遊技者に対しては、ボーナスランクよりもラッシュランクにより多くのランクアップ画像ＲＧが消費されて欲しいと願いながら遊技を行わせることができる。よって、遊技者の好みによって、ランクアップを期待する対象が全く真逆となる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８６９７】

図８３０（ａ）は、ストックしたランクアップ画像ＲＧを全て消費した後における演出態様の一例を示した図である。図８３０（ａ）に示した通り、ランクアップ画像ＲＧを消費し終わる（ボーナスランク、ラッシュランクのランクアップが終了する）と、主表示領域Ｄｍにおいて冒険者のキャラクタ８０１が剣を掲げる演出が実行されると共に、表示領域ＨＲ３に対して、「ランクアップ終了」という文字が表示される。また、副表示領域Ｄｓには、今回報知されたボーナスランクに対応する大当たりのラウンド数、およびラッシュランクに対応するラッシュの継続率（時短終了後５回の第２特別図柄の抽選が終了するまでに大当たりとなる割合）を示す情報が表示される。図８３０（ａ）では、ボーナスランクとして６ラウンド大当たりに対応するＣランクが報知され、ラッシュランクとして継続率７９．５％に対応するＢランクが報知された場合を例示しており、副表示領域Ｄｓに対して、「ボーナス６ラウンドｏｖｅｒ、ラッシュ継続率７９％ｏｖｅｒ確定！」という文字が表示される。これらの表示内容により、ボーナスランク、およびラッシュランクを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８６９８】

なお、本第２７制御例ではボーナスランクとして、単に今回の大当たりのラウンド数にリンクしたランクを報知する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、

保留内に大当たりが存在する場合に、保留内の大当たりのラウンド数も加味したランクを報知する構成としてもよい。より具体的には、例えば、今回の大当たりおよび保留球を加味して、トータルのラウンド数が４ラウンドであればＥランクを報知し、トータルのラウンド数が６ラウンドであればＤランクを報知し、トータルのラウンド数が８ラウンドであればＣランクを報知し、トータルのラウンド数が１０ラウンドであればＢランクを報知し、トータルのラウンド数が１２ラウンドであればＡランクを報知し、１４ラウンド以上であればＳランクを報知するように構成してもよい。また、例えば、単に保留内に大当たりが存在する場合はボーナスランクとしてＳランクを報知する構成としてもよい。このように構成することで、保留内大当たりの有無も加味した演出態様を実行することができるので、演出態様を多様化することができる。また、保留内大当たりが確定する演出態様が実行された場合に、遊技者の遊技に対する興趣を大きく向上させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８６９９】

本第２７制御例では、１のザコ敵のキャラクタＺＥを討伐する演出が実行される毎に１のランクアップ画像ＲＧを獲得する構成としていたが、これに限られるものではなく、１のザコ敵のキャラクタＺＥを討伐した場合に複数のランクアップ画像ＲＧを獲得する演出パターンを設けてもよい。また、この場合に、討伐した場合に複数のランクアップ画像ＲＧを獲得する期待度が高い種別の敵や、討伐および複数のランクアップ画像ＲＧの獲得が確定する種別の敵等を設けてもよい。このように構成することで、冒険者のキャラクタ８０１が敵を討伐できるか否かだけでなく、出現する敵の種別にも注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７００】

次に、図８３０（ｂ）、図８３１、および図８３２を参照して、本第２７制御例における時短状態（ラッシュ）中の特徴的な演出態様について説明する。図８３０（ｂ）は、時短状態中の表示態様の一例を示した図である。図８３０（ｂ）に示した通り、時短状態中は、主表示領域Ｄｍにおける小表示領域Ｄｍ２に対して、大当たり遊技の実行中と同様に、「右打ち」という文字が表示される。これにより、遊技者に対して有利な遊技方法である右打ちをより確実に実行させることができるので、時短状態において遊技者が損をしてしまうことを抑制することができる。また、主表示領域Ｄｍにおける比較的広い領域（画面中央部分）において、第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄（右図柄ＲＤ、中図柄ＣＤ、および左図柄ＬＤ）の変動表示演出を実行する。また、主表示領域Ｄｍにおける右下部分に形成された横長略長方形形状の小表示領域Ｄｍ３に対して、今回設定されているラッシュのランクを示す情報が表示される。図８３０（ｂ）では、ラッシュランクとして「Ｂランク」が設定されている場合を例示している。また、小表示領域Ｄｍの左側には、第１特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示演出を実行するための小表示領域Ｄｍ８ａが形成される。図８３０（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ８ａは、第２特別図柄に対応する変動表示演出を実行するための表示領域に対して著しく小さい（遊技者が視認し難い）表示領域で構成される。これは、当たりの期待度（有利度合い）が低い第１特別図柄に対応する変動表示演出よりも、当たりの期待度（有利度合い）が高い第２特別図柄に対応する変動表示演出の方を確認したいと考える遊技者が大多数であると考えられるからである。なお、図示については省略したが、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合のみ、第１特別図柄に対応する第３図柄を第２特別図柄に対応する第３図柄よりも大きな表示領域にて表示させる構成としている。より具体的には、例えば、第１特別図柄の当たり変動の変動停止前１秒のタイミングで第１特別図柄に対応する第３図柄が拡大表示されると共に第２特別図柄に対応する第３図柄が縮小表示されて、第１特別図柄の大当たりが第２特別図柄よりも目立つ態様で報知される。このように構成することで、時短状態の間に当たり期待度が低い第１特別図柄の抽選で大当たりに当選したとしても、大当たりが発生したことを遊技者に対して確実に理解させることができる。

【８７０１】

また、図８３０（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｍは、実行中の第２特別図柄の変動

表示に対応する保留図柄Ｄｓａ、および第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ２の保留第１～第４エリアに保留されている保留球に対応する保留図柄Ｄｓｂ１～Ｄｓｂ４を表示させるための小表示領域Ｄｓ１と、今回のラッシュに関する情報（継続率情報）を表示させるための小表示領域Ｄｓ２と、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ１の保留第１～第４エリアに保留されている保留球に対応する保留図柄Ｄｓｃ１～Ｄｓｃ４を表示させるための小表示領域Ｄｓ３と、に区分けされている。図８３０（ｂ）に示した通り、小表示領域Ｄｓ１の方が、小表示領域Ｄｓ３よりも広い表示領域として構成されている。これは、当たりの期待度（有利度合い）が低い第１特別図柄に対応する保留図柄よりも、当たりの期待度（有利度合い）が高い第２特別図柄に対応する保留図柄の方を確認したいと考える遊技者が大多数であると考えられるからである。

【８７０２】

更に、主表示領域Ｄｍにおける小表示領域Ｄｍ２に対しては、時短状態が終了するまでの残り時間の目安を示す情報（秒数のカウントダウン表示）が表示される。図８３０（ｂ）では、４７秒が経過することで時短状態が終了する可能性がある状況下となり、小表示領域Ｄｍ１に対して「ファイナルジャッジまで４７：００」という文字が表示された場合を例示している。ここで、ファイナルジャッジとは、時短状態が終了してから最初に実行される第２特別図柄の変動表示演出の実行中（およびその後の第２特別図柄の保留消化期間中）に実行される演出であり、右打ちによって第２特別図柄の保留球を貯めることを促した後で、実行中の第２特別図柄の変動表示の抽選結果および保留されている第２特別図柄の抽選結果の中に当たり（大当たり又は小当たり）が含まれているか否かを報知する演出のことを指している。

【８７０３】

上述した通り、本第２７制御例では、基本的に、第１特別図柄の抽選が第１回数（５０回）実行されることで時短終了条件が成立して時短状態が終了される。このため、本第２７制御例では、時短状態が開始された後、最初に第１特別図柄の抽選が実行されたことを契機として、時短状態が終了するまでの残り時間の目安として、第１特別図柄の変動時間のうち最も短い時間（１秒間）×４９回（第１回数－１回）を小表示領域Ｄｍ１に対して表示させ（つまり、「ファイナルジャッジまで４９：００」という文字を表示させ）、時間の経過に伴って残り時間を更新して表示させる構成としている。言い換えれば、時短状態として最低限保証される時間（保証時間）を表示させておく構成としている。そして、第１特別図柄の変動時間の選択状況から保証時間（小表示領域Ｄｍ１に対して表示させている残り時間）に対するずれを計測（積算）しておき、ずれが所定以上積算された場合に、所定契機で残り時間を上乗せする演出（残り時間上乗せ演出）を実行する構成としている。この残り時間上乗せ演出の詳細について、図８３１を参照して説明する。

【８７０４】

図８３１（ａ）および図８３１（ｂ）は、残り時間上乗せ演出が実行された場合の演出態様の一例を示した図である。図８３１（ａ）に示した通り、残り時間上乗せ演出の実行が決定されると、主表示領域Ｄｍの中央部分において、中図柄ＵＧとして「上乗せ」という文字が付された特殊な第３図柄（上乗せ図柄）が停止表示される演出態様の変動表示演出が実行される。また、変動停止時に、表示領域ＨＲ３に対して、「上乗せ発生」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して時短状態が終了するまでの残り時間が上乗せされたことを容易に理解させることができる。

【８７０５】

上乗せ図柄が停止表示された後は、図８３１（ｂ）に示した通り、停止された上乗せ図柄が真っ二つに割れて上乗せされる秒数を示す画像（アイコン）が出現する演出が実行される。図８３１（ｂ）の例では、２０秒の上乗せを報知するための「＋２０」という文字が付された上乗せ秒数アイコンが出現した場合を例示している。また、上乗せ秒数アイコンが出現すると、その上乗せ秒数アイコンが示す秒数と同じ秒数が、小表示領域Ｄｍ１において表示されている時短状態終了まで（ファイナルジャッジまで）の残り秒数に加算される演出が実行される。これらの表示内容によって、時短状態が終了するまでの残り時間

が上乗せされ、有利な第２特別図柄の抽選を実行する機会が多くなったことを遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７０６】

次に、図８３２を参照して、本第２７制御例における継続率上昇演出について説明する。この継続率上昇演出は、特に、第１特別図柄の抽選において低確率で選択される極めて長い変動時間が選択された場合に実行される可能性がある演出であり、ラッシュのランク（継続率）が上昇することを報知する演出で構成される。ここで、上述した通り、本第２７制御例では、第１特別図柄の変動時間の平均値によって各ランクの継続率（時短状態中に小表示領域Ｄｓに表示される継続率）が設定されている。よって、第１特別図柄の変動時間として平均値よりも大幅に長い変動時間が選択されると、平均値から算出される継続率に対して、実質的な継続率がアップする。よって、本第２７制御例では、第１特別図柄の変動時間として長い変動時間が選択され、現在設定されているラッシュの種別（ランク）に対応する継続率よりも高いランクに対応する継続率となった場合に、ラッシュのランクを上昇させる演出（継続率上昇演出）を実行する構成としている。このように構成することで、時短状態（ラッシュ）中の状況の変化に合わせて実質的な継続率を更新して報知することができるので、遊技者に対してより正確な情報（継続率）を提供することができる。

【８７０７】

図８３２（ａ）に示した通り、継続率上昇演出の実行が決定されると、主表示領域Ｄｍの中央部分において、中図柄ＵＧとして「ＲＡＮＫ　ＵＰ」という文字が付された特殊な第３図柄（ランクアップ図柄）が停止表示される演出態様の変動表示演出が実行される。また、変動停止時に、表示領域ＨＲ３に対して、「ランクアップ発生」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対してラッシュのランクが上昇した（ラッシュの継続率が上昇した）ことを容易に理解させることができる。

【８７０８】

ランクアップ図柄が停止表示された後は、図８３２（ｂ）に示した通り、停止されたランクアップ図柄が真っ二つに割れてランクアップするランク数（段階数）を示す画像（アイコン）が出現する演出が実行される。図８３２（ｂ）の例では、１段階のランクアップを報知するための「＋１ＲＡＮＫ」という文字が付されたランクアップアイコンＲＲＧが出現した場合を例示している。また、ランクアップアイコンが出現すると、そのランクアップアイコンＲＲＧが示す段階数と同じ段階数のランクアップが、小表示領域Ｄｍ３に表示されているラッシュランクに対して発生する演出が実行される。これらの表示内容によって、時短状態の継続率が上昇し、ラッシュ中に再度当たりが発生する可能性が高くなったことを遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７０９】

なお、本第２７制御例では、残り時間上乗せ演出や継続率上昇演出を、第２特別図柄に対応する第３図柄の変動表示演出の変動表示期間に同期させて実行する構成としていたが、これに限られるものではなく、第１特別図柄の変動表示期間に同期させて実行する構成としてもよい。この場合、第１特別図柄の抽選で当たりになった場合と同様に、一時的に、第１特別図柄に対応する第３図柄の変動表示演出を、第２特別図柄に対応する変動表示演出よりも目立つ表示態様（広い表示領域）で実行するように構成してもよい。このように構成することで、残り時間上乗せ演出が発生したことを遊技者に対して確実に認識させることができる。

【８７１０】

次に、図８３３を参照して、本第２７制御例におけるファイナルジャッジ演出の詳細について説明する。このファイナルジャッジ演出は、上述した通り、時短状態が終了た後で実行される特定回数（５回）の第２特別図柄の変動表示期間に渡って実行される演出であり、第２特別図柄の保留球を貯めさせるために右打ちを遊技者に促す演出を実行した後で

、実行中の変動表示に対応する第２特別図柄の抽選結果および第２特別図柄の保留球に対応する第２特別図柄の抽選結果の中に当たり（大当たりまたは小当たり）が少なくとも１つ含まれているか否かを報知する演出である。

【８７１１】

図８３３（ａ）に示した通り、時短状態が終了して（即ち、小表示領域Ｄｍ１に表示されていたファイナルジャッジまでの残り秒数が０となって）ファイナルジャッジ演出が実行されると、冒険者のキャラクタ８０１の右側に、５つの表示領域ＨＲ３４～ＨＲ３８が形成される。これら５つの表示領域のうち、表示領域ＨＲ３４は、実行中の第２特別図柄の変動表示の抽選結果に対応する態様の鍵の画像が表示される表示領域であり、表示領域ＨＲ３５～ＨＲ３８には、それぞれ第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１～第４エリアの抽選結果に対応する態様の鍵の画像が表示される表示領域である。図８３３（ａ）では、第２特別図柄の保留球が２個貯まっている状態でファイナルジャッジ演出が開始された状況を例示しており、表示領域ＨＲ３４～ＨＲ３６には鍵の画像が表示されている一方で、保留データが格納されていない保留第３エリアおよび保留第４エリアに対応する表示領域ＨＲ３７およびＨＲ３８には鍵画像が未表示の状態となっている。このファイナルジャッジ演出において、遊技者が右打ちを行って第２入球口６４０へと遊技球が入球して保留球が増加する毎に、当該保留球に応じた態様の鍵の画像が追加して表示されていく。また、図８３３（ａ）に示した通り、表示領域ＨＲ３に対して、「右打ちで鍵を貯めるんだ！！」との文字が表示される。これらの表示態様により、遊技者に対して右打ちを行うことで表示領域ＨＲ３４～ＨＲ３８に対して鍵が貯まっていくということを容易に理解させることができる。なお、図８３３（ａ）に示した通り、ファイナルジャッジ演出の実行中は、時短状態中に「右打ち」という文字が表示されていた小表示領域Ｄｍ２が消去される。これにより、時短状態が終了して右打ちを行った場合の有利度合いが低い通常状態に移行（転落）したということを遊技者に対して示唆することができる。

【８７１２】

ここで、表示領域ＨＲ３４～ＨＲ３８に表示される鍵の画像には、複数の態様が設けられている。本第２７実施形態では、鍵の態様により、当たりとなる期待度を遊技者に示唆可能に構成している。より具体的には、図８３３（ａ）における表示領域ＨＲ３４，ＨＲ３５に示した態様（通常の態様）の鍵や、表示領域ＨＲ３６に示した輝きを放つ態様が設けられている。また、図示については省略したが、通常の態様よりも大きい鍵の態様や、通常の態様よりもボロボロの態様等が設けられている。当たりとなる期待度としては、ボロボロの態様が最も期待度が低く、次いで通常の態様の期待度が低く、輝きを放つ態様は通常の態様よりも期待度が高くなり、大きい鍵の態様が最も期待度が高くなるように構成されている。これらの鍵の表示態様に応じて、遊技者に対してファイナルジャッジ演出によって当たりが報知されるか否かを予測させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８７１３】

鍵を集める演出が終了すると、図８３３（ｂ）に示した通り、冒険者のキャラクタ８０１が扉ＴＧを発見する演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「ストックした鍵で扉を突破できれば継続確定！？」との文字が表示される。これらの表示態様により、ストックした鍵のいずれかによって扉を開くことができれば大当たり又は小当たりとなってラッシュが継続するということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８７１４】

なお、本第２７制御例では、抽選結果によらず、時短状態終了後、１回目の第２特別図柄の抽選に係る変動時間が３０秒に設定され、２回目～５回目の第２特別図柄の抽選に係る変動時間が１０秒間に設定されるように構成している。そして、１回目の第２特別図柄の変動表示が開始されてから１０秒間が経過するまでの間、鍵を集める演出を実行することにより遊技者に対して第２特別図柄の保留球を貯めさせて、１０秒経過時以降の変動時間で、扉ＴＧを発見し、１個目の鍵（表示領域ＨＲ３４に表示されていた鍵）を使用して扉ＴＧを突破しようとする演出が実行される。１回目の第２特別図柄の抽選結果が外れの

場合は、１個目の鍵で扉ＴＧの突破に失敗する演出が実行され、以降は、第２特別図柄の保留球に基づく変動表示が実行される毎に、変動時間の１０秒間の間に、対応する鍵を用いて扉ＴＧの突破に挑戦する演出を実行する。そして、いずれかの第２特別図柄の抽選で当たり（大当たり又は小当たり）に当選していた場合は、対応する鍵を用いて扉ＴＧを突破する演出が実行され、当たりが報知される。

【８７１５】

このように、本第２７制御例では、不利な通常状態においても、右打ちを行うことで有利な第２特別図柄の抽選契機となる始動入賞口としての第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な盤面構成を前提として、通常状態においては基本的に第２特別図柄の変動時間を極めて長い変動時間に設定しておき、時短状態終了後の特定回数の第２特別図柄の抽選に限り、第２特別図柄の変動時間として比較的短い時間（３０秒又は１０秒）を設定する構成としている。そして、時短状態終了後の１回目の第２特別図柄の変動表示演出の前半１０秒間において右打ちにより第２特別図柄の保留球を貯めることを促す演出を実行し、１回目の第２特別図柄の変動表示演出の後半および時短状態終了後２回目～５回目の第２特別図柄の変動表示演出において当否を報知する演出を実行する構成としている。つまり、一般的に、右打ちを行うことで不利となる遊技状態で構成される通常状態において、右打ちを促して第２特別図柄の保留球を貯めさせるという極めて特殊な演出態様の演出を実行することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、時短状態終了後に、特定回数の第２特別図柄の抽選をほぼ確実に（右打ちを促されているにもかかわらず右打ちを行わない等の特殊な遊技方法を遊技者が故意に採用しない限り）保証することができる。

【８７１６】

ここで、従来より、有利度合いが異なる複数の特別図柄（第１特別図柄、および第１特別図柄よりも有利度合いが高い第２特別図柄）を設け、不利な遊技状態の間は不利な第１特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し難くなる）一方で、有利な遊技状態へと移行した場合は有利な第２特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し易くなる）制御を採用している遊技機が広く一般的に知られている。係る従来型の遊技機の中には、有利状態な遊技状態における最後の変動表示の実行中に有利度合いが高い第２特別図柄の始動入賞を発生させることを促す演出を実行することで第２特別図柄の保留球を貯めさせて、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の抽選の抽選結果および第２特別図柄の保留球の抽選結果の中に当たりに対応する抽選結果が含まれているか否かを報知する演出を実行するものも存在する。しかしながら、本第２７制御例のように、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能な同時変動仕様を採用した場合、有利な遊技状態において第２特別図柄の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が複数回実行される可能性も、第２特別図柄の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が全く実行されない可能性もあるため、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が残り１回の状態となった場合に、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の変動表示の可能性が高いと判断して第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を実行したにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の抽選が実行されずに時短状態が次の第２特別図柄の抽選まで継続してしまったり、逆に、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が比較的多く残っていた（例えば、８回等）ため、保留球を貯めさせる演出を実行しなかったにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の変動が頻繁に実行されて第２特別図柄の変動表示が終了するよりも前に有利な遊技状態が終了してしまったりする可能性があり、第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を適正なタイミングで実行することが困難になってしまう可能性がある。

【８７１７】

これに対して本第２７制御例では、時短状態終了後、１回目の第２特別図柄の抽選に係る変動時間を固定化しているので、時短状態終了後第２特別図柄の保留球を貯めさせる期間を確保することができる。よって、遊技者が演出内容に従って遊技を行うことにより、

確実に、第２特別図柄の保留球を上限個数分（４個）貯めさせることができるので、ファイナルジャッジ演出を好適に実行することができる。

【８７１８】

なお、本第２７制御例では、時短状態の終了後（即ち、通常状態への移行直後）、５回の第２特別図柄の変動表示期間に渡ってファイナルジャッジ演出の実行を設定し、１回目の第２特別図柄の変動表示期間の間に右打ちにより第２特別図柄の保留球を貯めることを示唆する演出を実行する構成としていたが、ファイナルジャッジ演出の開始タイミング、および実行期間（第２特別図柄の変動回数）は、これに限られるものではなく、任意に定めることができる。具体的には、例えば、より少ない期間（例えば、時短状態終了後、４回や２回の第２特別図柄の変動表示期間の間）でファイナルジャッジ演出を実行する構成とする構成としてもよいし、多い期間でファイナルジャッジ演出を実行する構成としてもよい。言い換えれば、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８（図８３９（ｂ）参照）や時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９を参照する第２特別図柄の抽選回数を変更する（通常用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａの規定内容を変更する）ことで、通常状態において第２特別図柄の変動時間が短くなる範囲（期間）を任意に変更してもよい。期間を少なくすることで、時短状態が終了した後で有利な第２特別図柄の抽選で当たり（大当たり又は小当たり）に当選する可能性を低くすることができるし、多い期間とすることで、第２特別図柄の抽選で当たり（大当たり又は小当たり）に当選する可能性を高くすることができるので、ラッシュのランク毎の継続率（ファイナルジャッジ演出が終了するまでに大当たりとなる可能性）を調節することができる。

【８７１９】

また、本第２７制御例では、大当たり終了後、１回目の第２特別図柄の抽選に基づく変動表示演出の実行中に、右打ちにより第２特別図柄の保留球を貯めることを遊技者に示唆する演出を実行する構成としていたが、時短状態が終了する前から、右打ちにより第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を実行してもよい。具体的には、例えば、時短状態の残りの抽選回数が１０回以内となった後で実行された第２特別図柄の抽選から、時短状態が終了するまでの間、毎回の第２特別図柄の変動表示（つまり、時短回数内の複数の第２特別図柄の変動表示）において第２特別図柄の保留を貯めるように促す演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、時短状態の終了タイミングによらず、時短状態において最後に実行された第２特別図柄の変動表示演出の実行中に第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を実行することができる。また、この具体例のように複数回の第２特別図柄の変動表示に渡って遊技者に対して右打ちを促す同系統の演出を実行する場合は、保留球が上限個数の状態をキープすることを促す演出内容としてもよい。このように構成することで、遊技者に対して保留が常に上限個数（４個）となるように注意して遊技を行わせることができるので、ファイナルジャッジ演出の演出期間の途中で保留球が０になってしまうことを抑制することができる。

【８７２０】

次に、図８３４を参照して、本第２７制御例における大当たり当選からラッシュ終了までに渡る演出態様の経時変化について説明する。図８３４は、大当たり当選後の演出態様の経時変化を示したタイムチャートである。図８３４に示した通り、大当たり遊技の開始に伴って大当たりのオープニング期間が開始されると、オープニング演出としてランクアップ演出（図８２９、図８３０（ａ）参照）が実行される。ランクアップ演出によりボーナスランク（大当たりのラウンド数）およびラッシュランク（大当たり終了後の時短状態の継続率）を報知し終わってオープニング期間が終了すると、大当たりの１ラウンド目が開始されると共に大当たり演出が実行される。そして、大当たりが終了して時短状態の開始タイミングになると、大当たり演出が終了されると共にラッシュ中演出（図８３０（ｂ）参照）が開始される。時短状態（ラッシュ）においては、第１特別図柄の変動時間の選択状況に応じて、残り時間上乗せ演出（図８３１参照）や、継続率上昇演出（図８３２参照）等が発生する可能性がある。そして、時短状態中に当たり（大当たり又は小当たり）に当選せずに時短状態の終了条件（第１特別図柄の５０回目の抽選が実行された場合に成

立する第１の終了条件と、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とが合計で１００回実行された場合に成立する第２の終了条件と、のいずれか）が成立し、その成立時点で実行されていた（若しくは終了条件の成立契機となった）第２特別図柄の変動表示が終了すると、時短状態が終了されることに伴ってラッシュ中演出が終了され、ファイナルジャッジ演出（図８３３参照）が開始される。ファイナルジャッジ演出の演出期間の間に実行される５回の第２特別図柄の抽選において当たりに当選しなかった場合は、全ての鍵を用いても扉ＴＧを突破することができない演出が実行される。そして、時短状態終了後、５回の第２特別図柄の抽選が終了してファイナルジャッジ演出の演出期間が終了すると、通常状態用の演出態様に切り替わる。

【８７２１】

なお、本第２７制御例では、大当たりのラウンド数（ボーナスランク）および大当たり終了後の時短状態の有利度合い（ラッシュランク）を報知するランクアップ演出を、大当たりのオープニング期間において実行する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、大当たりのラウンド遊技の実行中に実行してもよいし、インターバル期間中に実行してもよい。また、ボーナスランクの報知とラッシュランクの報知とは必ずしも１のランクアップ演出でまとめて報知する必要はなく、別々の演出で報知する構成としてもよい。より具体的には、例えば、ボーナスランク（大当たりのラウンド数）は大当たりの４ラウンド目までの間の任意のタイミングで報知する構成とし、ラッシュランク（時短状態の継続率）は大当たりのエンディング期間や時短状態（ラッシュ）移行後の特定回数（例えば、１回目や５回目）の第２特別図柄の抽選に係る変動表示演出中に報知する構成としてもよい。

【８７２２】

本第２７制御例では、ランクアップ演出によって大当たり図柄に対応するボーナスランクおよびラッシュランクを必ず報知する構成としていたが、所定の割合で実際よりも低いランクを報知する構成としてもよい。そして、ランクアップ演出において実際よりも低いランクを報知した場合は、予め定められた報知タイミングで実際のランクにランクアップする演出を実行する構成としてもよい。予め定められた報知タイミングとしては、例えば、ランクアップ演出においてボーナスランクを低めに報知した場合は、報知されたランクに対応する最終ラウンド（Ｂランクであれば８ラウンド目、Ｃランクであれば６ラウンド目、Ｄランクであれば４ラウンド目）に実際のランクにランクアップする演出を発生させる構成としてもよい。また、例えば、ランクアップ演出においてラッシュランクを低めに報知した場合は、大当たりの最終ラウンドや、大当たりのエンディング期間、大当たり終了後特定回数目（例えば、１回目）の第２特別図柄の変動表示期間中等に実際のランクにランクアップする演出を発生させる構成としてもよい。このように構成することで、ランクアップ演出において低いランクが報知されたとしても、その後に更にランクアップが発生することを期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができると共に、演出態様を多様化させることができる。

【８７２３】

本第２７制御例では、継続率上昇演出（図８３２参照）において、ランクアップの発生を報知する際に、１の第２特別図柄の変動表示演出において対応するランクまでのランクアップを報知する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、複数段階のランクアップを報知する場合は、複数の第２特別図柄の変動表示演出に渡って段階的に（例えば、１変動で１段階ずつ）ランクアップを報知する構成としてもよい。このように構成することで、複数の変動表示に渡ってより高いランクへと上昇する期待感を持続的に抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、段階的に報知する場合は、必ずしも複数変動に渡ってランクを報知する必要はなく１変動内でランクを段階的に上昇させる演出を実行する構成としてもよい。具体的には、例えば、ランクアップ画像ＲＧが真っ二つに割れて本来のランクよりも低いランクへのランクアップを示すランクアップアイコンＲＲＧが出現する演出を実行した後で、当該ランクアップアイコンＲＲＧが真っ二つに割れて、より高いランクを示すランクアップアイ

コンＲＲＧが出現する演出を実行する。そして、以降は、実際のランクへのランクアップが報知されるまで、直前に出現したランクアップアイコンＲＲＧによって示されるランクよりも高いランクを示すランクアップアイコンＲＲＧが、直前に出現したランクアップアイコンＲＲＧの中から出現する演出を繰り返すことにより、段階的にランクを報知する構成としてもよい。このように構成することで、より高いランクへと上昇する期待感を持続的に抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７２４】

本第２７制御例では、継続率上昇演出（図８３２参照）において、ランクアップ画像ＲＧが真っ二つに割れて出現するランクアップアイコンＲＲＧの種別（記載されている文字）によってランクの上昇数（ランクアップ数）を報知する構成としていたが、これに限られるものではない。これに代えて、または加えて、ランクアップ画像ＲＧの表示態様（例えば、色や大きさ等）、ランクアップ画像ＲＧの割れ方等によって、出現するランクアップアイコンＲＲＧの種別を示唆可能に構成してもよい。より具体的には、例えば、ランクアップ画像ＲＧの種別として、白色のランクアップ画像ＲＧ、赤色のランクアップ画像、および通常よりも大きいサイズの赤色のランクアップ画像を設ける構成とし、赤色のランクアップ画像が停止表示された場合は、白色のランクアップ画像ＲＧが停止表示された場合よりも、複数段階のランクアップが報知される可能性が高くなるように構成してもよい。また、通常よりも大きいサイズの赤色のランクアップ画像は、複数段階のランクアップが報知される場合にのみ、選択され得るように構成してもよい。また、ランクアップ画像ＲＧの割れ方として、真っ二つに割れる割れ方の他に、４つに割れる割れ方や、粉々に砕け散る割れ方を設ける構成とし、４つに割れる割れ方の場合は真っ二つに割れる割れ方よりも複数段階のランクアップが報知される可能性が高くなるように構成してもよい。また、粉々に砕け散る割れ方の場合はＡランク以上へのランクアップが確定するように構成してもよい。このように構成することで、ランクアップアイコンＲＲＧの種別のみならず、ランクアップアイコンＲＲＧが出現する前の演出態様にも注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７２５】

＜第２７制御例における電気的構成＞

次に、図８３５（ａ）を参照して、本第２７制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図８３５（ａ）に示した通り、本第２７制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第１７制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図５５２参照）に対して、第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａに代えて第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗが設けられている点、大当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｂに代えて大当たり種別選択テーブル２０２ｂｗが設けられている点、第２当たり乱数１７テーブル２０２ｑｃに代えて第２当たり乱数２７テーブル２０２ｃｗが設けられている点、小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅに代えて小当たり乱数２７テーブル２０２ｅｗが設けられている点、変動パターンシナリオテーブル２０２ｑｊに代えて通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａが設けられている点で相違している。また、第１７制御例における小当たり種別選択１７テーブル２０２ｑｆ、開放シナリオ７テーブル２０２ｆｇ、時短当たり乱数１７テーブル２０２ｑｈ、時短当たり種別選択テーブル２０２ｑｉが削除されている点でも相違している。なお、その他の構成については、上述した第１７制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８７２６】

まず、図８３６（ａ）を参照して、本第２７制御例における第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗの詳細について説明する。この第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗは、上述した第１７制御例における第１当たり乱数１２テーブル２０２ｋａ等と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が規定されているデータテーブルである。図８３６（ａ）は、第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗの規定内容を示した図である。図８３６（ａ）に示した通り、本第

２７制御例では、特別図柄の抽選で大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）として、特別図柄の種別によらず、「０～４」の５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。本第２７制御例における第１当たり乱数カウンタＣ１は、「０～９９９」の１０００個の値を取り得るループカウンタで構成されているので、本第２７制御例において特別図柄の抽選が実行された場合に直接大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選でも第２特別図柄の抽選でも１／２００（５／１０００）である。

【８７２７】

次に、図８３６（ｂ）を参照して、本第２７制御例における第２当たり乱数２７テーブル２０２ｃｗの詳細について説明する。この第２当たり乱数２７テーブル２０２ｃｗは、上述した第１７制御例における第２当たり乱数１７テーブル２０２ｑｃ等と同様に、普通図柄の抽選が実行された場合に普通図柄の当たりと判定される乱数値（第２当たり乱数カウンタＣ４の値）が規定されているデータテーブルである。

【８７２８】

図８３６（ｂ）に示した通り、本第２７制御例における第２当たり乱数２７テーブル２０２ｃｗには、普通図柄の低確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（第２当たり乱数カウンタＣ４のカウンタ値）として「０」１個のみが対応付けて規定されている。第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る「０～２９９」の３００個の乱数値（カウンタ値）のうち、普通図柄の低確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１個なので、普通図柄の低確率状態で普通図柄の当たりとなる確率は１／３００である。また、図８３６（ｂ）に示した通り、普通図柄の高確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（第２当たり乱数カウンタＣ４のカウンタ値）として「０～２９８」の２９９個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る「０～２９９」の３００個の乱数値（カウンタ値）のうち、普通図柄の高確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２９９個なので、普通図柄の高確率状態で普通図柄の当たりとなる確率は２９９／３００である。このように、本第２７制御例では、普通図柄の低確率状態に設定される通常状態ではほとんど普通図柄の当たりに当選しない一方で、普通図柄の高確率状態に設定される時短状態では、ほぼ普通図柄の抽選が実行される毎に普通図柄の当たりに当選するので、時短状態における優位性を高めることができる。

【８７２９】

次に、図８３６（ｃ）を参照して、本第２７制御例における小当たり乱数２７テーブル２０２ｅｗの詳細について説明する。この小当たり乱数２７テーブル２０２ｅｗは、上述した第１７制御例における小当たり乱数１７テーブル２０２ｑｅ等と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に小当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が規定されているデータテーブルである。図８３６（ｃ）に示した通り、本第２７制御例では、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）が第２特別図柄に対してのみ対応付けられており、その値の範囲は「５～５４」である。第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る「０～９９９」の１０００個の乱数値（カウンタ値）のうち第２特別図柄の抽選で小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が「５～５４」の５０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は１／２０（５０／１０００）である。

【８７３０】

次に、図８３６（ｄ）および図８３７を参照して、本第２７制御例における大当たり種別選択２７テーブル２０２ｂｗの詳細について説明する。図示については省略したが、本第２７制御例における大当たり種別選択２７テーブル２０２ｂｗは、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に大当たり種別を特定するために参照される直当たり用テーブル２０２ｂｗ１と、小当たり遊技の実行中にＶ入賞が発生したことで大当たりに当選した場合に大当たり種別を特定するために参照されるＶ当たり用テーブル２０２ｂｗ２と、で少なくとも構成されている。まず、図８３６（ｄ）を参照して、直当たり用テーブル２０２ｂｗ１の詳細について説明する。

【８７３１】

図８３６（ｄ）は、本第２７制御例における直当たり用テーブル２０２ｂｗ１の規定内容を示した図である。図８３６（ｄ）に示した通り、この直当たり用テーブル２０２ｂｗ１には、特別図柄の種別毎に、選択され得る大当たり種別と、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲と、が対応付けて規定されている。より具体的には、図８３６（ｄ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４」の範囲に対して「大当たりＡ２７」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５～９９」の範囲に対して「大当たりＢ２７」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ２７」は、ラウンド数が１２ラウンドに設定され、大当たり終了後の時短状態としてＳランクの時短状態（ラッシュ）が設定される大当たり（１２ラウンド継続率Ｓランク大当たり）である。また、「大当たりＢ２７」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の時短状態としてＥランクの時短状態が設定される大当たり（４ラウンド継続率Ｅランク大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＡ２７」、「大当たりＢ２７」に対応付けられている乱数値はそれぞれ５個および９５個であるため、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ２７」が決定される割合は５％（５／１００）となり、「大当たりＢ２７」が決定される割合は９５％（９５／１００）となる。つまり、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選したとしても、ほぼ、ラウンド数が最も少なく、継続率（ラッシュランク）が最も低い大当たり種別（大当たりＢ２７）が決定されるため、第１特別図柄の抽選は遊技者にとって有利度合いが低い抽選である。

【８７３２】

また、図８３６（ｄ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、「大当たりＣ２７」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ２７」は、大当たりのラウンド数が１２ラウンドに設定され、大当たり終了後の時短状態としてＳランクの時短状態（ラッシュ）が設定される大当たり（１２ラウンド継続率Ｓランク大当たり）である。つまり、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、ラウンド数が最も多く、継続率が最も高い大当たり種別が必ず決定されるため、第２特別図柄の抽選は遊技者にとって有利度合いが高い抽選である。

【８７３３】

次に、図８３７を参照して、上述したＶ当たり用テーブル２０２ｂｗ２の詳細について説明する。図８３７は、このＶ当たり用テーブル２０２ｂｗの規定内容を示した図である。図８３７に示した通り、このＶ当たり用テーブル２０２ｂｗには、「大当たりＤ２７」～「大当たりＰ２７」の１３種類の大当たり種別に対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値が対応付けて規定されている。

【８７３４】

より具体的には、図８３７に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値「０」に対して、「大当たりＤ２７」（１２ラウンド継続率Ｓランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１～３９」の範囲に対して、「大当たりＥ２７」（１２ラウンド継続率Ａランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「４０～４２」の範囲に対して、「大当たりＦ２７」（１２ラウンド継続率Ｂランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「４３，４４」の範囲に対して、「大当たりＧ２７」（１２ラウンド継続率Ｃランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「４５～４９」の範囲に対して、「大当たりＨ２７」（１２ラウンド継続率Ｄランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～５２」の範囲に対して、「大当たりＩ２７」（８ラウンド継続率Ａランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５３，５４」の範囲に対して、「大当たりＪ２７」（８ラウンド継続率Ｂランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５５～５７」の範囲に対して、「大当たりＫ２７」（６ラウンド継続率Ａランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５８，５９」の範囲に対して、「

大当たりＬ２７」（６ラウンド継続率Ｂランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「６０～６４」の範囲に対して、「大当たりＭ２７」（４ラウンド継続率Ａランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「６５～６９」の範囲に対して、「大当たりＮ２７」（４ラウンド継続率Ｂランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「７０～７９」の範囲に対して、「大当たりＯ２７」（４ラウンド継続率Ｃランク大当たり）が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「８０～９９」の範囲に対して、「大当たりＰ２７」（４ラウンド継続率Ｄランク大当たり）が対応付けて規定されている。

【８７３５】

つまり、第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値のうち、「大当たりＤ２７」に対応付けられている乱数値が１個であり、「大当たりＥ２７」に対応付けられている乱数値が３９個であり、「大当たりＦ２７」に対応付けられている乱数値が３個であり、「大当たりＧ２７」に対応付けられている乱数値が２個であり、「大当たりＨ２７」に対応付けられている乱数値が５個であり、「大当たりＩ２７」に対応付けられている乱数値が３個であり、「大当たりＪ２７」に対応付けられている乱数値が２個であり、「大当たりＫ２７」に対応付けられている乱数値が３個であり、「大当たりＬ２７」に対応付けられている乱数値が２個であり、「大当たりＭ２７」に対応付けられている乱数値が５個であり、「大当たりＮ２７」に対応付けられている乱数値が５個であり、「大当たりＯ２７」に対応付けられている乱数値が１０個であり、「大当たりＰ２７」に対応付けられている乱数値が２０個である。よって、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選してＶ入賞が発生した場合に大当たり種別として「大当たりＤ２７」が決定される割合は１％であり、「大当たりＥ２７」が決定される割合は３９％であり、「大当たりＦ２７」が決定される割合は３％であり、「大当たりＧ２７」が決定される割合は２％であり、「大当たりＨ２７」が決定される割合は５％であり、「大当たりＩ２７」が決定される割合は３％であり、「大当たりＪ２７」が決定される割合は２％であり、「大当たりＫ２７」が決定される割合は３％であり、「大当たりＬ２７」が決定される割合は２％であり、「大当たりＭ２７」が決定される割合は５％であり、「大当たりＮ２７」が決定される割合は５％であり、「大当たりＯ２７」が決定される割合は１０％であり、「大当たりＰ２７」が決定される割合は２０である。

【８７３６】

このように、本第２７制御例では、小当たり遊技においてＶ入賞が発生した場合に決定される大当たり種別として、１３種類の大当たり種別が設けられ、ラウンド数とラッシュ継続率との組み合わせが多岐に渡っているので、時短状態において第２特別図柄の抽選で小当たりに当選してＶ入賞が発生した場合に、ランクアップ演出によって報知される大当たり種別をランクアップ画像ＲＧの獲得個数等から予測し難くすることができる。よって、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出が実行される毎に、ボーナスランクとラッシュランクのうちいずれのランクが上昇するのかについてより注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７３７】

次に、図８３８（ａ）を参照して、本第２７制御例における変動パターン２７テーブル２０２ｄｗの詳細について説明する。図８３８（ａ）は、本第２７制御例における変動パターン２７テーブル２０２ｄｗの構成を示したブロック図である。図８３８（ａ）に示した通り、本第２７制御例における変動パターン２７テーブル２０２ｄｗは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｗ１と、Ｓランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＳランク用テーブル２０２ｄｗ２と、Ａランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＡランク用テーブル２０２ｄｗ３と、Ｂランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＢランク用テーブ

ル２０２ｄｗ４と、Ｃランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＳランク用テーブル２０２ｄｗ５と、Ｄランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＳランク用テーブル２０２ｄｗ６と、Ｅランクのラッシュ（時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるＳランク用テーブル２０２ｄｗ７と、通常状態で、且つ、時短終了後１回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８と、通常状態で、且つ、時短終了後１回目の第２特別図柄の抽選が終了してから時短終了後５回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９と、の９種類のデータテーブルで構成されている。このうち、通常用テーブル２０２ｄｗ１については、上述した第１７制御例（および第１２制御例）における通常状態用変動パターン１２テーブル２０２ｋｄ１（図４１４参照）と同一の規定内容（第１特別図柄の抽選では抽選結果に応じて７秒～１４０秒の範囲の変動時間が選択される一方で、第２特別図柄の抽選では６００秒の変動時間が必ず選択される規定内容）となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８７３８】

まず、図８３８（ｂ）を参照して、Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２の詳細について説明する。図８３８（ｂ）は、Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２の規定内容を示した図である。図８３８（ｂ）に示した通り、Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２には、第１特別図柄に対しても、第２特別図柄に対しても、抽選結果によらず固定の変動時間が対応付けて規定されている。具体的には、第１特別図柄に関して、抽選結果が外れの場合も大当たりの場合も、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る値の全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が２５００００ｍｓ（２５０秒）の変動パターン（外れロング変動、当たりロング変動）が対応付けて規定されている。また、第２特別図柄に関して、抽選結果が外れの場合も大当たりの場合も、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る値の全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が１００００ｍｓ（１０秒）の変動パターン（外れショート変動、当たりショート変動）が対応付けて規定されている。

【８７３９】

これらの規定内容により、Ｓランクのラッシュ（大当たりＡ２７，Ｃ２７，Ｄ２７の終了後に設定される時短状態）では、不利な（実質的な当たり確率が低い）第１特別図柄の抽選が実行される毎に２５０秒間という極めて長い変動時間が選択される一方で、有利な第２特別図柄の抽選が実行される毎に１０秒間という２５０秒に比較して短い変動時間が設定されるため、第１特別図柄の長い変動時間の間に有利な（実質的な当たり確率が高い）第２特別図柄の抽選を複数回（２５回前後）実行させることができる。つまり、時短状態における第２特別図柄の抽選回数を極めて多くすることができるので、時短状態および時短状態終了後、特定回数の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間における大当たり期待度が極めて高くなる状態を形成する。具体的には、Ｓランクのラッシュで当たり（大当たり又は実質的に大当たり確定の小当たり）に当選する割合（継続率）は９９．７％である。よって、Ｓランクのラッシュが選択された場合には、ほぼ次の大当たりが確定しているに等しい状況となるため、Ｓランクの時短状態が設定された場合に、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８７４０】

次に、図８３９（ａ）を参照して、本第２７制御例におけるＡランク用テーブル２０２ｄｗ３の詳細について説明する。このＡランク用テーブル２０２ｄｗ３は、上述した通り、Ａランクの時短状態（ラッシュ）において特別図柄の抽選が実行された場合に参照されるデータテーブルである。図８３９（ａ）に示した通り、Ａランク用テーブル２０２ｄｗ３には、第１特別図柄の外れ時の変動パターンとして、外れ時短用変動Ａ～Ｅ、外れロング変動の６種類の変動パターンが規定されている。具体的には、第１特別図柄の外れ時の

変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に対して、変動時間が１０００ｍｓ（１秒間）の外れ時短用変動Ａが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１４０～３１０」の範囲に対して、変動時間が３０００ｍｓ（３秒間）の外れ時短用変動Ｂが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「３１１～４８１」の範囲に対して、変動時間が５０００ｍｓ（５秒間）の外れ時短用変動Ｃが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「４８２～７４２」の範囲に対して、変動時間が７０００ｍｓ（７秒間）の外れ時短用変動Ｄが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「７４３～９９８」の範囲に対して、変動時間が１００００ｍｓ（１０秒間）の外れ時短用変動Ｅが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値「９９９」に対して、変動時間が２５００００ｍｓ（２５０秒間）の外れロング変動が対応付けて規定されている。一方で、第１特別図柄の当たり時の変動パターンとしては、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動パターンとして変動時間が１００００ｍｓ（１０秒間）の当たり時短用変動Ｅが対応付けて規定されている。また、第２特別図柄の変動時間に関しては、Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２と共通しており、抽選結果によらず１０秒間が設定される。

【８７４１】

これらの規定内容により、Ａランクのラッシュにおいて第１特別図柄の抽選が実行され、１９９／２００の確率の外れとなった場合に、１４．０％（１４０／１０００）の割合で変動時間が１秒間に設定され、１７．１％（１７１／１０００）の割合で変動時間が３秒間に設定され、１７．１％（１７１／１０００）の割合で変動時間が５秒間に設定され、２６．１％（２６１／１０００）の割合で変動時間が７秒間に設定され、２５．６％（２５６／１０００）の割合で変動時間が１０秒間に設定され、０．１％（１／１００００）の割合で変動時間が２５０秒間に設定される。一方、第１特別図柄の抽選が実行され、１／２００の確率の大当たりとなった場合は、必ず１０秒間の変動時間に設定される。これらを合算すると、第１特別図柄の変動時間の平均値は６．１７秒となり、第１の終了条件が成立する（時短状態が開始されてから５０回目の第１特別図柄の抽選が実行される）までの平均時間は３０２．３秒となる。このため、時短状態の間に第２特別図柄の変動表示を平均３０．２回実行させることができるため、ファイナルジャッジ演出用の５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、３５．２回の第２特別図柄の抽選を実行させることができる。

【８７４２】

なお、Ｂランク用テーブル２０２ｄｗ４～Ｅランク用テーブル２０２ｄｗ７に関しては、Ａランク用テーブル２０２ｄｗ３に対して外れ時短用変動Ａ～外れ時短用変動Ｅの振り分けが異なっている点で相違しているのみであるため、その詳細な規定内容の説明については省略し、ランク毎の変動時間の振り分けや第１特別図柄の平均変動時間、継続率等を表した図８４０（ｂ）を参照して、各ランクの性能のみについてまとめて説明する。

【８７４３】

図８４０（ｂ）は、各ランクのラッシュ性能を示した図である。図８４０（ｂ）に示した通り、Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２が参照されるＳランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に、１００％の割合で２５０秒間の変動時間が設定されるため、基本的に、第２の終了条件（第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とが合計で１００回実行される条件）の成立によって時短状態が終了される。Ｓランクのラッシュでは、第１特別図柄の変動時間が２５０秒、第２特別図柄の変動時間が１０秒間で固定化されているので、時短状態終了（第２の終了条件成立）までの各特別図柄の変動回数は、ほぼ、第１特別図柄が４回、第２特別図柄が９６回となる。このため、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに１０１回の第２特別図柄の抽選を実行させることができる。よって、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２．０％（４回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）、第２特別図柄が９９．７％（１０１回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）と

なり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、９９．７％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４４】

また、図８４０（ｂ）に示した通り、Ａランク用テーブル２０２ｄｗ３が参照されるＡランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に１３．９％の割合で１秒間の変動時間が選択され、１７％の割合で３秒間の変動時間が選択され、１７％の割合で５秒間の変動時間が選択され、２６％の割合で７秒間の変動時間が選択され、２６％の割合で１０秒間の変動時間が選択され、０．１％の割合で２５０秒間の変動時間が選択されるようにＡランク用テーブル２０２ｄｗ３が構成されているので、第１特別図柄の平均変動時間が６．１７秒となり、第１特別図柄の５０回目の抽選が実行されるまで（第１特別図柄の４９回の変動表示が終了するまで）の平均時間（即ち、第１の終了条件が成立するまでの平均時間）が３０２．３秒間（６．１７秒×４９回）となる。よって、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに平均で３５．２回（３０２．３秒／１０秒＋５回）の第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２２．２％（５０回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）、第２特別図柄が８６．４％（３５．２回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）となり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、８９．４％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４５】

また、図８４０（ｂ）に示した通り、Ｂランク用テーブル２０２ｄｗ４が参照されるＢランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に５３．９％の割合で１秒間の変動時間が選択され、１０％の割合で３秒間の変動時間が選択され、１０％の割合で５秒間の変動時間が選択され、１３％の割合で７秒間の変動時間が選択され、１３％の割合で１０秒間の変動時間が選択され、０．１％の割合で２５０秒間の変動時間が選択されるようにＢランク用テーブル２０２ｄｗ４が構成されているので、第１特別図柄の平均変動時間が３．８秒となり、第１特別図柄の５０回目の抽選が実行されるまで（第１特別図柄の４９回の変動表示が終了するまで）の平均時間（即ち、第１の終了条件が成立するまでの平均時間）が１８６．２秒間（３．８秒×４９回）となる。よって、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに平均で２３．６回（１８６．２秒／１０秒＋５回）の第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２２．２％（５０回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）、第２特別図柄が７３．７％（２３．６回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）となり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、７９．５％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４６】

また、図８４０（ｂ）に示した通り、Ｃランク用テーブル２０２ｄｗ５が参照されるＣランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に６５．９％の割合で１秒間の変動時間が選択され、７％の割合で３秒間の変動時間が選択され、７％の割合で５秒間の変動時間が選択され、１０％の割合で７秒間の変動時間が選択され、１０％の割合で１０秒間の変動時間が選択され、０．１％の割合で２５０秒間の変動時間が選択されるようにＣランク用テーブル２０２ｄｗ５が構成されているので、第１特別図柄の平均変動時間が３．１７秒となり、第１特別図柄の５０回目の抽選が実行されるまで（第１特別図柄の４９回の変動表示が終了するまで）の平均時間（即ち、第１の終了条件が成立するまでの平均時間）が１５５．３秒間（３．１７秒×４９回）となる。よって、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに平均で２０．５回（１５５．３秒／１０秒＋５回）の第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２２．２％（５０回以内に１／２００の大

当たりに当選する割合）、第２特別図柄が６８．７％（２０．５回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）となり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、７５．６％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４７】

また、図８４０（ｂ）に示した通り、Ｄランク用テーブル２０２ｄｗ６が参照されるＤランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に８５．９％の割合で１秒間の変動時間が選択され、３％の割合で３秒間の変動時間が選択され、３％の割合で５秒間の変動時間が選択され、４％の割合で７秒間の変動時間が選択され、４％の割合で１０秒間の変動時間が選択され、０．１％の割合で２５０秒間の変動時間が選択されるようにＤランク用テーブル２０２ｄｗ６が構成されているので、第１特別図柄の平均変動時間が２．０３秒となり、第１特別図柄の５０回目の抽選が実行されるまで（第１特別図柄の４９回の変動表示が終了するまで）の平均時間（即ち、第１の終了条件が成立するまでの平均時間）が９９．４秒間（２．０３秒×４９回）となる。よって、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに平均で１４．９回（９９．４秒／１０秒＋５回）の第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２２．２％（５０回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）、第２特別図柄が５７．１％（１４．９回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）となり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、６６．６％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４８】

更に、図８４０（ｂ）に示した通り、Ｅランク用テーブル２０２ｄｗ７が参照されるＥランクラッシュにおいては、第１特別図柄の抽選が実行された場合に９８．９％の割合で１秒間の変動時間が選択され、０．５％の割合で３秒間の変動時間が選択され、０．５％の割合で５秒間の変動時間が選択され、０．５％の割合で７秒間の変動時間が選択され、０．５％の割合で１０秒間の変動時間が選択され、０．１％の割合で２５０秒間の変動時間が選択されるようにＥランク用テーブル２０２ｄｗ７が構成されているので、第１特別図柄の平均変動時間が１．３６秒となり、第１特別図柄の５０回目の抽選が実行されるまで（第１特別図柄の４９回の変動表示が終了するまで）の平均時間（即ち、第１の終了条件が成立するまでの平均時間）が６６．８秒間（１．３６秒×４９回）となる。よって、ファイナルジャッジ演出中に実行可能な５回分の第２特別図柄の抽選も加味すると、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに平均で１１．７回（６６．８秒／１０秒＋５回）の第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、ファイナルジャッジ演出が終了するまでに再度大当たりが発生する割合は、第１特別図柄が２２．２％（５０回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）、第２特別図柄が４８．４％（１１．７回以内に合算１１／２００の大当たりまたは小当たりに当選する割合）となり、第１特別図柄と第２特別図柄を合算すると、５９．８％の割合で何らかの当たりに当選する。

【８７４９】

このように、本第２７制御例では、ラッシュ（時短状態）の種別（時短状態の設定契機となった大当たり種別）毎に、時短状態中に参照する変動パターンテーブルを異ならせることで、第１特別図柄の外れ時における各変動時間の選択割合を異ならせ、時短状態が終了するまでの平均時間をラッシュ種別毎に異ならせる構成としている。つまり、ラッシュ（時短状態）の終了までに実行可能な第２特別図柄の抽選回数の平均値をラッシュ種別毎に異ならせることで、ファイナルジャッジ演出が終了するまでの間に再度何らかの当たり（大当たり又は小当たり）に当選する割合（ラッシュ継続率）をラッシュの種別毎に異ならせる構成としている。これにより、性能の異なる複数のラッシュを実現することができるので、ラッシュの種別に応じて遊技性を異ならせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７５０】

なお、図８４０（ｂ）に示したランク毎のラッシュ終了までに何らかの当たりに当選す

る割合（ランク毎の大当たり発生期待度）は、時短状態において右打ちを行い続けることを前提とした割合であり、左打ち行った場合には、図８４０（ｂ）に示した割合から著しく低下することを付言しておく。即ち、左打ちを行い続けた場合は、右第１入球口６４ｒにも第２入球口６４０にも遊技球が入球不可能（困難）となり、特別図柄の抽選は、ほぼ、第１入球口６４への入球に基づく第１特別図柄の抽選となる。このため、時短状態が第１の終了条件の成立に基づいて終了されるので、大当たりとなる期待度はランクによらず２２．２％（５０回以内に１／２００の大当たりに当選する割合）となる。即ち、右打ちを行う場合に比較して、極めて低い割合でしか大当たりに当選できない不利な遊技方法となる。

【８７５１】

図８３９に戻って変動パターン２７テーブル２０２ｄｗの説明を続ける。図８３９（ｂ）は、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８の規定内容を示した図である。この時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８は、上述した通り、通常状態で、且つ、時短終了後１回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間参照されるデータテーブルである。図８３９（ｂ）に示した通り、この時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８が参照された場合、特別図柄の種別および抽選結果によらず、変動時間が３０秒間に固定化されるようにデータが規定されている。即ち、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選で外れとなった場合は、必ず変動時間が３０秒間の外れミドル変動が選択され、第１特別図柄または第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合は、必ず変動時間が３０秒間の当たりミドル変動が選択されるように構成されている。これにより、時短状態終了後１回目の第２特別図柄の抽選が実行された場合に、必ず３０秒間の変動時間を設定することができるので、遊技者に対して右打ちを促す演出（図８３３（ａ）参照）を実行するための演出期間、および扉ＴＧを発見して１つ目の鍵を使用する演出（図８３３（ｂ）参照）を実行するための演出期間を確実に確保することができる。

【８７５２】

なお、図示については省略したが、通常状態で、且つ、時短終了後１回目の第２特別図柄の抽選が終了してから時短終了後５回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９には、第１特別図柄の変動時間が３０秒間固定となり、第２特別図柄の変動時間が１０秒間固定となるようにデータが規定されている。これにより、第２特別図柄の保留球が消化される毎に、扉ＴＧを突破できるか否かを示す演出を確実に実行できるだけの演出期間を確保することができる。

【８７５３】

次に、図８４０（ａ）を参照して、本第２７制御例における通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａの詳細について説明する。この通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に参照する変動パターンテーブルを、通常状態が設定された後における第２特別図柄の変動回数毎に規定したデータテーブルである。図８４０（ａ）は、この通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａの規定内容を示した図である。

【８７５４】

図８４０（ａ）に示した通り、通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａには、大当たりＡ２７～Ｐ２７のいずれかが終了し、且つ、時短状態が終了した後における変動パターンシナリオとして、通常状態へと移行した後の第２特別図柄の抽選回数が１回までの期間に対して、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８が対応付けて規定され、第２特別図柄の抽選回数が２回～５回の期間に対して、時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９が対応付けて規定され、第２特別図柄の抽選回数が６回以上の範囲に対して、通常用テーブル２０２ｄｗ１が対応付けて規定されている。これに対し、図８４０（ａ）に示した通り、パチンコ機１０が初期化された（ＲＡＭクリアスイッチ１２２に対する押下を伴う電源投入が行われた）ことに基づいて設定された通常状態（当たりに当選していない状態）では、抽選回数によらず、通常用テーブル２０２ｄｗ１が対応付けて規

定されているシナリオが設定されている。
【８７５５】
この通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａを参照して変動パターンを選択することにより、時短状態終了後１回目～５回目の第２特別図柄の抽選に限り、変動時間を通常（６００秒間）よりも短くすることができるので、時短状態終了直後に第２特別図柄の抽選が実行され易い期間を形成し、ファイナルジャッジ演出を実行することができる。よって、時短状態が終了したとしても、期待度が高い第２特別図柄の抽選が複数回実行される有利な状態を形成することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【８７５６】
次に、図８３５（ｂ）を参照して、本第２７制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図８３５（ｂ）は、本第２７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図８３５（ｂ）に示した通り、本第２７制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第１７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図５５３参照）に対して、ラッシュ種別格納エリア２０３ｗａと、特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂと、特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃと、小当たりフラグ２０３ｗｅと、当選時状態格納エリア２０３ｗｆと、が追加されている点で相違している。その他の構成については、上述した第１７制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。
【８７５７】
ラッシュ種別格納エリア２０３ｗａは、ラッシュの種別を示す情報を格納しておくための記憶領域である。このラッシュ種別格納エリア２０３ｗａは、初期値が「００Ｈ」に設定されており、大当たり終了時（ラッシュ移行時）に今回の大当たり種別に対応するラッシュ種別を示すデータが格納される（図８５５のＹ１１６３１参照）。より具体的には、今回のラッシュがＳランクラッシュであれば、このラッシュ種別格納エリア２０３ｗａに対して「０１Ｈ」が格納され、Ａランクラッシュであれば「０２Ｈ」が格納され、Ｂランクラッシュであれば「０３Ｈ」が格納され、Ｃランクラッシュであれば「０４Ｈ」が格納され、Ｄランクラッシュであれば「０５Ｈ」が格納され、Ｅランクラッシュであれば「０６Ｈ」が格納される。一方で、ラッシュ以外の状態（通常状態や大当たり遊技の実行中）においては、格納データが「００Ｈ」に設定される。このラッシュ種別格納エリア２０３ｗａに格納されているデータによって、ラッシュ種別（時短状態の種別）を判別して、時短状態中に第１特別図柄の抽選条件が成立する毎に、ラッシュ種別（時短種別）に対応する変動パターンを読み出して変動時間（変動パターン）を選択することができる。よって、継続率の異なる複数の時短状態を確実に形成することができる。
【８７５８】
特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂは、通常状態若しくは時短状態が設定された後において実行された第１特別図柄の抽選回数をカウントするためのカウンタであり、第２変動回数カウンタ２０３ｗｃは、通常状態若しくは時短状態が設定された後において実行された第１特別図柄の抽選回数をカウントするためのカウンタである。通常状態においては、この特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂ、特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃの値を参照して、通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａから１の変動パターンテーブルが特定される。
【８７５９】
小当たりフラグ２０３ｗｅは、第２特別図柄の抽選で小当たりとなった場合にオンに設定されるフラグである（図８５０のＹ８０６１参照）。この小当たりフラグ２０３ｗｅは、第２特別図柄の小当たりに対応する停止図柄の表示を設定する際にオフに設定される（図８５４のＹ９７１参照）。この小当たりフラグ２０３ｗｅがオンの状態で、且つ、第１特別図柄の変動表示が実行中の場合に第２特別図柄の変動表示の変動時間が終了すると、第１特別図柄を外れ図柄で強制停止させる処理が実行される（図８５４のＹ９５８参照）。これにより、第１特別図柄の抽選が大当たりとなり、第２特別図柄の抽選が小当たりと

なった場合に、小当たりと大当たりが重複して開始されてしまう不具合を防止することができる。また、当選時状態格納エリア２０３ｗｆは、大当たり当選時の遊技状態を示すデータを格納しておくための記憶領域である。

【８７６０】

次に、図８４１（ａ）を参照して、本第２７制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の詳細について説明する。図８４１（ａ）は、本第２７制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示したブロック図である。図８４１（ａ）に示した通り、本第２７制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第１７制御例（および第７制御例）におけるＲＯＭ２２２の構成（図３１１（ａ）参照）に対して、抽選結果報知態様選択テーブル２２２ｆａが削除され、ランクアップ演出テーブル２２２ｗａと、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂと、が追加されている点でのみ相違している。その他の構成については、上述した第１７制御例（および第７制御例）と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８７６１】

図８４２（ａ）は、上述したランクアップ演出テーブル２２２ｗａの規定内容を示した図である。このランクアップ演出テーブル２２２ｗａは、ランクアップ演出においてランクアップ画像ＲＧを獲得する演出が発生する回数を大当たり種別毎に規定したデータテーブルである。具体的には、図８４２（ａ）に示した通り、大当たりＡ２７（１２ラウンド継続率Ｓランク大当たり）に対して、ランクアップ画像ＲＧの獲得回数５回が対応付けて規定され、大当たりＢ２７（４ラウンド継続率Ｅランク大当たり）に対して、獲得回数０回が対応付けて規定され、大当たりＣ２７，Ｄ２７（１２ラウンド継続率Ｓランク大当たり）、大当たりＥ２７（１２ラウンド継続率Ａランク大当たり）、大当たりＦ２７（１２ラウンド継続率Ｂランク大当たり）、大当たりＧ２７（１２ラウンド継続率Ｃランク大当たり）に対して、獲得回数５回が対応付けて規定され、大当たりＨ２７（１２ラウンド継続率Ｄランク大当たり）に対して、獲得回数４回が対応付けて規定され、大当たりＩ２７（８ラウンド継続率Ａランク大当たり）、大当たりＪ２７（８ラウンド継続率Ｂランク大当たり）、大当たりＫ２７（６ラウンド継続率Ａランク大当たり）に対して、獲得回数５回が対応付けて規定され、大当たりＬ２７（６ラウンド継続率Ｂランク大当たり）、大当たりＭ２７（４ラウンド継続率Ａランク大当たり）に対して、獲得回数４回が対応付けて規定され、大当たりＮ２７（４ラウンド継続率Ｂランク大当たり）に対して、獲得回数３回が対応付けて規定され、大当たりＯ２７（４ラウンド継続率Ｃランク大当たり）に対して、獲得回数２回が対応付けて規定され、大当たりＰ２７（４ラウンド継続率Ｄランク大当たり）に対して、獲得回数１回が対応付けて規定されている。

【８７６２】

このように、大当たり種別に応じてランクアップ画像ＲＧの獲得回数にバリエーションを設けることにより、演出態様を多様化することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、ランクアップ演出によって５ランクを上回るランク数の大当たり種別が存在する（例えば、大当たりＡ２７，Ｃ２７，Ｄ２７は８ランク上昇し、大当たりＥ２７は７ランク上昇し、大当たりＦ２７は６ランク上昇する）にもかかわらず、ランクアップ画像ＲＧの獲得回数の上限を５回とすることにより、ランクアップ画像ＲＧの獲得回数では大当たり種別を特定することが不可能に構成し、ランクアップ演出において各ランクがどのランクまで上昇するのかについて、より注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８７６３】

次に、図８４２（ｂ）を参照して、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂの詳細について説明する。このランクアップ判別テーブル２２２ｗｂは、時短状態（ラッシュ）において、ランクアップ演出（図８３２参照）の実行可否を判別する際に参照されるデータテーブルである。図８４２（ｂ）は、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂの規定内容を示した図である。図８４２（ｂ）に示した通り、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂには、表示上の残時間（保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が示す時間）と、最低保証時間に

対する余剰時間（余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータが示す時間）との和（Ｔ）の値の範囲毎に、対応するランクが対応付けて規定されている。具体的には、図８４２（ｂ）に示した通り、Ｔが８５０秒以上の範囲に対してＳランクが対応付けて規定され、Ｔが３０２．３秒以上、８５０秒未満の範囲に対してＡランクが対応付けて規定され、Ｔが１８６．２秒以上、３０２．３秒未満の範囲に対してＢランクが対応付けて規定され、Ｔが１５５．３秒以上、１８６．２秒未満の範囲に対してＣランクが対応付けて規定され、Ｔが９９．４秒以上、１５５．３秒未満の範囲に対してＤランクが対応付けて規定され、Ｔが９９．４秒未満の範囲に対してＥランクが対応付けて規定されている。

【８７６４】

本第２７制御例では、時短状態において第２特別図柄の抽選が実行される毎に、保証時間タイマ２２３ｗｃの値と余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータが示す時間との和（Ｔ）を算出して、その算出した時間Ｔに対応するランクを、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂを参照して特定する構成としている。そして、特定したランクが現在設定されているランクよりも高い場合には、ランクアップ演出（図８３２参照）を実行する構成としている。つまり、第１特別図柄の抽選で長い変動時間が運良く選択され続けた場合等、実際に設定されている時短状態のランクよりも高いランクに相当する余剰時間が生じている状況下となった場合に、当該高いランクにランクアップする演出を実行する構成としている。このように構成することで、遊技者の遊技の状況（変動時間の選択状況）に合わせてラッシュのランクを好適に更新していくことができるので、演出態様を好適に設定することができる。また、低いランクが報知されたとしても、ランクアップ演出（図８３２参照）が発生することを期待させることができるので、大当たりにおいて低いランクが報知されたとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションを過度に低下させてしまうことを抑制することができる。

【８７６５】

次に、図８４１（ｂ）を参照して、本第２７制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図８４１（ｂ）は、本第２７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図８４１（ｂ）に示した通り、本第２７制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第１７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図５５８参照）に対して、当たり種別格納エリア２２３ｗａと、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂと、保証時間タイマ２２３ｗｃと、余剰時間格納エリア２２３ｗｄと、が追加されている点で相違している。また、上乗せＲＵＳＨ中カウンタ２２３ｑａと、ベース回数カウンタ２２３ｑｂと、上乗せ回数カウンタ２２３ｑｃと、が削除されている点でも相違している。

【８７６６】

当たり種別格納エリア２２３ｗａは、大当たり種別を示す情報を格納しておくための記憶領域である。この当たり種別格納エリア２２３ｗａに格納されているデータに応じて、大当たりおよびラッシュ中の各種情報が表示される。例えば、ランクアップ演出において最終的に報知されるボーナスランク、ラッシュランクとして、この当たり種別格納エリア２２３ｗａに格納されているデータに対応するランクがそれぞれ報知される。また、時短状態に移行した後は、この当たり種別格納エリア２２３ｗａに格納されているデータに対応するラッシュランクが表示される。

【８７６７】

ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂは、ランクアップ演出においてランクアップが発生する残回数を示すカウンタ値が設定されるカウンタである。このランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂは、初期値が０に設定されており、大当たり開始時に、大当たり種別に対応するランクアップ回数がランクアップ演出テーブル２２２ｗａから特定されて、その特定されたランクアップ回数が設定される（図８５９のＳ４７６１）。また、ランクアップ演出においてランクアップする演出を設定する毎に値が１ずつ減算して更新される（図８５６のＳ５４２２参照）。このランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂによってランクアップ回数を管理することにより、大当たり種別に対応する回数のランクアップを確実に発生

させることができる。

【８７６８】

保障時間タイマ２２３ｗｃは、時短状態が終了するまでの期間として最低限保証される期間（表示上の期間）が設定されるタイマである。この保障時間タイマ２２３ｗｃには、時短状態において最初の第１特別図柄の抽選が実行された場合に４９秒（第１特別図柄の最短の変動時間１秒×４９回）に対応するタイマ値が設定され（図８６０のＳ９７０３Ａ参照）、時間の経過に応じてタイマ値が減算される（図８５８のＳ２１０４３参照）。また、残り時間上乗せ演出（図８３１参照）が実行された場合には、その残り時間上乗せ演出により報知された秒数に対応するタイマ値が加算される。

【８７６９】

余剰時間格納エリア２２３ｗｄは、保証時間に対するずれを示すデータを格納しておくための記憶領域である。ここで、上述した通り、時短状態突入後、最初に表示される保証時間は、第１特別図柄の抽選が全て最短の変動時間である１秒間に設定されたと仮定した場合の時間（４９秒間）が設定される。このため、第１特別図柄の変動時間として１秒よりも長い変動時間が選択されると、保証時間に対して実際の時短状態の終了タイミングがずれる（伸びる）ことになる。本第２７制御例では、第１特別図柄の抽選が実行される毎に、最短の変動時間である１秒間に対するずれ時間をこの余剰時間格納エリア２２３ｗｄに対して積算しておき（図８６０のＳ９７０４Ａ参照）、ずれが所定以上積算された場合に、所定契機で残り時間を上乗せする演出（残り時間上乗せ演出）を実行する構成としている。これにより、時短状態がいつまで続くか分からない斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８７７０】

＜第２７制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図８４３から図８５５を参照して、本第２７制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図８４３を参照して、本第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（Ｙ２６１）の詳細について説明する。図８４３は、本第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（Ｙ２６１）を示すフローチャートである。この第１特別図柄変動開始処理２７（Ｙ２６１）は、上述した第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）と同様に、第１特別図柄の抽選を実行すると共に、抽選結果に応じた変動表示を開始させるための処理である。

【８７７１】

この第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（図８４３参照）のうち、Ｙ３０２～Ｙ３０６の各処理では、それぞれ第１７制御例における第１特別図柄変動開始処理１７（図５６０参照）のＹ３０２～Ｙ３０６の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（図８４３参照）では、Ｓ３０６の処理が終了すると、第１７制御例における第１特別図柄判定処理１７（図５６１参照）に代えて第１特別図柄判定処理２７（Ｙ３４１）を実行し、次いで、第１７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６３参照）に代えて第１特別図柄変動パターン選択処理２７を実行する（Ｙ３４２）。次いで、第１７制御例（および第１２制御例）における遊技状態更新処理１２（図４２２参照）に代えて第１特別図柄遊技状態更新処理を実行して（Ｙ３４３）、本処理を終了する。これらの第１特別図柄判定処理２７（Ｙ３４１）、第１特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ３４２）、および第１特別図柄遊技状態更新処理（Ｙ３４３）の詳細については、それぞれ図８４４、図８４５、および図８４６を参照して後述する。

【８７７２】

次に、図８４４を参照して、上述した第１特別図柄判定処理２７（Ｙ３４１）の詳細について説明する。図８４４は、この第１特別図柄判定処理２７（Ｙ３４１）を示したフローチャートである。この第１特別図柄判定処理２７（Ｙ３４１）は、上述した第１７制御

例における第１特別図柄判定処理１７（図５６１参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄判定処理１７（図５６１参照）と同様に、第１特別図柄の大当たり判定を実行するための処理である。

【８７７３】

この第２７制御例における第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）のうち、Ｙ８００１～Ｙ８００６、およびＹ８０１１の各処理では、それぞれ第１７制御例における第１特別図柄判定処理１７（図５６１参照）のＹ８００１～Ｙ８００６、およびＹ８０１１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）では、Ｙ８００３の処理において、今回の第１特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合（Ｙ８００３：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７に対して第１特別図柄の外れ図柄をセットして（Ｙ８０２１）、本処理を終了する。

【８７７４】

次に、図８４５を参照して、上述した第１特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ３４２）の詳細について説明する。図８４５は、この第１特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ３４２）を示したフローチャートである。この第１特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ３４２）は、上述した第１７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６３参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６３参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果に応じた第１特別図柄の変動パターン（変動時間）を選択するための処理である。

【８７７５】

この第２７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５１２の各処理では、それぞれ第１７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理１７（図５６３参照）のＹ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５１２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）では、Ｙ５０３の処理が終了すると、次いで、時短中第１カウンタ２０３ｈ１のカウンタ値が０より大きい値（１以上の値）であるか否かを判別し（Ｙ５３１）、０より大きい値（１以上の値）であると判別した場合は（Ｙ５３１：Ｙｅｓ）、ラッシュ種別格納エリア２０３ｗａに格納されているデータが示すラッシュ種別（ラッシュランク）に対応する変動パターンテーブルを特定して（Ｙ５３２）、処理をＹ５１２へと移行する。一方、Ｙ５３１の処理において、時短中第１カウンタ２０３ｈ１のカウンタ値が０であると判別した場合は（Ｙ５３１：Ｎｏ）、通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａと、特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂの値と、に対応する変動パターンテーブルを特定して（Ｙ５３３）、処理をＹ５１２へと移行する。

【８７７６】

次に、図８４６を参照して、上述した特図１遊技状態更新処理（Ｙ３４３）の詳細について説明する。図８４６は、この特図１遊技状態更新処理（Ｙ３４３）を示すフローチャートである。この特図１遊技状態更新処理（Ｙ３４３）は、第１７制御例（および第１２制御例）における遊技状態更新処理１２（図４２２参照）に代えて実行される処理であり、遊技状態更新処理１２（図４２２参照）と同様に、時短状態の終了条件が成立したか判別して、終了条件が成立した場合に通常状態へと移行させるための処理である。

【８７７７】

この特図１遊技状態更新処理（図８４６参照）では、まず、特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂの値に１を加算して更新し（Ｙ６１１）、次いで、時短中第１カウンタ２０３ｈ１のカウンタ値が０より大きい値（１以上の値）であるか否かを判別する（Ｙ６１２）。Ｙ６１２の処理において、時短中第１カウンタ２０３ｈ１の値が０であると判別した場合は（Ｙ６１２：Ｎｏ）、時短状態ではない（通常状態である）ことを意味するため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｙ６１２の処理において、時短中第１カウンタ２０３ｈ１の値が０より大きい値（１以上の値）であると判別した場合は（Ｙ６１２：Ｙｅｓ）、現在が時短状態であることを意味するため、次いで、時短中第１カウンタ２０３ｈ１、およ

び時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値をそれぞれ１減算して更新し（Ｙ６１３）、更新後の時短中第１カウンタ２０３ｈ１、および時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｙ６１４）。

【８７７８】

Ｙ６１４の処理が終了すると、次いで、Ｙ６１３の処理によって少なくとも一方のカウンタ値が０に更新されたか否かを判別し（Ｙ６１５）、０に更新されていないと判別した場合は（Ｙ６１５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方で、Ｙ６１５の処理において少なくとも一方のカウンタ値が０に更新されたと判別した場合は（Ｙ６１５：Ｙｅｓ）、通常状態への移行を示す状態コマンドを設定し（Ｙ６１６）、時短中第１カウンタ２０３ｈ１、時短中第２カウンタ２０３ｈ２、およびラッシュ種別格納エリア２０３ｗａのデータを全て０クリアする（Ｙ６１７）。次いで、特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂ、および特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃの値を１にリセットして（Ｙ６１８）、本処理を終了する。

【８７７９】

次に、図８４７を参照して、本第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（Ｙ２６２）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動停止処理２７（Ｙ２６２）は、上述した第１７制御例における第１特別図柄変動停止処理１７（図５６５参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動停止処理１７（図５６５参照）と同様に、第１特別図柄の変動時間が経過した場合に第１特別図柄の停止表示を設定するための処理である。

【８７８０】

この第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）のうち、Ｙ７０１，Ｙ７０４～Ｙ７０７，Ｙ７２１、およびＹ７２３～Ｙ７２６の各処理では、それぞれ第１７制御例における第１特別図柄変動停止処理１７（図５６５参照）のＹ７０１，Ｙ７０４～Ｙ７０７，Ｙ７２１、およびＹ７２３～Ｙ７２６の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）では、Ｙ７２１の処理において第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオンではないと判別した場合に（Ｙ７２１：Ｎｏ）、特図１確定コマンドをセットし（Ｙ７３２）、第１図柄表示装置３７の第１特別図柄を外れ図柄で変動停止させて（Ｙ７３３）、本処理を終了する。

【８７８１】

また、本第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）では、Ｙ７２７の処理に代えて、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂ、時短中第１カウンタ２０３ｈ１、および時短中第２カウンタ２０３ｈ２を全て初期値にリセットする処理を実行して（Ｙ７３１）、処理をＹ７０４へと移行する。

【８７８２】

次に、図８４８を参照して、本第２７制御例における第２特別図柄変動開始処理２７（Ｙ２６３）の詳細について説明する。この第２特別図柄変動開始処理２７（Ｙ２６３）は、上述した第１７制御例における第２特別図柄変動開始処理１７（図５６７参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄変動開始処理１７（図５６７参照）と同様に、第２特別図柄の抽選を実行すると共に、抽選結果に応じた変動表示を開始させるための処理である。

【８７８３】

この第２７制御例における第２特別図柄変動開始処理２７（図８４８参照）のうち、Ｙ８３２～Ｙ８３６，Ｙ８５１、およびＹ８５２の各処理では、それぞれ第１７制御例における第２特別図柄変動開始処理１７（図５６７参照）のＹ８３２～Ｙ８３６，Ｙ８５１、およびＹ８５２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第２特別図柄変動開始処理２７（図８４８参照）では、Ｓ８３６の処理が終了すると、第１７制御例における第２特別図柄判定処理１７（図５６８参照）に代えて第２特別図柄判定処理２７（Ｙ８６１）を実行し、次いで、第１７制御例における第２特別図柄変動パターン

選択処理１７（図５７０参照）に代えて第２特別図柄変動パターン選択処理２７を実行する（Ｙ８６２）。次いで、第１７制御例（および第１２制御例）における遊技状態更新処理１２（図４２２参照）に代えて特図２遊技状態更新処理を実行して（Ｙ８６３）、本処理を終了する。これらの第２特別図柄判定処理２７（Ｙ８６１）、第２特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ８６２）、および特図２遊技状態更新処理（Ｙ８６３）の詳細については、それぞれ図８４９、図８５１、および図８５２を参照して後述する。

【８７８４】

次に、図８４９を参照して、本第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（Ｙ８６１）の詳細について説明する。図８４９は、この第２特別図柄判定処理２７（Ｙ８６１）を示したフローチャートである。この第２特別図柄判定処理２７（Ｙ８６１）は、上述した第１７制御例における第２特別図柄判定処理１７（図５６８参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄判定処理１７（図５６８参照）と同様に、第２特別図柄の大当たり判定を実行するための処理である。

【８７８５】

この第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）のうち、Ｙ８１０１～Ｙ８１０６、およびＹ８１１１の各処理では、それぞれ第１７制御例における第２特別図柄判定処理１７（図５６８参照）のＹ８１０１～Ｙ８１０６、およびＹ８１１１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）では、Ｙ８１０３の処理において、今回の第２特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合（Ｙ８１０３：Ｎｏ）、小当たり当選の有無を抽選するための小当たり抽選処理２７を実行して（Ｙ８１２１）、本処理を終了する。この小当たり抽選処理の詳細について、図８５０を参照して説明する。

【８７８６】

図８５０は、本第２７制御例における小当たり抽選処理２７（Ｙ８１２１）を示したフローチャートである。この小当たり抽選処理２７（Ｙ８１２１）では、まず、今回の第２特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｙ８０５３）、抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｙ８０５３：Ｙｅｓ）、小当たりフラグ２０３ｗｅをオンに設定する（Ｙ８０６１）。Ｙ８０６１の処理が終了すると、次いで、第２特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｙ８０６２）、第１図柄表示装置３７に表示する第２特別図柄の小当たり図柄をセットして（Ｙ８０６３）、本処理を終了する。一方で、Ｙ８０５３の処理において、今回の第２特別図柄の抽選結果が小当たりではない（完全外れである）と判別した場合は（Ｙ８０５３：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７に表示する第２特別図柄の外れ図柄をセットして（Ｙ８０６４）、本処理を終了する。

【８７８７】

次に、図８５１を参照して、上述した第２特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ８６２）の詳細について説明する。図８５１は、この第２特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ８６２）を示したフローチャートである。この第２特別図柄変動パターン選択処理２７（Ｙ８６２）は、上述した第１７制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理１７（図５７０参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄変動パターン選択処理１７（図５７０参照）と同様に、第２特別図柄の抽選結果に応じた第２特別図柄の変動パターン（変動時間）を選択するための処理である。

【８７８８】

この第２７制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理２７（図８５１参照）のうち、Ｙ９２１～Ｙ９２３、およびＹ９２５～Ｙ９２８の各処理では、それぞれ第１７制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理１７（図５７０参照）のＹ９２１～Ｙ９２３、およびＹ９２５～Ｙ９２８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理２７（図８５１参照）では、Ｙ９２３の処理が終了すると、次いで、時短中第２カウンタ２０３ｈ２のカウンタ値が０より大きい値（１以上の値）であるか否かを判別し（Ｙ９４１）、０より大きい値（１以上の値）であると判別した場合は（Ｙ９４１：Ｙｅｓ）、ラッシュ種別格納エリア２０３ｗａに格納

されているデータが示すラッシュ種別（ラッシュランク）に対応する変動パターンテーブルを特定して（Ｙ９４２）、処理をＹ９４４へと移行する。一方、Ｙ９４１の処理において、時短中第２カウンタ２０３ｈ２のカウンタ値が０であると判別した場合は（Ｙ９４１：Ｎｏ）、通常状態用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａと、特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃの値と、に対応する変動パターンテーブルを特定して（Ｙ９４３）、処理をＹ９４４へと移行する。Ｙ９４４の処理では、Ｙ９４２、またはＹ９４３の処理で特定した変動パターンテーブルを読み出して（Ｙ９４４）、処理をＹ９２５へと移行する。

【８７８９】

次に、図８５２を参照して、上述した特図２遊技状態更新処理（Ｙ８６３）の詳細について説明する。図８５２は、この特図２遊技状態更新処理（Ｙ８６３）を示すフローチャートである。この特図２遊技状態更新処理（Ｙ８６３）は、第１７制御例（および第１２制御例）における遊技状態更新処理１２（図４２２参照）に代えて実行される処理であり、遊技状態更新処理１２（図４２２参照）と同様に、時短状態の終了条件が成立したか判別して、終了条件が成立した場合に通常状態へと移行させるための処理である。

【８７９０】

この特図２遊技状態更新処理（図８５２参照）では、まず、特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃの値に１を加算して更新し（Ｙ６２１）、次いで、時短中第２カウンタ２０３ｈ１のカウンタ値が０より大きい値（１以上の値）であるか否かを判別する（Ｙ６２２）。Ｙ６２２の処理において、時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値が０であると判別した場合は（Ｙ６２２：Ｎｏ）、時短状態ではない（通常状態である）ことを意味するため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｙ６２２の処理において、時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値が０より大きい値（１以上の値）であると判別した場合は（Ｙ６２２：Ｙｅｓ）、現在が時短状態であることを意味するため、次いで、時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値を１減算して更新し（Ｙ６２３）、更新後の時短中第２カウンタ２０３ｈ２の値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｙ６２４）。

【８７９１】

Ｙ６２４の処理が終了すると、次いで、Ｙ６２３の処理によって少なくとも一方のカウンタ値が０に更新されたか否かを判別し（Ｙ６２５）、０に更新されていないと判別した場合は（Ｙ６２５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方で、Ｙ６２５の処理において少なくとも一方のカウンタ値が０に更新されたと判別した場合は（Ｙ６２５：Ｙｅｓ）、通常状態への移行を示す状態コマンドを設定し（Ｙ６２６）、時短中第１カウンタ２０３ｈ１、時短中第２カウンタ２０３ｈ２、およびラッシュ種別格納エリア２０３ｗａのデータを全て０クリアする（Ｙ６２７）。次いで、特図１変動回数カウンタ２０３ｗｂ、および特図２変動回数カウンタ２０３ｗｃの値を１にリセットして（Ｙ６２８）、本処理を終了する。

【８７９２】

次に、図８５３を参照して、本第２７制御例における第２特別図柄変動停止処理２７（Ｙ２６４）の詳細について説明する。この第２特別図柄変動停止処理２７（Ｙ２６４）は、上述した第１７制御例における第２特別図柄変動停止処理１７（図５７１参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄変動停止処理１７（図５７１参照）と同様に、第２特別図柄の変動時間が経過した場合に第１特別図柄の停止表示を設定するための処理である。

【８７９３】

この第２７制御例における第２特別図柄変動停止処理２７（図８５３参照）のうち、Ｙ１１０１，Ｙ１１０２，Ｙ１１０４，Ｙ１１０５，Ｙ１１０６，Ｙ１１０８，Ｙ１１０９，Ｙ１１１０、およびＹ１１１１の各処理では、それぞれ第１７制御例における第２特別図柄変動停止処理１７（図５７１参照）のＹ９０１，Ｙ９２１，Ｙ９２２，Ｙ９２３，Ｙ９２４，Ｙ９２５，Ｙ９０６，Ｙ９０８、およびＹ９０９の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における第２特別図柄変動停止処理２７（図８５３参照）では、Ｙ１１０２の処理において第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオン

ではないと判別した場合に（Ｙ１１０２：Ｎｏ）、第２特別図柄の外れ図柄を停止表示させるための特図２外れ停止処理２７を実行して（Ｙ１１０３）、本処理を終了する。この特図２外れ停止処理２７（Ｙ１１０３）の詳細については、図８５４を参照して後述する。

【８７９４】

また、本第２７制御例における第２特別図柄変動停止処理２７（図８５３参照）では、Ｙ９２５の処理に代えて、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂ、時短中第１カウンタ２０３ｈ１、および時短中第２カウンタ２０３ｈ２を全て初期値にリセットする処理を実行して（Ｙ１１０７）、処理をＹ１１０８へと移行する。

【８７９５】

次いで、図８５４を参照して、本第２７制御例における特図２外れ停止処理２７（Ｙ１１０３）の詳細について説明する。図８５４は、この特図２外れ停止処理２７（Ｙ１１０３）を示すフローチャートである。この特図２外れ停止処理２７（Ｙ１１０３）は、上述した第１７制御例における特図２外れ停止処理（図５７３参照）と同様に、第２特別図柄の抽選結果が外れ（完全外れまたは小当たり）となった場合に、停止図柄を設定するための処理である。

【８７９６】

この第２７制御例における特図２外れ停止処理２７（図８５４参照）のうち、Ｙ９５２～Ｙ９５８，Ｙ９６０、およびＹ９６１の各処理では、それぞれ第１７制御例における特図２外れ停止処理（図５７３参照）のＹ９５２～Ｙ９５８，Ｙ９６０、およびＹ９６１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における特図２外れ停止処理２７（図８５４参照）が開始されると、まず、小当たりフラグ２０３ｗｅがオンであるか否かを判別して（Ｙ９７１）、オンであると判別した場合は（Ｙ９７１）、Ｙ９５２の処理へと移行する一方で、オフであると判別した場合は（Ｙ９７１：Ｎｏ）、Ｙ９６０の処理へと移行する。また、本第２７制御例における特図２外れ停止処理２７（図８５４参照）では、Ｙ９５８の処理が終了すると、小当たりフラグ２０３ｗｅをオフに設定して（Ｙ９７２）、本処理を終了する。

【８７９７】

次に、図８５５を参照して、本第２７制御例における大当たり制御処理２７（Ｙ１０１１）の詳細について説明する。図８５５は、本第２７制御例における大当たり制御処理２７（Ｙ１０１１）を示したフローチャートである。この大当たり制御処理２７（Ｙ１０１１）は、上述した第１７制御例（および第１２制御例）における大当たり制御処理１２（図４３６参照）と同様に、大当たり遊技の実行中における各種制御を実行するための処理である。

【８７９８】

この第２７制御例における大当たり制御処理２７（図８５５参照）のうち、Ｙ１１６０１～Ｙ１１６１２の各処理では、それぞれ第１７制御例（および第１２制御例）における大当たり制御処理１２（図４３６参照）のＹ１１６０１～Ｙ１１６１２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における大当たり制御処理２７（図８５５参照）では、Ｙ１１６１２の処理においてエンディング演出の終了タイミングになったと判別した場合に（Ｙ１１６１２：Ｙｅｓ）、次いで、今回の大当たり種別に対応するラッシュ種別（ラッシュランク）を示すデータをラッシュ種別格納エリア２０３ｗａに格納する（Ｙ１１６３１）。このＹ１１６３１の処理では、今回の大当たりがＳランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０１Ｈ」が格納され、Ａランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０２Ｈ」が格納され、Ｂランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０３Ｈ」が格納され、Ｃランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０４Ｈ」が格納され、Ｄランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０５Ｈ」が格納され、Ｅランクラッシュに対応する大当たり種別であれば「０６Ｈ」が格納される。

【８７９９】

Ｙ１１６３１の処理が終了すると、次いで、時短中第１カウンタ２０３ｈ１のカウンタ

値に５０を設定すると共に、時短中第２カウンタ２０３ｈ２のカウンタ値に１００を設定することで、時短状態の終了条件として第１の終了条件（第１特別図柄の抽選が５０回実行された場合に成立する終了条件）および第２の終了条件（第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とが合計１００回実行された場合に成立する終了条件）を設定する（Ｙ１１６３２）。次いで、設定した遊技状態に対応する状態コマンドを設定し（Ｙ１１６３３）、大当たりの終了を設定し（Ｙ１１６３４）、大当たり中フラグ２０３ｋをオフに設定して（Ｙ１１６３５）、本処理を終了する。

【８８００】

＜第２７制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図８５６から図８６１を参照して、本第２７制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８５６を参照して、本第２７制御例における演出更新処理２７（Ｓ４１６１）の詳細について説明する。この演出更新処理２７（Ｓ４１６１）は、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図１７４参照）の中で第１７制御例（および第１制御例）における演出更新処理（Ｓ４１１１）に代えて実行される処理であり、実行中の各種演出態様を定期的（メイン処理の実行間隔毎）に更新するための処理である。

【８８０１】

図８５６に示した通り、演出更新処理２７（図８５６）が実行されると、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値が０より大きい値であるか否か（即ち、ランクアップ演出の実行中であるか否か）を判別し（Ｓ５４１１）、０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ５４１１：Ｎｏ）、ランクアップ演出の実行中ではないことを意味するため、次いで、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別する（Ｓ５４１２）。Ｓ５４１２の処理において、遊技状態が時短状態でない（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ５４１２：Ｎｏ）、ファイナルジャッジ演出の実行中である場合に演出態様を更新するためのファイナルジャッジ演出中処理を実行して（Ｓ５４１３）、本処理を終了する。このファイナルジャッジ演出中処理（Ｓ５４１３）の詳細については、図８５７を参照して後述する。これに対し、Ｓ５４１２の処理において、現在の遊技状態が時短状態であると判別した場合は（Ｓ５４１２：Ｙｅｓ）、時短状態中の演出を更新するための時短中演出設定処理を実行して（Ｓ５４１４）、本処理を終了する。この時短中演出設定処理（Ｓ５４１４）の詳細については、図８５８を参照して後述する。

【８８０２】

また、Ｓ５４１１の処理において、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂのカウンタ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ５４１１：Ｙｅｓ）、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出（図８２９（ｂ）参照）の発生タイミングであるか否かを判別し（Ｓ５４１５）、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出（図８２９（ｂ）参照）の発生タイミングではないと判別した場合は（Ｓ５４１５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。これに対し、Ｓ５４１５の処理において、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出（図８２９（ｂ）参照）の発生タイミングであると判別した場合は（Ｓ５４１５：Ｙｅｓ）、次いで、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値が１である（即ち、ストックされている最後のランクアップ画像ＲＧを消費するタイミングである）か否かを判別し（Ｓ５４１６）、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値が１であると判別した場合は（Ｓ５４１６：Ｙｅｓ）、今回の大当たり種別に対応するボーナスランク、ラッシュランクまでランクアップする演出態様の演出を設定し（Ｓ５４１７）、処理をＳ５４２２へと移行する。

【８８０３】

一方、Ｓ５４１６の処理において、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値が１ではないと判別した場合は（Ｓ５４１６：Ｎｏ）、ボーナスランクとラッシュランクのうち一方のランクが今回の当たり種別に対応する上限値まで既にランクアップしているか否かを判別し（Ｓ５４１８）、既に一方のランクが上限値に到達していると判別した場合は（Ｓ５４１８：Ｙｅｓ）、上限値に到達していない側のランクを１ランク上昇させる演出態様を設定して（Ｓ５４１９）、処理をＳ５４２２へと移行する。一方、Ｓ５４１８の処理に

おいて、ボーナスランクもラッシュランクも上限値に到達していないと判別した場合は（Ｓ５４１８：Ｎｏ）、今回ランクアップさせる対象のランクをボーナスランク、ラッシュランクのいずれとするかを抽選により決定する（Ｓ５４２０）。この抽選は、ボーナスランクに決定される割合、およびラッシュランクに決定される割合が共に５０％となるように構成されている。これにより、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出が実行された場合に実際にランクアップするランクの種別にランダム性を持たせることができるので、いずれのランクが上昇するか分からないドキドキ感を遊技者に対して抱かせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。Ｓ５４２０の処理が終了すると、Ｓ５４２０の処理により決定された種別のランクを１ランク上昇させる演出態様を設定して（Ｓ５４２１）、処理をＳ５４２２へと移行する。Ｓ５４１７，Ｓ５４１９，Ｓ５４２１のいずれかが終了した後で実行されるＳ５４２２の処理では、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値を１減算して更新し（Ｓ５４２２）、本処理を終了する。

【８８０４】

次に、図８５７を参照して、上述したファイナルジャッジ演出中処理（Ｓ５４１３）の詳細について説明する。このファイナルジャッジ演出中処理（Ｓ５４１３）が実行されると、まず、ファイナルジャッジ演出の実行中であるか否かを判別し（Ｓ２１０３１）、ファイナルジャッジ演出の実行中ではないと判別した場合は（Ｓ２１０３１）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ２１０３１の処理において、ファイナルジャッジ演出の実行中であると判別した場合は（Ｓ２１０３１：Ｙｅｓ）、次いで、第２特別図柄の入賞情報コマンドを受信したか否かを判別し（Ｓ２１０３２）、入賞情報コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ２１０３２：Ｙｅｓ）、次いでファイナルジャッジ演出における１回目の第２特別図柄の変動表示が開始されてからの経過時間が１０秒未満であるか否かを判別する（Ｓ２１０３３）。Ｓ２１０３３の処理において、１回目の第２特別図柄の変動開始からの経過時間が１０秒未満であると判別した場合は（Ｓ２１０３３：Ｙｅｓ）、入賞情報コマンドが示す先読み結果に応じた態様の鍵をストックする演出を設定して（Ｓ２１０３４）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２１０３３の処理において、１回目の第２特別図柄の変動開始からの経過時間が１０秒未満でない（１０秒以上経過している）と判別した場合は（Ｓ２１０３３：Ｎｏ）、処理をＳ２１０３５へと移行する。

【８８０５】

これに対し、Ｓ２１０３２の処理において、第２特別図柄の入賞情報コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ２１０３２：Ｎｏ）、次いで、１回目の第２特別図柄の変動開始から１０秒が経過したタイミングであるか否かを判別し（Ｓ２１０３５）、１０秒が経過したタイミングであると判別した場合は（Ｓ２１０３５：Ｙｅｓ）、入賞情報格納エリア２２３ｂのデータが示す今回実行中の変動表示の抽選結果に基づいて、残変動時間の演出態様（扉ＴＧの突破に成功する演出を実行するか失敗する演出を実行するか）を決定し（Ｓ２１０３６）、本処理を終了する。

【８８０６】

次に、図８５８を参照して、上述した時短中演出設定処理（Ｓ５４１４）の詳細について説明する。図８５８は、この時短中演出設定処理（Ｓ５４１４）を示すフローチャートである。この時短中演出設定処理（Ｓ５４１４）が実行されると、まず、保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ２１０４１）、０より大きい値でない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ２１０４１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ２１０４１の処理において、保証時間タイマ２２３ｗｃの値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ２１０４１：Ｙｅｓ）、次いで、第１特別図柄の変動が停止されている無変動の状態を形成しているか否かを判別する（Ｓ２１０４２）。Ｓ２１０４２の処理において、第１特別図柄が無変動の状態を形成していると判別した場合は（Ｓ２１０４２：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【８８０７】

これに対し、Ｓ２１４０２の処理において、第２特別図柄が無変動の状態を形成していないと判別した場合は（Ｓ２１０４２：Ｎｏ）、保証時間タイマ２２３ｗｃの値を更新し

（Ｓ２１０４３）、更新後のタイマ値に応じて第３図柄表示装置８１に表示しているファイナルジャッジ演出までの残り時間表示を更新して（Ｓ２１０４４）、更新後の保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が０となったか否かを判別する（Ｓ２１０４５）。Ｓ２１０４５の処理において、保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が０になっていないと判別した場合は（Ｓ２１０４５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【８８０８】

一方、Ｓ２１０４５の処理において、保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が０に更新されたと判別した場合は（Ｓ２１０４５：Ｙｅｓ）、次いで、余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータが０より多い秒数を示すデータであるか否かを判別する（Ｓ２１０４６）。Ｓ２１０４６の処理において、余剰時間格納エリア２２３ｗｄに０より多い秒数を示すデータが格納されていると判別した場合は（Ｓ２１０４６：Ｙｅｓ）、保証時間タイマ２２３ｗｄの値に余剰時間格納エリア２２３ｗｃのデータが示す余剰時間を加算して更新し（Ｓ２１０４７）、加算された余剰時間がファイナルジャッジ演出までの残り時間の表示に対して加算される演出態様を設定して（Ｓ２１０４８）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２１０４６の処理において、余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータが０秒を示すデータであると判別した場合は（Ｓ２１０４６：Ｎｏ）、時短状態が終了することを意味するため、ファイナルジャッジ演出の開始を設定して（Ｓ２１０４９）、本処理を終了する。

【８８０９】

次に、図８５９を参照して、本第２７制御例における大当たり関連処理２７（Ｓ４４３２１）の詳細について説明する。この大当たり関連処理２７（Ｓ４４３２１）は、上述した第１７制御例（および第１制御例）における大当たり関連処理（図１８０参照）に代えて実行される処理であり、大当たり関連処理（図１８０参照）と同様に、大当たり関連のコマンドを主制御装置１１０から受信した場合に、受信したコマンドの種別に応じた制御を実行するための処理である。

【８８１０】

この第２７制御例における大当たり関連処理２７（図８５９参照）のうち、Ｓ４７０１，Ｓ４７０９，Ｓ４７１０、およびＳ４７１４の各処理では、それぞれ第１７制御例（および第１制御例）における大当たり関連処理（図１８０参照）のＳ４７０１，Ｓ４７０９，Ｓ４７１０、およびＳ４７１４の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２７制御例における大当たり関連処理２７（図８５９参照）では、Ｓ４７０１の処理において、大当たり開始コマンドを受信したと判別した場合（Ｓ４７０１：Ｙｅｓ）、次いで、今回の大当たり種別に対応するランクアップ回数を、ランクアップ演出テーブル２２２ｗａを参照して特定し（Ｓ４７６１）、特定したランクアップ回数をランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂの値として設定する（Ｓ４７６２）。次に、設定したカウンタ値分のランクアップ画像を獲得する演出態様のランクアップ演出（図８２９（ａ）参照）を設定し（Ｓ４７６３）、ランクアップ画像ＲＧを消費する演出の発生タイミングを、Ｓ４７６２の処理で設定したカウンタ値に応じた回数分設定して（Ｓ４７６４）、本処理を終了する。

【８８１１】

また、本第２７制御例における大当たり関連処理２７（図８５９参照）では、Ｓ４７１４の処理において、エンディングコマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４７１４：Ｙｅｓ）、表示用エンディングコマンドを設定して（Ｓ４７６５）、本処理を終了する。

【８８１２】

次に、図８６０を参照して、本第２７制御例における特図１演出態様設定処理２７（Ｓ５１０１Ａ）の詳細について説明する。図８６０は、特図１演出態様設定処理２７（Ｓ５１０１Ａ）を示すフローチャートである。この第２７制御例における特図１演出態様設定処理２７（Ｓ５１０１Ａ）は、第１７制御例（および第１制御例）における特図１演出態様設定処理（図１８３参照）に代えて実行される処理であり、特図１演出態様設定処理（図１８３参照）と同様に、第１特別図柄の変動パターンコマンドを主制御装置１１０から受信した場合に、変動パターンコマンドが示す変動パターンに応じた変動表示演出の演出

態様を設定するための処理である。
【８８１３】
図８６０に示した通り、特図１演出態様設定処理２７（図８６０参照）が実行されると、まず、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ９７０１Ａ）、時短状態であると判別した場合は（Ｓ９７０１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、時短状態における１回目の第１特別図柄の変動表示であるか否かを判別する（Ｓ９７０２Ａ）。Ｓ９７０２Ａの処理において、１回目の第１特別図柄の変動表示であると判別した場合は（Ｓ９７０２Ａ：Ｙｅｓ）、保証時間タイマ２２３ｗｃに対して４９秒に対応するタイマ値を設定し（Ｓ９７０３Ａ）、処理をＳ９７０４Ａへと移行する。これに対し、Ｓ９７０２Ａの処理において、１回目の第１特別図柄の変動表示ではないと判別した場合は（Ｓ９７０２Ａ：Ｎｏ）、Ｓ９７０３Ａの処理をスキップして、処理をＳ９７０４Ａへと移行する。
【８８１４】
Ｓ９７０４Ａの処理では、今回の変動時間から１秒間を減算した時間を余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータに加算して更新し（Ｓ９７０４Ａ）、処理をＳ９７０５Ａへと移行する。一方、Ｓ９７０１Ａの処理において、今回の遊技状態が時短状態ではない（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ９７０１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ９７０２Ａ～Ｓ９７０４Ａの処理をスキップして、処理をＳ９７０５Ａへと移行する。
【８８１５】
Ｓ９７０５Ａの処理では、受信した変動パターンコマンドに応じた演出態様を決定し（Ｓ９７０５Ａ）、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定して（Ｓ９７０６Ａ）、本処理を終了する。
【８８１６】
次いで、図８６１を参照して、本第２７制御例における特図２演出態様設定処理２７（Ｓ５２０１Ａ）の詳細について説明する。図８６１は、特図２演出態様設定処理２７（Ｓ５２０１Ａ）を示すフローチャートである。この特図２演出態様設定処理２７（Ｓ５２０１Ａ）は、上述した第１７制御例（および第１制御例）における特図２演出態様設定処理（図１８４参照）に代えて実行される処理であり、特図２演出態様設定処理（図１８４参照）と同様に、第２特別図柄の変動パターンコマンドを主制御装置１１０から受信した場合に、変動パターンコマンドが示す変動パターンに応じた変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。
【８８１７】
この特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）が実行されると、まず、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ９６２１Ａ）、時短状態であると判別した場合は（Ｓ９６２１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第２特別図柄の抽選結果が完全外れである（大当たりにも小当たりにも当選していない）か否かを判別する（Ｓ９６４１Ａ）。Ｓ９６２１Ａの処理において、現在の遊技状態が時短状態ではない（通常状態である）と判別した場合（Ｓ９６２１Ａ：Ｎｏ）、およびＳ９６４１Ａの処理において第２特別図柄の抽選結果が完全外れではない（大当たり又は小当たりである）と判別した場合（Ｓ９６４１Ａ：Ｎｏ）は、受信した変動パターンコマンドに応じた演出態様を決定して（Ｓ９６２２Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。
【８８１８】
一方で、Ｓ９６４１Ａの処理において、第２特別図柄の抽選結果が完全外れであると判別した場合は（Ｓ９６４１Ａ：Ｙｅｓ）、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂ（図８４２（ｂ）参照）に規定されているデータを参照して、現在の保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が示す時間と余剰時間格納エリア２２３ｗｄに格納されているデータが示す時間との和（Ｔ）に対応するランクを特定する（Ｓ９６４２Ａ）。次いで、Ｓ９６４２Ａの処理で特定されたランクが、現在設定されているランクよりも高いランクであるか否かを判別し（Ｓ９６４３Ａ）、現在設定されているランクよりも高いランクが特定されたと判別した場合は（Ｓ９６４３Ａ：Ｙｅｓ）、特定したランクへのランクアップ演出を伴う演出態様を決定して（Ｓ９６４４Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。

【８８１９】
これに対し、Ｓ９６４３Ａの処理において、現在のランク以下のランクが特定されたと判別した場合は（Ｓ９６４３Ａ：Ｎｏ）、余剰時間格納エリア２２３ｗｄに１０秒以上の余剰時間を示すデータが格納されているか否かを判別する（Ｓ９６４５Ａ）。Ｓ９６４５Ａの処理において、１０秒以上の余剰時間を示すデータが格納されていると判別した場合は（Ｓ９６４５Ａ：Ｙｅｓ）、残り時間上乗せ演出により上乗せを行う時間を抽選により決定し（Ｓ９６４６Ａ）、決定結果に応じた演出態様を決定し（Ｓ９６４７Ａ）、上乗せした時間を保証時間タイマ２２３ｗｃに加算すると共に余剰時間格納エリア２２３ｗｄから減算して（Ｓ９６４８Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。Ｓ９６４６Ａの処理では、残り時間上乗せ演出を実行しないと決定する（上乗せ時間を０秒に決定する）割合が７５％に設定され、残りの２５％に対して、余剰時間以下の範囲の１０の倍数の秒が均等に割り振られる。例えば、余剰時間が４５秒であれば、７５％の割合で残り時間上乗せ演出を実行せず、６．２５％の割合で１０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で２０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で３０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で４０秒の上乗せが決定されるように制御される。
【８８２０】
一方、Ｓ９６４５Ａの処理において、余剰時間格納エリア２２３ｗｄに１０秒未満の余剰時間を示すデータが格納されていると判別した場合は（Ｓ９６４５Ａ：Ｎｏ）、Ｓ９６４６Ａ～Ｓ９６４８Ａの各処理をスキップして、処理をＳ９６１１へと移行する。Ｓ９６１１の処理では、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定して（Ｓ９６１１）、本処理を終了する。
【８８２１】
以上説明した通り、第２７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態の設定契機（大当たり種別）に応じて第１特別図柄の抽選頻度（選択される変動時間の傾向）を異ならせることにより、時短状態の終了までに実行される第２特別図柄の抽選回数を異ならせる構成とした。より具体的には、ラッシュ（時短状態）の種別（時短状態の設定契機となった大当たり種別）毎に、時短状態中に参照する変動パターンテーブルを異ならせることで、第１特別図柄の外れ時における各変動時間の選択割合を異ならせ、時短状態が終了する（第１特別図柄の抽選が５０回実行されることで成立する第１終了条件が成立する）までの平均時間をラッシュ種別毎に異ならせる構成としている。つまり、ラッシュ（時短状態）の終了までに実行可能な第２特別図柄の抽選回数の平均値をラッシュ種別毎に異ならせることで、ファイナルジャッジ演出が終了するまでの間に再度何らかの当たり（大当たり又は小当たり）に当選する割合（ラッシュ継続率）をラッシュの種別毎に異ならせる構成としている。これにより、性能の異なる複数のラッシュを実現することができるので、ラッシュの種別に応じて遊技性を異ならせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【８８２２】
また、本第２７制御例では、第２特別図柄の抽選でのみ小当たりに当選し得るように構成し、上述した第１７制御例等と同様に、小当たりに当選し、小当たり遊技の実行中に右打ちを行いつづけることにより、ほぼ、Ｖ入賞を発生させて大当たり遊技を実行させることが可能に構成している。つまり、第２特別図柄の抽選では、大当たりに当選した場合だけでなく、小当たりに当選した場合も実質的に大当たりが確定する構成としている。そして、本第２７制御例では、通常状態において、基本的に第２特別図柄の抽選が実行された場合に極めて長い変動時間（例えば、１０分間）が設定されるように構成することで第２特別図柄の抽選が実行され難く構成しておく一方で、時短状態終了後の特定回数の第２特別図柄の抽選に限り、変動時間が短くなるように構成した。これにより、時短状態終了後において特定回数分の第２特別図柄の抽選機会を確保することができる。
【８８２３】
ここで、従来より、有利度合いが異なる複数の特別図柄（第１特別図柄、および第１特別図柄よりも有利度合いが高い第２特別図柄）を設け、不利な遊技状態の間は不利な第１

特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し難くなる）一方で、有利な遊技状態へと移行した場合は有利な第２特別図柄の抽選が実行され易くなる（第２特別図柄の始動入賞が発生し易くなる）制御を採用している遊技機が広く一般的に知られている。係る従来型の遊技機の中には、有利状態な遊技状態における最後の変動表示の実行中に有利度合いが高い第２特別図柄の始動入賞を発生させることを促す演出を実行することで第２特別図柄の保留球を貯めさせて、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の抽選の抽選結果および第２特別図柄の保留球の抽選結果の中に当たりに対応する抽選結果が含まれているか否かを報知する演出を実行するものも存在する。しかしながら、本第２７制御例のように、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能な同時変動仕様を採用した場合、有利な遊技状態において第２特別図柄の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が複数回実行される可能性も、第２特別図柄の変動表示の実行中に第１特別図柄の抽選が全く実行されない可能性もあるため、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が残り１回の状態となった場合に、有利な遊技状態における最後の第２特別図柄の変動表示の可能性が高いと判断して第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を実行したにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の抽選が実行されずに時短状態が次の第２特別図柄の抽選まで継続してしまったり、逆に、例えば、第２特別図柄の抽選開始時に時短回数が比較的多く残っていた（例えば、８回等）ため、保留球を貯めさせる演出を実行しなかったにもかかわらず、第２特別図柄の変動表示中に第１特別図柄の変動が頻繁に実行されて第２特別図柄の変動表示が終了するよりも前に有利な遊技状態が終了してしまったりする可能性があり、第２特別図柄の保留球を貯めさせる演出を適正なタイミングで実行することが困難になってしまう可能性がある。

【８８２４】

これに対して本第２７制御例では、第２特別図柄の抽選契機となる始動入賞口としての第２入球口６４０を、遊技状態によらず、右打ちをするだけで容易に遊技球が入球可能となる始動入賞口として構成した上で、通常状態では基本的に第２特別図柄の変動時間が極めて長い時間に設定されるように制御することで通常状態において有利な第２特別図柄の抽選が実行されることを抑制しつつ、有利な時短状態が終了した後の特定回数の第２特別図柄の抽選のみ、変動時間を短くすることにより、時短状態の終了直後に実行された第２特別図柄の変動表示において保留球を貯めさせる演出を実行可能に構成している。このように構成することで、保留球を貯めさせる演出を確実に実行できると共に、実行中および保留されている第２特別図柄の抽選の中に当たりがあるか否かを示す一連の演出もより確実に実行することができるので、演出態様を好適に設定することができる。

【８８２５】

また、本第２７制御例では、時短状態において運良く長い変動時間が多く選択された場合等、設定されているラッシュの種別（ランク）に対応する時短終了までの平均時間に対して大きく余裕が生じた状況下において、ラッシュのランクを上昇させるランクアップ演出を実行可能に構成している。これにより、低いラッシュランクが報知されたとしても、ラッシュ中にランクアップが発生することを期待して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８８２６】

なお、本第２７制御例では、大当たりのラウンド数（ボーナスランク）および大当たり終了後の時短状態の有利度合い（ラッシュランク）を報知するランクアップ演出を、大当たりのオープニング期間において実行する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、大当たりのラウンド遊技の実行中に実行してもよいし、インターバル期間中に実行してもよい。また、ボーナスランクの報知とラッシュランクの報知とは必ずしも１のランクアップ演出でまとめて報知する必要はなく、別々の演出で報知する構成としてもよい。より具体的には、例えば、ボーナスランク（大当たりのラウンド数）は大当たりの４ラウンド目までの間の任意のタイミングで報知する構成とし、ラッシュランク（時短状態の継続率）は大当たりのエンディング期間や時短状態（ラッシュ）移行後の特定回数（

例えば、１回目や５回目）の第２特別図柄の抽選に係る変動表示演出中に報知する構成としてもよい。

【８８２７】

本第２７制御例では、ランクアップ演出によって大当たり図柄に対応するボーナスランクおよびラッシュランクを必ず報知する構成としていたが、所定の割合で実際よりも低いランクを報知する構成としてもよい。そして、ランクアップ演出において実際よりも低いランクを報知した場合は、予め定められた報知タイミングで実際のランクにランクアップする演出を実行する構成としてもよい。具体的には、例えば、予め定められた報知タイミングとしては、例えば、ランクアップ演出においてボーナスランクを低めに報知した場合は、報知されたランクに対応する最終ラウンド（Ｂランクであれば８ラウンド目、Ｃランクであれば６ラウンド目、Ｄランクであれば４ラウンド目）に実際のランクにランクアップする演出を発生させる構成としてもよい。また、例えば、ランクアップ演出においてラッシュランクを低めに報知した場合は、大当たりの最終ラウンドや、大当たりのエンディング期間、大当たり終了後特定回数目（例えば、１回目）の第２特別図柄の変動表示期間中等に実際のランクにランクアップする演出を発生させる構成としてもよい。このように構成することで、ランクアップ演出において低いランクが報知されたとしても、その後に更にランクアップが発生することを期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができると共に、演出態様を多様化させることができる。

【８８２８】

本第２７制御例では、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８（図８３９（ｂ）参照）を、時短状態が終了されてから、１回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間のみ参照し、時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９を、２回目～５回目の第２特別図柄の抽選が実行されるまでの間のみ参照する構成としていたが、これに限られるものではない。これに代えて、または加えて、通常状態において特定条件が成立した場合にも、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８（図８３９（ｂ）参照）や時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９を参照する構成としてもよい。具体的には、例えば、第１特別図柄の抽選で、所定確率（例えば、１／１００の確率）でＶ入賞が発生し得ない（または第２特別図柄の小当たりよりもＶ入賞が発生し難い）作動パターンの小当たりに当選する構成とし、小当たり当選を契機として、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８（図８３９（ｂ）参照）と時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９との一方又は両方を参照する変動パターンシナリオに再セットすると共に、ファイナルジャッジ演出またはファイナルジャッジ演出に類する演出（右打ちにより第２入球口６４０へと遊技球を入球させるように促す演出態様を少なくとも含む演出）を実行するように構成してもよい。即ち、通常状態において小当たりに当選した場合に、有利な第２特別図柄の抽選を所定回数実行させることができる状態を一時的に形成する構成としてもよい。このように構成することで、通常状態において大当たりに当選することに加え、小当たりに当選することにも期待して遊技を行わせることができるので、不利な通常状態における遊技が単調となってしまうことを抑制できる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、特定条件として、例えば、通常状態が設定されてから大当たりに当選せずに特定回数（例えば、５００回）の特別図柄の抽選が実行されたことに基づいて、時短終了後１変動時用テーブル２０２ｄｗ８（図８３９（ｂ）参照）と時短終了後２～５変動時用テーブル２０２ｄｗ９との一方又は両方を参照する状態を形成すると共に、ファイナルジャッジ演出またはファイナルジャッジ演出に類する演出（右打ちにより第２入球口６４０へと遊技球を入球させるように促す演出態様を少なくとも含む演出）を実行するように構成してもよい。このように構成することで、大当たりに当選することなく特別図柄の抽選回数が多くなったとしても、特定回数に到達することを目指して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制できる。

【８８２９】

本第２７制御例では、時短状態において第２特別図柄の抽選結果に応じた変動表示演出

を設定する際に、保証時間タイマ２２３ｗｃの値（時短終了までの表示上の残り時間）と余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータが示す時間（最低保証時間（第１特別図柄の抽選が全て１秒間に設定されたと仮定した場合の時短終了までの残り時間）に対するずれを示す時間）との和（Ｔ）を算出して、その算出した時間Ｔに対応するランクを、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂを参照して特定すると共に、特定したランク（時短状態における第１特別図柄の変動時間の選択状況を加味した実質的なランク）が現在設定されているランクよりも高いランクであれば、特定したランクに上昇するランクアップ演出を実行する構成としていたが、ランクを特定する方法はこれに限られるものではない。例えば、既に消化した時間も加味して実質的なランクを特定し、ランクアップ演出の実行可否を判別する構成としてもよい。このように構成することで、実質的なランクを判別する際に、より高いランクが特定され易くなるため、ランクアップ演出の発生頻度を上昇させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。更に、これらに代えて、又は加えて、新たに開始させる第２特別図柄の変動表示の抽選結果、および保留されている第１および第２特別図柄の抽選結果も加味して、ランクアップ演出の実行可否を判別する構成としてもよい。より具体的には、例えば、新たに開始させる第２特別図柄の変動表示に対応する抽選結果、または保留されている第１および第２特別図柄の抽選結果の中に大当たりが含まれている場合に、所定の割合（例えば、１／４の割合）でランクアップ演出が実行されるように構成してもよい。このように構成することで、ランアップ演出を、ラッシュが終了する（ファイナルジャッジ演出が終了する）までに再度大当たりに当選する可能性が向上したことを遊技者に示唆するだけでなく、保留球を消化するまでに大当たりとなることも期待させることができるので、特に、保留球を消化し終えるまでの間、演出態様により注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。なお、この場合において、保留球を消化し終えるまでに大当たりが発生することを報知するための演出としてランクアップ演出を実行する場合は、複数段階のランクアップが発生し易くなるように制御してもよい。このように構成することで、複数段階のランクアップが報知された場合に、遊技者に対して大当たりとなる期待感をより強く抱かせることができる。また、大当たりにならなかったとしても、ランク（継続率）が上昇したこと自体は事実であるため、たとえ大当たりに当選しなかったとしても、遊技者に対して失望感を抱かせ難くすることができる。

【８８３０】

本第２７制御例では、時短状態の種別によらず、時短回数として共通化の時短回数（第１特別図柄の抽選が５０回、又は特別図柄の抽選が合計１００回）を設定する構成としていたが、時短回数は必ずしも共通化する必要はない。第１特別図柄の抽選回数と合計の特別図柄の抽選回数とのうち一方又は両方が異なる種別の時短状態を設ける構成としてもよい。第１特別図柄の抽選回数を多くすることで、低いランクであっても時短状態が終了するまでの時間が延び、第２特別図柄の抽選回数が多くなるため、大当たりとなる可能性を高くすることができる。また、逆に、第１特別図柄の抽選回数を少なくすることで、大当たりとなる可能性を低くすることもできる。第１特別図柄の抽選回数と第２特別図柄の抽選回数との合計についても同様であり、回数を多くすることで大当たりとなる可能性を高くできる一方で、少なくすることで大当たりとなる可能性を低くすることができる。

【８８３１】

本第２７制御例では、継続率上昇演出（図８３２参照）において、ランクアップの発生を報知する際に、１の第２特別図柄の変動表示演出において対応するランクまでのランクアップを報知する構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、複数段階のランクアップを報知する場合は、複数の第２特別図柄の変動表示演出に渡って段階的に（例えば、１変動で１段階ずつ）ランクアップを報知する構成としてもよい。このように構成することで、複数の変動表示に渡ってより高いランクへと上昇する期待感を持続的に抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、段階的に報知する場合は、必ずしも複数変動に渡ってランクを報知する必要はなく１変動内でランクを段階的に上昇させる演出を実行する構成としてもよい。具体的には

、例えば、ランクアップ画像ＲＧが真っ二つに割れて本来のランクよりも低いランクへのランクアップを示すランクアップアイコンＲＲＧが出現する演出を実行した後で、当該ランクアップアイコンＲＲＧが真っ二つに割れて、より高いランクを示すランクアップアイコンＲＲＧが出現する演出を実行する。そして、以降は、実際のランクへのランクアップが報知されるまで、直前に出現したランクアップアイコンＲＲＧによって示されるランクよりも高いランクを示すランクアップアイコンＲＲＧが、直前に出現したランクアップアイコンＲＲＧの中から出現する演出を繰り返すことにより、段階的にランクを報知する構成としてもよい。このように構成することで、より高いランクへと上昇する期待感を持続的に抱かせ続けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８８３２】

本第２７制御例では、継続率上昇演出（図８３２参照）において、ランクアップ画像ＲＧが真っ二つに割れて出現するランクアップアイコンＲＲＧの種別（記載されている文字）によってランクの上昇数（ランクアップ数）を報知する構成としていたが、これに限られるものではない。これに代えて、または加えて、ランクアップ画像ＲＧの表示態様（例えば、色や大きさ等）、ランクアップ画像ＲＧの割れ方等によって、出現するランクアップアイコンＲＲＧの種別を示唆可能に構成してもよい。より具体的には、例えば、ランクアップ画像ＲＧの種別として、白色のランクアップ画像ＲＧ、赤色のランクアップ画像、および通常よりも大きいサイズの赤色のランクアップ画像を設ける構成とし、赤色のランクアップ画像が停止表示された場合は、白色のランクアップ画像ＲＧが停止表示された場合よりも、複数段階のランクアップが報知される可能性が高くなるように構成してもよい。また、通常よりも大きいサイズの赤色のランクアップ画像は、複数段階のランクアップが報知される場合にのみ、選択され得るように構成してもよい。また、ランクアップ画像ＲＧの割れ方として、真っ二つに割れる割れ方の他に、４つに割れる割れ方や、粉々に砕け散る割れ方を設ける構成とし、４つに割れる割れ方の場合は真っ二つに割れる割れ方よりも複数段階のランクアップが報知される可能性が高くなるように構成してもよい。また、粉々に砕け散る割れ方の場合はＡランク以上へのランクアップが確定するように構成してもよい。このように構成することで、ランクアップアイコンＲＲＧの種別のみならず、ランクアップアイコンＲＲＧが出現する前の演出態様にも注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８８３３】

本第２７制御例では、時短状態が終了して通常状態へと移行した後も、１回目の第２特別図柄の変動表示演出の間は、表示領域ＨＲ３に表示される文字（「右打ちで鍵を集めるんだ！」という文字）によって、時短状態と同様に、遊技者に対して右打ちを行わせることを促す構成としていたが、時短状態と同一の遊技を行わせるための演出態様はこれに限られるものではない。これに代えて、又は加えて、音声により右打ちを行うことを促す演出を実行してもよいし、時短状態と同様に、小表示領域Ｄｍ２において右打ちを行うことを促す表示を設定する構成としてもよい。また、小表示領域Ｄｍ２において右打ちを行うことを促す表示を設定する場合は、時短状態と全く同じ表示（「右打ち」という文字）を行ってもよいし、時短状態と通常状態とで表示態様を異ならせてもよい（例えば、通常状態では、右向きの矢印を模した画像を表示させてもよい）。

【８８３４】

＜第２７制御例の変形例＞

次に、図９０４から図９１０を参照して、上述した第２７制御例に対して時短図柄当選（大当たりを介さずに時短状態が付与される特別図柄の抽選結果）を組み合わせた各種の変形例について説明する。まず、図９０４を参照して、上述した第２７制御例に対して単純に時短図柄当選の抽選結果のみを加えた第１の変形例について説明する。

【８８３５】

＜第２７制御例の第１の変形例＞

第２７制御例に対して、単純に時短図柄当選の抽選結果を加えた場合、時短図柄に当選

して右打ちを行ったとしても、普通図柄の抽選で普通図柄の当たりに当選する確率が低いため、電動役物６４ｒａがほとんど開放されず、右第１入球口６４ｒへと遊技球を入球させることがほとんどできない状態を形成する。係る状況において、時短状態用の変動パターンテーブル（Ｓランク用テーブル２０２ｄｗ２～Ｅランク用テーブル２０２ｄｗ７のいずれか）が参照されて変動パターンを選択すると、第２特別図柄の抽選が実行される毎に１０秒間の比較的短い変動時間が設定されるため、右打ちにより第２特別図柄の抽選ばかりが実行される極めて有利な遊技状態を形成する。仮に、時短図柄当選に基づく時短状態の終了条件を大当たり終了後に設定される時短状態と同一の終了条件（第１特別図柄の抽選が５０回実行されるか、特別図柄の抽選が１００回実行されること）に設定した場合、大当たりに当選する割合がＳランクラッシュ以上となる極めて有利な状態を形成する。なお、普通図柄の当たりにほとんど当選しないことにより、右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球し難くなり、右第１入球口６４ｒへと入球したことに基づいて払い出される賞球もほとんど獲得することができなくなるため、払い出される賞球数の面では時短状態よりも有利度合いが低くなる。

【８８３６】

図９０４（ａ）は、本変形例における通常状態の間に時短図柄当選が発生した場合の第３図柄表示装置８１の表示態様を示した図である。図９０４（ａ）に示した通り、通常状態において時短図柄当選が発生すると、主表示領域Ｄｍにおける中央において、冒険者のキャラクタ８０１の周囲が発光した状態（オーラを纏った状態）で佇む表示態様が設定されると共に、表示領域ＨＲ３に対して、「ボーナス準備中」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｓ２に対して、「準備状態」という文字が表示される。これらの表示内容により、右打ちを行えばよいということ、および大当たりが近い（大当たり当選の準備段階に入っている）ということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、上述した通り、第２特別図柄の抽選で何らかの当たり（小当たりまたは大当たり）に当選する確率は１１／２００であるため、９９％超の割合で時短図柄当選に基づく時短回数内に大当たりに当選する。

【８８３７】

図９０４（ｂ）は、本変形例における時短状態において時短図柄当選が発生した場合の表示態様を示した図である。図９０４（ｂ）に示した通り、時短図柄当選が発生すると、ランクアップ演出が発生して、エクストラランク（ＥＸ　ＲＡＮＫ）にランクアップする演出が実行される。このエクストラランクにランクアップする演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選の可能性が極めて高い時短状態に移行したということを容易に理解させることができる。また、Ｓランク～Ｅランクのいずれとも異なるエクストラランクという名称にすることで、右打ちにより電動役物６４ｒａがほとんど開放されなくても、エクストラランクという特殊な状態に移行したことによるものだと遊技者を納得させることができる。よって、遊技者に対して違和感や不信感を抱かせてしまうことを抑制することができる。

【８８３８】

＜第２７制御例の第２の変形例＞

次に、図９０５から図９１０を参照して、第２７制御例に対して時短図柄当選を組み合わせた第２の変形例について説明する。第２の変形例では、上述した第１７制御例等と同様に、時短図柄当選が発生した場合に設定される時短状態と、大当たり終了後に設定される時短状態とで、時短性能が略同一となるように、普通図柄の当たりとなる確率を普通図柄の低確率状態と普通図柄の時短状態とで略同一とする制御も含めた形で時短図柄当選に係る時短状態を組み合わせた場合について説明する。この場合、時短図柄の種別としてＳランク用テーブル２０２ｄｗ２～Ｅランク用テーブル２０２ｄｗ７を参照して変動パターンが選択される時短状態が設定される時短図柄をそれぞれ設ける構成とすることにより、時短状態において時短状態の性能（ラッシュのランク）が途中で切り替わる遊技性を実現することができる。具体的には、例えば、Ｂランクのラッシュ中にＡランク用テーブル２０２ｄｗ３が参照される時短状態が設定される時短図柄当選が発生すると、時短状態（ラ

ッシュ）のランクが上昇する上に、時短回数がリセットされる（時短図柄当選に係る時短回数が再設定される）ため、遊技者にとって有利な状況となる。また、例えば、Ｂランクのラッシュ中にＤランク用テーブル２０２ｄｗ５が参照される時短状態が設定される時短状態が設定される時短図柄当選が発生すると、時短状態（ラッシュ）のランクが低下するものの、時短回数がリセットされるため、時短状態の終了間際であれば、遊技者にとって有利となる可能性がある。

【８８３９】

まず、図９０５を参照して本変形例における演出態様について説明する。図９０５は、時短状態において時短図柄当選が発生した場合の演出態様を示した図である。図９０５（ａ）に示した通り、時短状態において第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選すると、「ＲＥＳＥＴ」という文字が付されたリセット図柄が中図柄として停止される変動表示演出が実行されると共に、表示領域ＨＲ３に対して、「リセット発生！」という文字が表示される。そして、図９０５（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおいて、リセット図柄が拡大表示されて時短状態のリセットが報知されると共に、表示領域Ｄｍに表示されていたファイナルジャッジまでの残り時間が４９秒（大当たり終了直後の状態）にリセットされる。更に、小表示領域Ｄｍ３に表示されていたラッシュランクが「？　ＲＡＮＫ」に更新されると共に、小表示領域Ｄｓ２に表示されていた継続率が「継続率？？％ｏｖｅｒ」という表記に更新される。これらの表示内容により、時短状態がランクも含めてリセットされたということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、このランクや継続率が「？」という記号によって秘匿される状態は、後述するランク報知演出が実行されるまで継続される。以降、説明の簡素化のため、時短図柄当選に基づいて設定される、ランクや継続率が秘匿された状態のことを秘匿状態と称する。

【８８４０】

図９０６は、秘匿状態において所定の実行抽選に当選した場合に実行される、時短図柄当選に基づいて設定（リセット）された時短状態のランクを報知するためのランク報知演出の演出態様を示した図である。図９０６（ａ）に示した通り、秘匿状態においてランク報知演出が実行されると、まず、第２特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の変動表示演出として、「？　ＲＡＮＫ」という文字が付されたランク報知図柄が中図柄として停止表示される変動表示演出が実行される。そして、図９０６（ｂ）に示した通り、停止表示された中図柄（ランク報知図柄）が真っ二つに割れて、時短図柄当選に基づいて設定されたランクに対応する文字が付されたランク報知画像（ランクアップアイコン）ＲＲＧが出現する演出が実行される。また、ランク報知画像ＲＲＧによって報知されたランクに応じて、小表示領域Ｄｍ３および小表示領域Ｄｓ２の表示内容が更新される演出が実行される。図９０６（ｂ）の例では、時短図柄当選に基づいて設定（リセット）された時短状態のランクがＡランクであり、「Ａ　ＲＡＮＫ」という文字が付された報知画像ＲＲＧが出現すると共に、小表示領域Ｄｍ３に対して表示されるラッシュランクが「Ａ　ＲＡＮＫ」に更新され、小表示領域Ｄｓ２に対して表示される継続率がＡランクラッシュに対応する「継続率８９％ｏｖｅｒ」に更新された場合を例示している。

【８８４１】

なお、ランク報知演出は、時短図柄当選時に設定されていた時短状態のランク以上のランクにリセットされた場合に設定される秘匿状態においてのみ発生する構成とし、時短図柄当選によって低いランクにリセットされた場合には、ランク報知演出の実行が禁止（制限）されるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選に基づいて低いランクに成り下がってしまった場合に、そのことを遊技者に対して秘匿しておくことができるので、遊技者をがっかりさせてしまうことを抑制することができる。

【８８４２】

＜第２７制御例の第２の変形例における電気的構成＞

次に、図９０７を参照して、本変形例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図９０７は、本変形例におけるＲＡＭ２２３の構成を示すブロック図である。図９０７に示した通り、本変形例におけるＲＡＭ２２

３は、上述した第２７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図８４１参照）に対して、ラッシュランク格納エリア２２３ｗｅと、前回ランク格納エリア２２３ｗｆと、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇと、が追加されているてんで相違している。

【８８４３】

ラッシュランク格納エリア２２３ｗｅは、現在設定されている時短状態（ラッシュ）のランクを示す情報を格納するための記憶領域であり、前回ランク格納エリア２２３ｗｆは、時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、時短図柄当選が発生するよりも前に設定されていた時短状態のランクを示す情報を格納するための記憶領域である。また、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇは、時短図柄当選に基づいて設定される秘匿状態であるか否かを示すフラグであり、オンであれば秘匿状態中であることを意味する一方で、オフであれば秘匿状態ではないことを意味する。

【８８４４】

＜第２７制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次いで、図９０８から図９１０を参照して、本変形例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図９０８を参照して、本変形例における特図２演出態様設定処理２７Ａ（Ｓ５２０１Ａ）の詳細について説明する。この特図２演出態様設定処理２７Ａ（Ｓ５２０１Ａ）は、上述した第２７制御例における特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）に代えて実行される処理であり、特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）と同様に、第２特別図柄の抽選結果に応じた変動表示態様を設定するための処理である。図９０８は、特図２演出態様設定処理２７Ａ（Ｓ５２０１Ａ）を示すフローチャートである。

【８８４５】

この第２の変形例における特図２演出態様設定処理２７Ａ（図９０８参照）のうち、Ｓ９６１１，Ｓ９６２１Ａ，Ｓ９６２２Ａ、およびＳ９６４１Ａの各処理では、それぞれ上述した第２７制御例における特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）のＳ９６１１，Ｓ９６２１Ａ，Ｓ９６２２Ａ、およびＳ９６４１Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本変形例における特図２演出態様設定処理２７Ａ（図９０８参照）では、Ｓ９６４１Ａの処理において、第２特別図柄の抽選結果が完全外れではないと判別した場合（Ｓ９６４１Ａ：Ｎｏ）、次いで、第２特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ９６７１Ａ）、時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ９６７１Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。

【８８４６】

一方で、Ｓ９６７１Ａの処理において、今回の第２特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ９６７１Ａ：Ｙｅｓ）、リセット演出を伴う変動表示演出の演出態様を特定する（Ｓ９６７２Ａ）。次いで、ラッシュランク格納エリア２２３ｗｅのデータを前回ランク格納エリア２２３ｗｆに上書きすると共に、当選した時短図柄に対応するラッシュランクを示すデータをラッシュランク格納エリア２２３ｗｅに格納し（Ｓ９６７３Ａ）、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇをオンに設定して（Ｓ９６７４Ａ）、本処理を終了する。

【８８４７】

また、本変形例における特図２演出態様設定処理２７Ａ（図９０８参照）では、Ｓ９６４１Ａの処理において、第２特別図柄の抽選結果が完全外れであると判別した場合は（Ｓ９６４１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇがオンであるか否かを判別し（Ｓ９６７５Ａ）、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇがオンであると判別した場合は（Ｓ９６７５Ａ：Ｙｅｓ）、秘匿状態中における変動表示態様を設定するための秘匿中演出設定処理を実行し（Ｓ９６７６Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。これに対し、Ｓ９６７５Ａの処理において、ランク秘匿フラグ２２３ｗｇがオフであると判別した場合は（Ｓ９６７５Ａ：Ｎｏ）、非秘匿中演出設定処理を実行して（Ｓ９６７７Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。これらの秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７６Ａ）、および非秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７７Ａ）の詳細については、それぞれ図９０９、および図９１０を参照し

て説明する。
【８８４８】
次に、図９０９を参照して、秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７６Ａ）の詳細について説明する。図９０９は、秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７６Ａ）を示すフローチャートである。この秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７６Ａ）では、まず、余剰時間格納エリア２２３ｗｄのデータを参照して１０秒以上の余剰時間があるか否かを判別し（Ｓ９６８１Ａ）、１０秒以上の余剰時間があると判別した場合は（Ｓ９６８１Ａ：Ｙｅｓ）、余剰時間のうち１０秒未満の端数を切り捨てた時間を上乗せする演出態様の上乗せ演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９６８２Ａ）、本処理を終了する。
【８８４９】
これに対し、Ｓ９６８１Ａの処理において、１０秒以上の余剰時間が無いと判別した場合は（Ｓ９６８１Ａ：Ｎｏ）、ラッシュランク格納エリア２２３ｗｅのデータと前回ランク格納エリア２２３ｗｆのデータとを比較することにより、時短状態がリセットされる（時短図柄に当選する）前のラッシュランクが現在設定されているランクよりも高いランクであるか否かを判別する（Ｓ９６８３Ａ）。Ｓ９６８３Ａの処理において、時短状態がリセットされる（時短図柄に当選する）前のラッシュランクが現在設定されているランクよりも高いランクであると判別した場合は（Ｓ９６８３Ａ：Ｙｅｓ）、ランク報知演出の実行を抽選することなく、受信した変動パターンコマンドに応じた演出態様を決定して（Ｓ９６８４Ａ）、本処理を終了する。
【８８５０】
一方、Ｓ９６８３Ａの処理において、時短状態がリセットされる（時短図柄に当選する）前のラッシュランクが現在設定されているランク以下のランクであると判別した場合は（Ｓ９６８３Ａ：Ｎｏ）、ランク報知演出の実行可否の抽選を実行する（Ｓ９６８５Ａ）。この抽選では、１／２０の確率でランク報知演出の実行が決定されるように構成されている。このため、複数回の第２特別図柄の変動表示においてランク報知演出が実行されなかったとしても、単に抽選に漏れただけであり、ランクが低下したのではないと遊技者に思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができる。
【８８５１】
Ｓ９６８５Ａの処理が終了すると、次いで、ランク報知演出の実行に対応する抽選結果になったか否かを判別し（Ｓ９６８６Ａ）、ランク報知演出の実行に対応する抽選結果になったと判別した場合は（Ｓ９６８６Ａ：Ｙｅｓ）、現在のランクを報知するランク報知演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９６８７Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ９６８６Ａの処理において、ランク報知演出の実行に対応する抽選結果にならなかったと判別した場合は（Ｓ９６８６Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６８４Ａへと移行する。
【８８５２】
次に、図９１０を参照して、上述した非秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７７Ａ）の詳細について説明する。図９１０は、この非秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７７Ａ）を示すフローチャートである。この非秘匿中演出設定処理（Ｓ９６７７Ａ）では、まず、ランクアップ判別テーブル２２２ｗｂ（図８４２（ｂ）参照）に規定されているデータを参照して、現在の保証時間タイマ２２３ｗｃのタイマ値が示す時間と余剰時間格納エリア２２３ｗｄに格納されているデータが示す時間との和（Ｔ）に対応するランクを特定する（Ｓ９６９１Ａ）。次いで、Ｓ９６９１Ａの処理で特定されたランクが、現在設定されているランクよりも高いランクであるか否かを判別し（Ｓ９６９２Ａ）、現在設定されているランクよりも高いランクが特定されたと判別した場合は（Ｓ９６９２Ａ：Ｙｅｓ）、特定したランクへのランクアップ演出を伴う演出態様を決定して（Ｓ９６９７Ａ）、本処理を終了する。
【８８５３】
これに対し、Ｓ９６９２Ａの処理において、現在のランク以下のランクが特定されたと判別した場合は（Ｓ９６９２Ａ：Ｎｏ）、余剰時間格納エリア２２３ｗｄに１０秒以上の余剰時間を示すデータが格納されているか否かを判別する（Ｓ９６９３Ａ）。Ｓ９６９３

Ａの処理において、１０秒以上の余剰時間を示すデータが格納されていると判別した場合は（Ｓ９６９３Ａ：Ｙｅｓ）、残り時間上乗せ演出により上乗せを行う時間を抽選により決定し（Ｓ９６９４Ａ）、決定結果に応じた演出態様を決定し（Ｓ９６９５Ａ）、上乗せした時間を保証時間タイマ２２３ｗｃに加算すると共に余剰時間格納エリア２２３ｗｄから減算して（Ｓ９６９６Ａ）、本処理を終了する。Ｓ９６９４Ａの処理では、残り時間上乗せ演出を実行しないと決定する（上乗せ時間を０秒に決定する）割合が７５％に設定され、残りの２５％に対して、余剰時間以下の範囲の１０の倍数の秒が均等に割り振られる。例えば、余剰時間が４５秒であれば、７５％の割合で残り時間上乗せ演出を実行せず、６．２５％の割合で１０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で２０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で３０秒の上乗せが決定され、６．２５％の割合で４０秒の上乗せが決定されるように制御される。

【８８５４】

一方、Ｓ９６９３Ａの処理において、余剰時間格納エリア２２３ｗｄに１０秒未満の余剰時間を示すデータが格納されていると判別した場合は（Ｓ９６９３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ９６９４Ａ～Ｓ９６９６Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【８８５５】

この第２の変形例のように、第２７制御例の恒星に対して時短図柄当選の仕様を追加することにより、時短状態においてラッシュのランクが更新される状況を発生させることができる。よって、時短図柄当選が発生した場合に、ラッシュのランクが上昇することを期待させるより斬新な遊技性を実現することができる。

【８８５６】

＜第２８制御例＞

次に、図８６２から図８８２を参照して、第２８制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第２７制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）した上で、時短状態の設定契機（大当たり種別）に応じて第１特別図柄の抽選頻度（選択される変動時間の傾向）を異ならせることにより、時短状態の終了までに実行される第２特別図柄の抽選回数を異ならせる構成とした。また、遊技状態として通常状態と時短状態との２種類のみが設けられ、特別図柄の抽選で大当たりとなるか、小当たりとなってＶ入賞が発生することで大当たりに当選する仕様を採用していた。

【８８５７】

これに対して第２８制御例では、同時変動仕様を前提として、遊技状態として通常状態、時短状態に加えて、特別図柄の抽選で大当たりとなる確率が上昇する上に時短状態と同様に電動役物６４０ａが開放され易くなる確変状態を設ける構成とし、大当たりの契機を特別図柄の抽選で大当たりになった場合のみとする仕様を採用した。また、上述した第２７制御例では、一方の特別図柄の大当たり変動が実行されている間も、他方の特別図柄の抽選で大当たりに当選することを許容していたが、本第２８制御例では、一方の特別図柄の抽選が大当たりになった時点で他方の特別図柄の抽選で大当たりに当選することが禁止（抑制）される制御を採用している。つまり、一方の大当たり変動中は、他方の特別図柄の抽選が外れ（小当たり含む）確定となる仕様を採用している。更に、本第２８制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に最も有利な確変状態が設定される割合が低くなる一方で、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に最も有利な確変状態が設定される割合が高くなるように構成することで。第２特別図柄の抽選で大当たりになることをより強く期待させることが可能な仕様を採用している。

【８８５８】

係る仕様の元で、本第２８制御例に係るパチンコ機１０では、時短状態や確変状態において右打ちを行った場合に第１特別図柄の抽選契機となる始動入賞口（右第１入球口６４ｒ）にも第２特別図柄の抽選契機となる始動入賞口（第２入球口６４０）にも遊技球が入球し得る盤面構成とし、特に、確変状態において、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選しないことを強く期待させる遊技性を実現した。更に、本第２８制御例では、第２特別図

柄の抽選で外れとなった場合の一部で小当たりとなる構成とした。この小当たりは、第２７制御例等の小当たりと異なり、大当たり遊技において開放される可変入賞装置１０６５を短時間開放させるのみの抽選結果となっている（小当たり遊技において大当たりに当選する可能性はない）ため、基本的に、当選したとしても何ら遊技者の有利度合いに寄与するものではない。しかしながら、小当たりに当選して小当たり図柄が停止表示されると、大当たり図柄が停止表示された場合と同様に、他方の特別図柄を強制的に外れ図柄で停止表示させる制御が実行されるため、特に、不利な第１特別図柄の大当たり変動中に小当たりに当選することで遊技者に有利となる遊技性を実現することができる。つまり、確変状態において第１特別図柄の抽選で確変状態が付与されない通常大当たりに当選し、大当たり変動が実行されると、確変状態が終了されてしまう可能性が高い不利な状態を形成する。この不利な第１特別図柄の大当たり変動中に、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選し、先に小当たり変動が終了すると、変動表示中の第１特別図柄を外れ図柄で強制停止させることができ、不利な第１特別図柄の大当たりを無かったことにして、確変状態を継続させることができる。よって、基本的に、何ら遊技者の有利度合いに貢献することが無い小当たりに、特定条件下（確変状態中、且つ、第１特別図柄の大当たり変動中）において当選することで、遊技者にとって極めて不利な状況（確変状態が終了されてしまう状況）が発生することを回避できるという斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８８５９】

また、上述した第２７制御例におけるパチンコ機１０では、時短回数を減算する際に、一律で、変動開始時に減算処理を実行する構成としていた。これに対して本第２８制御例におけるパチンコ機１０では、基本的に、変動停止時に減算処理を実行する構成とし、時短状態における最後の変動表示のみ、変動開始時に減算処理を実行する構成としている。また、一方の特別図柄が当たり（大当たり又は小当たり）図柄で停止表示され、他方の特別図柄を強制的に外れ図柄で停止表示させる場合については、当該強制的な停止表示のタイミングで時短回数の減算処理が実行されることを回避する構成としている。このように構成することで、強制的に外れに変更された（即ち、当たりが抽選されていないに等しい）変動表示によって時短回数を１回分損してしまうことを抑制できるので、より好適に時短回数を減算することができる。

【８８６０】

この第２８制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第２７制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、パチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第２７制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第２７制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【８８６１】

まず、図８６２を参照して、本第２８制御例における遊技盤１３の盤面構成について説明する。図８６２は、本第２８制御例における遊技盤１３の正面図である。図８６２に示した通り、本第２８制御例における遊技盤１３は、上述した第２７制御例における遊技盤１３の盤面構成（図８２８参照）に対して、右第１入球口６４ｒと第２入球口６４０との配置が反対になっている（第２入球口６４０の下流側に右第１入球口６４ｒが設けられている）点、第２入球口６４０に対して第２入球口６４０を開閉させることが可能な電動役物６４０ａが付随して設けられている点、第２７制御例において右第１入球口６４ｒに付随して設けられていた電動役物６４ｒａが削除されている点、右第１入球口６４の真上に

、パチンコ機１０に対して電源が投入されている間、所定周期で出没動作することが可能な出没部材６４ｒｂが設けられている点で相違している。この出没部材６４ｒｂは、正面視手前側に突出した突出位置に変位することで右第１入球口６４ｒへの遊技球の入球を妨げ、遊技盤１３に没入することで右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球可能な状態を形成する。この出没部材６４ｒｂは、例えば、普通図柄の時短状態が設定される遊技状態（時短状態、又は確変状態）において右打ちにより発射された遊技球が２５個に１個前後の割合で右第１入球口６４ｒに入球するように、没入位置に変位する周期および変位期間の長さが定められている。つまり、通常状態において右打ちを行うよりも、左打ちを行った方が第１特別図柄の抽選頻度が高くなり、且つ、普通図柄の時短状態が設定される時短状態や確変状態において第１特別図柄の保留球が０になり難くなるように、没入位置に変位する周期および変位期間の長さが定められている。これにより、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法に対する抑制を図りつつ、時短状態や確変状態において第１特別図柄の抽選を比較的高頻度で実行させることができる。

【８８６２】

また、図８６２に示した通り、本第２８制御例における遊技盤１３は、上述した第２７制御例における遊技盤１３に設けられていた可変入賞装置１０６５およびＶ入賞装置６５０が削除され、第１制御例等における遊技盤１３に設けられていた可変入賞装置６５が設けられている点でも相違している。これは、本第２８制御例では、第１制御例等と同様に、大当たり遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球することで大当たり終了後に確変状態が付与される仕様を採用していることによる。なお、本第２８制御例において第２特別図柄の抽選で小当たりとなった場合は、可変入賞装置６５が所定期間（例えば、０．２秒間）開閉する。このため、小当たり遊技において賞球を得ることはほぼ不可能となるように構成されている。また、小当たり遊技（および通常大当たり）では、特定領域を遊技球が通過困難（不可能）となるように制御される。

【８８６３】

次いで、図８６３および図８６４を参照して、本第２８制御例における特徴的な演出態様について説明する。まず、図８６３（ａ）は、本第２８制御例において最も有利度合いが高い確変状態に移行した場合の表示態様を示した図である。確変状態においては、上述した第２７制御例における時短状態と同様に、主表示領域Ｄｍにおいて第２特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の変動表示演出が実行されると共に、主表示領域Ｄｍの右下における比較的狭い表示領域（小表示領域Ｄｍ８ａ）において、第１特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の変動表示演出が実行される。なお、本第２８制御例では、一旦確変状態になると、次に大当たりとなるまで確変状態が終了されない仕様を採用している。このため、終了条件（残りの抽選回数や残り時間等）が画面上に表示されることはない。

【８８６４】

図８６３（ｂ）は、確変状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選し、大当たり変動が開始された場合における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。ここで、本第２８制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりになると、高確率（９０％の割合）で通常大当たりに当選する一方で、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、必ず確変大当たりとなって大当たり終了後も有利な確変状態が継続する。このため、右打ちにより右第１入球口６４ｒにも第２入球口６４０にも入球し得る確変状態においては、第２特別図柄の抽選で大当たりとなることをより強く期待させる遊技性となる。つまり、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合は、遊技者にとって不利な状態となる可能性が高くなる。

【８８６５】

図８６３（ｂ）に示した通り、確変状態において第１特別図柄の大当たり変動が開始されると、主表示領域Ｄｍに敵のキャラクタ８１１が出現して冒険者のキャラクタ８０１とにらみ合う演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「敵を倒してＲＵＳＨを継続させろ！！」という文字が表示される。更に、主表示領域Ｄｍの右上に形成される小表示領域Ｄｍ２に対して、確変状態が終了するまで（即ち、第１特別図柄の大当たり変動

が終了するまで）の残り時間を示す情報が表示される。図８６３（ｂ）の例では、変動終了までの残変動時間が２８．０５秒である場合を例示しており、小表示領域Ｄｍ１に対して、「ＲＵＳＨ終了まで２８：０５」という文字が表示されている。加えて、小表示領域Ｄｓ２に対して、「ＲＵＳＨ終了のピンチ！」という文字が表示される。これらの表示内容により、小表示領域Ｄｍ１に表示されている残り時間が経過するまでに敵のキャラクタ８１１を討伐できなければ、確変状態（ラッシュ）が終了してしまう可能性があるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、上述した通り、本第２８制御例では、一方の特別図柄の大当たり変動が開始された後で、他方の特別図柄の抽選が実行されたとしても、当たりが抽選されることはない。つまり、第１特別図柄の大当たり変動表示中に第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する可能性が無いため、先に第２特別図柄の大当たり図柄が停止表示されて第１特別図柄の大当たりを外れ図柄に変換することが不可能に構成されている。一方で、小当たりは、外れの一部であるため、第１特別図柄の変動表示中であっても当選し得る要に構成されている。このため、第１特別図柄の大当たり変動中は、小当たりに当選することにより、大当たり変動を外れ図柄で強制停止させることができ、不利な第１特別図柄の大当たりを回避して確変状態を継続させることができる。

【８８６６】

図８６４（ａ）は、第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の抽選で小当たりに当選せず、変動時間が経過した場合の表示態様の一例を示した図である。図８６４（ａ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり変動の変動時間が経過し、小表示領域Ｄｍに表示されていた残り時間が「００：００」になると、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１からの攻撃を受けて敗北する演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「残念・・・」という文字が表示され、小表示領域Ｄｓ２に対して、「ＲＵＳＨ終了・・・」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｍ８ａにおいて第１特別図柄の当たりを示す第３図柄が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して確変状態が終了した可能性が高いということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８８６７】

図８６４（ｂ）は、第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の抽選で小当たりに当選し、第１特別図柄の大当たり変動を外れ図柄で強制停止させることができた場合の表示態様の一例を示している。図８６４（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり変動中に小当たりに当選して先に小当たり図柄が停止表示されると、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１の討伐に成功する演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「勝利！！」という文字が表示され、小表示領域Ｄｓ２に対して、「ＲＵＳＨ継続！！」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｍ８ａにおいて第１特別図柄の外れ図柄（所謂、ばらけ目）が表示され、小表示領域Ｄｍ８ｂにおいて、第２特別図柄の小当たり図柄（本第２８制御例では、互いに異なる奇数図柄）が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して確変状態が継続したということを容易に理解させることができる。

【８８６８】

＜第２８制御例における電気的構成＞

次に、図８６５（ａ）を参照して、本第２８制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図８６５（ａ）に示した通り、本第２８制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第２７制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図８３５（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗに代えて第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘが設けられている点、大当たり種別選択２７テーブル２０２ｂｗに代えて大当たり種別選択２８テーブル２０２ｂｘが設けられている点、変動パターン２７テーブル２０２ｄｗに代えて変動パターン２８テーブル２０２ｄｘが設けられている点、小当たり乱数２７テーブル２０２ｅｗに代えて小当たり乱数２８テーブル２０２ｅｘが設けられている点で相違している。また、通常用変動パターンシナリオテーブル２０２ｗａが削除されている点でも相違している。

【８８６９】
まず、図８６６（ａ）を参照して、本第２８制御例における第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘの詳細について説明する。この第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘは、上述した第２７制御例における第１当たり乱数２７テーブル２０２ａｗと同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が規定されているデータテーブルである。図８６６（ａ）は、第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘの規定内容を示した図である。図８６６（ａ）に示した通り、本第２８制御例では、特別図柄の種別によらず、特別図柄の高確率状態において特別図柄の抽選で大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）として、「０～３９」の４０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。本第２８制御例における第１当たり乱数カウンタＣ１は、「０～９９９」の１０００個の値を取り得るループカウンタで構成されているので、特別図柄の高確率状態において特別図柄の抽選が実行された場合に大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選でも第２特別図柄の抽選でも１／２５（４０／１０００）である。

【８８７０】
また、図８６６（ａ）に示した通り、本第２８制御例における第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘには、特別図柄の種別によらず、特別図柄の低確率状態において特別図柄の抽選で大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）として、「０～９」の１０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。本第２８制御例における第１当たり乱数カウンタＣ１は、「０～９９９」の１０００個の値を取り得るループカウンタで構成されているので、特別図柄の低確率状態において特別図柄の抽選が実行された場合に大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選でも第２特別図柄の抽選でも１／１００（１０／１０００）である。

【８８７１】
次に、図８６６（ｂ）を参照して、本第２８制御例における大当たり種別選択２８テーブル２０２ｂｘの詳細について説明する。図８６６（ｂ）は、本第２８制御例における大当たり種別選択２８テーブル２０２ｂｘの規定内容を示した図である。図８６６（ｂ）に示した通り、この大当たり種別選択２８テーブル２０２ｂｘには、特別図柄の種別毎に、選択され得る大当たり種別と、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲と、が対応付けて規定されている。より具体的には、図８６６（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９」の範囲に対して「大当たりＡ２８」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１０～９９」の範囲に対して「大当たりＢ２８」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ２８」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。また、「大当たりＢ２８」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として比較的有利度合いが低い時短状態が設定される大当たり（４ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＡ２８」、「大当たりＢ２８」に対応付けられている乱数値はそれぞれ１０個および９０個であるため、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ２８」が決定される割合は１０％（１０／１００）となり、「大当たりＢ２８」が決定される割合は９０％（９０／１００）となる。つまり、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選したとしても、ほぼ、ラウンド数が最も少なく、有利度合いが低い時短状態に設定される大当たり種別（大当たりＢ２８）が決定されるため、第１特別図柄の抽選は遊技者にとって有利度合いが低い抽選である。

【８８７２】
また、図８６６（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２４」の範囲に対して「大当たりＣ２８」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２５～３４」の範囲に対して「大当たりＤ２８」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３５～９９」の範囲

に対して「大当たりＥ２８」が対応付けて規定されている。「大当たりＣ２８」は、ラウンド数が１０ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（１０ラウンド確変大当たり）である。また、「大当たりＤ２８」は、ラウンド数が８ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（８ラウンド確変大当たり）である。更に、「大当たりＥ２８」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＣ２８」、「大当たりＤ２８」、「大当たりＥ２８」に対応付けられている乱数値はそれぞれ２５個、１０個、および６５個であるため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＣ２８」が決定される割合は２５％（２５／１００）となり、「大当たりＤ２８」が決定される割合は１０％（１０／１００）となり、「大当たりＥ２８」が決定される割合は６５％（６５／１００）となる。よって、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合、過半数が最低のラウンド数（４ラウンド）に設定されるものの、いずれの大当たり種別が選択されたとしても大当たり終了後の遊技状態が有利度合いが高い確変状態に設定されるので、第２特別図柄の抽選は、第１特別図柄の抽選に比較して有利度合いが高い抽選であると言える。

【８８７３】

次に、図８６６（ｃ）を参照して、本第２８制御例における小当たり乱数２８テーブル２０２ｅｘの詳細について説明する。この小当たり乱数２８テーブル２０２ｅｘは、上述した第２７制御例における小当たり乱数２７テーブル２０２ｅｗと同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に小当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）が規定されているデータテーブルである。図８６６（ｃ）に示した通り、本第２８制御例では、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）が第２特別図柄に対してのみ対応付けられており、その値の範囲は「４０～４９」である。第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る「０～９９９」の１０００個の乱数値（カウンタ値）のうち第２特別図柄の抽選で小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が「４０～４９」の１０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は１／１００（１０／１０００）である。

【８８７４】

次に、図８６７（ａ）を参照して、本第２８制御例における変動パターン２８テーブル２０２ｄｘの詳細について説明する。図８６７（ａ）は、本第２８制御例における変動パターン２８テーブル２０２ｄｘの構成を示したブロック図である。図８６７（ａ）に示した通り、本第２８制御例における変動パターン２８テーブル２０２ｄｘは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｘ１と、確変状態、および時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される確変・時短用テーブル２０２ｄｘ２と、の２種類のデータテーブルで構成されている。なお、通常用テーブル２０２ｄｘ１に関しては、上述した第２７制御例における通常用テーブル２０２ｄｗ１と同一の規定内容（第１特別図柄の抽選では抽選結果に応じて７秒～１４０秒の範囲の変動時間が選択される一方で、第２特別図柄の抽選では６００秒の変動時間が必ず選択される規定内容）となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８８７５】

図８６７（ｂ）は、変動パターン２８テーブル２０２ｄｘを構成する確変・時短用テーブル２０２ｄｘ２の規定内容を示した図である。この確変・時短用テーブル２０２ｄｘ２は、上述した通り、確変状態および時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に参照されるデータテーブルである。図８６７（ｂ）に示した通り、確変・時短用テーブル２０２ｄｘ２には、第１特別図柄の外れ時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が１００００ｍｓ（１０秒間）の外れショート変動が対応付けて規定されている。

【８８７６】

一方で、第１特別図柄の通常大当たり時の変動パターンとしては、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３００００ｍｓ（３０秒間）の当たりロング変動Ａが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「２５０～８９９」の範囲に対して、変動時間が６００００ｍｓ（６０秒間）の当たりロング変動Ｂが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「９００～９９９」の範囲に対して、変動時間が１８００００ｍｓ（１８０秒間）の当たりロング変動Ｃが対応付けて規定されている。このため、第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選した場合は、２５％（２５０／１０００）の割合で３０秒間の変動時間が選択され、６５％（６５０／１０００）の割合で６０秒間の変動時間が選択され、１０％（１００／１０００）の割合で１８０秒間の変動時間が選択される。変動時間が長いほど、変動中に第２特別図柄の抽選をより多く実行し易くなるため、小当たり当選の期待度も上昇する。よって、通常大当たりに当選した場合は、より長い変動時間が選択された方が遊技者にとって有利度合いが高くなる。

【８８７７】

また、図８６７（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の確変大当たり時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が５００ｍｓ（０．５秒間）の当たり超ショート変動が対応付けて規定されている。第１特別図柄の抽選で確変大当たりに当選した場合に短い変動時間を設定するのは、第２特別図柄の小当たりが先に停止表示されて有利な確変大当たりが外れに強制的に変換されてしまうことを極力防ぐためである。更に、図８６７（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の変動パターンとして、外れの場合も当たりの場合も、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が６０００ｍｓ（６秒間）の変動パターン（外れショート変動、当たりショート変動）が対応付けて規定されている。このため、確変状態においては、第２特別図柄の変動時間が６秒間に固定化される。

【８８７８】

なお、第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選し、３０秒間の変動時間が設定された場合は、当たり変動中に最大５回（３０秒／６秒）第２特別図柄が停止表示されるので、１／１００の確率の小当たりによって通常大当たりを外れに変換し、確変状態を継続させることができる割合は約４．９％である。同様に、第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選し、３０秒間の変動時間が設定された場合は、当たり変動中に最大１０回（６０秒／６秒）第２特別図柄が停止表示されるので、小当たりによって通常大当たりを外れに変換し、確変状態を継続させることができる割合は約９．６％である。更に、第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選し、１８０秒間の変動時間が設定された場合は、当たり変動中に最大３０回（１８０秒／６秒）第２特別図柄が停止表示されるので、小当たりによって通常大当たりを外れに変換し、確変状態を継続させることができる割合は約２６％である。

【８８７９】

このように、本第２８制御例では、確変状態において通常大当たりに当選した場合に、比較的長い（第２特別図柄の抽選を複数回実行可能な長さの）変動時間が選択されるように構成しているので、第２特別図柄の大当たり変動が開始された場合に、第２特別図柄の小当たりとなって通常大当たりを外れに変換する期待感を複数回の第２特別図柄の抽選に渡って遊技者に抱かせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８８８０】

次に、図８６５（ｂ）を参照して、本第２８制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図８６５（ｂ）は、本第２８制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図８６５（ｂ）に示した通り、本第２８制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第２７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図８３５（ｂ）参照）に対して、時短中第１カウンタ２０３ｈ１および時短中第２カ

ウンタ２０３ｈ２に代えて、時短中カウンタ２０３ｈが設けられている点で相違している。この変更は、時短状態の終了条件が１つのみ（第１特別図柄と第２特別図柄の抽選回数の合計が所定回数になることで成立する終了条件のみ）の仕様に変更されたことに伴うものである。また、確変設定フラグ２０３ｍと、確変通過カウンタ２０３ｎと、入賞個数カウンタ２０３ｏと、残球タイマフラグ２０３ｐと、残球タイマ２０３ｑと、確変有効フラグ２０３ｒと、確変有効タイマ２０３ｓと、排出個数カウンタ２０３ｔと、確変フラグ２０３ｘａと、が追加されている点でも第２７制御例と相違している。これらの構成の追加は、第１制御例等と同様に、大当たり遊技の実行中に特定領域を遊技球が通過することで大当たり終了後の遊技状態が確変状態に設定される仕様に変更したことに伴うものであり、確変フラグ２０３ｘａ以外は第１制御例において設けられていた同名の構成と全く同じものであるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８８８１】

更に、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｆｄ、Ｖフラグ２０３ｆｅ、Ｖ通過フラグ２０３ｆｆが削除されている点でも第２７制御例と相違している。なお、これらの構成を削除する変更は、小当たり遊技中のＶ入賞によって大当たりが発生する仕様を廃止したことによるものである。

【８８８２】

確変フラグ２０３ｘａは、現在の遊技状態が確変状態（確変遊技状態）であるか否かを示すフラグである。確変フラグ２０３ｘａがオンに設定されていると、遊技状態が確変状態であることを示し、オフであると低確率遊技状態（通常状態、または時短状態）であることを示している。本第２８制御例では、大当たり遊技終了時に確変設定フラグ２０３ｍがオンに設定されている場合に確変フラグ２０３ｘａがオンに設定される。一方、大当たり遊技が開始される場合にオフに設定される。なお、パチンコ機１０の設定が初期化された状態では、オフに設定され、通常の電源断が発生した場合には、電源断直前の状態がバックアップされるように構成されている。

【８８８３】

次に、図８６８を参照して、本第２８制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図８６８は、本第２８制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図８６８に示した通り、本第２８制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第２７制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図８４１参照）に対して、終了時間タイマ２２３ｘａが追加されている点で相違している。また、ランクアップ回数カウンタ２２３ｗｂ、保証時間タイマ２２３ｗｃ、余剰時間格納エリア２２３ｗｄが削除されている点でも相違している。

【８８８４】

終了時間タイマ２２３ｘａは、第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選して確変状態が終了されるまでの時間を示すタイマである。この終了時間タイマ２２３ｘａは、初期値が０に設定されており、確変状態中に第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選した場合に、当該通常大当たりの大当たり変動の変動時間に応じたタイマ値が設定されると共に、第３図柄表示装置８１に対して終了までの残り時間としてタイマ値に対応する秒数が表示される（図８８１のＳ９７１４Ａ，Ｓ９７１５Ａ参照）。また、メイン処理が実行される毎にタイマ値が減算して更新される（図８８０のＳ５４３３参照）。

【８８８５】

＜第２８制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図８６９から図８７９を参照して、本第２８制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８６９を参照して、本第２８制御例における第１特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７１）の詳細について説明する。図８６９は、本第２８制御例における第１特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７１）を示すフローチャートである。この第１特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７１）は、上述した第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（図８４３参照）に代えて実行される処理であり、第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（図８４

３参照）と同様に、第１特別図柄の抽選を実行すると共に、抽選結果に応じた変動表示を開始させるための処理である。

【８８８６】

この第２８制御例における第１特別図柄変動開始処理２８（図８６９参照）のうち、Ｙ３０２～Ｙ３０６の各処理では、それぞれ第２７制御例における第１特別図柄変動開始処理２７（図８４３参照）のＹ３０２～Ｙ３０６の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第１特別図柄変動開始処理２８（図８６９参照）では、Ｙ３０６の処理が終了すると、次いで、第２７制御例における第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）に代えて第１特別図柄判定処理２８を実行し（Ｙ３５１）、次いで、第２７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）に代えて第１特別図柄変動パターン選択処理２８を実行する（Ｙ３５２）。次いで、第２７制御例における特図１遊技状態更新処理（図８４６参照）に代えて変動開始時更新処理を実行して（Ｙ３５３）、本処理を終了する。これらの第１特別図柄判定処理２８（Ｙ３５１）、第１特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ３５２）、および変動開始時更新処理（Ｙ３５３）の詳細については、それぞれ図８７０、図８７１、および図８７２を参照して後述する。

【８８８７】

まず、図８７０を参照して、上述した第１特別図柄判定処理２８（Ｙ３５１）の詳細について説明する。この第１特別図柄判定処理２８（Ｙ３５１）は、上述した第２７制御例における第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）と同様に、第１特別図柄の大当たり判定を実行するための処理である。図８７０は、この第１特別図柄判定処理２８を示すフローチャートである。

【８８８８】

この第１特別図柄判定処理２８（図８７０参照）のうち、Ｙ８００１，Ｙ８００３～Ｙ８００６，Ｙ８０１１、およびＹ８０２１の各処理では、それぞれ第２７制御例における第１特別図柄判定処理２７（図８４４参照）のＹ８００１，Ｙ８００３～Ｙ８００６，Ｙ８０１１、およびＹ８０２１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第１特別図柄判定処理２８（図８７０参照）が実行されると、まず、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオンであるか否かを判別し（Ｙ８０３１）、オンであると判別した場合は（Ｙ８０３１：Ｙｅｓ）、既に第２特別図柄の大当たり変動の実行中であることを意味するため、処理をＹ８０２１に移行することにより、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアのデータによらず、抽選結果を外れに設定する。一方、Ｓ８０３１の処理において、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオフであると判別した場合は（Ｙ８０３１：Ｎｏ）、処理をＹ８００１へと移行する。

【８８８９】

また、本第２８制御例における第１特別図柄判定処理２８（図８７０参照）では、Ｙ８００１の処理が終了すると、次いで、確変フラグ２０３ｘａがオンであるか否かを判別し（Ｙ８０３２）、確変フラグ２０３ｘａがオンである（即ち、特別図柄の高確率状態である）と判別した場合は（Ｙ８０３２：Ｙｅｓ）、高確率時用の第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘを参照して第１特別図柄の抽選結果を取得し（Ｙ８０３３）、処理をＹ８００３へと移行する。これに対し、Ｙ８０３２の処理において、確変フラグ２０３ｘａがオフである（即ち、特別図柄の低確率状態である）と判別した場合は（Ｙ８０３２：Ｎｏ）、低確率時用の第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘを参照して第１特別図柄の抽選結果を取得し（Ｙ８０３４）、処理をＹ８００３へと移行する。

【８８９０】

次いで、図８７１を参照して、本第２８制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ３５２）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ３５２）は、上述した第２７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果に応じて変動パターン（変動

時間）を選択するための処理である。図８７１は、この第１特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ３５２）を示すフローチャートである。

【８８９１】

この第２８制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３、およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理では、それぞれ第２７制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２７（図８４５参照）のＹ５０１～Ｙ５０３、およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）では、Ｙ５０３の処理が終了すると、遊技状態に応じた変動パターンテーブルを変動パターン２８テーブル２０２ｄｘ（図８６７（ａ）参照）に規定されている２種類のテーブル（通常用テーブル２０２ｄｘ１、確変・時短用テーブル２０２ｄｘ２）の中から読み出して（Ｙ５４１）、処理をＹ５０５へと移行する。

【８８９２】

次に、図８７２を参照して、本第２８制御例における変動開始時更新処理（Ｙ３５３）の詳細について説明する。この変動開始時更新処理（Ｙ３５３）は、変動開始時に遊技状態を更新するための処理である。図８７２は、この変動開始時更新処理（Ｙ３５３）を示すフローチャートである。ここで、本第２８制御例では、残時短回数（時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値）の更新を、基本的に変動停止時に行う構成とし、特定条件下（時短状態における残時短回数が１回の状態で特別図柄の抽選が実行された場合）においてのみ、変動開始時に更新する構成としている。このように構成することで、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並行して）実行可能な仕様を搭載している一般的な遊技機（所謂、同時変動機）が採用している残時短回数の減算タイミング（常に変動開始時）に対して、時短状態が終了するタイミングを遅らせることができるケースを設けることができるので、一般的な同時変動機に対して時短状態における遊技をより効率良く（無駄なく）行わせることができる。この従来型の残時短回数の減算方式を採用している同時変動機に対する時短終了タイミングの相違については、図８７３を参照して後述する。また、本第２８制御例では、一方の特別図柄の変動中に他方の特別図柄が当たり（大当たり又は小当たり）図柄で停止表示されたことにより、変動中の特別図柄が強制的に外れ図柄で停止表示された場合は、その強制的に外れ図柄で停止表示された特別図柄によって時短回数が減算されることを抑制する構成としている。このように構成することで、強制的に外れ図柄で停止表示された変動表示（当たりとなり得ない遊技者にとって無駄な変動表示）で１回分の時短回数を損してしまうことを抑制することができる。

【８８９３】

ここで、一般的な同時変動機に対して時短終了タイミングを遅らせることができるケースについて、図８７３を参照して説明する。上述した通り、本第２８制御例では、基本的に、変動終了タイミングで残時短回数を更新（減算）する構成とし、残時短回数が残り１回の状態で新たな特別図柄の抽選が実行された場合にのみ、変動開始時に残時短回数を減算する構成としている。このため、両方の特別図柄の変動表示が停止されている状態で残時短回数が残り１回となった場合は、従来の残時短回数の減算タイミングと同じタイミング（時短回数内における最後の変動表示の開始タイミング）で時短回数が０に更新されて時短状態が終了される。

【８８９４】

これに対し、図８７３（ａ）や図８７３（ｂ）に示した通り、時短状態における最後の変動表示の開始時（本第２８制御例では７０回、または３０回）に他方の特別図柄の変動表示が実行中である場合には、従来の残時短回数の減算タイミングに対して、より長い期間の時短状態を確保しつつ、設定されている時短回数よりも多くの回数の変動表示に渡って時短回数が継続されることを抑制することができる。図８７３（ａ）、および図８７３（ｂ）の例では、時短回数が７０回に設定された時短状態において、７０回目の特別図柄の変動抽選として第２特別図柄の抽選が実行された時点で第１特別図柄の変動表示が実行中である場合の時短終了タイミングを示した図である。

【８８９５】
まず、図８７３（ａ）を参照して、時短状態が設定された後（大当たり終了後）における６９回目の特別図柄の抽選に基づく第１特別図柄の変動表示が実行されている状態で、７０回目の特別図柄の抽選として第２特別図柄の抽選が実行され、６９回目の特別図柄の抽選に基づく第１特別図柄の変動表示よりも前に７０回目の特別図柄の抽選に基づく第２特別図柄の変動表示が終了するケースについて説明する。図８７３（ａ）の例では、時刻ｔ１のタイミングで６９回目の特別図柄の抽選として第１特別図柄の抽選が実行されて第１特別図柄の変動表示が実行され、その第１特別図柄の変動表示の実行中において時刻ｔ２となって７０回目の特別図柄の抽選として第２特別図柄の抽選が実行されて第２特別図柄の変動表示が実行された後で、時刻ｔ３において第１特別図柄の変動表示よりも先に第２特別図柄の変動表示が開始され、且つ、大当たり終了後７１回目の特別図柄の抽選として第２特別図柄の抽選が時刻ｔ４で実行された場合を例にとって説明する。
【８８９６】
図８７３（ａ）に示した例の場合、従来型の同時変動機（常に変動開始時に時短回数を更新する方式）においては、時刻ｔ１（第１特別図柄の変動開始時）において残時短回数が減算されて残り１回となり、時刻ｔ２において残時短回数が減算されて残り０回となることで時短状態が終了される。つまり、時短状態における最後の変動表示が開始されるタイミングで時短状態が終了されるため、時短状態が実質的に１回分（最後の変動表示の変動期間中の分）少なくなる。
【８８９７】
これに対して、本第２８制御例では、残時短回数が１回となるまでは基本的に変動停止時に時短回数が更新され、残時短回数が１回の状態で新たな特別図柄の変動開始タイミングとなった場合に限り、変動開始時に残時短回数を更新する構成としているため、時刻ｔ１（６９回目の変動開始時）においては残時短回数の更新が行われない。このため、時刻ｔ２（７０回目の変動開始時）においても残時短回数が２回となっているため、時刻ｔ２においても残時短回数の更新が行われず、時刻ｔ３（７０回目に開始された変動表示の停止時）において残時短回数の更新が行われて残時短回数が残り１回の状態となる。これにより、本第２８制御例では、時刻ｔ４（７１回目の変動開始時）において時短回数が０となって時短状態が終了される。つまり、大当たり終了後６９回目に開始された変動表示の実行中で、且つ、大当たり終了後７１回目の変動表示の開始前に時短状態が終了されるので、従来型の同時変動機に対して、時刻ｔ４と時刻ｔ２との差分の時間（Ｔ１）だけ長く時短状態を継続させることができる。また、大当たり終了後７１回目の変動表示の開始時には時短状態が終了された状態になるので、設定された時短回数（７０回）を超える回数の変動表示が時短状態中に実行されることを抑制することができる。よって、時短状態における遊技を無駄なく行わせることができる。なお、本第２８制御例では、時短回数が残り１回の状態で特別図柄の変動表示が開始されるよりも前に特別図柄が停止表示された場合に、原則通り時短回数を１減算するように構成されている。このため、図８７３（ａ）において７１回目の特別図柄の変動表示としての第１特別図柄の変動表示が開始されず、先に６９回目の特別図柄の変動表示としての第２特別図柄の変動表示が停止表示された場合は、その停止表示タイミングで残時短回数が０に更新されて時短状態が終了される。この場合、７０回分の変動表示期間が全て終了してから時短状態を終了させることができるため、従来の同時変動機における時短終了タイミングに対して、より長く時短状態を継続させることができる。よって、時短状態における遊技を無駄なく行わせることができる。
【８８９８】
次に、図８７３（ｂ）を参照して、時短状態が設定された後（大当たり終了後）における６９回目の特別図柄の抽選に基づく第１特別図柄の変動表示が実行されている状態で、７０回目の特別図柄の抽選として第２特別図柄の抽選が実行され、先に６９回目の特別図柄の抽選に基づく第１特別図柄の変動表示が終了して７１回目の特別図柄の変動表示として第１特別図柄の抽選が開始されてから、７０回目の特別図柄の抽選に基づく第２特別図柄の変動表示が終了するケースについて説明する。図８７３（ｂ）に示した例の場合、従

来型の同時変動機（常に変動開始時に時短回数を更新する方式）においては、時刻ｔ５（第１特別図柄の変動開始時）において残時短回数が減算されて残り１回となり、時刻ｔ６において残時短回数が減算されて残り０回となることで時短状態が終了される。つまり、時短状態における最後の変動表示が開始されるタイミングで時短状態が終了されるため、時短状態が実質的に１回分（最後の変動表示の変動期間中の分）少なくなる。

【８８９９】

これに対して、本第２８制御例における制御（残時短回数が１回となるまでは基本的に変動停止時に時短回数が更新され、残時短回数が１回の状態で新たな特別図柄の変動開始タイミングとなった場合に限り、変動開始時に残時短回数を更新する制御）を採用した場合、時刻ｔ５（６９回目の変動開始時）においては残時短回数の更新が行われない。このため、時刻ｔ６（７０回目の変動開始時）においても残時短回数が２回となっているため、時刻ｔ６においても残時短回数の更新が行われず、時刻ｔ７（６９回目に開始された変動表示の停止時）において残時短回数の更新が行われて残時短回数が残り１回の状態となる。これにより、本第２８制御例では、時刻ｔ８（７１回目の変動開始時）において時短回数が０となって時短状態が終了される。つまり、大当たり終了後７０回目に開始された変動表示の実行中で、且つ、大当たり終了後７１回目の変動表示の開始前に時短状態が終了されるので、従来型の同時変動機に対して、時刻ｔ８と時刻ｔ６との差分の時間（Ｔ２）だけ長く時短状態を継続させることができる。また、大当たり終了後７１回目の変動表示の開始時には時短状態が終了された状態になるので、設定された時短回数（７０回）を超える回数の変動表示が時短状態中に実行されることを抑制することができる。よって、時短状態における遊技を無駄なく行わせることができる。

【８９００】

図８７２に戻って説明を続ける。図８７２に示した通り、本第２８制御例における変動開始時更新処理（図８７２参照）では、まず、時短中カウンタ２０３ｈの値が１であるか否かを判別し（Ｙ６３１）、時短中カウンタ２０３ｈの値が１ではないと判別した場合は（Ｙ６３１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方で、Ｙ６３１の処理において、時短中カウンタ２０３ｈの値が１であると判別した場合は（Ｙ６３１：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２０３ｈの値を１減算して０に更新し（Ｙ６３２）、通常状態へと移行したことを示す状態コマンドを設定して（Ｙ６３３）、本処理を終了する。この変動開始時更新処理（図８７２参照）を実行することにより、時短状態の最後の特別図柄の抽選のみ、変動開始時に時短回数を減算することができる。

【８９０１】

次に、図８７４を参照して、本第２８制御例における第１特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７２）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７２）は、上述した第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）と同様に、第１特別図柄の変動終了時に第１特別図柄の停止表示を設定するための処理である。図８７４は、この第１特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７２）を示すフローチャートである。

【８９０２】

この第２８制御例における第１特別図柄変動停止処理２８（図８７４参照）のうち、Ｙ７０１，Ｙ７０４～Ｙ７０７、Ｙ７２１，Ｙ７２３～Ｙ７２６，Ｙ７３２、およびＹ７３３の各処理では、それぞれ第２７制御例における第１特別図柄変動停止処理２７（図８４７参照）のＹ７０１，Ｙ７０４～Ｙ７０７、Ｙ７２１，Ｙ７２３～Ｙ７２６，Ｙ７３２、およびＹ７３３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第１特別図柄変動停止処理２８（図８７４参照）では、Ｙ７２１の処理において、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオフである（即ち、今回の第１特別図柄の抽選結果が外れである）と判別した場合に（Ｙ７２１：Ｎｏ）、変動停止タイミングで残時短回数を更新するための変動停止時更新処理を実行して（Ｙ７４１）、処理をＹ７３２へと移行する。この変動停止時更新処理（Ｙ７４１）の詳細については、図８７５を参照して後述する。

【８９０３】
　また、本第２８制御例における第１特別図柄変動停止処理２８（図８７４参照）では、Ｙ７２３の処理において特図２変動時間タイマ２０３ｋｂが０であると判別される（Ｙ７２３：Ｎｏ）か、Ｙ７２６の処理が終了した場合に、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂ、時短中カウンタ２０３ｈ、および確変フラグ２０３ｘａを全てリセットして（Ｙ７４２）、処理をＹ７０４へと移行する。
【８９０４】
　次いで、図８７５を参照して、変動停止時更新処理（Ｙ７４１）の詳細について説明する。この変動停止時更新処理（Ｙ７４１）は、遊技状態が時短状態である場合に、変動停止タイミングで時短回数を更新するための処理である。図８７５は、この変動停止時更新処理（Ｙ７４１）を示すフローチャートである。ここで、上述した通り、本第２８制御例では、残時短回数（時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値）の更新を、基本的に変動停止時に行う構成とし、特定条件下（時短状態における残時短回数が１回の状態）においてのみ、変動開始時に更新する構成としている。そして、一方の特別図柄の変動中に他方の特別図柄が当たり（大当たり又は小当たり）図柄で停止表示されたことにより、変動中の特別図柄が強制的に外れ図柄で停止表示された場合は、その強制的に外れ図柄で停止表示された特別図柄によって時短回数が減算されることを抑制する構成としている。このように構成することで、強制的に外れ図柄で停止表示された変動表示（当たりとなり得ない遊技者にとって無駄な変動表示）で１回分の時短回数を損してしまうことを抑制することができる。
【８９０５】
　図８７５に示した通り、変動停止時更新処理（図８７５参照）、まず、時短中カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値（１以上の値）であるか否かを判別し（Ｙ６３５）、時短中カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は（Ｙ６３５：Ｎｏ）、現在が時短状態ではないことを意味するため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｙ６３５の処理において、時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｙ６３５：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２０３ｈの値を１減算して更新し（Ｙ６３６）、次いで、減算後の時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値が０となったか否かを判別する（Ｙ６３７）。Ｙ６３７の処理において、減算後のカウンタ値が０になったと判別した場合は（Ｙ６３７：Ｙｅｓ）、通常状態への移行を示す状態コマンドを設定して（Ｙ６３８）、本処理を終了する。一方、Ｙ６３７の処理において、減算後のカウンタ値が０ではない（１以上の値である）と判別した場合は（Ｙ６３７：Ｎｏ）、Ｙ６３８の処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。
【８９０６】
　次に、図８７６を参照して、本第２８制御例における第２特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７３）について説明する。この第２特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７３）は、上述した第２７制御例における第２特別図柄変動開始処理２７（図８４８参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄変動開始処理２７（図８４８参照）と同様に、第２特別図柄の抽選を実行すると共に抽選結果に応じて第２特別図柄の変動表示を開始させるための処理である。図８７６は、この第２特別図柄変動開始処理２８（Ｙ２７３）を示すフローチャートである。
【８９０７】
　この第２８制御例における第２特別図柄変動開始処理２８（図８７６参照）のうち、Ｙ８３２～Ｙ８３６，Ｙ８５１、およびＹ８５２の各処理では、それぞれ第２７制御例における第２特別図柄変動開始処理２７（図８４８参照）のＹ８３２～Ｙ８３６，Ｙ８５１、およびＹ８５２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第２特別図柄変動開始処理２８（図８７６参照）では、Ｙ８３６の処理が終了すると、次いで、第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）に代えて第２特別図柄判定処理２８を実行し（Ｙ８７１）、次いで、第２７制御例における第２特別図柄変動パターン選択処理２７（図８５１参照）に代えて第２特別図柄変動パターン選択処理２８

を実行する（Ｙ８７２）。次いで、第２７制御例における特図２遊技状態更新処理（図８５２参照）に代えて変動開始時更新処理を実行して（Ｙ８７３）、本処理を終了する。第２特別図柄判定処理２８（Ｙ８７１）の詳細については、図８７７を参照して後述する。なお、第２特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ８７２）については、第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）と同様に、第２特別図柄変動パターン選択処理２７（図８５１参照）との相違点は、変動パターンを選択する際に遊技状態に応じた変動パターンテーブルを読み出す点のみであるため、ここではその詳細な説明については省略する。また、変動開始時更新処理（Ｙ８７３）については、第１特別図柄変動開始処理２８（図８６９参照）の中の１処理である変動開始時更新処理（図８７２参照）と全く同一の処理であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８９０８】

次に、図８７７を参照して、本第２８制御例における第２特別図柄判定処理２８（Ｙ８７１）の詳細について説明する。この第２特別図柄判定処理２８（Ｙ８７１）は、上述した第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）に代えて実行される処理であり、第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）と同様に、第２特別図柄の当たり判定を実行するための処理である。図８７７は、この第２特別図柄判定処理２８（Ｙ８７１）を示すフローチャートである。

【８９０９】

この第２８制御例における第２特別図柄判定処理２８（図８７７参照）のうち、Ｙ８１０１，Ｙ８１０３～Ｙ８１０６，Ｙ８１１１、およびＹ８１２１の各処理では、それぞれ第２７制御例における第２特別図柄判定処理２７（図８４９参照）のＹ８１０１，Ｙ８１０３～Ｙ８１０６，Ｙ８１１１、およびＹ８１２１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第２特別図柄判定処理２８（図８７７参照）が実行されると、まず、第１特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオンであるか否かを判別し（Ｙ８１３１）、オンであると判別した場合は（Ｙ８１３１：Ｙｅｓ）、既に第１特別図柄の大当たり変動の実行中であることを意味するため、処理をＹ８１２１に移行することにより、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアのデータによらず、抽選結果が大当たりとなることを回避する。一方、Ｙ８１３１の処理において、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオフであると判別した場合は（Ｙ８０３１：Ｎｏ）、処理をＹ８１０１へと移行する。

【８９１０】

また、本第２８制御例における第２特別図柄判定処理２８（図８７７参照）では、Ｙ８１０１の処理が終了すると、次いで、確変フラグ２０３ｘａがオンであるか否かを判別し（Ｙ８１３２）、確変フラグ２０３ｘａがオンである（即ち、特別図柄の高確率状態である）と判別した場合は（Ｙ８１３２：Ｙｅｓ）、高確率時用の第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘを参照して第１特別図柄の抽選結果を取得し（Ｙ８１３３）、処理をＹ８１０３へと移行する。これに対し、Ｙ８１３２の処理において、確変フラグ２０３ｘａがオフである（即ち、特別図柄の低確率状態である）と判別した場合は（Ｙ８１３２：Ｎｏ）、低確率時用の第１当たり乱数２８テーブル２０２ａｘを参照して第１特別図柄の抽選結果を取得し（Ｙ８１３４）、処理をＹ８１０３へと移行する。

【８９１１】

次に、図８７８を参照して、本第２８制御例における第２特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７４）の詳細について説明する。この第２特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７４）は、上述した第２７制御例における第２特別図柄変動停止処理２７（図８５３参照）と同様に、第２特別図柄の変動終了時に第１特別図柄の停止表示を設定するための処理である。図８７８は、この第２特別図柄変動停止処理２８（Ｙ２７４）を示すフローチャートである。

【８９１２】

この第２８制御例における第２特別図柄変動停止処理２８（図８７８参照）のうち、Ｙ１１０１～Ｙ１１０６、およびＹ１１０８～Ｙ１１１１の各処理では、それぞれ第２７制

御例における第２特別図柄変動停止処理２７（図８５３参照）のＹ１１０１～Ｙ１１０６、およびＹ１１０８～Ｙ１１１１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における第２特別図柄変動停止処理２８（図８７８参照）では、Ｙ１１０２の処理において、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂがオフである（即ち、今回の第２特別図柄の抽選結果が外れ（完全外れ又は小当たり）である）と判別した場合に（Ｙ１１０２：Ｎｏ）、変動停止タイミングで残時短回数を更新するための変動停止時更新処理を実行して（Ｙ１１２１）、処理をＹ１１０３へと移行する。この変動停止時更新処理（Ｙ１１２１）は、第１特別図柄変動停止処理２８（図８７４参照）の中で実行される変動停止時更新処理（図８７５参照）と全く同一の処理である。

【８９１３】

また、本第２８制御例における第２特別図柄変動停止処理２８（図８７８参照）では、Ｙ１１０４の処理において特図１変動時間タイマ２０３ｋａが０であると判別される（Ｙ１１０４：Ｎｏ）か、Ｙ１１０６の処理が終了した場合に、第２特別図柄に対応する大当たりフラグ２０３ｇｂ、時短中カウンタ２０３ｈ、および確変フラグ２０３ｘａを全てリセットして（Ｙ１１２２）、処理をＹ１１０８へと移行する。

【８９１４】

次に、図８７９を参照して、本第２８制御例における大当たり制御処理２８（Ｙ１０２１）の詳細について説明する。この第２８制御例における大当たり制御処理２８（Ｙ１０２１）は、上述した第２７制御例における大当たり制御処理２７（図８５５参照）に代えて実行される処理であり、大当たり制御処理２７（図８５５参照）と同様に、大当たり遊技の実行中における各種制御を実行するための処理である。図８７９は、この大当たり制御処理２８（Ｙ１０２１）を示すフローチャートである。

【８９１５】

この第２８制御例における大当たり制御処理２８（図８７９参照）のうち、Ｙ１１６０１～Ｙ１１６１２、およびＹ１１６３３～Ｙ１１６３５の各処理では、それぞれ第２７制御例における大当たり制御処理２７（図８５５参照）のＹ１１６０１～Ｙ１１６１２、およびＹ１１６３３～Ｙ１１６３５の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における大当たり制御処理２８（図８７９参照）では、Ｙ１１６１２の処理においてエンディング演出の終了タイミングであると判別した場合に（Ｙ１１６１２：Ｙｅｓ）、今回の大当たりが確変大当たりであるか否かを判別し（Ｙ１１６４１）、確変大当たりであると判別した場合は（Ｙ１１６４１：Ｙｅｓ）、確変フラグ２０３ｘａをオンに設定することで大当たり終了後の遊技状態を確変状態に設定して（Ｙ１１６４２）、処理をＹ１１６３３へと移行する。

【８９１６】

一方で、Ｙ１１６４１の処理において、今回の大当たりが確変大当たりではない（通常大当たりである）と判別した場合は（Ｙ１１６４１：Ｎｏ）、次いで、大当たり当選時の遊技状態が通常状態であるか否かを当選時状態格納エリア２０３ｗｆのデータに基づいて判別し（Ｙ１１６４３）、通常状態であると判別した場合は（Ｙ１１６４３：Ｙｅｓ）、時短中カウンタ２０３ｈに７０を設定することで大当たり終了後の遊技状態を時短回数が７０回の時短状態に設定し（Ｙ１１６４４）、処理をＹ１１６３３へと移行する。一方、Ｙ１１６４３の処理において、大当たり当選時の遊技状態が通常状態ではない（時短状態または確変状態である）と判別した場合は（Ｙ１１６４３：Ｎｏ）、時短中カウンタ２０３ｈに３０を設定することで大当たり終了後の遊技状態を時短回数が３０回の時短状態に設定し（Ｙ１１６４５）、処理をＹ１１６３３へと移行する。ここで、遊技状態に応じて時短回数を変えているのは、通常状態においては大当たりに当選した場合に９０％の割合で通常大当たりが決定される第１特別図柄の抽選ばかりが実行されるため、時短回数を少なくすると遊技者にとって過剰に不利となり過ぎるためである。これに対し、通常状態以外の状態において通常大当たりとなった場合の時短回数を少なくしているのは、確変状態の終了後に時短状態で再度大当たりに当選して確変状態に復帰するという事象が過剰に発生し難くするためである。即ち、確変状態に一旦移行した場合に、遊技者にとって過剰に

有利となり過ぎてしまい、ホールに対して不測の不利益を被らせてしまうことを抑制する趣旨である。

【８９１７】

また、本第２８制御例における大当たり制御処理２８（図８７９参照）では、Ｙ１１６１２の処理においてエンディング演出の終了タイミングではないと判別した場合は（Ｙ１１６１２：Ｎｏ）、次いで、特定入賞口６５ａへの入賞に応じた制御を行うための入賞処理を実行し（Ｓ１９１１）、特定入賞口６５ａに対して入球した球が正常に排出されたかを判別するための異常処理を実行し（Ｓ１９１２）、その後、本処理を終了する。これらの入賞処理（Ｓ１９１１）、および異常処理（Ｓ１９１２）は、本第２８制御例と同じく大当たり遊技の実行中に特定領域を遊技球が通過することで確変状態に設定される第１制御例において実行されていた入賞処理（図１７１参照）および異常処理（図１７２参照）と全く同一の処理であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８９１８】

＜第２８制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図８８０から図８８２を参照して、本第２８制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８８０を参照して、本第２８制御例における演出更新処理２８（Ｓ４１７１）について説明する。この演出更新処理２８（Ｓ４１７１）は、上述した第２７制御例における演出更新処理２７（図８５６参照）に代えて実行される処理であり、演出更新処理２７（図８５６参照）と同様に、実行中の各種演出態様を定期的（メイン処理の実行間隔毎）に更新するための処理である。図８８０は、この演出更新処理２８（Ｓ４１７１）を示すフローチャートである。

【８９１９】

この第２８制御例における演出更新処理２８（図８８０参照）が実行されると、まず、終了時間タイマ２２３ｘａのタイマ値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ５４３１）、０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ５４３１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ５４３１の処理において、終了時間タイマ２２３ｘａのタイマ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ５４３１：Ｙｅｓ）、確変状態における第１特別図柄の通常大当たり変動の実行中であることを意味するため、まず、終了時間タイマ２２３ｘａの値を減算することで更新し（Ｓ５４３２）、次いで、更新後のタイマ値に応じて確変状態（ＲＵＳＨ）が終了されるまで（即ち、通常大当たりが開始されるまで）の残時間表示を更新する（Ｓ５４３３）。

【８９２０】

Ｓ５４３３の処理が終了すると、次に、Ｓ５４３２の処理において、終了時間タイマ２２３ｘａの値を０に更新したか否かを判別し（Ｓ５４３４）、０に更新したと判別した場合は（Ｓ５４３４：Ｙｅｓ）、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１からの攻撃を受けて敗北する演出態様のＲＵＳＨ終了演出（図８６４（ａ）参照）の実行を設定し（Ｓ５４３５）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ５４３４の処理において、終了時間タイマ２２３ｘａの値を０に更新していないと判別した場合は（Ｓ５４３４：Ｎｏ）、Ｓ５４３５の処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【８９２１】

この演出更新処理２８（図８８０参照）を実行することにより、確変状態において第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選した場合に、通常大当たりが開始されるまでの残り時間を第３図柄表示装置８１において正確に表示させることができる。よって、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選することで確変状態を継続させることが可能となる期間がどれだけ残っているのかを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８９２２】

次に、図８８１を参照して、本第２８制御例における特図１演出態様設定処理２８（Ｓ５１１１Ａ）の詳細について説明する。この特図１演出態様設定処理２８（Ｓ５１１１Ａ）は、上述した第２７制御例における特図１演出態様設定処理２７（図８６０参照）に代

えて実行される処理であり、特図１演出態様設定処理２７（図８６０参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果に応じた変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。図８８１は、この特図１演出態様設定処理２８（Ｓ５１１１Ａ）を示すフローチャートである。

【８９２３】

図８８１に示した通り、本第２８制御例における特図１演出態様設定処理２８（図８８１参照）が実行されると、まず、現在の遊技状態が確変状態であるか否かを判別し（Ｓ９７７１Ａ）、確変状態ではないと判別した場合は（Ｓ９７７１Ａ：Ｎｏ）、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに応じた演出態様を決定して（Ｓ９７１２Ａ）、処理をＳ９７０６Ａへと移行する。一方、Ｓ９７１１Ａの処理において、遊技状態が確変状態であると判別した場合は（Ｓ９７１１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第１特別図柄の抽選結果が通常大当たりであるか否かを判別する（Ｓ９７１３Ａ）。

【８９２４】

Ｓ９７１３Ａの処理において、今回の抽選結果が通常大当たりであると判別した場合は（Ｓ９７１３Ａ：Ｙｅｓ）、今回の通常大当たりの変動時間を終了時間タイマ２２３ｘａのタイマ値に設定し（Ｓ９７１４Ａ）、設定したタイマ値を終了時間とする終了ピンチ演出（図８６３（ｂ）参照）を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９７１５Ａ）、処理をＳ９７０６Ａへと移行する。これに対し、Ｓ９７１３Ａの処理において、今回の第１特別図柄の抽選結果が通常大当たりではないと判別した場合は（Ｓ９７１３Ａ：Ｎｏ）、受信した変動パターンコマンドに応じた演出態様を決定して（Ｓ９７１６Ａ）、処理をＳ９７０６Ａへと移行する。Ｓ９７０６Ａの処理では、決定した演出態様を示す表示用変動パターンコマンドを設定して（Ｓ９７０６Ａ）、本処理を終了する。

【８９２５】

この特図１演出態様設定処理２８（図８８１参照）を実行することにより、確変状態において第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選した場合に、確変状態（ＲＵＳＨ）が終了する危機であることを第３図柄表示装置８１において実行される演出態様によって遊技者に報知することができるので、遊技者にとって分かり易い遊技性を提供することができる。

【８９２６】

次に、図８８２を参照して、本第２８制御例における特図２演出態様設定処理２８（Ｓ５２０１Ａ）の詳細について説明する。この特図２演出態様設定処理２８（Ｓ５２０１Ａ）は、上述した第２７制御例における特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）に代えて実行される処理であり、特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）と同様に、第２特別図柄の抽選結果に応じた変動表示態様を設定するために実行される処理である。図８８２は、この特図２演出態様設定処理２８（Ｓ５２０１Ａ）を示すフローチャートである。

【８９２７】

この第２８制御例における特図２演出態様設定処理２８（図８８２参照）のうち、Ｓ９６１１、およびＳ９６２２Ａの各処理では、それぞれ上述した第２７制御例における特図２演出態様設定処理２７（図８６１参照）のＳ９６１１、およびＳ９６２２Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２８制御例における特図２演出態様設定処理２８（図８８２参照）が実行されると、まず、現在の遊技状態が確変状態であるか否かを判別し（Ｓ９６５１Ａ）、確変状態ではないと判別した場合は（Ｓ９６５１Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。一方で、Ｓ９６５１Ａの処理において、遊技状態が確変状態であると判別した場合は（Ｓ９６５１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、終了時間タイマ２２３ｘａのタイマ値が０より大きい値である（即ち、現在が第１特別図柄の通常大当たり変動の実行中である）か否かを判別し（Ｓ９６５２Ａ）、終了時間タイマ２２３ｘａのタイマ値が０であると判別した場合は（Ｓ９６５２Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。一方、終了時間タイマ２２３ｘａの値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ９６５２Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第２特別図柄の変動時間が終了時間タイマ２２３ｘａ

の値が示す時間よりも短い時間であるか否かを判別する（Ｓ９６５３Ａ）。
【８９２８】
Ｓ９６５３Ａの処理において、今回の第２特別図柄の変動時間が終了時間タイマ２２３ｘａの値が示す時間よりも短い時間であると判別した場合は（Ｓ９６５３Ａ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の抽選結果が完全外れであるか否かを判別し（Ｓ９６５４Ａ）、完全外れであると判別した場合は（Ｓ９６５４Ａ：Ｙｅｓ）、敵のキャラクタ８１１に攻撃を避けられる演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９６５５Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。一方で、Ｓ９６５４Ａの処理において、抽選結果が完全外れではない（即ち、小当たりである）と判別した場合は（Ｓ９６５４Ａ：Ｎｏ）、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１を倒す演出（図８６４（ｂ）参照）を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９６５６Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。これらに対し、Ｓ９６５３Ａの処理において、今回の第２特別図柄の変動時間が終了時間タイマ２２３ｘａの値が示す時間以上の長さの時間であると判別した場合は（Ｓ９６５３Ａ：Ｎｏ）、今回の第２特別図柄の抽選に係る変動表示が、第１特別図柄の通常大当たり変動の終了と同時に完全外れ図柄で停止表示されることを意味し、確変状態を継続させることができないことが確定しているため、Ｓ９６５４Ａ～Ｓ９６５６Ａの各処理をスキップして、処理をＳ９６１１へと移行する。
【８９２９】
以上説明した通り、本第２８制御例におけるパチンコ機１０では、一旦最も有利な確変状態に移行すると、第１特別図柄の抽選で不利な通常大当たりに当選しない限り、確変状態と大当たりとが繰り返される極めて有利な状態を形成する構成としている。即ち、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に高確率（９０％の割合）で不利な通常大当たりに当選する一方で、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は有利な確変大当たりが確定するように構成した上で、確変状態が次に大当たりに当選するまで継続するように構成した。また、本第２８制御例では、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並列して）実行可能に構成した上で、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄が大当たり又は小当たり図柄で停止表示された場合に変動表示中の他方の特別図柄が強制的に外れ図柄で停止表示されるように構成した。これにより、不利な第１特別図柄の抽選で通常大当たりに当選したとしても、第２特別図柄の抽選結果によっては、通常大当たり変動を外れ図柄で強制的に停止表示させ、有利な確変状態が通常大当たりによって終了されてしまうことを抑制可能に構成した。更に、本第２８制御例では、一方の特別図柄の大当たり変動中は他方の特別図柄の抽選で大当たりに当選し得なくなるように構成している。これにより、確変状態において第１特別図柄の抽選で不利な通常大当たりとなって大当たり変動が開始された場合に、第２特別図柄の抽選では大当たりに当選し得なくなるため、小当たりに当選して通常大当たりを外れ図柄で強制停止させることのみを願う斬新な遊技性を実現することができる。
【８９３０】
また、本第２８制御例におけるパチンコ機１０では、基本的に、変動停止時に特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値）の更新（減算）処理を実行する構成とし、時短状態における最後の変動表示のみ、変動開始時に特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値）の更新（減算）処理を実行可能に構成している。また、一方の特別図柄が当たり（大当たり又は小当たり）図柄で停止表示され、他方の特別図柄を強制的に外れ図柄で停止表示させる場合については、当該強制的な停止表示のタイミングで時短回数の減算処理が実行されることを回避する構成としている。このように構成することで、強制的に外れに変更された（即ち、当たりが抽選されていないに等しい）変動表示によって時短回数を１回分損してしまうことを抑制できるので、より好適に時短回数を減算することができる。
【８９３１】
ここで、従来より、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並行して）実行可能な制御を搭載した遊技機（所謂、同時変動機）が広く一般的に知られて

いる。係る従来型の遊技機においては、時短状態等、大当たり終了後、特定の変動回数の間のみ継続する遊技状態が設定された場合に、設定された回数を超えて遊技状態が続いてしまうことを阻止するために、遊技状態が終了するまでの残変動回数を示すカウンタ値を変動開始時に更新する制御を採用するのが通常であった。しかしながら、係る制御を採用した場合、変動中に他方の当たり（小当たり又は大当たり）変動が先に終了する（他方の当たり図柄が先に停止表示される）か否かを、変動開始時に特定することができない場合があり、当該変動が外れ図柄で強制的に停止表示されるか否かが不確定であるため、結果的に外れ図柄で強制的に停止表示される（遊技者にとって無駄な）変動表示であっても、残変動回数を示すカウンタ値を更新せざるを得ないという問題点があった。

【８９３２】

これに対して本第２８制御例では、時短状態における残変動回数を示す特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈ）の更新（減算）タイミングを、基本的に、変動停止時に設定する構成としたので、変動停止時に外れ図柄で強制的に停止表示された変動表示について特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈ）の更新（減算）処理をスキップするという比較的簡単な処理を実行するだけで、外れ図柄で強制的に停止表示される遊技者にとって無駄な変動表示が実行された場合に残変動回数が無駄に減算されてしまうことを抑制することができるので、実際設定されている残変動回数に対して、正当に大当たりを抽選している抽選の実行回数が少なくなってしまうことを抑制することができる。また、残変動回数が残り１回の状態で新たな変動表示を開始させる場合にのみ、変動開始時に特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈ）を更新（減算）する構成としているので、設定されている残変動回数を超えて遊技状態が続いてしまうことを抑制することもできる。よって、特定のカウンタ（時短中カウンタ２０３ｈ）をより好適に更新することができる。

【８９３３】

なお、本第２８制御例では、特定のカウンタとして、時短中カウンタ２０３ｈの更新タイミングを基本的に変動停止時にし、残変動回数が１回となった状態で変動開始タイミングとなった場合にのみ、変動開始時に時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値を更新する制御を採用し、且つ、外れ図柄で強制的に停止表示された変動表示については時短中カウンタ２０３ｈの更新処理をスキップする構成としていたが、本制御の対象となる特定のカウンタは時短中カウンタ２０３ｈに限られるものではない。例えば、確変状態において特定回数の特別図柄の抽選が実行されることで確変状態が終了される仕様において、確変状態における特別図柄の抽選の実行回数をカウントするためのカウンタを特定のカウンタとして、本第２８制御例と同様の制御を実行する構成としてもよい。

【８９３４】

本第２８制御例では、時短中カウンタ２０３ｈの値を、状況に応じて変動停止時、または変動開始時のどちらかで更新する（減算する）構成としていたが、時短回数を第３図柄表示装置８１に表示させ、当該表示される時短回数の更新タイミングを、状況に応じて異ならせる構成としてもよい。この場合、時短中カウンタ２０３ｈの更新タイミングとリンクさせてもよいし、別の条件で更新タイミングを切り替えてもよい。別の条件としては、例えば、特別図柄の抽選結果が挙げられる。より具体的には、例えば、基本的に、変動開始時に時短回数の表示が更新されるように構成し、更新タイミングが遅れた（変動開始後に更新されたり、変動停止時に更新されたりした）場合に、大当たりとなる可能性が高くなるように構成してもよい。このように構成することで、表示上の時短回数に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８９３５】

＜第２９制御例＞

次に、図８８３を参照して、第２９制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第２８制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に高確率で不利な通常大当たりに当選する一方で、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は有利な確変大当たりが確定するように構成した上で、第１特別図柄

の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並列して）実行可能に構成していた。そして、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄が大当たり又は小当たり図柄で停止表示された場合に変動表示中の他方の特別図柄が強制的に外れ図柄で停止表示されるように構成した上で、一方の特別図柄の大当たり変動中は他方の特別図柄の抽選で大当たりに当選し得なくなるように構成していた。このように構成することで、確変状態において第１特別図柄の抽選で不利な通常大当たりとなって大当たり変動が開始された場合に、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選することのみを願う斬新な遊技性を実現していた。

【８９３６】

これに加えて本第２９制御例におけるパチンコ機１０では、１の確変状態において、第１特別図柄の抽選が実行され難い状態と、第１特別図柄の抽選が実行され易い状態と、が切り替わるように構成した。より具体的には、大当たり種別に応じて、確変状態へと移行した後、第１特別図柄の抽選が１回～３回のいずれかの回数（規定回数）終了するまでの間、第１特別図柄の変動時間が長くなるように変動パターンシナリオを構成し、規定回数の第１特別図柄の抽選が終了すると、大当たりに当選するまでの間、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される状態を形成するように構成した。このように構成することで、規定回数の第１特別図柄の抽選が終了するまでは、大当たり当選時の確変割合が高い第２特別図柄の抽選ばかりに偏って実行させることができる有利な遊技状態を形成する一方で、規定回数が終了した後は、不利な第１特別図柄の抽選が実行され易くなる比較的不利な状態を形成するため、確変状態において遊技状態を変えることなく遊技にメリハリをつけることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８９３７】

この第２９制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第２８制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第２８制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第２８制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【８９３８】

まず、図８８３および図８８４を参照して、本第２９制御例における特徴的な演出態様について説明する。図８８３（ａ）は、本第２９制御例において確変状態が設定され、且つ、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くなる状態が設定されている間における表示態様の一例を示した図である。図８８３（ａ）に示した通り、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くなる状態が設定されている状態においては、表示領域ＨＲ３に対して、「確変割合超ＵＰゾーン」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｍ１に対して、確変割合超ＵＰゾーンが終了されるまでの残り時間を示す情報が表示される。ここで、上述した通り、本第２９制御例では、確変状態に移行した後、第１特別図柄の抽選が１回～３回のいずれかの回数（規定回数）実行されることで、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される比較的有利度合いが低い状態に移行する。つまり、大当たり種別毎に予め定められた規定回数の第１特別図柄の変動表示が終了するまでの間は、第２特別図柄の抽選ばかりに偏重して実行させることができる極めて有利な状態を形成する。そこで、本第２９制御例では規定回数内の第１特別図柄の抽選が実行された場合に、その第１特別図柄の変動時間をゾーン終了までの残時間として小表示領域Ｄｍ１に表示させる構成としている。このよう

に構成することで、有利な（大当たりに当選した場合に確変大当たりが確定する）第２特別図柄の抽選ばかりを実行させることができる有利な状態がいつまで継続するのかを遊技者に対して分かり易く報知することができる。なお、ゾーン終了までの残り時間は、規定回数によらず、１回分の第１特別図柄の変動時間（実行中の第１特別図柄の変動表示における残変動時間）が表示されるように構成している。そして、規定回数が残っている状態で１の第１特別図柄の変動表示が終了した場合には、次に第１特別図柄の変動表示が実行された場合に、ゾーン継続を示す演出を実行し、ゾーン終了までの残り時間を再セットする構成としている。このように構成することで、確変割合超ＵＰゾーンがいつまで続くか分からないドキドキ感を遊技者に抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８９３９】

次に、図８８３（ｂ）を参照して、確変割合超ＵＰゾーン中に実行される可能性があるピンチ演出について説明する。ここで、本第２９制御例では、上述した第２８制御例と同様に、第２特別図柄の抽選で１／１００の確率で小当たりに当選する構成としている。上述した通り、小当たりに当選すると、小当たりの停止表示タイミングで第１特別図柄の変動表示の実行中であった場合に、残変動時間によらず、小当たり停止表示と同時に第１特別図柄も外れ図柄で強制停止されるように構成されている。従って、確変割合超ＵＰゾーンにおいて小当たりに当選してしまうと、ゾーン終了までの残り時間（即ち、第１特別図柄の残変動時間）によらず、小当たりの停止タイミングでゾーンが打ち切られてしまう。図８８３（ｂ）は、この第２特別図柄の小当たりによってゾーンが打ち切られる場合の第３図柄表示装置８１の表示態様を示した図である。

【８９４０】

図８８３（ｂ）に示した通り、確変割合超ＵＰゾーンの間に特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合は、小表示領域Ｄｍ１の真下に敵のキャラクタ８１１が出現する演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「敵を妨害してゾーン打ち切りを回避しろ！！」という文字が表示される。更に、小表示領域Ｄｓ２に対して、「ゾーン打ち切りのピンチ！」という文字が表示される。これらの表示内容により、敵のキャラクタ８１１を妨害できなければ確変割合超ＵＰゾーンが打ち切られてしまうということを容易に理解させることができる。

【８９４１】

図８８４は、確変割合超ＵＰゾーン中（第１特別図柄のロング変動中）に小当たり図柄が停止表示された際の表示態様を示した図である。図８８４に示した通り、確変割合超ＵＰゾーン中に小当たり図柄の停止表示タイミングになると、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１の妨害に失敗し、敵のキャラクタ８１１が吐き出した炎によって小表示領域Ｄｍ１が焼き尽くされてしまう演出が実行される。また、表示領域ＨＲ３に対して、「確変割合超ＵＰゾーン打ち切り！」という文字が表示される。更に、小表示領域Ｄｍ８ａにおいて第１特別図柄の抽選結果を示す第３図柄が外れの組み合わせ（ばらけ目）で停止表示されると共に、小表示領域Ｄｍ８ｂにおいて第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄が小当たりの組み合わせ（互いに異なる奇数図柄揃い）で停止表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して確変割合超ＵＰゾーンが終了されてしまったということを容易に理解させることができる。

【８９４２】

なお、敵のキャラクタ８１１が小表示領域Ｄｍ１の真下に出現する演出態様（図８８３（ｂ）参照）は、ゾーン中に第２特別図柄の抽選で完全外れとなった場合にも所定の確率（例えば、１／２０の確率）で実行される。完全外れの場合には、冒険者のキャラクタ８０１が敵のキャラクタ８１１に攻撃を当てることで妨害に成功し、小表示領域Ｄｍ１の残り時間表示が燃やされてしまうことを阻止する演出が実行される。これにより、確変割合超ＵＰゾーンが継続したということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８９４３】

＜第２９制御例における電気的構成＞

次いで、図８８５（ａ）を参照して、本第２９制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図８８５（ａ）は、本第２９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図８８５（ａ）に示した通り、本第２９制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第２８制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図８６５（ａ）参照）に対して、大当たり種別選択２８テーブル２０２ｂｘに代えて大当たり種別選択２９テーブル２０２ｂｙが設けられている点、変動パターン２８テーブル２０２ｄｘに代えて変動パターン２９テーブル２０２ｄｙが設けられている点、および変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａが追加されている点で相違する。その他の構成については上述した第２８制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８９４４】

まず、図８８６を参照して、本第２９制御例における大当たり種別選択２９テーブル２０２ｂｙの詳細について説明する。図８８６は、本第２９制御例における大当たり種別選択２９テーブル２０２ｂｙの規定内容を示した図である。図８８６に示した通り、この大当たり種別選択２９テーブル２０２ｂｙには、特別図柄の種別毎に、選択され得る大当たり種別と、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲と、が対応付けて規定されている。より具体的には、図８８６に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して「大当たりＡ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲に対して「大当たりＢ２９」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ２９」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。また、「大当たりＢ２９」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として比較的有利度合いが低い時短状態が設定される大当たり（４ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＡ２９」、「大当たりＢ２９」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）はそれぞれ５０個ずつであるため、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ２９」が決定される割合は５０％（５０／１００）となり、「大当たりＢ２９」が決定される割合は５０％（５０／１００）となる。つまり、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合、半数が有利度合いが低い時短状態に設定されてしまうため、第１特別図柄の抽選は遊技者にとって有利度合いが低い抽選となる。

【８９４５】

また、図８８６に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲に対して「大当たりＣ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～２３」の範囲に対して「大当たりＤ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値「２４」に対して「大当たりＥ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２５～２９」の範囲に対して「大当たりＦ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～３３」の範囲に対して「大当たりＧ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値「３４」に対して「大当たりＨ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３５～８９」の範囲に対して「大当たりＩ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９０～９６」の範囲に対して「大当たりＪ２９」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９７～９９」の範囲に対して「大当たりＫ２９」が対応付けて規定されている。

【８９４６】

「大当たりＣ２９」～「大当たりＥ２９」は、ラウンド数が１０ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（１０ラウンド確変大当たり）である。そして、「大当たりＣ２９」は、確変割合超ＵＰゾーンの規定回数（第１特別図柄の抽選回数）が１回に設定され、「大当たりＤ２９」は規定回数が２回に設定され、「大当たりＥ２９」は、規定回数が３回に設定される大当

たりである。よって、ラウンド数の面では同等であるが、当たり終了後の確変状態の有利度合いという面では、「大当たりＥ２９」が遊技者にとって最も有利となり、次いで、「大当たりＤ２９」が有利となり、「大当たりＣ２９」が最も有利度合いが低くなる。

【８９４７】

また、「大当たりＦ２９」～「大当たりＨ２９」は、ラウンド数が８ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（８ラウンド確変大当たり）である。そして、「大当たりＦ２９」は、確変割合超ＵＰゾーンの規定回数（第１特別図柄の抽選回数）が１回に設定され、「大当たりＧ２９」は規定回数が２回に設定され、「大当たりＨ２９」は、規定回数が３回に設定される大当たりである。よって、ラウンド数の面では同等であるが、当たり終了後の確変状態の有利度合いという面では、「大当たりＨ２９」が遊技者にとって最も有利となり、次いで、「大当たりＧ２９」が有利となり、「大当たりＦ２９」が最も有利度合いが低くなる。

【８９４８】

更に、「大当たりＩ２９」～「大当たりＫ２９」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。そして、「大当たりＩ２９」は、確変割合超ＵＰゾーンの規定回数（第１特別図柄の抽選回数）が１回に設定され、「大当たりＪ２９」は規定回数が２回に設定され、「大当たりＫ２９」は、規定回数が３回に設定される大当たりである。よって、ラウンド数の面では同等であるが、当たり終了後の確変状態の有利度合いという面では、「大当たりＫ２９」が遊技者にとって最も有利となり、次いで、「大当たりＪ２９」が有利となり、「大当たりＩ２９」が最も有利度合いが低くなる。

【８９４９】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＣ２９」、「大当たりＤ２９」、「大当たりＥ２９」、「大当たりＦ２９」、「大当たりＧ２９」、「大当たりＨ２９」、「大当たりＩ２９」、「大当たりＪ２９」、「大当たりＫ２９」に対応付けられている乱数値はそれぞれ２０個、４個、１個、５個、４個、１個、５５個、７個、および３個であるため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＣ２９」が決定される割合は２０％（２０／１００）となり、「大当たりＤ２９」が決定される割合は４％（４／１００）となり、「大当たりＥ２９」が決定される割合は１％（１／１００）となり、「大当たりＦ２９」が決定される割合は５％（５／１００）となり、「大当たりＧ２９」が決定される割合は４％（４／１００）となり、「大当たりＨ２９」が決定される割合は１％（１／１００）となり、「大当たりＩ２９」が決定される割合は５５％（５５／１００）となり、「大当たりＪ２９」が決定される割合は７％（７／１００）となり、「大当たりＫ２９」が決定される割合は３％（３／１００）となる。

【８９５０】

つまり、１０ラウンド大当たり（大当たりＣ２９～Ｅ２９）の割合が２５％（２０％＋４％＋１％）となり、８ラウンド大当たり（大当たりＦ２９～Ｈ２９）の割合が１０％（５％＋４％＋１％）となり、４ラウンド大当たり（大当たりＩ２９～Ｋ２９）の割合が６５％（５５％＋７％＋３％）となる。また、確変割合超ＵＰゾーン終了までの規定回数が１回に設定される大当たり（大当たりＣ２９，Ｆ２９，Ｉ２９）の割合が８０％（２０％＋５％＋５５％）となり、規定回数が２回に設定される大当たり（大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９）の割合が１５％（４％＋４％＋７％）となり、規定回数が３回に設定される大当たり（大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９）の割合が５％（１％＋１％＋３％）となる。

【８９５１】

このように、本第２９制御例では、大当たりのラウンド数および大当たり終了後に設定される確変状態において確変割合超ＵＰゾーンが終了するまでの第１特別図柄抽選回数（規定回数）の組み合わせが異なる様々な大当たり種別を設ける構成としているので、規定回数やラウンド数を予測する楽しみを遊技者に対して与えることができる。よって、遊技

者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【８９５２】
次に、図８８７（ａ）を参照して、本第２９制御例における変動パターン２９テーブル２０２ｄｙの詳細について説明する。図８８７（ａ）は、この変動パターン２９テーブル２０２ｄｙの構成を示すブロック図である。図８８７（ａ）に示した通り、本第２９制御例における変動パターン２９テーブル２０２ｄｙは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｙ１と、確変状態で、且つ、確変割合超ＵＰゾーンが設定されている状況下において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照されるゾーン用テーブル２０２ｄｙ２と、確変状態（確変割合超ＵＰゾーンが設定されていない状況に限る）、および時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３と、で少なくとも構成されている。これらのうち、通常用テーブル２０２ｄｙ１は、上述した第２８制御例における変動パターン２８テーブル２０２ｄｘの通常用テーブル２０２ｄｘ１と同一の規定内容（第１特別図柄の抽選では抽選結果に応じて７秒～１４０秒の範囲の変動時間が選択される一方で、第２特別図柄の抽選では６００秒の変動時間が必ず選択される規定内容）となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。
【８９５３】
次に、図８８７（ｂ）を参照して、上述したゾーン用テーブル２０２ｄｙ２の詳細について説明する。図８８７（ｂ）は、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２の規定内容を示した図である。このゾーン用テーブル２０２ｄｙ２は、確変状態で、且つ、確変割合超ＵＰゾーンが設定されている状況下において参照されるテーブルである。ここで、確変確率超ＵＰゾーンは、大当たりＡ２９，Ｃ２９，Ｆ２９，Ｉ２９のいずれかに当選したことに基づいて設定された確変状態の場合、確変状態が開始（設定）されてから第１特別図柄の変動表示が１回終了するまで（２回目の第１特別図柄の抽選が実行されるまで）の間の期間に設定され、大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９のいずれかに当選したことに基づいて設定された確変状態の場合、確変状態が開始（設定）されてから第１特別図柄の変動表示が２回終了するまで（３回目の第１特別図柄の抽選が実行されるまで）の間の期間に設定され、大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９のいずれかに当選したことに基づいて設定された確変状態の場合、確変状態が開始（設定）されてから第１特別図柄の変動表示が３回終了するまで（３回目の第１特別図柄の抽選が実行されるまで）の間設定される。
【８９５４】
図８８７（ｂ）に示した通り、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２には、第１特別図柄の外れ時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が６００００ｍｓ（６０秒間）の外れロング変動が対応付けて規定されている。また、第１特別図柄の大当たり時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が６００００ｍｓ（６０秒間）の当たりロング変動が対応付けて規定されている。
【８９５５】
これに対し、図８８７（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の外れ（完全外れ又は小当たり）時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～４９」の範囲に対して、変動時間が１０００ｍｓ（１秒間）の外れショート変動Ａが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「５０～９４９」の範囲に対して変動時間が３０００ｍｓ（３秒間）の外れショート変動Ｂが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「９５０～９９９」の範囲に対して変動時間が５０００ｍｓ（５秒間）の外れショート変動Ｃが対応付けて規定されている。つまり、変動時間が１秒間の外れショート変動Ａに対して５０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、変動時間が３秒間の外れショート変動Ｂに対して９００個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、変動時間が５秒間の外れショート変動Ｃに対して５０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。変動種別カウンタＣＳ１は、「０～９９９」の１０００個の値を取り得るので、

第２特別図柄の抽選で外れとなった場合に、１秒間の変動時間が選択される割合は５％（５０／１０００）であり、３秒間の変動時間が選択される割合は９０％（９００／１０００）であり、５秒間の変動時間が選択される割合は５％（５０／１０００）である。このため、第２特別図柄の外れ時における平均の変動時間は３秒間（１秒間×５％＋３秒間×９０％＋５秒間×５％）となる。また、図８８７（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る値の全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が３０００ｍｓ（３秒間）の当たりショート変動が対応付けて規定されている。

【８９５６】

これらの規定内容から、このゾーン用テーブル２０２ｄｙ２が参照されると、第１特別図柄の抽選が実行された場合における変動時間が６０秒間に固定化される一方で、第２特別図柄の抽選が実行された場合における変動時間が平均３秒間となるため、第１特別図柄の抽選が１回実行されている間に平均２０回の第２特別図柄の抽選を実行させることができる。つまり、大当たりに当選した場合に５０％の割合で不利な通常大当たりが決定される不利な第１特別図柄の抽選がほとんど行われず、大当たりに当選した場合に確変大当たりが確定する有利な第２特別図柄の抽選ばかりを実行させることができる極めて有利な状態を形成するため、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２が参照されて変動パターンが選択される状態（確変割合超ＵＰゾーン）が設定された場合に、遊技者に対して大きな喜びを抱かせることができる。

【８９５７】

次に、図８８７（ｃ）を参照して、上述した確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３の詳細について説明する。図８８７（ｃ）は、この確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３の規定内容を示した図である。図８８７（ｃ）に示した通り、確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３には、第１特別図柄と第２特別図柄とで共通の内容が規定されており、その規定内容は、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２（図８８７（ｂ）参照）における第２特別図柄の規定内容と同一である。よって、確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３が参照された場合、第１特別図柄の変動時間も第２特別図柄の変動時間も平均３秒となる。即ち、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される状態を形成する。このため、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２が参照される状態（確変割合超ＵＰゾーン）に比較して、不利な第１特別図柄の抽選で大当たりとなる可能性が高くなるため、遊技者にとっての有利度合いが低くなる。

【８９５８】

次に、図８８８を参照して、本第２９制御例における変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａの詳細について説明する。この変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａは、前回当選した大当たりの種別と大当たり終了後の特別図柄の変動回数との組み合わせ毎に、変動パターンを選択するために参照する変動パターンテーブルの種別が対応付けて規定されている。図８８８は、本第２９制御例における変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａの規定内容を示した図である。

【８９５９】

図８８８に示した通り、大当たりＡ２９，Ｃ２９，Ｆ２９，Ｉ２９が終了した後における変動パターンシナリオとして、確変状態となってから第１特別図柄の変動表示が１回終了するまでの間の期間に対して、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２（図８８７（ｂ）参照）が対応付けて規定されている一方で、第１特別図柄の変動表示が１回終了した後（第１特別図柄の２回目の抽選以降）は、変動回数によらず確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３（図８８７（ｃ）参照）が対応付けて規定されている。また、図８８８に示した通り、大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９が終了した後における変動パターンシナリオとして、確変状態となってから第１特別図柄の変動表示が２回終了するまでの間の期間に対して、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２（図８８７（ｂ）参照）が対応付けて規定されている一方で、第１特別図柄の変動表示が２回終了した後（第１特別図柄の３回目の抽選以降）は、変動回数によらず確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３（図８８７（ｃ）参照）が対応付けて規定

されている。更に、図８８８に示した通り、大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９が終了した後における変動パターンシナリオとして、確変状態となってから第１特別図柄の変動表示が３回終了するまでの間の期間に対して、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２（図８８７（ｂ）参照）が対応付けて規定されている一方で、第１特別図柄の変動表示が３回終了した後（第１特別図柄の４回目の抽選以降）は、変動回数によらず確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３（図８８７（ｃ）参照）が対応付けて規定されている。

【８９６０】

これらの規定内容により、大当たりＡ２９，Ｃ２９，Ｆ２９，Ｉ２９に当選すると、確変割合超ＵＰゾーン（有利な第２特別図柄の抽選ばかりが実行される状態）が第１特別図柄の変動表示１回分の期間である６０秒間しか継続しない一方で、大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９に当選すると、確変割合超ＵＰゾーンが第１特別図柄の変動表示２回分の期間である１２０秒間に渡って継続し、大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９に当選すると、確変割合超ＵＰゾーンが第１特別図柄の変動表示３回分の期間である１８０秒間に渡って継続することとなる。よって、大当たり種別によって確変割合超ＵＰゾーン中に実行させることができる第２特別図柄の抽選回数を異ならせることができるので、大当たり終了後の遊技状態として共通の遊技状態（確変状態）を設定したとしても、大当たり種別に応じて確変大当たりの期待度を異ならせるという斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８９６１】

また、図８８８に示した通り、大当たりＢ２９（大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定される大当たり種別）が終了した後における変動パターンシナリオとして、第１特別図柄と第２特別図柄との抽選回数の合計が１００回となるまでの間（即ち、時短回数内）の変動回数に対して確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３（図８８７（ｃ）参照）が対応付けて規定されている一方で、第１特別図柄と第２特別図柄との抽選回数の合計が１０１回以上の範囲に対しては、通常用テーブル２０２ｄｙ１が対応付けて規定されている。よって、時短回数内では不利な第１特別図柄の抽選と有利な第２特別図柄の抽選とが均等に実行される一方で、時短回数が経過して通常状態に移行した後は第２特別図柄の変動時間が著しく長くなる（６００秒間になる）ため、第１特別図柄の抽選ばかりが実行される有利度合いが低い状態を形成する。更に、図８８８に示した通り、パチンコ機１０の設定を初期化した後、大当たりに当選するまでの間の通常状態においては、第１特別図柄および第２特別図柄の変動回数によらず、一律に、不利な通常用テーブル２０２ｄｙ１が対応付けて規定されている。これにより、パチンコ機１０を初期化した場合に遊技者にとって過剰に有利となってしまい、ホールに対して不測の不利益を被らせてしまうことを抑制することができる。

【８９６２】

次に、図８８９を参照して、本第２９制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図８８９は、本第２９制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図８８９に示した通り、本第２９制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第２８制御例におけるＲＡＭ２２３に対して、ゾーン中タイマ２２３ｙａが追加されている点で相違している。また、第２８制御例における終了時間タイマ２２３ｘａが削除されている点でも相違している。

【８９６３】

ゾーン中タイマ２２３ｙａは、確変割合超ＵＰゾーンが終了するまでの残り時間として第３図柄表示装置８１に対して表示させる期間を示すタイマであり、確変割合超ＵＰゾーンが継続している間に第１特別図柄の抽選が実行されると、第１特別図柄の変動時間である６０秒に対応するタイマ値が設定される（図８９３のＳ９７２５Ａ参照）。また、時間の経過に応じて定期的に（演出更新処理２９（図８９２参照）が実行される毎に）値が減算して更新される（図８９２のＳ５４４２参照）。このゾーン中カウンタ２２３ｙａに対応する残時間を第３図柄表示装置８１に対して表示させる構成とすることにより、確変割合超ＵＰゾーンが終了するまでの時間を遊技者に対して分かり易く示すことができる。

【８９６４】
＜第２９制御例における主制御装置の制御処理について＞
次いで、図８９０、および図８９１を参照して、本第２９制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８９０を参照して、本第２９制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２９（Ｙ３６１）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動パターン選択処理２９（Ｙ３６１）は、上述した第２８制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するための処理である。図８９０は、この第１特別図柄変動パターン選択処理２９（Ｙ３６１）を示すフローチャートである。
【８９６５】
この第２９制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３、およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理では、それぞれ上述した第２８制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２８（図８７１参照）のＹ５０１～Ｙ５０３、およびＹ５０５～Ｙ５０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２９制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）では、Ｙ５０３の処理が終了すると、変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａと特図１変動回数カウンタとに対応する変動パターンテーブルを特定し（Ｙ５５１）、特定した変動パターンテーブルを読み出して（Ｙ５５２）、処理をＹ５０５へと移行する。
【８９６６】
なお、図示については省略したが、第２特別図柄変動パターン選択処理２８（Ｙ８７１）に代えて実行される第２特別図柄変動パターン選択処理２９についても、この第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）のＹ５５１，Ｙ５５２の各処理と同様の処理によって変動パターンテーブルが読み出されるように変形されている。
【８９６７】
次に、図８９１を参照して、本第２９制御例における大当たり制御処理２９（Ｙ１０３１）の詳細について説明する。この大当たり制御処理２９（Ｙ１０３１）は、上述した第２８制御例における大当たり制御処理２８（図８７９参照）に代えて実行される処理であり、大当たり制御処理２８（図８７９参照）と同様に、大当たり遊技の実行中における各種制御を実行するための処理である。図８９１は、この大当たり制御処理２９（Ｙ１０３１）を示すフローチャートである。
【８９６８】
この第２９制御例における大当たり制御処理２９（図８９１参照）のうち、Ｙ１１６０１～Ｙ１１６１２，Ｙ１１６３３～Ｙ１１６３５，Ｙ１１６４１，Ｙ１１６４２、およびＹ１１６４５の各処理では、それぞれ上述した第２８制御例における大当たり制御処理２８（図８７９参照）のＹ１１６０１～Ｙ１１６１２，Ｙ１１６３３～Ｙ１１６３５，Ｙ１１６４１，Ｙ１１６４２、およびＹ１１６４５の各処理と同一の処理が実行される。
【８９６９】
また、本第２９制御例における大当たり制御処理２９（図８９１参照）では、Ｓ１１６４２、またはＳ１１６４５の処理が終了すると、次いで、今回の大当たり種別に応じた変動パターンシナリオを特定し（Ｙ１１６５１）、特定したシナリオを示す情報を変動パターンシナリオ格納エリア２０３ｙａに格納して（Ｙ１１６５２）、本処理を終了する。
【８９７０】
＜第２９制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞
次に、図８９２から図８９４を参照して、本第２９制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８９２を参照して、本第２９制御例における演出更新処理２９（Ｓ４１８１）の詳細について説明する。この演出更新処理２９（Ｓ４１８１）は、上述した第２８制御例における演出更新処理２８（図８８０参照）に代えて実行される処理であり、演出更新処理２８（図８

８０参照）と同様に、実行中の各種演出態様を定期的（メイン処理の実行間隔毎）に更新するための処理である。図８９２は、この演出更新処理２９（Ｓ４１８１）を示すフローチャートである。

【８９７１】

この演出更新処理２９（図８９２参照）が実行されると、まず、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ５４４１）、０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ５４４１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ５４４１の処理において、ゾーン中タイマ２２３ｙａのタイマ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ５４４１：Ｙｅｓ）、確変割合超ＵＰゾーンが設定されていることを意味するため、まず、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値を減算することで更新し（Ｓ５４４２）、次いで、更新後のタイマ値に応じて確変割合超ＵＰゾーンが終了されるまでの残時間表示を更新する（Ｓ５４４３）。

【８９７２】

Ｓ５４４３の処理が終了すると、次に、Ｓ５４４２の処理において、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値を０に更新したか否かを判別し（Ｓ５４４４）、０に更新したと判別した場合は（Ｓ５４４４：Ｙｅｓ）、確変割合超ＵＰゾーンの終了を示す演出を実行して（Ｓ５４４５）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ５４４４の処理において、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値を０に更新していないと判別した場合は（Ｓ５４４４：Ｎｏ）、Ｓ５４４５の処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【８９７３】

この演出更新処理２９（図８９２参照）を実行することにより、確変状態において確変割合超ＵＰゾーンが設定された場合に、ゾーンが終了するまでの残り時間を第３図柄表示装置８１において正確に表示させることができる。よって、第２特別図柄の抽選ばかりが実行される有利な状態がどれだけ残っているのかを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８９７４】

次に、図８９３を参照して、本第２９制御例における特図１演出態様設定処理２９（Ｓ５１２１Ａ）の詳細について説明する。この特図１演出態様設定処理２９（Ｓ５１２１Ａ）は、上述した第２８制御例における特図１演出態様設定処理２８（図８８１参照）に代えて実行される処理であり、特図１演出態様設定処理２８（図８８１参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果を示すための変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。図８９３は、本第２９制御例における特図１演出態様設定処理２９（Ｓ５１２１Ａ）を示すフローチャートである。

【８９７５】

この第２９制御例における特図１演出態様設定処理２９（図８９３参照）のうち、Ｓ９７０６Ａ，Ｓ９７１１Ａ、およびＳ９７１２Ａの各処理では、それぞれ第２８制御例における特図１演出態様設定処理２８（図８８１参照）のＳ９７０６Ａ，Ｓ９７１１Ａ、およびＳ９７１２Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２９制御例における特図１演出態様設定処理２９（図８９３参照）では、Ｓ９７１１Ａの処理において現在の遊技状態が確変状態であると判別した場合に（Ｓ９７１１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第１特別図柄の変動パターンが、変動時間が６０秒間の変動パターンであるか否かを判別する（Ｓ９７２１Ａ）。

【８９７６】

Ｓ９７２１Ａの処理において、今回の変動パターンが、変動時間が６０秒間の変動パターンではないと判別した場合は（Ｓ９７２１Ａ：Ｎｏ）、現在が確変割合超ＵＰゾーン中ではないことを意味するため、処理をＳ９７１２Ａへと移行する。一方、Ｓ９７２１Ａの処理において、変動時間が６０秒間の変動パターンであると判別した場合は（Ｓ９７２１Ａ：Ｙｅｓ）、確変割合超ＵＰゾーン中であることを意味するため、次いで、大当たり終了後１回目の第１特別図柄の変動表示であるか否かを判別し（Ｓ９７２２Ａ）、１回目の第１特別図柄の変動表示であれば（Ｓ９７２２Ａ：Ｙｅｓ）、確変割合超ＵＰゾーンへの

突入を報知する演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９７２４Ａ）、処理をＳ９７２５Ａへと移行する。一方、Ｓ９７２２Ａの処理において、１回目の第１特別図柄の変動表示ではないと判別した場合は（Ｓ９７２２Ａ：Ｎｏ）、確変割合超ＵＰゾーンの継続を報知する演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９７２３Ａ）、処理をＳ９７２５Ａへと移行する。Ｓ９７２５Ａの処理では、ゾーン中タイマ２２３ｙａのタイマ値に対して６０秒間に対応するタイマ値を設定して（Ｓ９７２５Ａ）、処理をＳ９７０６へと移行する。

【８９７７】

次に、図８９４を参照して、本第２９制御例における特図２演出態様設定処理２９（Ｓ５２２１Ａ）の詳細について説明する。この特図２演出態様設定処理２９（Ｓ５２２１Ａ）は、上述した第２８制御例における特図２演出態様設定処理２８（図８８２参照）に代えて実行される処理であり、特図２演出態様設定処理２８（図８８２参照）と同様に、第２特別図柄の抽選結果を示すための変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。

【８９７８】

この第２９制御例における特図２演出態様設定処理２９（図８９４参照）のうち、Ｓ９６１１，Ｓ９６２２Ａ、およびＳ９６５１Ａの各処理では、それぞれ上述した第２８制御例における特図２演出態様設定処理２８（図８８２参照）のＳ９６１１，Ｓ９６２２Ａ、およびＳ９６５１Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２９制御例における特図２演出態様設定処理２９（図８９４参照）では、Ｓ９６５１Ａの処理において、現在の遊技状態が確変状態であると判別した場合に（Ｓ９６５１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値が０より大きい値である（即ち、確変割合超ＵＰゾーン中である）か否かを判別し（Ｓ９６６１Ａ）、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値が０である（即ち、確変割合超ＵＰゾーン中ではない）と判別した場合は（Ｓ９６６１Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。

【８９７９】

一方、Ｓ９６６１Ａの処理において、ゾーン中タイマ２２３ｙａの値が０より大きい値である（即ち、確変割合超ＵＰゾーン中である）と判別した場合は（Ｓ９６６１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第２特別図柄の変動時間がゾーン中タイマ２２３ｙａの値よりも短い時間であるか否かを判別し（Ｓ９６６２Ａ）、今回の第２特別図柄の変動時間がゾーン中タイマ２２３ｙａの値よりも短い時間ではない（長い時間である）と判別した場合は（Ｓ９６６２Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。これに対し、Ｓ９６２２Ａの処理において、今回の第２特別図柄の変動時間がゾーン中タイマ２２３ｙａの値よりも短い時間であると判別した場合は（Ｓ９６６２Ａ：Ｙｅｓ）、抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ９６６３Ａ）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ９６６３Ａ：Ｙｅｓ）、確変割合超ＵＰゾーンの打ち切り演出（図８８３（ｂ）、図８８４参照）を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ９６６４Ａ）、処理をＳ９６１１へと移行する。一方、Ｓ９６６３Ａの処理において、今回の第２特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ９６６３Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ９６２２Ａへと移行する。

【８９８０】

以上説明した通り、本第２９制御例におけるパチンコ機１０では、確変状態が設定された後、大当たり種別毎に予め定められた特定回数（１回～３回）の第１特別図柄の変動表示（不利側の変動表示）が終了するまでの間の期間に渡って、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が高頻度で実行される（不利な第１特別図柄の抽選が実行され難い）有利な状態（確変割合超ＵＰゾーン）を形成する構成としていた。具体的には、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並列して）実行可能な同時変動仕様を採用し、確変状態が設定されてから少なくとも特定回数（１回～３回のいずれか）の第１特別図柄の変動表示が終了するまでの間、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くなるように構成した。つまり、１の第１特別図柄の変動表示の実行中に複数の（２０回前後の）第２特別図柄の変動表示を実行可能に構成した。このように構成することで、１の確変状態の間に、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選ばかりが実行

される有利度合いが高い状態（確変割合超ＵＰゾーン）と、その有利度合いが高い状態よりも有利度合いが低い第１特別図柄の実行頻度が高くなる状態と、を設定することが可能となるため、確変状態の間の遊技が単調となってしまうことを抑制することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８９８１】

なお、本第２９制御例では、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照して変動パターンを選択する状態（確変割合超ＵＰゾーン）を、確変状態に移行してから第１特別図柄の変動表示が特定回数（１回～３回のいずれか）終了するまでの間にのみ設定する構成としていたが、確変割合超ＵＰゾーンの設定タイミングはこれに限られるものではない。例えば、時短状態に移行してから特定回数の第１特別図柄の変動表示が終了するまでの間の期間についても、確変割合超ＵＰゾーンを設定する（ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照して変動パターンを選択する）構成としてもよい。このように構成することで、有利度合いが低い（不利な）時短状態においても、遊技にメリハリをつけることができるので、遊技が単調となってしまうことをより抑制することができる。また、確変状態の開始直後ではなく、確変状態の途中から（例えば、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とが合計で５０回終了してから）確変割合超ＵＰゾーンが設定されるように構成してもよい。このように構成することで、確変割合超ＵＰゾーンに到達するまでは大当たりに当選して欲しくない（確変割合超ＵＰゾーンに到達してから大当たりに当選して欲しい）と遊技者に思わせることができるので、有利な確変状態が設定されているにもかかわらず、所定条件が成立する（確変割合超ＵＰゾーンが設定される抽選回数となる）まで特別図柄の抽選で外れ続けることを期待させる斬新な遊技性を実現することができる。

【８９８２】

本第２９制御例では、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照して変動パターンを選択する状態（確変割合超ＵＰゾーン）を、１の確変状態において第１特別図柄の変動表示が最大で３回実行されるまでの間に限る構成としていたが、確変割合超ＵＰゾーンを設定する変動回数はこれに限られず、任意に定めることができる。例えば、一部の大当たり種別では、５回や１０回の第１特別図柄の変動表示が終了するまでの間、確変割合超ＵＰゾーンが継続するように構成しても良い。また、確変状態が開始されてから終了されるまで、常に確変割合超ＵＰゾーンが設定される大当たり種別を設けてもよい。このように構成することで、確変割合超ＵＰゾーンのバリエーションをより多様化させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【８９８３】

本第２９制御例では、上述した第２８制御例と同様に、一方の特別図柄が大当たりに対応する変動表示の実行中である場合に、他方の特別図柄の抽選が実行されても大当たりに当選し得ない（完全外れまたは小当たりにのみ当選し得る）仕様を採用していたが、これに限られず、上述した第２７制御例等のように、一方の特別図柄の大当たり変動中でも、他方の特別図柄で大当たりを抽選可能に構成し、先に当たり図柄（小当たり又は大当たり図柄）で停止表示された側の特別図柄の抽選が有効となる（他方の特別図柄の変動表示が外れ図柄で強制停止される）仕様を採用してもよい。このように構成することで、特に、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長い時間（６０秒間）に設定される確変確率超ＵＰゾーンにおいて第１特別図柄の大当たりに当選したとしても、その後に第２特別図柄の抽選で大当たりとなって第１特別図柄の大当たり変動を外れで強制停止させることが可能となるので、確変割合超ＵＰゾーンにおいて有利な第２特別図柄の大当たりの発生割合をより向上させることができる。

【８９８４】

本第２９制御例では、確変状態において、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照するか、確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３を参照するかについて、第１特別図柄の抽選の実行回数のみに基づいて判別していたが、これに限られるものではない。例えば、第１特別図柄の抽選回数と、第２特別図柄の抽選回数との両方を参照して、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照するか、確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３を参照するかを判別する構成と

してもよい。より具体的には、例えば、大当たりＡ２９，Ｃ２９，Ｆ２９，Ｉ２９の終了後に設定される確変状態では、第１特別図柄の抽選が１回終了する（第１特別図柄の変動表示が１回終了する）か、第２特別図柄の抽選が３０回終了するまでの間、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照し、いずれかの条件が成立した後は確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３を参照する構成としてもよい。同様に、大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９の終了後に設定される確変状態では、第１特別図柄の抽選が２回終了する（第１特別図柄の変動表示が２回終了する）か、第２特別図柄の抽選が６０回終了するまでの間、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照し、いずれかの条件が成立した後は確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３を参照する構成としてもよい。更に、大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９の終了後に設定される確変状態では、第１特別図柄の抽選が３回終了する（第１特別図柄の変動表示が３回終了する）か、第２特別図柄の抽選が９０回終了するまでの間、ゾーン用テーブル２０２ｄｙ２を参照し、いずれかの条件が成立した後は確変・時短用テーブル２０２ｄｙ３を参照する構成としてもよい。このように構成した場合、確変状態へと突入した後で、右第１入球口６４ｒへと遊技球が入球せずに、第２入球口６４０ばかりに遊技球が偏って入球したとしても、確変割合超ＵＰゾーンが長く継続しすぎてしまう（有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が多くなり過ぎてしまう）ことを抑制できるので、遊技者にとって過剰に有利となり過ぎてしまうことを抑制することができる。

【８９８５】

＜第３０制御例＞

次に、図８９５から図９０３を参照して、第３０制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第２９制御例では、確変状態が設定された後、大当たり種別毎に予め定められた回数の第１特別図柄の変動表示（不利側の変動表示）が終了するまでの間の期間に渡って、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選が高頻度で実行される（不利な第１特別図柄の抽選が実行され難い）有利な状態（確変割合超ＵＰゾーン）を形成する構成としていた。具体的には、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示とを同時に（並列して）実行可能な同時変動仕様を採用し、確変状態が設定されてから少なくとも特定回数（１回～３回のいずれか）の第１特別図柄の変動表示が終了するまでの間、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くなるように構成した。つまり、１の第１特別図柄の変動表示の実行中に複数の（２０回前後の）第２特別図柄の変動表示を実行可能に構成していた。

【８９８６】

これに対して本第３０制御例におけるパチンコ機１０では、普通図柄の時短状態に設定される確変状態および時短状態において、実行され易い特別図柄の種別を異ならせる構成としている。即ち、確変状態においては、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行されるように制御する一方で、時短状態においては、第２９制御例における確変割合超ＵＰゾーンと同様に、第２特別図柄の抽選ばかりが実行される有利な状態を形成する構成とした。また、本第３０制御例では、確変状態において予め定められた第１回数の特別図柄の抽選が終了すると、確変状態が終了される仕様（所謂、ＳＴ型の確変状態）を採用した上で、確変状態が設定されてから特別図柄の高確率確変状態が終了するまでの回数（第１回数）よりも、普通図柄の時短状態が終了するまでの回数（第２回数）の方が多くなるように構成している。つまり、大当たり終了後の遊技状態として確変状態が設定されると、まず、大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第１回数（１０回）となるまでの間、確変状態が継続し、大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第１回数となることにより特別図柄の低確率状態に設定されることで遊技状態が時短状態に設定され、その後は大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第２回数（５０回）となるまでの間、時短状態が継続するように構成されている。また、５０回の特別図柄の抽選が実行されると、普通図柄の時短状態も終了されて通常状態に設定される。このため、本第３０制御例では、確変大当たりが終了すると、まず、大当たり確率が通常よりも高い（１／２５）ものの、有利度合い（確変大当たりの割合）が低い第１特別図柄の抽選と有利度合い（確変大当たりの割合）が高い第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に（半々で）実行される確変状態を形

成し、特別図柄の抽選回数が第１回数（１０回）に到達した場合は、大当たり確率が通常の確率（１／１００）になるものの、有利な第２特別図柄の抽選ばかりが実行される時短状態を形成する構成としている。これにより、互いに異なるメリット（大当たり確率、第２特別図柄抽選の頻度）を有して構成される確変状態および時短状態を順番に設定することができるので、途中で遊技性が切り替わる（メリット、デメリットが入れ替わる）斬新な動作を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【８９８７】

この第３０制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第２９制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第２９制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第２９制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【８９８８】

まず、図８９５を参照して、本第３０制御例における特徴的な演出態様について説明する。図８９５（ａ）は、本第３０制御例における確変状態の間の演出態様を示した図であり、図８９５（ｂ）は、本第３０制御例における時短状態の演出態様を示した図である。ここで、上述した通り、本第３０制御例では、確変状態および時短状態の双方に対して、互いに異なるメリット（優位性）を設ける構成としている。具体的には、確変状態では、大当たり確率が時短状態よりも高くなる点で時短状態よりも優位性が高くなるように構成する一方で、時短状態では、確変状態よりも大当たり当選時の確変大当たりの割合が高くなる点で確変状態よりも優位性が高くなるように構成している。このため、どちらの遊技状態の方が有利度合いが高いのかについて一概に断定することができない。よって、本第３０制御例では、確変状態と時短状態とをどちらも「チャンスタイム」という名称で統一している。

【８９８９】

図８９５（ａ）に示した通り、本第３０制御例における確変状態では、主表示領域Ｄｍにおける略左半分に対して、有利度合いが低い第１特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示演出を実行するための左表示領域ＤｍＬが形成され、略右半分に対して、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示演出を実行するための右表示領域ＤｍＲが形成される。左表示領域ＤｍＬには、大当たりとなった場合に比較的有利度合いが低いことを暗示するために、敵のキャラクタ８１１が表示され、右表示領域ＤｍＲには、大当たりとなった場合に比較的有利度合いが高いことを暗示するために、冒険者のキャラクタ８０１が表示される。これらにより、いずれの表示領域において大当たりが報知された方が有利であるのかについて、遊技者に対して容易に理解させることができる。

【８９９０】

また、図８９５（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける中央上部に形成される表示領域ＨＲ３に対して、「チャンスタイムＡ」という文字と、「大当たり期待度　高」という文字と、「確変期待度　中」という文字と、が表示される。これらの表示内容により、現在設定されているチャンスタイムが、大当たり確率は高いものの通常大当たりとなる可能性があるチャンスタイムＡ（確変状態）であるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。また、表示領域Ｄｍ１に対して、チャンスタイムが終了するまで（確変状態、および確変状態終了後の時短状態が終了するまで）の残りの特別図柄の抽選回数を示す情報が表示される。図８９５（ａ）の例では、確変状態において５回目の変動

表示が開始された状態を例示しており、「チャンスタイム終了まで残り４５回」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｓ２に対して、「チャンスタイム中」という文字が表示される。

【８９９１】

次に、図８９５（ｂ）を参照して、時短状態における演出態様について説明する。図８９５（ｂ）に示した通り、時短状態においては、上述した第２９制御例における確変割合超ＵＰゾーン（図８８３（ａ）参照）と同様に、主表示領域Ｄｍにおける大部分において有利度合いが高い第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示が実行され、第１特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の変動表示演出は、主表示領域Ｄｍにおける右下部分に形成される小表示領域Ｄｍ８ａにおいて比較的目立たない（視認し難い）態様で表示される。これらにより、有利度合いが高く、実行頻度の高い第２特別図柄の抽選に対応する第３図柄の変動表示演出に注目させることができる。

【８９９２】

また、図８９５（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける中央上部に形成される表示領域ＨＲ３に対して、「チャンスタイムＢ」という文字と、「大当たり期待度　低」という文字と、「確変期待度　高」という文字と、が表示される。これらの表示内容により、現在設定されているチャンスタイムが、大当たり確率は低いものの確変大当たりとなる可能性が極めて高いチャンスタイムＢ（確変状態）であるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、表示領域Ｄｍ１に対して、チャンスタイムが終了するまで（確変状態、および確変状態終了後の時短状態が終了するまで）の残りの特別図柄の抽選回数を示す情報が表示される点、および小表示領域Ｄｓ２に対して、「チャンスタイム中」という文字が表示される点については確変状態（チャンスタイムＡ）が設定されている場合（図８９５（ａ）参照）と共通している。

【８９９３】

＜第３０制御例における電気的構成＞

次いで、図８９６（ａ）を参照して、本第３０制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図８９６（ａ）は、本第３０制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示すブロック図である。図８９６（ａ）に示した通り、本第３０制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第２９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図８８５（ａ）参照）に対して、大当たり種別選択２９テーブル２０２ｂｙに代えて大当たり種別選択３０テーブル２０２ｂαが設けられている点、変動パターン２９テーブル２０２ｄｙに代えて変動パターン３０テーブル２０２ｄαが設けられている点、および変動パターンシナリオテーブル２０２ｙａが削除されている点で相違している。その他の構成については、上述した第２９制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図８８５（ａ）参照）と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８９９４】

まず、図８９７を参照して、本第３０制御例における大当たり種別選択３０テーブル２０２ｂαの詳細について説明する。図８９７は、本第３０制御例における大当たり種別選択３０テーブル２０２ｂαの規定内容を示した図である。図８９７に示した通り、この大当たり種別選択３０テーブル２０２ｂαには、特別図柄の種別毎に、選択され得る大当たり種別と、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲と、が対応付けて規定されている。より具体的には、図８９７に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して「大当たりＡ３０」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲に対して「大当たりＢ３０」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ３０」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。また、「大当たりＢ３０」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として時短状態が設定される大当たり（４ラウンド通常大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＡ３０」、「大当たりＢ３０」に対応付けられている乱数値はそれ

ぞれ５０個ずつであるため、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ３０」が決定される割合および「大当たりＢ３０」が決定される割合は共に５０％（５０／１００）となる。

【８９９５】

なお、確変大当たりとなって確変状態が設定される場合は、１０回の確変回数と５０回の時短回数とが設定されるため、確変大当たりが終了してから特別図柄の抽選が１０回実行されるまでの間は確変状態に設定され、特別図柄の抽選回数が１０回以降、５０回以内の範囲においては時短状態に設定され、その後は通常状態に設定される。これに対し、通常大当たりとなって時短状態が設定される場合は、２５回の時短回数が設定されるため、通常大当たりが終了してから特別図柄の抽選回数が２５回実行されるまでの間は時短状態に設定され、その後は通常状態に移行する。つまり、確変大当たりになると１０回の確変状態と４０回の時短状態とが設定される一方で、通常大当たりになると２５回の時短状態のみが設定されるため、確変大当たりの方が通常大当たりよりも有利度合いが高くなる。

【８９９６】

また、図８９７に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２４」の範囲に対して「大当たりＣ３０」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２５～３４」の範囲に対して「大当たりＤ３０」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３５～９９」の範囲に対して「大当たりＥ３０」が対応付けて規定されている。「大当たりＣ３０」は、ラウンド数が１０ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（１０ラウンド確変大当たり）である。また、「大当たりＤ３０」は、ラウンド数が８ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（８ラウンド確変大当たり）である。更に、「大当たりＥ３０」は、ラウンド数が４ラウンドに設定され、大当たり終了後の遊技状態として遊技者にとって最も有利な確変状態が設定される大当たり（４ラウンド確変大当たり）である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値のうち、「大当たりＣ３０」、「大当たりＤ３０」、「大当たりＥ３０」に対応付けられている乱数値はそれぞれ２５個、１０個、および６５個であるため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＣ３０」が決定される割合は２５％（２５／１００）となり、「大当たりＤ３０」が決定される割合は１０％（１０／１００）となり、「大当たりＥ３０」が決定される割合は６５％（６５／１００）となる。よって、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合、過半数が最低のラウンド数（４ラウンド）に設定されるものの、いずれの大当たり種別が選択されたとしても大当たり終了後の遊技状態が有利度合いが高い確変状態に設定されるので、第２特別図柄の抽選は、第１特別図柄の抽選に比較して有利度合いが高い抽選であると言える。

【８９９７】

次に、図８９８（ａ）を参照して、本第３０制御例における変動パターン３０テーブル２０２ｄαの詳細について説明する。図８９８（ａ）は、本第３０制御例における変動パターン３０テーブル２０２ｄαの構成を示すブロック図である。図８９８（ａ）に示した通り、本第３０制御例における変動パターン３０テーブル２０２ｄαは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄα１と、時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される時短用テーブル２０２ｄα２と、確変状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される確変用テーブル２０２ｄα３と、で少なくとも構成されている。これらのうち、通常用テーブル２０２ｄα１は、上述した第２９制御例における変動パターン２９テーブル２０２ｄｙの通常用テーブル２０２ｄｙ１と同一の規定内容（第１特別図柄の抽選では抽選結果に応じて７秒～１４０秒の範囲の変動時間が選択される一方で、第２特別図柄の抽選では６００秒の変動時間が必ず選択される規定内容）となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【８９９８】
図８９８（ｂ）は、本第３０制御例における時短用テーブル２０２ｄα２の規定内容を示した図である。図８９８（ｂ）に示した通り、時短用テーブル２０２ｄα２には、第１特別図柄の外れ時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が６００００ｍｓ（６０秒間）の外れロング変動が対応付けて規定されている。また、第１特別図柄の大当たり時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が取り得る全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が６００００ｍｓ（６０秒間）の当たりロング変動が対応付けて規定されている。
【８９９９】
これに対し、図８９８（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の外れ（完全外れ又は小当たり）時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～４９」の範囲に対して、変動時間が１０００ｍｓ（１秒間）の外れショート変動Ａが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「５０～９４９」の範囲に対して変動時間が３０００ｍｓ（３秒間）の外れショート変動Ｂが対応付けて規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「９５０～９９９」の範囲に対して変動時間が５０００ｍｓ（５秒間）の外れショート変動Ｃが対応付けて規定されている。つまり、変動時間が１秒間の外れショート変動Ａに対して５０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、変動時間が３秒間の外れショート変動Ｂに対して９００個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、変動時間が５秒間の外れショート変動Ｃに対して５０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。変動種別カウンタＣＳ１は、「０～９９９」の１０００個の値を取り得るので、第２特別図柄の抽選で外れとなった場合に、１秒間の変動時間が選択される割合は５％（５０／１０００）であり、３秒間の変動時間が選択される割合は９０％（９００／１０００）であり、５秒間の変動時間が選択される割合は５％（５０／１０００）である。このため、第２特別図柄の外れ時における平均の変動時間は３秒間（１秒間×５％＋３秒間×９０％＋５秒間×５％）となる。また、図８９８（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり時の変動パターンとして、変動種別カウンタＣＳ１の取り得る値の全範囲（「０～９９９」の範囲）に対して、変動時間が３０００ｍｓ（３秒間）の当たりショート変動が対応付けて規定されている。
【９０００】
これらの規定内容から、この時短用テーブル２０２ｄα２が参照されると、第１特別図柄の抽選が実行された場合における変動時間が６０秒間に固定化される一方で、第２特別図柄の抽選が実行された場合における変動時間が平均３秒間となるため、第１特別図柄の抽選が１回実行されている間に平均２０回の第２特別図柄の抽選を実行させることができる。つまり、大当たりに当選した場合に５０％の割合で不利な通常大当たりが決定される不利な第１特別図柄の抽選がほとんど行われず、大当たりに当選した場合に確変大当たりが確定する有利な第２特別図柄の抽選ばかりを実行させることができる有利な状態を形成する。よって、時短状態を、確変状態よりも、大当たり当選時に確変状態が付与される割合の面で有利度合いが高くなるように構成することができる。
【９００１】
次に、図８９８（ｃ）を参照して、上述した確変用テーブル２０２ｄα３の詳細について説明する。図８９８（ｃ）は、この確変用テーブル２０２ｄα３の規定内容を示した図である。図８９８（ｃ）に示した通り、確変用テーブル２０２ｄα３には、第１特別図柄と第２特別図柄とで共通の内容が規定されており、その規定内容は、時短用テーブル２０２ｄα２（図８９８（ｂ）参照）における第２特別図柄の規定内容と同一である。よって、確変用テーブル２０２ｄα３が参照された場合、第１特別図柄の変動時間も第２特別図柄の変動時間も平均３秒となる。即ち、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される状態を形成する。このため、時短状態に比較して、確変状態では第１特別図柄の大当たりに当選する可能性がアップするため、大当たりに当選した場合に設定される遊技状態の面で、時短状態よりも確変状態の法が遊技者にとっての有利度合いが低

くなる。
【９００２】
＜第３０制御例における主制御装置の制御処理について＞
次に、図８９９から図９０２を参照して、本第３０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行される各種制御処理について説明する。まず、図８９９を参照して、本第３０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理３０（Ｙ３７１）の詳細について説明する。この第１特別図柄変動パターン選択処理３０（Ｙ３７１）は、上述した第２９制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）に代えて実行される処理であり、第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）と同様に、第１特別図柄の抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するための処理である。図８９９は、この第１特別図柄変動パターン選択処理３０（Ｙ３７１）を示すフローチャートである。
【９００３】
この第３０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理３０（図８９９参照）のうち、Ｙ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５５２の各処理では、それぞれ上述した第２９制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理２９（図８９０参照）のＹ５０１～Ｙ５０３，Ｙ５０５～Ｙ５０８、およびＹ５５２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第３０制御例における第１特別図柄変動パターン選択処理３０（図８９９参照）では、Ｙ５０３の処理が終了すると、現在の遊技状態に対応する変動パターンテーブルを特定して（Ｙ５６１）、処理をＹ５５２へと移行する。
【９００４】
なお、図示については省略したが、第２特別図柄変動パターン選択処理２９に代えて実行される第２特別図柄変動パターン選択処理３０についても、この第１特別図柄変動パターン選択処理３０（図８９９参照）のＹ５６１の処理と同様の処理によって変動パターンテーブルが読み出されるように変形されている。
【９００５】
次に、図９００を参照して、本第３０制御例における変動開始時更新処理３０（Ｙ３７２）の詳細について説明する。この変動開始時更新処理３０（Ｙ３７２）は、上述した第２９制御例（および第２８制御例）における変動開始時更新処理（図８７２参照）に代えて実行される処理であり、変動開始時更新処理（図８７２参照）と同様に、変動開始タイミングで遊技状態を更新するための処理である。図９００は、この変動開始時更新処理３０（Ｙ３７２）を示すフローチャートである。
【９００６】
この第３０制御例における変動開始時更新処理３０（図９００参照）のうち、Ｙ６３１～Ｙ６３３の各処理では、それぞれ上述した第２９制御例（および第２８制御例）における変動開始時更新処理（図８７２参照）のＹ６３１～Ｙ６３３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第３０制御例における変動開始時更新処理３０（図９００参照）が実行されると、まず、確変中カウンタ２０３αａの値が１であるか否かを判別し（Ｙ６４１）、確変中カウンタ２０３αａの値が１であると判別した場合は（Ｙ６４１：Ｙｅｓ）、確変中カウンタ２０３αａの値を１減算して０に更新し（Ｙ６４２）、時短状態への移行を示す状態コマンドを設定して（Ｙ６４３）、処理をＹ６３１へと移行する。一方、Ｙ６４１の処理において、確変中カウンタ２０３αａの値が１ではないと判別した場合は（Ｙ６４１：Ｎｏ）、確変回数を減算するタイミングではないことを意味するため、Ｙ６４２，Ｙ６４３の処理をスキップして、処理をＹ６３１へと移行する。
【９００７】
次に、図９０１を参照して、本第３０制御例における変動停止時更新処理３０（Ｙ７５１）の詳細について説明する。この変動停止時更新処理３０（Ｙ７５１）は、上述した第２９制御例（および第２８制御例）における変動停止時更新処理（図８７５参照）に代えて実行される処理であり、変動停止時更新処理（図８７５参照）と同様に、特別図柄の変動停止時に遊技状態を更新するために実行される処理である。図９０１は、この変動停止

時更新処理３０（Ｙ７５１）を示すフローチャートである。
【９００８】
この第３０制御例における変動停止時更新処理３０（図９０１参照）のうち、Ｙ６３５～Ｙ６３８の各処理では、それぞれ上述した第２９制御例（および第２８制御例）における変動停止時更新処理（図８７５参照）のＹ６３５～Ｙ６３８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第３０制御例における変動停止時更新処理３０（図９０１参照）が実行されると、まず、確変中カウンタ２０３αａの値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｙ６４５）、確変中カウンタ２０３αａの値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｙ６４５：Ｙｅｓ）、確変中カウンタ２０３αａの値を１減算して更新し（Ｙ６４６）、減算後の確変中カウンタ２０３αａの値が０になったか否かを判別する（Ｙ６４７）。Ｙ６４７の処理において、減算後の確変中カウンタ２０３αａの値が０になったと判別した場合は（Ｙ６４７：Ｙｅｓ）、時短状態への移行を示す状態コマンドを設定して（Ｙ６４８）、処理をＹ６３５へと移行する。これに対し、Ｙ６４７の処理において、減算後の確変中カウンタ２０３αａの値が０になっていない（１以上の値である）と判別した場合は（Ｙ６４７：Ｎｏ）、Ｙ６４８の処理をスキップして、処理をＹ６３５へと移行する。また、Ｙ６４５の処理において、確変中カウンタ２０３αａの値が０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｙ６４５：Ｎｏ）、確変回数を減算するタイミングではないことを意味するため、Ｙ６４６～Ｙ６４８の各処理をスキップして、処理をＹ６３５へと移行する。
【９００９】
次に、図９０２を参照して、本第３０制御例における大当たり制御処理３０（Ｙ１０４１）の詳細について説明する。この大当たり制御処理３０（Ｙ１０４１）は、上述した第２９制御例における大当たり制御処理２９（図８７９参照）に代えて実行される処理であり、大当たり制御処理２９（図８７９参照）と同様に、大当たり遊技の実行中における各種制御を実行するための処理である。図９０２は、この第３０制御例における大当たり制御処理３０（Ｙ１０４１）を示すフローチャートである。
【９０１０】
この第３０制御例における大当たり制御処理３０（図９０２参照）のうち、Ｙ１１６０１～Ｙ１１６１２，Ｙ１１６３３～Ｙ１１６３５、およびＹ１１６４１の各処理では、それぞれ上述した第２９制御例における大当たり制御処理２９（図８７９参照）のＹ１１６０１～Ｙ１１６１２，Ｙ１１６３３～Ｙ１１６３５、およびＹ１１６４１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第３０制御例における大当たり制御処理３０（図９０２参照）では、Ｙ１１６４１の処理において今回の大当たりが確変大当たりであると判別した場合に（Ｙ１１６４１：Ｙｅｓ）、確変中カウンタ２０３αａのカウンタ値に１０を、時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値に５０をそれぞれ設定して（Ｙ１１６６１）、処理をＹ１１６３３へと移行する。これに対し、Ｙ１１６４１の処理において、今回の大当たりが確変大当たりではない（通常大当たりである）と判別した場合は（Ｙ１１６４１：Ｎｏ）、時短中カウンタ２０３ｈのカウンタ値に２５を設定して（Ｙ１１６６２）、処理をＹ１１６３３へと移行する。
【９０１１】
＜第３０制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞
次に、図９０３を参照して、本第３０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される各種制御処理について説明する。図９０３は、本第３０制御例における状態コマンド受信処理３０を示すフローチャートである。この状態コマンド受信処理３０（Ｓ４２３１Ａ）は、上述した第２９制御例（および第５制御例）における状態コマンド受信処理５（図２６３参照）に代えて実行される処理であり、状態コマンド処理５（図２６３参照）と同様に、状態コマンドによって主制御装置１１０より通知された遊技状態を示す情報に応じた制御を行うための処理である。
【９０１２】
この第３０制御例における状態コマンド受信処理３０（図９０３参照）のうち、Ｓ９０

０１，Ｓ９００３，Ｓ９００５、およびＳ９００９の各処理では、それぞれ第２９制御例（および第５制御例）における状態コマンド受信処理５（図２６３参照）のＳ９００１，Ｓ９００３，Ｓ９００５、およびＳ９００９の各処理と同一の処理が実行される。また、本第３０制御例における状態コマンド受信処理３０（図９０３参照）では、Ｓ９００３の処理において通常状態への変更を示す状態コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ９００３：Ｙｅｓ）、通常状態用の演出態様を設定して（Ｓ９０２１Ａ）、本処理を終了する。

【９０１３】

また、本第３０制御例における状態コマンド受信処理３０（図９０３参照）では、Ｓ９００５の処理において、遊技状態が時短状態に変更されたことを示す状態コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ９００５：Ｙｅｓ）、チャンスタイムＢへの突入を示す演出態様を設定して（Ｓ９０２２Ａ）、本処理を終了する。更に、本第３０制御例における状態コマンド受信処理３０（図９０３参照）では、Ｓ９００９の処理において、遊技状態が確変状態に変更されたことを示す状態コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ９００９：Ｙｅｓ）、チャンスタイムＡへの突入を示す演出態様を設定して（Ｓ９０２３Ａ）、本処理を終了する。

【９０１４】

この状態コマンド受信処理３０（図９０３参照）を実行することにより、チャンスタイムの種別に応じた演出態様（図８９５参照）を設定することができるので、遊技者に対してチャンスタイムの種別に応じた遊技性を容易に理解させることができる。

【９０１５】

以上説明した通り、本第３０制御例におけるパチンコ機１０では、普通図柄の時短状態に設定される確変状態および時短状態において、実行され易い特別図柄の種別を異ならせる構成とすることで、双方の遊技状態に対して互いに異なるメリットを付与する構成とした。具体的には、確変状態においては、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行されるように制御する一方で、時短状態においては、第２特別図柄の抽選ばかりが実行される有利な状態を形成する構成とした。また、本第３０制御例では、確変状態において予め定められた第１回数の特別図柄の抽選が終了すると、確変状態が終了される仕様（所謂、ＳＴ型の確変状態）を採用した上で、確変状態が設定されてから特別図柄の高確率確変状態が終了するまでの回数（第１回数）よりも、普通図柄の時短状態が終了するまでの回数（第２回数）の方が多くなるように構成している。つまり、大当たり終了後の遊技状態として確変状態が設定されると、まず、大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第１回数（１０回）となるまでの間、確変状態が継続し、大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第１回数となることにより特別図柄の低確率状態に設定されることで遊技状態が時短状態に設定され、その後は大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が第２回数（５０回）となるまでの間、時短状態が継続するように構成されている。また、５０回の特別図柄の抽選が実行されると、普通図柄の時短状態も終了されて通常状態に設定される。このため、本第３０制御例では、確変大当たりが終了すると、まず、大当たり確率が通常よりも高い（１／２５）ものの、有利度合い（確変大当たりの割合）が低い第１特別図柄の抽選と有利度合い（確変大当たりの割合）が高い第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に（半々で）実行される確変状態を形成し、特別図柄の抽選回数が第１回数（１０回）に到達した場合は、大当たり確率が通常の確率（１／１００）になるものの、有利な第２特別図柄の抽選ばかりが実行される時短状態を形成する構成としている。これにより、互いに異なるメリット（大当たり確率、第２特別図柄抽選の頻度）を有して構成される確変状態および時短状態を順番に設定することができるので、途中で遊技性が切り替わる（メリット、デメリットが入れ替わる）斬新な動作を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【９０１６】

なお、本第３０制御例では、上述した第２８制御例や第２９制御例と同様に、一方の特別図柄が大当たりに対応する変動表示の実行中である場合に、他方の特別図柄の抽選が実

行されても大当たりに当選し得ない（完全外れまたは小当たりにのみ当選し得る）仕様を採用していたが、これに限られず、上述した第２７制御例等のように、一方の特別図柄の大当たり変動中でも、他方の特別図柄で大当たりを抽選可能に構成し、先に当たり図柄（小当たり又は大当たり図柄）で停止表示された側の特別図柄の抽選が有効となる（他方の特別図柄の変動表示が外れ図柄で強制停止される）仕様を採用してもよい。このように構成することで、特に、第１特別図柄の変動時間が第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長い時間（６０秒間）に設定される時短状態において第１特別図柄の大当たりに当選したとしても、その後に第２特別図柄の抽選で大当たりとなって第１特別図柄の大当たり変動を外れで強制停止させることが可能となるので、時短状態において有利な第２特別図柄の大当たりの発生割合をより向上させることができる。

【９０１７】

本第３０制御例では、確変状態においては第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される一方で、時短状態においては第１特別図柄の変動時間を第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くすることで有利度合いが高い第２特別図柄の抽選ばかりが実行されるように構成していたが、逆に、時短状態においては第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とがほぼ均等に実行される一方で、確変状態においては第１特別図柄の変動時間を第２特別図柄の変動時間に対して大幅に長くすることで有利度合いが高い第２特別図柄の抽選ばかりが実行されるように構成してもよい。このように構成することで、確変状態における優位性をより高めることができるので、確変状態の間に大当たりに当選することをより強く期待させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【９０１８】

本第３０制御例では、確変状態と時短状態とで第１特別図柄の変動時間を異ならせる（参照する変動パターンテーブルを異ならせる）ことで、有利度合いが低い第１特別図柄の抽選頻度を異ならせ、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する可能性を異ならせる構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、確変状態における前半と後半とで参照する変動パターンテーブルを異ならせ、確変状態の前半と後半とで遊技性を異ならせてもよい。このように構成することで、確変状態における遊技が単調となってしまうことを抑制することができる。

【９０１９】

本第３０制御例では、確変状態において第１回数（１０回）の特別図柄の抽選が実行されることで時短状態へと移行し、時短状態へと移行した後で第２回数（４０回）の特別図柄の抽選が実行されることで通常状態へと移行する構成としていたが、確変状態の継続回数は固定化しなくてもよい。例えば、確変状態において、特別図柄の抽選が実行される毎に、特別図柄の高確率状態から特別図柄の低確率状態へと転落させるか否かの抽選（転落抽選）を行う構成とし、転落抽選に当選して時短状態へと転落した場合に第１特別図柄の変動時間が長くなる（有利度合いが低い第１特別図柄の抽選頻度が低くなる）用に構成してもよい。このように構成することで、特別図柄の高確率状態から低確率状態に転落するという、一般的に喜ばしくない状況が発生した場合に、有利度合いが高い第２特別図柄の抽選頻度が高くなることによって、遊技者の落胆を緩和することができる。よって、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができる。

【９０２０】

＜第２６制御例の第１演出変形例＞

次に、図９１１から図９１３を参照して、上述した第２６制御例のパチンコ機１０において実行されるバトル演出（図８００参照）の変形例について説明をする。上述した第２６制御例では、遊技者が操作可能な演出ボタン２２（操作手段）に対して所定の操作（連打操作、又は長押し操作）が実行されたことに基づいて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値（段階情報）を減少（可変）させるバトル演出（操作演出）を実行可能に構成し、バトル演出の演出結果として敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」となる演出結果（遊技者に有利な演出結果）が表示された場合に、特別図柄抽選で大当たり当選したこと（遊技者に有利

な特典が付与されること）を遊技者に報知可能に構成していた。
【９０２１】
さらに、バトル演出が実行される演出期間のうち、遊技者が演出ボタン２２を有効に操作可能なＳＷ有効期間（操作有効期間）が設定されるよりも前の準備期間において、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を予め減少させる先制攻撃演出（図８００（ｂ）参照）を実行可能に構成し、今回のバトル演出の演出結果が遊技者に有利な演出である可能性が高いことを、操作有効期間が設定されるよりも前に遊技者に把握させることで意欲的に演出ボタン２２を操作させるように構成していた。
【９０２２】
しかしながら、上述した第２６制御例では、先制攻撃演出が実行されること無く（敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を事前に減少させること無く）ＳＷ有効期間が設定された場合には、同一のＳＷ有効期間内において敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」に向けて減少させるバトル演出が実行されるだけとなり、遊技者が演出ボタン２２を操作する操作意欲が徐々に低下してしまうという問題があった。
【９０２３】
これに対して、本変形例では、バトル演出リーチにて設定されるＳＷ有効期間の長さを可変可能に構成しており、バトル演出リーチの演出結果として、遊技者に有利な演出結果を表示可能な場合（対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合）において、遊技者に不利な演出結果が表示される場合（対応する特別図柄抽選の結果が外れである場合）よりも、長い期間のＳＷ有効期間が設定され易くするように構成している。
【９０２４】
このように構成することで、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が事前に減少されなかった場合であっても、演出ボタン２２への操作に基づいて敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させることが可能な期間（ＳＷ有効期間）の長さを異ならせることにより、今回のバトル演出の演出結果が遊技者に有利な演出である可能性が高いことを遊技者に予測させることが可能となる。
【９０２５】
また、バトル演出の演出結果として遊技者に有利な演出結果（敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値が「０」となる演出結果）を表示可能な場合に、長いＳＷ有効期間が設定され易く構成しているため、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」まで減少させるために要する期間を長くすることができ、遊技者に長時間の間、楽しんで演出ボタン２２を操作させ易くすることができる。
【９０２６】
さらに、本変形例では、通常のＳＷ有効期間（３秒）よりも長いＳＷ有効期間（５秒）が設定される場合において、長いＳＷ有効期間が設定される（された）ことを遊技者に報知する報知タイミングとして、複数の報知タイミングを設定可能に構成している。具体的には、実際にＳＷ有効期間が設定されるよりも前に、遊技者に対して長いＳＷ有効期間が設定されることを報知可能な第１報知タイミングと、実際にＳＷ有効期間が設定された後に、遊技者に対して長いＳＷ有効期間が設定されていることを報知可能な第２報知タイミングと、を設定可能に構成している。
【９０２７】
このように構成することで、長いＳＷ有効期間が設定される（された）ことを期待させながら遊技者にバトル演出リーチを楽しませることができ、演出効果を高めることができる。
【９０２８】
加えて、本変形例では、通常のＳＷ有効期間（３秒）よりも長いＳＷ有効期間（５秒）が設定される（された）ことを遊技者に報知するための報知態様として、通常のＳＷ有効期間（３秒）に対応する有効期間ゲージｇａ４を表示した後に、差分となるＳＷ有効期間期間（２秒）に対応する表示態様を表示可能に構成している。つまり、遊技者に対して、通常のＳＷ有効期間が設定されたと思わせた後に、長いＳＷ有効期間が設定されたことを

把握させることが可能となるように構成している。
【９０２９】
このように構成することで、長いＳＷ有効期間が設定されることを期待しながらバトル演出リーチを注視している遊技者に対して、意外性のある演出を提供することができる。また、最初から長いＳＷ有効期間（５秒）に対応する表示態様を表示する場合に比べて、通常と比してどの程度長いＳＷ有効期間が設定されたのかを視覚的に把握させることができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。
【９０３０】
＜第２６制御例の第１演出変形例における演出内容について＞
次に、図９１１を参照して、本第２６制御例の第１演出変形例にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。本第１演出変形例では、上述した第２６制御例に対して、バトル演出において実行される演出の内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その詳細な説明を省略する。
【９０３１】
本第１演出変形例においても、上述した第２６制御例と同様に、バトル演出において、第１パート演出（ＳＷ有効期間が設定されるよりも前に実行される演出）と、第２パート演出（演出ボタン２２への操作に基づいて、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させる演出）と、を実行可能に構成しており、第１パート演出中に実行される演出の内容を異ならせている。
【９０３２】
ここで、図９１１を参照して、本第１演出変形例におけるパチンコ機１０にて実行されるバトル演出リーチにおける第１パート演出の演出内容について説明をする。図９１１（ａ）は、第１パート演出として、味方キャラ８０１ａをパワーアップさせる演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図９１１（ａ）に示した通り、第１パート演出が実行されると、上述した第２６制御例の表示画面（図８００（ａ）参照）と同様に、味方キャラ８０１ａと、敵キャラ８８０ａとが対峙する表示態様が表示され、敵キャラ８８０ａのＨＰ値を示すためのＨＰゲージ８９０が表示される。なお、図９１１（ａ）に示した表示画面に表示される各種表示態様のうち、上述した第２６制御例と同一の表示態様については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【９０３３】
本第１演出変形例では、第１パート演出として、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を減少させる先制攻撃演出に加えて、味方キャラ８０１ａをパワーアップさせる攻撃補助演出を実行可能に構成しており、攻撃補助演出が実行された場合には、図９１１（ａ）に示した通り、天使を模したキャラクタ８０１ｄが表示され、キャラクタ８０１ｄによって味方キャラ８０１ａをパワーアップさせる演出が実行される。
【９０３４】
そして、攻撃補助演出によって味方キャラ８０１ａがパワーアップしたことを遊技者に案内するための表示態様として、味方キャラ８０１ａの周りにオーラ８０１ａ１が表示されると共に、副表示領域Ｄｓに「天使の加護でパワーアップ」のコメントが表示される。
【９０３５】
このように構成することで、第１パート演出として実行された演出の内容（攻撃補助演出）を遊技者に分かり易く報知することができる。また、図９１１（ａ）に示した表示画面が表示された状態は、攻撃補助演出によって味方キャラ８０１ａがパワーアップしたことを遊技者に報知した状態であるが、具体的にどのような演出効果が付与されたのかを遊技者が把握出来ないように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、攻撃補助演出によって付与される演出効果を予測する楽しみを提供することができる。
【９０３６】
次に、図９１１（ａ）が表示された後に実行される第２パート演出中に表示される表示画面の一例について、図９１１（ｂ）を参照して説明をする。図９１１（ｂ）は、第２パート演出中に長いＳＷ有効期間が設定されることを報知している表示画面の一例を示した

図である。
【９０３７】
図９１１（ｂ）に示した通り、第２パート演出では、第２パート演出よりも前に実行された第１パート演出にて表示された味方キャラ８０１ａの表示態様（オーラ８０１ａ１を纏った味方キャラ８０１ａ）が表示される。このように構成することで、第１パート演出の演出結果に応じた第２パート演出が実行されていることを遊技者に分かり易く報知することができる。図９１１（ｂ）では、第１パート演出の演出結果（攻撃補助演出の演出効果）として、第２パート演出中に設定されるＳＷ有効期間の長さとして、通常よりも長いＳＷ有効期間が設定されることを遊技者に報知するための表示態様を表示している。
【９０３８】
具体的には、演出ボタン２２が操作可能となることを示す表示用演出ボタンＳｗ６ｂの上方に「ロングボタン発生中！！」が表示され、ＳＷ有効期間の長さを示す有効期間ゲージｇａ４として、長いＳＷ有効期間（５秒）に対応した表示態様が表示される。そして、通常のＳＷ有効期間（３秒）との差分（２秒）を示す追加期間ゲージｇａ４ｃとして、特殊エフェクト（図では、発光を示す態様を表示）が付与された表示態様が表示される。
【９０３９】
なお、図９１１（ｂ）に示した状態は、第２パート演出中であって、ＳＷ有効期間が設定されていない状態であるため、表示用演出ボタンＳｗ６ｂの上方には、ＳＷ有効期間が設定される前（準備期間）であることを示すための「連打準備」の文字が表示されている。つまり、図９１１（ｂ）に示した表示態様が表示された場合には、実際にＳＷ有効期間が設定されるよりも前の段階で、今回設定されるＳＷ有効期間が通常よりも長いＳＷ有効期間であることを遊技者に報知することになる。よって、敵キャラ８８０ａの残ＨＰ値を「０」まで減少させようと、遊技者に対して、意欲的に演出ボタン２２を操作させ易くすることができる。
【９０４０】
また、通常のＳＷ有効期間との差分を示す追加期間ゲージｇａ４ｃに対して特殊エフェクトを施すことによって、今回のＳＷ有効期間が通常よりも長いことを遊技者に分かり易く報知することができると共に、その追加期間の長さを遊技者に視覚的に把握させ易くすることができる。
【９０４１】
次に、図９１２を参照して、本第１演出変形例のバトル演出リーチにおけるＳＷ有効期間の長さを遊技者に報知するための各表示態様について説明をする。上述した図９１１（ｂ）では、長いＳＷ有効期間が設定されることを、実際にＳＷ有効期間が設定されるタイミングよりも前のタイミング（第１報知タイミング）で遊技者に報知する場合の一例を示したものであり、第１報知タイミングにおいて長いＳＷ有効期間を示す有効期間ゲージｇａ４を表示する表示パターンを説明した。
【９０４２】
このように、第１報知タイミングで長いＳＷ有効期間が設定されることを報知することによって、実際にＳＷ有効期間が設定されるよりも前に長いＳＷ有効期間が設定されることを遊技者に報知することができるため、遊技者に有利な演出結果となり易い状況であることを把握させた状態で演出ボタン２２を意欲的に操作させることができる。
【９０４３】
しかしながら、図９１１（ｂ）を参照して上述した例では、ＳＷ有効期間の長さを示す有効期間ゲージｇａ４が表示された段階で追加期間ゲージｇａ４ｃが表示されていない場合には、設定されたＳＷ有効期間の長さが通常の長さ（３秒）であることが確定してしまうため演出効果が低下してしまうという問題があった。
【９０４４】
これに対して、本第１演出変形例では、図９１２（ａ）に示した通り、第１報知タイミングにて長いＳＷ有効期間が設定されることを報知する場合において、一旦、通常のＳＷ有効期間を示す有効期間ゲージｇａ４を表示し、その後、追加期間ゲージｇａ４ｃを表示

させるように構成している（図９１２（ｂ）参照）。つまり、図９１１（ｂ）に示した演出態様とは異なり、ＳＷ有効期間が設定されることを報知するタイミングと、長いＳＷ有効期間が設定されることを報知するタイミングと、を異ならせる時間差演出態様で長いＳＷ有効期間が設定されることを第１報知タイミングで報知可能に構成している。

【９０４５】

このように構成することで、第１報知タイミングにて長いＳＷ有効期間が設定されることを報知する演出が実行された場合において、遊技者に対して、長いＳＷ有効期間が設定されることをより長い間期待させることが可能となる。また、長いＳＷ有効期間が設定されない場合であっても、図９１２（ａ）が表示された時点では、長いＳＷ有効期間が設定されること、即ち、追加期間ゲージｇａ４ｃが遅れて表示される可能性を残すことができるため、実行されるバトル演出リーチに対して遊技者が早期に興味を無くしてしまうことを抑制することができる。

【９０４６】

ここで、図９１２（ａ），（ｂ）を参照して、第１報知タイミングにて実行される時間差演出態様の具体的な表示内容について説明をする。図９１２（ａ）は、長いＳＷ有効期間が設定されることを示すロングボタン表示として時間差演出態様が設定された場合の前半期間に表示される表示画面の一部を示した図であって、図９１２（ｂ）は、時間差演出態様が設定された場合の後半期間における表示画面の一部を示した図である。

【９０４７】

バトル演出リーチの第２パート演出として、時間差演出態様が設定された場合には、図９１２（ａ）に示した通り、ＳＷ有効期間が設定されることを報知するための表示態様として、前半期間では、通常のＳＷ有効期間が設定されることを報知するための表示態様（図８０１（ａ）参照）と同一の表示態様が表示される。なお、図９１２（ａ）に示した表示態様は、上述した第２６制御例のバトル演出リーチの表示例を示した図８０１（ａ）と同一であるため、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【９０４８】

そして、前半期間が経過すると、図９１２（ｂ）に示した通り、今回設定されるＳＷ有効期間が長いＳＷ有効期間であることを遊技者に報知するための表示態様として、有効期間ゲージｇａ４に追加期間ゲージｇａ４ｃが追加表示され、表示用演出ボタンＳｗ６ｂには、長いＳＷ有効期間が設定されていることを示すロングボタン表示態様として、炎Ｓｗ６ａを纏った表示態様が表示される。そして、「ロングボタン発生！！」の文字と、「期間延長！！」の文字が表示され、連打操作可能なＳＷ有効期間が通常よりも長いことが遊技者に報知される。

【９０４９】

なお、図９１２（ｂ）に示した表示画面が表示されるタイミングは、ＳＷ有効期間が設定されるよりも前のタイミングであり、有効期間ゲージｇａ４を用いて示される残有効期間ｇａ４ａが減少していない状態であるため、追加期間ゲージｇａ４ｃが有効期間ゲージｇａ４の右側に表示される。このように構成することで、残有効期間ｇａ４ａの長さが追加期間ゲージｇａ４ｃ分延長されたことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【９０５０】

また、追加期間ゲージｇａ４ｃの表示態様（表示色）が、残有効期間ｇａ４ａの表示態様（表示色）と同一となるように構成している。このように構成することで、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示された場合に、残有効期間ｇａ４ａが増加したことを遊技者により分かり易く報知することができる。なお、追加期間ゲージｇａ４ｃの表示態様（表示色）を、残有効期間ｇａ４ａとは異なる表示態様（表示色）で表示しても良い。このように構成することで、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示されてから実際にＳＷ有効期間が設定されるまでの間の期間において、残有効期間ｇａ４ａがどの程度増加したのかを、残有効期間ｇａ４ａの長さと、追加期間ゲージｇａ４ｃの長さとを見比べることで予測させ易くすることができる。

【９０５１】

また、本第１演出変形例では、上述した第２６制御例と同様に、残有効期間ｇａ４ａを示すゲージの長さ、及び、そのゲージの減少度合いを用いて、ＳＷ有効期間の残期間を遊技者に把握させる構成を用いているが、これに限ること無く、具体的な数値を用いて表示しても良い。この場合、残有効期間ｇａ４ａを示す数値に対して追加期間ゲージｇａ４ｃが示す長さに対応する数値を加算するように構成すれば良い。

【９０５２】

さらに、残有効期間ｇａ４ａの表示態様が、残有効期間の長さに応じて可変するように構成されている場合、例えば、残有効期間ｇａ４ａが減少していない状態では「青」、残有効期間ｇａ４ａが５０％以上減少した状態では「黄」、残有効期間ｇａ４ａが９０％以上減少した状態では「赤」となるように、表示態様が可変するように構成されている場合であれば、追加期間ゲージｇａ４ｃの表示態様として「白」を表示し、追加期間ゲージｇａ４ｃにて追加表示された分の残期間が減少した場合（追加期間ゲージｇａ４ｃが表示される前の残有効期間ｇａ４ａ分の残期間となった場合）に、「青」で表示されるように構成すると良い。このように構成することで、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示された場合と、表示されなかった場合とで、残有効期間ｇａ４ａの残りの長さと、表示態様の可変態様との関係を統一することができるため、残有効期間を示すための表示態様を設定する処理を簡素化することができる。

【９０５３】

また、これに限ること無く、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示された場合であっても、残有効期間ｇａ４ａの減少割合に応じて「青」、「黄」、「赤」の順で表示態様が可変するように構成しても良い。このように構成することで、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示された場合と、表示されなかった場合とで、ＳＷ有効期間が設定されてからの経過時間と、ＳＷ有効期間の残有効期間との関係性（比率）を、同一の表示態様で遊技者に報知することができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【９０５４】

以上、図９１２（ａ）、及び（ｂ）を参照して説明をした、第１報知タイミングにてＳＷ有効期間の長さを報知する演出態様では、実際にＳＷ有効期間が設定されるよりも前に、設定されるＳＷ有効期間の長さを遊技者に報知する演出態様であったため、実際にＳＷ有効期間が設定されるまでの間、遊技者に長いＳＷ有効期間が設定されることを期待させることができるものであったが、実際にＳＷ有効期間が設定された時点で今回のＳＷ有効期間の長さを遊技者に把握されてしまうため、短いＳＷ有効期間が設定されたと把握した遊技者が、ＳＷ有効期間中に演出ボタン２２を意欲的に操作しない虞があった。

【９０５５】

これに対して、本第１演出変形例では、上述した第１報知タイミング、即ち、実際にＳＷ有効期間が設定される前のタイミングだけでは無く、実際にＳＷ有効期間が設定された後の所定タイミング（第２報知タイミング）においても、追加期間ゲージｇａ４ｃを表示可能に構成している。ここで、図９１２（ｃ）、及び（ｄ）を参照して、第２報知タイミングにて追加期間ゲージｇａ４ｃが表示される場合の表示内容について説明をする。

【９０５６】

図９１２（ｃ）は、長いＳＷ有効期間が設定されることを示すロングボタン表示として第２報知タイミングにてロングボタン表示が実行される場合のＳＷ有効期間の前半期間に表示される表示画面の一部を示した図であって、図９１２（ｄ）は、第２報知タイミングにてロングボタン表示が実行される場合のＳＷ有効期間の後半期間における表示画面の一部を示した図である。

【９０５７】

図９１２（ｃ）に示した通り、第２報知タイミングにおいて追加期間ゲージｇａ４ｃが表示される場合には、ＳＷ有効期間が設定された後、即ち、遊技者が連打操作を実行している期間においても、通常の長さの有効期間ゲージｇａ４が継続して表示され、経過時間に応じて残有効期間ｇａ４ａが減少する可変表示が実行される。つまり、実際には長いＳＷ有効期間が設定されているにも関わらず、第３図柄表示装置８１の表示画面には、長い

ＳＷ有効期間が設定されていることを遊技者が把握困難な表示態様が表示される。
【９０５８】
その後、残有効期間ｇａ４ａが５０％以下まで減少すると、追加期間ゲージｇａ４ｃが表示される。この場合、図９１２（ｄ）に示した通り、既にＳＷ有効期間が設定された後であって、経過時間ｇａ４ｂが表示されている状態であるため、第１報知タイミングとは異なり、追加期間ゲージｇａ４ｃが有効期間ゲージｇａ４の左側に接続するように表示される。
【９０５９】
このように構成することで、ＳＷ有効期間が設定された後に、追加期間ゲージｇａ４ｃを表示する場合であっても（第２報知タイミングで長いＳＷ有効期間が設定されていることを遊技者に報知する場合であっても）、追加期間ゲージｇａ４ｃと、残有効期間ｇａ４ａと、を連続させて表示することができるため、遊技者に対して、残有効期間ｇａ４ａが増加したことを分かり易く把握させることができる。
【９０６０】
なお、本第１演出変形例では、第２報知タイミング（ＳＷ有効期間が設定された後のタイミング）にて、長いＳＷ有効期間が設定されていることを遊技者に報知する場合に、有効期間ゲージｇａ４の近傍（左側）に追加期間ゲージｇａ４ｃを表示するように構成しているため、今回設定されたＳＷ有効期間の長さ（最初に表示された有効期間ゲージｇａ４と、追加期間ゲージｇａ４ｃとを合算した長さ）を、ＳＷ有効期間が設定されている状態において遊技者に容易に把握させることができるものであるが、これ以外の構成を用いても良く、例えば、追加期間ゲージｇａ４ｃにて示されるＳＷ有効期間の長さに対応する期間分（通常の長さのＳＷ有効期間（３秒）と、長いＳＷ有効期間（５秒）との差分である２秒分）、残有効期間ｇａ４ａを増加させる（図９１２（ｃ）においては、残有効期間ｇａ４ａの右端ラインを右方向へ移動させる）ように表示しても良い。このように構成することで、時間経過に応じて減少（図９１２（ｃ）においては、残有効期間ｇａ４ａの右端ラインを左方向への移動）していく残有効期間ｇａ４ａが、増加していくように表示されるため、ＳＷ有効期間の残期間が増加したことを遊技者に容易に把握させることができる。
【９０６１】
また、この場合、残有効期間ｇａ４ａの表示態様として、表示面に表示されるＳＷ有効期間の残期間として、残期間が増加する前の表示態様と、増加した後の表示態様と、を異ならせると良く、例えば、残期間が増加する前の表示態様として残有効期間ｇａ４ａの表示色を「黄」とし、残期間が増加する前の表示態様として残有効期間ｇａ４ａの表示色を「白」とするように構成すると良い。このように構成することで、残有効期間ｇａ４ａの表示態様を遊技者が把握することにより、ＳＷ有効期間の残期間を示す残有効期間ｇａ４ａが増加し得る状態であるか否かを分かり易く把握させることができる。
【９０６２】
なお、本第１演出変形例では、第２報知タイミングにて実際に設定されているＳＷ有効期間の長さを報知する場合に、ＳＷ有効期間の長さを示す表示態様を１回のみ追加表示する構成を記載しているが、ＳＷ有効期間の残期間の長さを複数回に分けて追加表示するように構成しても良い。このように構成することで、第２報知タイミングにおいてＳＷ有効期間の残期間の長さが追加表示された場合であっても、更に、ＳＷ有効期間の残期間の長さが追加表示される可能性を残すことができるため、遊技者に対して、より長いＳＷ有効期間が設定されていることを期待させながら遊技を行わせ易くすることができる。
【９０６３】
また、本第１演出変形例では、設定可能なＳＷ有効期間の長さとして、通常のＳＷ有効期間（３秒）と、長いＳＷ有効期間（５秒）と、の何れかを設定可能に構成しているが、長さの異なる３つ以上のＳＷ有効期間の中から１のＳＷ有効期間を選択して設定可能に構成しても良い。
【９０６４】

このように構成することで、既に表示されているＳＷ有効期間の長さを途中で増加させた場合、即ち、１の長さのＳＷ有効期間が表示されている状態で、１の長さとは異なる長さ（１の長さよりも長い）のＳＷ有効期間を表示した場合において、１の長さとは異なる長さのＳＷ有効期間と、実際に設定されているＳＷ有効期間とが異なる状況を創出することができるため、遊技者に対して、より長いＳＷ有効期間が設定されていることを期待させながら遊技を行わせ易くすることができる。

【９０６５】

加えて、本第１演出変形例では、実行に設定されているＳＷ有効期間の長さと、遊技者に報知しているＳＷ有効期間の長さ（表示されている有効期間ゲージｇａ４の長さ）と、を異ならせる構成として、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも短い長さ（実際に設定されているＳＷ有効期間の少なくとも一部を含む期間の長さ）を遊技者に報知可能に構成しているが、これに限ること無く、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも長い期間（疑似期間）をＳＷ有効期間の長さとして表示可能に構成しても良い。

【９０６６】

このように構成することで、遊技者に表示されたＳＷ有効期間の長さ（疑似期間の長さ）の方が、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも長い状況を創出することができるため、ＳＷ有効期間の長さを示す表示態様（有効期間ゲージｇａ４）が表示された場合において、その有効期間ゲージｇａ４が示すＳＷ有効期間の長さが、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも長い可能性を考慮して、実際に設定されているＳＷ有効期間が経過するよりも前に意欲的に演出ボタン２２を操作させることができる。

【９０６７】

なお、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも長い期間（疑似期間）をＳＷ有効期間の長さとして表示可能に構成した場合には、表示されている疑似期間の長さが、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さと合致するように、表示されている疑似期間の長さを短縮させる短縮表示演出を実行可能に構成すると良く、例えば、疑似期間として表示されている有効期間ゲージｇａ４における残有効期間ｇａ４ａの減少速度が、実際のＳＷ有効期間の減少速度よりも早くなるように構成することで、少なくとも、実際のＳＷ有効期間の残有効期間が０となるよりも前の段階で、疑似期間が示すＳＷ有効期間の残有効期間の長さが、実際のＳＷ有効期間の長さと合致するように構成すると良い。

【９０６８】

このように構成することで、疑似期間として有効期間ゲージｇａ４が表示された時点では、残有効期間ｇａ４ａが通常の減少速度で減少することを前提として実際に設定されているＳＷ有効期間の長さよりも長いＳＷ有効期間が設定されると遊技者に思わせた状態から、通常よりも早い減少速度で残有効期間ｇａ４ａが減少表示される演出が実行される。よって、遊技者に対して残有効期間ｇａ４ａの減少速度についても興味を持たせることができる。

【９０６９】

また、短縮表示演出として、既に表示されている残有効期間ｇａ４ａの一部領域を非表示（削除）する演出を実行することによって、疑似期間を示す有効期間ゲージｇａ４を、実際に設定されているＳＷ有効期間の長さに対応する表示態様へと可変表示させるように構成しても良い。このように構成することで、残有効期間ｇａ４ａの減少速度を異ならせること無く、疑似期間を示す有効期間ゲージｇａ４を、実際に設定されているＳＷ有効期間を示す有効期間ゲージｇａ４へと可変させることが可能となる。よって、残有効期間ｇａ４ａの減少速度を異ならせる制御を実行する必要が無くなるため、残有効期間ｇａ４ａの表示制御処理を簡素化することができる。

【９０７０】

＜第２６制御例における第１演出変形例の制御処理内容について＞

次に、図９１３を参照して、本第１演出変形例のパチンコ機１０において実行される制御処理のうち、上述した第２６制御例のパチンコ機１０において実行される制御処理と異なる処理内容について説明をする。

【９０７１】
本第１演出変形例では、上述した第２６制御例に対して、バトル演出の演出内容（演出態様）を異ならせている点で相違しており、バトル演出の演出内容を決定するための制御処理の内容を異ならせている。具体的には、上述した第２６制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される時短状態演出態様決定処理２６（図８１９のＦ３０５１参照）に代えて、時短状態演出態様決定処理２６ａ（図９１３のＦ３０５１ａ参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容については詳細な説明を省略する。
【９０７２】
図９１３は、時短状態演出態様決定処理２６ａ（Ｆ３０５１ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短状態演出態様決定処理２６ａ（Ｆ３０５１ａ）は、時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果を示すための各種変動演出の演出態様や、時短状態が終了することを示唆するための示唆演出の演出態様を決定し、決定した演出態様に対応した各種演出を第３図柄表示装置８１の表示画面に表示させるための表示用コマンドを設定するための処理が実行されるものであって、上述した第２６制御例における時短状態演出態様決定処理２６（図８１９のＦ３０５１参照）に対して、バトル演出の演出態様を決定する処理（Ｆ４２０６参照）の処理内容を変更した点と、バトル演出中に設定されるＳＷ有効時間（操作有効期間）を決定するための処理（Ｆ４２０１ａ～Ｆ４２０３ａ）を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容に対しては同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【９０７３】
時短状態演出態様決定処理２６ａ（Ｆ３０５１ａ）が実行されると、まず、上述した第２６制御例における時短状態演出態様決定処理２６（図８１９のＦ３０５１参照）と同一のＦ４２０１～Ｆ４２１１の処理を実行する。そして、Ｆ４２１０の処理を終えると、次に、演出パターンに対応した操作有効期間の設定情報を判定し（Ｆ４２０１ａ）、判定した設定情報が、長時間の操作有効期間に対応する設定情報であるかを判別する（Ｆ４２０２ａ）。
【９０７４】
Ｆ４２０２ａの処理において、長時間では無い、即ち、通常の長さの操作有効期間を示す設定情報であると判別した場合は（Ｆ４２０２ａ：Ｎｏ）、そのまま、Ｆ４２１２の処理を実行し、本処理を終了する。
【９０７５】
一方、Ｆ４２０２ａの処理において、長時間であると判別した場合、即ち、通常よりも長い操作有効期間を示す設定情報であると判別した場合は（Ｆ４２０２ａ：Ｙｅｓ）、ロングボタンの報知タイミングを抽選で決定し（Ｆ４２０３ａ）、Ｆ４２１２の処理を実行し、本処理を終了する。
【９０７６】
以上、説明をした通り、本第１演出変形例では、変動演出を決定する処理（時短状態演出態様決定処理２６ａ（図９１３のＦ３０５１ａ参照））において、操作有効期間を決定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、操作有効期間中に実行された操作内容に基づいて、操作有効期間を増加させるか否かを決定する処理を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、より多くの操作有効期間が設定されるように遊技者に意欲的に操作手段を操作させることができる。
【９０７７】
また、この場合、増加した操作有効期間中における操作手段への操作に基づいてのみ遊技者に付与可能な特典を設けても良く、例えば、バトル演出の演出結果として、「敗北」、「勝利」、「敵逃亡」の３つの演出結果を設定可能に構成し、特別図柄抽選の結果が外れである場合には「敗北」が、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合には「勝利」、或いは「敵逃亡」が決定されるように構成する。加えて、検出結果として「勝利」が決定された場合には、大当たり当選を示す特典だけで無く、大当たり遊技の内容が遊技者に有

利な大当たり遊技（ラウンド数が多い大当たり遊技）や、大当たり遊技終了後に遊技者に有利な有利遊技状態（確変状態）が設定されることを示す第２特典も報知するように構成する。

【９０７８】

そして、増加した操作有効期間中に操作手段を操作した場合の方が、増加する前の操作有効期間中にのみ操作手段を操作した場合よりもバトル演出の演出結果として「勝利」が決定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に意欲的に操作手段を操作させることができる。

【９０７９】

また、増加した操作有効期間中に操作手段を操作したことに基づいて、既に決定されている大当たり遊技の内容を、遊技者に有利な内容へと切り替え可能（例えば、大当たり遊技のラウンド数を増加させたり、大当たり遊技終了後に確変状態を設定したりする）に構成しても良い。

【９０８０】

さらに、操作有効期間中における操作継続時間の経過に応じて演出態様を可変させる可変シナリオを予め規定しているパチンコ機１０においては、操作有効期間が延長された場合にのみ参照される箇所（操作有効期間が延長した場合にのみ継続させることが可能な操作継続時間に対応するシナリオ内容）に、演出態様を大当たり当選を示す特定態様へと可変させる内容が規定されているシナリオを設定可能に構成し、特別図柄抽選の結果に基づいて、操作有効期間の延長の有無を決定するように構成しても良い。

【９０８１】

このように構成することで、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合と、外れである場合とで同一シナリオを用いることができ、パチンコ機１０の処理負荷を軽減することができる。

【９０８２】

＜第２６制御例における第２演出変形例＞

次に、図９１４から図９１９を参照して、上述した第２６制御例におけるパチンコ機１０にて実行される第２演出変形例として、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出について説明をする。

【９０８３】

本第２演出変形例では、上述した第１８制御例と同様に、大当たり遊技演出として、実行中の大当たり遊技内容と、既に獲得済みの特別図柄保留（特別図柄抽選に用いられる入賞情報）に対する先読み結果と、に基づいて、実行中の大当たり遊技にて獲得可能な賞球の払い出し数を報知する上乗せ演出と、連続して大当たり遊技が実行されることを報知する保留連演出と、を実行可能に構成している。

【９０８４】

さらに、本第２演出変形例では、大当たり遊技が開始された時点で獲得している特別図柄保留の先読み結果として、大当たり当選する特別図柄保留を有していると判別した場合に、次に実行される大当たり遊技の内容も含めて、実行中の大当たり遊技に対する上乗せ演出を実行可能に構成している。具体的には、実行中の大当たり遊技が、ラウンド遊技が４回実行される４Ｒ大当たり遊技であって、先読みした特別図柄保留内に、ラウンド遊技が６回実行される６Ｒ大当たり遊技が実行される特別図柄抽選の抽選結果となる入賞情報が含まれている場合に、ラウンド遊技が１０回実行される１０Ｒ大当たり遊技に対応する払い出し数を疑似的に報知する疑似上乗せ演出を実行可能に構成している。

【９０８５】

このように構成することで、実際に実行される大当たり遊技の実行回数や、１回の大当たり遊技にて実行される大当たり遊技のラウンド数と、大当たり遊技演出として遊技者に報知される大当たり遊技の内容と、を異ならせることができる。

【９０８６】

また、本第２演出変形例では、実際に実行される大当たり遊技の実行回数や、１回の大

当たり遊技にて実行される大当たり遊技のラウンド数と、大当たり遊技演出として遊技者に報知される大当たり遊技の内容と、を異ならせる手法として、１回の大当たり遊技が実行されている期間中に、疑似的に保留連演出（疑似保留連演出）を実行可能に構成している。

【９０８７】

加えて、本第２演出変形例では、実行される大当たり遊技の種別（ラウンド数）に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として、遊技者に有利な遊技状態（確変状態）が設定される割合を異ならせており、疑似上乗せ演出にて報知される払い出し数（ラウンド数）や、疑似保留連演出にて実行される後者の大当たり遊技内容（ラウンド数）を、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態に基づいて決定可能に構成している。

【９０８８】

例えば、１０Ｒ大当たり遊技の終了後には必ず確変状態が設定されるように構成されている場合であれば、疑似上乗せ演出として１０ラウンド分の払い出し数が表示される演出態様の設定条件が、大当たり遊技の終了後（２回目の大当たり遊技の終了後）に確変状態が設定される場合に成立するように構成している。

【９０８９】

つまり、実際に実行される大当たり遊技の内容と異なる内容の大当たり遊技演出を疑似的に実行する場合において、疑似的に実行された大当たり遊技演出の内容と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態との関係性に矛盾が生じないように構成している。このように構成することで、実際に実行される大当たり遊技の内容と異なる内容の大当たり遊技演出を疑似的に実行した場合であっても、疑似的に実行された大当たり遊技演出の内容について遊技者が違和感を持ち難くすることができる。

【９０９０】

＜第２６制御例の第２演出変形例における演出内容について＞

次に、図９１４から図９１６を参照して、本第２演出変形例において実行される大当たり遊技演出の演出内容について説明をする。図９１４（ａ）は、大当たり遊技演出の一部である上乗せ演出にて表示される表示画面の一例を示した図であって、図９１４（ｂ）は、上乗せ演出の演出結果が表示される表示画面の一例を示した図である。なお、大当たり遊技演出の表示画面のうち、上述した第１８制御例におけるパチンコ機１０の大当たり遊技演出（図６０７（ａ）参照）にて表示される表示要素と同一の表示要素については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【９０９１】

図９１４（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ８に、特別図柄が大当たり当選したことを示す表示態様が表示され、特別図柄の大当たりに当選したことを遊技者が認識できるように構成している。また、小表示領域Ｄｍ４には「右打ち」と表示されることで、大当たり遊技における遊技方法を遊技者に分かり易く案内する構成としている。

【９０９２】

小表示領域Ｄｍ１４には、大当たり遊技の連チャン回数が表示される。なお、小表示領域Ｄｍ１４に表示される連チャン回数は、実際の大当たり遊技回数では無く、大当たり遊技演出が実行された回数（大当たり遊技連チャン回数）が表示される。このように構成することで、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出を実行することによって、実際に実行された大当たり遊技の回数と、実行された大当たり遊技演出の回数と、が異なった場合であっても、実行された大当たり遊技演出の回数に対応させて小表示領域Ｄｍ１４に表示されている連チャン回数を更新することができるため、遊技者に違和感の無い大当たり遊技演出を実行することができる。

【９０９３】

また、小表示領域Ｄｍ１５には、実行中の大当たり遊技演出に対応したラウンド数が表示される。つまり、疑似上乗せ演出が実行され、複数回の大当たり遊技を跨いだ大当たり遊技演出が実行された場合には、小表示領域Ｄｍ１５に、疑似上乗せ演出に対応させたラウンド数が表示されるように構成している。このように構成することで、複数回の大当た

り遊技を跨いで疑似上乗せ演出が実行された場合において、２回目以降の新たな大当たり遊技が開始される毎に小表示領域Ｄｍ１５に表示されるラウンド数として「ラウンド１」が表示されることが無く、遊技者に違和感の無い大当たり遊技演出を実行することができる。

【９０９４】

また、表示画面の右上側には、表示領域ＨＲ６０が形成される。この表示領域ＨＲ６０は、大当たり遊技中に払い出し可能な賞球数の総数が表示される表示領域ＨＲ６０ａと、既に払い出された賞球数が表示される表示領域ＨＲ６０ｂと、から構成され、実行中の大当たり遊技においてどの程度の賞球を獲得可能であるかを遊技者に事前に報知可能に構成している。

【９０９５】

なお、表示領域ＨＲ６０に表示される各種値についても、上述した小表示領域Ｄｍ１４、及び小表示領域Ｄｍ１５に表示される各表示態様と同様に、実際に実行される大当たり遊技の内容では無く、実行中の大当たり遊技演出に対応した値が表示されるように構成している。つまり、疑似上乗せ演出が実行され、複数回の大当たり遊技を跨いだ大当たり遊技演出が実行された場合には、疑似上乗せ演出にて報知された払い出し可能な賞球数の総数が表示領域ＨＲ６０ａに表示され、実行されている大当たり遊技演出中に獲得した賞球数が表示領域ＨＲ６０ｂに表示されるように構成している。このように構成することで、実行されている大当たり遊技演出の内容に対応付いた値を表示領域ＨＲ６０に表示することができるため、遊技者に違和感の無い大当たり遊技演出を実行することができる。

【９０９６】

図９１４（ａ）は、通常状態にて実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行されている１０Ｒ大当たり遊技の１ラウンド目において実行される上乗せ演出にて表示される表示画面の一例を示した図であって、大当たり遊技中に実行すべき遊技方法が右打ち遊技であることを遊技者に案内するための「右打ち」の文字が小表示領域Ｄｍ４に表示され、大当たり当選した場合に停止表示された第３図柄の停止表示態様（図柄の組合せ）として「４４４」が小表示領域Ｄｍ８に表示されている。

【９０９７】

また、通常状態にて大当たり当選したことに基づく大当たり遊技（１回目の大当たり遊技）であることを示すための「大当たり×１」が小表示領域Ｄｍ１４に表示され、現在が１回目のラウンド遊技（１ラウンド目）であることを示すための「ラウンド１」の文字が小表示領域Ｄｍ１５に表示されている。また、本第２演出変形例におけるパチンコ機１０にて実行され得る大当たり遊技の最小ラウンド数（４ラウンド）で遊技者に払い出し可能な賞球数の総数として「６００」の値が表示領域ＨＲ６０ａに表示され、実行中の１ラウンド目のラウンド遊技中に既に獲得した賞球数として「６０」の値が表示領域ＨＲ６０ｂに表示されている。

【９０９８】

ここで、詳細な内容は、上述した第１８制御例と同一であるため省略するが、本第２演出変形例におけるパチンコ機１０では、大当たり遊技中に遊技球が入賞可能となる特定入賞口６５ａに遊技球が１個入賞したことに応じて１５個の賞球が払い出されるように構成しており、特定入賞口６５ａに１０個の遊技球が入球した場合、或いは、ラウンド遊技期間が３０秒経過した場合に１のラウンド遊技の終了条件が成立するように構成している。

【９０９９】

よって、図９１４（ａ）に示した例では、表示領域ＨＲ６０ａに、４ラウンドのラウンド遊技にて特定入賞口６５ａへと入賞させることが可能となる入賞数４０個に、賞球数１５個を乗じた値に対応する「６００Ｐ」が表示されている。また、１ラウンド目のラウンド遊技中に、４個の遊技球が特定入賞口６５ａに入賞している状態を示しているため、入賞数４個に賞球数１５個を乗じた値に対応する「６０Ｐ」が表示領域ＨＲ６０ｂに表示されている。

【９１００】

そして、主表示領域Ｄｍの中央部では、実行中の大当たり遊技中に獲得可能となる賞球数の総数（表示領域ＨＲ６０ａに表示されている値）を増加（上乗せ）させるための上乗せ演出が実行される表示領域ＨＲ６１が形成され、副表示領域Ｄｓには、上乗せ演出が実行されたことを示すための「払い出し数上乗せチャンス」の文字が表示されている。

【９１０１】

上乗せ演出が実行されると、表示領域ＨＲ６１にて表示領域ＨＲ６０ａに表示される値（Ｐ）に対する増加分の値（Ｐ）を示すための数値情報を含む複数の数値情報が動的表示され、停止表示された数値情報に対応する値が、表示領域ＨＲ６０ａに追加表示される演出が実行される。

【９１０２】

ここで、表示領域ＨＲ６１にて動的表示される複数の数値情報は、実際に実行され得る大当たり遊技の種別（ラウンド数）に対応する数値情報であり、例えば、６ラウンドの大当たり遊技に対応する数値情報として、６ラウンド分の賞球総数から、４ラウンド分の賞球総数、つまり、既に表示領域ＨＲ６０ａに表示されている値に対応する賞球総数を除した値に対応する「３００Ｐ」が、８ラウンドの大当たり遊技に対応する数値情報として、８ラウンド分の賞球総数から、４ラウンド分の賞球総数、つまり、既に表示領域ＨＲ６０ａに表示されている値に対応する賞球総数を除した値に対応する「６００Ｐ」が、６ラウンドの大当たり遊技に対応する数値情報として、６ラウンド分の賞球総数から、１０ラウンド分の賞球総数、つまり、既に表示領域ＨＲ６０ａに表示されている値に対応する賞球総数を除した値に対応する「９００Ｐ」がまた、４ラウンドの大当たり遊技に対応する数値情報として、「０Ｐ」が、遊技者が視認可能な程度の早さで動的表示されている。

【９１０３】

このように構成することで、上乗せ演出が実行された後の賞球総数（表示領域ＨＲ６０ａに表示される値）が、大当たり遊技の各種別に対応する値となるため、上乗せ演出によって、実行中の大当たり遊技の種別（ラウンド数）が報知されていると遊技者に思わせ易くすることができる。

【９１０４】

よって、複数回の大当たり遊技を跨いで実行される疑似上乗せ演出が実行された場合であっても、遊技者には、１回の大当たり遊技としてラウンド数が大きい大当たり遊技が実行されたと思わせ易くすることができる。

【９１０５】

図９１４（ａ）にて表示されている上乗せ演出が終了し、表示領域ＨＲ６１に演出結果が表示されると、図９１４（ｂ）に示した上乗せ演出の演出結果表示画面が表示される。図９１４（ｂ）では、実行中の大当たり遊技が１０ラウンド大当たり遊技であるため、上乗せ演出の演出結果として、表示領域ＨＲ６１に「＋９００Ｐ」が表示され、表示領域ＨＲ６０ａの値として「９００Ｐ」が加算された「１５００Ｐ」が表示される。

【９１０６】

そして、今回の演出結果が遊技者に最も有利な演出結果（実行し得る最大ラウンド数の大当たり遊技（ＭＡＸ大当たり遊技）であることを示す演出結果）であることを示すための表示態様として「ＭＡＸ」の文字が、表示領域ＨＲ６１の下方近傍に表示され、副表示領域Ｄｓには「限界上乗せおめでとう」の文字が表示される。このように構成することで、遊技者に対して、今回の演出結果が有利な演出結果であることを分かり易く把握させることができる。

【９１０７】

次に、図９１５を参照して、保留連が発生する条件が成立した場合において、疑似上乗せ演出によってＭＡＸ大当たり遊技に対応する大当たり遊技演出（疑似ＭＡＸ大当たり演出）が実行される場合における表示内容について説明をする。図９１５（ａ）は、疑似ＭＡＸ大当たり演出が跨いで実行される２つの大当たり遊技のうち、最初の大当たり遊技中に表示される表示画面の一例を示した図であって、図９１５（ｂ）は、疑似ＭＡＸ大当たり演出が跨いで実行される２つの大当たり遊技のうち、２回目の大当たり遊技が実行され

ることとなる特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動期間中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９１０８】

図９１５（ａ）に示した通り、大当たり遊技中の所定タイミング（開始タイミング含む）において実行される先読み結果として、大当たり当選し得る保留図柄を獲得している状態（図では、２重丸印で表示）であるとの先読み結果がでた場合は、先読みされた情報に基づいて上乗せ演出を実行するように構成している。

【９１０９】

図９１５（ａ）に示した例では、先読み結果として、６ラウンド大当たり遊技であって、且つ、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される大当たりに当選する入賞情報を記憶していると判別したため、実行中の大当たり遊技（４ラウンド大当たり遊技）と、次に実行される大当たり遊技（６ラウンド大当たり遊技）と、に跨がって、１回の大当たり遊技演出が実行されるように、上乗せ演出が実行される。

【９１１０】

１回目の大当たり遊技の最終ラウンド（４ラウンド目）にて実行された上乗せ演出は、１回目の大当たり遊技が終了し、２回目の大当たり遊技を実行させることになる特別図柄変動（大当たり変動）中にその演出結果が表示される（図９１５（ｂ）参照）。

【９１１１】

この場合、１回目の大当たり遊技と、２回目の大当たり遊技と、を跨いで１回の大当たり遊技演出が実行されるため、２回目の大当たり遊技が実行された場合であっても、小表示領域Ｄｍ１４に記載される値が更新されること無く（大当たり×１のまま）、且つ、小表示領域Ｄｍ１５には、１回目の大当たり遊技の最終ラウンド数を示す表示態様が継続更新（加算）される。

【９１１２】

次に、図９１６を参照して、１回の大当たり遊技にて実行されるラウンド遊技を用いて、複数回の大当たり遊技が実行されるように見せる疑似保留連演出の演出内容について説明をする。図９１６（ａ）は、疑似保留連演出として１回目の大当たり遊技が終了したことが疑似的に報知された演出画面の一例を示した図であって、図９１６（ｂ）は、疑似保留連演出として２回目の大当たり当選が報知された演出画面の一例を示した図である。

【９１１３】

図９１６（ａ）及び（ｂ）では、１０ラウンドの大当たり遊技の遊技期間中に、２回の大当たり遊技（４ラウンドの大当たり遊技と、６ラウンドの大当たり遊技）が実行されたように見せる疑似保留連演出の演出画面を示している。

【９１１４】

まず、図９１４（ａ）の表示領域ＨＲ６１と同一の演出が実行され、遊技者に対して、上乗せ演出が実行される。その結果、図９１６（ａ）に示した通り、上乗せ演出の演出結果として、上乗せされる払い出し可能な賞球数が無いことを示す「０Ｐ」が表示領域ＨＲ６１に表示され、今回の大当たり遊技が４ラウンド大当たりであることが報知される。加えて、上乗せ演出の演出結果として、保留内に大当たり当選する大当たり保留が存在することを示す表示態様として表示領域ＨＲ６２に「Ｖ」が表示される。

【９１１５】

なお、詳細な図示は省略しているが、実際に、保留内に大当たり当選する大当たり保留が存在する場合に実行される保留連演出においても、図９１６（ａ）に示した演出画面と同一の表示態様が表示される。

【９１１６】

そして、副表示領域Ｄｓには、保留連することを案内するための案内態様として「Ｖゲット、おめでとう」の文字が表示される。このように構成することで、実際には、１０ラウンド大当たり遊技が実行されている状態であるが、遊技者に対して、上乗せ演出の結果として、実行中の大当たり遊技が４ラウンド大当たり遊技であることと、保留連することを疑似的に報知することが可能となる。

【９１１７】
よって、実行条件が成立し難い保留連演出の実行頻度を高めることができ、演出効果を高めることができる。
【９１１８】
そして、大当たり遊技の４ラウンド目と５ラウンド目の間に設定されるインターバル期間では、図９１６（ｂ）に示した通り、表示領域ＨＲ６３が形成され、疑似図柄が大当たり当選を示す表示態様で停止表示され、遊技者に新たに大当たり当選したことを疑似的に報知する。そして、表示領域Ｄｍ１４では、新たな大当たりに当選した場合と同様に、大当たりの連続回数（連チャン回数）が加算され「大当たり×２」が表示される。そして、実際には５ラウンド目のラウンド遊技が開始されると、Ｄｍ１５には、新たな大当たり遊技の１ラウンド目が実行されたことを示す「ラウンド１」が表示される。
【９１１９】
このように構成することで、表示画面上に表示される大当たり遊技に関する全ての情報を疑似保留連演出に対応させて表示することができるため、遊技者に対して、１回の大当たり遊技にて実行されるラウンド遊技を用いて、複数回の大当たり遊技が実行されるように見せる疑似保留連演出の精度を高めることができる。
【９１２０】
なお、詳細な説明は省略するが、疑似保留連演出が実行されることを示す情報と、疑似保留連演出にて表示されている疑似ラウンド数を示す情報と、を管理し、ＯＰ期間中やＥＤ期間中やラウンド期間中に実行される各種演出の実行タイミングを、疑似的に実行される２回目の大当たり遊技の内容に対応させるように構成している。よって、遊技者に対して、１回の大当たり遊技にて実行されるラウンド遊技を用いて、複数回の大当たり遊技が実行されるように見せる疑似保留連演出の精度を高めることができる。
【９１２１】
また、本第２演出変形例では、大当たり遊技として１０ラウンドの大当たり遊技が実行された場合において、上述した疑似保留連演出を実行可能に構成しており、１０ラウンドの大当たり遊技における４ラウンド目と５ラウンド目の間に設定されるインターバル期間が予め長く規定されている。よって、図９１６（ｂ）に示した演出を確実に実行することができる。また、疑似保留連演出が実行されない１０ラウンド大当たり遊技では、４ラウンド目と５ラウンド目の間に設定されるインターバル期間を用いて、図９１４に示した上乗せ演出が実行されるように構成している。このように構成することで、疑似保留連演出が実行されない場合であっても、４ラウンド目と５ラウンド目の間に設定されるインターバル期間を有効に活用することができ、大当たり遊技の遊技期間が無用に間延びしてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【９１２２】
以上、説明をした通り、本第２演出変形例では、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出として、上乗せ演出、保留連演出、疑似上乗せ演出、疑似保留連演出を実行可能に構成し、何れの演出が実行された場合であっても、同一の特定演出態様（図９１４（ａ）の表示領域ＨＲ６１参照）で演出が開始されるように構成している。
【９１２３】
このように構成することで、大当たり遊技中に特定演出態様が表示された場合に、どのような特典が付与されるのか（何れの演出が実行されたのか）を、遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。
【９１２４】
加えて、疑似上乗せ演出、疑似保留連演出を実行可能に構成しているため、最大ラウンド数の大当たり遊技が実行されていることを示す上乗せ演出（ＭＡＸ大当たり演出）や保留連演出といった、実行条件が成立し難い演出と同一内容の演出を遊技者に体験させ易くすることができる。よって、遊技者に有利な特典（ＭＡＸ大当たり、保留連）が付与されない状態（遊技者に有利な特典が付与されることを示す演出が実行されない状態）が継続し、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９１２５】
なお、本第２演出変形例では、大当たり遊技の実行中に、上述した各種演出（上乗せ演出、保留連演出、疑似上乗せ演出、疑似保留連演出）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の大当たり変動期間中（大当たりのラウンド遊技が開始されるまでの期間）に上述した各種演出を実行可能に構成しても良い。
【９１２６】
この場合、何れの演出が実行された場合であっても、大当たり遊技が実行されることを遊技者に報知する特典を有することになるが、実行される演出の種別に応じて、遊技者に付与される追加特典の内容を異ならせると良く、例えば、上乗せ演出（疑似上乗せ演出）が実行された場合には、上乗せ演出（疑似上乗せ演出）が実行された時点で、後に実行される大当たり遊技が最小ラウンド数以外のラウンド遊技であることを報知し、上乗せ演出（疑似上乗せ演出）の結果に応じて具体的なラウンド遊技を示唆する追加特典が付与されるように構成し、保留連演出（疑似保留連演出）が実行された場合には、後に実行される大当たり遊技の後に、もう一回大当たり遊技が実行される可能性が高いこと（保留内に大当たり保留が存在している、或いは、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される）を追加特典として遊技者に付与可能に構成すると良い。
【９１２７】
このように構成することで、何れの演出が実行されるかについて遊技者に興味を持たせることができる。また、この場合、上乗せ演出（疑似上乗せ演出）と、保留連演出（疑似保留連演出）と、を１の大当たり変動中に実行可能に構成しても良く、この場合、各演出の実行タイミングを重複させても良いし、別々に実行しても良い。
【９１２８】
さらに、遊技者に有利な遊技状態（確変状態、時短状態、大当たり遊技状態）が継続する有利遊技期間中に獲得した賞球数を累積した情報を表示可能な構成を用いたパチンコ機１０においては、上乗せ演出として、大当たり遊技中に獲得可能な賞球数の総数を上乗せする演出では無く、有利遊技期間中に獲得可能な賞球数の総数を上乗せする演出を実行するように構成しても良い。
【９１２９】
この場合、例えば、複数回の大当たり遊技の実行権利を有している状況では、１回の大当たり遊技にて獲得可能な賞球数の最大数（本第２演出変形例では、１０ラウンド大当たりに対応する１５００個）よりも大きな賞球数を１回の上乗せ演出にて上乗せすることが可能となる。よって、上乗せ演出が実行された場合において、上乗せ演出の演出結果として遊技者に付与され得る特典（賞球数）の上限数が大きくなるため、演出効果を高めることができる。
【９１３０】
＜第２演出変形例における電気的構成について＞
次に、図９１７を参照して、本第２演出変形例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成のうち、上述した第２６制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３と異なる内容について説明をする。図９１７は、本第２演出変形例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。
【９１３１】
図９１７に示した通り、本第２演出変形例では、上述した第２６制御例に対して、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。
【９１３２】
疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａは、疑似上乗せ演出が実行されている状態を示すためのフラグであって、疑似上乗せ演出が実行されている場合にオンに設定される。そして、疑似上乗せ演出に含まれる２回目の大当たり遊技が実行されたと判別した場合にオフに設定される。この疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａがオンに設定されている状

態では、特別図柄変動の変動演出を決定するための処理がスキップされ、疑似上乗せ演出が継続して実行される処理が実行される。

【９１３３】

＜第２演出変形例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について＞

次に、図９１８、及び図９１９を参照して、第２演出変形例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理について説明をする。本第２演出変形例では、上述した第２６制御例に対して、変動演出設定処理２６（Ｆ２９５９）に代えて変動演出設定処理２６ａ（図９１８のＦ２９５９ａ）を、大当たり関連処理２６（Ｆ２２１６）に代えて大当たり関連処理２６ａ（Ｆ２２１６ａ）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。

【９１３４】

まず、図９１８を参照して、変動演出設定処理２６ａ（Ｆ２９５９ａ）の内容について説明をする。図９１８は、変動演出設定処理２６ａ（Ｆ２９５９ａ）の処理内容を示したフローチャートである。変動演出設定処理２６ａ（Ｆ２９５９ａ）が実行されると、まず、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａがオンに設定されているかを判別し（Ｆ３００１ａ）、オンに設定されていると判別した場合、即ち、次の大当たり遊技が開始されるまで、大当たり遊技演出が継続している場合には、疑似上乗せ演出の継続を決定し（Ｆ３００２ａ）、Ｆ３０１９の処理へ移行する。このように構成することで、疑似上乗せ演出中に特別図柄変動演出が実行されることを抑制することが出来る。

【９１３５】

次に、図９１９を参照して、大当たり関連処理２６ａ（Ｆ２２１６ａ）の内容について説明をする。図９１９は大当たり関連処理２６ａ（Ｆ２２１６ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この大当たり関連処理２６ａ（Ｆ２２１６ａ）は、上述した大当たり関連処理２６（Ｆ２２１６）に対して、大当たり遊技中に疑似上乗せ演出、或いは、疑似保留連演出を実行するための処理を追加した点で相違している。

【９１３６】

大当たり関連処理２６ａ（Ｆ２２１６ａ）が実行されると、まず、Ｆ２７０１の処理を実行し、大当たり開始コマンドを受信したと判別した場合は（Ｆ２７０１：Ｙｅｓ）、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａがオンに設定されているかを判別し（Ｆ２７０１ａ）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｆ２７０１ａ：Ｙｅｓ）、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａをオフに設定し（Ｆ２７０２ａ）、Ｆ２７０２，Ｆ２７０３ａの処理をスキップし、Ｆ２７０４ａの処理へ移行する。つまり、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａが設定されている状態は、前回の大当たり遊技にて実行されている大当たり遊技演出が継続しているため、新たな大当たり遊技が実行された場合の表示（オープニング表示）を設定するための処理がスキップされる。

【９１３７】

一方、Ｆ２７０１ａの処理において、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｆ２７０１ａ：Ｎｏ）、表示用大当たり開始コマンドを設定し（Ｆ２７０２）、最小ラウンド数に対応する払い出し数を示す表示用コマンドを設定し（Ｆ２７０３ａ）、Ｆ２７０４ａの処理へ移行する。

【９１３８】

Ｆ２７０４ａの処理では、入賞情報格納エリア２２３ｖａから入賞情報を読み出し（Ｆ２７０４ａ）、次いで、読み出した入賞情報に大当たり当選を示す情報があるかを判別し（Ｆ２７０５ａ）、大当たり当選を示す情報があると判別した場合は（Ｆ２７０５ａ：Ｙｅｓ）、今回の大当たり遊技のラウンド数と、保留内大当たり遊技のラウンド数と、を合算し（Ｆ２７０６ａ）、合算ラウンド数が１０（１０ラウンド）であるかを判別する（Ｆ２７０７ａ）。

【９１３９】

合算ラウンド数が１０（１０ラウンド）であると判別した場合は（Ｆ２７０７ａ：Ｙｅｓ）、次に、保留内大当たりが確変大当たりであるかを判別し（Ｆ２７０８ａ）、確変大

当たりであると判別した場合は（Ｆ２７０８ａ：Ｙｅｓ）、疑似上乗せ演出の実行条件が成立しているため、疑似上乗せ演出として、疑似ＭＡＸ大当たり演出の演出態様を決定し（Ｆ２７０９ａ）、疑似上乗せ演出中フラグ２２３ａａａａをオンに設定し（Ｆ２７１０ａ）、決定した演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｆ２７１１ａ）、本処理を終了する。

【９１４０】

一方、Ｆ２７０７ａの処理、或いは、Ｆ２７０８ａの処理において、Ｎｏと判別した場合は、疑似上乗せ演出の実行条件が成立していないため、Ｆ２７０９ａ～Ｆ２７１１ａの処理をスキップして、本処理を終了する。

【９１４１】

Ｆ２７０５ａの処理において、大当たり当選を示す情報がないと判別した場合は（Ｆ２７０５ａ：Ｎｏ）、今回の大当たり遊技のラウンド数が１０ラウンドであるかを判別し（Ｆ２７１２ａ）、１０ラウンドであると判別した場合は（Ｆ２７１２ａ：Ｙｅｓ）、疑似保留連演出の実行抽選を実行し（Ｆ２７１３ａ）、疑似保留連演出の実行に対応する抽選結果になった場合は（Ｆ２７１３：Ｙｅｓ）、疑似保留連演出の実行条件が成立したため、疑似保留連演出の演出態様を決定し（Ｆ２７１４ａ）、Ｆ２７１１ａの処理へ移行する。

【９１４２】

一方、Ｆ２７１２ａの処理、或いは、Ｆ２７１３ａの処理において、Ｎｏと判別した場合は、疑似保留連演出の実行条件が成立していないため、処理をＦ２７０８へと移行する。

【９１４３】

なお、詳細な説明は省略しているが、大当たり関連処理２６（Ｆ２２１６ａ）では、実行中の大当たり遊技演出の内容に応じて、ラウンド数コマンドを受信した場合、或いは、エンディングコマンドを受信した場合に決定する演出態様を異ならせている。具体的には、疑似保留連演出が実行されている場合には、実行されている疑似保留連演出の演出内容に対応させて、各ラウンド期間における演出態様を決定するように構成している。

【９１４４】

以上、説明をした通り、本第２演出変形例では、上述した第１８制御例と同様に、大当たり遊技演出として、実行中の大当たり遊技内容と、既に獲得済みの特別図柄保留（特別図柄抽選に用いられる入賞情報）に対する先読み結果と、に基づいて、実行中の大当たり遊技にて獲得可能な賞球の払い出し数を報知する上乗せ演出と、連続して大当たり遊技が実行されることを報知する保留連演出と、を実行可能に構成している。

【９１４５】

さらに、本第２演出変形例では、大当たり遊技が開始された時点で獲得している特別図柄保留の先読み結果として、大当たり当選する特別図柄保留を有していると判別した場合に、次に実行される大当たり遊技の内容も含めて、実行中の大当たり遊技に対する上乗せ演出を実行可能に構成している。具体的には、実行中の大当たり遊技が、ラウンド遊技が４回実行される４Ｒ大当たり遊技であって、先読みした特別図柄保留内に、ラウンド遊技が６回実行される６Ｒ大当たり遊技が実行される特別図柄抽選の抽選結果となる入賞情報が含まれている場合に、ラウンド遊技が１０回実行される１０Ｒ大当たり遊技に対応する払い出し数を疑似的に報知する疑似上乗せ演出を実行可能に構成している。

【９１４６】

このように構成することで、実際に実行される大当たり遊技の実行回数や、１回の大当たり遊技にて実行される大当たり遊技のラウンド数と、大当たり遊技演出として遊技者に報知される大当たり遊技の内容と、を異ならせることができる。

【９１４７】

また、本第２演出変形例では、実際に実行される大当たり遊技の実行回数や、１回の大当たり遊技にて実行される大当たり遊技のラウンド数と、大当たり遊技演出として遊技者に報知される大当たり遊技の内容と、を異ならせる手法として、１回の大当たり遊技が実

行されている期間中に、疑似的に保留連演出（疑似保留連演出）を実行可能に構成している。

【９１４８】

加えて、本第２演出変形例では、実行される大当たり遊技の種別（ラウンド数）に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として、遊技者に有利な遊技状態（確変状態）が設定される割合を異ならせており、疑似上乗せ演出にて報知される払い出し数（ラウンド数）や、疑似保留連演出にて実行される後者の大当たり遊技内容（ラウンド数）を、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態に基づいて決定可能に構成している。

【９１４９】

例えば、１０Ｒ大当たり遊技の終了後には必ず確変状態が設定されるように構成されている場合であれば、疑似上乗せ演出として１０ラウンド分の払い出し数が表示される演出態様の設定条件が、大当たり遊技の終了後（２回目の大当たり遊技の終了後）に確変状態が設定される場合に成立するように構成している。

【９１５０】

つまり、実際に実行される大当たり遊技の内容と異なる内容の大当たり遊技演出を疑似的に実行する場合において、疑似的に実行された大当たり遊技演出の内容と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態との関係性に矛盾が生じないように構成している。このように構成することで、実際に実行される大当たり遊技の内容と異なる内容の大当たり遊技演出を疑似的に実行した場合であっても、疑似的に実行された大当たり遊技演出の内容について遊技者が違和感を持ち難くすることができる。

【９１５１】

以上、説明をした通り、本第２演出変形例では、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出として、実行中の大当たり遊技の内容（ラウンド数）を示す上乗せ演出と、保留連の有無を示す保留連演出と、を実行可能に構成し、さらに、疑似上乗せ演出と、疑似保留連演出と、を実行可能に構成することで、実際に実行される大当たり遊技の回数と、大当たり遊技演出が実行される回数と、を異ならせることが可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、上述した第１８制御例に記載したパチンコ機１０に対して、本第２演出変形例の技術思想を適用しても良い。

【９１５２】

ここで、上述した第１８制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第７制御例と同様に、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選（図柄大当たり当選）では無い（外れである）場合の一部において、小当たり当選し得るように構成し、小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることで大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）を実行可能に構成している。そして、図柄大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技、或いは、Ｖ大当たり遊技が実行されると、その大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出として、獲得済みの特別図柄保留（特図保留）内に大当たり当選を示す入賞情報が含まれていることを報知可能な保留連演出を実行可能に構成しており、大当たり遊技の実行中に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（保留記憶）されている特図２保留の抽選結果を事前に判別（先読み）した結果、Ｖ大当たり遊技を実行可能な小当たり遊技が実行される小当たりに当選していることを示す事前判別結果である特図２保留（Ｖ保留）、或いは、第２特別図柄抽選で大当たり当選する特図２保留（大当たり保留）が存在する場合、即ち、実行中の大当たり遊技が終了した後に、新たに大当たり遊技を実行させるための実行権利を有している場合に、Ｖ保留、或いは、大当たり保留が存在することを報知するための演出（保留連演出）を実行可能に構成している。

【９１５３】

このように構成された第１８制御例におけるパチンコ機１０に、上述した第２演出変形例の技術思想を組み合わせ、獲得済みの特図２保留内にＶ保留が存在している場合において、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出を実行可能に構成しても良い。この場合、特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）の結果に基づいて実行される小当たり遊技の内容では無く、実

行される小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることに基づいて実行される大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）の内容（ラウンド数）に基づいて、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定しても良いし、小当たり遊技の内容とＶ大当たり遊技の内容とを含めて疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の内容を決定するように構成しても良い。

【９１５４】

このように、実行されることが確定している大当たり遊技（図柄大当たり当選に基づく大当たり遊技）だけでなく、実行権利を有している状態の大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）の内容に基づいて疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定することにより、実行される演出内容に基づいて、小当たり遊技中に遊技球を特定領域へと入球させる意欲を高めることができる。

【９１５５】

さらに、上述した第１８制御例の第１変形例に対して、本第２演出変形例の技術思想を適用しても良い。ここで、上述した第１８制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０は、図６０７、及び図６０８を参照して上述した通り、第１８制御例におけるパチンコ機１０に対して、大当たり遊技中に複数のＶ保留を獲得している場合に、複数のＶ保留のそれぞれに対応して実行される複数の大当たり遊技の内容（ラウンド数）を合計した合計ラウンド数が所定条件を満たした場合に、特定演出態様のＶアイコン獲得演出（保留連演出）を実行可能に構成している。

【９１５６】

このように構成された第１８制御例の第１変形例におけるパチンコ機１０に、上述した第２演出変形例の技術思想を組み合わせ、実行中の大当たり遊技の内容と、獲得済みの特図２保留に含まれる複数のＶ保留、或いは、大当たり保留に対応して実行される大当たり遊技の内容と、に基づいて、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定するように構成しても良い。

【９１５７】

つまり、上述した第２６制御例における第２演出変形例では、実行中の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、獲得済みの１個の大当たり保留に対応して実行される大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、に基づいて、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定可能な構成について説明をしたが、これに限ること無く、実行中の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、実行権利を有している状態の複数回の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、に基づいて、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定可能に構成しても良い。

【９１５８】

このように構成することで、３つ以上の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）を組み合わせて疑似上乗せ演出の演出態様や、疑似保留連演出の演出態様を決定することができるため、上述した第２演出変形例におけるパチンコ機１０に対して、より多彩な演出を実行することが可能となる。

【９１５９】

また、上述した第２６制御例の第２演出変形例のように、１回の大当たり遊技にて実行されるラウンド遊技の数（ラウンド数）が、最大数（１０ラウンド）である大当たり遊技（ＭＡＸ大当たり遊技）に対応する大当たり遊技演出（上乗せ演出）を、疑似上乗せ演出として実行する場合において、３つ以上の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）を組み合わせることが可能となるため、ＭＡＸ大当たり遊技に対応する上乗せ演出を疑似的に実行し易くすることができる（疑似上乗せ演出として、ＭＡＸ大当たり演出を実行可能な実行条件を成立し易くすることができる）。

【９１６０】

また、実行中の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、実行権利を有している状態の複数回の大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）と、に基づいて、疑似上乗せ演出や疑似保留連演出の演出内容を決定可能に構成した場合には、実行中の大当たり遊技の遊技期間と、獲得済みの特図２保留に含まれる複数のＶ保留、或いは、大当たり保留のうち、先

に特別図柄抽選が実行される特図２保留に対応して実行される大当たり遊技の遊技期間と、を跨いで、１の大当たり遊技演出が実行されるように構成し、獲得済みの特図２保留に含まれる複数のＶ保留、或いは、大当たり保留のうち、後に特別図柄抽選が実行される特図２保留に対応して実行される大当たり遊技を対象に保留連演出を実行可能に構成しても良いし、実行し得る３つ以上の大当たり遊技が実行される遊技期間を跨ぐように１の大当たり遊技演出が実行されるように構成しても良い。

【９１６１】

なお、この場合、１の大当たり遊技演出（例えば、疑似上乗せ演出）が実行される演出期間として、実行される大当たり遊技演出にて遊技者に報知される演出内容（ラウンド数）に対応する複数の大当たり遊技が実行されるそれぞれ遊技期間の少なくとも一部が含まれるように構成されていれば良く、例えば、先に実行される大当たり遊技の最終ラウンドにて疑似上乗せ演出を開始し、後に実行される大当たり遊技のオープニング期間にて疑似上乗せ演出の演出結果を報知可能に構成しても良い。

【９１６２】

このように構成することで、疑似上乗せ演出が実行される演出期間の長さを特定期間に固定したとしても、複数の大当たり遊技が実行される期間を跨いで疑似上乗せ演出を実行し易くすることができる。

【９１６３】

加えて、先に実行される大当たり遊技が終了してから次に実行される大当たり遊技が開始されるまでの期間、即ち、大当たり遊技が終了してから、次の大当たり遊技が実行され得る特別図柄抽選が停止表示されるまでの期間（抽選結果が外れである特別図柄変動期間と、抽選結果が当たり（大当たり、小当たり）である特別図柄変動期間との合算期間）の長さに応じて、複数の大当たり遊技（先に実行される大当たり遊技と後に実行される大当たり遊技）の遊技期間と、疑似上乗せ演出が実行される演出期間とが重複する期間が異なる様に構成しても良いし、先に実行される大当たり遊技が終了してから次に実行される大当たり遊技が開始されるまでの期間の長さに応じて疑似上乗せ演出の演出期間の長さを調整可能に構成しても良い。

【９１６４】

＜第３１制御例＞

次に、図９２０から図９２３を参照して、第３１制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第３１制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第２６制御例におけるパチンコ機１０に対して、確変状態の残期間、即ち、確変状態中に実行することが可能な特別図柄抽選の回数が所定回数（２０回）となった場合に実行される変動演出の演出内容を詳細に説明したものである。

【９１６５】

上述した第２６制御例では、確変状態が継続する期間として、特別図柄抽選の実行回数１２０回が設定されるように構成し、確変状態が継続する期間の残期間が特別図柄抽選の実行回数２０回に到達すると、複数回の特別図柄変動の変動期間に跨がって一連の変動演出（モード変動演出）を実行するように構成している。

【９１６６】

具体的には、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」の範囲にて第１モード変動演出を実行し、「１４～８」の範囲にて第２モード変動演出を実行し、「７～１」の範囲にて第３モード変動演出を実行するように構成している（図８２０参照）。

【９１６７】

このように構成することで、遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態）が設定されている場合において、その有利遊技状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数を遊技者に把握させ難くすることができるため、有利遊技状態が長く継続することを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【９１６８】

本第３１制御例では、上述した第２６制御例におけるパチンコ機１０が実行するモード

変動演出の内容について詳細に説明をする。なお、上述した第２６制御例と同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【９１６９】

＜第３１制御例における演出内容について＞

まず、図９２０を参照して、本第３１制御例におけるモード変動演出中に実行される演出内容のうち、特徴的な内容について説明をする。本第３１制御例では、上述した第２６制御例と同様に、確変状態中に特別図柄抽選を１２０回実行可能に構成しており、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」の範囲にて実行される特別図柄抽選の抽選結果を、第１モード変動演出の演出結果を用いて遊技者に報知し、確変状態中における「１０７」～「１１３」回目の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１４～８」の範囲にて実行される特別図柄抽選の抽選結果を、第２モード変動演出の演出結果を用いて遊技者に報知し、確変状態中における「１１４」～「１２０」回目の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「７～１」の範囲にて実行される特別図柄抽選の抽選結果を、第３モード変動演出の演出結果を用いて遊技者に報知するように構成している。

【９１７０】

図９２０（ａ）は、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選が残り２０回転に到達した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。本第３１制御例では、上述した第２２制御例と同様に、大当たり遊技終了後に確変状態が設定された場合の一部において、時短状態が設定された場合と同一の演出態様である「チャンスモード」を設定するように構成しており、「チャンスモード」が設定されている状態で特別図柄抽選が１００回に到達した場合、即ち、時短状態が設定されている状態であれば、時短状態の終了条件が成立した場合に、現在設定されている遊技状態が確変状態であることを遊技者に報知するためのモード変動演出を実行可能な「スーパーチャンスモード」が設定されるように構成している。

【９１７１】

そして、「チャンスモード」が設定されている場合には、第３図柄表示装置８１の表示画面に「チャンスモード」が終了するまで（時短終了条件が成立し得るまで）に実行可能な特別図柄抽選の残回数が表示されるように構成しており（例えば、図１２８（ａ）参照）、「チャンスモード」が終了し、「スーパーチャンスモード」が設定された場合には、「スーパーチャンスモード」が終了するまでに実行可能な特別図柄抽選の残回数では無く、「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残期間（残時間）を表示するように構成している。

【９１７２】

このように構成することで、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数が大きく減少している状態で確変状態が設定されていることを遊技者に報知した場合であっても、確変状態が終了するまでに実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に明確に把握させ難くすることができる。また、確変状態が設定されていることを示すための演出態様である「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残時間を遊技者に把握させることにより、確変状態が終了するまでの残期間を遊技者に分かり易く把握させることができるため、確変状態が急に終了してしまい、遊技者に不満感を与えてしまうことを抑制することができる。

【９１７３】

具体的には、確変状態中に実行される特別図柄抽選の残回数が２０回となった場合、即ち、「チャンスモード」が終了し「スーパーチャンスモード」が設定された場合には、図９２０（ａ）に示した通り、第１モード変動演出として通常背景の表示画面が表示され、ウサギを模したキャラクタ８０１が走り回る演出が実行される。そして、第１モード変動演出の演出内容を示すための案内表示として、副表示領域Ｄｓには「制限時間内にお宝を見つけろ」の文字が表示されている。また、主表示領域Ｄｍの上側には、第１モード変動演出が実行されていることを示すモード変動演出種別表示態様として「第１ステージ」の文字が表示されている。

【９１７４】
ここで、本第３１制御例では、「スーパーチャンスモード」中に実行される特別図柄抽選の実行回数に応じて、３種類のモード変動演出を連続して実行可能に構成しており、最初に実行される第１モード変動演出では、図９２０（ａ）に示した通り、「通常背景（第１ステージ）」が表示され、次に実行される第２モード変動演出では、「宇宙背景（第２ステージ）」が表示され、最後に実行される第３モード変動演出では、「天国背景（第３ステージ）」（図９２０（ｂ）参照）が表示されるように構成している。
【９１７５】
つまり、「スーパーチャンスモード」中に実行される特別図柄抽選の抽選結果が全て外れである場合には、ウサギを模したキャラクタ８０１が、「通常」、「宇宙」、「天国」の各背景が表示される各ステージにてお宝を探し回る演出が実行され、最終的にお宝を発見することができない演出結果（特別図柄抽選の結果が外れであることを示す演出結果）が表示され、「スーパーチャンスモード」が終了するように構成している。
【９１７６】
「スーパーチャンスモード」が設定されると、表示領域Ｄｍ７にて、「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残期間が、時間経過に基づいて減算表示される。本第３１制御例では、全モード変動演出が実行される演出期間として「６０秒」が設定されるように構成しており、図９２０（ａ）に示した例では、「スーパーチャンスモード」が設定された直後を示しているため、表示領域Ｄｍ７には、「スーパーチャンスモード」の残期間が「６０秒」であることを示す表示態様として「残り６０秒」を表示している。
【９１７７】
このように構成することで、表示領域Ｄｍ７にて減算表示される表示態様を視認するだけで、遊技者に「スーパーチャンスモード」の残り期間を分かり易く報知することができる。また、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数が大きく減少している状態で確変状態が設定されていることを遊技者に報知した場合であっても、確変状態が終了するまでに実行可能な特別図柄抽選の残回数を遊技者に明確に把握させ難くすることができる。
【９１７８】
さらに、主表示領域Ｄｍの右側には、表示領域Ｄｍ３２が形成され、「スーパーチャンスモード」中に実行され得るモード変動演出の数、及び種別を遊技者に報知するための案内態様として「通常→宇宙→天国」の表示態様を表示している。そして、現在実行中のモード変動演出の種別を遊技者に報知するためのマーク（図では、丸印で表示）を、実行中のモード変動演出の種別を示す表示態様に付設表示している。
【９１７９】
このように構成することで、「スーパーチャンスモード」中に実行されるモード変動演出の種別や、移行状況を遊技者に分かり易く報知することができる。
【９１８０】
本第３１制御例では、モード変動演出の種別が切り替わる際に、対応する特別図柄抽選の結果を纏めて報知可能に構成しており、各モード変動演出の演出期間が「２０秒」となるように構成している。具体的には、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」の範囲にて実行される特別図柄抽選の抽選結果が全て外れの場合は、２０秒間実行されるモード変動演出の演出結果として、第１ステージではお宝を見つけることが出来ず、第２ステージへと移行する演出結果が表示される。一方で、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」の範囲にて実行される特別図柄抽選のうち、何れかの特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合は、２０秒間実行されるモード変動演出の演出結果として、第１ステージにてお宝を発見した演出結果が表示される。
【９１８１】
詳細な説明は後述するが、本第３１制御例では、「スーパーチャンスモード」中に実行される特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動パターン（変動時間）を、特別図柄抽選

の実行回数に応じて異ならせて決定するように構成しており、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選の何れで大当たり当選した場合であっても、「１０１」回目の特別図柄変動が開始されてから（第１モード変動演出が実行されてから）、大当たり図柄が停止表示されるまでの期間が「２０秒」となるように構成している。また、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選の結果が全て外れである場合にも、「１０１」回目の特別図柄変動が開始されてから（第１モード変動演出が実行されてから）、「１０６」回目の特別図柄変動が停止表示されるまでの期間が「２０秒」となるように構成している。

【９１８２】

よって、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選を対象として、第１モード変動演出を遊技者に違和感を与えること無く実行することができる。また、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選の結果が全て外れであったとしても、第１モード変動演出の演出結果として遊技者に不利となる演出結果（特別図柄抽選の結果が外れであることを示す演出結果）が１回表示されるだけであるため、特別図柄抽選が実行される毎に、遊技者に不利となる演出結果が表示される場合に比べて、遊技者に不利となる演出結果が表示される数を減らすことができるため、遊技者の遊技意欲を低下させ難くすることができる。

【９１８３】

また、確変状態中における「１０１」～「１０６」回目の特別図柄抽選の何れで大当たり当選した場合であっても、第１モード変動演出の終了タイミングで遊技者に有利となる演出結果（特別図柄抽選で大当たり当選したことを示す演出結果）が表示されるため、遊技者に対して、何回目の特別図柄抽選で大当たり当選したのかを把握させ難くすることができる。

【９１８４】

本第３１制御例では、上述した通り、各モード変動演出の演出期間として「２０秒」が設定され、各モード変動演出の演出結果を用いて、対象となる特別図柄抽選の抽選結果を遊技者に報知するように構成している。つまり、「スーパーチャンスモード」が設定されてから、「スーパーチャンスモード」が終了するまでに実行される２０回の特別図柄抽選の結果を、３段階に分けて遊技者に報知するように構成している。そして、図９２０（ａ）に示した通り、表示画面には、各モード変動演出が終了するまでの残期間では無く、「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残期間が表示されるように構成している。

【９１８５】

つまり、各モード変動演出が終了するまでの残時間では無く、「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残時間のみを表示するように構成することで、各モード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の抽選結果が停止表示されるタイミングが若干異なった場合であっても、各モード変動演出の終了タイミングを補正する処理を実行するだけで良く、遊技者に違和感の無い変動演出を提供し易くすることができる。

【９１８６】

なお、これに限ること無く、「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残時間では無く、各モード変動演出が終了するまでの残時間を遊技者に報知するように構成しても良いし、本第３１制御例のように「スーパーチャンスモード」が終了するまでの残時間を、数値をカウントダウンさせることで遊技者に明確に把握させるように報知し、各モード変動演出が終了するまでの残時間を、演出態様の可変状況（例えば、キャラクタ８０１の移動状況）によって遊技者に漠然と把握させるように構成しても良い。このように、残時間を報知するための報知態様として、遊技者が残時間を明確に把握し易い第１報知態様（カウントダウン報知やタイマ報知等）と、遊技者が残時間を漠然と把握可能な第２報知態様（演出態様の可変状況等）と、を組み合わせて用いることで、「スーパーチャンスモード」中に実行される各種演出を遊技者に分かり易く把握させることができる。

【９１８７】

次に、図９２０（ｂ）を参照して、「スーパーチャンスモード」中における大当たり当

選を示す演出内容について説明をする。図９２０（ｂ）は、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数が２回となる特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９１８８】

図９２０（ｂ）に示した通り、確変状態中に実行可能な特別図柄抽選の残回数が２回の状態では、モード変動演出として第３モード変動演出が実行されており、主表示領域Ｄｍの背景画像として、第３モード変動演出に対応する「天国背景」が表示されている。そして、主表示領域Ｄｍでは、キャラクタ８０１が宝箱８１０を開放してお宝８１０ａを発見する演出画像を表示している。

【９１８９】

図９２０（ｂ）に示した例では、第３モード変動演出の演出結果として遊技者に有利となる演出結果が表示されているため、表示領域Ｄｍ７には、「スーパーチャンスモード」の残期間が０秒となったことを示す表示態様として「残り？？秒」が表示され、表示領域Ｄｍ３２には、現在実行されているモード変動演出の種別（第３モード変動演出）を示すために「天国」の文字にマークが付設表示され、「スーパーチャンスモード」中に実行される最後のモード変動演出であることを遊技者に報知している。また、主表示領域Ｄｍの上側には、実行中のモード変動演出が３回目（３段階目）のモード変動演出であることを示すための表示態様として「第３ステージ」が表示されている。そして、副表示領域Ｄｓには、今回の演出結果が遊技者に有利な演出結果であることを案内するための案内態様として「大当たりおめでとう」の文字が表示されている。

【９１９０】

なお、本第３１制御例では、図９２０（ｂ）に示した通り、「スーパーチャンスモード」が設定された場合にセットされた「６０秒」が経過した場合に、「スーパーチャンスモード」を即座に終了させるのでは無く、「残り３秒」、「残り１秒」、「残り？？秒」と表示領域Ｄｍ７に表示される表示態様を可変表示するように構成している。そして、実行中のモード変動演出（第３モード変動演出）の演出結果が表示されたことに基づいて、表示領域Ｄｍ７の表示態様を、「残り？？秒」から「終了」へと可変表示し、「スーパーチャンスモード」を終了させるように構成している。

【９１９１】

このように構成することで、「残り？？秒」が表示されている状態を、「スーパーチャンスモード」がいつ終了してもおかしくない状態であることを遊技者に分かり易く把握させることができると共に、表示領域Ｄｍ７に表示される残時間表示の内容と、第３モード変動演出の演出結果が表示されるタイミングとに若干の誤差が生じた場合であっても、「残り？？」が継続表示される時間の長さが異なるだけであるため、遊技者に違和感を与えること無く演出を実行することができる。

【９１９２】

なお、本第３１制御例では、予め定められている「スーパーチャンスモード」の演出期間を６０秒とし、表示領域Ｄｍ７にて６０秒の減算表示を実行し、表示領域Ｄｍ７にて減算表示される表示態様が「０秒」を示すタイミングで「残り？？秒」を表示するように構成しているが、これに替えて、予め定められている「スーパーチャンスモード」の演出期間（例えば、６１秒）よりも短い期間（例えば、６０秒）を、表示領域Ｄｍ７にて減算表示するように構成し、表示領域Ｄｍ７にて減算表示される表示態様が「０秒」を示すタイミングで「残り？？秒」を表示するように構成しても良い。

【９１９３】

このように構成することで、「スーパーチャンスモード」中に実行される最後のモード変動演出（第３モード変動演出）の終了タイミングが予め定めた演出期間（例えば、６１秒）よりも早くなった（例えば、６０．８秒）場合であっても、「残り？？秒」が表示されている状態で「スーパーチャンスモード」を終了させることが可能となるため、表示領域Ｄｍ７にて減算表示される秒数が残っている状態で「スーパーチャンスモード」が終了してしまい、遊技者に違和感を与えてしまうことを抑制することができる。

【９１９４】
＜第３１制御例における電気的構成について＞
次に、図９２１、及び図９２２を参照して、本第３１制御例における電気的構成について説明をする。本第３１制御例では、上述した第２６制御例に対して、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２が有する変動パターン選択テーブル２０２ｖｃ（図６９２参照）に対して、確変状態中に参照される確変用変動パターン３１テーブル２０２ａｂａを追加した点で相違している点と、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に演出モード格納エリア２２３ａｂａを追加した点で相違している。それ以外は同一であり、同一の内容については説明を省略する。
【９１９５】
まず、図９２１を参照して、確変用変動パターン３１テーブル２０２ａｂａについて説明をする。図９２１は，確変用変動パターン３１テーブル２０２ａｂａに規定されている内容を示した図である。図９２１に示した通り、確変用変動パターン３１テーブル２０２ａｂａには、確変状態が設定されてからの特別図柄変動回数に基づいて、異なる変動パターンが決定されるように構成している。
【９１９６】
具体的には、大当たり遊技終了後に確変状態が設定されてからの特別図柄変動回数（変動回数）が「１～１００」の範囲に対しては、抽選結果、及び、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に対応付けて２秒～６０秒の変動時間が規定されている各種変動パターンが規定されている。
【９１９７】
そして、変動回数「１０１」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２秒」の短外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２０秒」の当たりが変動パターンとして規定されており、変動回数「１０２」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２秒」の短外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１８秒」の当たりが変動パターンとして規定されており、変動回数「１０３」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２秒」の短外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１６秒」の当たりが変動パターンとして規定されており、変動回数「１０４」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２秒」の短外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１４秒」の当たりが変動パターンとして規定されており、変動回数「１０５」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「２秒」の短外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１２秒」の当たりが変動パターンとして規定されており、変動回数「１０６」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１０秒」の外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず「１０秒」の当たりが変動パターンとして規定されている。
【９１９８】
つまり、変動回数が「１０１」～「１０６」の範囲では、全ての特別図柄抽選が外れである場合、或いは、いずれかの特別図柄抽選で大当たり当選した場合の何れであっても、継続して特別図柄変動が実行されていることを前提に、１０１回目の特別図柄変動が開始されてから、２０秒後に抽選結果が報知されるように各変動パターンが規定されている。
【９１９９】
このように構成することで、変動回数が「１０１」～「１０６」の範囲を対象として実行される第１モード変動演出の演出結果を特定タイミングで表示し易くすることができる。

【９２００】
なお、本第３１制御例では、上述した通り、全ての特別図柄抽選が外れである場合、或いは、いずれかの特別図柄抽選で大当たり当選した場合の何れであっても、継続して特別図柄変動が実行されていることを前提に、１０１回目の特別図柄変動が開始されてから、２０秒後に抽選結果が報知されるように構成しているが、これに限ること無く、一部の大当たり当選時に選択される変動パターンとして、異なる長さの変動時間の変動パターンを選択可能に構成しても良い。このように構成することで、通常であれば、２０秒が経過したタイミングで特別図柄変動が停止表示し、第１モード変動演出の演出結果が表示されるのに対して、例えば、第１モード変動演出の演出結果が表示されるまでに、特別図柄変動が停止したり、第１モード変動演出の演出結果が表示されている状態で特別図柄変動が継続されていたりする違和感を遊技者に付与することができる。
【９２０１】
次に、変動回数「１０７，１０８」に対しては、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～９９」の範囲に対して「０．２秒」の超短外れが、「１００～１９８」の範囲に対して「２秒」の外れが、「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１６９」の範囲に対して「０．２秒」の超短当たりが、「１７０～１９８」の範囲に対して「２０秒」の当たりが変動パターンとして規定されている。
【９２０２】
ここで、変動回数「１０７，１０８」の変動パターンとして、変動時間が短い（０．２秒）の変動パターンが選択された場合には、特別図柄変動が停止されるまでの期間、第１モード変動演出を継続して表示するように構成している。
【９２０３】
このように構成することで、選択される変動パターンの種別に応じて、第１モード変動演出の演出結果として参照される特別図柄抽選の回数を異ならせることができる。
【９２０４】
また、変動回数「１０９」～「１１１」の範囲、即ち、第２モード変動演出の対象となる範囲においても、上述した第１モード変動演出の対象となる各変動と同様に、全ての特別図柄抽選が外れである場合、或いは、いずれかの特別図柄抽選で大当たり当選した場合の何れであっても、継続して特別図柄変動が実行されていることを前提に、１０７回目の特別図柄変動が開始されてから、２０秒後に抽選結果が報知されるように各変動パターンが規定されている。
【９２０５】
同様に、変動回数「１１２」～「１２０」の範囲に対しても、図９２１に示した通り、第３モード変動演出の対象となる範囲においても、上述した第１モード変動演出の対象となる各変動と同様に、全ての特別図柄抽選が外れである場合、或いは、いずれかの特別図柄抽選で大当たり当選した場合の何れであっても、継続して特別図柄変動が実行されていることを前提に、１２０回目の特別図柄変動が開始されてから、２０秒後に抽選結果が報知されるように各変動パターンが規定されている。
【９２０６】
次に、図９２２を参照して、本第３１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図９２２は、本第３１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。図９２２に示した通り、本第３１制御例では、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に演出モード格納エリア２２３ａｂａを追加した点で上述した第２６制御例と相違している。
【９２０７】
演出モード格納エリア２２３ａｂａは、実行中のモード変動演出の種別を記憶するための記憶手段であって、確変状態演出態様決定処理３１（図９２３のＦ３０９２参照）において、モード変動演出が決定された場合に、決定されたモード変動演出の種別に対応する情報が格納される。そして、特別図柄変動が実行される毎に、格納されているモード変動

演出の種別が参照され、対応する演出態様が決定される。
【９２０８】
さらに、演出モード格納エリア２２３ａｂａには、一時的にモード変動演出を延長する延長状態も記憶可能に構成されており、延長状態が記憶されている場合には、新たなモード変動演出の種別が決定されないように構成している。このように構成することで、超短変動（０．２秒変動）が選択されることによって、モード変動演出の種別を切り替えない演出制御を円滑に実行することができる。
【９２０９】
次に、図９２３を参照して、本第３１制御例における制御処理の内容について説明をする。本第３１制御例では、上述した第２６制御例に対して、確変状態中に実行される変動演出の演出態様を決定する処理を異ならせている点で相違している。具体的には、確変状態演出態様決定処理２６（図８２０のＦ３０５２参照）に代えて、確変状態演出態様決定処理３１（図９２３のＦ３０９２参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であるため、その説明を省略する。
【９２１０】
図９２３は、確変状態演出態様決定処理３１（Ｆ３０９２参照）の処理内容を示したフローチャートである。図９２３に示した通り、確変状態演出態様決定処理３１（Ｆ３０９２参照）では、上述した確変状態演出態様決定処理２６（図８２０のＦ３０５２参照）に対して、実行中のモード変動演出を継続（延長）させるための制御処理を追加した点で相違している。それ以外の処理内容について同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。
【９２１１】
確変状態演出態様決定処理２６（図８２０のＦ３０５２参照）が実行されると、まず、上述した確変状態演出態様決定処理２６（図８２０のＦ３０５２参照）と同一のＦ４３０１～Ｆ４３１０の処理を実行する。そして、Ｆ４３０４，Ｆ４３０６，Ｆ４３０８の処理を実行した後には、決定したモード変動演出の種別をモード演出格納エリア２２３ａｂａに格納し（Ｆ４３５１）、処理をＦ４３５６へと移行する。
【９２１２】
一方、Ｆ４３０９の処理、或いは、Ｆ４３１０の処理を終了した後には、モード演出格納エリア２２３ａｂａに格納されている種別を読み出し（Ｆ４３５２）、次モード（次に設定されるモード変動演出）にて用いられる特図保留が格納されているかを入賞情報格納エリア２２３ｖａに格納されている入賞情報に基づいて判別する。そして、次モードの特図保留があると判別した場合は（Ｆ４３５３：Ｙｅｓ）、対象の特図保留にて実行される特図変動の変動パターンを事前判別（先読み）し、超短変動（０．２秒変動）であるかを判別し（Ｆ４３５４）、超短変動であると判別した場合は（Ｆ４３５４：Ｙｅｓ）、次モード特図保留に関する特図変動期間まで現状のモード演出の継続を決定し、変動パターンコマンドに対応する演出態様を決定し（Ｆ４３５５）、処理をＦ４３５６へと移行する。
【９２１３】
一方、Ｆ４３５３の処理において、次モードの特図保留が無いと判別した場合（Ｆ４３５３：Ｎｏ）、或いは、Ｆ４３５４の処理において、次モード特図保留が超短変動では無いと判別した場合は（Ｆ４３５４：Ｎｏ）、変動パターンコマンドに対応する演出態様を決定し（Ｆ４３５６）、本処理を終了する。
【９２１４】
つまり、例えば、第１モード変動演出の最終変動である変動回数「１０６」回目の特別図柄変動に対応する変動演出を決定する際に、対応する特別図柄抽選の結果が外れ当選である場合には、変動回数「１０７」，「１０８」回目の特別図柄変動に用いられる特図保留を有しているかを判別し（Ｆ４３５３）、有していると判別した場合には、変動回数「１０７」，「１０８」回目の特別図柄変動が超短変動であるかを事前判別する（Ｆ４３５４）。そして、超短変動であると事前判別した場合には、超短変動となる特別図柄変動の抽選結果を事前判別し、事前判別結果が大当たり当選である場合には、第１モード変動演

出の演出結果として大当たり当選を示す演出結果が決定され、事前判別結果が外れである場合には、第１モード変動演出の演出結果として外れを示す演出結果が決定され、決定された演出結果に対応する演出態様が決定される（Ｆ４３５６）。また、決定された演出態様が、該当する特別図柄変動（変動回数「１０７」，「１０８」回目の特別図柄変動のうち、超短変動となる特別図柄変動）を停止表示するまで継続表示させる処理が実行される。

【９２１５】

なお、Ｆ４３５６の処理が実行される範囲は、変動回数「１０７」，「１０８」回目の特別図柄変動として超短変動が設定される範囲だけであり、例えば、変動回数「１０７」回目が超短変動、「１０８」回目が超短変動である場合は、「１０８」回目の特別図柄変動が停止表示されるまでが範囲となり、変動回数「１０７」回目が超短変動、「１０８」回目が通常変動である場合は、「１０７」回目の特別図柄変動が停止表示されるまでが範囲となり、変動回数「１０７」回目が通常変動である場合には、「１０８」回目が超短変動である場合であっても、Ｆ４３５６の処理が実行されることが無い。

【９２１６】

よって、変動回数「１０７」回目が通常変動、「１０８」回目が超短変動である場合には、超短変動の変動時間を含む範囲で第２モード変動演出が実行されることになり、通常変動（２秒）と、超短変動（０．２秒）との差分が生じることになる。しかしながら、本第３１制御例では、図９２０（ａ）に示した通り、各モード変動演出の終了タイミングを示唆する演出が実行されないため、上述した差が生じたとしても、遊技者に違和感を与えること無く、円滑に各モード変動演出を実行することができる。

【９２１７】

なお、この場合、第２モード変動演出として、対象となる全ての特別図柄抽選が外れである場合と、何れかの特別図柄抽選で大当たり当選した場合とで、特別図柄変動が停止表示されるタイミングがずれるが、第２モード変動演出の演出結果が停止表示される期間（演出結果確定期間）の長さを上述した差分（１．８秒）よりも長くするように構成することで、遊技者に違和感を与えることの無い演出を実行することができる。

【９２１８】

以上、説明をした通り、本第３１制御例では、遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態）の残期間が所定条件（残り２０回）を満たした場合に、複数回の特別図柄抽選が実行される期間を跨いで１の変動演出（モード変動演出）が実行されるように構成している。このように構成することで、遊技者に有利となる有利遊技状態（確変状態）が設定されている場合において、その有利遊技状態中に実行可能な特別図柄抽選の回数を遊技者に把握させ難くすることができるため、有利遊技状態が長く継続することを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【９２１９】

また、本第３１制御例では、１のモード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の範囲を異ならせることができるように構成している。具体的には、第１モード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の範囲として「確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」」の範囲を予め規定しておき、第１モード変動演出が終了した後に実行される複数回の特別図柄抽選、即ち、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１４，１３」の範囲に対応する特別図柄抽選の変動パターンとして、変動時間が短い変動パターン（超短変動）が選択された場合には、超短変動が選択された特別図柄抽選に対応する特別図柄変動が終了するまでの期間を用いて、第１モード変動演出が実行されるように構成している。

【９２２０】

このように構成することで、１のモード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の回数を異ならせることが可能となるため、遊技者に対して、１のモード変動演出の演出結果として遊技者に有利となる演出結果（大当たり当選を示す演出結果）が決定される可能性を異ならせることができる。

【９２２１】
なお、本第３１制御例では、上述した通り、所定条件が成立した場合に、１のモード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の回数を、予め規定されている回数よりも増加させることが可能な構成について説明をしたが、１のモード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の回数を異ならせることができれば良く、１のモード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の回数を、予め規定されている回数よりも減少させることが可能な構成を用いても良い。
【９２２２】
この場合、例えば、第１モード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の範囲として「確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「２０～１５」」の範囲を予め規定しておき、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１６，１５」の範囲に対応する特別図柄抽選の変動パターンとして、通常よりも長い変動時間が設定される長変動パターンが決定された場合に、長変動パターンの特別図柄変動が実行される１つ前の特別図柄抽選までが第１モード変動演出が実行される範囲となるように第１モード変動演出を強制終了させる制御を実行するように構成しても良い。
【９２２３】
また、上述したように、第１モード変動演出を強制終了させる制御を実行した場合には、通常の第１モード変動演出が実行される場合よりも、第１モード変動演出の演出期間が短くなるため、例えば、確変中カウンタ２２３ｖｒの値が「１６，１５」の範囲に対応する特別図柄抽選の変動パターンとして、対応する特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合の方が大当たり当選していない場合よりも、長変動パターンが決定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、第１モード変動演出が強制終了されることにより、通常よりも短い演出期間となった場合に第１モード変動演出が終了した後に大当たり当選する特別図柄変動が実行される可能性を高くすることができるため、第１モード変動演出が終了する際の違和感（通常よりも早く第１モード変動演出が終了することによる違和感）を感じるために実行される第１モード変動演出に注視させることができる。
【９２２４】
なお、本第３１制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄抽選の実行回数に基づいて実行されるモード変動演出の種別と、実行されるモード変動演出の演出期間を決定するように構成しているが、これに限ること無く、別の構成を用いても良い。例えば、確変状態の残期間（確変状態中に実行することが可能な残特別図柄抽選回数）が所定条件（例えば、２０回）を満たした場合にモード変動演出を開始し、モード変動演出が実行されてからの経過時間が特定時間（例えば、６０秒）経過した場合に、その時点で実行されている特別図柄抽選の結果を示す表示態様でモード変動演出の演出結果を報知するように構成しても良い。
【９２２５】
この場合、モード変動演出が実行される演出期間中に実行される特別図柄変動の変動パターン（変動時間）に応じて、特定時間中に実行される特別図柄抽選の回数が異なるため、モード変動演出の演出結果を決定するために参照される特別図柄抽選の数を容易に異ならせることができる。
【９２２６】
また、上述した通り、モード変動演出の演出期間を特別図柄抽選の実行回数では無く、経過時間で設定した場合には、遊技者が遊技を止めることでモード変動演出中に特別図柄抽選が実行されない事態が発生する虞がある。この場合、例えば、最後の特別図柄変動が外れを示す抽選結果で停止表示されてから所定時間（例えば、３０秒）が経過し、パチンコ機１０の待機画面を表示するための表示条件が成立したことに基づいて、実行中のモード変動演出の演出結果として、特別図柄抽選の結果が外れであることを示す演出結果を決定し、モード変動演出を終了するように構成すれば良い。
【９２２７】

＜第３２制御例＞

以下、図９２４から図１００１を参照し、第３２制御例について説明する。図９２４は、第３２制御例におけるパチンコ機１０の正面図であり、図９２５はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図９２６はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面視右下領域を拡大した拡大図であり、図９２７から図９３０は、パチンコ機１０に設けられたＶ入賞装置６５０の構造を示した模式図であり、図９３１は、パチンコ機１０に設けられた各種ボタンの構成を示した図であり、図９３２は、パチンコ機１０の後面図である。

【９２２８】

図９２４に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図９２４参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【９２２９】

内枠１２には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤１３（図９２５参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の正面（遊技領域）を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、遊技球を遊技盤１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニット１１２ａ（図９５０参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の正面領域（遊技領域）まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。

【９２３０】

内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図９２４参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【９２３１】

正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。

【９２３２】

正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図９２４参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａへと案内される。また、上皿１７の上面には、遊技者が操作可能な枠ボタン２２と、選択ボタン６００（図示せず）とが設けられている。枠ボタン２２は、第３図柄表示装置８１（図９２５参照）等で実行される各種演出の演出態様を可変させるために遊技者に操作させるものであって、図９３１に後述するように、演出ボタン２２ａが設けられている。本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、遊技者による演出ボタン２２ａへの操作に基づいて演出態様が可変される操作演出を実行可能に構成している。このように構成することで、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。

【９２３３】

また、選択ボタン６００は、パチンコ機１０の遊技環境を決定するために遊技者に操作させるものであって、図９３１に後述するように、中ボタン６００ａ、上ボタン６００ｂ、右ボタン６００ｃ、下ボタン６００ｄ、左ボタン６００ｅが設けられている。本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、パチンコ機１０の遊技環境として、音声出力装置２２６（図９５０参照）から出力される音声の音量レベルと、第３図柄表示装置８１（図９

２５参照）に表示される表示画面を照らすバックライト（図示せず）や、パチンコ機１０に付設された装飾用ＬＥＤの光量レベルと、を遊技者が調節可能に構成している。さらに、第３図柄表示装置８１にて実行される各種表示演出の演出パターンが異なる複数の演出モードから、１の演出モードを遊技者が選択可能に構成している。このように構成することで、異なる嗜好を持った様々な遊技者がパチンコ機１０を遊技したとしても、各遊技者が自身の嗜好に適した遊技環境を選択（決定）することが可能となるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９２３４】

なお、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、遊技者が操作可能な操作手段として、操作演出時に操作される枠ボタン２２と、遊技環境を選択する際に操作される選択ボタン６００と、を有している。即ち、使用用途を異ならせた複数の操作手段が設けられているが、これに限ること無く、遊技環境を選択する際に枠ボタン２２を操作可能にしたり、操作演出として選択ボタン６００を操作可能に構成したりしても良い。

【９２３５】

また、本第３２制御例では、操作演出中に操作される操作手段（枠ボタン２２）として、演出ボタン２２ａを１個有する構成を用いているが、これに限ること無く、枠ボタン２２として、２個以上の操作手段を有するように構成しても良い。

【９２３６】

さらに、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、遊技者が操作可能な操作手段として、遊技者が押下したことを検知することで操作手段が操作されたことを判別可能なボタン構成を用いているが、遊技者による操作を検知可能な構成であればボタン構成以外の構成を用いても良く、例えば、遊技者が触れていることを検知可能な検知手段や、遊技者が押下以外の動作（例えば、引っ張り動作等）を行っていることを検知可能な検知手段を有する操作手段を用いても良い。また、遊技者が操作手段に直接触れるのでは無く、所定の空間領域（センサの検知範囲）に遊技者の体の一部（例えば、手など）が存在していることを検知可能な非接触型の操作検知手段（センサ等）を用いても良く、この場合、単に遊技者の体の一部（例えば、手など）を検知するのでは無く、所定の空間領域内において、遊技者の体の一部が所定の規則に従って移動していることを検知可能な操作検知手段を用いると良い。このように構成することで、例えば、遊技者がパチンコ機１０の遊技を一時的に中断しようと離席する場合に、誤って、遊技者の体の一部（例えば、頭など）が操作検知手段の検知範囲内に侵入したとしても、それを契機に操作演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【９２３７】

正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図９２４参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【９２３８】

また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３正面の貼着スペースＫ１（図９２５参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。

【９２３９】

窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【９２４０】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その左側部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【９２４１】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。

【９２４２】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された遊技球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から遊技球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された遊技球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。

【９２４３】

図９２５に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図９２４参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入球口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【９２４４】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図９２４参照）を通じて内枠

１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図９２５を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【９２４５】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図９２４参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された遊技球が流下する領域）である。

【９２４６】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図９５０参照）から発射された遊技球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図９２５の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図９２５の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【９２４７】

遊技領域の正面視右側上部（図９２５の正面視で右側上部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７として、第１特別図柄に対応した表示装置３７ａと、第２特別図柄に対応した表示装置３７ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７は、主制御装置１１０（図９５０参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本第３２制御例では、第１図柄表示装置３７は、遊技球が、第１入球口６４へ入球したか、第２入球口６４０へ入球したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、遊技球が、第１入球口６４へ入球した場合には、表示装置３７ａが作動し、一方で、球が、第２入球口６４０へ入球した場合には、表示装置３７ｂが作動するように構成されている。

【９２４８】

また、第１図柄表示装置３７は、パチンコ機１０に設定されている遊技状態を点灯状態によって報知可能なＬＥＤ（状態ＬＥＤ）を点灯表示したり、停止図柄が時短大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【９２４９】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ入球があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判別（大当たり抽選）を行うと共に、当否判別の結果が大当たりであると判別した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、６Ｒ時短大当たり（大当たりＡ）、６Ｒ通常大当たり（大当たりＢ）、９Ｒ時短大当たり（大当たりＣ）が用意されている。第１図柄表示装置３７には、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【９２５０】

ここで、「６Ｒ時短大当たり」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たり遊技の後に、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）よりも遊技者に有利とな

る遊技状態である時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）へ移行する大当たり種別（大当たりＡ）のことであり、「６Ｒ通常大当たり」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たり遊技の後に通常状態へ移行する大当たり種別（大当たりＢ）のことである。また、「９Ｒ時短大当たり」は、最大ラウンド数が９ラウンドの大当たり遊技の後に、時短状態へ移行する大当たり種別（大当たりＣ）のことである。

【９２５１】

ここで、本第３２制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れについて簡単に説明をする。本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、遊技領域に発射された遊技球が第１入球口６４へと入球したことに基づいて実行条件が成立した場合に抽選が実行される第１図柄（第１特別図柄）と、第２入球口６４０へと入球したことに基づいて実行条件が成立した場合に抽選が実行される第１図柄（第２特別図柄）と、を有している。そして、各第１図柄（特別図柄）の抽選の結果として、大当たり、小当たり、外れの何れかが判定されるように構成している。

【９２５２】

特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合には、第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｂ（図９２５参照）が開放され、特定入賞口６５ａ（図９２５参照）へと遊技球を入賞させ易くなる大当たり遊技が実行されるように構成している。特定入賞口６５ａへと遊技球が入賞すると、入賞した遊技球１個に対して１１個の賞球が払い出されるように構成されている。よって、遊技者はパチンコ機１０における遊技にて多くの賞球を獲得するために、特別図柄の抽選で大当たり当選することを目指して意欲的に遊技を行わせることができる。

【９２５３】

さらに、特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合には、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０の開閉扉６５０ｆ（図９２５参照）が開放され、Ｖ入賞口６５０ａ（図９２５参照）へと遊技球を入賞させ易くなる小当たり遊技が実行されるように構成している。Ｖ入賞口６５０ａへと遊技球が入賞すると、入賞した遊技球１個に対して１１個の賞球が払い出されるように構成されている。

【９２５４】

加えて、本第３２制御例では、Ｖ入賞口６５０ａへと入賞した遊技球が第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０内に設けられた特定領域（Ｖ領域）６５０ｅ４を通過した場合には、小当たり遊技の終了後に第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｂを開放させる大当たり遊技を実行可能に構成している。

【９２５５】

つまり、本第３２制御例では、大当たり遊技を実行させるための実行契機として、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に成立する第１大当たり契機と、小当たり遊技中に遊技球が特定領域（Ｖ領域）６５０ｅ４を通過した場合に成立する第２大当たり契機と、を有している。このように構成することで、様々な契機で大当たり遊技を実行させることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９２５６】

なお、上述した通り、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、遊技者へ賞球を付与可能な当たり遊技として、大当たり遊技と、小当たり遊技と、を実行可能に構成しており、小当たり遊技中よりも、大当たり遊技中の方が、遊技者に多くの賞球を付与可能（多くの遊技球を入賞させることが可能）となるように、各当たり遊技の内容が予め決定されている。つまり、大当たり遊技は、小当たり遊技よりも遊技者が獲得可能な賞球数の点で遊技者に有利な当たり遊技となる。

【９２５７】

また、大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技の終了後に大当たり種別に対応した遊技状態を設定可能に構成しているのに対して、小当たり遊技の終了後には、小当たり遊技が開始される時点で設定されていた遊技状態が再度設定されるように構成している。つまり、例えば、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定

されている状態で大当たり遊技が実行された場合には、その大当たり遊技の大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に通常状態とは異なる遊技状態（時短状態）が設定可能となり、通常状態が設定されている状態で小当たり遊技が実行された場合には、小当たり遊技終了後に通常状態が設定されるように構成している。

【９２５８】

よって、現在設定されている遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態が設定されることを期待しながら遊技を行っている遊技者に対しては、新たな遊技状態を設定可能な大当たり遊技の方が、小当たり遊技よりも有利な当たり遊技となる。

【９２５９】

また、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、上述した特別図柄の抽選（特別図柄抽選）以外に、普通図柄（第２図柄）の抽選を実行可能に構成しており、遊技盤１３に設けられたスルーゲート６７へと遊技球を通過（入球）させたことに基づいて実行条件が成立した場合に、普通図柄の抽選が実行される。そして、普通図柄（第２図柄）の抽選の結果として、当たり、外れの何れかが判定されるように構成している。普通図柄の抽選で当たり当選した場合には、電動役物６４０ａ（図９２５参照）を作動させることで、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くする普図当たり遊技が実行される。

【９２６０】

つまり、普図当たり遊技が実行されることで、普図当たり遊技が実行されていない場合よりも、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることができる。よって、遊技者に対して、第１入球口６４へと遊技球を入球させることで第１特別図柄抽選を実行し大当たり遊技を目指す遊技と、スルーゲート６７へと遊技球を入球（通過）させ普通図柄抽選を実行し、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることで第２特別図柄抽選を実行し大当たり遊技を目指す遊技と、を実行させることが可能となるため、遊技者に多彩な遊技を提供することができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【９２６１】

さらに、詳細な説明は後述するが、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、普通図柄の確率状態として、「低確率状態」と、「高確率状態」を設定可能に構成しており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合は、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも、１回の普通図柄抽選の結果に基づいて第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となる期待度が低くなるように構成している。

【９２６２】

具体的には、「普通図柄の高確率状態」とは、普通図柄（第２図柄）抽選の当たり確率がアップし、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入球口６４０へ遊技球が入球しやすい状態となる。よって、普通図柄の高確率状態中は、第２入球口６４０へ遊技球が入球し易い状態となり、特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が行われる回数を増やすことができる。

【９２６３】

なお、普通図柄の高確率状態中の普図当たり遊技として、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を長くするのではなく、または、その開放時間を長くすることに加えて、１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａが開放する回数を普通図柄の低確率状態中に実行される普図当たり遊技よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、普通図柄の高確率状態中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変更せず、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、普通図柄の高確率状態中において、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａを開放する回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、普通図柄の低確率状態中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【９２６４】
なお、本第３２制御例では、上述した通り、普通図柄の確率状態を「低確率状態」、「高確率状態」と変更可能に構成し、特別図柄の確率状態は変更されないように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄の確率状態も、上述した普通図柄の確率状態と同様に「低確率状態」、「高確率状態」と変更可能に構成しても良い。この場合、特別図柄の高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、特別図柄の抽選結果が大当たりとなる確率（大当たり確率）を高めるように構成すると良い。また、大当たり確率だけで無く、特別図柄の抽選結果が小当たりとなる確率（小当たり確率）を高めるように構成しても良いし、大当たり確率、小当たり確率を共に高めるように構成しても良いし、特別図柄の高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、特別図柄の抽選結果が外れとなる確率（外れ確率）が低くなるように構成しても良い。
【９２６５】
遊技領域には、遊技球が入球することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入球口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入球口６４及び第２入球口６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７における変動表示と同期させながら、装飾用の第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への遊技球の通過をトリガとして第２図柄（普通図柄）を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。
【９２６６】
第３図柄表示装置８１は１５インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図９５０参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば左、中及び右の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本第３２制御例の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図９５０参照）の制御に伴った特別図柄の表示が第１図柄表示装置３７で行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７の表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。
【９２６７】
第２図柄表示装置は、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。
【９２６８】
パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本制御例においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入球口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【９２６９】
第２図柄（普通図柄）の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常状態（普通図柄の低確率状態）の場合よりも、時短状態（普通図柄の高確率状態）の方が短くなるように設定される。これにより、時短状態中は、第２図柄（普通図柄）の変動表示が短い時間で行われるので、単位期間当たりにおける普通図柄抽選の実行回数を通常状態よりも多くするこ

とができる。よって、普通図柄抽選の結果が当たりとなる機会が増えるので、第２入球口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会（普図当たり遊技が実行される機会）を遊技者に多く与えることができる。よって、時短状態（普通図柄の高確率状態）中は、第２入球口６４０へ遊技球が入球しやすい状態とすることができる。

【９２７０】

普通図柄始動口（スルーゲート）６７は、可変表示装置ユニット８０の右側の領域において遊技盤１３に組み付けられ、遊技盤１３に発射された遊技球のうち、遊技盤１３の右方を流下する遊技球の一部が通過可能に構成されている。普通図柄始動口（スルーゲート）６７を遊技球が通過すると、第２図柄（普通図柄）の抽選が行われる。普通図柄抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、普通図柄抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、普通図柄抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【９２７１】

遊技球の普通図柄始動口（スルーゲート）６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数（普図保留数）が上述した第１図柄表示装置３７により表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【９２７２】

なお、第２図柄の変動表示は、本第３２制御例のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の遊技球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、複数（例えば、２つ）であっても良い。また、普通図柄始動口（スルーゲート）６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の右方（右側領域）に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左方（左側領域）でも良い。また、第１図柄表示装置３７により保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【９２７３】

可変表示装置ユニット８０の下方には、遊技球が入球し得る第１入球口６４が配設されている。この第１入球口６４へ遊技球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図９５０参照）で特別図柄抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７の表示装置３７ａで示される。

【９２７４】

一方、遊技盤１３の右側領域下方には、遊技球が入球し得る第２入球口６４０が配設されている。この第２入球口６４０へ遊技球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図９５０参照）で特別図柄抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７の表示装置３７ｂで示される。

【９２７５】

また、第１入球口６４に遊技球が入球すると、４個の遊技球が賞球として払い出され、第２入球口６４０に遊技球が入球すると１個の球が賞球として払い出されるように構成している。つまり、第１入球口６４、及び、第２入球口６４０は、特別図柄抽選を実行させるための始動入賞口の役割と、賞球を払い出すための入賞口の役割を兼ね備えている。なお、本第３２制御例においては、第１入球口６４へ遊技球が入球した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入球した場合に払い出される賞球数とを異ならせるよう

に構成したが、第１入球口６４へ遊技球が入球した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入球した場合に払い出される賞球数とを同一の数、例えば、第１入球口６４へ遊技球が入球した場合に払い出される賞球数を１個とし、第２入球口６４０へ遊技球が入球した場合に払い出される賞球数と同一となるように構成してもよい。

【９２７６】

第２入球口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが閉鎖状態（埋設状態）となって、遊技球が第２入球口６４０へ入球しにくい状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物６４０ａが開放状態（突出状態）となり、遊技球を第２入球口６４０へと入球させ易い状態となる。

【９２７７】

上述した通り、時短状態中は、通常状態中と比して第２図柄（普通図柄）の当たり確率が高く、また、第２図柄（普通図柄）の変動表示にかかる時間（普図変動時間）も短いので、第２図柄（普通図柄）の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物６４０ａが開放状態（突出状態）となる回数が増える。更に、時短状態中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常状態中より長くなる。よって、時短状態中は、通常状態中と比して、第２入球口６４０へ遊技球が入球しやすい状態を作ることができる。

【９２７８】

より具体的には、普通図柄の低確率状態が設定される通常状態においては、遊技者が遊技盤１３の右側領域に向けて遊技球を発射させる右打ち遊技を実行し、スルーゲート６７へと遊技球を通過させることで普図当たり遊技を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を殆ど入球させることができず、遊技盤１３の左側領域に向けて遊技球を発射させる左打ち遊技を実行し、第１入球口６４へと遊技球を入球させる遊技を行った方が、より多くの特別図柄抽選を実行させることが可能となるように構成している。

【９２７９】

一方で、普通図柄の高確率状態が設定される時短状態においては、遊技者が遊技盤１３の右側領域に向けて遊技球を発射させる右打ち遊技を実行し、スルーゲート６７へと遊技球を通過させることで普図当たり遊技を実行させた場合に、第２入球口６４０へと容易に遊技球を入球させることができ、遊技盤１３の左側領域に向けて遊技球を発射させる左打ち遊技を実行し、第１入球口６４へと遊技球を入球させる遊技を行った場合よりも、より多くの特別図柄抽選を実行させることが可能となる。

【９２８０】

つまり、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態が設定されている場合には右打ち遊技よりも左打ち遊技の方が特別図柄抽選を実行させる視点から遊技者に有利な遊技となり、時短状態が設定されている場合には左打ち遊技よりも右打ち遊技の方が特別図柄抽選を実行させる視点から遊技者に有利な遊技となる。このように、本第３２制御例では、設定されている遊技状態に応じて、遊技者に有利となる遊技方法を異ならせているため、長時間遊技を行っている遊技者に対して遊技方法を変更させながら遊技を行わせることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９２８１】

ここで、第１入球口６４に遊技球が入球した場合に実行される第１特別図柄抽選と、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合に実行される第２特別図柄抽選とで、抽選結果が大当たりとなる確率が同一（約１／３００）となるように構成している。しかしながら、大当たり当選した場合に選定される大当たりの種別として、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数が最大の９ラウンド（Ｒ）となる確率は、第２特別図柄抽選の方が第１特別図柄抽選よりも高く設定されている。また、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として、遊技者に有利な時短状態が設定される確率は、第２特別図柄抽選の方が第１特別図柄抽選よりも高く設定されている。一方で、第１入球口６４は、第２入球口６４０のように電動役物６４０ａを有しておらず、遊技球が常時入球可能な状態となっている。

【９２８２】
よって、通常状態においては、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ難いので、電動役物６４０ａのない第１入球口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように遊技球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入球口６４への入球によって第１特別図柄抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【９２８３】
一方、時短状態中は、普通図柄始動口（スルーゲート）６７に球を通過させることで、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放状態となりやすく、第２入球口６４０へと入球させ易い状態であるので、第２入球口６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように遊技球を発射し（所謂「右打ち」）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過させて電動役物６４０ａを開放状態にすると共に、第２入球口６４０への入球によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【９２８４】
そして、上述した通り、本第３２制御例のパチンコ機１０では、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合の方が、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、遊技者に有利な大当たり遊技（ラウンド数が多い大当たり遊技）が実行され易く構成しており、且つ、大当たり遊技終了後に遊技者に有利な時短状態が設定され易くなるように構成している。よって、第１特別図柄抽選が主として実行される通常状態よりも、第２特別図柄抽選が主として実行される時短状態の方が、遊技者に有利な遊技状態となる。
【９２８５】
このように、本第３２制御例のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（時短状態中であるか、通常状態中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。
【９２８６】
ここで、図９２５、及び図９２６を参照して本第３２制御例のパチンコ機１０に設けられた第２入球口６４０への球流れについて説明をする。第３２制御例では図９２５に示した通り、遊技盤１３の遊技領域の略中央位置に可変表示装置ユニット８０を配設し、遊技領域を可変表示装置ユニット８０の左方側（左打ち領域）と右方側（右打ち領域）とに区画しており、遊技者が操作ハンドル５１の操作量を調整することで発射された球の行き先を右打ち領域或いは左打ち領域へと打ち分けることが可能に構成している。以下、遊技者が操作ハンドル５１を操作して遊技領域のうち左打ち領域へと球を発射させる遊技を左打ち遊技、右打ち領域へと球を発射させる遊技を右打ち遊技と称す。
【９２８７】
図９２５に示した通り、第２入球口６４０と、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａ、及び、電動役物６４０ａを動作させるか否かの抽選のトリガとなる普通図柄始動口（スルーゲート）６７が右打ち領域に配設されており、遊技状態として時短状態が設定されている場合には右打ち遊技が行われるように構成している。
【９２８８】
左打ち遊技により発射された球が第２入球口６４０に入球することが無いように可変表示装置ユニット８０の下方には釘が植設されており、左打ち遊技中に第２入球口６４０に球が入球することが無いように構成している。このように構成することで、左打ち遊技では第１特別図柄の抽選を実行させるために遊技球を第１入球口６４へと入球させる遊技を行わせ、右打ち遊技では第２特別図柄の抽選を実行させるために遊技球を第２入球口６４０へと入球させる遊技を行わせることができ、遊技方法に応じて異なる遊技性を適切に提供することができる。
【９２８９】
第３２制御例のパチンコ機１０では、図９２５に示した通り、右打ち領域には、上流側から順にスルーゲート６７、第２可変入賞装置６５０、電動役物６４０ａ、第１可変入賞

装置６５の順で各機構が配設されており、右側領域のスルーゲート６７よりも上流側に植設された複数の釘によって右側領域を流下する遊技球の流下速度や流下方向を不規則に可変させながら、右側領域を流下する遊技球の約２／３がスルーゲート６７を通過するように構成している。そして、スルーゲート６７を通過した遊技球は、スルーゲート６７の下方に植設された複数の釘によって、第２可変入賞装置６５０の上流側へと誘導されながら、第２可変入賞装置６５０に到達するように構成している。

【９２９０】

一方で、スルーゲート６７を通過すること無く（スルーゲート６７の左側に形成された流路を流下して）第２可変入賞装置６５０に到達した遊技球は、スルーゲート６７を通過した遊技球よりも、第２可変入賞装置６５０の下流側に到達する、或いは、第２可変入賞装置６５０に到達すること無く、第２可変入賞装置６５０よりも下流側に配設されている電動役物６４０ａへと到達するように構成している。

【９２９１】

図９２５に示した通り、第２可変入賞装置６５０は、その上面が左下方向（図９２５の正面視で左下方向）に向けて下り傾斜する球流路となるように遊技盤１３に配設されており、その第２可変入賞装置６５０の上面（閉鎖状態である開閉扉６５０ｆ１の上面）を流下した遊技球は、電動役物６４０ａに向けて流下するように構成している。詳細は後述するが、この第２可変入賞装置６５０は、特別図柄抽選で小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技によって、開閉作動するものであって、小当たり遊技が実行されていない状態では、第２可変入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａの開口部が閉鎖状態の開閉扉６５０ｆ１によって覆われており、第２可変入賞装置６５０に到達した遊技球の殆どがＶ入賞口６５０ａへと入賞すること無く、下流側に向けて排出される。

【９２９２】

一方、小当たり遊技が実行されている間は、開閉扉６５０ｆ１が開放状態と閉鎖状態とに繰り返し切り替わる開閉作動が実行されることにより、第２可変入賞装置６５０の上流側に到達した遊技球（スルーゲート６７を通過した遊技球）がＶ入賞口６５０ａへと入賞し易くなる。つまり、右側領域には、小当たり遊技中に遊技球を第２可変入賞装置６５０へと入賞させ易い第１流路（スルーゲート６７を通過した遊技球が流下する流路）と、第２可変入賞装置６５０へと入賞させ難い第２流路（スルーゲート６７を通過しない遊技球が流下する流路）と、が形成されている。よって、小当たり遊技が実行された場合に、発射した遊技球数に対する第２可変入賞装置６５０への入賞数の割合が高くなることを期待しながら、右側領域を流下する遊技球の挙動に注目させることができる。

【９２９３】

上述した通り、本第３２制御例では、右打ち遊技によって発射された遊技球のうち、約２／３がスルーゲート６７を通過し、第２可変入賞装置６５０の上流側に向けて流下し、残りの約１／２がスルーゲート６７を通過すること無く、第２可変入賞装置６５０に向けて流下するように構成している。そして、小当たり遊技が実行されていない間は、右打ち遊技によって発射され、右側領域を流下した全ての遊技球が、第２可変入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａへと入賞すること無く、電動役物６４０ａに到達することになる。

【９２９４】

そして、電動役物６４０ａが待避状態（埋設状態）に位置している場合は、退避状態の電動役物６４０ａを通過し第１可変入賞装置６５に向けて遊技球が流下する。一方、電動役物６４０ａが突出状態に位置している場合は、電動役物６４０ａに到達した遊技球が突出状態の電動役物６４０ａの上面を右下方向（図９２５の正面視で右下方向）に向けて流下する。そして、電動役物６４０ａの右端まで到達した球は第２入球口６４０へ入球し、電動役物６４０ａの右端に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合は、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球するように構成している。

【９２９５】

さらに、本パチンコ機１０は上述した電動役物６４０ａ、第２入球口６４０、一般入賞

口６３を覆うように透過性のカバー部材６５５を設けている。このカバー部材６５５は入射する光を乱反射させるためのカット加工が表面に施されている。このカバー部材６５５を設けることで、遊技中はパチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）や第３図柄表示装置８１から発せられる様々な光によってカバー部材６５５の内部を遊技者に視認させ難くすることができる。よって、電動役物６４０ａの動作タイミングを図って右打ち遊技を行う行為を抑制することができる。

【９２９６】

また、遊技が行われていない状態（遊技機の電源がオフになっている状態）では、カバー部材への入射光が抑えられるため、カバー部材６５５の内部を容易に視認することができ、パチンコ機１０のメンテナンスを容易に行うことができる。なお、このようにカバー部材６５５を用いて内部の視認性を可変させる構成を用いる場合には、上述したように装飾用に発光する発光手段を利用可能に構成することで発光手段を共有することができ、パチンコ機１０を構成する部品点数を削減することができるが、カバー部材６５５の内部を視認困難とするための発光手段を専用に設けても良い。

【９２９７】

また、電動役物６４０ａの動作が行われる期間を含む所定期間の間カバー部材６５５の内部を視認困難にすればよく、例えば、電動役物６４０ａの動作が実行されると判別した場合（即ち、普通図柄の抽選により当たりに当選した場合）に、カバー部材６５５の表面に電動役物６４０ａが動作する旨を報知する文字（例えば、「オープン」）が表示されるように発光手段を制御し、その表示された文字により、カバー部材６５５の内部を視認困難にするように構成しても良い。これにより、電動役物６４０ａが動作することを遊技者に把握させるとともに、その詳細な動作タイミングを把握させ難くすることができる。

【９２９８】

ここで、図９２６を参照して、本パチンコ機１０の右打ち領域に設けられた電動役物６４０ａの構成について、より詳細に説明をする。図９２６に示した通り、右打ち遊技により発射された球のうち、第２可変入賞装置６５０から流下した遊技球は、電動役物６４０ａが配設されている領域に向けて流下する。具体的に説明をすると、電動役物６４０ａは、５０ｍｍの長さを有し、その上面を球が流下可能な板状部材で構成され、右下方向（図９２５の正面視で右下方向）に向けて下り傾斜となるように遊技盤１３に配設されている。そして、第２可変入賞装置６５０から流下した遊技球は電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍの範囲に該当する領域ａ（図９２６参照）に流下する。

【９２９９】

領域ａに到達した遊技球は、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は電動役物６４０ａを通過し第１可変入賞装置６５に向けて流下する。一方、電動役物６４０ａが突出状態に位置している場合は電動役物６４０ａの上面を右端側に向けて遊技球が流下する。そして、領域ｂ（電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍから４０ｍｍが該当する領域）に球が到達した状態で電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合には、電動役物６４０ａの下方に設けられた一般入賞口６３に向けて遊技球が流下するように構成されている。最後に、領域ｃ（電動役物６４０ａの右端から１０ｍｍが該当する領域）に球が到達すると、その球は第２入球口６４０へ入球するように構成されている。

【９３００】

なお、本第３２制御例では、遊技状態（普通図柄の確率状態）によって、電動役物６４０ａが突出状態を継続する期間が異なるように構成しており、遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で電動役物６４０ａが動作する（普図当たり遊技を実行する）場合には、突出状態に位置する電動役物６４０ａ上を流下する遊技球が領域ｂ（図９２６参照）に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変し、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定されている状態では、電動役物６４０ａ上を流下する遊技球が領域ｃ（図９２６参照）へと到達するのに十分な期間の間、電動役物６４０ａが突出状態を継続させるように構成している。

【９３０１】

具体的には、電動役物６４０ａの動作期間（継続して突出状態に位置する期間）が、時短状態中は２秒、通常状態中は０．２秒となるように構成している。そして、電動役物６４０ａは図９２６に示した領域（領域ａから領域ｃまでの範囲）を球が流下するための流下期間が０．２秒よりも長く、且つ２秒よりも短くなるように構成されている（第３２制御例では、０．８秒）。このように構成することで、通常状態中に右打ち遊技を行い、普通図柄の当たりに当選し、動作中の電動役物６４０ａの上面を遊技球が流下する状態になった場合であっても、電動役物６４０ａの上面を流下する遊技球が第２入球口６４０に到達するまでに電動役物６４０ａの動作が終了し、退避状態となる、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されることを抑制することができる。

【９３０２】

また、時短状態中においては、電動役物６４０ａの上面を遊技球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．８秒）よりも長い期間、電動役物６４０ａの突出状態を継続させるため、突出状態である電動役物６４０ａの上面を流下した遊技球が第２入球口６４０へ到達し易くし、第２特別図柄の抽選を実行させ易くすることができる。

【９３０３】

さらに、時短状態中において、例えば、電動役物６４０ａが作動してから１．５秒後に電動役物６４０ａに到達した遊技球は電動役物６４０ａの上面を流下し、領域ｂに到達したタイミングで電動役物６４０ａの作動が終了する（電動役物６４０ａが作動してから２秒経過する）ことになる。このような遊技球は図９２６に示した通り、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球し、１０個の球が賞球として払い出される。このように、時短状態中において右打ち遊技をした場合には、電動役物６４０ａの作動タイミングと、電動役物６４０ａへの遊技球の到達タイミングとによって、異なる入球口（第２入球口６４０或いは一般入賞口６３）へと遊技球を誘導することができるように構成することで、遊技者に対して時短状態中に継続して右打ち遊技を行わせることができる。

【９３０４】

また、本第３２制御例では、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を最大で１個保持（保留記憶）可能に構成している。つまり、新たな特別図柄抽選を実行させるための実行条件が成立していない状態であっても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることで特図２保留を獲得し、特図２保留を獲得している状態で、特別図柄抽選を実行させるための実行条件が成立した場合には、特図２保留を用いて第２特別図柄抽選を実行させることができるように構成している。

【９３０５】

よって、時短状態が設定されている状態において、特別図柄抽選を実行させるための実行条件が成立していない場合、例えば、特別図柄変動が実行されている場合であっても、特図２保留を獲得するために意欲的に遊技者に右打ち遊技を行わせることができる。

【９３０６】

さらに、特図２保留を既に最大数（１個）獲得している状態であっても、時短状態中に右打ち遊技を行うことで、第２入球口６４０の下方に設けられた一般入賞口６３へと遊技球を入賞させ易くすることができるため、時短状態中に多くの賞球を獲得しようとする遊技者に対して、意欲的に右打ち遊技を行わせ易くすることができる。

【９３０７】

なお、本第３２制御例では、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合に払い出される賞球数（１個）よりも、第２入球口６４０の下方に設けられた一般入賞口６３へと遊技球が入賞した場合に払い出される賞球数（１０個）の方が多くなるように構成することで、時短状態中において、特図２保留の獲得を目指す遊技に加え、多くの賞球獲得を目指す遊技を遊技者に提供するように構成している。このように構成することで、時短状態における遊技状況に応じて目的を異ならせた遊技を遊技者に行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９３０８】

本第３２制御例では、上述した通り、時短状態中において、特図２保留の獲得を目指す

遊技とは異なる遊技として、多くの賞球獲得を目指す遊技を実行させることが可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、一般入賞口６３へと遊技球が入球したことに基づいて、賞球とは異なる特典を遊技者に提供するように構成しても良いし、一般入賞口６３の代わりに、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得可能な入賞口や、普通図柄抽選の実行権利（普図保留）を獲得可能な入賞口を設けるように構成しても良い。

【９３０９】

上述したように、一般入賞口６３への入球に応じた賞球数が１０個で、第２入球口６４０への入球に応じた賞球数が１個となるように構成しているため、第２特別図柄抽選（特図２抽選）の実行条件が成立している状態であれば、第２入球口６４０に遊技球が入球する場合の方が一般入賞口６３に遊技球が入球するよりも遊技者に有利な特典（即ち、特図２抽選および１個の賞球）を付与することができ、第２特別図柄抽選（特図２抽選）の実行条件が成立しておらず、且つ、特図２保留を条件数獲得している状態であれば、第２入球口６４０よりも一般入賞口６３に遊技球が入球するほうが遊技者に有利な特典（即ち、１０個の賞球）を付与することができるように構成している。

【９３１０】

これにより、遊技の状況（特別図柄の変動の有無）に応じて、遊技者が入球を所望する入球口（多くの特典を獲得可能な入球口）を可変させることができるため、時短状態中における右打ち遊技を遊技者に楽しませることができる。また、電動役物６４０ａの一回の動作中に第２入球口６４０と、一般入賞口６３との両方に球を入球させるためには、右打ち遊技を継続して実行する必要があるため遊技の稼働を高めることができる。

【９３１１】

尚、第３２制御例では時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間として、電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと到達する期間（０．８秒）よりも十分に長い期間（２秒）を設定し、電動役物６４０ａが動作した場合に第２入球口６４０へ遊技球を確実に入球させるように構成しているが、それ以外に、例えば、時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を遊技球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．８秒）よりも若干長い期間（例えば、０．９秒）となるように構成しても良い。このように構成することで、時短状態中においてスルーゲート６７に遊技球を通過させた後、遊技球の打ち出しを止め、電動役物６４０ａが動作したことを確認した後に再度遊技球の打ち出しを開始する行為（所謂、止め打ち）を抑制することができるため、時短状態中において右打ち遊技を継続して行わせ遊技の稼働を向上させることができる。

【９３１２】

第１入球口６４の下方右側には第１可変入賞装置６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）６５ａが設けられている。パチンコ機１０においては、第１入球口６４又は第２入球口６４０への入球に起因して行われた特別図柄抽選の結果が大当たり当選であると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たり当選を示すための停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７にて特別図柄を点灯表示させると共に、その大当たり当選に対応した第３図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、遊技者に対して大当たり当選が報知される。

【９３１３】

そして、遊技球が第１可変入賞装置６５へと入賞し易い大当たり遊技が実行される。この大当たり遊技が実行されている特別遊技状態では、通常時（非大当たり遊技中）には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定期間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【９３１４】

この特定入賞口６５ａは、所定期間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口６５ａが所定期間開放される。この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で９回（９ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の

付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【９３１５】
第１可変入賞装置６５は、具体的には、特定入賞口６５ａの開口部を覆う横長矩形状の開閉扉６５ｂと、その開閉扉６５ｂを前後方向（図９２５の視点で奥行き方向）へと開閉駆動するための特定入賞口ソレノイド２０９ａ（図９５０参照）とを備えている。特定入賞口６５ａは、通常時は、遊技球が入賞できないか又は入賞し難い閉鎖状態、具体的には、開閉扉６５ｂが手前側（図９２５の視点で手前側）に突出している閉鎖状態となり、特定入賞口６５ａの開口部が閉鎖状態の開閉扉６５ｂに覆われるように構成されている。なお、閉鎖状態に開閉扉６５ｂが位置している状態では、開閉扉６５ｂの上面に遊技球が流下可能な流路が形成されており、閉鎖状態の第１可変入賞装置６５へと遊技球が到達した場合には、開閉扉６５ｂの上面に形成された球流路を流下し、特定入賞口６５ａへと入賞すること無く、第１可変入賞装置６５の下流側に流下し、遊技盤１３の遊技領域の下側に設けられたアウト口６６に入球し、パチンコ機１０の外部へと排出される。
【９３１６】
そして、大当たり遊技が実行されると特定入賞口ソレノイド２０９ａを駆動して開閉扉６５ｂが奥側（図９２５の視点で奥側）へと作動することにより、遊技球が特定入賞口６５ａに入賞しやすい開放状態を一時的に形成し、その開放状態と閉鎖状態とを交互に繰り返すように作動する。
【９３１７】
なお、特別遊技状態（大当たり遊技の内容）は上記した構成に限定されるものではなく、特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７において大当たり当選を示す特別図柄が表示された場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入球口６４の下方右側や、第１入球口６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニット８０の左方でも良い。
【９３１８】
第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０は、具体的には、Ｖ入賞口６５０ａの開口部を覆う横長矩形状の開閉扉６５０ｆ１と、その開閉扉６５０ｆ１を前後方向（図９２５の視点で奥行き方向）へと開閉駆動するためのＶ入賞口ソレノイド２０９ｂ（図９５０参照）とを備えている。Ｖ入賞口６５０ａは、通常時は、遊技球が入賞できないか又は入賞し難い閉鎖状態、具体的には、開閉扉６５０ｆ１が手前側（図９２５の視点で手前側）に突出している閉鎖状態となり、Ｖ入賞口６５０ａの開口部が閉鎖状態の開閉扉６５０ｆ１に覆われるように構成されている。なお、閉鎖状態に開閉扉６５０ｆ１が位置している状態では、開閉扉６５０ｆ１の上面に遊技球が流下可能な流路が形成されており、閉鎖状態の第２可変入賞装置６５０へと遊技球が到達した場合には、開閉扉６５０ｆ１の上面に形成された球流路を流下し、Ｖ入賞口６５０ａへと入賞すること無く、第２可変入賞装置６５０の下流側に流下し、第２可変入賞装置６５０よりも右側領域の下流側に設けられた電動役物６４０ａに向けて流下する。
【９３１９】
そして、小当たり遊技が実行されるとＶ入賞口ソレノイド２０９ｂを駆動して開閉扉６５０ｆ１が奥側（図９２５の視点で奥側）へと作動することにより、遊技球がＶ入賞口６５０ａに入賞しやすい開放状態を一時的に形成し、その開放状態と閉鎖状態とを交互に繰り返すように作動する。なお、第２可変入賞装置６５０の詳細な構造については、図９２７から図９３０を参照して後述する。
【９３２０】
ここで、図９２７から図９３０を参照してＶ入賞装置６５０の構成について詳細に説明をする。まず、図９２５に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が特定入賞

口（Ｖ入賞口）６５０ａを閉鎖している閉鎖状態である場合は、閉鎖状態である開閉扉６５０ｆ１の上面を遊技球が流下可能に構成されており、Ｖ入賞装置６５０が閉鎖状態中にＶ入賞装置６５０に到達した遊技球は、開閉扉６５０ｆ１上を左下側（図９２５の正面視で左下側）に向けて流下し、スルーゲート６７に向けて流出される。一方、Ｖ入賞装置６５０が開放状態（即ち、小当たり遊技中）である場合は、遊技球がＶ入賞装置６５０内へと入賞する。

【９３２１】

本第３２制御例では、小当たり遊技中におけるＶ入賞装置６５０の開放動作として、２秒間の閉状態（オープニング期間）の後、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（１．５秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（１．５秒）、開状態（０．２秒）、閉状態（４．８秒）、開状態（０．８秒）、閉状態（９秒）となる開放期間（ラウンド遊技期間）が実行されるように構成されている。

【９３２２】

このように、１回の開状態（開放期間）が継続する期間は最短で０．１秒と短く設定されているが、Ｖ入賞装置６５０が開放するタイミングにおいて開閉扉６５０ｆ１上を流下している遊技球がＶ入賞装置６５０へと入賞するのに十分な期間である。Ｖ入賞装置６５０に入賞した遊技球は、第１規制部材或いは第２規制部材上を流下しながら検出口６５０ａ１（図９２９（ａ）参照）に向けて整列して流下するように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が開閉扉６５０ｆ１のどの位置からＶ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、円滑に球を流下させることができる。

【９３２３】

なお、第３２制御例ではＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が継続して開放される期間の最短期間を０．１秒に設定しているが、開閉扉６５０ｆ１の開放期間中に開閉扉６５０ｆ１上を流下している遊技球がＶ入賞装置６５０へと入賞可能な期間であればその他の期間を設定しても良い。また、第３２制御例では１回の小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を開放させる回数を８回としているが、それ以外の回数を設定しても良い。

【９３２４】

詳細は後述するが、本第３２制御例では小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を１回開放させてから次に開放させるまでの閉鎖期間（開放間インターバル期間）として、小当たり遊技中の５回目の開放動作までよりも、５回目開放動作以降の方が長い閉鎖期間が設定されるように構成している。これは、小当たり遊技が行われている期間中にＶ入賞装置６５０へ遊技球を入賞させ易くさせるためのものである。具体的には、小当たり遊技中において５回目の開放動作が終了した時点で特定領域（Ｖスイッチ）６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合には、遊技者に右打ち遊技を強調して促す遊技案内表示を第３図柄表示装置８１に表示するように構成している。

【９３２５】

そして、第３図柄表示装置８１に表示された遊技案内表示を把握することで右打ち遊技を開始した場合にも、Ｖ入賞装置６５０へ遊技球を入球させることができるように、開放間インターバル期間を長く設定している。

【９３２６】

このように構成することで、小当たり遊技中に適切な遊技をしていない遊技者（右打ち遊技をしていない遊技者）に対しても適切な遊技を実行させ易くすることができる。このように、複数回の開放動作が実行される特定遊技（小当たり遊技）中において、一部の開放間インターバル期間を他よりも長く設定し、適正な遊技を行っていないと判別した場合に、適正な遊技内容を促すための遊技案内表示を表示可能とすることで、誤った遊技を行っている遊技者に対して、安心して遊技を行わせることができる。

【９３２７】
　また、小当たり遊技中に実行される５回目の開放動作までは、閉鎖期間が短く（０．４秒）設定されているため、小当たり遊技が実行された直後から右打ち遊技を実行している遊技者に対して、５回目の開放動作が終了するまでの間に、遊技球を所定数（１０個）Ｖ入賞装置６５０へと入賞させることで小当たり遊技の終了条件を成立させることで、長い閉鎖期間が設定されるよりも前に小当たり遊技を終了させ易くすることが可能となる。よって、小当たり遊技中に実行される１回目の開放動作終了後から長い閉鎖期間が設定される場合と比べて、小当たり遊技期間が無用に長くなってしまい適正な遊技を実行している遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【９３２８】
　次に、図９２７を参照してＶ入賞装置６５０の構造について詳細に説明をする。図９２７は、このＶ入賞装置６５０の分解斜視図である。Ｖ入賞装置６５０は、図９２７に示すように、遊技盤１３の前面側に突出して配置される開口部形成部材６５０ｂ、その開口部形成部材６５０ｂの背面側に組み合わされて、Ｖ入賞装置６５０を遊技盤１３にビス留めするためのベース部材６５０ｃと、そのベース部材６５０ｃの背面側に配置されてベース部材６５０ｃの背面側よりパチンコ機１０の前面側に対してＬＥＤを点灯させるためのＬＥＤが複数配置されたＬＥＤ基板６５０ｄと、そのＬＥＤ基板６５０ｄをベース部材６５０ｃと狭持する裏カバー体６５０ｅと、開口部形成部材６５０ｂに形成されている特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを開閉するための開閉扉６５０ｆ１を有した開閉ユニット６５０ｆと、裏カバー体６５０ｅの背面側に組み合わされて流路を形成する流路カバー体６５０ｇと、裏カバー体６５０ｅと流路カバー体６５０ｇとで形成された流路に突出して遊技球の流路を切り替える切替部材６５０ｈと、その切替部材６５０ｈと係止されるリンク部材６５０ｉと、流路カバー体６５０ｇの背面側に配置される背面カバー体６５０ｊと、その背面カバー体６５０ｊの背面側に固定されて、リンク部材６５０ｉを作動させる流路ソレノイド６５０ｋと、その流路ソレノイド６５０ｋを背面側から覆って背面カバー体６５０ｊにビスにより固定するための固定用カバー体６５０ｍとで構成されている。
【９３２９】
　図９２８は、Ｖ入賞装置６５０の断面図である。図９２８（ｃ）はＶ入賞装置６５０の上面図であり、図９２８（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＬｂ－Ｌｂ断面図である。図９２８（ｂ）に示すように、Ｖ入賞装置６５０には、遊技球が入球可能な開口部である特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが形成されている。特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａは、パチンコ機１０の上方を略長方形状の開口が形成されており、その開口を通過した遊技球が図９２８（ｂ）の左方向に誘導されるように左下方に傾斜した底面が形成されている。底面の左端部には、遊技球の入賞を検知するための磁気センサ（球検知スイッチ）６５０ｃ１で構成された検出口６５０ａ１が配置されている。この検出口６５０ａ１を通過した遊技球は、図９２９（ａ）で示す裏カバー体６５０ｅの背面側に形成された振り分け流路へと誘導される。
【９３３０】
　なお、図９２８（ｂ）に示すように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａの開口は、遊技盤１３側より出没可能なシャッター機構で構成された開閉扉６５０ｆ１により遊技球が入球可能な開放状態と入球不可能（入球困難）な閉鎖状態とに可変される。閉鎖状態では、開口が完全に開閉扉６５０ｆ１によって覆われ、開閉扉の上部を遊技球が転動可能に構成される。また、開放状態では、開閉扉６５０ｆ１は、ベース部材６５０ｃの内側（遊技盤１３の内部）に退避されることにより特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内から退避されるように構成されている。
【９３３１】
　このように構成することで、時短遊技中と、大当たり遊技中と、小当たり遊技中とを継続して右打ち遊技させることができるため、遊技状態に応じて遊技方法を変更させる手間を軽減することができる。従って、より楽に遊技を行うことができる。
【９３３２】

また、開閉扉６５０ｆ１の開放状態においては、遊技球が流下する方向と直交する面をＶ入賞装置６５０の開口として構成できるので、遊技球を効率よく特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内に入賞させることができる。よって、小当たり遊技に要する時間を短くすることができ、遊技の効率化をはかることができる。

【９３３３】

図９２８（ａ）は、図９２８（ｂ）に示すＬａ－Ｌａ断面図である。図９２８（ａ）に示すように検出口６５０ａ１を有する磁気センサ６５０ｃ１は、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路側へと検出口６５０ａ１が傾くようにベース部材６５０ｃに固定されている。

【９３３４】

次に、図９２９を参照して、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路に誘導された遊技球が後述する通常排出流路６５０ｅ１と特別排出流路６５０ｅ２とに振り分けられる構成について説明する。

【９３３５】

図９２９（ａ）は、遊技球が特別排出流路６５０ｅ２に振り分けられるように切替部材６５０ｈが作動された状態を示す裏カバー体６５０ｅの背面図である。図９２９（ａ）に示すように、切替部材６５０ｈは、リンク部材６５０ｉの突部が挿入される係止穴６５０ｈ１と遊技球を誘導する誘導片６５０ｈ２とを有しており、流路カバー体６５０ｇに背面側より回動可能に軸支されている。ここで、流路カバー体６５０ｇには、この誘導片６５０ｈ２を挿通することが可能な開口部が設けられており、流路カバー体６５０ｇの背面側より振り分け流路内に誘導片６５０ｈを回動可能に配置することが可能に構成されている。

【９３３６】

図９２９（ａ）に示すように、検出口６５０ａ１より振り分け流路内に誘導された遊技球は、左斜め下方に配置された誘導片６５０ｈ２の上面に誘導されて特別排出流路６５０ｅ２に誘導される。特別排出流路６５０ｅ２を通過した遊技球は特別排出流路６５０ｅ２に設けられた遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成されたＶスイッチ６５０ｅ３により検出されてアウト球としてパチンコ機１０外へ排出される。

【９３３７】

ここで、詳細については後述するが、第３２制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技中に上記したＶスイッチ（特定領域）６５０ｅ３を遊技球が通過することにより、小当たり遊技後に大当たり遊技の開始が設定される。即ち、Ｖスイッチ（特定領域）６５０ｅ３は、大当たり遊技を開始させるためのトリガとして構成されている。また、切替部材６５０ｈは、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０に入賞した遊技球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過可能な流路（特別排出流路６５０ｅ２）、或いはＶスイッチ６５０ｅ３を通過不可能（困難）な流路（通常排出流路６５０ｅ１）の何れかを連通させるためのものであって、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定することでＶ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下するように流路を切り替える（図９２９（ｂ）参照）ように構成している。

【９３３８】

第３２制御例で用いられるパチンコ機１０は、通常に遊技を行っている間は流路ソレノイド６５０ｋがオフに設定されており、Ｖ入賞装置６５０に入賞した遊技球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように構成している。そして、小当たりに当選した場合に、図９５２を参照して後述する開放シナリオテーブル２０２ｇに規定されている内容に従って流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定し、Ｖ入賞装置６５０に入賞した遊技球が特別排出流路６５０ｅ２を流下可能となるように構成している。このように、流路ソレノイド６５０ｋをオフに設定している場合に、パチンコ機１０において長期間維持される状態、即ち、Ｖ入賞装置６５０に入賞した遊技球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように切替部材６５０ｈを維持する状態（図９２９（ａ）参照）を提供するように構成することで、パチンコ機１０の使用電力を抑えることが出来る。

【９３３９】

このように、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０に入賞した遊技球の流下ルートにより小当たり遊技後に設定される遊技状態が可変されるので、小当たり遊技中にも遊技者の興趣を向上させることができる。なお、Ｖ入賞装置６５０の開口（特定入賞口）から特別排出流路６５０ｅ２の入り口（切替部材６５０ｈの誘導片６５０ｈ２により閉鎖される開口面）を通過するのに必要な時間は、最短でも１秒で構成されている。このように構成することで、小当たりに当選していないにも関わらず開閉扉６５０ｆ１が開放されたことを検知してから切替部材６５０ｈにより球の流下ルートを切り替えたとしても、確実に球が特別排出流路６５０ｅ２を流下する事態を抑制することができる。

【９３４０】

また、通常排出流路６５０ｅ１の下流端部には遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成された排出確認スイッチ６５０ｅ４が設けられている。これにより、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されたかを排出確認スイッチ６５０ｅ４とＶスイッチ６５０ｅ３との検知数の合計により判別できる。なお、小当たり遊技の終了タイミング（小当たり遊技の終了条件（Ｖ入賞装置６５０に所定数（１０個）の入賞があった場合、或いは、Ｖ入賞装置６５０の開放シナリオが終了した場合）が成立した後に実行される小当たりエンディング期間を経過したタイミング）において、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されていない場合には、Ｖ入賞装置６５０内部の異常と判別し、外部に異常を報知したり、大当たり遊技や通常遊技が開始されないように遊技を停止させたりするように構成すると良い。これにより、パチンコ機１０の一部において異常が発生している状態で遊技が進行してしまい２次的な異常が発生してしまうことを抑制することができる。

【９３４１】

このように、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０のＶ入賞口６５０ａに入賞した遊技球が磁気センサ６５０ｃ１により検出され、それに基づいて、遊技者に特典として賞球（１個の賞球）を払い出すことができる。また、その検出された後の遊技球を利用して、Ｖスイッチ６５０ｅ４通過するか否かを振り分け可能に構成することで、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されるか否かを振り分けることができる。よって、大当たり遊技を付与するための専用の入賞口（特定領域）をＶ入賞装置６５０とは別に設ける必要がなく、遊技盤１３のスペースを有効に利用することができる。

【９３４２】

なお、本第３２制御例では、特別図柄抽選で小当たり当選した場合に複数種類の小当たり種別の中から１の小当たり種別（小当たりＡ～Ｃ）を設定可能に構成し、何れの小当たり種別が設定された小当たり遊技が実行された場合にも、小当たり遊技中に特定領域へと遊技球を入球させることができるように、流路ソレノイド６５０ｋがオンに設定されるように構成しているがこれに限ること無く、設定される小当たり種別に応じて、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと入賞した遊技球が特定領域（Ｖスイッチ６５０ｅ３）を通過する確率を異ならせるように構成しても良い。

【９３４３】

例えば、特別図柄抽選で小当たり当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ～Ｃ）に応じて、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定する期間やタイミングが異なる小当たり遊技が実行されるように構成し、小当たりに当選した場合に実行される小当たり遊技の内容によって、その小当たり遊技中に球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）を異ならせるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して、小当たりに当選することだけではなく、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【９３４４】

次に、図９３０を参照して、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉する開閉扉６５０ｆ１の球流下面の構造について説明をする。図９３０（ａ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉扉６５０ｆ１が閉鎖している状態を平面視した模式図である。第３２制御例の開閉扉６５０ｆ１は、図９３０（ａ）に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の上

面に到達した遊技球は、Ｖ入賞装置６５０上面の傾斜（図９２５参照）に沿って、Ｖ入賞装置６５０の右側上面６５０ｙ１から開閉扉６５０ｆ１の上面を介して左側上面６５０ｙ２を流下し、可変入賞装置６５に向けて流出するように構成されている。

【９３４５】

そして、開閉扉６５０ｆ１の上面には、遊技球の流下を遅延させるための遅延部材として第１遅延部材６５０ｆａ、第２遅延部材６５０ｆｂ、第３遅延部材６５０ｆｃが設けられており、球が開閉扉６５０ｆ１上面を流下する流下期間が０．６秒となるように構成している。この流下期間（０．６秒）は、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが小当たり遊技によって複数回開放される際の間隔（閉鎖期間（０．４秒））よりも長くなるように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している遊技球が、小当たり遊技により特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放された場合に確実に入賞するように構成している。

【９３４６】

図９３０（ａ）に示した状態で、小当たり遊技が実行され、開閉扉６５０ｆ１が開放状態に可変すると、図９３０（ｂ）に示した状態へと移行する。図９３０（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａが開放している状態を平面視した模式図である。図９３０（ｂ）に示した通り、開閉扉６５０ｆ１は開放状態になると、遊技盤１３の内部に待避するように可動し、右側上面６５０ｙ１を流下した球が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞可能となるように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放状態となる。また、開閉扉６５０ｆ１上を流下中の球も、開閉扉６５０ｆ１が待避位置に位置することで、特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａへ入賞する。

【９３４７】

また、Ｖ入賞装置６５０には、開閉扉６５０ｆ１上を流下していた球がどの位置から特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、入賞後の球流れを円滑にするための第１規制部材６５１と、第２規制部材６５２が設けられており、開閉扉６５０ｆ１上面上流側で特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した球は第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を介して一列に整列させてから、遊技球１個分の通路幅である検出口６５０ａ１に向けて流下するように構成されている。このように第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を設けることで、第１規制部材の下方位置に検出口６５０ａ１を設けたとしても、開閉扉６５０ｆ１から勢いよく入賞した遊技球が直接検出口６５０ａ１に衝突することを防止することができるため、検出口６５０ａ１に設けられた球検知スイッチ６５０ｃ１が故障することを抑制することができる。加えて、遊技球１個分の通路幅の検出口６５０ａ１を遊技球が通過するまでに遊技球を整列させるための流路（第１規制部材６５１、第２規制部材６５２上を流下する流路）を確保することができるため、Ｖ入賞装置６５０内で球詰まりが発生し、遊技に支障を来す事態が発生することを抑制することができる。

【９３４８】

以上、説明をしたように、本第３２制御例では判別手段の判別結果（特別図柄の抽選の結果）が所定の判別結果（小当たり）である場合に実行される特典遊技（小当たり遊技）において作動する可変部材（開閉扉６５０ｆ１）の開放間インターバル期間（０．４秒）よりも、その可変部材（開閉扉６５０ｆ１）上を球が流下するのに要する流下期間（０．６秒）が長くなるように構成しているため、小当たり遊技中の開放間インターバル（開閉扉６５０ｆ１が閉鎖状態のタイミング）中に可変部材上を流下する遊技球を確実に次の開放タイミングでＶ入賞装置６５０へ入賞させることができる。

【９３４９】

また、可変部材上を流下中の遊技球のみを小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へ入賞させるだけでも小当たり遊技中に所定個数（１０個）を入賞させることができるように、１回の小当たり遊技における開放動作回数（８回）を設定しているため、１回の開放期間（０．１秒）を短く設定したとしても、充分の入賞個数を確保することができる。加えて、１回の開放期間を長く設定してしまうことにより、小当たり遊技中に過剰な個数の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させてしまうという事態が発生することを抑制することができる。

【９３５０】
図９２４に戻り、説明を続ける。遊技盤１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図９２５参照）を通じて視認することができる。
【９３５１】
遊技盤１３には、アウト口６６が設けられている。遊技領域を流下する遊技球であって、いずれの入賞口（入球口）６３，６４，６５ａ，６４０，６５０ａにも入賞（入球）しなかった遊技球は、アウト口６６を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口６６は、第１入球口６４の下方に配設される。
【９３５２】
遊技盤１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。この各種部材は、遊技領域を流下する遊技球の流下方向や流下速度を可変させるための調整手段として機能する。
【９３５３】
図９３２に示すように、パチンコ機１０の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。
【９３５４】
裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。
【９３５５】
なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【９３５６】
また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【９３５７】
払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図９５０参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技

ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【９３５８】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図９５０参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【９３５９】

ここで、図９３３を参照して、第３図柄表示装置８１の表示内容について説明する。第３図柄表示装置８１の表示面には、特別図柄（第１特別図柄または第２特別図柄）に対応させた第３図柄が表示されるように構成しており、第３図柄の表示態様として「０」から「９」の数字を模した１０種類の主図柄を含む表示態様が表示されるように構成されている。また、本第３２制御例のパチンコ機１０においては、後述する主制御装置１１０による抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う（例えば「７７７」）変動表示が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生するよう構成されている。

【９３６０】

この第３図柄は、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動期間においては、変動している特別図柄と同様に変動表示され、特別図柄抽選の結果を示す表示態様で特別図柄が停止表示された場合に、停止表示された特別図柄に対応した表示態様で停止表示されるように構成している。つまり、遊技者は、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄の変動表示（変動演出）を見ながら特別図柄抽選の結果を予測し、その後、停止表示された第３図柄を視認することで、特別図柄抽選の結果を把握するように構成している。

【９３６１】

ここで、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される第３図柄の変動表示内容について説明する。本第３２制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に複数の第３図柄を変動表示させることが可能に構成しており、停止表示された複数の第３図柄の表示態様（組合せ）によって、特別図柄抽選の結果を報知するように構成している。具体的には、主表示領域Ｄｍは、左・中・右のそれぞれ３つの図柄列Ｚ１，Ｚ２，Ｚ３が表示される。各図柄列Ｚ１～Ｚ３には、上述した第３図柄が規定の順序で表示される。即ち、各図柄列Ｚ１～Ｚ３には、数字の昇順または降順に主図柄が配列され、図柄列Ｚ１～Ｚ３毎に周期性をもって上から下へとスクロールして変動表示が行われる。

【９３６２】

また、主表示領域Ｄｍには、有効ラインＬ１上に第３図柄が停止表示される。その第３図柄が有効ライン上に大当たり図柄の組合せ（本実施形態では、同一の主図柄の組合せ）で揃って停止されれば、大当たりとして大当たり動画が表示される。

【９３６３】

なお、第３図柄表示装置８１における図柄の変動表示の態様は、上記のものに限定されることはなく任意であり、図柄列の数、図柄列における図柄の変動表示の方向、各図柄列の図柄数などは適宜変更可能である。また、第３図柄表示装置８１にて変動表示される図柄は上記に限られることはなく、例えば図形やキャラクタ等の画像と数字とを組み合わせた図柄を第３図柄として構成してもよい。

【９３６４】

主表示領域Ｄｍにおける正面視右上には、小表示領域Ｄｍ４が形成されている。この小表示領域Ｄｍ４は、第３図柄の変動表示を簡易的に表示させることが可能に構成されている。ここで、小表示領域Ｄｍ４において変動表示を実行する場合とは、例えば、主表示領

域Ｄｍにおいて、所定のキャラクタがアクションを行う演出や、枠ボタン２２の押下を促す演出等の表示演出を実行している場合である。表示演出の実行中は、より大きな主表示領域Ｄｍで演出を表示させることによって、より分かり易い演出を提供することができる。また、表示演出の実行中に、第３図柄の変動表示を小表示領域Ｄｍ４に簡易的に表示させておくことで、第３図柄の変動表示が継続していることを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【９３６５】

図９３３（ａ）に示すように、主表示領域Ｄｍの下方には、副表示領域Ｄｓが形成される。この副表示領域Ｄｓには、図９３３（ｂ）に示すように、黒色の円形からなる保留図柄が表示される。上述した通り、第１図柄表示装置３７において変動表示が行われている間に球が第１入球口６４や第２入球口６４０へ入球すると、その入球回数が所定数（第１入球口６４は４回、第２入球口６４０は１回）保留される。副表示領域Ｄｓに対して表示される保留図柄は、保留された入球回数と同一の個数が表示される。本制御例では、保留球数の最大値が第１特別図柄で４個、第２特別図柄で１個に設定されており、副表示領域Ｄｓには、第１特別図柄に対応する保留図柄（特図１保留図柄）を表示可能に構成しているため、副表示領域Ｄｓには、最大で４個の保留図柄（特図１保留図柄）が表示される。なお、図９３３（ｂ）では、副表示領域Ｄｓに保留図柄（特図１保留図柄）を表示させる例を示しているが、保留図柄の表示位置はこれに限ること無く、主表示領域Ｄｓの一部領域に保留図柄を表示させるように構成しても良い。

【９３６６】

また、保留記憶されている全ての保留図柄を表示させる必要も無く、例えば、第２入球口６４０に球を入球させ易い普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定されている場合には、第２特別図柄の保留図柄（特図２保留図柄）のみを表示させ、普通図柄の低確率状態（通常状態）が設定されている場合には、第１特別図柄の保留図柄（特図１保留図柄）のみを表示させるように構成しても良いし、各特別図柄種別に対応させた保留図柄の視認度合いを遊技状態に応じて異ならせても良く、例えば、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定されている場合には、特図２保留図柄のほうが特図１保留図柄よりも遊技者が視認し易いように表示し、普通図柄の低確率状態（通常状態）が設定されている場合には、特図１保留図柄のほうが特図２保留図柄よりも遊技者に視認させ易く表示するように構成しても良い。このように構成することで、設定されている遊技状態に応じて主として実行される特別図柄種別を遊技者に分かり易く報知することができる。

【９３６７】

なお、本第３２制御例では、保留図柄の個数を保留球数に対応させて可変させていたが、保留球数を表示する方法はこれに限られるものではない。例えば、保留球数を数字で表示させる構成としてもよい。また、表示されている保留図柄が特図１保留図柄であるか特図２保留図柄であるかを遊技者が識別可能となるように特別図柄種別に応じて保留図柄の表示態様を異ならせるように構成しても良いし、何れの特別図柄種別に対応した保留図柄が何個あるのかを遊技者に分かり難くさせるために同様の表示態様（完全に同一の表示態様も含む思想）で各保留図柄を表示するように構成しても良い。

【９３６８】

＜第３２制御例における演出内容について＞

次に、図９３４から図９４８を参照して、本第３２制御例のパチンコ機１０において実行される各種演出内容について説明をする。

【９３６９】

本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技の終了後に、遊技状態として通常状態又は時短状態が設定されるように構成している。そして、通常状態中に実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選（初当たり当選）した場合に実行される大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出によって、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を遊技者に報知するように構成している。このように構成することで、賞球を獲得するだけの単調な遊技となる大

当たり遊技中において、遊技者が強く興味を持つ演出を実行することができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９３７０】

本第３２制御例では、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を報知するための大当たり遊技演出として、所定数の敵を味方キャラが複数回の攻撃によって討伐していく討伐演出を実行可能に構成している。この討伐演出は、演出結果として敵数が０体となった場合に、実行中の大当たり遊技が終了した後に遊技者に有利な時短状態が設定されることを報知し、演出結果として敵数が０体以外（例えば、１２体）となった場合に、実行中の大当たり遊技が終了した後に遊技者に不利な通常状態が設定されることを報知するものである。

【９３７１】

ここで、従来より、表示されている所定値を、遊技者が操作可能な操作手段を操作することで複数回減算させる演出を実行し、所定値が特定値まで減算された場合に、遊技者に有利な特典が付与されることを報知する操作減算演出を実行するものがある。

【９３７２】

この従来型の操作減算演出では、最初に表示される所定値と、最終的に表示される値とを予め決定しておき、決定された範囲内において値を減算するための各演出が複数回実行されるように構成されているものが一般的であり、遊技者が操作手段を短期間で操作した場合には、操作減算演出が開始されてから直ぐに最終的に表示される値が表示され、操作手段への操作に基づいて値が減算されない期間が長時間継続してしまうことから遊技者の操作意欲が低下してしまうという問題があった。

【９３７３】

本第３２制御例にて実行される討伐演出では、演出ボタン２２ａへの操作に基づいて敵数を減算させる攻撃演出の実行回数と、攻撃演出の個々の実行機会に対して減算（討伐）可能な敵の討伐数（残敵数）と、を予め決定可能に構成している。そして、各攻撃演出が実行される間に、遊技者が操作手段を操作することで、予め決定されている残敵数を攻撃演出の演出結果として表示可能に構成し、各攻撃演出において遊技者が操作手段を操作しなかった場合、或いは、操作手段を操作したにも関わらず予め決定されている残敵数よりも多い数の敵数が表示された場合には、実際に表示されている残敵数を追加攻撃によって減算させる追加攻撃演出を実行可能としている。

【９３７４】

また、追加攻撃演出が実行された場合において、予め決定されている残敵数まで敵数を減少させる第１攻撃演出と、実際に表示されている残敵数と、予め決定されている残敵数との範囲内であって、特定の残敵数まで敵数を減少させる第２攻撃演出と、を実行可能に構成している。このように構成することで、追加攻撃演出の演出結果が常に予め決定されている残敵数となることを抑制することができる。

【９３７５】

さらに、本第３２制御例では、全ての敵を討伐した場合（残敵数が０体となった場合）以外にも、討伐演出中に残敵数が特定数（例えば、「１１１」等のぞろ目）で表示されることで、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを討伐演出が終了するよりも前に報知可能に構成している。このように構成することで、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態をいち早く察知したい遊技者に対して、討伐演出の演出内容（各攻撃演出の演出結果）を注視させ易くすることができ、演出効果を高めることができる。

【９３７６】

加えて、本第３２制御例では、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを討伐演出が終了するよりも前に報知可能な残敵数の特定数として、大当たり当選を示すための第３図柄種別（大当たり図柄の種類）に関わらず共通の共通特定数に加え、大当たり当選を示すための第３図柄種別（大当たり図柄の種別）に対応させた固有特定数を設定可能に構成している。

【９３７７】

このように固有特定数を設定可能に構成することで、大当たり当選した際に表示された第３図柄の種別に応じて、討伐演出中に表示されることを期待する残敵数を異ならせることができ、遊技者が討伐演出に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９３７８】

さらに、本第３２制御例では、上述した第２攻撃演出の演出結果として、特定数の残敵数を決定可能に構成している。つまり、１回の攻撃演出において予め決定されている残敵数まで表示されている残敵数を減少させるのでは無く、１回の攻撃演出において予め決定されている残敵数まで表示されている残敵数を減少させなかった場合であって、表示されている残敵数と、予め決定されている残敵数との範囲内に特定数が含まれており、且つ、特定数の敵残数を表示させるための表示条件が成立した場合に、第２攻撃演出の演出結果として、特定数の残敵数が表示されるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、各攻撃演出にて操作手段（演出ボタン２２ａ）を操作するか否かを選択させる楽しみを提供することができる。

【９３７９】

また、攻撃演出が開始される時点で表示されている残敵数を把握し、今回の攻撃演出にて減少させることが可能な残敵数（予め決定されている残敵数）を予測することで、今回の攻撃演出にて減少させることが可能な敵数の範囲内に特定数が含まれているかを予測し、その予測結果に基づいて、各攻撃演出にて操作手段（演出ボタン２２ａ）を操作するか否かを選択させることができるため、演出効果を高めることができる。

【９３８０】

加えて、特定数となる残敵数として、共通特定数に加え固有特定数を設定可能にすることで、今回の攻撃演出にて減少させることが可能な敵数の範囲内に特定数が含まれているかを遊技者に予測させ難くすることができるため、各攻撃演出にて操作手段（演出ボタン２２ａ）を操作するか否かの選択結果が単調になってしまうことを抑制することができる。

【９３８１】

なお、本第３２制御例では、大当たり当選を示すための第３図柄種別（大当たり図柄の種別）に対応させた固有特定数として、大当たり当選を示すための第３図柄に付された数字（例えば「４４４」の第３図柄が停止表示された場合には、「４」）が少なくとも含まれている残敵数の一部を設定可能に構成している。そして、大当たり当選を示すための第３図柄に付された数字の数が多い程、固有特定数として設定され易くなるように構成している。具体的には、「４４４」の第３図柄が停止表示されたことに基づいて実行される大当たり遊技中の討伐演出では、固有特定数として「４４４」が最も設定され易く、次いで、下二桁が「４４」となる残敵数、「４」の数字を２つ有する残敵数、下一桁が「４」となる残敵数の順に、固有特定数が設定され難く構成されている。このように構成することで、遊技者に対して固有特定数としてどの残敵数が設定されたのかを予測する楽しみを提供することができる。

【９３８２】

また、大当たり当選を示すための第３図柄に付された数字を含む複数種類の残敵数の何れかが表示された場合に、表示された残敵数が固有特定数であることに期待させることができるため、遊技者に対して飽きること無く討伐演出を実行することができる。

【９３８３】

なお、本第３２制御例では、固有特定数を抽選で決定可能に構成しているが、これに限ること無く、大当たり当選を示すための第３図柄に付された数字に対応させて、固有特定数を予め決定しておくように構成しても良い。また、固有特定数を１個のみ決定しても良いし、３個以上決定しても良い。

【９３８４】

加えて、討伐演出が実行されている間に、今回設定されている固有特定数を遊技者に予測させ易くするための情報を含む固有特定数示唆演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、大当たり当選を示すための第３図柄に付された数字を含む残敵数

が表示される毎に、無用に固有特定数であると遊技者に期待させてしまうことを抑制することができる。

【９３８５】

まずは、図９３４から図９３７を参照して、大当たり遊技中に実行される演出内容について説明をする。図９３４（ａ）は、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を遊技者に報知するための演出として討伐演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。ここで、討伐演出とは、大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出の一部であって、所定数の敵を味方キャラが討伐していく演出であり、演出結果として敵数が０体となった場合に、実行中の大当たり遊技が終了した後に遊技者に有利な時短状態が設定されることを報知し、演出結果として敵数が０体以外（例えば、１２体）となった場合に、実行中の大当たり遊技が終了した後に遊技者に不利な通常状態が設定されることを報知するものである。

【９３８６】

具体的には、大当たり遊技の最初のラウンド遊技（１ラウンド目）にて、今回の討伐演出における敵数が表示され、大当たり遊技が終了するまでに実行される以降のラウンド遊技（２ラウンド目～６ラウンド目）毎に、敵を倒す攻撃演出が実行され、最後の攻撃演出が終了した後に表示される敵数が今回の討伐演出の演出結果として表示される。

【９３８７】

図９３４（ａ）は、大当たり遊技の１ラウンド目を示す表示画面であって、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの右上には、第１特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が表示される表示領域Ｄｍ１に、大当たり当選を示すための第３図柄の停止表示態様として「４４４」が停止表示されている。なお、図９３４（ａ）では、大当たり遊技中の表示画面を示すために、表示領域Ｄｍ１に遊技者が識別可能な態様で第３図柄を停止表示させているが、これに限ること無く、遊技者が識別困難な態様で第３図柄を停止表示させても良いし、大当たり遊技中において第３図柄を停止表示させないように構成しても良い。さらに、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報（第３図柄）に代えて、大当たり当選したことを示すための識別情報（特殊図柄）として、「Ｖ」を模した特殊図柄を主表示領域Ｄｍ１に停止表示させるように構成しても良い。

【９３８８】

また、主表示領域Ｄｍの左上側には、遊技者に遊技方法を案内するための案内表示態様が表示される表示領域Ｄｍ４が形成され、大当たり遊技中に遊技者が実行すべき遊技方法を案内するための表示態様として右打ち遊技を案内するための「右打ち」の文字が表示されている。また、表示領域Ｄｍ４の下方には、大当たり遊技の進行状況を遊技者に報知するための大当たり遊技状況表示態様として、実行中のラウンド遊技数を示す「ラウンド１」が表示されている。

【９３８９】

主表示領域Ｄｍの右下側には、遊技者に有利な遊技状態が継続している期間において獲得した賞球数の合計値に対応する情報を示すためのポイント表示態様が表示される表示領域Ｄｍ６が形成される。図９３４（ａ）は、通常状態において大当たり当選（初当たり当選）したことに基づいて実行される大当たり遊技の１ラウンド目の表示画面を示しており、表示領域Ｄｍ６には、今回の大当たり遊技中に既に獲得した賞球数に対応する情報として「３３Ｐ」が表示されている。つまり、本第３２制御例では、大当たり遊技が実行された場合に第１可変入賞装置６５が開閉動作され、第１可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａへと遊技球が入球した場合に１１個の賞球が払い出されるように構成しており、図９３４（ａ）は、１ラウンド目のラウンド遊技にて３個の遊技球を特定入賞口６５ａへと入賞させ、合計で３３個の賞球が払い出された時点における表示画面を示している。

【９３９０】

そして、主表示領域Ｄｍの中央部には、今回の討伐演出において討伐対象となる敵の総数を表示するための表示領域ＨＲ１が形成され、「残り５００体」の文字が表示される。つまり、今回の討伐演出の演出態様が５００体の敵を討伐する演出態様であることが報知

される。
【９３９１】
ここで、本第３２制御例では、討伐演出における敵の総数として異なる値を決定可能に構成しており、具体的には、「１０００体」，「５００体」，「７７７体」の何れかが決定されるように構成しており、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される場合の方が、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合よりも「１０００体」が決定され易くなるように構成し、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合の方が、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される場合よりも「５００体」が決定され易くなるように構成している。また、敵の総数「７７７体」は、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合にのみ決定されるように構成している。
【９３９２】
このように構成することで、討伐演出が開始された直後（大当たり遊技の１ラウンド目）にて表示領域ＨＲ１に表示される敵の総数を把握することで、討伐演出の演出結果が表示されるよりも前に、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を遊技者に予測させることができ、演出効果を高めることができる。さらに、敵の総数「７７７体」が表示された場合には、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを、討伐演出が開始された時点で遊技者に把握させることが可能となる。よって、討伐演出が実行されている演出期間において、様々なタイミングにて時短状態が設定されることを報知することができるため、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態をいち早く把握したい遊技者に対して討伐演出が実行されている演出期間の間、継続して演出を注視させることができる。
【９３９３】
また、主表示領域の右上側には、演出ボタン２２ａを模した複数のボタンアイコンＰｕ１～Ｐｕ５が表示される表示領域Ｄｍ７が形成される。この表示領域Ｄｍ７には、今回の討伐演出にて敵の総数を減少させるための攻撃演出が実行される回数と、１回の攻撃演出において減少させる敵の数（討伐数）を示唆する情報と、に基づいて決定された表示態様で複数のボタンアイコンＰｕ１～Ｐｕ５が表示される。
【９３９４】
図９３４（ａ）に示した例では、左から順に第１ボタンアイコンＰｕ１、第２ボタンアイコンＰｕ２、第３ボタンアイコンＰｕ３、第４ボタンアイコンＰｕ４、第５ボタンアイコンＰｕ５が表示されており、今回の討伐演出では演出ボタン２２ａを用いた攻撃演出が５回実行されることを遊技者に報知している。また、第１ボタンアイコンＰｕ１、第３ボタンアイコンＰｕ３、第４ボタンアイコンＰｕ４、第５ボタンアイコンＰｕ５が、通常の攻撃演出が実行されることを示唆する通常表示態様で表示され、第２ボタンアイコンＰｕ２が、強攻撃演出が実行されることを示唆する強表示態様（図では、通常よりも厚みを持たせた表示態様で表示）で表示されている。
【９３９５】
このように構成することで、討伐演出が実行されてから１回目の攻撃演出が実行されるまでの間に、今回の討伐演出にて実行される攻撃演出の回数と、各攻撃演出の演出内容と、を遊技者に予測させ易くすることができるため、分かり易い演出を提供することができる。
【９３９６】
さらに、本第３２制御例では、１回目の攻撃演出にて第１ボタンアイコンＰｕ１に対応する攻撃演出が、２回目の攻撃演出にて第２ボタンアイコンＰｕ２に対応する攻撃演出が、３回目の攻撃演出にて第３ボタンアイコンＰｕ３に対応する攻撃演出が、４回目の攻撃演出にて第４ボタンアイコンＰｕ４に対応する攻撃演出が、５回目の攻撃演出にて第５ボタンアイコンＰｕ５に対応する攻撃演出が実行されるように構成している。つまり、表示領域Ｄｍ７に表示されている複数のボタンアイコンは、討伐演出にて実行される攻撃演出の回数だけで無く、各攻撃演出における演出態様も示唆可能に構成している。このように構成することで、討伐演出における何回目の攻撃演出が残敵数を大きく減少させる演出結果となるかを遊技者に事前に予測させることができるため、各攻撃演出の演出結果（残敵

数）と、表示領域Ｄｍ７に表示されている残りのボタンアイコンの表示態様と、を把握しながら敵の残数が固有特定数や共通特定数へと可変することを期待させることができる。

【９３９７】

また、副表示領域Ｄｓには、討伐演出の演出内容を遊技者に案内するための案内表示態様として「敵を全て倒すとラッシュ突入！！」の文字が表示されている。このように構成することで、討伐演出が実行された場合に、残り５００体と表示された値が０体になることで何らかの特典が付与されると遊技者が把握し易くなるため、討伐演出の実行中において残敵数が減少していく過程を楽しませることができる。

【９３９８】

討伐演出における１回目の攻撃演出が実行されると、図９３４（ｂ）に示した表示画面が表示される。図９３４（ｂ）は、討伐演出における１回目の攻撃演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。本第３２制御例では、上述した通り、大当たり遊技の２ラウンド目～６ラウンド目にかけて討伐演出における攻撃演出が実行されるように構成しており、１回目の攻撃演出は２ラウンド目に実行されるため、図９３４（ｂ）に示した通り、表示領域Ｄｍ５には、２ラウンド目のラウンド遊技中を示す「ラウンド２」が表示されている。

【９３９９】

そして、討伐演出開始時には主表示領域Ｄｍの中央部に形成されていた表示領域ＨＲ１が表示領域Ｄｍの中央上方側に縮小形成され、代わりに、主表示領域Ｄｍの中央部には、遊技者に対して演出ボタン２２ａの押下を促す表示態様として、第１ボタンアイコンＰｕ１と、押下方向を示す表示態様（図では下向きの矢印で表示）と、１回目の攻撃演出における演出ボタン２２ａの操作が有効に判別される期間（ＳＷ有効期間）を示す表示態様として、タイムゲージｇａ１と、が表示されている。

【９４００】

本第３２制御例では、１回の攻撃演出に対応するＳＷ有効期間として３秒間が設定されるように構成しており、タイムゲージｇａ１の表示態様は、残期間を示すための残期間表示ｇａ１ａと、経過期間を示すための経過期間表示ｇａ１ｂとから形成されており、ＳＷ有効期間が設定されてから期間が経過する毎に、経過期間表示ｇａ１ｂが占める割合が増加し、残期間表示ｇａ１ａが占める割合が減少するように、タイムゲージｇａ１の表示態様が可変するように構成している。なお、図９３４（ｂ）に示した例では、ＳＷ有効期間が設定されてから１秒が経過した時点を示しており、タイムゲージｇａ１全体で示すＳＷ有効期間（３秒）に対して、経過期間表示ｇａ１ｂが１秒分、残期間表示ｇａ１ａが２秒分の範囲を示している状態が表示されている。

【９４０１】

このように構成することで、ＳＷ有効期間が経過するまでの残期間を遊技者に視覚的に把握させることができるため、攻撃演出中に遊技者が演出ボタン２２ａへの操作を忘れてしまうことを抑制することができる。

【９４０２】

さらに、今回の攻撃演出にて実行される演出内容を示唆するための表示態様としてウサギを模したキャラクタ８０１ａが表示されている。本第３２制御例では、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下したことに基づいて実行される残敵数を減少させる演出に用いられる味方キャラを示すための表示態様を、遊技者が演出ボタン２２ａを押下するよりも前（ＳＷ有効期間が設定された後）に第３図柄表示装置の表示画面に表示するように構成している。

【９４０３】

そして、攻撃演出では、味方キャラの種別と、実行される攻撃種別とに応じて減少させることが可能な残敵数の範囲を異ならせるように構成している。具体的には、味方キャラの種別として、ウサギを模したキャラクタ８０１ａ（図９３４（ｂ）参照）と、キャラクタ８０１ａよりも高い攻撃力を有する勇者を模したキャラクタ８０１ｂ（図９３５（ａ）参照）と、を設定可能に構成しており、各キャラクタが通常攻撃と、その通常攻撃よりも

敵数を多く減少させ易い強攻撃とを実行可能に構成している。よって、キャラクタ８０１ａによる通常攻撃が最も残敵数を減少させ難い組合せの攻撃演出となり、キャラクタ８０１ｂによる強攻撃が最も残敵数を減少させ易い組合せの攻撃演出となる。

【９４０４】

このように、１回の攻撃演出にて減少させることが可能な残敵数の範囲を、攻撃演出の演出態様を形成する複数の構成要素の少なくとも一部を事前に遊技者に報知可能に構成することで、遊技者に対して、今回実行される攻撃演出の演出結果を予測させ易くすることができる。

【９４０５】

なお、本第３２制御例では、攻撃演出に用いられる味方キャラの種別を２種類有しているが、味方キャラの種別を１種類にしても良いし、３種類以上としても良い。また、味方キャラが実行可能な攻撃の種類を、３種類以上にしても良いし、味方キャラの種別に応じて実行される攻撃の種類を異ならせても良い。このように構成することで、攻撃演出に用いられる味方キャラの種別としてどの種別が選択されるかについてより興味を持たせることができる。

【９４０６】

攻撃演出中に表示される第１ボタンアイコンＰｕ１は、討伐演出開始時に表示領域Ｄｍ７に表示されていた第１ボタンアイコンＰｕ１と同一の表示態様で表示されるように構成している。具体的には、攻撃演出が開始された場合に、表示領域Ｄｍ７に表示されている第１ボタンアイコンＰｕ１が拡大しながら主表示領域Ｄｍの中央部へと移動していくボタンアイコン移動演出が実行される。このように構成することで、討伐演出の開始時に表示領域Ｄｍ７に表示された各ボタンアイコンを実際に用いて攻撃演出が実行される演出を創出することができるため、討伐演出開始時に表示領域Ｄｍ７に表示される表示態様に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【９４０７】

そして、第１ボタンアイコンＰｕ１が攻撃演出に用いられたため、表示領域Ｄｍ７には、未使用の第２ボタンアイコンＰｕ２～第５ボタンアイコンＰｕ５のみが表示され、過去に第１ボタンアイコンＰｕ１が表示されていた領域には、攻撃演出に用いられたことを示すための表示態様（図では「－」で表示）が表示されている。

【９４０８】

このように構成することで、表示領域Ｄｍ７に表示されている各ボタンアイコンを確認することで、討伐演出中に既に実行された攻撃演出の回数と、残りの攻撃演出の回数と、を容易に把握することができる。

【９４０９】

図９３４（ｂ）に示した状態で遊技者が演出ボタン２２ａを押下すると、キャラクタ８０１ａが敵を攻撃する演出が実行され、攻撃後の残敵数が表示される。次に、図９３５（ａ）を参照して、１回目の攻撃演出が実行された２ラウンド目のラウンド遊技が終了した後のインターバル期間中の演出内容について説明をする。図９３５（ａ）は、２ラウンド目終了後のインターバル中に表示される表示画面の一例を示した図である。２ラウンド目～６ラウンド目のラウンド遊技間に設定されるインターバル期間では、前のラウンド遊技にて実行された攻撃演出の演出結果（残敵数）を示す表示態様と、次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出内容を示す表示態様と、が表示される。

【９４１０】

本第３２制御例では、インターバル期間として１．５秒間が設定されるように構成しており、前のラウンド遊技にて実行される攻撃演出中（ＳＷ有効期間中）に演出ボタン２２ａが押下されなかった場合には、インターバル期間を用いて、前のラウンド遊技にて実行された攻撃演出の演出結果（残敵数）が表示される。一方で、前のラウンド遊技にて実行される攻撃演出中（ＳＷ有効期間中）に演出ボタン２２ａを押下した場合には、演出ボタン２２ａを押下した直後に、味方キャラが攻撃を行う演出が実行された後に今回の攻撃演出の演出結果（残敵数）が表示されたままインターバル期間に移行し、攻撃演出の演出結

果（残敵数）を表示したまま、次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出内容を示す表示態様と、が表示される。

【９４１１】

より詳細に説明をすると、本第３２制御例では大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の終了条件として第１可変入賞装置６５へと１０個の遊技球が入賞した場合に成立する第１終了条件と、ラウンド遊技が開始されてから第１終了条件が成立すること無く３０秒が経過した場合に成立する第２終了条件と、を有している。ここで、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、図９２５を参照して上述した通り、大当たり遊技中は右打ち遊技が実行され、右打ち遊技によって発射された遊技球の殆どが第１可変入賞装置６５に到達するように遊技盤１３を構成している。

【９４１２】

本パチンコ機１０は、１分（６０秒）間で１００個の遊技球を発射可能に構成していることから、大当たり遊技中に継続して遊技球は発射した場合には、ラウンド遊技が開始されてから約６秒で第１終了条件が成立しラウンド遊技が終了する。そして、ラウンド遊技中に実行されるラウンド遊技演出としては、ラウンド遊技が開始されてから３秒後に３秒間のＳＷ有効時間が設定される攻撃演出が実行されるように構成している。

【９４１３】

つまり、ラウンド遊技中に実行される攻撃演出におけるＳＷ有効時間の長さ（３秒）が、通常に遊技した場合において継続するラウンド遊技期間の長さ（約６秒）よりも短くなるように構成している。このように構成することで、ラウンド遊技中において効率良く遊技球が第１可変入賞装置６５へと入賞する場合であっても、ＳＷ有効時間が設定されている際中にラウンド遊技が終了してしまうことを抑制することができるため、ＳＷ有効時間内に演出ボタン２２ａを操作しようとする遊技者に対して、演出ボタン２２ａを操作する前にラウンド遊技が終了してしまい演出ボタン２２ａを操作する操作意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９４１４】

なお、本第３２制御例では、ラウンド遊技中に設定されるＳＷ有効時間を、通常の遊技が実行されている場合に継続し得るラウンド遊技期間（約６秒）よりも短くなるように予め規定しておき、ラウンド遊技期間（約６秒）が経過するよりも前にＳＷ有効時間が経過するように攻撃演出を実行することで、ＳＷ有効時間内に演出ボタン２２ａを操作しようとする遊技者に対して、演出ボタン２２ａを操作する前にラウンド遊技が終了してしまい演出ボタン２２ａを操作する操作意欲が低下してしまうことを抑制しているが、これに限ること無く、例えば、ラウンド遊技中に設定されるＳＷ有効時間の長さを、ラウンド遊技中に第１可変入賞装置６５へと入賞した遊技球の個数に応じて可変させるように構成しても良い。

【９４１５】

具体的には、ラウンド遊技中に設定されるＳＷ有効時間として、経過時間に基づいてラウンド遊技を終了させる第２終了条件（３０秒経過）が成立する期間と同一の長さ（３０秒）を設定し、その後、ラウンド遊技中に第１可変入賞装置６５へと遊技球が１個入賞する毎に、ＳＷ有効時間の残期間が３秒減算されるように構成する。このように構成することで、ラウンド遊技が終了するまでに、確実にＳＷ有効時間を終了させることができる。また、ラウンド遊技中において、遊技球の発射を中断し、演出ボタン２２ａへの操作を実行しようとする遊技者に対しては、長時間（最大で３０秒）のＳＷ有効時間を提供することができるため、ＳＷ有効時間内に演出ボタン２２ａを操作しようとする遊技者に対して、演出ボタン２２ａを操作する前にＳＷ有効時間が経過してしまい演出ボタン２２ａを操作する操作意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９４１６】

図９３５（ａ）に戻り、説明を続ける。図９３５（ａ）に示した通り、２ラウンド目終了後のインターバル期間では、２ラウンド目にて実行された攻撃演出（図９３４（ｂ）参照）の演出結果として表示領域ＨＲ１に「残り３８５体」が表示されている。また、３ラ

ウンド目にて実行される攻撃演出の内容を示唆するための表示態様として、主表示領域Ｄｍの左側に勇者を模したキャラクタ８０１ｂが表示されており、表示領域Ｄｍ７には、次の攻撃演出に対応する第２ボタンアイコンＰｕ２が強表示態様で表示されている。そして、副表示領域Ｄｓには、今回の討伐演出における攻撃演出の残回数と、次の攻撃演出が敵の残数を大きく減少させる攻撃演出であることを案内するための表示態様として「残り４回！！次は大量討伐のチャンス！！」のコメントが表示されている。

【９４１７】

よって、図９３５（ａ）に示した表示画面を目視した遊技者は、３ラウンド目に実行される攻撃演出にて、敵の残数が大きく減少することを事前に把握することができるため、敵の残数が０体になることを期待しながら３ラウンド目の攻撃演出を楽しませることができる。

【９４１８】

なお、本第３２制御例では、図９３５（ａ）に示した通り、次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出内容を３つの表示要素（表示領域Ｄｍ７の表示態様、キャラクタ８０１ｂの表示、副表示領域Ｄｓのコメント）によって遊技者に示唆可能に構成している。この各表示要素は、全てのインターバル期間において表示するものでは無く、少なくとも１の表示要素を用いて次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出内容を示唆可能に構成しても良い。

【９４１９】

この場合、上述した３つの表示要素のうち、用いられた表示要素の数が多いほど、次の攻撃演出が敵の残数を大きく減少させる攻撃演出である可能性を高くしたり、３つの表示要素が示唆する攻撃演出の内容に矛盾が発生している場合に次の攻撃演出が敵の残数を大きく減少させる攻撃演出である可能性を高くしたりするように構成すると良い。このように構成することで、インターバル期間にて表示される各種表示態様に対しても遊技者に興味を持たせることができ演出効果を高めることができる。

【９４２０】

さらに、本第３２制御例では、上述した３つの表示要素のうち、表示態様Ｄｍ７のみ事前に表示し、残りの２つの表示要素をインターバル期間が設定され、次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出内容を示す表示態様が表示されるタイミングにて同時に表示するように構成しているが、これに限ること無く、次のラウンド遊技にて実行される攻撃演出に用いられるキャラクタを示唆する表示態様（第１表示要素）の表示タイミングと、副表示領域Ｄｓのコメント表示（第２表示要素）の表示タイミングと、を異ならせるように構成しても良い。

【９４２１】

この場合、例えば、各表示要素のうち、遊技者に有利な表示態様が決定された表示要素を後に表示するように各表示要素の表示タイミングを設定可能に構成すると良い。このように構成することで、インターバル期間中に表示される表示内容を遊技者が注視する期間を長くすることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９４２２】

また、各表示要素のうち、遊技者に有利な表示態様が決定された表示要素を先に表示するように各表示要素の表示タイミングを設定可能に構成しても良い。このように構成することで、先に表示された表示要素が遊技者に有利な表示態様である場合に、２つの表示要素が何れも遊技者に有利な表示態様である可能性を残すことができるため、後に表示される表示要素に対して遊技者を注視させることができる。

【９４２３】

なお、本第３２制御例では、各攻撃演出にて用いられるボタンアイコンの種別（強表示態様、通常表示態様）を、討伐演出が開始される時点で事前に遊技者に表示する（図９３４（ａ）参照）ように構成しているが、これに限ること無く、例えば、討伐演出が開始される時点では、今回の討伐演出にて実行される攻撃演出の回数に対応させた数のボタンア

イコンとして、第１ボタンアイコンＰｕ１のみ１回目の攻撃演出の演出内容に応じて種別を決定し、残りの第２ボタンアイコンＰｕ２～第５ボタンアイコンＰｕ５を通常表示態様で表示させておき、討伐演出が開始される時点では、今回の討伐演出にて実行される攻撃演出の回数と、１回目の攻撃演出の演出内容のみを遊技者に報知する表示態様を表示し、２ラウンド目以降のインターバル期間にて第２ボタンアイコンＰｕ２～第５ボタンアイコンＰｕ５の表示態様を、対応する攻撃演出の演出内容に応じて可変表示させるように構成しても良い。

【９４２４】

このように構成した場合には、インターバル期間中に表示される各表示要素の表示タイミングを決定する処理において、上述した第１表示要素、第２表示要素に加え、可変させたボタンアイコンの表示態様（第３表示要素）の表示タイミングも含めて表示タイミングを決定するように構成すると良い。

【９４２５】

また、２ラウンド目以降のインターバル期間にて第２ボタンアイコンＰｕ２～第５ボタンアイコンＰｕ５の表示態様を可変させる構成を用いた場合には、討伐演出にて実行される各攻撃演出の演出内容を、討伐演出が開始されるまでに予め決定しておくのでは無く、インターバル期間中に決定するように構成しても良いし、討伐演出の開始時に予め決定しておいた攻撃演出の内容を、前に実行された攻撃演出の演出結果（演出ボタン２２ａの操作状況）に応じて、可変させるように構成しても良い。

【９４２６】

このように、討伐演出が実行されている際中に残りの攻撃演出の演出内容（減少させる残敵数）を可変させるように構成したとしても、可変後の攻撃演出の演出内容に応じた表示態様でボタンアイコンを表示させることができるため、遊技者に違和感を与える演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【９４２７】

そして、討伐演出にて実行される最後の攻撃演出（６ラウンド目の攻撃演出）にて、敵を全て討伐した場合には、図９３５（ｂ）に示した表示画面が表示される。図９３５（ｂ）は、討伐演出にて敵を全て討伐した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９４２８】

図９３５（ｂ）に示した通り、表示領域ＨＲ１に表示される敵残数を示す表示態様として「残り０体」が表示され、攻撃演出にて用いられたキャラクタ８０１ａ、及びキャラクタ８０１ｂが祝福する演出態様が主表示領域Ｄｍに表示される。また、表示領域Ｄｍ７には、今回の討伐演出にて実行された攻撃演出の回数を把握可能な表示態様として、消費済アイコン（図では「－」で表示）が、攻撃演出が実行された回数に対応させて５個表示されている。

【９４２９】

副表示領域Ｄｓには、今回の討伐演出が遊技者に有利な演出結果であることを案内するための案内表示態様として「討伐完了！！ラッシュ突入！！」の文字が表示されている。このように構成することで、討伐演出の演出結果が遊技者に有利な成功演出であることと、大当たり遊技の終了後に時短状態（ラッシュ）が設定されることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【９４３０】

次に、上述した討伐演出にて実行される攻撃演出中における演出ボタン２２ａに対する操作の有無に応じて表示される表示画面の表示内容について、図９３６、及び図９３７（ａ）を参照して説明をする。図９３６（ａ）は、図９３５（ａ）に表示したインターバル期間が経過した後に実行される３ラウンド目の攻撃演出中に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９３６（ｂ）は、図９３６（ａ）に表示した攻撃演出のＳＷ有効時間内に遊技者が演出ボタン２２ａを操作（押下）した場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９３７（ａ）は、図９３６（ａ）に表示した攻撃演出のＳＷ有効時間内

に遊技者が演出ボタン２２ａを操作（押下）しなかった場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９４３１】

本第３２制御例では、討伐演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果（大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを報知する演出結果）であることを示すために残敵数が共通特定数（０体）となる演出態様を決定可能に構成している。さらに、遊技者に有利な演出結果となる討伐演出において残敵数が共通特定数（０体）となるよりも前に、残敵数として固有特定数（例えば、３３３といったぞろ目や、大当たり図柄に対応した値）を表示することで、討伐演出の際中に今回の討伐演出の演出結果を遊技者に報知可能に構成している。

【９４３２】

加えて、各攻撃演出における演出ボタン２２ａの操作状況（押下の有無）に応じて、各攻撃演出の演出結果を異ならせるように構成しており、例えば、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下した場合には、予め定められた各攻撃演出の演出結果（残敵数）を表示し、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下しなかった場合には、予め定められている演出結果（残敵数）よりも多い残敵数を表示可能に構成している。つまり、攻撃演出の演出結果を予め決定しておき、攻撃演出中に成立する条件に応じて予め定められている演出結果が示す残敵数を上限に複数の残敵数を表示可能に構成している。

【９４３３】

このように構成することで、討伐演出にて実行される各攻撃演出にて減少させることが可能な敵の総数を予め規定しておくことで、討伐演出の演出期間中に偏って残敵数を減少させてしまうことを抑制すると共に、各攻撃演出にて減少させる残敵数にバリエーションを持たせることができる。

【９４３４】

さらに、攻撃演出の演出結果として予め決定されている残敵数と、攻撃演出開始時に表示されている残敵数との間に、固有特定数が含まれている状態であって、当該攻撃演出中に遊技者が演出ボタン２２ａを操作（押下）しなかった場合に、残敵数を固有特定数とする追加攻撃演出を実行可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを操作するか否かを選択させる楽しみを提供することができる。

【９４３５】

また、上述した通り、固有特定数は大当たり図柄に含まれる数字に応じて決定されるように構成しており、遊技者に対して固有特定数として決定された残敵数を報知しないように構成しているため、攻撃演出が実行される毎に、今回の攻撃演出にて減少される残敵数の範囲内に固有特定数が含まれているか否かを予測する楽しみを提供することができる。

【９４３６】

加えて、次に実行される攻撃演出にて減少させる残敵数の大小を遊技者に報知することで、実行される攻撃演出中に減少される残敵数を予測するためのヒントを提供可能に構成しているため、今回の攻撃演出にて減少される残敵数の範囲を予測させ易くすることができる。

【９４３７】

図９３６（ａ）に示した通り、３ラウンド目の攻撃演出が実行されると、２ラウンド目終了後のインターバル期間中の表示画面（図９３５（ｂ）参照）に表示されたキャラクタ８０１ｂが主表示領域Ｄｍに表示され、主表示領域Ｄｍの中央部には、強表示態様の第２ボタンアイコンＰｕ２が表示され、今回の攻撃演出にて設定されたＳＷ有効時間を示すためのタイムゲージｇａ１が表示される。このタイムゲージｇａ１は、図９３４（ｂ）にて示したタイムゲージｇａ１と同様に、３秒間のＳＷ有効時間の経過時間を示すように残期間表示ｇａ１ａと、経過期間表示ｇａ１ｂとで表示される。

【９４３８】

また、３ラウンド目の攻撃演出は第２ボタンアイコンＰｕ２を用いた攻撃演出が実行さ

れるため、表示領域Ｄｍ７には第３ボタンアイコンＰｕ３～第５ボタンアイコンＰｕ５が表示されており、表示領域ＨＲ１には、２ラウンド目の攻撃演出の演出結果である残敵数を示す「残り３８５体」が表示されている。このように、遊技者に対して演出ボタン２２ａを操作させる期間（攻撃演出のＳＷ有効時間内）にて、今回の攻撃演出によって減少させることが可能な残敵数を示唆するボタンアイコンの表示態様と、現在の残敵数と、を表示することで、遊技者に対して、実行中の攻撃演出に対して演出ボタン２２ａを操作するか否かを決定させ易くすることができる。

【９４３９】

３ラウンド目の攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下した場合には、図９３６（ｂ）に示した表示画面が表示される。図９３６（ｂ）は、３ラウンド目の攻撃演出中に演出ボタン２２ａを操作（押下）した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図９３６（ｂ）に示した通り、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを操作（押下）すると、ラウンド遊技の終了を待つこと無く、味方キャラ８０１ｂが攻撃アクションを実行する演出が実行され、その後、今回の攻撃演出の演出結果を示すための表示態様として表示領域ＨＲ１に「残り９９体」の文字が表示される。

【９４４０】

つまり、図９３６（ｂ）に示した例では、討伐演出の演出態様として、敵の総数「５００体」が決定され、さらに、３ラウンドに実行される攻撃演出（２回目の攻撃演出）の演出結果として、「残り９９体」が予め決定されており、２回目の攻撃演出によって予め決定されている残敵数まで残敵数を減少させた演出結果が表示されている。残敵数を示す表示領域ＨＲ１は、表示されている残敵数の数に応じて表示態様（背景）が可変設定されるように構成しており、図９３６（ｂ）では、敵の残り数（残敵数）が１００体以下となったことを示すための表示態様（ヒビ割れ背景）が表示されている。そして、副表示領域Ｄｓには、残敵数が１００体以下であることを遊技者に報知するための案内表示態様として「あと少しだ！！」の文字が表示される。

【９４４１】

なお、本第３２制御例では、残敵数が表示される表示領域の表示態様を、残敵数に応じて可変可能に構成しているが、表示態様を可変させる条件として残敵数以外の条件を設定しても良く、討伐演出の総敵数（最初に表示領域ＨＲ１に表示される残敵数）に対する現在の残敵数が占める割合が所定割合以下となった場合（例えば、１０００体の敵を討伐する討伐演出にて、残敵数が１００体（総敵数の一割以下））となった場合）に、表示態様を可変させる条件が成立するように構成しても良い。

【９４４２】

このように構成することで、残敵数では無く、討伐演出の総敵数に対する敵数の減少度合いによって表示領域ＨＲ１の表示態様を可変させることができるため、討伐演出にてどの程度敵を討伐したかを遊技者に把握させ易くすることができる。

【９４４３】

次に、３ラウンド目の攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下しなかった場合には、図９３７（ａ）に示した表示画面が表示される。図９３７（ａ）は、図９３６（ａ）に示した状態から、演出ボタン２２ａを操作すること無く３ラウンド目が終了した場合における３ラウンド目終了後のインターバル期間中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９４４４】

図９３６（ａ）に示した状態（残敵数「３８５体」の状態）で、演出ボタン２２ａを操作すること無くＳＷ有効時間が経過すると、タイムゲージｇａ１の残期間表示ｇａ１ａが減少し、ＳＷ有効時間が終了する。その状態で３ラウンド目のラウンド遊技が終了すると、３ラウンド目のラウンド遊技終了後に設定されるインターバル期間へと移行し、演出ボタン２２ａが操作されなかった場合に実行される追加攻撃演出を実行し、追加攻撃演出の演出結果として、表示領域ＨＲ１に「残り３３３体」が表示される。

【９４４５】

つまり、図９３７（ａ）に示した図は、今回の大当たり遊技は、大当たり遊技終了後に

時短状態が設定される大当たり遊技であり、成功演出が実行される討伐演出の固有特定数として「３３３」が設定されている討伐演出が実行されている場合における表示画面の一例を示した図である。

【９４４６】

そして、３ラウンド目に実行される攻撃演出の演出結果として、残敵数「９９体」が決定されており、遊技者が演出ボタン２２ａを操作した場合には、図９３６（ｂ）に示した通り、残敵数が「３８５体」から「９９体」まで減少する演出結果が表示される。一方、遊技者が演出ボタン２２ａを操作しなかった場合には、残敵数を「３８５体」から所定数減少させるための追加攻撃演出が実行される。この追加攻撃演出が実行される条件が成立した場合には、専用の抽選によって追加攻撃演出の演出態様（演出結果）が決定されるように構成している。

【９４４７】

具体的には、演出ボタン２２ａを操作すること無くＳＷ有効時間が経過した場合に、追加攻撃演出の実行条件が成立し、現時点の残敵数（例えば、「３８５体」）と、攻撃演出の演出結果として予め決定されていた残敵数（例えば、「９９体」）と、の間に、今回の討伐演出にて決定された固有特定数（例えば、「３３３体」）が含まれているかを判別し、固有特定数が含まれていないと判別した場合には、７０％の割合で攻撃演出の演出結果として予め決定されていた残敵数（例えば、「９９体」）まで減少させる演出態様が決定され、２０％の割合で下一桁が大当たり図柄の数（例えば、「４」）となる第１擬似残敵数（例えば、「１０４体」）まで減少させる演出態様が決定され、１０％の割合で下二桁が大当たり図柄の数（例えば、「４」）となる第２擬似残敵数（例えば、「１４４体」）まで減少させる演出態様が決定される。

【９４４８】

一方、固有特定数が含まれていると判別した場合には、４０％の割合で攻撃演出の演出結果として予め決定されていた残敵数（例えば、「９９体」）まで減少させる演出態様が決定され、３０％の割合で固有特定数（例えば、「３３３体」）まで減少させる演出態様が決定され、１０％の割合で下一桁が大当たり図柄の数（例えば、「４」）となる第１擬似残敵数（例えば、「１０４体」）まで減少させる演出態様が決定され、２０％の割合で下二桁が大当たり図柄の数（例えば、「４」）となる第２擬似残敵数（例えば、「１４４体」）まで減少させる演出態様が決定される。

【９４４９】

そして、決定された演出態様に応じた追加攻撃演出が実行される。このように構成することで、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを操作した場合と、しなかった場合とで１の攻撃演出の演出結果を異ならせることができるため、攻撃演出のバリエーションを増加させることができる。また、残敵数の減少範囲内に固有特定数が含まれていない場合であっても、大当たり図柄に含まれる数字に関連する残敵数（擬似残敵数）へと敵の数を減少させ易くしているため、遊技者に対して、追加攻撃演出の演出結果が固有特定数であると思わせ易くすることができる。

【９４５０】

さらに、残敵数の減少範囲内に固有特定数が含まれている場合、即ち、実行中の討伐演出が成功演出となる討伐演出（時短状態が設定される大当たり遊技中に実行される討伐演出）である場合には、残敵数の減少範囲内に固有特定数が含まれていない場合と比べて、擬似残敵数が決定され易くなるように構成している。よって、固有特定数へと残敵数を減少させることが出来なかった場合であっても、１の討伐演出において、追加攻撃演出が複数回実行されるように遊技を行い、擬似残敵数が複数回表示されることにより、今回の討伐演出が成功演出となる討伐演出であることを遊技者に予測させることが可能となる。

【９４５１】

また、図９３７（ａ）に示した通り、表示領域ＨＲ１に固有特定数（「３３３体」）の残敵数が表示された場合、即ち、残敵数が「０体」となるよりも前に遊技者に対して成功演出（時短状態が設定されることを報知する討伐演出）が実行されることが報知された場

合は、表示領域ＨＲ１の表示態様が通常とは異なる表示態様（図では輝いている態様で表示）で表示され、表示領域Ｄｍ７に表示されるボタンアイコン（第３ボタンアイコンＰｕ３～第５ボタンアイコンＰｕ５）が、最終的に残敵数が「０体」となるように残りの攻撃演出が実行される旨を示すための特殊表示態様（図では輝いている態様で表示）で表示される。

【９４５２】

本第３２制御例では、討伐演出の途中段階で残敵数として固有特定数が表示された場合であっても、残りの攻撃演出を予め決定した内容に従って実行するように構成している。つまり、固有特定数が表示された後も残敵数が０体になるまで残敵数を減少させる攻撃演出が実行される。よって、一度固有特定数の残敵数が表示された場合であっても、討伐演出が進行した場合に、表示領域ＨＲ１には固有特定数とは異なる残敵数が表示されることになる。よって、固有特定数が表示されたことを報知するための表示態様で表示領域Ｄｍ７に表示されるボタンアイコンの表示態様や、表示領域ＨＲ１の表示態様を表示可能に構成することで、討伐演出の途中段階にて残敵数として固有特定数が表示されたことを討伐演出の残期間に渡って継続して遊技者に把握させ易くすることができる。

【９４５３】

本第３２制御例では、上述した通り、討伐演出の途中段階で残敵数として固有特定数が表示された場合であっても、残りの攻撃演出を予め決定した内容に従って実行するように構成することで、討伐演出を実行するための制御処理の負荷が増大してしまうことを抑制している。つまり、既に、成功演出が実行されていることを遊技者が把握している状態では、各攻撃演出における残敵数の減少度合いに対する遊技者の興味が低くなることから、固有特定数が表示された後に実行される攻撃演出の演出態様として専用の演出態様（例えば、各攻撃演出の演出結果として残敵数が全てぞろ目となる演出態様）を設定可能に構成したとしても演出効果を効果的に高めることが困難であるため、予め決定されている攻撃演出の演出態様をそのまま使用するように構成し、討伐演出を実行するための制御処理の負荷が過剰に増大してしまうことを抑制することができる。

【９４５４】

なお、本第３２制御例にて用いた構成に限ること無く、討伐演出の途中段階で残敵数として固有特定数が表示された場合において、予め決定されている攻撃演出の演出態様に代えて、専用の演出態様を実行するように構成しても良く、例えば、残敵数として固有特定数が表示されている状態において次の攻撃演出が実行される場合には、討伐演出における攻撃演出の残回数に関わらず残敵数が「０体」となる攻撃演出を実行するように構成し、その後、討伐演出が終了するまでの残期間（確定後時間）を用いて、残りの攻撃演出を実行すること無く遊技者を祝福するための祝福演出を実行するように構成しても良いし、上述した確定後時間中に実行される攻撃演出を用いて遊技者に対して別の特典（例えば、保留連の有無）が付与されるか否かを報知可能な第２演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、成功演出となる討伐演出が実行される場合において、演出結果が表示されるまでの演出の進行状況（固有特定数の表示の有無）に応じて、遊技者に対して異なる特典を付与させることができるため、遊技者に対して、討伐演出が実行される期間中に演出ボタン２２ａを押下するか否かを選択させる楽しみを提供することができる。

【９４５５】

また、固有特定数が表示された後に実行される攻撃演出の演出態様として専用の演出態様（例えば、各攻撃演出の演出結果として残敵数が全てぞろ目となる演出態様）を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、表示領域ＨＲ１に表示される残敵数を把握するだけで、固有特定数が表示されたことを遊技者に分かり易く報知することができるため、表示領域ＨＲ１以外の表示領域（例えば、表示領域Ｄｍ７）に表示される表示要素（例えば、ボタンアイコン）の表示態様として専用の表示態様（例えば、輝いている態様）を表示するための表示データを用意する必要が無くなる。

【９４５６】

図９３７（ｂ）は、討伐演出における最後の攻撃演出において固有特定数が表示された場合における表示画面の一例を示した図である。本第３２制御例では、成功演出となる討伐演出において、最後の攻撃演出の演出結果として残敵数「０体」では無く、固有特定数（例えば「４４体」）が表示され、その後、追加攻撃演出によって残敵数を「０体」にする復活演出を実行可能に構成している。

【９４５７】

つまり、今回実行される攻撃演出が討伐演出における最後の攻撃演出であることを遊技者に把握させた状態で、その最後の攻撃演出の演出結果として「０体」以外の残敵数を表示し、遊技者に対して失敗演出（大当たり遊技終了後に時短状態が設定されないことを報知する演出）が実行されたと思わせた後に、復活演出を実行し残敵数を「０体」へと可変表示可能に構成している。このように構成することで、討伐演出が終了する最後まで遊技者に対して成功演出が実行されていることに期待を持たせることができる。

【９４５８】

この場合、図９３７（ｂ）に示した通り、６ラウンド目のラウンド遊技中に、最後の攻撃演出の演出結果を示すための表示態様として表示領域ＨＲ１に「残り４４体」が表示される。図９３７（ｂ）に示した例では、固有特定数として大当たり図柄に含まれる「４」の数字を用いた「４４」が決定されており、表示領域ＨＲ１に表示されている「４４体」が固有特定数となる。そして、主表示領域Ｄｍには、復活演出に対応するキャラクタ８０１ｃが表示領域ＨＲ１を攻撃し、一旦表示された固有特定数をさらに減少させる復活演出（追加攻撃演出）が実行される。

【９４５９】

この復活演出が終了すると、図９３５（ｂ）に示した表示画面と同様に、成功演出を示すための表示態様として表示領域ＨＲ１に「残り０体」が表示され、遊技者に対して成功演出が実行されたことを報知する。なお、図示は省略したが、本第３２制御例では、討伐演出の演出結果が失敗演出である場合において、最後の攻撃演出の演出結果として固有特定数以外の残敵数がランダムに決定されるのでは無く、大当たり図柄に含まれる数字を用いた擬似残敵数が決定され易くなるように構成している。

【９４６０】

つまり、「４４４」で大当たり当選した場合における討伐演出では、失敗演出の演出結果を示すための表示画面（最後の攻撃演出の結果を示す表示画面）の表示領域ＨＲ１に「４」の数字が付された残敵数であって、固有特定数として決定されていない擬似残敵数（例えば、「１４体」や「４体」等）が表示され易くなるように構成している。このように構成することで、失敗演出の演出結果が表示された場合において、復活演出が実行される可能性を残した状態で失敗演出の演出結果を表示することができる。

【９４６１】

以上、説明をした通り、本第３２制御例では、初回大当たりの大当たり遊技中に実行される討伐演出の演出結果を用いて、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを事前に報知可能に構成していた。さらに、討伐演出の演出結果（最後の攻撃演出の演出結果）が表示されるよりも前に、討伐演出の演出結果を報知可能にすることで、大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態をいち早く察知したい遊技者が討伐演出の演出結果だけで無く、討伐演出の演出過程（各攻撃演出の演出結果）についても興味を持ちやすくするように構成していた。

【９４６２】

具体的には、各攻撃演出の演出結果として特定数（共通特定数、固有特定数）を表示することで、討伐演出の演出結果が、時短状態が設定されることを示すための演出結果（残敵数０表示）が表示されることを事前に報知可能に構成していた。

【９４６３】

つまり、本第３２制御例では、討伐演出として、特定数が表示される場合と、時短状態が設定されることを示すための演出結果（残敵数０表示）が表示される場合とで、同一の特典が付与されることを、報知タイミングを異ならせて報知可能に構成している。なお、

特定数が表示される場合に遊技者に付与される特典の内容と、討伐演出の演出結果が表示された場合に遊技者に付与される内容と、を異ならせるように構成しても良く、例えば、討伐演出の演出結果が表示されることで付与される特典として、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを示す特典を設定し、特定数が表示される場合に付与される特典として、大当たり遊技終了後に直ぐに次の大当たり遊技が実行される（保留連する）ことを示す特典を付与するように構成しても良い。

【９４６４】

このように構成することで、討伐演出によって、複数の特典を遊技者に付与することが可能となるため、遊技者に対して、討伐演出の演出結果だけで無く、その演出過程に対してもより注視させ易くすることができる。

【９４６５】

次に、図９３８を参照して、時短状態（ラッシュ）中に実行される変動演出の演出内容について説明をする。本第３２制御例のパチンコ機１０は、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成しており、通常状態が設定されている場合よりも、時短状態が設定されている場合の方が、遊技者に有利な第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成している。

【９４６６】

そして、第２特別図柄抽選は、高確率（１／２の確率）で小当たり当選するように規定されており、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に開放される第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０へと入賞した遊技球が特定領域を通過可能に構成され、特定領域を遊技球が通過したことに基づいて大当たり（Ｖ大当たり）遊技が実行されるように構成している。

【９４６７】

また、本第３２制御例のパチンコ機１０では、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動時間として短時間（例えば、１秒）の変動時間を設定可能に構成し、１の大当たり遊技が終了してから次の大当たり遊技が実行されるまでの期間を短くすることで、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させ易くするように構成している。

【９４６８】

このように構成されたパチンコ機１０では、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の抽選結果を示すための変動演出として、通常状態中に実行される変動演出、即ち、抽選結果を示すための第３図柄を少なくとも含む複数の図柄列（例えば、左列、中列、右列）に含まれる複数の図柄を変動表示させた後に、一部の図柄列（例えば、左列、右列）に含まれる第３図柄を、大当たり当選を示す組合せで停止表示させたリーチ状態を創出し、残りの図柄列（例えば、中列）にて変動表示されている第３図柄の停止表示態様を遊技者に予測させながら楽しませるリーチ演出を実行すること無く、時短状態中専用の変動演出を実行するように構成している。

【９４６９】

つまり、上述したリーチ演出は、特別図柄変動が実行されている変動期間を用いて、大当たり当選への期待度を徐々に高めて行く変動演出であって、特別図柄抽選が頻繁に実行されることを防ぐために長めの変動時間（例えば、６０秒）を設定した場合であっても、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができるが、本第３２制御例のパチンコ機１０のように、時短状態中において短い変動時間（例えば、１秒）の特別図柄変動が実行され易く構成されている場合には、１回の特別図柄変動の変動時間を用いてリーチ演出を実行したとしても、リーチ状態を創出してから特別図柄抽選の結果を停止表示させるまでに費やす時間が短くなってしまい、遊技者に分かり難い演出を提供してしまうという問題があった。

【９４７０】

そこで、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態が設定されているラッ

シュ期間において、時短状態中に実行可能な第２特別図柄変動の残回数（残特図２変動回数）をカウントダウンする演出を主に実行し、第２特別図柄抽選の結果が当たり当選である場合には、カウントダウン表示される数字に代えて特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄の表示態様を表示するように構成している。

【９４７１】

このように構成することで、短い変動時間の特別図柄変動が連続して実行される時短状態において、時短状態が継続する期間を遊技者に分かり易く報知しながら、特別図柄抽選で当り当選したことを分かり易く報知することができる。

【９４７２】

図９３８（ａ）は、時短状態（時短３回）が設定されてから、１回目の第２特別図柄変動が実行されている間に表示される表示画面の一例を示した図である。図９３８（ａ）に示した通り、時短状態中の演出モードであるラッシュ中は、キャラクタ８０１が攻撃をチャージしている演出が実行され、その前面側に残特図２変動回数を示すための表示態様として数字アイコン８０８が表示される。図９３８（ａ）に示した図では、１回目の第２特別図柄変動が実行されている状態であるため、実行中の第２特別図柄変動を含めて３回の第２特別図柄変動が実行されることを示す「３」の表示態様で数字アイコン８０８が表示されている。

【９４７３】

また、主表示領域Ｄｍの右側には、時短状態（ラッシュ）が継続している期間を示すための継続期間表示が表示される表示領域Ｄｍ８が形成され、時短状態（ラッシュ）期間の継続期間を示す表示態様として「００：０２：４４」の表示態様が表示されている。この「００：０２：４４」は、時短状態が設定されてから２秒が経過したことを示している。

【９４７４】

具体的には、表示領域Ｄｍ８に表示される継続期間表示は、最大で９９分５９秒の期間を表示可能に構成している。なお、秒単位の時間が表示される領域（真ん中の２桁領域）の右側の領域（右側の２桁領域であって、図９３８（ａ）では「４４」が表示されている領域）は、擬似経過時間表示領域として形成されており、最小で「００」から最大で「９９」までの値を表示可能に構成している。そして、１秒が経過するまでの間に、最小値から最大値まで値を更新可能に構成し、最大値に到達した後は再度最小値が表示され繰り返し値が更新されるように構成している。

【９４７５】

つまり、擬似経過時間表示領域は１／１００秒単位で値が更新されているように見せる表示領域である。なお、表示領域Ｄｍ８に表示される継続期間表示の最大値（９９分５９秒）を超えて時短状態が継続した場合には、それ以上の継続期間の表示を行わず、時短状態が長時間継続したことを示すための祝福表示（例えば「エクセレント！！」の表示）が表示されるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して特別感のある演出を提供することができる。

【９４７６】

なお、本第３２制御例では、時短状態が継続している期間（途中に実行される大当たり遊技、或いは、小当たり遊技の期間も含む）は、遊技の有無に関わらず、継続期間の表示を更新するように構成しているため、例えば、時短状態中に遊技を長時間中断した場合には、継続期間表示が最大値に到達し易くなる。そこで、上述した祝福表示を実行する条件として、継続期間表示が最大値に到達したことに加え、ラッシュ期間中に獲得した賞球数が所定数を超えた場合に成立する条件や、ラッシュ期間中に実行された大当たり遊技回数、或いは、時短状態中に実行された特別図柄抽選回数が所定回数を超えた場合に成立する条件が成立することを祝福表示を実行する条件としても良い。

【９４７７】

このように構成することで、ラッシュ期間中に多くの遊技（特別図柄抽選）を実行した遊技者のみ祝福表示を表示させることができるため、祝福表示が表示された遊技者の満足感を高めることができる。なお、この場合、祝福表示の実行条件が成立していない状態で

継続期間表示が最大値に到達すると、最大値である継続期間表示を継続して表示するように構成し、最大値である継続期間表示が継続している状態で祝福表示の実行条件が成立した場合に、祝福表示を実行するように構成すると良い。

【９４７８】

このように構成することで、ラッシュ期間が長時間継続している遊技者に対して、祝福表示を実行させようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【９４７９】

副表示領域Ｄｓには、ラッシュ期間（時短状態）中に実行される変動演出の演出内容を示すための案内表示態様として「カウントダウンが０になるまでに画面を破壊しろ」の文字が表示されている。このように構成することで、キャラクタ８０１が画面を攻撃して破壊した場合に特典（当たり）が付与されることを遊技者に分かり易く把握させることができる。

【９４８０】

そして、ラッシュ期間中に実行された第２特別図柄抽選で当り当選した場合には、図９３８（ｂ）に示した表示画面が表示される。図９３８（ｂ）は、ラッシュ期間中に当たり当選した特別図柄変動が停止表示された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。当たり当選した第２特別図柄変動が実行されると、攻撃をチャージしていたキャラクタ８０１が画面を破壊する攻撃演出が実行され、画面が破壊されカウントダウン表示されていた数字アイコン８０８が非表示になり、代わりに、当たり当選を示す組合せで第３図柄（図では「５５５」）が表示領域ＨＲ２に表示される。

【９４８１】

次に、図９３９、及び図９４０を参照して、特別図柄抽選で小当り当選した場合に実行される小当たり遊技中の演出内容について説明をする。図９３９（ａ）は、小当たり遊技が開始された直後に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９３９（ｂ）は、小当たり遊技が開始されてから４秒以内に遊技球を特定領域（Ｖ領域）へと入球させた場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９４０は、小当たり遊技が開始されてから４秒以内に遊技球を特定領域（Ｖ領域）へと入球させた状態で、小当たり遊技が開始されてからの経過時間が４秒を過ぎた場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９４８２】

上述した通り、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、単位時間当たりに実行される大当たり遊技の実行回数を増加させるために、時短状態（ラッシュ期間）中に実行される第２特別図柄変動の変動時間を短くしている。さらに、小当たり当選してから小当たり遊技が実行されるまでの期間や、小当たり遊技が実行されてから遊技球を特定領域（Ｖ領域）へと入球させることが可能となるまでの期間も短く構成している。

【９４８３】

ここで、従来より、小当たり遊技中に特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を入球させることで、大当たり遊技の実行権利を獲得し、小当たり遊技終了後に大当たり遊技を実行させるパチンコ機１０が知られている。この従来型のパチンコ機１０では、小当たり遊技が実行される限られた期間内に特定領域へと遊技球を入球させるために、特別図柄抽選の結果が小当たり当選となってから小当たり遊技が開始されるまでの期間、或いは、小当たり遊技が開始されてから遊技球を特定領域へと入球させることが可能となる期間を用いて、小当たり遊技中に実行すべき遊技内容（例えば、「右打ちをしてＶを狙え」の表示）を遊技者に予め報知する遊技案内報知を実行するように構成していた。

【９４８４】

このように構成された従来型のパチンコ機１０では、特別図柄抽選の結果が小当たり当選となってから小当たり遊技が開始されるまでの期間、或いは、小当たり遊技が開始されてから遊技球を特定領域へと入球させることが可能となる期間として、上述した遊技案内報知を繰り返し実行可能な程度の長さを設定することで、遊技者に対して小当たり遊技中に実行すべき遊技内容を遊技者に把握させるように構成していた。

【９４８５】
そして、特定領域へと遊技球を入球させることが可能となるまでの間に、遊技案内報知が繰り返し実行される従来型のパチンコ機１０では、特定領域へと遊技球を入球させることが可能となる状態においても遊技案内報知を繰り返し実行し、遊技球が特定領域へと入球したことに基づいて遊技案内報知を中止し、特定領域へと遊技球が入球したことを報知するための表示態様（例えば、「Ｖ」ゲット）を表示することで、遊技者に対して適正な遊技が実行されたことを分かり易く理解させるように構成していた。
【９４８６】
しかしながら、上述した従来型のパチンコ機１０では、小当たり遊技中に遊技球が特定領域へと入球したことに基づいて遊技案内報知を中止し、特定領域へと遊技球が入球したことを報知するための表示態様（例えば、「Ｖ」ゲット）を表示するように構成しているため、特定領域へと遊技球を入球させることが可能な状態となるまでに、遊技案内報知を繰り返し実行させる期間を設ける必要があり、小当たり当選してから特定領域へと遊技球を入球させることが可能な状態が設定されるまでの期間が間延びしてしまい、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させ難いという問題があった。
【９４８７】
また、小当たり遊技が開始されてから特定領域へと遊技球を入球させることが可能な状態となるまでの期間を短く設定し、初回の遊技案内報知期間が終了するよりも前に、遊技球を特定領域へと入球させることが可能に構成した場合には、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させ易くすることができるが、遊技案内報知にて遊技者に報知される遊技内容を遊技者が把握する前に遊技案内報知が終了してしまい、特定領域へと遊技球が入球した後に実行される遊技に対して遊技者が困惑してしまうという問題があった。
【９４８８】
これに対して、本第３２制御例では、小当たり遊技が開始されてから、特定領域へと遊技球を入球させることが可能な状態となるまでの期間の長さが、初回の遊技案内報知期間（４秒）よりも短くなるように構成し、さらに、初回の遊技案内報知期間（４秒）が経過するまでの間に、遊技球を特定領域へと入球させた場合には、初回の遊技案内報知が経過した後に、特定領域へと遊技球が入球したことを報知するための表示態様（例えば、「Ｖゲット」）を表示するように構成している。そして、初回の遊技案内報知が経過した後に実行される２回目以降の遊技案内報知が実行されている期間中に、特定領域へと遊技球が入球した場合には、実行中の遊技案内報知を中止し、特定領域へと遊技球が入球したことを報知するための表示態様（例えば、「Ｖゲット」）を表示するように構成している。
【９４８９】
このように構成することで、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させ易くすることができると共に、特定領域へと遊技球が入球した後に実行される遊技の内容を遊技者に案内するための報知期間（初回の遊技案内報知期間）を確実に確保することができる。
【９４９０】
図９３９（ａ）に示した通り、小当たり遊技が実行されると、遊技盤１３の右側領域に設けられた第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０に向けて遊技球を入球させるための右打ち遊技の実行を遊技者に案内するための案内報知として、表示領域Ｄｍ４には「右打ち」が表示され、主表示領域Ｄｍの右側に形成された表示領域Ｄｍ１０には、第２可変入賞装置６５０の箇所を遊技者に分かり易く把握させるために、第２可変入賞装置６５０が配設された遊技領域付近を示す画像が表示される。さらに、小当たり遊技中における遊技内容として、第２可変入賞装置６５０内に設けられた特定領域（Ｖゲート）へと遊技球を入球させることを案内するための遊技案内報知として、第１矢印８１０が主表示領域Ｄｍに表示される。
【９４９１】
この第１矢印８１０は、第３図柄表示装置８１の表示面に対して、第２可変入賞装置６

５０が配設されている方向（右方向）を示す表示態様で表示されており、「右を狙え」の文字が付設されている。そして、表示面の左右方向に移動するように表示されるものであって、１の遊技案内報知期間である４秒間の間に、第１矢印８１０が左右方向へと２往復するように表示される。さらに、副表示領域Ｄｓ１には、小当たり遊技中における遊技方法を案内するための案内態様として「右打ちしてＶアタッカーに入賞させろ！！Ｖ入賞で大当たりゲット！」の文字が表示される。

【９４９２】

また、第１矢印８１０が第３図柄表示装置８１に表示されると共に、音声出力装置２２６から「右を狙え」の音声が４秒間の間に２回出力される。本第３２制御例では、小当たり遊技の遊技方法を案内するための遊技案内報知として、１回の報知期間が４秒となる遊技案内報知が実行されるように構成している。そして、１回の遊技案内報知が終了した時点において、遊技案内報知を継続するか否かを判別し、継続する必要があると判別した場合には、同一の遊技案内報知を繰り返し複数回実行可能に構成している。

【９４９３】

このように構成することで、小当たり遊技が実行された状態では、右打ち遊技によって第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０へと遊技球を入球させることで、大当たり遊技を実行させることが可能となることを遊技者に分かり易く報知することができる。

【９４９４】

さらに、主表示領域Ｄｍに表示される第１矢印８１０の下方には、小当たり遊技において遊技球を第２可変入賞装置６５０へと入球させることが可能な期間（ラウンド遊技期間）の残時間を示すための第２タイムゲージｇａ２が表示されている。この第２タイムゲージｇａ２の表示態様は、小当たり遊技のラウンド遊技期間の残期間を示すための残期間表示ｇａ２ａと、経過期間を示すための経過期間表示ｇａ２ｂとから形成されており、小当たり遊技のラウンド遊技が実行されてから時間が経過する毎に、経過期間表示ｇａ２ｂが占める割合が増加し、残期間表示ｇａ２ａが占める割合が減少するように、第２タイムゲージｇａ２の表示態様が可変するように構成している。

【９４９５】

本第３２制御例では、小当たり遊技が開始されると、２秒間のオープニング期間が経過した後に最大で２０秒間のラウンド遊技が実行され、その後、２秒間のエンディング期間が設定されるように構成している。オープニング期間は、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０が開放されない期間、即ち、第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させることができない期間であって、特別図柄抽選で当り当選を目指す遊技を行っていた遊技者に対して、小当たり当選に基づいて第２可変入賞装置６５０が開放動作されることを報知するための期間である。オープニング期間が設定されると、小当たり遊技の開始を案内するための表示態様（例えば、「小当たり遊技開始」）を表示されると共に、初回の遊技案内報知として、図９３９（ａ）に示した第１矢印８１０が４秒間表示される。

【９４９６】

つまり、本第３２制御例では、小当たり遊技中の遊技内容を案内するための遊技案内報知を、ラウンド遊技が実行されるよりも前の段階（オープニング期間）から実行するように構成している。このように構成することで、遊技案内報知の内容を把握することで小当たり遊技中の遊技を理解した遊技者が、小当たり遊技中の遊技を理解した段階から右打ち遊技を実行したとしても、ラウンド遊技が開始された直後から第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させ易くすることができる。

【９４９７】

小当たり遊技のラウンド遊技中は、第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入賞させることが可能な開状態と、その開状態よりも遊技球を入賞させることが困難な（入賞させることが出来ない）閉状態と、に開閉扉６５０ｆ１が可変動作される。具体的には、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（０．４秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（１．５秒）、開状態（０．１秒）、閉状態（１．５秒）、開状態（

０．２秒）、閉状態（４．８秒）、開状態（０．８秒）、閉状態（９秒）となるように、開閉扉６５０ｆ１が可変制御される。

【９４９８】

ここで、本第３２制御例における小当たり遊技は、上述した２０秒の可変制御が終了した場合、或いは、ラウンド遊技中に第２可変入賞装置６５０へと所定数（１０個）の遊技球が入賞した場合に、ラウンド遊技の終了条件が成立し、ラウンド遊技が終了するように構成している。そして、ラウンド遊技中に実行される開閉扉６５０ｆ１の可変制御内容として、ラウンド遊技の前半期間の方が、後半期間よりも、開状態となる期間が占める割合が高くなるように構成している。そして、小当たり遊技中に継続して右打ち遊技を実行した場合には、５回目の開状態となるタイミングで、第２可変入賞装置６５０への入賞数が１０個となるように構成している。

【９４９９】

つまり、小当たり遊技が実行されてから（オープニング期間が設定されてから）、継続して右打ち遊技を実行した場合には、ラウンド遊技の遊技期間が２．１秒となり易く、ラウンド遊技中に継続して右打ち遊技を実行しなかった場合は、ラウンド遊技の遊技期間が最大で２０秒となるように構成している。このように構成することで、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させたい遊技者に対して、小当たり遊技が開始された直後から意欲的に右打ち遊技を行わせることができる。

【９５００】

また、ラウンド遊技が進行するほど、開閉扉６５０ｆ１が閉状態となる期間が長くなるため、第２可変入賞装置６５０へと所定数（１０個）の遊技球を入賞させることでラウンド遊技を終了させる場合であっても、１０個目の遊技球を入賞させるタイミングによって、ラウンド遊技期間の長さが大きく異ならせることができる。よって、小当たり遊技中における遊技状況によっても、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数が異なるため、遊技者に対して小当たり遊技中の遊技状況についても興味を持たせることができる。

【９５０１】

なお、ラウンド遊技の後半期間に設定される長時間の閉状態（９秒の閉状態）、即ち、小当たり遊技中に、正常に右打ち遊技を実行していた場合には、設定され難い閉状態が設定された場合には、例えば、小当たり遊技が実行されていることに気付かずに右打ち遊技を実行していない場合も考えられるため、既に遊技球を特定領域へと入球させているか否かを判別し、特定領域へと遊技球を入球させていないと判別した場合には、遊技者に対して、右打ち遊技を強調して案内するための強調案内報知を実行するように構成している。このように構成することで、小当たり遊技が実行されたにも関わらず、遊技球を特定領域へと入球させること無く、大当たり遊技の実行権利を獲得しないまま小当たり遊技が終了してしまうことを抑制することができる。

【９５０２】

また、小当たり遊技のラウンド遊技中において、前半期間では開閉扉６５０ｆ１の開状態となる期間として０．１秒が繰り返し設定され、後半期間では、前半期間よりも長い期間（０．２秒、０．８秒）の開状態が設定されるように構成している。このように構成することで、小当たり遊技を短時間で終了させることが出来なかった遊技者、例えば、小当たり遊技が実行されたことに途中まで気付かなかった遊技者に対して、確実に遊技球を第２可変入賞装置６５０へと入賞させる機会を残すことができる。

【９５０３】

なお、本第３２制御例では、ラウンド遊技の前半期間の方が、後半期間よりも、開状態となる期間が占める割合が高くなるようにラウンド遊技中の可変制御を実行するように構成することで、ラウンド遊技を短時間で終了させることが可能としているが、ラウンド遊技中における可変制御の内容はこれに限ること無く、ラウンド遊技の全期間に対して開状態となる期間が占める割合が均等となるように構成しても良い。

【９５０４】

また、本第３２制御例では、ラウンド遊技の後半期間の方が、前半期間よりも、１回の

開状態が継続する時間が長くなるように開閉扉６５０ｆ１を可変制御することで、ラウンド遊技中に第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させること無くラウンド遊技が終了してしまうことを抑制するように構成しているが、これに限ること無く、ラウンド遊技の前半期間の方が、後半期間よりも、１回の開状態が継続する時間が長くなるように開閉扉６５０ｆ１を可変制御するように構成しても良い。このように構成することで、ラウンド遊技の前半期間中に第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させ易くすることができるため、ラウンド遊技を短時間で終了させ易くすることができる。一方で、ラウンド遊技の前半期間にてラウンド遊技を終了させることができなかった遊技者に対して、短い開状態と、長い閉状態と、が繰り返される小当たり遊技が実行されるため、ラウンド遊技期間を無用に長くすることができる。よって、小当たり遊技を実行する遊技者に対して、ラウンド遊技が開始された直後から意欲的に第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入賞させるための右打ち遊技を行わせ易くすることができる。

【９５０５】

また、小当たり遊技のエンディング期間は、上述したオープニング期間と同様に、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０が開放されない期間、即ち、第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させることができない期間であって、小当たり遊技のラウンド遊技中に実行された遊技内容に基づいた表示態様が第３図柄表示装置８１の表示面に表示される。

【９５０６】

具体的には、小当たり遊技のラウンド遊技中に遊技球を特定領域へと入球させ、大当たり遊技の実行権利を獲得している場合には、小当たり遊技が終了したことを示すための情報と、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が実行されることを示すための情報と、を含む表示態様が表示される。一方で、小当たり遊技のラウンド遊技中に遊技球を特定領域へと入球させることが出来なかった場合には、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が実行されないため、小当たり遊技が終了したことを示すための情報と、小当たり遊技終了後に通常状態へと移行することを示すための情報と、を含む表示態様が表示される。

【９５０７】

ここで、図９３９（ａ）に示した例では、小当たり遊技が開始されてから３秒が経過した時点、即ち、２秒間のオープニング期間が終了し、ラウンド遊技が実行されてから１秒が経過した時点を示しており、主表示領域Ｄｍには、初回の遊技案内報知である第１矢印８１０が表示されており、タイムゲージｇａ２全体で示すラウンド遊技期間（２０秒）に対して、経過期間表示ｇａ２ｂが１秒分、残期間表示ｇａ２ａが１９秒分の範囲を示している状態が表示されている。

【９５０８】

そして、初回の遊技案内報知が実行されている期間中に第２可変入賞装置６５０へと入賞した遊技球が特定領域（Ｖゲート）を通過した場合（Ｖ入賞した場合）、即ち、ラウンド遊技が開始されてから２秒以内に遊技球がＶ入賞した場合は、図９３９（ｂ）に示した通り、初回の遊技案内報知期間が終了するまで、主表示領域Ｄｍの中央部にて初回の遊技案内報知（第１矢印８１０）が継続して表示され、副表示領域Ｄｓにて小当たり遊技中における遊技方法を案内するための「右打ちしてＶアタッカーに入賞させろ！！Ｖ入賞で大当たりゲット！」も継続して表示される。

【９５０９】

このように構成することで、小当たり遊技のラウンド遊技が開始された直後に遊技球をＶ入賞させてしまった場合であっても、Ｖ入賞した後に実行される遊技内容（大当たり遊技が実行される遊技内容）を遊技者に分かり易く理解させることができる。

【９５１０】

また、図９３９（ｂ）に示した通り、初回の遊技案内報知期間（４秒間）中に遊技球をＶ入賞させた場合には、初回の遊技案内報知が実行されている主表示領域Ｄｍの空き領域にて、既にＶ入賞していることを示すためのＶ入賞済アイコン８１１を表示するように構成している。このように構成することで、初回の遊技案内報知期間中に遊技球がＶ入賞しているか否かを遊技者に把握させることができる。

【９５１１】
なお、本第３２制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面にＶ入賞済アイコン８１１を表示することによって、初回の遊技案内報知期間中であってもＶ入賞の有無を遊技者が判別可能に構成しているが、第３図柄表示装置８１以外でＶ入賞している状態であることを報知するように構成しても良く、例えば、パチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）を発光させることによってＶ入賞していることを報知可能に構成しても良い。このように構成することで、初回の遊技案内報知期間中の表示画面を、Ｖ入賞の有無に関わらず統一することができるため、第３図柄表示装置８１の表示面に対する表示制御を簡素化することができる。
【９５１２】
そして、Ｖ入賞した状態で、初回の遊技案内報知期間が経過すると、図９４０に示した通り、遊技案内報知を終了し、Ｖ入賞したことを示すためのＶ演出として、主表示領域Ｄｍの中央部に拡大表示されたＶ入賞済アイコン８１１を用いて「Ｖゲット」を表示する。そして、副表示領域Ｄｓには、Ｖ入賞したことに基づいて大当たり遊技が実行されることを示すための「ラッキー大当たり！！」の文字が表示される。
【９５１３】
つまり、初回の遊技案内報知期間中に遊技球をＶ入賞させた遊技者は、初回の遊技案内報知が終了するまでの間に遊技案内報知の内容を把握することで、Ｖ入賞させた後に大当たり遊技が実行されることを理解した状態で、Ｖ入賞後の遊技を実行することになる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【９５１４】
以上、説明をした通り、本第３２制御例では、小当たり遊技中に実行される初回の遊技案内報知期間（４秒）の間に、小当たり遊技が終了しないように、小当たり遊技中における第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０の開閉扉６５０ｆ１の開放動作内容を規定しているが、これに限ること無く、例えば、小当たり遊技の実行期間をより短くするために、初回の遊技案内報知期間（４秒）が経過するよりも前に、小当たり遊技が終了し得るように小当たり遊技中における第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０の開閉扉６５０ｆ１の開放動作内容を規定しても良い。
【９５１５】
この場合、例えば、小当たり遊技のオープニング期間を０．５秒、小当たり遊技が開始されてからの開閉扉６５０ｆ１の開放動作内容として、０．２秒の開放と、０．３秒の閉鎖を繰り返す開放動作内容を設定し、且つ、第２可変入賞装置６５０へと遊技球が３個入賞した時点で小当たり遊技終了条件が成立するように構成することで、初回の遊技案内報知期間（４秒）が経過するよりも前に、第２可変入賞装置６５０へと遊技球が３個入球して小当たり遊技が終了することになる。そして、小当たり遊技中に第２可変入賞装置６５０へと入賞した遊技球が特定領域（Ｖゲート）へと入球した場合には、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が開始される。このように構成されたパチンコ機１０に対して、初回の遊技案内報知を、遊技の進行状況に関わらず確実に実行させる本第３２制御例の技術思想を適用した場合には、大当たり遊技の実行期間中も初回の遊技案内報知が実行される可能性がある。
【９５１６】
このような場合では、初回の遊技案内報知が終了した後に、大当たり遊技中に実行される各種表示態様が表示されるように各種表示態様の表示タイミングを遅延させるように構成しても良いし、大当たり遊技中に実行される各種表示態様が表示される期間を通常よりも短くすることで、徐々にズレ幅を減少させる処理を実行しても良く、例えば、初回の遊技案内報知が終了した時点における大当たり遊技の遊技状況を判別し、判別された遊技状況に基づいて、通常の大当たり遊技にて特定の表示態様が表示されるタイミングと、遅延させて特定の表示態様を表示させるタイミングとの差分を算出する。そして、算出された差分を解消するために、各種表示態様の表示期間を短縮させる短縮処理を実行可能に構成すると良い。このように構成することで、初回の遊技案内報知が遊技の進行状況に関わら

ず固定期間（４秒間）実行された場合であっても、後に実行される各種表示態様を全て表示させながら遊技の進行状況に応じた表示態様を表示させ易くすることができる。

【９５１７】

また、例えば、初回の遊技案内報知が終了した時点における大当たり遊技の遊技状況を判別し、通常であれば表示される各種表示態様のうち、優先度の低い表示態様（例えば、オープニング期間中に表示される表示態様）の表示をキャンセルする処理を実行することで初回の遊技案内報知が遊技の進行状況に関わらず固定期間（４秒間）実行された場合であっても、後に実行される各種表示態様を全て表示させながら遊技の進行状況に応じた表示態様を表示させ易くするように構成しても良い。

【９５１８】

なお、上述した通り、大当たり遊技中において、実際の遊技状況と、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様とにズレが生じている場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される一部の表示態様のみを、実際の遊技状況に対応させて表示するように構成すると良い。

【９５１９】

また、本第３２制御例では、初回の遊技案内報知期間（４秒）の間に、特定領域へと遊技球を入賞（Ｖ入賞）させた場合には、図９４０に示した通り、初回の遊技案内報知期間が経過した時点でＶ入賞の有無を判別し、Ｖ入賞していると判別した場合にＶ演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、初回の遊技案内報知期間（４秒）の間に、Ｖ入賞した場合に、Ｖ演出を実行させるまでの期間をタイマに設定（例えば、４秒を設定）し、そのタイマによって４秒が経過したと判別した場合にＶ演出を実行させるように構成しても良い。つまり、Ｖ入賞したタイミングに応じて、タイマに設定する値を変更するように構成し、初回の遊技案内報知期間中にＶ入賞した場合には、タイマに遅延値（例えば、４秒）をセットし、初回の遊技案内報知期間経過後にＶ入賞した場合には、タイマに即効値（例えば、０．１秒）をセットするように構成することで、Ｖ入賞してからＶ演出が実行されるまでの期間の長さを、小当たり遊技が実行されてからＶ入賞するまでに要した期間の長さによって異ならせるように構成しても良い。

【９５２０】

このように構成することで、どのタイミングでＶ入賞したとしても、Ｖ演出を実行させるために実行される処理内容を統一化することができるため、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理を簡素化することができる。

【９５２１】

次に、図９４１（ａ）を参照して、時短状態における最終変動中に実行される変動演出の演出内容について説明をする。図９４１（ａ）は、時短状態（ラッシュ中）に実行される最後の第２特別図柄変動が外れ変動である場合に表示される表示画面の一例を示した図である。本第３２制御例では、図９３８（ａ）に示した通り、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の変動時間として短い変動時間（１秒）が設定され、その変動期間中に、時短状態中に実行可能な第２特別図柄抽選の残回数と、当該変動に対応する第２特別図柄抽選の結果と、を示すための変動演出を実行可能に構成している。

【９５２２】

具体的には、時短状態中において連続して第２特別図柄抽選を実行した場合であって、その抽選結果が全て外れである場合には、時短状態中に実行可能な第２特別図柄抽選の残回数に対応させて１秒間隔で「３」、「２」、「１」と数字アイコン８０８の表示態様を可変させるカウントダウン表示が実行され、時短状態における第２特別図柄変動の最終変動が実行されるように構成している。一方、時短状態における第２特別図柄変動の最終変動が実行されるよりも前に、当たり当選した場合には、カウントダウン表示されている数字アイコン８０８が破壊され、当たり当選を示す表示態様が表示される（図９３８（ｂ）参照）ように構成している。

【９５２３】

そして、時短状態中における第２特別図柄変動の最終変動では、特別図柄抽選の結果に

基づいて異なる変動時間が決定され得るように構成しており、例えば、抽選結果が小当たり当選である場合の一部において、変動時間が１秒の変動パターンが決定されるように構成している。この変動パターンが決定された場合には、数字アイコン８０８がカウントダウン表示される演出が最終変動まで継続し、「０」を示す数字アイコン８０８が破壊されて小当たり当選を示す表示態様が表示される変動演出が実行される。

【９５２４】

また、抽選結果が小当たり当選である一部、或いは、大当たり当選である場合には、変動時間が２０秒の変動パターンが決定されるように構成している。この２０秒の変動パターンが決定された場合には、数字アイコン８０８がカウントダウン表示が実行され、「０」を示す数字アイコン８０８が表示された後に、カウントダウン表示中に数字アイコン８０８が破壊されなかったことを示す表示態様（例えば「ＥＮＤ」）が、最終変動が開始されてから１０秒が経過するまで表示される。その後、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させることで、通常状態にて第２特別図柄抽選を実行させることが可能となることを遊技者に案内する案内演出（引き戻し案内演出）を実行し、その案内演出の途中で、実行中の第２特別図柄抽選の結果が当たり当選（小当たり当選、或いは大当たり当選）であることを示すための表示態様が表示される。

【９５２５】

最後に、時短状態の最終変動となる第２特別図柄抽選の結果が外れである場合には、３０秒の変動パターンが決定されるように構成している。この３０秒の変動パターンが決定された場合には、上述した２０秒の変動パターンと同様に、数字アイコン８０８がカウントダウン表示が実行され、「０」を示す数字アイコン８０８が表示された後に、カウントダウン表示中に数字アイコン８０８が破壊されなかったことを示す表示態様（例えば「ＥＮＤ」）が、最終変動が開始されてから１０秒が経過するまで表示される。その後、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させることで、通常状態にて第２特別図柄抽選を実行させることが可能となることを遊技者に案内する案内演出（引き戻し案内演出）が実行される。そして、案内演出が終了した後に、特図２保留の獲得を案内するための保留球獲得演出（ＦＩＮＡＬチャージ演出）が実行される。

【９５２６】

図９４１（ａ）は、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されている場合に表示される表示画面であって、ＦＩＮＡＬチャージ演出中に特図２保留を上限数（１個）獲得した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図９４１（ａ）に示した通り、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されると、主表示領域Ｄｍの中央付近に表示領域ＨＲ１１が形成され、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されていることを示すための「ＦＩＮＡＬチャージ中」が表示される。そして、表示領域Ｄｍ１０には、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることを案内するために、遊技盤１３のうち第２入球口６４０が配設されている付近を模した画像が表示される。この表示領域Ｄｍ１０に表示される画像は、現在が第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い状態（普通図柄の高確率状態）であることを遊技者に視覚的に把握させるために、電動役物６４０ａが誘導状態であることを強調した画像（図では、発光表示）が表示される。

【９５２７】

また、副表示領域Ｄｓには、ＦＩＮＡＬチャージ演出中の遊技方法を遊技者に案内するための案内態様として「時間内にチャージを貯めろ」の文字が表示される。また、表示領域ＨＲ１０の下方には、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行される演出期間の残期間を示すための第３タイムゲージｇａ３が表示される。この第３タイムゲージｇａ３の表示態様は、残期間を示すための残期間表示ｇａ３ａと、経過期間を示すための経過期間表示ｇａ３ｂとから形成されており、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてからの時間経過応じて、経過期間表示ｇａ３ｂが占める割合が増加し、残期間表示ｇａ３ａが占める割合が減少するように、第３タイムゲージｇａ３の表示態様が可変するように構成している。

【９５２８】

なお、図９４１（ａ）に示した例では、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから３秒

が経過した時点を示しており、第３タイムゲージｇａ３全体で示す演出期間（７秒）に対して、経過期間表示ｇａ３ｂが３秒分、残期間表示ｇａ３ａが４秒分の範囲を示している状態が表示されている。

【９５２９】

そして、主表示領域Ｄｍの下側には、ＦＩＮＡＬチャージ演出中の遊技状況を示すための状況表示態様が表示される。図９４１（ａ）に示した図は、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから３秒が経過した状態であって、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ、特図２保留を上限数まで獲得している状態であることから、状況表示態様として、「チャージ完了」の文字が表示されている。

【９５３０】

ここで、主表示領域Ｄｍの下側に表示される状況表示態様の表示内容について説明をする。この状況表示態様は、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行された時点で特図２保留を上限数まで獲得していない場合には、「未チャージ状態」の文字が表示され、遊技者に対して、現在が特図２保留を上限数まで獲得していないことを分かり易く報知可能に構成している。

【９５３１】

この「未チャージ状態」の表示は、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから所定期間（１秒）が経過するまで、必ず表示されるように構成している。つまり、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから０．５秒が経過したタイミングで特図２保留を上限数まで獲得した場合であっても、「未チャージ状態」を１秒間継続して表示するように構成している。そして、「未チャージ状態」が１秒間継続して表示された後に、特図２保留を上限数まで獲得したことを示す「チャージ完了」の文字が表示されるように構成している。一方、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから１秒が経過した時点で特図２保留を上限数まで獲得していない場合には、特図２保留が上限数となるまで「未チャージ状態」の表示を継続させ、特図２保留を上限数まで獲得した場合に「チャージ完了」の文字が表示されるように構成している。

【９５３２】

また、このＦＩＮＡＬチャージ演出は、時短状態における第２特別図柄変動の最終変動が開始されてから２０秒以上経過した時点で実行されることから、既に、特図２保留を上限数まで獲得している状態でＦＩＮＡＬチャージ演出が実行される場合もある。この場合においても、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてから１秒が経過するまでは、「未チャージ状態」の文字が表示され、その後「チャージ完了」の文字が表示されるように構成している。

【９５３３】

このように、特図２保留を上限数まで獲得している状態であっても、ＦＩＮＡＬチャージ演出中に特図２保留を上限数まで獲得していない状態から特図２保留を上限数まで獲得した状態へと移行したことを疑似的に示す表示態様を表示可能に構成することで、遊技者に対して、特図２保留を上限数まで獲得したことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【９５３４】

なお、本第３２制御例では、特図２保留の獲得状況に関わらず、時短状態の最終変動中にＦＩＮＡＬチャージ演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、ＦＩＮＡＬチャージ演出の実行タイミングにおいて、既に特図２保留を上限数まで獲得している場合には、ＦＩＮＡＬチャージ演出を実行しないように構成しても良い。このように構成することで、新たな特図２保留を獲得することが出来ない状態においてＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されてしまい、遊技者に無用に右打ち遊技を実行させてしまうことを抑制することができる。

【９５３５】

また、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されるタイミングにおける特図２保留の獲得状況に応じて、ＦＩＮＡＬチャージ演出中の演出態様を異ならせるように構成しても良く、例

えば、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されるタイミングにて、特図２保留を上限数まで獲得していない場合には、上述した通り、特図２保留を上限数まで獲得させるための演出態様でＦＩＮＡＬチャージ演出を実行するように構成し、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されるタイミングにて、特図２保留を上限数まで獲得している場合には、ＦＩＮＡＬチャージ演出中に遊技球を第２入球口６４０へと入球させることで、獲得済みの特図２保留の先読み結果を遊技者に示唆可能な演出態様でＦＩＮＡＬチャージ演出を実行するように構成しても良い。

【９５３６】

このように構成することで、新たな特図２保留を獲得することが出来ない状態においてＦＩＮＡＬチャージ演出が実行された場合であっても、獲得済みの特図２保留に基づいて実行される第２特別図柄抽選の結果をいち早く察知しようと、意欲的に第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技を行わせることができる。よって、遊技の稼働を向上させることができる。

【９５３７】

なお、本第３２制御例のように、特図２保留を上限数まで獲得させるための演出態様でＦＩＮＡＬチャージ演出を実行するように構成した場合であっても、特図２保留を上限数まで獲得した後に、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合（所謂、オーバー入賞した場合）に、獲得済みの特図２保留の先読み結果を遊技者に示唆可能な演出態様でＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されるように構成しても良い。このように構成することで、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されている間、遊技者に意欲的に第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技を行わせることができる。よって、遊技の稼働を向上させることができる。また、特図２保留を上限数まで獲得させるための演出態様と、獲得済みの特図２保留の先読み結果を遊技者に示唆可能な演出態様と、を重複させたＦＩＮＡＬチャージ演出を実行可能に構成しても良い。また、本第３２制御例では、時短状態中において獲得済みの特図２保留数を示すための表示態様を表示しないように構成することで、遊技者に対して特図２保留が上限数に到達しているか否かを把握させ難くし、時短状態中に右打ち遊技を継続させることで遊技の稼働を向上させるように構成しているが、これに限ること無く、時短状態中における第３図柄表示装置８１の表示面に獲得済みの特図２保留数を示すための表示態様（特図２保留図柄）を表示するように構成しても良く、この場合、現在獲得済みの特図２保留数と、獲得可能な特図２保留の上限数と、を遊技者が把握可能な表示態様を表示可能に構成すると良い。加えて、時短状態における最終変動中と、それ以外とで、特図２保留数を示すための表示態様を切り替えるように構成しても良い。また、図９４１（ｂ）に示した通り、本第３２制御例では、時短状態の終了後、通常状態が設定された場合において、獲得済みの特図２保留に基づく第２特別図柄変動が終了するまで引き戻し演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、特図２保留を獲得したままの状態で引き戻し演出を終了させるように構成しても良いし、通常状態が設定された場合に引き戻し演出を実行しないように構成しても良い。

【９５３８】

以上、説明をした通り、本第３２制御例では、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の最終変動の変動パターンとして、対応する第２特別図柄抽選の結果が小当たりである場合には、比較的短い変動時間（１秒）の変動パターンと、長い変動時間（２０秒）の変動パターンと、を設定可能に構成している。つまり、時短状態中に実行される小当たり当選した第２特別図柄変動の変動パターンとして、時短状態の最終変動とならない第２特別図柄変動よりも、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動の方が長い変動時間が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合において、小当たり当選した変動回数に応じて単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を大きく異ならせることができる。

【９５３９】

よって、遊技者に対して、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で小当たり当選を目指すだけで無く、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増やすために、な

るべく少ない変動回数で小当たり当選することを目指す遊技を行わせることができる。
【９５４０】
なお、本第３２制御例では、時短状態中に実行される小当たり当選した第２特別図柄変動の変動パターンとして、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動と、時短状態の最終変動とならない第２特別図柄変動よりも長い変動時間が設定され易くなるように構成することで、小当たり当選するまでに実行された第２特別図柄変動回数に応じて、前回の大当たり遊技が終了してから次の小当たり遊技が開始されるまでに要する期間が大きく乖離するようにしているが、これに限ること無く、時短状態中に実行される小当たり当選した第２特別図柄変動の変動パターンとして同一の変動時間（例えば、１秒）が設定されるように構成しても良い。この場合であっても、時短状態中に実行される第２特別図柄変動回数が増加するほど、前回の大当たり遊技が終了してから次の小当たり遊技が開始されるまでの期間を長くすることができるため、遊技者に対して、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増やすために、なるべく少ない変動回数で小当たり当選することを目指す遊技を行わせることができる。
【９５４１】
さらに、本第３２制御例では、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動が小当たり当選している第２特別図柄変動である場合の一部において、他の第２特別図柄変動と同一の短変動時間（１秒）が設定される変動パターンが選択されるように構成している。このように構成することで、時短状態の最終変動までを対象として、短変動時間の変動パターンを用いた変動演出（カウントダウン表示）を実行することができる。
【９５４２】
また、時短状態の最終変動にて小当たり当選した場合には、設定される変動パターンの種別に応じて、前回の大当たり遊技が終了してから、次の小当たり遊技が開始されるまでに要する期間を大きく異ならせることができるため、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させたい遊技者に対して、時短状態の最終変動にて実行される第２特別図柄抽選の結果だけで無く、変動パターンにも興味を持たせることができる。
【９５４３】
加えて、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動では、小当たり当選した場合に設定される変動パターンとして、異なる変動時間の変動パターンを選択可能に構成しているため、第２特別図柄変動の変動時間を把握することで小当たり当選しているか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。
【９５４４】
つまり、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動（特図２最終変動）に対して短変動時間（例えば、１秒）の変動パターンのみを設定可能に構成した場合には、特図２最終変動の変動時間が１秒を経過した時点で、実行中の特図２最終変動が小当たり当選していないことを遊技者が把握してしまい、特図２最終変動が停止表示されるまでに遊技者の遊技意欲が低下してしまうが、本第３２制御例のように、小当たり当選している特図２最終変動の変動パターンとして、異なる変動時間の変動パターンを設定可能に構成することで、小当たり当選しているか否かを把握可能なタイミングを複数設けることができるため、遊技者に対して、小当たり当選の有無を把握させ難くすることができる。
【９５４５】
以上、説明をした通り、本第３２制御例では、特図２最終変動に設定される変動パターンとして、外れ当選している場合に設定される変動パターンが最も長い変動時間（３０秒）の変動パターンが設定されるように構成している。そして、外れ当選している特図２最終変動の変動パターン（３０秒変動）に対して、残りの１０秒を用いて、遊技者に対して第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得させるための演出（ＦＩＮＡＬチャージ演出）を実行するように構成している。
【９５４６】
このように構成することで、特図２最終変動が停止表示された後に当たり遊技が実行される場合（特図２最終変動が小当たり変動、又は、大当たり変動である場合）であって、

当たり遊技終了後に再度時短状態が設定される場合、即ち、後に新たな特図２保留を獲得可能な期間（時短状態）が設定される場合には、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行されないため、遊技者に対して、特図２保留を獲得するための右打ち遊技を無用に行わせることを抑制することができる。

【９５４７】

なお、本第３２制御例における構成に限ること無く、例えば、特図２最終変動が当たり変動である場合において、外れ変動である場合と同一の長さの変動時間（３０秒）、或いは、外れ変動である場合よりも長い変動時間（例えば、４０秒）の変動パターンを設定可能に構成しても良い。

【９５４８】

このように構成することで、特図２最終変動が外れ変動であることを覚悟した遊技者に対して当たり変動を提供することができるため、意外性のある遊技を提供することができる。また、この場合、当たり変動中であっても、ＦＩＮＡＬチャージ演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、特図２保留を獲得した状態で大当たり遊技を実行させ易くすることができるため、獲得済みの特図２保留に対する先読み結果（事前判別結果）を遊技者に示唆するための演出（保留連演出）を、大当たり遊技中に実行し易くすることができる。

【９５４９】

そして、時短状態における最終変動である第２特別図柄変動が停止表示し、通常状態が設定された後に、時短状態中に獲得していた特図２保留に基づく第２特別図柄変動が開始されると、図９４１（ｂ）に示した引き戻し演出が実行される。図９４１（ｂ）は、引き戻し演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９５５０】

図９４１（ｂ）に示した引き戻し演出は、通常状態中に実行される変動演出であるため、遊技者に対して遊技方法を案内するための案内態様が表示される表示領域Ｄｍ４が非表示となる。これにより、時短状態が終了した後に実行される引き戻し演出中に、時短状態中に実行していた右打ち遊技が継続して行われることを抑制することができる。

【９５５１】

なお、この引き戻し演出に対応する第２特別図柄抽選（通常状態にて実行される第２特別図柄抽選）は、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選と同一の確率（約１／２）で当たり当選するように構成しているため、引き戻し演出後に当たり遊技（小当たり遊技、大当たり遊技）が実行されることで遊技者に右打ち遊技を行わせる可能性が高いことから、通常状態が設定されたことに基づいて遊技方法を左打ち遊技へと切り替えさせるための案内報知も実行されないように構成している。

【９５５２】

このように構成することで、実行される遊技方法の案内報知に従って遊技方法を変更する遊技者が、右打ち遊技と左打ち遊技とを頻繁に切り替えることで遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９５５３】

なお、本第３２制御例では、引き戻し演出が実行されている間の第３図柄表示装置８１の表示画面に、遊技者に対して遊技方法を案内するための案内報知を表示しないように構成しているが、これに限ること無く、時短状態中に実行される案内報知である「右打ち」の表示態様とは異なる表示態様で「右打ち」を示す案内報知を表示するように構成しても良く、例えば、時短状態中に実行される案内報知よりも、遊技者が識別困難な表示態様で案内報知を実行するように構成し、引き戻し演出の終了後に再度右打ち遊技が実行される可能性が高いことを遊技者に報知可能に構成しても良い。

【９５５４】

さらに、引き戻し演出が実行されている間に表示される案内報知として、遊技球の発射を中断させる遊技方法を案内する表示態様（例えば、「遊技球の打ち出しを止めてね」の表示）を表示するように構成し、さらに、引き戻し演出の演出結果に応じた遊技方法を事

前に案内可能な表示態様（例えば、「引き戻し成功で右打ち遊技、引き戻し失敗で左打ち遊技」の表示）を表示するように構成すると良い。このように構成することで、引き戻し演出の演出結果に基づいて次に実行させる遊技方法を事前に遊技者に案内することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【９５５５】

加えて、引き戻し演出に対応する第２特別図柄抽選の結果に基づいて、引き戻し演出中に実行される案内報知の表示態様を異ならせるように構成しても良く、例えば、引き戻し演出に対応する第２特別図柄抽選の結果が当たり当選である場合には、外れである場合よりも、右打ち遊技を案内するための「右打ち」の表示態様を強調するように構成すると良い。このように構成することで、引き戻し演出中に実行される案内報知の表示態様に基づいて、右打ち遊技を継続した場合の方が、継続しない場合よりも有利となる遊技状況、即ち、引き戻し演出の終了後に当たり遊技が実行される遊技状況であることを分かり易く報知することができる。

【９５５６】

引き戻し演出が実行されると、主表示領域Ｄｍには、演出ボタン２２ａを模したボタンＰｕが表示され、遊技者に対して演出ボタン２２ａを押下させるための演出（図ではボタンＰｕの押下を促す下方向の矢印を表示）が実行される。そして、ボタンＰｕの下方には、遊技者による演出ボタン２２ａへの押下操作を有効に判別可能な操作有効期間の長さを示すためのタイムゲージｇａ１が表示される。なお、図９４１（ｂ）に示したタイムゲージｇａ１の表示態様、及び、表示態様の可変内容については、上述した図９３４（ｂ）に示したタイムゲージｇａ１と同一であるため、その詳細な説明を省略する。

【９５５７】

なお、図９４１（ｂ）に示した図では、通常の表示態様でボタンＰｕが表示されているが、引き戻し演出の対象となる第２特別図柄抽選の抽選結果に基づいてボタンＰｕの表示態様や、遊技者に対して演出ボタン２２ａを押下させるための演出（図では矢印表示）の表示態様といった引き戻し演出の演出態様を可変させるように構成しても良く、例えば、当たり当選している場合の方が、外れである場合よりも選択され易い演出態様として、ボタンＰｕの表示態様が特殊表示態様（例えば、厚みを持たせたボタンを模した表示態様や、ボタンＰｕの色を赤色にした表示態様）となる演出態様や、表示される矢印の表示態様が特殊表示態様（矢印の大きさを通常よりも大きくした表示態様や、矢印の色を赤色にした表示態様）となる演出態様を実行可能に構成すると良い。

【９５５８】

このように構成することで、引き戻し演出が実行されている期間のうち、遊技者が演出ボタン２２ａを押下する前の段階で、引き戻し演出の演出結果（対応する特別図柄抽選の抽選結果）を予測することが可能となり、演出効果を高めることができる。

【９５５９】

さらに、時短状態（ラッシュ）が継続している期間を示すための継続期間表示が表示される表示領域Ｄｍ８が非表示となる。本第３２制御例では、時短状態が終了し通常状態が設定された際に特図２保留が存在している場合、即ち、引き戻し演出が実行される場合は、継続期間表示に用いられるカウンタ（ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍ）の値をクリアすること無く、継続して更新するように構成し、引き戻し演出が実行される第２特別図柄抽選にて当たり当選し、時短状態へと復帰した場合には、継続期間表示も継続するように構成している。

【９５６０】

このように、継続期間表示に用いられるカウンタ（ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍ）の値が継続して更新されている期間であっても、引き戻し演出が実行されている間は、継続期間表示を実行しないように構成することで、時短状態（ラッシュ）が終了したことを遊技者に把握させ易くすることができるため、引き戻し演出の実行期間中も継続して継続期間表示が実行される場合に比べて、時短状態（ラッシュ）が終了した状態から再度時短状態（ラッシュ）へ突入させる遊技が実行されていることを把握させ易くすることがで

きる。よって、引き戻し演出の演出内容に注視させることができる。
【９５６１】
そして、引き戻し演出中に遊技者が演出ボタン２２ａを押下すると、対応する第２特別図柄抽選の結果に基づく演出結果が表示される。具体的には、対応する第２特別図柄抽選の結果が当たり当選である場合には、演出ボタン２２ａを押下した直後に当たり当選を示すための表示態様（例えば、「Ｖ」の表示）が表示され、その後、時短状態中における小当たり当選時の表示画面（図９３８（ｂ）参照）と同様の表示画面が表示される。
【９５６２】
次に、引き戻し演出に対応する第２特別図柄抽選の結果が外れである場合における演出内容について、図９４２を参照して説明する。図９４２（ａ）は、引き戻し演出として、対応する第２特別図柄抽選の結果が外れである場合に対応する失敗演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図であって、図９４２（ｂ）は、引き戻し演出として失敗演出が実行された後に表示される遊技結果表示画面の一例を示した図である。
【９５６３】
対応する第２特別図柄抽選の結果が外れである引き戻し演出にて、遊技者が演出ボタン２２ａを押下すると、図９４２（ａ）に示した通り、当たり当選を示すための表示態様（例えば、「Ｖ」の表示）が表示されず、佇むキャラ８０１が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、ラッシュ期間（時短状態）が終了することを示すための案内態様として「残念！ラッシュ終了！」の文字が表示される。
【９５６４】
図９４２（ａ）に示した表示画面が表示され、失敗演出となった引き戻し演出が終了すると、図９４２（ｂ）に示した遊技結果表示画面が表示される。この遊技結果表示画面には、今回の時短状態（ラッシュ）中に実行された遊技の結果として、時短状態（ラッシュ）中に獲得した賞球数に対応する値を示す獲得ポイント表示ｋ１と、時短状態（ラッシュ）が継続した期間を示す継続期間表示ｋ２と、大当たり遊技を介して時短状態（ラッシュ）が設定（再設定）された回数を示すラッシュ継続回数表示ｋ３と、１の時短状態期間（ラッシュ期間）中に実行された大当たり遊技の回数を示す大当たり回数表示ｋ４と、が表示される。
【９５６５】
図９４２（ｂ）に示した例では、獲得ポイント表示ｋ１として「合計６６０Ｐ」が表示され、継続期間表示ｋ２として「００：３６：４４」が表示され、ラッシュ継続回数表示ｋ３として「ラッシュ１回」が表示され、大当たり回数表示ｋ４として「ボーナス０回」が表示されている。つまり、今回実行された時短状態（ラッシュ）は、通常状態にて実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行された６ラウンドの時短大当たり遊技が１回実行され、その大当たり遊技終了後に設定された時短状態（ラッシュ）にて１度も大当たり遊技が実行されなかった遊技結果が表示されており、時短状態が設定されてからの経過時間が３６秒であることが表示されている。
【９５６６】
そして、継続期間表示ｋ２が示す時短状態（ラッシュ）が継続した期間を示す表示態様のうち、秒数の単位よりも小さな単位に該当する右から２桁の値ｋ２ａは、実際の経過期間に関わらず、引き戻し演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果に基づいて決定されるように構成しており、抽選の結果が当たり当選である場合には値ｋ２ａに「ぞろ目」の表示態様が表示され、抽選の結果が外れである場合には値ｋ２ａに「ばらけ目」の表示態様が表示されるように構成している。
【９５６７】
図９４２（ｂ）に示した図では、継続期間表示ｋ２として表示される値ｋ２ａとして「４４」が表示されている。つまり、図９４２（ｂ）に示した表示画面は、実行中の第２特別図柄抽選の結果が当たり当選であって、引き戻し演出にて失敗演出が設定された場合に表示されるものである。このように、引き戻し演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果が当たり当選である場合の一部において、引き戻し演出として失敗演出が実行され、遊技

結果表示画面が表示された後に、当たり当選していることを遊技者に報知する復活演出を実行可能に構成することで、引き戻し演出にて失敗演出が表示された後も、当たり当選に期待を持たせながら遊技者に遊技を行わせることができる。

【９５６８】

ここで、本第３２制御例では、引き戻し演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果が当たり当選であるにも関わらず、上述した復活演出が実行される条件として、引き戻し演出の対象となる第２特別図柄変動が開始されるタイミングにて実行される変動演出の演出態様を決定する抽選にて特定の抽選結果となった場合に成立する条件を設けているが、これに限ること無く、引き戻し演出にて遊技者が演出ボタン２２ａを押下したタイミングに基づいて成立する条件を設定可能に構成しても良い。この場合、例えば、引き戻し演出中に設定される操作有効期間の残期間が所定期間よりも長い状態で演出ボタン２２ａが押下された場合、つまり、実行中の第２特別図柄変動の残変動時間が多く残っている状態で演出ボタン２２ａが押下された場合に、復活演出が実行されるように構成すると良い。

【９５６９】

このように構成することで、引き戻し演出中に早期に演出ボタン２２ａを押下した場合に、成功演出が長時間継続してしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【９５７０】

また、遊技結果表示画面は、時短状態が終了したことを遊技者に示すための表示態様であるため、表示領域Ｄｍ４が形成され、通常状態中における適切な遊技方法である左打ち遊技を案内するための「左打ち」が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、時短状態（ラッシュ）が終了したことを案内するための案内態様として「お疲れさまでした」の文字が表示される。このように構成することで、図９４２（ｂ）に示した表示画面が表示された時点で、遊技者に有利な遊技期間が終了したと強く思わせることができるため、復活演出が実行された場合の意外性をより強くすることができる。

【９５７１】

次に、図９４３から図９４６を参照して、本第３２制御例のパチンコ機１０における大当たり遊技中に実行される大当たり遊技演出の演出内容について説明をする。本第３２制御例のパチンコ機１０では、時短状態中（ラッシュ中）における第２特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技（ラッシュ中大当たり遊技）の実行期間中に、大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）を報知するための大当たり遊技演出（昇格演出）と、大当たり遊技終了後に実行される第２特別図柄抽選が当たり当選（小当たり当選）することを報知するための大当たり遊技演出（保留連演出）と、を実行可能に構成しており、昇格演出、保留連演出の何れが実行される場合であっても、同一態様の演出画面が表示されるように構成している。このように構成することで、大当たり遊技演出が実行された場合において、今回実行された大当たり遊技の演出結果が、大当たり遊技の遊技内容（ラウンド数）を示す演出結果となるか、大当たり遊技終了後に再度大当たり遊技が実行される可能性が高い状態（保留連状態）であることを示す演出結果となるかを遊技者に予測させ難くすることができる。よって、実行される大当たり遊技演出の演出内容に興味を持たせ易くすることができる。

【９５７２】

また、本第３２制御例では、大当たり遊技演出として、保留連演出が実行された場合には、その実行された保留連演出の演出対象となる特図保留に基づいた大当たり遊技の大当たり遊技演出として、再度保留連演出が実行され易くなるように構成している。つまり、大当たり遊技演出として、保留連演出が実行される条件として、大当たり遊技の所定タイミング（例えば、最終ラウンド遊技の開始タイミング）までに獲得済みの特図保留が、特別図柄抽選で当り当選する特図保留である場合に成立する第１条件と、第１条件が成立している場合において、大当たり遊技演出として保留連演出を実行するか否かを決定するための処理において保留連演出の実行が決定された場合に成立する第２条件と、が共に成立した場合に保留連演出を実行するように構成しており、保留連演出が実行されている状態

（保留連演出によって報知された大当たり遊技中、又は、保留連演出によって報知された小当たり遊技中に実行権利を獲得した大当たり遊技中）の方が、保留連演出が実行されていない状態である場合よりも、第２条件が成立し易くなるように構成している。つまり、第１条件が成立している場合において、保留連演出の実行が決定される可能性が高くなるように構成している。

【９５７３】

このように構成することで、一度保留連演出が実行された遊技者は、連続して保留連演出が実行されることを目指して意欲的に遊技を行うことができる。さらに、本第３２制御例では、保留連演出が連続して実行された場合において、大当たり遊技の遊技内容を示す情報を累積するように構成し、その累積された情報を示す表示態様を表示可能に構成している。具体的には、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技数を表示するための表示態様を、累積表示するように構成している。このように構成することで、連続して保留連演出が実行された場合には、ラウンド遊技数の表示態様として、複数回の大当たり遊技にて実行されたラウンド遊技数を累積した表示態様が表示されることになる。このように構成することで、ラウンド遊技数の表示態様として、より多くのラウンド数に対応した表示態様が表示されることを目指して遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【９５７４】

加えて、本第３２制御例では、連続して保留連演出が実行された場合において累積される大当たり遊技の遊技内容に関する情報が、所定条件を満たした場合に、特典演出を実行可能に構成している。具体的には、ラウンド遊技数の表示態様として、１回の大当たり遊技にて実行可能となる最大ラウンド遊技数（例えば、９ラウンド）よりも大きなラウンド数に対応する表示態様が表示された場合に、遊技者に対して、保留連演出が連続して実行されたことを祝福するための祝福演出を実行可能に構成している。

【９５７５】

このように構成することで、遊技を行っている遊技者だけで無く、その周りの遊技者に対しても連続して保留連演出が実行されている状態であることを報知することができるため、優越感を持って遊技を行うことができる。

【９５７６】

なお、本第３２制御例では、連続して保留連演出が実行される場合に、ラウンド遊技数を累積するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技中に楽曲が再生されるように構成されたパチンコ機１０において、連続して保留連演出が実行された回数を累積し、その累積回数に応じて再生される楽曲が切り替わるように構成しても良いし、大当たり遊技中に再生させる楽曲を、複数の楽曲の中から遊技者が選択可能に構成されたパチンコ機１０であれば、連続して保留連演出が実行された累積回数に応じて、遊技者が選択可能な楽曲の種類を増加させるように構成しても良い。加えて、連続して保留連演出が実行された累積回数が特定回数（例えば、５回）に到達した場合には、遊技者が選択すること無く、特定の祝福楽曲が再生されるように構成しても良い。

【９５７７】

このように構成することで、保留連演出が連続して所定回数実行されない限り再生することが出来ない楽曲を提供することができるため、様々な楽曲を再生しようとする遊技者に対して、保留連演出を実行させようと意欲的に遊技を行わせることができる。また、上述した例では、大当たり遊技中に再生される楽曲を例に挙げているが、これに限ること無く、大当たり遊技中に表示される静止画像や動画に対して、上述した技術思想を転用しても良いし、保留連演出の演出態様自体に対して、上述した技術思想を転用しても良い。

【９５７８】

図９４３（ａ）は、大当たり遊技演出として、ＮＥＸＴ演出が実行された場合に表示される表示画面を示した図であり、図９４３（ｂ）は、ＮＥＸＴ演出の演出結果が、遊技者に追加特典が付与されることの無い演出結果である場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９４４（ａ）は、ＮＥＸＴ演出の演出結果が、大当たり遊技内容（ラウンド数）が増加することを示すための追加特典が付与される演出結果である場合に表示さ

れる表示画面の一例を示した図であり、図９４４（ｂ）は、ＮＥＸＴ演出の演出結果が、保留連演出が実行されることを示すための追加特典が付与される演出結果である場合に表示される表示画面の一例を示した図である。なお、各図において表示されている各表示要素（大当たり遊技中に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示要素）のうち、上述した各制御例にて説明をした表示要素と同一内容のものについては、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【９５７９】

ラッシュ期間中に実行された大当たり遊技（３ラウンド大当たり遊技、又は、９ラウンド大当たり遊技）の２ラウンド目のラウンド遊技が実行されると、図９４３（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの中央部にＮＥＸＴ演出が開始されてことを示すＮＥＸＴの文字が表示され、その文字の下側に形成され、ＮＥＸＴ演出の演出結果を表示するための表示領域Ｄｍ９に、演出結果が表示されるまでの演出態様（図では矢印）が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、ＮＥＸＴ演出が実行されたことを遊技者に案内するための案内態様として、「追加特典は何だろう？」の文字が表示される。

【９５８０】

本第３２制御例では、時短状態中に実行される大当たり遊技のうち、最小数のラウンド遊技が実行される３ラウンド大当たり遊技における最終ラウンド遊技（３ラウンド目のラウンド遊技）の１つ前のラウンド遊技（２ラウンド目のラウンド遊技）にてＮＥＸＴ演出が開始され、ＮＥＸＴ演出が実行されたラウンド遊技（２ラウンド目のラウンド遊技）の次に実行されるラウンド遊技（３ラウンド目のラウンド遊技）にてＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるように構成している。つまり、何れのラウンド数の大当たり遊技が実行された場合であっても、ＮＥＸＴ演出が実行されるラウンド数が特定ラウンド数（２ラウンド目）となるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して大当たり遊技中においてＮＥＸＴ演出が実行されるタイミング（ラウンド数）を分かり易くすることができる。

【９５８１】

そして、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるラウンド遊技（３ラウンド目のラウンド遊技）が開始されると、ＮＥＸＴ演出の演出結果を示すための表示態様が表示される。ここで、実行中の大当たり遊技が３ラウンド大当たり遊技であって、３ラウンド目のラウンド遊技が開始された時点にて獲得している特図２保留内に当たり当選を示す特図２保留が無い場合には、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、ラウンド昇格を示す演出結果が決定される表示条件も、保留連を示す演出結果が決定される表示条件も満たしていないため、図９４３（ｂ）に示した通り、表示領域Ｄｍ９にはＮＥＸＴ演出の演出結果として「ラッシュ継続」の文字が表示される。

【９５８２】

本第３２制御例では、ラッシュ期間中に実行された大当たり遊技が終了した後には、必ず時短状態が設定されるように構成している（ラッシュが継続するように構成している）ため、図９４３（ｂ）に示した通り、ラウンド昇格を示す演出結果が決定される表示条件も、保留連を示す演出結果が決定される表示条件も満たしていない場合、即ち、遊技者に対して追加特典（ラウンド昇格、保留連）が付与されない場合であっても、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、遊技者に有利となる基本情報（時短状態の設定）を示すための表示態様（「ラッシュ継続」）が表示されるように構成している。

【９５８３】

このように構成することで、ラッシュ期間中に実行された大当たり遊技の終了後に必ず時短状態が設定されることを把握していない遊技者に対して、ラッシュ期間が継続するという追加特典が付与されたと思わせることができる。また、図９４３（ｂ）に示した通り、ＮＥＸＴ演出の演出結果として「ラッシュ継続」が表示される場合には、副表示領域Ｄｓには、今回の演出結果に対応する遊技方法を遊技者に案内するための案内態様として、「ラッシュで当たりを引き戻せ」の文字が表示される。

【９５８４】

なお、図９４３（ｂ）に示した図では、表示領域Ｄｍ５に「最終ラウンド」が表示されているが、この表示は、表示領域Ｄｍ９にＮＥＸＴ演出の演出結果が表示された後に表示されるように構成している。詳細な図示は省略したが、ＮＥＸＴ演出の演出結果として「ラッシュ継続」が表示される場合には、３ラウンド目のラウンド遊技が開始された時点では、表示領域Ｄｍ５に、３ラウンド目のラウンド遊技が開始されたことを示すための表示態様として「ラウンド３」が表示される。そして、演出結果が表示されるまでの演出態様（図では矢印）が表示されている表示領域Ｄｍ９に、演出結果を示すための表示態様（「ラッシュ継続」）が表示された後に、表示領域Ｄｍ５に表示される表示態様が「ラウンド３」から「最終ラウンド」へと切り替え表示されるように構成している。

【９５８５】

このように構成することで、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるよりも前に、表示領域Ｄｍ５に表示される表示態様によって、今回の大当たり遊技が３ラウンド大当たり遊技であることを遊技者が把握してしまい、ＮＥＸＴ演出の演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。さらに、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示された後も「ラウンド３」を継続して表示する場合に比べて、実行中のラウンド遊技が最終ラウンドであることを遊技者に把握させ易くすることができるため、大当たり遊技が急に終了してしまい遊技者が困惑してしまうことを抑制することができる。

【９５８６】

なお、これに限ること無く、３ラウンド目の開始時から表示領域Ｄｍ５に「最終ラウンド」と表示するように構成しても良い。このように構成することで、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるよりも前に、実行中の大当たり遊技が３ラウンド大当たり遊技であることを遊技者に把握させることができるため、実行中のＮＥＸＴ演出の演出結果として表示され得る演出結果の選択肢を遊技者が限定しながら予測することができる。よって、ＮＥＸＴ演出以外の表示要素を用いて、ＮＥＸＴ演出の演出結果を予測する楽しみを提供することができる。

【９５８７】

この場合、例えば、ＮＥＸＴ演出の演出結果を表示するための演出態様として、ＮＥＸＴ演出の演出結果となり得る表示態様を複数表示し、そのうちの１の表示態様が最終的な演出効果として表示される演出態様を実行可能に構成すると良い。このように構成することで、ＮＥＸＴ演出の途中段階で表示される演出結果となり得る複数の表示態様が示す特典の内容と、今回の大当たり遊技の内容（３ラウンド大当たり遊技）を示す情報と、を複合的に分析することで、遊技者に対して、ＮＥＸＴ演出の演出結果として表示される表示態様をいち早く特定させることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【９５８８】

また、ＮＥＸＴ演出の演出結果として示される追加特典のうち、大当たり遊技の内容（ラウンド遊技数）以外の特典に関する何れかの情報をＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるまでに報知可能に構成しても良い。

【９５８９】

一方、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、大当たり遊技のラウンド数が３ラウンド以外（９ラウンド）であることを示すための演出結果が表示される場合（昇格演出が実行される場合）は、図９４４（ａ）に示した通り、表示領域Ｄｍ９に、大当たり遊技の内容が３ラウンド遊技では無いことを示すための演出結果として「ラッシュ昇格」が表示され、副表示領域Ｄｓには、「ラッシュ昇格」の演出結果が表示された場合の遊技内容を案内するための案内態様として「９ラウンド大当たりに昇格おめでとう」の文字が表示される。

【９５９０】

この場合は、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示される３ラウンド目のラウンド遊技が、実行中の大当たり遊技（９ラウンド大当たり遊技）の途中段階であるため、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示された後も、表示領域Ｄｍ５には「ラウンド３」が継続表示される。

【９５９１】

また、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、獲得済みの特図２保留内に当たり当選を示すための特図２保留が含まれていることを示すための演出結果（保留連演出が実行される場合）は、図９４４（ｂ）に示した通り、表示領域Ｄｍ９に、保留連することを示すための演出結果として「ボーナス」が表示され、副表示領域Ｄｓには、「ボーナス」の演出結果が表示された場合の遊技内容を案内するための案内態様として「連続ボーナスおめでとう」の文字が表示される。

【９５９２】

ここで、図９４４（ｂ）に示した例は、３ラウンド大当たり遊技中に実行されたＮＥＸＴ演出の演出結果として、保留連演出が実行された場合に表示される表示画面を示したものであるため、ＮＥＸＴ演出の演出結果が表示されるラウンド遊技は、実行中の大当たり遊技における最終ラウンド遊技となる。しかし、本第３２制御例では、保留連演出が実行された場合において、実行中の大当たり遊技の遊技内容を示す表示態様（表示領域Ｄｍ５に表示されるラウンド数）を、次の大当たり遊技まで引き継いで表示するように構成している。よって、表示領域Ｄｍ５には「ラウンド３」が表示され、実行中の大当たり遊技の最終ラウンドであることを示す「最終ラウンド」が表示されないように構成している。

【９５９３】

このように構成することで、保留連演出が実行された場合に、実行中の大当たり遊技と、次に実行される大当たり遊技（保留連演出の対象となる当たり遊技）と、が１つの大当たり遊技であると思わせ易くすることができる。

【９５９４】

次に、図９４５を参照して、保留連演出が実行された後の演出内容について説明をする。図９４５（ａ）は、大当たり遊技中に保留連演出が実行された場合であって、その保留連演出の対象である小当たり遊技中に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９４５（ｂ）は、保留連演出の対象となる大当たり遊技中に、再度保留連演出が実行された場合（保留連演出が連続して実行された場合）に表示される表示画面の一例を示した図であり、図９４６は、保留連演出が連続して実行されたことに基づいて実行される特殊演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。

【９５９５】

図９４４（ｂ）に示した保留連演出が実行される大当たり遊技が終了すると、既に獲得している特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が実行される。本第３２制御例では、特図２保留を最大で１個記憶可能に構成していることから、保留連演出が実行された場合には、大当たり遊技終了後１回目の第２特別図柄抽選が当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）することになる。その第２特別図柄抽選の抽選結果が停止表示されるまでの期間（特別図柄変動期間）が短時間（１秒）となるように構成しており、その特別図柄変動期間中は、図９４４（ｂ）に示した表示画面が継続して表示される。

【９５９６】

そして、大当たり遊技終了後１回目の第２特別図柄抽選が小当たり当選を示す表示態様で停止表示され、小当たり遊技が開始されると、図９４５（ａ）に示した表示画面が表示される。図９４５（ａ）に示した通り、保留連演出の対象となる小当たり遊技中は、保留連演出の対象では無い通常の小当たり遊技中に表示される表示画面（図９３９（ａ）参照）とは異なる表示画面が表示されるように構成している。

【９５９７】

具体的には、表示領域Ｄｍ５に、前回の大当たり遊技にて表示されたラウンド数に１加算したラウンド数を示すための表示態様「ラウンド４」が表示される。また、通常であれば、主表示領域Ｄｍの中央部に大きく表示されていた「右を狙え」の文字が付された矢印８１０が表示されず、代わりに、表示領域Ｄｍ１１に「Ｖを狙え」の文字が表示される。そして、主表示領域Ｄｍの中央部には、大当たり遊技が継続していることを示すためのキャラクタ８０１ａ、つまり、図９４４（ｂ）に示した通り、前回の大当たり遊技中に表示されていた表示態様であるキャラクタ８０１ａが継続して表示される。

【９５９８】

このように、前回の大当たり遊技中に表示された表示態様のうち、少なくとも一部の表示態様を継続して表示することによって、複数回の大当たり遊技が実行される場合であっても、１つの大当たり遊技が連続して実行されているように遊技者に思わせ易くすることができる。

【９５９９】

また、小当たり遊技中における遊技内容を示す表示態様（「右を狙え」、「Ｖを狙え」）を異ならせることにより、現在が小当たり遊技中では無く、大当たり遊技中の一部であると遊技者に思わせ易くすることができる。なお、本第３２制御例では、保留連演出の対象では無い通常の小当たり遊技中に表示される表示画面（図９３９（ａ）参照）と、保留連演出の対象となる小当たり遊技中に表示される表示画面（図９４５（ａ）参照）と、で、小当たり遊技中における遊技内容を示す表示態様（「右を狙え」、「Ｖを狙え」）を異ならせているが、これに限ること無く、例えば、保留連演出の対象となる小当たり遊技中は、それ以外の小当たり遊技中よりも、矢印８１０を小さく表示するように構成しても良い。

【９６００】

図９４５（ａ）に示した小当たり遊技中に遊技球を特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３へと入球させたことにより、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行された場合には、図９４５（ｂ）に示した通り、表示領域Ｄｍ５には、前回の大当たり遊技、及び、前回の小当たり遊技にて実行されたラウンド遊技数に今回の大当たり遊技のラウンド数が累積した表示態様が表示される。

【９６０１】

図９４５（ｂ）に示した表示画面は、保留連演出の対象となる小当たり遊技の終了後に３ラウンド大当たり遊技が実行され、その３ラウンド大当たり遊技の最終ラウンド（３ラウンド目）を示す表示画面である。よって、表示領域Ｄｍ５には「ラウンド７」が表示されている。そして、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、保留連演出が実行されている状態である。保留連演出が連続して実行された場合には、ＮＥＸＴ演出の演出結果として、表示領域Ｄｍ９に「ラウンド８」が表示されると共に、連続して実行された保留連演出の回数に対応したキャラクタ８０１ａ，８０１ｂが表示される。

【９６０２】

その後、図９４６に示した通り、保留連演出が連続して実行されたことによって、大当たり遊技中に表示される表示領域Ｄｍ５の表示態様が、１回の大当たり遊技における最大ラウンド数（９ラウンド）よりも大きなラウンド数を示す特殊表示態様（「ラウンド１０」）になると表示領域Ｄｍ５が通常とは異なる特殊領域として表示形成され（図では、二重線で表示）、表示領域Ｄｍ９にて、「ＭＡＸオーバー」の文字が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには「この大当たりどこまで続くか？」の文字が表示される。

【９６０３】

このように構成することで、大当たり遊技が連続して実行されていることを遊技者に分かり易く報知することができる。なお、本第３２制御例では、特殊表示態様を表示するための条件として、連続して保留連演出が実行されている期間中のラウンド遊技数の累積値が１回の大当たり遊技にて実行され得るラウンド遊技数の上限を超えた場合に成立する条件を設けているが、これに限ること無く、連続して保留連演出が実行されている期間中のラウンド遊技数の累積値が特定数（例えば、１０の倍数）となった場合や、保留連演出が連続して実行された回数が特定数（例えば、５回）を超えた場合や、ラッシュ期間中に獲得した賞球数を示す表示領域Ｄｍ６に表示されているポイント表示が特定数（例えば、１００００Ｐ）となった場合に成立する条件を設けても良い。

【９６０４】

また、特殊表示態様として複数の表示態様を段階的に表示可能に構成し、且つ、各表示態様を表示するための条件を、連続して保留連演出が実行されている期間中のラウンド遊技数の累積値や、保留連演出が連続して実行された回数が特定数や、ラッシュ期間中に獲得した賞球数を示す表示領域Ｄｍ６に表示されているポイント表示が特定数に対して段階

的に設けるように構成し、段階的に設けられた表示条件が成立する毎に異なる表示態様を段階的に表示するように構成しても良い。

【９６０５】

このように構成することで、より多彩な特殊表示態様を表示させようと、より意欲的に遊技者に対して遊技を行わせることができる。

【９６０６】

次に、図９４７を参照して、本第３２制御例のパチンコ機１０における遊技環境を設定する際に表示される表示画面について説明をする。本第３２制御例では、パチンコ機１０の遊技環境を変更するための操作として、音声出力装置２２６から出力される音声の音量レベルを４段階から選択可能な音量レベル選択操作と、パチンコ機１０に配設されている装飾発光用ＬＥＤや第３図柄表示装置８１に設けられた液晶ディスプレイのバックライトの光量レベルを４段階から選択可能な光量レベル操作と、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される演出態様の種別（ステージ種別）が切り替わる頻度を変更するモード種別選択操作と、を実行可能に構成している。

【９６０７】

パチンコ機１０が遊技されていない状態（待機状態）では、図９４７（ａ）に示した表示画面が表示される。図９４７（ａ）は、待機状態中に表示される表示画面の一例を示した図である。図９４７（ａ）に示した通り、待機状態中は、表示領域Ｄｍ５に現在設定されているステージ種別（図では「ウサギステージ」）が表示され、表示領域Ｄｍ６に現在設定されているモード種別（図では「ノーマルモード」）が表示され、表示領域Ｄｍ１には、現在が遊技中では無いことを示す表示態様として、最後に実行された特別図柄抽選の結果を示す表示態様（図では「３１６」）が表示されている。

【９６０８】

そして、主表示領域Ｄｍの下側には、音量調整に関する表示領域ＨＲ１、光量調整に関する表示領域ＨＲ２、モード種別選択に関する表示領域ＨＲ３が形成される。表示領域ＨＲ１には、音量レベルとして選択可能な範囲（ＬＶ１～ＬＶ４（ＭＡＸ））を示す表示態様と、現在設定されている音量レベルを示す表示態様（図では、黒色で表示）とが表示され、その下方に、音量レベルを変更するための操作方法を示すための表示態様として、選択ボタン６００のうち、右ボタン６００ｃ、又は左ボタン６００ｅを操作することで音量レベルを変更可能であることを示すために、右ボタン６００ｃに対応する右ボタンアイコンＳｗ２と、左ボタン６００ｅに対応する左ボタンアイコンＳｗ４が表示されている。

【９６０９】

また、表示領域ＨＲ２には、光量レベルとして選択可能な範囲（ＬＶ１～ＬＶ４（ＭＡＸ））を示す表示態様と、現在設定されている光量レベルを示す表示態様（図では、黒色で表示）とが表示され、その下方に、光量レベルを変更するための操作方法を示すための表示態様として、選択ボタン６００のうち、上ボタン６００ｂ、又は下ボタン６００ｄを操作することで光量レベルを変更可能であることを示すために、上ボタン６００ｂに対応する上ボタンアイコンＳｗ５と、下ボタン６００ｄに対応する下ボタンアイコンＳｗ３が表示されている。

【９６１０】

表示領域ＨＲ３には、モード種別を選択するための選択画面（メニュー）を表示するための操作方法を示すための表示態様として、選択ボタン６００のうち、決定ボタン（中ボタン）６００ａに対応する中ボタンアイコンＳｗ１が表示されている。

【９６１１】

図９４７（ａ）に示した表示画面が表示されている状態で、遊技者が右ボタン６００ｃを押下することで、音量レベルが１段階上がり、左ボタン６００ｅを押下することで、音量レベルが１段階下がる。また、上ボタン６００ｂを押下することで光量レベルが１段階上がり、下ボタン６００ｄを押下することで光量レベルが１段階下がる。そして、遊技者による選択ボタン６００に対する操作に基づいて選択された音量レベル、及び光量レベルが、後述する遊技環境格納エリア２２３ｕに格納される。

【９６１２】
　また、図９４７（ａ）に示した表示画面が表示されている状態で、遊技者が決定ボタン（中ボタン）６００ａを押下すると、図９４７（ｂ）に示した表示画面が表示される。図９４７（ｂ）は、演出モードを選択可能な演出モード選択画面を模式的に示した図である。図９４７（ｂ）に示した通り、演出モード選択画面が表示されている状態では、上ボタン６００ｂ、又は下ボタン６００ｄを押下することで、選択されるモード種別を示す矢印アイコンｙａ１が上下方向に移動し、演出ボタン２２ａを押下することで、矢印アイコンｙａ１が示しているモード種別を決定することが可能な操作方法を示す表示態様が表示領域Ｄｍ８に表示されている。
【９６１３】
　また、主表示領域Ｄｍには、現在が演出モード選択画面を表示していることを示すための表示態様として、表示領域Ｄｍ７に「演出モード選択画面」と表示され、選択可能なモード種別と、各モード種別の内容が表示されている。
【９６１４】
　具体的には、本第３２制御例では、モード種別として「ノーマルモード」、「アクティブモード」、「固定モード」を選択可能に構成しており、各モード種別を示す表示態様としてノーマルモードＭ１、アクティブモードＭ２、固定モードＭ３が上下方向に並んで表示されている。そして、固定モードＭ３の下方には、モード種別を変更すること無く、演出モード選択画面を終了させる際に選択する表示態様として戻るアイコンＭ４が表示されている。なお、各モード種別の内容については後述する。
【９６１５】
　以上、説明をした通り、本第３２制御例では、遊技者が遊技をしていない状態において、遊技環境を選択可能に構成しているため、遊技者自身が自分に適した遊技環境を設定した状態で遊技を開始することができる。
【９６１６】
　なお、本第３２制御例では、ステージ種別（ウサギステージ、勇者ステージ）を遊技者が選択できないように構成しているが、これに限ること無く、待機状態中において、遊技者が任意のステージ種別を選択可能に構成しても良い。
【９６１７】
　次に、図９４８（ｂ）を参照して、特別図柄変動中に実行可能な遊技環境変更操作について説明をする。図９４８（ｂ）は、特別図柄変動中に固定モードを設定した際の表示画面を示した図である。本第３２制御例では、特別図柄変動が実行されている際中であっても、決定ボタン（中ボタン）６００ａを押下することで、現在設定されているステージ種別を固定可能に構成している。
【９６１８】
　つまり、本パチンコ機１０を初めて遊技する遊技者は、待機状態中において自身の好みにあったステージ種別が他のステージ種別へと切り替わることを抑制するために固定モードを選択することが困難であった。一方、遊技を実行し、各ステージ種別にて実行される演出の概要を把握した状態では、各ステージ種別のうち、自身の好みにあったステージ種別を決定することが可能となる。
【９６１９】
　この場合、遊技を一旦中断し待機状態とした後に固定モードを設定する操作を実行させてしまうと、遊技の稼働が低下してしまうという問題があった。そこで、本第３２制御例では、特別図柄変動中であっても、遊技者が所定の操作（決定ボタン６００ａの押下）を実行することで、モード種別を固定モードへと切り替えることができるように構成している。
【９６２０】
　このように構成することで、遊技中の遊技者が好みのステージ種別を見つけた直後に固定モードを設定することができる。また、決定ボタン６００ａを押下するという単純な操作、即ち、待機状態中において固定モードを設定するための操作よりも単純な操作で固定

モードを設定することができるため、遊技中の遊技者に対して、固定モードを設定する煩わしさを与えることが無い。

【９６２１】

特別図柄変動中に固定モードを設定した場合には、図９４８（ｂ）に示した通り、表示領域Ｄｍ５にステージ種別が変更しないことを示すための表示態様として、カギを模したアイコンが表示される。これにより、固定モードが設定されたことを分かり易く報知することができる。なお、詳細な説明は省略するが、固定モードが設定された状態で再度遊技者が決定ボタン６００ａを押下することで、固定モードが解除される。

【９６２２】

なお、詳細な説明は省略するが、本第３２制御例では、待機状態が継続する期間が所定期間（例えば、１分）経過する毎に、ステージ種別が切り替わるように構成している。つまり、特別図柄変動が実行されている場合よりも、待機状態が設定されている場合の方が、ステージ種別が切り替わり易くなるように構成している。このように構成することで、待機状態中に固定モードを設定する際のステージ種別を選択し易くすることができる。

【９６２３】

次に、図９４８（ａ）を参照して、本第３２制御例にて実行される変動演出の演出内容について説明をする。図９４８（ａ）は、特別図柄変動中におけるステージ移行演出が実行された場合の演出画面を示した図である。図９４８（ａ）に示した通り、本第３２制御例では、ステージ種別の移行条件（特別図柄変動回数や特別図柄抽選結果に基づいて成立する条件）が成立した場合に、第３図柄表示装置８１の表示面を覆うシャッターｓｔ１，ｓｔ２が表示される移行示唆演出を実行し、その後、シャッターｓｔ１，ｓｔ２が非表示となり、移行後のステージ種別に応じた表示態様が表示されるように構成している。さらに、この移行示唆演出を用いて、ステージ種別が移行すること以外の変動演出を実行可能に構成しており、例えば、移行示唆演出が実行されたにも関わらず、ステージ種別が移行しなかった場合に、実行中の特別図柄抽選が当り当選している可能性が上昇するステージチェンジ演出を実行可能に構成している。

【９６２４】

このステージチェンジ演出が実行されると、図９４８（ａ）に示した通り、シャッターｓｔ１，ｓｔ２が表示され、その後、シャッターｓｔ１，ｓｔ２の表面にステージチェンジ演出の実行中であることを示すための表示態様として、案内表示領域ｓｔ１ａ，ｓｔ１ｂが形成され「ステージチェンジ！？」の文字が表示される。そして、副表示領域Ｄｓには、ステージチェンジ演出の演出内容を遊技者に案内するための案内態様として「ステージが変わらないと大チャンス」の文字が表示される。

【９６２５】

このように構成することで、ステージ種別が移行することを示唆するための移行示唆演出を、大当たり当選期待度を遊技者に示す演出（ステージチェンジ演出）の一部として用いることができるため、ステージ種別を移行させるためのシャッターｓｔ１，ｓｔ２が表示された場合に、ステージ種別が移行しないことを期待するという斬新な遊技性を提供することができる。

【９６２６】

なお、詳細な図示は省略するが、この移行示唆演出を含むステージチェンジ演出を、固定モード中に実行しても良く、例えば、固定モード中に移行示唆演出が実行された場合には、副表示領域Ｄｓに「ステージが変わるとチャンス」の案内態様を表示すると良い。ここで、本第３２制御例では、固定モードが設定されている場合であっても、大当たり当選している特別図柄変動中にステージ種別を移行可能に構成している。よって、固定モード中にステージチェンジ演出が実行され、演出結果としてステージ種別が移行した場合には、大当たり当選を報知することができる。

【９６２７】

また、上述したステージチェンジ演出を、特別図柄変動の期間中だけで無く、大当たり遊技期間中に実行可能に構成しても良い。この場合、例えば、固定モードが設定されてい

る状態で大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技のエンディング期間中に、ステージチェンジ演出を実行する。そして、大当たり遊技終了後に設定されるステージ種別が、大当たり遊技前に設定されていたステージ種別と異ならせることで、保留連することを遊技者に報知するように構成すると良い。

【９６２８】

このように構成することで、大当たり遊技の前後に設定されるステージ種別、即ち、大当たり遊技演出の実行期間を挟んで表示されるステージ種別が同一であるか異なっているかを遊技者が把握し難くなるため、ステージチェンジ演出の演出結果（シャッターｓｔ１，ｓｔ２非表示後のステージ種別）が表示された後に保留連が実行されるか否かを予測する楽しみを提供することができる。

【９６２９】

＜第３２制御例における遊技状態の遷移について＞

次に、図９４９を参照して、本第３２制御例における遊技内容（各遊技状態の遷移内容）を説明する。図９４９は、遊技状態の遷移内容を示したゲームフローである。図９４９に示した通り、本第３２制御例では、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成しており、通常状態では左打ち遊技が、時短状態中は右打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となるように構成している。

【９６３０】

パチンコ機１０の初期状態としては、特図１保留、及び、特図２保留を獲得していない状態で通常状態が設定される。この通常状態では、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させるための遊技が行われる。この通常状態では、特別図柄の低確率状態が設定されているため、２０８／６５５３６（約１／３００）の確率で大当たり当選し、１／６５５３６の確率で小当たり当選する第１特別図柄抽選が実行される。

【９６３１】

ここで、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別として「大当たりＡ」、或いは、「大当たりＢ」が設定され、大当たり種別「大当たりＡ」が設定された大当たり遊技の終了後には時短状態が、「大当たりＢ」が設定された大当たり遊技の終了後には通常状態が設定される。大当たり当選した場合に設定される大当たり種別の割合は、予め規定されており、通常状態において第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、６０％の確率で「大当たりＡ」が、４０％の確率で「大当たりＢ」が設定される。

【９６３２】

また、第１特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり種別として「小当たりＡ」が設定される小当たり遊技が実行される。この「小当たりＡ」は、小当たり遊技中に開放動作される第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入賞させるための正常な遊技（右打ち遊技）を実行することで、遊技球を特定領域へと入球させる（Ｖ入賞させる）ことが可能な小当たり遊技であり、Ｖ入賞した場合には、小当たり遊技終了後に、「大当たりＣ」が設定された大当たり遊技が実行される。

【９６３３】

「大当たりＡ」，「大当たりＣ」の大当たり遊技が終了すると、時短状態が設定される。一方で、「大当たりＢ」の大当たり遊技が終了した場合、或いは、小当たり遊技中にＶ入賞させること無く小当たり遊技が終了した場合（非Ｖ入賞の場合）は、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される。

【９６３４】

次に、本第３２制御例のパチンコ機１０における時短状態の内容について説明をする。図９４９に示した通り、本第３２制御例では、時短状態中は特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態が設定され、通常状態に対して、普通図柄抽選の結果に基づいて第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなる遊技状態となる。この時短状態は、所定の終了条件が成立した場合に終了するように構成しており、具体的には、時短終了条件として、第２特別図柄変動（特図２変動）が３回実行された（３回目の特図２変動が停止表示され

た）場合、小当たり当選したことを示す特別図柄が停止表示された場合、第１特別図柄変動（特図１変動）と、特図２変動の合算回数が１０回に到達した（１０回目の特図変動が停止表示された）場合の何れかの条件を満たした場合に成立する時短終了条件が設けられている。

【９６３５】

時短状態中は、右打ち遊技によってスルーゲート６７に球を通過させ、普通図柄抽選を実行し、普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと球を入球させる遊技が実行される。そして、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合には、１／２の確率で小当たり当選し、２０８／６５５３６（約１／３００）の確率で大当たり当選する第２特別図柄抽選が実行される。

【９６３６】

つまり、時短状態が設定された場合には、第２特別図柄抽選が３回実行されるまでに小当たり当選、或いは、大当たり当選することを目指す遊技が行われる。本第３２制御例では、時短状態中に第２特別図柄抽選が実行された場合には、第１特別図柄抽選よりも高確率で、大当たり当選、或いは、小当たり当選するように構成しており、小当たり遊技が実行された場合には小当たり遊技中に正常に遊技（右打ち遊技）を実行することで、確実に大当たり遊技の実行権利（特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３への遊技球の入球）を獲得可能に構成している。

【９６３７】

時短状態中において、特図２抽選で小当たり当選した場合に設定される小当たり種別として「小当たりＢ」と「小当たりＣ」とを設定可能に構成している。そして、何れの小当たり種別が設定された場合であっても、Ｖ入賞可能な小当たり遊技が実行され、Ｖ入賞したことに基づいて実行される大当たり遊技の内容が異なる大当たり遊技が実行される。なお、何れの小当たり種別が設定された場合であっても、大当たり遊技の終了後には時短状態が設定される。

【９６３８】

つまり、本第３２制御例では、時短状態中に実行可能な３回の第２特別図柄抽選の何れかで、１／２の確率で当選する小当たりに当選する限り、連続して時短状態中の遊技を実行することができる。

【９６３９】

一方、時短終了条件が成立した第２特別図柄変動が停止表示された場合において、特図２保留を獲得している場合は、遊技状態として通常状態が設定されている状態で第２特別図柄抽選が実行される通常状態（引き戻し遊技）へと移行する。この引き戻し遊技中は、図９４１（ｂ）に示した引き戻し演出が実行される。

【９６４０】

通常状態（引き戻し遊技）において第２特別図柄抽選が実行された場合には、時短状態中と同一の確率（１／２）で小当たり当選する第２特別図柄抽選が実行される。そして、時短状態中における第２特別図柄抽選と同一の選択割合で小当たり種別が選択される。

【９６４１】

なお、本第３２制御例では、通常状態における小当たり種別の選択割合と、時短状態における小当たり種別の選択割合と、を同一に設定しているが、これに限ること無く、一方の遊技状態の方が、他方の遊技状態よりも遊技者に有利な小当たり種別が選択され易くなるように構成しても良く、例えば、通常状態が設定されている場合の方が遊技者に有利な小当たり種別（小当たりＣ）を選択させ易くするように構成すると良い。このように構成することで、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選よりも、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選のほうが遊技者に有利な遊技状態とすることが可能となる。よって、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させることの有利度合いを高めることができる。

【９６４２】

＜第３２制御例における電気的構成について＞

次に、図９５０を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図９５０は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【９６４３】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【９６４４】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【９６４５】

主制御装置１１０では、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。そして、ＲＡＭ２０３には、これらの処理を制御するための各種カウンタが設けられている。ここで、図９５１を参照して、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等について説明する。図９５１は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３内に設けられるカウンタ等を模式的に示した模式図である。これらのカウンタ等は、特別図柄の抽選、普通図柄の抽選、第１図柄表示装置３７における表示の設定、第２図柄表示装置における表示の設定、および、第３図柄表示装置８１における表示の設定などを行うために、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１で使用される。

【９６４６】

特別図柄の抽選や、第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１の表示の設定には、特別図柄の抽選に使用する第１当たり乱数カウンタＣ１と、特別図柄の大当たり種別を選択するために使用する第１当たり種別カウンタＣ２と、特別図柄の小当たり種別を選択するために使用する小当たり種別カウンタＣ５と、特別図柄における外れの停止種別を選択するために使用する停止種別選択カウンタＣ３と、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と、変動パターン選択に使用する変動種別カウンタＣＳ１と、が用いられる。

【９６４７】

また、普通図柄の抽選には、第２当たり乱数カウンタＣ４が用いられ、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値設定には第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２と、が用いられる。これら各カウンタは、更新の都度、前回値に１が加算され、最大値に達した後０に戻るループカウンタとなっている。

【９６４８】

各カウンタは、例えば、タイマ割込処理（図９６３参照）の実行間隔である２ミリ秒間隔で更新され、また、一部のカウンタは、メイン処理（図９７８参照）の中で不定期に更新されて、その更新値がＲＡＭ２０３の所定領域に設定されたカウンタ用バッファに適宜格納される。ＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１～第４エリア）からなる第１入球口６４への入球に対応する第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａと、１つの保留エリア（保留第１エリア）からなる第２入球口６４０への入球に対応する第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂと、が設けられており、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａには、第１入球口６４への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、小当たり種別カウンタＣ５、及

び変動種別カウンタＣＳ１の各値がそれぞれ格納され、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂには、第２入球口６４０への入球タイミングに合わせて、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、小当たり種別カウンタＣ５、及び、変動種別カウンタＣＳ１の各値が格納される。

【９６４９】

そして、特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの保留第１エリアに格納されている各種値、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されている各種値のうち、次に抽選が実行される特別図柄種別に対応する特別図柄の情報を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動（特別図柄抽選）が開始される。

【９６５０】

なお、本第３２制御例では、特別図柄の種別が２種類（第１特別図柄、第２特別図柄）の構成を用いているが、これに限ること無く、特別図柄の種別を１種類としても良い。そして、第１特別図柄の始動条件（変動条件）、或いは、第２特別図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、対応する特別図柄種別の特別図柄保留球格納エリアの保留第１エリアに格納されている各種値を特別図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた特別図柄変動が開始されるように構成しても良い。このように構成することで、複数の特別図柄種別を用いたパチンコ機１０であっても、各々の特別図柄変動を円滑に実行することができる。

【９６５１】

さらに、本第３２制御例では、特別図柄抽選の実行条件（特別図柄変動の始動条件）が成立した場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されている情報よりも、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されている情報を優先して読み出すように構成している。つまり、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選を優先して実行可能に構成している。また、第２特別図柄抽選の方が、第１特別図柄抽選よりも遊技者に有利な抽選が実行されるように構成している。このように構成することで、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの何れにも情報が格納されている状態で特別図柄抽選の実行条件が成立した場合であっても、遊技者に有利な特別図柄抽選を優先して実行させることができる。

【９６５２】

なお、本第３２制御例のように、複数の特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）を有するパチンコ機１０であれば、何れか一方の特別図柄種別の抽選を、他の特別図柄種別の抽選よりも優先して実行するのでは無く、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、或いは、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに情報が格納された順序を記憶可能な格納順序記憶手段を設け、その格納順序記憶手段に記憶されている順序（入賞順）に基づいて特別図柄抽選を実行可能に構成しても良い。さらに、第１特別図柄の抽選と、第２特別図柄の抽選とを同時に（並行して）実行可能に構成しても良く、この場合、各特別図柄保留球格納エリア（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）がそれぞれ特別図柄実行エリアを有するように構成すれば良い。これにより、各特別図柄の始動条件が成立した場合に、速やかに次の特別図柄変動を実行させることができる。

【９６５３】

また、本第３２制御例では、特別図柄の抽選結果が大当たりと小当たりと外れとなるように構成している。具体的には、特別図柄の抽選結果が外れである場合の一部において、大当たり当選時よりも少ない特典（大当たり当選時とは異なる特典）を遊技者に付与可能な小当たりに当選し得るように構成しても良い。このように構成することで、大当たり当選しなかった場合であっても、遊技者に特典を付与する機会を設けることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【９６５４】

本第３２制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、小当たり当選した場合

も、抽選結果を示すための特別図柄が停止表示された場合に通常状態が設定され、設定された当たり種別（大当たり種別、小当たり種別）に対応した当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）が通常状態にて実行されるように構成している。そして、大当たり遊技が終了した後には、設定された大当たり種別に応じた遊技状態が設定されるのに対して、小当たり遊技が終了した後は通常状態が継続する（小当たり種別に応じて遊技状態を設定する機能を有していない）ように構成している。つまり、特別図柄抽選の抽選結果に基づいて遊技者に付与される大当たり（第１特典）と、小当たり（第２特典）とでは、実行される当たり遊技の内容だけで無く、遊技状態の移行内容も異なるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選の結果に基づいて遊技者に付与される特典の種類にバリエーションを持たせ易くすることができる。

【９６５５】

なお、大当たり当選した場合と、小当たり当選した場合とで遊技状態の移行内容を異ならせる手法として、本第３２制御例に用いた手法以外を用いても良く、例えば、大当たり当選した場合は、大当たり遊技の開始時に遊技状態を通常状態へと移行させ、さらに、設定された大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に新たな遊技状態を設定可能に構成するのに対して、小当たり当選した場合は、小当たり当選時の遊技状態を維持したまま小当たり遊技を実行し、その小当たり遊技終了後も遊技状態を移行させないように構成しても良い。

【９６５６】

このように構成することで、当選した当たり種別（大当たり、小当たり）に応じて、遊技状態の移行の有無や、移行内容を異ならせることができるため、バリエーションに富んだ遊技を提供することができる。

【９６５７】

さらに、本第３２制御例のＲＡＭ２０３には、４つの保留エリア（保留第１エリア）からなるスルーゲート６７への入球（球の通過）に対応する普通図柄保留球格納エリア２０３ｃが設けられており、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃには、スルーゲート６７への入球タイミングに合わせて、第２当たり乱数カウンタＣ４、及び普図変動種別カウンタ（図示せず）の各値がそれぞれ格納される。

【９６５８】

そして、普通図柄の始動条件（変動条件）が成立した場合に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃの保留第１エリアに格納されている各種値を普通図柄実行エリアへシフトし、格納されている各種値に基づいた普通図柄変動が開始される。

【９６５９】

次に、図９５１を参照して、各カウンタについて詳しく説明する。第１当たり乱数カウンタＣ１は、所定の範囲（例えば、０～６５５３５）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～６５５３５の値を取り得るカウンタの場合は６５５３５）に達した後０に戻る構成となっている。特に、第１当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の値が当該第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。

【９６６０】

また、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、第１当たり乱数カウンタＣ１と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成される。即ち、例えば、第１当たり乱数カウンタＣ１が０～６５５３５の値を取り得るループカウンタである場合には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１もまた、０～６５５３５の範囲のループカウンタである。この第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１は、タイマ割込処理（図９６３参照）の実行毎に１回更新されると共に、メイン処理（図９７８参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【９６６１】

第１当たり乱数カウンタＣ１の値は、例えば定期的に（本実施形態ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、遊技球が第１入球口６４に入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０に入球したタイミングでＲＡ

Ｍ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。そして、特別図柄の大当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定された大当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の大当たりと判定する。また、特別図柄の小当たりとなる乱数の値は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２に格納される第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定されており、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａによって設定された小当たりとなる乱数の値と一致する場合に、特別図柄の小当たりと判定する。

【９６６２】

ここで、図９５３を参照して、第１当たり乱数テーブル２０２ａについて説明する。図９５３（ａ）は、第１当たり乱数テーブル２０２ａに規定されている内容を模式的に示した模式図である。この第１当たり乱数テーブル２０２ａは、特別図柄の抽選において、大当たり、或いは、小当たりと判定される乱数値（判定値）が規定されたテーブルであって、特別図柄抽選に用いられる特別図柄種別に応じて異なる乱数値（判定値）が規定されているデータテーブルを有している。

【９６６３】

具体的には、図９５３（ａ）に示した通り、第１当たり乱数テーブル２０２ａは、特別図柄１乱数テーブル２０２ａ１と、特別図柄２乱数テーブル２０２ａ２と、を有している。この特別図柄１乱数テーブル２０２ａ１は、第１特別図柄抽選が実行された場合に抽選結果を判定するために参照されるデータテーブルであって、特別図柄２乱数テーブル２０２ａ２は、第２特別図柄抽選が実行された場合に抽選結果を判定するために参照されるデータテーブルである。

【９６６４】

次に、図９５３（ｂ）を参照して、特別図柄１乱数テーブル２０２ａ１の内容について説明をする。図９５３（ｂ）は、特別図柄１乱数テーブル２０２ａ１に規定されている内容を模式的に示した図である。特別図柄１乱数テーブル２０２ａ１には、大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）と、小当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）とが規定されている。

【９６６５】

具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～２０７」の範囲に対して大当たり当選と判定する大当たり判定値を規定し、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「６５５３５」に対して小当たり当選する小当たり判定値を規定している。つまり、第１当たり乱数カウンタＣ１の更新範囲は「０～６５５３５」であり、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値は全部で６５５３６個であって、そのうち大当たり判定値が２０８個で、小当たり判定値が１個に規定しているため、第１特別図柄抽選が実行された場合に大当たりと判定される確率は、２０８／６５５３６（約１／３００）となり、小当たりと判定される確率は、１／６５５３６となる。

【９６６６】

よって、第１特別図柄抽選が実行された場合には、小当たり当選する確率よりも大当たり当選する確率の方が高確率となるため、第１特別図柄抽選が主として実行される通常状態が設定されている場合には、第１特別図柄抽選を実行し、大当たり当選を目指す遊技が行われる。

【９６６７】

次に、図９５３（ｃ）を参照して、特別図柄２乱数テーブル２０２ａ２の内容について説明をする。図９５３（ｃ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２ａ２に規定されている内容を模式的に示した図である。特別図柄２乱数テーブル２０２ａ２には、大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）と、小当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）とが規定されている。

【９６６８】

具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「０～２０７」の範囲に対して大当たり当選と判定する大当たり判定値を規定し、第１当たり乱数カウンタＣ１の値が「３２７６８～６５５３５」の範囲に対して小当たり当選と判定する小当たり判定値を規定している。つまり、第１当たり乱数カウンタＣ１の更新範囲は「０～６５５３５」であり、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値は全部で６５５３６個であって、そのうち大当たり判定値が２０８個で、小当たり判定値が３２７６８個に規定しているため、第２特別図柄抽選が実行された場合に大当たりと判定される確率は、２０８／６５５３６（約１／３００）となり、小当たりと判定される確率は、３２７６８／６５５３６（約１／２）となる。

【９６６９】

よって、第２特別図柄抽選が実行された場合には、大当たり当選する確率よりも小当たり当選する確率の方が高確率となるため、第２特別図柄抽選が主として実行される時短状態が設定される場合には、第２特別図柄抽選を実行し、小当たり当選を目指す遊技が行われる。

【９６７０】

以上、説明をした通り、本第３２制御例では、特別図柄種別に応じて、特別図柄抽選に基づいて付与され易い特典の種別（大当たり、小当たり）を異ならせるように構成している。このように構成することで、第１特別図柄抽選が実行された場合と、第２特別図柄抽選が実行された場合とで、異なる特典が付与され易くなるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９６７１】

また、本第３２制御例では、設定されている遊技状態に応じて、特別図柄抽選が実行され易い特別図柄種別を異ならせるように構成しており、具体的には、通常状態が設定されている場合には、第２特別図柄抽選よりも第１特別図柄抽選が実行され易く、時短状態が設定されている場合には、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成している。さらに、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に大当たり遊技の実行条件が成立することで（特定領域（Ｖ領域）へと遊技球が入賞することで）、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を実行可能に構成している。

【９６７２】

このように構成することで、設定されている遊技状態に応じて、大当たり遊技を実行させるための過程を異ならせ易くすることができる。具体的には、通常状態が設定されている場合には、第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技の実行条件（第１実行条件）を成立させて大当たり遊技を実行することを目的とした遊技を遊技者に主として行わせ、時短状態が設定されている場合には、第２特別図柄抽選で小当たり当選したことに基づいて小当たり遊技を実行し、その小当たり遊技中に特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を入球させることによって大当たり遊技の実行条件（第２実行条件）を成立させて大当たり遊技を実行することを目的とした遊技を遊技者に主として行わせるように構成している。このように構成することで、設定されている遊技状態に応じて成立し易い大当たり遊技の実行条件を異ならせることができるため、様々な実行条件の成立に基づいて大当たり遊技を実行させることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【９６７３】

さらに、本第３２制御例では、第１特別図柄抽選が実行される場合よりも第２特別図柄抽選が実行された場合の方が、大当たり遊技を実行させるための実行条件が成立し易く（第２実行条件が成立し易く）なるように構成しており、且つ、通常状態よりも時短状態の方が第２特別図柄抽選を実行させ易く構成している。また、時短状態は、大当たり遊技の終了後に設定されるように構成している。

【９６７４】

このように構成することで、通常状態中の遊技を行っている遊技者に対して、まず、第１特別図柄抽選で大当たり遊技終了後に時短状態が設定される大当たりの当選を目指し、

その後、時短状態にて第２特別図柄抽選で小当たり当選を目指す遊技、即ち、遊技者に対して最も有利となる遊技を実行するために、段階を踏んだ遊技を行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きることの無いパチンコ機１０を提供することができる。

【９６７５】

なお、本第３２制御例では、設定されている遊技状態（通常状態、時短状態）に応じて、大当たり判定値が可変しないように構成しているが、これに限ること無く、遊技状態に応じて大当たり判定値を可変させるように構成しても良い。この場合、例えば、遊技状態として特別図柄の低確率状態が設定される遊技状態と、特別図柄の高確率状態が設定される遊技状態と、を設定可能に構成し、特別図柄の低確率状態よりも特別図柄の高確率状態の方が、大当たり判定値を増加するように構成すると良い。また、特別図柄の高確率状態は、特定の大当たり種別が設定された場合において大当たり遊技終了後に設定されるように構成すると良い。

【９６７６】

このように構成することで、第１特別図柄抽選が主として実行される遊技状態であったとしても、設定されている特別図柄の確率状態に応じて、大当たり当選する確率を異ならせることができるため、遊技者への有利度合いを異ならせた遊技状態を複数設定することが可能となる。よって、様々な有利度合いの遊技状態で遊技者に遊技を行わせることで遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９６７７】

また、本第３２制御例では、設定されている遊技状態（通常状態、時短状態）に応じて、小当たり判定値が可変しないように構成しているが、これに限ること無く、遊技状態に応じて小当たり判定値を可変させるように構成しても良い。この場合、例えば、遊技状態として特別図柄の低確率状態が設定される遊技状態と、特別図柄の高確率状態が設定される遊技状態と、を設定可能に構成し、特別図柄の低確率状態よりも特別図柄の高確率状態の方が、小当たり判定値を増加するように構成すると良い。また、特別図柄の高確率状態は、特定の大当たり種別が設定された場合において大当たり遊技終了後に設定されるように構成すると良い。

【９６７８】

このように構成することで、第１特別図柄抽選が主として実行される遊技状態であったとしても、設定されている特別図柄の確率状態に応じて、小当たり当選する確率を異ならせることができるため、遊技者への有利度合いを異ならせた遊技状態を複数設定することが可能となる。よって、様々な有利度合いの遊技状態で遊技者に遊技を行わせることで遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９６７９】

加えて、特別図柄の確率状態として特別図柄の高確率状態と、特別図柄の低確率状態と、を設定可能に構成した場合には、特別図柄の高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、大当たり当選確率も小当たり当選確率も高くなるように構成しても良いし、一方のみが特別図柄の低確率状態よりも高確率となるように構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄の高確率状態として、第１高確率状態、第２高確率状態、第３高確率状態を設定可能に構成し、第１高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、大当たり当選確率も小当たり当選確率も高くなるように構成し、第２高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、大当たり当選確率のみが高くなるように構成し、第３高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、小当たり当選確率のみが高くなるように構成すると良い。

【９６８０】

このように構成することで、特別図柄の確率状態としてより多彩な状態を設定することが可能となるため、遊技者が遊技に飽きてしまうことをより抑制することができる。また、特別図柄の確率状態として、大当たり確率、小当たり確率を３種類以上設定可能に構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄の状態と、普通図柄の状態と、を組み合わせる

ことによって設定される最大で４種類の遊技状態毎に特別図柄の大当たり確率を異ならせるように構成しても良いし、単純に、特別図柄の状態を高確率状態、通常確率状態、低確率状態のように３種類以上設定可能にし、各状態に対して異なる大当たり確率、又は小当たり確率を設定するように構成しても良い。

【９６８１】

本第３２制御例では、図９５３（ｂ）、及び図９５３（ｃ）に示した通り、第１特別図柄抽選における大当たり確率と、第２特別図柄抽選における大当たり確率と、が同一となるように構成しているが、これに限ること無く、実行される特別図柄抽選の種別（第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選）に応じて、大当たり当選する確率を異ならせても良い。

【９６８２】

また、本第３２制御例では、図９５３（ｂ）、及び図９５３（ｃ）に示した通り、第１特別図柄抽選における小当たり確率と、第２特別図柄抽選における小当たり確率と、を異ならせているが、これに限ること無く、第１特別図柄抽選の小当たり確率と、第２特別図柄抽選の小当たり確率と、が同一となるように構成しても良い。さらに、本第３２制御例では、当選確率は異なるが、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選との何れでも小当たり当選し得るように構成しているが、これに限ること無く、何れか一方の特別図柄種別のみ小当たり当選し得る特別図柄抽選を実行可能に構成しても良い。

【９６８３】

第１当たり種別カウンタＣ２は、特別図柄抽選が大当たりとなった場合に、第１図柄表示装置３７の表示態様を決定するものであり、所定の範囲（例えば、０～９９）内で順に１ずつ加算され、最大値（例えば、０～９９の値を取り得るカウンタの場合は９９）に達した後０に戻る構成となっている。第１当たり種別カウンタＣ２の値は、例えば、定期的に（本第３２制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。

【９６８４】

本第３２制御例のパチンコ機１０における第１当たり種別カウンタＣ２の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本制御例では取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値を用いて、大当たり種別選択テーブル２０２ｂを参照して大当たりに当選した場合の大当たり種別を判定するように構成している。ここで、図９５４（ａ）を参照して大当たり種別選択テーブル２０２ｂの内容について説明をする。

【９６８５】

図９５４（ａ）は、大当たり種別選択テーブル２０２ｂに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図９５４（ａ）に示した通り、この大当たり種別選択テーブル２０２ｂは、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される情報と、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に参照される情報と、が規定されている。

【９６８６】

具体的には、第１特別図柄（特図１）の大当たり種別としては、第１当たり種別カウンタＣ２の値（更新範囲「０～９９」）が「０～５９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＡ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ」は、大当たり遊技のラウンド数が６ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「１」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「３」が、それぞれ設定される大当たり種別である。

【９６８７】

詳細な説明は、図９５４（ｂ）を参照して後述するが、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態を終了させるための時短終了条件として複数の時短終了条件を同時に設定可能に構成しており、設定されている複数の時短終了条件のうち、何れか１の時短終了条件が成立した場合に、時短状態を終了させるように構成している。上述した時短

カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔは、それぞれ異なる時短終了条件が成立したか否かを判定する際に参照されるカウンタであって、時短状態中に実行された特別図柄抽選に基づいて対応するカウンタ値が更新されるように構成している。このように構成することで、時短状態中に実行された特別図柄抽選の内容に応じて、異なる時短終了条件が成立し、時短状態を終了させることが可能となるため、遊技者に有利な遊技状態である時短状態が設定されている状態において、故意に不適切な遊技（例えば、第２特別図柄抽選を実行させるための右打ち遊技では無く、第１特別図柄抽選を実行させるための左打ち遊技）を実行した場合であっても、時短状態を終了させることができるため、時短状態が過剰に長時間継続してしまうことを抑制することができる。

【９６８８】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が６０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＡ」が決定される割合は６０％（６０／１００）である。

【９６８９】

また、図９５４（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「６０～９９」の範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＢ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＢ」は、大当たり遊技のラウンド数が６ラウンドであり、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される通常大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「０」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「０」が設定される大当たり種別である。

【９６９０】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が４０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＢ」が決定される割合は４０％（４０／１００）である。

【９６９１】

即ち、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定され得る２個の大当たり種別（大当たりＡ、大当たりＢ）は、大当たり遊技のラウンド数は同一であるが、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせており、「大当たりＡ」のほうが「大当たりＢ」よりも大当たり遊技終了後に遊技者に有利となる遊技状態（時短状態）が設定される分、有利な大当たり種別となる。

【９６９２】

一方、第２特別図柄（特図２）の大当たり種別としては、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９９」の全範囲に対して、大当たり種別として「大当たりＣ」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ」は、大当たり遊技のラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される時短大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「１」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「３」が設定される大当たり種別である。

【９６９３】

第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＣ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１００個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりになった場合に、「大当たりＣ」が決定される割合は１００％（３０／１００）である。

【９６９４】

即ち、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、特定の大当たり種別（大当たりＣ）が必ず設定されるように構成しており、「大当たりＣ」は、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定される大当たり種別（大当たりＡ、大当たりＢ）よりも大当たり遊技のラウンド数が大きくなるように構成している。また、大当たり遊技終了後に設定さ

れる遊技状態も、「大当たりＡ」と同様に、遊技者に有利となる時短状態が設定されるように構成している。

【９６９５】

よって、第２特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に設定される「大当たりＣ」が最も遊技者に有利な大当たり種別となり、次いで、第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に設定される「大当たりＡ」が遊技者に有利な大当たり種別となる。そして、「大当たりＢ」が遊技者に最も不利な大当たり種別となる。

【９６９６】

ここで、本第３２制御例では、第２特別図柄抽選が実行された場合には、約１／２の確率で小当たり当選し、その小当たり当選に基づいて実行される小当たり遊技中に大当たり遊技の実行条件が成立し易くなり、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が実行される遊技が主として実行されるように構成している。また、第２特別図柄抽選が実行され易い時短状態は、所定回数（１回）の小当たり当選に基づいて時短終了条件が成立するように構成している。つまり、第２特別図柄抽選で大当たり当選するには、約１／２の確率で当選する小当たりに当選すること無く、約１／３００の確率で当選する大当たりに当選する必要がある。

【９６９７】

このように大当たり遊技を実行させることが可能であって、且つ、高確率で当選し得る小当たりでは無く、その小当たりの当選確率よりも低確率に設定されている大当たりに当選したことの付加価値を遊技者に付与するために「大当たりＣ」が最も遊技者に有利な大当たり種別となるように構成している。このように構成することで、時短状態中に大当たり当選した遊技者に対して、付加価値を付与することができるため、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選にて小当たり当選よりも先に大当たり当選した遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９６９８】

以上、説明をした通り、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、必ず時短大当たり遊技が実行されるため、６０％の割合で時短大当たり遊技が実行される第１特別図柄抽選よりも、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の面では、有利な特別図柄抽選となる。また、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技の数、即ち、大当たり遊技中に獲得可能な賞球数の面においても、獲得し得る最大数、最小数、平均数の何れにおいても第２特別図柄抽選のほうが多くなるように規定している。

【９６９９】

なお、本制御例では、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、全ての大当たりで同一のラウンド数の大当たり遊技が実行されるように構成し、大当たり遊技期間が同一となるように構成している。そして、この同一の大当たり遊技期間を用いて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を事前に示唆するための大当たり遊技演出（討伐演出）を実行するように構成している。このように構成することで、実行される大当たり遊技の遊技内容に基づいて大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を遊技者に把握されてしまうことを抑制し、大当たり遊技中に実行される討伐演出に対して遊技者に興味を持たせ易くすることができる。

【９７００】

なお、これに限ることなく、選択された大当たり種別に応じて異なる数のラウンド遊技を実行可能に構成しても良い。この場合、討伐演出の演出期間を、少ない数のラウンド遊技が実行される大当たり遊技期間に対応させるように構成し、多い数のラウンド遊技が実行される大当たり遊技では、討伐演出の演出期間が経過した後に、残りのラウンド数に対応させた大当たり遊技演出を実行するように構成すると良い。このように構成することで、少なくとも討伐演出の演出期間中は、大当たり遊技の遊技内容に基づいて大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を遊技者に把握させ難くすることができる。また、この場合、少ないラウンド遊技が実行される大当たり遊技に対応する大当たり種別の方が、多いラウンド遊技が実行される大当たり遊技に対応する大当たり種別よりも、大当たり遊技終了

後に時短状態が設定され易くなるように大当たり種別選択テーブル２０２ｂの内容を規定すると良い。

【９７０１】

このように構成することで、討伐演出の演出結果として時短状態が設定されることを示す演出結果（成功演出）が表示された直後に、時短状態を設定することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。また、遊技者に有利な遊技状態が設定される大当たり遊技の方が、遊技者に不利な遊技状態が設定される大当たり遊技よりも、大当たり遊技中に遊技者が獲得可能な賞球数を少なくすることで、遊技者に対して過剰に賞球数を獲得されてしまう事態が発生することを抑制することができる。加えて、大当たり遊技終了後に不利な遊技状態（通常状態）が設定される遊技者に対して、大当たり遊技終了後に有利な遊技状態（時短状態）が設定される遊技者よりも、１回の大当たり遊技で多めに賞球を獲得させることができるため、大当たり遊技を実行したにも関わらず少ない賞球を獲得しただけで通常状態へ移行してしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９７０２】

また、本第３２制御例では、時短状態が設定された場合に時短状態を同一期間（時短回数３回）設定するように構成しているが、これに限ること無く、大当たり種別に応じて時短回数（時短終了条件）を異ならせるように構成しても良い。

【９７０３】

図９５１に戻り説明を続ける。小当たり種別カウンタＣ５は、例えば、０～９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり９９）に達した後０に戻る構成となっている。小当たり種別カウンタＣ５の値は、例えば、定期的に（本第３２制御例ではタイマ割込処理毎に１回）更新され、球が第１入球口６４へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに、第２入球口６４０へと入球したタイミングでＲＡＭ２０３の第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納される。

【９７０４】

本第３２制御例のパチンコ機１０における小当たり種別カウンタＣ５の値は、０～９９の範囲のループカウンタとして構成されている。本制御例では取得した小当たり種別カウンタＣ５の値を用いて、小当たり種別選択テーブル２０２ｆを参照して小当たりに当選した場合の小当たり種別を判定するように構成している。ここで、図９５５を参照して小当たり種別選択テーブル２０２ｆの内容について説明をする。

【９７０５】

図９５５は、小当たり種別選択テーブル２０２ｆに規定されている内容を模式的に示した図である。図９５５に示した通り、この小当たり種別選択テーブル２０２ｆは、第１特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に参照される情報と、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に参照される情報と、が規定されている。

【９７０６】

具体的には、第１特別図柄（特図１）の小当たり種別としては、小当たり種別カウンタＣ５の値（更新範囲「０～９９」）が「０～９９」の全範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＡ」が対応付けて規定されている。この「小当たりＡ」は、小当たり遊技中に特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を容易に入球させることが可能な小当たり遊技が実行される小当たり種別であって、特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を入球させたことに基づいて大当たり種別「大当たりＣ」が設定される小当たり種別である。

【９７０７】

一方、第２特別図柄（特図２）の小当たり種別としては、小当たり種別カウンタＣ５の値（更新範囲「０～９９」）が「０～７９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＢ」が対応付けて規定されており、「８０～９９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＣ」が対応付けて規定されている。この「小当たりＢ」は、小当たり遊技中に特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を容易に入球させることが可能な小当たり遊技が実行される小当たり種別であって、特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を入球させたことに基づい

て大当たり種別「大当たりＤ」が設定される小当たり種別である。また、「小当たりＣ」は、小当たり遊技中に特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を容易に入球させることが可能な小当たり遊技が実行される小当たり種別であって、特定領域（Ｖ領域）へと遊技球を入球させたことに基づいて大当たり種別「大当たりＣ」が設定される小当たり種別である。

【９７０８】

つまり、第１特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり種別カウンタＣ５の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＡ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が１００個であるので、第１特別図柄の抽選で小当たりになった場合に、「小当たりＡ」が決定される割合は１００％（１００／１００）である。一方、第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり種別カウンタＣ５の取り得る１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＢ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が８０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりになった場合に、「小当たりＢ」が決定される割合は８０％（８０／１００）である。また、「小当たりＣ」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）が２０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりになった場合に、「小当たりＣ」が決定される割合は２０％（２０／１００）である。

【９７０９】

ここで、各小当たり遊技が実行されたことに基づいて設定され得る大当たり種別について説明をする。本第３２制御例では、小当たり遊技中に開放動作される第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０へと入賞した遊技球が通過可能な遊技球流路内に特定領域（Ｖ領域）を設け、小当たり遊技中に遊技球が特定領域（Ｖ領域）を通過した場合に、大当たり遊技の実行条件（Ｖ条件）が成立し、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を実行可能に構成している。そして、Ｖ条件が成立した場合に実行される大当たり遊技の内容は、小当たり当選時に設定される小当たり種別に応じて予め決定されている。

【９７１０】

つまり、小当たり当選した場合に設定される小当たり種別には、Ｖ条件が成立したことに基づいて実行される大当たり遊技に関する大当たり種別が規定されている。具体的には、図９５５に示した通り、「小当たりＡ」、及び「小当たりＣ」に対しては、「大当たりＣ」の大当たり種別が規定されており、「小当たりＢ」に対しては、「大当たりＤ」の大当たり種別が規定されている。

【９７１１】

ここで、「大当たりＣ」が設定された場合には、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（「大当たりＣ」が設定される大当たり遊技）と同一の大当たり遊技、即ち、大当たり遊技のラウンド数が９ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される時短大当たり遊技が実行される。一方、「大当たりＤ」は、特別図柄抽選で大当たり当選した場合には設定されることの無い大当たり種別であり、大当たり遊技のラウンド数が３ラウンドであり、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される時短大当たり遊技が実行される大当たり種別であって、大当たり遊技終了後に時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「１」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「３」が設定される大当たり種別である。

【９７１２】

つまり、本第３２制御例では、パチンコ機１０全体として、４種類の大当たり種別（大当たりＡ～大当たりＤ）を設定可能に構成しており、「大当たりＡ」、「大当たりＢ」は、特別図柄抽選で大当たり当選した場合にのみ設定され得る大当たり種別となり、「大当たりＣ」は、特別図柄抽選で大当たり当選した場合、及び、特別図柄抽選で小当たり当選時に設定され得る大当たり種別となり、「大当たりＤ」は、特別図柄抽選で小当たり当選した場合にのみ設定され得る大当たり種別となる。

【９７１３】

このように、大当たり遊技を実行するための複数の実行条件のうち、成立した実行条件に応じて異なる大当たり種別の大当たり遊技を実行可能に構成することで、遊技者に対して、大当たり遊技を実行させるために様々な実行条件を成立させようと意欲的に遊技を行

わせることができる。

【９７１４】

なお、本第３２制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部と、小当たり遊技中にＶ条件が成立した場合の一部とで同一内容の大当たり遊技（「大当たりＣ」に基づく大当たり遊技）を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、小当たり遊技中にＶ条件が成立した場合とで異なる内容の大当たり遊技が実行されるように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技を実行するための実行条件を複数有するパチンコ機１０において、成立させた実行条件に応じて異なる内容の大当たり遊技を実行させることができる。

【９７１５】

図９５１に戻り説明を続ける。変動種別カウンタＣＳ１は、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり１９８）に達した後０に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳ１によって、いわゆる短時間外れ、長時間外れ、ノーマルリーチ、スーパーリーチ等の大まかな表示態様（変動時間）が決定される。表示態様の決定は、具体的には、図柄変動の変動時間の決定である。変動種別カウンタＣＳ１により決定された変動時間に基づいて、音声ランプ制御装置１１３や表示制御装置１１４により第３図柄表示装置８１で表示される第３図柄のリーチ種別や細かな図柄変動態様が決定される。変動種別カウンタＣＳ１の値は、後述するメイン処理（図９７８参照）が１回実行される毎に１回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でも繰り返し更新される。尚、変動種別カウンタＣＳ１の値（乱数値）から、図柄変動の変動時間を一つ決定する乱数値を格納した変動パターン選択テーブル２０２ｄ（図９５６（ａ）参照）は、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２内に設けられている。

【９７１６】

ここで、図９５６（ａ）を参照して変動パターン選択テーブル２０２ｄの内容について説明をする。図９５６（ａ）は変動パターン選択テーブル２０２ｄに規定されている内容を模式的に示した模式図である。図９５６（ａ）に示した通り、変動パターン選択テーブル２０２ｄには、遊技状態として通常状態を設定している状態で用いられる通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１と、時短状態を設定している状態で用いられる時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２、特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４、が規定されている。詳細については後述するが、本制御例では特別図柄変動の変動パターンを決定する際に参照する変動パターン選択テーブル２０２ｄの種別を、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈに規定されている内容に応じて決定するように構成している。

【９７１７】

このように構成することで、同一の遊技状態が設定されている場合であっても、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈに規定されている内容に基づいて異なる種別の変動パターン選択テーブルを参照して特別図柄変動の変動パターンを決定することが可能となる。

【９７１８】

図９５１に戻り説明を続ける。第２当たり乱数カウンタＣ４は、例えば０～２９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値（つまり２９９）に達した後０に戻るループカウンタとして構成されている。また、第２当たり乱数カウンタＣ４が１周した場合、その時点の第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の値が当該第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値として読み込まれる。第２当たり乱数カウンタＣ４の値は、本実施形態ではタイマ割込処理（図９６３参照）毎に、例えば定期的に更新され、球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したことが検知された時に取得され、ＲＡＭ２０３の普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納される。

【９７１９】

そして、普通図柄の当たりとなる乱数の値は、主制御装置のＲＯＭ２０２に格納される第２当たり乱数テーブル２０２ｃによって規定されており、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、第２当たり乱数テーブル２０２ｃによって設定された当たりとなる乱数の値と一

致する場合に、普通図柄（第２図柄）の当たり（普図当たり）と判定する。また、この第２当たり乱数テーブル２０２ｃは、普通図柄の低確率時用と、その低確率時より普通図柄の当たりとなる確率の高い高確率時用との２種類に分けられ、それぞれに含まれる大当たりとなる乱数の個数が異なって設定されている。このように、当たりとなる乱数の個数を異ならせることにより、普通図柄の低確率時と普通図柄の高確率時とで、当たりとなる確率が変更される。

【９７２０】

この第２当たり乱数テーブル２０２ｃに規定されている内容について、詳細に説明をすると、普通図柄の低確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～２」の値に普図当たりが規定され、普通図柄の高確率状態である場合は、取得した第２当たり乱数カウンタＣ４が「０～１４９」の範囲に普図当たりが規定されている。

【９７２１】

つまり、本第３２制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／１００）が低確率に設定されている。これにより、普通図柄の低確率状態である通常状態と、普通図柄の高確率状態である時短状態と、で同一の遊技方法（左打ち遊技）が実行される本実施形態において、通常状態中に普図当たりに当選し難くすることができるため、通常状態中に普図当たり遊技が実行され第２入球口６４０内に球が入球する事態を発生し難くすることができる。一方、普通図柄の高確率状態が設定されている場合には、普通図柄の抽選で当たりとなる確率（１／２）が高確率に設定されている。これにより、時短状態中において普通図柄の当たり当選に基づく普図当たり遊技を実行し易くすることができる。

【９７２２】

また、本第３２制御例では、設定されている遊技状態に応じて普通図柄抽選の結果を示すための普通図柄変動の変動時間として異なる長さの変動時間が設定されるように構成されており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも長い変動時間（例えば、１０秒）が設定されるように構成している。このように、普通図柄抽選で当たり当選する確率と、普通図柄変動の変動時間の長さと、を遊技状態に応じて可変させることにより、普通図柄抽選で当たり当選し、第２入球口６４０へと球を入球させ易い遊技状態（時短状態）を容易に設定することができる。

【９７２３】

さらに、本第３２制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で実行された普通図柄抽選にて当たり当選した場合には、第２入球口６４０へと球を入球させることが困難な動作態様（ショート開放）で電動役物６４０ａが開放動作される普図当たり遊技が実行されるように構成している。よって、普通図柄抽選で当たり当選し難い遊技状態（通常状態）において普通図柄抽選で当り当選しても、第２入球口６４０へと遊技球が入球してしまうことを抑制することができるため、通常状態が設定されている場合において、第１特別図柄抽選が実行されることを目指す左打ち遊技では無く、第２特別図柄抽選が実行されることを目指す右打ち遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【９７２４】

なお、本第３２制御例では、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（通常状態）にて、第２入球口６４０へと遊技球を入賞させ難くするために、普通図柄の低確率状態中は、普通図柄の高確率状態中に比べて、普通図柄抽選で当り当選し難くし、且つ、普通図柄抽選で当り当選（普図当たり当選）した場合であっても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが困難となる動作態様で電動役物６４０ａを動作させる普図当たり遊技が実行されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、左打ち遊技を実行している際中にも普通図柄抽選が実行されるように、スルーゲート６７を左打ち遊技によって発射された遊技球が通過可能な右打ち領域（可変表示ユニット８０の左側に形成される遊技領域）に設け、通常状態中に実行された普通図柄抽選によって当たり当選した場合の一部において、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な動作態様（ロ

ング開放）で電動役物６４０ａを動作される普図当たり遊技（ロング普図当たり遊技）を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、普通図柄抽選で当たり当選し難い遊技状態（通常状態）であっても、一時的に第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることができるため、どのような遊技状態が設定されている状態であっても、遊技者に対して第２特別図柄抽選が実行される可能性を残すことができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【９７２５】

また、この場合、ロング普図当たり遊技が実行される普図当たりに当選したことを示すための普通図柄変動の変動時間（ロング普図当たり変動時間）が、他の普通図柄の変動時間よりも長くなるように構成し、ロング普図当たり変動時間中に、遊技者に対して、ロング普図当たり遊技が実行されることを示すための情報と、遊技方法を右打ち遊技へと切り替えることを案内するための情報と、を少なくとも含む普図当たり演出を実行するように構成すると良い。このように構成することで、通常状態中であって、左打ち遊技を実行している遊技者に対して、ロング普図当たり遊技が実行された場合に第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることができる。

【９７２６】

さらに、普通図柄の低確率状態中における普通図柄の当たり確率を極端に低確率（例えば、１／６５５３６）に設定しておき、普通図柄の低確率状態中に実行された普通図柄抽選で当り当選した場合に、ロング普図当たり遊技が必ず実行されるように構成しても良い。また、この場合、１回のロング普図当たり遊技を契機に第２特別図柄抽選が複数回実行されるように構成すると良い。

【９７２７】

具体的には、ロング普図当たり遊技の動作パターンとして、遊技球が第１期間の間隔を空けて第２入球口６４０へと複数回入球し得るよう動作パターンを決定し、且つ、第２特別図柄変動の変動時間が、第１期間よりも短い第２期間となるように構成すると良い。このように構成することで、ロング普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと遊技球が入球する毎に、新たな第２特別図柄変動を実行させ易くすることができるため、１回のロング普図当たり遊技を契機に第２特別図柄抽選を複数回実行させ易くすることができる。

【９７２８】

このように構成することで、通常状態（普通図柄の低確率状態）の遊技を行っている遊技者に対して、特別図柄抽選の抽選結果に基づいて時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定することで第２特別図柄抽選が実行されることを目指す第１遊技と、普通図柄抽選の抽選結果に基づいてロング普図当たり遊技を実行することで第２特別図柄抽選が実行されることを目指す第２遊技と、を並行して実行させることができるため、単調な遊技が継続し遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９７２９】

加えて、この場合、１回のロング普図当たり遊技によって実行可能となる第２特別図柄抽選の実行回数が、時短状態中に実行可能となる第２特別図柄抽選の実行回数よりも多くなるように構成しても良い。つまり、第２特別図柄抽選が実行され易くなる時短状態が設定されてから、時短状態の時短終了条件が成立するまでの期間において実行可能な第２特別図柄抽選の実行回数（本第３２制御例では３回）よりも、普通図柄の低確率状態（通常状態）中に実行された普通図柄抽選で当り当選し、ロング普図当たり遊技が実行された場合の方が、多くの第２特別図柄抽選を実行させることが可能となるように構成しても良い。

【９７３０】

このように構成することで、第２特別図柄抽選を実行させ易くする状態への移行契機として、成立し難い移行契機が成立した場合の方が、成立し易い移行契機が成立した場合よりも多くの第２特別図柄抽選を実行させ易くすることが可能となるため、成立し難い移行契機を成立させた遊技者に対して、付加価値を付与することができる。

【９７３１】

第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２は、第２当たり乱数カウンタＣ４と同一範囲で更新されるループカウンタとして構成され（値＝０～２９９）、タイマ割込処理（図９６３参照）毎に１回更新されると共に、メイン処理（図９７８参照）の残余時間内で繰り返し更新される。

【９７３２】

このように、ＲＡＭ２０３には種々のカウンタ等が設けられており、主制御装置１１０では、このカウンタ等の値に応じて大当たり抽選や第１図柄表示装置３７および第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置８３における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行することができる。

【９７３３】

図９５０に戻り説明を続ける。ＲＯＭ２０２は、図９５１に図示した各種カウンタに対応して規定される各種データテーブル等を有している。ここで、図９５２（ａ）を参照して、本第３２制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容について説明をする。図９５２（ａ）は、本第３２制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の内容を模式的に示した模式図である。

【９７３４】

図９５２（ａ）に示した通り、本第３２制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２は、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、大当たり種別選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、変動パターン選択テーブル２０２ｄ、時短付与テーブル２０２ｅ、小当たり種別選択テーブル２０２ｆ、開放シナリオテーブル２０２ｇ、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈを少なくとも有している。なお、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、大当たり種別選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、小当たり種別選択テーブル２０２ｆについては、図９５１に図示した各種カウンタを説明する際に上述したため、その説明を省略する。

【９７３５】

図９５６（ａ）に示した通り、変動パターン選択テーブル２０２ｄには、遊技状態として通常状態を設定している状態で用いられる通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１と、時短状態を設定している状態で用いられる時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２、特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４、が規定されている。詳細については後述するが、本制御例では特別図柄変動の変動パターンを決定する際に参照する変動パターン選択テーブル２０２ｄの種別を、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈに規定されている内容に応じて決定するように構成している。

【９７３６】

通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１は、遊技状態として通常状態が設定されている状態で実行される特別図柄抽選の変動パターンを決定する際に参照されるデータテーブルである。ここで、図９５６（ｂ）を参照して、通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１に規定されている内容について説明をする。図９５６（ｂ）は、通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１に規定されている内容を模式的に示した図である。

【９７３７】

図９５６（ｂ）に示した通り、通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１には、実行される特別図柄抽選に用いられる特別図柄種別と、実行される特別図柄抽選の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に対応させて異なる変動パターン（変動時間）が規定されている。つまり、特別図柄種別と、抽選結果とに応じて異なる変動時間の変動パターンを決定可能に構成している。

【９７３８】

具体的には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が７秒の「外れ」が、「１４０～１４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「ガセ外れ」が、「１５０～１７９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「１８０

～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。

【９７３９】

また、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「３０～１８９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１４０秒の「スペシャルリーチ」が規定されている。

【９７４０】

さらに、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が９０秒の「長小当たり」が規定されている。

【９７４１】

つまり、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選では、抽選結果が外れである場合の方が、抽選結果が外れ以外（大当たり、又は小当たり）である場合よりも、短い変動時間の変動パターンが決定され易くなるように構成しており、より長い変動時間の変動パターンが決定された場合の方が、特別図柄抽選の結果が大当たり、又は小当たりである可能性が高くなるように構成している。このように構成することで、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、抽選結果が外れである特別図柄変動が長時間継続してしまい、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が極端に少なくなってしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９７４２】

また、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が少なくなる場合、即ち、長時間の特別図柄変動が実行される場合には、当たり（大当たり、小当たり）当選していることへの期待感を高めることができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【９７４３】

さらに、通常状態における第１特別図柄変動として決定可能な変動パターンのうち、所定時間（８０秒）よりも長い変動時間（９０秒、１４０秒）となる変動パターンを、特別図柄抽選の結果が外れ以外である場合に決定可能に構成しているため、過剰に長い変動時間の変動パターンで特別図柄変動が実行されている場合には、特別図柄変動が停止表示されるよりも前に、遊技者に対して特別図柄抽選の結果を把握させることが可能となる。よって、過剰に長い変動時間で特別図柄変動が実行された場合であっても、遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【９７４４】

また、特別図柄抽選の結果が外れである場合の少なくとも一部と、特別図柄抽選の結果が大当たりである場合の少なくとも一部において、同一の変動時間（４０秒、８０秒）が設定される変動パターンを決定可能に構成している。このように構成することで、実行されている特別図柄変動の変動時間を特別図柄変動が停止表示されるよりも前に把握したとしても、実行されている特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させ難くすることができる。

【９７４５】

ここで、通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１を参照して変動パターンが決定されると、決定された変動パターンを示すための変動パターンコマンドを設定し、主制御装置１１０のメイン処理（図９７８参照）にて実行される外部出力処理（図９７８のＳ１８０１参照）によって、音声ランプ制御装置１１３に向けて出力される。そして、音声ランプ制御装置１１３が変動パターンコマンドを受信すると、受信した変動パターンコマンドに含まれる情報（抽選結果、変動時間等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される変動演出の演出態様を決定する処理が実行される。

【９７４６】
一方、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」、「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「当たり」が規定されている。
【９７４７】
本第３２制御例では、通常状態が設定されている状態では、第２入球口６４０へと遊技球が入球し難く（不可能）なるように遊技盤１３に各種機構を配設しており、通常状態中に右打ち遊技を実行し、普図当たり遊技を実行したとしても、第２特別図柄抽選が実行され難く構成している。また、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を最大で１個獲得可能に構成している。
【９７４８】
よって、通常状態において第２特別図柄抽選が実行される遊技状況としては、第２特別図柄抽選を容易に実行することが可能な時短状態中に特図２保留を獲得し、獲得した特図２保留を保持した状態で時短状態から通常状態へと移行し、通常状態が設定された後に、保持している特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が実行される遊技状況となる。
【９７４９】
つまり、第２特別図柄抽選を容易に実行させることが可能な時短状態が終了し、その時短状態を契機に実行される最後の第２特別図柄抽選として通常状態にて第２特別図柄抽選が実行されることになる。よって、本第３２制御例では、通常状態にて実行される第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動時間として、抽選結果に関わらず一定の長さ（２０秒）の変動時間が設定される変動パターンが決定されるように構成している。そして、本変動時間を用いて時短状態終了後の引き戻し演出（図９４１（ｂ）参照）を実行するように構成している。
【９７５０】
このように、特定の特別図柄種別（第２特別図柄）の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が、特定の遊技状態（通常状態）で実行された場合に、抽選結果に関わらず同一の長さの変動時間が設定される変動パターンを決定するように構成することで、その特別図柄変動中に実行される特定演出の演出期間を特別図柄抽選の結果に関わらず統一することができる。
【９７５１】
次に、図９５７（ａ）を参照して、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２の内容について説明をする。図９５７（ａ）は、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２に規定されている内容を模式的に示した図である。この時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２は、時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動の変動パターンを決定する際に主として参照されるデータテーブルであって、時短状態中に参照される他のデータテーブル（特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４）よりも頻繁に参照されるデータテーブルである。
【９７５２】
具体的には、この時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２は、時短状態が設定されてからの実行回数が１～４回目の第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動の変動パターンを決定する場合、又は、時短状態が設定されてからの実行回数が１，２回目の第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動パターンを決定する場合において参照される。
【９７５３】
本第３２制御例では、時短状態が設定されると、普通図柄抽選で当り当選した場合に第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い動作態様で普図当たり遊技（ロング普図当たり遊技）が実行されるように構成している。よって、時短状態が設定されている間は、右打

ち遊技を行うことで第２特別図柄抽選が実行されることを目指す遊技が行われる。
【９７５４】
ここで、例えば、通常状態において実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選し、大当たり遊技が実行された後に時短状態が設定された場合には、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得している状態で時短状態が設定されることになり、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得するまでの間に、第１特別図柄抽選が実行される場合があった。本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数を増加させるために、時短状態中に実行される第２特別図柄変動にて設定される変動時間が短くなるように構成しているが、時短状態で第２特別図柄抽選が実行されるよりも前に第１特別図柄抽選が実行された場合には、実行された第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動が停止表示されるまで、第２特別図柄抽選を実行することができず、結果として時短状態が設定されている期間当たりにおける第２特別図柄抽選の実行回数が少なくなってしまうという問題があった。
【９７５５】
加えて、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、特図２保留を最大で１個記憶可能に構成しており、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の変動時間として短時間（１秒）の変動時間が設定されるように構成している。つまり、時短状態中は、特図２保留を用いた第２特別図柄抽選が頻繁に実行されるため、右打ち遊技によって発射された遊技球の流下状況によっては、特図２保留を獲得していない状態が発生し得る。このような状態において特図１保留を獲得している場合には第１特別図柄抽選が実行されてしまうため、新たに特図２保留を獲得したとしてもその時点が第１特別図柄変動中である場合には、新たに獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄変動を即座に実行することが出来ず、結果として時短状態が設定されている単位時間当たりにおける第２特別図柄抽選の実行回数が少なくなってしまうという問題があった。
【９７５６】
これに対して、本第３２制御例では、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の変動時間として、短い変動時間を決定可能に構成し、特図２保留を獲得しておらず、特図１保留のみを獲得している状態で時短状態が設定された場合に、特図１保留を短時間で消化するように構成している。このように構成することで特図１保留を獲得したままの状態で特図２保留を獲得し、特図１保留に基づいて実行される第１特別図柄変動によって、第２特別図柄抽選が実行される効率が低下してしまうことを抑制することができる。
【９７５７】
具体的には、図９５７（ａ）に示した通り、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２秒の「短大当たり」が規定され、抽選結果が「小当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が９０秒の「長小当たり」が規定されている。
【９７５８】
一方、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１秒の「短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１秒の「超短大当たり」が規定され、抽選結果が「小当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１秒の「超短小当たり」が規定されている。
【９７５９】
以上、説明をした通り、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２を参照して変動パター

ンが決定される１～４回目の第１特別図柄変動、即ち、特図１保留として獲得可能な上限数（４個）に該当する変動回数であって、通常状態中に獲得した特図１保留に基づいて時短状態中に実行され得る回数の第１特別図柄変動に対しては、抽選結果が外れである場合には、変動時間が０．５秒の変動パターンが設定される。このように構成することで、特図１保留を獲得している状態で、時短状態が設定されたとしても、特図２保留を獲得するまで（時短状態中に実行された普通図柄抽選で当り当選したことに基づく普図当たり遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させるまで）の間に、獲得済みの特図１保留を全て消化させ易くすることができる。

【９７６０】

また、時短状態中に実行される第１特別図柄抽選の抽選結果が外れ当選以外の場合（大当たり、小当たり）には、遊技者が抽選結果を把握可能な程度の変動時間が設定され、時短状態中に実行された第１特別図柄抽選にて当たり当選したことを遊技者に報知するための専用演出が実行される。このように構成することで、時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選が実行されるよりも前に当たり遊技が実行された経緯を遊技者に分かり易く理解させることができる。なお、時短状態中に第１特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、通常状態中に第１特別図柄抽選で小当たり当選した場合と、同一の変動パターン（９０秒）が決定されるように構成している。そして、小当たり当選に対応した特別図柄変動中は、遊技状態に関わらず同一の変動演出が実行されるように構成している。

【９７６１】

また、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２を参照して変動パターンが決定される１，２回目の第２特別図柄変動では、抽選結果に関わらず変動時間が１秒の変動パターンが決定される。この期間は、カウントダウン演出（図９３８（ａ）参照）が実行されるように構成している。このように構成することで、カウントダウン演出によって残時短回数を示すための数字アイコン８０８（図９３８（ａ）参照）が可変表示されるタイミングと、数字アイコン８０８を非表示にして当たり当選を示す第３図柄が停止表示させるタイミングと、を一致させ易くすることができるため、カウントダウン演出の一環として当たり当選を示す第３図柄を停止表示させることができ、演出効果を高めることができる。

【９７６２】

次に、図９５７（ｂ）を参照して、特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３の内容について説明をする。図９５７（ｂ）は、特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３に規定されている内容を模式的に示した図である。この特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３は、時短状態中に実行される一部の第１特別図柄変動の変動時間を決定する際に参照されるデータテーブルであって、時短状態が設定されてから５～１０回目の第１特別図柄変動の変動時間を決定する際に参照されるものである。

【９７６３】

図９５７（ｂ）に示した通り、特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３には、特別図柄種別として第１特別図柄に対応する変動パターンのみが規定されており、抽選結果が「外れ」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「当たり」が規定され、抽選結果が「小当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が９０秒の「長小当たり」が規定されている。

【９７６４】

本第３２制御例では、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された第２特別図柄変動回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件と、時短状態中に実行された第１特別図柄変動回数と、第２特別図柄変動回数との合算回数が１０回に到達した場合に成立する時短終了条件と、を少なくとも有している。

【９７６５】

つまり、本制御例におけるパチンコ機１０は、第２特別図柄抽選を実行し易くなる時短

状態が設定されている間に第２特別図柄抽選を３回実行し、何れかの第２特別図柄抽選において約１／２の確率で当選する当たり（小当たり、大当たり）に当選することで、大当たり遊技を介しながら時短状態を繰り返し、時短状態中に実行される３回の第２特別図柄抽選において当たり当選しなかった場合に、時短状態が終了し、残された特図２保留を用いた第２特別図柄抽選（１回）においても当たり当選しなかった場合に、通常状態へと移行する（連チャン状態が終了する）遊技性を有している。

【９７６６】

ここで、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された特別図柄抽選の回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件のみを設定した場合には、第１特別図柄抽選が３回実行された場合にも時短終了条件が成立することとなり、時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選が実行されることなく時短状態が終了してしまうという事態が発生してしまう虞があった。つまり、本第３２制御例では、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を最大で４個獲得可能に構成しており、例えば、特図１保留を４個、特図２保留を０個獲得している状態で時短状態が設定された場合には、第２特別図柄変動よりも先に第１特別図柄変動が実行されることになる。この場合、第２特別図柄抽選が３回実行されるよりも前に、時短終了条件が成立してしまい、本来の遊技性を発揮すること無く時短状態が終了してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【９７６７】

また、時短状態が設定される際に特図１保留を４個獲得している状態であっても、時短状態中に第２特別図柄変動を３回実行させるために、例えば、特別図柄抽選の実行回数が７回に到達した場合に時短終了条件が成立するように構成した場合には、特図１保留を獲得していない状態で時短状態が設定された場合において、第２特別図柄変動を３回よりも多く実行させることが可能となり、本来の遊技性に対して遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうという問題があった。

【９７６８】

そこで、本第３２制御例では、第２特別図柄変動の実行回数のみに基づいて成立する時短終了条件と、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件と、を設定し、何れかの時短終了条件が成立した場合に時短状態が終了するように構成している。このように構成することで、特図１保留の獲得状況に関わらず、所定回数の第２特別図柄変動を実行させることが可能となると共に、所定回数の第２特別図柄変動が実行された場合に確実に時短状態を終了させることができる。

【９７６９】

さらに、本第３２制御例では、時短状態中において効率良く第２特別図柄抽選を実行させるために、特図１保留の上限数（４個）に対応する第１特別図柄変動、即ち、時短状態が設定されてから４回目の第１特別図柄変動が実行されるまでは、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２（図９５７（ａ）参照）を用いて、短時間（０．５秒）の変動時間が設定されるように構成し、それ以降の第１特別図柄変動に対しては、２０秒の変動時間が設定されるように構成している。つまり、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態における遊技方法を把握していない遊技者が左打ち遊技を行った場合に、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の変動時間として常に短時間（０．５秒）の変動時間が設定されてしまうと、新たな第１特別図柄変動が次々と実行されてしまい、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまう虞があった。

【９７７０】

これに対して、本第３２制御例では、時短状態が設定されてから実行される５回目以降の第１特別図柄変動、即ち、時短状態中において新たに特図１保留を獲得した場合にのみ実行される第１特別図柄変動に対しては、長時間（２０秒）の変動時間を設定するように構成し、１回の第１特別図柄変動が終了するまでに要する期間を長くすることで、遊技者に対して時短状態中における遊技方法を把握させるための期間を確保させることができる

ように構成している。つまり、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまうことを抑制するように構成している。

【９７７１】

さらに、時短状態中に第１特別図柄変動が５回以上実行された場合には、その第１特別図柄変動の変動演出として、右打ち遊技によって第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得することを促す演出態様を含む変動演出が実行されるように構成している。このように構成することで、時短状態中に実行すべき遊技方法を把握していない遊技者に対して、正しい遊技方法をより分かり易く把握させることができる。

【９７７２】

なお、上述した時短状態中における５回目以降の第１特別図柄変動は、正常な遊技、即ち、大当たり遊技中から継続して右打ち遊技を実行する遊技を行っている場合には実行され得ない第１特別図柄変動となるため、長い変動時間（２０秒）が設定されるように構成したとしても、正常な遊技を行っている遊技者に対して、時短状態中における遊技効率を低下させるものではない。

【９７７３】

次に、図９５７（ｃ）を参照して、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４の内容について説明をする。図９５７（ｃ）は、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４に規定されている内容を模式的に示した図である。この時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４は、時短終了条件が成立する第２特別図柄変動、即ち、時短状態が設定されてから３回目の第２特別図柄変動が実行された場合に、設定される変動パターンを決定する場合に参照されるデータテーブルであって、特別図柄種別として第２特別図柄に対する変動パターンのみが規定されている。

【９７７４】

具体的には、時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４には、特別図柄種別として第２特別図柄に対応する変動パターンのみが規定されており、抽選結果が「外れ」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒の「外れ」が規定され、抽選結果が「小当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～９９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１秒の「超短小当たり」が規定され、「１００～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「小当たり」が規定されている。そして、抽選結果が「大当たり」の場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「大当たり」が規定されている。

【９７７５】

つまり、時短最終変動となる第２特別図柄変動の変動期間中には、時短状態中に実行されるカウントダウン演出の最終結果（数字アイコン８０８の「０」表示）を表示した後、時短状態が終了するまでの間に特図２保留の獲得を促すためのチャージ演出（図９４１（ａ）参照）が実行されるように構成している。よって、時短状態が設定されてから１回目、又は２回目の第２特別図柄変動よりも３回目（最終）の第２特別図柄変動の方が、チャージ演出の演出期間を確保するために長い変動時間が設定されるように構成している。

【９７７６】

このように構成することで、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させ易くすることができる。また、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選する場合であっても、１回目、或いは２回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合と、３回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合とで、時間効率（時短状態の単位時間当たりに実行される第２特別図柄抽選回数）を大きく異ならせることができるため、遊技者に対して、時短状態中に第２特別図柄抽選で当り当選するか否かだけで無く、時短状態中における何回目の第２特別図柄抽選で当り当選するかについても興味を持たせることができる。

【９７７７】

また、図９５７（ｃ）に示した通り、時短最終変動（３回目）となる第２特別図柄抽選

で小当たり当選した場合には、２種類の変動時間を設定可能に構成している。ここで、変動パターンとして変動時間が１秒の「超短小当たり」が設定された場合には、カウントダウン演出の演出結果として、数字アイコン８０８の「１」が表示されている状態で画面が破壊され、当たり当選を示す第３図柄が停止表示される演出、即ち、１回目、２回目の第２特別図柄抽選にて小当たり当選した場合と同様の演出態様を用いて小当たり当選を示す変動演出が実行されるように構成している。

【９７７８】

そして、変動パターンとして変動時間が２０秒の「小当たり」が設定された場合には、カウントダウン演出の演出結果として、数字アイコン８０８の「１」が表示されている状態から、カウントダウンが終了することを示す「ＬＡＳＴ」の文字が表示され、チャージ演出へと切り替わる際に表示画面が破壊され、当たり当選を示す第３図柄が停止表示される演出が実行される。

【９７７９】

このように、時短最終変動（３回目）の第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、短時間（１秒）で小当たり当選を示す第３図柄を停止表示させる変動パターンと、長時間（２０秒）で小当たり当選を示す第３図柄を停止表示させる変動パターンと、を設定可能に構成することで、遊技者に対して、時短最終変動（３回目）の第２特別図柄抽選で小当たり当選したことを様々なタイミングで報知することができるため、カウントダウン演出の演出効果を高めることができる。また、長時間（２０秒）の変動時間が設定された場合には、時短最終変動（３回目）の第２特別図柄抽選が外れであったことを示すための演出態様でカウントダウン演出を実行した後に、小当たり当選を示す演出結果が表示されるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。

【９７８０】

加えて、図９５７（ｃ）に示した通り、時短最終変動（３回目）の第２特別図柄抽選が外れであった場合、即ち、実行中の第２特別図柄変動が停止表示された後に通常状態が設定される場合の方が、時短最終変動（３回目）の第２特別図柄抽選が当りであった場合、即ち、実行中の第２特別図柄変動が停止表示された後に当たり遊技が実行される場合よりも、長い変動時間の変動パターンが設定されるように構成し、差分の変動時間を用いて、遊技者に特図２保留の獲得を促すチャージ演出を実行可能に構成している。よって、特図２保留を獲得している状態で時短状態を終了させ易くすることができると共に、時短状態が継続する可能性が高い場合（小当たり遊技中にＶ入賞させることで大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技終了後に再度時短状態が設定される場合）には、時短最終変動（３回目）の変動期間中であってもチャージ演出を実行する期間を排除することで、単位時間当たりに実行される大当たり遊技の実行回数を増加させ易くすることができる。

【９７８１】

図９５２（ａ）に戻り、説明を続ける。時短付与テーブル２０２ｅは、大当たり遊技終了後の遊技状態を設定する際に参照されるデータテーブルであって、実行されている大当たり遊技に対応する大当たり種別（大当たり当選時に設定された大当たり種別）に応じた遊技状態（時短終了条件）が規定されている。

【９７８２】

ここで、図９５４（ｂ）を参照して、時短付与テーブル２０２ｅの内容について説明をする。図９５４（ｂ）は、時短付与テーブル２０２ｅに規定されている内容を模式的に示した図である。図９５４（ｂ）に示した通り、時短付与テーブル２０２ｅには、各大当たり種別に対応させて時短終了条件の成立有無を判定する際に参照される各カウンタの値を規定している。

【９７８３】

具体的には、大当たり種別「大当たりＡ」，「大当たりＣ」，「大当たりＤ」に対しては、時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「１」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「３」が規定されており、「大当たりＢ」に対しては、時短カウンタ２０３ｈの値、小当たりカウンタ２０３ｓの値、特図２カウンタ２０３ｔの

値に「数値無し（図では「－」で表示）」が規定されている。
【９７８４】
詳細な説明は後述するが、時短付与テーブル２０２ｅに情報が規定されている、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔは、何れも時短状態中に値が更新されるものであって、カウンタの値が所定条件を満たす値まで更新された場合に、時短終了条件が成立したと判別され、時短状態を終了させるための処理が実行されるように構成している。
【９７８５】
時短カウンタ２０３ｈは、時短状態中に実行された特別図柄変動の回数を計測するカウンタであって、時短状態中に第１特別図柄変動、或いは、第２特別図柄変動が実行されたことに基づいてカウンタ値が更新（減算）される。つまり、時短カウンタ２０３ｈは、時短状態中に実行された第１特別図柄変動回数と、第２特別図柄変動回数と、を合算された合算特別図柄回数に基づく時短終了条件の成立状況を判別するために用いられるカウンタである。
【９７８６】
小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態中に実行される小当たり遊技の実行回数を計測するためのカウンタであって、時短状態中に実行された特別図柄抽選の結果が小当たり当選となった場合にカウンタ値が更新（減算）される。つまり、小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態中に実行される小当たり遊技回数に基づく時短終了条件の成立状況を判別するために用いられるカウンタである。
【９７８７】
特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の回数を計測するカウンタであって、時短状態中に第２特別図柄変動が実行されたことに基づいてカウンタ値が更新（減算）される。つまり、特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態中に実行された第２特別図柄変動回数に基づく時短終了条件の成立状況を判別するために用いられるカウンタである。
【９７８８】
図９５４（ｂ）に示した通り、大当たり種別の「大当たりＡ」が設定された場合には、大当たり遊技終了後の遊技状態を設定する際に、時短カウンタ２０３ｈの値に「１０」が、小当たりカウンタ２０３ｓの値に「１」が、特図２カウンタ２０３ｔの値に「３」が設定される。よって、大当たり種別の「大当たりＡ」に基づいて設定された時短状態は、合算特別変動回数が「１０回」、小当たり当選回数が「１回」、第２特別図柄変動回数が「３回」の何れかの条件を満たした場合に、時短終了条件が成立する時短状態となる。
【９７８９】
本第３２制御例では、上述した各カウンタの値が１以上である場合に、時短状態中であると判別するように構成している。よって、大当たり種別の「大当たりＢ」が設定された場合には、各カウンタの値に対して数値が設定されないように時短付与テーブル２０２ｅの内容を規定しているため、大当たり遊技終了後に時短状態では無く、通常状態が設定されることになる。
【９７９０】
なお、本第３２制御例では、時短付与テーブル２０２ｅに規定されている内容として、設定された大当たり種別に関わらず時短状態が設定される場合における各カウンタの値を統一しているが、これに限ること無く、大当たり種別に応じて、各カウンタの値（特に特図２カウンタ２０３ｔの値）を異ならせるように構成しても良い。このように構成することで、設定された大当たり種別に応じて異なる内容の時短終了条件を設定することができる。この場合、例えば、時短状態中に実行される第２特別図柄変動回数に基づく時短終了条件の内容を規定する特図２カウンタ２０３ｔの値を大当たり種別に応じて異ならせると良く、１の大当たり種別が設定された場合の方が、他の大当たり種別が設定された場合よりも時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動回数を増加させることができるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり遊技終了後に遊技者によ

り有利な時短状態が設定されることを期待させながら遊技を行わせることができる。
【９７９１】
　また、特図２カウンタ２０３ｔ以外の値を異ならせるように構成しても良く、例えば、特定の大当たり種別が設定された場合には、時短カウンタ２０３ｈの値として、「１０」よりも少ない「４」を設定するように構成しても良い。この場合、特図１保留を獲得しており、且つ、特図２保留を獲得していない状態で時短状態が設定されることで、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の回数が減少することになる（特図２カウンタ２０３ｔの値が所定条件を満たすことで時短終了条件が成立するよりも前に、時短カウンタ２０３ｈの値が所定条件を満たすことで時短終了条件成立する可能性が高くなる）ため、遊技者に対して、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動回数を遊技者に把握させ難くすることができる。さらに、時短カウンタ２０３ｈの値として「１０」よりも多い「９０」を設定するように構成しても良い。この場合、時短状態中に継続して左打ち遊技を実行したとしても、時短終了条件が成立し難くなるため、時短状態中に敢えて第１特別図柄抽選を実行し、大当たり当選を目指す遊技を遊技者に行わせることが可能となる。なお、この場合、時短状態中に実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の方が、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、遊技者に有利な特典、例えば、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される確率を高めたり、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技数を増加したりする特典を付与可能に構成すると良い。このように構成することで、時短状態中に第１特別図柄抽選を実行させる左打ち遊技を行うか、第２特別図柄抽選を実行させる右打ち遊技を行うかを遊技者に選択させる楽しみを提供することができる。
【９７９２】
　図９５４（ｂ）に示した通り、本第３２制御例では、時短状態が設定される何れの大当たり種別に対しても、３種類の時短終了条件が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり種別に応じて、設定される時短終了条件の種類を異ならせるように構成しても良く、例えば、他の大当たり種別よりも時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の回数を極端に増加させることで遊技者に有利な時短状態を提供可能な特殊大当たり種別が設定された場合には、特図２カウンタ２０３ｔに対して数値を設定すること無く、時短カウンタ２０３ｈの値に「１０００」を設定するように構成しても良い。また、小当たりカウンタ２０３ｓに対して数値が設定されない大当たり種別を設けることによって、時短状態中において小当たり当選後に実行される小当たり遊技中にＶ入賞させなくても時短状態が継続するように構成しても良い。
【９７９３】
　さらに、本第３２制御例では、時短終了条件が成立する要素として、特別図柄変動の実行回数（第２特別図柄変動の実行回数）と、小当たり当選回数と、の要素を用いているが、これに限ること無く、別の要素を用いて時短終了条件が成立するように構成しても良い。例えば、時短状態中に獲得し易くなる第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）の獲得数を計測するためのカウンタ（特図２保留獲得数カウンタ）を設け、特図２保留獲得数カウンタの値が所定条件（例えば、「４」）を満たした場合に、時短終了条件が成立するように構成しても良いし、特定回数目の第２特別図柄変動期間中に特図２保留数が上限となったことを契機として時短終了条件を成立させるように構成しても良い。また、時短状態が設定されてからの経過時間を計測する時間計測手段を設け、その時間計測手段によって計測された経過時間が所定条件を満たした場合に、時短終了条件が成立するように構成しても良いし、特別図柄抽選が実行される毎に、時短終了条件を成立させるか否かを決定する終了抽選を実行し、その終了抽選に当選した場合に時短終了条件を成立させるように構成しても良い。
【９７９４】
　このように、様々な時短終了条件を成立させることが可能となるように構成することで、時短状態が継続する期間を遊技者に把握させ難くすることができるため、時短状態中の遊技を行っている遊技者に対して、特図２保留を獲得していない状態（少ない特図２保留

を獲得している状態）で時短状態が終了してしまうことを防ぐために、常に、特図２保留が上限数となるように意欲的に遊技を行わせることができ、遊技の稼働を向上させ易くすることができる。

【９７９５】

また、本第３２制御例では、第２特別図柄変動が実行される毎に、時短カウンタ２０３ｈの値、特図２カウンタ２０３ｔの値を一定数（「１」）減算するように構成しているが、例えば、第２特別図柄抽選の結果が特定の外れ結果である場合には、時短カウンタ２０３ｈの値、特図２カウンタ２０３ｔの値を減算しないように構成しても良い。つまり、実行される特別図柄抽選の結果が同一であったとしても、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１の値に応じて、時短終了条件の成立有無を判別するために参照される各種カウンタの値の更新内容を異ならせるように構成しても良い。

【９７９６】

このように構成することで、時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果を把握したとしても時短状態が終了するタイミングを遊技者に予測させ難くすることができる。

【９７９７】

また、主制御装置１１０の実行する各種処理の処理内容によって成立し得る終了条件が成立した場合に、時短カウンタ２０３ｈの値を減算するように構成してもよい。具体的には、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で実行される各図柄抽選の抽選結果が所定の抽選結果（例えば、特殊外れ当選）となった場合、或いは、普通図柄抽選の結果が所定の抽選結果（例えば、特殊普図当たり当選）となった場合にも、時短カウンタ２０３ｈの値を減算させるように構成しても良い。

【９７９８】

加えて、本制御例では、時短カウンタ２０３ｈの値を１ずつ減算するように構成しているが、成立した終了条件の種別に応じて、時短カウンタ２０３ｈの値を複数まとめて（例えば、２）減算するように構成しても良いし、現状の時短カウンタ２０３ｈの値に関わらず、時短カウンタ２０３ｈの値が「０」になるように減算するように構成しても良い。このように構成することで、時短状態がいつまで継続するのかを遊技者に分かり難くすることができ、時短状態中の遊技に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【９７９９】

さらに、時短状態が設定される条件の成立内容（大当たり種別）に応じて、時短状態を終了させる条件を異ならせても良い。これにより、遊技者に対して、大当たり遊技を実行させることだけでは無く、実行された大当たり遊技に対応する大当たり種別に対しても興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【９８００】

開放シナリオテーブル２０２ｇは、主制御装置１１０によって動作制御される各種機構（第１可変入賞装置６５、第２可変入賞装置６５０、電動役物６４０ａ）に対する動作態様が規定されているデータテーブルであって、上述した各種機構を動作させるための動作条件が成立した場合に、実行する動作制御に対応する開放シナリオを設定する際に参照される。

【９８０１】

変動パターンシナリオテーブル２０２ｈは、遊技状態や大当たり遊技終了後からの特別図柄変動回数に対応させて、実行される特別図柄変動の変動パターンを決定する際に参照されるテータテーブルを規定しているものである。

【９８０２】

ここで、図９５８を参照して、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈの内容について説明をする。図９５８は、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈの内容を模式的に示した図である。図９５８に示した通り、変動パターンシナリオテーブル２０２ｈには、大当たり遊技終了後の変動回数（特図１変動回数、特図２変動回数、合算回数）と、遊技状態に対して、各種変動パターンテーブルが規定されている。

【９８０３】

このように構成することで、複数の時短終了条件が設定される時短状態中であっても、例えば、特図１変動の変動回数に関わらず、時短状態の最終変動となる特図２変動にて時短最終変動用の変動パターンテーブルを参照して変動パターンを決定することができる。

【９８０４】

これに限ること無く、同一の条件である場合に異なる変動パターンテーブルを決定可能となるよう構成しても良く、例えば、抽選によって、決定する変動パターンシナリオテーブルを決定可能に構成しても良い。

【９８０５】

図９５０に戻り、説明を続ける。ＲＡＭ２０３は、図９５０に図示した各種カウンタのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。

【９８０６】

なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【９８０７】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図９７８参照）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図９７７参照）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図９７６参照）が即座に実行される。

【９８０８】

また、ＲＡＭ２０３は、図９５２（ｂ）に示すように、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａ、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃ、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆ、遊技状態格納エリア２０３ｇ、時短カウンタ２０３ｈ、大当たり開始フラグ２０３ｊ、大当たり中フラグ２０３ｋ、小当たり種別格納エリア２０３ｍ、小当たり開始フラグ２０３ｎ、小当たり中フラグ２０３ｏ、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐ、Ｖフラグ２０３ｑ、Ｖ通過フラグ２０３ｒ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔ、その他メモリエリア２０３ｚを有している。

【９８０９】

第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａは、図９５１に示すように１つの実行エリアと、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）とを有しており、これらの各エリアには、第１入球口６４に遊技球が入球したことに基づいて取得された入賞情報（第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、小当たり種別カウンタＣ５、停止種別選択カウンタＣ３、変動種別カウンタＣＳ１の各値）がそれぞれ格納される。

【９８１０】

より具体的には、遊技球が第１入球口６４へと入球（始動入賞）したタイミングで、各カウンタＣ１～Ｃ５、ＣＳ１の各値が取得され、その取得されたデータが、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）の空いているエリアの中で、エリア番号（第１～第４）の小さいエリアから順番に記憶される。つまり、エリア番号の小さいエリアほど、時間的に古い始動入賞に対応するデータが記憶され、保留第１エリアには、時間的に最も古い入賞に対応するデータが記憶される。尚、４つの保留エリアの全てにデータが記憶されている場合には、新たに何も記憶されない。

【９８１１】
その後、主制御装置１１０において、特別図柄の抽選が行われる場合には、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの保留第１エリアに記憶されている各カウンタＣ１～Ｃ５、ＣＳ１の各値（入賞情報）が、実行エリアへシフトされ（移動させられ）、その実行エリアに記憶された各カウンタＣ１～Ｃ５、ＣＳ１の各値に基づいて、特別図柄の抽選などの判定が行われる。
【９８１２】
尚、保留第１エリアから実行エリアへデータをシフトすると、保留第１エリアが空き状態となる。そこで、他の保留エリア（保留第２エリア～保留第４エリア）に記憶されている入賞のデータを、エリア番号の１小さい保留エリア（保留第１エリア～保留第３エリア）に詰めるシフト処理が行われる。本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａにおいて、始動入賞のデータが記憶されている保留エリア（第２保留エリア～第４保留エリア）についてのみデータのシフトが行われる。
【９８１３】
第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂは、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに対して、第２入球口６４０への始動入賞に対して取得されたカウンタ値がそれぞれ記憶される点と、保留エリアの個数を１つに変更した点で異なるのみで、その他の構成については、同一であるので、詳細な説明については省略する。
【９８１４】
普通図柄保留球格納エリア２０３ｃは、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａと同様に、１つの実行エリアと、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）とを有している。これらの各エリアには、第２当たり乱数カウンタＣ４が格納される。
【９８１５】
より具体的には、遊技球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過したタイミングで、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が取得され、その取得されたデータが、４つの保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）の空いているエリアの中で、エリア番号（第１～第４）の小さいエリアから順番に記憶される。つまり、第１特別図柄１保留球格納エリア２０３ａと同様に、始動入賞した順序が保持されつつ、入賞に対応するデータ（普図入賞情報）が格納される。尚、４つの保留エリアの全てにデータが記憶されている場合には、新たに何も記憶されない。
【９８１６】
その後、主制御装置１１０において、普通図柄の当たりの抽選が行われる場合には、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃの保留第１エリアに記憶されている第２当たり乱数カウンタＣ４の値が、実行エリアへシフトされ（移動させられ）、その実行エリアに記憶された第２当たり乱数カウンタＣ４の値に基づいて、普通図柄の当たりの抽選などの判定が行われる。
【９８１７】
尚、保留第１エリアから実行エリアへデータをシフトすると、保留第１エリアが空き状態となるので、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの場合と同様に、他の保留エリアに記憶されている入賞情報のデータを、エリア番号の１小さい保留エリアに詰めるシフト処理が行われる。また、データのシフトも、入賞情報のデータが記憶されている保留エリアについてのみ行われる。
【９８１８】
第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、第１入球口６４への入球（始動入賞）に基づいて第１図柄表示装置３７で行われる第１特別図柄（第１図柄）の変動表示（第３図柄表示装置８１で行われる変動表示）の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。この第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、初期値がゼロに設定されており、第１入球口６４へ球が入球して変動表示の保留球数が増加する毎に、最大値４まで１加算される（図９７０のＳ８０４参照）。一方、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄは、新たに特別図柄の変動表示が実行される毎に、１減算される（図９６４のＳ２１２

参照）。
【９８１９】
この第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（特別図柄における変動表示の保留回数Ｎ）は、第１特別図柄保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に通知される（図９６４のＳ２１３、図９７０のＳ８０５参照）。第１特別図柄保留球数コマンドは、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値が変更される度に、主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３に対して送信されるコマンドである。
【９８２０】
音声ランプ制御装置１１３は、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値が変更される度に、主制御装置１１０より送信される第１特別図柄保留球数コマンドによって、主制御装置１１０に保留された変動表示の保留球数そのものの値を取得することができる。これにより、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂによって管理される変動表示の保留球数が、ノイズ等の影響によって、主制御装置１１０に保留された実際の変動表示の保留球数からずれてしまった場合であっても、次に受信する保留球数コマンドによって、そのずれを修正することができる。
【９８２１】
なお、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドに基づいて保留球数を管理し、保留球数が変化する度に表示制御装置１１４に対して、保留球数を通知するための表示用保留球数コマンドを送信する。表示制御装置１１４は、この表示用保留球数コマンドによって通知された保留球数を基に、第３図柄表示装置８１の保留球数図柄（保留図柄）を表示する。
【９８２２】
第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅは、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄに対して、第２入球口６４０に始動入賞して、保留された保留球（特図２保留）の数が格納される点で相違する点で異なるので、その詳細な説明については省略する。なお、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値が変更されると、第２特別図柄保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置１１３に対して通知される。
【９８２３】
普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、普通始動口（スルーゲート）６７への遊技球の通過に基づいて第２図柄表示装置で行われる普通図柄（第２図柄）の変動表示の保留球数（待機回数）を最大４回まで計数するカウンタである。この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、初期値がゼロに設定されており、遊技球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過して変動表示の保留球数が増加する毎に、最大値４まで１加算される（図９７３のＳ１２０４参照）。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆは、新たに普通図柄（第２図柄）の変動表示が実行される毎に、１減算される（図９７２のＳ１１０５参照）。
【９８２４】
遊技球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過した場合に、この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（普通図柄における変動表示の保留回数Ｍ）が４未満であれば、第２当たり乱数カウンタＣ４の値が取得され、その取得されたデータが、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに記憶される（図９７３のＳ１２０６参照）。一方、遊技球が普通始動口（スルーゲート）６７を通過した場合に、この普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値が４であれば、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃには新たに何も記憶されない（図９７３のＳ１２０３：Ｎｏ）。
【９８２５】
遊技状態格納エリア２０３ｇは、現在設定されている遊技状態を一時的に格納するための記憶領域であって、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態（時短カウンタ２０３ｈの設定状況、小当たりカウンタ２０３ｓの設定状況、特図２カウンタ２０３ｔの設定状況）に対応した遊技状態が記憶される。具体的には、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔの値が０である場合に通常状態が記憶され、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔの値として０よ

りも大きい値が設定されている場合に時短状態が記憶される。
【９８２６】
さらに、大当たり遊技が実行されている状態では、大当たり遊技が実行されている状態であることを示す大当たり遊技状態（大当たり状態）と、実行されている大当たり遊技に対応する大当たり種別を示す種別情報も記憶されるように構成されており、小当たり遊技が実行されている状態では、小当たり遊技が実行されている状態であることを示す小当たり遊技状態（小当たり状態）と、実行されている小当たり遊技に対応する小当たり種別を示す種別情報（対応する大当たり種別に関する種別情報）も記憶されるように構成されている。加えて、普図当たり遊技の実行中であることを示す普図当たり遊技中情報も記憶されるように構成されている。
【９８２７】
そして、遊技状態格納エリア２０３ｇに格納（記憶）された情報に基づいて、状態コマンドが設定され、その状態コマンドが音声ランプ制御装置１１３へと出力される。音声ランプ制御装置１１３では出力された状態コマンドを受信し、従遊技状態格納エリア２２３ｇに一時的に、現在の遊技状態に関する情報を記憶する。
【９８２８】
この遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶された情報は、パチンコ機１０の電源が断された場合であっても、その情報を保持可能に構成されており、パチンコ機１０の電源を入れた際に実行される立ち上げ処理（図９７７参照）において、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に対応する状態コマンドを設定するように構成している。
【９８２９】
これにより、停電等によりパチンコ機１０の電源が断された場合であっても、現在の遊技状態を音声ランプ制御装置１１３側が判別可能にすることができる。
【９８３０】
時短カウンタ２０３ｈは、普通図柄の高確率状態が設定されている状態を示すためのカウンタであって、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に対応する値が設定される。この時短カウンタ２０３ｈには、主制御装置１１０にて実行される大当たり制御処理（図９７９のＳ１８０４参照）おいて、エンディング期間の終了タイミングと判別された場合に（図９７９のＳ１９１３：Ｙｅｓ）、実行中の大当たり遊技の大当たり種別に対応した値が設定される（図９７９のＳ１９１５参照）。そして、大当たり図柄が停止表示された場合（図９６４のＳ２２０参照）や、これにより、大当たり遊技中は普通図柄の高確率状態が設定されないため、大当たり遊技中において遊技者に過度な特典を付与してしまうことを抑制することができる。
【９８３１】
なお、本第３２制御例では、普通図柄の高確率状態が設定されると、時短カウンタ２０３ｈの値がセットされ、特別図柄抽選（変動）に基づいて、時短カウンタ２０３ｈの値が減算され、時短カウンタ２０３ｈの値が０となった場合に、普通図柄の高確率状態が終了し、普通図柄の低確率状態へと移行するように構成している。また、後述する小当たりカウンタ２０３ｓの値が０となった場合（図９６９のＳ７０３：Ｙｅｓ）、特図２カウンタの値が０となった場合（図９６８のＳ６１１：Ｙｅｓ）、即ち、他の時短終了条件が成立した場合にも０にクリアされる。このように構成することで、１の時短終了条件が成立した場合において時短カウンタ２０３ｈの値として０よりも大きな値が保持されてしまい、通常状態が設定されているにも関わらず、時短終了条件が成立してしまうという不具合を抑制することができる。
【９８３２】
なお、本第３２制御例では、時短状態中に実行される特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり遊技が開始されるよりも前に通常状態を設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、次回の大当たり遊技が実行されるまで（大当たり当選するまで）は、普通図柄の高確率状態が継続するように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技中も普通図柄の高確率状態を継続させることができるため、右

打ち遊技によって第１可変入賞装置６５へと遊技球を入球させる遊技と、第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技と、を並行して実行させることができる。

【９８３３】

また、本第３２制御例では、時短状態中に実行される特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり遊技が開始されるよりも前に通常状態を設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、小当たり遊技が終了するまでは、普通図柄の高確率状態が継続するように構成しても良い。このように構成することで、小当たり遊技中も普通図柄の高確率状態を継続させることができるため、右打ち遊技によって第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入球させる遊技と、第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技と、を並行して実行させることができる。よって、時短状態が設定されてから新たな特図２保留を獲得するよりも前に小当たり遊技が開始された場合であっても、小当たり遊技中に新たな特図２保留を獲得することが可能となる。

【９８３４】

大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりを開始させるか否かを示すフラグである。この大当たり開始フラグ２０３ｊがオンであれば、大当たりを開始させるタイミングであることを意味し、オフであれば、大当たりを開始させるタイミングではないことを意味する。この大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりを示す変動表示の終了タイミングとなった場合にオンに設定される（図９６４のＳ２１９参照）。また、大当たり開始フラグ２０３ｊは、大当たりの開始を設定した場合にオフに設定される（図９７９のＳ１９０３参照）。

【９８３５】

大当たり中フラグ２０３ｋは、大当たり遊技（特別遊技状態）中であるか否かを示すフラグである。この大当たり中フラグ２０３ｋがオンであれば、大当たり遊技中であることを意味し、オフであれば大当たり遊技中でないことを意味する。大当たり中フラグ２０３ｋは、特別図柄の抽選により大当たり当選し、大当たり遊技（特別遊技状態）が開始されると共にオンに設定される（図９７９のＳ１９０４参照）。また、大当たり遊技（特別遊技状態）の終了時にオフに設定される（図９７９のＳ１９１９参照）。そして、特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）では、この大当たり中フラグ２０３ｋが参照されて、大当たり中であるか否かが判別される（図９６４のＳ２０１参照）。

【９８３６】

小当たり種別格納エリア２０３ｍは、当選した小当たりに設定される小当たり種別を一時的に格納するための記憶領域であって、小当たりに当選したと判別した場合に（図９６６のＳ４０９：Ｙｅｓ）、取得した小当たり種別が一時的に格納される。そして、小当たり遊技を開始させるために実行される小当たり開始設定処理（図９６７のＳ２２３参照）において、格納した小当たり種別が読み出され、読み出した小当たり種別に対応した開放シナリオが設定される（図９６７のＳ５０１参照）。また、読み出した小当たり種別に対応する大当たり種別がＶ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐに格納される（図９６７のＳ５０２参照）。

【９８３７】

小当たり開始フラグ２０３ｎは、小当たり遊技の開始タイミングであることを示すフラグである。特別図柄抽選の抽選結果が小当たり当選である特別図柄の変動が停止されるタイミングでオンに設定される（図９６７のＳ５０４参照）。小当たり開始フラグ２０３ｎがオンであることが判別されて、小当たり遊技の開始タイミングであると判別されるとオフに設定される（図９８０のＳ２００３参照）。この小当たり開始フラグ２０３ｎは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【９８３８】

小当たり中フラグ２０３ｏは、小当たり遊技中であることを示すフラグである。特別図柄抽選の抽選結果が小当たり当選である特別図柄の変動が停止されるタイミングでオンに

設定される（図９６７のＳ５０４参照）。一方、小当たりの終了タイミングであると判別された場合（設定されている小当たりのラウンド数の遊技が終了したと判別した場合）に、オフに設定される（図９８０のＳ２０１８参照）。この小当たり中フラグ２０３ｏは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【９８３９】

Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐは、小当たり遊技が実行されている場合に、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０に入賞した遊技球が特定領域（Ｖスイッチ６５０ｅ３）により検知された場合に設定される大当たり種別を判別するためのデータが記憶される記憶エリアである。Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐは、特別図柄抽選の抽選結果が小当たり当選である特別図柄の変動が停止する場合に、判定されている小当たり種別に対応した大当たり種別に対応するデータ値が記憶される（図９６７のＳ５０２参照）。第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０内の特別排出流路６５０ｅ２を球が流下し、特定領域（Ｖスイッチ６５０ｅ３）により遊技球が検知されると、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐに記憶されているデータ値に対応する大当たり種別に対応するＶフラグ２０３ｑがオンに設定されるように構成されている。小当たり遊技の終了時に、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐに記憶されているデータ値がクリアされるように構成されている。このＶ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【９８４０】

Ｖフラグ２０３ｑは、小当たり遊技中に第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０内の特別排出流路６５０ｅ２を遊技球が流下し、特定領域（Ｖスイッチ６５０ｅ３）により遊技球が検知された場合に、実行している小当たり遊技の種別に対応した大当たり種別に対応したフラグがオンに設定されるものである。小当たり遊技の終了時に、このＶフラグ２０３ｑがオンであるかを判別し（図９８０のＳ２０１３参照）、Ｖフラグ２０３ｑがオンであると判別した場合に（図９８０のＳ２０１３：Ｙｅｓ）、オンに設定されているフラグより実行される大当たり種別が判別されて対応する大当たり遊技の開始が設定される（図９８０７のＳ２０１５参照）。このＶフラグ２０３ｑは、ＲＡＭクリア等の初期状態では、オフに設定されるフラグであり、電断等が発生した場合には、電断等の発生直前の状態がバックアップされることにより保持されるように構成されている。

【９８４１】

Ｖ通過フラグ２０３ｒは、小当たり遊技中において、Ｖフラグ２０３ｑがオンに設定されている状態を判別するために用いられるフラグであって、Ｖフラグ２０３ｑがオンに設定されている場合にオンに設定される。第３２制御例では、小当たり遊技中において第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置６５０）に入賞した遊技球の殆どが特別排出流路６５０ｅ２を流下するように構成されており、特別排出流路６５０ｅ２に最初に入賞した遊技球に対応したＶ通過処理（図９７５のＳ１０９参照）においてオンに設定される（図９７５のＳ１４０７参照）。

【９８４２】

そして、Ｖ通過処理（図９７５のＳ１０９参照）では、Ｖ通過フラグ２０３ｒがオンに設定しているか判別し（図９７５のＳ１４０１）、オンに設定していると判別した場合は（図９７５のＳ１４０１：Ｙｅｓ）、Ｖ通過処理（図９７５のＳ１０９参照）のうちＳ１４０２～Ｓ１４０９の処理をスキップするように構成している。これにより、１回の小当たり遊技中にと規定領域（Ｖスイッチ６５０ｅ３）が複数の遊技球を検知した場合であっても、最初に検知した遊技球に対応したＶ通過処理のみが実行されることになる。よって、小当たり遊技中に実行される処理を簡素化することが出来ると共に、音声ランプ制御装置１１３へＶ通過コマンドを複数回送信してしまい、音声ランプ制御装置１１３側でのＶ通過管理は煩雑になることを抑制することができる。

【９８４３】
小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態中に実行される特別図柄抽選で小当たり当選した回数を計測するためのカウンタであって、小当たり当選回数に基づいて成立する時短終了条件の成立有無を判別する際に参照される。この小当たりカウンタ２０３ｓには、大当たり制御処理（図９７９のＳ１８０４）において、エンディング期間の終了タイミング（大当たり遊技の終了タイミング）であると判別された場合に（図９７９のＳ１９１３：Ｙｅｓ）、時短付与テーブル２０２ｅに規定されている値が設定される（図９７９のＳ１９１５）。
【９８４４】
そして、特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４）の時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）にて実行される小当たり時短更新処理（図９６９のＳ６１５参照）にて、小当たり当選したと判別した場合に（図９６９のＳ７０１：Ｙｅｓ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０であると判別されると（図９６９のＳ７０３：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図９６９のＳ７０４）。なお、第３２制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、特別図柄変動回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に設定（リセット）される（図９６８のＳ６０６）。このように、複数の時短終了条件のうち、小当たりカウンタ２０３ｓの値を参照した時短終了条件以外の時短終了条件が成立した場合であっても、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず小当たりカウンタ２０３ｓの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。
【９８４５】
特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の実行回数を計測するためのカウンタであって、第２特別図柄変動回数に基づいて成立する時短終了条件の成立有無を判別する際に参照される。この特図２カウンタ２０３ｔには、大当たり制御処理（図９７９のＳ１８０４）において、エンディング期間の終了タイミング（大当たり遊技の終了タイミング）であると判別された場合に（図９７９のＳ１９１３：Ｙｅｓ）、時短付与テーブル２０２ｅに規定されている値が設定される（図９７９のＳ１９１５）。
【９８４６】
そして、特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４）の時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）にて、今回実行された特別図柄変動の種別が第２特別図柄変動であると判別した場合に（図９６８のＳ６０８：Ｙｅｓ）、カウンタの値が１減算される。減算した後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０であると判別されると（図９６８のＳ６１１：Ｙｅｓ）、時短終了条件が成立するため、遊技状態として通常状態が設定される（図９６８のＳ６１２）。なお、第３２制御例は、時短状態を終了させるための時短終了条件を複数設定しており、その何れの時短終了条件が成立した場合であっても（例えば、特別図柄変動回数に基づく時短終了条件が成立した場合であっても）、特図２カウンタ２０３ｔの値が０に設定（リセット）される（図９６８のＳ６０６）。このように、複数の時短終了条件のうち、特図２カウンタ２０３ｔの値を参照した時短終了条件以外の時短終了条件が成立した場合であっても、特図２カウンタ２０３ｔの値が０に設定（リセット）されるため、時短状態が終了したにも関わらず特図２カウンタ２０３ｔの値を減算する処理が継続されてしまう事態を抑制することができる。また、複数の時短終了条件のうちどの時短終了条件が成立したとしても、時短状態を終了させる際に時短終了条件の成立を判別する際に用いる各種カウンタの値を初期値（０）に設定するように構成しているため、時短状態を終了させた後の処理が煩雑になることを抑制することができる。
【９８４７】

その他メモリエリア２０３ｚは、遊技に必要なその他のデータや、カウンタ、フラグ等が設定（記憶）される。

【９８４８】

図９５０に戻って説明を続ける。払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【９８４９】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【９８５０】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【９８５１】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【９８５２】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【９８５３】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２、選択ボタン６００、などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には、パチンコ機１０に設けられる演出用の駆動役物を動作させるための各種駆動モータが含まれる。

【９８５４】
音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。
【９８５５】
また、音声ランプ制御装置１１３に接続されている枠ボタン２２は、演出ボタン２２ａを有しており、音声ランプ制御装置１１３は、演出ボタン２２ａからの入力を監視し、遊技者によって演出ボタン２２ａが操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた後面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた後面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、後面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の後面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。
【９８５６】
なお、遊技者によって演出ボタン２２ａが操作された場合に、図示しない演出用の役物を駆動させるためにその他装置２２８へ役物駆動コマンドを送信したり、演出ボタン２２ａへの操作内容に対応した音声を音声出力装置２２６に出力させるための音声出力コマンドを設定したり、演出ボタン２２ａへの操作内容に対応した発光態様でランプ表示装置２２７を発光させるためのランプ出力コマンドを設定したりするように構成しても良い。
【９８５７】
さらに、音声ランプ制御装置１１３に接続されている選択ボタン６００は、図９３１に示した通り、中ボタン６００ａ、上ボタン６００ｂ、右ボタン６００ｃ、下ボタン６００ｄ、左ボタン６００ｅを有しており、音声ランプ制御装置１１３は、選択ボタン６００に含まれる各ボタンからの入力を監視し、入力された内容に応じて、遊技環境を変更するための処理を実行すると共に、遊技環境を変更するための表示内容や、変更後の遊技環境を示すための表示内容を表示制御装置１１４へ指示する。
【９８５８】
また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。
【９８５９】
音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０からのコマンドや、音声ランプ制御装置１１３に接続された各種装置等の状況に応じてエラーを判定し、そのエラーの種別を含めてエラーコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４では、受信したエラーコマンドによって示されるエラー種別（例えば、振動エラー）に応じたエラーメッセージ画像を第３図柄表示装置８１に遅滞無く表示させる制御が行われる。
【９８６０】
ここで、本第３２制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２に規定されている内容について説明をする。音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２には、図９５９（ａ）に示すように、変動パターン選択テーブル２２２ａと、討伐数選択テーブル２２２ｂと、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃと、追加減少値選択テーブル２２２ｄと、演出ステージデータテーブル２２２ｅと、遊技環境データテーブル２２２ｆと、が少なくとも記憶されている。
【９８６１】
変動パターン選択テーブル２２２ａは、図示しない変動パターン選択用のカウンタ値に

各変動パターンの種別（ど外れ、リーチ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【９８６２】

討伐数選択テーブル２２２ｂは、大当たり遊技中に実行される討伐演出における初期段階の敵総数を決定する際に参照されるデータテーブルであって、通常状態で実行された第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（初回大当たり遊技）のオープニング期間にて参照される（図９８９のＳ３８０３参照）。

【９８６３】

ここで、討伐数選択テーブル２２２ｂに規定されている内容について、図９６０（ａ）を参照して詳細に説明をする。図９６０（ａ）は、討伐数選択テーブル２２２ｂに規定されている内容を模式的に示した図である。図９６０（ａ）に示した通り、討伐数選択テーブル２２２ｂは、実行される大当たり遊技に設定されている大当たり種別と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値と、に対応させて異なる討伐数が規定されている。

【９８６４】

具体的には、大当たり種別が、時短大当たりに対応する「大当たりＡ、大当たりＣ」であって、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４４」の範囲に対して、討伐数「１０００」が、「４５～８９」の範囲に対して、討伐数「７７７」が、「９０～９９」の範囲に対して、討伐数「５００」が、それぞれ規定されている。また、大当たり種別が、通常大当たりに対応する「大当たりＢ」であって、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、討伐数「１０００」が、「８０～９９」の範囲に対して、討伐数「５００」が、それぞれ規定されている。

【９８６５】

つまり、討伐演出が開始された際に表示される討伐数（敵の総数）が「１０００」である場合の方が、「５００」である場合よりも、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される可能性が高くなるように各討伐数の決定割合を規定している。このように構成することで、討伐演出が開始された時点で、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を予測させることが可能となる。

【９８６６】

また、時短大当たりに対応する大当たり種別が設定されている場合のみ、討伐数「７７７」を決定可能に討伐数選択テーブル２２２ｂの内容を規定しているため、討伐演出として「７７７」体の敵を討伐する演出態様が決定された場合には、討伐演出が終了するのを待たずして、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることを遊技者に報知することができる。このように、大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態を、大当たり遊技が終了するまでに遊技者に報知する演出（討伐演出）を実行する場合において、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に時短状態（遊技者に有利となる遊技状態）が設定されることを報知するタイミングが様々なタイミングで到来するように構成することで、大当たり遊技中に実行される討伐演出を遊技者が常に注視することになるため、演出効果を高めることができる。

【９８６７】

討伐演出態様選択テーブル２２２ｃは、討伐演出における演出シナリオを決定する際に参照されるデータテーブルであって、通常状態で実行された第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（初回大当たり遊技）のオープニング期間にて参照される（図９８９のＳ３８０３参照）。

【９８６８】

ここで、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃに規定されている内容について、図９６０

（ｂ）を参照して説明をする。図９６０（ｂ）は、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃに規定されている内容を模式的に示した図である。図９６０（ｂ）に示した通り、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃには、大当たり種別、討伐数選択テーブル２２２ｂを参照して決定された討伐数、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値に対応させて、異なるシナリオ種別が規定されている。そして、各シナリオ種別には、討伐演出シナリオとして、討伐演出中に実行される５回の攻撃演出のそれぞれにおいて減少させることが可能な敵数（残敵数）の上限値と、討伐演出の演出結果として表示させることが可能な残敵数の最小値と、が規定されている。

【９８６９】

具体的には、大当たり種別が、時短大当たりに対応する「大当たりＡ、大当たりＣ」であり、討伐数が「１０００」、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～４９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別１」が、「５０～７９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別２」が、「８０～９９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別３」が規定されている。また、討伐数が「７７」の場合は、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～９９」の全範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別４」が規定されている。そして、討伐数が「５００」、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～４９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別５」が、「５０～７９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別６」が、「８０～９９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別７」が規定されている。

【９８７０】

一方、大当たり種別が、通常大当たりに対応する「大当たりＢ」であり、討伐数が「１０００」、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～５９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別８」が、「６０～８９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別９」が、「９０～９９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別１０」が規定されている。そして、討伐数が「５００」、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～５９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別１１」が、「６０～７９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別１２」が、「８０～９９」の範囲に対して、討伐演出シナリオとして「シナリオ種別１３」が規定されている。

【９８７１】

ここで、図９３４から図９３７を参照して上述した通り、討伐演出が実行されると、５回の攻撃演出が実行され、各攻撃演出において、遊技者が演出ボタン２２ａを押下することで敵を減少させる演出が実行されるように構成している。また、各攻撃演出において、遊技者が演出ボタン２２ａを押下しなかった場合には、攻撃演出終了後（ラウンド遊技終了後）に設定されるインターバル期間において、敵数を減少させるための追加攻撃演出を実行可能に構成している。

【９８７２】

本第３２制御例では、討伐演出中に実行される各攻撃演出において減少させることが可能な敵数（残敵数）の上限を、討伐演出シナリオに基づいて予め決定するように構成しているため、敵数の減少度合いが偏った討伐演出が実行されてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【９８７３】

加えて、各攻撃演出の終了後に表示される残敵数をシナリオ管理するのでは無く、各攻撃演出の終了後に表示され得る最小の残敵数のみをシナリオ管理し、実際に表示される残敵数に幅を持たせるように構成しているため、予め規定されているシナリオ種別の個数よりも多くの演出パターンで討伐演出を実行することができるため、演出効果を高めることができる。

【９８７４】

さらに、本第３２制御例では、攻撃演出中において遊技者が演出ボタン２２ａを押下す

るか否かに応じて、敵数を減少させるための演出態様を異ならせるように構成し、且つ、実行される演出態様によって、攻撃後の残敵数として表示される敵数を異ならせるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下するか否かを選択させる楽しみを提供することができる。

【９８７５】

追加減少値選択テーブル２２２ｄは、討伐演出における各攻撃演出において、遊技者が演出ボタン２２ａを押下すること無く、インターバル期間中に追加攻撃演出が実行される場合に参照されるデータテーブルであって、初回インターバル中演出処理（図９９２のＳ３８０９参照）にて参照される。この追加減少値選択テーブル２２２ｄを参照して、追加攻撃演出にて減少させる敵数が決定される。

【９８７６】

ここで、図９６１を参照して追加減少値選択テーブル２２２ｄに規定されている内容について説明をする。図９６１は、追加減少値選択テーブル２２２ｄに規定されている内容を模式的に示した図である。図９６１に示した通り、追加減少値選択テーブル２２２ｄには、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃを参照して決定されたシナリオ種別と、現在の残敵数（残討伐数カウンタ２２３ｊの値）と、討伐演出シナリオに規定されている敵数との差分数と、その差分の範囲における特定数（固有特定数、共通特定数）の有無と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値と、に対応させて、追加攻撃演出にて減少させる敵数（追加減少値）が規定されている。

【９８７７】

具体的には、シナリオ種別が「シナリオ種別１，８」であり、差分数が「４０１以上」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。また、差分数が「１０１～４００」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－５０」が規定されている。一方、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－５０」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８７８】

そして、差分数が「１００以下」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、「３０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。一方、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値＋１０」が規定されており、「３０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８７９】

シナリオ種別が「シナリオ種別２，３，９，１０」であり、差分数が「５１以上」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－２０」が規定されている。一方、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－２０」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８８０】

そして、差分数が「５０以下」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少

」が規定されており、「３０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。一方、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値＋１０」が規定されており、「３０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８８１】

シナリオ種別が「シナリオ種別５，１１，１２」であり、差分数が「２１以上」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－５」が規定されている。一方、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、追加減少値として「現状－５」が規定されており、「５０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８８２】

そして、差分数が「２０以下」で、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されており、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８８３】

シナリオ種別が「シナリオ種別６，７，１３」である場合には、差分数に関わらず、特定数が「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「特定数まで減少」が規定されており、特定数が「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～１９」の範囲に対して、追加減少値として「減少無し」が規定されており、「２０～９９」の範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。最後に、シナリオ種別が「シナリオ種別４」である場合には、差分数、及び、特定数の有無に関わらず、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、追加減少値として「決定値まで減少」が規定されている。

【９８８４】

演出ステージデータテーブル２２２ｅは、背景種別として設定可能な演出ステージに関する情報が予め規定されているデータテーブルであって、遊技環境として、決定されるモード種別（通常モード、アクティブモード、固定モード）に応じて、各ステージ種別（ウサギステージ、勇者ステージ）の移行条件が規定されている。本第３２制御例では、遊技の進行状況と、設定されているモード種別と、に基づいて、ステージ種別の移行条件が成立したかを判別し、ステージ変更を実行するように構成している。

【９８８５】

ここで、演出ステージデータテーブル２２２ｅに規定されている内容について、図９６２（ａ）を参照して説明をする。図９６２（ａ）は、演出ステージデータテーブル２２２ｅに規定されている内容を模式的に示した図である。図９６２（ａ）に示した通り、演出ステージデータテーブル２２２ｅには、モード種別と、ステージ種別に対応させてステージ種別の移行条件が規定されており、大まかには、アクティブモードが設定されている場合が最もステージ種別の移行条件が成立し易く、通常モードが設定されている場合はアクティブモードよるも移行条件が成立し難く、固定モードが設定されている場合は、移行条件が成立しないように各内容が規定されている。

【９８８６】

具体的には、モード種別が「通常」であって、ステージ種別が「ウサギ」に対しては、ステージ種別の移行条件として、「特図変動５０回」、又は「大当たり変動開始の一部（低確率）」が規定されており、ステージ種別が「勇者」に対しては、ステージ種別の移行条件として、「特図変動５０回」、又は「大当たり変動開始の一部（低確率）」が規定さ

れている。また、モード種別が「アクティブ」であって、ステージ種別が「ウサギ」に対しては、ステージ種別の移行条件として、「特図変動２０回」、又は「大当たり変動開始の一部（高確率）」、「特図移行条件が成立した特図変動開始から５秒後」が規定されており、ステージ種別が「勇者」に対しては、ステージ種別の移行条件として、特図変動２０回」、又は「大当たり変動開始の一部（高確率）」が規定されている。そして、モード種別が「固定」に対しては、ステージ種別に関わらず移行条件が既定されていない。

【９８８７】

ここで、各移行条件について説明をする。「特図変動５０回」とは、ステージ種別が設定されてから実行された特別図柄変動の実行回数が５０回に到達した場合に成立する移行条件（特図変動移行条件）である。つまり、通常モードが設定されている場合は、特別図柄変動が５０回実行される毎に、ステージ種別を変更させるためのステージ変更演出が実行されることになる。なお、本第３２制御例では、特図変動移行条件として、設定されているモード種別に対して、固定の回数を予め規定しているが、これに限ること無く、所定の範囲の特図変動回数（例えば、１０回～５０回）を抽選で決定する手段を設け、その手段によって決定された特図変動回数を特図変動移行条件として設定可能に構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して、どのタイミングでステージ変更演出が実行されるかを予測させ難くすることができる。

【９８８８】

また、この場合、設定されているモード種別に応じて抽選にて決定される特図変動回数を異ならせるように構成し、移行条件が成立し難いモード種別（例えば、「通常モード」）の方が、移行条件が成立し易いモード種別（例えば、「アクティブモード」）よりも多い回数の特図変動回数が抽選で決定され易くなるように、設定されているモード種別に応じて異なるデータテーブルを用いた抽選が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者が任意に設定したモード種別（ステージ変更演出の実行頻度）に応じた間隔でステージ変更演出を実行させ易くすることができる。

【９８８９】

移行条件の１つである「大当たり変動開始の一部」とは、特別図柄変動の開始に基づいて設定される第３図柄の変動表示を設定するための変動演出設定処理（図９９５のＳ４３０４参照）において、大当たり当選する特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様として、ステージ変更演出を伴う演出態様が決定された場合に成立する移行条件（当たり変動移行条件）である。詳細な説明は省略するが、本第３２制御例では、図９９５のＳ４４０４の処理において、設定されているモード種別と、抽選結果（大当たり当選）と、変動パターンとに基づいて、ステージ変更演出と伴う演出態様が決定されるように構成しており、移行条件が成立し難いモード種別（例えば、「通常モード」）の方が、移行条件が成立し易いモード種別（例えば、「アクティブモード」）よりも、ステージ変更演出を伴う演出態様が決定され難くなるように構成している。

【９８９０】

このように構成することで、特図変動移行条件が成立していない状態であっても、当たり変動移行条件が成立したことによりステージ変更演出を実行させることができるため、遊技者に意外性のあるタイミング、例えば、連続して実行される２回の特別図柄変動にてステージ変更演出を実行させることができる。さらに、当たり変動移行条件は大当たり当選した場合のみ成立するように構成しているため、意外性のあるタイミングでステージ変更演出が実行された場合に、大当たり当選への期待度を高めることができる。

【９８９１】

本第３２制御例では、特図変動移行条件として予め規定された回数を設定しているため、遊技者に対して、特図変動移行条件によってステージ変更演出が実行される間隔を把握させ易くすることができるため、当たり変動移行条件の成立に基づいて実行されるステージ変更演出を容易に把握させることができる。よって、大当たり当選をいち早く察知したい遊技者に対して、特図変動移行条件が成立する間隔を把握しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【９８９２】
さらに、移行条件の１つである「特図移行条件が成立した特図変動開始から５秒後」とは、特別図柄変動の開始に基づいて設定される第３図柄の変動表示を設定するための変動演出設定処理（図９９５のＳ４３０４参照）において、第３図柄の変動演出の演出態様として、特図変動中にステージ変更演出を実行させる演出態様が決定された場合に成立する移行条件（特図移行条件）である。
【９８９３】
なお、本第３２制御例では、上述した３つの移行条件を、ステージ変更演出を実行させるための条件として規定しているが、それ以外の移行条件を設定しても良く、特別図柄変動が実行されている状態で遊技者が操作手段（枠ボタン２２、選択ボタン６００）に対して操作を行うことでステージ変更演出を実行可能に構成しても良い。
【９８９４】
また、上述した通り、本第３２制御例では、同一のモード種別においても、設定されているステージ種別に応じて、異なる移行条件が規定されるように構成しており、具体的には、「ウサギステージ」の方が、「勇者ステージ」よりも移行条件が成立し易くなるように構成している。このように構成することで、設定されているステージ種別に基づいて、ステージ変更演出が実行された場合においてどの移行条件が成立したのかを予測する楽しみを向上させることができる。
【９８９５】
遊技環境データテーブル２２２ｆは、各遊技環境の内容が予め規定されているデータテーブルであって、遊技者によって遊技環境が選択された場合に、選択された遊技環境に対応するデータが読み出され、遊技環境格納エリア２２３ｕに格納される。
【９８９６】
さらに、固定モードが設定されている場合には、保留連が確定している状態において大当たり遊技終了後１回目の特別図柄変動が開始された場合の一部のみでステージ変更演出が実行されるように構成している。つまり、固定モードが設定されているにも関わらず、ステージ変更演出が実行された場合には、大当たり当選を遊技者に報知することになる。よって、固定モードを選択した遊技者、即ち、ステージ変更演出が実行されないことを所望する遊技者に対しても、大当たり当選という特典を付与することを条件にステージ変更演出を実行することで演出効果を高めると共に、ステージ変更演出が実行されたことによる不快感を軽減させることができる。
【９８９７】
次に、図９５９（ｂ）を参照して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３について説明する。図９５９（ｂ）に示すように、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、入賞情報格納エリア２２３ａ、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃ、変動開始フラグ２２３ｄ、停止種別選択フラグ２２３ｅ、演出カウンタ２２３ｆ（第１演出カウンタ２２３ｆ１、第２演出カウンタ２２３ｆ２）、従遊技状態格納エリア２２３ｇ、時短情報更新エリア２２３ｈ、討伐回数カウンタ２２３ｉ、残討伐数カウンタ２２３ｊ、特定数表示済フラグ２２３ｋ、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍ、賞球数カウンタ２２３ｎ、保留連フラグ２２３ｏ、ラウンド数カウンタ２２３ｐ、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑ、右打ちフラグ２２３ｒ、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓ、演出固定フラグ２２３ｔ、遊技環境格納エリア２２３ｕ、その他メモリエリア２２３ｚが少なくとも設けられている。
【９８９８】
入賞情報格納エリア２２３ａは、１つの実行エリアと、第１特別図柄に対応する４つのエリア（特図１用第１エリア～特図１用第４エリア）と、第２特別図柄に対応する１つのエリア（特図２用第１エリア）を有しており、これらの各エリアには、主制御装置１１０から出力された入賞情報がそれぞれ格納される。この入賞情報格納エリア２２３ａに格納される情報（入賞情報）により、特別図柄抽選が実行される前に入賞情報に基づく抽選結果等が音声ランプ制御装置１１３によって事前判別（先読み）される。この入賞情報格納

エリア２２３ａには、音声ランプ制御装置１１３のコマンド判定処理（図９８３のＳ３１１３参照）において、入賞情報コマンドを受信したと判別された場合に（図９８３のＳ３２０９：Ｙｅｓ）、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンド（入賞コマンド）に基づいた入賞情報に含まれる特別図柄種別に対応する第１エリアから順に格納されていく。なお、主制御装置１１０から送信される入賞情報コマンド（入賞コマンド）は、主制御装置１１０の先読み処理（図９７１のＳ８０７参照）が実行された場合に設定され、主制御装置１１０のメイン処理（図９７８参照）にて実行される外部出力処理（図９７８のＳ１８０１）によって音声ランプ制御装置１１３へと送信される。

【９８９９】

この入賞情報格納エリア２２３ａの各エリアに格納された各入賞情報は、音声ランプ制御装置１１３の変動表示設定処理（図９９４のＳ３１１４参照）が実行される毎に、１つずつシフト（第２エリアに格納されていた入賞情報を第１エリアに移行）される。これにより、主制御装置１１０から送信された入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が何時実行されるのかを、音声ランプ制御装置１１３側で確実に把握することができる。

【９９００】

また、入賞情報コマンドによって送信された入賞情報（特別図柄の先読み情報）を実行エリア（現在実行中の特別図柄変動に対応するエリア）までシフトさせることを可能に構成しているため、例えば、入賞情報コマンドを受信したことに基づいて、次に実行される特別図柄変動の開始タイミングから当該入賞情報コマンドに対応する特別図柄変動が終了するまでのタイミングまでの期間を用いた演出（所謂、先読み連続演出）を実行する際に、当該入賞情報コマンドに対応する入賞情報を上述した先読み連続演出が終了するまでの間、保持することができる。

【９９０１】

なお、第３２制御例では第１特別図柄に関する入賞情報（第１入球口６４に球が入球した場合に取得し得る情報）を４つまで保留記憶可能に構成しているため、入賞情報格納エリア２２３ａが実行エリア以外に、第１エリア～第４エリアを有するように構成しているが、例えば、第２入球口６４０に球が入球した場合に取得し得る入賞情報（第２特別図柄に関わる入賞情報）も４つまで保留記憶可能に構成した場合には、入賞情報格納エリア２２３ａに、実行エリア以外に、第１特別図柄用の４つのエリア（保留情報エリア）と、第２特別図柄用の４つのエリア（保留情報エリア）を設けるように構成すれば良い。

【９９０２】

特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂは、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄと同様に、第１図柄表示装置３７（および第３図柄表示装置８１）で行われる特別図柄変動の実行権利の保留記憶数を最大４回まで計数するカウンタである。即ち、第１特別図柄に対応する特図１保留の数が、主制御装置１１０より出力される保留球数コマンドに基づいて設定される。

【９９０３】

上述したように、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０に直接アクセスして、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３に格納されている第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を取得することができない。よって、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０から送信される保留球数コマンドに基づいて保留球数をカウントし、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂにて、その第１特別図柄の保留球数を管理するようになっている。

【９９０４】

具体的には、主制御装置１１０では、第１入球口６４への入球（始動入賞）によって第１特別図柄抽選の実行権利の保留記憶数（特図１保留数）が加算された場合、又は、主制御装置１１０において第１特別図柄抽選が実行されて特図１保留数が減算された場合に、加算後または減算後の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）を、音声ランプ制御装置１１３へ送信する。

【９９０５】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）を受信すると、その保留球数コマンド（特図１保留球数コマンド）から、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を取得して、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂに格納する（図９８４のＳ３３０１参照）。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂの値を更新するので、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄと同期させながら、その値を更新することができる。

【９９０６】

特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂの値は、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄（特図１保留球数を示すための表示態様）を決定する際に用いられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドの受信に応じて、そのコマンドにより示される特図１保留数を特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂに格納すると共に、格納後の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂの値を表示制御装置１１４に通知するべく、表示用保留球数コマンドを表示制御装置１１４に対して送信する。

【９９０７】

表示制御装置１１４では、この表示用保留球数コマンドを受信すると、そのコマンドにより示される特図１保留数の値、即ち、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂの値分の保留図柄を第３図柄表示装置８１に表示するように、画像の描画を制御する。上述したように、特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂは、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄと同期しながら、その値が変更される。従って、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄の数も、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値に同期させながら、変化させることができる。よって、第３図柄表示装置８１には、変動表示が保留されている保留球の数を正確に表示させることができる。

【９９０８】

なお、主制御装置１１０から送信される保留球数コマンドに含まれる情報としては、実際の保留球数、即ち、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す情報でも良いし、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値が１加算、或いは１減算されたことを示す情報でも良い。なお、保留球数コマンドとして第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値が１加算、或いは１減算されたことを示す情報を送信する場合には、音声ランプ制御装置１１３に受信した保留球数コマンドに含まれる情報に基づいて現在の保留球数を演算管理する演算手段を設ければ良い。

【９９０９】

特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃは、上述した特別図柄１保留球カウンタ２２３ｂに対して、カウントする対象を保留球数コマンドに含まれる第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）に変更した点で相違しているものであり、それ以外は同一であるため、詳細な説明は省略する。本第３２制御例では、特図２保留の上限数を１個としているため、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃが計測する値の上限数も１となる。

【９９１０】

この特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃによって計測された値は、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄（特図２保留球数を示すための表示態様）を決定する際に用いられる。即ち、音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドの受信に応じて、そのコマンドにより示される特図２保留数を特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃに格納すると共に、格納後の特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃの値を表示制御装置１１４に通知するべく、表示用保留球数コマンドを表示制御装置１１４に対して送信する。

【９９１１】

表示制御装置１１４では、この表示用保留球数コマンドを受信すると、そのコマンドにより示される特図２保留数の値、即ち、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃの値分の保留図柄を第３図柄表示装置８１に表示するように、画像の描

画を制御する。上述したように、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃは、主制御装置１１０の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅと同期しながら、その値が変更される。従って、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄の数も、主制御装置１１０の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値に同期させながら、変化させることができる。よって、第３図柄表示装置８１には、変動表示が保留されている保留球の数を正確に表示させることができる。

【９９１２】

さらに、本第３２制御例では、時短状態における第２特別図柄の最終変動期間中において、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることを促すためのチャージ演出（図９４１（ａ）参照）を実行するように構成しており、このチャージ演出が実行されている際中に、特図２保留の上限数を示す保留球数コマンドを受信したことに基づいて、新たに特図２保留を獲得することができない状態であることを示すための表示態様（「チャージ完了」）を表示可能に構成している。つまり、保留球数コマンドを受信したことに基づいて、獲得済みの特図２保留数を表示するだけでは無く、実行中の演出の演出態様を切り替えるように構成している。このように構成することで、様々な条件によって演出態様を切り替えることが可能となるため、演出効果を高めることができる。

【９９１３】

変動開始フラグ２２３ｄは、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドを受信した場合にオンに設定され（図９８３のＳ３２０２参照）、第３図柄表示装置８１における変動表示の設定がなされるときにオフに設定される（図９９４のＳ４３０２参照）。変動開始フラグ２２３ｃがオンになると、受信した変動パターンコマンドから抽出された変動パターンに基づいて、表示用変動パターンコマンドが設定される。

【９９１４】

ここで設定された表示用変動パターンコマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４では、この表示用変動パターンコマンドを受信することによって、この表示用変動パターンコマンドによって示される変動パターンで、第３図柄表示装置８１において第３図柄の変動表示が行われるように、その変動演出の表示制御が開始される。

【９９１５】

停止種別選択フラグ２２３ｅは、主制御装置１１０から送信される停止種別コマンドを受信した場合にオンされ（図９８３のＳ３２０５参照）、第３図柄表示装置８１における停止種別の設定がなされるときにオフされる（図９９４のＳ４３０７参照）。停止種別選択フラグ２２３ｄがオンになると、受信した停止種別コマンドから抽出された停止種別（大当たりの場合には大当たり種別）に基づいて、表示用停止種別が設定される（図９９４のＳ４３０９参照）。

【９９１６】

演出カウンタ２２３ｆは、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行される各種演出の演出内容を決定する際の抽選に使用されるカウンタであって、図示は省略したが、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行するメイン処理（図９８２参照）が実行される毎に更新される。第３２制御例では、演出カウンタ２２３ｆとして、ループカウンタ（例えば、０～９９の範囲で繰り返し更新されるカウンタ）を複数（第１演出カウンタ２２３ｆ１、第２演出カウンタ２２３ｆ２等）有しており、各演出カウンタの値が同期すること無く更新するように構成されている。

【９９１７】

具体的には、例えば、メイン処理（図９８２参照）が実行される毎に更新される値が異なるカウンタを複数設け、各カウンタの更新後の値が同期しないように構成している。さらに、各カウンタの値を演算することで別の値を算出し、その算出した値を用いて各種演出の演出内容を決定する際の抽選に使用する値として用いても良い。このように構成する

ことで、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行される複数演出の演出態様を同一タイミング（１回のメイン処理内）で決定する場合において、同一タイミングで決定される複数演出の演出態様が同期してしまい、多様な組合せで演出を実行することができないという不具合が発生することを抑制できる。

【９９１８】

従遊技状態格納エリア２２３ｇは、主制御装置１１０から遊技状態に関する状態コマンドを受信した場合に、その状態コマンドに対応する遊技状態を格納するための領域である。この従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納された情報（遊技状態）を参照することで、音声ランプ制御装置１１３側で現在の遊技状態を識別可能に構成している。

【９９１９】

なお、第３２制御例では、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３は、パチンコ機１０の電源が遮断された場合にデータが消去されるため、停電等の発生による電源遮断時には従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納されている現在の遊技状態を示す情報も消去されることとなる。しかしながら、第３２制御例ではパチンコ機１０への電源投入後に実行される主制御装置１１０の立ち上げ処理（図９７７参照）にて状態コマンドが設定されるため（図９７７のＳ１７１２参照）、電源復旧後、直ちに従遊技状態格納エリア２２３ｇに電源遮断前に設定されていた遊技状態を示す情報が格納されることになる。よって、パチンコ機１０に電源が投入されている状態では音声ランプ制御装置１１３側で常に遊技状態を識別することができる。また、主制御装置１１０において遊技状態を可変設定する場合にも、可変設定された後の遊技状態を示す状態コマンドが設定される（図９７９のＳ１９１７等参照）。

【９９２０】

時短情報更新エリア２２３ｈは、時短状態を終了させるための複数の時短終了条件と、各時短終了条件に対する進捗状況（時短終了条件の対象となる遊技要素（例えば、特別図柄変動や小当たり、大当たりの当選）が実行された回数）とを格納するためのデータ領域である。この時短情報更新エリア２２３ｈに格納される情報（時短終了条件、及び、進捗状況）に基づいて第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される表示態様が選択される。この時短情報更新エリア２２３ｈは、主制御装置１１０から設定される時短状態の内容に関する情報を含む時短設定情報コマンド、即ち、主制御装置１１０の大当たり制御処理（図９７９のＳ１８０４）にてエンディング期間の終了タイミングと判別し（図９７９のＳ１９１３：Ｙｅｓ）、時短終了条件を設定した場合に（図９７９のＳ１９１６）設定される時短設定情報コマンドを受信した場合に、今回の時短状態を終了させるための時短終了条件が設定される（図９８５のＳ３４１２参照）。

【９９２１】

そして、主制御装置１１０の時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）において、時短情報を更新させるための更新情報（特別図柄変動が実行されたことを示すための変動情報や、小当たりに当選したことを示すための小当たり情報）を示すための残時短回数コマンドが設定され、その残時短回数コマンドを受信したと判別した場合に、受信した残時短回数コマンドに含まれる更新情報に対応させて時短情報更新エリア２２３ｈに含まれる各種情報が更新される。このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側で、現在の遊技状態が時短状態であるか否かだけで無く、時短状態が設定されている場合において、残時短終了条件が成立するまでの残状況を、時短終了条件毎に把握することが可能となる。

【９９２２】

この時短情報更新エリア２２３ｈ内のデータ領域について具体的に説明をすると、時短情報更新エリア２２３ｈには、時短状態の終了条件になり得る各項目（例えば、第１特別図柄の変動回数、第２特別図柄の変動回数、第１特別図柄の変動回数と第２特別図柄の変動回数とを合算した合算変動回数、小当たり当選回数（Ｖ入賞装置６００の動作を開始した回数）に対応した情報を一時的に格納できるように形成されており、各項目に対して、時短設定情報（時短状態の終了条件が成立する回数）と、時短状態が継続して設定されて

いる期間中における各項目の更新情報（実際に実行された回数を示す情報）と、がそれぞれ格納されるように構成されている。

【９９２３】

本第３２制御例では、この時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている更新情報のうち、第２特別図柄の変動回数に基づいて成立する時短終了条件に関する更新情報に基づいて時短状態中の主たる演出態様を決定するように構成している。本第３２制御例では、時短状態中に、特別図柄抽選が所定回数実行された場合、或いは、実行された特別図柄抽選の結果が当たり当選となった場合に、時短状態が終了するように構成している。ここで、当たり当選に基づいて時短状態が終了した場合には、当たり遊技を実行することで遊技者に特典が付与されると共に、大当たり遊技終了後に再度時短状態が設定され易くなるように構成している。一方で、特別図柄抽選が所定回数実行されたことに基づいて時短状態が終了した場合には、遊技者に特典を付与すること無く通常状態が設定されるように構成している。

【９９２４】

よって、時短状態中の遊技を行っている遊技者は、当たり当選に基づいて成立する時短終了条件では無く、特別図柄抽選が実行された回数に基づいて成立する時短終了条件が成立するまでの残期間に関する情報の提供を所望する。さらに、本第３２制御例では、特別図柄抽選が実行された回数に基づいて成立する時短終了条件として、第１特別図柄変動回数と第２特別図柄変動回数とを合算した合算回数に基づいて成立する合算変動時短終了条件と、第２特別図柄変動回数のみに基づいて成立する特図２変動時短終了条件と、を有している。そして、時短状態中において適正な遊技（右打ち遊技）を実行した場合には、合算変動時短終了条件よりも、特図２変動時短終了条件が成立し易くなるように構成している。

【９９２５】

つまり、時短状態中に実行される特別図柄抽選で当り当選しなかった場合には、特図２変動時短終了条件が最も成立し易くなるように構成している。よって、時短状態が設定されている間は、特図２変動時短終了条件に関する更新情報（主制御装置１１０にて更新される特図２カウンタ２０３ｔの値に関する情報）に基づいて、当たり当選すること無く時短状態が終了するまでの残期間を示すための演出（カウントダウン演出）を実行することで、遊技者に対して、時短状態が終了するまでの正確な残期間（時短状態中に実行可能な第２特別図柄変動の残回数）を分かり易く報知することができる。

【９９２６】

なお、本第３２制御例では、上述した通り、時短状態中において適正な遊技（右打ち遊技）を実行した場合に、最も成立し易い時短終了条件（特図２変動時短終了条件）が成立するまでの残期間を遊技者に把握させるための演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、時短状態中に実行される遊技内容によって、他の時短終了条件の方が成立し易い状況が発生した場合には、時短状態が終了するまでの残期間を示すための演出に用いられる時短終了条件の種別を切り替えるように構成しても良いし、複数の時短終了条件のそれぞれに対して、各時短終了条件が成立するまでの残期間を報知可能な演出を実行するように構成しても良い。

【９９２７】

また、本第３２制御例では、時短終了条件（特図２変動時短終了条件）が成立するまでの残期間を示すカウントダウン演出として、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の残回数を数値で示す演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の残回数を数値以外の態様（例えば、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の残回数が減算される毎に態様を異ならせるアニメーション）、即ち、遊技者に対して、時短状態が終了するまでに実行可能な第２特別図柄抽選の回数を具体的では無く、抽象的に報知可能な態様で演出を実行するように構成してもよい。また、この場合、特図２変動時短終了条件が成立するまでに要する第２特別図柄変動回数を異ならせた時短状態を設定可能に構成す

ると良い。このように構成することで、遊技者に対して、時短状態が終了するまでに実行可能な特図２変動回数を予測させる楽しみを提供することができる。

【９９２８】

さらに、時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている時短設定情報や更新情報を用いて、例えば、時短設定情報に含まれる各項目の終了条件を示す値に対する更新情報が示す値の割合を算出し、時短進行度合いを数値（例えばパーセント）で表示するように構成しても良い。

【９９２９】

また、第３２制御例では、時短情報更新エリア２２３ｈに格納される情報として、更新情報（既に実行された回数（変動回数、当選回数）を示す情報）を格納するように構成しているが、これに限ること無く、時短状態の終了条件（時短終了条件）が成立するまでの残回数を算出し、算出した残回数を示す情報を時短情報更新エリア２２３ｈに格納するように構成しても良い。

【９９３０】

討伐回数カウンタ２２３ｉは、大当たり遊技中に実行される討伐演出として設定される攻撃演出の回数（討伐回数）を管理するためのカウンタであって、討伐演出の演出態様を決定するための討伐演出態様決定処理（図９９０のＳ３８０３参照）において、「５」の値がセットされる（図９９０のＳ３９０７）。そして、討伐演出が実行される大当たり遊技にて新たなラウンド遊技を開始する場合に実行される初回大当たりラウンド中演出処理（図９９１のＳ３８０７参照）にて、カウンタの値が減算される（図９９１のＳ４００９）。

【９９３１】

この討伐回数カウンタ２２３ｉの値は、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数を示すための表示態様（表示領域Ｄｍ７に表示されるボタンアイコンの数）を決定する際に参照される。また、設定されている討伐演出シナリオに基づいて、各ラウンド遊技にて実行される攻撃演出の演出態様を決定する際に参照される。

【９９３２】

なお、本第３２制御例では、通常状態において実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、必ず６ラウンドの大当たり遊技が実行されるように構成しており、その大当たり遊技中に討伐演出を実行するように構成している。そして、１ラウンド目のラウンド遊技期間中に今回実行される討伐演出の内容（残敵数、攻撃演出回数等）を告知し、２ラウンド目～６ラウンド目の各ラウンド遊技期間中に攻撃演出が実行されるように構成している。つまり、討伐演出が実行される場合において、固定回数（５回）の攻撃演出が必ず実行されるように構成している。よって、討伐回数カウンタ２２３ｉには、初期値として「５」の値がセットされるように構成しているが、これに限ること無く、実行される討伐演出の内容に応じて、攻撃演出回数を異ならせるように構成しても良い。

【９９３３】

例えば、通常状態において実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技として、ラウンド遊技数を異ならせた大当たり遊技を実行可能に構成し、実行される大当たり遊技のラウンド数に応じて、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数を異ならせるように構成しても良い。この場合、少なくとも、大当たり遊技の種別として、ラウンド遊技数が標準ラウンド数（例えば、６ラウンド）となる標準大当たり遊技と、その標準大当たり遊技よりも多いラウンド遊技数（例えば、８ラウンド）となる特定大当たり遊技と、を実行可能に構成して、標準大当たり遊技が実行される場合よりも、特定大当たり遊技が実行される場合の方が、討伐演出中に実行される攻撃演出回数が増加するように構成すると良い。

【９９３４】

さらに、標準大当たり遊技（６ラウンド大当たり遊技）よりも特定大当たり遊技（８ラウンド大当たり遊技）が実行される場合の方が、大当たり遊技終了後に時短状態が設定され易くなるように構成すると良い。具体的には、標準大当たり遊技に対応する大当たり種

別として、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される第１大当たり種別と、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される第２大当たり種別と、を設定可能に構成し、且つ、特定大当たり遊技に対応する大当たり種別として、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される第３大当たり種別と、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される第４大当たり種別と、を設定可能に構成する。

【９９３５】

そして、標準大当たり遊技が実行される大当たりに当選した場合における第２大当たり種別の選択割合よりも、特定大当たり遊技が実行される大当たりに当選した場合における第４大当たり種別の選択割合の方が高くなるように構成すると良い。

【９９３６】

このように構成することで、討伐演出中に実行される攻撃演出回数が増加する程、討伐演出の演出結果として、遊技者に有利となる演出結果（討伐に成功する演出結果）を表示させ易くすることができるため、遊技者に対して、討伐演出にて多くの攻撃演出が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【９９３７】

加えて、大当たり遊技のラウンド数が多い程、攻撃演出の実行回数を増加させ易くすることができるため、大当たり遊技中に多くの賞球数を獲得し得る場合の方が、討伐演出の演出結果として、遊技者に有利となる演出結果（討伐に成功する演出結果）を表示させ易くすることができるため、遊技者に対して、複数の特典をまとめて提供することができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【９９３８】

なお、本第３２制御例では、大当たり遊技中に実行されるラウンド遊技数に対応させて討伐演出中に実行される攻撃演出の回数を決定するように構成しているが、これに限ること無く、実行されるラウンド遊技数を最大数として、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数を抽選で決定するように構成しても良い。

【９９３９】

この場合、何れのラウンド数が設定される大当たり遊技であっても、大当たり遊技の終了後に通常状態が設定される場合よりも、大当たり遊技の終了後に時短状態が設定される場合の方が、攻撃演出の回数として多くの回数が決定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり遊技中に討伐演出が実行された場合に、実行中の大当たり遊技のラウンド数と、実行される攻撃演出の回数と、を把握しながら大当たり遊技終了後に実行される遊技状態を予測させる楽しみを提供することができる。

【９９４０】

なお、本第３２制御例では、討伐演出が実行される大当たり遊技が実行される場合において、最初に実行されるラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）の遊技期間中に、今回実行される討伐演出の演出内容を遊技者に告知するための初期表示態様を表示し、残りのラウンド遊技の遊技期間を用いて複数回の攻撃演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、討伐演出の初期表示態様が表示されるラウンド遊技として、最初に実行されるラウンド遊技（１ラウンド目のラウンド遊技）とは異なるラウンド遊技を設定可能に構成しても良い。

【９９４１】

具体的には、今回実行される大当たり遊技のラウンド数を管理する管理手段と、今回実行される討伐演出中に実行される攻撃演出の回数を管理する管理手段と、を設け、今回実行される攻撃演出の回数分のラウンド数を確保可能な範囲にて、討伐演出の初期表示態様を表示するラウンド数を決定する手段を設けると良い。このように構成することで、大当たり遊技が開始されてから短時間で討伐演出が開始された方が（討伐演出の初期表示態様が表示された場合の方が）、より多くの攻撃演出が実行される可能性を高めることができるため、遊技者に対して、討伐演出の実行タイミングについても興味を持たせることができ、演出効果を高めることができる。

【９９４２】

以上、説明をした例では、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数に応じて、討伐演出の演出結果を示唆可能な構成として、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数が多くなる程、討伐演出の演出結果として、遊技者に有利となる演出結果（討伐に成功する演出結果）を表示させ易くする例を示したが、これに限ること無く、討伐演出中に実行される攻撃演出の回数が少ない程、或いは、特定回数（例えば、３回）の攻撃演出が実行される程、討伐演出の演出結果として、遊技者に有利となる演出結果（討伐に成功する演出結果）を表示させ易くするように構成しても良い。また、討伐演出が実行される大当たり遊技にて少ないラウンド数が設定される場合の方が、多いラウンド数が設定される場合よりも、大当たり遊技終了後に時短状態が設定され易くなるように構成しても良い。

【９９４３】

残討伐数カウンタ２２３ｊは、討伐演出にて実行される攻撃演出によって減算された敵数を計測するためのカウンタであって、討伐演出が実行される場合に、初期値として敵の総数に対応する値がセットされ、その後、攻撃演出が実行される毎に、実行された攻撃演出の演出結果に応じた値へと減算される。

【９９４４】

具体的には、通常状態にて実行される大当たり遊技（初回大当たり遊技）のオープニングコマンドを受信したと判別した場合（図９８９のＳ３８０１：Ｙｅｓ）に実行される討伐演出態様決定処理（図９９０のＳ３８０３参照）において、決定された敵総数に対応する値がセットされ（図９９０のＳ３９０２参照）、ラウンド遊技終了後に設定されるインターバル期間を示すためのインターバルコマンドを受信したと判別した場合（図９８９のＳ３８０８：Ｙｅｓ）に実行される初回インターバル中演出処理（図９９２のＳ３８０９）において、討伐演出シナリオの内容と、残討伐数カウンタ２２３ｊの値と、が一致するかの判別を実行する際に参照される（Ｓ４１０２）。

【９９４５】

ここで、本第３２制御例では、討伐演出の演出態様をシナリオ管理している。具体的には、討伐演出の演出態様を決定する際に、今回の討伐演出にて討伐すべき敵の総数と、攻撃演出の実行回数と、各攻撃演出にて減少させることが可能な敵数（残討伐数）と、が規定された討伐演出シナリオとして、規定されている内容を異ならせた複数の討伐演出シナリオの中から１の討伐演出シナリオを決定可能に構成している。

【９９４６】

そして、攻撃演出の演出期間（ラウンド遊技期間）中に、遊技者による演出ボタン２２ａへの操作を有効に判別可能な期間としてＳＷ有効時間を設定するように構成しており、そのＳＷ有効時間中に遊技者が演出ボタン２２ａを操作した場合には、決定されている討伐演出シナリオに規定されている内容に基づいて、敵数を減少させる演出を実行するように構成している。一方で、ＳＷ有効時間中に遊技者が演出ボタン２２ａを操作しなかった場合には、ラウンド遊技期間中に敵数を減少させる演出が実行されないように構成している。

【９９４７】

つまり、ラウンド遊技期間終了時にて表示されている敵数は、ラウンド遊技中における演出ボタン２２ａへの操作の有無によって異なる。ここで、本第３２制御例では、攻撃演出によって減少される敵数を残討伐数カウンタ２２３ｊの値で管理するように構成し、ラウンド遊技期間が終了し、インターバル期間が設定された時点における残討伐数カウンタ２２３ｊの値が、決定されている討伐演出シナリオの内容と一致しているかを判別し（図９９２のＳ４１０２）、一致していないと判別した場合は（図９９２のＳ４１０２：Ｎｏ）、インターバル期間を用いて敵数を減少させる演出（追加攻撃演出）を実行するように構成している。

【９９４８】

このように構成することで、遊技者による演出ボタン２２ａへの操作の有無に関わらず、決定されている討伐演出シナリオの内容に沿った内容で敵数の減少度合いを決定し易くすることができる。さらに、本第３２制御例では、追加攻撃演出の演出態様として、表示

されている敵数を、討伐演出シナリオに規定されている敵数まで減少させる基本演出態様に加え、今回の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることを報知するための特定数まで敵数を減少させる特殊演出態様を決定可能に構成している。

【９９４９】

具体的には、討伐演出シナリオに規定されている敵数（例えば、９９体）と、実際に表示されている敵数（例えば、３８５体）とが異なる場合であって、その差分（９９体～３８５体）の範囲内容に固有特定数（例えば、３３３体）が設定される場合の一部において、追加攻撃演出の演出態様として、敵数を特定数（例えば、３３３体）まで減少させる特殊演出態様を設定可能に構成している。つまり、攻撃演出が実行されるラウンド遊技期間において、演出ボタン２２ａを操作し、討伐演出シナリオに規定されている敵数（例えば、９９体）まで敵数を減少させなかった場合に、特殊演出態様による追加攻撃演出を実行することで、今回の討伐演出の演出結果をいち早く遊技者に報知可能に構成している。

【９９５０】

このように構成することで、討伐演出として実行される攻撃演出中に演出ボタン２２ａを操作（押下）するか否かによって、討伐演出の演出結果を把握し得るタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して、演出ボタン２２ａを操作するか否かを決定する楽しみを提供することができる。

【９９５１】

また、本第３２制御例では、遊技者が演出ボタン２２ａを操作しなかった場合において、演出ボタン２２ａを操作した場合よりも早いタイミングで討伐演出の演出結果を把握可能な演出態様（特殊演出態様）を決定可能に構成している。即ち、討伐演出において、敵数を０体まで減少させることを目的とした場合には選択すべき操作方法を選択しなかった場合に、敵数が０体まで減少するよりも前に討伐演出の演出結果を把握可能な特定数（例えば、３３３体）を表示可能に構成している。よって、遊技者が目指す演出内容に対応させて演出ボタン２２ａへの操作方法を選択させることができるため、遊技者が選択する操作方法を偏り難くすることができる。

【９９５２】

なお、本第３２制御例では、遊技者が選択した選択方法によって、実行中の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることを報知するタイミングを異ならせることが可能に構成している。そして、実行中の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることを報知するタイミングとして、１の操作方法で操作（演出ボタン２２ａを押下する操作）した場合よりも早いタイミングで報知可能な他の操作方法による操作（演出ボタン２２ａを押下しない操作）した場合には、操作方法だけで無く、表示されている敵数、及び、討伐演出シナリオに規定されている敵数に基づいて報知条件が成立した場合のみ、実行中の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることを示すための演出態様として、残敵数が特定数（例えば、３３３体）となる追加攻撃演出が実行されるように構成している。

【９９５３】

つまり、報知条件が成立し得ない状態で演出ボタン２２ａを押下しない操作を実行した場合には、残敵数が特定数（例えば、３３３体）となる追加攻撃演出が実行されること無く、且つ、残敵数が討伐演出シナリオに規定されている敵数よりも多くなる追加攻撃演出が実行され得るように構成している。このように、いち早く実行中の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることを報知可能な操作方法を実行した場合には、実行中の討伐演出の演出結果が遊技者に有利となる演出結果であることが報知されない可能性があるため、遊技者に対して何れの操作方法を選択させるかをより楽しんで決定されることができる。

【９９５４】

なお、本第３２制御例では、何れの操作方法によって演出ボタン２２ａを操作した場合であっても、遊技者に付与される特典（大当たり遊技終了後に遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が設定されることを事前に報知する特典）の内容が同一であって、その付与タ

イミングのみを異ならせているが、これに限ること無く、１の操作方法を選択した場合には、上述した特典に加え、別の第１特典（例えば、獲得済みの特図保留内に当たり当選する特図保留があるか否かを事前に報知する特典）を付与可能に構成し、１の操作方法とは異なる他の操作方法を選択した場合には、上述した特典に加え、第１特典とは異なる第２特典（例えば、大当たり遊技中に実行される残りのラウンド遊技数を事前に報知する特典）を付与可能に構成しても良い。

【９９５５】

このように構成することで、遊技者が選択した遊技方法に応じて、異なる特典を遊技者に付与することができるため、遊技者に対して操作方法を選択させる楽しみを提供することができる。また、上述した例では、大当たり遊技中に実行される討伐演出における攻撃演出中の演出ボタン２２ａへの操作方法に応じて付与可能な特典として第２特典（ラウンド遊技数の事前報知）を付与可能な例を示しているが、この場合、例えば、大当たり遊技中に実行されたラウンド遊技数が増加する毎に、残りのラウンド数が減少していくことから、第２特典が付与されるメリットが低くなる。

【９９５６】

よって、大当たり遊技中におけるラウンド遊技の進行状況に応じて、１回の討伐演出中において選択する操作方法を遊技者に切り替えさせることが可能となるため、よりメリットのある特典が付与されることを期待しながら討伐演出を注視する遊技者に対して、演出効果をより高めることができる。

【９９５７】

なお、本第３２制御例では、何れの攻撃演出が実行された場合であっても、遊技者が操作方法を選択可能に構成しているが、これに限ること無く、演出ボタン２２ａへの操作方法を遊技者が選択することができない攻撃演出を実行可能に構成しても良く、例えば、ＳＷ有効時間が設定されない攻撃演出を実行することで、演出ボタン２２ａを押下するという操作方法を選択できなくしたり、ＳＷ有効時間として極めて短いＳＷ有効時間を設定することで、演出ボタン２２ａを押下し難くしたりする攻撃演出を実行可能に構成しても良い。

【９９５８】

さらに、本第３２制御例では、演出ボタン２２ａに対する操作方法として、演出ボタン２２ａを押下する操作と、演出ボタン２２ａを押下しない操作と、の２種類から遊技者が選択する構成を用いているが、これに限ること無く、演出ボタン２２ａを所定期間内（例えば、１秒以内）に複数回（例えば、２回以上）操作する操作方法（所謂、連打操作）や、演出ボタン２２ａを所定期間（例えば、１秒間）継続して押下し続ける操作方法（所謂、長押し操作）を遊技者に選択可能に構成しても良い。

【９９５９】

また、このように複数の操作方法を遊技者に選択させる場合には、第３図柄表示装置８１の表示画面に、遊技者が選択可能な操作方法と、各操作方法を選択した場合に付与可能な特典の内容と、を報知可能な表示態様を表示するように構成すると良い。このように構成することで、遊技者が選択する操作方法を決定し易くすることができる。

【９９６０】

特定数表示済フラグ２２３ｋは、討伐演出の演出態様として、特定数を示す演出態様が表示されたことを示すためのフラグであって、特定数を示す演出態様が表示された場合にオンに設定される。本第３２制御例では、討伐演出にて減少させる敵数として、特定条件が成立した場合に、討伐演出の演出結果が表示されるよりも前に、実行中の討伐演出の演出結果を示すための特定数の敵数（例えば、３３３体）を表示可能に構成している。そして、特定数の敵数（例えば、３３３体）が表示された場合には、その表示態様によって討伐演出の演出結果が報知されるため、特定数の敵数が表示されてから討伐演出の演出結果が表示されるまでの残期間にて、特定数の敵数が表示されたことを示す専用の演出（祝福演出）が実行されるように構成している。

【９９６１】

つまり、特定数の敵数が表示されたことを特定数表示済フラグ２２３ｋの設定状況に基づいて判別可能に構成することで、特定数の敵数が表示された後も敵数を減少させる攻撃演出を継続した場合であっても、特定数が表示されたことに基づいて祝福演出を継続して実行することができる。

【９９６２】

なお、本第３２制御例では、特定数表示済フラグ２２３ｋがオンに設定された後も、設定された討伐演出シナリオに規定されている内容に基づいて攻撃演出を実行するように構成している。つまり、特定数の敵数が表示されたか否かに関わらず、攻撃演出が継続して実行されるように構成している。そして、特定数表示済フラグ２２３ｋがオンに設定されている場合には、攻撃演出に加え、祝福演出を実行するように構成している。つまり、特定数の敵数が表示されたか否かに関わらず、討伐演出における主となる演出内容（攻撃演出の演出態様）を共通化し、特定数の敵数が表示された場合のみ、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示要素の一部（例えば、表示領域Ｄｍ７に表示されるボタンアイコンや、副表示領域Ｄｓに表示されるコメント等）を用いて、特定数の敵数が表示されたことを示すための祝福演出を実行するように構成している。

【９９６３】

このように構成することで、特定数の敵数が表示された場合に、攻撃演出の代わりに特別な演出を実行可能に構成した場合に比べて、討伐演出を実行するための処理負荷を軽減できると共に、討伐演出に用いる演出データを削減することができる。

【９９６４】

ここで、本第３２制御例では、討伐演出が実行される場合において、特定数の敵数が表示されるか否かが、討伐演出中に実行される攻撃演出における遊技者による演出ボタン２２ａへの操作内容に応じて決定されるように構成している。さらに、設定されている討伐演出シナリオの内容と、実際に表示されている敵数（残敵数）と、によって、特定数の敵数を表示させることが可能なタイミングが異なるように構成している。

【９９６５】

より具体的には、２ラウンド目のラウンド遊技中に実行される１回目の攻撃演出にて減少させることが可能な敵数の範囲内に、今回の討伐演出に対して決定された固有特定数が含まれている場合には、２ラウンド目のラウンド遊技終了後に設定されるインターバル期間が、特定数の敵数を表示させることが可能なタイミングとなり、４ラウンド目のラウンド遊技中に実行される３回目の攻撃演出にて減少させることが可能な敵数の範囲内に、今回の討伐演出に対して決定された固有特定数が含まれている場合には、２ラウンド目のラウンド遊技終了後に設定されるインターバル期間が、特定数の敵数を表示させることが可能なタイミングとなる。

【９９６６】

また、固有特定数は、大当たり当選した際に表示された第３図柄に含まれる数値に基づいて、討伐演出が実行される毎に決定されるように構成しており、１桁の敵数（例えば、１体）から３桁の敵数（例えば、９９９体）までの範囲の中から、固有特定数を幅広く決定可能に構成しているため、特定数の敵数を表示させることが可能なインターバル期間を、大当たり遊技毎に異ならせることができる。このように構成することで、討伐演出の演出内容が単調となることを抑制し、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【９９６７】

しかしながら、固有特定数が表示され得るタイミングを異ならせることが可能とし、且つ、遊技者による演出ボタン２２ａへの操作方法に応じて、固有特定数が表示されるか否かが決定されるように構成することで、固有特定数が表示されてからの討伐演出の残期間が異なるため、固有特定数が表示されてから討伐演出が終了するまでの間に、固有特定数が表示されなかった場合とは完全に異なる専用の演出を実行するように構成した場合には、各残期間に応じた専用演出データを用意する必要があり、演出データの容量が増加してしまうという問題があった。

【９９６８】
さらに、討伐演出を実行する際に決定される演出内容に基づいて、固有特定数が表示され得るタイミング（インターバル期間）を特定した場合であっても、遊技者が行う演出ボタン２２ａへの操作内容に応じて、実際に固有特定数が表示されるか否かが異なるため、固有特定数が表示されることを前提として演出データを予め設定しておくことが出来ず、固有特定数が表示されてから討伐演出が終了するまでの間に、固有特定数が表示されなかった場合とは完全に異なる専用の演出を実行するように構成した場合には、演出データを設定する処理が煩雑になってしまうという問題があった。
【９９６９】
これに対して、本第３２制御例では、固有特定数が表示された場合であっても、固有特定数が表示されなかった場合と同様に攻撃演出を継続して実行するように構成しているため、固有特定数が表示されてから討伐演出が終了するまでの間に、固有特定数が表示されなかった場合とは完全に異なる専用の演出を実行する場合に比べて、討伐演出に関する演出データの容量を削減することができる。
【９９７０】
また、継続して攻撃演出が実行され、表示されている敵の総数が、特定数よりも減少した場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示面の一部領域を用いて、固有特定数が表示されたことを示すための祝福演出を実行するため、遊技者に対して固有特定数が表示されたことを遡って把握させ易くすることができる。
【９９７１】
ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍは、遊技者に有利となる遊技状態が継続している期間（ラッシュ期間）を計測するためのカウンタであって、ラッシュ期間を表示する際にカウンタの値が参照される。本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、上述した通り、遊技者に有利となる遊技状態である時短状態が設定された場合に、高確率で大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技終了後に、再度時短状態が設定されるように構成している。さらに、時短状態中に実行される第２特別図柄変動の変動時間として短い変動時間が決定され易くなるように構成し、且つ、小当たり遊技が実行されてから遊技球がＶ入賞し得る状態へと遷移するまでの期間も短くなるように構成することで、単位時間当たりにおける大当たり遊技回数を増加させ易くするように構成している。
【９９７２】
そして、単位時間当たりにおける大当たり遊技の実行回数（単位時間当たりにおいて獲得した賞球数）を、ラッシュ期間の計測期間を示すための表示態様と合わせて表示する（図９４１（ａ）参照）ことで、ラッシュ期間が継続した場合における単位時間当たりの賞球数を遊技者に把握させ易くするように構成している。このように構成することで、単位時間当たりに獲得可能な賞球数を増加させるために、ラッシュ期間中に実行する遊技の内容を遊技者に決定させることができる。
【９９７３】
具体的には、遊技者に有利となる遊技状態（時短状態）が設定された場合に「１」の値がセットされる（図９８５のＳ３４１４参照）。そして、音声ランプ制御装置１１３において定期的（１ｍｓ毎）に実行されるメイン処理（図９８２参照）において、演出更新処理（図９９７のＳ３１１２参照）が実行された場合に、カウンタ値が１加算（更新）される（図９９７のＳ４６０４）。そして、加算後のラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を示すための表示用コマンドが設定される（図９９７のＳ４６０５）。
【９９７４】
図９９７のＳ４６０５の処理にて設定された表示用コマンドは、他の表示用コマンドと同様に、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図９８２参照）にて１ミリ秒毎に実行されるコマンド出力処理（Ｓ３１０２）よって、表示制御装置１１４へと出力され、第３図柄表示装置８１の表示面にて表示させる演出態様（表示データ等）を決定し。決定した表示データに応じた演出態様で時短状態（ラッシュ期間）表示される。
【９９７５】

そして、遊技状態として通常状態が設定され、且つ、未使用の特図２保留が存在しないと判別した場合に、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値がクリアされる。具体的には、状態コマンド処理（図９８５のＳ３２１２参照）にて、通常状態が設定されたことを示すための情報を受信したと判別した場合に（図９８５のＳ３４０２：Ｙｅｓ）、特図２保留の有無が判別され（図９８５のＳ３４０５参照）、特図２保留が無いと判別した場合にラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値がクリアされる（図９８５のＳ３４０６参照）。

【９９７６】

ここで、本第３２制御例では、時短状態が終了し、通常状態が設定された後に、時短状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を所定回数（１回）実行可能に構成しており、その第２特別図柄抽選の抽選結果が停止表示されるまでの期間が遊技者に有利なラッシュ期間となる。つまり、遊技状態として遊技者に有利な時短状態が設定されている期間に、通常状態が設定されている期間の一部を加えた期間が、遊技者に有利な遊技が実行される有利期間（ラッシュ期間）となるように構成している。

【９９７７】

このように構成することで、遊技状態が切り替わるタイミングと、遊技者に有利な遊技が実行される有利期間が終了するタイミングと、を異ならせることができるため、遊技者に対して意外性のある遊技を提供することができる。

【９９７８】

賞球数カウンタ２２３ｎは、少なくとも、ラッシュ期間（大当たり遊技、時短状態）中に獲得した賞球数を保持するためのカウンタであって、ラッシュ期間中において賞球が付与される場合に、付与された賞球数に対応する値が加算される（図９８３のＳ３２１７参照）。そして、ラッシュ期間中において第３図柄表示装置８１の表示面に形成される表示領域Ｄｍ６に表示するポイント表示態様を決定する際にカウンタの値が参照される。そして、遊技状態として通常状態が設定され、且つ、未使用の特図２保留が存在しないと判別した場合に、賞球数カウンタ２２３ｎの値がクリアされる。具体的には、状態コマンド処理（図９８５のＳ３２１２参照）にて、通常状態が設定されたことを示すための情報を受信したと判別した場合に（図９８５のＳ３４０２：Ｙｅｓ）、特図２保留の有無が判別され（図９８５のＳ３４０５参照）、特図２保留が無いと判別した場合に賞球数カウンタ２２３ｎの値がクリアされる（図９８５のＳ３４０７参照）。

【９９７９】

このように構成することで、ラッシュ期間中（時短状態、大当たり遊技状態、時短状態中に獲得した特図２保留が消化される通常状態（引き戻し遊技状態）を含む継続期間中）に獲得した賞球数のみを累積することができる。

【９９８０】

なお、本第３２制御例では、最初に時短状態が設定された時点でラッシュ期間を計測するためのラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値に１をセットするように構成し、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が１以上である場合に受信した賞球数コマンドに基づいて賞球数カウンタ２２３ｎの値を加算するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技が実行される毎に賞球数カウンタ２２３ｎの値を加算可能に構成し、時短状態が設定される大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技中に獲得した賞球数も含めてラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を累積するように構成しても良い。このように、特定期間（ラッシュ期間）が継続する時間の長さを示すための表示態様（表示領域Ｄｍ８に表示される継続期間表示）と、その特定期間（ラッシュ期間）中に獲得した賞球数を示すための表示態様（表示領域Ｄｍ６に表示されるポイント表示態様）と、を表示可能な構成において、特定期間よりも前の期間（特定期間の設定契機となる大当たり遊技の実行期間）に獲得した賞球数も含めて、特定期間（ラッシュ期間）中に獲得した賞球数を示すための表示態様（表示領域Ｄｍ６に表示されるポイント表示態様）を表示可能に構成することで、特定期間中に獲得した賞球数を、実際に特定期間中に獲得した賞球数よりも遊技者に多く見せることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【９９８１】
　また、この場合、実際に遊技者に提供される（提供されている）賞球数に対応する表示態様が表示領域Ｄｍ６に表示されることから、表示領域Ｄｍ６に表示される表示態様（ポイント表示態様）と、実際に獲得した賞球数との大きな誤差が生じることが無いため、表示領域Ｄｍ６に表示されたポイント表示態様に対して遊技者に違和感を与えることが無い。
【９９８２】
　なお、本第３２制御例では、最初に時短状態が設定されてからの経過時間を、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍを用いて計測可能に構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技が開始されてからの経過時間を、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍを用いて計測可能に構成しても良い。この場合、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が実行される場合に、実行される大当たり遊技の種別（大当たり種別）に関わらず、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値に１をセットし、大当たり遊技の終了後に通常状態が設定される場合には、その時点でラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値をクリアし、大当たり遊技の終了後に時短状態が設定される場合には、継続してラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新するように構成すれば良い。
【９９８３】
　さらに、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新している期間であっても、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて大当たり遊技が実行されている期間（初回大当たり遊技期間）は、経過時間を表示しないように構成すると良い。このように構成することで、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される場合、即ち、ラッシュ遊技に突入しない場合において、無用に経過時間が表示されてしまうことを抑制することができる。
【９９８４】
　このように、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新している期間であっても、第３図柄表示装置８１の表示画面に経過期間を示す表示態様（継続期間表示）を表示しない制御を、上述した初回大当たり遊技期間以外に用いても良く、例えば、ラッシュ期間中において、当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）したことを示す表示態様が表示される期間や、小当たり遊技中において遊技者に対して遊技方法を案内するための案内表示態様が表示される期間といった、第３図柄表示装置８１の表示画面を用いて遊技内容（遊技結果）を報知する必要がある期間は、継続期間表示を非表示にする制御を実行するように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に報知すべき遊技内容（遊技結果）を表示するための表示領域を拡げることができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【９９８５】
　また、同様の目的を達成するために、継続期間表示の表示態様を非表示にする制御では無く、継続期間表示が表示される表示領域Ｄｍ６の大きさを縮小したり、表示領域Ｄｍ６が形成される位置を異ならせたりすることで、遊技者に報知すべき遊技内容（遊技結果）を示す表示態様を、遊技者に分かり易く表示するように構成しても良い。
【９９８６】
　加えて、本第３２制御例では、ラッシュ期間が設定されている間は、継続してラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、ラッシュ期間中において、遊技者が遊技を中断している中断期間、具体的には、第３図柄表示装置８１の表示画面にデモ画面が表示されている期間は、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新せず、再度遊技が開始された場合に、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新する処理を再開させるように構成しても良い。このように構成することで、ラッシュ期間のうち、実際に遊技者が遊技を行っている期間のみを累積して継続期間表示として表示することができるため、ラッシュ期間における単位時間当たりの賞球数を遊技者に把握させ易くすることができる。

【９９８７】
さらに、ラッシュ期間のうち、遊技者が遊技を進行させられない期間、具体的には、小当たり当選してから小当たり遊技が実行されるまでの第１待機期間（図柄確定期間）や、小当たり遊技が実行されてから、Ｖ入賞可能となるまでの第２待機期間（小当たり遊技のオープニング期間）や、Ｖ入賞してから小当たり遊技が終了するまでの第３待機期間（小当たり遊技のエンディング期間）といった期間も、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が更新されない制御を実行するように構成しても良い。
【９９８８】
このように構成することで、ラッシュ期間のうち、遊技者が積極的に遊技を進めることが可能な期間であって、実際に遊技者が遊技を行っている経過期間のみラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍによって計測することができるため、ラッシュ期間における単位時間当たりの賞球数を、精度を高めて遊技者に提供することができる。
【９９８９】
保留連フラグ２２３ｏは、保留連演出が実行されたことを示すためのフラグであって、大当たり遊技中に保留連演出が実行された場合にオンに設定される。保留連演出とは、大当たり遊技中に実行される遊技者に有利な特典が付与されることを示すための演出であって、大当たり遊技の最終ラウンドが実行される時点で獲得済みの特図２保留の中に、当たり当選を示す入賞情報が含まれているかを先読みし、当たり当選を示す入賞情報が含まれていると判別した場合（当たり特図２保留を有していると判別した場合）の一部において実行される演出である。
【９９９０】
つまり、保留連演出を実行することにより、大当たり遊技が実行されている期間において、次の大当たり遊技を実行させるための実行契機（小当たり当選）が成立することを遊技者に事前に報知することができるため、大当たり遊技終了後に設定される時短状態が短い場合であっても、安心して遊技者に遊技を行わせることができる。
【９９９１】
本第３２制御例では、大当たり遊技中に保留連演出が実行された場合には、保留連演出が実行されていない場合に比べて、当たり特図２保留を有している状態で保留連演出が実行され易くなるように構成している。具体的には、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていない場合では、大当たり遊技の最終ラウンドが開始されると判別した場合（図９８８のＳ３７０１：Ｙｅｓ）に、当たり保留（当たり特図２保留）があるかを判別し（図９８８のＳ３７０３参照）、当たり保留があると判別した場合（図９８８のＳ３７０３：Ｙｅｓ）、即ち、保留連演出の実行権利を獲得している状態であると判別した場合は、保留連演出を実行するか否かの実行抽選を行い、実行抽選に当選した場合に（図９８８のＳ３７０７：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定し（Ｓ３７０９参照）、その後、保留連演出の実行を決定する（図９８８のＳ３７０５参照）ように構成している。
【９９９２】
一方、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている状態で、保留連演出の実行権利を獲得している状態であると判別した場合（図９８８のＳ３７０４：Ｙｅｓ）は、実行抽選を行うこと無く、保留連演出の実行を決定する（図９８８のＳ３７０５参照）ように構成している。
【９９９３】
つまり、保留連演出が実行された場合には、その後、保留連演出の実行権利を獲得している状態では、必ず、保留連演出が実行されるように構成している。このように構成することで、保留連演出を連続して実行させたい遊技者に対して、特図２保留を獲得した状態で大当たり遊技が実行されるように、時短状態中において積極的に右打ち遊技を行わせることができる。
【９９９４】
ここで、本第３２制御例では、大当たり遊技終了後に時短状態が設定された場合、変動時間として極めて短い変動時間（１秒）で第２特別図柄抽選を３回実行可能に構成してい

る。そして、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を、最大で１個獲得可能に構成している。さらに、大当たり遊技の最終ラウンドが開始されるタイミングで獲得している特図２保留に含まれる入賞情報を先読みし、先読み結果として、特図２保留に当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）する入賞情報が含まれていると判別した場合に、その大当たり遊技の最終ラウンドを用いて、獲得している特図２保留を用いた第２特別図柄抽選で当り当選することを示すための保留連演出（図９４４（ｂ）参照）を実行可能に構成している。

【９９９５】

この場合、特図２保留の最大獲得数が１個である本第３２制御例では、大当たり遊技終了後に実行される第２特別図柄抽選で当り当選することが保留連演出によって報知されることになる。つまり、大当たり遊技が終了してから１秒後に小当たりに当選することを遊技者が把握することになる。本第３２制御例では、大当たり遊技中は通常状態が設定され、且つ、時短状態において小当たり当選を示す特別図柄が停止表示された場合に時短終了条件が成立し、通常状態が設定されることから、保留連演出が実行された大当たり遊技が終了した後は、時短状態が継続する期間が１秒となる。よって、通常状態である大当たり遊技の終了直前に普通図柄抽選が実行された場合には、通常状態中に実行された普通図柄抽選の結果が表示されるまでに時間を費やしてしまうことから、時短状態中に新たな特図２保留を獲得することが困難であると遊技者が予測してしまい大当たり遊技終了後から次の小当たり遊技が開始されるまでの間、遊技者が遊技球を発射する遊技（右打ち遊技）を中断してしまい、遊技の稼働が低下してしまう虞があった。

【９９９６】

また、大当たり遊技が終了し、時短状態が設定されてから右打ち遊技を行う場合には、右打ち遊技によって発射された遊技球がスルーゲート６７を通過するまでに最短でも所定期間（０．５秒）要するため、スルーゲート６７を通過した直後に時短状態中における普通図柄抽選が実行された場合であっても、普図当たり遊技が実行されるまでに通常状態が設定されてしまい、新たな特図２保留を獲得することが困難となるため、大当たり遊技終了後から次の小当たり遊技が開始されるまでの間、遊技者が遊技球を発射する遊技（右打ち遊技）を中断してしまい、遊技の稼働が低下してしまう虞があった。

【９９９７】

これに対して、本第３２制御例では、上述した通り、保留連演出が実行された後は、保留連演出の実行権利を獲得した場合に、必ず保留連演出を実行するように構成している。このように構成することで、保留連演出を継続して実行させようとする遊技者に対して、短時間の時短状態中に第２入球口６４０へと遊技球を入球させようと意欲的に右打ち遊技を行わせることができるため、遊技の稼働が低下してしまうことを抑制することができる。

【９９９８】

なお、本第３２制御例では、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている状態で、保留連演出を実行可能な条件（獲得済みの特図２保留内に当たり当選を示す特図２保留が含まれている場合に成立する条件）が成立した場合に、必ず保留連演出を実行するように構成しているが、これに限ること無く、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている場合の方が、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていない場合よりも保留連演出が実行される確率が高確率となるように構成すれば良い。

【９９９９】

また、本第３２制御例では、保留連演出が実行された場合に保留連フラグ２２３ｏをオンに設定しているが、これに限ること無く、他の条件で保留連フラグ２２３ｏをオンに設定する処理を実行可能に構成しても良い。例えば、ラッシュ期間中に獲得した賞球数の累積が特定数（例えば、１００００個）を超えた場合に保留連フラグ２２３ｏをオンに設定可能としても良いし、ラッシュ期間中に獲得した賞球数の累積値を示すための表示態様（図９４４（ａ）の表示領域Ｄｍ６に表示されるポイント表示の表示態様）として特定の表示態様が表示されている期間、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定する構成を用いても良

い。
【１００００】
さらに、ラッシュ状態が継続する期間（ラッシュ継続期間）の長さに基づいて保留連フラグ２２３ｏをオンに設定する構成を用いても良い。この場合、ラッシュ継続期間が所定期間（例えば、１００秒）を超えた場合に保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するように構成しても良いし、ラッシュ継続期間が所定範囲である場合のみ保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するように構成しても良い。
【１０００１】
加えて、時短状態中に実行された第２特別図柄抽選の実行回数の累積値を計測する計測手段を設け、ラッシュ継続期間にて実行された第２特別図柄抽選の回数が所定回数を超えた場合に、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定しても良いし、保留連フラグ２２３ｏがオフの状態において実行される第２特別図柄抽選に基づいて大当たり遊技が実行された場合に、大当たり遊技の実行契機となる第２特別図柄抽選（小当たり当選する特図２抽選）が、時短状態が設定されてから何回目の特図２抽選かを判別可能な判別手段を設け、その判別手段によって、１回目の特図２抽選（時短状態が設定されてから最初に実行された特図２抽選）と判別された場合よりも、３回目の特図２抽選（時短状態の最終変動となる特図２抽選）と判別された場合の方が、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定され易くなるように構成しても良い。
【１０００２】
また、本第３２制御例では、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するための条件が成立した場合に、必ず保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するように構成しているが、これに限ること無く、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するための条件が成立した場合に、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するか否かを決定可能な抽選手段を設け、抽選手段による抽選の結果、オンに設定すると判別した場合に保留連フラグ２２３ｏをオンに設定するように構成しても良い。このように構成することで、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている状態であるか否かを、遊技状況に基づいて遊技者に予測させ難くすることができる。よって、保留連演出が実行されなかったにも関わらず、保留連演出の対象となる特図２保留に基づく第２特別図柄抽選で小当たり当選するといった意外性のある遊技を提供することができる。
【１０００３】
ラウンド数カウンタ２２３ｐは、大当たり遊技のラウンド数を計測するためのカウンタであって、新たなラウンド遊技が実行される場合にカウンタ値が更新され、更新後のカウンタ値を示す表示態様が表示領域Ｄｍ５に表示される。このように構成することで、実行中のラウンド遊技が何ラウンド目であるかを遊技者に分かり易く報知することができる。
【１０００４】
ここで、本第３２制御例では、上述した保留連演出が実行された場合において、前回の大当たり遊技のラウンド数を引き継いで次に実行される大当たり遊技のラウンド数を表示領域Ｄｍ５に表示可能に構成している。
【１０００５】
つまり、通常であれば、大当たり遊技の終了タイミングにてラウンド数カウンタ２２３ｐの値をクリアする処理（図９８７のＳ３６１２参照）を実行するのに対して、保留連演出が実行される場合には（図９８７のＳ３６１１：Ｙｅｓ）、ラウンド数カウンタ２２３ｐの値をクリアする処理がスキップされるように構成し、保留連演出の対象となる当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技のラウンド数として、前回の大当たり遊技にて計測されたラウンド数カウンタ２２３ｐの値に加算されたラウンド数が表示領域Ｄｍ５に表示される。このように構成することで、保留連演出が連続すればするほど、表示領域Ｄｍ５に表示されるラウンド数が増加していくため、保留連演出を連続させた遊技者に対して、付加価値を提供することができる。
【１０００６】
また、本第３２制御例では、表示領域Ｄｍ５に表示されるラウンド数が、１回の大当た

り遊技にて実行可能な最大ラウンド数よりも大きくなった場合に、特殊演出（図９４６参照）を実行するように構成している。このように構成することで、保留連演出を連続させた遊技者に対してより付加価値を付与することができる。

【１０００７】

ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑは、演出ボタン２２ａが有効として判別される操作有効期間を計測するためのカウンタあって、遊技者に対して演出ボタン２２ａを操作させることで演出態様を可変可能な操作演出が実行される場合に、操作有効期間をセットするタイミングを規定した演出シナリオが設定され、設定されている演出シナリオに基づいて操作有効期間の開始タイミングであると判別した場合に、予め定められた操作有効期間の長さに対応した値がセットされる。

【１０００８】

ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑにセットされた値は、１ミリ秒周期で実行される音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図９８２参照）にて実行される演出更新処理（図９９７のＳ３１１２参照）によって減算される（図９９７のＳ４６０７参照）。そして、減算されたＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値に対応した表示態様を示すための表示用コマンドが設定される（図９９７のＳ４６０８参照）。ここで設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理（図９８２参照）にて実行されるコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２）によって表示制御装置１１４へと出力され、出力された表示用コマンドを表示制御装置１１４が受信したことに基づいて、第３図柄表示装置８１の表示画面に、操作有効期間の残時間を示すためのタイムゲージｇａ１（図９３４（ｂ）参照）を、表示態様を可変させて表示される。

【１０００９】

右打ちフラグ２２３ｒは、遊技者に対して右打ち遊技を実行させる遊技状態（当たり遊技状態、時短状態）が設定されたことを示すためのフラグであって、主制御装置１１０から右打ち遊技を実行させる遊技状態が設定されたことを示すためのコマンドが出力された場合にオンに設定される。そして、通常状態が設定されたことを示すための状態コマンドが出力された場合にオフに設定される。この右打ちフラグ２２３ｒがオンに設定されている状態では、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの表示領域Ｄｍ４に「右打ち」の案内表示が実行される。

【１００１０】

Ｖ入賞済フラグ２２３ｓは、小当たり遊技が開始されてから所定期間内（４秒以内）に遊技球が特定領域を通過したこと（Ｖ入賞したこと）を示すためのフラグであって、小当たり遊技が開始されてから所定期間内（４秒以内）に遊技球が特定領域を通過した場合にオンに設定される（図９９３のＳ４２１３参照）。そして、小当たり遊技が開始されてから所定期間（４秒）が経過したと判別された場合に（図９９８のＳ４７０１：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓの設定状況が判別され（図９９８のＳ４７０２参照）、オンに設定されていると判別した場合（図９９８のＳ４７０２：Ｙｅｓ）に、Ｖ入賞したことを示すための表示用Ｖ演出コマンドを設定し（図９９８のＳ４７０３参照）、その後、オフに設定される（図９９８のＳ４７０４参照）。

【１００１１】

本第３２制御例では、小当たり遊技が開始されると、小当たり遊技中の遊技方法を案内するための表示態様として特定期間（４秒間）の遊技案内報知を繰り返し実行可能に構成している（図９３９（ａ）参照）。そして、最初の遊技案内報知が実行されている期間（小当たり遊技が開始されてからの４秒間）中も、Ｖ入賞可能に構成している。

【１００１２】

具体的には、小当たり遊技が開始されてから２秒間の間は、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０が開放動作されないオープニング期間が設定され、オープニング期間の終了後、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０が開放動作されるラウンド遊技が実行される。そして、ラウンド遊技が開始されてから０．５秒後から切替部材６５０ｈが作動し（図９２９（ａ）参照）、特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球可能（Ｖ入賞可能）となるよ

うに構成している。
【１００１３】
つまり、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、小当たり遊技が開始されてから初回の遊技案内報知が終了するまでの間に、遊技球をＶ入賞させることが可能となるように構成することで、小当たり遊技が開始されてからＶ入賞を契機に大当たり遊技が実行されるまでの期間を短くしているため、単位時間当たりに実行される大当たり遊技の実行回数を増加させ易くすることができ、遊技時間に制限がある遊技者に対しても、意欲的に遊技を行わせることができる。
【１００１４】
さらに、本第３２制御例では、小当たり遊技中に遊技球がＶ入賞したタイミングに応じて、遊技球がＶ入賞したことを遊技者に報知するためのＶ演出の実行タイミングを異ならせるように構成している。具体的には、初回の遊技案内報知が実行されている間に遊技球がＶ入賞した場合には、初回の遊技案内報知が終了した後にＶ演出を実行し、初回の遊技案内報知が終了した後（２回目以降の遊技案内報知が実行されている間）に遊技球がＶ入賞した場合には、Ｖ入賞タイミングに合わせてＶ演出を実行するように構成している。
【１００１５】
このように構成することで、初回の遊技案内報知が実行されている間に、遊技球がＶ入賞した場合であっても、初回の遊技案内報知が途中で終了してしまうことを防ぐことができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。また、初回の遊技案内報知が終了した後に遊技球をＶ入賞させた場合には、即座にＶ演出を実行することができるため、小当たり遊技中に遊技球をＶ入賞させることができたことを確実に報知することができる。
【１００１６】
なお、本第３２制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技の遊技期間（遊技球をＶ入賞させることが可能な期間）が、初回の遊技案内報知が終了するタイミングよりも長く継続するように構成している。つまり、初回の遊技案内報知が終了した後に、右打ち遊技を行ったとしても、遊技球をＶ入賞させることができるように構成している。このように構成することで、熟練の遊技者に対しては、小当たり遊技が開始された直後から右打ち遊技を行わせ、短時間でＶ入賞を目指す遊技を行わせることができると共に、初心者の遊技者に対しては、遊技案内報知によって報知される小当たり遊技中の遊技方法を理解させた上で右打ち遊技を行わせてもＶ入賞を目指す遊技を行わせることができる。よって、遊技者の熟練度に応じた遊技を適正に行わせることができる。
【１００１７】
さらに、本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、遊技者が最短で小当たり遊技を終了させた場合の経過時間（最短小当たり遊技時間）が、初回の遊技案内報知が実行される期間（４秒間）よりも長くなるように構成している。具体的には、小当たり遊技のラウンド遊技が開始されてから、ラウンド遊技の終了条件が成立する入賞数（１０個）の遊技球が第２可変入賞装置６５０へと入賞するまでに要する期間が、最短でも５秒となるように構成している。
【１００１８】
このように構成することで、小当たり遊技が開始される前から継続して右打ち遊技を実行し、小当たり遊技のラウンド遊技が開始された直後から第２可変入賞装置６５０へと遊技球を入賞させる状況が発生したとしても、初回の遊技案内報知が終了するまでに、小当たり遊技が終了してしまうことを抑制することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【１００１９】
演出固定フラグ２２３ｔは、パチンコ機１０の演出モードとして、固定モードが設定されていることを示すためのフラグであって、固定モードが設定された場合にオンに設定される。遊技環境格納エリア２２３ｕは、遊技者が選択した遊技環境に関する情報を一時的に格納するための記憶領域であって、遊技環境データテーブル２２２ｆを参照して選択さ

れた各遊技環境の内容を示すための情報が格納される。
【１００２０】
＜第３２制御例における主制御装置により実行される制御処理について＞
次に、図９６３から図９８０のフローチャートを参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２０１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理と、定期的に（本制御例では２ｍ秒間隔で）起動されるタイマ割込処理と、ＮＭＩ端子への停電信号ＳＧ１の入力により起動されるＮＭＩ割込処理とがあり、説明の便宜上、はじめにタイマ割込処理とＮＭＩ割込処理とを説明し、その後、立ち上げ処理とメイン処理とを説明する。
【１００２１】
本第３２制御例では、上述した通り、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）と、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）と、を共に記憶している状態において、第２特別図柄抽選を優先的に実行するように構成している。また、第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選の何れにおいても、抽選結果として大当たり当選以外に、外れの一部において小当たり当選を判定可能に構成している。そして、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に、第２可変入賞装置６５０内に配設された特定領域（Ｖ領域）６５０ｅ３に遊技球を通過（Ｖ入賞）させることにより、Ｖ入賞に基づく大当たり遊技（Ｖ大当たり遊技）の実行条件が成立し、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を実行可能に構成している。
【１００２２】
また、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成し、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（図柄大当たり遊技）の一部、或いは、小当たり当選に基づいて実行されるＶ大当たり遊技の終了後に時短状態を設定可能に構成している。
【１００２３】
そして、時短状態が設定された場合には、通常状態が設定された場合よりも、第２特別図柄抽選を実行し易くなるように構成し、第２特別図柄抽選を、第１特別図柄抽選よりも、小当たり当選する確率が高くなるように規定することで、第１特別図柄抽選よりも、第２特別図柄抽選の方が、大当たり遊技（図柄大当たり遊技、Ｖ大当たり遊技）が実行され易くなるように構成している。
【１００２４】
そして、設定された時短状態を終了させるための時短終了条件として、複数の時短終了条件を設定可能に構成し、時短状態中に無用に多くの第１特別図柄抽選が実行されることを抑制すると共に、時短状態中に規定された回数（３回）の第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成している。また、第１特別図柄抽選よりも遊技者に有利となる第２特別図柄抽選の実行権利を所定個数（１個）を上限に獲得可能に構成しており、時短状態が終了し、通常状態が設定された後も、時短状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を所定回数（１回）実行させることができるように構成している。
【１００２５】
このように構成された第３２制御例におけるパチンコ機１０では、初期状態である通常状態において、第１特別図柄抽選を実行させるための左打ち遊技によって、第１特別図柄抽選で大当たり当選し図柄大当たり遊技が実行されることを目指す遊技が行われ、図柄大当たり遊技の終了後に時短状態が設定された場合には、右打ち遊技によって第２特別図柄抽選を実行させ、小当たり当選に基づいてＶ大当たり遊技が実行されることを目指す遊技が行われる。また、時短状態の終了条件が成立し、通常状態（初期状態）が設定される場合であっても、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させるために、時短状態が終了する直前まで継続して右打ち遊技が行われる。
【１００２６】

図９６３は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理を示すフローチャートである。タイマ割込処理は、例えば２ミリ秒毎に実行される定期処理である。タイマ割込処理では、まず各種入賞スイッチの読み込み処理を実行する（Ｓ１０１）。即ち、主制御装置１１０に接続されている各種スイッチの状態を読み込むと共に、当該スイッチの状態を判定して検出情報（入賞検知情報）を保存する。

【１００２７】

次に、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を実行する（Ｓ１０２）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では６５５３６）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。同様に、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では２９９）に達した際、０にクリアし、その第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値をＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【１００２８】

更に、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、第２当たり乱数カウンタＣ４、小当たり種別カウンタＣ５、の更新を実行する（Ｓ１０３）。具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別選択カウンタＣ３、第２当たり乱数カウンタＣ４、小当たり種別カウンタＣ５をそれぞれ１加算すると共に、それらのカウンタ値が最大値（本制御例ではそれぞれ、６５５３５，９９，９９，２９９，９９）に達した際、それぞれ０にクリアする。そして、各カウンタＣ１，Ｃ２，Ｃ３，Ｃ４，Ｃ５の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【１００２９】

次に、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて表示を行うための処理であると共に、第３図柄表示装置８１による第３図柄の変動パターンなどを設定する特別図柄変動処理を実行する（Ｓ１０４）。その後、第１入球口６４への球の入球（始動入賞）や第２入球口６４０への球の入球（始動入賞）に伴う始動入賞処理を実行する（Ｓ１０５）。尚、特別図柄変動処理（Ｓ１０４）、始動入賞処理（Ｓ１０５）の詳細は、図９６４～図９７１を参照して後述する。

【１００３０】

始動入賞処理（Ｓ１０５）を実行した後は、第２図柄表示装置において表示を行うための処理である普通図柄変動処理を実行し（Ｓ１０６）、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過に伴うスルーゲート通過処理を実行する（Ｓ１０７）。尚、普通図柄変動処理（Ｓ１０６）、及び、スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）の詳細は、図９７２および図９７３を参照して後述する。スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）を実行した後は、Ｖ入口通過処理を実行し（Ｓ１０８）、その後、Ｖ通過処理（Ｓ１０９）を実行する。ここで、Ｖ入口通過処理（Ｓ１０８）、Ｖ通過処理（Ｓ１０９）の詳細については図９７４及び図９７５を参照して後述する。

【１００３１】

Ｖ通過処理（Ｓ１０９）を実行した後は、発射制御処理を実行し（Ｓ１１０）、更に、定期的に実行すべきその他の処理を実行して（Ｓ１１１）、タイマ割込処理を終了する。なお、発射制御処理（Ｓ１１０）は、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、且つ、発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂが操作されていないことを条件に、球の発射のオン／オフを決定する処理である。主制御装置１１０は、球の発射がオンである場合に、発射制御装置１１２に対して球の発射指示をする。

【１００３２】

次に、図９６４を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である特別図柄変動処理（Ｓ１０４）を説明する。図９６４は、この

特別図柄変動処理（Ｓ１０４）を示すフローチャートである。特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）は、取得した各カウンタ値に基づいて、各種判定（当否判定）や決定を行い、所定の制御によりその決定された変動表示態様で、第１図柄表示装置３７に変動表示を可能に制御したり、設定されている遊技状態の移行管理制御を実行したり、第３図柄表示装置８１にて第３図柄、第４図柄の変動表示演出を実行させるための各種コマンドを設定したり、判定結果（当否判定結果）を示す表示態様で停止表示させるための制御が実行される。以下、特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）について説明する。

【１００３３】

この特別図柄変動処理（Ｓ１０４）では、まず、今現在が、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であるかを判別する（Ｓ２０１）。具体的には、大当たり中フラグ２０３ｋがオンであるかを判別する。判別の結果、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）であれば（Ｓ２０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【１００３４】

Ｓ２０１の処理において、特別図柄の大当たり中（大当たり遊技中）ではないと判別した場合は（Ｓ２０１：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であるか否かを判定し（Ｓ２０２）、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中でなければ（Ｓ２０２：Ｎｏ）、即ち、新たな特別図柄抽選（変動）を実行可能な状態であれば、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（第１特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ１）と、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（第２特別図柄の抽選に基づく変動表示の保留回数Ｎ２）を取得する（Ｓ２０３）。次に、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０よりも大きいかを判別する（Ｓ２０４）。第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０でなければ（Ｓ２０４：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を１減算し（Ｓ２０５）、演算により変更された第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｓ２０６）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃに格納する。

【１００３５】

Ｓ２０６の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納されたデータをシフトする（Ｓ２０７）。Ｓ２０７の処理では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの保留第１エリアに格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行いＳ２０９の処理へ移行する。

【１００３６】

なお、本第３２制御例では、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を、１個を上限に獲得可能に構成しているため、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂは、１個の特図２保留に関するデータ（各カウンタ値）を格納するための保留第１エリアのみを有しているが、特図２保留を１個よりも多い個数（例えば、４個）獲得可能に構成した場合であれば、特図２保留を獲得可能な個数に応じた数の保留エリア（保留第１エリア～保留第４エリア）を設ければ良く、この場合、保留第１エリア→実行エリア、保留第２エリア→保留第１エリア、保留第３エリア→保留第２エリア、保留第４エリア→保留第３エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトすれば良い。

【１００３７】

一方、Ｓ２０４の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が０である場合は（Ｓ２０４：Ｎｏ）、Ｓ２０３の処理で取得した第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０よりも大きいかを判別する（Ｓ２１１）。

【１００３８】

Ｓ２１１の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０で

あると判別した場合は（Ｓ２１１：Ｎｏ）、新たに特別図柄抽選を実行させることが可能なデータを保有していない状態であるため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ２１１の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０でない（即ち、１以上である）と判別した場合は（Ｓ２１１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１減算し（Ｓ２１２）、演算により変更された第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンドを設定する（Ｓ２１３）。ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２２３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂに格納する。

【１００３９】

Ｓ２１２の処理により保留球数コマンドを設定した後は、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａに格納されたデータを、Ｓ２０７の処理と同一の手法によりシフトして（Ｓ２１４）、処理をＳ２０９の処理へと移行する。Ｓ２０７、またはＳ２１４の処理後に実行されるＳ２０９の処理では、特別図柄判定処理を実行し（Ｓ２０９）、次いで、特別図柄変動パターン選択処理を実行し（Ｓ２１０）、その後、本処理を終了する。この特別図柄判定処理（Ｓ２０９）および特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）の詳細については図９６５及び図９６６を参照して後述する。

【１００４０】

Ｓ２０２の処理において、第１図柄表示装置３７の表示態様が変動中であれば（Ｓ２０２：Ｙｅｓ）、次いで、変動時間が経過したか否かを判別する（Ｓ２１５）。変動時間が経過していなければ（Ｓ２１５：Ｎｏ）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｓ２１６）、その後、本処理を終了する。Ｓ２１６の処理では、特別図柄の変動時間を計測するための変動時間カウンタの値が更新され、更新後の変動時間カウンタの値に対応させて第１図柄表示装置８１の表示が更新される。この変動時間カウンタには、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）にて選択された変動パターンに対応する変動時間を示す値が、特別図柄変動の開始タイミングでセットされ、その後、Ｓ２１６の処理を実行する毎に更新（減算）される。

【１００４１】

一方、Ｓ２１５の処理で変動時間が経過したと判別された場合は（Ｓ２１５：Ｙｅｓ）、即ち、Ｓ２１６の処理で更新された変動時間カウンタの値が０である場合は、第１図柄表示装置３７の停止図柄に対応した表示態様を設定する（Ｓ２１７）。停止図柄の設定は、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）によって予め行われる。この特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）が実行されると、実行エリアに格納された各種カウンタの値に基づいて、特別図柄の抽選が行われる。より具体的には、第１当たり乱数カウンタＣ１の値に応じて、今回の特別図柄抽選の結果が大当たり、小当たり、外れの何れであるかが決定されると共に、抽選結果が大当たりである場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値に応じて大当たり種別として大当たりＡ～大当たりＣのいずれかが決定される。また、抽選結果が小当たりである場合には、小当たり種別カウンタＣ５の値に応じて小当たり種別として小当たりＡ～小当たりＣのいずれかが決定される。

【１００４２】

尚、本第３２制御例では、特別図柄抽選の結果が、大当たりＡが設定された大当たりである場合には、第１図柄表示装置３７において青色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＢが設定された大当たりである場合には赤色のＬＥＤを点灯させ、大当たりＣが設定された大当たりである場合には、緑色のＬＥＤを点灯させる。また、小当たりＡが設定された小当たりである場合には、第１図柄表示装置３７において赤色のＬＥＤと青色のＬＥＤとを点灯させ、小当たりＢが設定された小当たりである場合には、第１図柄表示装置３７において青色のＬＥＤと緑色のＬＥＤとを点灯させ、小当たりＣが設定された小当たりである場合

には、第１図柄表示装置３７において赤色のＬＥＤと緑色のＬＥＤとを点灯させ、外れである場合には赤色のＬＥＤと青色のＬＥＤと緑色のＬＥＤとを点灯させる。なお、各ＬＥＤの表示は、次の変動表示が開始される場合に点灯が解除されるが、変動の停止後数秒間のみ点灯させるものとしても良い。

【１００４３】

つまり、第１図柄表示装置３７は、特別図柄抽選の結果を示すための表示態様として、特別図柄抽選の結果（大当たり、小当たり、外れ）だけで無く、当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）した場合に設定される当たり種別（大当たり種別、小当たり種別）に応じて異なる表示態様を表示するように構成している。このように構成することで、第１図柄表示装置３７に表示されている表示態様を把握することで、特別図柄抽選の結果を詳細に把握させることができる。

【１００４４】

なお、本第３２制御例では、上述した通り、第１図柄表示装置３７に表示される表示態様と、特別図柄抽選の結果と、を遊技者が対応付けることが困難となるように構成している。つまり、何れの抽選結果である場合にも表示されている表示態様（各ＬＥＤの点灯態様）を組み合わせて特別図柄抽選の結果を表示するように構成している。また、第１図柄表示装置３７では、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が実行されている間は、各ＬＥＤを点滅表示させるだけであり、今回の特別図柄抽選の結果を示唆するための示唆態様が、特別図柄変動が停止表示されるまでの間に表示されないように構成している。また、特別図柄変動が停止表示されたタイミングにて特別図柄抽選の結果を示すための表示態様が表示（各ＬＥＤを点灯表示）するように構成しているため、抽選結果を示すための表示態様が表示される期間が短くなるように構成している。

【１００４５】

このように構成することで、第１図柄表示装置３７の表示態様に基づいて特別図柄抽選の結果を遊技者が把握することは困難となるため、特別図柄変動と同期して実行される第３図柄変動に基づく変動演出が実行される第３図柄表示装置８１の表示画面に遊技者を注視させ易くすることができる。

【１００４６】

なお、本第３２制御例では、第１図柄表示装置３７に表示される抽選結果を示すための表示態様として、複数の発光色を有するＬＥＤの点灯状態の組合せを用いているが、これに限ること無く、同一色に点灯する複数のＬＥＤを設け、点灯させるＬＥＤの組合せによって実行された特別図柄抽選の結果、及び、当たり種別を表示可能に構成しても良い。

【１００４７】

Ｓ２１７の処理が終了した後は、第１図柄表示装置３７において実行中の変動表示が開始されたときに、特別図柄変動開始処理によって行われた特別図柄の抽選結果（今回の抽選結果）が、特別図柄の大当たりであるかを判別する（Ｓ２１８）。今回の抽選結果が特別図柄の大当たりであると判別した場合は（Ｓ２１８：Ｙｅｓ）、大当たり開始フラグ２０３ｊをオンに設定し（Ｓ２１９）、時短カウンタ２０３ｈの値をクリア（０に設定）し（Ｓ２２０）、今回の特別図柄変動を停止表示したことを示すための特図確定コマンドを設定し（Ｓ２２１）、本処理を終了する。一方、Ｓ２１８の処理において、特別図柄の大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ２１８：Ｎｏ）、次に、今回の抽選結果が特別図柄の小当たりであるかを判別し（Ｓ２２２）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ２２２：Ｙｅｓ）、小当たり開始設定処理を実行し（Ｓ２２３）、その後、時短更新処理を実行し（Ｓ２２４）、上述したＳ２２１の処理を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ２２２の処理において、今回の抽選結果が小当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ２２２：Ｎｏ）、Ｓ２２３の処理をスキップして時短更新処理を実行し（Ｓ２２４）、Ｓ２２１の処理へ移行する。なお、Ｓ２２３の処理において実行される小当たり開始設定処理（Ｓ２２３）の詳細な内容については、図９６８を参照して後述し、Ｓ２２４の処理において実行される時短更新処理（Ｓ２２４）の詳細な内容については、図９６９を参照して後述する。

【１００４８】

Ｓ２２１の処理によって設定される特図確定コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理の外部出力処理（図９７８のＳ１８０１参照）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、特図確定コマンドを受信すると、実行中の変動演出（第３図柄変動）を停止表示させるための処理を実行する。このように構成することで、例えば、変動パターンコマンドを受信したことに基づいて、変動パターンコマンドに含まれる特別図柄変動の変動時間に対応させて変動演出を実行した後に、パチンコ機１０への電力供給が遮断（停電等）され、音声ランプ制御装置１１３側で、特別図柄変動の残変動時間を管理できなくなった場合であっても、電源復旧後に出力される特図確定コマンドを受信することによって、実行中の第３図柄変動を確実に停止表示させることができる。

【１００４９】

次に、図９６５を参照して、特別図柄判定処理（Ｓ２０９）の処理内容について説明をする。図９６５は、特別図柄判定処理（Ｓ２０９）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄判定処理（Ｓ２０９）では、特別図柄抽選における当たり判定（大当たり判定、小当たり判定）が実行される。

【１００５０】

特別図柄判定処理（Ｓ２０９）が実行されると、まず、特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｓ３０１）、第１当たり乱数テーブル２０２ａに基づいて抽選結果を取得し（Ｓ３０２）、抽選結果が大当たりであると判定した場合は（Ｓ３０３：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｓ３０４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｓ３０５）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ３０３：Ｎｏ）、次に、抽選結果が小当たりであるかを判別し（Ｓ３０６）、抽選結果が小当たりであると判定した場合は（Ｓ３０６：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ３０７）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の小当たり図柄をセットし（Ｓ３０８）、本処理を終了する。また、Ｓ３０６の処理において小当たりでは無いと判定した場合、即ち、今回の特別図柄抽選の結果が外れである場合は（Ｓ３０６：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１００５１】

次に、図９６６を参照して、特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４）の一処理である特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）について説明する。図９６６はこの特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）を示すフローチャートである。

【１００５２】

特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）では、まず、特別図柄判定処理（図９６５のＳ２０９参照）において、特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否か、即ち、特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｓ４０１）。

【１００５３】

Ｓ４０１の処理において、特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｓ４０１：Ｙｅｓ）、大当たり種別選択テーブル２０２ｂと、取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値とに基づいて、大当たり種別を決定する（Ｓ４０２）。次いで、特別図柄実行エリアに格納されている変動種別カウンタＣＳ２の値を取得し（Ｓ４０３）、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に対応する現在の遊技状態（通常状態、時短状態）に対応した変動パターン選択テーブル２０２ｄを読み出す（Ｓ４０４）。

【１００５４】

そして、Ｓ４０３の処理で取得した変動種別カウンタＣＳ２の値と、Ｓ４０４の処理で読み出した変動パターン選択テーブル２０２ｄとに基づいて変動パターンを選択し（Ｓ４０５）、Ｓ４０５の処理で選択した変動パターンに基づいて、特図変動パターンコマンドを設定する（Ｓ４０６）。ここで設定される特図変動パターンコマンドには、特別図柄抽

選の抽選結果、特別図柄の変動時間を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理（図９７８のＳ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【１００５５】

次に、特別図柄の停止図柄を示す特図停止種別コマンドを設定し（Ｓ４０７）、第１図柄表示装置３７で特別図柄の変動開始を設定し（Ｓ４０８）、本処理を終了する。Ｓ４０７の処理で設定される特図停止種別コマンドには、今回の特別図柄変動の結果を示す停止図柄の種別、即ち、リーチ外れや、リーチにならない外れといった大まかな種別を示す情報が含まれており、主制御装置１１０のメイン処理（図９７８）の外部出力処理（図９７８のＳ１８０１参照）にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【１００５６】

一方、Ｓ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ４０１：Ｎｏ）、次に、特別図柄の抽選結果が小当たりであるかを判別し（Ｓ４０９）、小当たり当選であると判別した場合は（Ｓ４０９：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択テーブル２０２ｆと、取得している第１当たり種別カウンタＣ２の値とに基づいて、小当たり種別を決定する（Ｓ４１０）。そして、上述したＳ４０３の処理へ移行する。また、Ｓ４０９の処理において、特別図柄の抽選結果が小当たりでは無い（外れである）と判別した場合には（Ｓ４０９：Ｎｏ）、Ｓ４１０の処理をスキップしてＳ４０３の処理へ移行する。

【１００５７】

次に、図９６７を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり開始設定処理（Ｓ２２３）について説明する。図９６７は、小当たり開始設定処理（Ｓ２２３）を示したフローチャートである。この小当たり開始設定処理（Ｓ２２３）は、タイマ割込処理（図９６３参照）の特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）の中で実行される処理であり、小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ，Ｃ）に基づいて、小当たり遊技の開始を設定し、当選した小当たりに応じて時短情報を更新するための処理（当選回数終了条件に対する更新処理）が実行される。

【１００５８】

ここで、本パチンコ機１０は、小当たり遊技が開始されると第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０を遊技球が入賞可能（容易）な開放状態に可変し、そのＶ入賞装置６５０に入賞した球が特定領域（Ｖ入賞スイッチ（Ｖスイッチ）６５０ｅ３）を通過することで、その小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行（設定）されるよう構成されている。

【１００５９】

即ち、小当たり遊技が実行される遊技状態は、Ｖ入賞装置６５０に球が入賞可能となる（賞球を得ることが出来る）有利状態、且つ、通常遊技状態に比べて大当たり遊技が実行される可能性が高くなる有利状態となるよう構成されている。なお、詳細は後述するが本第３２制御例では、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ，Ｃ）に対応して異なる小当たり遊技が実行されるように構成されており、各小当たり種別に応じて、小当たり遊技中に球が特定領域を通過する可能性が異なるようにしている。

【１００６０】

このように構成することで、実行される小当たり遊技によって大当たり遊技（２種当たり）が実行（設定）される可能性（期待度）を可変させることができるため、遊技者に対して小当たりに当選するか否かだけでは無く、当選した小当たりの種別に対しても興味を持たせることができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【１００６１】

小当たり開始設定処理（Ｓ２２３）が実行されると、まず、小当たり種別と対応した開放シナリオを設定する（Ｓ５０１）。その後、Ｖ通過大当たり種別格納エリア２０３ｐに小当たり種別に応じた大当たり種別を設定する（Ｓ５０２）。より具体的には、小当たり種別と小当たり種別選択テーブル２０２ｆに基づいて、Ｖ通過大当たり種別（小当たり遊技中に球が特定領域を通過した場合に設定（実行）される大当たり遊技）を判別する。上

述したように、小当たり種別がＡであれば、大当たりＡ（６ラウンド時短有大当たり）であると判別し、小当たり種別がＢであれば、大当たりＢ（６ラウンド時短無大当たり）であると判別する。

【１００６２】

このように、２種当たりを獲得した場合に、大当たり種別を設定し、設定された大当たり種別に基づいて大当たり遊技を開始させる処理を実行することで、１種当たりに当選した場合と、２種当たりを獲得した場合とで、大当たり遊技に関する処理を共通化することができ、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。

【１００６３】

なお、本第３２制御例の構成に限ること無く、１種当たりに当選した場合のみ、或いは、２種当たりに当選した場合のみ、実行され得る大当たり遊技を設定可能に構成しても良いし、１種当たりと２種当たりとで異なる大当たり遊技処理を実行するように構成しても良い。

【１００６４】

図９６７に戻り、説明を続ける。Ｓ５０２の処理を終えると、次いで、小当たり種別に基づいて、小当たりの開始を設定し（Ｓ５０３）、小当たり開始フラグ２０３ｎと小当たり中フラグ２０３ｏをオンに設定する（Ｓ５０４）。その後、本処理を終了する。

【１００６５】

次に、図９６８を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される時短更新処理（Ｓ２２４）について説明する。図９６８は、時短更新処理（Ｓ２２４）を示したフローチャートである。この時短更新処理（Ｓ２２４）は、タイマ割込処理（図９６３参照）の特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）の中で実行される処理であり、時短回数を更新し、遊技状態を通常状態に設定するための処理である。

【１００６６】

時短更新処理（Ｓ２２４）では、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいか、即ち、現在が時短中であるかを判別する（Ｓ６０１）。Ｓ６０１の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きく無い（０である）、即ち、時短中ではないと判別した場合は（Ｓ６０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きい、即ち、時短中であると判別した場合は（Ｓ６０１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｓ６０２）、Ｓ６０３の処理へ移行する。

【１００６７】

Ｓ６０３の処理では、演算により変更された（１減算された）時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｓ６０３）。ここで設定された残時短回数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、後述のメイン処理（図９７８参照）の外部出力処理（Ｓ１８０１）の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。

【１００６８】

その後、時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別する（Ｓ６０４）。時短カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は（Ｓ６０４：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６０５）、小当たりカウンタ２０３ｓおよび特図２カウンタ２０３ｔの値を０に設定する（Ｓ６０６）。次いで、現在の遊技状態が通常状態であることを示す状態コマンドを設定し（Ｓ６０７）、本処理を終了する。

【１００６９】

一方、Ｓ６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ６０４：Ｎｏ）、今回実行された特別図柄変動が特図２変動（第２特別図柄変動）であるかを判別し（Ｓ６０８）、特図２変動であると判別した場合は（Ｓ６０８：Ｙｅｓ）、特図２カウンタ２０３ｔの値を１減算し（Ｓ６０９）、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値を示す残時短回数コマンドを設定し（Ｓ６１０）、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０であるかを判別する（Ｓ６１１）。

【１００７０】

Ｓ６１１の処理において、特図２カウンタ２０３ｔの値が０であると判別した場合は（Ｓ６１１：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６１２）、時短カウンタ２０３ｈおよび小当たりカウンタ２０３ｓの値を０に設定する（Ｓ６１３）。次いで、現在の遊技状態が通常状態であることを示す状態コマンドを設定し（Ｓ６１４）、本処理を終了する。

【１００７１】

また、Ｓ６０８の処理において、今回実行された特別図柄変動が特図２変動（第２特別図柄変動）では無いと判別した場合（Ｓ６０８：Ｎｏ）、或いは、Ｓ６１１の処理において、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０では無いと判別した場合（Ｓ６１１：Ｎｏ）は、小当たり時短更新処理を実行し（Ｓ６１５）、本処理を終了する。

【１００７２】

次に、図９６９を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される小当たり時短更新処理（Ｓ６１５）について説明する。図９６９は、小当たり時短更新処理（Ｓ６１５）の内容を示したフローチャートである。この小当たり時短更新処理（Ｓ６１５）は、タイマ割込処理（図９６３参照）の特別図柄変動処理（図９６４のＳ１０４参照）の時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）の中で実行される処理であり、当選した小当たりに基づいて時短情報を更新し、時短終了条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態から通常状態へと更新するための処理である。

【１００７３】

小当たり時短更新処理（Ｓ６１５）では、まず、小当たり当選したかを判別し（Ｓ７０１）、小当たり当選していないと判別した場合は（Ｓ７０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ７０１の処理において、小当たり当選していると判別した場合は（Ｓ７０１：Ｙｅｓ）、小当たりカウンタ２０３ｓの値を１減算し（Ｓ７０２）、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０であるかを判別する（Ｓ７０３）。Ｓ７０３の処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０であると判別した場合は（Ｓ７０３：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ７０４）、時短カウンタ２０３ｈ、および特図２カウンタ２０３ｔの値を０に設定する（Ｓ７０５）。次いで、現在の遊技状態が通常状態であることを示す状態コマンドを設定し（Ｓ７０６）、本処理を終了する。一方、Ｓ７０３の処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０では無いと判別した場合は（Ｓ７０３：Ｎｏ）、小当たり当選回数に基づく時短終了条件が成立していない状態であるため、上述したＳ７０４～Ｓ７０６の処理を実行すること無く本処理を終了する。

【１００７４】

なお、本第３２制御例では、複数の時短終了条件のうち、何れかの終了条件が成立した場合に、複数の時短終了条件のそれぞれに対応する時短情報を更新するための各種カウンタの値を０（時短終了条件が成立したことを示す値）に設定するように構成するだけであるため、時短状態が終了した後に、前回の時短状態がどの時短終了条件が成立して終了したのかを判別することができないが、例えば、成立した時短終了条件を記憶可能な記憶手段を設け、過去に成立した時短終了条件の種別や成立回数を判別可能に構成しても良い。

【１００７５】

このように構成することで、例えば、成立し易い時短終了条件を、設計値から算出した算出結果と、実際の成立回数とに基づいて決定し、その決定した内容に基づいて遊技者に成立し易い時短終了条件を示唆（報知）するように構成することができる。さらに、１の時短終了条件が成立した場合における他の時短終了条件に対応する時短情報の更新状況（例えば、時短カウンタ２０３ｈの値が０になった時点における小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔの各値）を記憶可能に構成し、最も成立し難い時短終了条件、即ち、複数の時短終了条件のうち、１の時短終了条件が成立した時点において、最も大きな値の時短情報を有する時短終了条件を判別するように構成しても良い。

【１００７６】

以上、説明をしたとおり、第３２制御例では、特別図柄の変動回数に基づいて成立する時短終了条件（変動回数終了条件）の成立の有無は、時短更新処理（図９６８参照）によ

り判別され、特別図柄の小当たり当選の当選回数に基づいて成立する時短終了条件（当選回数終了条件）の成立の有無は、小当たり時短更新処理（図９６９参照）により判別されるように構成している。そして、何れの処理において、複数設定される時短終了条件うち、何れかの終了条件が成立した場合には、他の時短終了条件に対応する時短情報の更新状況を示すための各種カウンタの値を全て時短終了条件が成立した状態を示すための値（０）に設定するように構成している。よって、何れの時短終了条件が成立した場合においても、時短状態を終了させるための処理内容を統一することができる。

【１００７７】

なお、本第３２制御例では、各時短終了条件に対応する時短情報の更新状況を示すために、時短状態が設定されたタイミングで各種カウンタに、各時短終了条件を示す値を設定し、各時短終了条件に対応する時短情報を判別した場合に、各種カウンタの値を減算し、減算した値が０となった場合に、対応する時短終了条件が成立したと判別する構成を用いているが、それ以外にも、時短状態が設定された時点で各種カウンタの値を０にセットし、対応する時短情報を判別した場合に、カウンタの値を１加算し、加算後のカウンタの値が時短終了条件を示す値であると判別した場合に時短状態を終了するように構成しても良い。つまり、時短終了条件の成立の有無を判別する手段と、時短状態が設定されている状態において、各種時短終了条件に対応する時短情報（特別図柄の変動回数や小当たり当選回数等）を更新する更新手段と、を設ける構成であれば良い。

【１００７８】

次に、図９７０を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理（図９６３参照）の一処理である始動入賞処理（Ｓ１０５）を説明する。図９７０は、この始動入賞処理（Ｓ１０５）を示すフローチャートである。始動入賞処理（Ｓ１０５）は、第１入球口６４、第２入球口６４０のいずれかに遊技球が入球（始動入賞）したかを判別して、始動入賞した場合には、保留上限個数（第１入球口６４は最大４個、第２入球口６４０は最大１個）まで、取得した各カウンタ値を第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにそれぞれ格納する処理である。

【１００７９】

また、保留球に基づいて取得された各カウンタ値が、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂにそれぞれ記憶されると、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂのそれぞれに記憶されている各カウンタ値に基づいて、事前に当否判定結果や選択される変動パターン等を予測する処理（所謂、先読み処理）が実行される。以下、始動入賞処理（図９７０のＳ１０５）について説明する。

【１００８０】

始動入賞処理（Ｓ１０５）では、まず、球が第１始動口である第１入球口６４に入球（始動入賞）したか否かを判別する（Ｓ８０１）。ここでは、第１入球口６４内に設けられた球検知スイッチ（図示せず）への球の入球を検出する。球が第１入球口６４に入球した（始動入賞があった）と判別した場合は（Ｓ８０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を取得し（Ｓ８０２）、その取得した値（Ｎ１）が４未満であるかを判別する（Ｓ８０３）。

【１００８１】

つまり、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値である４個よりも少ない状態であるか（即ち、保留個数が上限値まで記憶されていないか）が判別される。取得した値（Ｎ１）が４未満であると判別した場合には（Ｓ８０３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１加算し（Ｓ８０４）、音声ランプ制御装置１１３に対して第１入球口６４の保留個数（第１特別図柄の抽選権利保留数）を通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｓ８０５）。

【１００８２】

そして、各種カウンタ値（第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２

、変動種別カウンタＣＳ１）の各値をカウンタ用バッファから読み出し（取得して）、ＲＡＭ２０３の第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの対応する保留球数の記憶エリアに各々保留（格納）し（Ｓ８０６）、先読み処理を実行し（Ｓ８０７）、Ｓ８０８の処理へ移行する。

【１００８３】

また、Ｓ８０１の処理で球が第１入球口６４に入球していないと判別した場合（Ｓ８０１：Ｎｏ）、或いは、Ｓ８０３の処理で、現時点で第１入球口６４に対する保留個数が上限値であると判別した場合（Ｓ８０３：Ｎｏ）は、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を加算する処理をスキップして、Ｓ８０８の処理へ移行する。

【１００８４】

次に、Ｓ８０８～Ｓ８１４までの各処理については、Ｓ８０１～Ｓ８０７までの各処理で実行された第１始動口（第１入球口６４）への球の入賞に対して行われた処理と同様の処理が、第２入球口６４０に対して実行される処理であることが相違するのみであるので、詳細な説明は省略する。

【１００８５】

先読み処理（Ｓ８０７，Ｓ８１４）については、図９７１を参照して後述するが、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された各カウンタ値から当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理が実行される。なお、本制御例では、新たに記憶された各カウンタ値に基づいて当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、新たな始動入賞があった場合に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶（格納）されている全ての保留記憶に対して当否判定結果や、決定される変動パターン、停止種別等を判別する処理を実行するように構成しても良い。

【１００８６】

また、本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな情報（入賞情報）を格納する場合、即ち、特別図柄の抽選権利を新たに獲得した場合に、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別する構成としているが、これに限ること無く、例えば、球がスルーゲート６７を通過した場合や、普通図柄の抽選結果に応じて、特別図柄の抽選権利（入賞情報）の内容を事前に判別するように構成しても良い。

【１００８７】

上述した通り、本制御例では、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）または第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）を加算した場合に、加算された入賞に関する情報（入賞情報）に基づいた先読み処理（Ｓ８１３）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、Ｓ８０３の処理で第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が上限数（４）であると判別した場合（Ｓ８０３：Ｎｏ）、即ち、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に先読み処理（Ｓ８１３）を実行することができるように構成しても良い。これにより、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態においても、先読み処理を実行させるために遊技者に継続して遊技を行わせることができる。また、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球を入球させた場合に付加価値を付与することができるため、特別図柄の保留球数が上限に到達している状態で第１入球口６４に球が入球した際に遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１００８８】

次に、図９７１を参照して、始動入賞処理（図９７０のＳ１０５）の一処理である先読み処理（Ｓ８０７）について説明する。図９７１は、この先読み処理（Ｓ８０７）を示すフローチャートである。

【１００８９】

先読み処理（Ｓ８０７）では、まず、新たに第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａま

たは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに記憶された格納エリアから各種カウンタ値である、第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、変動種別カウンタＣＳ１の各値を読み出す（Ｓ９０１）。そして、読み出したデータを先読み保留記憶エリアの空いている記憶エリアのうち、入賞順序がもっとも小さいエリアに記憶する。

【１００９０】

次に、新たに先読み保留記憶エリアに記憶された各カウンタ値に基づいて、当否判定結果を判定する。なお、ここでは、特別図柄の低確率状態である場合の当否判定と、特別図柄の高確率状態である場合の当否判定との両方が判別される。これは、新たな保留記憶が発生したタイミング（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留（入賞情報）が記憶されたタイミング）と、今回新たに保留された入賞情報に基づいて大当たり判定が実行されるタイミングとにはタイムラグが発生することから、今回新たに保留された入賞情報に基づく大当たり判定が実行されるタイミングで設定されている遊技状態（特別図柄の確率状態）を予測することが困難だからである。

【１００９１】

次に、当否判別結果が大当たりであるか否かを判別する（Ｓ９０２）。判別結果が大当たりであると判別した場合は（Ｓ９０２：Ｙｅｓ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、大当たり種別と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ９０３）、その後、本処理を終了する。

【１００９２】

一方、Ｓ９０２の処理における判別結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｓ９０２：Ｎｏ）、読み出した各種カウンタ値に基づいて、当否判別結果が小当たりであるかを判別し（Ｓ９０４）、Ｓ９０４の当否判別結果に基づいて、外れ当選、及び、小当たり当選と、変動パターンと、を特定可能な情報を含む入賞コマンドを設定し（Ｓ９０５，Ｓ９０６）、その後、本処理を終了する。

【１００９３】

ここで、Ｓ９０３，Ｓ９０５或いはＳ９０６の処理で設定された入賞コマンドは、上述した当否判定結果を示すための情報（当否判定結果に基づいて異なる意味を持たせる情報）に加え、共通情報として、Ｓ９０１の処理によって読み出された各種カウンタ値の値を示すための情報も含んで設定される。そして、本処理で設定された入賞コマンドが主制御装置１１０のメイン処理（図９７８参照）にて実行される外部出力処理（Ｓ１８０１）によって音声ランプ制御装置１１３に対して出力される。

【１００９４】

音声ランプ制御装置１１３側では、入賞コマンドを受信した場合に、入賞コマンドに含まれる各種情報に基づいて、保留球の表示態様を可変させて（例えば、保留球の色を通常とは異なる色で可変して）表示させたり、変動開始前に予告図柄等を表示して遊技者に当否判定結果を示唆したりする演出（先読み演出）を実行できる。

【１００９５】

なお、本制御例では、特別図柄の確率状態が１つ（特別図柄の低確率状態）しかないため、入賞コマンドに設定する情報（当否判定結果）を遊技状態に関わらず設定することができるが、例えば、特別図柄の確率状態を複数（特別図柄の高確率状態、特別図柄の低確率状態）有する遊技機においては、特別図柄の高確率状態の場合の当否判定結果と、特別図柄の低確率状態の場合の当否判定結果とを判別し、各判別の結果に基づいた入賞コマンドを設定するように構成しても良いし、特別図柄が高確率状態であっても、低確率状態であっても大当たりと判定される判定値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）を規定し、その判定値を読み出した場合のみ特別図柄の大当たりを示す入賞コマンドを設定するように構成しても良い。

【１００９６】

このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側に対して、特定の大当たりであることを事前判別した場合のみ大当たりを示す入賞コマンドを出力することになるため

、先読み演出が実行されない特別図柄変動に対して、大当たり当選の期待感を持たせることができる。

【１００９７】

さらに、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに格納（記憶）されている保留記憶（入賞情報）に基づく特別図柄の抽選が行われる際の遊技状態を正確に判別して、その遊技状態に基づいて当否判定を実行するように構成してもよい。この場合には、変動パターンの選択を保留球数によって可変するのではなく、変動開始時の保留球数に関わらず一定の変動パターンを選択するように構成することで判別が可能となる。先読みを実行する場合に、その保留球が変動開始されるまでの変動順序を保留記憶されている情報に基づいて判別することで変動開始時の遊技状態を判別できる。

【１００９８】

また、本制御例では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たな保留記憶（入賞情報）が格納（記憶）された場合に、その入賞情報に基づく先読み処理を実行し、その先読み処理の中で当否判定を事前に予測する構成を用いているが、これに限ること無く、主制御装置１１０の先読み処理において、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂに新たに格納（記憶）された入賞情報（保留記憶）の内容（各カウンタ値）を示す情報を入賞コマンドとして設定し、音声ランプ制御装置１１３側で受信した入賞コマンドに含まれる情報に基づいて当否判定結果を予測するように構成しても良い。

【１００９９】

このように構成することで、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができる。また、音声ランプ制御装置１１３側で、先読み演出を実行するか否かを判別する処理を実行し、先読み演出を実行すると判別した場合に、主制御装置１１０から受信した入賞コマンドに含まれる情報を解析（当否判定結果の予測）するように構成すると良い。これにより、先読み演出を実行しない場合には、具体的な先読み処理（当否判定結果の予測）が実行されないため、パチンコ機１０にて無駄な制御が実行されることを抑制することができる。また、無題に実行された先読み処理の結果を遊技者に不正に取得されてしまう不具合を抑制することができる。

【１０１００】

次に、図９７２を参照して、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるタイマ割込処理の一処理である普通図柄変動処理（Ｓ１０６）について説明する。図９７２は、この普通図柄変動処理（Ｓ１０６）を示すフローチャートである。普通図柄変動処理（Ｓ１０６）は、第２図柄（普通図柄）の変動表示や、電動役物６４０ａの開放時間などを制御するための処理であり、普通図柄変動（抽選）に関連する様々な処理（普通図柄変動を実行する処理、実行する普通図柄変動の変動態様（変動時間）を設定する処理、実行中の普通図柄変動を更新する処理、普通図柄変動を停止させる処理、普通図柄抽選の結果が当たりである場合に実行される普図当たり遊技の遊技内容を決定する処理）が実行される処理である。

【１０１０１】

この普通図柄変動処理（Ｓ１０６）では、まず、今現在が、普通図柄（第２図柄）の当たり中であるかを判別する（Ｓ１１０１）。普通図柄（第２図柄）の当たり中としては、第２図柄表示装置８３において当たりを示す表示がなされてから（当たり図柄が停止表示してから）電動役物６４０ａの開閉制御がなされている最中まで（当たり遊技が終了するまで）が含まれる。普通図柄（第２図柄）の当たり中であると判別した場合には（Ｓ１１０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【１０１０２】

一方、普通図柄（第２図柄）の当たり中でないと判別した場合には（Ｓ１１０１：Ｎｏ）、第２図柄表示装置８３の普通図柄が変動表示中であるかを判別する（Ｓ１１０２）。普通図柄の変動表示中では無い、即ち、現在が新たな普通図柄変動（抽選）を実行可能な

状態であると判別した場合は（Ｓ１１０２：Ｎｏ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を取得し（Ｓ１１０３）、その値が０よりも大きいかを判別する（Ｓ１１０４）。

【１０１０３】

Ｓ１１０４の処理で普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が０であると判別された場合には（Ｓ１１０４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ１１０４：Ｙｅｓ）、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を１減算する（Ｓ１１０５）。つまり、Ｓ１１０４の処理において新たな普通図柄変動を実行するための条件（普通図柄変動に用いるための入賞情報が保留記憶されていること）が成立していると判別された場合は、保留記憶されている入賞情報を用いて普通図柄変動を実行するため、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値を１減算する。

【１０１０４】

次に、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納されたデータをシフトする（Ｓ１１０６）。Ｓ１１０６の処理では、普通図柄保留球格納エリア２０３ｃの普通図柄保留１～普通図柄保留４に格納されているデータを、実行エリア側に順にシフトさせる処理を行う。より具体的には、普通図柄保留１→実行エリアといった具合に各エリア内のデータをシフトする。データをシフトした後は、普通図柄保留球実行エリア（図示せず）に格納されている第２当たり乱数カウンタＣ４の値を取得する（Ｓ１１０７）。

【１０１０５】

次に、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいか、即ち、現在が普通図柄の高確率状態（時短中）であるか否かを判別し（Ｓ１１０８）、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ１１０８：Ｙｅｓ）、高確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃの当たり判定値に基づいて当否判定結果（抽選結果）を取得し（Ｓ１１０９）、Ｓ１１１１の処理へ移行する。一方、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きく無い（０である）と判別した場合は（Ｓ１１０８：Ｎｏ）、低確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃの当たり判定値に基づいて、当否判定結果が取得され（Ｓ１１１０）、Ｓ１１１１の処理へ移行する。

【１０１０６】

Ｓ１１１１の処理では、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりであるかを判別し（Ｓ１１１１）、当たりであると判別した場合は（Ｓ１１１１：Ｙｅｓ）、当たり時の表示態様である「○」の表示態様を設定し（Ｓ１１１２）、Ｓ１１１４の処理へ移行する。一方、Ｓ１１１１の処理で、今回の普通図柄変動（抽選）が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｓ１１１１：Ｎｏ）、外れ時の表示態様である「×」の表示態様を設定し（Ｓ１１１３）、Ｓ１１１４の処理へ移行する。

【１０１０７】

Ｓ１１１４の処理では、普通図柄の変動時間を３秒に設定し本処理を終了する。

【１０１０８】

なお、本制御例では、上述した通り、設定される普通図柄の確率状態に応じて、普通図柄の変動時間を異ならせているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態に関わらず、常に変動時間として３秒が設定されるように構成してもよい。このように構成することで、遊技状態が切り替わるタイミングにおいて、具体的には、一般的に長い変動時間が設定され易い通常状態（普通図柄の低確率状態）から、短い変動時間が設定され易い時短状態（普通図柄の高確率状態）へと遊技状態が切り替わる大当たり遊技終了のタイミングにおいて、長い変動時間の普通図柄変動が実行されており、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態中の普通図柄抽選が実行されない事態が発生することを抑制することができる。

【１０１０９】

なお、普通図柄の変動時間の設定方法については、本制御例の構成に限ること無く、遊技状態に応じて変動時間を異ならせたり、普図保留球数に応じて変動時間を異ならせたり

、取得した所定値に応じて変動時間を異ならせたりしても良く、例えば、本制御例では、普通図柄変動の変動時間を、設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）と、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（普図保留数）と、に基づいて可変設定するように構成しても良い。さらに、設定された普通図柄の変動時間によって、第２入球口６４０への球の入球のし易さが異なるように構成しても良い。

【１０１１０】

このように、設定される普通図柄の変動時間の長さに応じて、第２入球口６４０への球の入球具合を可変させるように構成することで、第２入球口６４０への球の入球のし易さを遊技状態に応じて容易に可変することができるため、様々な遊技性を創り出すことができる。

【１０１１１】

一方、Ｓ１１０２の処理において、普通図柄（第２図柄）が変動表示中であると判別した場合には（Ｓ１１０２：Ｙｅｓ）、第２図柄表示装置８３において実行している普通図柄の変動時間が経過したかを判別し（Ｓ１１１５）、変動時間が経過していないと判別した場合は（Ｓ１１１５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１０１１２】

一方、Ｓ１１１５の処理において変動時間が経過していると判別した場合は（Ｓ１１１５：Ｙｅｓ）、次に、第２図柄表示装置８３の停止表示を設定する（Ｓ１１１６）。Ｓ１１１６の処理では、今回の普通図柄の抽選が当たりである場合には、第２図柄表示装置８３には「○」図柄が停止表示（点灯表示）されるように設定する。一方、普通図柄の抽選が外れである場合には、第２図柄表示装置８３には「×」図柄が停止表示（点灯表示）される。つまり、上述したＳ１１１２、或いはＳ１１１３の処理で設定された表示態様を停止表示させるための設定が行われる。

【１０１１３】

Ｓ１１１６の処理により、停止表示を設定すると、第２図柄表示装置８３における変動表示が終了し、Ｓ１１１２の処理、或いはＳ１１１３の処理で設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）が第２図柄表示装置８３に停止表示（点灯表示）される。

【１０１１４】

次に、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであるかを判別する（Ｓ１１１７）。普通図柄の抽選結果が当たりでは無い（外れである）と判別した場合は（Ｓ１１１７：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、今回の普通図柄の抽選結果は当たりであると判別した場合には（Ｓ１１１７：Ｙｅｓ）、現在の遊技状態が時短中（普通図柄の高確率状態）であるかを時短カウンタ２０３ｈの値を参照して判別し（Ｓ１１１８）、時短中（普通図柄の高確率状態）であると判別した場合は（Ｓ１１１８：Ｙｅｓ）、普図当たり遊技の遊技内容として、時短用普図当たりシナリオ動作、具体的には、電動役物６４０ａの開放時間が１秒間×２回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｓ１１２０）、Ｓ１１２１の処理へ移行する。

【１０１１５】

一方、Ｓ１１１８の処理で時短中（普通図柄の高確率状態）では無いと判別した場合は（Ｓ１１１８：Ｎｏ）、普図当たり遊技の遊技内容として、通常用普図当たりシナリオ動作、具体的には、電動役物６４０ａの開放時間が５秒間×１回の遊技内容（開放動作）を設定し（Ｓ１１１９）、Ｓ１１２１の処理へ移行する。

【１０１１６】

Ｓ１１２１の処理では、Ｓ１１１９、或いはＳ１１２０の処理において設定されたシナリオに基づいて電動役物６４０ａの開閉制御開始を設定し（Ｓ１１２１）、本処理を終了する。

【１０１１７】

次に、本制御例における電動役物６４０ａの開閉制御態様（開放パターン）について説明をする。本制御例のパチンコ機１０では、普通図柄の当否判定を行うタイミング（Ｓ１１０８～Ｓ１１１１の処理を行うタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（

高確率状態、低確率状態）に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミング（Ｓ１１１５の処理で変動時間が経過したと判別したタイミング）にて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。

【１０１１８】

即ち、本制御例では、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）と、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）とが独立して実行されるように構成されており、さらに、特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果に基づいて普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）が可変するように構成している。よって、普通図柄に関する変動処理（抽選処理）が実行されている期間中に並行して実行される特別図柄に関する変動処理（抽選処理）の結果によっては、普通図柄の当否判定を行うタイミングでは普通図柄の高確率状態が設定され、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでは普通図柄の低確率状態が設定される場合が発生する。

【１０１１９】

このような状況において、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングにて設定されている普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）に基づいて、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定してしまうと、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で、電動役物６４０ａがロング開放（普通図柄の高確率状態中が設定されている場合に実行される開放パターン）してしまうという問題があった。

【１０１２０】

そこで、本制御例では、電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態（高確率状態、低確率状態）を判別し、その判別結果に基づいて電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するように構成している。これにより、設定されている遊技状態に応じた開放パターンで電動役物６４０ａを開放させることができる。

【１０１２１】

なお、本制御例では、普通図柄の当否判定を行うタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて普通図柄の当否判定を実行し、普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングにおける普通図柄の確率状態に基づいて電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、普通図柄の当否判定を行うタイミングで普通図柄の高確率状態が設定されており、且つ普通図柄の当たり遊技にて可動させる電動役物６４０ａの開放制御態様（開放パターン）を設定するタイミングでも普通図柄の高確率状態が設定されている場合にのみ、電動役物６４０ａがロング開放するように構成しても良いし、普通図柄の当否判定を行うタイミングで設定されている遊技状態に基づいて、電動役物６４０ａの開放パターンを設定するように構成しても良い。

【１０１２２】

また、詳細な説明は省略しているが、普通図柄変動処理（Ｓ１０６参照）において決定された各種情報（普通図柄抽選の結果、普通図柄変動の変動時間、普図当たりシナリオ等）は、それぞれ各種情報の内容を示すコマンドが設定され、主制御装置１１０のメイン処理の外部出力処理にて音声ランプ制御装置１１３へと出力される。

【１０１２３】

次に、図９７３を参照してスルーゲート通過処理（Ｓ１０７）の内容について説明をする。図９７３は、スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）の内容を示したフローチャートである。このスルーゲート通過処理（Ｓ１０７）は、タイマ割込処理の中で実行され、普通図柄始動口（スルーゲート）６７における球の通過の有無を判断し、球の通過があった場合に、第２当たり乱数カウンタＣ４が示す値を取得し実行エリアに格納するための処理である。また、取得した普通当たり乱数カウンタＣ５の値を用いて、実際の当否判定が実行されるよりも前に（普通図柄変動処理にて当否判定（Ｓ１１１１参照）が実行されるよりも

前に）、抽選結果（当否判定結果）を事前に取得するための処理である。
【１０１２４】
スルーゲート通過処理（Ｓ１０７）では、まず、球が普通入球口（スルーゲート）６７を通過したか否かを判定する（Ｓ１２０１）。ここでは、普通入球口（スルーゲート）６７における球の通過を３回のタイマ割込処理にわたって検出する。そして、球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過したと判定されると（Ｓ１２０１：Ｙｅｓ）、次に、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を取得し（Ｓ１２０２）、次いで、その取得した普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないか（普通図柄の保留球数が上限値に到達していないか）を判別する（Ｓ１２０３）。
【１０１２５】
Ｓ１２０３の処理で、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きい（上限値の４である）と判別した場合は（Ｓ１２０３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）が４よりも大きくないと判別した場合は（Ｓ１２０３：Ｙｅｓ）、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）に１を加算し（Ｓ１２０４）、加算後の普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（Ｍ）を示すための普図保留球数コマンドを設定し（Ｓ１２０５）、第２当たり乱数カウンタＣ４の値を普通図柄保留球格納エリア２０３ｃに格納し（Ｓ１２０６）、本処理を終了する。なお、詳細な説明は省略するが、本制御例では、特別図柄の保留球（特図保留）を獲得した場合と同様に、普通図柄の保留（普図保留）を獲得した場合に、その獲得した普図保留に含まれる第２当たり乱数カウンタＣ４を、第２当たり乱数テーブル２０２ｃを参照して抽選結果を事前に取得可能に構成している（普図先読みを実行可能に構成している）。そして、普図先読みの結果を示す情報を含む普図用入賞情報コマンドを設定可能に構成している。
【１０１２６】
ここで設定された普図用入賞情報コマンドは、上述した各制御例にて設定される特別図柄の事前判別結果を示す入賞情報コマンドと同一の処理によって音声ランプ制御装置１１３へと通知される。このように構成することで、保留記憶されている普通図柄の抽選権利に対応する普通図柄抽選の抽選結果を事前に判別し、その事前判別結果に基づいた演出を実行することが可能となる。
【１０１２７】
次に、図９７４、及び図９７５を参照して、Ｖ入口通過処理（Ｓ１０８）、及び、Ｖ通過処理（Ｓ１０９）の内容について説明をする。図９７４、及び図９７５に示したＶ入口通過処理（Ｓ１０８）、及び、Ｖ通過処理（Ｓ１０９）は、上述した制御例に記載したＶ入口通過処理、及び、Ｖ通過処理と同一の処理が実行されるため、その詳細な説明を省略する。
【１０１２８】
次に、図９７６を参照して、ＮＭＩ割込処理について説明をする。図９７６は、主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるＮＭＩ割込処理を示すフローチャートである。ＮＭＩ割込処理は、停電の発生等によるパチンコ機１０の電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される処理である。このＮＭＩ割込処理により、電源断の発生情報がＲＡＭ２０３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子に出力される。すると、ＭＰＵ２０１は、実行中の制御を中断してＮＭＩ割込処理を開始し、電源断の発生情報の設定として、電源断の発生情報をＲＡＭ２０３に記憶し（Ｓ１６０１）、ＮＭＩ割込処理を終了する。
【１０１２９】
なお、上記のＮＭＩ割込処理は、払出発射制御装置１１１でも同様に実行され、かかるＮＭＩ割込処理により、電源断の発生情報がＲＡＭ２１３に記憶される。即ち、停電の発生等によりパチンコ機１０の電源が遮断されると、停電信号ＳＧ１が停電監視回路２５２から払出制御装置１１１内のＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子に出力され、ＭＰＵ２１１は実行中の制御を中断して、ＮＭＩ割込処理を開始するのである。

【１０１３０】
次に、図９７７を参照して、主制御装置１１０に電源が投入された場合に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行される立ち上げ処理について説明する。図９７７は、この立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【１０１３１】
この立ち上げ処理は電源投入時のリセットにより起動される。立ち上げ処理（図９７７）では、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｓ１７０１）。例えば、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。次いで、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置１１３、払出制御装置１１１等の周辺制御装置）が動作可能な状態になるのを待つために、ウエイト処理（本制御例では１秒）を実行する（Ｓ１７０２）。そして、ＲＡＭ２０３のアクセスを許可する（Ｓ１７０３）。
【１０１３２】
その後は、電源装置１１５に設けたＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされているか否かを判別し（Ｓ１７０４）、オンされていれば（Ｓ１７０４：Ｙｅｓ）、処理をＳ１７１５へ移行する。一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされていなければ（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、更にＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１７０５）、記憶されていなければ（Ｓ１７０５：Ｎｏ）、前回の電源遮断時の処理が正常に終了しなかった可能性があるので、この場合も、処理をＳ１７１５へ移行する。
【１０１３３】
ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ判定値を算出し（Ｓ１７０６）、算出したＲＡＭ判定値が正常でなければ（Ｓ１７０７：Ｎｏ）、即ち、算出したＲＡＭ判定値が電源遮断時に保存したＲＡＭ判定値と一致しなければ、バックアップされたデータは破壊されているので、かかる場合にも処理をＳ１７１５へ移行する。なお、ＲＡＭ判定値は、例えばＲＡＭ２０３の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。このＲＡＭ判定値に代えて、ＲＡＭ２０３の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断するようにしても良い。
【１０１３４】
Ｓ１７１５の処理では、サブ側の制御装置（周辺制御装置）となる払出制御装置１１１を初期化するために払出初期化コマンドを送信する（Ｓ１７１５）。払出制御装置１１１は、この払出初期化コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３のスタックエリア以外のエリア（作業領域）をクリアし、初期値を設定して、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。主制御装置１１０は、払出初期化コマンドの送信後は、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１６、Ｓ１７１７）を実行する。
【１０１３５】
上述したように、本パチンコ機１０では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時にＲＡＭデータを初期化する場合にはＲＡＭ消去スイッチ１２２を押しながら電源が投入される。従って、立ち上げ処理の実行時にＲＡＭ消去スイッチ１２２が押されていれば、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１６、Ｓ１７１７）を実行する。
【１０１３６】
また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、ＲＡＭ判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に、ＲＡＭ２０３の初期化処理（Ｓ１７１６、Ｓ１７１７）を実行する。ＲＡＭの初期化処理（Ｓ１７１６、Ｓ１７１７）では、ＲＡＭ２０３の使用領域を０クリアし（Ｓ１７１６）、その後、ＲＡＭ２０３の初期値を設定する（Ｓ１７１７）。ＲＡＭ２０３の初期化処理の実行後は、Ｓ１７１０の処理へ移行する。
【１０１３７】
一方、ＲＡＭ消去スイッチ１２２がオンされておらず（Ｓ１７０４：Ｎｏ）、電源断の発生情報が記憶されており（Ｓ１７０５：Ｙｅｓ）、更にＲＡＭ判定値（チェックサム値等）が正常であれば（Ｓ１７０７：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２０３にバックアップされたデータ

を保持したまま、電源断の発生情報をクリアする（Ｓ１７０８）。次に、サブ側の制御装置（周辺制御装置）を駆動電源遮断時の遊技状態に復帰させるための復電時の払出復帰コマンドを送信し（Ｓ１７０９）、Ｓ１７１０の処理へ移行する。払出制御装置１１１は、この払出復帰コマンドを受信すると、ＲＡＭ２１３に記憶されたデータを保持したまま、遊技球の払い出し制御を開始可能な状態となる。

【１０１３８】

次に、音声ランプ制御装置１１３に対して、各種演出を実行することを許可する演出許可コマンドを出力する（Ｓ１７１０）。その後、時短中カウンタの値を読み出し（Ｓ１７１１）、読み出した値に基づく状態コマンドを設定し（Ｓ１７１２）、流路ソレノイドをオフに設定し（Ｓ１７１３）、割込みを許可し（Ｓ１７１４）、後述するメイン処理に移行する。

【１０１３９】

次に、図９７８を参照して、上記した立ち上げ処理後に主制御装置１１０内のＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理について説明する。図９７８は、このメイン処理を示すフローチャートである。このメイン処理では、大別して、カウンタの更新処理と、電源断時処理とが実行される。

【１０１４０】

メイン処理（図９７８参照）においては、まず、タイマ割込処理の中でＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶されたコマンド等の出力データをサブ側の各制御装置（周辺制御装置）に送信する外部出力処理を実行する（Ｓ１８０１）。具体的には、タイマ割込処理におけるスイッチ読み込み処理で検出した入賞検知情報の有無を判別し、入賞検知情報があれば払出制御装置１１１に対して獲得球数に対応する賞球コマンドを送信する。また、特別図柄変動処理や始動入賞処理で設定された保留球数コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信する。更に、この外部出力処理（Ｓ１８０１）により、主制御装置１１０の各種処理にて設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３に送信し、第３図柄表示装置８１にて表示される各種演出（変動演出、装飾演出等）を設定するための情報とする。また、大当たり制御処理で設定されたオープニングコマンド、ラウンド数コマンド、エンディングコマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。さらに、その他制御処理において設定された各種コマンドを音声ランプ制御装置１１３へ送信する。加えて、球の発射を行う場合には、発射制御装置１１２へ球発射信号を送信する。

【１０１４１】

次に、変動種別カウンタＣＳ１の値を更新する（Ｓ１８０２）。具体的には、変動種別カウンタＣＳ１を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では１９８）に達した際、０にクリアする。そして、変動種別カウンタＣＳ１の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域に格納する。

【１０１４２】

変動種別カウンタＣＳ１の更新が終わると、払出制御装置１１１より受信した賞球計数信号や払出異常信号を読み込み（Ｓ１８０３）、次いで、特別図柄の大当たり状態である場合に、音声ランプ制御装置１１３にて大当たり演出を実行させるためのコマンドの設定や、可変入賞装置６５の特定入賞口６５ａを開放動作するための大当たり制御処理を実行する（Ｓ１８０４）。

【１０１４３】

大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の詳細な内容については、図９７９を参照して後述するが、この大当たり制御処理（Ｓ１８０４）では、大当たり状態のラウンド毎に特定入賞口６５ａ（以下、入賞口等と称す）を開放し、入賞口等（特定入賞口６５ａ）の最大開放時間が経過したか、又は入賞口等（特定入賞口６５ａ）に球が規定数入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると入賞口等（特定入賞口６５ａ）を閉鎖する。この入賞口等（特定入賞口６５ａ）の開放と閉鎖とを所定ラウンド数繰り返し実行する。尚、本制御例では、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）をメイン処理において実行してい

るが、タイマ割込処理において実行しても良い。
【１０１４４】
次いで、小当たり遊技に関する各種動作制御が実行される小当たり制御処理（Ｓ１８０５）を実行し、Ｓ１８０６の処理へ移行する。
【１０１４５】
次いで、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開閉制御を行う電動役物開閉処理を実行する（Ｓ１８０６）。電動役物開閉処理では、普通図柄変動処理（図９７２参照）のＳ１１２１の処理によって電動役物の開閉制御開始が設定された場合に、電動役物の開閉制御を開始する。尚、この電動役物の開閉制御は、普通図柄変動処理におけるＳ１１１９の処理、Ｓ１１２０の処理、によって設定された期間が終了するまで継続される。
【１０１４６】
次に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示を更新する第１図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１８０７）。第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理（図９６６のＳ２１０参照）によって変動パターンが設定された場合に、その変動パターンに応じた変動表示を、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて開始する。本制御例では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７ＢのＬＥＤの内、変動が開始されてから変動時間が経過するまでは、例えば、現在点灯しているＬＥＤが赤であれば、その赤のＬＥＤを消灯すると共に緑のＬＥＤを点灯させ、緑のＬＥＤが点灯していれば、その緑のＬＥＤを消灯すると共に青のＬＥＤを点灯させ、青のＬＥＤが点灯していれば、その青のＬＥＤを消灯すると共に赤のＬＥＤを点灯させる。
【１０１４７】
なお、メイン処理は４ミリ秒毎に実行されるが、そのメイン処理の実行毎にＬＥＤの点灯色を変更すると、ＬＥＤの点灯色の変化を遊技者が確認することができない。そこで、遊技者がＬＥＤの点灯色の変化を確認することができるように、メイン処理が実行される毎にカウンタ（図示せず）を１カウントし、そのカウンタが１００に達した場合に、ＬＥＤの点灯色の変更を行う。即ち、０．４ｓ毎にＬＥＤの点灯色の変更を行う。尚、カウンタの値は、ＬＥＤの点灯色が変更されたら、０にリセットされる。
【１０１４８】
また、第１図柄表示更新処理では、特別図柄変動パターン選択処理によって設定された変動パターンに対応する変動時間が終了した場合に、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて実行されている変動表示を終了し、特別図柄変動パターン選択処理のＳ４０７で設定された表示態様で、停止図柄を第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂに停止表示（点灯表示）する。
【１０１４９】
さらに、本制御例では、一方の特別図柄が大当たりを示す表示態様（大当たり図柄）で停止表示された場合に、他方の特別図柄を、外れを示す表示態様（外れ図柄）で停止表示させるように構成しており、そのための停止表示も実行される。
【１０１５０】
次に、第２図柄表示装置の表示を更新する第２図柄表示更新処理を実行する（Ｓ１８０８）。第２図柄表示更新処理では、普通図柄変動処理によって第２図柄の変動時間が設定された場合に、第２図柄表示装置において変動表示を開始する。これにより、第２図柄表示装置では、第２図柄としての「○」の図柄と「×」の図柄とを交互に点灯させる変動表示が行われる。また、第２図柄表示更新処理（Ｓ１８０８）では、普通図柄変動処理によって第２図柄表示装置の停止表示が設定された場合に、第２図柄表示装置において実行されている変動表示を終了し、普通図柄変動処理によって設定された表示態様で、停止図柄（第２図柄）を第２図柄表示装置に停止表示（点灯表示）する。
【１０１５１】
その後は、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別し（Ｓ１８０９）、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ１８０９：Ｎｏ）、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１は出力されておらず、電源は遮断されていない

。よって、かかる場合には、次のメイン処理の実行タイミングに至ったか否か、即ち今回のメイン処理の開始から所定時間（本制御例では４ｍ秒）が経過したか否かを判別し（Ｓ１８１０）、既に所定時間が経過していれば（Ｓ１８１０：Ｙｅｓ）、処理をＳ１８０１へ移行し、上述したＳ１８０１以降の各処理を繰り返し実行する。

【１０１５２】

一方、今回のメイン処理の開始から未だ所定時間が経過していなければ（Ｓ１８１０：Ｎｏ）、所定時間に至るまで間、即ち、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間内において、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１、第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２及び変動種別カウンタＣＳ１の更新を繰り返し実行する（Ｓ１８１１，Ｓ１８１２）。

【１０１５３】

まず、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２との更新を実行する（Ｓ１８１１）。具体的には、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２を１加算すると共に、そのカウンタ値が最大値（本制御例では９９９、９９９）に達した際、０にクリアする。そして、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新値を、ＲＡＭ２０３の該当するバッファ領域にそれぞれ格納する。次に、変動種別カウンタＣＳ１の更新を、Ｓ１８１１の処理と同一の方法によって実行する（Ｓ１８１２）。なお、このＳ１８１２の処理では、変動種別カウンタＣＳ１の値と同様に普図変動種別カウンタＣＳ２の値も更新される。

【１０１５４】

ここで、Ｓ１８０１～Ｓ１８０８の各処理の実行時間は遊技の状態に応じて変化するため、次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間は一定でなく変動する。故に、かかる残余時間を使用して第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２の更新を繰り返し実行することにより、第１初期値乱数カウンタＣＩＮＩ１と第２初期値乱数カウンタＣＩＮＩ２（即ち、第１当たり乱数カウンタＣ１の初期値、第２当たり乱数カウンタＣ４の初期値）をランダムに更新することができ、同様に変動種別カウンタＣＳ１、普図変動種別カウンタＣＳ２の値についてもランダムに更新することができる。よって、特別図柄や普通図柄の抽選に関する判定値を更新するための処理内容を把握され難くすることができ、当たりに対応する判定値が取得されるタイミングを狙った不正遊技が実行されることを抑制することができる。

【１０１５５】

また、Ｓ１８０９の処理において、ＲＡＭ２０３に電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ１８０９：Ｙｅｓ）、停電の発生または電源のオフにより電源が遮断され、停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が出力された結果、図９７６のＮＭＩ割込処理が実行されたということなので、Ｓ１８１３以降の電源遮断時の処理が実行される。まず、各割込処理の発生を禁止し（Ｓ１８１３）、電源が遮断されたことを示す電源断コマンドを他の制御装置（払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３等の周辺制御装置）に対して送信する（Ｓ１８１４）。そして、ＲＡＭ判定値を算出して、その値を保存し（Ｓ１８１５）、ＲＡＭ２０３のアクセスを禁止して（Ｓ１８１６）、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。ここで、ＲＡＭ判定値は、例えば、ＲＡＭ２０３のバックアップされるスタックエリア及び作業エリアにおけるチェックサム値である。

【１０１５６】

なお、Ｓ１８０９の処理は、Ｓ１８０１～Ｓ１８０８で行われる遊技の状態変化に対応した一連の処理の終了時、又は、残余時間内に行われるＳ１８１１とＳ１８１２の処理の１サイクルの終了時となるタイミングで実行されている。よって、主制御装置１１０のメイン処理において、各設定が終わったタイミングで電源断の発生情報を確認しているので、電源遮断の状態から復帰する場合には、立ち上げ処理の終了後、処理をＳ１８０１の処理から開始することができる。即ち、立ち上げ処理において初期化された場合と同様に、処理をＳ１８０１の処理から開始することができる。よって、電源遮断時の処理において

、ＭＰＵ２０１が使用している各レジスタの内容をスタックエリアへ退避したり、スタックポインタの値を保存しなくても、初期設定の処理（図９７７，Ｓ１７０１）において、スタックポインタが所定値（初期値）に設定されることで、Ｓ１８０１の処理から開始することができる。従って、主制御装置１１０の制御負担を軽減することができると共に、主制御装置１１０が誤動作したり暴走したりすることなく正確な制御を行うことができる。

【１０１５７】

次に、図９７９を参照して、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の内容について説明をする。図９７９は、大当たり制御処理（Ｓ１８０４）の内容を示したフローチャートである。この大当たり制御処理（Ｓ１８０４）は、主制御装置１１０のメイン処理（図９７８参照）において、実行される処理であって、パチンコ機１０が特別図柄の大当たり状態である場合に、大当たりに応じた各種演出の実行や、特定入賞口６５ａを開放又は閉鎖するための処理である。なお、詳細な内容は、上述した各制御例と同一であるため、詳細な説明は省略する。

【１０１５８】

本第３２制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に、大当たり種別選択テーブル２０２ｂを用いて大当たり種別を決定する処理を実行し、決定された大当たり種別に対応するエンディング期間が設定されるように構成している。よって、Ｓ１９１２の処理では、大当たり種別に対応して決定されたエンディング期間の長さに対応した表示用エンディングコマンドが設定される。なお、本第３２制御例のように、大当たり当選時にエンディング期間の長さを設定するのでは無く、大当たり遊技中におけるＶ入賞の有無（特定領域（Ｖゲート６５０ｅ３）への球の通過の有無）に応じて大当たり遊技のエンディング期間の長さを決定しても良い。

【１０１５９】

具体的には、大当たり制御処理（図９７９のＳ１８０４参照）において、エンディング期間の開始タイミング（最終ラウンドの終了タイミング）と判別した場合に、今回の大当たり遊技中に実行された遊技内容を判別し、その判別結果に基づいて大当たり遊技のエンディング期間の長さを決定しても良く、特に大当たり遊技中に実行される遊技の結果に基づいて大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせることが可能なパチンコ機１０においては、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態が遊技者に有利な遊技状態となる場合に、それ以外の場合よりもエンディング期間の長さが長くなるように構成しても良い。

【１０１６０】

このように構成することで、大当たり遊技中の遊技結果に応じて、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせることが可能なパチンコ機１０において、実際に設定される遊技状態に応じたエンディング期間を設定することができる。

【１０１６１】

また、このように大当たり遊技中の遊技結果に応じて大当たり遊技のエンディング期間を異ならせる構成を用いる場合には、大当たり遊技中の遊技結果が確定してからエンディング期間が開始するまでの間の何れかのタイミングにて大当たり遊技のエンディング期間を決定するように構成すれば良く、例えば、１ラウンド目のラウンド遊技が終了した後に（球を特定領域へと入賞させることが可能なラウンド遊技が終了した後に）、Ｖ入賞の有無を判別し、その判別結果に基づいて、２ラウンド目～最終ラウンド目のラウンド遊技が実行されている期間中に大当たり遊技のエンディング期間を設定するように構成しても良い。

【１０１６２】

さらに、上述した例では、大当たり遊技中におけるＶ入賞の有無に基づいてエンディング期間の長さを設定するように構成しているが、これに替えて、例えば、当選した大当たり種別に基づいて、予め大当たり遊技のエンディング期間を設定しておき、具体的には、確変大当たりに当選した場合には１７秒、通常大当たりに当選した場合には１５秒のエン

ディング期間を予め設定しておき、大当たり遊技中の遊技結果に基づいてエンディング期間の長さを可変させる必要が生じた場合、即ち、確変大当たり遊技が実行されたにも関わらず、大当たり遊技中にＶ入賞させることができなかった場合に、予め設定されているエンディング期間の長さを可変させるように構成しても良い。このように構成することで、大当たり遊技中にエンディング期間の長さを設定する頻度を抑制することができる。

【１０１６３】

一方、Ｓ１９１１の処理において、現在実行されているエンディング期間の開始タイミングではないと判別した場合は（Ｓ１９１１：Ｎｏ）、次に、大当たりの終了タイミングであるかを判別する（Ｓ１９１３）。ここで、大当たりの終了タイミングとは、エンディング演出の実行期間が経過した場合を示す。Ｓ１９１３の処理において、大当たりの終了タイミングであると判別した場合は（Ｓ１９１３：Ｙｅｓ）、実行中の大当たり種別を読み出し（Ｓ１９１４）、読み出した大当たり種別に基づいて時短付与テーブル２０２ｅを用いて対応する時短終了条件を設定し（Ｓ１９１５）、Ｓ１９１５の処理によって設定された設定内容に対応する時短設定情報コマンドを設定し（Ｓ１９１６）、大当たり終了後の遊技状態に対応する状態コマンドを設定し（Ｓ１９１７）、大当たりの終了を設定し（Ｓ１９１８）、大当たり中フラグ２０３ｋをオフに設定し（Ｓ１９１９）、本処理を終了する。

【１０１６４】

次に、図９８０を参照して、小当たり制御処理（Ｓ１８０５）の処理内容について説明をする。図９８０は小当たり制御処理（Ｓ１８０５）の処理内容を示したフローチャートである。なお、本第３２制御例で実行される小当たり制御処理（Ｓ１８０５）は、上述した各制御例における小当たり制御処理と同一であり、その詳細な説明を省略する。

【１０１６５】

＜第３２制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞

次に、図９８１から図１００１を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。かかるＭＰＵ２２１の処理としては大別して、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理と、その立ち上げ処理後に実行されるメイン処理とがある。

【１０１６６】

まず、図９８１を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される立ち上げ処理を説明する。図９８１は、この立ち上げ処理を示したフローチャートである。この立ち上げ処理は電源投入時に起動される。

【１０１６７】

立ち上げ処理が実行されると、まず、電源投入に伴う初期設定処理を実行する（Ｓ３００１）。具体的には、スタックポインタに予め決められた所定値を設定する。その後、電源断処理中フラグがオンしているか否かによって、今回の立ち上げ処理が瞬間的な電圧降下（瞬間的な停電、所謂「瞬停」）によって、Ｓ３１１８の電源断処理（図９８２参照）の実行途中に開始されたものであるか否かが判断される（Ｓ３００２）。図９８２を参照して後述する通り、音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から電源断の発生情報を受信すると（図９８２のＳ３１１５参照）、Ｓ３１１８の電源断処理を実行する。かかる電源断処理の実行前に、電源断処理中フラグがオンされ、該電源断処理の終了後に、電源断処理中フラグはオフされる。よって、Ｓ３１１８の電源断処理が実行途中であるか否かは、電源断処理中フラグの状態によって判断できる。

【１０１６８】

電源断処理中フラグがオフであれば（Ｓ３００２：Ｎｏ）、今回の立ち上げ処理は、電源が完全に遮断された後に開始されたか、瞬間的な停電が生じた後であってＳ３１１８の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始されたものである。よって、これらの場合には、ＲＡＭ２２３のデータが破壊されているか否かを確認する（Ｓ３００３）。

【１０１６９】
ＲＡＭ２２３のデータ破壊の確認は、次のように行われる。即ち、ＲＡＭ２２３の特定の領域には、Ｓ３００６の処理によって「５５ＡＡｈ」のキーワードとしてのデータが書き込まれている。よって、その特定領域に記憶されるデータをチェックし、該データが「５５ＡＡｈ」であればＲＡＭ２２３のデータ破壊は無く、逆に「５５ＡＡｈ」でなければＲＡＭ２２３のデータ破壊を確認することができる。ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されれば（Ｓ３００３：Ｙｅｓ）、Ｓ３００４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。一方、ＲＡＭ２２３のデータ破壊が確認されなければ（Ｓ３００３：Ｎｏ）、Ｓ３００８へ移行する。
【１０１７０】
なお、今回の立ち上げ処理が、電源が完全に遮断された後に開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードは記憶されていないので（電源断によってＲＡＭ２２３の記憶は喪失するから）、ＲＡＭ２２３のデータ破壊と判断され（Ｓ３００３：Ｙｅｓ）、Ｓ３００４へ移行する。一方、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＳ３１１８の電源断処理の実行を完了した後に開始されたか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって開始された場合には、ＲＡＭ２２３の特定領域には「５５ＡＡｈ」のキーワードが記憶されているので、ＲＡＭ２２３のデータは正常と判断されて（Ｓ３００３：Ｎｏ）、Ｓ３００８へ移行する。
【１０１７１】
電源断処理中フラグがオンであれば（Ｓ３００２：Ｙｅｓ）、今回の立ち上げ処理は、瞬間的な停電が生じた後であって、Ｓ３１１８の電源断処理の実行途中に、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にリセットがかかって開始されたものである。かかる場合は電源断処理の実行途中なので、ＲＡＭ２２３の記憶状態は必ずしも正しくない。よって、かかる場合には制御を継続することはできないので、処理をＳ３００４へ移行して、ＲＡＭ２２３の初期化を開始する。
【１０１７２】
Ｓ３００４の処理では、ＲＡＭ２２３の全範囲の記憶領域をチェックする（Ｓ３００４）。チェック方法としては、まず、１バイト毎に「０ＦＦｈ」を書き込み、それを１バイト毎に読み出して「０ＦＦｈ」であるか否かを確認し、「０ＦＦｈ」であれば正常と判別する。かかる１バイト毎の書き込み及び確認を、「０ＦＦｈ」に次いで、「５５ｈ」、「０ＡＡｈ」、「００ｈ」の順に行う。このＲＡＭ２２３の読み書きチェックにより、ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域が０クリアされる。
【１０１７３】
ＲＡＭ２２３のすべての記憶領域について、読み書きチェックが正常と判別されれば（Ｓ３００５：Ｙｅｓ）、ＲＡＭ２２３の特定領域に「５５ＡＡｈ」のキーワードを書き込んで、ＲＡＭ破壊チェックデータを設定する（Ｓ３００６）。この特定領域に書き込まれた「５５ＡＡｈ」のキーワードを確認することにより、ＲＡＭ２２３にデータ破壊があるか否かがチェックされる。一方、ＲＡＭ２２３のいずれかの記憶領域で読み書きチェックの異常が検出されれば（Ｓ３００５：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の異常を報知して（Ｓ３００７）、電源が遮断されるまで無限ループする。ＲＡＭ２２３の異常は、表示ランプ３４により報知される。なお、音声出力装置２２６により音声を出力してＲＡＭ２２３の異常報知を行うようにしても良いし、表示制御装置１１４にエラーコマンドを送信して、第３図柄表示装置８１にエラーメッセージを表示させるようにしてもよい。
【１０１７４】
Ｓ３００８の処理では、電源断フラグがオンされているか否かを判別する（Ｓ３００８）。電源断フラグはＳ３１１８の電源断処理の実行時にオンされる（図９８２のＳ３１１７参照）。つまり、電源断フラグは、Ｓ３１１８の電源断処理が実行される前にオンされるので、電源断フラグがオンされた状態でＳ３００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、瞬間的な停電が生じた後であってＳ３１１８の電源断処理の実行を完了した状態

で開始された場合である。従って、かかる場合には（Ｓ３００８：Ｙｅｓ）、音声ランプ制御装置１１３の各処理を初期化するためにＲＡＭの作業エリアをクリアし（Ｓ３００９）、ＲＡＭ２２３の初期値を設定した後（Ｓ３０１０）、割込み許可を設定して（Ｓ３０１１）、メイン処理へ移行する。なお、ＲＡＭ２２３の作業エリアとしては、主制御装置１１０から受信したコマンド等を記憶する領域以外の領域をいう。

【１０１７５】

一方、電源断フラグがオフされた状態でＳ３００８の処理に至るのは、今回の立ち上げ処理が、例えば電源が完全に遮断された後に開始されたためにＳ３００４からＳ３００６の処理を経由してＳ３００８の処理へ至ったか、或いは、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって（主制御装置１１０からの電源断コマンドを受信することなく）開始された場合である。よって、かかる場合には（Ｓ３００８：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３の作業領域のクリア処理であるＳ３００９をスキップして、処理をＳ３０１０へ移行し、ＲＡＭ２２３の初期値を設定する（Ｓ３０１０）。

【１０１７６】

なお、Ｓ３００９のクリア処理をスキップするのは、Ｓ３００４からＳ３００６の処理を経由してＳ３００８の処理へ至った場合には、Ｓ３００４の処理によって、既にＲＡＭ２２３のすべての記憶領域はクリアされているし、ノイズなどによって音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にのみリセットがかかって、立ち上げ処理が開始された場合には、ＲＡＭ２２３の作業領域のデータをクリアせず保存しておくことにより、音声ランプ制御装置１１３の制御を継続できるからである。

【１０１７７】

次に、図９８２を参照して、音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理後に音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理について説明する。図９８２は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理が実行されると、まず、該メイン処理が開始されてから、又は、前回Ｓ３１０１の処理が実行されてから１ミリ秒以上が経過したか否かが判別され（Ｓ３１０１）、１ミリ秒以上経過していなければ（Ｓ３１０１：Ｎｏ）、Ｓ３１０２～Ｓ３１１２の処理を行わずにＳ３１１３の処理へ移行する。Ｓ３１０１の処理で、１ミリ秒経過したか否かを判別するのは、Ｓ３１０２～Ｓ３１１２が表示（演出）に関する処理であり、短い周期（１ミリ秒以内）で編集する必要がないのに対して、Ｓ３１１３のコマンド判定処理やＳ３１１４の変動表示設定処理を短い周期で実行する方が好ましいからである。Ｓ３１１３の処理が短い周期で実行されることにより、主制御装置１１０から送信されるコマンドの受信洩れを防止でき、Ｓ３１１３の処理が短い周期で実行されることにより、コマンド判定処理によって受信されたコマンドに基づき、変動表示演出に関する設定を遅滞なく行うことができる。

【１０１７８】

Ｓ３１０１の処理で１ミリ秒以上経過していれば（Ｓ３１０１：Ｙｅｓ）、まず、Ｓ３１０３～Ｓ３１１４の処理によって設定された、表示制御装置１１４に対する各種コマンドを、表示制御装置１１４に対して送信するコマンド出力処理を実行する（Ｓ３１０２）。次いで、表示ランプ３４の点灯態様の設定や後述するＳ３１０８の処理で編集されるランプの点灯態様となるよう各ランプの出力を設定し（Ｓ３１０３）、その後電源投入報知処理を実行する（Ｓ３１０４）。電源投入報知処理は、電源が投入された場合に所定の時間（例えば３０秒）電源が投入されたことを知らせる報知を行うものであり、その報知は音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７により行われる。また、第３図柄表示装置８１の画面において電源が供給されたことを報知するようコマンドを表示制御装置１１４に送信するものとしても良い。なお、電源投入時でなければ、電源投入報知処理による報知は行わずにＳ３１０５の処理へ移行する。

【１０１７９】

Ｓ３１０５の処理では客待ち演出が実行され、その後、保留個数表示更新処理が実行される（Ｓ３１０６）。客待ち演出では、パチンコ機１０が遊技者により遊技されない時間が所定時間経過した場合に、第３図柄表示装置８１の表示をタイトル画面に切り替える設

定などが行われ、その設定がコマンドとして表示制御装置１１４に送信される。
【１０１８０】
その後、枠ボタン入力監視・演出処理が実行される（Ｓ３１０７）。この枠ボタン入力監視・演出処理では、演出効果を高めるために遊技者に操作される枠ボタン２２（演出ボタン２２ａ）や、選択ボタン６００といった各種ボタンが押されたか否かの入力を監視し、各種ボタンの入力が確認された場合に対応した演出や遊技環境設定を行うよう設定する処理である。この処理では、各種ボタン（枠ボタン２２、選択ボタン６００）の遊技者による操作が検出されると、表示制御装置１１４に対して各種ボタン（枠ボタン２２、選択ボタン６００）が操作されたことを通知する枠ボタン操作コマンドを設定する。この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ３１０７）の詳細については、図９９９を参照して後述する。
【１０１８１】
枠ボタン入力監視・演出処理が終わると、次いで、ランプ編集処理を実行し（Ｓ３１０８）、その後音編集・出力処理を実行する（Ｓ３１０９）。ランプ編集処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう電飾部２９～３３の点灯パターンなどが設定される。音編集・出力処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう音声出力装置２２６の出力パターンなどが設定され、その設定に応じて音声出力装置２２６から音が出力される。
【１０１８２】
Ｓ３１０９の処理後、液晶演出実行管理処理を実行し（Ｓ３１１０）、次に、各種カウンタ更新処理を実行する（Ｓ３１１１）。その後、演出更新処理を実行する（Ｓ３１１２）。Ｓ３１１２の処理を実行後、Ｓ３１１３の処理へ移行する。液晶演出実行管理処理では、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間が設定される。この液晶演出実行監視処理で設定された時間に基づいてＳ３１０８のランプ編集処理が実行される。なお、Ｓ３１０９の音編集・出力処理も第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間で実行される。
【１０１８３】
Ｓ３１１２の処理後、主制御装置１１０より受信したコマンドに応じた処理を行うコマンド判定処理（Ｓ３１１３）が実行され、Ｓ３１１４の処理へ移行する。このコマンド判定処理（Ｓ３１１３）の詳細については、図９８３を参照して後述する。
【１０１８４】
Ｓ３１１４の処理では、第３図柄表示装置８１において変動表示演出を表示させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し、そのコマンドを表示制御装置１１４に送信するために設定する処理である変動表示設定処理を実行する。この変動表示設定処理の詳細については、図９９４を参照して後述する。
【１０１８５】
Ｓ３１１４の処理が終わると、ワークＲＡＭ２３３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（Ｓ３１１５）。電源断の発生情報は、主制御装置１１０から電源断コマンドを受信した場合に記憶される。Ｓ３１１５の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ３１１５：Ｙｅｓ）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（Ｓ３１１７）、電源断処理を実行する（Ｓ３１１８）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（Ｓ３１１９）、その後、処理を、無限ループする。電源断処理では、割込処理の発生を禁止すると共に、各出力ポートをオフして、音声出力装置２２６およびランプ表示装置２２７からの出力をオフする。また、電源断の発生情報の記憶も消去する。
【１０１８６】
一方、Ｓ３１１５の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ３１１５：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３に記憶されるキーワードに基づき、ＲＡＭ２２３が破壊されているか

否かが判別され（Ｓ３１１６）、ＲＡＭ２２３が破壊されていなければ（Ｓ３１１６：Ｎｏ）、Ｓ３１０１の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、ＲＡＭ２２３が破壊されていれば（Ｓ３１１６：Ｙｅｓ）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。ここで、ＲＡＭ破壊と判別されて無限ループするとメイン処理が実行されないので、その後、第３図柄表示装置８１による表示が変化しない。よって、遊技者は、異常が発生したことを知ることができるので、ホールの店員などを呼びパチンコ機１０の修復などを頼むことができる。また、ＲＡＭ２２３が破壊されていると確認された場合に、音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７によりＲＡＭ破壊の報知を行うものとしても良い。

【１０１８７】

次に、図９８３を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理（Ｓ３１１３）について説明する。図９８３は、このコマンド判定処理（Ｓ３１１３）を示したフローチャートである。このコマンド判定処理（Ｓ３１１３）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）の中で実行され、上述したように、主制御装置１１０から受信したコマンドを判定する。以下、コマンド判定処理（Ｓ３１１３）の詳細を説明する。

【１０１８８】

コマンド判定処理（Ｓ３１１３）が実行されるとまず、変動パターンコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３２０１）、受信したと判別した場合は（Ｓ３２０１：Ｙｅｓ）、受信した変動パターンコマンドに対応する変動開始フラグ２２３ｄをオンに設定し（Ｓ３２０２）、受信したコマンドから変動パターンコマンドを抽出する（Ｓ３２０３）。そして、本処理を終了する。

【１０１８９】

Ｓ３２０１の処理において特図変動パターンコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２０１：Ｎｏ）、次に、停止種別コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３２０４）、受信したと判別した場合は（Ｓ３２０４：Ｙｅｓ）、受信した停止種別コマンドに対応する停止種別選択フラグ２２３ｅをオンに設定し（Ｓ３２０５）、受信したコマンドから停止種別を抽出する（Ｓ３２０６）。そして、本処理を終了する。

【１０１９０】

Ｓ３２０４の処理において停止種別コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２０４：Ｎｏ）、次に、主制御装置１１０より保留球数コマンドを受信したか判別する（Ｓ３２０７）。ここで、保留球数コマンドを受信したと判別した場合には（Ｓ３２０７：Ｙｅｓ）、保留情報関連処理を実行し（Ｓ３２０８）、その後、本処理を終了する。保留情報関連処理では、受信した保留球数コマンドから保留球数を抽出し、対応する値を特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃに格納する処理や、特図保留球を獲得したことに基づく演出態様を決定するための処理が行われる。なお、保留情報関連処理（Ｓ３２０８）の詳細な説明については、図９８４を参照して後述する。

【１０１９１】

また、Ｓ３２０７の処理において、保留球数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２０７：Ｎｏ）、主制御装置１１０より入賞情報コマンドを受信したか判別する（Ｓ３２０９）。Ｓ３２０９の処理において、入賞情報コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３２０９：Ｙｅｓ）、受信した入賞情報コマンドに基づいた入賞情報を入賞情報格納エリア２２３ａに格納する処理を実行し（Ｓ３２１０）、本処理を終了する。具体的には、Ｓ３２１０の処理では、受信した入賞情報コマンドに含まれる入賞情報に対応する図柄種別（特別図柄、普通図柄）を解析し、その解析結果に対応する記憶領域（音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３内の入賞情報格納エリア２２３ａ）に格納（記憶）する処理と、受信した入賞情報に基づいた演出（先読み演出）を実行するための処理を行うものである。

【１０１９２】

Ｓ３２０９の処理において、入賞情報コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２０９：Ｎｏ）、次に、状態コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３２１１）、受信したと判別した場合は（Ｓ３２１１：Ｙｅｓ）、状態コマンド処理を実行し（Ｓ３２１２）、本処理を終了する。この状態コマンド処理（Ｓ３２１２）は、現在の遊技状態を示す状態コマンドを受信し、その遊技状態に応じたモード演出態様を設定し、第３図柄表示装置８１の表示面にて対応する演出態様（例えば、背面画像）を表示するための表示用コマンドが設定される。この状態コマンド処理（Ｓ３２１２）の詳細については図９８５を参照して後述する。

【１０１９３】

Ｓ３２１１の処理において状態コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２１１：Ｎｏ）、次に、当たり関連コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３２１３）、受信したと判別した場合は（Ｓ３２１３：Ｙｅｓ）、当たり関連処理を実行し（Ｓ３２１４）、その後、本処理を終了する。なお、当たり関連処理（Ｓ３２１４）の詳細な説明は、図９８６を参照して後述する。一方、当たり関連コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２１３：Ｎｏ）、賞球数コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３２１５）、賞球数コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３２１５：Ｙｅｓ）、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が１以上であるか、即ち、現在が賞球数の累計を計測する期間（ラッシュ期間）であるかを判別し（Ｓ３２１６）、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が１以上であると判別した場合は（Ｓ３２１６：Ｙｅｓ）、今回受信した賞球数コマンドに含まれる賞球数に対応する値を賞球数カウンタ２２３ｎの値に加算し（Ｓ３２１７）、本処理を終了する。一方で、Ｓ３２１６の処理において、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が１では無いと判別した場合は、現在がラッシュ期間では無いため、Ｓ３２１７の処理をスキップして、本処理を終了する。

【１０１９４】

本第３２制御例におけるパチンコ機１０は、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態から遊技が開始され、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させることで第１特別図柄抽選を実行させる遊技が行われる。そして、第１特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、小当たり当選）した場合に実行される当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）が開始すると、当たり遊技中に開放動作される入賞装置（可変入賞装置６５、第２可変入賞装置６５０）へと遊技球を入賞させるために右打ち遊技が行われる。

【１０１９５】

当たり遊技終了後に時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定された場合には、通常状態が設定されている場合よりも右打ち遊技によって発射された遊技球が入球し易くなるように第２入球口６４０が配設されており、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることで第２特別図柄抽選を実行させる遊技が行われる。

【１０１９６】

ここで、第２特別図柄抽選は、第１特別図柄抽選よりも当たり当選する確率（小当たり当選する確率）が高くなるように構成しており、且つ、第２特別図柄抽選で当り当選した場合には、第１特別図柄抽選で当り当選した場合よりも、当たり遊技の終了後に時短状態が設定され易くなるように構成している。よって、一度時短状態が設定された場合には、複数回の当たり遊技を介しながら長時間の間、時短状態の遊技を実行させ易くなるように構成している。

【１０１９７】

このように構成された本制御例のパチンコ機１０では、継続して右打ち遊技が実行される期間（当たり遊技期間、時短状態が設定されている期間）を少なくとも含む遊技期間が、遊技者に有利となる有利遊技期間であることを遊技者に報知するために、演出上の遊技状態としてラッシュ状態を設定するように構成している。このように、遊技者に有利となる有利遊技期間が継続している間、共通の演出（ラッシュ中演出）を実行することにより、遊技者に対して、有利遊技期間が継続していることを分かり易く報知することができる

。
【１０１９８】
　そして、本第３２制御例では、有利遊技期間中に遊技者が獲得した特典（賞球数）の合計値に対応する情報を示すためのポイント表示態様を表示領域Ｄｍ６に表示することで遊技者に報知可能に構成している（図９３４（ａ）の表示領域Ｄｍ６参照）。Ｓ３２１６の処理では、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を参照することで、現在が有利遊技期間であるかを判別している。このラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値は、遊技状態として時短状態が設定された場合に１がセットされるように構成している。そして、通常状態において特図２保留を獲得していない状態となった場合に、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値がクリアされるように構成している。
【１０１９９】
　このように構成することで、有利遊技期間が開始されるタイミングと、有利遊技期間が終了するタイミングとに対応させてラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新（クリア）させることができるため、有利遊技期間中に獲得した賞球数に対応する適正な値を賞球数カウンタ２２３ｎに加算させることができる。
【１０２００】
　Ｓ３２１５の処理において賞球数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３２１５：Ｎｏ）、その他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｓ３２１８）、本処理を終了する。ここで、Ｓ３２１８の処理において実行される詳細な処理内容の一部について説明をする。Ｓ３２１８の処理では、例えば、特別図柄変動が停止表示された場合に出力される特図確定コマンドを受信したことに基づく処理が実行される。具体的には、図柄確定コマンドを受信したかを判別し、図柄確定コマンドを受信したと判別した場合は、第３図柄の停止表示を設定し、本処理を終了する。本処理を実行することにより、主制御装置１１０が特別図柄変動を停止表示させたタイミングを、音声ランプ制御装置１１３側で確実に判別することができるため、例えば、特別図柄変動が実行されている際中に電源が断されたことにより、電源復帰後における特別図柄変動の残変動時間を音声ランプ制御装置１１３側で判別できなくなった場合であっても、特別図柄変動の停止表示タイミングに対応させて変動演出の停止表示タイミングを決定することができる。
【１０２０１】
　さらに、Ｓ３２１８の処理では、普通図柄抽選に関する各種処理も実行される。具体的には、普通図柄の保留球数コマンドを受信した場合は、その保留球数コマンドに含まれる主制御装置１１０の普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値（即ち、普通図柄の変動表示の保留球数）を抽出し、その抽出したカウンタ値に合わせて、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられた普通図柄保留球数カウンタ（図示せず）の値を更新する。
【１０２０２】
　ここで、保留球数コマンドは、遊技球が各種入球口（第１入球口６４、第２入球口６４０、スルーゲート６７）に入球（始動入賞）し、各種保留球数カウンタの値が加算された場合、或いは、各種変動開始処理を実行する際に、各種保留球数カウンタの値が減算されたときに主制御装置１１０から送信されるものであるので、始動入賞時や変動表示設定時毎に、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃ、普通図柄保留球数カウンタ（図示せず）の値を、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ，第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ、普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値に合わせることができる。
【１０２０３】
　よって、ノイズなどの影響により、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３が有する特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃ、普通図柄保留球数カウンタ（図示せず）の値が、主制御装置１１０の各種保留球数カウンタ２０３ｄ，２０３ｅ，２０３ｆの値とずれてしまっても、始動入賞時、変動表示設定時、即ち、各種保留球数変更されることに基づいて保留球数コマンドが通知されれば、音声ランプ制御装置１１３の特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２

３ｃ、普通図柄保留球数カウンタ（図示せず）の値を修正し、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄ，第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅ，普通図柄保留球数カウンタ２０３ｆの値に合わせることができる。

【１０２０４】

次に、図９８４を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される保留情報関連処理（Ｓ３２０８）について説明をする。図９８４は、保留情報関連処理（Ｓ３２０８）の処理内容を示したフローチャートである。この保留情報関連処理（Ｓ３２０８）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理（図９８３のＳ３１１３参照）の中で実行されるものであって、受信した保留球数コマンドに基づいて、音声ランプ制御装置１１３側で特別図柄の保留球数（特図保留数）を管理するための処理や、時短状態中において特図２保留を獲得した場合における演出態様を設定するための処理を実行するものである。以下、保留情報関連処理（Ｓ３２０８）の詳細を説明する。

【１０２０５】

保留情報関連処理（Ｓ３２０８）が実行されると、まず、受信した保留球数コマンドから特別図柄種別と保留球数とを抽出し、今回受信した保留球数コマンドに対応する特別図柄保留球数カウンタ（特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃ）に格納し（Ｓ３３０１）、格納した特別図柄保留球数カウンタ（特別図柄１保留球数カウンタ２２３ｂ、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃ）の値に対応する表示用コマンドを設定する（Ｓ３３０２）。Ｓ３３０２の処理によって設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、Ｓ３３０２の処理によって設定された表示用コマンドを受信すると、受信した表示用コマンドに含まれる特図保留数を示すための表示態様を第３図柄表示装置８１に表示する。

【１０２０６】

次に、今回受信した保留球数コマンドが第２特別図柄に関する保留球数コマンド（特図２保留を示すコマンド）であるかを判別し（Ｓ３３０３）、特図２保留を示すコマンドでは無いと判別した場合は（Ｓ３３０３：Ｎｏ）、Ｓ３３１０の処理へ移行する。一方、Ｓ３３０３の処理において、特図２保留を示すコマンドであると判別した場合は（Ｓ３３０３：Ｙｅｓ）、次に、時短情報更新エリア２２３ｈから現在の時短状況を読み出す（Ｓ３３０４）。ここで、時短情報更新エリア２２３ｈには、時短状態中に実行される各種遊技内容が格納されるように構成しており、例えば、特別図柄変動が実行されている状態であるか否かを示す情報や、各時短終了条件を成立させるための要素（例えば、小当たり当選に関する情報や、特別図柄変動回数に関する情報）の更新内容を示す情報が格納されるように構成している。

【１０２０７】

よって、時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている情報を読み出すことにより、現在が時短状態であるか否かだけで無く、特別図柄変動期間中であるか否かや、時短状態の最終変動であるか否かといった情報を判別することができるため、例えば、時短状態における２回目の第２特別図柄変動が実行されている場合であっても、その第２特別図柄変動が時短状態の最終変動であるか否かに応じて異なる演出態様を決定することができる。

【１０２０８】

Ｓ３３０４の処理を終えると、次に、現在が時短状態における最終変動中（時短終了条件が成立する変動回数目の特別図柄変動中）であるかを判別し（Ｓ３３０５）、最終変動中であると判別した場合は（Ｓ３３０５：Ｙｅｓ）、チャージ完了を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３３０６）、Ｓ３３１０の処理へ移行する。つまり、時短状態における最終変動中に特図２保留の獲得を示す保留球数コマンドを受信した場合には、時短状態が終了し通常状態が設定された後に、獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を実

行させることが可能となることから、特図２保留を獲得している状態で時短状態が終了することを示す表示用コマンドがＳ３３０６の処理によって設定される。Ｓ３３０６の処理によって設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、Ｓ３３０６の処理によって設定された表示用コマンドを受信すると、受信した表示用コマンドに含まれるチャージ完了を示すための表示態様を第３図柄表示装置８１に表示する（図９４１（ａ）参照）。

【１０２０９】

ここで、本第３２制御例では、時短状態における特別図柄最終変動（特図２最終変動）のうち、抽選結果が外れであることを示すための外れ特図２最終変動の変動期間のうち、一部期間を用いて遊技者に対して、特図２保留の獲得を促す演出（ＦＩＮＡＬチャージ演出）を実行可能に構成している（図９４１（ａ））。そして、ＦＩＮＡＬチャージ演出が実行された直後（１秒以内）に、特図２保留を獲得した場合には、ＦＩＮＡＬチャージ演出が１秒経過した後に、特図２保留を獲得したことを報知する演出（「チャージ完了」表示）を実行するように構成している。

【１０２１０】

よって、Ｓ３３０６の処理によって設定された表示用コマンドを、表示制御装置１１４が受信した場合には、現在が、チャージ完了表示の待機期間（ＦＩＮＡＬチャージ演出が開始されてから１秒経過するまでの期間）であるかを判別し、待機期間では無い場合には、現在第３図柄表示装置８１の表示面にて実行されている演出に対応した態様でチャージ完了したことを報知するための表示態様を表示する。一方、待機期間である場合には、チャージ完了を示す表示用コマンドを受信したことを一時的に記憶する処理（専用の待機フラグをオンに設定する処理）のみを実行し、チャージ完了したことを報知するための表示態様の表示を待機させる。そして、待機期間が経過したと判別された場合に、待機フラグがオンに設定されているか、即ち、チャージ完了したことを報知するための表示態様の表示が待機されている状態であるかが判別され、待機中であると判別された場合には、チャージ完了したことを示すための表示態様が表示され、待機中フラグがオフされる。

【１０２１１】

Ｓ３３０５の処理において、時短最終変動中では無いと判別した場合は（Ｓ３３０５：Ｎｏ）、次に、現在が特別図柄変動中（特図変動中）であるかを判別し（Ｓ３３０７）、特図変動中であると判別した場合は（Ｓ３３０７：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３３０８）、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていると判別した場合、即ち、時短状態が設定されてから１回目の特別図柄変動が当たり当選する特別図柄変動であって、且つ、既に、保留連演出にて報知された当たり当選に対応する特別図柄変動である場合に（Ｓ３３０８：Ｙｅｓ）、次の保留連を示唆する演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３３０９）、Ｓ３３１０の処理へ移行する。一方、Ｓ３３０７の処理において、現在が特図変動中では無いと判別した場合は（Ｓ３３０７：Ｎｏ）、Ｓ３３０８、及びＳ３３０９の処理をスキップしてＳ３３１０の処理を実行し、本処理を終了する。

【１０２１２】

次に、図９８５を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される状態コマンド処理（Ｓ３２１２）について説明する。図９８５は、この状態コマンド処理（Ｓ３２１２）を示したフローチャートである。この状態コマンド処理（Ｓ３２１２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理（図９８３参照）の中で実行されるものであって、設定されている遊技状態に応じて第３図柄表示装置８１に表示される表示モードを異ならせて設定するための処理を実行するものである。以下、状態コマンド処理（Ｓ３２１２）の詳細を説明する。

【１０２１３】

状態コマンド処理（Ｓ３２１２）が実行されると、まず、今回受信した状態コマンドに

含まれる現在の遊技状態を示すための情報を従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納する（Ｓ３４０１）。そして、遊技状態が通常状態へと移行したかを判別し（Ｓ３４０２）、通常状態へと移行したと判別した場合は（Ｓ３４０２：Ｙｅｓ）、右打ちフラグ２２３ｒをオフに設定し（Ｓ３４０３）、時短情報更新エリア２２３ｈに記憶されている情報をクリアする（Ｓ３４０４）。具体的には、時短終了条件の成立有無を判別するための要素に関する情報（小当たり回数、特別図柄変動回数、第２特別図柄変動回数）をクリアする。このように構成することで、通常状態が設定されたにも関わらず、時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている情報に基づく演出が実行されてしまい、遊技者に違和感のある演出が実行されてしまうことを抑制することができる。その後、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）があるかを判別し（Ｓ３４０５）、特図２保留があると判別した場合は（Ｓ３４０５：Ｙｅｓ）、引き戻し中を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ３４１０）、本処理を終了する。Ｓ３４１０の処理にて設定される表示用コマンドによって、現在が引き戻し中であることを示す表示態様（図９４１（ｂ）参照）が第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される。一方、Ｓ３４０５の処理において、特図２保留が無いと判別した場合、即ち、特図２保留を獲得していない状態で通常状態が設定されたと判別した場合は（Ｓ３４０５：Ｎｏ）、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を０にクリアし（Ｓ３４０７）、通常状態（通常中）を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ３４０８）、左打ちを案内する表示用コマンドを設定し（Ｓ３４０９）、本処理を終了する。つまり、本制御例では、遊技者に有利な遊技状態であるラッシュ期間の継続期間を、時短状態が設定されている間だけでは無く、特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が実行される通常状態中も継続して計測するように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、設定されている遊技状態に関わらず、遊技者に有利な遊技期間であることを分かり易く報知することができる。また、Ｓ３４０２の処理において、遊技状態が通常状態へと移行していないと判別した場合は（Ｓ３４０２）、次に、時短状態へと移行したかを判別し（Ｓ３４１１）、時短状態へと移行したと判別した場合は（ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値３４１１：Ｙｅｓ）、受信した状態コマンドに含まれる時短情報を時短情報更新エリア２２３ｈに格納し（Ｓ３４１２）、ラッシュ中を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ３４１３）、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値に１をセットし（Ｓ３４１４）、本処理を終了する。また、Ｓ３４１１の処理において、時短状態へと移行していないと判別した場合は（Ｓ３４１１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１０２１４】

次に、図９８６を参照して、当たり関連処理（Ｓ３２１４）の処理内容について説明をする。図９８６は、当たり関連処理（Ｓ３２１４）の処理内容を示したフローチャートである。この当たり関連処理（Ｓ３２１４）では、大当たり遊技或いは小当たり遊技に関するコマンドを受信した場合に実行される処理であって、各当たり遊技中に実行される演出（当たり遊技演出）の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０２１５】

当たり関連処理（Ｓ３２１４）が実行されると、まず、大当たり開始コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３５０１）、大当たり開始コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３５０１：Ｙｅｓ）、表示用大当たり開始コマンドを設定し（Ｓ３５０２）、本処理を終了する。一方、大当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３５０１：Ｎｏ）、次に、大当たり関連コマンド（オープニングコマンド、インターバルコマンド、エンディングコマンド等）を受信したかを判別し（Ｓ３５０３）、大当たり関連コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３５０３：Ｙｅｓ）、大当たり関連処理を実行し（Ｓ３５０４）、その後、本処理を終了する。

【１０２１６】

Ｓ３５０３の処理において、大当たり関連コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３５０３：Ｎｏ）、次に、小当たり開始コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３５０５）、小当たり開始コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３５０５：Ｙｅｓ）、表示用小当たり開始コマンドを設定し（Ｓ３５０６）、本処理を終了する。Ｓ３５０５の処理に

おいて、小当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３５０５：Ｎｏ）、次に、小当たり関連コマンド（小当たり開始コマンド、小当たり終了コマンド、Ｖ通過コマンド等）を受信したかを判別し（Ｓ３５０７）、小当たり関連コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３５０７：Ｙｅｓ）、小当たり関連処理を実行し（Ｓ３５０８）、本処理を終了する。また、Ｓ３５０７の処理において、小当たり関連コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３５０７：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。なお、小当たり関連処理（Ｓ３５０８）の詳細な内容については、図９９３を参照して後述する。

【１０２１７】

次に、図９８７を参照して、大当たり関連処理（Ｓ３５０４）の処理内容について説明をする。図９８７は、大当たり関連処理（Ｓ３５０４）の処理内容を示したフローチャートである。この大当たり関連処理（Ｓ３５０４）では、通常状態における第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（初回大当たり遊技）と、それ以外の大当たり遊技とで異なる大当たり演出の演出態様を決定するための処理が実行される。大当たり関連処理（Ｓ３５０４）が実行されると、まず、今回実行される大当たり遊技が、通常状態における第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技（初回大当たり遊技）であるかを判別し（Ｓ３６０１）、初回大当たり遊技であると判別した場合は（Ｓ３６０１：Ｙｅｓ）、初回大当たり関連処理を実行し（Ｓ３６０２）、Ｓ３６１４の処理へ移行する。また、Ｓ３６０１の処理において初回大当たり遊技では無いと判別した場合は（Ｓ３６０１：Ｎｏ）、次に、オープニングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３６０３）、オープニングコマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３６０３：Ｙｅｓ）、表示用オープニングコマンドを設定し（Ｓ３６０４）、Ｓ３６１４の処理へ移行する。

【１０２１８】

Ｓ３６０３の処理において、オープニングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３６０３：Ｎｏ）、次に、ラウンド数コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３６０５）、受信したと判別した場合は（Ｓ３６０５：Ｙｅｓ）、受信したラウンド数コマンドからラウンド数を抽出し（Ｓ３６０６）、表示用ラウンド数コマンドを設定し（Ｓ３６０７）、ラウンド数カウンタ２２３ｐの値を１加算し（Ｓ３６０８）、ラウンド中演出処理を実行し（Ｓ３６０９）、Ｓ３６１４の処理へ移行する。

【１０２１９】

一方、Ｓ３６０５の処理において、ラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３６０５：Ｎｏ）、次いで、エンディングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３６１０）、受信したと判別した場合は（Ｓ３６１０：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３６１１）、オンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３６１１：Ｎｏ）、ラウンド数カウンタの値をクリアし（Ｓ３６１２）、表示用エンディングコマンドを設定し（Ｓ３６１３）、Ｓ３６１４の処理へ移行する。また、Ｓ３６１１の処理において保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３６１１：Ｙｅｓ）、Ｓ３６１２の処理をスキップして、Ｓ３６１３の処理へ移行する。

【１０２２０】

つまり、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている場合は、大当たり遊技が終了した場合に、大当たり遊技のラウンド数を累積するラウンド数カウンタの値がクリアされることが無い。よって、保留連演出が実行された後、２回目の大当たり遊技（保留連演出の対象となる大当たり遊技）が実行された場合には、大当たり遊技のラウンド数を示す表示が、前回の大当たり遊技のラウンド数を引き継いで表示されることになる。このように構成することで、保留連演出が実行された場合には、複数回の大当たり遊技を跨いで一連の演出を実行し易くなるため、一体感のある演出を提供し易くすることができる。

【１０２２１】

また、保留連演出が連続して実行された場合には、大当たり遊技のラウンド数を表示するための表示態様が、大きなラウンド数に対応する表示態様となり、例えば、１回の大当

たり遊技にて実行可能なラウンド数を超えたラウンド数に対応する表示態様を表示させることが可能となる。このように構成することで、より多くのラウンド数を表示させようと、遊技者に対して保留連演出が連続して実行されることを目指して、特図２保留を獲得した状態で大当たり遊技が実行されることを目指した右打ち遊技を行わせ易くすることができる。

【１０２２２】

一方、Ｓ３６１０の処理において、エンディングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３６１０：Ｎｏ）、その他コマンドに応じた処理を実行し（Ｓ３６１４）、その後、本処理を終了する。

【１０２２３】

次に、図９８８を参照して、大当たり関連処理（図９８７のＳ３５０４参照）にて実行されるラウンド中演出処理（Ｓ３６０９）の処理内容について説明をする。図９８８は、ラウンド中演出処理（Ｓ３６０９）の処理内容を示したフローチャートである。このラウンド中演出処理（Ｓ３６０９）では、初回大当たり遊技以外、即ち、時短状態を含むラッシュ期間中に実行される大当たり遊技における大当たり演出のうち、ラウンド遊技中に実行される演出態様（保留連演出の演出態様）を決定するための処理が実行される。

【１０２２４】

ラウンド中演出処理（Ｓ３６０９）が実行されると、まず、今回受信したラウンド数コマンドが大当たり遊技の最終ラウンドを示すコマンドであるかを判別し（Ｓ３７０１）、最終ラウンドを示すコマンドでは無いと判別した場合は（Ｓ３７０１：Ｎｏ）、受信したラウンド数に対応する演出態様を決定するためのその他のコマンドに応じた処理を実行し（Ｓ３７０８）、本処理を終了する。

【１０２２５】

Ｓ３７０１の処理において、最終ラウンドを示すコマンドであると判別した場合は（Ｓ３７０１：Ｙｅｓ）、次に、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている特図２保留の入賞情報を読み出し（Ｓ３７０２）、読み出した入賞情報の中に当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）する入賞情報（当たり保留）が含まれているかを判別する（Ｓ３７０３）。Ｓ３７０３の処理において、当たり保留が含まれていると判別した場合には（Ｓ３７０３：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３７０４）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３７０４：Ｙｅｓ）、保留連することを示すための演出態様（保留連演出）を決定し（Ｓ３７０５）、Ｓ３７０８の処理へ移行する。

【１０２２６】

また、Ｓ３７０４の処理において、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３７０４：Ｎｏ）、保留連演出の実行有無を抽選で決定し（Ｓ３７０６）、保留連演出の実行を決定した場合には（Ｓ３７０７：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏをオンに設定し（Ｓ３７０９）、Ｓ３７０５へ移行する。Ｓ３７０７の処理において、保留連演出が実行されないと判別した場合は（Ｓ３７０７：Ｎｏ）、保留連演出に関する処理をスキップしてＳ３７０８の処理へ移行する。一方、Ｓ３７０３の処理において、当たり保留が含まれていないと判別した場合は（Ｓ３７０３：Ｎｏ）、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３７１０）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３７１０：Ｙｅｓ）、保留連フラグ２２３ｏをオフに設定し（Ｓ３７１２）、Ｓ３７０８の処理へ移行する。また、Ｓ３７１０の処理において保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３７１０：Ｎｏ）、Ｓ３７１２の処理をスキップしてＳ３７０８の処理へ移行する。

【１０２２７】

次に、図９８９を参照して、大当たり関連処理（図９８７のＳ３５０４参照）にて実行される初回大当たり関連処理（Ｓ３６０２）の処理内容について説明をする。図９８９は、初回大当たり関連処理（Ｓ３６０２）の処理内容を示したフローチャートである。この初回大当たり関連処理（Ｓ３６０２）では、初回大当たり遊技における大当たり演出の各

種演出態様（討伐演出の演出態様）を決定するための処理が実行される。
【１０２２８】
初回大当たり関連処理（Ｓ３６０２）が実行されると、まず、オープニングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３８０１）、オープニングコマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３８０１：Ｙｅｓ）、表示用オープニングコマンドを設定し（Ｓ３８０２）、次いで、討伐演出態様決定処理を実行し（Ｓ３８０３）、Ｓ３８１２の処理を実行し、本処理を終了する。Ｓ３８０１の処理において、オープニングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３８０１：Ｎｏ）、次に、ラウンド数コマンドを受信したかを判別し（Ｓ３８０４）、ラウンド数コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ３８０４：Ｙｅｓ）、受信したコマンドからラウンド数を抽出し（Ｓ３８０５）、表示用ラウンド数コマンドを設定し（Ｓ３８０６）、初回大当たりラウンド中演出処理を実行し（Ｓ３８０７）、Ｓ３８１２へと移行する。
【１０２２９】
Ｓ３８０４の処理において、ラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３８０４：Ｎｏ）、次に、インターバルコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３８０８）、受信したと判別した場合は（Ｓ３８０８：Ｙｅｓ）、初回インターバル中演出処理を実行し（Ｓ３８０９）、Ｓ３８１２へ移行する。また、Ｓ３８０８の処理において、インターバルコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３８０８：Ｎｏ）、エンディングコマンドを受信したかを判別し（Ｓ３８１０）、受信したと判別した場合は（Ｓ３８１０：Ｙｅｓ）、表示用エンディングコマンドを設定し（Ｓ３８１１）、Ｓ３８１２の処理へ移行し、Ｓ３８１０の処理において、エンディングコマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ３８１２：Ｎｏ）、Ｓ３８１２へ移行する。
【１０２３０】
次に、図９９０を参照して、討伐演出態様決定処理（Ｓ３８０３）の処理内容について説明をする。図９９０は、討伐演出態様決定処理（Ｓ３８０３）の処理内容を示したフローチャートである。この討伐演出態様決定処理（Ｓ３８０３）では、初回大当たり遊技中に実行される討伐演出の演出態様を決定するための処理が実行される。
【１０２３１】
討伐演出態様決定処理（Ｓ３８０３）が実行されると、まず、今回設定された大当たり種別と、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値と、に基づいて、討伐数選択テーブル２２２ｂを参照して、敵総数を決定し（Ｓ３９０１）、決定した敵総数に対応する値を、残討伐数カウンタ２２３ｊにセットする（Ｓ３９０２）。その後、今回決定された敵総数（残討伐数カウンタ２２３ｊにセットされた値）が「７７７」であるかを判別し（Ｓ３９０３）、７７７体であると判別した場合は（Ｓ３９０３：Ｙｅｓ）、特定数表示済フラグ２２３ｋをオンに設定し（Ｓ３９０５）、特殊討伐演出シナリオを討伐演出態様選択テーブル２２２ｃから決定し（Ｓ３９０６）、討伐回数カウンタ２２３ｉの値に「５」をセットし（Ｓ３９０７）、本処理を終了する。
【１０２３２】
一方、Ｓ３９０３の処理において、敵総数が「７７７」では無い（「１０００」、又は「５００」である）と判別した場合は（Ｓ３９０３：Ｎｏ）、決定した敵総数と、大当たり種別と、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値とに基づいて、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃを参照して討伐演出シナリオを決定し（Ｓ３９０４）、Ｓ３９０７の処理へ移行する。
【１０２３３】
なお、Ｓ３９０４、及びＳ３９０６の処理において決定された演出シナリオは、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３のその他メモリエリア２２３ｚが有する記憶領域に一時的に記憶され、今回実行される討伐演出が終了するまで、読み出し可能に構成している。
【１０２３４】
次に、図９９１を参照して、初回大当たりラウンド中演出処理（Ｓ３８０７）の処理内

容について説明をする。図９９１は、初回大当たりラウンド中演出処理（Ｓ３８０７）の処理内容を示したフローチャートである。この初回大当たりラウンド中演出処理（Ｓ３８０７）では、討伐演出が実行される初回大当たり遊技のラウンド遊技中に実行される攻撃演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０２３５】

初回大当たりラウンド中演出処理（Ｓ３８０７）が実行されるとまず、今回受信したラウンド数コマンドが１ラウンド目を示すコマンドであるかを判別し（Ｓ４００１）、１ラウンド目を示すコマンドであると判別した場合は（Ｓ４００１：Ｙｅｓ）、残討伐数カウンタ２２３ｊの値に対応する敵総数を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４００２）、次いで、特定数表示済フラグ２２３ｋがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４００３）、オンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４００３：Ｎｏ）、決定した討伐演出シナリオを参照して特定した強攻撃演出の発生タイミングと、討伐回数カウンタ２２３ｉの値とに基づいて、ボタンアイコンの表示態様を決定し（Ｓ４００５）、決定したボタンアイコンの表示態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４００６）、本処理を終了する。

【１０２３６】

一方、Ｓ４００３の処理において、特定数表示済フラグ２２３ｋがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４００３：Ｙｅｓ）、討伐回数カウンタ２２３ｉの値に基づいて、特殊表示態様で表示されるボタンアイコンの個数を決定し（Ｓ４００４）、決定したボタンアイコンの表示態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４００６）、本処理を終了する。つまり、特定数表示済フラグ２２３ｋがオンに設定されている場合には、既に、大当たり遊技終了後に時短状態が設定されることが遊技者に報知されているため、ボタンアイコンの表示態様を用いて、討伐演出の演出内容を示唆すること無く、遊技者に対して、時短状態が設定されることを報知するための特殊表示態様が決定される。このように構成することで、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を示唆するための複数の演出の演出態様に矛盾が生じてしまうことを抑制することができ、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【１０２３７】

Ｓ４００１の処理において、１ラウンド目を示すコマンドでは無いと判別した場合は（Ｓ４００１：Ｎｏ）、次に、２～６ラウンド目を示すラウンド数コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４００７）、２～６ラウンド目を示すラウンド数コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４００７：Ｙｅｓ）、次に、討伐回数カウンタ２２３ｉの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ４００８）、０よりも大きく無い（０である）と判別した場合は（Ｓ４００８：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ４００８の処理において、０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４００８：Ｙｅｓ）、討伐回数カウンタ２２３ｉの値を１減算し（Ｓ４００９）、決定されている討伐演出シナリオの内容に基づいて攻撃演出の演出態様を決定し（Ｓ４０１０）、決定した演出態様に対応する操作有効時間をＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑにセットし（Ｓ４０１１）、決定した演出態様に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ４０１２）、本処理を終了する。

【１０２３８】

また、Ｓ４００７の処理において、２～６ラウンド目を示すラウンド数コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４００７：Ｎｏ）、その他のコマンドに応じた処理（Ｓ４０１３）を実行し、本処理を終了する。

【１０２３９】

次に、図９９２を参照して、初回インターバル中演出処理（Ｓ３８０９）の処理内容について説明をする。図９９２は、初回インターバル中演出処理（Ｓ３８０９）の処理内容を示したフローチャートである。この初回インターバル中演出処理（Ｓ３８０９）では、討伐演出が実行される大当たり遊技中において、インターバル期間が設定された場合に、前回のラウンド遊技中に実行された攻撃演出の演出結果に応じた演出態様を設定するための処理が実行される。

【１０２４０】
初回インターバル中演出処理（Ｓ３８０９）が実行されると、まず、残討伐数カウンタ２２３ｊの値を読み出し（Ｓ４１０１）、設定されている討伐演出シナリオの内容と一致する（決定値と同一である）かを判別し（Ｓ４１０２）、同一であると判別した場合は（Ｓ４１０２：Ｙｅｓ）、討伐演出中の通常インターバル演出態様を決定し（Ｓ４１０３）、決定した各演出態様に対応した表示用コマンドを設定し（Ｓ４１１１）、本処理を終了する。つまり、Ｓ４１０３の処理によってインターバル演出態様が決定された場合には、追加攻撃演出が実行されることが無い。
【１０２４１】
Ｓ４１０２の処理において、同一では無いと判別した場合は（Ｓ４１０２：Ｎｏ）、次に、追加減少値選択テーブル２２２ｄを参照して追加減少値を決定し（Ｓ４１０４）、決定された追加減少値が特定減少値（特定数）であるかを判別し（Ｓ４１０５）、特定減少値では無いと判別した場合は（Ｓ４１０５：Ｎｏ）、追加減少値に対応した敵の総数となるインターバル演出態様（追加攻撃演出態様）を決定し（Ｓ４１０６）、残討伐数カウンタ２２３ｊの値を、追加減少値に対応した値へと更新し（Ｓ４１０７）、Ｓ４１１１の処理へ移行する。
【１０２４２】
また、Ｓ４１０５の処理において、特定減少値であると判別した場合は（Ｓ４１０５：Ｙｅｓ）、特定数表示済フラグ２２３ｋをオンに設定し（Ｓ４１０８）、特殊討伐演出シナリオへの書き換えを決定し（Ｓ４１０９）、特殊討伐演出シナリオに対応する演出態様を決定し（Ｓ４１１０）、Ｓ４１１１の処理へ移行する。次に、図９９３を参照して小当たり関連処理（Ｓ３５０８）の処理内容について説明をする。図９９３は、小当たり関連処理（Ｓ３５０８）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり関連処理（Ｓ３５０８）は、上述した第１３制御例のパチンコ機１０にて実行される小当たり関連処理（図５４０参照）と同様に、小当たり遊技中に実行される処理であって、小当たり遊技が開始されたタイミング（Ｓ４２０１：Ｙｅｓ）にて表示用小当たり開始コマンドを設定し（Ｓ４２０２）、右打ちフラグ２２３ｒがオンに設定されていない場合には（Ｓ４２０３：Ｎｏ）、右打ちフラグ２２３ｒをオンに設定し（Ｓ４２０４）、右打ち遊技を案内する表示用コマンドを設定する処理（Ｓ４２０５）を実行する。また、小当たり遊技の終了タイミングにおいて、小当たり注意フラグ（小当たり遊技中にＶ入賞していないことを示すフラグ）がオンに設定されていると判別した場合（Ｓ４２０７：Ｙｅｓ）には、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されないことを示す（パンクしたことを示す）表示用小当たり終了コマンドを設定したり（Ｓ４２１０）、小当たり注意フラグがオンでは無いと判別した場合（Ｓ４２０７：Ｎｏ）には、大当たり遊技が開始されることを示すための表示用小当たり終了コマンドを設定したりする（Ｓ４２０８）。さらに、小当たり遊技中にＶ通過コマンドを受信した場合において（Ｓ４２１１：Ｙｅｓ）、Ｖ通過コマンドを受信したタイミングが小当たり開始してから４秒以降であるかを判別し（Ｓ４２１２）、４秒経過している場合には（Ｓ４２１２：Ｙｅｓ）、Ｖ入賞したことを遊技者に報知するための表示用Ｖ演出コマンドを設定し（Ｓ４２１４）、小当たり注意フラグに関する処理を実行する。また、Ｖ通過コマンドを受信したタイミングが小当たり開始してから４秒以内である場合、即ち、小当たり遊技における初回の案内報知が完了していない状態であると判別した場合は（Ｓ４２１２：Ｎｏ）、表示用Ｖ演出コマンドを設定すること無く、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓをオンに設定し（Ｓ４２１３）、本処理を終了する。このように構成することで、小当たり遊技中において、遊技球がＶ入賞したタイミングに応じて、Ｖ入賞したことを遊技者に報知するＶ演出の実行タイミングを異ならせることができる。
【１０２４３】
次に、図９９４を参照して変動表示設定処理（Ｓ３１１４）の処理内容について説明をする。図９９４は、変動表示設定処理（Ｓ３１１４）の処理内容を示したフローチャートである。図９９４に示した通り、変動表示設定処理（Ｓ３１１４）は、上述した第１制御例における変動表示設定処理（図１８２のＳ４１１３参照）と同一の処理を実行するため

、その詳細な説明を省略する。次に、図９９５を参照して、変動演出設定処理（Ｓ４３０４）の処理内容について説明をする。図９９５は、変動演出設定処理（Ｓ４３０４）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理（Ｓ４３０４）は、変動表示設定処理（図９９４のＳ３１１４参照）にて実行される処理であって、特別図柄変動に対応する第３図柄の変動演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０２４４】

変動演出設定処理（Ｓ４３０４）が実行されると、まず、従遊技状態格納エリア２２３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ４４０１）、現在の遊技状態が通常状態であるかを判別し（Ｓ４４０２）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ４４０２：Ｙｅｓ）、実行される特別図柄変動が第２特別図柄変動（特図２変動）であるかを判別し（Ｓ４４０３）、特図２変動であると判別した場合は（Ｓ４４０３：Ｙｅｓ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて引き戻しモード用（引き戻し演出用）の演出態様を決定し（Ｓ４４０９）、本処理を終了する。

【１０２４５】

Ｓ４４０３の処理において、特図２変動では無い（第１特別図柄変動である）と判別した場合は（Ｓ４４０３：Ｎｏ）、演出固定フラグ２２３ｔがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４４０４）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４４０４：Ｙｅｓ）当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４４０５）、本処理を終了する。一方、Ｓ４４０４の処理において、演出固定フラグ２２３ｔがオンに設定されていない、即ち、ステージ移行を変更可能な状態であると判別した場合は（Ｓ４４０４：Ｎｏ）、演出ステージデータテーブル２２２ｅを参照して移行条件成立の有無を特定し（Ｓ４４０６）、その後、ステージ移行条件が成立したかを判別し（Ｓ４４０７）、成立したと判別した場合は（Ｓ４４０７：Ｙｅｓ）、ステージ移行を行うための演出態様を決定し（Ｓ４４０８）、Ｓ４４０５の処理へ移行し、Ｓ４４０７の処理においてステージ移行の移行条件が成立していないと判別した場合は（Ｓ４４０７：Ｎｏ）、Ｓ４４０８の処理をスキップしてＳ４４０５の処理へ移行する。また、Ｓ４４０２の処理において、現在の遊技状態が通常状態では無い（時短状態である）と判別した場合は（Ｓ４４０２：Ｎｏ）、時短状態中における変動演出の演出態様を決定するための時短用演出設定処理（Ｓ４４１０）を実行し、本処理を終了する。

【１０２４６】

ここで、図９９６を参照して、時短用演出設定処理（Ｓ４４１０）の処理内容について説明をする。図９９６は、時短用演出設定処理（Ｓ４４１０）の処理内容を示したフローチャートである。この時短用演出設定処理（Ｓ４４１０）では、時短状態中における変動演出の演出態様を決定するための処理と、時短状態中に実行される特図２変動に対応する変動演出のうち、時短最終変動に対して特図２保留の獲得を促すための表示態様を設定するための処理が実行される。

【１０２４７】

時短用演出設定処理（Ｓ４４１０）が実行されると、まず、今回の特図変動が特図２（特図２変動）であるかを判別し（Ｓ４５０１）、特図２変動であると判別した場合は（Ｓ４５０１：Ｙｅｓ）、次に、時短最終変動であるかを判別し（Ｓ４５０２）、時短最終変動であると判別した場合は（Ｓ４５０２：Ｙｅｓ）、次に、抽選結果が外れであるかを判別する（Ｓ４５０３）。

【１０２４８】

Ｓ４５０３の処理において、抽選結果が外れであると判別した場合（Ｓ４５０３：Ｙｅｓ）、即ち、今回の特別図柄変動が、時短状態中における最終特図２外れ変動である場合には、特図２保留の獲得を促すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４５０４）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４５０５）、本処理を終了する。また、Ｓ４５０１：Ｎｏ，Ｓ４５０２：Ｎｏ、或いはＳ４５０３：Ｎｏの処理を実行した場合には、特図２保留の獲得を促すための表示用コマンドを設定する条件を満たしていないため、そのままＳ４５０５の処理へ移行する。

【１０２４９】
次に、図９９７を参照して、演出更新処理（Ｓ３１１２）の処理内容について説明をする。図９９７は、演出更新処理（Ｓ３１１２）の処理内容を示したフローチャートである。この、演出更新処理（Ｓ３１１２）は、定期的（２ミリ秒）に実行される処理であって、変動演出における各種カウンタの値を更新するための処理や、更新後の各種カウンタの値に基づいて演出態様を決定するための処理が実行される。
【１０２５０】
演出更新処理（Ｓ３１１２）が実行されると、まず、現在が小当たり遊技中であるかを判別し（Ｓ４６０１）、小当たり遊技中であると判別した場合は（Ｓ４６０１：Ｙｅｓ）、小当たり遊技中更新処理を実行し（Ｓ４６０２）、Ｓ４６０３の処理へ移行する。一方で、Ｓ４６０２の処理において、小当たり遊技中では無いと判別した場合は（Ｓ４６０１：Ｎｏ）、次に、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値が１よりも大きいか、即ち、現在がラッシュ状態中であるかを判別し（Ｓ４６０３）、１よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０３：Ｙｅｓ）、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値を更新し（Ｓ４６０４）、更新後のラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍの値に対応するラッシュ期間を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０５）、Ｓ４６０６の処理へ移行する。
【１０２５１】
Ｓ４６０６の処理では、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値が１よりも大きいか、即ち、現在が操作有効期間（ＳＷ有効時間）中であるかを判別し（Ｓ４６０６）、１よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０６：Ｙｅｓ）、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値を更新し（Ｓ４６０７）、更新後のＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値に対応する期間を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０８）、Ｓ４６０９の処理へ移行する。
【１０２５２】
Ｓ４６０６の処理において、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値が１よりも大きく無いと判別した場合（Ｓ４６０６：Ｎｏ）、或いは、Ｓ４６０８の処理を終えた場合は、その他演出更新処理を実行し（Ｓ４６０９）、本処理を終了する。ここで、Ｓ４６０９の処理では、図９９７にて図示していない様々なカウンタの値を更新するための処理が実行され、その更新結果に応じた演出態様が決定される。
【１０２５３】
次に、図９９８を参照して、演出更新処理（図９９７のＳ３１１２参照）にて実行される小当たり遊技中更新処理（Ｓ４６０２）の処理内容について説明をする。図９９８は、小当たり遊技中更新処理（Ｓ４６０２）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり遊技中更新処理（Ｓ４６０２）では、小当たり遊技中における時間経過に基づいて表示される表示態様の表示を設定するための処理が実行される。
【１０２５４】
小当たり遊技中更新処理（Ｓ４６０２）が実行されると、まず、現在が、小当たり遊技が開始してから４秒が経過したタイミングであるかを判別する（Ｓ４７０１）。つまり、Ｓ４７０１の処理では、小当たり遊技中に実行される初回遊技案内報知の報知期間が終了したかを判別する。Ｓ４７０１の処理において、４秒が経過したタイミングであると判別した場合には（Ｓ４７０１：Ｙｅｓ）、次いで、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４７０２）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４７０２：Ｙｅｓ）、表示用Ｖ演出コマンドを設定し（Ｓ４７０３）、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓをオフに設定し（Ｓ４７０４）、本処理を終了する。
【１０２５５】
つまり、Ｓ４７０３の処理では、初回遊技案内報知の報知期間中に遊技球が特定領域（Ｖゲート）へと入球したことで、遊技者に対してＶ演出の実行を待機させている状態において、Ｖ演出の実行条件が成立したことに基づいてＶ演出を実行させるための処理が実行される。このように構成することで、初回遊技案内報知の報知期間が経過した後に、直ぐに、Ｖ演出を実行させることができる。
【１０２５６】

一方、Ｓ４７０１の処理において、４秒が経過したタイミングでは無いと判別した場合は（Ｓ４７０１：Ｎｏ）、次に、小当たり注意フラグがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４７０５）、オンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４７０５：Ｎｏ）、次いで、当たり遊技開始から５秒が経過したか（小当たり遊技におけるラウンド遊技が開始してから５秒が経過したか）を判別し（Ｓ４７０６）、５秒が経過したと判別した場合は（Ｓ４７０６：Ｙｅｓ）、Ｖ通過しているか（既に、遊技球が特定領域へと入球済であるか）を判別し（Ｓ４７０７）、Ｖ通過していないと判別した場合は（Ｓ４７０７：Ｎｏ）、小当たり注意フラグをオンに設定し（Ｓ４７０８）、Ｖ入賞させることを促すための表示用注意喚起コマンドを設定し（Ｓ４７０９）、本処理を終了する。

【１０２５７】

また、Ｓ４７０５の処理において小当たり注意フラグがオンに設定されていると判別した場合（Ｓ４７０５：Ｙｅｓ）、Ｓ４７０６の処理において、５秒が経過していないと判別した場合（Ｓ４７０６：Ｎｏ）、Ｓ４７０７の処理において、Ｖ通過あり（既に、遊技球が特定領域へと入球済である）と判別した場合（Ｓ４７０７：Ｙｅｓ）は、そのまま本処理を終了する。

【１０２５８】

次に、図９９９を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ３１０７）について説明する。図９９９は、この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ３１０７）を示したフローチャートである。この枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ３１０７）では、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理の中で実行され、第３図柄表示装置８１において演出効果を高めるために遊技者の操作に応じた演出を実行させるために、枠ボタン２２や選択ボタン６００の操作に基づいて表示用コマンドを生成し設定するための処理が実行される。

【１０２５９】

枠ボタン入力監視・演出処理（Ｓ３１０７）が実行されると、まず、音量調整ボタン（上ボタン６００ｂ、又は、下ボタン６００ｄ）又は、光量調整ボタン（右ボタン６００ｃ、又は、左ボタン６００ｅ）への操作があったか判別する（Ｓ４８０１）。操作があったと判別した場合には（Ｓ４８０１：Ｙｅｓ）、現在が待機状態中（デモ画面表示中）であるかを判別し（Ｓ４８０２）、待機状態中であると判別した場合は（Ｓ４８０２：Ｙｅｓ）、遊技環境格納エリア２２３ｕに各応されている環境情報をボタン操作内容に対応させて更新し（Ｓ４８０３）、更新後の環境情報に対応する態様を決定し（Ｓ４８０４）、決定した態様に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ４８１６）、本処理を終了する。

【１０２６０】

一方、Ｓ４８０２の処理において、待機状態では無いと判別した場合は（Ｓ４８０２：Ｎｏ）、次に、モード選択状態であるかを判別し（Ｓ４８０５）、モード選択状態であると判別した場合は（Ｓ４８０５：Ｙｅｓ）、ボタン操作内容に対応させて選択カーソルの表示位置を決定し（Ｓ４８０６）、Ｓ４８１６の処理へ移行する。このＳ４８０６の処理によって、図９４７（ｂ）を参照して上述したモード選択状態である演出モード選択画面にて矢印ｙａ１の位置が切り替わる。Ｓ４８０５の処理において、モード選択状態では無いと判別した場合（Ｓ４８０５：Ｎｏ）は、そのままＳ４８１６の処理へ移行する。

【１０２６１】

また、Ｓ４８０１の処理において、音量調整ボタン（上ボタン６００ｂ、又は、下ボタン６００ｄ）又は、光量調整ボタン（右ボタン６００ｃ、又は、左ボタン６００ｅ）への操作が無かったと判別した場合は（Ｓ４８０１：Ｎｏ）、次に、決定ボタン６００ａの操作があったかを判別し（Ｓ４８０７）、操作があったと判別した場合は（Ｓ４８０７：Ｙｅｓ）、現在が待機状態中（デモ画面表示中）であるかを判別し（Ｓ４８０８）、待機状態中であると判別した場合は（Ｓ４８０８：Ｙｅｓ）、モード選択状態の表示を決定し（Ｓ４８０９）、Ｓ４８１６の処理へ移行する。

【１０２６２】

一方、Ｓ４８０８の処理において、待機状態では無いと判別した場合は（Ｓ４８０８：

Ｎｏ）、次に、モード選択状態であるかを判別し（Ｓ４８１０）、モード選択状態であると判別した場合は（Ｓ４８１０：Ｙｅｓ）、選択中の演出モードを遊技環境格納エリア２２３ｕに格納し（Ｓ４８１１）、次いで、選択された演出モードが固定モードであるかを判別し（Ｓ４８１２）、固定モードであると判別した場合は（Ｓ４８１２：Ｙｅｓ）、固定モード設定処理を実行し（Ｓ４８１３）、Ｓ４８１６の処理へ移行する。

【１０２６３】

Ｓ４８１２の処理において、固定モードでは無いと判別した場合は（Ｓ４８１２：Ｎｏ）、演出固定フラグ２２３ｔをオフに設定し（Ｓ４８１４）、Ｓ４８１６の処理へ移行する。また、Ｓ４８０７の処理において、決定ボタン６００ａの操作が無いと判別した場合は（Ｓ４８０７：Ｎｏ）、次に、演出ボタン操作処理を実行し（Ｓ４８１５）、その後、Ｓ４８１６の処理へ移行する。

【１０２６４】

ここで、図１０００を参照して、固定モード設定処理（Ｓ４８１３）の処理内容について説明をする。図１０００は、固定モード設定処理（Ｓ４８１３）の処理内容を示したフローチャートである。この固定モード設定処理（Ｓ４８１３）は、固定モードが選択された場合における処理が実行されるものである。本第３２制御例では、固定モードを遊技者が任意に選択可能に構成しており、この固定モードが設定された場合には、ステージ変更演出が実行されないように構成している。しかしながら、後で実行される特別図柄抽選の結果を示唆するための先読み演出の演出態様として、ステージ変更演出を含む演出態様が設定される場合がある。この場合、ステージ変更演出を含む演出態様の先読み演出が実行されている状態で、固定モードが選択された場合に、固定モードが設定されているにも関わらず、ステージ変更演出が実行されてしまうという問題があった。

【１０２６５】

また、特別図柄変動回数が所定回数（例えば５０回）に到達することでステージ変更演出が実行される他の演出モードが選択されている状態で、特別１保留を獲得している場合には、ステージ変更演出が実行された後に特別図柄抽選が実行される特図１保留に対して、ステージ変更演出を伴った先読み演出が設定される場合があり、この場合においても、ステージ変更演出を含む演出態様の先読み演出が実行されている状態で、固定モードが選択された場合に、固定モードが設定されているにも関わらず、ステージ変更演出が実行されてしまうという問題があった。

【１０２６６】

これに対して、本第３２制御例では、ステージ変更演出が待機している状態において固定モードが選択された場合において、ステージ変更演出の実行有無、及び、ステージ変更演出の演出態様を可変設定可能に構成している。

【１０２６７】

具体的には、固定モード設定処理（Ｓ４８１３）が実行されると、まず、ステージ変更待機中であるかを判別し（Ｓ４９０１）、ステージ変更待機中では無いと判別した場合は（Ｓ４９０１：Ｎｏ）、ステージ変更演出が実行されることが決定済の状態では無いため、演出固定フラグ２２３ｔをオンに設定し（Ｓ４９０２）、本処理を終了する。

【１０２６８】

Ｓ４９０１の処理において、ステージ変更待機中であると判別した場合は（Ｓ４９０１：Ｙｅｓ）、次に、先読み演出中（先読み演出に基づくステージ変更待機中）であるかを判別し（Ｓ４９０３）、先読み演出中であると判別した場合は（Ｓ４９０３：Ｙｅｓ）、次変動の特別図柄抽選結果（先読み対象となる特別図柄抽選の結果）を事前判別し（Ｓ４９０４）、ステージ変更演出が実行されることを示唆するためのステージ変更示唆演出（図９４８（ａ）参照）を実行し（Ｓ４９０５）、次に、当たり当選しているかを判別し（Ｓ４９０６）、当たり当選していると判別した場合は（Ｓ４９０６：Ｙｅｓ）、ステージ変更態様をそのまま決定し（Ｓ４９０９）、Ｓ４９０２の処理を実行し、本処理を終了する。

【１０２６９】

一方、Ｓ４９０３の処理において、現在が先読み演出中では無い、即ち、特別図柄変動回数に基づいて実行されるステージ変動演出の待機中であると判別した場合は（Ｓ４９０３：Ｎｏ）、ステージ変更演出に関する演出情報をクリアし（Ｓ４９０７）、代わりにステージ変更が実行されない演出態様を決定し（Ｓ４９０８）、Ｓ４９０２の処理へ移行する。このように構成することで、固定モードが設定された後に、特別図柄抽選の結果を事前に示唆するための先読み演出では無く、賑やかし用の演出として実行されるステージ変更演出が実行されてしまうことを抑制することができるため、遊技者の所望する演出を提供し易くすることができる。

【１０２７０】

また、Ｓ４９０６の処理において、当たり当選していないと判別した場合、即ち、事前判別結果（先読み結果）に基づく先読み演出として、ステージ変更演出が決定されている状態であって、その先読み演出の対象となる特別図柄抽選の結果（事前判別結果）が、外れである場合（Ｓ４９０６：Ｎｏ）は、上述したＳ４９０７，Ｓ４９０８の処理を実行し、その後、Ｓ４９０２の処理を実行し、本処理を終了する。

【１０２７１】

つまり、先読み演出としてステージ変更演出が決定されている場合であっても、その先読み演出の演出結果（対象となる特別図柄抽選の抽選結果）が、外れである場合には、ステージ変更演出が実行されないように新たな演出態様を決定するように構成している。このように構成することで、固定モードを任意に選択した遊技者に対して、ステージ変更演出が実行されることにより遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１０２７２】

以上、説明をした通り、本第３２制御例では、遊技者が固定モードを選択した時点で、後に実行される演出（先読み演出）の演出態様としてステージ変更演出が決定されている場合であっても、そのステージ変更演出が実行される先読み演出の演出結果が大当たり当選を示す演出結果である場合以外は、ステージ変更演出が実行されないように、追加で演出態様を決定する処理を実行可能に構成している。

【１０２７３】

このように構成することで、遊技者が任意に固定モードを選択した後に、ステージ変更演出が実行される場合、即ち、遊技者が選択したモード種別とは矛盾する演出が実行された場合には、遊技者に対して特典を付与することが出来るため、遊技者に対して、所望しない演出が実行されたことにもとづいて遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１０２７４】

次に、図１００１を参照して、演出ボタン操作処理（Ｓ４８１５）の処理内容について説明をする。図１００１は、演出ボタン操作処理（Ｓ４８１５）の処理内容を示したフローチャートである。この演出ボタン操作処理（Ｓ４８１５）では、演出ボタン２２ａが押下された時点における遊技内容を判別し、実行中の遊技内容に応じた演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０２７５】

演出ボタン操作処理（Ｓ４８１５）が実行されると、まず、現在が演出用ＳＷ有効期間中、即ち、演出ボタン２２ａへの押下操作を有効に判別可能な期間であるかを判別し（Ｓ５００１）、演出用ＳＷ有効期間であると判別した場合は（Ｓ５００１：Ｙｅｓ）、次いで、現在が引き戻し演出中であるかを判別し（Ｓ５００２）、引き戻し演出中であると判別した場合は（Ｓ５００２：Ｙｅｓ）、引き戻し演出の演出結果として決定されている演出結果を示すための演出態様を決定し（Ｓ５００３）、Ｓ５００８の処理へ移行する。

【１０２７６】

一方、Ｓ５００２の処理において、引き戻し演出中では無いと判別した場合は（Ｓ５００２：Ｎｏ）、次に、討伐演出中であるかを判別し（Ｓ５００４）、討伐演出中であると判別した場合は（Ｓ５００４：Ｙｅｓ）、決定値を上限に、今回の敵減少数を抽選で決定し（Ｓ５００５）、決定した敵減少数に対応する演出態様を決定し（Ｓ５００６）、決定

された敵減少数に対応させて残討伐数カウンタの値を更新し（Ｓ５００７）、Ｓ５００８の処理へ移行する。

【１０２７７】

また、Ｓ５００１の処理において、演出用ＳＷ有効期間では無いと判別した場合（Ｓ５００１：Ｎｏ）、或いは、Ｓ５００４の処理において、討伐演出中ではないと判別した場合は（Ｓ５００４：Ｎｏ）、Ｓ５００８の処理へ移行する。Ｓ５００８の処理では、演出ボタン２２ａを押下した場合に実行される各種演出態様を決定し、本処理を終了する。

【１０２７８】

Ｓ５００５～Ｓ５００７の処理を実行することにより、攻撃演出中に演出ボタン２２ａを押下した場合の敵減少数が決定される。ここで、Ｓ５００５の処理にて決定される敵減少数には禁則処理が実行されるように構成しており、通常大当たり遊技中に実行される攻撃演出中は、残敵数が特定数に該当する値となってしまう敵減少数が決定されないように禁則処理が実行される。このように構成することで、通常大当たり遊技中に実行される攻撃演出の演出結果として特定数が表示されてしまうことを抑制することができる。

【１０２７９】

＜第３３制御例＞

次に、図１００２から図１０３を参照して、第３３制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第３３制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３２制御例に対して、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立するタイミングを異ならせている点で相違している。上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０は、時短状態中に実行される特別図柄抽選で小当たり当選した場合に、小当たり当選を示す特別図柄（小当たり図柄）が停止表示されたタイミングで時短終了条件が成立し、通常状態が設定されるように構成していた。つまり、小当たり遊技の実行期間中が通常状態となるように構成していた。

【１０２８０】

このように構成することで、小当たり遊技中に実行される右打ち遊技によって発射された遊技球のうち、第２可変入賞装置６５０へと入賞しなかった遊技球が、第２入球口６４０へと入球することを抑制し、小当たり遊技中に遊技者へと過剰に賞球が提供されることを抑制することができるものであった。

【１０２８１】

これに対して、本第３３制御例におけるパチンコ機１０は、小当たり当選に基づく時短終了条件の成立タイミングを異ならせている点で上述した第３２制御例と相違している。具体的には、小当たり当選を示す特別図柄（小当たり図柄）が停止表示されたタイミングでは無く、小当たり遊技が終了したタイミングで時短終了条件を成立させるように構成している点で相違している。このように構成することで、小当たり遊技中においても第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となるため、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得した状態で大当たり遊技を実行させ易くすることができる。

【１０２８２】

また、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０は、小当たり図柄が停止表示されたタイミングで時短状態が終了するため、例えば、大当たり遊技終了後に実行される１回目の第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり当選した第２特別図柄抽選の変動時間（１秒）のみ時短状態が設定されることとなり、その時短状態中に新たな特図２保留を獲得することが困難な事象が発生してしまうという問題があった。加えて、大当たり遊技中に保留連演出、即ち、獲得済みの特図２保留内に当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）を示す入賞情報が含まれていることを示すための演出が実行された場合には、新たな特図２保留を獲得するための右打ち遊技を実行しなくても、次の当たり遊技（小当たり遊技、大当たり遊技）が実行されることを遊技者が把握できるため、保留連演出が実行されてから次の当たり遊技が開始されるまでの間、遊技者が右打ち遊技を中断してしまう虞があった。

【１０２８３】

このように、右打ち遊技を中断した場合には、１回の保留連演出によって当たり当選することが事前に報知された第２特別図柄抽選の抽選結果に基づいて大当たり遊技が実行される時点で特図２保留を獲得していないため、複数回の保留連演出を連続して実行させるための条件が成立し難いという問題があった。さらに、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０のように、保留連演出が一度実行された状態では、保留連演出が実行されていない状態よりも、保留連演出の実行条件が成立した場合（当たり当選する特図２保留を獲得している場合）に保留連演出が実行され易くなるように構成することで、保留連演出を偏らせて（連続して）実行可能にし、演出効果を高めるようにしたパチンコ機１０では、保留連演出の実行条件が成立し難い遊技（保留連演出が実行されてから次の当たり遊技が開始されるまでの間、遊技者が右打ち遊技を中断してしまう遊技）が実行されてしまうことで、連続して保留連演出が実行される機会が減少し、演出効果を高めることが出来ないという問題があった。

【１０２８４】

これに対して、本第３３制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技が終了するまでの間、時短状態を継続させることができるため、小当たり遊技中に実行された右打ち遊技によって発射された遊技球のうち、第２可変入賞装置６５０へと入賞しなかった遊技球を第２入球口６４０へと入球させ易くすることができる。よって、上述した第３２制御例のように小当たり図柄が停止表示されたタイミングで時短状態が成立する場合（小当たり遊技が実行されるよりも前に時短終了条件が成立する場合）よりも、時短状態が継続する期間を長くすることができ、特図２保留を獲得した状態で大当たり遊技を実行させ易くすることができる。

【１０２８５】

又、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０とは異なり、小当たり遊技期間中、即ち、遊技球を特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３へと通過させるための右打ち遊技が実行される期間を時短状態とすることができるため、保留連演出が実行された場合であっても、時短状態が設定されている期間中に遊技者に対して確実に右打ち遊技（遊技球を特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３へと通過させる（Ｖ入賞させる）ための右打ち遊技）を行わせることができるため、特図２保留を獲得させ易くすることができる。

【１０２８６】

つまり、本第３３制御例では、第１の特典（Ｖ入賞）を獲得するための右打ち遊技の期間中に、第２の特典（特図２保留）も獲得可能となるように構成している点で、上述した第３２制御例と異ならせている。このように構成することで、第２の特典（特図２保留）を獲得することのみを目的とした右打ち遊技を遊技者が実行しなかった場合であっても、第１の特典を獲得することを目的とした右打ち遊技中に第２の特典を獲得させることができるため、遊技者に効率の良い遊技を行わせることができる。

【１０２８７】

なお、本第３３制御例のように、複数特典の獲得を重複して実行可能に構成した場合には、１の特典のみを獲得可能な期間を短く設定しても良く、例えば、第１の特典（Ｖ入賞）を獲得するための右打ち遊技を、小当たり遊技中の右打ち遊技とし、第２の特典（特図２保留）を獲得するための右打ち遊技を、時短状態中の右打ち遊技とした場合であって、小当たり遊技中の右打ち遊技によって発射された遊技球の一部が第２入球口６４０へと入球し易くなるように構成した場合であれば、小当たり当選する特別図柄変動の変動時間として短時間（０．５秒）の変動時間を決定可能に構成しても良い。

【１０２８８】

つまり、時短状態中における小当たり当選した特別図柄変動の変動時間（第２の特典（特図２保留）を獲得するための右打ち遊技が実行される期間）として、遊技球を第２入球口６４０へと入球させることが困難な短期間を設定したとしても、小当たり当選を示すための特別図柄（小当たり図柄）が停止表示された後に実行される小当たり遊技期間（第１の特典（Ｖ入賞）を獲得するための右打ち遊技が実行される期間）も、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることができる期間となるため、遊技球を第２入球口６４０

へと入球させ易くすることができる。
【１０２８９】
なお、この場合、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間（第２の特典（特図２保留）を獲得するための右打ち遊技期間）として、実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果に関わらず、一律の短い変動時間（例えば、０．１秒）を設定するように構成し、特別図柄抽選の結果に応じて第２入球口６４０への遊技球の入球のし易さを異ならせても良い。即ち、外れ当選に対応する特別図柄変動が実行された場合には、小当たり当選に対応する特別図柄変動が実行された場合よりも、小当たり遊技の実行期間分、時短状態が継続する期間が短くなるように構成することで、小当たり当選する特別図柄変動が実行される場合よりも、外れ当選する特別図柄変動が実行される場合の方が、次の特別図柄変動が開始されるまでの期間において遊技球を第２入球口６４０へと入球させ難くするように構成しても良い。このように構成することで、時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果に応じて、時短状態中における第２入球口６４０への遊技球の入球のし易さを異ならせることができるため、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果について、当たり遊技が実行されるか否かの点だけで無く、特図２保留を獲得できるか否かの点でも興味を持たせることができる。
【１０２９０】
また、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間（第２の特典（特図２保留）を獲得するための右打ち遊技期間）として、実行される特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果に応じて異なる長さの変動時間を設定可能に構成しても良く、この場合、小当たり遊技期間（Ａ期間（例えば、３秒））中も時短状態が継続する小当たり当選に対応する特別図柄変動については、変動時間をＢ期間（０．５秒）とし、外れ当選に対応する特別図柄変動については、変動時間として３．５秒のＣ期間（Ａ（３秒）＋Ｂ（０．５秒））を設定可能に構成しても良い。
【１０２９１】
このように構成することで、特別図柄抽選の結果に関わらず、１の特別図柄抽選に基づいて継続し得る時短状態の長さを統一することができるため、特別図柄抽選の結果に関わらず、特図２保留を獲得させることができる。
【１０２９２】
なお、上述した例では、時短状態が継続する期間に含まれる要素として、特別図柄変動が実行されている期間と、小当たり遊技が実行されている期間と、を示しているが、詳細には、特別図柄変動が停止表示されている期間（図柄確定期間）も含まれている。そこで、特別図柄抽選の結果に応じて、特別図柄変動の変動時間では無く、図柄確定期間の長さを異ならせることによって、上述した技術思想を適用しても良い。
【１０２９３】
＜第３３制御例における演出内容について＞
次に、図１００２を参照して、本第３３制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、上述した第３２制御例とは異なる特徴的な演出の内容について説明をする。本第３３制御例は、小当たり遊技中も時短状態が継続する点で、上述した第３２制御例と異ならせており、小当たり遊技中に表示される表示画面の内容（小当たり遊技中に実行される演出の内容）も対応して異ならせている。
【１０２９４】
図１００２（ａ）は、保留連演出の対象となる小当たり遊技中において表示される表示画面の一例を示した図であって、図１００２（ｂ）は、図１００２（ａ）に示した表示画面が表示されている状態で特図２保留を獲得した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。
【１０２９５】
図１００２（ａ）の表示画面は、上述した第３２制御例における小当たり遊技中の表示画面（図９３９（ａ）参照）に対して、保留連演出にて報知された小当たり遊技中であることを示すための表示態様が表示されている点と、第２入球口６４０へと遊技球を入球さ

せることを案内するための遊技案内報知が表示されている点と、で相違している。それ以外の表示内容については同一であり、同一の表示内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１０２９６】

図１００２（ａ）に示した通り、前回の大当たり遊技中に保留連演出が実行された場合には、その大当たり遊技が終了してから、次の大当たり遊技が実行されるまでの間、主表示領域Ｄｍの上側に、保留連演出が高確率で実行される状態であることを示すための演出状態表示態様として「保留連演出高確率中」の文字が表示される。

【１０２９７】

つまり、本第３３制御例では、上述した第３２制御例と同様に、前回の大当たり遊技中に保留連演出が実行されている状態であって、次に実行される大当たり遊技の最終ラウンドが開始されるまでに獲得済の特図２保留が当たり当選を示す入賞情報を有している場合には（保留連演出の実行条件が成立している場合には）、必ず保留連演出が実行されるように構成している。よって、「保留連演出高確率中」の文字を表示画面に表示することによって、連続して保留連演出を実行させようと遊技者に対して意欲的に第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技（特図２保留を獲得させる）を行わせることができる。

【１０２９８】

そして、実行中の小当たり遊技期間においても時短状態が継続しており、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い状態であることを遊技者に案内するために、遊技案内報知として、Ｖ入賞を目指す遊技を案内する第１矢印８１０に加えて、第２入球口６４０への入球（特図２保留の獲得）を目指す遊技を案内する第２矢印８１０ａが表示される。尚、図１００２（ａ）は、小当たり遊技が開始された時点で特図２保留を獲得していない場合における小当たり遊技中の表示画面を表示している。

【１０２９９】

このように構成することで、小当たり遊技中に実行される右打ち遊技によって、第１矢印８１０が示すＶ入賞を狙う遊技と、第２矢印８１０ａが示す特図２保留の獲得を狙う遊技と、共に実行させることができることを遊技者に分かり易く理解させることができる。

【１０３００】

なお、図１００２（ａ）に示した通り、複数の遊技案内報知を同時に表示させる場合には、各遊技案内報知にて報知される遊技内容に応じた表示態様が設定される。具体的には、大当たり遊技を実行させるための実行契機であるＶ入賞の方が、保留連演出を継続して実行させるために必要となる特図２保留の獲得よりも遊技内容として優先度が高いため（獲得出来なかった場合の損失が大きいため）、第２矢印８１０ａよりも第１矢印８１０の方が大きく表示されている。このように構成することで、異なる遊技内容を案内するための遊技案内報知が複数実行された場合であっても、最も大きく表示されている遊技案内報知に基づいて遊技を実行すれば良く、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【１０３０１】

なお、本第３３制御例では、第２矢印８１０ａよりも第１矢印８１０の方が常に大きく表示されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、小当たり遊技中における遊技状況に応じて、各遊技案内報知の報知態様（表示態様）を可変可能に構成しても良い。例えば、小当たり遊技が実行されてから遊技球をＶ入賞させるまでの間は、第１矢印８１０を第２矢印８１０ａよりも大きく表示し、遊技球をＶ入賞させてから小当たり遊技が実行されるまでの期間であって、特図２保留を獲得していない状態であれば、第１矢印８１０よりも第２矢印８１０ａを大きく表示するように構成しても良い。このように構成することで、表示画面に表示されている各遊技案内報知の報知態様（表示態様）によって遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【１０３０２】

また、本第３３制御例では、小当たり遊技が実行された場合に、上述した各遊技案内報知の表示態様（各矢印）を表示するように構成しているが、表示タイミングはこれに限ること無く、各遊技案内報知によって報知されている内容を把握した遊技者が、各遊技案内

報知によって報知されている遊技を実行可能であれば良く、例えば、小当たり遊技が開始されるよりも前に各表示態様を表示しても良い。また、小当たり遊技が実行されてから所定期間が経過した場合に各表示態様を表示しても良い。

【１０３０３】

さらに、本第３３制御例では、第１矢印８１０と、第２矢印８１０ａと、が同時に表示されるように構成しているが、各矢印の表示タイミングはこれに限ること無く、小当たり遊技が開始された直後は、第１矢印８１０のみを表示し、その後、所定期間（例えば、１秒）経過後に、第２矢印８１０ａを表示するように構成しても良い。このように構成することで、小当たり遊技が開始された直後は、第１矢印８１０のみを表示することができるため、遊技者に対して、小当たり遊技中に実行すべき主となる遊技（Ｖ入賞を狙う遊技）を分かり易く理解させることができる。

【１０３０４】

また、第１矢印８１０よりも前に第２矢印８１０ａを表示するように構成しても良く、この場合、時短状態が設定されたことに基づいて第２矢印８１０ａ、即ち、特図２保留の獲得を目指す遊技を案内するための遊技案内報知を実行し、小当たり遊技が実行された後も継続して第２矢印８１０ａを表示可能に構成すれば良い。

【１０３０５】

図１００２（ａ）に示した状態において、遊技球をＶ入賞させるよりも前に、特図２保留を獲得した場合には、図１００２（ｂ）に示した表示画面が表示される。図１００２（ｂ）は、小当たり遊技中であって、Ｖ入賞していない状態で特図２保留を獲得した場合に表示される表示内容の一例を示した図である。

【１０３０６】

図１００２（ｂ）に示した通り、特図２保留を獲得した場合には、これ以上、特図２保留を獲得することが出来ないため、特図２保留の獲得を目指すための遊技案内報知である第２矢印８１０ａが非表示となり、表示領域Ｄｍ１０に表示される画像から、第２入球口６４０付近の領域が消え、第２可変入賞装置６５０付近が拡大表示される。そして、特図２保留を獲得したことに基づいて、小当たりタイムゲージｇａ２のうち、小当たり遊技の残期間を示すための残期間表示ｇａ２ａの表示態様を通常とは異なる表示態様（図では、発光表示）へと変動し、副表示領域Ｄｓには、「右打ちしてＶアタッカーに入賞させろ！！」の表示を継続したまま、「特図２保留ゲット」の文字が表示される。

【１０３０７】

このように構成することで、小当たり遊技中において実行される遊技のうち、特図２保留の獲得を目指す遊技が完了したことを遊技者に分かり易く報知することができる。なお、図１００２（ｂ）では、遊技球をＶ入賞させる前に、特図２保留を獲得した場合の表示画面を示したが、例えば、特図２保留を獲得する前に遊技球をＶ入賞させた場合には、遊技球をＶ入賞させたタイミングによって異なる表示画面が表示されるように構成している。

【１０３０８】

具体的には、特図２保留を獲得する前であって、初回の遊技案内報知が実行されている期間（小当たり遊技が開始されてからの４秒間）中に遊技球をＶ入賞させた場合は、初回の遊技案内報知が終了するまでの間、図１００２（ａ）に示した表示画面、即ち、第１矢印８１０と、第２矢印８１０ａとが表示される表示画面が表示され、初回の遊技案内報知が終了した後に、Ｖ入賞したことを示すＶ演出画面を表示すると共に、第２矢印８１０ａを継続表示する表示画面が表示される。また、初回の遊技案内報知が終了した後（２回目以降の遊技案内報知が実行されている期間中）に、遊技球をＶ入賞させた場合は、Ｖ入賞した直後にＶ演出画面を表示すると共に、第２矢印８１０ａを継続表示する表示画面が表示される。

【１０３０９】

一方、初回の遊技案内報知が実行されている期間（小当たり遊技が開始されてからの４秒間）中に、特図２保留を獲得した場合には、初回の遊技案内報知の終了タイミングを待

つこと無く、第２矢印８１０ａを非表示にし、図１００２（ｂ）に示した表示画面が表示される。つまり、小当たり遊技中に表示され得る複数の遊技案内報知のうち、Ｖ入賞を狙わせる遊技を案内するための第１遊技案内報知は、Ｖ入賞の有無に関わらず、一定期間の報知期間を確保可能に構成し、特図２保留の獲得を狙わせる遊技を案内するための第２遊技案内報知は、報知された期間の長さに関わらず、特図２保留を獲得した時点で終了するように構成している。このように構成することで、小当たり遊技中に実行すべき主たる遊技の内容を遊技者に分かり易く把握させることができる。

【１０３１０】

また、詳細な図示は省略するが、小当たり遊技が開始される時点で特図２保留を獲得済みの場合は、小当たり遊技が開始された直後から図１００２（ｂ）に表示した表示画面、即ち、特図２保留の獲得を目指すための遊技案内報知の表示態様（第２矢印８１０ａ）を非表示とし、既に、特図２保留を獲得済みであることを示すための表示態様を表示するように構成している。このように構成することで、小当たり遊技中に実行すべき遊技内容を遊技者に分かり易く報知することができる。

【１０３１１】

なお、小当たり遊技が開始される時点で特図２保留を獲得済みの場合において、小当たり遊技が開始されてからの所定期間（例えば、１秒間）、具体的には、遊技球をＶ入賞させることが容易となるラウンド遊技が実行されるまでの期間において、第２矢印８１０ａを表示し、所定期間が経過したタイミングで図１００２（ｂ）に表示した表示画面、即ち、特図２保留の獲得を目指すための遊技案内報知の表示態様（第２矢印８１０ａ）を非表示とし、既に、特図２保留を獲得済みであることを示すための表示態様を表示するように構成しても良い。このように、特図２保留を獲得したことを示すための演出を疑似的に実行可能に構成することで、最初から第２矢印８１０ａを非表示にする場合に比べて、特図２保留を獲得したことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【１０３１２】

＜第３３制御例における主制御装置１１０の制御処理について＞

次に、図１００３から図１００５を参照して、本第３３制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０にて実行される制御処理のうち、上述した第３２制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０にて実行される制御処理とは異なる内容について説明をする。本第３３制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０に対して、小当たり当選した場合に成立する時短終了条件の成立タイミングを異ならせている点で相違し、時短状態を終了させるための時短終了条件の成立に関する各種情報を更新させるための制御処理内容を異ならせている。

【１０３１３】

具体的には、上述した第３２制御例に対して、時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）に代えて時短更新処理２（図１００３のＳ２７４参照）を、小当たり制御処理（図９８０のＳ１８０５参照）に代えて小当たり制御処理２（図１００４のＳ１８５５参照）を、実行する点で相違している。それ以外の制御処理の内容については同一であり、同一の処理内容についてはその詳細な説明を省略する。

【１０３１４】

図１００３は、主制御装置１１０において２ミリ秒毎に実行されるタイマ割込処理（図９６３参照）内で実行される特別図柄時変動処理（図９６４のＳ１０４参照）の一部である時短更新処理２（Ｓ２７４）の処理内容を示したフローチャートである。図１００３に示した通り、時短更新処理２（Ｓ２７４）は、上述した第３２制御例の時短更新処理（図９６８のＳ２２４参照）に対して、小当たり当選時に実行される小当たり時短更新処理（図９６８のＳ６１５参照）を削除した点で相違しており、それ以外は同一である。

【１０３１５】

つまり、上述した第３２制御例では、小当たり当選したことに基づいて成立する時短終了条件が、小当たり当選を示すための特別図柄（小当たり図柄）が停止表示された場合に成立するように小当たり時短更新処理が実行されるように構成していた。これに対して、

本第３３制御例では、小当たり図柄が停止表示されたタイミングでは時短終了条件が成立すること無く、小当たり遊技が終了したタイミングで時短終了条件が成立するように構成している。よって、特別図柄が停止表示されるタイミングにて実行される時短更新処理２（Ｓ２７４）では、小当たり当選に基づく時短更新処理（小当たり時短更新処理）が実行されることが無い。このように構成することで、小当たり図柄が停止表示されたことに基づいて時短終了条件が成立することを抑制することができる。

【１０３１６】

なお、図１００３に示した通り、時短更新処理２（Ｓ２７４）は、小当たり当選に基づく時短更新処理が実行されない点で時短更新処理（Ｓ２２４）と相違しているだけで有り、他の時短終了条件の成立に関する処理タイミングは同一である。よって、例えば、特別図柄抽選（変動）の実行回数に基づいて時短終了条件が成立する場合、即ち、時短状態における最終変動で小当たり当選した場合には、特別図柄変動の停止表示タイミング（時短更新処理２が実行されるタイミング）で小当たり当選に基づく時短更新処理は実行されないが、特別図柄抽選（変動）の基づく時短更新処理が実行されることから、特別図柄変動の停止表示タイミングにて時短状態が終了することになる。よって、時短状態における最終変動で小当たり当選したことに基づいて実行される小当たり遊技中は通常状態が設定されることになる。

【１０３１７】

なお、本第３３制御例では、上述した第３２制御例と同様に、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動に対して、時短状態中におけるそれ以外の第２特別図柄変動よりも長い変動時間（２０秒～３０秒）が設定され易くなるように構成しており、時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動にて小当たり当選した場合には、特別図柄変動が実行されている期間中に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な期間を十分に確保することができるため、開始時に通常状態が設定される小当たり遊技が実行された場合であっても、遊技者に過剰に不利な遊技を実行されることを抑制することができる。

【１０３１８】

次に、図１００４を参照して、小当たり制御処理２（Ｓ１８５５）の内容について説明をする。図１００４は、小当たり制御処理２（Ｓ１８５５）の詳細な内容を示したフローチャートである。この小当たり制御処理２（Ｓ１８５５）は、上述した小当たり制御処理（図９８０のＳ１８０５）に対して、小当たり遊技の終了タイミングにて時短終了条件を成立させるための要素に関する情報を更新するための処理を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１０３１９】

小当たり制御処理２（Ｓ１８５５）が実行されると、まず、上述した小当たり制御処理（図９８０のＳ１８０５参照）と同一のＳ２００１～Ｓ２０１８の処理を実行する。そして、Ｓ２０１８の処理を終えると、小当たり時短更新処理２を実行し（Ｓ２０５１）、本処理を終了する。小当たり時短更新処理２（Ｓ２０５１）では、小当たり遊技の終了タイミングにて小当たりカウンタ２０３ｓの値を減算するための処理が実行され、減算後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０となった場合に、時短状態を終了させて通常状態を設定するための処理が実行される。

【１０３２０】

ここで、図１００５を参照して、小当たり時短更新処理２（Ｓ２０５１）の処理内容について説明をする。図１００５は、小当たり時短更新処理２（Ｓ２０５１）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり時短更新処理２（Ｓ２０５１）では、小当たり遊技が終了したことに基づいて時短終了条件を成立させるための処理が実行される。なお、上述した第３２制御例では、小当たり当選に基づく時短終了条件を成立させるための小当たり時短更新処理（図９６９のＳ６１５参照）を、小当たり当選を示すための特別図柄（小当たり図柄）が停止表示されたタイミングで実行しているのに対して、本第３３制御例では、小当たり遊技が終了したタイミングで小当たり当選に基づく時短終了条件を成

立させるための処理が実行されるように構成しているが、実行される処理内容のうち同一の処理内容については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１０３２１】

小当たり時短更新処理２（Ｓ２０５１）が実行されると、まず、小当たりカウンタ２０３ｓの値を１減算し（Ｓ７０２）、減算後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０であるかを判別する（Ｓ７０３）。Ｓ７０３の処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０であると判別した場合は（Ｓ７０３：Ｙｅｓ）、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ７０４）、時短カウンタ２０３ｈ、及び特図２カウンタ２０３ｔの値を０に設定し（Ｓ７０５）、通常状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ７０６）、本処理を終了する。一方、Ｓ７０３の処理において小当たりカウンタ２０３ｓの値が０では無いと判別した場合は（Ｓ７０３：Ｎｏ）、時短状態を終了するためのＳ７０４～Ｓ７０６の各種処理をスキップして本処理を終了する。

【１０３２２】

以上、説明をした通り、本第３３制御例では、小当たり当選したことに基づいて成立する時短終了条件が、小当たり遊技が終了したタイミングで成立可能に構成している。このように構成することで、時短状態中に小当たり当選した場合において、時短状態のまま小当たり遊技を実行することができるため、時短状態が設定されてから小当たり遊技が実行されるまでの期間が短く、新たな特図２保留を獲得できなかった場合であっても、小当たり遊技中に新たな特図２保留を獲得することが可能となる。よって、特図２保留を獲得していない状態で大当たり遊技が開始され易くなることで、保留連演出が実行され難くなり、パチンコ機１０の演出効果が低下してしまう事態が発生することを抑制できる。

【１０３２３】

なお、本第３３制御例では、上述した第３２制御例と同様に、時短状態中に実行される特別図柄抽選で小当たりに１回当選したことに基づいて時短終了条件が成立するように構成しているため、時短状態中における１回目の小当たり遊技終了後に時短状態が終了することになるが、これに限ること無く、２回以上の小当たり当選に基づいて時短終了条件が成立するように構成しても良いし、特定の小当たり種別が設定される小当たりに特定回数当選したことに基づいて時短終了条件が成立するように構成しても良い。さらに、時短状態中に実行される特別図柄変動回数と、特別図柄抽選の結果と、を関連付けた時短終了条件を設定可能に構成しても良く、例えば、時短状態中に実行される１，２回目の特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果（例えば、小当たり）である場合には、その小当たり当選に基づいて時短終了条件が成立し、３回目の特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果（例えば、外れ）である場合には、その外れ当選に基づいて時短終了条件が成立するように構成しても良い。また、特定の抽選結果（例えば、外れ）となる特別図柄抽選が所定回数（例えば、３回）連続した場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。

【１０３２４】

このように構成することで、遊技者に対して、どのタイミングで時短終了条件が成立するのかを把握させ難くすることができる。よって、時短終了条件が成立するまでに実行可能な特別図柄抽選の回数が固定されているパチンコ機１０よりも、時短状態が継続するか否かについて遊技者を注視させることができるため、時短状態中の遊技が単調となり遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができる。

【１０３２５】

また、本第３３制御例では、小当たり遊技が終了したタイミングで時短状態を終了させるように構成することで、右打ち遊技が実行される小当たり遊技期間を用いて、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くするように構成しているが、同一の目的を達成するために時短状態を終了させるタイミングとして異なるタイミングを設定可能に構成しても良く、例えば、小当たり遊技のラウンド遊技が開始されるタイミングで時短終了条件を成立させるように構成しても良い。この場合であっても、小当たり図柄が停止表示されたタイミングで時短終了条件が成立する場合に比べて、小当たり遊技のオープニング期間中を時短状態とすることができるため、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることが

できる。特に、小当たり遊技のオープニング期間中は、Ｖ入賞を狙わせるための遊技案内報知が実行されているにも関わらず、第２可変入賞装置６５０が入賞可能な状態へと作動していない状態であるため、右打ち遊技によって発射された遊技球が第２可変入賞装置６５０へと入賞すること無く、第２可変入賞装置６５０よりも下流側に設けられた電動役物６４０ａへと遊技球を到達させ易くすることができることから、第２入球口６４０へと効率良く遊技球を到達させることができると共に、ラウンド遊技の開始に先立って実行した右打ち遊技によって発射された遊技球を有効に活用することができるため、Ｖ入賞を狙わせるための遊技案内報知が実行されるタイミングに対して、遊技者が不信感を覚えてしまう事態を抑制することができる。

【１０３２６】

加えて、ラウンド遊技が開始されるよりも前に第２入球口６４０へと遊技球を入球させて特図２保留を獲得しようと意欲的に右打ち遊技を遊技者に実行させることで、結果として、ラウンド遊技が開始された直後に遊技球をＶ入賞させ易くすることができるため、ラウンド遊技中に遊技球をＶ入賞させることができず、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを防ぐと共に、単位時間当たりに実行される大当たり遊技の回数を増加させ易くすることができる。

【１０３２７】

本第３３制御例では、時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果が小当たり当選である場合において、時短状態が継続する小当たり遊技と、時短状態が継続しない小当たり遊技と、を小当たり当選した特別図柄抽選の特別図柄変動回数に応じて決定可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、設定される小当たり種別に応じて時短終了条件が成立するタイミングを異ならせても良く、例えば、第１小当たり種別が設定される小当たり当選に基づいて時短終了条件が成立する場合には、小当たり遊技終了後に時短状態を終了させ、第１小当たり種別とは異なる第２小当たり種別が設定される小当たり当選に基づいて時短終了条件が成立する場合には、小当たり図柄の停止表示タイミング（或いは、小当たり遊技の開始タイミング）にて時短状態を終了させるように構成しても良い。

【１０３２８】

このように構成することで、時短状態が終了することとなる小当たり遊技が実行された場合において、小当たり遊技中も時短状態が継続するか否かを遊技者に予測させ難くすることができるため、小当たり遊技のオープニング期間中に特図２保留を獲得しようと、小当たり図柄が停止表示されたタイミングから継続して右打ち遊技によって発射された遊技球が、第２可変入賞装置６５０や第２入球口６４０へと入賞し難くなる状況を創出することができる。

【１０３２９】

よって、時短状態中に小当たり当選した場合において、右打ち遊技を継続するか否かを遊技者に選択させる楽しみを提供することができる。なお、この場合、小当たり遊技のラウンド遊技中は遊技球を第２入球口６４０へと入球させ難くなるように第２可変入賞装置６５０の開放動作を設定し、時短状態中において、小当たり遊技のオープニング期間が最も遊技球を第２入球口６４０へと入賞させ易い期間となるように構成すると良い。

【１０３３０】

さらに、小当たり遊技中に時短状態が継続しているか否かを把握してから右打ち遊技を行った場合には、発射された遊技球がオープニング期間中に第２可変入賞装置６５０へと到達し難くなるように遊技盤１３を構成すると良い。このように構成することで、小当たり遊技のオープニング期間中に遊技球を第２入球口６４０へと入球させるためには、小当たり遊技が開始される前から継続して右打ち遊技を行う必要があるため、遊技者に対して、後の遊技状況を予測して遊技方法を選択する楽しみを提供することができる。

【１０３３１】

＜第３３制御例における音声ランプ制御装置の処理内容について＞

次に、図１００６から図１００９を参照して、本第３３制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３によって実行される制御処理のうち、上述した第３２制御例

とは異なる処理内容について説明をする。本第３３制御例では、上述した第３２制御例に対して、時短状態を終了させるための時短終了条件のうち、小当たり当選に基づいて成立する時短終了条件の成立タイミングが小当たり遊技の終了タイミングとなるように構成することで、小当たり遊技中も時短状態が継続するようにしている点で相違している。そして、音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理においても、小当たり遊技中に実行される演出の内容を異ならせている点で相違している。

【１０３３２】

具体的には、本第３３制御例では、上述した第３２制御例に対して、保留情報関連処理（図９８４のＳ３２０８参照）に代えて保留情報関連処理２（図１００６のＳ３２５８参照）を、小当たり関連処理（図９９３のＳ３５０８参照）に替えて小当たり関連処理２（図１００８のＳ３５５８参照）を、実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の制御処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１０３３３】

まず、図１００６を参照して、保留情報関連処理２（Ｓ３２５８）の処理内容について説明をする。図１００６は、保留情報関連処理２（Ｓ３２５８）の処理内容を示したフローチャートである。この保留情報関連処理２（Ｓ３２５８）は、上述した第３２制御例の保留情報関連処理（図９８４のＳ３２０８）に対して、特図２保留の獲得を示す保留球数コマンドを受信したタイミングが小当たり遊技中であるか否かの判別を実行する点と、小当たり遊技中に特図２保留の獲得を示す保留球数コマンドを受信した場合に小当たり中保留獲得処理を実行する点と、で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１０３３４】

保留情報関連処理２（Ｓ３２５８）が実行されると、まず、上述した第３２制御例の保留情報関連処理（図９８４のＳ３２０８）と同一のＳ３３０１～Ｓ３３１０の処理を実行する。そして、Ｓ３３０７の処理において、特図変動中では無いと判別した場合に（Ｓ３３０７：Ｎｏ）、現在が小当たり遊技中であるかを判別する（Ｓ３３５１）。なお、Ｓ３３５１の処理においては、従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納されている情報、即ち、主制御装置１１０から出力される状態コマンドに基づいて格納される現在の遊技状態を示すための情報を用いて小当たり遊技中であるか否かの判別が実行される。

【１０３３５】

Ｓ３３５１の処理において、小当たり遊技中であると判別した場合は（Ｓ３３５１：Ｙｅｓ）、小当たり遊技中に特図２保留を獲得した場合における演出態様を決定するための小当たり中保留獲得処理を実行し（Ｓ３３５２）、その後、Ｓ３３１０の処理へ移行する。一方、Ｓ３３５１の処理において、現在が小当たり遊技中では無いと判別した場合には（Ｓ３３５１：Ｎｏ）、Ｓ３３５２の処理を実行すること無く、Ｓ３３１０の処理へ移行する。

【１０３３６】

次に、保留情報関連処理２（図１００６のＳ３２５８参照）にて実行される小当たり中保留獲得処理（Ｓ３３５２）の処理内容について、図１００７を参照して説明をする。図１００７は、小当たり中保留獲得処理（Ｓ３３５２）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり中保留獲得処理（Ｓ３３５２）では、保留連演出の対象である小当たり遊技中に特図２保留を獲得した場合、即ち、特図２保留を獲得していない状態で保留連演出の対象である小当たり遊技が実行され図１００２（ａ）の表示画面が表示された状態で、特図２保留を獲得した場合にいける演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０３３７】

小当たり中保留獲得処理（Ｓ３３５２）が実行されると、まず、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別し（Ｓ５１０１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５１０１：Ｙｅｓ）、小当たり遊技中に特図２保留を獲得したことを示すための演出態様を決定し、決定した演出態様に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ５１０２）、本処理を終了する。一方、Ｓ５１０１の処理において、保留連フラグ２２３ｏがオンに

設定されていないと判別した場合は（Ｓ５１０１：Ｎｏ）、Ｓ５１０２の処理をスキップして本処理を終了する。

【１０３３８】

Ｓ５１０２の処理によって設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、Ｓ５１０２の処理によって設定された表示用コマンドを受信すると、特図２保留を獲得したことを示す表示態様を第３図柄表示装置８１に表示する（図１００２（ｂ）参照）。

【１０３３９】

次に、図１００８を参照して、小当たり関連処理２（Ｓ３５５８）の処理内容について説明をする。図１００８は、小当たり関連処理２（Ｓ３５５８）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり関連処理２（Ｓ３５５８）では、上述した第３２制御例における小当たり関連処理（図９９３のＳ３５０８参照）に対して、小当たり開始コマンドを受信した場合に、小当たり遊技中に特図２保留の獲得を促すための遊技案内報知を設定するための小当たり中案内態様設定処理を実行する点で相違し、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容に対しては同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１０３４０】

小当たり関連処理２（Ｓ３５５８）が実行されると、まず、上述した第３２制御例の小当たり関連処理（図９９３のＳ３５０８参照）と同様に、小当たり開始コマンドを受信したかを判別し（Ｓ４２０１）、小当たり開始コマンドを受信したと判別した場合は（Ｓ４２０１：Ｙｅｓ）、表示用小当たり開始コマンドを設定する（Ｓ４２０２）。Ｓ４２０２の処理によって設定された表示用小当たり開始コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用小当たり開始コマンドを受信すると、小当たり遊技が開始されたことを示すための表示態様に加え、小当たり遊技中の遊技方法を案内するための遊技案内報知としてＶ入賞を狙わせるための表示態様（第１矢印８１０）を第３図柄表示装置８１に表示する（図１００２（ａ）参照）。

【１０３４１】

Ｓ４２０２の処理を終えると、次に、右打ちフラグがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４２０３）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４２０３：Ｙｅｓ）、小当たり遊技中に特図２保留の獲得を促すための遊技案内報知を設定するための小当たり中案内態様設定処理を実行し（Ｓ４２５１）、本処理を終了する。

【１０３４２】

一方、Ｓ４２０３の処理において右打ちフラグがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４２０３：Ｎｏ）、右打ちフラグをオンに設定し（Ｓ４２０４）、右打ち遊技を案内する表示用コマンドを設定し（Ｓ４２０５）、次いで、Ｓ４２５１の処理を実行し、本処理を終了する。ここで、Ｓ４２０３の処理において、右打ちフラグがオンに設定されていないと判別される場合とは、通常状態が設定された状態で小当たり当選した場合であり、具体的には、通常状態にて主として実行される第１特別図柄抽選で小当たり当選（当選確率１／６５５３６）した場合と、時短状態中に獲得した特図２保留を用いて通常状態中に実行された第２特別図柄抽選で小当たり当選（当選確率１／２）した場合である。

【１０３４３】

Ｓ４２０１の処理において、小当たり開始コマンドを受信していないと判別した場合は（Ｓ４２０１：Ｎｏ）、上述した第３２制御例の小当たり制御処理（図９９３のＳ３５０８参照）と同一のＳ４２０６～Ｓ４２１６の処理を実行し、本処理を終了する。

【１０３４４】

次に、小当たり関連処理２（図１００８のＳ３５５８参照）にて実行される小当たり中案内態様設定処理（Ｓ４２５１）の処理内容について、図１００９を参照して説明をする。図１００９は、小当たり中案内態様設定処理（Ｓ４２５１）の処理内容を示したフローチャートである。この小当たり中案内態様設定処理（Ｓ４２５１）では、特図２保留を獲得していない状態で小当たり遊技が実行された場合における演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０３４５】

小当たり中案内態様設定処理（Ｓ４２５１）が実行されると、まず、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃの値が０であるか、即ち、特図２保留を獲得している状態であるかを判別し（Ｓ５２０１）、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃの値が０であると判別した場合は（Ｓ５２０１：Ｙｅｓ）、次に、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されているかを判別する（Ｓ５２０２）。Ｓ５２０２の処理において、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていると判別した場合（Ｓ５２０２：Ｙｅｓ）、即ち、保留連演出の対象である小当たり遊技が実行される時点で特図２保留を獲得していない状態である場合には、特図２保留の獲得を案内するための案内態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ５２０４）、本処理を終了する。

【１０３４６】

Ｓ５２０４の処理によって設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、Ｓ５２０４の処理によって設定された表示用コマンドを受信すると、小当たり遊技中において、特図２保留の獲得を目指す遊技を案内するための表示態様（第２矢印８１０ａや、表示領域Ｄｍ１０に表示される第２入球口６４０付近の領域も含む画像表示等）を第３図柄表示装置８１に表示する（図１００２（ａ）参照）。

【１０３４７】

一方で、Ｓ５２０２の処理において、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ５２０２：Ｎｏ）、時短状態が継続していることを示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５２０３）、本処理を終了する。

【１０３４８】

Ｓ５２０３の処理によって設定された表示用コマンドは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図９８２参照）のコマンド出力処理（図９８２のＳ３１０２参照）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、Ｓ５２０３の処理によって設定された表示用コマンドを受信すると、小当たり遊技中において、時短状態が継続していることを示すための表示態様（表示領域Ｄｍ１０に表示される第２入球口６４０付近の領域も含む画像表示等）を第３図柄表示装置８１に表示する（図１００２（ａ）参照）。

【１０３４９】

以上、説明をした通り、本第３３制御例では、時短状態中に実行される小当たり遊技中の表示態様を、保留連フラグ２２３ｏの設定状況と、特図２保留の獲得状況とに基づいて決定するように構成しており、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されている場合、即ち、連続して保留連演出が実行され易い状況においては、保留連フラグ２２３ｏがオンに設定されていない場合よりも、小当たり遊技中に特図２保留を獲得させ易くするように構成している。このように構成することで、特図２保留を獲得していない状態で大当たり遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【１０３５０】

＜第３４制御例＞

次に、図１０１０から図１０２５を参照して、第３４制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第３４制御例は、上述した第３２制御例に対して、獲得済みの第１

特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を遊技者に示すための特図１保留図柄の演出態様を異ならせている点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については、その詳細な説明を省略する。

【１０３５１】

本第３４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３２制御例と同様に、通常状態において第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）が獲得し易くなるように構成し、且つ、特図１保留を、４個を上限に獲得可能に構成している。そして、第３図柄表示装置８１の表示面に、獲得済みの特図１保留の数を遊技者に把握させるための表示態様として、特図１保留図柄を表示するように構成している。このように構成することで、新たな特図１保留を獲得可能な状況であるか（獲得済みの特図１保留数が上限に到達しているか否か）を遊技者に把握させ易くすることができるため、新たな特図１保留を獲得可能な状況である（獲得済みの特図１保留数が上限に到達していない）場合には、遊技者に対して、新たな特図１保留を獲得しようと意欲的に遊技を行わせることができると共に、新たな特図１保留を獲得できない状況である（獲得済みの特図１保留数が上限に到達している）場合には、特図１保留を獲得するための遊技を中断することで、無用な遊技球が発射されることを抑制することができる。

【１０３５２】

また、本第３４制御例におけるパチンコ機１０では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される特図１保留図柄を用いた保留変化演出を実行可能に構成している。この保留変化演出は、獲得した特図１保留に含まれる入賞情報の事前判別結果（先読み結果）を遊技者に示唆するための演出であって、特図１保留を獲得してから、その獲得した特図１保留に基づく特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）が実行されるまでの期間（先読み期間）を用いて実行される。

【１０３５３】

つまり、最大で４個獲得可能な特図１保留のうち、３個目の特図１保留を獲得した際に保留変化演出の実行が決定された場合には、３個目の特図１保留に対応する特図１保留図柄が第３図柄表示装置８１の表示面に表示されてから、実行中の特別図柄変動の残変動時間と、１個目、及び、２個目の特図１保留に基づく特別図柄変動が実行される期間に跨がって、３個目の特図１保留に含まれる入賞情報の事前判別結果（先読み結果）を示唆するための保留変化演出が実行される。

【１０３５４】

このように構成することで、特図１保留を多く獲得した状態を継続させて遊技を行った場合の方が、特図１保留の獲得数が少ない（獲得していない）状態を継続させて遊技を行う場合よりも、保留変化演出によって特別図柄抽選の結果を事前に予測し易くなる。よって、遊技者に対して、特図１保留をより多く獲得しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【１０３５５】

さらに、本第３４制御例におけるパチンコ機１０では、特図１保留図柄を表示することによる演出効果を高めるために、保留変化演出が行われる特図１保留図柄以外の特図１保留図柄も、所定のアクションを伴った表示態様で表示されるように構成している。具体的には、各特図１保留図柄が表示される表示領域（保留表示エリア）から逸脱しない範囲で上下方向に揺れる表示態様（基準表示態様）で各特図１保留図柄が表示されるように構成している。

【１０３５６】

このように構成することで、保留変化演出の対象では無く、基準表示態様で表示されている特図１保留図柄に対しても、保留変化演出が実行されるのではと遊技者に期待を持たせ易くすることができる。

【１０３５７】

ここで、上述したように、特図１保留図柄の基準表示態様として所定のアクションを伴った表示態様を表示可能に構成した場合には、第３図柄表示装置８１の表示面に表示され

る複数（最大で４個）の特図１保留図柄の表示態様を同期させ難いという問題があった。
【１０３５８】
つまり、特図１保留を獲得したことに基づいて第３図柄表示装置８１の表示面に特図１保留図柄が表示されるように構成し、その表示タイミングから所定のアクションを伴った表示態様で特図１保留図柄が表示されるように構成した場合は、特図１保留の獲得タイミング、つまり、第１入球口６４へと遊技球を入球させるタイミングによって、特図１保留図柄が表示されるタイミングが異なるため、既に表示されている特図１保留図柄が所定のアクションとして、初期位置とは異なる位置で表示されている状態で新たな特図１保留図柄を初期位置に表示させて所定のアクションを実行した場合には、２つの特図１保留図柄のアクション内容がズレてしまい、統一感の無い表示態様で複数の特図１保留図柄が表示されてしまい、演出効果が低下してしまうという問題があった。
【１０３５９】
これに対して、本第３４制御例では、既に表示されている特図１保留図柄の表示態様を同期させるための同期処理を実行可能に構成している。具体的には、新たな特別図柄変動が開始されるタイミングや、ステージ移行されるタイミングといった、新たな演出を実行するタイミングであると判別した場合に、表示されている全ての特図１保留図柄に対して、所定のアクションを初期位置から実行させる処理を実行するように構成している。
【１０３６０】
このように構成することで、表示されたタイミングに基づいてバラバラに実行されていた各特図１保留図柄の表示態様を同期させることができるため、特図１保留図柄の表示態様に統一感を持たせることができ、演出効果を高めることができる。また、特図１保留を獲得したことを示すための特図１保留を表示するための制御、及び、表示される特図１保留に対して所定のアクションを実行するための制御を統一化することができるため、特図１保留図柄を表示するための制御内容を簡素化することができる。
【１０３６１】
なお、本第３４制御例では、特図１保留図柄の表示タイミングに関わらず、同一のアクションを実行するように構成し、各特図１保留図柄の表示内容（アクション内容）がズレた場合であっても、後に実行される同期処理によって各特図１保留図柄の表示内容（アクション内容）を統一させるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、主制御装置１１０にて、特図１保留図柄を基準表示態様で表示させる表示タイミングを特定可能な特定手段を設け、特図１保留を獲得した場合に、次に特定手段によって表示タイミングが特定されたことに基づいて特図１保留図柄を基準表示態様で表示するように構成しても良い。
【１０３６２】
このように構成することで、実際に特図１保留を獲得したタイミングと、特図１保留図柄が表示されるタイミングと、が若干ずれることになるが、複数の特図１保留図柄の表示態様（アクション内容）を常に同期させて表示することができるため、ズレて表示されている複数の特図１保留図柄の表示態様を同期させる処理を省略することができる。
【１０３６３】
さらに、特図１保留を獲得したタイミングで、新たな特図１保留図柄を静止画で表示し、その後、特定手段によって表示タイミングが特定されたことに基づいて、静止画で表示されていた特図１保留図柄を基準表示態様で表示するように構成しても良い。このように構成することで、特図１保留の獲得状況を遊技者に即座に把握させることが可能となると共に、複数の特図１保留図柄のアクション内容がズレて表示されてしまうことを防ぐことができる。
【１０３６４】
また、本第３４制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される演出の種別として、複数のステージ種別（ウサギステージ、勇者ステージ）を決定可能に構成しており、新たな特別図柄変動が開始されるタイミングでステージを切り替え可能に構成している。このように構成することで、抽選結果が外れとなる特別図柄抽選が長時間継続した場

合であっても、ステージ種別を切り替えることで異なる演出を実行することで遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【１０３６５】

さらに、本第３４制御例では、上述した通り、複数の特別図柄変動が実行される期間を跨いで保留変化演出が実行されるように構成していることから、保留変化演出の実行期間中にステージ種別が切り替わる事象が発生する場合がある。そして、保留変化演出の演出態様をステージ種別に応じて異ならせている。つまり、保留変化演出が実行されている際中にステージ種別が切り替わった場合には、保留変化演出の演出態様を途中段階で切り替えるための処理が実行されるように構成している。

【１０３６６】

なお、本第３４制御例では、ステージ種別が切り替わる際にも、特図１保留図柄を遊技者が視認可能な状態を継続するように構成しているが、これに限ること無く、ステージ種別を切り替える際に実行されるステージ切替演出の表示態様の一部が、特図１保留図柄が表示されている表示領域を遊技者が視認し難くなるように表示し、ステージ種別を切り替える前に実行していた特図１保留図柄の表示態様（アクション内容）が、切り替え後のステージ種別に対応する表示態様（アクション内容）へと切り替わる際の表示内容を遊技者に視認させ難くするように構成しても良い。このように構成することで、ステージ種別が切り替わったことに基づく保留変化演出の演出態様の切り替えを遊技者に違和感を与えること無く実行することができる。

【１０３６７】

加えて、本第３４制御例におけるパチンコ機１０では、特図１保留図柄の表示内容（アクション内容）が同期している同期期間と、同期していない非同期期間と、が発生するように構成しており、同期期間中にステージ種別が切り替わる場合には、切り替え前に実行されていた保留変化演出の演出内容を引き継いだ保留変化演出を、切り替え後のステージ種別に対応させて実行するように構成している。一方、非同期期間中にステージ種別が切り替わる場合には、ステージ種別の切り替え時に保留変化演出の演出態様を再度決定する処理を実行し、決定された演出態様に基づいて切り替え後のステージ種別に対応した保留変化演出を実行するように構成している。

【１０３６８】

つまり、ステージ種別の切り替えタイミングによって、ステージ種別を切り替える前から実行されていた保留変化演出の演出態様を異ならせて、切り替え後のステージ種別に対応させて実行可能に構成している。このようにステージ種別を切り替え可能にすることで、多彩な演出を遊技者に提供することができるだけで無く、ステージ種別の切り替えタイミングによって遊技者に付与される遊技に関わる情報の内容（保留変化演出の演出結果）を異ならせることができるため、ステージ種別が切り替わるタイミングについても遊技者に興味を持たせることができる。

【１０３６９】

さらに、本第３４制御例では、当たり当選に対応する保留変化演出が実行されている場合であって、同期期間中にステージ種別が切り替わる場合よりも、非同期期間中にステージ種別が切り替わる場合の方が、切り替え後のステージ種別に対応させた保留変化演出の演出態様として、当たり当選の期待度が高い演出態様が決定され易くなるように構成している。

【１０３７０】

＜第３４制御例における演出内容について＞

次に、図１０１０から図１０１４を参照して、本第３４制御例のパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される特図１保留図柄に関する演出内容の詳細について説明をする。なお、上述した第３２制御例のパチンコ機１０にて実行される演出内容と同一の要素（第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示要素）については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１０３７１】

図１０１０（ａ）は、第１特別図柄（特図１）変動の実行中に、３個目の第１特別図柄抽選の実行権利（第３特図１保留）を獲得した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図１０１０（ａ）に示した通り、第３図柄表示装置８１の表示面に形成される副表示領域Ｄｓには、獲得済みの第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を表示するための保留図柄表示エリアである第１副表示領域Ｄｓ１と、実行中の特別図柄抽選に対応する実行中保留図柄を表示するための実行中保留図柄表示エリアである第２副表示領域Ｄｓ２と、が形成されている。

【１０３７２】

第１副表示領域Ｄｓ１には、特図１保留図柄を最大で４個獲得可能であることを示すための保留図柄表示領域として、第１台座ｍ１、第２台座ｍ２、第３台座ｍ３、第４台座ｍ４を表示しており、特図１保留を獲得した場合に、第１台座ｍ１から順に特図１保留図柄が対応位置に表示される。そして、新たな特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）が実行される場合には、第１副表示領域Ｄｓ１の第１台座ｍ１に対応する位置に表示されていた特図１保留（第１特図１保留）ｈｒ１が、第２副表示領域Ｄｓ２に表示されている第０台座ｍ０に対応する位置へと移行する演出が実行される。

【１０３７３】

つまり、特図１保留図柄として表示されていた表示態様を、対応する特別図柄抽選が実行されるまでの期間では無く、対応する特別図柄抽選が実行された後の期間（対応する特別図柄変動が停止表示されるまでの期間）も、遊技者が視認可能となるように構成している。このように構成することで、保留変化演出によって表示態様が可変された特図１保留図柄を、対応する特別図柄変動の実行期間中も、第２副表示領域Ｄｓ２に、実行中保留図柄として表示することができるため、保留変化演出によって遊技者に報知された事前判別結果の内容（保留変化演出の演出結果）を把握した状態で、特別図柄変動の変動演出を決定することができるため、遊技者に対して分かり易い演出を提供することができる。

【１０３７４】

なお、本第３４制御例では、特別図柄変動が終了するまでの間、実行中保留図柄を継続して表示するように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄変動が開始されてから所定期間（例えば、２秒間）の間、実行中保留図柄を表示するように構成し、その後、実行中保留図柄を表示しないように構成しても良い。本第３４制御例では、遊技状態として通常状態が設定されている場合であって、第１特別図柄抽選が主として実行される状態では、図１０１０（ａ）に示した通り、第３図柄表示装置８１の表示面の副表示領域Ｄｓに、獲得済みの第１特別図柄抽選の実行権利数を示すための特図１保留図柄を最大で４個表示可能に構成している。また、本第３４制御例は上述した第３２制御例に対して、獲得済みの第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を遊技者に示すための特図１保留図柄の演出態様を異ならせている点で相違しているだけであることから、上述した第３２制御例と同様に遊技状態として時短状態が設定されている場合には、特図１保留図柄が第３図柄表示装置８１の表示面に表示されないように構成している（図９３８（ａ）参照）。つまり、時短状態中に特図１保留を獲得したとしても、特図１保留数をカウントするカウント手段（第１特別図柄保留球数カウンタ）の値を更新するだけであり、特図１保留図柄が表示されないように構成している。

【１０３７５】

図１０１０（ａ）に示した図は、ステージ種別としてウサギステージが設定されている状態において、第１特別図柄変動の実行中であって、３個目の特図１保留を獲得し、第３特図１保留図柄が表示される時点を示しており、表示領域Ｄｍ４には、第１特別図柄変動が実行されている状態であることを示す表示態様（図では３つの矢印を表示）で第３図柄が変動表示している。そして、表示領域Ｄｍ５には、現在のステージ種別がウサギステージであることを示すための表示態様として「ウサギステージ」が表示されている。主表示領域Ｄｍには、ウサギステージ中に実行される変動演出として、ウサギを模したキャラクタ８０１を用いた演出態様（ウサギステージ専用の演出態様）で変動演出が実行される。

【１０３７６】

また、副表示領域Ｄｓに形成される第１副表示領域Ｄｓ１には、第１台座ｍ１～第４台座ｍ４が表示され、既に獲得済みの第１特図１保留図柄ｈｒ１が第１台座ｍ１に対応する位置に表示され、第２特図１保留図柄ｈｒ２が第２台座ｍ２に対応する位置に表示されている。この第１特図１保留図柄ｈｒ１、及び、第２特図１保留図柄ｈｒ２は、保留変化演出の対象では無いことを示す通常の表示態様（図では丸印で表示）で表示されており、各保留図柄が、対応する各台座ｍ１、ｍ２上で、上下方向に同期して揺動表示されている。

【１０３７７】

そして、３個目の特図１保留を獲得したことに基づいて、第３特図１保留図柄ｈｒ３が、第３台座ｍ３に対応する位置へと移動する態様が表示されている。第３特図１保留図柄ｈｒ３は、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄であり、保留変化演出に対応する表示態様で表示されている。

【１０３７８】

ここで、ステージ種別として、ウサギステージが設定されている状態にて実行される保留変化演出の演出内容について説明をする。本第３４制御例におけるパチンコ機１０では、保留変化演出によって対応する特図１保留図柄の表示態様を３段階に変化させることが可能に構成しており、保留変化演出に対応する特図１保留に含まれる入賞情報に基づく事前判別結果（先読み結果）に基づいて、保留変化演出にて最終的に表示させる表示態様（段階）が決定されるように構成している。具体的には、特図１保留図柄の表示態様として、第１段階、第２段階、第３段階を決定可能に構成しており、事前判別結果（先読み結果）が当たり当選である場合の方が、当たり当選以外である場合よりも、第３段階の表示態様が決定され易くなるように構成している。また、事前判別結果（先読み結果）が当たり当選である場合には、第１段階の表示態様よりも、第３段階の表示態様が決定され易く、当たり当選以外である場合の方が、当たり当選である場合よりも、第１段階の表示態様が結締され易くなるように構成している。

【１０３７９】

つまり、保留変化演出の演出結果が第１段階の表示態様である場合よりも、第３段階の表示態様である場合の方が、保留変化演出の対象となる特図１保留に当たり当選を示す入賞情報が含まれている可能正を高めることができる。

【１０３８０】

図１０１０（ａ）に示した第３特図１保留図柄の表示態様は、保留変化演出における第１段階の表示態様であって、ウサギステージに対応する表示態様として、ウサギのシルエットを模した表示態様で表示されている。本第３４制御例では、保留変化演出として、対象となる特図１保留図柄の表示態様を段階的に可変させる演出が実行されるように構成しており、図１０１０（ａ）に示した表示態様が、ウサギステージにて実行される１段階目の表示態様であるため、第３特図１保留図柄ｈｒ３には、段階数を示す「１」が付されている。このように構成することで、遊技者に対して、実行中の保留演出において表示されている段階数を分かり易く報知することができる。なお、本第３４制御例では、保留変化演出によって可変表示される表示態様に対して、現在の段階数を表示することで遊技者に分かり易い演出を提供するように構成しているが、これに限ること無く、例えば、保留変化演出によって表示態様を可変させることが可能な総段階数と、現在の段階数と、を表示するように構成しても良いし、現在の段階数では無く、今回の保留変化演出によって表示態様が可変した回数を表示するように構成しても良い。なお、図１０１０（ａ）に示した状態は、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得していない状態であるが、例えば、通常状態であって、第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動が実行されている期間中に第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得した場合には、特図２保留を獲得したことを報知するための報知演出を実行したり、獲得済みの特図２保留を示すための表示態様を特図１保留図柄よりも小さく表示するように構成したりしても良い。

【１０３８１】

図１０１０（ａ）に示した状態から演出が進行し、第３台座ｍ３に対応する位置に第３

特図１保留図柄ｈｒ３が表示されると、図１０１０（ｂ）に示した表示画面が表示される。図１０１０（ｂ）は、１個目の特図１保留図柄（第１特図１保留図柄ｈｒ１）から３個目の特図１保留図柄（第３特図１保留図柄ｈｒ３）までが、各台座に対応する位置に表示されている状態において表示される表示画面の一例を示した図である。

【１０３８２】

本第３４制御例では、特図１保留図柄（例えば、第１特図１保留図柄ｈｒ１）が表示位置（例えば、第１台座ｍ１）に対応する箇所に位置されると、所定期間（例えば、１秒間）のアクション動作（０．５秒の上昇動作の後、０．５秒の下降動作を行い初期位置に位置する揺動動作）を繰り返し実行する表示態様が表示されるように構成している。ここで、特図１保留図柄は、第１入球口６４へと遊技球が入球し、新たな特図１保留を獲得したことを示す保留球数コマンドが主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へと出力され、音声ランプ制御装置１１３にて保留球数コマンドを受信したことに基づいて表示されるように構成している。

【１０３８３】

つまり、既に獲得済みの特図１保留に対応する特図１保留図柄の表示態様（上昇動作中の態様であるか下降動作中の態様であるか）に関わらず、新たな特図１保留を獲得したことを示すために新たな特図１保留図柄が表示されるように構成している。よって、第２副表示領域Ｄｓ２には、アクション動作の内容は同一であるが、アクション動作の開始タイミングが異なる複数の特図１保留図柄が表示されることとなり、統一性の無い演出が継続することで演出効果が低下してしまうという問題があった。

【１０３８４】

本第３４制御例においても、新たに表示された特図１保留図柄は、既に表示されている特図１保留図柄のアクション動作タイミングに関わらず、独自のタイミングでアクション動作を開始するように構成している。

【１０３８５】

具体的には、図１０１０（ｂ）に示した通り、既に表示されている第１特図１保留図柄ｈｒ１、及び第２特図１保留図柄ｈｒ２は、アクション動作を同期させているのに対して、新たに表示された第３特図１保留図柄ｈｒ３は、第１特図１保留図柄ｈｒ１、及び第２特図１保留図柄ｈｒ２とは異なるタイミングでアクション動作を開始している。

【１０３８６】

しかしながら、本第３４制御例では、新たな特別図柄変動が開始される場合において、表示されている各特図１保留図柄に対して、アクション動作を同期させるための同期処理を実行するように構成している。具体的には、図１０１１（ａ）に示した通り、実行中の特別図柄変動が停止表示されるタイミングにおいて、各特図１保留図柄のアクション動作を停止し、各特図１保留図柄が初期位置に停止表示させる処理を実行する。そして、図１０１１（ｂ）に示した通り、新たな特別図柄変動が開始されるタイミング、即ち、各特図１保留図柄の表示位置がシフトする表示タイミングに合わせて、同一のタイミングで各特図１保留図柄のアクション動作が開始されるように構成している。

【１０３８７】

このように、表示タイミングに合わせてアクション動作を開始させた各特図１保留図柄に対して、所定の同期条件が成立した場合（新たな特別図柄変動が開始された場合）に、各特図１保留図柄のアクション動作を同期させるように構成することで、アクション動作の開始タイミングが異なる複数の特図１保留図柄が継続して表示されてしまい、演出効果が低下してしまうということを抑制することができる。

【１０３８８】

また、本第３４制御例では、新たな特別図柄変動が実行される際に、各特図１保留図柄のアクション動作を同期させるように構成しているため、１の特別図柄変動が実行されている間に獲得した特図１保留に対応する特図１保留図柄は、１の特別図柄変動が停止表示されるまでの間、１の特別図柄変動が実行されるよりも前に獲得した特図１保留に対応する特図１保留図柄とは異なるタイミングでアクション動作を実行することになる。よって

、第２副表示領域Ｄｓ２に表示されている各特図１保留図柄の表示態様を視認することで、今回の特別図柄変動（１の特別図柄変動）が実行されている期間中に獲得した特図１保留の数を把握することができる。

【１０３８９】

ここで、図１０１２を参照して、本第３４制御例にて実行される保留変化演出の演出態様について、詳細に説明をする。図１０１２（ａ）は、保留変化演出にて１段階目の表示態様が表示された場合の表示画面の一例を示す図であって、図１０１２（ｂ）は、保留変化演出にて１段階目の表示態様が２段階目の表示態様へと切り替わった際に表示される表示画面の一例を示す図であって、図１０１２（ｃ）は、保留変化演出にて２段階目の表示態様が３段階目の表示態様へと切り替わった際に表示される表示画面の一例を示す図である。

【１０３９０】

本第３４制御例では、保留変化演出として、対象となる特図１保留に基づく特別図柄抽選が実行されるまでの期間（先読み期間）を少なくとも含む演出期間を用いて、特図１保留図柄の表示態様を最大で３段階切り替える演出が、設定されているステージ種別に応じた態様で実行される。図１０１２（ａ）～（ｃ）では、ウサギステージが設定されている場合に実行される保留変化演出を示している。

【１０３９１】

図１０１２（ａ）に示した通り、保留変化演出が実行されると、通常の特図１保留図柄（第１特図１保留図柄ｈｒ１）とは異なる表示態様として、ウサギのシルエットを模した表示態様で特図１保留図柄（第２特図１保留図柄ｈｒ２）が表示される。このウサギのシルエットを模した表示態様は、ウサギステージの保留変化演出における１段階目の表示態様を示している。このように、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の表示態様を、保留変化演出の対象とならない特図１保留図柄の表示態様と異ならせることにより、最大で４個表示させることが可能な特図１保留図柄のうち、どの特図１保留図柄が保留変化演出の対象となるのかを遊技者に分かり易く報知することができる。

【１０３９２】

なお、本第３４制御例では、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄と、保留変化演出の対象とならない特図１保留図柄と、でアクション動作の内容を同期させることで一体感のある演出を実行しながらも、特図１保留図柄の表示態様を異ならせることによって、どの特図１保留図柄が保留変化演出の対象であるのかを遊技者に把握させ易く構成しているが、これに限ること無く、例えば、特図１保留図柄の表示態様を異ならせること無く、アクション動作の内容を異ならせることによって遊技者に対して保留変化演出の対象となる特図１保留図柄を把握させるように構成しても良い。

【１０３９３】

この場合、新たな特図１保留図柄が表示された場合には、本第３４制御例と同様に独自のタイミングに基づいてアクション動作を実行するように構成し、同期条件が成立した場合において、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄に対して、他の特図１保留図柄とは異なる態様でアクション動作が実行されるように構成すると良い。このように構成することで、特図１保留図柄が表示された直後は、バラバラのタイミングでアクション動作が実行されることから、全ての特図１保留図柄に対して、保留変化演出の対象となる期待感を持たせることができる。また、複数（３つ以上）の特図１保留図柄が表示されている状態でなければ、他の特図１保留図柄とは異なる態様でアクション動作が実行されている特図１保留図柄を特定し難いため、保留変化演出を注視する遊技者に対して、多くの特図１保留図柄が表示されている状態で継続して遊技を行わせようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【１０３９４】

図１０１２（ａ）に示した例では、第１特図１保留図柄ｈｒ１と、第２特図１保留図柄ｈｒ２と、が同期してアクション動作を実行しており、保留変化演出の対象となる第２特図１保留図柄ｈｒ２の表示態様が１段階目から２段階目へと切り替わる場合には、図１０

１２（ｂ）に示した通り、専用のアクション動作が実行される。具体的には、通常であれば、１秒間のアクション動作（０．５秒の上昇動作の後、０．５秒の下降動作を行って初期位置へと戻る動作）が繰り返し実行されるのに対して、保留変化演出によって表示態様を可変させる場合には、２秒間の専用アクション動作として、０．５秒の上昇動作の後、０．２秒の追加上昇動作、０．６秒の表示態様切替表示、０．２秒の追加下降動作、０．５秒の下降動作を実行するように構成している。

【１０３９５】

このように、通常のアクション動作よりも、特図１保留図柄が移動する領域を拡大させることで、保留変化演出にて表示態様が可変される特図１保留図柄を遊技者に把握させ易くすることができる。また、保留変化演出にて表示態様を可変させるための専用アクション動作の実行期間の長さ（２秒）が、通常のアクション動作の実行期間の長さ（１秒）の２倍となるように構成しているため、専用アクション動作が終了した特図１保留図柄と、他の特図１保留図柄と、のアクション動作を引き続き同期させることができ、一体感のある演出を実行することができる。

【１０３９６】

また、図１０１２（ｃ）に示した通り、保留変化演出では、特別図柄変動期間中だけで無く、新たな特別図柄変動が開始されるタイミングにおいても、表示態様を可変可能に構成している。図１０１２（ｃ）では、保留変化演出における第２段階の表示態様を示す第１特図１保留図柄ｈｒ１が、実行中保留図柄を示す実行中台座ｍ０へとシフトする際に、第３段階の表示態様へと切り替わった際の表示画面を表示している。

【１０３９７】

図１０１２（ｃ）に示した通り、特図１保留図柄の表示位置をシフトする際に、ウサギの顔を模した第２段階の表示態様から、ウサギ全身を模した第３段階の表示態様へと切り替わり実行中保留図柄ｈｒ０として表示される。その後、実行中台座ｍ０に対応する位置に、第３段階の表示態様で表示された実行中保留図柄ｈｒ０が表示される。

【１０３９８】

このように構成することで、保留変化演出によって特図１保留図柄の表示態様が可変するタイミングとして様々なタイミングを設定することができるため、遊技者が実行される演出に対して早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【１０３９９】

なお、本第３４制御例では、特図１保留図柄の表示位置が他の表示位置へとシフトする際の動作内容は、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄と、保留変化演出の対象とならない特図１保留図柄とで、同一としているが、これに限ること無く、特図１保留図柄をシフト移動させる際の動作内容によって、遊技者に対して保留変化演出の対象であるか否かを把握させるように構成しても良く、例えば、通常のシフト移動に用いられる期間よりも長い期間を用いて、特図１保留図柄をシフト移動させる特殊動作を実行可能に構成し、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の方が、保留変化演出の対象とならない特図１保留図柄よりも特殊動作によってシフト移動し易くなるように構成すると良い。

【１０４００】

このように構成することで、新たな特別図柄変動が開始される場合において、どのような態様で特図１保留図柄がシフト移動するかについて遊技者に興味を持たせることができる。

【１０４０１】

次に、図１０１３を参照して、保留変化演出が実行されている期間中にステージ種別が切り替わった場合における演出内容について詳細に説明をする。本第３４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０と同様に、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様を異ならせるために、複数のステージ種別の中から１のステージ種別を決定し、決定されたステージ種別に対応した表示態様を表示させる（ステージ変更演出を実行する）ことで、様々な演出を遊技者に提供し、演出効果を高めるように構成している。

【１０４０２】
そして、ステージ変更演出は、特別図柄変動の実行回数に基づいて実行されたり、遊技者による選択ボタン６００への操作に基づいて実行されたりするように構成しており、保留変化演出の実行の有無に関わらず、ステージ変更演出を実行可能に構成している。さらに、演出効果を高めるために、設定されているステージ種別に応じて保留変化演出の演出態様を異ならせるように構成している。加えて、保留変化演出の実行期間中にステージ変更演出が実行された場合には、各特図１保留図柄のアクション動作を同期させながら、切り替え後のステージ種別に応じた演出態様で保留変化演出を継続させるように構成している。
【１０４０３】
図１０１３（ａ）は、全特図１保留図柄のアクション動作が同期している状態であって、ウサギステージが表示されている場合における第３図柄表示装置８１の表示画面の一部を示した図であって、図１０１３（ｂ）は、図１０１３（ａ）に示した表示画面が表示されている状態で、ステージ変更演出が実行され、勇者ステージが設定された後の表示画面の一部を示した図である。図１０１３（ａ）に示した通り、ウサギステージが設定されている間は、表示領域Ｄｍ５には「ウサギステージ」が表示されており、保留変化演出の対象となる第３特図１保留図柄ｈｒ３が１段階目の表示態様（ウサギのシルエットを模した表示態様）で表示される。そして、第１特図１保留図柄ｈｒ１から第３特図１保留図柄ｈｒ３のアクション動作が同期している。
【１０４０４】
つまり、図１０１３（ａ）に示した状態は、１つ前に実行された特別図柄変動期間中に、第４特図１保留図柄ｈｒ４として表示された特図１保留図柄が保留変化演出の対象となり、その後、次の特別図柄変動が開始されたタイミングで、各特図１保留図柄がシフト移動すると共に、アクション動作を同期させる同期処理を実行した後の状態を示している。このように、全ての特図１保留図柄のアクション動作が同期している状態でステージ変更演出が実行された場合には、全ての特図１保留図柄が初期位置に位置したタイミングに合わせて、切り替わり後の特図１保留図柄の表示態様へと可変させるように構成している。
【１０４０５】
具体的には、図１０１３（ｂ）に示した通り、保留変化演出の対象となる第３特図１保留図柄ｈｒ３の表示態様として、勇者ステージに対応した剣を模した表示態様が表示される。そして、初期位置に位置している状態から全ての特図１保留図柄を、勇者ステージに対応させたアクション動作で動作させる。このように、表示されている全ての特図１保留図柄のアクション動作が同期している場合には、全ての特図１保留図柄が初期位置に位置した状態で、切り替え後のステージ種別に対応させた表示態様へと切り替えるように構成することで、遊技者に違和感を与えること無く、保留変化演出を継続させることができる。
【１０４０６】
一方、本第３４制御例では、表示されている特図１保留図柄のアクション動作を同期させる前の非同期期間が存在している。つまり、新たな特図１保留図柄が表示されてから、次の特別図柄変動が開始されるまでの間は、各特図１保留図柄がアクション動作を開始するタイミングが同期しておらず、バラバラのタイミングで各特図１保留図柄がアクション動作を実行している期間となる。
【１０４０７】
次に、図１０１４を参照して、各特図１保留図柄のアクション動作が同期していない非同期期間中にステージ変更演出を実行した場合の演出内容について説明をする。図１０１４（ａ）は、特図１保留図柄のアクション動作が同期していない状態であって、ウサギステージが表示されている場合における第３図柄表示装置８１の表示画面の一部を示した図であって、図１０１４（ｂ）は、図１０１４（ａ）に示した表示画面が表示されている状態で、ステージ変更演出が実行され、勇者ステージが設定された後の表示画面の一部を示した図であって、図１０１４（ｃ）は、勇者ステージ移行後における保留変化演出のアク

ション動作を示した図である。図１０１４（ａ）に示した通り、ウサギステージが設定されている間は、表示領域Ｄｍ５には「ウサギステージ」が表示されており、保留変化演出の対象となる第３特図１保留図柄ｈｒ３が１段階目の表示態様（ウサギのシルエットを模した表示態様）で表示される。

【１０４０８】

そして、第１特図１保留図柄ｈｒ１と、第２特図１保留図柄ｈｒ２とのアクション動作が同期している状態であって、第３特図１保留図柄ｈｒ３のみ、他の特図１保留図柄とは異なるタイミングでアクション動作が実行されている。つまり、図１０１４（ａ）に示した状態は、第３特図１保留図柄ｈｒ３のみ同期処理が実行されていない状態、即ち、第１特図１保留図柄ｈｒ１と、第２特図１保留図柄ｈｒ２は、現在実行中の特別図柄変動が開始されるよりも前から表示されている特図１保留図柄であって、今回の特別図柄変動が開始されるタイミングにて同期処理が実行されており、且つ、第３特図１保留図柄ｈｒ３が、現在実行している特別図柄変動期間中に表示された状態を示している。

【１０４０９】

図１０１４（ａ）に示した状態で、ステージ変更演出が実行された場合、即ち、全ての特図１保留図柄が同期していない状態でステージ変更演出が実行された場合には、ステージ変更演出の実行を契機に、各特図１保留図柄のアクション動作を同期させるための同期処理を実行すると共に、保留変化演出の演出態様を変更するための追加抽選を実行し、追加抽選の結果に基づいて、ステージ種別が切り替わった後の保留変化演出を実行するように構成している。

【１０４１０】

具体的には、ステージ変更演出の一部として、図１０１４（ｂ）に示した通り、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の表示態様を遊技者が視認し難くするための表示態様（図では煙を模した表示態様）を表示すると共に、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の表示態様が示す段階が昇格し得ることを示唆する演出が実行される。

【１０４１１】

その後、図１０１４（ｃ）に示した通り、保留変化演出の対象となる第３特図１保留図柄ｈｒ３の表示態様として、勇者ステージに対応する剣を模した表示態様であって、２段階目の表示態様が表示される。つまり、図１０１４（ｃ）に示した図では、追加抽選の結果として、保留変化演出として段階数を増加させた表示態様が決定され、ステージ変更演出が実行されるよりも前に表示されていた表示態様の段階数（図１０１４（ａ）参照）よりも、高い段階数（２段階目）の表示態様が表示されている。

【１０４１２】

このように、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄のアクション動作が他の特図１保留図柄のアクション動作と同期していない状態で、ステージ変更演出が実行された場合には、一時的に保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の表示態様を見え難くすると共に、保留変化演出の対象となる特図１保留図柄の表示態様が示す段階数を可変（上昇）させることが可能に構成することで、ステージ変更演出が実行されることに基づいて各特図１保留図柄のアクション動作を同期させる処理を実行したとしても、遊技者に違和感を与えてしまうことを抑制することができる。なお、本第３４制御例では、第１特別図柄抽選が主として実行される通常遊技中において特図１保留図柄を第３図柄表示装置８１の表示面に表示するように構成し、主として第２特別図柄抽選が実行される時短状態や、通常状態が設定されている場合であって、且つ、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得した状態では、特図１保留図柄を第３図柄表示装置８１の表示面に表示しないように構成しているが、本第３４制御例における特図１保留図柄表示に関する技術に、後述する第４７制御例における時短状態中の残時短回数表示の技術思想、即ち、特図１保留図柄の記憶数をカウントするカウント手段を設け、そのカウント手段によってカウントされた記憶数を表示する第１状態と、表示しない第２状態と、を設定可能に構成し、第２状態が設定されている状態で所定の表示条件が成立した場合に第１状態を設定可能にする技術思想を適用することは勿論可能である。

【１０４１３】
＜第３４制御例における電気的構成について＞
次に、図１０１５から図１０１７を参照して、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明をする。本第３４制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２、及びＲＡＭ２２３の構成を一部変更している点で相違している。それ以外の電気的構成は同一であり、同一の内容についてはその説明を省略する。
【１０４１４】
本第３４制御例では、上述した第３２制御例に対して、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）の獲得数を、第３図柄表示装置８１の表示面に特図１保留図柄として表示可能に構成している点で相違している。そして、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有する電気的構成として、特図１保留図柄を表示するための処理を実行するために用いられる各種データテーブルや各種フラグを設けた点で相違している。
【１０４１５】
まず、図１０１５を参照して、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図１０１５は、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成を模式的に示した図である。図１０１５に示した通り、本第３４制御例におけるパチンコ機１０のＲＯＭ２２２は、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０のＲＯＭ２２２（図９５９（ａ）参照）に対して、保留アクションデータテーブル２２２ａａを追加した点で相違しており、それ以外の要素は同一である。同一の要素については、同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【１０４１６】
保留アクションデータテーブル２２２ａａは、第３図柄表示装置８１の表示面の第１副表示領域Ｄｓ１に特図１保留図柄（第１特図１保留図柄ｈｒ１～第４特図１保留図柄ｈｒ４）を表示する際に参照されるデータテーブルである。本第３４制御例では、特図１保留図柄が所定のアクション（上下方向への移動）を伴いながら表示されるように構成しており、新たな特図１保留が表示される場合には、その表示タイミングから所定のアクションを伴いながら特図１保留図柄が表示され、所定の同期条件（例えば、新たな特別図柄変動が開始される場合に成立する条件）が成立した場合に、表示されている複数の特図１保留図柄のアクション動作が同期するように構成している。
【１０４１７】
このように構成することで、新たな特別図柄変動が開始される場合に同期条件が成立するように構成した場合には、１の特別図柄変動が実行されている期間中に獲得した特図１保留の数を、獲得済みの複数の特図１保留図柄のアクション動作内容（アクション動作のズレ）で把握することが可能となる。よって、１の特別図柄変動中に多くの特図１保留を獲得しようとする遊技者に対して、特図１保留の獲得結果を把握させ易くすることができる。
【１０４１８】
ここで、図１０１６を参照して、保留アクションデータテーブル２２２ａａに規定されている内容について説明をする。図１０１６は、保留アクションデータテーブル２２２ａａに規定されている内容を模式的に示した図である。図１０１６に示した通り、保留アクションデータテーブル２２２ａａには、設定されているステージ種別と、アクション動作を実行させる保留図柄の種別（保留種別）と、実行させるアクション動作の種別（アクション種別）と、に対応させて、１秒周期、或いは、２秒周期のアクション表示シナリオ（アクション内容）が規定されている。第３図柄表示装置８１の表示面に表示される各特図１保留図柄は、保留アクションデータテーブル２２２ａａに規定されているアクション表示シナリオの何れかに対応する表示態様で表示されるように構成している。
【１０４１９】
具体的には、ステージ種別が「ウサギステージ」で、保留種別が「通常保留」で、アク

ション種別が「通常時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～０．５秒の上昇表示、０．５秒～１秒の下降表示」が規定されている。つまり、入賞コマンド処理３（図１０１９のＳ３２７１参照）において、新たに受信した入賞情報コマンドに基づく特図１保留図柄を表示させる際に、保留変化予告が設定されなかった特図１保留図柄に対しては、上昇表示が０．５秒実行され、その後、下降表示が０．５秒実行される１秒周期の表示態様が繰り返し表示されるようにアクション表示シナリオが規定されている。

【１０４２０】

また、ステージ種別が「ウサギステージ」で、保留種別が「変化対象保留」で、アクション種別が「通常時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～０．５秒の上昇表示、０．５秒～１秒の下降表示」が規定されており、アクション種別が「変化時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～０．５秒の上昇表示、０．５秒～１．５秒の変化アクション表示、１．５秒～２秒の下降表示」が規定されている。ここで、入賞コマンド処理３（図１０１９のＳ３２７１参照）において、新たに受信した入賞情報コマンドに基づく特図１保留図柄を表示させる際に、保留変化予告が設定された特図１保留図柄に対しては、保留変化演出を実行するタイミング（変化時アクションが設定されるタイミング）が決定され、保留変化演出を実行しない期間は「通常時」のアクション表示が実行され、保留変化演出を実行する期間は「変化時」のアクション表示が実行されるように構成している。また、保留変化予告が決定された特図１保留図柄に対しては、図１０１４に示した通り、通常の特図１保留図柄とは異なる表示態様が表示されるように構成している。

【１０４２１】

上述した通り、「ウサギステージ」が設定されている状態では、「通常時」のアクション表示が１秒間のアクション表示シナリオで規定されており、「変化時」のアクション表示が２秒間のアクション表示シナリオで規定されているため、通常の特図１保留図柄と、変化対象の特図１保留図柄と、のアクション動作タイミングが同期されることによって、通常時のアクション表示が同期されることは勿論のこと、変化対象の特図１保留図柄に対して「変化時」のアクション表示を実行した後も、アクション動作を同期させることができる。よって、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される複数の特図１保留図柄のアクション動作を同期させて表示し易くすることができるため、一体感のある演出を実行することにより演出効果を高めることができる。

【１０４２２】

一方、ステージ種別が「勇者ステージ」で、保留種別が「通常保留」で、アクション種別が「通常時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～１秒の上昇表示、１秒～２秒の下降表示」が規定されている。つまり、入賞コマンド処理３（図１０１９のＳ３２７１参照）において、新たに受信した入賞情報コマンドに基づく特図１保留図柄を表示させる際に、保留変化予告が設定されなかった特図１保留図柄に対しては、上昇表示が１秒実行され、その後、下降表示が１秒実行される２秒周期の表示態様が繰り返し表示されるようにアクション表示シナリオが規定されている。

【１０４２３】

また、ステージ種別が「勇者ステージ」で、保留種別が「変化対象保留」で、アクション種別が「通常時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～１秒の上昇表示、１秒～２秒の下降表示」が規定されており、アクション種別が「変化時」である場合には、アクション表示シナリオとして、「０秒～０．５秒の上昇表示、０．５秒～１．５秒の変化アクション表示、１．５秒～２秒の下降表示」が規定されている。

【１０４２４】

以上、説明をした通り、本第３４制御例では、設定されているステージ種別に応じて、特図１保留図柄の通常時における１回分のアクション動作に用いられる期間の長さを異ならせるように構成している。このように構成することで、ステージ種別が切り替わっただけで、特図１保留図柄のアクション動作態様を異ならせることができるため、ステージ種別を切り替えることによる演出効果を高めることができる。

【１０４２５】
　また、通常時のアクション動作と、変化時のアクション動作と、で１回分のアクション動作に用いられる期間の長さを異ならせるように構成しているため、特図１保留図柄のアクション動作内容を注視することで、保留変化演出が実行されるか否かを予測し易くすることができる。
【１０４２６】
　加えて、ウサギステージに対して、勇者ステージでは、通常時のアクション動作に用いられる期間の長さを長くし、ウサギステージにて保留変化演出が実行される際のアクション動作に用いられる期間と同一期間（２秒）を用いて通常時のアクション動作を実行するように構成している。このように構成することで、ウサギステージで遊技を行っていた遊技者に対して、勇者ステージへと切り替わったことにより保留変化演出が数多く実行されるのではと期待しながら遊技を行わせることができる。
【１０４２７】
　次に、図１０１７を参照して、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図１０１７は、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。図１０１７に示した通り、本第３４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成は、上述した第３２制御例に対して、非同期中フラグ２２３ａａを設けた点で相違しており、それ以外は同一である。同一の内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【１０４２８】
　非同期中フラグ２２３ａａは、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている特図１保留図柄の中に、アクション動作表示が同期していない特図１保留図柄があることを示すためのフラグであって、他の特図１保留図柄と同期させること無くアクション動作表示を実行される特図１保留図柄が表示される際にオンに設定される（図１０１９のＳ５３０４参照）。そして、特図１保留図柄のアクション動作表示を同期させるための同期条件が成立した場合において非同期中フラグ２２３ａａの設定状況が参照され（図１０２１のＳ５４０２，Ｓ５４０７参照）、オンに設定されていると判別した場合にはアクション動作表示を同期させるための同期処理が実行され、その後、オフに設定される（図１０２１のＳ５４０６参照）。
【１０４２９】
　本第３４制御例では、特図１保留図柄のアクション動作状況と、ステージ変更演出の実行タイミングと、に基づいて、様々な演出を実行可能に構成しており、例えば、保留変化演出の実行中においてステージ変更演出が実行された場合には、実行中の保留変化演出の演出結果よりも、遊技者に有利となる演出結果となる保留変化演出が実行されるように保留変化演出の演出態様を書き換える処理を実行可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して、ステージ変更演出が実行されるタイミングを注視するという斬新な遊技性を提供することができる。
【１０４３０】
　また、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制するために、装飾用演出（背景表示等）の演出態様を切り替えるためだけの目的であったステージ変更演出に対して、遊技者に対して遊技結果を事前に示唆するための演出（保留変化演出）の演出結果を異ならせる目的を付加することができるため、演出効果をより高めることができる。
【１０４３１】
　＜第３４制御例における制御処理について＞
　次に、図１０１８から図１０２５を参照して、本第３４制御例のパチンコ機１０にて実行される各種制御処理のうち、上述した第３２制御例のパチンコ機１０とは異なる制御処理の内容について説明をする。本第３４制御例のパチンコ機１０では、上述した第３２制御例のパチンコ機１０に対して、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）の獲得数（

特図１保留数）を示すための特図１保留図柄を第３図柄表示装置８１の表示面に表示するように構成している点で大きく相違し、この特図１保留図柄に関する演出態様を決定するための制御処理を追加している点で相違している。よって、本第３４制御例では、上述した第３２制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が実行する制御処理の一部を異ならせており、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１０４３２】

まず、図１０１８を参照して、コマンド判定処理３（Ｓ３１７３）の処理内容について説明をする。図１０１８は、コマンド判定処理３（Ｓ３１７３）の処理内容を示したフローチャートである。図１０１８に示した通り、コマンド判定処理３（Ｓ３１７３）は、上述した第３２制御例のコマンド判定処理（Ｓ３１１３）に対して、入賞情報コマンドを受信した場合に、入賞コマンド処理３（Ｓ３２７１）を実行する点で相違しており、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０４３３】

次に、コマンド判定処理３（Ｓ３１７３）にて実行される入賞コマンド処理３（Ｓ３２７１）の処理内容について、図１０１９を参照して説明する。図１０１９は、入賞コマンド処理３（Ｓ３２７１）の処理内容を示したフローチャートである。この入賞コマンド処理３（Ｓ３２７１）は、主制御装置１１０から入賞情報コマンドを受信したことに基づいて実行される処理であって、受信した入賞情報コマンドに含まれる情報に基づいて特図１保留図柄の表示態様を決定するための処理が実行される。

【１０４３４】

入賞コマンド処理３（Ｓ３２７１）が実行されると、まず、受信した入賞情報コマンドに基づいた入賞情報を入賞情報格納エリアに格納し（Ｓ５３０１）、次いで、保留変化予告があるかを判別する（Ｓ５３０２）。保留変化予告があると判別した場合は（Ｓ５３０２：Ｙｅｓ）、今回受信した入賞情報コマンドに対応する特図１保留図柄の演出態様として、保留変化予告の演出態様を決定し（Ｓ５３０３）、非同期中フラグ２２３ａａをオンに設定し（Ｓ５３０４）、保留アクションデータテーブル２２２ａａを参照して、保留アクション動作の開始を設定し（Ｓ５３０５）、本処理を終了する。一方、Ｓ５３０２の処理において、保留変化予告が無いと判別した場合は（Ｓ５３０２：Ｎｏ）、Ｓ５３０３の処理をスキップして、Ｓ５３０４の処理へ移行する。

【１０４３５】

次に、図１０２０を参照して、変動演出設定処理３（Ｓ４３７４）の処理内容について説明をする。図１０２０は、変動演出設定処理３（Ｓ４３７４）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理３（Ｓ４３７４）は、上述した第３２制御例の変動演出設定処理（Ｓ４３０４）に対して、変動開始時における特図１保留図柄の標示態様を決定するための処理を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０４３６】

変動演出設定処理３（Ｓ４３７４）が実行されると、上述した第３２制御例の変動演出設定処理（Ｓ４３０４）と同一のＳ４４０１～Ｓ４４１０の処理が実行される。そして、Ｓ４４０８の処理を終えた後に、Ｓ４４０５の処理へと移行せず、保留態様決定処理３を実行し（Ｓ４４７１）、その後、Ｓ４４０５の処理へと移行するように構成している。

【１０４３７】

Ｓ４４７１の処理によって実行される保留態様決定処理３（Ｓ４４７１）では、特別図柄変動が開始されるタイミングにおいて実行中の特図１保留図柄のアクション動作内容に基づいて、特別図柄変動開始後の特図１保留図柄のアクション動作を設定するための処理が実行される。

【１０４３８】

ここで、図１０２１を参照して、保留態様決定処理３（Ｓ４４７１）の処理内容について説明をする。図１０２１は、保留態様決定処理３（Ｓ４４７１）の処理内容を示したフ

ローチャートである。保留態様決定処理３（Ｓ４４７１）が実行されると、まず、現在が保留変化予告中であるかを判別し（Ｓ５４０１）、保留変化予告中であると判別した場合は（Ｓ５４０１：Ｙｅｓ）、次に、非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されているかを判別する（Ｓ５４０２）。

【１０４３９】

Ｓ５４０２の処理において、非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５４０２：Ｙｅｓ）、保留変化予告の演出態様の昇格抽選を実行し（Ｓ５４０３）、昇格抽選に基づく新たな保留変化予告の演出態様を決定し（Ｓ５４０４）、各保留図柄に対して、保留図柄アクションを初期位置から開始させるための同期処理を実行し（Ｓ５４０５）、非同期中フラグ２２３ａａをオフに設定し（Ｓ５４０６）、本処理を終了する。

【１０４４０】

一方、Ｓ５４０１の処理において、保留変化予告中では無いと判別した場合は（Ｓ５４０１：Ｎｏ）、非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ５４０７）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５４０７：Ｙｅｓ）、Ｓ５４０５の処理へ移行する。また、Ｓ５４０２の処理において非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されていないと判別した場合（Ｓ５４０２：Ｎｏ）、或いは、Ｓ５４０７の処理において非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されていないと判別した場合（Ｓ５４０７：Ｎｏ）は、特別図柄変動の開始タイミングにて、既に表示されている特図１保留図柄のアクション動作表示を補正する（同期させる）必要が無いため、そのまま本処理を終了する。

【１０４４１】

次に、図１０２２を参照して、演出更新処理３（Ｓ３１７２）の処理内容について説明をする。図１０２２は、演出更新処理３（Ｓ３１７２）の処理内容を示したフローチャートである。この演出更新処理３（Ｓ３１７２）は、上述した第３２制御例の演出更新処理（Ｓ３１１２）に対して、特図１保留図柄が表示されている状態であると判別した場合と、特別図柄変動の実行中にステージの移行条件が成立したと判別した場合とで専用の処理を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して説明を省略する。

【１０４４２】

演出更新処理３（Ｓ３１７２）が実行されると、まず、上述した第３２制御例の演出更新処理（Ｓ３１１２）と同一のＳ４６０１～Ｓ４６０８の処理を実行する。そして、Ｓ４６０６の処理において、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値が１以上では無いと判別した場合（Ｓ４６０６：Ｎｏ）、或いは、Ｓ４６０８の処理を終えた場合に、保留表示（特図１保留図柄の表示）があるかを判別し（Ｓ４６７１）、保留表示（特図１保留図柄の表示）があると判別した場合は（Ｓ４６７１：Ｙｅｓ）、保留演出更新処理を実行し（Ｓ４６７２）、Ｓ４６７３の処理へ移行する。

【１０４４３】

一方、Ｓ４６７１の処理において、保留表示（特図１保留図柄の表示）が無いと判別した場合は（Ｓ４６７１：Ｎｏ）、次に、変動中ステージ移行条件が成立したかを判別し（Ｓ４６７３）、成立したと判別した場合は（Ｓ４６７３：Ｙｅｓ）、変動中ステージ移行処理を実行し（Ｓ４６７４）、その後、上述した第３２制御例の演出更新処理（Ｓ３１１２）と同一のＳ４６０９の処理を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ４６７３の処理において、変動中ステージ移行条件が成立していないと判別した場合は（Ｓ４６７３：Ｎｏ）、Ｓ４６７４の処理をスキップして、Ｓ４６０９の処理へ移行し、本処理を終了する。

【１０４４４】

次に、図１０２３を参照して、演出更新処理３（図１０２２のＳ３１７２参照）にて実行される保留演出更新処理（Ｓ４６７２）の処理内容について説明をする。図１０２３は、保留演出更新処理（Ｓ４６７２）の処理内容を示したフローチャートである。この保留演出更新処理（Ｓ４６７２）では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている各特図１保留図柄に対して、特図１保留図柄を表示する際に決定された表示内容に基づいた表

示態様を決定するための処理が実行される。
【１０４４５】
保留演出更新処理（Ｓ４６７２）が実行されると、まず、変化演出の開始タイミングである特図１保留図柄があるかを判別し（Ｓ５５０１）、変化演出の開始タイミングである特図１保留図柄があると判別した場合は（Ｓ５５０１：Ｙｅｓ）、変化演出対象の特図１保留図柄に対して、保留アクションデータテーブル２２２ａａを参照して、変化内容に対応した演出態様を決定し（Ｓ５５０２）、Ｓ５５０３の処理へ移行する。Ｓ５５０１の処理において、変化演出の開始タイミングである特図１保留図柄が無いと判別した場合は（Ｓ５５０１：Ｎｏ）、Ｓ５５０２の処理をスキップしてＳ５５０３の処理へ移行する。
【１０４４６】
次に、Ｓ５５０３の処理では、非同期中フラグ２２３ａａがオンであるかを判別し（Ｓ５５０３）、非同期中フラグ２２３ａａがオンであると判別した場合は（Ｓ５５０３：Ｙｅｓ）、非同期中の特図１保留図柄に対して、保留アクションデータテーブル２２２ａａを参照して演出態様を決定し（Ｓ５５０４）、Ｓ５５０５の処理へ移行する。また、Ｓ５５０３の処理において、非同期中フラグ２２３ａａがオンでは無いと判別した場合は（Ｓ５５０３：Ｎｏ）、Ｓ５５０４の処理をスキップしてＳ５５０５の処理へ移行する。
【１０４４７】
Ｓ５５０５の処理では、その他の特図１保留図柄、即ち、通常アクション動作が実行される同期済の特図１保留図柄に対して、保留アクションデータテーブル２２２ａａを参照して演出態様を決定し（Ｓ５５０５）、本処理を終了する。
【１０４４８】
次に、図１０２４を参照して、演出更新処理３（図１０２２のＳ３１７２参照）にて実行される変動中ステージ移行処理（Ｓ４６７４）の処理内容について説明をする。図１０２４は、変動中ステージ移行処理（Ｓ４６７４）の処理内容を示したフローチャートである。この変動中ステージ移行処理（Ｓ４６７４）では、特別図柄変動が実行されている際中にステージ変更演出が実行される場合における、特図１保留図柄の表示態様を決定するための処理が実行される。
【１０４４９】
変動中ステージ移行処理（Ｓ４６７４）が実行されると、まず、非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ５６０１）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５６０１：Ｙｅｓ）、非同期中の特図１保留図柄の種別が通常保留であるか、変化対象保留であるかを特定する（Ｓ５６０２）。そして、非同期中の特図１保留図柄が変化対象であるかを判別し（Ｓ５６０３）、変化対象であると判別した場合は（Ｓ５６０３：Ｙｅｓ）、特殊態様決定処理を実行し（Ｓ５６０４）、本処理を終了する。
【１０４５０】
Ｓ５６０３の処理において、非同期中の特図１保留図柄が変化対象では無いと判別した場合は（Ｓ５６０３：Ｎｏ）、ステージ移行を行うための演出態様を決定し（Ｓ５６０５）、非同期中フラグ２２３ａａをオフに設定し（Ｓ５６０６）、本処理を終了する。また、Ｓ５６０１の処理において、非同期中フラグ２２３ａａがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ５６０１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【１０４５１】
次に、図１０２５を参照して、演出更新処理３（図１０２２のＳ３１７２参照）の変動中ステージ移行処理（図１０２４のＳ４６７４参照）にて実行される特殊態様決定処理（Ｓ５６０４）の処理内容について説明をする。図１０２５は、特殊態様決定処理（Ｓ５６０４）の処理内容を示したフローチャートである。この特殊態様決定処理（Ｓ５６０４）では、保留変化予告が決定された特図１保留図柄が非同期状態でアクション動作をしている間に、ステージ変更演出が実行された場合における特図１保留図柄の演出態様を決定するための処理が実行される。
【１０４５２】
特殊態様決定処理（Ｓ５６０４）が実行されると、まず、対象となる特図１保留図柄（

変化対象保留であって、アクション動作が非同期中の特図１保留図柄）の動作状況を特定し（Ｓ５７０１）、アクション動作状況が初期位置であるかを判別し（Ｓ５７０２）、初期位置であると判別した場合は（Ｓ５７０２：Ｙｅｓ）、他の保留図柄に対して、０．５秒ズラしたタイミングで通常時のアクション動作を設定し（Ｓ５７０３）、非同期中フラグ２２３ａａをオフに設定し（Ｓ５７０８）、本処理を終了する。

【１０４５３】

Ｓ５７０２の処理において、初期位置では無いと判別した場合は（Ｓ５７０２：Ｎｏ）、次に、変化演出前の状態、即ち、保留変化予告が決定された際に設定された特図１保留図柄の表示内容として、変化時のアクション種別に基づくアクション表示シナリオが決定されていない状態であるかを判別し（Ｓ５７０４）、変化演出前の状態であると判別した場合は（Ｓ５７０４：Ｙｅｓ）、ステージ変更に対応させた表示態様を表示し、その後、アクション動作期間の残期間にて変化演出を実行する特殊演出態様を決定し（Ｓ５７０５）、Ｓ５７０８の処理へ移行する。

【１０４５４】

また、Ｓ５７０４の処理において、変化演出前では無いと判別した場合は（Ｓ５７０４：Ｎｏ）、変化演出中、即ち、変化時のアクション種別に基づくアクション表示シナリオが決定されている状態であるかを判別し（Ｓ５７０６）、変化演出中であると判別した場合は（Ｓ５７０６：Ｙｅｓ）、目隠し態様を表示した後に、変化後の段階数であって、変更後のステージに対応した表示態様を表示する演出態様を決定し（Ｓ５７０７）、Ｓ５７０８の処理へ移行する。Ｓ５７０８の処理では、非同期中フラグ２２３ａａをオフに設定し、本処理を終了する。

【１０４５５】

以上、説明をした通り、本第３４制御例では、保留変化予告が決定された特図１保留図柄が非同期状態でアクション動作をしている間に、ステージ変更演出が実行された場合において、保留変化予告が決定された特図１保留図柄のアクション動作状況に応じて異なる演出態様を特殊態様として決定可能に構成している。具体的には、保留変化予告の対象となる特図１保留図柄が非同期状態で且つ、通常時のアクション動作をしている場合には、ステージ変更後において、意図的にアクション動作をズラしたタイミングで実行するように構成している。このように構成することで、ステージ変更後も、保留変化予告の対象となる特図１保留図柄を遊技者に容易に把握させることができる。

【１０４５６】

また、通常時のアクション動作の実行タイミングを異ならせるだけで、ステージ変更後も、保留変化予告の対象となる特図１保留図柄を遊技者に容易に把握させることができるように構成しているため、保留変化予告の対象となる特図１保留図柄を表示されている状態でステージ変更された場合において、専用のアクション動作を実行させるための表示データを用いる必要が無く、特図１保留図柄を表示するためのデータ容量を削減することができる。

【１０４５７】

さらに、通常時においても、入賞情報コマンドを受信したタイミングによって、同期処理が実行されるまでは、各特図１保留図柄のアクション動作がズレるように構成しているため、保留変化予告の対象では無い特図１保留図柄が表示されているのか、保留変化予告の対象である特図１保留図柄が表示されているのかを把握させ難くすることができる。

【１０４５８】

加えて、保留変化予告の対象となる特図１保留図柄が変化演出を実行するよりも前に、ステージ変更演出が実行された場合には、ステージ変更後の特図１保留図柄の表示態様を用いて、残時間で表示可能な変化演出を実行するように構成しているため、ステージ変更演出が実行された場合であっても、特図１保留図柄の変化演出の内容を遊技者に把握させ易くすることができる。なお、本第３４制御例では、各特図１保留図柄のアクションを同期させるため条件として、新たな特図変動の開始や、ステージ変更演出の開始を設けていたが、これに限ること無く、パチンコ機１０の電源立ち上げ後の処理が実行された場合に

成立する条件を設けても良い。例えば、複数の特図１保留図柄が表示されている状態で電源供給が断された後に、電源供給が復帰した場合に実行される立ち上げ処理において、入賞情報に関するコマンドを送信する。つまり始動入賞したタイミングとは関係無く、立ち上げ処理が実行されたタイミングにて複数の特図１保留に関する入賞情報に関するコマンドを送信するように構成する。このように構成することで、音声ランプ制御装置１１３側では、複数の特図１保留に関する入賞情報を同タイミングで受け取ることになるため、各特図１保留図柄のアクション動作を同期させることができる。また、主制御装置１１０の立ち上げ処理にて出力される入賞情報に関するコマンドに、保留変化演出の実行を示す情報を含めることが可能に構成されたパチンコ機１０であれば、立ち上げ時における特図１保留図柄表示処理において、保留変化演出の演出態様を再度決定するように構成しても良い。このように構成することで、特図１保留図柄が表示されている状態で一時的に電源供給が断されたことにより、特図１保留図柄の表示態様（演出態様）に関わる演出情報がクリアされたとしても、再度保留変化演出の演出態様を決定可能となる。また、本第３４制御例では、ステージ種別に応じて特図１保留図柄が可変する段階数を同一としているが、ステージ種別に応じて特図１保留図柄が可変可能な段階数を異ならせるように構成しても良い。この場合は、ステージ種別が変更された場合に、変更前よりも相対的に期待度が高くなる段階数で変更後のステージ種別に対応した特図１保留図柄を表示すると良い。このように構成することで、ステージ種別が切り替わったことにより、特図１保留図柄の表示態様の価値が低下してしまうことを抑制することができる。さらに、保留変化演出が実行された特図１保留図柄が表示されている状態でステージ種別が切り替わる場合には、ステージ種別が切り替わった後に、一旦、初期状態の表示態様で特図１保留図柄を表示し、その後、ステージ種別が切り替わった後の保留変化演出を実行すると良い。また、本第３４制御例における第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）の獲得数を示すための表示態様（特図１保留図柄）を表示する制御について、後述する第４７制御例における技術思想を適用した場合、即ち、特図１保留図柄の表示条件として、第１条件（通常状態の設定）が成立した場合における第２条件の成立有無（特図２保留の獲得有無）に応じて、特図１保留図柄の表示タイミングを異ならせる技術思想を用いた場合には、本第３４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１のＲＡＭ２２３が有する第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄが、後述する第４７制御例における残時短回数カウンタに該当し、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅが、後述する第４７制御例におけるファイナル演出中カウンタに該当する。そして、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値が１よりも大きい状態では、第２特別図柄抽選に関する変動演出（時短状態中の演出や引き戻し演出等）を実行し、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値が０となった場合に、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値に対応した特図１保留図柄を表示するように表示制御すれば良い。なお、本第３４制御例では、上述した第３２制御例と同様に時短状態（特図１保留図柄を表示しない遊技状態）が終了した時点で特図２保留を有している場合には、通常状態へと移行した後も所定期間が経過するまで（特図２保留に基づく第２特別図柄抽選が全て終了するまで）、特図１保留図柄を表示しないように構成しているが、これに限ること無く、通常状態へと移行した時点で特図１保留図柄を表示するように構成しても良い。

【１０４５９】

＜第３５制御例＞

次に、図１０２６～図１０６４を参照して第３５制御例におけるパチンコ機１０について説明する。本第３５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３２制御例のパチンコ機１０に対して、特別図柄の変動表示中に実行される変動演出の一環として用いられる装飾用可動役物を搭載し、その装飾用可動役物を用いた新たな変動演出を追加している点で相違している。

【１０４６０】

従来より、特別図柄の変動表示中に実行される変動演出の一環として装飾用可動役物を用いた演出を実行するパチンコ機１０が知られている。このようなパチンコ機１０では、

変動演出の所定のタイミングで装飾用可動役物が可動した場合に大当たり当選期待度が比較的高いことを示し、装飾用可動役物が可動しなかった場合には大当たり当選期待度が比較的低いことを示す演出を実行することによって、遊技者に特別図柄の抽選結果を予想させる楽しみを提供することができるものであった。

【１０４６１】

しかしながら、このようなパチンコ機１０において、経年劣化や電気系統の故障といった不具合によって、装飾用可動役物が正常に可動しない状態で装飾用可動役物を用いた演出が設定されると、演出の所定のタイミングで装飾用可動役物が動作シナリオに規定された動作を行わず、遊技者に誤った遊技情報を提供してしまう虞があった。

【１０４６２】

これに対して、本第３５制御例におけるパチンコ機１０では、装飾用可動役物を用いた演出を実行する場合に、装飾用可動役物が動作シナリオに規定された動作を実行可能か判別し、実行できないと判別した場合には装飾用可動役物を用いない液晶表示による代替演出に切り替え可能に構成している。このように構成することで、遊技者に適切な遊技情報を提供することができる。

【１０４６３】

また、従来より、第３図柄表示装置８１の表示領域において複数の特別図柄（例えば、１～９の数字が付された特別図柄）によって形成される図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、表示領域に設定された有効ライン上に停止表示された特別図柄の組合せによって当否判定結果を報知するものがある。このようなパチンコ機１０において、遊技者は第３図柄表示装置８１の表示領域に設定された有効ライン上に停止表示される特別図柄に興味を持って遊技を行うこととなる。しかしながら、従来のパチンコ機１０では、有効ライン上で２つの図柄列の特別図柄が停止表示された時点で、大当たり当選を示す特定の組合せの一部を示す態様（所謂、リーチ態様）でなければ、残りの図柄列の特別図柄が停止表示される前に大当たり当選ではないことを遊技者が予想できてしまうため、図柄変動表示の途中で興味を失ってしまうという問題があった。

【１０４６４】

これに対して、本第３５制御例では、遊技盤面に施された盤面装飾と、装飾用可動役物と、第３図柄表示装置８１の表示領域に表示されている一部の特別図柄によっても有効ラインを形成し、当否判定結果を報知可能に構成している。

【１０４６５】

具体的に説明すると、本第３５制御例のパチンコ機１０における特別図柄は、「１」から「８」の数字が付された数字図柄の他に、パチンコ機１０の題材と関連する文字が付されたロゴ文字図柄（「海」図柄Ｄ４，「物」図柄Ｄ７，「語」図柄Ｄ１０）を含む構成としており（図１０４０参照）、詳細は後述するが、このロゴ文字図柄は、有効ライン上に同一の文字図柄が３つ揃って停止表示された場合と、有効ライン上の左から順に「海」図柄Ｄ４、「物」図柄Ｄ７、「語」図柄Ｄ１０が停止表示された場合（即ち、有効ライン上に「海物語」の文字列が形成された場合）に、特別図柄の大当たり当選であることを示す構成としている。

【１０４６６】

また、図１０２６に示すように、遊技盤の可変表示装置ユニット８０の正面視中央上部には、ＬＥＤを内蔵するロゴランプＲｇ１が設置されている。このロゴランプＲｇ１の表面には「海」という文字図柄の装飾が施されている。

【１０４６７】

さらに、パチンコ機１０には、装飾用可動役物としてロゴ役物９０２が搭載されており、変動演出の一環として使用されていない場合には、第３図柄表示装置８１の正面視上部側、可変表示装置ユニット８０の正面視奥側に収納されている（図１０３２（ａ）参照）。このロゴ役物９０２は、上下に駆動するバー役物９０２ａと、表面に「物」という文字図柄が記載された回転体役物９０２ｂで構成されている（図１０３２（ａ）参照）。詳細は後述するが、このロゴ役物９０２が変動演出の一環として使用される場合には、バー役

物９０２ａが下降限まで下降し（図１０３２（ｂ）参照）、第３図柄表示装置８１の正面視手前側で回転体役物９０２ｂが動作シナリオに基づいて回転しながら左右に移動し、動作シナリオに規定された位置で停止する。

【１０４６８】

本第３５制御例では、図１０４１（ａ）に示すように、第３図柄表示装置８１において有効ラインＬ１上に特別図柄が外れを示す組合せで仮停止された後に、ロゴ役物９０２が下降限まで下降し（図１０４１（ｂ）参照）、上矢印８０２の示す位置で回転体役物９０２ｂが停止することで、ロゴランプＲｇ１に装飾された「海」図柄と、回転体役物９０２ｂに装飾された「物」図柄と、中下段図柄Ｚ２ｃの「語」図柄によって、縦に大当たり当選を報知する態様である「海物語」という文字列を形成する（図１０４２（ａ）参照）。

【１０４６９】

このように構成することで、第３図柄表示装置８１に表示されている特別図柄がリーチ態様にならなかった場合であっても、ロゴ装飾Ｒｇ１との有効ラインが形成されることを期待させることが可能となり、残りの図柄列の特別図柄が停止表示される前に遊技者の興味が失われることを抑制することができる。

【１０４７０】

この第３５制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、装飾用可動役物を搭載している点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第３２制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第３２制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【１０４７１】

＜第３５制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について＞

まず、図１０２６～図１０３１を参照して、第３５制御例におけるパチンコ機１０の構造について説明する。図１０２６は第３５制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図１０２７は第３５制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３の正面視右下領域を拡大した拡大図であり、図１０２８～図１０３１は第３５制御例のパチンコ機１０の遊技盤１３に設けられたＶ入賞装置６５０の構造を模式的に示した模式図である。

【１０４７２】

図１０２６に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、普通図柄始動口（スルーゲート）６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側に取り付けられる。ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の後面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入球口６４、第２入球口６４０、第１可変入賞装置６５、Ｖ入賞装置６５０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１０４７３】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１０２６を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【１０４７４】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成

した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１０４７５】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図１０４３参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図１０２６の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図１０２６の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１０４７６】

遊技領域の正面視右側上部（図１０２６の右側上部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、主制御装置１１０（図１０４３参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。第３５制御例では、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、球が、第１入球口６４へ入賞したか、第２入球口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入球口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ａが作動し、一方で、球が、第２入球口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７ｂが作動するように構成されている。

【１０４７７】

また、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動表示中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が時短大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として時短状態が設定される大当たり）に対応した図柄か普通大当たり（大当たり遊技終了後に遊技状態として通常状態が設定される大当たり）に対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１０４７８】

尚、本パチンコ機１０では、第１入球口６４及び第２入球口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、大当たり遊技のラウンド数が９ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される９Ｒ時短大当たり（９Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が６ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される６Ｒ時短大当たり（６Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が３ラウンドで大当たり終了後に時短状態が付与される３Ｒ時短大当たり（３Ｒ時短有大当たり）、大当たり遊技のラウンド数が６Ｒで大当たり終了後に時短状態が付与されない６Ｒ通常大当たり（６Ｒ時短無大当たり）が用意されている。

【１０４７９】

また、大当たり抽選の抽選結果として上述した大当たりでは無い外れと判定された場合の一部において、上述した大当たりよりも遊技者に付与される特典が少ない（例えば、１ラウンドのみＶ入賞装置６５０を開放させる特典）小当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂには、変動表示終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりで

あるか否か（小当たりであるか否か）が示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１０４８０】

ここで、「９Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が９ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり、「６Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり、「３Ｒ時短有大当たり」とは、最大ラウンド数が３ラウンドの大当たりの後に時短状態へ移行する大当たりのことであり。また、「６Ｒ時短無大当たり」は、最大ラウンド数が６ラウンドの大当たりの後に時短状態へと移行せずに通常状態へと移行する大当たりのことである。

【１０４８１】

なお、第３５制御例では、大当たり遊技のラウンド数（大当たり遊技中に獲得可能な賞球数）と、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の内容と、に応じて遊技者に付与される特典の大小を定義しているが、これに限ること無く、上述した条件以外を用いて遊技者に付与される特典の大小を定義しても良いし、特典に大小を定義付けることなく、異なる特典が付与されるように大当たり遊技の内容を異ならせるだけでも良い。

【１０４８２】

また、「時短状態」とは、大当たり終了後に遊技者に付与される付加価値（特典）として、大当たり確率は通常状態と同じであるが、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態である。この第２入球口６４０へ球が入球し易い状態とするために、第３５制御例では、第２図柄の変動時間を通常状態よりも短くし、且つ、第２図柄の抽選結果が当たりの場合に動作させる電動役物６４０ａの動作態様を通常状態よりも第２入球口６４０へ球が入球し易い期間が長くなるように設定している。なお、第２入球口６４０へ球が入球し易い遊技状態を設定するためにそれ以外の構成を用いても良く、上述した設定内容の一部のみを用いても良いし、上述した内容以外にも、第２図柄の当たり確率を通常状態よりも高く設定するように構成しても良い。

【１０４８３】

また、第３５制御例では、小当たり遊技中に開放されるＶ入賞装置６５０内に特定領域を設け、小当たり遊技中に球が特定領域を通過することで（特定領域である特別排出流路６５０ｅ２に設けられたＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知することで）大当たり（所謂、２種当たり）となるように構成されている。

【１０４８４】

遊技領域には、球が入賞することにより１０個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入球口６４及び第２入球口６４０への球の入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。

【１０４８５】

第３図柄表示装置８１は１５インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図１０４３参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば左、中及び右の３つの図柄列が表示される（図１０４０参照）。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。第３５制御例の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図１０４３参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。

【１０４８６】
つまり、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて第１図柄が可変表示（変動表示）されている期間（動的表示期間）に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が可変表示（変動表示）され、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて特別図柄の抽選結果を示す表示態様で第１図柄が停止表示されるタイミングに対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が特別図柄の抽選結果に応じた表示態様で停止表示される。
【１０４８７】
即ち、判別条件（第１入球口６４或いは第２入球口６４０への球の入賞）が成立することに基づいて判別手段による判別が実行され（特別図柄の抽選が実行され）、所定の動的表示期間が経過するまで識別情報（特別図柄）が動的表示（変動表示）された後に、判別手段の判別結果（特別図柄の抽選結果）を示した表示態様（図柄の組み合わせ）で、識別情報（第３図柄）が停止表示される。これにより、遊技者は第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄を把握することで特別図柄の抽選結果を把握することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【１０４８８】
なお、第３図柄表示装置８１に停止表示される第３図柄は、特別図柄の抽選結果に応じた表示態様であれば良く、特別図柄の抽選結果の一部（例えば、大当たり或いは外れ、時短当選といった当否判定結果のみ）に対応した表示態様でも良いし、特別図柄の抽選結果の詳細（例えば、当選した大当たりの種別）に対応した表示態様でも良い。また、特別図柄の抽選結果として、４種類の抽選結果（例えば、大当たり、小当たり、外れ、時短）を有する場合には、第３図柄の表示態様として、特別図柄の抽選結果が上述した３種類の抽選結果のうち特定の２種類（例えば、大当たり或いは小当たり）の何れかであることを示す表示態様を用いても良い。また、重複して当選可能な判定（例えば、大当たり判定、時短判定）にて重複して当選した場合には、重複当選を示すための表示態様を用いても良いし、重複当選したことに基づいて実行される遊技の内容が、大当たり当選のみに基づいて実行される遊技の内容と同一である場合には、同一の表示態様を用いても良い。
【１０４８９】
また、第３５制御例で用いられる表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良いし、パチンコ機１０に複数の表示装置を設けても良い。
【１０４９０】
本第３５制御例では時短状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合には、通常状態中に第２図柄（普通図柄）の当たりに当選した場合よりも電動役物６４０ａを作動させる期間（電動役物６４０ａを突出させて球が第２入球口６４０に入球し易くする期間）が長くなるように構成している。これにより、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とすることができる。
【１０４９１】
なお、時短状態中を第２入球口６４０へ球が入賞し易い状態とするための構成は上述した内容に限られる物では無く、例えば、第２図柄の当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすといった構成を用いても良い。また、電動役物６４０ａの作動パターンを異ならせることにより時短状態を第２入球口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。
【１０４９２】
さらに、設定される遊技状態に応じて第２図柄の変動表示にかかる時間を可変させ、且つ、電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を可変させる場合において、第２図柄の変動表示が開始される時点にて設定されている遊技状態に応じて第２図柄の変動表示時間を決

定し、第２図柄の変動表示が停止し、当たりを示す第２図柄が表示されたタイミング（第２図柄の当たり遊技、即ち、電動役物６４０ａを作動させるタイミング）において設定されている遊技状態に応じて電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を決定するように構成しても良い。このように構成することで、例えば、時短状態中に変動が開始された第２図柄が通常状態中に当たりを示す表示態様で停止表示された場合に、通常状態中に対応する電動役物６４０ａの作動パターンで作動させることができる。よって、設定されている遊技状態と実行される電動役物の作動パターンとをより正確に対応付けることができる。

【１０４９３】

なお、遊技状態と第２図柄の変動時間および電動役物６４０ａの作動パターンの関係は上述した内容以外を規定しても良く、例えば、第２図柄の変動開始タイミングと、電動役物６４０ａの作動開始タイミングとの何れか一方のタイミングにおいて遊技状態として時短状態が設定されていると判別した場合には、電動役物６４０ａの作動パターンとして遊技者に有利な作動パターン（時短状態中に実行される作動パターン）を設定するように構成しても良い。

【１０４９４】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入球し得る第１入球口６４が配設されている。この第１入球口６４へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１０４３参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ａで示される。

【１０４９５】

図１０２６に示した通り、第１入球口６４は可変表示装置ユニット８０の左側を球が流下するように行われる遊技（所謂、左打ち遊技）の方が、可変表示装置ユニット８０の右側を球が流下するように行われる遊技（所謂、右打ち遊技）よりも球が入球し易くなるように遊技盤１３上に釘が植設されている。よって、第２入球口６４０に球が入球し難い遊技状態（通常状態）が設定されている場合には、第１入球口６４に球を入球させるために左打ち遊技が実行される。

【１０４９６】

一方、第１入球口６４の正面視右方には、球が入球し得る第２入球口６４０が配設されている。この第２入球口６４０へ球が入球すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入球口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入球口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１０４３参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７ｂで示される。

【１０４９７】

また、第１入球口６４および第２入球口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、第３５制御例においては、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入球口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入球口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。

【１０４９８】

加えて、第３５制御例では特別図柄の抽選契機（大当たりの抽選契機）となる球を検知するスイッチ（第１入球口スイッチ、第２入球口スイッチ）を入球口内に設けているため、特別図柄の抽選契機を獲得すると共に、賞球を獲得できる構成としているが、それ以外の構成を用いても良く、例えば、球が通過可能な領域（ゲート）を設け、その領域（ゲート）を通過する球を検知するスイッチ（検知手段）が球の通過を検知した場合に、特別図柄の抽選契機を獲得し得るように構成しても良い。なお、この場合、特別図柄の抽選契機となり得る領域（ゲート）を通過した球の少なくとも一部が入球可能となり、球が入球し

た場合に所定数（例えば５個）の賞球が払い出される入球口を設けると良い。このように構成することで、特別図柄の抽選契機の獲得回数と、賞球獲得回数とを異ならせることができるため、多様な遊技性を提供することができる。

【１０４９９】

第２入球口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは遊技盤１３から手前側（図１０２６の視点で手前側）に突出した突出状態（許容状態）と、遊技盤１３側に待避した待避状態（規制状態）と、に可変可能に構成されており、通常（第２図柄の当たりに当選していない場合）は電動役物６４０ａが待避状態（規制状態）となって、球が第２入球口６４０へ入球し難い状態となっている。一方、普通図柄始動口（スルーゲート）６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、即ち、第２図柄の抽選において当たりに当選した場合は、電動役物６４０ａが突出状態（許容状態）となり、球が第２入球口６４０へ入球し易い状態となる。

【１０５００】

ここで、第３５制御例のパチンコ機１０に設けられた第２入球口６４０への球流れについて説明をする。第３５制御例では図１０２６に示した通り、遊技盤１３の遊技領域の略中央位置に可変表示装置ユニット８０を配設し、遊技領域を可変表示装置ユニット８０の左方側（左打ち領域）と右方側（右打ち領域）とに区画しており、遊技者が操作ハンドル５１の操作量を調整することで発射された球の行き先を右打ち領域或いは左打ち領域へと打ち分けることが可能に構成している。以下、遊技者が操作ハンドル５１を操作して遊技領域のうち左打ち領域へと球を発射させる遊技を左打ち遊技、右打ち領域へと球を発射させる遊技を右打ち遊技と称す。

【１０５０１】

第３５制御例では、図１０２６に示した通り、第２入球口６４０と、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａ、及び、電動役物６４０ａを動作させるか否かの抽選のトリガとなる普通図柄始動口（スルーゲート）６７が右打ち領域に配設されており、遊技状態として時短状態が設定されている場合には右打ち遊技が行われるように構成している。

【１０５０２】

左打ち遊技により発射された球が第２入球口６４０に入球することが無いように可変表示装置ユニット８０の下方には釘が植設されている。このように構成することで、左打ち遊技では第１特別図柄を変動させるために球を第１入球口６４へと入球させる遊技を行わせ、右打ち遊技では第２特別図柄を変動させるために球を第２入球口６４０へと入球させる遊技を行わせることができ、遊技方法に応じて異なる遊技性を適切に提供することができる。

【１０５０３】

第３５制御例のパチンコ機１０では、図１０２６に示した通り、右打ち領域には、その上面が左下方向（図１０２６の正面視で左下方向）に向けて下り傾斜しているＶ入賞装置６５０が配設され、そのＶ入賞装置６５０の上面を流下した球が普通図柄始動口（スルーゲート）６７を通過し、電動役物６４０ａに向けて流下するように各機構が配設されている。

【１０５０４】

そして、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は、退避状態の電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて球が流下する。一方、電動役物６４０ａが突出状態に位置している場合は、電動役物６４０ａに到達した球が右下方向（図１０２６の正面視で右下方向）に向けて流下する。そして、電動役物６４０ａの右端まで到達した球は第２入球口６４０へ入球し、電動役物６４０ａの右端に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合は、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球するように構成している。

【１０５０５】

さらに、本パチンコ機１０は上述した電動役物６４０ａ、第２入球口６４０、一般入賞

口６３を覆うように透過性のカバー部材６５５を設けている。このカバー部材６５５は入射する光を乱反射させるためのカット加工が表面に施されている。このカバー部材６５５を設けることで、遊技中はパチンコ機１０に設けられた発光手段（ＬＥＤ等）や第３図柄表示装置８１から発せられる様々な光によってカバー部材６５５の内部を遊技者に視認させ難くすることができる。よって、電動役物６４０ａの動作タイミングを図って右打ち遊技を行う行為を抑制することができる。

【１０５０６】

また、遊技が行われていない状態（遊技機の電源がオフになっている状態）では、カバー部材への入射光が抑えられるため、カバー部材６５５の内部を容易に視認することができ、パチンコ機１０のメンテナンスを容易に行うことができる。なお、このようにカバー部材６５５を用いて内部の視認性を可変させる構成を用いる場合には、上述したように装飾用に発光する発光手段を利用可能に構成することで発光手段を共有することができ、パチンコ機１０を構成する部品点数を削減することができるが、カバー部材６５５の内部を視認困難とするための発光手段を専用に設けても良い。

【１０５０７】

また、電動役物６４０ａの動作が行われる期間を含む所定期間の間カバー部材６５５の内部を視認困難にすればよく、例えば、電動役物６４０ａの動作が実行されると判別した場合（即ち、普通図柄の抽選により当たりに当選した場合）に、カバー部材６５５の表面に電動役物６４０ａが動作する旨を報知する文字（例えば、「オープン」）が表示されるように発光手段を制御し、その表示された文字により、カバー部材６５５の内部を視認困難にするように構成しても良い。これにより、電動役物６４０ａが動作することを遊技者に把握させるとともに、その詳細な動作タイミングを把握させ難くすることができる。

【１０５０８】

ここで、図１０２７を参照して、本パチンコ機１０の右打ち領域の構成について説明をする。図１０２７に示した通り、右打ち遊技により発射された球のうち、スルーゲート６７を通過した球は、電動役物６４０ａが配設されている領域に向けて流下する。具体的に説明をすると、電動役物６４０ａは、５０ｍｍの長さを有し、その上面を球が流下可能な板状部材で構成され、右下方向（図１０２７の正面視で右下方向）に向けて下り傾斜となるように遊技盤１３に配設されている。そして、スルーゲート６７を通過した球は電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍの範囲に該当する領域ａ（図１０２７参照）に流下する。

【１０５０９】

領域ａに到達した球は、電動役物６４０ａが待避状態に位置している場合は電動役物６４０ａを通過し可変入賞装置６５に向けて流下する。一方、電動役物６４０ａが突出位置に位置している場合は電動役物６４０ａの上面を右端位置に向けて球が流下する。そして、領域ｂ（電動役物６４０ａの左端から２０ｍｍから４０ｍｍが該当する領域）に球が到達した状態で電動役物６４０ａが待避状態へと可変した場合には、電動役物６４０ａの下方に設けられた一般入賞口６３に向けて球が流下するように構成されている。最後に、領域ｃ（電動役物６４０ａの右端から２０ｍｍが該当する領域）に球が到達すると、その球は第２入球口６４０へ入球するように構成されている。

【１０５１０】

なお、本第３５制御例では、遊技状態（普通図柄の確率状態）において電動役物６４０ａが連続して動作する期間が異なる様に構成されており、遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で電動役物６４０ａが動作する場合には、突出状態に位置する電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｂ（図１０２７参照）に到達するまでに電動役物６４０ａが待避状態へと可変し、時短状態が設定されている状態では、電動役物６４０ａ上を流下する球が領域ｃ（図１０２７参照）に到達するのに十分な期間の間、電動役物６４０ａが突出位置に位置するように構成されている。

【１０５１１】

具体的には、電動役物６４０ａの動作期間（継続して突出状態に位置される期間）が、時短状態中は２秒、通常状態中は０．２秒となるように構成している。そして、電動役物

６４０ａは図１０２７に示した領域（領域ａから領域ｃまでの範囲）を球が流下するための流下期間が０．２秒よりも長く、且つ２秒よりも短くなるように構成されている（第３５制御例では、０．８秒）。このように構成することで、通常状態中に右打ち遊技を行い、普通図柄の当たりに当選し、動作中の電動役物６４０ａの上面を球が流下する状態になった場合であっても、電動役物６４０ａの上面を流下する球が第２入球口６４０に到達するまでに電動役物６４０ａの動作が終了するため、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されることを確実に防止することができる。

【１０５１２】

また、時短状態中においては、電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．４秒）よりも長い期間電動役物６４０ａを動作させるため、誘導状態（突出状態）である電動役物６４０ａの上面を流下した球が第２入球口６４０へ到達し易くし、第２特別図柄の抽選を実行され易くすることができる。

【１０５１３】

さらに、時短状態中において、例えば、電動役物６４０ａが作動してから１．５秒後に電動役物６４０ａに到達した球は電動役物６４０ａの上面を流下し、領域ｂに到達したタイミングで電動役物６４０ａの作動が終了する（電動役物６４０ａが作動してから２秒経過する）ことになる。このような球は図１０２７に示した通り、電動役物６４０ａの下方に配設された一般入賞口６３に入球し、１０個の球が賞球として払い出される。このように、時短状態中において右打ち遊技をした場合には、電動役物６４０ａの作動タイミングと、電動役物６４０ａへの球の到達タイミングとによって、異なる入球口（第２入球口６４０或いは一般入賞口６３）へと球を誘導することができるように構成することで、遊技者に対して時短状態中に継続して右打ち遊技を行わせることができる。

【１０５１４】

上述したように、一般入賞口６３への入球に応じた賞球数が１０個で、第２入球口６４０への入球に応じた賞球数が５個となるように構成しているため、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得る状態であれば、第２入球口６４０へ球が入球するほうが一般入賞口６３に球が入球するよりも遊技者に有利な特典（即ち、特図２の抽選および５個の賞球）を付与することができ、第２特別図柄（特図２）の抽選を実行し得ない状態（特別図柄変動中）であれば、第２入球口６４０よりも一般入賞口６３に球が入球するほうが遊技者に有利な特典（即ち、１０個の賞球）を付与することができるように構成している。

【１０５１５】

これにより、遊技の状況（特別図柄の変動の有無）に応じて、遊技者が入球を所望する入球口（多くの特典を獲得可能な入球口）を可変させることができるため、時短状態中における右打ち遊技を遊技者に楽しませることができる。また、電動役物６４０ａの一回の動作中に第２入球口６４０と、一般入賞口６３との両方に球を入球させるためには、右打ち遊技を継続して実行する必要があるため遊技の稼働を高めることができる。

【１０５１６】

尚、第３５制御例では時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと到達する期間（０．８秒）よりも十分に長い期間（２秒）を設定し、電動役物６４０ａが動作した場合に第２入球口６４０へ球を確実に入球させるように構成しているが、それ以外に、例えば、時短状態中における電動役物６４０ａの動作期間を電動役物６４０ａの上面を球が流下し第２入球口６４０へと球が到達する期間（０．８秒）よりも若干長い期間（例えば、０．９秒）となるように構成しても良い。このように構成することで、時短状態中においてスルーゲート６７に球を通過させた後、球の打ち出しを止め、電動役物６４０ａが動作したことを確認した後に再度球の打ち出しを開始する行為（所謂、止め打ち）を抑制することができるため、時短状態中において右打ち遊技を継続して行わせ遊技の稼働を向上させることができる。

【１０５１７】

図１０２６に戻り説明を続ける。図１０２７を参照して上述した通り、右打ち遊技により発射された球は、まずＶ入賞装置６５０に到達する。次に、Ｖ入賞装置６５０の構成に

ついて説明をする。Ｖ入賞装置６５０は、球が入賞可能な開放状態と入賞困難な閉鎖状態とに可変可能に構成されているものであり、第２特別図柄の抽選結果が「小当たり」である場合にＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作し特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに球が入賞可能な開放状態へと可変するように構成されている。

【１０５１８】

なお、特別図柄の「大当たり」に当選したうちの一部において、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を、上述した「小当たり」に当選した場合と同様に動作させるように構成してもよい。これにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が動作した場合に特別図柄の「大当たり」に当選したのか「小当たり」に当選したのかを把握し難くすることができる。

【１０５１９】

ここで、図１０２７～図１０３１を参照してＶ入賞装置６５０の構成について詳細に説明をする。まず、図１０２７に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを閉鎖している閉鎖状態である場合は、閉鎖状態である開閉扉６５０ｆ１の上面を球が流下可能に構成されており、Ｖ入賞装置６５０が閉鎖状態中にＶ入賞装置６５０に到達した球は、開閉扉６５０ｆ１上を左下側（図１０２７の正面視で左下側）に向けて流下し、スルーゲート６７に向けて流出される。一方、Ｖ入賞装置６５０が開放状態（即ち、小当たり遊技中）である場合は、球がＶ入賞装置６５０内へと入賞する。

【１０５２０】

第３５制御例では、小当たり遊技中におけるＶ入賞装置６５０の開放期間が０．１秒×１２回となるように構成されており、Ｖ入賞装置６５０が開放するタイミングにおいて開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、Ｖ入賞装置６５０へと入賞する。Ｖ入賞装置６５０に入賞した球は、第１規制部材６５１或いは第２規制部材６５２上を流下しながら検出口６５０ａ１（図１０３０（ａ）参照）に向けて整列して流下するように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が開閉扉６５０ｆ１のどの位置からＶ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、円滑に球を流下させることができる。

【１０５２１】

なお、第３５制御例ではＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が継続して開放される期間を０．１秒に設定しているが、開閉扉６５０ｆ１の開放期間中に開閉扉６５０ｆ１上を流下している球がＶ入賞装置６５０へと入賞可能な期間であればその他の期間を設定しても良い。また、第３５制御例では１回の小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を開放する回数を１２回としているが、それ以外の回数を設定しても良い。

【１０５２２】

第３５制御例では小当たり遊技においてＶ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１を１回開放させてから次に開放させるまでの期間（開放間インターバル期間）として、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後には５秒が設定され、それ以外のタイミングでは０．５秒が設定されている。これは、小当たり遊技が行われている期間中にＶ入賞装置６５０へ球を入賞させ易くさせるためのものである。具体的には、小当たり遊技中において５回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合には、５回目の開放動作終了後の開放間インターバル期間中に、遊技者に右打ち遊技を強調して促す遊技案内表示を第３図柄表示装置８１に表示するように構成している。

【１０５２３】

そして、第３図柄表示装置８１に表示された遊技案内表示を把握することで右打ち遊技を開始した場合にも、Ｖ入賞装置６５０へ球を入球させることができるように、開放間インターバル期間を通常よりも長く設定している。また、小当たり遊技中の１０回目の開放動作が終了した時点でＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合にも同様の制御処理が実行される。

【１０５２４】

このように構成することで、小当たり遊技中に適切な遊技をしていない遊技者（右打ち遊技をしていない遊技者）に対しても適切な遊技を実行させ易くすることができる。このように、複数回の開放動作が実行される特定遊技（小当たり遊技）中において、一部の開放間インターバル期間を他よりも長く設定し、適正な遊技を行っていないと判別した場合に、適正な遊技内容を促すための遊技案内表示を表示可能とすることで、誤った遊技を行っている遊技者に対して、安心して遊技を行わせることができる。

【１０５２５】

第３５制御例では、小当たり遊技中の５回目と１０回目の開放動作後に他よりも長い特別開放間インターバル期間を設定している。このように１回の小当たり遊技中に遊技者に遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設けることで、遊技者に適切な遊技をより行わせ易くすることができる。なお、遊技案内表示を表示させるタイミングを複数回設ける場合では少なくとも２回目以降の報知タイミングを、正常に遊技を行っている遊技者が到達し得ないタイミングに設定するとよい。即ち、上述した第３２制御例と同様に、第３５制御例では小当たり遊技中に継続して右打ち遊技を行うことにより、Ｖ入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１の１回の開放動作において少なくとも１個の球が入球し得るように構成されているため、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っていれば、１０回目の開放動作中に小当たり遊技の終了条件となる入賞個数（１０個）に到達し、小当たり遊技が終了されることになる。

【１０５２６】

つまり、小当たり遊技中の開放動作１０回目以降に実行される開放間インターバル期間は正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている場合には到達し得ないタイミングとなる。よって、このタイミングを利用して遊技案内表示を表示させるタイミングを設定することで、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っている遊技者に対して無用に長い特別開放間インターバル期間が実行されることが無くなり、小当たり遊技を円滑に実行することができる。

【１０５２７】

なお、第３５制御例のように１回目の特別開放間インターバル期間を、正常な遊技（継続して右打ち遊技）を行っても到達するタイミング（５回目の開放動作終了後）に設定する場合は、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されるタイミング（５回目の開放動作終了タイミング）、或いは、１回目の特別開放間インターバル期間が開始されてから所定期間経過したタイミング（５回目の開放動作中に入球した球がＶ入賞装置６５０から排出されるまでに要する期間を経過したタイミング）においてＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知しているかを判別し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していると判別した場合は、１回目の特別開放間インターバル期間中にその旨を報知する報知演出を表示し、Ｖスイッチ６５０ｅ３が球を検知していないと判別した場合は、上述したように遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に設定した特別開放間インターバル期間を遊技内容に応じて有効に用いることができる。

【１０５２８】

さらに、２回目の特別開放間インターバル期間においては、既にＶスイッチ６５０ｅ３が球を検知している場合にも遊技案内表示を表示するように構成すると良い。これにより、小当たり遊技中に所定個数（１０個）の球をＶ入賞装置６５０へ入賞させることなく小当たり遊技が終了してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【１０５２９】

次に、図１０２８を参照してＶ入賞装置６５０の構造について詳細に説明をする。図１０２８は、このＶ入賞装置６５０の分解斜視図である。Ｖ入賞装置６５０は、図１０２８に示すように、遊技盤１３の前面側に突出して配置される開口部形成部材６５０ｂ、その開口部形成部材６５０ｂの背面側に組み合わされて、Ｖ入賞装置６５０を遊技盤１３にビス留めするためのベース部材６５０ｃと、そのベース部材６５０ｃの背面側に配置されてベース部材６５０ｃの背面側よりパチンコ機１０の前面側に対してＬＥＤを点灯させるためのＬＥＤが複数配置されたＬＥＤ基板６５０ｄと、そのＬＥＤ基板６５０ｄをベース部

材６５０ｃと狭持する裏カバー体６５０ｅと、開口部形成部材６５０ｂに形成されている特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａを開閉するための開閉扉６５０ｆ１を有した開閉ユニット６５０ｆと、裏カバー体６５０ｅの背面側に組み合わされて流路を形成する流路カバー体６５０ｇと、裏カバー体６５０ｅと流路カバー体６５０ｇとで形成された流路に突出して遊技球の流路を切り替える切替部材６５０ｈと、その切替部材６５０ｈと係止されるリンク部材６５０ｉと、流路カバー体６５０ｇの背面側に配置される背面カバー体６５０ｊと、その背面カバー体６５０ｊの背面側に固定されて、リンク部材６５０ｉを作動させる流路ソレノイド６５０ｋと、その流路ソレノイド６５０ｋを背面側から覆って背面カバー体６５０ｊにビスにより固定するための固定用カバー体６５０ｍとで構成されている。

【１０５３０】

図１０２９は、Ｖ入賞装置６５０の断面図である。図１０２９（ｃ）はＶ入賞装置６５０の上面図であり、図１０２９（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＬｂ－Ｌｂ断面図である。図１０２９（ｂ）に示すように、Ｖ入賞装置６５０には、遊技球が入球可能な開口部である特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが形成されている。特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａは、パチンコ機１０の上方を略長方形状の開口が形成されており、その開口を通過した遊技球が図１０２９（ｂ）の左方向に誘導されるように左下方に傾斜した底面が形成されている。底面の左端部には、遊技球の入賞を検知するための磁気センサ（球検知スイッチ）６５０ｃ１で構成された検出口６５０ａ１が配置されている。この検出口６５０ａ１を通過した遊技球は、裏カバー体６５０ｅの背面側に形成された振り分け流路へと誘導される。

【１０５３１】

なお、図１０２９（ｂ）に示すように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａの開口は、遊技盤１３側より出没可能なシャッター機構で構成された開閉扉６５０ｆ１により遊技球が入球可能な開放状態と入球不可能（入球困難）な閉鎖状態とに可変される。閉鎖状態では、開口が完全に開閉扉６５０ｆ１によって覆われ、開閉扉の上部を遊技球が転動可能に構成される。また、開放状態では、開閉扉６５０ｆ１は、ベース部材６５０ｃの内側（遊技盤１３の内部）に退避されることにより特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内から退避されるように構成されている。

【１０５３２】

このように構成することで、時短遊技中と、大当たり遊技中と、小当たり遊技中とを継続して右打ち遊技させることができるため、遊技状態に応じて遊技方法を変更させる手間を軽減することができる。従って、より楽に遊技を行うことができる。

【１０５３３】

また、開閉扉６５０ｆ１の開放状態においては、遊技球が流下する方向と直交する面をＶ入賞装置６５０の開口として構成できるので、遊技球を効率よく特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａ内に入賞させることができる。よって、小当たり遊技に要する時間を短くすることができ、遊技の効率化をはかることができる。

【１０５３４】

図１０２９（ａ）は、図１０２９（ｂ）に示すＬａ－Ｌａ断面図である。図１０２９（ａ）に示すように検出口６５０ａ１を有する磁気センサ６５０ｃ１は、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路側へと検出口６５０ａ１が傾くようにベース部材６５０ｃに固定されている。

【１０５３５】

次に、図１０３０を参照して、裏カバー体６５０ｅの振り分け流路に誘導された遊技球が後述する通常排出流路６５０ｅ１と特別排出流路６５０ｅ２とに振り分けられる構成について説明する。

【１０５３６】

図１０３０（ａ）は、遊技球が特別排出流路６５０ｅ２に振り分けられるように切替部材６５０ｈが作動された状態を示す裏カバー体６５０ｅの背面図である。図１０３０（ａ）に示すように、切替部材６５０ｈは、リンク部材６５０ｉの突部が挿入される係止穴６

５０ｈ１と遊技球を誘導する誘導片６５０ｈ２とを有しており、流路カバー体６５０ｇに背面側より回動可能に軸支されている。ここで、流路カバー体６５０ｇには、この誘導片６５０ｈ２を挿通することが可能な開口部が設けられており、流路カバー体６５０ｇの背面側より振り分け流路内に誘導片６５０ｈ２を回動可能に配置することが可能に構成されている。

【１０５３７】

図１０３０（ａ）に示すように、検出口６５０ａ１より振り分け流路内に誘導された遊技球は、左斜め下方に配置された誘導片６５０ｈ２の上面に誘導されて特別排出流路６５０ｅ２に誘導される。特別排出流路６５０ｅ２を通過した遊技球は特別排出流路６５０ｅ２に設けられた遊技球の通過を検出可能な磁気センサで構成されたＶスイッチ６５０ｅ３により検出されてアウト球としてパチンコ機１０外へ排出される。

【１０５３８】

ここで、第３５制御例におけるパチンコ機１０では、小当たり遊技中に上記したＶスイッチ６５０ｅ３を遊技球が通過することにより、小当たり遊技後に大当たり遊技が設定される。即ち、Ｖスイッチ６５０ｅ３は、大当たり遊技を開始させるためのトリガとして構成されている。また、切替部材６５０ｈは、小当たり中にＶ入賞装置６５０に入賞した球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過可能な流路（特別排出流路６５０ｅ２）、或いはＶスイッチ６５０ｅ３を通過不可能（困難）な流路（通常排出流路６５０ｅ１）の何れかを連通させるためのものであって、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定することでＶ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下するように流路を切り替える（図１０３０（ｂ）参照）ように構成している。

【１０５３９】

第３５制御例で用いられるパチンコ機１０は、通常に遊技を行っている間は流路ソレノイド６５０ｋがオフに設定されており、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように構成している。そして、小当たりに当選した場合に、上述した開放シナリオテーブル２０２ｇに規定されている内容に従って流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定し、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が特別排出流路６５０ｅ２を流下可能となるように構成している。このように、流路ソレノイド６５０ｋをオフに設定している場合に、パチンコ機１０において長期間維持される状態、即ち、Ｖ入賞装置６５０に入賞した球が通常排出流路６５０ｅ１を流下するように切替部材６５０ｈを維持する状態（図１０３０（ａ）参照）を提供するように構成することで、パチンコ機１０の使用電力を抑えることが出来る。

【１０５４０】

このように、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０に入賞した遊技球の流下ルートにより小当たり遊技後に設定される遊技状態が可変されるので、小当たり遊技中にも遊技者の興趣を向上させることができる。なお、Ｖ入賞装置６５０の開口（特定入賞口）から特別排出流路６５０ｅ２の入り口（切替部材６５０ｈの誘導片６５０ｈ２により閉鎖される開口面）を通過するのに必要な時間は、最短でも１秒で構成されている。このように構成することで、小当たりに当選していないにも関わらず開閉扉６５０ｆ１が開放されたことを検知してから切替部材６５０ｈにより球の流下ルートを切り替えたとしても、確実に球が特別排出流路６５０ｅ２を流下する事態を抑制することができる。

【１０５４１】

また、通常排出流路６５０ｅ１の端部には球の通過を検出可能な磁気センサで構成された排出確認スイッチ６５０ｅ４が設けられている。これにより、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されたかを排出確認スイッチ６５０ｅ４とＶスイッチ６５０ｅ３との合計により判別できる。なお、小当たり遊技の終了タイミング（小当たり遊技の終了条件（Ｖ入賞装置６５０に所定数（１０個）の入賞があった場合、或いは、Ｖ入賞装置６５０の開放シナリオが終了した場合）が成立した後に実行される小当たりエンディング期間を経過したタイミング）において、Ｖ入賞装置６５０内に入球した遊技球が全て排出されていない場合には、Ｖ入賞装置６５０内部の異常と判別し、外部に異常を報知したり、

大当たり遊技や通常遊技が開始されないように遊技を停止させたりするように構成すると良い。これにより、パチンコ機１０の一部において異常が発生している状態で遊技が進行してしまい２次的な異常が発生してしまうことを抑制することができる。

【１０５４２】

このように、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した遊技球が磁気センサ６５０ｃ１により検出され、それに基づいて、遊技者に特典として賞球（第３５制御例では１球入賞に対して１０個の賞球）を払い出すことができる。また、その検出された後の遊技球を利用して、Ｖスイッチ６５０ｅ３に通過するか否かを振り分け可能に構成することで、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されるか否かを振り分けることができる。よって、大当たり遊技を付与するための専用の入賞口（特定領域）をＶ入賞装置６５０とは別に設ける必要がなく、遊技盤１３のスペースを有効に利用することができる。

【１０５４３】

さらに、第３５制御例では、小当たりに当選した場合に設定される小当たり種別（小当たりＡ，Ｂ，Ｃ）に応じて、流路ソレノイド６５０ｋをオンに設定する期間やタイミングが異なる小当たり遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、小当たりに当選した場合に実行される小当たり遊技の内容によって、その小当たり遊技中に球がＶスイッチ６５０ｅ３を通過する期待度（Ｖ入賞期待度）を異ならせることができる。よって、遊技者は小当たりに当選することだけではなく、Ｖ入賞期待度が高い小当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【１０５４４】

次に、図１０３１を参照して、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉する開閉扉６５０ｆ１の球流下面の構造について説明をする。図１０３１（ａ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａを開閉扉６５０ｆ１が閉鎖している状態を平面視した模式図である。第３５制御例の開閉扉６５０ｆ１は、図１０３１（ａ）に示した通り、Ｖ入賞装置６５０の上面に到達した球は、Ｖ入賞装置６５０上面の傾斜（図１０２６参照）に沿って、Ｖ入賞装置６５０の右側上面６５０ｙ１から開閉扉６５０ｆ１の上面を介して左側上面６５０ｙ２を流下し、可変入賞装置６５に向けて流出するように構成されている。

【１０５４５】

そして、開閉扉６５０ｆ１の上面には、球の流下を遅延させるための遅延部材として第１遅延部材６５０ｆａ、第２遅延部材６５０ｆｂ、第３遅延部材６５０ｆｃが設けられており、球が開閉扉６５０ｆ１上面を流下する流下期間が０．６秒となるように構成している。この流下期間（０．６秒）は、Ｖ入賞装置６５０の特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが小当たり遊技によって複数回開放される際の間隔（閉鎖期間（０．５秒））よりも長くなるように構成されている。このように構成することで、開閉扉６５０ｆ１上を流下している球が、小当たり遊技により特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放された場合に確実に入賞するように構成している。

【１０５４６】

図１０３１（ａ）に示した状態で、小当たり遊技が実行され、開閉扉６５０ｆ１が開放状態に可変すると、図１０３１（ｂ）に示した状態へと移行する。図１０３１（ｂ）は、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａが開放している状態を平面視した模式図である。図１０３１（ｂ）に示した通り、開閉扉６５０ｆ１は開放状態になると、遊技盤１３の内部に待避するように可動し、右側上面６５０ｙ１を流下した球が特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞可能となるように特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａが開放状態となる。また、開閉扉６５０ｆ１上を流下中の球も、開閉扉６５０ｆ１が待避位置に位置することで、特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａへ入賞する。

【１０５４７】

また、Ｖ入賞装置６５０には、開閉扉６５０ｆ１上を流下していた球がどの位置から特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞したとしても、入賞後の球流れを円滑にするための第１規制部材６５１と、第２規制部材６５２が設けられており（図１０２６参照）、開閉

扉６５０ｆ１上面上流側で特定入賞口（Ｖ入賞口）６５０ａに入賞した球は第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を介して一列に整列させてから、球１個分の通路幅である検出口６５０ａ１に向けて流下するように構成されている。このように第１規制部材６５１、第２規制部材６５２を設けることで、第１規制部材の下方位置に検出口６５０ａ１を設けたとしても、開閉扉６５０ｆ１から勢いよく入賞した球が直接検出口６５０ａ１に衝突することを防止することができるため、検出口６５０ａ１に設けられた球検知スイッチ６５０ｃ１が故障することを抑制することができる。加えて、球１個分の通路幅の検出口６５０ａ１を球が通過するまでに球を整列させるための流路（第１規制部材６５１、第２規制部材６５２上を流下する流路）を確保することができるため、Ｖ入賞装置６５０内で球詰まりが発生し、遊技に支障を来す事態が発生することを抑制することができる。

【１０５４８】

図１０２６に戻り、説明を続ける。遊技盤面の正面視中央上部側には、パチンコ機１０のモデルとなったアニメやドラマのタイトルを示すロゴ文字Ｒｇ２が装飾され、可変表示装置ユニット８０の中央上部には、パチンコ機１０のモデルとなったアニメやドラマのロゴマークを模した装飾用構造物（ロゴ装飾Ｒｇ１）が配置されている。このロゴ装飾Ｒｇ１には、ＬＥＤが内蔵されており変動演出に合わせて発光、点滅を実行することが可能である。なお、ロゴ装飾Ｒｇ１は遊技盤１３に固定されており、その位置が可変することはない。

【１０５４９】

なお、ロゴ装飾Ｒｇ１の位置は、図１０２６に示す位置に限るものではなく、第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄に対して、縦、横、斜めのいずれかのラインを形成可能な位置であれば良く、例えば、可変表示装置ユニット８０外の正面視右下領域、或いは正面視左下領域にロゴ装飾Ｒｇ１を配置しても良い。

【１０５５０】

＜第３５制御例における装飾用可動役物について＞

次に、図１０３２～図１０３９を参照して、本第３５制御例に設けられている装飾用可動役物（ロゴ役物９０２）について説明する。図１０３２（ａ）は、ロゴ役物９０２が収納されている状態（収納位置）を模式的に示した図である。図１０３２（ａ）に示すように、このロゴ役物９０２は、バー役物９０２ａと、回転体役物９０２ｂと、左右上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄによって構成されている。以下、図１０３４～図１０３９を適宜参照しながら、ロゴ役物９０２の構成について説明する。

【１０５５１】

バー役物９０２ａは、左右の両端に上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄを有している。この上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄは左右対称に略同じ形状で構成されている。その為、左上昇機構９０２ｃにおいて、説明した箇所と同一の構成については、右上昇機構９０２ｄの説明を省略する。

【１０５５２】

左上昇機構９０２ｃは、上段ラック９０２ｃ１とブーツ型の下段ラック９０２ｃ２とで構成された２段ラックを有しており、下段ラック９０２ｃ２の上端部に設けられた連接ギア９０２ｃ８ａ（図１０３７参照）によって上段ラック９０２ｃ１と連接している。この２段ラックは、上駆動カム９０２ｃ３が回転することによって上駆動カム９０２ｃ３に設けられた円柱ピン９０２ｃ３ｐの位置が可変することで高さが可変する。

【１０５５３】

ここで、図１０３４～図１０３７参照して、左上昇機構９０２ｃの詳細な構造について説明する。図１０３４、図１０３６は上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄの分解斜視図であり、図１０３５、図１０３７は、上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄの分解背面斜視図である。図１０３４に示すように、左上昇機構９０２ｃには、上駆動用のステッピングモータであるバー役物用モータ９０２ｃ７が設けられている。バー役物用モータ９０２ｃ７には上駆動カム９０２ｃ３と嵌合する上駆動用ギア９０２ｃ４が設けられている。バー役物用モータ９０２ｃ７が作動して、上駆動用ギア９０２ｃ４が回転することにより、上駆動カ

ム９０２ｃ３を回転させる。上駆動カム９０２ｃ３には円柱ピン９０２ｃ３ｐが設けられており、上駆動カム９０３ｃ３が回転することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐの位置が可変する。

【１０５５４】

この円柱ピン９０２ｃ３ｐは、正面視手前側に突出しており、バー役物９０２ａが収納位置にある場合、下段ラック９０２ｃ２の底部は円柱ピン９０２ｃ３ｐに下から支えられた状態となっている。そして、円柱ピン９０２ｃ３ｐが図１０３２（ａ）の位置から時計回り（右上昇機構９０２ｄの場合は反時計回り）に移動することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐは下段ラック９０２ｃ２の底部から外れ、下段ラック９０２ｃ２は円柱ピン９０２ｃ３ｐの支えを失う。なお、バー役物９０２ａはストッパー９０２ｃ５（図１０３５参照）によって支えられており、ストッパー９０２ｃ５がロック状態である場合には、下段ラック９０２ｃ２が円柱ピン９０２ｃ３ｐの支えを失ってもバー役物９０２ａは落下しない。

【１０５５５】

このストッパー９０２ｃ５は、バー役物用モータ９０２ｃ７が所定のステップ数（本第３５制御例では２５ステップ）回転することで上駆動カム９０２ｃ３に連接しているアーム部材９０２ｃ６をスライドさせ、アーム部材９０２ｃ６に連接しているリンク部材９０２ｃ５Ｌを上下させることでロック状態と解除状態とに可変する。ストッパー９０２ｃ５が解除状態となり、円柱ピン９０２ｃ３ｐが下段ラック９０２ｃ２の下部に入り込んでいない状態である場合には、下段ラック９０２ｃ２は自重で落下する。このとき、下段ラック９０２ｃ２と上段ラック９０２ｃ１を連接する連接ギア９０２ｃ８ａは上昇機構９０２ｃの支柱部分に設けられている下突出片９０２ｃ８ｃと嵌合して反時計回りに回転する。この連接ギア９０２ｃ８ａは、上段ラック９０２ｃ１に設けられた上突出片９０２ｃ８ｂ（図１０３５参照）とも嵌合しており、連接ギア９０２ｃ８ａが反時計回りに回転することで、上段ラック９０２ｃ１を下降させる。これにより、バー役物９０２ａは下降限まで落下する。

【１０５５６】

なお、右上昇機構９０２ｄにのみ、図１０３２（ａ）に示す、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９が設けられている。この右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＮである場合には、正面視奥側に向かって弁が突出し、自重で落下するバー役物９０２ａを図１０３３（ａ）に示す位置で停止させることが可能となる。一方、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＦＦとなった場合には、弁が引っ込みバー役物９０２ａは下降限まで落下する。

【１０５５７】

ここで、本第３５制御例では、バー役物９０２ａの落下パターンとして、２種類の落下パターンを設定可能に構成している。まず、１つ目の落下パターンは、左ストッパー９０２ｃ５をロック状態のままで右ストッパー９０２ｄ５のみを解除状態とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＮとする右中間片落ち状態（図１０３３（ａ）参照）とした後、右中間片落ち状態から左ストッパー９０２ｃ５を解除状態とし、バー役物９０２ａの左端を下降限まで落下させた状態である左片落ち状態（図１０３３（ｂ）参照）とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＦＦとしてバー役物９０２ａの右端も下降限（図１０３２（ｂ）に示す位置）まで落下させる第１落下パターンである。

【１０５５８】

２つ目の落下パターンは、左右のストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５を同時に解除状態とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＦＦとすることでバー役物９０２ａが自重で一気に下降限まで落下する第２落下パターンである。

【１０５５９】

このように、バー役物９０２ａを自重で落下させる構造であっても、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９と左右のストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５の解除時期を可変させることで多様な落下パターンを設定可能にしている。

【１０５６０】

図１０３４に戻り説明を続ける。バー役物９０２ａが下降限にある場合（図１０３２（

ｂ）に示す状態である場合）、上駆動カム９０２ｃ３が時計回り（右上昇機構９０２ｄでは、反時計回り）に回転することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐが図１０３２（ｂ）に示す位置から時計回りに移動し、下段ラック９０２ｃ２の底部に入り込み、下段ラック９０２ｃ２を押し上げる。円柱ピン９０２ｃ３ｐによって下段ラック９０２ｃ２が押し上げられると、連接ギア９０２ｃ８ａ（図１０３５参照）が上昇機構９０２ｃの支柱部分に設けられている下突出片９０２ｃ８ｃ（図１０３５参照）と嵌合し、連接ギア９０２ｃ８ａが時計回りに回転する。この連接ギア９０２ｃ８ａは、上段ラック９０２ｃ１に設けられた上突出片９０２ｃ８ｂ（図１０３５参照）とも嵌合しており、連接ギア９０２ｃ８ａが時計回りに回転することで、上段ラック９０２ｃ１を上昇させる。

【１０５６１】

このように、上段ラック９０２ｃ１と下段ラック９０２ｃ２の２段ラックとすることで、上駆動カム９０２ｃ３の直径よりも長いストロークの上下駆動が可能となるため、上駆動カム９０２ｃ３を軽量化することができ、駆動するためのステッピングモータの出力を抑えて駆動させることができる。よって、パチンコ機１０の消費電力を抑えることができる。

【１０５６２】

次に、図１０３６～図１０３９を参照して、回転体役物９０２ｂの構造について説明する。図１０３６は、回転体役物９０２ｂとバー役物９０２ａの分解正面斜視図であり、図１０３７は、回転体役物９０２ｂとバー役物９０２ａの分解背面斜視図である。また、図１０３８は、回転体役物９０２ｂの分解正面斜視図であり、図１０３９は、回転体役物の分解裏面斜視図である。回転体９０２ｂ１は、表面に装飾が施された部材であり、本第３５制御例では、パチンコ機１０の題材に関連する「物」という文字が装飾されている（図１０３２（ａ）参照）。この回転体９０２ｂ１の裏側には、回転駆動用のステッピングモータである回転体モータ９０２ｂ２と、ローラースライダー９０２ｂ６が設けられている（図１０３７参照）。音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて回転体モータ９０２ｂ２が駆動すると、回転ギア９０２ｂ７が回転し、回転ギア９０２ｂ７の回転により回転体９０２ｂ１を回転させる。

【１０５６３】

回転体モータ９０２ｂ２は、音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて時計回り、或いは反時計回りに回転可能であり、回転体モータ９０２ｂ２の回転方向に対応して回転体９０２ｂ１の回転方向が可変する。

【１０５６４】

また、回転体モータ９０２ｂ２の回転速度は音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて４段階で設定可能であり、回転体モータ９０２ｂ２の回転スピードに対応して回転体９０２ｂ１の回転スピードも可変する。

【１０５６５】

図１０３６に示すように、回転体役物９０２ｂに設けられているローラースライダー９０２ｂ６は、ボールねじ９０２ｂ５を挿通可能に構成されている。このボールねじ９０２ｂ５には、正面視左端に横駆動ギア９０２ｂ４と、横駆動用のステッピングモータである横移動モータ９０２ｂ３が設けられており、横移動モータ９０２ｂ３が駆動することで、横駆動ギア９０２ｂ４が回転し、ボールねじ９０２ｂ５が回転する。ボールねじ９０２ｂ５が回転すると、ローラースライダー９０２ｂ６が左右に移動する。これにより、回転体役物９０２ｂを左右に移動させることができる。

【１０５６６】

ここで、図１０３２（ｂ）を参照して、回転体役物９０２ｂの左右可動域について説明する。回転体役物９０２ｂは、バー役物９０２ａの正面視手前側を左可動域限Ｐｔ２から右可動域限Ｐｔ３の範囲内で左右に移動可能に構成されている。また、左右可動域限Ｐｔ２，Ｐｔ３の中間には基準位置Ｐｔ１が設定されており、バー役物９０２ａが収納位置となる場合には、基準位置Ｐｔ１で停止するように構成されている。

【１０５６７】

横移動モータ－９０２ｂ３は、音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて時計回り、或いは反時計回りに回転可能であり、横移動モータ９０２ｂ３が時計回りに回転すると、回転体役物９０２ｂは正面視右方向に移動し、反時計回りに回転すると、回転体役物９０２ｂは正面視左方向に移動する。

【１０５６８】

なお、バー役物９０２ａには基準位置Ｐｔ１、左可動域限Ｐｔ２、右可動域限Ｐｔ３に対応する位置に図示しないセンサが設けられており、回転体役物９０２ｂの左右の位置を検出可能に構成している。

【１０５６９】

また、横移動モータ９０２ｂ３の回転速度は音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて４段階で設定可能であり、横移動モータ９０２ｂ３の回転スピードに対応して回転体役物９０２ｂの移動スピードも可変する。

【１０５７０】

＜第３５制御例における演出内容について＞

図１０４０～図１０４２を参照して、第３５制御例のパチンコ機１０の第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される特徴的な演出内容について説明をする。図１０４１（ａ）は、第３図柄表示装置８１における特別図柄（第３図柄）が仮停止した場合の表示画面の一例を示した図である。第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍには、左、中及び右の３つの図柄列（Ｚ１～Ｚ３）が表示される。

【１０５７１】

ここで、図１０４０（ａ）を参照して、本第３５制御例の図柄列の構成について説明する。図１０４０（ａ）は、本第３５制御例における第３図柄の構成を模式的に示した図である。第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される第３図柄（第１特別図柄（特図１）または第２特別図柄（特図２）の変動表示に対応して変動する装飾図柄）は、「１」から「８」の数字を模した識別情報が付された８種類の主図柄と、パチンコ機１０の題材と関連する「海」「物」「語」という文字を模した識別情報が付された３種類の主図柄によりそれぞれ構成されている。これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示（動的表示）されるようになっている。

【１０５７２】

なお、それぞれの数字図柄は、有効ラインＬ１上に同一の数字図柄が３つ揃った状態（例えば、左中段図柄Ｚ１ｂ，中中段図柄Ｚ２ｂ，右中段図柄Ｚ３ｂにそれぞれ７図柄Ｄ９が停止表示された状態）で表示されると特別図柄の大当たり当選であることを示す。

【１０５７３】

一方、文字図柄は有効ラインＬ１上に同一の文字図柄が３つ揃った状態（例えば、左中段図柄Ｚ１ｂ，中中段図柄Ｚ２ｂ，右中段図柄Ｚ３ｂにそれぞれ「海」図柄Ｄ４が停止表示された状態）で表示された場合と、左中段図柄Ｚ１ｂに「海」図柄Ｄ４、中中段図柄Ｚ２ｂに「物」図柄Ｄ７、右中段図柄Ｚ３ｂに「語」図柄Ｄ１０が停止表示された場合に特別図柄の大当たり当選であることを示す構成としている。

【１０５７４】

図１０４０（ｂ）～（ｅ）は、回転体役物９０２ｂの停止パターンの一例を示した図である。図１０４０（ｂ）に示す正転状態は、回転体モータ９０２ｂ２が原点位置である場合の向きである。（ｃ）～（ｅ）は原点位置以外の場合の一例を示した図である。

【１０５７５】

図１０４１（ａ）に戻り、説明を続ける。図１０４１（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける正面視左上には小表示領域Ｄｍ１が形成されている。この小表示領域Ｄｍ１は、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すための識別情報（第４図柄）が表示される領域であって、第１特別図柄（特図１）の抽選状況を示すための第４図柄（特図１第４図柄）、或いは、第２特別図柄（特図２）の抽選状況を示すための第４図柄（特図２第４図柄）が小表示領域Ｄｍ１に表示されるように構成している。図１０４１（ａ）に示す例では、小表示領域Ｄｍ１において第４図柄が変動表示

中であることを示す表示態様で表示されている。
【１０５７６】
主表示領域Ｄｍには、図柄列Ｚ１～Ｚ３毎に上・中・下の３段に第３図柄が表示される。この主表示領域Ｄｍの中段部が有効ラインＬ１として設定されており、毎回の遊技に際して、左図柄列Ｚ１→右図柄列Ｚ３→中図柄列Ｚ２の順に、有効ラインＬ１上に第３図柄が停止表示される。その第３図柄の停止時に有効ラインＬ１上に大当たり図柄の組合せで揃えば大当たりとして大当たり当選報知演出が実行される。
【１０５７７】
なお、図１０４１（ａ）に示すように、上段および下段の第３図柄は、半分隠れた状態で表示される。これにより、上段および下段には有効ラインが設定されていないことを示している。
【１０５７８】
図１０４１（ａ）に示す例では、左中段図柄Ｚ１ｂとして１図柄Ｄ１、中中段図柄Ｚ２ｂとして８図柄Ｄ１１、右中段図柄Ｚ３ｂとして海図柄Ｄ４がそれぞれ揺れた状態で停止表示されている。この主図柄が揺れた状態は、特別図柄の変動時間が経過していない状態であり、特別図柄の変動時間が経過すると完全に停止した状態となる。
【１０５７９】
また、図１０４１（ａ）に示すように、主表示領域Ｄｍの下方には、副表示領域Ｄｓが形成される。この副表示領域Ｄｓには、獲得済みの特別図柄抽選の権利（保留記憶）の数に対応させた保留図柄が表示されるように構成している。上述した通り、本第３５制御例のパチンコ機１０は、第１図柄表示装置３７において変動表示が行われている場合や、当たり遊技が実行されている場合、即ち、新たな特別図柄抽選を実行することができない状態で、球が第１入球口６４、或いは第２入球口６４０へ入球すると、その入球回数が各入球口に対して最大４回まで保留される。副表示領域Ｄｓに対して表示される保留図柄は、保留された入球回数と同一の個数が表示される。本第３５制御例では、第１入球口６４への球の入球に対して記憶される保留球数の最大値が４個、第２入球口６４０への球の入球に対して記憶される保留球数の最大値が４個に設定されているので、副表表示領域Ｄｓには、保留図柄が最大８個表示される。
【１０５８０】
具体的には、図１０４１（ａ）に示した通り、副表示領域Ｄｓは、特図１保留球待機中領域Ｄｓ１と、実行中領域Ｄｓ２と、特図２保留球待機中領域Ｄｓ３に区画形成される。特図１保留球待機中領域Ｄｓ１は、第１特別図柄の保留球数に対応させた数の保留図柄を表示するための領域であって、保留記憶可能な上限数（４個）に対応した４つの台座ｍ１～ｍ４が右から順に表示されている。そして、第１特別図柄の保留球を獲得した場合には、４つの台座ｍ１～ｍ４のうち、保留図柄が表示されていない最も若い番号の台座に対して保留図柄が表示される。
【１０５８１】
図１０４１（ａ）に示した例では、第１特別図柄の保留球を２つ保留記憶している状態であって、特図１保留球待機中領域Ｄｓ１には、第１特別図柄の保留球（特図１保留球）に対応した表示態様（白色の丸印）の保留図柄が２つ（ｈｒ１～ｈｒ２）、第１台座ｍ１および第２台座ｍ２に表示されている。
【１０５８２】
また、特図２保留球待機中領域Ｄｓ３は、第２特別図柄の保留球数に対応させた数の保留図柄を表示するための領域であって、保留記憶可能な上限数（４個）に対応した４つの台座ｍ５～ｍ８が左から順に表示されている。そして、第２特別図柄の保留球を獲得した場合には、４つの台座ｍ５～ｍ８のうち、保留図柄が表示されていない最も若い番号の台座に対して保留図柄が表示される。
【１０５８３】
図１０４１（ａ）に示した例では、第２特別図柄の保留球を１つも保留記憶していない状態であるため、特図２保留球待機中領域Ｄｓ３には、保留図柄が１つも表示されていな

い。
【１０５８４】
実行中領域Ｄｓ２は、現在実行中の特別図柄変動に対応して表示されていた保留図柄がシフトして表示される表示領域であって、実行中台座ｍ０に、実行中保留図柄ｈｒ０が表示される。つまり、新たな特別図柄変動が開始される場合には、特図１保留球待機中領域Ｄｓ１の台座ｍ１に表示されていた保留図柄ｈｒ１が、実行中領域Ｄｓ２の台座ｍ０へとシフトして表示される。このように構成することにより、例えば、特図１保留球待機中領域Ｄｓ１に表示されている保留図柄に対して大当たり当選の期待度を示す予告演出（例えば、保留図柄の表示態様を可変させる演出）を実行した場合に、その予告演出が実行された保留図柄に対応した特別図柄変動が実行されていることを遊技者に容易に判別させることができる。
【１０５８５】
また、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄（実行中図柄）を表示可能とすることで、保留図柄（実行中図柄）の表示態様を可変させる演出を、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄（実行中図柄）に対しても実行することができるため、実行中の特別図柄変動に対応する保留図柄が表示されない場合よりも長い間、保留図柄の表示態様が可変されることを期待させながら遊技を行わせることができる。
【１０５８６】
なお、特図２保留球待機中領域Ｄｓ３の台座ｍ５に保留図柄が表示されている場合には、特図１保留球待機中領域Ｄｓ１の台座ｍ１に表示されている保留図柄ｈｒ１よりも優先して実行中領域Ｄｓ２の台座ｍ０へとシフトして表示される。
【１０５８７】
このように、本第３５制御例では、特図１保留図柄の表示領域と、特図２保留図柄の表示領域と、を区分けして表示するように構成することで、表示されている保留図柄が第１特別図柄の保留球を示す保留図柄（特図１保留図柄）であるか、第２特別図柄の保留球を示す保留図柄（特図２保留図柄）であるかを遊技者が識別可能に構成している。これにより、遊技者に対して現在の保留球数を特別図柄の種別毎に把握させることができるため、保留図柄の表示内容に基づいて第１入球口６４へと球を入球させるための遊技を続行するか否かの判断を行わせ易くすることができる。
【１０５８８】
図１０４１（ｂ）は、救済チャンス演出開始時の表示画面の一例を示した図である。この救済チャンス演出は、抽選結果が外れであることを示す表示態様を表示した後に大当たりまたは小当たり当選を示す表示態様に可変させる演出（所謂、復活演出）の一種であり、ロゴランプＲｇ１と、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに表示されている「語」図柄Ｄ１０とを結ぶライン上に回転体役物９０２ｂが正転状態（図１０４０（ｂ）参照）で停止した場合に、大当たり当選であることが報知される演出である。以下、救済チャンス演出の詳細について説明する。
【１０５８９】
救済チャンス演出が開始されると、ロゴ役物９０２が音声ランプ制御装置１１３によって予め設定されている動作シナリオに基づいて動作を開始する。具体的には、バー役物９０２ａが下降限まで落下し、回転体役物９０２ｂが左右移動と回転を開始する。
【１０５９０】
図１０４２（ｂ）に示すように、救済チャンス演出が開始されると、バー役物９０２ａが有効ラインＬ１上に仮停止している第３図柄の前面側に位置するため、遊技者からは有効ラインＬ１上の第３図柄が視認困難となる。これは、ロゴランプＲｇ１と、「語」図柄Ｄ７とを結ぶライン上に全体が表示された第３図柄が視認できる状態であった場合、演出が成功して「海物語」の文字列が形成されたとしても、ライン上にその他の第３図柄が視認可能な状態で存在することで「海物語」の文字列が形成されたことを遊技者に分かり難くなってしまう虞があるためである。このため、バー役物９０２ａによって有効ラインＬ１上の第３図柄を覆い隠し、ロゴランプＲｇ１と、回転体役物９０２ｂと、「語」図柄Ｄ

１０とのライン上に余計な第３図柄が存在しないように構成している。
【１０５９１】
主表示領域Ｄｍの中央上部領域には表示領域ＨＲ１が形成され、主表示領域Ｄｍの中央下部領域には演出成功となる回転体役物９０２ｂの停止位置を示すための上矢印８０２が表示される。表示領域ＨＲ１には、救済チャンス演出の成功条件を報知するための案内態様が表示される。このように構成することで、遊技者に救済チャンス演出の内容を分かり易く認識させることができる。
【１０５９２】
回転体役物９０２ｂは、音声ランプ制御装置１１３によって予め設定されている動作シナリオに基づいて６秒程度左右への移動と回転を継続した後、当否判定結果を報知するための停止位置で停止する。
【１０５９３】
図１０４２（ａ）は、救済チャンス演出成功の場合の演出内容を示した図である。救済チャンス演出の成功パターンの動作シナリオが設定されている場合（即ち、当否判定結果が大当たり当選である場合）には、動作シナリオの停止タイミングになると、回転体役物９０２ｂが当たり報知位置（図１０４２（ａ）に示す例では、有効ラインＬ１と中図柄列Ｚ２の交点の位置）に正転状態で停止する。回転体役物９０２ｂが当たり報知位置で停止したことを確認すると、中図柄列Ｚ２が半コマ分戻り、半分隠れた状態で表示されていた中下段図柄Ｚ２ｃが上昇ラインＬ２の位置まで上昇することで、中下段図柄Ｚ２ｃの全体が表示される。これにより、中下段図柄Ｚ２ｃが、ロゴランプＲｇ１と回転体役物９０２ｂとで「海物語」の文字列を形成している構成要素であることを遊技者に分かり易く認識させることができる。なお、この「海物語」の文字列は、大当たり当選であることを示す態様である。
【１０５９４】
また、中図柄列Ｚ２が半コマ分戻るのに合わせて、バー役物９０２ａも対応する位置まで上昇することで、中中段図柄Ｚ２ｂを覆い隠す構成としている。これにより、ロゴランプＲｇ１と、回転体役物９０２ｂと、「語」図柄Ｄ１０とのライン上に余計な第３図柄が存在しない状態とし、遊技者に「海物語」の文字列が完成していることを分かり易くすることができる。
【１０５９５】
さらに、「海物語」の文字列が完成したことに対応して、ロゴランプＲｇ１と、回転体役物９０２ｂにそれぞれ内蔵されているＬＥＤを発光させることで、ロゴランプＲｇ１と回転体役物９０２ｂと、中下段図柄Ｚ２ｃとでラインが形成されていることを強調し、遊技者が見落とすことを抑制する構成としている。
【１０５９６】
加えて、表示領域ＨＲ１には、救済チャンス演出が成功したことを報知する案内態様である「おめでとう」という文字が表示される。これにより、救済チャンス演出が成功したことを遊技者に分かり易く認識させることができる。
【１０５９７】
一方、救済チャンス演出失敗の場合（即ち、当否判定結果が外れである場合）には、外れ報知位置（図１０４２（ｂ）に示す例では、有効ラインＬ１と右図柄列Ｚ３の交点の位置）で回転体役物９０２ｂが停止する。なお、図１０４２（ｂ）に示す例では、回転体役物９０２ｂが有効ラインＬ１と右図柄列Ｚ３との交点において停止する例を説明したが、これに限るものではなく、ロゴランプＲｇ１と、第３図柄表示装置８１に表示されている「語」図柄Ｄ１０とを結ぶライン上から外れた位置であれば良い。
【１０５９８】
＜第３５制御例のパチンコ機１０における電気的構成について＞
次に、図１０４３を参照して、本第３５制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１０４３は、本第３５制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。本第３５制御例では、上述した第３２制御例のパチンコ機１０に

対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点、ロゴ役物９０２用の駆動モータを追加している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【１０５９９】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、ロゴ役物９０２の駆動制御データの出力、変動演出（変動表示）といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【１０６００】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、枠ボタン２２、駆動モータ群７７０、右途中停止ソレノイド７７５がそれぞれ接続されている。ここで、駆動モータ群７７０には、音声ランプ制御装置１１３が制御可能な装飾用の各種可動部材（可変部材）を駆動させるための駆動源（モータ）が含まれており、具体的には、バー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７、回転体モータ９０２ｂ２、横移動モータ９０２ｂ３、その他モータ７７１を有している。

【１０６０１】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０からのコマンドや、音声ランプ制御装置１１３に接続された各種装置等の状況に応じてエラーを判定し、そのエラーの種別を含めてエラーコマンドを表示制御装置１１４へ送信する。表示制御装置１１４では、受信したエラーコマンドによって示されるエラー種別（例えば、振動エラー）に応じたエラーメッセージ画像を第３図柄表示装置８１に遅滞無く表示させる制御が行われる。

【１０６０２】

ここで、図１０４４（ａ）を参照して、本第３５制御例の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図１０４４（ａ）は、本第３５制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示したブロック図である。上述した第３２制御例の音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２に対して、変動パターン選択テーブル２２２ａに代えて変動パターン選択４テーブル２２２ｘａを設け、新たに動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂを追加した点で相違している。

【１０６０３】

変動パターン選択４テーブル２２２ｘａは、変動パターン選択用のカウンタ値に各変動パターンの種別（外れ、ガセ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【１０６０４】

なお、本第３５制御例では、実行される特別図柄変動に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が縦スクロールで変動表示される変動演出が実行される。この変動演出では、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンが決定されるため、遊技者は、第３図柄表示装置８１にて実行される変動演出を視認することで今回の特別図柄変動が大当たり当選しているか否かを予測しながら遊技（特図遊技）を行うことが

できる。
【１０６０５】
動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂは、ロゴ役物９０２を構成する各駆動モータの動作シナリオを設定するためのテーブルである。動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂは、シナリオ選択用のカウンタ値に当否判定結果に対応する動作シナリオがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、変動態様として上述した救済チャンス演出の実行を決定した場合に、当否判定結果と、取得したシナリオ選択用のカウンタ値に基づいて、ロゴ役物９０２の動作シナリオを選択する。
【１０６０６】
ここで、図１０４５～図１０４６を参照して、変動パターン選択４テーブル２２２ｘａの内容について説明する。図１０４５（ａ）は、変動パターン選択４テーブル２２２ｘａの構成を模式的に示したブロック図である。図１０４５（ａ）に示した通り、変動パターン選択４テーブル２２２ｘａには、通常用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ１と、時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ２と、特殊時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ３と、時短最終変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ４が規定されている。
【１０６０７】
図１０４５（ｂ）は、通常用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ１の内容を模式的に示した図である。通常用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ１は、通常状態（普通図柄の低確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す特図種別と、当否判定結果と、変動パターン種別と、第１演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて表示用変動パターンを設定するものである。なお、図１０４５（ｂ）に示すように、本第３５制御例では、それぞれの表示用変動パターン毎に上述した救済チャンス演出の実行有無が規定されている。
【１０６０８】
具体的には、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＡ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。
【１０６０９】
なお、変動パターン種別「外れ」である場合には救済チャンス演出が設定されない構成としているが、これは、変動パターン種別「外れ」の変動時間が７秒であるのに対し（図９５６参照）、救済チャンス演出の演出時間は１２秒であり、変動時間内で救済チャンス演出が終了しないためである。
【１０６１０】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「ガセ外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」に対して「変動パターンＢ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９９」に対して「変動パターンＣ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、変動パターン種別が「ガセ外れ」である場合には、１０％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６１１】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」に対して「変動パターンＤ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９９」に対して「変動パターンＥ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」である場合には、１０％の割合で救済チャンス演出が設定される。

【１０６１２】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「スーパーリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＦ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＧ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「スーパーリーチ」である場合には、２５％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６１３】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＨ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＩ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」である場合には、２５％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６１４】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「スーパーリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１２９」に対して「変動パターンＪ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１３０～１９９」に対して「変動パターンＫ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「スーパーリーチ」である場合には、３５％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６１５】
なお、当否判定結果が「大当たり」で、変動パターン種別「ノーマルリーチ」の場合において救済チャンス演出が実行される場合は、第３図柄がリーチ状態とならずに外れを示す組合せで仮停止した後に救済チャンス演出が開始される。
【１０６１６】
一方、当否判定結果が「大当たり」で、変動パターン種別「スーパーリーチ」の場合において救済チャンス演出が実行される場合は、第３図柄がリーチ状態となり、リーチ演出が実行された後に外れを示す組合せで仮停止し、救済チャンス演出が開始される。
【１０６１７】
また、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」または「スーパーリーチ」の場合、当否判定結果が「外れ」の場合と「大当たり」の場合とで救済チャンス演出の設定され易さが異なり、当否判定結果が「大当たり」の場合の方が「外れ」の場合よりも救済チャンス演出が設定され易く構成している。
【１０６１８】
これにより、第３図柄がリーチ状態とならなかった場合であっても、救済チャンス演出が実行されることを期待させ、遊技者に変動表示が終了する最後の瞬間まで大当たり当選に対する期待感を抱かせることが可能となる。
【１０６１９】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「スペシャルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＬ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「スペシャルリーチ」である場合には、救済チャンス演出が設定されない。これは、本第３５制御例では、変動パターン種別として「スペシャルリーチ」が設定されるのは、当否判定結果が「大当たり」である場合のみであり、スペシャルリーチが開始された時点で遊技者は大当たり当選であることを認識することが可能であることから、救済チャンス演出を実行しても演

出効果が低いためである。
【１０６２０】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＭ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「小当たり」であり、変動パターン種別が「長小当たり」である場合には、救済チャンス演出が設定されない。
【１０６２１】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」に対して「変動パターンＮ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９９」に対して「変動パターンＰ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「外れ」である場合には、１０％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６２２】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「大当たり」または「小当たり」で、変動パターン種別が「当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＱ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＲ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」または「小当たり」であり、変動パターン種別が「当たり」である場合には、２５％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６２３】
図１０４６（ａ）は、時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ２の内容を模式的に示した図である。時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ２は、時短状態（普通図柄の高確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。通常用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ１と同様に、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す特図種別と、当否判定結果と、変動パターン種別と、第１演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて表示用変動パターンを設定するものである。
【１０６２４】
具体的には、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「超短外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＳ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。
【１０６２５】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「短大当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＴ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。
【１０６２６】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１８９」に対して「変動パターンＵ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定され、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１９０～１９９」に対して「変動パターンＶ」と救済チャンス演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「小当たり」であり、変動パターン種別が「長小当たり」である場合には、５％の割合で救済チャンス演出が設定される。
【１０６２７】

特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「短外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＷ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。

【１０６２８】

特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「超短大当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＸ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。

【１０６２９】

特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「超短小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＹ」と救済チャンス演出なしが対応付けて規定されている。

【１０６３０】

このように、時短状態においては、第１特別図柄の変動パターン種別「長小当たり」である場合を除いて救済チャンス演出が設定されない構成としている。これは、時短状態では、変動パターン種別が「長小当たり」である場合を除いて変動時間が２秒以下に設定されており、救済チャンス演出の演出時間よりも短いためである。

【１０６３１】

図１０４６（ｂ）は、特殊時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ３の内容を模式的に示した図である。特殊時短用変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別が特殊時短状態において設定される変動パターン種別であった場合に参照されるテーブルである。

【１０６３２】

ここで、本第３５制御例では、上述した第３２制御例と同様に、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された第２特別図柄変動回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件と、時短状態中に実行された第１特別図柄変動回数と、第２特別図柄変動回数との合算回数が１０回に到達した場合に成立する時短終了条件と、を少なくとも有している。

【１０６３３】

つまり、本第３５制御例におけるパチンコ機１０は、第２特別図柄抽選を実行し易くなる時短状態が設定されている間に第２特別図柄抽選を３回実行し、何れかの第２特別図柄抽選において約１／２の確率で当選する当たり（小当たり、大当たり）に当選することで、大当たり遊技を介しながら時短状態を繰り返し、時短状態中に実行される３回の第２特別図柄抽選において当たり当選しなかった場合に、時短状態が終了し、残された特図２保留を用いた第２特別図柄抽選（１回）においても当たり当選しなかった場合に、通常状態へと移行する（連チャン状態が終了する）遊技性を有している。

【１０６３４】

ここで、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された特別図柄抽選の回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件のみを設定した場合には、第１特別図柄抽選が３回実行された場合にも時短終了条件が成立することとなり、時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選が実行されることなく時短状態が終了してしまうという事態が発生してしまう虞があった。つまり、本第３５制御例では、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を最大で４個獲得可能に構成しており、例えば、特図１保留を４個、特図２保留を０個獲得している状態で時短状態が設定された場合には、第２特別図柄変動よりも先に第１特別図柄変動が実行されることになる。この場合、第２特別図柄抽選が３回実行されるよりも前に、時短終了条件が成立してしまい、本来の遊技性を発揮すること無く時短状態が終了してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１０６３５】

また、時短状態が設定される際に特図１保留を４個獲得している状態であっても、時短状態中に第２特別図柄変動を３回実行させるために、例えば、特別図柄抽選の実行回数が７回に到達した場合に時短終了条件が成立するように構成した場合には、特図１保留を獲得していない状態で時短状態が設定された場合において、第２特別図柄変動を３回よりも多く実行させることが可能となり、本来の遊技性に対して遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうという問題があった。

【１０６３６】

そこで、本第３５制御例では、第２特別図柄変動の実行回数のみに基づいて成立する時短終了条件と、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件と、を設定し、何れかの時短終了条件が成立した場合に時短状態が終了するように構成している。このように構成することで、特図１保留の獲得状況に関わらず、所定回数の第２特別図柄変動を実行させることが可能となると共に、所定回数の第２特別図柄変動が実行された場合に確実に時短状態を終了させることができる。

【１０６３７】

さらに、本第３５制御例では、時短状態中において効率良く第２特別図柄抽選を実行させるために、特図１保留の上限数（４個）に対応する第１特別図柄変動、即ち、時短状態が設定されてから４回目の第１特別図柄変動が実行されるまでは、時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２（図９５７（ａ）参照）を用いて、短時間（０．５秒）の変動時間が設定されるように構成し、それ以降の第１特別図柄変動に対しては、２０秒の変動時間が設定されるように構成している。つまり、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態における遊技方法を把握していない遊技者が左打ち遊技を行った場合に、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の変動時間として常に短時間（０．５秒）の変動時間が設定されてしまうと、新たな第１特別図柄変動が次々と実行されてしまい、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまう虞があった。

【１０６３８】

これに対して、本第３２制御例では、時短状態が設定されてから実行される５回目以降の第１特別図柄変動、即ち、時短状態中において新たに特図１保留を獲得した場合にのみ実行される第１特別図柄変動に対しては、長時間（２０秒）の変動時間を設定するように構成し、１回の第１特別図柄変動が終了するまでに要する期間を長くすることで、遊技者に対して時短状態中における遊技方法を把握させるための期間を確保することで、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまうことを抑制するように構成している。

【１０６３９】

さらに、特殊時短状態（時短状態中に第１特別図柄変動が５回以上実行された状態）では、その第１特別図柄変動の変動演出として、右打ち遊技によって第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得することを促す演出態様を含む変動演出が実行されるように構成している。このように構成することで、時短状態中に実行すべき遊技方法を把握していない遊技者に対して、正しい遊技方法をより分かり易く把握させることができる。

【１０６４０】

図１０４６（ｃ）は、時短最終変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ４の内容を模式的に示した図である。時短最終変動パターン選択４テーブル２２２ｘａ４は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別が時短最終変動において設定される変動パターン種別であった場合に参照されるテーブルである。

【１０６４１】

本第３５制御例では、上述した第３２制御例と同様に、時短最終変動となる第２特別図柄変動の変動期間中には、時短状態中に実行されるカウントダウン演出の最終結果（数字アイコン８０８の「０」表示）を表示した後、時短状態が終了するまでの間に特図２保留の獲得を促すためのチャージ演出（図９４１（ａ）参照）が実行されるように構成している。よって、時短状態が設定されてから１回目、又は２回目の第２特別図柄変動よりも３

回目（最終）の第２特別図柄変動の方が、チャージ演出の演出期間を確保するために長い変動時間が設定されるように構成している。

【１０６４２】

このように構成することで、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させ易くすることができる。また、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選する場合であっても、１回目、或いは２回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合と、３回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合とで、時間効率（時短状態の単位時間当たりに実行される第２特別図柄抽選回数）を大きく異ならせることができるため、遊技者に対して、時短状態中に第２特別図柄抽選で当り当選するか否かだけで無く、時短状態中における何回目の第２特別図柄抽選で当り当選するかについても興味を持たせることができる。

【１０６４３】

次に、図１０４７を参照して、動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂの内容について説明する。図１０４７は、動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂの内容を模式的に示した図である。図１０４７に示すように、動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂには、シナリオ選択用のカウンタである第２演出カウンタの値にそれぞれの当否判定結果に対応する動作シナリオがそれぞれ設定されている。

【１０６４４】

具体的には、当否判定結果が「外れ」である場合、第２演出カウンタＣＳ２の値が「０～１９」に対して「動作シナリオＡ」が規定されている。ここで、図１０４８を参照して、動作シナリオＡの内容について説明する。図１０４８（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＡのうち、バー役物９０２ａの上下駆動の関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０４８（ａ）に示す通り、バー役物９０２ａ上下駆動の動作シナリオＡは、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対して、左バー役物用モータ９０２ｃ７、右バー役物用モータ９０２ｄ７および右途中停止ソレノイド９０２ｄ９の動作データ（動作内容）が規定されていると共に、その段階におけるバー役物９０２ａの位置（状態）と左右のバー役物ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５の状態が示されている。

【１０６４５】

なお、シナリオカウンタ２２３ｘｈは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたカウンタであり、予め規定されたタイミングでロゴ役物９０２の各駆動モータの動作データを設定するために用いられる。このシナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は、後述する液晶演出実行管理処理４（図１０６１参照）の救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）において１加算される。詳細は後述するが、この液晶演出実行管理処理４は、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理において１ｍｓ毎に実行される処理である（図１０５６参照）。従って、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は１ｍｓ毎に１加算される。

【１０６４６】

本第３５制御例では、表示用変動パターンに予め設定された救済チャンス演出の開始タイミングとなった場合に音声ランプ制御装置１１３によりシナリオカウンタ２２３ｘｈのカウントが開始され、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が動作シナリオに規定された値となった場合に、対応する動作データが設定される。

【１０６４７】

図１０４８（ａ）に示すように、シナリオカウンタ値は、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値を示しており、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は、後述する液晶演出実行管理処理４（図１０６１参照）の救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）において１加算される。詳細は後述するが、この液晶演出実行管理処理４は、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理において１ｍｓ毎に実行される処理である（図１０５６参照）。従って、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は１ｍｓ毎に１加算される。

【１０６４８】

左バー役物用モータ動作データおよび右バー役物用モータ動作データのステップ数は、左バー役物用モータ９０２ｃ７および右バー役物用モータ９０２ｄ７の回転ステップ数を

示し、スピードは、左バー役物用モータ９０２ｃ７および右バー役物用モータ９０２ｄ７のステッピングモータを動作させるスピードが規定されている。

【１０６４９】

なお、ステップ数の「＋（正方向）」と「－（逆方向）」はモータを回転させる方向を示しており、正方向は、ステップカウンタを加算して更新する方向にモータを回転させ、逆方向は、ステップカウンタを減算して更新する方向にモータを回転させる。本第３５制御例における左バー役物用モータ９０２ｃ７は、正方向が設定されると時計回り、逆方向が設定されると反時計回りに回転する。右バー役物用モータ９０２ｄ７は、正方向が設定されると反時計回り、逆方向が設定されると時計回りに回転する。

【１０６５０】

また、本第３５制御例では、スピードが１である場合には、１ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（高速）となり、スピードが２である場合には、２ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（中速）となり、スピードが３である場合には、３ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（中低速）となり、スピードが４である場合には、４ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（低速）となっている。つまり、スピード１が最も早い速度で設定されることとなり、スピード２は、スピード１の１／２のスピード、スピード３は、スピード１の１／３のスピード、スピード４は、スピード１の１／４のスピードとなっている。

【１０６５１】

また、バー役物位置は、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対応する動作データを設定する時点におけるバー役物９０２ａの位置（状態）を示している。

【１０６５２】

表示用変動パターンに設定されている救済チャンス演出の開始タイミングとなると、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウントが開始される。そして、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１」になると、右バー役物用モータ動作データとしてステップ数＋２５とスピード４が設定される。これにより、右バー役物用モータ９０２ｄ７が、ステップカウンタ値２５になるまで反時計回りにスピード４の速さで回転を開始する。本第３５制御例では、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７のステッピングモータは、１００ステップで１周する構成であり、ステップカウンタの値が０の位置（原点位置）を収納位置、ステップカウンタの値が２５の位置で左右のバー役物用ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となり、バー役物９０２ａが下降限まで落下するように構成している。なお、本第３５制御例では、ステップカウンタ０から２５までスピード４で駆動するのに要する時間は５００ｍｓで設定している。

【１０６５３】

シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「５００」になると、左バー役物用モータ動作データとしてステップ数＋２５とスピード２が設定される。これにより、左バー役物用モータ９０２ｃ７が、ステップカウンタ値２５になるまで時計回りにスピード２の速さで回転される。なお、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「５００」の場合は、動作シナリオが開始されてから５００ｍｓ経過した場合であるため、右バー役物用モータ９０２ｄ７がステップカウンタ値２５の位置まで回転した状態となる。上述したように、ステップカウンタ値が２５の位置で右バー役物ストッパー９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となり、バー役物９０２ａの正面視右端が自重落下を開始するが、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＮ状態であるため、図１０３３（ａ）に示す位置で停止した状態（右中間片落ち状態）となる。

【１０６５４】

そして、シナリオカウンタ値５００の時点から２５０ｍｓが経過し、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「７５０」になると、左バー役物用モータ９０２ｃ７がステップカウンタ値２５の位置まで回転した状態となり、左バー役物ストッパー９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となるため、バー役物９０２ａの正面視左端が自重落下する。なお、左上昇機構９０２ｃには途中停止ソレノイドが設けられていないため、バー役物９０２ａの正面

視左端は下降限まで落下し、図１０３３（ｂ）に示す状態となる（右中間片落ち、左片落ち状態）。その後、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１０００」になると、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＦＦ状態に設定され、バー役物９０２ａの正面視右端も下降限まで落下する（図１０３２（ｂ）参照）。

【１０６５５】

シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１１２５０」になると、左バー役物用モータ動作データおよび右バー役物用モータ動作データとしてステップ数＋７５とスピード２が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は２５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで逆方向にスピード２で回転する。本第３５制御例では、ステップカウンタ値６０の位置で円柱ピン９０２ｃ３ｐおよび９０２ｄ３ｐがそれぞれ下段ラック９０２ｃ２および９０２ｄ２の押し上げを開始し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。

【１０６５６】

従って、シナリオカウンタ値１１２５０に対応する動作データが設定されてから７５０ｍｓ経過後、即ち、シナリオカウンタ値１２０００の時点でバー役物９０２ａは収納位置となる。なお、シナリオカウンタ値「１２０００」は動作シナリオＡの終了時期であるため、ＥＮＤデータが規定されている。このＥＮＤデータが規定されていることにより、動作シナリオの終了タイミングか否かを容易に判断することができる。

【１０６５７】

図１０４８（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＡのうち、回転体役物９０２ｂの左右駆動および回転駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０４８（ｂ）に示す通り、バー役物９０２ａ上下駆動用の動作シナリオと同様に、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対して、横移動モータ９０２ｂ３の動作データと、回転体モータ９０２ｂ２の動作データが規定されている。回転体役物の位置と向きは、シナリオ通りに動作した場合の回転体役物９０２ｂの位置と向き（状態）を示している。また、原点センサデータは、ＯＮに設定されている場合には、回転体役物９０２ｂに設けられている回転体モータ用の原点センサ（図示しない）がオンとなるまで動作するように設定されていることを示している。

【１０６５８】

動作シナリオＡでは、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値５００に対して、回転体モータ９０２ｂ２の動作データとして、スピード３と「＋回転」が設定される。この「＋回転」とは、次の動作データが設定されるまで正方向に回転し続ける動作データである。従って、この場合は回転体役物９０２ｂ２が正方向にスピード３で回転し続ける動作を開始する。

【１０６５９】

シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値１０００では、横移動モータ９０２ｂ３の動作データとしてステップ数－１００とスピード４が設定される。本第３５制御例における横移動モータ９０２ｂ３は総ステップ数２００のステッピングモータであり、ステップ数１００の位置が基準停止位置Ｐｔ１（図１０３２（ｂ）参照）となるように構成しており、ステップ数０で左可動域限Ｐｔ２、ステップ数２００で右可動域限Ｐｔ３の位置となる。従って、この場合は、回転体役物９０２ｂが左可動域限Ｐｔ２に向かってスピード４で移動を開始する。

【１０６６０】

また、回転体モータ動作データとして、スピード３と「－回転」が設定される。この「－回転」とは、次の動作データが設定されるまで逆方向に回転し続ける動作データである。従って、この場合、回転体役物９０２ｂが逆方向にスピード３で回転し続ける動作を開始する。

【１０６６１】

シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値３０００では、横移動モータ９０２ｂ３の動

作データとしてステップ数＋１００とスピード４が設定される。なお、この時点で横移動モータ９０２ｂ３が逆方向に１００ステップの駆動を終了した状態（即ち、ステップカウンタ値は０の状態）であるため、回転体役物９０２ｂの位置は、左可動域限Ｐｔ２（図１０３２（ｂ）参照）となる。従って、シナリオカウンタ値３０００で設定される動作データによって、回転体役物９０２ｂは、基準位置Ｐｔ１（図１０３２（ｂ）参照）までスピード４での移動を開始する。合わせて、回転体モータ動作データとして、スピード３と「＋回転」が設定される。これにより、回転体役物９０２ｂが正方向にスピード３で回転し続ける動作を開始する。

【１０６６２】

シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値５０００では、横移動モータ９０２ｂ３の動作データとしてステップ数＋１００とスピード４が設定される。なお、この時点で横移動モータ９０２ｂ３が正方向に１００ステップの駆動を終了した状態（即ち、ステップカウンタ値は１００の状態）であるため、回転体役物９０２ｂの位置は、基準位置Ｐｔ１（図１０３２（ｂ）参照）となる。従って、シナリオカウンタ値５０００で設定される動作データによって、回転体役物９０２ｂは、右可動域限位置Ｐｔ３（図１０３２（ｂ）参照）までスピード４での移動を開始する。

【１０６６３】

シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値７０００では、回転体モータ動作データとして、回転停止が設定される。これにより、回転体モータ９０２ｂ２は回転を停止する。なお、この時点で横移動モータ９０２ｂ３が正方向に１００ステップの駆動を終了した状態（即ち、ステップカウンタ値は２００の状態）であるため、回転体役物９０２ｂの位置は、右可動域限Ｐｔ３（図１０３２（ｂ）参照）となる。また、回転体モータ９０２ｂ２は、ステップ数を設定せずに回転し続けていたため、回転停止の動作データが設定された時点での向きは不定となる。

【１０６６４】

なお、シナリオカウンタ値７０００は、救済チャンス演出の動作シナリオＡにおける当否判定結果の報知演出を実行するタイミングである。従って、外れ報知演出の実行タイミングであることを示す情報が規定されている。これにより、音声ランプ制御装置１１３において、当否判定結果の報知タイミングであることを容易に判別することができる。

【１０６６５】

シナリオカウンタ値１１２５０では、横移動モータ動作データとして、ステップ数－５０とスピード１が設定される。なお、この時点で回転体役物９０２ｂの位置は、右可動域限Ｐｔ３（図１０３２（ｂ）参照）であり、ステップカウンタ値は２００であるため、シナリオカウンタ値１１２５０で設定される動作データによって、回転体役物９０２ｂは基準位置Ｐｔ１までスピード１での移動を開始する。合わせて、回転体モータ９０２ｂ２の動作データとして、スピード１と「－回転」が設定され、回転体モータ原点センサデータがオンに設定される。これにより、回転体モータ９０２ｂ２が原点位置となるまで回転するため、回転体役物９０２ｂを正転状態として収納位置に戻ることができる。

【１０６６６】

このように、動作シナリオＡでは、バー役物９０２ａの落下パターンとして、段階的に下降限まで落下する落下パターン（第１落下パターン）が実行され、回転体役物９０２ｂの横移動パターンとして、最初に基準位置Ｐｔ１から左可動域限Ｐｔ２に向かう移動パターン（第１移動パターン）が実行される。

【１０６６７】

なお、本第３５制御例では、第１落下パターンと第１移動パターンが実行される動作シナリオとして、動作シナリオＡの他に動作シナリオＥがある。この動作シナリオＥは、図１０４７に示すように、当否判定結果が「当たり」である場合であって第２演出カウンタＣＳ２の値が「０～７９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。

【１０６６８】

ここで、図１０５２を参照して、動作シナリオＥの内容について説明をする。図１０５

２（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＥのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。シナリオカウンタ値が６７００になるまでは動作シナリオＡと同様に第１落下パターンの動作が実行される。

【１０６６９】

シナリオカウンタ値６７００になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋４０とスピード２が設定される。なお、この時点で、バー役物９０２ａは下降限の位置（即ち、ステップカウンタ値２５の位置）であり、シナリオカウンタ値６７００で設定される動作データによって、バー役物９０２ａは当たり報知演出が開始から１００ｍｓ経過後に図１０４２（ａ）に示す当たり報知位置となる。

【１０６７０】

その後、シナリオカウンタ値１１３００になると左右のバー役物用モータ動作データとして、ステップ数＋３５とスピード４が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は６５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで正方向にスピード４で回転し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。

【１０６７１】

次に、図１０５２（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＥのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５２（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＥのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５２（ｂ）に示すように、シナリオカウンタ値５０００までは、上述した動作シナリオＡと同様に第１移動パターン（最初に基準位置Ｐｔ１から左可動域限Ｐｔ２に移動するパターン）の動作シナリオが実行される。シナリオカウンタ値５０００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード２が設定される。この時点で、回転体役物９０２ｂは基準位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で右可動域限Ｐｔ３への移動を開始する。なお、本第３５制御例では、１００ステップをスピード２で駆動するのに要する時間は１０００ｍｓで設定している。

【１０６７２】

シナリオカウンタ値６０００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で「－回転」が設定される。なお、回転体モータ原点センサデータがオンに設定されるため、回転体役物９０２ｂは原点位置まで回転すると正転状態で回転を停止する。また、この時点で回転体役物９０２ｂは右可動域限Ｐｔ３の位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で基準位置Ｐｔ１への移動を開始する。

【１０６７３】

そして、シナリオカウンタ値７０００になると、回転体役物９０２は基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止する。なお、シナリオカウンタ値７０００は、救済チャンス演出の動作シナリＥにおける当否判定結果の報知演出を実行するタイミングであり、回転体役物９０２ｂが基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止することにより大当たり当選であることを遊技者に報知する。

【１０６７４】

このように、動作シナリオＥでは、救済チャンス演出の開始から所定期間は動作シナリオＡと同一の動作パターン（第１落下パターンと第１移動パターン）の動作を行い、当たり報知演出の開始時点で回転体役物９０２ｂが図１０４１（ｂ）の上矢印８０２が指す位置（即ち、基準位置Ｐｔ１）において正転状態で停止するシナリオが実行される。

【１０６７５】

ここで、上述したように、動作シナリオＡは特別図柄の当否判定結果が「外れ」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「０～１９」の範囲である場合に設定され

るシナリオであり、動作シナリオＥは特別図柄の当否判定結果が「当たり」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「０～７９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。第２演出カウンタＣＳ２は「０～１９９」の範囲で繰り返し更新されるカウンタであるため、動作シナリオＡは当否判定結果が「外れ」である場合の１０％の割合で設定され、動作シナリオＥは当否判定結果が「当たり」である場合の４０％の割合で設定される。つまり、第１落下パターンと第１移動パターンの動作シナリオは、当否判定結果が「外れ」である場合よりも「当たり」である場合の方が選択され易い。このように、当否判定結果が「外れ」である場合と「当たり」である場合とで、第１落下パターンと第１移動パターンの動作シナリオの設定確率を異ならせて構成しているため、遊技者はロゴ役物９０２の動作パターンによって当否判定結果を容易に予想することができる。

【１０６７６】

次に、図１０４９を参照して、動作シナリオＢの内容について説明する。図１０４９（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＢのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。この動作シナリオＢは、当否判定結果が「外れ」であり第２演出カウンタＣＳ２の値が「２０～９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオであり、上述した動作シナリオＡと異なり、バー役物９０２ａが収納位置から下降限まで一気に落下する落下パターンである第２落下パターンの動作シナリオである。第２落下パターンでは、１度バー役物９０２ａが下降限まで落下した後、回転体役物９０２ｂの原点確認動作が実行され、原点確認終了後に収納位置に戻り、回転体役物９０２ｂの原点位置が確認できたと判別した場合に再度下降限まで落下する動作を行う。これは、第２落下パターンでは、バー役物９０２ａが一気に下降限まで落下するため、第１落下パターンよりもバー役物９０２ａの一度の落下幅が大きく、特に落下の衝撃で原点センサに異常が生じる虞があるためである。また、図１０３６に示すように本第３５制御例におけるロゴ役物９０２の回転体役物９０２ｂは、円状ではなく角張った形状であるため、収納位置で原点確認を行うと動作ユニットの背面側に設けられている他の構造物と干渉する虞があるため、他の構造物と干渉しない位置で原点確認動作を行う構成としている。原点確認動作において原点位置が確認できなかった場合には、２回目の落下を中止し、液晶表示による代替救済チャンス演出に切り替える処理が実行される。

【１０６７７】

図１０４９（ａ）に示すように、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１」になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋２５とスピード２が設定される。これにより、左バー役物用モータ９０２ｃ７はステップカウンタ値２５になるまで時計回りにスピード２の速さで回転を開始し、右バー役物用モータ９０２ｄ７はステップカウンタ値２５になるまで反時計回りにスピード２の速さで回転を開始する。そして、シナリオカウンタ値２５０の時点で左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７がステップカウンタ値２５の位置まで回転した状態となり、左右のバー役物ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となるため、バー役物９０２ａが下降限まで自重落下を開始する。

【１０６７８】

下降限まで落下してから２０００ｍｓ経過後、即ち、シナリオカウンタ値２２５０になると左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋７５とスピード２が設定される。これにより、バー役物９０２ａは収納位置への移動を開始する。なお、下降限まで落下してから２０００ｍｓ経過するまでの期間で、回転体役物９０２ｂの原点確認動作が実行される。

【１０６７９】

シナリオカウンタ値２２５０の時点から７５０ｍｓ経過し、シナリオカウンタ値３０００になるとバー役物９０２ａは収納位置となる。ここで、回転体役物９０２ｂの原点確認動作において原点位置が確認できた場合には、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７の動作データとしてステップ数＋２５とスピード４が設定され、シナリオカウンタ値３５００の時点で左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７がステップ

カウンタ値２５の位置まで回転した状態となり、左右のバー役物ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となるため、バー役物９０２ａが下降限まで自重落下を開始する。

【１０６８０】

そして、シナリオカウンタ値１１２５０になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋７５とスピード２が設定される。これにより、バー役物９０２ａは収納位置への移動を開始する。

【１０６８１】

次に、図１０４９（ｂ）を参照して、動作シナリオＢのうち、回転体役物９０２ｂの左右駆動および回転駆動に関連する動作シナリオの内容について説明する。図１０４９（ｂ）は、動作シナリオＢのうち、回転体役物９０２ｂの左右駆動および回転駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。動作シナリオＢは、回転体役物９０２ｂの原点確認動作と第１移動パターンの動作を実行する動作シナリオである。

【１０６８２】

シナリオカウンタ値が２５０になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で＋回転が設定される。また、回転体モータ原点センサデータがオンに設定される。これにより、回転体役物９０２ｂが時計回りに回転しながら右可動域限Ｐｔ３への移動を開始し、回転体モータ９０２ｂ２の原点確認動作が開始される。

【１０６８３】

原点確認動作において、回転体モータ原点センサが回転体モータ９０２ｂの原点位置を検出した場合に、音声ランプ制御装置１１３において原点フラグ２２３ｘｋがオンに設定される。この原点フラグ２２３ｘｋがオンに設定されることで、後述する特殊シナリオ実行中処理（図１０６３参照）において実行中の動作シナリオの継続が決定され、原点確認動作終了までに原点フラグ２２３ｘｋがオンに設定されなかった場合（即ち、回転体モータ原点センサが原点位置を検出できなかった場合）には、実行中の動作シナリオの中止が決定され、液晶表示による代替救済チャンス演出が設定される。

【１０６８４】

シナリオカウンタ値が１２５０になると、横移動モータ動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３と「－回転」が設定される。なお、この時点で回転体役物９０２ｂは右可動域限Ｐｔ３に位置しているため、この動作データが設定されることにより基準位置Ｐｔ１への移動を開始する。

【１０６８５】

原点確認動作の開始から２０００ｍｓ経過後、即ち、シナリオカウンタ値が２２５０になると、回転体モータ動作データとして回転停止が設定される。これにより、回転体モータ原点センサが回転体モータ９０２ｂ２の原点位置を検出できなかった場合であっても、回転体９０２ｂは回転を停止する。このように構成することで、回転体役物９０２ｂが収納位置でも回転し続けることを抑制することができる。なお、シナリオカウンタ値２２５０は原点確認動作終了のタイミングであるため、原点確認動作終了のタイミングであることを示す情報が規定されている。これにより、音声ランプ制御装置１１３において、原点確認動作の終了タイミングであることを判別することができる。

【１０６８６】

原点確認動作が終了し、バー役物９０２ａが再度下降限まで落下した後、動作シナリオＡと同様の第１移動パターン（基準位置Ｐｔ１から最初に左可動域限Ｐｔ２に移動する動作パターン）の動作が実行される。

【１０６８７】

なお、動作シナリオＢでは、動作シナリオＡに対して、原点確認動作が実行された分だけ動作データが規定されたシナリオカウンタ値にズレが生じているが、本第３５制御例では、当否判定結果の報知演出の演出時間を短縮することで動作シナリオが終了するまでに要する時間の尺を合わせる構成としている。このように構成することで、原点確認動作の

有無に拘わらず動作シナリオ終了までに要する時間が一定となり、いずれの動作シナリオが選択された場合であっても特別図柄の変動時間内に動作シナリオを終了させることができる。

【１０６８８】

なお、本第３５制御例では、当否判定結果の報知演出の演出時間を短縮することで動作シナリオが終了するまでに要する時間の尺を合わせる構成としたが、これに限るものではなく、回転体役物９０２ｂの移動スピードを速めることで回転体役物９０２ｂの移動に要する時間を短縮する構成としても良い。

【１０６８９】

上述したように、動作シナリオＢでは、バー役物９０２ａの落下パターンとして第２落下パターン（収納位置から下降限まで一気に落下するパターン）の動作が実行され、回転体役物９０２ｂの移動パターンとして第１移動パターン（基準位置Ｐｔ１から最初に左可動域限Ｐｔ２に移動するパターン）が設定される。

【１０６９０】

なお、本第３５制御例では、第２落下パターンと第１移動パターンが実行される動作シナリオとして、動作シナリオＢの他に動作シナリオＦがある。この動作シナリオＦは、図１０４７に示すように、当否判定結果が「当たり」である場合であって第２演出カウンタＣＳ２の値が「８０～９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。

【１０６９１】

ここで、図１０５３を参照して、動作シナリオＦの内容について説明をする。図１０５３（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＦのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。シナリオカウンタ値が９２００になるまでは動作シナリオＢと同様に第２落下パターンの動作が実行される。

【１０６９２】

シナリオカウンタ値９２００になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋４０とスピード２が設定される。なお、この時点で、バー役物９０２ａは下降限の位置（即ち、ステップカウンタ値２５の位置）であり、シナリオカウンタ値９２００で設定される動作データによって、バー役物９０２ａは当たり報知演出が開始から１００ｍｓ経過後に図１０４２（ａ）に示す当たり報知位置となる。

【１０６９３】

その後、シナリオカウンタ値１１３００になると左右のバー役物用モータ動作データとして、ステップ数＋３５とスピード４が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は６５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで正方向にスピード２で回転し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。

【１０６９４】

次に、図１０５３（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＦのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５３（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＦのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５３（ｂ）に示すように、シナリオカウンタ値２２５０までは、上述した動作シナリオＢと同様に原点確認動作が実行される。その後、上述した動作シナリオＢとは異なり、基準位置Ｐｔ１から最初に右可動域限Ｐｔ３に向かって移動する第２移動パターンの動作シナリオが実行される。具体的には、シナリオカウンタ値３５００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード４が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で＋回転が設定される。そして、シナリオカウンタ値５５００になると、回転体役物９０２ｂが右可動域限Ｐｔ３にて回転している状態となり、横移動モータ動作データとしてステップ数－１００とスピード４が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で－回転が設定される。そして、シナリオカウンタ値７５００になると、第１移動パター

ン（最初に基準位置Ｐｔ１から左可動域限Ｐｔ２に移動するパターン）の動作シナリオが実行される。シナリオカウンタ値７５００になると、この時点で、回転体役物９０２ｂは基準位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で左可動域限Ｐｔ２への移動を開始する。なお、回転体役物９０２ｂは左可動域限Ｐｔ２の位置となる。

【１０６９５】

シナリオカウンタ値８５００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で＋回転が設定される。なお、回転体モータ原点センサデータがオンに設定されるため、回転体役物９０２ｂは原点位置まで回転すると正転状態で回転を停止する。また、この時点で回転体役物９０２ｂは左可動域限Ｐｔ２の位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で基準位置Ｐｔ１への移動を開始する。

【１０６９６】

そして、シナリオカウンタ値９５００になると、回転体役物９０２は基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止する。なお、シナリオカウンタ値７０００は、救済チャンス演出の動作シナリオＦにおける当否判定結果の報知演出を実行するタイミングであり、回転体役物９０２ｂが基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止することにより大当たり当選であることを遊技者に報知する。

【１０６９７】

このように、動作シナリオＦでは、救済チャンス演出の開始から所定期間（シナリオカウンタ値２２５０までの期間）は動作シナリオＢと同一の動作パターン（第２落下パターンと第１移動パターン）の動作を行い、当たり報知演出の開始時点で回転体役物９０２ｂが図１０４１（ｂ）の上矢印８０２が指す位置（即ち、基準位置Ｐｔ１）において正転状態で停止するシナリオが実行される。

【１０６９８】

ここで、上述したように、動作シナリオＢは特別図柄の当否判定結果が「外れ」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「２０～９９」の範囲である場合に設定されるシナリオであり、動作シナリオＦは特別図柄の当否判定結果が「当たり」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「８０～９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。第２演出カウンタＣＳ２は「０～１９９」の範囲で繰り返し更新されるカウンタであるため、動作シナリオＢは当否判定結果が「外れ」である場合の４０％の割合で設定され、動作シナリオＦは当否判定結果が「当たり」である場合の１０％の割合で設定される。つまり、第２落下パターンと第１移動パターンの動作シナリオは、当否判定結果が「当たり」である場合よりも「外れ」である場合の方が選択され易い。

【１０６９９】

次に、図１０５０を参照して、動作シナリオＣの内容について説明する。図１０５０（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＣのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。この動作シナリオＣは、当否判定結果が「外れ」であり第２演出カウンタＣＳ２の値が「１００～１３９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。図１０５０（ａ）に示すように、上述した動作シナリオＡと同様に、バー役物９０２ａの落下パターンとして第１落下パターン（バー役物９０２ａが収納位置から段階的に下降限まで落下するパターン）の動作が実行される。

【１０７００】

次に、図１０５０（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＣのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５０（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＣのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５０（ｂ）に示すように、上述した動作シナリオＡとは異なり、基準位置Ｐｔ１から最初に右可動域限Ｐｔ３に向かって移動する第２移動パターンの動作シナリオが実行される。なお、動作シナリオＡとは、各シナリオカウンタ値に規定されている動作データの回転方向が逆になっ

ている点で相違しており、その他は同一である。
【１０７０１】
なお、本第３５制御例では、第１落下パターンと第２移動パターンが実行される動作シナリオとして、動作シナリオＣの他に動作シナリオＧがある。この動作シナリオＧは、図１０４７に示すように、当否判定結果が「当たり」である場合であって第２演出カウンタＣＳ２の値が「１００～１５９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。
【１０７０２】
ここで、図１０５４を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＧの内容について説明をする。図１０５４（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＧのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５４（ａ）に示すように、シナリオカウンタ値が６７００になるまでは動作シナリオＣと同様に第１落下パターンの動作が実行される。
【１０７０３】
シナリオカウンタ値６７００になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋４０とスピード２が設定される。なお、この時点で、バー役物９０２ａは下降限の位置（即ち、ステップカウンタ値２５の位置）であり、シナリオカウンタ値６７００で設定される動作データによって、バー役物９０２ａは当たり報知演出が開始から１００ｍｓ経過後に図１０４２（ａ）に示す当たり報知位置となる。
【１０７０４】
その後、シナリオカウンタ値１１３００になると左右のバー役物用モータ動作データとして、ステップ数＋３５とスピード４が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は６５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで正方向にスピード４で回転し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。
【１０７０５】
次に、図１０５４（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＧのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５４（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＧのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５４（ｂ）に示すように、シナリオカウンタ値５０００までは、上述した動作シナリオＣと同様に第２移動パターン（最初に基準位置Ｐｔ１から右可動域限Ｐｔ３に移動するパターン）の動作シナリオが実行される。シナリオカウンタ値５０００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定される。この時点で、回転体役物９０２ｂは基準位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で左可動域限Ｐｔ２への移動を開始する。
【１０７０６】
シナリオカウンタ値６０００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で＋回転が設定される。なお、回転体モータ原点センサデータがオンに設定されるため、回転体役物９０２ｂは原点位置まで回転すると正転状態で回転を停止する。また、この時点で回転体役物９０２ｂは左可動域限Ｐｔ２の位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で基準位置Ｐｔ１への移動を開始する。
【１０７０７】
そして、シナリオカウンタ値７０００になると、回転体役物９０２は基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止する。なお、シナリオカウンタ値７０００は、救済チャンス演出の動作シナリオＧにおける当否判定結果の報知演出を実行するタイミングであり、回転体役物９０２ｂが基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止することにより大当たり当選であることを遊技者に報知する。
【１０７０８】

このように、動作シナリオＧでは、救済チャンス演出の開始から所定期間は動作シナリオＣと同一の動作パターン（第１落下パターンと第２移動パターン）の動作を行い、当たり報知演出の開始時点で回転体役物９０２ｂが図１０４１（ｂ）の上矢印８０２が指す位置（即ち、基準位置Ｐｔ１）において正転状態で停止するシナリオが実行される。

【１０７０９】

ここで、上述したように、動作シナリオＣは特別図柄の当否判定結果が「外れ」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「１００～１３９」の範囲である場合に設定されるシナリオであり、動作シナリオＧは特別図柄の当否判定結果が「当たり」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「１００～１５９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。第２演出カウンタＣＳ２は「０～１９９」の範囲で繰り返し更新されるカウンタであるため、動作シナリオＣは当否判定結果が「外れ」である場合の２０％の割合で設定され、動作シナリオＧは当否判定結果が「当たり」である場合の３０％の割合で設定される。つまり、第１落下パターンと第２移動パターンの動作シナリオは、当否判定結果が「外れ」である場合よりも「当たり」である場合の方が選択され易い。

【１０７１０】

次に、図１０５１を参照して、動作シナリオＤの内容について説明する。図１０５１（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＤのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。この動作シナリオＤは、当否判定結果が「外れ」であり第２演出カウンタＣＳ２の値が「１４０～１９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。図１０５１（ａ）に示すように、上述した動作シナリオＢと同様に、バー役物９０２ａの落下パターンとして第２落下パターン（バー役物９０２ａが収納位置から一気に下降限まで落下するパターン）の動作が実行される。

【１０７１１】

次に、図１０５１（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＤのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５１（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＤのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５１（ｂ）に示すように、上述した動作シナリオＢとは異なり、基準位置Ｐｔ１から最初に右可動域限Ｐｔ３に向かって移動する第２移動パターンの動作シナリオが実行される。なお、動作シナリオＢとは、各シナリオカウンタ値に規定されている動作データの回転方向が逆になっている点で相違しており、その他は同一である。

【１０７１２】

なお、本第３５制御例では、第２落下パターンと第２移動パターンが実行される動作シナリオとして、動作シナリオＤの他に動作シナリオＨがある。この動作シナリオＨは、図１０４７に示すように、当否判定結果が「当たり」である場合であって第２演出カウンタＣＳ２の値が「１６０～１９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。

【１０７１３】

ここで、図１０５５を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＨの内容について説明をする。図１０５５（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＨのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。シナリオカウンタ値が９２００になるまでは動作シナリオＤと同様に第２落下パターンの動作が実行される。

【１０７１４】

シナリオカウンタ値９２００になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋４０とスピード２が設定される。なお、この時点で、バー役物９０２ａは下降限の位置（即ち、ステップカウンタ値２５の位置）であり、シナリオカウンタ値９２００で設定される動作データによって、バー役物９０２ａは当たり報知演出が開始から１００ｍｓ経過後に図１０４２（ａ）に示す当たり報知位置となる。

【１０７１５】

その後、シナリオカウンタ値１１３００になると左右のバー役物用モータ動作データとして、ステップ数＋３５とスピード４が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は６５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで正方向にスピード２で回転し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。

【１０７１６】

次に、図１０５５（ｂ）を参照して、ロゴ役物９０２の動作シナリオＨのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１０５５（ｂ）は、ロゴ役物９０２の動作シナリオＨのうち、回転体役物９０２ｂの回転駆動と左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１０５５（ｂ）に示すように、シナリオカウンタ値７５００までは、上述した動作シナリオＢと同様に第２移動パターン（最初に基準位置Ｐｔ１から右可動域限Ｐｔ３に移動するパターン）の動作シナリオが実行される。シナリオカウンタ値７５００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数＋１００とスピード２が設定される。この時点で、回転体役物９０２ｂは基準位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で、右可動域限Ｐｔ３への移動を開始する。

【１０７１７】

シナリオカウンタ値８５００になると、横移動モータ動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定され、回転体モータ動作データとしてスピード３で－回転が設定される。なお、回転体モータ原点センサデータがオンに設定されるため、回転体役物９０２ｂは原点位置まで回転すると正転状態で回転を停止する。また、この時点で回転体役物９０２ｂは右可動域限Ｐｔ３の位置で回転しているため、この動作データが設定されることにより、回転体役物９０２ｂはスピード２で基準位置Ｐｔ１への移動を開始する。

【１０７１８】

そして、シナリオカウンタ値９５００になると、回転体役物９０２は基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止する。なお、シナリオカウンタ値７０００は、救済チャンス演出の動作シナリオＨにおける当否判定結果の報知演出を実行するタイミングであり、回転体役物９０２ｂが基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止することにより大当たり当選であることを遊技者に報知する。

【１０７１９】

このように、動作シナリオＨでは、救済チャンス演出の開始から所定期間は動作シナリオＤと同一の動作パターン（第２落下パターンと第２移動パターン）の動作を行い、当たり報知演出の開始時点で回転体役物９０２ｂが図１０４１（ｂ）の上矢印８０２が指す位置（即ち、基準位置Ｐｔ１）において正転状態で停止するシナリオが実行される。

【１０７２０】

ここで、上述したように、動作シナリオＤは特別図柄の当否判定結果が「外れ」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「１４０～１９９」の範囲である場合に設定されるシナリオであり、動作シナリオＨは特別図柄の当否判定結果が「当たり」である場合において、第２演出カウンタＣＳ２の値が「１６０～１９９」の範囲である場合に設定される動作シナリオである。第２演出カウンタＣＳ２は「０～１９９」の範囲で繰り返し更新されるカウンタであるため、動作シナリオＤは当否判定結果が「外れ」である場合の３０％の割合で設定され、動作シナリオＨは当否判定結果が「当たり」である場合の２０％の割合で設定される。つまり、第２落下パターンと第２移動パターンの動作シナリオは、当否判定結果が「当たり」である場合よりも「外れ」である場合の方が選択され易い。

【１０７２１】

このように、本第３５制御例では、当否判定結果が「外れ」である場合には、動作シナリオＢ（第２落下パターン、第１移動パターン）、動作シナリオＤ（第２落下パターン、第２移動パターン）、動作シナリオＣ（第１落下パターン、第２移動パターン）、動作シ

ナリオＡ（第１落下パターン、第１移動パターン）の順に選択され易く、当否判定結果が「当たり」である場合には、動作シナリオＥ（第１落下パターン、第１移動パターン）、動作シナリオＧ（第１落下パターン、第２移動パターン）、動作シナリオＨ（第２落下パターン、第２移動パターン）、動作シナリオＦ（第２落下パターン、第１移動パターン）の順に選択され易く構成している。つまり、第２落下パターンの動作が実行された場合よりも、第１パターンの動作が実行された方が大当たり当選である可能性が高く、第２移動パターンが実行された場合よりも第１移動パターンの動作が実行された場合の方が大当たり当選である可能性が高くなっており、遊技者はロゴ役物９０２の動作パターンによっても大当たり当選であるか否かを予想できるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【１０７２２】

なお、本第３５制御例では、第２落下パターン（バー役物９０２ａが収納位置から一気に下降限まで落下するパターン）の場合のみ原点確認動作を行う構成としたが、これに限るものではなく、第１落下パターン（バー役物９０２ａが収納位置から段階的に落下するパターン）においても原点確認動作を行う構成としても良い。この場合、バー役物９０２ａが右中間片落ち状態（図１０３３（ａ）参照）である場合に原点確認動作を行い、原点位置が確認できなかった場合には、バー役物９０２ａを収納位置に戻す動作データを設定する構成とすると良い。また、本第３５制御例では、各種モータ（左バー役物用モータ、右バー役物用モータ）に対して、ステップ数が加算される方向への回転のみを用いて各種動作シナリオを規定しているが、これに限ること無く、各種モータに対して、ステップ数が減算される方向への回転指示を規定しても良い。また、各種モータに対する回転指示内容を予め規定しておくのでは無く、各種モータを駆動させる条件が成立した場合に、駆動対象となる各種役物の状況を判定し、その判定結果に基づいて各種モータへの回転指示内容（回転方向）を決定するように構成しても良いし、対象となる特別図柄抽選の結果に基づいて各種モータに対する回転指示内容を異ならせるように構成しても良い。この場合、例えば、特別図柄抽選の結果が特定の大当たり当選である場合のみ、通常とは異なる回転方向で各種モータのうち、少なくとも１のモータを駆動させるように構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対して、各種役物の可動内容（落下内容や左右移動内容）だけで無く、各種役物を可動させるための各種モータの回転方向にまで興味を持たせることができる。

【１０７２３】

音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３には、上述した第３２制御例における音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３が有する構成に加えて、第１演出カウンタｘａと、第２演出カウンタｘｂと、役物待機フラグｘｃと、動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄと、役物可動中フラグｘｅと、変動中フラグｘｆと、変動時間カウンタ２２３ｘｇと、シナリオカウンタｘｈと、各ステップカウンタｘｉと、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊと、原点フラグ２２３ｘｋと、その他メモリエリア２２３ｚとが少なくとも設けられている。

【１０７２４】

第１演出カウンタ２２３ｘａは、表示用変動パターンの選択に使用されるカウンタであって、「０～１９９」の範囲で繰り返し更新される。なお、メイン処理が実行される毎に１ずつ加算されて更新される。

【１０７２５】

第２演出カウンタ２２３ｘｂは、ロゴ役物９０２の動作シナリオの選択に使用されるカウンタであって、「０～１９９」の範囲で繰り返し更新される。なお、メイン処理が実行される毎に１ずつ加算されて更新される。

【１０７２６】

役物待機フラグ２２３ｘｃは、動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄにロゴ役物９０２の動作シナリオが格納されていることを示すためのフラグであり、演出態様設定処理４（図１０６０のＳ４３１１Ａ参照）において表示用変動パターンとして救済チャンス演出ありの表示用変動パターンが設定され、決定された動作シナリオが動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄに格納された場合にオンに設定される（図１０６０のＳ４５３６参照）。そして

、救済チャンス演出の開始タイミングとなり、救済チャンス演出開始処理（図１０６２のＳ３１５５参照）において動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄから動作シナリオが読み出された場合にオフに設定される（図１０６２のＳ３２３５参照）。

【１０７２７】

動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄは、演出態様設定処理４（図１０６０のＳ４３１１Ａ参照）において決定されたロゴ役物９０２の動作シナリオを格納するためのエリアである。この動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄに格納された情報（動作シナリオ）は、救済チャンス演出が開始される際に読み出される（図１０６２のＳ３２３２参照）。

【１０７２８】

役物可動中フラグ２２３ｘｅは、ロゴ役物９０２の動作シナリオが設定中であることを示すためのフラグであり、救済チャンス演出の開始タイミングにおいて動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄから動作シナリオが設定された場合にオンに設定される（図１０６２のＳ３２３６参照）。そして、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値である場合（図１０６４のＳ４６５３参照）、または動作シナリオの中止が設定された場合（図１０６３のＳ４３６２参照）にオフに設定される。

【１０７２９】

変動中フラグ２２３ｘｆは特別図柄の変動表示期間であることを示すためのフラグであり、変動時間カウンタ２２３ｘｇは特別図柄の変動時間を計測するためのカウンタである。本第３５制御例では、変動中フラグ２２３ｘｆがオンに設定されている場合に、液晶演出実行管理処理４（図１０６１のＳ３１２０参照）において変動時間カウンタ２２３ｘｇの値を更新する。

【１０７３０】

シナリオカウンタ２２３ｘｈは、特別図柄の変動時間の経過に合わせて動作シナリオに規定された動作データを設定するためのカウンタである。シナリオカウンタ２２３ｘｈは、液晶演出実行管理処理４（図１０６１のＳ３１２０参照）における特殊シナリオ実行中処理（Ｓ３１５７）、または救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）が実行される毎に１加算される。なお、液晶演出実行管理処理４（Ｓ３１２０）は、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理において１ｍｓ経過する毎に実行される処理である（図１０５６参照）。従って、シナリオカウンタは変動時間カウンタ２２３ｘｇと同様に１ｍｓ毎に更新される。

【１０７３１】

ステップカウンタｘｉは、左バー役物用モータ９０２ｃ７、右バー役物用モータ９０２ｄ７、横移動モータ９０２ｂ３、回転体モータ９０２ｂ２の各ステッピングモータのステップ数を計数するためのカウンタである。

【１０７３２】

特殊シナリオフラグ２２３ｘｊは、救済チャンス演出におけるロゴ役物９０２の動作シナリオとして動作シナリオＢ、Ｄ、Ｆ、Ｈのいずれかが設定されていることを判別するために参照されるフラグである。詳細は後述するが、これらの動作シナリオでは、第２落下パターン（バー役物９０２ａが収納位置から下降限まで一気に落下する動作パターン）の動作が実行されるため、この特殊シナリオフラグ２２３ｘｊがオンである場合には、原点確認動作の制御を行うための特殊シナリオ実行中処理（図１０６３参照）が実行される。原点確認動作が終了した場合に、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊはオフに設定される。

【１０７３３】

原点フラグ２２３ｘｋは、回転体モータ原点センサが回転体モータの原点位置を検出した場合にオンに設定されるフラグであり、回転体役物９０２ｂの原点確認動作において、この原点フラグ２２３ｘｋがオンに設定されることにより、実行中の動作シナリオの継続が決定され、原点確認動作において原点フラグ２２３ｘｋがオンに設定されなかった場合には、実行中の動作シナリオの中止が決定される。

【１０７３４】

ＲＡＭ２２３は、その他メモリエリア２２３ｚとして、主制御装置１１０より受信した

コマンドを、そのコマンドに対応した処理が行われるまで一時的に記憶するコマンド記憶領域などを有している。なお、コマンド記憶領域はリングバッファで構成され、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ　Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ　Ｏｕｔ）方式によってデータの読み書きが行われる。音声ランプ処理装置１１３のコマンド判定処理が実行されると、コマンド記憶領域に記憶された未処理のコマンドのうち、最初に格納されたコマンドが読み出され、コマンド判定処理によって、そのコマンドが解析されて、そのコマンドに応じた処理が行われる。

【１０７３５】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動表示（変動演出）を制御するものである。この表示制御装置１１４の詳細については、すでに公知なものであるので省略する。

【１０７３６】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１０７３７】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図９７６参照）を正常に実行し完了することができる。

【１０７３８】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【１０７３９】

＜第３５制御例における音声ランプ制御装置により実行される制御処理について＞

次に、図１０５６から図１０６４を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行される各制御処理を説明する。

【１０７４０】

まず、図１０５６を参照して、音声ランプ制御装置１１３の立ち上げ処理後に音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理について説明する。図１０５６は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理が実行されると、まず、該メイン処理が開始されてから、又は、前回Ｓ３１０１の処理が実行されてから１

ミリ秒以上が経過したか否かが判別され（Ｓ３１０１）、１ミリ秒以上経過していなければ（Ｓ３１０１：Ｎｏ）、Ｓ３１０２～Ｓ３１１２の処理を行わずにＳ３１２１の処理へ移行する。Ｓ３１０１の処理で、１ミリ秒経過したか否かを判別するのは、Ｓ３１０２～Ｓ３１１２が表示（演出）に関する処理であり、短い周期（１ミリ秒以内）で編集する必要がないのに対して、Ｓ３１２１のコマンド判定処理４やＳ３１２２の変動表示設定処理４を短い周期で実行する方が好ましいからである。Ｓ３１２１の処理が短い周期で実行されることにより、主制御装置１１０から送信されるコマンドの受信洩れを防止でき、Ｓ３１２１の処理が短い周期で実行されることにより、コマンド判定処理によって受信されたコマンドに基づき、変動表示演出に関する設定を遅滞なく行うことができる。

【１０７４１】

Ｓ３１０１の処理で１ミリ秒以上経過していれば（Ｓ３１０１：Ｙｅｓ）、まず、Ｓ３１０３～Ｓ３１１２の処理によって設定された、表示制御装置１１４に対する各種コマンドを、表示制御装置１１４に対して送信するコマンド出力処理を実行する（Ｓ３１０２）。次いで、表示ランプ３４の点灯態様の設定や後述するＳ３１０８の処理で編集されるランプの点灯態様となるよう各ランプの出力を設定し（Ｓ３１０３）、その後電源投入報知処理を実行する（Ｓ３１０４）。電源投入報知処理は、電源が投入された場合に所定の時間（例えば３０秒）電源が投入されたことを知らせる報知を行うものであり、その報知は音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７により行われる。また、第３図柄表示装置８１の画面において電源が供給されたことを報知するようコマンドを表示制御装置１１４に送信するものとしても良い。なお、電源投入時でなければ、電源投入報知処理による報知は行わずにＳ３１０５の処理へ移行する。

【１０７４２】

Ｓ３１０５の処理では客待ち演出が実行され、その後、保留個数表示更新処理が実行される（Ｓ３１０６）。客待ち演出では、パチンコ機１０が遊技者により遊技されない時間が所定時間経過した場合に、第３図柄表示装置８１の表示をタイトル画面に切り替える設定などが行われ、その設定がコマンドとして表示制御装置１１４に送信される。

【１０７４３】

その後、枠ボタン入力監視・演出処理が実行される（Ｓ３１０７）。この枠ボタン入力監視・演出処理では、演出効果を高めるために遊技者に操作される枠ボタン２２が押されたか否かの入力を監視し、枠ボタン２２の入力が確認された場合に対応した演出を行うよう設定する処理である。この処理では、枠ボタン２２の遊技者による操作が検出されると、表示制御装置１１４に対して枠ボタン２２が操作されたことを通知する枠ボタン操作コマンドを設定する。

【１０７４４】

枠ボタン入力監視・演出処理が終わると、次いで、ランプ編集処理を実行し（Ｓ３１０８）、その後音編集・出力処理を実行する（Ｓ３１０９）。ランプ編集処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう電飾部２９～３３の点灯パターンなどが設定される。音編集・出力処理では、第３図柄表示装置８１で行われる表示に対応するよう音声出力装置２２６の出力パターンなどが設定され、その設定に応じて音声出力装置２２６から音が出力される。

【１０７４５】

Ｓ３１０９の処理後、液晶演出実行管理処理４を実行し（Ｓ３１２０）、次に、各種カウンタ更新処理を実行し（Ｓ３１１１）、演出更新処理を実行する（Ｓ３１１２）。Ｓ３１１２の処理を実行後、Ｓ３１２１の処理へ移行する。液晶演出実行管理処理４では、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間が設定される。この液晶演出実行監視処理４で設定された時間に基づいてＳ３１０８のランプ編集処理が実行される。なお、Ｓ３１０９の音編集・出力処理も第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期した時間で実行される。この液晶演出実行監視処理４の詳細については、図１０６１を参照して後述する。

【１０７４６】
　Ｓ３１１２の処理後、主制御装置１１０より受信したコマンドに応じた処理を行うコマンド判定処理４（Ｓ３１２１）が実行され、Ｓ３１２２の処理へ移行する。このコマンド判定処理４（Ｓ３１２１）の詳細については、図１０５７を参照して後述する。
【１０７４７】
　Ｓ３１２２の処理では、第３図柄表示装置８１において変動表示演出を表示させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し、そのコマンドを表示制御装置１１４に送信するために設定する処理である変動表示設定処理４を実行する。この変動表示設定処理４の詳細については、図１０５９を参照して後述する。
【１０７４８】
　Ｓ３１２２の処理が終わると、ワークＲＡＭ２３３に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（Ｓ３１１５）。電源断の発生情報は、主制御装置１１０から電源断コマンドを受信した場合に記憶される。Ｓ３１１５の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（Ｓ３１１５：Ｙｅｓ）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（Ｓ３１１７）、電源断処理を実行する（Ｓ３１１８）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（Ｓ３１１９）、その後、処理を、無限ループする。電源断処理では、割込処理の発生を禁止すると共に、各出力ポートをオフして、音声出力装置２２６およびランプ表示装置２２７からの出力をオフする。また、電源断の発生情報の記憶も消去する。
【１０７４９】
　一方、Ｓ３１１５の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（Ｓ３１１５：Ｎｏ）、ＲＡＭ２２３に記憶されるキーワードに基づき、ＲＡＭ２２３が破壊されているか否かが判別され（Ｓ３１１６）、ＲＡＭ２２３が破壊されていなければ（Ｓ３１１６：Ｎｏ）、Ｓ３１０１の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、ＲＡＭ２２３が破壊されていれば（Ｓ３１１６：Ｙｅｓ）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。ここで、ＲＡＭ破壊と判別されて無限ループするとメイン処理が実行されないので、その後、第３図柄表示装置８１による表示が変化しない。よって、遊技者は、異常が発生したことを知ることができるので、ホールの店員などを呼びパチンコ機１０の修復などを頼むことができる。また、ＲＡＭ２２３が破壊されていると確認された場合に、音声出力装置２２６やランプ表示装置２２７によりＲＡＭ破壊の報知を行うものとしても良い。
【１０７５０】
　次に、図１０５７を参照して、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるコマンド判定処理４（Ｓ３１２１）について説明する。図１０５７は、このコマンド判定処理４（Ｓ３１２１）を示したフローチャートである。図１０５７に示した通り、コマンド判定処理４（Ｓ３１２１）は、上述した第３２制御例におけるコマンド判定処理（図９８３のＳ３１１３参照）に対して、図柄確定コマンド（停止コマンド）を受信した場合に（Ｓ３２１８：Ｙｅｓ）、図柄確定コマンド処理４（図１０５８のＳ３２１９参照）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。
【１０７５１】
　次に、図１０５８を参照して、コマンド判定処理４（図１０５７のＳ３１２１参照）にて実行される図柄確定コマンド処理４（Ｓ３２１９参照）の内容を説明する。図１０５８は、図柄確定コマンド処理４（Ｓ３２１９）の内容を示したフローチャートである。この図柄確定コマンド処理４（Ｓ３２１９）は、主制御装置１１０から特別図柄の変動時間が終了した場合に設定される図柄確定コマンド（停止コマンド）を受信した場合に実行される処理である。
【１０７５２】
　図柄確定コマンド処理４（Ｓ３２１９）が実行されると、まず、第３図柄表示装置８１

における第３図柄の変動表示を停止させるための表示用停止コマンドを設定する（Ｓ３６５１）。ここで設定される表示用停止コマンドは、ＲＡＭ２２３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１０５６参照）のコマンド出力処理（Ｓ３１０２）の中で、表示制御装置１１４に向けて送信される。表示制御装置１１４は、表示用図柄確定コマンドを受信すると、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動表示を終了する。Ｓ３６５１の処理が終了すると、変動中フラグｘｆをオフに設定し（Ｓ３６５２）、変動時間カウンタｘｇの値をリセットする（Ｓ３６５３）。

【１０７５３】

次に、図１０５９を参照して、変動表示設定処理４（Ｓ３１２２）の内容について説明をする。図１０５９は、変動表示設定処理４（Ｓ３１２２）の処理内容を示したフローチャートである。この変動表示設定処理４（Ｓ３１２２）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１０５６参照）の中で実行され、第３図柄表示装置８１において変動演出を実行させるために、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し設定する。

【１０７５４】

変動表示設定処理４（Ｓ３１２２）では、まず、ＲＡＭ２２３に設けられた変動開始フラグ２２３ｄがオンかを判別する（Ｓ４３０１）。そして、変動開始フラグ２２３ｄがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｓ４３０１：Ｎｏ）、主制御装置１１０より変動パターンコマンドを受信していない状態であるので、Ｓ４３０６の処理へ移行する。一方、変動開始フラグ２２３ｄがオンであると判別した場合（Ｓ４３０１：Ｙｅｓ）、変動開始フラグ２２３ｄをオフに設定し（Ｓ４３０２）、抽出した変動パターンを取得し（Ｓ４３０３）、次いで、表示制御装置１１４へ通知するための表示用変動パターンコマンドを取得した変動パターン種別に基づいて生成するための演出態様設定処理４を実行し（Ｓ４３１１）、Ｓ４３１１の処理によって設定された演出態様を示すための表示用変動パターンコマンドを設定し（Ｓ４３０５）、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている入賞情報をシフトし（Ｓ４３１２）、変動中フラグ２２３ｘｆをオンに設定する（Ｓ４３１３）。なお、演出態様設定処理４（Ｓ４３１１）の詳細については図１０６０を参照して後述する。

【１０７５５】

Ｓ４３０６の処理では、ＲＡＭ２２３に設けられた停止種別選択フラグ２２３ｅがオンかを判別する（Ｓ４３０６）。そして、停止種別選択フラグ２２３ｅがオンではない（即ち、オフである）と判別した場合（Ｓ４３０６：Ｎｏ）、主制御装置１１０より停止種別コマンドを受信していない状態であるので、そのまま本処理を終了する。一方、停止種別選択フラグ２２３ｅがオンであると判別した場合（Ｓ４３０６：Ｙｅｓ）、停止種別選択フラグ２２３ｅオフに設定し（Ｓ４３０７）、次いで、Ｓ４３０８の処理でコマンドから抽出した停止種別に基づいて表示用停止種別コマンドを設定し（Ｓ４３０９）、その後、本処理を終了する。

【１０７５６】

次に、図１０６０を参照して、演出態様設定処理４（Ｓ４３１１）の内容について説明をする。図１０６０は、演出態様設定処理４（Ｓ４３１１）の処理内容を示したフローチャートである。この演出態様設定処理４（Ｓ４３１１）は、特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定するための処理が実行されるものであって、演出態様を設定する対象となる特別図柄抽選の結果や、設定されている遊技状態に応じて、様々な演出態様を設定するための処理が実行される。また、変動演出としてロゴ役物９０２を用いた演出の実行が決定された場合に、対象となる特別図柄抽選の結果に対応するロゴ役物９０２の動作シナリオを決定する。

【１０７５７】

演出態様設定処理４（Ｓ４３１１）が実行されると、まず、第１演出カウンタ２２３ｘａおよび第２演出カウンタｘｂのカウンタ値を取得し（Ｓ４５３１）、取得した第１演出

カウンタ２２３ｘａのカウンタ値と、変動表示設定処理４（図１０５９のＳ３１２１）におけるＳ４３０３の処理で抽出した変動パターンの変動パターン種別とに基づいて変動パターン選択４テーブル２２２ｘａから表示用変動パターンを決定する（Ｓ４５３２）。

【１０７５８】

次に、Ｓ４５３２の処理において決定された表示用変動パターンは救済チャンス演出ありの表示用変動パターンかを判別する（Ｓ４５３３）。救済チャンス演出ありの表示用変動パターンであると判別された場合（Ｓ４５３３：Ｙｅｓ）には、動作シナリオ選択テーブル２２２ｘｂから、演出態様を設定する対象となる特別図柄抽選の当否判定結果と第２演出カウンタ２２３ｘｂのカウンタ値とに基づいて動作シナリオを決定し（Ｓ４５３４）、決定した動作シナリオを動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄに格納し（Ｓ４５３５）、役物待機フラグ２２３ｘｃをオンに設定し（Ｓ４５３６）、本処理を終了する。

【１０７５９】

一方、Ｓ４５３３の処理において、救済チャンス演出ありの表示用変動パターンではないと判別された場合（Ｓ４５３３：Ｎｏ）には、本処理を終了する。

【１０７６０】

次に、図１０６１を参照して、液晶演出実行管理処理４（Ｓ３１２０）の内容について説明をする。図１０６１は、液晶演出実行管理処理４（Ｓ３１２０）の処理内容を示したフローチャートである。この液晶演出実行管理処理４（Ｓ３１２０）は、音声ランプ制御装置１１３内のＭＰＵ２２１により実行されるメイン処理（図１０５６参照）の中で実行され、主制御装置１１０から送信される変動パターンコマンドに基づいて第３図柄表示装置８１で行われる変動表示に要する時間と同期させた値がセットされる変動時間カウンタ２２３ｘｇの値を更新する処理が実行され、更新後の値に対応する演出態様を決定するための処理が実行される。

【１０７６１】

液晶演出実行管理処理４（Ｓ３１２０）が実行されると、まず、変動中フラグ２２３ｘｆはオンであるかが判別される（Ｓ３１５１）。変動中フラグ２２３ｘｆがオンではない（即ち、特別図柄の変動表示が実行されていない）と判別した場合には（Ｓ３１５１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、変動中フラグ２２３ｘｆがオンである場合（即ち、特別図柄の変動表示が実行されている場合）には（Ｓ３１５１：Ｙｅｓ）、変動時間カウンタ２２３ｘｇの値に１加算する（Ｓ３１５２）。

【１０７６２】

Ｓ３１５２の処理が終了すると、役物待機フラグ２２３ｘｃはオンであるか否かを判別し（Ｓ３１５３）、オンであると判別した場合（即ち、救済チャンス演出の実行が待機している場合）には（Ｓ３１５３：Ｙｅｓ）、Ｓ３１５２の処理において更新した変動時間カウンタ２２３ｘｇの値は救済チャンス演出の開始時間であるかが判別される（Ｓ３１５４）。救済チャンス演出の開始時間ではないと判別した場合（Ｓ３１５４：Ｎｏ）には、本処理を終了する。一方、Ｓ３１５４の処理において、救済チャンス演出の開始時間であると判別した場合（Ｓ３１５４：Ｙｅｓ）には、救済チャンス演出開始処理を実行する（Ｓ３１５５）。その後、本処理を終了する。

【１０７６３】

ここで、図１０６２を参照して、救済チャンス演出開始処理（Ｓ３１５５）の内容について説明する。図１０６２は、救済チャンス演出開始処理（Ｓ３１５５）の処理内容を示したフローチャートである。この救済チャンス演出開始処理（Ｓ３１５５）は、救済チャンス演出の開始に合わせてロゴ役物９０２の動作シナリオを開始させるための処理を実行する。

【１０７６４】

救済チャンス演出開始処理（Ｓ３１５５）が開始されると、まず、救済チャンス演出の開始を報知する報知態様（図１０４１（ｂ）の表示領域ＨＲ１の表示）を表示するための表示用コマンドを設定し（Ｓ３２３１）、動作シナリオ格納エリア２２３ｘｄに格納されている動作シナリオを設定する（Ｓ３２３２）。

【１０７６５】
　Ｓ３２３２の処理が終了すると、設定した動作シナリオは、動作シナリオＢ、Ｄ、Ｇ、Ｈのいずれかであるかが判別される（Ｓ３２３３）。動作シナリオＢ、Ｄ、Ｇ、Ｈのいずれかであると判別した場合には（Ｓ３２３３：Ｙｅｓ）、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊをオンに設定し（Ｓ３２３４）、Ｓ３２３５の処理を行う。一方、Ｓ３２３３の処理において、動作シナリオＢ、Ｄ、Ｇ、Ｈのいずれでもないと判別した場合（即ち、設定された動作シナリオが動作シナリオＡ、Ｃ、Ｅ、Ｆのいずれかである場合）には（Ｓ３２３３：Ｎｏ）、Ｓ３２３７の処理をスキップし、Ｓ３２３５の処理を行う。
【１０７６６】
　Ｓ３２３５の処理では、役物待機フラグ２２３ｘｃをオフに設定し（Ｓ３２３５）、役物可動中フラグ２２３ｘｅをオンに設定し（Ｓ３２３６）、本処理を終了する。
【１０７６７】
　このように構成することで、特別図柄変動が実行されてから所定時間（例えば、２０秒）の経過を契機にロゴ役物９０２の動作シナリオを開始させることが可能となる。
【１０７６８】
　図１０６１に戻り、説明を続ける。Ｓ３１５３の処理において、役物待機フラグ２２３ｘｃがオンでないと判別された場合には（Ｓ３１５３：Ｎｏ）、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊがオンであるかが判別される（Ｓ３１５６）。特殊シナリオフラグ２２３ｘｊがオンであると判別された場合には（Ｓ３１５６：Ｙｅｓ）、特殊シナリオ実行中処理（Ｓ３１５７）を行う。
【１０７６９】
　ここで、図１０６３を参照して、特殊シナリオ実行中処理（Ｓ３１５７）の内容について説明をする。図１０６３は、特殊シナリオ実行中処理の処理内容を示したフローチャートである。この特殊シナリオ実行中処理（Ｓ３１５７）は、動作シナリオＢ、Ｄ、Ｇ、Ｈのいずれかの動作シナリオが設定されている場合に実行される処理であり、動作シナリオにおける回転体役物９０２ｂの原点確認動作で原点位置を検出できなかった場合に、ロゴ役物９０２の動作シナリオを中止し、液晶表示による代替救済チャンス演出に切り替えるための処理である。
【１０７７０】
　特殊シナリオ実行中処理（Ｓ３１５７）が実行されると、まず、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は原点確認終了の値か否かが判別される（Ｓ４３５１）。シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は原点確認終了の値ではないと判別した場合には（Ｓ４３５１：Ｎｏ）、原点フラグ２２３ｘｋはオンであるか否かが判別される（Ｓ４３５２）。原点フラグ２２３ｘｋがオンではないと判別した場合（即ち、原点位置の検出ができていない場合）には（Ｓ４３５２：Ｎｏ）、原点センサ（図示しない）はオンであるか否かが判別される（Ｓ４３５３）。この原点センサは回転体役物９０２ｂの原点位置を検出するためのセンサであり、回転体役物９０２ｂが原点位置にある場合にオンとなる。Ｓ４３５３の処理において、原点センサがオンであると判別した場合には（Ｓ４３５３：Ｙｅｓ）、原点フラグ２２３ｘｋをオンに設定し（Ｓ４３５４）、Ｓ４３５５の処理に移行する。一方、Ｓ４３５３の処理において、原点センサ２２３ｘｋがオンではないと判別した場合には（Ｓ４３５３：Ｎｏ）、Ｓ４３５４の処理をスキップし、Ｓ４３５５の処理に移行する。
【１０７７１】
　Ｓ４３５２の処理において、原点フラグ２２３ｘｋがオンであると判別した場合には（Ｓ４３５２：Ｙｅｓ）、Ｓ４３５３およびＳ４３５４の処理をスキップし、Ｓ４３５５の処理に移行する。
【１０７７２】
　Ｓ４３５５の処理では、シナリオカウンタ２２３ｘｈのシナリオカウンタ値に１加算し（Ｓ４３５５）、更新後のシナリオカウンタ値に対応した動作データを設定し（Ｓ４３５６）、本処理を終了する。

【１０７７３】
Ｓ４３５１の処理において、シナリオカウンタ値が原点確認終了の値であると判別した場合には（Ｓ４３５１：Ｙｅｓ）、次に、原点フラグ２２３ｘｋがオンであるか否かを判別する（Ｓ４３５７）。原点フラグ２２３ｘｋがオンであると判別された場合には（Ｓ４３５７：Ｙｅｓ）、原点フラグ２２３ｘｋをオフに設定し（Ｓ４３５８）、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊをオフに設定し（Ｓ４３５９）、Ｓ４３５５の処理に移行する。
【１０７７４】
一方、Ｓ４３５７の処理において、原点フラグ２２３ｘｋがオンではないと判別した場合（即ち、原点確認動作において原点位置を検出できなかった場合）には（Ｓ４３５７：Ｎｏ）、設定されている動作シナリオの中止を設定し（Ｓ４３６０）、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値をリセットし（Ｓ４３６１）、役物可動中フラグ２２３ｘｆをオフに設定する（Ｓ４３６２）。その後、当否判定結果に対応する代替救済チャンス演出を表示するための表示用コマンドを設定し（Ｓ４３６３）、本処理を終了する。
【１０７７５】
図１０６１に戻り、説明を続ける。Ｓ３１５６の処理において、特殊シナリオフラグ２２３ｘｊがオンではないと判別した場合には（Ｓ３１５６：Ｎｏ）、次に、役物可動中フラグ２２３ｘｅはオンであるか否かを判別する（Ｓ３１５８）。役物可動中フラグ２２３ｘｅがオンではないと判別した場合（即ち、救済チャンス演出が実行されていない場合）には（Ｓ３１５８：Ｎｏ）、本処理を終了する。一方、Ｓ３１５８の処理において、役物可動中フラグ２２３ｘｅがオンであると判別した場合には（Ｓ３１５８：Ｙｅｓ）、救済チャンス演出実行中処理を実行する（Ｓ３１５９）。その後、本処理を終了する。
【１０７７６】
ここで、図１０６４を参照して、救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）の内容について説明をする。図１０６４は、救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）の処理内容を示したフローチャートである。この救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）は、シナリオカウンタ２２３ｘｈのシナリオカウンタ値に対応する動作データを設定するための処理である。
【１０７７７】
救済チャンス演出実行中処理（Ｓ３１５９）が実行されると、まず、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値はシナリオの終了を示す値（即ち、ＥＮＤ情報）であるか否かを判別する（Ｓ４６５１）。シナリオの終了値であると判別した場合には（Ｓ４６５１：Ｙｅｓ）、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値をリセットし（Ｓ４６５２）、役物可動中フラグ２２３ｘｅをオフに設定し（Ｓ４６５３）、本処理を終了する。
【１０７７８】
一方、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値が終了値ではないと判別した場合には（Ｓ４６５１：Ｎｏ）、次に、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値が報知演出のタイミングであることを示す値であるかを判別する（Ｓ４６５４）。シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値が報知演出のタイミングであることを示す値ではないと判別した場合には（Ｓ４６５４：Ｎｏ）、シナリオカウンタ２２３ｘｈに１加算し（Ｓ４６５９）、更新した後のシナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値に対応した動作データを設定し（Ｓ４６６０）、本処理を終了する。
【１０７７９】
一方、Ｓ４６５４の処理において、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値が報知演出のタイミングであることを示す値であると判別した場合には（Ｓ４６５４：Ｙｅｓ）、次に、特別図柄の当否判定結果は当たりであるかを判別する（Ｓ４６５５）。当否判定結果が当たりではないと判別した場合（即ち、当否判定結果が外れである場合）には（Ｓ４６５５：Ｎｏ）、回転体役物９０２ｂの停止位置が当たり報知位置（図１０４１（ｂ）に示す、上矢印８０２が指す位置）であるかを判別する（Ｓ４６５６）。当たり報知位置であると判別した場合には（Ｓ４６５６：Ｙｅｓ）、横移動モータ９０２ｂ３に３０ステップを設定し（Ｓ４６５７）、失敗を示す報知態様（図１０４２（ｂ）の表示領域ＨＲの表

示）を表示するための表示用失敗報知コマンドを設定し（Ｓ４６５８）、Ｓ４６５９の処理に移行する。

【１０７８０】

一方、Ｓ４６５６の処理において、回転体役物９０２ｂの停止位置が当たり報知位置ではないと判別した場合には（Ｓ４６５６：Ｎｏ）、Ｓ４６５７の処理をスキップして、Ｓ４６５８の処理を行う。

【１０７８１】

このように構成することで、回転体役物９０２ｂが脱調や故障による不具合によって、外れであるにも拘わらず当たり報知位置に停止してしまった場合であっても、追加の動作データを設定し当たり報知位置から移動させることで、遊技者に対して誤った遊技情報が提供されることを抑制することができる。

【１０７８２】

Ｓ４６５５の処理において、当否判定結果が当たりであると判別した場合には（Ｓ４６５５：Ｙｅｓ）、回転体役物９０２ｂの停止位置は当たり報知位置であるかを判別する（Ｓ４６６１）。回転体役物９０２ｂの停止位置が当たり報知位置であると判別した場合には（Ｓ４６６１：Ｙｅｓ）、表示用図柄移動コマンドを設定する（Ｓ４６６２）。この表示用図柄移動コマンドは、図１０４１（ｂ）に示す中図柄列を半コマ分移動させ、図１０４２（ａ）に示すように当たり報知態様（「海物語」の文字列）を構成する第３図柄（図１０４２（ａ）に示す、中下段図柄Ｚ２ｃ）の全体を表示するためのコマンドである。

【１０７８３】

Ｓ４６６２の処理が終了すると、救済チャンス演出の成功を示す報知態様（図１０４２（ａ）に示す表示領域ＨＲの表示）を表示するための表示用成功報知コマンドを設定し（Ｓ４６６３）、Ｓ４６５９の処理に移行する。

【１０７８４】

一方、Ｓ４６６１の処理において、回転体役物９０２ｂの停止位置が当たり報知位置ではないと判別した場合には（Ｓ４６６１：Ｎｏ）、液晶表示にて失敗を示す報知態様を表示した後に大当たり当選であることを示す報知態様を表示する演出（所謂、復活演出）を表示するための表示用復活報知コマンドを設定し（Ｓ４６６４）、Ｓ４６５９の処理に移行する。

【１０７８５】

このように構成することで、回転体役物９０２ｂが当たり報知位置で停止していないにも拘わらず、救済チャンス演出が成功したことを示す報知態様が表示されるといった違和感のある演出を遊技者に対して実行することを抑制することができる。

【１０７８６】

以上説明したように、本第３５制御例では、遊技盤面の装飾と、装飾用可動役物（ロゴ役物９０２）と、第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄の一部を組み合わせた有効ラインを形成する演出が実行される。これにより、遊技者に対して第３図柄表示装置８１に表示される第３図柄と遊技盤面の装飾の位置関係にも興味を持たせることが可能となり遊技の興趣を向上させることができる。

【１０７８７】

なお、本第３５制御例では、遊技盤面の装飾と、装飾用可動役物と、第３図柄とによって有効ラインを形成する構成としたが、これに限るものではなく、第３図柄に代えて、第３図柄表示装置８１に表示される保留図柄で有効ラインを形成しても良い。

【１０７８８】

ここで、図１０６５を参照して、本第３５制御例の変形例について説明する。第３５制御例の変形例では、装飾用可動役物を用いずに、遊技盤面の装飾と、第３図柄と、保留図柄とによって有効ラインを形成する。図１０６５（ａ）に示すように、救済チャンス演出が開始されると、実行中保留図柄ｈｒ０の表示態様を可変させることを示唆する態様であるキャラクタ８０１が表示され、実行中保留柄ｈｒ０が表示態様可変中であることを示す態様に可変させる。そして、主表示領域Ｄｍの中央上部に表示されるＨＲ１には、「救済

チャンス！保留図柄が「語」に変われば大当たり」という演出成功条件を案内するための案内態様が表示される。

【１０７８９】

そして、所定期間（３秒）が経過すると、図１０６５（ｂ）に示すように、実行中保留図柄ｈｒ０が予め設定されている表示態様に可変して表示される。図１０６５（ｂ）は、演出成功の場合を示した図であり、実行中保留図柄ｈｒ０が「語」保留図柄に可変することで、ロゴ装飾Ｒｇ１と、中中段図柄Ｚ２ｂと、実行中保留図柄ｈｒ０によって縦に「海物語」の文字列が形成され、有効ラインが形成されたことを示すためにロゴ装飾Ｒｇ１に内蔵されたＬＥＤが点滅し、中中段図柄Ｚ２ｂを強調するためのエフェクトがかけられる。

【１０７９０】

このように構成することで、装飾用可動役物を搭載していない遊技機においても遊技盤面の装飾と、第３図柄を組み合わせた演出を実行可能である。

【１０７９１】

なお、本第３５制御例では、大当たり当選であることを報知する態様として、「海物語」の文字列を形成する構成としたが、これに限るものではなく、他の文字列を形成する構成しても良い。

【１０７９２】

＜第３６制御例＞

次に、図１０６６～図１１１４を参照して、第３６制御例におけるパチンコ機１０について説明する。本第３６制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第３５制御例のパチンコ機１０に対して、特別図柄の変動表示中に実行される変動演出の一環として用いられる装飾用可動役物を複数個（３個）搭載し、その複数の装飾用可動役物を用いた新たな変動演出を追加している点で相違している。

【１０７９３】

上述した第３５制御例では、外れを示す態様の第３図柄が表示された後に装飾用可動役物を用いた演出（救済チャンス演出）が実行される構成であった。これに対して、本第３６制御例では、第３図柄が当否判定結果を示す態様で停止表示される前の期間で装飾用可動役物を用いた新たな演出が実行される構成としている。

【１０７９４】

ここで、従来より、特別図柄の当否判定結果を予告するための変動演出の一環として装飾用可動役物を用いた演出を実行するパチンコ機１０が知られている。このようなパチンコ機１０では、装飾用可動役物を用いた予告演出が変動期間の様々なタイミングで実行される。

【１０７９５】

ところで、パチンコ機１０における装飾用可動役物は表示画面の正面視手前側で可動するため、装飾用可動役物の可動中は表示画面の装飾用可動役物と重なる表示領域は遊技者から視認困難となるのが一般的である。

【１０７９６】

従って、装飾用可動役物を用いた演出が実行されるタイミングで、表示画面に遊技情報を提供するための別の演出（例えば、第３図柄のリーチ態様）が表示される場合に、可動中の装飾用可動役物と重なってしまうと遊技者からは視認できず、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示されることを期待している遊技者に対して、複合演出が煩わしい演出となってしまい、演出効果が低下する虞があった。

【１０７９７】

これに対して、本第３６制御例では、複数の装飾用可動役物を用いた複合演出が実行されるタイミングによって、同一の演出結果（図１０９０に示す、「ゲキアツ」という大当たり当選期待度が高いことを報知する態様の形成）を創出するために用いられる要素の種別や、各要素に対する制御内容を異ならせることで、第３図柄の変動演出を邪魔すること無く複合演出を実行可能に構成している。このように構成することで、どのタイミングで

複合演出が実行された場合であっても、遊技者に好適な演出を提供することができる。また、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される変動演出の内容に対応させて同一の演出結果を示す複合演出の演出態様を異ならせることができるため、様々なタイミングで複合演出を実行させることが可能となり、演出効果を高めることができる。

【１０７９８】

この第３６制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第３５制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、装飾用可動役物を複数搭載している点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第３５制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第３５制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【１０７９９】

＜第３６制御例におけるパチンコ機１０の装飾用可動役物について＞

次に、図１０６６～図１０８８を参照して、本第３６制御例におけるパチンコ機１０の装飾用可動役物の構成について説明する。図１０６６は、本第３６制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤面の構成を示した図である。上述した第３５制御例に対して、装飾用可動役物を複数搭載している点と、可変入賞装置６５０、特定入賞口６５ａおよび第２入球口６４０の配置を変更している点で相違している。なお、可変入賞装置６５０の構造については、第３５制御例と同一であるため、その詳細な説明は省略する。

【１０８００】

本第３６制御例におけるパチンコ機１０では、装飾用可動役物として、ロゴ役物９０２、「ア」役物９０３、シャッター役物９０４の３つの装飾用可動役物が搭載されている。図１０６６に示すように、通常、ロゴ役物９０２は第３図柄表示装置８１の上部に収納され、「ア」役物９０３は第３図柄表示装置８１の中央下部に収納され、シャッター役物９０４は第３図柄表示装置８１の左右に収納されている。以下、各装飾用可動役物の詳細な構成について説明する。

【１０８０１】

図１０６７は、ロゴ役物９０２と、「ア」役物９０３の動作ユニットの正面図である。ロゴ役物９０２は、バー役物９０２ａと回転体役物９０２ｂで構成されており、回転体役物９０２ｂの表面には、「キ」という文字が装飾されている。このロゴ役物９０２ｂは、ＬＥＤを内蔵しており、音声ランプ制御装置１１３からのコマンドによって発光させることが可能である。

【１０８０２】

「ア」役物９０３は、その表面に「ア」という文字が装飾された装飾用可動役物である。詳細は後述するが、本第３６制御例では、ロゴ役物９０２と、「ア」役物９０３と、シャッター役物９０４に装飾された「ゲ」文字装飾９０４ａ４（図１０６９参照）と、遊技盤面に装飾された「ツ」文字装飾９０５によって「ゲキアツ」という大当たり当選期待度が高いことを示す文字列を形成する演出が実行される（図１０９０参照）。

【１０８０３】

図１０６８（ａ）は、ロゴ役物９０２の動作ユニットを模式的に示した図である。なお、このロゴ役物９０２の構成は、上述した第３５制御例におけるロゴ役物９０２に対して、表面に施された装飾が異なる点で相違するのみで、その他の構成については同一である。

【１０８０４】

図１０６８（ａ）に示すように、このロゴ役物９０２は、バー役物９０２ａと、回転体役物９０２ｂと、左右上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄによって構成されている。以下、図１０７６～図１０８１を適宜参照しながら、ロゴ役物９０２の構成について説明する。

【１０８０５】
バー役物９０２ａは、左右の両端に上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄを有している。この上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄは左右対称に略同じ形状で構成されている。その為、左上昇機構９０２ｃにおいて、説明した箇所と同一の構成については、右上昇機構９０２ｄの説明を省略する。
【１０８０６】
左上昇機構９０２ｃは、上段ラック９０２ｃ１とブーツ型の下段ラック９０２ｃ２とで構成された２段ラックを有しており、下段ラック９０２ｃの上端部に設けられた連接ギア９０２ｃ８ａ（図１０４０参照）によって上段ラック９０２ｃ１と連接している。この２段ラックは、上駆動カム９０２ｃ３が回転することによって上駆動カム９０２ｃ３に設けられた円柱ピン９０２ｃ３ｐの位置が可変することで高さが可変する。
【１０８０７】
ここで、図１０７６～図１０７７参照して、左上昇機構９０２ｃの詳細な構造について説明する。図１０７６は、上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄの分解正面斜視図であり、図１０７７は、上昇機構９０２ｃおよび９０２ｄの分解背面斜視図である。図１０７６に示すように、左上昇機構９０２ｃには、上駆動用のステッピングモータであるバー役物用モータ９０２ｃ７が設けられている。バー役物用モータ９０２ｃ７には上駆動カム９０２ｃ３と嵌合する上駆動用ギア９０２ｃ４が設けられている。バー役物用モータ９０２ｃ７が作動して、上駆動用ギア９０２ｃ４が回転することにより、上駆動カム９０２ｃ３を回転させる。上駆動カム９０２ｃ３には円柱ピン９０２ｃ３ｐが設けられており、上駆動カム９０３ｃ３が回転することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐの位置が可変する。
【１０８０８】
この円柱ピン９０２ｃ３ｐは、正面視手前側に突出しており、バー役物９０２ａが収納位置にある場合、下段ラック９０２ｃ２の底部は円柱ピン９０２ｃ３ｐに下から支えられた状態となっている。そして、円柱ピン９０２ｃ３ｐが図１０３２（ａ）の位置から時計回り（右上昇機構９０２ｄの場合は反時計回り）に移動することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐは下段ラック９０２ｃ２の底部から外れ、下段ラック９０２ｃ２は円柱ピン９０２ｃ３ｐの支えを失う。なお、バー役物９０２ａはストッパー９０２ｃ５（図１０７７参照）によって支えられており、ストッパー９０２ｃ５がロック状態である場合には、下段ラック９０２ｃ２が円柱ピン９０２ｃ３ｐの支えを失ってもバー役物９０２ａは落下しない。
【１０８０９】
このストッパー９０２ｃ５は、バー役物用モータ９０２ｃ７が所定のステップ数（本第３５制御例では２５ステップ）回転することで上駆動カム９０２ｃ３に連接しているアーム部材９０２ｃ６をスライドさせ、アーム部材９０２ｃ６に連接しているリンク部材９０２ｃ５Ｌを上下させることでロック状態と解除状態とに可変する。ストッパー９０２ｃ５が解除状態となり、円柱ピン９０２ｃ３ｐが下段ラック９０２ｃ２の下部に入り込んでいない状態である場合には、下段ラック９０２ｃ２は自重で落下する。このとき、下段ラック９０２ｃ２と上段ラック９０２ｃ１を連接する連接ギア９０２ｃ８ａは上昇機構９０２ｃの支柱部分に設けられている下突出片９０２ｃ８ｃと嵌合して反時計回りに回転する。この連接ギア９０２ｃ８ａは、上段ラック９０２ｃ１に設けられた上突出片９０２ｃ８ｂ（図１０７７参照）とも嵌合しており、連接ギア９０２ｃ８ａが反時計回りに回転することで、上段ラック９０２ｃ１を下降させる。これにより、バー役物９０２ａは下降限まで落下する。
【１０８１０】
なお、右上昇機構９０２ｄにのみ、図１０３２（ａ）に示す、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９が設けられている。この右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＮである場合には、正面視奥側に向かって弁が突出し、自重で落下するバー役物９０２ａを図１０３３（ａ）に示す位置で停止させることが可能となる。一方、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がＯＦＦとなった場合には、弁が引っ込みバー役物９０２ａは下降限まで落下する。
【１０８１１】

ここで、本第３５制御例では、バー役物９０２ａの落下パターンとして、２種類の落下パターンを設定可能に構成している。まず、１つ目の落下パターンは、左ストッパー９０２ｃ５をロック状態のままで右ストッパー９０２ｄ５のみを解除状態とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＮとする右中間片落ち状態（図１０３３（ａ）参照）とした後、右中間片落ち状態から左ストッパー９０２ｃ５を解除状態とし、バー役物９０２ａの左端を下降限まで落下させた状態である左片落ち状態（図１０３３（ｂ）参照）とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＦＦとしてバー役物９０２ａの右端も下降限（図１０３２（ｂ）に示す位置）まで落下させる第１落下パターンである。

【１０８１２】

２つ目の落下パターンは、左右のストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５を同時に解除状態とし、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９をＯＦＦとすることでバー役物９０２ａが自重で一気に下降限まで落下する第２落下パターンである。

【１０８１３】

このように、バー役物９０２ａを自重で落下させる構造であっても、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９と左右のストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５の解除時期を可変させることで多様な落下パターンを設定可能にしている。

【１０８１４】

図１０７６に戻り説明を続ける。バー役物９０２ａが下降限にある場合（図１０７０に示す状態である場合）、上駆動カム９０２ｃ３が時計回り（右上昇機構９０２ｄでは、反時計回り）に回転することで、円柱ピン９０２ｃ３ｐが図１０３２（ｂ）に示す位置から時計回りに移動し、下段ラック９０２ｃ２の底部に入り込み、下段ラック９０２ｃ２を押し上げる。円柱ピン９０２ｃ３ｐによって下段ラック９０２ｃ２が押し上げられると、連接ギア９０２ｃ８ａ（図１０７７参照）が上昇機構９０２ｃの支柱部分に設けられている下突出片９０２ｃ８ｃ（図１０７７参照）と嵌合し、連接ギア９０２ｃ８ａが時計回りに回転する。この連接ギア９０２ｃ８ａは、上段ラック９０２ｃ１に設けられた上突出片９０２ｃ８ｂ（図１０７７参照）とも嵌合しており、連接ギア９０２ｃ８ａが時計回りに回転することで、上段ラック９０２ｃ１を上昇させる。

【１０８１５】

このように、上段ラック９０２ｃ１と下段ラック９０２ｃ２の２段ラックとすることで、上駆動カム９０２ｃ３の直径よりも長いストロークの上下駆動が可能となるため、上駆動カム９０２ｃ３を軽量化することができ、駆動するためのステッピングモータの出力を抑えて駆動させることができる。よって、パチンコ機１０の消費電力を抑えることができる。

【１０８１６】

次に、図１０８０～図１０８１を参照して、回転体役物９０２ｂの構造について説明する。図１０８０は、回転体役物９０２ｂとバー役物９０２ａの分解正面斜視図であり、図１０８１は、回転体役物９０２ｂとバー役物９０２ａの分解背面斜視図である。回転体９０２ｂ１は、表面に装飾が施された部材であり、本第３５制御例では、パチンコ機１０の題材に関連する「物」という文字が装飾されている（図１０７０参照）。この回転体９０２ｂ１の裏側には、回転駆動用のステッピングモータである回転体モータ９０２ｂ２と、ローラースライダー９０２ｂ６が設けられている（図１０７９参照）。音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて回転体モータ９０２ｂ２が駆動すると、回転ギア９０２ｂ７が回転し、回転ギア９０２ｂ７の回転により回転体９０２ｂ１を回転させる。

【１０８１７】

回転体モータ－９０２ｂ２は、音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて時計回り、或いは反時計回りに回転可能であり、回転体モータ９０２ｂ２の回転方向に対応して回転体９０２ｂ１の回転方向が可変する。

【１０８１８】

また、回転体モータ９０２ｂ２の回転速度は音声ランプ制御装置１１３によって設定さ

れた動作データに基づいて４段階で設定可能であり、回転体モータ９０２ｂ２の回転スピードに対応して回転体９０２ｂ１の回転スピードも可変する。

【１０８１９】

図１０７８に示すように、回転体役物９０２ｂに設けられているローラースライダー９０２ｂ６は、ボールねじ９０２ｂ５を挿通可能に構成されている。このボールねじ９０２ｂ５には、正面視左端に横駆動ギア９０２ｂ４と、横駆動用のステッピングモータである横移動モータ９０２ｂ３が設けられており、横移動モータ９０２ｂ３が駆動することで、横駆動ギアが回転し、ボールねじ９０２ｂ５が回転する。ボールねじ９０２ｂ５が回転すると、ローラースライダー９０２ｂ６が左右に移動する。これにより、回転体役物９０２ｂを左右に移動させることができる。

【１０８２０】

ここで、図１０９０（ａ）を参照して、回転体役物９０２ｂの左右可動域について説明する。回転体役物９０２ｂは、バー役物９０２ａの正面視手前側を左可動域限Ｐｔ２から右可動域限Ｐｔ３の範囲内で左右に移動することができる。また、左右可動域限Ｐｔ２，Ｐｔ３の中間には基準位置Ｐｔ１が設定されており、バー役物９０２ａが収納位置となる場合には、基準位置Ｐｔ１で停止する。

【１０８２１】

横移動モーター９０２ｂ３は、音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて時計回り、或いは反時計回りに回転可能であり、横移動モータ９０２ｂ３が時計回りに回転すると、回転体役物９０２ｂは正面視右方向に移動し、反時計回りに回転すると、回転体役物９０２ｂは正面視左方向に移動する。

【１０８２２】

なお、バー役物９０２ａには基準位置Ｐｔ１、左可動域限Ｐｔ２、右可動域限Ｐｔ３に対応する位置に図示しないセンサが設けられており、回転体役物９０２ｂの左右の位置を検出可能に構成している。

【１０８２３】

また、横移動モータ９０２ｂ３の回転速度は音声ランプ制御装置１１３によって設定された動作データに基づいて４段階で設定可能であり、横移動モータ９０２ｂ３の回転スピードに対応して回転体役物９０２ｂの移動スピードも可変する。

【１０８２４】

図１０６８（ｂ）に戻り、説明を続ける。図１０６８（ｂ）は、「ア」役物９０３の動作ユニットを模式的に示した図であり、「ア」役物９０３が上昇限まで上昇した状態を示している。以下、「ア」役物の詳細な構造について、図１０８２～図１０８５を適宜参照しながら説明する。

【１０８２５】

図１０８２、図１０８４は、「ア」役物９０３の分解正面斜視図であり、図１０８３、図１０８５は、「ア」役物９０３の分解背面斜視図である。図１０８２に示すように、「ア」役物９０３は、上昇役物９０３ａと上昇レール９０３ｂで構成されている。

【１０８２６】

図１０８４に示すように、上昇役物９０３ａには、上下駆動用のステッピングモータであるア役物用モータ９０３ａ３が設けられている。このア役物用モータ９０３ａ３には、アーム部材が付属するギア９０３ａ２が連接しており、ア役物用モータ９０３ａ３が時計回りに駆動することでアーム部材が上昇し、反時計回りに駆動することで下降する。このアーム部材が上下することにより、上昇役物９０３ａの高さが可変する。

【１０８２７】

図１０６９は、シャッター役物９０４の動作ユニットを模式的に示した図であり、シャッター役物９０４が閉鎖状態である場合を示している。図１０６９に示すように、シャッター役物９０４は、閉鎖状態となることにより左第１シャッター扉９０４ａ１と左シャッター扉９０４ａ２に跨がって装飾された「ゲ」文字装飾９０４ａ４が形成される。以下、シャッター役物９０４の詳細な構造について、図１０８６～図１０８７を適宜参照しなが

ら説明する。
【１０８２８】
図１０８６は、シャッター役物９０４が開放状態である場合の動作ユニットを示した正面斜視図である。開放状態におけるシャッター役物９０４は、左右にそれぞれ３枚づつ設けられたシャッター扉９０４ａ１～９０４ａ３、９０４ｂ１～９０４ｂ３が重なった状態で格納される。シャッター扉の上部には、シャッター扉の開閉駆動用のステッピングモータであるシャッター役物用モータを備えたレール機構９０４ｃが設けられている。
【１０８２９】
レール機構９０４ｃには、左シャッター扉９０４ａ１～９０４ａ３の開閉駆動を行う左シャッター役物用モータ９０４ｃ１と、右シャッター扉９０４ｂ１～９０４ｂ３の開閉駆動を行う右シャッター役物用モータ９０４ｃ５が設けられており、それぞれのシャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５が時計回りに駆動することで、シャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５にそれぞれ連接するスライドギア９０４ｃ４ａおよび９０４ｃ４ｂが閉鎖方向にスライドする。そして、スライドギア９０４ｃ４ａおよび９０４ｃ４ｂにそれぞれ連接するシャッタギア９０４ｃ３ａおよび９０４ｃ３ｂも連動してスライドすることで、シャッタギア９０４ｃ３ａに連接する左第３シャッター扉９０４ａ３と、シャッタギア９０４ｃ３ｂに連接する右第３シャッター扉９０４ｂ３が閉鎖方向にスライドする。左シャッター扉９０４ａ１～９０４ａ３は連接部材によって繋がっており、右シャッター扉９０４ｂ１～９０４ｂ３も連接部材によって繋がっている。このため、左右の第３シャッター扉９０４ａ３および９０４ｂ３がそれぞれ閉鎖方向にスライドすることで、シャッター扉９０４ａ１、９０４ａ２、９０４ｂ１、９０４ｂ２も連動してスライドする構成となっている。なお、左右のシャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５を反時計回りに駆動することでシャッター役物９０４を開放状態とすることができる。
【１０８３０】
図１０７０は、ロゴ役物９０２が下降限の位置にある状態を示した図であり、図１０７１は、ロゴ役物９０２が右中間片落ち状態である場合を示した図であり、図１０７２は、ロゴ役物９０２が右中間片落ち状態かつ左方落ち状態である場合を示した図である。また、図１０７３は、「ア」役物９０３が上昇限まで上昇した状態を示した図である。
【１０８３１】
図１０７４は、シャッター役物９０４が閉鎖状態である場合を示した図である。図１０７４に示すように、シャッター役物９０４は、複数のシャッター扉９０４ａ１～９０４ａ３、９０４ｂ１～９０４ｂ３で構成されている。シャッター役物９０４が閉鎖状態になると、第３図柄表示装置８１の表示領域全体を覆い隠すため、遊技者からは表示領域に表示されている演出を視認できない状態となる。
【１０８３２】
図１０７５は、全ての装飾用可動役物が可動状態ある場合を示した図である。図１０７５に示すように、全ての装飾用可動役物が可動し、所定位置にて停止することで遊技盤面の「ツ」文字装飾９０５と組み合わさって「ゲキアツ」という文字列が形成される。
【１０８３３】
＜第３６制御例における演出内容について＞
次に、図１０８９～図１０９６を参照して、本第３６制御例において実行される特徴的な演出内容について説明する。本第３６制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり当選期待度が高いことを示唆する演出として、全ての装飾用可動役物を用いて「ゲキアツ」という文字列を形成する複合演出（文字演出）を実行する。本第３６制御例では、この複合演出が特別図柄の変動表示期間の様々なタイミングで実行される構成としている。具体的には、設定された変動パターン毎に実行タイミングが規定されており、特別図柄のリーチ前演出期間に実行される場合と、リーチ演出期間に実行される場合とがある。
【１０８３４】
このように変動パターンによって複合演出の実行タイミングを異ならせることにより、

遊技者が複合演出の実行タイミングを予測し難くなるため、特別図柄の変動時間が終了するまで複合演出の実行を期待させることが可能となる。

【１０８３５】

まず、図１０８９～図１０９０（ａ）、および図１０９４を参照して、通常パターンの複合演出について説明する。通常パターンの複合演出は、特別図柄の変動表示期間のうち、リーチ前演出期間に実行される複合演出のパターンである。リーチ前演出期間とは、第３図柄表示装置８１において第３図柄の変動表示が開始されてから第３図柄がリーチ態様となるまでの期間であり、複合演出の他にも当否判定結果を予告するための様々な予告演出が実行される。通常パターンの複合演出では、全ての装飾用可動役物を用いて「ゲキアツ」という文字列を形成する。

【１０８３６】

ここで、図１０９４を参照して、通常パターンの複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の関係について説明する。図１０９４は、通常パターンの複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の状態を示したタイミングチャートである。

【１０８３７】

図１０９４では、特別図柄の変動パターン種別として「スーパーリーチ（変動時間８０ｓ）」が設定されている場合を例にして説明する。図１０９４に示すように、「スーパーリーチ」の変動パターンでは、リーチ前演出期間が４０秒、リーチ演出期間が４０秒となっている。特別図柄の変動表示が開始されると、第３図柄表示装置８１では、当否判定結果を予告するための予告演出を含む液晶演出が２０秒間実行される。この期間は、各装飾用可動役物が格納状態であるため、遊技者は第３図柄表示装置８１の表示領域に表示される演出を視認可能である。

【１０８３８】

特別図柄の変動開始から２０秒経過すると、２０秒間の複合演出が開始される。詳細は後述するが、本第３６制御例では、複合演出の開始タイミングでリーチ演出期間であるか否かを判別し、その判別結果に応じて装飾用可動役物の動作シナリオを設定する構成としている（図１１１１参照）。図１０９４に示す例では、リーチ前演出期間であるため、通常パターンの動作シナリオが設定される。通常パターンの動作シナリオでは、複合演出が開始されるとロゴ役物９０２が下降限まで落下し、回転体役物９０２ｂが回転しながら右可動域限Ｐｔ３に移動する。図１０８９（ａ）は、複合演出開始から３秒経過した時点における第３図柄表示装置８１の表示状態と、各装飾用可動役物の状態を簡略的に示した図である。

【１０８３９】

図１０８９（ａ）に示すように、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍにおける各図柄列Ｚ１～Ｚ３では第３図柄が変動表示されており、主表示領域Ｄｍの中段部分は、ロゴ役物９０２が手前側に位置しているため、遊技者からは視認できない状態となっている。回転体役物９０２ｂは、基準位置Ｐｔ１から右可動域限Ｐｔ３へと移動した状態である。回転体役物９０２ｂは、この後、反時計回りに回転しながら左可動域限Ｐｔ２に向かって移動を開始する。なお、この時点では、「ア」役物９０３と、シャッター役物９０４はそれぞれ格納状態となっている。

【１０８４０】

図１０９４に戻り、説明を続ける。複合演出の開始から５秒経過すると、シャッター役物９０４が閉鎖状態となる。図１０８９（ｂ）は、複合演出開始から５秒経過した地点における第３図柄表示装置８１の表示状態と、各装飾用可動役物の状態を簡略的に示した図である。シャッター役物９０４が閉鎖状態となり「ゲ」文字装飾９０４ａ４が形成された状態となっている。なお、シャッター役物９０４の「ゲ」文字装飾９０４ａ４が装飾された部分は、背面を透過する部材で構成されており、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍにおいてエフェクトを表示させることで、「ゲ」文字装飾９０４ａ４の部分が発光しているように見せることができる。本第３６制御例では、それぞれの装飾用役物が複合演出

における最終停止位置に位置したことを示すための態様として、最終停止位置となった装飾用可動役物を発光させる構成としている。

【１０８４１】

なお、回転体役物９０２ｂは、右可動域限Ｐｔ３から左可動域限Ｐｔ２に向かって移動をしている途中である。

【１０８４２】

図１０９４に戻り、説明を続ける。複合演出開始から７秒が経過すると、「ア」役物９０３が上昇状態となる。図１０９０（ａ）は、複合演出開始から７秒が経過した時点における第３図柄表示装置８１の表示状態と、各装飾用可動役物の状態を簡略的に示した図である。回転体役物９０２ｂが最終停止位置である左可動域限Ｐｔ２に着いたことに対応して、回転体役物９０２ｂに内蔵されているＬＥＤが発光した状態となっている。また、「ア」役物９０３は最終停止位置である上昇限まで上昇したこと基づいて、「ア」役物９０３に内蔵されたＬＥＤが発光した状態となる。そして、全ての装飾用可動役物が最終停止位置に停止したことに対応して、遊技盤面の「ツ」文字装飾９０５に付属するＬＥＤが発光することで、演出ラインＥＬ１上に「ゲキアツ」の文字列が形成されたことを遊技者は分かり易く認識することができる。

【１０８４３】

図１０９４に戻り、説明を続ける。可動状態となった各装飾用可動役物は、複合演出の演出期間が終了するまでに動作シナリオに規定されたタイミングで格納状態へと戻り、リーチ演出期間の開始時点では、全ての装飾用可動役物が格納状態となる。これにより、第３図柄のリーチ態様が装飾用可動役物によって視認できない状態となることを抑制することができる。

【１０８４４】

次に、図１０９０（ｂ）～図１０９３、図１０９５および図１０９６を参照して、リーチ演出期間に複合演出が実行される場合の例について説明する。まず、リーチ演出期間に実行される複合演出の代替パターン１について説明する。複合演出の代替パターン１は、第３図柄のリーチ態様が表示されているリーチラインが中段ラインＬ２以外である場合に実行される複合演出の代替パターンである。上述したように、シャッター役物９０４が閉鎖状態となることにより、遊技者が第３図柄表示装置８１の表示領域に表示されているリーチ態様の第３図柄を視認できない状態となり、遊技者にリーチ演出が終了したかのような誤解を与えかねないので、代替パターン１では、シャッター役物９０４を閉鎖状態とせずに、液晶表示によって、リーチ態様の第３図柄と重ならない位置に「ゲ」文字を表示する。

【１０８４５】

ここで、図１０９５を参照して、代替パターン１の複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の関係について説明する。図１０９５は、通常パターンの複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の状態を示したタイミングチャートである。なお、図１０９４に示した例と同様に、変動パターン種別として「スーパーリーチ」が設定されている場合を例に説明する。

【１０８４６】

特別図柄の変動開始から４０秒間のリーチ前演出期間において液晶演出が実行された後、第３図柄が有効ライン上にリーチ態様で停止する。図１０９５に示す例では、リーチ演出期間の開始と同時に複合演出の開始タイミングとなる。ここで、リーチ演出期間中であると判別した場合には、第３図柄のリーチ態様が表示されている有効ラインは中段ラインＬ２（図１０９２（ａ）参照）であるか否かを判別し、中段ラインＬ２ではないと判別した場合には、代替パターン１の動作シナリオが設定される。

【１０８４７】

図１０９０（ｂ）は、代替パターン１の複合演出開始から３秒経過した時点における第３図柄表示装置８１の表示状態と、各装飾用可動役物の状態を簡略的に示した図である。

図１０８９（ａ）に示した例とは異なり、左図柄列Ｚ１および右図柄列Ｚ３において第３図柄が停止表示され、中図柄列Ｚ２が変動表示中となっている。また、左上がりラインＬ５上には、同一の数字が付された第３図柄が停止表示され、リーチ態様となっており、主表示領域Ｄｍの中央上部に形成された表示領域ＨＲ１には、リーチ態様であることを報知する案内態様が表示されている。なお、図１０９０（ｂ）に示すように、中段ラインＬ２上に表示されている左中段図柄ｚ１ｂと、右中段図柄ｚ３ｂは、ロゴ役物９０２の背面側に位置しているため、遊技者からは視認できない状態となる。

【１０８４８】

そして、代替パターン１の複合演出の開始から５秒が経過すると、通常パターンの複合演出とは異なり、シャッター役物９０４が閉鎖状態とならず、主表示領域Ｄｍの上段ラインＬ１と中図柄Ｚ２の交点に「ゲ」文字表示８１０が表示される。また、回転体役物９０２ｂは基準位置Ｐｔ１において停止する。これは、回転体役物９０２ｂが左可動域限Ｐｔ２に停止すると、「ツ」文字装飾９０５と回転体役物９０２ｂを結んだラインの延長線上にリーチ態様を構成している左上段図柄ｚ１ａが表示されているため「ゲ」文字表示８１０を表示することができず、「ツ」文字装飾９０５と回転体役物９０２ｂを結んだラインとその延長線上に「ゲキアツ」の文字列を形成できないからである。

【１０８４９】

その後、代替パターン１の複合演出開始から７秒が経過すると、「ア」役物９０３が上昇限まで上昇しない代わりに、主表示領域Ｄｍの第２特殊ラインｔＬ２と下段ラインＬ３の交点に「ア」文字表示８１１が表示される。この「ア」文字表示８１１が主表示領域Ｄｍに表示されると、「ゲ」文字表示８１０が中図柄列Ｚ２と上段ラインＬ１の交点から第１特殊ラインｔＬ１と上段ラインＬ１の交点に移動して表示される。これにより、「ツ」文字装飾９０５と回転体役物９０２ｂを結んだラインとその延長線上に「ゲキアツ」の文字列が形成される。そして、「ゲキアツ」の文字列が形成されると、「ゲキアツ」の文字列を形成している「ゲ」文字表示８１０および「ア」文字表示８１１がエフェクトにより発光し、回転体役物９０２ｂと「ツ」文字装飾９０５にそれぞれ内蔵されているＬＥＤが発光する。これにより、「ゲキアツ」の文字列が形成されていることを遊技者に容易に認識させることが可能となる。

【１０８５０】

次に、図１０９２～図１０９３および図１０９６を参照して、リーチ演出期間に代替パターン２の複合演出が実行される場合の例について説明する。代替パターン２の複合演出は、第３図柄が中段ラインＬ２上でリーチ態様となった場合に実行される。この場合、ロゴ役物９０２を下降限まで落下させると、リーチ態様の第３図柄を覆い隠してしまうため、代替パターン２の複合演出においては、装飾用可動役物を可動させずに液晶表示と「ツ」文字装飾９０５によって「ゲキアツ」文字列を形成する。

【１０８５１】

ここで、図１０９６を参照して、代替パターン２の複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の関係について説明する。図１０９６は、代替パターン２の複合演出が実行される場合の特別図柄変動と第３図柄表示装置８１の演出表示と、各装飾用可動役物の状態を示したタイミングチャートである。

【１０８５２】

図１０９６では、特別図柄の変動パターン種別として「スーパーリーチ（変動時間８０ｓ）」が設定されている場合を例にして説明する。図１０９６に示すように、上述した代替パターン１の複合演出が実行される場合の例とは、複合演出の演出期間中に全ての装飾用可動役物が格納状態のままとなっている点で相違しており、その他は同じである。

【１０８５３】

図１０９２（ａ）は、代替パターン２の複合演出の開始から３秒が経過した時点における第３図柄表示装置８１の表示状態と、各装飾用可動役物の状態を簡略的に示した図である。左図柄列Ｚ１および右図柄列Ｚ３にはそれぞれ第３図柄が停止表示されており、上段

ラインＬ１、中段ラインＬ２、下段ラインＬ３のライン上に第３図柄がリーチ態様で表示されている。また、主表示領域Ｄｍの中央部には、回転体役物９０２ｂの代わりとなる「キ」文字表示８１２が表示される。

【１０８５４】

代替パターン２の複合演出開始から５秒が経過すると、代替パターン１と同様に、シャッター役物９０４が閉鎖状態とならず、主表示領域Ｄｍの上段ラインＬ１と中図柄Ｚ２の交点に「ゲ」文字表示８１０が表示される。

【１０８５５】

その後、代替パターン２の複合演出開始から７秒が経過すると、代替パターン１と同様に、「ア」役物９０３が上昇限まで上昇しない代わりに、主表示領域Ｄｍの第２特殊ラインｔＬ２と下段ラインＬ３の交点に「ア」文字表示８１１が表示される。この「ア」文字表示８１１が主表示領域Ｄｍに表示されると、「ゲ」文字表示８１０が中図柄列Ｚ２と上段ラインＬ１の交点から第１特殊ラインｔＬ１と上段ラインＬ１の交点に移動して表示される。これにより、「ツ」文字装飾９０５と回転体役物９０２ｂを結んだラインとその延長線上に「ゲキアツ」の文字列が形成される。そして、「ゲキアツ」の文字列が形成されると、「ゲキアツ」の文字列を形成している「ゲ」文字表示８１０および「ア」文字表示８１１がエフェクトにより発光し、回転体役物９０２ｂと「ツ」文字装飾９０５にそれぞれ内蔵されているＬＥＤが発光する。これにより、「ゲキアツ」の文字列が形成されていることを遊技者に容易に認識させることが可能となる。

【１０８５６】

このように、本第３６制御例では、複合演出が開始されるタイミングにおいて、第３図柄のリーチ態様が表示されているか否かと、リーチラインの表示位置を判別し、装飾用可動役物の動作シナリオを設定することで、第３図柄のリーチ態様を装飾用可動役物によって遊技者に視認できない状態となることを抑制し、遊技者に対してリーチ演出が終了したかのような誤解を与えないように構成している。

【１０８５７】

なお、本第３６制御例では、第３図柄表示装置８１に第３図柄のリーチ態様が表示されているか否かで動作シナリオを設定する構成としたが、これに限るものではなく、液晶演出として実行される予告演出に優先順位を設け、優先順位の高い予告演出が実行されているか否かによって、装飾用可動役物の動作シナリオを設定する構成としても良い。

【１０８５８】

＜第３６制御例のパチンコ機１０における電気的構成について＞

次に、図１０９７参照して、本第３６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１０９７は、本第３６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。本第３６制御例では、上述した第３５制御例のパチンコ機１０に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点、ア役物９０３用の駆動モータおよびシャッター役物９０４用の駆動モータを追加している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【１０８５９】

本第３６制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、枠ボタン２２、バー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７、回転体モータ９０２ｂ２、横移動モータ９０２ｂ３、ア役物用モータ９０３ａ３、左右シャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５、右途中停止ソレノイド９０２ｄ９がそれぞれ接続されている。

【１０８６０】

次に、図１０９８（ａ）を参照して、本第３６制御例の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図１０９８（ａ）は、本第

３６制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示したブロック図である。上述した第３５制御例の音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２に対して、変動パターン選択４テーブル２２２ｘａに代えて変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃを設け、新たに複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄと、第１代替動作シナリオテーブル２２２ｘｅと、第２代替動作シナリオテーブル２２２ｘｆと、を追加した点で相違している。

【１０８６１】

変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃは、変動パターン選択用のカウンタ値に各変動パターンの種別（外れ、ガセ外れ、リーチ各種等）の変動パターンがそれぞれ設定されている。音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンを選択する。これにより、変動時間や変動パターンの種別等の大まかな情報は厳守しつつ、音声ランプ制御装置１１３が多種多様の変動態様を選択することができる。よって、同じ変動表示態様等が頻繁に表示されることが防止でき、遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できる。

【１０８６２】

なお、本第３６制御例では、実行される特別図柄変動に対応させて第３図柄表示装置８１にて第３図柄が縦スクロールで変動表示される変動演出が実行される。この変動演出では、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別、当否判定結果、取得した選択用のカウンタ値に基づいて、詳細な変動パターンが決定されるため、遊技者は、第３図柄表示装置８１にて実行される変動演出を視認することで今回の特別図柄変動が大当たり当選しているか否かを予測しながら遊技（特図遊技）を行うことができる。

【１０８６３】

複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄは、通常パターンの複合演出が実行される場合における各装飾用可動役物の駆動モータの動作シナリオを設定するためのテーブルである。シナリオカウンタ値に対して各駆動モータの動作データが規定されており、シナリオカウンタ値が規定の値となった場合に所定の動作データが設定される。

【１０８６４】

ここで、図１０９９～図１１００を参照して、変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃの内容について説明する。図１０９９（ａ）は、変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃの構成を模式的に示したブロック図である。図１０９９（ａ）に示した通り、変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃには、通常用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ１と、時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ２と、特殊時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ３と、時短最終変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ４が規定されている。

【１０８６５】

図１０９９（ｂ）は、通常用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ１の内容を模式的に示した図である。通常用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ１は、通常状態（普通図柄の低確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す特図種別と、当否判定結果と、変動パターン種別と、第１演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて表示用変動パターンを設定するものである。なお、図１０９９（ｂ）に示すように、本第３６制御例では、それぞれの表示用変動パターン毎に上述した複合演出の実行有無が規定されている。

【１０８６６】

具体的には、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＡａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。即ち、変動パターン種別が「外れ」である場合には、複合演出が設定されない。

【１０８６７】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別

が「ガセ外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＢａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。即ち、変動パターン種別が「ガセ外れ」である場合には、複合演出が設定されない。

【１０８６８】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」に対して「変動パターンＤａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９９」に対して「変動パターンＥａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」である場合には、１０％の割合で複合演出が設定される。

【１０８６９】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「スーパーリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＦａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＧａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「スーパーリーチ」である場合には、２５％の割合で複合演出が設定される。

【１０８７０】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＨａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＩａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「ノーマルリーチ」である場合には、２５％の割合で複合演出が設定される。

【１０８７１】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「スーパーリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１２９」に対して「変動パターンＪａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１３０～１９９」に対して「変動パターンＫａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「スーパーリーチ」である場合には、３５％の割合で複合演出が設定される。

【１０８７２】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「スペシャルリーチ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＬａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」であり、変動パターン種別が「スペシャルリーチ」である場合には、必ず複合演出が設定される。

【１０８７３】

特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＭａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「小当たり」であり、変動パターン種別が「長小当たり」である場合には、複合演出が設定されない。

【１０８７４】

特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１７９」に対して「変動パターンＮａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１８０～１９９」に対して「変動パターンＰａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「外れ」であり、変動パターン種別が「外れ」である場合には、１０％の割合で複合演出が設定される。

【１０８７５】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「大当たり」または「小当たり」で、変動パターン種別が「当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」に対して「変動パターンＱａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１５０～１９９」に対して「変動パターンＲａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「大当たり」または「小当たり」であり、変動パターン種別が「当たり」である場合には、２５％の割合で複合演出が設定される。
【１０８７６】
図１１００（ａ）は、時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ２の内容を模式的に示した図である。時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ２は、時短状態（普通図柄の高確率状態）において特別図柄の変動表示が実行される場合に参照されるテーブルである。通常用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ１と同様に、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す特図種別と、当否判定結果と、変動パターン種別と、第１演出カウンタＣＳ１の値とに基づいて表示用変動パターンを設定するものである。
【１０８７７】
具体的には、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「超短外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＳａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。
【１０８７８】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「短大当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＴａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。
【１０８７９】
特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１８９」に対して「変動パターンＵａ」と複合演出なしが対応付けて規定され、特図種別が「第１特別図柄（特図１）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「長小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「１９０～１９９」に対して「変動パターンＶａ」と複合演出ありが対応付けて規定されている。即ち、当否判定結果が「小当たり」であり、変動パターン種別が「長小当たり」である場合には、５％の割合で複合演出が設定される。
【１０８８０】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「外れ」、変動パターン種別が「短外れ」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＷａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。
【１０８８１】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「大当たり」、変動パターン種別が「超短大当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＸａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。
【１０８８２】
特図種別が「第２特別図柄（特図２）」、当否判定結果が「小当たり」、変動パターン種別が「超短小当たり」に対する規定内容として、第１演出カウンタＣＳ１の値が「０～１９９」に対して「変動パターンＹａ」と複合演出なしが対応付けて規定されている。
【１０８８３】
このように、時短状態においては、第１特別図柄の変動パターン種別「長小当たり」である場合を除いて複合演出が設定されない構成としている。これは、時短状態では、変動パターン種別が「長小当たり」である場合を除いて変動時間が２秒以下に設定されており

、複合演出の演出時間よりも短いためである。
【１０８８４】
図１１００（ｂ）は、特殊時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ３の内容を模式的に示した図である。特殊時短用変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ３は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別が特殊時短状態において設定される変動パターン種別であった場合に参照されるテーブルである。
【１０８８５】
ここで、本第３６制御例では、上述した第３５制御例と同様に、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された第２特別図柄変動回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件と、時短状態中に実行された第１特別図柄変動回数と、第２特別図柄変動回数との合算回数が１０回に到達した場合に成立する時短終了条件と、を少なくとも有している。
【１０８８６】
つまり、本第３６制御例におけるパチンコ機１０は、第２特別図柄抽選を実行し易くなる時短状態が設定されている間に第２特別図柄抽選を３回実行し、何れかの第２特別図柄抽選において約１／２の確率で当選する当たり（小当たり、大当たり）に当選することで、大当たり遊技を介しながら時短状態を繰り返し、時短状態中に実行される３回の第２特別図柄抽選において当たり当選しなかった場合に、時短状態が終了し、残された特図２保留を用いた第２特別図柄抽選（１回）においても当たり当選しなかった場合に、通常状態へと移行する（連チャン状態が終了する）遊技性を有している。
【１０８８７】
ここで、時短状態を終了させるための時短終了条件として、時短状態中に実行された特別図柄抽選の回数が３回に到達した場合に成立する時短終了条件のみを設定した場合には、第１特別図柄抽選が３回実行された場合にも時短終了条件が成立することとなり、時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選が実行されることなく時短状態が終了してしまうという事態が発生してしまう虞があった。つまり、本第３５制御例では、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を最大で４個獲得可能に構成しており、例えば、特図１保留を４個、特図２保留を０個獲得している状態で時短状態が設定された場合には、第２特別図柄変動よりも先に第１特別図柄変動が実行されることになる。この場合、第２特別図柄抽選が３回実行されるよりも前に、時短終了条件が成立してしまい、本来の遊技性を発揮すること無く時短状態が終了してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１０８８８】
また、時短状態が設定される際に特図１保留を４個獲得している状態であっても、時短状態中に第２特別図柄変動を３回実行させるために、例えば、特別図柄抽選の実行回数が７回に到達した場合に時短終了条件が成立するように構成した場合には、特図１保留を獲得していない状態で時短状態が設定された場合において、第２特別図柄変動を３回よりも多く実行させることが可能となり、本来の遊技性に対して遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうという問題があった。
【１０８８９】
そこで、本第３６制御例では、第２特別図柄変動の実行回数のみに基づいて成立する時短終了条件と、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件と、を設定し、何れかの時短終了条件が成立した場合に時短状態が終了するように構成している。このように構成することで、特図１保留の獲得状況に関わらず、所定回数の第２特別図柄変動を実行させることが可能となると共に、所定回数の第２特別図柄変動が実行された場合に確実に時短状態を終了させることができる。
【１０８９０】
さらに、本第３６制御例では、時短状態中において効率良く第２特別図柄抽選を実行させるために、特図１保留の上限数（４個）に対応する第１特別図柄変動、即ち、時短状態が設定されてから４回目の第１特別図柄変動が実行されるまでは、時短用変動パターンテ

ーブル２０２ｄ２（図３４（ａ）参照）を用いて、短時間（０．５秒）の変動時間が設定されるように構成し、それ以降の第１特別図柄変動に対しては、２０秒の変動時間が設定されるように構成している。つまり、時短状態が設定されたにも関わらず、時短状態における遊技方法を把握していない遊技者が左打ち遊技を行った場合に、時短状態中に実行される第１特別図柄変動の変動時間として常に短時間（０．５秒）の変動時間が設定されてしまうと、新たな第１特別図柄変動が次々と実行されてしまい、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまう虞があった。

【１０８９１】

これに対して、本第３６制御例では、時短状態が設定されてから実行される５回目以降の第１特別図柄変動、即ち、時短状態中において新たに特図１保留を獲得した場合にのみ実行される第１特別図柄変動に対しては、長時間（２０秒）の変動時間を設定するように構成し、１回の第１特別図柄変動が終了するまでに要する期間を長くすることで、遊技者に対して時短状態中における遊技方法を把握させるための期間を確保することで、第１特別図柄変動と、第２特別図柄変動との合算回数に基づいて成立する時短終了条件が成立してしまうことを抑制するように構成している。

【１０８９２】

さらに、特殊時短状態（時短状態中に第１特別図柄変動が５回以上実行された状態）では、その第１特別図柄変動の変動演出として、右打ち遊技によって第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得することを促す演出態様を含む変動演出が実行されるように構成している。このように構成することで、時短状態中に実行すべき遊技方法を把握していない遊技者に対して、正しい遊技方法をより分かり易く把握させることができる。

【１０８９３】

図１１００（ｃ）は、時短最終変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ４の内容を模式的に示した図である。時短最終変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃ４は、主制御装置１１０より受信した変動パターンコマンドが示す変動パターン種別が時短最終変動において設定される変動パターン種別であった場合に参照されるテーブルである。

【１０８９４】

本第３６制御例では、上述した第３５制御例と同様に、時短最終変動となる第２特別図柄変動の変動期間中には、時短状態中に実行されるカウントダウン演出の最終結果（数字アイコン８０８の「０」表示）を表示した後、時短状態が終了するまでの間に特図２保留の獲得を促すためのチャージ演出（図１８（ａ）参照）が実行されるように構成している。よって、時短状態が設定されてから１回目、又は２回目の第２特別図柄変動よりも３回目（最終）の第２特別図柄変動の方が、チャージ演出の演出期間を確保するために長い変動時間が設定されるように構成している。

【１０８９５】

このように構成することで、特図２保留を獲得した状態で時短状態を終了させ易くすることができる。また、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選する場合であっても、１回目、或いは２回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合と、３回目の第２特別図柄抽選で当り当選する場合とで、時間効率（時短状態の単位時間当たりに実行される第２特別図柄抽選回数）を大きく異ならせることができるため、遊技者に対して、時短状態中に第２特別図柄抽選で当り当選するか否かだけで無く、時短状態中における何回目の第２特別図柄抽選で当り当選するかについても興味を持たせることができる。

【１０８９６】

次に、図１１０１～図１１０２を参照して、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄの内容について説明する。図１１０１（ａ）は、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄのうち、バー役物９０２ａの上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０１（ａ）に示すように、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対して、左バー役物用モータ９０２ｃ７、右バー役物用モータ９０２ｄ７および右途中停止ソレノイド９０２ｄ９の動作データ（動作内容）が規定されていると共に、その段階におけるバ

ー役物９０２ａの位置（状態）と左右のバー役物ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５の状態が示されている。

【１０８９７】

なお、シナリオカウンタ２２３ｘｈは、音声ランプ制御装置１１３のＲＡＭ２２３に設けられたカウンタであり、予め規定されたタイミングでロゴ役物９０２の各駆動モータの動作データを設定するために用いられる。このシナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は、後述する液晶演出実行管理処理５（図１１１０参照）の第１動作処理（Ｓ３１６１）、第２動作処理（Ｓ３１６３）、役物可動中処理（Ｓ３１６５）において１加算される。この液晶演出実行管理処理５は、音声ランプ制御装置１１３のメイン処理において１ｍｓ毎に実行される処理である（図１１０７参照）。従って、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は１ｍｓ毎に１加算される。

【１０８９８】

本第３６制御例では、表示用変動パターンに予め設定された複合演出の開始タイミングとなった場合に音声ランプ制御装置１１３によりシナリオカウンタ２２３ｘｈのカウントが開始され、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が動作シナリオに規定された値となった場合に、対応する動作データが設定される。

【１０８９９】

図１１０１（ａ）に示すように、シナリオカウンタ値は、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値を示しており、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値は、液晶演出実行管理処理５（図１１１０参照）の第１動作処理（Ｓ３１６１）、第２動作処理（Ｓ３１６３）、役物可動中処理（Ｓ３１６５）において１加算される。

【１０９００】

左バー役物用モータ動作データおよび右バー役物用モータ動作データのステップ数は、左バー役物用モータ９０２ｃ７および右バー役物用モータ９０２ｄ７の回転ステップ数を示し、スピードは、左バー役物用モータ９０２ｃ７および右バー役物用モータ９０２ｄ７のステッピングモータを動作させるスピードが規定されている。

【１０９０１】

なお、ステップ数の「＋（正方向）」と「－（逆方向）」はモータを回転させる方向を示しており、正方向は、ステップカウンタを加算して更新する方向にモータを回転させ、逆方向は、ステップカウンタを減算して更新する方向にモータを回転させる。本第３５制御例における左バー役物用モータ９０２ｃ７は、正方向が設定されると時計回り、逆方向が設定されると反時計回りに回転する。右バー役物用モータ９０２ｄ７は、正方向が設定されると反時計回り、逆方向が設定されると時計回りに回転する。

【１０９０２】

また、本第３６制御例では、スピードが１である場合には、１ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（高速）となり、スピードが２である場合には、２ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（中速）となり、スピードが３である場合には、３ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（中低速）となり、スピードが４である場合には、４ｍｓ毎にステッピングモータが励磁されるスピード（低速）となっている。つまり、スピード１が最も早い速度で設定されることとなり、スピード２は、スピード１の１／２のスピード、スピード３は、スピード１の１／３のスピード、スピード４は、スピード１の１／４のスピードとなっている。

【１０９０３】

また、バー役物位置は、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対応する動作データを設定する時点におけるバー役物９０２ａの位置（状態）を示している。

【１０９０４】

表示用変動パターンに設定されている複合演出の開始タイミングとなると、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウントが開始される。そして、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１」になると、左右のバー役物用モータ動作データとしてステップ数＋２５とスピード２が設定される。これにより、左バー役物用モータ９０２ｃ７は時計回りに、右バー役物

用モータ９０２ｄ７は反時計回りに、ステップカウンタ値２５になるまでスピード４の速さで回転を開始する。本第３６制御例では、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７のステッピングモータは、１００ステップで１周する構成であり、ステップカウンタの値が０の位置（原点位置）を収納位置、ステップカウンタの値が２５の位置で左右のバー役物用ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となり、バー役物９０２ａが下降限まで落下するように構成している。なお、本第３６制御例では、ステップカウンタ０から２５までスピード２で駆動するのに要する時間は２５０ｍｓで設定している。

【１０９０５】

そして、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「２５０」になると、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７がステップカウンタ値２５の位置まで回転した状態となり、左右のバー役物ストッパー９０２ｃ５および９０２ｄ５が解除状態（ＯＦＦ状態）となるため、バー役物９０２ａが下降限まで自重落下する。

【１０９０６】

その後、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が「１９２５０」になると、左バー役物用モータ動作データおよび右バー役物用モータ動作データとしてステップ数＋７５とスピード２が設定される。なお、この時点で左右バー役物用モータの各ステップカウンタ値は２５であるため、この動作データにより、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７は各ステップカウンタ値が１００になるまで逆方向にスピード２で回転する。本第３６制御例では、ステップカウンタ値６０の位置で円柱ピン９０２ｃ３ｐおよび９０２ｄ３ｐがそれぞれ下段ラック９０２ｃ２および９０２ｄ２の押し上げを開始し、ステップカウンタ値１００の位置でバー役物９０２ａは収納位置となる。

【１０９０７】

従って、シナリオカウンタ値１９２５０に対応する動作データが設定されてから７５０ｍｓ経過後、即ち、シナリオカウンタ値２００００の時点でバー役物９０２ａは収納位置となる。なお、シナリオカウンタ値「２００００」は複合演出動作シナリオの終了時期であるため、ＥＮＤデータが規定されている。このＥＮＤデータが規定されていることにより、動作シナリオの終了タイミングか否かを容易に判断することができる。

【１０９０８】

図１１０１（ｂ）は、ロゴ役物９０２の複合演出動作シナリオのうち、回転体役物９０２ｂの左右駆動および回転駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０１（ｂ）に示す通り、バー役物９０２ａ上下駆動用の動作シナリオと同様に、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対して、横移動モータ９０２ｂ３の動作データと、回転体モータ９０２ｂ２の動作データが規定されている。回転体役物の位置と向きは、シナリオ通りに動作した場合の回転体役物９０２ｂの位置と向き（状態）を示している。また、原点センサデータは、ＯＮに設定されている場合には、回転体役物９０２ｂに設けられている回転体モータ用の原点センサ（図示しない）がオンとなるまで動作するように設定されていることを示している。

【１０９０９】

複合演出動作シナリオでは、シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値２５０に対して、横移動モータ９０２ｂ３の動作データとしてステップ数＋１００とスピード４が設定される。本第３６制御例における横移動モータ９０２ｂ３は総ステップ数２００のステッピングモータであり、ステップ数１００の位置が基準停止位置Ｐｔ１（図１０８９（ｂ）参照）となるように構成しており、ステップ数０で左可動域限Ｐｔ２、ステップ数２００で右可動域限Ｐｔ３の位置となる。従って、この場合は、回転体役物９０２ｂが右可動域限Ｐｔ３に向かってスピード４で移動を開始する。

【１０９１０】

また、回転体モータ動作データとして、スピード３と「＋回転」が設定される。この「＋回転」とは、次の動作データが設定されるまで正方向に回転し続ける動作データである。従って、この場合、回転体役物９０２ｂが正方向にスピード３で回転し続ける動作を開

始する。
【１０９１１】
シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値２２５０では、回転体役物９０２ｂの動作データとして「＋回転」とスピード３が設定され、回転体モータ原点センサデータがオンに設定される。これにより、回転体役物９０２ｂは原点位置（正転状態）となるまで正方向に回転し、原点位置（正転状態）となったところで回転を停止する。なお、この時点で横移動モータ９０２ｂ３が正方向に１００ステップの駆動を終了した状態（即ち、ステップカウンタ値は２００の状態）であるため、回転体役物９０２ｂの位置は、右可動域限Ｐｔ３（図１０８９（ａ）参照）となる。
【１０９１２】
シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値４０００では、横移動モータ９０２ｂ３の動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定され、回転体モータ９０２ｂ２の動作データとして「－回転」とスピード３が設定される。これにより、回転体役物９０２ｂは、基準位置Ｐｔ１（図１０８９（ｂ）参照）までスピード２での移動を開始する。
【１０９１３】
シナリオカウンタ２２３ｘｈのカウンタ値５０００では、横移動モータ９０２ｂ３の動作データとしてステップ数－１００とスピード２が設定され、回転体モータ９０２ｂ２の動作データとして「－回転」とスピード３が設定される。また、回転体モータ原点センサデータがオンに設定される。これにより、回転体役物９０２ｂは、左可動域限Ｐｔ２（図１０８９（ａ）参照）までスピード２での移動を開始し、回転体役物９０２ｂが原点位置となった場合に回転体モータ９０２ｂの回転は停止する。
【１０９１４】
シナリオカウンタ値６０００では、回転体モータ９０２ｂ２の動作データとして回転停止が設定される。なお、この時点で回転体役物９０２ｂの位置は、左可動域限Ｐｔ２（図１０９０（ａ）参照）である。なお、このシナリオカウンタ値６０００は、通常パターンの複合演出において、回転体役物９０２ｂが最終停止位置となるタイミングである。
【１０９１５】
その後、シナリオカウンタ値１８２５０になると基準位置Ｐｔ１に戻るための動作データが設定され、バー役物９０２ａが収納位置となるまでに回転体役物９０２ｂは基準位置Ｐｔ１において正転状態で停止する。
【１０９１６】
次に、図１１０２（ａ）を参照して、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄのうち、「ア」役物９０３の上下駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１１０２（ａ）は、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄのうち、「ア」役物９０３の上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０２（ａ）に示す通り、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対して、ア役物用モータ動作データが規定されている。ア役物位置は、シナリオ通りに動作した場合のア役物９０３の位置を示している。
【１０９１７】
シナリオカウンタ値が６５００になると、ア役物用モータ動作データとして＋１００とスピード１が設定される。これにより、ア役物９０３は収納位置から上昇し、５００ｍｓ経過後、即ち、シナリオカウンタ値が７０００となる時点で上昇限まで移動する（図１０９０（ａ）参照）。その後、シナリオカウンタ値１８２５０になると収納位置へと戻るための動作データが設定され、複合演出の演出時間が終了するまでにア役物９０３は収納状態となる。
【１０９１８】
次に、図１１０２（ｂ）を参照して、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄのうち、左右のシャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５の左右駆動に関連する動作シナリオの内容を説明する。図１１０２（ｂ）は、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄのうち、シャッター役物用モータ９０４ｃ１および９０４ｃ５の左右駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０２（ｂ）に示す通り、シナリオ

カウンタ２２３ｘｈの値に対して、左右のシャッター役物用モータ動作データが規定されている。シャッター役物位置は、シナリオ通りに動作した場合のシャッター役物９０４の開閉状態を示している。

【１０９１９】

シナリオカウンタ値４５００になると、左右のシャッター役物用動作データとして、シャッター役物９０４を閉鎖状態とするための動作データが設定され、シナリオカウンタ値１８７５０になると、シャッター役物９０４を開放状態とするための動作データが設定され、シナリオカウンタ値１９７５０となる時点でシャッター役物９０４は開放状態となる。

【１０９２０】

次に、図１１０３～図１１０４を参照して、第１代替動作シナリオ２２３ｘｅの内容について説明する。この第１代替動作シナリオ２２３ｘｅは、代替パターン１の複合演出が実行される場合に設定される動作シナリオである。

【１０９２１】

図１１０３（ａ）は、第１代替動作シナリオテーブル２２２ｘｅのうち、左右のバー役物用モータ９０２ｃ７および９０２ｄ７の上下駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０３（ａ）に示すように、第１代替動作シナリオ２２３ｘｅのバー役物９０２ａの動作シナリオは、上述した通常パターンの複合演出動作シナリオと同一である。

【１０９２２】

図１１０３（ｂ）は、第１代替動作シナリオテーブル２２２ｘｅのうち、回転体役物９０２ｂの左右駆動および回転駆動に関連する動作シナリオの内容を模式的に示した図である。図１１０３（ｂ）に示すように、第１代替動作シナリオ２２３ｘｅの回転体役物９０２ｂの動作シナリオは、上述した通常パターンの複合演出動作シナリオとは、シナリオカウンタ値５０００までは同一である。シナリオカウンタ値５０００になると、回転体モータ動作データとして「－回転」とスピード３が設定され、回転体モータ原点センサデータがオンに設定される。一方、横移動モータ動作データは設定されない。これにより、回転体役物９０２ｂは、基準位置Ｐｔ１において原点位置（正転状態）となるまで反時計回りに回転する。

【１０９２３】

その後、シナリオカウンタ値６０００になると、回転体モータ動作データとして回転停止が設定される。これにより、シナリオカウンタ値６０００においても回転体役物９０２ｂが回転している場合には回転停止となる。

【１０９２４】

なお、第１代替動作シナリオ２２３ｘｅでは、「ゲキアツ」文字列を形成するための最終停止位置が基準位置Ｐｔ１であるため、通常パターンの複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄとは異なり、基準位置Ｐｔ１に移動するための動作データは設定されない。

【１０９２５】

次に、図１１０４（ａ）および図１１０４（ｂ）を参照して、第１代替動作シナリオテーブル２２２ｘｅにおけるア役物９０３の上下駆動に関連する動作シナリオと、シャッター役物９０４の左右駆動に関連する動作シナリオの内容について説明する。上述したように、代替パターン１の複合演出は、ア役物９０３とシャッター役物９０４を用いない演出であるため、図１１０４（ａ）および図１１０４（ｂ）に示すように、ア役物用モータ動作データと、左右のシャッター役物用モータ動作データは規定されていない。

【１０９２６】

次に、図１１０５（ａ）および（ｂ）を参照して、第２代替動作シナリオテーブル２２２ｘｆのうち、バー役物９０２ａの上下駆動および回転体役物９０２ｂの左右駆動と回転駆動に関連する動作シナリオの内容について説明する。この第２代替動作シナリオテーブル２２２ｘｆは、代替パターン２の複合演出が実行される場合に設定される動作シナリオである。上述したように、代替パターン２の複合演出は装飾用可動役物を用いない演出で

あるため、図１１０５（ａ）および図１１０５（ｂ）に示すように、左右のバー役物用モータ動作データと、回転体モータ動作データは規定されていない。

【１０９２７】

次に、図１１０６（ａ）および図１１０６（ｂ）を参照して、第２代替動作シナリオテーブル２２２ｘｆにおけるア役物９０３の上下駆動に関連する動作シナリオと、シャッター役物９０４の左右駆動に関連する動作シナリオの内容について説明する。上述したように、代替パターン２の複合演出は、装飾用可動役物を用いない演出であるため、図１１０６（ａ）および図１１０６（ｂ）に示すように、ア役物用モータ動作データと、左右のシャッター役物用モータ動作データは規定されていない。

【１０９２８】

このように、本第３６制御例では、複合演出のそれぞれのパターンに対応する各装飾用可動役物の駆動モータの動作シナリオを規定しており、複合演出の開始タイミングにおいて設定される構成としている。これにより、複合演出が開始されるタイミングにおける第３図柄表示装置８１の表示状況に適した動作シナリオを設定可能であり、遊技者に対して好適な複合演出を実行することができる。

【１０９２９】

＜第３６制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１１０７から図１１１４を参照して、本第３６制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理のうち、上述した第３５制御例とは異なる点について説明をする。本第３６制御例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理では、上述した第３５制御例における音声ランプ制御装置１１３にて実行される制御処理に対して、メイン処理にて実行される液晶演出実行管理処理（Ｓ３１１０）に代えて液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）を、変動表示設定処理４に代えて、変動表示設定処理５（Ｓ４１２４）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の制御処理については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１０９３０】

まず、図１１０７を参照して、本第３６制御例におけるメイン処理の処理内容について説明をする。図１１０７は、本第３６制御例におけるメイン処理の処理内容を示したフローチャートである。本第３６制御例におけるメイン処理では、液晶演出実行管理処理（Ｓ３１１０）に代えて液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）が実行され、変動表示設定処理４に代えて、変動表示設定処理５（Ｓ４１２４）が実行される点で相違している。

【１０９３１】

ここで、図１１０８を参照して、本第３６制御例におけるメイン処理（図１１０７参照）にて実行される変動表示設定処理５（Ｓ４１２４）の処理内容について説明をする。図１１０８は、変動表示設定処理５（Ｓ４１２４）の処理内容を示したフローチャートである。図１１０８に示した通り、この変動表示設定処理５（Ｓ４１２４）では、上述した第３５制御例の変動表示設定処理４（図１０５９のＳ４１２２参照）に対して、演出態様設定処理４（図１０６０のＳ４３１１参照）に代えて、演出態様設定処理５（Ｓ４３１４）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０９３２】

次に、図１１０９を参照して、演出態様設定処理５（Ｓ４３１４）の処理内容について説明をする。図１１０９は、演出態様設定処理５（Ｓ４３１４）の処理内容を示したフローチャートである。この演出態様設定処理５（Ｓ４３１４）では、上述した演出態様設定処理４（図１０６０のＳ４３１１参照）に対して、複合演出が選択された場合における処理内容を追加している点で相違している。

【１０９３３】

具体的には、演出態様設定処理５（Ｓ４３１４）が実行されると、まず、第１演出カウンタ２２３ｘａ、及び第２演出カウンタ２２３ｘｂの値を取得し（Ｓ４５３１）、抽出した変動パターンの種別と、取得した第１演出カウンタ２２３ｘａの値とに基づいて変動パ

ターン選択５テーブル２２２ｘｃを参照して表示用変動パターンを決定する（Ｓ４５３２）。

【１０９３４】

そして、Ｓ４５３２の処理によって決定された表示用変動パターンに、複合演出が含まれているかを判別し（Ｓ４５３７）、複合演出が含まれていると判別した場合は（Ｓ４５３７：Ｙｅｓ）、役物待機フラグ２２３ｘｃをオンに設定し（Ｓ４５３６）、本処理を終了する。また、Ｓ４５３７の処理において、複合演出が含まれていないと判別した場合は（Ｓ４５３７：Ｎｏ）、役物待機フラグ２２３ｘｃをオンに設定すること無く、本処理を終了する。

【１０９３５】

次に、図１１１０を参照して、液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）の処理内容について説明をする。図１１１０は、液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）の処理内容を示したフローチャートである。この液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）では、実行中の変動演出に対応する変動パターンに応じて、各役物に対して異なるタイミングで異なる動作処理を実行させるための処理が実行される。

【１０９３６】

液晶演出実行管理処理５（Ｓ３１２３）が実行されると、まず、変動中フラグ２２３ｘｆがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３１５１）、変動中フラグ２２３ｘｆがオンに設定されていない、即ち、現在が特別図柄変動中では無いと判別した場合は（Ｓ３１５１：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１０９３７】

一方、Ｓ３１５１の処理において、変動中フラグ２２３ｘｆがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３１５１：Ｙｅｓ）、変動時間カウンタ２２３ｘｇの値に１を加算し（Ｓ３１５２）、次に、役物待機フラグ２２３ｘｃがオンに設定されているかを判別する（Ｓ３１５３）。ここで、役物待機フラグ２２３ｘｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３１５３：Ｙｅｓ）、変動時間カウンタ２２３ｘｇの値を参照して、演出開始時間であるかを判別し（Ｓ３１５４）、演出開始時間であると判別した場合は（Ｓ３１５４：Ｙｅｓ）、複合演出開始処理を実行し（Ｓ３１６６）、本処理を終了する。一方、Ｓ３１５４の処理において、演出開始時間では無いと判別した場合、つまり、役物待機フラグ２２３ｘｃがオンに設定されている（役物を用いた複合演出が実行される変動パターンが設定されている）が、その演出が実行されるタイミングが到来していない場合は（Ｓ３１５４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１０９３８】

つまり、複合演出が実行される変動パターンで変動演出が実行される場合には、複合演出の開始タイミングに到達するまで、Ｓ３１５１～Ｓ３２５４の処理が繰り返し実行される。そして、複合演出の開始タイミングに到達した場合に、複合演出を開始させるための処理として、複合演出開始処理（Ｓ３１６６）を実行する。

【１０９３９】

ここで、図１１１１を参照して、液晶演出実行管理処理５（図１１１０のＳ３１２３参照）にて実行される複合演出開始処理（Ｓ３１６６）の処理内容について説明をする。図１１１１は、複合演出開始処理（Ｓ３１６６）の処理内容を示したフローチャートである。この複合演出開始処理（Ｓ３１６６）は、複合演出の開始タイミングが到来した場合に実行される処理であって、複合演出の実行タイミングに応じて、異なる演出制御を決定するための処理である。

【１０９４０】

本第３６制御例では、複合演出の実行タイミングが異なる複数の表示用変動パターンを、変動パターン選択５テーブル２２２ｘｃを参照して決定可能に構成している。具体的には、複合演出がリーチ中に実行される表示用変動パターンや、非リーチ中に実行される表示用変動パターンを決定可能に構成している。

【１０９４１】

本第３６制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面を用いて、第３図柄の変動演出を実行すると共に、対応する特別図柄抽選の結果が大当たりである可能性が高いことを示唆するための複合演出（役物や液晶表示を用いた「ゲキアツ」表示）を実行可能に構成している。そして、この複合演出を実行する場合には、様々な要素（液晶表示、装飾用可動役物９０，９０３，９０４、装飾９０５）を用いて複合演出を実行した場合の方が、遊技者の注目度を高めることができるものであるため、より多くの態様を用いて複合演出を実行することが考えられる。

【１０９４２】

しかしながら、この複合演出は、図１０８９から図１０９３を参照して上述した通り、第３図柄表示装置８１の表示面を覆うように実行されることから、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行されている第３図柄の変動演出の内容によっては、複合演出によって変動演出の一部が隠れる（見えにくくなる）ため、第３図柄の変動演出を注視している遊技者にとって不快感を与えてしまうという問題があった。

【１０９４３】

特に、第３図柄表示装置８１の表示面を用いて、対応する特別図柄抽選の結果が大当たりである可能性が高いことを示すための変動演出としてリーチ演出が実行されている場合には、複合演出が実行されることによって、リーチ表示されている第３図柄の種別を遊技者が視認困難となり、大当たり当選を示す第３図柄が停止表示されることを期待している遊技者に対して、複合演出が煩わしい演出となってしまい、演出効果が低下してしまうという問題があった。

【１０９４４】

これに対して、本第３６制御例では、複合演出が実行されるタイミングによって、同一の演出結果（「ゲキアツの表示」）を創出するために用いられる要素の種別や、各要素に対する制御内容を異ならせることで、第３図柄の変動演出を邪魔すること無く複合演出を実行可能に構成している。このように構成することで、どのタイミングで複合演出が実行された場合であっても、遊技者に好適な演出を提供することができる。また、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される変動演出の内容に対応させて同一の演出結果を示す複合演出の演出態様を異ならせることができるため、様々なタイミングで複合演出を実行させることが可能となり、演出効果を高めることができる。

【１０９４５】

複合演出開始処理（Ｓ３１６６）が実行されると、まず、複合演出開始を報知する報知態様を表示するための表示用コマンドを設定し（Ｓ３２３１）、現在の変動演出の演出態様がリーチ中であるかを判別し（Ｓ３２３７）、リーチ中では無いと判別した場合は（Ｓ３２３７：Ｎｏ）、第３図柄表示装置８１の表示面にて遊技者が特に注視する表示態様が表示されていない状態であるため、全装飾用可動役物を用いた複合演出を実行するための動作データを、複合演出動作シナリオテーブル２２２ｘｄを参照して設定し（Ｓ３２３８）、役物可動中フラグ２２３ｘｅをオンに設定し（Ｓ３２３９）、役物待機フラグ２２３ｘｃをオフに設定し（Ｓ３２４５）、本処理を終了する。Ｓ３２３８の処理によって設定された動作データに基づいて、図１０８９を参照して上述した通常パターンの複合演出が実行される。

【１０９４６】

Ｓ３２３７の処理において、リーチ中であると判別した場合は（Ｓ３２３７：Ｙｅｓ）、次いで、実行中のリーチ種別が中ラインリーチ中であるかを判別し（Ｓ３２４０）、中ラインリーチであると判別した場合は（Ｓ３２４０：Ｙｅｓ）、第２代替動作シナリオテーブル２２２ｘｆを参照して動作データを設定し（Ｓ３２４１）、第２動作フラグ２２３ｘｙをオンに設定し（Ｓ３２４２）、Ｓ３２４５の処理へ移行する。

【１０９４７】

つまり、中ラインリーチ中である場合には、図１０９２を参照して上述した通り、装飾用可動役物９０２ａの可動位置と、中ラインリーチにおけるリーチラインの一部（有効ラインＬ２）とが重複してしまい、リーチラインＬ２上に表示されている第３図柄の種別を

遊技者が識別し難くなることから、Ｓ３２４１の処理によって設定される動作データでは、複合演出の演出態様として、装飾用可動役物９０２ａを使用しない演出態様が設定され、図１０９２に示した態様の複合演出が実行される。

【１０９４８】

このように構成することで、中ライン（有効ラインＬ２）がリーチ状態である場合でも、変動演出の演出効果を損なうこと無く、複合演出を実行させることが可能となる。

【１０９４９】

一方、Ｓ３２４０の処理において、中ラインリーチ以外のリーチであると判別した場合には（Ｓ３２４０：Ｎｏ）、第１代替動作シナリオテーブル２２２ｘｅを参照して動作データを設定し（Ｓ３２４３）、第１動作フラグ２２３ｘｘをオンに設定し（Ｓ３２４４）、Ｓ３２４５の処理へ移行する。

【１０９５０】

つまり、中ライン（有効ラインＬ２）以外の有効ラインでリーチ演出が実行されている場合には、中ラインと重複する可動位置へと装飾用可動役物９０２ａを可動させたとしても、装飾用可動役物９０２ａがリーチ状態である有効ラインを覆うことが無いため、装飾用可動役物９０２ａを用いた複合演出を実行するための動作データがＳ３２４３の処理によって設定される。

【１０９５１】

なお、図１０９１（ａ）に示した通り、リーチ演出として、有効ラインＬ５がリーチ状態となった場合には、装飾用可動役物９０２ａを可動させた場合に、有効ラインＬ５の一部を覆う位置へと装飾用可動役物９０２ａが可動するため、Ｓ３２４３の処理では、各装飾用可動役物のうち、装飾用可動役物９０２ａ以外の装飾用可動役物を可動させるための動作データが設定されないように構成している。

【１０９５２】

つまり、本第３６制御例では、リーチ状態中に複合演出を実行する場合において、特定の有効ライン（有効ラインＬ５）を用いたリーチ演出が実行されている（実行される）かを判別し、特定の有効ラインを用いたリーチ演出が実行される場合には、特定の有効ラインを覆ってしまう装飾用可動役物（装飾用可動役物９０２ａ）を用いることの無い演出態様で複合演出を実行し、特定の有効ライン（有効ラインＬ５）を用いること無くリーチ演出が実行されている（実行される）場合には、特定の有効ライン（有効ラインＬ５）のみを覆うように可動する装飾用可動役物（装飾用可動役物９０２ａ）を用いた演出態様で複合演出を実行するように構成している。

【１０９５３】

このように構成することで、全てのリーチ演出の演出態様に対応させたパターンで複合演出の演出態様を設定しなくても、リーチ演出の演出効果を低下させること無く、複合演出を実行することができる。

【１０９５４】

次に、図１１１２を参照して、第１動作処理（Ｓ３１６１）の処理内容について説明をする。図１１１２は、第１動作処理（Ｓ３１６１）の処理内容を示したフローチャートである。この第１動作処理（Ｓ３１６１）は、液晶演出実行管理処理５（図１１１０のＳ３１２３参照）において実行される処理であって、第１動作フラグ２２３ｘｘがオンに設定されている場合に実行される。

【１０９５５】

第１動作処理（Ｓ３１６１）が実行されると、まず、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値であるかを判別し（Ｓ４７５１）、終了値であると判別した場合は（Ｓ４７５１：Ｙｅｓ）、複合演出における動作処理を終了するために、シナリオカウンタ２２３ｘｈをリセットし（Ｓ４７５２）、第１動作フラグ２２３ｘｘをオフに設定し（Ｓ４７５３）、本処理を終了する。また、Ｓ４７５１の処理において、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値では無いと判別した場合は（Ｓ４７５１：Ｎｏ）、次に、回転役物９０２ｂの停止タイミングであるかを判別し（Ｓ４７５４）、停止タイミングでは無いと判別した場

合は（Ｓ４７５４：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【１０９５６】
一方、Ｓ４７５４の処理において、回転体役物９０２ｂの停止タイミングであると判別した場合は（Ｓ４７５４：Ｙｅｓ）、液晶表示で表現される「ゲ」を指定位置（図１０９１（ｂ）参照）に移動表示される表示コマンドを設定し（Ｓ４７５５）、シナリオカウンタ２２３ｘｈに１を加算し（Ｓ４７５６）、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対応した動作データを設定し（Ｓ４７５７）、本処理を終了する。
【１０９５７】
以上、説明をした通り、Ｓ２０６を参照して説明をした第１動作処理では、回転体役物９０２ｂが停止されたことに基づいて、回転体役物９０２ｂの停止位置に対応させた位置に、複合演出のうち、液晶表示にて表現される要素（「ゲ」、「ア」）の表示位置を設定するように構成しているため、回転体役物９０２ｂに対応させた位置へ液晶表示にて表現される要素（「ゲ」、「ア」）を表示させることができる。
【１０９５８】
次に、図１１１３を参照して、第２動作処理（Ｓ３１６３）の処理内容について説明をする。図１１１３は、第２動作処理（Ｓ３１６３）の処理内容を示したフローチャートである。この第２動作処理（Ｓ３１６３）は、液晶演出実行管理処理５（図１１１０のＳ３１２３参照）において実行される処理であって、第２動作フラグ２２３ｘｙがオンに設定されている場合に実行される。
【１０９５９】
第２動作処理（Ｓ３１６３）が実行されると、まず、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値であるかを判別し（Ｓ４８５１）、終了値であると判別した場合は（Ｓ４８５１：Ｙｅｓ）、複合演出における動作処理を終了するために、シナリオカウンタ２２３ｘｈをリセットし（Ｓ４８５２）、第２動作フラグ２２３ｘｘをオフに設定し（Ｓ４８５３）、本処理を終了する。また、Ｓ４８５１の処理において、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値では無いと判別した場合は（Ｓ４８５１：Ｎｏ）、次に、第２動作表示テーブルの表示コマンドを設定し（Ｓ４８５４）、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に１を加算し（Ｓ４８５５）、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対応した動作データを設定し（Ｓ４８５６）、本処理を終了する。
【１０９６０】
上述した通り、第２動作処理（Ｓ３１６３）では、複合演出の演出態様として、液晶表示とツ装飾９０５のみを用いた演出態様、即ち、各装飾用可動役物を用いることの無い演出態様（図１０９２参照）が決定されるため、複合演出として装飾用可動役物を動作させるための動作データが設定されることが無い。なお、本第２動作処理（Ｓ３１６３）が実行される場合であっても、液晶表示される「ゲ」，「キ」，「ア」の図柄を表示させるタイミングを、他の複合演出と同一に設定すると良い。このように構成することで、同一内容の複合演出を、要素を異ならせて実行していることを遊技者に分かり易く報知することができる。
【１０９６１】
また、これに限ること無く、複合演出の演出態様として、液晶表示される「ゲ」，「キ」，「ア」の図柄を表示させる順序を異ならせた演出態様を決定可能に構成し、他の複合演出と同一の順序で各図柄が表示された場合の方が、異なる順序で各図柄が表示された場合よりも、大当たり当選の期待度を高めるように構成しても良い。このように構成することで、装飾用可動役物の動作データを設定する必要の無い複合演出のみ、他の複合演出に比べて演出内容のバリエーションを容易に増加させることができる。
【１０９６２】
次に、図１１１４を参照して、役物可動中処理（Ｓ３１６５）の処理内容について説明をする。図１１１４は、役物可動中処理（Ｓ３１６５）の処理内容を示したフローチャートである。この役物可動中処理（Ｓ３１６５）は、液晶演出実行管理処理５（図１１１０のＳ３１２３参照）において実行される処理であって、役物可動中フラグ２２３ｘｅがオ

ンに設定されている場合に実行される。
【１０９６３】
役物可動中処理（Ｓ３１６５）が実行されると、まず、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値であるかを判別し（Ｓ４９５１）、終了値であると判別した場合は（Ｓ４９５１：Ｙｅｓ）、複合演出における動作処理を終了するために、シナリオカウンタ２２３ｘｈをリセットし（Ｓ４９５２）、役物可動中フラグ２２３ｘｅをオフに設定し（Ｓ４９５３）、本処理を終了する。また、Ｓ４９５１の処理において、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値が終了値では無いと判別した場合は（Ｓ４９５１：Ｎｏ）、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に１を加算し（Ｓ４９５４）、シナリオカウンタ２２３ｘｈの値に対応した動作データを設定し（Ｓ４９５５）、本処理を終了する。
【１０９６４】
以上、説明をした通り、本第３６制御例では、様々なタイミングで複合演出が実行される変動パターンを決定可能に構成し、複合演出が実行されるタイミングにおける第３図柄の変動演出内容（リーチ内容）に応じて、異なる要素を用いて複合演出を実行可能に構成しているため、どのタイミングで複合演出が実行された場合であっても、遊技者に好適な演出を提供することができる。また、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される変動演出の内容に対応させて同一の演出結果を示す複合演出の演出態様を異ならせることができるため、様々なタイミングで複合演出を実行させることが可能となり、演出効果を高めることができる。
【１０９６５】
なお、本第３６制御例では、複合演出が実行されるタイミングを、決定された変動パターンに基づいて予め決定する例を示しているが、これに限ること無く、例えば、複合演出が実行されるタイミングを遊技者が任意に選択可能に構成しても良い。この場合、例えば、遊技者が操作可能な操作手段（演出ボタン２２ａ）への操作が有効に判別される操作有効期間（ＳＷ有効時間）を、少なくとも、第３図柄の変動演出として、リーチ状態が創出されるよりも前の期間から、リーチ状態となった後の期間を含む範囲で設定可能に構成し、その操作有効期間中に遊技者が操作手段を操作したことに基づいて、複合演出を開始させるように構成すると良い。そして、複合演出が開始される際の第３図柄の変動演出の演出内容、或いは、操作有効期間の経過時間や残時間を判別し、実行中の変動演出の演出態様と重複しない演出態様を決定し、決定した演出態様に応じた複合演出を実行するように構成すると良い。
【１０９６６】
このように構成することで、遊技者が任意に複合演出を実行するタイミングを選択することができるため、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。
【１０９６７】
また、各装飾用可動役物を、複合演出以外にも使用可能に構成している場合は、複合演出の実行条件が成立した時点における各装飾用可動役物の可動状況を判別し、複合演出として使用可能な装飾用可動役物を特定する特定手段を設け、特定手段によって特定された装飾用可動役物の範囲内で実行可能な演出態様を決定し、決定された演出態様を用いて複合演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、第３図柄の変動演出以外の様々な演出（装飾用可動役物を用いた演出）と、複合演出と、の実行期間が重複した場合であっても、遊技者に好適な演出を提供することができる。
【１０９６８】
さらに、本第３６制御例では、複合演出の実行タイミングを予め決定されているタイミングからずらすこと無く、実行可能な演出態様で複合演出を実行する構成を示しているが、これに限ること無く、複合演出の実行タイミングを、予め定められている実行タイミングよりも前に補正したり、後に補正したりする処理を実行可能に構成しても良い。
【１０９６９】
この場合、複合演出が終了するまでの残期間が１秒の時点でリーチ演出が実行される場合において、複合演出の実行タイミングを、１秒前倒しする補正処理を実行し、通常パタ

ーンの複合演出（図１０８９参照）を実行可能に構成すると良い。このように、複合演出の実行タイミングを補正するための補正処理を設けることにより、より多彩な演出を遊技者に提供することができる。

【１０９７０】

また、複合演出の実行期間中にリーチ演出が開始される場合には、リーチ演出の開始を複合演出の終了まで遅延させるように構成しても良い。

【１０９７１】

なお、第３６制御例では、装飾用可動役物が３図柄表示装置８１よりも前面側（遊技者目線で手前側）に配置されることで、装飾用可動役物の背面側にある液晶表示（第３図柄やその他の予告演出）が遊技者から視認できなくなるため、遊技情報としての重要度が高い液晶表示と装飾用可動役物が重ならないように制御する技術思想について説明した。

【１０９７２】

ここで、この技術思想を応用し、１の装飾用可動役物と他の装飾用可動役物が重なるように可動することが可能に構成された変形例について説明する。以下、図１１１５～図１１１７を参照して、第３６制御例の第１変形例について説明する。

【１０９７３】

第３６制御例の第１変形例では、装飾用可動役物と液晶表示を組み合わせた文字演出とキャラクタ役物（うさぎ役物）を用いたキャラクタ演出が実行される。文字演出は、特別図柄の変動表示期間に実行される予告演出の一つであり、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに表示された「ゲ」の文字８１５と、「ア」の文字８１６と、装飾用可動役物である「キ」という文字が装飾されたキ役物８１５と、遊技盤面ｂｎに装飾された「勝ツぞ」の文字の一部である「ツ」の文字８１７ｂの文字を組み合わせて「ゲキアツ」の文字列が形成されることで、変動表示中の特別図柄の大当たり当選期待度が高いことを報知する演出である。

【１０９７４】

ここで、図１１１５（ｂ）を参照して、文字演出の実行中における第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの表示内容について説明する。文字演出の実行中は、図１１１５（ｂ）に示すように、主表示領域Ｄｍには文字演出の構成要素である「ゲ」の文字８１４と、「ア」の文字８１６と、背景画像である太陽の絵柄が表示される。この「ゲ」の文字８１４と「ア」の文字８１６を結んだライン上にキ役物８１５が配置されることで、「ゲキア」の文字列が形成され、遊技盤面ｂｎに装飾されている「ツ」の文字８１７ｂと組み合わされることで、「ゲキアツ」の文字列が形成される。

【１０９７５】

図１１１５（ａ）に戻り説明を続ける。遊技盤面ｂｎには「勝ツぞ」の文字が装飾されている。この遊技盤面ｂｎの「勝ツぞ」の各文字装飾８１７ａ～８１７ｃ部分にはＬＥＤが内蔵されており、通常は「勝ツぞ」の全ての文字装飾８１７ａ～８１７ｃ部分のＬＥＤが点灯した状態となっている。この文字装飾部分のＬＥＤは、文字演出において「ゲキアツ」文字列が形成される場合に「勝」の文字８１７ａと、「ぞ」の文字８１７ｃのＬＥＤが消灯状態となり、「ツ」の文字８１７ｂのみが点灯した状態となる。これにより、「ツ」の文字８１７ｂが「勝ツぞ」の文字列を構成する要素から、「ゲキアツ」の文字列を構成する要素に切り替わったことが遊技者に分かり易くなる。

【１０９７６】

文字演出において用いられるキ役物８１５は、文字演出の実行期間以外は、第３図柄表示装置８１の表示領域外（例えば、第３図柄表示装置の正面視左側）に収納されており、文字演出が開始されると図１１１６（ｂ）に示す位置に配置されるように可動する。

【１０９７７】

本第３６制御例の第１変形例における文字演出の開始タイミングは、音声ランプ制御装置１１３における液晶演出実行管理処理において抽選によってランダムに決定されるように構成している。このように構成することで、文字演出の開始タイミングが特別図柄の変動種別等によって遊技者に事前に判別され、遊技の興趣が低下してしまうことを抑制し、

意外性のあるタイミングで文字演出を実行することが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【１０９７８】

キャラクタ演出は、うさぎのキャラクタが装飾されたキャラクタ役物（うさぎ役物８１３）が第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの前面側で可動する予告演出である。キャラクタ役物８１３は、キャラクタ演出の実行期間以外は、第３図柄表示装置８１の表示領域外（例えば、第３図柄表示装置の正面視上部側）に収納されており、キャラクタ演出が開始されると第３図柄表示装置８１の主表示領域の前面側に配置されるように可動する。キャラクタ役物８１３のうさぎのキャラクタを囲む炎の装飾部分にはＬＥＤが内蔵されており、このＬＥＤの発光により、炎の装飾部分の色を可変させることができるように構成している。そして、この炎の装飾部分の色によって大当たり当選期待度を示唆する構成としている。例えば、炎の装飾部分が青色に発光すれば大当たり当選期待度が比較的低いことを示唆し、赤色に発光すれば大当たり当選期待度が比較的高いことを示唆する。

【１０９７９】

このキャラクタ役物８１３は、主表示領域Ｄｍの前面側で上下左右に移動可能な構成としている。なお、本第３６制御例の第１変形例では、上述したように、文字演出の開始タイミングが抽選で決定されるように構成しているため、文字演出の演出期間とキャラクタ演出の演出期間が重なる場合に、可動するキ役物８１５とキャラクタ役物８１３が干渉してしまう虞がある。

【１０９８０】

この不具合を解消するために、本第３６制御例におけるキ役物８１５は前後の位置を設定可能に構成している。具体的には、キ役物８１５がキャラクタ役物８１３よりも前面側（遊技者目線で手前側）に配置される第１位置と、キ役物８１５がキャラクタ役物８１３よりも背面側（遊技者目線で奥側）に配置される第２位置とを設定可能に構成している。このように構成することで、キ役物８１５とキャラクタ役物８１３が干渉してしまうことを抑制することができる。

【１０９８１】

また、本第３６制御例の第１変形例では、キ役物８１５とキャラクタ役物８１３の前後の位置によって文字演出の演出結果が可変するように構成している。具体的には、図１１１７（ａ）に示すように、文字演出が実行され、キ役物８１５が第２位置で可動している場合にキャラクタ役物（うさぎ役物）８１３がキ役物８１５の配置されている位置まで移動してくると、キャラクタ役物８１３によってキ役物８１５が隠される。そして、第３図柄表示装置８１では「ゲ」の文字８１４が非表示となり、「ゲキアツ」の文字列が形成された場合よりも大当たり当選期待度がランクダウンする「アツ」の文字列に可変する。

【１０９８２】

一方、図１１１７（ｂ）に示すように、文字演出が実行され、キ役物８１５が第１位置で可動している場合にキャラクタ役物（うさぎ役物）８１３がキ役物８１５の配置されている位置まで移動してくると、キ役物８１５がキャラクタ役物８１３よりも前面側に配置され、キ役物８１５によってキャラクタ役物８１３が隠される。この場合、図１１１７（ｂ）に示すように、キャラクタ役物８１３の方がキ役物８１５よりもサイズが大きいため、キャラクタ役物８１３の一部（炎の装飾部分）は遊技者から視認可能となり、遊技者目線ではキ役物８１５に炎の装飾が付いたように見える。この炎の装飾が付いたキ役物８１５で構成された「ゲキアツ」の文字列は、通常の「ゲキアツ」の文字列（図１１１５（ａ）参照）が形成された場合よりも大当たり当選期待度がランクアップしたことを示す。つまり、文字演出とキャラクタ演出が同じタイミングで実行された場合に、キャラクタ役物８１３とキ役物８１５の前後の位置関係によって、文字演出によって示唆される大当たり当選期待度が可変する。このように構成することで、キャラクタ役物８１３とキ役物８１５の位置関係によって、文字演出において多様な演出結果を報知することが可能となり、文字演出が単調になることを抑制することができる。

【１０９８３】

なお、本第３６制御例の第１変形例では、キ役物８１３の前後の位置のみ可変させることができる構成としたが、これに限るものではなく、キャラクタ役物８１３の前後の位置も可変可能に構成しても良い。

【１０９８４】

なお、「ゲキアツ」の文字列が形成される位置は固定ではなく、液晶表示の状態に応じて「ゲキアツ」の文字列が形成される位置を可変させても良い。例えば、主表示領域Ｄｍにエラー表示が表示されている場合には、そのエラー表示が表示されている位置を避けて「ゲ」の文字８１４と、「ア」の文字８１６を表示し、表示された「ゲ」の文字８１４と、「ア」の文字８１６を結ぶライン上にキ役物８１５を配置させる構成とする。この場合、遊技盤面ｂｎの装飾である「ツ」の文字８１７ｂの位置は固定であるため、この「ツ」の文字８１７ｂを基準に「ゲ」の文字８１４と「ツ」の文字８１７ｂを結ぶライン上に「ア」の文字８１６を表示すると良い。

【１０９８５】

このように構成することで、エラー表示が文字演出によって隠蔽されてしまい、エラーの発生を遊技者やパチンコ機１０の管理者に認識されないという不具合が生じることを抑制することができる。

【１０９８６】

なお、第３６制御例におけるパチンコ機１０では、装飾用可動役物を使用して文字演出（複合演出）を実行する構成としたが、装飾用可動役物を使用せずに液晶表示のみで文字演出を実行する構成としても良い。以下に、液晶表示のみで文字演出を実行する場合の制御例について説明する。なお、液晶表示のみで文字演出を実行するための制御例を第３６制御例の第２変形例とする。

【１０９８７】

第３６制御例の第２変形例におけるパチンコ機１０では、第３図柄表示装置８１に表示態様を表示するために複数の表示レイヤが配置されている。表示面の前面側より保留図柄レイヤｒｙ１、第１演出レイヤｒｙ２ａ、第２演出レイヤｒｙ２ｂ、第３演出レイヤｒｙ２ｃ、特別図柄レイヤｒｙ３、背景レイヤｒｙ４が配置されており、各レイヤには、それぞれキャラクタや背景等の表示態様を表示させることが可能であり、重ね合わせて表示させることで、奥行き感のある表示演出を表示させることができる。

【１０９８８】

保留図柄レイヤｒｙ１は、保留図柄等の最前面で表示させる必要がある表示態様が表示されるレイヤである。保留図柄レイヤｒｙ１に表示される表示態様は、それよりも前面側にレイヤが設定されていないので、常に最前面で表示されることができるように構成されている。第１演出レイヤｒｙ２ａは、保留図柄レイヤｒｙ１の１つ背面側に設定されるレイヤであり、主に予告演出や文字演出が設定されるレイヤとなる。予告演出や文字演出が設定されるレイヤとしては、第１演出レイヤｒｙ２ａの一つ背面側に配置される第２演出レイヤｒｙ２ｂと、第２演出レイヤｒｙ２ｂの一つ背面側に配置される第３演出レイヤｒｙ２ｃとがそれぞれ設定されている。

【１０９８９】

特別図柄レイヤｒｙ３は、特別図柄（第３図柄）が表示されるレイヤであり、背景レイヤｒｙ４の一つ前面側に配置されているので、背景画像の前面側で常に特別図柄を表示させることができる。背景レイヤｒｙ４は、背景画像が表示されるレイヤであり、最背面に設定されるレイヤであり、変動中や待ち受け時等における背景画像が設定される。

【１０９９０】

本第３６制御例の第２変形例における文字演出は、特別図柄の変動期間（動的表示期間）中に、複数の文字を表示して任意の言葉となる組み合わせが表示されることで、変動中の特別図柄の当否判定結果を示唆する（当たりである期待度を報知する）ことが可能にされている演出である。ここで、特別図柄レイヤｒｙ３では、特別図柄の表示がされており、リーチ演出等が表示される際に、文字演出による文字でリーチ図柄を形成する特別図柄が隠されてしまうことで、リーチが形成されているか否かが分かり難くなってしまうとい

う不具合が発生してしまう。また、文字演出は、遊技者に文字演出の実行タイミングが特別図柄の変動種別等によって事前に判別されることで興趣が低下してしまうことを抑制するように、特別図柄の変動パターンにおける変動表示期間のうち、文字演出を実行可能な期間内で抽選によりランダムに実行タイミングが抽選されて実行されるように設定されている。このように構成することで、文字演出の実行タイミングは、ランダムにでき、遊技者に意外性を与えることができる一方で、実行されている特別図柄の変動表示の内容等に対応する事が困難となり、遊技者に視認させる必要のある特別図柄に対して視認を妨げたり、予告演出等を隠蔽してしまう等の不具合が考えられる。以下に本制御例における文字演出が上述した不具合を解消可能に対応させた構成について説明する。

【１０９９１】

例えば、第１演出レイヤｒｙ２ａに設定される文字演出は、上段ラインＬ１と左図柄列ｚ１とが交わる位置に「ゲ」の文字が配置され、中段ラインＬ２と左図柄列ｚ１とが交わる位置に「キ」の文字が配置され、下段ラインＬ３と中図柄列ｚ２とが交わる位置に「ア」の文字が配置され、下段ラインＬ３と右図柄列ｚ３とが交わる位置に「ツ」の文字が配置されるように表示制御される。この第１演出レイヤｒｙ２ａに設定される文字演出を第１文字演出と称する。

【１０９９２】

この第１文字演出では、右上がりラインＬ４に文字が配置されないように構成されているので、文字演出の実行タイミングでリーチ演出が実行される前のタイミングと、右上がりラインＬ４でリーチ演出が実行されている場合とで実行されるように制御される。

【１０９９３】

また、第２演出レイヤｒｙ２ｂに設定される文字演出は、上段ラインＬ１と中図柄列ｚ２とが交わる位置に「ゲ」の文字が配置され、中段ラインＬ２と中図柄列ｚ２とが交わる位置に「キ」の文字が配置され、下段ラインＬ３と中図柄列ｚ２とが交わる位置に「ア」の文字が配置され、下段ラインＬ３と右図柄列ｚ３とが交わる位置に「ツ」の文字が配置されるように表示制御される。この第２演出レイヤｒｙ２ａに設定される文字演出を第２文字演出と称する。

【１０９９４】

この第２文字演出は、左図柄列ｚ１と中段ラインＬ２が交わる位置と右図柄列ｚ３と中段ラインＬ２が交わる位置に文字が配置されておらず、中段ラインＬ２上にリーチ態様の第３図柄が表示されていても文字演出の文字が重ならないため、主にリーチラインが中段ラインＬ２である場合に実行されるように制御される。このように構成することで、リーチ演出中のリーチ図柄を文字演出における文字が隠してしまい、リーチ中であるか否かが分かり難くなってしまう不具合を抑制できる。

【１０９９５】

また、第３演出レイヤｒｙ２ｃに設定される文字演出は、上段ラインＬ１と右図柄列ｚ３とが交わる位置に「ゲ」の文字が配置され、中段ラインＬ２と右図柄列ｚ３とが交わる位置に「キ」の文字が配置され、下段ラインＬ３と中図柄列ｚ２とが交わる位置に「ア」の文字が配置され、下段ラインＬ３と右図柄列ｚ２とが交わる位置に「ツ」の文字が配置されるように表示制御される。この第３演出レイヤｒｙ２ｃに設定される文字演出を第３文字演出と称する。

【１０９９６】

この第３文字演出は、右図柄列ｚ３上に文字が配置されてしまうので、リーチ演出が実行された後のタイミングでは使用されないように制御される。このように構成することで、リーチ演出中のリーチ図柄を文字演出における文字が隠してしまい、リーチ中であるか否かが分かり難くなってしまう不具合を抑制できる。

【１０９９７】

ここで、例えば、中段ラインＬ２上に第３図柄がリーチ態様で停止表示されている場合に、第１演出レイヤｒｙ２ａを使用した文字演出を実行すると、文字演出を構成する「キ」の文字によって第３図柄が隠れた状態となり、リーチ態様であることを遊技者が分から

なくなってしまう。一方、第１演出レイヤｒｙ２ａに代えて、第２演出レイヤｒｙ２ｂをを用いた文字演出を実行すると第３図柄を隠すことなく、文字演出を実行することができる。

【１０９９８】

このように、文字演出が開始される時点における第３図柄の表示状態によって、文字演出の画像を描画する表示レイヤを切り替えることで好適な文字演出を実行することができる。

【１０９９９】

上述した液晶表示のみによる文字演出を実行するためのパチンコ機１０の電気的構成としては以下の構成が考えられる。

【１１０００】

まず、表示制御装置１１４の電気的構成として、上述した第３６制御例に対し、ワークＲＡＭ２３３に文字演出フラグ２３３ｘａおよび文字演出実行中フラグ２３３ｘｂを設け、キャラクタＲＯＭ内のＮＡＮＤ型フラッシュメモリ２３４ａに文字演出表示データ選択テーブル２３４ｘａを新たに規定する。その他の処理については、上述した第３６制御例（および第１制御例）と同一である。

【１１００１】

文字演出フラグ２３３ｘａは、音声ランプ制御装置１１３から受信した表示用変動パターンコマンドに文字演出の実行を示す情報が含まれている場合にオンに設定されるフラグであり、文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されている場合には、表示設定処理６において文字演出処理が実行される。オンに設定された文字演出フラグ２３３ｘａは、音声ランプ制御装置１１３から変動停止コマンドを受信した場合にオフに設定される。文字演出処理の詳細については後述する。

【１１００２】

文字演出実行中フラグ２３３ｘｂは、文字演出処理において文字演出の文字表示テーブルが設定された場合にオンに設定されるフラグであり、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されることで、文字演出処理において文字演出実行中処理が実行される。オンに設定された文字演出実行中フラグ２３３ｘｂは、文字演出実行中処理において文字ポインタが示すアドレスが文字表示データのＥＮＤデータとなった場合にオフに設定される）。なお、文字演出実行中処理の詳細については後述する。

【１１００３】

文字演出表示データ選択テーブル２３４ｘａは、特別図柄の当否判定結果と表示演出カウンタＣＳ３の値に対して、文字演出表示データが規定されているテーブルである。具体的には、当否判定結果が外れである場合、表示演出カウンタＣＳ３の値が「０～１９９、５００～８９９」の範囲であれば「文字演出なし」が選択され、「２００～２９９、９００～９９９」の範囲であれば「第１演出レイヤ表示データ」が選択され、「３００～３９９」の範囲であれば「第２演出レイヤ表示データ」が選択され、「４００～４９９」範囲であれば「第３演出レイヤ表示データ」が選択される。

【１１００４】

当否判定結果が大当たりである場合、表示演出カウンタＣＳ３の値が「０～９９、８００～８９９」の範囲であれば「文字演出なし」が選択され、「２００～２９９、９００～９９９」の範囲であれば「第１演出レイヤ表示データ」が選択され、「３００～３９９」の範囲であれば「第２演出レイヤ表示データ」が選択され、「１００～１９９、５００～７９９」範囲であれば「第３演出レイヤ表示データ」が選択される。

【１１００５】

ここで、第１演出レイヤ表示データとは文字演出用の表示データのうち、第１演出レイヤｒｙ２ａに文字演出の画像を描画するための表示データテーブルであり、第２演出レイヤ表示データとは第２演出レイヤｒｙ２ｂに文字演出の画像を描画するための表示データテーブルであり、第３演出レイヤ表示データとは第３演出レイヤｒｙ２ｃに文字演出の画像を描画するための表示データテーブルである。各表示データテーブルには、第３図柄表

示装置８１において１フレーム分の画像が表示される時間（本制御例では、２０ミリ秒）を１単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき１フレーム分の画像の内容（描画内容）が詳細に規定されている。

【１１００６】

また、「文字演出なし」とは、現時点では文字演出用の表示データを設定しない、即ち、文字演出の実行値ではないことを示している。本第３６制御例の第２変形例では、上述したように、音声ランプ制御装置１１３から受信した表示用変動パターンコマンドにおいて文字演出の実行を示す情報が含まれている場合に、表示制御装置１１４において文字演出を実行可能な期間内で抽選によりランダムに実行タイミングが抽選されて文字演出が実行されるように構成している。具体的には、文字演出処理において表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値となった場合に文字演出の表示データテーブルが設定され、文字演出が開始される。

【１１００７】

なお、表示演出カウンタＣＳ３の値は「０～９９９」の範囲であるため、当否判定結果が外れである場合には、６０％の割合で「文字演出なし」が選択され、２０％の割合で「第１演出レイヤ表示データ」が選択され、１０％の割合で「第２演出レイヤ表示データ」が選択され、１０％の割合で「第３演出レイヤ表示データ」が選択される。即ち、当否判定結果が外れである場合には、文字演出の実行値となる割合は４０％である。

【１１００８】

一方、当否判定結果が大当たりである場合には、２０％の割合で「文字演出なし」が選択され、２０％の割合で「第１演出レイヤ表示データ」が選択され、２０％の割合で「第２演出レイヤ表示データ」が選択され、４０％の割合で「第３演出レイヤ表示データ」が選択される。即ち、当否判定結果が大当たりである場合には、文字演出の実行値となる割合は８０％である。従って、当否判定結果が外れである場合よりも大当たりである場合の方が文字演出の実行値が選択され易く、文字演出が実行され易くなる。また、当否判定結果が外れである場合よりも、大当たりである場合の方が「第２演出レイヤ表示データ」および「第３演出レイヤ表示データ」が選択される割合が高いため、文字演出の表示態様（「ゲキアツ」文字の配置）によっても当否判定結果を予測し易くなり、遊技の興趣を向上させることができる。

【１１００９】

次に、本第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理について説明する。本第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理は、上述した第３６制御例（および第１制御例）における表示制御装置１１４の制御処理に対して、変動パターンコマンド処理（図１０９７（ａ）参照）に代えて変動パターンコマンド処理６を実行する点、変動停止コマンド処理（図１１００（ａ）参照）に代えて変動停止コマンド処理６を実行する点、表示設定処理（図１１０２参照）に代えて表示設定処理６を実行する点で相違し、また、文字演出処理と文字演出実行中処理とリーチ演出処理との各処理を追加して実行する点で相違する。その他の処理については、上述した第３６制御例（および第１制御例）と同一である。

【１１０１０】

まず、本第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される変動パターンコマンド処理６（Ｓ６４３１）の詳細について説明する。本第３６制御例の第２変形例における変動パターンコマンド処理６（Ｓ６４３１）は、上述した第３６制御例（および第１制御例）の変動パターンコマンド処理（図１０９７参照）に代えて実行される処理である。

【１１０１１】

変動パターンコマンド処理６（Ｓ６４３１）では、まず、音声ランプ制御装置１１３より受信した表示用変動パターンコマンドの中に、文字演出の実行情報があるか判別する（Ｓ６５０６）。文字演出の実行情報があると判別した場合には（Ｓ６５０６：Ｙｅｓ）、

文字演出フラグ２３３ｘａをオンに設定し（Ｓ６５０６）、Ｓ６５０１の処理に移行する。そして、上述したＳ６５０１～Ｓ６５０５の処理を実行し、本処理を終了する。一方、Ｓ６５０６の処理において、文字演出の実行情報がないと判別した場合には（Ｓ６５０６：Ｎｏ）、上述したＳ６５０７の処理をスキップし、Ｓ６５０１の処理に移行する。そして、上述したＳ６５０１～Ｓ６５０５の処理を実行し、本処理を終了する。

【１１０１２】

次に、本第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される変動停止コマンド処理６（Ｓ６４３２）の詳細について説明する。本第３６制御例の第２変形例における変動停止コマンド処理６（Ｓ６４３２）は、上述した第３６制御例（および第１制御例）の変動停止コマンド処理（図１１００参照）に代えて実行される処理である。

【１１０１３】

変動停止コマンド６処理（Ｓ６４３２）では、まず、文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されているか判別する（Ｓ６９３６）。文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されていると判別した場合には（Ｓ６９３６：Ｙｅｓ）、文字演出フラグ２３３ｘａをオフに設定し（Ｓ６９３７）、Ｓ６９３１の処理に移行する。そして、上述したＳ６９３１～Ｓ６９３５の処理を実行し、本処理を終了する。一方、Ｓ６９３６の処理において、文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されていないと判別した場合には（Ｓ６９３６：Ｎｏ）、上述したＳ６９３７の処理をスキップし、Ｓ６９３１の処理に移行する。そして、上述したＳ６９３１～Ｓ６９３５の処理を実行し、本処理を終了する。

【１１０１４】

次に、本第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される表示設定処理６（Ｓ６３３１）の詳細について説明する。本第３６制御例の第２変形例における表示設定処理６（Ｓ６３３１）は、上述した第３６制御例（および第１制御例）の表示設定処理（図１１０２参照）に代えて実行される処理である。

【１１０１５】

表示設定処理６（Ｓ６３３１）では、まず、上述したＳ７２０１～Ｓ７２０５の処理を実行し、次に、文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されているか判別する（Ｓ７２２２）。文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されていると判別した場合には（Ｓ７２２２：Ｙｅｓ）、文字演出処理（Ｓ７２２３）を実行し、上述したＳ７２０６の処理に移行する。文字演出処理（Ｓ７２２３）の詳細な説明については後述する。一方、Ｓ７２２２の処理において、文字演出フラグ２３３ｘａがオンに設定されていないと判別した場合には（Ｓ７２２２：Ｎｏ）、Ｓ７２２３の処理をスキップし、Ｓ７２０６の処理に移行する。

【１１０１６】

次に、本第３６制御例の第２変形例における表示設定処理６（Ｓ６３３１）内で実行される文字演出処理（Ｓ７２２３）について説明する。文字演出処理（Ｓ７２２３）では、まず、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されているか判別する（Ｓ７２５１）。文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されていると判別した場合には（Ｓ７２５１：Ｙｅｓ）、文字演出実行中処理（Ｓ７２５２）を実行し、本処理を終了する。文字演出実行中処理（Ｓ７２５２）の詳細な説明については後述する。一方、Ｓ７２５１の処理において、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されていないと判別した場合には（Ｓ７２５１：Ｎｏ）、文字演出実行可能期間であるか判別する（Ｓ７２５３）。文字演出実行可能期間ではないと判別した場合には（Ｓ７２５３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。文字演出実行可能期間であるか否かの判別は、計時カウンタ２３３ｈの値が文字演出の演出期間（本第３６制御例の第２変形例では、５秒）に対応する値よりも大きいか否かで判別する。つまり、計時カウンタ２３３ｈの値が５秒に対応する値よりも少ない場合は、特別図柄の変動表示期間内で文字演出を終了させることができないため、文字演出が実行されない。

【１１０１７】

一方、Ｓ７２５３の処理において、文字演出実行可能期間であると判別した場合には、表示演出カウンタＣＳ３の値を取得する（Ｓ７２５４）。そして、Ｓ７２５４の処理において取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値であるか否か判別する（Ｓ７２５５）。取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値ではないと判別した場合には（Ｓ７２５５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１１０１８】

一方、Ｓ７２５５の処理において、取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値であると判別した場合には（Ｓ７２５５：Ｙｅｓ）、リーチ中であるか判別する（Ｓ７２５６）。リーチ中であると判別した場合には（Ｓ７２５６：Ｙｅｓ）、リーチ演出処理（Ｓ７２５７）を実行し、本処理を終了する。リーチ演出処理（Ｓ７２５７）の詳細な説明については後述する。一方、Ｓ７２５６の処理において、リーチ中ではないと判別した場合には（Ｓ７２５６：Ｎｏ）、取得した表示演出カウンタＣＳ３に対応した文字演出表示データを文字表示データテーブルバッファに設定し（Ｓ７２５８）、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂをオンに設定し（Ｓ７２５９）、本処理を終了する。

【１１０１９】

次に、本第３６制御例の第２変形例における文字演出処理（Ｓ７２２３）内で実行される文字演出実行中処理（Ｓ７２５２）の処理について説明する。文字演出実行中処理（Ｓ７２５２）では、まず、文字ポインタを１加算する（Ｓ７３５１）。次に、加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータであるか判別する（Ｓ７３５２）。加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータであると判別した場合には（Ｓ７３５２：Ｙｅｓ）、文字ポインタの値を初期化し（Ｓ７３５３）、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂをオフに設定し（Ｓ７３５４）、本処理を終了する。一方、Ｓ７３５２の処理において、加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータではないと判別した場合には（Ｓ７３５２：Ｎｏ）、文字表示データテーブルバッファのうち、文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容を取得し（Ｓ７３５５）、本処理を終了する。

【１１０２０】

次に、本第３６制御例の第２変形例における文字演出処理（Ｓ７２２３）内で実行されるリーチ演出処理（Ｓ７２５７）の処理について説明する。リーチ演出処理（Ｓ７２５７）では、まず、今回のリーチが、中列（ｘ２ライン）リーチであるか判別する（Ｓ７４５１）。今回のリーチが、中列（ｘ２ライン）リーチではないと判別した場合には（Ｓ７４５１：Ｎｏ）、右上がり列（ｘ２ライン）リーチであるか判別する（Ｓ７４５２）。右上がり列（Ｚ２ライン）リーチであると判別した場合には（Ｓ７４５２：Ｙｅｓ）、第１演出レイヤｒｙ２ａの文字表示データを文字表示データテーブルバッファに設定し（Ｓ７４５３）、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂをオンに設定し（Ｓ７４５５）、本処理を終了する。

【１１０２１】

一方、Ｓ７４５１の処理において、今回のリーチが中列（ｘ２ライン）リーチであると判別した場合には（Ｓ７４５１：Ｙｅｓ）、第２演出レイヤｒｙ２ｂの文字表示データを文字表示データテーブルバッファに設定し（Ｓ７４５４）、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂをオンに設定し（Ｓ７４５５）、本処理を終了する。

【１１０２２】

以上説明したように、本第３６制御例の第２変形例では、第３図柄表示装置８１に表示態様を表示するための各レイヤにおいて、文字演出を表示させる演出レイヤを切り替えることで最適な文字演出を実行可能に構成している。

【１１０２３】

これにより、文字演出によって特別図柄の視認を妨げたり、その他の予告演出を隠蔽してしまう不具合が生じることを抑制し、遊技者に対して適切な遊技情報の提供を行いつつ、文字演出を実行することができる。

【１１０２４】

なお、本第３６制御例の第２変形例では、第３図柄がリーチ態様で表示されている場合に、文字演出が表示される表示レイヤを切り替えることで、第３図柄と文字演出において表示される文字が重ならないように構成したが、これに限るものではない。例えば、文字演出の実行中にリーチ演出期間となる場合には、第３図柄をリーチ態様で停止表示させるタイミングをずらす（遅延させる）ように構成しても良いし、リーチラインを、実行中の文字演出と重ならないリーチラインに変更する構成としても良い。

【１１０２５】

ここで、第３６制御例の第２変形例におけるパチンコ機１０では、文字演出（複数の文字を表示して任意の言葉となる組合せ（例えば、「ゲキアツ」の文字）が表示されることで、変動中の特別図柄の当否判定結果を示唆する演出）における文字の配置が異なる演出レイヤを複数（３つ）有し、文字演出が開始されるタイミングにおける第３図柄の表示状況に応じて使用する演出レイヤを切り替えることで、リーチ態様の第３図柄と文字演出を構成する文字が重ならないようにし、最適な文字演出を実行する構成について説明した。

【１１０２６】

しかしながら、第３６制御例の第２変形例の文字演出は、１つの演出レイヤに全ての文字が描画されるため、文字演出に奥行き感を持たせることができなかった。そこで、複数の演出レイヤにそれぞれ異なる文字が描画される構成とし、全ての演出レイヤを重ね合わせて表示することで奥行き感のある文字演出を表示可能に構成した場合の制御例である第３６制御例の第３変形例について説明する。

【１１０２７】

本第３６制御例の第３変形例のパチンコ機１０において実行される特徴的な演出について説明する。特別図柄の当否判定結果を予告するための演出として、文字演出とキャラクタ演出の２つの演出が実行される。文字演出は、第３図柄表示装置８１の表示領域において「ゲキアツ」という文字ラインが表示されることで変動表示中の特別図柄の大当たり当選期待度が高いことを予告する演出である。

【１１０２８】

キャラクタ演出は、うさぎを模したキャラクタ８１３の表示態様によって、大当たり当選期待度を予告する演出である。具体的には、キャラクタ８１３を囲むように表示されるエフェクトの色や、エフェクトの大きさによって大当たり当選期待度が異なり、例えば、青色のエフェクトが表示された場合には大当たり当選期待度が最も低く、次いで、赤色のエフェクト、金色のエフェクトの順に大当たり当選期待度が高くなる。

【１１０２９】

この文字演出とキャラクタ演出は、音声ランプ制御装置１１３によって設定された表示用変動パターンに演出の実行の有無が規定されており、１の特別図柄の変動表示期間中に文字演出とキャラクタ演出の両方の演出が実行されない変動パターンと、いずれか一方の演出のみが実行される変動パターンと、両方の演出が実行される変動パターンがある。また、表示用変動パターンコマンドが示す表示用変動パターンには、キャラクタ演出の開始タイミングは規定されているものの、文字演出の開始タイミングは規定されておらず、文字演出の開始タイミングは表示制御装置１１４における抽選によって決定される。このため、キャラクタ演出の演出実行期間と文字演出の演出実行期間が重なる場合が生じる。

【１１０３０】

ここで、文字演出とキャラクタ演出の演出期間が重なった場合の表示画面の一例について説明する。第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍには、背景画像と、文字演出の構成要素である「ゲ」の文字８１４と、「キ」の文字８１５と、「ア」の文字８１６とがそれぞれ表示され、キャラクタ演出の構成要素であるキャラクタ８１３が表示されている。

【１１０３１】

副表示領域Ｄｓは、変動表示中の特別図柄に対応する保留球を示す実行中保留図柄ｈｒ０を表示する表示領域である実行中保留図柄表示領域Ｄｓ１と、待機中の保留図柄を表示するための待機保留図柄表示領域Ｄｓ２と、特別図柄の当否判定結果や表示用変動パターン種別に拘わらず「勝」の文字８１７ａと、「ツ」の文字８１７ｂと、「ぞ」の文字８１

７ｃが表示されるメッセージ表示領域Ｄｓ３とで構成されている。なお、この「勝ツぞ」という文字の表示は、特別図柄が変動表示されていない期間においても表示されるものであり、特別図柄の当否判定結果を予告するものではなく、遊技者に対する単なるメッセージを表示したものである。なお、本第３６制御例の第３変形例では、メッセージ表示領域Ｄｓ３に遊技者に対するメッセージを表示する構成としたが、これに限るものではなく、例えば、現在設定されている遊技状態（例えば、通常状態であれば「ツウジョウ」の表示）を表示しても良いし、現在設定されている背景ステージのステージ名を表示する構成としても良い。

【１１０３２】

ここで、本第３６制御例の第３変形例における文字演出の流れについて説明する。設定されている表示用変動パターンに規定されている文字演出の開始タイミングになると、まず「ゲ」の文字８１５が図２１９に示す位置に表示され、次いで「ゲ」の文字８１４が表示された後、「ア」の文字８１６が表示される。そして、「ア」の文字８１６が表示されると、メッセージ表示領域Ｄｓ３に表示されている「勝ツぞ」の文字のうち、「勝」の文字８１７ａと「ぞ」の文字８１７ｃが非表示となり、「ツ」の文字８１７ｂのみが表示された状態となる。このように構成することで、「ツ」の文字８１７ｂがメッセージの構成要素から文字演出における「ゲキアツ」の文字列を形成する構成要素となったことを遊技者に分かり易く認識させることができる。

【１１０３３】

キャラクタ演出におけるキャラクタ８１３の表示位置は、設定されている表示用変動パターンによって異なり、主表示領域Ｄｍの様々な位置に表示される。具体的には、本第３６制御例の第３変形例では、キャラクタ演出用の表示データテーブルを複数有しており、音声ランプ制御装置１１３から受信した表示用変動パターンコマンドに含まれる変動パターン種別に応じて１のキャラクタ演出用の表示データテーブルが設定される。このキャラクタ演出用の表示データテーブルには、第３図柄表示装置８１において１フレーム分の画像が表示される時間（本制御例では、２０ミリ秒）を１単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき１フレーム分の画像の内容（描画内容）を詳細に規定したものである。描画内容には、キャラクタ８１３の表示位置、キャラクタ８１３を囲むエフェクトの色と大きさといったキャラクタ８１３を第３図柄表示装置８１に描画させるための描画情報が規定されており、キャラクタ演出用の表示データテーブル毎に異なる描画情報が規定されている。このように構成することで、キャラクタ８１３がどこに表示されるのかを遊技者が予測し難くなり、主表示領域Ｄｍにキャラクタ８１３が表示されていないか探す楽しみを提供することができる。

【１１０３４】

なお、本第３６制御例の第３変形例のパチンコ機１０は、第３６制御例の第２変形例のパチンコ機１０と同様に、第３図柄表示装置８１に表示される表示内容を複数の表示レイヤに表示された画像を組み合わせて表示する構成である。表示レイヤは、保留図柄レイヤｒｙ１が最前面側（遊技者目線で手前側）にあり、次いで第１演出レイヤｒｙ２ａ、第２演出レイヤｒｙ２ｂ、第３演出レイヤｒｙ２ｃ、特別図柄レイヤｙ３、背景レイヤｒｙ４の順に配置されるように構成している。

【１１０３５】

具体的には、図４５を参照して上述した描画リストに記載されているように、１フレームの画像で使用する背面画像、第３図柄（図柄１，図柄２，・・・）、エフェクト（エフェクト１，エフェクト２，・・・）、キャラクタ（キャラクタ１，キャラクタ２，・・・，保留球数図柄１，保留球数図柄２，・・・，エラー図柄）といった各スプライトに対応させて各画層（レイヤ）が形成されている。そして、表示画像が重複している箇所については、手前側の画層（レイヤ）に表示される表示画像が優先して視認可能となる。

【１１０３６】

保留図柄レイヤｒｙ１には、主に副表示領域Ｄｓの実行中保留図柄ｈｒ０や、待機保留図柄表示領域Ｄｓ２に表示する保留図柄や、メッセージ表示領域Ｄｓ３に表示される「勝

ツぞ」の文字画像が描画される。
【１１０３７】
　また、第１演出レイヤｒｙ２ａには「ア」の文字８１６とキャラクタ８１３の画像が表示されている。第２演出レイヤｒｙ２ｂには、「キ」の文字８１５の画像が表示され、第３演出レイヤｒｙ２ｃには、「ゲ」の文字８１４の画像が表示され、背景レイヤｒｙ４には、背景画像が表示される。
【１１０３８】
　このように、文字演出の構成要素である各文字８１４～８１６、および８１７ｂの画像がそれぞれ異なる表示レイヤに表示されることで奥行のある立体的な演出となり、遊技者に臨場感のある演出を提供することができる。
【１１０３９】
　なお、キャラクタ演出におけるキャラクタ８１３を描画する表示レイヤは、キャラクタ演出用の表示データテーブルの種別によって規定されている。例えば、キャラクタ８１３を囲むエフェクトが青色の場合（即ち、大当たり当選期待度が比較的低い（例えば、５％）ことを示唆する態様である場合）には、遊技者に提供する遊技情報の重要度が低く、その他の予告演出を優先的に表示させた方が良いため、演出レイヤの中でも最も背面側に配置されている第３演出レイヤｒｙ２ｃにキャラクタ８１３が描画される。一方、キャラクタ８１３を囲むエフェクトが金色である場合（即ち、大当たり当選期待度が比較的高い（例えば、６０％）ことを示唆する態様である場合）には、遊技者に提供する遊技情報の重要度が高く、その他の予告演出よりも優先的に表示させた方が良いため、演出レイヤの中で最も前面側に配置される第１演出レイヤｒｙ２ａにキャラクタ８１３が描画される。
【１１０４０】
　このように構成することで、遊技者にとって重要度の高い遊技情報が、その他の予告演出と重なり隠蔽されてしまうことを抑制することができる一方で、上述したようにキャラクタ演出において表示されるキャラクタ８１３の表示位置は固定ではないため、例えば、金色のエフェクトで囲まれたキャラクタ８１３が文字演出における「ゲキアツ」の文字列の構成要素（「ゲ」「キ」「ア」の各文字）のうち、「キ」の文字８１５の表示位置で表示されているタイミングで文字演出が開始されると、キャラクタ８１３と文字演出の構成要素である「キ」の文字８１５が重なって表示されることになる。この場合、キャラクタ８１３は第１演出レイヤｒｙ２ａに描画されており、「キ」の文字８１５は第２演出レイヤｒｙ２ｂに描画されているため、前面側に配置されている第１演出レイヤｒｙ２ａに描画されているキャラクタ８１３が優先的に表示されることとなる。このため、キャラクタ８１３の表示によって「キ」の文字８１５の一部分（キャラクタ８１３と重なる部分）が遊技者からは隠れる状態となり、「ゲキアツ」の文字列が形成されているにも拘わらず、遊技者からは「キ」の文字８１５が表示されているのか否かが分かり難く、文字演出の演出効果が低下してしまう虞がある。なお、文字演出が実行された場合には、大当たり当選期待度が極めて高い（例えば、８０％）ことを示唆し、遊技者に提供する遊技情報の重要度が最も高い予告演出である。
【１１０４１】
　そこで、本第３６制御例の第３変形例では、文字演出を構成する文字（例えば、「キ」の文字８１５）が表示レイヤに描画されるタイミングでキャラクタ演出の実行中であるか否かを判別し、キャラクタ演出の演出実行期間と重なる場合には、「キ」の文字８１５を描画する表示レイヤを第２演出レイヤｒｙ２ｂから保留図柄レイヤｒｙ１に変更可能に構成している。このように構成することで、保留図柄レイヤｒｙ１は表示レイヤの中で最も前面側（遊技者目線で手前側）に配置されている表示レイヤであるため、第１演出レイヤｒｙ２ａに描画されるキャラクタ８１３よりも前面側に「キ」の文字８１５が表示されることとなり、第１演出レイヤ８１３の表示位置を可変させることなく「キ」の文字８１５を遊技者が視認し易くなる。
【１１０４２】
　以下に、上述した文字演出を実行するための制御について説明する。まず、第３６制御

例の第３変形例におけるパチンコ機１０が有する文字演出表示データテーブルの内容について説明する。文字演出表示データテーブルの一例を模式的に示した図である。表示データテーブルは、第３図柄表示装置８１において１フレーム分の画像が表示される時間（本制御例では、２０ミリ秒）を１単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき１フレーム分の画像の内容（描画内容）を詳細に規定したものである。

【１１０４３】

描画内容には、文字演出の各文字を表示する位置と、描画する表示レイヤを示す情報が規定されている。文字演出表示データテーブルには、文字ポインタ値に対して描画内容が規定されている。文字ポインタ値「０」には、文字演出が開始されることを示すＳｔａｒｔデータが規定されている。文字ポインタ値「１０００」では、「キ」の文字８１５の描画指示と描画する表示レイヤを示す情報が規定されている。文字ポインタ値「１５００」では、「ゲ」の文字８１４の描画指示と描画する表示レイヤを示す情報が規定されている。文字ポインタ値「２０００」では、「ア」の文字８１６の描画指示と描画する表示レイヤを示す情報が規定されている。文字ポインタ値「２５００」では、メッセージ表示領域Ｄｓ３に表示されている「勝」の文字８１７ａと「ぞ」の文字８１７ｃを非表示とする描画指示と描画する表示レイヤを示す情報が規定されている。そして、文字ポインタ値「５０００」には、文字演出の終了を示すＥＮＤデータが規定されている。これにより、表示制御装置１１４において文字演出が終了したことを判別する。

【１１０４４】

なお、本第３６制御例の第３変形例では、文字演出が実行されると必ず「ゲキアツ」の文字列が形成される構成としたが、これに限るものではなく、「ゲキアツ」の文字列が形成されないまま文字演出が終了するパターン（所謂、ガセパターン）を設ける構成としても良い。

【１１０４５】

また、本第３６制御例の第３変形例では、文字演出において「ゲキアツ」の文字列を形成する構成としたが、これに限るものではなく、他の文字列を形成する構成としても良いし、文字列ではなく、絵柄を形成する構成としても良い。

【１１０４６】

次に、本第３６制御例の第３変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理について説明する。本第３６制御例の第３変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理は、上述した第３６制御例の第２変形例における表示制御装置１１４の制御処理に対して、表示設定処理６に代えて表示設定処理７（Ｓ６３５１）を実行する点、文字演出処理に代えて文字演出処理２（Ｓ７２２４）を実行する点、文字演出実行中処理に代えて文字演出実行中処理２（Ｓ７５５２）を実行する点で相違する。その他の処理については同一である。

【１１０４７】

まず、本第３６制御例の第３変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される表示設定処理７（Ｓ６３５１）について説明する。表示設定処理７（Ｓ６３５１）の内容を示したフローチャートである。本第３６制御例の第３変形例における表示設定処理７（Ｓ６３５１）は、上述した第３６制御例の第２変形例における表示設定処理６に対して、文字演出処理（Ｓ７２２３）に代えて文字演出処理２（Ｓ７２２４）を実行する点で相違する。その他の処理については同一である。

【１１０４８】

次に、本第３６制御例の第３変形例における表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される表示設定処理７（Ｓ６３５１）内で実行される文字演出処理２（Ｓ７２２４）について説明する。

【１１０４９】

文字演出処理２（Ｓ７２２４）では、まず、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されているか判別する（Ｓ７５５１）。文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されていると判別した場合には（Ｓ７５５１：Ｙｅｓ）、文字演出実行中処理２（Ｓ７

５５２）を実行し、本処理を終了する。文字演出実行中処理２（Ｓ７５５２）の詳細な説明については、図２２６を参照して後述する。一方、Ｓ７５５１の処理において、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂがオンに設定されていないと判別した場合には（Ｓ７５５１：Ｎｏ）、文字演出実行可能期間であるか判別する（Ｓ７５５３）。文字演出実行可能期間ではないと判別した場合には（Ｓ７５５３：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１１０５０】

一方、Ｓ７５５３の処理において、文字演出実行可能期間であると判別した場合には、表示演出カウンタＣＳ３の値を取得する（Ｓ７５５４）。そして、Ｓ７５５４の処理において取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値であるか否か判別する（Ｓ７５５５）。取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が実行値ではないと判別した場合には（Ｓ７５５５：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ７５５５の処理において、取得した表示演出カウンタＣＳ３の値が文字演出の実行値であると判別した場合には（Ｓ７５５５：Ｙｅｓ）、文字演出実行中フラグ２２３ｘｃをオンに設定し（Ｓ７５５６）、文字演出データテーブルを設定し（Ｓ７５５７）、本処理を終了する。

【１１０５１】

次に、本第３６制御例の第３変形例における文字演出処理２（Ｓ７２２４）内で実行される文字演出実行中処理２（Ｓ７５５２）の処理について説明する。文字演出実行中処理２（Ｓ７５５２）では、まず、文字ポインタを１加算する（Ｓ７６５１）。次に、加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータであるか判別する（Ｓ７６５４）。加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータであると判別した場合には（Ｓ７６５４：Ｙｅｓ）、文字ポインタの値を初期化し（Ｓ７６５２）、文字演出実行中フラグ２３３ｘｂをオフに設定し（Ｓ７６５３）、本処理を終了する。一方、Ｓ７６５４の処理において、加算後の文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容がＥＮＤデータではないと判別した場合には（Ｓ７６５４：Ｎｏ）、文字表示データテーブルバッファのうち、文字ポインタにより示されるアドレスの描画内容のデータを取得し（Ｓ７６５５）、取得した描画内容のデータは、「キ」の文字を示す描画内容のデータであるか判別する（Ｓ７６５６）。

【１１０５２】

Ｓ７６５６の処理において、取得した描画内容のデータは、「キ」の文字を示す描画内容のデータであると判別した場合には（Ｓ７６５６：Ｙｅｓ）、次に、予告演出の実行中であるか判別する（Ｓ７６５７）。予告演出の実行中であると判別した場合には（Ｓ７６５７：Ｙｅｓ）、表示レイヤを保留図柄レイヤｒｙ１へ変更して（Ｓ７６５８）、本処理を終了する。一方、Ｓ７６５７の処理において、予告演出の実行中ではないと判別した場合には（Ｓ７６５７：Ｎｏ）、Ｓ７６５８の処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【１１０５３】

一方、Ｓ７６５６の処理において、取得した描画内容のデータは、「キ」の文字の描画内容のデータではないと判別した場合には（Ｓ７６５６：Ｎｏ）、上述したＳ７６５７の処理をスキップし、表示レイヤを保留図柄レイヤｒｙ１へ変更して（Ｓ７６５８）、本処理を終了する。

【１１０５４】

以上説明したように、本第３６制御例の第３変形例では、複数の演出レイヤにそれぞれ異なる文字が描画される構成とし、全ての演出レイヤを重ね合わせて表示することで奥行き感のある文字演出を表示可能に構成している。

【１１０５５】

また、文字演出とその他の予告演出の演出期間が重なり、その他の予告演出によって文字演出の構成要素（文字）が隠蔽される虞がある場合に、文字演出の構成要素（文字）を描画する表示レイヤを最前面に配置されている表示レイヤ（保留図柄レイヤｒｙ１）に切り替えることで、その他の予告演出よりも前面側に表示させる構成としている。

【１１０５６】

このように構成することで、文字演出がその他の予告演出に隠蔽され、遊技者から見て文字演出が実行されていないように見える不具合を解消することができる。

【１１０５７】

なお、第３６制御例の第３変形例では、キャラクタ演出と文字演出の演出期間が重なった場合に、文字演出の描画を前面側に配置された表示レイヤに切り替えることで、キャラクタ演出によって隠蔽されることを抑制する構成について説明したが、文字演出の一部をキャラクタ演出によって隠蔽し、文字演出が提供する遊技情報の内容を可変させる演出を実行しても良い。具体的には、文字演出によって表示される「ゲキアツ」の文字のうち、「ゲキ」が表示されている部分を隠すようにキャラクタ８１３が表示され、「ゲキアツ」が表示された場合よりも大当たり当選期待度がランクダウンする「アツ」という文字を表示させる演出を実行しても良い。この場合、例えば、キャラクタ８１３の表示位置が可変すること、或いは表示レイヤが切り替わることを煽る演出を実行する演出を実行すると良い。このように構成することで、キャラクタ８１３が文字演出と重ならない状態、或いは、文字演出よりも背面側に表示されると、「アツ」の文字が「ゲキアツ」の文字に昇格するため、遊技者にキャラクタ８１３の移動に興味をもたせることが可能となり、遊技の興趣味を向上させることができる。

【１１０５８】

＜第３７制御例＞

従来より、設定されている遊技状態と、特別図柄抽選の結果とに基づいて、異なる変動パターン（変動時間）を決定することで、単位時間当たりに実行させることが可能となる特別図柄抽選の回数を、遊技状態に応じて異ならせるように構成し、遊技者に対して、単位時間当たりに実行させることが可能な特別図柄抽選の回数が多くなる遊技状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせるパチンコ機１０がある。

【１１０５９】

また、特別図柄抽選の結果が外れである場合よりも、当たりである場合の方が、長い変動時間の変動パターンが決定され易くすることで、実行中の特別図柄変動の長さによって、特別図柄変動が停止表示されるまでに、実行中の特別図柄変動に対応する特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させることが可能なパチンコ機１０がある。

【１１０６０】

さらに、同一の遊技状態が継続する期間であっても、大当たり遊技が終了してから実行される特別図柄変動の回数に基づいて、異なる変動パターン（変動時間）が決定されるように構成することで、同一の遊技状態で長時間の遊技を実行している遊技者に対して、飽きの来ない遊技を実行可能に構成しているものがある。具体的には、大当たり遊技の終了後に通常状態が設定された場合において、特別図柄変動が１００回実行される毎に、変動パターンを決定する際に参照される変動パターンテーブルを切り替えることで、異なる変動パターン（変動時間）を設定可能に構成するものがある。

【１１０６１】

このように構成された従来型のパチンコ機１０によれば、同一の遊技状態が長時間継続する場合であっても、特別図柄変動の実行回数に応じて全く異なる変動パターンを設定することができるため、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができるものであったが、特別図柄変動の実行回数に応じて変動パターンテーブルを切り替えるための規定内容（変動パターン選択シナリオ）として、莫大な特別図柄変動回数に対応したデータを規定する必要があり、主制御装置１１０の処理負荷を増大させてしまう虞があった。

【１１０６２】

また、特別図柄変動の実行回数と、参照される変動パターンテーブルと、を完全に対応付けてしまうと、どのタイミングでどの変動パターンが選択され易くなるのかが遊技者に予測され易くなってしまうため、特別図柄変動の実行回数と、参照される変動パターンテーブルと、の組合せを多様化し、どのタイミングでどの変動パターンが選択され易くなるのかを遊技者に予測させ難くすることが望まれるが、このような構成を用いた場合には、変動パターン選択シナリオの規定内容がより多様化してしまい、主制御装置１１０の処理

負荷をより増大させてしまうという問題がある。
【１１０６３】
これに対して、本第３７制御例では、同一の遊技状態を、参照される変動パターンテーブルが同一となる範囲を最小単位とした状態テーブルで管理するように構成している。具体的には、同一の遊技状態に対して、参照される変動パターンテーブルが異なる複数の状態テーブルを設け、各状態テーブルにおける移行条件が成立した場合に、異なる状態テーブルへと移行させるように構成している。
【１１０６４】
このように構成することで、前回の大当たり遊技が終了してからの特別図柄変動回数を計測する必要が無いため、主制御装置１１０の処理負荷を軽減することができるという効果がある。
【１１０６５】
＜第３７制御例における電気的構成について＞
次に、図１１１８から図１１２６を参照して、本第３７制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明をする。本第３７制御例では、上述した第３２制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２及びＲＡＭ２０３の構成を一部異ならせている。それ以外の構成は同一であるため、その説明を省略する。
【１１０６６】
まず、図１１１８を参照して、本第３７制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図１１１８は、本第３７制御例のパチンコ機１０が有するＲＯＭ２０２の構成を模式的に示した図である。図１１１８に示した通り、本第３７制御例では、上述した第３２制御例に対して、変動パターン選択テーブル２０２ｄに代えて変動パターン選択テーブル２０２ｈａを設け、さらに、状態移行テーブル２０２ｈｂと、大当たり移行設定テーブル２０２ｈｃを追加した点で相違している。
【１１０６７】
ここで、図１１２０を参照して、変動パターン選択テーブル２０２ｈａについて説明をする。図１１２０（ａ）は、変動パターン選択テーブル２０２ｈａに規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２０（ａ）に示した通り、変動パターン選択テーブル２０２ｈａには、通常状態が設定されている場合に参照される３つの変動パターンテーブルと、時短状態が設定されている場合に参照される３つの変動パターンテーブルと、が規定されており、設定されている状態ステータス（ＳＴ）の種別に応じて、異なる変動パターンテーブルが読み出されるように構成している。
【１１０６８】
通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１は、状態ステータスとして、ＳＴ１が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ１」は、パチンコ機１０が初期化処理を実行した場合、或いは、ラッシュ期間が終了した後に設定される状態ステータスであって、特別図柄変動が２０回実行されるまで継続する状態である。
【１１０６９】
ここで、図１１２０（ｂ）を参照して、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１に規定されている内容について説明をする。図１１２０（ｂ）は、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２０（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１に記載されている内容は、上述した第３２制御例における通常用変動パターンテーブル２０２ｄ１に対して、第２特別図柄抽選が実行された場合に選択される変動パターンの内容を異ならせている点で相違しており、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。
【１１０７０】
上述した通り、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１が参照される状態は、ラッシュ期間が終了した後（時短状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄変動が終了した後）に設定されるものであるため、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１を

参照して変動パターンが決定される第２特別図柄変動は、通常の遊技を実行している場合には発生し得ない第２特別図柄変動となる。よって、変動時間が１００秒のロング変動が実行されるように変動パターンを規定することで、適正では無い遊技（通常状態中に第２特別図柄抽選を実行させるための右打ち遊技）を実行している遊技者に対して、遊技の進行を遅らせることができる。

【１１０７１】

なお、状態ステータス「ＳＴ１」が設定されている状態で第２特別図柄変動が実行されたことは判別可能な判別手段を設け、判別手段によって第２特別図柄変動が実行されたことを判別した場合に、パチンコ機１０の外部に対して不正遊技が実行されたことを報知可能な報知手段を設けても良い。

【１１０７２】

通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２は、状態ステータスとして、ＳＴ２が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ２」は、「ＳＴ１」の移行条件が成立した場合に設定される状態ステータスであって、特別図柄変動が８０回実行されるまで継続する状態である。

【１１０７３】

ここで、図１１２１（ａ）を参照して、通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２に規定されている内容について説明をする。図１１２１（ａ）は、通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２１（ａ）に示した通り、通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２は、上述した通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１（図１１２０（ｂ）参照）に対して、第１特別図柄変動の変動パターンとして「ノーマルリーチ」が選択されないように規定している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。

【１１０７４】

上述した通り、通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２に規定されている内容は、通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１に対して、選択し得る変動パターンの種別を一部異ならせているため、実行される特別図柄変動の変動パターンに基づいて、遊技者に対して、現在設定されている状態ステータスを予測させることが可能となる。

【１１０７５】

また、同一の遊技状態が設定されている場合であっても、設定されている状態ステータスに応じて変動パターンの選択内容を異ならせることができるため、同一の遊技状態にて長時間遊技を実行している遊技者が、遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。具体的には、状態ステータスとして「ＳＴ１」が設定されている場合よりも、「ＳＴ２」が設定されている場合の方が、スーパーリーチに対応する変動パターンが選択され易くなるように構成している。

【１１０７６】

通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３は、状態ステータスとして、ＳＴ３が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ３」は、時短状態における最終変動に対応する状態ステータス「ＳＴ６」が設定されている状態で移行条件が成立した場合に設定される状態ステータスであって、特別図柄変動が１回実行されるまで継続する状態である。

【１１０７７】

ここで、図１１２１（ｂ）を参照して、通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３に規定されている内容について説明をする。図１１２１（ｂ）は、通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２１（ｂ）に示した通り、通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３は、特別図柄種別、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値に関わらず、２０秒の変動時間となる変動パターンが選択されるように構成している。この通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３は、通常、ラッシュ期間中における通常状態の第２特別図柄変動（時短状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄変動）を実行する際に参照されるものである。

【１１０７８】
時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４は、状態ステータスとして、ＳＴ４が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ４」は、時短大当たり（大当たりＡ，Ｃ，Ｄ）が終了した後に設定される状態ステータスである。つまり、時短状態中に実行される最初の特別図柄変動に少なくとも対応している状態ステータスである。
【１１０７９】
ここで、図１１２２（ａ）を参照して、時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４に規定されている内容について説明をする。図１１２２（ａ）は、時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２２（ａ）に示した通り、時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４には、上述した第３２制御例における時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２（図９５７（ａ）参照）と同一の内容が規定されている。
【１１０８０】
時短用変動パターン２テーブル２０２ｈａ５は、状態ステータスとして、ＳＴ５が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ５」は、状態ステータスとして「ＳＴ４」が設定されている状態で移行条件が成立した場合に設定される状態ステータスである。
【１１０８１】
ここで、図１１２２（ｂ）を参照して、時短用変動パターン２テーブル２０２ｈａ５に規定されている内容について説明をする。図１１２２（ｂ）は、時短用変動パターン２テーブル２０２ｈａ５に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２２（ｂ）に示した通り、時短用変動パターン２テーブル２０２ｈａ５には、第１特別図柄変動に対しては、上述した第３２制御例における特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３（図９５７（ｂ）参照）と同一の内容が、第２特別図柄変動に対しては、上述した第３２制御例における時短用変動パターンテーブル２０２ｄ２（図９５７（ａ）参照）と同一の内容が規定されている。
【１１０８２】
次に、時短用変動パターン３テーブル２０２ｈａ６は、状態ステータスとして、ＳＴ６が設定されている場合に参照される変動パターンテーブルである。「ＳＴ６」は、状態ステータスとして「ＳＴ５」が設定されている状態で移行条件が成立した場合に設定される状態ステータスである。
【１１０８３】
ここで、図１１２３を参照して、時短用変動パターン３テーブル２０２ｈａ６に規定されている内容について説明をする。図１１２３は、時短用変動パターン３テーブル２０２ｈａ６に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２３に示した通り、時短用変動パターン３テーブル２０２ｈａ６には、第１特別図柄変動に対しては、上述した第３２制御例における特殊時短用変動パターンテーブル２０２ｄ３（図９５７（ｂ）参照）と同一の内容が、第２特別図柄変動に対しては、上述した第３２制御例における時短最終変動パターンテーブル２０２ｄ４（図９５７（ｃ）参照）と同一の内容が規定されている。
【１１０８４】
状態移行テーブル２０２ｈｂは、パチンコ機１０に設定される状態ステータスの内容が予め規定されているデータテーブルである。ここで、図１１２４（ａ）を参照して、状態移行テーブル２０２ｈｂに規定されている内容について説明をする。図１１２４（ａ）は、状態移行テーブル２０２ｈｂに規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２４（ａ）に示した通り、状態移行テーブル２０２ｈｂには、６種類の状態移行テーブルが格納されている。各状態移行テーブルには、参照される変動パターンテーブルの種別、異なる状態ステータスへの移行条件、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータスが規定されており、遊技の経過に応じて、異なる状態移行テーブルへと移行するよ

うに構成している。このように構成することで、状態移行テーブルを移行させるための移行条件に関する管理を実行するだけで、遊技状態や特別図柄変動回数に応じて様々な変動パターンを選択可能となる。

【１１０８５】

状態移行１テーブル２０２ｈｂ１は、パチンコ機１０が初期化処理を実行した場合、或いは、ラッシュ期間が終了した後に設定される状態ステータスである。つまり、初期化されたパチンコ機１０が立ちあがった場合には、まず、状態移行１テーブル２０２ｈｂ１を参照して変動パターンが選択される。

【１１０８６】

ここで、図１１２４（ｂ）を参照して、状態移行１テーブル２０２ｈｂ１の内容について説明をする。図１１２４（ｂ）は、状態移行１テーブル２０２ｈｂ１に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２４（ｂ）に示した通り、状態移行１テーブル２０２ｈｂ１には、参照される変動パターンテーブルの種別「通常１（通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１）」、移行条件「特図変動２０回」、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータス「ＳＴ２」が規定されている。

【１１０８７】

次に、図１１２４（ｃ）を参照して、状態移行２テーブル２０２ｈｂ２の内容について説明をする。図１１２４（ｃ）は、状態移行２テーブル２０２ｈｂ２に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２４（ｃ）に示した通り、状態移行２テーブル２０２ｈｂ２には、参照される変動パターンテーブルの種別「通常２（通常用変動パターン２テーブル２０２ｈａ２）」、移行条件「特図変動８０回」、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータス「ＳＴ１」が規定されている。

【１１０８８】

次に、図１１２４（ｄ）を参照して、状態移行３テーブル２０２ｈｂ３の内容について説明をする。図１１２４（ｄ）は、状態移行３テーブル２０２ｈｂ３に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２４（ｄ）に示した通り、状態移行３テーブル２０２ｈｂ３には、参照される変動パターンテーブルの種別「通常３（通常用変動パターン３テーブル２０２ｈａ３）」、移行条件「特図変動１回」、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータス「ＳＴ１」が規定されている。

【１１０８９】

次に、図１１２５（ａ）を参照して、状態移行４テーブル２０２ｈｂ４の内容について説明をする。図１１２５（ａ）は、状態移行４テーブル２０２ｈｂ４に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２５（ａ）に示した通り、状態移行４テーブル２０２ｈｂ４には、参照される変動パターンテーブルの種別「時短１（時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４）」、移行条件として、移行条件１「特図１変動４回ｏｒ特図２変動１回」、移行条件２「小当たり当選」が、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータスとして、移行条件１が成立した場合「ＳＴ５」、移行条件２が成立した場合「ＳＴ３」が規定されている。

【１１０９０】

次に、図１１２５（ｂ）を参照して、状態移行５テーブル２０２ｈｂ５の内容について説明をする。図１１２５（ｂ）は、状態移行５テーブル２０２ｈｂ５に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２５（ｂ）に示した通り、状態移行５テーブル２０２ｈｂ５には、参照される変動パターンテーブルの種別「時短２（時短用変動パターン２テーブル２０２ｈａ５）」、移行条件として、移行条件１「特図１変動１回ｏｒ特図２変動１回」、移行条件２「小当たり当選」が、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータスとして、移行条件１が成立した場合「ＳＴ６」、移行条件２が成立した場合「ＳＴ３」が規定されている。

【１１０９１】

次に、図１１２５（ｃ）を参照して、状態移行６テーブル２０２ｈｂ６の内容について説明をする。図１１２５（ｃ）は、状態移行６テーブル２０２ｈｂ６に規定されている内

容を模式的に示した図である。図１１２５（ｃ）に示した通り、状態移行６テーブル２０２ｈｂ６には、参照される変動パターンテーブルの種別「時短３（時短用変動パターン３テーブル２０２ｈａ６）」、移行条件として、移行条件１「特図１変動５回ｏｒ特図２変動１回」が、移行条件が成立した場合における移行先の状態ステータスとして、移行条件１が成立した場合に「ＳＴ３」が規定されている。

【１１０９２】

大当たり移行設定テーブル２０２ｈｃは、大当たり遊技終了後に設定される状態ステータスの種別が格納されているデータテーブルであって、大当たり遊技終了時に参照され、実行中の大当たり遊技に対応する大当たり種別に応じた状態ステータス（ＳＴ１又はＳＴ４）が設定される。

【１１０９３】

ここで、図１１２６を参照して、大当たり移行設定テーブル２０２ｈｃに規定されている内容について説明をする。図１１２６は、大当たり移行設定テーブル２０２ｈｃに規定されている内容を模式的に示した図である。図１１２６に示した通り、大当たり移行設定テーブル２０２ｈｃには、大当たり種別に対応させて移行先の状態ステータス（移行先ＳＴ）が規定されている。具体的には、大当たり遊技終了後に時短状態が設定される「大当たりＡ，Ｃ，Ｄ」に対しては、時短状態における最初の状態ステータスである「ＳＴ４」が移行先ＳＴとして規定されており、大当たり遊技終了後に通常状態が設定される「大当たりＢ」に対しては、通常状態における最初の状態ステータスである「ＳＴ１」が移行先ＳＴとして規定されている。

【１１０９４】

次に、図１１１９を参照して、本第３７制御例における主制御装置１１０のＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図１１１９は本第３７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を模式的に示した図である。図１１１９に示した通り、本第３７制御例におけるＲＡＭ２０３の構成は、上述した第３２制御例におけるＲＡＭ２０３に対して、状態ステータス２０３ｈａと、規定回数カウンタ２０３ｈｂと、を追加した点で相違し、それ以外は同一である。

【１１０９５】

状態ステータス２０３ｈａは、状態移行テーブル２０２ｈｂに規定されている各種状態移行テーブルのうち、現在参照されている状態移行テーブルの種別を記憶するための記憶領域である。

【１１０９６】

規定回数カウンタ２０３ｈｂは、状態移行テーブルを移行させるための移行条件が成立するまでの回数（通常状態における特別図柄変動回数）を計測するためのカウンタである。

【１１０９７】

＜第３７制御例における制御処理について＞

次に、図１１２７から図１１２９を参照して、本第３７制御例における制御処理の内容のうち、上述した第３２制御例とは異なる点について説明をする。本第３７制御例では、上述した第３２制御例に対して、特別図柄変動に対して変動パターンを選択するための制御処理の内容を異ならせている。

【１１０９８】

まず、図１１２７を参照して、特別図柄変動処理８（Ｓ１８４）の処理内容について説明をする。図１１２７は、特別図柄変動処理８（Ｓ１８４）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動処理８（Ｓ１８４）は、上述した第３２制御例における特別図柄変動処理（Ｓ１０４）に対して、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）に代えて、特別図柄変動パターン選択処理８（Ｓ２９０）を実行する点と、時短更新処理（Ｓ２２４）を終えた後に、変動回数減算処理（Ｓ２９１）を実行する点とで相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して説明を省略する。

【１１０９９】

次に、図１１２８を参照して、特別図柄変動パターン選択処理８（Ｓ２９０）の処理内容について説明をする。図１１２８は、特別図柄変動パターン選択処理８（Ｓ２９０）の処理内容を示したフローチャートである。図１１２８に示した通り、特別図柄変動パターン選択処理８（Ｓ２９０）が実行されると、上述した第３２制御例の特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）と同一のＳ４０１～Ｓ４０３の処理を実行し、その後、現在の状態ステータスに応じた変動パターン選択テーブルを読み出し（Ｓ４８４）、Ｓ４０５～Ｓ４１０の処理を実行する。

【１１１００】

次いで、変動回数減算処理（Ｓ２９１）の処理内容について、図１１２９を参照して説明をする。図１１２９は、変動回数減算処理（Ｓ２９１）の処理内容を示したフローチャートである。この変動回数減算処理（Ｓ２９１）では、状態ステータスの移行条件が成立したか否かを判別するために用いられる各種要素を更新（減算）するための処理が実行される。

【１１１０１】

変動回数減算処理（Ｓ２９１）が実行されると、まず、規定回数カウンタ２０３ｈｂの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ６８１）、大きいと判別した場合は（Ｓ６８１：Ｙｅｓ）、規定回数カウンタ２０３ｈｂの値を１減算し（Ｓ６８２）、ステータス移行条件が成立したかを判別する（Ｓ６８３）。Ｓ６８３の処理において、ステータス移行条件が成立したと判別した場合は（Ｓ６８３：Ｙｅｓ）、状態移行テーブル２０２ｈｂに応じた状態移行をし、対応する状態コマンドを設定し（Ｓ６８４）、移行後の状態移行テーブルに応じた移行条件を、規定回数カウンタ２０３ｈｂ、特図２カウンタ２０３ｑ、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｒに設定し（Ｓ６８５）、本処理を終了する。このように構成することで、次に実行される特別図柄変動からは、移行先の状態移行テーブルを参照して変動パターンを決定することができる。

【１１１０２】

＜第３８制御例＞

次に、図１１３０から図１１３６を参照して、第３８制御例のパチンコ機１０について説明をする。上述した第３２制御例では、特別図柄変動の変動パターン（変動時間）を決定する際に、変動パターン選択テーブル２０２ｂを参照し、変動パターン選択テーブル２０２ｂに規定されている変動パターンを決定する処理を実行するように構成していた。このように構成した場合、様々な変動時間の変動パターンを決定するためには、様々な変動時間に対応する変動パターンを予め変動パターン選択テーブル２０２ｂに規定する必要があり、変動パターンの種別を増加させる程、変動パターン選択テーブル２０２ｂの規定内容を記憶しておくための記憶領域の容量が増加してしまうという問題があった。

【１１１０３】

これに対して、本第３８制御例では、変動パターン（変動時間）を決定するための第１要素（主変動時間）と、第２要素（加算変動時間）と、を独立して決定可能に構成し、その第１要素と、第２要素とを合算させる合算処理によって算出された合算変動時間を、変動パターンとして決定可能に構成している。このように構成することで、複数の要素を組合せる分、予め規定されている変動パターン（変動パターンの一部）のデータ数よりも多くの種類の変動パターン（合算後の変動時間）を決定することが可能となるため、変動パターンの種別を増加させる際に生じる、変動パターン選択テーブル２０２ｂの規定内容を記憶しておくための記憶領域の容量が増加してしまうという問題を抑制することが可能となる。

【１１１０４】

さらに、本第３８制御例では、合算変動時間が示す変動時間の長さが所定時間（６５５３６×２ミリ秒）よりも長い場合と、短い場合とで、決定された変動パターンの記憶方法を異ならせるように構成している。

【１１１０５】

具体的には、変動時間の長さを記憶するための変動時間カウンタを、２バイトの容量で

構成し、最大で６５５３６までの値を設定可能に構成している。そして、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が２ミリ秒単位で実行される主制御装置１１０のタイマ割込処理（図９６３参照）にて更新（減算）可能に構成している。つまり、合算変動時間が示す変動時間の長さが所定時間（６５５３６×２ミリ秒）よりも短い場合は、その変動時間に対応する値を変動時間カウンタ２０３ｉｂの値にセットすることで記憶可能に構成している。

【１１１０６】

一方、合算変動時間が示す変動時間の長さが所定時間（６５５３６×２ミリ秒）よりも長い場合には、変動時間カウンタ２０３ｉｂにて設定可能な値をオーバーフローしたことを示すためのオーバーフローフラグ２０３ｉａをオンに設定し、合算変動時間から所定時間（６５５３６×２ミリ秒）を除した値を変動時間カウンタ２０３ｉｂにセットするように構成している。そして、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が０となった場合に、オーバーフローフラグ２０３ｉａがオンに設定されているかを判別し、オンに設定されている場合には、変動時間カウンタ２０３ｉｂに対して６５５３６の値を再セットするように構成している。

【１１１０７】

このように構成することで、合算変動時間が示す変動時間の長さが所定時間（６５５３６×２ミリ秒）よりも長くなることを想定し、変動時間カウンタ２０３ｉｂを、３バイトの容量で構成する必要が無くなるため、変動時間を管理するための処理容量を軽減することができる。

【１１１０８】

また、本第３８制御例では、オーバーフローフラグ２０３ｉａが、他の処理にて用いられる制御データの空き容量（飽きの１ビット）を用いて設けられているため、オーバーフローフラグ２０３ｉａを設けるために専用のデータ容量を用いることが無い。

【１１１０９】

なお、これに限ること無く、例えば、変動時間カウンタ２０３ｉｂに用いられる２バイトのデータ容量のうち、変動時間を減算する際に用いられることが無い領域を用いてオーバーフローフラグ２０３ｉａを設けても良い。

【１１１１０】

また、本制御例では、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値を、主制御装置１１０にて定期的に実行されるタイマ割込処理（２ミリ秒毎）にて更新するように構成している。ここで、パチンコ機１０では、遊技球の入賞を検知したり、設定したコマンドを他の制御装置へと出力したりするために、短いタイミングでループ処理を実行する必要があることから、２ミリ秒単位でタイマ割込処理が実行されるように構成している。

【１１１１１】

よって、例えば、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値を、例えば１秒単位で更新させるようにループ処理を実行するように構成することで、２バイトのデータ容量を用いて、最大で６５５３６秒の変動時間を計測可能となる。しかしながら、変動時間カウンタ２０３ｉａの更新間隔に対応させてパチンコ機１０にて実行されるタイマ割込処理の実行間隔を１秒間隔にしてしまうと、他の遊技に関する制御処理に多大な影響を与えてしまうという問題が発生する。一方、タイマ割込処理を２ミリ秒間隔で実行させながら、変動時間カウンタ２０３ｉａの更新処理を、２ミリ秒間隔では無く、その等倍間隔（例えば、２０ミリ秒間隔）で実行するように構成すれば、２バイトのデータ容量を用いて、最大で６５５３６×２０ミリ秒の変動時間を計測可能となる。しかしながら、そのような構成を用いる場合には、タイマ割込処理が実行された回数が所定回数（１０回）となった場合に変動時間カウンタ２０３ｉａの更新処理を実行させるための専用の処理が必要となるため、変動時間を管理する処理全体として主制御装置１１０の処理負荷が増大してしまうという問題があった。これに対して、本第３８制御例では、２バイト分のデータ容量で管理可能な変動時間よりも大きな変動時間が決定された場合に、オーバーフローフラグ２０３ｉｂをオンに設定する処理を実行するだけで良く、変動時間を管理するための処理容量を軽減することができる。

【１１１１２】
　また、変動時間に関する情報をコマンド出力する場合も、２バイト分のデータと、オーバーフローフラグ２０３ｉｂの設定情報を示すための１ビットの情報（「０」＝オフ、「１」＝オン）と、を出力するだけで良く、たとえば、３バイト分のデータを用いて変動時間を管理する場合に比べて、コマンド出力するデータ量（データに含まれるビット数）を削減することができる。
【１１１１３】
　＜第３８制御例における電気的構成について＞
　まず、図１１３０から図１１３３を参照して、本第３８制御例における電気的構成について説明をする。本第３８制御例では、上述した第３２制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２、及びＲＡＭ２０３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。
【１１１１４】
　図１１３０（ａ）は、変動パターン選択９テーブル２０２ｉａに規定されている内容を示した図である。図１１３０（ａ）に示した通り、変動パターン選択９テーブル２０２ｉａには、通常状態における主変動時間を選択するための通常用主変動パターンテーブル２０２ｉａ１と、時短状態における主変動時間を選択するための時短用主変動パターンテーブル２０２ｉａ２と、通常状態における加算変動時間を選択するための通常用加算変動パターンテーブル２０２ｉａ３と、が設けられている。なお、本第３８制御例では、主変動時間と加算変動時間とを用いて変動時間が決定される遊技状態（通常状態）と、主変動時間のみで変動時間が決定される遊技状態（時短状態）と、を設定可能に構成している。よって、時短状態に対しては、加算変動時間を選択するためのデータテーブルを設けていない。
【１１１１５】
　なお、これに限ること無く、時短状態においても、主変動時間と加算変動時間とを用いて変動時間を決定可能に構成しても良い。また、時短状態における変動パターンを、通常状態における加算変動時間を選択するための通常用加算変動パターンテーブル２０２ｉａ３のみを用いて決定可能に構成しても良い。
【１１１１６】
　ここで、通常用主変動パターンテーブル２０２ｉａ１について、図１１３０（ｂ）を参照して説明をする。図１１３０（ｂ）は、通常用主変動パターンテーブル２０２ｉａ１に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１３０（ｂ）に示した通り、通常用主変動パターンテーブル２０２ｉａ１には、上述した第３７制御例における通常用変動パターン１テーブル２０２ｈａ１（図１１２０（ｂ）参照）と同一の変動パターンが規定されており、規定されている変動パターン（変動時間）に対応する変動時間値（変動時間カウンタ２０３ｉｂにセットされる値）が規定されている。
【１１１１７】
　次に、時短用主変動パターンテーブル２０２ｉａ２について、図１１３１（ａ）を参照して説明をする。図１１３１（ａ）は、時短用主変動パターンテーブル２０２ｉａ２に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１３１（ａ）に示した通り、時短用主変動パターンテーブル２０２ｉａ２には、上述した第３７制御例における時短用変動パターン１テーブル２０２ｈａ４（図１１２２（ａ）参照）と同一の変動パターンが規定されており、規定されている変動パターン（変動時間）に対応する変動時間値（変動時間カウンタ２０３ｉｂにセットされる値）が規定されている。
【１１１１８】
　次に、通常用加算変動パターンテーブル２０２ｉａ３について、図１１３１（ｂ）を参照して説明をする。図１１３１（ｂ）は、通常用加算変動パターンテーブル２０２ｉａ３に規定されている内容を模式的に示した図である。図１１３１（ｂ）に示した通り、通常用加算変動パターンテーブル２０２ｉａ３には、実行される演出の種別（対応演出）に応じた加算変動時間が図柄種別（特別図柄種別）、抽選結果（特別図柄抽選結果）、取得し

た第２変動種別カウンタＣＳ１１に応じて規定されており、例えば、対応演出として、「擬似連１回」に対応する１０秒の加算変動時間、「擬似連２回」に対応する２０秒の加算変動時間、「擬似連３回」に対応する３０秒の加算変動時間、「擬似連４回」に対応する４０秒の加算変動時間が選択可能に構成されている。

【１１１１９】

このように構成することで、主変動時間に対して、実行される対応演出に応じた変動時間を加算することができるため、演出効果を高めることができる。なお、本第３８制御例では、第１特別図柄抽選にて小当たり当選（当選確率１／６５５３６）した場合には、加算変動時間が選択されないように構成している。つまり、第１特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、主変動時間として専用の特殊演出（例えば、フリーズ演出）が実行され、特別図柄変動が開始された直後に、遊技者に対して小当たり当選したことを報知するように構成している。このように、主変動時間として、特別図柄抽選の結果を遊技者に早期に判別させることが可能となる変動パターンが選択される場合には、加算変動時間を決定しないように構成することで、無用な演出（例えば、擬似連）が実行されてしまい、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１１２０】

次に、図１１３２を参照して、本第３８制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成について説明をする。図１１３２は、本第３８制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＡＭ２０３の構成を模式的に示した図である。図１１３２に示した通り、本第３８制御例では、上述した第３２制御例に対して、オーバーフローフラグ２０３ｉａと、変動時間カウンタ２０３ｉｂと、を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【１１１２１】

オーバーフローフラグ２０３ｉａは、主変動時間と、加算変動時間とを合算した合算変動時間を示すための値が、変動時間カウンタ２０３ｉｂにセット可能な上限値（６５５３６）を超えたことを示すためのフラグであって、上限値（６５５３６）を超えた場合にオンにセットされる（図１１３５のＳ４０４ａ参照）。そして、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が１になったと判別した場合に（図１１３６のＳ５０２ａ：Ｙｅｓ）参照され（図１１３６のＳ５０３ａ参照）、オンに設定されていると判別され変動時間カウンタ２０３ｉｂに６５５３６の値が設定される場合にオフに設定される（図１１３６のＳ５０４ａ参照）。

【１１１２２】

変動時間カウンタ２０３ｉｂは、決定された特別図柄変動の変動時間を示すためのカウンタであって、主変動時間と、加算変動時間とを合算した合算変動時間に対応する値がセットされる（図１１３５のＳ４０５ａ，Ｓ４０９ａ参照）。そして、特別図柄変動が実行されている間、２ミリ秒毎に減算される（図１１３６のＳ５０１ａ）。そして、変動時間カウンタ２０３ｉｂが示す値が０となった場合に、特別図柄変動を停止表示させるための処理が実行される。

【１１１２３】

この変動時間カウンタ２０３ｉｂは、図１１３３に示した通り、２バイト（１６ビット）のデータ領域であって、各ビットに対して、２進数の情報を書き込み可能である。つまり、変動時間カウンタ２０３ｉｂには、「０００００００００００００００」から「１１１１１１１１１１１１１１１」の６５５３６（２の１６乗）通りの情報を書き込み可能に構成している。

【１１１２４】

＜第３８制御例における制御処理について＞

次に、図１１３４から図１１３６を参照して、本第３８制御例における制御処理のうち、上述した第３２制御例とは異なる制御処理の内容について説明をする。本第３８制御例では、上述した通り、特別図柄変動の変動時間を決定するための処理と、決定された変動

時間を管理するための処理の内容を異ならせている。具体的には、特別図柄変動処理（Ｓ１０４）に代えて特別図柄変動処理９（Ｓ１０４ａ）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、その説明を省略する。

【１１１２５】

まず、図１１３４を参照して、特別図柄変動処理９（Ｓ１０４ａ）の処理内容について説明をする。図１１３４は、特別図柄変動処理９（Ｓ１０４ａ）の処理内容を示したフローチャートである。図１１３４に示した通り、特別図柄変動処理９（Ｓ１０４ａ）は、上述した特別図柄変動処理（Ｓ１０４）に対して、特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）に代えて、特別図柄変動パターン選択処理９（Ｓ２１０ａ）を実行する点と、特別図柄の変動時間が経過していないと判別した場合に（Ｓ２１５：Ｎｏ）、変動時間更新処理（Ｓ２１６ａ）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１１１２６】

ここで、特別図柄変動パターン選択処理９（Ｓ２１０ａ）の処理内容について、図１１３５を参照して説明をする。図１１３５は、特別図柄変動パターン選択処理９（Ｓ２１０ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理９（Ｓ２１０ａ）では、特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間の第１要素である主変動時間と、第２要素である加算変動時間と、を決定する処理と、決定された主変動時間、及び、加算変動時間を合算した合算変動時間を算出する処理と、合算変動時間の長さに応じた変動時間を記憶する処理と、が実行される。

【１１１２７】

具体的には、特別図柄変動パターン選択処理９（Ｓ２１０ａ）が実行されると、上述した第３２制御例の特別図柄変動パターン選択処理（Ｓ２１０）と同一のＳ４０１～Ｓ４０４の処理を実行し、その後、読み出したテーブルから各変動種別カウンタの値に対応する変動パターン（主変動時間）、加算時間（加算変動時間）を選択し（ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑの値４０１ａ）、主変動時間と加算変動時間（加算時間）とを合算する（Ｓ４０２ａ）。

【１１１２８】

そして、合算された合算変動時間を示すための合算値が６５５３６よりも大きいかを判別し（Ｓ４０３ａ）、大きいと判別した場合は（Ｓ４０３ａ：Ｙｅｓ）、オーバーフローフラグ２０３ｉａをオンに設定し（Ｓ４０４ａ）、合算値から６５５３６を除した値を変動時間カウンタ２０３ｉｂに格納（セット）し（Ｓ４０５ａ）、その後、上述した第３２制御例と同一のＳ４０６～Ｓ４０８の処理を実行し、本処理を終了する。

【１１１２９】

一方、Ｓ４０３ａの処理において、合算値が６５５３６よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ４０３ａ：Ｎｏ）、そのままの合算値を変動時間カウンタ２０３ｉｂに格納（セット）し、Ｓ４０６の処理へ移行する。

【１１１３０】

次に、図１１３６を参照して、変動時間更新処理（Ｓ２１６ａ）の処理内容について説明をする。図１１３６は、変動時間更新処理（Ｓ２１６ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動時間更新処理（Ｓ２１６ａ）では、変動時間を更新するための処理が実行される。

【１１１３１】

変動時間更新処理（Ｓ２１６ａ）が実行されると、まず、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値を１減算し（Ｓ５０１ａ）、減算後の変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が１であるかを判別する（Ｓ５０２ａ）。Ｓ５０２ａの処理によって、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が１であると判別した場合は（Ｓ５０２ａ：Ｙｅｓ）、次に、オーバーフローフラグ２０３ｉａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ５０３ａ）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５０３ａ：Ｙｅｓ）、オーバーフローフラグ２０３ｉａをオフに設定し（Ｓ５０４ａ）、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値を６５５３６にセットし（Ｓ５０５ａ

）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｓ５０６ａ）、本処理を終了する。
【１１１３２】
　また、Ｓ５０２ａの処理において、変動時間カウンタ２０３ｉｂの値が１では無いと判別した場合（Ｓ５０２ａ：Ｎｏ）、或いは、Ｓ５０３ａの処理において、オーバーフローフラグ２０３ｉａがオンに設定されていないと判別した場合（Ｓ５０３ａ：Ｎｏ）は、Ｓ５０４ａ、及びＳ５０５ａの処理をスキップして、Ｓ５０６ａの処理へ移行する。
【１１１３３】
　＜第３９制御例＞
　次に、図１１３７から図１１４３を参照して、第３９制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。上述した各制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出として、第３図柄を用いた変動演出を実行することで、遊技者に対して、特別図柄変動が開始されてから終了するまでの期間（特別図柄変動期間）に、遊技に飽きてしまわないよう構成していた。特に、上述した第３５制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄と、第３図柄表示装置８１の近傍に設けられた装飾用可動役物を用いた変動演出を実行することにより、演出効果を高めた技術が用いられていた。
【１１１３４】
　しかしながら、何れの制御例においても、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄の表示態様として固定の表示態様を用いているため、長時間遊技を実行している遊技者が遊技に飽きてしまい易いという問題があった。
【１１１３５】
　これに対して、本第３９制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される第３図柄の表示態様を複雑に可変させることで、遊技者が遊技に早期に飽きることが無いように構成している。具体的には、第３図柄を、数字図柄と箱図柄とを複合させて構成し、各図柄に対して、それぞれ変動演出の演出態様を決定可能に構成している。
【１１１３６】
　このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面にて表示される第３図柄の表示態様が、数字図柄の演出態様と、箱図柄の演出態様とを組み合わせたものとすることができるため、第３図柄の演出態様をより複雑に創出することが可能となる。
【１１１３７】
　＜第３９制御例における演出内容について＞
　ここで、図１１３７、及び、図１１３８を参照して、本第３９制御例のパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、上述した第３２制御例とは異なる特徴的な演出内容について説明をする。図１１３７（ａ）は、第３図柄変動中の表示画面を示した図である。
【１１１３８】
　図１１３７（ａ）に示した通り、本第３９制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面の主表示領域Ｄｍに形成される有効ラインＬ１上を、３つの第３図柄（左第３図柄Ｚ１、中第３図柄Ｚ２、右第３図柄Ｚ３）が変動表示するように構成しており、３つの第３図柄が、特定の組合せ（例えば、同一数字の組合せ）で停止表示された場合に、特別図柄抽選の結果が大当たり当選であることを遊技者に報知可能に構成している。
【１１１３９】
　図１１３７（ａ）に示した通り、各第３図柄は、箱図柄ＺＡと、数字図柄ＺＢとから形成されており、通常であれば、箱図柄ＺＡと数字図柄ＺＢとが同一の変動態様（奥側から手前側に向けて回転する変動態様）で変動表示されるように構成している。よって、通常時における第３図柄の変動演出では、図１１３７（ａ）に示した通り、箱図柄ＺＡと数字図柄ＺＢとが一体となった１の第３図柄が変動表示されているような変動演出が実行される。
【１１１４０】
　しかしながら、本第３９制御例では、箱図柄ＺＡと数字図柄ＺＢとで、異なる変動パターンで変動演出を実行可能に構成しているため、図１１３７（ａ）に示した変動演出とは異なる態様で第３図柄を変動表示させることができる。

【１１１４１】
次に、図１１３７（ｂ）、及び図１１３８を参照して、本第３９制御例にて実行可能な第３図柄の変動演出の演出態様について説明をする。図１１３７（ｂ）は、遅れ演出が開始された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。図１１３７（ｂ）に示した通り、遅れ演出が開始されると、数字図柄ＺＢ１～ＺＢ３が停止表示された状態で、箱図柄ＺＡ１～ＺＡ３のみが先に変動表示される。
【１１１４２】
その後、０．２秒が経過すると、停止表示されていた数字図柄ＺＢ１～ＺＢ３が変動表示を開始する。このように構成することで、第３図柄の変動開始時の態様を、通常時とは異ならせることができるため、遊技者に違和感を与えた演出を実行することができる。また、各数字図柄ＺＢが変動表示を始めた時点で遅れ演出が実行されたか否かを遊技者に把握させ難くすることができるため、遊技者に対して、第３図柄の変動表示が開始されるタイミングを注視させ易くすることができる。
【１１１４３】
次に、図１１３８（ａ）を参照して、展開演出について説明をする。図１１３８（ａ）は、展開演出中の表示される表示画面の一例を示した図である。展開演出は、有効ラインＬ１上にて変動表示されていた３つの第３図柄（Ｚ１～Ｚ３）のうち、特定の第３図柄（Ｚ２）のみを用いて特別図柄抽選の結果が停止表示される変動演出である。
【１１１４４】
具体的には、６０秒の変動パターンであって、特別図柄抽選の結果が大当たり当選している場合に実行される演出であり、変動が開始されてから５６秒が経過するまでは、３つの第３図柄（Ｚ１～Ｚ３）を用いた変動演出が実行される。そして、３つの第３図柄（Ｚ１～Ｚ３）が外れ当選を示す組合せ（例えば、「２．５．７」）で停止表示された後に、左第３図柄Ｚ１と右第３図柄Ｚ３とが、有効ラインＬ１上から移動し、中第３図柄Ｚ２のみが有効ラインＬ１上に位置する表示態様が表示され、その後、図１１３８（ａ）に示した通り、中第３図柄Ｚ２の一部を構成する箱図柄ＺＡ２が展開し、左側面ＺＡａと、右側面ＺＡｂが表示され、左側面ＺＡａに付されている左側面図柄ＺＢ２ａ「５」と、右側面ＺＡｂに付されている右側面図柄ＺＢ２ｂ「５」と、を用いて、３つの「５」が有効ラインＬ１に停止表示され、大当たり当選を示す組合せが表示される。
【１１１４５】
このように構成することで、３つの第３図柄（Ｚ１～Ｚ３）を用いた表示態様が外れ当選を示す表示態様で停止表示された場合であっても、大当たり当選の期待を残すことができるため、遊技者に対して、最後まで変動演出に注視させることができる。なお、図１１３８（ａ）に示した図では、有効ラインＬ１上から移動した左第３図柄Ｚ１と右第３図柄Ｚ３とを主表示領域Ｄｍの隅に表示しているが、これに限ること無く、非表示としても良い。
【１１１４６】
次に、図１１３８（ｂ）を参照して、横回転演出の演出内容について説明をする。図１１３８（ｂ）は、横回転演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。
【１１１４７】
＜第３９制御例における電気的構成について＞
次に、図１１３９及び図１１４０を参照して、本第３９制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有する電気的構成について説明をする。図１１３９は、本第３９制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成を模式的に示した図である。図１１３９に示した通り、本第３９制御例では、上述した第３２制御例のＲＯＭ２２２に対して、チャンス態様選択テーブル２２２ｊａを追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の要素については同一の符号を付して説明を省略する。
【１１１４８】
チャンス態様選択テーブル２２２ｊａは、変動演出の演出態様を決定する際に参照され

るデータテーブルであって、主制御装置１１０から６０秒の変動時間に対応する変動パターンコマンドを受信した場合に参照される（図１１４２のＳ４５０３ａ参照）。このチャンス態様選択テーブル２２２ｊａには、第３図柄を形成する箱図柄ＺＡ、及び、数字図柄ＺＢのそれぞれに対して、追加演出態様が規定されており、チャンス態様選択テーブル２２２ｊａを参照して追加演出態様が決定された場合には、箱図柄ＺＡ、及び、数字図柄ＺＢに対して異なる表示用コマンドが決定される。

【１１１４９】

具体的には、図１１４０に示した通り、当否判定が「当たり」であって、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～４９」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「遅れ」が規定されており、「５０～６９」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「展開」が規定されており、「７０～７４」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「逆転」が規定されており、「７５～７９」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「横回転」が規定されており、「８０～９９」の範囲に対しては、追加演出態様「無し」が規定されている。

【１１１５０】

まや、当否判定が「外れ」であって、取得した第２演出カウンタ２２３ｆ２の値が「０～２９」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「遅れ」が規定されており、「３０～３２」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「逆転」が規定されており、「３３，３４」の範囲に対しては、追加演出態様の態様種別として「横回転」が規定されており、「３５～９９」の範囲に対しては、追加演出態様「無し」が規定されている。

【１１１５１】

＜第３９制御例における制御処理について＞

次に、図１１４１～図１１４３を参照して、本第３９制御例のパチンコ機１０にて実行される制御処理のうち、上述した第３２制御例とは異なる制御処理の処理内容について説明をする。本第３９制御例では、上述した第３２制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理の一部と、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理の一部と、を変更しており、それ以外は同一である。同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１１１５２】

具体的には、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理として変動演出設定処理（Ｓ４３０４）に代えて、変動演出設定処理１０（Ｓ４３０４ａ）を実行する点と、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される制御処理として変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）に代えて変動パターンコマンド処理１０（Ｓ６４０５ａ）を実行する点で相違している。

【１１１５３】

ここで、図１１４１を参照して、変動演出設定処理１０（Ｓ４３０４ａ）の処理内容について説明をする。図１１４１は変動演出設定処理１０（Ｓ４３０４ａ）の処理内容を示したフローチャートである。図１１４１に示した通り、変動演出設定処理１０（Ｓ４３０４ａ）は、上述した変動演出設定処理（Ｓ４３０４）に対して、通常状態において実行される第１特別図柄変動に対応する第３図柄の変動演出の演出態様を決定するための処理を異ならせている。

【１１１５４】

具体的には、上述した変動演出設定処理（Ｓ４３０４）と同一のＳ４４０１～Ｓ４４０８の処理を実行し、Ｓ４４０４の処理において、演出固定フラグ２２３ｔがオンに設定されていると判別した場合（Ｓ４４０４：Ｙｅｓ）、或いは、Ｓ４４０８の処理を終了した場合に、通常用演出設定処理を実行し（Ｓ４４０１ａ）、本処理を終了する点で相違している。

【１１１５５】

ここで、図１１４２を参照して、通常用演出設定処理（Ｓ４４０１ａ）の処理内容につ

いて説明をする。図１１４２は、通常用演出設定処理（Ｓ４４０１ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この通常用演出設定処理（Ｓ４４０１ａ）では、通常状態における第１特別図柄変動に対応する変動演出として、チャンス演出態様を決定するための処理が実行される。

【１１１５６】

通常用演出設定処理（Ｓ４４０１ａ）が実行されると、まず、当該変動の抽選結果と、抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４５０１ａ）、決定した演出態様がチャンス演出態様であるかを判別する（Ｓ４５０２ａ）。本第３９制御例では、変動パターンとして６０秒の変動時間の変動パターン（スーパーリーチ）を示すための変動パターンコマンドが主制御装置１１０から出力された場合に、チャンス演出態様であると判別する。

【１１１５７】

Ｓ４５０２ａの処理において、チャンス演出態様であると判別した場合は（Ｓ４５０２ａ：Ｙｅｓ）、チャンス態様選択テーブル２２２ｊａを参照して演出態様を決定し（Ｓ４５０３ａ）、次に、決定された演出態様（追加演出態様）が、数字図柄遅延（遅れ）であるかを判別し（Ｓ４５０４ａ）、数字図柄遅延（遅れ）であると判別した場合は（Ｓ４５０４ａ：Ｙｅｓ）、決定された演出態様に応じた遅延時間（０．２秒）を示すための表示用数字図柄遅延コマンドを設定し（Ｓ４５０５ａ）、本処理を終了する。

【１１１５８】

また、Ｓ４５０４ａの処理において、数字図柄遅延（遅れ）ではないと判別した場合は（Ｓ４５０４ａ：Ｎｏ）、次に、決定された演出態様（追加演出態様）が、箱図柄展開（展開）であるかを判別し（Ｓ４５０６ａ）、箱図柄展開（展開）であると判別した場合は（Ｓ４５０６ａ：Ｙｅｓ）、決定された演出態様に応じた表示用複合図柄コマンドを設定し（Ｓ４５０７ａ）、本処理を終了する。

【１１１５９】

Ｓ４５０６ａの処理において、決定された演出態様（追加演出態様）が、箱図柄展開（展開）では無いと判別した場合は（Ｓ４５０６ａ：Ｎｏ）、その他、決定された演出態様に応じて数字図柄ＺＢ、箱図柄ＺＡの演出態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４５０８ａ）、本処理を終了する。

【１１１６０】

次に、図１１４３を参照して、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される変動パターンコマンド処理１０（Ｓ６４０５ａ）の処理内容について説明をする。図１１４３は、変動パターンコマンド処理１０（Ｓ６４０５ａ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動パターンコマンド処理１０（Ｓ６４０５ａ）では、上述した第３２制御例の表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１により実行される変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）に対して、チャンス演出態様にて設定される表示用コマンドを受信した場合に、受信した表示用コマンドに対応する情報を、表示データテーブルに設定させる処理を実行する点で相違し、それ以外は同一である。

【１１１６１】

変動パターンコマンド処理１０（Ｓ６４０５ａ）が実行されると、まず、数字図柄遅延コマンドを受信したかを判別し（Ｓ６５０１ａ）、受信したと判別した場合は（Ｓ６５０１ａ：Ｙｅｓ）、数字図柄に関する変動表示データテーブルに遅延時間に対応する情報を設定する（Ｓ６５０２ａ）。本処理によって、数字図柄ＺＢを変動表示させるための描画情報が、表示データテーブルに設定されるタイミングを遅延時間分（０．２秒）遅らせることが可能となる。つまり、遅れ演出専用の変動演出を示す表示用コマンド、及び、遅れ演出専用の表示データテーブルを用いること無く、数字図柄ＺＢを変動表示させるための描画情報を設定するタイミングをずらす（遅らせる）処理を実行するだけで、図１１３７（ｂ）に示した遅れ演出を実行することができる。

【１１１６２】

Ｓ６５０２ａを終えると、次に、逆回転コマンドを受信したかを判別し（Ｓ６５０３ａ

）、受信したと判別した場合は（Ｓ６５０３ａ：Ｙｅｓ）、箱図柄ＺＡに関する変動表示データテーブルに受信したコマンドに対応する情報を設定し（Ｓ６５０４ａ）、Ｓ６５０５ａの処理へ移行する。

【１１１６３】

Ｓ６５０５ａの処理では、横回転コマンドを受信したかを判別し（Ｓ６５０５ａ）、受信したと判別した場合は（Ｓ６５０５ａ：Ｙｅｓ）、表示用変動パターンコマンドに含まれる変動情報（変動演出の演出態様を表示させるための情報）を消去し、横回転演出に対応する変動情報を変動表示データテーブルに設定し（Ｓ６５０６ａ）、上述した第３２制御例の変動パターンコマンド処理（Ｓ６４０５）と同一のＳ６５０１～Ｓ６５０６の処理を実行し、本処理を終了する。

【１１１６４】

＜第３９制御例の変形例について＞

次に、図１１４４から図１１４７を参照して、上述した第３９制御例の変形例について説明をする。上述した第３９制御例では、特別図柄に対応して表示される第３図柄Ｚ１～Ｚ３を、箱を模した箱図柄ＺＡと、数字を模した数字図柄ＺＢとで形成し、箱図柄ＺＡと、数字図柄ＺＢとに対して、異なる変動演出パターンを決定可能に構成することで、箱図柄ＺＡと数字図柄ＺＢとを複合して形成される第３図柄の変動パターン（演出態様）のバリエーションを豊富にしていた。

【１１１６５】

しかしながら、上述した第３９制御例では、第３図柄の変動パターン（演出態様）の自由度が高くなり過ぎてしまい、遊技者に対して、第３図柄の変動状況を確認することで、停止表示される第３図柄を予測させ難くなるという問題があった。

【１１１６６】

これに対して本変形例では、箱図柄ＺＡの変動態様と、数字図柄ＺＢの変動態様とに関連性を持たせるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、第３図柄の変動表示中に停止表示される第３図柄の種別を予測させ易くすることができる。

【１１１６７】

本変形例は、上述した第３９制御例に対して、箱図柄ＺＡと数字図柄ＺＢの内容を異ならせた点と、実行される演出内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容についてはその説明を省略する。

【１１１６８】

まず、図１１４４を参照して、本変形例にて用いられる箱図柄ＺＡについて説明をする。図１１４４は、箱図柄ＺＡを展開して説明する説明図である。図１１４４に示した通り、箱図柄ＺＡは６面体のさいころ形状に形成されており、各面（第１面ＺＡａ、第２面ＺＡｂ、第３面ＺＡｃ、第４面ＺＡｄ、第５面ＺＡｅ、第６面ＺＡｆ）のそれぞれを、第３図柄表示装置８１の表示面に表示可能に構成している。

【１１１６９】

ここで、本変形例では、箱図柄ＺＡの回転動作の動作パターンが予め規定されており、第４面ＺＡｄ、第３面ＺＡｃ、第２面ＺＡｂ、第１面ＺＡａ、の順に表示面が繰り返し回転表示される第１回転動作（主回転動作）と、第６面ＺＡｆ、第２面ＺＡｂ、第５面ＺＡｅ、第４面ＺＡｄの順に表示面が繰り返し回転表示される第２回転動作（副回転動作）と、箱図柄ＺＡの回転動作を主回転動作から副回転動作へと切り替える第１横転動作と、副回転動作から主回転動作へと切り替える第２横転動作と、を実行可能に構成している。

【１１１７０】

そして、図１１４５（ａ）に示した通り、第１回転動作にて回転表示される表示面に対して、第１数字図柄列ＺＢＡが形成され、第２回転動作にて回転表示される表示面に対して、第２数字図柄列ＺＢＢが形成されるように構成しており、実行されている回転動作の種別に応じて、各数字図柄列の表示、非表示を決定可能に構成している。

【１１１７１】

具体的には、図１１４５（ｂ）に示した通り、主回転動作中は、第１数字図柄列ＺＢＡ

のみが表示され、副回転動作中は、第２数字図柄ＺＢＢのみが表示されるように構成している。

【１１１７２】

ここで、図１１４６を参照して、各数字図柄列にて表示される図柄データのパターンについて説明をする。上述した通り、本変形例では、箱図柄ＺＡに対して直交するように第１数字図柄列ＺＢＡと、第２数字図柄列ＺＢＢが形成され、何れも数字図柄を変動表示可能に構成している。そして、各数字図柄列にて表示される数字図柄データを、実行される変動演出に応じて決定可能に構成している。

【１１１７３】

具体的には、第１数字図柄列ＺＢＡに対して、４種類の数字図柄（海図柄Ｄ０、１図柄Ｄ１、２図柄Ｄ２、３図柄Ｄ３）が、第２数字図柄列ＺＢＢに対して、４種類の数字図柄（４図柄Ｄ４、５図柄Ｄ５、６図柄Ｄ６、７図柄Ｄ７）が付与される第１図柄データ（図１１４６（ａ）参照）と、第１数字図柄列ＺＢＡに対して、８種類の数字図柄（海図柄Ｄ０、１図柄Ｄ１、２図柄Ｄ２、３図柄Ｄ３、４図柄Ｄ４、５図柄Ｄ５、６図柄Ｄ６、７図柄Ｄ７）が、第２数字図柄列ＺＢＢに対して、４種類の数字図柄（１図柄Ｄ１、３図柄Ｄ３、７図柄Ｄ７、海図柄Ｄ０）が付与される第２図柄データ（図１１４６（ｂ）参照）と、を少なくとも含む複数の数字図柄データを有しており、実行される変動演出に応じて、今回の第３図柄変動に用いられる数字図柄データを決定し、箱図柄ＺＡと複合させた第３図柄表示を実行可能に構成している。

【１１１７４】

例えば、第１図柄データが設定された第３図柄では、箱図柄ＺＡが主回転動作する場合には、表示可能な４面のそれぞれに対応させて「海．１．２．３」の数字図柄が付された変動表示が実行され、主回転動作から第１横転動作を実行し、その後、副回転動作を実行した場合には、副回転動作にて表示可能な４面に対応させて「４．５．６．７」の数字図柄が付された変動表示が実行されることになる。

【１１１７５】

このように構成することで、１の変動演出中において、箱図柄ＺＡの各面と、数字図柄とを対応付けた状態で第３図柄を変動表示させることができるため、遊技者に停止表示される第３図柄の種別を、第３図柄が停止表示されるよりも前の段階で予測させ易くすることができる。

【１１１７６】

また、第２図柄データが設定された第３図柄では、原則箱図柄ＺＡが主回転動作し「１．２．３．４．５．６．７．海」の全数字図柄が変動表示される。そして、その間も非表示の状態で副回転動作に対応する第２数字図柄列ＺＢＢにて「１．３．７．海」の数字図柄が変動制御されている。この第２数字図柄ＺＢＢに対応した４種類の数字図柄（１．３．７．海）は、遊技者に有利な大当たりに当選した場合に表示され易い種別の数字図柄である。

【１１１７７】

ここで、図１１４７を参照して、第２図柄データを用いた変動演出の演出内容について説明をする。図１１４７（ａ）は、変動演出の途中で外れ当選を示す組合せで第３図柄が表示された場合の表示画面の一例を示した図であり、図１１４７（ｂ）は、外れ当選を示す組合せで第３図柄が停止表示された後に、箱図柄ＺＡを横転動作させる横回転演出が実行された場合の表示画面の一例を示した図である。

【１１１７８】

図１１４７（ａ）に示した通り、箱図柄ＺＡが主回転動作を実行し、各第３図柄として、第１数字図柄列ＺＢＡに付されている各数字図柄を用いて外れ当選を示す組合せ（バラケ目）で第３図柄が停止表示（仮停止表示）する。なお、この状態は、特別図柄変動中であるため、非表示である第２数字図柄ＺＢＢでは継続して数字図柄の変動制御が実行されている。

【１１１７９】

その後、図１１４７（ｂ）に示した通り、各第３図柄に対して横転動作が行われ、第２数字図柄ＺＢＢが表示される。そして、完全に第２数字図柄列ＺＢＢが表示されると、即ち、箱図柄ＺＡのうち、副回転動作が実行された場合に表示される面を正面視可能な状態で箱図柄ＺＡが表示されると、その数字図柄を用いて特別図柄抽選の結果が表示される。

【１１１８０】

このように構成することで、特別図柄変動の変動時間や、特別図柄変動の開始タイミングにて表示されている箱図柄ＺＡの表示面に付されている数字図柄や、最終的に停止表示させる数字図柄の種別に基づいて、主回転動作のみで最終的に停止表示される数字図柄を表示させる演出パターンと、副回転動作も用いて最終的に停止表示される数字図柄を表示させる演出パターンと、を設定することができるため、例えば、任意の数字図柄を停止表示させるために、箱図柄ＺＡの回転速度や数字図柄の変動表示速度を可変させる処理が煩雑に実行されてしまうことを抑制することができる。

【１１１８１】

＜第３２制御例の変形例＞

次に、図１１４８を参照して、ステージチェンジ演出を、固定モード中に実行した場合における演出画面について説明をする。図１１４８は、大当たり遊技終了時にステージチェンジ演出が実行された場合の表示画面である。このステージチェンジ演出については、上述した第３２制御例におけるステージチェンジ演出（図９４８参照）と相違する点についてのみ説明をし、同一の内容については省略する。

【１１１８２】

固定モードが設定されている状態で大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技のエンディング期間中に、ステージチェンジ演出が実行された場合には、図１１４８に示した通り、副表示領域Ｄｓに「ステージが変わるとチャンス」の案内態様が表示される。ここで、本変形例では、固定モードが設定されている場合であっても、大当たり遊技終了後に設定されるステージ種別が、大当たり遊技前に設定されていたステージ種別と異ならせることで、保留連することを遊技者に報知可能に構成している。

【１１１８３】

このように構成することで、大当たり遊技の前後に設定されるステージ種別、即ち、大当たり遊技演出の実行期間を挟んで表示されるステージ種別が同一であるか異なっているかを遊技者が把握し難くなるため、ステージチェンジ演出の演出結果（シャッターｓｔ１，ｓｔ２非表示後のステージ種別）が表示された後に保留連が実行されるか否かを予測する楽しみを提供することができる。

【１１１８４】

＜第４０制御例＞

次に、図１１４９から図１１８０を参照して、第４０制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０では、遊技状態として、第２特別図柄の抽選が実行され難い普通図柄の低確率状態に設定される通常状態と、第２特別図柄の抽選が実行され易い普通図柄の高確率状態に設定される時短状態と、の２種類の遊技状態を設ける構成とし、第１特別図柄の抽選よりも、第２特別図柄の抽選の方が極めて有利度合いが高くなるように構成することにより、時短状態を遊技者に有利な遊技状態とし、通常状態を遊技者に不利な遊技状態として構成していた。より具体的には、第１特別図柄の抽選においては、約１／３００の確率で大当たりに当選し、１／６５５３６の確率で実質的に大当たりが確定する小当たりに当選する一方で、第２特別図柄の抽選においては、約１／３００の確率で大当たりに当選し、約１／２の確率で実質的に大当たりが確定する小当たりに当選する構成としている。つまり、第１特別図柄の抽選では実質的な大当たり確率が約１／３００であるのに対し、第２特別図柄の抽選では約１／２となるように構成していた。更に、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合には、大当たり終了後の遊技状態が４０％の割合で不利な通常状態に設定される一方で、第２特別図柄の抽選で直接大当たりに当選した場合、および小当たりとなって特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３への遊技球の入球を検出して大当たり当選した場合は、いずれも１００％の割合で、

大当たり終了後の遊技状態が遊技者に有利な時短状態が設定される構成としていた。これらによって、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０では、不利な通常状態と有利な時短状態とで遊技性を大きく異ならせ、メリハリのついた遊技性を実現可能に構成していた。

【１１１８５】

これに対して本第４０制御例におけるパチンコ機１０では、遊技者に不利な遊技状態としての通常状態と、遊技者に有利な遊技状態としての時短状態と、を設けている点では第３２制御例と共通しているが、有利な時短状態として有利度合いが異なる複数を設ける構成としている点で相違している。具体的には、実質的な大当たり確率が高い第１時短状態と、実質的な大当たり確率が第１時短状態よりも低く、且つ、通常状態よりも高い（第１時短状態よりも有利度合いが低く、且つ、通常状態よりも有利度合いが高い）第２時短状態と、を形成可能に構成した。ここで、第１時短状態は、大当たり終了後の遊技状態として設定され得る遊技状態であり、第２時短状態は、上述した第５制御例等と同様に、特別図柄の抽選で時短図柄に当選した（大当たりを介さずに時短状態に移行させる抽選結果になった）場合に設定され得る遊技状態である。なお、詳細については後述するが、本第４０制御例では、第２特別図柄の抽選が実行された場合に、１００％の割合で、大当たり、または実質的に大当たりが確定する小当たりのどちらかに当選する構成としている代わりに、時短状態において第２特別図柄の抽選が１度も実行されずに時短状態の終了条件が成立し得るように構成した。より具体的には、時短状態を終了させる契機となる時短終了条件として、第１特別図柄変動（特図１変動）と、第２特別図柄変動（特図２変動）の合算の変動回数が規定回数（１０回～１０００回のいずれか）に到達した（規定回数目の特図変動が停止表示された）場合に成立する第１終了条件と、小当たり当選したことを示す特別図柄が停止表示された場合に成立する第２終了条件と、に加えて、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数（１回～１０００回）に到達したことに基づいて成立する第３終了条件が設定されている。この第３終了条件の存在によって、有利な第１時短状態において右打ちを行い続けたとしても、第２特別図柄の抽選が１回も実行されることなく時短状態が終了される可能性がある。なお、本第４０制御例では、通常状態、第１時短状態、および第２時短状態のいずれにおいても、普通図柄の抽選が実行された場合に１００％の割合出普通図柄の当たりとなる構成とし、普通図柄の当たりとなった場合に電動役物６４０ａに対して設定される変位パターンの選択割合を遊技状態毎に異ならせる構成としている。具体的には、通常状態では、有利な第２特別図柄の抽選契機となる第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが極めて困難（不可能）となる第１変位パターンが必ず設定され、第１時短状態では、２０％の割合で第１変位パターンが設定されると共に８０％の割合で第２入球口６４０へと容易に遊技球を入球させることが可能となる第２変位パターンが設定され、第２時短状態では、約９７％の割合で第１変位パターンが設定されると共に約３％の割合で第２変位パターンが設定されるように構成している。このため、普通図柄の抽選で当たりとなった場合に第２変位パターンが設定されると、実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選を実行させることができるので、普通図柄の抽選で第２変位パターンに対応する当たりに当選することが、実質的に大当たりに当選することと同義になるという極めて斬新な遊技性を実現することができる。

【１１１８６】

また、本第４０制御例では、第１特別図柄の抽選契機となる第１入球口６４へと入球する遊技球が、第１入球口６４へ入球するよりも前に必ず通過する位置（第１入球口６４の上方）に対して、普通図柄の抽選契機となる中央スルーゲート６７ｃを配置する構成とし、更に、第１特別図柄の変動時間よりも、普通図柄の抽選が開始されてから当該普通図柄の抽選に基づく普通図柄の当たりが終了するまでの間の期間の方が短くなるように構成している。つまり、第１特別図柄の抽選が実行される場合に、毎回、普通図柄の抽選もほぼ同時に（第１特別図柄の抽選が実行される直前で）実行されるように構成している。加えて、右打ちを行った場合に遊技球が通過可能な位置にも普通図柄の抽選契機となる右スルーゲート６７ｒを別で設ける構成としているが、左打ちにより発射された遊技球が中央ス

ルーゲート６７ｃを通過する割合と、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過する割合とが、略同一となるように構成している。これらにより、特に第２時短状態においては、右打ちにより普通図柄の抽選のみを実行させるよりも、左打ちにより普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とをほぼ同時に実行させる方が、第２時短状態の間に大当たりに当選する可能性が高くなる。即ち、第２時短状態において右打ちを行った場合、普通図柄の抽選で約３％の割合で当選する第２変位パターンの当たりに当選した場合にのみ大当たりとなる（実質的に大当たり確定の第２特別図柄の抽選を実行させることが可能となる）一方で、左打ちを行った場合は、普通図柄の抽選で第２変位パターンの当たりに当選することに加えて、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選する可能性もあるため、第２時短状態において左打ちにより遊技を行わせることができる。そして、上述した通り、左打ちを行うと、中央スルーゲート６７ｃを通過した遊技球が必ず第１入球口６４へと入球し、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行されるので、第１特別図柄の抽選１回あたりの実質的な大当たり確率が高くなる（実質的に、第１特別図柄の大当たりとなる確率である約１／３２０と、第２変位パターンが設定される普通図柄の当たりとなる確率である約１／３３との合算確率になる）という、極めて斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１１８７】

この第４０制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、パチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２、およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第３２制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第３２制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【１１１８８】

まず、図１１４９を参照して、本第４０制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成について説明する。図１１４９は、本第４０制御例における遊技盤１３の正面図である。図１１４９に示した通り、本第４０制御例における遊技盤１３は、上述した第３２制御例における遊技盤１３の盤面構成（図９２５参照）に対して、第１入球口６４の上方に普通図柄の抽選契機となる中央スルーゲート６７ｃが配置されている点で相違している。これにより、左打ちにより発射されて第１入球口６４へと入球する遊技球は、第１入球口６４へと入球する直前に必ず中央スルーゲート６７ｃを通過する。つまり、左打ちを行い続けた場合、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とが略同時に実行され易くなっている。特に、第２時短状態においては、第１特別図柄の変動時間と普通図柄の抽選が開始されてから第１変位パターン（第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）となる電動役物６４０ａの変位パターン）に対応する普通図柄の当たりが終了するまでの期間とが同一となるように制御されるため、第１特別図柄、および普通図柄の保留球が共に０個の状態で左打ちを行った場合、第１特別図柄の抽選が実行される毎に、普通図柄の抽選がほぼ同時に開始されるように構成することができる。

【１１１８９】

また、図１１４９に示した通り、本第４０制御例における遊技盤１３では、上述した第３２制御例における遊技盤１３の盤面構成（図９２５参照）に対して、可変表示装置ユニット８０の正面視右側の流路（右打ち用流路）の構成が変更となっている点でも相違している。より具体的には、図１１４９に示した通り、第２特別図柄の抽選契機となる第２入球口６４０が右打ち用流路において右スルーゲート６７ｒよりも上流側に移動されている

と共に、第２入球口６４０に対して、「Ｖ」という文字を模した装飾が施されている。第２入球口６４０を右打ち用流路における上流側に配置し、戻り球防止部材６８から第２入球口６４０までの距離を比較的短くしたことにより、遊技球を第２入球口６４０へと入球させることが可能な第２変位パターンが設定される普通図柄の当たりに当選した場合に、右打ちを行ってから普通図柄の当たりに伴って突出状態（開放状態）に変位された電動役物６４０ａへと到達するまでの時間を短くすることができる。よって、電動役物６４０ａが突出状態（開放状態）に設定されている期間（開放期間）の間に遊技球を第２入球口６４０へとより確実に入球させることができるので、第１時短状態や第２時短状態において普通図柄の抽選で実質的に大当たりが確定する第２変位パターンに対応する普通図柄の当たりに当選したにもかかわらず、電動役物６４０ａの開放期間の間に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができず、大当たりに当選する機会（実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選を実行させる機会）を失ってしまうという遊技者にとって極めて不利な事象の発生を抑制することができる。

【１１１９０】

なお、本第４０制御例では、普通図柄の当たり遊技の実行中に第２入球口６４０へと１個の遊技球が入球したことに基づいて普通図柄の当たりが終了される構成としている。また、第２特別図柄の保留球数は、上述した第３２制御例と同様に１個のみとする構成としている。このように構成することで、１回の第２変位パターンによる開放期間の間に複数の遊技球が第２入球口６４０へと入球することを抑制できる上に、たとえ複数の遊技球が入球したとしても、保留球が１個のみしか増加しないように構成することができる。よって、実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の保留球が一度に複数個獲得されてしまい、遊技者にとって過剰に有利となり過ぎてしまうことを抑制することができる。

【１１１９１】

また、図１１４９に示した通り、本第４０制御例では、第３２制御例におけるスルーゲート６７に代えて、「ＧＯ」という文字を模した装飾が施された右スルーゲート６７ｒが設けられている。また、右スルーゲート６７ｒの正面視左側の遊技釘の配置も第３２制御例における遊技盤１３（図９２５参照）から変更となり、第３２制御例における盤面構成に対して、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒへと比較的入球し難くなるように構成されている。より具体的には、右打ちにより発射され、閉鎖状態（埋没状態）の電動役物６４０ａの手前側を通過した遊技球は、遊技釘群ＹＫ１に衝突するか、遊技釘群ＹＫ２に衝突するか、遊技釘群ＹＫ１と遊技釘群ＹＫ２との間の隙間から下流側（右スルーゲート６７ｒを通過し得ない方向）へと流下する。遊技釘群ＹＫ１へと衝突した遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過するためには、正面視右側へと跳ねて遊技釘群ＹＫ２へと衝突し、当該衝突による衝撃で正面視右側へと跳ねて遊技釘ＹＫ３へと衝突し、当該衝突による衝撃で正面視右側へと跳ねて遊技釘ＹＫ４へと衝突し、更に、当該衝突により正面視右側へと跳ねる必要がある。いずれかの遊技釘との衝突時に、飛距離が足りなかったか、または跳ね返る方向が正面視左側だった場合は、遊技釘群ＹＫ１と遊技釘群ＹＫ２との間の隙間や、遊技釘群ＹＫ２と遊技釘群ＹＫ３との間の隙間や、遊技釘ＹＫ３と遊技釘ＹＫ４との間の隙間から下流側へと流下してしまい、右スルーゲート６７ｒを通過することが不可能となる。

【１１１９２】

また、最初に遊技釘群ＹＫ２へと衝突した遊技球についても同様に、正面視右側へと跳ねて遊技釘ＹＫ３へと衝突し、当該衝突による衝撃で正面視右側へと跳ねて遊技釘ＹＫ４へと衝突し、更に、当該衝突により正面視右側へと跳ねた場合に右スルーゲート６７ｒを通過可能となり、遊技釘群ＹＫ２と遊技釘群ＹＫ３との間の隙間や、遊技釘ＹＫ３と遊技釘ＹＫ４との間の隙間から下流側へと流下した場合は右スルーゲート６７ｒを通過不可能となる。この盤面構成としたことにより、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過する割合は、左打ちにより発射された遊技球が中央スルーゲート６７を通過する割合と略同一（およそ遊技球１０～１５個発射する毎に１個通過する程度の割合）となる。

【１１１９３】
なお、本第４０制御例では、左打ちと右打ちとで、スルーゲート（中央スルーゲート６７ｃまたは右スルーゲート６７ｒ）を遊技球が通過する割合を略同一とする構成としたが、これに限られるものではない。例えば、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過する割合を、左打ちにより発射された遊技球が左スルーゲート６７ｃを通過する割合よりも高くなる（例えば、右打ちにより２個の遊技球を発射する毎に１個の遊技球が右スルーゲート６７ｒ通過する割合となる）ように構成してもよい。このように構成した場合、第１時短状態や第２時短状態における遊技方法を遊技者に対して選択させる遊技性を実現することができる。つまり、時短状態において左打ちを行った場合、普通図柄の抽選を実行させる頻度は低くなる（左打ちにより遊技球を１０～１５個発射する毎に１回実行される程度の頻度となる）一方で、普通図柄の抽選が実行される毎に第１特別図柄の抽選が実行されるため、普通図柄の抽選で第２変位パターンに対応する普通図柄の当たりとなることだけでなく、第１特別図柄の抽選で大当たりとなることにも期待させることができる。一方で、時短状態において右打ちを行った場合、普通図柄の抽選を実行させる頻度が高くなる（右打ちにより遊技球を２個発射する毎に１回実行される程度の頻度となる）ため、時短状態における普通図柄の抽選効率を高くすることができる一方で、第１特別図柄の抽選が実行されないため、時短状態の間に大当たりに当選する可能性が低くなる遊技性を実現することができる。よって、時短状態における遊技方法（左打ちを行うか右打ちを行うか）によって、遊技者に対して時短状態の間に大当たりとなる可能性が比較的高くなるが、普通図柄の抽選効率が悪くなる（時短状態の消化に比較的長い時間を要する上に、無駄球が比較的多く発生する）遊技性と、普通図柄の抽選効率は良くなるが、時短状態の間に大当たりとなる可能性が比較的低くなる（第１特別図柄の大当たり確率である１／３２０の分だけ大当たり期待度が低下する）遊技性と、を選択させる極めて斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者毎に、自己の趣向によりマッチした遊技性を選択させることができるので、より多くの遊技者の好みに合う遊技性を実現することができ、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１１９４】
また、図１１４９に示した通り、右スルーゲート６７ｒの下流側において、複数の遊技釘によって、正面視左上方向から右下方向に下る向きの傾斜を形成することにより、右打ちにより発射され、第２入球口６４０へと入球しなかった全ての遊技球を、第２可変入賞装置６５０の上流側へと誘導することが可能に構成している。このように構成することで、第２特別図柄の抽選が実行されて小当たりに当選し、第２可変入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１が開放された場合に、右打ちされた遊技球を第２可変入賞装置６５０のＶ入賞口６５０ａへと確実に入球させることができるので、実質的に大当たりが確定する小当たりに当選したにもかかわらず、開閉扉６５０ｆ１の開放期間の間にＶ入賞口６５０ａへと遊技球を入球させることができず、大当たりに当選する機会を失ってしまうという遊技者にとって極めて不利な事象の発生を抑制することができる。

【１１１９５】
次に、図１１５０から図１１５５を参照して、本第４０制御例における特徴的な演出について説明する。まず、図１１５０（ａ）を参照して、第１特別図柄の抽選で時短図柄当選（大当たりを介さずに直接時短状態を付与する抽選結果）が発生した場合における演出態様について説明する。ここで、上述した通り、第２時短状態は、普通図柄の抽選が実行された場合に約３％の割合で第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となる第２変位パターンで電動役物６４０ａが開放される当たり（普図当たりＢ）に当選する遊技状態である。即ち、普図当たりＢに当選し得ない（第２入球口６４０へと遊技球を入球不可能な第１変位パターンの当たり（普図当たりＡ）にのみ当選し得る）通常状態に比較して、少なくとも実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選が実行され得ることにより、有利度合いが高くなる遊技状態である。通常状態においては、左打ち遊技を行った場合に大当たりとなる確率は第１特別図柄の抽選が１回実行される毎に約１／３２０となり、大当たり終了後の遊技状態として第１時短状態が設定される割合は５０％に設定され

ているので、第１特別図柄の抽選が１回実行される毎の第１時短状態への移行可能性は、トータルで約１／５００となる。これに対して、第２時短状態においては、左打ち遊技を行った場合に第１特別図柄の抽選で大当たりとなる確率が約１／３２０、普通図柄の抽選で第２入球口６４０へと入球可能となる普図当たりＢに当選する確率が約１／３３であり、第１特別図柄の抽選が実行される毎に普通図柄の抽選が実行されるため、第１特別図柄の抽選が１回実行される毎の実質的な大当たり確率は約１／２９．８となる。加えて、時短状態の間に大当たりに当選した場合は、第１特別図柄の大当たりであっても、大当たり終了後の遊技状態が第１時短状態に設定されるため、第２時短状態において第１特別図柄の抽選が１回実行される毎の第１時短状態への移行可能性は、トータルで約１／２９．８となる。このため、第２時短状態は、通常状態に比較して大幅に第１時短状態へと移行する可能性がアップする有利な状態を形成する。

【１１１９６】

図１１５０（ａ）に示した通り、時短図柄当選に対応する変動表示演出が実行されると、第３図柄表示装置８１における種表示領域Ｄｍで、時短図柄に当選したことを示す特殊な第３図柄が停止表示される変動表示演出が実行される。より具体的には、図１１５０（ａ）に示した通り、左図柄列、および右図柄列に対して同一の数字を模した第３図柄が停止表示されてリーチ演出が発生した後で、中図柄列に対して「チャンスタイム」という文字が付された特殊図柄が停止表示される変動表示演出が実行される。また、変動停止タイミングにおいて、副表示領域Ｄｓに対して、「チャンスタイムＧＥＴ！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、通常状態よりも有利な状態（実質的な大当たり確率、第１時短状態への移行率が共に大幅に上昇する第２時短状態）が設定されるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１１９７】

なお、図１１５０（ａ）に示した通り、第３図柄表示装置８１における右上部分には、特別図柄の抽選状況（抽選中（変動中）であるか否か、及び、抽選結果）を示すための識別情報（第４図柄）が表示される領域であって、第１特別図柄（特図１）の抽選状況を示すための第４図柄（特図１第４図柄）を表示させるための小表示領域Ｄｍ１が形成される。また、副表示領域Ｄｓの右下部分には、第１特別図柄に対応する保留図柄を表示させるための小表示領域Ｄｍ９が形成される。

【１１１９８】

次に、図１１５０（ｂ）を参照して、時短図柄当選が報知された後（時短図柄が停止表示された後）で実行されるチャンスタイム待機演出について説明する。このチャンスタイム待機演出は、主に、当選した時短図柄の種別に応じた時短回数を報知するための演出が実行される。このチャンスタイム待機演出では、種表示領域Ｄｍにおける左下にウサギを模したキャラクタ８０１が表示され、その上方において、今回設定された第２時短状態が終了するまでの特別図柄の抽選回数（普通図柄の当たり遊技の実行回数）を示唆する図柄８１１ａ～８１１ｄが回転して表示される。その更に上方には、「～チャンスタイム待機中～」という文字が表示される。更に、小表示領域Ｄｓに対しては、「チャンスタイムの回数を決めろ！！」という文字が表示される。これらの表示内容によって、あたかも第２時短状態の時短回数が未だ設定されていないかのように遊技者に思わせることができる。換言すれば、第２時短状態が未だ開始されていない（待機されている）かのように遊技者に思わせることができる。なお、実際にはこのチャンスタイム待機演出の開始時点で第２時短状態に移行しており、時短図柄当選に伴う変動表示の終了時点（時短図柄の停止表示時点）で保留されていた第１特別図柄の変動表示が実行されている。この時短図柄当選時点の残保留に基づく変動表示は、主表示領域Ｄｍにおける右上部分に形成される小表示領域Ｄｍ１で、遊技者が比較的視認し難い態様（狭い表示領域）にて実行される。また、保留図柄に関しても、遊技者が比較的視認し難い（表示領域が狭い）小表示領域Ｄｍ９において実行される。つまり、第１特別図柄の保留球に基づいて第１特別図柄の抽選が実行されていること（第２時短状態が既に開始されていること）を遊技者に認識され難く構成している。これは、第２時短状態が既に開始されていると判断して、遊技者が左打ちを開始

することを抑制するためである。

【１１１９９】

ここで、第２時短状態に移行した後で、当該移行の前に既に保留されていた第１特別図柄の保留球が未だ残存している状態で遊技者が左打ちを行ってしまうと、残保留に基づく第１特別図柄の変動表示の実行中に中央スルーゲート６７ｃの通過、および第１入球口６４への入球が発生する可能性がある。この場合、普通図柄の抽選は即座に開始されるものの、第１入球口６４に対する新たな始動入賞に基づく第１特別図柄の抽選は、保留球を全て消化しきるまで開始されないため、第１特別図柄の変動表示期間と普通図柄の変動表示期間（および普通図柄の当たり遊技期間）とがずれてしまう可能性がある。上述した通り、第２時短状態では、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とが毎回略同時に開始されることにより、第１特別図柄の抽選が実行された場合の実質的な大当たり確率を、通常状態よりも高く構成しており、演出態様としても、第１特別図柄の変動表示演出において、第１特別図柄の抽選と略同時に開始された（直前に開始された）普通図柄の抽選結果を加味した演出を設定する構成としている。つまり、第１特別図柄の抽選が大当たりであるか、または普通図柄の抽選結果が普図当たりＢに対応する抽選結果である場合に同一の数字を模した（付された）第３図柄が揃う演出態様の変動表示演出が実行され、第１特別図柄の抽選が外れであり、且つ、普通図柄の抽選結果が普図当たりＡである場合は第３図柄が外れの組み合わせで停止表示される演出態様の変動表示演出を実行する構成としている。係る状況下において、第１特別図柄の抽選開始タイミングと、普通図柄の抽選開始タイミングとがずれてしまうと、第１特別図柄の変動表示期間において普通図柄の抽選結果をふまえた変動表示演出を実行することが困難となってしまう可能性がある。よって、本第４０制御例では、チャンスタイム待機演出を実行することにより、あたかも第２時短状態が開始されていないかのように装うことで遊技者が遊技球を発射し難い状況を形成し、このチャンスタイム待機演出の実行中に第１特別図柄の保留球が０となる状況を成立させる構成としている。このように構成することで、第２時短状態において、第１特別図柄の保留球が０の変動停止状態となってから、左打ちを開始させ易くすることができるので、第２時短状態において、第１特別図柄の抽選開始タイミングと、普通図柄の抽選開始タイミングとがずれてしまうことを抑制することができる。よって、第１特別図柄の変動表示演出において、確実に、当該第１特別図柄の抽選が実行される直前に実行された普通図柄の抽選結果を加味した変動表示態様を設定することができる。

【１１２００】

なお、本第４０制御例では、第２時短状態の終了条件のうち、特別図柄の抽選回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する終了条件（第１終了条件）と、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する終了条件（第３終了条件）とで、規定回数を異ならせる構成としている。具体的には、第１終了条件に係る規定回数の方が、第３終了条件に係る規定回数よりも４回分多くなるように構成している。このように構成することで、第２時短状態が設定された時点で第１特別図柄の保留球が０個から４個のいずれの個数であっても、大当たりに当選しない場合に、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数に到達するまで、確実に第２時短状態を継続させることができる。つまり、第１特別図柄の保留球をチャンスタイム待機演出中に複数消化させたとしても、第２時短状態の間に実行させることができる普通図柄の抽選回数が減ってしまうことがないので、実質的に第１特別図柄の抽選よりも大当たりに結びつく可能性が大幅に高い普通図柄の抽選の実行回数を第１特別図柄の保留球数によらず共通化することができ、第２時短状態における大当たり期待度が低下してしまうことを抑制することができる。なお、以降の説明では、第２時短状態における時短回数と言った場合に、第４終了条件が成立する普通図柄の当たり遊技の実行回数を指すものとする。

【１１２０１】

図１１５０（ｂ）に戻って説明を続ける。チャンスタイム待機演出において回転して表示される図柄（アイコン）は、例えば、時短回数が少なくとも１０回以上付与されたことを示唆する「１０回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ａと、時短回数

が少なくとも３０回以上付与されたことを示唆する「３０回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｂと、チャンスタイム待機演出が継続することを示唆する「継続」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｃと、大当たりを示唆する「祝」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｄと、で構成されている。この他にも、時短回数が１００回以上付与されたことを示唆する「１００回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）や、実質的に次回の大当たりまで第２時短状態が継続することを示唆する「∞」という文字が付された示唆図柄（アイコン）も設けられている。当選した時短図柄の種別（時短回数）と、第１特別図柄の保留球数と、第１特別図柄の抽選結果と、に応じて、示唆図柄（アイコン）８１１ａ～８１１ｄとしていずれの種別の示唆図柄（アイコン）を設定するのかが抽選により決定される。

【１１２０２】

チャンスタイム待機演出の開始から特定期間（例えば、５秒間）が経過すると、図１１５１（ａ）に示した通り、示唆図柄（アイコン）８１１ａ～８１１ｄのうち、１の示唆図柄をウサギのキャラクタ８０１が殴打する演出が実行され、その殴打した示唆図柄が示す示唆内容を獲得したことが報知される。図１１５１（ａ）の例では、「１０回」という文字が付された示唆図柄８１１ａが殴打される演出が実行された場合を例示している。この場合、副表示領域Ｄｓにおいて、「１０回ＧＥＴ！！左打ち！！」という文字が表示されることで、示唆図柄８１１ａに表示されている「１０回」が時短回数として付与されたことを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２０３】

また、図１１５１（ｂ）は、チャンスタイム待機演出の実行中に第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合の演出態様を示した図である。つまり、時短図柄が停止表示された時点で既に保留されていた第１特別図柄の保留球の中に大当たりが含まれていた場合の演出態様を示した図である。図１１５１（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の残保留で大当たりに当選した場合は、「祝」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｄをウサギのキャラクタ８０１が殴打する演出が実行される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「大当たりＧＥＴ！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、大当たりに当選したということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２０４】

なお、本第４０制御例では、第２時短状態における第１特別図柄の変動時間が５秒間に固定化される。これにあわせて、チャンスタイム待機演出において１の示唆図柄を選択する（ウサギのキャラクタ８０１が殴打する）演出も５秒間に固定化される。そして、第１特別図柄の保留球が１以上存在し、且つ、特別図柄の抽選結果が外れである場合は、必ず「継続」という文字が付された示唆図柄を選択する５秒間の演出が実行されて、次変動において新たな組み合わせの４つの示唆図柄が表示されてその中から１の示唆図柄を選択する５秒間の演出が再度実行される。そして、残保留に基づく特別図柄の抽選結果が外れとなり、且つ、第１特別図柄の保留球数が０となった場合は、今回の時短図柄の種別に応じた時短回数を示唆する１の示唆図柄を選択する５秒間の演出が実行されて、第２時短状態（チャンスタイム）の開始が報知される。なお、時短図柄当選時点で第１特別図柄の保留球が０であった場合の第２時短状態の開始時においても、同様に、今回の第２時短状態の時短回数を示唆する１の示唆図柄を選択する５秒間の演出が実行される。このように構成することで、今回の時短回数を知りたいと希望する遊技者に対して、チャンスタイム待機演出の演出内容に注目させることができるので、チャンスタイム待機演出が終了するまでの間、遊技球を発射され難い状況を形成することができる。よって、第１特別図柄の抽選の実行タイミングと普通図柄の抽選の実行タイミングとがずれてしまうことを抑制することができる。

【１１２０５】

ここで、本第４０制御例では、チャンスタイム待機演出中に遊技球を発射せずに第１特別図柄の保留球を全て消化してから左打ちを開始した場合と、チャンスタイム待機演出の開始直後から左打ちを開始し、第１特別図柄の保留球が消化されている間に新たな第１特

別図柄の保留球を貯めた場合とで、有利度合いがほぼ変わらない（保留消化を待った方が、時短状態の間に実行される第１特別図柄の抽選回数が多くなり、若干有利となる）ように構成している。即ち、本第４０制御例では、上述した通り、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する終了条件（第３終了条件）を設ける構成としており、チャンスタイム（第２時短状態）においては、チャンスタイムへと移行した時点の第１特別図柄の保留球数によらず、特別図柄の抽選回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する終了条件（第１終了条件）よりも先に、第３終了条件が成立するように構成されている。つまり、第１終了条件が成立するまでの特別図柄の抽選回数の方が、上限個数の保留球数（４個）に対応する回数分、第３終了条件が成立するまでの普通図柄の当たり遊技の実行回数よりも多くなるように構成している。このように構成することで、第２時短状態において第１特別図柄の保留球を全て消化してから左打ちを開始したとしても、第２時短状態が設定された直後に左打ちを開始したとしても、第３終了条件に相当する回数の普通図柄の当たり遊技が実行されるまで、時短状態を継続させることができるので、実質的な大当たり確率が高い普通図柄の当たり遊技の回数を損することにより、遊技者に対して極めて不利益となってしまうことを抑制することができる。よって、遊技球を発射せずにチャンスタイム待機演出に注目し続けた遊技者が損をしてしまうことを抑制できるので、好適な演出態様を実現することができる。

【１１２０６】

次に、図１１５２から図１１５４（ａ）を参照して、チャンスタイム（第２時短状態）において、実質的に大当たりが確定する第２変位パターンに対応する普通図柄の当たりに当選した場合の演出態様について説明する。まず、図１１５２（ａ）は、チャンスタイム（第２時短状態）において普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行され、普通図柄の抽選で第２変位パターン（第２入球口６４０へと入球させることが可能なロング開放）に対応する普通図柄の当たりに当選した場合の第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。

【１１２０７】

ここで、本第４０制御例では、チャンスタイム（第２時短状態）に移行すると、他の制御例におけるチャンスタイムと同様に、主表示領域Ｄｍにおいてウサギを模したキャラクタ８０１が雲の上に移動する演出が実行されて、以降はチャンスタイムが終了するまでの間、キャラクタ８０１が雲の上において各種のアクションを実行する演出が実行される。また、図１１５２（ａ）に示した通り、本第４０制御例におけるチャンスタイム（第２時短状態）では、主表示領域Ｄｍにおける中央部分において第３図柄の変動表示演出が実行されると共に、主表示領域Ｄｍにおける右上に形成される小表示領域Ｄｍ１において第４図柄の変動表示演出が実行される。第４図柄の変動表示演出は、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂにおいて実行される特別図柄の変動表示に同期して実行されるが、第３図柄の変動表示は、必ずしも特別図柄の変動表示に同期して実行されるわけではない。即ち、本第４０制御例では、チャンスタイム中に普通図柄の抽選でロング開放（第２変位パターン）に設定される普図当たりＢに当選した場合は、第３図柄の変動表示によって普通図柄の抽選結果を示すことが可能に構成されている。この場合、普通図柄の変動時間に合わせて第３図柄の変動表示が実行される。

【１１２０８】

また、図１１５２（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍにおける中央上部に、「～高確率中～」という文字が表示されると共に、主表示領域Ｄｍにおける左上側に形成された小表示領域Ｄｍ４に対して、「左打ち」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｍ４の下方に形成された小表示領域Ｄｍ７に対して、チャンスタイム（第２時短状態）が終了されるまでの残りの抽選回数を示唆する表示内容が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して、有利なチャンスタイムにおいても左打ちにより第１入球口６４へと遊技球を入球させる遊技方法で遊技を行えば良いということを容易に理解させることができる。また、チャンスタイム（第２時短状態）においては、実質的な大当たり確率が高くなるということ、および実質的な大当たり確率が高い状態がいつまで継続するのかというこ

とを遊技者に対して把握させることができる。
【１１２０９】
チャンスタイムにおいて、普通図柄の抽選でロング開放（第２変位パターン）に設定される普通図柄の当たり（普図当たりＢ）に当選した場合、まず、当該普図当たりＢに対応する普通図柄の変動表示とほぼ同時に（普図当たりＢに対応する変動表示の開始直後に）開始された第１特別図柄の変動表示期間に同期して第３図柄表示装置８１において実行される変動表示演出として、図１１５２（ａ）に示した通り、右図柄列、中図柄列、および左図柄列に対して同一の数字を模した第３図柄が停止表示される変動表示演出が実行される。また、図柄停止時に、図１１５２（ａ）に示した通り、副表示領域Ｄｓにおいて「ボーナス確定」という文字が表示される。つまり、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に実行される変動表示演出と区別し難い（同一の）態様で普図当たりＢを報知する変動表示態様の疑似当たり演出が実行される。
【１１２１０】
なお、この疑似当たり演出においては、必ず、偶数の図柄を模した第３図柄が停止表示される。これは、普図当たりＢに当選した時点では、単に実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選を実行することが可能な状態（電動役物６４０ａが比較的長い時間（例えば、２．５秒間）開放される状態）へと移行することのみが確定するに過ぎず、当選する大当たりの種別を特定することはできない（第２特別図柄の抽選契機となる第２入球手段６４０への入球が発生していない）からである。よって、一般的に有利度合いが高い意味合いで用いられる数字（例えば、「７」）が揃う演出態様の変動表示演出を実行してしまうと、その後に第２特別図柄の抽選で有利度合いが低い種別の大当たりまたは小当たりに当選した場合に、遊技者を困惑させてしまう可能性がある。そこで、本第４０制御例では、疑似当たり演出において、一般的に比較的有利度合いが低い意味合いで用いられる偶数の数字を模した第３図柄が揃う変動表示演出を実行する構成としている。このように構成することで、遊技者を困惑させてしまうことを抑制することができる。
【１１２１１】
疑似当たり演出が終了して普図当たりＢの開放期間が開始されると、次いで、普図当たりＢに基づく電動役物６４０ａの開放期間の間に右打ちにより第２入球口６４０へと遊技球を入球させることを遊技者に示唆可能な第１示唆演出を実行する。この第１示唆演出の演出態様について、図１１５２（ｂ）を参照して説明する。図１１５２（ｂ）は、第１示唆演出の実行中における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図１１５２（ｂ）に示した通り、第１示唆演出が実行されると、第３図柄表示装置８１における左上側に形成される小表示領域Ｄｍ４の表示内容が、「右打ち」という文字に切り替わる。また、表示領域ＨＲ１０に対して、直前の変動表示演出（疑似当たり演出）において確定表示された第３図柄が縮小表示される。また、表示領域ＨＲ１０の下方に、右向きの矢印を模した矢印画像ＹＧが形成されると共に、当該矢印画像ＹＧに対して、「右を狙え」という文字が表示される。更に、矢印画像ＹＧの下方には、普図当たりＢにおいて遊技球を第２入球口６４０へと入球させることが可能な期間（ロング開放期間）の残時間を示すためのタイムゲージｇａ２が表示されている。このタイムゲージｇａ２の表示態様は、普図当たりＢの開放期間の残期間を示すための残期間表示ｇａ２ａと、経過期間を示すための経過期間表示ｇａ２ｂとから形成されており、普図当たりＢのラウンド遊技が実行されてから時間が経過する毎に、経過期間表示ｇａ２ｂが占める割合が増加し、残期間表示ｇａ２ａが占める割合が減少するように、タイムゲージｇａ２が時間経過に応じて可変表示される。
【１１２１２】
また、図１１５２（ｂ）に示した通り、第１示唆演出が実行されている間、主表示領域Ｄｍにおける右下部分には、遊技盤１３における第２入球口６４０およびその周辺領域を模した画像が表示される横長略長方形形状の小表示領域Ｄｍ６が形成されると共に、副表示領域Ｄｓに対して、「右打ちで上のＶを狙え」という文字が表示される。これらの表示内容により、残期間表示ｇａ２ａが残っているうちに、「Ｖ」という文字を模した装飾が

付されている第２入球口６４０、および第２可変入賞装置６５０のうち、上流側に設けられている第２入球口６４０へと右打ちにより遊技球を入球させれば大当たりを獲得できるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２１３】

なお、本第４０制御例では、この第１示唆演出を、普図当たりＢの開放期間に同期させて実行する構成としているが、これに限られるものではない。例えば、普図当たりＢの「開放期間が開始されるよりも所定期間（例えば、２秒間）前から第１示唆演出を開始させる構成としてもよい。このように構成することで、普図当たりＢに基づく開放期間が開始されるよりも前から遊技者に右打ちを開始させることができるので、開放期間の間により確実に電動役物６４０ａに対して遊技球を到達させることができ、より確実に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができる。

【１１２１４】

第１示唆演出（上のＶを狙うことを示唆する演出）において遊技者が右打ちを行うことにより、第２入球口６４０へと遊技球が入球して第２特別図柄の抽選が実行されると、第２特別図柄の抽選結果を示すための第２特別図柄の変動表示演出として、例えば、図１１５３に示すような昇格演出が実行される。この昇格演出では、図１１５３（ａ）に示した通り、まず、主表示領域Ｄｍにおいて、普図当たりＢに当選した際に確定表示された第３図柄（図１１５３（ａ）の例では数字の「２」を模した第３図柄）が再度表示されると共に、当該第３図柄の上方から、「７」の数字を模した第３図柄が降下してくる演出が実行される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「図柄を昇格させろ！」という文字が表示されると共に、副表示領域Ｄｓに対して、「昇格チャンス！」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して、偶数の数字を模した第３図柄が「７」の図柄を模した第３図柄に入れ替わる（昇格する）ことにより、有利な大当たり種別の大当たり遊技が実行されるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、遊技者にとって理解し易い演出態様を実現することができる。

【１１２１５】

なお、上述した通り、第２特別図柄の抽選が実行された場合は、小当たり若しくは大当りのどちらかに当選する上に、小当たり当選時は、小当たり遊技中に右打ちを行い続けるだけで容易に特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させることができるため、第２特別図柄の抽選が実行された時点で、実質的に大当たりが確定する。そして、第２特別図柄の抽選結果が大当たりとなった場合、および小当たりとなって小当たり種別が小当たりＡ４０に決定され、当該小当たりＡ４０において特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した場合は、大当たり種別としてラウンド数が最も多い（１０ラウンドの）大当たりＣ４０が決定される。一方で、第２特別図柄の抽選結果が小当たりとなって小当たり種別が小当たりＢ４０に決定され、当該小当たりＢ４０において特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した場合は、大当たり種別としてラウンド数が最も少ない（３ラウンドの）大当たりＤ４０が決定される。昇格演出では、第２特別図柄の抽選結果が大当たりであるか、小当たりＡ４０である場合に、昇格に成功する（偶数の数字を模した第３図柄が「７」を模した第３図柄に置き換わる）演出態様に設定される一方、第２特別図柄の抽選結果が小当たりＢである場合に、昇格に失敗する演出態様に設定される。

【１１２１６】

図１１５３（ｂ）は、昇格に成功する演出態様の昇格演出が実行された場合の演出態様を示した図である。図１１５３（ｂ）に示した通り、昇格に成功する演出態様の昇格演出では、偶数の数字を模した第３図柄の上方から降下してきた「７」の数字を模した第３図柄によって、偶数の数字を模した第３図柄がはじき飛ばされ、「７」の数字を模した第３図柄に置き換わる演出が実行される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「昇格成功！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、ラウンド数が最大の大当たりに当選した（第２特別図柄の抽選で大当たり、または大当たりＡ４０のどちらかに当選した）と言うことを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２１７】

なお、図示については省略したが、第２特別図柄の抽選で有利度合いが低い（特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した場合にラウンド数が最も少ない大当たりＤ４０に当選する）小当たりＢ４０に当選した場合は、「７」を模した第３図柄が偶数の数字を模した第３図柄をはじき飛ばすことができずに跳ね返されて、上方へと吹き飛ぶ演出態様の演出が実行される。これにより、昇格に失敗したこと（有利度合いが低い大当たりＤ４０に当選すること）を遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２１８】

第２特別図柄の抽選で小当たりに当選していた場合は、次いで、小当たりに基づく第２可変入賞装置６５０の開閉扉６５０ｆ１の開放期間の間に右打ちによりＶ入賞口６５０ａへと遊技球を入球させることを遊技者に示唆可能な第２示唆演出を実行する。この第２示唆演出の演出態様について、図１１５４（ａ）を参照して説明する。図１１５４（ａ）は、第２示唆演出の実行中における第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図１１５４（ａ）に示した通り、第２示唆演出が実行されると、表示領域ＨＲ１０に対して、直前の変動表示演出（昇格演出）において確定表示された第３図柄が縮小表示される。また、第１示唆演出（上Ｖを狙え演出）と同様に、表示領域ＨＲ１０の下方に、右向きの矢印を模した矢印画像ＹＧが形成されると共に、当該矢印画像ＹＧに対して、「右を狙え」という文字が表示される。更に、矢印画像ＹＧの下方には、小当たりにおいて遊技球をＶ入賞口６５０ａへと入球させることが可能な期間の残時間を示すためのタイムゲージｇａ２が表示されている。このタイムゲージｇａ２の表示態様は、小当たりの開放期間の残期間を示すための残期間表示ｇａ２ａと、経過期間を示すための経過期間表示ｇａ２ｂとから形成されており、小当たり遊技が開始されてから時間が経過する毎に、経過期間表示ｇａ２ｂが占める割合が増加し、残期間表示ｇａ２ａが占める割合が減少するように、タイムゲージｇａ２が時間経過に応じて可変表示される。

【１１２１９】

また、図１１５４（ａ）に示した通り、第２示唆演出が実行されている間、主表示領域Ｄｍにおける右下部分には、遊技盤１３における第２可変入賞装置６５０およびその周辺領域を模した画像が表示される横長略長方形形状の小表示領域Ｄｍ６が形成されると共に、副表示領域Ｄｓに対して、「右打ちで下のＶを狙え」という文字が表示される。これらの表示内容により、残期間表示ｇａ２ａが残っているうちに、「Ｖ」という文字を模した装飾が付されている第２入球口６４０、および第２可変入賞装置６５０のうち、下流側に設けられている第２可変入賞装置６５０へと右打ちにより遊技球を入球させれば大当たりを獲得できるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２２０】

ここで、これまで説明してきたチャンスタイム（第２時短状態）における演出態様（図１１５０から図１１５４（ａ）を参照して説明した演出態様）を加味して、チャンスタイム（第２時短状態）における全体的な演出態様の推移について説明する。図１１５６は、チャンスタイムへの移行前から大当たり当選後までの間における演出態様の推移を示したタイムチャートである。

【１１２２１】

図１１５６に示した通り、通常状態において第１特別図柄の抽選で時短図柄（突然時短）に当選すると、スーパーリーチを伴う８０秒間の時短図柄変動が実行されて、最終的に中図柄列に対して「チャンスタイム」という文字が付された特殊図柄が停止表示される（図１１５０（ａ）参照）。この時短図柄変動の停止表示期間（確定表示期間）が終了すると、遊技状態が通常状態から第２時短状態に変更される。第２時短状態に移行すると、まず、チャンスタイム待機演出（図１１５１（ｂ）、図１１５２参照）が実行される。このチャンスタイム待機演出は、最短で５秒間、最長で２０秒間実行される演出であり、上述した通り、今回のチャンスタイム（第２時短状態）の継続回数（普通図柄の当たり遊技の実行回数によって規定されている第３終了条件）を報知する演出を実行することで、遊技者の注意を演出内容に集めて遊技（遊技球の発射）を止めさせ、第２時短状態への移行時点で既に保留されていた第１特別図柄の保留球を消化させるために実行される。

【１１２２２】
チャンスタイム待機演出の実行中に第１特別図柄の保留球を消化しておくことにより、チャンスタイム待機演出の終了時点で第１特別図柄の保留球が０の状態とすることができ、その後に遊技者が左打ちを行って第１入球口６４へと遊技球を入球させて第１特別図柄の抽選を実行させる場合に、毎回、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とをほぼ同時に開始される（普通図柄の抽選が開始された直後に第１特別図柄の抽選が開始される）動作を実現することができる。よって、第１特別図柄の変動表示演出において、直前に開始された普通図柄の抽選結果を加味した演出態様を設定することができる。上述した通り、第２時短状態では、普通図柄の当たりとなった場合に有利な（実質的に大当たりが確定する）普図当たりＢが選択される割合が通常状態よりも高くなる（０％→３％に上昇する）ので、実質的に、１の第１特別図柄の抽選が実行される毎に、３％超の割合で大当たりを抽選しているのと同等の挙動とすることができる。即ち、チャンスタイム（第２時短状態）では、通常状態と同様に左打ちにより第１特別図柄の抽選を実行させることで遊技を進行する遊技状態であるにもかかわらず、見かけ上の大当たり確率が飛躍的に高くなる（実質的な大当たり確率が約１／３２０から約１／３０に上昇する）有利な遊技状態を形成する。

【１１２２３】
図１１５６に示した通り、チャンスタイム待機演出が終了すると、ウサギのキャラクタ８０１が雲の上において各種のアクションを行うと共に第３図柄の変動表示が実行されることで大当たり期待度を示唆する演出態様の演出が実行されるチャンスタイム中演出に切り替わる。チャンスタイム中演出では、第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合、および第１特別図柄の抽選の直前に開始された普通図柄の抽選で普図当たりＢとなった場合に、同一の数字を模した第３図柄が揃う変動表示演出が実行され、第１特別図柄の抽選で外れとなり、且つ、当該外れに対応する第１特別図柄の抽選の直前に開始された普通図柄の抽選で普図当たりＡとなった場合に、第３図柄が外れの組み合わせで停止表示される変動表示演出が実行される。

【１１２２４】
ここで、チャンスタイムにおける第１特別図柄の変動表示における変動時間と普通図柄の変動表示における変動時間との対応関係について、図１１５７を参照して説明する。図１１５７は、第１特別図柄の変動表示も普通図柄の変動表示も（第２特別図柄の変動表示も）実行されていない状態でスルーゲート６７および第１入球口６４へと遊技球がほぼ同時に入球した場合の第１特別図柄の変動時間および普通図柄の変動時間の対応関係を示した図である。図１１５７（ａ）は、普通図柄の抽選結果が普図当たりＢ（第２入球口６４０へ入球困難なショート開放の普図当たり）に当選した場合の対応関係を示しており、図１１５７（ｂ）は、普通図柄の抽選結果が普図当たりＡ（第２入球口６４０へと容易に入球可能となるロング開放の普図当たり）に当選した場合の対応関係を示している。

【１１２２５】
図１１５７（ａ）の上段に示した通り、チャンスタイム（第２時短状態）において第１特別図柄の抽選が実行されると、変動時間が５秒間の変動パターンが設定される。この５秒間の変動時間は、抽選結果が大当たりであるか、外れであるかにかかわらず、固定の変動時間として設定される。一方で、図１１５７（ａ）の中段に示した通り、チャンスタイムにおいて第１特別図柄の変動表示とほぼ同時に開始された普通図柄の変動時間は１秒間に設定される。なお、図１１５７（ａ）においては、説明の簡略化のため、第１特別図柄の変動表示と普通図柄の変動表示とが全く同時に開始されているかのように図示されているが、実際には普通図柄の変動表示の方が僅かに（例えば、０．０５秒前後）早く開始される。第１特別図柄の抽選の開始タイミングよりも僅かに前に普通図柄の抽選が実行される（第１入球口６４よりも上流側に中央スルーゲート６７ｃが配置されている）ため、第１特別図柄の変動表示演出として、直前に実行された普通図柄の抽選結果も加味した演出態様（変動表示態様）を設定する。図１１５７（ａ）は、第２入球口６４０へと入球困難な普図当たりＡに当選した場合を例示しているため、第１特別図柄の抽選結果が外れであ

れば、第１特別図柄の抽選結果を示す変動表示演出として、第３図柄が外れの組み合わせで停止表示される変動表示態様が設定され、だい１特別図柄の抽選結果が大当たりであれば、第１特別図柄の抽選結果を示す変動表示態様として、同一の数字を揃した第３図柄が揃う変動表示態様が設定される。

【１１２２６】

図１１５７（ａ）の下段に示した通り、普通図柄の変動時間（１秒間）が経過すると、普図当たりＡが開始される。普図当たりＡが開始されると、１．５秒間のオープニング期間（電動役物６４０ａの閉鎖期間）が設定された後で、０．１秒間の開放期間が設定され、以降は２．４秒間のエンディング期間（電動役物６４０ａの閉鎖期間）が設定される。これにより、第１特別図柄の変動表示が終了するタイミングとほぼ同時に、普図当たりＡのエンディング期間が終了される。つまり、第１特別図柄の新たな抽選が開始可能な状態になるのとほぼ同時に、普通図柄の新たな抽選が開始可能な状態を形成するので、次回以降の第１特別図柄の抽選でも、普通図柄の抽選をほぼ同時に開始させて第１特別図柄の変動表示演出の演出態様として、普通図柄の抽選結果を加味した演出態様を設定することができる。つまり、チャンスタイムにおいて実行される毎回の変動表示演出を、普通図柄の抽選結果と第１特別図柄の抽選結果との両方を加味した変動表示態様に設定することができる斬新な演出態様を実現することができるので、より好適な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１２２７】

次に、図１１５７（ｂ）を参照して、普通図柄の抽選結果が普図当たりＢである場合の第１特別図柄の変動時間と普通図柄の変動時間との対応関係について説明する。図１１５７（ｂ）の上段および中段に示した通り、第１特別図柄の変動時間、および普通図柄の変動時間は、それぞれ普図当たりＡの場合（図１１５７（ａ）参照）と共通である。つまり、第１特別図柄の変動表示は、変動時間が５秒間の変動パターンに設定され、当該第１特別図柄の変動表示とほぼ同時に（直前に）開始された普通図柄の変動時間は１秒間に設定される。なお、図１１５７（ｂ）の例では、普通図柄の抽選で、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選した場合を例示しているため、第１特別図柄の変動表示に同期して実行される第３図柄の変動表示演出として、第１特別図柄の抽選結果にかかわらず、同一の数字を揃した第３図柄が揃う変動表示態様が設定される。

【１１２２８】

図１１５７（ｂ）の下段に示した通り、普通図柄の変動時間（１秒間）が経過すると、普図当たりＢが開始される。普図当たりＢが開始されると、１．５秒間のオープニング期間（電動役物６４０ａの閉鎖期間）が設定された後で、２．５秒間の開放期間が設定され、エンディング期間はほぼ０に設定されて普図当たりＢが終了される。これにより、第１特別図柄の変動表示が終了するタイミングとほぼ同時に、普図当たりＢが終了される。つまり、普図当たりＡであるか、普図当たりＢであるかによらず、第１特別図柄の新たな抽選が開始可能な状態になるのとほぼ同時に、普通図柄の新たな抽選が開始可能な状態を形成するので、次回以降の第１特別図柄の抽選でも、普通図柄の抽選をほぼ同時に開始させて第１特別図柄の変動表示演出の演出態様として、普通図柄の抽選結果を加味した演出態様を設定することができる。つまり、チャンスタイムにおいて実行される毎回の変動表示演出を、普通図柄の抽選結果と第１特別図柄の抽選結果との両方を加味した変動表示態様に設定することができる斬新な演出態様を実現することができるので、より好適な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１２２９】

なお、本第４０制御例では、チャンスタイムにおいて、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選した場合も、普通図柄の変動が開始されてから普図当たりＢが終了するまでの期間と、第１特別図柄の変動時間とを一致させる（５秒間とする）構成としていたが、これに限られるものではない。例えば、普図当たりＢの場合は、普通図柄の変動時間を長くしたり（例えば、３．５秒間にしたり）、オープニング期間を長くしたり（例えば

、４秒間にしたり）することで、５秒経過以降に普通図柄の開放期間が開始されるように構成してもよい。このように構成することで、５秒間の変動期間を全て用いて変動表示演出を実行することができるので、演出態様をより多様化させることができる。詳述すると、上述した第４０制御例の構成では、普図当たりＢに当選した場合、第１特別図柄の変動開始後、約２．５秒経過時点で普図当たりＢに基づく開放期間が開始されるため、変動表示演出の演出期間として、実質的に２．５秒間しか確保できない構成となっていた。つまり、普通図柄の抽選結果によらず、第１特別図柄の変動表示の終了とほぼ同時に普通図柄の当たりを終了させる制御を採用していた。これは、仮に普図当たりＢにおいて遊技者が右打ちを行わなかった等して第２入球口６４０へと遊技球が入球せず、そのまま普図当たりＢが終了されたとしても、残りのチャンスタイムにおいて再度、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とをほぼ同時に実行させる遊技性を確実に実現できるように配慮した結果である。つまり、第１特別図柄の抽選が５秒で終了する一方で、普図当たりＢが５秒以上継続した場合、普図当たりＢの実行中に次の第１特別図柄の変動表示が開始されてしまい、以降は第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とをほぼ同時に実行させることが困難となってしまうという事象が発生してしまうことを防止する趣旨である。しかしながら、普図当たりＢに当選したにもかかわらず、第１示唆演出（図１１５２（ｂ）参照）の示唆内容を無視して左打ちを継続する遊技者はほぼいないと考えられるため、実際には、普図当たりＡに基づく普通図柄の変動が開始されてから普図当たりＡが終了されるまでの間の期間のみ、第１特別図柄の変動時間に一致させておけば大きな問題が生じないとも考えられる。よって、普図当たりＢの開放期間が、普通図柄の変動開始から少なくとも５秒間が経過した後で開始されるように構成することで、第１特別図柄の変動時間である５秒間をフルに用いて普図当たりＢとなるか（電動役物６４０ａがロング開放するか）否かを示唆する演出を実行する構成としてもよい。これにより、演出態様をより好適に設定することができる。

【１１２３０】

図１１５６に戻って説明を続ける。チャンスタイム（第２時短状態）において普図当たりＢ（電動役物６４０ａに対して２．５秒間のロング開放が設定される普図当たり）に当選すると、当該普図当たりＢに対応する普通図柄の変動表示の開始直後に開始される第１特別図柄の変動表示における変動表示態様として、疑似当たり変動演出（図１１５２（ａ）参照）が実行される。この疑似当たり変動演出は、上述した通り、特別図柄の抽選で大当たりになった場合と同様に、同一の数字を揃えた第３図柄がそれぞれ右図柄列、中図柄列、および左図柄列に停止表示される演出態様の演出である。つまり、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合と区別困難な演出態様の演出である。

【１１２３１】

図１１５６に示した通り、疑似当たり変動演出が終了すると、上のＶを狙え演出（第１示唆演出、図１１５２（ｂ）参照）が実行されて、遊技者に対して１回目の右打ちが促される（示唆される）。この上のＶを狙え演出（第１示唆演出）の実行中に右打ちを行うことで、開放状態（突出状態）に設定された電動役物６４０ａへと遊技球を到達させることができ、当該電動役物６４０ａによって第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができる。第２入球口６４０への入球を検出するか、または普図当たりＢが終了することによって、上のＶを狙え演出（図１１５２（ｂ）参照）は終了される。第２入球口６４０への入球を検出した（第２特別図柄の保留球を獲得した）場合は、上のＶへの入球に成功したことを報知する演出態様の演出が、第１特別図柄の変動表示の終了までの期間で実行される一方、右打ちを行わなかった等により第２入球口６４０へと入球しなかった場合は、普通図柄の当たりの終了時に上のＶを狙え演出が終了されると共に上のＶへの入球に失敗したことを示す短時間（例えば、１秒間）の演出が実行される。

【１１２３２】

なお、普通図柄の抽選で普図当たりＢ（実質的に大当たりが確定する普図当たり）に当選し、且つ、直後に実行された第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合についても、同様に、上のＶを狙え演出が実行される。この場合、第１特別図柄の変動時間の終了と

共に上のＶを狙え演出が終了されて、第１特別図柄の大当たりが開始される。つまり、昇格演出や下のＶを狙え演出が発生せずに、いきなり大当たり演出が開始される。これにより、遊技者に対して大きな驚きと喜びとを与えることができる。当該第１特別図柄の大当たりの終了後は、上のＶを狙え演出において右打ちを行って第２特別図柄の保留球を獲得していた場合、第２特別図柄の保留球に基づく変動表示が実行されて、大当たり遊技若しくは実質的に大当たり確定の小当たり遊技が実行される。つまり、第１特別図柄の大当たりと第２特別図柄の大当たりとが連続する極めて有利な状況が成立する。

【１１２３３】

図１１５６に示した通り、上のＶを狙え演出（第１示唆演出、図１１５２（ｂ）参照）の実行中に第２入球口６４０への入球を検出していた（第２特別図柄の保留球を獲得していた）場合は、第２特別図柄の変動表示に同期させて、昇格演出（図１１５３参照）が実行される。この昇格演出は、上述した通り、第２特別図柄の抽選でラウンド数が最大の大当たりに対応する抽選結果となった（大当たりまたは小当たりＡに当選した）場合に昇格に成功する演出態様（図１１５３（ｂ）参照）に設定され、少ないラウンド数の大当たりに対応する抽選結果となった（小当たりＢに当選した）場合に昇格に失敗する演出態様に設定される。

【１１２３４】

第２特別図柄の抽選で小当たりに当選していた場合は、図１１５６に示した通り、下のＶを狙え演出（第２示唆演出、図１１５４（ａ）参照）が実行されて、遊技者に対して２回目の右打ちが促される（示唆される）。この下のＶを狙え演出（第２示唆演出）の実行中に右打ちを行うことで、開放状態に設定されたＶ入賞口６５０ａへと遊技球を入球させることができ、特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させることができる。特定領域６５０ｅ３への入球を検出するか、または小当たり遊技が終了することによって、下のＶを狙え演出（図１１５４（ａ）参照）は終了される。特定領域６５０ｅ３への入球を検出した（大当たりが確定した）場合は、下のＶへの入球に成功したことを報知する演出態様の演出が、小当たり遊技の終了タイミングまでの期間で実行される一方、右打ちを行わなかった等により特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球しなかった場合は、小当たり遊技の開放期間の終了時に下のＶを狙え演出が終了されると共に下のＶへの入球に失敗したことを示す短時間（例えば、１秒間）の演出が実行される。

【１１２３５】

図１１５６に示した通り、下のＶを狙え演出の実行中に特定領域６５０ｅ３への入球を検出していた場合は、大当たりが開始されると共に大当たり演出が実行される。なお、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選していた場合は、下のＶを狙え演出が実行されずに、第２特別図柄の大当たり変動の終了時に大当たり遊技が開始されると共に、大当たり演出が実行される。

【１１２３６】

次に、図１１５４（ｂ）、および図１１５５を参照して、本第４０制御例における第１時短状態の演出態様について説明する。第１時短状態は、上述した通り、大当たり終了後の遊技状態として設定され得る遊技状態である。より具体的には、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に５０％の割合で設定される一方で、時短状態（第１時短状態、または第２時短状態）において第１特別図柄の抽選で大当たりになるか、第２特別図柄の抽選で直接または小当たり経由で大当たりになった場合に１００％の割合で設定される遊技状態である。この第１時短状態は、８０％の割合で大当たりに当選する上に、大当たりに当選した場合は、当該大当たりの終了後に再度、第１時短状態が設定される（第１時短状態をループする）ため、一度移行すると、８０％の割合で第１時短状態と大当たりとが繰り返される極めて有利な状態を形成する。

【１１２３７】

上述した通り、第１時短状態では、第３終了条件として、普通図柄の当たり遊技の実行回数が１回に設定される。そして、普通図柄の抽選で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選する割合は８０％であるため、普通図柄の抽選で普図当たりＢに当選しさえ

すれば、大当たり当選および第１時短状態のループが確定することになる。このため、本第４０制御例における第１時短状態では、普通図柄の抽選が実行された場合に、大当たりとなるか否かを遊技者に対して疑似的に報知する演出態様を設定する構成としている。

【１１２３８】

図１１５４（ｂ）は、第１時短状態（ラッシュ状態）における演出態様の一例を示した図である。第１時短状態（ラッシュ状態）において、特別図柄の抽選も普通図柄の抽選も実行されていない状況下では、主表示領域Ｄｍにおいて、ウサギを模したキャラクタ８０１が、複数の宝箱８１０ａ～８１０ｃを発見し、いずれの宝箱を開けるかを吟味する演出が実行される。また、主表示領域Ｄｍの左上部分に形成される小表示領域Ｄｍ４に対して、「右打ち」という文字が表示される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「選んだ箱からＶ出現でボーナス！？」という文字が表示されると共に、副表示領域Ｄｓに対して、「ＧＯを通して宝箱を選べ！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、右打ちを行って「ＧＯ」という文字を模した装飾が付された右スルーゲート６７ｒを通過させることにより、ウサギのキャラクタ８０１に対していずれか１の宝箱を選択させることができるということを容易に理解させることができる。

【１１２３９】

図１１５５（ａ）は、第１時短状態において遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過した場合の演出態様の一例を示した図である。図１１５５（ａ）に示した通り、第１時短状態において右スルーゲート６７ｒを遊技球が通過すると、当該通過に基づく普通図柄の抽選結果に応じてウサギのキャラクタ８０１が１の宝箱を選択する演出が実行される。具体的には、例えば、図１１５５（ａ）に示したように、ウサギのキャラクタ８０１が宝箱８１０ｂを選択する演出が実行されると共に、副表示領域Ｄｓに対して、「選択完了！！」という文字が表示される。また、表示領域ＨＲ１０に対しては、引き続き、「選んだ箱からＶ出現でボーナス！？」という文字が表示され続ける。これらの表示内容により、選択した宝箱から「Ｖ」が出現することで大当たりに当選するということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１２４０】

なお、図１１５４（ｂ）や図１１５５（ａ）に示した通り、宝箱には複数のバリエーションが存在する。即ち、光り輝く表示態様の宝箱８１０ａと、通常の表示態様の宝箱８１０ｂと、大きさが小さい表示態様の宝箱８１０ｃと、の３種類が設けられている。ウサギのキャラクタ８０１が選択する宝箱の種別によって、普図当たりＢに当選している期待度を遊技者に示唆する構成としている。具体的には、普図当たりＢに当選している場合、宝箱８１０ａの選択割合が普図当たりＡに当選している場合よりも高くなる一方で、宝箱ｃの選択割合が普図当たりＡに当選している場合よりも低くなるように構成されている。これにより、右スルーゲート６７ｒを遊技球が通過した場合に、キャラクタ８０１が選択する宝箱の種別に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、図１１５５（ａ）の例では、ウサギのキャラクタ８０１が宝箱８１０ｂを選択した場合を例示している。

【１１２４１】

図１１５５（ｂ）は、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢの当選が報知された場合の表示態様の一例を示した図である。図１１５５（ｂ）に示した通り、普図当たりＢに当選したことを報知する場合、主表示領域Ｄｍにおいて、ウサギのキャラクタ８０１が選択した宝箱の中から「Ｖ」の文字が付されたＶアイコン８１０ｂａが出現する演出が実行される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「ボーナス確定！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して大当たりが確定した（実質的に大当たり当選が確定する普図当たりＢに当選した）ということを、容易に理解させることができる。なお、これ以降は、チャンスタイム中に普図当たりＢに当選した場合と同様に、まず、上のＶを狙え演出が発生した後で、第２入球口６４０への始動入賞に基づく抽選結果に応じた昇格演出が実行され、第２特別図柄の抽選が大当たりである場合はそのまま大当たり遊技が開始される一方で、小当たりである場合は下のＶを狙え演出を経て特定領域６５０ｅ３

への入球を条件として大当たり遊技が開始される。

【１１２４２】

次に、図１１５８を参照して、本第４０制御例における各状態間の移行方法について説明する。ここで、本第４０制御例では、３つの遊技状態が設けられている。即ち、遊技者に不利な通常状態と、遊技者にとって最も有利な第１時短状態と、通常状態よりは有利度合いが高く、第１時短状態よりは有利度合いが低い第２時短状態と、の３種類の遊技状態が設けられている。通常状態は、普通図柄の抽選で第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な普図当たりＢが決定される可能性が無く、第１時短状態では、普通図柄の抽選で約８０％の割合で普図当たりＢに当選し、第２時短状態では、普通図柄の抽選で約３％の割合で普図当たりＢに当選する遊技状態である。

【１１２４３】

まず、図１１５８の上段を参照して、遊技者に不利な通常状態における遊技状態の移行方法について説明する。図１１５８の上段に示した通り、通常状態（通常モード）から他の状態には、特別図柄の抽選で大当たりに当選するか、または時短図柄に当選した場合に移行する可能性がある。より具体的には、特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなった場合に５０％の割合で決定（選択）される大当たりＡ４０が大当たり種別として決定された場合に、大当たり終了後の遊技状態として第１時短状態が設定される。また、特別図柄の抽選で約１／２００の確率で当選する時短図柄（突然時短）に当選した場合に、第２時短状態が直接設定される。一方で、大当たりに当選した場合に５０％の割合で決定（選択）される大当たりＢ４０が大当たり種別として決定された場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度、通常状態に設定される。このため、通常状態においては、特別図柄の抽選で大当たりに当選すること、または時短図柄に当選することにより、有利度合いが高い遊技状態へと移行するため、これらの抽選結果となることに期待して遊技を行う遊技性となる。

【１１２４４】

また、図１１５８の下段左側に示した通り、第１時短状態から他の遊技状態には、時短状態の終了条件（第１～第３終了条件のいずれか）が成立した場合にのみ移行する可能性がある。即ち、第１特別図柄変動（特図１変動）と、第２特別図柄変動（特図２変動）の合算の変動回数が１０回となることで成立する第１終了条件が成立するか、小当たりに１回当選することで成立する第２終了条件が成立するか、普通図柄の当たり遊技の実行回数（普通電動役物６４０ａの作動回数）が１回となることで成立する第３終了条件が成立することで、遊技状態が不利な通常状態に設定される。一方で、第１時短状態において普通図柄の抽選が実行された場合に８０％の割合で当選する普図当たりＢ（ロング開放の普図当たり）に当選すると、実質的に大当たりが確定する。つまり、大当たりまたは実質的に大当たりが確定する小当たりのどちらかに当選する第２特別図柄の抽選を実行する権利を得ることができ、大当たり終了後は再度、第１時短状態が設定される（第１時短状態をループする）。

【１１２４５】

ここで、実際には、普図当たりＢが開始された時点で電動役物６４０ａの作動回数が規定回数である１回に到達し、時短状態が終了されている（第３終了条件が成立している）が、図１１５８では、説明を分かり易くするために、普図当たりＢに当選して発生する第２特別図柄の当たり（大当たりまたは小当たり）は、第１時短状態中の当たりとして取り扱っている。

【１１２４６】

また、図１１５８の下段右側に示した通り、第２時短状態から他の遊技状態には、大当たりに当選した場合、および普通図柄の抽選で普図当たりＢ（ロング開放の普図当たり）に当選した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１１５８の下段右側に示した通り、特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなった場合には、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が、必ず有利度合いが高い第１時短状態に設定される。また、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選した場合も、演出

による示唆内容に従って右打ちを行い続けることにより、第２特別図柄の抽選を実行させることができ、大当たりまたは実質的に大当たりが確定する小当たりに当選させることができるため、大当たり終了後の遊技状態が有利な第１時短状態に設定される。

【１１２４７】

このように、本第４０死魚制御例では、３つの遊技状態を設ける構成とし、各遊技状態で、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢの当選割合を異ならせることにより、有利度合いに差を設ける斬新な遊技性を実現している。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１２４８】

＜第４０制御例の電気的構成＞

次に、図１１５９（ａ）を参照して、本第４０制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図１１５９（ａ）は、本第４０制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図１１５９（ａ）に示した通り、本第４０制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第３２制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図９５２（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａに代えて第１当たり乱数テーブル２０２ａｊが設けられている点、大当たり種別選択テーブル２０２ｂに代えて大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊが設けられている点、第２当たり乱数テーブル２０２ｃに代えて第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊが設けられている点、変動パターン選択テーブル２０２ｄに代えて変動パターン選択テーブル２０２ｄｊが設けられている点、時短付与テーブル２０２ｅに代えて時短付与テーブル２０２ｅｊが設けられている点、小当たり種別選択テーブル２０２ｆに代えて小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊが設けられている点、時短種別選択テーブル２０２ｊａが追加されている点、普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂが追加されている点、および変動パターンシナリオテーブル２０２ｈが削除されている点で相違している。その他の構成については上述した第３２制御例におけるＲＯＭ２０２の構成と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１２４９】

まず、本第４０制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｊの詳細について、図１１６０（ａ）、および図１１６０（ｂ）を参照して説明する。ここで、本第４０制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｊは、上述した第３２制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａ（図９５３（ａ）参照）と同様に、第１特別図柄の抽選において参照される特別図柄１乱数テーブル２０２ａｊ１と、第２特別図柄の抽選において参照される特別図柄２乱数テーブル２０２ａｊ２と、で少なくとも構成されている。まず、図１１６０（ａ）を参照して、特別図柄１乱数テーブル２０２ａｊ１の詳細について説明する。図１１６０（ａ）は、特別図柄１乱数テーブル２０２ａｊ１の規定内容を示した図である。

【１１２５０】

図１１６０（ａ）に示した通り、本第４０制御例における特別図柄１乱数テーブル２０２ａｊ１には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～５３２」の３２８個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。一方、小当たりと判定される乱数値は対応付けられていない。

【１１２５１】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が３２８個であるので、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選する確率は約１／２００（３２８／６５

５３６）である。
【１１２５２】
次に、図１１６０（ｂ）を参照して、特別図柄２乱数テーブル２０２ａｊ２の詳細について説明する。図１１６０（ｂ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２ａｊ２の規定内容を示した図である。図１１６０（ｂ）に示した通り、本第４０制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｊ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～６５３５」の６５３３１個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。一方、時短図柄当選と判定される乱数値は対応付けられていない。
【１１２５３】
第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選と同様に、約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が６５３３１個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約３１９／３２０（６５３３１／６５５３６）である。
【１１２５４】
次に、図１１６０（ｃ）を参照して、本第４０制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊの詳細について説明する。図１１６０（ｃ）は、本第４０制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊの規定内容を示した図である。この大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊは、上述した第３２制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図９５４（ａ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、大当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１１６０（ｃ）に示した通り、本第４０制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊには、第１特別図柄の大当たり種別として、大当たりＡ４０、および大当たりＢ４０の２種類が規定されており、第２特別図柄の大当たり種別として大当たりＣ４０の１種類が規定されている。
【１１２５５】
図１１６０（ｃ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して、「大当たりＡ４０」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲に対して、「大当たりＢ４０」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ４０」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後に時短回数（普通図柄の当たりの規定回数）が１回の第１時短状態が設定される大当たり種別である。また、「大当たりＢ４０」は、ラウンド数が４ラウンドであり、基本的に、大当たり終了後に時短状態が設定されない（通常状態に設定される）大当たり種別である。このため、ラウンド数の面では「大当たりＡ４０」と「大当たりＢ４０」とに差が無いが、大当たり終了後の遊技状態の面では、「大当たりＡ４０」の方が「大当たりＢ４０」よりも有利度合いが高くなる。
【１１２５６】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ４０」および「大当たりＢ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数がそれぞれ５０個ずつであるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ４０」、「大当たりＢ４０」に当選する割合は、それぞれ５０％ずつである。よって、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、５０％の割合でしか最も有利な第１時短状態へと移行することがない。なお、時短状態において大当たりに当選した場合は、大当たり種別が「大当たりＢ４０」であっても第１時短状態に移行する。つまり、第１時短状態や第２時短状態では、大当たりに当選することで、必ず最も有利な第１時短状態へと移行する有利な遊技状態を形成する。
【１１２５７】

また、図１１６０（ｃ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、「大当たりＣ４０」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ４０」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、当選時の遊技状態によらず、大当たり終了後の遊技状態が有利な第１時短状態に設定される大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲に「大当たりＣ４０」が対応付けられているため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、必ず「大当たりＣ４０」が決定される。

【１１２５８】

次に、図１１６１（ａ）を参照して、本第４０制御例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊの詳細について説明する。この第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊは、普通図柄の抽選が実行された場合に、普通図柄の当否を判定するために参照されるデータテーブルである。図１１６１（ａ）に示した通り、本第４０制御例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊでは、遊技状態によらず、普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る値の全範囲（「０～２９９」の範囲）が対応付けられている。このため、本第４０制御例では、遊技状態によらず、普通図柄の抽選が実行された場合に必ず普通図柄の当たりに当選する。なお、上述した通り、普通図柄の当たりに当選した場合に実行される普通図柄の当たり種別の選択比率が、遊技状態に応じて異なっている。詳細については後述するが、通常状態では、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な普図当たりＢが選択されることはなく、第１時短様態では８０％の割合で普図当たりＢが選択され、第２時短状態では、３％の割合で普図当たりＢが選択される。これにより、遊技状態間の有利度合いを大きく異ならせている。

【１１２５９】

次に、図１１６１（ｂ）を参照して、本第４０制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｊの詳細について説明する。この変動パターン選択テーブル２０２ｄｊは、第３２制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄ（図９５６（ａ）参照）と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１１６１（ｂ）は、この変動パターン選択テーブル２０２ｄｊの構成を示したブロック図である。

【１１２６０】

図１１６１（ｂ）に示した通り、本第４０制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｊは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｊ１と、時短状態（第１時短状態、第２時短状態）において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短用テーブル２０２ｄｊ２と、で少なくとも構成されている。まず、図１１６１（ｃ）を参照して、通常用テーブル２０２ｄｊ１の詳細について説明する。

【１１２６１】

図１１６１（ｃ）は、本第４０制御例における通常用テーブル２０２ｄｊ１の規定内容を示した図である。図１１６１（ｃ）に示した通り、通常用テーブル２０２ｄｊ１には、実行される特別図柄抽選に用いられる特別図柄種別と、実行される特別図柄抽選の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に対応させて異なる変動パターン（変動時間）が規定されている。つまり、特別図柄種別と、抽選結果とに応じて異なる変動時間の変動パターンを決定可能に構成している。具体的には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が７秒の「外れ」が、「１４０～１４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「ガセ外れ」が、「１５０～１７９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「１８０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。

【１１２６２】
　また、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「３０～１８９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１４０秒の「スペシャルリーチ」が規定されている。
【１１２６３】
　さらに、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。
【１１２６４】
　つまり、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選では、抽選結果が外れである場合の方が、抽選結果が外れ以外（大当たり、又は時短図柄）である場合よりも、短い変動時間の変動パターンが決定され易くなるように構成しており、より長い変動時間の変動パターンが決定された場合の方が、特別図柄抽選の結果が大当たり、又は時短図柄である可能性が高くなるように構成している。このように構成することで、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、抽選結果が外れである特別図柄変動が長時間継続してしまい、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が極端に少なくなってしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１１２６５】
　また、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が少なくなる場合、即ち、長時間の特別図柄変動が実行される場合には、当たり（大当たり、時短図柄）に当選していることへの期待感を高めることができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１１２６６】
　一方、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「小当たり」が規定されている。なお、上述した通り、本第４０制御例では、第２特別図柄の抽選結果として大当たりまたは小当たりのどちらかのみに当選し得る構成としており、通常の（Ｖ入賞装置６５０の作動を伴わない）外れが存在しないようになっている。このため、通常用テーブル２０２ｄｊ１にも「大当たり」および「小当たり」の抽選結果のみが規定されている。
【１１２６７】
　なお、上述した通り、本第４０制御例では、通常状態において普通図柄の抽選が実行されて普通図柄の当たりに当選したとしても、普通図柄の当たりとして第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な電動役物６４０ａの開閉パターン（第１変位パターン）が設定される普図当たりＡが必ず実行されるため、通常状態において普通図柄の抽選を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることはできない。本第４０制御例において通常状態で第２特別図柄の抽選が実行される状況としては、時短状態（第１時短状態または第２時短状態）において普通図柄の当たりに当選して第２入球口６４０へと容易に遊技球を入球させることが可能な普図当たりＢが決定され、当該普図当たりＢによる電動役物６４０ａの作動によって先に時短終了条件（第３終了条件）が成立して時短状態が終了された後で、実行中の普図当たりＢの開放期間の間に第２入球口６４０へと遊技球が入球した状況である。この状況は、特に、第３終了条件として普図当たりの規定回数が１回に設定される第１時短状態において成立し易い状況となっている。即ち、第１時短状態に移行した後で普図当たりＢに当選した場合は、ほぼ確実に、普図

当たりＢの開始の方が第２入球口６４０への入球よりも先となるため、第１時短状態に設定された後で第２特別図柄の抽選が実行される場合は、一旦通常状態に移行（転落）してから第２特別図柄の抽選が開始される。よって、本第４０制御例では、通常状態にて実行される第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動の変動時間として、抽選結果に関わらず一定の長さ（１０秒）の変動時間が設定される変動パターンが決定されるように構成している。そして、本変動時間を用いて昇格演出（図１１５３参照）を実行するように構成している。

【１１２６８】

このように、特定の特別図柄種別（第２特別図柄）の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が、特定の遊技状態（通常状態）で実行された場合に、抽選結果に関わらず同一の長さの変動時間が設定される変動パターンを決定するように構成することで、その特別図柄変動中に実行される特定演出の演出期間を特別図柄抽選の結果に関わらず統一することができる。

【１１２６９】

次に、図１１６２（ａ）を参照して、上述した時短用テーブル２０２ｊ２の詳細について説明する。図１１６２（ａ）は、この時短用テーブル２０２ｊ２の規定内容を示した図である。図１１６２（ａ）に示した通り、時短用テーブル２０２ｄｊ２には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短当たり」が規定され、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短突時」が規定されている。

【１１２７０】

一方、図１１６２（ａ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容としては、通常用テーブル２０２ｄｊ１（図１１６１（ｃ）参照）と共通である。即ち、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「小当たり」が規定されている。

【１１２７１】

これらの規定内容により、時短状態における第１特別図柄の変動時間を５秒間に固定化できると共に、第２特別図柄の変動時間を１０秒間に固定化することができる。よって、図１１５７で上述した通り、チャンスタイム（第２時短状態）において、第１特別図柄の変動と普通図柄の変動とをほぼ同時に開始させることができると共に、第１特別図柄の変動終了タイミングと普通図柄の当たり終了タイミングとをほぼ一致させることができる。よって、チャンスタイムにおける毎回の第１特別図柄の変動表示演出として、普通図柄の抽選結果を加味した変動表示態様を設定することができる。また、第２特別図柄の変動時間を固定化することで、昇格演出の演出期間を毎回固定化することができる。

【１１２７２】

次に、図１１６２（ｂ）を参照して、本第４０制御例における時短付与テーブル２０２ｅｊの詳細について説明する。この時短付与テーブル２０２ｅｊは、上述した第３２制御例における時短付与テーブル２０２ｅ（図９５４（ｂ）参照）と同様に、時短状態を設定する際に、当該時短状態の設定契機に応じた時短状態の終了条件を設定するために参照されるデータテーブルである。図１１６２（ｂ）は、この時短付与テーブル２０２ｅｊの規定内容を示した図である。

【１１２７３】

図１１６２（ｂ）に示した通り、本第４０制御例における時短付与テーブル２０２ｅｊには、各大当たり種別、および時短図柄種別と時短終了条件の成立有無を判定する際に参照される各カウンタの値とが対応付けられて規定されている。なお、図１１６２（ｂ）に示した通り、本第４０制御例では、時短終了条件の成立有無を判定するためのカウンタとして、時短カウンタ２０３ｈと、小当たりカウンタ２０３ｓと、普電作動カウンタ２０３ｊａと、の３つが設けられている。時短カウンタ２０３ｈは、時短状態が設定された後で実行された特別図柄の抽選回数に対応する終了条件（第１終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態が設定された後で実行された小当たり遊技の回数に対応する終了条件（第２終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、普電作動カウンタ２０３ｊａは、時短状態が設定された後で実行された普通図柄の当たり回数に対応する終了条件（第３終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタである。

【１１２７４】

図１１６２（ｂ）に示した通り、本第４０制御例では、大当たり種別として「大当たりＡ４０」～「大当たりＤ４０」の４種類が設けられていると共に、時短図柄種別として「時短図柄Ａ４０」～「時短図柄Ｅ４０」の４種類が設けられており、時短付与テーブル２０２ｅｊには、各大当たり種別および各時短図柄種別に対して、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、普電作動カウンタ２０３ｊａの値（即ち、第１から第３終了条件）が対応付けて規定されている。

【１１２７５】

図１１６２（ｂ）に示した通り、大当たり種別として「大当たりＡ４０」、「大当たりＣ４０」、および「大当たりＤ４０」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１」がそれぞれ規定されている。このため、「大当たりＡ４０」、「大当たりＣ４０」、および「大当たりＤ４０」のいずれかに当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１０回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数１回が設定される。なお、これらの大当たり終了後は第１時短状態に設定されるため、ほぼ、普通図柄の当たり遊技が１回実行されることで成立する第３終了条件の成立によって時短終了条件が成立する。この普通図柄の当たり遊技が普図当たりＢであれば、時短状態の終了条件は成立するものの、第２入球口６４０へと遊技球を入球させて実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選を実行させることができるため、再度第１時短状態へと移行させることができる。一方、普通図柄の当たりが普図当たりＡであれば、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な第１変位パターンで電動役物６４０ａが変位されるため、第２特別図柄の抽選を実行させることも不可能となる。よって、「大当たりＡ４０」、「大当たりＣ４０」、および「大当たりＤ４０」の終了後に設定される第１時短状態では、普図当たりＢに当選することを強く期待させる遊技性となる。なお、第１時短状態において普図当たりＢに当選する割合は、普通図柄の抽選が実行された場合の８０％である。

【１１２７６】

また、図１１６２（ｂ）に示した通り、「大当たりＢ４０」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値、小当たりカウンタ２０３ｓの値、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値に対して、それぞれ「数値無し（図では「－」で表示）」が規定されている。このため、通常状態において「大当たりＢ４０」に当選した場合は、大当たり終了後が時短状態に設定されず、通常状態に設定される。よって、「大当たりＢ４０」は、大当たり終了後の遊技状態の面で最も不利な大当たり種別である。なお、当選時の遊技状態が時短状態である場合には、他の大当たり種別（「大当たりＡ４０」、「大当たりＣ４０」、および「大当たりＤ４０」）と同一の終了条件が規定されている。詳細については上述した通りであるため、ここではその説明については省略する。

【１１２７７】
　また、図１１６２（ｂ）に示した通り、「時短図柄Ａ４０」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「時短図柄Ａ４０」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数１０回が設定される。よって、「時短図柄Ａ４０」に当選したことに基づいて設定される第２時短状態は、特別図柄の抽選が１４回実行されるか、小当たり遊技が１回実行されるか、普通図柄の当たりが１０回実行されるまで継続する。ここで、上述した通り、第２時短状態は、左打ちを行った場合に第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とが毎回ほぼ同時に実行される遊技状態であり、且つ、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢの当選割合が、普通図柄の抽選１回あたり３％の割合となる遊技状態であるため、特別図柄の大当たり確率（約１／３２０）を加味すると、第１特別図柄の抽選が実行される毎に、実質的に約１／３０の確率で大当たりに当選する有利な遊技状態を形成する。１０回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、約２８．５％であるので、「時短図柄Ａ４０」に当選したことに基づく第２時短状態の大当たり期待度は約２８．５％である。
【１１２７８】
　なお、第１終了条件（特別図柄の変動回数に基づく終了条件）を、第３終了条件（普通図柄の当たり回数に基づく終了条件）よりも４回分多く設定しているのは、時短図柄に当選した時点の保留球数がいずれの値であっても、普通図柄の当たり回数を損させることなく第２時短状態における遊技を行わせるためである。より具体的には、第１終了条件と第３終了条件を一致させた場合、第２時短状態が開始された時点で第１特別図柄の保留球が存在している場合に、普通図柄の抽選が実行されずに第１特別図柄の抽選が実行されてしまい、第１終了条件に対応する時短回数２０３ｈの値が減算されてしまう。つまり、第３終了条件が成立するよりも前に第１終了条件が成立してしまう可能性があり、第１特別図柄の保留球数が多くなるほど、第１特別図柄の抽選よりも実質的な大当たりの可能性が高い普通図柄の抽選回数を損してしまう虞がある。このため、本第４０制御例では、第２時短状態への移行時点における第１特別図柄の保留球数が０個～４個のいずれであっても、第３終了条件よりも先に第１終了条件が成立することを極めて困難とするために、第３終了条件よりも第１終了条件を最大の保留球数分（即ち、４回分）だけ多い回数に設定する構成としている。このように構成することで、第２時短状態において第１特別図柄の保留球を全て消化してから左打ちを開始したとしても、第３終了条件に相当する回数の普通図柄の当たり遊技が実行されるまで、時短状態を継続させることができるので、実質的な大当たり確率が高い普通図柄の当たり遊技の回数を損することにより、遊技者に対して極めて不利益となってしまうことを抑制することができる。
【１１２７９】
　一方、図１１６２（ｂ）に示した通り、当選時の遊技状態が時短状態である場合は、時短カウンタ２０３ｈの値「１００４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０００」がそれぞれ規定されている。このため、時短状態において「時短図柄Ａ４０」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数１０００回が設定される。１０００回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、ほぼ１００％であるので、時短状態において「時短図柄Ａ４０」に当選したことに基づいて設定された第２時短状態は、実質的に大当たりが確定する時短状態となる。
【１１２８０】
　また、図１１６２（ｂ）に示した通り、「時短図柄Ｂ４０」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「３４」、小当たりカウンタ２

０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「３０」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「時短図柄Ｂ４０」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数３４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数３０回が設定される。よって、「時短図柄Ｂ４０」に当選したことに基づいて設定される第２時短状態は、特別図柄の抽選が３４回実行されるか、小当たり遊技が１回実行されるか、普通図柄の当たりが３０回実行されるまで継続する。３０回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、約６３．５％であるので、「時短図柄Ｂ４０」に当選したことに基づく第２時短状態の大当たり期待度は約６３．５％である。なお、当選時の遊技状態が時短状態である場合は、「時短図柄Ａ４０」と同様に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０００」が対応付けて規定されているため、実質的に大当たりが確定する第２時短状態が設定される。

【１１２８１】

また、図１１６２（ｂ）に示した通り、「時短図柄Ｃ４０」に対しては、時短カウンタ２０３ｈの値「５４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「５０」がそれぞれ規定されている。このため、「時短図柄Ｃ４０」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数５４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数５０回が設定される。よって、「時短図柄Ｃ４０」に当選したことに基づいて設定される第２時短状態は、特別図柄の抽選が５４回実行されるか、小当たり遊技が１回実行されるか、普通図柄の当たりが５０回実行されるまで継続する。５０回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、約８１．３％であるので、「時短図柄Ｃ４０」に当選したことに基づく第２時短状態の大当たり期待度は約８１．３％である。なお、当選時の遊技状態が時短状態である場合は、「時短図柄Ａ４０」や「時短状態Ｂ４０」と同様に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０００」が対応付けて規定されているため、実質的に大当たりが確定する第２時短状態が設定される。

【１１２８２】

また、図１１６２（ｂ）に示した通り、「時短図柄Ｄ４０」に対しては、時短カウンタ２０３ｈの値「１０４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１００」がそれぞれ規定されている。このため、「時短図柄Ｄ４０」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１０４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数１００回が設定される。よって、「時短図柄Ｄ４０」に当選したことに基づいて設定される第２時短状態は、特別図柄の抽選が１０４回実行されるか、小当たり遊技が１回実行されるか、普通図柄の当たりが１００回実行されるまで継続する。１００回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、約９６．５％であるので、「時短図柄Ｄ４０」に当選したことに基づく第２時短状態の大当たり期待度は約９６．５％である。なお、当選時の遊技状態が時短状態である場合は、「時短図柄Ａ４０」～「時短図柄Ｃ４０」と同様に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０００」が対応付けて規定されているため、実質的に大当たりが確定する第２時短状態が設定される。

【１１２８３】

更に、図１１６２（ｂ）に示した通り、「時短図柄Ｅ４０」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００４」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および普電作動カウンタ２０３ｊａの値「１０００」がそれぞれ規定されている。このため、「時短図柄Ｅ４０」に当選した場合は、遊技状態によらず、第１終了条件と

して、特別図柄の変動回数１００４回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、普通図柄の当たり回数１０００回が設定される。よって、「時短図柄Ｅ４０」に当選したことに基づいて設定される第２時短状態は、特別図柄の抽選が１００４回実行されるか、小当たり遊技が１回実行されるか、普通図柄の当たりが１０００回実行されるまで継続する。１０００回の特別図柄と普通図柄とのほぼ同時の抽選によって合算約１／３０の大当たりに当選する可能性は、ほぼ１００％であるので、「時短図柄Ｅ４０」に当選したことに基づく第２時短状態は、実質的に大当たりが確定する時短状態となる。

【１１２８４】

このように、本第４０制御例では、時短図柄の種別に応じて付与される第２時短状態の終了条件を異ならせることで時短図柄の種別毎の大当たり期待度を異ならせる構成としている。つまり、第２時短状態が終了するまでの普通図柄の当たり遊技の実行回数を、時短図柄の種別に応じて異ならせることで、大当たりに当選する可能性を異ならせる構成としている。このように構成することで、時短図柄に当選した場合に、時短図柄の種別に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１２８５】

次に、図１１６３（ａ）を参照して、本第４０制御例における小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊの詳細について説明する。図１１６３（ａ）は、この小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊの規定内容を示した図である。図１１６３（ａ）に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～７９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＡ４０」が対応付けて規定されており、小当たり種別カウンタＣ５の値が「８０～９９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＢ４０」が対応付けて規定されている。ここで、「小当たりＡ４０」も、「小当たりＢ４０」も、小当たり遊技の実行中に右打ちを行い続けるだけで、容易に特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させることができる小当たり種別であり、「小当たりＡ４０」において特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球した場合は大当たりＣ４０（１０ラウンド大当たり）に当選する一方で、「小当たりＢ４０」において特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球した場合は大当たりＤ４０（３ラウンド大当たり）に当選するように構成されている。いずれの大当たりに当選した場合も、大当たり終了後の遊技状態は第１時短状態に設定されるため、大当たり当選時のラウンド数が多い点でのみ、「小当たりＡ４０」の方が「小当たりＢ４０」よりも有利度合いが高い小当たり種別である。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＡ４０」および「小当たりＢ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）がそれぞれ８０個および２０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に「小当たりＡ４０」および「小当たりＢ４０」が決定される割合は、それぞれ８０％（８０／１００）および２０％（２０／１００）である。

【１１２８６】

次に、図１１６３（ｂ）を参照して、本第４０制御例における時短種別選択テーブル２０２ｊａの詳細について説明する。この時短種別選択テーブル２０２ｊａは、特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、時短図柄の種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１１６３（ｂ）に示した通り、時短種別選択テーブル２０２ｊａには、「時短図柄Ａ４０」～「時短図柄Ｅ４０」の５種類の時短図柄種別のそれぞれに対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲が対応付けて規定されている。

【１１２８７】

具体的には、図１１６３（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～８９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ４０」が対応付けて規定されている。この「時短図柄Ａ４０」は、上述した通り、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）が１０回に設定される第２時短状態に対応する時短図柄種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「時短図柄Ａ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値

）の個数が９０個であるため、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ａ４０」が決定される割合は９０％（９０／１００）である。
【１１２８８】
　また、図１１６３（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９０～９４」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ４０」が対応付けて規定されている。この「時短図柄Ｂ４０」は、上述した通り、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）が３０回に設定される第２時短状態に対応する時短図柄種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「時短図柄Ｂ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が５個であるため、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ｂ４０」が決定される割合は５％（５／１００）である。
【１１２８９】
　また、図１１６３（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「９５～９７」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｃ４０」が対応付けて規定されている。この「時短図柄Ｃ４０」は、上述した通り、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）が５０回に設定される第２時短状態に対応する時短図柄種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「時短図柄Ｃ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が３個であるため、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ｃ４０」が決定される割合は３％（３／１００）である。
【１１２９０】
　また、図１１６３（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値「９８」に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｄ４０」が対応付けて規定されている。この「時短図柄Ｄ４０」は、上述した通り、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）が１００回に設定される第２時短状態に対応する時短図柄種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「時短図柄Ｄ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が１個であるため、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ｄ４０」が決定される割合は１％（１／１００）である。
【１１２９１】
　また、図１１６３（ｂ）に示した通り、第１当たり種別カウンタＣ２の値「９９」に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｅ４０」が対応付けて規定されている。この「時短図柄Ｅ４０」は、上述した通り、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）が１０００回に設定される第２時短状態に対応する時短図柄種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「時短図柄Ｅ４０」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が１個であるため、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に「時短図柄Ｅ４０」が決定される割合は１％（１／１００）である。
【１１２９２】
　次に、図１１６３（ｃ）を参照して、本第４０制御例における普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂについて説明する。この普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂは、普通図柄の抽選で普通図柄の当たりとなった場合に普通図柄の当たり種別を選択（決定）するために参照されるデータテーブルである。図１１６３（ｃ）に示した通り、この普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂには、遊技状態毎に、普通図柄の当たり種別と、第２当たり種別カウンタＣ６の値の範囲とが対応付けて規定されている。
【１１２９３】
　具体的には、図１１６３（ｃ）に示した通り、普通図柄の抽選時の遊技状態が通常状態である場合には、第２当たり種別カウンタＣ６の値の全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、普図当たり種別として普図当たりＡが対応付けて規定されている。この普図当たりＡは、上述した通り、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な

開閉パターン（第１変位パターン）で電動役物６４０ａが開閉（変位）される種別の普図当たりである。

【１１２９４】

一方、図１１６３（ｃ）に示した通り、普通図柄の抽選時の遊技状態が第１時短状態である場合には、第２当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲に対して「普図当たりＡ」が対応付けて規定され、第２当たり種別カウンタＣ６の値が「２０～９９」の範囲に対して「普図当たりＢ」が対応付けて規定されている。普図当たりＢは、上述した通り、第２入球口６４０へと遊技球を容易に入球させることが可能な開閉パターン（第２変位パターン）で電動役物６４０ａが開閉（変位）される種別の普図当たりである。そして、第２特別図柄の抽選は、実質的に大当たりが確定する抽選であるため、普図当たりＢは、実質的に大当たりが確定する種別の普図当たりであると言える。第２当たり種別カウンタＣ６の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、普図当たりＡおよび普図当たりＢに対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数はそれぞれ２０個および８０個であるため、第１時短状態において普通図柄の当たりに当選した場合に普図当たりＡおよび普図当たりＢが決定される割合は、それぞれ２０％（２０／１００）および８０％（８０／１００）である。第１時短状態は、普通図柄の当たり遊技が１回実行されることで終了される（通常状態に転落される）遊技状態であるので、第１時短状態では、８０％の割合で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選して大当たり遊技が実行される一方で、２０％の割合で第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができずにそのまま通常状態へと転落してしまう遊技状態を形成する。

【１１２９５】

また、図１１６３（ｃ）に示した通り、普通図柄の抽選時の遊技状態が第２時短状態である場合には、第２当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９６」の範囲に対して「普図当たりＡ」が対応付けて規定され、第２当たり種別カウンタＣ６の値が「９７～９９」の範囲に対して「普図当たりＢ」が対応付けて規定されている。第２当たり種別カウンタＣ６の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、普図当たりＡおよび普図当たりＢに対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数はそれぞれ９７個および３個であるため、第１時短状態において普通図柄の当たりに当選した場合に普図当たりＡおよび普図当たりＢが決定される割合は、それぞれ９７％（９７／１００）および３％（３／１００）である。第２時短状態では、普通図柄の当たりが１０回、３０回、５０回、１００回、および１０００回のいずれかの回数実行されることで終了される遊技状態であるため、第２時短状態においては、規定の普通図柄の当たり遊技回数に到達するよりも前に３％の普図当たりＢに当選することを目指す遊技性となる。

【１１２９６】

次に、図１１５９（ｂ）を参照して、本第４０制御例の主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図１１５９（ｂ）は、本第４０制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。図１１５９（ｂ）に示した通り、本第４０制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第３２制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図９５２（ｂ）参照）に対して、特図２カウンタ２０３ｔに代えて普電作動カウンタ２０３ｊａが設けられている点でのみ相違している。この普電作動カウンタ２０３ｊａは、上述した通り、時短状態が設定された後で実行された普通図柄の当たり回数に対応する終了条件（第３終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、大当たり終了時または時短図柄の停止時に、大当たり種別または時短種別に対応するカウンタ値が設定される（図１１６６のＳ２２６Ａ参照）。また、この普電作動カウンタ２０３ｊａは、普通図柄の当たり遊技の開始タイミングとなる毎に、値が１ずつ減算して更新される（図１１７３（ｂ）のＳ２３３２Ａ参照）。この普電作動カウンタ２０３ｊａの値によって、第３終了条件（普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく時短終了条件）の成立有無が判定される。

【１１２９７】

なお、本第４０制御例における時短終了条件の１つとして、普図当たり遊技の実行回数

に基づく終了条件（第３終了条件）を規定している理由としては、右打ちを行うことで、第１特別図柄の抽選を実行させることなく普通図柄の抽選のみを実行させることが可能な盤面構成であり、且つ、普図当たりＢに当選することで実質的に大当たりが確定する遊技性としているため、特別図柄の抽選回数に基づく終了条件（第１終了条件）および小当たり遊技の実行回数に基づく終了条件（第２終了条件）のみを時短終了条件として規定した場合、第１時短状態または第２時短状態に移行した後で右打ちを行い続けると、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選するまで時短状態が継続してしまう不具合が生じてしまうためである。そこで、本第４０制御例では、時短終了条件として、普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく終了条件（第３終了条件）を規定する構成とし、時短状態において右打ちを行い続け、特別図柄の抽選が全く行われなかったとしても、規定回数に渡って普図当たり遊技が実行されることにより時短状態が終了されるように構成している。これにより、普図当たりＢに当選するまで時短状態が必ず継続してしまうという不具合が発生することを防止することができる。

【１１２９８】

次に、図１１６４（ａ）を参照して、本第４０制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の詳細について説明する。図１１６４（ａ）は、本第４０制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示すブロック図である。図１１６４（ａ）に示した通り、本第４０制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第３２制御例におけるＲＯＭ２２２の構成（図９５９（ａ）参照）に対して、待機演出選択テーブル２２２ｊａが追加されている点、および討伐数選択テーブル２２２ｂ、討伐演出態様選択テーブル２２２ｃ、追加減少値選択テーブル２２２ｄ、演出ステージデータテーブル２２２ｅ、遊技環境データテーブル２２２ｆが削除されている点で相違している。待機演出選択テーブル２２２ｊａは、チャンスタイム待機演出（図１１５０（ｂ）、図１１５１参照）の演出態様を決定するために参照されるデータテーブルである。この待機演出選択テーブル２２２ｊａの詳細について、図１１６５を参照して説明する。

【１１２９９】

図１１６５は、待機演出選択テーブル２２２ｊａの規定内容を示した図である。図１１６５に示した通り、この待機演出選択テーブル２２２ｊａは、今回当選した時短図柄の種別に対応する時短回数、および演出開始時の状況の組み合わせ毎に、アイコン（示唆図柄）の組み合わせと第１演出カウンタ２２３ｆ１の値の範囲との対応関係が規定されている。ここで、上述した通り、チャンスタイム待機演出（図１１５０（ｂ）、図１１５１参照）は、時短図柄に対応する変動表示が終了してから、第１特別図柄の保留球を全て消化しきるまで（保留球数が０個の場合は時短図柄が停止表示されてから５秒が経過するまで）の期間を用いて実行される演出であり、第１特別図柄の保留球に基づく変動表示の実行中に第１入球口６４（および中央スルーゲート６７ｃ）へと遊技球が入球（通過）してしまうことを防止するために実行される演出である。このため、時短図柄が停止表示されて第２時短状態へと移行した後、最大で４回（第１特別図柄の保留球の上限個数分）の変動表示演出に渡って連続的に実行され得る演出で構成される。

【１１３００】

図１１６５に示した通り、チャンスタイム待機演出の演出期間内で新たな演出を実行する際の状況として、大当たり変動の開始時という状況に対しては、時短回数（第３終了条件）によらずに、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「祝」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（当たり報知演出Ａ）が対応付けて規定されている。同様に、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～８９」の範囲に対して、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「祝」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打す

ることにより報知する演出（当たり報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９０～９９」の範囲に対して、「∞」という文字が付された２つのアイコン、「祝」という文字が付された２つのアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「祝」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（当たり報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。

【１１３０１】

第１演出カウンタ２２３ｆ１の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、当たり報知演出Ａ、当たり報知演出Ｂ、および当たり報知演出Ｃに対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数がそれぞれ５０個、４０個、および１０個であるので、チャンスタイム待機演出の演出期間内に当たり変動が開始される場合に、当たり報知演出Ａ、当たり報知演出Ｂ、および当たり報知演出Ｃが決定される割合は、それぞれ５０％（５０／１００）、４０％（４０／１００）、および１０％（１０／１００）である。なお、当たり報知演出Ａで最初に表示されるアイコン（示唆図柄）の組み合わせは、少ない時短回数（１０回の時短回数）を報知する際にも比較的高い割合で決定される組み合わせであるため、比較的遊技者に有利な報知が行われる期待度が低い演出態様という位置付けである。また、当たり報知演出Ｂで最初に表示されるアイコン（示唆図柄）の組み合わせは、比較的多い時短回数（１００回や１０００回）が設定されている場合にも選択される組み合わせであるため、比較的遊技者に有利な報知が行われる期待度が高い演出態様という位置付けである。更に、当たり報知演出Ｃで最初に表示されるアイコン（示唆図柄）の組み合わせは、実質的に大当たりまで継続するに等しい１０００回の時短回数が報知される状況においてのみ選択され得る組み合わせであるため、アイコンの組み合わせが表示された段階で当たりまたは実質的に大当たりが確定する１０００回の時短状態のどちらかであることが確定する極めて有利な演出態様という位置づけである。

【１１３０２】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が１０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留０個の状態で外れ変動が開始されるか、または変動停止状態であるという状況（つまり、演出期間において最後に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１０回報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「８０～９８」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１０回報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値「９９」に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１０回報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。

【１１３０３】

一方で、時短回数（第３終了条件）が１０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留球数が１以上の状態で外れ変動が開始されるという状況（つまり、演出期間において最後以外に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付された３つのアイコンと、「継続」という文字が付された１つのアイコンと、の組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第

１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９５～９９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｂ）が対応付けて規定されている。これらにより、１０回の時短回数の第２時短状態が設定されている場合は、チャンスタイム待機演出として、保留球数が１以上の間は継続報知演出Ａが高い割合で実行され、保留球数が０になると１０回報知演出Ａが高い割合で実行される。

【１１３０４】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が３０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留０個の状態で外れ変動が開始されるか、または変動停止状態であるという状況（つまり、演出期間において最後に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～３９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付された２つのアイコン、「３０回」という文字が付された１つのアイコン、「継続」という文字が付された１つのアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「４０～９８」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値「９９」に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。

【１１３０５】

一方で、時短回数（第３終了条件）が３０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留球数が１以上の状態で外れ変動が開始されるという状況（つまり、演出期間において最後以外に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付された３つのアイコンと、「継続」という文字が付された１つのアイコンと、の組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９５～９８」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値「９９」に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。これらにより、３０回の時短回数の第２時短状態が設定されている場合は、チャンスタイム待機演出として、保留球が１以上の間は継続報知演出Ａの割合が時短回数１０回の場合よりも低くなると共に継続報知演出Ｂの割合が高くなる。また、時短回数１０回では選択され得ない継続報知演出Ｃが選択される可能性がある。また、保留球数が０になると３０回報知演出Ｂが比較的高い割合で実行される。

【１１３０６】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が５０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留０個の状態で外れ変動が開始されるか、または変動停止状態であるという状況（つまり、演出期間において最後に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ｄ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「１０～１２」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「１３，１４」の範囲に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「３０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（３０回報知演出Ｃ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「１５～８９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「５０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（５０回報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９０～９９」の範囲に対して、「５０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「５０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（５０回報知演出Ｂ）が対応付けて規定されている。

【１１３０７】

つまり、時短回数が５０回の場合は、実際よりも少ない時短回数（３０回）が報知される可能性があるように構成されている。このため、少ない時短回数（３０回）が報知されたとしても、より多い時短回数が設定されている可能性があると遊技者に期待させることができる。なお、実際よりも少ない時短回数を報知した場合は、表示上の時短回数が０になった時点で、報知されていなかった残りの時短回数を上乗せする演出が実行される。また、チャンスタイム中に時短図柄に当選して時短回数が増加していた場合も同様に、表示上の時短回数が０になった時点で、残りの時短回数を上乗せする演出が実行される。このように構成することで、表示上の時短回数が少なくなったとしても、時短回数の上乗せが発生することを期待して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３０８】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が５０回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留球数が１以上の状態で外れ変動が開始されるという状況（つまり、演出期間において最後以外に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付された３つのアイコンと、「継続」という文字が付された１つのアイコンと、の組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「８０～９４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの

組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９５～９９」の範囲に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。これらにより、５０回の時短回数の第２時短状態が設定されている場合は、チャンスタイム待機演出として、保留球が１以上の間は継続報知演出Ａの割合が時短回数１０回や３０回の場合よりも低くなると共に継続報知演出Ｂおよび継続報知演出Ｃの割合が高くなる。また、保留球数が０になると５０回報知演出Ａが比較的高い割合で実行される。

【１１３０９】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が１００回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留０個の状態で外れ変動が開始されるか、または変動停止状態であるという状況（つまり、演出期間において最後に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～１４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「５０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（５０回報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「１５～２４」の範囲に対して、「５０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「５０回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（５０回報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「２５～６９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１００回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１００回報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「７０～９９」の範囲に対して、「５０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１００回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１００回報知演出Ｂ）が対応付けて規定されている。

【１１３１０】

つまり、時短回数が１００回の場合についても、５０回の場合と同様に、実際よりも少ない時短回数（５０回）が報知される可能性があるように構成されている。このため、少ない時短回数（５０回）が報知されたとしても、より多い時短回数が設定されている可能性があると遊技者に期待させることができる。

【１１３１１】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が１００回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留球数が１以上の状態で外れ変動が開始されるという状況（つまり、演出期間において最後以外に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付された３つのアイコンと、「継続」という文字が付された１つのアイコンと、の組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～８９」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコ

ン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９０～９８」の範囲に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｃ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値「９９」に対して、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｄ）が対応付けて規定されている。これらにより、１００回の時短回数の第２時短状態が設定されている場合は、チャンスタイム待機演出として、保留球が１以上の間は継続報知演出Ａの割合が時短回数１０回～５０回の場合よりも低くなると共に継続報知演出Ｂおよび継続報知演出Ｃの割合が高くなる。また、時短回数が１０回～５０回の場合には選択され得ない継続報知演出Ｄが選択される可能性がある。

【１１３１２】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が１０００回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留０個の状態で外れ変動が開始されるか、または変動停止状態であるという状況（つまり、演出期間において最後に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、「５０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「１００回」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（１００回報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～６４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「∞」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（∞報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「６５～９８」の範囲に対して、「５０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「∞」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（∞報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値「９９」に対して、「∞」という文字が付された２個のアイコンと、「祝」という文字が付された２個のアイコンとの組み合わせが表示され、最終的に「∞」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（∞報知演出Ｃ）が対応付けて規定されている。

【１１３１３】

つまり、時短回数が１０００回の場合についても、５０回や１００回の場合と同様に、実際よりも少ない時短回数（１００回）が報知される可能性があるように構成されている。このため、少ない時短回数（１００回）が報知されたとしても、より多い時短回数が設定されている可能性があると遊技者に期待させることができる。

【１１３１４】

また、図１１６５に示した通り、時短回数（第３終了条件）が１０００回の時短状態に設定されている状況で、且つ、保留球数が１以上の状態で外れ変動が開始されるという状況（つまり、演出期間において最後以外に実行されるチャンスタイム待機演出の実行開始タイミング）に対しては、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対し

て、「１０回」という文字が付された３つのアイコンと、「継続」という文字が付された１つのアイコンと、の組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ａ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～７４」の範囲に対して、「１０回」という文字が付されたアイコン、「３０回」という文字が付されたアイコン、「５０回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｂ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「７５～９４」の範囲に対して、「３０回」という文字が付されたアイコン、「１００回」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｃ）が対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９５～９９」の範囲に対して、「１００回」という文字が付されたアイコン、「∞」という文字が付されたアイコン、「継続」という文字が付されたアイコン、「祝」という文字が付されたアイコンの組み合わせが表示され、最終的に「継続」という文字が付されたアイコンをウサギのキャラクタ８０１が殴打することにより報知する演出（継続報知演出Ｄ）が対応付けて規定されている。これらにより、１０００回の時短回数の第２時短状態が設定されている場合は、チャンスタイム待機演出として、保留球が１以上の間は継続報知演出Ａの割合が時短回数１０回～５０回の場合よりも低くなると共に継続報知演出Ｂおよび継続報知演出Ｃの割合が高くなる。また、時短回数が１０回～５０回の場合には選択され得ない継続報知演出Ｄが選択される可能性が、時短回数が１００回の場合よりも更に高くなる。

【１１３１５】

このように、本第４０制御例では、チャンスタイム待機演出によって、時短回数を報知する演出を実行する構成とすると共に、報知演出において最初に表示されるアイコンの組み合わせの選択比率を、時短回数に応じて異ならせることにより、アイコンの組み合わせにより時短回数を予測させる遊技性を実現することができる。よって、チャンスタイム待機演出の実行中における遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３１６】

次に、図１１６４（ｂ）を参照して、本第４０制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図１１６４（ｂ）は、本第４０制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示すブロック図である。図１１６４（ｂ）に示した通り、本第４０制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第３２制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図９５９（ｂ）参照）に対して、待機演出フラグ２２３ｊａと、待機演出回数カウンタ２２３ｊｂと、待機期間タイマ２２３ｊｄと、が追加されている点で相違している。また、討伐回数カウンタ２２３ｉと、残討伐数カウンタ２２３ｊと、特定数表地済フラグ２２３ｋと、ラッシュ期間計測カウンタ２２３ｍと、賞球数カウンタ２２３ｎと、保留連フラグ２２３ｏと、ラウンド数カウンタ２２３ｐと、ＳＷ有効時間カウンタ２２３ｑと、右打ちフラグ２２３ｒと、Ｖ入賞済フラグ２２３ｓと、演出固定フラグ２２３ｔと、遊技環境格納エリア２２３ｕと、が削除されている点でも相違している。

【１１３１７】

待機演出フラグ２２３ｊａは、チャンスタイム待機演出（図１１５０（ｂ）、図１１５１参照）の実行中であるか否かを示すフラグであり、オンであればチャンスタイム待機演出の実行中であることを意味し、オフであればチャンスタイム待機演出の実行中で無いことを意味する。この待機演出フラグ２２３ｊａは、第２時短状態へと移行したことを示す状態コマンドを主制御装置１１０から受信した場合にオンに設定され（図１１７６のＳ３４５１Ａ参照）、チャンスタイム待機演出の終了タイミングでオフに設定される（図１１８１のＳ５７１２Ａ、図１１８２のＳ４６１７Ａ参照）。この待機演出フラグ２２３ｊａがオンの状態で新たな変動表示演出を開始させる場合は、上述した待機演出選択テーブル

２２２ｊａ（図１１６５参照）を参照して新たなチャンスタイム待機演出を伴う変動表示態様の変動表示演出が設定される。

【１１３１８】

待機演出回数カウンタ２２３ｊｂは、チャンスタイム待機演出（図１１５０（ｂ）、図１１５１参照）の実行期間における変動回数をカウントするためのカウンタである。この待機演出回数カウンタ２２３ｊｂは、初期値が０に設定されており、１のチャンスタイム待機演出の実行期間において新たな演出態様を実行する毎に値が１ずつ加算して更新される（図１１７６のＳ３４５５Ａ、図１１８１のＳ５７１０Ａ参照）。チャンスタイム待機演出においては、この待機演出回数カウンタ２２３ｊｂが４になった場合に演出が打ち切られて通常のチャンスタイム演出に移行する。これは、チャンスタイム待機演出の実行中に遊技者が左打ちを行い続けて第１特別図柄の保留球が１以上の状態を維持する変則的な遊技方法が実行された場合に、延々とチャンスタイム待機演出が継続してしまうことを防止する趣旨である。

【１１３１９】

待機期間タイマ２２３ｊｃは、チャンスタイム（第２時短状態）において、普通図柄の抽選が開始された後における経過時間を計時するタイマである。この待機期間タイマ２２３ｊｃは、初期値が０に設定されており、チャンスタイム待機演出の終了後に普通図柄の抽選が実行される毎に、０．２秒に対応するタイマ値が設定される（図１１７９のＳ５６０８Ａ参照）と共に、演出更新処理４０（図１１８２参照）が実行される毎に値が減算して更新される。この待機期間タイマ２２３ｊｃが０に更新された場合は、普通図柄の抽選タイミングと第１特別図柄の抽選開始タイミングとが大幅にずれていると判断して、０．２秒前に開始された普図変動の抽選結果を報知するための疑似的な変動表示演出を開始させる（図１１８２のＳ４６１４Ａ参照）。これにより、第１特別図柄の抽選タイミングと普通図柄の抽選タイミングとがずれたとしても、より実質的な大当たり期待度が高い普通図柄の抽選結果に基づいて変動表示演出を実行することができるので、好適な演出態様を実現することができる。

【１１３２０】

＜第４０制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図１１６６から図１１７３を参照して、本第４０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理の詳細について説明する。まず、図１１６６を参照して、本第４０制御例における特別図柄変動処理４０（Ｓ１０４Ａ）の詳細について説明する。図１１６６は、この特別図柄変動処理４０（Ｓ１０４Ａ）を示すフローチャートである。この特別図柄変動処理４０（Ｓ１０４Ａ）は、上述した第３２制御例における特別図柄変動処理（図９６４参照）と同様に、特別図柄の変動表示中における第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示設定等を行うための処理である。

【１１３２１】

この第４０制御例における変動表示設定処理４０（図１１６６参照）のうち、Ｓ２０１～Ｓ２０７、およびＳ２１１～Ｓ２２３の各処理では、それぞれ上述した第３２制御例における変動表示設定処理（図９６４参照）のＳ２０１～Ｓ２０７、およびＳ２１１～Ｓ２２３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例における変動表示設定処理４０（図１１６６参照）では、Ｓ２０７の処理、またはＳ２１４の処理が終了すると、第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）に代えて特別図柄判定処理４０を実行し（Ｓ２０９Ａ）、次いで、第３２制御例における特別図柄変動パターン選択処理（図９６６参照）に代えて特別図柄変動パターン選択処理４０を実行して（Ｓ２１０Ａ）、本処理を終了する。これらの特別図柄判定処理４０（Ｓ２０９Ａ）、および特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）の詳細については、それぞれ図１１６７と図１１６８、および図１１６９と図１１７０を参照して後述する。

【１１３２２】

また、本第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）では、Ｓ２１８の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別された場合に（

Ｓ２１８：Ｎｏ）、次いで、今回の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２２５Ａ）、時短図柄当選である場合は（Ｓ２２５Ａ：Ｙｅｓ）、今回当選した時短図柄の種別に対応する時短終了条件を、時短カウンタ２２３ｆ、小当たりカウンタｓ、普電作動カウンタ２２３ｊａに対して設定し（Ｓ２２６Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２２５Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２２５Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ２２２へと移行する。

【１１３２３】

また、本第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）では、Ｓ２２２の処理において今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合（Ｓ２２２：Ｎｏ）、またはＳ２２３処理が終了した場合に、上述した第３２制御例における時短更新処理（図９６８参照）に代えて時短更新処理４０を実行して（Ｓ２２４Ａ）、本処理を終了する。この時短更新処理４０（Ｓ２２４Ａ）の詳細については、図１１７１を参照して後述する。

【１１３２４】

次に、図１１６７を参照して、上述した特別図柄判定処理４０（Ｓ２０９Ａ）の詳細について説明する。この特別図柄判定処理４０（Ｓ２０９Ａ）は、第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）に代えて実行される処理であり、第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）と同様に、特別図柄の抽選を実行するための処理である。この第４０制御例における特別図柄判定処理４０（Ｓ２０９Ａ）のうち、Ｓ３０１～Ｓ３０５の各処理では、それぞれ第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）のＳ３０１～Ｓ３０５の各処理と同一の処理が実行される。

【１１３２５】

また、本第４０制御例における特別図柄判定処理４０（図１１６７参照）では、Ｓ３０３の処理において特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ３０３：Ｎｏ）、外れの種別に応じた制御を実行するための外れ時処理４０を実行して（Ｓ３１１Ａ）、本処理を終了する。この外れ時処理４０（Ｓ３１１Ａ）の詳細について、図１１６８を参照して説明する。

【１１３２６】

図１１６８は、この外れ時処理４０（Ｓ３１１Ａ）を示すフローチャートである。この外れ時処理４０（Ｓ３１１Ａ）では、まず、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２１０１Ａ）、抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２１０１Ａ：Ｙｅｓ）、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する時短図柄種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる時短図柄として設定し（Ｓ２１０２Ａ）、本処理を終了する。

【１１３２７】

一方、Ｓ２１０１Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２１０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２１０３Ａ）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ２１０４Ａ）、小当たり種別カウンタＣ５の値に対応する小当たり種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる小当たり図柄として設定し（Ｓ２１０５Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２１０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２１０４Ａ，Ｓ２１０５Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３２８】

この外れ時処理４０（図１１６８参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が外れ（大当たり以外）である場合に、抽選結果に応じた第１図柄の表示を好適に設定することができる。

【１１３２９】

次に、図１１６９を参照して、本第４０制御例における特別図柄変動パターン選択処理

４０（Ｓ２１０Ａ）の詳細について説明する。図１１６９は、この特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）を示すフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）は、上述した第３２制御例における特別図柄変動パターン選択処理（図９６６参照）と同様に、特別図柄の抽選結果に応じた第１図柄の変動パターンを選択するための処理である。

【１１３３０】

この第４０制御例における特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）のうち、Ｓ４０１～Ｓ４０８の各処理では、それぞれ第３２制御例における変動パターン選択処理（図９６６参照）のＳ４０１～Ｓ４０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例における変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）では、Ｓ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ４０１：Ｎｏ）、外れ（小当たり、時短図柄当選含む）時の変動パターンを選択するための外れ時種別決定処理４０を実行して（Ｓ４２１Ａ）、処理をＳ４０３へと移行する。この外れ時種別決定処理４０（Ｓ４２１Ａ）の詳細について、図１１７０を参照して説明する。

【１１３３１】

図１１７０は、この外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ａ）を示すフローチャートである。外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ａ）では、まず、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２２０１Ａ）、時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｙｅｓ）、時短種別選択テーブル２０２ｊａ（図１１６３（ｂ）参照）を参照して時短図柄の種別を決定し（Ｓ２２０２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２２０１Ａの処理において、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２２０３Ａ）、抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊ（図１１６３（ａ）参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ２２０４Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２２０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではない（即ち、通常の外れ（完全外れ）である）と判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２２０４Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３３２】

この外れ時種別決定処理４０（図１１７０参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選若しくは小当たりであった場合に、時短図柄種別若しくは小当たり種別を好適に決定することができる。

【１１３３３】

次に、図１１７１を参照して、本第４０制御例における時短更新処理４０（Ｓ２２４Ａ）の詳細について説明する。この時短更新処理４０（Ｓ２２４Ａ）は、第３２制御例における時短更新処理（図９６８参照）に代えて実行される処理であり、時短更新処理（図９６８参照）と同様に、時短終了条件を判定するための各種カウンタ値を更新すると共に、時短終了条件が成立したと判定した場合に時短状態を終了させるための処理である。

【１１３３４】

この第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）のうち、Ｓ６０１～Ｓ６０５、およびＳ６０７の各処理では、それぞれ上述した第３２制御例における時短更新処理（図９６８参照）のＳ６０１～Ｓ６０５、およびＳ６０７の各処理と同一の処理が実行される。

【１１３３５】

また、本第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）では、Ｓ６０５の処理が終了すると、小当たりカウンタ２０３ｓ、普電作動カウンタ２０３ｊａの値を０にリセット（設定）して（Ｓ６２１Ａ）、処理をＳ６０７へと移行する。このＳ６２１Ａの処理を、第３２制御例における時短更新処理（図９６８参照）のＳ６０６に代えて実行しているのは、単に第３２制御例における第３終了条件を判定するための特図２カウンタ２０３ｔに代えて、本第４０制御例では普電作動カウンタ２０３ｊａが設けられていること

による変更である。つまり、第３２制御例では、第２特別図柄の抽選回数が規定回数に到達した場合に成立する時短終了条件を設けていたが、本第４０制御例では、これに代えて、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数に到達した場合に成立する時短終了条件を設ける構成としていることによる変更である。

【１１３３６】

また、図１１７１に示した通り、本第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）では、Ｓ６０４の処理で、時短カウンタ２０３ｈの値が０に減算されていないと判別した場合に（Ｓ６０４：Ｎｏ）、次いで、今回変動停止タイミングとなった変動表示に対応する特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ６２２Ａ）、小当たりでないと判別した場合は（Ｓ６２２Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。これに対して、Ｓ６２２Ａの処理において、今回の変動表示に対応する特別図柄の抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ６２２Ａ：Ｙｅｓ）、まず、小当たり遊技の開始を設定するために小当たり開始フラグ２０３ｎをオンに設定し（Ｓ６２３Ａ）、次いで、小当たりカウンタ２０３ｓの値を１減算する（Ｓ６２４Ａ）。

【１１３３７】

Ｓ６２４Ａの処理が終了すると、次いで、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に減算されたか否かを判別し（Ｓ６２５Ａ）、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に減算されたと判別した場合は（Ｓ６２５Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり回数が規定回数に到達したことに基づく時短終了条件（第２終了条件）が成立したことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ６２６Ａ～Ｓ６２８Ａの各処理を実行する。より具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇのデータを通常状態に対応するデータに更新することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６２６Ａ）、時短カウンタ２０３ｈ、普電作動カウンタ２０３ｊａの各値を０にリセット（設定）することで時短終了条件をクリアする（Ｓ６２７Ａ）。次いで、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ６２８Ａ）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ６２５の処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に減算されていないと判別した場合は（Ｓ６２５Ａ：Ｎｏ）、第２終了条件が成立していないことを意味するため、Ｓ６２６Ａ～Ｓ６２８Ａの各処理をスキップして、本処理を終了する。

【１１３３８】

次に、図１１７２を参照して、本第４０制御例における普通図柄変動処理４０（Ｓ１０６Ａ）について説明する。この普通図柄変動処理４０（Ｓ１０６Ａ）は、上述した第３２制御例における普通図柄変動処理（図９７２参照）に代えて実行される処理であり、普通図柄変動処理（図９７２参照）と同様に、普通図柄の抽選を実行すると共に、普通図柄の当たりとなった場合に電動役物６４０ａの開閉制御を設定するための処理である。図１１７２は、この普通図柄変動処理４０（Ｓ１０６Ａ）を示すフローチャートである。

【１１３３９】

この第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１７７２参照）のうち、Ｓ１１０１～Ｓ１１０８，Ｓ１１１１，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７、およびＳ１１２１の各処理では、それぞれ上述した第３２制御例における普通図柄変動処理（図９７２参照）のＳ１１０１～Ｓ１１０８，Ｓ１１１１，Ｓ１１１３，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７、およびＳ１１２１の各処理と同一の処理が実行される。

【１１３４０】

また、本第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１１７２参照）では、Ｓ１１０８の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値である（即ち、現在の遊技状態が第１または第２時短状態である）と判別した場合に（Ｓ１１０８：Ｙｅｓ）、時短状態用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊ（図１１６１（ａ）参照）を参照して普通図柄の抽選結果を取得し（Ｓ１１３１Ａ）、処理をＳ１１１１へと移行する。これに対し、Ｓ１１０８の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値ではない（即ち、現在の遊技状態が通常状態である）と判別した場合は（Ｓ１１０８：Ｎｏ）、通常状態用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊ（図１１６１（ａ）参照）を参照して普通図柄の抽選結果を取得し（Ｓ１１３２Ａ）、処理をＳ１１１１へと移行する。

【１１３４１】
　また、図１１７２に示した通り、本第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１１７２参照）では、Ｓ１１１１の処理において、今回の普通図柄の抽選結果が普通図柄の当たりであると判別した場合に（Ｓ１１１１：Ｙｅｓ）、普通図柄の当たり種別を特定して当たり種別を音声ランプ制御装置１１３へと通知するための普図当たり時処理を実行し（Ｓ１１３３Ａ）、処理をＳ１１３４Ａへと移行する。この普図当たり時処理（Ｓ１１３３Ａ）の詳細については、図１１７３（ａ）を参照して後述する。Ｓ１１３３Ａの処理、またはＳ１１１３の処理が終了した後で実行されるＳ１１３４Ａの処理では、変動時間を１秒間に設定して（Ｓ１１３４Ａ）、本処理を終了する。
【１１３４２】
　また、本第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１１７２参照）では、Ｓ１１１７の処理において、今回の普通図柄の抽選結果が普通図柄の抽選結果が当たりであると判別した場合に、まず、普通図柄の当たり回数に基づく時短終了条件（第３終了条件）の成立有無を判定するための第３終了条件判定処理を実行する（Ｓ１１３５Ａ）。この第３終了条件判定処理（Ｓ１１３５Ａ）の詳細については、図１１７３（ｂ）を参照して後述する。Ｓ１１３５Ａの処理が終了すると、次いで、今回の普通図柄の当たりが普図当たりＡであるか否かを判別し（Ｓ１１３６Ａ）、今回の普通図柄の当たりが普図当たりＡであると判別した場合は（Ｓ１１３６Ａ：Ｙｅｓ）、電動役物６４０ａの変位パターンを普図当たりＡ用の第１変位パターン（即ち、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能な変位パターン）に設定して（Ｓ１１３７Ａ）、処理をＳ１１２１へと移行する。これに対し、Ｓ１１３６の処理において、今回の普通図柄の当たりが普図当たりＡではない（即ち、普図当たりＢである）と判別した場合は（Ｓ１１３６Ａ：Ｎｏ）、電動役物６４０ａの変位パターンを普図当たりＢ用の第２変位パターン（即ち、第２入球口６４０へと容易に遊技球を入球させることが可能であり、実質的に大当たり当選が確定する変位パターン）に設定して（Ｓ１１３８Ａ）、処理をＳ１１２１へと移行する。
【１１３４３】
　次いで、図１１７３（ａ）を参照して、上述した普図当たり時処理（Ｓ１１３３Ａ）の詳細について説明する。図１１７３（ａ）は、この普図当たり時処理（Ｓ１１３３Ａ）を示すフローチャートである。この普図当たり時処理（Ｓ１１３３Ａ）が実行されると、まず、普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂ（図１１６３（ｃ）参照）を参照して、現在の遊技状態に応じた普図当たり種別を決定し（Ｓ２３０１Ａ）、次いで、決定した普図当たり種別を音声ランプ制御装置１１３に通知するための普図当たりコマンドを設定する（Ｓ２３０２Ａ）。ここで設定された普図当たりコマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理の中で、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、普図当たりコマンドを受信すると、その普図当たりコマンドから普通図柄の当たり種別を特定し、特定した当たり種別を加味した演出制御を行う。特に、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選し得る時短状態においては、普通図柄の抽選が実行される毎に、普図当たりＢであるか否かを示す演出を実行する。Ｓ２３０２Ａの処理が終了した後は、普図当たりを示すための第２図柄表示装置８３の表示態様を設定して（Ｓ２３０３Ａ）、本処理を終了する。
【１１３４４】
　この普図当たり時処理（図１１７３（ａ）参照）を実行することにより、遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２時短状態）に応じた割合で普図当たり種別を決定することができる。つまり、遊技状態に応じて、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢの確率を可変させることができるので、実質的な大当たり確率が異なる遊技状態を形成することができる。
【１１３４５】
　次いで、図１１７３（ｂ）を参照して、上述した第３終了条件判定処理（Ｓ１１３５Ａ）の詳細について説明する。図１１７３（ｂ）は、この第３終了条件判定処理（Ｓ１１３

５Ａ）を示すフローチャートである。図１１７３（ｂ）に示した通り、この第３終了条件判定処理（Ｓ１１３５Ａ）が実行されると、まず、普電作動カウンタ２０３ｊａのカウンタ値が０より大きい値であるか（１以上の値であるか）否かを判別し（Ｓ２３３１Ａ）、普電作動カウンタ２０３ｊのカウンタ値が０より大きい値ではない（０である）と判別した場合は（Ｓ２３３１Ａ：Ｎｏ）、現在の遊技状態が通常状態であり、第３終了条件の成立有無を判定する必要が無いことを意味するため、そのまま本処理を終了する。

【１１３４６】

一方、Ｓ２３３１Ａの処理において、普電作動カウンタ２０３ｊａの値が０より大きい値である（１以上の値である）と判別した場合は（Ｓ２３３１Ａ：Ｙｅｓ）、現在の遊技状態が時短状態（第１時短状態または第２時短状態）であることを意味するため、次いで、普電作動カウンタ２０３ｊａの値を１減算して更新し（Ｓ２３３２Ａ）、減算後の普電作動カウンタ２０３ｊａの値が０に更新されたか否かを判別する（Ｓ２３３３Ａ）。Ｓ２３３３Ａの処理において、普電作動カウンタ２０３ｊａのカウンタ値が０に更新されたと判別した場合は（Ｓ２３３３Ａ：Ｙｅｓ）、第３終了条件が成立したと判定し、時短状態を終了させるためのＳ２３３４～Ｓ２３３６の各処理を実行する。具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇのデータを通常状態に対応するデータに更新することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ２３３４Ａ）、次いで、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓの値を共に０にリセットする（Ｓ２３３５Ａ）。次いで、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ２３３６Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２３３３Ａの処理において、減算後の普電作動カウンタ２０３ｊａのカウンタ値が０に更新されていない（１以上の値に更新された）と判別した場合は（Ｓ２３３３Ａ：Ｎｏ）、第３終了条件が成立していないと判定して、Ｓ２３３４Ａ～Ｓ２３３６Ａの各処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【１１３４７】

この第３終了条件判定処理（図１１７３（ｂ）参照）を実行することにより、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数に到達することで時短状態を終了させることができる。これにより、時短状態において第１特別図柄の抽選が実行され得ない右打ちを行い続けたとしても、規定回数の普通図柄の当たり遊技が実行されることで時短状態を終了させることができるので、継続的に右打ちを行ったとしても、必ず普図当たりＢになるまで時短状態が継続してしまう不具合が発生することを防止できる。

【１１３４８】

＜第４０制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１１７４から図１１８２を参照して、本第４０制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１１７４を参照して、本第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（Ｓ３１１３Ａ）の詳細について説明する。このコマンド判定処理４０（Ｓ３１１３Ａ）は、上述した第３２制御例におけるコマンド判定処理（図９８３参照）に代えて実行される処理であり、コマンド判定処理（図９８３参照）と同様に、主制御装置１１０から受信した各種コマンドの種別に応じた制御を実行するための処理である。

【１１３４９】

この第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）のうち、Ｓ３２０１～Ｓ３２１１，Ｓ３２１３、およびＳ３２１８の各処理では、それぞれ第３２制御例におけるコマンド判定処理（図９８３参照）のＳ３２０１～Ｓ３２１１，Ｓ３２１３、およびＳ３２１８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）では、Ｓ３２１１の処理において、状態コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ３２１１：Ｙｅｓ）、第３２制御例における状態コマンド処理（図９８５参照）に代えて状態コマンド処理４０を実行し（Ｓ３２３１Ａ）、本処理を終了する。この状態コマンド処理４０（Ｓ３２３１Ａ）の詳細については、時１１７５および図１１７６を参照して後述する。

【１１３５０】

また、本第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）では、Ｓ３２１３の処理において、当たり関連のコマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ３２１３：Ｙｅｓ）、第３２制御例における当たり関連処理（図９８６参照）に代えて当たり関連処理４０を実行し（Ｓ３２３２Ａ）、本処理を終了する。なお、図示については省略したが、この当たり関連処理４０（Ｓ３２３２Ａ）では、第３２制御例における当たり関連処理（図９８６参照）に対して、大当たり関連処理（Ｓ３５０４）に代えて大当たり関連処理４０（Ｓ３５０４Ａ）が実行される点、および小当たり関連処理（Ｓ３５０８）に代えて小当たり関連処理４０（Ｓ３５０８Ａ）が実行される点でのみ相違している。これらの大当たり関連処理４０（Ｓ３５０４Ａ）、および小当たり関連処理４０（Ｓ３５０８Ａ）の詳細については、それぞれ図１１７７、および図１１７８を参照して後述する。

【１１３５１】

一方、Ｓ３２１３の処理において、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に当たり関連のコマンドが含まれていないと判別した場合は（Ｓ３２１３：Ｎｏ）、次いで、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に普図当たりコマンドが含まれているか否かを判別し（Ｓ３２３３Ａ）、普図当たりコマンドが含まれていると判別した場合は（Ｓ３２３３Ａ：Ｙｅｓ）、通知された普図当たり種別に応じた制御を行うための普図当たりコマンド処理を実行して（Ｓ３２３４Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ３２３３Ａの処理において、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に普図当たりコマンドが含まれていないと判別した場合は（Ｓ３２３３Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ３２１８へと移行する。

【１１３５２】

次に、図１１７５を参照して、上述した状態コマンド処理４０（Ｓ３２３１Ａ）の詳細について説明する。この状態コマンド処理４０（Ｓ３２３１Ａ）は、上述した通り、第３２制御例における状態コマンド処理（図９８５参照）に代えて実行される処理であり、状態コマンド処理（図９８５参照）と同様に、状態コマンドにより通知された遊技状態に応じた制御を行うための処理である。

【１１３５３】

この第４０制御例における状態コマンド処理４０（図１１７５参照）のうち、Ｓ３４０１、およびＳ３４０２の各処理では、それぞれ第３２制御例における状態コマンド処理（図９８５参照）のＳ３４０１、およびＳ３４０２の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例における状態コマンド処理４０（図１１７５参照）では、Ｓ３４０２の処理において、今回受信した状態コマンドが通常状態への移行を通知する状態コマンドであると判別した場合に（Ｓ３４０２：Ｙｅｓ）、通常状態用の背面画像を設定するための表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ３４２１Ａ）、時短情報更新エリア２２３ｈに記憶されている情報をクリアして（Ｓ３４２２Ａ）、本処理を終了する。なお、通常状態への移行タイミングが普図当たりＢの開始タイミングである場合は、普図当たりＢへの当選に基づく第１示唆演出（上のＶを狙え演出、図１１５２（ｂ）参照）が背面画像よりも手前側のレイヤーに設定されるため、通常状態用の背面画像が遊技者に視認困難になり、第１示唆演出に遊技者を注目させることができる。

【１１３５４】

一方、Ｓ３４０２の処理において、今回受信した状態コマンドが通常状態への移行を通知する状態コマンドではないと判別した場合は（Ｓ３４０２：Ｎｏ）、次いで、第１時短状態への移行を示す状態コマンドであるか否かを判別し（Ｓ３４２３Ａ）、第１時短状態への移行を示す状態コマンドであると判別した場合は（Ｓ３４２３Ａ：Ｙｅｓ）、受信した状態コマンドに含まれる時短情報を時短情報格納エリア２２３ｈに格納し（Ｓ３４２４Ａ）、ラッシュ中を示す表示用コマンドを設定して（Ｓ３４２５Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ３４２３Ａの処理において、今回受信した状態コマンドが第１時短状態への移行を通知する状態コマンドではないと判別した場合は（Ｓ３４２３Ａ：Ｎｏ）、次いで、受信した状態コマンドが第２時短状態への移行を通知する状態コマンドであるか否かを判別し（Ｓ３４２６Ａ）、第２時短状態への移行を通知する状態コマンドであると判別した場合は（Ｓ３４２６Ａ：Ｙｅｓ）、受信した状態コマンドに含まれる時短情報を時

短情報格納エリア２２３ｈに格納し（Ｓ３４２４Ａ）、チャンスタイム待機演出用の背面画像を示す表示用コマンドを設定する（Ｓ３４２８Ａ）。次いで、チャンスタイム待機演出の演出態様を設定するための待機演出設定処理を実行して（Ｓ３４２９Ａ）、本処理を終了する。この待機演出設定処理（Ｓ３４２９Ａ）の詳細については、図１１７６を参照して後述する。一方、Ｓ３４２６Ａの処理において、受信した状態コマンドが第２時短状態への移行を通知する状態コマンドでないと判別した場合は（Ｓ３４２６Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３４２７Ａ～Ｓ３４２９Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３５５】

次に、図１１７６を参照して、上述した待機演出設定処理（Ｓ３４２９Ａ）の詳細について説明する。図１１７６は、この待機演出設定処理（Ｓ３４２９Ａ）を示すフローチャートである。この待機演出設定処理（Ｓ３４２９Ａ）では、まず、待機演出フラグ２２３ｊａをオンに設定し（Ｓ３４５１Ａ）、次いで、第１特別図柄の保留球数が０であるか否かを判別する（Ｓ３４５２Ａ）。Ｓ３４５２Ａの処理において、第１特別図柄の保留球数が０であると判別した場合は（Ｓ３４５２Ａ：Ｙｅｓ）、今回の時短種別（時短回数）に応じた演出態様を、待機演出選択テーブル２２２ｊａ（図１１６５参照）を参照して特定し（Ｓ３４５３Ａ）、特定した演出態様の待機演出の実行を設定する（Ｓ３４５４Ａ）。次いで、待機演出回数カウンタ２２３ｊｂの値に１を設定して（Ｓ３４５５Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ３４５２Ａの処理において、第１特別図柄の保留球数が０ではない（１以上である）と判別した場合は（Ｓ３４５２Ａ）、Ｓ３４５３Ａ～Ｓ３４５５Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。保留球が存在する場合は、当該保留球に基づく第１特別図柄の変動表示に同期して実行する変動表示演出の演出態様として待機演出を設定すれば良く、本処理の中で演出態様を設定する必要がないためである。

【１１３５６】

この待機演出設定処理（図１１７６参照）を実行することにより、第１特別図柄の保留球が存在しない状況で第２時短状態に移行した場合に、第２時短状態の種別（時短回数）に応じた演出態様のチャンスタイム待機演出を実行することができる。

【１１３５７】

次に、図１１７７を参照して、上述した大当たり関連処理４０（Ｓ３５０４Ａ）の詳細について説明する。この大当たり関連処理４０（Ｓ３５０４Ａ）は、上述した第３２制御例における大当たり関連処理（図９８７参照）に代えて実行される処理であり、大当たり関連処理（図９８７参照）と同様に、大当たりに関連する各種コマンドを受信した場合に、受信したコマンドの種別に応じた制御を行うための処理である。

【１１３５８】

この第４０制御例における大当たり関連処理４０（図１１７７参照）は、第３２制御例における大当たり関連処理（図９８７参照）に対して、Ｓ３６０１，Ｓ３６０２，Ｓ３６０８，Ｓ３６０９，Ｓ３６１１、およびＳ３６１２の処理が削除されている点でのみ相違している。これは、大当たり中の各種演出が削除されていることによるものである。

【１１３５９】

次に、図１１７８を参照して、本第４０制御例における小当たり関連処理４０（Ｓ３５０８Ａ）の詳細について説明する。この小当たり関連処理４０（Ｓ３５０８Ａ）は、上述した第３２制御例における小当たり関連処理４０（図９８９参照）に代えて実行される処理である。図１１７８は、この小当たり関連処理４０（Ｓ３５０８Ａ）を示すフローチャートである。

【１１３６０】

この第４０制御例における小当たり関連処理４０（図１１７８参照）のうち、Ｓ４２０１，Ｓ４２０６、およびＳ４２１１の各処理では、それぞれ上述した第３２制御例における小当たり関連処理（図９８９参照）のＳ４２０１，Ｓ４２０６、およびＳ４２１１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例における小当たり関連処理４０（図１１７８参照）では、Ｓ４２０１の処理において、小当たり開始コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２０１：Ｙｅｓ）、下のＶを狙え演出（第２示唆演出、図１１５４

（ａ）参照）の開始を設定して（Ｓ４２２１Ａ）、本処理を終了する。下のＶを狙え演出（第２示唆演出）を実行することにより、遊技者に対して小当たり遊技の実行中に右打ちによりＶ入賞装置６５０を狙って遊技球を発射させることができるので、小当たり遊技における開閉扉６５０ｆ１の開放期間の間に遊技球を確実にＶ入賞装置６５０へと入球させて当該遊技球を特定領域６５０ｅ３に入球させることができる。

【１１３６１】

また、本第４０制御例における小当たり関連処理４０（図１１７８参照）では、Ｓ４２０６の処理において、小当たり終了コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２０６：Ｙｅｓ）、今回の小当たりが第１時短状態において実行された小当たり遊技（厳密には、第１時短状態において普図当たりＢが開始されて通常状態に転落した後で、当該普図当たりＢの開放期間中に第２入球口６４０へと遊技球が入球したことに基づいて実行された小当たり遊技）であるか否かを判別する（Ｓ４２２２Ａ）。Ｓ４２２２Ａの処理において、第１時短状態において実行された小当たり遊技であると判別した場合は（Ｓ４２２２Ａ：Ｙｅｓ）、第１時短状態（ラッシュ）において小当たりに当選したにもかかわらず、遊技者が右打ちを行わなかった等によって小当たり遊技中に特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過しなかったことを意味し、通常状態へと移行することとなるため、ラッシュ終了を示す演出を実行するための表示用小当たり終了コマンドを設定して（Ｓ４２２３Ａ）、本処理を終了する。

【１１３６２】

一方で、Ｓ４２２２Ａの処理において、第１時短状態において実行された小当たり遊技ではない（第２時短状態において普図当たりＢに当選したことに基づいて実行された小当たり遊技である）と判別した場合は（Ｓ４２２２Ａ：Ｎｏ）、第１時短状態（ラッシュ）において小当たりに当選したにもかかわらず、遊技者が右打ちを行わなかった等によって小当たり遊技中に特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過しなかったことを意味し、通常状態へと移行することとなるため、チャンスチムの終了を示す演出を実行するための表示用小当たり終了コマンドを設定して（Ｓ４２２４Ａ）、本処理を終了する。

【１１３６３】

また、本第４０制御例における小当たり関連処理では、Ｓ４２１１の処理において、Ｖ通過コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ４２１１：Ｙｅｓ）、大当たり当選を示す演出を実行させるための表示用コマンドを設定して（Ｓ４２２５Ａ）、本処理を終了する。

【１１３６４】

次に、図１１７９を参照して、本第４０制御例における普図当たりコマンド処理（Ｓ３２３４Ａ）の詳細について説明する。この普図当たりコマンド処理（Ｓ３２３４Ａ）は、上述した通り、普図当たりコマンドにより通知された普通図柄の当たり種別に応じた制御を行うための処理である。図１１７９は、この普図当たりコマンド処理（Ｓ３２３４Ａ）を示すフローチャートである。

【１１３６５】

図１１７９に示した通り、普図当たりコマンド処理（Ｓ３２３４Ａ）では、まず、現在の遊技状態が第１時短状態であるか否かを従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納されているデータに基づいて判別し（Ｓ５６０１Ａ）、第１時短状態であると判別した場合は（Ｓ５６０１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、普図当たりコマンドにより通知された普図当たり種別に応じて、ウサギのキャラクタ８０１が宝箱の種別を選択する演出（図１１５４（ｂ）、図１１５５参照）において選択する宝箱の種別を抽選により決定し（Ｓ５６０２Ａ）、決定した種別の宝箱を選択する演出態様のラッシュ中演出を、普通図柄の変動時間において実行する（Ｓ５６０３Ａ）。なお、このＳ５６０２Ａの処理による抽選では、例えば、今回の抽選結果が普図当たりＡである場合に、通常の宝箱８１０ｂを８０％の割合で選択し、小さな宝箱８１０ｃを２０％の割合で選択する一方で、普図当たりＢである場合に、輝く宝箱を３５％の割合で選択し、通常の宝箱８１０ｂを５５％の割合で選択し、小さな宝箱８１０ｃを１０％の割合で選択するように抽選内容が規定されている。これにより、輝く宝

箱８１０ａが選択された場合は、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選したことが確定する一方で、小さな宝箱８１０ｃが選択された場合には、不利な普図当たりＡの可能性が高まってしまうため、ウサギのキャラクタ８０１が選択する宝箱の種別により注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１３６６】

一方、Ｓ５６０１Ａの処理において、現在の遊技状態が第１時短状態ではないと判別した場合は（Ｓ５６０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、現在の遊技状態が第２時短状態であるか否かを判別し（Ｓ５６０４Ａ）、第２時短状態でもないと判別した場合は（Ｓ５６０４Ａ：Ｎｏ）、普図当たりＢに当選し得ない通常状態において普図当たりに当選したことを意味し、普通図柄の変動に基づく演出を設定する必要がない遊技状態であることを意味するため、そのまま本処理を終了する。これに対し、Ｓ５６０４Ａの処理において、現在の遊技状態が第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ５６０４Ａ：Ｙｅｓ）、待機演出フラグ２２３ｊａがオンであるか（即ち、チャンスタイム待機演出の実行期間中であるか）否かを判別し（Ｓ５６０５Ａ）、待機演出フラグ２２３ｊａがオンである（即ち、チャンスタイム待機演出の実行期間中である）と判別した場合は（Ｓ５６０５Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の抽選結果が普図当たりＢであるか否かを判別し（Ｓ５６０６Ａ）、普図当たりＢであると判別した場合は（Ｓ５６０６Ａ：Ｙｅｓ）、実行中のチャンスタイム待機演出の結果を、「祝」という文字が付されたアイコン（示唆図柄）を選択する演出態様に書き替えて設定し（Ｓ５６０７Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ５６０６Ａの処理において、今回の普図当たりが普図当たりＢではない（即ち、普図当たりＡである）と判別した場合は（Ｓ５６０６Ａ：Ｎｏ）、Ｓ５６０７Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３６７】

これに対し、Ｓ５６０５Ａの処理において、待機演出フラグ２２３ｊａがオフである（即ち、チャンスタイム待機演出の実行期間中ではない）と判別した場合は（Ｓ５６０５Ａ：Ｎｏ）、待機期間タイマ２２３ｊｃに０．２秒に対応するタイマ値を設定して（Ｓ５６０８Ａ）、本処理を終了する。この普図当たりコマンド処理（図１１７９参照）を実行することにより、普通図柄の抽選結果に応じた演出態様を設定することができる。

【１１３６８】

次に、図１１８０を参照して、本第４０制御例における変動演出設定処理４０（Ｓ４３０４Ａ）の詳細について説明する。この変動演出設定処理４０（Ｓ４３０４Ａ）は、上述した第３２制御例における変動演出設定処理（図９９５参照）に代えて実行される処理であり、変動演出設定処理（図９９５参照）と同様に、特別図柄の変動表示に同期して第３図柄表示装置８１において実行する第３図柄の変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。

【１１３６９】

この第４０制御例における変動演出設定処理４０（図１１８０参照）のうち、Ｓ４４０１、およびＳ４４０３の各処理では、それぞれ第３２制御例における変動演出設定処理（図９９５参照）のＳ４４０１、およびＳ４４０３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４０制御例における変動演出設定処理４０（図１１８０参照）では、Ｓ４４０３の処理において、今回受信した変動パターンコマンドに基づいて開始させる変動表示演出が、第２特別図柄の変動表示に基づく変動表示演出であると判別した場合に（Ｓ４４０３：Ｙｅｓ）、次いで、今回の第２特別図柄の抽選結果が小当たりＢ４０であるか否かを判別する（Ｓ４４１２Ａ）。つまり、特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球した場合にラウンド数が少ない（不利な）３ラウンド大当たりが実行される小当たり種別であるか否かを判別し（Ｓ４４１２Ａ）、第２特別図柄の抽選結果が小当たりＢ４０ではない（つまり、第２特別図柄の抽選結果が大当たり又は小当たりＡ４０であり、いずれにしても有利な１０ラウンド大当たりが実行される状況である）と判別した場合は（Ｓ４４１２Ａ：Ｎｏ）、第２特別図柄の変動表示演出として、昇格に成功する演出態様の昇格演出（図１１５３

参照）を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ４４１３Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４４１２Ａの処理において、第２特別図柄の抽選結果が不利な小当たりＢ４０であると判別した場合は（Ｓ４４１２Ａ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の変動表示演出として、昇格に失敗する演出態様の昇格演出を伴う変動表示態様を決定して（Ｓ４４１４Ａ）、本処理を終了する。

【１１３７０】

これらに対し、Ｓ４４０３の処理において、今回受信した変動パターンコマンドに基づいて開始させる変動表示演出が、第２特別図柄の変動表示に基づく変動表示演出ではないと判別した場合は（Ｓ４４０３：Ｎｏ）、次いで、現在の遊技状態が通常状態であるか否かを判別し（Ｓ４４１５Ａ）、通常状態であると判別した場合は（Ｓ４４１５Ａ：Ｙｅｓ）、今回受信した変動パターンコマンドにより通知された抽選結果と、当該変動パターンコマンドから抽出した変動パターンとに基づいて変動表示演出の変動表示態様を決定し（Ｓ４４１６Ａ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ４４１５Ａの処理において、現在の遊技状態が通常状態ではないと判別した場合は（Ｓ４４１５Ａ：Ｎｏ）、チャンスタイム（第２時短状態）中の第１特別図柄の変動表示演出の開始タイミングであることを意味するため、チャンスタイム中の演出態様を設定するためのチャンスタイム中演出設定処理を実行して（Ｓ４４１７Ａ）、本処理を終了する。このチャンスタイム中演出設定処理（Ｓ４４１７Ａ）の詳細について、図１１８１を参照して説明する。

【１１３７１】

図１１８１は、このチャンスタイム中演出設定処理（Ｓ４４１７Ａ）を示すフローチャートである。図１１８１に示した通り、このチャンスタイム中演出設定処理（Ｓ４４１７Ａ）が実行されると、まず、待機演出フラグ２２３ｊａがオンであるか否かを判別し（Ｓ５７０１Ａ）、待機演出フラグ２２３ｊａがオフであると判別した場合は（Ｓ５７０１Ａ：Ｎｏ）、チャンスタイム待機演出（図１１５０（ｂ）、図１１５１参照）の実行中ではないことを意味し、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される状態を形成している可能性が高いので、待機期間タイマ２２３ｊｃの値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ５７０２Ａ）、待機期間タイマ２２３ｊｃの値が０より大きい値でない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ５７０２Ａ：Ｎｏ）、チャンスタイムに突入済みであるにもかかわらず普図当たりと第１特別図柄の抽選タイミングとが比較的長い時間（少なくとも０．２秒間以上）ずれていることを意味し、変動表示演出として普通図柄の抽選結果を示すための疑似的な変動表示演出を優先的に実行している状態であることを意味するため、まず、現在が普図当たりＢに対応する普通図柄の変動表示中であるか否かを判別し（Ｓ５７０３Ａ）、普図当たりＢに対応する普通図柄の変動表示中である場合は（Ｓ５７０３Ａ：Ｙｅｓ）、既に普図当たりＢを示すための疑似的な当たり変動演出が設定されているはずであるため、今回の特別図柄の抽選結果を示すための変動表示演出を設定（上書き）せずに、そのまま本処理を終了する。

【１１３７２】

一方で、Ｓ５７０３の処理において、現在が普図当たりＢに対応する普通図柄の変動表示中ではないと判別した場合は（Ｓ５７０３Ａ：Ｎｏ）、普図当たりＡを示すための疑似的な外れ変動演出の実行中である可能性が高いため、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりであるか否かを判別し（Ｓ５７０４Ａ）、大当たりであれば（Ｓ５７０４Ａ：Ｙｅｓ）、疑似的な外れ変動演出の終了後に復活演出によって大当たりが報知されるように設定して（Ｓ５７０５Ａ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ５７０４Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合は（Ｓ５７０４Ａ：Ｎｏ）、Ｓ５７０５Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３７３】

これらに対し、Ｓ５７０２Ａの処理において、待機時間タイマ２２３ｊｃの値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ５７０２Ａ：Ｙｅｓ）、普通図柄の抽選が開始された直後（０．２秒以内）に第１特別図柄の抽選が開始されたことを意味し、チャンスタイムにおける正常な動作となっていることを意味するため、次いで、実行中の普通図柄の変

動表示に対応する普通図柄の抽選結果と今回の第１特別図柄の抽選結果とに応じた演出態様を決定し（Ｓ５７０６Ａ）、待機期間タイマ２２３ｊｃの値を０にリセットして（Ｓ５７０７Ａ）、本処理を終了する。Ｓ５７０６Ａの処理により、普通図柄の抽選結果を加味した変動表示態様を設定することができ、普通図柄の抽選で３％の割合で決定される普図当たりＢが決定されているか、１／３２０の確率の特別図柄の大当たりに当選していれば、大当たり時と同様に同一の第３図柄が揃う変動表示態様が設定されるため、チャンスタイムにおいて、見かけ上の第１特別図柄の大当たり確率が高くなったかのような斬新な挙動を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３７４】

また、Ｓ５７０１Ａの処理において、待機演出フラグ２２３ｊａがオンであると判別した場合は（Ｓ５７０１Ａ：Ｙｅｓ）、待機演出選択テーブル２２２ｊａ（図１１６５参照）を参照して、今回の抽選結果、設定されている第２時短状態の時短回数、および現在の第１特別図柄の保留球数に応じた演出態様を決定し（Ｓ５７０８Ａ）、待機演出回数カウンタ２２３ｊｂの値に１を加算して更新する（Ｓ５７０９Ａ）。次いで、加算後の待機演出回数カウンタ２２３ｊｂの値が４になったか否かを判別し（Ｓ５７１０Ａ）、４になったと判別した場合は（Ｓ５７１０：Ｙｅｓ）、待機演出フラグ２２３ｊａをオフに設定して（Ｓ５７１１Ａ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ５７１０Ａの処理において、加算後の待機演出回数カウンタ２２３ｊｂの値が４ではないと判別した場合は（Ｓ５７１０Ａ：Ｎｏ）、Ｓ５７１１Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。Ｓ５７１０Ａ，Ｓ５７１１Ａの各処理を実行することにより、チャンスタイム待機演出における変動回数を最大４回に限ることができるので、チャンスタイム待機演出中に遊技者が左打ちを行って第１特別図柄の保留球が途切れなかったとしても、延々とチャンスタイム待機演出が継続してしまうことを抑制することができる。

【１１３７５】

次に、図１１８２を参照して、本第４０制御例における演出更新処理４０（Ｓ３１１２Ａ）の詳細について説明する。この演出更新処理４０（Ｓ３１１２Ａ）は、上述した第３２制御例における演出更新処理（図９９７参照）に代えて実行される処理であり、演出更新処理（図９９７参照）と同様に、演出態様を更新するための処理である。

【１１３７６】

この第４０制御例における演出更新処理４０（図１１８２参照）では、まず、待機期間タイマ２２３ｊｃのタイマ値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ４６１１Ａ）、待機期間タイマ２２３ｊｃのタイマ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ４６１１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、待機期間タイマの値を減算することで更新し（Ｓ４６１２Ａ）、更新後の待機期間タイマ２２３ｊｃのタイマ値が０であるか否かを判別する（Ｓ４６１３Ａ）。Ｓ４６１３Ａの処理において、待機期間タイマ２２３ｊｃの値が０に更新されたと判別した場合は（Ｓ４６１３Ａ：Ｙｅｓ）、普通図柄の抽選が実行されてから所定期間（０．２秒間）が経過しても第１特別図柄の抽選が開始されていないことを意味し、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に行われるというチャンスタイムの基本動作から外れた動作となっているため、実行中の普図変動の抽選結果に応じた演出態様の疑似変動演出を、実行中の普通図柄の変動表示に基づく普図当たりの終了までの期間で実行し（Ｓ４６１４Ａ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ４６１３Ａの処理において、更新後の待機期間タイマ２２３ｊｃの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ４６１３Ａ：Ｎｏ）、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に行われるというチャンスタイムの基本動作から外れた動作となっているか否かの判断がつかないため、Ｓ４６１４Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３７７】

これに対し、Ｓ４６１１Ａの処理において、待機期間タイマ２２３ｊｃの値が０であると判別した場合は（Ｓ４６１１Ａ：Ｎｏ）、チャンスタイム待機演出の終了タイミングであるか否かを判別し（Ｓ４６１５Ａ）、チャンスタイム待機演出の終了タイミングである

と判別した場合は（Ｓ４６１５Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、現在が変動停止状態であるか否かを判別する（Ｓ４６１６Ａ）。Ｓ４６１６Ａの処理において、変動停止状態であると判別した場合は（Ｓ４６１６Ａ：Ｙｅｓ）、時短図柄当選時に第１特別図柄の保留球が０の状態で５秒間のチャンスタイム待機演出が実行され、保留球数が０のまま当該チャンスタイム待機演出が終了されたことを意味するため、待機演出フラグ２２３ｊａをオフに設定して（Ｓ４６１７Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ４６１５Ａの処理において、待機演出の終了タイミングではないと判別した場合（Ｓ４６１５Ａ：Ｎｏ）、およびＳ４６１６Ａの処理において変動停止状態ではないと判別した場合は（Ｓ４６１６Ａ：Ｎｏ）、Ｓ４６１７Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１３７８】

この演出更新処理４０（図１１８２参照）を実行することにより、チャンスタイムにおいて、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行されるという基本動作から外れた動作となってしまった場合に、大当たり確率が１／３２０の第１特別図柄の抽選結果を示すための変動表示演出よりも優先的に、実質的な大当たり確率（普図当たりＢの決定割合）が３％の普通図柄の抽選結果を示すための疑似変動演出を実行することができるので、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１３７９】

以上説明した通り、第４０制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態よりも有利な時短状態として、実質的な大当たり確率が高い第１時短状態と、実質的な大当たり確率が第１時短状態よりも低く、且つ、通常状態よりも高い（第１時短状態よりも有利度合いが低く、且つ、通常状態よりも有利度合いが高い）第２時短状態と、を形成可能に構成している。より具体的には、大当たり終了後の遊技状態の１種として、第１時短状態が設定され得る一方で、特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、第２時短状態が設定されるように構成している。また、本第４０制御例では、第２特別図柄の抽選が実行された場合に、１００％の割合で、大当たり、または実質的に大当たりが確定する小当たりのどちらかに当選する（第２特別図柄の抽選が実行された時点で実質的に大当たりが確定する）構成としている一方で、時短状態の種別に応じて、時短状態が終了するまでの間に第２特別図柄の抽選契機となる第２入球口６４０へと入球する可能性を異ならせる構成としている。即ち、本第４０制御例では、普通図柄の抽選が実行された場合に遊技状態によらず１００％の割合で普通図柄の当たりに当選する構成とした上で、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となる（即ち、実質的に大当たりが確定する）普図当たり種別（普図当たりＢ）が決定される割合を、通常状態では低確率（０％の割合）、第１時短状態では高確率（８０％の割合）、第２時短状態では第１時短状態と通常状態との間の確率（３％の割合）に設定することにより、遊技状態毎に普通図柄の抽選が実行された場合の大当たり確率を異ならせる構成とした。これにより、普通図柄の抽選が実行された場合における大当たり期待度を遊技状態毎に異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１３８０】

また、本第４０制御例では、第１特別図柄の抽選契機となる第１入球口６４へと入球する遊技球が、第１入球口６４へ入球するよりも前に必ず通過する位置（第１入球口６４の上方）に対して、普通図柄の抽選契機となる中央スルーゲート６７ｃを配置する構成とし、更に、第１特別図柄の変動時間よりも、普通図柄の抽選が開始されてから当該普通図柄の抽選に基づく普通図柄の当たりが終了するまでの間の期間の方が短くなるように構成している。つまり、第１特別図柄の抽選が実行される場合に、毎回、普通図柄の抽選もほぼ同時に（第１特別図柄の抽選が実行される直前で）実行されるように構成している。加えて、右打ちを行った場合に遊技球が通過可能な位置にも普通図柄の抽選契機となる右スルーゲート６７ｒを別で設ける構成としているが、左打ちにより発射された遊技球が中央スルーゲート６７ｃを通過する割合と、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過する割合とが、略同一となるように構成している。これらにより、特に第２時短状態においては、右打ちにより普通図柄の抽選のみを実行させるよりも、左打ちにより

普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とをほぼ同時に実行させる方が、第２時短状態の間に大当たりに当選する可能性が高くなるように構成している。具体的には、第２時短状態において右打ちを行った場合、普通図柄の抽選で約３％の割合で当選する普図当たりＢ（遊技球が第２入球口６４０へと入球可能な第２変位パターンで電動役物６４０ａが変位される普図当たり）に当選した場合にのみ大当たりとなる（実質的に大当たり確定の第２特別図柄の抽選を実行させることが可能となる）一方で、左打ちを行った場合は、普通図柄の抽選で普図当たりＢ（第２変位パターンで電動役物６４０ａが変位される当たり）に当選する可能性に加えて、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選する可能性もあるため、第２時短状態において左打ちにより遊技を行わせることができる。そして、上述した通り、左打ちを行うと、中央スルーゲート６７ｃを通過した遊技球が必ず第１入球口６４へと入球し、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行されるので、第１特別図柄の抽選１回あたりの実質的な大当たり確率が高くなる（実質的に、第１特別図柄の大当たりとなる確率である約１／３２０と、第２変位パターンが設定される普通図柄の当たりとなる確率である約１／３３との合算確率である約１／３０の大当たり確率になる）という、極めて斬新な遊技性を実現することができる。言い換えれば、右打ちよりも左打ちを行った方が有利となり、且つ、特別図柄の抽選内容（特別図柄の抽選で実質的に大当たりとなる確率）が共通となる複数の遊技状態（通常状態、および第２時短状態）において、実質的な大当たり確率を異ならせることができるという斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１３８１】

また、本第４０制御例では、時短終了条件の１つとして、普図当たり遊技の実行回数に基づく終了条件（第３終了条件）を規定している。より具体的には、第１時短状態においては、普通図柄の当たり遊技が１回実行されることで時短状態が終了されるように構成し、第２時短状態においては、当選した時短図柄の種別に応じて普通図柄の当たり遊技が１０回～１０００回実行されることで時短状態が終了するように構成している。この理由としては、本第４０制御例においては、右打ちを行うことで、第１特別図柄の抽選を実行させることなく普通図柄の抽選のみを実行させることが可能な盤面構成であり、且つ、普図当たりＢに当選することで実質的に大当たりが確定する遊技性としているため、特別図柄の抽選回数に基づく終了条件（第１終了条件）および小当たり遊技の実行回数に基づく終了条件（第２終了条件）のみを時短終了条件として規定した場合、第１時短状態または第２時短状態に移行した後で右打ちを行い続けると、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選するまで時短状態が継続してしまう不具合が生じてしまうためである。そこで、本第４０制御例では、時短終了条件として、普通図柄の当たり遊技の実行回数に基づく終了条件（第３終了条件）を規定する構成とし、時短状態において右打ちを行い続け、特別図柄の抽選が全く行われなかったとしても、規定回数に渡って普図当たり遊技が実行されることにより時短状態が終了されるように構成している。これにより、普図当たりＢに当選するまで（即ち、実質的に大当たり当選まで）時短状態が必ず継続してしまうという不具合が発生することを防止することができる。

【１１３８２】

また、本第４０制御例では、第２時短状態において、第１特別図柄の抽選結果を示すための変動表示演出を実行する場合に、その直前に実行された普通図柄の抽選結果を加味した演出態様を設定する構成としている。即ち、普通図柄の抽選で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選していた場合、第１特別図柄の抽選結果が外れであったとしても、大当たりを報知する変動表示態様と区別困難な演出態様の変動表示演出を実行する構成としている。このように構成することで、１の変動表示演出によって第１特別図柄の抽選結果と普通図柄の抽選結果とを一括して報知することができるので、１の変動表示演出における見かけ上の大当たり確率が高くなったかのように遊技者に思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができると共に、好適な演出態様を実現することができる。更に、本第４０制御例における第２時短状態では、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とがほぼ同時に実行されるという基本動作からずれた動作（

第１特別図柄の抽選タイミングが普通図柄の抽選タイミングから少なくとも０．２秒間以上ずれている動作）となっている場合に、変動表示演出によって第１特別図柄の抽選結果よりも、普通図柄の抽選結果を優先的に報知する構成としている。つまり、普通図柄の抽選が実行されたことに基づいて疑似的な変動表示演出を実行し、当該疑似的な変動表示演出の実行中に第１特別図柄の抽選が実行された場合は、当該第１特別図柄の抽選結果が大当たりであり、且つ、実行中の疑似的な変動表示演出が外れ（第２入球口６４０へと入球不可能（困難）な普図当たりＡ）を報知する変動表示演出である場合にのみ、第１特別図柄の抽選結果（大当たり）を報知する演出態様を設定する構成としている。このように構成することで、実質的な大当たり確率が高い普通図柄の抽選結果を、実質的な大当たり確率が低い第１特別図柄の抽選結果よりも優先的に報知することができるので、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１３８３】

なお、本第４０制御例では、左打ちと右打ちとで、スルーゲート（中央スルーゲート６７ｃまたは右スルーゲート６７ｒ）を遊技球が通過する割合を略同一とする構成としたが、これに限られるものではない。例えば、右打ちにより発射された遊技球が右スルーゲート６７ｒを通過する割合を、左打ちにより発射された遊技球が左スルーゲート６７ｃを通過する割合よりも高くなる（例えば、右打ちにより２個の遊技球を発射する毎に１個の遊技球が右スルーゲート６７ｒ通過する割合となる）ように構成してもよい。このように構成した場合、第１時短状態や第２時短状態における遊技方法を遊技者に対して選択させる遊技性を実現することができる。つまり、時短状態において左打ちを行った場合、普通図柄の抽選を実行させる頻度は低くなる（左打ちにより遊技球を１０～１５個発射する毎に１回実行される程度の頻度となる）一方で、普通図柄の抽選が実行される毎に第１特別図柄の抽選が実行されるため、普通図柄の抽選で第２変位パターンに対応する普通図柄の当たりとなることだけでなく、第１特別図柄の抽選で大当たりとなることにも期待させることができる。一方で、時短状態において右打ちを行った場合、普通図柄の抽選を実行させる頻度が高くなる（右打ちにより遊技球を２個発射する毎に１回実行される程度の頻度となる）ため、時短状態における普通図柄の抽選効率を高くすることができる一方で、第１特別図柄の抽選が実行されないため、時短状態の間に大当たりに当選する可能性が低くなる遊技性を実現することができる。よって、時短状態における遊技方法（左打ちを行うか右打ちを行うか）によって、遊技者に対して時短状態の間に大当たりとなる可能性が比較的高くなるが、普通図柄の抽選効率が悪くなる（時短状態の消化に比較的長い時間を要する上に、無駄球が比較的多く発生する）遊技性と、普通図柄の抽選効率は良くなるが、時短状態の間に大当たりとなる可能性が比較的低くなる（第１特別図柄の大当たり確率である１／３２０の分だけ大当たり期待度が低下する）遊技性と、を選択させる極めて斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者毎に、自己の趣向によりマッチした遊技性を選択させることができるので、より多くの遊技者の好みに合う遊技性を実現することができ、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３８４】

本第４０制御例では、第１時短状態を大当たり終了後の遊技状態として設定され得る遊技状態として構成し、第２時短状態を時短図柄に当選した場合に設定される遊技状態として構成していたが、これに限られるものではない。例えば、時短図柄に当選した場合の一部又は全部で第１時短状態が設定されるように構成してもよいし、大当たり終了後の遊技状態として第２時短状態が設定され得るように構成してもよい。

【１１３８５】

本第４０制御例では、第１時短状態と第２時短状態とで、実質的に大当たりが確定する普図当たりＢが決定される割合を異ならせることにより、通常状態と、第１時短状態と、第２時短状態とで、互いに実質的な大当たり確率を異ならせるように構成していたが、実質的な大当たり確率を異ならせる方法はこれに限られるものではない。例えば、特別図柄の大当たり確率が異なる３種類の状態を設ける構成としてもよい。即ち、特別図柄の大当たり確率が約１／３２０となる通常状態と、特別図柄の大当たり確率が約１／１．２５と

なる第１時短状態と、特別図柄の大当たり確率が約１／３０となる第２時短状態と、を形成してもよい。このように構成することで、中央スルーゲート６７ｃを少なくとも廃止することができるので、盤面構成を簡素化することができる。

【１１３８６】

本第４０制御例では、第１時短状態において右打ちを報知する一方で、第２時短状態においては左打ちを報知する構成としていたが、第２時短状態においても左打ちを報知する構成としてもよい。即ち、第２時短状態においても、左打ちを行った場合は、第１特別図柄の抽選を実行させることができる分、大当たりとなる可能性が高くなるため、左打ちにより若干有利度合いが高くなる。よって、第２時短状態において左打ちを報知することにより、遊技者の有利度合いを向上させることができる。

【１１３８７】

本第４０制御例では、時短終了条件として、特別図柄の抽選回数の合計が規定回数となったことに基づいて成立する第１終了条件と、小当たり当選回数が規定回数となったことに基づいて成立する第２終了条件と、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数となったことに基づいて成立する第３終了条件と、を規定する構成としていたが、これらに加え、例えば、特別図柄の抽選結果が所定の抽選結果（例えば、Ｖ入賞不可能な小当たり）となった回数が規定回数となったことに基づいて成立する第４終了条件を課す構成としてもよい。このように構成することで、特に、第２時短状態において、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数となるよりも前に第２時短状態が終了され得る構成とすることができるので、第２時短状態において、時短回数（普通図柄の当たり遊技の実行回数）に余裕がある場合でも、遊技者に対して緊張感を抱かせながら遊技を行わせることができる。なお、この場合において、所定の抽選結果となった場合の変動表示演出として、所定の抽選結果となったことを遊技者が把握し得るように固定の演出を実行する（例えば、リーチ外れ演出を実行する）構成としてもよい。このように構成することで、固定の演出の実行回数により所定の抽選結果の規定回数までの残り回数を把握し得る遊技性を実現できるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３８８】

本第４０制御例では、天井機能（大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が天井抽選回数に到達した場合に第２時短状態を設定する機能）を設けていなかったが、天井機能を搭載してもよい。この場合において、天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される第２時短状態は、時短図柄当選に基づいて設定される第２時短状態と同じ有利度合い（約３％の割合で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選する普図当たりの振り分け）に設定してもよいし、異なる有利度合いに設定してもよい。時短図柄当選に基づく第２時短状態よりも高い有利度合い（例えば、約１０％の割合で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選する普図当たりの振り分け）に設定することで、天井抽選回数に到達することをより強く期待させることができるし、時短図柄当選に基づく第２時短状態よりも低い有利度合い（例えば、約１％の割合で実質的に大当たりが確定する普図当たりＢに当選する普図当たりの振り分け）に設定することで、少ない抽選回数から天井抽選回数を目指して遊技を行い、遊技者が遊技にのめり込みすぎてしまうことを抑制することができる。また、いずれの場合においても、天井機能を設けることで、所謂ハマりが発生したとしても、天井抽選回数へと到達することを目標として遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができる。

【１１３８９】

本第４０制御例では、電動役物６４０ａが開放されている場合に、第２入球口６４０へと遊技球を誘導可能に構成していたが、これに限られるものではない。例えば、上述した第９制御例と組み合わせてもよい。即ち、所謂非電動役物（第１非電動役物）によって開閉され、第１特別図柄の抽選契機となる第１始動口と、非電動役物（第２非電動役物）によって開閉され、第２特別図柄の抽選契機となる第２始動口と、を設ける。更に、遊技球が通過することで第１非電動役物を開放させる第１非電作動ゲートと、遊技球が通過することで第２非電動役物を開放させる第２非電作動ゲートと、装置内部に入球した遊技球を

第１非電作動ゲートと第２非電作動ゲートとのいずれかに振り分ける振分役物と、が設けられた入賞装置とを設け、普通図柄の当たりとなった場合に入賞装置を開放する位置に電動役物を設ける構成としてもよい。そして、普通図柄の当たりとなったことに基づいて振分役物を固定の変位動作で変位させ、普通図柄の当たり種別として、振分役物によって第１非電作動ゲートへと振り分けられる配置の間に入賞装置が開放される普図当たりＡと、第２非電作動ゲートへと振り分けられる配置の間に入賞装置が開放される普図当たりＢと、を設け、普図当たりＢが選択される割合を、上述した第４０制御例と同様に、通常状態、第１時短状態、および第２時短状態で互いに異ならせる構成としてもよい。このように構成することで、上述した第４０制御例と同様の挙動を実現することができる。

【１１３９０】

本第４０制御例では、第２時短状態へと移行した場合に、第１特別図柄の保留球を消化している間、チャンスタイム待機演出を実行することで、第１特別図柄の保留球が０個の状態にしてから左打ちを行わせ易くし、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される基本動作から外れた動作となり難くする構成としていたが、チャンスタイム中の動作を基本動作（普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される動作）から外れ難くする方法は、これに限られるものではない。これに代えて、又は加えて、例えば、チャンスタイム（第２時短状態）において第１特別図柄の保留球が１以上となっている場合に、第１特別図柄の変動時間を極めて短い変動時間（例えば、０．１秒間）に設定する構成としてもよい。このように構成することで、チャンスタイムへと移行してから比較的短い時間で第１特別図柄の保留球を消化することができるので、チャンスタイム中の動作を基本動作（普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される動作）からより外れ難くすることができる。また、例えば、第１特別図柄、および普通図柄の保留記憶機能を廃止してもよい。このように構成することで、時短図柄が停止表示されてチャンスタイム（第２時短状態）に移行した時点において、確実に、第１特別図柄も普通図柄も変動停止状態にすることができる。よって、基本動作（普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される動作）から外れた動作となってしまうことを抑制することができる。

【１１３９１】

本第４０制御例では、時短図柄当選が発生してチャンスタイムに突入した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく変動表示が終了されるまで（またはチャンスタイム突入後、特定期間が経過するまで）に渡って、チャンスタイム待機演出を実行する構成とし、チャンスタイムが開始されていないかのような演出態様に設定していたが、演出態様はチャンスタイム待機演出に限定されるものではない。例えば、時短図柄当選に基づく変動表示演出を、第１特別図柄の保留球が全て消化される期間まで継続して実行することで、チャンスタイムが開始されていないかのように遊技者に思わせる構成としてもよいし、時短図柄当選を示す第３図柄の停止表示期間を、チャンスタイム突入後も、第１特別図柄の保留球が全て消化されるまで継続して実行してもよい。また、時短図柄当選に基づく変動表示演出が終了されてから（時短図柄当選を示す第３図柄が停止表示されてから）、第１特別図柄の保留球が消化されるまで、チャンスタイムへの移行が確定したことを示す演出のみを実行し、保留球が消化された後で第１入球口６４（および中央スルーゲート６７ｃ）への遊技球の入球を検出したことに基づいて、チャンスタイムが開始されたことを明確に報知する演出を実行してもよい。このように構成することで、遊技者に対してチャンスタイム（第２時短状態）が開始されていないと思わせることができるので、第１特別図柄の保留球が存在するうちに遊技者が左打ちを開始してしまい、第１特別図柄の変動表示の開始タイミングと普通図柄の変動開始タイミングとがずれてしまうことを抑制することができる。即ち、変動表示演出によって、第１特別図柄の抽選結果と、その第１特別図柄の抽選とほぼ同時に（直前に）実行された普通図柄の抽選結果と、の両方を加味した演出結果を報知する遊技性をより確実に実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１３９２】

本第４０制御例では、通常状態において普図当たりＢが決定される割合を０％、第１時短状態において普図当たりＢが決定される割合を８０％、第２時短状態において普図当たりＢが決定される割合を３％に設定する構成としていたが、これに限られるものではなく、任意の割合に設定することができる。例えば、通常状態において普図当たりＢが決定され得る（例えば、０．１％の割合で決定される）ように構成することで、通常状態においても、第１特別図柄の抽選で大当たりになることに加え、普通図柄の抽選で普図当たりＢとなることを期待させることもできるので、通常状態における遊技が単調となってしまうことを抑制することができる。また、第２時短状態における普図当たりＢの決定割合を上昇させることで、第２時短状態における変動表示演出毎の実質的な大当たり期待度を向上させることができるし、低下させることで、第２時短状態における大当たり期待度を低下させることができる。更に、第１時短状態における普図当たりＢの決定割合を上昇させることで、第１時短状態に移行した場合の大当たり当選期待度（連チャン発生率）を向上させることができるし、普図当たりＢの決定割合を低下させることで、第１時短状態に移行した場合の大当たり当選期待度を低下させることができる。

【１１３９３】

本第４０制御例では、普通図柄の抽選が実行された場合に、遊技状態によらず、普通図柄の当たりとなる確率を１／１（１００％）とする構成としていたが、これに限られるものではなく、任意の確率に設定することができる。他の制御例と同様に、普通図柄の低確率状態、および普通図柄の高確率状態を設ける構成とし、通常状態および第２時短状態は普通図柄の低確率状態として取り扱われる一方で、第１時短状態は普通図柄の高確率状態として取り扱われるように構成してもよい。この場合において、普通図柄の当たりとなる確率を、普通図柄の高確率状態では１／１．２５（８０％）、普通図柄の低確率状態では３／１００（３％）に設定し、時短状態（第１時短状態、第２時短状態）において普通図柄の当たりとなった場合は必ず普図当たりＢに設定される（第２変位パターンで電動役物６４０ａが変位される）一方で、通常状態で普通図柄の当たりとなった場合は必ず普図当たりＡに設定される（第１変位パターンで電動役物６４０ａが変位される）構成としてもよい。つまり、普通図柄の高確率状態に設定される第１時短状態では、普通図柄の抽選で８０％の割合で普打つ図柄の当たりとなって実質的に大当たりが確定する普図当たりＢが必ず決定され、普通図柄の低確率状態に設定される第２時短状態では、普通図柄の抽選で３％の割合で普通図柄の当たりとなって実質的に大当たりが確定する普図当たりＢが必ず決定され、通常状態では、普通図柄の抽選で３％の割合で普通図柄の当たりとなるが、必ず普図当たりＡが決定されるため第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）となるように構成してもよい。このように構成することで、普通図柄の当たりとなった場合に、時短状態であれば普図当たりＢを決定し、通常状態であれば普図当たりＡを決定するという、比較的簡単な制御により上述した第４０制御例と同一の動作を実現することができるので、普通図柄の当たりに当選した後における処理負荷を低減することができる。

【１１３９４】

本第４０制御例では、普図当たりＡであるか普図当たりＢであるかによらず、第２時短状態において普通図柄の抽選が開始されてから普通図柄の当たりが終了して次の普通図柄の抽選を実行可能となるまでの期間の長さを、第２入球口６４０への入球を検出しない場合に、第１特別図柄の変動時間と同一の期間となるように構成することで、第２時短状態の間、普通図柄の抽選と第１特別図柄の抽選とがほぼ同時に実行される遊技性を維持可能に構成していたが、少なくとも普図当たりＢでは、普通図柄の当たり遊技が終了するまでの期間を必ずしも第１特別図柄の変動時間に一致させなくても良い。例えば、普図当たりＢに当選した場合は、普通図柄の変動時間が１秒間、普通図柄のオープニング期間が７秒間、電動役物６４０ａの開放期間が最大２秒間の、合計１０秒間となるように構成してもよい。このように構成することで、普図当たりＢとなる場合（即ち、大当たり演出を実行する場合）における演出期間をより長く確保することができるので、演出態様をより好適に設定することができる。

【１１３９５】
本第４０制御例では、通常状態において時短図柄に当選することで、大当たりを介さずに、第２時短状態へと直接移行する構成としていたが、遊技状態の組合せはこれに限られるものではない。これに代えて、または加えて、例えば、第２時短状態において時短図柄に当選した場合に、第１時短状態（または第１時短状態と同等の普図当たりＢの決定割合となる第２時短状態Ｂ）へと移行するように構成してもよい。このように構成することで、第２時短状態において大当たりに当選することに加え、時短図柄当選が発生した場合にも、時短状態と大当たりとを８０％の割合で繰り返す（ループする）極めて有利な状態を形成することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、例えば、第１時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、普図当たりＢの当選割合が低い遊技状態（例えば、第２時短状態、または第２時短状態と同等の普図当たりＢの決定割合となる第１時短状態Ｂ）へと移行するように構成してもよい。このように構成することで、第１時短状態において左打ちを行った場合に、第１特別図柄の抽選と普通図柄の抽選とをほぼ同時に実行させることができることにより第１特別図柄の大当たりに当選し得る分、大当たり期待度が高くなるというメリットが生じる代わりに、時短図柄当選が発生すると、時短状態自体の有利度合いが低下してしまうというデメリットを生じさせることができるので、メリット、デメリットを勘案して遊技方法を遊技者に選択させる斬新な遊技性を実現することができる。また、遊技状態は時短状態および通常状態には限られず、例えば、特別図柄の抽選確率が通常よりも高い特別図柄の高確率状態を設け、特別図柄の低確率状態に設定される遊技状態（通常状態、第１時短状態、第２時短状態）から特別図柄の高確率状態に設定される遊技状態（高確率状態、且つ、非時短状態、高確率状態、且つ、第１時短状態、高確率状態、且つ、第２時短状態）へと、大当たりを介さずに直接移行可能に構成してもよい。また、逆に、高確率状態に設定される遊技状態から低確率状態に設定される遊技状態へと大当たりを介さずに直接移行可能に構成してもよいし、高確率状態に設定される遊技状態から高確率状態に設定される他の遊技状態へと、大当たりを介さずに直接移行可能に構成してもよい。また、上記のあらゆる場合において、大当たりを介さずに遊技状態を変更する条件は、時短図柄当選に限られるものでもなく、例えば、特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させることが不可能な開閉扉６５０ｆ１の開放パターンに設定される小当たり（非Ｖ小当たり）に当選したことを契機として、遊技状態を変更する構成としてもよいし、特別図柄の抽選回数の合計が規定回数となったことに基づいて遊技状態を変更する構成としてもよいし、第２特別図柄の抽選回数の合計が規定回数となったことに基づいて遊技状態を変更する構成としてもよいし、普通図柄の当たり遊技の実行回数が規定回数となったことに基づいて遊技状態を変更する構成としてもよい。これにより、遊技性を多様化させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１３９６】
＜第４１制御例＞
次に、図１１８３から図１２１１を参照して、第４１制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態として、実質的に大当たりが確定する第２特別図柄の抽選契機となる第２入球口６４０への入球し易さ（第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な普図当たりＢに当選する割合）が異なる複数の時短状態（第１時短状態、第２時短状態）を設ける構成とすることにより、特別図柄の抽選確率が共通であるにもかかわらず、実質的な大当たり確率が異なる複数の遊技状態を設ける構成としていた。

【１１３９７】
これに対して第４１制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第４０制御例と同様に、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とで実質的な大当たり確率（実質的に大当たりが確定する小当たりの確率）を異ならせているものの、第２特別図柄の抽選に完全外れの抽選結果を設けている点では第４０制御例と相違している。即ち、本第４１制御例におけるパチンコ機１０では、第２特別図柄の抽選が実行された場合における実質的な大当

たり確率（特別図柄の抽選で大当たりとなる確率と小当たりとなる確率との合算の確率）が約１／３となる（約２／３の確率で外れとなる）ように構成している点で第４０制御例と相違している。また、本第４０制御例におけるパチンコ機１０では、時短回数が共通であるにもかかわらず、時短状態に移行してから当該時短状態の間に検出した全ての始動入賞に基づく第２特別図柄の抽選が終了するまでの間における実質的な第２特別図柄の抽選回数が異なる複数の時短状態を設けている点で相違している。より具体的には、特別図柄の抽選を実質的に２回実行可能な時短状態Ａと、特別図柄の抽選を実質的に４回実行可能な時短状態Ｂと、を設ける構成としている。ここで、本第４０制御例では、時短状態の終了条件として、特別図柄の抽選回数（第１特別図柄と第２特別図柄との合計の抽選回数）が規定回数となったことに基づいて成立する第１終了条件と、小当たり遊技の実行回数が規定回数となったことに基づいて成立する第２終了条件と、第２特別図柄の抽選回数が規定回数となったことに基づいて成立する第３終了条件と、に加え、時短最終変動の実行中に第２特別図柄の保留球数が規定個数となったことに基づいて成立する第４終了条件と、が設けられている。時短状態Ａと時短状態Ｂとでは、第１～第３終了条件が共通とされ、第４終了条件のみを異ならせることにより、実質的な第２特別図柄の抽選回数を異ならせている。

【１１３９８】

また、本第４１制御例では、時短状態Ａ，Ｂに加えて、ほぼ確実に次回の大当たりまで継続する時短終了条件が設定される時短状態Ｃを設ける構成としている。加えて、本第４１制御例では、時短状態の連続回数（通常状態を介さずに時短状態と大当たりとが繰り返される繰返し回数）に制限を設ける（時短リミット回数を設定する）構成とした上で、時短状態Ｃの間に大当たりに当選した場合は、時短リミット回数に到達していない限り、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｃに設定されるように構成している。つまり、一旦時短状態Ｃが設定されると、時短リミット回数に到達するまで、時短状態Ｃと大当たりとが繰り返される（時短リミット回数分の大当たり当選がほぼ確定する）極めて有利な状態を形成する構成としている。このように構成することで、時短状態Ｃに移行することを遊技者に対して強く期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を頼向上させることができる。

【１１３９９】

更に、本第４１制御例では、時短状態Ｃにおいて、容易に保留球を上限個数まで貯めることができるように普通図柄の変動時間や特別図柄の変動時間、普通図柄の開放パターンを設定することにより、時短状態Ｃと大当たりとが時短リミット回数に到達するまで繰り返されて通常状態へと移行した際に、上限個数（４回）の第２特別図柄の保留球が保留されている状態となり易く構成している。これにより、通常状態に転落した後においても、大当たり確率が約１／３の第２特別図柄の抽選を４回実行する機会を遊技者に対して与えることができるので、時短リミット回数に到達した後における有利度合いを、他の時短状態における有利度合い以上とすることができる。具体的には、第２特別図柄の抽選を実質的に２回実行可能な時短状態Ａよりも大当たり期待度が高く、且つ、第２特別図柄の抽選を実質的に４回実行可能な時短状態Ｂと同等の大当たり期待度となる有利な状態を形成することができる。よって、時短リミット回数に到達した場合も、遊技者に対して大当たりに対する大きな期待感を抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４００】

更に、本第４１制御例では、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の小当たり遊技が開始された場合に、小当たり開始時に第２終了条件が成立する（小当たりカウンタ２０３ｓを減算する）ように構成する一方で、時短状態Ｃにおいて第２特別図柄の小当たり遊技が開始された場合には、特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した後で第２終了条件が成立する（小当たりカウンタ２０３ｓを減算する）ように構成している。このように構成することで、時短状態Ａや時短状態Ｂに移行した後において小当たりに当選した場合に、時短状態の間に実行された第２特別図柄の抽選であるか、時短状態の間に保留された第

２特別図柄の保留球に基づいて通常状態への移行後に開始された第２特別図柄の抽選であるかによらず、特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した時点の遊技状態を通常状態に設定することができる。よって、時短状態の間に開始された第２特別図柄の抽選であるか、通常状態に移行した後で開始された第２特別図柄の抽選であるかによらず、大当たり当選時の有利度合いを共通化することができる。また、時短状態Ｃにおいては、小当たり当選した場合に、当選時の遊技状態を時短状態に固定化することができるので、時短リミット回数を超えて時短状態Ｃと大当たりとの繰り返しが継続してしまったり、逆に、時短リミット回数に到達する前に時短状態Ｃと大当たりとの繰り返しが終了されてしまうことを抑制することができる。

【１１４０１】

この第４１制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、パチンコ機１０の遊技盤１３の盤面構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＯＭ２２２、およびＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第４０制御例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第４０制御例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【１１４０２】

まず、図１１８３を参照して、本第４１制御例における遊技盤１３の盤面構成について説明する。図１１８３は、本第４１制御例における遊技盤１３の正面図である。図１１８３に示した通り、本第４１制御例における遊技盤１３は、第４０制御例における遊技盤１３の盤面構成（図１１４９参照）に対して、第１入球口６４の上方に設けられていたスルーゲート６７ｃ、および可変表示装置ユニット８０の右側に設けられていた右スルーゲート６７ｒに代えて、Ｖ入賞装置６５０の上流側に単一のスルーゲート６７が設けられている点で相違している。図１１８３に示した通り、このスルーゲート６７は、右打ちにより可変表示装置ユニット８０の正面視右側の流路へと発射され、第２入球口６４０に入球しなかった遊技球が必ず通過する位置に設けられている。つまり、本第４１制御例では、第４０制御例に対して、右打ちを行わなければ普通図柄の抽選が実行されず、電動役物６４０ａが開放されることもない代わりに、右打ちを行った際のスルーゲート６７の通過割合が高くなる盤面構成となっている点で相違している。

【１１４０３】

次いで、図１１８４から図１１８６を参照して、本第４１制御例における特徴的な演出態様について説明する。まず、図１１８４を参照して、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりとなった（所謂、初当たりに当選した）後において高い割合（９５％の割合）で設定される時短状態Ａにおける演出態様について説明する。まず、図１１８４（ａ）は、時短状態Ａが開始されてから第２特別図柄の抽選が開始されるまでの間における演出態様を示した図である。

【１１４０４】

図１１８４（ａ）に示した通り、初当たり後に時短状態Ａに移行すると、主表示領域Ｄｍにおいて、冒険者のキャラクタ８０１と怪獣のキャラクタ８２１とがにらみ合う演出が実行される。また、主表示領域Ｄｍにおける上方に形成される横長略長方形形状の表示領域ＨＲ１０に対して、「右打ちで攻撃アイコンをストックしろ！」という文字が表示される。また、主表示領域Ｄｍにおける左上には、「右打ち」という文字が表示された小表示領域Ｄｍ４が形成され、主表示領域Ｄｍの左下には、後述する攻撃アイコンを表示するための攻撃アイコン表示領域ＡＩ１，ＡＩ２が形成される。更に、副表示領域Ｄｓには、「

敵を倒せばＲＵＳＨ突入！？」という文字が表示される。これらの表示内容により、右打ちを行うことにより攻撃アイコンを獲得（ストック）することができること、および怪獣のキャラクタ８２１を冒険者のキャラクタ８１１が討伐できればラッシュモード（時短状態Ａよりも有利な時短状態Ｂ）に突入するということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１４０５】

また、図１１８４（ｂ）は、時短状態Ａにおいて右打ちにより発射された遊技球が第２入球口６４０へと１個入球して第２特別図柄の変動表示が開始された場合の表示態様の一例を示した図である。図１１８４（ｂ）に示した通り、第２入球口６４０へと遊技球が入球して第２特別図柄の変動表示が開始されると、比較的狭い（遊技者が視認し難い）小表示領域Ｄｍ８において、第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示が開始される。また、冒険者のキャラクタ８１１と怪獣のキャラクタ８２１との間にタイムゲージｇａ３が表示される。このタイムゲージｇａ３は、第２特別図柄の変動開始時に残時間表示ｇａ３ａがタイムゲージｇａ３の全体を占める状態にて表示され、時間の経過に応じて残時間表示ｇａ３ａの右端が正面視左方向に移動して面積が狭くなると共に、経過時間表示ｇａ３ｂの面積が大きくなるように構成されており、第２特別図柄の変動表示が開始されてから１０秒が経過した時点で残時間表示ｇａ３ａの右端がタイムゲージｇａ３の左端に到達して残時間表示ｇａ３ａの面積が０になると共に、タイムゲージｇａ３の全体を経過時間表示ｇａ３ｂが占める表示態様となるように構成されている。タイムゲージｇａ３が０になった時点で、当該変動の抽選結果および第２特別図柄の残保留の先読み結果に応じて、怪獣のキャラクタ８２１を倒す演出が実行されるか否かが決定される。

【１１４０６】

更に、第２入球口６４０への入球に基づいて、攻撃アイコン表示領域ＡＩ１に対して、今回の第２特別図柄の抽選結果に応じた種別の攻撃アイコンが表示される。図１１８４（ｂ）の例では、「斬撃」という文字が付されたアイコンを獲得した場合を例示している。これらの表示内容により、第２特別図柄の始動入賞に基づいて、攻撃アイコンが獲得されること、および攻撃アイコンの種別によって当たりとなる（怪獣のキャラクタ８２１を倒す）期待度を示唆していることを遊技者に対して直感的に理解させることができる。なお、本第４０制御例では、「パンチ」、「蹴り」、「斬撃」、および「必殺技」の４種類のアイコンが設けられている。「パンチ」アイコンは外れの場合に選択され易く、大当たり又は小当たりの場合に選択され難くなるように構成され、「蹴り」アイコンは時短状態Ｂとなる場合に他の場合よりも選択され易くなるように構成され、「斬撃」アイコンは外れの場合に選択され難くなるように構成されている。また、「必殺技」アイコンは大当たりまたは小当たりの場合にのみ選択され得る上に、大当たり後に時短状態Ｂへと移行する場合よりも、有利な時短状態Ｃへ移行する場合の方が選択割合が高くなるように構成されている。これらの選択割合により、攻撃アイコンの種別によって第２特別図柄の抽選結果を予測させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４０７】

次に、図１１８５（ａ）を参照して、時短回数（第２特別図柄の規定抽選回数）が１回の時短状態Ａにおいて１個目の第２特別図柄の保留球を獲得した場合の表示態様について説明する。図１１８５（ａ）に示した通り、１個目の第２特別図柄の保留球を獲得し、第４終了条件（時短最終変動にて第２特別図柄の保留球数が規定個数（時短状態Ａの場合、１個）に到達したことで成立する時短終了条件）が成立して時短状態Ａが終了された状況を示した図である。図１１８５（ａ）に示した通り、時短状態Ａの１変動目（最終変動目）において第２特別図柄の保留球が１個となり、第４終了条件が成立すると、２番目の攻撃アイコン表示領域ＡＩ２に対して今回獲得した第２特別図柄の保留球の先読み結果に応じた攻撃アイコンが表示される。図１１８５（ａ）の例では、「蹴り」アイコンが獲得された場合を例示している。また、タイムゲージｇａ３に対して、「準備完了」という文字が表示される。これらの表示内容により、時短状態Ａにおいて獲得可能な第２特別図柄の

保留球を全て獲得できたということを遊技者に対して容易に理解させることができる。また、実行中の第２特別図柄の変動表示および新たに獲得した第２特別図柄の保留球のそれぞれに対応する抽選結果と、各攻撃アイコンの種別とが対応しているということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１４０８】

なお、図示については省略したが、第２特別図柄の保留球が貯まって時短状態が終了された後は、冒険者のキャラクタ８１１が攻撃アイコンを消費して怪獣のキャラクタ８２１に攻撃を仕掛ける演出が実行される。即ち、実行中の第２特別図柄の変動表示の後半（１０秒経過～３０秒経過）までの期間を用いて、攻撃アイコン表示領域ＡＩ１に表示された攻撃アイコン（図１１８５（ａ）の例では、「残撃」アイコン）を用いて怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃を仕掛ける演出が実行される。そして、第２特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりであれば、怪獣のキャラクタ８２１を倒す演出が実行される一方で、外れであれば、怪獣のキャラクタ８２１を倒しきれなかったことを報知する演出が実行される。怪獣のキャラクタ８２１を倒しきれなかった場合は、時短状態Ａにおいて獲得していた第２特別図柄の保留球を用いた第２特別図柄の変動表示が開始されると共に、攻撃アイコン表示領域ＡＩ２に表示された攻撃アイコン（図１１８５（ａ）の例では、「蹴り」アイコン）を用いて怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃を仕掛ける演出が実行される。そして、第２特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりであれば、怪獣のキャラクタ８２１を倒す演出が実行される一方で、外れであれば、怪獣のキャラクタ８２１を倒しきれなかったことを報知する演出が実行される。

【１１４０９】

次に、図１１８５（ｂ）を参照して、時短状態Ａにおいて大当たりに当選した（所謂、連チャンが発生した）場合に、当該連チャン大当たり後に移行し得る時短状態Ｂにおける演出態様について説明する。図１１８５（ｂ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの表示内容は、時短状態Ａにおける演出態様と類似しており、攻撃アイコン表示領域の個数が２個から４個になっている点でのみ相違している。これは、時短状態Ｂにおいては、第４終了条件（時短最終変動にて第２特別図柄の保留球数が規定個数に到達したことで成立する時短終了条件）として、保留球数３個に設定されていることに対応している。つまり、時短状態Ｂにおいて実行される１回の第２特別図柄の抽選と、時短状態Ｂの間に獲得できる３個の第２特別図柄の保留球に基づく３回の第２特別図柄の抽選と、の合計４回分の第２特別図柄のそれぞれに対応する攻撃アイコンを表示させるための４個の表示領域が形成される点で相違している。また、副表示領域Ｄｓの表示内容についても、時短状態Ａと時短状態Ｂとでは相違している。即ち、時短状態Ｂでは、「攻撃がヒットすればボーナス！？敵を倒せばＭＡＸ！？？」という文字が表示される。これらの表示内容により、攻撃が怪獣のキャラクタ８２１に当たるだけで大当たりとなる上に、怪獣のキャラクタ８２１を倒す演出が実行されればＭＡＸボーナスも確定するということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、ＭＡＸボーナスとは、大当たり終了後に最も有利な（実質的に次回の大当たりまで継続する）時短状態Ｃへと移行することを意味している。つまり、大当たりと時短状態Ｃとが、時短リミット回数（３回）に到達するまで繰り返される状態への移行を意味しており、合計で４回分の大当たりが保証される極めて有利な状態を形成することを示している。本第４１制御例では、第２特別図柄の大当たりとして、４ラウンドの大当たり遊技が実行され、大当たり１回あたり６００個以上の賞球の払い出しが行われるため、怪獣のキャラクタ８２１を倒す演出が実行されることにより、１６ラウンドの大当たりに当選した（２４００個以上の賞球が払い出される）のと同等の恩恵を受けることができる。よって、４ラウンドの大当たりしか搭載していないにもかかわらず、大量の賞球を一度に獲得できる機会を遊技者に対して与えることができるので、メリハリのついた遊技性を実現することができる。

【１１４１０】

図１１８６（ａ）は、時短状態Ｃに対応する大当たり（ＭＡＸボーナス）への当選が確定した（第２特別図柄の抽選で大当たりまたは小当たりＡ４１に当選した）場合の演出態

様を示した図である。図１１８６（ａ）に示した通り、ＭＡＸボーナスに当選した場合は、主表示領域Ｄｍにおいて、怪獣のキャラクタ８２１を冒険者のキャラクタ８１１が撃破する演出が実行されると共に、「７」の数字を模した第３図柄が揃う演出が実行される。また、副表示領域Ｄｓにおいて、「ＭＡＸボーナス確定！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対してＭＡＸボーナスに当選したということを容易に理解させることができる。

【１１４１１】

次に、図１１８６（ｂ）を参照して、ＭＡＸボーナスに当選してから時短リミット回数に到達するまでの間の各時短状態Ｃにおける演出態様について説明する。ここで、本第４１制御例では、最初に時短状態Ｃに対応する大当たりに当選してから時短リミット回数に到達するまでの間（ＭＡＸボーナスモード）の、４ラウンド大当たりと時短状態Ｃとが繰り返されている間の演出態様を、あたかも１の大当たりが継続しているかのような演出態様に設定する構成としている。つまり、初回の大当たり終了後の１回目の時短状態Ｃでは、４ラウンド終了後（５ラウンド前）のインターバル演出中であるかのような演出を実行し、ＭＡＸボーナスモードにおける２回目の４ラウンド大当たりでは、疑似的に大当たりの５ラウンド目から８ラウンド目であるかのような演出を実行し、２回目の時短状態Ｃでは、８ラウンド終了後（９ラウンド前）のインターバル演出中であるかのような演出を実行し、ＭＡＸボーナスモードにおける３回目の４ラウンド大当たりでは、疑似的に大当たりの９ラウンド目から１２ラウンド目であるかのような演出を実行し、３回目（時短リミット回数における最後）の時短状態Ｃでは、１２ラウンド終了後（１３ラウンド前）のインターバル演出中であるかのような演出を実行し、ＭＡＸボーナスモードにおける４回目の４ラウンド大当たりでは、疑似的に大当たりの１３ラウンド目から１６ラウンド目であるかのような演出を実行するように構成している。このように構成することで、４回の大当たりを１の大当たりかのように遊技者に思わせることができるので、実際には少ないラウンド数の大当たりが繰り返されているに過ぎないにもかかわらず、ラウンド数が極めて多く、大量の賞球を獲得可能な１の大当たりに当選したかのように思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４１２】

図１１８６（ｂ）は、ＭＡＸボーナスモードにおける大当たり間の時短状態Ｃの演出態様の一例を示した図である。図１１８６（ｂ）に示した通り、ＭＡＸボーナスモードにおける大当たり間の時短状態Ｃでは、あたかもインターバル期間中であるかのような疑似インターバル演出が実行される。即ち、冒険者のキャラクタ８１１が宝箱８１０の中から出現した大量の金貨に喜ぶ演出が実行されると共に、小表示領域Ｄｍ９に対して、次の疑似的なラウンド数を示す「５ラウンド」という文字が表示される。また、小領事領域Ｄｍ２に対して、ＭＡＸモードにおいて既に払い出された賞球数を示す文字（８００）と、ＭＡＸボーナスモードにおいてトータルで払い出される賞球数を示す文字（２４００）と、が表示される。また、小表示領域Ｄｍ８において、第２特別図柄の抽選結果を示す第３図柄の変動表示演出が比較的目立ち難い態様で実行される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ＭＡＸボーナス中」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対してあたかも１の１６ラウンド大当たりが実行されているかのように思わせることができるので、より好適な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４１３】

次に、図１１８７を参照して、本第４１制御例において初当たり発生後に時短状態Ａへと移行した場合における演出態様の推移について説明する。図１１８７は、本第４１制御例において通常モードで当選した初当たりが終了してから時短状態Ａが終了して第２特別図柄の保留球を消化し、通常モードに戻るまでの間における演出態様の経時変化を示した図である。図１１８７に示した通り、初当たりが終了すると、まず、右打ちにより保留球（攻撃アイコン）を獲得することを促す演出（保留チャージ演出、図１１８４、図１１８５（ａ）参照）が実行される。保留チャージ演出は、時短状態Ａにおける初回の第２特別

図柄の変動表示が開始されてから１０秒間が経過するまでの間実行される。なお、第２特別図柄の変動表示演出中に右打ちを継続することで、第２特別図柄に対応する始動入賞が発生して保留球数が１になると、時短状態Ａが終了されて通常状態へと移行する。

【１１４１４】

図１１８７に示した通り、保留チャージ演出が終了してから第２特別図柄の１回目の変動表示が終了するまでの間の２０秒間の期間では、怪獣のキャラクタ８２１に対して１個目の攻撃アイコン（攻撃アイコン表示領域ＡＩ１に表示された攻撃アイコン）に対応する攻撃を試みる演出が実行され、図柄の確定表示期間（１秒間）で演出結果が報知される。図１１８７では、怪獣のキャラクタ８２１の討伐に失敗したことを示す演出結果が報知された場合を例示しており、報知期間の終了と共に２回目の変動表示演出（時短状態Ａの間に獲得した第２特別図柄の保留球に基づく変動表示演出）が開始され、２個目の攻撃アイコン（攻撃アイコン表示領域ＡＩ２に表示された攻撃アイコン）に対応する攻撃を試みる演出が実行され、図柄の確定表示期間（１秒間）で演出結果が報知される。図１１８７では、２回目の攻撃でも怪獣のキャラクタ８２１の討伐に失敗したことを示す演出結果が報知された場合を例示しており、報知期間の終了後に通常モード用の演出態様に切り替わる。

【１１４１５】

このように、時短状態Ａに移行してから、時短状態Ａの間に獲得した全ての第２特別図柄の保留球を消化するまでの期間において、連続性（ストーリー性）のある一連の演出でラッシュモード（時短状態Ｂ）またはＭＡＸボーナスモードに突入するか否かの報知を行うことができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４１６】

次に、図１１８８を参照して、ＭＡＸボーナスモードにおける演出態様について説明する。図１１８８は、本第４１制御例において、時短状態Ｃへと移行する大当たりに当選してから時短リミット回数に到達するまでの間の演出態様の経時変化を示した図である。図１１８８に示した通り、時短状態において時短状態Ｃへと移行する種別の４ラウンド大当たり（大当たりＡ４１～大当たりＣ４１）が実行されると、まず、ＭＡＸボーナスモードにおける１ラウンド目～４ラウンド目に対応する演出が実行され、４ラウンド目が終了すると、疑似インターバル演出が実行される。そして、１回目の時短状態Ｃの間、疑似インターバル演出が継続され、４ラウンド大当たり（大当たりＡ４１～Ｄ４２のいずれか）に当選すると、当該４ラウンド大当たりの１ラウンド目～４ラウンド目において、疑似的に５ラウンド目～８ラウンド目であるかのような演出が実行され、疑似的な８ラウンド目が終了すると、再度疑似インターバル演出が実行される。そして、２回目の時短状態Ｃの間、疑似インターバル演出が継続され、４ラウンド大当たり（大当たりＡ４１～Ｄ４２のいずれか）に当選すると、当該４ラウンド大当たりの１ラウンド目～４ラウンド目において、疑似的に９ラウンド目～１２ラウンド目であるかのような演出が実行され、疑似的な１２ラウンド目が終了すると、再度疑似インターバル演出が実行される。そして、３回目（時短リミット回数目）の時短状態Ｃの間、疑似インターバル演出が継続され、４ラウンド大当たり（大当たりＡ４１～Ｄ４２のいずれか）に当選すると、当該４ラウンド大当たりの１ラウンド目～４ラウンド目において、疑似的に１３ラウンド目～１６ラウンド目であるかのような演出が実行され、疑似的な１６ラウンド目が終了してエンディング期間に移行すると、エンディング期間の開始時点で保留されていた第２特別図柄の保留球の数（疑似インターバル演出の実行中に継続して右打ちを行っていれば、ほぼ４個）だけ攻撃アイコンを獲得する演出が実行される。そして、大当たり終了後はエンディング期間において獲得した攻撃アイコンを消費して怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃を仕掛ける最大４回の演出が実行される。つまり、時短状態Ｂと同じ回数の演出が実行される。

【１１４１７】

このように、本第４１制御例では、大当たり終了後に時短状態Ｃが設定される場合に、最初の大当たりが開始されてから時短リミット回数に到達するまでの間の４回の大当たり遊技および３回の時短状態Ｃの間、１の大当たり遊技が継続して実行されているかのよう

な斬新な演出態様を実行する構成としているので、遊技者に対して１の契機で大量の賞球を獲得できたかのように思わせることができ、遊技にメリハリをつけることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができると共に、好適な演出態様を実現することができる。

【１１４１８】

次に、図１１８９を参照して、本第４１制御例における状態間の移行方法について説明する。ここで、図１１８９に示した通り、本第４１制御例では、主として５種類の状態（モード）が設けられている。即ち、普通図柄の通常状態（普通図柄の低確率状態、変動短縮無し、開放延長無し）に設定され、左打ちにより第１特別図柄の抽選を行わせることで遊技を進行する状態（第２特別図柄の抽選を実行不可能（困難）な状態）である通常状態Ａ（通常モード）と、普通図柄の時短状態（普通図柄の高確率状態、変動短縮有り、開放延長有り）に設定され、右打ちにより第２特別図柄の抽選を行わせることで遊技を進行する状態である時短状態Ａ（チャンスモード）、時短状態Ｂ（時短モード）、および時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）と、普通図柄の通常状態（普通図柄の低確率状態、変動短縮無し、開放延長無し）に設定され、第２特別図柄の保留球が１以上存在することにより第２特別図柄の抽選が優先的に実行される状態である通常状態Ｂ（引き戻しモード）と、が少なくとも設けられている。

【１１４１９】

ここで、時短状態Ａ～Ｃは、互いに異なる時短終了条件が設定される点で相違しており、第２入球口６４０への入球し易さについては共通となっている。より具体的には、時短状態Ａでは、特別図柄の変動表示が合計１０回実行されることで第１終了条件が成立し、小当たり遊技が１回実行されることで第２終了条件が成立し、第２特別図柄の変動表示が１回実行されることで第３終了条件が成立し、時短最終変動において第２特別図柄の保留球が１個以上貯まることで第４終了条件が成立する。このため、時短状態Ａにおいて演出による示唆に従って右打ちを行い続けた場合、１回目の第２入球口６４０への入球に基づいて第２特別図柄の抽選が実行されて時短最終変動が開始され、当該時短最終変動の間に再度第２入球口６４０へと遊技球が入球することで第２特別図柄の保留球が１個となって時短状態が終了されるように構成されている。時短状態が終了された後は、普通図柄の当たりとなっても第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（極めて困難）となるため、２個以上の第２特別図柄の保留球を獲得することも不可能となる。なお、本第４１制御例における普通図柄の当たりでは、１個の遊技球の入球を検出することで終了条件が成立し、即座に電動役物６４０ａが閉鎖（没入）されるため、時短状態における１回の普通図柄の当たりに基づく電動役物６４０ａの開放期間の間に１個の遊技球のみ入球が許容される（２個以上の遊技球の入球が排除される）構成となっている。よって、時短状態Ａへと移行した場合は、有利な第２特別図柄の抽選の機会を合計２回得ることができる。

【１１４２０】

また、時短状態Ｂは、第１～第３終了条件については時短状態Ａと共通である一方で、第４終了条件が３個に設定されている点で時短状態Ａと相違している。このため、時短状態Ｂにおいて右打ちを行い続けた場合、１回目の第２入球口６４０への入球に基づいて第２特別図柄の抽選が実行されて時短最終変動が開始され、当該時短最終変動の間に３回第２入球口６４０へと遊技球が入球することで第２特別図柄の保留球が３個となって時短状態が終了されるように構成されている。これにより、時短状態Ｂへと移行した場合は、有利な第２特別図柄の抽選の機会を合計４回得ることができる。更に、時短状態Ｃでは、特別図柄の変動表示が合計１００回実行されることで第１終了条件が成立し、小当たり遊技が１回実行されることで第２終了条件が成立し、第２特別図柄の変動表示が１００回実行されることで第３終了条件が成立し、時短最終変動において第２特別図柄の保留球が６５５３５個以上貯まることで第４終了条件が成立する。即ち、大当たりにも小当たりにも当選しない場合、特別図柄の抽選が１００回実行されるまで時短状態が継続するように構成されている。ここで、本第４１制御例では、第２特別図柄の抽選で大当たり又は小当たり

に当選する確率が約１／３に設定されているため、１００回の特別図柄の抽選に渡って大当たりにも小当たりにも当選しないという事象は、ほぼ起きることがない極めて低い確率（約２／３の１００乗）となる。よって、時短状態Ｃは、実質的に次回の大当たりが確定するまで継続する時短状態という位置づけである。

【１１４２１】

まず、図１１８９の上段を参照して、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１１８９の上段に示した通り、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態には、大当たりに当選した場合にのみ移行する可能性がある。即ち、図１１８９に示した通り、通常状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなり、９５％の割合で決定される大当たりＢ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ａに設定される。一方、通常状態Ａにおいて大当たりに当選した場合に５％の割合で決定される大当たりＡ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ａよりも時短状態Ｂの方が、有利な（実質的な大当たり確率が第１特別図柄の抽選よりも高い）第２特別図柄の抽選機会を多く獲得することができるので、通常状態Ａにおいて大当たりに当選した場合は、大当たり種別が大当たりＡ４１であることをより強く期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４２２】

次に、図１１８９の中段左側を参照して、時短状態Ａ（チャンスモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１１８９の中段左側に示した通り、時短状態Ａ（チャンスモード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１１８９の中段左側に示した通り、時短状態Ａにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１１８９の中段左側に示した通り、時短状態Ａにおいて第２特別図柄の抽選で約１／３の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ｃは、実質的に次回の大当たりまで継続する有利な遊技状態である一方で、時短状態Ｂは、有利な第２特別図柄の抽選機会が合計４回のみ与えられる遊技状態である。つまり、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、時短状態Ａにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、時短状態Ａにおいて獲得した全ての第２特別図柄の保留球を消化した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。よって、２回の第２特別図柄の抽選機会の間に約１／３の確率の大当たり又は小当たりに当選することを強く期待させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、厳密には、時短状態Ａにおいて１個目の第２特別図柄の保留球を獲得した時点で通常状態に移行しているが、図１１８９では、時短状態Ａに移行してから第２特別図柄の保留球を全て消化しきるまでの間を時短状態Ａと呼称している。

【１１４２３】

次に、図１１８９の中段右側を参照して、時短状態Ｂ（時短モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１１８９の中段右側に示した通り、時短状態Ｂ（時短モード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１１８９の中段右側に示した通り、時短状態Ｂにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。

また、図１１８９の中段右側に示した通り、時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選で約１／３の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、時短状態Ｂにおいて獲得した全ての第２特別図柄の保留球を消化した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。これらに対し、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｂに設定される（時短状態Ｂをループする）。これらにより、時短状態Ｂにおいては、時短状態Ａと同様に、時短状態の間に獲得した第２特別図柄の保留球で約１／３の確率の小当たり又は大当たりに当選することを強く願うと共に、小当たりに当選した場合は、より有利な時短状態Ｃに設定されることをより強く願わせる遊技性となるため、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４２４】

次に、図１１８９の下から２段目を参照して、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１１８９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態へは、時短リミット回数に到達した場合にのみ移行する可能性がある。より具体的には、図１１８９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて約１／３の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に到達していた場合は、遊技状態が通常状態Ｂに設定される。これに対して、図１１８９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて約１／３の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に未到達である場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｃに設定される（時短状態をループする）。このため、一旦時短状態Ｃへと移行すると、時短リミット回数に到達するまで、時短様態Ｃと大当たりとが繰り返される極めて有利な状態を形成する。なお、上述した通り、本第４１制御例では、大当たりのラウンド数が全て４ラウンドであり、時短リミット回数は３回に設定されるため、時短状態への移行契機となった大当たりを含め、４回の大当たりが保証される。つまり、１６ラウンド分の賞球を略一度に獲得できる有利な状態を形成するので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４２５】

次に、図１１８９の下段を参照して、通常状態Ｂ（引き戻しモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１１８９の下段に示した通り、通常状態Ｂ（引き戻しモード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および時短状態Ｃの間に保留されていた第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１１８９の下段に示した通り、通常状態Ｂにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１１８９の下段に示した通り、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選で約１／３の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、通常状態Ｂにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の保留球を全て消化した（全て外れとなった）場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。

【１１４２６】

このように、本第４１制御例では、時短状態Ａ、時短状態Ｂ、および通常状態Ｂにおいて、約１／３という高確率で当選する小当たりに当選した場合に、小当たり種別が小当たりＡ４１に決定されるか、小当たりＢ４１に決定されるかによって、遊技者の得られる利益を大幅に異ならせる構成としている。よって、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃへと移行し、一度に大量の賞球（１６ラウンド分の賞球）を獲得できるのか、小当たりＢ４１に当選して時短状態Ｂへと移行するのかにより注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４２７】

＜第４１制御例の電気的構成＞

次に、図１１９０（ａ）を参照して、本第４１制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図１１９０（ａ）は、本第４１制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図１１９０（ａ）に示した通り、本第４１制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第４０制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図１１５９（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａｊに代えて第１当たり乱数テーブル２０２ａｋが設けられている点、大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊに代えて大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋが設けられている点、第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊに代えて第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋが設けられている点、変動パターン選択テーブル２０２ｄｊに代えて変動パターン選択テーブル２０２ｄｋが設けられている点、時短付与テーブル２０２ｅｊに代えて時短付与テーブル２０２ｅｋが設けられている点、小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊに代えて小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋが設けられている点、時短種別選択テーブル２０２ｊａ、および普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂが削除されている点で相違している。その他の構成については上述した第４０制御例におけるＲＯＭ２０２の構成と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１４２８】

まず、図１１９１（ａ），（ｂ）を参照して、本第４１制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｋを構成する特別図柄１乱数テーブル２０２ａｋ１、および特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の詳細について説明する。図１１９１（ａ）は、本第４１制御例における特別図柄１乱数テーブル２０２ａｋ１の規定内容を示した図であり、図１１９１（ｂ）は、本第４１制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容を示した図である。まず、図１１９１（ａ）を参照して、本第４１制御例において第１特別図柄の抽選が実行された場合に参照される特別図柄１乱数テーブル２０２ａｋ１の詳細について説明する。

【１１４２９】

図１１９１（ａ）に示した通り、本第４１制御例における特別図柄１乱数テーブル２０２ａｋ１には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）対応付けて規定されている一方、小当たりと判定される乱数値は対応付けられていない。第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は約１／３２０（２０５／６５５３６）である。

【１１４３０】

次に、図１１９１（ｂ）を参照して、本第４１制御例において第２特別図柄の抽選が実行された場合に参照される特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の詳細について説明する。図１１９１（ｂ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容を示した図である。図１１９１（ｂ）に示した通り、本第４１制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～２２０４９」の２１８４５個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。

【１１４３１】
第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選と同様に、約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２１８４５個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／３（２１８４５／６５５３６）である。
【１１４３２】
このように、本第４１制御例では、第１特別図柄の抽選と第２特別図柄の抽選とで、特別図柄の大当たりと判定される乱数値を共通としておく（即ち、大当たり確率を共通としておく）一方で、小当たりと判定される乱数値を第２特別図柄の抽選にのみ設ける構成としている。そして、本第４１制御例における小当たりは、上述した第４０制御例や第３２制御例等の小当たりと同様に、小当たり遊技中に右打ちを行い続けるだけで、ほぼ確実に特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過して大当たりに当選することが可能となるように構成されているため、実質的に大当たり当選が確定する抽選結果である。よって、実質的な大当たり確率（大当たりと小当たりとの合算の確率）が、第１特別図柄の抽選では約１／３２０であるのに対し、第２特別図柄の抽選では約１／３となるため、第１特別図柄の抽選に対して、第２特別図柄の抽選の有利度合いを極めて高くすることができる。よって、メリハリのついた遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【１１４３３】
次に、図１１９１（ｃ）を参照して、本第４１制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋの詳細について説明する。図１１９１（ｃ）は、本第４１制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋの規定内容を示した図である。この大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋは、上述した第４０制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｊ（図１１５９（ｃ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、大当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１１９１（ｃ）に示した通り、本第４１制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋには、第１特別図柄の大当たり種別として、大当たりＡ４１、および大当たりＢ４１の２種類が規定されており、第２特別図柄の大当たり種別として大当たりＣ４１の１種類が規定されている。
【１１４３４】
図１１９１（ｃ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４」の範囲に対して、「大当たりＡ４１」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５～９９」の範囲に対して、「大当たりＢ４１」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ４１」は、ラウンド数が４ラウンドであり、基本的に、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂ（第２特別図柄の抽選機会が合計４回与えられる時短状態）に設定される大当たり種別である。また、「大当たりＢ４１」は、ラウンド数が４ラウンドであり、基本的に、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ａ（第２特別図柄の抽選機会が合計２回与えられる時短状態）に設定される大当たり種別である。このため、ラウンド数の面では「大当たりＡ４１」と「大当たりＢ４１」とに差が無いが、大当たり終了後の遊技状態の面では、「大当たりＡ４１」の方が有利な第２特別図柄の抽選機会を「大当たりＢ４１」よりも２回分多く付与されるため、「大当たりＡ４１」は、「大当たりＢ４１」よりも有利度合いが高い大当たり種別である。
【１１４３５】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ４１」および「大当たりＢ４１」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数がそれぞれ５個および９５個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ４１」、「大当たりＢ４１」に当選する割合は、それぞれ５％および９５％である。よって、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当

たりに当選した場合は、比較的低確率（５％の割合）で有利度合いが高い時短状態Ｂが設定され、比較的高確率（９５％の割合）で有利度合いが低い時短状態Ａが設定される。なお、これは通常状態に限った話であり、時短状態において「大当たりＡ４１」または「大当たりＢ４１」に当選した（大当たりが開始された）場合は、時短リミット回数に到達していないことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。

【１１４３６】

また、図１１９１（ｃ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、「大当たりＣ４１」が対応付けて規定されている。第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲に「大当たりＣ４１」が対応付けられているため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、必ず「大当たりＣ４１」が決定される。この「大当たりＣ４１」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される大当たり種別である。ラウンド数は他の大当たりと共通であるが、大当たり終了後の遊技状態が最も有利度合いが高い時短状態Ｃに設定されるため、全ての大当たり種別の中で最も有利な大当たり種別である。

【１１４３７】

なお、これらの「大当たりＡ４１」～「大当たりＣ４１」に加えて、本第４１制御例では「大当たりＤ４１」も設けられている。この「大当たりＤ４１」は、小当たりに当選し、小当たり種別として小当たりＢ４１が決定されて当該小当たりＢ４１の小当たり遊技中に特定領域６５０ｅ３を通過した場合に当選する大当たり種別であり、大当たり終了後の遊技状態が、基本的に時短状態Ｂに設定される４ラウンド大当たりである。なお、時短状態において「大当たりＤ４１」に当選した場合は、他の大当たり種別と同様に、時短リミット回数に到達していないことを条件として時短状態Ｃが設定される。

【１１４３８】

次に、図１１９２（ａ）を参照して、本第４１制御例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋの詳細について説明する。この第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋは、普通図柄の抽選が実行された場合に、普通図柄の当否を判定するために参照されるデータテーブルである。図１１９２（ａ）に示した通り、本第４１制御例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋでは、普通図柄の通常状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）として、「０」が対応付けられている。これに対し、普通図柄の時短状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）として、第２当たり乱数カウンタＣ４の取り得る値の全範囲（「０～２９９」の範囲）が対応付けられている。このため、本第４１制御例では、普通図柄の通常状態において右打ちを行っても、低確率（１／３００の確率）でしか普通図柄の当たりに当選しない一方で、普通図柄の時短状態では、普通図柄の抽選が実行される毎に普通図柄の当たりに当選する。よって、普通図柄の時短状態においては、右打ちを行うことにより容易に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができる。

【１１４３９】

次に、図１１９２（ｂ）を参照して、本第４１制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｋの詳細について説明する。この変動パターン選択テーブル２０２ｄｋは、上述した第４０制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｊ（図１１６１（ｂ）参照）と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１１９２（ｂ）は、この変動パターン選択テーブル２０２ｄｋの構成を示したブロック図である。

【１１４４０】

図１１９２（ｂ）に示した通り、本第４１制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｋは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｋ１と、時短状態Ａ，Ｂにおいて特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短用テーブル２０２ｄｋ２と、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）において特別

図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照されるＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３と、で少なくとも構成されている。まず、図１１９２（ｃ）を参照して、通常用テーブル２０２ｄｋ１の詳細について説明する。

【１１４４１】

図１１９２（ｃ）は、本第４１制御例における通常用テーブル２０２ｄｋ１の規定内容を示した図である。図１１９２（ｃ）に示した通り、通常用テーブル２０２ｄｋ１には、実行される特別図柄抽選に用いられる特別図柄種別と、実行される特別図柄抽選の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に対応させて異なる変動パターン（変動時間）が規定されている。つまり、特別図柄種別と、抽選結果とに応じて異なる変動時間の変動パターンを決定可能に構成している。具体的には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が７秒の「外れ」が、「１４０～１４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「ガセ外れ」が、「１５０～１７９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「１８０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。

【１１４４２】

また、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「３０～１８９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１４０秒の「スペシャルリーチ」が規定されている。

【１１４４３】

つまり、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選では、抽選結果が外れである場合の方が、抽選結果が大当たりである場合よりも、短い変動時間の変動パターンが決定され易くなるように構成しており、より長い変動時間の変動パターンが決定された場合の方が、特別図柄抽選の結果が大当たりである可能性が高くなるように構成している。このように構成することで、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、抽選結果が外れである特別図柄変動が長時間継続してしまい、単位時間あたりに実行される特別図柄抽選の実行回数が極端に少なくなってしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１４４４】

また、単位時間あたりに実行される特別図柄抽選の実行回数が少なくなる場合、即ち、長時間の特別図柄変動が実行される場合には、大当たりに当選していることへの期待感を高めることができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１４４５】

一方、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「ガセ外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「小当たり」が規定されている。

【１１４４６】

なお、本第４１制御例では、通常状態において普通図柄の抽選が実行されて普通図柄の当たりに当選したとしても、普通図柄の当たりとして第２入球口６４０へと遊技球を入球

させることが不可能（困難）な電動役物６４０ａの開閉パターン（０．１秒間のショート開放）が設定されるため、通常状態において普通図柄の抽選を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることはできない。本第４１制御例において通常状態で第２特別図柄の抽選が実行される状況としては、時短状態（時短状態Ａ～Ｃのいずれか）において右打ちにより第２特別図柄の保留球を１又は複数獲得した後で、当該保留球を消化する前に時短終了条件が成立して時短状態が終了された場合である。つまり、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて継続して右打ちを行い続けることで第４終了条件が成立した後、および時短状態Ｃにおいて継続して右打ちを行い続けて保留球を獲得した状態で時短リミット回数に到達して通常状態Ｂに移行した場合である。これらの場合の第２特別図柄の変動表示期間は、いずれも、冒険者のキャラクタ８１１が攻撃アイコンを使用して怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃を仕掛ける演出が実行される期間であるため、抽選結果によらずに変動時間を２０秒間に固定化することにより、演出期間を確実に確保することができる。よって、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１４４７】

次に、図１１９３（ａ）を参照して、上述した時短用テーブル２０２ｄｋ２の詳細について説明する。図１１９３（ａ）は、この時短用テーブル２０２ｄｋ２の規定内容を示した図である。図１１９３（ａ）に示した通り、時短用テーブル２０２ｄｋ２には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短当たり」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、短時間（０．５秒間）の変動時間が終了するように構成している。これは、第１特別図柄の保留球を１以上保持した状態で有利度合いが高い第２特別図柄の抽選を実行可能な時短状態に移行した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく第１特別図柄の変動表示演出（実質的な大当たり期待度が高い第２特別図柄の抽選が実行できない期間）が長く継続してしまい、遊技者をやきもきさせてしまうことを防止する趣旨である。

【１１４４８】

一方、図１１９３（ａ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容としては、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒の「ロング外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒の「ロング当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が３０秒の「ロング小当たり」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、第２特別図柄の変動時間を３０秒間に固定化することができる。よって、保留チャージ演出（図１１８４（ｂ）、図１１８５（ｂ）参照）の演出期間である１０秒間と、冒険者のキャラクタ８１１が怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃アイコンに対応する攻撃を行う演出の演出期間である２０秒間と、を抽選結果によらずに確保することができる。

【１１４４９】

次に、図１１９３（ｂ）を参照して、上述したＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３の詳細について説明する。図１１９３（ｂ）は、このＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３の規定内容を示した図である。図１１９３（ｂ）に示した通り、ＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３には、時短用テーブル２０２ｄｋ２と同様に、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した

変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短当たり」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、短時間（０．５秒間）の変動時間が終了するように構成している。これは、時短用テーブル２０２ｄｋ２を参照する場合と同様に、第１特別図柄の保留球を１以上保持した状態で時短状態Ｃに移行した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく第１特別図柄の変動表示演出（実質的な大当たり期待度が高い第２特別図柄の抽選が実行できない期間）が長く継続してしまい、遊技者をやきもきさせてしまうことを防止する趣旨である。

【１１４５０】

一方、図１１９３（ｂ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容として、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短小当たり」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、第２特別図柄の変動時間を５秒間に固定化することができる。変動時間を時短用テーブル２０２ｄｋ２よりも短くしているのは、上述した通り、時短状態Ｃに設定されている間は、大当たり遊技中であるかのような演出態様（疑似インターバル演出）を設定することにより、大当たりと時短状態Ｃが時短リミット回数に到達するまで繰り返されている間の期間を、遊技者に対して１の大当たりが継続しているかのように思わせる演出動作としているためである。つまり、変動時間を長くしすぎると、疑似インターバル演出の演出期間が長くなり過ぎてしまい、遊技者に対して不信感を抱かせてしまうと共に時短状態Ｃにおける遊技が間延びしてしまう虞があるため、５秒間という比較的短い期間を変動時間に設定することで、１回１回の変動時間を短く抑え、疑似インターバル演出の演出期間を最低限としている。一方で、各変動時間を短くしすぎてしまうと、時短リミット回数に到達した時点で保留球が上限個数まで貯まった状態となり難くなってしまい、通常状態Ｂにおける第２特別図柄の抽選機会が減ってしまう可能性があるため、０．１秒や０．５秒等の極端に短い変動時間を避ける構成としている。これにより、時短状態Ｃにおいて適切に第２特別図柄の保留球を貯めることを可能としつつ、時短リミット回数に到達するまでの間を１の大当たりと遊技者に思わせ易くすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４５１】

次に、図１１９４（ａ）を参照して、本第４１制御例における時短付与テーブル２０２ｅｋの詳細について説明する。この時短付与テーブル２０２ｅｋは、上述した第４０制御例における時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１６２（ｂ）参照）と同様に、時短状態を設定する際に、当該時短状態の設定契機に応じた時短状態の終了条件を設定するために参照されるデータテーブルである。図１１９４（ａ）は、この時短付与テーブル２０２ｅｋの規定内容を示した図である。

【１１４５２】

図１１９４（ａ）に示した通り、本第４１制御例における時短付与テーブル２０２ｅｋには、大当たり種別毎に、時短終了条件の成立有無を判定する際に参照される各カウンタの値が対応付けられて規定されている。なお、図１１９４（ａ）に示した通り、本第４１制御例では、時短終了条件の成立有無を判定するためのカウンタとして、時短カウンタ２０３ｈと、小当たりカウンタ２０３ｓと、特図２カウンタ２０３ｔと、規定保留球数カウンタ２０３ｋａと、の４つが設けられている。時短カウンタ２０３ｈは、時短状態が設定された後で実行された特別図柄の抽選回数に対応する終了条件（第１終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態が設定された後で実行された小当たり遊技の回数に対応する終了条件（第２終了条件）の成

立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態が設定された後で実行された第２特別図柄の抽選回数に対応する終了条件（第３終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、規定保留球数カウンタ２０３ｋａは、時短状態の最後の変動表示の実行中に貯まった第２特別図柄の保留球の個数に対応する終了条件（第４終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタである。

【１１４５３】

図１１９４（ａ）に示した通り、本第４１制御例では、大当たり種別として「大当たりＡ４１」～「大当たりＤ４１」の４種類が設けられており、時短付与テーブル２０２ｅｋには、各大当たり種別に対して、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、東頭２カウンタ２０３ｔの値、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値（即ち、第１から第４終了条件）が対応付けて規定されている。

【１１４５４】

図１１９４（ａ）に示した通り、大当たり種別として「大当たりＡ４１」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「３」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「大当たりＡ４１」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１０回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第２特別図柄の抽選回数１回が設定され、第４終了条件として、時短最終変動における第２特別図柄の保留球数３個が設定されている。つまり、時短状態Ｂに設定される。この時短状態Ｂにおいて継続的に右打ちを行い続けた場合、ほぼ、第４終了条件が成立して時短状態が終了される。つまり、時短状態Ｂに移行した後、１回目の第２特別図柄の変動表示（時短最終変動）の実行中に３個の第２特別図柄の保留球を獲得することで第４終了条件が成立する場合がほとんどであるため、時短状態Ｂに移行した場合は、ほぼ、４回の第２特別図柄の抽選機会を得ることができる。

【１１４５５】

一方、図１１９４（ａ）に示した通り、「大当たりＡ４１」当選時の遊技状態が時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「６５５３６」がそれぞれ規定されている。このため、時短状態において「大当たりＡ４１」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第２特別図柄の抽選回数１００回が設定され、第４終了条件として、時短最終変動における第２特別図柄の保留球数６５５３６個が設定されている。つまり、時短状態Ｃに設定される。時短状態Ｃでは、大当たり又は実質的に大当たりが確定する小当たりに約１／３の確率で当選するため、時短状態の最終変動まで時短状態が継続する可能性はほぼ無く、第２終了条件、または大当たり当選に基づいて時短状態が終了される。

【１１４５６】

また、図１１９４（ａ）に示した通り、大当たり種別として「大当たりＢ４１」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「１」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「大当たりＢ４１」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１０回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第２特別図柄の抽選回数１回が設定され、第４終了条件として、時短最終変動における第２特別図柄の保留球数１個が設定されている。つまり、時短状態Ａに設定される。この時短状態Ａにおいて継続的に右打ちを行い続けた場合、ほぼ、第４終了条件が成立して時短状態が終了される。つまり、時短状態Ａに移行した後、１回目の第２特別図柄の変動表示（時短最終変動）の実行中に１個の第２特別図柄の保留球を獲得することで第４終了条件が成立する場合がほとんどであるため、時短状態Ｂに移行した場合は、

ほぼ、２回の第２特別図柄の抽選機会を得ることができる。
【１１４５７】
一方、図１１９４（ａ）に示した通り、「大当たりＢ４１」当選時の遊技状態が時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「６５５３６」がそれぞれ規定されている。つまり、「大当たりＡ４１」と同様に、時短状態Ｃが設定される。
【１１４５８】
また、図１１９４（ａ）に示した通り、大当たり種別として「大当たりＣ４１」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「６５５３６」がそれぞれ規定されている。つまり、時短状態において「大当たりＡ４１」や「大当たりＢ４１」に当選した場合と同様に、時短状態Ｃが設定される。
【１１４５９】
更に、図１１９４（ａ）に示した通り、大当たり種別として「大当たりＤ４１」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「３」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「大当たりＤ４１」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１０回が設定され、第２終了条件として小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第２特別図柄の抽選回数１回が設定され、第４終了条件として、時短最終変動における第２特別図柄の保留球数３個が設定されている。つまり、時短状態Ｂに設定されて、ほぼ、４回の第２特別図柄の抽選機会を得ることができる。
【１１４６０】
一方、図１１９４（ａ）に示した通り、「大当たりＤ４１」当選時の遊技状態が時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値「６５５３６」がそれぞれ規定されている。つまり、「大当たりＡ４１」と同様に、時短状態Ｃが設定される。
【１１４６１】
このように、本第４１制御例では、通常状態において大当たりに当選した場合に、大当たり種別に応じて、時短状態Ａ～Ｃのいずれかが設定される一方で、時短状態において大当たりに当選した場合には、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が最も有利な時短状態Ｃに設定されるように構成している。これにより、通常状態において直接または小当たり経由で大当たりに当選した場合は、大当たりの種別に注目して遊技を行わせることができる。また、時短状態において大当たりに当選した場合は、最も有利な時短状態Ｃが確定していることに対して安心感を抱かせながら遊技を行わせることができる。なお、上述した通り、時短状態Ｃにおいて大当たりに当選したとしても、時短リミット回数に到達していれば、大当たり終了後の遊技状態が通常状態に設定される。
【１１４６２】
ここで、本第４１制御例においては、特別図柄の抽選結果が大当たりとなった場合には大当たり図柄の停止表示時の遊技状態を大当たり当選時の遊技状態として判断する一方で、特別図柄の抽選結果が小当たりとなって特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過したことに基づいて大当たりに当選した場合には、特定領域６５０ｅ３を通過した時点の遊技状態を大当たり当選時の遊技状態として判断する構成としている。そして、上述した通り、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいては、通常の遊技方法（継続的に右打ちを行い続ける遊技方法）を行っている限り、ほぼ、１回目の第２特別図柄の変動表示の実行中に第４終了条件が成立して時短状態が終了される。つまり、１回目の第２特別図柄の変動停止タイミングよりも前に時短状態が終了されていることとなるため、１回目の特別図柄の抽選結果が大当

たりであっても小当たりであっても、大当たり当選時の遊技状態を通常状態として取り扱うことができる。つまり、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて、最初の第２特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりになった場合と、最初の第２特別図柄の抽選結果が外れとなり、通常状態に移行してから実行された第２特別図柄の保留球に基づく第２特別図柄の抽選結果が大当たりまたは小当たりになった場合とで、有利度合いを共通とすることができる。つまり、最初の第２特別図柄の抽選で大当たりまたは小当たりになったとしても、時短状態における大当たりとはならない（時短状態Ｃへの移行が確定しない）ため、時短状態において実行される１回目の第２特別図柄の抽選と、通常状態に移行した後で実行される２回目移行の第２特別図柄の抽選とで、同等の期待感を遊技者に対して抱かせることができる。よって、１回目の第２特別図柄の抽選が外れとなった場合でも、遊技者に対して過剰な失望感を抱かせてしまうことを抑制することができる。

【１１４６３】

なお、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて第４終了条件が成立しないように遊技を行った（保留球数が規定個数未満となるように遊技を行った）場合は、時短状態において開始された１回目の第２特別図柄の変動停止タイミングまで時短状態を継続させることができるが、この遊技方法の場合、実質的な大当たり確率が極めて高い（約１／３の確率）第２特別図柄の抽選機会を１回以上損してしまうこととなる。また、小当たり開始時には第２終了条件が成立してしまうため、特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過するよりも前に通常状態に移行済みとなるため、時短状態のまま大当たりを開始させることができるのは、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合のみとなる。更に、この場合、時短状態中の大当たりとして取り扱われ、時短リミット回数に対する残回数が１減算されるため、通常の遊技方法で時短状態Ｃに移行する場合に比較して、時短状態Ｃの設定回数が１回少なくなり、結果的に大当たり回数を１回損する結果となる。このため、リスクが大きい（第２特別図柄の抽選回数を１回以上損する）割にリターンが少ない（時短状態Ｃに設定されるが、通常よりも大当たり回数が１回分少なくなる）結果となるため、第４終了条件が成立しないように遊技を行う変則的な遊技方法を実行しようと遊技者に思わせ難くすることができる。よって、変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができる。

【１１４６４】

次に、図１１９４（ｂ）を参照して、本第４１制御例における小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋの詳細について説明する。この小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋは、上述した第４０制御例における小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊ（図１１６３（ａ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で小当たりとなった場合に小当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１１９４（ｂ）は、この小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋの規定内容を示した図である。図１１９４（ｂ）に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～５３」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＡ４１」が対応付けて規定されており、小当たり種別カウンタＣ５の値が「５４～９９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＢ４１」が対応付けて規定されている。ここで、「小当たりＡ４１」も、「小当たりＢ４１」も、小当たり遊技の実行中に右打ちを行い続けるだけで、容易に特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させることができる小当たり種別であり、「小当たりＡ４１」において特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球した場合は大当たりＣ４１に当選する一方で、「小当たりＢ４１」において特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球した場合は大当たりＤ４１に当選するように構成されている。大当たりＣ４１は、上述した通り、大当たり当選時の遊技状態によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される大当たり種別であり、大当たりＤ４１は、通常状態において当選した場合に大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される一方で、時短状態において当選した場合に大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される大当たり種別である。また、いずれの大当たりも、大当たりのラウンド数が４ラウンドである。よって、大当たりＣ４１の方が大当たりＢ４１よりも有利度合いが高くなるので、小当たりＡ４１の方が、小当たりＢ４１よりも有利度合いが高い小当たり種別となる。

【１１４６５】

小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＡ４１」および「小当たりＢ４１」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）がそれぞれ５４個および４６個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に「小当たりＡ４１」および「小当たりＢ４１」が決定される割合は、それぞれ５４％（５４／１００）および４６％（４６／１００）である。

【１１４６６】

次に、図１１９０（ｂ）を参照して、本第４１制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図１１９０（ｂ）は、本第４１制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。図１１９０（ｂ）に示した通り、本第４１制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第４０制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図１１５９（ｂ）参照）に対して、特図２カウンタ２０３ｔと、規定保留球数カウンタ２０３ｋａと、時短リミットカウンタ２０３ｋｂと、減算待機フラグ２０３ｋｃと、当選時状態格納エリア２０３ｋｄと、が追加されている点で相違している。また、普電作動カウンタ２０３ｊａが削除されている点でも相違している。

【１１４６７】

特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態中に実行される第２特別図柄の変動回数が規定回数に到達したか否かを判別するために用いられるカウンタである。この特図２カウンタ２０３ｔは、初期値が０に設定されており、大当たり終了時に、大当たり種別に応じたカウンタ値が設定される。また、この特図２カウンタ２０３ｔは、時短状態において第２特別図柄の変動停止タイミングとなる毎に、カウンタ値が１ずつ減算して更新され（図１１９９のＳ６３４Ａ参照）、値が０に更新されることで時短状態の第３終了条件が成立したと判定され、遊技状態が通常状態に設定される（図１１９９のＳ６３７Ａ参照）。

【１１４６８】

規定保留球数カウンタ２０３ｋａは、時短状態における最終変動において第２特別図柄の保留球数が規定個数に到達したか否かを判別するために用いられるカウンタである。この規定保留球数カウンタ２０３ｋａは、初期値が０に設定されており、大当たり終了時に、大当たり種別に応じたカウンタ値が設定される。時短状態の最終変動では、新たな第２特別図柄の始動入賞を検出する毎に、第２特別図柄の保留球数が規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値以上となったか否か判別し（図１２０２のＳ８５２Ａ参照）、第２特別図柄の保留球数が規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値以上となった場合に、第４終了条件が成立したと判定され、遊技状態が通常状態に設定される（図１２０２のＳ８５３Ａ参照）。

【１１４６９】

時短リミットカウンタ２０３ｋｂは、時短リミット回数に到達したか否かを判別するために用いられるカウンタである。この時短リミットカウンタ２０３ｋｂは、初期値が０に設定されており、通常状態において大当たりに当選し、大当たり終了後の遊技状態が時短状態に設定された場合に値が３に設定される。また、この時短リミットカウンタ２０３ｋｂは、時短状態において大当たりに当選する毎に値が１ずつ減算して更新され（図１２０６のＳ２４０９Ａ参照）、値が０に更新された場合に、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が通常状態に設定される。これにより、時短状態の連続回数を固定回数に制限することができる。

【１１４７０】

減算待機フラグ２０３ｋｃは、小当たり当選時に、小当たりカウンタ２０３ｓの減算を待機させたか否かを示すフラグである。この減算待機フラグ２０３ｋｃがオンであれば、小当たりカウンタ２０３ｓの減算を待機させた（小当たり当選タイミングでは小当たりカウンタ２０３ｋｃを減算しなかった）ことを意味し、オフであれば、減算を待機させていないことを意味する。この減算待機フラグ２０３ｋｃは、小当たり当選時の状態が時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）である場合にオンに設定される（図１２００のＳ７１２Ａ参照）。小当たり遊技中に特定領域６５０ｅ３への遊技球の入球を検出した場合は、この減算待機フラグ２０３ｋｃの状態がオンである場合に、待機させていた小当たりカウンタ

２０３ｓの減算処理を実行するように構成されている（図１２０４のＳ１４１３Ａ参照）。このように構成することで、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選しても、小当たり開始時でなく特定領域６５０ｅ３への遊技球の入球後に小当たりカウンタ２０３ｓを減算することができるので、特定領域６５０ｅ３への遊技球の入球時の遊技状態を、確実に、時短状態とすることができる。

【１１４７１】

当選時状態格納エリア２０３ｋｄは、大当たり当選時の遊技状態を示すデータを格納するための記憶領域である。この当選時状態格納エリア２０３ｋｄには、特別図柄の抽選結果が大当たりとなった場合に、大当たり図柄の停止タイミングにおける遊技状態を示すデータが格納される。また、特別図柄の抽選結果が小当たりとなった場合に、小当たり遊技において特定領域６５０ｅ３へと遊技球が入球したタイミングにおける遊技状態を示すデータが格納される（図１２０４のＳ１４１１Ａ参照）。大当たり終了時には、この当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されたデータと、大当たり種別と、に応じた遊技状態（時短終了条件）が時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１９４（ａ）参照）から読み出されて設定される。

【１１４７２】

次に、図１１９５（ａ）を参照して、本第４１制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の詳細について説明する。図１１９５（ａ）は、本第４１制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示すブロック図である。図１１９５（ａ）に示した通り、本第４１制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第４０制御例におけるＲＯＭ２２２の構成（図１１６４（ａ）参照）に対して、攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａが追加されている点、および待機演出選択テーブル２２２ｋｊが削除されている点で相違している。

【１１４７３】

攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａは、時短状態Ａ、時短状態Ｂ、および通常状態Ｂにおいて、実行されるバトル演出において獲得する攻撃アイコンの種別を選択するために参照されるデータテーブルである。この攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａの詳細について、図１１９５（ｂ）を参照して説明する。

【１１４７４】

図１１９５（ｂ）は、この攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａの規定内容を示した図である。図１１９５（ｂ）に示した通り、この攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａは、第２特別図柄の抽選結果毎に、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値の範囲と、攻撃アイコンの種別とが、対応付けて規定されている。より具体的には、図１１９５（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の抽選結果が大当たり又は小当たりＡ４１である場合に、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～１９」の範囲に対して、「必殺技」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「２０～８９」の範囲に対して、「斬撃」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「９０～９９」の範囲に対して、「蹴り」アイコンが対応付けて規定されている。よって、抽選結果が大当たり又は小当たりＡ４１である場合（即ち、有利な時短状態Ｃへと移行する場合）は、比較的高い割合で「斬撃」アイコンが選択され、低い割合で「蹴り」アイコンが選択される。

【１１４７５】

また、図１１９５（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の抽選結果が小当たりＢ４１である場合（有利度合いが時短状態Ｃよりも低い時短状態Ｂへと移行する場合）に、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４」の範囲に対して、「必殺技」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５～４９」の範囲に対して、「斬撃」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～８４」の範囲に対して、「蹴り」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「８５～９９」の範囲に対して、「パンチ」アイコンが対応付けて規定されている。よって、抽選結果が小当たりＢ４１である場合（即ち、有利度合いが比較的低い時短状態Ｂへと移行する場合）は、時短状態Ｃへと移行する場合よりも、「必殺技」アイコンや「斬撃

」アイコンの選択割合が低くなると共に、「蹴り」アイコンの選択割合が高くなる。また、時短状態Ｃに移行する場合には選択されない「パンチ」アイコンの選択割合が１５％に設定されている。

【１１４７６】

また、図１１９５（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の抽選結果が外れである場合に、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、「斬撃」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「１０～４９」の範囲に対して、「蹴り」アイコンが対応付けて規定され、第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「５０～９９」の範囲に対して、「パンチ」アイコンが対応付けて規定されている。よって、抽選結果が外れである場合は、「必殺技」アイコンが選択されなくなる。つまり、「必殺技」アイコンは、出現した時点で大当たり又は小当たりが確定する。また、大当たりまたは小当たりに当選する場合よりも、「パンチ」アイコンの選択割合が大幅に上昇する。

【１１４７７】

このように、第２特別図柄の抽選結果に応じて、攻撃アイコンの種別毎の選択比率を異ならせる構成としているため、時短状態Ａや時短状態Ｂにのいて第２入球口６４０への始動入賞を検出する毎に、表示される攻撃アイコンの種別により注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４７８】

次に、図１１９６を参照して、本第４１制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図１１９６は、本第４１制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示すブロック図である。図１１９６に示した通り、本第４１制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第４０制御例におけるＲＡＭ２２３の構成（図１１６４（ｂ）参照）に対して、アイコン情報格納エリア２２３ｋａと、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂと、が追加されている点、および待機演出フラグ２２３ｊａ、待機演出回数カウンタ２２３ｊｂ、待機期間タイマ２２３ｊｃが削除されている点で相違している。

【１１４７９】

アイコン情報格納エリア２２３ｋａは、攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａ（図１１９５（ｂ）参照）を参照して選択した攻撃アイコンの種別を示すデータを格納しておくための記憶領域である。時短状態Ａや時短状態Ｂ、通常状態Ｂにおいては、この攻撃アイコン格納エリア２２３ｋａに格納されているデータを参照して、第２特別図柄の保留球が０になるまで（または大当たり当選まで）のそれぞれの第２特別図柄の変動表示演出において冒険者のキャラクタ８１１に対して行わせる攻撃の内容を設定する（図１２１１のＳ４４２４Ａ参照）。これにより、保留チャージ演出（図１１８４（ｂ）、図１１８５（ｂ）参照）において獲得された攻撃アイコンの種別と異なる内容の攻撃を行う演出を設定してしまうことを防止することができるので、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１４８０】

残当たり回数カウンタ２２３ｋｂは、時短状態Ｃへと移行した場合において、時短リミット回数に到達するまでの残りの大当たり回数を示すカウンタである。この残当たり回数カウンタ２２３ｋｂは、初期値が０に設定されており、時短状態Ｃへと移行する大当たりに当選した場合に値が４に設定される（図１２０９のＳ３６２３Ａ参照）。また、この残値回数カウンタ２２３ｋｂは、大当たりのエンディング期間となる毎に値が１ずつ減算して更新される。本第４１制御例では、この残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値を参照して、時短リミット回数に到達するまでの各大当たりにおける各ラウンド数の表示を、１の大当たり遊技が継続しているかのような表示に設定している。

【１１４８１】

＜第４１制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図１１９７から図１２０６を参照して、本第４１制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１１９７を参照して、本第４１制御例における特別図柄判定処理４１（Ｓ２３１Ａ）の詳細について

説明する。この特別図柄判定処理４１（Ｓ２３１Ａ）は、上述した第４０制御例における特別図柄判定処理４０（図１１６７参照）に代えて実行される処理であり、特別図柄判定処理４０（図１１６７参照）と同様に、特別図柄の抽選を実行するための処理である。

【１１４８２】

この第４１制御例における特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）のうち、Ｓ３０１～Ｓ３０５の各処理では、それぞれ第４０制御例における特別図柄判定処理４０（図１１９７参照）のＳ３０１～Ｓ３０５の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）では、Ｓ３０３の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ３０３：Ｎｏ）、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるかを判別し（Ｓ３２１Ａ）、抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ３２１Ａ：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ３２２Ａ）、小当たり種別カウンタＣ５の値に対応する小当たり種別を示す小当たり図柄を第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる小当たり図柄としてセットして（Ｓ３２３Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ３２１Ａの処理において、今回の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ３２１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３２２Ａ，Ｓ３２３Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１４８３】

次に、図１１９８を参照して、本第４１制御例における特別図柄変動パターン選択処理４１（Ｓ２３２Ａ）の詳細について説明する。この特別図柄変動パターン選択処理４１（Ｓ２３２Ａ）は、上述した第４０制御例における特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）に代えて実行される処理であり、特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）と同様に、特別図柄の抽選結果に応じた第１図柄の変動パターンを選択するための処理である。図１１９８は、この特別図柄変動パターン選択処理４１（Ｓ２３２Ａ）を示すフローチャートである。

【１１４８４】

この第４１制御例における特別図柄変動パターン選択処理４１（図１１９８参照）のうち、Ｓ４０１～Ｓ４０８の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）のＳ４０１～Ｓ４０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における特別図柄変動パターン選択処理４１（図１１９８参照）では、Ｓ４０１の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ４０１：Ｎｏ）、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ４３１Ａ）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ４３１Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋ（図１１９４（ｂ）参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ４３２Ａ）、処理をＳ４０３へと移行する。これに対し、Ｓ４３１Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ４３１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ４３２Ａの処理をスキップして、処理をＳ４０３へと移行する。

【１１４８５】

次に、図１１９９を参照して、本第４１制御例における時短更新処理４１（Ｓ２３３Ａ）の詳細について説明する。この時短更新処理４１（Ｓ２３３Ａ）は、上述した第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）に代えて実行される処理であり、時短更新処理４０（図１１７１参照）と同様に、時短終了条件を判定するための各種カウンタ値を更新すると共に、時短終了条件が成立したと判定した場合に時短状態を終了させるための処理である。

【１１４８６】

この第４１制御例における時短更新処理４１（図１１９９参照）のうち、Ｓ６０１～Ｓ６０５、およびＳ６０７の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）のＳ６０１～Ｓ６０５、およびＳ６０７の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における時短更新処理４１（図１１９９参照）では、Ｓ６０５の処理が終了すると、特図２カウンタ２０３ｔ、小当たりカウンタ２０３ｓ

、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値を全て０にリセットして（Ｓ６３１Ａ）、処理をＳ６０７へと移行する。このＳ６３１Ａの処理は、時短終了条件を判定するための各種カウンタとして、第４０制御例に対して、普電作動カウンタ２０３ｋａが削除され、特図２カウンタ２０３ｔと規定保留球数カウンタ２０３ｋａとが追加されていることに伴う変更である。

【１１４８７】

また、本第４１制御例における時短更新処理４１（図１１９９参照）では、Ｓ６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合に（Ｓ６０４：Ｎｏ）、次いで、小当たりの当選回数に基づく時短終了条件（第２終了条件）の成立有無を判別するための小当たり時短更新処理４１を実行する（Ｓ６３２Ａ）。この小当たり時短更新処理４１（Ｓ６３２Ａ）の詳細については、図１２００を参照して後述する。Ｓ６３２Ａの処理が終了すると、次いで、今回停止表示を設定した特別図柄の変動表示が第２特別図柄の変動表示であるか否かを判別し（Ｓ６３３Ａ）、第２特別図柄の変動表示ではない（第１特別図柄の変動表示である）と判別した場合は（Ｓ６３３Ａ：Ｎｏ）、時短終了条件が成立する可能性がないため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ６３３Ａの処理において、第２特別図柄の変動表示であると判別した場合は（Ｓ６３３Ａ：Ｙｅｓ）、特図２カウンタ２０３ｔのカウンタ値を１減算して更新し（Ｓ６３４Ａ）、減算後の特図２カウンタ２０３ｔのカウンタ値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｓ６３５Ａ）。

【１１４８８】

Ｓ６３５Ａの処理が終了すると、次いで、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０であるか否かを判別し（Ｓ６３６Ａ）、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０であると判別した場合は（Ｓ６３６Ａ：Ｙｅｓ）、時短状態を終了させて通常状態に設定するためのＳ６３７Ａ～Ｓ６３９Ａの各処理を実行する。具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇに対して通常状態を示すデータを格納することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６３７Ａ）、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値を全て０にリセットすることで時短終了条件をクリアする（Ｓ６３８Ａ）。次に、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ６３９Ａ）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ６３６Ａの処理において、減算後の特図２カウンタ２０３ｔの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ６３６Ａ：Ｎｏ）、時短状態が継続することを意味するため、Ｓ６３７Ａ～Ｓ６３９Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１４８９】

次に、図１２００を参照して、上述した小当たり時短更新処理４１（Ｓ６３２Ａ）の詳細について説明する。図１２００は、この小当たり時短更新処理４１（Ｓ６３２Ａ）を示すフローチャートである。この小当たり時短更新処理４１（Ｓ６３２）が実行されると、まず、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ７０１）、小当たりではないと判別した場合は（Ｓ７０１：Ｎｏ）、小当たり当選回数に基づく時短終了条件（第２終了条件）が成立し得ないため、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ７０１の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ７０１：Ｙｅｓ）、次いで、現在の状態がＭＡＸボーナスモード（時短状態Ｃ）であるか否かを判別する（Ｓ７１１Ａ）。

【１１４９０】

Ｓ７１１Ａの処理において、現在の状態がＭＡＸボーナスモード（時短状態Ｃ）であると判別した場合は（Ｓ７１１Ａ：Ｙｅｓ）、減算待機フラグ２０３ｋｃをオンに設定することで小当たりカウンタ２０３ｓの減算を待機（遅延）させ（Ｓ７１２Ａ）、本処理を終了する。時短状態Ｃにおいて、小当たりカウンタ２０３ｓの減算を待機させることで、Ｖ入賞（特定領域６５０ｅ３への遊技球の入球）の発生タイミングまで時短状態を継続させることができる。つまり、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選し、当該小当たり遊技中にＶ入賞が発生して大当たりに当選した場合に、当該大当たりの当選時の遊技状態を時短状態とすることができる。つまり、時短状態Ｃにおいて大当たりに当選した場合に、大当たり種別によらず、時短状態Ｃが設定されるように構成することができる。よって、時短状

態Ｃに一旦移行すると、時短リミット回数に到達するまで、時短状態Ｃと大当たりとが繰り返される極めて有利な状況を確実に成立させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４９１】

一方、Ｓ７１１Ａの処理において、現在の遊技状態がＭＡＸボーナスモード（時短状態Ｃ）ではないと判別した場合は（Ｓ７１１Ａ：Ｎｏ）、小当たりカウンタ２０３ｓのカウンタ値を１減算して更新し（Ｓ７０２）、減算後のカウンタ値が０になったか否かを判別する（Ｓ７０３）。Ｓ７０３の処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０に更新されたと判別した場合は（Ｓ７０３）、時短状態を終了させて通常状態に設定するためのＳ７０４，Ｓ７１３Ａ、およびＳ７０６の各処理を実行する。具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇに対して通常状態を示すデータを格納することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ７０４）、時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値を全て０にリセットすることで時短終了条件をクリアする（Ｓ７１３Ａ）。次に、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ７０６）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ７０３Ａの処理において、減算後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ７０３Ａ：Ｎｏ）、時短状態が継続することを意味するため、Ｓ７０４，Ｓ７１３Ａ、およびＳ７０６の各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１４９２】

次に、図１２０１を参照して、始動入賞処理４１（Ｓ１１２Ａ）の詳細について説明する。この始動入賞処理４１（Ｓ１１２Ａ）は、上述した第４０制御例（および第３２制御例）における始動入賞処理（図９７０参照）に代えて実行される処理であり、始動入賞処理（図９７０参照）と同様に、第１入球口６４、第２入球口６４０のいずれかに遊技球が入球（始動入賞）したか場合に、入球に応じて取得された各カウンタ値を、入球を検出した入球口の種別に応じた記憶領域（第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａまたは第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂ）に格納するための処理である。図１２０１は、この始動入賞処理４１（Ｓ１１２Ａ）を示すフローチャートである。

【１１４９３】

この第４１制御例における始動入賞処理４１（図１２０１参照）のうち、Ｓ８０１～Ｓ８０９、およびＳ８１１～Ｓ８１３の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例（および第３２制御例）における始動入賞処理（図９７０参照）のＳ８０１～Ｓ８０９、およびＳ８１１～Ｓ８１３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における始動入賞処理４１（図１２０１参照）では、Ｓ８０９の処理が終了すると、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が４より小さい値であるか否かを判別し（Ｓ８２１Ａ）、４より小さい値でない（即ち、上限値の４である）と判別した場合は（Ｓ８２１Ａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方で、Ｓ８２１Ａの処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値が４より小さい値であると判別した場合は（Ｓ８２１Ａ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）に１を加算して更新し（Ｓ８１１）、次いで、更新後の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値が時短終了条件（第４終了条件）を満たすか否かを判定するための保留球数判別処理を実行して（Ｓ８２２Ａ）、処理をＳ８１２へと移行する。この保留球数判別処理（Ｓ８２２Ａ）の詳細については、図１２０２を参照して後述する。

【１１４９４】

このように、本第４１制御例では、第２特別図柄の保留球数の上限個数を、第１特別図柄と同様に、４個に設定する構成としている。これにより、時短状態が終了されて通常状態へと戻る際の第２特別図柄の残保留球数にバリエーションを持たせることができるので、時短状態の種別に応じて実質的な第２特別図柄の抽選機会を異ならせ、大当たりとなる可能性も異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１４９５】

次に、図１２０２を参照して、上述した保留球数判別処理（Ｓ８２２Ａ）の詳細について説明する。図１２０２は、保留球数判別処理（Ｓ８２２Ａ）を示すフローチャートである。保留球数判別処理（Ｓ８２２Ａ）では、まず、特図２カウンタ２０３ｔの値が１であるか否かを判別し（Ｓ８５１Ａ）、特図２カウンタ２０３ｔの値が１ではないと判別した場合は（Ｓ８５１Ａ：Ｎｏ）、時短状態における最終変動ではないことを意味し、保留球数によらず時短状態が終了され得ない（または、そもそも時短状態ではない）ことを意味するため、そのまま本処理を終了する。

【１１４９６】

一方、Ｓ８５１Ａの処理において、特図２カウンタ２０３ｔの値が１であると判別した場合は（Ｓ８５１：Ｙｅｓ）、次いで、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が、規定保留球数カウンタ２０３ｋａのカウンタ値以上の値であるか否かを判別し（Ｓ８５２Ａ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が規定保留球数カウンタ２０３ｋａのカウンタ値未満の値であれば（Ｓ８５２Ａ：Ｎｏ）、時短状態の終了条件（第４終了条件）が成立していないことを意味するため、そのまま本処理を終了する。これに対して、Ｓ８５２Ａの処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ２）が規定保留球数カウンタ２０３ｋａのカウンタ値以上であると判別した場合は（Ｓ８５２Ａ：Ｙｅｓ）、第４終了条件が成立したことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ８５２Ａ～Ｓ８５５Ａの各処理を実行する。具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇに対して通常状態を示すデータを格納することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ８５３Ａ）、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値を全て０にリセットすることで時短終了条件をクリアする（Ｓ８５４Ａ）。次に、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ８５５Ａ）、本処理を終了する。

【１１４９７】

この保留球数判別処理（図１２０２参照）を実行することにより、時短状態の最終変動において保留球数が規定個数に到達したことに基づいて時短状態を終了させることができる。よって、時短状態Ａと、時短状態Ｂとで、時短回数が同一（第２特別図柄の抽選回数１回）であるにもかかわらず、実質的な第２特別図柄の抽選回数を異ならせることができる。即ち、時短状態Ａでは、時短状態に移行してから第２特別図柄の保留球を全て消化するまでに、第２特別図柄の抽選を最大でも２回しか実行させることができない一方で、時短状態Ｂでは、時短状態に移行してから第２特別図柄の保留球を全て消化するまでに、第２特別図柄の抽選を最大４回実行させることが可能となるので、時短状態の種別毎の有利度合いを大きく異ならせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１４９８】

次に、図１２０３を参照して、本第４１制御例における普通図柄変動処理４１（Ｓ１１３Ａ）の詳細について説明する。この普通図柄変動処理４１（Ｓ１１３Ａ）は、上述した第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１１７２参照）と同様に、普通図柄の抽選を実行すると共に、普通図柄の当たりとなった場合に電動役物６４０ａの開閉制御を設定するための処理である。図１２０３は、この普通図柄変動処理４１（Ｓ１１３Ａ）を示すフローチャートである。

【１１４９９】

この第４１制御例における普通図柄変動処理４１（図１２０３参照）のうち、Ｓ１１０１～Ｓ１１１１，Ｓ１１１３，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７、およびＳ１１２１の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における普通図柄変動処理４０（図１１７２参照）のＳ１１０１～Ｓ１１１１，Ｓ１１１３，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７、およびＳ１１２１の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における普通図柄変動処理４０（図１２０３参照）では、Ｓ１１１１の処理において、今回の普通図柄の抽選結果が普通図柄の当たりであると判別した場合に（Ｓ１１１１：Ｙｅｓ）、普通図柄の当たり用の第２図柄表示装置８４の表示態様を設定して（Ｓ１１１２）、処理をＳ１１３１Ａへと移行する

。Ｓ１１３１Ａの処理では、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ１１３１Ａ）、時短状態であると判別した場合は（Ｓ１１３１Ａ：Ｙｅｓ）、普通図柄の変動時間を１秒間に設定して（Ｓ１１３２Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ１１３１Ａの処理において、時短状態ではない（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ１１３１Ａ：Ｎｏ）、普通図柄の変動時間を１０秒間に設定して（Ｓ１１３３Ａ）、本処理を終了する。

【１１５００】

また、本第４１制御例における普通図柄変動処理４１（図１２０３参照）では、Ｓ１１１７の処理において、今回の普通図柄の抽選結果が普通図柄の当たりであると判別した場合に（Ｓ１１１７：Ｙｅｓ）、次いで、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ１１３４Ａ）、時短状態ではない（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ１１３４Ａ：Ｎｏ）、電動役物６４０ａの開放パターン（変位パターン）を、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な０．１秒間×１回のみ開放される開放パターン（変位パターン）に設定して（Ｓ１１３５Ａ）、処理をＳ１１２１へと移行する。一方で、Ｓ１１３４Ａの処理において、現在の遊技状態が時短状態であると判別した場合は（Ｓ１１３４Ａ：Ｙｅｓ）、電動役物６４０ａの開放パターン（変位パターン）を、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な２秒間×１回の開放パターン（変位パターン）に設定して（Ｓ１１３６Ａ）、処理をＳ１１２１へと移行する。

【１１５０１】

このように、本第４１制御例では、時短状態（普通図柄の高確率状態）において、通常状態（普通図柄の低確率状態）よりも、普通図柄の変動時間が短くなると共に、普通図柄の当たり時の伝導役物６４０ａの開放時間が長くなるように構成している。即ち、時短状態では、普通図柄の当たり確率が上昇し、変動短縮機能が作動し、開放延長機能が作動するように構成している。これにより、時短状態において、より効率良く第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができる。

【１１５０２】

次に、図１２０４を参照して、本第４１制御例におけるＶ通過処理４１（Ｓ１１４Ａ）の詳細について説明する。このＶ通過処理４１（Ｓ１１４Ａ）は、上述した第４０制御例（および第３２制御例）におけるＶ通過処理（図９７５参照）に代えて実行される処理であり、Ｖ通過処理（図９７５参照）と同様に、Ｖ入賞装置６５０のＶ入賞スイッチ（特定領域）６５０ｅ３に対する遊技球の通過を監視して、遊技球の通過を検出した場合に対応する制御を行うための処理である。

【１１５０３】

この第４１制御例におけるＶ通過処理４１（図１２０４参照）のうち、Ｓ１４０１～Ｓ１４０７、およびＳ１４０９の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例（および第３２制御例）におけるＶ通過処理（図９７５参照）のＳ１４０１～Ｓ１４０７、およびＳ１４０９の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例におけるＶ通過処理４１（図１２０４参照）では、Ｓ１４０７の処理が終了すると、次いで、現在の遊技状態を示すデータを当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納し（Ｓ１４１１Ａ）、減算待機フラグ２０３ｋｃがオンであるか否かを判別する（Ｓ１４１２Ａ）。Ｓ１４１２Ａの処理において、減算待機フラグ２０３ｋｃがオフであると判別した場合は（Ｓ１４１２Ａ：Ｎｏ）、小当たり開始時に既に小当たりカウンタ２０３ｓを更新済みであり、これ以上小当たりカウンタ２０３ｓの値を更新する必要がないことを意味するため、そのまま本処理を終了する。

【１１５０４】

これに対して、Ｓ１４１２Ａの処理において、減算待機フラグ２０３ｋｃがオンであると判別した場合は（Ｓ１４１２Ａ：Ｙｅｓ）、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選したことにより、小当たり開始時に小当たりカウンタ２０３ｓの更新を待機（遅延）させていたことを意味するため、小当たりカウンタ２０３ｓの値を１減算して更新し（Ｓ１４１３Ａ）、減算後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０になったか否かを判別する（Ｓ１４１４

Ａ）。Ｓ１４１４Ａの処理において、小当たりカウンタ２０３ｓの値が０になったと判別した場合は（Ｓ１４１４Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり遊技の実行回数が規定回数に到達して第２終了条件が成立したことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ１４１４Ａ～Ｓ１４１７Ａの各処理を実行する。具体的には、遊技状態格納エリア２０３ｇに対して通常状態を示すデータを格納することで遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ１４１５Ａ）、時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの値を全て０にリセットすることで時短終了条件をクリアする（Ｓ１４１６Ａ）。次に、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ１４１７Ａ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ１４１４Ａの処理において、減算後の小当たりカウンタ２０３ｓの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ１４１４Ａ：Ｎｏ）、第２終了条件が成立していないことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ１４１４Ａ～Ｓ１４１７Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１５０５】

このＶ通過処理４１（図１２０４参照）を実行することにより、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選した場合に、小当たり開始時に待機させておいた小当たりカウンタ２０３ｓの更新処理を、Ｖ入賞（特定領域６５０ｅ３への入球）が発生した後で実行することができる。つまり、大当たり当選時の遊技状態を示すデータとして、時短状態に対応するデータを当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納した後で、時短状態を終了させることができるので、大当たり終了後の遊技状態を設定する際に、時短状態中に大当たり当選した場合の遊技状態を設定することができる。つまり、大当たり種別によらず、時短状態Ｃを設定することができるので、時短状態Ｃに移行した場合に、時短リミット回数に到達するまで時短状態Ｃと大当たりとを確実に繰り返させることができる。よって、時短状態Ｃへと移行した場合に、１の１６ラウンド大当たりに当選したかのように遊技者に思わせることができるので、メリハリのついた遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５０６】

次に、図１２０５を参照して、本第４１制御例における大当たり制御処理４１（Ｓ１８２１Ａ）の詳細について説明する。この大当たり制御処理４１（Ｓ１８２１Ａ）は、上述した第４０制御例（および第３２制御例）における大当たり制御処理（図９７９参照）に代えて実行される処理であり、大当たり制御処理（図９７９参照）と同様に、大当たり遊技の実行中における各種制御を行うための処理である。

【１１５０７】

この第４１制御例における大当たり制御処理４１（図１２０５参照）のうち、Ｓ１９０１～Ｓ１９１３の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例（および第３２制御例）における大当たり制御処理（図９７９参照）のＳ１９０１～Ｓ１９１３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における大当たり制御処理４１（図１２０５参照）では、Ｓ１９１３の処理において、エンディング期間の終了タイミングであると判別した場合は（Ｓ１９１３：Ｙｅｓ）、大当たり終了後の遊技状態を設定するための大当たり終了時処理４１を実行して（Ｓ１９２１Ａ）、本処理を終了する。この大当たり終了時処理４１（Ｓ１９２１Ａ）の詳細について、図１２０６を参照して説明する。

【１１５０８】

図１２０６は、大当たり終了時処理４１（Ｓ１９２１Ａ）を示すフローチャートである。大当たり終了時処理４１（Ｓ１９２１Ａ）では、まず、時短リミットカウンタ２０３ｋｂのカウンタ値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ２４０１Ａ）、時短リミットカウンタ２０３ｋｂのカウンタ値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ２４０１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されているデータが通常状態に対応するデータであるか否かを判別する（Ｓ２４０２Ａ）。Ｓ２４０２Ａの処理において、当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されているデータが通常状態に対応するデータであると判別した場合は（Ｓ２４０２Ａ：Ｙｅｓ）、時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値を０クリアして（Ｓ２４０３Ａ）、処理をＳ２４０４Ａへと移行する。一方で、

Ｓ２４０１Ａの処理において、時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値が０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ２４０１Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２４０２Ａ，Ｓ２４０３Ａの各処理をスキップして、処理をＳ２４０４Ａへと移行する。

【１１５０９】

Ｓ２４０４Ａの処理では、実行中の大当たり種別を読み出して（Ｓ２４０４Ａ）、読み出した大当たり種別と、当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されているデータに対応する遊技状態と、に応じた時短終了条件を時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１９４（ａ）参照）に規定されているデータの中から特定し（Ｓ２４０５Ａ）、特定した時短終了条件（各種カウンタ値）を時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａのそれぞれに対して設定する（Ｓ２４０６Ａ）。Ｓ２４０５Ａの処理が終了すると、時短状態を設定したか否かを判別し（Ｓ２４０７Ａ）、時短状態を設定したと判別した場合は（Ｓ２４０７Ａ：Ｙｅｓ）、時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値に３を設定して（Ｓ２４０８Ａ）、処理をＳ２４１４Ａへと移行する。一方で、Ｓ２４０７Ａの処理において、時短状態を設定して以内と判別した場合は（Ｓ２４０７Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２４０８Ａの処理をスキップして、処理をＳ２４１４Ａへと移行する。

【１１５１０】

これらに対し、Ｓ２４０２Ａの処理において、当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されているデータが通常状態に対応するデータではない（時短状態に対応するデータである）と判別した場合は（Ｓ２４０２Ａ：Ｎｏ）、時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値を１減算して更新し（Ｓ２４０９Ａ）、減算後の時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値が０になったか否かを判別する（Ｓ２４１０Ａ）。Ｓ２４１０Ａの処理において、減算後の時短リミットカウンタ２０３ｋｂの値が０ではないと判別した場合は（Ｓ２４１０Ａ：Ｎｏ）、実行中の大当たり種別を読み出して（Ｓ２４１１Ａ）、読み出した大当たり種別と、当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納されているデータに対応する遊技状態と、に応じた時短終了条件を時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１９４（ａ）参照）に規定されているデータの中から特定する（Ｓ２４１２Ａ）。次いで、特定した時短終了条件（各種カウンタ値）を時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａのそれぞれに対して設定し（Ｓ２４１３Ａ）、処理をＳ２４１４Ａへと移行する。

【１１５１１】

Ｓ２４１４Ａの処理では、時短カウンタ２０３ｈ、小当たりカウンタ２０３ｓ、特図２カウンタ２０３ｔ、および規定保留球数カウンタ２０３ｋａの各地を示す時短上方コマンドを設定し（Ｓ２４１４Ａ）、次いで、大当たり終了後の状態に対応する状態コマンドを設定する（Ｓ２４１５Ａ）。そして、大当たりの終了を設定し（Ｓ２４１６Ａ）、大当たり中フラグ２０３ｋをオフに設定して（Ｓ２４１７Ａ）、本処理を終了する。

【１１５１２】

この大当たり終了時処理４１（図１２０６参照）を実行することにより、時短リミット回数を加味して大当たり終了後の遊技状態を好適に設定することができる。

【１１５１３】

＜第４１制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１２０７から図１２１１を参照して、本第４１制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２０７を参照して、本第４１制御例におけるコマンド判定処理４１（Ｓ３１２１Ａ）の詳細について説明する。このコマンド判定処理４１（Ｓ３１２１Ａ）は、上述した第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）に代えて実行される処理であり、コマンド判定処理４０（図１１７４参照）と同様に、主制御装置１１０から受信した各種コマンドの種別に応じた制御を行うための処理である。

【１１５１４】

この第４１制御例におけるコマンド判定処理４１（図１２０７参照）のうち、Ｓ３２０

１～Ｓ３２０９，Ｓ３２１１，Ｓ３２１３，Ｓ３２１８、およびＳ３２３１Ａの各処理では、それぞれ上述した第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）のＳ３２０１～Ｓ３２０９，Ｓ３２１１，Ｓ３２１３，Ｓ３２１８、およびＳ３２３１Ａの各処理と同一の処理が実行される。

【１１５１５】

また、本第４１制御例におけるコマンド判定処理４１（図１２０７参照）では、Ｓ３２０９の処理において、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に入賞情報コマンドが含まれていると判別した場合に（Ｓ３２０９：Ｙｅｓ）、受信した入賞情報コマンドにより通知された先読み結果に応じた制御を行うための入賞情報コマンド処理４１を実行して（Ｓ３２４１Ａ）、処理をＳ３２１８へと移行する。この入賞情報コマンド処理４１（Ｓ３２４１Ａ）の詳細については、図１２０８を参照して後述する。

【１１５１６】

また、本第４１制御例におけるコマンド判定処理４１（図１２０７参照）では、Ｓ３２１３の処理において、主制御装置１１０から受信したコマンドの中に当たり関連のコマンドが含まれていると判別した場合に（Ｓ３２１３：Ｙｅｓ）、第４０制御例における当たり関連処理４０（Ｓ３２３２Ａ）に代えて、当たり関連処理４１を実行して（Ｓ３２４２Ａ）、処理をＳ３２１８へと移行する。なお、図示については省略したが、この当たり関連処理４１（Ｓ３２４２Ａ）では、第４０制御例における当たり関連処理（Ｓ３２３２Ａ）に対して、大当たり関連処理４０（図１１７７参照）に代えて大当たり関連処理４１（Ｓ３５１１Ａ）が実行される点でのみ相違している。この大当たり関連処理４１（Ｓ３５１１Ａ）の詳細については、図１２０９を参照して後述する。

【１１５１７】

次に、図１２０８を参照して、上述した入賞情報コマンド処理４１（Ｓ３２４１Ａ）の詳細について説明する。図１２０８は、この入賞情報コマンド処理４１（Ｓ３２４１Ａ）を示すフローチャートである。入賞情報コマンド処理４１（Ｓ３２４１Ａ）では、まず、主制御装置１１０から受信した入賞情報コマンドにより通知された入賞情報を入賞情報格納エリア２２３ａに格納し（Ｓ５８０１Ａ）、次いで、現在の遊技状態が時短モード（時短状態Ａ）、またはチャンスモード（時短状態Ｂ）であるか否かを従遊技状態格納エリア２２３ｇのデータを参照して判別する（Ｓ５８０２Ａ）。Ｓ５８０２Ａの処理において、時短モード（時短状態Ａ）またはチャンスモード（時短状態Ｂ）であると判別した場合は（Ｓ５８０２Ａ：Ｙｅｓ）、攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａ（図１１９５（ｂ）参照）を読み出して（Ｓ５８０３Ａ）、読み出した攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａから、入賞情報コマンドにより通知された入賞情報に対応する抽選結果と、第１演出カウンタ２２３ｆ１のカウンタ値と、に応じた攻撃アイコン種別を決定する（Ｓ５８０４Ａ）。そして、決定した攻撃アイコンの種別を報知する（攻撃アイコン表示領域ＡＩ１～ＡＩ４のいずれかに表示させる）報知演出の実行を設定し（Ｓ５８０５Ａ）、決定した攻撃アイコンの種別に応じてアイコン情報格納エリア２２３ｋａの情報を更新し（Ｓ５８０６Ａ）、本処理を終了する。

【１１５１８】

一方、Ｓ５８０２Ａの処理において、現在の遊技状態が時短モードでもチャンスモードでもないと判別した場合は（Ｓ５８０２Ａ：Ｎｏ）、今回受信した入賞情報コマンドが、第１特別図柄の始動入賞に基づく入賞情報コマンドであるか否かを判別し（Ｓ５８０７Ａ）、第１特別図柄の始動入賞に基づく入賞情報コマンドであると判別した場合は（Ｓ５８０７：Ｙｅｓ）、次に、現在の遊技状態が通常モード（通常状態、且つ、第２特別図柄の保留球無し）であるか否かを判別し（Ｓ５８０８Ａ）、通常モードであると判別した場合は（Ｓ５８０８Ａ：Ｙｅｓ）、先読み演出の実行可否の抽選を行う（Ｓ５８０９Ａ）。次いで、抽選結果に応じた表示態様の保留球数図柄の表示を設定して（Ｓ５８１０Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ５８０７Ａの処理において、第２特別図柄の始動入賞を検出したと判別した場合（Ｓ５８０７Ａ：Ｎｏ）、およびＳ５８０８Ａの処理において、通常モードではないと判別した場合は（Ｓ５８０８Ａ：Ｎｏ）、先読み演出の実行可否の抽選を

行わずに、そのまま本処理を終了する。これにより、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて獲得した第２特別図柄の残保留を消化している間は、第１特別図柄の始動入賞を検出したとしても、先読み演出を設定せずに、第２特別図柄の残保留に基づくバトル演出に注目させることができる。また、時短状態Ｃにおいて、疑似インターバル演出の実行中に先読み演出が実行されてしまい、大当たりのインターバル遊技中ではないと遊技者に察知されてしまうことを抑制することができる。よって、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１５１９】

次に、図１２０９を参照して、本第４１制御例における大当たり関連処理４１（Ｓ３５１１Ａ）の詳細について説明する。この大当たり関連処理４１（Ｓ３５１１Ａ）は、上述した第４０制御例における大当たり関連処理４０（図１１７７参照）に代えて実行される処理であり、大当たり関連処理４０（図１１７７参照）と同様に、主制御装置１１０から大当たり関連のコマンドを受信した場合に、受信したコマンドの種別に応じた制御を行うための処理である。図１２０９は、この大当たり関連処理４１（Ｓ３５１１Ａ）を示すフローチャートである。

【１１５２０】

この第４１制御例における大当たり関連処理４１（図１２０９参照）のうち、Ｓ３６０３，Ｓ３６０５，Ｓ３６０６，Ｓ３６１０、およびＳ３６１４の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における大当たり関連処理（図１１７７参照）のＳ３６０３，Ｓ３６０５，Ｓ３６０６，Ｓ３６１０、およびＳ３６１４の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における大当たり関連処理４１（図１２０９参照）では、Ｓ３６０３の処理において、主制御装置１１０からオープニングコマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ３６０３：Ｙｅｓ）、大当たり種別と残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値とに応じたオープニング演出を決定する（Ｓ３６２１Ａ）。即ち、Ｓ３６２１Ａの処理では、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が０であれば、大当たり種別が大当たりＣ４１である場合にＭＡＸボーナスの開始を示すオープニング演出を決定する一方で、大当たりＣ４１以外の大当たり種別であれば、４ラウンド大当たり用のオープニング演出を決定する。また、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が１以上である場合は、ＭＡＸボーナスモード中の大当たりであることを意味し、複数回の大当たりで１の大当たりに見せる演出を実行中であることを意味するため、大当たり当選前の時短状態Ｃから引き続いて疑似インターバル演出が継続する演出態様のオープニング演出を決定する。

【１１５２１】

Ｓ３６２１Ａの処理が終了すると、決定した演出態様に対応する表示用オープングコマンドを設定し（Ｓ３６２２Ａ）、今回の大当たりがＭＡＸボーナスモードにおける初回の大当たりであるか否かを判別する（Ｓ３６２３Ａ）。Ｓ３６２３Ａの処理において、ＭＡＸボーナスモードの初回の大当たりであると判別した場合は（Ｓ３６２３Ａ：Ｙｅｓ）、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂに４を設定して（Ｓ３６２４Ａ）、処理をＳ３６１４へと移行する。一方、Ｓ３６２３Ａの処理において、今回の大当たりがＭＡＸボーナスモードの初回の大当たりではないと判別した場合は（Ｓ３６２３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ３６２４Ａの処理をスキップして、処理をＳ３６１４へと移行する。

【１１５２２】

また、本第４１制御例における大当たり関連処理４１（図１２０９参照）では、Ｓ３６０６の処理が終了すると、Ｓ３６０６の処理で抽出したラウンド数と、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値とに応じたラウンド数を示す表示用ラウンド数コマンドを設定して（Ｓ３６２５Ａ）、本処理を終了する。Ｓ３６２５Ａの処理では、残当たり回数カウンタ２２３ｂの値が０又は４である場合に、実際のラウンド数を設定し、残当たり回数カウンタ２２３ｂの値が３である場合に、実際のラウンド数よりも４ラウンド分多いラウンド数を設定し、残当たり回数カウンタ２２３ｂの値が２である場合に、実際のラウンド数よりも８ラウンド分多いラウンド数を設定し、残当たり回数カウンタ２２３ｂの値が１である場合に、実際のラウンド数よりも１２ラウンド分多いラウンド数を設定するように構成され

ている。これにより、ＭＡＸボーナスモードにおける４回の大当たりにおいて、ラウンド数をリセットせずに前回の大当たりからラウンド数を引き継いで表示させることができるので、ＭＡＸボーナスモードに移行してから時短リミット回数に到達するまでの間において、１の１６ラウンド大当たりが継続しているかのように遊技者に思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５２３】

また、本第４１制御例における大当たり関連処理４１（図１２０９参照）では、Ｓ３６１０の処理において、主制御装置１１０からエンディングコマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ３６１０：Ｙｅｓ）、エンディング演出を設定するためのエンディングコマンド処理４１を実行して（Ｓ３６２６Ａ）、本処理を終了する。このエンディングコマンド処理４１（Ｓ３６２６Ａ）の詳細について、図１２１０を参照して説明する。

【１１５２４】

図１２１０は、上述したエンディングコマンド処理４１（Ｓ３６２６Ａ）を示すフローチャートである。図１２１０に示した通り、本第４１制御例におけるエンディングコマンド処理４１（Ｓ３６２６Ａ）では、まず、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ５９０１Ａ）、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂのカウンタ値が０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ５９０１Ａ：Ｎｏ）、ＭＡＸボーナスモード中の大当たりではないことを意味するため、当たり種別に応じたエンディング演出を示す表示用エンディングコマンドを設定して（Ｓ５９０２Ａ）、本処理を終了する。

【１１５２５】

一方、Ｓ５９０１Ａの処理において、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が０より大きい値（１以上の値）であると判別した場合は（Ｓ５９０１Ａ：Ｙｅｓ）、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値を１減算して更新し（Ｓ５９０３Ａ）、減算後のカウンタ値が０になったか否かを判別する（Ｓ５９０４Ａ）。Ｓ５９０４Ａの処理において、減算後の残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が０に更新されていないと判別した場合は（Ｓ５９０４Ａ：Ｎｏ）、大当たり終了後もＭＡＸボーナスモードが継続することを意味するため、エンディング演出として、疑似インターバル演出が実行されるエンディング演出の開始を設定して（Ｓ５９０５Ａ）、本処理を終了する。

【１１５２６】

これに対し、Ｓ５９０４Ａの処理において、減算後の残当たり回数カウンタ２２３ｋｂの値が０になったと判別した場合は（Ｓ５９０４Ａ：Ｙｅｓ）、入賞情報格納エリア２２３ａの各データを読み出して（Ｓ５９０６Ａ）、最も古い入賞情報に対応する攻撃アイコンを、攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａを参照して決定し（Ｓ５９０７Ａ）、決定した攻撃アイコンに応じてアイコン情報格納エリア２２３ｋａのデータを更新する（Ｓ５９０８Ａ）。Ｓ５９０８Ａの処理が終了すると、次いで、前回攻撃アイコンの種別を決定するための判別において参照した入賞情報よりも新しい入賞情報に対応する攻撃アイコンを、攻撃アイコン選択テーブル２２２ｋａを参照して決定し（Ｓ５９０９Ａ）、決定した攻撃アイコンに応じてアイコン情報格納エリア２２３ｋａのデータを更新する（Ｓ５９１０Ａ）。

【１１５２７】

Ｓ５９１０Ａの処理が終了すると、全ての入賞情報に対応する攻撃アイコンの種別を決定したか否かを判別し（Ｓ５９１１Ａ）、全ての入賞情報に対応する攻撃アイコンの種別を決定していないと判別した場合は（Ｓ５９１１Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ５９０９へと戻すことにより、全ての入賞情報に対応する攻撃アイコンの種別を決定してアイコン情報格納エリア２２３ｋａのデータに反映されるまで、Ｓ５９０９～Ｓ５９１１Ａの各処理を繰り返し実行する。そして、Ｓ５９１１Ａの処理において、全ての入賞情報に対応する攻撃アイコンの種別を決定したと判別した場合は（Ｓ５９１１Ａ：Ｙｅｓ）、アイコン情報格納エリア２２３ｋａに格納されたそれぞれのデータに対応する各攻撃アイコンを報知する演出態様のエンディング演出の実行を設定して（Ｓ５９１２Ａ）、本処理を終了する。

【１１５２８】
　Ｓ５９１２Ａの処理によって、時短リミット回数に到達してＭＡＸボーナスモードが終了され、最大４個の第２特別図柄の保留球を消化する通常状態Ｂへと移行する場合に、通常状態Ｂにおいて使用される最大４個の攻撃アイコンの種別をエンディング演出によって予め遊技者に対して報知しておく斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【１１５２９】
　次に、図１２１１を参照して、本第４１制御例における変動演出設定処理４１（Ｓ４３１１Ａ）の詳細について説明する。この変動演出設定処理４１（Ｓ４３１１Ａ）は、上述した第４０制御例における変動演出設定処理４０（図１１８０参照）に代えて実行される処理であり、変動演出設定処理４０（図１１８０参照）と同様に、特別図柄の変動表示に同期させて実行する第３図柄の変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。図１２１１は、この変動演出設定処理４１（Ｓ４３１１Ａ）を示すフローチャートである。
【１１５３０】
　この第４１制御例における変動演出設定処理４１（図１２１１参照）のうち、Ｓ４４０１、およびＳ４４０３の各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における変動演出設定処理４０（図１１８０参照）のＳ４４０１、およびＳ４４０３の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４１制御例における変動演出設定処理４１（図１２１１参照）では、Ｓ４４０３の処理において、今回受信した変動パターンコマンドが第２特別図柄に対応する変動パターンコマンドではないと判別した場合に（Ｓ４４０３：Ｎｏ）、変動パターンコマンドにより通知された当該変動の抽選結果と変動パターンコマンドから抽出した変動パターンとに基づいて変動表示演出の演出態様を決定し（Ｓ４４２１Ａ）、本処理を終了する。
【１１５３１】
　一方、Ｓ４４０３の処理において、今回受信した変動パターンコマンドが第２特別図柄に対応する変動パターンコマンドであると判別した場合は（Ｓ４４０３：Ｙｅｓ）、現在がＭＡＸボーナスモードであるか否かを判別し（Ｓ４４２２Ａ）、ＭＡＸボーナスモードではないと判別した場合には（Ｓ４４２２Ａ：Ｎｏ）、アイコン情報格納エリア２２３ｋａの各データのうち最も古いデータを読み出して（Ｓ４４２３Ａ）、読み出したデータと今回の抽選結果とに応じた変動演出の演出態様を設定する（Ｓ４４２４Ａ）。例えば、アイコン情報格納エリア２２３ｋａのデータが残撃アイコンに対応するデータであり、今回の第２特別図柄の抽選結果が外れであれば、残撃アイコンに対応する残撃攻撃を怪獣のキャラクタ８２１に対して仕掛け、当該残撃攻撃が避けられて外れが報知される演出態様が決定される。Ｓ４４２４Ａの処理が終了すると、アイコン情報格納エリア２２３ｋａから今回読み出したデータを削除して（Ｓ４４２５Ａ）、本処理を終了する。始動入賞時にアイコン情報格納エリア２２３ｋａに予め格納すると共に攻撃アイコン表示領域ＡＩ１～ＡＩ４に表示しておいた攻撃アイコンと同じ攻撃アイコンに対応する攻撃を確実に行わせることができる。よって、より好適な演出態様を実現することができる。
【１１５３２】
　これに対し、Ｓ４４２２Ａの処理において、現在の遊技状態がＭＡＸボーナスモードであると判別した場合は（Ｓ４４２２Ａ：Ｙｅｓ）、疑似インターバル演出の実行中の変動表示態様（即ち、主表示領域Ｄｍのほとんどの領域で疑似インターバル演出を行い、小表示領域Ｄｍ８において比較的目立たない態様で変動表示演出を実行する演出対応）を設定し（Ｓ４４２６Ａ）、本処理を終了する。
【１１５３３】
　以上説明した通り、第４１制御例におけるパチンコ機１０では、時短回数（特別図柄の抽選回数の合計回数の規定回数、第２特別図柄の抽選回数の合計回数の規定回数）が共通であるにもかかわらず、時短状態に移行してから当該時短状態の間に検出した全ての始動入賞に基づく第２特別図柄の抽選が終了するまでの間における実質的な第２特別図柄の抽選回数が異なる複数の時短状態を設けている。より具体的には、特別図柄の抽選を実質的

に２回実行可能な時短状態Ａと、特別図柄の抽選を実質的に４回実行可能な時短状態Ｂと、を設ける構成としている。ここで、本第４０制御例では、時短状態の終了条件として、特別図柄の抽選回数（第１特別図柄と第２特別図柄との合計の抽選回数）が規定回数に到達したことに基づいて成立する第１終了条件と、小当たり遊技の実行回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する第２終了条件と、第２特別図柄の抽選回数が規定回数に到達したことに基づいて成立する第３終了条件と、に加え、時短最終変動の実行中に第２特別図柄の保留球数が規定個数となったことに基づいて成立する第４終了条件と、を設ける構成としている。時短状態Ａと時短状態Ｂとでは、第１～第３終了条件が共通とされ、第４終了条件のみを異ならせることにより、実質的な第２特別図柄の抽選回数を異ならせている。つまり、時短状態Ａでは、時短状態の最後の第２特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の保留球数が１個になった時点で時短状態が終了される一方で、時短状態Ｂでは、時短状態の最後の第２特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の保留球数が３個になった時点で時短状態が終了されるように構成することで、実質的な有利度合いを異ならせる構成としている。これにより、遊技性を多様化させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５３４】

また、本第４１制御例では、時短状態Ａ，Ｂに加えて、ほぼ確実に次回の大当たりまで継続する時短終了条件が設定される時短状態Ｃを設ける構成とした上で、時短状態の連続回数（通常状態を介さずに時短状態と大当たりとが繰り返される繰返し回数）に制限を設ける（時短リミット回数を設定する）構成としている。そして、時短状態の間に大当たり遊技の実行条件が成立した（大当たり遊技の実行が設定された）場合は、時短リミット回数に到達していない限り、大当たり終了後の遊技状態が、時短状態Ｃに設定されるように構成している。つまり、一旦時短状態Ｃが設定されると、時短リミット回数に到達するまで、時短状態Ｃと大当たりとが繰り返される（時短リミット回数分の大当たり当選がほぼ確定する）極めて有利な状態を形成する構成としている。このように構成することで、時短状態Ｃに移行することを遊技者に対して強く期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を頼向上させることができる。また、本第４１制御例では、時短状態Ｃに移行してから時短リミット回数に到達するまでの間（大当たりと時短状態Ｃとが繰り返されている間）の演出態様として、１の大当たり遊技が継続しているかのような一連の演出態様を設定する構成としているので、実際には４ラウンドの大当たりに４回当選しているにもかかわらず、１回の大当たり当選で１６ラウンド分の賞球を獲得できたかのように遊技者に思わせることができる。つまり、一度の契機で比較的多量の賞球を獲得できる極めて幸運な状況が発生したかのように思わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５３５】

更に、本第４１制御例では、時短状態Ｃにおいて、容易に保留球を上限個数まで貯めることができるように普通図柄の変動時間や特別図柄の変動時間、普通図柄の開放パターンを設定することにより、時短状態Ｃと大当たりとが時短リミット回数に到達するまで繰り返されて通常状態へと移行した際に、上限個数（４回）の第２特別図柄の保留球が保留されている状態となり易く構成している。これにより、通常状態に転落した後においても、有利度合いが高い（大当たりおよび小当たりの合算確率が約１／３となる上に、大当たり又は小当たりに当選した場合に比較的高い割合で最も有利な時短状態Ｃに設定される）第２特別図柄の抽選を４回実行する機会を遊技者に対して与えることができるので、時短リミット回数に到達した後における有利度合いを、他の時短状態における有利度合い以上とすることができる。具体的には、第２特別図柄の抽選を実質的に２回実行可能な時短状態Ａよりも大当たり期待度が高く、且つ、第２特別図柄の抽選を実質的に４回実行可能な時短状態Ｂと同等の大当たり期待度となる有利な状態を形成することができる。つまり、時短状態Ｃにおいて時短リミット回数に到達したことに基づいて設定される通常状態Ｂを、実質的に、時短状態Ｂと同等の有利度合いとすることができる。そして、本第４１制御例においては、初当たり時以外は、大当たり終了後の遊技状態が必ず時短状態Ｂ、時短状態

Ｃ、および通常状態Ｂの何れかとなるように構成している。換言すれば、遊技者の見た目上、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂ、または通常状態Ｂのどちらかとなるように構成されている（時短状態Ｃと大当たりとが繰り返されている間は１の大当たりが継続しているかのような見た目に設定される）ため、時短状態中に大当たりが発生した場合は、大当たり終了後に付与される第２特別図柄の抽選機会を毎回同一回数（４回）とすることができる。よって、時短リミット回数に到達した場合に有利度合いが低下してしまうことを抑制し、時短状態Ｃへと移行する大当たり（ＭＡＸボーナス）に当選した場合に、遊技者に対して大きな喜びを与えることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５３６】

加えて、本第４０制御例では、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の小当たり遊技が開始された場合に、小当たり開始時に第２終了条件が成立する（小当たりカウンタ２０３ｓを減算する）ように構成する一方で、時短状態Ｃにおいて第２特別図柄の小当たり遊技が開始された場合には、特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した後で第２終了条件が成立する（小当たりカウンタ２０３ｓを減算する）ように構成している。このように構成することで、時短状態Ａや時短状態Ｂに移行した後において小当たりに当選した場合に、時短状態の間に実行された第２特別図柄の抽選であるか、時短状態の間に保留された第２特別図柄の保留球に基づいて通常状態への移行後に開始された第２特別図柄の抽選であるかによらず、特定領域６５０ｅ３を遊技球が通過した時点の遊技状態（大当たり遊技の実行が設定された時点の遊技状態）を通常状態に設定することができる。よって、時短状態の間に開始された第２特別図柄の抽選であるか、通常状態に移行した後で開始された第２特別図柄の抽選であるかによらず、大当たり当選時の有利度合いを共通化することができる。また、時短状態Ｃにおいては、小当たり当選した場合に、当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行が設定された時点の遊技状態）を時短状態に固定化することができるので、時短リミット回数を超えて時短状態Ｃと大当たりとの繰り返しが継続してしまったり、逆に、時短リミット回数に到達する前に時短状態Ｃと大当たりとの繰り返しが終了されてしまうことを抑制することができる。

【１１５３７】

なお、本第４１制御例では、時短リミット回数を３回に設定する構成としていたが、これに限られるものではなく、時短リミット回数は任意に定めることができる。時短リミット回数を多くすれば、ＭＡＸボーナスモードにおける大当たりの当選回数を多くすることができるので、ＭＡＸボーナスモードへと移行した場合における有利度合いをより高くすることができる。また、時短リミット回数を少なくすれば、ＭＡＸボーナスモードにおいて設定される時短状態Ｃの回数を少なくすることができるので、時短状態Ｃにおいて比較的多くの回数、連続して外れが発生することで疑似インターバル演出の演出期間が長くなってしまい、ＭＡＸボーナスモード中の遊技が間延びしてしまうという事象を発生し難くすることができる。

【１１５３８】

＜第４１制御例の第１の変形例＞

次いで、図１２１２から図１２１５を参照して、上述した第４０制御例における第１の変形例について説明する。上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態の最終変動において、保留球数が規定個数に到達することで成立する時短終了条件（第４終了条件）を設け、第４終了条件が成立するまでの規定回数にバリエーションを設けることにより、性能（大当たり当選率）が異なる複数の時短状態を設ける構成としていた。

【１１５３９】

これに対して本第１の変形例では、第４終了条件を廃止することでよりシンプルな制御とし、且つ、上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０に類似する遊技性を実現している。まず、図１２１２を参照して、本第１の変形例における各状態間の移行方法について説明する。図１２１２に示した通り、本第１の変形例では、主として４種類の状態（モード）が設けられている。即ち、上述した第４１制御例における通常状態Ａ、通常状態Ｂ

、および時短状態Ｃが設けられている。また、時短状態Ａ，Ｂが削除され、時短状態Ｄが新設されている。時短状態Ｄは、特別図柄の変動表示が合計１０回実行されることで第１終了条件が成立し、小当たり遊技が１回実行されることで第２終了条件が成立し、第２特別図柄の変動表示が１回実行されることで第３終了条件が成立する遊技状態である。このため、時短状態Ａにおいて右打ちを行い続けた場合、保留球数が上限（４個）まで貯まった上で、第２特別図柄の変動停止タイミングで時短状態が終了される。このように構成した場合でも、小当たり当選時は、小当たり開始時に小当たりカウンタ２０３ｓの値を減算する構成としているため、特定領域６５０ｅ３を通過するよりも前に時短状態を終了させておくことができる。よって、時短状態Ｄにおいて実行される１回の第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合と、時短状態Ｄにおいて実行された第２特別図柄の変動表示中に保留された保留球に基づいて通常状態への移行後に実行される最大４回の第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合とで、当選時の遊技状態を共に通常状態とすることができる。よって、時短状態の間に開始された第２特別図柄の抽選であるか、時短状態が終了されてから開始された第２特別図柄の抽選であるかによらず、ＭＡＸボーナスモードへのいこう期待度を共通化することができる。よって、時短状態Ｄに移行してから全ての第２特別図柄の保留球が消化されるまでの各第２特別図柄の抽選において、それぞれ略同等の期待感を遊技者に対して抱かせることができる。

【１１５４０】

まず、図１２１２の上段を参照して、本第１の変形例において、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１２の上段に示した通り、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態には、大当たりに当選した場合にのみ移行する可能性がある。即ち、図１２１２に示した通り、通常状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなり、５０％の割合で決定される大当たりＡ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｄに設定される。一方、通常状態Ａにおいて大当たりに当選した場合に５０％の割合で決定される大当たりＢ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が再度、通常状態Ａに設定される。よって、通常状態Ａにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たりＡ４１であることをより強く期待させることができる。

【１１５４１】

次に、図１２１２の上から２段目を参照して、時短状態Ｄ（時短モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１２の上から２段目に示した通り、時短状態Ｄ（時短モード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２１２の上から２段目に示した通り、時短状態Ｄにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１２１２の上から２段目に示した通り、時短状態Ｄにおいて第２特別図柄の抽選で約１／３．５の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｄに設定される（時短状態Ｄをループする）。本第１の変形例では、上述した第４１制御例と同様に、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、時短状態Ｄにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、時短状態Ａにおいて獲得した全ての第２特別図柄の保留球を消化した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。よって、５回の第２特別図柄の抽選機会の間に約１／３．５の確率の大当たり又は小当たりに当選することを強く期待させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５４２】
次に、図１２１２の下から２段目を参照して、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１２の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態へは、時短リミット回数に到達した場合にのみ移行する可能性がある。より具体的には、図１２１２の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて約１／３．５の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に到達していた場合は、遊技状態が通常状態Ｂに設定される。これに対して、図１２１２の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて約１／３．５の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に未到達である場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｃに設定される（時短状態をループする）。このため、一旦時短状態Ｃへと移行すると、時短リミット回数に到達するまで、時短様態Ｃと大当たりとが繰り返される極めて有利な状態を形成する。なお、上述した第４１制御例と同様に、本第１の変形例では、大当たりのラウンド数が全て４ラウンドであり、時短リミット回数は３回に設定されるため、時短状態への移行契機となった大当たりを含め、４回の大当たりが保証される。つまり、１６ラウンド分の賞球を略一度に獲得できる有利な状態を形成するので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【１１５４３】
次に、図１２１２の下段を参照して、通常状態Ｂ（引き戻しモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１２の下段に示した通り、通常状態Ｂ（引き戻しモード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および時短状態Ｃの間に保留されていた第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２１２の下段に示した通り、通常状態Ｂにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１２１２の下段に示した通り、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選で約１／３．５の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｄに設定される。上述した通り、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、通常状態Ｂにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の保留球を全て消化した（全て外れとなった）場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。
【１１５４４】
このように、本第１の変形例では、時短状態Ｄ、および通常状態Ｂにおいて、約１／３．５という高確率で当選する小当たりに当選した場合に、小当たり種別が小当たりＡ４１に決定されるか、小当たりＢ４１に決定されるかによって、遊技者の得られる利益を大幅に異ならせる構成としている。よって、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃへと移行し、一度に大量の賞球（１６ラウンド分の賞球）を獲得できるのか、小当たりＢ４１に当選して時短状態Ｂへと移行するのかにより注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【１１５４５】
＜第４１制御例の第１の変形例における電気的構成＞
次いで、図１２１４および図１２１５を参照して、本第１の変形例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。ここで、本第１の変形例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第４１制御例のＲＯＭ２０２に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａｋを構成する特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容が一部変更となっている点、大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋの規定内容が一部変更とな

っている点、および時短付与テーブル２０２ｅｋの規定内容が一部変更となっている点で相違している。まず、図１２１４（ａ）を参照して、本第１の変形例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の詳細について説明する。図１２１４（ａ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容を示した図である。図１２１４（ａ）に示した通り、本第１の変形例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、上述した第４１制御例と同様に、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。一方、本第１の変形例では、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～１８９２９」の１８７２５個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている点で第４１制御例から変形されている。

【１１５４６】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、第４１制御例と同様に、約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１８７２５個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／３．５（１８７２５／６５５３６）である。

【１１５４７】

このように、本第１の変形例では、上述した第４１制御例に対して、小当たり確率が低くなるように変形している。これは、時短状態Ｄとして、第２特別図柄の抽選機会が５回与えられる遊技状態に設定しているため、小当たり確率が第４１制御例のままの確率（約１／３）では、遊技者にとって過剰に有利となり過ぎてしまう虞があるからである。

【１１５４８】

次に、図１２１４（ｂ）を参照して、本第１の変形例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋの詳細について説明する。図１２１４（ｂ）は、本第１の変形例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋの規定内容を示した図である。この大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋは、上述した第４１制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｋ（図１１９１（ｃ））に対して、大当たりＡ４１および大当たりＢ４１の決定割合が変更となっている点でのみ相違している。即ち、図１２１４（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して、「大当たりＡ４１」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲に対して、「大当たりＢ４１」が対応付けて規定されている。つまり、本第１の変形例では、「大当たりＡ４１」と「大当たりＢ４１」とにそれぞれ乱数値（カウンタ値）が５０個ずつ振り分けられており、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に半々の割合で「大当たりＡ４１」と「大当たりＢ４１」とが決定されるように構成している。これは、大当たりＢ４１の終了後の遊技状態として通常状態Ａが設定されるように変更したことに伴うものであり、大当たり終了後の遊技状態が通常状態Ａとなる確率が高くなり過ぎて、遊技者にとって過剰に不利となってしまうことを抑制する趣旨である。

【１１５４９】

次に、図１２１５を参照して、本第１の変形例における時短付与テーブル２０２ｅｋの詳細について説明する。図１２１５に示した通り、本第１の変形例では、第４１制御例における時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１９４（ａ）参照）に対して、規定保留球数カウンタ２０３ｋａのカウンタ値が削除されている点で相違している。また、通常状態において当選した大当たりＡ４１、大当たりＤ４１の終了後の遊技状態が時短状態Ｄとなるように変更されている。つまり、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１」が対応付けて規定されている点で相違している。更に、通常状態において当選した大当たりＢ４１の終了後の遊技状態が通常状態Ａとなるように変更している。つまり、時短カウンタ２０３ｈの値「０」、

小当たりカウンタ２０３ｓの値「０」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「０」が対応付けて規定されている点で相違している。その他の規定内容については上述した第４１制御例と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１５５０】

次に、図１２１３を参照して、本第１の変形例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図１２１３は、本第１の変形例におけるＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。図１２１３に示した通り、本第１の変形例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第４１制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図１１９０（ｂ）参照）に対して、普電作動回数カウンタ２０３ｋａが削除されている点でのみ相違している。これは、時短終了条件として、上述した第４１制御例における第４終了条件（時短最終変動における第２特別図柄の保留球数が規定個数となったことで成立する終了条件）を廃止したことに起因している。その他の構成については上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１５５１】

以上説明した通り、本第１の変形例におけるパチンコ機１０では、保留球数が規定個数に到達することで成立する時短終了条件（第４終了条件）を廃止することで、上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０よりもシンプルな制御を実現し、且つ、上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０に類似する遊技性を実現している。

【１１５５２】

＜第４１制御例における第２の変形例＞

次に、図１２１６から図１２３１を参照して、上述した第４１制御例における第２の変形例について説明する。上述した第４１制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態の終了条件として、時短状態の最後の変動表示における第２特別図柄の保留球数が規定個数となったことに基づいて成立する第４終了条件を導入することにより、時短状態Ｂにおいて保留球数が上限個数まで貯まらないように構成し、時短状態Ｂに移行した後における第２特別図柄の抽選機会と、時短状態Ｃに移行した後で時短リミット回数に到達した場合に移行する通常状態Ｂにおける第２特別図柄の抽選機会とを同一回数とし、時短リミット回数に到達した場合に大当たり期待度が低下してしまうことを抑制する構成としていた。つあり、時短状態Ｂと通常状態Ｂとの大当たり期待度を、実質的に同等とする構成としていた。

【１１５５３】

これに対して本第２の変形例では、上述した第４１制御例における第４終了条件を採用することなく、所定の時短状態へ移行した後における第２特別図柄の抽選機会と、時短リミット回数到達後における第２特別図柄の抽選機会とを、同等にする斬新な制御を実現している。より具体的には、通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されると、大当たり、小当たり、若しくは時短図柄のいずれかに当選する構成とし、且つ、第２特別図柄の保留球数の上限値を１個にする。そして、時短リミット回数に到達して通常状態Ｂが設定されてから、第２特別図柄の残保留に基づく抽選で時短図柄に当選し、第２時短状態が終了するまでの第２特別図柄の抽選回数を、時短状態Ｂにおける抽選回数と同一となるように構成した。このように構成することで、時短最終変動における保留球数を監視して時短状態の終了有無を判別するという比較的複雑な処理を行わなくても、時短状態Ｂが設定された場合と時短リミット回数到達後とで、第２特別図柄の抽選機会を共通化することができる。

【１１５５４】

まず、図１２１６および図１２１７を参照して、本第２の変形例における特徴的な演出態様について説明する。図１２１６（ａ）は、本第２の変形例における初当たり発生後に比較的高確率で移行する時短状態Ａの演出態様の一例を示した図である。ここで、本第２の変形例における時短状態Ａでは、第２特別図柄の抽選機会が５回与えられる。即ち、第２特別図柄の抽選回数が５回に到達したことに基づいて時短状態Ａが終了される。また、時短状態の間は、第２特別図柄の保留球を獲得することが不可能（困難）となるように構

成されている。即ち、第２特別図柄の変動時間よりも、普通図柄の変動が開始されてから普通図柄の当たりが終了するまでの期間の方が確実に長くなるように構成されている。これにより、時短状態Ａにおける第２特別図柄の抽選回数を毎回固定化することができるので、時短状態Ａにおける大当たり期待度を毎回共通にすることができる。

【１１５５５】

図１２１６（ａ）に示した通り、時短状態Ａに移行すると、冒険者のキャラクタ８１１と、怪獣のキャラクタ８２１とが睨み合う演出が実行される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「５回以内に攻撃を当てろ！！」という文字が表示される。また、小表示領域Ｄｍ４に対して、「右打ち」という文字が表示され、小表示領域Ｄｍ５に対して、残りの時短回数を示す文字（図１２１６（ａ）の例では、「残り５回」という文字）が表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「突破チャレンジ」という文字が表示される。これらの表示内容により、冒険者のキャラクタ８１１が５回の第２特別図柄の変動表示が終了するまでに怪獣のキャラクタ８２１に対して攻撃をヒットさせることができれば大当たりが確定すると共にラッシュ（時短モード）に移行させることができるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１５５６】

図１２１６（ｂ）は、時短状態Ａにおいて第２特別図柄の変動表示が開始された場合の表示態様の一例を示した図である。図１２１６（ｂ）に示した通り、時短状態Ａにおいて第２入球口６４０へと遊技球が入球し、第２特別図柄の変動表示が開始されると、第３図柄の変動表示が開始されると共に、冒険者のキャラクタ８１１が怪獣のキャラクタ８２１へと攻撃を仕掛ける演出が実行される。この演出において怪獣のキャラクタ８２１に攻撃をヒットさせることができれば、大当たり（または実質的に大当たりが確定する小当たり）に当選したことが報知され、攻撃が避けられた場合には、外れが報知される。

【１１５５７】

次に、図１２１７（ａ）を参照して、本第２の変形例における時短モード（時短状態Ｂ）、または引き戻しモード（通常状態Ｂ、第２時短状態）の開始時における表示態様について説明する。図１２１７（ａ）に示した通り、本第２の変形例における時短モードおよび引き戻しモードでは、時短回数が１１回に設定される。これに伴って、図１２１７（ａ）に示した通り、小表示領域Ｄｍ５に表示される残時短回数が、「残り１１回」に設定される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「１１回以内に攻撃を当てろ！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、時短モードおよび引き戻しモードでは、１１回の第２特別図柄の抽選機会を与えられるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１５５８】

次に、図１２１７（ｂ）を参照して、本第２の変形例におけるＭＡＸボーナスモードの最後（時短リミット回数目の）の時短状態Ｃにおいて大当たりまたは小当たりに当選した場合における当たり変動中の演出態様について説明する。本第２の変形例では、上述した第４１制御例と同様に、時短状態Ｃが設定される最初の大当たりが開始されてから、時短リミット回数に到達するまでの間の期間で、１の１６ラウンド大当たりが継続しているかのような一連の演出を実行する構成としている。そして、時短リミット回数に到達した後で移行する引き戻しモードでは、第２特別図柄の保留球が１個保留されていることを前提として、通常状態における最初の第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選させて第２時短状態へと移行させることにより、時短モードと引き戻しモードとでトータルの第２特別図柄の抽選回数を共通の１１回とする構成としている。逆に言えば、時短リミット回数に到達した時点で第２特別図柄の保留球を獲得できていなければ、引き戻しモードが成立せず、時短リミット回数に到達した直後に不利な通常状態Ａ（通常モード）へと移行してしまう極めて不利な状況が成立してしまう可能性がある。このため、本第２の変形例では、ＭＡＸボーナスモードにおける最後の当たり変動において、保留球を貯めることを遊技者に対して促す演出を実行する構成としている。具体的には、図１２１７（ｂ）に示した通り、疑似インターバル演出の実行中に、第３図柄表示装置８１に対して、「右を狙え」という

文字を伴う右向きの矢印画像ＹＧが表示される。また、タイムゲージｇａ３により残変動時間が報知される。これらにより、タイムゲージｇａ３の残時間表示ｇａ３ａが残っている間に第２入球口６４０へと遊技球を入球させるべきであるということを、遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１５５９】

なお、図示については省略したが、第２入球口６４０へと遊技球が入球した場合に、当該入球に基づく先読み結果に応じて、大当たり又は小当たりとなる期待度を示すアイコンが宝箱８１０から出現する演出が実行される。これにより、右打ちを行うメリットがあると遊技者に対して思わせることができるので、時短リミット回数目の時短状態Ｃにおける当たり変動中に、確実に第２特別図柄の保留球を貯めさせることができる。よって、時短リミット回数に到達した直後に通常状態Ａへと移行してしまう極めて不利な状況が成立してしまうことを抑制することができる。

【１１５６０】

次に、図１２１８を参照して、本第２の変形例における時短状態の間の第２特別図柄の変動表示と普通図柄の変動表示との対応関係について説明する。図１２１８に示した通り、時短状態に移行し、遊技者が右打ちを行い続けた場合、まず、スルーゲート６７を通過して普通図柄の抽選が行われると共に、普通図柄の変動表示が実行される。時短状態においては、図１２１８に示した通り、普通図柄の変動時間が１秒間に固定化される。そして、普通図柄の変動時間が終了し、普通図柄の抽選結果が当たりであった場合、普通図柄の変動停止と共に、普通図柄の当たりが開始される。即ち、２秒間が経過するか、１個以上の遊技球が第２入球口６４０へと入球するまで電動役物６４０ａが開放され、２秒間が経過するか、１個以上の遊技球が第２入球口６４０へと入球したことに基づいて電動役物６４０ａが閉鎖される。電動役物６４０ａが閉鎖されると、６秒間のエンディング期間が設定された上で、普通図柄の当たり遊技が終了される。

【１１５６１】

一方で、図１２１８に示した通り、第２特別図柄の変動表示は、普通図柄の当たりに伴う電動役物６４０ａの開放期間中に遊技球が第２入球口６４０へと入球したことを契機として開始される。時短状態においては、第２特別図柄の変動期間が５秒間に固定化されるため、普通図柄の当たり遊技のエンディング期間が終了するよりも前に特別図柄の変動表示が終了される。このため、次の普通図柄の変動開始時には、特別図柄の変動表示が既に終了した状態となっており、特別図柄の変動表示中に追加で第２特別図柄の始動入賞を発生させることが不可能（困難）となる。つまり、第２特別図柄の保留球を獲得することが不可能となるように構成されているため、基本的に、時短状態では、設定された時短回数で終了され、通常状態へと第２特別図柄の保留球を持ち越すことは無い。例外的に、時短状態Ｃにおいてのみ、大当たり又は小当たりに当選した場合に、第２特別図柄の保留球を貯めることが可能な長さ（１５秒間）の変動時間が設定されるため、この間のみは、保留球を貯めることが可能となる。即ち、時短リミット回数到達時に、第２特別図柄の保留球を１個所持した状態とすることができ、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選を実行させることができる。これにより、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の残保留で大当たりにも小当たりに当選しなかった場合に、時短図柄に当選させて第２時短状態を設定することができ、時短モードと引き戻しモードとで、実質的に第２特別図柄の抽選機会を同一とすることができる。

【１１５６２】

次に、図１２１９を参照して、本第２の変形例における状態間の移行方法について説明する。ここで、図１２１９に示した通り、本第２の変形例では、主として６種類の状態（５種類のモード）が設けられている。即ち、通常状態Ａ，Ｂ、時短状態Ａ～Ｃ、および第２時短状態が設けられている。通常状態Ａは、上述した第４１制御例と同様に、普通図柄の通常状態（普通図柄の低確率状態、変動短縮無し、開放延長無し）に設定され、左打ちにより第１特別図柄の抽選を行わせることで遊技を進行する状態である。また、時短状態Ａ～Ｃは、上述した第４１制御例と同様に、普通図柄の時短状態（普通図柄の高確率状態

、変動短縮有り、開放延長有り）に設定され、右打ちにより第２特別図柄の抽選を行わせることで遊技を進行する状態である。なお、時短終了条件については、第１終了条件および第３終了条件が第４１制御例から変更となっている。また、第４終了条件（時短最終変動における第２特別図柄の保留球数が規定個数となった場合に成立する終了条件）が廃止されている。即ち、時短状態Ａでは、特別図柄の抽選回数が合計１０回となった場合に第１終了条件が成立し、第２特別図柄の抽選回数が５回となった場合に第３終了条件が成立するように構成されている。また、時短状態Ｂでは、特別図柄の抽選回数が合計２０回となった場合に第１終了条件が成立し、第２特別図柄の抽選回数が１１回となった場合に第３終了条件が成立するように構成されている。一方、時短状態Ｃは、第１～第３終了条件が全て第４１制御例と共通となっており、第４１制御例における時短状態Ｃに対して、第４終了条件が課されない点でのみ相違している。上述した通り、本第２の変形例では、第２特別図柄の変動表示中に第２特別図柄の保留球が増加し難くなるように、普通図柄の当たり遊技の実行間隔を、第２特別図柄の変動時間よりも長くしている。つまり、普通図柄の当たりに基づく開放期間が終了されてから次の普通図柄の当たりの開放期間が開始されるまでの期間を、最短でも７秒となるように構成している一方で、第２特別図柄の変動時間を５秒間に固定化する構成としている。このように構成することで、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいて時短終了条件が成立し、通常状態に移行した後で、第２特別図柄の抽選が実行されることを抑制することができる。つまり、時短リミット回数に到達した後の通常状態Ｂ以外の通常状態において第２特別図柄の抽選が実行されることを防止でき、第２時短状態へと移行することを抑制することができる。

【１１５６３】

また、第４１制御例には設けられていなかった第２時短状態は、普通図柄の時短状態（普通図柄の低確率状態、変動短縮有り、開放延長有り）に設定され、右打ちにより第２特別図柄の抽選を行わせることで遊技を進行する状態である。この第２時短状態は、時短状態Ａ～Ｃとは異なり、普通図柄の低確率状態に設定される遊技状態であるが、本第４０制御例では、普通図柄の高確率状態と普通図柄の低確率状態とで普通図柄の当たり確率が略同一（普通図柄の高確率状態が３００／３００、低確率状態が２９９／３００）ているため、遊技者がその差を感じ取ることを困難とすることができる。よって、第２時短状態を、時短状態Ａ～Ｃと同一の性能の時短状態であると遊技者に対して思わせることができる。

【１１５６４】

図１２１９の上段を参照して、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１９の上段に示した通り、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態には、大当たりに当選した場合にのみ移行する可能性がある。即ち、図１２１９に示した通り、通常状態Ａにおいて第１特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなり、９５％の割合で決定される大当たりＢ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ａに設定される。一方、通常状態Ａにおいて大当たりに当選した場合に５％の割合で決定される大当たりＡ４１が決定されると、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ａよりも時短状態Ｂの方が、有利な（実質的な大当たり確率が第１特別図柄の抽選よりも高い）第２特別図柄の抽選機会を多く獲得することができるので、通常状態Ａにおいて大当たりに当選した場合は、大当たり種別が大当たりＡ４１であることをより強く期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５６５】

次に、図１２１９の上から２段目の左側を参照して、時短状態Ａ（チャンスモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１９の上から２段目の左側に示した通り、時短状態Ａ（チャンスモード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および時短回数を消化した（第１又は第３終了条件が成立した）場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２１９の上から２段目の左側に示した通り、時短状態Ａにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によ

らず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１２１９の上から２段目の左側に示した通り、時短状態Ａにおいて第２特別図柄の抽選で約１／７．４の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、時短状態Ａにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、時短状態Ａにおいて時短回数が経過した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。よって、時短状態Ａにおいて与えられる５回の第２特別図柄の抽選機会の間に１／３２０の確率の大当たり又は約１／７．４の確率の小当たりに当選することを強く期待させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５６６】

次に、図１２１９の上から２段目の右側を参照して、時短状態Ｂ（時短モード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１９の上から２段目の右側に示した通り、時短状態Ｂ（時短モード）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および時短回数を消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２１９の上から２段目の右側に示した通り、時短状態Ｂにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１２１９の上から２段目の右側に示した通り、時短状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選で約１／７．４の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、時短状態Ｂにおいて獲得した全ての第２特別図柄の保留球を消化した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。これらに対し、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｂに設定される（時短状態Ｂをループする）。これらにより、時短状態Ｂにおいては、時短状態Ａと同様に、時短状態の間に獲得した第２特別図柄の保留球で約１／３２０の確率の大当たり又は約１／７．４の確率の小当たりに当選することを強く願うと共に、小当たりに当選した場合は、より有利な時短状態Ｃに設定されることをより強く願わせる遊技性となるため、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１５６７】

次に、図１２１９の下から２段目を参照して、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態への移行方法について説明する。図１２１９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）から他の状態へは、時短リミット回数に到達した場合にのみ移行する可能性がある。より具体的には、図１２１９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて合算で約１／７．２の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に到達していた場合は、遊技状態が通常状態Ｂに設定される。これに対して、図１２１９の下から２段目に示した通り、時短状態Ｃにおいて合算で約１／７．２の確率の大当たり又は小当たりに当選し、時短リミット回数に未到達である場合は、大当たり終了後の遊技状態が再度、時短状態Ｃに設定される（時短状態をループする）。このため、一旦時短状態Ｃへと移行すると、時短リミット回数に到達するまで、時短様態Ｃと大当たりとが繰り返される極めて有利な状態を形成する。なお、上述した第４１制御例や第４１制御例の第１の変形例と同様に、本第２の変形例でも、大当たりのラウンド数を全て４ラウンドとし、時短リミット回数を３回に設定している。このため、時短状態への移行契

機となった大当たりを含め、４回の大当たりが保証される。つまり、１６ラウンド分の賞球を略一度に獲得できる有利な状態を形成するので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５６８】

次に、図１２１９の下段を参照して、引き戻しモード（通常状態Ｂ、および第２時短状態）から他の状態への移行方法について説明する。ここで、図１２１９に示した通り、本第２の変形例における引き戻しモードは、通常状態Ｂと、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の残保留に基づく抽選で時短図柄に当選する（大当たりにも小当たりにもならない）ことで移行する第２時短状態と、で構成されている。第２時短状態は、時短回数（第２特別図柄の抽選回数）が１０回に設定されるため、時短リミット回数到達時に保留され、通常状態Ｂにおいて消化される１個の第２特別図柄の保留球に基づく１回の第２特別図柄の抽選と合わせて、引き戻しモードにおいて１１回の第２特別図柄の抽選機会を遊技者に与えることができる。つまり、時短状態Ｂと同一の回数の第２特別図柄の抽選機会を与えることができ、実質的に時短状態Ｂと同一の性能の状態を形成することができる。

【１１５６９】

図１２１９の下段に示した通り、引き戻しモード（通常状態Ｂ、または第２時短状態）から他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および第２時短状態において時短回数を消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２１９の下段に示した通り、引き戻しモードにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。また、図１２１９の下段に示した通り、引き戻しモードにおいて第２特別図柄の抽選で約１／７．４の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として５４％の割合で決定される小当たりＡ４１となった場合に、当該小当たりＡ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として４６％の割合で決定される小当たりＢ４１となった場合に、当該小当たりＢ４１において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｂに設定される。上述した通り、時短状態Ｂよりも時短状態Ｃの方が有利であるため、通常状態Ｂにおいて小当たりに当選した場合に、小当たりＡ４１に当選して時短状態Ｃが設定されることをより強く期待させることができる。これらに対し、引き戻しモードにおいて時短回数を消化した場合は、消化後の状態が通常状態Ａとなる。

【１１５７０】

このように、本第２の変形例では、時短リミット回数に到達した場合に移行する、通常常状態Ｂにおいて第２特別図柄の保留球を消化した場合、小当たりにも大当たりにも当選していなければ必ず時短図柄当選が発生する構成としている。そして、時短図柄当選が発生した場合は、時短回数が１０回の第２時短状態に移行する構成としているので、通常状態Ｂと第２時短状態とで、合計１１回の第２特別図柄の抽選機会を遊技者に与えることができる。つまり、時短状態Ｂと引き戻しモードとで、有利度合いを略同一とすることができるため、時短状態Ｃに移行した後で時短リミット回数に到達した場合に、有利度合いが下がってしまうことを抑制することができる。よって、時短状態Ｃへと移行した場合に、遊技者に対して一点の不満感も抱かせずに、大きな喜びを抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５７１】

＜第４１制御例の第２の変形例における電気的構成＞

次いで、図１２２０から図１２２３を参照して、本第２の変形例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。ここで、本第２の変形例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第４１制御例におけるＲＯＭ２０２に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａｋを構成する特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容が一部変更となっている点、第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋの規定内容が一部変更となっている点、変動パターン選択テーブル２０２ｄｋを構成する各テーブルの規定内容が

一部変更となっている点、および時短付与テーブル２０２ｅｋの規定内容が一部変更となっている点で相違している。その他の構成については上述した第４１制御例と同一であるため、その詳細な説明については省略する。

【１１５７２】

まず、図１２２０（ａ）を参照して、本第１の変形例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の詳細について説明する。図１２２０（ａ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２の規定内容を示した図である。図１２２０（ａ）に示した通り、本第２の変形例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、上述した第４１制御例と同様に、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。一方、本第２の変形例では、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～９０６０」の８８５６個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている点で第４１制御例から変形されている。また、図１２２０（ａ）に示した通り、本第２の変形例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｋ２には、時短図柄当選と判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲が追加されている。即ち、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「９０６１～６５５３５」の５６４７４個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。

【１１５７３】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、第４１制御例と同様に、約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が８８５６個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／７．４（８８５６／６５５３６）である。更に、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値のうち、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が５６４７４個であるので、第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選する確率は、約１／１．１６（５６４７４／６５５３６）である。

【１１５７４】

このように、本第１の変形例では、上述した第４１制御例に対して、小当たり確率が低くなるように変形している。これは、時短状態Ａや時短状態Ｂ、引き戻しモードにおける第２特別図柄の抽選回数を多くしたことに対するバランスをとったものである。

【１１５７５】

次に、図１２２０（ｂ）を参照して、本第２の変形例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋの詳細について説明する。図１２２０（ｂ）に示した通り、本第２の変形例では、第４１制御例における第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋ（図１１９２（ａ）参照）に対して、普通図柄の低確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（第２当たり乱数カウンタＣ４のカウンタ値）の範囲が変更されている点で相違している。即ち、本第２の変形例では、普通図柄の低確率状態において普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「０～２９８」の範囲が対応付けて規定されている。つまり、本第２の変形例では、普通図柄の低確率状態でも、普通図柄の当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲が普通図柄の高確率状態と乱数値（カウンタ値）１個分しか異ならないように構成されているため、普通図柄の低確率状態と、普通図柄の高確率状態とで、普通図柄の当たり確率がほぼ同等となる。これは、時短図柄当選に基づいて設定される第２時短状態（普通図柄の低確率状態、変動短縮あり、開放延長あり）が設定された場合に、他の時短状態（時短状態Ａ～Ｃ）と同等の第２入球口６４０への入球し易さを実現するための変形である。

【１１５７６】

次に、図１２２１および図１２２２を参照して、本第２の変形例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｋの詳細について説明する。図１２２１は、本第２の変形例におけ

る変動パターン選択テーブル２０２ｄｋを構成する通常用テーブル２０２ｄｋ１、時短用テーブル２０２ｄｋ２、およびＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３のうち、通常用テーブル２０２ｄｋ１の規定内容を示した図であり、図１２２２（ａ）は、時短用テーブル２０２ｄｋ２の規定内容を示した図であり、図１２２２（ｂ）は、ＭＡＸ用テーブル２０２ｄｋ３の規定内容を示した図である。まず、図１２２１を参照して、通常用テーブル２０２ｄｋ１の詳細について説明する。

【１１５７７】

図１２２１は、本第２の変形例における通常用テーブル２０２ｄｋ１の規定内容を示した図である。この通常用テーブル２０２ｄｋ１は、通常状態Ａまたは通常状態Ｂにおいて特別図柄の抽選を実行する際に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。ここで、図１２２１に示した通り、本第２の変形例における通常用テーブル２０２ｄｋ１において、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」である場合の規定内容については、上述した第４１制御例における通常用テーブル２０２ｄｋ１（図１１９２（ｃ）参照）と同一となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１５７８】

一方、図１２２１に示した通り、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「小当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「突時」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、変動時間が５秒間となるように構成されている。

【１１５７９】

なお、本第２の変形例では、上述した第４１制御例と同様に、通常状態において普通図柄の抽選が実行されて普通図柄の当たりに当選したとしても、普通図柄の当たりとして第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な電動役物６４０ａの開閉パターン（０．１秒間のショート開放）が設定されるため、通常状態において普通図柄の抽選を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることはできない。本第２の変形例において通常状態で第２特別図柄の抽選が実行される状況としては、時短状態Ｃにおいて右打ちにより第２特別図柄の保留球を１個獲得した状態で大当たりが開始され、当該大当たりで時短リミット回数に到達して大当たり終了後の遊技状態が通常状態Ｂに設定された場合である。なお、抽選結果によらずに変動時間を５秒間に固定化しているのは、時短状態Ａ，Ｂにおける変動時間と合わせるためである。つまり、時短状態Ａや時短状態Ｂにおいては、第２特別図柄の変動時間よりも、普通図柄の当たりに基づく電動役物６４０ａの開放間隔が短くなるように構成することで第２特別図柄の保留球が０の状態を維持すべく、抽選結果によらずに変動時間を５秒間に固定化する構成としている。時短状態Ａ，Ｂにおける第２特別図柄の変動時間と、通常状態Ｂにおける第２特別図柄の変動時間とを共に５秒間としておくことで、引き戻しモードに移行した場合の変動時間と、時短状態Ｂに移行した場合の変動時間とを共通化でき、時短状態Ｂと引き戻しモードとをあたかも同一の遊技状態であるかのように遊技者に思わせることができる。よって、より好適な演出態様を実現することができる。なお、通常状態Ｂにおいて普通図柄の当たりが開始されたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが困難な電動役物６４０ａの開閉動作が設定されるため、電動役物６４０ａの動作に注目された場合は、引き戻しモードが時短状態Ｂとは異なる状態であるということを遊技者に察知される可能性がある。

【１１５８０】

次に、図１２２２（ａ）を参照して、本第２の変形例における時短用テーブル２０２ｄｋ２の詳細について説明する。この時短用テーブル２０２ｄｋ２は、時短状態Ａ、時短状態Ｂ、または第２時短状態において特別図柄の抽選を実行する際に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１２２２（ａ）は、この時短用テーブル２０２ｄｋ２の規定内容を示した図である。図１２２２（ａ）に示した通り、本第２の変形例における時短用テーブル２０２ｄｋ２のうち、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」に対応する規定内容については、上述した第４１制御例における時短用テーブル２０２ｄｋ２（図１１９３（ａ）参照）と同一である。つまり、抽選結果によらず、短時間（０．５秒間）の変動時間が終了するように構成している。これは、第４１制御例と同様に、第１特別図柄の保留球を１以上保持した状態で有利度合いが高い第２特別図柄の抽選を実行可能な時短状態に移行した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく第１特別図柄の変動表示演出（実質的な大当たり期待度が高い第２特別図柄の抽選が実行できない期間）が長く継続してしまい、遊技者をやきもきさせてしまうことを防止する趣旨である。

【１１５８１】

一方、図１２２２（ａ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容としては、通常用テーブル２０２ｄｋ１（図１２２１参照）と共通となっている。即ち、抽選結果によらず、変動時間が５秒間に固定化されるように構成されている。よって、電動役物６４０ａの開放間隔よりも短い期間で第２特別図柄の変動表示を終了させることができるので、時短状態Ａや時短状態Ｂ、第２時短状態において、第２特別図柄の保留球を獲得することを防止することができる。なお、時短状態において第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合は、時短図柄当選分の時短状態が上書きも上乗せもされずに無効となる。つまり、時短状態における時短図柄当選は、実質的に他の制御例における完全外れと同等の抽選結果という位置づけである。

【１１５８２】

次に、図１２２２（ｂ）を参照して、ＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３の詳細について説明する。このＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３は、時短状態Ｃにおいて特別図柄の抽選を実行する際に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１２２２（ｂ）は、このＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３の規定内容を示した図である。図１２２２（ｂ）に示した通り、ＭＡＸボーナス用テーブル２０２ｄｋ３には、時短用テーブル２０２ｄｋ２と同様に、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短当たり」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、短時間（０．５秒間）の変動時間が終了するように構成している。これは、時短用テーブル２０２ｄｋ２を参照する場合と同様に、第１特別図柄の保留球を１以上保持した状態で時短状態Ｃに移行した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく第１特別図柄の変動表示演出（実質的な大当たり期待度が高い第２特別図柄の抽選が実行できない期間）が長く継続してしまい、遊技者をやきもきさせてしまうことを防止する趣旨である。

【１１５８３】

一方、図１２２２（ｂ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容として、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長小当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１

９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「突時」が規定されている。つまり、大当たり又は実質的に大当たり確定の小当たりに当選した場合は、変動時間が１５秒間に設定される一方で、時短図柄当選が発生した場合は、変動時間が５秒間に設定される。

【１１５８４】

大当たりまたは小当たりにおいて設定される１５秒という変動時間は、変動中に普通図柄の当たり遊技を２回前後実行可能な長さの変動時間である。即ち、時短状態Ｃにおいて大当たり又は小当たりに当選した場合は、第２特別図柄の保留球を貯めることが可能となり、時短図柄当選が発生した場合は、保留球を貯めることが困難となる。これにより、時短状態Ｃの間に継続的に右打ちを行い続けた場合、大当たり開始時に第２特別図柄の保留球（本第２の変形例では上限個数１個）が貯まった状態とすることができる。つまり、時短リミット回数に到達して通常状態Ｂへと移行した場合に、第２特別図柄の保留球が貯まった状態とすることができ、通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の保留球に基づく第２特別図柄の抽選を実行させて、小当たりでも大当たりでもないことを条件として、第２時短状態へと移行させることができる。つまり、通常状態Ｂと、第２時短状態とで、合計１１回の第２特別図柄の抽選機会を得ることができる引き戻しモードを形成することができる。よって、時短リミット回数に到達した場合の動作を、時短状態Ｂに移行した場合の動作と略同一とすることができるので、時短状態Ｃへと移行した場合に、遊技者に対して一点の不満感も抱かせずに、大きな喜びを抱かせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５８５】

次に、図１２２３を参照して、本第２の変形例における時短付与テーブル２０２ｅｋの詳細について説明する。図１２２３に示した通り、本第２の変形例では、第４１制御例における時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１１９４（ａ）参照）に対して、規定保留球数カウンタ２０３ｋａのカウンタ値が削除されている点で相違している。また、時短状態Ａ，時短状態Ｂの終了条件が第４１制御例から変更になったことに伴って、通常状態において当選した大当たりＡ４１、大当たりＢ４１、および大当たりＤ４１に対応付けられている各種カウンタ値が変更となっている。つまり、通常状態において当選した大当たりＡ４１，Ｄ４１に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「２０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１１」が対応付けて規定されている。また、通常状態において当選した大当たりＢ４１に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「５」が対応付けて規定されている。

【１１５８６】

また、図１２２３に示した通り、本第２の変形例における時短付与テーブル２０２ｅｋには、時短図柄に対する時短付与内容が追加されている点でも相違している。具体的には、通常状態において当選した時短図柄に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「２０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１０」が対応付けて規定されている。一方、時短状態において当選した時短図柄に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「０」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「０」が対応付けて規定されている。本第２の変形例では、時短付与条件が成立した場合に、各種カウンタに対して本時短付与テーブル２０２ｅｋに規定されている各カウンタ値を加算することで時短状態を付与する構成としているため、時短状態において時短図柄に当選した場合は、各種カウンタ値に対してそれぞれ０が加算される。つまり、時短状態中に時短図柄当選が発生した場合は、実質的に時短回数に何らの影響も及ぼさないように構成している。これにより、通常状態Ｂにおいて時短図柄当選が発生した場合は、第２時短状態を設定することができるように構成しつつ、時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、他の制御例における完全外れと同等の挙動を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１５８７】

＜第４１制御例の第２の変形例における主制御装置の制御処理について＞
次に、図１２２４から図１２２９を参照して、本第２の変形例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２２４を参照して、本第２の変形例における特別図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１０４Ｂ）について説明する。この特別図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１０４Ｂ）は、上述した第４１制御例における特別図柄変動処理４１（Ｓ１１１Ａ）に代えて実行される処理であり、特別図柄変動処理４１（Ｓ１１１Ａ）と同様に、特別図柄の変動表示中における第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示設定等を行うための処理である。なお、第４１制御例における特別図柄変動処理４１（Ｓ１１１Ａ）は、第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）に対して、特別図柄判定処理４０（図１１６７参照）に代えて特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）が実行される点、および特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）に代えて特別図柄変動パターン選択処理４１（図１１９８参照）が実行される点でのみ相違しており、その図示を省略していたため、ここでは特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）との対比によって本第２変形例における特別図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１０４Ｂ）を説明する。

【１１５８８】
この第２の変形例における特別図柄変動処理４１Ｂ（図１２２４参照）のうち、Ｓ２０１～Ｓ２０７，Ｓ２１１～Ｓ２２３、およびＳ２２５Ａの各処理では、上述した第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）のＳ２０１～Ｓ２０７，２１１～Ｓ２２３、およびＳ２２５Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２の変形例における特別図柄変動処理４１Ｂ（図１２２４参照）では、Ｓ２０７の処理、またはＳ２１４の処理のどちらかが終了すると、特別図柄判定処理４０（図１１６７参照）に代えて特別図柄判定処理４１Ｂを実行し（Ｓ２３１Ｂ）、次いで、特別図柄変動パターン選択処理４０（図１１６９参照）に代えて特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂを実行して（Ｓ２３２Ｂ）、本処理を終了する。これらの特別図柄判定処理４１Ｂ（Ｓ２３１Ｂ）、および特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（Ｓ２３２Ｂ）の詳細については、それぞれ図１２２５と図１２２６、および図１２２７と図１２２８を参照して後述する。

【１１５８９】
また、本第２の変形例における特別図柄変動処理４１Ｂ（図１２２４参照）では、Ｓ２２５Ａの処理において、今回の抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合に（Ｓ２２５Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ２３３Ｂ）、現在の遊技状態が時短状態である場合は（Ｓ２３３Ｂ：Ｙｅｓ）、処理をＳ２３３Ａへと移行する。一方、Ｓ２３３Ｂの処理において、現在の遊技状態が時短状態ではない（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ２３３Ｂ：Ｎｏ）、今回の時短図柄種別に対応する時短終了条件（各種カウンタのカウンタ値）を時短付与テーブル２０２ｅｋから読み出して、読み出した終了条件を現在の各種カウンタに対して加算することで更新し（Ｓ２３４Ｂ）、本処理を終了する。つまり、通常状態において時短図柄に当選した場合にのみ第２時短状態を設定し、時短状態において時短図柄に当選した場合は、実質的に時短状態に何らの変更も行わないように制御する。これにより、ＭＡＸボーナスモードが終了して通常状態Ｂへと移行した際に実行される第２特別図柄の抽選で第２時短状態へと移行させることを可能としつつ、時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、完全外れと同様の動作を実現することができる。

【１１５９０】
次に、図１２２５を参照して、上述した特別図柄判定処理４１Ｂ（Ｓ２３１Ｂ）の詳細について説明する。この特別図柄判定処理４１Ｂ（Ｓ２３１Ｂ）は、第４１制御例における特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）に代えて実行される処理であり、第４１制御例における特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）と同様に、特別図柄の抽選を実行するための処理である。この第２の変形例における特別図柄判定処理４１Ｂ（Ｓ２３１Ｂ）のうち、Ｓ３０１～Ｓ３０５の各処理では、それぞれ第４１制御例における特別図柄判定処理４１（図１１９７参照）のＳ３０１～Ｓ３０５の各処理と同一の処理が実行される。

【１１５９１】
　また、本第２の変形例における特別図柄判定処理４１Ｂ（図１２２５参照）では、Ｓ３０３の処理において特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ３０３：Ｎｏ）、外れの種別に応じた制御を実行するための外れ時処理４１Ｂを実行して（Ｓ３２１Ｂ）、本処理を終了する。この外れ時処理４１Ｂ（Ｓ３２１Ｂ）の詳細について、図１２２６を参照して説明する。
【１１５９２】
　図１２２６は、この外れ時処理４１Ｂ（Ｓ３２１Ｂ）を示すフローチャートである。この外れ時処理４１Ｂ（Ｓ３２１Ｂ）では、まず、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２１０１Ａ）、抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２１０１Ａ：Ｙｅｓ）、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する時短図柄種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる時短図柄として設定し（Ｓ２１０２Ａ）、本処理を終了する。
【１１５９３】
　一方、Ｓ２１０１Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２１０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２１０３Ａ）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ２１０４Ａ）、小当たり種別カウンタＣ５の値に対応する小当たり種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる小当たり図柄として設定し（Ｓ２１０５Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２１０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２１０４Ａ，Ｓ２１０５Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。
【１１５９４】
　この外れ時処理４１Ｂ（図１２２６参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が外れ（大当たり以外）である場合に、抽選結果に応じた第１図柄の表示を好適に設定することができる。
【１１５９５】
　次に、図１２２７を参照して、本第２の変形例における特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（Ｓ２３２Ｂ）の詳細について説明する。図１２２７は、この特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（Ｓ２３２Ｂ）を示すフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（Ｓ２３２Ｂ）は、上述した第４１制御例における特別図柄変動パターン選択処理４１（図１１９８参照）と同様に、特別図柄の抽選結果に応じた第１図柄の変動パターンを選択するための処理である。
【１１５９６】
　この第２の変形例における特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（図１２２７参照）のうち、Ｓ４０１～Ｓ４０８の各処理では、それぞれ第４１制御例における変動パターン選択処理４１（図１１９８参照）のＳ４０１～Ｓ４０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第２の変形例における変動パターン選択処理４１Ｂ（図１２２７参照）では、Ｓ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ４０１：Ｎｏ）、外れ（小当たり、時短図柄当選含む）時の変動パターンを選択するための外れ時種別決定処理４１Ｂを実行して（Ｓ４２１Ｂ）、処理をＳ４０３へと移行する。この外れ時種別決定処理４１Ｂ（Ｓ４２１Ｂ）の詳細について、図１２２８を参照して説明する。
【１１５９７】
　図１２２８は、この外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ｂ）を示すフローチャートである。外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ｂ）では、まず、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２２０１Ａ）、時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｙｅｓ）、時短図柄の種別を時短図柄Ａに決定し（Ｓ２２０２Ｂ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２２０１Ａの処理において、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと

判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２２０３Ａ）、抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋ（図１１９４（ｂ）参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ２２０４Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２２０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではない（即ち、通常の外れ（完全外れ）である）と判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２２０４Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１５９８】

この外れ時種別決定処理４１Ｂ（図１２２８参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選若しくは小当たりであった場合に、時短図柄種別若しくは小当たり種別を好適に決定することができる。

【１１５９９】

次に、図１２２９を参照して、本第２の変形例における普通図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１１３Ｂ）の詳細について説明する。この普通図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１１３Ｂ）は、上述した第４１制御例における普通図柄変動処理４１（図１２０３参照）と同様に、普通図柄の抽選を実行すると共に、普通図柄の当たりとなった場合に電動役物６４０ａの開閉制御を設定するための処理である。図１２２９は、この普通図柄変動処理４１Ｂ（Ｓ１１３Ｂ）を示すフローチャートである。

【１１６００】

この第２の変形例における普通図柄変動処理４１Ｂ（図１２２９参照）のうち、Ｓ１１０１～Ｓ１１１３，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７，Ｓ１２２１、およびＳ１１３２Ａ～Ｓ１１３６Ａの各処理では、それぞれ上述した第４１制御例における普通図柄変動処理４１（図１２０３参照）のＳ１１０１～Ｓ１１１３，Ｓ１１１５～Ｓ１１１７，Ｓ１２２１、およびＳ１１３２Ａ～Ｓ１１３６Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２の変形例における普通図柄変動処理４１Ｂ（図１２２９参照）では、Ｓ１１０８の処理において時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値である（即ち、現在が時短状態である）と判別した場合に（Ｓ１１０８：Ｙｅｓ）、次いで、現在の遊技状態が第２時短状態であるか否かを判別する（Ｓ１１３１Ｂ）。Ｓ１１３１Ｂの処理において、現在の遊技状態が第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ１１３１Ｂ：Ｙｅｓ）、処理をＳ１１１０へと移行する一方で、現在の遊技状態が第２時短状態ではないと判別した場合は（Ｓ１１３１Ｂ：Ｎｏ）、処理をＳ１１０９へと移行する。これにより、本第２の変形例では、第２時短状態が設定されている場合に、普通図柄の低確率時用の第２当たり乱数テーブル２０２ｃｋ（図１２２０（ｂ）参照）を用いて普通図柄の抽選を実行することができる。つまり、第２時短状態を、普通図柄の低確率状態に設定することができる。

【１１６０１】

＜第４１制御例の第２の変形例における音声ランプ制御装置の制御処理＞

次に、図１２３０、および図１２３１を参照して、本第２の変形例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２３０を参照して、本第２の変形例における変動演出設定処理４１Ｂ（Ｓ４３１１Ｂ）の詳細について説明する。この変動演出設定処理４１Ｂ（Ｓ４３１１Ｂ）は、上述した第４１制御例における変動演出設定処理４１（図１２１１参照）に代えて実行される処理であり、変動演出設定処理４１（図１２１１参照）と同様に、特別図柄の変動表示に同期させて実行する第３図柄の変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。図１２３０は、この変動演出設定処理４１Ｂ（Ｓ４３１１Ｂ）を示すフローチャートである。

【１１６０２】

この第２の変形例における変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）のうち、Ｓ４４０１，Ｓ４４０３，Ｓ４４２１Ａ、およびＳ４４２２Ａの各処理では、それぞれ上述した第４１制御例における変動演出設定処理４１（図１２１１参照）のＳ４４０１，Ｓ４４０３，Ｓ４４２１Ａ、およびＳ４４２２Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第２の変形例における変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）では、Ｓ４４２２Ａの処

理において、現在の遊技状態がＭＡＸボーナスモード（時短状態Ｃ）でないと判別した場合に（Ｓ４４２２Ａ：Ｎｏ）、今回の抽選結果に応じた変動演出の演出態様を決定して（Ｓ４４３１Ｂ）、本処理を終了する。具体的には、抽選結果が大当たり又は小当たりであれば、怪獣のキャラクタ８２１に攻撃がヒットして当たりが報知される５秒間の演出を設定する一方で、大当たりでも小当たりでもなければ、怪獣のキャラクタ８２１に攻撃を避けられて外れが報知される５秒間の演出が実行される。

【１１６０３】

一方、Ｓ４４２２Ａの処理において、現在の遊技状態がＭＡＸボーナスモードであると判別した場合は（Ｓ４４３２Ｂ：Ｙｅｓ）、抽選結果に応じた小表示領域Ｄｍ８における変動表示態様を決定し（Ｓ４４３２Ｂ）、現在が疑似１３ラウンドの前の疑似インターバル演出中であるか否かを判別する（Ｓ４４３３Ｂ）。Ｓ４４３３Ｂの処理において、疑似１３ラウンド前の疑似インターバル演出の実行中であると判別した場合は（Ｓ４４３３Ｂ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の抽選結果が大当たり又は小当たりのどちらかであるか否かを判別し（Ｓ４４３４Ｂ）、今回の抽選結果が大当たり又は小当たりのどちらかであると判別した場合は（Ｓ４４３４Ｂ：Ｙｅｓ）、疑似インターバル演出における右を狙え演出（図１２１７（ｂ）参照）の実行を設定して（Ｓ４４３５Ｂ）、本処理を終了する。一方で、Ｓ４３３３Ｂの処理において、現在が疑似１３ラウンド前の疑似インターバル演出中ではないと判別した場合（Ｓ４３３３Ｂ：Ｎｏ）、およびＳ４４３４Ｂの処理において、今回の抽選結果が大当たりでも小当たりでもないと判別した場合は（Ｓ４３３４Ｂ：Ｎｏ）、Ｓ４４３５Ｂの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１６０４】

この変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）を実行することにより、時短リミット回数に到達する直前の大当たり変動または小当たり変動の実行中に、右を狙え演出（図１２１７（ｂ）参照）を実行して第２特別図柄の保留球を貯めさせることができる。よって、時短リミット回数に到達して通常状態Ｂに移行した場合に、第２特別図柄の保留球に基づく抽選を実行させて時短図柄に当選させ、第２時短状態へと移行させることができる。よって、時短状態Ｂと引き戻しモードとを略同等の性能（大当たり期待度）の状態とすることができる。

【１１６０５】

次に、図１２３１を参照して、本第２の変形例における演出更新処理４１Ｂ（Ｓ３１２１Ｂ）の詳細について説明する。図１２３１は、上述した第４１制御例（および第４０制御例）における演出更新処理４０（図１１８２参照）に代えて実行される処理であり、演出更新処理４０（図１１８２参照）と同様に、演出態様を更新するための処理である。

【１１６０６】

この演出更新処理４１Ｂ（図１２３１参照）では、まず、右を狙え演出（図１２１７（ｂ）参照）の実行期間中であるか否かを判別し（Ｓ４６２１Ｂ）、右を狙え演出の実行期間ではないと判別した場合は（Ｓ４６２１Ｂ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、Ｓ４６２１Ｂの処理において、現在が右を狙え演出の実行期間中であると判別した場合は（Ｓ４６２１Ｂ：Ｙｅｓ）、次いで、新たな第２特別図柄の始動入賞を検出した（入賞情報コマンドを受信した）か否かを判別し（Ｓ４６２２Ｂ）、新たな第２特別図柄の始動入賞を検出した（入賞情報コマンドを受信した）と判別した場合は（Ｓ４６２２Ｂ：Ｙｅｓ）、検出した始動入賞の先読み結果に応じて宝箱８１０から出現させる報知アイコンの種別を抽選により決定し（Ｓ４６２３Ｂ）、決定した種別の報知アイコンが宝箱８１０から出現する演出態様の報知演出の実行を設定する（Ｓ４６２４Ｂ）。そして、右を狙え演出の終了を設定して（Ｓ４６２６Ｂ）、本処理を終了する。

【１１６０７】

一方で、Ｓ４６２２Ｂの処理において新たな始動入賞を検出していないと判別した場合は（Ｓ４６２２Ｂ：Ｎｏ）、右を狙え演出の演出期間が経過したか否かを判別し（Ｓ４６２５Ｂ）、演出期間が経過したと判別した場合は（Ｓ４６２５Ｂ：Ｙｅｓ）、処理をＳ４６２６Ｂへと移行する。即ち、報知アイコンを出現させることなく右を狙え演出を終了さ

せる。一方で、Ｓ４６２５Ｂの処理において、右を狙え演出の演出期間が経過していないと判別した場合は（Ｓ４６２５Ｂ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１１６０８】

この演出更新処理４１Ｂ（図１２３１参照）を実行することで、右を狙え演出の実行中に右打ちを行って第２特別図柄の保留球が増加した場合にのみ、当該保留球の当たり期待度を示す報知アイコンが報知されるので、右を狙え演出の実行中に遊技者に対して積極的に右打ちを行わせることができる。

【１１６０９】

以上説明した通り、第４１制御例の第２の変形例におけるパチンコ機１０では、上述した第４１制御例における第４終了条件（時短最終変動における第２特別図柄の保留球数が規定個数に到達したことに基づいて成立する時短終了条件）を採用することなく、所定の時短状態（時短状態Ｂ）へ移行した後における第２特別図柄の抽選機会と、時短リミット回数到達後における第２特別図柄の抽選機会とを同等にする斬新な制御を実現している。言い換えれば、第１の設定条件の成立に基づいて有利な第１遊技状態（時短状態Ｂ）が設定された場合にも、第２の設定条件の成立（時短リミット回数に到達したこと）に基づいて、第１遊技状態よりも有利度合いが低い（第２入球口６４０へと遊技球が入球し難い）第２遊技状態（通常状態Ｂ）が設定された場合にも、第２特別図柄の抽選が実行され得ない（実行困難な）通常状態Ａへと移行するまでに、有利な第２特別図柄の抽選機会を同一の回数（１１回）付与する構成としている。より具体的には、時短状態Ｂにおいては、第２特別図柄の保留球を貯めることが不可能となるように、特別図柄の変動時間、普通図柄の変動時間、および普図当たりの開閉パターン（変位パターン）を設定し、第２特別図柄の抽選回数に基づく終了条件（第３終了条件）が成立した時点で第２特別図柄の保留球が必ず０となるように構成した。つまり、時短状態Ｂに移行した場合における第２特別図柄の抽選機会を、最大でも第３終了条件が成立するまでの抽選回数（１１回）となるように構成した。そして、第２特別図柄の抽選結果を、大当たり、小当たり、若しくは時短図柄の３種類のみとし、且つ、第２特別図柄の保留球数の上限値を１個にしている。そして、時短リミット回数に到達して通常状態Ｂが設定されてから、第２特別図柄の残保留（１個）に基づく抽選で時短図柄に当選し、第２時短状態が終了するまでの第２特別図柄の抽選回数を、時短状態Ｂにおける最大の抽選回数（即ち、大当たりにも小当たりにも当選せずに通常状態Ａへと移行するまでの抽選回数である１１回）と同一となるように構成した。このように構成することで、時短最終変動における保留球数を監視して時短状態の終了有無を判別するという比較的複雑な処理を行わなくても、時短状態Ｂが設定された場合と時短リミット回数到達後とで、第２特別図柄の抽選機会を共通化することができる。

【１１６１０】

なお、本第２の変形例では、時短状態Ｂ、および通常状態Ｂへと移行した後における第２特別図柄の抽選機会を、共に、最大で１１回とする構成としていたが、抽選機会は任意の回数に設定することができる。抽選回数を多くすれば、時短状態Ｂ、および通常状態Ｂに移行してから通常状態Ａへと移行するまでの間の遊技をより長く楽しませ易く構成することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、抽選回数を少なくした場合は、時短状態Ｂや通常状態Ｂへと移行してから大当たりに当選する、または時短状態Ａへと移行するまでの期間を短くすることができるので、遊技の時間効率を向上させることができる。

【１１６１１】

本第２の変形例では、第２特別図柄の抽選結果が大当たり、小当たり、または時短図柄当選のいずれかにしかならない（完全外れが存在しない）ように構成していたが、完全外れを設ける構成としてもよい。この場合、時短リミット回数到達後の通常状態Ｂにおいて第２特別図柄の抽選が実行された場合に、完全外れとなることで第２時短状態へと移行させることができなくなるため、通常状態Ｂにおける第２特別図柄の変動表示演出において、引き戻しモードに突入する（時短図柄当選が発生する）か否かを示すためのジャッジ演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、引き戻しモードに必ず突入

する訳ではないという緊張感を遊技者に対して抱かせることができるので、ＭＡＸボーナスモードへと移行した場合に、多量の賞球が得られるものの、その後に移行する引き戻しモードの有利度合いが低くなる可能性がある遊技性となる一方で、時短状態Ｂへと移行する４ラウンド大当たりに当選した場合は、賞球数は少なくなるものの、大当たり終了後の遊技状態として固定回数（１１回）の第２特別図柄の抽選機会が保証される遊技性となるため、当選する大当たりの種別によって遊技性を大きく異ならせることができる。これにより、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６１２】

本第２の変形例では、時短状態Ｂと引き戻しモード（通常状態Ｂ、および第２時短状態）とで、第２特別図柄の最大の抽選回数（通常状態Ａへと移行するまでの抽選回数）を共通化する構成としていたが、これに限られるものではなく、抽選回数を異ならせてもよい。引き戻しモードの抽選回数を時短状態Ｂよりも多くすることにより、ＭＡＸボーナスモードへと移行した場合における有利度合いをより高くすることができ、ＭＡＸボーナスモードへと移行したことに対する満足感をより大きくすることができる。また、引き戻しモードの抽選回数を時短状態Ｂよりも少なくすることにより、ＭＡＸボーナスモードへと移行した場合に遊技者にとって霞城に有利となり過ぎてしまうことを抑制することができる。また、ＭＡＸボーナスモードへと移行した場合に、多量の賞球が得られるものの、その後に移行する引き戻しモードの有利度合いが時短状態Ｂよりも低くなる遊技性となる一方で、時短状態Ｂへと移行する４ラウンド大当たりに当選した場合は、賞球数は少なくなるものの、大当たり終了後の遊技状態として抽選回数が多くなる遊技性となるため、当選する大当たりの種別によって遊技性を大きく異ならせることができる。これにより、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６１３】

本第２の変形例では、通常状態Ｂにおいて時短図柄当選が発生した場合に付与される第２時短状態の時短回数（第２特別図柄の抽選回数の規定回数）を１０回に固定化する構成としていたが、時短図柄として、時短回数が異なる複数の時短図柄を設けておき、時短図柄当選が発生した場合は複数の時短図柄の種別のうちいずれか１の時短図柄に決定されるように構成してもよい。このように構成することで、引き戻しモードの有利度合いが時短図柄の種別に応じて可変する遊技性を実現することができる。つまり、通常状態Ｂにおいて実行された第２特別図柄の抽選結果（選択される時短図柄の種別）に応じて、時短状態Ｂと共通の有利度合い（時短回数）となるか、時短状態Ｂよりも低い有利度合いとなるか、時短状態よりも高い有利度合いとなるかを可変させることができるので、引き戻しモードの初回の第２特別図柄の抽選結果に注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６１４】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、確率変動機能を有さない所謂１種２種混合機仕様としていたが、確率変動機能を搭載した仕様に適用してもよい。つまり、時短リミット回数に代えて、確変リミット回数を適用し、所定の確変状態に移行してから確変リミット回数に到達するまでの間の期間で、１の大当たり遊技が継続しているかのような一連の演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、確率変動機能を搭載したパチンコ機１０についても、少ないラウンド数の大当たりのみを設けておきつつ、１の大当たり当選を契機として、あたかも極めて多いラウンド数の大当たりに当選したかのように遊技者に思わせることができる斬新な遊技性を実現することができる。また、この場合において、確変リミット回数に到達した場合に、確率変動機能のみを非作動とし、時短状態については付与するように構成してもよい。このように構成することで、確変リミット回数に到達した時点で第２特別図柄の保留球が保留されていなくても、確変リミット回数到達後に時短状態へと移行させて第２特別図柄の抽選が実行され易い状態を形成することができる。

【１１６１５】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、時短状態Ｃにおいて小当たりに当

選した場合に、Ｖ入賞（特定領域６５０ｅ３への遊技球の入球）が発生した後で小当たりカウンタ２０３ｓの値が減算されるように構成することで、時短状態Ｃにおいて小当たり遊技の実行中にＶ入賞に基づいて大当たりに当選した場合に、当該大当たりの当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行が設定された時点の遊技状態）を、常に、時短状態に固定化するように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、一部の小当たり種別（特定小当たり）では、時短状態の種別によらず、小当たり遊技の開始時に小当たりカウンタ２０３ｓを減算するように構成してもよい。つまり、時短状態Ｃにおいて特定小当たりに当選すると、Ｖ入賞の発生（大当たり遊技の実行が設定されるタイミング）よりも前に時短状態を終了させることができ、時短リミット回数までの残りの回数をリセットすることができるので、ＭＡＸボーナスモードが通常（４回分の大当たり）よりも長く継続したり、逆に、少ない継続回数となる可能性を設けることができる。特に、Ｖ入賞が発生した場合に遊技状態によらず大当たり終了後の遊技状態が時短状態Ｃに設定される種別の大当たりに当選する小当たり種別（上述した小当たりＡ４１）の一部を特定小当たりに設定した場合、時短リミット回数をリセットしつつＭＡＸボーナスモードを継続させることができるので、当該特定小当たりに基づく大当たりを契機として、ＭＡＸボーナスモードが再セットされたかのような動作を実現することができるので、ＭＡＸボーナスモードがどこまで継続するかわからない斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６１６】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選した場合は、Ｖ入賞が発生した後で小当たりカウンタ２０３ｓのカウンタ値を更新する一方で、他の時短状態では、小当たり開始時に小当たりカウンタ２０３ｓのカウンタ値を更新する構成としていたが、これに限られるものではない。時短状態Ｃにおいては、Ｖ入賞（大当たり遊技の実行が設定されたタイミング）よりも後で小当たりカウンタ２０３ｓが更新される一方で、時短状態Ｃ以外の時短状態では、Ｖ入賞よりも前に小当たりカウンタ２０３ｓが更新されるように制御できればよく、例えば、時短状態Ｃにおいて小当たりに当選した場合は、小当たりの開放期間が終了したタイミングや小当たり終了時（Ｖ入賞に基づく大当たり開始時）に小当たりカウンタ２０３ｓのカウンタ値を更新する構成としてもよい。また、時短状態Ｃ以外の小当たりに当選した場合は、小当たり図柄の停止タイミングや、小当たりに基づく開閉扉６５０ｆ１の開放期間の開始時、小当たりに対応する変動表示の開始時等に小当たりカウンタ２０３ｓを更新する構成としてもよい。

【１１６１７】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、時短状態Ｃであるか、時短状態Ｃ以外の時短状態であるかに応じて、小当たりカウンタ２０３ｓの更新条件が成立した（第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した）場合に当該小当たりカウンタ２０３ｓの更新タイミングを異ならせる構成としていた。即ち、時短状態の設定契機に応じて、時短状態中に小当たりカウンタ２０３ｓが更新されるタイミングを異ならせる構成としていたが、本制御は小当たりカウンタ２０３ｓに限られるものではない。少なくとも時短状態において更新され得るカウンタであれば、他のカウンタに適用してもよい。より具体的には、例えば、時短カウンタ２０３ｈに適用してもよい。即ち、時短状態Ｃにおいて特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、大当たり当選時の遊技状態を示すデータを当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納した（大当たり遊技の実行を設定した）後において時短カウンタ２０３ｈを更新する一方で、時短状態Ｃ以外の時短状態においては、大当たり当選時の遊技状態を示すデータを当選時状態格納エリア２０３ｋｄに格納する（大当たり遊技の実行を設定する）よりも前（例えば、変動開始時）に時短回数２０３ｈを更新する構成としてもよい。このように構成することで、時短状態Ｃでは、大当たり当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行を設定する際の遊技状態）が時短状態としてより取り扱われ易くなる一方で、時短状態Ｃ以外の時短状態では、大当たり当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行を設定する際の遊技状態）を、より通常状態として取り扱われ易く構成することができる。また、時短カウンタ２０３ｈ以外にも、規定保留球数カウンタ２０３ｋａの更新タイミン

グや特図２カウンタ２０３ｔの更新タイミングを時短状態の設定契機に応じて異ならせる制御を採用してもよい。更に、時短状態の終了条件を判定するためのカウンタ値に限られず、例えば、確率変動機能を搭載し、確変状態の継続回数（ＳＴ回数）が予め定められている仕様において、確変状態の終了条件を判定するためのカウンタ値を更新する際の更新タイミングを、確変状態に設定された契機によって異ならせる構成としてもよい。更に、特別図柄の抽選に関するカウンタ（第１当たり乱数カウンタＣ１、第１当たり種別カウンタＣ２、停止種別カウンタＣ３、変動種別カウンタＣＳ１、第２当たり乱数カウンタＣ４等）や演出用のカウンタ（演出抽選カウンタ２２３ｆ１，２２３ｆ２等）に対して本制御を適用する構成としてもよい。

【１１６１８】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、天井機能（大当たり終了後の特別図柄の抽選回数が天井抽選回数に到達した場合に第２時短状態を設定する機能）を設けていなかったが、天井機能を搭載してもよい。この場合において、天井抽選回数に到達したことに基づいて設定される時短状態は、実質的にＭＡＸボーナスモードと同等の有利度合いの第２時短状態に設定してもよいし、時短モードと同等の第２時短状態に設定してもよいし、大当たり終了後（および時短図柄当選時）に開始されるいずれの時短状態とも異なる有利度合いの第２時短状態に設定してもよい。このように構成することで、所謂ハマりが発生したとしても、天井抽選回数へと到達することを目標として遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができる。

【１１６１９】

上述した第４１制御例、およびその各種変形例では、時短状態Ｃにおいて実行された第２特別図柄の抽選で小当たりに当選し、当該小当たりにおいてＶ入賞（特定領域６５０ｅ３への入球）が発生して大当たりに当選した場合に、Ｖ入賞が発生した後で小当たりカウンタ２０３ｓの値を減算する一方で、他の時短状態において実行された第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合は、小当たり開始時に小当たりカウンタ２０３ｓの値を減算することでＶ入賞が発生するよりも前に時短状態が終了させるように制御していた。つまり、時短状態Ｃにおいては、大当たり当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行を設定した時点の遊技状態）が時短状態として取り扱われる（時短付与テーブル２０２ｅｋから時短状態で当選した場合に対応する時短終了条件が読み出されて設定される）一方で、他の時短状態においては、大当たり当選時の遊技状態（大当たり遊技の実行を設定した時点の遊技状態）が通常状態として取り扱われる（時短付与テーブル２０２ｅｋから通常状態で当選した場合に対応する時短終了条件が読み出されて設定される）ように構成することにより、時短状態Ｃで実行された第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合は時短リミット回数に到達していない限り必ず時短状態Ｃへと移行する一方で、時短状態Ｃ以外の時短状態で小当たりに当選した場合は、通常状態において小当たりに当選した場合と同一の振分けで時短状態Ｂと時短状態Ｃとのいずれかが設定されるように構成していたが、時短状態において実行された第２特別図柄の抽選では、時短状態の種別によらず、大当たり当選時の遊技状態が時短状態として取り扱われるように構成してもよい。より具体的には、例えば、大当たり当選時の遊技状態を、第２特別図柄の抽選が実行された時点の遊技状態に設定する構成としてもよい。つまり、特別図柄の抽選で大当たり又は小当たりとなった場合に、その時点（特別図柄の変動開始を設定する時点）で当選時状態格納エリア２０３ｋｄに対して時短状態を示すデータを格納する構成としてもよい。このように構成することで、上述した第４１制御例や第４１制御例の第１の変形例においては、時短状態Ｃ以外の時短状態において最初に実行される第２特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合に、最も有利な時短状態Ｃ（ＭＡＸボーナスモード）への移行が確定する一方で、時短終了後の第２特別図柄の残保留で小当たりに当選した場合には、時短状態Ｃ以外の時短状態（次回の大当たりが確定しない時短状態）へと移行する可能性があるように構成できるので、複数回の第２特別図柄の抽選機会が付与される中で、１回目の特別図柄の抽選で大当たり又は小当たりに当選することをより強く期待させる斬新な遊技性を実現することができる。

よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、上述した第４１制御例の第１の変形例や第２の変形例では、大当たり当選時の遊技状態を第２特別図柄の抽選で大当たり又は小当たりとなった時点の遊技状態に設定する方法の他に、時短状態の種別によらず、Ｖ入賞が発生して大当たり遊技の実行を設定した（当選時状態格納エリア２０３ｋｄに大当たり当選時の遊技状態として時短状態を示すデータを設定した）後で、小当たりカウンタ２０３ｓが更新されるように制御してもよい。このように構成することで、小当たり遊技においてＶ入賞が発生しなかった場合には、遊技状態格納エリア２０３ｋｄへと遊技状態を示すデータを格納する制御をスキップすることができるので、無駄に遊技状態格納エリア２０３ｋｄへとデータを格納する処理を行ってしまい、処理負荷が増大してしまうことを抑制することができる。

【１１６２０】

＜第４２制御例＞

次に、図１２３２から図１２５２を参照して、第４２制御例におけるパチンコ機１０について説明する。上述した第４１制御例の第２の変形例におけるパチンコ機１０では、時短終了条件として、複数の終了条件のうちいずれか１の終了条件が成立したことに基づいて時短状態が終了されるように構成していた。即ち、特別図柄の抽選回数が規定回数となった場合に成立する第１終了条件と、小当たり遊技の実行回数が規定回数となった場合に成立する第２終了条件と、第２特別図柄の抽選回数が規定回数となった場合に成立する第３終了条件とのうち、いずれか１の終了条件が成立することで、他の終了条件の状況とは関係なく時短状態が終了されるように構成していた。

【１１６２１】

これに対して本第４２制御例におけるパチンコ機１０では、時短終了条件として、複数の異なる条件が全て成立した場合に成立する終了条件を設ける構成とした。より具体的には、小当たり種別として、実質的に大当たりが確定するＶ小当たりに加えて、遊技球を入球させたとしても特定領域６５０ｅ３へと遊技球が誘導され得ない（切替部材６５０ｈが通常排出流路６５０ｅ１側に遊技球を誘導する配置となっている期間にのみ開閉扉６５０ｆ１が開放される）小当たり種別が複数設けられている。即ち、第１小当たり、第２小当たり、および第３小当たりが設けられている。本第４２制御例では、時短状態に移行した後で、特別図柄の抽選で第１小当たり（第１の抽選結果）に予め定められた第１回数当選した場合に成立する第１条件と、第２小当たり（第２の抽選結果）に予め定められた第２回数当選した場合に成立する第２条件と、第３小当たり（第３の抽選結果）に予め定められた第３回数当選することで成立する第３条件と、が全て成立した場合にのみ成立する時短終了条件（第３終了条件）を設ける構成している。このように構成することで、第１条件と、第２条件と、第３条件とのうち、１又は複数の条件が成立して板としても、少なくとも１の条件が未成立である間は、有利な時短状態が継続され得る斬新な制御を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１６２２】

この第４２制御例におけるパチンコ機１０が、上述した第４１制御例の第２の変形例におけるパチンコ機１０と構成上において相違する点は、主制御装置１１０におけるＲＯＭ２０２、およびＲＡＭ２０３の構成が一部変更となっている点、音声ランプ制御装置１１３におけるＲＡＭ２２３の構成が一部変更となっている点、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される制御処理が一部変更となっている点、および音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される制御処理が一部変更となっている点である。その他の構成や、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行されるその他の処理、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行されるその他の処理、表示制御装置１１４のＭＰＵ２３１によって実行される各種処理については、第４１制御例の第２の変形例におけるパチンコ機１０と同一である。以下、第４０制御例の第２の変形例と同一の要素には同一の符号を付し、その図示と説明とを省略する。

【１１６２３】

まず、図１２３２から図１２３７を参照して、本第４２制御例における特徴的な演出態

様について説明する。まず、図１２３２（ａ）を参照して、本第４２制御例における大当たり遊技の実行期間中に実行される残機ストック演出の詳細について説明する。ここで、上述した通り、本第４２制御例では、特定領域６５０ｅ３へと遊技球を入球させる（Ｖ入賞を発生させる）ことが不可能（困難）な小当たりとして、第１～第３小当たりを設ける構成としている。加えて、本第４２制御例では、第１～第３小当たりのそれぞれの当選回数が、時短状態の種別毎に予め定められている規定回数に到達するまで時短状態が継続し得るように構成されている。即ち、他の時短終了条件（特別図柄の抽選回数の合計が規定回数に到達することで成立する第１終了条件、Ｖ入賞を発生させることが可能なＶ小当たりの実行回数が規定回数に到達することで成立する第２終了条件、および第２特別図柄の抽選回数が規定回数に到達することで成立する第３終了条件）がいずれも未成立である場合は、第１～第３小当たりのうち少なくとも１の小当たりの当選回数が規定回数（第１～第３回数）に未到達である限り、時短状態が継続されるように構成されている。本第４２制御例では、これらの第１～第３小当たりの当選回数の規定回数を、演出態様によって示唆可能に構成している。より具体的には、大当たり終了後に時短状態が付与される大当たりに当選した場合に、当該大当たり終了後に設定される時短状態における第１～第３小当たりのそれぞれに対応する規定回数を示唆する数（残機）を報知する演出（残機ストック演出）を実行可能に構成している。そして、時短状態に移行した後は、大当たり中に報知された残機数を継続して表示しておき、第１～第３小当たりに当選する毎に、対応する残機数を減算することで、各小当たりが規定回数に到達しているか否かを遊技者に対して示唆する演出を実行する構成としている。

【１１６２４】

図１２３２（ａ）は、大当たり遊技の実行中に残機ストック演出が開始された場合の演出態様を示した図である。この残機ストック演出は、例えば、大当たりのオープニング期間における演出態様として実行される。図１２３２（ａ）に示した通り、残機ストック演出が実行されると、主表示領域Ｄｓに対して、まず、冒険者のキャラクタ８１１ａが表示される。そして、冒険者のキャラクタ８１１ａの上方に形成される表示領域ＨＲ１０に対して、「ＰＵＳＨで残機をストックするんだ！！」という文字が表示され、冒険者のキャラクタ８１１ａの正面視左方には、枠ボタン２２を模したプッシュボタン画像ＰＢおよび枠ボタン２２の操作有効期間を示すゲージが内部に表示された表示領域ＨＲ１１が形成される。また、冒険者のキャラクタ８１１ａの正面視右側には、各小当たりの規定回数を示唆する画像を表示させるための表示領域Ｄｍ６ａ～Ｄｍ６ｄが形成される。表示領域Ｄｍ６ａには、「残機」という文字が表示され、表示領域Ｄｍ６ｂ～Ｄｍ６ｄには、それぞれ冒険者のキャラクタの顔部分の画像、ウサギのキャラクタの顔部分の画像、およびガンマンのキャラクタの顔部分の画像が表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「残機ストックチャンス」という文字が表示される。これらの表示内容により、枠ボタン２２を押下することで、冒険者のキャラクタ８１１ａ、ウサギのキャラクタ８１１ｂ、およびガンマンのキャラクタ８１１ｃのうち、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機が報知されるということを遊技者に対して容易に理解させることができる。なお、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機は、第１小当たりの規定回数（第１条件が成立するまでに要する第１小当たりの当選回数）に対応し、ウサギのキャラクタ８１１ｂは、第２小当たりの規定回数（第２条件が成立するまでに要する第２小当たりの当選回数）に対応し、ガンマンのキャラクタ８１１ｃは、第２小当たりの規定回数（第３条件が成立するまでに要する第３小当たりの当選回数）に対応している。

【１１６２５】

図１２３２（ｂ）は、残機ストックチャンス演出において遊技者が枠ボタン２２を押下した場合の演出態様の一例を示した図である。図１２３２（ｂ）に示した通り、残機ストック演出において枠ボタン２２に対する押下を検出した場合、表示されているキャラクタが今回の大当たり終了後に設定される時短状態に対応する残機（対応する小当たりの規定回数）を叫ぶ演出が実行される。図１２３２（ｂ）では、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機として「５」が報知された状況を例示している。この場合、図１２３２（ｂ）に示し

た通り、冒険者のキャラクタ８１１ａが「５」と叫ぶ演出が実行される（５という文字が表示された吹き出し画像ＳＧが形成される）。また、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機を示すための表示領域Ｄｍ６ｂにおいて、冒険者のキャラクタ８１１ａの顔部分の画像の右側に対して、「×５」という数字が表示される。更に、表示領域ＨＲ１０に対して、「５機ストック！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機が５機付与されたということを遊技者に対して容易に理解させることができる。冒険者のキャラクタ８１１ａの残機の報知が終了すると、ウサギのキャラクタ８１１ｂやガンマンのキャラクタ８１１ｃの残機についても、同様の演出によって順に報知される。これにより、大当たり終了後に設定される時短状態における各小当たりの規定回数を示唆する数（残機）を、大当たり遊技の実行中に遊技者に対して報知することができるので、時短回数がどれだけ続くかの目安を遊技者に対して予め示唆しておく斬新な演出態様を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１６２６】

なお、時短状態に移行した後は、第１～第３小当たりのいずれかに当選する毎に、対応するキャラクタの残機が減少する演出が実行され、全てのキャラクタの残機が０となることで時短状態が終了される。この時短状態における一連の演出態様について、図１２３３から図１２３６を参照して説明する。

【１１６２７】

図１２３３（ａ）は、時短状態（ラッシュ）が開始された時点の第３図柄表示装置８１の表示態様の一例を示した図である。図１２３３では、大当たりにおいて冒険者のキャラクタ８１１ａ、ウサギのキャラクタ８１１ｂ、およびガンマンのキャラクタ８１１ｃの残機として、それぞれ５機、３機、および１機が報知され、当該大当たりが終了して時短状態（ラッシュ）に突入した場合を例示している。図１２３３（ａ）に示した通り、時短状態（ラッシュ）が開始されると、主表示領域Ｄｍにおいて、冒険者のキャラクタ８１１ａ、ウサギのキャラクタ８１１ｂ、およびガンマンのキャラクタ８１１ｃと、敵である怪獣のキャラクタ８２１とが睨み合う演出が実行される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「残機が尽きる前に的を倒せ！！」という文字が表示される。また、大当たり遊技の実行中から引き続いて、表示領域Ｄｍ６ａ～Ｄｍ６ｄが主表示領域Ｄｍにおける右端に表示され続ける。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ＲＵＳＨ開始」という文字が表示される。これらの表示内容により、各キャラクタの残機が残っているうちは時短状態が継続するということ、および敵である怪獣のキャラクタ８２１を倒すことで大当たりに当選するということを遊技者に対して直感的に理解させることができる。

【１１６２８】

図１２３３（ｂ）は、時短状態中にリーチが発生した場合の表示態様を示した図である。ここで、本第４２制御例では、第２特別図柄の抽選で大当たり、または小当たりとなった場合に変動表示演出としてリーチ演出を伴う変動表示態様が設定されるように構成されている。つまり、リーチが発生した時点で、大当たり、実質的に大当たりが確定するＶ小当たり、および第１～第３小当たりのいずれかであることが確定する構成としている。言い換えれば、リーチが発生した場合、大当たりとなるか、または第１～第３小当たりのいずれかの実行回数が１増加する（対応するキャラクタの残機が減算される）構成としている。このため、本第４２制御例における時短状態では、リーチが発生した後において、敵である怪獣のキャラクタ８２１を討伐することで大当たりとなる一方で、怪獣のキャラクタ８２１に敗北することで敗北したキャラクタの残機が１減算される演出が実行される。より具体的には、図１２３３（ｂ）に示した通り、リーチが発生すると、３人のキャラクタのうち１のキャラクタが選択される演出が実行される。図１２３３（ｂ）の例では、ウサギのキャラクタ８１１ｂが選択された場合を例示しており、ウサギのキャラクタ８１１ｂの周囲が発光した状態に設定されると共に、他のキャラクタが黒塗りのシルエット表示に設定される。即ち、ウサギのキャラクタ８１１ｂが他のキャラクタよりも強調して表示される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「対戦者決定！！」という文字が表示される

。これらの表示内容により、怪獣のキャラクタ８２１とバトル（対戦）を行うキャラクタがウサギのキャラクタ８１１ｂに決定されたということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１６２９】

なお、基本的に、抽選結果が第１小当たりとなった場合には、冒険者のキャラクタ８１１ａが対戦者に決定され、第２小当たりとなった場合には、ウサギのキャラクタ８１１ｂが決定され、第３小当たりとなった場合には、ガンマンのキャラクタ８１１ｃが決定される。一方で、大当たり又は実質的に大当たり確定のＶ小当たりとなった場合には、ガンマンのキャラクタの選択割合が比較的高くなり、冒険者のキャラクタ８１１ａの選択割合が比較的低くなるように選択割合が振り分けられている。具体的には例えば、全キャラクタの残機が１以上残っている状態で大当たり又はＶ小当たりに当選した場合は、冒険者のキャラクタ８１１ａの選択割合が２５％、ウサギのキャラクタ８１１ｂの選択割合が３０％、ガンマンのキャラクタ８１１ｃの選択割合が４５％となるように構成されている。また、残機が０のキャラクタが１以上存在する場合は、残機が１以上残っているキャラクタの中から１のキャラクタが選択される。この場合も、ガンマンのキャラクタ８１１ｃの選択割合が比較的高くなり、冒険者のキャラクタ８１１ａの選択割合が比較的低くなるように選択割合が振り分けられている。このため、リーチが発生した場合に選択されるキャラクタに注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６３０】

次に、図１２３４（ａ）を参照して、Ｖ入賞させることが不可能な非Ｖ小当たり（第１～第３小当たりのいずれか）に当選していた場合の演出態様について説明する。図１２３４（ａ）は、非Ｖ小当たりとして、ウサギのキャラクタ８１１ｂに対応する第２小当たりに当選していた場合の表示態様の一例を示した図である。ウサギのキャラクタ８１１ｂの残機が１以上残っている状態で第２小当たりに当選した場合は、リーチ発生時にウサギのキャラクタ８１１ｂが対戦相手として決定される演出（図１２３３（ｂ）参照）を経て、図１２３４（ａ）に示した通り、最終的にウサギのキャラクタ８１１ｂがバトルに敗北する演出が実行される。また、ウサギのキャラクタ８１１ｂの残機が１減少される演出が実行される。図１２３４（ａ）では、ウサギのキャラクタ８１１ｂの残機（即ち、第２小当たりの当選回数が規定回数に到達するまでの残り回数）が３から２に減少した状況を例示しており、表示領域Ｄｍ６ｃに表示されているウサギのキャラクタ８１１ｂの残機数が３から２に減少されている。

【１１６３１】

次に、図１２３４（ｂ）を参照して、第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達して時短終了条件が成立した場合の演出態様について説明する。この場合、基本的な演出の流れは非Ｖ小当たりに当選して残機が減少する演出（図１２３３（ｂ）、図１２３４（ａ）参照）と同様であるが、怪獣のキャラクタ８２１に敗北する際に、敗北したキャラクタ（図１２３４（ｂ）の例ではウサギのキャラクタ８１１ｂ）に対応する残機が０に更新されると共に、副表示領域Ｄｓに対して「ＲＵＳＨ終了・・・」という文字が表示される点で相違している。これにより、全てのキャラクタの残機が０となったことに連動して時短状態（ラッシュ状態）が終了されたということを、遊技者に対して容易に理解させることができる。よって、遊技者にとって分かり易い演出態様を実現することができるので、好適な演出態様を実現することができる。

【１１６３２】

なお、時短状態における最後の非Ｖ小当たりに当選したことに基づいて実行される変動表示演出では、変動開始時点で保留されていた第２特別図柄の保留球の先読み結果も加味した演出態様が設定される。つまり、たとえ非Ｖ小当たりに当選して時短終了条件が成立するとしても、第２特別図柄の保留球の中に大当たりまたはＶ小当たりに対応する抽選結果が保留されている場合は、通常状態へと移行した直後に大当たりに当選して時短状態へと移行することとなる。この場合は、時短状態（ラッシュ）の終了を報知せずに、時短最

終変動の変動表示演出として、怪獣のキャラクタ８２１を討伐する演出を実行して大当たりを報知する構成としている。一方、第２特別図柄の保留球が全て大当たりでもＶ小当たりでもない場合は、図１２３４（ｂ）に示した通り、ラッシュ終了演出が実行される。このように構成することで、時短最終変動における大当たり期待度を向上させることができる。即ち、１のキャラクタの残機が残り１となり、他のキャラクタの残機が０となった状態でリーチが発生し、残機が残り１のキャラクタと怪獣のキャラクタ８２１とがバトルを行う演出が開始された場合に、当該変動と第２特別図柄の残保留とに少なくとも１の大当たり（またはＶ小当たり）が含まれていれば怪獣のキャラクタ８２１に勝利する演出が実行されるため、１のキャラクタの残機１、且つ、他のキャラクタの残機が０の状態で開始されたバトル演出の期待度を、他のタイミングで行われたバトル演出の期待度よりも高くすることができる。よって、メリハリのついた遊技性を実現することができる。

【１１６３３】

次に、図１２３５を参照して、本第４２制御例における時短状態中に実行される可能性がある残機回復演出について説明する。本第４２制御例では、上述した第４１制御例における第２の変形例等と同様に、第２特別図柄の抽選で時短図柄当選が発生する可能性がある。本第４２制御例では、時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、第１～第３小当たりの規定回数が上乗せされる。即ち、時短終了条件（第２終了条件）が成立し難くなるので、時短図柄当選が発生した場合に遊技者を喜ばせることができる。図１２３５（ａ）に示した通り、時短状態（ラッシュ状態）において時短図柄に当選し、残機増加条件が成立すると、リーチ演出が発生すると共に、宝箱８１０が表示される。また、表示領域ＨＲ１０に対して、「宝箱出現！回復薬をＧＥＴしろ！」という文字が表示される。これらの表示内容により、出現した宝箱８１０の中に回復薬が入っていれば、遊技者にとって有利になるということを遊技者に対して直感的に理解させることができる。

【１１６３４】

そして、図１２３５（ｂ）に示した通り、宝箱８１０から回復薬８１０ｄが出現する演出が実行されると、表示領域ＨＲ１０に対して、「残機回復」という文字が表示される。また、冒険者のキャラクタ８１１ａの残機、ウサギのキャラクタ８１１ｂの残機、およびガンマンのキャラクタ８１１ｃの残機に対してそれぞれ１０機、７機、および３機が加算される演出が実行され、第３図柄として時短図柄当選を示すチャンス図柄が停止表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して時短図型当選に基づいて残機が回復したということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１６３５】

なお、本第４２制御例では、宝箱８１０の中身が空であり、残機が回復することもない演出内容のガセ残機回復演出も設けられている。このガセ残機回復演出は、残機が既に０まで減少済みのキャラクタに対応する種別の非Ｖ小当たりに当選した場合に実行される。このように構成することで、既に規定回数に到達した非Ｖ小当たりに対応する変動表示演出において、残機が０になったキャラクタを更にバトルさせるという支離滅裂な演出内容になってしまうことを抑制することができると共に、遊技者に対して残機が回復することを期待させることができる。よって、より好適な演出態様を実現することができる。

【１１６３６】

次に、図１２３６を参照して、時短状態（ラッシュ状態）の終了が報知されてから第２特別図柄の保留球が全て消化されるまでの間の期間で実行されるリザルト演出について説明する。図１２３６（ａ）は、リザルト演出が実行されている場合の表示態様を示した図である。図１２３６（ａ）に示した通り、リザルト演出が実行されると、主表示領域Ｄｍにおける中央に形成された表示領域ＨＲ１０に対して、時短状態が終了するまでに当選した大当たりの回数と、払い出された賞球数と、を示す文字が表示される。図１２３６（ｂａ）では、時短状態が終了するまでに６回の大当たりに当選して５８５０個の賞球が払い出された場合を例示しており、表示領域ＨＲ１０に対して、「ＢＯＮＵＳ×６」という文字と、「ｔｏｔａｌ　５８５０ｐｔ」という文字とが表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して今回の時短状態における遊技結果を確認させることができるので、遊

技者の利便性を向上させることができる。また、小表示領域Ｄｍ８において、比較的目立ち難い表示態様（狭い表示領域）で第２特別図柄の残保留に対応する変動表示演出が実行される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ＲＵＳＨ終了・・・」という文字が表示される。これらの表示内容により、遊技者に対して時短状態が終了したということを容易に理解させることができる。なお、本第４２制御例では、通常状態における第２特別図柄の変動時間が０．５秒間に設定される。このため、上限個数（４個）の第２特別図柄の保留球が保留されていたとしても、２秒程度で残保留の消化が完了する。

【１１６３７】

図１２３６（ｂ）は、時短最終変動の開始後に増加した第２特別図柄の保留球が当たり（大当たりまたはＶ小当たり）であった場合における、当たり保留消化時の演出態様を示した図である。ここで、上述した通り、本第４２制御例では、時短最終変動において、第２特別図柄の保留球も加味した演出結果を設定する構成としているが、時短最終変動が開始されてから（即ち、変動表示演出が開始されてから）増加した第２特別図柄の保留球については、演出に反映させることができない。そこで、時短最終変動の開始後に増加した第２特別図柄の保留球が当たりであった場合には、リザルト演出において当たり保留に対応する変動表示が開始された場合に、短時間（０．５秒間）の当たり報知演出を実行可能に構成している。具体的には、図１２３６（ｂ）に示した通り、リザルト演出中に当たり変動が実行されると、遊技結果を示す文字が表示された表示領域ＨＲ１０の上方から当たりの組み合わせの第３図柄（同一の数字が揃った状態の第３図柄）が降下してきて、表示領域ＨＲ１０を押しのける演出が実行されると共に、小表示領域Ｄｍ８において、大当たり又は小当たりを示す図柄が停止表示される。より具体的には、大当たりの場合は同一の数字が３つ停止表示され、小当たりの場合は互いに異なる奇数の数字が３つ停止表示される。更に、副表示領域Ｄｓに対して、「ボーナス確定！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、第２特別図柄の残保留で大当たりまたはＶ小当たりに当選したということを遊技者に対して容易に理解させることができる。

【１１６３８】

次に、図１２３７を参照して、本第４２制御例における時短状態の一種である無敵モードについて説明する。この無敵モードは、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合、および小当たりに当選した場合の一部で移行する第１時短状態Ｃと、天井抽選回数に到達した場合に移行する第２時短状態Ａと、の２種類が設けられており、ほぼ、次に大当たりに当選するまで時短状態（第１時短状態Ｃ、又は第２時短状態Ａ）が継続する遊技状態で構成されている。図１２３７に示した通り、無敵モードが設定されると、各キャラクタの残機が全て「∞」と表示される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「無敵モード中」という文字が表示されるこれらの表示内容により、遊技者に対して各キャラクタの残機が無限にあり、怪獣のキャラクタ８２１に勝利するまで時短状態が必ず継続するということを容易に理解させることができる。なお、実際には、無敵モードにおける第１～第３小当たりの規定回数が全て１００回に設定される。

【１１６３９】

次に、図１２３８を参照して、本第４２制御例における各状態間の移行方法について説明する。ここで、本第４２制御例では、主として４つのモードが設けられている。即ち、遊技者に不利な通常モード（通常状態Ａ）と、時短状態の中で最も有利度合いが低い（大当たりに当選し難い）チャンスモード（第１時短状態Ａ）と、比較的有利度合いが高い（比較的大当たりに当選し易い）ラッシュモード（第１時短状態Ｂ、第２時短状態Ｂ）と、最も有利度合いが高い（ほぼ、次回の大当たりまで継続する）無敵モード（第１時短状態Ｃ、第２時短状態Ａ）と、が設けられている。チャンスモードは、上述した第４１制御例の第１の変形例における時短モードと同様に、時短回数が１回に設定され、当該１回の第２特別図柄の変動表示中に上限個数（４個）の第２特別図柄の保留球を貯めることができるため、実質的に５回分の特別図柄の抽選機会が与えられる遊技状態である。また、ラッシュモードは、主として、上述した第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達した場合に時短状態が終了される状態であり、各キャラクタの残機が尽きないことを願い

ながら遊技を行わせることができる斬新な遊技性の遊技状態である。また、無敵モードは、実質的に次回の大当たりまで継続する最も有利な遊技状態である。

【１１６４０】

まず、図１２３８の上段を参照して、遊技者に不利な通常モード（通常状態Ａ）における遊技状態の移行方法について説明する。図１２３８の上段に示した通り、通常状態Ａ（通常モード）から他の状態には、特別図柄の抽選で大当たりに当選するか、または天井抽選回数に到達した場合に移行する可能性がある。より具体的には、特別図柄の抽選で約１／３２０の確率で当選する大当たりとなった場合に５％の割合で決定（選択）される大当たりＡ４２が大当たり種別として決定された場合に、大当たり終了後の遊技状態として第１時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）が設定される。また、大当たりとなった場合に９５％の割合で決定される大当たりＢ４２が大当たり種別として決定された場合に、大当たり終了後の遊技状態として第１時短状態Ａ（チャンスモード）が設定される。一方、通常状態Ａにおいて大当たりに当選せずに特別図柄の抽選回数が天井抽選回数（９５０回）に到達した場合は、第２時短状態Ａ（無敵モードの一種）が設定される。このため、通常状態においては、特別図柄の抽選で大当たりに当選すること、または天井抽選回数に到達することに期待して遊技を行う遊技性となる。なお、無敵モードが最も有利な遊技状態であるため、特に、ある程度多い特別図柄の抽選回数（例えば、６００回）に渡って連続して外れとなった後においては、大当たりに当選することよりも、外れが天井抽選回数まで連続することを期待させることができる。よって、所謂ハマりが発生したとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションを維持することができる。

【１１６４１】

また、図１２３８の中断に示した通り、第１時短状態Ａ（チャンスモード）から他の遊技状態には、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、時短図柄当選した場合、および時短状態の終了条件が成立して第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２３８の中段に示した通り、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が第１時短状態Ｃ（無敵モードの一種）に設定される。また、第２特別図柄の抽選で約１／１０の確率で当選する小当たりとなった場合には、小当たり種別として５％の割合で決定される小当たりＡ４２となった場合に、当該小当たりＡ４２において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が第１時短状態Ｃ（無敵モードの一種）に設定される。一方、小当たりに当選した場合に小当たり種別として９５％の割合で決定される小当たりＢ４２～Ｈ４２のいずれかとなった場合に、当該小当たりにおいて特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が第１時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）に設定される。また、第１時短状態Ａ（チャンスモード）において第２特別図柄の抽選で１／５００の確率で当選する時短図柄当選が発生した場合には、遊技状態が第２時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）に設定される。更に、チャンスモードにおいて保留された第２特別図柄の保留球を全て消化した（全て外れとなった）場合は、遊技者に不利な通常モードへと移行する。

【１１６４２】

次に、図１２３８の下段左側を参照して、ラッシュモード（第１時短状態Ｂ、第２時短状態Ｂ）から他の状態への移行方法について説明する。図１２３８の下段左側に示した通り、ラッシュモードから他の状態へは、大当たりに当選した場合、小当たりに当選した場合、および時短状態の終了条件が成立して第２特別図柄の保留球を全て消化した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２３８の下段左側に示した通り、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、大当たり種別によらず、大当たり終了後の遊技状態が第１時短状態Ｃ（無敵モードの一種）に設定される。また、第２特別図柄の抽選で約１／１０の確率で当選する小当たりとなった場合には、小当たり種別として５％の割合で決定される小当たりＡ４２となった場合に、当該小当たりＡ４２において特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が第１

時短状態Ｃ（無敵モードの一種）に設定される。また、時短終了条件が成立した場合（主として第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達した場合）は、遊技者に不利な通常モードに設定される。これらに対し、小当たりに当選した場合に小当たり種別として９５％の割合で決定される小当たりＢ４２～Ｈ４２のいずれかとなった場合に、当該小当たりにおいて特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が再度、第１時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）に設定される（ラッシュモードをループする）。なお、図示については省略したが、時短図柄当選が発生した場合には、第２時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）に設定される（ラッシュモードをループする）。

【１１６４３】

次に、図１２３８の下段右側を参照して、無敵モードから他の状態への移行方法について説明する。図１２３８の下段右側に示した通り、無敵モードから他の状態へは、小当たりに当選した場合に移行する可能性がある。より具体的には、図１２３８の下段右側に示した通り、無敵モードにおいて１／１０の確率で当選する小当たりとなった場合は、小当たり種別として９５％の割合で決定される小当たりＢ４２～Ｈ４２のいずれかとなった場合に、当該小当たりにおいて特定領域６５０ｅ３を通過して大当たりに当選したことを条件として、大当たり終了後の遊技状態が再度、第１時短状態Ｂ（ラッシュモードの一種）に設定される。これに対して、無敵モードにおいて大当たりに当選した場合、小当たりＡ４２が決定された場合、および時短図柄当選が発生した場合は、無敵モードをループする。

【１１６４４】

このように、本第４２制御例では、遊技者に有利なモードとして、３種類の遊技性が大きく異なるモード（チャンスモード、ラッシュモード、および無敵モード）を設ける構成としている。即ち、固定回数で大当たり又は小当たりに当選することを期待させる遊技性のチャンスモード、および第１～第３小当たりの当選状況によって時短状態の継続回数が流動的に変化する遊技性のラッシュモード、および実質的に次回の大当たりまで継続する無敵モードの３種類が設けられている。よって、設定されるモードによって遊技性を大きく変えることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１６４５】

＜第４２制御例の電気的構成＞

次に、図１２３９（ａ）を参照して、本第４２制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＯＭ２０２の詳細について説明する。図１２３９（ａ）は、本第４２制御例における主制御装置１１０のＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図１２３９（ａ）に示した通り、本第４２制御例におけるＲＯＭ２０２は、上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）におけるＲＯＭ２０２の構成（図１１９０（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａｋに代えて第１当たり乱数テーブル２０２ａｍが設けられている点、大当たり種別選択テーブル２０２ｂｋに代えて大当たり種別選択テーブル２０２ｂｍが設けられている点、変動パターン選択テーブル２０２ｄｋに代えて変動パターン選択テーブル２０２ｄｍが設けられている点、時短付与テーブル２０２ｅｋに代えて時短付与テーブル２０２ｅｍが設けられている点、および小当たり種別選択テーブル２０２ｆｋに代えて小当たり種別選択テーブル２０２ｆｍが設けられている点で相違している。その他の構成については上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）におけるＲＯＭ２０２の構成と同一であるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１６４６】

まず、本第４２制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｍの詳細について説明する。ここで、本第４２制御例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｍは、上述した第４１制御例の第２の変形例における第１当たり乱数テーブル２０２ａｋに対して、第２特別図柄の抽選を行う際に参照されるデータテーブルの規定内容が変更されている点でのみ相違している。図１２４０（ａ）を参照して、本第４２制御例における第２特別図柄の

抽選を行う際に参照される特別図柄２乱数テーブル２０２ａｍ２の詳細について説明する。図１２４０（ａ）は、この特別図柄２乱数テーブル２０２ａｍ２の規定内容を示した図である。図１２４０（ａ）に示した通り、本第４２制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｍ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、上述した第４１制御例の第１の変形例と同様に、「０～２０４」の２０５個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定されている。一方、本第４２制御例では、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２０５～４８２７０」の４８０６６個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。なお、ここでの小当たりには、Ｖ小当たりおよび第１～第３小当たりを全て含んでいる。また、図１２４０（ａ）に示した通り、本第４２制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２ａｍ２には、時短図柄当選と判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「４８２７１～４８４０１」の１３１個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。

【１１６４７】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２０５個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、約１／３２０（２０５／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が４８０６６個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／１．３６（４８０６６／６５５３６）である。更に、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値のうち、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１３１個であるので、第２特別図柄の抽選で時短図柄に当選する確率は、約１／５００（１３１／６５５３６）である。

【１１６４８】

このように、本第４２制御例では、上述した第４１制御例の第２の変形例に対して、小当たり確率が大幅に高くなると共に、時短図柄の確率が低くなるように変形している。

【１１６４９】

次に、図１２４０（ｂ）を参照して、本第４２制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｍの詳細について説明する。図１２４０（ｂ）は、本第４２制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｍの規定内容を示した図である。図１２４０（ｂ）に示した通り、本第４２制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｍには、第１特別図柄の大当たり種別として、大当たりＡ４２、および大当たりＢ４２の２種類が規定されており、第２特別図柄の大当たり種別として大当たりＣ４２の１種類が規定されている。

【１１６５０】

図１２４０（ｂ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４」の範囲に対して、「大当たりＡ４２」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５～９９」の範囲に対して、「大当たりＢ４２」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ４２」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態がラッシュモード（第１時短状態Ｂ）に設定される大当たり種別である。また、「大当たりＢ４２」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後の遊技状態がチャンスモード（第１時短状態Ａ）に設定される大当たり種別である。このため、ラウンド数の面でも、大当たり終了後の遊技状態の面でも、「大当たりＡ４２」の方が「大当たりＢ４２」よりも有利度合いが高くなる。

【１１６５１】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ４２」および「大当たりＢ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数がそれぞれ５個および９５個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ４２」、「大当たりＢ４２」に当選する割合は、それぞれ５％および９５％である。よって、通常状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、比較的低確率（５％の割合）で有利度合いが高い第１時短状態Ｂ

が設定され、比較的高確率（９５％の割合）で有利度合いが低い第１時短状態Ａが設定される。なお、これは通常状態に限った話であり、時短状態において「大当たりＡ４２」または「大当たりＢ４２」に当選した（大当たりが開始された）場合は、大当たり終了後の遊技状態が無敵モード（時短状態Ｃ）に設定される。

【１１６５２】

また、図１２４０（ｂ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、「大当たりＣ４２」が対応付けて規定されている。この「大当たりＣ４２」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、当選時の遊技状態によらず、大当たり終了後の遊技状態が有利な無敵モード（第１時短状態Ｃ）に設定される大当たり種別である。第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲に「大当たりＣ４２」が対応付けられているため、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、必ず「大当たりＣ４２」が決定される。この「大当たりＣ４２」は、全ての大当たり種別の中で最も有利な大当たり種別である。

【１１６５３】

なお、これらの「大当たりＡ４２」～「大当たりＣ４２」に加えて、本第４２制御例では「大当たりＤ４２」～「大当たりＪ４２」も設けられている。これらの「大当たりＤ４２」～「大当たりＪ４２」は、小当たりに当選し、小当たり種別として小当たりＡ４２～Ｈ４２が決定されて当該小当たり間に特定領域６５０ｅ３を通過した場合に当選する大当たり種別であり、大当たり終了後の遊技状態が、基本的にラッシュモードに設定される大当たりである。

【１１６５４】

次に、図１２４１（ａ）を参照して、本第４２制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｍの詳細について説明する。図１２４１（ａ）は、この変動パターン選択テーブル２０２ｄｍの構成を示したブロック図である。図１２４１（ａ）に示した通り、本第４２制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｍは、通常状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される通常用テーブル２０２ｄｍ１と、時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される時短用テーブル２０２ｄｍ２と、時短状態の最終変動において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターンを選択するために参照される時短最終変動用テーブル２０２ｄｍ３と、で少なくとも構成されている。まず、図１２４１（ｂ）を参照して、通常用テーブル２０２ｄｍ１の詳細について説明する。

【１１６５５】

図１２４１（ｂ）は、本第４２制御例における通常用テーブル２０２ｄｍ１の規定内容を示した図である。ここで、図１２４１に示した通り、本第４２制御例における通常用テーブル２０２ｄｍ１において、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」である場合の規定内容については、上述した第４１制御例の第２の変形例における通常用テーブル２０２ｄｋ１（図１２２１参照）と同一となっているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１６５６】

一方、図１２４１に示した通り、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「完全外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．５秒の「超短小当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が０．

５秒の「超短突時」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、変動時間が０．５秒間となるように構成されている。

【１１６５７】

なお、本第４２制御例では、上述した第４１制御例の第２の変形例等と同様に、通常状態において普通図柄の抽選が実行されて普通図柄の当たりに当選したとしても、普通図柄の当たりとして第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な電動役物６４０ａの開閉パターン（０．１秒間のショート開放）が設定されるため、通常状態において普通図柄の抽選を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることはできない。本第４２制御例において通常状態で第２特別図柄の抽選が実行される状況としては、チャンスモードやラッシュモードにおいて時短最終変動において右打ちにより第２特別図柄の保留球を獲得した状態で時短最終変動が終了して通常状態に移行した場合である。なお、抽選結果によらずに変動時間を０．５秒間に固定化しているのは、時短最終変動において残保留の抽選結果まで踏まえた１の演出態様を設定する際に、保留球数によって演出期間が大幅にずれてしまうことを抑制する趣旨である。

【１１６５８】

次に、図１２４２（ａ）を参照して、本第４２制御例における時短用テーブル２０２ｄｍ２の詳細について説明する。図１２４２（ａ）は、本第４２制御例における時短用テーブル２０２ｄｍ２の規定内容を示した図である。この時短用テーブル２０２ｄｍ２は、チャンスモード（第１時短状態Ａ）、ラッシュモード（第１時短状態Ｂ、第２時短状態Ｂ）、または無敵モード（第１時短状態Ｃ、第２時短状態Ａ）において特別図柄の抽選を実行する際に変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１２４２（ａ）は、この時短用テーブル２０２ｄｍ２の規定内容を示した図である。図１２４２（ａ）に示した通り、本第４２制御例における時短用テーブル２０２ｄｍ２のうち、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」に対応する規定内容については、上述した第４１制御例の第２の変形例における時短用テーブル２０２ｄｋ２（図１２２２（ａ）参照）と同一である。つまり、抽選結果によらず、短時間（０．５秒間）の変動時間が終了するように構成している。これは、第４１制御例の第２の変形例と同様に、第１特別図柄の保留球を１以上保持した状態で有利度合いが高い第２特別図柄の抽選を実行可能な時短状態に移行した場合に、第１特別図柄の保留球に基づく第１特別図柄の変動表示演出（実質的な大当たり期待度が高い第２特別図柄の抽選が実行できない期間）が長く継続してしまい、遊技者をやきもきさせてしまうことを防止する趣旨である。

【１１６５９】

一方、図１２４２（ａ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容として、抽選結果が「完全外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１７８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「外れ」が規定され、変動種別カウンタＣＳ１の値が「１７９～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「ガセ外れ」が規定されている。また、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長小当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長突時」が規定されている。

【１１６６０】

つまり、本第４２制御例では、完全外れ以外の抽選結果となった場合に、必ず１５秒間の変動パターンが選択されるようになっている。この１５秒の変動時間において、怪獣のキャラクタ８２１とバトルを行うバトル演出（図１２３３（ｂ）、図１２３４参照）、または残機回復演出（図１２３５参照）が実行される。また、小当たりの場合に小当たり種

別とは無関係に比較的長い変動時間（１５秒間）を設定する構成としているので、ラッシュモード（第１時短状態Ｂ、第２時短状態Ｂ）において第１～第３小当たりに当選して時短終了条件（第３終了条件）が成立する場合に、小当たり変動中に右打ちを行い続けることにより、第２特別図柄の保留球を上限個数まで貯め易くすることができる。よって、１のキャラクタの残機が１機であり、他のキャラクタの残機が０である状況下でリーチが発生し、残機が１機のキャラクタと怪獣のキャラクタ８２１とがバトルを行うバトル演出に発展した場合に、当該バトル演出の期待度を通常よりも高くすることができる。つまり、第２特別図柄の保留球の中に大当たり又はＶ小当たりが含まれている場合にもバトルに勝利する演出が選択されるので、実質的な勝利割合を通常よりも向上させることができる。よって、１のキャラクタの残機が１機であり、他のキャラクタの残機が０である状況下において、遊技者に対して大きな期待感を抱かせることができるので、ラッシュモードの最後まで遊技者のモチベーションを維持させることができる。

【１１６６１】

次に、図１２４２（ｂ）を参照して、時短最終変動用テーブル２０２ｄｍ３の詳細について説明する。この時短最終変動用テーブル２０２ｄｍ３は、時短状態（チャンスモード、ラッシュモード、無敵モード）において時短回数（第２特別図柄の抽選回数の規定回数に到達するまでの抽選回数）が残り１となった場合に参照されるテーブルであり、ほぼ、時短回数が１回のチャンスモードにおいてのみ参照されるデータテーブルである。図１２４２（ｂ）は、この時短最終変動用テーブル２０２ｄｍ３の規定内容を示した図である。図１２４２（ｂ）に示した通り、第１特別図柄に対する規定内容は、上述した時短用テーブル２０２ｄｍ２（図１２４２（ａ）参照）と共通している。即ち、抽選結果によらず、変動時間が０．５秒間の変動パターンが設定されるように構成されている。

【１１６６２】

一方で、図１２４２（ｂ）に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容として、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「完全外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「ガセ外れ」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長小当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１５秒の「長突時」が規定されている。つまり、抽選結果によらず、変動時間が比較的長い１５秒間の変動パターンが設定される。これにより、時短最終変動において右打ちを行い続けた場合に、抽選結果によらず、第２特別図柄の保留球を上限個数まで貯めさせ易くすることができる。

【１１６６３】

次に、図１２４３を参照して、本第４２制御例における時短付与テーブル２０２ｅｍの詳細について説明する。この時短付与テーブル２０２ｅｍは、上述した第４１制御例の変形例における時短付与テーブル２０２ｅｋ（図１２２３参照）と同様に、時短状態を設定する際に、当該時短状態の設定契機に応じた時短状態の終了条件を設定するために参照されるデータテーブルである。

【１１６６４】

図１２４３に示した通り、本第４２制御例における時短付与テーブル２０２ｅｍには、時短状態の付与契機（大当たり種別、時短図柄当選、または天井抽選回数到達）毎に、時短終了条件の成立有無を判定する際に参照される各カウンタの値が対応付けられて規定されている。なお、図１２４３に示した通り、本第４２制御例では、時短終了条件の成立有無を判定するためのカウンタとして、時短カウンタ２０３ｈと、Ｖ小当たりカウンタ２０

３ｓ１と、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２と、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３と、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４と、特図２カウンタ２０３ｔと、の６つが設けられている。時短カウンタ２０３ｈ、および特図２カウンタ２０３ｔについては、上述した第４１制御例の第２の変形例における同名のカウンタと同一のものであるため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１６６５】

Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１は、時短状態が設定された後で実行されたＶ小当たりの当選回数に対応する終了条件（第２終了条件）の成立有無を判別するためのカウンタであり、上述した第４１制御例の第２の変形例における小当たりカウンタ２０３ｓと同一の機能を有したカウンタである。また、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４は、それぞれ時短状態が設定された後で実行された第１～第３小当たりの当選回数に基づく終了条件（第３終了条件）の成立有無を判別するためのカウンタである。ここで、上述した通り、本第４２制御例では、第１～第３小当たりの全ての当選回数が、時短開始時に設定された規定回数に到達することで、時短終了条件（第３終了条件）が成立するように構成している。つまり、時短状態において第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の全てが０に更新されるまで、第２終了条件が成立しないように構成されている。

【１１６６６】

図１２４３に示した通り、本第４２制御例では、大当たり種別として「大当たりＡ４２」～「大当たりＪ４２」の１０種類が設けられていると共に、時短図柄当選、および天井抽選回数到達に基づく時短付与契機も設けられている。本第４２制御例における時短付与テーブル２０２ｅｍには、時短付与契機毎に、時短カウンタ２０３ｈ、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４、および特図２カウンタ２０３ｔの値（即ち、第１から第４終了条件）が対応付けて規定されている。

【１１６６７】

図１２４３に示した通り、大当たり種別として第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に５％の割合で決定される「大当たりＡ４２」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「５」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「３」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「大当たりＡ４２」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００回が設定され、第２終了条件として、Ｖ小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第１小当たり遊技の実行回数５回、且つ、第２小当たり遊技の実行回数３回、且つ、第３小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第４終了条件として、第２特別図柄の変動回数１００回が設定される。第２特別図柄の抽選で第１小当たり（小当たりＩ４２）、第２小当たり（小当たりＪ４２）、および第３小当たり（小当たりＫ４２）に当選する確率は、それぞれ約１／３、約１／５、および約１／１０に設定されているため、通常状態において「大当たりＡ４２」に当選して設定された時短状態（第１時短状態Ｂ）では、ほぼ、第１および第４終了条件が成立することはなく、第２終了条件、第３終了条件、または大当たり当選によって時短状態が終了される。なお、第２終了条件が成立する（Ｖ小当たり（小当たりＡ４２～Ｈ４２）に当選する）確率は、約１／１０である。これに対して、第３終了条件が成立するまでに要する平均の特別図柄抽選回数は１５回であるため、「大当たりＡ４２」の終了後に設定される時短状態（第１時短状態Ｂ）で第２終了条件が成立するよりも前に大当たり又は小当たりに当選する割合は、約８０．４％である。

【１１６６８】

一方、図１２４３に示した通り、大当たり種別「大当たりＡ４２」、当選時の遊技状態が時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２

０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「１００」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「１００」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１００」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。つまり、特別図柄の抽選回数が１００回に到達するか、Ｖ小当たりに当選するか、または大当たりに当選するまで時短状態が終了されない第１時短状態Ｃ（無敵モード）に設定される。１００回以内の特別図柄の抽選で合算約１／１０の大当たり又は小当たりに当選する可能性はほぼ１００％であるため、時短状態中に大当たりＡ４２に当選した場合は、実質的に次回の大当たりまで継続する時短状態が設定される。

【１１６６９】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として第１特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に９５％の割合で決定される「大当たりＢ４２」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「５」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「１００」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「１００」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１００」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１」がそれぞれ規定されている。このため、通常状態において「大当たりＢ４２」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数５回が設定され、第２終了条件として、Ｖ小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第１小当たり遊技の実行回数１００回、且つ、第２小当たり遊技の実行回数１００回、且つ、第３小当たり遊技の実行回数１００回が設定され、第４終了条件として、第２特別図柄の変動回数１回が設定される。このため、通常状態において「大当たりＢ４２」に当選した場合は、第２特別図柄の抽選が１回実行されるか、Ｖ小当たりに当選するか、または大当たりに当選するまで時短状態が継続する。時短状態において第２特別図柄の変動表示が１回実行されている間に継続して右打ちを行うことにより、上限個数（４個）の第２特別図柄の保留球を獲得することが可能であるため、５回の第２特別図柄の抽選で大当たりまたはＶ小当たりに当選することを目指す遊技性となる。なお、５回以内の第２特別図柄の抽選で合算約１／１０の大当たり又はＶ小当たりに当選する割合は、約４１％である。大当たり又はＶ小当たりに当選することで、無敵モード又はラッシュモードへと移行するため、５回の第２特別図柄の抽選で大当たり又は小当たりに当選することを強く期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１６７０】

一方、図１２４３に示した通り、大当たり種別「大当たりＢ４２」、当選時の遊技状態が時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「１００」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「１００」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１００」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。つまり、時短状態中に「大当たりＡ４２」に当選した場合と同様に、第１時短状態Ｃ（無敵モード）に設定され、実質的に次回の大当たりまで時短状態が継続する有利な状態を形成する。

【１１６７１】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として、第２特別図柄の抽選で大当たりとなるか、Ｖ小当たりの一種である小当たりＡ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＣ４２」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「１００」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「１００」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１００」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。つまり、第１時短状態（無敵モード）が対応付けて規定されている。このため、第２特別図柄の抽選で大当たりとなった場合に実質的に次回の大当たりまで時短状態が継続する有利な状態を形成する。

【１１６７２】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として、Ｖ小当たりの一種である小当た

りＢ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＤ４２」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「５」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「３」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。つまり、通常状態において「大当たりＡ４２」に当選した場合と同一の終了条件が規定されているので、「大当たりＤ４２」に当選した場合は、平均１５回の第２特別図柄の抽選が実行されることで第３終了条件が成立する時短状態（大当たり当選割合が約８０．４％の時短状態）が設定される。

【１１６７３】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として、Ｖ小当たりの一種である小当たりＣ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＥ４２」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「７」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「５」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「２」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。このため、「大当たりＥ４２」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００回が設定され、第２終了条件として、Ｖ小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第１小当たり遊技の実行回数７回、且つ、第２小当たり遊技の実行回数５回、且つ、第３小当たり遊技の実行回数２回が設定され、第４終了条件として、第２特別図柄の変動回数１００回が設定される。上述した通り、第２特別図柄の抽選で第１小当たり（小当たりＩ４２）、第２小当たり（小当たりＪ４２）、および第３小当たり（小当たりＫ４２）に当選する確率は、それぞれ約１／３、約１／５、および約１／１０に設定されているため、第３終了条件が成立するまでに要する平均の特別図柄抽選回数は２５回である。よって、「大当たりＥ４２」の終了後に設定される時短状態（第１時短状態Ｂ）で第２終了条件が成立するよりも前に合算約１／１０の大当たり又は小当たりに当選する割合は、約９３．４％である。

【１１６７４】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として、Ｖ小当たりの一種である小当たりＤ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＦ４２」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「１０」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「７」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「３」、および特図２カウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。このため、「大当たりＦ４２」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００回が設定され、第２終了条件として、Ｖ小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第１小当たり遊技の実行回数１０回、且つ、第２小当たり遊技の実行回数７回、且つ、第３小当たり遊技の実行回数３回が設定され、第４終了条件として、第２特別図柄の変動回数１００回が設定される。上述した通り、第２特別図柄の抽選で第１小当たり（小当たりＩ４２）、第２小当たり（小当たりＪ４２）、および第３小当たり（小当たりＫ４２）に当選する確率は、それぞれ約１／３、約１／５、および約１／１０に設定されているため、第３終了条件が成立するまでに要する平均の特別図柄抽選回数は５０回である。よって、「大当たりＦ４２」の終了後に設定される時短状態（第１時短状態Ｂ）で第２終了条件が成立するよりも前に合算約１／１０の大当たり又は小当たりに当選する割合は、約９９．６％である。

【１１６７５】

また、図１２４３に示した通り、大当たり種別として、Ｖ小当たりの一種である小当たりＥ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＧ４２」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値「１」、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値「３」、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値「２」、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値「１」、および特図２カ

ウンタ２０３ｔの値「１００」がそれぞれ規定されている。このため、「大当たりＧ４２」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の変動回数１００回が設定され、第２終了条件として、Ｖ小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第３終了条件として、第１小当たり遊技の実行回数３回、且つ、第２小当たり遊技の実行回数２回、且つ、第３小当たり遊技の実行回数１回が設定され、第４終了条件として、第２特別図柄の変動回数１００回が設定される。上述した通り、第２特別図柄の抽選で第１小当たり（小当たりＩ４２）、第２小当たり（小当たりＪ４２）、および第３小当たり（小当たりＫ４２）に当選する確率は、それぞれ約１／３、約１／５、および約１／１０に設定されているため、第３終了条件が成立するまでに要する平均の特別図柄抽選回数は１０回である。よって、「大当たりＧ４２」の終了後に設定される時短状態（第１時短状態Ｂ）で第２終了条件が成立するよりも前に合算約１／１０の大当たり又は小当たりに当選する割合は、約６６．４％である。

【１１６７６】

なお、図１２４３に示した通り、Ｖ小当たりの一種である小当たりＦ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＨ４２」については、上述した「大当たりＤ４２」と全く同一の終了条件が規定されている。同様に、Ｖ小当たりの一種である小当たりＧ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＩ４２」については、上述した「大当たりＥ４２」と全く同一の終了条件が規定されており、Ｖ小当たりの一種である小当たりＨ４２においてＶ入賞が発生した場合に決定される「大当たりＪ４２」、および時短図柄当選については、上述した「大当たりＦ４２」と全く同一の終了条件が規定されているため、ここではその詳細な説明については省略する。

【１１６７７】

更に、図１２４３に示した通り、時短付与契機が天井抽選回数到達である場合については、時短状態中の「大当たりＡ４２」、「大当たりＢ４２」の当選、「大当たりＣ４２」の当選による時短付与契機と同一の終了条件が対応付けられている。即ち、無敵モードに対応する終了条件が対応付けられている。

【１１６７８】

このように、本第４２制御例では、第３終了条件（各キャラクタの残機の初期値の組み合わせ）にバリエーションを設ける構成としているため、同じラッシュモードでも、ラッシュモード中に大当たりまたはＶ小当たりに当選する可能性を異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１６７９】

次に、図１２４４を参照して、本第４２制御例における小当たり種別選択テーブル２０２ｆｍの詳細について説明する。図１２４４は、この小当たり種別選択テーブル２０２ｆｍの規定内容を示した図である。図１２４４に示した通り、本第４２制御例における小当たり種別選択テーブル２０２ｆｍには、小当たり種別として、「小当たりＡ４２」～「小当たりＪ４２」の１１種類の小当たり種別が設けられている。このうち、「小当たりＡ４２」～「小当たりＨ４２」は、Ｖ小当たりであり、「小当たりＩ４２」～「小当たりＫ４２」はＶ入賞が不可能な小当たりである。

【１１６８０】

図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４４７」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＡ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＡ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＣ４２（１０ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＡ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「０～４４７」の４４８個であるため、小当たり種別として「小当たりＡ４２」が決定される割合は約０．７％（４４８／６５５３６）である。

【１１６８１】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「４４８～３１３０

」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＢ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＢ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＤ４２（１０ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＢ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「４４８～３１３０」の２６８３個であるため、小当たり種別として「小当たりＢ４２」が決定される割合は約４．１％（２６８３／６５５３６）である。

【１１６８２】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「３１３１～４７４０」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＣ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＣ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＥ４２（１０ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＣ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「３１３１～４７４０」の１６１０個であるため、小当たり種別として「小当たりＣ４２」が決定される割合は約２．５％（１６１０／６５５３６）である。

【１１６８３】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「４７４１～４９１９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＤ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＤ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＦ４２（１０ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＤ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「４７４１～４９１９」の１７９個であるため、小当たり種別として「小当たりＣ４２」が決定される割合は約０．３％（１７９／６５５３６）である。

【１１６８４】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「４９２０～７９３７」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＥ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＥ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＧ４２（３ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＥ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「４９２０～７９３７」の３０１８個であるため、小当たり種別として「小当たりＣ４２」が決定される割合は約４．６％（３０１８／６５５３６）である。

【１１６８５】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「７９３８～８７４２」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＦ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＦ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＨ４２（３ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＦ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「７９３８～８７４２」の８０５個であるため、小当たり種別として「小当たりＦ４２」が決定される割合は約１．２％（８０５／６５５３６）である。

【１１６８６】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「８７４３～８９０３」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＧ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＧ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＩ４２（３ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＧ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「８７４３～８

９０３」の１６１個であるため、小当たり種別として「小当たりＦ４２」が決定される割合は約０．２％（１６１／６５５３６）である。

【１１６８７】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「８９０４～８９４３」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＨ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＨ４２」は、Ｖ小当たりの一種であり、Ｖ入賞が発生した場合に大当たりＪ４２（３ラウンド大当たり）に当選する種別の小当たりである。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＨ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「８９０４～８９４３」の４０個であるため、小当たり種別として「小当たりＨ４２」が決定される割合は約０．１％（４０／６５５３６）である。

【１１６８８】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「８９４４～３８７２８」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＩ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＩ４２」は、Ｖ入賞が不可能（困難）な小当たりの一種であり、当選した場合に第１小当たりカウンタ２０３ｓ２の値が減算されることで冒険者のキャラクタ８１１ａの残機が減算される契機となる小当たり種別（第１小当たり）でもある。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＩ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「８９４４～３８７２８」の２９７８５個であるため、小当たり種別として「小当たりＨ４２」が決定される割合は約４５．４％（２９７８５／６５５３６）である。第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／１．３６であるため、第２特別図柄の抽選で第１小当たり（小当たりＩ４２）に当選する確率は、約１／３（４５．４％×１／１．３６）である。

【１１６８９】

また、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「３８７２９～５６５９９」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＪ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＪ４２」は、Ｖ入賞が不可能（困難）な小当たりの一種であり、当選した場合に第２小当たりカウンタ２０３ｓ３の値が減算されることでウサギのキャラクタ８１１ｂの残機が減算される契機となる小当たり種別（第２小当たり）でもある。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＪ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「３８７２９～５６５９９」の１７８７１個であるため、小当たり種別として「小当たりＪ４２」が決定される割合は約２７．３％（１７８７１／６５５３６）である。第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／１．３６であるため、第２特別図柄の抽選で第２小当たり（小当たりＪ４２）に当選する確率は、約１／５（２７．３％×１／１．３６）である。

【１１６９０】

更に、図１２４４に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「５６６００～６５５３５」の範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＫ４２」が対応付けて規定されている。この「小当たりＫ４２」は、Ｖ入賞が不可能（困難）な小当たりの一種であり、当選した場合に第３小当たりカウンタ２０３ｓ４の値が減算されることでガンマンのキャラクタ８１１ｃの残機が減算される契機となる小当たり種別（第２小当たり）でもある。小当たり種別カウンタＣ５の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、「小当たりＫ４２」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が「５６６００～６５５３５」の８９３６個であるため、小当たり種別として「小当たりＫ４２」が決定される割合は約１３．６％（８９３６／６５５３６）である。第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／１．３６であるため、第２特別図柄の抽選で第２小当たり（小当たりＫ４２）に当選する確率は、約１／１０（１３．６％×１／１．３６）である。

【１１６９１】
次に、図１２３９（ｂ）を参照して、本第４２制御例における主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図１２３９（ｂ）は、本第４２制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示したブロック図である。図１２３９（ｂ）に示した通り、本第４２制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第４１制御例の第２の変形例（および第１の変形例）におけるＲＡＭ２０３の構成（図１２１３参照）に対して、小当たりカウンタ２０３ｓに代えて、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４が設けられている点、特図抽選カウンタ２０３ｍａが設けられている点、および時短リミットカウンタ２０３ｋｂ、減算待機フラグ２０３ｋｃが削除されている点で相違している。

【１１６９２】
Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１は、時短状態においてＶ入賞可能な小当たりの当選回数に基づく時短終了条件の成立有無を判定するために参照されるカウンタであり、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２は、時短状態において第１小当たりの当選回数が規定回数に到達したか否かを判定するために参照されるカウンタであり、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３は、時短状態において第２小当たりの当選回数が規定回数に到達したか否かを判定するために参照されるカウンタであり、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４は、時短状態において第３小当たりの当選回数が規定回数に到達したか否かを判定するために参照されるカウンタである。これらのＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４には、大当たり終了時に、大当たり種別および大当たり当選時の遊技状態に応じたカウンタ値が時短付与テーブル２０２ｅｍ（図１２４３参照）から読み出されて設定される。

【１１６９３】
特図抽選カウンタ２０３ｍａは、天井抽選回数への到達有無を判定するために参照されるカウンタである。この特図抽選カウンタ２０３ｍａは、初期値が０に設定されており、特別図柄の抽選が実行される毎に値が１ずつ加算して更新され（図１２４８のＳ６５１Ａ参照）、大当たり当選時に値が０にリセットされる。この特図抽選カウンタ２０３ｍａの値が９５０に到達した場合に、天井抽選回数に到達したと判定されて、無敵モードの一種である第２時短状態Ａが設定される。即ち、実質的に次回の大当たりまで継続する時短状態が設定される。

【１１６９４】
次に、図１２４５を参照して、本第４２制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＡＭ２２３の詳細について説明する。図１２４５は、本第４２制御例におけるＲＡＭ２２３の構成を示したブロック図である。図１２４５に示した通り、本第４２制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）におけるＲＡＭ２２３の構成（図１１９６参照）に対して、終了条件格納エリア２２３ｍａ、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂが追加されている点で相違する。また、アイコン情報格納エリア２２３ｋａ、残当たり回数カウンタ２２３ｋｂが削除されている点でも相違している。

【１１６９５】
終了条件格納エリア２２３ｍａは、時短終了条件を示すデータを格納するための記憶領域である。この終了条件格納エリア２２３ｍａに格納されているデータに応じて、各キャラクタの残機の表示設定や、残機の減算表示等を実行する。

【１１６９６】
最終変動演出カウンタ２２３ｍｂは、時短最終変動の開始に基づいて開始されるバトル演出が継続する変動回数を示すカウンタ値が設定されるカウンタである。この最終変動演出カウンタ２２３ｍｂには、最終変動の開始時に保留されている第２特別図柄の保留球数が設定され（図１２５２のＳ４４５３Ａ参照）、第２特別図柄の変動表示が実行される毎に値が１ずつ減算される（図１２５１のＳ４４４４Ａ参照）。

【１１６９７】

＜第４２制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図１２４６から図１２４９を参照して、本第４２制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２４６を参照して、本第４２制御例における特別図柄変動パターン選択処理４２（Ｓ２４１Ａ）の詳細について説明する。この特別図柄変動パターン選択処理４２（Ｓ２４１Ａ）は、上述した第４１制御例の第２の変形例における特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（図１２２７参照）に代えて実行される処理であり、特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（図１２２７参照）と同様に、特別図柄の抽選結果に応じた第１図柄の変動パターンを選択するための処理である。

【１１６９８】

この第４２制御例における特別図柄変動パターン選択処理４２（図１２４６参照）のうつ、Ｓ４０１～Ｓ４０３，Ｓ４０５～Ｓ４０８、およびＳ４２１Ｂの各処理では、それぞれ上述した第４１制御例の第２の変形例における特別図柄変動パターン選択処理４１Ｂ（図１２２７参照）のＳ４０１～Ｓ４０３，Ｓ４０５～Ｓ４０８、およびＳ４２１Ｂの各処理と同一の処理が実行される。

【１１６９９】

また、本第４２制御例における特別図柄変動パターン選択処理４２（図１２４６参照）では、Ｓ４０３の処理が終了すると、特図２カウンタ２０３ｔの値が１であるか否かを判別し（Ｓ４３１Ａ）、特図２カウンタ２０３ｔの値が１であると判別した場合は（Ｓ４３１Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、今回の特別図柄の抽選が第２特別図柄の抽選であるか否かを判別する（Ｓ４３２Ａ）。Ｓ４３２Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選が第２特別図柄の抽選であると判別した場合は（Ｓ４３２Ａ：Ｙｅｓ）、今回開始させる第２特別図柄の変動表示が終了することで時短状態が終了される（今回の変動表示が時短最終変動である）ことを意味するため、時短最終変動用テーブル２０２ｄｍ３（図１２４２（ｂ）参照）を読み出して（Ｓ４３３Ａ）、処理をＳ４０５へと移行する。

【１１７００】

一方で、Ｓ４３１Ａの処理において、特図２カウンタ２０３ｔの値が１ではないと判別した場合（Ｓ４３１Ａ：Ｎｏ）、およびＳ４３２Ａの処理において今回の特別図柄の抽選が第２特別図柄の抽選ではない（第１特別図柄の抽選である）と判別した場合は（Ｓ４３２Ａ：Ｎｏ）、遊技状態に応じた変動パターン選択テーブルを読み出して（Ｓ４３４Ａ）、処理をＳ４０５へと移行する。Ｓ４３４Ａの処理では、遊技状態が通常状態であれば通常用テーブル２０２ｄｍ１（図１２４１（ｂ）参照）を読み出す一方で、時短状態であれば時短用テーブル２０２ｄｍ２（図１２４２（ａ）参照）を読み出す。

【１１７０１】

この特別図柄変動パターン選択処理４２（図１２４６参照）を実行することで、時短最終変動であるか否かに応じて変動パターン選択テーブルを切り替えることができるので、より好適に変動パターンを設定することができる。

【１１７０２】

次に、図１２４７を参照して、本第４２制御例における時短更新処理４２（Ｓ２４２）の詳細について説明する。この時短更新処理４２は、上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）における時短更新処理４１（図１１９９参照）に代えて実行される処理であり、時短更新処理４１（図１１９９参照）と同様に、時短終了条件を判定するための各種カウンタ値を更新し、時短終了条件の成立有無を判定するための処理である。

【１１７０３】

この第４２制御例における時短更新処理４２（図１２４７参照）のうち、Ｓ６０１～Ｓ６０５、Ｓ６３３Ａ～Ｓ６３７Ａ、およびＳ６３９Ａの各処理では、それぞれ上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）における時短更新処理４１（図１１９９参照）のＳ６０１～Ｓ６０５、Ｓ６３３Ａ～Ｓ６３７Ａ、およびＳ６３９Ａの各処理と同一の処理が実行される。

【１１７０４】
　また、本第４２制御例における時短更新処理４２（図１２４７参照）が開始されると、まず、天井抽選回数への到達有無を判別するための天井判定処理４２を実行し（Ｓ６４１Ａ）、処理をＳ６０１へと移行する。この天井判定処理４２（Ｓ６４１Ａ）の詳細については、図１２４８を参照して後述する。
【１１７０５】
　また、本第４２制御例における時短更新処理４２（図１２４７参照）では、Ｓ６０５の処理が終了すると、特図２カウンタ２０３ｔ、小当たりカウンタ各種（Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４）の値を全て０にリセットして（Ｓ６４１Ａ）、処理をＳ６０７へと移行する。このＳ６４１Ａの処理は、時短終了条件を判定するための各種カウンタとして、第４１制御例の変形例に対して、小当たりカウンタ２０３ｓに代えてＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４が設けられていることに伴う変更である。
【１１７０６】
　また、本第４２制御例における時短更新処理４２（図１２４７参照）では、Ｓ６０４の処理が終了すると、第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）における小当たり時短更新処理４１（図１２００参照）に代えて小当たり時短更新処理４２を実行し（Ｓ６４２Ａ）、処理をＳ６３３Ａへと移行する。この小当たり時短更新処理４２（Ｓ６４２Ａ）の詳細については、図１２４９を参照して後述する。
【１１７０７】
　更に、本第４２制御例における時短更新処理４２（図１２４７参照）では、Ｓ６３７Ａの処理が終了すると、時短カウンタ２０３ｈ、および小当たりカウンタ各種（Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４）の値を全て０にリセットして（Ｓ６４３Ａ）、処理をＳ６３９Ａへと移行する。このＳ６４３Ａの処理は、Ｓ６４１Ａの処理と同様に、時短終了条件を判定するための各種カウンタとして、第４１制御例の変形例に対して、小当たりカウンタ２０３ｓに代えてＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４が設けられていることに伴う変更である。
【１１７０８】
　次に、図１２４８を参照して、本第４２制御例における天井判定処理４２（Ｓ６４１Ａ）の詳細について説明する。図１２４８は、この天井判定処理４２（Ｓ６４１Ａ）を示すフローチャートである。この天井判定処理４２（Ｓ６４１Ａ）では、まず、特図抽選カウンタ２０３ｍａの値に１を加算して更新し（Ｓ６５１Ａ）、加算後の特図抽選カウンタ２０３ｍａの値が９５０になったか否かを判別する（Ｓ６５２Ａ）。Ｓ６５２Ａの処理において、特図抽選カウンタ２０３ｍａの値が９５０になったと判別した場合は（Ｓ６５２Ａ：Ｙｅｓ）、天井抽選回数に到達したと判定して、第２時短状態Ａを設定するためのＳ６５３Ａ～Ｓ６５５Ａの各処理を実行する。即ち、遊技状態を第２時短状態に設定し（Ｓ６５３Ａ）、天井抽選回数到達を時短付与契機とする時短終了条件を時短付与テーブル２０２ｅｍ（図１２４３参照）から読み出して各種カウンタ（時短カウンタ２０３ｈ、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４、特図２カウンタ２０３ｔ）に加算して更新し（Ｓ６５４Ａ）、第２時短状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ６５５Ａ）、本処理を終了する。これに対して、Ｓ６５２Ａの処理において、加算後の特図抽選カウンタ２０３ｍａの値が９５０ではないと判別した場合は（Ｓ６５２Ａ：Ｎｏ）、天井抽選回数に到達していないと判定して、Ｓ６５３Ａ～Ｓ６５５Ａの各処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。
【１１７０９】
　この天井判定処理４２（図１２４８参照）を実行することにより、大当たりに当選せず

に特別図柄の抽選回数が９５０回に到達することで有利な第２時短状態Ａ（無敵モード）へと移行させることができるので、特に、ある程度多い特別図柄の抽選回数（例えば、６００回）に渡って連続して外れとなった後においては、大当たりに当選することよりも、外れが天井抽選回数まで連続することを期待させることができる。よって、所謂ハマりが発生したとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションを維持することができる。

【１１７１０】

次に、図１２４９を参照して、上述した小当たり時短更新処理４２（Ｓ６４２Ａ）の詳細について説明する。この小当たり時短更新処理４２（Ｓ６４２Ａ）は、上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）における小当たり時短更新処理４１（図１２００参照）に代えて実行される処理であり、小当たり時短更新処理４１（図１２００参照）と同様に、小当たり当選に基づく時短終了条件の成立有無を判定するための処理である。図１２４９は、この小当たり時短更新処理４２（Ｓ６４２Ａ）を示すフローチャートである。

【１１７１１】

この第４２制御例における小当たり時短更新処理４２（図１２４９参照）のうち、Ｓ７０１，Ｓ７０４、およびＳ７０６の各処理では、それぞれ上述した第４１制御例の第２の変形例（および第４１制御例）における小当たり時短更新処理４１（図１２００参照）のＳ７０１，Ｓ７０４、およびＳ７０６の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４２制御例における小当たり時短更新処理４２（図１２４９参照）では、Ｓ７０１の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであると判別した場合に（Ｓ７０１：Ｙｅｓ）、次いで、今回の小当たりの種別がＶ小当たり（小当たりＡ４２～Ｈ４２のいずれか）であるか否かを判別する（Ｓ７２１Ａ）。

【１１７１２】

Ｓ７２１Ａの処理において、今回の小当たりがＶ小当たりである（小当たりＡ４２～Ｈ４２のいずれかである）と判別した場合は（Ｓ７２１Ａ：Ｙｅｓ）、Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値を１減算して更新し（Ｓ７２２Ａ）、減算後のＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値が０になったか否かを判別する（Ｓ７２３Ａ）。Ｓ７２３Ａの処理において、減算後のＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値が０に更新されたと判別した場合は（Ｓ７２３Ａ：Ｙｅｓ）、時短状態の終了条件（第２終了条件）が成立したことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ７０４，Ｓ７２４Ａ，Ｓ７０６の各処理を実行する。即ち、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ７０４）、時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３ｔ、および全ての小当たりカウンタ（Ｖ小当たりカウンタ２０３ｓ１、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４）のカウンタ値を０にリセットする（Ｓ７２４Ａ）。次いで、通常状態を示す状態コマンドを設定して（Ｓ７０６Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ７２３Ａの処理において、減算後のＶ小当たりカウンタ２０３ｓ１の値が０になっていないと判別した場合は（Ｓ７２３Ａ：Ｎｏ）、時短状態の終了条件が成立していないことを意味するため、Ｓ７０４，Ｓ７２４Ａ，Ｓ７０６の各処理をスキップし、そのまま本処理を終了する。

【１１７１３】

一方で、Ｓ７２１Ａの処理において、今回の小当たりがＶ小当たりではないと判別した場合は（Ｓ７２１Ａ：Ｎｏ）、今回の小当たりが第１～第３小当たり（小当たりＩ４２～Ｋ４２）のいずれかであることを意味するため、今回の小当たり種別に対応する小当たりカウンタの値を１減算して更新する（Ｓ７２５Ａ）。Ｓ７２５Ａの処理では、今回の小当たりが第１小当たり（小当たりＩ４２）であれば、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２を１減算して更新し、第２小当たり（小当たりＪ４２）であれば、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３を１減算して更新し、第３小当たり（小当たりＫ４２）であれば、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４を１減算して更新する。

【１１７１４】

Ｓ７２５Ａの処理が終了すると、次いで、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４のカウンタ値が全て０

になったか否かを判別し（Ｓ７２６Ａ）、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４のカウンタ値が全て０になったと判別した場合は（Ｓ７２６Ａ：Ｙｅｓ）、時短終了条件（第３終了条件）が成立したことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ７０４，Ｓ７２４Ａ，Ｓ７０６の各処理を実行して、本処理を終了する。これに対し、Ｓ７２６Ａの処理において、第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、および第３小当たりカウンタ２０３ｓ４のうちいずれかが０になっていないと判別した場合は（Ｓ７２６Ａ：Ｎｏ）、時短状態の終了条件（第３終了条件）が成立していないことを意味するため、時短状態を終了させるためのＳ７０４，Ｓ７２４Ａ，Ｓ７０６の各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１１７１５】

この小当たり時短更新処理４２（図１２４９参照）を実行することにより、第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達するまで時短状態が継続し得る斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７１６】

＜第４２制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１２５０から図１２５２を参照して、本第４２制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２５０を参照して、本第４２制御例における変動演出設定処理４２（Ｓ４３２１Ａ）の詳細について説明する。この変動演出設定処理４２（Ｓ４３２１Ａ）は、上述した第４１制御例の第２の変形例における変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）に代えて実行される処理であり、変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）と同様に、特別図柄の変動表示に同期させて実行する第３図柄の変動表示演出の演出態様を設定するための処理である。図１２５０は、この変動演出設定処理４２（Ｓ４３２１Ａ）を示すフローチャートである。

【１１７１７】

この第４２制御例における変動演出設定処理４２（図１２５０参照）のうち、Ｓ４４０１，Ｓ４４０３、およびＳ４４２１Ａの各処理では、それぞれ上述した第４１制御例の第２の変形例における変動演出設定処理４１Ｂ（図１２３０参照）のＳ４４０１，Ｓ４４０３、およびＳ４４２１Ａの各処理と同一の処理が実行される。また、本第４２制御例における変動演出設定処理４２（図１２５０参照）では、Ｓ４４０１の処理が終了すると、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判別し（Ｓ４４４１Ａ）、時短状態であると判別した場合は（Ｓ４４４１Ａ：Ｙｅｓ）、時短状態における変動表示演出の演出態様を設定するための時短中演出設定処理４２を実行して（Ｓ４４４２Ａ）、本処理を終了する。この時短中演出設定処理４２（Ｓ４４４２Ａ）の詳細については、図１２５１を参照して後述する。

【１１７１８】

また、本第４２制御例における変動演出設定処理４２（図１２５０参照）では、Ｓ４４０３の処理において、今回の特別図柄の抽選が第２特別図柄の抽選であると判別した場合に（Ｓ４４０３：Ｙｅｓ）、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂの値が０より大きい値であるか否かを判別し（Ｓ４４４３Ａ）、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂの値が０より大きい値であると判別した場合は（Ｓ４４４３Ａ：Ｙｅｓ）、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂの値を１減算して更新し（Ｓ４４４４Ａ）、処理をＳ４４４７Ａへと移行する。一方、Ｓ４４４３Ａの処理において、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂの値が０より大きい値ではない（即ち、０である）と判別した場合は（Ｓ４４４３Ａ：Ｎｏ）、次いで、抽選結果が完全外れ又は非Ｖ小当たりであるか否かを判別し（Ｓ４４４５Ａ）、今回の特別図柄の抽選結果が完全外れでも非Ｖ小当たりでもない（即ち、大当たり、Ｖ小当たり、または時短図柄当選のいずれかである）と判別した場合（Ｓ４４４６Ａ）、処理をＳ４４４７Ａへと移行する。

【１１７１９】

一方で、Ｓ４４４５Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が完全外れ又は非Ｖ小当たりであると判別した場合は（Ｓ４４４５Ａ）、Ｓ４４４６Ａの処理をスキップして、処理をＳ４４４７Ａへと移行する。Ｓ４４４７Ａの処理では、抽選結果に応じた小表示領域Ｄｍ８における変動表示態様を設定して（Ｓ４４４７Ａ）、本処理を終了する。

【１１７２０】

次に、図１２５１を参照して、上述した時短中演出設定処理４２（Ｓ４４４２Ａ）の詳細について説明する。図１２５１は、この時短中演出設定処理４２（Ｓ４４４２Ａ）を示すフローチャートである。この時短中演出設定処理４２（Ｓ４４４２Ａ）が実行されると、まず、時短状態における最終変動であるか否か（即ち、特図２カウンタ２０３ｔの値が１の状態で第２特別図柄に対応する変動パターンコマンドを受信したか否か）を判別し（Ｓ４４５１Ａ）、時短状態における最終変動であると判別した場合は（Ｓ４４５１Ａ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の先読み結果を加味した変動表示態様を設定する（Ｓ４４５２Ａ）。即ち、今回の特別図柄の抽選結果、および第２特別図柄の保留球の中に大当たりまたはＶ小当たりが存在する場合は、当たりを報知する（怪獣のキャラクタ８２１に勝利する）演出態様の変動表示態様を設定する一方で、今回の特別図柄の抽選結果も第２特別図柄の保留球も全て完全外れ又は非Ｖ小当たりであると判別した場合は、外れを報知する（怪獣のキャラクタ８２１に敗北する）演出態様の変動表示態様を設定する。Ｓ４４５２Ａの処理が終了すると、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂに対して報知対象の第２特別図柄の変動表示までの変動回数を示すカウンタ値を設定して（Ｓ４４５３Ａ）、本処理を終了する。Ｓ４４５３Ａの処理では、外れを報知する演出態様の場合、現在の保留球数に対応するカウンタ値を設定する一方で、当たりを報知する演出態様の場合、当たりとなる保留球までの保留球数に対応するカウンタ値を設定する。

【１１７２１】

一方で、Ｓ４４５１Ａの処理において、時短最終変動では内と判別した場合は（Ｓ４４５１Ａ：Ｎｏ）、今回の特別図柄の抽選結果が大当たり又はＶ小当たりのどちらかであるか否かを判別し（Ｓ４４５４Ａ）、抽選結果が大当たり又はＶ小当たりのどちらかであると判別した場合は（Ｓ４４５４Ａ：Ｙｅｓ）、今回の抽選結果に応じた変動演出の演出態様を決定して（Ｓ４４５６Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４４５４Ａの処理において、今回の抽選結果が大当たりでもＶ小当たりでもないと判別した場合は（Ｓ４４５４Ａ：Ｎｏ）、次に、今回の抽選結果が５秒間の変動時間の完全外れ変動であるか否かを判別し（Ｓ４４５５Ａ）、抽選結果が５秒間の変動時間の完全外れ変動であれば（Ｓ４４５５Ａ：Ｙｅｓ）、処理をＳ４４５６Ａへと移行する。

【１１７２２】

これに対し、Ｓ４４５５Ａの処理において、抽選結果が５秒間の変動時間の完全外れ変動ではないと判別した場合は（Ｓ４４５５Ａ：Ｎｏ）、今回の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ４４５７Ａ）、時短図柄当選であれば（Ｓ４４５７Ａ：Ｙｅｓ）、終了条件格納エリア２２３ｍａの第１～第３小当たりに対応する規定回数にそれぞれ１０回、７回、および３回を加算して更新し（Ｓ４４５８Ａ）、残機回復演出（図１２３５参照）の実行を設定して（Ｓ４４５９Ａ）、本処理を終了する。

【１１７２３】

また、Ｓ４４５７Ａの処理において、今回の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ４４５７Ａ：Ｎｏ）、抽選結果が非Ｖ小当たりであるか否かを判別し（Ｓ４４６０Ａ）、抽選結果が非Ｖ小当たりであれば（Ｓ４４６０Ａ：Ｙｅｓ）、非Ｖ小当たり時の演出態様を設定するための非Ｖ小当たり時処理を実行し（Ｓ４４６１Ａ）、本処理を終了する。この非Ｖ小当たり時処理（Ｓ４４６１Ａ）の詳細については、図１２５２を参照して後述する。これに対し、Ｓ４４６０Ａの処理において、今回の抽選結果が非Ｖ小当たりでもないと判別した場合は（Ｓ４４６０Ａ：Ｎｏ）、今回の抽選結果が１５秒間の変動時間の完全外れ変動であることを意味するため、残機回復演出（図１２３５参照）と同様に宝箱８１０が出現するが、回復薬８１０ｄが出現せず、残機が回復することもないガセ残機回復演出の実行を設定して（Ｓ４４６２Ａ）、本処理を終了する。

【１１７２４】
次に、図１２５２を参照して、上述した非Ｖ小当たり時処理（Ｓ４４６１Ａ）の詳細について説明する。図１２５２は、この非Ｖ小当たり時処理（Ｓ４４６１Ａ）を示すフローチャートである。図１２５２に示した通り、非Ｖ小当たり時処理（Ｓ４４６１Ａ）が実行されると、まず、終了条件格納エリア２２３ｍａのデータを読み出して（Ｓ４４７１Ａ）、今回の非Ｖ小当たりに対応する規定回数が既に０であるか否かを判別する（Ｓ４４７３Ａ）。Ｓ４４７３Ａの処理において、今回の非Ｖ小当たりに対応する規定回数が既に０であると判別した場合は（Ｓ４４７３Ａ：Ｙｅｓ）、ガセ残機回復演出の実行を設定して（Ｓ４４７２Ａ）、本処理を終了する。
【１１７２５】
一方、Ｓ４４７３Ａの処理において、今回の非Ｖ小当たりに対応する規定回数が０ではないと判別した場合は（Ｓ４４７３Ａ：Ｎｏ）、今回の非Ｖ小当たりに対応する規定回数を１減算して更新し（Ｓ４４７４Ａ）、今回の減算により全ての非Ｖ小当たりの規定回数が０になったか否かを判別する（Ｓ４４７５Ａ）。Ｓ４４７５Ａの処理において、全ての非ｖ小当たりの規定回数が０になってはいないと判別した場合は（Ｓ４４７５Ａ：Ｎｏ）、今回の非Ｖ小当たりに対応する残機減少演出（図１２３４（ａ）参照）の実行を設定して（Ｓ４４７６Ａ）、本処理を終了する。
【１１７２６】
一方、Ｓ４４７５Ａの処理において、全ての非Ｖ小当たりの規定回数が０になったと判別した場合は（Ｓ４４７５Ａ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の保留球の先読み結果も加味した変動表示態様を設定する（Ｓ４４７７Ａ）。即ち、今回の特別図柄の抽選結果、および第２特別図柄の保留球の中に大当たりまたはＶ小当たりが存在する場合は、当たりを報知する（怪獣のキャラクタ８２１に勝利する）演出態様の変動表示態様を設定する一方で、今回の特別図柄の抽選結果も第２特別図柄の保留球も全て完全外れ又は非Ｖ小当たりであると判別した場合は、ラッシュ終了を報知する（怪獣のキャラクタ８２１に敗北する）演出態様の変動表示態様を設定する。Ｓ４４７７Ａの処理が終了すると、最終変動演出カウンタ２２３ｍｂに対して報知対象の第２特別図柄の変動表示までの変動回数を示すカウンタ値を設定して（Ｓ４４７８Ａ）、本処理を終了する。Ｓ４４７８Ａの処理では、外れを報知する演出態様の場合、現在の保留球数に対応するカウンタ値を設定する一方で、当たりを報知する演出態様の場合、当たりとなる保留球までの保留球数に対応するカウンタ値を設定する。
【１１７２７】
この非Ｖ小当たり時処理を実行することで、対応するキャラクタの残機が残っていれば、非Ｖ小当たりに当選した場合に、対応するキャラクタの残機を減少させる演出を実行することができ、既に対応するキャラクタの残機が０であれば、ガセ残機回復演出を実行することができる。よって、残機が０のキャラクタが更に怪獣のキャラクタ８２１に敗北する矛盾した演出内容となってしまうことを防止できるので、演出態様をより好適に設定することができる。
【１１７２８】
以上説明した通り、本第４２制御例におけるパチンコ機１０では、時短終了条件として、複数の異なる条件が全て成立した場合に成立する終了条件を設ける構成とした。より具体的には、小当たり種別として、実質的に大当たりが確定するＶ小当たりに加えて、遊技球を入球させたとしても特定領域６５０ｅ３へと遊技球が誘導され得ない（切替部材６５０ｈが通常排出流路６５０ｅ１側に遊技球を誘導する配置となっている期間にのみ開閉扉６５０ｆ１が開放される）小当たり種別を複数（第１小当たり、第２小当たり、および第３小当たり）設ける構成とし、時短状態に移行した後で、特別図柄の抽選で第１小当たり（第１の抽選結果）に予め定められた第１回数当選した場合に成立する第１条件と、第２小当たり（第２の抽選結果）に予め定められた第２回数当選した場合に成立する第２条件と、第３小当たり（第３の抽選結果）に予め定められた第３回数当選することで成立する第３条件と、が全て成立した場合にのみ成立する時短終了条件（第３終了条件）を設ける

構成している。このように構成することで、第１条件と、第２条件と、第３条件とのうち、１又は複数の条件が成立して板としても、少なくとも１の条件が未成立である間は、有利な時短状態が継続され得る斬新な制御を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１７２９】

なお、本第４２制御例では、時短状態の設定条件が成立した場合に、第１～第３小当たりのそれぞれの当選回数の規定回数を設定し、当該時短状態において第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達した場合に、第３終了条件が成立して時短状態が終了される一方で、少なくとも１の小当たりの当選回数が規定回数に未到達である間は、少なくとも第３終了条件が成立しない（他の終了条件は成立し得る）ように構成していたが、第３終了条件の判定対象となる小当たりの種別は、これに限られるものではなく、第４２制御例における３種類よりも多くしてもよいし、少なくしてもよい。小当たり種別を少なくすることで、時短状態の遊技性をよりシンプルにすることができるので、遊技者にとって理解し易い遊技性を実現することができる。また、逆に、小当たり種別を多くすることで、時短状態中に怪獣のキャラクタ８２１とバトルを行う可能性があるキャラクタの種別をより多くすることができるので、演出態様を多様化させることができる。

【１１７３０】

本第４２制御例では、時短状態の設定条件が成立した場合に、第１～第３小当たりのそれぞれの当選回数の規定回数を設定し、当該時短状態において第１～第３小当たりの当選回数が全て規定回数に到達した場合に、第３終了条件が成立して時短状態が終了される一方で、少なくとも１の小当たりの当選回数が規定回数に未到達である間は、少なくとも第３終了条件が成立しない（他の終了条件は成立し得る）ように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、第１～第３小当たりのうちいずれかの当選回数が規定回数に到達した場合に時短状態を終了させる構成としてもよい。即ち、時短状態において怪獣のキャラクタ８２１とバトルを行う可能性がある複数のキャラクタのうち、１のキャラクタの残機が０になった時点で時短状態が終了されるように構成してもよい。このように構成することで、リーチが発生した場合に、なるべく残機数が多いキャラクタが対戦相手に決定されることを願わせる遊技性を実現できるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３１】

本第４２制御例では、時短状態における第１～第３小当たりのそれぞれの当選回数の規定回数を、１の時短状態が終了するまでの間、固定化する構成としていたが、状況に応じて規定回数が可変するように構成してもよい。即ち、第１小当たりの当選回数が特定回数未満である場合は、第１小当たりの当選回数が特定回数未満の回数である第１回数に到達し、第２小当たりの当選回数が第２回数に到達し、第３小当たりの当選回数が第３回数に到達したことに基づいて時短状態が終了される（第３終了条件が成立する）一方で、第１小当たりの当選回数が特定回数以上となった場合は、第１小当たりの当選回数が特定回数以上の回数である第４回数に到達し、第２小当たりの当選回数が第２回数よりも多い第５回数に到達し、第３小当たりの当選回数が第３回数よりも多い第６回数に到達したことに基づいて時短状態が終了される（第３終了条件が成立する）ように構成してもよい。より具体的には、例えば、時短状態において第１小当たりの当選回数が１０回未満の範囲内においては、第１小当たりの当選回数が５回以上となり、第２小当たりの当選回数が３回以上となり、第３小当たりの当選回数が１回以上となったことに基づいて第３終了条件が成立する一方で、第１小当たりの当選回数が１０回以上の範囲においては、第１小当たりの当選回数が１５回以上となり、第２小当たりの当選回数が６回以上となり、第３小当たりの当選回数が２回以上となったことに基づいて第３終了条件が成立するように構成してもよい。このように構成することで、時短状態の序盤においては、第１小当たりの当選回数が増加しないことを期待させる遊技性となる一方で、第１小当たりの当選回数が５回を越えて冒険者のキャラクタ８１１ａの残機が０になった後においては、第１小当たりに多く当選して当選回数が１０回を超えることを期待させる遊技性を実現することができる。言

い換えれば、第１小当たりの当選回数が第１回数（５回）未満であるか、第１回数以上であるかによって、真逆となる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、状況に応じて時短回数を可変させる構成の別例として、時短状態における第２特別図柄の抽選回数が特定の抽選回数未満の範囲においては、第１小当たりの当選回数が第１回数に到達し、第２小当たりの当選回数が第２回数に到達し、第３小当たりの当選回数が第３回数に到達したことに基づいて時短状態が終了される（第３終了条件が成立する）一方で、第２特別図柄の抽選回数が特定の抽選回数以上となった場合は、第１小当たりの当選回数が第１回数よりも多い第４回数に到達し、第２小当たりの当選回数が第２回数よりも多い第５回数に到達し、第３小当たりの当選回数が第３回数よりも多い第６回数に到達したことに基づいて時短状態が終了される（第３終了条件が成立する）ように構成してもよい。このように構成することで、第２特別図柄の抽選回数が特定回数となるまで第３終了条件を成立しなければ、第３終了条件が成立し難い状態となるため、第２特別図柄の抽選回数に注目して遊技を行わせることができる。これらの場合において、第１～第３小当たりの規定回数が増加する条件が成立した場合に、時短図柄当選が発生した場合と同様に、残機回復演出（図１２３５参照）を実行する構成としてもよい。このように構成することで、遊技者に対して規定回数が増加して第３終了条件が成立し難くなったということを容易に理解させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、上記の変形例では、所定条件が成立することで第１～第３小当たりの当選回数の規定回数を増加させる場合を例示していたが、逆に、一部、又は全部の小当たりの規定回数を減少させる構成としてもよい。このように構成することで、早期に大当たりまたはＶ小当たりに当選することをより強く期待させる遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３２】

本第４２制御例では、時短状態において、キャラクタ８１１ａ～８１１ｃの残機数を表示することで、第１～第３小当たりが全て規定回数に到達したことに基づいて成立する第３終了条件が成立するまでの各小当たりの残りの当選回数を遊技者が容易に把握可能に構成していたが、これに限られるものではない。例えば、キャラクタの種別を秘匿して、何れかのキャラクタの残機が減った（いずれかの小当たりの規定回数までの残回数が減少した）ことのみを報知する演出を実行する構成としてもよい。このように構成することで、第３終了条件が成立するまでの各小当たりの残りの当選回数を正確に把握することを困難にすることができるので、時短状態がいつまで続くかわからない遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３３】

本第４２制御例では、時短状態においてＶ入賞を発生させることが困難な第１～第３小当たりの当選回数がそれぞれ規定回数に到達することで第３終了条件が成立して時短状態が終了される用に構成していたが、第３終了条件を成立させ得る抽選結果は、Ｖ入賞を発生させることが困難な小当たりに限定されるものではなく、任意に定めることができる。例えば、変動時間が第１期間に設定される外れ抽選結果、第２期間に設定される外れ抽選結果、第３期間に設定される外れ抽選結果に規定回数を設定し、全ての外れ抽選結果となった回数が規定回数に当選した場合に時短状態を終了させる構成としてもよい。また、大当たり当選やＶ小当たり当選の回数を第３終了条件に含めてもよい。具体的には、例えば、Ｖ入賞不可能な小当たりに５回当選し、且つ、Ｖ小当たりに１回当選し、且つ、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、第３終了条件が成立するように構成してもよい。この制御は、特に、時短状態よりも通常状態において大当たり遊技の実行が設定された方が有利な仕様において、これまでにない斬新な遊技性を実現することができる。即ち、Ｖ小当たりに当選した場合に、敢えてＶ入賞を回避しておいて、その後にＶ入賞不可能な小当たりの当選回数が規定回数に到達した後で大当たりに当選した場合に、当該大当たり当選時に時短終了条件を成立させて有利度合いを高めることが可能となるため、時短状態中にＶ小当たりに当選した場合に、有利度合いが低くなるが、Ｖ入賞を発生させて確実に大

当たり遊技を実行させる遊技方法で遊技を行うか、大当たりに当選せずに時短回数に到達して時短状態が終了されるリスクがあるが、Ｖ入賞を回避して、有利度合いが高い大当たり当選を目指すかを遊技者に選択させる斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、第３終了条件を成立させ得る条件は、抽選結果に限られるものでもなく、他の条件を採用してもよい。具体的には、例えば、特別図柄の抽選回数の合計や、第２特別図柄の抽選回数を、第３終了条件を成立させ得る条件の一部又は全部として採用してもよい。具体的には、例えば、第１～第３小当たりの当選回数がそれぞれ１回以上となり、且つ、第２特別図柄の抽選回数が１０回以上となることで第３終了条件が成立するように構成してもよい。このように構成することで、第３終了条件が成立するまでの最低の特別図柄の抽選回数を１０回に固定化することができる。つまり、早々に第１～第３小当たりの規定回数に到達してしまったとしても、第２特別図柄の抽選回数の規定回数を満たすまでは時短状態の継続が保証されるため、遊技者を落胆させ難くすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３４】

本第４２制御例では、時短状態において各キャラクタの残機数を、第１～第３小当たりの規定回数に対する残りの当選回数（第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４のカウンタ値）に一致させる構成としていたが、これに限られるものではない。実際にはカウンタ値が減算されていない（例えば、完全外れや既に残機が０となったキャラクタに対応する小当たりに当選した）にもかかわらず、残機が減少する演出が所定割合で実行されるように構成してもよい。また、例えば、残機ストック演出において報知される残機数として、実際の第１～第３小当たりの当選回数の規定回数よりも少ない残機数が報知され得る構成としてもよい。つまり、実際のカウンタ値よりも残機数が少なくなり得る演出動作としてもよい。この場合において、残機数が実際のカウンタ値よりも少なく報知されている状態で所定の報知条件（例えば、全てのキャラクタの残機数が０になったタイミングや、特定回数の特別図柄の抽選が実行されたタイミング）が成立した場合に、残機数を上乗せすることで実際の残機数を報知する演出を実行してもよい。このように構成することで、各キャラクタの残機数が少なくなってきたとしても、残機数を上乗せする演出が発生することを期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１７３５】

また、各キャラクタの残機数と、第１～第３小当たりの規定回数に対する残りの当選回数（第１小当たりカウンタ２０３ｓ２、第２小当たりカウンタ２０３ｓ３、第３小当たりカウンタ２０３ｓ４のカウンタ値）とが不一致となることを許容する演出制御の別例として、例えば、各キャラクタの残機数が０になり難くなるように、所定条件下で、実際に当選した小当たりの種別に対応するキャラクタとは異なるキャラクタの残機を減少可能に構成してもよい。より具体的には、例えば、冒険者のキャラクタ８１１ａおよびガンマンのキャラクタ８１１ｃの残機が共に１、ウサギのキャラクタ８１１ｂの残機が４という状況下において、第１小当たり（冒険者のキャラクタ８１１ａに対応する小当たり）、または第３小当たり（ガンマンのキャラクタ８１１ｃに対応する小当たり）に当選した場合、即ち、対応するキャラクタの残機を減少させることで当該キャラクタの残機が０となってしまう場合に、残機に余裕がある（残機が２以上残っている）キャラクタ（ウサギのキャラクタ８１１ｂ）の残機を減少させる演出を実行する構成としてもよい。つまり、一部のキャラクタ（第１のキャラクタ）の残機が特定数（１機）となっている状況下において、残機に余裕があるキャラクタ（第２のキャラクタ）の残機数を、対応する小当たりカウンタの値よりも少ない残機数に報知する代わりに、特定数以下の残機となっている第１のキャラクタの残機を減らす演出を回避する（対応する小当たりカウンタの値よりも多い残機数を報知する）構成としてもよい。そして、実際よりも少ない残機数に報知していた第２のキャラクタの残機数が所定数以下（例えば、２機以下）となった状態で当該第２のキャラクタに対応する小当たりに当選した場合に、第２のキャラクタの残機数に代えて第１のキ

ャラクタの残機数を減算する演出を実行することにより帳尻を合わせ、最終的に第３終了条件が成立するタイミングと、全てのキャラクタの残機が０になるタイミングとを一致させるように構成してもよい。このように構成することで、各キャラクタの残機が０となり難くすることができるので、複数のキャラクタの残機が残っていることに対する安心感を遊技者に抱かせ易くすることができる。よって、時短状態中の遊技をより安心して行わせることができる。また、逆に、一部のキャラクタの残機がより多く残り易くなるように構成してもよい。つまり、残機数が所定数以上（例えば、５機以上）残っている一部のキャラクタ（特定のキャラクタ）に対応する小当たりに当選した場合に、第１のキャラクタの残機数に代えて、残機数が１以上の他のキャラクタの残機数を減少させる構成としてもよい。そして、他のキャラクタの残機数が見た目上０になった状態（対応する小当たりカウンタの値が１以上であるにもかかわらず残機の表示のみ０になっている状態）で更に他のキャラクタに対応する小当たりに当選した場合に、特定のキャラクタの残機を減少させる演出を実行することで帳尻を合わせ、最終的に第３終了条件が成立するタイミングと、全てのキャラクタの残機が０になるタイミングとを一致させるように構成してもよい。このように構成することで、特定のキャラクタの残機数が多い状態をより長く継続させることができるため、特定のキャラクタに対応する種別の小当たりに当選し続けなければ時短状態が継続するかのように思わせることができ、時短状態がより長く継続しそうだと遊技者に対して思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３６】

本第４２制御例では、時短状態においてリーチ演出に発展した場合に味方キャラクタ（キャラクタ８１１ａ～８１１ｃ）と対戦する（バトルを行う）敵キャラクタとして、１種類のキャラクタ（怪獣のキャラクタ８２１）のみを設ける構成としていたが、敵キャラクタは複数の種別を設ける構成としてもよい。このように構成することで、演出態様を多様化させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。この場合において、選択される敵キャラクタの種別によって味方キャラクタが敗北した場合の残機数の減少数を異ならせる構成としてもよい。具体的には、例えば、敵キャラクタとして第１～第３の敵キャラクタを設ける構成とし、第１の敵キャラクタに敗北した場合、対戦相手として決定された味方のキャラクタの残機数が１機減少し、第２の敵キャラクタに敗北した場合は、対戦相手として決定された味方のキャラクタの残機数が最大で２機（残機が１機以下の場合は残機数を０まで）減少し、第３の敵キャラクタに敗北した場合は、対戦相手として決定された味方のキャラクタの残機数が最大で３機（残機が２機以下の場合は残機数を０まで）減少するように構成してもよい。この場合、残機ストックチャンス演出において残機数を実際よりも多く報知する場合を設けておき（または第１～第３小当たり当選時に対応する小当たりカウンタ値が０でない場合でも所定割合でガセ残機回復演出を実行することで実際よりも多い残機数となる場合を設けておき）、所定契機で第２の敵キャラクタや第３の敵キャラクタに敗北する演出を実行して多く報知していた分の残機を減少させて残機の帳尻を合わせたり、逆に、第２の敵キャラや第２の敵キャラクタに敗北する演出を実行して実際の小当たりカウンタのカウンタ値よりも少ない残機数を報知しておいて、その後に残機上乗せ演出等により帳尻を合わせる演出動作を行う構成としてもよい。このように構成することで、残機の減少態様を多様化させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。更に、この場合において、大当たりまたはＶ小当たり当選時に選択される割合は、第３の敵キャラクタが最も高くなり、第１の敵キャラクタが最も少なくなるように構成してもよい。このように構成することで、第３の敵キャラクタが選択された場合は、大当たり又はＶ小当たりの期待度が高いものの、敗北した場合に多くの残機が減少されるハイリスクハイリターンのバトル演出となり、第１のキャラクタが選択された場合は、大当たり又はＶ小当たりの期待度が低いものの、敗北したとしても残機が１しか減少されないローリスクローリターンのバトル演出となり、第２の敵キャラクタはこれらの中間リスクおよびリターンのバトル演出となるので、決定される敵キャラクタの種別により注目して遊技を行わせることができる。よって

、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。更に、例えば、味方キャラクタと敵キャラクタとの組み合わせによって大当たり（またはＶ小当たり）となる期待度を示唆可能に構成してもよい。具体的には、例えば、基本的に、冒険者のキャラクタ８１１ａがバトル（対戦）を行う場合、第１の敵キャラクタよりも第２の敵キャラクタの方が大当たり期待度が高くなり（第１小当たりの場合に選択され難くなり）、且つ、第２の敵キャラクタよりも第３の敵キャラクタの方が大当たり期待度が高くなる（第１小当たりの場合に選択され難くなる）一方で、ウサギのキャラクタ８１１ｂがバトルを行う場合、第２の敵キャラクタの大当たり期待度が最も高くなり、第１の敵キャラクタの大当たり期待度が最も低くなるように構成してもよい。また、ガンマンのキャラクタ８１１ｃがバトルを行う場合、第１の敵キャラクタが選択されることで大当たり又は小当たり当選が確定し（第３小当たりでは選択され得ず）、且つ、第３小当たりよりも第２小当たりの方が大当たり期待度が高くなるように構成してもよい。このように構成することで、味方キャラクタと敵キャラクタとの組み合わせにも注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。

【１１７３７】

本第４２制御例では、時短状態において時短図柄当選が発生した場合に、各種カウンタに対して、時短図柄に対応するカウンタ値が加算されるように構成していた。つまり、時短図柄当選が発生すると、必ず有利度合いが高くなるように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、時短終了条件が異なる複数の時短図柄の種別を設ける構成とし、時短状態において時短図柄当選が発生した場合は、対応する時短終了条件を各種カウンタ値に上書きする構成としてもよい。このように構成することにより、時短図柄当選が発生した場合に、設定される時短終了条件（各キャラクタの残機）に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１７３８】

本第４２制御例では、時短終了条件として、複数の異なる条件が全て成立した場合に成立する第３終了条件を設ける構成とし、いずれか１の条件が未成立の間は、他の終了条件が成立していないことを条件として、時短状態が維持される（有利度合いが維持される）ように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、時短状態において終了条件を構成する各条件が成立する毎に、時短状態の有利度合いが可変するように構成してもよい。具体的には、例えば、終了条件を構成する条件として第１～第３条件を設ける構成とし、第１条件が成立することで、変動時間が長い変動パターンテーブルを参照して変動パターンを選択する制御に切り替わり、第２条件が成立することで、普通図柄の当たり当選時に電動役物６４０ａへと遊技球が入球困難となる開放パターンが選択される割合が高くなり、第３条件が成立することで、普通図柄の変動時間が長くなるように制御してもよい。そして、第１～第３条件が全て成立した場合に、時短状態が終了されるように構成してもよい。このように構成することで、条件が成立する毎に時短状態の有利度合いが低下していく遊技性を実現することができるので、各条件が成立するよりも前に大当たりまたは小当たりに当選させたいと強く期待させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、逆に、成立した条件が多くなる程時短状態の有利度合いが向上するように構成してもよい。この場合、いずれかの条件が早期に成立すること、および、全ての条件が成立しないことを遊技者に対して期待させる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。更に、時短状態の有利度合いが高くなる条件と、低くなる条件と、を設ける構成としてもよいし、成立する順序によって有利度合いが可変するように構成してもよい。このように構成することで、時短状態が継続している間、成立した条件の種別や成立順に注目して遊技を行わせる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。また、同一の時短状態の有利度合いを可変させる制御に限られるものでもなく、有利な遊技状態を複数設け、条件が成立する毎に有利な遊技状態間で状態を移行するように構成し、全ての条件が成立することで不利な通常状態へと移行する構成としてもよい。具体的には、例えば、有利状態として第１有利状態、第２有利状態、

および第３有利状態を設ける構成とし、条件を第１有利状態において第１条件が成立することで第２有利状態へと移行し、第１有利状態において第２条件が成立することで第３有利状態へと移行し、第２有利状態において第２条件が成立するか、第３有利状態において第１条件が成立することで、通常状態へと移行するように構成してもよい。また、これらの場合の条件については、第１～第３小当たりの当選回数に限られるものでもなく、特別図柄の抽選回数、Ｖ小当たり当選、普通図柄の当たり遊技の実行回数、第２特別図柄の保留球数、所定の種別の大当たり当選等、任意の条件を設定することができる。

【１１７３９】

＜第４３制御例＞

次に、図１２５３から図１２８２を参照して、第４３制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第４３制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第１３制御例におけるパチンコ機１０と同様に、遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成し、さらに、特別図柄抽選が実行された回数（特別図柄抽選回数）が所定条件（例えば、９９９回）を満たした場合（天井付与条件が成立した場合）に、遊技者に有利となる特典（通常状態よりも特別図柄抽選を実行させ易くする状態）を付与可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選を実行させる遊技を長時間実行した遊技者に対して、特別図柄抽選の結果に関わらず特典を付与することができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１７４０】

さらに、本第４３制御例では、上述した第３２制御例と同様に、通常状態よりも有利な遊技状態（時短状態）として、特別図柄抽選にて時短図柄に当選した場合の一部、或いは、大当たり当選すること無く連続して特別図柄抽選が実行された回数が所定回数（９９９回）に到達した場合において設定される第２時短状態（微時短状態）と、大当たり遊技の終了後に設定される第１時短状態（時短状態）と、を設定可能に構成している。

【１１７４１】

詳細な説明は後述するが、本第４３制御例にて実行される複数種類（２種類）の時短状態の有利度合いを異ならせるように構成している。具体的には、何れの時短状態（第１時短状態、第２時短状態）であっても通常状態よりは有利な遊技状態となり、第２時短状態よりも第１時短状態が遊技者に有利な遊技状態となるように構成している。つまり、本第４３制御例におけるパチンコ機１０において設定可能な２種類の時短状態の中では、第２時短状態が最も遊技者に不利な時短状態となり、第１時短状態が最も遊技者に有利な時短状態となる。

【１１７４２】

ここで、時短状態中における遊技者への有利度合いを決定する要素としては、設定された遊技状態における特別図柄抽選の実行のし易さや、実行される特別図柄抽選の種別や、特別図柄抽選の結果に基づいて実行される大当たり遊技の種別や、特別図柄抽選の結果に基づいて大当たり遊技が実行された場合に、その大当たり遊技が終了した後に設定される遊技状態の種別や、時短図柄抽選に当選した場合に設定される時短状態の種別等が挙げられる。

【１１７４３】

本第４３制御例では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選の方が、抽選結果に基づいて大当たり遊技が実行され易くなるように構成しており、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選の方が、遊技者に有利な特別図柄抽選となるように構成している。具体的には、第１特別図柄抽選、第２特別図柄抽選の何れも同一の確率（約１／２５０）で大当たり当選し、第２特別図柄抽選のみ約１／２５で小当たり当選するように構成している。そして、小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に特定領域へと遊技球を入球させることで、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を実行可能に構成している。このように構成することで、第１特別図柄抽選が実行された場合よりも、第２特別図柄抽選が実行された場合の方が、１回の特別図柄抽選の抽選結果に基づいて大当たり遊技が実行され

る確率を高めることができるので、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選の方が、遊技者に有利な特別図柄抽選とすることができる。

【１１７４４】

また、本第４３制御例では、第１特別図柄抽選が実行された場合に約１／４０の確率で時短図柄当選するように構成している。そして、時短図柄当選した場合に設定される時短状態種別の設定割合を、時短図柄当選した時点で設定されている遊技状態に応じて異ならせており、通常状態にて時短図柄当選した場合よりも、時短状態にて時短図柄当選した場合の方が、遊技者に有利な時短状態種別を設定し易くなるように構成している。

【１１７４５】

具体的には、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、第２時短状態（微時短状態）が設定される割合が５０％、第１時短状態（時短状態）が設定される割合が５０％となり、第２時短状態にて実行される第１特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、第２時短状態（微時短状態）が設定される割合が３０％、第１時短状態（時短状態）が設定される割合が７０％となり、第１時短状態（時短状態）にて実行される第１特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、第２時短状態（微時短状態）が設定される割合が０％、第１時短状態（時短状態）が設定される割合が１００％となるように構成している。

【１１７４６】

さらに、本第４３制御例では、通常状態、或いは、第２時短状態が設定されている場合には、第１入球口６４へと遊技球を入球させて第１特別図柄抽選の実行を目指す左打ち遊技の方が、第２入球口６４０へと遊技球を入球させて第２特別図柄抽選の実行を目指す右打ち遊技よりも遊技者に有利となる（特別図柄抽選を実行させ易くする）ように構成しており、第１時短状態が設定されている場合には、第１入球口６４へと遊技球を入球させて第１特別図柄抽選の実行を目指す左打ち遊技よりも、第２入球口６４０へと遊技球を入球させて第２特別図柄抽選の実行を目指す右打ち遊技の方が遊技者に有利となるように構成している。

【１１７４７】

このように構成することで、時短図柄当選した場合における遊技者に有利な第２特別図柄抽選を実行させ易い第１時短状態の設定のし易さの点から、通常状態が最も有利者に不利な遊技状態となり、次いで、第２時短状態、第１時短状態の順に遊技者に有利な遊技状態となる。

【１１７４８】

また、本第４３制御例では、第１時短状態、即ち、第２特別図柄抽選が主として実行される遊技状態中に第１特別図柄抽選が実行され時短図柄当選した場合、例えば、第１時短状態中に誤って左打ち遊技を行い第１入球口６４へと遊技球が入球してしまい第１特別図柄抽選が実行された場合や、左打ち遊技によって第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得している状態で時短図柄当選し第１時短状態が設定された後に、獲得済みの特図１保留を用いた第１特別図柄抽選が実行された場合に時短図柄当選したとしても、遊技者に最も有利な時短状態である第１時短状態から他の時短状態（第２時短状態）へと遊技状態が移行しないように構成している。

【１１７４９】

このように構成することで、第１時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選を実行させることなく第１時短状態が終了してしまう事態が発生してしまうことを抑制することができる。なお、本第４３制御例では、設定されている遊技状態に関わらず、第１特別図柄抽選にて時短図柄抽選（時短図柄当選の判定）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、設定されている遊技状態に応じて、時短図柄抽選の実行有無を変更するように構成しても良い。この場合、例えば、第１時短状態が設定されている場合には、第１特別図柄抽選が実行されたとしても時短図柄抽選（時短図柄当選の判定）を実行しないように構成すると良い。このように構成した場合であっても、本第４３制御例と同様に、時短図柄当選によって、遊技者に最も有利な時短状態である第１時短状態から他

の時短状態（第２時短状態）へと遊技状態が移行しないように構成することができる。
【１１７５０】
　また、本第４３制御例では、第２時短状態（微時短状態）の設定契機に応じて、第２時短状態の継続期間を異ならせるように構成しており、時短図柄当選（第１設定契機）に基づいて第２時短状態が設定される場合には、第２時短状態が継続し得る期間（時短回数）として「１回～１００回」の何れかが設定されるように構成し、大当たり当選すること無く連続して特別図柄抽選が実行された回数が所定回数（９９９回）に到達したこと（第２設定契機）に基づいて第２時短状態が設定される場合には、第２時短状態が継続し得る期間（時短回数）として「４０回」が設定されるように構成している。そして、第１設定契機に基づく第２時短状態にて設定される時短回数の平均値が「５回」となるように構成している。
【１１７５１】
　つまり、特別図柄抽選が実行される毎に成立し得る第１設定契機が成立した場合に設定される第２時短状態の方が、所定回数（９９９回）の特別図柄抽選が実行された場合に成立する第２設定契機が成立した場合に設定される第２時短状態よりも、短い時短回数が設定され易くなるように構成し、且つ、設定され得る時短回数の最大値が大きくなるように構成している。
【１１７５２】
　このように構成することで、第１設定契機が成立したことに基づいて長期間の第２時短状態が過剰に設定されてしまうことを抑制しながらも、長期間の第２時短状態が設定されることを期待しながら毎回の特別図柄抽選を実行させることができるため、遊技者の遊技意欲を高めることができる。また、第２設定契機が成立した場合には、第１設定契機が成立した場合に設定され得る時短回数の平均値（５回）よりも多い時短回数（４０回）が設定されるため、大当たり当選すること無く長時間の遊技を実行した遊技者に対して、過小な第２時短状態が設定されてしまうことを抑制することができる。
【１１７５３】
　加えて、本第４３制御例では、第２時短状態中に実行される第１特別図柄抽選でも時短図柄当選するように構成しており、設定されている第２時短状態の残時短回数と、時短図柄当選したことに基づいて新たに設定される第２時短状態の時短回数と、によっては、第２時短状態の残時短回数が増加する場合と、減少する場合、或いは、変動しない場合と、を創出可能に構成している。このように構成することで、時短図柄当選によって同一の時短種別（同一時短回数の第２時短状態が設定される時短種別）が設定される場合であっても、遊技者に有利となる場合と、不利となる場合とを生じさせることが可能となるため、時短図柄抽選の結果に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【１１７５４】
　また、上述した通り、時短図柄当選によって同一の時短種別（同一時短回数の第２時短状態が設定される時短種別）が設定される場合であっても、遊技者に有利となる場合と、不利となる場合とが生じることから、同一の時短種別が設定される時短図柄に当選した場合において、その抽選結果を示すための識別情報（第３図柄）の表示態様を、遊技者の有利度合いに応じて異ならせるように構成している。このように構成することで、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【１１７５５】
　さらに、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、設定されている遊技状態を遊技者に把握させ難くするために、左打ち遊技が遊技者に有利となる遊技状態（通常状態、第２時短状態）が設定されている場合には、何れの遊技状態が設定されているかを遊技者が把握可能な背景モード（専用モード）と、何れの遊技状態が設定されているかを遊技者が把握困難な背景モード（共通モード）と、を設定可能に構成し、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報の停止表示態様を、設定されている背景モードに応じて異ならせるように構成している。
【１１７５６】

具体的には、特定の時短種別に時短図柄当選した時点の遊技状態が、通常状態である場合には第１特典が付与され、第２時短状態である場合には第１特典よりも遊技者に有利となる第２特典が付与される場合において、時短状態が設定されている場合であっても、背景モードとして共通モードが設定されている場合には、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報の停止表示態様として、第１特典が付与されることを示すための識別情報の停止表示態様を設定可能に構成している。

【１１７５７】

このように構成することで、設定されている遊技状態を遊技者が把握困難な背景モードが設定されている場合には、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報の停止表示態様によって遊技者に遊技状態を把握されてしまうことを抑制することができる。

【１１７５８】

加えて、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、設定されている背景モードと、停止表示された識別情報の停止表示態様と、を組み合わせて把握することで、遊技者に付与される特典の内容を遊技者に把握させることができるように構成している。

【１１７５９】

具体的には、共通モードが設定されている状態で第１停止表示態様の識別情報が停止表示された場合と、専用モードが設定されている状態で第１停止表示態様の識別情報が停止表示された場合と、で異なる特典が付与されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選によって付与される特典を把握したい遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報の停止表示態様だけでなく、識別情報が停止表示された時点（特別図柄抽選が実行された時点）における背景モードの種別についても興味を持たせることができるため、演出効果を高めることができる。

【１１７６０】

また、本第４３制御例では、時短図柄当選に基づいて時短状態（第１時短状態、第２時短状態）が設定される場合に時短回数の異なる時短状態を設定可能に構成しており、設定される時短回数に応じて、特別図柄抽選で時短図柄当選したことを示すための報知態様（識別図柄の停止表示態様）の設定を決定可能に構成している。

【１１７６１】

具体的には、設定される時短回数が少ない場合（例えば、１回の場合）では、時短図柄当選した時点において獲得済みの特図保留（特図１保留）を先読みし、時短状態が設定された状態で実行される第１特別図柄抽選の結果が外れ（時短図柄非当選）であると判別した場合には、時短図柄当選したことを遊技者に報知しないように構成している。このように構成することで、時短図柄当選したにも関わらず時短状態が早期に終了していまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、先読み結果が第１特別図柄抽選の結果が外れ（時短図柄非当選）以外である場合には、少ない時短回数の時短状態が設定されることを報知可能に構成している。つまり、少ない時短回数の時短状態が設定されることが報知された場合には、その時短状態中に実行される特別図柄抽選にて何らかの特典（当たり、時短図柄）に当選している可能性を高くすることができる。

【１１７６２】

ここで、従来より、異なる時短回数の時短状態を設定可能であって、時短回数が多い時短状態が設定される場合の方が、時短回数が少ない時短状態が設定される場合よりも遊技者に有利となるパチンコ機１０が知られている。そして、時短状態が設定される場合において、今回設定される時短回数の少なくとも一部を遊技者に報知可能なパチンコ機１０が知られている。このような従来型のパチンコ機１０では、報知される時短回数が多い程、遊技者に有利となるため、遊技者は報知される時短回数の多さにのみ興味を持つこととなり、少ない時短回数が報知された場合に遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１１７６３】

これに対して、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した従来型のパチンコ機１０と同様に、長い時短回数が設定された方が遊技者に有利となるが、短い時短回数

が設定された場合には、遊技者に有利な特別図柄抽選の結果が先読みされた場合に時短状態が設定されることを報知可能に構成しているため、少ない時短回数が設定される時短状態が設定されることに対しても遊技者に興味を持たせることができるように構成している。よって、時短状態が設定されることが報知された場合において、設定される時短回数の大小により興味を持たせることができる。

【１１７６４】

＜第４３制御例の遊技盤１３の構成について＞

まず、図１２５３を参照して、本第４３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成について説明をする。本第４３制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３の構成は、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成（図９２５参照）と同一であるため、詳細な説明を省略する。ここで、本第４３制御例におけるパチンコ機１０の遊技の流れについて簡単に説明をする。本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、遊技領域に発射された遊技球が第１入球口６４へと入球したことに基づいて実行条件が成立した場合に抽選が実行される第１図柄（第１特別図柄）と、第２入球口６４０へと入球したことに基づいて実行条件が成立した場合に抽選が実行される第１図柄（第２特別図柄）と、を有している。そして、第１特別図柄抽選の結果として、大当たり当選、時短図柄当選、外れの何れかが判定され、第２特別図柄抽選の結果として、大当たり当選、小当たり当選、外れの何れかが判定されるように構成している。

【１１７６５】

特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合には、第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｂ（図１２５３参照）が開放され、特定入賞口６５ａ（図１２５３参照）へと遊技球を入賞させ易くなる大当たり遊技が実行されるように構成している。特定入賞口６５ａへと遊技球が入賞すると、入賞した遊技球１個に対して１１個の賞球が払い出されるように構成されている。よって、遊技者はパチンコ機１０における遊技にて多くの賞球を獲得するために、特別図柄の抽選で大当たり当選することを目指して意欲的に遊技を行わせることができる。

【１１７６６】

さらに、特別図柄の抽選で小当たりに当選した場合には、第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０の開閉扉６５０ｆ（図１２５３参照）が開放され、Ｖ入賞口６５０ａ（図１２５３参照）へと遊技球を入賞させ易くなる小当たり遊技が実行されるように構成している。Ｖ入賞口６５０ａへと遊技球が入賞すると、入賞した遊技球１個に対して１１個の賞球が払い出されるように構成されている。

【１１７６７】

加えて、本第４３制御例では、Ｖ入賞口６５０ａへと入賞した遊技球が第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０内に設けられた特定領域（Ｖ領域）６５０ｅ３を通過した場合には、小当たり遊技の終了後に第１可変入賞装置６５の開閉扉６５ｂを開放させる大当たり遊技を実行可能に構成している。

【１１７６８】

つまり、本第４３制御例では、大当たり遊技を実行させるための実行契機として、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に成立する第１大当たり契機と、小当たり遊技中に遊技球が特定領域（Ｖ領域）６５０ｅ３を通過した場合に成立する第２大当たり契機と、を有している。このように構成することで、様々な契機で大当たり遊技を実行させることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。

【１１７６９】

なお、上述した通り、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、遊技者へ賞球を付与可能な当たり遊技として、大当たり遊技と、小当たり遊技と、を実行可能に構成しており、小当たり遊技中よりも、大当たり遊技中の方が、遊技者に多くの賞球を付与可能（多くの遊技球を入賞させることが可能）となるように、各当たり遊技の内容が予め決定されている。つまり、大当たり遊技は、小当たり遊技よりも遊技者が獲得可能な賞球数の点で遊技者に有利な当たり遊技となる。

【１１７７０】
　また、大当たり遊技が実行された場合には、大当たり遊技の終了後に大当たり種別に対応した遊技状態を設定可能に構成しているのに対して、小当たり遊技の終了後には、小当たり遊技が開始される時点で設定されていた遊技状態が再度設定されるように構成している。つまり、例えば、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている状態で大当たり遊技が実行された場合には、その大当たり遊技の大当たり種別に基づいて、大当たり遊技終了後に通常状態とは異なる遊技状態（時短状態）が設定可能となり、通常状態が設定されている状態で小当たり遊技が実行された場合には、小当たり遊技終了後に通常状態が設定されるように構成している。
【１１７７１】
　よって、現在設定されている遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態が設定されることを期待しながら遊技を行っている遊技者に対しては、新たな遊技状態を設定可能な大当たり遊技の方が、小当たり遊技よりも有利な当たり遊技となる。
【１１７７２】
　また、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した特別図柄の抽選（特別図柄抽選）以外に、普通図柄（第２図柄）の抽選を実行可能に構成しており、遊技盤１３に設けられたスルーゲート６７へと遊技球を通過（入球）させたことに基づいて実行条件が成立した場合に、普通図柄の抽選が実行される。そして、普通図柄（第２図柄）の抽選の結果として、当たり、外れの何れかが判定されるように構成している。普通図柄の抽選で当たり当選した場合には、電動役物６４０ａ（図１２５３参照）を作動させることで、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くする普図当たり遊技が実行される。
【１１７７３】
　つまり、普図当たり遊技が実行されることで、普図当たり遊技が実行されていない場合よりも、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くすることができる。よって、遊技者に対して、第１入球口６４へと遊技球を入球させることで第１特別図柄抽選を実行し大当たり遊技を目指す遊技と、スルーゲート６７へと遊技球を入球（通過）させ普通図柄抽選を実行し、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることで第２特別図柄抽選を実行し大当たり遊技を目指す遊技と、を実行させることが可能となるため、遊技者に多彩な遊技を提供することができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【１１７７４】
　さらに、詳細な説明は後述するが、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、普通図柄の確率状態として、「低確率状態」と、「高確率状態」を設定可能に構成しており、普通図柄の低確率状態が設定されている場合は、普通図柄の高確率状態が設定されている場合よりも、１回の普通図柄抽選の結果に基づいて第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能となる期待度が低くなるように構成している。
【１１７７５】
　具体的には、「普通図柄の高確率状態」とは、普通図柄（第２図柄）抽選の当たり確率がアップし、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入球口６４０へ遊技球が入球しやすい状態となる。よって、普通図柄の高確率状態中は、第２入球口６４０へ遊技球が入球し易い状態となり、特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が行われる回数を増やすことができる。
【１１７７６】
　加えて、上述した第４０制御例と同様に、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態であっても、普通図柄の高確率状態と同一の電動役物６４０ａ開放制御を実行可能な遊技状態（第１時短状態）を設定可能に構成している。
【１１７７７】
　なお、普通図柄の高確率状態中の普図当たり遊技として、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を長くするのではなく、または、その開放時間を長くするこ

とに加えて、１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａが開放する回数を普通図柄の低確率状態中に実行される普図当たり遊技よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、普通図柄の高確率状態中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変更せず、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、普通図柄の高確率状態中において、第２入球口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の普図当たり遊技で電動役物６４０ａを開放する回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、普通図柄の低確率状態中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【１１７７８】

なお、本第４３制御例では、上述した通り、普通図柄の確率状態を「低確率状態」、「高確率状態」と変更可能に構成し、特別図柄の確率状態は変更されないように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄の確率状態も、上述した普通図柄の確率状態と同様に「低確率状態」、「高確率状態」と変更可能に構成しても良い。この場合、特別図柄の高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、特別図柄の抽選結果が大当たりとなる確率（大当たり確率）を高めるように構成すると良い。また、大当たり確率だけで無く、特別図柄の抽選結果が小当たりとなる確率（小当たり確率）を高めるように構成しても良いし、大当たり確率、小当たり確率を共に高めるように構成しても良いし、特別図柄の高確率状態が設定された場合には、特別図柄の低確率状態が設定されている場合よりも、特別図柄の抽選結果が外れとなる確率（外れ確率）が低くなるように構成しても良い。

【１１７７９】

本第４３制御例にて用いられる第２可変入賞装置（Ｖ入賞装置）６５０の具体的な構成については、上述した第３２制御例の図９２６から図９３０を参照して説明をした内容と同一であるため、その説明を省略する。

【１１７８０】

＜第４３制御例の演出内容について＞

次に、図１２５４から図１２５９を参照して、本第４３制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第３２制御例におけるパチンコ機１０と同様に、遊技状態として通常状態と、時短状態と、を設定可能に構成している。さらに、時短状態として複数の時短状態種別を設定可能に構成しており、設定される時短状態種別に応じて遊技者への有利度合いを異ならせている。ここで、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態が設定されている場合と、第２時短状態が設定されている場合と、で遊技者に対して左打ち遊技を実行させるように構成している。そして、遊技者に左打ち遊技を実行させる遊技期間、即ち、通常状態、或いは、第２時短状態が設定されている遊技期間中は、複数の背景モード（有利モード、通常モード、不利モード）を設定可能に構成し、設定されている背景モードの種別に対応した背景画像が第３図柄表示装置８１の表示面（背面）に表示されるように構成している。このように構成することで、左打ち遊技を実行している遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を把握させ難くすることができる。

【１１７８１】

また、本第４３制御例では、第１特別図柄抽選にて時短図柄当選したことに基づいて、大当たり遊技を介すること無く第２時短状態を設定可能に構成しているため、左打ち遊技を実行している遊技者が特別図柄抽選の結果に基づいて第２時短状態へと移行したか否かを把握させ難くしている。加えて、第２時短状態が継続する期間（時短回数）として、異なる期間（時短回数）を設定可能に構成しているため、時短図柄当選に基づいて第２時短状態が設定されたことを遊技者が把握したとしても、その第２時短状態が終了し、通常状態へと移行したタイミングを把握させ難くすることができる。

【１１７８２】

図１２５４（ａ）は、通常状態よりも遊技者に有利な第２時短状態が設定されたことを示すための背景モードである有利モード中の演出画面を模式的に示した図であって、図１２５４（ｂ）は、通常状態が設定されたことを示すための背景モードである不利モード中の演出画面を模式的に示した図である。

【１１７８３】

図１２５４（ａ）に示した通り、有利モードが設定されると、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍの背面画像として、天国を模した背面画像が表示され、ウサギを模したキャラクタ８０１と、天使を模したキャラクタ８０９が動的表示される。また、主表示領域Ｄｍの中央上部には、現在設定されている背景モードが遊技者に有利な有利モードであることを示すための「有利」の文字が表示され、副表示領域Ｄｓには、通常状態が設定されている場合よりも、第１時短状態（右打ち遊技が実行される時短状態）へと移行する確率が高い状態であることを示すための案内態様として「時短突入のチャンス」の文字が表示される。

【１１７８４】

なお、図１２５４（ａ）に示した有利モード画面は、左打ち遊技が実行される第２時短状態中を示しているため、小表示領域Ｄｍ４には、遊技者に対して左打ち遊技を促すための「左打ち」の文字が表示される。ここで、本第４３制御例では、特別図柄抽選によって第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合には、当該特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄が停止表示されたタイミングで第２時短状態を設定するように構成しており、その次に実行される特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が開始される場合に、背景モードを切り替えるための処理（背景モード移行処理）が実行されるように構成している。

【１１７８５】

そして、背景モード移行処理によって、有利モードへの移行条件が成立した場合に、図１２５４（ａ）に示した背景画像が表示されるように構成している。つまり、第２時短状態が設定された場合の一部において、背景モードを有利モードへと移行させることで遊技者に第２時短状態が設定されたことを分かり易く報知することができるように構成している。

【１１７８６】

一方、有利モードを終了させるための条件は別に規定されており、例えば、第２時短状態の終了条件が成立し通常状態が設定された後に特別図柄抽選が実行される毎に、有利モードを終了させるための終了抽選を実行し、その終了抽選にて当選した場合に有利モードを終了させるように構成している。

【１１７８７】

このように構成することで、第２時短状態が設定されたことを遊技者に報知するための有利モードが設定されたことにより、第２時短状態が設定されたことを把握した遊技者に対して、有利モードがいつまで継続したのかを分かり難くすることができる。よって、第１時短状態が設定されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせ易くすることができる。また、有利モードが設定されていない状態であっても、内部的に第２時短状態が設定されている可能性を残すことができるため、左打ち遊技中であって、有利モードが設定されていない状況（通常モードが設定されている状況）であっても、第１時短状態が設定されることを期待させ易くすることができる。

【１１７８８】

次に、図１２５４（ｂ）を参照して、不利モード中の演出画面の内容について説明をする。この不利モードは、遊技状態として通常状態が設定されていることを遊技者に報知するための演出画面である。この不利モードが設定されることによって、現在設定されている遊技状態が遊技者に有利では無い通常状態であることを報知している。このように構成することで、何れの遊技状態が設定されているのかを把握できないため、遊技者が遊技の止めどきを見つけることが出来ず、過剰に長時間の遊技を行ってしまい遊技の興味が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１７８９】
さらに、本第４３制御例では、大当たり当選すること無く所定回数（９９９回）の特別図柄抽選が実行された場合に、天井特典を付与可能に構成しており、天井特典が付与されるまでに要する特別図柄抽選の回数が少なくなればなるほど（大当たり当選しない特別図柄抽選回数が増加するほど）、通常状態が設定されている場合に不利モードが表示され易くなるように構成している。そして、図１２５４（ｂ）に示した通り、不利モードが表示されている間は、天井特典が付与されるまでに必要な特別図柄抽選の実行回数を示すための残回数報知が小表示領域Ｄｍ７に表示されるように構成している。
【１１７９０】
具体的には、図１２５４（ｂ）に示した表示画面では、小表示領域Ｄｍ７に「天井まであと５０回」の文字が表示されている。よって、図１２５４（ｂ）に示した表示画面は、前回の大当たり遊技が終了してから９５０回目の特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が実行されている期間中における第３図柄表示装置８１の表示画面を示した図である。
【１１７９１】
なお、図示は省略したが、本第４３制御例では、背景モードとして、上述した有利モード、及び不利モードとは別に通常モードを設定可能に構成している。この通常モードは、遊技状態として通常状態が設定されている場合も第２時短状態が設定されている場合も設定可能に構成している。つまり、有利モード、不利モードは、設定された遊技状態を遊技者に報知可能な背景モードである専用モードであり、通常モードは、設定された遊技状態を遊技者に報知しない共通モードである。このように共通モードを設定可能に構成することで、通常状態と第２時短状態とが移行する毎に遊技者に専用モードが設定されてしまい、設定されている遊技状態を遊技者に容易に把握されてしまうことを抑制することができる。
【１１７９２】
なお、本第４３制御例では、背景モードの種別として、上述した３種類（不利モード、通常モード、有利モード）を設定可能に構成しているが、背景モードの種別を４種類以上にしても良い。また、本第４３制御例では、遊技者に有利となる遊技方法が同一（例えば、左打ち遊技）の遊技状態として２種類の遊技状態（例えば、通常状態、第２時短状態）を設定可能に構成しているが、３種類以上の遊技状態において、遊技者に有利のとなる遊技方法が同一となるように構成しても良い。この場合、背景モードの種別として、設定されている遊技状態に対応させた背景モード（専用モード）と、設定されている遊技状態に対応していない背景モード（共通モード）と、に加え、少なくとも１の遊技状態のみを排除可能な背景モード（限定モード）と、を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、設定される背景モードの種別に応じて設定されている遊技状態を予測する楽しみを提供することができる。
【１１７９３】
さらに、遊技状態が移行したにも関わらず、背景モードが切り替わっていないことを示すための情報を遊技者に報知可能に構成しても良く、この場合、設定される遊技状態によって設定され得ない背景モードを設定可能に構成すると良い。このように構成することで、遊技状態の移行前と移行後において共通して同一の背景モードが設定されているという情報に基づいて、現在設定されている遊技状態を遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。
【１１７９４】
また、遊技状態が移行していないにも関わらず、背景モードが切り替わったことを示すための情報を遊技者に報知可能に構成しても良い。このように構成することで、切り替え前の背景モードと、切り替え後の背景モードとが、同一の遊技状態にて設定されたことを遊技者に把握させることができるため、現在の遊技状態を予測させる楽しみを提供すると共に、現在の遊技状態を把握した遊技者に対して、その遊技状態がいつから設定されていたのかを予測させる楽しみを提供することができる。

【１１７９５】
次に、図１２５５を参照して、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選にて時短図柄当選した場合に実行される演出内容について説明をする。図１２５５（ａ）は、通常モード中に時短種別「時短Ａ」が設定される時短図柄に当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図であって、図１２５５（ｂ）は、有利モード中に時短種別「時短Ａ」に当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。
【１１７９６】
本第４３制御例では、第１特別図柄抽選で大当たり当選しなかった場合に、時短図柄当選の判定（時短図柄抽選）を実行するように構成しており、時短図柄当選した場合には、大当たり遊技を実行すること無く、時短状態を設定可能に構成している。そして、時短図柄当選した場合には、時短図柄種別として、第２時短状態が設定される「時短Ａ（時短図柄Ａ）」と、第１時短状態が設定される「時短Ｂ（時短図柄Ｂ）」と、の何れかが設定されるように構成している。さらに、当選した時短図柄種別に応じて異なる時短回数が設定されるように構成している。
【１１７９７】
図１２５５（ａ）に示した表示画面は、遊技状態として通常状態が設定されている状況であって、且つ、背景モードとして「通常モード」が設定されている状態で、時短回数１０回の第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための表示画面であって、主表示領域Ｄｍの中央に表示された宝箱８１０ｃが開き、中身８１０ｃａとして、第２時短状態が設定されることを示すための表示態様として「有利」が表示されている。そして、キャラクタ８０１が、今回の特別図柄抽選の結果（時短図柄抽選の結果）が遊技者に有利な結果である（当選前の遊技状態よりも当選後の遊技状態の方が遊技者に有利な遊技状態となる）ことを示すための表示態様（図ではＶサインで表示）で表示され、副表示領域Ｄｓには「有利モード突入」の文字が表示されている。
【１１７９８】
なお、図１２５５（ａ）に示した通り、第３図柄表示装置８１の主表示領域Ｄｍに形成される表示領域Ｄｍ１には、第１特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄の表示態様として、大当たり当選を示すための大当たり表示態様（例えば、３つのぞろ目）とは異なる時短図柄表示態様（「３．５．３」）が表示されている。ここで、特別図柄抽選の結果として時短図柄当選したことを示すための表示態様は、特別図柄抽選の結果として大当たり当選も時短図柄当選もしなかった完全外れを示すための外れ表示態様とは異なる時短図柄表示態様が表示されるように構成しているが、この時短図柄表示態様は、大当たり表示態様と比べて、外れ表示態様と識別し難い表示態様で表示されるように構成している。
【１１７９９】
具体的には、特別図柄抽選の抽選結果が大当たりであることを示すための大当たり表示態様としては、表示領域Ｄｍ１に「３３３」といった同一の数字のみの組合せが設定され、特別図柄抽選の抽選結果が大当たりでも時短図柄当選でも無いことを示すための外れ表示態様としては、表示領域Ｄｍ１に「３６３」といった異なる数字の組合せが設定される。そして、特別図柄抽選の抽選結果が時短図柄当選であることを示すための時短図柄表示態様としては、上述した外れ表示態様と同様に異なる数字の組合せとして、特定の組合せ（例えば、３５３）が設定される。
【１１８００】
つまり、特別図柄抽選の結果が大当たり当選である場合には、大当たり当選に基づいて大当たり遊技が実行されるよりも前に大当たり当選したことを遊技者に把握させることで、遊技者に対していち早く満足感を提供するために、表示領域Ｄｍ１には遊技者に識別し易い表示態様で大当たり表示態様が表示されるように構成している。
【１１８０１】
これに対して、時短図柄当選したことを示すための時短図柄表示態様と、完全外れであることを示すための外れ表示態様と、を遊技者が容易に判別し難くすることで、今回の特別図柄抽選の結果に基づいて時短状態が設定されたか否か（時短図柄当選したか否か）を

遊技者に把握させ難くすることができるため、表示領域Ｄｍ１に表示される表示態様では無く、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される演出（背景モード表示）に興味を持たせ易くすることができる。

【１１８０２】

図１２５５（ａ）に示した表示画面が表示され、有利モードが設定されることが報知されると、その次の特別図柄変動期間中に背景モードが通常モードから有利モードへと移行する演出が実行される。なお、本第４３制御例では、時短図柄当選した特別図柄変動中に実行される演出として、図１２５５（ａ）に示した通り、時短図柄当選したことを示すための演出態様（「有利」と表示された中身８１０ｃａが表示される演出態様）で演出が実行される場合と、遊技者に時短図柄当選したことを報知しない演出態様、例えば、宝箱８１０ｃが開き、中身８１０ｃａの表示態様として、時短図柄当選したか否かを遊技者は判別困難（不可能）な「？？」が表示される演出態様で演出が実行される場合と、がある。

【１１８０３】

このように構成することで、特別図柄抽選で時短図柄当選したことを遊技者が把握可能な演出と、把握困難な演出と、を実行することができ、遊技者に対して現在設定されている遊技状態を把握させ難くすることができる。

【１１８０４】

次に、第２時短状態中に、第２時短状態（「時短Ａ」）が設定される時短図柄に当選した場合の演出内容について説明をする。図１２５５（ｂ）では、上述した図１２５５（ａ）と同一種別の時短図柄（時短回数１０回の第２時短状態が設定される時短図柄）に当選したことを示すための表示態様として、表示領域Ｄｍ１には「３．５．３」が表示されている。そして、主表示領域Ｄｍの中央部に表示されている宝箱８１０ｃの中から、「ピンチ」の文字が付された中身８１０ｃａが表示され、副表示領域Ｄｓには「有利期間が短くなったかも」の文字が表示される。

【１１８０５】

ここで、図１２５５（ｂ）では、第２時短状態（残時短回数３０回）中に実行された第１特別図柄抽選の結果が表示されており、今回の特別図柄抽選における時短図柄当選に基づいて新たに第２時短状態が設定された場合に、既に設定済の第２時短状態よりも残時短回数が少なくなることを遊技者に報知するために「ピンチ」の文字が表示されている。

【１１８０６】

つまり、有利モードが設定されている状態、即ち、第２時短状態が設定されたことを遊技者に報知するための背景モードが表示されている場合には、第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に、新たに設定される第２時短状態によって残時短回数が減少してしまうか否かを遊技者に予測させることが可能な表示態様を中身８１０ｃａの表示態様として設定可能に構成している。

【１１８０７】

一方、例え、第２時短状態が設定されている状態であっても、背景モードとして有利モードが設定されていない状況（通常モードが設定されている状況）では、第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合であっても、新たに設定される第２時短状態によって残時短回数が減少してしまうか否かを遊技者に予測させることが可能な表示態様が表示されないように構成している。

【１１８０８】

つまり、本第４３制御例では、同一の遊技状態（第２時短状態）が設定されている状態で、同一種別の時短図柄（時短回数１０回の第２時短状態が設定される時短図柄）に当選した場合であっても、設定されている背景モード（設定されている遊技状態を遊技者に予測させるための演出態様）の種別に応じて、今回当選した時短図柄が遊技者に不利となるか否かに関する情報（第２時短状態の残期間が短くなるか否か）の提供割合を異ならせているために、第２時短状態が設定されたことを示すための専用背景モード（有利モード）が設定されている場合の方が、その専用背景モードよりも第２時短状態が設定されているか否かを把握困難な共通背景モード（通常モード）が設定されている場合よりも、今回当

選した時短図柄が遊技者に不利となるか否かに関する情報が提供され易くなるように構成している。

【１１８０９】

このように構成することで、実行中の演出態様（背景モード）の種別に応じて特別図柄抽選の抽選結果が遊技者に不利となるか否かに関する情報の得やすさを異ならせることができるため、遊技者に対して実行される演出態様の種別に興味を持たせることができる。

【１１８１０】

次に、図１２５６を参照して、特別図柄抽選で第１時短状態（「時短Ｂ」）が設定される時短図柄に当選した場合に実行される演出内容について説明をする。本第４３制御例では、時短図柄当選した場合に時短種別として、第２時短状態が設定される時短Ａ、或いは、第１時短状態が設定される時短Ｂが設定される。第１時短状態が設定されると、通常状態、及び第２時短状態よりも第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなり、第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための右打ち遊技の方が、第１入球口６４へと遊技球を入球させるための左打ち遊技よりも遊技者に有利となるため、右打ち遊技を促すための案内態様が表示領域Ｄｍ４に表示される。つまり、第１時短状態は、第２時短状態よりも遊技者に有利な時短状態となる。

【１１８１１】

まず、図１２５６（ａ）を参照して、背景モードとして通常モードが設定されている状態で第１時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に実行される演出内容について説明をする。図１２５６（ａ）は、通常モード中に「時短Ｂ」に当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【１１８１２】

図１２５６（ａ）に示した通り、「時短Ｂ」に当選した場合には、表示領域Ｄｍ１には、時短Ｂが設定される時短図柄に当選したことを示すための時短図柄表示態様として「３．７．３」が停止表示される。主表示領域Ｄｍには、現在の背景モードが通常モードであることを示すための「通常」が表示され、宝箱８１０ｃの中身８１０ｃａの表示態様として、「時短Ｂ」が設定される時短図柄に当選したことを示すための表示態様として、スイカを模した図柄が表示される。また、副表示領域Ｄｓには、第１時短状態（右打ち遊技状態）が設定されることを示すための案内態様として「ラッキー　チャンスタイム突入」の文字が表示される。

【１１８１３】

そして、図１２５６（ａ）に示した表示画面が表示された後、次の特別図柄変動が開始されると、第１時短状態を示すための背景モードとしてチャンスタイムが設定され、表示領域Ｄｍ４に「右打ち」が表示される。このチャンスタイム中の表示内容については、図１２５７を参照して後述する。

【１１８１４】

本第４３制御例では、第１時短状態が設定される「時短Ｂ」に当選した特別図柄変動が停止表示された時点で遊技状態として第１時短状態が設定されるが、次の特別図柄変動が開始された時点で第１時短状態中の背景モードへと切り替わるように構成している。つまり、図１２５６（ａ）に示した表示画面が表示された後、次の特別図柄変動が開始されない場合には、チャンスタイム突入を示す表示画面が継続して表示されるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選した特別図柄が停止表示された時点でチャンスタイムに対応した背景モードが設定されてしまう場合と比して、チャンスタイムに突入することを遊技者に報知するための期間を長く確保し易くすることができる。

【１１８１５】

つまり、特別図柄抽選で時短当たりに当選し、その時短当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合には、時短当たり当選した特別図柄変動と、次の特別図柄変動との間に当たり遊技期間が設定されるため、遊技者に対して時短状態が設定されることを事前に案内するための期間を確保し易く遊技者に分かり易い遊技を提供することができたが、特別図柄抽選にて時短図柄当選したことに基づいて時短状態が設定される場合には、時短図柄当

選した特別図柄変動と、次の特別図柄変動との間に当たり遊技期間が設定されないことから、不意に時短状態が設定されてしまい、遊技者に分かり難い遊技が提供されてしまうという問題があった。

【１１８１６】

これに対して、本第４３制御例では、時短図柄当選したことに基づいて時短状態が設定された場合には、時短状態が設定されたタイミングよりも後に時短状態中を示す演出（チャンスタイム表示）を実行するように構成し、時短状態が設定されることを示すための演出（チャンスタイム突入表示）を実行する期間を確保可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して分かり易い遊技を提供することができる。

【１１８１７】

即ち、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、当たり遊技終了後に時短状態が設定される場合と、時短図柄当選に基づいて時短状態が設定される場合とで、時短状態が設定されるタイミングに対して、時短状態中を示す演出が実行されるタイミングを異ならせている。つまり、時短状態の設定契機に応じて、時短状態の報知タイミングを異ならせている。このように構成することで、様々なタイミングで時短状態が設定されたことが報知されるため、時短状態が設定されることを常に期待させながら遊技を行わせることができる。

【１１８１８】

なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０に用いられる構成以外であっても、時短図柄当選したことに基づいて時短状態が設定されることを遊技者に十分な期間報知すること無く時短状態中の演出が実行されてしまうことを抑制できる構成であれば良く、例えば、時短図柄当選したことを示すための特別図柄変動として６０秒の変動時間が設定された場合には、最初の５０秒を用いて特別図柄抽選の結果を示すための演出（変動演出）を実行し、その後、残りの１０秒を用いて時短状態が設定されることを遊技者に報知可能に構成しても良い。このように構成することで、特別図柄変動が停止表示されたタイミングで時短状態中の演出を実行したとしても、時短状態が設定されることを遊技者に報知するための時間を十分に確保することができる。

【１１８１９】

また、本第４３制御例では、図１２５６（ａ）に示した通り、第１時短状態が設定される「時短Ｂ」に当選した特別図柄変動が停止表示された時点（第１時短状態が設定された時点）では、遊技者に対して右打ち遊技を案内するための案内態様（表示領域Ｄｍ４の「右打ち」表示）を表示しないように構成している。そして、次の特別図柄抽選が実行された場合に遊技者に対して右打ち遊技を案内するための案内態様を表示するように構成している。このように構成することで、時短図柄当選した特別図柄が停止表示された時点でチャンスタイムに対応した背景モードが設定されてしまう場合と比して、遊技者に余裕を持たせて右打ち遊技を行わせることができる。また、第１時短状態が設定された後も第１特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。さらに、第１時短状態が設定された直後に第２特別図柄抽選を実行させ難くすることができるため、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数を抑制することができる。

【１１８２０】

さらに、本第４３制御例では、当選した時短図柄の種別と、設定されている遊技状態に応じて、第１時短状態の時短回数として異なる時短回数を設定可能に構成している。そして、設定される時短回数を遊技者が予測可能な表示態様で第１時短状態が設定される時短図柄当選を示すための表示態様が表示されるように構成している。

【１１８２１】

ここで、図１２５６（ｂ）を参照して、有利モード中に第１時短状態が設定される時短図柄（時短Ｂ）に当選した場合の演出内容について説明をする。図１２５６（ｂ）は、有利モード中に「時短Ｂ」に当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【１１８２２】

上述した通り、本第４３制御例では、第１時短状態が設定される「時短Ｂ」に当選した

ことを示すための表示態様（宝箱８１０ｃの中身８１０ｃａの表示態様）として、複数の食べ物（スイカ、チェリー、人参）を模したアイコンの中から１の表示態様が決定されるように構成しており、時短図柄当選した時点における遊技状態や、設定されている背景モードや、時短図柄当選によって設定される第１時短状態の時短回数に基づいて表示されるアイコンを決定するように構成している。

【１１８２３】

具体的には、遊技状態が通常状態であって、背景モードとして通常モードが設定されている場合に「時短Ｂ」に当選した場合には、スイカアイコン、チェリーアイコンの何れかが決定され、遊技状態が時短状態であって、背景モードとして通常モードが設定されている場合に「時短Ｂ」に当選した場合には、チェリーアイコン、人参アイコンの何れかが決定されるように構成している。そして、遊技状態が第２時短状態であって、背景モードとして有利モードが設定されている場合に「時短Ｂ」に当選した場合には、スイカアイコン、チェリーアイコン、人参アイコンの何れかが決定され、遊技状態が通常状態であって、背景モードとして有利モードが設定されている場合、即ち、第２時短状態が設定されたことに基づいて有利モードが設定された後、第２時短状態が終了し通常状態が設定されたにも関わらず、有利モードを終了させる条件が成立していない状態で「時短Ｂ」に当選した場合には、スイカアイコンのみが決定されるように構成している。

【１１８２４】

つまり、背景モードとして通常モードが設定されている状態で、スイカアイコンが表示された場合には、遊技者に対して「時短Ｂ」に当選した時点の遊技状態が通常状態であることを予測可能とし、通常モードが設定されている状態で、人参アイコンが表示された場合には、遊技者に対して「時短Ｂ」に当選した時点の遊技状態が時短状態であることを予測可能としている。また、背景モードとして有利モードが設定されている状態で、チェリーアイコン、人参アイコンが表示された場合には、遊技者に対して「時短Ｂ」に当選した時点の遊技状態が第２時短状態であることを予測可能としている。

【１１８２５】

このように構成することで、設定されている背景モードと、表示されたアイコンの種別とに基づいて、現在設定されている遊技状態を遊技者に予測させることができるため、遊技者に対して、第３図柄表示装置８１の表示面に表示され、且つ、表示期間が重複する複数の表示態様（背景画像、食べ物を模したアイコン）に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【１１８２６】

さらに、上述した通り、「時短Ｂ」に当選した場合に同一種類のアイコン（スイカアイコン、チェリーアイコン、人参アイコン）が表示された場合であっても、設定されている背景モードの種別に応じて、表示されたアイコンの意味合いを異ならせているため、背景モードの種別に関わらず、固有の意味合いを各アイコンに持たせた場合に比べて、「時短Ｂ」に当選した場合に表示されるアイコンの意味合いを予測させる楽しみを提供することができる。

【１１８２７】

なお、本第４３制御例では、通常モードが設定されている場合も、有利モードが設定されている場合も、「時短Ｂ」に当選したことを示すために決定される複数のアイコン種別を統一することで、表示画面に表示されるアイコン種別を削減し、表示データの容量軽減を図っているが、これに限ること無く、各背景モードに対応した固有のアイコン種別を用いても良く、例えば、通常モード中のみ表示されるアイコン種別として、リンゴを模したリンゴアイコンを決定可能に構成し、リンゴアイコンが表示された場合には、時短当選時の遊技状態が通常状態であって、且つ、設定される時短回数が最大（４０回）であることを遊技者に報知可能に構成すると良い。このように構成することで、今回の時短当選が低確率なものであり、且つ、遊技者に最も有利なものであることを分かり易く報知することができる。

【１１８２８】

次に、図１２５７を参照して、第１時短状態中に実行される特別図柄変動にて実行される演出の内容について説明をする。本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、時短図柄当選を示す特別図柄が停止表示された後、第１特別図柄の残保留を用いた第１特別図柄変動の変動期間を用いて、第１時短状態の時短回数を報知するための時短回数報知演出を実行するように構成している。図１２５７（ａ）は、時短回数報知演出の実行中に表示される表示画面の一例を示した図であって、図１２５７（ｂ）は、時短回数報知演出の演出結果が表示される表示画面の一例を示した図である。

【１１８２９】

時短回数報知演出は、今回設定された第１時短状態の終了条件が成立するまでに実行させることが可能となる第２特別図柄抽選（特図２抽選）の実行回数（時短回数）を遊技者に報知するための演出である。ここで、本第４３制御例におけるパチンコ機１０は、第１時短状態の終了条件として、第１特別図柄抽選（特図１抽選）の実行回数と、第２特別図柄抽選（特図２抽選）の実行回数と、を合算した合算特図抽選回数が所定回数（１００００回）に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、第２特別図柄抽選（特図２抽選）の実行回数が所定回数（１回～１００００回）に到達した馬合に成立する第２時短終了条件と、を有しており、第２時短終了条件が成立する特図２抽選回数が、第１時短終了条件が成立する合算特図抽選回数以下となるように構成している。

【１１８３０】

つまり、本第４３制御例では、第１時短状態が設定されると、第２特別図柄抽選が実行され易い遊技状態となることから、第１時短状態中は遊技者が右打ち遊技を行うことになる。しかし、第１時短状態が設定された状態で第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を有している場合には、右打ち遊技によって第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得するまでの間に、獲得済みの特図１保留に含まれている入賞情報を用いて特図１抽選が実行されてしまうことから、第１時短状態中に第１特別図柄抽選が実行される可能性が高いものであった。

【１１８３１】

そこで、第１時短状態中に第１特別図柄抽選が実行されたことに起因して、第１時短状態中に実行させることか可能となる第２特別図柄抽選の実行回数が減少してしまうことを抑制するために、複数種類の時短終了条件を設定可能に構成している。そして、特図２抽選の実行回数のみに基づいて成立する第２時短終了条件が成立するまでの残特図２抽選回数を時短回数として遊技者に報知可能に構成している。

【１１８３２】

このように構成することで、時短状態中に第１特別図柄抽選が実行されたとしても、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている残時短回数（第２時短終了条件が成立するまでの残特図２抽選回数）が減少することを抑制することができるため、第１時短状態中に第１特別図柄抽選が実行された場合であっても、第１時短状態中に実行可能な特図２抽選回数が減少しないことを遊技者に分かり易く報知することができる。

【１１８３３】

さらに、第１時短状態が設定される時短図柄に当選した特別図柄変動が停止表示された後に、第１特別図柄変動が開始された場合には、今回設定された第１時短状態の残時短回数を表示すること無く、時短回数報知演出を実行するように構成しているため、遊技者に対して、第１時短状態が設定されたことを確実に報知することができる。

【１１８３４】

なお、詳細な図示は省略するが、特別図柄抽選で第１時短状態が設定される時短図柄に当選した特別図柄が停止表示された後に、第２特別図柄抽選が実行される場合には、上述した時短回数報知演出が実行されること無く、第２特別図柄変動の開始に基づいて、残時短回数が表示されるように構成している。

【１１８３５】

図１２５７（ａ）に示した通り、時短回数報知演出が実行されると、主に、当選した時短図柄の種別に応じた時短回数を報知するための演出が実行される。この時短回数報知演

出では、主表示領域Ｄｍにおける左下にウサギを模したキャラクタ８０１が表示され、その上方において、今回設定された第１時短状態が終了するまでの第２特別図柄の抽選回数を示唆する図柄８１１ａ～８１１ｄが回転して表示される。その更に上方には、「～チャンスタイム待機中～」という文字が表示される。更に、小表示領域Ｄｓに対しては、「チャンスタイムの回数を決めろ！！」という文字が表示される。これらの表示内容によって、あたかも第１時短状態の時短回数が未だ設定されていないかのように遊技者に思わせることができる。換言すれば、第１時短状態が未だ開始されていない（待機されている）かのように遊技者に思わせることができる。

【１１８３６】

なお、実際にはこの時短回数報知演出の開始時点では既に第１時短状態に移行している。つまり、時短回数報知演出は、時短図柄当選に伴う第１特別図柄変動表示の終了時点（時短図柄の停止表示時点）で保留されていた第１特別図柄の変動表示期間中に実行されている。このように、第１時短状態が設定された後に、新たな第１特別図柄変動が実行されたとしても、その第１特別図柄の変動表示期間を用いて時短回数報知演出を実行するように構成することで、第２特別図柄の抽選回数に基づいて成立する時短終了条件（時短回数）を遊技者に違和感を与えること無く報知することができる。

【１１８３７】

図１２５７（ａ）に示した状態は、上述した通り、第１時短状態であって第１特別図柄変動が実行されている状態であるため、主表示領域Ｄｍにおける右上部分に形成される表示領域Ｄｍ１には、遊技者が比較的視認し難い態様（狭い表示領域）で第１特別図柄変動実行されている。また、保留図柄表示に関しても、遊技者が比較的視認し難い（表示領域が狭い）表示領域Ｄｍ９において実行される。つまり、第１特別図柄の保留球に基づいて第１特別図柄の抽選が実行されていること（第１時短状態が既に開始されていること）を遊技者に認識され難く構成している。

【１１８３８】

ここで、左打ち遊技（通常状態、第２時短状態）中に実行された第１特別図柄抽選にて時短図柄当選し第１時短状態が設定された場合や、大当たり当選し、その大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定された場合は、今回設定される第１時短状態よりも前に、第２特別図柄抽選を実行させるための右打ち遊技が実行されていない場合であるため、第１特別図柄の保留球（特図１保留）を獲得しており、且つ、第２特別図柄の保留球（特図２保留）を獲得していない状態となり易い、この場合、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定されたとしても、獲得している特図１保留に基づいて第１特別図柄抽選が実行されることとなる。

【１１８３９】

そこで、本第４３制御例では、第２特別図柄抽選を実行し易い第１時短状態が設定された場合に、予め定められた回数の第２特別図柄抽選を実行させ易くするために、第１時短状態を終了させるための終了条件として、第１特別図柄の抽選回数と、第２特別図柄の抽選回数と、を合算した合算抽選回数に基づいて成立する合算終了条件に加え、第２特別図柄の抽選回数のみで成立する特図２終了条件を設け、合算終了条件として規定される回数が、特図２終了条件として規定される回数よりも多くなるように構成している。

【１１８４０】

このように構成することで、第１時短状態が設定された直後に獲得済みの特図１保留に基づいて第１特別図柄抽選が実行されたとしても、その第１特別図柄抽選が実行されたことによって、第１時短状態中に実行可能な第２特別図柄抽選の回数が減少してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【１１８４１】

より具体的には、本第４４制御例では、特図２終了条件が成立する第２特別図柄の抽選回数に対して、合算終了条件が成立する合算抽選回数の方が、特図１保留を記憶可能な上限数（４個）に対応した特別図柄抽選回数（４回）以上多くなるように構成している。このように構成することで、第１時短状態が設定された時点で獲得済みの特図１保留の数が

上限数であり、第２特別図柄抽選が実行されるよりも前に、獲得済みの特図１保留全てを用いて第１特別図柄抽選が４回実行されたとしても、その第１特別図柄抽選が実行されたことによって、第１時短状態中に実行可能な第２特別図柄抽選の回数が減少してしまう事態が発生することを抑制することができる。よって、第１時短状態が実行されるか否かを気にすること無く、より多くの特図１保留を獲得しようと遊技者に意欲的に左打ち遊技を実行させることができる。

【１１８４２】

なお、合算終了条件が成立する合算抽選回数を、無用に多く設定するのでは無く、例えば、特図２終了条件が成立する第２特別図柄の抽選回数として１０回が設定される場合には、合算終了条件が成立する合算特図抽選回数として２０回程度を設定するように構成すると良い。このように構成することで、第１時短状態中に継続して左打ち遊技を実行し、第１特別図柄抽選のみを意図的に実行する遊技、即ち、特図２終了条件を成立させること無く長時間の間、第１時短状態を継続させる遊技が行われることを抑制することができる。

【１１８４３】

この場合、保留記憶可能な特図１保留の上限数に対応する第１特別図柄抽選（４回の第１特別図柄抽選）よりも多くの回数の第１特別図柄抽選が第１時短状態中に実行された場合には、遊技者に対して右打ち遊技を案内する案内態様として、通常の右打ち遊技を案内する案内態様よりも、遊技者に対して右打ち遊技を強調して案内する強調案内態様を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、強調案内態様で右打ち遊技が案内された遊技者に対して、右打ち遊技をより強調して案内することができるため、第１時短状態が設定されたことに気付かなかった遊技者が左打ち遊技を継続してしまうことを抑制することができる。

【１１８４４】

また、上述した通り、強調案内態様を設定可能に構成したパチンコ機１０であれば、強調案内態様の設定条件が成立した時点（例えば、第１時短状態中における５回目の第１特別図柄抽選が実行された時点）において、上限数の特図１保留（４個）を獲得している場合であっても、強調案内態様の内容を把握した後に右打ち遊技を行うことで特図２終了条件よりも先に合算終了条件が成立してしまうことを抑制するために、特図２終了条件が成立する第２特別図柄の抽選回数よりも、合算終了条件が成立する合算特図抽選回数を１０回程度多く設定すると良い。このように構成することで、強調案内態様の内容を把握した後に急いで右打ち遊技を実行したにも関わらず、特図２終了条件よりも先に合算終了条件が成立してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１８４５】

さらに、本第４３制御例では、第１時短状態が設定された状態で、遊技者に対して第１時短状態を終了させるための時短終了条件が成立するまでの情報の一部を報知可能に構成している。具体的には、第１時短状態を終了させるための時短終了条件のうち、特図２終了条件が成立するまでの情報（第２特別図柄の抽選回数）を、遊技者に報知するように構成している。このように構成することで、今回設定された第１時短状態中に実行可能な第２特別図柄の抽選回数を遊技者に把握させることが可能となるため、遊技者に有利な第１時短状態（特図２終了条件が成立し難い第１時短状態）が設定されたか否かを遊技者に把握させ易くすることができる。

【１１８４６】

ここで、上述した通り、本第４３制御例では、第１時短状態が設定された後に、第１特別図柄抽選が実行される可能性がある。この場合、第１時短状態が設定された直後に、特図２終了条件が成立するまでに実行可能な第２特別図柄の抽選回数（残時短回数）を遊技者に報知してしまうと（第３図柄表示装置８１の表示面に表示してしまうと）、第１時短状態が設定された状態で特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）が実行されたにも関わらず、表示されている残時短回数が減算されず、遊技者に不信感を与えてしまうという問題があった。

【１１８４７】
　これに対して、本第４３制御例では、第１時短状態が設定されてから第２特別図柄抽選が実行されるまでの期間を用いて、今回設定された第１時短状態における特図２終了条件が成立するまでの第２特別図柄の抽選回数（時短回数）を報知する時短回数報知演出を実行可能に構成している。
【１１８４８】
　このように構成することで、第１時短状態が設定された直後に第２特別図柄抽選が実行されない期間（第１特別図柄抽選が実行される期間や、何れの特別図柄抽選も実行されない期間）が設定される場合であっても、その期間を有効に活用し、遊技者に興味を持たせた演出を実行することができるため、演出効果を高めることができる。
【１１８４９】
　図１２５７（ａ）に戻って説明を続ける。時短回数報知演出において回転して表示される図柄（アイコン）は、例えば、時短回数が少なくとも１０回以上付与されたことを示唆する「１０回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ａと、時短回数が少なくとも１回以上付与されたことを示唆する「１回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｂと、時短回数報知演出が継続することを示唆する「継続」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｃと、大当たりを示唆する「祝」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｄと、で構成されている。この他にも、時短回数が１００回以上付与されたことを示唆する「１００回」という文字が付された示唆図柄（アイコン）や、実質的に次回の大当たりまで第１時短状態が継続することを示唆する「∞」という文字が付された示唆図柄（アイコン）も設けられている。当選した時短図柄の種別（時短回数）と、第１特別図柄の保留球数と、第１特別図柄の抽選結果と、に応じて、示唆図柄（アイコン）８１１ａ～８１１ｄとしていずれの種別の示唆図柄（アイコン）を設定するのかが抽選により決定される。
【１１８５０】
　時短回数報知演出の開始から特定期間（例えば、５秒間）が経過すると、図１２５７（ｂ）に示した通り、示唆図柄（アイコン）８１１ａ～８１１ｄのうち、１の示唆図柄をウサギのキャラクタ８０１が殴打する演出が実行され、その殴打した示唆図柄が示す示唆内容を獲得したことが報知される。図１２５７（ｂ）の例では、「１０回」という文字が付された示唆図柄８１１ａが殴打される演出が実行された場合を例示している。この場合、副表示領域Ｄｓにおいて、「１０回ＧＥＴ！！右打ち開始！！」という文字が表示されることで、示唆図柄８１１ａに表示されている「１０回」が時短回数として付与されたことを遊技者に対して容易に理解させることができる。
【１１８５１】
　なお、図示は省略するが、時短回数報知演出の実行中に第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、「祝」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｄをウサギのキャラクタ８０１が殴打する演出が実行される。また、副表示領域Ｄｓに対して、「大当たりＧＥＴ！！」という文字が表示される。これらの表示内容により、大当たりに当選したということを遊技者に対して容易に理解させることができる。
【１１８５２】
　つまり、本第４３制御例では、第１時短状態が設定されてから、第１時短状態中に主として実行される第２特別図柄抽選が実行されるまでの間に第１特別図柄抽選が実行され、その第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、今回の第１時短状態に対して設定された時短回数を遊技者に報知すること無く、大当たり当選が報知されるように構成している。このように構成することで、複数種類の時短回数を設定可能なパチンコ機１０において、数の大きい時短回数（例えば、１００回）が設定されたにも関わらず、一度も第２特別図柄抽選が実行されること無く大当たり遊技が実行されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１１８５３】
　また、時短回数報知演出の演出態様（表示される示唆図柄アイコン８１１ａ～８１１ｄ

の表示態様）は、上述した通り、当選した時短図柄の種別（時短回数）と、第１特別図柄の保留球数と、第１特別図柄の抽選結果と、に応じて決定されることから、時短回数報知演出の演出結果として、大当たり当選を示す「祝」という文字が付された示唆図柄（アイコン）８１１ｄが表示された場合であっても、停止表示されなかった他の示唆図柄（アイコン）８１１ａ～８１１ｃの種別に基づいて、今回の第１時短状態に対して設定された時短回数を予測する楽しみを提供することができる。

【１１８５４】

なお、本第４３制御例では、第１時短状態が設定されてから、第１時短状態中に主として実行される第２特別図柄抽選が実行されるまでに実行された第１特別図柄抽選によって大当たり当選した場合には、その第１特別図柄変動中に実行される時短回数報知演出によって時短回数を報知すること無く大当たり当選が報知されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第１時短状態中に主として実行される第２特別図柄抽選が実行されるまでに実行された第１特別図柄抽選によって大当たり当選した場合には、実際に設定された時短回数よりも少ない時短回数に対応した示唆図柄アイコンを停止表示し、その後に大当たり当選を示す演出を実行可能に構成しても良い。

【１１８５５】

このように構成することで、少ない時短回数の第１時短状態、第１時短状態の中では遊技者にとって不利となる第２遊技状態が設定されたと遊技者に思わせることができるため、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選すること無く第１時短状態が終了してしまうよりも、第１時短状態中に実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選した方が有利な遊技結果であることから、大当たり当選したことにより遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１８５６】

なお、本第４３制御例では、第１時短状態における第１特別図柄の変動時間が５秒間に固定化される。これにあわせて、時短回数報知演出において１の示唆図柄を選択する（ウサギのキャラクタ８０１が殴打する）演出も５秒間に固定化される。そして、第１時短状態中に実行される１回目の第１特別図柄変動の変動期間を用いて時短回数報知演出が実行される。また、第１特別図柄の保留球と、第２特別図柄の保留球と、を何れも有していない状態では、必ず「継続」という文字が付された示唆図柄を選択する５秒間の演出が実行されて、その後、第１特別図柄変動が実行される場合には、その変動において新たな組み合わせの４つの示唆図柄が表示されてその中から１の示唆図柄を選択する５秒間の演出が再度実行される。また、次変動が第２特別図柄変動となる条件を満たした場合には、実行中の時短回数報知演出の演出結果として停止表示される示唆図柄アイコンを、予め決定されている示唆図柄アイコンの態様から時短回数を示すための示唆図柄アイコンの態様へと切り替えるように構成している。このように構成することで、第１時短状態が設定されてから第２特別図柄抽選が実行されるまでの期間を用いた演出（時短回数報知演出）を、好適に実行することができる。

【１１８５７】

次に、図１２５８（ａ）及び図１２５８（ｂ）を参照して、第１時短状態中における第２特別図柄の変動期間中に実行される変動演出の演出内容について説明をする。図１２５８（ａ）は、時短中（第１時短状態中）における変動演出の一例を示した図であり、図１２５８（ｂ）は、小当たり当選した第２特別図柄の変動期間終了時に表示される表示画面の一例を示した図である。

【１１８５８】

本第４３制御例では、第１時短状態中の第２特別図柄抽選が実行されると、実行中の第２特別図柄抽選の結果を示すための示唆図柄を含む複数の示唆図柄アイコン８１１ｅ～８１１ｇが変動表示される変動演出が実行され、特別図柄変動の終了タイミング（特別図柄停止表示タイミング）に合わせて、ウサギを模したキャラクタ８０１が変動表示中の複数の示唆図柄アイコン８１１ｅ～８１１ｇを停止表示させるアクション（殴りかかるアクション）を実行し、変動表示される複数の示唆図柄アイコン８１１ｅ～８１１ｇの中から、

特別図柄抽選結果に対応する示唆図柄アイコンが停止表示される演出が実行される。
【１１８５９】
図１２５８（ａ）に示した通り、第１時短状態中に第２特別図柄抽選が実行されると、現在の遊技状態が第１時短状態であることを示すための表示態様として「チャンスゾーン」の文字が主表示領域Ｄｍの上側に表示される。また、主表示領域Ｄｍの右上側には、第２特別図柄の変動状況を示すための表示領域Ｄｍ２が形成され、第２特別図柄変動中であることを示すための表示態様（図では矢印で表示）が表示される。
【１１８６０】
主表示領域Ｄｍの左上側には、遊技者に対して遊技方法を案内するための表示領域Ｄｍ４が形成され、第１時短状態中において遊技者に最も有利な遊技方法である右打ち遊技を案内するための「右打ち」が表示されている。主表示領域Ｄｍ４の下方には、現在設定されている第１時短状態を終了させるための時短終了条件が成立するまでの情報として、特図２終了条件が成立するまでに実行可能な第２特別図柄残抽選回数（残時短回数）を示すための表示領域Ｄｍ７が形成される。この表示領域Ｄｍ７には、時短回数報知演出にて報知された時短回数、即ち、今回設定された第１時短状態に対して設定された特図２終了条件を示す第２特別図柄抽選回数（時短回数）が表示され、その後、第２特別図柄変動が実行される後に、時短回数が減算表示されるように構成している。
【１１８６１】
本第４３制御例では、特図２終了条件が成立するまでの残時短回数が表示されるため、チャンスゾーン中に第１特別図柄抽選が実行されたとしても、表示領域Ｄｍ７に表示される残時短回数が減算表示されることが無い。このように、複数の時短終了条件のうち、特図２終了条件が成立するまでの時短回数を遊技者に報知可能に構成することで、第１時短状態中に実行可能な第２特別図柄抽選の残回数を遊技者に把握させ易くすることができる。
【１１８６２】
なお、図１２５８（ａ）に示した図は、時短回数１０回の第１時短状態が設定されてから７回目の第２特別図柄変動中に表示される表示画面の一例を示しており、表示領域Ｄｍ７には、残時短回数を示すための表示態様として「ラスト３回」が表示されている。この残時短回数を示すための表示態様は、時短回数１０回が設定された場合には、１回目の第２特別図柄変動が開始されてから１秒が経過するまでは、「ラスト１０回」が表示され、その後、回数を１回減算し「ラスト９回」が表示されるように構成している。その後は、新たな第２特別図柄変動が開始される毎に回数が減算表示されていき、特図２終了条件が成立する第２特別図柄変動（時短最終変動）が実行されると、実行中の第２特別図柄変動が時短状態中に実行される最後の特別図柄変動であることを示すための「ラスト」が表示されるように構成している。
【１１８６３】
このように構成することで、第２特別図柄抽選が実行されてからも所定期間の間（１秒間）、今回設定された時短回数を遊技者に報知することができる。
【１１８６４】
ここで、チャンスゾーン中に実行される演出にて表示される示唆図柄アイコン８１１ｅ～８１１ｇの内容について説明をする。「？」の文字が付された示唆図柄アイコン８１１ｅは、特別図柄抽選の結果に関する情報を提供するための表示態様であって、実行中の特別図柄抽選の結果を遊技者に分かり難くするための表示態様である。この示唆図柄アイコン８１１ｅは、特別図柄抽選の結果が当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）している場合も、当たり当選していない場合も、所定の確率で選択可能にしている。「Ｖ」の文字が付された示唆図柄アイコン８１１ｆは、特別図柄抽選の結果に関する情報を提供するための表示態様であって、実行中の特別図柄抽選の結果が当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）している場合に選択される。「乗」の文字が付された示唆図柄アイコン８１１ｇは、特別図柄抽選の結果に関する情報に加え、設定されている第１時短状態の時短終了条件に関する情報を提供するための表示態様である。この示唆図柄アイコン８１１ｇは

、実行中の特別図柄抽選の結果が外れであって、且つ、表示領域Ｄｍ７に表示されている残時短回数が、特図２終了条件が成立する残時短回数よりも少ない場合に選択される。
【１１８６５】
つまり、実行中の特別図柄抽選の結果が「外れ」である場合には、示唆図柄アイコン８１１ｅ、或いは、示唆図柄アイコン８１１ｇを選択可能に構成しており、実行中の特別図柄抽選の結果が「当たり」である場合には、示唆図柄アイコン８１１ｅ、或いは、示唆図柄アイコン８１１ｆを選択可能に構成している。また、表示領域Ｄｍ７に表示されている残時短回数が、特図２終了条件が成立する残時短回数よりも少ない場合は、示唆図柄アイコン８１１ｇを選択可能に構成し、表示領域Ｄｍ７に表示されている残時短回数が、特図２終了条件が成立する残時短回数よりも少なく無い場合は、示唆図柄アイコン８１１ｅ、示唆図柄アイコン８１１ｆを選択可能に構成している。
【１１８６６】
そして、第１時短状態における第２特別図柄変動が停止表示するタイミングでは、図１２５８（ｂ）に示した通り、今回の変動演出の演出結果を示すための表示態様として、キャラクタ８０１のアクションに合わせて「Ｖ」を模した示唆図柄アイコン８１１ｆが停止表示され、残りの示唆図柄アイコン８１１ｆ、示唆図柄アイコン８１１ｇが、主表示領域Ｄｍからはじき出される演出が実行される。図１２５８（ｂ）では、小当たり当選している第２特別図柄変動が停止表示された際の表示画面を示しており、表示領域Ｄｍ２には、小当たり当選を示す表示態様「６２１」で第３図柄が停止表示されており、副表示領域Ｄｓには、今回の抽選結果が当たり当選であることを示すための「ボーナスゲット」の文字が表示されている。
【１１８６７】
なお、本制御例では、大当たり当選した場合も、小当たり当選した場合も「Ｖ」を付した示唆図柄アイコン８１１ｆが停止表示されるように構成しているが、これに限ること無く、大当たり当選と小当たり当選とで異なる態様の示唆図柄アイコンを停止表示可能に構成しても良い。また、複数の示唆図柄アイコン８１１ｅ～示唆図柄アイコン８１１ｆが変動表示されてから、何れか１の示唆図柄アイコンが停止表示されるまでの変動演出の演出態様として複数の演出態様を設定可能に構成し、設定された演出態様に応じて、当たり当選の有無を遊技者が予測可能に構成しても良く、例えば、複数の示唆図柄アイコンが変動表示する速度として、第１速度とその第１速度よりも速い第２速度とを設定可能に構成し、第１速度の変動演出よりも、第２速度の変動演出の方が、抽選結果が当たり当選している場合に選択され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、変動演出の演出態様によって特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させることができるため、示唆図柄アイコンが停止表示されるまでの変動演出期間中も遊技者に飽きること無く遊技を行わせることができる。
【１１８６８】
さらに、変動演出の演出態様として、示唆図柄アイコンの変動表示速度を変更するのでは無く、変動表示される示唆図柄アイコンの数や種別を異ならせて表示することで、特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させることができるように構成しても良いし、変動演出期間の長さによって特別図柄抽選の結果を遊技者に予測させることができるように構成しても良い。
【１１８６９】
次に、図１２５９を参照して、天井特典が付与される場合の演出内容について説明をする。図１２５９（ａ）は、通常モード中に天井特典が付与された場合に表示される表示画面の一例を示した図であって、図１２５９（ｂ）は、有利モード中に天井特典が付与された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。
【１１８７０】
本第４３制御例では、特別図柄抽選で外れ当選した回数（ハマり回数）が９９９回に到達すると、特別図柄抽選の結果に関わらず遊技者に特典（天井特典）を付与可能に構成しており、天井特典として、時短回数４０回の第２時短状態を設定するように構成している

。さらに、天井特典として第２時短状態が設定された場合には、時短図柄当選で第２時短状態が設定された場合とは異なり、第２時短状態中に実行される第１特別図柄抽選によって新たに第２時短状態が設定される時短図柄に当選することが無いように構成している。つまり、天井特典で付与された第２時短状態は、時短回数分（４０回分）の特別図柄抽選が実行されるまで、時短図柄当選しないように構成している。このように構成することで、第２時短状態中に短い時短回数の第２時短状態が設定される時短図柄に当選してしまうことを抑制することができる。

【１１８７１】

つまり、左打ち遊技が右打ち遊技よりも遊技者に有利となり、通常状態よりも時短図柄当選時に付与される特典が有利となる第２時短状態において、その第２時短状態の設定契機によって、遊技者への有利度合いを異ならせるように構成している。このように構成することで、天井特典によって遊技者に適度な特典を付与し易くすることができる。なお、本第４３制御例では、天井特典として一定回数の特別図柄抽選の実行を確保可能な第２時短状態を設定するように構成しているが、これに限ること無く、第１時短状態を設定可能に構成しても良いし、特定回数の第２時短状態と、特定回数の第１時短状態と、を連続して設定するように構成しても良い。

【１１８７２】

図１２５５（ａ）に示した通常モード中に天井特典が付与される場合（ハマり回数９９９回に到達した場合）は、９９９回目の特別図柄変動の抽選結果を示すための変動演出として、宝箱８１０ｃの中から有利モードに突入することを示すための「有利」の文字と、第２時短状態が継続する回数（時短回数）を示すための「４０」の文字が付された中身８１０Ｃａが表示され、遊技者に有利な遊技状態へと移行することを祝福する態様でキャラクタ８０１が表示される。また、副表示領域Ｄｓには、天井特典が付与されることを示すための「有利モード突入」の文字が表示される。

【１１８７３】

図１２５５（ａ）に示した表示画面が表示された後、特別図柄変動が終了（特別図柄が停止表示）すると、有利モードを示す背景画像が表示され、図１２５９（ｂ）に示した表示画面が表示される。ここで、時短図柄当選に基づいて有利モード（第２時短状態）が設定された場合は、第２時短状態中に実行される第１特別図柄抽選で時短図柄当選し、即座に第２時短状態が終了してしまう可能性がある点と、第２時短状態が継続する期間を遊技者に把握させ難くすることを目的として、有利モード（第２時短状態）が継続する残期間を、遊技者に報知しないように構成していたのに対して、天井特典によって第２時短状態が設定された場合には、一定回数（４０回）の特別図柄抽選が実行されるまでは、通常状態へと遊技状態が移行しないように構成しているため、表示領域Ｄｍ７に残時短回数を表示するように構成している。そして、副表示領域Ｄｓには「有利モードが４０回転転落しないよ」の文字が表示されている。

【１１８７４】

このように構成することで、天井特典によって第２時短状態（有利モード）が設定された場合には、時短図柄当選によって第２時短状態（有利モード）が設定された場合に比べて、安定した遊技を実行可能であることを遊技者に分かり易く把握させることができる。

【１１８７５】

＜第４３制御例における遊技状態の遷移について＞

次に、図１２６０を参照して、本第４３制御例における遊技状態の遷移内容について説明をする。図１２６０は、本第４３制御例のパチンコ機１０における遊技状態の遷移内容を示した図である。図１２６０に示した通り、本第４３制御例におけるパチンコ機１０は、第１特別図柄抽選の実行契機となる第１入球口６４（図１２５３参照）へと遊技球を入球させることを目指して遊技盤１３に形成される遊技領域のうち、左側領域（可変表示ユニット８０よりも左側）に向けて遊技球を発射させる左打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となる左打ち遊技状態と、第２特別図柄抽選の実行契機となる第２入球口６４０（図１２５３参照）へと遊技球を入球させることを目指して遊技盤１３に形成される遊技領域の

うち、右側領域（可変表示ユニット８０よりも右側）に向けて遊技球を発射させる右打ち遊技が遊技者に有利な遊技方法となる右打ち遊技状態と、を設定可能に構成している。

【１１８７６】

より具体的には、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）、第２時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確確率状態、電動役物６４０の開放低頻度状態）が設定されている場合は左打ち遊技状態となり、第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態、或いは、特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、電動役物６４０の開放高頻度状態）が設定されている場合は右打ち遊技状態となるように構成している。

【１１８７７】

ここで、時短図柄当選時に設定される時短状態（第２時短状態と、第１時短状態）について説明をする。詳細な内容は上述した第４０制御例と同一であるため省略するが、時短図柄当選に基づいて時短状態（第２時短状態、第１時短状態）が設定された場合は、大当たり当選に基づいて時短状態が設定される場合に対して、普通図柄の高確率状態が設定されない点で相違している。

【１１８７８】

つまり、時短図柄当選に基づいて時短状態（第２時短状態、第１時短状態）が設定された場合は、通常状態と同一の普通図柄の低確率状態を維持したまま、通常状態よりも第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い遊技状態が設定されるように構成している。具体的には、普通図柄変動の変動時間（普図変動時間）として、通常状態よりも短い普図変動時間（普通図柄の高確率状態中に実行される普通図柄変動と同一の普図変動時間）が設定されるように構成することで、通常状態よりも単位時間当たりに実行される普通図柄抽選の実行回数を増加させることにより、通常状態よりも第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易い遊技状態を構築している。

【１１８７９】

さらに、時短図柄当選に基づいて第１時短状態が設定された場合には、普通図柄抽選で当り当選した場合に実行される普図当たり遊技の遊技内容として普通図柄の高確率状態と同一の普図当たり遊技が実行されるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選に基づいて第１時短状態が設定された場合には、普通図柄の高確率状態が設定されていない状態であっても、普図変動時間、普図当たり遊技内容を普通図柄の高確率状態と同一にすることができ、遊技者に対して右打ち遊技の方が左打ち遊技よりも有利な遊技方法をすることができる。なお、第２時短状態が設定された場合には、普図当たり遊技内容が通常状態と同一の遊技内容となり、右打ち遊技よりも左打ち遊技の方が遊技者に有利な遊技状態となる。

【１１８８０】

つまり、本第４３制御例では、普通図柄の低確率状態が設定される遊技状態として、通常状態、第１時短状態、第２時短状態の３つの遊技状態を設定可能に構成しており、第２時短状態は、通常状態よりも短い普図変動時間が設定される点が相違するだけであり、通常状態と同等に普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが困難な遊技状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、開放低頻度状態）となり、第１時短状態は、普通図柄の高確率状態と同様に普図当たり遊技中に第２入球口６４０へと遊技球を容易に入球させることができる遊技状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、開放高頻度状態）となる。

【１１８８１】

なお、本第４３制御例では、上述した第４０制御例と同様に、普通図柄抽選で当り当選する確率が、普通図柄の低確率状態と普通図柄の高確率状態とで若干相違する程度に規定しており、右打ち遊技を実行することで発射された遊技球によって普通図柄抽選を滞ること無く実行可能に構成されたパチンコ機１０において、その確率差を遊技者が認識困難に構成している。よって、普通図柄の高確率状態が設定されている状況と、普通図柄の低確率状態であって、開放高頻度状態が設定されている状況と、では、遊技者に違和感を与え

ること無く同一の右打ち遊技を行わせることができる。以降、右打ち遊技が遊技者に有利となる遊技状態を総称して第１時短状態と称する。

【１１８８２】

さらに、本第４３制御例では、２種類の第２時短状態（第２時短状態ａ、第２時短状態ｂ）を設定可能に構成しており、第２時短状態の設定契機に応じて異なる種類の第２時短状態を設定可能に構成している。具体的には、特別図柄抽選によって時短図柄当選した場合には第２時短状態ａが設定され、大当たり遊技が実行されること無く連続して実行された特別図柄抽選の回数が天井特典の付与条件を満たした場合（９９９回に到達した馬合）には第２時短状態ｂが設定されるように構成している。

【１１８８３】

何れの種類の第２時短状態が設定された場合も、特別図柄の確率状態、普通図柄の確率状態、普通図柄変動の変動時間、普図当たり遊技における電動役物６４０ａの開放動作内容は同一となるように構成しており、第２時短状態中に実行される特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、時短図柄当選）した場合に付与される特典の種別を異ならせるように構成している点で相違している。

【１１８８４】

このように構成することで、同一の遊技状態（第２時短状態）が設定される場合であっても成立した設定契機に応じて、後に実行される遊技の内容を異ならせることができるため、遊技者に対して何れの遊技状態が設定されたのかだけで無く、その設定契機についても興味を持たせることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、以降の説明において、第２時短状態ａと第２時短状態ｂとの両方を示す場合には単に第２時短状態と称し、詳細な種別を示す場合にはそれぞれ第２時短状態ａ（第２時短ａ）、第２時短状態ｂ（第２時短ｂ）と称す。

【１１８８５】

まず、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）中における遊技内容について説明をする。通常状態は、左打ち遊技によって第１入球口６４へと遊技球を入球させることで第１特別図柄抽選を主として実行させる遊技（特図１遊技）が行われる遊技状態である。通常状態中に第１特別図柄抽選が実行されると、１／２５０の確率で大当たり当選し、１／４０の確率で時短図柄当選する特別図柄抽選が実行される。

【１１８８６】

詳細な説明は、図１２７１を参照して後述するが、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、１回の特別図柄抽選によって大当たりと、時短図柄と、重複して当選し得ないように構成している。具体的には、特別図柄抽選が実行された場合に大当たり当選の有無を判定（大当たり判定）し、その大当たり判定によって大当たり当選していないと判定された場合に、次に、時短図柄当選の判定を実行するように構成している。

【１１８８７】

このように構成することで、１回の特別図柄抽選にて遊技者に複数の特典（大当たり当選、時短図柄当選）が付与されること無く、遊技者に対して過剰に特典を付与してしまう事態が発生することを抑制することができる。なお、本第４３制御例では、時短図柄当選の判定よりも先に大当たり判定を実行するように構成しているが、１回の特別図柄抽選によって遊技者に過剰な特典が付与されることを抑制出来れば良く、例えば、時短図柄当選の判定を、大当たり判定よりも先に実行するように構成し、時短図柄当選の判定によって時短図柄当選していないと判定した場合に、大当たり当選の判定を実行するように構成しても良い。

【１１８８８】

また、本第４３制御例では、１つの情報が取り得る値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）に対して、大当たり当選する値の範囲と、時短図柄当選する値の範囲と、を重複することなく規定することで、１回の特別図柄抽選（１の第１当たり乱数カウンタＣ１の値に基づいて実行される当たり判定）にて、大当たり当選と、時短図柄当選とが重複して判定されることが無いように構成しているため、１回の特別図柄抽選にて判定する順序を適宜

変更するように構成しても良い。
【１１８８９】
なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり当選と、時短図柄当選とが重複して判定されることが無いように構成しているが、当選判定された各種特典の内容に応じて、複数の特典が重複して付与されるように構成しても良く、例えば、大当たり当選した場合のうち、設定される大当たり種別が遊技者に不利な大当たり種別である場合には、大当たり当選した場合であっても、時短図柄当選の判定を実行可能に構成しても良い。さらに、大当たり当選と、時短図柄当選に加え、大当たり当選時に実行される大当たり遊技よりも、遊技者に不利となる小当たり遊技の実行契機となる小当たり当選判定も実行可能に構成し、１回の特別図柄抽選によって、時短図柄当選と、小当たり当選と、が重複して判定されるように構成しても良い。このように構成することで、過剰に特典が遊技者に付与されてしまうことを抑制しながらも、１回の特別図柄抽選によって付与され得る特典の内容を多様化することができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。
【１１８９０】
まず、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選において大当たり当選した場合には、２種類の大当たり種別（大当たりＡ４３、大当たりＢ４３）のうち、何れかの大当たり種別が設定されるように構成しており、大当たり種別の選択割合として、大当たりＡ４３が１０％、大当たりＢ４３が９０％の選択割合となるように規定している。
【１１８９１】
大当たり種別として、大当たりＡ４３が設定された場合には、ラウンド遊技数が１０ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後には、時短回数１００００回の第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定される。一方、大当たりＢ４３が設定された場合には、ラウンド数が４ラウンド（Ｒ）の大当たり遊技が実行され、大当たり遊技終了後に時短回数が１００回の第２時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、開放低頻度状態）が設定される。
【１１８９２】
第１特別図柄抽選にて大当たり当選する確率（大当たり当選確率）は、１／２５０であり、大当たり種別として大当たりＡ４３が設定される割合は１０％であるため、左打ち遊技中に実行される第１特別図柄抽選から大当たり当選に基づいて第１時短状態が設定される確率は、１／２５００となる。また、第１特別図柄抽選にて大当たり当選する確率（大当たり当選確率）は、１／２５０であり、大当たり種別として大当たりＢ４３が設定される割合は９０％であるため、左打ち遊技中に実行される第１特別図柄抽選から大当たり当選に基づいて第２時短状態が設定される確率は、約１／２７７となる。詳細な内容を後述しるが、第２時短状態よりも第１時短状態の方が、遊技者に有利な遊技状態であるため、第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合には、大当たりＡ４３が設定された場合の方が、大当たりＢ４３が設定された場合よりも、遊技者に有利な大当たりとなる。よって、低確率ではあるが、大当たりＡ４３が設定される大当たりに当選することを目指して遊技者に遊技を行わせることができる。
【１１８９３】
一方、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選において大当たり当選しなかった場合には１／４０の確率で時短図柄当選する時短図柄判定が実行される。この時短図柄判定（時短図柄抽選）にて時短図柄当選した場合には、その第１特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動が停止表示された後に第２時短状態、或いは、第１時短状態が設定される。
【１１８９４】
本第４３制御例では、特別図柄抽選において時短図柄当選した場合には、２種類の時短種別のうち何れかの時短種別が設定されるように構成しており、第２時短状態が設定される時短種別（時短Ａ）の選択割合が５０％、第１時短状態が設定される時短種別（時短Ｂ）の選択割合が５０％となるように構成している。さらに、各時短種別（時短Ａ、時短Ｂ

）として、時短終了条件を異ならせた時短種別を設定可能に構成しており、例えば、第２時短状態が設定される時短種別である時短Ａ（時短Ａ群）として、時短Ａ１、時短Ａ２、時短Ａ３、時短Ａ４の４種類の時短種別を、第１時短状態が設定される時短種別である時短Ｂ（時短Ｂ群）として、時短Ｂ１、時短Ｂ２、時短Ｂ３の３種類の時短種別を設定可能に構成している。

【１１８９５】

各時短種別に対して設定される時短終了条件の詳細な内容は時短付与４３テーブル２０２Ａｅ（図１２６５参照）を参照して後述するが、時短図柄当選時における遊技状態に応じて異なる時短終了条件が設定されるように構成しており、何れの時短種別であっても、時短図柄当選時の遊技状態が通常状態である場合が最も成立し易い時短終了条件が設定され、次に、時短図柄当選時の遊技状態が第２時短状態である場合、第１時短状態である場合と、順に成立し難い時短終了条件が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選時における遊技状態に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【１１８９６】

また、時短Ａ群においては、時短Ａ１～時短Ａ４のうち、時短Ａ１が最も遊技者に不利な時短終了条件（成立し易い時短終了条件）が設定され、次いで、時短Ａ２、時短Ａ３、時短Ａ４の順で成立し難い時短終了条件が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選時に設定される時短種別に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【１１８９７】

時短Ｂ群においては、時短Ｂ１～時短Ｂ３のうち、時短Ｂ１が最も遊技者に不利な時短終了条件（成立し易い時短終了条件）が設定され、次いで、時短Ｂ２、時短Ｂ３の順で成立し難い時短終了条件が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、時短図柄当選時に設定される時短種別に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【１１８９８】

さらに、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり遊技が実行されること無く特別図柄抽選が所定回数（９９９回）実行された場合に、時短回数４０回の第２時短状態ｂが設定される天井特典を付与可能に構成している。このように構成することで、特別図柄抽選を多数実行したにも関わらず、大当たり当選しなかった遊技者に対して、特別図柄抽選の結果では無く、特別図柄抽選の実行回数に基づいて遊技状態を移行させることができるため、遊技者に対して、長時間遊技を行わせ易くすることができる。

【１１８９９】

なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、天井特典として所定回数（時短回数４０回）の第２時短状態ｂを設定可能に構成しているが、天井特典の内容はこれに限ること無く、第１時短状態を設定可能に構成しても良い。このように構成することで、天井特典として付与される特典の有利度合いを高めることができるため、遊技者に対して天井特典が付与されることを目指した斬新な遊技性を提供することができる。

【１１９００】

また、天井特典が付与される条件が成立した場合（特別図柄抽選を９９９回実行した場合）に、今回付与される天井特典の内容を複数の中から抽選で決定する天井特典決定処理を実行可能に構成しても良い。そして、天井特典決定処理により決定され得る天井特典の種類として、遊技者への有利度合いを異ならせた特典（例えば、第１時短状態を設定する特典や、第２時短状態を設定する特典、及び、各時短状態を終了させるための時短終了条件の内容）の中から、１の特典を決定可能に構成すると良い。

【１１９０１】

このように構成することで、天井特典が付与される条件が成立した場合に、今回付与される天井特典の内容が何であるかについて遊技者により興味を持たせることができる。さらに、天井特典の一部として、遊技者への有利度合いが高い特典（例えば、時短終了条件

が成立し難い第１時短状態を設定する特典）を付与可能に構成した場合であっても、天井特典が付与される場合において、毎回有利度合いが高い特典が付与されることを抑制することができるため、天井特典として遊技者に過剰に有利な特典を付与してしまうことを抑制することができる。

【１１９０２】

また、天井特典として付与される天井特典の内容を、天井特典が付与される条件が成立した場合では無く、天井特典が付与される条件が成立するよりも前の時点（例えば、大当たり遊技終了時）で決定可能に構成し、天井特典が付与される条件が成立するまでの期間を用いて、天井特典が付与される条件が成立した場合に付与される天井特典の内容を遊技者に示唆可能な示唆演出を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、天井特典の付与を目指した遊技を実行するか否かを、示唆演出の内容に基づいて遊技者に決定させることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１９０３】

なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、天井特典として付与された第２時短状態の時短終了条件が成立し、再度、通常状態が設定された場合、即ち、前回の大当たり遊技が終了してから９９９回の特別図柄抽選にて大当たり当選すること無く、天井特典として第２時短状態（時短回数４０回）が設定され、その第２時短状態中に特別図柄抽選を４０回実行して時短終了条件が成立し通常状態が設定された場合には、天井特典が付与される条件を成立させるための情報の更新が実行されないように構成している。

【１１９０４】

つまり、大当たり当選間にて天井特典を付与可能な回数が１回となるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選しない遊技者に対して、過剰に天井特典が付与されてしまうことを抑制することができる。

【１１９０５】

なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、大当たり当選間に１回のみ天井特典を付与可能に構成しているが、これに限ること無く、２回以上の天井特典を付与可能に構成しても良く、この場合、天井特典を付与可能な条件を、１回目の天井特典（第１天井）と、２回目の天井特典（第２天井）と、で異ならせても良く、さらに、第１天井と、第２天井とで、遊技者に付与される天井特典の内容（有利度合い）を異ならせても良い。

【１１９０６】

また、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、天井特典が付与される条件（天井付与条件）を成立させるための情報（天井関連情報）として、大当たり当選間の特別図柄抽選回数（ハマり回数）を用いており、特別図柄抽選にて大当たり当選しなかった場合に、特別図柄抽選回数を更新するように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果となった回数（例えば、小当たり当選回数）を計測可能な手段を設け、その手段によって計測された回数が天井付与条件（例えば、小当たり当選回数１００回）を満たした場合に天井特典を付与可能に構成しても良い。

【１１９０７】

このように構成することで、特別図柄抽選が実行される毎に天井関連情報が更新されるのでは無く、特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果となった場合に天井関連情報が更新されるため、天井付与条件が成立するタイミングを遊技者に予測させ難くすることができる。よって、遊技者の予測していないタイミングで天井特典を付与することができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１１９０８】

次に、第２時短状態は、通常状態にて実行された特別図柄抽選にて大当たり当選し、大当たり種別として大当たりＢが設定された場合、時短図柄当選し、時短種別として時短Ａ群が設定された場合、天井特典が付与された場合に設定される遊技状態であって、上述した通り、左打ち遊技の方が右打ち遊技よりも遊技者に有利となる遊技状態である。

【１１９０９】

具体的には、本第４３制御例では第２時短状態の種別として第２時短状態ａと、第２時

短状態ｂとを有しており、時短図柄当選、或いは、大当たり遊技終了後には第２時短状態ａが設定され、天井特典が付与された場合には第２時短状態ｂが設定される。第２時短状態ａ、第２時短状態ｂの何れが設定された場合であっても、特別図柄抽選における各種当たり当選の確率や、普通図柄抽選における当たり確率や、選択される特別図柄変動の変動パターン（変動時間）、選択される普通図柄変動の変動パターン（変動時間）、普通図柄抽選で当り当選した場合に実行される普図当たり遊技内容（電動役物６４０ａの動作内容）は同一である。よって、第２時短状態が設定されている状態では特別図柄抽選や普通図柄抽選に関する遊技内容に基づいて何れの種別の第２時短状態が設定されているかを遊技者に把握させ難くすることができる。

【１１９１０】

なお、本第４３制御例では、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される演出内容によって、設定されている第２時短状態の種別を遊技者に把握させることができるように構成している。具体的には、図１２５９に示した通り、天井特典が付与されたことにより第２時短状態ｂが設定された場合には、設定されている第２時短状態ｂが終了するまでに実行可能な特別図柄抽選の回数を遊技者に報知するように構成している。このように構成することで、同一の遊技状態が設定された場合であっても、設定された遊技状態を終了させるための終了条件に関する情報の提供有無（遊技者に理解させ易くするか否か）を遊技状態の設定契機に応じて異ならせることができるため、遊技者に対して新たな遊技状態の設定契機についても興味を持たせることができる。

【１１９１１】

次に、第２時短状態中に実行される特別図柄抽選の内容について説明をする。この第２時短状態が設定されている場合も、上述した通常状態と同様に左打ち遊技によって第１特別図柄抽選（特図１抽選）を実行させる遊技が行われる。この第２時短状態は、特別図柄の確率状態、及び、普通図柄の確率状態が、通常状態と同一であることから、特別図柄抽選が実行された場合における大当たり当選確率（１／２５０）と、時短図柄当選確率（１／４０）は、通常状態と同一である。しかしながら、時短図柄当選した場合に設定される時短種別を異ならせており、第２時短状態ａ中に時短図柄当選した場合は、第２時短状態ａが設定される時短種別（時短Ａ群）が設定される割合が３０％、第１時短状態が設定される時短種別（時短Ｂ群）が設定される割合が７０％となるように構成している。

【１１９１２】

また、第２時短状態ｂ中に時短図柄当選した場合は、第２時短状態ｂが設定される割合が１００％となるように構成している。つまり、天井特典が付与されることで設定される第２時短状態（第２時短状態ｂ）は、時短図柄当選等で設定される第２時短状態（第２時短状態ａ）に対して、第２時短状態中に実行された第２特別図柄抽選で時短図柄当選したことに基づいて、既に設定されている第２時短状態（第２時短状態ａ）の残時短回数よりも少ない時短回数の第２時短状態（第２時短状態ａ）が設定されてしまい、通常状態よりも遊技者に有利となる第２時短状態の遊技期間が短くなってしまうことを抑制することができる。

【１１９１３】

このように構成することで、同一の遊技内容で遊技が行われる第２時短状態ａと、第２時短状態ｂとにおいて、第２時短状態ｂの方が第２時短状態ａよりも、時短図柄当選した場合に付与される特典の有利度合いを高めることができるため、遊技者に有利な第２時短状態となる。よって、大当たり当選すること無く、長時間の遊技を行っている遊技者に対して、比較的有利な特典（第２時短状態ｂ）を付与することができる。また、天井特典によって付与された第２時短状態が、短時間（設定された時短回数分の特別図柄抽選が行われること無く）で終了してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、時短図柄当選に基づいて設定される第２時短状態よりも有利な第２時短状態が設定されることを目指して遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【１１９１４】

なお、本第４３制御例では、第２時短状態ｂ中に時短図柄当選した場合には、第２時短

状態ｂが設定されるように構成しているが、これに限ること無く、第１時短状態が設定される時短種別（時短Ｂ群）と、第２時短状態が設定される時短種別（時短Ａ群）と、を選択可能に構成し、第２時短状態が設定される時短種別が選択された場合には、天井特典として付与される第２時短状態ｂの時短回数よりも多い時短回数が設定される第２時短状態ｂが設定されるように構成しても良く、この場合、第２時短状態ａ中に時短図柄当選した場合と、第２時短状態ｂ中に時短図柄当選した場合とで、時短Ａ群と時短Ｂ群との選択割合を同一にし、時短Ａ群が選択された場合に設定される時短回数を異ならせるだけで良く、各遊技状態において実行される各処理の共通化を図ることができる。

【１１９１５】

また、本第４３制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて第２時短状態が設定される場合であっても、第２時短状態ａ（普通図柄の低確率状態）が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、普通図柄の高確率状態が設定される第２時短状態ｃを設定するように構成しても良く、この場合、第２時短状態ｃが設定されたとしても第２時短状態ｃ中の遊技内容を、上述した第２時短状態ａや第２時短状態ｂと同一の遊技内容とすると良い。このように構成することで、第２時短状態ｃが設定された場合であっても、第２時短状態中の遊技を行っている遊技者に対して、第２時短状態の種別を把握させ難くすることができる。

【１１９１６】

さらに、この場合、大当たり遊技終了後に通常状態と、第２時短状態ａと、第２時短状態ｃとのうち何れかを設定可能に構成し、何れの遊技状態が設定された場合であっても、同一の左打ち遊技が実行されるように第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示態様を設定可能に構成することで、遊技者に対して設定されている遊技状態の種別を分かり難くしたうえで、時短図柄当選や大当たり当選した時点における遊技状態が通常状態である場合と、第２時短状態ａである場合と、第２時短状態ｃである場合と、で当選に基づいて付与される特典の有利度合いを異ならせるように構成すると良く、例えば、第２時短状態ｃが設定されている状態で時短図柄当選した場合には、他の遊技状態と比べて第１時短状態（遊技者に有利な時短状態）が設定され易くなるように構成すると良い。

【１１９１７】

つまり、通常状態や第２時短状態ａは、第１特別図柄抽選で大当たり当選しない遊技を行っている場合であっても設定され得る遊技状態であるのに対して、第２時短状態ｃは、大当たり遊技終了後にのみ設定可能な遊技状態であることから、第１特別図柄抽選で大当たり当選しない限り設定されない遊技状態（他の遊技状態よりも設定され難い遊技状態）となる。このように、設定され難い遊技状態が設定されている期間中（第２時短状態ｃが設定されている期間中）に時短図柄当選した場合の方が、それ以外の期間中（通常状態、第２時短状態ａが設定されている期間中）に時短図柄当選した場合よりも遊技者に有利な特典を付与し易くすることで、時短図柄の当選タイミングに興味を持たせることができる。また、大当たり遊技の終了後に第１時短状態（右打ち遊技状態）が設定されなかった場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９１８】

以上、説明をした通り、通常状態中に実行された特別図柄抽選で時短図柄当選した場合よりも、第２時短状態中に実行された特別図柄抽選で時短図柄当選した場合の方が、遊技者に有利な時短状態を設定させ易くしている。このように構成することで、左打ち遊技を実行している遊技者に対して、現在設定されている遊技状態を気にしながら遊技を行わせることができる。

【１１９１９】

ここで、左打ち遊技が実行される通常状態、及び、第２時短状態中に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される背景モードの内容について説明をする。図１２６０に示した通り、通常状態が設定された場合は、背景モードとして「不利モード」と「通常モード」との何れかを設定可能に構成しており、第２時短状態が設定された場合は、背景モードとして「通常モード」と「有利モード」との何れかを設定可能に構成している。そして、第２

時短状態が終了し通常状態が設定されたことに基づいて背景モード移行抽選を実行し、背景モード移行抽選に当選した場合に、通常状態に対応した背景モードを設定可能に構成している。

【１１９２０】

つまり、背景モードとして「不利モード」が設定されている場合は、現在の遊技状態が通常状態であることを遊技者が識別可能となり、「通常モード」が設定されている場合は、現在の遊技状態が通常状態であるか第２時短状態であるかを遊技者が識別し難くなり、「有利モード」が設定されている場合は、第２時短状態が設定されている、或いは、第２時短状態が終了し、背景モード移行抽選に当選していない期間であることを遊技者に識別させることが可能となるように構成している。

【１１９２１】

このように構成することで、同一の遊技方法（左打ち遊技）であって、且つ、大当たり当選確率、及び、時短図柄当選確率が同一である通常状態或いは第２時短状態が設定されている状況において、現在設定されている遊技状態を遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。

【１１９２２】

次に、第１時短状態について説明をする。この第１時短状態は、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ、第２特別図柄抽選（特図２抽選）を実行させる右打ち遊技を行った場合の方が、左打ち遊技を行うよりも遊技者に有利となる遊技状態である。本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、第１時短状態として、大当たり遊技終了後（大当たりＡが設定される大当たり遊技の終了後）に設定される第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、時短図柄当選に基づいて設定される第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、開放高頻度状態）の２種類の遊技状態を設定可能に構成しているが、何れの契機で設定される第１時短状態であっても、右打ち遊技中に実行される遊技の内容は大きく相違することが無いため纏めて説明をする。

【１１９２３】

第２特別図柄抽選は、上述した第１特別図柄抽選とは異なり、時短図柄当選の判定が実行されないように構成しており、小当たり当選の判定（小当たり当選確率１／２５）を実行するように構成している。第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、Ｖ入賞装置６５０（図１２５３参照）を開放させる小当たり遊技が実行され、小当たり遊技中にＶ入賞装置６５０へと入賞した遊技球が特定領域（Ｖゲート）を通過するように構成し、特定領域（Ｖゲート）を遊技球が通過したことに基づいて、小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が実行されるように構成している。つまり、第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、小当たり遊技中に適正な遊技を継続して実行することで、大当たり遊技の実行権利を容易に獲得可能に構成している。

【１１９２４】

このように構成することで、大当たり遊技の実行権利を獲得するための条件として、第１特別図柄抽選では、大当たり当選（大当たり当選確率１／２５０）のみであったのに対して、第２特別図柄抽選では、大当たり当選（大当たり当選確率１／２５０）に加え、小当たり当選（小当たり当選確率１／２５）を有しているため、大当たり遊技の実行のし易さの点では、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選の方が遊技者に有利な特別図柄抽選となる。

【１１９２５】

また、第１時短状態が設定されている状態では、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合も、大当たり種別として大当たりＡが設定され、その大当たり遊技終了後には第１時短状態が設定されるように構成している。つまり、通常状態、或いは第２時短状態中に第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、第１時短状態中に第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の方が、遊技者に有利な特典を付与可能に構成している。このように構成することで、第１時短状態が設定されている状態で第１特別図柄抽選が実行されてしまい大当たり当選した場合であっても、大

当たり遊技終了後に第１時短状態以外の遊技状態が設定されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９２６】

以上、説明をした通り、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態、或いは、第２時短状態が設定されている状態で実行される特別図柄抽選のハマリ回数（外れ当選した特別図柄抽選が連続して実行される回数）が特定回数（９９９回）に到達した場合に、天井特典として、第２時短状態（時短回数４０回）を設定可能に構成している。また、左打ち遊技状態中に実行される特別図柄抽選で時短図柄当選した場合に設定され得る第２時短状態として、天井特典よりも時短回数が少ない第２時短状態と、天井特典よりも時短回数が多い第２時短状態と、を設定可能に構成している。

【１１９２７】

よって、天井特典の付与条件が成立した時点において設定されている第２時短状態の時短状況（残時短回数）によっては、例えば、通常状態が設定されている状態で天井特典の付与条件が成立した場合や、第２時短状態の残時短回数が天井特典として付与される時短回数よりも少ない場合といった天井特典が付与されることが遊技者に有利な場合と、第２時短状態の残時短回数が天井特典として付与される時短回数よりも多い場合といった天井特典が付与されることが遊技者に不利な場合と、創出することができる。

【１１９２８】

このように構成することで、単に天井特典が付与されることを期待しながら遊技を行うのでは無く、遊技者に有利な特典として天井特典が付与されることを期待しながら遊技を行わせることができるため、特に天井特典の付与条件が成立する直前に実行される特別図柄抽選の結果に対して遊技者に興味を持たせ易くすることができる。

【１１９２９】

＜第４３制御例における電気的構成について＞

次に、図１２６１から図１２６９を参照して、本第４３制御例における電気的構成について説明をする。本第４３御例では、上述した第４０制御例のパチンコ機１０に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成の一部、ＲＡＭ２０３の構成の一部、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については同一の符号を付してその詳細な内容について説明を省略する。

【１１９３０】

上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０では、設定されている遊技状態に関わらず、第１特別図柄抽選において大当たり判定以外に時短図柄判定を実行可能に構成し、第２特別図柄抽選において大当たり判定以外に小当たり判定を実行可能に構成しているのに対して、本第４３制御例では、各特別図柄種別に応じて特別図柄抽選時に実行される判定の内容は上述した第４０制御例と同一であるが、第１時短状態中に実行される第１特別図柄抽選では時短図柄判定が実行されないように構成している点で相違している。

【１１９３１】

つまり、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、時短図柄判定を実行可能な特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）が実行される場合において、設定されている遊技状態に応じて時短図柄判定の実行有無を決定している。このように構成することで、特別図柄抽選の抽選結果を、設定されている遊技状態に応じて異ならせることが可能となり、遊技者に多様な抽選結果を提供することで早期に飽きることの無い遊技を提供することができる。また、遊技者に有利となる第１時短状態中に実行された第１特別図柄抽選、例えば、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得している状態で第１時短状態が設定され、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得していない状態で実行される第１特別図柄抽選によって、第１時短状態が終了してしまうことを抑制することができるため、第１時短状態が設定されたにも関わらず、第２特別図柄抽選が実行されること無く第１時短状態が終了してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９３２】
　また、上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄抽選で時短図柄判定された（時短図柄当選した）場合に、左打ち遊技が遊技者に有利となる第２時短状態（本第４３制御例における第２時短状態）のみを設定可能に構成していたのに対して、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、時短図柄当選した場合に、第２時短状態、第１時短状態の何れかを設定可能に構成している点で相違している。さらに、時短図柄当選した場合に設定される時短回数を、時短図柄当選した時点の遊技状態に応じて異ならせることが可能に構成している点で相違している。このように構成することで、時短図柄当選したことに基づいて設定される遊技状態の内容を多様化することができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。
【１１９３３】
　さらに、上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０では、設定された時短状態を終了させるための時短終了条件として、特別図柄抽選の実行回数、小当たり遊技の実行回数、普図当たり遊技の実行回数に基づく条件を設定可能に構成していたのに対して、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、時短終了条件として、第１特別図柄抽選の実行回数と、第２特別図柄抽選の実行回数とを合算した合算特図抽選回数に基づいて成立する時短終了条件と、第２特別図柄抽選の実行回数に基づいて成立する時短終了条件と、を設定可能に構成している点で相違している。
【１１９３４】
　まず、図１２６１から図１２６６を参照して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。図１２６１（ａ）は、本第４３制御例におけるＲＯＭ２０２の構成を示したブロック図である。図１２６１（ａ）に示した通り、本第４３制御例におけるＲＯＭ２０２の構成は、上述した第４０制御例におけるＲＯＭ２０２の構成（図１１５９（ａ）参照）に対して、第１当たり乱数テーブル２０２ａｊに代えて第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａを、大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊに変えて大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂを、第２当たり乱数テーブル２０２ｃｊに代えて第２当たり乱数４３テーブル２０２Ａｃを、変動パターン選択テーブル２０２ｄｊに代えて変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄを、時短付与テーブル２０２ｅｊに代えて時短付与４３テーブル２０２Ａｅを、小当たり種別選択テーブル２０２ｆｊに代えて小当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｆを、時短種別選択テーブル２０２ｊａに代えて時短種別選択４３テーブルＡｈを設けている点と、普図当たり種別選択テーブル２０２ｊｂを削除した点と、で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の要素についてはその詳細な説明を省略する。
【１１９３５】
　次に、図１２６２（ａ），（ｂ）を参照して、本第４３制御例における第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａについて説明する。この第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａは、特別図柄抽選の抽選結果を決定する際に参照されるデータテーブルであって、特別図柄抽選の判定に用いられる第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（０～６５５３５）に対応させて大当たり判定値、小当たり判定値、時短図柄判定値が、規定されている。より具体的には、特別図柄抽選の種別（特別図柄種別）に応じて、異なるデータテーブルを有しており、第１特別図柄抽選の判定を行う際に参照される特別図柄１乱数４３テーブル２０２Ａａ１と、第２特別図柄抽選の判定を行う際に参照される特別図柄２乱数４３テーブル２０２Ａａ２と、を有している。
【１１９３６】
　図１２６２（ａ）は、本第４３制御例における特別図柄１乱数４３テーブル２０２Ａａ１の規定内容を示した図であり、図１２６２（ｂ）は、本第４３制御例における特別図柄２乱数４３テーブル２０２Ａａ２の規定内容を示した図である。図１２６２（ａ）に示した通り、特別図柄１乱数４３テーブル２０２Ａａ１は、上述した特別図柄１乱数テーブル２０２ａｊ１（図１１６０（ａ）参照）に対して、大当たり当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１の値の範囲と、時短図柄当選と判定される第１当たり乱数カウンタＣ１

の値の範囲とを異ならせている点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容についてはその詳細な説明を省略する。

【１１９３７】

図１２６２（ａ）に示した通り、本第４３制御例における特別図柄１乱数４３テーブル２０２Ａａ１には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２５９」の２６０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として、「２６０～１８７９」の１６２０個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。一方、小当たりと判定される乱数値は対応付けられていない。

【１１９３８】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る「０～６５５３５」の６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２６０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は約１／２５０（２６０／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、時短図柄当選と判定される乱数値（カウンタ値）の個数が１６２０個であるので、第１特別図柄の抽選で時短図柄に当選する確率は約１／４０（１６２０／６５５３６）である。

【１１９３９】

次に、図１２６２（ｂ）を参照して、特別図柄２乱数テーブル２０２Ａａ２の詳細について説明する。図１１６２（ｂ）は、特別図柄２乱数テーブル２０２Ａａ２の規定内容を示した図である。図１１６２（ｂ）に示した通り、本第４３制御例における特別図柄２乱数テーブル２０２Ａａ２には、大当たりと判定される乱数値（第１当たり乱数カウンタＣ１の値）の範囲として、「０～２５９」の２６０個の乱数値（カウンタ値）が対応付けて規定され、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の範囲として「２６０～２８７９」の２６２０個の乱数値（カウンタ値）の範囲が対応付けて規定されている。一方、時短図柄当選と判定される乱数値は対応付けられていない。

【１１９４０】

第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、大当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２６０個であるので、第２特別図柄の抽選で大当たりに当選する確率は、第１特別図柄の抽選と同様に、約１／２５０（２６０／６５５３６）である。また、第１当たり乱数カウンタＣ１の取り得る６５５３６個の乱数値（カウンタ値）のうち、小当たりと判定される乱数値（カウンタ値）の個数が２６２０個であるので、第２特別図柄の抽選で小当たりに当選する確率は約１／２５（２６２０／６５５３６）である。

【１１９４１】

次に、図１２６２（ｃ）を参照して、本第４３制御例における大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂの詳細について説明する。図１２６２（ｃ）は、大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂの規定内容を示した図である。この大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂは、上述した第４３制御例における大当たり種別選択テーブル２０２ｂｊ（図１１６０（ｃ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に、大当たり種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１２６２（ｃ）に示した通り、本第４３制御例における大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂには、第１特別図柄の大当たり種別として、大当たりＡ４３、および大当たりＢ４３の２種類が規定されており、第２特別図柄の大当たり種別として大当たりＡ４３の１種類が規定されている。

【１１９４２】

図１２６２（ｃ）に示した通り、第１特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～９」の範囲に対して、「大当たりＡ４３」が対応付けて規定され、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「１０～９９」の範囲に対して、「大当たりＢ４３」が対応付けて規定されている。「大当たりＡ４３」は、ラウンド数が１０ラウンドであり、大当たり終了後に時短回数（第２特別図柄抽選の実行回数）が１００００回の第１

時短状態が設定される大当たり種別である。また、「大当たりＢ４３」は、ラウンド数が４ラウンドであり、大当たり終了後に時短回数（特別図柄抽選の実行回数）が１００回の第２時短状態が設定される大当たり種別である。このため、ラウンド数の面において「大当たりＡ４３」の方が「大当たりＢ４３」よりも遊技者に有利な大当たりとなる。また、大当たり終了後の遊技状態の面においても、「大当たりＡ４３」の方が「大当たりＢ４３」よりも遊技者に有利な大当たりとなる。

【１１９４３】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る「０～９９」の１００個の乱数値（カウンタ値）のうち、「大当たりＡ４３」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が１０個、「大当たりＢ４３」に対応付けられている乱数値（カウンタ値）の個数が９０個であるので、第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合に「大当たりＡ４３」が設定される割合は１０％、「大当たりＢ４３」が設定される割合は９０％である。

【１１９４４】

よって、通常状態、第２時短状態において第１特別図柄の抽選で大当たりに当選した場合は、１０％の割合でしか最も有利な第１時短状態へと移行することがない。なお、第１時短状態において大当たりに当選した場合は、大当たり種別が「大当たりＢ４３」であっても第１時短状態に移行する。つまり、第１時短状態では、大当たりに当選することで、必ず最も有利な第１時短状態が再度設定される有利な遊技状態を形成する。

【１１９４５】

また、図１２６２（ｃ）に示した通り、第２特別図柄の大当たり種別として、第１当たり種別カウンタＣ２の値が取り得る全範囲（「０～９９」の範囲）に対して、「大当たりＡ４３」が対応付けて規定されている。この「大当たりＡ４３」は、上述した第１特別図柄の大当たり種別として設定される「大当たりＡ４３」と同一であるため、その説明を省略する。

【１１９４６】

次に、図１２６３（ａ）を参照して、本第４３制御例における変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄの詳細について説明する。この変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄは、上述した第４０制御例における変動パターン選択テーブル２０２ｄｊ（図１１６１（ｂ）参照）と同様に、特別図柄の抽選が実行された場合に抽選結果に応じた変動パターン（変動時間）を選択するために参照されるデータテーブルである。図１２６３（ａ）は、この変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄの構成を示したブロック図である。

【１１９４７】

図１２６３（ａ）に示した通り、本第４３制御例における変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄは、通常状態、第２時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される通常用４３テーブル２０２Ａｄ１と、第１時短状態において特別図柄の抽選が実行された場合に変動パターン（変動時間）を選択するために参照される時短用４３テーブル２０２Ａｄ２と、で少なくとも構成されている。まず、図１２６３（ｂ）を参照して、通常用４３テーブル２０２Ａｄ１の詳細について説明する。

【１１９４８】

図１２６３（ｂ）は、本第４３制御例における通常用４３テーブル２０２Ａｄ１の規定内容を示した図である。図１２６３（ｂ）に示した通り、通常用４３テーブル２０２Ａｄ１には、実行される特別図柄抽選に用いられる特別図柄種別と、実行される特別図柄抽選の抽選結果と、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値と、に対応させて異なる変動パターン（変動時間）が規定されている。つまり、特別図柄種別と、抽選結果とに応じて異なる変動時間の変動パターンを決定可能に構成している。具体的には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１３９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が７秒の「外れ」が、「１４０～１４９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が２０秒の「ガセ外れ」が、「１５０～１７９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時

間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「１８０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。

【１１９４９】

また、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～２９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が４０秒の「ノーマルリーチ各種」が、「３０～１８９」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が、「１９０～１９８」の範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１４０秒の「スペシャルリーチ」が規定されている。

【１１９５０】

さらに、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が８０秒の「スーパーリーチ」が規定されている。

【１１９５１】

つまり、通常用４３テーブル２０２Ａｄ１を参照して変動パターン（変動時間）が決定される第１特別図柄抽選では、抽選結果が外れである場合の方が、抽選結果が外れ以外（大当たり、又は時短図柄）である場合よりも、短い変動時間の変動パターンが決定され易くなるように構成しており、より長い変動時間の変動パターンが決定された場合の方が、特別図柄抽選の結果が大当たり、又は時短図柄である可能性が高くなるように構成している。このように構成することで、通常状態の遊技を行っている遊技者に対して、抽選結果が外れである特別図柄変動が長時間継続してしまい、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が極端に少なくなってしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９５２】

また、単位時間当たりに実行される特別図柄抽選の実行回数が少なくなる場合、即ち、長時間の特別図柄変動が実行される場合には、当たり（大当たり、時短図柄）に当選していることへの期待感を高めることができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９５３】

さらに、本第４３制御例では、左打ち遊技が実行される遊技状態、即ち、通常状態及び第２時短状態が設定されている場合には、通常用４３テーブル２０２Ａｄ１を参照して特別図柄抽選の変動パターンが決定されるように構成している。よって、特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動の変動パターンによって現在の遊技状態が遊技者に予測されてしまうことを抑制することができる。

【１１９５４】

なお、本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態と第２時短状態とで同一の変動パターンテーブル（通常用４３テーブル２０２Ａｄ１）を参照して変動パターンを決定するように構成しているが、これに限ること無く、通常状態中に参照される変動パターンテーブルに対して、一部の規定内容を異ならせた変動パターンテーブルを第２時短状態中に参照するように構成しても良く、この場合、第２時短状態中に参照される変動パターンテーブルに、通常状態中では選択され得ない変動時間の変動パターンが低確率（例えば、外れ当選時の１％）で選択されるように規定すると良い、このように構成することで、特別図柄変動の変動パターンによって、遊技者に遊技状態を把握させることも可能となるため、特別図柄抽選の結果だけでなく、特別図柄変動の変動パターンについても興味を持たせることができる。

【１１９５５】

一方、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ（小当たり含む）」である場合には

、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「非当たり」が規定されている。
【１１９５６】
なお、本第４３制御例では、上述した第４０制御例と同様に、通常状態や第２時短状態において普通図柄の抽選が実行されて普通図柄の当たりに当選したとしても、普通図柄の当たり遊技中に第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが不可能（困難）な電動役物６４０ａの開閉パターン（第１変位パターン）が設定される普図当たりＡが必ず実行されるため、通常状態において普通図柄の抽選を実行させたとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることはできない。
【１１９５７】
よって、本第４３制御例において通常状態、又は第２時短状態で第２特別図柄の抽選が実行される状況としては、第１時短状態中に獲得した第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を保持した状態で、遊技状態が通常状態、又は第２時短状態へと移行し、獲得済みの特図２保留に基づいて第２特別図柄の抽選が実行された状況である。この状況は、特に、第１時短状態の時短終了条件として少ない回数（例えば、１回）の時短回数（第２特別図柄抽選の実行回数）が設定された場合に、多い回数（例えば、１００００回）の時短回数が設定された場合よりも発生し易い。即ち、第１時短状態が設定された場合には、第１特別図柄抽選よりも大当たり遊技の実行権利（大当たり当選（当選確率１／２５０）、小当たり当選（当選確率１／２５））を獲得し易い第２特別図柄抽選が実行されるため、時短回数が多い第１時短状態が設定された場合には、時短終了条件が成立するよりも前に大当たり遊技が実行される可能性が高くなり、時短回数が少ない第１時短状態が設定された場合には、大当たり遊技が実行されるよりも前に時短終了条件が成立する可能性が高くなるため、特に、第１時短状態の時短終了条件として少ない回数（例えば、１回）の時短回数（第２特別図柄抽選の実行回数）が設定された場合に、多い回数（例えば、１０００００回）の時短回数が設定された場合よりも発生し易くなる。
【１１９５８】
このように、特定の特別図柄種別（第２特別図柄）の特別図柄抽選（第２特別図柄抽選）が、特定の遊技状態（通常状態、第２時短状態）で実行された場合には、抽選結果に関わらず同一の長さの変動時間が設定される変動パターンを決定するように構成することで、その特別図柄変動中に実行される特定演出の演出期間を特別図柄抽選の結果に関わらず統一することができる。
【１１９５９】
次に、図１２６４を参照して、上述した時短用４３テーブル２０２Ａｄ２の詳細について説明する。図１２６４は、この時短用４３テーブル２０２Ａｄ２の規定内容を示した図である。図１２６４に示した通り、時短用４３テーブル２０２Ａｄ２には、特別図柄種別が「特図１（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短外れ」が規定され、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短当たり」が規定され、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が５秒の「短突時」が規定されている。
【１１９６０】
一方、図１２６４に示した通り、第２特別図柄に対する規定内容としては、通常用４３テーブル２０２Ａｄ１（図１２６３（ｂ）参照）と共通である。即ち、特別図柄種別が「特図２（第２特別図柄）」であって、抽選結果が「大当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒の「当たり」が規定され、特別図柄種別が「特図２（第１特別図柄）」であって、抽選結果が「外れ（小当たり含む）」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して、変動パターンとして変動時間が１０秒

の「非当たり」が規定されている。
【１１９６１】
　これらの規定内容により、第１時短状態における第１特別図柄の変動時間を５秒間に固定化できると共に、第２特別図柄の変動時間を１０秒間に固定化することができる。よって、図１２５８で上述した通り、チャンスゾーン（第１時短状態）における、第２特別図柄変動の変動時間を固定化することで、第１時短状態中の演出期間を毎回固定化することができる。
【１１９６２】
　また、第１時短状態で第１特別図柄抽選が実行される状況は、第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を獲得している状態で第１時短状態が設定された場合に発生し得る。この場合、第１時短状態が設定された後、遊技者が右打ち遊技を実行し第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得するまで、獲得済みの特図１保留に基づく第１特別図柄抽選が実行されることになる。ここで、本第４３制御例では、第１時短状態が設定された場合に、時短終了条件として、合算特図抽選回数に基づいて成立する時短終了条件と、第２特別図柄抽選の実行回数（特図２抽選回数）に基づいて成立する時短終了条件と、が設定され、第３図柄表示装置８１の表示面には、図１２５８（ａ）に示した通り、特図２抽選回数に基づく時短終了条件が成立するまでの残時短回数（残特図２抽選回数）が表示されるように構成している。
【１１９６３】
　そして、図１２５７に示した通り、第１時短状態が設定された直後に第１特別図柄抽選が実行される場合には、第１時短状態中に実行される第１特別図柄抽選の変動期間（待機期間）を用いて、今回設定された第１時短状態に対応する時短終了条件（特図２抽選回数）を遊技者に報知するための時短回数報知演出を実行するように構成している。このように構成することで、第１時短状態が設定されてから第２特別図柄抽選が実行されるまでの期間（第１特別図柄変動期間）を用いて、今回設定された第１時短状態の内容を遊技者に報知することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【１１９６４】
　さらに、第１時短状態が設定された直後に第１時短状態に対応する時短終了条件（残特図２抽選回数）を表示し、時短終了条件（残特図２抽選回数）が表示されている状態で第１特別図柄抽選が実行される場合と比して、特別図柄抽選が実行されたにも関わらず、時短終了条件を示すための回数が減算されず、遊技者に分かり難い遊技が提供されてしまうことを抑制することができる。また、図１２６４に示した通り、第１時短状態中に参照される時短用４３テーブル２０２Ａｄ２には第１特別図柄抽選の結果に関わらず、第１特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が５秒の変動パターンが選択されるように構成している。よって、待機期間中に実行される演出（図１２５７参照）の演出期間を固定化することができる。
【１１９６５】
　なお、第１時短状態が設定された後、最初に実行される特別図柄抽選が第２特別図柄抽選となる場合には、上述した待機期間（第１時短状態中における第１特別図柄変動期間）が設定されないため、時短回数報知演出を実行すること無く、図１２５８にて上述したチャンスゾーン中の演出画面が表示される。この場合、第２特別図柄抽選が実行される毎に、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される残時短回数（残特図２抽選回数）の値が減算されるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。
【１１９６６】
　また、第１時短状態中であって、図１２５８にて上述したチャンスゾーン中に第１特別図柄抽選が実行された場合、例えば、第１時短状態中に実行していた右打ち遊技を一旦中断し、再度右打ち遊技を実行する際に誤って第１入球口６４へと遊技球を入球させ第１特別図柄抽選が実行された場合は、前回の第２特別図柄抽選の結果を示すための表示画面が、特図１変動が停止表示されるまで継続して表示されるように構成している。つまり、第１特別図柄抽選が実行されたことを遊技者に把握させ難く構成している。このように構成

することで、第３図柄表示装置８１の表示面に表示されている残時短回数を減算すること無く新たな特別図柄抽選が実行されてしまい、遊技者に分かり難い遊技を提供してしまうことを抑制することができる。

【１１９６７】

また、この場合、チャンスゾーン中に実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり当選した第１特別図柄抽選の結果が停止表示されるタイミングに対応させて前回の第２特別図柄抽選の結果を示すための表示画面が大当たり当選を示す表示画面へと切り替わるように構成している。このように構成することで、新たな第２特別図柄抽選を実行していない状態（残時短回数が減算されていない状態）で、不意に大当たり当選が報知されるため、遊技者に意外性のある斬新な遊技を提供することができる。

【１１９６８】

次に、図１２６５を参照して、本第４３制御例における時短付与４３テーブル２０２Ａｅの詳細について説明する。この時短付与４３テーブル２０２Ａｅは、上述した本第４０制御例における時短付与テーブル２０２ｅｊ（図１１６２（ｂ）参照）と同様に、時短状態を設定する際に、当該時短状態の設定契機に応じた時短状態の終了条件を設定するために参照されるデータテーブルである。図１２６５は、この時短付与４３テーブル２０２Ａｅの規定内容を示した図である。

【１１９６９】

図１２６５に示した通り、本第４３制御例における時短付与４３テーブル２０２Ａｅには、各大当たり種別、および時短図柄種別と時短終了条件の成立有無を判定する際に参照される各カウンタの値とが当選時の遊技状態毎に対応付けられて規定されている。なお、図１２６５に示した通り、本第４３制御例では、時短終了条件の成立有無を判定するためのカウンタとして、時短カウンタ２０３ｈと、特図２カウンタ２０３Ａｂと、の２つのカウンタが設けられている。時短カウンタ２０３ｈは、時短状態が設定された後で実行された特別図柄の抽選回数（合算特図抽選回数）に対応する終了条件（第１終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタであり、特図２カウンタ２０３Ａｂは、時短状態が設定された後で実行された第２特別図柄の抽選回数（特図２抽選回数）に対応する終了条件（第２終了条件）の成立有無を判別（判定）するためのカウンタである。

【１１９７０】

図１２６５に示した通り、本第４３制御例では、大当たり種別として「大当たりＡ４３」．「大当たりＢ４３」の２種類が設けられていると共に、時短図柄種別として「時短図柄Ａ１」～「時短図柄Ｂ３」の７種類が設けられており、時短付与４３テーブル２０２Ａｅには、各大当たり種別および各時短図柄種別に対して、時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３Ａｂの値（即ち、第１終了条件、及び第２終了条件）が対応付けて規定されている。

【１１９７１】

図１２６５に示した通り、大当たり種別として「大当たりＡ４３」に対しては、当選時の遊技状態によらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１００００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１００００」がそれぞれ規定されている。このため、「大当たりＡ４３」に当選した場合は、第１終了条件として、特別図柄の合算変動回数１００００回が設定され、第２終了条件として第２特別図柄変動回数１００００回が設定される。なお、「大当たりＡ４３」が設定された大当たり遊技の終了後には、第１時短状態が設定されるため、「大当たりＡ４３」が設定された場合には、時短終了条件（第１終了条件、第２終了条件）が成立すること無く、第１時短状態が終了するよりも前に次の大当たり遊技が実行されることになる。

【１１９７２】

また、図１２６５に示した通り、「大当たりＢ４３」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態、及び第２時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」が規定され、当選時の遊技状態が第１時短状態である場合に、時短カウンタ２０３ｈの値「１００００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１００００」が規定されている。通常状態、

及び第２時短状態中に実行された特別図柄抽選で大当たり当選し、「大当たりＢ４３」が設定された場合には、その大当たり遊技の終了後に第２時短状態が設定されるように構成しており、第２時短状態の第１終了条件として、特別図柄の合算変動回数１００回が設定される。なお、第２時短状態が設定された場合には、右打ち遊技を行ったとしても第２特別図柄抽選を実行させることが困難であるため、第２終了条件を設定するための値（特図２カウンタ２０３Ａａの値）が規定されていない。

【１１９７３】

一方で、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選で大当たり当選し、「大当たりＢ４３」が設定された場合には、その大当たり遊技の終了後に第１時短状態が設定されるように構成しており、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の合算変動回数１０００００回が設定され、第２終了条件として、第２特別図柄変動回数１００００回が設定される。

【１１９７４】

つまり、第１時短状態中に「大当たりＢ４３」が設定された場合には、「大当たりＡ４３」が設定された場合と同一内容の時短状態（時短回数１００００回の第１時短状態）が設定されることになる。このように構成することで、第１時短状態が設定されている場合には、何れの特別図柄種別（第１特別図柄、第２特別図柄）の特別図柄抽選で大当たり当選した場合であっても、その大当たり遊技終了後に、実質次回の大当たり遊技が実行されるまで継続する第１時短状態が設定されるため、第１時短状態中に実行された第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて、第２時短状態が設定されてしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１１９７５】

次に、図１２６５を参照して、特別図柄抽選で時短図柄当選した場合に付与される時短終了条件の内容について詳細に説明する。本第４３制御例では、特別図柄抽選で時短図柄当選した場合に、時短図柄種別として、第２時短状態が設定される時短図柄Ａ群（時短Ａ群）と、第１時短状態が設定される時短図柄Ｂ群（時短Ｂ群）と、に含まれる何れかの時短図柄種別を決定可能に構成している。

【１１９７６】

まず、時短図柄Ａ群のうち、「時短図柄Ａ１」に対しては、当選時の遊技状態に関わらず、時短カウンタ２０３ｈの値「１」が規定されている。このため、「時短図柄Ａ１」に当選した場合は、第２時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１回が設定される。ここで、本第４３制御例では、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、第１特別図柄抽選にて時短図柄当選の判定を実行するように構成している。よって、通常状態において実行される第１特別図柄抽選にて「時短図柄Ａ１」に当選した場合には、遊技状態を通常状態から第２時短状態へと移行させることができるため、遊技者に有利な特典が付与されることになる。一方、第２時短状態、及び、第１時短状態において実行される第１特別図柄抽選にて「時短図柄Ａ１」に当選した場合には、当選時における時短状況（設定されている時短種別や、残時短回数）に関わらず、時短回数１回の第２時短状態が設定されてしまうため、遊技者に不利な特典が付与されることになる。

【１１９７７】

つまり、本第４３制御例では、特別図柄抽選にて時短図柄当選した場合であっても、遊技者に不利な特典が付与され得るように構成しているため、遊技者に有利な遊技状態（例えば、第１時短状態）が設定されている間であっても、常に危機感を持たせた遊技を行わせることができる。なお、上述した通り、本第４３制御例では、第１特別図柄抽選のみ時短図柄判定を実行可能に構成しており、第２特別図柄抽選では時短図柄判定が実行されないように構成している。

【１１９７８】

よって、主として第２特別図柄抽選が実行される第１時短状態が設定される場合として、特図１保留を獲得している状態で第１時短状態が設定された場合、例えば、第２時短状

態中に実行された第１特別図柄抽選にて時短図柄当選し、第１時短状態が設定された場合の方が、特図１保留を獲得していない状態で第１時短状態が設定された場合、例えば、第１時短状態中に実行された第２特別図柄抽選の結果に基づいて大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技終了後に再度第１時短状態が設定された場合よりも、第１時短状態中に第１特別図柄抽選が実行され易くなることから、第１時短状態の時短終了条件が成立すること無く、時短図柄当選に基づいて強制的に第１時短状態が終了する可能性が高くなるため、遊技者に不利な第１時短状態といえる。

【１１９７９】

一方、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選の結果に基づいて大当たり遊技が複数回実行されている状況では、長時間の間、右打ち遊技が継続して実行されているため、特図１保留が残存している可能性が極めて低くなる。よって、時短図柄当選に基づいて強制的に第１時短状態が終了する可能性が低くなり、遊技者に有利な第１時短状態といえる。このように、第１時短状態中の遊技が継続すればするほど、第１時短状態を終了させ難くすることができることから、第１時短状態が長時間継続している遊技者に対して、有利な特典を付与し易くすることができる。

【１１９８０】

次に、「時短図柄Ａ２」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態、第２時短状態である場合には、第２時短状態が設定され、当選時の遊技状態が第１時短状態である場合には、第１時短状態が設定されるように規定されている。より具体的には、当選時が通常状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「１０」が規定され、当選時が第２時短状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「２０」が規定されている。一方、当選時が第１時短状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１」が規定されている。

【１１９８１】

つまり、通常状態中に「時短図柄Ａ２」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）１０回が規定された第２時短状態が設定され、第２時短状態中に「時短図柄Ａ２」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）２０回が規定された第２時短状態が設定され、第１時短状態中に「時短図柄Ａ２」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）１００回、第２終了条件として特図２変動回数１回が規定された第１時短状態が設定される。

【１１９８２】

次に、「時短図柄Ａ３」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態、第２時短状態である場合には、第２時短状態が設定され、当選時の遊技状態が第１時短状態である場合には、第１時短状態が設定されるように規定されている。より具体的には、当選時が通常状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「３０」が規定され、当選時が第２時短状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「５０」が規定されている。一方、当選時が第１時短状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「５」が規定されている。

【１１９８３】

つまり、通常状態中に「時短図柄Ａ３」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）３０回が規定された第２時短状態が設定され、第２時短状態中に「時短図柄Ａ３」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）５０回が規定された第２時短状態が設定され、第１時短状態中に「時短図柄Ａ３」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）１００回、第２終了条件として特図２変動回数５回が規定された第１時短状態が設定される。

【１１９８４】

次に、「時短図柄Ａ４」に対しては、当選時の遊技状態が通常状態、第２時短状態である場合には、第２時短状態が設定され、当選時の遊技状態が第１時短状態である場合には、第１時短状態が設定されるように規定されている。より具体的には、当選時が通常状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「７０」が規定され、当選時が第２時短状態に対して

時短カウンタ２０３ｈの値「１００」が規定されている。一方、当選時が第１時短状態に対して時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１０」が規定されている。

【１１９８５】

つまり、通常状態中に「時短図柄Ａ４」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）７０回が規定された第２時短状態が設定され、第２時短状態中に「時短図柄Ａ４」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）１００回が規定された第２時短状態が設定され、第１時短状態中に「時短図柄Ａ４」に当選した場合には、第１終了条件として特図変動回数（合算特図抽選回数）１００回、第２終了条件として特図２変動回数１０回が規定された第１時短状態が設定される。

【１１９８６】

以上、説明をした通り、本第４３制御例におけるパチンコ機１０は、通常状態、第２時短状態において実行された特別図柄抽選にて時短図柄当選した場合に第２時短状態が設定される時短図柄Ａ群として、４種類の時短図柄種別（時短図柄Ａ１～Ａ４）を有しており、設定される時短図柄種別に応じて、成立のし易さが異なる時短終了条件（第１終了条件）が設定されるように構成している。そして、何れの時短図柄種別であっても、通常状態にて時短図柄当選した場合よりも、第２時短状態にて時短図柄当選した場合の方が、成立し難い時短終了条件（第１終了条件）が設定されるように構成している。

【１１９８７】

このように構成することで、第２時短状態中に時短図柄当選した場合において、既に設定されている第２時短状態の残時短回数よりも大きい時短回数を新たに設定し易くすることができる。

【１１９８８】

また、第１時短状態中に実行された第１特別図柄抽選で時短図柄当選し、時短図柄Ａ群が設定された場合には、一部の時短図柄種別（時短図柄Ａ１）以外の時短図柄種別（Ａ２～Ａ４）にて、第１時短状態を設定可能に構成している。このように構成することで、第１時短状態中に第１特別図柄抽選が実行されたことに基づいて、第２時短状態が設定されてしまうことを抑制することができる。加えて、一部の時短図柄種別（時短図柄Ａ１）が設定された場合には、第１時短状態の終了条件が成立していない場合であっても、新たに第２時短状態が設定され遊技者に不利な遊技結果となるため、第１時短状態中に第１特別図柄抽選を継続して実行するといった不適切な遊技を行う遊技者に対してペナルティーを課すことができる。

【１１９８９】

次に、時短図柄Ｂ群の内容について説明をする。本第４３制御例では、時短図柄Ｂ群として、３種類の時短図柄種別（時短図柄Ｂ１～時短図柄Ｂ３）を有しており、何れの時短図柄種別（時短図柄Ｂ１～Ｂ３）に当選した場合であっても、当選時の遊技状態に関わらず、第１時短状態が設定されるように構成している。また、図１２６５に示した通り、設定される時短図柄種別に応じて、第１時短状態の終了条件が異なるように規定されており、具体的には、「時短図柄Ｂ１」であって、当選時の遊技状態が通常状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１」が規定されている。このため、通常状態にて「時短図柄Ｂ１」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１回が設定される。また、当選時の遊技状態が第２時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「８」が規定されている。このため、第２時短状態にて「時短図柄Ｂ１」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）８回が設定される。さらに、当選時の遊技状態が第１時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ

２０３Ａｂの値「１０」が規定されている。このため、第１時短状態にて「時短図柄Ｂ１」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１０回が設定される。

【１１９９０】

次に、「時短図柄Ｂ２」であって、当選時の遊技状態が通常状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「５」が規定されている。このため、通常状態にて「時短図柄Ｂ２」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）５回が設定される。また、当選時の遊技状態が第２時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１５」が規定されている。このため、第２時短状態にて「時短図柄Ｂ２」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１５回が設定される。さらに、当選時の遊技状態が第１時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１０」が規定されている。このため、第１時短状態にて「時短図柄Ｂ２」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１０回が設定される。

【１１９９１】

次に、「時短図柄Ｂ３」であって、当選時の遊技状態が通常状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「８」が規定されている。このため、通常状態にて「時短図柄Ｂ３」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）８回が設定される。また、当選時の遊技状態が第２時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１０００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１００」が規定されている。このため、第２時短状態にて「時短図柄Ｂ３」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１０００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１００回が設定される。さらに、当選時の遊技状態が第１時短状態に対して、時短カウンタ２０３ｈの値「１０００」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１００」が規定されている。このため、第１時短状態にて「時短図柄Ｂ３」に当選した場合は、第１時短状態の第１終了条件として、特別図柄の変動回数（合算特図抽選回数）１０００回が設定され、第１時短状態の第２終了条件として、第２特別図柄の変動回数（特図２変動回数）１００回が設定される。

【１１９９２】

次に、図１２６６（ａ）を参照して、本第４３制御例における小当たり種別選択テーブル２０２Ａｆの詳細について説明する。図１２６６（ａ）は、この小当たり種別選択テーブル２０２Ａｆの規定内容を示した図である。図１２６６（ａ）に示した通り、小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～９９」の全範囲に対して、小当たり種別として「小当たりＡ４３」が対応付けて規定されている。ここで、「小当たりＡ４３」に当選した場合に実行される小当たり遊技では、小当たり遊技の実行中に右打ち遊技を行い続けるだけで、容易に特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３へと遊技球を入球させることができるようにＶ入賞装置６５０が開放制御されるように構成している。

【１１９９３】

そして、小当たり遊技中に特定領域（Ｖゲート）６５０ｅ３へと遊技球を入球させた場合には、大当たり遊技（大当たりＡ４３）の実行権利を獲得し、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行されるように構成している。

【１１９９４】

次に、図１２６６（ｂ）を参照して、本第４３制御例における時短種別選択４３テーブル２０２Ａｈの詳細について説明する。この時短種別選択４３テーブル２０２Ａｈは、上述した第４０制御例における時短種別選択テーブル２０２ｊａ（図１１６３（ｂ）参照）と同様に、特別図柄の抽選で時短図柄に当選した場合に、時短図柄の種別を決定するために参照されるデータテーブルである。図１２６６（ｂ）に示した通り、時短種別選択４３テーブル２０２Ａｈには、「時短図柄Ａ１」～「時短図柄Ｂ３」の７種類の時短図柄種別のそれぞれに対して、第１当たり種別カウンタＣ２の値の範囲が対応付けて規定されている。

【１１９９５】

具体的には、図１２６６（ｂ）に示した通り、当選時の遊技状態が通常状態である場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～４９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ１」が対応付けて規定され、「５０～５９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ２」が対応付けて規定され、「６０～６４」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ３」が対応付けて規定され、「６５～６９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ４」が対応付けて規定され、「７０～９４」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ１」が対応付けて規定され、「９５～９８」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ２」が対応付けて規定され、「９９」の値に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ３」が対応付けて規定されている。

【１１９９６】

一方、当選時の遊技状態が第１時短状態、或いは、第１時短状態である場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ１」が対応付けて規定され、「３０～３９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ２」が対応付けて規定され、「４０～４４」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ３」が対応付けて規定され、「４５～４９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ４」が対応付けて規定され、「５０～７９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ１」が対応付けて規定され、「８０～８９」の範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ２」が対応付けて規定され、「９０～９９」の値に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ３」が対応付けて規定されている。

【１１９９７】

次に、図１２６１（ｂ）を参照して、本第４３制御例の主制御装置１１０内に設けられているＲＡＭ２０３の詳細について説明する。図１２６１（ｂ）は、本第４３制御例におけるＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。図１２６１（ｂ）に示した通り、本第４３制御例におけるＲＡＭ２０３は、上述した第４０制御例におけるＲＡＭ２０３の構成（図１１５９（ｂ）参照）に対して、普電作動カウンタ２０３ｊａに代えて特図２カウンタ２０３Ａｂを設けた点と、新たに特図抽選カウンタ２０３Ａａ、天井到達済フラグ２０３Ａｃを設けた点でのみ相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成に対しては同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１１９９８】

特図抽選カウンタ２０３Ａａは、特別図柄抽選の実行回数を判別するためのカウンタであって、大当たり遊技が実行される場合に０にセットされる。そして、特別図柄抽選が実行される毎にカウンタの値が１加算される（図１２７６のＳ７０２Ｂ参照）。この特図抽選カウンタ２０３Ａａの値に基づいて、天井特典の付与条件が成立しているか否かの判定が実行され（図１２７６のＳ７０４Ｂ参照）、特図抽選カウンタ２０３Ａａの値が「９９９」であると判別した場合に（図１２７６のＳ７０４Ｂ：Ｙｅｓ）、天井特典が付与される。

【１１９９９】

特図２カウンタ２０３Ａｂは、第２特別図柄抽選の実行回数を判別するためのカウンタであって、時短状態（第１時短状態、第２時短状態）を終了させるための時短終了条件として、第２特別図柄抽選の実行回数（特図２抽選回数）に基づいて成立する第２終了条件が設定される場合に、第２終了条件が成立するまでの特図２抽選回数に対応した値が設定

される（図１２７０のＳ２２６Ａ参照）。そして、第２終了条件が設定されている時短状態（第１時短状態）中に第２特別図柄変動が実行される毎にカウンタの値が１減算される（図１２７５のＳ６０９Ｂ参照）。この特図２カウンタ２０３Ａｂの値に基づいて、時短終了条件（第２終了条件）が成立したか否かの判定が実行され（図１２７５のＳ６１０Ｂ参照）、特図２カウンタ２０３Ａｂの値が０であると判別した場合に（図１２７５のＳ６１０Ｂ：Ｙｅｓ）、第２終了条件が成立したと判定し、時短状態を終了させる処理が実行される。

【１２０００】

天井到達済フラグ２０３Ａｃは、天井特典が付与されたことを示すためのフラグであって、天井更新処理４３（図１２７６のＳ２５２Ｂ参照）において、天井特典を付与することが決定した場合に（図１２７６のＳ７０４Ｂ：Ｙｅｓ）、オンに設定される。そして、大当たり遊技が実行される場合にオフに設定される（図１２７０のＳ２５１Ｂ参照）。

【１２００１】

本第４３制御例では、前回の大当たり遊技間に実行される特別図柄抽選の実行回数が所定回数（９９９回）に到達した場合に、特別図柄抽選の結果に関わらず時短回数が４０回の第２時短状態が設定される天井特典を付与するように構成している。そして、天井特典によって設定された第２時短状態の時短終了条件が成立した場合には、通常状態が設定されるように構成している。ここで、上述した第１３制御例では、大当たり遊技間に実行される特別図柄抽選の実行回数に応じて有利度合いの異なる天井特典を段階的に付与可能に構成していたが、本第４３制御例では、大当たり遊技間に天井特典が１回のみ付与されるように構成している。つまり、天井特典によって設定された第２時短状態の時短終了条件が成立し、通常状態が設定された場合には、次の大当たり遊技が実行されるまで天井特典を付与するための情報が更新されないように構成している。

【１２００２】

このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選を目指すといった従来の遊技目的以外の遊技結果に基づいて遊技者に過剰に有利となる特典が付与されてしまうことを抑制することができる。また、通常状態中のパチンコ機１０を遊技するにあたって、天井特典が付与されていない通常状態であるか否かを予測する楽しみを提供することができる。

【１２００３】

次に、図１２６７（ａ）を参照して、本第４３制御例における音声ランプ制御装置１１３内に設けられているＲＯＭ２２２の詳細について説明する。図１２６７（ａ）は、本第４３制御例におけるＲＯＭ２２２の構成を示すブロック図である。図１２６７（ａ）に示した通り、本第４３制御例におけるＲＯＭ２２２は、上述した第４０制御例におけるＲＯＭ２２２の構成（図１１６４（ａ）参照）に対して、背景モード選択テーブル２２２Ａａ、演出図柄選択テーブル２２２Ａｂが追加されている点で相違している。

【１２００４】

背景モード選択テーブル２２２Ａａは、左打ち遊技状態中における背景モード種別（図１２５４参照）を決定するために参照されるデータテーブルであって、特別図柄抽選にて第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に参照されるデータテーブルである。ここで、この背景モード選択テーブル２２２Ａａの詳細について、図１２６８を参照して説明する。

【１２００５】

図１２６８は、背景モード選択テーブル２２２Ａａの規定内容を示した図である。図１２６８に示した通り、この背景モード選択テーブル２２２Ａａは、時短図柄当選時の遊技状態と、当選した第２時短状態の時短終了条件（時短回数）と、獲得済みの特図１保留の先読み結果と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値とに対応させて各種背景モードがそれぞれ規定されている。

【１２００６】

ここで、本第４３制御例では、左打ち遊技状態中の背景モード種別として、「不利モー

ド」、「通常モード」、「有利モード」の３種類の背景モード種別を設定可能に構成しており、「不利モード」が設定されている場合が最も通常状態の可能性が高く、「有利モード」が設定されている場合が最も第２時短状態の可能性が高くなるように構成している。よって、第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に参照される背景モード選択テーブル２２２Ａａには、「不利モード」が設定され難く、「有利モード」が設定され易くなるように各背景モード種別が規定されている。

【１２００７】

具体的には、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「１回」の第２時短状態が設定される場合には、その第２時短状態中に実行され得る第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を既に有しており、且つ、その特図１保留の先読み結果が当たり当選である場合（「対象当たり保留あり」の場合）には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の取り得る全範囲「０～９９」に対して、背景モード種別「有利モード」が規定されており、対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「８０～８４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「８５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２００８】

また、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「１０回～２９回」の第２時短状態が設定される場合には、対象当たり保留ありの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「５０～５４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「５５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「５０～５４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「５５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２００９】

さらに、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「３０回～」の第２時短状態が設定される場合には、対象当たり保留ありの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「３０～５４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「５５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「３０～３４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「３５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２０１０】

一方で、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「２０回」の第２時短状態が設定される場合には、その第２時短状態中に実行され得る第１特別図柄抽選の実行権利（特図１保留）を既に有しており、且つ、その特図１保留の先読み結果が当たり当選である場合（「対象当たり保留あり」の場合）には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の取り得る全範囲「０～９９」に対して、背景モード種別「有利モード」が規定されており、対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「１０～１４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「１５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２０１１】

また、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「５０回」の第２時短状態が設定される場合には、対象当たり保留ありの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「５～１４」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「１５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウ

ンタ２２３ｆ１の値が「０～４」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「５～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２０１２】

さらに、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「１００回」の第２時短状態が設定される場合には、対象当たり保留ありの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、背景モード種別「不利モード」、「３０～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。対象当たり保留なしの場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４」の範囲に対して、背景モード種別「通常モード」、「４～９９」の範囲に対して「有利モード」が規定されている。

【１２０１３】

演出図柄選択テーブル２２２Ａｂは、第１時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための演出用時短図柄の表示態様を決定する際に参照されるデータテーブルであって、時短図柄当選時における遊技状態と、時短図柄当選時における背景モード種別と、に基づいて、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値に対応させて各演出図柄（演出用時短図柄）の表示態様が規定されている。

【１２０１４】

ここで、図１２６９を参照して、演出図柄選択テーブル２２２Ａｂの詳細な内容について説明をする。図１２６９は、演出図柄選択テーブル２２２Ａｂに規定されている内容を示した図である。図１２６９に示した通り、演出図柄選択テーブル２２２Ａｂには、当選時の遊技状態、設定される時短回数、設定されている背景モード種別と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値に対応させて演出図柄として決定される図柄種別がそれぞれ規定されている。

【１２０１５】

具体的には、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「１回」の第１時短状態が設定される場合であって、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～６９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」、「７０～９９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」が規定されており、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、演出図柄「スイカ」が規定されている。

【１２０１６】

また、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「５回」の第１時短状態が設定される場合であって、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」、「５０～９９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」が規定されており、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」が規定されている。

【１２０１７】

さらに、当選時の遊技状態が「通常状態」であって、時短回数「８回」の第１時短状態が設定される場合であって、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」が規定されており、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」が規定されている。

【１２０１８】

一方、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「８回」の第１時短状態が設定される場合には、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～１９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」、「２０～９９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」が規定されてお

り、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、演出図柄「スイカ」、「５０～９９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」が規定されている。

【１２０１９】

また、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「１５回」の第１時短状態が設定される場合であって、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～８９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」、「９０～９９」の範囲に対して、演出図柄「人参」が規定されており、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～６９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」、「７０～９９」の範囲に対して、演出図柄「人参」が規定されている。

【１２０２０】

さらに、当選時の遊技状態が「第２時短状態」であって、時短回数「１００回」の第１時短状態が設定される場合であって、現在の背景モードが「不利モード」、「通常モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、演出図柄「チェリー」、「８０～９９」の範囲に対して、演出図柄「人参」が規定されており、現在の背景モードが「有利モード」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の範囲に対して、演出図柄「人参」が規定されている。

【１２０２１】

以上、説明をした通り、本第４３制御例では、同一の時短種別の第１時短状態が設定される場合であっても、設定されている背景モード種別に応じて異なる演出図柄で時短図柄当選したことを遊技者に報知するように構成している。このように構成することで、遊技者は、背景モード種別と、演出図柄を組み合わせて第１時短状態の時短回数を予測することになり、演出効果を高めることができる。

【１２０２２】

＜第４３制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図１２７０から図１２７６を参照して、本第４３制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理の詳細について説明する。本第４３制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第４０制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１により実行される各種制御処理に対して、時短図柄当選した場合に実行される処理の内容と、天井特典を付与するための処理の内容を変更している点で相違し、それ以外の処理内容は同一である。より具体的には、上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０に対して、特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）に代えて特別図柄変動処理４３（図１２７０のＳ１０４Ｂ参照）を、時短更新処理４０（図１１７１参照）に代えて時短更新処理４３（図１２７５のＳ２２４Ｂ）を設けた点と、新たに、天井更新処理４３（図１２７６のＳ２５２Ｂ参照）を追加した点で相違している。それ以外の処理内容は同一であり、同一の内容については、その詳細な説明を省略する。

【１２０２３】

まず、図１２７０を参照して、本第４３制御例における特別図柄変動処理４３（Ｓ１０４Ｂ）の詳細について説明する。図１２７０は、この特別図柄変動処理４３（Ｓ１０４Ｂ）を示すフローチャートである。この特別図柄変動処理４３（Ｓ１０４Ｂ）は、上述した第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）と同様に、特別図柄の変動表示中における第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂの表示設定等を行うための処理である。

【１２０２４】

この第４３制御例における特別図柄変動処理４３（Ｓ１０４Ｂ）のうち、Ｓ２０１～Ｓ２０７，Ｓ２１１～Ｓ２１９，Ｓ２２１～Ｓ２２３，Ｓ２０９Ａ，Ｓ２１０Ａ，Ｓ２２５Ａ，Ｓ２２６Ａの各処理では、それぞれ上述した第４０制御例における特別図柄変動処理４０（図１１６６参照）のＳ２０１～Ｓ２０７，Ｓ２１１～Ｓ２１９，Ｓ２２１～Ｓ２２

３，Ｓ２０９Ａ，Ｓ２１０Ａ，Ｓ２２５Ａ，Ｓ２２６Ａの各処理と同一の処理が実行される。

【１２０２５】

また、本第４３制御例における特別図柄変動処理４３（Ｓ１０４Ｂ）では、Ｓ２１９の処理が終了すると、大当たり遊技を開始させるための処理として、時短カウンタ２０３ｈの値、特図１カウンタ２０３Ａｂの値を０にリセットする処理を実行し（Ｓ２２０Ｂ）、次いで、天井到達済フラグ２０３Ａｃをオフに設定し（Ｓ２５１Ｂ）、Ｓ２２１の処理を実行して、本処理を終了する。Ｓ２５１Ｂの処理を実行することにより、大当たり遊技が終了した状態では天井到達済フラグ２０３Ａｃがオフの状態となるため、大当たり遊技終了後に実行される特別図柄抽選の実行回数に対応させて特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を加算することができる。

【１２０２６】

また、本第４３制御例における特別図柄変動処理４３（図１１６６のＳ１０４Ｂ参照）では、Ｓ２１８の処理において、今回の特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別された場合に（Ｓ２１８：Ｎｏ）、次いで、今回の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２２５Ａ）、時短図柄当選である場合は（Ｓ２２５Ａ：Ｙｅｓ）、今回当選した時短図柄の種別に対応する時短終了条件を、時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３Ａｂに対して設定し（Ｓ２２６Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２２５Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２２５Ａ：Ｎｏ）、処理をＳ２２２へと移行する。

【１２０２７】

また、本第４３制御例における特別図柄変動処理４３（図１１６６のＳ１０４Ｂ参照）では、Ｓ２２２の処理において今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合（Ｓ２２２：Ｎｏ）、またはＳ２２３処理が終了した場合に、時短更新処理４３を実行して（Ｓ２２４Ｂ）、その後、天井更新処理４３を実行し（Ｓ２５２Ｂ）、本処理を終了する。なお、時短更新処理４３（Ｓ２２４Ｂ）の詳細については、図１２７５を参照して後述し、天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）の詳細については、図１２７６を参照して後述する。

【１２０２８】

次に、図１２７１を参照して、上述した特別図柄判定処理４３（Ｓ２０９Ｂ）の詳細について説明する。この特別図柄判定処理４３（Ｓ２０９Ｂ）は、第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）に代えて実行される処理であり、第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）と同様に、特別図柄の抽選を実行するための処理である。この第４０制御例における特別図柄判定処理４０（Ｓ２０９Ａ）のうち、Ｓ３０１～Ｓ３０５の各処理では、それぞれ第３２制御例における特別図柄判定処理（図９６５参照）のＳ３０１～Ｓ３０５の各処理と同一の処理が実行される。

【１２０２９】

また、本第４３制御例における特別図柄判定処理４３（図１２７１参照）では、Ｓ３０３の処理において特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ３０３：Ｎｏ）、外れの種別に応じた制御を実行するための外れ時処理４３を実行して（Ｓ３１１Ｂ）、本処理を終了する。この外れ時処理４３（Ｓ３１１Ｂ）の詳細について、図１２７２を参照して説明する。

【１２０３０】

図１２７２は、この外れ時処理４３（Ｓ３１１Ｂ）を示すフローチャートである。この外れ時処理４３（Ｓ３１１Ｂ）では、まず、現在が天井中であるかを判別し（Ｓ２１０１Ｂ）、天井中ではないと判別した場合は（Ｓ２１０１Ｂ：Ｎｏ）、次に、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２１０１Ａ）、抽選結果が時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２１０１Ａ：Ｙｅｓ）、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する時短図柄種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる時短図柄として設定し（Ｓ２１０２Ａ）、本処理を終了する。

【１２０３１】
一方、Ｓ２１０１Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合（Ｓ２１０１Ａ：Ｎｏ）、或いは、ＳＴ２１０１Ｂの処理において、天井中であると判別した場合（Ｓ２１０１Ｂ：Ｙｅｓ）は、次いで、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２１０３Ａ）、小当たりであると判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｙｅｓ）、特別図柄の抽選結果を小当たりに設定し（Ｓ２１０４Ａ）、小当たり種別カウンタＣ５の値に対応する小当たり種別を、第１図柄表示装置３７ａ，３７ｂに表示させる小当たり図柄として設定し（Ｓ２１０５Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２１０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではないと判別した場合は（Ｓ２１０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２１０４Ａ，Ｓ２１０５Ａの各処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。
【１２０３２】
この外れ時処理４３（Ｓ３１１Ｂ）（図１２７２参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が外れ（大当たり以外）である場合に、抽選結果に応じた第１図柄の表示を好適に設定することができる。
【１２０３３】
次に、図１２７３を参照して、本第４３制御例における特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）の詳細について説明する。図１２７３は、この特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）を示すフローチャートである。この特別図柄変動パターン選択処理４０（Ｓ２１０Ａ）は、上述した第３２制御例における特別図柄変動パターン選択処理（図９６６参照）と同様に、特別図柄の抽選結果に応じた第１図柄の変動パターンを選択するための処理である。
【１２０３４】
この第４３制御例における特別図柄変動パターン選択処理４０（図１２７３参照）のうち、Ｓ４０１～Ｓ４０８の各処理では、それぞれ第３２制御例における変動パターン選択処理（図９６６参照）のＳ４０１～Ｓ４０８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４３制御例における変動パターン選択処理４０（図１２７３参照）では、Ｓ４０１の処理において、特別図柄の抽選結果が大当たりではないと判別した場合に（Ｓ４０１：Ｎｏ）、外れ（小当たり、時短図柄当選含む）時の変動パターンを選択するための外れ時種別決定処理４０を実行して（Ｓ４２１Ａ）、処理をＳ４０３へと移行する。この外れ時種別決定処理４０（Ｓ４２１Ａ）の詳細について、図１２７４を参照して説明する。
【１２０３５】
図１２７４は、この外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ａ）を示すフローチャートである。外れ時種別決定処理（Ｓ４２１Ａ）では、まず、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選であるか否かを判別し（Ｓ２２０１Ａ）、時短図柄当選であると判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｙｅｓ）、時短種別選択４３テーブル２０２Ａｈ（図１２６６（ｂ）参照）を参照して時短図柄の種別を決定し（Ｓ２２０２Ａ）、本処理を終了する。一方、Ｓ２２０１Ａの処理において、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選ではないと判別した場合は（Ｓ２２０１Ａ：Ｎｏ）、次いで、特別図柄の抽選結果が小当たりであるか否かを判別し（Ｓ２２０３Ａ）、抽選結果が小当たりであると判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｙｅｓ）、小当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｆ（図１２６６（ａ）参照）を参照して小当たり種別を決定し（Ｓ２２０４Ａ）、本処理を終了する。これに対し、Ｓ２２０３Ａの処理において、今回の特別図柄の抽選結果が小当たりではない（即ち、通常の外れ（完全外れ）である）と判別した場合は（Ｓ２２０３Ａ：Ｎｏ）、Ｓ２２０４Ａの処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。
【１２０３６】
この外れ時種別決定処理４０（図１２７４参照）を実行することにより、特別図柄の抽選結果が時短図柄当選若しくは小当たりであった場合に、時短図柄種別若しくは小当たり種別を好適に決定することができる。
【１２０３７】

次に、図１２７５を参照して、本第４３制御例における時短更新処理４３（Ｓ２２４Ｂ）の詳細について説明する。この時短更新処理４３（Ｓ２２４Ｂ）は、第４０制御例における時短更新処理４０（図１１７１参照）に代えて実行される処理であり、時短更新処理４０（図１１７１参照）と同様に、時短終了条件を判定するための各種カウンタ値を更新すると共に、時短終了条件が成立したと判定した場合に時短状態を終了させるための処理である。

【１２０３８】

この第４３制御例における時短更新処理４３（Ｓ２２４Ｂ）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ６０１Ｂ）、０よりも大きく無い（０である）と判別した場合は（Ｓ６０１Ｂ：Ｎｏ）、現在が時短状態では無いため本処理を終了」する。また、Ｓ６０１Ｂの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ６０１Ｂ：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｓ６０２Ｂ）、時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定し（Ｓ６０３Ｂ）、次いで、減算後の時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別する（Ｓ６０４Ｂ）。

【１２０３９】

Ｓ６０４Ｂの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０であると判別した場合は（Ｓ６０４Ｂ：Ｙｅｓ）、特別図柄抽選の実行回数に基づく時短終了条件（第１終了条件）が成立した場合であるため、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６０５Ｂ）、特図２カウンタ２０３Ａｂの値を０に設定し（Ｓ６０６Ｂ）、通常状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ６０７Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０４０】

一方、Ｓ６０４Ｂの処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０では無い（０よりも大きい）と判別した場合は（Ｓ６０４Ｂ：Ｎｏ）、次に、今回の抽選（特別図柄抽選）が特図２（第２特別図柄）であるかを判別し（Ｓ６０８Ｂ）、特図２であると判別した場合は（Ｓ６０８：Ｙｅｓ）、特図２カウンタ２０３Ａｂの値を１減算し（Ｓ６０９Ｂ）、減算後の特図２カウンタ２０３Ａｂの値が０であるかを判別する（Ｓ６１０Ｂ）。

【１２０４１】

Ｓ６１０Ｂの処理において、減算後の特図２カウンタ２０３Ａｂが０であると判別した場合は（Ｓ６１０Ｂ：Ｙｅｓ）、第２特別図柄抽選の実行回数（特図２変動回数）に基づいて成立する時短終了条件（第２終了条件）が成立した場合であるため、遊技状態を通常状態に設定し（Ｓ６１１Ｂ）、時短カウンタ２０３ｈの値を０に設定し（Ｓ６１２Ｂ）、通常状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ６１３Ｂ）、本処理を終了する。また、Ｓ６０８Ｂの処理において、今回の抽選が特図２では無いと判別した場合（Ｓ６０８Ｂ：Ｎｏ）、或いは、Ｓ６１０Ｂの処理において、特図２カウンタ２０３Ａｂの値が０では無い（０よりも大きい）と判別した場合は（Ｓ６１０Ｂ：Ｎｏ）、時短状態を終了させるための時短終了条件が成立していない場合であるため、そのまま本処理を終了する。

【１２０４２】

なお、本第４３制御例では、時短状態を終了させるための時短終了条件として、特別図柄抽選の実行回数（合算特図抽選回数）に基づいて成立する第１終了条件と、第２特別図柄抽選の実行回数（特図２変動回数）に基づいて成立する第２終了条件と、を設定可能に構成しているが、時短終了条件を３種類以上設定可能に構成しても良く、例えば、上述した第４０制御例におけるパチンコ機１０のように、小当たり当選した回数や普通図柄抽選で当り当選したことに基づいて実行される普図当たり遊技の実行回数に基づいて成立する時短終了条件を設定可能に構成しても良い。

【１２０４３】

また、本第４３制御例では、設定されている時短状態の種別（第２時短状態、第１時短状態）や、時短状態の設定契機（時短図柄当選、大当たり当選、天井特典）に関わらず、同一内容の時短更新処理４３（図１２７５参照）を実行するように構成しているが、これに限ること無く、設定されている時短状態の種別（第１時短状態、第２時短状態）や、時

短状態の設定契機（時短図柄当選、大当たり当選、天井特典）に応じて、時短終了条件を成立させるための更新処理の内容を異ならせても良い。

【１２０４４】

次に、図１２７６を参照して、天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）の処理内容について説明をする。図１２７６は、天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）は、特別図柄変動処理４３（図１２７０のＳ１０４Ｂ）において、特別図柄抽選の結果が外れ（小当たり含む）である場合に実行される処理であって、天井特典を付与するための条件（天井付与条件）に関する情報を更新するための処理と、天井付与条件が成立した場合に天井特典を付与するための処理が実行される。

【１２０４５】

天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）が実行されると、まず、天井到達済フラグ２０３Ａｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ７０１Ｂ）、天井到達済フラグ２０３Ａｃがオンに設定されていると判別した場合、即ち、既に天井特典が付与された後の状態であると判別した場合には（Ｓ７０１Ｂ：Ｙｅｓ）、再度、天井付与条件を成立させることができないため、そのまま本処理を終了する。

【１２０４６】

一方、Ｓ７０１Ｂの処理において、天井到達済フラグ２０３Ａｃがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ７０１Ｂ：Ｎｏ）、特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を１加算し（Ｓ７０２Ｂ）、特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を示す残回数コマンドを設定する（Ｓ７０３Ｂ）。このＳ７０３Ｂの処理によって残回数コマンドが設定されると、他の処理にて設定される各種状態コマンドの一部として音声ランプ制御装置１１３へと出力される。そして、音声ランプ制御装置１１３側で残回数コマンドを含む状態コマンドを受信することで、従遊技状態格納エリア２２３ｇに、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の実行回数の総数を示す情報（変動回数情報）が格納される。ここで格納された変動回数情報に基づいて、天井特典が付与されるまでに必要とされる残変動回数が算出され、不利モード中の演出画面（図１２５４（ｂ）参照）にて表示領域Ｄｍ７に、天井特典が付与されるまでの残変動回数が表示される。

【１２０４７】

なお、本第４３制御例では、大当たり遊技終了後に実行された特別図柄抽選の実行回数に対応させて特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を加算するように構成しているが、これに限ること無く、大当たり遊技終了後に、天井付与条件が成立するまでの残変動回数に対応する値（例えば、９９９）を特図抽選カウンタ２０３Ａａの値に設定し、特別図柄抽選が実行される毎に特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を１減算するように構成しても良い。このように構成することで、特図抽選カウンタ２０３Ａａの値を示す情報コマンドを設定し、その情報コマンドを音声ランプ制御装置１１３側で受信した場合に、受信した情報コマンドに含まれる値に対応する変動回数が、天井付与条件が成立するまでの残変動回数となるため、受信した情報コマンドに含まれる値をそのまま表示領域Ｄｍ７に表示させることが可能となり、音声ランプ制御装置１１３にて実行される第３図柄表示装置８１の表示面に表示させる表示態様を決定するための処理を簡素化することができる。

【１２０４８】

図１２７６に戻り、天井更新処理４３（Ｓ２５２Ｂ）の説明を続ける。Ｓ７０４Ｂの処理では、Ｓ７０２Ｂの処理によって加算された特図抽選カウンタ２０３Ａａの値が９９９に到達したかを判別し（Ｓ７０４Ｂ）、到達したと判別した場合は（Ｓ７０４Ｂ：Ｙｅｓ）、天井付与条件が成立した場合であるため、天井特典を付与するために遊技状態を第２時短状態に設定し（Ｓ７０５Ｂ）、時短カウンタ２０３ｈの値を「４０」に設定し（Ｓ７０６Ｂ）、第２時短状態を示す状態コマンドを設定し（Ｓ７０７Ｂ）、天井到達済フラグ２０３Ａｃをオンに設定し（Ｓ７０８Ｂ）、本処理を終了する。一方、Ｓ７０４Ｂの処理において、特図抽選カウンタ２０３Ａａの値が９９９では無いと判別した場合（Ｓ７０４Ｂ）は、天井付与条件が成立していないため、天井特典を付与するためのＳ７０５Ｂ～Ｓ

７０８Ｂの処理をスキップして本処理を終了する。
【１２０４９】
＜第４３制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞
次に、図１２７７から図１２８２を参照して、本第４３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１により実行される各種制御処理について説明する。まず、図１２７７を参照して、本第４３制御例におけるコマンド判定処理４３（Ｓ３１１３Ｂ）の詳細について説明する。このコマンド判定処理４３（Ｓ３１１３Ｂ）は、上述した第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）に代えて実行される処理であり、コマンド判定処理４０（図１１７４参照）と同様に、主制御装置１１０から受信した各種コマンドの種別に応じた制御を実行するための処理である。
【１２０５０】
この第４３制御例におけるコマンド判定処理４３（図１２７７参照）のうち、Ｓ３２０１～Ｓ３２１１，Ｓ３２１３、およびＳ３２１８の各処理では、それぞれ上述した第３２制御例におけるコマンド判定処理（図９８３参照）のＳ３２０１～Ｓ３２１１，Ｓ３２１３、およびＳ３２１８の各処理と同一の処理が実行される。また、本第４３制御例におけるコマンド判定処理４３（図１２７７参照）のうち、Ｓ３２３２Ａ～Ｓ３２３４Ａの各処理は、それぞれ上述した第４０制御例におけるコマンド判定処理４０（図１１７４参照）のＳ３２３２Ａ～Ｓ３２３４Ａの各処理と同一の処理が実行される。
【１２０５１】
また、本第４３制御例におけるコマンド判定処理４３（図１２７７参照）では、Ｓ３２１１の処理において、状態コマンドを受信したと判別した場合に（Ｓ３２１１：Ｙｅｓ）、状態コマンド処理４３を実行し（Ｓ３２３１Ｂ）、本処理を終了する。この状態コマンド処理４３（Ｓ３２３１Ｂ）の詳細については、図１２７８を参照して後述する。
【１２０５２】
次に、図１２７８を参照して、上述した状態コマンド処理４３（Ｓ３２３１Ｂ）の詳細について説明する。この状態コマンド処理４３（Ｓ３２３１Ｂ）は、上述した通り、第４０制御例における状態コマンド処理４０（図１１７５参照）に代えて実行される処理であり、状態コマンド処理４０（図１１７５参照）と同様に、状態コマンドにより通知された遊技状態に応じた制御を行うための処理である。
【１２０５３】
この第４３制御例における状態コマンド処理４３（図１２７８参照）のうち、Ｓ３４０１，Ｓ３４０２の各処理、および、Ｓ３４２１Ａ，Ｓ３４２６Ａ～Ｓ３４２８Ａの各処理では、それぞれ第４０制御例における状態コマンド４０処理（図１１７５参照）のＳ３４０１，Ｓ３４０２の各処理、および、Ｓ３４２１Ａ，Ｓ３４２６Ａ～Ｓ３４２８Ａの各処理と同一の処理が実行される。
【１２０５４】
また、本第４３制御例における状態コマンド処理４３（図１２７８参照）では、Ｓ３４０２の処理において、今回受信した状態コマンドが通常状態への移行を通知する状態コマンドであると判別した場合に（Ｓ３４０２：Ｙｅｓ）、時短情報更新エリア２２３ｈに記憶されている情報をクリアし（Ｓ３４２１Ａ）、背景モード移行抽選を実行し（Ｓ３４０１Ｂ）、背景モード移行抽選に当選したかを判別し（Ｓ３４０２Ｂ）、抽選に当選したと判別した場合に（Ｓ３４０２Ｂ：Ｙｅｓ）、当選結果に対応する背面画像（背面モード種別に対応した背面画像）を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ３４０３Ｂ）、報知済フラグ２２３Ａｂをオフに設定し（Ｓ３４０４Ｂ）、本処理を終了する。
【１２０５５】
また、Ｓ３４０２Ｂの処理において、背景モード移行抽選に当選しなかったと判別した場合は（Ｓ３４０２Ｂ：Ｎｏ）、非移行フラグ２２３Ａｃをオンに設定し（Ｓ３４０５Ｂ）、本処理を終了する。
【１２０５６】
次に、図１２７９を参照して、待機演出設定処理４３（Ｓ３４２９Ｂ）の詳細について

説明する。図１２７９は、この待機演出設定処理４３（Ｓ３４２９Ｂ）を示すフローチャートである。この待機演出設定処理４３（Ｓ３４２９Ｂ）が実行されると、まず、待機演出フラグ２２３ｊａをオンに設定し（Ｓ３４５１Ａ）、次いで、第１特別図柄の保留球数が０であるか否かを判別する（Ｓ３４５２Ａ）。Ｓ３４５２Ａの処理において、第１特別図柄の保留球数が０であると判別した場合は（Ｓ３４５２Ａ：Ｙｅｓ）、次いで、第２特別図柄の保留球数が０であるかを判別し（Ｓ３４５１Ｂ）、第２特別図柄の保留球数が０であると判別した場合は（Ｓ３４５１Ｂ）、新たな特別図柄抽選を実行させるための条件が成立していない状況であるため、今回の時短種別（時短回数）に応じた演出態様を、待機演出選択テーブル２２２ｊａ（図１１６５参照）を参照して特定し（Ｓ３４５３Ａ）、特定した演出態様の待機演出の実行を設定する（Ｓ３４５４Ａ）。次いで、待機演出回数カウンタ２２３ｊｂの値に１を設定して（Ｓ３４５５Ａ）、報知済フラグ２２３Ａｂをオンに設定し（Ｓ３４５２Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０５７】

これに対し、Ｓ３４５２Ａの処理において、第１特別図柄の保留球数が０ではない（１以上である）と判別した場合は（Ｓ３４５２Ａ）、Ｓ３４５３Ａ～Ｓ３４５５Ａの処理をスキップして、Ｓ３４５２Ｂの処理を実行し、処理を終了する。また、Ｓ３４５１Ｂの処理において第２特別図柄の保留球数が０では無いと判別した場合（Ｓ３４５１Ｂ：Ｎｏ）、即ち、第２特別図柄抽選の実行条件が成立していると判別した場合は、そのまま本処理を終了する。保留球が存在する場合は、当該保留球に基づく第１特別図柄の変動表示に同期して実行する変動表示演出の演出態様として待機演出を設定すれば良く、本処理の中で演出態様を設定する必要がないためである。

【１２０５８】

この待機演出設定処理４３（Ｓ３４２９Ｂ）を実行することにより、第１特別図柄の保留球、及び、第２特別図柄の保留球が存在しない状況で第１時短状態に移行した場合に、第１時短状態の種別（時短回数）に応じた演出態様のチャンスタイム待機演出を実行することができる。

【１２０５９】

次に、図１２８０を参照して、本第４３制御例における変動演出設定処理４３（Ｓ４３０４Ｂ）の処理内容について説明をする。図１２８０は、変動演出設定処理４３（Ｓ４３０４Ｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理４３（Ｓ４３０４Ｂ）では、設定されている遊技状態に応じて、異なる演出態様を決定するための処理が実行される。

【１２０６０】

具体的には、変動演出設定処理４３（Ｓ４３０４Ｂ）が実行されると、まず、従遊技状態格納エリア２２３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ４４０１）、遊技状態が第１時短状態であるかを判別し（Ｓ４４０１Ｂ）、第１時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ４４０１Ｂ：Ｎｏ）、次に、時短図柄当選しているかを判別し（Ｓ４４０２Ｂ）、時短図柄当選していると判別した場合は（Ｓ４４０２Ｂ：Ｙｅｓ）、時短図柄当選時演出設定処理を実行し（Ｓ４４０４Ｂ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４４０２Ｂの処理において、時短図柄当選していないと判別した場合は（Ｓ４４０２Ｂ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４４０３Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０６１】

また、Ｓ４４０１Ｂの処理において、第１時短状態であると判別した場合は（Ｓ４４０１Ｂ：Ｙｅｓ）、今回の特別図柄変動が特図１変動であるかを判別し（Ｓ４４０５Ｂ）、特図１変動では無いと判別した場合は（Ｓ４４０５Ｂ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４４０６Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０６２】

一方、Ｓ４４０５Ｂの処理において、特図１変動であると判別した場合は（Ｓ４４０５

Ｂ：Ｙｅｓ）、報知済フラグ２２３Ａｂがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４４０７Ｂ）、オンに設定されている場合は（Ｓ４４０７Ｂ：Ｙｅｓ）、Ｓ４４０６Ｂの処理へ移行し、本処理を終了する。また、Ｓ４４０７Ｂの処理において、報知済フラグ２２３Ａｂがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４４０７Ｂ：Ｎｏ）、時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている時短情報を読み出し（Ｓ４４０８Ｂ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４４０９Ｂ）、報知済フラグ２２３Ａｂをオンに設定し（Ｓ４４１０Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０６３】

次に、図１２８１を参照して、時短図柄当選時演出設定処理（Ｓ４４０４Ｂ）の処理内容について説明をする。図１２８１は、時短図柄当選時演出設定処理（Ｓ４４０４Ｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短図柄当選時演出設定処理（Ｓ４４０４Ｂ）では、第１時短状態以外の遊技状態が設定されている場合（左打ち遊技中）に、実行された特別図柄抽選で時短図柄当選した場合の変動演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１２０６４】

具体的には、時短図柄当選時演出設定処理（Ｓ４４０４Ｂ）が実行されると、まず、今回当選した時短種別を読み出し（Ｓ５７０１Ｂ）、読み出した時短種別が時短Ａ群であるかを判別し（Ｓ５７０２Ｂ）、時短Ａ群であると判別した場合は（Ｓ５７０２Ｂ：Ｙｅｓ）、背景モード格納エリアから現在の背景モードを読み出し（Ｓ５７０３Ｂ）、背景モード選択テーブル２２２Ａａを参照して、背景モード種別を決定し（Ｓ５７０４Ｂ）、次に、非移行フラグ２２３Ａｃがオンに設定されているかを判別する（Ｓ５７０５Ｂ）。

【１２０６５】

Ｓ５７０５Ｂの処理において、非移行フラグ２２３Ａｃがオンに設定されていると判別した場合は（Ｓ５７０５Ｂ：Ｙｅｓ）、非移行フラグ２２３Ａｃをオフに設定し（Ｓ５７０６Ｂ）、決定した背景モードに対応する背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ５７０７Ｂ）、決定した背景モード種別を背景モード格納エリアに格納し（Ｓ５７０８Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０６６】

一方、Ｓ５７０２Ｂの処理において、時短Ａ群では無い（時短Ｂ群である）と判別した場合は（Ｓ５７０２Ｂ：Ｎｏ）、演出用時短図柄決定処理を実行し（Ｓ５７０９Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０６７】

次に、図１２８２を参照して、演出時短図柄決定処理（Ｓ５７０９Ｂ）の処理内容について説明をする。図１２８２は、演出時短図柄決定処理（Ｓ５７０９Ｂ）の処理内容を示したフローチャートである。演出時短図柄決定処理（Ｓ５７０９Ｂ）が実行されると、まず、背景モード格納エリアから現在の背景モードを読み出し（Ｓ５７５１Ｂ）、有利モード中であるかを判別する（Ｓ５７５２Ｂ）。Ｓ５７５２Ｂの処理において、有利モード中であると判別した場合は（Ｓ５７５２Ｂ：Ｙｅｓ）、入賞情報格納エリア２２３ａに格納されている入賞情報を読み出し（Ｓ５７５５Ｂ）、当たり保留があるかを判別し（Ｓ５７５６Ｂ）、当たり保留が有ると判別した場合は（Ｓ５７５６Ｂ：Ｙｅｓ）、演出図柄種別として「人参」を決定し（Ｓ５７５７Ｂ）、Ｓ５７５４Ｂの処理へ移行する。

【１２０６８】

このように構成することで、演出モードとして有利モードが設定されている状態では、時短Ｂ群の時短図柄に当選した時点で当たり保留を有している場合には、演出図柄種別として「人参」を設定することができる。よって、特定の演出モード中においてのみ、演出図柄種別によって当たり保留の有無を報知することができる。また、時短Ｂ群として少ない時短回数の時短図柄に当選している場合、即ち、「人参」が選択され難い時短状態が設定された場合には、「人参」が表示されることにより、保留内に当たりがあるのではと遊技者に予測させることができる。

【１２０６９】

一方、Ｓ５７５２Ｂの処理において、有利モード中では無いと判別した場合は（Ｓ５７５２Ｂ：Ｎｏ）、演出図柄テーブル（演出図柄選択テーブル）２２２Ａｂを参照して、演出図柄種別を決定し（Ｓ５７５３Ｂ）、決定した演出図柄種別に対応する表示態様を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ５７５４Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０７０】

次に、図１２８３を参照して、演出更新処理４３（Ｓ３１１２Ｂ）の処理内容について説明をする。図１２８３は、演出更新処理４３（Ｓ３１１２Ｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この演出更新処理４３（Ｓ３１１２Ｂ）は、上述した第４０制御例の演出更新処理４０（図１１８２参照）に対して、非移行フラグ２２３Ａｃがオンに設定されている状態における演出態様を決定するための処理を追加した点で相違し、それ以外の制御処理内容は同一である。同一の内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２０７１】

演出更新処理４３（Ｓ３１１２Ｂ）が実行されると、まず、上述した第４０制御例の演出更新処理４０（図１１８２参照）と同一のＳ４６１１Ａ～Ｓ４６１７Ａの処理を実行する。その後、非移行フラグ２２３Ａｃがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４６０１Ｂ）、オンに設定されていると判別した場合は、オンに設定されてからの経過時間が２０秒に到達したかを判別する（Ｓ４６０２Ｂ）。Ｓ４６０２Ｂの処理で２０秒経過したと判別した場合は（Ｓ４６０２Ｂ：Ｙｅｓ）、背景モード移行抽選を実行し（Ｓ４６０３Ｂ）、抽選に当選したかを判別し（Ｓ４６０４Ｂ）、抽選に当選したと判別した場合には（Ｓ４６０４Ｂ：Ｙｅｓ）、当選結果に対応する背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ４６０５Ｂ）、報知済フラグ２２３Ａｂをオフに設定し（Ｓ４６０６Ｂ）、本処理を終了する。

【１２０７２】

このように構成することで、特別図柄抽選の実行に関わらず、経過時間に基づいても背景モードを変更することが可能となるため、演出効果を高めることができる。

【１２０７３】

＜第４４制御例＞

次に、図１２８４から図１３１６を参照して、第４４制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０では、第１特別図柄と第２特別図柄の一方が変動表示されている期間は、他方の特別図柄の大当たり抽選が実行されない構成であった。これに対して、本第４４制御例は、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）している点で相違している。

【１２０７４】

このように構成することで、所定時間内に、より多くの特別図柄の抽選遊技を実行させることができ、遊技者に大当たりが所定時間内に付与される確率が高くできる。従って、遊技者は、効率よく遊技を行うことができる。

【１２０７５】

また、本第４４制御例では、第１遊技状態が連続して設定される回数に上限を設けており、第１時短状態が９回連続設定されている状態で、大当たり当選（時短リミット到達当たり当選）し、大当たり遊技が実行された場合には、その大当たり遊技の終了後に強制的に通常状態が設定されるように構成している点で上述した第４３制御例と相違している。このように構成することで、遊技者に有利となる特典（第１時短状態）が過剰に連続して設定されていまい、遊技者に過剰に賞球が付与されてしまうことを抑制することができる。また、１回の大当たり遊技中に獲得可能な賞球数を増加させたとしても、第１時短状態が連続して設定される回数に上限を設けているため、遊技者に過剰に賞球が付与されてしまうことを抑制することができる。加えて、第１時短状態が連続して設定される回数に上限を設けているため、第１時短状態中に主として実行される第２特別図柄抽選に基づいて、再度、第１時短状態が設定されることとなる大当たり遊技が実行される確率（大当たり

当選確率、小当たり当選確率）を高めることができる。
【１２０７６】
さらに、本第４４制御例では、時短リミット到達当たり当選に対応する第２特別図柄変動が実行されている特図変動期間中に第１特別図柄変動を実行させることにより、時短状態を終了させて通常状態を設定することにより、第１時短状態が連続して設定されている状態をリセットすることが可能に構成している。
【１２０７７】
このように構成することで、時短リミット到達当たり当選の特図変動期間中に第１時短状態を終了させようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。
【１２０７８】
また、同時変動仕様の遊技機において、一方の特別図柄抽選において大当たり（または小当たり）に当選した場合に、他方の特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄させる）か、或いは、仮停止させる（中断させる）かの一方のみを実行する仕様であることが一般的であるが、本第４４制御例では、大当たり種別（または小当たり種別）によって、他方の特別図柄の変動表示を強制停止させるか、仮停止させるかを決定する構成としている。つまり、他方の特別図柄の変動を強制停止させる（破棄させる）大当たり種別と、他方の特別図柄の変動表示を仮停止させる（中断させる）大当たり種別が規定されている。
【１２０７９】
このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態が設定されている状態において、一方の特別図柄が停止表示されることにより遊技者に不利な遊技状態が設定され得る場合に、他の特別図柄の変動を破棄することができる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定されることを防ぐことができるが、他の特別図柄を中断させる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定され得る状況が継続するので、大当たり当選した場合に、遊技者に他の特別図柄の変動を破棄できたか否かに興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【１２０８０】
なお、本第４４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０の基本的な仕様（ＲＯＭ２０２の構成）を踏襲しており、且つ、上述した第４４制御例のパチンコ機１０における主制御装置１１０にて実行される各種制御処理を組み合わせたものである。よって、上述した各制御例において説明をした内容と重複する箇所については、その説明を省略する。
【１２０８１】
＜第４４制御例における遊技盤１３の構成について＞
まず、図１２８４を参照して、本第４４制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成について説明をする。図１２８４は、本第４４制御例におけるパチンコ機１０の遊技盤１３を示した正面図である。図１２８４に示した通り、本第４４制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３は、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３（図４０６参照）に対して、右側領域から第１入球口１６４０を削除し、電動役物６４０が付随した第２入球口６４０を設けた点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付して、その説明を省略する。
【１２０８２】
図１２８４に示した通り、本第４４制御例におけるパチンコ機１０では、左打ち遊技を実行した場合に、第２入球口６４０よりも第１入球口６４へと遊技球が入球し易く、右打ち遊技を実行した場合に、第１入球口６４よりも第２入球口６４０へと遊技球が入球し易くなるように構成している。また、電動役物６４０ａは、上述した第４３制御例と同様に第１時短状態が設定されている状態において、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが可能な状態（開状態）へと可変可能に構成しているため、通常状態、第２時短状態が設定されている間は、左打ち遊技によって第１特別図柄抽選を実行させる遊技が遊技者に有利な遊技となり、第１時短状態が設定されている間は、右打ち遊技によって第２特別

図柄抽選を実行させる遊技が遊技者に有利な遊技となる。
【１２０８３】
なお、図１２８４に示した通り、本第４４制御例におけるパチンコ機１０では、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０に対して、右側領域に第１特別図柄抽選の実行契機となる始動入球口を設けていない点で相違している。よって、第１時短状態中に実行される右打ち遊技によって発射された遊技球によって第１特別図柄抽選が実行されることが無い。
【１２０８４】
＜第４４制御例における演出内容について＞
次に、図１２８５、および図１２８６を参照して、本第４４制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。本第４４制御例では、第１時短状態が設定されている状態で実行される第２特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、小当たり当選）したことに基づいて実行される大当たり遊技の終了後には第１時短状態が設定されるように構成している。つまり、第２特別図柄抽選の抽選結果に基づいて実行される大当たり遊技は、上述した第４３制御例と同様に全て第１時短状態が設定される時短大当たり遊技となる。
【１２０８５】
また、本第４４制御例では、上述した通り、第１時短状態が連続して設定される回数に上限を設けており、大当たり遊技を跨いで１０回連続して第１時短状態が設定される条件を満たした場合には、その大当たり遊技終了後に強制的に通常状態を設定するための時短リミット処理を実行するように構成している。
【１２０８６】
そこで、本第４４制御例では、時短リミット処理が実行されてしまう大当たり遊技の実行契機となる第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動期間中に、第１時短状態が連続して設定されることを回避するための遊技方法を遊技者に案内するための演出を実行可能に構成している。
【１２０８７】
具体的には、時短リミット処理が実行されてしまう大当たり遊技の実行契機となる第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動期間中に、第１特別図柄抽選を実行させることで、実行中の第２特別図柄変動が停止表示されるよりも前に、第１特別図柄抽選の実行に基づいて時短終了条件を成立させ、通常状態を設定することにより、実行中の第２特別図柄変動が停止表示された時点における遊技状態を通常状態とし、時短リミット処理が実行されないようにするために、第２特別図柄変動期間中に遊技者に対して左打ち遊技を促す演出（擬似左打ち演出）を実行するように構成している。
【１２０８８】
このように構成することで、時短リミット処理が実行されることを回避するために、第２特別図柄の当たり変動期間中であっても、遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。
【１２０８９】
まず、図１２８５（ａ）を参照して、時短リミット非到達時における時短中当たり変動演出の内容について説明をする。図１２８５（ａ）は、時短リミット非到達の時短中当たり変動画面の一例を示した図である。
【１２０９０】
図１２８５（ａ）に示した通り、第１時短状態中に第２特別図柄の当たり変動が実行されると、上述した第４３制御例の第１時短状態中の変動演出のうち、当たり期待度の高い高速変動演出が実行される。なお、図１２８５（ａ）に示した状態は、第１特別図柄変動が実行されておらず、第２特別図柄変動が実行されている状態であるため、第１特別図柄変動に対応した第３図柄として、停止表示態様（「２４５」で停止表示）が表示領域Ｄｍ１に表示され、第２特別図柄変動に対応した第３図柄として、動的表示態様（図では矢印で表示）が表示領域Ｄｍ２に表示されている。そして、第１時短状態中であることを示す

ための「チャンスゾーン」の文字が主表示領域Ｄｍの中央部に表示され、表示領域Ｄｍ４ａには、遊技者に右打ち遊技を促すための「右打ち」が表示されている。なお、図１２８５（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの左下側には、表示領域Ｄｍ４が形成され、その中に時計回りに渦を巻いている動画像が表示されており、この渦の回転方向によって遊技者に最も有利な遊技方法を案内するように構成している。

【１２０９１】

また、副表示領域Ｄｓには、実行中の変動演出の演出態様が遊技者に有利な演出態様であることを示すための「高速変動！！当たりのチャンス！！」のコメントが表示されている。図１２８５（ａ）に示した表示画面が表示された後は、第２特別図柄変動の停止表示タイミングに合わせて、当たり当選を示すＶアイコン８１１ｆが主表示領域Ｄｍの中央に停止表示され、遊技者に対して当たり当選したことが報知される。

【１２０９２】

次に、図１２８５（ｂ）を参照して、時短リミット到達時における時短中当たり変動演出の内容について説明をする。図１２８５（ｂ）は、時短リミット到達の時短中当たり変動画面の一例を示した図である。

【１２０９３】

図１２８５（ｂ）に示した通り、時短リミットに到達する（大当たり遊技終了後に強制的に通常状態が設定される）当たり変動が実行されると、主表示領域Ｄｍに「チャンスゾーン終了」の文字が表示されると共に、ウサギを模したキャラクタ８０１が落ち込んだ態様で表示される。そして、表示領域Ｄｍ４ａには、遊技者に左打ち遊技を促すための案内態様として「左打ち」が表示される。また、残時短回数を表示するための表示領域Ｄｍ７には、残時短回数を遊技者が把握困難な態様として、爆発態様が表示される。

【１２０９４】

しかしながら、表示領域Ｄｍ２に示した通り、図１２８５（ｂ）に示した状態は、第１時短状態中における第２特別図柄の当たり変動期間中である。つまり、図１２８５（ｂ）は、第１時短状態中であるにも関わらず、遊技者に左打ち遊技を促す擬似左打ち演出となる。なお、表示領域Ｄｍ４には、時計回りに渦が回転しているため、遊技者に最も有利な遊技方法が右打ち遊技であることを報知している。

【１２０９５】

そして、図１２８５（ｂ）に示した表示画面が表示された後、左打ち遊技を実行し第１特別図柄変動が実行されると、図１２８６（ａ）に示した演出画面が表示される。図１２８６（ａ）は、擬似左打ち演出中に第１特別図柄変動が実行された場合に表示される演出内容の一例を示した図である。

【１２０９６】

図１２８６（ａ）に示した通り、擬似左打ち演出中に第１特別図柄変動が実行されると、天使を模したキャラクタ８０９と、ウサギを模したキャラクタ８０１が表示され、主表示領域Ｄｍの中央部に宝箱８１０が表示される。そして、実行されている第１特別図柄抽選に基づいて、宝箱８１０の中身８１０ａを表示する演出が実行される。

【１２０９７】

また、表示領域Ｄｍ１３には、時短終了条件が成立するまでの情報を示すための幸福度が表示される。この幸福度は、１００％をＭＡＸとした値であって、幸福度１００％が表示された場合に、時短終了条件が成立したことを遊技者に報知（示唆）するように構成している。擬似左打ち演出が実行された当初の幸福度（％）は、実行中の第２特別図柄変動の残変動時間や、時短終了条件を成立させるまでに必要となる第１特別図柄抽選の実行回数に基づいて決定されるように構成しており、基本的には、特別図柄抽選が１回実行される毎に、「１０％」上昇するように構成している。

【１２０９８】

そして、幸福度が１００％に到達すると、図１２８６（ｂ）に示した通り、時短状態が終了したことを示すための表示態様として表示領域Ｄｍ１３に「１００％」が表示される。そして、表示領域Ｄｍ１４に実行中の第２特別図柄変動の残変動時間を示す「ラッキー

まであと１５秒」の文字が表示される。さらに、副表示領域Ｄｓに「幸福度ＭＡＸ！！１５秒後にいいことがあるよ」のコメントが表示される。また、この時点では時短状態が終了しているため、表示領域Ｄｍ４には反時計回りの渦が表示されている。

【１２０９９】

なお、図１２８６（ａ）に示した演出では、時短終了条件を成立させるために必要な遊技内容（特別図柄抽選回数）も、第２特別図柄変動の残変動時間も、明確に遊技者に報知すること無く、幸福度として表示されるパーセンテージに基づいて遊技者に予測させるように構成しているが、これに限ること無く、時短終了条件を成立させるために必要な遊技内容（特別図柄抽選回数）と、第２特別図柄変動の残変動時間とを、或いは何れか一方を、遊技者に報知可能に構成しても良い。

【１２１００】

＜第４４制御例における電気的構成について＞

次に、図１２８７から図１２９１を参照して、本第４４制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明をする。本第４４制御例では、上述した第４３制御例に対して、主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２およびＲＡＭ２０３の構成の一部を変更している点で相違する。それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１２１０１】

図１２８７に示す通り、本第４４制御例における主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２は、上述した第４３制御例における主制御装置１１０が有するＲＯＭ２０２に対して、変動パターン選択４３テーブル２０２Ａｄに代えて、変動パターン選択４４テーブル２０２Ｂｄを設けた点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。なお、変動パターン選択４４テーブル２０２Ｂｄの内容については、図１２８９から図１２９１を参照して後述する。

【１２１０２】

次に、ＲＡＭ２０３の詳細について、図１２８８を参照して説明する。図１２８８は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３の構成を示すブロック図である。上述した第４３制御例に対して、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａと、特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂと、特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃと、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄと、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅと、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆと、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇと、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇと、時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈと、を追加して点で相違する。それ以外の構成については、上述した第４３制御例と同一であるため、その詳細な説明は省略する。

【１２１０３】

時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａは、第１時短状態が連続して設定される回数を計測するためのカウンタである。ここで、本第４４制御例におけるパチンコ機１０は、大当たり遊技中を除いて、第１時短状態が連続して設定される回数（時短連続設定回数）を計測可能に構成しており、その時短連続設定回数が所定数（１０回）に到達した場合（時短リミットに到達した場合）に、第１時短状態を設定可能な条件が成立している場合であっても、通常状態を強制的に設定する処理（時短リミット処理）を実行可能に構成し、遊技者に対して有利な遊技状態（第１時短状態）が過剰に連続して設定されてしまうことを抑制している。

【１２１０４】

この時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａには、通常状態、或いは第２時短状態が設定されている状態で第１時短状態が設定された場合に、初期値として「１０」がセットされる（図１３１３のＹ３００５参照）。そして、時短連続設定回数が更新される毎にカウンタの値が減算され（図１３１３のＹ３００２参照）、時短リミットに到達したか否かの判別処理にて減算後のカウンタ値が参照される（図１３１３のＹ３００３参照）。そして、時短リミットに到達した場合や、実行中の大当たり種別が普通図柄の低確率状態を設定するものである場合に時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０にクリアされる。

【１２１０５】
この時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値を示す情報は、大当たり終了処理において、音声ランプ制御装置１１３へと出力するために状態コマンドとして設定される。
【１２１０６】
なお、本第４４制御例では、上述した通り、時短連続設定回数を計測するための時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値に、時短リミットに到達するまでの時短連続設定回数をセットし、時短連続設定回数が減算される毎に、カウンタ値を減算するように構成しているが、これに限ること無く、第１時短状態が設定された場合に時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値に「１」をセットし、以降、時短連続設定回数が更新される毎に、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値を１加算するように構成し、加算後の時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が時短リミットに到達したことを示す値（例えば、１０）であるかを判別し、その判別の結果が時短リミットに到達したことを示す判別結果である場合に、時短リミット処理を実行するように構成しても良い。
【１２１０７】
このように構成した場合、例えば、特別図柄の高確率状態が連続して設定されている期間内において第２特別条件（例えば、特定の大当たり種別の大当たりに当選）が成立した場合に、時短リミットの成立条件（到達条件）を変更させるように構成した場合であっても、変更後の成立条件（到達条件）と、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値とを比較するだけで、時短リミットに到達したか否かを判別することが可能となる。
【１２１０８】
なお、上述した例示内容における特別条件が成立した場合に、時短リミットの成立条件を、変更前よりも成立し難くするように変更しても良いし、変更前よりも成立し易くするように変更しても良い。また、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合に、現時点における時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が時短リミットの成立条件（到達条件）を満たしているか否かを即座に判別するように構成しても良いし、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合であっても、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの成立条件（到達条件）を満たしているか否かの判別は大当たり遊技終了時に実行するように構成しても良い。特に、後者の場合は、時短リミットの成立条件（到達条件）が変更された場合において直ちに普図図柄の高確率状態が終了してしまうことを抑制すると共に、普通図柄の高確率状態が設定されている期間中に特別図柄抽選の大当たり当選が最低限（１回分）保証されることになるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１２１０９】
本第４４制御例では、普通図柄の高確率状態が設定される契機として、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａに値を設定する契機（時短リミットをセットする契機）と、設定しない契機（時短リミットを設定しない契機）と、を設けている。このように構成することで、遊技者に対して、どのような契機で時短状態が設定されたのかについても興味を持たせることができる。
【１２１１０】
特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂ、および特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃは、それぞれ第１特別図柄、および第２特別図柄の変動時間を計時するためのタイマであり、第１特別図柄、および第２特別図柄の変動パターンが選択された場合に、選択された変動パターンに対応する変動時間が設定される。この特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂ、および特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃの計時結果によって各特別図柄の変動時間が終了したか否かが判別される（図１３００のＹ７０１、図１３０８のＹ９０１参照）。
【１２１１１】
特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄは、特図１の変動時間の更新（減算）を停止する期間を示すフラグであって、オンに設定されている場合に変動時間の更新（減算）を停止し、オンに設定された状態からオフに設定された場合に、停止されていた変動時間の更新（減算）が再開されるものである。

【１２１１２】
この特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄは、抽選結果が大当たりＤ以外の大当たりである第２特別図柄（特図２）の変動を停止する際にオンに設定され（図１３０８のＹ９０３）、第１特別図柄変動実行中処理４４（図１２９９参照）および第１特別図柄変動停止処理４４（図１３００、Ｙ７０８参照）において参照される。参照した結果、オンに設定されている場合には、特図１に対応する第１図柄表示装置の表示を変動中と同様に更新する処理が実行される。つまり、特図１仮停止フラグ２０３０ｂｃがオンに設定されている間は、変動時間の更新（減算）は停止しているが、第１図柄表示装置は変動表示が継続して実行される状態となる。これにより、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されたことにより、特図１の変動が強制停止されていないことを報知することができる。そして、第１特別図柄変動実行中処理４４（図１２９９参照）においてオンに設定されていると判別された場合に（図１２９９のＹ２８０１：Ｙｅｓ）、オフに設定される（図１２９９のＹ２８０３）。なお、詳細な説明および図示は省略するが、この特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄは、第２特別図柄（特図２）の抽選結果が小当たりである場合にも大当たりである場合と同一の処理が実行されオンに設定される。

【１２１１３】
特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅは、特図２の変動時間の更新（減算）を停止する期間を示すフラグであって、オンに設定されている場合に変動時間の更新（減算）を停止し、オンに設定された状態からオフに設定された場合に、停止されていた変動時間の更新（減算）が再開されるものである。

【１２１１４】
この特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅは、抽選結果が大当たりである第１特別図柄（特図１）の変動を停止する際にオンに設定され（図１３００のＹ７０３）、第２特別図柄変動実行中処理４４（図１３０７参照）および第２特別図柄変動停止処理４４（図４３参照）において参照される。なお、本処理において参照される内容については、上述した特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄと同一であるため、その説明を省略する。そして、第２特別図柄変動実行中処理４４（図１３０７参照）においてオンに設定されていると判別された場合に（図１３０７のＹ２９０１：Ｙｅｓ）、オフに設定される（図１３０７のＹ２９０３）。

【１２１１５】
特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆは、変動中の第１特別図柄を強制停止するタイミングであることを示すフラグである。この特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆは、第２特別図柄に対して、大当たりＤまたは小当たりＢの変動が停止される場合にオンに設定される（図１３０８のＹ９０５、図１３１０のＹ９３２参照）。一方、第１特別図柄の変動中に、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンであると判別された場合にオフに設定される（図１３０１のＹ７２２参照）。これにより、第２特別図柄の大当たりＤまたは小当たりＢの変動が先に停止するタイミングに合わせて、第１特別図柄を強制的に停止させることができる。

【１２１１６】
特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇは、変動中の第２特別図柄を強制停止するタイミングであることを示すフラグである。この特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇは、第１特別図柄が時短当選し、変動表示が開始される場合にオンに設定される（図１２９７のＹ４０５）。一方、第２特別図柄の変動中に、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンであると判別された場合にオフに設定される（図１３０９のＹ６３２）。これにより、第１特別図柄が時短当選し、変動が開始されたタイミングに合わせて、第２特別図柄を強制的に停止させることができる。

【１２１１７】
時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇは、時短当選した第１特別図柄が変動表示中であること（即ち、時短当選変動状態であること）を示すフラグである。この時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇは、第１特別図柄抽選の結果が時短当選であった場合に、オンに設定さ

れる（図１２９７のＹ４０３参照）。一方、時短当選した第１特別図柄が停止表示され、時短Ａ状態が設定される場合（図１３０２のＹ８３５２参照）と、第２特別図柄が大当たりＤまたは小当たりＢに当選し、第１特別図柄の変動が破棄された場合（図１３０１のＹ７２６参照）にオフに設定される。これにより、第１特別図柄が時短当選し、その第１特別図柄の変動が終了するまでの期間で時短当選変動状態を設定することができる。

【１２１１８】

時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈは、普通図柄の高確率状態が連続して設定された回数（普図連続設定回数）が上限値に到達したことを示すためのフラグであり、普図連続設定回数が上限値に到達し、普通図柄の高確率状態を強制的に低確率状態へと変更する状態となった場合にオンに設定されるものである。

【１２１１９】

次に、図１２９２を参照して、本第４４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図１２９２は、本第４４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。図１２９２に示した通り、本第４４制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成は、上述した第４３制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成（図１２６７（ｂ）参照）に対して、擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａと、幸福度カウンタ２２３Ｂｂと、を追加した点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【１２１２０】

擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａは、第１時短状態中に実行された第２特別図柄抽選の結果が時短リミット到達当たり当選であり、且つ、その変動期間中において、第１特別図柄抽選を実行させることで時短状態を終了させることを促す擬似左打ち演出が実行されていることを示すためのフラグであって、擬似左打ち演出が実行される場合にオンに設定される。

【１２１２１】

幸福度カウンタ２２３Ｂｂは、擬似左打ち演出中に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される幸福度（％）に対応する値を計測するためのカウンタである。

【１２１２２】

＜第４４制御例における主制御装置の制御処理について＞

次に、図１２９３～図１３１３を参照して、第４４制御例における主制御装置１１０のＭＰＵ２０１によって実行される各種制御処理について説明を行う。本第４４制御例における主制御装置１１０の制御処理は、上述した第５制御例における主制御装置１１０の制御処理に対して、特別図柄変動処理５（図２５２参照）に代えて特別図柄変動処理４４（図１２９３参照）、更新処理５（図２５６参照）に代えて遊技状態更新処理４４（図１２９８参照）を実行する点で相違し、その他は同一の処理が実行される。なお、同一の処理については同一の符号を付し、その詳細な説明を省略する。

【１２１２３】

上述したように、本第４４制御例では、上述した第４３制御例に対して、特別図柄（以下、特図と称す）である第１特別図柄（以下、特図１と称す）と、第２特別図柄（以下、特図２と称す）とが同時に（並行して）変動表示を実行可能に構成している点で大きく相違している。

【１２１２４】

まず、図１２９３を参照して、本第４４制御例における特別図柄変動処理４４（Ｙ１０４）の内容について説明をする。図１２９３は特別図柄変動処理４４（Ｙ１０４）の内容を示すフローチャートである。特別図柄変動処理４４（Ｙ１０４）が実行されると、まず、現在が大当たり又は小当たり中であるかを判別し、（Ｙ２３１）。大当たり中又は小当たり中であると判別した場合は（Ｙ２３１：Ｙｅｓ）、次に、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２３

２）。このＹ２３２の処理では、一方の特図が当たりを示す図柄で停止表示されたことにより、変動中の他方の特図変動時間の減算を中断している状態かを判別している。Ｙ２３２の処理において、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２３２：Ｙｅｓ）、仮停止されている特図に対応する第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｙ２３３）、即ち、変動時間の減算が中断されている特図に対して、第１図柄表示装置３７の変動表示を継続させる処理を実行して、本処理を終了する。これにより、特図変動を強制停止していないことを遊技者に報知することができる。

【１２１２５】

一方、Ｙ２３１の処理において、現在が大当たり又は小当たり中であると判別した場合は（Ｙ２３１：Ｎｏ）、特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂの値が０よりも大きいか（即ち、特図１が変動中であるか）を判別し（Ｙ２３４）、特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合は（Ｙ２３４：Ｎｏ）、第１特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３７）と同一の処理を実行し、その後、特図２に関する変動処理を実行するＹ２３８に移行する。

【１２１２６】

Ｙ２３４の処理において、特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｙ２３４：Ｙｅｓ）、第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）を実行する。この第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）は、特図１変動中の処理を実行するものであり、図１２９８を参照してその詳細な説明を後述する。

【１２１２７】

第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）を終えると、次に、第１特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２３６）を実行し、その後、Ｙ２３８へ移行する。

【１２１２８】

Ｙ２３８～Ｙ２４１の処理では、特図１に対して実行したＹ２３４～Ｙ２３７と同一の処理が実行される。Ｙ２３８の処理が実行されると、まず、特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃの値が０よりも大きいか（即ち、特図２が変動中であるか）を判別し（Ｙ２３８）、特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃの値が０よりも大きくない（０である）と判別した場合は（Ｙ２３８：Ｎｏ）、第２特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３９）を実行し、その後、本処理を終了する。

【１２１２９】

一方、Ｙ２３８の処理において、特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｙ２３８：Ｙｅｓ）、第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）を実行する。この第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）は、特図２変動中の処理を実行するものであり、図１３０６を参照してその詳細な説明を後述する。

【１２１３０】

第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）を終えると、次に、第２特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２４１）を実行し、本処理を終了する。

【１２１３１】

次に、図１２９４を参照して、特別図柄変動処理４４（図１２９３、Ｙ１０４）の一処理である第１特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３７）について説明する。図２３７は、この第１特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３７）を示すフローチャートである。

【１２１３２】

第１特別図柄変動開始処理４４（図１２９３、Ｙ２３７）では、まず、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を取得し（Ｙ３０２）、取得した第１特別図柄保留球数カウンタの値（Ｎ１）が０より大きい値であるか判別する（Ｙ３０３）。Ｙ３０３の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０より大きいと判別した場合には（Ｙ３０３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）を１減算して（Ｙ３０４）、減算後の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３に通知するための保留球数コマンド

を設定する（Ｙ３０５）。
【１２１３３】
ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行される後述のメイン処理（図１１９参照）の外部出力処理（Ｙ２００１）において、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２３０の第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃに格納する。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、第１特別図柄保留球数カウンタ２２３ｃの値を更新するので、主制御装置１１０の第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値と同期させながら、その値を更新することができる。
【１２１３４】
Ｙ３０５の処理が終了すると、次に、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａのデータを一つ前のデータにシフトする（Ｙ３０６）。より具体的には、保留エリア１→実行エリア、保留エリア２→保留エリア１、保留エリア３→保留エリア２、保留エリア４→保留エリア３といった具合に各エリア内のデータをシフトする。
【１２１３５】
Ｙ３０６の処理が終了すると、次いで、第１特別図柄判定処理４４を実行する（Ｙ３０７）。この第１特別図柄判定処理４４（図１２９４、Ｙ３０７）については、詳しく後述するが、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアにシフトされた第１当たり乱数カウンタＣ１の値に基づいて、設定されている遊技状態に基づいて、大当たりか否かの大当たり判定を実行するための処理である。なお、遊技状態更新処理４４（Ｙ３０９）をＹ３０７の処理の前に実行しても良く、このように構成することで、遊技状態が更新された後に特別図柄抽選が実行されることとなる。
【１２１３６】
Ｙ３０７の処理が終了すると、次に、第１特別図柄変動パターン選択処理４４を実行する（図１２９６、Ｙ３０８）。詳細については後述するが、この第１特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ３０８）は、第１特別図柄の当否判定結果、および第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアに格納された変動種別カウンタＣＳ１の値に基づいて変動パターンを選択するための処理である。
【１２１３７】
第１特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ３０８）が終了すると、次いで、遊技状態更新処理４４を実行する（Ｙ３０９）。この遊技状態更新処理４４（図１２９７、Ｙ３０９）は、詳細については後述するが、パチンコ機１０の状態を示す各種カウンタ（時短カウンタ２０３ｈ）の値を更新することにより、パチンコ機１０の状態を更新するための処理である。Ｙ３０９の処理が終了すると、特図１待受フラグ２０３０ｉをオフに設定すると共に、オフを示す特図１待機コマンドを設定して（Ｙ３１０）、本処理を終了する。
【１２１３８】
一方、Ｙ３０３の処理において、第１特別図柄保留球数カウンタ２０３ｄの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｙ３０３：Ｎｏ）、特図１待受フラグ２０３０ｉがオンであるか否か判別し（Ｙ３１１）、オンであると判別した場合は（Ｙ３１１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。Ｙ３１１の処理において、オフである（即ち、オンでない）と判別した場合は（Ｙ３１１：Ｎｏ）、特図１待受フラグ２０３０ｉをオンに設定し（Ｙ３１２）、オンを示す特図１待機コマンドを設定（Ｙ３１３）した後、本処理を終了する。
【１２１３９】
次に、図１２９５を参照して、第１特別図柄判定処理４４（Ｙ３０７）の処理内容について説明をする。図１２９５は、第１特別図柄判定処理４４（Ｙ３０７）の処理内容を示したフローチャートである。この第１特別図柄判定処理４４（Ｙ３０７）は、上述した第５制御例の特別図柄判定処理５（図２５３のＳ２５１）に代えて実行されるものであり、特別図柄抽選における大当たり判定に加え、時短当選の判定（特図１時短抽選処理４４）

が実行される。
【１２１４０】
　第１特別図柄判定処理４４（Ｙ３０７）が実行されると、まず、第１特別図柄保留球格納エリアの実行エリアのデータを取得し（Ｙ８００１）、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８００２）、抽選結果が大当たりであると判定した場合は（Ｙ８００３：Ｙｅｓ）、第１特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｙ８００４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｙ８００５）、現在の遊技状態を示す値を当選時状態格納エリアに格納し（Ｙ８００６）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｙ８００３：Ｎｏ）、特図１時短抽選処理４４を実行し（Ｙ８００７）、本処理を終了する。
【１２１４１】
　ここで、特図１時短抽選処理４４（Ｙ８００７）は、今回の特別図柄抽選における時短当選の判定を実行するための処理である。つまり、本第４４制御例では、第１特別図柄抽選において、まず、大当たり当選の判定を実行し（Ｙ８００３）、大当たり当選した場合には、時短当選の判定を実行することなく特別図柄抽選を終了し、大当たり当選していない場合にのみ時短当選の判定を実行するように構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、複数の特典（特別図柄の大当たり当選、時短当選）を遊技者に付与することが無いため、遊技者に過剰に有利な遊技を提供してしまうことを抑制することができる。
【１２１４２】
　次に、図１２９６を参照して、第１特別図柄変動開始処理４４（図１２９４、Ｙ２３７）の一処理である第１特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ３０８）について説明する。図１２９６はこの第１特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ３０８）を示すフローチャートである。
【１２１４３】
　第１特別図柄変動パターン選択処理４４（図１２９６、Ｙ３０８）では、まず、第１特別図柄判定処理４４（図１２９５、Ｙ３０７）において、第１特別図柄の抽選結果が大当たりと判定されたか、即ち、第１特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｙ５０１）。
【１２１４４】
　Ｙ５０１の処理において、第１特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｙ５０１：Ｙｅｓ）、上述した第１特別図柄判定処理４４（図１２９５参照）におけるＹ８００５の処理で取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａより大当たり種別を決定し（Ｙ５０２）、Ｙ５０３の処理へ移行する。
【１２１４５】
　一方、Ｙ５０１の処理において、第１特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｙ５０１：Ｎｏ）、Ｙ５０２の処理をスキップして、Ｙ５０３の処理へ移行する。
【１２１４６】
　Ｙ５０３の処理では、第１特別図柄保留球格納エリア２０３ａの実行エリアから変動種別カウンタＣＳ１の値を取得する（Ｙ５０３）。次いで、遊技状態に応じた変動パターン選択テーブル（図４１３～４１６参照）を読み出して（Ｙ５０４）、Ｙ５０５の処理へ移行する。なお、遊技状態は、時短当選変動フラグの値と、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて判別される。Ｙ５０５の処理では、読み出した変動パターン選択テーブルから変動種別カウンタＣＳ１の値に対応する変動パターンを選択し（Ｙ５０５）、その後、選択した変動パターンに基づいて、特図１変動パターンコマンドを設定する（Ｙ５０６）。
【１２１４７】
　Ｙ５０６の処理が終了すると、停止図柄を示す特図１停止種別コマンドを設定する（Ｙ

５０７）。次いで、第１図柄表示装置３７で第１特別図柄の変動開始を設定し（Ｙ５０８）、本処理を終了する。

【１２１４８】

次に、図１２９７を参照して、特図１時短抽選処理４４（Ｙ８００７）の処理内容について説明をする。図１２９７は、特図１時短抽選処理４４（Ｙ８００７）の内容を示したフローチャートである。

【１２１４９】

特図１時短抽選処理４４（Ｙ８００７）が実行されると、まず、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａに基づいて抽選結果（時短当選判定結果）を取得し（Ｙ４０１）、時短当選しているかを判別し（Ｙ４０２）、時短当選していると判別した場合は（Ｙ４０２：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグをオンに設定し（Ｙ４０３）、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ａをセットし（Ｙ４０４）、特図２変動停止フラグＢｅをオンに設定し（Ｙ８１０５）、本処理を終了する。

【１２１５０】

一方、Ｙ４０２の処理において時短当選していない（Ｙ４０２：Ｎｏ）と判別した場合は、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｙ４０６）、本処理を終了する。

【１２１５１】

次に、図１２９８を参照して、遊技状態更新処理４４（Ｙ３０９）の内容について説明をする。図１２９８は、遊技状態更新処理４４（Ｙ３０９）の内容を示すフローチャートである。

【１２１５２】

遊技状態更新処理４４（Ｙ３０９）が実行されると、まず、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値であるかが判別され（Ｙ６０１）、時短カウンタ２０３ｈの値が０より大きい値であると判別された場合には（Ｙ６０１：Ｙｅｓ）、時短カウンタ２０３ｈの値を１減算し（Ｙ６０２）、時短カウンタ２０３ｈの値を示す残時短回数コマンドを設定する（Ｙ６０３）。次に、時短カウンタ２０３ｈの値が０であるかを判別し（Ｙ６０４）、０であると判別した場合には（Ｙ６０４：Ｙｅｓ）、時短遊技が付与されていない状態（即ち、通常状態）であるため、通常状態を示す状態コマンドを設定し（Ｙ６０５）、遊技状態格納エリア２０３ｇに通常状態を設定し（Ｙ６０６）、本処理を終了する。

【１２１５３】

一方、Ｙ６０４の処理において、時短カウンタ２０３ｈの値が０ではないと判別した場合（Ｙ６０４：Ｎｏ）は、Ｙ６０５の処理をスキップして、そのまま本処理を終了する。

【１２１５４】

次に、図１２９９を参照して、特別図柄変動処理４４（図１２９３のＹ１０４参照）において実行される第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）の内容について説明をする。図１２９９は、第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）の内容を示すフローチャートである。この第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）では、特図１の変動時間の減算を中断している場合にその減算を再開する処理、および、変動時間を減算する処理が実行される。

【１２１５５】

第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）が実行されると、まず、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２８０１）。ここで、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されている状態で本処理が実行される場合について簡単に説明をする。特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄは、特図１が変動中において、特図２が特定の当たり（大当たりＡ～Ｃ、又は小当りＡ）を示す図柄で停止表示される場合にオンに設定されるものである。そして、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されると、その処理内で大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されるため、主制御装置１１０にて２ミリ秒毎に実行されるタイマ割込処理がループし、次回（特図１仮停止フラグ２０３

Ｂｄがオンに設定された２ミリ秒後）の特別図柄変動処理４４（図１２９３）が実行される際には、Ｙ２３１の処理において大当たり中であると判別されるため、第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）が実行されることがない。そして、大当たり遊技（又は小当り遊技）が終了し、Ｙ２３１の処理において大当たり中（又は小当り中）では無いと判別されることで、第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）が実行されることになる。このように構成することで、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されている状態で第１特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２３５）が実行される状態が、大当たり（又は小当り）遊技が終了し、変動時間の減算を中断していた特図変動の変動時間の減算を再開するタイミングとなるように構成している。

【１２１５６】

図１２９９に戻り説明を続ける。Ｙ２８０１の処理において、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２８０１：Ｙｅｓ）、次に、特図１変動再開コマンドを設定し（Ｙ２８０２）、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄをオフに設定し（Ｙ２８０３）、Ｙ２８０４へ移行する。一方、Ｙ２８０１の処理において、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｙ２８０１：Ｎｏ）、Ｙ２８０２，Ｙ２８０３の処理をスキップしてＹ２８０４の処理へ移行する。

【１２１５７】

Ｙ２８０４の処理では特図１変動時間タイマ２０３Ｂｂを１減算して更新し（Ｙ２８０４）、第１図柄表示装置３７の表示を更新し（Ｙ２８０５）、本処理を終了する。

【１２１５８】

次に、図１３００を参照して、特別図柄変動処理４４（図１２９３、Ｙ１０４）の一処理である第１特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２３６）について説明する。図１３００はこの第１特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２３６）を示すフローチャートである。

【１２１５９】

第１特別図柄変動停止処理４４（図１３００、Ｙ２３６）では、まず、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミングであるか否かを判別する（Ｙ７０１）。Ｙ７０１の処理において、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミングであると判別した場合には（Ｙ７０１：Ｙｅｓ）、第１特別図柄（特図１）の大当たりが設定されているか判別する（Ｙ７０２）。第１特別図柄の大当たりが設定されていると判別した場合には（Ｙ７０２：Ｙｅｓ）、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅをオンに設定する（Ｙ７０３）。図示は省略したが、Ｙ７０３の処理が実行されると、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｅがオンになったことを示す特図２変動停止コマンドが設定される。

【１２１６０】

Ｙ７０３の処理を終えると、設定されている停止種別を示す特図１停止種別コマンドを設定する（Ｙ７０４）。そして、選択されている大当たり種別に基づいた大当たりシナリオが設定される（Ｙ７０５）。その後、第１特別図柄を確定停止することを音声ランプ制御装置１１３に対して指示するための特図１確定コマンドを設定する（Ｙ７０６）。そして、第１特別図柄表示装置３７で変動表示している第１特別図柄の変動表示を停止する処理を実行し（Ｙ７０７）、本処理を終了する。

【１２１６１】

一方、Ｙ７０２の処理において、第１特別図柄の大当たりが設定されていなければ（Ｙ７０２：Ｎｏ）、第１特別図柄の時短当選が設定されているかを判別する（Ｙ７１０）。Ｙ７１０の処理において、時短当選が設定されていると判別した場合（Ｙ７１０：Ｙｅｓ）には、時短設定処理４４（Ｙ７１１）を実行し、Ｙ７０６の処理に移行する。この時短設定処理４４（Ｙ７１１）では、当選した時短種別に対応した時短状態の設定に関する処理が実行される。なお、この時短設定処理４４（Ｙ７１１）については、図１３０２を参照して詳細について後述する。

【１２１６２】

一方、Ｙ７０１の処理において、実行中の第１特別図柄に基づく変動の終了タイミング

でないと判別した場合には（Ｙ７０１：Ｎｏ）、次いで、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンであるか否かを判別する（Ｙ７０８）。Ｙ７０８の処理において特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオフであると判別された場合は（Ｙ７０８：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１２１６３】

一方、Ｙ７０８の処理において特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンであると判別した場合は（Ｙ７０８：Ｙｅｓ）、第２特別図柄が大当たりまたは小当たりで停止された場合であるので、実行中の第１特別図柄に基づく変動を停止（仮停止）させるために、特図１強制停止処理４４を実行する（Ｙ７０９）。尚、この特図１強制停止処理４４の詳細については、図１３０１を参照して後述する。

【１２１６４】

このように、第１特別図柄停止処理４４（Ｙ２３６）では、変動表示中の第１特別図柄の規定の変動時間が経過した場合に（Ｙ７０１：Ｙｅｓ）、第１抽選遊技の判定結果を示す図柄で変動表示を停止する処理（Ｙ７０３からＹ７０７またはＹ７１１）が実行される。また、第２特別図柄が大当たり（または小当たり）を示す図柄で変動停止され、第２抽選遊技の大当たり遊技（または小当たり遊技）が実行される場合に（Ｙ７０８：Ｙｅｓ）、変動表示中の第１特別図柄を強制的に停止する処理（Ｙ７０９）が実行される。なお、第１特別図柄が大当たり（または小当たり）を示す図柄で変動停止された場合には（Ｙ７０２：Ｙｅｓ）、変動表示中の第２特別図柄の変動を中断（仮停止）するように構成してもよい。

【１２１６５】

次に、図１３０１を参照して、第１特別図柄変動停止処理４４（図１３００、Ｙ２３６）の一処理である特図１強制停止処理４４（Ｙ７０９）について説明する。図１３０１は、この特図１強制停止処理４４（Ｙ７０９）を示すフローチャートである。

【１２１６６】

特図１強制停止処理４４（図１３０１、Ｙ７０９）では、まず、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンであるかを判別する（Ｙ７２１）。特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンであると判別した場合（Ｙ７２１：Ｙｅｓ）には、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆをオフに設定し（Ｙ７２２）、次に、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆのオフを示す特図１変動停止コマンドを設定する（Ｙ７２３）。そして、第１特別図柄の変動種別を外れに設定し（Ｙ７２４）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇはオンであるかを判別する（Ｙ７２５）。なお、図示しないが、Ｙ７２５の処理の前に第１図柄表示装置３７の第１特別図柄を外れ図柄で変動停止させ、第１特別図柄の特図１確定コマンドを設定する。

【１２１６７】

Ｙ７２５の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンである（即ち、第１特別図柄抽選の結果が時短当選であった場合）と判別した場合（Ｙ７２５：Ｙｅｓ）には、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇをオフに設定し（Ｙ７２６）、本処理を終了する。一方、Ｙ７２５の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンでない（即ち、第１特別図柄抽選の結果が時短当選ではなかった場合）には（Ｙ７２５：Ｎｏ）、Ｙ７２６をスキップし、本処理を終了する。

【１２１６８】

なお、第１特別図柄の変動を破棄することが可能な大当たりＤに当選可能なのは時短Ｂ状態が設定されている場合のみであるため、通常状態において第２特別図柄の大当たり当選に基づいて時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオフに設定されることはない構成としているが、これに限るものではなく、例えば、通常状態において大当たりＤに当選可能な構成としても良い。その場合、Ｙ７２５の処理の後に、通常状態において大当たりＤに当選した場合にスペシャルフラグをオンに設定する処理を設けて、時短Ｂ状態よりも有利な遊技状態（例えば、確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態））が設定される構成としても良い。このように構成することで、通常状態の時短当選変動状態において大当たりＤに当選した場合と、時短状態の時短当選変動状態において大当たりＤに当

選した場合とで、異なる遊技状態が設定され、遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【１２１６９】

一方、Ｙ７２１の処理において、特図１変動時間フラグ２０３Ｂｆがオンでないと判別された場合（Ｙ７２１：Ｎｏ）は、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄがオンである場合であるため、第１特別図柄の変動を仮停止（中断）させるコマンドを設定し（Ｙ７２９）、本処理を終了する。

【１２１７０】

このように、本第４４制御例では、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄまたは特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆがオンにされる（第２特別図柄で大当たりまたは小当たりとなる変動が停止するタイミング）と、第１特別図柄の変動時間が未経過であっても強制的に変動を中断、或いは外れの判定結果として強制停止される。これにより、第１特別図柄と第２特別図柄で同時に抽選結果が変動表示されていても、一方の抽選結果のみ対する小当たりや大当たりを実行すればよく、射幸性を抑制することができる。さらに、遊技の効率を上げることができる。

【１２１７１】

また、本第４４制御例では、第２特別図柄の大当たりまたは小当たりの種別によって第１特別図柄の変動を強制的に外れとして停止させる場合と、仮停止（中断）させる場合と、を設ける構成としている。

【１２１７２】

上述したように本第４４制御例では、時短状態の種別として、時短Ａと時短Ｂを設定可能である。そして、時短Ａは時短回数が５回（図４１１参照）であり、時短回数５回で第２特別図柄が大当たり（当選確率１／５０）または小当たり（当選確率１／５０）に当選する確率は約１８％と低確率であるため、時短Ａ状態中の第２特別図柄での大当たりまたは小当たり当選はほとんど期待できない。一方、時短Ｂは時短回数が１００００回（図４１１参照）であるため、時短Ｂが設定されると高確率で次回の大当たりまたは小当たり当選が期待できる。したがって、時短Ａ状態よりも時短Ｂ状態の方が遊技者に有利な時短状態であると言える。

【１２１７３】

ここで、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによって時短Ｂ状態が設定された場合に、第１特別図柄の変動を強制的に外れ図柄として停止させることができずに時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示された場合には、設定されている時短Ｂ状態が破棄され、新たに時短Ａ状態が設定される。つまり、この場合、時短Ｂ状態が継続するのは、時短当選した第１特別図柄の変動時間（本第４４制御例では、３００秒）が経過するまでの期間のみとなり、時短リミットに到達する前に時短状態が終了してしまう可能性が高くなる。

【１２１７４】

一方、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによって時短Ｂ状態が設定された場合に、特定の大当たり（大当たりＤ）または小当たり（小当たりＢ）に当選し、第１特別図柄の変動を強制的に外れ図柄として停止させることができた場合には、時短リミット到達まで時短Ｂ状態を継続させることが可能となり、遊技者は大量の賞球を獲得可能となる。

【１２１７５】

このように、本第４４制御例では、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間（即ち、時短当選変動状態が設定されている場合）に、第２特別図柄が大当たり当選、小当たり当選、或いは時短当選したことによっ

て時短Ｂ状態が設定された場合に、変動表示されている第１特別図柄を強制的に外れとして停止（破棄）し、有利な時短状態を継続させることができるかという新たな遊技性を遊技者に提供することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２１７６】

次に、図１３０２を参照して、時短設定処理４４（Ｙ７１１）の処理内容について説明をする。図１３０２は、時短設定処理４４（Ｙ７１１）の処理内容を示したフローチャートである。この時短設定処理４４（Ｙ７１１）では、時短当選判定により時短当選した場合に時短状態を設定するための処理が実行される。時短設定処理４４（Ｙ７１１）が実行されると、まず、今回の時短種別が時短Ａであるかを判別し（Ｙ８３５１）、時短Ａであると判別した場合に（Ｙ８３５１：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇをオフに設定する（Ｙ８３５２）し、決定された時短種別に対応する値を時短カウンタ２０３ｈに設定し（Ｙ８３５３）、遊技状態格納エリアに時短状態を設定し（Ｙ８３５４）、時短カウンタ２０３ｈの値、時短種別遊技状態（時短状態を示す情報と、設定された時短種別を示す情報）を示す状態コマンドを設定し（Ｙ８３５５）、本処理を終了する。

【１２１７７】

一方、Ｙ８３５１の処理において、時短Ａではないと判別した場合（即ち、時短Ｂである場合）は（Ｙ８３５１：Ｎｏ）、Ｙ８３５２の処理をスキップし、Ｙ８３５３の処理を行う。なお、図示しないが、Ｙ８３５３の処理では、時短カウンタ２０３ｈの値をクリアした後、決定された時短種別に対応する値を新たに設定する。したがって、時短当選に基づいて時短Ａ状態が設定される場合に、既に時短カウンタ２０３ｈに時短Ｂに対応する値（例えば、１００００回）が設定されている場合には、時短Ｂに対応する値を破棄し、時短Ａに対応する値（５回）を設定する。

【１２１７８】

このように、本第４４制御例では、時短当選契機に応じて、異なるタイミングで時短状態が設定されるように構成しており、特別図柄抽選で時短当選した場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングにて時短状態が設定され、特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて時短状態が設定される場合には、当該特別図柄変動の停止タイミングでは無く、大当たり遊技終了タイミングで時短状態が設定される。

【１２１７９】

このように構成することで、時短状態が設定されるタイミングを異ならせることができるため、遊技者に対して飽き難い遊技を提供することができる。

【１２１８０】

次に、図１３０３を参照して、特別図柄変動処理４４（図１２９３、Ｙ１０４）の一処理である第２特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３９）について説明する。図２３９は、この第２特別図柄変動開始処理４４（Ｙ２３９）を示すフローチャートである。

【１２１８１】

第２特別図柄変動開始処理４４（図１３０３、Ｙ２３９）では、まず、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンであるか判別する（Ｙ８３１）。Ｙ８３１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンであると判別した場合には（Ｙ８３１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。

【１２１８２】

一方、Ｙ８３１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンでないと判別した場合には（Ｙ８３１：Ｎｏ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）を取得し（Ｙ８３２）、取得した第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０より大きい値であるか判別する（Ｙ８３３）。Ｙ８３３の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０より大きいと判別した場合には（Ｙ８３３：Ｙｅｓ）、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）を１減算して（Ｙ８３４）、減算後の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を示す保留球数コマンドを、音声ランプ制御装置１１３に通知するための保留球数コマンドを設定する（Ｙ８３５）。

【１２１８３】

ここで設定された保留球数コマンドは、ＲＡＭ２０３に設けられたコマンド送信用のリングバッファに記憶され、ＭＰＵ２０１により実行されるメイン処理の外部出力処理において、音声ランプ制御装置１１３に向けて送信される。音声ランプ制御装置１１３は、保留球数コマンドを受信すると、その保留球数コマンドから第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値を抽出し、抽出した値をＲＡＭ２３０の第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｄに格納する。このように、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信される保留球数コマンドに従って、第２特別図柄保留球数カウンタ２２３ｄの値を更新するので、主制御装置１１０の第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値と同期させながら、その値を更新することができる。

【１２１８４】

Ｙ８３５の処理が終了すると、次に、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂのデータを一つ前のデータにシフトする（Ｙ８３６）。より具体的には、保留エリア１→実行エリア、保留エリア２→保留エリア１、保留エリア３→保留エリア２、保留エリア４→保留エリア３といった具合に各エリア内のデータをシフトする。

【１２１８５】

Ｙ８３６の処理が終了すると、次いで、第２特別図柄判定処理４４を実行する（Ｙ８３７）。この第２特別図柄判定処理４４（図１３０４、Ｙ８３７）については、詳しく後述するが、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアにシフトされた第１当たり乱数カウンタＣ１の値に基づいて、設定されている遊技状態に基づいて、大当たりか否かの大当たり判定を実行するための処理である。

【１２１８６】

Ｙ８３７の処理が終了すると、次に、第２特別図柄変動パターン選択処理４４を実行する（図１３０６、Ｙ８３８）。詳細については後述するが、この第２特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ８３８）は、第２特別図柄の当否判定結果、および第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアに格納された変動種別カウンタＣＳ１の値に基づいて変動パターンを選択するための処理である。

【１２１８７】

第２特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ８３８）が終了すると、次いで、遊技状態更新処理４４を実行する（Ｙ８３９（Ｙ３０９））。この遊技状態更新処理４４（図１２９７、Ｙ８３９（Ｙ３０９））は、第１特別図柄において実行されるものと同一の処理が実行され、細部は図１２９８を参照して説明しているため、詳細な説明は省略する。Ｙ８３９の処理が終了すると、特図２待受フラグをオフに設定すると共に、オフを示す特図１待機コマンドを設定して（Ｙ８４０）、本処理を終了する。なお、遊技状態更新処理４４（Ｙ８３９）をＹ８３７の処理の前に実行しても良く、このように構成することで、遊技状態が更新された後に特別図柄抽選が実行されることとなる。

【１２１８８】

一方、Ｙ８３３の処理において、第２特別図柄保留球数カウンタ２０３ｅの値（Ｎ１）が０であると判別した場合は（Ｙ８３３：Ｎｏ）、特図２待受フラグがオンであるか否か判別し（Ｙ８４１）、オンであると判別した場合は（Ｙ８４１：Ｙｅｓ）、本処理を終了する。Ｙ８４１の処理において、オフである（即ち、オンでない）と判別した場合は（Ｙ８４１：Ｎｏ）、特図２待受フラグをオンに設定し（Ｙ８４２）、オンを示す特図２待機コマンドを設定（Ｙ８４３）した後、本処理を終了する。

【１２１８９】

次に、図１３０４を参照して、第２特別図柄判定処理４４（Ｙ８３７）の処理内容について説明をする。図１３０４は、第２特別図柄判定処理４４（Ｙ８３７）の処理内容を示したフローチャートである。この第２特別図柄判定処理４４（Ｙ８３７）では、上述した第１特別図柄判定処理４４（図１２９５のＹ３０７）とは異なり、特別図柄抽選における大当たり判定において外れであると判定された場合に、時短当選の判定（特図２時短抽選処理４４）に加えて小当たり当選の判定（小当たり抽選処理４４）が実行される。

【１２１９０】

第２特別図柄判定処理４４（Ｙ８３７）が実行されると、まず、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアのデータを取得し（Ｙ８１０１）、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８１０２）、抽選結果が大当たりであると判定した場合は（Ｙ８１０３：Ｙｅｓ）、第２特別図柄の抽選結果を大当たりに設定し（Ｙ８１０４）、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の大当たり図柄をセットし（Ｙ８１０５）、現在の遊技状態を示す値を当選時状態格納エリアに格納し（Ｙ８１０７）、本処理を終了する。一方、抽選結果が大当たりでは無いと判別した場合は（Ｙ８１０３：Ｎｏ）、特図２時短抽選処理４４を実行し（Ｙ８１０６）、本処理を終了する。

【１２１９１】

このように、本第４４制御例では、第２特別図柄の大当たり抽選において大当たり判定でなかった場合には、時短抽選と小当たり抽選が実行される構成となっているため、第１特別図柄に比べて遊技者に有利な状態（時短状態）となる契機が多く設定されており、第２特別図柄は第１特別図柄よりも有利な特別図柄であるといえる。なお、上述したように、通常状態における第２特別図柄の変動時間は長時間（６００秒）が設定され、通常状態で第２特別図柄抽選のみを実行しようとする遊技者の遊技効率が悪くなるように構成している。

【１２１９２】

また、細部については後述するが、特図２時短抽選処理４４（Ｙ８１０６）では、特図１時短抽選処理４４（図１２９７のＹ８００７）と異なり、時短当選した場合に、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであるか否かによって設定する時短種別を決定する。具体的には、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンである場合にのみ時短Ｂ状態が設定される。つまり、時短当選したことを示す第１特別図柄の変動表示中に第２特別図柄が時短当選した場合にのみ時短Ｂ状態が設定され、それ以外の場合には時短Ａ状態が設定される構成としている。このように構成することで、時短当選変動状態でない場合に第２特別図柄が時短当選しても遊技者に有利な時短状態である時短Ｂ状態は設定されないため、第１特別図柄を変動させない状態で第２特別図柄抽選のみを実行する遊技者が過剰に有利になることを抑制することができる。

【１２１９３】

次に、図４２９を参照して、特図２時短抽選処理４４（Ｙ８１０７）の処理内容について説明をする。図４２９は、特図２時短抽選処理４４（Ｙ８１０７）の内容を示したフローチャートである。

【１２１９４】

特図２時短抽選処理４４（Ｙ８１０７）が実行されると、まず、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａに基づいて抽選結果（時短当選判定結果）を取得し（Ｙ８２０１）、時短当選しているかを判別し（Ｙ８２０２）、時短当選していると判別した場合は（Ｙ８２０２：Ｙｅｓ）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであるかを判別し（Ｙ８２０３）、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオンであると判別された場合（Ｙ８２０３：Ｙｅｓ）には、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ｂをセットし（Ｙ８２０５）、本処理を終了する。

【１２１９５】

Ｙ８２０２の処理において時短当選していない（Ｙ８２０２：Ｎｏ）と判別した場合は、取得した当たり種別カウンタ（第１当たり種別カウンタＣ２）の値に基づいて、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の外れ図柄をセットし（Ｙ８２０６）、本処理を終了する。

【１２１９６】

Ｙ８２０３の処理において、時短当選変動状態フラグ２０３ｋｇがオフであると判別された場合（Ｙ８２０３：Ｎｏ）には、第１図柄表示装置３７に表示する特別図柄の時短図柄として時短Ａをセットし（Ｙ８２０４）、本処理を終了する。

【１２１９７】

このように本第４４制御例では、時短当選変動状態フラグｋｇがオンの場合（即ち、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄の変動表示が実行中である場合）のみ、第２特別図柄が時短当選した場合に時短Ｂ状態が設定される構成としている。このように構成することで、時短当選変動状態でない場合に第２特別図柄が時短当選しても遊技者に有利な時短状態である時短Ｂ状態は設定されないため、第１特別図柄を変動させない状態で第２特別図柄抽選のみを実行する遊技者が過剰に有利になることを抑制することができる。また、第１特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまでの期間内で、第２特別図柄の時短当選を目指すという新たな遊技性を遊技者に提供することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２１９８】

次に、図１３０５を参照して、第２特別図柄判定処理４４（図１３０４、Ｙ８３７）の一処理である小当たり抽選処理４４（Ｙ８１０８）について説明する。図１３０５はこの小当たり抽選処理４４（Ｙ８１０８）を示すフローチャートである。

【１２１９９】

小当たり抽選処理４４（図１３０５、Ｙ８１０８）では、まず、第２特別図柄の抽選結果が時短当選と判定されたか、即ち、第２特別図柄の時短当選が設定されているか否かを判別する（Ｙ８３０１）。

【１２２００】

Ｙ８３０１の処理において、第２特別図柄の時短当選が設定されていると判別された場合には、（Ｙ８３０１：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【１２２０１】

一方、Ｙ８３０１の処理において、第２特別図柄の時短当選が設定されていないと判別された場合には、（Ｙ８３０１：Ｎｏ）、第１当たり乱数４３テーブル２０２Ａａに基づいて抽選結果を取得し（Ｙ８３０２）、小当たり当選であると判別された場合には（Ｙ８３０４：Ｙｅｓ）、小当たり種別カウンタＣ５の値を取得し、小当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｆから小当たり種別を選択し、第１図柄表示装置に表示する特別図柄の小当たり図柄をセットする（Ｙ８３０５）。一方、Ｙ８３０４の処理において、小当たり当選ではないと判別された場合には（Ｙ８３０４：Ｎｏ）、Ｙ８３０５の処理をスキップし、本処理を終了する。

【１２２０２】

このように、本第４４制御例では、１度の第２特別図柄抽選において大当たり当選、時短当選、小当たり当選が重複しないことで、遊技者に複数の特典が付与されることを抑制し、遊技者が過剰に有利にならないように構成している。

【１２２０３】

なお、大当たり当選または小当たり当選と、時短当選が重複する構成としても良く、この場合、例えば、大当たり当選と時短当選が重複した場合には、大当たり当選のみした場合よりも大当たり遊技終了後に有利な時短状態が設定される構成とすることで、同種の大当たり種別の大当たりに当選した場合でも、時短当選したか否かで、大当たり遊技終了後の遊技状態に多様性を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２２０４】

次に、図１３０６を参照して、第２特別図柄変動開始処理４４（図１３０３、Ｙ２３９）の一処理である第２特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ８３８）について説明する。図１３０６はこの第２特別図柄変動パターン選択処理４４（Ｙ８３８）を示すフローチャートである。

【１２２０５】

第２特別図柄変動パターン選択処理４４（図１３０６、Ｙ８３８）では、まず、第２特別図柄判定処理４４（図１３０４、Ｙ８１０３）において、第１特別図柄の抽選結果が大当たりと判定されたか、即ち、第２特別図柄の大当たりが設定されているか否かを判別する（Ｙ９２１）。

【１２２０６】
Ｙ９２１の処理において、第２特別図柄の大当たりが設定されていると判別された場合には（Ｙ９２１：Ｙｅｓ）、上述した第２特別図柄判定処理４４（図１３０４参照）におけるＹ８１０５の処理で取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値に基づいて、大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂより大当たり種別を決定し（Ｙ９２２）、Ｙ９２３の処理へ移行する。
【１２２０７】
一方、Ｙ９２１の処理において、第２特別図柄の抽選結果が外れであると判別した場合には（Ｙ９２１：Ｎｏ）、Ｙ９２２の処理をスキップして、Ｙ９２３の処理へ移行する。
【１２２０８】
Ｙ９２３の処理では、第２特別図柄保留球格納エリア２０３ｂの実行エリアから変動種別カウンタＣＳ１の値を取得する（Ｙ９２３）。次いで、遊技状態に応じた変動パターンテーブル（図４１３～４１６参照）を読み出して（Ｙ９２４）、Ｙ９２５の処理へ移行する。なお、遊技状態は、時短当選変動フラグの値と、遊技状態格納エリア２０３ｇに記憶されている情報に基づいて判別される。Ｙ９２５の処理では、読み出した変動パターンテーブルから変動種別カウンタＣＳ１の値に対応する変動パターンを選択し（Ｙ９２５）、その後、選択した変動パターンに基づいて、特図２変動パターンコマンドを設定する（Ｙ９２６）。
【１２２０９】
Ｙ９２６の処理が終了すると、停止図柄を示す特図２停止種別コマンドを設定する（Ｙ９２７）。次いで、第１図柄表示装置３７で第２特別図柄の変動開始を設定し（Ｙ９２８）、本処理を終了する。
【１２２１０】
次に、図１３０７を参照して、特別図柄変動処理４４（図１２９３のＹ１０４参照）において実行される第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）の内容について説明をする。図１３０７は、第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）の内容を示すフローチャートである。この第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）では、第２特別図柄の変動時間の減算を中断している場合にその減算を再開する処理、および、変動時間を減算する処理が実行される。
【１２２１１】
第２特別図柄変動実行中処理（Ｙ２４０）が実行されると、まず、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されているかを判別する（Ｙ２９０１）。ここで、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されている状態で本処理が実行される場合について簡単に説明をする。上述したように特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅは、特図２が変動中において、特図１が当たり（大当たり）を示す図柄で停止表示される場合にオンに設定されるものである。そして、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されると、その処理内で大当たり中フラグ２０３ｋがオンに設定されるため、主制御装置１１０にて２ミリ秒毎に実行されるタイマ割込処理がループし、次回（特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定された２ミリ秒後）の特別図柄変動処理４４（図１２９３、Ｙ１０４）が実行される際には、Ｙ２３１の処理において大当たり中であると判別されるため、第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）が実行されることがない。そして、大当たり遊技が終了し、Ｙ２３１の処理において大当たり中では無いと判別されることで、第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）が実行されることになる。このように構成することで、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されている状態で第２特別図柄変動実行中処理４４（Ｙ２４０）が実行される状態が、大当たり遊技が終了し、変動時間の減算を中断していた特図変動の変動時間の減算を再開するタイミングとなるように構成している。
【１２２１２】
図１３０７に戻り説明を続ける。Ｙ２９０１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されていると判別した場合は（Ｙ２９０１：Ｙｅｓ）、次に、特図２変動再開コマンドを設定し（Ｙ２９０２）、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅをオフに設定

し（Ｙ２９０３）、Ｙ２９０４へ移行する。一方、Ｙ２９０１の処理において、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンに設定されていない（オフに設定されている）と判別した場合は（Ｙ２９０１：Ｎｏ）、Ｙ２９０２，Ｙ２９０３の処理をスキップしてＹ２９０４の処理へ移行する。

【１２２１３】

Ｙ２９０４の処理では特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃを１減算して更新し（Ｙ２９０４）、第１図柄表示装置の表示を更新し（Ｙ２９０５）、本処理を終了する。

【１２２１４】

次に、図１３０８を参照して、第２特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２４１）の内容について説明をする。図１３０８は、第２特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２４１）の内容を示すフローチャートである。この第２特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２４１）は、特図２の変動を停止する際の処理を実行するものであって、上述した第１特別図柄変動停止処理（図１３００参照）に対して、特図２の抽選結果が大当たりであった場合において、特図１の変動を中断させる（変動時間の減算を中断させる）構成に加えて、特図２の抽選結果が特定の大当たり種別（大当たりＤ）であった場合には、特図１の変動を強制停止する構成を設けた点と、特図２の抽選結果が小当たりの場合に実行される処理を追加した点で相違している。

【１２２１５】

第２特別図柄変動停止処理４４（Ｙ２４１）が実行されると、まず、第２特別図柄の変動時間が終了したか否かが判別される（Ｙ９０１）。第２特別図柄の変動時間が終了したか否かは、特図２変動時間タイマ２０３Ｂｃのカウンタ値が０であるか否かによって判別される。

【１２２１６】

Ｙ９０１の処理において変動時間が終了したと判別された場合には（Ｙ９０１：Ｙｅｓ）、第２特別図柄（特図２）の抽選結果が大当たりであるかを判別し（Ｙ９０２）、大当たりではない（外れである）と判別した場合は（Ｙ９０２：Ｎｏ）、次いで、特図２の抽選結果が小当たりであるかを判別する（Ｙ９１２）。Ｙ９１０の処理において、小当たりではないと判別した場合は（Ｙ９１２：Ｎｏ）、次いで、特図２の抽選結果が時短当選であるかを判別する（Ｙ９１４）。時短当選ではないと判別した場合は、第２特別図柄の確定コマンドをセットし（Ｙ９０８）、第１図柄表示装置の第２特別図柄の変動を停止し（Ｙ９０９）、本処理を終了する。

【１２２１７】

Ｙ９１４の処理において、時短当選であると判別された場合には（Ｙ９１４：Ｙｅｓ）、時短設定処理４４が実行され（Ｙ９１５）、その後、Ｙ９０８の処理を行う。なお、時短設定処理４４は、上述した第１特別図柄変動停止処理４４（図１３００、Ｙ２３６）の一処理として実行される時短設定処理４４（Ｙ７１１）と同一の処理であるため、詳細な説明は省略する。

【１２２１８】

Ｙ９１２の処理において、小当たり当選であると判別された場合には（Ｙ９１２：Ｙｅｓ）、特図２小当たり停止処理４４を実行し（Ｙ９１３）、その後、Ｙ９０８の処理を行う。特図２小当たり停止処理４４（Ｙ９１３）は、当選した小当たりの小当たり種別によって、第１特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄させる）か、仮停止させる（中断させる）か、を設定する処理を実行するものであり、詳細な説明は図１３１０を参照して後述する。

【１２２１９】

Ｙ９０２の処理において、大当たりであると判別した場合には（Ｙ９０２：Ｙｅｓ）、大当たり種別が大当たりＤであるかを判別し（Ｙ９０３）、大当たりＤではないと判別された場合（Ｙ９０３：Ｎｏ）には、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄをオンに設定し（Ｙ９０４）、設定されている停止種別を示す特図２停止種別コマンドを設定し（Ｙ９０６）、大当たりシナリオを設定し（Ｙ９０７）し、その後、Ｙ９０８、Ｙ９０９の処理を行う。

【１２２２０】
一方、Ｙ９０３の処理において、大当たりＤであると判別された場合には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し（Ｙ９０５）、Ｙ９０６～Ｙ９０９の処理を実行する。
【１２２２１】
このように本第４４制御例のパチンコ機１０では、大当たり種別が大当たりＤである場合には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し、それ以外の大当たり種別の場合には、特図１仮停止フラグ２０３Ｂｄをオンに設定することで、大当たり種別によって第１特別図柄の変動が強制的に停止される（破棄される）場合と、仮停止される（中断される）場合とを可変させることができる。
【１２２２２】
なお、図４１１に示す通り、第２特別図柄が大当たりした場合に決定される大当たり種別は、実行された第２特別図柄の変動回数によって異なり、大当たりＤは５１回転目以降に大当たり当選した場合に、決定され易い構成としている。このように構成することで、第２特別図柄で大当たり当選できずに外れ当選が続いた場合（所謂、ハマった場合）であっても、遊技者に有利な大当たり種別が決定され易くなるため、ハマった場合の遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。
【１２２２３】
Ｙ９０１の処理において、実行中の第２特別図柄に基づく変動の終了タイミングでないと判別した場合には（Ｙ９０１：Ｎｏ）、次いで、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅまたは特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンであるか否かを判別する（Ｙ９１０）。Ｙ９１０の処理において特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅまたは特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオフであると判別された場合は（Ｙ９１０：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【１２２２４】
一方、Ｙ９１０の処理において特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅまたは特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンであると判別した場合は（Ｙ９１０：Ｙｅｓ）、第１特別図柄が大当たりで停止された場合または時短当選した場合であるので、実行中の第２特別図柄に基づく変動を停止（仮停止）させるために、特図２強制停止処理４４を実行する（Ｙ９１１）。尚、この特図２強制停止処理４４の詳細については、図１３０９を参照して後述する。
【１２２２５】
このように、第２特別図柄停止処理４４（Ｙ２４１）では、変動表示中の第２特別図柄の規定の変動時間が経過した場合に（Ｙ９０１：Ｙｅｓ）、第２特別図柄抽選遊技の判定結果を示す図柄で変動表示を停止する処理が実行される。また、第１特別図柄が大当たりを示す図柄で変動停止され、第１特別図柄の大当たり遊技が実行される場合、または第１特別図柄が時短当選し、時短当選変動状態が設定される場合に（Ｙ９１０：Ｙｅｓ）、変動表示中の第２特別図柄を強制的に停止する処理（Ｙ９１１）が実行される。
【１２２２６】
次に、図１３０９を参照して、第２特別図柄変動停止処理４４（図１３０８、Ｙ２４１）の一処理である特図２強制停止処理４４（Ｙ９１１）について説明する。図１３０９は、この特図２強制停止処理４４（Ｙ９１１）を示すフローチャートである。
【１２２２７】
特図２強制停止処理４４（図１３０９、Ｙ９１１）では、まず、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンであるかを判別する（Ｙ６３１）。特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンであると判別した場合（Ｙ６３１：Ｙｅｓ）には、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇをオフに設定し（Ｙ６３２）、次に、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇのオフを示す特図２変動停止コマンドを設定する（Ｙ６３３）。そして、第２特別図柄の変動種別を外れに設定する（Ｙ６３４）。なお、図示しないが、Ｙ６３４の処理の後に第１図柄表示装置３７の第２特別図柄を外れ図柄で変動停止させ、第２特別図柄の特図２確定コマンドを設定する。
【１２２２８】

一方、Ｙ６３１の処理において、特図２変動停止フラグ２０３Ｂｇがオンでないと判別された場合（Ｙ６３１：Ｎｏ）は、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンである場合であるため、第２特別図柄の変動を仮停止（中断）させるコマンドを設定し（Ｙ６３５）、本処理を終了する。

【１２２２９】

このように、本第４４制御例では、特図２仮停止フラグ２０３Ｂｅがオンにされる（第１特別図柄で大当たりとなる変動が停止するタイミング）と、第２特別図柄の変動時間が未経過であっても強制的に変動を中断して強制停止される。これにより、第１特別図柄と第２特別図柄で同時に抽選結果が変動表示されていても、一方の抽選結果のみに対する大当たり遊技を実行すればよく、射幸性を抑制することができる。さらに、遊技の効率を上げることができる。

【１２２３０】

また、本第４４制御例では、第１特別図柄が時短当選した場合の第１特別図柄の変動開始時に、第２特別図柄の変動停止フラグｋｆをオンにする構成としている。本第４４制御例では、上述したように、通常状態においては第２特別図柄の変動時間は長時間（６００秒）が設定されるため、第１特別図柄が時短当選した時点で既に第２特別図柄の変動表示が開始されている場合に、そのまま第２特別図柄の変動が継続されると、設定された時短当選変動状態が変動中の第２特別図柄の停止表示前に終了してしまい、遊技者が時短当選変動状態で第２特別図柄の抽選を実行することができないという不具合が生起し得る。

【１２２３１】

ここで、第１特別図柄が時短当選した場合の第１特別図柄の変動開始時に、第２特別図柄の変動停止フラグｋｆをオンにする構成とすることで、時短当選した第１特別図柄の変動が開始された場合に、変動中の第２特別図柄の変動が破棄されるため、時短当選変動状態で新たに第２特別図柄の抽選を受けることができ、遊技者が時短当選変動状態で第２特別図柄の抽選を実行することができないという不具合を防ぐことができる。

【１２２３２】

次に、図１３１０を参照して、第２特別図柄変動停止処理４４（図１３０８、ｙ２４１）の一処理である特図２小当たり停止処理４４（Ｙ９１３）について説明をする。図１３１０は特図２小当たり停止処理４４（Ｙ９１３）の内容を示すフローチャートである。

【１２２３３】

特図２小当たり停止処理４４（図１３１０、Ｙ９１３）では、まず、小当たり種別が小当たりＢであるか判別し（Ｙ９３１）、小当たりＢであると判別された場合（Ｙ９３１：Ｙｅｓ）には、特図１変動停止フラグｋｅをオンに設定し（Ｙ９３２）、特図１変動停止フラグ２０３Ｂｆのオンを示す特図１変動停止コマンドを設定する（Ｙ９３３）。そして、選択されている小当たり種別に対応する小当たりシナリオを設定し（Ｙ９３４）、本処理を終了する。

【１２２３４】

一方、Ｙ９３１の処理において、小当たりＢでないと判別された場合（Ｙ９３１：Ｎｏ）には、特図１仮停止フラグｋｃをオンに設定し、（Ｙ９３７）、特図１仮停止フラグｋｃのオンを示す特図１仮停止コマンドを設定し（Ｙ９３８）、Ｙ９３４の処理を行う。

【１２２３５】

このように、本第４４制御例では、特定の大当たり種別だけでなく、特定の小当たり種別によっても、変動中の第１特別図柄を破棄させることが可能に構成されている。これにより、遊技者に小当たり種別にも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２２３６】

なお、本第４４制御例のパチンコ機１０では、小当たりＢ当選を示す第２特別図柄の変動停止時に特図１変動停止フラグをオンに設定する構成としたが、これに限るものではなく、小当たりＢに当選した第２特別図柄の変動開始時に特図１変動停止フラグをオンに設定する構成としても良い。また、小当たり遊技の開始時に第１特別図柄を破棄する構成と

しても良いし、小当たり遊技の終了時に破棄する構成としても良い。
【１２２３７】
次に、図１３１１を参照して、メイン処理において実行される大当たり制御処理４４（Ｙ１００４）の内容について説明をする。図１３１１は大当たり制御処理４４（Ｙ１００４）の内容を示すフローチャートである。この大当たり制御処理４４（Ｙ１００４）は、上述した第１１制御例の大当たり制御処理１１（図４０３参照）の大当たり終了処理１１（Ｓ１１６５１）に代えて、大当たり終了処理４４（Ｙ１１６１３）を実行する点でのみ相違し、その他の処理は第１１制御例と同一であるため、その詳細な説明は省略する。
【１２２３８】
次に、図１３１２を参照して、大当たり終了処理４４（Ｙ１１６１３）の内容について説明する。図１３１２は大当たり終了処理４４（Ｙ１１６１３）の内容を示すフローチャートである。大当たり終了処理４４が実行されると、まず、時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）が実行される。時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）の詳細な説明については、図１３１３を参照して後述するが、連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な上限値を時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａにセットしたり、設定済の時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値を更新（減算）したりするための処理を実行する。
【１２２３９】
ここで、図１３１３を参照して、大当たり終了処理４４（図１３１２のＹ１１６１３参照）内の一処理である時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）の詳細について説明する。図１３１３は、時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）の内容を示したフローチャートである。この時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）では、連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な上限値を設定したり、設定済の上限値に対する残回数数を更新するための処理が実行される。
【１２２４０】
時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）では、まず、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０より大きい値であるか判別する（Ｙ３００１）。時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０より大きい値ではない、即ち、大当たり当選時における普通図柄の確率状態が低確率状態であると判別した場合には（Ｙ３００１：Ｎｏ）、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値に連続して普通図柄の高確率状態を設定可能な値が設定されていないため、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値に１０を設定し（Ｙ３００５）、時短フラグをオンに設定する（Ｙ３００６）。そして、本処理を終了する。
【１２２４１】
一方、Ｙ３００１の処理において、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０より大きい値であると判別した場合には（Ｙ３００１：Ｙｅｓ）、時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値を１減算し（Ｙ３００２）、次に、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０であるか否かを判別する（Ｙ３００３）。減算後の時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０であると判別した場合には（Ｙ３００３：Ｙｅｓ）、連続して普通図柄の高確率状態が設定できる上限値に達したため、時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈをオンに設定し（Ｙ３００４）、本処理を終了する。一方、Ｙ３００４の処理において、減算後の時短リミット回数カウンタ２０３Ｂａの値が０ではないと判別した場合には（Ｙ３００４：Ｎｏ）、本処理を終了する。
【１２２４２】
なお、本実施形態では、時短リミット回数として１０回が設定されるよう構成したが、これに限ることなく、２０回や３０回など、複数の設定回数の中から決定するよう構成してもよい。
【１２２４３】
図１３１２に戻り説明を続ける。時短リミット更新処理４４（Ｙ２７０１）を実行した後、時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈはオンであるかを判別し（Ｙ２７０２）、時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈがオンであると判別された場合（Ｙ２７０２：Ｙｅｓ）には、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として通常状態（普通図柄の低確率状態）を

示す情報を遊技状態格納エリア２０３ｇに格納し（Ｙ２７０３）、大当たり遊技終了後の遊技状態に対応する状態コマンドを設定し（Ｙ２７０７）し、本処理を終了する。

【１２２４４】

一方、Ｙ２７０２の処理において、時短リミット到達フラグ２０３Ｂｈがオンではないと判別された場合（Ｙ２７０２：Ｎｏ）には、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態として時短状態（普通図柄の高確率状態）を示す情報を遊技状態格納エリア２０３ｇに格納し、（Ｙ２７０４）、大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂに基づき、実行中の大当たり種別に対応する時短回数を時短カウンタ２０３ｈ、特図２カウンタ２０３Ａｂのカウンタ値に設定し（Ｙ２７０５）、設定内容に対応する時短設定情報コマンドを設定し（Ｙ２７０６）、Ｙ２７０７の処理を行う。

【１２２４５】

このように、本第４４制御例のパチンコ機１０では、大当たり遊技終了後に連続して時短状態（普通図柄の高確率状態）を設定可能な上限値を定め、遊技者に有利な状態が連続して設定される回数を制限することで、過剰に賞球を得ることにより遊技者の射幸心を煽ることを抑制することができる。

【１２２４６】

なお、本第４４制御例のパチンコ機１０では、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態（確変状態）が設定されない構成としたが、これに限るものではなく、大当たり遊技終了後に確変状態が設定される構成としても良い。

【１２２４７】

＜第４４制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１３１４から図１３１６を参照して、本第４４制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１によって実行される制御処理について説明をする。本第４４制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０に対して、図１２８５、及び図１２８６に示した通り、第１時短状態中に実行される特別図柄変動に関する演出内容を異ならせており、第１時短状態中に実行される演出の演出態様を決定するための処理を実行する点で相違している。以下、上述した相違点に関わる制御処理内容について説明をする。

【１２２４８】

なお、本第４４制御例では、上述した第４３制御例に対して、主制御装置１１０にて実行される特別図柄抽選の実行処理や特別図柄変動の実行処理に関わる制御処理等を異ならせているため、主制御装置１１０から出力される各種コマンドの内容も異なり、主制御装置１１０から出力された各種コマンドを受信したことに基づいて実行される音声ランプ制御装置１１３側の制御処理の内容も異なるが、この相違点については、上述した第１２制御例や第１３制御例といった本第４４制御例におけるパチンコ機１０と同様に、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）されているパチンコ機１０にて実行される音声ランプ制御装置１１３側の制御処理と同一であるため、その説明を省略する。

【１２２４９】

まず、図１３１４を参照して、変動演出設定処理４４（図１３１４のＳ４３０４Ｃ）の内容について説明をする。図１３１４は、変動演出設定処理４４（Ｓ４３０４Ｃ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理４４（Ｓ４３０４Ｃ）は、上述した第４３制御例における変動演出設定処理４３（図１２８０のＳ４３０４Ｂ参照）に対して、第１時短状態中に実行される第１特別図柄変動に対応する演出態様を設定するための特図１変動演出設定処理（Ｓ４４０２Ｃ）と、第１時短状態中に実行される第２特別図柄変動に対応する演出態様を設定するための特図２変動演出設定処理（Ｓ４４０１Ｃ）と、を追加して実行する点で相違し、それ以外の処理内容は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２２５０】

次に、図１３１５を参照して、特図２変動演出設定処理（Ｓ４４０１Ｃ）の処理内容に

ついて説明をする。図１３１５は、特図２変動演出設定処理（Ｓ４４０１Ｃ）の処理内容を示したフローチャートである。この特図２変動演出設定処理（Ｓ４４０１Ｃ）では、第１時短状態中に実行された第２特別図柄抽選の結果が当たり当選（大当たり、小当たり当選）であることを示すための第２特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を設定するための各種処理が実行される。

【１２２５１】

まず、特図２変動演出設定処理（Ｓ４４０１Ｃ）が実行されると、今回の特別図柄抽選の結果を読み出し（Ｓ４５０１Ｃ）、読み出した結果が当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）であるかを判別し（Ｓ４５０２Ｃ）、当たり当選では無いと判別した場合は（Ｓ４５０２Ｃ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４５０３Ｃ）、本処理を終了する。

【１２２５２】

一方、Ｓ４５０２Ｃの処理において、当たり当選であると判別した場合は（Ｓ４５０２Ｃ：Ｙｅｓ）、時短情報更新エリア２２３ｈに格納されている時短情報を読み出し（Ｓ４５０４）、今回の当たり当選が、時短リミット到達当たり当選であるかを判別し（Ｓ４５０５Ｃ）、時短リミット到達当たり当選では無いと判別した場合は（Ｓ４５０５Ｃ：Ｎｏ）、上述したＳ４５０３Ｃの処理へ移行する。

【１２２５３】

Ｓ４５０５Ｃの処理において、時短リミット到達当たり当選であると判別した場合、即ち、今回の特別図柄抽選の抽選結果が、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される抽選結果であるにも関わらず時短リミット処理によって通常状態が設定される場合は（Ｓ４５０５Ｃ：Ｙｅｓ）、当該変動の変動時間と、残時短回数と、に基づいて擬似左打ちモード（演出）の実行を決定する（Ｓ４５０６Ｃ）。

【１２２５４】

ここで、Ｓ４５０６Ｃにて実行される処理内容について詳細に説明をする。本第４４制御例では、時短リミット到達当たり当選を示す第２特別図柄変動の変動期間中において、第１特別図柄抽選を実行することによって、第２特別図柄変動が停止表示されるまでに、現在設定されている第１時短状態を終了させることが可能に構成している。そして、実行中の第２特別図柄変動が停止表示されるまでの期間（残変動時間）中に、現在設定されている第１時短状態の時短終了条件を左打ち遊技によって成立させることが可能であるかを判別し、現在設定されている第１時短状態の時短終了条件を左打ち遊技によって成立させることが可能であると判別した場合に、遊技者に対して、左打ち遊技を促す擬似左打ち演出（図１２８５（ｂ）、及び図１２８６参照）を実行するように構成している。

【１２２５５】

本第４４制御例におけるパチンコ機１０では、図１２９１を参照して上述した通り、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選した場合に、対応する第２特別図柄の変動時間として５秒、６０秒、１８０秒のうち、何れかの変動時間を決定可能に構成している。つまり、時短リミット到達当たり当選以外の当たり当選時であれば、短い変動時間（例えば、５秒）が設定されることにより、遊技の時間効率を高めることが遊技者にとって有利となるが、時短リミット到達当たり当選時は、当たり変動時間が長いほど、その変動時間内で時短終了条件を成立させ易くなるため、長い変動時間（例えば、１８０秒）の方が、短い変動時間（例えば、５秒）よりも遊技者に有利となる。

【１２２５６】

Ｓ４５０６Ｃの処理では、少なくとも、当該変動の変動時間が６０秒、或いは、１８０秒の変動時間である場合に、擬似左打ち演出（モード）の実行が決定される。なお、擬似左打ち演出（モード）の実行が決定されない場合には、時短リミット到達当たり当選であっても、擬似左打ち演出が実行されること無く、時短リミット到達当たり当選以外の当たり当選時と同一の演出態様で第２特別図柄変動演出が実行され、大当たり遊技中に今回の大当たり遊技が時短リミット到達当たり当選に基づく大当たり遊技であることが遊技者に報知される。このように、時短リミット到達当たり当選を示す第２特別図柄変動演出の一

部（擬似左打ち演出が実行されない場合）と、時短リミット到達当たり当選以外の当たり当選を示す第２特別図柄変動演出とで同一の演出態様を決定可能にすることで、どのタイミングで時短リミット処理が実行されるかを遊技者に分かり難くすることができる。

【１２２５７】

Ｓ４５０７Ｃの処理において、擬似左打ちモード（演出）が決定されたと判別した場合は（Ｓ４５０７：Ｙｅｓ）、次に、擬似左打ちモードに対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ４５０８Ｃ）、次いで、現在設定されている第１時短状態の時短終了条件が成立するまでの残時短回数が３回未満であるかを判別し（Ｓ４５０９）、３回未満であると判別した場合は（Ｓ４５０９Ｃ：Ｙｅｓ）、当該変動の変動期間中に第１特別図柄抽選に基づいて時短終了条件を成立させ易い状況であるため、幸福度８０％の演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４５１０Ｃ）、擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａをオンに設定し（Ｓ４５１２Ｃ）、幸福度カウンタ２２３Ｂｂに決定した値を設定し（Ｓ４５１３Ｃ）、本処理を終了する。

【１２２５８】

一方、Ｓ４５０９Ｃの処理において、残時短回数が３回未満では無いと判別した場合、即ち、当該変動の変動期間中に第１特別図柄抽選に基づいて時短終了条件を成立させ難い状況であると判別した場合は（Ｓ４５０９Ｃ：Ｎｏ）、幸福度２０％の演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４５１１Ｃ）、Ｓ４５１２Ｃ，Ｓ４５１３Ｃの処理を実行し、本処理を終了する。

【１２２５９】

次に、図１３１６を参照して、特図１変動演出設定処理（Ｓ４４０２Ｃ）の処理内容について説明をする。図１３１６は、特図１変動演出設定処理（Ｓ４４０２Ｃ）の処理内容を示したフローチャートである。この特図１変動演出設定処理（Ｓ４４０２Ｃ）では、第１時短状態が設定されており、且つ、擬似左打ち演出中に実行される第１特別図柄抽選の抽選結果に対応する変動演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１２２６０】

特図１変動演出設定処理（Ｓ４４０２Ｃ）が実行されると、まず。擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４６０１Ｃ）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ４６０１Ｃ：Ｙｅｓ）、今回の第１特別図柄抽選の結果を取得し（Ｓ４６０２Ｃ）、今回の第１特別図柄抽選によって時短終了条件が成立するかを判別する（Ｓ４６０３Ｃ）。Ｓ４６０３Ｃの処理によって、時短終了条件が成立しないと判別した場合は（Ｓ４６０３Ｃ：Ｎｏ）、残時短回数に対応する幸福度の値を決定し（Ｓ４６０４Ｃ）、幸福度カウンタ２２３Ｂｂに決定した値を加算し（Ｓ４６０５Ｃ）、加算後の幸福度カウンタ２２３Ｂｂの値に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０６Ｃ）、本処理を終了する。

【１２２６１】

一方、Ｓ４６０３Ｃの処理において、時短終了条件が成立すると判別した場合は（Ｓ４６０３Ｃ：Ｙｅｓ）、幸福度１００％に対応する演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０７Ｃ）、実行中の特図２当たり変動の残変動時間を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０８Ｃ）、擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａをオフに設定し（Ｓ４６０９Ｃ）、幸福度カウンタ２２３Ｂｂの値を０にクリアし（Ｓ４６１０Ｃ）、本処理を終了する。

【１２２６２】

従来より、特別図柄抽選にて大当たり当選したことに基づいて、大当たり遊技を実行可能に構成したものがある。そして、大当たり遊技の終了後に設定される遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）よりも特別図柄抽選が実行され易い時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）を設定可能に構成したものがある。このように時短状態を設定可能に構成されたパチンコ機１０においては、より多くの大当たり遊技が実行されることを期待する遊技者に対して、特別図柄抽選を実行させ易くすることができる分、有利な遊技状態となる。

【１２２６３】
さらに、時短状態中に実行された特別図柄抽選の結果に基づいて大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技の終了後に再度時短状態が設定される確率（時短状態の継続確率）を高くすることで、遊技者に対して時短状態が設定されることを目指した遊技を意欲的に行わせることができることから、時短状態の継続確率を高く設計したパチンコ機１０が提案されていた。
【１２２６４】
しかしながら、時短状態の継続確率を高く設計したパチンコ機１０では、遊技者に対して過剰に特典（大当たり遊技によって払い出される賞球）を付与してしまう虞があることから、１回の大当たり遊技にて付与可能な賞球数を少なくする仕様が一般的に知られている。このように構成されたパチンコ機１０では、１回の大当たり遊技にて遊技者に付与される賞球数は少ないが、時短状態を複数回継続させることで多くの大当たり遊技を遊技者に提供させることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができるものであった。しかしながら、時短状態が設定されたにも関わらず１回の大当たり遊技が実行されただけで時短状態が終了してしまった遊技者に対しては、少ない賞球した付与することが出来ず遊技意欲が著しく低下してしまうという問題があった。
【１２２６５】
そこで、１回の大当たり遊技にて付与可能な賞球数を減らすこと無く、且つ、時短状態の継続確率も低下させることの無い遊技仕様として、時短状態が繰り返し設定される回数に上限を設けた遊技仕様（所謂、時短リミット）を有するパチンコ機１０が提案されている。この時短リミットを用いることで、高継続で時短状態が設定されるように設計されたパチンコ機１０であっても、時短状態が繰り返し設定される回数が特定回数（例えば、５回）に到達した状態で大当たり遊技が実行された場合（時短リミット回数に到達した場合）に、その大当たり遊技終了後に強制的に通常状態を設定することが可能となるため、時短状態の継続確率を高く設計したとしても、時短状態が過剰に継続してしまうことを抑制することができ、遊技者に過剰に特典（賞球）が付与されてしまうことを抑制することができるものであった。
【１２２６６】
しかしながら、上述した時短リミットを有するパチンコ機１０では、時短状態が継続する期間（有利期間）中に実行可能な大当たり遊技の回数に上限が設けられると共に、時短リミット回数に到達した場合に通常状態が設定されてしまうため、より多くの大当たり遊技を実行しようとする遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１２２６７】
これに対して、本第４４制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態中において当たり当選する特別図柄変動が実行されている最中に、時短状態を終了させることが可能に構成している。つまり、既に当たり当選することが確定している状態であって、大当たり遊技が実行されるよりも前に時短状態を通常状態へと移行させることが可能に構成している。
【１２２６８】
具体的には、第１特別図柄抽選の抽選結果を示すための第１特別図柄変動が実行されている最中（特図１変動期間中）に、第２特別図柄抽選の抽選結果を示すための第２特別図柄変動（特図２変動）を実行させることが可能に構成し、例えば、時短状態中に主として実行される第２特別図柄抽選にて当たり当選したことを示すための特図２変動期間中に第１特別図柄抽選を実行させることで時短状態を終了させるための時短終了条件を成立させることが可能に構成している。
【１２２６９】
このように構成することで、時短リミットに到達してしまう当たり当選変動が実行された場合であっても、その当たり当選変動が停止表示されるよりも前に時短状態を終了させることができるため、時短リミットによって強制的に通常状態が設定されてしまうことを抑制することができる。

【１２２７０】
さらに、本第４４制御例では、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動期間中に、第１特別図柄抽選を実行することによって時短終了条件を成立させることが可能な状態であるか、困難な状態であるかを判別し、時短終了条件を成立させることが可能な状態であると判別した場合、例えば、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動の変動時間として長時間（１８０秒）が設定されていたり、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動が実行された時点で設定されている時短状態の残時短回数が少ない場合において、第１時短状態が実行されている際中（時短リミット到達当たり当選変動中）であっても、第１時短状態が終了したことを疑似的に報知する演出を実行し、遊技者に左打ち遊技を促すための擬似左打ち演出を実行するように構成している。

【１２２７１】
このように、第１時短状態が継続していることを報知した状態で、遊技者に左打ち遊技を促すのでは無く、第１時短状態が終了したことを疑似的に報知した後に左打ち遊技を促す演出を実行することにより、遊技者に対して、円滑に左打ち遊技を実行させることができる。

【１２２７２】
なお、本第４４制御例では、上述した第４３制御例と同様に、時短終了条件として特別図柄抽選の実行回数に基づいて成立する終了条件を有しているため、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動期間中に時短終了条件を成立させることが可能な否か（時短終了条件を成立させるまで第１特別図柄抽選を実行させることが可能か否か）を、事前に判別可能であるが、例えば、時短終了条件として、特別図柄抽選の結果に基づいて成立する終了条件、例えば、第１特別図柄抽選にて小当たり当選したことや、特定の時短図柄当選した場合に成立する終了条件を設けても良く、この場合は、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動期間中に第１特別図柄抽選を複数回（例えば、２回）実行させることが可能な状況であるかを、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動の変動時間のみに基づいて判別し、第１特別図柄抽選を複数回（例えば、２回）実行させることが可能であると判別した場合に、擬似左打ち演出を実行可能に構成しても良い。

【１２２７３】
この場合、残時短回数に応じて幸福度カウンタ２２３Ｂｂの値を設定すると共に、擬似左打ち演出中に実行される第１特別図柄抽選の結果に基づいて、時短終了条件が成立する場合には、幸福度カウンタ２２３Ｂｂの値がいきなり１００％に対応する値へと上昇させる演出態様を決定すると良い。このように構成することで、どのタイミングでも時短終了条件を成立させることが可能となるため、時短リミット到達当たり当選に対する第２特別図柄変動が実行された遊技者に対して、時短リミットに基づいて通常状態が設定されることを回避しようと、第２特別図柄変動が停止表示されるまで意欲的に第１特別図柄抽選を実行させるための左打ち遊技を行わせることができる。

【１２２７４】
＜第４４制御例の第１変形例＞
上述した第４４制御例の第１変形例について説明をする。上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０は、第２特別図柄抽選によって時短リミット到達当たりに当選すると、その第２特別図柄変動が実行されている期間中に、第１特別図柄抽選を実行して時短終了条件を成立させることで、時短リミット処理の実行を回避可能に構成されていた。そして、時短リミット到達当たり当選時の第２特別図柄変動の変動パターン（変動時間）として、長さの異なる変動時間（５秒、６０秒、１８０秒）の何れかが選択されるように構成することで、時短リミット到達当たり当選している第２特別図柄変動中における時短終了条件の成立のさせ易さを異ならせるように構成していた。

【１２２７５】
しかしながら、上述した第４４制御例では、第２特別図柄抽選の結果が当たり当選（小当たり当選、大当たり当選）した場合には、その当たり種別や、時短リミット到達有無に

関わらず同一の変動パターンテーブル（時短状態用変動パターン４４テーブル２０２Ｂｄ２）を参照して変動パターン（変動時間）が決定されるように構成していたため、時短リミットに到達しない当たり当選時にも無用に長い変動時間（例えば、１８０秒）の変動パターンが選択されてしまい、遊技効率が低下することに伴って遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１２２７６】

これに対して、本第４４制御例の第１変形例では、時短状態中（第１時短状態中）に実行された第２特別図柄抽選で当たり当選した場合に参照される変動パターンテーブルの構成を異ならせている点で上述した第４４制御例と相違している。

【１２２７７】

本第１変形例で用いられる変動パターンテーブルには、時短状態（第１時短状態）中に実行された第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、小当たり当選した場合と、で異なる変動パターンが選択されるように、各変動パターンが規定されている。

【１２２７８】

具体的には、時短状態（第１時短状態）中に実行された第２特別図柄抽選の結果が小当たりである場合に対して、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～４９」の範囲に対して変動時間「５秒」、「５０～１４９」の範囲に対して変動時間「６０秒」、「１５０～１９８」の範囲に対して変動時間「９０秒」の変動パターンが規定されており、時短状態（第１時短状態）中に実行された第２特別図柄抽選の結果が大当たりである場合に対して、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～４９」の範囲に対して変動時間「９０秒」、「５０～１４９」の範囲に対して変動時間「１２０秒」、「１５０～１９８」の範囲に対して変動時間「１８０秒」の変動パターンが規定されている。

【１２２７９】

つまり、小当たり当選した場合よりも、大当たり当選した場合の方が、長い変動時間が選択され易くなるように構成している。このように構成することで、時短リミット到達当たり当選として、当選確率が低い当たり（大当たり）に当選した場合の方が、当選確率が高い当たり（小当たり）に当選した場合よりも、その特別図柄変動期間中に時短終了条件を成立させ易くすることができるため、遊技者に対して当選確率が低い当たり（大当たり）に当選したことの付加価値を付与することができる。

【１２２８０】

なお、本第１変形例では、上述した通り、特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか小当たり当選であるかによって異なる変動時間（例えば、小当たり当選時における変動時間「５秒」や、大当たり当選時における変動時間「１８０秒」等）の変動パターンを選択可能、或いは、何れにおいても選択可能な変動時間（例えば、「９０秒」）の選択割合を異ならせるように構成しているが、これに限ること無く、当選した当たり種別に応じて、共通して選択し得る変動時間の変動パターンを無くしても良いし、共通して選択し得る変動時間の変動パターンのみを選択可能とし、各変動パターンの選択割合のみを異ならせるように構成しても良い。この場合、本第４４制御例の第１変形例のように、小当たり当選した場合も、大当たり当選した場合も、選択可能な変動時間の変動パターン（共通変動パターン）を少なくとも１つ有するように構成すると良い。このように構成することで、共通変動パターンが選択された場合には、抽選結果を示すための表示態様で特別図柄が停止表示されるまで今回の特別図柄抽選の結果を遊技者に把握させ難くすることができる。

【１２２８１】

さらに、時短状態（第１時短状態）を、大当たり遊技を介して連続して設定可能に構成し、時短状態（第１時短状態）の連続設定回数を判別可能に構成した場合には、時短リミット処理が実行されるまでの当たり当選回数（残リミット回数）を把握可能に構成し、残リミット回数が示す値に基づいて異なる変動パターンが選択されるように構成しても良い。

【１２２８２】

この場合、例えば、第１時短状態中に実行された第２特別図柄抽選で当たり当選した場

合には、上述した残リミット回数（時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値）を判別し、その判別結果に基づいて異なる変動パターンテーブルを参照して第２特別図柄変動の変動パターンを決定するように構成すると良く、この場合、例えば、残リミット回数が少ない場合の方が、時短リミット回数が多い場合よりも、長い変動時間の当たり変動が実行され易くなるように構成すると良い。

【１２２８３】

このように構成することで、第１時短状態であって、時短リミット処理が実行されることの無い当たりに当選した場合に、無用に長い変動時間（例えば、１８０秒）が設定されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２２８４】

加えて、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態（第１時短状態）中に実行される第１特別図柄抽選の結果を示すための第１特別図柄変動の変動パターンが、同一の変動パターンテーブル（時短状態用変動パターン４４テーブル２０２Ｂｄ２）を参照して選択されるように構成しているが、これに限ること無く、例えば、第１時短状態中に参照される変動パターンテーブルと、時短リミット到達当たり当選変動中に参照される変動パターンテーブルと、を異ならせるように構成しても良い。

【１２２８５】

この場合、例えば、第１時短状態における非時短リミット到達当たり当選変動中に参照される変動パターンテーブルよりも、第１時短状態における時短リミット到達当たり当選変動中に参照される変動パターンテーブルの方が、第１特別図柄変動の変動パターンとして、短い変動時間の変動パターンが選択され易くなるように構成すると良い。

【１２２８６】

このように構成することで、時短リミット到達当たり当選変動中（擬似左打ち演出中）に実行される第１特別図柄変動の変動パターンとして短い変動時間の変動パターンを設定しながらも、時短リミット到達当たり当選変動中以外の第１時短状態において短い変動時間の変動パターンが設定されることを抑制することができるため、第１時短状態中に第１特別図柄抽選を複数回実行させ難くすることができる。

【１２２８７】

さらに、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値に応じて第１特別図柄の変動パターンを決定する際に参照する変動パターンテーブルを異ならせることにより、時短リミット回数カウンタ２０３ｊａの値が「１」、即ち、次の当たり当選によって時短リミットに当選し得る第１時短状態が設定されている状態で実行される第１特別図柄を短時間変動とすることができる。このように構成することで、第２特別図柄の時短リミット到達当たり当選変動が実行された時点で、第１特別図柄がロング変動（例えば、６００秒変動）している最中となり、擬似左打ち演出中において第１特別図柄抽選を複数実行させ難い状況が発生し難くすることができる。

【１２２８８】

なお、これに限ること無く、一方の特別図柄抽選で当たり当選した場合に、実行中の他方の特別図柄変動を強制的に外れ停止させる処理を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、第２特別図柄抽選にて時短リミット到達当たり当選した場合に、その第２特別図柄変動が開始されるタイミングで実行中の第１特別図柄変動を停止表示させることができる。よって、擬似左打ち演出中における左打ち遊技によって第１特別図柄抽選を実行させ易くすることができる。

【１２２８９】

また、上述した第４４制御例では、第２特別図柄抽選にて時短リミット到達当たり当選した場合において、現在設定されている第１時短状態の時短終了条件を成立させるための残時短回数や、設定された第２特別図柄変動の変動時間に基づいて、左打ち遊技によって時短リミット到達当たり当選を示す第２特別図柄変動が停止表示するまでに時短状態を終了させることが可能であるかを判別し、時短状態を終了させることが可能であると判別した場合に、擬似左打ち演出を実行可能に構成しているが、擬似左打ち演出の実行条件とし

て、それ以外の要素を用いても良く、例えば、時短リミット到達当たり当選変動が開始される時点において、第１特別図柄変動が実行されているか否かを判別し、第１特別図柄変動が実行されていると判別した場合に、実行中の第１特別図柄の残変動時間を判別し、その残変動時間が、今回実行される第２特別図柄変動（時短リミット到達当たり当選変動）の変動時間よりも長い場合、即ち、時短リミット到達当たり当選変動中に新たな第１特別図柄変動を実行することができない場合には、擬似左打ち演出を実行しないように構成しても良いし、今回実行される第２特別図柄変動（時短リミット到達当たり当選変動）よりも、実行中の第１特別図柄変動の残変動時間が短い場合であっても、実行中の第１特別図柄変動の残変動時間と、時短リミット到達当たり当選変動の変動時間との差分時間を算出し、その差分時間が所定期間（例えば、３０秒）よりも短い場合と、長い場合とで、擬似左打ち演出の実行割合を異ならせる（長い場合の方が、短い場合よりも擬似左打ち演出を実行させ易くする）ように構成しても良い。このように構成することで、擬似左打ち演出が実行されたにも関わらず、時短終了条件を成立させることができない事態が発生してしまうことを抑制することができる。

【１２２９０】

以上、説明をした通り、上述した第４４制御例では、上述した第１２制御例や第１３制御例と同様に、第１特別図柄が変動表示されている間に、第２特別図柄の変動表示を実行可能（第２特別図柄が変動表示されている間に、第１特別図柄の変動表示を実行可能）に構成している。そして、上述した第１２制御例と同様に、一方の特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、小当たり当選）した場合には、当選した当たり種別に応じてその当り当選に対応する特別図柄変動が停止表示されるタイミングにて、実行中の他方の特別図柄変動を中断、或いは、強制的に外れを示す表示態様で停止表示するように構成しているが、これに限ること無く、当選した当たりの種別に関わらず、他方の特別図柄変動を必ず強制的に外れ当選を示す表示態様で強制的に停止表示するように構成しても良いし、他方の特別図柄変動を必ず中断するように構成しても良い。

【１２２９１】

また、上述した第４４制御例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選と、を並行して実行可能に構成し、先に実行された特別図柄抽選の種別に関わらず、先に停止表示された特別図柄の抽選結果に基づいて、後に停止表示される特別図柄抽選の結果を示すための特別図柄変動（１の特別図柄変動が停止表示された時点において実行中の他の特別図柄変動）の変動表示態様（停止表示態様）を可変可能に構成しているが、これに限ること無く、先に実行された特別図柄抽選の結果に基づいて、後に実行される特別図柄抽選の内容を異ならせても良い。この場合、例えば、一方の特別図柄抽選で当たり当選した場合には、その当たり当選を示すための特別図柄変動が停止表示されるまでの間は、他方の特別図柄抽選にて当たり当選することの無い抽選（無効抽選）を実行するように構成すると良い。このように構成することで、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とを並行して実行することにより遊技者に対して効率の良い遊技を提供しながらも、何れの特別図柄種別においても当たり当選し、短時間のうちに遊技者に過剰に特典が付与されてしまうことを抑制することができる。

【１２２９２】

さらに、特別図柄抽選の抽選結果に基づいて無効抽選を実行することとなる契機（抽選結果）として、特別図柄抽選の結果が何れの当たり当選（例えば、大当たり当選、小当たり当選、時短図柄当選）である場合にも成立する契機を設けるように構成しても良いし、特定の当たり（例えば、大当たり）に当選した場合のみ無効抽選の実行契機が成立するように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄抽選の抽選結果がいずれかの当たり（例えば、大当たり、小当たり、時短図柄）に当選したことを示すための変動演出が実行されている期間中において、他方の特別図柄抽選として無効抽選が実行されているか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。なお、この場合、無効抽選の実行契機が成立しているか否かを遊技者に示唆するための示唆演出を、上述した変動演出の演出態様の一部を用いて実行可能に構成すると良い。このように構成することで、遊技者に対し

て無効抽選が実行されているか否かを予測する楽しみを提供することができると共に、無効抽選の実行契機を把握している遊技者に対しては、示唆演出の演出態様を把握することで、実行中の特別図柄変動が何れの当たり当選を示すための特別図柄変動であるかを予測する楽しみを提供することができる。

【１２２９３】

加えて、無効抽選として実行される特別図柄抽選にて、全ての当たり（例えば、大当たり、小当たり、時短図柄）に当選しない特別図柄抽選を実行可能に構成しても良いし、何れかの当たり（例えば、大当たり）のみ当選し得ない特別図柄抽選を実行可能に構成しても良い。このように構成することで、無効抽選中は、無効抽選の実行契機が成立していない通常の特別図柄抽選よりも遊技者に不利な特別図柄抽選（当たり当選し得る当たり種別が少ない特別図柄抽選）が実行されることになるが、少なくとも１の種別の当たり抽選は実行されるため、遊技者に無用となる（何れの種別の当たり抽選も実行されない）特別図柄抽選が実行されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２２９４】

また、この場合、設定されている第１時短状態を終了させるための時短終了条件として、リミット到達当たり当選変動中に実行される他の特別図柄抽選にて当選し得る当たり当選（例えば、小当たり当選）に基づいて成立する時短終了条件を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、リミット到達当たり当選変動の残変動期間中に、特別図柄抽選の実行回数に基づいて成立する時短終了条件（時短回数終了条件）が成立させ難い状況であったとしても、当たり当選に基づいて時短終了条件を成立させることが可能となるため、遊技者に対して、リミット到達当たり当選変動が停止表示されるまでの間、時短状態を終了させるための遊技を意欲的に行わせることができる。

【１２２９５】

さらに、上述した第４４制御例では、特別図柄変動が停止表示されるタイミング、即ち、特別図柄変動の終了タイミングにて時短終了条件の成立有無を判別する処理を実行するように構成しているが、これに限ること無く、特別図柄変動が実行されるタイミング、即ち、特別図柄変動の開始タイミングにて時短終了条件の成立有無を判別可能に構成しても良い。このように構成することで、特別図柄抽選が実行されてから時短終了条件の成立有無を判別するまでの期間を短縮させることができるため、リミット到達当たり当選変動が停止表示されるまでの期間中に、最後まで新たな特別図柄抽選を実行させようと意欲的に遊技を行わせ易くすることができる。

【１２２９６】

＜第４５制御例＞

次に、図１３１７から図１３２８を参照して、第４５制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第４５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０に対して、左打ち遊技によって実行された第１特別図柄抽選の結果として第２時短状態が設定される時短図柄（時短図柄Ａ）に当選した場合に実行される演出内容を異ならせている点で相違している。また、左打ち遊技中（通常状態、或いは、第２時短状態における遊技中）において現在設定されている遊技状態を示唆するために実行される演出内容を異ならせている点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容についてはその説明を省略する。

【１２２９７】

上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０では、第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に、背景モード種別を選択する処理を実行し、選択された背景モード種別に対応した背景モードの画像を表示するように構成していた。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される背景モードによって特別図柄抽選の抽選結果が時短図柄当選であったことを遊技者に予測させることができるものであった。しかしながら上述した第４３制御例では、特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選する毎に背景モード種別を選択する処理が実行されることから、第３図柄表示装置

８１の表示画面に表示される背景モードが頻繁に切り替わってしまい、遊技者に分かり難い演出が実行されてしまうという問題があった。

【１２２９８】

これに対して、本第４５制御例におけるパチンコ機１０では、特別図柄抽選で時短図当選したことを示すための識別情報（第２演出図柄）が停止表示した場合に、通常の演出モード（通常モード）よりも第２時短状態が設定されている可能性が高いことを示すための演出モード（高確モード）へと移行するように構成し、その高確モード中は特別図柄抽選で時短図柄当選したことを遊技者に把握させ難くする演出を実行するように構成している。

【１２２９９】

つまり、本第４５制御例におけるパチンコ機１０では、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを遊技者に報知し易い演出モード（通常モード）と、報知し難い演出モード（高確モード）と、を設定可能に構成している。このように構成することで、遊技者に対して時短図柄当選の有無を把握させ難くすることができるため、現在の遊技状態が通常状態であるか第２時短状態であるかを遊技者に予測する楽しみを提供することができる。

【１２３００】

加えて、演出モードとして高確モードが設定されている状態では、特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選したとしても、既に実行されている高確モード中の演出態様が切り替わることが無いため、第２時短状態が設定される時短図柄に頻繁に当選した場合であっても、演出態様が頻繁に切り替わってしまい遊技者に分かり難い演出が実行されてしまうことを抑制することができる。

【１２３０１】

さらに、本第４５制御例では、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための識別情報（第２演出図柄）の表示態様として、設定される高確モードが継続する期間の長さを異ならせた表示態様（スイカ、チェリー、人参）を選択可能に構成しており、当選した時短図柄の種別と、獲得済みの第１特別図柄保留（特図１保留）に含まれる入賞情報の先読み結果と、に基づいて第２演出図柄の表示態様が選択されるように構成している。

【１２３０２】

つまり、今回の特別図柄抽選で時短図柄当選している場合には、今回の特別図柄抽選で当選した時短図柄に基づいて設定される第２時短状態の継続期間（時短回数）と、後に実行される特別図柄抽選の結果に基づいて設定される第２時短状態の計測期間（時短回数）とに基づいて第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための第２演出図柄の表示態様を決定可能に構成している。

【１２３０３】

具体的には、今回の特別図柄抽選の結果、及び、獲得済みの特図１保留の先読み結果に基づいて、第２時短状態の継続期間を算出し、算出された継続期間の長さに応じて異なる種別の表示態様で第２演出図柄を表示するように構成している。

【１２３０４】

このように構成することで、今回当選した時短図柄が第２時短状態を短期間設定可能な時短図柄（例えば、時短１回が付与される時短図柄Ａ１）であったとしても、先読みした入賞情報の中に時短図柄当選を含む入賞状態があるか否かによって第２演出図柄の表示態様を異ならせることができるため、今回の特別図柄抽選の結果にのみ基づいて第２演出図柄の表示態様を決定するように構成した場合に比べて、第２時短状態が長時間継続することを示唆するための表示態様で第２演出図柄を表示し易くすることができ、演出効果を高めることができる。

【１２３０５】

そして、第２演出図柄が表示された場合には、演出モードが高確モードへと移行する。この高確モードは、表示された第２演出図柄の種別に応じた期間継続するように構成して

おり、例えば、第２演出図柄の表示態様として「スイカ」が表示された場合には、特別図柄抽選が１０回実行されるまでの期間、高確モードが継続し、「チェリー」が表示された場合には、特別図柄抽選が２０回実行されるまでの期間、高確モードが継続し、「人参」が表示された場合には、特別図柄抽選が３０回実行されるまでの期間、高確モードが継続するように構成している。

【１２３０６】

そして、先読み結果も含めて算出された継続期間が長い方が、短い場合よりも継続期間が長い高確モードを設定し易くしている。このように構成することで、第２演出図柄の標示態様として「スイカ」が表示されるよりも、「チェリー」や「人参」が表示された場合の方が、第２時短状態が長時間継続し得ることを遊技者に予測させることができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。

【１２３０７】

また、本第４５制御例では、上述した第４３制御例と同様に、短期間（時短回数１回）の第２時短状態が設定される時短図柄（時短図柄Ａ１）に当選した場合には、現在設定されている第２時短状態の残期間（残時短回数）に関わらず、時短１回の第２時短状態が設定されるように構成している。つまり、長時間の第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合（例えば、時短図柄Ａ３）に当選した場合であっても、次に実行される特別図柄抽選で時短図柄Ａ１に当選した場合には、最初に第２時短状態が設定されてから特別図柄抽選が２回実行されただけで第２時短状態が終了する虞がある。

【１２３０８】

この場合、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０のように、今回実行された特別図柄抽選の結果（時短図柄当選）に基づいて、時短図柄当選を示すための演出態様を決定する場合には、時短図柄Ａ３に当選したことを示す演出（有利モードへと移行する演出）が実行された次の第１特別図柄変動中に、図１２５５に示した通り、遊技者に不利な抽選結果であることを示す演出図柄（「ピンチ」が付された中身８１０Ｃａ）が表示され、遊技者の遊技意欲を低下させてしまうという問題があった。

【１２３０９】

これに対して、本第４５制御例では、当該特別図柄抽選の結果だけで無く、獲得済みの特図１保留に対する先読み結果に基づいて、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための第２演出図柄の表示態様を決定することができるため、時短図柄Ａ３に当選した場合であっても、その時点で獲得済みの特図１保留内に時短図柄Ａ１（時短１回）に当選することを示すための入賞情報が含まれている場合には、第２演出図柄の表示態様として、継続期間が短い高確モードを示すための表示態様（「スイカ」）を表示することができる。

【１２３１０】

よって、遊技者にとって有利な第２時短状態が設定された直後に、遊技者にとって不利な第２時短状態が設定されたことを遊技者に把握させ難くすることができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２３１１】

また、本第４５制御例では、高確モードが設定されると、設定されている遊技状態に関わらず、予め定められた期間高確モードが継続し、その後通常モードへと移行するように構成している。そして、高確モードが終了した後において、第２時短状態の残期間が所定期間（例えば、残時短１０回以上）である場合には、特別図柄抽選の結果が外れであることを示すための表示態様として、第２演出図柄と同一の表示態様で擬似第２演出図柄を停止表示可能に構成している。そして、擬似第２演出図柄が停止表示されたことに基づいて高確モードへと移行するように構成している。

【１２３１２】

つまり、本第４５制御例では、第２時短状態が設定された場合に、予め定められた期間の高確モードを設定するように構成しているため、その高確モード中に実行された特別図柄抽選の抽選結果によって、高確モード終了時における遊技状態（残時短回数）が異なる

ことになる。例えば、高確モード中に時短図柄Ａ１に当選し、高確モード終了時に既に通常状態が設定されている場合や、高確モード終了間際に時短図柄Ａ３に当選し、高確モード終了時に多くの残時短回数を残した第２時短状態が設定される場合が生じ得るため、高確モードが終了した時点において残時短回数が１０回以上である第２時短状態が設定されている場合には、特別図柄抽選で時短図柄当選していない（外れである）場合であっても擬似第２演出図柄を停止表示することで、再度、高確モードへと移行可能に構成している。

【１２３１３】

このように構成することで、第２時短状態が設定されているにも関わらず、長時間の間、高確モードが設定されず遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。また、実際に時短図柄当選していない特別図柄抽選の結果を示すための表示態様として第２演出図柄と同一の表示態様である擬似第２演出図柄を停止表示させるように構成しているため、通常モード中に実行された特別図柄抽選の結果を示すための表示態様として、時短図柄当選を示す第２演出図柄を停止表示させ易くすることができる。

【１２３１４】

さらに、本第４５制御例では、一度高確モードが設定された場合には、その後の特別図柄抽選の結果に関わらず、固定回数（１０回、２０回、３０回）の特別図柄抽選が実行されるまで、高確モードを継続させるように構成しているため、第２時短状態が長時間継続することを示すための表示態様（「人参」）で第２演出図柄が停止表示された場合には、少なくとも高確モードが終了するまで、遊技を継続しようと意欲的に遊技者に遊技を行わせることができる。

【１２３１５】

＜第４５制御例におけるパチンコ機１０の演出内容について＞

次に、図１３１７から図１３１９を参照して、本第４５制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出内容について説明をする。本第４５制御例では、上述した通り、左打ち遊技が実行される遊技状態（通常状態、第２時短状態）中に実行される第１特別図柄抽選の結果が時短図柄当選（時短図柄Ａ１）したかを遊技者に示唆するための報知演出を実行可能に構成している。

【１２３１６】

図１３１７（ａ）は、通常モード中に時短Ａ１（時短回数１回）に当選した場合に表示される表示態様の一例を示した図であって、図１３１７（ｂ）は、高確モード中に実行される各種変動演出の一部を示した図であって、図１３１８（ａ）は、高確モード中に実行された特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に表示される表示態様の一例を示した図であって、図１３１８（ｂ）は、高確モードの終了画面の一例を示した図である。そして、図１３１９は、演出モードとして通常モードが設定されている第２時短状態であって、擬似第２演出図柄を停止表示させることで高確モードへと移行する場合に表示される表示内容の一例を示した図である。

【１２３１７】

図１３１７（ａ）に示した通り、本第４５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０と同様に、左打ち遊技が実行される通常状態、第２時短状態中は、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出として、宝箱８１０Ｃの中から特別図柄抽選の結果を示すための表示態様が表示されるように構成している。

【１２３１８】

図１３１７（ａ）は、通常状態中に実行された第１特別図柄抽選で時短Ａ１（時短図柄Ａ１）に当選した特別図柄が停止表示された状態を示しており、表示領域Ｄｍ１には、今回の第１特別図柄抽選が時短１回の第２時短状態が設定される種別（時短図柄Ａ１）の時短図柄に当選したことを示すための第３図柄が、「３５３」の表示態様で停止表示されている。さらに、副表示領域Ｄｓに形成された表示領域Ｄｍ９には、獲得済みの特図１保留を示す表示態様として、特図１保留が３個であることを示すための保留アイコンｈｒ１～保留アイコンｈｒ３が表示されている。

【１２３１９】
図１３１７（ａ）に示した状態は、時短１回の第２時短状態に当選した状態であるが、獲得済みの３個の特図１保留のうち、次に実行される第１特別図柄抽選に対応する特図１保留（保留アイコンｈｒ１に対応する特図１保留）の先読み結果が、第２時短状態中において時短２０回の第２時短状態が設定される時短Ａ２（時短図柄Ａ２）であるため、今回の特別図柄抽選の結果を示すための第２演出図柄として、宝箱８１０Ｃの中身８１０Ｃａの表示態様として「チェリー」が付された中身８１０Ｃａが表示され、副表示領域Ｄｓには、継続期間が２０回（特図抽選２０回）の高確モードへと移行することを遊技者に案内するための表示態様として「高確モード２０回突入」の文字が表示されている。
【１２３２０】
このように、当該特別図柄抽選の結果と、特図１保留の先読み結果とに基づいて、当該特別図柄抽選の結果を示すための第２演出図柄の表示態様を決定可能に構成することで、時短図柄に連続して当選した場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示面に表示される演出態様が頻繁に切り替わってしまい、遊技者に分かり難い演出が実行されてしまうことを抑制することができる。
【１２３２１】
なお、詳細な説明は省略するが、本第４５制御例では、時短終了条件が成立し易い第２時短状態（例えば、時短１回）が設定される時短図柄に当選した場合であって、且つ、獲得済みの特図１保留内に時短図柄当選を示す入賞情報が含まれていない場合であっても、低確率で「チェリー」が付された表示態様の第２演出図柄が表示されるように構成している。このように構成することで、実際は第２時短状態が即座に終了してしまう場合であっても、所定期間（特別図柄抽選が２０回実行される期間）の高確モードを設定することができるため、通常状態中であっても、第２時短状態が設定されていることを遊技者に期待させながら遊技を行わせることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。
【１２３２２】
そして、図１３１７（ａ）に示した第２演出図柄（チェリー）が停止表示された後、次の第１特別図柄抽選の結果（時短Ａ２（時短図柄Ａ２）に当選した結果）を示すための第３図柄が停止表示される際には、図１３１７（ｂ）に示した表示画面が表示される。
【１２３２３】
具体的には、第２演出図柄が停止表示されると、演出モードが通常モードから高確モードへと移行し、主表示領域Ｄｍの中央上部には高確モード中であることを示すための「高確モード」が表示され、表示領域Ｄｍ４の下側に形成された表示領域Ｄｍ７には、高確モードの残期間を示すための表示態様として「ラスト１９回」が表示されている。つまり、特別図柄抽選があと１９回実行されるまでは、その間の特別図柄抽選結果に関わらず、高確モードが継続する。
【１２３２４】
そして、高確モード中に実行される特別図柄抽選で時短図柄当選した場合であって、その時短図柄当選した特別図柄抽選が既に先読み処理によって第２演出図柄の表示態様を決定する際に参照されている場合は、対象となる変動演出の演出結果が時短図柄当選を示すことの無い演出結果（第２演出図柄が停止表示されない演出結果）となる。よって図１３１７（ｂ）では、時短図柄当選（時短図柄Ａ２に当選）したことを示す表示態様「３６３」が表示領域Ｄｍ１に停止表示されているにも関わらず、主表示領域Ｄｍの中央部にて実行されている変動演出の演出結果として「？」が付された中身８１０ｃａが表示される変動演出が実行されている。
【１２３２５】
一方、高確モード中に実行される特別図柄抽選で時短図柄当選した場合であって、その時短図柄当選した特別図柄抽選に関する先読み情報が、高確モードへと移行する際に停止表示された第２演出図柄の表示態様を決定する際に参照されていない場合、即ち、高確モードへと移行した時点で獲得していない特図１保留に基づく第１特別図柄抽選で時短Ａ群の時短図柄に当選した場合には、変動演出の演出結果として、第２演出図柄を停止表示さ

せる代わりに、天井特典が付与されるまでの残回数（残特別図柄抽選回数）を表示可能に構成している。

【１２３２６】

詳細な説明は後述するが、本第４５制御例では、一度高確モードへと移行した場合には、高確モード中に実行された特別図柄抽選の結果に関わらず、高確モードを予め定められた期間継続するように構成している。よって、高確モード中に実行された特別図柄抽選で時短図柄当選し、第２時短状態の継続期間が可変したとしても、その可変度合いを遊技者に把握させ難くすることができ、遊技者に対して現在の遊技状態を予測させる楽しみを提供することができる。

【１２３２７】

さらに、高確モード中に実行された特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、天井特典が付与されるまでの条件（残特図柄抽選回数）に関する情報を提供可能に構成している。このように構成することで、高確モード中に時短図柄当選したか否かを予測させるための情報を提供すると共に、高確モード中に時短図柄当選した場合の方が、時短図柄当選しなかった場合よりも、天井特典の付与を目指す遊技者に対して有利な情報を提供することができるため、演出効果を高めることができる。

【１２３２８】

また、本第４５制御例では、天井特典が付与されるまでの条件が成立し易い状況、即ち、天井特典の付与条件が成立するまでの残特図柄抽選回数が少ない程、高確モード中に時短図柄当選した場合に、残特図柄抽選回数を示すための情報を提供し易くなるように構成している。つまり、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数が少ない場合に、残特図柄抽選回数が表示され易くなるように構成している。このように構成することで、残特図柄抽選回数として大きい値（例えば、残特図抽選回数８００回）が表示されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２３２９】

次に、高確モード中に第２時短状態が設定される時短Ａ群に当選した場合には、図１３１８（ａ）に示した通り、時短図柄当選したことは報知されること無く、代わりに付与特典として、天井までの残回数（残特図抽選回数）が表示される演出が実行される。図１３１８（ａ）では、前回の大当たり遊技が終了してから、９６９回目の特別図柄変動中であるため、表示領域Ｄｍ７ｂには天井までの残回数を示すための表示態様として「天井まであと３０回」が表示され、副表示領域Ｄｓには「天井までのカウントダウン開始」が表示される。

【１２３３０】

この表示領域Ｄｍ７ｂは、一度形成されると、天井特典が付与されるまで、或いは大当たり遊技が実行されるまで継続して表示され、特別図柄抽選が実行される毎に残特図抽選回数が減算表示されることになる。このように、高確モード中に時短図柄当選した場合には、時短図柄当選に基づいて新たに設定される時短回数を表示しない代わりに、時短回数とは異なる情報（天井までの残回数）を遊技者に付与することができるため、演出効果を高めることができる。なお、高確モード中に実行される特別図柄抽選の結果が外れである場合も低確率（例えば、１／１００）で天井までの残回数（残特図抽選回数）が表示される演出を実行可能に構成すると良い。このように構成することで、天井までの残回数（残特図抽選回数）が表示される演出が実行された場合に時短図柄当選したか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。

【１２３３１】

そして、高確モードが終了すると、図１３１８（ｂ）に示した表示態様、即ち、宝箱８１０ｃの中から「ＥＮＤ」が付された中身８１０ｃａが表示され、副表示領域Ｄｓには「通常モードへ移行するよ」の文字が表示され、通常モードへと移行する。図１３１８（ｂ）に示した状態は、残時短回数が２０回の第２時短状態が設定されている状態であるが、高確モードは、時短図柄当選の有無に関わらず予め定められた期間のみ継続するように構成しているため、第２時短状態が設定されている状態であっても、そのまま終了し通常モ

ードへと移行する。
【１２３３２】
その後、通常モードへと移行した状態で復活条件を満たした場合には、図１３１９に示した通り、特別図柄抽選が外れである場合に、疑似的に第２演出図柄を表示させて再度高確モードへと移行する演出が実行される。図１３１９に示した図では、第２時短状態の残時短回数が１０回以上２０回未満であるため、外れ当選を示す特別図柄変動が停止表示されるタイミングに合わせて、宝箱８１０ｃから擬似第２演出図柄として「スイカ」を模したアイコンが付された中身８１０ｃａが表示され、副表示領域Ｄｓには「高確モード１０回突入」が表示される。
【１２３３３】
このように、本第４５制御例では、高確モードが終了した時点で設定されている遊技状態が第２時短状態であって、且つ、その残時短回数が１０回以上である場合において、疑似的に第２演出図柄を停止表示させることで、再度、高確モードへと移行可能に構成している。このように構成することで、高確モードの滞在期間と、第２時短状態の継続期間とが大きく乖離してしまうことを抑制することができる。
【１２３３４】
また、１の時短図柄当選で長期間の第２時短状態が設定された場合において、疑似的に第２演出図柄を停止表示させ易くすることで、あたかも時短図柄に複数回当選したかのような演出を実行することができるため。見た目上の時短図柄の当選確率を高めることができ、遊技者の遊技意欲を高めることができる。
【１２３３５】
次に、図１３２０を参照して、本第４５制御例における遊技の進行状況と、実行される演出の流れについて説明をする。図１３２０（ａ）は、特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）の流れを示した図であり、図１３２０（ｂ）は、特図保留数（特図１保留数）の流れを示した図であり、図１３２０（ｃ）は、特別図柄抽選の結果に対して設定される第２演出図柄の流れを示した図であり、図１３２０（ｄ）は、設定される遊技状態の流れを示した図であり、図１３２０（ｅ）は、残時短回数の流れを示した図であり、図１３２０（ｆ）は設定される演出モードの流れを示した図であり、図１３２０は、高確中カウンタ２２３Ｃａの流れを示した図であり、図１３２０（ｈ）は、実行されるその他演出の流れを示した図である。
【１２３３６】
図１３２０（ａ）～（ｈ）に示した通り、通常状態が設定されている場合には、特別図柄抽選の結果が外れである場合には「？」を付した中身８１０ｃａが第２演出図柄として表示される（図１３１７（ｂ）参照）。そして、３回目の特別図柄抽選ｃｈ３にて時短回数１回の第２時短状態が設定される時短Ａ１（時短図柄Ａ１）に当選した場合には、獲得済みの特図１保留が３個であるため（図１３２０（ｂ）参照）、その３個の特図１保留に対して先読み処理を実行し、次に実行される特別図柄抽選ｃｈ４に対応する特図１保留に時短図柄Ａ２に当選する入賞情報が含まれていると判定し、第２演出図柄としてチェリーを模した中身８１０ｃａ（図１３１７（ａ）参照）が表示され、その特別図柄変動が停止表示された後に、遊技状態が通常状態から第２時短状態へと移行すると共に、演出モードが通常モードから高確モード（２０回）へと移行し（図１３２０（ｆ）参照）、高確中カウンタ２２３Ｃａの値に「２０」がセットされる（図１３２０（ｇ）参照）。なお、特別図柄抽選ｃｈ３では時短回数１回の第２時短状態のみが設定されるため、その時点では残時短回数として１回がセットされる（図１３２０（ｅ）参照）。
【１２３３７】
次いで、特別図柄抽選ｃｈ４が第２時短状態中に実行され、時短図柄Ａ２に当選するが、演出モードが高確モードであり、且つ、その抽選結果を示す先読み結果が、特別図柄抽選ｃｈ３の抽選結果を示す第２演出図柄の表示態様を決定する際に参照されているため、「？」を付した中身８１０ｃａが第２演出図柄として表示される。このように構成することで、特別図柄抽選ｃｈ４にて時短図柄に当選したことを遊技者に把握させ難くすること

ができる。
【１２３３８】
なお、実際には特別図柄抽選ｃｈ４にて時短回数２０回の第２時短状態が設定される時短図柄Ａ２に当選しているため、残時短回数が２０回へと更新される。その後、外れ変動が複数回実行され、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が２まで減算された時点で実行される特別図柄抽選ｃｈ７にて時短図柄Ａ２に当選した場合も、演出モードが高確モード中であるため、「？」を付した中身８１０ｃａが第２演出図柄として表示される。そして、第２時短状態中に時短図柄当選したことによる付与特典として、天井までのカウントダウン表示が実行される（図１３２０（ｈ）参照）。
【１２３３９】
さらに、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が０まで減算されると、演出モードが高確モードから通常モードへと移行し、特別図柄抽選ｃｈ１１が実行された場合に、高確モードへと復活条件が成立し、特別図柄抽選ｃｈ１１の演出結果が外れであるにも関わらず、疑似的に「スイカ」を付した中身８１０ｃａが第２演出図柄として表示され、再度、高確モードが設定される。
【１２３４０】
＜第４５制御例における音声ランプ制御装置の電気的構成について＞
次に、図１３２１から図１３２３を参照して、本第４５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３の電気的構成について説明をする。上述した通り、本第４５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０に対して、時短図柄当選したことを示すための識別情報の表示態様（第２演出図柄の表示態様）を異ならせている点と、左打ち遊技が実行される遊技状態（通常状態、第２時短状態）中に第３図柄表示装置８１の表示面に表示される背景画像の種別（演出モードの種別）を異ならせている点と、時短図柄当選した場合に定常特典が付与されるまでの条件（残特図柄抽選回数）に関する情報を表示可能に構成している点で相違しており、上述した相違点に関連する各種電気的構成を異ならせている。
【１２３４１】
具体的には、本第４５制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２は、上述した第４３制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２（図１２６７（ａ）参照）に対して、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａと、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂと、を追加した点で相違している。また、本第４５制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第４３制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図１２６７（ｂ）参照）に対して、高確中カウンタ２２３Ｃａと、演出モード格納エリア２２３Ｃｂと、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃと、天井情報フラグ２２３Ｃｄと、を追加した点と、背景モード格納エリア２２３Ａａと、非移行フラグ２２３Ａｃを削除した点と、で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。
【１２３４２】
まず、図１３２１（ａ）を参照して、本第４５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の電気的構成について説明をする。図１３２１（ａ）は、本第４５制御例のパチンコ機１０における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の電気的構成を模式的に示した図である。図１３２１（ａ）に示した通り、本第４５制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２は、上述した第４３制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２（図１２６７（ａ）参照）に対して、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａと、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂと、を追加した点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１２３４３】
第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａは、演出モードとして通常モードが設定されている状態で実行された第１特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合において、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための表示態様（第２演出図柄の表示態様）を選択するために参照されるデータテーブルであって、当選した時短図柄の種別（時短図柄Ａ１～時短図柄Ａ４）と、第１特別図柄の保留記憶（特図１保留）に対する先読み処理（事前判別処理）の結果に関する情報と、に基づいて異なる表示態様が規定されている。
【１２３４４】
ここで、本第４５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した通り、左打ち遊技中（通常状態、或いは、第２時短状態が設定されている遊技中）において、演出モードとして、通常モードと高確モードとを設定可能に構成しており、通常モード中は第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを示すための第２演出図柄を停止表示可能に構成している。そして、第２演出図柄が停止表示されると、演出モードが通常モードから高確モードへと移行し、停止表示された第２演出図柄の表示態様に応じた期間、高確モードが継続するように構成している。
【１２３４５】
高確モード中は、第１特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合であっても、第２演出図柄が停止表示されないように構成している。つまり、高確モード中は、通常モード中よりも第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを遊技者に把握させ難くするように構成している。このように構成することで、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したことを契機に高確モードへと移行可能としながらも、設定されている演出モードの種別と、実際の遊技状態（通常状態、第２時短状態）と、の対応関係を遊技者に把握させ難くすることができ、遊技状態を予測する楽しみを遊技者に提供することができる。
【１２３４６】
また、第２演出図柄の表示態様として、高確モードの継続期間が比較的短い（特別図柄抽選１０回分）第１表示態様（スイカアイコン）と、高確モードの継続期間が第１表示態様（スイカアイコン）よりも長い第２表示態様（チェリーアイコン）と、高確モードの継続期間が第２表示態様（チェリーアイコン）よりも長い第３表示態様（人参アイコン）と、を設定可能に構成しており、第２時短状態が長時間継続し易い状況の方が、継続し難い状況よりも第３表示態様を設定し易く構成しており、第２時短状態が長時間継続し難い状況の方が、継続し易い状況よりも第１表示態様を設定し易く構成している。このように構成することで、停止表示される第２時短図柄の表示態様に対して遊技者に興味を持たせることができるため、演出効果を高めることができる。
【１２３４７】
ここで、図１３２２を参照して、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａに規定されている詳細な内容について説明をする。図１３２２は、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａに規定されている内容を模式的に示した図である。図１３２２に示した通り、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａには、今回の第１特別図柄抽選で当選した時短種別（時短図柄種別）と、獲得済みの特図１保留に対する先読み結果と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値とに対応させて各選択図柄（第２演出図柄の表示態様）が予め規定されている。
【１２３４８】
具体的には、今回の第１特別図柄抽選で当選した時短種別（時短図柄種別）が、「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」であって、先読み結果として、先読み数が「１，２」、付与時短が「１」、大当たり当選「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～６９」の範囲に対して選択図柄「スイカ」が規定されており、「７０～９９」の範囲に対して選択図柄「人参」が規定されており、大当たり当選「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～６９」の範囲に対して「選択図柄無し」が、

「７０～９９」の範囲に対して選択図柄「スイカ」が規定されている。
【１２３４９】
　また、今回の第１特別図柄抽選で当選した時短種別（時短図柄種別）が、「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」であって、先読み結果として、先読み数が「１，２」、付与時短が「２～１５」、大当たり当選「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して選択図柄「チェリー」が規定されており、大当たり当選「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して「チェリー」が規定されている。
【１２３５０】
　また、今回の第１特別図柄抽選で当選した時短種別（時短図柄種別）が、「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」であって、先読み結果として、先読み数が「１，２」、付与時短が「１６～２９」、大当たり当選「有り」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して選択図柄「人参」が規定されており、大当たり当選「無し」の場合は、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して「チェリー」が規定されている。
【１２３５１】
　また、今回の第１特別図柄抽選で当選した時短種別（時短図柄種別）が、「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」であって、先読み結果として、先読み数が「１，２」、付与時短が「３０以上」の場合は、大当たり当選の有無に関わる先読み結果に関わらず、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して選択図柄「人参」が規定されている。
【１２３５２】
　ここで、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａに規定されている情報のうち、先読み結果に関する情報について詳細に説明をする。本第４５制御例におけるパチンコ機１０では、通常モードが設定されている状態で実行された第１特別図柄抽選にて第２時短状態が設定される時短図柄（時短Ａ群）に当選すると、その時点で獲得済みの特図１保留に対して先読み処理（第１特別図柄保留球格納エリア２２３ａに格納されている入賞情報に当たり当選に対応した情報が含まれているかを特別図柄抽選が実行されるよりも前に判定する処理）を実行するように構成し、先読み処理の結果として、大当たり当選の有無と、時短図柄当選の有無と、時短図柄当選した場合に設定される時短図柄種別と、を少なくとも事前に判定可能に構成している。
【１２３５３】
　そして、先読み処理の結果に基づいて、現時点で獲得済みの特図１保留に対応する第１特別図柄抽選によって付与される時短回数を算出可能に構成している。例えば、特図１保留を３個獲得している状態であって、今回当選した時短図柄が時短回数１回の第２時短状態が設定される時短図柄Ａ１だとしても、その時点で獲得済みの特図１保留の先読み結果として、最初に実行される第１特別図柄抽選の結果が時短図柄Ａ２である場合には、第２時短状態中に実行される第１特別図柄抽選において時短図柄Ａ２に当選し、時短回数２０回の第２時短状態が設定され、残りの特図１保留（例えば、２個）の先読み結果が全て外れである場合には、先読み対象の特図１保留を全て消化した時点では、時短図柄Ａ２によって設定された第２時短状態が設定されている状態（残時短回数１８回）となる。
【１２３５４】
　この場合、時短図柄Ａ１に当選した特別図柄抽選を基準に見ると、次変動で時短回数２０回の第２時短状態が設定されることから、先読み結果によって付与される時短回数が２１回となる。よって、先読み処理の結果（先読み結果）としては、先読み数「３」、付与時短「２１回」、大当たり有無「無し」となる。
【１２３５５】
　なお、本第４５制御例では、先読み結果として、付与時短回数（第２演出図柄が停止表示される特別図柄変動を基準として、算出される時短回数の最大値を示す回数）を算出するように構成しているが、これに限ること無く、現時点で獲得済みの特図１保留に対応す

る第１特別図柄抽選が終了した時点における遊技状態と、残時短回数と、を算出可能に構成し、その算出結果に基づいて第２演出図柄の表示態様を選択可能に構成しても良い。このように構成した場合であっても、本第４５制御例と同様の技術思想で第２演出図柄の表示態様を選択することができる。

【１２３５６】

次に、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂは、天井情報を報知するための第１条件が成立した場合に参照されるデータテーブルであって、この天井情報選択テーブル２２２Ｃｂを参照した結果、天井情報を報知するための第２条件が成立した場合に、遊技者に対して、天井特典が付与される条件（天井付与条件）の成立に関する情報（残特図柄抽選回数）が報知される。

【１２３５７】

ここで、図１３２３を参照して、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂの内容について説明をする。図１３２３は、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂに規定されている内容を示した図である。図１３２３に示した通り、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂには、天井情報を報知するか否か（第２条件を成立させるか否か）を示す規定情報が、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値、当選した時短図柄種別、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値に対応させて予め規定されている。

【１２３５８】

具体的には、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が「９９９～４００」であって、当選時短種別が「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０」に対して、天井情報報知「有り」が、「１～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ２（時短図柄Ａ２）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～５」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「６～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ３（時短図柄Ａ３）、時短Ａ４（時短図柄Ａ４）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「１０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されている。

【１２３５９】

また、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が「３９９～１００」であって、当選時短種別が「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「１０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ２（時短図柄Ａ２）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～１９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「２０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ３（時短図柄Ａ３）、時短Ａ４（時短図柄Ａ４）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「３０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されている。

【１２３６０】

さらに、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が「９９～４０」であって、当選時短種別が「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～３９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「４０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ２（時短図柄Ａ２）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～４９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「５０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ３（時短図柄Ａ３）、時短Ａ４（時短図柄Ａ４）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～７９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「８０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されている。

【１２３６１】
　また、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が「３９～１」であって、当選時短種別が「時短Ａ１（時短図柄Ａ１）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～８９」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「９０～９９」の範囲に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ２（時短図柄Ａ２）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９８」の範囲に対して、天井情報報知「有り」が、「９９」に対して天井情報報知「無し」が規定されており、当選時短種別が「時短Ａ３（時短図柄Ａ３）、時短Ａ４（時短図柄Ａ４）」である場合には、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９９」の全範囲に対して、天井情報報知「有り」が規定されている。
【１２３６２】
　以上、説明をした通り、本第４５制御例では、高確モード中に実行された第１特別図柄抽選にて第２時短状態が設定される時短図柄（時短Ａ群）に当選したことを契機に第１条件が成立し、第１条件が成立したことに基づいて、第２条件を成立させるか否かが天井情報選択テーブル２２２Ｃｂを参照して決定される。そして、天井特典が付与されるために必要となる特別図柄抽選回数（残特図柄抽選回数）が少ない状態であるほど、つまり、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が少ない程、第２条件が成立し易くなるように（天井情報報知「有り」が選択され易くなるように）構成している。このように構成することで、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数が多い状態において、天井特典が付与されるまでの残特図抽選回数が表示されてしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１２３６３】
　また、上述した通り、時短図柄当選時に設定され易い時短種別（時短Ａ１（時短図柄Ａ１））よりも、設定され難い時短種別（時短Ａ３（時短図柄Ａ３）、時短Ａ４（時短図柄Ａ４））の方が、時短図柄当選時に天井情報を報知し易く（第２条件を成立させ易く）構成している。このように構成することで、高確モード中に実行された第１特別図柄抽選の結果が発生し難い結果である場合の方が、発生し易い結果である場合よりも、遊技者に特典（天井特典が付与されるまでに要する残特別図柄抽選回数を示す情報の提供）を付与し易くすることができるため、高確モード中に実行される第１特別図柄抽選の結果に対しても遊技者に興味を持たせることができる。
【１２３６４】
　なお、本第４５制御例では、天井情報報知を実行するための第１条件、及び第２条件が成立すると、天井特典が付与されるまでの間、天井特典が付与されるまでの残特図抽選回数が継続して表示されるように構成しているが、これに限ること無く、天井情報報知を実行するための第１条件、及び第２条件が成立したタイミングに応じて、天井情報報知が実行される期間を異ならせても良く、例えば、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数が多い（例えば、４００回以上）状態で第１条件、及び第２条件が成立した場合には、所定期間の経過（例えば、特別図柄抽選が１０回実行された）に基づいて天井情報報知を終了させるように構成し、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数が少ない（例えば、５０回以下）状態で第１条件、及び第２条件が成立した場合には、天井特典が付与されるまで継続して天井情報報知を実行するように構成しても良い。
【１２３６５】
　このように構成することで、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数が多い状況で天井情報報知が実行されたとしても、その報知が所定期間の経過で終了することになる。よって、次の遊技者が、天井特典が付与されるまでの残特図柄抽選回数を把握できない（し難い）状態を創出することができるため、パチンコ機１０の稼働が低下してしまうことを抑制することができる。
【１２３６６】
　なお、本第４５制御例では、天井情報報知を実行するための第１条件が、高確モード中に実行された第１特別図柄抽選で第２時短状態が設定される時短図柄に当選した場合に成

立するように構成しているが、これに限ること無く、高確モード中に実行された第１特別図柄抽選の結果が外れである場合の一部において第１条件が成立するように構成しても良い。このように構成することで、様々なタイミングで第１条件を成立させ易くすることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。また、時短図柄当選していない場合にも、天井情報報知が実行されるため、天井情報報知の実行と、時短図柄当選と、を関連付け難くすることができる。

【１２３６７】

また、上述した通り、本第４５制御例では、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が少なくなる程、天井情報報知を実行するための第２条件が成立し易くなるように構成しているが、これに限ること無く、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が所定の値（例えば、下一桁が７の値）、或いは、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数が所定の回数（例えば、７の倍数に応じた回数）となった場合に、それ以外の場合よりも天井情報報知を実行するための第２条件が成立し易くなるように構成しても良い。

【１２３６８】

このように構成することで、天井特典が付与されるまでの期間（特別図柄抽選が９９９回実行されるまでの期間）において、天井情報報知を実行するための第２条件が成立し易い期間と、成立し難い期間と、を交互に設定することができるため、遊技者に飽き難い遊技を提供することができる。さらに、特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、小当たり当選、時短図柄当選など）する確率を異ならせた設定値を複数段階（例えば、３段階）設定可能に構成したパチンコ機１０であれば、天井情報報知を実行するための第２条件が成立し易い期間を、設定されている設定値に応じて異ならせるように構成すると良い。

【１２３６９】

このように構成することで、天井情報報知が実行された時点における天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値や、実行済の特別図柄抽選の回数に基づいて遊技中のパチンコ機１０に対して設定されている設定値を予測させる楽しみを提供することができる。

【１２３７０】

次に、図１３２１（ｂ）を参照して、本第４５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図１３２１（ｂ）は、本第４５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。

【１２３７１】

図１３２１（ｂ）に示した通り、本第４５制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３は、上述した第４３制御例のパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３（図１２６７（ｂ）参照）に対して、高確中カウンタ２２３Ｃａと、演出モード格納エリア２２３Ｃｂと、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃと、天井情報フラグ２２３Ｃｄと、を追加した点と、背景モード格納エリア２２３Ａａと、非移行フラグ２２３Ａｃを削除した点と、で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１２３７２】

高確中カウンタ２２３Ｃａは、高確モードの継続期間を計測するためのカウンタであって、高確モードが設定される特別図柄変動に対応して実行される第２演出図柄設定処理（図１３２７のＳ４４０１Ｄ参照）において、決定された第２演出図柄の表示態様に対応した値が設定される（図１３２７のＳ４４５６Ｄ参照）。そして、高確モード中に実行された特別図柄変動が停止表示されたことを示すための図柄確定コマンドを受信した場合に実行される確定コマンド処理４５（図１３２５のＳ３２０２Ｄ参照）において、設定されている値が減算され、高確モードの終了を判定する際に参照される（図１３２５のＳ３２５６Ｄ）。

【１２３７３】

本第４５制御例では、時短図柄当選したことに基づいて高確モードへと移行可能にする

ことで、演出モードが通常モードから高確モードへと移行した場合に、第２時短状態が設定される時短図柄に当選したこと（第２時短状態が設定されること）を遊技者に報知可能に構成している。そして、高確モードへと移行した後は、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が０になるまで高確モードが継続し、高確中カウンタ２２３Ｃａの値は、特別図柄抽選で時短図柄当選したか否かに関わらず、特別図柄変動が停止表示される毎に減算されるように構成している。

【１２３７４】

つまり、本第４５制御例では、高確モードへの移行タイミングでは第２時短状態が設定されることを遊技者に報知可能としているが、高確モード中に実行される第１特別図柄抽選で時短図柄当選し、新たな時短回数が設定された場合であっても、その時短回数に対応させて高確モードの終了タイミングが可変されないように構成している。このように構成することで、第２時短状態がいつまで継続しているのかを遊技者に把握させ難くすることができる。

【１２３７５】

演出モード格納エリア２２３Ｃｂは、現在設定されている演出モードを格納するための記憶領域であって、演出モードが切り替わった際に切り替わり後の演出モードを示すための情報が格納される。ここで格納された情報は、変動演出を設定する際に参照される。

【１２３７６】

天井残回数カウンタ２２３Ｃｃは、天井特典が付与されるまでに必要とされる特別図柄抽選回数（残特図抽選回数）を示すためのカウンタであって、大当たり遊技が開始される時点、或いは、パチンコ機１０を初期化した時点で「９９９」の値が初期値としてセットされる。その後、特別図柄変動が停止表示したことを示す確定コマンドを受信した場合に値が「１」減算される。

【１２３７７】

天井情報フラグ２２３Ｃｄは、天井特典が付与されるまでに必要とされる残特図抽選回数を表示可能な状態であることを示すためのフラグであって、残特図柄抽選回数を表示可能な状態である場合にオンに設定される。この天井情報フラグ２２３Ｃｄは、大当たり当選、或いは、天井到達した時点でオフに設定される。

【１２３７８】

＜第４５制御例における音声ランプ制御装置にて実行される制御処理内容について＞

次に、図１３２４から図１３２８を参照して、本第４５制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第４５制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０に対して、通常状態、及び第２時短状態中に実行される演出の内容を異ならせている点で相違している。具体的には、コマンド判定処理４３（図１２７７のＳ３１１３Ｂ参照）に代えて、コマンド処理４５（図１３２４のＳ３１１３Ｄ）を、変動演出設定処理４３（図１２８０のＳ４３０４Ｂ）に代えて、変動演出設定処理４５（図１３２６のＳ４３０４Ｄ）を実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１２３７９】

まず、図１３２４を参照してコマンド処理４５（Ｓ３１１３Ｄ）の処理内容について説明をする。図１３２４は、コマンド処理４５（Ｓ３１１３Ｄ）の処理内容を示したフローチャートである。図１３２４に示した通り、コマンド処理４５（Ｓ３１１３Ｄ）では、上述したコマンド判定処理４３（図１２７７のＳ３１１３Ｂ参照）に対して、図柄確定コマンドを受信したと判別した場合（Ｓ３２０１Ｄ：Ｙｅｓ）に、確定コマンド処理４５を実行する（Ｓ３２０２Ｄ）点について詳細に説明している点で相違している。それ以外は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２３８０】

次に、図１３２５を参照して、コマンド処理４５（図１３２４のＳ３１１３Ｄ）にて実行される確定コマンド処理４５（Ｓ３２０２Ｄ）の処理内容について説明をする。図１３

２５は、確定コマンド処理４５（Ｓ３２０２Ｄ）の処理内容を示したフローチャートである。この確定コマンド処理４５（Ｓ３２０２Ｄ）では、特別図柄変動が停止表示された場合における各種カウンタの更新処理が実行される。

【１２３８１】

確定コマンド処理４５（Ｓ３２０２Ｄ）が実行されると、まず、今回の確定コマンドが大当たり当選を示すための確定コマンドであるかを判別し（Ｓ３２５１Ｄ）、大当たり当選を示すと判別した場合は（Ｓ３２５１Ｄ：Ｙｅｓ）、高確中カウンタ２２３Ｃａの値、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値をクリアし（Ｓ３２５２Ｄ）、時短情報更新エリア２２３ｈ、演出モード格納エリア２２３Ｃｂの情報をクリアし（Ｓ３２５３Ｄ）、本処理を終了する。なお、図示は省略しているが、Ｓ３２５２Ｄの処理では、天井情報フラグ２２３Ｃｄがオンに設定されている場合に、オフに設定する処理も実行される。

【１２３８２】

つまり、Ｓ３２５２Ｄ、及びＳ３２５３Ｄの処理では、大当たり遊技が実行されることに基づいて、時短状態、及び、高確モード演出をクリアするための処理が実行される。このように構成することで、大当たり遊技終了後に実行される演出が、大当たり遊技が実行される前に設定されていた情報に基づいて実行されてしまうことを抑制することができる。

【１２３８３】

一方、Ｓ３２５１Ｄの処理において、大当たり当選を示していないと判別した場合は（Ｓ３２５１Ｄ：Ｎｏ）、次に、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ３２５４Ｄ）、大きいと判別した場合は（Ｓ３２５４Ｄ：Ｙｅｓ）、高確中カウンタ２２３Ｃａの値を１減算し（Ｓ３２５５Ｄ）、減算後の値が０であるかを判別する（Ｓ３２５６Ｄ）。そして、０であると判別した場合は（Ｓ３２５６Ｄ：Ｙｅｓ）、高確モードの終了タイミングであるため。通常モード移行を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３２５７Ｄ）、Ｓ３２５８Ｄの処理へ移行する。なお、Ｓ３２５７Ｄの処理では、通常モードに関する情報を演出モード格納エリア２２３Ｃｄに格納する処理も実行される。

【１２３８４】

Ｓ３２５４Ｄの処理において、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が０よりも大きく無い、即ち、現在の演出モードが通常モードであると判別した場合（Ｓ３２５４Ｄ：Ｎｏ）、或いは、Ｓ３２５６Ｄの処理において、高確中カウンタ２２３Ｃａの値が０では無い、即ち、高確モードの終了タイミングでは無いと判別した場合は（Ｓ３２５６Ｄ：Ｎｏ）、そのままＳ３２５８Ｄの処理へ移行する。

【１２３８５】

Ｓ３２５８Ｄの処理では、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が１よりも大きいかを判別し（Ｓ３２５８Ｄ）、大きいと判別した場合は（Ｓ３２５８Ｄ：Ｙｅｓ）、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値を１減算し（Ｓ３２５９Ｄ）、次いで、天井情報フラグ２２３Ｃｄがオンに設定されているかを判別し（Ｓ３２６０Ｄ）、オンに設定されていると判別した場合には（Ｓ３２６０Ｄ：Ｙｅｓ）、天井までの残回数を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３２６１Ｄ）、本処理を終了する。一方、Ｓ３２５８Ｄの処理において、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値が１よりも大きく無い、即ち、天井特典が既に付与されている状態、或いは、天井特典の付与が終了している状態と判別した場合（Ｓ３２５８Ｄ：Ｎｏ）、或いは、天井情報フラグ２２３Ｃｄがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ３２６０Ｄ：Ｎｏ）は、天井までの残回数を示す条件を満たしていないため、そのまま本処理を終了する。

【１２３８６】

なお、本第４５制御例では、特別図柄変動が停止表示されたことを示すための確定コマンドを受信したことによって、上述した各種カウンタの値を更新可能に構成しているが、これに限ること無く、特別図柄変動が開始されたことを示すための変動パターンコマンドを受信したことに基づいて、上述した各種カウンタの値を更新可能に構成しても良い。

【１２３８７】

次に、図１３２６を参照して、変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｄ）の処理内容について説明をする。図１３２６は、変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｄ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｄ）では、上述した変動演出設定処理４３（図１２８０のＳ４３０４Ｂ参照）に対して、遊技状態が第１時短状態では無いと判別した場合（Ｓ４４０１Ｂ：Ｎｏ）に、第２演出図柄設定処理（Ｓ４４０１Ｄ）を実行するように構成した点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２３８８】

次に、図１３２７を参照して、第２演出図柄設定処理（Ｓ４４０１Ｄ）の処理内容について説明をする。図１３２７は、第２演出図柄設定処理（Ｓ４４０１Ｄ）の処理内容を示したフローチャートである。この第２演出図柄設定処理（Ｓ４４０１Ｄ）では、第２時短状態、或いは第１時短状態中に実行される特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１２３８９】

第２演出図柄設定処理（Ｓ４４０１Ｄ）が実行されると、まず、今回の特別図柄変動が時短図柄当選変動であるかを判別し（Ｓ４４５１Ｄ）、時短図柄当選変動であると判別した場合は（Ｓ４４５１Ｄ：Ｙｅｓ）、当選した時短種別を読み出し（Ｓ４４５２Ｄ）、時短Ａ群に当選したかを判別する（Ｓ４４５３Ｄ）。

【１２３９０】

Ｓ４４５３Ｄの処理において。時短Ａ群の時短図柄に当選したと判別した場合は（Ｓ４４５３Ｄ：Ｙｅｓ）、演出モード格納エリア２２３Ｃｂから現在の演出モードを読み出し（Ｓ４４５４Ｄ）、通常モードであるかを判別し（Ｓ４４５５Ｄ）、通常モードであると判別した場合は（Ｓ４４５５Ｄ：Ｙｅｓ）、第２演出図柄選択テーブル２２２Ｃａを参照して第２演出図柄の表示態様を決定し（Ｓ４４５６Ｄ）、決定した表示態様に対応する値を高確中カウンタ２２３Ｃａの値にセットし（Ｓ４４５７Ｄ）、本処理を終了する。

【１２３９１】

一方、Ｓ４４５３Ｄの処理において、今回当選した時短種別が時短Ａ群では無いと判別した場合は（Ｓ４４５３Ｄ：Ｎｏ）、演出用時短図柄決定処理を実行し（Ｓ５７０９Ｂ）、本処理を終了する。なお、演出用時短図柄決定処理（Ｓ５７０９Ｂ）の処理内容は上述した第４３制御例と同一であるため、その説明を省略する。

【１２３９２】

また、Ｓ４４５５Ｄの処理において、通常モードでは無い（高確モードである）と判別した場合は（Ｓ４４５５Ｄ：Ｎｏ）、天井情報報知設定処理４５を実行し（Ｓ４４５８Ｄ）、本処理を終了する。

【１２３９３】

次に、図１３２８を参照して、天井情報報知設定処理４５（Ｓ４４５８Ｄ）の処理内容について説明をする。図１３２８は、天井情報報知設定処理４５（Ｓ４４５８Ｄ）の処理内容を示したフローチャートである。この天井情報報知設定処理４５（Ｓ４４５８Ｄ）は、高確モードが設定されている状態において、天井までの残回数を表示するための条件を満たしているかの判別と、条件を満たしている場合と判別した場合に天井までの残回数を表示するための処理が実行される。

【１２３９４】

天井情報報知設定処理４５（Ｓ４４５８Ｄ）が実行されると、まず、天井情報フラグ２２３Ｃｄがオンに設定されているかを判別し（Ｓ４４６１Ｄ）、オンに設定されていると判別した場合、即ち、すでに天井までの残回数を表示するための条件が成立し、天井までの残回数（残特図柄抽選回数）が表示されていると判別した場合は（Ｓ４４６１Ｄ：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【１２３９５】

一方、Ｓ４４６１Ｄの処理において、天井情報フラグ２２３Ｃｄがオンに設定されていないと判別した場合は（Ｓ４４６１Ｄ；Ｎｏ）、天井情報選択テーブル２２２Ｃｂを参照

して、天井情報報知の有無を決定し（Ｓ４４６２Ｄ）、天井情報報知ありかを判別し（Ｓ４４６３Ｄ）、報知ありと判別した場合は（Ｓ４４６３Ｄ：Ｙｅｓ）、天井残回数カウンタ２２３Ｃｃの値を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ４４６４Ｄ）、天井情報フラグ２２３Ｃｄをオンに設定し（Ｓ４４６５Ｄ）、本処理を終了する。また、Ｓ４４６３Ｄの処理において、報知なしと判別した場合は（Ｓ４４６３Ｄ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１２３９６】

＜第４６制御例＞

次に、図１３２９から図１３３９を参照して、第４６制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第４６制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０に対して、右打ち遊技が実行される時短状態中に左打ち遊技を促す各種演出を実行可能に構成している点で相違している。

【１２３９７】

上述した第４４制御例では、時短状態中に時短リミットに到達する当たり当選（時短リミット到達当たり当選）変動中に左打ち遊技を実行させ、第１特別図柄抽選を実行させることにより時短状態を終了させることが可能に構成していた。このように構成することで、時短リミット到達当たりに当選してから、その当たり変動が停止表示されるまでの間に時短状態を終了させることで、時短リミット処理によって大当たり遊技終了後の遊技状態が強制的に通常状態となることを抑制することができるため、時短状態中に意欲的に左打ち遊技を行わせるという斬新な遊技性を提供するものであった。

【１２３９８】

しかしながら、時短リミット到達当たり当選変動中のみ左打ち遊技が有効となる遊技性であったため、例えば、時短リミット到達当たり変動以外のタイミングで遊技者に左打ち遊技を促すガセ演出を実行した場合には、そのガセ演出に基づいて左打ち遊技を実行した遊技者に不快感しか与えることができず、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。また、ガセ演出を実行しないように構成した場合には、左打ち遊技を促す擬似左打ち演出が実行された時点で、実行中の第２特別図柄変動が時短リミット到達当たり当選変動であることを遊技者に容易に予測されてしまうという問題があった。

【１２３９９】

これに対して、本第４４制御例では、時短状態中であって、且つ、時短リミット到達当たり当選変動中以外のタイミングで左打ち遊技を行ったとしても、遊技者に有利な特典を付与可能に構成している点で上述した第４４制御例と相違している。

【１２４００】

具体的には、遊技盤１３の構成の一部を変更し、音声ランプ制御装置１１３のＲＯＭ２２２の構成の一部、ＲＡＭ２２３の構成の一部、及び、音声ランプ制御装置１１３の制御処理内容の一部を変更している点で相違している。それ以外は同一である。

【１２４０１】

＜第４６制御例における遊技盤の構成について＞

まず、図１３２９を参照して、本第４６制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成について説明をする。図１３２９は、本第４６制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成を示した正面図である。図１３２９に示した通り、本第４６制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３は、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０が有する遊技盤１３の構成（図１２８４参照）に対して、左側領域にスルーゲート６７ａを追加した点でのみ相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２４０２】

本第４６制御例では、上述した通り、左打ち遊技を実行した場合にも、スルーゲート６７ａへと遊技球を通過させることができ、普通図柄抽選を実行可能に構成している。そして、時短状態中において、スルーゲート６７ａへと遊技球を通過させることにより、現在設定されている時短状態の残時短回数を報知可能に構成している。つまり、時短状態が設

定されてから継続して右打ち遊技を行っている遊技者は、残時短回数を把握できないまま遊技を行うことになり、左打ち遊技を行った遊技者は、残時短回数を把握した状態で遊技を行うことができるように構成している。

【１２４０３】

このように構成することで、時短状態中において左打ち遊技を実行することにより継続して右打ち遊技を実行する場合よりも遊技者に有利な遊技を提供し易くすることができる。なお、本第４４制御例では、時短状態中における左打ち遊技によって、残時短回数を放置する特典を遊技者に付与するように構成しているが、これ以外の特典を付与可能に構成しても良く、例えば、複数段階の当たり確率を設定可能な仕様のパチンコ機１０においては設定されている設定値を示唆可能な特典を付与しても良いし、左打ち遊技によってスルーゲート６７ａへと遊技球を通過させた数が所定数を超えた場合に、特別図柄抽選で当り当選する確率が変化する特典を付与しても良い。さらに、直接的に遊技結果には影響を与えないが、時短状態中に左打ち遊技を行いスルーゲート６７ａへと遊技球を通過させたことに基づいて特典映像が表示されるように構成しても良い。

【１２４０４】

また、スルーゲート６７ａへと遊技球を通過させたことに基づいて、時短リミットに到達するまでの残回数（残大当たり回数）を報知するように構成しても良い。

【１２４０５】

＜第４６制御例にて実行される演出内容について＞

次に、図１３３０を参照して、本第４６制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、上述した第４４制御例におけるパチンコ機１０では実行されない特徴的な演出の内容について説明をする。

【１２４０６】

まず、図１３３０（ａ）を参照して、時短状態中に表示されるチャンスゾーンの演出内容について説明をする。なお、基本的な演出態様は、上述した第４４制御例のパチンコ機１０にて時短状態中に実行されるチャンスゾーンの演出内容（図１２８５（ａ）参照）と同一であり、同一の演出要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１２４０７】

図１３３０（ａ）は、チャンスゾーン中に表示される表示画面の一例を示した図である。図１３３０（ａ）に示した通り、表示領域Ｄｍ７には、残時短回数を示すための表示態様として「ラスト？回」が表示されており、残時短回数を遊技者が把握出来ない演出が実行されている。また、特図２保留数を示すための表示領域Ｄｍ９が形成され、４個の特図２保留を獲得していることを示す特図２保留アイコンｈｒ５～ｈｒ８は表示されている。

【１２４０８】

そして、副表示領域Ｄｓには、「左打ちでスルーに通すと時短回数わかるかも」の文字が表示され、遊技者に左打ち遊技を促す演出（チャレンジ演出）が実行される。詳細が後述するが、本第４６制御例では、時短状態中に上限数の特図２保留を獲得していることに基づいてチャレンジ演出を実行可能に構成している。チャレンジ演出が実行されると、遊技者に左打ち遊技を促すために、案内表示領域Ｄｍ４ａには「右打ち？」が表示される。なお、これに限ること無く、「左打ち」と表示するように構成しても良い。

【１２４０９】

そして、チャレンジ演出中に左打ち遊技を行い、スルーゲート６７ａへと遊技球を通過させ、残時短回数の報知条件が成立すると、図１３３０（ｂ）に示した表示画面が表示される。図１３３０（ｂ）は、チャンスゾーン中に左打ちでスルーに通した場合に表示される演出画面の一例を示した図である。

【１２４１０】

図１３３０（ｂ）に示した通り、残時短回数の報知条件が成立すると、宝箱８１０ｄを獲得する演出が実行され、宝箱８１０ｄの中から残時短回数を示す表示態様（図では「３回」）の中身８１０ｄａが表示される演出が実行される。そして、表示領域Ｄｍ７に残時短回数を示すための「ラスト３回」が表示され、チャレンジ演出が終了する。

【１２４１１】
以上、説明をした通り、本第４６制御例では、時短状態中に所定条件（特図２保留数に応じて成立する条件）が成立した場合に、チャレンジ演出を実行可能に構成し、そのチャレンジ演出中にスルーゲート６７ａへと遊技球を通過させることで残時短回数を報知可能に構成している。このように構成することで、時短状態中であっても、遊技者に意欲的に左打ち遊技を実行させ易くすることができるため、時短リミット到達当たり当選変動中に擬似左打ち演出が実行された場合にも遊技者に違和感を与えること無く左打ち遊技を行わせることができる。
【１２４１２】
また、擬似左打ち演出のガセパターンと、チャレンジ演出とを複合して実行することにより、不要な左打ち遊技を遊技者に行わせること無く、且つ、時短リミット到達当たり当選変動が実行されていることを分かり難くすることができる。
【１２４１３】
さらに、チャレンジ演出の実行条件として、特図２保留数が所定数以上ある場合に成立する実行条件を設けているため、時短状態中に左打ち遊技を行ったことで、第２特別図柄抽選が実行されない期間が生じてしまうことを抑制することができる。
【１２４１４】
＜第４６制御例における電気的構成について＞
次に、本第４６制御例におけるパチンコ機１０の電気的構成について説明をする。本第４６制御例では、上述した第４４制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成の一部と、ＲＡＭ２２３の構成の一部を変更している点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成については説明を省略する。
【１２４１５】
まず、図１３３１（ａ）を参照して、本第４６制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＯＭ２２２の構成について説明をする。図１３３１（ａ）は、本第４６制御例のパチンコ機１０が有するＲＯＭ２２２の構成を示した図である。図１３３１（ａ）に示した通り、本第４６制御例のパチンコ機１０が有するＲＯＭ２２２は、上述した第４４制御例のパチンコ機１０が有するＲＯＭ２２２に対して、残時短回数報知選択テーブル２２２Ｅａを追加している点で相違している。それ以外は同一であり、同一の構成については同一の符号を付してその説明を省略する。
【１２４１６】
残時短回数報知選択テーブル２２２Ｅａは、チャレンジ演出中に遊技球を通過させたことに基づいて残時短回数の報知有無を決定する際に参照されるデータテーブルであって、１回のチャレンジ演出中にスルーゲート６７ａへと通過させた遊技球数（スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値）と、取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１とに対応させて残時短回数報知の有無、及び、報知態様が規定されている。
【１２４１７】
具体的には、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値が「１」で取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～２９」の範囲に対して、残時短回数報知として「有り（全回数）」が規定され、「３０～９９」の範囲に対して、残時短回数報知として「無し」が規定されている。また、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値が「２～２０」で取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～９」の範囲に対して、残時短回数報知として「有り（全回数）」が規定され、「１０～１４」の範囲に対して、残時短回数報知として「有り（上限２回）」が規定され、「１５～９９」の範囲に対して、残時短回数報知として「無し」が規定されている。また、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値が「２１～」で取得した第１演出カウンタ２２３ｆ１の値が「０～３９」の範囲に対して、残時短回数報知として「有り（全回数）」が規定され、「４０～８９」の範囲に対して、残時短回数報知として「有り（上限２回）」が規定され、「９０～９９」の範囲に対して、残時短回数報知として「無し」が規定されている。
【１２４１８】

つまり、チャレンジ演出中にスルーゲート６７ａへと通過させた遊技球数が多くなるほど、残時短回数を報知し易くなるように構成している。このように構成することで、チャレンジ演出中において長時間左打ち遊技を行わせ易くすることができる。また、残時短回数報知の態様として、「全回数」を報知する態様と、「上限２回」を報知する態様と、を選択可能に構成しているため、残時短回数を徐々に増加させながら遊技者に報知することが可能となる。よって、残時短回数の全容が明らかになるまで、遊技者にチャレンジ演出を楽しませることができる。

【１２４１９】

さらに、１回目のスルーゲート６７ａへの遊技球の通過に基づいて、低確率（３０／１００）ではあるが残時短回数報知の条件を満たした場合には、全回数に対応する残時短回数が報知されるように構成しているため、チャレンジ演出が毎回無用に長引いてしまうことを抑制し、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２４２０】

なお、本第４６制御例では、チャレンジ演出中においてスルーゲート６７ａへと遊技球が通過する毎にスルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値を加算し、加算後の値に基づいて残時短回数報知の有無を決定するように構成しているが、これに限ること無く、チャレンジ演出中の所定期間内にスルーゲート６７ａへと通過させた遊技球数を加算し、所定期間経過後に加算された値を用いて残時短回数報知の有無を決定するように構成しても良い。

【１２４２１】

次に、図１３３２を参照して、本第４６制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図１３３２は、ＲＡＭ２２３の構成を示した図である。図１３３２に示した通り、本第４６制御例のＲＡＭ２２３は、上述した第４４制御例のＲＡＭ２２３（図１２９２参照）に対して、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１と、チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２と、を追加している点で相違し、それ以外は同一である。同一の構成については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２４２２】

スルー通過カウンタ２２３Ｅ１は、チャレンジ演出中にスルーゲート６７ａへと通過させた遊技球数を計測するためのカウンタであって、チャレンジ演出が実行される場合に０にクリアされ（図１３３８のＳ４５６０Ｅ参照）、チャレンジ演出中にスルーゲート６７ａを遊技球が通過する毎に値が１加算される（図１３３６のＳ３２９３参照）。そして、加算後の値を用いて残時短回数の報知態様が決定される（図１３３６のＳ３２９４参照）。

【１２４２３】

チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２は、チャレンジ演出が実行されていることを示すためのフラグであって、チャレンジ演出が実行される場合にオンに設定される。・そして、チャレンジ演出中に実行中の特図２変動が停止表示された場合、或いは、残時短回数の全回数が報知された場合にオフに設定される。

【１２４２４】

＜第４６制御例における音声ランプ制御装置の制御処理について＞

次に、図１３３３から図１３３９を参照して、本第４６制御例の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理の内容について説明をする。本第４６制御例では、上述した第４４制御例に対して、コマンド判定処理４６（図１３３３のＳ３１１３Ｅ参照）を実行する点と、第２変動演出設定処理（図１３１５のＳ４４０１Ｃ参照）に代えて、第２変動演出設定処理４６（図１３３７のＳ４４０１Ｅ）を、特図１変動演出設定処理（図１３１６のＳ４４０２Ｃ参照）に代えて特図１変動演出設定処理４６（図１３３９のＳ４４０２Ｅ参照）を実行する点で相違している。それ以外の制御処理内容は同一であり、同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１２４２５】

まず、図１３３３を参照して。コマンド判定処理４６（Ｓ３１１３Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３３は、コマンド判定処理４６（Ｓ３１１３Ｅ）の処理内容を示

したフローチャートである。このコマンド判定処理４６（Ｓ３１１３Ｅ）では、上述した第４４制御例に対して、保留球数コマンドを受信した場合に、保留情報関連処理４６（Ｓ３２０８Ｅ）を実行する点と、図柄確定コマンドを受信した場合に（Ｓ３２０１Ｄ：Ｙｅｓ）、確定コマンド処理４６（Ｓ３２０２Ｅ）を実行する点で相違している。それ以外の制御処理内容は同一であり、同一の処理内容については同一の符号を付して説明を省略する。

【１２４２６】

ここで、図１３３４を参照して、保留情報関連処理４６（Ｓ３２０８Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３４は、保留情報関連処理４６（Ｓ３２０８Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。この保留情報関連処理４６（Ｓ３２０８Ｅ）は、コマンド判定処理４６（図１３３３参照）にて保留球数コマンドを受信した場合に実行される処理であって、受信したコマンドから保留球数を抽出し、対応する特別図柄保留球数カウンタに格納する処理（Ｓ３３０１Ｅ）と、各特別図柄保留球数カウンタの値に対応する表示用コマンドを設定する処理（Ｓ３３０２Ｅ）に加え、受信したコマンドが特図２保留であるかを判別し（Ｓ３３０３Ｅ）、特図２保留であると判別した場合に（Ｓ３３０３Ｅ：Ｙｅｓ）、第１時短状態（時短状態）中であるかを判別し（Ｓ３３０５Ｅ）、第１時短状態（時短状態）中であると判別した場合に（Ｓ３３０５：Ｙｅｓ）、特図２保留数が４であるかを判別し（Ｓ３３０６Ｅ）、特図２保留数が４であると判別した場合に（Ｓ３３０６Ｅ：Ｙｅｓ）、チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２をオンに設定する処理（Ｓ３３０７Ｅ）が実行される。

【１２４２７】

つまり、本第４６制御例では、時短状態中に獲得した特図２保留が上限数に到達した場合に、チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２がオンに設定され、チャレンジ演出が実行されるように構成している。このように構成することで、特図２保留数を獲得していない、或いは、獲得している特図２保留球数が少ない状況でチャレンジ演出が実行されてしまい、第２特別図柄抽選が実行されていない期間が発生してしまうことを抑制することができる。

【１２４２８】

なお、図示は省略しているが、Ｓ３３０７Ｅの処理を実行した後には、後述する図１３３８のＳ４５５９Ｅ、及びＳ４５６０の処理と同一の処理（チャレンジ演出実行処理）が実行されるように構成している。このチャレンジ演出実行処理の内容については、後述するためここでは省略する。

【１２４２９】

次に、確定コマンド処理４６（Ｓ３２０２Ｅ）の処理内容について、図１３３５を参照して説明をする。図１３３５は、確定コマンド処理４６（Ｓ３２０２Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。この確定コマンド処理４６（Ｓ３２０２Ｅ）は、特別図柄変動が停止表示されたことを示すための確定コマンドを受信した場合に実行される処理であって、チャレンジ演出を終了させるための各種処理や、擬似左打ち演出を終了させるための各種処理が実行される。

【１２４３０】

次に、図１３３６を参照して、スルー通過処理（Ｓ３２８１Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３６は、スルー通過処理（Ｓ３２８１Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。このスルー通過処理（Ｓ３２８１Ｅ）は、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて定期的（１ミリ秒毎）に実行されるメイン処理（図１７４参照）にて実行される制御処理である。詳細な説明は省略するが、本第４６制御例では、遊技盤１３の左側領域に設けられたスルーゲート６７ａ（図１３２９参照）を遊技球が通過したことを検知可能な検知手段を設けており、その検知手段によって遊技球の通過を検知したことを示す信号が音声ランプ制御装置１１３へと出力されるように構成している。そして、スルー通過処理（Ｓ３２８１Ｅ）によって、スルーゲート６７ａを通過した遊技球の数を計測、管理可能に構成している。

【１２４３１】

スルー通過処理（Ｓ３２８１Ｅ）が実行されると、まず、チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２がオンに設定されているかを判別し（Ｓ３２９１Ｅ）、オンに設定されていると判別した場合は（Ｓ３２９１Ｅ：Ｙｅｓ）、次に、スルーゲート６７ａを遊技球が通過したことを示す信号を受信したかを判別し（Ｓ３２９２Ｅ）、受信したと判別した場合は（Ｓ３２９２Ｅ：Ｙｅｓ）、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値を１加算し（Ｓ３２９３Ｅ）、残時短回数報知選択テーブル２２２Ｅａを参照して残時短回数の報知態様（報知有無）を決定する（Ｓ３２９４Ｅ）。

【１２４３２】

そして、Ｓ３２９４Ｅの処理によって、残時短回数の報知があるかを判別し（Ｓ３２９５Ｅ）、ありと判別した場合は（Ｓ３２９５Ｅ：Ｙｅｓ）、報知対象となる回数の残時短回数を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３２９６Ｅ）、残時短回数の全回数が報知されたかを判別する（Ｓ３２９７Ｅ）。

【１２４３３】

Ｓ３２９７Ｅの処理において、全回数報知されたと判別した場合は（Ｓ３２９７Ｅ：Ｙｅｓ）、全回数報知を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ３２９８Ｅ）、チャレンジ中フラグ２２３Ｅ２をオフに設定し（Ｓ３２９９Ｅ）、本処理を終了する。

【１２４３４】

Ｓ３２９８Ｅの処理によって、設定された表示用コマンドによって、表示領域Ｄｍ７に表示される残回数が、残時短回数の全回数であることを遊技者に容易に把握させることができる。また、Ｓ３２９８Ｅの処理によって表示用コマンドが設定されていない状態では、残時短回数を一部分のみが表示領域Ｄｍ７に表示されていることを遊技者に把握させることも可能となるため、残回数が増加することを期待しながらチャレンジ演出中の左打ち遊技を意欲的に行わせることができる。

【１２４３５】

次に、図１３３７を参照して、特図２変動演出設定処理４６（Ｓ４４０１Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３７は、特図２変動演出設定処理４６（Ｓ４４０１Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。図１３３７に示した通り、この特図２変動演出設定処理４６（Ｓ４４０１Ｅ）では、上述した第４４制御例の特図２変動演出設定処理（図１３１５のＳ４４０１Ｃ参照）に対して、当たり当選していないと判別した場合（Ｓ４５０２Ｃ：Ｎｏ）、或いは、時短リミット到達していないと判別した場合（Ｓ４５０５Ｃ：Ｎｏ）に非時短リミット時演出設定処理４６（Ｓ４５０１Ｅ）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については、同一の符号を付して説明を省略する。

【１２４３６】

次に、図１３３８を参照して、非時短リミット時演出設定処理４６（Ｓ４５０１Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３８は、非時短リミット時演出設定処理４６（Ｓ４５０１Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。この非時短リミット時演出設定処理４６（Ｓ４５０１Ｅ）では。時短状態中における第２特別図柄変動の変動演出のうち、時短リミット到達当たり当選変動以外の変動演出を設定するための処理が実行される。

【１２４３７】

非時短リミット時演出設定処理４６（Ｓ４５０１Ｅ）が実行されると、まず、今回の変動パターンが変動時間６０秒以上の変動パターンであるかを判別し（Ｓ４５５１Ｅ）、６０秒以上の変動パターンであると判別した場合は（Ｓ４５５１Ｅ：Ｙｅｓ）、当該変動の変動時間と、残時短回数と、に基づいて擬似左打ちモードの実行を決定し（Ｓ４５５２Ｅ）、擬似左打ちモードの実行が決定されたと判別した場合には（Ｓ４５５３Ｅ：Ｙｅｓ）、擬似左打ちモード（擬似左打ち演出）に対応する表示用コマンドを設定し（Ｓ４５５４Ｅ）、幸福度５０％の演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４５５５Ｅ）、擬似左打ち中フラグ２２３Ｂａをオンに設定し（Ｓ４５５６Ｅ）、幸福度カウンタ２２３Ｂｂに決定した値（５０％に対応する値）を設定し（Ｓ４５５７Ｅ）、本処理を終了する。

【１２４３８】

つまり、本処理では、時短リミットに到達していない当たり変動として６０秒以上の変動パターンが設定された場合、或いは、外れ変動として６０秒以上の変動パターンが設定された場合であって、且つ、Ｓ４５５２Ｅの処理によって実行が決定された場合に、擬似左打ち演出のガセパターンとなる演出態様が設定されるように構成している。

【１２４３９】

このように構成することで、時短リミット到達当たり当選変動以外のロング変動（６０秒以上の変動）を用いて擬似左打ち演出を実行することができるため、遊技者に対して時短リミット到達当たり当選変動を把握させ難くすることができる。なお、ガセパターンの擬似左打ち演出が実行された場合であって、対応する特別図柄変動が当たり変動である場合には、擬似左打ち演出中における第１特別図柄抽選の実行回数に関わらず、幸福度が１００％の演出結果（時短リミット処理が実行されないことを示す演出結果）が表示され、対応する特別図柄変動が外れ変動である場合には、擬似左打ち演出中における第１特別図柄抽選の実行回数に関わらず、幸福度が１００％未満の演出結果が表示された後に、当たり当選していなかったことを示す告知演出が実行されるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、当該変動が外れ変動であったことに感謝するという斬新な遊技性を提供することができる。

【１２４４０】

一方、Ｓ４５５１Ｅの処理において、変動パターンが６０秒未満の変動時間であると判別した場合は（Ｓ４５５１Ｅ：Ｎｏ）、現在の特図２保留数が３であるかを判別し（Ｓ４５５８Ｅ）、３であると判別した場合は（Ｓ４５５８Ｅ：Ｙｅｓ）、チャレンジ演出の実行を決定し（Ｓ４５５９Ｅ）、スルー通過カウンタ２２３Ｅ１の値をリセットし（Ｓ４５６０Ｅ）、チャレンジ中フラグをオンに設定し（Ｓ４５６１Ｅ）、Ｓ４５０３Ｃの処理へ移行する。また、Ｓ４５５８Ｅの処理において、現在の特図２保留数が３では無いと判別した場合は（Ｓ４５５８Ｅ：Ｎｏ）、チャレンジ演出の実行条件を満たしていないため、そのままＳ４５０３Ｃの処理へ移行する。さらに、Ｓ４５５３Ｅの処理において、擬似左打ちモードの実行を決定していないと判別した場合（Ｓ４５５３Ｅ：Ｎｏ）も、Ｓ４５０３Ｃの処理へ移行する。そして、Ｓ４５０３Ｃの処理を終えると、本処理を終了する。

【１２４４１】

次に、図１３３９を参照して、特図１変動演出設定処理４６（Ｓ４４０２Ｅ）の処理内容について説明をする。図１３３９は、特図１変動演出設定処理４６（Ｓ４４０２Ｅ）の処理内容を示したフローチャートである。この特図１変動演出設定処理４６（Ｓ４４０２Ｅ）は、上述した第４４制御例の特図１変動演出設定処理（図１３１６のＳ４４０２Ｃ）に対して、擬似左打ち演出中に時短終了条件を成立させた場合に表示される幸福度の値を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。

【１２４４２】

特図１変動演出設定処理４６（Ｓ４４０２Ｅ）が実行されると、まず、上述した第４４制御例の特図１変動演出設定処理（図１３１６のＳ４４０２Ｃ）と同一のＳ４６０１Ｃ～Ｓ４６０６Ｃの処理を実行する。そして、Ｓ４６０３Ｃの処理において、時短終了条件が成立したと判別した場合に（Ｓ４６０３Ｃ：Ｙｅｓ）、次いで、時短リミット中であるか（時短リミット到達当たり当選変動であるか）を判別し（Ｓ４６０１Ｅ）、時短リミット中であると判別した場合は（Ｓ４６０１Ｅ：Ｙｅｓ）、幸福度２００％に対応する演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０２Ｅ）、Ｓ４６０８Ｃの処理へ移行する。

【１２４４３】

一方、Ｓ４６０１Ｅの処理において、時短リミット中では無いと判別した場合は（Ｓ４６０１Ｅ：Ｎｏ）、幸福度１００％に対応する演出態様を示す表示用コマンドを設定し（Ｓ４６０３Ｅ）、Ｓ４６０８Ｃの処理へ移行する。そして、上述した第４４制御例の特図１変動演出設定処理（図１３１６のＳ４４０２Ｃ）と同一のＳ４６０８Ｃ～Ｓ４６１０Ｃの処理を実行し本処理を終了する。

【１２４４４】

以上、説明をした通り、本第４６制御例では、時短リミット到達当たり当選変動以外の

変動においても、擬似左打ち演出（ガセパターン）を実行可能に構成しているため、時短終了条件を成立させた場合に表示させる幸福度のパーセンテージを異ならせることで、当該変動の抽選結果（時短リミット到達の有無）を遊技者に把握可能に構成している。

【１２４４５】

このように構成することで、左打ち遊技によって時短終了条件を成立させたことの有効性を遊技者に分かり易く把握させることができる。

【１２４４６】

＜第４３制御例の第１変形例について＞

次に、図１３４０、及び図１３４１を参照して、上述した第４３制御例の第１変形例について説明をする。上述した第４３制御例では、左打ち遊技状態（通常状態、第２時短状態）にて時短図柄当選した場合に背景モード（通常モード、不利モード、有利モード）を切り替える演出を実行可能に構成しており、背景モード種別を選択する際に参照される背景モード選択テーブル２２２Ａａ（図１２６８参照）には、当選時の遊技状態と、当選した時短図柄種別、及び、先読み結果に基づいて、切り替え先の背景モードが規定されていた。

【１２４４７】

これに対して、本第１変形例では、背景モード選択テーブル２２２Ａａ（図１２６８参照）に代えて背景モード選択４３ａテーブル２２２Ａａａ（図１３４０参照）を用いている点で相違している。また、天井までの残回数（残特図抽選回数）が所定数未満（５０回未満）となった場合に、通常状態であれば第２時短状態が設定される場合であっても、必ず不利モードが設定されるように構成している点で相違している。それ以外の内容は同一であり、同一の内容については、その説明を省略する。

【１２４４８】

ここで、図１３４０を参照して、背景モード選択４３ａテーブル２２２Ａａａの内容について説明をする。図１３４０は背景モード選択４３ａテーブル２２２Ａａａに規定されている内容を示した図である。図１３４０に示した通り、背景モード選択４３ａテーブル２２２Ａａａには、天井までの残回数（残特図抽選回数）に応じて異なる背景モードが規定されている。

【１２４４９】

具体的には、天井までの残回数が少ない程、不利モードが選択され易くなるように構成している。ここで、不利モードが選択された場合には、図１２５４（ｂ）に示した通り、天井までの残回数が表示されるように構成しているため、結果として、天井までの残回数が少なくなるほど、遊技者に天井までの残回数を把握させ易くすることができる。このように構成することで、天井までの残回数が過剰に多い状態で天井までの残回数が表示されることを抑制すると共に、天井までの残回数が少なくなった場合に、天井までの残回数を表示し易くすることで、天井間際で遊技者が遊技を止めてしまうことを抑制することができる。

【１２４５０】

さらに、対象保留内に当たりがある場合には、当たりが無い場合よりも、天井までの残回数が多い状態（例えば、９９９回～５００回）にて不利モードが選択され易くなるように構成している。よって、天井までの残回数が過剰に多い状態で天井までの残回数が表示された場合において、遊技者に対して当たり当選する期待度を高めさせることができる。

【１２４５１】

次に、図１３４１を参照して、本第１変形例にて実行される時短図柄当選時演出設定処理４３ａ（Ｓ４４０４Ｂａ）の処理内容について説明をする。図１３４１は、時短図柄当選時演出設定処理４３ａ（Ｓ４４０４Ｂａ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短図柄当選時演出設定処理４３ａ（Ｓ４４０４Ｂａ）は、上述した第４３制御例の時短図柄当選時演出設定処理（図１２８１のＳ４４０４Ｂ参照）に対して、時短Ａ群の時短図柄に当選した場合における背景モードを選択する処理の内容を異ならせている点で相違し、それ以外は同一である。

【１２４５２】
　具体的には、Ｓ５７０２Ｂの処理において、時短Ａ群であると判別した場合に（Ｓ５７０２Ｂ：Ｙｅｓ）、天井までの残回数が５０回未満であるかを判別し（Ｓ５７０１Ｂａ）、５０回未満であると判別した場合には（Ｓ５７０１Ｂａ：Ｙｅｓ）、背景モードとして不利モードを決定し（Ｓ５７０２Ｂａ）、Ｓ５７０５Ｂの処理へ移行する。
【１２４５３】
　一方、Ｓ５７０１Ｂａの処理において、５０回未満では無いと判別した場合は（Ｓ５７０１Ｂａ：Ｎｏ）、背景モード格納エリアから現在の背景モードを読み出し（Ｓ５７０２Ｂ）、背景モード選択４３ａテーブルを参照して、背景モード種別を決定し（Ｓ５７０３Ｂａ）、Ｓ５７０５Ｂの処理へ移行する。
【１２４５４】
　つまり、時短Ａ群の時短図柄に当選した時点における天井までの残回数が５０回未満である場合には、強制的に不利モードが設定されるように構成している。このように構成することで、天井までの残回数が少なくなった場合に、天井までの残回数を表示し易くすることで、天井間際で遊技者が遊技を止めてしまうことを抑制することができる。
【１２４５５】
　＜第４３制御例の第２変形例＞
　次に、図１３４２、及び図１３４３を参照して、第４３制御例の第２変形例について説明をする。上述した第４３制御例では、天井までの残回数に関わらず、時短図柄当選したことに基づいて背景モードを選択する処理を実行可能に構成していたのに対して、本第２変形例では、第２時短状態が設定される時短Ａ群に当選した時点で天井までの残回数を判別し、天井特典が付与されるまで第２時短状態が継続することが確定した場合には、天井特典が付与されるよりも前に、天井特典が付与されることを示す演出態様（天井特典の背景モード）を設定可能に構成している点で相違している。
【１２４５６】
　このように構成することで、天井特典に対応する演出の実行タイミングを時短図柄当選状況に応じて可変させることができるため、天井特典が付与されるタイミングを遊技者に予測させ難くすることができる。また、天井特典自体は固定期間の第２時短状態を設定するため、天井特典が付与されるよりも前から天井特典に対応する演出が実行された場合には、天井特典に対応する演出が実行される期間を長くすることができる。よって、天井特典として付与される特典の内容が複数存在していると遊技者に思わせ易くすることができる。
【１２４５７】
　本第２変形例では、上述した第４３制御例に対して、時短図柄当選時演出設定処理（図１２８１のＳ４４０４Ｂ参照）に代えて時短図柄当選時演出設定処理４３ｂ（図１３４２のＳ４４０４Ｂｂ参照）を実行するように構成している点で相違し、それ以外は同一である。同一の内容については、その説明を省略する。
【１２４５８】
　まず、図１３４２を参照して、時短図柄当選時演出設定処理４３ｂ（Ｓ４４０４Ｂｂ）の処理内容について説明をする。図１３４２は、時短図柄当選時演出設定処理４３ｂ（Ｓ４４０４Ｂｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短図柄当選時演出設定処理４３ｂ（Ｓ４４０４Ｂｂ）では、上述した第４３制御例の時短図柄当選時演出設定処理（図１２８１のＳ４４０４Ｂ参照）に対して、時短Ａ群であると判別した場合（Ｓ５７０２Ｂ：Ｙｅｓ）に、天井態様決定処理（Ｓ５７０１Ｂｂ）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付してその説明を省略する。
【１２４５９】
　次に、図１３４３を参照して、天井態様決定処理（Ｓ５７０１Ｂｂ）の処理内容について説明をする。図１３４３は、天井態様決定処理（Ｓ５７０１Ｂｂ）の処理内容を示したフローチャートである。この天井態様決定処理（Ｓ５７０１Ｂｂ）では、第２時短状態が設定される時短図柄（時短Ａ群）に当選した場合に、今回当選した第２時短状態が、天井

特典が付与されるまで継続するかを判別し、継続すると判別した場合に、時短図柄当選に基づいて天井特典に対応した演出態様を設定する処理が実行される。

【１２４６０】

具体的には、天井態様決定処理（Ｓ５７０１Ｂｂ）が実行されると、まず、第１特別図柄保留球格納エリア２２３ｂに格納されている入賞情報を読み出し（Ｓ５７２１Ｂｂ）、今回当選した時短種別（時短Ａ群の何れか）と、読み出した入賞情報の先読み結果と、に基づいて時短継続期間を算出する（Ｓ５７２２Ｂｂ）。その後、Ｓ５７２２Ｂｂの処理において算出された時短継続期間が天井まで継続するかを判定し（Ｓ５７２３Ｂｂ）、その判定結果が天井まで継続するかを判別する（Ｓ５７２４Ｂｂ）。

【１２４６１】

Ｓ５７２４Ｂｂの処理において、天井まで継続すると判別した場合は（Ｓ５７２４Ｂｂ：Ｙｅｓ）、天井特典の背景モードに対応する背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ５７２５Ｂｂ）、決定した背景モード種別を背景モード格納エリアに格納し（Ｓ５７２６Ｂｂ）、本処理を終了する。一方、Ｓ５７２４Ｂｂの処理において、天井まで継続しないと判別した場合は（Ｓ５７２４Ｂｂ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１２４６２】

以上、説明をした通り、本第２変形例では、天井特典が付与されるまで、天井特典が付与された場合に設定される遊技状態と同一の遊技状態が継続することが確定した場合には、確定した時点で天井特典が付与されることを示す演出を実行するように構成しているため、遊技者に対して、天井特典が様々なタイミングで付与されるように思わせることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１２４６３】

なお、本第２変形例では、時短図柄当選した際に、天井特典が付与される演出を天井特典が付与されるよりも前に実行可能であるかを判別し、その判別結果に基づいて実行するように構成しているが、これに限ること無く、天井特典にて付与される遊技状態（第２時短状態）と同一の遊技状態が設定されている状態において、遊技が進行し。現在設定されている遊技状態が、天井特典が付与されるタイミングまで継続することが確定した場合に、天井特典が付与されることを示す演出を実行するように構成しても良い。このように構成することで、天井特典が付与されることを示す演出を、天井特典が付与されるよりも前に実行させ易くすることができる。

【１２４６４】

＜第４７制御例＞

次に、図１３４４から図１３５９を参照して、本第４７制御例におけるパチンコ機１０について説明をする。本第４７制御例におけるパチンコ機１０は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０と同一の遊技盤１３の構成（図１２５３参照）を有しており、且つ、遊技状態として、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）と、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）と、を設定可能に構成し、特別図柄抽選で時短図柄当選した場合にも時短状態を設定可能に構成している。

【１２４６５】

また、第１特別図柄抽選では大当たり当選の判定のみが実行され、第２特別図柄抽選では、大当たり当選の判定に加えて、小当たり当選の判定、及び時短図柄当選の判定を実行するように構成しており、第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合に実行される小当たり遊技中に遊技球が特定領域（Ｖ入賞装置６５０内のＶゲート）を通過したことに基づいて大当たり遊技が実行されるように構成している。

【１２４６６】

さらに、本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態として第１時短状態と、第２時短状態と、を設定可能に構成しており、何れの時短状態が設定された場合であっても、通常状態よりも第２入球口６４０（図１２５３）へと入球し易くなるように構成している。つまり、本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態が設定された場合には、遊技盤１３の右側領域に向けて遊技球を発射させる右打ち遊技が遊技者に有利な

遊技方法となる。
【１２４６７】
加えて、第２特別図柄抽選の保留記憶（特図２保留）を最大で４個獲得可能に構成しており、一旦時短状態が設定されると、時短状態が終了するまで第２特別図柄抽選を実行し、時短状態中に実行された第２特別図柄抽選で当り当選（大当たり当選、小当たり当選）しなかった場合には通常状態へと移行し、時短状態中に獲得済の特図２保留を用いた第２特別図柄抽選を実行可能に構成することで、遊技者に有利な時短状態が終了した後も、所定期間の間、通常よりも遊技者に有利な遊技期間（引き戻し期間）を提供可能に構成している。
【１２４６８】
ここで、従来より、時短状態が設定されたことに基づいて第２特別図柄抽選が実行される遊技期間（時短状態中における第２特別図柄抽選、及び、引き戻し期間中における第２特別図柄抽選が実行される遊技期間）を跨いで一連の期間演出を実行するものがある。例えば、特図２保留を最大で４個獲得可能に構成され、時短回数４回の時短状態が設定されるパチンコ機１０であれば、時短状態が設定された場合に、第２特別図柄抽選を最大で８回実行させることが可能となることを示すための演出態様（チャンスは８回の表示等）で期間演出を実行することで、期間演出中の遊技内容（第２特別図柄抽選回数）を遊技者に分かり易く報知すると共に、その期間演出中に当たり当選を示す演出結果が表示されることを遊技者に期待させることで演出効果を高めるものがある。
【１２４６９】
このように構成された従来型のパチンコ機１０では、期間演出の演出態様により工夫を凝らすことで演出効果をより高めたものがあり、例えば、期間演出中に実行される第２特別図柄変動のそれぞれに対して、個々に演出を実行するのでは無く、第２特別図柄抽選が実行される毎に演出態様を段階的に可変させていくことで、期間演出の全期間（第２特別図柄抽選が８回実行されるまでの期間）を用いてストーリー性のある演出を実行するように構成することで、同一の演出が繰り返し実行されるよりも演出効果を高めたものがある。
【１２４７０】
本第４７制御例では、第２特別図柄抽選にて時短図柄に当選し得るように構成しており、時短図柄当選した場合には、当選した時短図柄の種別に応じた時短回数が再度設定されるように構成しているため、上述した期間演出中に実行された第２特別図柄抽選にて時短図柄当選した場合には、第２特別図柄抽選を実行可能な回数が増加することになる。
【１２４７１】
そこで、本第４７制御例におけるパチンコ機１０に対して、従来型の期間演出を用いた場合には、期間演出の実行期間中に実行可能な第２特別図柄抽選の残回数が増加することから、期間演出の演出期間を途中で延長させる必要があり、所定回数（例えば、８回）の第２特別図柄抽選（変動）が実行される期間に予め対応させていた期間演出が間延びしてしまい演出効果が低下してしまうという問題があった。
【１２４７２】
また。期間演出の実行期間中において時短図柄当選することを想定し、期間演出の演出期間が延長された場合に実行させる期間演出の演出パターンを予め用意しておくことも考えられるが、この場合、期間演出中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選したタイミング（第２特別図柄抽選回数）と、時短図柄当選したことに基づいて新たに設定される時短回数と、のそれぞれに対応させた演出パターンを用意しておく必要があり、演出データの容量が増加してしまうという問題があった。
【１２４７３】
これに対して、本第４７制御例では、期間演出中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合であっても、予め設定された期間演出をそのまま実行し、期間演出が終了したタイミングで、第２特別図柄抽選を実行させ易い期間（時短状態、特図２保留を獲得した状態の通常状態）が継続することを遊技者に報知するための第２期間演出を実行可

能に構成している。
【１２４７４】
このように構成することで、予め設定されていた期間演出が、時短図柄当選に基づいて間延びしてしまうことを抑制することができる。また、当たり当選の有無を示唆するための期間演出を用いて時短図柄当選の有無を遊技者に示唆することが無いため、期間演出中に実行された第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合において、実行中の期間演出の演出結果として、時短図柄当選したことを示すための演出結果が表示されることを抑制することができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができる。
【１２４７５】
つまり、本第４７制御例におけるパチンコ機１０は、特別図柄抽選にて時短図柄当選したことに基づいて所定回数の時短回数が設定された場合において、実行中の演出内容に基づいて、設定された時短回数（残時短回数）を遊技者に報知するタイミングを異ならせるように構成している。例えば、期間演出が実行されていない状態では、時短図柄当選したことを示すための第１特別図柄が停止表示されたタイミングにて今回設定される時短図柄の種別（残時短回数）等と、遊技者に報知可能に構成し、期間演出が実行されている状態では、期間演出が終了するまでの間、時短図柄当選したことを報知しない（し難くする）ように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、どのタイミングで時短図柄に当選したかを遊技者に分かり難くすることができる。
【１２４７６】
さらに、本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態として、第１時短状態と第２時短状態と、を設定可能に構成している。第１時短状態と、第２時短状態とでは、何れも右打ち遊技によって第２入球口６４０へと遊技球を入球させるための遊技が実行させ、何れの時短状態であっても、第２入球口６４０への遊技球の入球のさせ易さは同一（遊技者が気付かない程度の誤差、例えば、普通図柄抽選の当たり確率に生じる若干の誤差を含む概念）となるように構成している。つまり、右打ち遊技を行っている遊技者が、現在設定されている時短状態が第１時短状態であるか第２時短状態であるかを把握することが困難となるように構成している。
【１２４７７】
そして、第１時短状態が設定されている場合よりも、第２時短状態が設定されている場合の方が、時短図柄当選した場合、小当たり当選した場合に遊技者に有利な特典が付与され易くなるように構成している。具体的には、時短終了条件が成立し難い時短状態（第２時短状態）が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に対して、現在設定されている時短状態の種別を把握しようと意欲的に遊技を行わせることができる。
【１２４７８】
また、本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、少なくとも時短状態中に実行される期間演出の演出態様の一部を、設定されている時短状態の種別に応じて異ならせるように構成している。このように構成することで、実行される期間演出の演出態様を把握することで現在設定されている遊技状態（時短状態の種別）を把握させることができるため、演出効果を高めることができる。
【１２４７９】
＜第４７制御例における演出内容について＞
次に、図１３４４から図１３４６を参照して、本第４７制御例におけるパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、特徴的な演出の内容について説明をする。本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、時短状態が設定されたことに基づいて設定される第２特別図柄抽選を実行可能な期間（時短状態が設定される第１期間、通常状態であって特図２保留を有している第２期間）にて実行される第１期間演出の演出内容と、第１期間演出が終了した後に実行される第２期間演出の演出内容と、に特徴を持たせている。
【１２４８０】
本第４７制御例では、第１期間演出として、第２特別図柄抽選８回分の遊技期間を用い

たファイナルカウントダウン演出を実行可能に構成し、第２期間演出として、上乗せ演出を実行可能に構成している。

【１２４８１】

ファイナルカウントダウン演出は、大当たり遊技終了後に時短回数４回の第１時短状態が設定された場合に実行される期間演出（第１期間演出）であって、第１時短状態が終了するまでの前半パート（第２特別図柄抽選４回分）と、特図２残保留が実行され得る後半パート（第２特別図柄抽選４回分）と、から形成されている。

【１２４８２】

まず、図１３４４（ａ）を参照して、ファイナルカウントダウン演出が開始された時点の演出内容について説明をする。図１３４４（ａ）は、ファイナルカウントダウン演出が開始された時点にて第３図柄表示装置８１の表示面に表示される表示画面の一例を示した図である。図１３４４（ａ）に示した通り、ファイナルカウントダウン演出は、第１時短状態が設定された場合に実行される期間演出であるため、表示領域Ｄｍ４には「右打ち」が表示され、第２特別図柄が変動中であることを示すための表示態様（図では矢印で表示）が表示領域Ｄｍ２に表示されている。また、主表示領域Ｄｍの右下部には、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）数を示すための表示領域Ｄｍ９が形成され、獲得済みの特図２保留の数を遊技者が容易に把握できるようにしている。なお、図１３４４（ａ）に示した表示画面は、特図２保留を１個も獲得していない状態（４個の丸印を破線で表示）を示しており、特図２保留を獲得する毎に、表示領域Ｄｍ９の丸印が左側から順に実線で表示されていく。

【１２４８３】

ファイナルカウントダウン演出が実行されると、主表示領域Ｄｍの上側には、今回設定された時短状態（時短回数４回の第１時短状態）中に実行させることが可能な第２特別図柄抽選の回数を示すための表示態様として「チャンスは最大８回！！」の文字が表示されている。ここでは、時短状態における最後の第２特別図柄変動（時短最終変動）期間中に特図２保留を上限数（４個）まで獲得することにより、第１時短状態中に４回、第１時短状態終了後の通常状態中に４回の計８回の第２特別図柄抽選を実行可能であることを示している。

【１２４８４】

なお、第１時短状態は、上述した第４３制御例と同様に、複数の時短終了条件を有しており、第２特別図柄抽選が４回実行されたことに基づいて成立する第１時短終了条件に加え、第１特別図柄抽選の実行回数と第２特別図柄抽選の実行回数とを合算した合算特図抽選回数が１０回に到達したことに基づいて成立する第２時短終了条件も有している。

【１２４８５】

つまり、第１終了条件が成立するよりも前に第２時短終了条件を成立させた場合には、第２特別図柄抽選を４回実行させるよりも前に第１時短状態が終了するため、今回設定された時短状態（時短回数４回の第１時短状態）中に実行させることが可能な第２特別図柄抽選の回数が少なくなる。また、時短最終変動期間中に特図２保留を上限数（４個）まで獲得しなかった場合は、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選の回数が減少することになる。

【１２４８６】

なお、本第４７制御例では、図１３４４（ａ）に示した通り、第１時短状態が設定された直後から「右打ち」の案内態様が表示され、案内態様の内容に従って右打ち遊技を実行することで、第１時短終了条件よりも先に第２時短終了条件が成立してしまう事態や、時短最終変動期間中に特図２保留を上限数（４個）獲得できない事態が発生することが無い（発生し難くなる）ように構成しているため、ファイナルカウントダウン演出が開始された時点で、「チャンスは最大８回！！」と表示している。

【１２４８７】

このように、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定された場合であっても、遊技者が正常な遊技を実行しなかった場合には、規定回数（８回）の第２特別図柄抽選を実行さ

せること無く、第２特別図柄抽選を実行し難い遊技状態（左打ち遊技状態）となる。この場合、即ち、ファイナルカウントダウン演出が最後まで実行されること無く、特図２保留を獲得していない通常状態となる場合には、その状況を判別可能に構成し、ファイナルカウントダウン演出の演出結果として、強制敵にファイナルカウントダウン演出が終了したことを示す演出結果（強制終了態様）を表示するように構成している。

【１２４８８】

図示は省略するが、強制終了態様の演出結果が表示された場合には、第２特別図柄抽選の実行機会を失ったことを示すための案内態様と、実行機会が失われない遊技方法（右打ち遊技を継続する遊技方法）を示すための案内態様と、が表示される。このように構成することで、今回実行した遊技内容が遊技者に不利な遊技内容であったことを分かり易く報知すると共に、適正な遊技内容を報知することができるため、次に第１時短状態が設定された場合に、遊技者に適正な遊技を実行させ易くすることができる。

【１２４８９】

ファイナルカウントダウン演出の実行期間中は、味方キャラ８０１Ｆが敵キャラＥ１と戦うバトル演出が実行され、基本的には第２特別図柄抽選１回に対して１回のバトル演出が実行されるように構成している。そして、バトル演出の演出結果として、味方キャラ８０１Ｆが勝利した場合には、対象となる第２特別図柄抽選の結果が当たり（小当たり、大当たり）であることが報知され、味方キャラ８０１Ｆが倒れた場合には、対象となる第２特別図柄抽選の結果が外れ（時短図柄当選含む）であることが報知される。

【１２４９０】

図１３４４（ａ）に示した表示画面は、第１時短状態が設定されてから最初に実行された第２特別図柄抽選の結果を示すための第２特別図柄変動期間中を示しており、今回のファイナルカウントダウン演出における１回目のバトル演出を示す表示画面として、一人目の味方キャラ８０１Ｆとして勇者を模した味方８０１Ｆ１が、敵キャラＥ１と対峙している状態が表示されている。また、主表示領域Ｄｍの左側には、味方キャラのストック数を示す味方ストック表示態様が表示される表示領域Ｄｍ１Ｆが形成されている。

【１２４９１】

この表示領域Ｄｍ１Ｆに表示される味方ストック表示態様は、今回のファイナルカウントダウン演出にて実行される各バトル演出にて用いられる味方キャラ８０１の数を報知可能に構成しており、表示領域Ｄｍ１Ｆには最大で８体の味方キャラ８０１を模したストックアイコンｍｓ１～ｍｓ８を表示可能に構成している。

【１２４９２】

このストックアイコンｍｓ１～ｍｓ８は、獲得した特図２保留に対応して表示されるように構成しており、図１３４４（ａ）に示した表示画面では、表示領域Ｄｍ２、及び、表示領域Ｄｍ９に示した通り、第２特別図柄変動中であって、且つ、特図２保留を獲得していない状態であるため、バトル演出に用いられている味方キャラ８０１Ｆ１に対応したストックアイコンｍｓ１のみが表示されており、ストックアイコンｍｓ１が現在実行中のバトル演出に対応していることを示すための態様（図では、点灯を示す態様で表示）で表示されている。

【１２４９３】

このように構成することで、ストックアイコンｍｓ１～ｍｓ８を複数獲得している状態において、現在のバトル演出に用いられているストックアイコンの種別を遊技者に分かり易く報知することができる。

【１２４９４】

なお、詳細は図１３４４（ｂ）を参照して後述するが、表示領域Ｄｍ１Ｆに表示される味方ストック表示態様は、バトル演出に既に用いられたストックアイコンを遊技者が識別可能となる表示態様で表示されるように構成している。つまり、味方ストック表示態様を確認することで、獲得済みのストックアイコン数（特図２保留数）と、今回のファイナルカウントダウン演出にて実行されたバトル演出の数と、を遊技者に容易に把握させることができる。よって、ファイナルカウントダウン演出中に実行されるバトル演出の残回数や

、今回の第１時短状態中に獲得可能な特図２保留の残数を確認しながら遊技者に分かり易い遊技を行わせることができる。

【１２４９５】

次に、図１３４４（ｂ）を参照して、ファイナルカウントダウン演出中に時短図柄当選した場合に実行される演出内容について説明をする。図１３４４（ｂ）は、ファイナルカウントダウン演出中であって、遊技状態として通常状態が設定され、実行中のバトル演出に対応する第２特別図柄抽選で時短図柄Ｂに当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【１２４９６】

図１３４４（ｂ）は、第１時短状態が設定されてから６回目の第２特別図柄抽選、即ち、第１時短状態中に実行される４回の第２特別図柄抽選が終了し、通常状態が設定されてから２回目の第２特別図柄抽選の結果が表示される表示画面を示しており、表示領域Ｄｍ２には、今回の第２特別図柄抽選の結果が時短図柄Ｂ当選であることを示すための「３５３」の表示態様で第３図柄（識別情報）が停止表示されており、主表示領域Ｄｍの上側には、今回のファイナルカウントダウン演出にて実行されるバトル演出の回数（実行中のバトル演出も含む）が３回であることを示すための表示態様として「残り３回」が表示されている。

【１２４９７】

また、特図２保留を２個獲得している状態を示すための表示態様が表示領域Ｄｍ９に表示されており、特図２保留を示す第１特図２保留アイコンｈｒ５と、第２特図２保留アイコンｈｒ６が表示されている。また、表示領域Ｄｍ１Ｆには、過去５回分のバトル演出にて味方が倒されたことを示すための表示態様（図ではバツ印を付した表示態様）でストックアイコンｍｓ１～ｍｓ５が表示されており、実行中のバトル演出に対応する味方キャラ８０１Ｆに対応したストックアイコンｍｓ６が点灯表示している。また、特図２保留を２個獲得している状態であるため、ファイナルカウントダウン演出中に実行可能なバトル演出の残回数（第２特別図柄抽選回数）が２回であることを示すストックアイコンｍｓ７、ストックアイコンｍｓ８が表示されている。

【１２４９８】

主表示領域Ｄｍには、実行中のバトル演出の演出結果として、ウサギを模した味方キャラ８０１Ｆ６が敵キャラＥ１に倒される演出が実行されており、副表示領域Ｄｓには、今回のバトル演出の演出結果が遊技者に有利な演出結果では無いことを示すための「残念残りチャンスは２回」が表示されている。

【１２４９９】

図１３４４（ｂ）に示した通り、味方キャラ８０１Ｆは、対応する第２特別図柄抽選の結果（先読み結果）に基づいて、複数種類のキャラクタから選択されるように構成しており、選択されたキャラクタの種別に応じて、遊技者に有利な特典が付与されることへの期待度を異ならせている。例えば、図１３４４（ａ）に示した勇者を模した味方キャラ８０１Ｆは、ウサギを模した味方キャラ８０１Ｆよりも小当たり当選した場合に選択され易く構成しており、時短図柄当選した場合には、勇者を模した味方キャラ８０１Ｆよりもウサギを模した味方キャラ８０１Ｆの方が選択され易くなるように構成している。また、詳細は後述するが、当たり当選している可能性は低くなるが、時短図柄当選している可能性を高くしたカメを模した味方キャラ８０１Ｆも選択可能に構成している。

【１２５００】

加えて、味方キャラ８０１Ｆが倒される演出結果となるバトル演出が実行される場合であっても、敵キャラＥ１の表示態様を異ならせることが可能に構成しており、例えば、敵キャラＥ１の表示態様として、第１態様（図１３４４（ａ）参照）と、対応する第２特別図柄抽選の結果が当たり当選、又は時短図柄当選した場合に、それ以外の場合よりも選択され易い第２態様（図１３４４（ｂ））と、を表示可能に構成している。

【１２５０１】

そして、図１３４４（ｂ）に示した図では、所定量のダメージを負っていることを示す

第２態様で敵キャラＥ１が表示されている。このように構成することで、今回実行されたバトル演出の演出態様が、外れ当選時には選択され難い演出態様であったことを遊技者に分かり易い遊技を提供することができる。

【１２５０２】

次に、図１３４５（ａ）を参照して、ファイナルカウントダウン演出中に小当たり当選した場合に実行される演出内容について説明をする。図１３４５（ａ）は、ファイナルカウントダウン演出中に実行される第２特別図柄演出にて小当たり当選したことを示すための表示画面の一例である。

【１２５０３】

図１３４５（ａ）に示した通り、第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、表示領域Ｄｍ２に小当たり当選を示すための第３図柄の表示態様として「３４１」が停止表示されると共に、カウントダウン演出中に実行されるバトル演出の演出結果として、敵キャラＥ１を討伐する演出が実行される。そして、副表示領域Ｄｓには、敵を倒したことを祝福するためのメッセージとして、「敵を倒したおめでとう」の文字が表示されている。また、敵キャラＥ１が倒れたことによりＶアイコンが出現し「Ｖゲット」が表示される。

【１２５０４】

図１３４４（ｂ）を参照して上述した通り、ファイナルカウントダウン演出中は、時短図柄当選し、残時短回数が増加した場合であっても、残時短回数が増加したことが遊技者には報知されないため、ファイナルカウントダウン演出中に小当たり当選した場合には、ファイナルカウントダウン演出中に実行されるバトル演出（第２特別図柄抽選）の残回数は把握することはできるが、時短状態の残期間を遊技者が把握し難くなる。よって、例えば、ファイナルカウントダウン演出中に多くの時短回数が付与される時短図柄に当選し、多くの残時短回数を残した状態で小当たり当選した場合であっても、多くの時短回数が付与されたことを遊技者が把握できないため、無用に時短図柄当選したことに対して遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２５０５】

次に、図１３４５（ｂ）を参照して、ファイナルカウントダウン演出が終了した場合に実行される演出内容について説明をする。図１３４５（ｂ）は、ファイナルカウントダウン演出の終了時に表示される表示画面の一例を示した図である。図１３４５（ｂ）に示した表示画面は、上述した図１３４４（ｂ）に示した状態、即ち、第１時短状態が設定されてから６回目の第２特別図柄抽選（通常状態中に実行された第２特別図柄抽選）で時短図柄Ｂに当選した状態から、２回の第２特別図柄抽選が実行された時点における表示画面である。

【１２５０６】

つまり、第１時短状態が設定されてから６回目の第２特別図柄抽選（通常状態中に実行された第２特別図柄抽選）で時短図柄Ｂに当選したことに基づいて時短回数２０回の第２時短状態が設定された後、２回の第２特別図柄抽選が実行されているため、内部的には残時短回数が１８回の第２時短状態が設定されている状態となる。

【１２５０７】

この場合、ファイナルカウントダウン演出が終了した後も、時短状態（第２時短状態）が継続することを示すために、ファイナルカウントダウン演出における最後のバトル演出（ストックアイコンｍｓ８に対応する味方キャラ８０１Ｆ８を用いたバトル演出）にて味方キャラ８０１Ｆ８が倒された後に、天使を模したキャラ８０２Ｆが登場し、キャラクタ８０１Ｆ８を復活させる演出が実行され、その後、キャラ８０２Ｆの登場に驚いた敵キャラＥ１が逃亡する演出が実行される。

【１２５０８】

そして、主表示領域Ｄｍの中央付近に形成された表示領域Ｄｍ２Ｆには、残時短回数を示すための表示態様として「＋１８回」が表示され、副表示領域Ｄｓには「天使が出現！！ラッキー」の文字が表示される。その後、残時短回数（図では１８回）を用いた第２期間演出（上乗せ演出）が実行される。

【１２５０９】
次に、図１３４６（ａ）を参照して、第１期間演出（ファイナルカウントダウン演出）の終了後に実行される第２期間演出（上乗せ演出）の演出内容について説明をする。図１３４６（ａ）は、上乗せ演出の演出内容を模式的に示した図である。この上乗せ演出では、図柄アイコン８１１ｅ～図柄アイコン８１１ｇが横方向（左方向）へと変動表示される変動演出が実行され、対応する第２特別図柄変動が停止表示されるタイミングに合わせて、ウサギを模したキャラクタ８０１が図柄アイコン８１１の何れかを停止表示させる演出が実行される。なお、上乗せ演出中に主表示領域Ｄｍの中央部にて実行される変動表示演出の内容は、上述した第４３制御例におけるチャンスゾーン中に実行される演出（図１２５８（ａ）参照）と同一であるため、その説明を省略する。
【１２５１０】
この上乗せ演出は、第２特別図柄抽選が実行される毎に行われるように構成しており、表示領域Ｄｍ３Ｆには、上乗せ演出中に実行される第２特別図柄抽選の残回数を示す表示態様として「残り１８回」が表示されている。
【１２５１１】
上乗せ演出中に実行された第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、図柄アイコン８１１ｆが停止表示され、時短図柄当選した場合には、図柄アイコン８１１ｇが停止表示され、外れである場合には図柄アイコン８１１ｅが停止表示される。ここで、時短図柄当選した場合には、新たに設定される時短回数に対応させて表示領域Ｄｍ３Ｆに表示されている残回数が増減表示される。
【１２５１２】
そして、上乗せ演出が実行される時短状態中（第２時短状態）中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選しなかった場合には、時短状態の最終変動（時短終了条件が成立した第２特別図柄変動）中に特図２保留の獲得を促す演出が実行される。なお、特図２保留の獲得を促す演出については、上述した図９４１（ａ）に示した表示画面と同様に、時短状態の最終変動の残期間を示すための演出態様と、特図２保留を上限数獲得したことを示すための演出態様と、右打ち遊技を継続させるための演出態様と、を少なくとも含む演出が実行される。
【１２５１３】
その後、表示領域Ｄｍ３Ｆに「ラストチャンス」が表示され、時短状態の終了時点で獲得済みの特図２保留を用いた第２特別図柄抽選（最大で４回）の抽選結果が上乗せ演出中の変動表示（図１３４６（ａ）参照）と同一の演出態様で実行される。なお、表示領域Ｄｍ３Ｆに「ラストチャンス」が表示されている状態で実行される変動演出は、１回の変動演出が、時短状態の終了時点で獲得済みの特図２保留を用いた第２特別図柄抽選が開始されてから、全ての特図２保留が消化されるまで、或いは、何れかの第２特別図柄抽選で当り当選、又は時短図柄当選するまで継続するように構成している。
【１２５１４】
このように構成することで、獲得済みの特図２保留が全て外れである場合には、１回の変動演出として外れを示す演出結果で実行すれば良いため、遊技者に不利な演出結果となる変動演出が無用に多く実行されてしまうことを抑制することができる。
【１２５１５】
次に、ファイナルカウントダウン演出中であって、第１時短状態中（前半パート中）に実行された第２特別図柄抽選で時短図柄Ａに当選した場合の演出内容について図１３４６（ｂ）を参照して説明をする。図１３４６（ｂ）は、ファイナルカウントダウン演出中に時短図柄当選した場合に表示される表示画面の一例を示した図である。
【１２５１６】
図１３４４（ｂ）を参照して上述した表示画面は、ファイナルカウントダウン演出中であって通常状態中（後半パート中）に時短図柄当選した場合に表示される表示画面の一例を示したものであり、時短図柄当選したことを遊技者に報知しない（分かり難く報知する）演出を実行することで、ファイナルカウントダウン演出終了後に時短状態が継続するか

否かを遊技者に把握させ難くするものであった。
【１２５１７】
一方、図１３４６（ｂ）に示した表示画面は、同じファイナルカウントダウン演出中であっても、時短状態中に時短図柄当選した場合に表示される表示画面であって、時短図柄当選したことを、及び、新たに設定される時短回数（残時短回数）を遊技者に報知するものである。
【１２５１８】
本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、第１時短状態として時短回数４回が必ずセットされるように構成しており、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、必ず第１時短状態が設定される時短図柄種別（時短図柄Ａ）が選択されるように構成している。そして、第１時短状態中に実行される４回目の第２特別図柄変動に対して、１～３回目の第２特別図柄変動よりも長い２０秒の変動時間が設定されるように構成している。
【１２５１９】
つまり、第１時短状態の最終変動となる第２特別図柄変動期間中（新たに第１時短状態が設定されてから４回目の第２特別図柄変動期間中）には、当たり当選の有無を示すためのバトル演出（１０秒間）と、特図２保留の獲得を促す演出（１０秒間）と、が実行されるように構成している。
【１２５２０】
このように構成することで、ファイナルカウントダウン演出中に実行される各第２特別図柄変動に対して、同様のバトル演出を実行させながらも、第１時短状態の最終変動中に上限数の特図２保留を獲得させ易くすることができる。
【１２５２１】
ここで、ファイナルカウントダウン演出の前半パート（第１時短状態中）にて時短図柄当選したことが遊技者に報知されなかった場合には、ファイナルカウントダウン演出の後半パートを残した状態で第１時短状態の最終変動が実行されない状態が発生してしまうため、ファイナルカウントダウン演出を用いて事前に告知されている残り回数（残バトル演出回数）と、第１時短状態の最終変動中に獲得を促す特図２保留数とが一致しない事態が発生してしまうという問題があった。
【１２５２２】
具体的には、第１時短状態が設定されてから３回目の第２特別図柄抽選（ファイナルカウントダウン演出の３回目のバトル演出）で時短図柄当選した場合には、その時点で第１時短状態が新たに設定され、残時短回数が４回となる。その後実行される第２特別図柄抽選が連続して外れとなった場合には、最初に第１時短状態が設定されてから（ファイナルカウントダウン演出が実行されてから）７回目の第２特別図柄変動が、第１時短状態の最終変動（変動時間２０秒の第２特別図柄変動）となり、バトル演出終了後に特図２保留の獲得を促す演出が実行される。しかし、この時点でファイナルカウントダウン演出における７回目のバトル演出が実行されていることから、表示画面には「残り２回」の表示がされており、ファイナルカウントダウン演出中に、実行中のバトル演出を除いて後１回のバトル演出しか実行されないことを示しているため、ファイナルカウントダウン演出の開始時点で報知したバトル演出の実行回数（８回）と、第１時短状態の最終変動中に獲得済みの特図２保留数とが相違してしまい、ファイナルカウントダウン演出の演出結果が停止表示されるよりも前に、ファイナルカウントダウン演出が終了した後も、第２特別図柄抽選が実行されることを遊技者に容易に把握されてしまい、演出効果が低下してしまうという問題があった。
【１２５２３】
これに対して、本第４７制御例におけるパチンコ機１０では、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、図１３４６（ｂ）に示した通り、バトル演出を用いて時短図柄当選したことを遊技者に報知するように構成している。
【１２５２４】

具体的には、バトル演出として敵キャラＥ１と対峙しているカメを模した味方キャラ８０１Ｆ３が、敵キャラＥ１に対して攻撃を行うこと無く仲間を呼ぶ演出が実行される。そして、味方キャラ８０１Ｆ３の呼びかけに対応可能な味方キャラ８０１の数を示す表示領域Ｄｍ１Ｆａが形成される。図１３４６（ｂ）に示した表示画面では、ファイナルカウントダウン演出が実行されてから（第１時短状態が設定されてから）３回目の第２特別図柄抽選にて時短図柄当選したことを示しており、当該変動が停止表示されたタイミングで時短回数４回の第１時短状態が新たに設定されることから、残時短回数の差分値「３回」に対応させた大きさ（ストックアイコンｍｓを３個表示可能な大きさ）で表示領域Ｄｍ１Ｆａが形成される。

【１２５２５】

そして、主表示領域Ｄｍの上方には、増加する残時短回数に対応してファイナルカウントダウン演出中に実行されるバトル演出の回数が増加することを示す表示態様として「残り６回＋３」が表示される。なお、図１３４６（ｂ）には、実行中のバトル演出も含めた回数として「残り６回」が表示されている。その後、次の第２特別図柄変動の開始に対応させて新たなバトル演出が実行されると、主表示領域Ｄｍの上方には「残り８回」が表示される。

【１２５２６】

このように構成することで、第１時短状態の最終変動が実行されるタイミングを、常に「残り５回」が表示される第２特別図柄変動期間とすることができる。よって、ファイナルカウントダウン演出中に表示されるバトル演出の残回数と、その時点で獲得した特図２保留数と、を一致させることができるため、ファイナルカウントダウン演出が終了する時点で第２特別図柄抽選を実行可能な遊技期間が終了してしまうか否かを予測する楽しみを提供することができ、演出効果を高めることができる。

【１２５２７】

上述した通り、時短図柄当選を報知するバトル演出が実行される場合には、味方キャラ８０１（味方キャラ８０１Ｆ３）が敵キャラＥ１を攻撃しない、即ち、当たり当選する演出結果（敵キャラＥ１を倒す演出）が表示されないことが確定する態様でバトル演出が開始されるように構成している。つまり、通常であれば、当たり当選するか否かを遊技者に予測させるためのバトル演出であるにも関わらず、条件を満たした場合（第１時短状態中に時短図柄当選した場合）には、当たり当選するか否かの演出よりも優先して時短図柄当選するか否かを示唆する演出態様でバトル演出が実行されるように構成している。このように構成することで、１の特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様として、優先すべき抽選結果を可変させることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができる。

【１２５２８】

なお、図１３４６（ｂ）に示したバトル演出の演出態様は、時短図柄当選した場合以外にも（外れである場合にも）低確率で設定されるように構成しており、この場合、味方キャラ８０１が仲間を呼ぶ演出を実行した後に、呼びかけに対して仲間の反応が無いことを示す演出結果に対応した演出態様（例えば、「・・・」の表示）の演出が実行される。

【１２５２９】

このように構成することで、味方キャラ８０１が仲間を呼ぶ演出が実行された場合において、時短図柄当選しているか否かを予測する楽しみを提供することができる。さらに、小当たり当選している第２特別図柄変動に対応するバトル演出として味方キャラ８０１Ｆが仲間を呼ぶ演出を実行するように構成しても良く、この場合は、味方キャラ８０１Ｆの呼びかけに対して仲間の反応が無いことを示す演出が実行された後に、怒った味方キャラ８０１Ｆが敵キャラＥ１を吹き飛ばす演出（逆転演出）を実行するように構成すれば良い。これにより、味方キャラ８０１Ｆが仲間を呼ぶ演出が実行されたとしても、当たり当選（小当たり当選）している可能性を残すことができるため、演出効果を高めることができる。

【１２５３０】

次に、図１３４７を参照して、上述した第１期間演出（ファイナルカウントダウン演出）、及び、第２期間演出（上乗せ演出）が実行される流れを、遊技の進行状況に対応させて説明する。図１３４７は、遊技の進行状況と、実行される演出の内容とを対応付けた図であって、図１３４７（ａ）は、パチンコ機１０の遊技状態移行の流れを示した図であり、図１３４７（ｂ）は、実行される特別図柄変動（第２特別図柄変動）の流れを示した図であり、図１３４７（ｃ）は、時短状態における残時短回数の増減を示した図であり、図１３４７（ｄ）は、第３図柄表示装置８１の表示面にて実行される演出の流れを示した図である。

【１２５３１】

図１３４７（ａ）～（ｄ）に示した通り、小当たり遊技中は、特別図柄変動が実行されること無く、且つ、時短状態も設定されていない。そして、第３図柄表示装置８１の表示面では、小当たり遊技中の遊技内容を示す演出（例えば、「Ｖを狙え」等）や、小当たり遊技を祝福するための演出が実行される。なお、小当たり遊技中に実行される小当たり遊技中演出の内容については、上述した各制御例にて説明をした小当たり遊技中に実行される演出の内容の何れかが適用されるものであり、その説明を省略する。

【１２５３２】

そして、小当たり遊技中に遊技球が特定領域を通過し、大当たり遊技の実行権利を獲得した場合には、小当たり遊技終了後に大当たり遊技が実行され、大当たり遊技中演出が実行される。大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される場合には、大当たり遊技の終了タイミングに合わせて、時短状態（第１時短状態）として時短回数４回が設定され、ファイナルカウントダウン演出が開始される。

【１２５３３】

＜第４７制御例における遊技状態の遷移内容について＞

次に、図１３４８を参照して、本第４７制御例における遊技状態の遷移内容について説明をする。図１３４８は、遊技状態の遷移内容を示した図である。図１３４８に示した通り、本第４７制御例では、通常状態と、第１時短状態と、第２時短状態と、を設定可能に構成している。なお、図１３４８では、説明の便宜上、通常状態を、左打ち遊技によって第１特別図柄抽選の実行を目指す第１通常状態と、時短状態中に獲得した特図２保留を用いた第２特別図柄抽選が実行される第２通常状態と、に分けて記載しているが、第１通常状態、第２通常状態は何れも同一の遊技状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態、電サポなし状態）となる。

【１２５３４】

第１通常状態中は第１特別図柄抽選で１／２５０の確率で当選する大当たり当選を目指した遊技が実行される。そして、第１通常状態にて大当たり当選した場合には、大当たり遊技終了後に時短回数４回の第１時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定され、右打ち遊技が開始される。そして、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定された場合には、第３図柄表示装置８１の表示画面にてファイナルカウントダウン演出が開始される。

【１２５３５】

上述した通り、ファイナルカウントダウン演出は８回の第２特別図柄抽選が実行される期間に対応した期間演出であって、第１時短状態中は、その前半期間（４回分）の演出期間となる。第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選では、１／２５０の確率で当選する大当たり当選以外に、１／８の確率で当選する小当たり当選、及び、１／５０の確率で当選する時短図柄当選を目指した遊技が実行される。

【１２５３６】

まず、第１時短状態中に小当たり当選した場合の流れについて説明をする。第１時短状態中に小当たり当選した場合には、小当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技終了後に再度第１時短状態が設定される。つまり、第１時短状態中に小当たり当選した場合には、第１時短状態が繰り返し設定される遊技が実行される。一方、第１時短状態中に時短図柄当選した場合には、第１時短状態が設定される時短図柄Ａと、第２時短状態が設定さ

れる時短図柄Ｂと、の選択割合が１：１となるように構成している。
【１２５３７】
次に、第１時短状態中に実行される４回の第２特別図柄抽選にて外れが連続し、第２通常状態へと移行すると、第１時短状態中よりも有利な第２特別図柄抽選が特図２保留数に対応した数（最大４個）実行される。具体的には、通常状態（第２通常状態）にて実行される第２特別図柄抽選にて小当たり当選した場合には、２０％の割合で大当たり遊技終了後に第２時短状態が設定される小当たり種別である小当たりＣが選択されるように構成している。さらに、時短図柄当選した場合には、必ず第２時短状態が設定される時短図柄Ｂが設定されるように構成している。
【１２５３８】
つまり、第１時短状態中よりも通常状態にて小当たり当選、或いは時短図柄当選した場合の方が、遊技者に最も有利な第２時短状態へと移行し易くなるように構成している。このように構成することで、最後の第２特別図柄抽選が実行されるまで期待感を持たせたまま遊技者に遊技を行わせることができる。
【１２５３９】
そして、第２時短状態が設定された場合には、小当たり当選した場合の５０％が第２時短状態をループし、残りの５０％が第１時短状態へと移行するように構成し、時短図柄当選した場合には、必ず第２時短状態が設定される時短図柄Ｂが設定されるように構成している。
【１２５４０】
よって、一度第２時短状態が設定されると、高確率で第２時短状態をループする遊技を行わせることができる。なお、本第４７制御例では、第２時短状態で小当たり当選した場合に５０％の確率で第２時短状態以外が設定されるように構成することで、長時間の間、第２時短状態が継続してしまうことを抑制しているが、これに限ること無く、例えば、上述した第４４制御例のように、時短状態が連続して設定される回数に上限も持たせた時短リミット機能を設け、所定回数（例えば、１０回）連続して時短状態が設定された場合に強制的に通常状態へと移行させるように構成しても良い。
【１２５４１】
＜第４７制御例における主制御装置の電気的構成について＞
次に、図１３４９から図１３５２を参照して、本第４７制御例におけるパチンコ機１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の構成について説明をする。本第４７制御例におけるパチンコ機１０の主制御装置１１０のＲＯＭ２０２は、上述した第４３制御例におけるパチンコ機１０に対して各種構成に対して予め規定されている内容を異ならせている点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成に対しては説明を省略する。なお、規定されている内容（情報）を異ならせている各種構成（特別図柄１乱数４７テーブル２０２Ｆａ１、特別図柄２乱数４７テーブル２０２Ｆａ２、大当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｂ、変動パターン選択４７テーブル２０２Ｆｄ、時短付与４７テーブル２０２Ｆｅ、小当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｆ、時短種別選択４７テーブル２０２Ｆｈ）について、その用途は上述した第４３制御例と同一であるため、詳細な説明を省略する。
【１２５４２】
まず、図１３４９（ａ）を参照して、特別図柄１乱数４７テーブル２０２Ｆａ１の構成について説明をする。図１３４９（ａ）は、特別図柄１乱数４７テーブル２０２Ｆａ１に規定されている内容を示した図である。この特別図柄１乱数４７テーブル２０２Ｆａ１は、上述した特別図柄１乱数４３テーブル２０２Ａａ１（図１２６２（ａ）参照）に対して、大当たり判定値の範囲を変更している点と、時短図柄判定値を削除している点で相違している。
【１２５４３】
具体的には、本第４７制御例におけるパチンコ機１０は、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値の範囲が「０～９９９」の１０００個となるように構成しており、そのうち

、「０～３」の範囲が大当たりと判定される範囲となるように規定し、小当たりと判定される値や時短図柄と判定される値を規定しないように構成している。つまり、第１特別図柄抽選が実行された場合には、設定されている遊技状態に関わらず、４／１０００（１／２５０）の確率で大当たりと判定される抽選が実行されるように構成している。

【１２５４４】

次に、図１３４９（ｂ）を参照して、特別図柄２乱数４７テーブル２０２Ｆａ２の構成について説明をする。図１３４９（ｂ）は、特別図柄２乱数４７テーブル２０２Ｆａ２に規定されている内容を示した図である。この特別図柄２乱数４７テーブル２０２Ｆａ２は、上述した特別図柄２乱数４３テーブル２０２Ａａ２（図１２６２（ｂ）参照）に対して、大当たり判定値の範囲、及び、小当たり判定値の範囲を変更している点と、新たに、時短図柄判定値を規定している点で相違している。なお、第１当たり乱数カウンタＣ１が取り得る値の範囲は、上述した通り、「０～９９９」の１０００個となるように構成している。

【１２５４５】

具体的には、取得した第１当たり乱数カウンタＣ１が「０～３」の範囲に対して、大当たりと判定される範囲が、「４０～１６４」の範囲に対して、小当たりと判定される範囲が、「１６５～１８４」の範囲に対して、時短図柄と判定される範囲が規定されている。つまり、第２特別図柄抽選が実行された場合には、設定されている遊技状態に関わらず、４０／１０００の確率で大当たりと判定され、１２５／１０００の確率で小当たりと判定され、２０／１０００の確率で時短図柄当選と判定されるように構成している。

【１２５４６】

以上、説明をした通り、本第４７制御例では、１／２５０の確率で大当たり当選する第１特別図柄抽選と、１／２５０の確率で大当たり当選し、１／８の確率で小当たり当選し１／５０の確率で時短図柄当選する第２特別図柄抽選と、を実行可能に構成し、大当たり当選した場合、小当たり当選した場合、時短図柄当選した場合の何れにおいても、遊技者に有利な特典が付与されるように構成している。よって、第１特別図柄抽選よりも、第２特別図柄抽選の方が遊技者に有利な特別図柄抽選となる。

【１２５４７】

また、上述した通り、遊技状態として通常状態が設定されている場合よりも、時短状態（第１時短状態、第２時短状態）が設定されている場合の方が、第２特別図柄抽選を実行させ易くすることができるように構成している。よって、通常状態よりも時短状態の方が遊技者に有利な遊技状態（有利遊技状態）となる。

【１２５４８】

次に、図１３４９（ｃ）を参照して、大当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｂの内容について説明をする。図１３４９（ｃ）は、大当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｂに規定されている内容を示した図である。図１３４９（ｃ）に示した通り、大当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｂは、上述した大当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｂ（図１２６２（ｃ）参照）に対して、各特別図柄種別に対して規定されている大当たり種別の内容を異ならせている点と、小当たり遊技中に特定領域へと遊技球を通過させたことに基づいて実行される大当たり遊技専用（小当たり用）の大当たり種別を規定している点で相違している。

【１２５４９】

具体的には、特別図柄種別「特図１（第１特別図柄）」に対しては、取得した第１当たり種別カウンタＣ２が取り得る「０～９９」の全範囲に対して、大当たり種別「大当たりＡ４７」が規定されており、特別図柄種別「特図２（第２特別図柄）」に対しては、取得した第１当たり種別カウンタＣ２が取り得る「０～９９」の全範囲に対して、大当たり種別「大当たりＣ４７」が規定されており、小当たり用の大当たり種別として、大当たり種別「大当たりＢ４７」が規定されている。

【１２５５０】

大当たり種別「大当たりＡ４７」は、５ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当

たり遊技終了後に、時短回数４回の第１時短状態が設定される大当たり種別である。大当たり種別「大当たりＢ４７」は、１０ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技終了後に、時短回数４回の第１時短状態が設定される大当たり種別である。大当たり種別「大当たりＣ４７」は、１０ラウンドの大当たり遊技が実行され、その大当たり遊技終了後に、時短回数１０回の第２時短状態が設定される大当たり種別である。

【１２５５１】

つまり、大当たり遊技中に獲得可能な賞球数の面では、大当たりＡ４７が最も遊技者あに不利な大当たり種別となり、大当たりＢ４７、大当たりＣ４７が最も遊技者に有利な大当たり種別となる。また、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の面では、大当たりＡ４７、大当たりＢ４７が最も遊技者に不利な大当たり種別となり、大当たりＣ４７が最も遊技者に有利な大当たり種別となる。全体的には、大当たりＣ４７が最も遊技者に有利な大当たり種別となり。次いで、ラウンド遊技数が大きい分、大当たりＢ４７が有利な大当たり種別となり、大当たりＡ４７が最も遊技者に不利な大当たり種別となる。

【１２５５２】

本第４７制御例では、通常状態が設定されている状態では、第１特別図柄抽選を実行させるための左打ち遊技が行われ、第１特別図柄抽選で大当たり当選（当選確率１／２５０）を目指す遊技が実行される。そして、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合には、大当たり種別「大当たり４７」が設定され、その大当たり遊技終了後に時短回数４回の第１時短状態が設定される。そして、第１時短状態が設定されたことに基づいて実行された第２特別図柄抽選（第１時短状態中に実行される４回の第２特別図柄抽選と、通常状態移行後に実行される特図２保留分（最大４個）に対応した第２特別図柄抽選）にて、小当たり当選（当選確率１／８）、或いは、大当たり当選（当選確率１／２５０）を目指す右打ち遊技が行われる。

【１２５５３】

つまり、時短状態が設定されたことに基づいて規定回数のみ実行可能となる第２特別図柄抽選にて、小当たり当選よりも先に大当たり当選した場合には、遊技者に最も有利となる大当たり種別「大当たりＣ４７」が設定されるように構成している。このように構成することで、当選し易い小当たりよりも先に当選し難い大当たりに当選したことによる付加価値を遊技者に提供することができる。

【１２５５４】

次に、図１３５０を参照して、変動パターン選択４７テーブル２０２Ｆｄ（図示せず）が有する通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１の内容について説明をする。図１３５０は、通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１に規定されている内容を示した図である。この通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１は、上述した第４３制御例における通常用４３テーブル２０２Ａｄ１（図１２６３（ｂ）参照）に対して、通常状態が設定されている場合にのみ参照されるように構成した点と、特図１（第１特別図柄）抽選の結果を示すための変動パターンとして規定されている内容の一部を変更している点と、特図２（第２特別図柄）抽選の結果を示すための変動パターンとして規定されている内容を異ならせている点で相違している。

【１２５５５】

具体的には、図１３５０に示した通り、本第４７制御例では、遊技状態が移行してからの変動回数に応じて異なる変動パターンを選択可能に構成しており、特図１に対しては、変動回数「１～１００００」の範囲に対して、上述した第４３制御例と同一の選択割合で各種変動パターンが規定されている。次いで、特図２に対しては、変動回数「１～３」と、変動回数「４」と、変動回数「５～」と、で異なる変動パターンが選択されるように構成しており、変動回数「１～３」に対しては、取得した変動種別カウンタＣＳ１の取り得る「０～１９８」の全範囲に対して変動時間が１０秒の「共通変動」が規定されており、変動回数「４」に対しては、取得した変動種別カウンタＣＳ１の取り得る「０～１９８」の全範囲に対して変動時間が２０秒の「共通中変動」が規定されており、変動回数「５～」に対しては、取得した変動種別カウンタＣＳ１の取り得る「０～１９８」の全範囲に対して変動時間が１００秒の「共通長変動」が規定されている。

【１２５５６】
つまり、本第４７制御例では、通常状態中に右打ち遊技を実行したとしても第２入球口６４０へと遊技球を入球させることができない（殆ど入球しない）ようにパチンコ機１０の遊技盤１３が構成されていることから、通常状態中に実行される第２特別図柄抽選は、時短状態中に獲得した特図２保留を用いた第２特別図柄抽選となる。このように構成することで、適正な遊技を行っている以上、特図２保留の上限数（４個）よりも多い回数の第２特別図柄抽選（例えば、５回の第２特別図柄抽選）が通常状態中に実行されることが無い。よって、特図２保留の上限数よりも多い回数の第２特別図柄抽選が実行された場合には、適正では無い遊技が実行されている場合となり、不適正な遊技が連続して実行されてしまうことを抑制するために、長時間の変動時間（１００秒）の変動パターンが選択されるように構成している。
【１２５５７】
このように構成することで、遊技盤１３に設けられた各種構成に不具合（例えば、電動役物６４０が常時開放した故障状態となる不具合等）が発生している状態で多くの第２特別図柄抽選が実行されてしまい、遊技者に対して過剰に多くの特典が付与されてしまうことを抑制することができる。また、専用の治具を用いて通常状態中に不正に第２入球口６４０へと遊技球を入球させる遊技が長時間実行されてしまうことを抑制することができる。
【１２５５８】
なお、詳細な図示は省略するが、本第４７制御例では、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動パターンを選択する際に参照される時短用４７テーブル２０２Ｆｄ２（図示せず）の内容も一部変更している。具体的には、上述した通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１と同様に、第２特別図柄変動の変動回数に応じて、異なる変動時間の変動パターンが選択されるように構成しており、第１時短状態の最終変動（４回転目の第２特別図柄変動）に対しては、他の変動（時短状態の最終変動以外の変動）よりも長い変動時間（２０秒）の変動パターンが選択されるように構成し、２０秒の変動時間のうち、最初の１０秒を用いてバトル演出を実行し、残りの１０秒を用いて特図２保留の獲得を促すための演出を実行するように構成している。
【１２５５９】
このように構成することで、時短状態中の最終変動にて特図２保留を容易に獲得させることができる。なお、本第４７制御例では、第２特別図柄抽選の結果を示すための変動パターンとして、変動回数に対応した固定変動時間の変動パターンのみが選択されるように構成しているが、これに限ること無く、複数の異なる変動時間の変動パターンを選択可能に構成しても良く、この場合、異なる変動回数に対して、同一の変動時間の変動パターンと、異なる変動時間の変動パターンと、を選択可能に構成すると良い。このように構成することで、選択された変動パターンによって、実行中の第２特別図柄変動が何回目の変動（新たな遊技状態が設定されてから何回目の変動）であるかを遊技者に把握させ易い状況と、把握させ難い状況と、を創出することができるため、第２特別図柄変動の変動パターンについて遊技者に興味を持たせることができる。
【１２５６０】
次に、図１３５１（ａ）を参照して、時短付与４７テーブル２０２Ｆｅの内容について説明をする。図１３５１（ａ）は、時短付与４７テーブル２０２Ｆｅに規定されている内容を示した図である。この時短付与４７テーブル２０２Ｆｅは、上述した第４３制御例の時短付与４３テーブル２０２Ａｅ（図１２６５参照）に対して、規定されている図柄種別（大当たり種別、時短図柄種別）と、各図柄種別に対する時短付与内容を異ならせている点で相違している。
【１２５６１】
具体的には、大当たり種別「大当たりＡ４７」に対して、時短種別として「第１時短」が、時短付与内容として時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「４」が規定されており、大当たり種別「大

当たりＢ４７」に対して、時短種別として「第１時短」が、時短付与内容として時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「４」が規定されており、大当たり種別「大当たりＣ４７」に対して、時短種別として「第２時短」が、時短付与内容として時短カウンタ２０３ｈの値「２０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１０」が規定されており、時短図柄種別「時短図柄Ａ４７」に対して、時短種別として「第１時短」が、時短付与内容として時短カウンタ２０３ｈの値「１０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「４」が規定されており、時短図柄種別「時短図柄Ｂ４７」に対して、時短種別として「第２時短」が、時短付与内容として時短カウンタ２０３ｈの値「２０」、小当たりカウンタ２０３ｓの値「１」、特図２カウンタ２０３Ａｂの値「１０」が規定されている。

【１２５６２】

ここで、時短付与回数として規定されている各種カウンタの値は、それぞれ異なる内容の時短終了条件を示しており、何れかのカウンタ値が「０」となった場合に、時短終了条件が成立し、時短状態が終了する処理が実行されるように構成している。具体的には、時短カウンタ２０３ｈの値は、時短状態中に特別図柄抽選が実行されたことに基づいて減算される値であって、第１特別図柄変動が停止表示した場合、或いは、第２特別図柄変動が停止表示した場合に、値が「１」減算される。つまり、時短カウンタ２０３ｈの値に基づいて成立する時短終了条件は、第１特別図柄変動回数と、第２特別図柄変動回数とを合算した合算回数が所定回数となった場合に成立する時短終了条件となる。

【１２５６３】

また、小当たりカウンタ２０３ｓは、時短状態中に小当たり当選したことに基づいて減算される値であって、小当たり当選を示す表示態様で特別図柄変動が停止表示される場合（小当たり遊技が実行される場合）に、値が「１」減算される。つまり、小当たりカウンタ２０３ｓの値に基づいて成立する時短終了条件は、時短状態中に小当たり当選した回数が所定回数となった場合に成立する時短終了条件となる。本第４７制御例では、小当たり遊技中に適正に右打ち遊技を実行することで、確実に大当たり遊技の実行契機を成立させる（特定領域へと遊技球を通過させる）ことができるように構成しているため、この時短終了条件を設けることにより、当選した小当たり図柄の種別が遊技者に有利な種別であるか否かを判別し、不利な種別であると判別した場合には小当たり遊技中に特定領域へと遊技球を通過させること無く次の小当たり当選を目指す遊技が実行されることを抑制することができる。

【１２５６４】

最後に、特図２カウンタ２０３Ａｂは、時短状態中に第２特別図柄抽選が実行されたことに基づいて減算される値であって、第２特別図柄変動が停止表示した場合に、値が「１」減算される。つまり、特図２カウンタ２０３Ａｂの値に基づいて成立する時短終了条件は、第２特別図柄変動回数が所定回数となった場合に成立する時短終了条件となる。

【１２５６５】

以上、説明をした通り、本第４７制御例では、３種類の時短終了条件を設定可能に構成している。そのうち、小当たり当選に基づいて成立する時短終了条件については、成立したとしても実質大当たり遊技が実行されるため、大当たり遊技が実行されること無く時短状態を終了させることとなる時短終了条件が２種類となる。そして、時短状態中に右打ち遊技を継続して実行した場合には、特図２カウンタ２０３Ａｂの値に基づいて成立する時短終了条件が最も成立し易い時短終了条件となる。よって、時短状態が終了するまでの残時短回数としては、特図２カウンタ２０３Ａｂの値に基づいて時短終了条件が成立するまでの第２特別図柄変動回数（残特図２変動回数）が表示されるように構成している。

【１２５６６】

このように構成することで、時短状態が設定された場合に実行され易くなる第２特別図柄変動の実行回数に対応した残時短回数を遊技者に報知することができるため、時短状態中に実行させることが可能な第２特別図柄変動の回数を遊技者に分かり易く理解させるこ

とができる。
【１２５６７】
　また、上述した通り、時短種別として「第１時短（第１時短状態）」が設定される場合よりも、「第２時短（第２時短状態）」が設定される場合の方が、特図２カウンタ２０３Ａｂの値に基づいて成立する時短終了条件が成立し難くなるように構成している。つまり、第１時短状態よりも第２時短状態の方が、第２特別図柄抽選をより多く実行させることが可能な時短状態となる。よって、第１時短状態よりも第２時短状態の方が遊技者に有利な時短状態となる。
【１２５６８】
　次に、図１３５１（ｂ）を参照して、小当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｆの内容について説明をする。図１３５１（ｂ）は、小当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｆに規定されている内容を示した図である。この小当たり種別選択４７テーブル２０２Ｆｆは、上述した第４３制御例の小当たり種別選択４３テーブル２０２Ａｆ（図１２６６（ａ）参照）に対して、小当たり当選時の遊技状態と、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値とに対応させて異なる小当たり種別が選択されるように各小当たり種別が規定されている点で相違している。なお、本第４７制御例では、上述した第４３制御例と同様に、第２特別図柄抽選でのみ小当たり当選し得るように構成しているため、特別図柄種別「特図２（第２特別図柄）」に対してのみ小当たり種別が規定されている。
【１２５６９】
　具体的には、小当たり当選した時点における遊技状態が「通常（通常状態）」である場合には、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～２９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＡ４７」が、「３０～７９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＢ４７」が、「８０～９９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＣ４７」が、それぞれ規定されている。また。小当たり当選した時点における遊技状態が「第１時短（第１時短状態）」である場合には、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＡ４７」が、「５０～９９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＢ４７」が規定されている。最後に、小当たり当選した時点における遊技状態が「第２時短（第２時短状態）」である場合には、取得した小当たり種別カウンタＣ５の値が「０～４９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＡ４７」が、「５０～９９」の範囲に対して、小当たり種別「小当たりＣ４７」が、それぞれ規定されている。
【１２５７０】
　ここで、各小当たり種別について説明をする。本第４７制御例では、何れの小当たり種別（小当たりＡ４７、小当たりＢ４７、小当たりＣ４７）が設定された場合であっても、Ｖ入賞装置６５０が開放動作される小当たり遊技が実行され、その小当たり遊技中に遊技球を特定領域（Ｖゲート）へと容易に入球させることができるように構成している。つまり、本第４７制御例では、小当たり当選した場合に略大当たり遊技の実行権利を獲得できるように構成している。このように構成することで、小当たり当選したにも関わらず大当たり遊技の実行権利を獲得できず、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。
【１２５７１】
　そして、各小当たり種別に対して異なる大当たり種別が対応づけられており、設定された小当たり種別によって、実行される大当たり遊技の内容や、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を異ならせるように構成している。具体的には。小当たりＡ４７の小当たり遊技中に大当たり遊技の実行権利を獲得した場合には大当たり種別として「大当たりＡ４７」が設定され、小当たりＢ４７の小当たり遊技中に大当たり遊技の実行権利を獲得した場合には大当たり種別として「大当たりＢ４７」が設定され、小当たりＣ４７の小当たり遊技中に大当たり遊技の実行権利を獲得した場合には大当たり種別として「大当たりＣ４７」が設定される。
【１２５７２】

各大当たり種別の内容については、図１３４９（ｃ）を参照して上述したため、その説明を省略するが、「大当たりＣ４７」が最も遊技者に有利な大当たり種別となり、次いで「大当たりＢ４７」が有利な大当たり種別となり、「大当たりＡ４７」が最も遊技者に不利な大当たり種別となる。

【１２５７３】

上述した通り、第２時短状態中に小当たり当選した場合は、１／２の割合で「小当たりＣ４７」が設定され、通常状態中に小当たり当選した場合は、１／５の割合で「小当たりＣ４７」が設定され、第１時短状態中に小当たり当選した場合には、「小当たりＣ４７」が設定されないように構成している。よって、小当たり当選した時点における遊技状態としては、第２時短状態が遊技者に最も有利な遊技状態となり、次いで、通常状態が有利な遊技状態となり、第１時短状態が最も不利な遊技状態となる。

【１２５７４】

本第４７制御例では、第２特別図柄抽選でのみ小当たり当選し得るように構成していることから、第１特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて設定される第１時短状態中に第２特別図柄抽選がまず実行される。そして、第１時短状態中に実行された第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される大当たり種別が設定されるため、第１時短状態をループさせる右打ち遊技が実行されることになる。

【１２５７５】

一方、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で当り当選すること無く、通常状態に移行すると、獲得済みの特図２保留を用いた第２特別図柄抽選が実行される。この通常状態中に実行される第２特別図柄抽選で小当たり当選した場合には、１／５の確率で、小当たりＣ４７が設定されることになる。つまり、第１時短状態が設定された場合には、早期に（第１時短状態中に）小当たり当選する場合よりも、残特図２保留で小当たり当選した場合の方が、遊技者に有利な小当たりとなり易くなるように構成している。

【１２５７６】

このように構成することで、第１時短状態が設定された場合において、いち早く小当たり当選することで安心した遊技が実行されることを所望する遊技と、早期に小当たり当選することを所望すること無く、第１時短状態が設定されたことに基づいて実行され得る第２特別図柄抽選の残回数が少ない状態（通常状態中における残特図２保留を用いた第２特別図柄抽選が実行されている状態）で小当たり当選することを所望する遊技と、を行わせることができるという斬新な遊技性を遊技者に提供することができる。

【１２５７７】

さらに、一度、第２時短状態が設定されると、第１時短状態よりも成立し難い時短終了条件が設定され、第１時短状態が設定された場合よりも多くの第２特別図柄抽選を実行させることができるように構成しており、第２時短状態中に小当たり当選した場合には、１／２の確率で小当たりＣ４７が設定されるように構成している。つまり、第２時短状態が設定された場合には、他の遊技状態が設定されている場合よりも高確率で第２時短状態が繰り返し設定され易くなるように構成している。

【１２５７８】

このように構成することで、第１時短状態よりも第２時短状態の方が、遊技者により有利な遊技状態とすることができるため。第２時短状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせることができる。

【１２５７９】

なお、本第４７制御例では、第２特別図柄抽選が実行され易い時短状態が設定された場合において、前半期間で（時短状態中に）小当たり当選するよりも、後半期間（通常状態における残特図２保留消化期間）で小当たり当選した場合の方が、遊技者に有利な特典が付与されるように構成しているが、これに限ること無く、第２特別図柄抽選が実行され易い時短状態が設定された場合において、前半期間で（時短状態中に）小当たり当選する方が、後半期間（通常状態における残特図２保留消化期間）で小当たり当選した場合よりも

、遊技者に有利な特典が付与されるように構成しても良い。このように構成することで、第２特別図柄抽選を実行可能な残回数が多く残っている状況、即ち、今回実行される第２特別図柄抽選の結果を深く考えることの無いタイミングであって、遊技者が遊技に集中し難いタイミングにおいて小当たり当選した場合に遊技者に有利な特典が付与されるため、時短状態が設定された直後から遊技者に対して第２特別図柄抽選の結果に興味を持たせることができる。

【１２５８０】

次に、図１３５２を参照して、時短種別選択４７テーブル２０２Ｆｈの内容について説明をする。図１３５２は、時短種別選択４７テーブル２０２Ｆｈに規定されている内容を模式的に示した図である。この時短種別選択４７テーブル２０２Ｆｈは、上述した第４３制御例における時短種別選択４３テーブル２０２Ａｈ（図１２６６（ｂ）参照）に対して、各遊技状態に対して規定されている時短図柄種別を異ならせている点で相違している。

【１２５８１】

具体的には、遊技状態として、通常状態、第２時短状態が設定されている場合には第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の全範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ｂ４７」が規定されており、遊技状態として、第１時短状態が設定されている場合には第１当たり種別カウンタＣ２の取り得る「０～９９」の全範囲に対して、時短図柄種別として「時短図柄Ａ４７」が規定されている。つまり、通常状態、或いは、第２時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、必ず時短図柄Ｂ４７が設定され、第１時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄当選した場合には、必ず時短図柄Ａ４７が設定されるように構成している。

【１２５８２】

ここで、各時短図柄種別が設定された場合に付与される時短状態の内容については、図１３５１（ａ）を参照して上述したため、詳細な説明は省略するが、時短図柄Ａ４７が設定された場合には、時短回数４回の第１時短状態が設定され、時短図柄Ｂ４７が設定された場合には、時短回数１０回の第２時短状態が設定されるように構成している。本第４７制御例では、上述した通り、第２時短状態の方が、第１時短状態よりも遊技者に有利な時短状態となるように構成しているため。第２特別図柄抽選で時短図柄当選する場合の遊技状態の有利度合いとしては、通常状態、第２時短状態が遊技者に最も有利な遊技状態となり、第１時短状態が遊技者に最も不利な遊技状態となる。

【１２５８３】

なお、本第４７制御例では、図１３５２に示した通り、通常状態にて時短図柄当選した場合と、第２時短状態で時短図柄当選した場合とで、何れも必ず第２時短状態が設定されるように構成しているが、これに限ること無く、何れの遊技状態においても第１時短状態と、第２時短状態とを設定可能に構成し、その選択割合を遊技状態に応じて異ならせるように構成しても良い。この場合、第２特別図柄抽選が実行される回数が少ない通常状態で時短図柄当選した場合の方が、第２時短状態で時短図柄当選した場合よりも第２時短状態が設定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、限られた短期間内で時短図柄当選したことによる付加価値を遊技者に提供することができる。

【１２５８４】

一方、通常状態で時短図柄当選した場合よりも、第２時短状態で時短図柄当選した場合の方が、第２時短状態が設定され易くなるように構成しても良い。このように構成することで、第２時短状態が繰り返し設定され易くすることができるため、遊技者に対して第２時短状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせることができる。

【１２５８５】

＜第４７制御例における音声ランプ制御装置の電気的構成について＞

次に、本第４７制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３の電気的構成について説明をする。本第４７制御例では、上述した第４３制御例に対して、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を一部変更している点で相違している。それ以外の要素は同一であり、同一の内容については説明を省略する。

【１２５８６】
まず、図１３５３を参照して、本第４７制御例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成について説明をする。図１３５３は、音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１が有するＲＡＭ２２３の構成を模式的に示した図である。図１３５３に示した通り、本第４７制御例におけるＲＡＭ２２３は、上述した第４３制御例におけるＲＡＭ２２３（図１２６７（ｂ）参照）に対して、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａと、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂと、を追加している点で相違しており、それ以外の要素は同一である。同一の要素については同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。

【１２５８７】
ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａは、ファイナルカウントダウン演出が実行されていることを示すためのカウンタであって、ファイナルカウントダウン演出の実行契機が成立した場合（大当たり遊技終了後に第１時短状態が設定される場合）に、ファイナルカウントダウン演出中に実行される第２特別図柄抽選回数（８回）に対応する値「９」がセットされる（図１３５４のＳ３４１０Ｆ参照）。そして、ファイナルカウントダウン演出中において新たな変動演出を設定するための処理が実行される毎に値が「１」減算される（図１３５６のＳ４４０３Ｆ参照）。

【１２５８８】
このファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が「１」以上である場合（「０」よりも大きい場合）は、ファイナルカウントダウン演出が実行されている期間となる。そして、第２特別図柄変動に対応する変動演出を設定する各種タイミングにおいて、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいかが判別され、その判別結果に基づいた変動演出の演出態様が決定される。

【１２５８９】
本第４７制御例では、ファイナルカウントダウン演出が実行されている期間中において、遊技状態として第１時短状態、第２時短状態、通常状態の何れも設定され得るように構成しており、各遊技状態中に実行される変動演出の演出態様を、ファイナルカウントダウン演出の有無に応じて異ならせて決定するように構成している。このように構成することで、設定されている遊技状態に関わらず、ファイナルカウントダウン演出が実行される期間中に一体感のある変動演出（バトル演出）を実行することが可能となる。

【１２５９０】
残時短回数カウンタ２２３Ｆｂは、現在設定されている時短状態の残時短回数（時短終了条件が成立するまでに実行可能な第２特別図柄抽選回数）を示すためのカウンタであって、時短状態が設定されたことを示すための状態コマンドを受信した場合に実行される状態コマンド処理４７（図１３５４のＳ３２３１Ｆ参照）において、今回設定された時短状態の種別に応じた残時短回数の値がセットされる（図１３５４のＳ３４０９、及び、図１３５５のＳ３５０３Ｆ参照）。そして、時短状態中に第２特別図柄変動が実行される毎に値が「１」減算される（図１３５６のＳ４４０６Ｆ参照）。

【１２５９１】
＜第４７制御例における音声ランプ制御装置にて実行される制御処理について＞
次に、図１３５４から図１３５９を参照して、本第４７制御例におけるパチンコ機１０の音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容について説明をする。本第４７制御例では、上述した第４３制御例における音声ランプ制御装置１１３の制御処理に対して、状態コマンドを受信した場合に実行される制御処理の内容と、特別図柄変動に対応させて変動演出を設定するための制御処理の内容と、を変更した点で相違している。より具体的には、状態コマンド処理４３（図１２７８のＳ３２３１Ｂ参照）に代えて、状態コマンド処理４７（図１３５４のＳ３２３１Ｆ）を、変動演出設定処理４３（図１２８０のＳ４３０４Ｂ参照）に代えて、変動演出設定処理４７（図１３５６のＳ４３０４Ｆ）をそれぞれ実行する点で相違している。それ以外の処理内容については同一であり、同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１２５９２】
まず、状態コマンド処理４７（Ｓ３２３１Ｆ）の制御処理の内容について、図１３５４を参照して説明する。図１３５４は、状態コマンド処理４７（Ｓ３２３１Ｆ）の処理内容を示すためのフローチャートである。この状態コマンド処理４７（Ｓ３２３１Ｆ）は、上述した状態コマンド処理４３（図１２７８のＳ３２３２Ｂ参照）と同様に、主制御装置１１０から状態コマンドを受信したと判別した場合に実行される制御処理であって、受信した状態コマンドに含まれる内容に応じた処理が実行される。
【１２５９３】
具体的には、状態コマンド処理４７（Ｓ３２３１Ｆ）が実行されると、まず、受信した状態コマンドに含まれる情報を解析し、現在の遊技状態を示すための情報を従遊技状態格納エリア２２３ｇに格納する（Ｓ３４０１）。その後、今回受信した状態コマンドに含まれる情報に基づいて、遊技状態が通常状態へと移行したかを判別し（Ｓ３４０２）、通常状態へと移行したと判別した場合、即ち、今回受信した状態コマンドの中に通常状態に対応する情報が含まれていると判別した場合は（Ｓ３４０２：Ｙｅｓ）、次に、時短情報更新エリア２２３ｈに記憶されている情報をクリアし（Ｓ３４２１Ａ）、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｃの値に基づいて、特図２保留を獲得している状態であるかを判別し（Ｓ３４０１Ｆ）、特図２保留があると判別した場合は（Ｓ３４０１Ｆ：Ｙｅｓ）、通常状態に移行した後も第２特別図柄抽選を実行可能であるため、そのまま本処理を終了する。
【１２５９４】
一方、Ｓ３４０１Ｆの処理において、特図２保留が無いと判別した場合、即ち、第２特別図柄抽選の実行契機となる第２入球口６４０へと遊技球を入球させないまま通常状態が設定された場合は（Ｓ３４０１Ｆ：Ｎｏ）、事前に設定された回数のバトル演出を実行させること無くファイナルカウントダウン演出を終了させるための処理として、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値を０にクリアし（Ｓ３４０２Ｆ）、ファイナルカウントダウン演出の終了を示すための表示用コマンドを設定し（Ｓ３４０３Ｆ）、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値を０にクリアし（Ｓ３４０４Ｆ）、通常モード用の背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ３４０５Ｆ）、本処理を終了する。
【１２５９５】
また、Ｓ３４０２の処理において、通常状態へ移行しないと判別した場合は（Ｓ３４０２：Ｎｏ）、次に、第１時短状態へ移行したかを判別し（Ｓ３４０６Ｆ）、移行したと判別した場合は（Ｓ３４０６Ｆ：Ｙｅｓ）、受信した状態コマンドに含まれる時短情報を時短情報更新エリア２２３ｈに格納し（Ｓ３４０７Ｆ）、ファイナルカウントダウン演出用の背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ３４０８Ｆ）、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値に４をセットし（Ｓ３４０９Ｆ）、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値に９をセットし（Ｓ３４１０Ｆ）、本処理を終了する。
【１２５９６】
Ｓ３４０６の処理において、第１時短状態へ移行しないと判別した場合は（Ｓ３４０６Ｆ：Ｎｏ）、第２時短状態へ移行したかを判別し（Ｓ３４１１Ｆ）、第２時短状態へ移行したと判別した場合は（Ｓ３４１１Ｆ：Ｙｅｓ）、第２時短状態移行処理（Ｓ３４１２Ｆ）を実行し、本処理を終了する。また、Ｓ３４１１Ｆの処理において、第２時短状態へ移行していないと判別した場合は（Ｓ３４１１Ｆ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。
【１２５９７】
次に、図１３５５を参照して、状態コマンド処理４７（図１３５４のＳ３２３１Ｆ参照）にて実行される第２時短状態移行処理（Ｓ３４１２Ｆ）の処理内容について説明をする。図１３５５は、第２時短状態移行処理（Ｓ３４１２Ｆ）の処理内容を示したフローチャートである。この第２時短状態移行処理（Ｓ３４１２Ｆ）では、第２時短状態へと移行した時点において実行中の演出内容（ファイナルカウントダウン演出の有無）に応じて、残時短回数を表示するか否かを決定する処理が実行される。
【１２５９８】
第２時短状態移行処理（Ｓ３４１２Ｆ）が実行されると、まず、従遊技状態格納エリア

２２３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ３５０１Ｆ）、受信した状態コマンドに含まれる時短情報を時短情報更新エリア２２３ｈに格納し（Ｓ３５０２Ｆ）、受信した時短情報に対応する値を残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値にセットする（Ｓ３５０３Ｆ）。

【１２５９９】

そして、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいか、即ち、ファイナルカウントダウン演出の実行中であるかを判別し（Ｓ３５０４Ｆ）、実行中であると判別した場合は（Ｓ３５０４Ｆ：Ｙｅｓ）、残時短回数を表示しないため、そのまま本処理を終了する。

【１２６００】

一方、Ｓ３５０４Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きく無い（０である）と判別した場合、即ち、現在がファイナルカウントダウン演出を実行していない状態であると判別した場合は（Ｓ３５０４Ｆ：Ｎｏ）、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値に応じた上乗せ演出の演出態様を決定し（Ｓ３５０５Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６０１】

次に、図１３５６を参照して、変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｆ）の処理内容について説明をする。図１３５６は、変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｆ）の処理内容を示したフローチャートである。この変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｆ）では、特別図柄変動が開始されるタイミングにて各種カウンタの値を更新する処理と、設定されている遊技状態に応じた変動演出の演出態様を決定するための処理と、が実行される。

【１２６０２】

具体的には、変動演出設定処理４７（Ｓ４３０４Ｆ）が実行されると、まず、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいかを判別し（Ｓ４４０１Ｆ）、大きいと判別した場合は（Ｓ４４０１Ｆ：Ｙｅｓ）、次に、今回の特別図柄変動が特図２変動であるかを判別する（Ｓ４４０２Ｆ）。Ｓ４４０２Ｆの処理において、特図２変動であると判別した場合には（Ｓ４４０２Ｆ：Ｙｅｓ）、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値を１減算し（Ｓ４４０３Ｆ）、Ｓ４４０４Ｆの処理へ移行する。

【１２６０３】

一方、Ｓ４４０１Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きく無いと判別した場合（Ｓ４４０１Ｆ：Ｎｏ）、或いは、Ｓ４４０２Ｆの処理において、特図２変動では無いと判別した場合は（Ｓ４４０２Ｆ：Ｎｏ）、そのままＳ４４０４Ｆの処理へ移行する。

【１２６０４】

Ｓ４４０４Ｆの処理では、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値が１よりも大きいかを判別し（Ｓ４４０４Ｆ）、大きいと判別した場合は（Ｓ４４０４Ｆ：Ｙｅｓ）、今回の特別図柄変動が特図２変動であるかを判別する（Ｓ４４０５Ｆ）。Ｓ４４０５Ｆの処理において、特図２変動であると判別した場合には（Ｓ４４０５Ｆ：Ｙｅｓ）、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値を１減算し（Ｓ４４０６Ｆ）、Ｓ４４０７Ｆの処理へ移行する。

【１２６０５】

一方、Ｓ４４０４Ｆの処理において、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値が１よりも大きく無いと判別した場合（Ｓ４４０４Ｆ：Ｎｏ）、或いは、Ｓ４４０５Ｆの処理において、特図２変動では無いと判別した場合は（Ｓ４４０５Ｆ：Ｎｏ）、そのままＳ４４０７Ｆの処理へ移行する。

【１２６０６】

Ｓ４４０７Ｆの処理では、従遊技状態格納エリア２２３ｇから現在の遊技状態を読み出し（Ｓ４４０７Ｆ）、遊技状態が第１時短状態であるかを判別し（Ｓ４４０８Ｆ）、第１時短状態であると判別した場合は（Ｓ４４０８Ｆ：Ｙｅｓ）、次に、今回の特別図柄変動が時短図柄当選しているかを判別し（Ｓ４４０９Ｆ）、時短図柄当選していると判別した場合は（Ｓ４４０９Ｆ：Ｙｅｓ）、時短図柄当選時演出設定処理４７を実行し（Ｓ４４１０Ｆ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４４０９Ｆの処理において、時短図柄当選していな

いと判別した場合は（Ｓ４４０９Ｆ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４４１１Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６０７】

また、Ｓ４４０８Ｆの処理において、第１時短状態では無いと判別した場合は（Ｓ４４０８Ｆ：Ｎｏ）、次いで、遊技状態が第２時短状態であるかを判別し（Ｓ４４１２Ｆ）、第２時短状態であると判別した場合は（Ｓ４４１２Ｆ：Ｙｅｓ）、第２時短状態演出設定処理４７を実行し（Ｓ４４１３Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６０８】

一方、Ｓ４４１２Ｆの処理において、第２時短状態では無い（通常状態である）と判別した場合は（Ｓ４４１２Ｆ：Ｎｏ）、通常状態演出設定処理４７を実行し（Ｓ４４１７Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６０９】

次に、図１３５７を参照して、時短図柄当選時演出設定処理４７（Ｓ４４１０Ｆ）の処理内容について説明をする。図１３５７は、時短図柄当選時演出設定処理４７（Ｓ４４１０Ｆ）の処理内容を示したフローチャートである。この時短図柄当選時演出設定処理４７（Ｓ４４１０Ｆ）は、第１時短状態が設定されている状態で時短図柄当選した場合における特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を決定するための処理が実行される。

【１２６１０】

具体的には、時短図柄当選時演出設定処理４７（Ｓ４４１０Ｆ）が実行されると、今回当選した時短種別（時短図柄種別）を読み出し（Ｓ４５０１Ｆ）、読み出した時短種別が時短Ａ（時短図柄Ａ）であるかを判別する（Ｓ４５０２Ｆ）。Ｓ４５０２Ｆの処理において、時短Ａであると判別した場合は（Ｓ４５０２Ｆ：Ｙｅｓ）、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値に９をセットし（Ｓ４５０３Ｆ）、ファイナルカウントダウン演出の残回数が９に増加する演出態様を決定し（Ｓ４５０４Ｆ）、本処理を終了する。一方、Ｓ４５０２Ｆの処理において、時短Ａでは無いと判別した場合は（Ｓ４５０２Ｆ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４５０５Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６１１】

以上、説明をした通り、第１時短状態中に実行された特別図柄抽選で時短Ａ（第１時短状態が設定される時短図柄種別）の時短図柄に当選した場合には、ファイナルカウントダウン演出の残回数が増加する演出を実行するように構成している。このように構成することで、ファイナルカウントダウン演出中における第１時短状態の最終変動期間を、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が５のタイミングに固定することができる。

【１２６１２】

次に、図１３５８を参照して、第２時短状態演出設定処理４７（Ｓ４４１３Ｆ）の処理内容について説明をする。図１３５８は、第２時短状態演出設定処理４７（Ｓ４４１３Ｆ）の処理内容を示したフローチャートである。この第２時短状態演出設定処理４７（Ｓ４４１３Ｆ）では、第２時短状態中に実行される特別図柄変動（第２特別図柄変動）に対応する変動演出の演出態様を、実行中の演出内容に応じて異ならせて決定する処理が実行される。

【１２６１３】

具体的には、第２時短状態演出設定処理４７（Ｓ４４１３Ｆ）が実行されると、まず、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいか、即ち、現在がファイナルカウントダウン演出中であるかを判別し（Ｓ４６０１Ｆ）、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０１Ｆ：Ｙｅｓ）、次いで、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０であるかを判別する（Ｓ４６０２Ｆ）。つまり、Ｓ４６０２Ｆの処理では、当該変動がファイナルカウントダウン演出の最終変動であるかを判別する。

【１２６１４】

Ｓ４６０２Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０であると

判別した場合は（Ｓ４６０２Ｆ：Ｙｅｓ）、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値を読み出し（Ｓ４６０３Ｆ）、読み出した残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値が１よりも大きいかを判別する（Ｓ４６０４Ｆ）。Ｓ４６０４Ｆの処理において、１よりも大きく無い、即ち、当該変動にて時短状態が終了すると判別した場合は（Ｓ４６０４Ｆ：Ｎｏ）、ファイナルカウントダウン演出の終了タイミングと、時短状態の終了タイミングとが一致する場合であるため、ファイナルカウントダウン演出の終了後も時短状態（第２時短状態）が継続していることを示すための上乗せ演出の演出態様を決定すること無く、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４６０６Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６１５】

一方、Ｓ４６０４Ｆの処理において、残時短回数カウンタ２２３Ｆｂの値が１よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４６０４Ｆ：Ｙｅｓ）、ファイナルカウントダウン演出が終了した時点で第２時短状態が継続する状態であるため、その差分（ファイナルカウントダウン演出終了時点における第２時短状態の残時短回数を示す値）に対応する値を初期値とした上乗せ演出の演出態様を後半演出として決定し（Ｓ４６０５Ｆ）、上述したＳ４６０６Ｆの処理を実行し、本処理を終了する。

【１２６１６】

また、Ｓ４６０１Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きくない、即ち、現在がファイナルカウントダウン演出中では無いと判別した場合は（Ｓ４６０１Ｆ：Ｎｏ）、次に、今回の特別図柄変動が時短当選しているかを判別し（Ｓ４６０７Ｆ）、時短図柄当選していないと判別した場合は（Ｓ４６０７Ｆ：Ｎｏ）、Ｓ４６０６Ｆの処理を実行し、本処理を終了する。Ｓ４６０７Ｆの処理において時短当選していると判別した場合は（Ｓ４６０７：Ｙｅｓ）、残時短回数の上乗せを示唆するための演出態様を決定し（Ｓ４６０８Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６１７】

次に、図１３５９を参照して。通常状態演出設定処理４７（Ｓ４４１４Ｆ）の処理内容について説明をする。図１３５９は、通常状態演出設定処理４７（Ｓ４４１４Ｆ）の処理内容を示したフローチャートである。この通常状態演出設定処理４７（Ｓ４４１４Ｆ）では、通常状態中に実行される特別図柄変動に対応する変動演出の演出態様を、実行中の演出内容に応じて異ならせて決定する処理が実行される。

【１２６１８】

具体的には、通常状態演出設定処理４７（Ｓ４４１４Ｆ）が実行されると、まず、今回の特別図柄変動が特図２変動であるかを判別し（Ｓ４７０１Ｆ）、特図２変動では無い（特図１変動である）と判別した場合は（Ｓ４７０１Ｆ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４７０６Ｆ）、本処理を終了する。

【１２６１９】

一方、Ｓ４７０１Ｆの処理において、特図２変動であると判別した場合は（Ｓ４７０１Ｆ：Ｙｅｓ）、次に、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいか、即ち、時短状態中に獲得した特図２残保留を用いた通常状態における特図２変動であるかを判別し（Ｓ４７０２Ｆ）、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きいと判別した場合は（Ｓ４７０２Ｆ：Ｙｅｓ）、次に、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が１であるか、即ち、ファイナルカウントダウン演出の最終変動であるかを判別し（Ｓ４７０３Ｆ）、１であると判別した場合は（Ｓ４７０３Ｆ：Ｙｅｓ）、ファイナルカウントダウン演出の終了を示すための演出態様を後半演出として決定し（Ｓ４７０４Ｆ）、Ｓ４７０６Ｆの処理を実行し、本処理を終了する。

【１２６２０】

また、Ｓ４７０２Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０よりも大きく無いと判別した場合は（Ｓ４７０２Ｆ：Ｎｏ）、ファイナルカウントダウン演出が実行されていない状態であって、且つ、第２特別図柄変動が実行された場合であるた

め、警告画像を表示するための表示用コマンドを設定し（Ｓ４７０５Ｆ）、Ｓ４７０６Ｆの処理へ移行する。つまり、本第４７制御例では、通常状態中に右打ち遊技を行ったとしても、第２入球口６４０へと遊技球を入球させることが出来ないように構成しており、ファイナルカウントダウン演出中以外の通常状態において特図２変動が実行される場合は、遊技者が不正に遊技球を第２入球口６４０へと入球した場合、或いは、電動役物６４０ａが故障し、常に開放状態となっている場合が考えられる。このような状況を放置したまま遊技を継続させてしまうと、遊技者に過剰に特典を付与してしまうことになるため、警告画像を表示するようにすることで、ホール店員に異常事態が発生していることを把握させ易くしている。なお、詳細な説明は省略するが、Ｓ４７０５Ｆの処理が実行された場合には、合わせて、異常報知を音声でも出力するように構成している。これにより、ホール店員に異常事態が発生していることをより把握させ易くすることができる。

【１２６２１】

＜第４７制御例の第１変形例について＞

次に、図１３６０から図１３６５を参照して上述した第４７制御例の第１変形例について説明をする。上述した第４７制御例では、ファイナルカウントダウン演出中に実行されるバトル演出１回の演出期間が、対象となる特別図柄抽選の結果に関わらず１０秒間になるように構成していた。そして、当たり当選（大当たり当選、小当たり当選）以外の抽選結果（時短図柄当選、外れ）である場合には、バトル演出の演出結果として味方キャラ８０１Ｆが倒される敗北演出が実行されることで、時短図柄当選したか否かを遊技者に分かり難くするように構成することで、ファイナルカウントダウン演出が終了するタイミング、即ち、大当たり遊技終了後に設定された第１時短状態によって実行させることが可能となる回数分（８回分）、第２特別図柄抽選が実行されたタイミングにおいて、時短状態が継続する（途中で時短図柄当選していた）ことを期待させながら遊技者に遊技を行わせることで、遊技者の遊技意欲を高めることができるものであった。

【１２６２２】

これに対して、本第１変形例では、特別図柄抽選の結果に応じて異なる変動時間の変動パターンを選択可能に構成し、選択された変動パターンに応じて異なる演出態様でバトル演出を実行可能に構成している。このように構成することで、バトル演出の演出態様を把握することにより、時短図柄当選の有無を遊技者に予測させるという楽しみを提供することができる。

【１２６２３】

加えて、第２特別図柄抽選の結果が外れである場合よりも、当たり当選している場合や、時短図柄当選している場合の方が、変動時間が１０秒の通常変動パターンよりも長いロング変動パターン（変動時間２０秒）が選択され易く構成しており、ロング変動パターン専用の演出態様でバトル演出（必殺技を繰り出すバトル演出）を実行可能に構成しているため、ファイナルカウントダウン演出中に必殺技を繰り出すバトル演出が実行された場合において、遊技者に対して、当たり当選を期待させながら興味深く演出を見させることができる。また、必殺技を繰り出すバトル演出にて味方キャラ８０１Ｆが倒されたとしても、時短図柄当選していることに期待をさせることができるため、ファイナルカウントダウン演出が終了するまで遊技者の遊技意欲が低下することを抑制することができる。

【１２６２４】

さらに、本第１変形例では、第２特別図柄の保留記憶（特図２保留）を先読みし、先読み結果に基づいて複数の第２特別図柄変動が実行される期間が１のバトル演出の実行期間となるように構成している。つまり、連続する複数の第２特別図柄抽選の結果を１のバトル演出（コンビバトル演出）の演出結果によって報知可能に構成している。このように構成することで、味方キャラ８０１Ｆが倒されるバトル演出の実行回数を減らすことができるため、演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２６２５】

また、獲得済みの特図２保留を用いた先読み結果が外れである場合よりも、当たり当選、時短図柄当選である場合の方が、コンビバトル演出が実行され易くなるように構成して

いる。このように構成することで、コンビバトル演出が実行された時点で当たり当選や時短図柄当選することを期待しながら遊技者にバトル演出を楽しませることができる。

【１２６２６】

また、本第１変形例では、ファイナルカウントダウン演出中の遊技状態として特定の遊技状態（例えば、第２時短状態）が設定されている場合に実行される第２特別図柄抽選で、特定の時短図柄種別（例えば、時短図柄Ｂ４７）が設定される時短図柄に当選した場合に、バトル演出の背景画像を特殊背景画像（例えば、天国背景）へと切り替える背景チェンジ演出を実行可能に構成している。

【１２６２７】

この場合、バトル演出の演出内容は、通常のバトル演出と同様（味方キャラ８０１Ｆが倒される敗北演出）となるが、背景チェンジ演出が実行されるため、遊技者に対して時短図柄当選したことを把握させ易くすることができる。

【１２６２８】

以上、説明をした通り、本第４７制御例の第１変形例では、上述した第４７制御例におけるパチンコ機１０に対して、ファイナルカウントダウン演出中に実行される各バトル演出の演出結果を変更すること無く、各バトル演出の演出内容として様々なバリエーションを追加するように構成した点で相違しており、遊技者に対して、バトル演出が実行される様々なタイミングで対応する第２特別図柄抽選の結果を予測させる楽しみを提供可能に構成している。なお、上述した内容に関連する構成以外は、上述した第４７制御例におけるパチンコ機１０と同一であるため、その説明を省略する。

【１２６２９】

＜第４７制御例の第１変形例における演出内容について＞

次に、図１３６０、及び図１３６１を参照して、本第１変形例のパチンコ機１０にて実行される各種演出のうち、上述した第４７制御例におけるパチンコ機１０とは異なる特徴的な演出の内容について説明をする。図１３６０（ａ）は、ファイナルカウントダウン演出中に実行される第２特別図柄抽選の変動パターンとして２０秒のロング変動が設定された場合に表示されるロングバトル演出の表示画面の一例を示した図であり、図１３６０（ｂ）は、ファイナルカウントダウン演出中にコンビバトル演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図であり、図１３６１は、ファイナルカウントダウン演出中に背景チェンジ演出が実行された場合に表示される表示画面の一例を示した図である。

【１２６３０】

まず、図１３６０（ａ）を参照して、ロングバトル演出の演出内容について説明をする。このロングバトル演出は、対応する第２特別図柄変動の変動パターンとして、変動時間が２０秒のロング変動パターンが選択された場合に実行されるバトル演出である。図１３６０（ａ）では、ファイナルカウントダウン演出が実行されてから６回目の第２特別図柄変動が実行されており、通常状態中に時短図柄当選したロング変動期間中の表示画面を示している。

【１２６３１】

図１３６０（ａ）に示した通り、主表示領域Ｄｍの中央付近では、６回目の第２特別図柄抽選に対応する味方キャラ８０１Ｆ６が敵キャラＥ１と対峙するバトル演出が開始される。このバトル演出（ロングバトル演出）と、通常のバトル演出と、では、バトル演出が開始されてから２秒が経過するまでは同一の演出態様で演出が実行されるように構成しており、２秒経過後に実行される味方キャラ８０１Ｆ６が攻撃を仕掛ける演出として、必殺技を繰り出すアクションが実行され、副表示領域Ｄｓには「必殺技発動！！倒せなくてもチャンス！？」の文字が表示される。

【１２６３２】

その後、必殺技が敵に炸裂する第１演出、又は敵が回避する第２演出の何れかが実行され、第１演出が実行された場合には、そのまま敵が倒れる第３演出、又は、敵が倒れず反撃される第４演出が実行される。一方、第２演出が実行された場合には、カウンターで敵キャラＥ１が味方キャラ８０１Ｆ６を攻撃する第５演出が実行される。

【１２６３３】
図１３６０（ａ）では、１～５回目の第２特別図柄抽選の結果が全て外れであって、通常状態へ移行してから２回目の第２特別図柄抽選で時短図柄当選したことに基づくロングバトル演出が実行されているため、敵が倒れる演出（第３演出）が実行されること無く、第１演出が実行された後に第４演出が実行され、味方キャラ８０１Ｆ６が倒される敗北演出が実行される。詳細は後述するが、通常状態へと移行してから２回目の第２特別図柄抽選の結果を示すための変動パターンとしてロング変動パターンが選択される割合は、特別図柄抽選の結果が外れである場合の約２％（４／１９９）となり、時短図柄当選している場合では約９０％（１８９／１９９）となるように構成している。
【１２６３４】
また、第２特別図柄抽選の結果が外れとなる確率は、上述した第４７制御例と同一で約８５％（８５１／１０００）であり、時短図柄当選となる確率は、２％（２０／１０００）である。つまり、ロングバトル演出にて敗北演出が実行された場合には、対応する第２特別図柄抽選の結果が外れである確率よりも、時短図柄当選である確率の方が高くなる。よって、敵に倒される演出結果となるバトル演出が実行された場合であっても、時短図柄当選したことを期待しながらファイナルカウントダウン演出が終了するまで遊技者の遊技意欲を低下させることなく遊技を行わせることができる。
【１２６３５】
なお、時短状態が継続している状態でファイナルカウントダウン演出が終了した場合には、上述した第４７制御例と同様に、上乗せ演出が実行される。
【１２６３６】
また、詳細な説明は省略しているが、本第１変形例では敗北演出となるロングバトル演出中の演出内容として、上述した複数の演出パターン（第２演出から第５演出が実行される第１演出パターン、第１演出から第４演出が実行される第２演出パターン）を設定可能に構成しており、対応する第２特別図柄抽選の結果に応じて、各演出パターンの選択割合を異ならせている。具体的には、抽選結果が外れであるロング変動パターンの方が、抽選結果が時短図柄当選であるロング変動パターンよりも第１演出パターンが設定され易く、第２演出パターンが設定され難くなるように構成している。
【１２６３７】
このように構成することで、第２演出パターンの敗北演出が実行された場合に、第１演出パターンの敗北演出が実行された場合よりも、時短図柄当選を期待することができるため、遊技者に対して、ロングバトル演出の実行有無、及び、演出結果だけで無く、演出過程（演出パターン）についても興味を持たせることができ、演出効果を高めることができる。
【１２６３８】
次に、図１３６０（ｂ）を参照して、コンビバトル演出の演出内容について説明をする。このコンビバトル演出は、連続する複数の第２特別図柄変動の変動時間を用いて実行されるバトル演出であって、対象となる複数の第２特別図柄抽選の結果が１のバトル演出の演出結果として報知される。具体的には、新たな第２特別図柄変動に対応するバトル演出の演出態様を設定する際（変動演出の演出態様を決定する際）に、獲得済みの特図２保留の中に当たり当選、或いは、時短図柄当選に対応する入賞情報が含まれているかを判別し、その判別結果に基づいてコンビバトル演出の演出態様を設定する処理が実行される。
【１２６３９】
図１３６０（ｂ）では、次変動に対応する特図２保留（特図２保留アイコンｈｒ５）に対応する入賞情報に時短図柄Ａが設定される時短図柄当選を示す情報が含まれていることに基づいて、当該変動（１０秒変動）と、次変動（１０変動）の第２特別図柄変動期間（合計２０秒）を用いたコンビバトル演出が実行されている表示画面を示している。
【１２６４０】
図１３６０（ｂ）に示した通り、コンビバトル演出が実行されると、対象となる第２特別図柄変動に対応するストックアイコンｍｓ６、ｍｓ７に対応した味方キャラ８０１Ｆ６

、味方キャラ８０１Ｆ７がコンビを組んで敵キャラＥ１を攻撃する演出が実行され、副表示領域Ｄｓには、コンビバトル演出が遊技者に有利な第２特別図柄抽選が実行されている（実行される）ことを示すための表示態様として「コンビで攻撃！！大チャンス！！」の文字が表示されている。

【１２６４１】

より具体的にコンビバトル演出の演出内容を説明すると、コンビバトル演出の演出期間の前半期間（６回目の第２特別図柄変動期間）中は、主表示領域Ｄｍの上方に「残り３回」の文字が表示され、味方キャラ８０１Ｆ６が敵キャラＥ１に攻撃を仕掛ける。そして、後半期間（７回目の第２特別図柄変動期間）に到達すると、表示領域Ｄｍの上方に「残り２回」の文字が表示され、味方キャラ８０１Ｆ７が敵キャラＥ１に追撃を仕掛ける演出が実行される。

【１２６４２】

つまり、敵キャラＥ１の反撃を受けること無く、味方キャラ８０１Ｆが複数回連続して攻撃を行う演出が実行される。このような演出を実行することにより、見た目上も敵キャラＥ１を倒しやすい演出が実行されるため、コンビバトル演出が遊技者に有利な演出であることを理解させ易くすることができる。

【１２６４３】

詳細な説明は省略するが、コンビバトル演出にてコンビを組む味方キャラ８０１Ｆの種別は、コンビバトル演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果（先読み結果）に基づいて決定されるように構成しており、コンビバトル演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果（先読み結果）が遊技者に有利な結果である場合に決定され易い種別の組合せと、決定され難い種別の組合せと、を少なくとも決定可能に構成している。このように構成することで、このコンビバトル演出が実行されて複数の味方キャラ８０１Ｆが表示された時点で、今回のコンビバトル演出の演出結果や、コンビバトル演出の対象となる第２特別図柄抽選の結果（先読み結果）を遊技者に予測させる楽しみを提供することができる。

【１２６４４】

さらに、図示は省略するが、最大で３体の味方キャラ８０１Ｆが共闘するトリオバトル演出も実行可能であり、トリオバトル演出が実行された場合には、コンビバトル演出よりも当たり当選の期待度が高くなるように構成している。この場合、バトル演出の開始時点から、味方キャラ８０１Ｆを３体表示されるように構成しても良いし、コンビバトル演出の途中段階で３体目の味方キャラ８０１Ｆが登場するように構成しても良い。

【１２６４５】

以上、説明をした通り、本第１変形例では、上述した第４７制御例に対して、固定期間（１０秒間）のバトル演出では無く、２０秒間を用いたバトル演出として複数の演出（ロングバトル演出、コンビバトル演出）を実行可能に構成している。このように構成することで、ファイナルカウントダウン演出中に実行される個々のバトル演出の内容に対して、当たり当選の有無だけでは無く、時短図柄当選の有無を予測する楽しみを提供することができるという斬新な演出を提供することができる。

【１２６４６】

なお、本第１変形例に用いられる各種バトル演出の演出態様に加え、さらに、以下のバトル演出を実行可能に構成しても良い。例えば、先読み演出として、連続する２回の第２特別図柄変動が共に１０秒変動である場合に、ロングバトル演出を実行可能に構成しても良いし、変動時間が２０秒のロング変動パターンが選択された場合に、コンビバトル演出を実行可能に構成しても良い。

【１２６４７】

なお、本第１変形例で用いた先読み結果を用いて、敵キャラＥ１の種別や、表示態様を異ならせても良く、例えば、獲得済みの特図２保留内に当たり当選や時短図柄当選する入賞情報が含まれている場合には、その入賞情報に基づく第２特別図柄抽選が実行されるよりも前の第２特別図柄抽選に対応するバトル演出にて、通常とは異なる敵キャラＥ１（例えば、図１３６０（ｂ）に示した痛がっている表示態様等）を表示するように構成し、そ

の通常とは異なる敵キャラＥ１の表示態様が複数回のバトル演出にて継続表示されることで、獲得済みの特図２保留内に当たり当選や時短図柄当選する入賞情報が含まれている可能性を高めるように構成しても良い。

【１２６４８】

このように構成することで、敵キャラＥ１の表示態様として通常とは異なる表示態様が表示された場合において、後に実行される第２特別図柄抽選が遊技者に有利となる抽選結果（当たり当選や時短図柄当選）となることを期待させながら継続して遊技に興味を持たせることができる。

【１２６４９】

次に、図１３６１を参照して、ファイナルカウントダウン演出中における背景チェンジ演出の内容について説明をする。図１３６１は、背景チェンジ演出中に表示される表示画面の一例を示した図である。この背景チェンジ演出は、バトル演出の演出内容を変えること無く、背景画像を切り替えることで、時短図柄当選したことを遊技者に報知可能な演出である。

【１２６５０】

上述した通り、ファイナルカウントダウン演出中に実行されるバトル演出では、対象となる第２特別図柄抽選が当り当選しているか否かを示すための演出が実行されるため、時短図柄当選している場合、即ち、当たり当選していない場合には、外れの場合と同一の演出結果（敗北演出）となるように構成している。

【１２６５１】

よって、バトル演出の演出結果からは、時短図柄当選の有無を遊技者が判別し難いという問題があった。しかしながら、バトル演出の演出結果として、時短図柄当選した場合に当たり当選した場合と同一の演出結果（勝利演出）を設定した場合には、勝利演出が実行されたにも関わらず当たり遊技が実行されないことに不快感を与えてしまうという問題があった。

【１２６５２】

さらに、時短図柄当選した場合専用の演出結果を設けた場合には、バトル演出自体が遊技者に分かり難い演出となってしまい演出効果が低下してしまうという問題があった。そこで、本第１変形例では、バトル演出としては、あくまでも当たり当選の有無を遊技者に示すための演出態様を決定可能に構成し、時短図柄当選した場合の少なくとも一部において、背景画像を切り替える背景チェンジ演出を実行可能に構成している。

【１２６５３】

このように構成することで、バトル演出中に当たり当選の有無と、時短図柄当選の有無とを重複して遊技者に分かり易く報知することができる。

【１２６５４】

図１３６１に示した通り、背景チェンジ演出が実行されると、バトル演出の背景画像として天国を模した背景が表示され、副表示領域Ｄｓには「背景が天国！！ラッキーかも」の文字が表示される。なお、実行中のバトル演出としては敗北演出が実行される。

【１２６５５】

本第１変形例では、時短図柄当選した場合に必ず背景チェンジ演出が実行されるのでは無く、時短図柄当選した場合の一部において背景チェンジ演出の実行条件を成立させるように構成している。このように構成することで、背景チェンジ演出が実行されないバトル演出であっても、時短図柄当選への期待感を損なわせることなく演出を実行させることができる。

【１２６５６】

さらに、本第１変形例では、第２時短状態中に実行される第２特別図柄抽選で時短図柄Ｂが設定される時短図柄に当選した場合、即ち、ファイナルカウントダウン演出の終了タイミングにて多くの（少なくとも１０回以上）の残時短回数を残した第２時短状態が継続し得る場合に背景チェンジ演出の実行条件が成立するように構成している。

【１２６５７】

このように構成することで、背景チェンジ演出が実行され天国背景が表示された場合には、高確率で次の大当たり遊技を実行させることができると共に、遊技者に有利な第２時短状態が繰り返し設定される可能性が高いことを遊技者に把握させることができるため演出効果を高めることができる。

【１２６５８】

＜第４７制御例における第１変形例の電気的構成について＞

次に、図１３６２を参照して、本第４７制御例の第１変形例における電気的構成のうち、上述した第４７制御例におけるパチンコ機１０とは異なる構成について説明をする。本第４７制御例の第１変形例では、上述した第４７制御例に対して、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１が有するＲＯＭ２０２の一部構成を異ならせている点で相違している。具体的には、通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１（図１３５０参照）に代えて通常用４７ａテーブル２０２Ｆａｄ１を用いる点で相違している。それ以外の構成は同一であり、同一の構成についてはその説明を省略する。

【１２６５９】

ここで、図１３６２を参照して、通常用４７ａテーブル２０２Ｆａｄ１の内容について説明をする。図１３６２は、通常用４７ａテーブル２０２Ｆａｄ１に規定されている内容を示した図である。図１３６２に示した通り、通常用４７ａテーブル２０２Ｆａｄ１には、上述した通常用４７テーブル２０２Ｆｄ１（図１３５０参照）に対して、特図２変動の変動パターンを決定する際に参照されるデータテーブルに規定されている内容を異ならせている点で相違している。

【１２６６０】

具体的には、変動回数「１～３」であって、抽選結果が「大当たり、外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９４」の範囲に対して変動時間が１０秒の「共通変動」が規定されており、「１９５～１９８」の範囲に対して変動時間が２０秒の「ロング変動」が規定されている。また、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の範囲に対して変動時間が１０秒の「共通変動」が規定されており、「１５０～１９８」の範囲に対して変動時間が２０秒の「ロング変動」が規定されている。また、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９」の範囲に対して変動時間が１０秒の「共通変動」が規定されており、「２０～１９８」の範囲に対して変動時間が２０秒の「ロング変動」が規定されている。

【１２６６１】

さらに、変動回数「４」であって、抽選結果が「大当たり、外れ」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１９８」の全範囲に対して変動時間が２０秒の「共通中変動」が規定されている。また、抽選結果が「小当たり」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～１４９」の範囲に対して変動時間が２０秒の「共通中変動」が規定されており、「１５０～１９８」の範囲に対して変動時間が１０秒の「通常変動」が規定されている。また、抽選結果が「時短図柄」である場合には、取得した変動種別カウンタＣＳ１の値が「０～５９」の範囲に対して変動時間が２０秒の「共通中変動」が規定されており、「６０～１９８」の範囲に対して変動時間が３０秒の「特殊変動」が規定されている。

【１２６６２】

＜第４７制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置の制御処理内容について＞

次に、図１３６３から図１３６５を参照して、本第４７制御例の第１変形例における音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１にて実行される制御処理内容について説明をする。本第１変形例では、上述した第４７制御例に対して、第２時短状態演出設定処理４７（図１３５８のＳ４４１３Ｆ）に代えて、第２時短状態演出設定処理４７ａ（図１３６３のＳ４４１３Ｆａ）を、通常状態演出設定処理４７（図１３５９のＳ４４１４Ｆ参照）に代えて、通常状態演出設定処理４７ａ（図１３６５のＳ４４１４Ｆａ）を実行する点で相違し、それ以外は同一である。同一の処理内容についてはその説明を省略する。

【１２６６３】
まず、図１３６３を参照して、第２時短状態演出設定処理４７ａ（Ｓ４４１３Ｆａ）の処理内容について説明をする。図１３６３は、第２時短状態演出設定処理４７ａ（Ｓ４４１３Ｆａ）の処理内容を示したフローチャートである。この第２時短状態演出設定処理４７ａ（Ｓ４４１３Ｆａ）では、上述した第２時短状態演出設定処理４７（図１３５８のＳ４４１３Ｆ）に対して、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が０では無いと判別した場合に特殊背景設定処理（Ｓ４６０１Ｆａ）を実行する点で相違し、それ以外の制御処理内容は同一である。同一の処理内容については同一の符号を付して、その説明を省略する。

【１２６６４】
次に、図１３６４を参照して、特殊背景設定処理（Ｓ４６０１Ｆａ）の処理内容について説明をする。図１３６４は、特殊背景設定処理（Ｓ４６０１Ｆａ）の処理内容を示したフローチャートである。この特殊背景設定処理（Ｓ４６０１Ｆａ）では、第２時短状態が設定されている状態で、さらに第２時短状態が設定される時短図柄（時短Ｂ）に当選したことに基づいて、残時短回数が多く残っていることを示すための演出態様（図１３６１参照）を設定するための処理が実行される。

【１２６６５】
特殊背景設定処理（Ｓ４６０１Ｆａ）が実行されると、まず、時短当選したかを判別し（Ｓ４６５１Ｆａ）、時短当選していないと判別した場合は（Ｓ４６５１Ｆａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。一方、時短当選したと判別した場合は（Ｓ４６５１Ｆａ：Ｙｅｓ）、当選した時短図柄種別が時短図柄Ｂであるかを判別し（Ｓ４６５２Ｆａ）、時短図柄Ｂであると判別した場合は（Ｓ４６５２Ｆａ：Ｙｅｓ）、天国背景用の背面画像を示す表示用背面画像コマンドを設定し（Ｓ４６５３Ｆａ）、本処理を終了する。

【１２６６６】
一方、時短図柄Ｂでは無いと判別した場合は（Ｓ４６５２Ｆａ：Ｎｏ）、背景画像の移行抽選を実行し（Ｓ４６５４Ｆａ）、背景画像の移行ありと判別した場合には（Ｓ４６５５Ｆａ：Ｙｅｓ）、Ｓ４６５３Ｆａの処理を実行し、本処理を終了する。また、背景画像の移行ありと判別されなかった場合は（Ｓ４６５５Ｆａ：Ｎｏ）、そのまま本処理を終了する。

【１２６６７】
次に、図１３６５を参照して、通常状態演出設定処理４７ａ（Ｓ５７０９Ｆａ）の処理内容について説明をする。図１３６５は、通常状態演出設定処理４７ａ（Ｓ５７０９Ｆａ）の処理内容を示したフローチャートである。この通常状態演出設定処理４７ａ（Ｓ５７０９Ｆａ）では、上述した通常状態演出設定処理４７（図１３５９のＳ４４１４Ｆ参照）に対して、ファイナルカウントダウン演出中に実行される演出態様を決定するための処理内容を異ならせている点で相違している。

【１２６６８】
具体的には、通常状態演出設定処理４７ａ（Ｓ５７０９Ｆａ）が実行されると、上述した通常状態演出設定処理４７（図１３５９のＳ４４１４Ｆ参照）と同一のＳ４７０１Ｆ～Ｓ４７０３Ｆの処理を実行し、Ｓ４７０３Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が１では無いと判別した場合は（Ｓ４７０３Ｆ：Ｎｏ）、特図２保留の入賞情報を入賞情報格納エリア２２３ａから読み出し（Ｓ４７０１Ｆａ）、小当たり当選に対応する入賞情報含まれているかを判別する（Ｓ４７０２Ｆａ）。そして、小当たり情報があると判別した場合は（Ｓ４７０２Ｆａ：Ｙｅｓ）、小当たり当選する特図２変動が停止表示するまでの期間を用いた連続演出（コンビバトル演出など）の演出態様を抽選（当選確率約１／１０）で決定し（Ｓ４７０３Ｆａ）、連続演出ありかを判別し（Ｓ４７０４Ｆａ）、連続演出ありと判別した場合は（Ｓ４７０４Ｆａ：Ｙｅｓ）、そのまま本処理を終了する。

【１２６６９】
一方、Ｓ４７０４Ｆａの処理において、連続演出無しと判別した場合は（Ｓ４７０４Ｆ

ａ：Ｎｏ）、当該変動の抽選結果と抽出した変動パターンとに基づいて変動演出の演出態様を決定し（Ｓ４７０６Ｆ）、本処理を終了する。また、Ｓ４７０２Ｆａの処理において、小当たり情報無しと判別した場合は（Ｓ４７０２Ｆａ：Ｎｏ）、連続演出の演出態様を低確率（１／６０）で決定し（Ｓ４７０５Ｆａ）、Ｓ４７０４Ｆａの処理へ移行する。

【１２６７０】

このように構成することで、先読み処理（Ｓ４７０１Ｆａ）によって、小当たり当選する特図２保留を有している場合の方が、連続演出（コンビバトル演出等）を実行し易くなるため、連続演出が実行された場合の当たり当選への期待度を高めることができ演出効果を高めることができる。

【１２６７１】

Ｓ４７０３Ｆの処理において、ファイナル演出中カウンタ２２３Ｆａの値が１であると判別した場合は（Ｓ４７０３Ｆ：Ｙｅｓ）、今回の変動パターンが「特殊変動」であるかを判別し（Ｓ４７０６Ｆａ）、特殊変動であると判別した場合は（Ｓ４７０６Ｆａ：Ｙｅｓ）、時短当選を示す演出態様を決定し（Ｓ４７０７Ｆａ）、本処理を終了する。また、特殊変動では無いと判別した場合は（Ｓ４７０６Ｆａ：Ｎｏ）、Ｓ４７０４Ｆの処理へ移行し、その後、Ｓ４７０６の処理を実行し、本処理を終了する。

【１２６７２】

以上、説明をした通り、第４７制御例、及び第４７制御例の第１変形例では、時短状態中に実行される第２特別図柄抽選と、時短状態が終了した後に実行される第２特別図柄抽選（残特図２保留に基づいて実行される第２特別図柄抽選）と、の抽選結果を示すための演出を、予め定めた第１期間演出（ファイナルカウントダウン演出）を用いて実行するように構成し、第１期間演出中において新たに時短図柄当選した場合であっても、その時点で残時短回数が増加したことを遊技者に報知すること無く、予め定められた演出期間を用いて実行される第１期間演出が終了した後に、残りの時短回数を用いた第２期間演出（上乗せ演出）を実行するように構成している。

【１２６７３】

このように構成することで、途中で時短図柄当選した場合であっても、第１期間演出の演出効果を低下させること無く、遊技者に好適な演出を提供することができる。

【１２６７４】

なお、上述した第４７制御例では、時短図柄当選した時点における状況に応じて、残時短回数を報知するタイミングを異ならせるように構成しているが、特別図柄抽選に関して設定される様々な回数（特別図柄抽選回数、大当たり当選回数、小当たり当選回数等）を報知可能な条件が成立した場合における他の条件の成立有無に応じて、報知するタイミングを異ならせて設定するように構成しても良い。

【１２６７５】

この場合、例えば、遊技状態が切り替わったことに基づいて報知可能な条件が成立するように構成し、遊技状態が切り替わった時点における他の遊技状況（例えば、特別図柄変動の実行有無や、特定の特別図柄種別（切り替わり後の遊技状態において実行され難くなる側の特別図柄種別）に対する特別図柄変動の実行の有無）によって報知タイミングを異ならせるように構成しても良い。

【１２６７６】

また、上述した第４７制御例では、時短状態中に実行される変動演出として、特別図柄抽選の結果が小当たり当選しているか否かを示すための演出を優先的に実行し、時短図柄当選しているか否かを示すための演出を非優先で実行する（実行しない）変動演出を主として実行し、特定条件が成立した場合に、小当たり当選を示す演出よりも優先して時短図柄当選を示すための演出を実行するように構成している。

【１２６７７】

このように、通常主として実行される変動演出とは異なる優先度で変動演出を実行可能に構成することで、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。

【１２６７８】

ここで、図１３６６から図１３６８を参照して、１の特別図柄抽選に基づいて複数種類の特典を付与可能に構成されたパチンコ機１０において、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様の設定内容について、追加例で説明をする。

【１２６７９】

本追加例では、特別図柄抽選によって大当たり当選の判定と、時短図柄当選の判定と、を実行可能に構成している。なお、詳細な制御内容や電気的構成については、上述した各制御例に記載されている何れかの構成が適用されているため、その説明を省略する。

【１２６８０】

本追加例では、特別図柄抽選の結果を示すための演出態様として、大当たり当選の有無を示すための演出態様（大当たり示唆演出態様）と、時短図柄当選の有無を示すための演出態様（時短図柄示唆演出態様）と、を単独で、或いは、組み合わせて設定可能に構成している。

【１２６８１】

図１３６６（ａ）は、大当たり示唆演出態様に関する表示画面を示した図であり、図１３６６（ｂ）は、時短図柄示唆演出態様に関する表示画面を示した図である。通常の演出パターンであれば、変動パターンとして９０秒の変動パターンが設定された場合には、図１３６８（ａ）に示した演出パターンＡ、或いは、演出パターンＢが設定される。

【１２６８２】

つまり、図１３６６（ａ）に示した６０秒のスーパーリーチ演出の演出結果として、大当たり当選を示す表示態様（７７７）では無く、中図柄Ｚ３ｂが停止表示され、図１３６７に示した表示画面が表示され、その後、図１３６６（ｂ）に示した時短示唆演出が実行される。つまり、演出パターンＡの変動演出では、大当たり当選の有無を遊技者に優先して報知し、その後、時短図柄当選の有無が遊技者に報知される変動演出となる。

【１２６８３】

また、図１３６８（ｂ）に示した演出パターンＢでは、変動時間９０秒の全てを用いて大当たり示唆演出態様が設定される変動演出であって、この場合も、大当たり当選の有無を時短図柄当選の有無よりも優先的に遊技者に報知する変動演出となる。

【１２６８４】

このような構成に対して、例えば、図１３６８（ｃ）に示した演出パターンＣを設定可能に構成すると良い。つまり、変動演出（３０秒）として、大当たり示唆演出態様を設定すること無く、時短図柄演出態様のみが設定された変動演出を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、時短図柄当選の有無を大当たり当選の有無よりも優先して遊技者に報知することができるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができる。さらに、図１３６８（ｄ）に示した演出パターンＤを設定可能に構成しても良い。

【１２６８５】

この場合、図１３６６（ｂ）に示した時短図柄示唆演出を実行した後に、図１３６７に示した表示画面を表示し、その後、図１３６６（ａ）に示した大当たり示唆演出を実行するように構成すると良い。このように構成することで、通常の演出パターン（演出パターンＡ）とは、優先度を入れ替えた変動演出を実行することができるため、演出効果をより高めることができる。

【１２６８６】

＜その他記載＞

従来より、特定の遊技期間（例えば、大当たり遊技期間）において、楽曲を再生すると共に、第３図柄表示装置８１の表示画面に再生されている楽曲に対応する歌詞を表示することで、遊技者の遊技に対する興趣を向上させるものがある。

【１２６８７】

しかしながら、上述した従来型のパチンコ機１０では、再生されている楽曲と、表示されている歌詞がズレてしまうという問題があった。具体的には、大当たり遊技が実行され、楽曲の再生タイミングが到来した場合には、音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置２２６に対して対応する楽曲の音声データを再生（出力）するためのコマンドを出力し

、表示制御装置１１４に対しては、大当たり遊技の進行状況に合わせて、第３図柄表示装置８１の表示面に表示させる表示内容を示すコマンドを出力するように構成しているため、楽曲の再生と、歌詞の表示とは、開始タイミングを合わせることは可能であるが、それ以降において楽曲の再生状況と、歌詞の表示状況とを同期させることができず、楽曲再生処理、或いは、歌詞の表示処理にて処理が停滞した場合等に再生されている楽曲と、表示されている歌詞がズレてしまうという問題があった。

【１２６８８】

また、再生されている楽曲と、表示されている歌詞がズレてしまうことを懸念して、最初から歌詞を表示しない構成を有しているパチンコ機１０もあるが、再生されている楽曲の歌詞が表示されないことで、楽曲の意味を遊技者が把握できず演出効果が低下してしまうという問題があった。

【１２６８９】

これに対して、従来型のパチンコ機１０と同様に、楽曲の再生タイミングに合わせて歌詞表示を行い、再生されている楽曲と、表示されている歌詞がズレ得る事象が発生した場合にのみ歌詞を非表示にするように構成している。そして、歌詞を非表示する事態が発生した場合には、再生されている楽曲に関する情報（歌詞とは異なる情報）を歌詞の代わりに表示するように構成すると良い。

【１２６９０】

このように構成することで、再生されている楽曲と、表示されている歌詞とがズレてしまい演出効果が低下してしまうことを抑制することができると共に、歌詞が非表示となったとしても演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２６９１】

＜記載技術まとめ＞

＜まとめＡ＞（ボタン操作演出のひっかかり期間）

遊技者が操作可能な操作手段（演出ボタン２２）と、その操作手段に対する操作が有効に判別される操作有効期間を設定可能な操作有効期間設定手段（バトル演出における第２パート演出にて特別図柄抽選の結果に応じて操作有効期間を決定する処理）と、その操作有効期間設定手段により設定された前記操作有効期間中に、前記操作手段に対して所定の前記操作が実行されたことを判別可能な操作判別手段（長押し操作を判定する処理）と、その操作判別手段により前記所定の操作が実行されたと判別されたことに基づいて、演出態様（ＨＰ値）を、第１態様から、その第１態様とは異なる第２態様を含む複数の態様へと段階的に可変させることが可能な演出可変手段（ＨＰ値の減少に応じてＨＰゲージ８９０の表示態様を可変させる処理）と、前記演出態様が前記第２態様へと可変された場合に特定演出を実行可能な特定演出実行手段（残ＨＰ値が０となった場合に処理演出を実行する処理）と、を有した遊技機において、前記演出態様を可変させることが可能な第１期間（非減少期間が設定されていない期間）と、その第１期間よりも前記演出態様を可変させることが困難な第２期間（非減少期間）とを、前記演出態様を可変させることが可能な状態（残ＨＰ値が最終ＨＰ値では無い状態）で実行される前記所定の操作（長押し操作）に基づいて決定可能な期間決定手段（非減少期間の突入抽選）を有することを特徴とする遊技機Ａ１。

【１２６９２】

＜まとめＢ＞（長押し操作演出において、長押しキャンセルした方が演出が進みやすい）

遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対する操作が有効に判別される操作有効期間を設定可能な操作有効期間設定手段と、その操作有効期間設定手段により設定された前記操作有効期間中に前記操作手段に対して所定期間継続して操作が実行される継続操作が実行されていることを判別可能な操作判別手段と、その操作判別手段により前記継続操作が実行されていると判別されている間、演出態様を、第１態様から、その第１態様とは異なる第２態様を含む複数の態様へと段階的に可変させることが可能な演出可変手段と、前記演出態様が前記第２態様へと可変された場合に特定演出を実行可能な特定演出実行

手段と、を有した遊技機において、前記継続操作を第１期間継続して実行する場合の方が、前記第１期間よりも短い第２期間で前記継続操作を終了する場合よりも、前記演出態様を前記第２態様へと可変させ易い第１演出制御（非減少期間が設定されていない場合における長押し操作に基づくＨＰ値を減少させる制御）と、前記継続操作を第１期間継続して実行する場合よりも、前記第１期間よりも短い第２期間で前記継続操作を終了する場合の方が、前記演出態様を前記第２態様へと可変させ易い第２演出制御（非減少期間が設定されている状態において、長押し操作を中断することで非減少期間を解除する制御）と、を実行可能な演出制御手段を有することを特徴とする遊技機Ｂ１。

【１２６９３】

＜まとめＣ＞（連打演出中に、連打操作した場合と長押し操作した場合とで異なる演出制御を実行）

遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて信号を出力する信号出力手段と、その信号出力手段により出力される信号を判別する信号判別手段と、その信号判別手段による判別結果が所定の実行条件を満たした場合に、演出態様を、第１態様から、その第１態様とは異なる第２態様を含む複数の態様へと段階的に可変させることが可能な演出可変手段と、その演出可変手段によって前記演出態様を可変させることが可能となる最終態様を前記複数の態様の中から決定可能な最終態様決定手段（最終ＨＰ値を決定する処理）と、を有した遊技機において、前記演出可変手段は、前記所定の実行条件として、第１実行条件が成立した場合（押下操作と判別された場合）と、その第１実行条件とは異なる第２実行条件が成立した場合（長押し操作と判別された場合）とで、異なる可変態様で前記演出態様を前記最終態様へと可変させるものであることを特徴とする遊技機Ｃ１。

【１２６９４】

＜まとめＤ＞（強制チャンス演出実行制御）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記識別情報が動的表示される期間に演出を実行可能な演出実行手段と、前記演出の演出態様として、前記動的表示されている前記識別情報に対応する前記判別結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも選択され易い第１演出態様を少なくとも含む複数の演出態様の中から１の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、前記演出実行手段により実行される前記演出に関する情報に基づいて演出値を更新可能な更新手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、前記判別手段による前記判別結果に基づいて前記演出態様を決定する第１決定（チャンス予告演出を実行するか否かを決定する抽選に当選したことに基づいてチャンス予告演出の演出態様を決定）と、前記更新手段によって更新される前記演出値が実行条件を満たした場合に前記判別手段による前記判別結果に関わらず前記第１演出態様を前記演出態様として決定する第２決定（演出実行カウンタ２２３ａａｈの値に基づいて強制的にチャンス予告演出の演出態様を決定）と、を実行可能であることを特徴とする遊技機Ｄ１。

【１２６９５】

＜まとめＥ＞（激アツ外れ予告発生後の大当たり演出で外した激アツ予告を実行）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記識別情報が動的表示される期間に演出を実行可能な演出実行手段と、前記演出の演出態様として、前記動的表示されている前記識別情報に対応する前記判別結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも選択され易い第１演出態様を少なくとも含む複数の演出態様の中から１の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、前記特定の判別結果以外の前記判別結果を示すための識別情報が動的表示される期間に実行される前記演出の演出態様として前記第１演出態様が決定さ

れたことを示す決定情報を所定期間記憶可能な記憶手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、前記判別手段による前記判別結果に基づいて前記演出態様を決定する第１決定と、前記特定の判別結果を示すための識別情報が動的表示されている期間に実行される前記演出の演出態様として、前記記憶手段に前記決定情報が記憶されている場合に、前記第１演出態様を決定する第２決定（チャンス態様情報格納エリア２２３ａａｇに格納されている外れ演出に用いられた演出態様を当たり演出に用いる処理）と、を実行可能であることを特徴とする遊技機Ｅ１。

【１２６９６】

＜まとめＦ＞（操作有効期間が通常よりも長いロングボタン表示）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に特典を付与可能な特典付与手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことを判別可能な操作判別手段と、その操作判別手段により前記操作手段への操作が有効に判別される有効期間を設定する有効期間設定手段と、その有効期間設定手段により設定された前記有効期間の少なくとも一部期間を遊技者に報知可能な有効期間報知手段と、その有効期間報知手段により前記有効期間が報知されている状態で前記操作判別手段により前記操作手段の操作が判別されたことに基づいて、前記判別手段による前記判別の結果を示すための操作演出を実行可能な操作演出実行手段と、を有した遊技機において、前記有効期間設定手段は、前記有効期間として、第１有効期間と、その第１有効期間よりも長い第２有効期間を設定可能であり、前記判別手段による前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも、前記第２有効期間を設定し易いものであることを特徴とする遊技機Ｆ１。

【１２６９７】

＜まとめＧ＞（絆６０秒ミッション）

取得条件の成立に基づいて取得情報を取得する取得手段と、その取得手段により取得された取得情報を、所定数を上限に記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記取得情報に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果である場合に遊技者に有利となる特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記取得手段が前記取得情報を取得し易い第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも取得し難い第２遊技状態と、設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記判別手段により実行される複数回の前記判別の結果に関する情報に基づいて演出態様が決定される期間演出を実行可能な期間演出実行手段（残確変回数が２０回以降に実行される各モード演出を実行する手段）を有し、前記遊技機は、前記期間演出の前記演出態様を決定する際に参照される前記情報に含まれる前記判別の範囲を異ならせる（先読み結果を対象にするか否かを決定、遊技者によって範囲を選択）ことが可能であることを特徴とする遊技機Ｇ１。

【１２６９８】

＜技術思想まとめ１＞

次に、上述した各制御例に記載された各技術思想について簡単に説明をする。まず、上述した第５制御例では、普通図柄の確率状態を低確率状態から高確率状態へと移行させるための契機として、特別図柄抽選の大当たり当選以外の契機を設けており、特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選とは異なる抽選結果（外れ）の一部において、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機が成立するように構成している。

【１２６９９】

つまり、特別図柄抽選で大当たり当選しなかった遊技者に対しても、大当たり遊技とは異なる特典を付与可能に構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選において、大当たり遊技が実行される抽選結果と、時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定される抽選結果とを遊技者に別々に提供することができるため、遊技者に対して有利となる抽選結果の種別の多様化を図りやすくすることができる。

【１２７００】

さらに、上述した第５制御例では、設定されている遊技状態に応じて、普通図柄の高確

率状態を設定させるための契機の成立のし易さを異ならせており、具体的には、遊技状態として通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合は、特別図柄抽選が実行された場合に大当たり当選の有無に加え、時短当選（普通図柄の高確率状態を設定させるための契機の成立の有無）の有無を判定可能に構成し、通常状態以外の遊技状態が設定されている場合は、特別図柄抽選が実行された場合に大当たり当選の有無のみを判定可能に構成している。

【１２７０１】

このように構成することで、通常状態が設定されている状態では、普通図柄の高確率状態が設定され得る契機として、特別図柄抽選における大当たり当選、或いは、時短当選が成立可能となり、通常状態以外の遊技状態では、普通図柄の高確率状態が設定され得る契機として、特別図柄抽選における大当たり当選が成立可能となる。即ち、時短当選の有無が判定可能となる通常状態のほうが、通常状態以外の遊技状態よりも、普通図柄の高確率状態を設定させるための契機が成立し易くなるように構成している。よって、各図柄（特別図柄、普通図柄）が低確率状態に設定されており、各図柄抽選において最も当たり当選し難い遊技状態（遊技者に不利となる遊技状態）である通常状態のほうが、他の遊技状態よりも普通図柄の高確率状態を設定させ易くすることができ、通常状態中の遊技を実行している遊技者の遊技意欲を高めることができる。

【１２７０２】

加えて、上述した第５制御例では、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（確変状態、時短状態）のほうが、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（通常状態、第２確変状態）よりも第２特別図柄抽選が実行され易くなるように構成しており、且つ、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を、所定数（４個）を上限に記憶可能（保留記憶可能）に構成している。そして、第１特別図柄抽選よりも第２特別図柄抽選のほうが時短当選し易くなるように構成している。

【１２７０３】

つまり、普通図柄の高確率状態が設定されている何れかの遊技状態（確変状態、時短状態）から通常状態へと遊技状態が移行した場合（遊技者に有利な遊技状態から不利な遊技状態へと移行した場合）において、移行後の通常状態中に、移行前の普通図柄の高確率状態にて保留記憶された第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）に基づく第２特別図柄抽選が実行された場合に時短当選し易くなるように構成している。

【１２７０４】

このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態から不利な遊技状態へと移行した場合にも所定期間の間、遊技者に有利な遊技状態へと復帰し易い特別図柄抽選を遊技者に実行させることができるため、遊技者に不利となる遊技状態である通常状態が設定された場合に遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。また、通常状態中により多くの第２特別図柄抽選を実行させるために、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を上限数（４個）獲得した状態で普通図柄の高確率状態を終了させようと、普通図柄の高確率状態が終了する最後の瞬間まで特図２保留を獲得するための遊技を意欲的に行わせることができる。

【１２７０５】

上述した第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に加え、特別図柄抽選で時短当選した場合にも普通図柄の高確率状態を設定可能に構成しており、大当たり当選に基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第１時短）と、時短当選に基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第２時短）とで、普通図柄の高確率状態を終了させるための終了条件の成立のし易さを異ならせている。

【１２７０６】

具体的には、第１時短の終了条件として設定される時短回数よりも第２時短の終了条件として設定される時短回数のほうが多くなり易くなるように構成している。このように、普通図柄の高確率状態が設定された場合において、その設定契機（普通図柄の高確率状態を設定するための成立契機）に応じて有利度合いを異ならせた普通図柄の高確率状態を設

定可能とすることにより、普通図柄の高確率状態が設定されるか否かだけで無く、どのような契機で普通図柄の高確率状態が設定されるのかという遊技の過程についても遊技者に興味を持たせることができるため、遊技者に継続して遊技を行わせ易くすることができる。

【１２７０７】

なお、上述した第５制御例では、普通図柄の高確率状態において遊技者に付与される特典の有利度合いを異ならせるために、時短終了条件の成立のし易さ（時短回数）を異ならせているが、これに限ること無く、例えば、第１時短が設定された場合と、第２時短が設定された場合とで、第２特別図柄抽選の保留記憶の獲得のし易さ（電動役物６４０ａの開放パターン）を異ならせたり、普通図柄の高確率状態中に特別図柄抽選で大当たり当選した場合に付与される特典の有利度合い（例えば、大当たり遊技中に付与される賞球数や、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態の種別）を異ならせたりするように構成しても良い。

【１２７０８】

次に、上述した第５制御例の第１変形例は、通常状態が設定されている場合に実行される第１特別図柄抽選でも時短当選し得るように構成している点で上述した第５制御例と相違している。

【１２７０９】

上述した第５制御例では、普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）が設定されている状態で第２特別図柄抽選を実行する遊技を行わせ、普通図柄の高確率状態中に第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を獲得可能に構成していた。そして、普通図柄の高確率状態中に獲得した特図２保留に基づく第２特別図柄抽選を普通図柄の低確率状態が設定されている通常状態において実行した場合に、大当たり抽選に加え、時短抽選も実行されるように構成することで、遊技者に有利となる普通図柄の高確率状態中の遊技（有利遊技）を体験した遊技者に対して、有利遊技が終了した後に、通常時よりも高確率で有利遊技へと復帰し易い遊技（引き戻し遊技）を実行させることができるものであった。

【１２７１０】

しかしながら、上述した第５制御例では、通常状態において実行される特別図柄抽選（第１特別図柄抽選）にて大当たり当選し、普通図柄の高確率状態が設定された遊技（有利遊技）を実行しない限り、時短抽選の恩恵を受けることが出来ないため、時短抽選の恩恵を受けること無く遊技者が遊技に飽きてしまうという問題があった。

【１２７１１】

これに対して、上述した第５制御例の第１変形例では、通常状態にて実行される第１特別図柄抽選においても時短当選し得るように構成しているため、遊技者に対して時短抽選の恩恵を受け易くすることができる。

【１２７１２】

さらに、上述した第５制御例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（確変状態、時短状態）よりも、特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（時短状態）のほうが、普通図柄の高確率状態が継続する期間（普図高確期間）が長くなり易くなるように構成していた。つまり、特別図柄抽選で時短当選した場合に、次の大当たり当選まで普図高確期間を継続させ易くするという特典を遊技者に付与可能に構成していた。

【１２７１３】

これに対して、上述した第５制御例の第１変形例では、第１特別図柄抽選で時短当選した場合には、短期間（例えば、時短回数１回）の時短状態を設定可能に構成し、その短期間の時短状態が設定される期間（普図高確期間）において、第２特別図柄抽選の実行権利を獲得させる遊技を実行可能に構成している。つまり、本第１変形例では、上述した第５制御例における引き戻し遊技を、大当たり当選すること無く実行させ得るように構成している。このように構成することで、通常状態において実行される第１特別図柄抽選にて大当たり当選すること無く、通常状態中に第２特別図柄抽選を実行させ易くすることができ

る。
【１２７１４】
さらに、上述した第５制御例の第１変形例では、時短状態中に実行される第１特別図柄抽選の変動パターンとして、複数の変動時間を選択可能に構成している。本第１変形例では、通常状態中に実行される第１特別図柄抽選にて時短当選すると、所定の変動時間の変動を経て時短当選を示すための表示態様（時短図柄）で第１特別図柄が停止表示された後に時短状態（時短回数１回）が設定され、次に実行される特別図柄変動が停止表示されるまでの間、時短状態が継続するように構成している。
【１２７１５】
つまり、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間に対応して時短状態が継続する期間の長さが決定することになる。よって、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動時間が長ければ長い程、時短状態中に多くの特図２保留を獲得し易くなるため遊技者に有利な時短状態とすることができる。
【１２７１６】
次に、上述した第５制御例の第２変形例では、上述した第５制御例に対して更なる興趣向上を目指すために、普通図柄の高確率状態が設定されている状態において実行される特別図柄抽選で大当たり当選した場合に付与される特典の内容を、普通図柄の高確率状態が設定された契機（第１時短又は第２時短）に応じて異ならせるように構成している。つまり、第１時短中に大当たり当選した場合と、第２時短中に大当たり当選した場合とで、同一の大当たり種別が設定された場合に付与される特典の内容を異ならせている。このように構成することで、普通図柄の高確率状態（時短状態）が設定された場合において、どの契機で時短状態が設定されたのかについても遊技者に興味を持たせることができるため、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができる。
【１２７１７】
さらに、上述した第５制御例の第２変形例では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に実行される大当たり遊技として、ラウンド数が少なく、且つ、１回のラウンド遊技の遊技時間が短い大当たり遊技（２Ｒ大当たり）を実行可能に構成し、その２Ｒ大当たり遊技が実行された後に、時短状態が設定されるように構成している。このように構成することで、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて時短状態が設定される場合、即ち、第１時短が設定される場合と、大当たり遊技が実行されること無く時短状態が設定される場合、即ち、第２時短が設定される場合とで、実行される遊技の内容の相違を遊技者に気付かれ難くすることができる。
【１２７１８】
加えて、上述した第５制御例の第２変形例では、第１時短が設定される過程において実行される変動演出と、第２時短が設定される過程において実行される変動演出と、を同様の演出態様で実行可能に構成している。具体的には、第１時短が設定される大当たり当選（２Ｒ大当たり当選）したことを示すための特別図柄変動が開始されてから、その特別図柄変動が停止表示され、その後、２Ｒ大当たり遊技が終了するまでの第１期間と、第２時短が設定される時短当選したことを示すための特別図柄変動の変動時間である第２期間と、が略同期間となるように設定し、その期間を用いて共通の演出態様で演出を実行するように構成している。
【１２７１９】
このように構成することで、第１時短が設定される場合と、第２時短が設定される場合とで、特別図柄変動が開始されてから、時短状態が設定されるまでの期間において共通の演出態様の演出を実行させることができるため、何れの契機で時短状態が設定されたのかを遊技者により分かり難くすることができる。
【１２７２０】
次に、上述した第６制御例では、通常状態以外の遊技状態が設定されている状態においても特別図柄抽選で時短当選し得るように構成している点で上述した第５制御例とは大きく相違している。

【１２７２１】
このように構成することで、例えば、時短状態が設定されている状態において、新たに時短当選した場合に、時短状態が継続する残期間を更新可能とすることができる。よって、時短状態がいつまで継続するかを遊技者に把握させ難くすることができる。
【１２７２２】
また、時短状態が継続する残期間を更新させる場合において、現状の残期間よりも時短状態が継続する期間が長くなるように更新（有利更新）される場合と、短くなるように更新（不利更新）される場合とが発生するように構成している。つまり、時短抽選において時短当選するタイミングと、時短当選した場合に設定される時短回数（時短期間）とによって、時短当選が遊技者に有利な特典となる場合と、不利な特典となる場合が発生するように構成している。このように構成することで、時短当選を期待する遊技性と、時短当選を期待しない遊技性と、を備える斬新な遊技性を提供することができる。
【１２７２３】
さらに、上述した第６制御例では、大当たり当選すること無く、連続して時短当選すればするほど遊技者に有利な時短状態が設定され易くなるように構成している。具体的には、遊技者の有利度合いを異ならせた時短種別が複数規定されており、時短状態中に時短当選する程、有利な時短種別が設定され易くなるように構成している。このように構成することで、大当たり当選しない期間が長くなればなるほど、遊技者に有利な特典を付与し易くすることができる。
【１２７２４】
加えて、遊技者に最も有利な時短種別が設定されている場合には、その時短種別よりも不利な時短種別が設定されている場合よりも、遊技者に不利な時短種別へと移行し易くなるように構成している。つまり、有利度合いを異ならせた複数段階の時短種別を有し、時短当選に基づいて徐々に有利度合いの高い時短種別が設定されていき、最高段階の時短種別に到達した場合には、最低段階の時短種別へと転落し易くなるように構成している。このように構成することで、遊技者に有利な時短種別が過剰に長時間継続してしまうことを抑制することができる。
【１２７２５】
なお、上述した第６制御例のように、時短状態が設定されている状態で時短抽選を実行可能に構成したパチンコ機１０、即ち、時短状態が設定されている状態で新たな時短状態の設定条件が成立した場合における処理内容として、既に設定されている時短状態の内容（残時短期間）に関わらず、新たな時短状態を設定する処理を実行するように構成しても良いし、既に設定されている時短状態の内容（残時短期間）と、新たに設定条件が成立した時短状態の内容（時短期間）とを判別し、その判別結果に基づいて、新たな時短状態を設定するか否かを決定する処理を実行するように構成しても良いし、既に設定されている時短状態の内容と、新たに設定条件が成立した時短状態の内容との差分を算出し、その差分に対応する情報（時短期間）を、既に設定されている時短状態の残時短期間に加算（減算）する処理を実行するように構成しても良い。
【１２７２６】
また、既に設定されている時短状態が終了するまで、新たに設定条件が成立した時短状態が設定されることを待機させる処理を実行可能に構成しても良い。この場合、既に設定されている時短状態が終了するまでの間に、時短状態の設定条件が複数成立した場合には、設定条件が成立した全ての時短状態を順に設定するように構成しても良いし、待機中の時短状態のうち、遊技者に有利となる時短状態を所定数を上限に記憶可能に構成し、記憶されている時短状態のみを順に設定するように構成しても良い。
【１２７２７】
なお、上述した第６制御例に記載された各技術思想を、上述した各制御例に適用して勿論良く、また、時短状態の設定条件として、上述した第１３制御例に記載された技術思想、即ち、天井特典として時短状態を設定可能な技術思想を上述した第６制御例に適用しても良い。

【１２７２８】
次に、上述した第７制御例では、１回の特別図柄抽選で大当たり当選と、時短当選と、を重複して判定可能に構成している。また、上述した第７制御例では、大当たり当選の判定が実行される前に時短当選の判定を実行するように構成し、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選にて大当たり当選の判定が実行されるよりも前に時短状態を設定し、時短状態が設定されている状態で当該特別図柄抽選における大当たり当選の判定を実行し、当該特別図柄抽選の抽選結果を示すための特別図柄変動が実行されるタイミングにて時短状態を終了させることが可能に構成している。
【１２７２９】
具体的には、通常状態における第１特別図柄抽選で時短当選した場合において、上述した通り、当該特別図柄抽選にて大当たり判定が実行されるタイミングを含む短期間の間、時短状態となるように構成している。つまり、上述した第５制御例では、次の大当たり当選に向けて遊技者に有利な遊技（特別図柄抽選を実行させ易い遊技）を、大当たり遊技を介すること無く所定期間（最大で１００００回）実行させるために特別図柄抽選にて時短当選可能な機能（時短期間設定機能）を設けていたのに対して、上述した第７制御例では、上述した時短期間設定機能に加え、通常状態において、特別図柄抽選を実行させ易くすること無く、特別図柄抽選による大当たり判定が実行されるタイミングが時短状態となるように構成することで通常状態にて実行される遊技（左打ち遊技）の最中に時短状態における特別図柄抽選の大当たり判定を実行可能にする機能（特殊抽選機能）を設けている。
【１２７３０】
このように構成することで、遊技者に対して、特別図柄抽選で時短当選したことを把握され難くしながら時短状態における特別図柄抽選の大当たり判定を実行することができるため、特別図柄抽選の結果として意外性のある抽選結果を報知することが可能となる。
【１２７３１】
また、上述した第７制御例では、第１特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に付与される特典を、通常状態にて大当たり当選した場合と、時短状態にて大当たり当選した場合とで、異ならせており、通常状態よりも時短状態で大当たり当選した場合のほうが、遊技者に有利な特典（例えば、ラウンド数の多い大当たり遊技）が付与されるように構成している。つまり、通常状態において実行される第１特別図柄抽選において、時短当選と大当たり当選とに重複当選した場合のほうが、大当たりのみ当選した場合よりも有利な特典が付与されることになる。
【１２７３２】
加えて、上述した第７制御例では、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出の演出態様として、時短当選の有無を示唆可能な示唆態様（報知態様）と、大当たり当選の有無を示唆可能な示唆態様（報知態様）と、を設定可能に構成している。
【１２７３３】
つまり、実行される変動演出の演出態様を把握することで実行中の特別図柄抽選に対して実行された大当たり判定の結果と、時短当選判定の結果と、を遊技者に予測させることが可能に構成している。さらに、変動演出として、時短当選の有無を報知するタイミングと、大当たり当選の有無を報知するタイミングを異ならせるように構成している。このように構成することで、１回の特別図柄抽選に対して異なる複数の特典を付与するための判定を実行可能なパチンコ機１０において、少なくとも１の判定結果を把握（予測）した状態で、他の判定結果を示唆するための示唆態様を把握させることができる。
【１２７３４】
また、上述した第７制御例では、時短当選の有無を示唆可能な示唆態様を含む演出（時短演出）の演出結果が、時短非当選を示唆する示唆態様を含む演出結果であった場合のほうが、時短演出が実行されない場合よりも大当たり当選の期待度が高くなるように構成している。このように、付与判定を異ならせた複数の特典を１回の特別図柄抽選にて付与可能な構成を用いたパチンコ機１０において、１の特典に対する付与判定の結果を示唆可能な判定結果示唆演出が実行された場合に、その判定結果示唆演出の演出結果が１の特典が

付与されないことを示唆する演出結果であることで、判定結果示唆演出が実行されなかった場合に比べて他の特典が付与される期待度が高くなるように構成することで、判定結果示唆演出が実行された時点で、判定結果示唆演出が実行されなかった場合に比べて、何れかの特典が付与され易い状態であることを遊技者に報知することができる。

【１２７３５】

上述した第７制御例のように、１回の特別図柄抽選が実行されることに基づいて、複数の特典を重複して付与可能な構成を、上述した各制御例に適用しても勿論良く、例えば、１回の特別図柄抽選が実行されたことに基づいて、大当たり抽選と時短抽選とに重複して当選可能に構成する技術思想を上述した第１３制御例から第１６制御例に適用しても良いし、上述した第５制御例から第８制御例に対して、上述した第１３制御例から第１８制御例に用いられた天井特典に関する技術思想を適用しても良い。

【１２７３６】

例えば、第７制御例に対して、天井特典に関する技術思想を付加した場合には、１回の特別図柄抽選が実行されることにより最大で３つの異なる特典（大当たり当選、時短当選、天井特典）を遊技者に付与することが可能となり、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果により興味を持たせることができる。また、この場合、付与され得る３つの特典を全て提供可能に構成しても良いし、少なくとも１の特典が破棄されるように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して過剰に有利な特典を提供してしまう事態が発生することを抑制することができる。

【１２７３７】

次に、上述した第８制御例は、通常状態において実行される第１特別図柄抽選、及び第２特別図柄抽選の何れにおいても時短当選の判定（時短抽選）を実行可能に構成し、高確率（外れ当選の殆ど）で時短当選するように構成し、時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）が、通常状態よりも遊技者に不利な遊技状態となるように構成している。

【１２７３８】

加えて、上述した第８制御例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選とが交互に実行され易くなるように遊技盤１３が構成されており、上述した第２時短の終了条件として、一方の種別の特別図柄抽選が連続して実行された場合に成立する終了条件が設定されるように構成している。

【１２７３９】

このように構成された上述した第８制御例におけるパチンコ機１０では、通常状態が設定されている状態にて実行される特別図柄抽選にて大当たり当選（大当たり確率１／３００）しなかった場合には、高確率（２９８／３００）で時短当選することより第２時短が設定される。そして、第２時短の終了条件が成立するまで、第２時短で特別図柄抽選が実行される。

【１２７４０】

また、第２時短の終了条件として、第２時短中に実行された特別図柄抽選の合算回数が特定数（１００回）に到達した場合に成立する第１時短終了条件と、所定の順序で特別図柄抽選が実行された場合に成立する第２時短終了条件とが設定されるように構成しており、第２時短終了条件は、第１時短終了条件が成立するよりも前に成立し得るように構成している。

【１２７４１】

よって、第２時短が設定された場合には、いち早く第２時短を終了させるために第２時短終了条件を成立させようと遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。

【１２７４２】

また、通常状態において実行される特別図柄抽選の種別に応じて、遊技者への有利度合いを異ならせるように構成しており、通常状態で実行される第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合の方が、通常状態で実行される第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合よりも、大当たり遊技終了後に有利な遊技状態を設定し易くなるように構成している。

【１２７４３】
　このように構成することで、第２時短が終了した後に実行される特別図柄抽選の種別に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【１２７４４】
　なお、上述した第８制御例では、時短状態が設定された直後に実行される特別図柄抽選の種別が特定条件（時短状態が設定された特別図柄と同一種別）を満たす場合に、その直後に実行される特別図柄抽選によって時短終了条件を成立させる（短縮時短終了条件を成立させる）ように構成しているが、短縮時短終了条件を成立させるための構成は、これに限られること無く、例えば、時短状態が設定されている状態においても、時短抽選を実行可能に構成し、且つ、時短状態中に時短当選した場合には、新たに時短当選した内容の時短状態が設定されるように構成しても良い。
【１２７４５】
　上述した第８制御例では、第２特別図柄抽選において不利時短当選した場合には、その不利時短状態が終了するまでの間、第１特別図柄抽選においても、通常状態よりも不利となる特別図柄抽選が実行されるように構成している。換言すれば、１の特別図柄抽選の結果に応じて、他の特別図柄抽選に対してペナルティを課すことができるように構成している。
【１２７４６】
　このようなペナルティを課す遊技方法として、例えば、上述した第１２制御例のように、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）されたパチンコ機１０において、特定の遊技状態（通常状態）において、適正では無い遊技を実行することで第２特別図柄抽選を実行した場合に、不利時短状態が設定され、不利時短状態が設定されている間は、第１特別図柄抽選にて通常状態よりも遊技者に不利な特別図柄抽選が実行されるように構成しても良い。
【１２７４７】
　次に、上述した第１２制御例は、第１特別図柄の変動表示と第２特別図柄の変動表示を同時に（並行して）実行可能に構成（所謂、同時変動仕様）している。このように構成することで、所定時間内に、より多くの特別図柄の抽選遊技を実行させることができ、遊技者に大当たりが所定時間内に付与される確率が高くできる。従って、遊技者は、効率よく遊技を行うことができる。
【１２７４８】
　また、上述した第１２制御例では、第１特別図柄抽選と第２特別図柄抽選の両方で時短抽選を実行可能に構成し、第１特別図柄または第２特別図柄の一方のみが時短当選した場合よりも、一方の特別図柄が時短当選し、その特別図柄の変動表示が停止するまでの期間で、他方の特別図柄でも時短当選した場合に遊技者に有利な特典が付与されるように構成している。
【１２７４９】
　上述した第１２制御例では、通常状態において第１特別図柄または第２特別図柄が時短当選した場合に時短Ａ状態が設定される。一方、通常状態において第１特別図柄が時短当選した場合には、長時間（３００秒）の変動時間が設定され（時短当選変動状態）、第１特別図柄の変動が終了するまで（つまり、時短当選したことを示す第１特別図柄が停止表示されるまで）の期間で第２特別図柄が時短当選した場合には、時短Ａ状態よりも遊技者に有利な時短Ｂ状態が設定されるように構成している。
【１２７５０】
　このように構成することで、一方の特別図柄が時短当選した場合に、他方の特別図柄でも時短当選することで遊技者に有利な特典が付与されるため、一方の特別図柄が時短当選し、時短当選したことを示す特別図柄の変動中に、他方の特別図柄でも時短当選したいと遊技者に思わせることで、意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。
【１２７５１】

加えて、大当たり遊技終了後に時短状態（普通図柄の高確率状態）が設定され得る大当たり種別の大当たりに当選した場合であっても、大当たり遊技終了後に通常状態（普通図柄の低確率状態）を設定させるための処理を実行する構成としている。

【１２７５２】

このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態（時短状態）が長時間に渡って継続することで遊技者が過剰に有利になることを抑制し、遊技者の射幸心の向上を抑制することができる。

【１２７５３】

また、同時変動仕様の遊技機において、一方の特別図柄抽選において大当たり（または小当たり）に当選した場合に、他方の特別図柄の変動表示を強制的に停止させる（破棄させる）か、或いは、仮停止させる（中断させる）かの一方のみを実行する仕様であることが一般的であるが、上述した第１２制御例では、大当たり種別（または小当たり種別）によって、他方の特別図柄の変動表示を強制停止させるか、仮停止させるかを決定する構成としている。つまり、他方の特別図柄の変動を強制停止させる（破棄させる）大当たり種別と、他方の特別図柄の変動表示を仮停止させる（中断させる）大当たり種別が規定されている。

【１２７５４】

このように構成することで、遊技者に有利な遊技状態が設定されている状態において、一方の特別図柄が停止表示されることにより遊技者に不利な遊技状態が設定され得る場合に、他の特別図柄の変動を破棄することができる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定されることを防ぐことができるが、他の特別図柄を中断させる大当たり種別の大当たりに当選した場合には不利な遊技状態が設定され得る状況が継続するので、大当たり当選した場合に、遊技者に他の特別図柄の変動を破棄できたか否かに興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２７５５】

なお、上述した第１２制御例における遊技性、即ち、同時変動仕様の遊技性を、上述した各制御例に対して適用しても勿論良い。また、同時変動仕様のパチンコ機１０において、一方の特別図柄抽選に基づいて、他方の特別図柄抽選の結果を破棄する構成として、例えば、一方の特別図柄抽選が実行されたことに基づいて、時短当選した場合や、天井特典が付与された場合に、実行中の他方の特別図柄抽選（変動）を破棄する構成を用いても良い。

【１２７５６】

＜技術思想まとめ２＞

次に、上述した各制御例に記載された各技術思想について簡単に説明をする。まず、時短中に獲得した特図２保留を用いた特図２抽選の実行回数が所定回数を超えると、特図２抽選により有利特典が付与される確率が高くなる技術思想について、上述した第５制御例のパチンコ機１０によれば、第２入球口６４０に遊技球が入球した場合には、第２特別図柄抽選の実行権利を取得する手段を有し（情報を取得することが可能な取得手段）と、第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）を上限数（４個）まで保留記憶可能な手段を有する（取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段）。そして、保留記憶されている第２特別図柄抽選の実行権利（特図２保留）に基づいて、第２特別図柄抽選が実行される（記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段）。そして、第２特別図柄抽選の抽選結果が大当たり当選（第１判別結果）であることに基づいて大当たり遊技（特定遊技）が実行される。そして、大当たり遊技が終了した後には、第２入球口６４０へと遊技球を入球させ易くなる普通図柄の高確率状態（特定設定）が、普通図柄の高確率状態を終了させるための終了条件（時短終了条件）が成立するまでの間継続する。また、第２特別図柄抽選では、大当たり当選の判定とは別に時短当選判定を実行可能に構成しており、時短当選判定において時短当選したと判別された場合は（第２判別結果であると判別された場合は）、大当たり遊技を実行すること無く、普通図柄の高確率状態（特定設定）を設定可能である。さらに、上述した第５制御

例では、複数の遊技状態を設定可能に構成しているが、その中で、通常状態（特定期間）が設定されている状態においてのみ、時短当選判定を実行可能である。

【１２７５７】

このように構成することで、第２特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態が設定される場合は、特別図柄変動の停止タイミングでは無く、大当たり遊技の終了タイミングにて普通図柄の高確率状態が設定され、第２特別図柄抽選で時短当選したことに基づいて普通図柄の高確率状態が設定される場合は、特別図柄変動の停止タイミングにて普通図柄の高確率状態が設定される。よって、普通図柄の高確率状態を設定されるタイミングを時短状態の設定契機に応じて異ならせることができる。

【１２７５８】

また、時短当選判定を実行可能な期間（通常状態が設定されている期間）と、実行不可能な期間（通常状態が設定されていない期間）と、を設けることができるため、特別図柄抽選が実行される期間についても遊技者に興味を持たせることができる。なお、上述した第５制御例では、通常状態でのみ時短当選判定を実行するように構成しているが、時短当選判定を実行可能な期間と、実行しない期間と、を設ければ良く、例えば、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態（通常状態、第２確変状態）において時短当選判定を実行可能とし、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態（時短状態、確変状態）において時短当選判定を実行しないように構成しても良い。

【１２７５９】

さらに、時短当否判定の実行の有無を設定されている遊技状態に応じて切り替えるのでは無く、時短当否判定において時短当選する確率を遊技状態に応じて異ならせても良く、例えば、通常状態が設定されている場合における時短当否判定では１／６の確率で時短当選し、それ以外の遊技状態においては、１／２００の確率で時短当選するように構成しても良い。このように構成することで、時短当選し易い遊技状態と、時短当選し難い遊技状態と、を設定することができるため、上述した技術思想と同様に効果、即ち、特別図柄抽選が実行される期間についても遊技者に興味を持たせることができる。

【１２７６０】

さらに、上述した第５制御例では、遊技球が入球することにより、第１特別図柄抽選の実行契機となり得る第１入球口６４（遊技球が入球可能な第１入球手段）と、第２特別図柄抽選の実行契機となり得る第２入球口６４０（その第１入球手段とは異なる第２入球手段）と、を設けており、時短当選判定は、第２特別図柄抽選でのみ実行可能に構成している。

【１２７６１】

つまり、第１特別図柄抽選では、何れの遊技状態が設定されていても時短当選判定が実行されず、第２特別図柄抽選では特定期間（通常状態）において時短当選判定を実行可能としている。このように構成することで、第１特別図柄抽選と、第２特別図柄抽選とで、ひいては、第１入球口６４への遊技球の入球と、第２入球口６４０への遊技球の入球とで、後に遊技者へと付与される価値の量を大きく異ならせることができる。

【１２７６２】

なお、上述した第５制御例では、第１特別図柄抽選では時短当選判定を実行せずに、第２特別図柄抽選では特定期間（通常状態）において時短当選判定を実行可能に構成しているが、これに限ること無く、例えば、第１特定期間（通常状態）においては第２特別図柄抽選のみ時短当選判定を実行し、第１特定期間とは異なる第２特定期間（第２確変状態）においては、第１特別図柄抽選のみが時短当選判定を実行可能に構成してもよい。このように構成することで、設定されている期間によって、第１入球口６４への遊技球の入球が、第２入球口６４０への遊技球の入球より遊技者に有利な価値を付与し易い状況と、第１入球口６４への遊技球の入球よりも、第２入球口６４０への遊技球の入球が遊技者に有利な価値を付与し易い状況と、を創出することが可能となる。よって、遊技者に対してより有利な価値が付与され易い遊技を実行しようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【１２７６３】

さらに、この場合、図３２９に示した変形例のように、何れの遊技状態が設定されている場合であっても、第１入球口６４への遊技球の入球度合いと、第２入球口６４０への遊技球の入球度合いとが同様となるようにパチンコ機１０の遊技盤１３を構成すると良い。このように構成することで、遊技者の判断によって、何れの入球口へと遊技球を入球させるかを選択することができるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【１２７６４】

さらに、各制御例に記載した通り、大当たり当選に基づいて設定される時短状態（第１時短）よりも、時短当選判定により時短当選したことに基づいて設定される時短状態（第２時短）のほうが、遊技者に有利な時短状態、即ち、時短終了条件が成立し難い時短状態が設定され易くなるように構成している。つまり、時短状態の設定契機に応じて、設定された時短状態の有利度合いを異ならせるように構成している。これにより、時短状態（特定設定）が設定される期間（時短終了条件）を判別された判別結果（設定契機）により可変させることが可能となるので、遊技を多様にすることができ興趣をより向上できるという効果がある。

【１２７６５】

この場合、時短状態が設定される前の遊技状態に応じて、第１時短よりも第２時短のほうが遊技者に有利な時短状態となる場合と、第２時短よりも第１時短のほうが遊技者に有利な時短状態となる場合と、を設けると良い。このように構成することで、どの状況で時短状態が設定されたかについても遊技者に興味を持たせることができる。

【１２７６６】

より具体的には、例えば、前回の大当たり遊技が終了してから実行された特別図柄抽選の回数（ハマリ回数）が所定数を超えた場合のほうが、超えていない場合よりも、有利な時短状態となり易くなるように構成しても良い。

【１２７６７】

次に、上述した第７制御例では、１回の特別図柄抽選において、大当たり当選と、時短当選とに重複して当選可能に構成している（図３１５参照）。これにより、大当たり当選（第１判別結果）と時短当選（第２判別結果）とを重複して判別することが可能に構成されているので、１回の特別図柄抽選において、大当たり当選、時短当選、大当たりと時短との両方に当選と、様々な抽選結果を期待することができる。さらに、第７制御例では、時短当選と大当たり当選とが重複した場合に、重複して当選しなかった場合よりも遊技者に有利な大当たり遊技が実行されるように構成している（図３０６（ｂ）参照）。よって、重複して判別されることで遊技者に有利となる種別の特定遊技が実行され易いので、遊技者に多様な判別結果に対応した特典を付与することで遊技を多様にすることができるという効果がある。

【１２７６８】

なお、重複当選した場合のほうが、重複当選していない場合よりも、遊技者に有利な特典を付与する構成として、上述した第７制御例の構成以外を用いても良く、例えば、大当たり遊技が終了した後に設定される遊技状態が、重複当選した場合のほうが、重複当選していない場合よりも、有利な遊技状態（例えば、確変状態、時短状態等）を設定可能に構成しても良い。

【１２７６９】

また、上述した第７制御例では、時短当選の判定（第２判別結果であるか否かの判別）を実行した後に、大当たり判定（第１判別結果であるか否かの判別）を実行するように構成しており、１の特別図柄抽選において、時短当選した場合には、当該特別図柄抽選における大当たり判定を時短状態で実行することができるように構成している。このように構成することで、重複当選した場合に実行される特典遊技の有利度合いと、重複当選しなかった場合に実行される特典遊技の有利度合いと、を異ならせることができる。

【１２７７０】

次に、上述した第５制御例の第２変形例では、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第１時短）と、特別図柄抽選で時短当選した

ことに基づいて設定される普通図柄の高確率状態（第２時短）と、で普通図柄の高確率状態が設定されている状態で大当たり当選した場合に遊技者に付与される特典の種別（大当たり遊技終了後に付与される時短回数）を異ならせている（図２８０（ｂ）参照）。よって、設定種別（第１時短、第２時短）に応じて特典遊技の種別における選択割合（大当たり遊技の内容と、付与される時短回数）が可変されるので、同じ普通図柄の高確率状態（第２遊技状態）であっても遊技者へと付与される特典を異なるものとすることができ、遊技状態を多数設定しなくとも遊技を多様にして遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１２７７１】

なお、上述した第５制御例の第２変形例では、設定種別（第１時短と第２時短）に応じて、付与される時短回数に差を設けているが、これに限ること無く、実行される大当たり遊技の内容（例えば、ラウンド遊技数）を異ならせるように構成しても良い。

【１２７７２】

さらに、上述した第５制御例の第２変形例では、第１時短よりも第２時短が設定された場合、即ち、大当たり遊技が実行されること無く普通図柄の高確率状態が設定された場合のほうが、終了条件が成立し難い普通図柄の高確率状態が設定され易くなるように構成している。つまり、大当たり遊技中に賞球を獲得すること無く、普通図柄の高確率状態が設定された場合、即ち、第１時短よりも普通図柄の高確率状態が設定されるまでに付与される特典が少ない第２時短のほうが、普通図柄の高確率状態を長くすることができるため、遊技者に対して公平に特典を付与することができるという効果がある。

【１２７７３】

さらに、上述した第５制御例の第２変形例では、上述した第５制御例や第５制御例の第１変形例と同様に、通常状態でのみ時短当選判定（第２判別結果の判別）を実行可能に構成している。換言すれば、通常状態以外では、時短当選判定が実行されることを規制している。よって、遊技状態に応じて時短当選判定が実行されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。

【１２７７４】

加えて、上述した第５制御例の第２変形例では、第１時短が設定されたか第２時短が設定されたかを、遊技者に判別させ難くするように、特別図柄抽選の結果を示すための演出態様を設定可能に構成している（図２７８、及び図２７９参照）。つまり、第１時短が設定される場合には、特別図柄変動時間と、その後の大当たり遊技期間とを合算した第１期間に対して特定演出（図２７８（ａ）参照）を実行し、第２時短が設定される場合には、特別図柄変動時間（確定時間含む）である第２期間に対して特定演出（図２７８（ｂ）参照）を実行するように構成している。

【１２７７５】

より具体的には、上述した第１期間と第２期間とが略同一期間となるように、各特別図柄抽選結果に対応させて変動時間や、大当たり遊技期間を予め規定しておき、特定演出の演出期間が同一となるように構成している。このように構成することで、第３図柄表示装置８１の表示画面に表示される演出として、演出期間、及び、演出態様が同一の特定演出が実行された後に、普通図柄の高確率状態を示す演出が実行されることになる。よって、第３図柄表示装置８１の表示画面にて実行される演出を注視している遊技者に対して、何れの設定契機で普通図柄の高確率状態が設定されたのかを判別させ難くすることができる。

【１２７７６】

次に、上述した第６制御例では、時短状態（第２遊技状態）中においても時短当選判定を実行可能に構成しており、時短状態（第２遊技状態）中に時短当選した場合には、時短終了条件が成立し難い（時短回数が多い、又は、時短当選確率が高い）時短種別の時短状態（第２遊技状態）を設定可能に構成している。

【１２７７７】

これにより、時短状態が設定されている期間が長くなるほど、時短終了条件が成立し難い時短種別の時短状態が設定され易くなるため、特典遊技が実行され易くすることができる。

【１２７７８】

なお、上述した第６制御例では、図２８６（ａ）に示した通り、設定されている遊技状態に応じて、時短当選確率を異ならせているが、時短当選確率を同一に規定しても良い。また、遊技状態に応じて時短当選確率を異ならせているが、それ以外に例えば、前回の大当たり遊技が実行されてからの特別図柄抽選回数に応じて時短当選確率を異ならせても良い。この場合、前回の大当たり遊技が実行されてからの特別図柄抽選回数が所定回数（例えば、２００回）を超えた場合に、時短当選確率が高くなるように構成すると良い。このように構成することで、特別図柄抽選で長時間大当たり当選していない遊技者に対して、大当たり遊技とは異なる時短当選という特典を付与し易くすることができる。なお、本技術思想は、他の制御例にも適用可能であることは言うまでも無い。

【１２７７９】

以上、説明をした各実施形態、或いは各制御例に用いたパチンコ機１０の構成として、以下の構成を用いても良い。

【１２７８０】

＜普通図柄の高確率状態に関する構成について＞

上述した各実施形態では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合の一部において、その大当たり遊技終了後に普通図柄の高確率状態を設定可能に構成していたが、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機として、特別図柄抽選の大当たり当選以外の設定契機を設けても良く、例えば、大当たり当選することなく特別図柄変動の実行回数が所定回数（例えば、特別図柄の低確率状態にて実行される特別図柄抽選で大当たり当選する確率の分母の値の２倍）に到達した場合に、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立するように構成しても良い。

【１２７８１】

このように構成することで、大当たり当選しない特別図柄抽選（変動）が繰り返し実行される状況、即ち、遊技者の遊技意欲が低下し易い状況が発生した場合に、遊技者に有利な特典（普通図柄の高確率状態）を付与することができるため、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができる。

【１２７８２】

また、上述した設定契機を成立させるための要素である特別図柄変動の実行回数を、遊技状況に応じて可変可能に構成しても良く、例えば、設定されている遊技状態に応じて普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機を成立させる特別図柄変動の実行回数を異ならせるように構成しても良い。具体的には、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合と、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合、即ち、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態の種別に応じて設定契機を成立させる特別図柄変動の実行回数を異ならせるように構成すると良い。このように構成することで、普通図柄の高確率状態が設定される期待度を、設定されている遊技状態に応じて異ならせることができる。

【１２７８３】

なお、この場合、特別図柄の高確率状態が設定されている第２確変状態のほうが、特別図柄の低確率状態が設定されている通常状態よりも、特別図柄抽選で大当たり当選し易いため（特別図柄抽選の大当たり確率が高いため）、第２確変状態が設定されている場合のほうが、通常状態が設定されている場合よりも、少ない特別図柄変動の実行回数で普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立するように構成すると良い。このように構成することで、何れの遊技状態が設定されている状態であっても、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機の成立のし易さを同程度にすることが可能となる。

【１２７８４】

一方、第２確変状態が設定されている場合よりも、通常状態が設定されている場合のほ

うが、少ない特別図柄変動の実行回数で普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立するように構成しても良い。つまり、特別図柄の確率状態においても遊技者に不利な低確率状態が設定されている通常状態（遊技者に最も不利な遊技状態）において、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立し易くすることができるため、遊技者に過剰に不利な遊技を実行され難くすることができる。また、特別図柄変動の実行回数が所定回数に到達した場合に成立する設定契機に基づいて普通図柄の高確率状態が設定され易くなるため、大当たり当選すること無く普通図柄の高確率状態が設定されるという意外性のある遊技を遊技者に提供し易くすることができる。

【１２７８５】

さらに、設定されている遊技状態に応じて普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機を異ならせるように構成した場合において、設定されている遊技状態の一部において、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立し得ない（し難い）遊技状態を設けても良く、例えば、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）として複数の種別（例えば、通常ＡＡ、通常ＡＢ）を設定可能に構成し、通常ＡＡの遊技状態が設定されている場合よりも、通常ＡＢの遊技状態が設定されている場合のほうが、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立し易くなるように構成しても良い。

【１２７８６】

このように構成することで、通常状態が設定されている遊技機で遊技を行っている遊技者に対して、どのタイミングで普通図柄の高確率状態が設定されるか？或いは、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立し得る遊技状態であるか？を、予測させながら遊技を行わせることができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。なお、この場合、現在設定されている遊技状態（種別毎の遊技状態）が、普通図柄の高確率状態の設定契機が成立し易い遊技状態であるか否かを遊技者に予測させることが可能な演出を実行可能に構成すると良い。

【１２７８７】

さらに、普通図柄の高確率状態が設定されている遊技状態のほうが、普通図柄の低確率状態が設定されている遊技状態よりも、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に遊技者に付与される特典（大当たり遊技内容や、大当たり遊技終了に設定される遊技状態）が遊技者に有利となり易い遊技仕様を有する遊技機においては、普通図柄の高確率状態が設定される設定契機が成立するまでの残期間（残特別図柄変動回数）を示す情報と、特別図柄抽選の抽選結果を示すための情報（又は、特別図柄抽選の抽選結果を事前に判別した事前判別結果（先読み結果）を示すための情報）と、に基づいて演出態様を異ならせた演出を実行可能に構成すると良い。

【１２７８８】

例えば、特別図柄抽選で大当たりに当選している場合のほうが、当選していない場合よりも実行され易い演出（例えば、リーチ演出）の演出態様を決定する際に、普通図柄の高確率状態が設定される設定契機が成立するまでの残期間（残特別図柄変動回数）を参照し、残特別図柄変動回数が少ない場合、即ち、普通図柄の高確率状態が間もなく設定される第１状況と、残特別図柄変動回数が多く場合、即ち、普通図柄の高確率状態が暫く設定されることが無い第２状況と、で異なる演出態様が決定されるように構成し、第１状況のほうが、第２状況よりも、遊技者に有利な状況であることを報知可能な演出態様でリーチ演出が実行され易くなるようにリーチ演出の演出態様を決定すると良い。

【１２７８９】

このように構成することで、大当たり当選を示唆するためのリーチ演出が実行されるタイミングと、普通図柄の高確率状態が設定されるタイミングと、によって異なる演出態様のリーチ演出を実行することが可能となるため、様々な演出態様でリーチ演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。加えて、実行されるリーチ演出の演出態様に基づいて、リーチ演出が実行されたタイミングの有利度合い（普通図柄の高確率状態が設定される直前であるか否か）を遊技者に把握させることが可能となるため、実行中のリーチ演出の演出結果が外れ（特別図柄抽選の結果が外れであることを示す演出結果）とな

ることを遊技者に期待させるという斬新な演出を提供することができる。
【１２７９０】
　また、普通図柄の低確率状態が設定されている状態で、大当たり当選すること無く特別図柄抽選が１００回実行された場合に、普通図柄の高確率状態が設定されるように構成している場合であって、普通図柄の低確率状態中に大当たり当選した場合よりも、普通図柄の高確率状態中に大当たり当選した場合のほうが、大当たり遊技終了後に普通図柄の高確率状態が設定され易くなるように構成した遊技機において、特別図柄抽選の結果を示すための変動演出として、別図柄抽選で大当たりに当選している場合のほうが、当選していない場合よりも実行され易い特定演出（例えば、リーチ演出）を実行可能に構成し、且つ、特定演出の演出態様として、大当たり遊技終了後に普通図柄の高確率状態が設定される大当たりに当選していることを示唆する第１演出態様と、単に大当たり当選を示唆する第２演出態様と、を決定可能とし、普通図柄の高確率状態が設定されるまでの特別図柄変動の残回数に関わらず、第１演出態様の特定演出が実行される頻度を固定し、第２演出態様の特定演出が実行される頻度を、普通図柄の高確率状態が設定されるまでの特別図柄変動の残回数が少なくなるほど低くするように構成しても良い。
【１２７９１】
　このように構成することで、普通図柄の高確率状態が設定される特別図柄変動回数に近付くほど、特定演出が実行された場合における第１演出態様の選択割合を高くすることができるため、普通図柄の高確率状態が設定される特別図柄変動回数に近い状態（例えば、前回の大当たり遊技終了後からの特別図柄変動回数が９０回～９９回の間）において特定演出が実行された場合であっても、遊技者を落胆させること無く、特定演出の演出結果に興味を持たせることができる。
【１２７９２】
　また、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機を成立させる特別図柄変動の実行回数を決定するための回数抽選手段を設け、その回数抽選手段の抽選結果に基づいて設定契機を成立させる特別図柄変動の実行回数を決定しても良い。この場合、例えば、回数抽選手段により決定され得る実行回数の範囲として、最も設定契機が成立し易い実行回数として、特別図柄変動の実行回数が「０」を決定可能に構成すると良い。
【１２７９３】
　このように構成することで、普通図柄の低確率状態が設定される大当たり種別が設定された場合であっても、実質、普通図柄の高確率状態が設定された場合と同一の遊技状態を設定することが可能となる。
【１２７９４】
　つまり、同一の遊技状態が設定されている状態で、同一の大当たり種別（普通図柄の低確率状態が設定される大当たり種別）が設定された場合においても、回数抽選手段の抽選結果に基づいて、大当たり遊技終了後（１回目の特別図柄変動が実行されるまで）に設定される遊技状態（普通図柄の確率状態）を異ならせることができる。
【１２７９５】
　よって、遊技者に対して、大当たり遊技終了後に設定される遊技状態を予測させ難くすることができると共に、意外性のある遊技を遊技者に提供することができる。
【１２７９６】
　また、上述した回数抽選手段が実行されるタイミングは適宜設定すれば良く、例えば、大当たり遊技が終了するタイミングでも良いし、特別図柄変動が所定回数（５０回）実行される毎に回数抽選手段を実行可能に構成しても良い。この場合、回数抽選手段の抽選結果として決定された特別図柄変動の実行回数を既に経過している場合には、回数抽選手段による抽選が実行された直後に普通図柄の高確率状態が設定されるように構成すれば良い。
【１２７９７】
　このように、特別図柄変動が所定回数（５０回）実行される毎に回数抽選手段を実行可能に構成することにより、大当たり当選すること無く特別図柄変動が複数回実行している

期間内で、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機の内容（設定契機が成立する特別図柄変動回数）を異ならせることが可能となる。よって、どのタイミングで普通図柄の高確率状態が設定されるかを遊技者に予測させ難くすることができる。なお、この場合、大当たり遊技が終了してから次の大当たりに当選するまでの間における回数抽選手段による回数抽選の実行回数に基づいて、抽選によって決定される特別図柄変動の実行回数の範囲を異ならせると良く、具体的には、回数抽選の実行回数が増加するほど、普通図柄の高確率状態が設定され易くなるように構成すると良い。このように構成することで、大当たり間で実行された特別図柄変動回数が増加するほど、普通図柄の高確率状態を設定し易くすることができるため、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうこうと抑制することができる。

【１２７９８】

加えて、上述した回数抽選手段では、普通図柄の高確率状態を設定するための設定契機が成立する特別図柄変動回数を決定するための抽選が実行されるものであったが、これに限ること無く、例えば、回数抽選手段が実行されてから、普通図柄の高確率状態が設定されるまでに要する特別図柄変動回数を決定するように回数抽選手段の内容を構成しても良い。

【１２７９９】

さらに、特別図柄変動が所定回数（５０回）実行される毎に回数抽選手段を実行する構成、即ち、特別図柄変動の実行に基づいて所定の抽選条件が成立した場合に回数抽選手段を実行可能に構成した遊技機において、上述した回数抽選手段に代えて、普図高確抽選手段を設け、この普図高確抽選手段に当選した場合に、普通図柄の高確率状態を設定するように構成しても良い。

【１２８００】

なお、普通図柄の高確率状態の設定契機としてさらに別の設定契機を設けても良く、例えば、特別図柄抽選の結果が大当たり当選以外の特定の抽選結果（例えば、小当たり当選）となった回数を計測する計測手段を設け、その計測手段の計測結果が所定の計測結果である場合に、普通図柄の高確率状態を設定する設定契機が成立するように構成しても良いし、前回の大当たり遊技が終了してからの遊技結果（出玉の増減）が所定範囲を超えた場合（例えば、出玉の減少度合いが著しく激しい場合）に普通図柄の高確率状態を設定する設定契機が成立するように構成しても良い。

【１２８０１】

さらに、普通図柄の高確率状態を設定する設定契機の成立度合い（成立のし易さ）を、過去の遊技結果に応じて異ならせても良く、例えば、過去の当選した大当たりが、遊技者に不利な大当たりに偏っている場合、即ち、遊技者に不利となる遊技が所定期間継続している場合において、普通図柄の高確率状態を設定する設定契機が成立し易くなるように構成しても良いし、遊技者に有利となる遊技が所定期間継続している場合において、普通図柄の高確率状態を設定する設定契機が成立し難くなるように構成しても良い。このように構成することで、長時間遊技を行っている遊技者に対して、過剰に不利な遊技、或いは、過剰に有利な遊技が継続して実行されてしまうことを抑制することができる。

【１２８０２】

上述した各実施形態においては、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている状態において時短終了条件が成立した場合に、通常状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の低確率状態）を設定するように構成している。そして、時短終了条件として、特別図柄変動回数が所定回数（例えば、１００回）実行された（される）場合に成立する時短終了条件が設定されるように構成している。

【１２８０３】

なお、時短終了条件の内容はこれに限ること無く、例えば、特別図柄の種別に応じて異なる時短終了条件を設定しても良く、具体的には、第１特別図柄の変動回数が第１回数実行された場合や、第２特別図柄の変動回数が第２回数実行された場合や、第１特別図柄の変動回数と第２特別図柄の変動回数との合算回数が第３回数実行された場合等で時短終了

条件が成立するように構成しても良い。
【１２８０４】
　また、特別図柄変動の実行回数に基づいて成立する時短終了条件を設定する場合には、その時短終了条件が成立する特別図柄変動回数として、様々な回数を設定可能に構成しても良く、上述した各実施形態に示した通り、特別図柄変動回数が１００回に到達した場合以外に、特別図柄変動回数が１００回よりも多い回数（例えば、２００回）実行された場合に時短終了条件が成立するように構成しても良いし、１００回よりも少ない回数（例えば、５０回）実行された場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。さらに、時短状態を設定させるために成立した設定契機（大当たり種別や特別図柄変動回数等）に応じて、時短終了条件の内容を異ならせても良く、１の設定契機が成立した場合よりも、他の設定契機が成立した場合のほうが、時短終了条件が成立し易くなるように、時短終了条件が成立する特別図柄変動回数を少なくするように構成すると良い。このように構成することで、時短状態が設定された場合において、どのタイミングで時短状態が終了するのかを遊技者に分かり難くすることができると共に、どの設定契機が成立したことに基づいて時短状態が設定されたのかについて遊技者に興味を持たせることができる。
【１２８０５】
　加えて、時短終了条件を成立させる要素として特別図柄変動の実行回数以外の要素を用いても良く、例えば、特別図柄抽選の結果が特定の抽選結果（小当たり）となった回数が所定回数に到達した場合に時短終了条件が成立するように構成しても良い。
【１２８０６】
　また、時短終了条件が成立したことに基づいて時短状態を終了させるタイミングとしては、対応する特別図柄変動（抽選）の開始タイミングでも良いし、対応する特別図柄変動の停止タイミングでも良いし、対応する特別図柄変動の次の特別図柄抽選が実行されるまでの特定タイミングでも良い。さらに、当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）の開始タイミングや、終了タイミングで時短状態を終了させても良いし、普通図柄変動の開始タイミングや停止タイミング、普図当たり遊技の開始タイミングや終了タイミングで時短状態を終了させても良い。
【１２８０７】
　この場合、何れの時短終了条件が成立した場合であっても、同一のタイミングで時短状態を終了させるように構成しても良いし、成立した時短終了条件の種別に応じて異なるタイミングで時短状態を終了させるように構成しても良く、例えば、特別図柄変動の実行回数に基づいて時短終了条件が成立した場合には、特別図柄変動に関わる所定タイミングで時短状態を終了させ、特別図柄抽選の結果に基づいて時短終了条件が成立した場合（小当たり当選等）には、その抽選結果に基づいて実行される当たり遊技（小当たり遊技、大当たり遊技）に関わる所定タイミングで時短状態を終了させるように構成すると良い。このように構成することで、成立した時短終了条件の種別に応じて、時短状態を終了させるタイミングを異ならせることができるため、時短状態がいつまで継続するのかをより分かり難くすることができる。
【１２８０８】
　上述した各実施形態では、遊技状態として、第２確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）が設定されている場合において、大当たり当選すること無く、出玉を増加させることが可能な遊技性（頻繁に発生する小当たり遊技によって出玉を増加させることが可能な遊技性）で遊技が実行されるように構成しているが、大当たり当選すること無く、出玉を増加させることが可能な遊技性として、異なる遊技性を用いることにより、他の遊技状態が設定されている状態であっても、出玉を増加させることが可能となるように構成しても良い。
【１２８０９】
　例えば、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に球が入球し易くなる入球口（例えば、右第１入球口６４ｂ２）に球が入球した場合に払い出される賞球数として多くの賞球数を設定することにより、普通図柄の高確率状態が設定されている場合に、大当たり当

選すること無く、出玉を増加させることが可能となるように構成しても良い。このように構成することで、特別図柄の大当たり当選を目指す遊技と、普通図柄の当たり当選を目指す遊技と、を遊技者に重複して実行させることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上することができる。

【１２８１０】

さらに、普通図柄の高確率状態が設定される第１遊技状態（時短状態）と、第２遊技状態（確変状態）とで、単位時間当たりにおける出玉数を異ならせるために普通図柄変動時間の長さを異ならせたり、普図当たり当選した場合に実行される普図当たり遊技の遊技期間のうち、実際に球を右第１入球口６４ｂ２へと入球させることが可能な期間の長さを異ならせたりすることができるように構成しても良く、第１遊技状態のほうが、第２遊技状態よりも、単位時間当たりにおいて多くの出玉を獲得可能に構成しても良い。

【１２８１１】

なお、普通図柄の高確率状態が設定されている状態で、大当たり当選すること無く出玉を増加させることが可能な性能を有した遊技機に対して、普通図柄の高確率状態を設定させるための設定契機として上述した設定契機（特別図柄変動回数に基づいて成立する設定契機）を設けると良い。これにより、普通図柄の低確率状態である通常状態において大当たり当選すること無く長時間の間、特別図柄変動（抽選）を実行している遊技者に対して、普通図柄の高確率状態を設定し、出玉を増加させる遊技（救済遊技）を実行させることが可能となる。よって、遊技者に対して過剰に不利な遊技結果となる遊技が実行されることを抑制することができる。

【１２８１２】

上述した通り、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）において大当たり当選すること無く実行される遊技によって出玉を増加させることが可能な構成としては、例えば、時短状態中に継続して発射される球数に対して、払い出される賞球数が同等或いは、若干（発射された球数の１倍～１．２倍程度の範囲）多くなるように構成すれば良い。このように構成することで、時短状態中の遊技が長くなり易い遊技仕様（例えば、特別図柄の大当たり確率が低い遊技仕様や、時短状態中に実行される特別図柄変動の変動パターンとして比較的長い変動時間が設定される遊技仕様）の遊技機であっても、長時間継続する時短状態中の遊技に対して遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができる。

【１２８１３】

以上、普通図柄の高確率状態に関する構成について説明をしたが、同様の内容を特別図柄の高確率状態に関する構成として適用しても良い。この場合、上述した内容の普通図柄に対応する要素を、特別図柄へと変更した内容の構成を適用すれば良い。このように構成することで、特別図柄の確率状態（低確率状態、高確率状態）に対しても、どのタイミングで設定されるかを遊技者に分かり難くすることができ、遊技の興趣を向上させることが出来る。さらに、普通図柄、特別図柄の何れに対しても、上述した内容の構成を用いても良い。

【１２８１４】

＜特別図柄の高確率状態に関する構成について＞

上述した各実施形態では、特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定される大当たり種別に応じて、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定される割合として、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別と、で同一の割合が予め規定されている構成を用いているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定可能な大当たり種別が設定されている状態（特別図柄の高確率状態を設定するための権利を獲得している状態）において、大当たり遊技中に球を特定領域へと通過させることにより、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定するように構成し、第１特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技と、第２特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技とで、大当たり遊技中に特定領域へと球を通過させることが可能な有利大当たり遊技と、大当

たり遊技中に特定領域へと球を通過させ難い不利大当たり遊技と、の実行割合を異ならせるように構成しても良い。

【１２８１５】

このように構成することで、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定される割合として、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別と、で同一の割合を予め規定している場合であっても、実際に特別図柄の高確率状態が設定される割合を、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、で異ならせることが可能となる。

【１２８１６】

なお、それ以外の構成を用いても良く、例えば、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別とで、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定される割合を異ならせて予め規定するように構成しても良い。この場合、さらに、大当たり当選した時点における遊技状態（当選時遊技状態）におうじて、同一の特別図柄種別に対して、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定される割合を異ならせるように予め規定するように構成しても良い。

【１２８１７】

また、所定の設定抽選を実行可能に構成し、その設定抽選の結果に基づいて、各特別図柄の大当たり種別に対して大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態が設定されるか否かを決定する情報を付与するように構成しても良い。つまり、予め定められている大当たり種別に対して、当該大当たり種別が設定された場合において設定される遊技状態の種別を、遊技状況に応じて異ならせるように構成しても良い。この場合、遊技状況としては、例えば、所定期間内における大当たり当選状況や、大当たり遊技間に実行された特別図柄変動回数や、遊技者が獲得している出玉量等があり、遊技状況の判別結果が、遊技者に不利な判別結果である場合のほうが、遊技者に有利な判別結果である場合よりも、特別図柄の高確率状態が設定され易くなるように構成すると良い。これにより、遊技者に対して過剰に不利な遊技結果となる遊技が実行されることを抑制することができる。

【１２８１８】

また、同様に、特別図柄の高確率状態が設定されている状態において大当たり当選した場合に、その大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定される割合に対しても、上述した内容を適用して構成しても良い。

【１２８１９】

上述した各実施形態では、特別図柄の高確率状態が設定されている状態における特別図柄抽選で大当たり当選した場合に設定される大当たり種別に応じて、大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定される割合として、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別と、で同一の割合が予め規定されている構成を用いているが、これに限ること無く、例えば、大当たり遊技終了後に特別図柄の高確率状態を設定可能な大当たり種別が設定されている状態（特別図柄の高確率状態を設定するための権利を獲得している状態）において、大当たり遊技中に球が特定領域を通過しなかったことにより、大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態を設定するように構成し、第１特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技と、第２特別図柄抽選の大当たり当選に基づいて実行される大当たり遊技とで、大当たり遊技中に特定領域へと球を通過させることが可能な有利大当たり遊技と、大当たり遊技中に特定領域へと球を通過させ難い不利大当たり遊技と、の実行割合を異ならせるように構成しても良い。

【１２８２０】

このように構成することで、大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定される割合として、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別と、で同一の割合を予め規定している場合であっても、実際に特別図柄の低確率状態が設定される割合を、第１特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、第２特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、で異ならせることが可能となる。

【１２８２１】

なお、それ以外の構成を用いても良く、例えば、第１特別図柄に対応する大当たり種別と、第２特別図柄に対応する大当たり種別とで、特別図柄の高確率状態中に当選した大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定される割合を異ならせて予め規定するように構成しても良い。この場合、さらに、大当たり当選した時点における遊技状態（当選時遊技状態）に応じて、同一の特別図柄種別に対して、大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定される割合を異ならせるように予め規定するように構成しても良い。

【１２８２２】

また、所定の設定抽選を実行可能に構成し、その設定抽選の結果に基づいて、各特別図柄の大当たり種別に対して大当たり遊技終了後に特別図柄の低確率状態が設定されるか否かを決定する情報を付与するように構成しても良い。つまり、予め定められている大当たり種別に対して、当該大当たり種別が設定された場合において設定される遊技状態の種別を、遊技状況に応じて異ならせるように構成しても良い。この場合、遊技状況としては、例えば、所定期間内における大当たり当選状況や、大当たり遊技間に実行された特別図柄変動回数や、遊技者が獲得している出玉量等があり、遊技状況の判別結果が、遊技者に有利な判別結果である場合のほうが、遊技者に不利な判別結果である場合よりも、特別図柄の低確率状態が設定され易くなるように構成すると良い。これにより、遊技者に対して過剰に有利な遊技結果となる遊技が実行されることを抑制することができる。

【１２８２３】

さらに、上述した各実施形態では、特別図柄の高確率状態を終了させるための終了条件として、特別図柄抽選の大当たり当選に基づく終了条件を設定可能に構成しており、特別図柄の高確率状態が設定された場合において、次の大当たりに当選するまで特別図柄の高確率状態が継続するように構成していたが、これ以外の終了条件を設けても良く、上述した各実施形態における普通図柄の高確率状態を終了させるための時短終了条件として用いた構成を、特別図柄の高確率状態を終了させるための終了条件として用いても良い。

【１２８２４】

具体的には、特別図柄の高確率状態が設定されてからの特別図柄変動回数が特定回数（例えば、１５０回）に到達した場合に終了条件が成立するように構成しても良い。これにより、大当たり当選する確率が高い特別図柄の高確率状態を、大当たり当選することなく終了させることが可能となるため、特別図柄の高確率状態が設定されている遊技状態を遊技している遊技者に対して、終了条件が成立するよりも前に大当たり当選させようと意欲的に遊技を行わせることができる。

【１２８２５】

また、上述した終了条件と、時短終了条件と、を両方有するように遊技機を構成しても良く、この場合、終了条件として設定される特別図柄変動の実行回数と、時短終了条件として設定される特別図柄変動の実行回数と、が異なる実行回数となるように構成すると良い。このように構成することで、各終了条件が成立する毎に遊技状態を切り替えることが可能となるため、遊技者に対して飽きの来ない遊技を提供することができる。

【１２８２６】

さらに、終了条件として設定される特別図柄変動回数として、第１変動回数と、その第１変動回数とは異なる第２変動回数と、を少なくとも含む複数の変動回数の中から１の特別図柄変動回数を設定可能に構成すると良い。このように構成することで、終了条件が成立するタイミングを遊技者に分かり難くさせることができる。

【１２８２７】

また、終了条件として設定される特別図柄変動回数を異ならせることが可能に構成した遊技機に対して、特別図柄変動回数に関わる終了条件を設定可能に構成する場合には、終了条件として設定可能な特別図柄変動回数のうち、第１変動回数を、時短終了条件が成立する特別図柄変動回数よりも少ない変動回数とし、第１変動回数とは異なる第２変動回数を、時短終了条件が成立する特別図柄変動回数よりも多い変動回数とするように構成すると良い。このように構成することで、設定される終了条件に応じて、終了条件と時短終了条件とのうち、先に成立する条件を異ならせることができる。

【１２８２８】
よって、例えば、第１確変状態（特別図柄の高確率状態、普通図柄の高確率状態）が設定されている状況において、次に設定される遊技状態が第２確変状態）（特別図柄の高確率状態、普通図柄の低確率状態）となるか、時短状態（特別図柄の低確率状態、普通図柄の高確率状態）となるかを、設定されている終了条件の内容に応じて異ならせることができるため、遊技者に対して、設定されている終了条件の内容に興味を持たせながら、次に設定される遊技状態を予測させる遊技を実行させることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。
【１２８２９】
なお、このように、終了条件や時短終了条件として異なる内容を設定可能に構成した遊技機においては、現在設定されている各条件の内容を示すための情報を、遊技者に報知可能な報知演出を実行可能に構成すると良い。このように構成することで、各条件が成立し得るタイミングや、設定されている各条件の内容を、遊技者に予測させるための情報を遊技者に付与することができるため、実行される報知演出に対して興味を持たせることができ、演出効果を高めることができる。
【１２８３０】
以上、特別図柄の高確率状態を終了させるための終了条件として、特別図柄変動の実行回数に基づいて成立する終了条件について説明をしたが、これに限ること無く、例えば、特別図柄の高確率状態を低確率状態へと移行させるための抽選（転落抽選）を、特別図柄の大当たり抽選（特別図柄抽選）とは別に実行可能に構成し、その転落抽選に当選した場合に終了条件が成立するように構成しても良い。この場合においても、転落抽選の当選確率や、特別図柄抽選が１回実行される期間における転落抽選の実行回数を異ならせることが可能に構成することで特別図柄の高確率状態中における終了条件の成立のし易さを異ならせるように構成しても良い。これにより、特別図柄の高確率状態が設定されてから終了条件が成立するタイミングを遊技者に分かり難くさせることができる。
【１２８３１】
＜高確率状態を連続して設定可能な期間に上限を設ける機能（リミット機能）について＞
特別図柄の確率状態として高確率状態と低確率状態を、普通図柄の確率状態として高確率状態と低確率状態を、それぞれ設定可能であって、設定される確率状態に応じて異なる有利度合いの遊技状態を設定可能な遊技機において、遊技者に有利となる確率状態（例えば、高確率状態）が連続して設定される回数に上限を設定し、上限に到達した場合に遊技者に有利となる確率状態（例えば、高確率状態）を、その確率状態よりも不利な確率状態（例えば、低確率状態）を強制的に設定する機能（リミット機能）を設けることで、遊技者に有利な遊技状態が過剰に設定されてしまい、遊技者に対して過剰に有利な遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。
【１２８３２】
このようなリミット機能を有する遊技機において、成立するリミット設定条件に応じて、リミット機能の発動条件を異ならせるように構成しても良く、具体的には、大当たり当選した場合に設定される大当たり種別に基づいて、リミット機能が発動し易い第１発動条件と、その第１発動条件よりも発動し難い第２発動条件と、のうち、何れかの発動条件を選択し、設定するように構成しても良い。
【１２８３３】
具体的には、特別図柄の高確率状態が連続して設定される回数に上限を設定し、上限に到達した場合に特別図柄の低確率状態を強制的に設定する確変リミット機能を有する遊技機において、大当たり種別に応じて確変リミット機能が発動するまでの上限値を異ならせて設定可能に構成し、第１大当たり種別が設定された場合には上限が「５回」、第１大当たり種別とは異なる第２大当たり種別が設定された場合には上限が「３回」となるように発動条件を設定可能に構成すると良い。
【１２８３４】

このように構成することで、発動条件として設定された値に応じて、遊技者に有利な遊技状態で遊技を継続して実行可能な有利遊技期間の長さを、設定される大当たり種別に基づいて異ならせることができる。

【１２８３５】

なお、上述した例では、特別図柄の高確率状態に対するリミット機能（確変リミット機能）について説明をしたが、これに限ること無く、普通図柄の高確率状態に対するリミット機能（時短リミット機能）に対して上述した内容を適用しても良いし、各リミットに対して、上述下内容を複合させて適用しても良い。さらに、図柄種別の確率状態として、低確率状態のほうが高確率状態よりも遊技者に有利な遊技状態となり得る遊技仕様の遊技機に対しては、低確率状態が連続して設定される回数に対して上限を設定し、上限に到達した場合に高確率状態を強制的に設定するリミット機能を設けても良い。

【１２８３６】

加えて、上述した例では、遊技者に過剰に有利な遊技の実行を抑制することを目的として上述したリミット機能を用いているが、リミット機能を他の目的のために用いても良く、例えば、遊技者に不利な遊技状態（低確率状態）が連続して設定される回数に上限を設け、上限に到達した場合に、遊技者に有利な遊技状態（高確率状態）を強制的に設定するリミット機能を設けても良い。このように構成することで、遊技者に過剰に不利な遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【１２８３７】

＜特定領域を球が通過したことに基づいて当たり遊技を実行可能な構成について＞

上述した各実施形態では、特別図柄抽選にて大当たり当選した場合に、大当たり遊技を実行可能に構成していた。遊技者に有利な大当たり遊技の実行契機として別の実行契機を設けても良く、例えば、球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと球が入球したことに基づいて動作条件が成立した場合に、第１状態と、その第１状態とは異なる第２状態とに可変可能な可変パターンで開放動作される可変手段と、その可変手段が第１状態へと可変された場合に、第２状態へと可変された場合よりも球が入球し易い第２入球手段と、その第２入球手段へと入球した球が通過可能な特定領域と、その特定領域へと球が通過したことに基づいて大当たり遊技を実行可能な大当たり遊技実行手段と、を有する構成、即ち、球が特定領域を通過したことに基づいて大当たり遊技の実行契機が成立するように構成した遊技機（所謂、２種仕様）としても良い。このように構成することで、第２入球手段へと入球した球の挙動によって、大当たり遊技が実行されるか否かが決定されるため、遊技者に対して球の挙動を楽しませることができる。

【１２８３８】

なお、このような２種仕様の遊技機において、上述した入球手段へと球が入球したことに基づいて動作条件が成立するように構成しても良いし、入球手段へと球が入球したことに基づいて動作抽選を実行し、その動作抽選に当選した場合に動作条件が成立するように構成しても良く、前者の場合は、入球手段へと球が入球したことにより必ず動作条件を成立させることができるため、遊技者に対して球の挙動に興味を持たせ易くすることができる。一方、後者の場合は、入球手段へと球が入球したとしても動作抽選で当選しない限り動作条件が成立しないため、入球手段への球の入球頻度を高めることができる。

【１２８３９】

さらに、上述した２種仕様の遊技機において、第２入球手段へと入球した球の流路として、特定領域を通過可能な第１流路と、その第１流路よりも特定領域を通過困難な第２流路とを少なくとも含む複数の流路を設け、さらに、第２入球手段へと入球した球を複数の流路の何れかへと振分可能な振分手段を設け、その振分手段の振分状況に応じて第２入球手段に入球した球が特定領域を通過する割合を可変させるように構成しても良い。

【１２８４０】

このように構成することで、振分手段の振分状況によって、大当たり遊技の実行契機の成立度合いを異ならせることができるため、第２入球手段へと入球した球がどのタイミングで振分手段へと到達するのかに興味を持たせることができる。

【１２８４１】
上述した通り、振分手段の振分状況によって、大当たり遊技の実行契機の成立度合いを異ならせることが可能な構成を有する遊技機においては、振分手段の振分動作内容として、パチンコ機１０に電源が投入されてから常時一定の動作が実行されるように構成しても良いし、入球手段への球の入球、動作条件の成立、或いは、第２入球手段への球の入球の何れかに基づいて、常時一定の動作が実行されるように構成しても良い。
【１２８４２】
さらに、振分手段の振分動作内容を成立条件に応じて異ならせても良く、例えば、動作抽選に当選した場合における当選種別に応じて、特定領域を球が通過し易い第１振分動作内容と、第１振分動作内容よりも特定領域を球が通過し難い第２振分動作内容とを少なくとも含む複数の振分動作内容のうち何れかの振分動作内容を決定し、振分手段を動作させるように構成しても良い。
【１２８４３】
また、特別図柄抽選で大当たり当選した場合と、特定領域を球が通過した場合と、の何れにおいても大当たり遊技の実行契機が成立可能に構成された遊技機（所謂、１種２種混合仕様）において、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技中に、球が特定領域を通過することにより、実行中の大当たり遊技の実行期間を延長可能、換言すれば、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技中に、球が特定領域を通過することにより、実行中の大当たり遊技が途中で終了すること無く継続可能となるように構成しても良い。即ち、特別図柄抽選で大当たり当選したことに基づいて実行される大当たり遊技中に、球が特定領域を通過しなかった場合には、実行中の大当たり遊技が延長されない（強制的に終了される）ように構成しても良い。
【１２８４４】
このように構成することで、特別図柄抽選の結果と、特定領域に向けて流下する球の挙動との両方に対して遊技者に興味を持たせることができる。
【１２８４５】
＜球の落下方向に変化を与えるための構成について＞
パチンコ機１０に構成される遊技盤１３に形成される遊技領域を流下する球の流下方向（落下方向）に変化を与えるための構成として、上述した各実施形態にて用いた釘部材、即ち、重力方向に逆らうことの無い範囲で球の流下方向に変化を与えることが可能な部材とは別に、重力方向とは異なる方向（例えば、上昇方向）に向けて球を移動させるための手段を設けても良く、例えば、電気的駆動源を用いたり、他の球の移動エネルギーを用いたりすることで、重力方向とは異なる方向（例えば、上昇方向）に向けて球を移動させる（例えば、上昇させる）ための移動手段を設けても良い。
【１２８４６】
このように構成することで、遊技領域を流下する球の移動方向を、重力方向とは異なる方向も含めた様々な方向にすることができるため、球の挙動を注視する遊技者に対して意外性のある球の移動を提供することができる。また、遊技領域の最下流付近に到達した球、即ち、遊技者に特典が付与される入球口へと入球しなかった球を、遊技領域の上流側へと移動（上昇）させることが可能となるため、１の球の挙動に対して最後まで遊技者に期待を持たせることができる。
【１２８４７】
さらに、例えば、球が通過可能なゲート部材を遊技領域に設け、そのゲート部材を球が通過した場合に所定の特典を付与可能に構成した遊技機において、そのゲート部材を通過した球が到達し得る領域に移動手段を設け、移動手段によってゲート部材よりも上方に球が排出されるように構成すると良い。このように構成することで、１の球によって複数の特典を遊技者に付与可能という斬新な遊技性を提供することが可能となる。
【１２８４８】
また、上述した移動手段を、当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）中に球が入球し易くなる領域（例えば、当たり遊技中に開放される入賞装置の内部領域）に設けても良

い。このように構成することで、入賞装置の内部において球を上昇させることが可能となるため、例えば、大当たり遊技の特定ラウンド中に球を特定領域へと通過させることで遊技者に有利な特典を付与可能に構成された遊技機において、特定ラウンドよりも前のラウンドで入賞装置へと入賞した球を、移動手段によって上昇させることで、所定期間の間、滞留させ、滞留されている球が排出されるタイミングに応じて、特定ラウンド中に特定領域を通過可能に構成することが可能となる。

【１２８４９】

このように、球を所定期間の間、特定の領域範囲内で滞留させるために移動手段を用いても良い。このように構成することで、特定の領域範囲内から球が排出されるタイミングを遊技者に予測させ難くすることができる。

【１２８５０】

＜入球口への球の入球に作用して、別の入球口を開放させる構成について＞

遊技球が入球可能な第１作動口と、その第１作動口へと遊技球が入球したことに作用して、第１作動口へと遊技球が入球し易くなる第１状態に作動する第１作動部材と、を設け、第１作動部材が、第１作動口へと所定数（例えば、２個）の遊技球が入球したことに作用して、第１状態よりも第１作動口へと遊技球が入球し難くなる第２状態へと作動するように構成する。

【１２８５１】

そして、第１作動口へと入球した遊技球が特定領域に入球したことに作用して、第１作動口とは異なる第２作動口へと遊技球が入球可能な第３状態へと作動する第２作動部材を設ける。この第２作動部材は、第２作動口へと所定数（例えば、１個）の遊技球が入球した場合に第３状態よりも第２作動口へと遊技球が入球し難い第４状態へと作動するように構成する。

【１２８５２】

このように構成することにより、第１作動口へと遊技球が入球したことに基づいて、第２作動部材が第３状態へと作動することにより第２作動口へと遊技球を入球させることが可能となり、その状態で第２作動口へと遊技球を１個入球させることにより第２作動部材が第４状態へと作動する。そして、第１作動部材が第１状態である第１作動口へと再度遊技球を入球させることにより、第２作動部材を再度第３状態へと再度作動させ、第２作動口へと遊技球を入球させることが可能となる。

【１２８５３】

より具体的には、第１作動部材が第２状態である状態で第１作動口へと遊技球を入球させた場合に、最大で４個の球を作動口（第１作動口、第２作動口）へと入球させることが可能になる。さらに、第２作動口へと入球した遊技球が、第２特定領域へと入球したことに基づいて第１当否抽選（第１普通図柄の抽選）を実行し、第１当否抽選の結果が当たり当選（当たり確率約１／２）である場合に、第１可変入球手段への遊技球の入球を規制可能な第１普通電動役物を第１閉鎖条件（例えば、５．８秒経過、或いは、４個入賞）が成立するまで開放動作（第１可変入球手段への遊技球の入球を許容可能な状態へと可変）させる。そして、第１可変入球手段に入球した遊技球が入球可能な第３特定領域へと入球したことに基づいて、第２当否抽選（第２普通図柄抽選）を実行し、第２当否抽選の結果が当たり当選（当たり確率約１／１）である場合に、第２可変入球手段への遊技球の入球を規制可能な第２普通電動役物を第２閉鎖条件（例えば、５．８秒経過、或いは、４個入賞）が成立するまで開放動作（第２可変入球手段への遊技球の入球を許容可能な状態へと可変）させる。そして、第２可変入球手段に入球した遊技球が入球可能な第４特定領域へと入球したことに基づいて、第３当否抽選（第３普通図柄抽選）を実行し、第３当否抽選の結果が当たり当選（当たり確率約１／１）である場合に、第３可変入球手段への遊技球の入球を規制可能な第３普通電動役物を第３閉鎖条件（例えば、５．８秒経過、或いは１０個入賞）が成立するまで開放動作（第３可変入球手段への遊技球の入球を許容可能な状態へと可変）させるように構成すると良い。

【１２８５４】

この場合、第１作動口へと遊技球を入球（入賞）させたことに基づいて各作動口へと入賞させることが可能となる遊技球の最大入賞数を、第１作動口への最大入賞数「２」に、第１作動口への最大入賞数（２）に対して、第１作動口へと遊技球を入賞させる毎に、入賞可能となる第２作動口への最大入賞数（１）を乗じた値「２」を加算させた「４」と算出しても良いし、第１作動口へと遊技球を入球（入賞）させたことに基づいて実行される当たり遊技（複数の普通電動役物を用いた当たり遊技）が実行されるまでの期間において各作動口へと入賞させることが可能となる遊技球の数を最大入賞数、即ち、当たり遊技を１回実行させるまでに要する入賞数（第１作動口への入球数「１」に、第２作動口への入球数「１」を加算した「２」）として算出するように構成しても良いし、第１作動口への最大入賞数に、第１作動口への最大入賞数に対して、第１作動口へと遊技球を入賞させる毎に、入賞可能となる第２作動口への最大入賞数を除した値を加算させたものを最大入賞数としても良い。

【１２８５５】

そして、最大入賞数が予め定められた制限数に到達した場合に当たり遊技を終了させるように構成し、切替条件が成立したことに基づいて、制限数に到達したか否かを判別する際に算出される最大入賞数の値を、上述した様々な算出式により算出された値（最大入賞数）の中から切り替えて参照するように構成しても良い。そして、切り替えられた値が制限数に到達していない場合は、切り替えた後の最大入賞数が制限数に到達するまで当たり遊技を延長可能に構成しても良い。

【１２８５６】

つまり、算出後の値を異ならせることが可能な様々な算出式を用いて、第１作動口へと遊技球が入賞した場合において一連の遊技の流れで複数の作動口へと入賞させることが可能な遊技球数が制限数となるように各作動口への最大入賞数を規定しておき、条件に応じて、最大入賞数を特定するための算出式を異ならせて特定し、特定した算出式に対応して規定された各作動口への最大入賞数に基づいて当たり遊技を実行するように構成しても良い。

【１２８５７】

このように構成することで、特定された算出式によって、当たり遊技の内容（各作動口、各可変入球手段への合計入賞数）を異ならせることができる。

【１２８５８】

また、上述した最大入賞数の値を条件に応じて異ならせるように構成しても良く、例えば、第１条件が成立した場合には、第１作動口への最大入賞数を「２」から「３」へと変更し、第１条件とは異なる第２条件が成立した場合には、第１作動口への最大入賞数を「２」から「１」へと変更するように構成しても良い。このように構成することで、成立する条件に応じて、第１作動口へと遊技球が入球したことを契機に実行される当たり遊技（各作動口、可変入球手段へと遊技球を入球させる遊技）の内容を異ならせることができるため、遊技者に有利な有利成立条件（当たり遊技中に付与される賞球数の合計が多くなる設定がされる成立条件）が成立すること、及び有利成立条件が成立している状態で当たり遊技が実行されることを期待させながら遊技を行わせることができる。

【１２８５９】

＜複数段階の設定値を設定可能な遊技機について＞

大当たり抽選に係る確率の組み合わせ（通称、設定と称される）が複数段階設けられ、遊技店側で設定を変更することが可能に構成されているパチンコ機として実施してもよい。

【１２８６０】

なお、複数段階の設定が設けられているパチンコ機としては、大当たり確率の組み合わせ（低確率状態における大当たり確率と、確変状態における大当たり確率との組み合わせ）を複数段階（例えば、６段階）のいずれかに設定することが可能なものが代表例として挙げられるが、これに限られるものではない。大当たり確率の組み合わせに代えて、又は加えて、例えば、大当たりとなった場合に決定される各大当たり図柄（各大当たり種別）

の割合を、設定に応じて可変させることが可能なパチンコ機として実施してもよい。即ち、設定に応じて遊技者に有利な種別の大当たりが決定される割合を可変させたり、遊技者に不利な種別の大当たりが決定される割合を可変させたりしてもよい。より具体的には、例えば、ラウンド数が多い（例えば、１６ラウンドの）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、ラウンド数が少ない（例えば、２ラウンドの）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりすることにより、設定毎の有利度合いを可変させる構成としてもよい。また、例えば、大当たり終了後に多い時短回数（例えば、１００回）が付与される大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、少ない時短回数（例えば、０回）が付与される大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりしてもよい。更に、大当たり終了後に有利な遊技状態（例えば、確変状態）へと移行する（若しくは移行し易い）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、不利な遊技状態（例えば、通常状態）へと移行する（若しくは移行し易い）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりしてもよい。また、特定の設定でのみ決定される割合が大幅に高くなる（他の設定ではほぼ決定されることがない）大当たり種別を設ける構成としてもよい。具体的には、例えば、設定を１から６の６段階で設定可能に構成しておき、最も有利な設定を設定６とする。そして、設定６では、大当たりとなった場合に２％の割合でラウンド数が６ラウンドの大当たりが決定される一方で、他の設定では０．０１％の割合でしか６ラウンドの大当たりが決定されない構成としてもよい。このように構成することで、大当たりが６ラウンドで終了した時点で、最も有利な設定６である可能性が極めて高くなるので、遊技者に対して大当たりのラウンド数に注目して遊技を行わせることができる。また、これに代えて、又は加えて、例えば、設定６では、大当たり終了後に６６回の時短回数が付与される大当たり種別となる割合が他の設定よりも高くなるように構成してもよい。このように構成することで、時短状態が終了する回数に注目して遊技を行わせることができる。また、これらに代えて、又は加えて、例えば、大当たり遊技の実行中に他の大当たり種別とは異なる作動パターンで大入賞口（若しくは大入賞口の内部の役物等）が作動する大当たり種別を設ける構成とし、当該大当たり種別が特定の設定で決定され易くなる（決定される割合が高くなる）ように構成してもよい。また、大当たりの確率の組み合わせを設定に応じて可変させる場合において、低確率状態では、遊技者に有利な設定であるほど大当たり確率を高くする一方で、確変状態では、遊技者に不利な設定であるほど大当たり確率を高くする構成としてもよい。本構成は、特に、確変状態において、特別図柄の抽選回数が多くなる程持ち球を増加させ易い（発射された遊技球の数よりも、払い出される賞球数の方が多くなり易い）タイプの遊技機において有効である。より具体的には、例えば、確変状態が次に大当たりに当選するまで継続する構成であり、且つ、確変状態では高確率で小当たりとなるタイプの遊技機に適用することで、高設定の優位性をより高めることができる。即ち、確変状態において大当たりとなる確率が低いと、次に大当たりとなるまでの抽選回数が多くなり易いので、小当たりとなって賞球を獲得する機会も多くなる。よって、確変状態になると、次に大当たりとなるまでの間により多くの賞球を獲得し易くなるので、遊技者にとって有利となる。

【１２８６１】

また、複数段階の設定値が設けられているパチンコ機において、設定された設定値を変更することにより、特別図柄抽選によって当たり当選（大当たり当選、小当たり当選等）する確率を異ならせる構成以外の構成を用いても良く、例えば、特別図柄抽選で当たり当選する確率として第１確率が設定される第１遊技状態（特別図柄の低確率状態）と、その第１確率よりも当たり当選する確率が高い第２確率が設定される第２遊技状態（特別図柄の高確率状態）と、を設定可能な遊技機であって、第２遊技状態が継続する期間として特定期間、例えば、特別図柄抽選の実行回数が所定回数となるまで継続する期間や、所定の終了抽選（所謂、転落抽選）に当選するまでの期間が設定される場合において、設定された設定値に応じて特定期間の長さを異ならせるように構成しても良く、例えば、遊技者に有利な設定値が設定された場合のほうが、遊技者に不利な設定値が設定された場合よりも、第２遊技状態が継続する特定期間が長くなり易くなるように構成しても良い。

【１２８６２】
　このように構成することで、特別図柄抽選の当たり確率を設定値に応じて変更する構成を用いなくても、第２遊技状態が継続する長さを異ならせることで、設定された設定値に応じて特別図柄抽選による当たり当選頻度を異ならせることができる。
【１２８６３】
　上述した例では、複数段階の設定値が設けられているパチンコ機において、遊技状況に関わらず遊技者に有利な設定値と、遊技者に不利な設定値と、を設定可能に構成した例を示しているが、これに限ること無く、パチンコ機１０において設定される各種遊技状況（例えば、特別図柄の確率状態と普通図柄の確率状態との組合せにより設定される複数種類の遊技状態のうち、特定の遊技状態が設定されている遊技状況、大当たり遊技が実行されている遊技状況、小当たり遊技が実行されている遊技状況）のうち、少なくとも１の遊技状況において、遊技者に有利となる設定値と、遊技者に不利となる設定値と、を設定可能に構成しても良いし、特定の設定値が設定されている場合のほうが、特定の設定値以外の所定の設定値が設定されている場合よりも、特定の遊技状況において遊技者に有利となり、特定の設定値が設定されている場合よりも、特定の設定値以外の所定の設定値が設定されている場合のほうが、特定の遊技状況以外の所定の遊技状況において遊技者に有利となるように各設定値に対応して設定される遊技の内容を規定しても良い。
【１２８６４】
　このように構成することで、設定されている設定値に対して、絶対的な有利不利が排除され、実行される遊技状況に応じて各設定値の相対的な有利度合いを切り替えることが可能となるため、どのような設定値が設定されている場合であっても、遊技者に意欲的に遊技を行わせることができる。
【１２８６５】
　また、設定されている設定値を把握した遊技者に対して、設定されている設定値が他の設定値よりも相対的に有利となる遊技状況における遊技を期待させながら遊技を行わせることができる。つまり、設定されている設定値に応じて遊技者が所望する遊技状況として異なる遊技状況を設定することが可能となる。よって、遊技者が早期に飽きることの無い遊技を提供することができる。
【１２８６６】
　なお、上述した例では、設定された設定値に応じて遊技者の有利度合いを異ならせることを目的とした構成について説明をしたが、それ以外の目的で複数段階の設定値を設けるように構成しても良く、例えば、遊技者への有利度合いを変えること無く、その有利度合いに対応した特典が遊技者に付与されるまでの遊技過程が設定値に応じて異なるように構成しても良く、例えば、設定されている設定値に応じて特別図柄の大当たり確率を異ならせたパチンコ機１０において、所定期間内に大当たり当選する確率（期待度）が設定値によって異ならない（大きく相違しない）ように、設定値に応じて所定期間の長さを異ならせても良く、例えば、設定値「１」が設定された場合には、特別図柄抽選が１０回実行されるまでの特定期間の間、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が１／１０となる遊技（特定期間中に大当たり当選する確率が、約６５％）を実行可能にし、設定値「６」が設定された場合には、特別図柄抽選が９回実行されるまでの特定期間の間、特別図柄抽選で大当たり当選する確率が１／９となる遊技（特定期間中に大当たり当選する確率が、約６５％）を実行可能に構成すると良い。
【１２８６７】
　このように構成することで、各設定値に応じて特別図柄抽選の大当たり確率を変更した場合であっても、遊技者への有利度合いを大きく変えること無く、遊技内容のみを異ならせることが可能となる。よって、遊技者に対して多様な遊技を実行させることができる。
【１２８６８】
　また、上述した複数段階の設定値をパチンコ機への電源投入に基づく処理（初期設定処理）の一環として設定（変更）可能に構成すると良い。このように構成することで、パチンコ機に電源が投入されている状況において設定値が変更されることを抑制することがで

きるため、例えば、遊技中の遊技者が不正に設定値を操作するという不正遊技が行われ難くすることができる。

【１２８６９】

なお、設定値を設定（変更）可能なタイミングとして、それ以外のタイミングを用いても良く、例えば、パチンコ機の遊技結果として、出玉（パチンコ機から払い出された球数からパチンコ機での遊技に用いた球数を差し引いた値）が上限数以上払い出されたことに基づいて現在設定されている設定値から異なる設定値（遊技者に不利となる設定値）へと変更させたり、出玉（パチンコ機から払い出された球数からパチンコ機での遊技に用いた球数を差し引いた値）が下限数よりも払い出されなかったことに基づいて現在設定されている設定値から異なる設定値（遊技者に有利となる設定値）へと変更させたりするように構成しても良い。このように構成することで、遊技者に対して過剰に有利な遊技や、過剰に不利な遊技が実行されてしまうことを抑制することができる。

【１２８７０】

上記各実施形態では、主制御装置１１０において特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｂの値（ＡＮ）が更新される度（即ち、増加した場合や、減少した場合にそれぞれ）に、保留球数コマンドを主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へ送信する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、主制御装置１１０において特別図柄１保留球数カウンタ２０３ｂの値（ＡＮ）が増加する場合だけ、保留数コマンドを主制御装置１１０から音声ランプ制御装置１１３へ送信する。また、音声ランプ制御装置１１３では、主制御装置１１０より送信された変動パターンコマンドを受信すると、特別図柄２保留球数カウンタ２２３ｂ２の値を１減らすように構成する。これにより、主制御装置１１０が音声ランプ制御装置１１３へ保留数コマンドを送信する回数と、音声ランプ制御装置１１３が保留数コマンドを受信する回数とをそれぞれ減らすことができるので、主制御装置１１０および音声ランプ制御装置１１３の制御的負担を軽減することができる。

【１２８７１】

上記各実施形態においては、第１入球口６４への入賞は最大４回まで、スルーゲート６７の通過は最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留球数はこれに限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定してもよい。また、第１入球口６４への入賞に基づく変動表示の保留球数を、第３図柄表示装置８１の一部において、数字で、或いは、４つに区画された領域を保留球数分だけ異なる態様（例えば、色や点灯パターン）にして表示するようにしてもよく、第１図柄表示装置３７とは別体でランプ等の発光部材を設け、該発光部材によって保留球数を通知するように構成してもよい。

【１２８７２】

また、上記各実施形態に示すように、動的表示の一種である変動表示は、第３図柄表示装置８１の表示画面上で識別情報としての図柄を縦方向にスクロールさせるものに限定されず、縦方向あるいはＡＬ字形等の所定経路に沿って図柄を移動表示して行うものであってもよい。また、識別情報の動的表示としては、図柄の変動表示に限られるものではなく、例えば、１又は複数のキャラクタを図柄と共に、若しくは、図柄とは別に多種多様に動作表示または変化表示させて行われる演出表示なども含まれるのである。この場合、１又は複数のキャラクタが、第３図柄として用いられる。また、特別図柄の抽選結果を示すための第３図柄の動的表示の表示態様と、普通図柄の抽選結果を示すための装飾図柄の動的表示の表示態様と、を遊技者が識別困難となるように、例えば、表示制御装置１１４が有する共通の画像データを用いて各表示態様を設定するように構成しても良い。

【１２８７３】

上述した各実施形態では、遊技者に各図柄の抽選結果を示すための第３図柄表示を１つの表示手段（第３図柄表示装置８１）にて実行しているが、それ以外の構成を用いてもよく、例えば、第３図柄のうち、遊技者に強調して表示される主図柄を表示する表示手段と、従図柄を表示する表示手段とで異なる表示手段を設けてもよい。また、表示手段の構成

として、液晶ディスプレイ以外の構成を用いても良い。
【１２８７４】
上述した各実施形態では、遊技状態に応じて遊技盤１３の狙う領域（遊技領域）を異ならせるように構成しているが、これに限られること無く、遊技者に有利となる遊技状態（時短状態）の場合と、その時短状態よりも遊技者に不利となる遊技状態（通常状態）の場合とで、遊技盤１３の左側領域を狙う左打ち遊技が実行されるように構成しても良い。また、時短状態中に左打ち遊技を実行させ、通常状態中に右打ち遊技を実行させてもよい。
【１２８７５】
上述した各実施形態では、遊技者が操作可能な操作手段として、遊技者が押下動作することにより、操作手段が操作されたことが判別される枠ボタン２２を用いているが、それ以外の構成を用いてもよく、遊技者が左右または前後に傾倒させることで操作されたことを判別可能なレバー状に構成された操作手段や、遊技者が接触または近接したで操作されたことを判別可能なタッチセンサ式の操作手段や、所定の電波を発信することで操作されたことを判別可能な無線式の操作手段等を用いても良い。また、枠ボタン２２を音声ランプ制御装置１１３に対して電気的に接続させており、枠ボタン２２を、パチンコ機１０にて実行される演出の演出態様を、遊技者の操作に基づいて可変させるための演出用操作手段として用いているが、枠ボタン２２に対する遊技者の操作に基づいてパチンコ機１０で実行される各種演出の演出態様を可変させることができれば良く、例えば、枠ボタン２２を表示制御装置１１４に対して電気的に接続させても良いし、操作手段（枠ボタン２２）からの出力信号を入力可能にし、表示制御装置１１４、音声ランプ制御装置１１３、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７へと出力可能な演出設定信号を生成可能な制御装置を設けても良い。このように構成することで、演出用操作手段を複数設けた場合であっても、複数の演出用操作手段から出力される出力信号（操作信号）を集中管理することができるため、演出用操作手段への遊技者の操作に対する演出態様を円滑に設定することができる。
【１２８７６】
大当たり種別の振り分け（割合）や、大当たり終了後の時短回数や確変回数（ＡＳＡＴ回数）、大当たり確率や小当たり確率、普通図柄の当たり確率、各入賞口への入賞に対する賞球数や、確変リミット回数等の遊技の仕様に関する数値（確率）は、上記各実施形態の数値に限定されるものではなく、各実施形態の趣旨を変更しない範囲で任意に変更することができる。有利な大当たり種別の割合を高くしたり、時短回数やＡＳＡＴ回数を多くしたり、大当たり確率や小当たり確率を高くしたり、賞球数を多くしたり、確変リミット回数を多くすることで、遊技者の有利度合いをより高めることができる。また、逆に、有利な大当たり種別の割合を低くしたり、時短回数やＡＳＡＴ回数を少なくしたり、大当たり確率や小当たり確率を低くしたり、賞球数を少なくしたり、確変リミット回数を少なくすることで、遊技者にとって過剰に有利となってしまうことを抑制することができる。
【１２８７７】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、ＡＶゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。また、大当たり抽選に係る確率の組み合わせ（通称、設定と称される）が複数段階設けられ、遊技店側で設定を変更することが可能に構成されているパチンコ機として実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしてもよい。
【１２８７８】

なお、複数段階の設定が設けられているパチンコ機としては、大当たり確率の組み合わせ（低確率状態における大当たり確率と、確変状態における大当たり確率との組み合わせ）を複数段階（例えば、６段階）のいずれかに設定することが可能なものが代表例として挙げられるが、これに限られるものではない。大当たり確率の組み合わせに代えて、又は加えて、例えば、大当たりとなった場合に決定される各大当たり図柄（各大当たり種別）の割合を、設定に応じて可変させることが可能なパチンコ機として実施してもよい。即ち、設定に応じて遊技者に有利な種別の大当たりが決定される割合を可変させたり、遊技者に不利な種別の大当たりが決定される割合を可変させたりしてもよい。より具体的には、例えば、ラウンド数が多い（例えば、１６ラウンドの）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、ラウンド数が少ない（例えば、２ラウンドの）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりすることにより、設定毎の有利度合いを可変させる構成としてもよい。また、例えば、大当たり終了後に多い時短回数（例えば、１００回）が付与される大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、少ない時短回数（例えば、０回）が付与される大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりしてもよい。更に、大当たり終了後に有利な遊技状態（例えば、確変状態）へと移行する（若しくは移行し易い）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたり、不利な遊技状態（例えば、通常状態）へと移行する（若しくは移行し易い）大当たりが決定される割合を、設定に応じて可変させたりしてもよい。また、特定の設定でのみ決定される割合が大幅に高くなる（他の設定ではほぼ決定されることがない）大当たり種別を設ける構成としてもよい。具体的には、例えば、設定を１から６の６段階で設定可能に構成しておき、最も有利な設定を設定６とする。そして、設定６では、大当たりとなった場合に２％の割合でラウンド数が６ラウンドの大当たりが決定される一方で、他の設定では０．０１％の割合でしか６ラウンドの大当たりが決定されない構成としてもよい。このように構成することで、大当たりが６ラウンドで終了した時点で、最も有利な設定６である可能性が極めて高くなるので、遊技者に対して大当たりのラウンド数に注目して遊技を行わせることができる。また、これに代えて、又は加えて、例えば、設定６では、大当たり終了後に６６回の時短回数が付与される大当たり種別となる割合が他の設定よりも高くなるように構成してもよい。このように構成することで、時短状態が終了する回数に注目して遊技を行わせることができる。また、これらに代えて、又は加えて、例えば、大当たり遊技の実行中に他の大当たり種別とは異なる作動パターンで大入賞口（若しくは大入賞口の内部の役物等）が作動する大当たり種別を設ける構成とし、当該大当たり種別が特定の設定で決定され易くなる（決定される割合が高くなる）ように構成してもよい。また、大当たりの確率の組み合わせを設定に応じて可変させる場合において、低確率状態では、遊技者に有利な設定であるほど大当たり確率を高くする一方で、確変状態では、遊技者に不利な設定であるほど大当たり確率を高くする構成としてもよい。本構成は、特に、確変状態において、特別図柄の抽選回数が多くなる程持ち球を増加させ易い（発射された遊技球の数よりも、払い出される賞球数の方が多くなり易い）タイプの遊技機において有効である。より具体的には、例えば、確変状態が次に大当たりに当選するまで継続する構成であり、且つ、確変状態では高確率で小当たりとなるタイプの遊技機に適用することで、高設定の優位性をより高めることができる。即ち、確変状態において大当たりとなる確率が低いと、次に大当たりとなるまでの抽選回数が多くなり易いので、小当たりとなって賞球を獲得する機会も多くなる。よって、確変状態になると、次に大当たりとなるまでの間により多くの賞球を獲得し易くなるので、遊技者にとって有利となる。

【１２８７９】

さらに、複数段階の設定を設定可能なパチンコ機１０においては、設定されている設定値に基づいて、主制御装置１１０にて変動パターンを選択する際に参照される変動パターン選択テーブル２０２ｂの種別を異ならせたり、音声ランプ制御装置１１３にて第３図柄の変動パターン（変動演出）を選択する際に参照される変動パターン選択テーブル２２２ａの種別を異ならせたり、変動演出として実行される詳細な演出態様を選択する際に参照される各種選択テーブルの種別を異ならせたりするように構成すると良い。このように構

成することで、実行される変動演出の内容に応じて、パチンコ機１０に設定されている設定値を予測することが可能となるため、遊技者が興味を持つ変動演出を実行することができる。

【１２８８０】

また、操作演出の演出態様を選択する際に参照されるデータテーブルを、パチンコ機１０に設定されている設定値に基づいて異ならせる場合には、操作演出の演出態様として、設定されている設定値を示唆するための「設定示唆」の演出態様を、各設定値に対して用いられる各データテーブルで選択割合が同一となるように規定しておき、「設定示唆」の演出態様で実行される操作演出の演出内容を、各設定値に応じて異ならせるように構成し、その他の演出態様の選択割合を設定値に応じて可変させるように構成すると良い。このように構成することで、設定値を直接示唆する「設定示唆」の操作演出が実行された場合には、その演出内容を、それ以外の操作演出が実行された場合には、各演出態様の選択割合を、複合的に把握することにより、パチンコ機１０に設定されている設定値を予測することが可能となるため、実行される様々な操作演出に対して遊技者に興味を持たせることができる。

【１２８８１】

さらに、上述した通り、操作演出における各演出態様の選択割合は、設定されている遊技状態に応じても異ならせるように構成しているため、例えば、遊技者に不利となる設定「１」から遊技者に有利となる設定「６」までの６段階で設定値を設定可能なパチンコ機１０において、設定「１」～「３」が設定されており、且つ、遊技者に有利な第１遊技状態（確変状態）が設定されている場合に選択される操作演出の選択割合と、設定「４」～「６」が設定されており、且つ、第１遊技状態よりも遊技者に不利な第２遊技状態（時短状態）が設定されている場合に選択される操作演出の選択割合とを同一にすることで、遊技者に不利となる設定値が設定されているパチンコ機１０を遊技している遊技者に対しても、遊技者に有利となる設定値が設定されているのではと思わせることができる。

【１２８８２】

このように、パチンコ機１０に設定されている設定値と、その他の遊技状況（大当たりの抽選結果、設定されている遊技状態、選択された変動パターン（変動時間））とに基づいて演出態様の選択割合を可変させるように構成することで、パチンコ機１０に設定されている設定値を遊技者に容易に判別されてしまうことを抑制することができる。

【１２８８３】

また、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１２８８４】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用す

れば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【１２８８５】

上記した各実施形態について、その全部またはその一部を組み合わせて構成してもよい。

【１２８８６】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【１２８８７】

＜経路構成手段を通る球が被通過手段の目隠しになるポイント＞

遊技球が流下可能に構成される経路構成手段と、その経路構成手段を流下した遊技球が通過可能に構成される被通過手段と、を備え、前記経路構成手段は、所定方向視における、前記被通過手段の上流側で前記経路構成手段を流下する第１の遊技球の手前側で、その第１の遊技球の少なくとも一部と重なる位置に配置可能な変位可能手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＡ１。

【１２８８８】

パチンコ機等の遊技機において、球検出孔４３１へ向けた遊技球の流下経路を複数種類構成可能な大入賞部品３００を備え、球検出孔４３１付近が化粧板３０２によって認識し難く構成される遊技機がある（例えば、特開２０１７－１８５０２１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、化粧板３０２により常に球検出孔４３１を認識し難く構成されているので、球検出孔４３１への入球を確認して遊技球の発射の継続または停止を行うという遊技態様に対応できず、遊技者が不満に感じる可能性があった。即ち、遊技球の発射操作と関連する部分において改善の余地があるという問題点があった。

【１２８８９】

これに対し、遊技機ＡＡ１によれば、経路構成手段において第１の遊技球の視認性を低下させる手段が所定の変位可能手段であるので、第１の遊技球が見え易い状態を構成可能とされる。従って、第１の遊技球が見え易い状態においては、第１の遊技球の流下を確認して、遊技球の発射操作の継続または停止の判断を行い易くなることから、遊技球の発射操作と関連する部分において改善することができる。

【１２８９０】

なお、所定の変位可能手段の態様は何ら限定されるものではない。例えば、別の遊技球でも良いし、遊技球の流下経路とガラスユニットとの間で変位可能に構成される装飾用部材でも良い。

【１２８９１】

なお、被通過手段の態様は何ら限定されるものではない。例えば、特定領域を構成する開口でも良いし、図柄の抽選に関わる入球口（例えば、始動口）でも良いし、賞球の払い出しに関わる賞球口でも良いし、遊技球が通過可能なその他の手段でも良い。

【１２８９２】

遊技機ＡＡ１において、前記変位可能手段は、前記第１遊技球の上流側を流下する第２の遊技球であることを特徴とする遊技機ＡＡ２。

【１２８９３】

遊技機ＡＡ２によれば、遊技機ＡＡ１の奏する効果に加え、被通過手段へ向けて案内される遊技球を利用して第１の遊技球の視認性を変化させることができるので、変位可能手段として他の装飾部材を用意する場合に比較して、材料コストや設計コストを低減することができる。

【１２８９４】

遊技機ＡＡ２において、前記経路構成手段は、第１の遊技球の正面側に第２の遊技球を配置可能な前後幅長さで形成される前後方向経路を備えることを特徴とする遊技機ＡＡ３。

【１２８９５】
遊技機ＡＡ３によれば、遊技機ＡＡ２の奏する効果に加え、第１の遊技球の正面側に、第２の遊技球を配置可能に前後方向経路が構成されるので、正面視において、第２の遊技球で第１の遊技球の少なくとも一部を隠すことができる。
【１２８９６】
遊技機ＡＡ３において、前記前後方向経路は、前記第１の遊技球と前記第２の遊技球とが、発射装置に設定された発射間隔で前記経路構成手段を流下した場合に、前記第２の遊技球が前記第１の遊技球の少なくとも一部を隠すよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ４。
【１２８９７】
遊技機ＡＡ４によれば、遊技機ＡＡ３の奏する効果に加え、発射間隔のままで経路構成手段を複数の遊技球が流下した場合に、第１の遊技球を第２の遊技球で認識し難くする効果を奏することができる。これにより、認識し難い状況を平常時から生じさせることができる。
【１２８９８】
遊技機ＡＡ３又はＡＡ４において、前記前後方向経路は、正面側構成部が、背面側構成部よりも遊技領域の中央側に配置されることを特徴とする遊技機ＡＡ５。
【１２８９９】
遊技機ＡＡ５によれば、遊技機ＡＡ３又はＡＡ４の奏する効果に加え、被通過手段を見る遊技者の視線に沿う傾きを有する経路として前後方向経路を構成することができるので、第１の遊技球が第２の遊技球に隠される状態を生じ易くすることができる。即ち、目隠しの効果を向上させることができる。
【１２９００】
遊技機ＡＡ５において、前記正面側構成部は、被通過手段を見る遊技者の視線上に配置されることを特徴とする遊技機ＡＡ６。
【１２９０１】
遊技機ＡＡ６によれば、遊技機ＡＡ５の奏する効果に加え、前後方向経路に配置される第１の遊技球と第２の遊技球との間隔の長短に関わらず、同様の目隠し効果を生じさせることができる。
【１２９０２】
即ち、通常であれば、第１の遊技球と第２の遊技球とが近接しているほど、目隠し効果を向上させることができると考えられるが、視線上に第１の遊技球および第２の遊技球が配置されている場合には、間隔の長短が及ぼす影響を無くすことができる。
【１２９０３】
遊技機ＡＡ２からＡＡ６のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、第１の遊技球の正面側に第２の遊技球を配置可能な前後幅長さで形成される前後方向経路と、その前後方向経路の上流側で遊技球が左右方向に流下可能な左右幅で形成される左右方向経路と、を備えることを特徴とする遊技機ＡＡ７。
【１２９０４】
遊技機ＡＡ７によれば、遊技機ＡＡ２からＡＡ６のいずれかの奏する効果に加え、左右方向経路を流下する遊技球によっても遊技者の視線を遮ることができるので、遊技者が、被通過手段に対して左右に位置ずれしない視線で被通過手段を視認する場合に限らず、左右に位置ずれして、覗き見るような視線に対しても、目隠し効果を生じさせることができる。即ち、遊技者の視線の方向に寄らず、被通過手段への入球態様を認識し難くすることができる（全方位で目隠し効果を生じさせることができる）。
【１２９０５】
この作用は、前後方向に延びる流路の左右片側を壁部で封じることにより顕著に生じる。即ち、左右片側が壁部で封じられている構成では、左右片側においては壁部が目隠しとなるので、被通過手段への視界が通らない状態を構成し易くできる。
【１２９０６】

遊技機ＡＡ１からＡＡ７のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、遊技球が前記被通過手段を第１の態様で通過する第１の流下経路と、遊技球が第２の態様で通過する第２の流下経路と、を備え、前記第１の遊技球が、前記経路構成手段のいずれの流下経路を流下するかに関わらず、前記所定の変位可能手段に少なくとも一部を覆われて視認され得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ８。

【１２９０７】

遊技機ＡＡ８によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ７のいずれかの奏する効果に加え、被通過手段の通過の有無に関わらず、経路構成手段を流下する遊技球の流下態様を認識し難くし得るので、経路構成手段を流下する遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【１２９０８】

なお、第１の態様や、第２の態様としては、何ら限定されるものではない。例えば、球の流下方向が違う態様でも良いし、球が通過する検出センサが異なる態様でも良い。

【１２９０９】

遊技機ＡＡ１からＡＡ８のいずれかにおいて、前記被通過手段の上流側において遊技球の流下方向を分ける分岐手段を備え、前記分岐手段は、受け入れた遊技球の流下方向を切り替える切替手段を備え、前記経路構成手段は、分岐手段で流下経路が分けられる遊技球であって前記切替手段に到達した遊技球が、所定区間は同じ経路を流下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ９。

【１２９１０】

遊技機ＡＡ９によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ８のいずれかの奏する効果に加え、切替手段に到達した遊技球が所定区間は同じ経路を流下するので、切替手段に到達した遊技球が即座にその後の流下経路に対応した流下態様となる場合に比較して、遊技球の流下の把握を困難とすることができる。これにより、遊技球に対する遊技者の注目力を向上することができる。

【１２９１１】

遊技機ＡＡ９において、前記経路構成手段は、流下する遊技球側に突設される突設部を備え、その突設部は、前記分岐手段における遊技球の分岐に作用することを特徴とする遊技機ＡＡ１０。

【１２９１２】

遊技機ＡＡ１０によれば、遊技機ＡＡ９の奏する効果に加え、突設部で遊技球の分岐に作用することができるので、例えば、弁体の移動により分岐を生じさせる場合に比較して、構造の耐久性を向上させることができる。

【１２９１３】

遊技機ＡＡ１０において、前記突設部は、所定方向に延びる第１突設部と、その第１突設部とは異なる方向に延びる第２突設部と、を備え、前記第１突設部の突設量と前記第２突設部の突設量とが異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ１１。

【１２９１４】

遊技機ＡＡ１１によれば、遊技機ＡＡ１０の奏する効果に加え、遊技球の流下態様に応じて、第１突設部が遊技球に与える影響と、第２突設部が遊技球に与える影響とを異ならせることができる。これにより、固定の第１突設部および第２突設部を利用しながら、遊技球の流下態様に応じた所定のルールで遊技球を分岐させる作用を生じさせることができる。

【１２９１５】

＜経路構成手段を通る球が被通過手段への導入をアピールするポイント＞

遊技球が流下可能に構成される経路構成手段と、その経路構成手段を流下した遊技球が通過可能に構成される被通過手段と、を備え、前記経路構成手段は、前記被通過手段よりも上流側を構成する所定部を備え、その所定部は、前記被通過手段よりも目立つ側に配置され、前記被通過手段へ遊技球を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ１。

【１２９１６】

パチンコ機等の遊技機において、球検出孔４３１へ向けた遊技球の流下経路を複数種類

構成可能な大入賞部品３００を備え、球検出孔４３１付近が化粧板３０２によって認識し難く構成され、大入賞部品３００の状態の違いによって、化粧板３０２から外れた位置を遊技球が流下したり、化粧板３０２の後方に隠されるようにして遊技球が流下したりする遊技機がある（例えば、特開２０１７－１８５０２１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、化粧板３０２から外れて流下する視認性の良い遊技球は、むしろ球検出孔４３１を逸れて流下するよう構成され、化粧板３０２の後方に隠されるように流下する遊技球の一部が球検出孔４３１に案内されるので、遊技球の見え易さの良し悪しと、遊技者が得られる利益の多少とが対応しておらず、遊技球に注目したことが無駄になり易いので遊技者が不満に感じる可能性があった。即ち、注目を集めた後の遊技球の流下態様を、注目する意義があるものにするという点で改善の余地があるという問題点があった。

【１２９１７】

これに対し、遊技機ＡＢ１によれば、目立つ側に配置される所定部を流下した遊技球が、被通過手段へ案内可能に構成されていることから、遊技球に対する注目力の向上度合いと、遊技球が被通過手段を通過することとを対応づけることができる。従って、所定部を流下した遊技球が被通過手段を通過する可能性を向上させることができるので、注目を集めた後の遊技球に注目する意義があるという点で改善することができる。

【１２９１８】

また、このように構成することで、所定部を流下する遊技球で遊技者の視線を誘導し易くすることができ、被通過手段に遊技球が向かうことを遊技者が見逃す可能性を低くすることができる。

【１２９１９】

なお、被通過手段の態様は何ら限定されるものではない。例えば、特定領域を構成する開口でも良いし、図柄の抽選に関わる入球口（例えば、始動口）でも良いし、賞球の払い出しに関わる賞球口でも良いし、遊技球が通過可能なその他の手段でも良い。

【１２９２０】

なお、目立つ側の態様は何ら限定されるものではない。例えば、遊技者の目を引き易い表示装置側でも良いし、入賞口側や始動口側でも良いし、遊技者にとって視認し易い前方側（手前側）でも良いし、特定の入球口への入球確率が際立って高くなる箇所として視線が集まり易い部分としてのステージ（主に、センターフレームにより形成される枠の下縁部において遊技球を一時滞留させる箇所）側や、大当たり獲得に直結するＶ入賞口側や、操作対象としての球貸し装置側や、演出操作ボタン側や、入球口から逸れた遊技球が流下する範囲（遊技者が、悔しくてついつい目で追ってしまう範囲）側や、発光手段での明暗での切替として明るい側や、その他の側でも良い。また、目立ちがたい側を敢えて形成し、相対的に目立たせるようにしても良い。

【１２９２１】

遊技機ＡＢ１において、前記経路構成手段は、その経路構成手段へ入球した遊技球を、入球時よりも目立たなくする第２所定部を備え、前記所定部は、前記第２所定部よりも目立つ側に配置されることを特徴とする遊技機ＡＢ２。

【１２９２２】

遊技機ＡＢ２によれば、遊技機ＡＢ１の奏する効果に加え、経路構成手段に入球した遊技球が所定部を流下する前に、第２所定部において注目力を下げることで、所定部を流下する際の遊技球の注目力を際立たせることができる。

【１２９２３】

遊技機ＡＢ１又はＡＢ２において、前記所定部は、遊技球の流下速度が異なる区間を備えることを特徴とする遊技機ＡＢ３。

【１２９２４】

遊技機ＡＢ３によれば、遊技機ＡＢ１又はＡＢ２の奏する効果に加え、遊技球の流下速度に差が無い場合に比較して、遊技者の視線を集める効果を向上することができる。

【１２９２５】

遊技機ＡＢ３において、前記所定部を流下する遊技球の第１流下速度よりも、前記第２

所定部を流下する遊技球の第２流下速度の方が高速となるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ４。

【１２９２６】

遊技機ＡＢ４によれば、遊技機ＡＢ３の奏する効果に加え、経路構成手段に入球した遊技球が所定部に到達するまでの期間を短縮することができる。

【１２９２７】

遊技機ＡＢ１からＡＢ４のいずれかにおいて、前記所定部は、所定方向視における遊技球の変位速度が異なる区間を備えることを特徴とする遊技機ＡＢ５。

【１２９２８】

遊技機ＡＢ５によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ４のいずれかの奏する効果に加え、実際の遊技球の流下速度の大小に関わらず、所定方向視における見かけ上の遊技球の変位速度が異なる区間を構成することができるので、任意の所定箇所において所定方向視における遊技球の変位速度を小さくすることにより、遊技者の視線を所定箇所に容易に集め、その他の部分から目を逸らさせることができる。

【１２９２９】

なお、見かけ上の遊技球の変位速度を異ならせる態様は何ら限定されるものではない。例えば、正面視において前後方向と直交する平面に配置される直線上を変位する場合と、前後方向成分を有する直線上を変位する場合とでの異なりでも良いし、直線上を変位する場合と、曲線状または蛇行状に変位する場合とでの異なりでも良いし、その他の異なりでも良い。

【１２９３０】

遊技機ＡＢ１からＡＢ５のいずれかにおいて、前記経路構成手段へ遊技球を導入可能に構成される導入手段を備え、前記所定部は、所定方向視において前記導入手段の外方に配置されることを特徴とする遊技機ＡＢ６。

【１２９３１】

遊技機ＡＢ６によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ５のいずれかの奏する効果に加え、導入手段の視認性を確保することができる。従って、導入手段の視認性の確保と、被通過手段を通過する可能性の高い遊技球の注目力の向上とを両立させることができる。

【１２９３２】

遊技機ＡＢ１からＡＢ６のいずれかにおいて、前記経路構成手段の正面側における遊技球が、前記被通過手段へ向けた視線または前記所定部を避けるよう流下するように構成する回避手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＢ７。

【１２９３３】

遊技機ＡＢ７によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ６のいずれかの奏する効果に加え、経路構成手段の正面側において遊技球が流下可能に構成され、遊技球の流下経路が被通過手段へ向けた視線を避けるようにするための回避手段を備えているので、遊技領域の大きさの確保と、被通過手段へ向けた遊技球の視認性の確保と、を両立させることができる。

【１２９３４】

なお、回避手段の影響を受けた遊技球の流下態様は、何ら限定されるものではない。例えば、被通過手段の正面位置を避けて流下するものでも良いし、被通過手段と遊技者の目の位置とを結ぶ直線を避けて流下するものでも良いし、被通過手段へ向かう遊技球を遊技者が確認できる最後の位置を基準として、その位置の正面位置を避けて流下するものでも良いし、上述の最後の位置と遊技者の目の位置とを結ぶ直線を避けて流下するものでも良いし、その他でも良い。

【１２９３５】

遊技機ＡＢ７において、前記経路構成手段は、流下する遊技球を受け入れ可能な受入状態と受入不能な非受入状態とで状態変化可能に構成される受入状態変化手段を備え、その受入状態変化手段は、前記受入状態から前記非受入状態への状態変化において、前記受入状態において受入状態変化手段に到達していた遊技球を経路構成手段側へ案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ８。

【１２９３６】
遊技機ＡＢ８によれば、遊技機ＡＢ７の奏する効果に加え、受入状態変化手段に到達してから橋渡しされるように流下した遊技球が、被通過手段へ向けた視線を遮ることを防止することができる。
【１２９３７】
遊技機ＡＢ７又はＡＢ８において、正面視で前記被通過手段の上方に配設され、遊技領域を区画する区画手段を備え、その区画手段は、遊技球が左右外側を流下可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ９。
【１２９３８】
遊技機ＡＢ９によれば、遊技機ＡＢ７又はＡＢ８の奏する効果に加え、区画手段によって、被通過手段の正面位置を遊技球が流下する事態を避けることができるので、被通過手段へ向けた視界を確保し易くすることができる。
【１２９３９】
なお、区画手段の態様としては、何ら限定されるものではない。例えば、遊技球の流下面を構成する板状部でも良いし、遊技球が入球可能な入球口構成手段でも良い。また、区画手段は、形状（外観）固定の手段でも良いし、形状（外観）可変の手段でも良い。
【１２９４０】
遊技機ＡＢ９において、前記経路構成手段は、流下する遊技球を受け入れ可能な受入状態と受入不能な非受入状態とで状態変化可能に構成される受入状態変化手段を備え、前記区画手段の前記受入状態変化手段側の部分が、遊技球を前記受入状態変化手段側へ案内し易く構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ１０。
【１２９４１】
遊技機ＡＢ１０によれば、遊技機ＡＢ９の奏する効果に加え、受入状態変化手段へ受け入れられる途中の遊技球を、区画手段によって受入状態変化手段へ押し込む態様で受け入れさせるよう構成することができる。これにより、受け入れられる途中の状態で横滑りした遊技球が、受入状態変化手段から逸れて被通過手段の正面側を落下する事態の発生を避け易くすることができる。
【１２９４２】
例えば、受入状態変化手段として、左右方向軸で傾倒変位する開閉板を備える特別入賞装置が想定され、区画手段として特別入賞装置の特別入賞口の上方に配置される第１入賞口が想定される。開閉板の閉鎖間際に特別入賞口に到達した遊技球は、しばしば、開閉板の回動先端と、開閉板に蓋をされる開口の縁部との間に挟まれ、縁部の形成方向（開閉板の回動軸方向）に横滑りする。
【１２９４３】
横滑りした後の遊技球は、開閉板の回動先端の形成範囲のいずれの位置にも到達し得るので、開閉板の少なくとも一部が被通過手段の上方に配置される場合には、横滑りした後の遊技球が正面側に落下した後で被通過手段の正面位置を通過する可能性があり、横滑りした後の遊技球を正面側に落下させるべきでは無い。
【１２９４４】
横滑りした後の遊技球の正面側への落下を回避できない場合には、被通過手段の正面視上位置を避けて開閉板を配置する必要が生じるので、開閉板の設計自由度が低下することになる。
【１２９４５】
これに対し、遊技機ＡＢ１０によれば、横滑りした後の遊技球が開閉板の正面側へ落下することを回避し易くすることができ、開閉板の設計自由度を向上することができる。
【１２９４６】
遊技機ＡＢ７からＡＢ１０のいずれかにおいて、前記経路構成手段を流下する遊技球と、前記経路構成手段の正面側を流下する遊技球とが、類似の流下態様で流下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ１１。
【１２９４７】

遊技機ＡＢ１１によれば、遊技機ＡＢ７からＡＢ１０のいずれかの奏する効果に加え、経路構成手段を流下し被通過手段を通過する可能性のある遊技球と、経路構成手段の正面側を流下し被通過手段を通過しない遊技球と、を区別し難くすることで、経路構成手段を流下する遊技球の個数を判別し難くすることができる。

【１２９４８】

換言すれば、経路構成手段に遊技球が入り易い場合と、入りにくい場合とを、経路構成手段付近を流下する遊技球から判別することを困難とすることができる。

【１２９４９】

遊技機ＡＢ１からＡＢ１１のいずれかにおいて、前記所定部を流下する球の後側から光を照射する発光手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＢ１２。

【１２９５０】

遊技機ＡＢ１２によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ１１のいずれかの奏する効果に加え、所定部を流下する球の前側が光で反射し、球が見え難くなることを回避し易くすることができる。

【１２９５１】

＜Ｖ通口への経路長さを省スペースで確保するポイント＞

遊技球が流下可能に構成される経路構成手段と、その経路構成手段を流下した遊技球が通過可能に構成される被通過手段と、遊技球が前記被通過手段に流下可能な第１状態とその第１状態とは異なる第２状態とで切り替え可能に構成される状態切替手段と、を備え、前記経路構成手段は、遊技球の上下方向の変位を遅らせる遅延手段を備え、その遅延手段により遊技球を前記被通過手段へ向けて流下可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１。

【１２９５２】

パチンコ機等の遊技機において、第２大入賞口１２に入球した遊技球の流下経路に左右に移動可能に構成される振分部７５が配設され、振分部７５の配置によって遊技球の流下方向を変化可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１５５５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、特定領域７３への誤入賞や振分部７５による球かみを防止するための振分部７５の短期間動作が不可欠とされており、遊技者によっては振分部７５の挙動を不信と感じ、安心して遊技を継続できない場合があった。

【１２９５３】

この解決のための手段の一例として、第２大入賞口１２から振分部７５までの流路長さを長くすることが想定される。例えば、振分部７５の配置を、第２大入賞口１２の真下から、遊技領域の左右中央部付近（第１大入賞口１０付近）の位置に変えることで、第２大入賞口１２から振分部７５までの流路長さを長く確保することができる。これにより、特定領域７３への誤入賞の可能性を低くすることができると考えられる。

【１２９５４】

一方、この手段を実行すると、第２大入賞口１２から第１大入賞口１０までの広範囲に亘って遊技球の流下経路の視認性を確保する必要が生じ、この範囲において遊技領域の設計自由度が制限される。即ち、特定領域７３への誤入賞を回避するために、遊技領域の設計自由度が広範囲で制限されるという問題点があった。

【１２９５５】

換言すれば、遊技領域の設計自由度を高く維持しつつ、遊技球の誤入球を回避するという観点から改善の余地があるという問題点があった。

【１２９５６】

これに対し、遊技機ＡＣ１によれば、経路構成手段が所定の遅延手段を備えることから、正面視における経路構成手段の上下長さを短くし省スペースに抑えた場合でも、経路構成手段に入球した遊技球が被通過手段を通過するまでに経過する時間を長く確保することができる。

【１２９５７】

そのため、被通過手段への遊技球の入球の可否を切り替えるために状態切替手段を作動

させる必要が生じるタイミングを経路構成手段への遊技球の入球から所定時間後にすることができるので、経路構成手段への入球の可否を切り替える開閉装置を短期間動作させることなく、誤入賞を回避することができる。そのため、開閉手段が慌ただしく動作しているという印象を遊技者に与えることを回避することができる。これにより、遊技領域の設計自由度を高く維持しつつ、遊技球の誤入球を回避することができる。

【１２９５８】

なお、遅延手段の態様は何ら限定されるものではない。例えば、流下経路に減速用の凸部を構成する態様でも良いし、前後方向成分を有する流下経路で遊技球を流下させる所定の流下経路を備える態様でも良い。

【１２９５９】

遊技機ＡＣ１において、前記遅延手段は複数の所定の流下経路を備え、その所定の流下経路は、正面側へ向かう流下経路の方が、背面側へ向かう流下経路に比較して、流下する遊技球の加速度が大きくなるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ２。

【１２９６０】

遊技機ＡＣ２によれば、遊技機ＡＣ１の奏する効果に加え、所定の流下経路を流下する遊技球を遊技者に視認させる期間を長く確保することができる。

【１２９６１】

なお、遊技球の加速度の違いを生じる原因については、何ら限定されるものではない。例えば、所定の流下経路の水平面に対する傾斜の大小でも良いし、所定の流下経路の遊技球側の面形状の設計でも良い。

【１２９６２】

遊技機ＡＣ１又はＡＣ２において、前記遅延手段は複数の所定の流下経路を備え、その所定の流下経路は、正面側へ向かう流下経路の方が、前後位置を維持して流下する流下経路に比較して、流下する遊技球の加速度が大きくなるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ３。

【１２９６３】

遊技機ＡＣ３によれば、遊技機ＡＣ１又はＡＣ２の奏する効果に加え、手前側を流れる遊技球を遊技者に視認させる期間を長く確保することができる。これにより、所定の流下経路を流下する遊技球に対する遊技者の注目力を向上させ易くすることができる。

【１２９６４】

なお、遊技球の加速度の違いを生じる原因については、何ら限定されるものではない。例えば、所定の流下経路の水平面に対する傾斜の大小でも良いし、所定の流下経路の遊技球側の面形状の設計でも良い。

【１２９６５】

遊技機ＡＣ１からＡＣ３のいずれかにおいて、前記遅延手段は複数の所定の流下経路を備え、その所定の流下経路は、所定方向視で前記被通過手段の手前に配置される手前位置を遊技球が通るように構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ４。

【１２９６６】

遊技機ＡＣ４によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ３のいずれかの奏する効果に加え、手前位置に遊技球が配置された場合に、被通過手段付近の視認性を低下させることができる。これにより、被通過手段付近の範囲に対する注目力を向上させることができる。

【１２９６７】

遊技機ＡＣ４において、前記手前位置を複数個構成可能とされることを特徴とする遊技機ＡＣ５。

【１２９６８】

遊技機ＡＣ５によれば、複数の手前位置に遊技球が配置されることにより、手前側の遊技球によって奥側の遊技球の少なくとも一部を隠すことができる。被通過手段は奥側の遊技球よりも背面側に配置されているので、被通過手段へ向けた視界を複数の遊技球で遮ることができ、被通過手段の視認性を低下させることができる。

【１２９６９】

この場合、所定の流下経路への遊技球の入球間隔が短い場合、手前位置のいずれかに常に遊技球が配置される状態を構成可能となるので、被通過手段を視認不能な状態を構成可能となる。

【１２９７０】

遊技機ＡＣ１からＡＣ５のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、上面視で渦を巻く態様で視認されるように形成されることを特徴とする遊技機ＡＣ６。

【１２９７１】

遊技機ＡＣ６によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ５のいずれかの奏する効果に加え、同じ長さの経路構成手段を配設するために要する上下幅を短くすることができる。

【１２９７２】

また、折り返し経路が形成される場合に比較して、経路壁の厚みを薄くする必要が無いので、流路の強度を向上することができるし、１８０度で折り返される折り返し経路に比較して、球の詰まり等が生じる可能性を低くできる。

【１２９７３】

遊技機ＡＣ１からＡＣ６のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、前後方向に延びる前後流路部を備えることを特徴とする遊技機ＡＣ７。

【１２９７４】

遊技機ＡＣ７によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ６のいずれかの奏する効果に加え、経路構成手段の左右幅を抑えられるので、左右対称で一対の経路構成手段を抑えられた左右幅で構成することができる。

【１２９７５】

遊技機ＡＣ１からＡＣ７のいずれかにおいて、前記被通過手段は、前記経路構成手段の球受入部を基準として、斜め下後方に配置されることを特徴とする遊技機ＡＣ８。

【１２９７６】

遊技機ＡＣ８によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ７のいずれかの奏する効果に加え、正面側から視認する遊技者の視界に被通過手段と経路構成手段の球受入部とを収め易くすることができる。

【１２９７７】

遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、遊技球を受け入れ可能に構成される第１受入手段と、その第１受入手段とは異なる手段であって遊技球を受け入れ可能に構成される第２受入手段と、を備え、前記第１受入手段および前記第２受入手段の遊技球の受入態様により、遊技者が得られる利益が変化するように構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ９。

【１２９７８】

遊技機ＡＣ９によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかの奏する効果に加え、第１受入手段および第２受入手段が遊技球を常時受入可能に構成されており、更に、第１受入手段および第２受入手段の遊技球の受入態様により遊技者が得られる利益が変化するので、遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【１２９７９】

なお、遊技球の受入態様としては、何ら限定されるものではない。例えば、第１受入手段に限定して遊技球が受け入れられる態様でも良いし、第２受入手段に限定して遊技球が受け入れられる態様でも良いし、第１受入手段に所定個数受け入れられ第２受入手段に所定個数受け入れられる態様でも良い。また、各受入手段に対する入球の頻度が異なる態様でも良いし、入球位置が異なる態様でも良い。

【１２９８０】

遊技機ＡＣ９において、遊技者が得られる利益の変化は、前記第１受入手段または前記第２受入手段の片方に限定して遊技球が受け入れられるか、前記第１受入手段および前記第２受入手段の両方に遊技球が受け入れられるかにより生じることを特徴とする遊技機ＡＣ１０。

【１２９８１】

遊技機ＡＣ１０によれば、遊技機ＡＣ９の奏する効果に加え、遊技者が得られる利益の大小の設定の仕方により、遊技者が、遊技球を所定の発射態様で打ち出し易いようにすることができる。

【１２９８２】

なお、遊技者が得られる利益としては、何ら限定されるものではない。例えば、流下する遊技球の認識し易さでも良いし、流下する遊技球により得られる遊技に関連する利益（賞球の払い出し、大当たりの獲得、大当たり終了後の遊技状態が確変状態となること、遊技状態が通常状態になること（転落すること）等）でも良い。

【１２９８３】

遊技機ＡＣ９又はＡＣ１０において、前記経路構成手段は、第１受入手段および第２受入手段から前記被通過手段までが左右対称で構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１１。

【１２９８４】

遊技機ＡＣ１１によれば、遊技機ＡＣ９又はＡＣ１０の奏する効果に加え、左右どちらを主にして遊技球を発射しても、遊技者が不利益を被る可能性を低くすることができる。

【１２９８５】

遊技機ＡＣ９からＡＣ１１のいずれかにおいて、前記経路構成手段は、流下する遊技球を受け入れ可能な受入状態と受入不能な非受入状態とで状態変化可能に構成される受入状態変化手段を備え、前記受入態様は、前記受入状態変化手段の形状または状態変化の態様により変化することを特徴とする遊技機ＡＣ１２。

【１２９８６】

遊技機ＡＣ１２によれば、遊技機ＡＣ９からＡＣ１１のいずれかの奏する効果に加え、受入状態変化手段の形状または状態変化の態様により受入態様が変化するので、遊技球の発射に関する遊技者の技術の熟練度が遊技者の得られる利益に与える影響を低くすることができる。

【１２９８７】

遊技機ＡＣ１２において、前記受入状態変化手段の状態変化の態様が、複数種類で構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１３。

【１２９８８】

遊技機ＡＣ１３によれば、遊技機ＡＣ１２の奏する効果に加え、一定の発射態様で遊技球が発射されている場合であっても、第１受入手段および第２受入手段への遊技球の受入態様を変化させることができる。これにより、受入状態変化手段の状態変化の態様から、遊技者が得られる利益を調整することができる。

【１２９８９】

＜球の流下方向と平行に移動する開閉部材についてのポイント＞

遊技球が流下可能に構成される経路構成手段と、その経路構成手段を流下した遊技球が通過可能に構成される被通過手段と、前記経路構成手段へ遊技球を導入可能な導入状態と前記経路構成手段へ遊技球を導入不能な非導入状態とで状態変化可能に構成される状態切替手段と、を備え、前記状態切替手段は、前記状態変化において生じる変位の方向が、遊技球の流下方向に沿うように構成されることを特徴とする遊技機ＸＡＡ１。

【１２９９０】

パチンコ機等の遊技機において、球検出孔４３１へ向けた遊技球の流下経路を複数種類構成可能な大入賞部品３００を備える遊技機がある（例えば、特開２０１７－１８５０２１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球の流下方向と大入賞部品３００の開閉板の開閉方向とが略直角方向であり、開閉が遊技球の転動に関与することなく開閉動作が完了することから、開閉板（状態切替手段）の役割について改善の余地があるという問題点があった。

【１２９９１】

これに対し、遊技機ＸＡＡ１によれば、状態切替手段の変位の方向が、遊技球の流下方向に沿うように構成されるので、遊技球が状態切替手段に近接または当接している状態で

状態切替手段の変位を生じさせることで、遊技球の転動態様を変化させるように影響させることができる。これにより、状態切替手段の役割を改善することができる。

【１２９９２】

例えば、遊技球が左方へ流下している際に、その遊技球が上に乗った状態で状態切替手段を右方にスライド移動させることで、遊技球に対して転動回転の順方向に回転させる負荷を与えることになるので、遊技球を加速させることができる。

【１２９９３】

また、逆に、遊技球が左方へ流下している際に、その遊技球が上に乗った状態で状態切替手段を左方にスライド移動させることで、遊技球に対して転動回転の逆方向に回転させる負荷を与えることになるので、遊技球の回転を遅らせることができる。

【１２９９４】

また、転動する遊技球の下端部をかすめるように状態切替手段がスライド移動すると、遊技球の転動方向のみではなく、転動方向に直交する方向の成分も有する負荷を遊技球に与えることができるので、遊技球の流下態様の変化を複雑かつ不規則に生じさせることができる。

【１２９９５】

これらの遊技球の流下態様に与える影響により、状態切替手段の開閉動作時に状態切替手段に乗っていた球の流下態様を様々に変化させることができるので、遊技球を視認する遊技者を飽きさせることなく、遊技に集中させることができる。

【１２９９６】

また、状態切替手段の開閉動作と遊技球との配置関係は、何ら限定されるものではない。例えば、遊技球の側面と擦れる配置関係でも良いし、遊技球に流下方向で対抗して遊技球と衝突するような配置関係でも良い。

【１２９９７】

遊技球と衝突する態様で変位する状態切替手段において、閉鎖動作の方向は何ら限定されるものではない。例えば、遊技球の流下方向と対抗する方向で閉鎖動作し、遊技球を跳ね返せるように構成しても良いし、遊技球の流下方向の順方向で閉鎖動作し、それ以降の遊技球の導入を抵抗少なく規制可能に構成しても良い。

【１２９９８】

遊技機ＸＡＡ１において、前記状態切替手段の状態変化は、前記状態切替手段と遊技球とが当接しながら実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡＡ２。

【１２９９９】

遊技機ＸＡＡ２によれば、遊技機ＸＡＡ１の奏する効果に加え、状態切替手段の状態変化によって、遊技球に回転を生じさせることができる。

【１３０００】

遊技機ＸＡＡ１又はＸＡＡ２において、前記状態切替手段は、前記変位の方向と交差する方向に負荷の方向を変化させる変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＡＡ３。

【１３００１】

遊技機ＸＡＡ３によれば、遊技機ＸＡＡ１又はＸＡＡ２の奏する効果に加え、状態切替手段の変位中に遊技球から与えられる負荷を逃がすことができ、状態切替手段に与えられる負荷を低減することができる。

【１３００２】

＜開放時は第１方向へ、閉鎖時は第２方向へ球を流す開閉部材についてのポイント＞

遊技球が流下可能に構成される経路構成手段と、その経路構成手段を流下した遊技球が通過可能に構成される被通過手段と、前記被通過手段へ遊技球を導入可能な導入状態と前記被通過手段へ遊技球を導入不能な非導入状態とで状態変化可能に構成される状態切替手段と、を備え、前記状態切替手段は、前記導入状態で遊技球を第１方向に案内可能とされ、前記非導入状態で遊技球を第２方向に案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡＢ１。

【１３００３】

パチンコ機等の遊技機において、球検出孔４３１へ向けた遊技球の流下経路を複数種類構成可能な大入賞部品３００を備える遊技機がある（例えば、特開２０１７－１８５０２１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、下側可動体３７１は前側に張り出す状態では遊技球を右方に案内するものの、後側に退避する状態では、遊技球とは当接せず自由落下となり、案内はしない。換言すれば、遊技球の流下に下側可動体３７１が影響しない。そのため、後側に退避している状態では、下側可動体３７１以外で遊技球の流下を案内する部分（枠部等）を用意することが必要であり、遊技球の流下を案内するための構成（部材）の個数を削減するという観点で改善の余地があるという問題点があった。

【１３００４】

これに対し、遊技機ＸＡＢ１によれば、状態切替手段が導入状態と、非導入状態とで、遊技球を異なる方向に案内するよう構成されるので、遊技球の流下経路を案内するための専用部材を不要とできるので、必要な構成（部材）の個数を削減することができる。これにより、限られたスペースで遊技球の流下方向の多様化を図ることができる。

【１３００５】

なお、第１方向と第２方向との関係は何ら限定されるものではない。例えば、方向間の角度が鋭角でも良いし、直角でも良いし、鈍角でも良い。例えば、直角の場合において、前後方向に沿って流下する遊技球に対し、第１方向が下方、第２方向が左右方向に設定するようにしても良い。この場合、正面視において、状態切替手段に案内される前は遊技球の変位が僅かしか認められないようにしながら、状態切替手段による案内が開始された後の方向の差（違い）の最大化を図ることができる。

【１３００６】

状態切替手段による案内の作用を生じさせる案内部の配置は何ら限定されるものではない。例えば、状態切替手段が備える可動部材に案内部が配設されても良いし、案内部は状態切替手段の周辺の非可動部に配設されており可動部材の動作によって遊技球が案内部に近接または当接し易い状態に切り替えられるように構成しても良い。

【１３００７】

案内部が可動部材に配設される場合には、導入状態と非導入状態との状態切替が完了した後における案内に留まらず、状態を切り替える動作中において遊技球に与える影響も考慮した設計とすることが好ましい。

【１３００８】

例えば、遊技球の流下方向に対抗する方向で変位する可動部材を状態切替手段が備える場合、流下方向と直交する平面形状の壁部を設けるよりは、流下方向と傾斜する面（平面、曲面等）形状の壁部を設ける方が、可動部材が遊技球に衝突した際に生じる負荷が、遊技球を逆流させる方向に大きくなる事態を回避し易くすることができる。これにより、遊技球の逆流を回避し易くすることができる。

【１３００９】

遊技機ＸＡＢ１において、前記状態切替手段の状態変化は第３方向への変位により生じるものであり、前記第３方向は、前記第１方向および第２方向と直交することを特徴とする遊技機ＸＡＢ２。

【１３０１０】

遊技機ＸＡＢ２によれば、遊技機ＸＡＢ１の奏する効果に加え、案内されている遊技球から与えられる負荷により状態切替手段の動作不良が生じる可能性を低くすることができる。

【１３０１１】

遊技機ＸＡＢ１又はＸＡＢ２において、前記経路構成手段は、左右一対の経路を備え、前記状態切替手段は、前記左右一対の経路からそれぞれ遊技球を受け入れ可能な一対の案内部を備え、それら一対の案内部において、前記第１方向および第２方向が、それぞれ左右対称に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡＢ３。

【１３０１２】

遊技機ＸＡＢ３によれば、遊技機ＸＡＢ１又はＸＡＢ２の奏する効果に加え、遊技球の

流下する経路を複雑化することができる。また、一対の案内部において、第１方向および第２方向が、それぞれ左右対称に構成されるので、一対の案内部が遊技球から受ける負荷により状態切替手段が受ける変位を、左右で対称とすることができる。

【１３０１３】

これにより、例えば、左右一対の経路に遊技球を略同等の個数で入球させる場合等、遊技球から案内部が受ける負荷によって、状態切替手段の配置を均一化し易くすることができる。

【１３０１４】

遊技機ＸＡＢ３において、前記状態切替手段は、前記第３方向と交差する方向で張り出すように形成される張出部を備えることを特徴とする遊技機ＸＡＢ４。

【１３０１５】

遊技機ＸＡＢ４によれば、遊技機ＸＡＢ３の奏する効果に加え、張出部により他の部材との接触面積を低減することができ、状態切替手段の変位抵抗を低減することができる。

【１３０１６】

遊技機ＸＡＢ３又はＸＡＢ４において、前記状態切替手段の導入状態または非導入状態において当接可能に構成される当接手段を備え、その当接手段との当接により、前記状態切替手段の左右方向の変位を修正可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡＢ５。

【１３０１７】

遊技機ＸＡＢ５によれば、遊技機ＸＡＢ３又はＸＡＢ４の奏する効果に加え、遊技球からの負荷を左右いずれの方向からも受け得るので、変位態様が無秩序になり易い状態切替手段の変位を、当接手段の作用により秩序的に戻すことができる。

【１３０１８】

＜分離、反転、合体、回転が一連動作＞

視認される面が変化するように変位可能に構成される変位手段を備え、前記変位手段は、第１変位部材と、第２変位部材と、を備え、所定態様の変位において、前記第１変位部材と前記第２変位部材とが相対変位するように構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１。

【１３０１９】

パチンコ機等の遊技機において、ベースアーム２２０の先端部に配設される回動ベース２１４が複数回回転可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－１１６７８２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回動ベース２１４が回転変位するものの、遊技者側に見えている面は同一なので、変位手段への注目力を維持し難いという問題点があった。

【１３０２０】

これに対し、遊技機ＡＤ１によれば、変位手段の視認される面を、変位に伴い変化可能に構成されるので、変位手段への注目力を維持することができる。

【１３０２１】

また、第１変位部材と第２変位部材とが相対変位することで、変位手段の外観を変化させることができるので、変位手段に対する注目力を向上させることができる。

【１３０２２】

遊技機ＡＤ１において、前記所定態様の変位は、前記第１変位部材と前記第２変位部材とが集合配置される集合部を基準として近接離反する第１の変位と、前記第１変位部材と前記第２変位部材とが前記集合部を基準として回転動作する第２の変位と、を少なくとも含むことを特徴とする遊技機ＡＤ２。

【１３０２３】

遊技機ＡＤ２によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、第１変位部材と第２変位部材との相対動作を動的に生じさせ易くすることができる。即ち、集合部を基準とした変位として、第１の変位だけでは、集合部からの距離が最短または最長となる終端部において第１変位部材と第２変位部材との変位が低減され易く、第１変位部材と第２変位部材とが止まって見えてしまい、演出効果が低くなる可能性があるところ、第２の変位を混ぜるこ

とで、終端部においても回転方向の変位を生じさせることができるので、演出効果を向上させることができる。
【１３０２４】
遊技機ＡＤ１又はＡＤ２において、前記所定態様の変位は、前記変位手段の視認される面が反転する第３の変位を少なくとも含むことを特徴とする遊技機ＡＤ３。
【１３０２５】
遊技機ＡＤ３によれば、遊技機ＡＤ１又はＡＤ２の奏する効果に加え、第３の変位により視認される面を反転させることで、第３の変位の前後で遊技者に視認させる装飾を顕著に異ならせることができる。
【１３０２６】
遊技機ＡＤ１からＡＤ３のいずれかにおいて、前記第１変位部材および前記第２変位部材は、吸着または接着により固定可能に構成され、その固定に係る負荷は、前記第１変位部材および前記第２変位部材の変位を制限する向きで作用することを特徴とする遊技機ＡＤ４。
【１３０２７】
遊技機ＡＤ４によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ３のいずれかの奏する効果に加え、固定に係る負荷が第１変位部材および第２変位部材の変位を制限する向きで作用するので、固定に係る負荷を加味して、第１変位部材および第２変位部材の変位を設計することができる。
【１３０２８】
例えば、ギアに寄る駆動力伝達の場合に、形状の変形を加味しない場合には機械的に変位が生じる場合に、固定に係る負荷を加味すれば、その負荷による部材の弾性変化が顕在化することで、部材の変位タイミングの遅れを生じさせることができる。
【１３０２９】
また、固定の程度が第１変位部材および第２変位部材の視認される面に対応して異なるよう構成しても良い。
【１３０３０】
この場合、固定による作用が視認される面に対応して異なるので、遊技者が視認される側面における固定の程度に強弱を設けることができる。
【１３０３１】
これにより、例えば、同じ変位手段の、反転された面について、一方の面は固く合体して一体的に視認させ易く、他方の面は緩く合体して相対変位し易い状態で視認させ易くすることができる。
【１３０３２】
また、例えば、第１変位部材および第２変位部材の吸着の程度が固定位置ごとに異なるよう構成することで、第１変位部材および第２変位部材の固定の程度が異なる状態を構成することができる。
【１３０３３】
なお、吸着可能にする態様は何ら限定されるものではない。例えば、粘着テープで接着する態様でも良いし、磁石と金属部との吸着力を利用するものでも良い。また、磁石に吸着する金属部として、例えば、固定用のビス、ネジ等を利用するように第１反転部材や第２反転部材を設計しても良い。
【１３０３４】
遊技機ＡＤ１からＡＤ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、正逆方向に変位可能に構成され、所定状態において、正方向へは、第１変位態様で変位し、逆方向へは、前記第１変位態様とは異なる第２変位態様で変位し、前記第２変位態様は、所定態様での変位後、前記第１変位態様で変位するよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ５。
【１３０３５】
遊技機ＡＤ５によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ４のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位態様が、正逆方向で異なるように構成され、第２変位態様は第１変位態様の前

に所定態様が追加された変位態様として構成されるので、変位手段を退避させる際に変位手段に必要とされる変位量を低減することができる。これにより、退避時における変位手段への注目力を低減することができるので、相対的に、演出位置で変位する変位手段の注目力を向上させることができる。

【１３０３６】

従来機では、回転の態様が正逆方向で同様なので、演出位置（液晶表示領域の正面側位置）へ張り出して演出した後で、退避位置（液晶表示領域の外方位置）へ退避するまでに逆方向に再び複数回回転する必要があった。この場合、演出位置から退避する部材に視線が集まり易くなることが問題視される可能性があった。

【１３０３７】

なお、変位態様としては、何ら限定されるものではない。例えば、回転変位でも良いし、直動変位でも良い。また、変位は平面上におけるものでも良いし、複数平面にまたがるものでも良いし、３次元的なものでも良い。

【１３０３８】

遊技機ＡＤ５において、前記変位手段は、動作抵抗が所定量よりも大きくなると負荷伝達を解除するように構成される解除手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＤ６。

【１３０３９】

遊技機ＡＤ６によれば、遊技機ＡＤ５の奏する効果に加え、変位手段の変位態様の変化を、変位手段の内部の構成の動作抵抗の大小により生じさせることができる。

【１３０４０】

遊技機ＡＤ１からＡＤ６のいずれかにおいて、前記変位手段へ向けて光を照射する発光手段を備え、前記変位手段は前記第１変位部材および前記第２変位部材を備え、前記第１変位部材および前記第２変位部材は、視認される面が一側か、他側かで、発光手段からの光の視認態様を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ７。

【１３０４１】

遊技機ＡＤ７によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ６のいずれかの奏する効果に加え、発光手段からの光に関して変位手段の見え方を、第１変位部材および第２変位部材の視認される面に対応して変化させることができる。

【１３０４２】

例えば、第１変位部材および第２変位部材が個別に発光しているように視認される場合と、第１変位部材および第２変位部材が一体的に発光しているように視認される場合とで変化させることができる。

【１３０４３】

遊技機ＡＤ１からＡＤ７のいずれかにおいて、前記変位手段の配置を検出する検出手段を備え、前記検出手段は、前記変位手段の変位が許容可能な状態か否かを検出可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ８。

【１３０４４】

遊技機ＡＤ８によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ７のいずれかにおいて、前記変位手段の変位を許容可能な状態を検出手段により検出可能なので、変位手段が変位中に周囲の構造部と衝突することを回避することができる。

【１３０４５】

また、検出手段により変位手段の変位可能な区間を検出しつつ、変位手段の変位を実行することができるので、ある程度、演出位置から退避位置へ向けて変位した後で拡大縮小を含む変位態様で変位するように制御することで、演出位置から退避位置に変位する際に変位開始時から拡大縮小を含む変位態様で変位する場合に比較して、変位手段に対する注目力の上昇を押さえることができる。

【１３０４６】

遊技機ＡＤ１からＡＤ７のいずれかにおいて、前記変位手段の状態を検出する検出手段を備え、その検出手段は、前記変位手段の変位について２種類以上の数値を検出可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ９。

【１３０４７】
遊技機ＡＤ９によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ７の奏する効果に加え、検出手段の配設個数を削減することができる。なお、変位手段の変位についての数値の種類としては、種々の態様が例示される。例えば、異なる可動部材のそれぞれの配置や姿勢についての数値でも良いし、所定タイミングで動作態様が変化する場合にその動作態様の変化に関与する数値でも良い。
【１３０４８】
また、検出手段の配置は何ら限定されるものではない。例えば、変位手段の変位基端側に検出手段を配置することで、その変位手段の変位先端側に連結される第２変位手段の配置や姿勢を検出する構造を構成し易い。
【１３０４９】
遊技機ＡＤ１からＡＤ９のいずれかにおいて、前記変位手段は前記第１変位部材および前記第２変位部材を備え、その第１変位部材および前記第２変位部材は遊技者側に向ける面が一側の面となる姿勢と、他側の面となる姿勢とで反転動作可能に構成され、前記第１変位部材および前記第２変位部材が一側の面を遊技者側に向ける場合には、第１変位部材および第２変位部材を区別可能とされる一方、前記第１変位部材および前記第２変位部材が他側の面を遊技者側に向ける場合には、第１変位部材および第２変位部材を区別不能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１０。
【１３０５０】
遊技機ＡＤ１０によれば、遊技機ＡＤ１からＡＤ９のいずれかの奏する効果に加え、一側が遊技者側に向けられている場合の第１変位部材および第２変位部材の状態に関わらず、反転動作が生じることに対する遊技者の期待感を高く維持することができる。
【１３０５１】
＜複数の被視認面を備える変位手段の配置により視認容易面を変えるポイント＞
視認可能に構成される第１視認可能面および第２視認可能面を備える変位手段を備え、その変位手段は、配置に応じて、前記第１視認可能面が視認し易い第１状態と、前記第２視認可能面が視認し易い第２状態と、を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１。
【１３０５２】
パチンコ機等の遊技機において、反転可能に構成される反転動作部７１を備え、視認される面を変化させることで遊技者に視認される外観を変化可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－１５３０９５号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、反転動作部７１の反転は、位置が固定された状態で行われるので、視認される面の変化により遊技者の視線を変化させることはできない。即ち、遊技者の視線を効率よく変化させるという観点で改善の余地があるという問題点があった。
【１３０５３】
これに対し、遊技機ＡＥ１によれば、変位手段が、配置に応じて、第１視認可能面が視認し易い状態と、第２視認可能面が視認し易い状態とが切り替えられるので、第１視認可能面または第２視認可能面を見たいと考える遊技者の視線を、変位手段の配置変化の経路に沿う態様で変化させることができる。
【１３０５４】
遊技機ＡＥ１において、前記変位手段を視認可能に開放される開放部を備え、前記変位手段は、前記開放部側が視認され易いように構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ２。
【１３０５５】
遊技機ＡＥ２によれば、遊技機ＡＥ１の奏する効果に加え、開放部を通して奥側を視認する遊技者が、変位手段の第１視認可能面または第２視認可能面を容易に視認できる。
【１３０５６】
遊技機ＡＥ２において、前記変位手段は、開放部の中央側に配置される場合よりも、開放部の縁側に配置される場合の方が、配置が背面側に寄ることを特徴とする遊技機ＡＥ３。

【１３０５７】
遊技機ＡＥ３によれば、遊技機ＡＥ２の奏する効果に加え、変位手段が開放部の中央側に配置される場合に変位手段を手前側で大きく視認可能としながら、変位手段が開放部の縁側に配置される場合に変位手段を見る際の視線の動きを少なくすることができる。これにより、変位手段の視認性と、変位手段を目で追う遊技者の疲労抑制と、の両立を図ることができる。
【１３０５８】
遊技機ＡＥ１からＡＥ３のいずれかにおいて、前記変位手段は、複数組の前記第１視認可能面および前記第２視認可能面を備え、一の組の前記第１視認可能面および前記第２視認可能面が視認可能な状態において、他の組の前記第１視認可能面および前記第２視認可能面を視認し難く構成することを特徴とする遊技機ＡＥ４。
【１３０５９】
遊技機ＡＥ４によれば、遊技機ＡＥ１からＡＥ３のいずれかの奏する効果に加え、第１視認可能面および第２視認可能面に、組ごとに異なる文字や図形を施しておくことで、変位手段を視認する遊技者に対して、異なる文字や図形を視認させることができ、且つ、視認させることを目的としない組の第１視認可能面および第２視認可能面に関しては視認し難く構成することで、変位手段の外観がみっともなくなることを回避することができる。
【１３０６０】
例えば、第１の組には、抽選結果が大当たりである期待感が低いことを示す文字や図形が第１視認可能面および第２視認可能面に表示され、第２の組には、抽選結果が大当たりである期待感が高いことを示す文字や図形が第１視認可能面および第２視認可能面に表示される場合に、変位手段の配置に関わらず、変位手段を通して、大当たりの期待感の高低を確認することができる。この場合において、変位手段が表示装置の表示領域の正面側から退避した後においても、変位手段による大当たりの期待感についての表示を維持できるので、液晶表示装置から目線を外した遊技者に対しても、大当たりの期待感についての表示を視認させることを継続することができる。
【１３０６１】
なお、視認し難く構成する態様は何ら限定されるものではない。例えば、遊技者側とは異なる側の面（後側面、左右外側面、等）に配置するようにしても良いし、遮蔽手段で遮蔽することで視認性を落とすように構成しても良い。
【１３０６２】
遊技機ＡＥ４において、視認される前記第１視認可能面および前記第２視認可能面の組を切り替える動作は、動作中において、前記第１視認可能面および前記第２視認可能面を認識され難いよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ５。
【１３０６３】
遊技機ＡＥ５によれば、遊技機ＡＥ４において、視認される第１視認可能面および第２視認可能面の組を切り替える動作中（確定前）に、遊技者側に表示される第１視認可能面および第２視認可能面の組を予測されることを回避し易くすることができる。これにより、変位手段に対する注目力を向上させることができる。
【１３０６４】
なお、上述の切り替える動作中において第１視認可能面および第２視認可能面を認識され難いよう構成される態様については、何ら限定されるものではない。例えば、変位手段を高速で回転動作させ認識され難くしても良いし、第１視認可能面（第２視認可能面）の一部と、その他の部分とを結合分離可能に構成し、それら一部とその他の部分とを分離した状態で動作させることで認識され難くしても良いし、発光手段による明暗の設定により相対的に暗くする部分を作り認識され難くしても良い。
【１３０６５】
なお、この場合において、分離した状態の態様としては、何ら限定されるものではない。例えば、上述の切り替える動作中において、第１視認可能面（第２視認可能面）の一部と、その他の部分との一方のみが視認され、他方は視認されないように背面側を向いて動

作するよう構成しても良いし、それら一部とその他の部分とが同時に視認可能であるが配置がずれて視認される状態で動作するよう構成しても良い。

【１３０６６】

遊技機ＡＥ５において、前記変位手段を視認可能に開放される開放部を備え、前記切り替える動作は、前記変位手段が前記開放部の中央側に配置されている状態で実行されることを特徴とする遊技機ＡＥ６。

【１３０６７】

遊技機ＡＥ６によれば、遊技機ＡＥ５の奏する効果に加え、切り替える動作を遊技者に視認させ易くすることができ、切り替える動作に対する注目力を向上させることができる。

【１３０６８】

遊技機ＡＥ５又はＡＥ６において、前記切り替える動作中において、前記第１視認可能面の一部とその他の部分との、一方は正面側を向き、他方は正面側とは異なる側を向くことを特徴とする遊技機ＡＥ７。

【１３０６９】

遊技機ＡＥ７によれば、遊技機ＡＥ５又はＡＥ６の奏する効果に加え、動作中において第１視認可能面の一部を視認可能とし、全体は視認不可能とすることで、動作中において第１視認可能面を認識され難くすることができる。

【１３０７０】

遊技機ＡＥ１からＡＥ７のいずれかにおいて、前記第２視認可能面への視線の少なくとも一部を遮蔽可能に構成される第２変位手段を備え、前記変位手段は、前記第２変位手段と共に前記第１視認可能面を視認させるための第３状態に切替可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ８。

【１３０７１】

遊技機ＡＥ８によれば、遊技機ＡＥ１からＡＥ７のいずれかの奏する効果に加え、第２変位手段により第２視認可能面の少なくとも一部を視認し難く構成することにより、変位手段の演出位置の設計自由度を向上させることができる。

【１３０７２】

遊技機ＡＥ１からＡＥ８のいずれかにおいて、前記変位手段は、変位に伴って、所定方向視で視認される面を第１視認可能面と第２視認可能面との間で変化させるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ９。

【１３０７３】

遊技機ＡＥ９によれば、遊技機ＡＥ１からＡＥ８のいずれかの奏する効果に加え、所定方向視で視認される面が第１視認可能面と第２視認可能面との間で変化するので、遊技者の視線の変化量に依存せずに、視認し易い面を任意に変更することができる。

【１３０７４】

遊技機ＡＥ９において、前記第１状態と前記第２状態とで前記変位手段の姿勢が変化することを特徴とする遊技機ＡＥ１０。

【１３０７５】

遊技機ＡＥ１０によれば、遊技機ＡＥ９の奏する効果に加え、第１状態における変位手段の外観と第２状態における変位手段の外観との違いを、変位手段の姿勢を違えることにより大きくすることができる。

【１３０７６】

遊技機ＡＥ９又はＡＥ１０において、前記変位手段に近接配置可能に構成される補助手段を備え、前記第１状態では、前記変位手段は前記補助手段に近接配置され、前記第２状態では、前記変位手段は前記補助手段から離れて配置されることを特徴とする遊技機ＡＥ１１。

【１３０７７】

遊技機ＡＥ１１によれば、遊技機ＡＥ９又はＡＥ１０の奏する効果に加え、補助手段を変位手段に近接配置させ、一体的に視認させる状態と、補助手段と変位手段とを分けて視

認させる状態とを構成することができ、変位手段が遊技者に与える印象を複数構成することができる。
【１３０７８】
なお、補助手段の態様は何ら限定されるものではない。例えば、配置が固定された手段でも良いし、可動の手段でも良い。
【１３０７９】
遊技機ＡＥ１１において、前記補助手段は、前記変位手段と一体的に視認させる状態と、前記変位手段とは分離して視認させる状態と、を切替可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１２。
【１３０８０】
遊技機ＡＥ１２によれば、遊技機ＡＥ１１の奏する効果に加え、変位手段と補助手段とを一体的に視認させるか分離して視認させるかを切り替えることができるので、部材個数に対する視認可能態様のバリエーションを増やすことができる。
【１３０８１】
＜変位手段の変位量と配設手段の変位量との同時点での比が区間で異なるポイント＞
変位可能に構成される変位手段と、その変位手段に第１の部分が配設される配設手段と、前記配設手段の第２の部分を支持する支持手段と、を備え、その支持手段は、前記変位手段の変位中における前記第１の部分を基準とした前記第２の部分の配置を制御可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ１。
【１３０８２】
パチンコ機等の遊技機において、傾倒変位可能なベースアーム２２０と、そのベースアーム２２０の傾倒先端側に回動可能に取り付けられた回動役物２１１と、その回動役物２１１を回動させるための駆動力を発生させる駆動モータ２２２と、を備え、ベースアーム２２０の変位と独立して回動役物２１１を回動可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－１１６７８２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回動役物２１１がベースアーム２２０の先端においてぐらつき易く、ベースアーム２２０の傾倒変位中に回動役物２１１を回動させると機構に不具合が生じる可能性がある結果、回動役物２１１の回動変位はベースアーム２２０の停止中に行うと想定されることから、変位の自由度が低くなっていた。
【１３０８３】
即ち、変位可能な部分の変位の設計自由度を高くするという観点で改善の余地があるという問題点があった。
【１３０８４】
これに対し、遊技機ＡＦ１によれば、配設手段が変位手段と支持手段とに少なくとも２点で支持され、その２つの支持点が変位手段の変位中に相対変位するように構成されており、支持手段により、第１の部分を基準とする第２の部分の配置を制御可能としているので、配設手段を安定的に支持しながら、変位手段の変位中に配設手段を変位させることができる。これにより、配設手段（変位可能な部分）の変位の設計自由度を高めることができる。
【１３０８５】
なお、支持手段の態様は、何ら限定されるものではない。例えば、固定のベース手段に形成される案内溝に変位を制限される態様で支持されても良いし、変位可能な第２の変位手段に連結されて支持されても良い。また、支持手段による制御は、電子制御に限定されるものではなく、第２の部分の変位を壁部で規制（案内）する等の機械的な制御も含まれる。
【１３０８６】
遊技機ＡＦ１において、前記変位手段は、第１の区間および第２の区間を、変位可能に構成され、前記支持手段は、前記変位手段が前記第１区間を変位する場合に前記第２の部分を支持する第１範囲と、前記変位手段が前記第２区間を変位する場合に前記第２の部分を支持する第２範囲と、を備え、前記第１範囲において前記第２の部分が変位する方向と

、前記第２範囲において前記第２の部分が変位する方向とが異なるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ２。
【１３０８７】
遊技機ＡＦ２によれば、遊技機ＡＦ１の奏する効果に加え、変位手段の変位速度を一定とする場合であっても、配設手段の変位速度を異ならせることができ、支持手段は、第２の部分の変位方向の変化を許容するように構成されるので、第２の部分の変位方向が不規則に変化するとしても配設手段の変位を滑らかにすることができる。
【１３０８８】
遊技機ＡＦ１又はＡＦ２において、前記支持手段は、前記第２の部分の変位を制限する制限部を備えることを特徴とする遊技機ＡＦ３。
【１３０８９】
遊技機ＡＦ３によれば、遊技機ＡＦ１又はＡＦ２の奏する効果に加え、第１範囲と第２範囲との境界位置（制限部）において第２の部分の変位を制限することができるので、第２の部分を変位の大きい側から小さい側へ向けて変位させる場合に、第１範囲と第２範囲との境界位置（制限部）で第２の部分を停止し易くすることができる。
【１３０９０】
なお、第２の部分の第１の部分を基準とした変位に要する負荷の態様は何ら限定されるものではない。例えば、第２の部分が引かれる態様でも良いし、第２の部分が押進される態様でも良い。
【１３０９１】
なお、制限部の態様は何ら限定されるものではない。例えば、第２の部分の変位抵抗の増減を設定する態様でも良いし、第２の部分の変位方向を切り替える態様でも良い。
【１３０９２】
遊技機ＡＦ２又はＡＦ３において、前記第１の区間は、前記第２の区間よりも前記変位手段の変位範囲の終端側に配置され、前記第２の区間における前記変位手段を基準とした配設手段の相対的な変位量は、前記第１の区間における前記変位手段を基準とした配設手段の相対的な変位量に比較して小さくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ４。
【１３０９３】
遊技機ＡＦ４によれば、遊技機ＡＦ２又はＡＦ３の奏する効果に加え、変位手段の変位途中位置において、変位手段を基準とした配設手段の相対的な変位量が小さくなる区間を構成することができるので、変位手段の変位終端位置の他に、変位手段と配設手段とを一体的に視認し易い位置を設けることができ、結果として、変位手段と配設手段とを一体的に視認し易い位置を増やすことができる。
【１３０９４】
遊技機ＡＦ１からＡＦ４のいずれかにおいて、前記第１の部分の変位速度を基準とした前記第２の部分の変位速度（の比）を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ５。
【１３０９５】
遊技機ＡＦ５によれば、遊技機ＡＦ１からＡＦ４のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位速度が一定の場合であっても、支持手段側における配設手段の第２の部分の変位速度を変化させることができるので、駆動手段の簡易な駆動制御（等速駆動）で、配設手段の変位速度を可変とするような動作演出を構成することができる。
【１３０９６】
遊技機ＡＦ１からＡＦ５のいずれかにおいて、前記支持手段は、前記第２の部分の変位終端における変位速度を低減するよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ６。
【１３０９７】
遊技機ＡＦ６によれば、遊技機ＡＦ１からＡＦ５の奏する効果に加え、第２の部分の跳ね戻りを防止することができ、変位終端において配設手段を早期に停止させ易くすることができる。

【１３０９８】
なお、第２の部分の跳ね戻りを防止する手法については何ら限定されるものではない。例えば、変位終端における第２の部分の変位速度（例えば、第１の部分が所定の単位長さ変位する場合の第２の部分の変位量）を低減するように構成する手法でも良いし、第１の部分が停止した状態における第２の部分の変位方向に壁を立てる等の形状的工夫により第２の部分の変位を規制するような手法でも良い。
【１３０９９】
また、第２の部分の変位量を低減する手法に限らず、第２の部分の変位抵抗を増加させるようにしても良い。例えば、第２の部分の変位終端において磁力等により負荷を与え、第２の部分の変位抵抗を向上するようにしても良いし、コイルスプリング等の付勢力で変位抵抗を向上するようにしても良い。
【１３１００】
遊技機ＡＦ６において、前記支持手段は、前記第１の部分の変位に伴う前記第２の部分の変位の変位軌跡と、前記第１の部分が変位終端で停止した場合の前記第２の部分の変位の変位軌跡とが、交差するよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ７。
【１３１０１】
遊技機ＡＦ７によれば、遊技機ＡＦ６の奏する効果に加え、第１の部分の変位に伴う第２の部分の変位を案内する機能を有する支持手段により、第１の部分が停止した場合における第２の部分の戻り変位（バウンド）を低減することができる。
【１３１０２】
遊技機ＡＦ１からＡＦ７のいずれかにおいて、前記配設手段に変位可能に支持される被支持手段を備え、その被支持手段は、前記変位手段を基準とした前記配設手段の相対的変位量に応じた変位量で変位するように構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ８。
【１３１０３】
遊技機ＡＦ８によれば、遊技機ＡＦ１からＡＦ７のいずれかの奏する効果に加え、配設手段と共同で変位する被支持手段により、複雑な演出を実行することができる。
【１３１０４】
なお、被支持手段の変位の態様は、何ら限定されるものではない。例えば、配設手段が変位する所定平面上を配設手段と並走するように変位する態様でも良いし、配設手段が変位する所定平面とは離れた位置において配設手段の変位態様（例えば、所定平面上のスライド変位態様）とは異なる変位態様（例えば、所定の軸を中心とした回転変位態様）でも良い。
【１３１０５】
なお、配設手段の変位量に係る配設手段の変位の態様については、何ら限定されるものではない。例えば、姿勢変化でも良いし、姿勢を維持したままでの変位でも良い。
【１３１０６】
遊技機ＡＦ８において、前記第１の部分が所定方向に変位する間に、前記第２の部分は、前記第１の部分の変位軌跡と交差する方向に往復変位可能な区間を備えることを特徴とする遊技機ＡＦ９。
【１３１０７】
遊技機ＡＦ９によれば、遊技機ＡＦ８の奏する効果に加え、第１の部分が変位している間に、第１の部分に対する第２の部分の相対変位量が戻り変化する（例えば、増加後に減少する）態様とすることができるので、第２の部分の配置は維持しながら、被支持手段の変位量は大きくするという変位態様を実現することができる。
【１３１０８】
遊技機ＡＦ８又はＡＦ９において、前記配設手段を基準とした前記被支持手段の（相対）回転の変位速度は、前記変位手段の変位速度と同等となるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ１０。
【１３１０９】
遊技機ＡＦ１０によれば、遊技機ＡＦ８又はＡＦ９の奏する効果に加え、被支持手段の

変位態様を、配設手段を挟んで変位手段と同等することができる。これにより、あたかも、被支持手段が独自の駆動手段で変位しているように遊技者に錯覚させることができる。

【１３１１０】

遊技機ＡＦ１からＡＦ１０のいずれかにおいて、前記配設手段は、自らの変位に伴い遊技者側に向ける面を第１面と第２面とで切り替えるように姿勢変化する姿勢変化手段を備え、その姿勢変化手段は、前記第２の部分が変位終端に配置された状態において、前記第１面または前記第２面が遊技者側に向けられる姿勢となるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ１１。

【１３１１１】

遊技機ＡＦ１１によれば、遊技機ＡＦ１からＡＦ１０のいずれかの奏する効果に加え、姿勢変化手段の第１面または第２面が遊技者側に向けられることで、第２の部分が変位終端に到達したことを遊技者が把握できるので、変位手段による演出動作の終期を分かり易く構成することができる。

【１３１１２】

遊技機ＡＦ１からＡＦ１１のいずれかにおいて、前記第２の部分を通して前記配設手段に電気配線が挿通されるよう構成され、前記電気配線が内部に配置されると共に前記第２の部分に固定される配置手段を備え、前記配置手段は、前記電気配線を挿通可能な開口部を備え、その開口部は、周囲に形成される周囲部分との前記電気配線の接触を避けるよう変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＦ１２。

【１３１１３】

遊技機ＡＦ１２によれば、遊技機ＡＦ１からＡＦ１１のいずれかの奏する効果に加え、電気配線が周囲部分と接触することを避けることができる。

【１３１１４】

配置手段は、第２の部分が複数部材で構成される場合にそれら複数部材を合体させるための手段として構成しても良いし、第２の部分に別部材が配設される場合に、その別部材の第２の部分からの脱落を防止するための手段として構成しても良い。

【１３１１５】

＜特徴ＢＡ群＞

第１情報取得条件の成立に基づいて第１情報を取得可能な第１情報取得手段と、その第１情報取得手段により取得された前記第１情報に基づいて、第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段による第１判別結果を示すための第１識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な第１動的表示手段と、その第１動的表示手段により動的表示される前記第１識別情報の第１動的表示態様を決定することが可能な第１動的表示態様決定手段と、第２情報取得条件の成立に基づいて第２情報を取得可能な第２情報取得手段と、その第２情報取得手段により取得された前記第２情報が記憶される第２情報記憶手段と、前記第２情報取得手段により取得された前記第２情報に基づいて、第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段による第２判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段に動的表示させることが可能な第２動的表示手段と、その第２動的表示手段により動的表示される前記第２識別情報の第２動的表示態様を決定することが可能な第２動的表示態様決定手段と、特定の前記第１判別結果を示すための第１識別情報または特定の前記第２判別結果を示すための第２識別情報が前記表示手段に停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記第２識別情報の動的表示期間中に演出態様を実行可能な演出態様実行手段と、その演出態様実行手段により実行される演出態様を選択可能な演出態様選択手段と、を有し、前記演出態様選択手段は、前記第２情報記憶手段に記憶されている少なくとも前記第２情報の数に基づいて前記演出態様を選択するものであることを特徴とする遊技機ＢＡ１。

【１３１１６】

パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を示すための演出として抽選結果等に基づいて抽選で抽選結果を報知するための演出態様を決定して、その決定された演出態様を実行することにより、遊技の興趣向上を図って

いるものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。
【１３１１７】
しかしながら、上述した従来の遊技機では、演出態様の内容に遊技者が早期に遊技に飽きてしまう問題点があった。
【１３１１８】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制できる遊技機を提供することを目的としている。
【１３１１９】
遊技機ＢＡ１によれば、第２識別情報の動的表示期間中に実行される演出態様が記憶されている第２情報の数によって可変されるので、その後に実行されることが可能となっている第２識別情報の動的表示の回数に対応させた演出の実行が可能となり、特定の第２判定結果を示すための第２識別情報が表示されない場合にも、その後の遊技に対して継続して興味を持たせることで遊技者が早期に遊技に飽きてしまう不具合を抑制できる。
【１３１２０】
遊技機ＢＡ１において、前記第２識別情報の動的表示は、前記第１識別情報の動的表示よりも優先して実行されるものであり、前記演出態様実行手段は、特定の前記第２動的表示態様が実行されている場合に前記演出態様を実行するものであることを特徴とする遊技機ＢＡ２。
【１３１２１】
遊技機ＢＡ２によれば、特定の第２動的表示態様が実行されることで、第２情報が記憶されることに意欲を抱かせることができ、遊技者の興趣を向上できるという効果がある。
【１３１２２】
遊技機ＢＡ１またはＢＡ２において、前記演出態様は、前記第２情報が記憶されている数に対応して前記実行されている前記第２動的表示態様の期間が終了した後に連続して実行される次の前記第２識別情報の動的表示に跨がった期間で設定されているものであることを特徴とする遊技機ＢＡ３。
【１３１２３】
遊技機ＢＡ３によれば、遊技機ＢＡ１またはＢＡ２の奏する効果に加え、演出態様は複数回連続して実行される第２識別情報の動的表示期間に跨がって実行可能に構成されているので、複数回の第２動的表示態様を１の動的表示のように見せて興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３１２４】
遊技機ＢＡ１からＢＡ３のいずれかにおいて、遊技球が入球可能な第１入球手段と、前記第１入球手段とは異なる第２入球手段と、その第２入球手段に遊技球が入球可能な第１状態と前記第１状態よりも遊技球の入球が困難となる第２状態とに可変可能な可変部材と、前記可変部材を特定条件の成立に基づいて前記第２状態から第１状態へと所定条件が成立するまで可変させる可変制御手段と、前記特定条件の成立前に、前記特定条件の成立を事前に判別可能な事前判別手段と、を有した遊技機において、前記演出態様選択手段は、少なくとも前記事前判別手段の結果に基づいて特定の演出態様を選択することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＡ４。
【１３１２５】
遊技機ＢＡ４によれば、遊技機ＢＡ１からＢＡ３の奏する効果に加え、第２情報が取得され易くなる契機となる特定条件の成立を事前に判別した結果に基づいて特定の演出態様が選択されるので、第２情報の取得に対して期待を持たせることができるという効果がある。
【１３１２６】
＜特徴ＢＢ群＞（変動パターンの実行中の途中で特図２保留数によって、演出可変）
第１情報取得条件の成立に基づいて第１情報を取得可能な第１情報取得手段と、その第１情報取得手段により取得された前記第１情報に基づいて、第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段による第１判別結果を示すための第１識別情報を表示手段に

動的表示させることが可能な第１動的表示手段と、その第１動的表示手段により動的表示される前記第１識別情報の第１動的表示態様を決定することが可能な第１動的表示態様決定手段と、第２情報取得条件の成立に基づいて第２情報を取得可能な第２情報取得手段と、その第２情報取得手段により取得された前記第２情報が記憶される第２情報記憶手段と、前記第２情報取得手段により取得された前記第２情報に基づいて、第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段による第２判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段に動的表示させることが可能な第２動的表示手段と、その第２動的表示手段により動的表示される前記第２識別情報の第２動的表示態様を決定することが可能な第２動的表示態様決定手段と、特定の前記第１判別結果を示すための第１識別情報または特定の前記第２判別結果を示すための第２識別情報が前記表示手段に停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記第１識別情報の動的表示期間中に演出態様を実行可能な演出態様実行手段と、その演出態様実行手段により実行される演出態様を選択可能な演出態様選択手段と、を有し、前記演出態様選択手段は、前記第２情報記憶手段に記憶されている少なくとも前記第２情報の数に基づいて前記演出態様を選択するものであることを特徴とする遊技機ＢＢ１。

【１３１２７】

ここで、パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を示すための演出として抽選結果等に基づいて抽選で抽選結果を報知するための演出態様を決定して、その決定された演出態様を実行することにより、遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。

【１３１２８】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、演出態様の内容に遊技者が早期に遊技に飽きてしまう問題点があった。

【１３１２９】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１３０】

遊技機ＢＢ１によれば、第１識別情報が動的表示の開始時に決定された第１動的表示態様で動的表示されている期間に実行される演出態様が第２情報の記憶されている数に基づいて決定されるので、第１判別の結果だけでなく、第２判別が実行されることが可能であることに関する情報も演出態様から判別することができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまう不具合を抑制できるという効果がある。

【１３１３１】

遊技機ＢＢ１において、前記演出態様選択手段は、少なくとも前記第２情報の数と動的表示されている前記第１識別情報の動的表示態様とに基づいて前記演出態様を選択するものであることを特徴とする遊技機ＢＢ２。

【１３１３２】

遊技機ＢＢ２によれば、遊技機ＢＢ１の奏する効果に加え、実行されている第１動的表示態様とその実行中における第２情報が記憶されている数により演出態様が選択されるので、多様な演出態様を実行できるという効果がある。

【１３１３３】

遊技機ＢＢ１またはＢＢ２において、前記第２識別情報の動的表示は、前記第１識別情報の動的表示よりも優先して実行されるように構成され、前記演出態様は、その後に実行される前記第２識別情報の動的表示態様に関連する演出が実行されるものであることを特徴とする遊技機ＢＢ３。

【１３１３４】

遊技機ＢＢ３によれば、遊技機ＢＢ１またはＢＢ２の奏する効果に加え、第２情報が記憶されている場合には、実行されている第１識別情報が終了した後には、第２識別情報の動的表示が開始されることになり、その第２動的表示態様と関連する演出態様を第２識別情報の動的表示の開始前に実行することができるので、優先して実行される第２識別情報

の動的表示が開始されることを早期に遊技者に認識させることができるという効果がある。

【１３１３５】

遊技機ＢＢ１からＢＢ３のいずれかにおいて、遊技球が入球可能な第１入球手段と、前記第１入球手段とは異なる第２入球手段と、その第２入球手段に遊技球が入球可能な第１状態と前記第１状態よりも遊技球の入球が困難となる第２状態とに可変可能な可変部材と、前記可変部材を特定条件の成立に基づいて前記第２状態から第１状態へと所定条件が成立するまで可変させる可変制御手段と、前記特定条件の成立前に、前記特定条件の成立を事前に判別可能な事前判別手段と、を有した遊技機において、前記演出態様選択手段は、少なくとも前記事前判別手段の結果に基づいて特定の演出態様を選択することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＢ４。

【１３１３６】

遊技機ＢＢ４によれば、遊技機ＢＢ１からＢＢ３の奏する効果に加え、第２情報が取得され易くなる契機となる特定条件の成立を事前に判別した結果に基づいて特定の演出態様が選択されるので、第２情報の取得に対して期待を持たせることができるという効果がある。

【１３１３７】

＜特徴ＢＣ群＞（特図２変動の疑似演出として、特図１変動演出を用いる）

第１の判別条件の成立に基づいて第１判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２判別を実行する第２判別手段と、前記第１判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果になったことに基づいて遊技者に有利な第１特典遊技を実行する第１特典遊技実行手段と、前記第２判別手段の判別結果が予め定められた第２の判別結果になったことに基づいて遊技者に有利な第１特典遊技を実行する第２特典遊技実行手段と、前記第１判別が実行されたことに基づいて、当該第１判別の判別結果を示すための第１演出を実行する第１演出実行手段と、前記第２判別が実行されたことに基づいて、当該第２判別の判別結果を示すための演出として前記第１演出とは異なる第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備え、前記第２演出実行手段は、少なくとも予め定められた特定条件が成立している場合に、前記第１演出の演出期間において実行され易い特定の演出態様を少なくとも含む演出態様の前記第２演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＢＣ１。

【１３１３８】

パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を示すための演出として抽選結果等に基づいて抽選で抽選結果を報知するための演出態様を決定して、その決定された演出態様を実行することにより、遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。

【１３１３９】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、演出態様の内容に遊技者が早期に遊技に飽きてしまう問題点があった。

【１３１４０】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１４１】

遊技機ＢＣ１によれば、第２判別の判別結果を示すための演出として第１演出を実行可能とすることができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３１４２】

遊技機ＢＣ１において、前記第２演出実行手段は、前記第１演出の演出態様として、前記第１判別の結果を示す表示態様を少なくとも含む演出態様の前記第２演出を実行可能なものであることを特徴とする遊技機ＢＣ２。

【１３１４３】

遊技機ＢＣ２によれば、遊技機ＢＣ１の奏する効果に加え、第１判別の判別結果を示す

表示態様を用いた第２演出を実行することができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３１４４】

遊技機ＢＣ２において、前記第２演出実行手段は、第２判別の判別結果を示す１の演出内で前記第２判別の判別結果を示すための第２演出態様と、前記演出態様とを実行するものであることを特徴とする遊技機ＢＣ３。

【１３１４５】

遊技機ＢＣ３によれば、遊技機ＢＣ２の奏する効果に加え、より意外性のある演出を実行することができるという効果がある。

【１３１４６】

＜特徴ＢＤ群＞（通常当たりでも確変含むダブル表示）

第１判別を実行可能な第１判別手段と、所定の動的表示態様で複数の第１識別図柄を表示手段に動的表示させた後に、前記第１判別手段による第１判別結果を示すための組み合わせで停止表示させることが可能な第１動的表示手段と、第２判別を実行可能な第２判別手段と、所定の動的表示態様で複数の第２識別図柄を表示手段に動的表示させた後に、前記第２判別手段による第２判別結果を示すための組み合わせで停止表示させることが可能な第２動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記第１判別結果を示すための特定の組み合わせで前記第１識別図柄が停止表示された場合または前記表示手段に特定の前記第２判別結果を示すための特定の組み合わせで前記第２識別図柄が停止表示された場合に、遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記特典付与手段は、前記特定の組み合わせのうち、第１特定組み合わせに対応する識別図柄の組み合わせで停止表示された場合に前記特典として第１特典を付与可能であり、前記第１特定組み合わせとは異なる第２特定組み合わせに対応する識別図柄の組み合わせで停止表示された場合に前記第１特典よりも遊技者に有利な第２特典を付与可能に構成され、前記遊技機は、前記特典付与手段により付与される前記特典の種別を決定可能な決定手段を有し、前記第１動的表示手段は、特定期間が設定されている場合には、１の第１識別図柄を動的表示させた状態で残りの識別図柄を前記第１特定組み合わせと前記第２特定組み合わせのうちいずれかの組み合わせとなることが可能な組み合わせで停止表示させる複数リーチ表示態様を表示させた後に、前記第１識別図柄を前記特定の組み合わせで表示させるものであることを特徴とする遊技機ＢＤ１。

【１３１４７】

パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を複数の図柄の組み合わせで報知する場合に、表示された図柄の種類によりその後に付与される特典が異なるように構成することで、遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。

【１３１４８】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技者が望む特典よりも低い特典が付与されない組み合わせを構成する一部の図柄が停止表示されることで、結果が報知されるよりも前に遊技に対する興趣が低下してしまう問題点があった。

【１３１４９】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１５０】

遊技機ＢＤ１によれば、特定期間に識別図柄が特定の組み合わせで表示される場合に複数リーチ表示態様を経て特定の組み合わせが表示されるので、第１特典に対応した組み合わせと第２特典に対応した組み合わせの双方が表示される期待を長く持たせることができ、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３１５１】

遊技機ＢＤ１において、前記決定手段は、前記特定期間において前記特定の第１判別結果である場合に前記第１特典を決定するものであることを特徴とする遊技機ＢＤ２。

【１３１５２】
遊技機ＢＤ２によれば、遊技機ＢＤ１の奏する効果に加え、決定手段により第１特典が決定される特定期間であっても、複数リーチ表示態様を経て特定の組み合わせが表示されるので、特定期間に第１判別が実行された場合にも第２特典が付与されることへの期待感を持ちやすくすることができるという効果がある。
【１３１５３】
遊技機ＢＤ２において、前記決定手段は、前記特定期間において前記特定の第２判別結果である場合に前記第２特典を決定するものであり、前記第２動的表示手段は、特定期間が設定されている場合には、１の第２識別図柄を動的表示させた状態で残りの識別図柄を２以上の異なる前記第２特定組み合わせのうちいずれかの組み合わせとなることが可能な組み合わせで停止表示させる特別複数リーチ表示態様を表示させた後に、前記第２識別図柄を前記特定の組み合わせで表示させるものであることを特徴とする遊技機ＢＤ３。
【１３１５４】
遊技機ＢＤ３によれば、遊技機ＢＤ２の奏する効果に加え、特定期間では、遊技者に有利な第２特典が特定の第２判定結果である場合に必ず付与されることを早期に認識させることができるという効果がある。
【１３１５５】
＜特徴ＢＥ群＞（確変当たり時のパンクＥＤ制御）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が特定の判別結果である場合に遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別を複数の種別から決定可能な特典遊技種別決定手段と、特定の前記特典遊技が実行される場合に、遊技球が通過可能となる特定領域と、その特定領域を遊技球が通過した場合に前記特典遊技の実行後に設定される遊技状態として通常遊技状態よりも遊技者に有利となる有利遊技状態を終了条件が成立するまで設定することが可能な設定手段と、前記特典遊技が終了する場合に、該特典遊技の実行後に設定される前記遊技状態を示唆可能な示唆態様を実行する示唆態様実行手段と、を有した遊技機において、前記示唆態様は、第１示唆態様と第２示唆態様とが組み合わされて構成されており、前記通常遊技状態を示唆するための第２示唆態様と前記有利遊技状態を示唆するための第２示唆態様とは同一の期間で構成された示唆態様で構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＥ１。
【１３１５６】
パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりとなり、その当たり種別によって異なる当たり遊技を実行して、特定の種別の当たり遊技中には、遊技球が入球可能な状態と困難な状態とに可変される可変入球領域が入球可能な状態に可変され、遊技球が入球することで当たり遊技後の遊技状態を遊技者に有利な遊技状態とすることで遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。
【１３１５７】
しかしながら、上述した従来の遊技機では、特定の種別の当たり遊技が実行されても、可変入球領域に遊技球が入球しない場合が発生することで、その場合の報知制御における制御負荷が増大してしまう問題点があった。
【１３１５８】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、制御負荷を軽減できる遊技機を提供することを目的としている。
【１３１５９】
遊技機ＢＥ１によれば、第２示唆態様を同一の期間としたことで、示唆態様を表示させる期間が可変することを抑制しながら特定領域への入球状態によって示唆する態様を設定することで特典遊技の終了時における示唆態様の報知制御を容易にして制御負荷を軽減することができるという効果がある。
【１３１６０】

遊技機ＢＥ１において、前記特典遊技が実行される場合に、実行される特典遊技の種別に対応して前記示唆態様実行手段により実行される前記示唆態様を設定する示唆態様設定手段と、前記特定の特典遊技中に前記特定領域に遊技球が入球しなかった場合に設定されている前記示唆態様のうち、前記第２示唆態様を前記特定の特典遊技以外に対応した第２示唆態様に切替えることが可能な切替手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＥ２。

【１３１６１】

遊技機ＢＥ２によれば、遊技機ＢＥ１の奏する効果に加え、特典遊技の終了時における制御負荷が集中することを抑制するように開始時に示唆態様を設定する構成であっても、示唆態様を表示するための期間を変動させることなく通常遊技状態に対応した示唆態様に切替えて示唆することができるので、制御負荷を抑制して正しい示唆を実行することができるという効果がある。

【１３１６２】

＜特徴ＢＦ群＞（大当たり種別に応じて異なる長さのＥＤ期間を設ける）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果が特定の判別結果になったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別を複数の種別から決定可能な特典遊技種別決定手段と、前記特典遊技の実行中に予め定められた終了条件が成立したことに基づいて、前記特典遊技の終了を示すための期間として、実行中の前記特典遊技の種別に応じた長さの期間を設定する期間設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＦ１。

【１３１６３】

パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を示すための演出として抽選結果等に基づいて抽選で抽選結果を報知するための演出態様を決定して、その決定された演出態様を実行することにより、遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。

【１３１６４】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、演出態様の内容に遊技者が早期に遊技に飽きてしまう問題点があった。

【１３１６５】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１６６】

遊技機ＢＦ１によれば、特典遊技の種別に応じて異なる期間を設定することができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３１６７】

遊技機ＢＦ１において、前記期間設定手段により設定された前記期間を用いて特定演出を実行可能な特定演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＦ２。

【１３１６８】

遊技機ＢＦ２によれば、遊技機ＢＦ１の奏する効果に加え、特典遊技の種別に応じて設定される異なる期間にて特定演出を実行することができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３１６９】

遊技機ＢＦ１またはＢＦ２において、前記特典遊技の実行中に可変条件が成立した場合に、前記期間設定手段により設定された前記期間の長さを異なる長さに切替可能な期間切替手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＦ３。

【１３１７０】

遊技機ＢＦ３によれば、遊技機ＢＦ１またはＢＦ２の奏する効果に加え、特典遊技の実行中に可変条件が成立した場合にも期間の長さを異ならせることができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３１７１】

＜特徴ＢＧ群＞（ＥＤ期間をＶ入賞の有無で可変させる）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果が特定の判別結果になったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行中に遊技球が通過可能となる特定領域と、前記特典遊技の実行中に前記特定領域を遊技球が通過したことに基づいて、遊技者に有利となる有利遊技状態を設定することが可能な遊技状態設定手段と、前記特典遊技の実行中に予め定められた終了条件が成立したことに基づいて、前記特典遊技の終了を示すための特定期間を設定する特定期間設定手段と、を備え、前記特定期間設定手段は、前記特典遊技の実行中に前記特定領域を遊技球が通過した場合と通過しなかった場合とで、異なる長さの前記特定期間を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＢＧ１。
【１３１７２】
パチンコ機等の遊技機には、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を示すための演出として抽選結果等に基づいて抽選で抽選結果を報知するための演出態様を決定して、その決定された演出態様を実行することにより、遊技の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。
【１３１７３】
しかしながら、上述した従来の遊技機では、演出態様の内容に遊技者が早期に遊技に飽きてしまう問題点があった。
【１３１７４】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制できる遊技機を提供することを目的としている。
【１３１７５】
遊技機ＢＧ１によれば、特典遊技の実行中に特定領域を遊技球が通過した場合と通過しなかった場合とで、異なる長さの特定期間を設定可能にしているため、遊技の興趣を向上させることができる。
【１３１７６】
遊技機ＢＧ１において、前記特定期間中に特定演出を実行可能な特定演出実行手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＧ２。
【１３１７７】
遊技機ＢＧ２によれば、遊技機ＢＧ１の奏する効果に加え、特定期間内に特定演出を実行することができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３１７８】
遊技機ＢＧ２において、前記特定演出は、前記特典遊技中における前記特定領域への遊技球の通過状況を報知するための報知態様を少なくとも含むものであることを特徴とする遊技機ＢＧ３。
【１３１７９】
遊技機ＢＧ３によれば、特定演出に報知態様が含まれるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することが出来るという効果がある。
【１３１８０】
＜特徴ＢＨ群＞（ボタン操作の制限制御）
判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に表示される前記識別情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて操作に対応した設定を実行することが可能な設定実行手段と、前記識別情報の動的表示期間において特定条件が成立している場合に前記操作手段が操作されたことに基づく前記設定の実行を規制する規制手段と、を有することを特徴とする遊技機ＢＨ１。
【１３１８１】
従来より、特別図柄抽選が実行された場合に、所定期間の特別図柄変動期間を介して抽

選結果を報知（停止表示）するように構成し、特別図柄抽選が実行されてから、その抽選結果が停止表示されるまでの期間（特別図柄変動期間）を用いて様々な演出（変動演出）を実行することで遊技者が遊技に早期に飽きないよう工夫を凝らしているものが多々ある。その中で、複数の演出モードを予め容易しておき、各演出モードに対して特別図柄変動期間中に実行される変動演出の態様を異ならせるように構成しているものがある。

【１３１８２】

このように構成された遊技機では、演出モードが切り替わることにより、異なる変動演出を遊技者に提供することができるため、同一の変動演出ばかり提供されることにより遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。さらに、遊技者が操作可能な操作手段を操作することで、任意に演出モードを切替可能とする遊技機もある（例えば、特許文献１：特開２０１２－２４９８７７号公報）。このような遊技機では、複数の演出モードのうち、最も興味のある演出モードを遊技者自身が選択することができるため、興味の低い変動演出が実行されてしまい遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。また、演出モードを切り替えるために遊技者自身が操作手段を操作する必要があることから遊技の興趣を向上させることができる。

【１３１８３】

しかしながら、上述したように、遊技者が操作手段を操作することで、任意のタイミングで演出モードを切替可能とした場合には、例えば、特別図柄抽選の結果が停止表示される直前や、特別図柄変動期間として短時間の変動期間が設定される場合において、演出モードが切り替わることにより、特別図柄抽選の結果を遊技者が把握し難くなってしまうため、操作手段を操作しようとする意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３１８４】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の遊技意欲を向上できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１８５】

遊技機ＢＨ１によれば、識別情報の動的表示期間において特定条件が成立している場合に操作手段が操作されたことに基づく設定の実行を規制することができるため、操作手段が操作されたことにより不具合が発生することを抑制することができる。

【１３１８６】

遊技機ＢＨ１において、前記動的表示手段により前記識別情報が動的表示される動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、終了条件が成立するまで前記動的表示期間決定手段により決定される動的表示期間として短い動的表示期間が決定され易い短遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、前記特定条件は、前記短遊技状態が設定されていることが少なくとも成立条件の１つとして設定されているものであることを特徴とする遊技機ＢＨ２。

【１３１８７】

遊技機ＢＨ２によれば、遊技機ＢＨ１の奏する効果に加え、短遊技状態中において、操作手段が操作されたことに基づく設定の実行を規制することができるため、設定実行手段が実行されることにより、判別手段の判別結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３１８８】

遊技機ＢＨ１またはＢＨ２において、前記設定実行手段により実行された設定に基づいて、第１演出モードと、その第１演出モードとは異なる第２演出モードと、を少なくとも設定可能な演出モード設定手段を有することを特徴とする遊技機ＢＨ３。

【１３１８９】

遊技機ＢＨ３によれば、遊技機ＢＨ１またはＢＨ２の奏する効果に加え、操作手段が操作されたことに基づいて異なる演出モードを設定することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３１９０】

遊技機ＢＨ１からＢＨ３のいずれかにおいて、特定設定を実行可能な特定設定手段を有し、前記規制手段は、前記特定条件が設定されている場合に前記操作手段の操作に基づいて前記設定実行手段による前記設定の実行をさせずに前記特定設定手段による特定設定を実行可能に構成されているものであることを特徴とするＢＨ４。

【１３１９１】

遊技機ＢＨ４によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ３のいずれかの奏する効果に加え、特定条件が成立している期間に操作手段を操作することで設定の実行が規制される場合にも、特定設定が実行されるので操作手段を操作した遊技者に対して操作手段を操作したことによる作動を提供することで、操作手段の操作を意味のある行為にすることができるという効果がある。

【１３１９２】

遊技機ＢＨ４において、前記特定設定に基づいて、前記識別情報が停止表示されるよりも前に停止表示される前記識別情報の情報を示唆可能な示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＨ５。

【１３１９３】

遊技機ＢＨ５によれば、遊技機ＢＨ４の奏する効果に加え、特定条件が成立している場合には、停止表示される識別情報の情報が示唆演出により停止表示前に識別可能となり、特定条件が成立している場合に操作することで多様な演出を実行して遊技者が早期に飽きてしまう不具合を抑制できるという効果がある。

【１３１９４】

＜特徴ＢＩ群＞（複数の遊技状態を跨いだ有利期間を報知）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が特定の判別結果である場合に遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、遊技状態として第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態と、前記第１遊技状態よりも遊技者に有利となり、前記第２遊技状態とは異なる第３遊技状態と、を少なくとも設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記特典遊技実行手段に実行される前記特典遊技の終了後に、前記第２遊技状態を設定可能であり、前記第２遊技状態が設定されている状態において第１設定条件が成立した場合に前記第３遊技状態を設定可能であり、前記第３遊技状態が設定されている状態において前記第１設定条件とは異なる第２設定条件が成立した場合に前記第１遊技状態を設定可能であり、前記遊技状態設定手段により、前記第２遊技状態が設定された場合に、前記第２設定条件が成立するまでの期間に基づいて有利期間を決定する有利期間決定手段と、その有利期間決定手段により決定された前記有利期間を報知可能な報知手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＩ１。

【１３１９５】

従来より、遊技者にとって有利となる有利遊技状態（例えば、時短状態）が設定された場合に、その有利遊技状態が継続する期間（特別図柄変動回数）を遊技者に報知するものがある。具体的には、有利遊技状態が継続する期間を示す残期間表示態様として「１００回」を表示し、特別図柄抽選が実行される毎に、残期間表示態様の値を１減算表示するものがある。これにより、現在設定されている有利遊技状態中にあと何回の特別図柄抽選を実行することができるのかを遊技者に容易に把握させることができるものであった。

【１３１９６】

また、近年の遊技機では、遊技者にとって有利となる有利遊技状態として複数の状態種別を設定可能なものがあり、有利遊技状態として、第１有利遊技状態（例えば、時短状態）と、その第１有利遊技状態よりもさらに有利な第２有利遊技状態（例えば、確変状態）と、を設定可能なものがある。

【１３１９７】

このように構成された遊技機では、例えば、第１有利遊技状態（例えば、時短状態）が設定されている場合に第１有利遊技状態が継続する期間（残期間）を遊技者に報知することは可能であるが、第１有利遊技状態が終了した後に、どの遊技状態が設定されるのかを

報知することができないという問題があった。つまり、遊技者は第１有利遊技状態が終了した場合に、第１有利遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態が設定されるのか、それとも第１有利遊技状態よりも遊技者に不利となる遊技状態が設定されるのかを把握することができず、第１有利遊技状態中において何を目指して遊技を行えば良いのか分かり難く遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３１９８】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の遊技意欲を向上させることで遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３１９９】

遊技機ＢＩ１によれば、第１遊技状態よりも有利な第２遊技状態が設定された場合に、報知手段により、再度第１遊技状態が設定されるまでの期間に基づいて決定された有利期間が報知されるため、第１遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態を複数有する遊技機であっても、第１遊技状態よりも有利な遊技状態が設定される期間を把握することができる。よって、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２００】

遊技機ＢＩ１において、前記報知手段により前記有利期間であることが報知されている状態において、前記遊技状態設定手段により設定されている前記遊技状態を示唆するための示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＩ２。

【１３２０１】

遊技機ＢＩ２によれば、第１遊技状態が設定されるまでの有利期間を遊技者に報知しながらも、現在設定されている遊技状態を示唆することができるため、実行される示唆演出の内容に興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２０２】

遊技機ＢＩ２において、前記示唆演出実行手段は、前記報知手段により前記有利期間であることが報知されている状態において、前記遊技状態設定手段により設定されていた前記遊技状態を示唆するための過去示唆演出も実行可能であることを特徴とする遊技機ＢＩ３。

【１３２０３】

遊技機ＢＩ３によれば、示唆演出実行手段により、過去に設定されていた遊技状態を遊技者に示唆することができる。よって、過去示唆演出の内容に基づいて現在の遊技状態を予測したり、有利期間中における過去の遊技内容を解析したりすることができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２０４】

遊技機ＢＩ２またはＢＩ３において、前記報知手段は、前記有利期間の残期間を示すための残期間表示態様を表示手段に表示可能であり、前記示唆演出実行手段は、前記残期間表示態様を可変させることで、現在設定されている遊技状態、或いは、過去に設定されていた遊技状態を示唆可能であることを特徴とする遊技機ＢＩ４。

【１３２０５】

遊技機ＢＩ４によれば、有利期間の残期間を示すための残期間表示態様を可変させることにより、遊技状態に関する示唆演出が実行されるため、有利期間の残期間を注視する遊技者に対して示唆演出を分かり易く実行することができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３２０６】

遊技機ＢＩ１からＢＩ４の何れかにおいて、前記報知手段により前記有利期間であることが報知されている状態において、前記第１設定条件が成立し得るタイミングを示唆可能な第２示唆演出手段を有することを特徴とする遊技機ＢＩ５。

【１３２０７】

遊技機ＢＩ５によれば、有利期間中において遊技状態が切り替わるタイミングを遊技者に予測させることができるため、有利期間中における遊技に遊技者が早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３２０８】

遊技機ＢＩ１からＢＩ５の何れかにおいて、前記第２遊技状態と、前記第３遊技状態のうち、遊技者に有利となる遊技状態を遊技者に報知可能な有利報知手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＩ６。

【１３２０９】

遊技機ＢＩ６によれば、有利期間中に設定される複数の遊技状態の優劣を遊技者が把握することができるため、現在設定されている遊技状態が何れの遊技状態であるかの予測により興味を持たせることができる。

【１３２１０】

＜特徴ＢＪ群＞（複数の図柄表示制御で１の図柄列を変動表示させる）

判別結果を示唆可能な示唆情報が表示される表示手段と、その表示手段に表示される前記示唆情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための特定表示態様が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記示唆情報は、複数の図柄で構成された図柄列で構成された第１図柄列と、その第１図柄列とは異なる複数の図柄で構成された図柄列で構成された第２図柄列とが少なくとも設定されており、前記動的表示手段は、第１図柄列を第１方向に動的表示させている期間に、前記第２図柄列を前記第１方向とは異なる第２方向に動的表示させることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＪ１。

【１３２１１】

従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった（例えば、特許文献１：特許第２５１４４１７号公報）。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。また、一般的な遊技機では、複数の第３図柄（例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって１の図柄列を構成し、その図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が所定位置に停止表示された場合に、大当たり当選の期待度を高めた演出（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。このように複数の図柄列を用いて第３図柄を変動表示させながら特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かを示唆するための変動演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選への期待度を徐々に高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができるものであった。

【１３２１２】

しかしながら、従来の遊技機では、図柄列を形成する各図柄の順序を可変させることなく、図柄列単位で第３図柄を変動表示させるだけであるため、例えば、各図柄列の変動表示の速度を可変させたり、各図柄列の変動方向を可変させたり、各図柄列が表示される大きさを可変させたりする程度のバリエーションしか無く、図柄列の変動表示を用いた変動演出の演出効果をより高めることでさらなる遊技の興趣向上が求められているという問題があった。

【１３２１３】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２１４】

遊技機ＢＪ１によれば、第１図柄列と第２図柄列とが互いに異なる方向に動的表示されるので第１図柄列と第２図柄列とを区別し易くなり判別結果を示唆情報より判別し易くできるという効果がある。

【１３２１５】

遊技機ＢＪ１において、前記示唆情報が動的表示されることが可能な動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段を有し、前記第１図柄列は、前記動的表示期間の開始に基づいて前記第１方向に動的表示されるように構成され、前記第２図柄列は、特定条件の成立に基づいて前記第２方向へと前記第１図柄列で動的表示された図柄と前記第２図柄列を構成する図柄の一部が少なくとも重なる位置で前記第２方向へと動的表示されるものであることを特徴とする遊技機ＢＪ２。

【１３２１６】

遊技機ＢＪ２によれば、遊技機ＢＪ１の奏する効果に加え、第１図柄列と第２図柄列とが重なる位置で動的表示されるので、表示領域を有効に利用した演出を実行することができるという効果がある。

【１３２１７】

遊技機ＢＪ２において、前記示唆情報が動的表示されることが可能な動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段を有し、前記第１図柄列と第２図柄列とは、前記動的表示期間の開始に基づいて前記第１方向と前記第２方向とにそれぞれ動的表示されるように構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＪ３。

【１３２１８】

遊技機ＢＪ３によれば、遊技機ＢＪ２の奏する効果に加え、第１図柄列と第２図柄列とは、動的表示期間の開始に基づいてそれぞれ第１方向と第２方向とにそれぞれ動的表示されるので、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３２１９】

遊技機ＢＪ１からＢＪ３の何れかにおいて、前記示唆情報を表示制御可能な表示制御手段を有し、前記表示制御手段は、前記第１図柄列の表示態様により前記判別結果を表示するように前記第１図柄列を表示制御可能であることを特徴とする遊技機ＢＪ４。

【１３２２０】

遊技機ＢＪ４によれば、遊技機ＢＪ３の奏する効果に加え、第１図柄列の表示態様を用いて判別結果が表示されるため、第１図柄列の動的表示の表示態様を判別結果に基づいて表示制御すれば良く、第２図柄列の動的表示の表示態様を自由に設定することが可能となる。よって、示唆情報の動的表示における演出効果を高めることができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２２１】

遊技機ＢＪ４において、前記第１図柄列を動的表示可能な第１表示画層と、前記第２図柄列を動的表示可能な第２表示画層と、を有し、前記遊技機は、前記第１表示画層における第１表示領域と、前記第２表示画層における第２表示領域との少なくとも一部が重複するように構成されるものであり、前記第１表示領域と、前記第２表示領域とが重複する箇所では、前記第１図柄列が前記第２図柄列よりも優先して遊技者に視認可能となるように表示可能であることを特徴とする遊技機ＢＪ５。

【１３２２２】

遊技機ＢＪ５によれば、遊技機ＢＪ４の奏する効果に加え、第１図柄列と第２図柄列とが重複する場合には、第１図柄列のほうが遊技者に視認可能となるように表示される。よって、表示領域を有効に利用した演出を実行しながらも、判別結果を示すための表示態様を遊技者に分かり易く表示することができるという効果がある。

【１３２２３】

遊技機ＢＪ４またはＢＪ５において、前記表示制御手段は、前記第１図柄列を構成する前記複数の図柄と、前記第２図柄列を構成する前記複数の図柄と、が所定の順序で配置された合算図柄列で構成されているように前記第１図柄列と前記第２図柄列とを表示制御可能であることを特徴とする遊技機ＢＪ６。

【１３２２４】

遊技機ＢＪ６によれば、遊技機ＢＪ４またはＢＪ５の奏する効果に加え、第１図柄列と第２図柄列とを合算図柄列として動的表示させることができるため、遊技者に対して、合算図柄列が構成されていると思わせることができる。その中で、第１図柄列と第２図柄列

とを逆方向に動的表示させることができるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３２２５】

遊技機ＢＪ６において、前記表示制御手段は、前記判別結果が前記特定の判別結果である場合よりも、前記特定の判別結果以外である場合のほうが、前記合算図柄列として前記第１図柄列と前記第２図柄列とを動的表示させ易くなるように表示制御可能であることを特徴とする遊技機ＢＪ７。

【１３２２６】

遊技機ＢＪ７によれば、遊技機ＢＪ６の奏する効果に加え、判別結果が特定の判別結果である場合のほうが、合算図柄列として第１図柄列と第２図柄列とを動的表示され難くすることができる。よって、第１図柄列の動的表示と第２図柄列の動的表示とが異なる態様となった場合に、特定の判別結果への期待感を高めさせることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３２２７】

＜特徴ＢＫ群＞（Ｖ確機のベロ制御をアタッカ入球数に基づいて実行）

遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により前記特典遊技が実行された場合に、遊技球が入球困難な第１状態からその第１状態よりも入球し易い第２状態へと可変可能な可変入球手段と、を有した遊技機において、前記可変入球手段に入球した遊技球が通過可能な第１特定領域と、その第１特定領域を遊技球が通過したことを検出可能な第１検出手段と、前記第１特定領域を通過した遊技球が通過可能な第２特定領域と、その第２特定領域を遊技球が通過したことを検出可能な第２検出手段と、前記第１特定領域を通過した遊技球を前記第２特定領域へと誘導可能な誘導路と、前記第２特定領域に遊技球が通過可能な許容状態と通過困難な規制状態とに可変可能な可変手段とを有し、前記可変手段は、前記第１検出手段により所定数の遊技球が検出されたことに基づいて前記規制状態から前記許容状態へと可変条件が成立するまで可変されるように構成されているものであることを特徴とする遊技機ＢＫ１。

【１３２２８】

従来より、大当たり遊技中に開放動作されるアタッカ内に特定領域を設け、大当たり遊技中に遊技球が特定領域を通過すると、その大当たり遊技終了後に確変状態を設定する遊技機（所謂、Ｖ確機）があった（例えば、特許文献１：特開２０１５－１１９８０７号公報）。このような遊技機では、大当たり遊技が開始されてからの経過期間に基づいて特定領域を遊技球が通過し易い第１状態を所定期間設定することにより、確変状態が設定される割合を予め規定可能に構成していた。

【１３２２９】

しかしながら、従来型の遊技機では、大当たり遊技が実行されてからの経過期間に基づいて第１状態が設定されてしまうため、例えば、大当たり遊技中に遊技機のトラブルによって遊技球をアタッカに入賞させることができない事態が発生したまま、第１状態が設定される所定期間が経過してしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３２３０】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の遊技意欲を向上させることで遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２３１】

遊技機ＢＫ１によれば、可変入球手段に入球した遊技球の計測結果に基づいて、可変手段が許容状態へと可変されるので、可変入球手段に入球した数によって第２特定領域へと遊技球を通過させることが可能となり、遊技者に可変入球手段に入球させた数に対して興味を持たせて遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３２３２】

遊技機ＢＫ１において、前記可変手段は、前記第１特定領域を前記所定数目となる遊技

球が前記許容状態に可変された状態の前記可変手段へと到達可能となる期間で前記許容状態へと可変されるものであることを特徴とする遊技機ＢＫ２。
【１３２３３】
遊技機ＢＫ２によれば、遊技機ＢＫ１の奏する効果に加え、第１特定領域を通過した所定数目の遊技球を第２特定領域へと入球させることが可能となり、第２特定領域を通過する遊技球を制御して、第２特定領域への入球数を制限することができるという効果がある。
【１３２３４】
遊技機ＢＫ１またはＢＫ２において、前記第１特定領域を前記所定数目の遊技球が通過した後に、前記第２検出手段に遊技球が検出されるまでの期間を判別することが可能な期間判別手段と、前記期間判別手段の判別結果に基づいて異常処理を実行可能な異常処理手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＫ３。
【１３２３５】
遊技機ＢＫ３によれば、遊技機ＢＫ１またはＢＫ２の奏する効果に加え、第１特定領域を所定数の遊技球を通過したにもかかわらず、誘導路上で滞留している場合等の不具合を早期に発見することができるという効果がある。
【１３２３６】
遊技機ＢＫ１からＢＫ３の何れかにおいて、前記終了条件は、前記所定数目の遊技球が前記第２検出手段に検出された後に、次の遊技球が前記可変手段に到達する期間よりも短い期間が経過した場合に成立するように設定されているものであることを特徴とする遊技機ＢＫ４。
【１３２３７】
遊技機ＢＫ４によれば、遊技機ＢＫ１からＢＫ３の何れかの奏する効果に加え、確実に所定数目の遊技球を第２特定領域に入球させることができるという効果がある。
【１３２３８】
遊技機ＢＫ１からＢＫ４の何れかにおいて、前記第２検出手段に遊技球が検出されたことに基づいて、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＫ５。
【１３２３９】
遊技機ＢＫ５によれば、遊技機ＢＫ１からＢＫ４の何れかの奏する効果に加え、特典遊技が実行された場合にも、第２特定領域へ遊技球を入球させることに対する意欲を持たせることができ、特典遊技が退屈になる不具合を抑制できるという効果がある。
【１３２４０】
＜特徴ＢＬ群＞（図柄列を可変させることで、図柄列内の一部図柄を切り替える）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果を示すための識別図柄が表示される表示手段と、その表示手段に前記識別図柄を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記識別図柄が動的表示された後、特定の前記判別結果を示すための前記識別図柄が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、その特典付与手段により付与される特典種別を決定することが可能な特典種別決定手段と、を有した遊技機において、前記識別図柄が動的表示される期間を少なくとも含む動的表示期間を決定可能な動的表示期間決定手段と、その動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間のうち、第１期間では第１の結果を示すための前記識別図柄として第１識別図柄が表示され、第２期間では前記第１の結果とは異なる第２の結果を示すためのものであって、前記第１識別図柄とは異なる第２識別図柄が少なくとも表示されるように設定可能な設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＬ１。
【１３２４１】
従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。また、一般的な遊技機では、複数の第３図柄（

例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって１の図柄列を構成し、その図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が所定位置に停止表示された場合に、大当たり当選の期待度を高めた演出（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。このように複数の図柄列を用いて第３図柄を変動表示させながら特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かを示唆するための変動演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選への期待度を徐々に高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができるものであった。

【１３２４２】

しかしながら、従来の遊技機では、第３図柄変動が開始されてから停止表示されるまでの変動期間中に特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が変動するだけであるため、第３図柄の変動表示開始から変動表示終了までの期間中に、遊技者が遊技に飽きてしまい遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３２４３】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、第３図柄変動の期間中における遊技意欲の低下を抑制することにより、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２４４】

遊技機ＢＬ１によれば、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間のうち、第１期間で動的表示される第１識別図柄と、第２期間で動的表示される第２識別図柄とで異なる結果を示すことが可能となるため、動的表示手段により動的表示される識別図柄に対して、遊技者に継続して興味を持たせることができる。よって、動的表示期間中における遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２４５】

遊技機ＢＬ１において、前記動的表示手段は、前記第１期間の終了時に前記第１識別図柄を停止表示可能であり、前記第２期間は、少なくとも前記第１期間が経過した後の期間であることを特徴とする遊技機ＢＬ２。

【１３２４６】

遊技機ＢＬ２によれば、遊技機ＢＬ１の奏する効果に加え、第１期間が終了し、第２期間が始まることを遊技者に分かり易く報知することができるため、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３２４７】

遊技機ＢＬ２において、前記動的表示手段は、前記第１の結果として、前記判別手段の判別結果が、前記特定の判別結果であることを示すための前記第１識別図柄を表示可能であることを特徴とする遊技機ＢＬ３。

【１３２４８】

遊技機ＢＬ３によれば、遊技機ＢＬ２の奏する効果に加え、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間が経過するよりも前に、判別手段の判別結果を遊技者に報知することができるため、いち早く判別手段の判別結果を把握しようとする遊技者に対して、動的表示手段により実行される識別図柄の動的表示を注視させることができる。よって、遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるため、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２４９】

遊技機ＢＬ３において、前記動的表示手段は、前記第２の結果として、前記特典種別決定手段により決定された前記特典種別を示すための前記第２識別図柄を表示可能であることを特徴とする遊技機ＢＬ４。

【１３２５０】

遊技機ＢＬ４によれば、遊技機ＢＬ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２期間の終了後に前記特典種別を示すための識別図柄を表示することができる。つまり、判別手段の判別結果を表示した後に、特典種別決定手段により決定された特典種別を表

示することができる。よって、判別手段の判別結果が特定の判別結果であることを遊技者に報知した後に、特典種別決定手段により決定された特典種別を遊技者に報知することができるため、少なくとも特典遊技が実行されるという安心感を持たせた状態で第２期間の動的表示を実行することができるという効果がある。

【１３２５１】

遊技機ＢＬ４において、前記特典種別決定手段は、少なくとも、第１特典種別と、その第１特典種別よりも遊技者に有利となる第２特典種別とを含む複数の特典種別のうち、何れかの特典種別を決定するものであり、前記第２識別図柄は、少なくとも前記特典種別決定手段により決定された前記特典種別を示すための情報が含まれている表示態様で表示されるものであることを特徴とする遊技機ＢＬ５。

【１３２５２】

遊技機ＢＬ５によれば、遊技機ＢＬ４の奏する効果に加え、第２識別図柄の表示態様が前記特典種別決定手段によって決定された特典種別を示しているため、第２識別図柄が動的表示されている期間中においても、決定された特典手段を遊技者に予測させることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３２５３】

遊技機ＢＬ５において、前記動的表示手段により動的表示される複数の前記識別図柄が所定の順序で表示される図柄列を設定可能な図柄列設定手段を有し、前記動的表示手段は、前記図柄列設定手段により設定された前記図柄列に基づいて前記識別図柄を動的表示可能であり、前記図柄列設定手段は、第１期間中に設定される第１図柄列の少なくとも一部を形成する前記第１識別図柄を、前記第２識別図柄へと切り替えた第２図柄列を設定可能であることを特徴とする遊技機ＢＬ６。

【１３２５４】

遊技機ＢＬ６によれば、遊技機ＢＬ５の奏する効果に加え、第１図柄列の少なくとも一部を形成する第１識別図柄を第２識別図柄へと切り替えた第２図柄列が設定されるため、第１図柄列が有する識別図柄の数と、第２図柄列が有する識別図柄の数と、同一にすることができる。よって、動的表示手段により実行される識別図柄の動的表示態様を、設定される図柄列の種別に応じて可変させる必要が無いため、識別図柄を動的表示させるための処理負荷を軽減させることができるという効果がある。

【１３２５５】

遊技機ＢＬ６において、前記図柄列設定手段は、前記判別手段の同一の判別結果を示すための第１識別図柄を重複させた前記第１図柄列を形成可能であり、前記第２図柄列を設定する場合、前記重複している前記第１識別図柄の何れかを前記第２識別図柄へと切替可能であることを特徴とする遊技機ＢＬ７。

【１３２５６】

遊技機ＢＬ７によれば、第１図柄列に重複して含まれる第１識別図柄を第２識別図柄へと切り替えるため、第２期間中においても、第１期間中に実行された動的表示にて表示されていた各第１識別図柄を確認することが可能となる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２５７】

＜特徴ＢＭ群＞（ボタン操作の制限制御中に別操作で制限解除）

判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に表示される前記識別情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、操作可能な操作手段と、その操作手段に対する操作の種別として、第１操作と、その第１操作とは異なる第２操作と、を少なくとも判別可能な操作判別手段と、その操作判別手段の判別結果に基づいた設定を実行することが可能な設定実行手段と、前記操作判別手段により前記第１操作と判別された場合に、前記設定実行手段により第１設定が実行されることを規制する規制手段と、を有し、前記設定実行手段は、前記規制手段による前記規制中において、前記操作判別手段により前記第２

操作が判別された場合に、前記第１設定を実行可能であることを特徴とする遊技機ＢＭ１。

【１３２５８】

従来より、特別図柄抽選が実行された場合に、所定期間の特別図柄変動期間を介して抽選結果を報知（停止表示）するように構成し、特別図柄抽選が実行されてから、その抽選結果が停止表示されるまでの期間（特別図柄変動期間）を用いて様々な演出（変動演出）を実行することで遊技者が遊技に早期に飽きないよう工夫を凝らしているものが多々ある。その中で、複数の演出モードを予め容易しておき、各演出モードに対して特別図柄変動期間中に実行される変動演出の態様を異ならせるように構成しているものがある（例えば、特許文献１：特開２０１２－２４９８７７号公報）。

【１３２５９】

このように構成された遊技機では、演出モードが切り替わることにより、異なる変動演出を遊技者に提供することができるため、同一の変動演出ばかり提供されることにより遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。さらに、遊技者が操作可能な操作手段を操作することで、任意に演出モードを切替可能とする遊技機もある。このような遊技機では、複数の演出モードのうち、最も興味のある演出モードを遊技者自身が選択することができるため、興味の低い変動演出が実行されてしまい遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができる。また、演出モードを切り替えるために遊技者自身が操作手段を操作する必要があることから遊技の興趣を向上させることができる。

【１３２６０】

しかしながら、上述したように、遊技者が操作手段を操作することで、任意のタイミングで演出モードを切替可能とした場合には、例えば、特別図柄抽選の結果が停止表示される直前や、特別図柄変動期間として短時間の変動期間が設定される場合において、演出モードが切り替わることにより、特別図柄抽選の結果を遊技者が把握し難くなってしまうため、操作手段を操作しようとする意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３２６１】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の遊技意欲を向上できる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２６２】

遊技機ＢＭ１によれば、第１操作に基づく第１設定が規制されている状態であっても、第２操作を実行することで第１設定を実行することができる。よって、様々な操作を実行しようと意欲的に遊技者に操作手段を操作させることができるという効果がある。

【１３２６３】

遊技機ＢＭ１において、前記設定実行手段は、前記規制手段による前記規制中において、前記操作判別手段により前記第１操作が判別された場合に、前記第１設定とは異なる第２設定を実行可能であることを特徴とする遊技機ＢＭ２。

【１３２６４】

遊技機ＢＭ２によれば、遊技機ＢＭ１の奏する効果に加え、規制中に第１操作を実行した場合に、第２設定が実行されるため、第１操作を実行したにも関わらず設定実行手段が何も実行しない事態を抑制することができる。よって、遊技者に意欲的に操作手段を操作させることができるという効果がある。

【１３２６５】

遊技機ＢＭ１またはＢＭ２において、前記動的表示手段により前記識別情報が動的表示される動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、終了条件が成立するまで前記動的表示期間決定手段により決定される動的表示期間として短い動的表示期間が決定され易い短遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有し、前記規制手段は、前記短遊技状態が設定されている状態であって、前記操作判別手段により前記第１操作と判別された場合に、前記設定実行手段により第１設定が実行されることを規制し得るものであることを特徴とする遊技機ＢＭ３。

【１３２６６】

遊技機ＢＭ３によれば、遊技機ＢＭ１またはＢＭ２の奏する効果に加え、短遊技状態中において、操作手段が操作されたことに基づく設定の実行を規制することができるため、設定実行手段が実行されることにより、判別手段の判別結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２６７】

遊技機ＢＭ３において、前記設定実行手段により実行された設定に基づいて、第１演出モードと、その第１演出モードとは異なる第２演出モードと、を少なくとも設定可能な演出モード設定手段を有することを特徴とする遊技機ＢＭ４。

【１３２６８】

遊技機ＢＭ４によれば、遊技機ＢＭ３の奏する効果に加え、操作手段が操作されたことに基づいて異なる演出モードを設定することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３２６９】

遊技機ＢＭ１からＢＭ４の何れかにおいて、前記操作手段は、前記第１操作を実行するための第１操作部と、前記第２操作を実行するための前記第１操作部とは異なる第２操作部と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＭ５。

【１３２７０】

遊技機ＢＭ５によれば、遊技機ＢＭ１からＢＭ４のいずれかの奏する効果に加え、第１操作を実行する場合と、第２操作を実行する場合とで、異なる操作部に対して操作を実行することになるため、遊技者が第１操作と第２操作とを間違えて実行してしまうことを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２７１】

遊技機ＢＭ５において、前記第２操作部は、前記第１操作部よりも遊技中の遊技者が操作し難い箇所に設けられていることを特徴とする遊技機ＢＭ６。

【１３２７２】

遊技機ＢＭ６によれば、遊技機ＢＭ５の奏する効果に加え、各操作部の操作のし易さを異ならせることにより、第１操作部を用いる第１操作を通常の操作とし、第２操作部を用いる第２操作を非常用の操作とすることが可能となる。よって、遊技者が何れの操作を実行するか悩んでしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３２７３】

＜特徴ＢＮ群＞（ボタン操作の制限制御中に操作で別内容を実行）

判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に表示される前記識別情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて操作に対応した第１設定を実行することが可能な第１設定実行手段と、前記操作手段が操作されたことに基づく前記第１設定の実行を規制する規制手段と、その規制手段により前記第１設定の実行が規制されている状態で、前記操作手段を操作した場合に前記第１設定とは異なる第２設定を実行する第２設定実行手段と、を有することを特徴とする遊技機ＢＮ１。

【１３２７４】

従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。また、一般的な遊技機では、複数の第３図柄（例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって１の図柄列を構成し、その図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が所定位置に停止表示された場合に、大当たり当選の期待度を高めた演出

（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。このように複数の図柄列を用いて第３図柄を変動表示させながら特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かを示唆するための変動演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選への期待度を徐々に高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができるものであった。

【１３２７５】

しかしながら、従来の遊技機では、第３図柄変動が開始されてから停止表示されるまでの変動期間中に特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が変動するだけであるため、第３図柄の変動表示開始から変動表示終了までの期間中に、遊技者が遊技に飽きてしまい遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３２７６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、第３図柄変動の期間中における遊技意欲の低下を抑制することにより、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２７７】

遊技機ＢＮ１によれば、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間のうち、第１期間で動的表示される第１識別図柄と、第２期間で動的表示される第２識別図柄とで異なる結果を示すことが可能となるため、動的表示手段により動的表示される識別図柄に対して、遊技者に継続して興味を持たせることができる。よって、動的表示期間中における遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２７８】

遊技機ＢＮ１によれば、第１設定が規制されている状態で操作手段が操作された場合に、第２設定が実行されるため、操作手段を操作したにも関わらず何も実行されない事態を抑制することができる。よって、遊技者に意欲的に操作手段を操作させることができるという効果がある。

【１３２７９】

遊技機ＢＮ１において、前記規制手段は、前記識別情報の動的表示期間において特定条件が成立している場合に前記第１設定の実行を規制可能であることを特徴とする遊技機ＢＮ２。

【１３２８０】

遊技機ＢＮ２によれば、遊技機ＢＮ１の奏する効果に加え、識別情報の動的表示が実行されている間に規制手段により第１設定の実行が規制されるため、第１設定が実行されたことにより、識別情報の動的表示結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができるという効果がある。

【１３２８１】

遊技機ＢＮ２において、前記動的表示手段により前記識別情報が動的表示される動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、終了条件が成立するまで前記動的表示期間決定手段により決定される動的表示期間として短い動的表示期間が決定され易い短遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有し、前記規制手段は、前記短遊技状態が設定されている状態であって、前記操作判別手段により前記第１操作と判別された場合に、前記設定実行手段により第１設定が実行されることを規制し得るものであることを特徴とする遊技機ＢＮ３。

【１３２８２】

遊技機ＢＮ３によれば、遊技機ＢＮ１またはＢＮ２の奏する効果に加え、短遊技状態中において、操作手段が操作されたことに基づく設定の実行を規制することができるため、設定実行手段が実行されることにより、判別手段の判別結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２８３】

遊技機ＢＮ３において、前記設定実行手段により実行された前記第１設定に基づいて、

第１演出モードと、その第１演出モードとは異なる第２演出モードと、を少なくとも設定可能な演出モード設定手段を有することを特徴とする遊技機ＢＮ４。

【１３２８４】

遊技機ＢＮ４によれば、遊技機ＢＮ３の奏する効果に加え、操作手段が操作されたことに基づいて異なる演出モードを設定することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３２８５】

遊技機ＢＮ１からＢＮ４の何れかにおいて、前記操作手段は、第１操作を実行するための第１操作部と、前記第１操作とは異なる第２操作を実行するための前記第１操作部とは異なる第２操作部と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＢＭ５。

【１３２８６】

遊技機ＢＮ５によれば、遊技機ＢＮ１からＢＮ４の何れかの奏する効果に加え、第１操作を実行する場合と、第２操作を実行する場合とで、異なる操作部に対して操作を実行することになるため、遊技者が第１操作と第２操作とを間違えて実行してしまうことを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２８７】

遊技機ＢＮ５において、前記第２操作部は、前記第１操作部よりも遊技中の遊技者が操作し難い箇所に設けられていることを特徴とする遊技機ＢＮ６。

【１３２８８】

遊技機ＢＮ６によれば、遊技機ＢＮ５の奏する効果に加え、各操作部の操作のし易さを異ならせることにより、第１操作部を用いる第１操作を通常の操作とし、第２操作部を用いる第２操作を非常用の操作とすることが可能となる。よって、遊技者が何れの操作を実行するか悩んでしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３２８９】

＜特徴ＢＯ群＞（ステージチェンジし難い状態でステージチェンジしたらチャンス）

判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に表示される前記識別情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて、演出モードとして第１演出モードと、その第１演出モードとは異なる第２演出モードと、を少なくとも設定可能な演出モード設定手段と、その演出モード設定手段による前記演出モードの設定を実行可能な第１期間と、その第１期間よりも前記演出モードの設定を実行し難い第２期間と、を設定可能な期間設定手段と、を有し、前記遊技機は、前記演出モードの設定が、前記第２期間中に実行されたほうが、前記第１期間中に実行されるよりも遊技者に有利な情報を提供可能であることを特徴とする遊技機ＢＯ１。

【１３２９０】

従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。また、一般的な遊技機では、複数の第３図柄（例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって１の図柄列を構成し、その図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が所定位置に停止表示された場合に、大当たり当選の期待度を高めた演出（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。このように複数の図柄列を用いて第３図柄を変動表示させながら特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かを示唆するための変動演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選への期待度を徐々に高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができるものであった。

【１３２９１】

しかしながら、従来の遊技機では、第３図柄変動が開始されてから停止表示されるまでの変動期間中に特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が変動するだけであるため、第３図柄の変動表示開始から変動表示終了までの期間中に、遊技者が遊技に飽きてしまい遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１３２９２】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、第３図柄変動の期間中における遊技意欲の低下を抑制することにより、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。

【１３２９３】

遊技機ＢＯ１によれば、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間のうち、第１期間で動的表示される第１識別図柄と、第２期間で動的表示される第２識別図柄とで異なる結果を示すことが可能となるため、動的表示手段により動的表示される識別図柄に対して、遊技者に継続して興味を持たせることができる。よって、動的表示期間中における遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２９４】

遊技機ＢＯ１によれば、演出モードが設定され難い第２期間において演出モードの設定がされた場合に、遊技者に有利な情報を提供することができるため、第２期間中において演出モードが設定されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができる。よって、遊技者に対して意欲的に操作手段を操作させることができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３２９５】

遊技機ＢＯ１において、前記演出モード設定手段は、前記第２期間中に前記演出モードの設定を実行する場合に、前記第１演出モード、及び前記第２演出モードとは異なる第３演出モードを設定可能であることを特徴とする遊技機ＢＯ２。

【１３２９６】

遊技機ＢＯ２によれば、遊技機ＢＯ１の奏する効果に加え、第３演出モードが設定されることで、第２期間中に演出モードが設定されたことを遊技者に報知することができるため、遊技者に分かり易い演出を提供することができるという効果がある。

【１３２９７】

遊技機ＢＯ１からＢＯ３の何れかにおいて、前記動的表示手段により前記識別情報が動的表示される動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、終了条件が成立するまで前記動的表示期間決定手段により決定される動的表示期間として短い動的表示期間が決定され易い短遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有し、前記期間設定手段は、前記短遊技状態が設定されている場合に前記第２期間を設定可能であることを特徴とする遊技機ＢＯ４。

【１３２９８】

遊技機ＢＯ４によれば、遊技機ＢＯ１からＢＯ３の何れかの奏する効果に加え、短遊技状態中において、演出モードが設定され難くすることができるため、演出モードが設定されることにより、判別手段の判別結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３２９９】

遊技機ＢＯ１からＢＯ４の何れかにおいて、前記期間設定手段により前記第２期間が設定されることを、前記第２期間が設定されるよりも前に遊技者に報知可能な報知手段を有することを特徴とする遊技機ＢＯ５。

【１３３００】

遊技機ＢＯ５によれば、遊技機ＢＯ１からＢＯ４の何れかの奏する効果に加え、遊技者に対して第２期間が設定されることを事前に把握させることができるため、所望の演出モードを設定した状態で第２期間を設定させることができる。よって、遊技者が所望しない演出モードにて第２期間が設定されてしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑

制することができるという効果がある。
【１３３０１】
＜特徴ＢＰ群＞（先読みでステージチェンジのし易さを可変）
情報取得条件の成立に基づいて情報を取得可能な情報取得手段と、その情報取得手段により取得された前記情報が記憶される情報記憶手段と、その情報記憶手段に記憶された前記情報に基づいて、判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記判別手段による判別結果が特定の判別結果であることを示すための識別情報が前記表示手段に停止表示された場合に、遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記情報記憶手段に記憶されている前記情報を、その情報に基づく前記判別手段による判別が実行されるよりも前に事前判別可能な事前判別手段と、切替条件が成立した場合に、第１演出モードから、その第１演出モードとは異なる第２演出モードへと演出モードを切替可能な切替手段と、を有し、前記切替条件は、前記事前判別手段の事前判別結果が第１事前判別結果である場合よりも、前記第１事前判別結果とは異なる第２事前判別結果である場合のほうが、成立し易いものであることを特徴とする遊技機ＢＰ１。
【１３３０２】
従来より、特別図柄抽選の結果を示すための識別情報として、第３図柄を変動表示させるものがあった。また、その第３図柄の変動表示中に様々な演出（変動演出）を実行し、遊技者に対して、特別図柄抽選の結果を示唆することで大当たり当選を期待させながら遊技を行わせることができるものがあった。また、一般的な遊技機では、複数の第３図柄（例えば、１～９の数字が付された第３図柄）によって１の図柄列を構成し、その図柄列を複数（例えば、３つ）用いた図柄変動表示を実行し、１の図柄列を除いた他の図柄列にて所定の第３図柄が所定位置に停止表示された場合に、大当たり当選の期待度を高めた演出（例えば、リーチ演出）を実行するものがある。このように複数の図柄列を用いて第３図柄を変動表示させながら特別図柄抽選の結果が大当たり当選であるか否かを示唆するための変動演出を実行することにより、遊技者に対して大当たり当選への期待度を徐々に高めることができるため、遊技の興趣を向上させることができるものであった。
【１３３０３】
しかしながら、従来の遊技機では、第３図柄変動が開始されてから停止表示されるまでの変動期間中に特別図柄抽選の結果を示すための第３図柄が変動するだけであるため、第３図柄の変動表示開始から変動表示終了までの期間中に、遊技者が遊技に飽きてしまい遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１３３０４】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、第３図柄変動の期間中における遊技意欲の低下を抑制することにより、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的としている。
【１３３０５】
遊技機ＢＰ１によれば、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間のうち、第１期間で動的表示される第１識別図柄と、第２期間で動的表示される第２識別図柄とで異なる結果を示すことが可能となるため、動的表示手段により動的表示される識別図柄に対して、遊技者に継続して興味を持たせることができる。よって、動的表示期間中における遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３３０６】
遊技機ＢＰ１によれば、事前判別手段による事前判別結果に応じて切替条件の成立のし易さを異ならせることができるため、演出モードが切り替わった場合における事前判別手段の事前判別結果を遊技者に予測させることができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３３０７】

遊技機ＢＰ１において、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対する操作を判別可能な操作判別手段と、を有し、前記切替条件は、前記操作判別手段により前記操作が判別された場合に成立し得るものであることを特徴とする遊技機ＢＰ２。

【１３３０８】

遊技機ＢＰ２によれば、遊技機ＢＰ１の奏する効果に加え、遊技者が操作手段を操作した場合にも切替条件が成立させることができるため、遊技者に対して意欲的に操作手段を操作させることができ、遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３３０９】

遊技機ＢＰ２において、前記切替手段は、前記事前判別手段の判別結果が前記第２事前判別結果である場合に、前記第１演出モードから前記第２演出モードとは異なる第３演出モードへと切替可能であることを特徴とする遊技機ＢＰ３。

【１３３１０】

遊技機ＢＰ３によれば、遊技機ＢＰ２の奏する効果に加え、第３演出モードが設定されることで、事前判別手段による事前判別の結果が第２事前判別結果であることを遊技者に報知することが可能となる。よって、遊技者に分かり易い演出を提供することができるという効果がある。

【１３３１１】

遊技機ＢＰ１からＢＰ３の何れかにおいて、前記動的表示手段により前記識別情報が動的表示される動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、終了条件が成立するまで前記動的表示期間決定手段により決定される動的表示期間として短い動的表示期間が決定され易い短遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有し、前記切替条件は、前記短遊技状態が設定されている場合のほうが、前記短遊技状態が設定されていない場合よりも成立し難いものであることを特徴とする遊技機ＢＰ４。

【１３３１２】

遊技機ＢＰ４によれば、遊技機ＢＰ１からＢＰ３の何れかの奏する効果に加え、短遊技状態中において、演出モードを切替難くすることができるため、演出モードが設定されることにより、判別手段の判別結果を遊技者が把握し難くなることを抑制することができる。よって、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１３３１３】

遊技機ＢＰ１からＢＰ４の何れかにおいて、前記遊技状態設定手段により前記短遊技状態が設定されることを、前記短遊技状態が設定されるよりも前に遊技者に報知可能な報知手段を有することを特徴とする遊技機ＢＰ５。

【１３３１４】

遊技機ＢＰ５によれば、遊技機ＢＰ１からＢＰ４の何れかの奏する効果に加え、遊技者に対して短遊技状態が設定されることを事前に把握させることができるため、短遊技状態が設定されるよりも前に切替条件を成立させようと操作手段を意欲的に操作させることができる。これにより、所望の演出モードを設定した状態で短遊技状態を設定させ易くすることができるため、遊技者が所望しない演出モードにて短遊技状態が設定されてしまい遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３３１５】

＜５０６６シリーズ＞

＜特徴ＣＡ群＞（時短中に獲得した特図２保留を用いた特図２抽選の実行回数が所定回数を超えると、特図２抽選により有利特典が付与される確率が高くなる）

情報を取得することが可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が第１判別結果であることに基づいて特定遊技を実行することが可能な特定遊技実行手段と、前記特定遊技が実行された後に特定設定を終了条件が成立するまで設定することが可能な設定手段と、を有した遊技機において、前記判別手段により前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であ

ると判別された場合に前記特定遊技を実行せずに前記設定手段により前記特定設定を設定させることが可能な設定制御手段を有し、前記判別手段は、特定期間が設定されている場合に前記第２判別結果を判別することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＡ１。

【１３３１６】

遊技機ＣＡ１によれば、特定期間が設定されている場合に第２判別結果と判別されることが可能にされているので、特定期間が設定されると第２判別結果と判別されることで特定設定が設定されることで、特定設定が通常時と異なるタイミングで設定されることとなり、特定遊技が実行されることだけでなく、特定期間が設定される期間にも期待度を高めることで遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３３１７】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３１８】

しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３１９】

遊技機ＣＡ１において、遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段とは異なる第２入球手段と、を有し、前記取得手段は、前記第１入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記情報として第１情報を取得可能であり、前記第２入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記情報として第２情報を取得可能であり、前記判別手段は、前記第２情報に基づいて前記第２判別結果を判別可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＡ２。

【１３３２０】

遊技機ＣＡ２によれば、遊技機ＣＡ１の奏する効果に加え、前記第２入球手段に入球させることで第２判別結果が判別可能に構成されているので、第１入球手段と第２入球手段とで遊技球の入球に対する価値を可変させることができ、特定期間が設定されている場合に第２情報が記憶されているように遊技を行わせるようにでき、遊技を多様にすることで遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３３２１】

遊技機ＣＡ１またはＣＡ２において、前記第２判別結果が判別されたことに基づいて設定される前記特定設定は、特定遊技の実行後に設定される特定設定よりも長い期間設定されることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＡ３。

【１３３２２】

遊技機ＣＡ３によれば、遊技機ＣＡ１またはＣＡ２の奏する効果に加え、特定設定が設定される期間を判別された判別結果により可変させることが可能となるので、遊技を多様にすることができ興趣をより向上できるという効果がある。

【１３３２３】

＜特徴ＣＢ群＞（１回の特図抽選で大当たりと時短とに重複当選した場合に、何れか一方に当選した場合よりも有利な特典と付与）

情報を取得することが可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が第１判別結果であることに基づいて特定遊技を実行することが可能な特定遊技実行手段と、前記特定遊技が実行された後に特定条件が成立していることに基づいて特定設定を終了条件が成立するまで

設定することが可能な設定手段と、を有した遊技機において、前記判別手段により前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であると判別された場合に前記特定遊技を実行せずに前記設定手段により前記特定設定を設定させることが可能な設定制御手段を有し、前記判別手段は、前記第１判別結果と前記第２判別結果とを重複して判別することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＢ１。

【１３３２４】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３２５】

しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３２６】

遊技機ＣＢ１によれば、第１判別結果と第２判別結果とを重複して判別することが可能に構成されているので、特定条件が成立しなかった場合にも特定設定が設定されることが可能にでき、特定設定がされるタイミングを多様にすることで遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３３２７】

遊技機ＣＢ１において、前記判別手段により前記第１判別結果と前記第２判別結果とが重複して判別されたことに基づいて前記特定遊技として重複して判別されなかった場合よりも遊技者に有利となる特定遊技の種別が実行され易くされているものであることを特徴とする遊技機ＣＢ２。

【１３３２８】

遊技機ＣＢ２によれば、遊技機ＣＢ１の奏する効果に加え、重複して判別されることで遊技者に有利となる種別の特定遊技が実行され易いので、遊技者に多様な判別結果に対応した特典を付与することで遊技を多様にすることができるという効果がある。

【１３３２９】

遊技機ＣＢ１またはＣＢ２において、前記設定制御手段は、前記判別手段により前記第２判別結果と判別された後に前記第１判別結果であるかを判別する期間で前記特定設定を設定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＢ３。

【１３３３０】

遊技機ＣＢ３によれば、遊技機ＣＢ１またはＣＢ２の奏する効果に加え、前記第２判別結果と判別されると、その後に実行される第１判別結果であるかの判別がされる期間に特定設定がされるので、特定設定がされた状態で第１判別結果であるかを判別することができ、多様な状態で判別を行わせることができるという効果がある。

【１３３３１】

＜特徴ＣＣ群＞（時短成立契機に応じて、時短状態中に時短大当たり当選した場合の有利度合いを異ならせる）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が特定の第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態よりも前記判別手段による前記判別が実行され易い第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第２遊技状態を設定するための設定種別として、前記特典遊技実行手段の終了後に前記第２遊技状態を設定可能な第１設定と、前記判別手段により実行される前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記特典遊技を実行すること無く、前記第２遊技状態を設定可能な第２設定と、を少なくとも実行可能であり、前記遊技機は、前記

設定種別に応じて、前記第２遊技状態中に実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果であることに基づいて実行される前記特典遊技の種別の選択割合を異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機ＣＣ１。

【１３３３２】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３３３】

しかしながら有利状態が設定された場合には、遊技当否抽選が実行され易くなるという効果はあるが、有利状態中において、遊技の当否抽選の結果が当たりとなった場合には、常に同一の特典が付与されることから遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３３４】

遊技機ＣＣ１によれば、設定種別に応じて特典遊技の種別における選択割合が可変されるので、同じ第２遊技状態であっても異なるものとすることができ、遊技状態を多数設定しなくとも遊技を多様にして遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３３３５】

遊技機ＣＣ１において、前記第２遊技状態は、終了条件が成立するまで継続して設定されるものであり、前記第２設定が設定されている場合に前記特典遊技が実行された場合には、その特典遊技が実行された後に、前記終了条件が成立するまでの期間を長くなるようにすることが可能な設定がされ易いものであることを特徴とする遊技機ＣＣ２。

【１３３３６】

遊技機ＣＣ２によれば、遊技機ＣＣ１の奏する効果に加え、前記第２設定がされることで、第２遊技状態が設定される期間を長くすることが可能となるので、第２遊技状態において特典遊技が実行された場合に終了条件が設定されるまでの期間について興味をより持たせることができるという効果がある。

【１３３３７】

遊技機ＣＣ１またはＣＣ２において、前記判別手段は、遊技状態によって前記第２判別結果を判別することが規制されるものであることを特徴とする遊技機ＣＣ３。

【１３３３８】

遊技機ＣＣ３によれば、遊技機ＣＣ１またはＣＣ２の奏する効果に加え、遊技状態によって第２判別結果が判別されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。

【１３３３９】

＜特徴ＣＤ群＞（ハマればハマるほど時短成立時に有利時短が設定され易い）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される判別結果が特定の第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行された前記特典遊技の終了後に、第１遊技状態よりも前記判別手段による前記判別が実行され易い設定がされる第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第２遊技状態が設定されている状態で所定の終了条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であり、前記遊技機は、前記遊技状態設定手段により前記第２遊技状態が設定されている場合に設定されることが可能な設定情報を判別可能な設定情報判別手段を有し、前記設定情報判別手段により前記第１設定情報よりも後に設定される第２設定情報が判別された場合に、前記特典遊技の終了後に前記終了条件が成立し難い前記第２遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＣＤ１。

【１３３４０】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３３４１】
しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３３４２】
遊技機ＣＤ１によれば、第２遊技状態が設定されている期間が長くなるほど特典遊技が実行された場合に終了条件が成立し難くされているので、遊技者に特典遊技が実行されることを期待する期間と、特典遊技が実行されることを期待させない期間とを切り替えて設定することができ、遊技を多様にして遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３３４３】
遊技機ＣＤ１において、前記特定の第１判別結果とは異なる特定の第２判別結果と前記判別手段により判別されたことに基づいて前記設定情報を設定することが可能な設定情報設定手段を有し、前記設定情報設定手段は、設定されている設定情報の種別に対応した設定情報を設定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＣＤ２。
【１３３４４】
遊技機ＣＤ２によれば、遊技機ＣＤ１の奏する効果に加え、設定情報の履歴に応じて設定される設定情報を規則的に可変させることができるので第２遊技状態の設定されている期間を容易に判別させることができるという効果がある。
【１３３４５】
遊技機ＣＤ１またはＣＤ２において、前記判別手段は、遊技状態によって前記第２判別結果を判別することが規制されるものであることを特徴とする遊技機ＣＤ３。
【１３３４６】
遊技機ＣＤ３によれば、遊技機ＣＤ１またはＣＤ２の奏する効果に加え、遊技状態によって第２判別結果が判別されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。
【１３３４７】
＜特徴ＣＥ群＞（大当たり抽選＋時短抽選を実行可能な特図１と、大当たり抽選＋小当たり抽選を実行可能な特図２）
第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段により実行される前記第１判別の結果が、第１判別結果であることに基づいて第１特典を付与可能であり、前記第１判別の結果が、前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記第１特典とは異なる第２特典を付与可能な第１特典付与手段と、を有した遊技機において、前記第１判別とは異なる第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段により実行される前記第２判別の結果が、第３判別結果であることに基づいて前記第１特典を付与可能であり、前記第２判別の結果が前記第３判別結果とは異なる第４判別結果であることに基づいて、前記第１特典及び前記第２特典とは異なる第３特典を付与可能な第２特典付与手段と、を有し、前記遊技機は、前記第１判別手段により実行される前記第１判別に基づいて前記第３特典が付与されることが無く、且つ、前記第２判別手段により実行される前記第２判別に基づいて前記第２特典が付与されることが無いように構成されていることを特徴とする遊技機ＣＥ１。

【１３３４８】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典が付与されるものであって、特典を付与するか否かの抽選として、第１抽選と第２抽選とを実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３３４９】
しかしながら、第１抽選が実行された場合も、第２抽選が実行された場合も、当選した場合に付与される特典が同一であることから、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３３５０】
遊技機ＣＥ１によれば、第１判別が実行された場合と、第２判別が実行された場合とで、異なる特典を付与可能に構成しているため、遊技者に対して、異なる判別を実行させようと意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技が単調となることを抑制できるという効果がある。
【１３３５１】
＜特徴ＣＦ群＞（第１有利条件が成立してから第１有利状態が設定されるまでの間に第２有利条件が成立した場合に、特定有利状態を設定可能）
第１条件が成立したことを判別するための第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段により前記第１条件が成立したと判別されたことに基づいて第１有利状態を設定可能な第１状態設定手段と、第１条件とは異なる第２条件が成立したことを判別するための第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段により前記第２条件が成立したと判別されたことに基づいて第２有利状態を設定可能な第２状態設定手段と、を有した遊技機において、前記第１判別手段により前記第１条件が成立したと判別されてから前記第１状態設定手段により前記第１有利状態が設定されるまでの間に、前記第２判別手段により前記第２条件が成立したと判別されたことに基づいて、前記第１有利状態、及び前記第２有利状態よりも遊技者に有利となる第３有利状態を設定可能な第３状態設定手段を有することを特徴とする遊技機ＣＦ１。
【１３３５２】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典が付与されるものであって、特典を付与するか否かの抽選として、第１抽選と第２抽選とを実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３３５３】
しかしながら、第１抽選が実行された場合も、第２抽選が実行された場合も、抽選結果が特典が付与される抽選結果となった場合に、それぞれに対応する特典が付与されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３３５４】
遊技機ＣＦ１によれば、第１条件が成立したことに基づいて第１有利状態が設定され、第２条件が成立したことに基づいて第２有利状態が設定される。そして、第１条件が成立してから第１有利状態が設定されるまでの間に、第２条件が成立した場合には、第１有利状態、及び第２有利状態よりも遊技者に有利となる第３有利状態が設定される。よって、第１条件が成立するタイミングと、第２条件が成立するタイミングとに対して遊技者に興味を持たせることができるため、遊技が単調となることを抑制することができるという効果がある。
【１３３５５】

＜特徴ＣＧ群＞（特定周期で有利抽選を実行）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを少なくとも含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第１遊技状態が設定されている状態において実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記第２遊技状態を設定可能であり、前記第２遊技状態が設定されている状態において終了条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であり、前記第１遊技状態が設定されている状態において実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果及び前記第２判別結果とは異なる第３判別結果であることに基づいて、前記第２遊技状態よりも遊技者に有利な第３遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＣＧ１。
【１３３５６】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３３５７】
しかしながら、常に同一内容の当否抽選が実行されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３３５８】
遊技機ＣＧ１によれば、第２遊技状態が設定されている間は、第３遊技状態が設定され難くすることができるため、第１遊技状態が設定されている期間にて第３遊技状態が設定される遊技を目指すことになる。よって、遊技状況に応じて有利度合いの異なる遊技を実行することが可能となるため、遊技が単調とすることを抑制できるという効果がある。
【１３３５９】
遊技機ＣＧ１において、前記判別手段は、前記判別の結果が前記第２判別結果となる確率よりも前記第３判別結果となる確率のほうが低くなるように前記判別を実行可能であることを特徴とする遊技機ＣＧ２。
【１３３６０】
遊技機ＣＧ２によれば、遊技機ＣＧ１の奏する効果に加え、第３判別結果となるよりも第２判別結果となり易いため、遊技者に対して、判別手段の判別結果が第２判別結果となり、第３遊技状態が設定され難い第２遊技状態へと遊技状態が移行してしまうことを避けながら、第３遊技状態が設定されることを目指した遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３３６１】
遊技機ＣＧ１またはＣＧ２において、前記終了条件として、前記第２遊技状態が設定されている状態において実行される前記判別手段による前記判別の回数が所定回数に到達したことに基づいて成立可能な第１終了条件を少なくとも設定可能な終了条件設定手段を有することを特徴とする遊技機ＣＧ３。
【１３３６２】
遊技機ＣＧ３によれば、遊技機ＣＧ１またはＣＧ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２遊技状態中に実行された判別の回数が所定回数に到達した場合に第２遊技状態を終了させることができるため、少なくとも特定周期で第１遊技状態における判別手段の判別を実行することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３３６３】
遊技機ＣＧ３において、前記終了条件設定手段は、前記判別手段による前記判別の結果が特定判別結果であることに基づいて成立可能な第２終了条件を設定可能であることを特

徴とする遊技機ＣＧ４。
【１３３６４】
遊技機ＣＧ４によれば、遊技機ＣＧ３の奏する効果に加え、第２終了条件が成立することにより、特定周期よりも短い間隔で第２遊技状態を終了させることができるため、遊技者に対して意外性のある遊技を提供することができるという効果がある。
【１３３６５】
遊技機ＣＧ１からＣＧ４の何れかにおいて、前記判別手段は、前記第１遊技状態中に実行される前記判別の結果が前記第３判別結果となる確率よりも前記第２遊技状態中に実行される前記判別の結果が前記第３判別結果となる確率のほうが低くなるように前記判別を実行可能であることを特徴とする遊技機ＣＧ５。
【１３３６６】
遊技機ＣＧ５によれば、遊技機ＣＧ１からＣＧ４の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２遊技状態よりも第１遊技状態のほうが、第３遊技状態が設定されやすいため、第２遊技状態が設定されていない状況で判別が実行されることを期待しながら遊技を行わせることができるという効果がある。
【１３３６７】
＜特徴ＣＨ群＞（終わらせた方が良い時短と、終わらせない方が良い時短とを設定可能）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が特定の第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを少なくとも含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段により前記第２遊技状態を設定するための設定種別として、前記特典遊技実行手段の終了後に前記第２遊技状態を設定可能な第１設定と、前記判別手段により実行される前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記特典遊技を実行すること無く、前記第２遊技状態を設定可能な第２設定と、を少なくとも設定可能な種別設定手段を有し、前記遊技状態設定手段は、前記種別設定手段により設定された前記設定種別に応じて、前記第１遊技状態よりも有利となる有利第２遊技状態と、前記第１遊技状態よりも不利となる不利第２遊技状態と、を設定可能であることを特徴とする遊技機ＣＨ１。
【１３３６８】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３３６９】
しかしながら、特典遊技が実行された後に有利状態が設定されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３３７０】
遊技機ＣＨ１によれば、第１遊技状態よりも有利な遊技状態と、第１遊技状態よりも不利な遊技状態と、を設定可能とすることができるため、遊技が単調となることを抑制することができるという効果がある。
【１３３７１】
＜５０６８の技術思想＞
＜特徴ＤＡ群＞（時短中に獲得した特図２保留を用いた特図２抽選の実行回数が所定回数を超えると、特図２抽選により有利特典が付与される確率が高くなる）
情報を取得することが可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別

を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が第１判別結果であることに基づいて特定遊技を実行することが可能な特定遊技実行手段と、前記特定遊技が実行された後に特定設定を終了条件が成立するまで設定することが可能な設定手段と、を有した遊技機において、前記判別手段により前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であると判別された場合に前記特定遊技を実行せずに前記設定手段により前記特定設定を設定させることが可能な設定制御手段を有し、前記判別手段は、特定期間が設定されている場合に前記第２判別結果を判別することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＡ１。

【１３３７２】

遊技機ＤＡ１によれば、特定期間が設定されている場合に第２判別結果と判別されることが可能にされているので、特定期間が設定されると第２判別結果と判別されることで特定設定が設定されることで、特定設定が通常時と異なるタイミングで設定されることとなり、特定遊技が実行されることだけでなく、特定期間が設定される期間にも期待度を高めることで遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３３７３】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３７４】

しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３７５】

遊技機ＤＡ１において、遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段とは異なる第２入球手段と、を有し、前記取得手段は、前記第１入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記情報として第１情報を取得可能であり、前記第２入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記情報として第２情報を取得可能であり、前記判別手段は、前記第２情報に基づいて前記第２判別結果を判別可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＡ２。

【１３３７６】

遊技機ＤＡ２によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、前記第２入球手段に入球させることで第２判別結果が判別可能に構成されているので、第１入球手段と第２入球手段とで遊技球の入球に対する価値を可変させることができ、特定期間が設定されている場合に第２情報が記憶されているように遊技を行わせるようにでき、遊技を多様にすることで遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３３７７】

遊技機ＤＡ１またはＤＡ２において、前記第２判別結果が判別されたことに基づいて設定される前記特定設定は、特定遊技の実行後に設定される特定設定よりも長い期間設定されることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＡ３。

【１３３７８】

遊技機ＤＡ３によれば、遊技機ＤＡ１またはＤＡ２の奏する効果に加え、特定設定が設定される期間を判別された判別結果により可変させることが可能となるので、遊技を多様にすることができ興趣をより向上できるという効果がある。

【１３３７９】

＜特徴ＤＢ群＞（１回の特図抽選で大当たりと時短とに重複当選した場合に、何れか一方に当選した場合よりも有利な特典と付与）

情報を取得することが可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を記

憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が第１判別結果であることに基づいて特定遊技を実行することが可能な特定遊技実行手段と、前記特定遊技が実行された後に特定条件が成立していることに基づいて特定設定を終了条件が成立するまで設定することが可能な設定手段と、を有した遊技機において、前記判別手段により前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であると判別された場合に前記特定遊技を実行せずに前記設定手段により前記特定設定を設定させることが可能な設定制御手段を有し、前記判別手段は、前記第１判別結果と前記第２判別結果とを重複して判別することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＢ１。

【１３３８０】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３８１】

しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３８２】

遊技機ＤＢ１によれば、第１判別結果と第２判別結果とを重複して判別することが可能に構成されているので、特定条件が成立しなかった場合にも特定設定が設定されることが可能にでき、特定設定がされるタイミングを多様にすることで遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３３８３】

遊技機ＤＢ１において、前記判別手段により前記第１判別結果と前記第２判別結果とが重複して判別されたことに基づいて前記特定遊技として重複して判別されなかった場合よりも遊技者に有利となる特定遊技の種別が実行され易くされているものであることを特徴とする遊技機ＤＢ２。

【１３３８４】

遊技機ＤＢ２によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、重複して判別されることで遊技者に有利となる種別の特定遊技が実行され易いので、遊技者に多様な判別結果に対応した特典を付与することで遊技を多様にすることができるという効果がある。

【１３３８５】

遊技機ＤＢ１またはＤＢ２において、前記設定制御手段は、前記判別手段により前記第２判別結果と判別された後に前記第１判別結果であるかを判別する期間で前記特定設定を設定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＢ４。

【１３３８６】

遊技機ＤＢ４によれば、遊技機ＤＢ１またはＤＢ２の奏する効果に加え、前記第２判別結果と判別されると、その後に実行される第１判別結果であるかの判別がされる期間に特定設定がされるので、特定設定がされた状態で第１判別結果であるかを判別することができ、多様な状態で判別を行わせることができるという効果がある。

【１３３８７】

＜特徴ＤＣ群＞（時短成立契機に応じて、時短状態中に時短大当たり当選した場合の有利度合いを異ならせる）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が特定の第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態よりも前記判別手段による前記判別が実行され易い第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第２遊技状態を

設定するための設定種別として、前記特典遊技実行手段の終了後に前記第２遊技状態を設定可能な第１設定と、前記判別手段により実行される前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記特典遊技を実行すること無く、前記第２遊技状態を設定可能な第２設定と、を少なくとも実行可能であり、前記遊技機は、前記設定種別に応じて、前記第２遊技状態中に実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果であることに基づいて実行される前記特典遊技の種別の選択割合を異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機ＤＣ１。

【１３３８８】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３８９】

しかしながら有利状態が設定された場合には、遊技当否抽選が実行され易くなるという効果はあるが、有利状態中において、遊技の当否抽選の結果が当たりとなった場合には、常に同一の特典が付与されることから遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３９０】

遊技機ＤＣ１によれば、設定種別に応じて特典遊技の種別における選択割合が可変されるので、同じ第２遊技状態であっても異なるものとすることができ、遊技状態を多数設定しなくとも遊技を多様にして遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３３９１】

遊技機ＤＣ１において、前記第２遊技状態は、終了条件が成立するまで継続して設定されるものであり、前記第２設定が設定されている場合に前記特典遊技が実行された場合には、その特典遊技が実行された後に、前記終了条件が成立するまでの期間を長くなるようにすることが可能な設定がされ易いものであることを特徴とする遊技機ＤＣ２。

【１３３９２】

遊技機ＤＣ２によれば、遊技機ＤＣ１の奏する効果に加え、前記第２設定がされることで、第２遊技状態が設定される期間を長くすることが可能となるので、第２遊技状態において特典遊技が実行された場合に終了条件が設定されるまでの期間について興味をより持たせることができるという効果がある。

【１３３９３】

遊技機ＤＣ１またはＤＣ２において、前記判別手段は、遊技状態によって前記第２判別結果を判別することが規制されるものであることを特徴とする遊技機ＤＣ３。

【１３３９４】

遊技機ＤＣ３によれば、遊技機ＤＣ１またはＤＣ２の奏する効果に加え、遊技状態によって第２判別結果が判別されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。

【１３３９５】

＜特徴ＤＤ群＞（ハマればハマるほど時短成立時に有利時短が設定され易い）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される判別結果が特定の第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行された前記特典遊技の終了後に、第１遊技状態よりも前記判別手段による前記判別が実行され易い設定がされる第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第２遊技状態が設定されている状態で所定の終了条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であり、前記遊技機は、前記遊技状態設定手段により前記第２遊技状態が設定されている場合に設定

されることが可能な設定情報を判別可能な設定情報判別手段を有し、前記設定情報判別手段により前記第１設定情報よりも後に設定される第２設定情報が判別された場合に、前記特典遊技の終了後に前記終了条件が成立し難い前記第２遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＤ１。

【１３３９６】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３３９７】

しかしながら、特典遊技が実行されない限り、有利状態が設定されることが無かったため、遊技の当否抽選の結果が当たりにならない遊技が長時間継続した遊技者に対して、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３３９８】

遊技機ＤＤ１によれば、第２遊技状態が設定されている期間が長くなるほど特典遊技が実行された場合に終了条件が成立し難くされているので、遊技者に特典遊技が実行されることを期待する期間と、特典遊技が実行されることを期待させない期間とを切り替えて設定することができ、遊技を多様にして遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３３９９】

遊技機ＤＤ１において、前記特定の第１判別結果とは異なる特定の第２判別結果と前記判別手段により判別されたことに基づいて前記設定情報を設定することが可能な設定情報設定手段を有し、前記設定情報設定手段は、設定されている設定情報の種別に対応した設定情報を設定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＤ２。

【１３４００】

遊技機ＤＤ２によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、設定情報の履歴に応じて設定される設定情報を規則的に可変させることができるので第２遊技状態の設定されている期間を容易に判別させることができるという効果がある。

【１３４０１】

遊技機ＤＤ１またはＤＤ２において、前記判別手段は、遊技状態によって前記第２判別結果を判別することが規制されるものであることを特徴とする遊技機ＤＤ３。

【１３４０２】

遊技機ＤＤ３によれば、遊技機ＤＤ１またはＤＤ２の奏する効果に加え、遊技状態によって第２判別結果が判別されないので、設定されている遊技状態に興味をより持たせ、第２判別結果が判別可能となる遊技状態が設定されることを期待させることができるという効果がある。

【１３４０３】

＜特徴ＤＥ群＞（大当たり抽選＋時短抽選を実行可能な特図１と、大当たり抽選＋小当たり抽選を実行可能な特図２）

第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段により実行される前記第１判別の結果が、第１判別結果であることに基づいて第１特典を付与可能であり、前記第１判別の結果が、第２判別結果であることに基づいて前記第１特典とは異なる第２特典を付与可能な第１特典付与手段と、を有した遊技機において、前記第１判別とは異なる第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段により実行される前記第２判別の結果が、特定の第２判別結果であることに基づいて前記第１特典を付与可能であり、前記第２判別の結果が前記第３判別結果とは異なる第４判別結果であることに基づいて、前記第１特典及び前記第２特典とは異なる第３特典を付与可能な第２特典付与手段と、を有し、前記

遊技機は、前記第１判別手段により実行される前記第１判別に基づいて前記第３特典が付与されることが無く、且つ、前記第２判別手段により実行される前記第２判別に基づいて前記第２特典が付与されることが無いように構成されていることを特徴とする遊技機ＤＥ１。

【１３４０４】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典が付与されるものであって、特典を付与するか否かの抽選として、第１抽選と第２抽選とを実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４０５】

しかしながら、第１抽選が実行された場合も、第２抽選が実行された場合も、当選した場合に付与される特典が同一であることから、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４０６】

遊技機ＤＥ１によれば、第１判別が実行された場合と、第２判別が実行された場合とで、異なる特典を付与可能に構成しているため、遊技者に対して、異なる判別を実行させようと意欲的に遊技を行わせることが可能となり、遊技が単調となることを抑制できるという効果がある。

【１３４０７】

＜特徴ＤＦ群＞（第１有利条件が成立してから第１有利状態が設定されるまでの間に第２有利条件が成立した場合に、特定有利状態を設定可能）

第１条件が成立したことを判別するための第１判別を実行可能な第１判別手段と、その第１判別手段による第１判別結果を示すための第１識別情報が表示される表示手段と、前記第１識別情報を動的表示させた後に前記第１判別結果を示す態様で停止表示させることが可能な第１動的表示手段と、第２判別を実行可能な第２判別手段と、その第２判別手段による第２判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段に動的表示させた後に前記第２判別結果を示すための態様で停止表示させることが可能な第２動的表示手段と、を有した遊技機において、遊技者に有利となることが可能な有利遊技状態が設定される前記第１識別情報の動的表示が開始された場合に特定遊技状態を設定する遊技状態設定手段と、前記特定遊技状態が設定されている場合には、前記第２判別手段により遊技者に有利となる前記第２判別結果が判別され易く構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＦ１。

【１３４０８】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典が付与されるものであって、特典を付与するか否かの抽選として、第１抽選と第２抽選とを実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４０９】

しかしながら、第１抽選が実行された場合も、第２抽選が実行された場合も、特典が付与される抽選結果となった場合に、それぞれに対応する特典が付与されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４１０】

遊技機ＤＦ１によれば、第１条件が成立したことに基づいて第１有利状態が設定され、第２条件が成立したことに基づいて第２有利状態が設定される。そして、第１条件が成立してから第１有利状態が設定されるまでの間に、第２条件が成立した場合には、第１有利状態、及び第２有利状態よりも遊技者に有利となる第３有利状態が設定される。よって、

第１条件が成立するタイミングと、第２条件が成立するタイミングとに対して遊技者に興味を持たせることができるため、遊技が単調となることを抑制することができるという効果がある。

【１３４１１】

遊技機ＤＦ１において、前記有利遊技状態が設定される前記第１識別情報の動的表示では、前記特定遊技状態で実行される前記第２識別情報の動的表示が複数回実行可能な期間より長い期間の動的表示が選択され易い動的表示態様群より動的表示態様が選択されるように制御され、前記特定遊技状態が設定されている場合には、前記第２識別情報の動的表示として通常の遊技状態よりも短い動的表示期間で構成された動的表示態様が選択され易い動的表示態様群より動的表示態様が選択されるものであることを特徴とすることを特徴とする遊技機ＤＦ２。

【１３４１２】

遊技機ＤＦ２によれば、遊技機ＤＦ１の奏する効果に加え、第１識別情報の動的表示期間として長い動的表示期間が選択されることで特定遊技状態を長く設定でき、その特定遊技状態では、第２識別情報の動的表示期間が短く設定されることで第２識別情報の動的表示を多回数実行することで、遊技者に第２識別情報の動的表示をより多く実行させるように意欲を持たせやすくして、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４１３】

遊技機ＤＦ１またはＤＦ２において、前記特定遊技状態が設定されている場合に、特定の前記第２判別結果であることに基づいて前記有利遊技状態よりも遊技者に有利となる遊技状態を設定可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＤＦ３。

【１３４１４】

遊技機ＤＦ３によれば、遊技機ＤＦ１またはＤＦ２の奏する効果に加え、第２識別情報が特定の第２判別結果となると有利遊技状態よりも有利な遊技状態が特定遊技状態において設定されることとなるので、特定遊技状態の残り期間によって遊技者に与える特典を可変させることができ、遊技を多様にすることができるという効果がある。

【１３４１５】

遊技機ＤＦ１からＤＦ３のいずれかにおいて、前記第２識別情報の動的表示が停止表示され、特定条件が成立していることにより動的表示されている前記第１識別情報の動的表示を前記有利遊技状態が設定されないように強制的に停止表示させることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＦ４。

【１３４１６】

遊技機ＤＦ４によれば、遊技機ＤＦ１からＤＦ３のいずれかにおいて、第２識別情報の動的表示によって設定されるはずの有利遊技状態を強制的に破棄させることができるので、遊技を多様にすることができるという効果がある。

【１３４１７】

遊技機ＤＦ１からＤＦ４のいずれかにおいて、前記特定遊技状態が設定されている場合に前記第２識別情報の動的表示が終了することで特典遊技が実行される場合には、動的表示されている前記第１識別情報の動的表示期間を中断し、前記特典遊技の実行が終了した後に再開して動的表示を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＦ５。

【１３４１８】

遊技機ＤＦ５によれば、遊技機ＤＦ１からＤＦ４のいずれかの奏する効果に加え、特典遊技がされている期間には、第１識別情報の動的表示が中断された後に、特典遊技の終了後に再開されるので、特典遊技が実行されることで、有利遊技状態への期待を低減させて、特典遊技の価値を低下させる不具合を抑制できるという効果がある。

【１３４１９】

遊技機ＤＦ１からＤＦ５のいずれかにおいて、前記有利遊技状態は、前記第１識別情報の動的表示後に実行される特典遊技が実行される前記第１識別情報の動的表示がされた場合に設定される第１設定条件と、前記特典遊技の実行されない前記第１識別情報の動的表

示がされた場合に設定される第２設定条件と、に基づいて少なくとも設定可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＤＦ６。
【１３４２０】
遊技機ＤＦ６によれば、遊技機ＤＦ１からＤＦ５のいずれかの奏する効果に加え、特典遊技が実行されなくとも有利遊技状態が設定されるように構成することで、有利遊技状態が設定されるタイミングを予測困難とすることができ、遊技に新鮮味を持たせることができるという効果がある。
【１３４２１】
＜特徴ＤＧ群＞（特定周期で有利抽選を実行）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを少なくとも含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記第１遊技状態が設定されている状態において実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記第２遊技状態を設定可能であり、前記第２遊技状態が設定されている状態において終了条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であり、前記第１遊技状態が設定されている状態において実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果及び前記第２判別結果とは異なる第３判別結果であることに基づいて、前記第２遊技状態よりも遊技者に有利な第３遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＧ１。
【１３４２２】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３４２３】
しかしながら、常に同一内容の当否抽選が実行されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調とすることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３４２４】
遊技機ＤＧ１によれば、第２遊技状態が設定されている間は、第３遊技状態が設定され難くすることができるため、第１遊技状態が設定されている期間にて第３遊技状態が設定される遊技を目指すことになる。よって、遊技状況に応じて有利度合いの異なる遊技を実行することが可能となるため、遊技が単調とすることを抑制できるという効果がある。
【１３４２５】
遊技機ＤＧ１において、前記判別手段は、前記判別の結果が前記第２判別結果となる確率よりも前記第３判別結果となる確率のほうが低くなるように前記判別を実行可能であることを特徴とする遊技機ＤＧ２。
【１３４２６】
遊技機ＤＧ２によれば、遊技機ＤＧ１の奏する効果に加え、第３判別結果となるよりも第２判別結果となり易いため、遊技者に対して、判別手段の判別結果が第２判別結果となり、第３遊技状態が設定され難い第２遊技状態へと遊技状態が移行してしまうことを避けながら、第３遊技状態が設定されることを目指した遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３４２７】
遊技機ＤＧ１またはＤＧ２において、前記終了条件として、前記第２遊技状態が設定されている状態において実行される前記判別手段による前記判別の回数が所定回数に到達したことに基づいて成立可能な第１終了条件を少なくとも設定可能な終了条件設定手段を有することを特徴とする遊技機ＤＧ３。
【１３４２８】

遊技機ＤＧ３によれば、遊技機ＤＧ１またはＤＧ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２遊技状態中に実行された判別の回数が所定回数に到達した場合に第２遊技状態を終了させることができるため、少なくとも特定周期で第１遊技状態における判別手段の判別を実行することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３４２９】

遊技機ＤＧ３において、前記終了条件設定手段は、前記判別手段による前記判別の結果が特定判別結果であることに基づいて成立可能な第２終了条件を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＧ４。

【１３４３０】

遊技機ＤＧ４によれば、遊技機ＤＧ３の奏する効果に加え、第２終了条件が成立することにより、特定周期よりも短い間隔で第２遊技状態を終了させることができるため、遊技者に対して意外性のある遊技を提供することができるという効果がある。

【１３４３１】

遊技機ＤＧ１からＤＧ４の何れかにおいて、前記判別手段は、前記第１遊技状態中に実行される前記判別の結果が前記第３判別結果となる確率よりも前記第２遊技状態中に実行される前記判別の結果が前記第３判別結果となる確率のほうが低くなるように前記判別を実行可能であることを特徴とする遊技機ＤＧ５。

【１３４３２】

遊技機ＤＧ５によれば、遊技機ＤＧ１からＤＧ４の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２遊技状態よりも第１遊技状態のほうが、第３遊技状態が設定されやすいため、第２遊技状態が設定されていない状況で判別が実行されることを期待しながら遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３４３３】

＜特徴ＤＨ群＞（終わらせた方が良い時短と、終わらせない方が良い時短とを設定可能）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、特定の前記判別結果であることを示すための識別情報が表示された場合に特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを少なくとも含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、第２遊技状態の設定が終了される終了条件が成立することで遊技者に有利な遊技状態が設定される第１状態と、前記終了条件が成立しない方が終了する場合よりも遊技な遊技状態が設定される第２状態と、を設定可能な状態設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＤＨ１。

【１３４３４】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４３５】

しかしながら、特典遊技が実行された後に有利状態が設定されるだけであり、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４３６】

遊技機ＤＨ１によれば、第２遊技状態が設定された場合に、第１状態と第２状態との設定により終了条件が成立することへの期待度を可変させることができるので、第２遊技状態が終了したことによる興趣を可変させて、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４３７】

遊技機ＤＨ１において、前記第１状態が設定される場合に前記終了条件が成立すること

で前記第１遊技状態が設定され、その第１遊技状態が設定されている状態から前記第２遊技状態が設定されることに基づいて前記第２状態が設定されるものであることを特徴とする遊技機ＤＨ２。

【１３４３８】

遊技機ＤＨ２によれば、遊技機ＤＨ１の奏する効果に加え、第１状態が設定された後に、第１遊技状態を経て、第２状態が設定される第２遊技状態が設定されるので、遊技状態の設定される順序によって有利な遊技状態が設定されることとなり、徐々に期待度を高めながら遊技を継続させ易くできるという効果がある。

【１３４３９】

遊技機ＤＨ１またはＤＨ２において、前記第２遊技状態は、前記特典遊技が実行される前記識別情報の動的表示がされた場合に設定されることが可能な第１条件と、前記特典遊技が実行されない前記識別情報の動的表示がされた場合に設定されることが可能な第２条件と、に基づいて設定可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＨ３。

【１３４４０】

遊技機ＤＨ３によれば、遊技機ＤＨ１またはＤＨ２の奏する効果に加え、第２遊技状態が設定されるタイミングを多様にすることができ、新鮮味のある遊技を提供できるという効果がある。

【１３４４１】

＜特徴ＤＩ群＞（通常状態で特図２抽選を実行した場合に、所定期間、特図１抽選にもペナルティ）

第１判別を実行可能な第１判別手段と、前記第１判別とは異なる第２判別を実行可能な第２判別手段と、を有した遊技機において、前記第１判別手段と前記第２判別手段とが第１順序で判別された場合に設定されることが可能な第１設定と、前記第１順序とは異なる第２順序で判別された場合に設定されることが可能な第２設定と、を設定可能な設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＤＩ１。

【１３４４２】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、複数の契機によりそれぞれ当たり等の判別を所定の順序で実行し、判別結果に基づいた報知を遊技者にし、当たり等の特定の報知がされた場合に遊技者に有利な特典が付与される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４４３】

しかしながら、当たり等の判別が実行される順序が異なった場合であっても、個々の判別結果に基づく遊技が実行されるだけで有り、順序を異ならせたことにより遊技性の異なる遊技が実行されることが無いため、遊技が単調となる問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技が単調となることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４４４】

遊技機ＤＩ１によれば、第１判別と第２判別との実行順序に応じて異なる設定がされるため、判別が実行される順序に興味を持たせることが可能となり遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４４５】

遊技機ＤＩ１において、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを設定可能な遊技状態設定手段を有し、前記遊技状態設定手段は、前記第１判別が実行されたことに基づいて前記第２遊技状態を設定可能であり、次に第１判別が実行されることに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＩ２。

【１３４４６】

遊技機ＤＩ２によれば、遊技機ＤＩ１の奏する効果に加え、第１遊技状態を周期的に設定することが可能となり、遊技状態を一定周期で可変させて遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４４７】

遊技機ＤＩ２において、前記遊技状態設定手段は、前記第２判別が実行されたことに基づいて前記第２遊技状態を設定可能であり、次に前記第２判別が実行されることに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＩ３。

【１３４４８】

第１判別と第２判別とが交互に実行されることで第１遊技状態を継続して設定することが可能となり、判別の順序に興味を持たせて遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４４９】

遊技機ＤＩ１からＤＩ３のいずれかにおいて、前記第１設定では、特定の前記第１判別結果または特定の前記第２判別結果に基づいて第１特典遊技が実行され、前記第２設定では、特定の前記第１判別結果または特定の前記第２判別結果に基づいて第１特典遊技よりも遊技者に有利な第２特典遊技が実行されるものであることを特徴とする遊技機ＤＩ４。

【１３４５０】

遊技機ＤＩ４によれば、遊技機ＤＩ１からＤＩ３のいずれかの奏する効果に加え、第２設定がされることで遊技者に有利とすることができ、判別の順序で遊技の興趣を可変させることができるという効果がある。

【１３４５１】

遊技機ＤＩ２からＤＩ４の何れかにおいて、前記遊技状態設定手段は、前記第２遊技状態を設定する契機となった前記第１判別の次に、前記第２判別が実行された場合には、複数回の前記第１判別が少なくとも実行されることで成立可能な設定条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＤＩ５。

【１３４５２】

＜特徴ＤＪ群＞（通常状態、有利状態、超有利状態の３つの遊技状態を設定可能であり、通常状態からは有利状態、超有利状態の何れにも移行可能で、有利状態からは超有利状態へと移行し難い遊技性）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態と、その第２遊技状態よりも遊技者に有利となる第３遊技状態と、を含む複数の遊技状態の中から１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記特典遊技の終了後に前記第２遊技状態を設定可能であり、前記第１遊技状態が設定されている状態で実行された前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて前記第３遊技状態を設定可能であり、前記判別手段は、前記第１遊技状態が設定されている状態で実行される前記判別の方が、前記第２遊技状態が設定されている状態で実行される前記判別よりも、前記第２判別結果を判別し易いものであり、前記遊技機は、前記第２遊技状態が設定されている状態で前記判別が実行されるよりも、前記第１遊技状態が設定されている状態で前記判別が実行される場合の方が、前記第３遊技状態が設定され易くなるように構成していることを特徴とする遊技機ＤＪ１。

【１３４５３】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、複数の遊技状態を設定し、その遊技状態を当たり等の条件が成立することで切り替えることで、遊技者に多様な遊技状態が切り替えられるように構成して、遊技の意欲を高めた構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４５４】

さらに、複数の遊技状態として遊技者への有利度合いの異なる遊技状態を設定可能に構成し、有利度合いの低い遊技状態から徐々に有利度合いの高い遊技状態へと遊技状態を切り替えることにより、遊技者に対して現在よりも更に有利な遊技状態へと切り替わることを目指させることで高い遊技意欲を維持させるものがある。

【１３４５５】

しかしながら、上述した従来型の遊技機では、定期的に遊技状態が切り替わる場合には遊技者が遊技に早期に飽きること無く、高い遊技意欲を継続させることができるものであ

ったが、遊技状態が切り替わること無く、有利度合いの低い遊技状態が長時間継続した場合には、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４５６】

遊技機ＤＪ１によれば、第２遊技状態よりも、第２遊技状態よりも遊技者に不利となる第１遊技状態のほうが、第２遊技状態よりも遊技者に有利となる第３遊技状態が設定され易い判別が実行される。よって、第１遊技状態が設定されている遊技者に対して、特典遊技が実行された後に第２遊技状態が設定されることを目指す遊技と、第３遊技状態が設定されることを目指す遊技と、を並行して実行させることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことの無い遊技機を提供することができるという効果がある。

【１３４５７】

また、第２遊技状態へと遊技状態が切り替わること無く、第１遊技状態が長時間継続することにより、第３遊技状態へと遊技状態が切り替わる可能性を高めることができるため、遊技者に不利な第１遊技状態が継続した場合においても遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３４５８】

遊技機ＤＪ１において、前記判別手段は、第１判別条件の成立に基づいて第１判別を実行可能であり、前記第１判別条件とは異なる第２判別条件の成立に基づいて第２判別を実行可能であり、前記第１遊技状態および前記第２遊技状態では、前記第２判別条件の成立が規制され、前記第３遊技状態では、前記第２判別条件の成立が許容される設定が実行可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＤＪ２。

【１３４５９】

遊技機ＤＪ２によれば、遊技機ＤＪ１の奏する効果に加え、遊技状態によって判別条件の成立し易さが種別毎に変更されるので遊技方法を可変させることができ、遊技に新鮮味を与えることができるという効果がある。

【１３４６０】

遊技機ＤＪ１またはＤＪ２において、遊技状態設定手段は、前記第３遊技状態が設定されている場合に、前記第２判別により特定の判別結果と判別された場合に、前記第２遊技状態を設定可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＤＪ３。

【１３４６１】

遊技機ＤＪ３によれば、遊技機ＤＪ１またはＤＪ２の奏する効果に加え、第３遊技状態の後も有利な遊技状態である第２遊技状態へ移行させることができ、遊技者に有利な状態をより長い期間継続させることができるという効果がある。

【１３４６２】

＜特徴ＤＫ群＞（時短中の保留を貯めろ演出の演出態様を、保留先読み結果に基づいて異ならせる）

遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて、情報を取得することが可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を、所定数を上限に記憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行することが可能な特典遊技実行手段と、前記記憶手段に記憶されている前記情報を、前記判別手段により前記判別されるよりも前に判別可能な事前判別手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも前記入球手段へと遊技球を入球させ易くすることが可能な第２遊技状態と、を前記情報に基づいて成立可能な条件に基づいて設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記第２遊技状態が設定されている場合に前記事前判別手段による事前判別結果に基づいて第１条件が成立していることにより前記第１遊技状態では実行されない特定演出を実行可能に構成された特定演出実行手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＤＫ１。

【１３４６３】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技球が始動口等に入球することにより乱数値等の情報が取得されて、その乱数値等に基づいて抽選が実行されることで遊技者に有利な特典を付与するか否かを決定する構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４６４】

さらに、取得した情報を、所定個数を上限に記憶することが可能に構成されると共に、遊技状態として、始動口等へと遊技球を入球させることが困難な第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも遊技球を入球させ易い第２遊技状態と、を設定可能にする構成が提案されていた。

【１３４６５】

このような従来型の遊技機では、より多くの情報を記憶している状態で第２遊技状態を終了させることが遊技者に最も有利な遊技となり易いため、第２遊技状態中において始動口等へと多くの遊技球を入球させるための遊技が遊技者によって行われていた。

【１３４６６】

しかしながら、既に獲得している情報に基づく抽選の内容によっては、現在設定されている第２遊技状態が終了した後にも、再度、第２遊技状態が設定させる権利を獲得している場合があり、遊技者に対して無用に始動口等へと多くの遊技球を入球させるための遊技を実行させてしまう虞があった。また、第２遊技状態が終了する間際の遊技が単調となり、遊技の興趣が低下するという問題点があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３４６７】

遊技機ＤＫ１によれば、第２遊技状態中における事前判別の結果に基づいて特定演出が実行されることで第１条件が成立していることを早期に識別することが可能となり、第２遊技状態が設定されていることへの価値を高めて遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４６８】

遊技機ＤＫ１において、前記入球手段として、第１入球手段と、その第１入球手段とは異なる第２入球手段と、が配置されており、前記判別手段は、前記第１入球手段に入球したことに基づいて第１判別を実行し、前記第２入球手段に入球したことに基づいて前記第１判別よりも有利となる第２判別を実行可能であり、前記第２遊技状態は、前記可変手段を前記第１状態から前記第２状態へと可変させ易くするものであることを特徴とする遊技機ＤＫ２。

【１３４６９】

遊技機ＤＫ２によれば、遊技機ＤＫ１の奏する効果に加え、第２遊技状態では、第２入球手段に入球させる頻度を高くすることができ遊技者の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４７０】

遊技機ＤＫ１またはＤＫ２において、前記第２遊技状態の終了条件として第１終了条件と、その第１終了条件よりも遊技者に有利な第２終了条件とが設定可能に構成されており、前記第１条件は、前記事前判別により前記第２終了条件が成立可能と判別されたことに基づいて成立可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＤＫ３。

【１３４７１】

遊技機ＤＫ３によれば、遊技機ＤＫ１またはＤＫ２の奏する効果に加え、第１条件が成立することで、情報をより多く記憶させて有利な第２判別をより多く実行させることが可能となるので、特定演出が実行されることで、第２判別がより多く実行されることを早期に判別でき、遊技に対する期待を事前に高めることができるという効果がある。

【１３４７２】

＜５０７２の技術思想＞

＜特徴ＥＡ群＞（異なる状態（天井や演出）を設定可能）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動

的表示される表示手段と、その表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、第１遊技状態が設定されている場合に特定条件の成立に基づいて第１設定を設定可能であり、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態が設定されている場合に前記特定条件の成立に基づいて前記第１設定とは異なる第２設定を設定可能な設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＡ１。

【１３４７３】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３４７４】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３４７５】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３４７６】

遊技機ＥＡ１によれば、第１遊技状態と第２遊技状態とで特定条件が成立した場合における設定種別が異なるので、遊技の設定を多様に可変させることができ、第１遊技状態で特定条件が成立するか、第２遊技状態で特定条件が成立するかについて興味を持たせることで遊技の興趣をより向上できるという効果がある。

【１３４７７】

遊技機ＥＡ１において、前記特定条件は、前記識別情報が動的表示された回数に対応した条件が成立することで成立可能に設定されており、前記回数は、前記第１遊技状態から前記第２遊技状態へと移行した場合にもカウントされている値が維持されるものであることを特徴とする請求項１記載の遊技機ＥＡ２。

【１３４７８】

遊技機ＥＡ２によれば、遊技機ＥＡ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、遊技状態が可変した場合にも回数のカウント値が維持されるので、多様に遊技状態を可変させながら、特定条件が成立するまでの回数へ到達させることができるという効果がある。

【１３４７９】

遊技機ＥＡ１またはＥＡ２において、前記第１設定は、遊技者に有利となる有利状態を第１期間において設定することが可能であり、前記第２設定は、前記第１期間よりも長い第２期間で前記有利状態を設定することが可能であることを特徴とする遊技機ＥＡ３。

【１３４８０】

遊技機ＥＡ３によれば、遊技機ＥＡ１またはＥＡ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２設定がされることで、有利状態が長期間設定されることが可能となるので、特定条件の成立により有利度合いを可変させることで遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３４８１】

遊技機ＥＡ１からＥＡ３のいずれかにおいて、前記判別手段による判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果である場合に、前記第２遊技状態を前記識別情報の動的表示が開始される前に設定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＡ４。

【１３４８２】

遊技機ＥＡ４によれば、遊技機ＥＡ１からＥＡ３の奏する効果に加え、次の効果を奏す

る。即ち、第１判別結果となることで、第２遊技状態へと移行されるので、遊技状態を多様に可変させることができるという効果がある。

【１３４８３】

遊技機ＥＡ１からＥＡ４のいずれかにおいて、前記第２遊技状態が設定されている場合に、前記識別情報の動的表示が予め定められた所定回数実行されたことに基づいて前記第１遊技状態を設定可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＡ５。

【１３４８４】

遊技機ＥＡ５によれば、遊技機ＥＡ１からＥＡ４の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定条件が成立するまでの回数がカウントされるまでに、第１遊技状態と第２遊技状態とをそれぞれ移行させることができ、特定条件が成立するまでの回数が経過するまでの期間を多様にすることができるという効果がある。

【１３４８５】

遊技機ＥＡ１からＥＡ５の何れかにおいて、前記特定条件が成立するよりも前に、前記第２遊技状態が設定されていることを示唆可能な示唆演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＥＡ６。

【１３４８６】

遊技機ＥＡ６によれば、遊技機ＥＡ１からＥＡ５の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、遊技者に第２遊技状態が設定されていることを把握することが可能となるため、特定条件が成立する時点において設定される遊技状態を予測する楽しみを提供することができるという効果がある。

【１３４８７】

遊技機ＥＡ３からＥＡ６の何れかにおいて、少なくとも、前記判別手段による前記判別結果が前記特定の判別結果であることに基づいて、前記第２期間の前記有利状態を設定可能な有利状態設定手段を有することを特徴とする遊技機ＥＡ７。

【１３４８８】

遊技機ＥＡ７によれば、遊技機ＥＡ３からＥＡ６の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、判別手段による判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて第２期間の有利状態を設定することが可能となるため、特定条件が成立するよりも前に遊技者に第２期間の有利状態を提供することができる。よって、遊技者に対しては、特定条件として様々な条件が設定されていると思わせることができ、遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３４８９】

遊技機ＥＡ７において、前記判別手段による前記判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果であることに基づいて前記第２期間の前記有利状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＥＡ８。

【１３４９０】

遊技機ＥＡ８によれば、遊技機ＥＡ７の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典が付与される判別結果では無い場合でも、第２期間の有利状態を設定することができるので、あたかも識別情報が動的表示された回数に対応して第２期間の有利状態が設定されたと遊技者に思わせ易くすることができる。よって、遊技者に対しては、特定条件として様々な条件が設定されていると思わせることができ、遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３４９１】

遊技機ＥＡ１からＥＡ８の何れかにおいて、前記特定条件が成立しない期間が特定期間継続した場合に、前記第２設定よりも遊技者に有利となる第３設定を実行可能な第３設定実行手段を有することを特徴とする遊技機ＥＡ９。

【１３４９２】

遊技機ＥＡ９によれば、遊技機ＥＡ１からＥＡ８の何れかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定条件が成立しない期間が長期間継続した場合に、遊技者に有利となる第３設定を実行することができるため、遊技者の損害を抑制することができるという

効果がある。
【１３４９３】
＜特徴ＥＢ群＞（発動回数をランダム化）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利となる第１特典を付与することが可能な第１特典付与手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果である場合に、第１設定を実行可能な第１設定手段と、前記第１設定が設定されている場合に、前記識別情報の動的表示が予め定められた回数実行されたことに基づいて前記第１設定を解除することが可能な解除手段と、前記第１設定が実行されている場合に、特定条件が成立することで前記第１設定とは異なる第２設定を実行可能な第２設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＢ１。
【１３４９４】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３４９５】
しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。
【１３４９６】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３４９７】
遊技機ＥＢ１によれば、第２設定が実行されるまでの識別情報の動的表示回数をランダムにすることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３４９８】
遊技機ＥＢ１において、前記第１設定が実行されている場合に、前記第１特典が付与された後に前記第１設定を設定しないものであることを特徴とする遊技機ＥＢ２。
【１３４９９】
遊技機ＥＢ２によれば、遊技機ＥＢ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典が付与されることで第１設定が解除されるので、特典が長期間付与されない場合に、第２設定を実行させることが可能となり、一定期間以上で特典が付与されないことを遊技者に有利に感じさせることができるという効果がある。
【１３５００】
遊技機ＥＢ１またはＥＢ２において、前記第２設定が実行されることで、前記第１設定が設定されている場合よりも遊技者に有利な状態とすることが可能な手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＢ３。
【１３５０１】
遊技機ＥＢ３によれば、遊技機ＥＢ１またはＥＢ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第２設定が実行されることで、遊技者に有利な状態とできることで、長期間特典が付与されない状態が発生しても、遊技者の損害を抑制することができるという効果がある。
【１３５０２】
遊技機ＥＢ１からＥＢ３の何れかにおいて、前記特定条件が成立しない期間が特定期間継続した場合に、前記第２設定よりも遊技者に有利となる第３設定を実行可能な第３設定実行手段を有することを特徴とする遊技機ＥＢ４。
【１３５０３】

遊技機ＥＢ４によれば、遊技機ＥＢ１からＥＢ３の何れかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定条件が成立しない期間が長期間継続した場合に、遊技者に有利となる第３設定を実行することができるため、遊技者の損害を抑制することができるという効果がある。

【１３５０４】

＜特徴ＥＣ群＞（ランダム化その２）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利となる第１特典を付与することが可能な第１特典付与手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果である場合に、第１設定を実行可能な第１設定手段と、前記第１設定が設定されている場合に、前記識別情報の動的表示が予め定められた回数実行されたことに基づいて前記第１設定を解除することが可能な解除手段と、その解除手段により前記第１設定が解除された場合に、第１条件の成立に基づいて第２設定を実行することが可能な第２設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＥＣ１。

【１３５０５】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３５０６】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５０７】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５０８】

遊技機ＥＣ１によれば、第２設定が実行されるまでの識別情報の動的表示回数をランダムにすることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３５０９】

遊技機ＥＣ１において、前記第２設定手段は、前記識別情報の動的表示が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて前記第２設定を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＣ２。

【１３５１０】

遊技機ＥＣ２によれば、遊技機ＥＣ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、より第２設定が実行されるまでの動的表示回数をランダムにすることができるという効果がある。

【１３５１１】

遊技機ＥＣ１またはＥＣ２において、前記第２設定手段は、前記判別手段による判別結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果である場合に、前記第２設定を実行可能であることを特徴とする遊技機ＥＣ３。

【１３５１２】

遊技機ＥＣ３によれば、遊技機ＥＣ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、複数の条件によって第２設定が実行されるため、第２設定が実行された契機を遊技者に把握させ難くすることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３５１３】

＜特徴ＥＤ群＞（ランダム化その３）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利となる特典を付与することが可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果である場合に、第１設定を実行可能な第１設定手段と、前記第１設定が設定されている場合に、前記識別情報の動的表示が予め定められた回数実行されたことに基づいて前記第１設定を解除することが可能な解除手段と、前記識別情報の動的表示が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて第２設定を実行可能な第２設定手段と、を有し、前記遊技機は、前記第１設定が実行されている場合に前記識別情報の動的表示が開始された場合には、前記特定回数をカウントするためのカウント値が更新されないものであることを特徴とする遊技機ＥＤ１。

【１３５１４】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３５１５】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５１６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５１７】

遊技機ＥＤ１によれば、第２設定が実行されるまでの識別情報の動的表示回数をランダムにすることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３５１８】

遊技機ＥＤ１において、前記第２設定は、前記第１設定よりも遊技者に有利となる設定で構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＤ２。

【１３５１９】

遊技機ＥＤ２によれば、遊技機ＥＤ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１設定が設定されていない状態で特定回数の動的表示が実行されることで第２設定が設定されることで、遊技者に有利な設定が付与されるまでの期間をランダムとすることができ、遊技者に意外性のある遊技を提供することができるという効果がある。

【１３５２０】

遊技機ＥＤ１またはＥＤ２において、前記特典が遊技者に付与された場合に、前記特定回数をカウントするカウント値が初期値に更新されるものであることを特徴とする遊技機ＥＤ３。

【１３５２１】

遊技機ＥＤ３によれば、遊技機ＥＤ１またはＥＤ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典が付与されることで、特定回数をカウントするカウント値が初期値に更新されることで、遊技が遊技者に有利となり過ぎてしまう不具合を抑制できるという効果がある。

【１３５２２】

遊技機ＥＤ１からＥＤ３のいずれかにおいて、前記判別手段により前記第１判別結果と判別されたことを示すための動的表示が実行された場合に前記特定回数となった場合には、前記第１設定は設定されず、前記第２設定が設定されるように構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＤ４。

【１３５２３】

遊技機ＥＤ４によれば、遊技機ＥＤ１からＥＤ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１設定よりも有利となる第２設定が優先して設定されることで、遊技者により有利な遊技を提供することができるという効果がある。

【１３５２４】

遊技機ＥＤ１からＥＤ４のいずれかにおいて、前記識別情報の動的表示回数を計測するための第１計測手段と、前記カウント値を計測するための第２計測手段と、を有し、前記第１計測手段による第１計測結果と、前記第２計測手段による第２計測結果と、に基づいた演出を実行可能な演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＥＤ５。

【１３５２５】

遊技機ＥＤ５によれば、遊技機ＥＤ１からＥＤ４のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、演出実行手段により実行される演出に基づいて、第２計測手段による計測値が特定回数に到達するまでの残回数を予測させ易くすることができるため、遊技者に対して第２設定が実行されるまでの残期間を予測させ易くすることができるという効果がある。

【１３５２６】

＜特徴ＥＥ群＞（状態移行時の抽選制御）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための前記識別情報が表示された場合に遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、前記遊技機は、前記第１遊技状態で設定された情報が記憶された状態で前記第２遊技状態へ移行し、前記情報が記憶された状態で前記第２遊技状態が解除されることで遊技者に有利な期間が付与され易くする手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＥ１。

【１３５２７】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３５２８】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５２９】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５３０】

遊技機ＥＥ１によれば、遊技状態が移行しても情報が記憶された状態で維持されることで遊技者に有利な期間が付与され易くされるので、情報が維持されているかに対して興味を持たせることができ、遊技状態の可変に対する興趣を向上できるという効果がある。

【１３５３１】

遊技機ＥＥ１において、前記情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、を有し、前記識別情報として第１識別情報が動的表示されている期間には、前記記憶手段に記憶された情報が維持されるものであることを特徴とする遊技機ＥＥ２。

【１３５３２】

遊技機ＥＥ２によれば、遊技機ＥＥ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１識別情報の動的表示を継続させることで情報の記憶が維持されるので、第１識別情報の動的表示を期待させて遊技をさせることができ、遊技の興趣をより向上できるという効

果がある。
【１３５３３】
遊技機ＥＥ１またはＥＥ２において、第１情報を取得可能な第１情報取得手段と、その第１情報取得手段により取得された前記第１情報が記憶される第１記憶手段と、を有し、前記第１識別情報は、第１情報に基づいて前記判別手段により前記判別が実行された場合に動的表示が実行されるものであることを特徴とする遊技機ＥＥ３。
【１３５３４】
遊技機ＥＥ３によれば、遊技機ＥＥ１またはＥＥ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、情報の記憶が維持されるように第１情報が取得されることを期待させることができるので、第２遊技状態が解除されるまで第１情報の取得に対する期待を高めることができ、第１情報が取得される価値を期間によって可変させることができるという効果がある。
【１３５３５】
＜特徴ＥＦ群＞（Ｖアイコン制御その１）
情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に特定演出の実行を決定可能な決定手段と、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間において、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＦ１。
【１３５３６】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３５３７】
しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。
【１３５３８】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３５３９】
遊技機ＥＦ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１３５４０】
遊技機ＥＦ１において、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合には、前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＦ２。
【１３５４１】
遊技機ＥＦ２によれば、遊技機ＥＦ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となることが事前に遊技者が認識できるので、どの動的表示で特定の判別結果が報知されるかを楽しみに遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３５４２】
遊技機ＥＦ１またはＥＦ２において、前記設定手段は、前記記憶手段に複数の前記特定の判別結果となる情報が記憶されている場合には、後に動的表示が開始される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間中に前記特定演出の実行タイミングを設定するものであることを特徴とする遊技機ＥＦ３。
【１３５４３】
遊技機ＥＦ３によれば、遊技機ＥＦ１またはＥＦ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定の判別結果が報知され、特典が付与される動的表示が実行されたのに、特定演出の実行が開始されないことで、その後の動的表示でされに特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、遊技の興趣をさらに向上させることができるという効果がある。
【１３５４４】
＜特徴ＥＦａ群＞（Ｖアイコン制御その１）
情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に特定演出の実行を決定可能な決定手段と、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間において、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＦａ１。
【１３５４５】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３５４６】
しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。
【１３５４７】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３５４８】
遊技機ＥＦａ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１３５４９】
遊技機ＥＦａ１において、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合に、前記特定演出の前記実行タイミングとなるまでの待機期間において、前記特定演出の実行が待機していることを示すための報知態様を表示可能であることを特徴とする遊技機ＥＦａ２。
【１３５５０】
遊技機ＥＦａ２によれば、遊技機ＥＦａ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、報知態様が表示されることによって特定演出の実行が待機されていることを遊技者が容易に認識可能となるため、特定演出の実行が決定されているにも関わらず、特定演出が実行されることを遊技者が気付かずに特定演出が実行される前に遊技を止めてしまうこと

を抑制することができるという効果がある。
【１３５５１】
遊技機ＥＦａ２において、特定条件が成立した場合には、前記報知態様が表示されている状態における前記特定の判別結果と判別される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間に前記特定演出を実行させないことが可能であることを特徴とする遊技機ＥＦａ３。
【１３５５２】
遊技機ＥＦａ３によれば、遊技機ＥＦａ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出の実行が待機していることを示す報知態様が表示されている期間に特定演出が実行されない場合であっても、特定の判別結果であることを示す識別情報が表示される場合があるため、遊技者に意外性のある遊技を提供することができるという効果がある。
【１３５５３】
遊技機ＥＦａ１からＥＦａ３のいずれかにおいて、前記記憶手段に前記特定の判別結果と判別される前記情報が複数記憶されている状態で前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合に、先に実行される前記特定の判別結果と判別される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示と、後に実行される前記特定の判別結果と判別される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示と、の何れの前記動的表示期間において前記設定手段により前記特定演出の前記実行タイミングが設定され易いかを、遊技者が予め選択可能な選択手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＦａ４。
【１３５５４】
遊技機ＥＦａ４によれば、遊技機ＥＦａ１からＥＦａ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、先に実行される特定の判別結果と判別される情報に対応した識別図柄の動的表示期間で特定演出が実行され易い設定を予め選択している遊技者には、特定演出が実行された時点で記憶手段に残っている情報の中に特定の判別結果と判別される情報があるか否かを予測する楽しみを提供することが可能となり、後に実行される特定の判別結果と判別される情報に対応した識別図柄の動的表示期間で特定演出が実行され易い設定を予め選択している遊技者には、識別情報の動的表示期間において特定演出が実行されなかったにも関わらず特定の判別結果であることを示すための識別情報が表示されるという意外性のある遊技を提供することが可能となるため、遊技者の好みに合わせた遊技を提供することができる。
【１３５５５】
＜特徴ＥＧ群＞（割合可変制御）
情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に特定演出の実行を前記記憶手段に記憶されている前記情報の個数情報に基づいて決定可能な決定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＧ１。
【１３５５６】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３５５７】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５５８】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５５９】

遊技機ＥＧ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３５６０】

遊技機ＥＧ１において、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間において、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＧ２。

【１３５６１】

遊技機ＥＧ２によれば、遊技機ＥＧ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出の実行タイミングがランダムに設定することができるので、遊技者に特定演出が実行されるタイミングによって、特典が付与される期待度を可変させることができるという効果がある。

【１３５６２】

遊技機ＥＧ１またはＥＧ２において、前記決定手段は、所定期間に記憶された前記情報の個数に対応した前記個数情報に基づいて前記特定演出の実行を決定する確率を可変可能に設定されているものであることを特徴とする遊技機ＥＧ３。

【１３５６３】

遊技機ＥＧ３によれば、遊技機ＥＧ１またはＥＧ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、所定期間に記憶された情報の個数によって決定確率が可変されるので、特定演出が実行されるタイミングを記憶された情報の個数に対応させて制御して、より興趣を向上できるという効果がある。

【１３５６４】

遊技機ＥＧ１からＥＧ３のいずれかにおいて、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合には、前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＧ４。

【１３５６５】

遊技機ＥＧ４によれば、遊技機ＥＧ１からＥＧ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となることが事前に遊技者が認識できるので、どの動的表示で特定の判別結果が報知されるかを楽しみに遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３５６６】

遊技機ＥＧ１からＥＧ４のいずれかにおいて、前記設定手段は、前記記憶手段に複数の前記特定の判別結果となる情報が記憶されている場合には、後に動的表示が開始される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間中に前記特定演出の実行タイミングを設定するものであることを特徴とする遊技機ＥＧ５。

【１３５６７】

遊技機ＥＧ５によれば、遊技機ＥＧ１からＥＧ４のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定の判別結果が報知され、特典が付与される動的表示が実行されたのに、特定演出の実行が開始されないことで、その後の動的表示でされに特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、遊技の興趣をさらに向上させることができるという効果がある。

【１３５６８】

＜特徴ＥＧａ群＞（割合可変制御）

情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により

判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に特定演出の実行を決定可能な決定手段と、その決定手段により前記特定演出の実行が決定された後、特定条件が成立するまでに前記記憶手段に記憶された前記情報に基づいて、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＧａ１。

【１３５６９】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３５７０】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５７１】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５７２】

遊技機ＥＧａ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３５７３】

遊技機ＥＧａ１において、前記決定手段は、前記記憶手段に記憶されている前記特定の判別結果と判別される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示が実行されるまでに、新たに前記記憶手段に記憶させることが可能な前記情報の数が多い程、前記特定演出の実行を決定し易いものであることを特徴とする遊技機ＥＧａ２。

【１３５７４】

遊技機ＥＧａ２によれば、遊技機ＥＧａ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、記憶手段に記憶されている特定の判別結果と判別される情報に対応した識別情報の動的表示が実行されるまでに、新たに記憶手段に記憶させることが可能な情報の数が多い程、決定手段により特定演出の実行が決定され易いため、特定演出が実行された時点で記憶手段に記憶されている情報の内、その特定演出の実行が決定された時点で事前判別手段による事前の判別を受けていない情報の数が多くなり易く、特定演出が実行された後に記憶手段に残っている情報の判別結果を遊技者が予測し難くなり、遊技の興趣を向上させることができる。

【１３５７５】

遊技機ＥＧａ１またはＥＧａ２において、前記記憶手段に記憶されている前記情報の数が所定数である場合には、前記記憶手段に記憶されている前記情報の内、前記特定の判別結果と判別される前記情報の数が１の場合よりも、前記特定の判別結果と判別される前記情報の数が複数ある場合の方が、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定され易いものであることを特徴とする遊技機ＥＧａ３。

【１３５７６】

遊技機ＥＧａ３によれば、遊技機ＥＧａ１またはＥＧａ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、記憶手段に特定の判別結果と判別される情報が複数存在する場合に、決定手段により特定演出の実行が決定され易いため、特定演出の実行が決定された場合に

、複数の特典が付与されることを遊技者に期待させることによって、遊技意欲を向上させることができる。

【１３５７７】

＜特徴ＥＨ群＞（使用箇所決定）

情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に特定演出の実行を決定可能な決定手段と、その決定手段により前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能な実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＨ１。

【１３５７８】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３５７９】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３５８０】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３５８１】

遊技機ＥＨ１によれば、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となる情報が記憶されていることが早期に遊技者が認識させることができ、遊技の興趣を向上できるという効果がある。また、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３５８２】

遊技機ＥＨ１において、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応する前記識別情報の動的表示が実行される場合に、決定されている前記特定演出の実行を決定することが可能な実行決定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＨ２。

【１３５８３】

遊技機ＥＨ２によれば、遊技機ＥＨ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、実行決定手段により特定演出を実行する識別情報の動的表示に対して、それぞれ動的表示の開始時に決定可否の判断がされるので、新たに記憶された情報の内容によって、実行タイミングを設定することができるという効果がある。

【１３５８４】

遊技機ＥＨ１またはＥＨ２のいずれかにおいて、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合には、前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＨ３。

【１３５８５】

遊技機ＥＨ３によれば、遊技機ＥＨ１からＥＨ２のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となることが事前に遊技者が認識できるので、どの動的表示で特定の判別結果が報知されるかを楽しみに

遊技を行わせることができるという効果がある。
【１３５８６】
遊技機ＥＨ１からＥＨ３のいずれかにおいて、前記設定手段は、前記記憶手段に複数の前記特定の判別結果となる情報が記憶されている場合には、後に動的表示が開始される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間中に前記特定演出の実行タイミングを設定するものであることを特徴とする遊技機ＥＨ４。
【１３５８７】
遊技機ＥＨ４によれば、遊技機ＥＨ１からＥＨ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定の判別結果が報知され、特典が付与される動的表示が実行されたのに、特定演出の実行が開始されないことで、その後の動的表示でされに特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、遊技の興趣をさらに向上させることができるという効果がある。
【１３５８８】
＜特徴ＥＩ群＞（使用頻度可変）
情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記識別情報の動的表示態様を決定可能な動的表示態様決定手段と、その動的表示態様決定手段により決定された動的表示態様の種別に基づいて前記記憶手段に記憶されている情報が前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていることを示すための特定演出の実行を決定することが可能な決定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＩ１。
【１３５８９】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３５９０】
しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。
【１３５９１】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３５９２】
遊技機ＥＩ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１３５９３】
遊技機ＥＩ１において、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間において、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＩ２。
【１３５９４】
遊技機ＥＩ２によれば、遊技機ＥＩ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出の実行タイミングがランダムに設定することができるので、遊技者に特定演出が実行されるタイミングによって、特典が付与される期待度を可変させることができるという効果がある。
【１３５９５】

遊技機ＥＩ１またはＥＩ２において、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合には、前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＩ３。

【１３５９６】

遊技機ＥＩ３によれば、遊技機ＥＩ１またはＥＩ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となることが事前に遊技者が認識できるので、どの動的表示で特定の判別結果が報知されるかを楽しみに遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３５９７】

遊技機ＥＩ２またはＥＩ３において、前記設定手段は、前記記憶手段に複数の前記特定の判別結果となる情報が記憶されている場合には、後に動的表示が開始される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間中に前記特定演出の実行タイミングを設定するものであることを特徴とする遊技機ＥＩ４。

【１３５９８】

遊技機ＥＩ４によれば、遊技機ＥＩ２またはＥＩ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定の判別結果が報知され、特典が付与される動的表示が実行されたのに、特定演出の実行が開始されないことで、その後の動的表示でされに特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、遊技の興趣をさらに向上させることができるという効果がある。

【１３５９９】

＜特徴ＥＪ群＞（ラウンドで制御）

情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記特典付与手段により付与される特典を複数の特典種別より決定することが可能な特典種別決定手段と、前記記憶されている前記情報に基づいて前記特典付与手段により付与される特典の種別を事前に判定したことに対応する判定情報に基づいて前記記憶手段に記憶されている情報が前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていることを示すための特定演出の実行を決定することが可能な決定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＪ１。

【１３６００】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３６０１】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１３６０２】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３６０３】

遊技機ＥＪ１によれば、特定演出を実行するタイミングを設定することで、特定の判別結果となる情報がどの識別情報に対応しているか分かり難くすることができ遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３６０４】

遊技機ＥＪ１において、前記記憶手段に記憶されている前記情報に対応した前記識別情

報の動的表示期間において、前記特定演出の実行タイミングを設定することが可能な設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＪ２。

【１３６０５】

遊技機ＥＪ２によれば、遊技機ＥＪ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出の実行タイミングがランダムに設定することができるので、遊技者に特定演出が実行されるタイミングによって、特典が付与される期待度を可変させることができるという効果がある。

【１３６０６】

遊技機ＥＪ１またはＥＪ２において、前記特典は、特典遊技を前記特典の種別に対応した回数実行されるものであり、前記決定手段は、前記判定情報として所定回数以上の前記特典遊技が実行されることが決定されている場合に前記特定演出の実行を決定することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＪ３。

【１３６０７】

遊技機ＥＪ３によれば、遊技機ＥＪ１またはＥＪ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典遊技の実行が所定回数以上決定されている場合に特定演出の実行が決定されているので、遊技者は、所定回数未満の特典遊技が実行されて特典遊技が終了した場合には、その後に特定の判別結果となることを容易に認識でき、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３６０８】

遊技機ＥＪ１からＥＪ３のいずれかにおいて、前記所定回数は、複数回の特典が付与された場合に実行される特典遊技の回数よりも多く設定されているものであることを特徴とする遊技機ＥＪ４。

【１３６０９】

遊技機ＥＪ４によれば、遊技機ＥＪ１からＥＪ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出が実行されることで特典が付与される回数に対して期待させることができ、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３６１０】

遊技機ＥＪ１からＥＪ４のいずれかにおいて、前記特定演出が実行された場合に、前記特典遊技の実行中に実行されている前記特定演出の態様を残りの特典遊技が実行される回数を示唆する態様に可変させることが可能な手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＥＪ５。

【１３６１１】

遊技機ＥＪ５によれば、遊技機ＥＪ１からＥＪ４のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典遊技が実行されることで、残りの特典遊技の実行回数を特定態様で示唆することができ、遊技者により多い残り回数を期待させながら、遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６１２】

遊技機ＥＪ１からＥＪ５のいずれかにおいて、前記決定手段により前記特定演出の実行が決定された場合には、前記特定演出の実行が決定されていることを示すための特定示唆態様を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＥＪ６。

【１３６１３】

遊技機ＥＪ６によれば、遊技機ＥＪ１からＥＪ５のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定示唆態様が実行されることで、特定の判別結果となることが事前に遊技者が認識できるので、どの動的表示で特定の判別結果が報知されるかを楽しみに遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６１４】

遊技機ＥＪ２からＥＪ５のいずれかにおいて、前記設定手段は、前記記憶手段に複数の前記特定の判別結果となる情報が記憶されている場合には、後に動的表示が開始される前記情報に対応した前記識別情報の動的表示期間中に前記特定演出の実行タイミングを設定するものであることを特徴とする遊技機ＥＪ７。

【１３６１５】
遊技機ＥＪ７によれば、遊技機ＥＪ２からＥＪ６のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定の判別結果が報知され、特典が付与される動的表示が実行されたのに、特定演出の実行が開始されないことで、その後の動的表示でされに特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、遊技の興趣をさらに向上させることができるという効果がある。
【１３６１６】
＜５０７１系の特徴群＞
＜特徴ＦＡ群＞（予め定められた特定回数の特図抽選の終了後に設定される有利状態と他の契機で設定される有利状態とで有利度合いを異ならせる）
判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、第１状態と、その第１状態よりも前記判別条件が成立し易くなる第２状態と、を少なくとも含む複数のうち１の状態を設定可能な第１設定手段と、予め定められた特定条件が成立した後で前記判別手段の判別結果が予め定められた特定回数に渡って前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて、前記第１状態よりも前記判別条件が成立し易くなる状態であって前記第２状態とは有利度合いが異なる第３状態を設定する第２設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１。
【１３６１７】
ここで、パチンコ機等の遊技機には、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球することで遊技の当否が抽選され、その抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものが存在する。さらに、係る遊技機の中には、当たり遊技の実行後に抽選が行われ易くなる時短遊技が所定期間実行されるものも存在する（例えば、特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３６１８】
しかしながら、係る従来型の遊技機では、時短遊技が設定された条件によらず、時短遊技の有利度合いが共通であるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させ難いという問題点があった。
【１３６１９】
これに対して遊技機ＦＡ１によれば、特典遊技が実行されない期間が続くと第３状態に可変されて判別条件が成立し易くなるので、特典遊技が実行されない期間が長く続いたとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３６２０】
遊技機ＦＡ１において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて、前記判別手段の判別に用いられる判別情報を取得可能な判別情報取得手段と、前記入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、所定の可変条件の成立に基づいて、前記可変手段を第１可変制御と、その第１可変制御よりも前記入球手段へと遊技球が入球し易くなる第２可変制御と、を少なくとも含む複数の可変制御を実行可能な可変制御手段と、を備え、前記第２状態は、前記第１状態よりも前記第２可変制御で前記可変手段が制御され易い状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ２。
【１３６２１】
遊技機ＦＡ２によれば、遊技機ＦＡ１の奏する効果に加え、第１状態よりも第２状態の方が入球手段へと遊技球が入球し易くなるので、所定の設定条件が成立した場合に、第２状態が設定されることをより強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。
【１３６２２】
遊技機ＦＡ２において、前記第３状態は、前記第１状態よりも前記第２可変制御で前記

可変手段が制御され易い状態であって、前記第２状態よりも前記所定の可変条件が成立し難い状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ３。

【１３６２３】

遊技機ＦＡ３によれば、遊技機ＦＡ２の奏する効果に加え、第２状態を第３状態よりも判別手段の判別が実行され易い状態として構成することができるという効果がある。

【１３６２４】

遊技機ＦＡ２又はＦＡ３において、遊技球が入球可能に構成され、前記入球手段とは異なる位置に設けられている第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて、前記判別情報を取得可能な第２判別情報取得手段と、を備え、前記判別手段は、前記判別情報取得手段により取得された前記判別情報を用いた判別よりも、前記第２判別情報取得手段により取得された前記判別情報を用いた判別の方が遊技者に有利となり易く構成されているものであり、前記第３状態は、前記第２状態よりも、前記第２判別情報取得手段により取得された前記判別情報を用いた判別が実行され易くなる状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ４。

【１３６２５】

遊技機ＦＡ４によれば、遊技機ＦＡ２又はＦＡ３の奏する効果に加え、第３状態では第２判別情報取得手段により取得された判別情報を用いた有利度合いの高い判別が実行され易くなるので、第２状態よりも第３状態へと移行することをより強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６２６】

遊技機ＦＡ４において、前記入球手段と前記第２入球手段とに遊技球が到達し得る第１方向と、その第１方向とは異なる第２方向と、に少なくとも遊技球を発射可能に構成された発射手段と、その発射手段により前記第２方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第１方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第３入球手段と、を備え、前記判別情報取得手段は、前記入球手段に遊技球が入球した場合と前記第３入球手段に遊技球が入球した場合とで前記判別情報を取得可能に構成されているものであり、前記第１状態は、前記第１方向へと遊技球を発射するよりも、前記第２方向へと遊技球を発射した方が前記判別手段による判別の実行頻度が高くなり易く構成されているものであり、前記第２状態と前記第３状態とは、前記第２方向へと遊技球を発射するよりも、前記第１方向へと遊技球を発射した方が前記判別手段による判別の実行頻度が高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ５。

【１３６２７】

遊技機ＦＡ５によれば、遊技機ＦＡ４の奏する効果に加え、第１状態と、第２状態および第３状態とで、遊技球の発射方向を異ならせることができるので、遊技にメリハリをつけることができるという効果がある。

【１３６２８】

遊技機ＦＡ１からＦＡ５のいずれかにおいて、遊技機の設定を初期化する初期化手段を備え、前記特定条件は、少なくとも前記初期化手段により遊技機の設定が初期化された場合に成立するものであることを特徴とする遊技機ＦＡ６。

【１３６２９】

遊技機ＦＡ６によれば、遊技機ＦＡ１からＦＡ５のいずれかが奏する効果に加え、特典遊技が一度も実行されていなくても有利な第３状態が設定される斬新な挙動を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６３０】

遊技機ＦＡ６において、前記特定条件は、前記初期化手段により遊技機の設定が初期化されたことに基づいて成立する第１特定条件と、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果となったことに基づいて成立する第２特定条件と、で少なくとも構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ７。

【１３６３１】

遊技機ＦＡ７によれば、遊技機ＦＡ６の奏する効果に加え、初期化後、または特典遊技の実行後における判別回数に注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６３２】

遊技機ＦＡ７において、前記特定条件は、前記第１特定条件と、前記第２特定条件と、前記第３状態が設定されたことに基づいて成立する第３特定条件と、で少なくとも構成されていることを特徴とする遊技機ＦＡ８。

【１３６３３】

遊技機ＦＡ８によれば、遊技機ＦＡ７の奏する効果に加え、第３状態が設定された後も、特定回数の判別で連続して第２の判別結果となれば再度第３状態が設定されるので、第３状態が一旦終了したとしても、再度第３状態が設定されることを期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６３４】

＜特徴ＦＢ群＞（予め定められた特定回数の特図抽選の終了後に消化される保留球に対する先読み演出の実行を抑制する）

取得条件の成立に基づいて判別情報を取得する判別情報取得手段と、判別条件の成立に基づいて、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を用いた判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、所定の情報数を上限として、前記判別手段の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、その判別情報記憶手段に記憶された前記判別情報を用いて、当該判別情報が前記判別手段の判別に用いられるよりも前に前記判別手段の判別結果を特定する事前特定手段と、その事前特定手段により前記判別手段の判別結果が特定されたことに基づいて特定演出を実行する特定演出実行手段と、予め定められた第１条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２条件が成立したことに基づいて前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第２条件の成立後に前記判別手段の判別に用いられる前記判別情報が前記第１遊技状態において取得されたことに基づいて、前記特定演出実行手段により所定の演出態様の前記特定演出が実行されることを抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１。

【１３６３５】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられた遊技機が知られている。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、図柄が予め定められた組み合わせで停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１３６３６】

また、係る従来型の遊技機の中には、当たり遊技が付与される可能性を示す演出を、図柄の変動表示が開始されるよりも前（例えば、始動入賞を検出した際）から示唆可能な示唆演出を実行することにより、遊技者の興趣向上を図っているものも存在する。

【１３６３７】

しかしながら、示唆演出を無条件に実行する構成とした場合、不具合が発生してしまう虞がある。よって、演出態様を好適に設定することが困難となってしまう可能性がある。

【１３６３８】

これに対して遊技機ＦＢ１によれば、第２条件が成立して第２遊技状態が設定されることに対してより注目して遊技を行わせることができるので、演出態様を好適に設定することができるという効果がある。

【１３６３９】

遊技機ＦＢ１において、前記第２条件は、前記第１遊技状態において予め定められた特定回数の前記判別手段の判別に渡って連続して前記第１の判別結果とは異なる第２の判別

結果となった場合に少なくとも成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ２。

【１３６４０】

遊技機ＦＢ２によれば、遊技機ＦＢ１の奏する効果に加え、第１遊技状態において第１の判別結果とならなくても、有利度合いが異なる第２遊技状態が設定されるので、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３６４１】

遊技機ＦＢ１又はＦＢ２において、前記特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、第１演出態様と、その第１演出態様よりも前記事前特定手段によって前記第１の判別結果となった場合に決定され易い第２演出態様と、を少なくとも含む複数のうち１の演出態様を決定する演出態様決定手段を備え、前記抑制手段は、少なくとも前記第２演出態様の実行を抑制可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ３。

【１３６４２】

遊技機ＦＢ３によれば、遊技機ＦＢ１又はＦＢ２の奏する効果に加え、特定演出の演出態様に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６４３】

遊技機ＦＢ３において、前記演出態様決定手段は、前記第１演出態様と、前記第２演出態様と、前記第１演出態様よりも前記第２条件が成立する場合に決定され易い第３演出態様と、を少なくとも含む複数のうち１の演出態様を決定可能に構成されているものであり、前記抑制手段は、少なくとも前記第２演出態様と前記第３演出態様との実行を抑制可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ４。

【１３６４４】

遊技機ＦＢ４によれば、遊技機ＦＢ３の奏する効果に加え、特定演出の演出態様によって、第１の判別結果となる可能性、および第２条件が成立する可能性の両方を示唆することができるので、演出態様をより好適に設定することができるという効果がある。

【１３６４５】

遊技機ＦＢ１からＦＢ４のいずれかにおいて、前記第２遊技状態において予め定められた第３条件が成立したことに基づいて前記第２遊技状態を終了させる終了手段を備え、前記第１遊技状態において取得された前記判別情報であって前記第１の判別結果に対応する前記判別情報は、前記第２遊技状態の間に前記判別手段の判別に用いられた方が、前記第２遊技状態が前記終了手段によって終了された後で前記判別手段の判別に用いられた場合よりも有利度合いが高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ５。

【１３６４６】

遊技機ＦＢ５によれば、遊技機ＦＢ１からＦＢ４のいずれかの奏する効果に加え、第２条件が成立する前に取得され、第２遊技状態へと移行した後で用いられる判別情報が第１の判別結果となる可能性が高いのか否かを特定演出の演出態様から把握困難にすることができるので、第１の判別結果になる可能性が高い場合にのみ第２遊技状態の間に抽選に用いられるように判別情報の使用順序を調節する変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができるという効果がある。

【１３６４７】

遊技機ＦＢ５において、前記終了手段により前記第２遊技状態が終了されたことに基づいて前記第１遊技状態に設定されるように構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ６。

【１３６４８】

遊技機ＦＢ６によれば、遊技機ＦＢ５の奏する効果に加え、第２遊技状態が終了するよりも前に第１の判別結果となることを強く期待して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６４９】

遊技機ＦＢ５又はＦＢ６において、前記第１遊技状態において取得された前記判別情報

であって前記第１の判別結果とは異なる外れ判別結果に対応する前記判別情報は、前記第２遊技状態の間に前記判別手段の判別に用いられるよりも、前記第２遊技状態が前記終了手段によって終了された後で前記判別手段の判別に用いられた方が有利度合いが高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ７。

【１３６５０】

遊技機ＦＢ７によれば、遊技機ＦＢ５又はＦＢ６の奏する効果に加え、第２条件が成立する前に取得され、第２遊技状態へと移行した後で用いられる判別情報が第１の判別結果となる可能性が高いのか否かを特定演出の演出態様から把握困難にすることができるので、第１の判別結果になる可能性が低い場合に、第２遊技状態が終了してから抽選に用いられるように判別情報の使用順序を調節する変則的な遊技方法に対する抑制を図ることができるという効果がある。

【１３６５１】

遊技機ＦＢ５からＦＢ７のいずれかにおいて、遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段とは異なる第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、を備え、前記判別情報取得手段は、前記第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記判別情報として第１判別情報を取得し、前記第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記判別情報として第２判別情報を取得することが可能に構成されているものであり、前記判別手段は、前記第１判別情報を用いた判別よりも、前記第２判別情報を用いた判別の方が遊技者の有利度合いが高くなり易く構成されているものであり、前記第２遊技状態は、前記第１遊技状態よりも前記可変手段が前記第１位置に可変され易い遊技状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＢ８。

【１３６５２】

遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ５からＦＢ７のいずれかが奏する効果に加え、第２遊技状態の有利度合いをより高くすることができるので、第２遊技状態が設定されることをより強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３６５３】

＜特徴ＦＣ群＞（第１状態に移行する場合と第２状態に移行する場合とで、外端の同一のチャンネルから互いに出力態様が異なる信号を出力する）

所定装置へ向けて所定の信号を出力可能な複数の信号出力端子で構成される信号出力部と、予め定められた第１の出力条件が成立したことに基づいて、前記複数の信号出力端子のうち予め定められた特定の信号出力端子から予め定められた第１の出力態様の信号が出力されるように制御する第１信号制御手段と、前記第１の出力条件とは異なる第２の出力条件が成立したことに基づいて、前記特定の信号出力端子から予め定められた第２の出力態様の信号が出力されるように制御する第２信号制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ１。

【１３６５４】

パチンコ機等の遊技機において、遊技の状況に応じて、所定装置（例えば、ホールコンピュータ等）へと遊技に関する情報を出力するものがある。かかる遊技機では、出力した遊技に関する情報に基づいて、遊技機において行われている遊技の状況を所定装置に対して把握させることができる（例えば、特許文献１：特許３８４８１０５号公報）。

【１３６５５】

しかしながら、上述した従来型の遊技機では、所定装置へと出力する情報が増大すると、信号を出力するための信号出力端子の数が増大してしまう可能性がある。よって、信号を好適に所定装置へと出力することが困難になってしまう虞がある。

【１３６５６】

これに対して遊技機ＦＣ１によれば、第１の出力条件が成立した場合と第２の出力条件が成立した場合とで、同一の信号出力端子から信号の出力態様を異ならせて所定装置へと信号を出力することができるので、信号出力端子の端子数を削減することができるという効果がある。

【１３６５７】
遊技機ＦＣ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて、予め定められた第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも遊技者に有利な第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備え、前記第１条件は、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となった場合に成立するものであり、前記第２条件は、前記第２の設定条件が成立した場合に成立するものであることを特徴とする遊技機ＦＣ２。
【１３６５８】
遊技機ＦＣ２によれば、遊技機ＦＣ１の奏する効果に加え、特典遊技が実行されることを示す信号、および有利な第２遊技状態が設定されることを示す信号を、共通の信号出力端子から出力することができるので、信号出力端子の端子数を削減することができるという効果がある。
【１３６５９】
遊技機ＦＣ２において、前記第２の設定条件は、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となったこととは少なくとも異なる条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＣ３。
【１３６６０】
遊技機ＦＣ３によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、特定の判別結果とならなくても有利度合いが高い遊技状態に設定されるという斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３６６１】
遊技機ＦＣ３において、前記第２の設定条件は、予め定められた特定条件が成立した後で実行される予め定められた特定回数の前記判別手段の判別に渡って連続して前記特定の判別結果とは異なる外れ判別結果となった場合に成立するように構成されていることを特徴とする遊技機ＦＣ４。
【１３６６２】
遊技機ＦＣ４によれば、遊技機ＦＣ３の奏する効果に加え、外れ判別結果が連続することを期待させる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３６６３】
遊技機ＦＣ３又はＦＣ４において、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、前記第１遊技状態よりも有利な第３遊技状態を設定可能な第３遊技状態設定手段と、前記第２遊技状態と前記第３遊技状態とのどちらかが設定されてからその設定された前記第２遊技状態または前記第３遊技状態が終了されるまでの間、前記特定の信号出力端子とは異なる第１の信号出力端子から第３の出力態様の信号が出力されるように制御する第３信号出力制御手段と、遊技機に対して電源が投入されたことに基づいて遊技状態を判別する遊技状態判別手段と、その遊技状態判別手段により前記第２遊技状態と判別されたことに基づいて、前記特定の信号出力端子から第４の出力態様の信号が出力されるように制御する第４信号出力制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ５。
【１３６６４】
遊技機ＦＣ５によれば、遊技機ＦＣ３又はＦＣ４の奏する効果に加え、遊技機に電源が投入された時点の遊技状態が第２遊技状態であるか第３遊技状態であるかを、第４の出力態様の信号の有無によって所定装置に対して容易に判別させることができるという効果がある。
【１３６６５】
遊技機ＦＣ４において、遊技機に対して電源が投入されたことに基づいて、前記特定条件が成立した後で前記外れ判別結果が連続した回数を特定する連続回数特定手段と、その

連続回数特定手段によって特定された連続回数に応じた出力態様の信号が所定の信号出力端子から出力されるように制御する第５信号出力制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ６。

【１３６６６】

遊技機ＦＣ６によれば、遊技機ＦＣ４の奏する効果に加え、遊技機に電源が投入された時点の外れ判別結果の連続回数を所定装置に対して把握させることができるという効果がある。

【１３６６７】

遊技機ＦＣ６において、遊技機の電源が遮断されたことに基づいて、前記特定条件が成立した後で前記外れ判別結果が連続した回数を特定する遮断時連続回数特定手段と、その遮断時連続回数特定手段によって特定された連続回数に応じた出力態様の信号が前記所定の信号出力端子から出力されるように制御する第６信号出力制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ７。

【１３６６８】

遊技機ＦＣ７によれば、遊技機ＦＣ６の奏する効果に加え、電源が遮断された時点の外れ判別結果の連続回数と、電源が投入された際の連続回数とを所定装置に対して把握させることができるので、仮に、電源が遮断された際の連続回数と次に電源が投入された際の連続回数とに齟齬がある場合に、所定装置において遊技機に対する不正行為の可能性を判断することができる。よって、不正行為に対する抑制を図ることができるという効果がある。

【１３６６９】

＜特徴ＦＤ群＞（ハマり回数を外端から出力）

所定装置へ向けて所定の信号を出力可能な信号出力部を備えた遊技機において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、少なくとも特定の遊技状態において前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となった回数を計数する計数手段と、前記遊技機に対して電源が投入されたことに基づいて、前記信号出力部から前記計数手段の計数する回数に応じた信号を出力させる信号制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ１。

【１３６７０】

パチンコ機等の遊技機において、遊技の状況に応じて、所定装置（例えば、ホールコンピュータ等）へと遊技に関する情報を出力するものがある。かかる遊技機では、出力した遊技に関する情報に基づいて、遊技機において行われている遊技の状況を所定装置に対して把握させることができる（例えば、特許文献１：特許３８４８１０５号公報）。

【１３６７１】

しかしながら、上述した従来型の遊技機では、所定装置へと出力可能な情報に限りがあるため、信号を好適に所定装置へと出力することが困難になってしまう可能性がある。

【１３６７２】

これに対して遊技機ＦＤ１によれば、遊技機に対して電源が投入された場合に所定装置に対して計数手段の計数値を把握させることができるという効果がある。

【１３６７３】

遊技機ＦＤ１において、前記特定の遊技状態が設定された後において前記判別手段の判別結果が予め定められた特定回数に渡って連続して前記第２の判別結果となったことに基づいて、前記特定の遊技状態よりも遊技者に有利な有利遊技状態を設定可能な有利遊技状態設定手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ２。

【１３６７４】

遊技機ＦＤ２によれば、遊技機ＦＤ１の奏する効果に加え、第２の判別結果が連続することを期待する斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６７５】

遊技機ＦＤ１又はＦＤ２において、前記信号制御手段は、前記遊技機の電源が遮断されたことに基づいて、前記信号出力部から前記計数手段の計数する回数に応じた信号を出力させることが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＤ３。

【１３６７６】

遊技機ＦＤ３によれば、遊技機ＦＤ１又はＦＤ２の奏する効果に加え、電源が遮断された際の計数手段の計数値を所定装置に対して把握させることができるという効果がある。

【１３６７７】

遊技機ＦＤ３において、前記所定装置は、前記遊技機の電源が遮断された際に前記信号出力部から出力された前記計数手段の計数する回数に応じた情報を、少なくとも前記遊技機に対して次に電源が投入されて前記計数手段の計数する回数に応じた情報を受信するまで記憶可能な記憶手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ４。

【１３６７８】

遊技機ＦＤ４によれば、遊技機ＦＤ３の奏する効果に加え、遊技機に対して電源が遮断されている間に計数手段の計数する回数が書き替えられる等の不正行為が行われた場合に、次回の電源投入時に当該不正行為を所定装置側で容易に把握することができるという効果がある。

【１３６７９】

＜特徴ＦＥ群＞（演出表示用のディスプレイとは異なる他の装置へと所定の信号を出力する際に、ディスプレイにおいて所定演出を実行）

受信した信号の種別に応じた視認態様が設定される特定装置に対して信号を出力する信号出力手段と、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、少なくとも前記判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、前記特定装置が特定の視認態様に設定され得る特定種別の信号が前記特定装置に対して出力されるように制御する信号制御手段と、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となったことに基づいて、前記特定装置が前記特定の視認態様となっていることを遊技者が確認し易くなる演出態様で構成されている第１演出を実行する第１演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＥ１。

【１３６８０】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられた遊技機が知られている。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、図柄が予め定められた組み合わせで停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１３６８１】

しかしながら、遊技機において実行される興趣演出として、より斬新な演出態様が求められている。即ち、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることが求められている。

【１３６８２】

これに対して遊技機ＦＥ１によれば、特定装置と遊技機とが連動して特典遊技が実行されることを報知しているかのように遊技者に思わせることができる斬新な演出態様を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３６８３】

遊技機ＦＥ１において、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となってから少なくとも前記第１演出が実行されるまでの間、前記特定の判別結果となったことを遊技者に認識困難とさせる第２演出を実行する第２演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＥ２。

【１３６８４】

遊技機ＦＥ２によれば、遊技機ＦＥ１の奏する効果に加え、第１演出および特定の視認

態様によって突然特定の判別結果が報知されたかのような印象を遊技者に対して抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６８５】

遊技機ＦＥ２において、前記特定装置の視認態様を視認可能となる第１位置と、その第１位置よりも前記特定装置の視認態様が視認困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、その可変手段を可変制御する可変制御手段と、を備え、前記可変手段は、少なくとも前記第２演出が実行されている間、前記第２位置に可変され、前記第１演出が実行されたことに基づいて前記第１位置に可変されるように構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ３。

【１３６８６】

遊技機ＦＥ３によれば、遊技機ＦＥ２の奏する効果に加え、第２演出の実行中は、特定装置が特定の視認態様に設定されているか否かを視認することを物理的に困難とすることができるので、第１演出が実行される前から特定装置を視認していたとしても、特定の判部結果となることを第２演出の実行中に遊技者が察知することを困難とすることができるという効果がある。

【１３６８７】

遊技機ＦＥ１からＦＥ３のいずれかにおいて、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて遊技者に不利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも遊技者に有利な第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備え、前記信号制御手段は、前記第２条件が成立したことに基づいて、前記特定装置が前記特定の視認態様とは異なる第１視認態様に設定され得る第１種別の信号が前記特定装置に対して出力されるように制御可能に構成されているものであり、前記第１演出実行手段は、前記第２条件が成立する場合に、前記第１演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ４。

【１３６８８】

遊技機ＦＥ４によれば、遊技機ＦＥ１からＦＥ３のいずれかが奏する効果に加え、特典遊技が実行されることだけでなく、第２遊技状態が設定されることについても特定装置と遊技機とが連動しているかのような演出によって報知することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３６８９】

遊技機ＦＥ４において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて、前記判別手段の判別に用いる判別情報を取得可能な判別情報取得手段と、前記入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、所定の可変条件の成立に基づいて、前記可変手段を所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変させる可変制御手段と、を備え、前記第２遊技状態は、前記第１遊技状態よりも前記所定の可変条件が成立し易い遊技状態で構成されているものであり、前記第１演出実行手段は、前記第２条件が成立してから前記可変手段が前記可変制御手段により前記第１位置へと可変されるまでの期間が予め定められた特定期間以上になると前記第２条件が成立するよりも前に判別された場合に、前記第２遊技状態に設定された後で最初に前記可変手段が前記第１位置に可変したことに基づいて前記第１演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ５。

【１３６９０】

遊技機ＦＥ５によれば、遊技機ＦＥ４の奏する効果に加え、実際に入球手段へと遊技球を入球させることが可能となってから第２遊技状態を報知することができるので、遊技者が遊技球を無駄に発射してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３６９１】

遊技機ＦＥ１からＦＥ５のいずれかにおいて、前記特定の視認態様は、前記特典遊技の

実行中であること遊技者に報知可能な視認態様で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ６。

【１３６９２】

遊技機ＦＥ６によれば、遊技機ＦＥ１からＦＥ５のいずれかが奏する効果に加え、特定装置によって特典遊技の実行中であることを明確に報知することができるという効果がある。

【１３６９３】

遊技機ＦＥ１からＦＥ６のいずれかにおいて、前記信号制御手段は、前記判別手段の判別が実行されたことに基づいて第２種別の信号が前記特定装置に出力されるように制御可能に構成されているものであり、前記特定装置は、前記信号出力手段から出力された前記第２種別の信号の回数に応じて、前記判別手段による判別の実行回数を遊技者に示唆可能な視認態様を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ７。

【１３６９４】

遊技機ＦＥ７によれば、遊技機ＦＥ１からＦＥ６のいずれかが奏する効果に加え、特定装置の視認態様によって実行された判別の回数を確認することができるので、遊技者の利便性を向上させることができるという効果がある。

【１３６９５】

遊技機ＦＥ７において、前記特定装置は、前記信号出力手段から出力された前記特定種別の信号の回数に応じて、前記特典遊技が実行された回数を遊技者に示唆可能な視認態様を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＥ８。

【１３６９６】

遊技機ＦＥ８によれば、遊技機ＦＥ７の奏する効果に加え、特定装置の視認態様によって実行された特典遊技の回数を確認することができるので、遊技者の利便性を向上させることができるという効果がある。

【１３６９７】

＜特徴ＦＦ群＞（ＲＡＭクリアの有無によらず、当たり後の抽選回数が特定の抽選回数になることで天井時短を発動させる）

識別情報を表示可能な表示手段と、判別条件の成立に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための識別情報が表示されたことに基づいて、遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記識別情報の動的表示における動的表示態様を決定することが可能な動的表示態様決定手段と、その動的表示態様決定手段により決定され得る複数の異なる前記動的表示態様が規定された規定情報が複数記憶された規定情報記憶手段と、その規定情報記憶手段から前記動的表示態様を決定するための１の規定情報を選択することが可能な規定情報選択手段と、操作者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対して所定の操作内容の操作が行われた状態で前記遊技機に対して電源が投入されたことに基づいて、前記遊技機の設定を予め定められた初期設定に初期化することが可能な初期化手段と、前記初期化手段により前記初期化が行われる場合に、前記規定情報を選択するための情報が変更されることを抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ１。

【１３６９８】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶ディスプレイ等の表示手段に複数の図柄を動的表示させることによって、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を報知するものがある。かかる遊技機では、動的表示された複数の図柄が予め定められた特定の組み合わせで停止表示された場合に、遊技者にとって有利ないわゆる当たり状態へと移行する（例えば、特許文献１：特開２００３－２３０７１４号公報）。

【１３６９９】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、好適に動的表示態様を決定することが困難となってしまう可能性があった。

【１３７００】

これに対して遊技機ＦＦ１によれば、初期化されたとしても規定情報を選択するための情報が変更されないように抑制されるので、初期化後においても規定情報を好適に選択することができるという効果がある。

【１３７０１】

遊技機ＦＦ１において、前記特典の付与が終了した後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態を設定するための情報を設定可能な設定手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ２。

【１３７０２】

遊技機ＦＦ２によれば、遊技機ＦＦ１の奏する効果に加え、判別手段の判別で特定の判別結果にならなくても、特定回数の判別が実行されることにより有利な特定遊技状態が設定されるので、特定の判別結果とならない期間が長く継続したとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションを低下し難くすることができるという効果がある。

【１３７０３】

遊技機ＦＦ２において、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が実行された回数をカウントするカウント手段と、前記初期化手段により前記初期化が行われる場合に、前記カウント手段がカウントするカウント値が初期化されることを抑制する第２抑制手段を備え、前記設定手段は、前記カウント手段のカウント値が前記特定回数に対応するカウント値になったことに基づいて、前記特定遊技状態を設定するための情報を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＦ３。

【１３７０４】

遊技機ＦＦ３によれば、遊技機ＦＦ２の奏する効果に加え、遊技機が初期化されてもカウント手段のカウント値が維持されるので、遊技機が初期化されたとしても特定遊技状態に設定されるまでの判別手段の判別回数が電源遮断時から増加することを抑制することができる。よって、遊技者に、初期化された遊技機で遊技を行うことを敬遠されてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３７０５】

遊技機ＦＦ３において、前記規定情報選択手段は、前記カウント手段のカウント値に少なくとも基づいて前記規定情報を選択可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＦ４。

【１３７０６】

遊技機ＦＦ４によれば、遊技機ＦＦ３の奏する効果に加え、特定遊技状態を設定するか否かを判別するために判別手段の判別回数を読み出す場合にも、規定情報を選択するために判別手段の判別回数を読み出す場合にも、共通してカウント手段のカウント値を用いることができ、両者がずれてしまう可能性を排除することができるので、規定情報を好適に選択することができるという効果がある。

【１３７０７】

遊技機ＦＦ２からＦＦ４のいずれかにおいて、前記特定遊技状態が設定された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が前記特定回数実行されたことに基づいて、前記特定遊技状態を設定するための情報を設定可能な第２設定手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ５。

【１３７０８】

遊技機ＦＦ５によれば、一旦特定遊技状態が設定された後も、特典が付与されなければ判別回数が特定回数に到達することで再度特定遊技状態が設定されるので、特典が付与されなくても定期的に有利度合いが高くなる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１３７０９】

遊技機ＦＦ５において、前記特定遊技状態が設定されたことに基づいて前記カウント手段のカウント値を初期化可能な第２初期化手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ６。

【１３７１０】

遊技機ＦＦ６によれば、遊技機ＦＦ５の奏する効果に加え、特定遊技状態が設定されたことを契機としてカウント値を初期化することができるので、特定遊技状態が未設定の状況であっても、一旦特定遊技状態が設定された後の状況であっても、特定回数に対応するカウント値になったか否かによって特定遊技状態を設定するか否かを判別することができ、設定手段と第２設定手段とで制御を共通化することができるという効果がある。

【１３７１１】

遊技機ＦＦ２からＦＦ６のいずれかにおいて、前記特典付与手段による前記特典の付与が終了したことに基づいて前記カウント手段のカウント値を初期化する第３初期化手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ７。

【１３７１２】

遊技機ＦＦ７によれば、遊技機ＦＦ２からＦＦ６のいずれかが奏する効果に加え、特典の付与が終了する毎にカウント手段のカウント値が初期化されるので、特典が付与されたタイミングによらず、特典の付与が終了してから判別手段の判別回数が特定回数になることで特定遊技状態を設定することができるという効果がある。

【１３７１３】

＜特徴ＦＧ群＞（ＲＡＭクリア後の抽選で最初に当たりとは異なる所定の抽選結果となった場合に変動パターンシナリオをセットし、２回目以降の所定の抽選結果ではシナリオのセットを回避する）

遊技に関する所定の制御を行う制御手段を備えた遊技機において、所定の設定条件の成立に基づいて、予め定められた特定制御が前記制御手段によって行われるように設定する特定制御設定手段と、前記所定の設定条件の成立時点において予め定められた特定条件が成立している場合に、前記特定制御設定手段の設定を抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＧ１。

【１３７１４】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、遊技に関する制御を行う制御手段を搭載しているものがある。かかる遊技機では、当たり状態に移行する際等、遊技の状況が変化する場合に、設定値の設定等の所定の制御が制御手段によって実行されるように設定される（例えば、特許文献１：特開２００１－２７６３６５号公報）。

【１３７１５】

しかしながら、かかる遊技機では、制御手段に対して好適な制御を行わせることが困難となってしまう可能性がある。

【１３７１６】

これに対して遊技機ＦＧ１によれば、特定条件の成立下において特定制御が行われることを回避することができるので、より好適に制御を行わせることができるという効果がある。

【１３７１７】

遊技機ＦＧ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別手段の判別が実行されたことに基づいて、前記表示手段において前記判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を動的表示させることが可能な動的表示手段と、その動的表示手段による前記識別情報の動的表示における動的表示期間を決定するための情報である動的表示期間情報と、前記判別手段の判別が前記特定の判別結果とは異なる判別結果となった回数である判別回数と、の対応関係が少なくとも規定された規定情報を複数記憶した規定情報記憶手段と、前記判別条件が成立したことに基づいて、前記規定情報記憶手段似記憶されている複数の前記規定情報のうち１の前記規定情報に応じて前記判別回数に対応する前記動的表示期間情報を特定する動的表示期間情報特定手段と、その動的表示期間情報特定手段により特定された前記動的表示期間情報に応じて前記動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、を備え、前記制御設定手段は、前記所定の設定条件の成立に基づいて、前記規定情報記憶手段に記憶されている複数の前記規定情報のうち、前記動的表示

期間情報特定手段による前記動的表示期間情報の特定に用いるための１の前記規定情報を特定する制御を前記特定制御として前記制御手段によって行われるように設定可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＦＧ２。
【１３７１８】
遊技機ＦＧ２によれば、好適に動的表示期間を決定することができるという効果がある。
【１３７１９】
遊技機ＦＧ２において、前記所定の設定条件は、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果とは少なくとも異なる第１の判別結果となった場合に成立する条件であることを特徴とする遊技機ＦＧ３。
【１３７２０】
遊技機ＦＧ３によれば、遊技機ＦＧ２の奏する効果に加え、第１の判別結果となった場合に規定情報を特定することができるので、第１の判別結果の前後で決定される動的表示期間の傾向を異ならせることができるという効果がある。
【１３７２１】
遊技機ＦＧ３において、操作者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対して所定の操作内容の操作が行われた状態で前記遊技機に対して電源が投入されたことに基づいて、前記遊技機の設定を予め定められた初期設定に初期化することが可能な初期化手段と、を備え、前記判別手段は、判別結果が前記特定の判別結果と前記第１の判別結果とのどちらかになるように構成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ４。
【１３７２２】
遊技機ＦＧ４によれば、遊技機ＦＧ３の奏する効果に加え、遊技機の初期化後に判別手段の判別が実行され、特定の判別結果にならなければ、規定情報を特定することができるので、ほぼ、遊技機の初期化後に判別手段の判別が１回実行されることで規定情報を特定することができる。よって、規定情報が特定されていない状態が長く続いてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３７２３】
遊技機ＦＧ４において、前記特定条件は、前記初期化手段により前記遊技機の設定が前記初期設定に初期化された後で最初に前記第１の判別結果となった場合に成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ５。
【１３７２４】
遊技機ＦＧ５によれば、遊技機ＦＧ４の奏する効果に加え、第１の判別結果となる毎に、繰り返し規定情報が特定されることを抑制できるという効果がある。
【１３７２５】
遊技機ＦＧ４又はＦＧ５において、前記制御手段は、前記特定制御として、前記初期化手段により前記遊技機の設定が前記初期設定に初期化され、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果となったことに基づいて１の前記規定情報を特定する第１特定制御と、前記特典遊技の実行が終了したことに基づいて１の前記規定情報を特定する第２特定制御と、を少なくとも行うことが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ６。
【１３７２６】
遊技機ＦＧ５によれば、遊技機ＦＧ４又はＦＧ５の奏する効果に加え、特典遊技の実行が終了した場合にも規定情報を特定することができるので、特典遊技の終了を契機として、決定される動的表示期間の傾向を異ならせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３７２７】
遊技機ＦＧ４からＦＧ６のいずれかにおいて、前記初期化手段により前記遊技機の設定が前記初期設定に初期化された後における前記判別回数が予め定められた特定回数となったことに基づいて、遊技者に有利な有利遊技状態を設定する有利遊技状態設定手段を備え、前記特定制御は、少なくとも前記特定回数に到達するまでの間のそれぞれの前記判別回数と、前記動的表示期間情報と、の対応関係を規定した前記規定情報を特定する制御で構

成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ７。
【１３７２８】
遊技機ＦＧ７によれば、遊技機ＦＧ４からＦＧ６のいずれかが奏する効果に加え、遊技機が初期化され、判別手段の判別結果が第１の判別結果となったことに基づいて特定された規定情報を、有利遊技状態が設定されるまでの間、使用し続けることができるので、有利遊技状態が設定されるまでに規定情報を切り替える制御を行う必要がなく、遊技機の処理負荷を軽減することができるという効果がある。
【１３７２９】
遊技機ＦＧ４からＦＧ７のいずれかにおいて、前記初期化手段により前記遊技機が初期化され、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果となったことに基づいて特定演出を実行する演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＧ８。
【１３７３０】
遊技機ＦＧ８によれば、遊技機ＦＧ４からＦＧ７の奏する効果に加え、特定演出が実行された場合に、特定条件が成立したことを遊技者に理解させることができるという効果がある。
【１３７３１】
遊技機ＦＧ８において、前記演出実行手段は、前記遊技機に対して電源が投入され、前記初期化手段によって前記遊技機の設定が前記初期設定に初期化されなかった場合に、前記特定演出の実行を抑制可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ９。
【１３７３２】
遊技機ＦＧ９によれば、遊技機ＦＧ８の奏する効果に加え、特定演出が実行されるか否かによって遊技機が初期化されたか否かを遊技者に理解させることができるので、遊技機に対して電源が投入された場合に、少なくとも特定条件が成立するまで遊技を行って初期化の有無を判別したいと遊技者に思わせることができる。よって、特に、遊技機を設置しているホールの開店直後における遊技機の稼働率を向上させることができるという効果がある。
【１３７３３】
遊技機ＦＧ２からＦＧ９のいずれかにおいて、前記動的表示期間情報は、前記動的表示期間として決定され得る複数の異なる期間が少なくとも規定されている情報で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＧ１０。
【１３７３４】
遊技機ＦＧ１０によれば、遊技機ＦＧ２からＦＧ９のいずれかが奏する効果に加え、動的表示期間を多様化させることで判別手段の判別結果が示されるまでの期間にバリエーションを持たせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３７３５】
＜特徴ＦＨ群＞（天井抽選回数到達を契機として変動パターンシナリオを再セットする）
識別情報を表示可能な表示手段と、判別条件の成立に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に予め定められた特定の判別結果を示すための前記識別情報が表示されたことに基づいて、遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記特典の付与が終了された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態を設定するための情報を設定可能な設定手段と、前記識別情報の動的表示における動的表示態様を決定することが可能な動的表示態様決定手段と、その動的表示態様決定手段により決定され得る複数の異なる前記動的表示態様が規定された規定情報が複数記憶された規定情報記憶手段と、前記規定情報記憶手段から１の規定情報を選択させるための情報である選択情報として、複数の異なる選択情報のうち１の選択情報を特定する選択情報特定手段と、その選択情報特定手段によって特定された前記選択情報に

応じて、規定情報記憶手段から前記動的表示態様を決定するための１の規定情報を選択することが可能な規定情報選択手段と、を備え、前記選択情報特定手段は、前記特典の付与が終了された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて、１の前記選択情報を特定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ１。

【１３７３６】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶ディスプレイ等の表示手段に複数の図柄を動的表示させることによって、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果を報知するものがある。かかる遊技機では、動的表示された複数の図柄が予め定められた特定の組み合わせで停止表示された場合に、遊技者にとって有利ないわゆる当たり状態へと移行する（例えば、特許文献１：特開２００３－２３０７１４号公報）。

【１３７３７】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、好適に動的表示態様を決定することが困難となってしまう可能性があった。

【１３７３８】

これに対して遊技機ＦＨ１によれば、選択情報を好適に特定することができるという効果がある。

【１３７３９】

遊技機ＦＨ１において、前記選択情報特定手段は、前記特典が付与されたことに基づいて前記選択情報として第１選択情報を特定し、前記特典の付与が終了された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて前記第１選択情報とは異なる第２選択情報を特定することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ２。

【１３７４０】

遊技機ＦＨ２によれば、遊技機ＦＨ１の奏する効果に加え、特典の付与が修了された場合と特定遊技状態が設定される場合とで異なる選択情報を特定することができるので、決定される規定情報の傾向を多様化することができるという効果がある。

【１３７４１】

遊技機ＦＨ１又はＦＨ２において、前記設定手段は、前記特定遊技状態が設定された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が前記特定回数実行されたことに基づいて、前記特定遊技状態を設定するための情報を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ３。

【１３７４２】

遊技機ＦＨ３によれば、遊技機ＦＨ１又はＦＨ２の奏する効果に加え、特定遊技状態が１回設定された後も、特典が付与されなければ再度特定遊技状態が設定されるので、特典が付与されなくても定期的に特定遊技状態が設定される斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１３７４３】

遊技機ＦＨ３において、前記特典の付与が終了された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて特定される前記選択情報は、前記判別手段の判別回数が前記特定回数よりも少ない第１回数未満の範囲で前記規定情報選択手段に対して第１規定情報を選択させ、前記第１回数となったことに基づいて前記第２規定情報を選択させることが可能な情報で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ４。

【１３７４４】

遊技機ＦＨ４によれば、特定遊技状態に設定された後で第１回数の判別が実行された場合に、決定される動的表示態様の傾向を異ならせることができるので、動的表示態様の傾向の変化によって特定回数が近づいてきたと遊技者に感じさせることができるという効果がある。

【１３７４５】

遊技機ＦＨ４において、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて特定される前記選択情報は、前記判別手段の判別回数が前記特定回数よりも少なく、前記第１回数よりも多い第２回数となったことに基づいて前記規定情報選択手段に対して前記第２規定情報を選択させ、前記判別手段の判別回数が前記第１回数よりも多く、前記第２回数未満の範囲で前記第１規定情報を選択させることが可能な情報で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ５。

【１３７４６】

遊技機ＦＨ５によれば、遊技機ＦＨ４の奏する効果に加え、特定遊技状態の設定後に実行された判別手段の判別回数が第１回数となった場合、および第２回数となった場合に、その他の回数の場合とは決定される動的表示態様の傾向を異ならせることができるので、動的表示態様の傾向が可変する毎に、段階的に、特定回数が近づいていると遊技者に感じさせることができるという効果がある。

【１３７４７】

遊技機ＦＨ３からＦＨ５のいずれかにおいて、前記特典の付与が終了された後で最初に設定された前記特定遊技状態と、前記特定遊技状態が設定された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が前記特定回数実行されたことに基づいて設定された前記特定遊技状態とで、有利度合いを可変させることが可能な有利度合い可変手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＨ６。

【１３７４８】

遊技機ＦＨ６によれば、同じ特定遊技状態でも設定されるタイミングによって有利度合いを異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３７４９】

遊技機ＦＨ６において、前記有利度合い可変手段は、前記特典の付与が終了された後で最初に設定された前記特定遊技状態よりも、前記特定遊技状態が設定された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が前記特定回数実行されたことに基づいて設定された前記特定遊技状態の方が有利度合いが高くなるように有利度合いを可変可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＨ７。

【１３７５０】

遊技機ＦＨ７によれば、遊技機ＦＨ６の奏する効果に加え、より長い期間特典が付与されていない状態で設定された特定遊技状態の方が有利度合いを高くすることができるので、特典が付与されないことを期待させる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１３７５１】

＜特徴ＦＩ群＞（周期的に制御を可変させる周期制御中に優先度の高い所定の制御の割り込みが発生し、当該所定の制御が終了された場合に、所定の制御が実行されなかったと仮定した場合の制御位置から周期制御を再開させる）

予め定められた第１の実行条件の成立に基づいて第１制御を実行し、前記第１制御の実行中に予め定められた第２の実行条件が成立したことに基づいて前記第１制御とは異なる第２制御を実行する制御手段と、少なくとも前記第１制御の実行中に予め定められた第３の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１制御とも前記第２制御とも異なる第３制御が前記制御手段によって実行されるように設定する第３制御設定手段と、前記第３制御の実行中に予め定められた終了条件が成立したことに基づいて第３制御を終了させる終了手段と、その終了手段により前記第３制御が終了された時点で予め定められた特定条件が成立している場合に前記第２制御が前記制御手段によって実行されるように設定し、前記特定条件が成立していない場合に前記第１制御が前記制御手段によって実行されるように設定する終了後制御設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＩ１。

【１３７５２】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、遊技に関する制御を行う制御手段を搭載しているものがある。かかる遊技機では、当たり状態に移行する際等、遊技の状況が変化する

場合に、設定値の設定等の所定の制御が制御手段によって実行されるように設定される（例えば、特許文献１：特開２００１－２７６３６５号公報）。
【１３７５３】
しかしながら、かかる遊技機では、制御手段に対して好適な制御を行わせることが困難となってしまう可能性がある。
【１３７５４】
これに対して遊技機ＦＩ１によれば、第３制御の終了時点における特定条件の成立有無に応じて、第３制御の終了後に第１制御を実行させるか第２制御を実行させるかを切り替えることができるので、より好適な制御を実現することができるという効果がある。
【１３７５５】
遊技機ＦＩ１において、前記終了後制御設定手段は、前記第１制御の実行中に前記第３の実行条件が成立しなかったと仮定した場合に前記終了条件の成立時点で前記第２制御の実行中であれば、前記第２制御が前記制御手段によって実行されるように設定し、前記終了条件の成立時点で前記第１制御の実行中であれば、前記第１制御が前記制御手段によって実行されるように設定することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ２。
【１３７５６】
遊技機ＦＩ２によれば、遊技機ＦＩ１の奏する効果に加え、第３制御が終了される場合に、第３制御が実行されなかったと仮定した場合の制御内容を設定することができるので、より好適な制御を実現することができるという効果がある。
【１３７５７】
遊技機ＦＩ１又はＦＩ２において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第２の実行条件は、前記第１の実行条件が成立した後で前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となった回数が予め定められた特定回数となった場合に成立する条件であることを特徴とする遊技機ＦＩ３。
【１３７５８】
遊技機ＦＩ３によれば、遊技機ＦＩ１又はＦＩ２の奏する効果に加え、第２の判別結果となった回数が特定回数となることで異なる制御に切り替えることができるので、有利な特典遊技が実行されない状況下において延々と第１制御が実行され続けてしまうことを抑制することができる。よって、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３７５９】
遊技機ＦＩ３において、前記終了後設定手段は、前記終了条件の成立時点で、前回の前記第１の実行条件の成立後に前記第２の判別結果となった回数が前記特定回数以上である場合に前記第２制御が前記制御手段によって実行されるように設定し、前記第２の判別結果となった回数が特定回数未満である場合に前記第１制御が実行されるように設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ４。
【１３７６０】
遊技機ＦＩ４によれば、遊技機ＦＩ３の奏する効果に加え、第２の判別結果の回数に応じて第３制御の終了後における制御内容を切り替えることができるので、より好適な制御を実現することができるという効果がある。
【１３７６１】
遊技機ＦＩ３又はＦＩ４において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段において動的表示させる動的表示手段と、その動的表示手段による前記識別情報の動的表示における動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、前記動的表示期間を決定するための情報が規定された所定の規定情報として、第１規定情報と、その第１規定情報とは異なる第２規定情報と、を少なくとも含む複数の規定情報を記憶した規定情報記憶手段と、を備え、前記制御手段は、前記第

１制御として、前記第１規定情報を用いて前記動的表示期間を決定するように前記動的表示期間決定手段を制御し、前記第２制御として、前記第２規定情報を用いて前記動的表示期間を決定するように前記動的表示期間決定手段を制御することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ５。

【１３７６２】

遊技機ＦＩ５によれば、第１制御が実行されるか、第２制御が実行されるかによって決定される動的表示期間の傾向を異ならせることができるので、判別手段の判別結果が示されるまでの期間の傾向も異ならせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３７６３】

遊技機ＦＩ３からＦＩ５のいずれかにおいて、予め定められた特定の設定条件の成立に基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定された後において前記判別手段の判別結果が前記特定回数よりも多い予め定められた第１回数に渡って連続して前記第２の判別結果となったことに基づいて、前記第１遊技状態よりも遊技者に有利な第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備え、前記第１の実行条件は、前記特定の設定条件が成立した場合に成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ６。

【１３７６４】

遊技機ＦＩ６によれば、遊技機ＦＩ３からＦＩ５のいずれかが奏する効果に加え、第１遊技状態の間に第１制御から第２制御に切り替えることができるので、第２遊技状態が設定されるまでの間の遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３７６５】

遊技機ＦＩ６において、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる判別結果であって前記第２の判別結果の一部である第３の判別結果となったことに基づいて、前記第１遊技状態よりも遊技者に有利な第３遊技状態を設定する第３遊技状態設定手段を備え、前記第３の実行条件は、前記判別手段の判別結果が前記第３の判別結果となった場合に成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ７。

【１３７６６】

遊技機ＦＩ７によれば、遊技機ＦＩ６の奏する効果に加え、第１遊技状態から第３遊技状態に切り替わった場合に制御も切り替えることができるので、遊技状態に応じた制御を実行することができるという効果がある。

【１３７６７】

遊技機ＦＩ７において、前記第１遊技状態設定手段は、前記第３の判別結果となった後で実行された前記判別手段の判別結果が予め定められた第２回数に渡って連続して前記第２の判別結果となったことに基づいて、遊技状態を前記第１遊技状態に設定可能に構成されているものであり、前記終了条件は、前記第３の判別結果となった後で実行された前記判別手段の判別結果が予め定められた第２回数に渡って連続して前記第２の判別結果となった場合に成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＩ８。

【１３７６８】

遊技機ＦＩ８によれば、第３遊技状態が終了して第１遊技状態に戻る際に、第２の判別結果の回数に応じて第１制御を実行させるか第２制御を実行させるかを切り替えることができるので、より好適な制御を実現することができるという効果がある。

【１３７６９】

＜特徴ＦＪ群＞（有利状態の設定条件が成立した時点で、当該有利状態中に再度有利状態の設定条件が成立すると判別された場合に、後で設定される有利状態を加味した有利度合いを報知する）

予め定められた特定の設定条件の成立に基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、少なくとも前記第１遊技状態において成立し得る所定の設定条件の成立に基づいて、第１遊技状態よりも遊技者に有利な第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手

段と、前記第２遊技状態の間に前記第２遊技状態の設定条件が再度成立する場合に、前記再度成立する設定条件を加味した有利度合いを遊技者に示唆する特定演出を、少なくとも前記第２遊技状態が設定されるよりも前に実行可能な特定演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＪ１。

【１３７７０】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられた遊技機が知られている。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、図柄が予め定められた組み合わせで停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１３７７１】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１３７７２】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが異なる複数の遊技状態が設けられているものの知られており、有利度合いが高い遊技状態へと移行する際に、表示演出等によって有利度合いを報知するものも存在する。

【１３７７３】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、単に直近で設定される有利状態の有利度合いのみを判別して有利度合いを報知する構成としているため、実際の有利度合いと報知される有利度合いとにずれが生じてしまう可能性がある。

【１３７７４】

これに対して遊技機ＦＪ１によれば、第２遊技状態が設定されること、および第２遊技状態の間に再度第２遊技状態を設定するための設定条件が成立することが予め分かっている場合に、第２遊技状態が設定されるよりも前に、第２遊技状態が重複して設定されることを加味した有利度合いを遊技者に示唆する斬新な演出態様を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３７７５】

遊技機ＦＪ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記第２遊技状態が設定された後で実行された前記判別手段の判別結果が予め定められた特定回数に渡って前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて、前記第２遊技状態を終了させる終了手段と、を備え、前記特定演出は、前記第２遊技状態が前記終了手段により終了されるまでの前記判別手段の判別回数を示唆することが可能な演出で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＪ２。

【１３７７６】

遊技機ＦＪ２によれば、遊技機ＦＪ１の奏する効果に加え、特定演出によって第２遊技状態が終了するまでの判別回数を示唆することができるので、特定演出に注目させることができるという効果がある。

【１３７７７】

遊技機ＦＪ２において、前記所定の設定条件の成立に基づいて、前記第２遊技状態が前記終了手段により終了されるまでの前記判別手段の判別回数として、第１回数と、その第１回数よりも多い第２回数と、を少なくとも含む複数のうち１の回数を決定する終了回数決定手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＪ３。

【１３７７８】

遊技機ＦＪ３によれば、終了回数決定手段により決定され得る回数が複数設けられているので、特定演出により示唆される回数により注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３７７９】

遊技機ＦＪ２又はＦＪ３において、前記所定の設定条件は、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる判別結果であって前記第２の判別結果に含まれる判別結果である第３の判別結果となった場合に成立する第１設定条件と、その第１設定条件とは異なる第２設定条件と、で少なくとも構成されていることを特徴とする遊技機ＦＪ４。

【１３７８０】

遊技機ＦＪ４によれば、遊技機ＦＪ２又はＦＪ３の奏する効果に加え、有利な遊技状態が設定される条件として複数の条件が設けられているため、第２遊技状態へと移行することを期待できる場面をより多くすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１３７８１】

遊技機ＦＪ４において、前記第２設定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後で実行された前記判別手段の判別結果が予め定められた第３回数に渡って前記第２の判別結果となった場合に成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＪ５。

【１３７８２】

遊技機ＦＪ５によれば、遊技機ＦＪ４の奏する効果に加え、有利度合いが低い第１遊技状態において第１の判別結果にならなくても、判別手段の判別が第３回数に渡って第２の判別結果となることで有利度合いが高い第２遊技状態が設定されるので、第１遊技状態において第１の判別結果とならない期間が長く継続したとしても、遊技者の遊技に対するモチベーションが低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３７８３】

遊技機ＦＪ５において、前記特定演出実行手段は、前記特定演出の演出態様として、前記第１設定条件が成立し、当該第１設定条件の成立に基づいて設定される前記第２遊技状態において前記特定回数の前記判別手段の判別が実行されるまでに前記判別手段の判別回数が前記第３回数に到達する場合に、前記第１設定条件が成立してから前記判別手段の判別結果が前記第３回数に到達したことに基づいて設定される前記第２遊技状態が終了するまでの間に実行可能な判別回数に応じた演出態様を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＪ６。

【１３７８４】

遊技機ＦＪ６によれば、遊技機ＦＪ５の奏する効果に加え、特定演出の演出態様として、実際に第２遊技状態が終了されるまでの判別回数に応じた演出態様を設定することができるので、特定演出に対してより注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１３７８５】

遊技機ＦＪ６において、前記特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、設定される前記第２遊技状態において前記第１の判別結果とならない場合に少なくとも第４回数の判別を実行可能であることを示す第１演出態様と、前記第４回数よりも多い第５回数の判別を実行可能であることを示す第２演出態様と、を少なくとも含む複数のうち１の演出態様を決定する演出態様決定手段を備え、前記演出態様決定手段は、設定される前記第２遊技状態において前記第１の判別結果とならない場合に実行可能な判別の回数が第１回数以上であり、且つ、第２回数未満である場合に、前記第１演出態様を決定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＪ７。

【１３７８６】

遊技機ＦＪ７によれば、遊技機ＦＪ６の奏する効果に加え、第２遊技状態が終了するまでの判別回数が第１回数以上、且つ、第２回数未満である場合に、一律で第１演出態様を決定することができるので、遊技機の処理負荷を軽減することができるという効果がある。

【１３７８７】

遊技機ＦＪ７において、演出態様を表示可能な表示手段と、前記第２遊技状態が設定されたことに基づいて、当該設定された前記第２遊技状態が終了されるまでに実行可能な判別回数を示す情報として、当該第２遊技状態が設定されるよりも前に実行された前記特定

演出の演出態様に応じた判別回数を示す情報を前記表示手段に表示させる表示制御手段と、前記第２遊技状態において前記判別手段の判別が行われる毎に、前記表示手段に表示される前記判別回数を示す情報を、判別回数が１少ない情報に更新する更新手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＪ８。

【１３７８８】

遊技機ＦＪ８によれば、遊技機ＦＪ７の奏する効果に加え、第２遊技状態が終了するまでの判別回数が表示手段に表示されるので、第２遊技状態がいつまで継続するのかを遊技者にとって分かり易く構成することができるという効果がある。

【１３７８９】

＜特徴ＦＫ群＞（所定範囲でカウンタを更新し、カウンタ値が第１カウンタ値となった場合に、カウンタ値を第２カウンタ値に更新する）

予め定められた特定の更新条件が成立したことに基づいて、特定のカウンタのカウンタ値を所定範囲内の１の値に更新することが可能な更新手段と、その更新手段により前記特定のカウンタのカウンタ値が予め定められた第１のカウンタ値に更新されたことに基づいて、予め定められた特定の制御を実行する特定制御実行手段と、前記更新手段により前記特定のカウンタのカウンタ値が前記第１のカウンタ値に更新されたことに基づいて、前記特定のカウンタのカウンタ値を前記所定範囲内の値であって前記第１のカウンタ値とは異なる値である第２のカウンタ値に設定するカウンタ値設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＫ１。

【１３７９０】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、遊技に関する制御を行う制御手段を搭載しているものがある。かかる遊技機では、当たり状態に移行する際等、遊技の状況が変化する場合に、設定値の設定等の所定の制御が制御手段によって実行されるように設定される（例えば、特許文献１：特開２００１－２７６３６５号公報）。

【１３７９１】

しかしながら、より好適な制御が求められている。

【１３７９２】

これに対して遊技機ＦＫ１によれば、特定のカウンタ値が第１のカウンタ値に更新された場合に、第２のカウンタ値に更新することができるので、カウンタ値を好適に更新することができる。よって、特定の制御をより好適に実行することができるという効果がある。

【１３７９３】

遊技機ＦＫ１において、前記第１のカウンタ値は、前記第２のカウンタ値よりも大きい値で構成されているものであり、前記更新手段は、前記特定のカウンタのカウンタ値を更新前よりも大きいカウンタ値に更新可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＫ２。

【１３７９４】

遊技機ＦＫ２によれば、遊技機ＦＫ１の奏する効果に加え、第２のカウンタ値に更新された後でカウンタ値の更新が繰り返されることで再度第１のカウンタ値に更新され得るので、特定制御が再度実行されることを遊技者に期待させることができるという効果がある。

【１３７９５】

遊技機ＦＫ１又はＦＫ２において、識別情報を表示可能な表示手段と、判別条件の成立に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に予め定められた特定の判別結果を示すための前記識別情報が表示されたことに基づいて、遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、前記特典の付与が終了された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が予め定められた特定回数実行されたことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態を設定するための情報を設定可能な設定手段と、前記識別情報の動的表示における動的表示態様を決定することが可能な動的表示態様決定手段と

、その動的表示態様決定手段により決定され得る複数の異なる前記動的表示態様が規定された規定情報が複数記憶された規定情報記憶手段と、その規定情報記憶手段から前記動的表示態様を決定するための１の規定情報を選択することが可能な規定情報選択手段と、を備え、前記更新条件は、前記判別条件の成立に基づいて成立するように構成されており、前記特定制御実行手段は、前記特定制御として、前記規定情報選択手段に対して前記規定情報記憶手段から１の規定情報を選択させるための情報である選択情報として予め規定されている複数の選択情報のうち、予め定められた特定の選択情報を特定する制御を実行可能に構成されているものであり、前記規定情報選択手段は、前記特定のカウンタのカウンタ値と、特定されている前記選択情報と、に応じて１の規定情報を選択可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＫ３。

【１３７９６】

遊技機ＦＫ３によれば、選択情報を好適に特定することができるという効果がある。

【１３７９７】

遊技機ＦＫ３において、前記特典が付与されたことに基づいて前記選択情報として前記特定の選択情報とは異なる第１選択情報を特定することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＫ４。

【１３７９８】

遊技機ＦＫ４によれば、遊技機ＦＫ３の奏する効果に加え、特典が付与された場合にも選択情報を特定することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３７９９】

遊技機ＦＫ３又はＦＫ４において、前記設定手段は、前記特定遊技状態が設定された後で、前記特典が付与されずに前記判別手段の判別が前記特定回数実行されたことに基づいて、前記特定遊技状態を設定するための情報を設定可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＫ５。

【１３８００】

遊技機ＦＫ５によれば、遊技機ＦＫ３又はＦＫ４の奏する効果に加え、特定遊技状態が１回設定された後も、特典が付与されなければ再度特定遊技状態が設定されるので、特典が付与されなくても定期的に特定遊技状態が設定される斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１３８０１】

＜特徴ＦＬ群＞（周期的に制御を可変させる周期制御中に優先度の高い第１の制御の割り込みが発生し、当該第１の制御が終了された場合に、周期制御とは異なる第２の制御を実行する）

予め定められた第１の実行条件の成立に基づいて第１制御を実行し、前記第１制御の実行中に予め定められた第２の実行条件が成立したことに基づいて前記第１制御とは異なる第２制御を実行する制御手段と、少なくとも前記第１制御の実行中に予め定められた第３の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１制御とも前記第２制御とも異なる第３制御が前記制御手段によって実行されるように設定する第３制御設定手段と、前記第３制御の実行中に予め定められた終了条件が成立したことに基づいて第３制御を終了させる終了手段と、その終了手段により前記第３制御が終了されたことに基づいて、前記第１の制御とも前記第２の制御とも異なる第４制御が前記制御手段によって実行されるように設定する終了後制御設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＬ１。

【１３８０２】

ここで、パチンコ機等の遊技機には、遊技に関する制御を行う制御手段を搭載しているものがある。かかる遊技機では、当たり状態に移行する際等、遊技の状況が変化する場合に、設定値の設定等の所定の制御が制御手段によって実行されるように設定される（例えば、特許文献１：特開２００１－２７６３６５号公報）。

【１３８０３】

しかしながら、かかる遊技機では、制御手段に対して好適な制御を行わせることが困難

となってしまう可能性がある。
【１３８０４】
これに対して遊技機ＦＬ１によれば、第３制御が終了した場合に、第４制御を実行することができるので、より好適な制御を実現することができるという効果がある。
【１３８０５】
遊技機ＦＬ１において、前記第１の実行条件は、少なくとも前記第４制御の実行中に成立し得る条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＬ２。
【１３８０６】
第４制御の実行中に第１の実行条件が成立することにより第１の制御が再び実行されるので、第４制御の実行中に第１の実行条件が成立することを期待させることができるという効果がある。
【１３８０７】
遊技機ＦＬ１又はＦＬ２において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第２の実行条件は、前記第１の実行条件が成立した後で前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となった回数が予め定められた特定回数となった場合に成立する条件であることを特徴とする遊技機ＦＬ３。
【１３８０８】
遊技機ＦＬ３によれば、遊技機ＦＬ１又はＦＬ２の奏する効果に加え、第２の判別結果となった回数が特定回数となることで異なる制御に切り替えることができるので、有利な特典遊技が実行されない状況下において延々と第１制御が実行され続けてしまうことを抑制することができる。よって、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３８０９】
遊技機ＦＬ３において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段において動的表示させる動的表示手段と、その動的表示手段による前記識別情報の動的表示における動的表示期間を決定する動的表示期間決定手段と、前記動的表示期間を決定するための情報が規定された所定の規定情報として、第１規定情報と、その第１規定情報とは異なる第２規定情報と、を少なくとも含む複数の規定情報を記憶した規定情報記憶手段と、を備え、前記制御手段は、前記第１制御として、前記第１規定情報を用いて前記動的表示期間を決定するように前記動的表示期間決定手段を制御し、前記第２制御として、前記第２規定情報を用いて前記動的表示期間を決定するように前記動的表示期間決定手段を制御することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＦＬ４。
【１３８１０】
遊技機ＦＬ４において、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる判別結果であって前記第２の判別結果に含まれる第３の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特定遊技状態を設定する特定遊技状態設定手段を備え、前記第３の実行条件は、前記判別手段の判別結果が前記第３の判別結果となったことに基づいて成立する条件で構成されているものであり、前記第３制御は、前記動的表示期間決定手段に対して前記第１規定情報とも前記第２規定情報とも異なる第３規定情報を用いて前記動的表示期間を決定させるための制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＦＬ５。
【１３８１１】
遊技機ＦＬ５によれば、特定遊技状態が設定された場合に決定される動的表示期間の傾向を異ならせることができるので、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３８１２】
＜５０７３（ベース）系の特徴群＞
＜特徴βＡ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記表示手段に複数の演出態様を表示することが可能な演出態様表示手段と、前記表示手段に表示された演出態様を可変させることが可能な可変表示手段と、前記演出態様が表示されている位置に報知態様を配置することが可能な報知手段と、前記複数の演出態様が表示されている場合に、前記報知態様が配置させることで可変可能な前記演出態様を示唆することが可能な示唆制御手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機βＡ１。

【１３８１３】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８１４】

遊技機βＡ１によれば、可変される演出態様を報知態様が配置されることで遊技者が認識し易くすることができるので、可変される演出態様を見落とす不具合を抑制でき、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３８１５】

遊技機βＡ１において、前記判別手段により判別されることが可能な情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報が記憶される記憶手段と、を有し、前記演出態様表示手段は、前記記憶手段に前記情報が記憶された場合に、前記演出態様を表示させることが可能であることを特徴とする遊技機βＡ２。

【１３８１６】

遊技機βＡ２によれば、遊技機βＡ１の奏する効果に加え、記憶手段に記憶されている情報の個数を演出態様が表示されている個数で判別することができ、判別され得る回数を予測することができるという効果がある。

【１３８１７】

遊技機βＡ２において、前記記憶手段に記憶された前記情報が前記判別手段により判別されるよりも前に判別を実行することが可能な事前判別手段を有し、前記可変表示手段は、前記事前判別手段の判別結果に基づいて可変させることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機βＡ３。

【１３８１８】

遊技機βＡ３によれば、遊技機βＡ１またはβＡ２の奏する効果に加え、演出態様が事前判別手段による判別結果に基づいて可変されるので、演出態様が可変されることで判別結果を予測することが可能となり、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８１９】

＜特徴βＢ群＞

所定の報知態様を報知可能な報知手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段の操作に基づいて設定を可変させるための情報を設定することが可能な設定手段と、可変された前記設定に対応した演出態様を実行することが可能な演出実行手段と、前記操作手段が操作された場合に、前記設定される情報に対応した識別態様を表示手段に表示させることが可能な識別態様表示手段と、通常期間よりも前記識別態様が視認困難となる特定期間を設定可能な設定手段と、前記識別態様が表示されない期間には、第１態様が実行され、特定期間に前記操作手段が操作された場合には、前記識別態様を示唆するための前記第１態様とは異なる第２態様が実行される態様実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機βＢ１。

【１３８２０】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行され、遊技機に設けられた遊技者が操作可能な操作手段を操作することで遊技の態様を可変させることが可能である遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、操作手段を操作した場合に、遊技の態様が可変されたかを判別することが困難な場合があり、遊技の興趣が低下するという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８２１】

遊技機βＢ１によれば、識別態様が視認困難な特定期間である場合には、識別態様を示唆するための第２態様が実行されるので、通常時は異なる第１態様が実行される態様実行手段を利用して、識別態様を遊技者に示唆することが可能となり遊技者に分かり易く遊技をさせることで、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８２２】

遊技機βＢ１において、判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有し、前記演出実行手段は、前記識別情報が動的表示されていない期間に前記操作手段が操作されたことで可変された設定に基づいて、その後に実行される前記識別情報の動的表示期間中に可変して前記演出を実行することが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機βＢ２。

【１３８２３】

遊技機βＢ２によれば、遊技機βＢ１の奏する効果に加え、動的表示されていない期間に操作された内容についてもその後に実行される動的表示期間中に反映されるので、識別情報の動的表示と合わせて演出を楽しむことができるという効果がある。

【１３８２４】

遊技機βＢ１またはβＢ２において、前記態様実行手段は、前記特定期間である場合に前記識別態様が表示されていた位置に移動されて実行されることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機βＢ３。

【１３８２５】

遊技機βＢ３によれば、遊技機βＢ１またはβＢ２の奏する効果に加え、態様実行手段が識別態様の表示されていた位置に移動されて実行されるので、識別態様の代わりに第２態様が実行されていることを分かり易くでき、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３８２６】

＜特徴βＣ群＞（扉開閉）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記識別情報が動的表示される期間に演出を実行可能な演出実行手段と、前記演出が実行されている期間に特定条件が成立することに基づいて前記識別情報の態様を可変させることが可能な可変手段と、前記識別情報の動的表示期間が経過するまでの期間に、前記特定条件の成立回数を可変して決定することが可能な決定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機βＣ１。

【１３８２７】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出として複数の図柄を動的表示させた後に、抽選結果を報知する組み合わせで図柄を停止表示させる遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、図柄の動的表示態様が単調となり易く、図柄が停止表示されるよりも前に報知される組み合わせを

予測できてしまうことで遊技の興趣が低下するという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８２８】

遊技機βＣ１によれば、特定条件が成立する毎に識別情報が可変することで、特定の判別結果を示す態様へと可変されることを特定条件が成立する毎に期待させることができるので、決定手段により決定された回数に興味を持たせることができ、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３８２９】

遊技機βＣ１において、前記識別情報の動的表示は、前記識別情報を特定の前記判別結果を示す態様で表示されることが可能な態様で少なくとも一部の識別情報を仮停止させる仮停止態様を実行可能に構成され、前記特定条件は、前記仮停止態様が実行されている期間に成立可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機βＣ２。

【１３８３０】

遊技機βＣ２によれば、遊技機βＣ１の奏する効果に加え、仮停止されている期間に特定条件が成立して、識別情報の態様が可変されることで、可変したことを識別し易くすることができるという効果がある。

【１３８３１】

遊技機βＣ１またはβＣ２において、前記識別情報は、複数の図柄を組み合わせて表示させることで、前記特定の判別結果を示す態様を構成可能にされ、前記可変手段は、前記図柄の組み合わせを可変させるものであることを特徴とする遊技機βＣ３。

【１３８３２】

遊技機βＣ３によれば、遊技機βＣ１またはβＣ２の奏する効果に加え、特定条件が成立する毎に図柄の組み合わせを可変させることができ、特定の判別結果への期待を高めることができるという効果がある。

【１３８３３】

＜特徴βＤ群＞

演出を実行可能な演出実行手段と、その演出実行手段により特定の演出が実行された場合に、遊技者に有利な特典を付与可能な特典付与手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されることに基づいて遊技の設定を可変させることが可能な設定手段と、を有した遊技機において、前記演出が実行されている期間に、前記操作手段が操作されたことに基づいて、前記演出の実行期間中に可変された遊技の設定に基づく演出を実行することが可能な遊技機βＤ１。

【１３８３４】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出として、抽選により演出内容が決定され当否判定の期待度等を抽選結果が報知される前に予告演出として実行される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、実行される演出態様の内容が決定される頻度等が一定となり易く遊技の興趣が低下する問題点があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８３５】

遊技機βＤ１によれば、演出の実行中に操作手段を操作することで遊技の設定が可変され、演出の実行期間中に可変された設定に基づいた演出を実行することができるので、遊技者の要望に合わせた設定に対応した状態で早期に遊技をさせて、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３８３６】

遊技機βＤ１において、前記演出が実行される場合に、複数の設定に対応した演出態様を設定することが可能な演出設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機βＤ２。

【１３８３７】
遊技機βＤ２によれば、遊技機βＤ１の奏する効果に加え、演出が実行される場合に、複数の設定に対応した演出態様が設定されることで、容易に演出の実行中に演出態様を可変させることができるという効果がある。
【１３８３８】
遊技機βＤ１またはβＤ２において、前記特定の演出が実行される演出が実行されている期間に前記操作手段が操作されて前記設定が可変されることに基づいて特殊演出を実行可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機βＤ３。
【１３８３９】
遊技機βＤ３によれば、遊技機βＤ１またはβＤ２の奏する効果に加え、設定を可変させることで、特定の演出が実行されることを早期に識別可能となり、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１３８４０】
＜特徴βＥ群＞
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記識別情報は、複数の図柄で構成されており、前記図柄が停止表示される場合に、停止される図柄種別に対応した演出態様を実行可能な演出実行手段を有するものであることを特徴とする遊技機βＥ１。
【１３８４１】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出として、複数の図柄が動的表示された後に抽選結果を示す図柄の組み合わせで停止表示される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、単純に図柄の動的表示と停止が繰り返されることで遊技が単調となる遊技の興趣が低下するという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３８４２】
遊技機βＥ１によれば、停止図柄の種別に対応した演出態様が実行されるので、停止した図柄種別を分かり易くして遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１３８４３】
遊技機βＥ１において、前記識別情報は、前記複数の図柄のそれぞれに識別態様を付加させて構成されており、前記識別態様は、前記図柄の種別に対応せずに決定されて付加されるものであることを特徴とする遊技機βＥ２。
【１３８４４】
遊技機βＥ２によれば、遊技機βＥ１の奏する効果に加え、識別態様が図柄に種別に対応せずに付加されるので、識別情報のバリエーションを多様にすることができるという効果がある。
【１３８４５】
遊技機βＥ１またはβＥ２において、前記特定の判別結果を示すための態様は、特定の組み合わせで前記識別態様が表示されることで構成されているものであることを特徴とする遊技機βＥ３。
【１３８４６】
遊技機βＥ３によれば、遊技機βＥ１またはβＥ２の奏する効果に加え、図柄の種別に関わらず識別態様の組み合わせで特定の判別結果が報知されるので、図柄を識別態様に柔軟に組み合わせて報知することができるという効果がある。
【１３８４７】
＜特徴βＦ群＞（保留図柄シフト時の動作パターンによって期待度を示唆）
情報を取得することが可能な取得手段と、判別条件の成立に基づいて、前記情報に基づ

く判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を動的表示可能な表示手段と、前記取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報の個数を示すための識別図柄を前記表示手段に表示させることが可能な識別図柄表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典遊技を実行することが可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶された前記情報の個数が変化した場合に、前記識別図柄の表示位置を新たな前記情報の個数に対応する表示位置に変更する表示位置変更手段と、その表示位置変更手段により前記識別図柄の表示位置が変更される場合の前記識別図柄の動作態様を設定可能な動作態様設定手段を有するものであることを特徴とする遊技機βＦ１。

【１３８４８】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８４９】

前記遊技機βＦ１によれば、動作態様設定手段により識別図柄の表示位置が変更される場合の動作態様を設定可能であるため、識別図柄の動作態様を用いた演出を実行可能となり、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８５０】

前記遊技機βＦ１において、前記動作態様設定手段は、前記識別図柄に対応する前記識別情報が前記特定の判別結果を示すための前記識別情報である場合に、特定動作態様を設定可能であることを特徴とする遊技機βＦ２。

【１３８５１】

前記遊技機βＦ２によれば、識別図柄が表示位置を変更する場合に特定動作態様で動作することで、遊技者はその識別図柄に対応する識別情報が特定の判別結果を示すための識別情報であることを認識できるため、識別図柄の動作態様にも興味を持たせることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８５２】

＜特徴βＧ群＞（リーチ演出中に当該保留図柄以外の保留図柄を非表示とする演出）

情報を取得することが可能な取得手段と、判別条件の成立に基づいて、前記情報に基づく判別を実行することが可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を動的表示可能な表示手段と、その表示手段に複数の演出態様を表示することが可能な演出態様表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典遊技を実行することが可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記表示手段を視認困難な状態とすることが可能な遮断手段と、その遮断手段により視認困難な状態とする範囲を設定可能な範囲設定手段とを有するものであることを特徴とする遊技機βＧ１。

【１３８５３】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、複数の演出が同時に実行される場合に、遊技者がどの演出に注目すれば良いのか分からず、演出効果が低下する虞があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８５４】

遊技機βＧ１によれば、範囲設定手段により範囲が設定され、その範囲が遮断手段により遮断されることで遊技者が視認困難な状態となるため、視認可能な範囲で実行される演出態様に遊技者を注目させることができるという効果がある。

【１３８５５】
遊技機βＧ１において、前記取得手段により取得された前記情報を記憶することが可能な記憶手段と、を有し、前記演出態様表示手段は、前記記憶手段に前記情報が記憶された場合に、前記演出態様を表示させることが可能であることを特徴とする遊技機βＧ２。
【１３８５６】
遊技機βＧ２によれば、遊技機βＧ１の奏する効果に加え、記憶手段に記憶されている情報の個数を演出態様が表示されている個数で判別することができ、判別され得る回数を予測することができるという効果がある。
【１３８５７】
遊技機βＧ２において、前記記憶手段は、前記情報を、特定数を上限に記憶可能であることを特徴とする遊技機βＧ３。
【１３８５８】
遊技機βＧ３によれば、遊技機βＧ２の奏する効果に加え、判別手段による判別に用いられる情報の記憶数に上限を設けることができるため、過剰に多くの判別が実行されてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３８５９】
＜特徴βＨ群＞（図柄ストックリーチ）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための複数の図柄列で構成された識別図柄を表示する表示手段と、その表示手段に前記識別図柄を動的表示した後に、前記判別結果を示すための表示態様で前記識別図柄を停止表示する表示制御手段と、前記判別手段により特定の判別結果を示すための停止表示態様で前記識別図柄が停止表示された場合に遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記特定の判別結果であることを示すための停止表示態様は、前記複数の図柄列が特定の図柄の組み合わせで停止表示されるものであり、前記表示制御手段は、前記複数の図柄列のうち、少なくとも２以上の図柄列を前記特定の判別結果を示すための組み合わせの一部となる図柄の組み合わせで停止または仮停止表示させるリーチ表示態様で表示させることが可能に構成されており、前記リーチ表示態様が表示されている状態で動的表示されている前記図柄列に停止表示される前記識別図柄の表示態様を示唆するための示唆演出を実行可能であり、前記遊技機は、前記示唆演出によって示唆された前記識別図柄の表示態様に基づいて、前記リーチ表示態様を示す前記識別図柄の表示態様を可変可能であることを特徴とする遊技機βＨ１。
【１３８６０】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３８６１】
遊技機βＨ１によれば、リーチ表示態様が表示されている状態にて実行される示唆演出によって、動的表示中の識別図柄の停止表示態様を示唆しながら、リーチ表示態様を示す識別図柄を可変させることも可能となる。よって、示唆演出の内容に応じて、リーチ表示態様を示す識別図柄が可変すること無く、動的表示中の識別図柄が停止表示されることを期待させる遊技と、リーチ表示態様を示す識別図柄が可変することを期待させる遊技と、を実行させることが可能となる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８６２】
遊技機βＨ１において、前記示唆演出は、識別図柄の表示態様に対応する情報を有する装飾図柄を複数表示させた後に、前記複数表示された前記装飾図柄の中から、演出結果を示すための所定数の前記装飾図柄を表示させるものであることを特徴とする遊技機βＨ２。
【１３８６３】
遊技機βＨ２によれば、示唆演出の演出結果を示すための装飾図柄を含む複数の装飾図柄を表示させることによって、示唆演出の演出結果を予測させる楽しみを提供することができる。また、表示される複数の装飾図柄が有する情報を把握することにより、今回の示唆演出によってリーチ表示態様を示す識別図柄が可変すること無く、動的表示中の識別図柄が停止表示されることを期待させる遊技と、リーチ表示態様を示す識別図柄が可変することを期待させる遊技と、を実行させることが可能となる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１３８６４】
遊技機βＨ２において、前記示唆演出は、前記複数の装飾図柄を順に表示させるものであり、前記リーチ表示態様で表示されている前記識別図柄に対応する情報以外の情報を有する前記装飾図柄を最初に表示させるものであることを特徴とする遊技機βＨ３。
【１３８６５】
遊技機βＨ３によれば、リーチ表示態様が表示されている状態で最初に表示される装飾図柄を、リーチ表示態様で表示されている識別図柄に対応する情報以外の情報を有している装飾図柄とすることができるため、特定の判別結果を示すための識別図柄が停止表示されたと遊技者が誤認してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３８６６】
＜特徴βＩ群＞（画面プレス予告）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための表示画像を作成可能な表示画像作成手段と、その表示画像作成手段により作成された前記表示画像を所定の表示領域に表示可能な表示手段と、前記表示画像作成手段により作成された前記表示画像を可変制御可能な画像制御手段と、を有した遊技機において、前記表示画像作成手段は、複数の画層を重ね合わせて前記表示画像を作成可能であり、前記画像制御手段は、前記画層単位で前記表示画像を可変制御可能であることを特徴とする遊技機βＩ１。
【１３８６７】
従来より、液晶表示装置等の表示装置を用いて、判別手段の判別結果を示すための変動演出を実行するものがあり、多彩な変動演出を実行させることで演出効果を高めるために、液晶表示装置等の表示画面に様々な表示画像を表示させる遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、変動演出の種類を増加させるほど、表示画像を作成するための表示データの量が大きくなり、製造コストを圧迫してしまうという問題が発生するため、表示画像を作成するための表示データ量の増加を抑えながらも、多様な変動演出を実行させることで、演出効果を高め、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機の提供が求められていた。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１３８６８】
遊技機βＩ１によれば、表示画像作成手段により作成された表示画像を形成する複数の画層単位で、表示画像を可変制御させることができるため、同一の表示画像を用いて様々な表示態様を表示領域に表示させることができる。よって、表示画像を作成するための表示データ量の増加を抑えながらも、多様な変動演出を実行させることができるという効果がある。
【１３８６９】
遊技機βＩ１において、前記画像作成手段は、前記判別手段の判別結果を示すための識別情報の表示画像を、前記複数の画層のうち特定の第１画層に作成可能であり、前記画像

制御手段によって前記第１画層が可変制御される場合に、前記識別情報を視認困難とさせる補正制御を実行可能な補正手段を有することを特徴とする遊技機βＩ２。
【１３８７０】
遊技機βＩ２によれば、遊技機βＩ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、画像制御手段によって、識別情報の表示画像が可変制御される場合には、補正手段により可変制御された識別情報の表示画像を遊技者に視認させ難くすることができるため、表示手段に表示されている識別情報を遊技者が誤認してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３８７１】
遊技機βＩ２において、前記複数の画像として、少なくとも、前記第１画層よりも前面側に第２画層を有し、前記画像制御手段は、前記第１画層と、前記画層とに同一内容の特定可変制御を実行するものであり、前記補正手段は、前記特定可変制御が実行された場合に、前記第２画層に表示される表示画像によって前記第１画層に表示される前記識別情報の表示画像を視認困難とさせるものであることを特徴とする遊技機βＩ３。
【１３８７２】
遊技機βＩ３によれば、遊技機βＩ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、可変制御された識別情報を示すための表示画像を視認困難とさせるために、識別情報の表示画像が作成される第１画層と、同一内容の特定可変制御が実行される第２画層に表示される表示画像を用いているため、どの様な可変制御が実行されたとしても、識別情報の表示画像の表示位置とズレること無く、第２画層の表示画像を表示させ易くすることができるという効果がある。
【１３８７３】
＜特徴βＪ群＞
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記表示手段に複数の演出態様を表示することが可能な演出態様表示手段と、前記表示手段に表示された演出態様を可変させることが可能な可変表示手段と、前記複数の演出態様が表示されている位置に対応した表示態様を決定可能な表示態様決定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機βＪ１。
【１３８７４】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行される遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３８７５】
遊技機βＪ１によれば、可変される演出態様を報知態様が配置されることで遊技者が認識し易くすることができるので、可変される演出態様を見落とす不具合を抑制でき、遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１３８７６】
遊技機βＪ１において、前記可変表示手段は、前記表示態様決定手段により決定された前記表示態様に応じて、前記演出態様の可変度合いを異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機βＪ２。
【１３８７７】
遊技機βＪ２によれば、遊技機Ｊ１の奏する効果に加え、決定された表示態様に応じて演出態様の可変度合いを異ならせることができるため、表示される表示態様に興味を持たせ易くすることができるという効果がある。
【１３８７８】
遊技機βＪ２において、前記演出態様が表示されている位置に報知態様を配置すること

が可能な報知手段と、前記複数の演出態様が表示されている場合に、前記報知態様が配置させることで可変可能な前記演出態様を示唆することが可能な示唆制御手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機βＪ３。

【１３８７９】

遊技機βＪ３によれば、遊技機βＪ２の奏する効果に加え、可変される演出態様を報知態様が配置されることで遊技者が認識し易くすることができるので、可変される演出態様を見落とす不具合を抑制でき、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１３８８０】

＜特徴βＫ群＞

所定の報知態様を報知可能な報知手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段の操作に基づいて設定を可変させるための情報を設定することが可能な設定手段と、可変された前記設定に対応した演出態様を実行することが可能な演出実行手段と、を有した遊技機において、前記設定手段により前記情報が設定されたことに基づいて、特典を付与可能な特典付与手段を有することを特徴とする遊技機βＫ１。

【１３８８１】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その判定結果を報知する演出が実行され、遊技機に設けられた遊技者が操作可能な操作手段を操作することで遊技の態様を可変させることが可能である遊技機が提案されていた。（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）しかしながら、操作手段を操作した場合に、遊技の態様が可変されたかを判別することが困難な場合があり、遊技の興趣が低下するという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８８２】

遊技機βＫ１によれば、情報を設定することに基づいて特典が付与されるため、特典の付与を求めて遊技者に操作手段を操作させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８８３】

遊技機βＫ１において、判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が特定の判別結果である場合に特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有し、前記特典付与手段は、前記判別手段の結果が前記特定の判別結果があることを前記特典遊技が実行されるよりも前に報知するものであることを特徴とする遊技機Ｋ２。

【１３８８４】

遊技機βＫ２によれば、遊技機βＫ１の奏する効果に加え、特典遊技が実行されることを特典付与手段により遊技者にいち早く報知することができるため、特典の付与を求めて遊技者に操作手段を操作させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８８５】

遊技機βＫ２において、前記特典付与手段は、前記判別手段の判別結果を示すための識別情報が動的表示されている間に、前記設定手段により前記情報が設定された場合に前記特典を付与可能であることを特徴とする遊技機βＫ３。

【１３８８６】

遊技機βＫ３によれば、遊技機Ｋ２の奏する効果に加え、識別情報の動的表示期間中においても、特典の付与を求めて遊技者に操作手段を操作させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１３８８７】

＜５０７３（追加）系の特徴群＞

＜特徴ＧＡ群＞（ボタン操作演出のひっかかり期間）

遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対する操作が有効に判別される操作有効期間を設定可能な操作有効期間設定手段と、その操作有効期間設定手段により設定され

た前記操作有効期間中に前記操作が実行されたことに基づいて、演出態様を、第１態様から、その第１態様とは異なる第２態様へと段階的に可変させることが可能な演出可変手段と、前記演出態様が前記第２態様へと可変された場合に特定演出を実行可能な特定演出実行手段と、を有した遊技機において、前記操作有効期間として、第１状態と、その第１状態よりも前記演出態様を可変させることが困難な第２状態とを、設定可能な状態設定手段を有し、前記状態設定手段は、前記第１状態が設定されている状態で前記操作手段が操作されたことに基づいて前記第２状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＧＡ１。

【１３８８８】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいた操作演出を実行可能なものがある。そして、操作演出の演出態様として、敵キャラの体力値を減少させる演出態様（以下、ゲージ減少演出）を設け、遊技者に有利な特典を付与可能な場合に、ゲージ減少演出の演出結果として、敵キャラの体力値が０となる演出が実行される遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。

【１３８８９】

しかしながら、従来型のゲージ減少演出では、特典を付与可能な状態であるか否かに応じて最終的に減少させることが可能な体力値が決定されるため、遊技者は操作手段への操作に基づいて体力値の減少度合いのみに注視することとなり、ゲージ減少演出中に体力値の減少が途中で停止してしまうと、今回の演出結果が遊技者に不利な演出結果であることを演出結果が表示されるよりも前に容易に予測されてしまい、演出効果を高めることができないという問題があった。

【１３８９０】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、ゲージ減少演出において減少させることが可能な体力値に到達するよりも前の段階で強制的に体力値の減少が停止される期間を設定することにより、ゲージ減少演出中に体力値の減少が所定期間停止した場合であっても、更なる体力値の減少を遊技者に期待させることで遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１３８９１】

遊技機ＧＡ１によれば、第１状態中に実行される操作手段への操作に基づいて第２状態を設定することができるため、所定の操作を実行したにも関わらず演出態様が可変し難くなった場合に、第２態様へと演出態様が可変しないのか、それとも、第２状態が設定されただけなのかを遊技者に予測させ難くすることができる。よって、操作有効期間が経過するまでの間、遊技者に意欲的に操作手段を操作させることができるという効果がある。

【１３８９２】

遊技機ＧＡ１において、前記第２状態が設定されている状態で解除条件が成立した場合に、前記第１状態を設定可能な状態切替手段を有することを特徴とする遊技機ＧＡ２。

【１３８９３】

遊技機ＧＡ２によれば、遊技機ＧＡ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、演出態様を可変させることが困難な第２状態が設定された場合であっても、解除条件を成立させることによって、演出態様を可変させることが可能な第１状態が設定されることで演出態様を可変させ易くすることができる。よって、第２状態が設定された場合であっても、演出態様を第２状態へと可変させる遊技意欲が著しく低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３８９４】

遊技機ＧＡ２において、前記第２状態中に実行される前記所定の操作に基づいて前記解除条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＧＡ３。

【１３８９５】

遊技機ＧＡ３によれば、第２状態中に所定の操作を実行することによって、解除条件が成立し得るため、第２状態が設定された遊技者に対して、操作手段への所定の操作を継続して実行させることが可能となり、遊技者の操作手段への操作意欲を高めることができる

という効果がある。
【１３８９６】
＜特徴ＧＢ群＞（長押し操作演出において、長押しキャンセルした方が演出が進みやすい）
遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段に対して所定の前記操作が継続して実行されていることを判別可能な操作判別手段と、その操作判別手段により前記所定の操作が特定期間継続して実行していると判別されたことに基づいて、演出態様を、第１態様から、その第１態様とは異なる第２態様へと可変させることが可能な演出可変手段と、前記演出態様が前記第２態様へと可変された場合に特定演出を実行可能な特定演出実行手段と、を有した遊技機において、前記所定の操作が前記特定期間よりも短い第２期間継続した状態で所定条件が成立した場合に、前記演出態様を前記第２態様へと可変させることが可能な演出制御を実行可能な演出制御手段を有することを特徴とする遊技機ＧＢ１。
【１３８９７】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいた操作演出を実行可能なものがある。そして、操作演出の演出態様として、敵キャラの体力値を減少させる演出態様（以下、ゲージ減少演出）を設け、遊技者に有利な特典を付与可能な場合に、ゲージ減少演出の演出結果として、敵キャラの体力値が０となる演出が実行される遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。
【１３８９８】
また、操作手段を繰り返し押下操作（連打操作）する代わりに、操作手段を継続押下操作（長押し）することで、連打操作した場合と同様にゲージ減少演出を進行させることが可能な機能を有する遊技機も提案されている。
【１３８９９】
しかしながら、長押し操作に基づいて実行されるゲージ減少演出では、長押し操作を継続すればするほど、演出が進行（ゲージが減少）するように構成されるものが一般的であり、遊技者の操作手段への操作方法が単調となってしまい、遊技者が遊技に飽きてしまうという問題があった。
【１３９００】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができる遊技機を提供することを目的とする。
【１３９０１】
遊技機ＧＢ１によれば、所定の操作を継続する期間が特定期間となる前に、演出態様を第２態様へと可変させることが可能となるため、継続して所定の操作を実行している遊技者に対して、どのタイミングで特定演出が実行されるかを把握させ難くすることができる。よって、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３９０２】
遊技機ＧＢ１において、前記演出制御手段により前記演出制御が実行されていることを報知可能な報知手段を有することを特徴とする遊技機ＧＢ２。
【１３９０３】
遊技機ＧＢ２によれば、遊技機ＧＢ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、報知手段によって演出制御が実行されていることを遊技者に報知することができるため、遊技者に対して、所定条件が成立し得る状態であることを分かり易く把握させることができるという効果がある。
【１３９０４】
遊技機ＧＢ１またはＧＢ２において、前記所定の操作を第１期間継続して実行する場合よりも、前記第１期間よりも短い第２期間で前記所定の操作を終了した場合に、前記所定条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＧＢ３。
【１３９０５】
遊技機ＧＢ３によれば、遊技機ＧＢ１またはＧＢ２の奏する効果に加え、次の効果を奏

する。即ち、継続して実行している所定の操作を終了した場合に所定条件が成立するため、遊技者に対して、所定の操作を継続するか否かを選択させるという斬新な遊技性を提供することが出来る。よって、遊技者の操作手段に対する操作意欲を向上させることが出来るという効果がある。

【１３９０６】

遊技機ＧＢ３において、前記操作手段に対する操作が有効に判別される操作有効期間を設定可能な操作有効期間設定手段を有し、前記演出制御手段は、前記操作有効期間中における第１期間にて前記演出制御を実行可能であり、前記第１期間が経過したことに基づいて前記演出態様を可変させることが可能な第２演出可変手段を有することを特徴とする遊技機ＧＢ４。

【１３９０７】

遊技機ＧＢ４によれば、遊技機ＧＢ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、演出制御が実行される第１期間が経過した場合にも、第２演出可変手段によって演出態様を可変させることが可能となる。よって、演出制御が実行されている状態において、所定の操作を継続した場合であっても、後に演出態様を可変させることができるため、遊技者に対して、継続している所定の操作を終了するか否かを選択させるという斬新な遊技性を提供することができるという効果がある。

【１３９０８】

遊技機ＧＢ４において、判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて特典を付与可能な特典付与手段と、前記演出制御が実行される前記第１期間として、通常期間と、その通常期間よりも長い特殊期間と、を含む複数の期間の中から１の期間を決定可能な期間決定手段と、を有し、前記特定演出実行手段は、前記判別手段による前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合に、前記特定演出を実行可能であり、前記期間決定手段は、前記判別手段による前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果以外の判別結果である場合よりも、前記特殊期間を決定し易いことを特徴とする遊技機ＧＢ５。

【１３９０９】

遊技機ＧＢ５によれば、遊技機ＧＢ４の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、演出制御が実行される期間として特殊期間が設定された場合に、判別手段の判別結果が特定の判別結果である可能性を高くすることができるため、演出制御が実行された場合において、演出制御が継続する期間の長さを把握するか否かに応じて、所定の操作を終了させるタイミングを遊技者に選択させることができる。即ち、演出制御が実行される期間の長さを把握したい遊技者には、少なくとも、通常期間が経過するまで所定の操作を継続し、今回の演出制御として特殊期間が設定されていることを把握した後に、所定の操作を継続するか否かを選択する遊技を行わせ、演出制御が実行される期間の長さを把握する必要が無い遊技者には、演出制御が実行された直後から、所定の操作を継続するか否かを選択する遊技を行わせることができる。

【１３９１０】

よって、継続している所定の操作を終了させるタイミングを遊技者に選択させるという斬新な遊技性を遊技者に提供することができるという効果がある。

【１３９１１】

＜特徴ＧＣ群＞（連打演出中に、連打操作した場合と長押し操作した場合とで異なる演出制御を実行）

遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて信号を出力する信号出力手段と、その信号出力手段により出力される信号を判別する信号判別手段と、その信号判別手段による前記判別の結果が所定の実行条件を満たした場合に、演出態様を、第１態様から、その第１態様とは異なる最終態様へと段階的に可変させることが可能な演出可変手段と、前記最終態様として、第２態様を含む複数の態様の中から１の態様を決定可能な最終態様決定手段と、前記演出態様が前記第２態様へと可変された場合に特定演出を実行可能な特定演出実行手段と、を有した遊技機において、前記演出可変手段は、

前記所定の実行条件として、第１実行条件が成立した場合と、その第１実行条件とは異なる第２実行条件が成立した場合とで、異なる可変パターンで前記演出態様を前記最終態様へと可変可能であることを特徴とする遊技機ＧＣ１。

【１３９１２】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいた操作演出を実行可能なものがある。そして、操作演出の演出態様として、敵キャラの体力値を減少させる演出態様（以下、ゲージ減少演出）を設け、遊技者に有利な特典を付与可能な場合に、ゲージ減少演出の演出結果として、敵キャラの体力値が０となる演出が実行される遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。

【１３９１３】

また、操作手段を繰り返し押下操作（連打操作）する代わりに、操作手段を継続押下操作（長押し）することで、連打操作した場合と同様にゲージ減少演出を進行させることが可能な機能を有する遊技機も提案されている。

【１３９１４】

しかしながら、従来型の遊技機では、操作手段に対して、長押し操作を実行した場合に、連打操作が実行されている場合と同一の演出態様でゲージ減少演出が実行されるものが一般的であった。つまり、操作手段に対して、連打操作を実行することが困難な遊技者に対する遊技サポートの意味合いで長押し操作をした場合にも連打操作を実行した場合と同一の演出態様でゲージ減少演出を実行可能とするという技術思想を有するものが一般的であって。

【１３９１５】

このような従来型の遊技機では、遊技者に対して、長押し操作という単純な操作を実行するだけで、連打操作を実行した場合と同一の演出態様でゲージ減少演出を実行することが可能となるため、遊技者にゲージ減少演出を楽しませ易くすることができるものであったが、連打操作を実行した場合と、長押し操作を実行した場合とで、実行されるゲージ減少演出の演出態様が類似するため、遊技者に対して、操作手段への操作方法を選択させる楽しみを提供することができず、操作演出に対して遊技者が早期に飽きてしまうという問題があった。

【１３９１６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができる遊技機を提供することを目的とする。

【１３９１７】

遊技機ＧＣ１によれば、成立する実行条件の種別に応じて異なる可変パターンで演出態様を最終態様へと可変させることが可能となる。つまり、操作手段に対して異なる操作を実行した場合に、異なる演出を実行させることが可能となる。よって、遊技者に対して、操作手段への操作を選択させる楽しみを提供することができるため、遊技者が操作手段への操作に早期に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９１８】

遊技機ＧＣ１において、前記第１実行条件が成立したことに基づいて、前記演出可変手段により可変される前記演出態様の前記可変態様を決定可能な可変態様決定手段と、前記第２実行条件が成立している継続期間を判別可能な期間判別手段と、を有し、前記演出可変手段は、前記可変態様決定手段により決定された前記可変態様へと前記演出態様を可変させる第１可変と、前記期間判別手段により判別された前記継続期間に応じて前記演出態様を可変させる第２可変と、を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＣ２。

【１３９１９】

遊技機ＧＣ２によれば、遊技機ＧＣ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１実行条件が成立する場合には、第１実行条件が成立したことに基づいて決定された可変態様へと演出態様が可変し、第２実行条件が成立する場合には、第２実行条件が成立している継続期間の長さに応じて演出態様が可変する。つまり、成立する実行条件の種別に

応じて、演出態様の可変契機を異ならせている。よって、操作手段への操作方法に応じて異なる可変態様で演出態様を可変させることが可能となると共に、演出態様を可変させるタイミングも異ならせることができる。これにより、成立する実行条件の種別に応じて、演出態様の可変態様を大きく異ならせることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３９２０】

遊技機ＧＣ１またはＧＣ２において、前記信号判別手段による前記判別が有効となる１の操作有効期間内に、前記第１実行条件と、前記第２実行条件と、の何れも成立させることが可能であることを特徴とする遊技機ＧＣ３。

【１３９２１】

遊技機ＧＣ３によれば、遊技機ＧＣ１またはＧＣ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、１の操作有効期間中の第１実行条件と、第２実行条件と、の何れも成立させることが可能である。つまり、１の操作有効期間中に、操作手段への操作方法を切り替えることで成立する実行条件の種別を異ならせることができる。よって、遊技者に対して、操作手段を操作している最中に、操作方法を別の操作方法へと切り替えるという斬新な遊技性を提供することができるという効果がある。

【１３９２２】

＜特徴ＧＤ群＞（強制チャンス演出実行制御）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記識別情報が動的表示される期間に演出を実行可能な演出実行手段と、前記演出の演出態様として、前記動的表示されている前記識別情報に対応する前記判別結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも選択され易い第１演出態様を少なくとも含む複数の演出態様の中から１の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、前記演出実行手段により実行される前記演出に関する情報に基づいて演出値を更新可能な更新手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、前記判別手段による前記判別結果に基づいて前記演出態様を決定する第１決定と、前記更新手段によって更新される前記演出値が実行条件を満たした場合に前記判別手段による前記判別結果に関わらず前記演出態様として前記第１演出態様を決定する第２決定と、を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＤ１。

【１３９２３】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示されるものであって、図柄が停止表示されるよりも前に、抽選結果を示唆するための示唆態様を遊技者に報知する報知演出を実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３９２４】

さらに、示唆態様の種別として、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が高い第１種別と、その第１種別よりも抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が低い第２種別と、を少なくとも含む複数の種別の中から１の種別を決定可能に構成し、抽選によって報知される示唆態様の種別を決定可能に構成することで、実行される報知演出に多様性を持たせ、演出効果の向上を図っていた。

【１３９２５】

しかしながら、従来型の遊技機では、示唆態様の種別が抽選によって決定されるため、長期間の間、報知演出が実行されなかったり、特定種別の示唆態様が決定されなかったりする事態が発生することで、予め用意されている多種の演出を遊技者に提供するまでに、遊技者が遊技に飽きてしまうという問題があった。

【１３９２６】
特に、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が高い第１種別は、抽選結果が遊技者に有利では無い抽選結果（例えば、外れ）である場合においては、第２種別よりも決定され難くいため、第１種別が決定された示唆態様を含む報知演出が実行されるまでに遊技者が遊技に飽きてしまうという問題があった。
【１３９２７】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができる遊技機を提供することを目的とする。
【１３９２８】
遊技機ＧＤ１によれば、演出実行手段により実行される演出に関する情報に基づいて更新される演出値が実行条件を満たした場合に、判別手段の判別結果に関わらず、第１演出態様の演出を実行することができるため、第１演出態様の演出が実行されるよりも前に遊技者が遊技に飽きてしまう事態が発生することを抑制することができるという効果がある。
【１３９２９】
遊技機ＧＤ１において、前記更新手段は、前記演出実行手段により実行される前記演出の前記演出態様の種別に応じて更新される前記演出値を異ならせることを特徴とする遊技機ＧＤ２。
【１３９３０】
遊技機ＧＤ２によれば、遊技機ＧＤ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、実行される演出の演出態様に応じて、更新手段により更新される演出値を異ならせることができるため、演出値が実行条件を満たすまでに実行される判別手段による判別回数を異ならせることが可能となる。よって、第１演出態様の演出が実行された場合に、第１決定に基づいて第１演出態様の演出が実行されたのか、第２決定に基づいて第１演出態様の演出が実行されたのかを遊技者に把握させ難くすることができるため、第２決定に基づいて第１演出態様の演出が実行された場合であっても、対応する判別手段の判別結果が特定の判別結果であることを期待させ易くすることができるという効果がある。
【１３９３１】
遊技機ＧＤ２において、前記演出態様決定手段は、前記演出の演出態様として、前記動的表示されている前記識別情報に対応する前記判別結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも選択され難い第２演出態様と、前記第１演出態様、及び前記第２演出態様とは異なる第３演出態様と、を決定可能であり、前記更新手段は、前記第２演出態様が決定された前記演出が実行された場合の方が、前記第３演出態様が決定された前記演出が実行された場合よりも、前記演出値を、前記実行条件が成立し易くなるように更新可能であることを特徴とする遊技機ＧＤ３。
【１３９３２】
遊技機ＧＤ３によれば、遊技機ＧＤ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典が付与される可能性が低い演出が実行された場合には、特典が付与される可能性が低い演出が実行されない場合よりも、第２決定に基づく第１演出態様の演出を実行させ易くすることができる。よって、特典が付与される可能性が低い演出のみが実行され続けてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３９３３】
遊技機ＧＤ３において、前記更新手段は、前記第２演出態様、及び、３演出態様が決定された前記演出が実行された場合の方が、前記第１演出態様が決定された前記演出が実行された場合よりも、前記演出値を、前記実行条件が成立し易くなるように更新可能であることを特徴とする遊技機ＧＤ４。
【１３９３４】
遊技機ＧＤ４によれば、遊技機ＧＤ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特典が付与される可能性が低い演出が実行された方が、特典が付与される可能性が高い演出が実行された場合よりも、短期間で第２決定に基づいて第１演出態様の演出を実行させ

易くすることができる。よって、第１演出態様の演出が頻繁に実行されてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９３５】

＜特徴ＧＥ群＞（激アツ外れ予告発生後の大当たり演出で外した激アツ予告を実行）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に、特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技において、前記識別情報が動的表示される期間に演出を実行可能な演出実行手段と、前記演出の演出態様として、前記動的表示されている前記識別情報に対応する前記判別結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも選択され易い第１演出態様を少なくとも含む複数の演出態様の中から１の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、前記特定の判別結果以外の前記判別結果を示すための識別情報が動的表示される期間に実行される前記演出の演出態様として前記第１演出態様が決定されたことを示す決定情報を所定期間記憶可能な記憶手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、前記判別手段による前記判別結果に基づいて前記演出態様を決定する第１決定と、前記記憶手段に記憶されている前記決定情報に基づいて前記第１演出態様を決定する第２決定と、を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＥ１。

【１３９３６】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示されるものであって、図柄が停止表示されるよりも前に、抽選結果を示唆するための示唆態様を遊技者に報知する報知演出を実行可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３９３７】

さらに、示唆態様の種別として、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が高い第１種別と、その第１種別よりも抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が低い第２種別と、を少なくとも含む複数の種別の中から１の種別を決定可能に構成し、抽選によって報知される示唆態様の種別を決定可能に構成することで、実行される報知演出に多様性を持たせ、演出効果の向上を図っていた。

【１３９３８】

しかしながら、従来型の遊技機では、示唆態様の種別が抽選によって決定されるため、例えば、抽選結果が遊技者に不利となる抽選結果（例えば、外れ）である場合に、第１種別が複数回決定されてしまい、第１種別の示唆態様を含む報知演出が見た目上、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が低い示唆態様となってしまう虞があった。

【１３９３９】

ここで、従来より、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が高い演出の演出態様は、抽選結果が遊技者に有利となる抽選結果（例えば、当たり）である可能性が低い演出の演出態様よりも、遊技者に注視させるために派手な演出態様が規定されているものが一般的である。よって、示唆態様の種別が抽選によって決定される構成では、派手な演出態様で実行される演出が、抽選結果が外れである場合に連続して実行されてしまい、演出効果が著しく低下してしまうという問題があった。

【１３９４０】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出効果を高めることで遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３９４１】

遊技機ＧＥ１によれば、特定の判別結果以外の判別結果を示すための識別情報が動的表示される期間に実行される演出の演出態様として、特定の判別結果である場合の方が、特

定の判別結果以外である場合よりも決定され易い第１演出態様が決定された場合に、その情報を記憶しておき、次に、特定の判別結果を示すための識別情報が動的表示される期間に実行される演出の演出態様を決定する場合に、記憶手段に記憶された情報に基づいて第１演出態様が決定されるように構成しているため、第１演出態様の演出が、特定の判別結果以外の判別結果を示すための識別情報が動的表示される期間に実行される演出として連続して実行されてしまうことを抑制することができる。

【１３９４２】

よって、判別手段の判別結果を示すために実行される演出の演出態様を、予め定めている規則に従って実行させ易くすることができ、演出効果が著しく低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９４３】

遊技機ＧＥ１において、前記演出態様決定手段は、前記特定の判別結果以外の判別結果を示すための識別情報が動的表示されている期間に実行される前記演出の演出態様として、前記記憶手段に前記決定情報が記憶されている場合に、前記第１演出態様以外を決定する第３決定を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＥ２。

【１３９４４】

遊技機ＧＥ２によれば、遊技機ＧＥ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、記憶手段に決定情報が記憶されている間は、特定の判別結果以外の判別結果を示すための識別情報が動的表示されている期間に実行される演出の演出態様として、第１演出態様が決定され難くすることができる。つまり、第１演出態様が、特定の判別結果以外の判別結果を示すための識別情報が動的表示されている期間に実行される演出の演出態様として連続して決定され難くすることができる。よって、判別手段の判別結果を示すために実行される演出の演出態様を、予め定めている規則に従って実行させ易くすることができると共に、連続して第１演出態様の演出が実行された場合に、特定の判別結果である可能性をより高めることができるため、遊技者に対して、実行される演出の演出態様に注視させ易くすることができるという効果がある。

【１３９４５】

遊技機ＧＥ１またはＧＥ２において、前記判別手段による前記判別が所定回数実行された場合に、前記記憶手段に記憶されている前記決定情報を消去可能な消去手段を有することを特徴とする遊技機ＧＥ３。

【１３９４６】

遊技機ＧＥ３によれば、遊技機ＧＥ１またはＧＥ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、記憶手段に記憶されている決定情報が、判別手段により実行される判別の回数に基づいて消去されるため、第２決定が実行される期間に制限を設けることができる。よって、第１決定に基づいて演出態様を決定させ易くすることができ、多種の演出を遊技者に提供することで演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３９４７】

＜特徴ＧＦ群＞（操作有効期間が通常よりも長いロングボタン表示）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に特典を付与可能な特典付与手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことを判別可能な操作判別手段と、その操作判別手段により前記操作手段への操作が有効に判別される有効期間を設定する有効期間設定手段と、その有効期間設定手段により設定された前記有効期間の少なくとも一部期間を遊技者に報知可能な有効期間報知手段と、その有効期間報知手段により前記有効期間が報知されている状態で前記操作判別手段により前記操作手段の操作が判別されたことに基づいて、前記判別手段による前記判別の結果を示すための操作演出を実行可能な操作演出実行手段と、を有した遊技機において、前記有効期間設定手段は、前記有効期間として、第１有効期間と、その第１有効期間よりも長い第２有効期間を設定可能であり、前記判別手段による前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果では無い場合よりも、前記第２有効期間を設定し易いものであることを特徴とする遊技機ＧＦ１。

【１３９４８】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作を有効に判別可能な有効期間を一定期間設定し、その有効期間中に実行された操作手段への操作内容に基づいた操作演出を実行可能な遊技機がある。そして、有効期間が設定された場合には、有効期間が設定されたこと、及び、設定された有効期間の長さを遊技者に報知するための表示態様（有効期間ゲージ）を表示することで、遊技者に対して有効期間中に操作手段を操作させ易くする構成が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。
【１３９４９】
しかしながら、従来型の遊技機では、操作演出を実行可能な期間として設定される有効期間の長さが常に一定であることから、表示される有効期間の長さが常に一定となるため、有効期間が表示された場合における遊技者への操作手段に対する操作意欲に高低を設けることが困難であった。
【１３９５０】
よって、操作演出の演出結果として、遊技者に不利となる演出結果が設定されたため、意欲的に操作手段を操作したにも関わらず、遊技者に有利となる演出結果が表示されなかったり、遊技者に有利となる演出結果が設定されているにも関わらず、操作手段への操作が疎かになり、遊技者に有利となる演出結果が表示されなかったりする事態が発生してしまい、遊技者が操作演出に飽きてしまうという問題があった。
【１３９５１】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者が操作演出に飽きることを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３９５２】
遊技機ＧＦ１によれば、判別手段による判別の結果が特定の判別結果である場合の方が、操作手段への操作が有効に判別される有効期間の長さとして、第２有効期間が設定され易くなり、設定された有効期間の少なくとも一部期間が遊技者に報知される。このように構成することで、遊技者に対して、設定された有効期間の長さを異ならせて報知可能となるため、報知された有効期間の長さに応じて、遊技者に対して、操作手段に対する操作意欲に高低を設けることが可能となる。
【１３９５３】
よって、有効期間が設定される毎に、対応する判別手段による判別の結果に関わらず、同一の操作意欲で操作手段を操作させる従来型の遊技機に比べて、操作手段を操作する前段階において操作手段への操作意欲を異ならせることができるため、遊技者に不利となる演出結果が設定されたため、意欲的に操作手段を操作したにも関わらず、遊技者に有利となる演出結果が表示されなかったり、遊技者に有利となる演出結果が設定されているにも関わらず、操作手段への操作が疎かになり、遊技者に有利となる演出結果が表示されなかったりする事態が発生してしまうことを抑制することができ、遊技者が操作演出に対して飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１３９５４】
遊技機ＧＦ１において、前記有効期間として、前記第１有効期間と前記第２有効期間とを少なくとも含む複数の有効期間の中から１の有効期間を決定可能な有効期間決定手段を有し、前記有効期間設定手段は、前記有効期間決定手段により決定された前記有効期間を設定可能であり、前記有効期間決定手段により決定された前記有効期間の長さを示すための情報を、前記有効期間設定手段により前記決定された有効期間が設定されるまでに報知可能な有効期間事前報知手段を有することを特徴とする遊技機ＧＦ２。
【１３９５５】
遊技機ＧＦ２によれば、遊技機ＧＦ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、有効期間が設定されるよりも前に、事前報知手段により設定される有効期間の長さを示すための情報を報知することができる。よって、今回設定される有効期間の長さを遊技者に

予測させた状態で有効期間を設定することができるため、事前報知手段による報知内容に対応した操作意欲で有効期間の序盤から操作手段を操作させることが可能となるため、遊技者の操作意欲に応じた操作演出を実行させ易くすることができるという効果がある。

【１３９５６】

遊技機ＧＦ１またはＧＦ２において、前記有効期間報知手段は、前記有効期間設定手段により設定された前記有効期間を段階的に報知する第１報知と、前記有効期間設定手段により設定された前記有効期間を一度に報知する第２報知と、を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＦ３。

【１３９５７】

遊技機ＧＦ３によれば、遊技機ＧＦ１またはＧＦ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、有効期間報知手段により報知された有効期間の長さを、途中で増加させる第２報知を実行することができるため、遊技者に対して、今回設定されている有効期間の長さを、把握させ難くすることができる。よって、実際に設定されている有効期間が長いことを遊技者に期待させながら有効期間中に意欲的に操作手段を操作させ易くすることができるという効果がある。

【１３９５８】

＜特徴ＧＧ群＞（絆６０秒ミッション）

所定数を上限に判別情報を記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記判別情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、前記記憶手段に記憶されている前記判別情報を、その判別情報に基づく前記判別が実行されるよりも前に事前判別することが可能な事前判別手段と、その事前判別手段による前記事前判別の結果に基づいて事前演出を実行可能な事前演出実行手段と、その事前演出実行手段により実行される前記事前演出の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、を有した遊技機において、前記演出態様決定手段は、前記記憶手段に記憶されている前記判別情報のうち、第１の範囲に含まれる複数の前記判別情報に対する前記事前判別の結果に基づいて第１演出態様を、前記第１の範囲よりも後の第２の範囲に含まれる複数の前記判別情報に対する前記事前判別の結果に基づいて第２演出態様を、それぞれ決定可能であり、前記遊技機は、所定条件が成立した場合に、前記第２の範囲に含まれる前記複数の判別情報の少なくとも一部を、前記前記第１の範囲に含ませることが可能であることを特徴とする遊技機ＧＧ１。

【１３９５９】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて抽選情報を取得し、取得した抽選情報に基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に所定条件が成立している場合には、遊技状態として、遊技者に有利となる有利遊技状態を所定期間設定可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１３９６０】

また、取得した抽選情報を、所定個数を上限に記憶可能な記憶手段を設け、記憶手段に記憶されている抽選情報を、抽選が実行されるよりも前に事前判別し、これから実行される抽選の結果を事前に示唆可能な事前示唆演出を実行可能な構成も提案されていた。

【１３９６１】

さらに、複数の抽選情報に対する事前判別の結果を、１の事前示唆演出を用いて事前に示唆可能とする構成も提案されていた。

【１３９６２】

上述した従来型の遊技機では、複数の抽選情報に対する事前判別の結果を、１の事前示唆演出を用いて示唆可能であるため、例えば、複数の抽選情報に対する事前判別の結果が、何れも外れであった場合において、１の事前示唆演出の演出結果として、外れを示す演

出結果を遊技者に報知すれば良く、抽選が実行される毎に、抽選結果が外れであることを報知する場合に比べて、抽選結果が外れであることを報知する演出の実行回数を減らすことができる。よって、実行される演出の演出結果として抽選結果が外れであることを示す演出結果が連続して表示されることで遊技者の遊技意欲が低下してしまう事態が発生することを抑制できるものであった。

【１３９６３】

しかしながら、上述した従来型の遊技機では、事前示唆演出に含まれる複数の抽選情報の範囲が一定であるため、長時間遊技をしている遊技者には、事前示唆演出の演出結果が、外れを示す演出結果である場合に、何回分の抽選結果が纏めて表示されているかを容易に把握されてしまうという問題があった。

【１３９６４】

また、事前示唆演出として、当たりを示す演出結果の事前示唆演出が実行される割合と、外れを示す演出結果の事前示唆演出が実行される割合と、が常に一定になるため、事前示唆演出の演出効果を高めることが困難であるという問題があった。

【１３９６５】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出効果を高めることで遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１３９６６】

遊技機ＧＧ１によれば、所定条件が成立した場合に、第１演出態様を決定する際に用いられる判別情報として、通常であれば第２演出態様を決定する際に用いられる第２の範囲に含まれる判別情報も用いることができるため、第１演出態様の演出態様を決定する際に用いられた判別情報の数を遊技者に分かり難くすることができる。よって、後に実行される遊技の内容が遊技者に容易に把握されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９６７】

また、第１演出態様を決定する際に用いられる判別情報の数が増加した場合には、第１演出態様として特定の判別結果となり得る事前判別結果を示すための演出態様が決定され易くなり、第２演出態様として特定の判別結果となり得る事前判別結果を示すための演出態様が決定され難くすることができる。よって、連続して実行される複数回の事前演出に対して、異なる演出態様を決定させ易くすることができるため、様々な演出を遊技者に提供することができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１３９６８】

遊技機ＧＧ１において、前記判別情報を取得し易い第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも取得し難い第２遊技状態と、設定可能な遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されている状態において、前記判別手段により実行される前記判別の回数が終了条件を満たした場合に前記第１遊技状態を終了させることが可能な終了手段と、を有し、前記事前演出実行手段は、前記第１遊技状態が設定されている状態で前記終了条件を満たすまでの前記判別の残回数が特定回数となった場合に、前記第１演出態様の前記事前演出を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＧ２。

【１３９６９】

遊技機ＧＧ２によれば、遊技機ＧＧ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１遊技状態中に実行される判別のうち、事前示唆演出によって判別結果が遊技者に示唆されていない判別の残回数を遊技者に把握させ難くすることができるため、後に実行される遊技の内容が遊技者に容易に把握されてしまい、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９７０】

また、事前示唆演出の演出態様として、特定の判別結果以外の判別結果に対応する演出結果を示す演出態様が決定された場合であっても、事前示唆演出によって判別結果が遊技者に示唆されていない判別の残回数を遊技者に把握させ難くすることで、第１遊技状態中により多くの判別が実行されることを期待させながら遊技者に意欲的に遊技を行わせるこ

とができるという効果がある。
【１３９７１】
遊技機ＧＧ２において、前記事前演出実行手段は、前記第１遊技状態が設定されている状態で実行される複数回の前記判別に対応する前記事前判別結果を用いて前記第２演出態様の前記事前演出を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＧ３。
【１３９７２】
遊技機ＧＧ３によれば、遊技機ＧＧ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１演出態様の事前演出の後に実行される第２演出態様の事前演出も、第１遊技状態が設定されている状態で実行される判別に対応する事前判別結果に基づいて実行される。つまり、第１遊技状態が設定されている状態で終了条件を満たすまでの判別の残回数が特定回数となった場合に、連続して第１演出態様の事前演出と、第２演出態様の事前演出とが実行される。よって、遊技者に対して、第１遊技状態が設定されている状態で実行可能な判別の残回数を分かり難くすることができるという効果がある。
【１３９７３】
遊技機ＧＧ１からＧＧ３の何れかにおいて、前記判別情報として、前記第１の範囲に含まれる前記判別情報の次に前記判別が実行される特定判別情報に対応する前記事前判別の結果が前記特定の判別結果を示すための判別結果である場合に前記所定条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＧＧ４。
【１３９７４】
遊技機ＧＧ４によれば、遊技機ＧＧ１からＧＧ３の何れかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１の範囲に含まれる判別情報の次に判別が実行される特定判別情報に対応する事前判別の結果が特定の判別結果を示すための判別結果である場合に、特定判別情報に対応する事前判別の結果を用いて第１演出態様を決定することができるため、第１演出態様の事前演出が実行される演出期間が無用に長くなってしまうことを抑制することができ、遊技者に違和感を与えることの無い演出を実行することができるという効果がある。
【１３９７５】
また、第２の範囲に含まれる判別情報のうち、最初に判別が実行される判別情報が特定の判別結果となることを第２演出態様の事前演出を用いて報知する場合に比べて、事前演出が実行されてから演出結果を報知するまでの演出期間を長く確保することができるため、遊技者に分かり易い事前演出を実行し易くすることができるという効果がある。
【１３９７６】
遊技機ＧＧ１からＧＧ４のいずれかにおいて、前記判別手段の判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、その動的表示手段により前記表示手段に動的表示される前記識別情報の動的表示期間を決定可能な動的表示期間決定手段と、を有し、前記動的表示期間決定手段は、前記特定判別情報に基づく前記判別の結果を示すための前記識別情報の動的表示期間として、第１動的表示期間と、その第１動的表示期間よりも長い第２動的表示期間と、を少なくとも決定可能であり、前記遊技機は、前記特定判別情報に基づく前記判別の結果を示すための前記識別情報の動的表示期間として前記第１動的表示期間が決定される場合に、前記所定条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＧＧ５。
【１３９７７】
遊技機ＧＧ５によれば、遊技機ＧＧ１からＧＧ４のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定判別情報に基づく判別の結果を示すための識別情報の動的表示期間として短い動的表示期間が決定される場合に、特定判別情報に対応する事前判別の結果を用いて第１演出態様を決定することができるため、第１演出態様の事前演出が実行される演出期間が無用に長くなってしまうことを抑制することができ、遊技者に違和感を与えることの無い演出を実行することができるという効果がある。
【１３９７８】
＜特徴ＧＨ群＞（大当たり遊技中の払い出し数と、保留連の有無とに基づいて大当たり

演出の演出態様を決定）
　情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別として、異なる特典を付与可能な複数の特典種別の中から１の特典種別を決定可能な特典種別決定手段と、前記特典遊技が実行されることを報知するための特典演出を実行可能な特典演出実行手段と、を有した遊技機において、前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段よりも先に判別を実行することが可能な事前判別手段と、前記特典演出実行手段により実行される前記特典演出の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、特定の前記特典種別が決定された前記特典遊技が実行される場合と、前記特定の特典種別とは異なる前記特典種別が決定された前記特典遊技が実行され、且つ、前記事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合とで、同一の特定演出態様を決定可能であることを特徴とする遊技機ＧＨ１。
【１３９７９】
　従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて抽選情報を取得し、取得した抽選情報に基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技として、有利度合いの異なる特典遊技の何れかが実行される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１３９８０】
　加えて、特典遊技中に付与される特典の内容を、特典遊技が実行されてから遊技者に報知することで、特典遊技が実行されるよりも前に特典の内容を報知する場合に比べて、より有利な特典が付与されることに対する期待感を継続して抱かせることができるようする構成が提案されていた。
【１３９８１】
　また、取得した抽選情報を、所定個数を上限に記憶可能な記憶手段を設け、記憶手段に記憶されている抽選情報を、抽選が実行されるよりも前に事前判別し、例えば、特典遊技中において、記憶されている抽選情報の中に当たり当選する抽選結果となる抽選情報が含まれていることを遊技者に報知可能な構成も提案されていた。
【１３９８２】
　上述した従来型の遊技機では、特典遊技が実行されている間に、実行中の特典遊技によって付与される特典の内容や、新たに別の特典遊技が実行される可能性を遊技者に報知する演出を実行することができるため、特典遊技中の遊技者を実行される演出に注視させることができ、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制することができるものであった。
【１３９８３】
　しかしながら従来型の遊技機では、実行中の特典遊技によって付与される特典の内容と、新たに別の特典遊技が実行されることが、別の演出によって報知されるため、遊技者に対して後に実行される遊技の内容を容易に把握させてしまうことから、特典遊技中に実行される演出の内容によっては、演出の内容を把握した遊技者の遊技に対する遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１３９８４】
　本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３９８５】
　遊技機ＧＨ１によれば、特定の特典種別が決定された特典遊技が実行される場合と、特定の特典種別とは異なる特典種別が決定された特典遊技が実行され、且つ、事前判別手段

により特定の判別結果と判別される情報が記憶されていると判別された場合とで、特典演出の演出態様として、同一の特定演出態様を決定することができるため、特典演出の演出内容を把握した遊技者に対して、後に実行される遊技内容を予測する楽しみを提供することができるため、特典演出の内容を把握した遊技者の遊技に対する遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９８６】

遊技機ＧＨ１において、前記特典演出実行手段は、複数回の前記特典遊技が実行される期間の少なくとも一部を前記演出期間として前記特典演出を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＨ２。

【１３９８７】

遊技機ＧＨ２によれば、複数回の特典遊技を跨ぐように前記特典演出を実行することができるため、特定の特典種別が決定された特典遊技が実行される場合と、特定の特典種別とは異なる特典種別が決定された特典遊技が実行され、且つ、事前判別手段により特定の判別結果と判別される情報が記憶されていると判別された場合とで、同一の演出態様で特典演出を実行した場合であっても遊技者に違和感を与えてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１３９８８】

遊技機ＧＨ１またはＧＨ２において、前記特典遊技が終了した後に、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態と、を設定可能な遊技状態設定手段を有し、前記遊技機は、前記特定の特典種別が決定された前記特典遊技の方が、前記特定の特典種別以外の特典種別が決定された前記特典遊技よりも、前記特典遊技の終了後に前記第２遊技状態が設定され易く構成され、前記特典演出実行手段は、前記特定の特典種別とは異なる前記特典種別が決定された前記特典遊技が実行され、且つ、前記事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合において、前記記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて実行される前記特典遊技が終了した後に、前記第２遊技状態が設定された場合に前記特定演出態様の前記特典演出を実行可能であることを特徴とする遊技機ＧＨ３。

【１３９８９】

遊技機ＧＨ３によれば、遊技機ＧＨ１またはＧＨ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、複数の特典遊技に対応させて特定の演出態様の特典演出が実行される場合には、対応する特典遊技が終了した後に第２遊技状態が設定されるため、特定の演出態様の特典演出が実行された場合に、第２遊技状態が設定される期待度を高めることができるという効果がある。

【１３９９０】

＜特徴ＧＩ群＞（複合演出に用いられる各演出要素を個々に報知する順序を、成立条件に応じて切り替える）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、前記判別手段による前記判別の結果を示すための演出を実行可能な演出実行手段と、を有した遊技機において、複数の演出情報を順に報知可能な演出情報報知手段を有し、前記演出実行手段は、前記演出として、前記演出情報報知手段により報知された前記演出情報に対応する演出態様を含む複合演出を実行可能であり、前記遊技機は、前記演出情報報知手段により報知される前記演出情報の順序を異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機ＧＩ１。

【１３９９１】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行されるものであって、抽選結果を示すための演出を実行することにより遊技者に対して抽選結果を予測させることが可能な構

成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１５－２０８５５７号公報）。
【１３９９２】
さらに、演出に用いられる演出態様を示す演出情報の少なくとも一部を、その演出が実行されるよりも前に遊技者に報知することで、これから実行される演出の内容を遊技者に予め予測させる楽しみを提供可能にする構成が提案されていた。
【１３９９３】
しかしながら、上述した従来型の遊技機では、特定の順序で演出情報が報知されるため、例えば、先に報知される演出情報（第１演出情報）の方が、後に報知される演出情報（第２演出情報）よりも抽選結果を遊技者が予測し易い演出情報である場合には、遊技者に対して早期に抽選結果を予測されてしまい、後に報知される演出情報の内容に対して遊技者が興味を持たなくなるという問題があった。
【１３９９４】
また、第１演出情報よりも第２演出情報の方が、抽選結果を遊技者が予測し易い演出情報となるように構成することで、特定の順序で演出情報を報知した場合であっても、第２演出情報が報知されるまで、抽選結果を遊技者に予測させ難くすることが可能となるが、この場合、第１演出情報の報知に対して遊技者が興味を持たなくなり、演出情報を順に報知することの演出効果を高めることが出来ないという問題があった。
【１３９９５】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出効果を高めることで遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。
【１３９９６】
遊技機ＧＩ１によれば、複合演出に含まれる演出態様に対応する複数の演出情報の報知順序を異ならせることができるため、複合演出の演出内容を遊技者に予測させる楽しみを継続させ易くすることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。
【１３９９７】
遊技機ＧＩ１において、前記複合演出の種別として、第１種別と、その第１種別とは異なる第２種別と、を含む複数の種別の中から１の種別を決定可能な演出種別決定手段と、その演出種別決定手段により決定された前記種別を報知可能な種別報知手段と、を有し、前記種別報知手段は、前記演出情報が報知されるよりも前に決定された前記種別を報知可能であり、前記遊技機は、前記演出種別決定手段により決定された前記複合演出の種別に応じて前記演出情報報知手段により報知される前記演出情報の順序を異ならせることが可能であり、演出情報報知手段により先に報知される第１演出情報よりも、その第１演出情報よりも後に報知される第２演出情報の方が、判別手段の判別結果を予測し易い演出情報が決定され易いように構成していることを特徴とする遊技機ＧＩ２。
【１３９９８】
遊技機ＧＩ２によれば、遊技機ＧＩ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、決定された複合演出の種別に応じて演出情報の報知順序を異ならせることができ、判別手段の判別結果を予測し易い演出情報が第２演出情報に決定されるため、演出情報報知手段により複数の演出情報が報知される期間において、判別手段の判別結果が特定の判別結果であることを期待しながら遊技を行わせることができるという効果がある。
【１３９９９】
遊技機ＧＩ２において、前記演出種別決定手段は、前記第１種別及び前記第２種別とは異なる第３種別を決定可能であり、前記種別報知手段は、前記複合演出の種別として前記第３種別が決定された場合には、前記演出情報が報知された後に決定された前記種別を報知可能であり、前記遊技機は、前記判別手段の判別結果が特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果以外の判別結果である場合よりも前記複合演出の種別として前記第３種別が決定され易くなるように構成していることを特徴とする遊技機ＧＩ３。
【１４０００】
遊技機ＧＩ３によれば、遊技機ＧＩ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、決定された複合演出の種別に応じて、複合演出の種別を報知するタイミングを異ならせる

ことができるため、複合演出が実行されるまでの期間において遊技者に対して様々な演出を提供し易くすることができるという効果がある。

【１４００１】

＜特徴ＧＪ群＞（複数回のバトルが実行されるバトル演出において、最終より前に実行される攻撃パターンによって、最終バトルにて特定攻撃パターンが実行された場合の演出結果を限定可能）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、前記判別手段による前記判別の結果を示すための演出を実行可能な演出実行手段と、を有した遊技機において、前記演出実行手段は、前記演出として、第１特定演出と、第２特定演出と、少なくとも連続して実行可能であり、前記第１特定演出の演出態様として、第１特定演出態様を含む複数の演出態様の中から１の演出態様を決定可能な演出態様決定手段を有し、前記遊技機は、前記第２特定演出の演出結果によって前記判別の結果を報知可能であり、前記第１特定演出態様の前記第１特定演出が実行された場合の方が、前記第１特定演出態様以外の演出態様で前記第１特定演出が実行された場合よりも、前記第２特定演出の演出態様として、第２特定演出態様が決定された場合における演出結果を遊技者に予測させ易くすることが可能であることを特徴とする遊技機ＧＪ１。

【１４００２】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行されるものであって、抽選結果を示すための演出を実行することにより遊技者に対して抽選結果を予測させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１５－２０８５５７号公報）。

【１４００３】

さらに、同一態様の演出を複数回実行し、最後に実行される演出の結果によって、抽選結果を遊技者に報知することで、抽選結果を報知するまでに実行される演出の多様化を図り演出効果の向上を図った構成が提案されている。

【１４００４】

しかしながら、上述した従来型の遊技機では、演出を複数回実行することにより、演出の多様化を図ることは可能であったが、最後に実行される演出の結果によって抽選結果が報知されることから、複数回の演出のうち、最後以外に実行される演出の内容に遊技者が興味を持たず、演出効果が低下してしまうという問題があった。

【１４００５】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出効果を高めることで遊技者の遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１４００６】

遊技機ＧＪ１によれば、第１特定演出の演出態様によって、第２特定演出態様で第２特定演出が実行された場合における第２特定演出の演出結果の予測のさせ易さを異ならせることができるため、第１特定演出の演出内容に興味を持たせることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。また、第１特定演出態様で第１特定演出が実行されたことを把握した遊技者に対して、特定第２演出態様で第２特定演出が実行されることを期待させながら実行される演出の内容を注視させることができるという効果がある。

【１４００７】

遊技機ＧＪ１において、前記演出態様決定手段は、前記判別手段による前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合の方が、前記特定の判別結果以外の判別結果である場合よりも、前記第１特定演出態様を決定し易いことを特徴とする遊技機ＧＪ２。

【１４００８】

遊技機ＧＪ２において、前記演出実行手段により実行される前記演出の結果として、遊技者に有利となる第１演出結果と、遊技者に不利となる第２演出結果と、前記第２演出結

果より遊技者に有利となる前記第３演出結果と、の何れかを決定可能な演出結果決定手段を有し、前記遊技機は、前記第２特定演出の演出結果として前記第２演出結果以外の演出結果が決定された場合に、前記第１特定演出態様が決定された前記第１特定演出が実行された後に実行される前記第２特定演出の演出態様として前記第２特定演出態様を決定可能であることを特徴とする遊技機ＧＪ３。

【１４００９】

遊技機ＧＪ３によれば、遊技機ＧＪ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、判別手段の判別結果を示すために実行される演出の演出結果として、遊技者に不利となる第２演出結果以外の演出結果が決定された場合に、第１特定演出態様の第１特定演出と、第２特定演出態様の第２特定演出と、を連続して実行することができるため、第１特定演出態様で第１特定演出が実行されたことを把握した遊技者に対して、特定第２演出態様で第２特定演出が実行されることを期待させながら実行される演出の内容を注視させることができるという効果がある。

【１４０１０】

＜５０７５系の特徴群＞

＜特徴ＨＡ群＞（特定の遊技状態において共通の終了条件を設定しつつ継続率を可変させる）

予め定められた特定の実行条件の成立に基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、遊技者に有利な第１遊技状態を設定可能な第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が第１の割合となる第１制御がされる遊技と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が前記第１の割合よりも高い第２の割合となる第２制御がされる遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技を設定可能な設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＡ１。

【１４０１１】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、遊技者にとって有利度合いが異なる複数の状態を設定可能にすることで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４０１２】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４０１３】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが高い特定の遊技状態（例えば、時短遊技状態）の終了条件を複数設ける構成とし、特定の遊技状態が設定された契機に応じて異なる終了条件を設定することにより、同じ特定の遊技状態でも設定契機に応じて有利度合いを異ならせているものも存在する。

【１４０１４】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、設定契機毎の終了条件をＲＯＭ等の記憶装置に対して予め規定しておく必要があるため、終了条件が増えるほど遊技機の記憶容量が増大してしまうという問題点がある。

【１４０１５】

これに対して遊技機ＨＡ１によれば、予め定められた特定の実行条件の成立に基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、遊技者に有利な第１遊技状態を設定可能な第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前

記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が第１の割合となる第１制御がされる遊技と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が前記第１の割合よりも高い第２の割合となる第２制御がされる遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技を設定可能な設定手段と、を備える。

【１４０１６】

これにより、同じ第１遊技状態であっても、第１制御が実行されるか第２制御が実行されるかによって特典遊技が実行される可能性を異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４０１７】

遊技機ＨＡ１において、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記特定条件が成立し易くなる制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ２。

【１４０１８】

遊技機ＨＡ２によれば、遊技機ＨＡ１の奏する効果に加え、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記特定条件が成立し易くなる制御で構成されているので、第１制御であるか、第２制御であるかによって特定条件の成立し易さを可変させることができる。よって、特定条件が成立するよりも前に特定の実行条件が成立する可能性を異ならせることができるという効果がある。

【１４０１９】

遊技機ＨＡ１又はＨＡ２において、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて成立する条件で構成されているものであり、前記特定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ３。

【１４０２０】

遊技機ＨＡ３によれば、遊技機ＨＡ１又はＨＡ２の奏する効果に加え、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて成立する条件で構成されているものであり、前記特定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されている。

【１４０２１】

これにより、第１の判別の実行回数が特定回数未満の範囲においては第１遊技状態が維持されるので、第１遊技状態において特定回数の第１の判別の実行を保証することができるという効果がある。

【１４０２２】

遊技機ＨＡ３において、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定回数の前記第１の判別が実行されるまでの間に実行される前記第２の判別の実行回数が少ない回数となり易い制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ４。

【１４０２３】

遊技機ＨＡ４によれば、遊技機ＨＡ３の奏する効果に加え、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定回数の前記第１の判別が実行されるまでの間に実行される前記第２の判別の実行回数が少ない回数となり易い制御で構成されているので、第２遊技状態が設定されるまでに実行される第２の判別の実行回数を異

ならせることで、実質的に特定の実行条件の成立割合を異ならせることができるという効果がある。

【１４０２４】

遊技機ＨＡ３又はＨＡ４において、特定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が前記特定回数となったことに基づいて成立する第１特定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い第１回数となったことに基づいて成立する第２特定条件と、で少なくとも構成されており、前記第１制御と前記第２制御とは、前記第２特定条件が成立するよりも前に前記第１特定条件が成立し易くなるように構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１特定条件が成立するまでに要する期間が短くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ５。

【１４０２５】

遊技機ＨＡ５によれば、遊技機ＨＡ３又はＨＡ４の奏する効果に加え、特定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が前記特定回数となったことに基づいて成立する第１特定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い第１回数となったことに基づいて成立する第２特定条件と、で少なくとも構成されており、前記第１制御と前記第２制御とは、前記第２特定条件が成立するよりも前に前記第１特定条件が成立し易くなるように構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１特定条件が成立するまでに要する期間が短くなり易く構成されている。

【１４０２６】

これにより、第１特定条件が成立するまでに要する期間の長さを異ならせることで第２の判別の実行回数を異ならせて特定の実行条件が成立する割合を異ならせるという斬新な制御を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４０２７】

遊技機ＨＡ５において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１の判別の判別結果を示す第１の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２の判別の判別結果を示す第２の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、その動的表示期間設定手段により設定される前記動的表示期間として、第１動的表示期間と、その第１動的表示期間よりも長い第２動的表示期間と、を少なくとも含む複数のうち１の期間を選択する期間選択手段と、を備え、前記第１制御は、前記期間選択手段により前記第１動的表示期間が選択される割合が前記第２制御よりも高くなる制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ６。

【１４０２８】

遊技機ＨＡ６によれば、遊技機ＨＡ５の奏する効果に加え、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１の判別の判別結果を示す第１の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２の判別の判別結果を示す第２の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、その動的表示期間設定手段により設定される前記動的表示期間として、第１動的表示期間と、その第１動的表示期間よりも長い第２動的表示期間と、を少なくとも含む複数のうち１の期間を選択する期間選択手段と、を備え、前記第１制御は、前記期間選択手段により前記第１動的表示期間が選択される割合が前記第２制御よりも高くなる制御で構成されている。

【１４０２９】

これにより、第１制御と第２制御とで、期間選択手段により選択される動的表示期間の傾向を異ならせることで実質的に第１特定条件が成立するまでに要する期間の長さを異ならせることができるという効果がある。

【１４０３０】
遊技機ＨＡ６において、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段による前記第２の識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の識別情報の動的表示を開始可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ７。
【１４０３１】
遊技機ＨＡ７によれば、遊技機ＨＡ６の奏する効果に加え、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段による前記第２の識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の識別情報の動的表示を開始可能に構成されているので、第１の識別情報の動的表示を、第２の識別情報の動的表示の状況によらず開始させることができる。よって、第１の判別を頼効率良く実行することができるという効果がある。
【１４０３２】
遊技機ＨＡ７において、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示が行われている間に前記第２の識別情報の動的表示を開始可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ８。
【１４０３３】
遊技機ＨＡ８によれば、遊技機ＨＡ７の奏する効果に加え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示が行われている間に前記第２の識別情報の動的表示を開始可能に構成されているので、第２の識別情報の動的表示を、第１の識別情報の動的表示の状況によらず開始させることができる。よって、第２の判別を頼効率良く実行することができるという効果がある。
【１４０３４】
遊技機ＨＡ３からＨＡ８のいずれかにおいて、前記第２の判別は、前記第１の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＡ９。
【１４０３５】
遊技機ＨＡ９によれば、遊技機ＨＡ３からＨＡ８のいずれかが奏する効果に加え、前記第２の判別は、前記第１の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されているので、第１の判別よりも第２の判別が実行されることを強く期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４０３６】
＜特徴ＨＢ群＞（１の時短状態の間に大当たりに当選する可能性を示す演出を実行し、遊技の状況に応じて演出態様が示す可能性を更新する）
所定の判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて特定演出を実行する特定演出実行手段と、その特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、前記第２の設定条件が成立するよりも前に前記特定の判別結果となる可能性が低い予め定められた第１の状況である場合に第１演出態様を決定し、前記第１の状況よりも前記第２の設定条件が成立する前に前記特定の判別結果となる可能性が高い第２の状況である場合に第２演出態様を決定することが可能な演出態様決定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＢ１。
【１４０３７】
ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４０３８】
しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。
【１４０３９】
また、係る従来型の遊技機の中には、所定期間内（例えば、保留球を全て消化しきるまでの間）に当たり遊技が実行される期待度を示す興趣演出を実行可能に構成されたものも存在し、実行中の変動表示だけでなく、複数回の変動表示に渡って当たり遊技が実行される期待感を持続的に抱かせ続けることが可能に構成されたものも存在する。
【１４０４０】
しかしながら、係る従来型の遊技機では、比較的少ない回数分の変動表示を対象としてしか、当たり遊技が実行される期待度を示す演出を実行することができないため、興趣を向上させることが困難であった。
【１４０４１】
これに対して遊技機ＨＢ１によれば、所定の判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて特定演出を実行する特定演出実行手段と、その特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、前記第２の設定条件が成立するよりも前に前記特定の判別結果となる可能性が低い予め定められた第１の状況である場合に第１演出態様を決定し、前記第１の状況よりも前記第２の設定条件が成立する前に前記特定の判別結果となる可能性が高い第２の状況である場合に第２演出態様を決定することが可能な演出態様決定手段と、を備える。
【１４０４２】
これにより、特定演出の演出態様によって第１遊技状態の間に特定の判別結果となる可能性を遊技者に示すことができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４０４３】
遊技機ＨＢ１において、前記特定演出実行手段は、前記第１演出態様の前記特定演出の実行中に前記第２の状況となったことに基づいて、前記第２の演出態様の前記特定演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ２。
【１４０４４】
遊技機ＨＢ２によれば、遊技機ＨＢ１の奏する効果に加え、前記特定演出実行手段は、前記第１演出態様の前記特定演出の実行中に前記第２の状況となったことに基づいて、前記第２の演出態様の前記特定演出を実行可能に構成されているので、第１遊技状態において状況が変化した場合に、変化した状況に応じて特定演出の演出態様を切り替えることができる。よって、特定演出によって遊技者に対して正確な状況を示すことができるという効果がある。
【１４０４５】
遊技機ＨＢ１又はＨＢ２において、前記特典遊技の実行中に予め定められた第１演出を実行する第１演出実行手段と、その第１演出実行手段により実行される前記第１演出の演出態様として、実行中の前記特典遊技が終了した後の遊技状態として前記第１の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第１演出態様に対応する第３演出態様を決定し、前記第２の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第２演出態様に対応する第４演出態様を決定することが可能に構成されている演出態様決定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＢ３。
【１４０４６】
遊技機ＨＢ３によれば、遊技機ＨＢ１又はＨＢ２の奏する効果に加え、前記特典遊技の実行中に予め定められた第１演出を実行する第１演出実行手段と、その第１演出実行手段

により実行される前記第１演出の演出態様として、実行中の前記特典遊技が終了した後の遊技状態として前記第１の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第１演出態様に対応する第３演出態様を決定し、前記第２の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第２演出態様に対応する第４演出態様を決定することが可能に構成されている演出態様決定手段と、を備える。

【１４０４７】

これにより、特典遊技の実行中に、第１演出によって特典遊技の終了後の第１遊技状態において特定の判別結果となる可能性を遊技者に対して示すことができるので、特典遊技の実行中における遊技者の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４０４８】

遊技機ＨＢ１からＨＢ３のいずれかにおいて、前記第２の状況は、前記第１の状況よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定の判別結果とならずに前記第２の設定条件が成立するまでの間に実行される前記判別手段の判別の回数が多くなり易い状況で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ４。

【１４０４９】

遊技機ＨＢ４によれば、遊技機ＨＢ１からＨＢ３のいずれかが奏する効果に加え、前記第２の状況は、前記第１の状況よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定の判別結果とならずに前記第２の設定条件が成立するまでの間に実行される前記判別手段の判別の回数が多くなり易い状況で構成されているので、特定の判別結果となる機会をより多く獲得できる。よって、第２演出態様の特定演出が実行されることを強く期待させることができるという効果がある。

【１４０５０】

遊技機ＨＢ４において、前記判別手段は、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成され、前記第２の設定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が、前記第１の状況と前記第２の状況とで共通の予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ５。

【１４０５１】

遊技機ＨＢ５によれば、遊技機ＨＢ４の奏する効果に加え、前記判別手段は、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成され、前記第２の設定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が、前記第１の状況と前記第２の状況とで共通の予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されている。

【１４０５２】

これにより、第１の状況でも、第２の状況でも、第１の判別の実行回数が特定回数になることで第２の設定条件が成立して第２遊技状態が設定されるにもかかわらず、第１の状況と第２の状況とで特定の判別結果となる可能性を異ならせることができる斬新な制御を実現できるという効果がある。

【１４０５３】

遊技機ＨＢ５において、前記第２の設定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が、前記特定回数となったことに基づいて成立する第１設定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い回数であって前記第１の状況と前記第２の状況とで共通の回数である予め定められた第２回数となったことに基づいて成立する第２設定条件と、で少なくとも構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ６。

【１４０５４】

遊技機ＨＢ６によれば、遊技機ＨＢ５の奏する効果に加え、前記第２の設定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が、前記特定回数とな

ったことに基づいて成立する第１設定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い回数であって前記第１の状況と前記第２の状況とで共通の回数である予め定められた第２回数となったことに基づいて成立する第２設定条件と、で少なくとも構成されているので、第２の設定条件として第１の状況と第２の状況とによらない共通の設定条件を設定しているにもかかわらず、状況によって特定の判別結果となる可能性を異ならせることができる斬新な制御を実現できるという効果がある。

【１４０５５】

遊技機ＨＢ５又はＨＢ６において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示す第１の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示す第２の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、その動的表示期間設定手段により設定される前記動的表示期間として、第１動的表示期間と、その第１動的表示期間よりも長い第２動的表示期間と、を少なくとも含む複数のうち１の期間を選択する期間選択手段と、を備え、前記第１の状況は、前記期間選択手段により前記第１動的表示期間が選択される割合が前記第２の状況よりも高くなることを特徴とする遊技機ＨＢ７。

【１４０５６】

遊技機ＨＢ７によれば、遊技機ＨＢ５又はＨＢ６の奏する効果に加え、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示す第１の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示す第２の識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、その動的表示期間設定手段により設定される前記動的表示期間として、第１動的表示期間と、その第１動的表示期間よりも長い第２動的表示期間と、を少なくとも含む複数のうち１の期間を選択する期間選択手段と、を備え、前記第１の状況は、前記期間選択手段により前記第１動的表示期間が選択される割合が前記第２の状況よりも高くなる。

【１４０５７】

これにより、第１の状況と第２の状況とで、期間選択手段により選択される動的表示期間の傾向を異ならせることで実質的に第１設定条件が成立するまでに要する期間の長さを異ならせ、第１設定条件が成立するまでに実行可能な第２判別手段の判別の実行回数を異ならせることができるという効果がある。

【１４０５８】

遊技機ＨＢ７において、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段による前記第２の識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の識別情報の動的表示を開始可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ８。

【１４０５９】

遊技機ＨＢ８によれば、遊技機ＨＢ７の奏する効果に加え、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段による前記第２の識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の識別情報の動的表示を開始可能に構成されているので、第１の識別情報の動的表示を、第２の識別情報の動的表示の状況によらず開始させることができる。よって、第１の判別を頼効率良く実行することができるという効果がある。

【１４０６０】

遊技機ＨＢ８において、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示が行われている間に前記第２の識別情報の動的表示を開始可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ９。

【１４０６１】

遊技機ＨＢ９によれば、遊技機ＨＢ８の奏する効果に加え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段による前記第１の識別情報の動的表示が行われている間に前記第２の識別情報の動的表示を開始可能に構成されているので、第２の識別情報の動的表示を、

第１の識別情報の動的表示の状況によらず開始させることができる。よって、第２の判別を頼効率良く実行することができるという効果がある。

【１４０６２】

遊技機ＨＢ５からＨＢ９のいずれかにおいて、前記第２判別手段の判別は、前記第１判別手段の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＢ１０。

【１４０６３】

遊技機ＨＢ１０によれば、遊技機ＨＢ５からＨＢ９のいずれかが奏する効果に加え、前記第２判別手段の判別は、前記第１判別手段の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されているので、第１判別手段の判別よりも第２判別手段の判別が実行されることを強く期待して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４０６４】

＜特徴ＨＣ群＞（有利状態終了後に有利側の保留が貯まり得る遊技方法を遊技者に促す演出を実行する）

遊技球を第１方向と、その第１方向とは異なる第２方向と、に少なくとも発射可能に構成された発射手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第１状態を設定する第１状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１方向よりも前記第２方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第２状態を設定する第２状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第１演出を実行する第１演出実行手段と、前記第２状態において所定期間、前記第１演出によって示唆される遊技と同一の遊技を遊技者に示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＣ１。

【１４０６５】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４０６６】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４０６７】

また、係る従来型の遊技機の中には、遊技者にとって有利な遊技方法（遊技球の発射方向）を遊技状態毎に異ならせることにより、遊技状態に応じて遊技方法を変更する楽しみを遊技者に与えることが可能に構成しているものも存在する。

【１４０６８】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、各遊技状態における遊技の状況によらずに、遊技状態に対応する遊技方法が報知するのが一般的であるため、状況によっては有利度合いが低下してしまう可能性があるという問題点がある。

【１４０６９】

これに対して遊技機ＨＣ１によれば、遊技球を第１方向と、その第１方向とは異なる第２方向と、に少なくとも発射可能に構成された発射手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第１状態を設定する第１状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１方向

よりも前記第２方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第２状態を設定する第２状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第１演出を実行する第１演出実行手段と、前記第２状態において所定期間、前記第１演出によって示唆される遊技と同一の遊技を遊技者に示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備える。

【１４０７０】

これにより、第２方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易い第２状態において、第１方向へと遊技球を発射する遊技方法を遊技者に示唆する斬新な演出態様を実現できるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４０７１】

遊技機ＨＣ１において、前記第２状態は、予め定められた特定条件が成立している間、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易くなるように構成されており、前記第２演出実行手段は、少なくとも前記特定条件が成立している間、前記第２演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ２。

【１４０７２】

遊技機ＨＣ２によれば、遊技機ＨＣ１の奏する効果に加え、前記第２状態は、予め定められた特定条件が成立している間、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易くなるように構成されており、前記第２演出実行手段は、少なくとも前記特定条件が成立している間、前記第２演出を実行可能に構成されている。

【１４０７３】

これにより、基本的に第２方向へと遊技球を発射した方が有利となる第２状態において、特定条件が成立して第１方向へと遊技球を発射した方が有利となる状況となった場合に、第２演出により第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆することができるので、遊技者が損をしてしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４０７４】

遊技機ＨＣ２において、前記特定条件は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ３。

【１４０７５】

遊技機ＨＣ３によれば、遊技機ＨＣ２の奏する効果に加え、前記特定条件は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて成立する条件で構成されているので、第１状態が開始されてから第２状態に移行し、且つ、特定条件が不成立の状態となるまで、第１方向へと遊技球を発射する遊技方法を第１演出および第２演出によって示唆し続けることができる。よって、第１状態が終了された後も、特定条件が不成立の状態となるまで第１状態であるかのように遊技者に思わせることができるので、第１状態が実際よりも長く継続しているかのように思わせることができるという効果がある。

【１４０７６】

遊技機ＨＣ１からＨＣ３のいずれかにおいて、前記第１方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第２方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第２方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第１方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別と前記第２の判別とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第１状態は、前記第２状態よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成され、前記第２状態は、前記所定期間において、前記所定期間以外の期間よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ４

。
【１４０７７】
遊技機ＨＣ４によれば、遊技機ＨＣ１からＨＣ３のいずれかが奏する効果に加え、前記第１方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第２方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第２方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第１方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別と前記第２の判別とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第１状態は、前記第２状態よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成され、前記第２状態は、前記所定期間において、前記所定期間以外の期間よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成されている。
【１４０７８】
これにより、有利度合いが低い第２状態においても所定期間の間は、第１状態と同様に、第１判別手段の判別が実行され易くなるという斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。
【１４０７９】
遊技機ＨＣ４において、前記第１状態は、前記第１方向へと遊技球を発射し続けた場合に当該発射された遊技球が第１の割合で前記第１入球手段へと入球するように構成され、前記第２状態は、前記第１方向へと遊技球を発射し続けた場合に当該発射された遊技球が前記第１の割合以上の割合で前記第１入球手段へと入球するように構成され、前記所定期間は、前記第１判別手段の判別が実行されてから当該判別の判別結果が示されるまでの期間が、前記所定期間以外の期間よりも短くなるように構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ５。
【１４０８０】
遊技機ＨＣ５によれば、遊技機ＨＣ４の奏する効果に加え、前記第１状態は、前記第１方向へと遊技球を発射し続けた場合に当該発射された遊技球が第１の割合で前記第１入球手段へと入球するように構成され、前記第２状態は、前記第１方向へと遊技球を発射し続けた場合に当該発射された遊技球が前記第１の割合以上の割合で前記第１入球手段へと入球するように構成され、前記所定期間は、前記第１判別手段の判別が実行されてから当該判別の判別結果が示されるまでの期間が、前記所定期間以外の期間よりも短くなるように構成されている。
【１４０８１】
これにより、第２状態でも第１入球手段へと遊技球が第１の割合以上の割合で入球するので、第２演出の実行中に第１方向へと遊技球を発射した遊技者に損をさせてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１４０８２】
遊技機ＨＣ４又はＨＣ５において、前記第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記第１の判別に用いるための判別情報を取得する判別情報取得手段と、その判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、特定の情報数を上限として、前記第１の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、を備え、前記所定期間は、前記特定の情報数の判別情報が前記判別情報記憶手段に記憶された状態で１の前記判別情報が前記第１の判別に用いられてから前記特定の情報数における最後の前記判別情報を用いた前記第１の判別の判別結果が示されるまでの期間で少なくとも構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ６。
【１４０８３】
遊技機ＨＣ６によれば、遊技機ＨＣ４又はＨＣ５の奏する効果に加え、前記第１入球手

段へと遊技球が入球したことに基づいて前記第１の判別に用いるための判別情報を取得する判別情報取得手段と、その判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、特定の情報数を上限として、前記第１の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、を備え、前記所定期間は、前記特定の情報数の判別情報が前記判別情報記憶手段に記憶された状態で１の前記判別情報が前記第１の判別に用いられてから前記特定の情報数における最後の前記判別情報を用いた前記第１の判別の判別結果が示されるまでの期間で少なくとも構成されている。

【１４０８４】

これにより、所定期間が設定された場合に、特定の情報数分の第１の判別の実行が保証されるので、所定期間が設定された場合に遊技者を喜ばせることができるという効果がある。

【１４０８５】

遊技機ＨＣ６において、前記所定期間は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて設定される期間で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ７。

【１４０８６】

遊技機ＨＣ７によれば、遊技機ＨＣ６の奏する効果に加え、前記所定期間は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて設定される期間で構成されているので、有利度合いが低い第２状態に設定された直後に少なくとも特定の情報数分の第１の判別の実行を保証することができるという効果がある。

【１４０８７】

遊技機ＨＣ４からＨＣ７のいずれかにおいて、前記第１の判別は、前記第２の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＣ８。

【１４０８８】

遊技機ＨＣ８によれば、遊技機ＨＣ４からＨＣ７のいずれかが奏する効果に加え、前記第１の判別は、前記第２の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されているので、所定期間における有利度合いを高めることができる。よって、所定期間が設定されることをより強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４０８９】

＜特徴ＨＤ群＞（１の時短状態において、所定条件下で時短回数の減算タイミングを可変させる）

カウンタ値を記憶可能なカウンタ手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、前記カウンタ手段に対して予め定められた第１のカウンタ値を設定するカウンタ値設定手段と、予め定められた第１条件が成立してから前記第１条件とは異なる第２条件が成立するまでの間に、前記カウンタ手段のカウンタ値を更新する更新手段と、その更新手段により前記カウンタ手段のカウンタ値が予め定められた第２のカウンタ値に更新されたことに基づいて、予め定められた特定の制御を実行する特定制御実行手段と、を備え、前記更新手段は、前記第１条件が成立してから前記第２条件が成立するまでの間における第１タイミングで前記カウンタ値を更新する第１更新制御と、前記第１タイミングとは異なる第２タイミングで前記カウンタ値を更新する第２更新制御と、のどちらかで前記カウンタ値を更新可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ１。

【１４０９０】

パチンコ機等の遊技機には、所定契機で所定のカウンタ（例えば、時短回数をカウントするカウンタ）に対して所定の初期値を設定し、カウンタ値が特定値となるまで更新処理を行うものが存在する（例えば、特許文献１：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４０９１】

しかしながら、より好適なカウンタ値の更新方法が求められていた。

【１４０９２】

また、係る従来型の遊技機の中には、複数の特別図柄（例えば、第１特別図柄および第２特別図柄）を設けると共に、各特別図柄の抽選結果を示す変動表示を、互いに独立して実行可能に構成されているものも存在する。係る仕様の遊技機においては、異なる特別図

柄の当たり遊技が重複して実行されることを避けるべく、例えば、１の当たり遊技を示す変動表示が終了した時点で、他の特別図柄の変動表示を強制的に当たりとは異なる図柄で停止表示させる制御等が採用される。

【１４０９３】

しかしながら、係る遊技機において、強制的に当たりとは異なる図柄で停止表示される変動表示でも、所定のカウンタのカウンタ値が更新されてしまうため、実質的に抽選回数を１回損してしまうという事象が発生してしまう問題点がある。

【１４０９４】

これに対して遊技機ＨＤ１によれば、カウンタ値を記憶可能なカウンタ手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、前記カウンタ手段に対して予め定められた第１のカウンタ値を設定するカウンタ値設定手段と、予め定められた第１条件が成立してから前記第１条件とは異なる第２条件が成立するまでの間に、前記カウンタ手段のカウンタ値を更新する更新手段と、その更新手段により前記カウンタ手段のカウンタ値が予め定められた第２のカウンタ値に更新されたことに基づいて、予め定められた特定の制御を実行する特定制御実行手段と、を備え、前記更新手段は、前記第１条件が成立してから前記第２条件が成立するまでの間における第１タイミングで前記カウンタ値を更新する第１更新制御と、前記第１タイミングとは異なる第２タイミングで前記カウンタ値を更新する第２更新制御と、のどちらかで前記カウンタ値を更新可能に構成されている。

【１４０９５】

これにより、カウンタ値を更新するタイミングとして異なる複数のタイミングを設定することができるので、カウンタ値をより好適に更新することができるという効果がある。

【１４０９６】

遊技機ＨＤ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記判別手段の判別結果を示すための識別情報を動的表示させる動的表示手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を設定する遊技状態設定手段と、を備え、前記カウンタ値設定手段は、前記遊技状態設定手段によって前記第２遊技状態が設定されたことに基づいて前記カウンタ手段に対して前記第１のカウンタ値を設定可能に構成されているものであり、前記第１条件は、前記判別条件が成立した場合に成立するものであり、前記第２条件は、前記識別情報の動的表示が終了した場合に成立するものであり、前記特定の制御は、遊技状態を前記第２遊技状態から前記第１遊技状態に可変させる制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ２。

【１４０９７】

遊技機ＨＤ２によれば、遊技機ＨＤ１の奏する効果に加え、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記判別手段の判別結果を示すための識別情報を動的表示させる動的表示手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を設定する遊技状態設定手段と、を備え、前記カウンタ値設定手段は、前記遊技状態設定手段によって前記第２遊技状態が設定されたことに基づいて前記カウンタ手段に対して前記第１のカウンタ値を設定可能に構成されているものであり、前記第１条件は、前記判別条件が成立した場合に成立するものであり、前記第２条件は、前記識別情報の動的表示が終了した場合に成立するものであり、前記特定の制御は、遊技状態を前記第２遊技状態から前記第１遊技状態に可変させる制御で構成されている。

【１４０９８】

これにより、判別条件が成立してから当該判別の判別結果を示すための識別情報の動的表示が終了するまでの間において、カウンタ手段の更新タイミングを可変させることがで

きるので、第２遊技状態が設定されてから第１遊技状態に可変されるまでの間にカウンタ手段を好適に更新することができるという効果がある。
【１４０９９】
遊技機ＨＤ２において、前記第１タイミングは、前記第１条件の成立時に成立するものであり、前記第２タイミングは、前記第２条件の成立時に成立するものであることを特徴とする遊技機ＨＤ３。
【１４１００】
遊技機ＨＤ３によれば、遊技機ＨＤ２の奏する効果に加え、前記第１タイミングは、前記第１条件の成立時に成立するものであり、前記第２タイミングは、前記第２条件の成立時に成立するものである。
【１４１０１】
これにより、カウンタ手段の更新タイミングを、状況に応じて判別条件が成立したタイミングと識別情報の動的表示が終了したタイミングとのどちらかに設定することができるので、カウンタ手段をより好適に更新することができるという効果がある。
【１４１０２】
遊技機ＨＤ２又はＨＤ３において、前記更新手段は、前記第１遊技状態に可変させるまでの前記カウンタ手段の残りの更新回数が１回である状況下において前記第１タイミングで前記カウンタ手段を更新可能に構成され、前記カウンタ手段の残りの更新回数が２回以上である状況下において前記第２タイミングで前記カウンタ手段を更新可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ４。
【１４１０３】
遊技機ＨＤ４によれば、遊技機ＨＤ２又はＨＤ３の奏する効果に加え、前記更新手段は、前記第１遊技状態に可変させるまでの前記カウンタ手段の残りの更新回数が１回である状況下において前記第１タイミングで前記カウンタ手段を更新可能に構成され、前記カウンタ手段の残りの更新回数が２回以上である状況下において前記第２タイミングで前記カウンタ手段を更新可能に構成されている。
【１４１０４】
これにより、第１遊技状態に可変させる前の最後の更新を第１タイミングで行い、それ以外の更新を第２タイミングで行うことができるので、カウンタ手段をより好適に更新することができるという効果がある。
【１４１０５】
遊技機ＨＤ２からＨＤ４のいずれかにおいて、判別手段は、第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成され、前記動的表示手段は、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別情報を動的表示させる第２動的表示手段と、で少なくとも構成され、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段により前記第２識別情報の動的表示が行われている間に前記第１識別情報の動的表示を開始可能に構成され、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段により前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ５。
【１４１０６】
遊技機ＨＤ５によれば、遊技機ＨＤ２からＨＤ４のいずれかが奏する効果に加え、判別手段は、第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成され、前記動的表示手段は、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別情報を動的表示させる第２動的表示手段と、で少なくとも構成され、前記第１動的表示手段は、前記第２動的表示手段により前記第２識別情報の動的表示が行われている間に前記第１識別情報の動的表示を開始可能に構成され、前記第２動的表示手段は、前

記第１動的表示手段により前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されている。

【１４１０７】

これにより、第１識別情報の動的表示と第２識別情報の動的表示とを並列して実行することができるので、判別手段の判別をより効率良く実行することができるという効果がある。

【１４１０８】

遊技機ＨＤ５において、前記第２判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となったことに基づいて実行された前記第２識別情報の動的表示の終了時に前記第１識別情報が動的表示されている場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記特定の判別結果とは異なる外れ判別結果を示すための外れ識別情報で停止表示させる停止表示手段を備えることを特徴とする遊技機ＨＤ６。

【１４１０９】

遊技機ＨＤ６によれば、遊技機ＨＤ５の奏する効果に加え、前記第２判別手段の判別結果が前記特定の判別結果となったことに基づいて実行された前記第２識別情報の動的表示の終了時に前記第１識別情報が動的表示されている場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記特定の判別結果とは異なる外れ判別結果を示すための外れ識別情報で停止表示させる停止表示手段を備えるので、第１判別手段の判別と第２判別手段の判別とで重複して特定の判別結果になったとしても、特典遊技が重複して実行されることを抑制することができるという効果がある。

【１４１１０】

遊技機ＨＤ６において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも遊技球が前記入球手段へと入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記第２判別手段の判別結果が前記特定の判別結果とも前記外れ判別結果とも異なる第１判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が前記第２位置から所定期間、前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、を備え、前記停止表示手段は、前記第２判別手段の判別結果が前記第１判別結果となったことに基づいて実行された前記第２識別情報の動的表示の終了時に前記第１識別情報が動的表示されている場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記外れ判別結果を示すための外れ識別情報で停止表示させることが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ７。

【１４１１１】

遊技機ＨＤ７によれば、遊技機ＨＤ６の奏する効果に加え、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも遊技球が前記入球手段へと入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記第２判別手段の判別結果が前記特定の判別結果とも前記外れ判別結果とも異なる第１判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が前記第２位置から所定期間、前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、を備え、前記停止表示手段は、前記第２判別手段の判別結果が前記第１判別結果となったことに基づいて実行された前記第２識別情報の動的表示の終了時に前記第１識別情報が動的表示されている場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記外れ判別結果を示すための外れ識別情報で停止表示させることが可能に構成されている。

【１４１１２】

これにより、特定の判別結果と第１判別結果とが重複した場合に、特典遊技と可変遊技とが重複して実行されることを抑制することができるという効果がある。

【１４１１３】

遊技機ＨＤ６又はＨＤ７において、前記更新手段は、前記停止表示手段によって前記外れ識別情報で停止表示された前記第１識別情報の動的表示において前記カウンタ手段が更新されることを抑制可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＤ８。

【１４１１４】

遊技機ＨＤ８によれば、遊技機ＨＤ６又はＨＤ７の奏する効果に加え、前記更新手段は、前記停止表示手段によって前記外れ識別情報で停止表示された前記第１識別情報の動的表示において前記カウンタ手段が更新されることを抑制可能に構成されているので、外れ識別情報で停止表示される遊技者にとって無駄な判別を契機としてカウンタ手段が更新されてしまうことを抑制できる。よって、遊技者にとって過剰に不利となってしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４１１５】

＜特徴ＨＥ群＞（小当たりに当選した後で当たりに当選するよりも、当たりに当選した後で小当たりに当選した方が有利度合いが高くなり易い）

判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、特定の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて所定の特典を付与する特典付与手段と、前記入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、前記入球手段へと遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、を備え、前記特定の遊技状態は、前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別結果となった場合に成立し得る第１の状況が成立した方が、前記第１の状況とは異なる第２の状況が成立した場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ１。

【１４１１６】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たりが実行されるものがある。かかる遊技機の中には、ラウンド数の異なる複数種類の当たり種別が設けられているものがあり、獲得できる遊技価値を異ならせることにより、当たり中の興趣向上を図っているものがある（例えば、特許第２５１４４１７号公報）。

【１４１１７】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４１１８】

また、係る従来型の遊技機の中には、当たりとして、当たり遊技終了後の遊技状態が当選した当たりの種別に対応する遊技状態に設定される大当たり遊技と、当たり遊技終了後の遊技状態が当たり当選時の遊技状態のまま維持される小当たり遊技と、が設けられているものも存在する。しかしながら、小当たり遊技が実行されたとしても、実行されたタイミングによらず、遊技状態が変更されないため、小当たり遊技が実行されることにより興趣を向上させることが比較的困難であった。

【１４１１９】

これに対して遊技機ＨＥ１によれば、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、特定の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて所定の特典を付与する特典付与手段と、前記入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、前記入球手段へと遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、を備え、前記特定の遊技状態は、前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別結果となった場合に成立し得る第１の状況が成立した方が、前記第１の状況とは異なる第２の状況が成立した場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されている。

【１４１２０】

これにより、第１の判別結果となった後で第２の判別結果となることを強く期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４１２１】

遊技機ＨＥ１において、前記第２の状況は、前記第２の判別結果となった後で前記第１の判別結果となった場合に成立し得る状況で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ２。

【１４１２２】

遊技機ＨＥ２によれば、遊技機ＨＥ１が奏する効果に加え、前記第２の状況は、前記第２の判別結果となった後で前記第１の判別結果となった場合に成立し得る状況で構成されているので、特定の遊技状態において、第１の判別結果となるよりも前に第２の判別結果となるか、後で第２の判別結果となるかによって有利度合いが可変する斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４１２３】

遊技機ＨＥ１又はＨＥ２において、前記判別手段は、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成されているものであり、前記特定の遊技状態は、前記第１判別手段の判別で前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別で前記第２の判別結果となった方が、前記第１判別手段の判別で前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別で前記第２の判別結果とならなかった場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ３。

【１４１２４】

遊技機ＨＥ３によれば、遊技機ＨＥ１又はＨＥ２の奏する効果に加え、前記判別手段は、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成されているものであり、前記特定の遊技状態は、前記第１判別手段の判別で前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別で前記第２の判別結果となった方が、前記第１判別手段の判別で前記第１の判別結果となった後で前記第２の判別で前記第２の判別結果とならなかった場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されている。

【１４１２５】

これにより、特定の遊技状態において第１判別手段の判別で第１の判別結果となった場合に、第２判別手段の判別で第２の判別結果となることを期待させる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４１２６】

遊技機ＨＥ３において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段によって前記第１識別情報の動的表示が行われている間に、前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されているものであり、前記特定の遊技状態は、前記第１の判別結果に対応する前記第１識別情報の動的表示の実行中に前記第２の判別結果に対応する前記第２識別情報の動的表示が開始された方が、前記第２の判別結果に対応する前記第２識別情報の動的表示が開始されなかった場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ４。

【１４１２７】

遊技機ＨＥ４によれば、遊技機ＨＥ３の奏する効果に加え、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別

情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段によって前記第１識別情報の動的表示が行われている間に、前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されているものであり、前記特定の遊技状態は、前記第１の判別結果に対応する前記第１識別情報の動的表示の実行中に前記第２の判別結果に対応する前記第２識別情報の動的表示が開始された方が、前記第２の判別結果に対応する前記第２識別情報の動的表示が開始されなかった場合よりも、有利度合いが高くなり易く構成されている。

【１４１２８】

これにより、第１識別情報の動的表示の実行中に第２識別情報の動的表示によって第２の判別結果に対応する識別情報が表示されることを期待させる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４１２９】

遊技機ＨＥ４において、前記第１識別情報の動的表示が行われている間に、前記第２の判別結果を示す前記第２識別情報が前記表示手段に対して停止表示されたことに基づいて、前記第１の判別結果とも前記第２の判別結果とも異なる外れ判別結果を示す第１識別情報が前記表示手段に対して停止表示されるように制御する停止制御手段を備え、前記遊技状態設定手段は、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、前記特定の遊技状態と、その特定の遊技状態よりも有利度合いが低い第１遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を設定可能に構成されており、前記第１判別手段の判別は、前記第２判別手段の判別よりも、前記第１の判別結果となった場合に、前記遊技状態設定手段により前記第１遊技状態の設定割合が高くなるように構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ５。

【１４１３０】

遊技機ＨＥ５によれば、遊技機ＨＥ４の奏する効果に加え、前記第１識別情報の動的表示が行われている間に、前記第２の判別結果を示す前記第２識別情報が前記表示手段に対して停止表示されたことに基づいて、前記第１の判別結果とも前記第２の判別結果とも異なる外れ判別結果を示す第１識別情報が前記表示手段に対して停止表示されるように制御する停止制御手段を備え、前記遊技状態設定手段は、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、前記特定の遊技状態と、その特定の遊技状態よりも有利度合いが低い第１遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を設定可能に構成されており、前記第１判別手段の判別は、前記第２判別手段の判別よりも、前記第１の判別結果となった場合に、前記遊技状態設定手段により前記第１遊技状態の設定割合が高くなるように構成されている。

【１４１３１】

これにより、第１判別手段の判別で第１の判別結果となり、有利度合いが低い第１遊技状態が設定される可能性が高い状況となったとしても、第１の判別結果を示す第１識別情報が停止表示されるよりも前に第２の判別結果を示す第２識別情報が停止表示されることで、第１判別手段の判別結果が第１の判別結果ではなく外れ判別結果に書き替えられるので、有利な特定の遊技状態が終了されて有利度合いが低い第１遊技状態へと移行することを抑制することができる。よって、第１遊技状態において第１判別手段の判別結果が第１の判別結果となった場合に第２の判別結果を示す第２識別情報が先に停止表示されることを期待させる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１４１３２】

遊技機ＨＥ３からＨＥ５のいずれかにおいて、前記第１の判別結果に対応する前記第１識別情報の動的表示における動的表示期間の間に前記第２の判別が実行された場合に、前記第１の判別結果となることが抑制されることを特徴とする遊技機ＨＥ６。

【１４１３３】

遊技機ＨＥ６によれば、遊技機ＨＥ３からＨＥ５のいずれかが奏する効果に加え、前記第１の判別結果に対応する前記第１識別情報の動的表示における動的表示期間の間に前記

第２の判別が実行された場合に、前記第１の判別結果となることが抑制されるので、第１判別手段の判別で第１の判別結果となった後で、第２判別手段の判別で第１の判別結果となって重複して特典遊技が実行されてしまう不具合を抑制することができるという効果がある。

【１４１３４】

遊技機ＨＥ４からＨＥ６のいずれかにおいて、前記第１動的表示手段による前記第１識別情報の動的表示における動的表示時間を設定する第１動的表示時間設定手段と、前記第２動的表示手段による前記第２識別情報の動的表示における動的表示時間を設定する第２動的表示時間設定手段と、を備え、前記第１動的表示時間設定手段は、前記特定の遊技状態において、前記第１の判別結果に対応する動的表示時間として、前記第２識別情報の動的表示を複数回実行可能な長さの動的表示期間を選択するように構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ７。

【１４１３５】

遊技機ＨＥ７によれば、遊技機ＨＥ４からＨＥ６のいずれかが奏する効果に加え、前記第１動的表示手段による前記第１識別情報の動的表示における動的表示時間を設定する第１動的表示時間設定手段と、前記第２動的表示手段による前記第２識別情報の動的表示における動的表示時間を設定する第２動的表示時間設定手段と、を備え、前記第１動的表示時間設定手段は、前記特定の遊技状態において、前記第１の判別結果に対応する動的表示時間として、前記第２識別情報の動的表示を複数回実行可能な長さの動的表示期間を選択するように構成されている。

【１４１３６】

これにより、第１識別情報の動的表示の実行中に第２識別情報の動的表示によって第２の判別結果に対応する識別情報が停止表示される機会を複数回与えることができるという効果がある。

【１４１３７】

遊技機ＨＥ１からＨＥ７のいずれかにおいて、前記特定の遊技状態は、次に前記特典遊技が実行されるまで継続可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ８。

【１４１３８】

遊技機ＨＥ８によれば、遊技機ＨＥ１からＨＥ７のいずれかが奏する効果に加え、前記特定の遊技状態は、次に前記特典遊技が実行されるまで継続可能に構成されているので、特定の遊技状態になることで、実質的に次の特典遊技も確定する。よって、特定の遊技状態が設定されることを強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４１３９】

遊技機ＨＥ１からＨＥ８のいずれかにおいて、前記可変遊技は、前記第２の判別結果となった時点の遊技状態が、前記可変遊技の終了後も維持されるように構成されていることを特徴とする遊技機ＨＥ９。

【１４１４０】

遊技機ＨＥ９によれば、遊技機ＨＥ１からＨＥ８のいずれかが奏する効果に加え、前記可変遊技は、前記第２の判別結果となった時点の遊技状態が、前記可変遊技の終了後も維持されるように構成されているので、特定の遊技状態において第２の判別結果になったとしても、他の遊技状態に移行してしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４１４１】

＜特徴ＨＦ群＞（一方の特図の変動回数に応じて他方の特図が回り易い状態と回り難い状態とが切り替わる）

予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記第１の判別の判別結果を示すための第１識別情報と、前記第２の判別の判別結果を示すための第２識別情報と、を少なくとも表示可能な表示手段と

、前記第１の判別が実行されたことに基づいて、前記表示手段において前記第１識別情報を動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２の判別が実行されたことに基づいて、前記表示手段において前記第２識別情報を動的表示させる第２動的表示手段と、予め定められた特定の設定条件が成立したことに基づいて、予め定められた特定の遊技状態を設定する遊技状態設定手段と、前記特定の遊技状態において予め定められた特定条件が成立している状況下において、前記第１識別情報の動的表示の頻度よりも前記第２識別情報の動的表示の頻度の方が高くなり易い第１制御を実行し、前記特定の遊技状態において前記特定条件が成立していない状況下において、前記第１制御よりも前記第１識別情報の動的表示の頻度が高くなり易い第２制御を実行することが可能な制御手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＦ１。

【１４１４２】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、遊技者にとって有利度合いが異なる複数の状態を設定可能にすることで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４１４３】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４１４４】

また、係る従来型の遊技機の中には、始動入賞口を複数設けると共に、入賞を検出した始動入賞口の種別に応じて異なる特別図柄の抽選を実行するものも存在する。係る遊技機においては、遊技状態毎に入賞し易い始動入賞口の種別を異ならせることで遊技状態毎の有利度合いを異ならせ、興趣向上を図っていた。

【１４１４５】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、遊技状態毎に抽選が実行され易い特別図柄の種別が固定化されるため、同一の遊技状態が長く続いてしまうと、遊技が単調となってしまうという問題点がある。

【１４１４６】

これに対して遊技機ＨＦ１によれば、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記第１の判別の判別結果を示すための第１識別情報と、前記第２の判別の判別結果を示すための第２識別情報と、を少なくとも表示可能な表示手段と、前記第１の判別が実行されたことに基づいて、前記表示手段において前記第１識別情報を動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２の判別が実行されたことに基づいて、前記表示手段において前記第２識別情報を動的表示させる第２動的表示手段と、予め定められた特定の設定条件が成立したことに基づいて、予め定められた特定の遊技状態を設定する遊技状態設定手段と、前記特定の遊技状態において予め定められた特定条件が成立している状況下において、前記第１識別情報の動的表示の頻度よりも前記第２識別情報の動的表示の頻度の方が高くなり易い第１制御を実行し、前記特定の遊技状態において前記特定条件が成立していない状況下において、前記第１制御よりも前記第１識別情報の動的表示の頻度が高くなり易い第２制御を実行することが可能な制御手段と、を備える。

【１４１４７】

これにより、特定条件の成立有無に応じて第１識別情報の動的表示の頻度を異ならせることができるので、特定の遊技状態における遊技が単調となってしまうことを抑制することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４１４８】

遊技機ＨＦ１において、前記制御手段は、前記特定の遊技状態が設定されてから予め定められた特定回数の前記第１識別情報の動的表示が実行されるまで前記第１制御を実行し、前記特定回数の前記第１識別情報の動的表示が実行された後で前記第２制御を実行することが可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＦ２。

【１４１４９】

遊技機ＨＦ２によれば、遊技機ＨＦ１の奏する効果に加え、前記制御手段は、前記特定の遊技状態が設定されてから予め定められた特定回数の前記第１識別情報の動的表示が実行されるまで前記第１制御を実行し、前記特定回数の前記第１識別情報の動的表示が実行された後で前記第２制御を実行することが可能に構成されているので、特定の遊技状態が設定された後における第１識別情報の動的表示の回数に応じて第１制御と第２制御とが切り替わる。よって、特定の遊技状態における遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４１５０】

遊技機ＨＦ２において、前記特定の設定条件は、第１の設定条件と、その第１の設定条件とは異なる第２の設定条件と、で少なくとも構成されているものであり、前記特定回数は、前記第１の設定条件の成立に基づいて前記特定の遊技状態が設定された場合に予め定められた第１特定回数に設定され、前記第２の設定条件の成立に基づいて前記特定の遊技状態が設定された場合に前記第１特定回数よりも多い第２特定回数に設定されるように構成されていることを特徴とする遊技機ＨＦ３。

【１４１５１】

遊技機ＨＦ３によれば、遊技機ＨＦ２の奏する効果に加え、前記特定の設定条件は、第１の設定条件と、その第１の設定条件とは異なる第２の設定条件と、で少なくとも構成されているものであり、前記特定回数は、前記第１の設定条件の成立に基づいて前記特定の遊技状態が設定された場合に予め定められた第１特定回数に設定され、前記第２の設定条件の成立に基づいて前記特定の遊技状態が設定された場合に前記第１特定回数よりも多い第２特定回数に設定されるように構成されている。

【１４１５２】

これにより、特定の遊技状態の設定契機によって第１制御が実行される回数が可変するので、特定の遊技状態の設定契機に注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４１５３】

遊技機ＨＦ３において、前記特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別として、第１特典遊技と、その第１特典遊技とは異なる第２特典遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の種別を決定する種別決定手段を備え、前記第１の設定条件は、前記第１特典遊技の実行が終了したことに基づいて成立するものであり、前記第２の設定条件は、前記第２特典遊技の実行が終了したことに基づいて成立するものであることを特徴とする遊技機ＨＦ４。

【１４１５４】

遊技機ＨＦ４によれば、遊技機ＨＦ３の奏する効果に加え、前記特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別として、第１特典遊技と、その第１特典遊技とは異なる第２特典遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の種別を決定する種別決定手段を備え、前記第１の設定条件は、前記第１特典遊技の実行が終了したことに基づいて成立するものであり、前記第２の設定条件は、前記第２特典遊技の実行が終了したことに基づいて成立するものである。

【１４１５５】

これにより、特典遊技の種別によって設定される特定の遊技状態における有利度合いを異ならせることができるので、特典遊技の種別に対してより注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４１５６】

遊技機ＨＦ１からＨＦ４のいずれかにおいて、前記第１動的表示手段による前記第１識

別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段により前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記動的表示期間設定手段によって長い動的表示期間が設定され易くなる制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＦ５。

【１４１５７】

遊技機ＨＦ５によれば、遊技機ＨＦ１からＨＦ４のいずれかが奏する効果に加え、前記第１動的表示手段による前記第１識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段により前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記動的表示期間設定手段によって長い動的表示期間が設定され易くなる制御で構成されている。

【１４１５８】

これにより、第１制御が実行されている間は、第１識別情報の動的表示における動的表示期間として長い動的表示期間が選択され易くなることにより第２識別情報の動的表示の頻度を高くすることができるという効果がある。

【１４１５９】

遊技機ＨＦ５において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、前記入球手段へと遊技球が入球困難になる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが前記特定の判別結果とは異なる第１の判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が前記第２位置から前記第１位置へと所定期間可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の判別結果を示す前記第２識別情報が停止表示された場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記特定の判別結果とも前記第１の判別結果とも異なる外れ判別結果を示す前記第１識別情報で停止表示させる停止表示手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＦ６。

【１４１６０】

遊技機ＨＦ６によれば、遊技機ＨＦ５の奏する効果に加え、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、前記入球手段へと遊技球が入球困難になる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが前記特定の判別結果とは異なる第１の判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が前記第２位置から前記第１位置へと所定期間可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、前記第１識別情報の動的表示が行われている間に前記第１の判別結果を示す前記第２識別情報が停止表示された場合に、前記第１識別情報の動的表示の状況によらず、前記第１識別情報を前記特定の判別結果とも前記第１の判別結果とも異なる外れ判別結果を示す前記第１識別情報で停止表示させる停止表示手段と、を備える。

【１４１６１】

これにより、第１の判別結果を示す第２識別情報が停止表示されると、第１識別情報の動的表示が外れ判別結果で終了されてしまうため、特に、第１制御が実行されている状況において、第１識別情報の動的表示の頻度が高くなってしまう可能性がある。よって、第１制御が実行されている間において、第２の判別の判別結果が第１の判別結果とならないことを強く期待させる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１４１６２】

遊技機ＨＦ６において、前記第１の制御が実行されている間に実行された前記第２の判別で前記第１の判別結果となった場合に、当該第１の判別結果を示すための前記第２識別情報の動的表示における動的表示期間の間に第１演出を実行する第１演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＨＦ７。

【１４１６３】

遊技機ＨＦ７によれば、遊技機ＨＦ６の奏する効果に加え、前記第１の制御が実行されている間に実行された前記第２の判別で前記第１の判別結果となった場合に、当該第１の判別結果を示すための前記第２識別情報の動的表示における動的表示期間の間に第１演出を実行する第１演出実行手段を備えるので、第１演出が実行された場合に第１の判別結果となったことを遊技者に対して理解させることができる。よって、可変手段に注目しなくても第１の判別結果となったか否かを遊技者が判別することが可能となる。よって、遊技者の利便性を向上させることができるという効果がある。

【１４１６４】

遊技機ＨＦ７において、前記第１の制御が実行されている間に実行された前記第２の判別で前記外れ判別結果となった場合に、当該外れ判別結果を示すための前記第２識別情報の動的表示における動的表示期間の間に、前記第１演出と区別し難い特定の演出態様を含む第２演出を実行可能な第２演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＨＦ８。

【１４１６５】

遊技機ＨＦ８によれば、遊技機ＨＦ７の奏する効果に加え、前記第１の制御が実行されている間に実行された前記第２の判別で前記外れ判別結果となった場合に、当該外れ判別結果を示すための前記第２識別情報の動的表示における動的表示期間の間に、前記第１演出と区別し難い特定の演出態様を含む第２演出を実行可能な第２演出実行手段を備えるので、特定の演出態様が実行された場合に、第２演出が実行されていることを強く期待させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４１６６】

＜特徴ＨＧ群＞（電サポの状態は共通だが、有利な特図２抽選の実行頻度が互いに異なる遊技状態を設ける）

遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第１入球手段とは異なる第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行可能な第２判別手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記第２入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に変位可能な変位手段と、所定の変位条件の成立に基づいて、前記変位手段を所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと変位させる変位制御手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、第１状態と、その第１状態とは前記第２入球手段に対する遊技球の入球し易さが異なる第２状態と、を少なくとも含む複数のうち１の状態を設定する状態設定手段と、を備え、前記第１状態に設定される遊技状態として、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも前記第１判別手段の判別の実行頻度が高くなり易い第２遊技状態と、が少なくとも設けられていることを特徴とする遊技機ＨＧ１。

【１４１６７】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、遊技者にとって有利度合いが異なる複数の状態を設定可能にすることで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４１６８】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４１６９】

また、係る従来型の遊技機の中には、始動入賞口を複数設けると共に、入賞を検出した始動入賞口の種別に応じて異なる特別図柄の抽選を実行するものも存在する。係る遊技機においては、特定の始動入賞口へと遊技球が入球困難となる非時短状態と、特定の始動入賞口へと遊技球が入球容易となる時短状態と、を切り替えることにより、入賞し易い始動

入賞口の種別を異ならせ、興趣向上を図っているものも存在する。
【１４１７０】
しかしながら、係る従来型の遊技機では、非時短状態であるか、時短状態であるかによって抽選が実行され易い特別図柄の種別が固定化されるため、同一の状態が長く続いてしまうと、遊技が単調となってしまうという問題点がある。
【１４１７１】
これに対して遊技機ＨＧ１によれば、遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第１入球手段とは異なる第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行可能な第２判別手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記第２入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に変位可能な変位手段と、所定の変位条件の成立に基づいて、前記変位手段を所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと変位させる変位制御手段と、所定の設定条件の成立に基づいて、第１状態と、その第１状態とは前記第２入球手段に対する遊技球の入球し易さが異なる第２状態と、を少なくとも含む複数のうち１の状態を設定する状態設定手段と、を備え、前記第１状態に設定される遊技状態として、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも前記第１判別手段の判別の実行頻度が高くなり易い第２遊技状態と、が少なくとも設けられている。
【１４１７２】
これにより、第２入球手段に対する遊技球の入球し易さが共通となる第１遊技状態と第２遊技状態とで、第１判別手段の判別の実行頻度が可変する斬新な制御を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４１７３】
遊技機ＨＧ１において、前記第２の判別は、前記第１の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＧ２。
【１４１７４】
遊技機ＨＧ２によれば、遊技機ＨＧ１の奏する効果に加え、前記第２の判別は、前記第１の判別よりも有利度合いが高い判別で構成されているので、第１遊技状態よりも第２遊技状態の方が、有利度合いが低い第１の判別の実行頻度を低くすることができるという効果がある。
【１４１７５】
遊技機ＨＧ１又はＨＧ２において、前記第１遊技状態は、前記第２遊技状態よりも、前記特定の判別結果となる確率が高い遊技状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＧ３。
【１４１７６】
遊技機ＨＧ３によれば、遊技機ＨＧ１又はＨＧ２の奏する効果に加え、前記第１遊技状態は、前記第２遊技状態よりも、前記特定の判別結果となる確率が高い遊技状態で構成されているんどえ、第１遊技状態では、有利度合いが低い第１判別手段の判別の実行頻度が比較的高くなる反面、特定の判別結果となる確率が高くなる遊技性となり、第２遊技状態では、有利度合いが低い第１判別手段の判別の実行頻度が比較的低くなる反面、特定の判別結果となる確率が低くなる遊技性となる。よって、同じ第１状態に設定される遊技状態でも、遊技性を真逆にすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４１７７】
遊技機ＨＧ１からＨＧ３のいずれかにおいて、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第

１識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段により前記第１識別情報が動的表示されている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されており、前記動的表示期間設定手段は、前記第１遊技状態よりも、前記第２遊技状態の方が、長い動的表示期間を設定し易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＧ４。

【１４１７８】

遊技機ＨＧ４によれば、遊技機ＨＧ１からＨＧ３のいずれかが奏する効果に加え、識別情報を表示可能な表示手段と、前記第１判別手段の判別結果を示すための第１識別情報を前記表示手段において動的表示させる第１動的表示手段と、前記第２判別手段の判別結果を示すための第２識別情報を前記表示手段において動的表示させる第２動的表示手段と、前記第１動的表示手段による前記第１識別情報の動的表示における動的表示期間を設定する動的表示期間設定手段と、を備え、前記第２動的表示手段は、前記第１動的表示手段により前記第１識別情報が動的表示されている間に前記第２識別情報の動的表示を開始可能に構成されており、前記動的表示期間設定手段は、前記第１遊技状態よりも、前記第２遊技状態の方が、長い動的表示期間を設定し易く構成されている。

【１４１７９】

これにより、第１識別情報の動的表示における動的表示期間を遊技状態毎に異ならせることにより、第１識別情報の動的表示が実行されている間に実行可能な第２識別情報の動的表示の回数を異ならせ、第１の判別の実行頻度を異ならせることができるという効果がある。

【１４１８０】

遊技機ＨＧ１からＨＧ４のいずれかにおいて、前記第１遊技状態が設定された後で前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が予め定められた第１回数となったことに基づいて、前記第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段を備えることを特徴とする遊技機ＨＧ５。

【１４１８１】

遊技機ＨＧ５によれば、遊技機ＨＧ１からＨＧ４のいずれかが奏する効果に加え、前記第１遊技状態が設定された後で前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が予め定められた第１回数となったことに基づいて、前記第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段を備えるので、第１判別手段の判別の実行頻度が高い第１遊技状態と、第１判別手段の判別の実行頻度が低い第２遊技状態とが連続して設定される。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４１８２】

遊技機ＨＧ５において、前記第２遊技状態が設定された後で前記前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が予め定められた第２回数となったことに基づいて、前記第２状態に設定される第３遊技状態を設定する第３遊技状態設定手段を備えることを特徴とする遊技機ＨＧ６。

【１４１８３】

遊技機ＨＧ６によれば、遊技機ＨＧ５の奏する効果に加え、前記第２遊技状態が設定された後で前記前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が予め定められた第２回数となったことに基づいて、前記第２状態に設定される第３遊技状態を設定する第３遊技状態設定手段を備えるので、第１遊技状態と第２遊技状態と第３遊技状態とが連続して設定される。よって、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４１８４】

遊技機ＨＧ１からＨＧ６のいずれかにおいて、前記第２状態は、前記第１状態よりも前記第２入球手段に対して遊技球が入球し難くなる状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＧ７。

【１４１８５】

遊技機ＨＧ７によれば、遊技機ＨＧ１からＨＧ６のいずれかが奏する効果に加え、前記

第２状態は、前記第１状態よりも前記第２入球手段に対して遊技球が入球し難くなる状態で構成されているので、第２入球手段に対して遊技球が比較的入球し易い第１状態が設定される第１遊技状態と第２遊技状態とで、第１判別手段の判別の実行頻度を異ならせることができる。よって、比較的有利な遊技状態における遊技性を異ならせることができるという効果がある。

【１４１８６】

＜特徴ＨＨ群＞（特定の遊技状態において継続率を可変させる）

予め定められた特定の実行条件の成立に基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、遊技者に有利な第１遊技状態を設定可能な第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が第１の割合となる第１制御がされる遊技と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が前記第１の割合とは異なる第２の割合となる第２制御がされる遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技を設定可能な設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＨ１。

【１４１８７】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、遊技者にとって有利度合いが異なる複数の状態を設定可能にすることで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４１８８】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４１８９】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが高い特定の遊技状態（例えば、時短遊技状態）の終了条件を複数設ける構成とし、特定の遊技状態が設定された契機に応じて異なる終了条件を設定することにより、同じ特定の遊技状態でも設定契機に応じて有利度合いを異ならせているものも存在する。

【１４１９０】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、設定契機毎の終了条件をＲＯＭ等の記憶装置に対して予め規定しておく必要があるため、終了条件が増えるほど遊技機の記憶容量が増大してしまうという問題点がある。

【１４１９１】

これに対して遊技機ＨＨ１によれば、予め定められた特定の実行条件の成立に基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記特典遊技の実行が終了した後の遊技状態として、遊技者に有利な第１遊技状態を設定可能な第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が第１の割合となる第１制御がされる遊技と、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定条件が成立するまでの間に前記特定の実行条件が成立する割合が前記第１の割合とは異なる第２の割合となる第２制御がされる遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技を設定可能な設定手段と、を備える。

【１４１９２】

これにより、同じ第１遊技状態であっても、第１制御が実行されるか第２制御が実行されるかによって特典遊技が実行される可能性を異ならせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４１９３】

遊技機ＨＨ１において、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記特定条件が成立し易くなる制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＨ２。

【１４１９４】

遊技機ＨＨ２によれば、遊技機ＨＨ１の奏する効果に加え、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記特定条件が成立し易くなる制御で構成されているので、特定条件が成立するよりも前に特定の実行条件が成立する可能性を異ならせることができるという効果がある。

【１４１９５】

遊技機ＨＨ１又はＨＨ２において、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて成立する条件で構成されているものであり、前記特定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＨ３。

【１４１９６】

遊技機ＨＨ３によれば、遊技機ＨＨ１又はＨＨ２の奏する効果に加え、予め定められた第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて成立する条件で構成されているものであり、前記特定条件は、少なくとも前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が予め定められた特定回数となったことに基づいて成立する条件で構成されている。

【１４１９７】

これにより、第１の判別の実行回数が特定回数未満の範囲においては第１遊技状態が維持されるので、第１遊技状態において特定回数の第１の判別の実行を保証することができるという効果がある。

【１４１９８】

遊技機ＨＨ３において、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定回数の前記第１の判別が実行されるまでの間に実行される前記第２の判別の実行回数が少ない回数となり易い制御で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＨ４。

【１４１９９】

遊技機ＨＨ４によれば、遊技機ＨＨ３の奏する効果に加え、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定回数の前記第１の判別が実行されるまでの間に実行される前記第２の判別の実行回数が少ない回数となり易い制御で構成されているので、第２遊技状態が設定されるまでに実行される第２の判別の実行回数を異ならせることで、実質的に特定の実行条件の成立割合を異ならせることができるという効果がある。

【１４２００】

遊技機ＨＨ３又はＨＨ４において、特定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が前記特定回数となったことに基づいて成立する第１特定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い第１回数となったことに基づいて成立する第２特定条件と、で少なくとも構成されており、前記第１制御と前記第２制御とは、前記第２特定条件が成立するよりも前に前記第１特定条件が成立し易くなるように構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１特定条件が成立するまでに要する期間が短くなり易く構成されていることを特徴とする遊技機ＨＨ５。

【１４２０１】
遊技機ＨＨ５によれば、遊技機ＨＨ３又はＨＨ４の奏する効果に加え、特定条件は、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数が前記特定回数となったことに基づいて成立する第１特定条件と、前記第１遊技状態が設定された後における前記第１の判別の実行回数と前記第２の判別の実行回数との合計が前記特定回数よりも多い第１回数となったことに基づいて成立する第２特定条件と、で少なくとも構成されており、前記第１制御と前記第２制御とは、前記第２特定条件が成立するよりも前に前記第１特定条件が成立し易くなるように構成されており、前記第１制御は、前記第２制御よりも、前記第１特定条件が成立するまでに要する期間が短くなり易く構成されている。
【１４２０２】
これにより、第１特定条件が成立するまでに要する期間の長さを異ならせることで第２の判別の実行回数を異ならせて特定の実行条件が成立する割合を異ならせるという斬新な制御を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４２０３】
＜特徴ＨＩ群＞（１の遊技状態が終了するまでの間に大当たりに当選する可能性を示す演出を実行する）
所定の判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて特定演出を実行する特定演出実行手段と、その特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、予め定められた第１の状況である場合に第１演出態様を決定し、前記第１の状況よりも前記特定の判別結果となる可能性が高い第２の状況である場合に第２演出態様を決定することが可能な演出態様決定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＩ１。
【１４２０４】
ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。
【１４２０５】
しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。
【１４２０６】
また、係る従来型の遊技機の中には、所定期間内（例えば、保留球を全て消化しきるまでの間）に当たり遊技が実行される期待度を示す興趣演出を実行可能に構成されたものも存在し、実行中の変動表示だけでなく、複数回の変動表示に渡って当たり遊技が実行される期待感を持続的に抱かせ続けることが可能に構成されたものも存在する。
【１４２０７】
しかしながら、係る従来型の遊技機では、比較的少ない回数分の変動表示を対象としてしか、当たり遊技が実行される期待度を示す演出を実行することができないため、興趣を向上させることが困難であった。
【１４２０８】
これに対して遊技機ＨＩ１によれば、所定の判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、予め定められた第１の設

定条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて特定演出を実行する特定演出実行手段と、その特定演出実行手段により実行される前記特定演出の演出態様として、予め定められた第１の状況である場合に第１演出態様を決定し、前記第１の状況よりも前記特定の判別結果となる可能性が高い第２の状況である場合に第２演出態様を決定することが可能な演出態様決定手段と、を備える。

【１４２０９】

これにより、特定演出の演出態様によって第１遊技状態の間に特定の判別結果となる可能性を遊技者に示すことができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４２１０】

遊技機ＨＩ１において、前記第１の状況は、前記第２の状況よりも、前記第２の設定条件が成立するまでに前記特定の判別結果となる可能性が低い状況であることを特徴とする遊技機ＨＩ２。

【１４２１１】

遊技機ＨＩ２によれば、遊技機ＨＩ１の奏する効果に加え、前記第１の状況は、前記第２の状況よりも、前記第２の設定条件が成立するまでに前記特定の判別結果となる可能性が低い状況であるので、第２の設定条件が成立するよりも前に特定の判別結果となる可能性を特定演出の演出態様によって示唆することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４２１２】

遊技機ＨＩ１又はＨＩ２において、前記特定演出実行手段は、前記第１演出態様の前記特定演出の実行中に前記第２の状況となったことに基づいて、前記第２の演出態様の前記特定演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＩ３。

【１４２１３】

遊技機ＨＩ３によれば、遊技機ＨＩ１又はＨＩ２の奏する効果に加え、前記特定演出実行手段は、前記第１演出態様の前記特定演出の実行中に前記第２の状況となったことに基づいて、前記第２の演出態様の前記特定演出を実行可能に構成されているので、第１遊技状態において状況が変化した場合に、変化した状況に応じて特定演出の演出態様を切り替えることができる。よって、特定演出によって遊技者に対して正確な状況を示すことができるという効果がある。

【１４２１４】

遊技機ＨＩ１からＨＩ３のいずれかにおいて、前記特典遊技の実行中に予め定められた第１演出を実行する第１演出実行手段と、その第１演出実行手段により実行される前記第１演出の演出態様として、実行中の前記特典遊技が終了した後の遊技状態として前記第１の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第１演出態様に対応する第３演出態様を決定し、前記第２の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第２演出態様に対応する第４演出態様を決定することが可能に構成されている演出態様決定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＩ４。

【１４２１５】

遊技機ＨＩ４によれば、遊技機ＨＩ１からＨＩ３のいずれかが奏する効果に加え、前記特典遊技の実行中に予め定められた第１演出を実行する第１演出実行手段と、その第１演出実行手段により実行される前記第１演出の演出態様として、実行中の前記特典遊技が終了した後の遊技状態として前記第１の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第１演出態様に対応する第３演出態様を決定し、前記第２の状況に対応する前記第１遊技状態が設定される場合に前記第２演出態様に対応する第４演出態様を決定することが可能に構成されている演出態様決定手段と、を備える。

【１４２１６】

これにより、特典遊技の実行中に、第１演出によって特典遊技の終了後の第１遊技状態において特定の判別結果となる可能性を遊技者に対して示すことができるので、特典遊技の実行中における遊技者の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４２１７】

遊技機ＨＩ１からＨＩ４のいずれかにおいて、前記第２の状況は、前記第１の状況よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定の判別結果とならずに前記第２の設定条件が成立するまでの間に実行される前記判別手段の判別の回数が多くなり易い状況で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＩ５。

【１４２１８】

遊技機ＨＩ５によれば、遊技機ＨＩ１からＨＩ４のいずれかが奏する効果に加え、前記第２の状況は、前記第１の状況よりも、前記第１遊技状態が設定されてから前記特定の判別結果とならずに前記第２の設定条件が成立するまでの間に実行される前記判別手段の判別の回数が多くなり易い状況で構成されているので、第２の状況では、第１の状況よりも判別手段の判別回数が多くなるため、特定の判別結果となる機会をより多く獲得できる。よって、第２演出態様の特定演出が実行されることを強く期待させることができるという効果がある。

【１４２１９】

＜特徴ＨＪ群＞（有利状態終了後に有利側の保留が貯まり得る遊技方法を遊技者に促す演出を実行する）

遊技球を第１方向と、その第１方向とは異なる第２方向と、に少なくとも発射可能に構成された発射手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第１状態を設定する第１状態設定手段と、前記第１の設定条件とは異なる第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射した場合の有利度合いが前記第１状態よりも低くなり易く構成された第２状態を設定する第２状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第１演出を実行する第１演出実行手段と、前記第２状態において所定期間、前記第１演出によって示唆される遊技と同一の遊技を遊技者に示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＨＪ１。

【１４２２０】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４２２１】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４２２２】

また、係る従来型の遊技機の中には、遊技者にとって有利な遊技方法（遊技球の発射方向）を遊技状態毎に異ならせることにより、遊技状態に応じて遊技方法を変更する楽しみを遊技者に与えることが可能に構成しているものも存在する。

【１４２２３】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、各遊技状態における遊技の状況によらずに、遊技状態に対応する遊技方法が報知するのが一般的であるため、状況によっては有利度合いが低下してしまう可能性があるという問題点がある。

【１４２２４】

これに対して遊技機ＨＪ１によれば、遊技球を第１方向と、その第１方向とは異なる第

２方向と、に少なくとも発射可能に構成された発射手段と、予め定められた第１の設定条件が成立したことに基づいて、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易く構成された第１状態を設定する第１状態設定手段と、前記第１の設定条件とは異なる第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射した場合の有利度合いが前記第１状態よりも低くなり易く構成された第２状態を設定する第２状態設定手段と、前記第１状態において予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第１演出を実行する第１演出実行手段と、前記第２状態において所定期間、前記第１演出によって示唆される遊技と同一の遊技を遊技者に示唆可能な演出態様を少なくとも含んで構成される第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備える。

【１４２２５】

これにより、第１方向へと遊技球を発射しても第１状態ほど有利度合いが高くならない第２状態において、第１方向へと遊技球を発射する遊技方法を遊技者に示唆する斬新な演出態様を実現できるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４２２６】

遊技機ＨＪ１において、前記第２の設定条件は、前記第１状態において成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＨＪ２。

【１４２２７】

遊技機ＨＪ２によれば、遊技機ＨＪ１の奏する効果に加え、前記第２の設定条件は、前記第１状態において成立し得る条件であるので、第１状態において第２条件が成立して第２状態が設定された後も、第１演出によって示唆される遊技と同一の遊技を示唆することができる。よって、第１状態が継続しているかのように思わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４２２８】

遊技機ＨＪ１又はＨＪ２において、前記第２状態は、予め定められた特定条件が成立している間、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易くなるように構成されており、前記第２演出実行手段は、少なくとも前記特定条件が成立している間、前記第２演出を実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＨＪ３。

【１４２２９】

遊技機ＨＪ３によれば、遊技機ＨＪ１又はＨＪ２の奏する効果に加え、前記第２状態は、予め定められた特定条件が成立している間、前記第２方向よりも前記第１方向へと遊技球を発射した方が有利度合いが高くなり易くなるように構成されており、前記第２演出実行手段は、少なくとも前記特定条件が成立している間、前記第２演出を実行可能に構成されている。

【１４２３０】

これにより、基本的に第２方向へと遊技球を発射した方が有利となる第２状態において、特定条件が成立して第１方向へと遊技球を発射した方が有利となる状況となった場合に、第２演出により第１方向へと遊技球を発射することを遊技者に対して示唆することができるので、遊技者が損をしてしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４２３１】

遊技機ＨＪ３において、前記特定条件は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて成立する条件で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＪ４。

【１４２３２】

遊技機ＨＪ４によれば、遊技機ＨＪ３の奏する効果に加え、前記特定条件は、前記第２の設定条件が成立したことに基づいて成立する条件で構成されているので、第１状態が開始されてから第２状態に移行し、且つ、特定条件が不成立の状態となるまで、第１方向へと遊技球を発射する遊技方法を第１演出および第２演出によって示唆し続けることができ

る。よって、第１状態が終了された後も、特定条件が不成立の状態となるまで第１状態であるかのように遊技者に思わせることができるので、第１状態が実際よりも長く継続しているかのように思わせることができるという効果がある。

【１４２３３】

遊技機ＨＪ１からＨＪ４のいずれかにおいて、前記第１方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第２方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第２方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第１方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別と前記第２の判別とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第１状態は、前記第２状態よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成され、前記第２状態は、前記所定期間において、前記所定期間以外の期間よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＨＪ５。

【１４２３４】

遊技機ＨＪ５によれば、遊技機ＨＪ１からＨＪ４のいずれかが奏する効果に加え、前記第１方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第２方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第１入球手段と、その第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第１の判別を実行可能な第１判別手段と、前記第２方向に発射された遊技球が入球可能な位置であって前記第１方向に発射された遊技球が入球困難な位置に設けられている第２入球手段と、その第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別と前記第２の判別とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第１状態は、前記第２状態よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成され、前記第２状態は、前記所定期間において、前記所定期間以外の期間よりも、前記第２方向へと遊技球を発射した場合に前記第１判別手段の判別が実行され易くなる状態で構成されている。

【１４２３５】

これにより、有利度合いが低い第２状態においても所定期間の間は、第１状態と同様に、第１判別手段の判別が実行され易くなるという斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１４２３６】

＜５０７６シリーズ＞

＜特徴ＩＡ群＞

演出態様を可変させる可変演出を実行可能な可変演出実行手段と、を有した遊技機において、前記可変演出にて前記演出態様を可変させることが可能な回数を決定可能な決定手段を有し、前記遊技機は、前記演出態様を特定の態様で可変させるための追加演出を実行可能な追加演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＩＡ１。

【１４２３７】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいて演出態様を可変させる操作演出を複数回実行することで、演出態様を段階的に可変させる期間演出を実行可能なものがある。そして、期間演出の演出結果として、演出態様が特定段階まで可変された場合に、遊技者に有利な特典が付与される遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、期間演出の演出結果のみが予め決定されており、各操作演出の演出結果が予め決定されていないため、期間演出中に実行される複数回の操作演

出の全てを用いること無く、期間演出の演出結果に対応する段階まで演出態様が可変されてしまい、期間演出の演出結果が低下してしまう問題があった。また、各操作演出の演出結果を予め決定しておき、各操作演出中における操作手段への操作内容に関わらず、各操作演出が終了した時点で、予め決定された演出結果に対応する段階まで演出態様を可変させるように構成された遊技機も提案されている。しかしながら、このような遊技機では、操作演出中における操作手段への操作内容に関わらず、操作演出の演出結果として予め決定された演出結果が表示されてしまうため、遊技者が操作手段を操作しようとする意欲が低下してしまうという問題があった。さらに、各操作演出に対して、予め決定された演出結果が必ず表示されてしまうため、バリエーション豊富な演出態様で期間演出を実行するためには、各操作演出の演出結果を異ならせた期間演出の演出データを予め用意する必要があり、期間演出を実行するための演出データ量が増加してしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、期間演出にて実行される各操作演出における操作手段への操作内容に応じて異なる演出結果で各操作演出が実行されるように構成することで、操作演出中における操作手段への操作意欲を高め、遊技者の遊技に対する興趣を向上させる遊技機を提供することを目的とする。また、予め決定されている期間演出の演出態様の種類よりもバリエーション豊かな期間演出を実行可能に構成することで、期間演出の演出効果を高めることで、遊技者の遊技に対する興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４２３８】

遊技機ＩＡ１によれば、可変演出が決定された回数実行された後にも、演出態様を特定の態様で可変させるための追加演出が実行されるので、設定された回数を超えて演出を可変させることで遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４２３９】

遊技機ＩＡ１において、情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための態様で前記識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利な特典を付与することが可能な特典付与手段と、前記判別手段により判別が実行されるよりも前に前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段により前記特定の判別結果と判別される場合に、前記前記演出態様が予め定められた報知態様に可変されることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＩＡ２。

【１４２４０】

遊技機ＩＡ２によれば、遊技機ＩＡ１の奏する効果に加え、演出態様が報知態様に可変されることで、事前に特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、演出態様の可変に興味を持たせることができるという効果がある。

【１４２４１】

遊技機ＩＡ１またはＩＡ２において、遊技者が操作可能な操作手段を有し、前記演出態様は、前記操作手段が操作されたことに基づいて可変されることが可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＩＡ３。

【１４２４２】

遊技機ＩＡ３によれば、遊技機ＩＡ１またはＩＡ２の奏する効果に加え、遊技者が操作するタイミングによって可変させることができるので、遊技者の操作によって、報知される内容が可変するように思わせることができるという効果がある。

【１４２４３】

遊技機ＩＡ１からＩＡ３のいずれかにおいて、前記演出態様の可変は、複数段階に分けて実行されるものであり、前記追加演出実行手段は、前記回数における演出の可変が終了した後に、前記決定された回数と、前記複数段階の可変タイミングにおける情報とに基づいた前記追加演出を実行するものであることを特徴とする遊技機ＩＡ４。

【１４２４４】

遊技機ＩＡ４によれば、遊技機ＩＡ１からＩＡ３のいずれかにおいて、回数と可変される複数段階の可変タイミングにおける情報とに基づいて追加演出が実行されるので、演出態様の可変に対応させた追加演出を実行することができるという効果がある。

【１４２４５】

＜特徴ＩＢ群＞

演出を実行可能な演出実行手段と、その演出実行手段により実行される前記演出の種別を決定可能な演出種別決定手段と、移行条件が成立したことに基づいて前記演出の種別を異なる種別へと移行させることが可能な前記演出種別移行手段と、第１状態と、その第１状態よりも前記移行条件が成立し難い第２状態と、を設定可能な状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技機は、前記第２状態が設定されている状態では、遊技者に有利な特典を付与可能な付与条件が成立した場合に前記移行条件を成立させることが可能であることを特徴とする遊技機ＩＢ１。

【１４２４６】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、複数の演出ステージが切り替わるように構成され、大当たり抽選の結果を示すための変動演出の演出態様を、設定されている演出ステージに対応させて決定することで、変動演出が単調となることを抑制することが可能な遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。また、大当たり抽選が所定回数実行されることによって演出ステージの移行条件が成立した場合に演出ステージが自動的に切り替わるように構成し、遊技者が早期に遊技に飽きてしまうことを抑制する遊技機も提案されている。しかしながら、演出ステージが自動的に切り替わる従来型の遊技機では、遊技者の意思に関わらず演出ステージが切り替わってしまうため、遊技者の趣味に合った演出ステージから、遊技者の趣味に合わない演出ステージへと切り替わった場合に、遊技者の遊技意欲が著しく低下してしまうという問題があった。また、遊技者が任意に演出ステージを設定可能に構成した場合には、全ての演出ステージを体験すること無く、特定の演出ステージのみで遊技を行ってしまう遊技者が発生してしまい、遊技機が予め有している演出内容を遊技者に十分に提供することができない事態が発生してしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出ステージを固定した場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下しないように他の演出ステージへと切り替え可能に構成することで、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制しながら、多様な演出を遊技者に提供することで、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることを目的とする。

【１４２４７】

遊技機ＩＢ１によれば、状態設定手段によって、移行条件の成立のし易さを異ならせることができ、移行条件が成立し難い第２状態が設定されている状態で移行条件が成立した場合には特典が付与されるため、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４２４８】

遊技機ＩＢ１において、情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を、所定個数を上限に記憶可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶されている前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果である場合に遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、前記移行条件を設定するための移行条件設定手段と、を有し、前記移行条件設定手段は、少なくとも、前記判別手段により実行された前記判別の回数が特定回数となった場合に成立する第１移行条件を設定可能であり、前記記憶手段に記憶されている前記情報に基づいて、前記第１移行条件が成立するよりも前に、前記第１移行条件が成立し得ることを示すための移行示唆演出を実行可能な以降演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＩＢ２。

【１４２４９】

遊技機ＩＢ２によれば、遊技機ＩＢ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１移行条件が成立するよりも前に、移行示唆演出を実行することができるため、遊技者に対して、移行条件が成立するタイミングを予測させ易くすることができるという効果が

ある。
【１４２５０】
遊技機ＩＢ１またはＩＢ２において、遊技者が操作可能な操作手段を有し、前記状態設定手段は、前記操作手段への操作に基づいて、前記第２状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＩＢ３。
【１４２５１】
遊技機ＩＢ３によれば、遊技機ＩＢ１またはＩＢ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、遊技者が任意のタイミングで第２状態を設定することができるため、第２状態を設定した状態で移行条件が成立するか否かを確認可能な遊技を遊技者に選択して実行させ易くすることができるという効果がある。
【１４２５２】
遊技機ＩＢ３において、前記移行示唆演出が実行されている状態において、前記第２状態が設定された場合には、前記第１移行条件が成立する前記判別手段の前記判別の結果が、前記特定の判別結果である場合には前記第１移行条件を成立させ、前記特定の判別結果では無い場合には前記第１移行条件を成立させないことを特徴とする遊技機ＩＢ４。
【１４２５３】
遊技機ＩＢ４によれば、遊技機ＩＢ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、移行示唆演出が実行されている状態で第２状態が設定された場合は、対象となる判別手段の判別結果が特定の判別結果である場合にのみ、第１移行条件を成立させ、演出の種別を異ならせることができる。即ち、第２状態が設定された場合であっても、移行示唆演出をそのまま実行可能であるため、実行される演出を制御するための処理負荷を軽減させることができるという効果がある。
【１４２５４】
＜特徴ＩＣ群＞
情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された前記情報を記憶可能な記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報を判別可能な判別手段と、その判別手段により判別された判別結果を示すための識別情報が動的表示される表示手段と、その表示手段に特定の前記判別結果を示すための識別情報が表示された場合に特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、所定の遊技情報を示すための特定演出の実行可能な特定演出実行手段と、を有し、前記特定演出は、特定条件が成立している場合に、前記特定条件が成立していない場合よりも実行され易くされているものであることを特徴とする遊技機ＩＣ１。
【１４２５５】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否抽選が実行され、その抽選結果が当たり当選であることに基づいて当たり遊技が実行されるものがある。そして、遊技の当否抽選を実行するための実行権利を所定個数を上限に保留記憶可能に構成し、当たり遊技中に保留記憶されている実行権利の中に、当たり当選し得る実行権利が含まれている場合において、当たり遊技中に実行される当たり遊技演出を用いて、次回の当たり当選を遊技者に事前に報知する連続当たり演出が実行可能な遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４２５６】
このような従来型の遊技機では、当たり遊技中において、当たり当選し得る実行権利が保留記憶されている場合に、高確率で連続当たり演出を実行してしまうと、当たり遊技中に連続当たり演出が実行されなかった時点で、保留記憶されている実行権利の中に当たり当選し得る実行権利が含まれていない可能性が高くなる。上記した例のように、演出の実行されやすさが常に同じであることにより遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機の提供することを目的とする。
【１４２５７】

遊技機ＩＣ１によれば、特定条件が成立することで特定演出が実行され易くなるので、遊技者に遊技情報が報知される頻度を可変させることができ、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４２５８】

遊技機ＩＣ１において、前記判別手段による前記判別が実行されるよりも前に前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて事前判別を実行可能な事前判別手段を有し、前記特定演出実行手段は、前記事前判別手段により前記特定の判別結果と判別される前記情報が記憶されていると判別された場合に前記特定演出を実行可能であり、前記特定条件は、前記特定演出が実行されたことで成立するものであることを特徴とする遊技機ＩＣ２。

【１４２５９】

遊技機ＩＣ２によれば、遊技機ＩＣ１の奏する効果に加え、特定演出が実行されることで、特定条件が成立するので、１度特定演出が実行されることで、その後に特定演出が連続して実行され易くでき、特定演出の連続演出を遊技者に楽しませることができるという効果がある。

【１４２６０】

遊技機ＩＣ１またはＩＣ２において、前記特定演出の実行契機となった前記情報を用いた前記判別の結果に基づいて前記特典遊技が実行されている期間を設定可能であることを特徴とする遊技機ＩＣ３。

【１４２６１】

遊技機ＩＣ３によれば、遊技機Ｃ１またはＣ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出によって、実行されることが事前に報知された特典遊技の実行期間中を設定可能であるため、一度特定演出が実行された場合には、連続して特定演出を実行させ易くすることができる。よって、特定演出を連続して実行させようと意欲的に遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４２６２】

遊技機ＩＣ１からＩＣ３のいずれかにおいて、前記特典遊技が実行されている期間を用いて実行中の前記特典遊技の内容を示すための特典演出を実行可能な特典演出実行手段と、その特典演出実行手段により実行される前記特典演出の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、を有し、前記演出態様決定手段は、前記特定演出が連続して実行される場合に、前回実行された前記特典遊技の内容を引き継いだ演出態様を決定可能であることを特徴とする遊技機ＩＣ４。

【１４２６３】

遊技機ＩＣ４によれば、遊技機ＩＣ１からＩＣ３のいずれかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出が連続して実行された場合には、特典演出の内容を、複数の特典遊技を跨いで決定することができるため、遊技者に対して、特定演出を連続して実行させようとより意欲的に遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４２６４】

遊技機ＩＣ４において、前記特典遊技実行手段は、前記特典遊技として、第１特典遊技と、その第１特典遊技よりも遊技者に有利となる第２特典遊技と、のうち、何れかの前記特典遊技を実行可能であり、前記特典演出実行手段により実行される前記特典演出の内容が、前記第２特典遊技よりも遊技者に有利となる前記特典遊技の内容よりも遊技者に有利となる内容となった場合に、特殊演出を実行可能な特殊演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＩＣ５。

【１４２６５】

遊技機ＩＣ５によれば、遊技機ＩＣ４の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出が連続して実行されたことにより、複数の特典遊技の内容を累積した特典演出の内容が、１回の第２特典遊技の内容よりも遊技者に有利となった場合に特殊演出が実行されるため、特殊演出を実行させようと、意欲的に遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４２６６】

＜特徴ＩＤ群＞
遊技球が入球可能な特定領域と、その特定領域へと遊技球が入球したことに基づいて特典を付与可能な特典付与手段と、遊技球は前記特定領域へ入球させることが可能な領域へと遊技球を発射させるための案内報知を実行可能な報知実行手段と、を有した遊技機において、前記遊技機は、前記案内報知が実行された後に、次に実行される演出が開始されるまでの期間を異ならせることが可能にされていることを特徴とする遊技機ＩＤ１。
【１４２６７】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１４２６８】
遊技機ＩＤ１によれば、案内報知が実行されてから、次の演出が開始されるまでの期間を異ならせることができるため、案内報知を最適な期間で実行させることが可能となり遊技の興趣を向上できるという効果がある。
【１４２６９】
遊技機ＩＤ１において、前記次の演出は、前記特定領域に遊技球が入球した場合に、入球したことを示すための演出であり、前記案内報知が実行されてから第１期間が経過するまでは、前記特定領域に遊技球が入球した場合にも前記次の演出の実行が規制されるものであることを特徴とする遊技機ＩＤ２。
【１４２７０】
遊技機ＩＤ２によれば、遊技機ＩＤ１の奏する効果に加え、案内報知が実行された直後に遊技球が特定領域へと入球した場合であっても、第１期間は案内報知が終了することが無いため、案内報知の内容を遊技者が把握できないまま案内報知が終了してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１４２７１】
遊技機ＩＤ２において、前記案内報知が実行されてから前記第１期間が経過した場合は、前記特定領域へと遊技球が入球したことに基づいて、前記案内報知が終了することを特徴とする遊技機ＩＤ３。
【１４２７２】
遊技機ＩＤ３によれば、遊技機ＩＤ２の奏する効果に加え、第１期間が経過した場合には、特定領域へと遊技球が入球したことに基づいて案内報知が終了するため、遊技者に対して、無用に長い期間、案内報知が実行されてしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１４２７３】
遊技機ＩＤ２またはＩＤ３において、前記特定領域へと遊技球が入球してから前記第１期間が経過するまでの残余期間を用いて、特定演出を実行可能な特定演出実行手段を有することを特徴とする遊技機ＩＤ４。
【１４２７４】
遊技機ＩＤ４によれば、遊技機ＩＤ２またはＩＤ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定演出を実行させようと、特定領域へと遊技球を入球させる遊技を遊技者に意欲的に行わせることができるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４２７５】
＜特徴ＩＥ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、その動的表示手段により動的表示される前記識別情報の動的表示期間として、異なる動的表示期間が予め規定されている動的表示期間群が予め複数記憶されている動的表示期間群記憶手段と、その動的表示期間群記憶手段に記憶されている前記動的表示期間群の中から１の前記動的表示期間群を決定可能な動的表示期間群決定手段と、その動的表示期間群決定手段により決定された前記動的表示期間群を用いて、前記識別情報の動的表示期間を決定可能な動的表示期間決定手段と、を有した遊技機において、前記動的表示期間群決定手段は、前記判別手段により実行された前記判別に関する情報に基づいて移行条件が成立した場合に、現在決定されている前記動的表示期間群とは異なる前記動的表示期間群を決定可能であり、前記動的表示期間群には移行先の前記動的表示期間群を示す情報が予め規定されていることを特徴とする遊技機ＩＥ１。

【１４２７６】

従来より、設定されている遊技状態と、特別図柄抽選の結果とに基づいて、異なる変動パターン（変動時間）を決定することで、単位時間当たりに実行させることが可能となる特別図柄抽選の回数を、遊技状態に応じて異ならせるように構成し、遊技者に対して、単位時間当たりに実行させることが可能な特別図柄抽選の回数が多くなる遊技状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせる遊技機が提案されており、大当たり遊技が終了してから実行される特別図柄変動の回数に基づいて、異なる変動パターン（変動時間）が決定されるように構成することで、同一の遊技状態で長時間の遊技を実行している遊技者に対して、飽きの来ない遊技を実行可能に構成している遊技機がある（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。具体的には、大当たり遊技の終了後に通常状態が設定された場合において、特別図柄変動が１００回実行される毎に、変動パターンを決定する際に参照される変動パターンテーブルを切り替えることで、異なる変動パターン（変動時間）を設定可能に構成するものがある。このように構成された従来型の遊技機によれば、同一の遊技状態が長時間継続する場合であっても、特別図柄変動の実行回数に応じて全く異なる変動パターンを設定することができるため、遊技者が遊技に飽きてしまうことを抑制することができるものであったが、特別図柄変動の実行回数に応じて変動パターンテーブルを切り替えるための規定内容（変動パターン選択シナリオ）として、莫大な特別図柄変動回数に対応したデータを規定する必要があり、遊技機の処理負荷を増大させてしまう虞があった。また、特別図柄変動の実行回数と、参照される変動パターンテーブルと、を完全に対応付けてしまうと、どのタイミングでどの変動パターンが選択され易くなるのかが遊技者に予測され易くなってしまうため、特別図柄変動の実行回数と、参照される変動パターンテーブルと、の組合せを多様化し、どのタイミングでどの変動パターンが選択され易くなるのかを遊技者に予測させ難くすることが望まれるが、このような構成を用いた場合には、変動パターン選択シナリオの規定内容がより多様化してしまい、遊技機の処理負荷をより増大させてしまうという虞があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技機の処理負荷を増大させること無く、特別図柄変動の実行回数に基づいて異なる変動パターンテーブルを参照して変動パターンを決定可能にすることで、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機の提供することを目的とする。

【１４２７７】

遊技機ＩＥ１によれば、動的表示期間群決定により１の動的表示期間群が決定されている状態で実行された判別に基づいて移行条件が成立した場合に、予め規定されている動的表示期間群へと移行させることができるため、遊技機の処理負荷が増大してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４２７８】

遊技機ＩＥ１において、前記動的表示期間群記憶手段に記憶されている前記動的表示期間群のうち、少なくとも２以上の前記動的表示期間群に対して、前記移行先の動的表示期間群として同一の動的表示期間群を示す情報が予め規定されていることを特徴とする遊技

機ＩＥ２。
【１４２７９】
遊技機ＩＥ２によれば、遊技機ＩＥ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、異なる動的表示期間群が決定されている状態であっても、移行条件が成立した場合に、同一の動的表示期間群へと移行させることができるため、様々な組合せで動的表示期間群を切り替えることが可能となる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４２８０】
遊技機ＩＥ１またはＩＥ２において、前記動的表示期間群記憶手段に記憶されている前記動的表示期間群のうち、少なくとも１の前記動的表示期間群が、複数の前記移行条件を有することを特徴とする遊技機ＩＥ３。
【１４２８１】
遊技機ＩＥ３によれば、遊技機ＩＥ１またはＩＥ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、動的表示期間群に対して、複数の移行条件を設けることにより、様々な条件で動的表示期間群を切り替えることが可能となるため、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４２８２】
遊技機ＩＥ３において、成立する前記移行条件に応じて、異なる動的表示期間群へと移行させることが可能であることを特徴とする遊技機ＩＥ４。
【１４２８３】
遊技機ＩＥ４によれば、成立した移行条件によって、異なる動的表示期間群へと移行するため、遊技者に対して、どの移行条件が成立したかについて興味を持たせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４２８４】
＜特徴ＩＦ群＞
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、その動的表示手段により動的表示される前記識別情報の動的表示期間を決定可能な動的表示期間決定手段と、その動的表示期間決定手段により決定された前記動的表示期間を記憶可能な記憶手段と、前記表示手段に特定の前記判別の結果を示すための前記識別情報が停止表示された場合に遊技者に特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による前記判別の結果に基づいて、主動的表示期間を決定可能な主動的表示期間を決定可能な主動的表示期間決定手段と、前記判別手段による前記判別の結果に基づいて、前記主動的表示期間とは異なる副動的表示期間を決定可能な副動的表示期間決定手段と、を有し、前記動的表示期間決定手段は、前記主動的表示期間と、前記副動的表示期間と、を合算した合算動的表示期間を前記動的表示期間として決定可能であり、前記遊技機は、前記合算動的表示期間が第１期間よりも短い場合には、前記合算動的表示期間を示すための情報を前記記憶手段へと記憶させ、前記第１期間以上である場合には、前記合算動的表示期間を示すための前記情報に特殊処理を実行した処理後情報を前記記憶手段へと記憶させることを特徴とする遊技機ＩＦ１。
【１４２８５】
従来より、設定されている遊技状態と、特別図柄抽選の結果とに基づいて、異なる変動パターン（変動時間）を決定することで、単位時間当たりに実行させることが可能となる特別図柄抽選の回数を、遊技状態に応じて異ならせるように構成し、遊技者に対して、単位時間当たりに実行させることが可能な特別図柄抽選の回数が多くなる遊技状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせる遊技機が提案されており、大当たり遊技が終了してから実行される特別図柄変動の回数に基づいて、異なる変動パターン（変動時間）が決定されるように構成することで、同一の遊技状態で長時間の遊技を実行している遊技者に対して、飽きの来ない遊技を実行可能に構成している遊技機がある（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。このような従来型の遊技機において、様々な変動

パターン（変動時間）を決定可能とするために、変動時間に関する情報を複数決定可能にし、決定された複数の情報に含まれる変動時間を合算することで変動パターンを決定するように構成された遊技機がある。このような遊技機では、複数の変動時間を組み合わせることにより、様々な変動パターンを決定することができ、遊技者に対して飽きの来ない遊技を実行させることが可能となるが、例えば、組み合わされる複数の変動時間として、長い変動時間がそれぞれ決定された場合に、合算後の変動パターンとして長時間の変動パターンが決定されてしまうことから、変動時間を記憶するためのデータ領域として、最長となる変動パターンに対応する変動時間に関する情報を格納できるようにデータ領域を大きく確保する必要があり、遊技機のデータ領域を圧迫してしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技機のデータ領域が圧迫されてしまうことを抑制可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４２８６】

遊技機ＩＦ１によれば、合算後の動的表示期間の長さが第１期間以上となった場合に、動的表示期間の長さを示すための情報に対して特殊処理を実行させた処理後情報を記憶手段へと記憶させることができるため、動的表示期間として第１期間以上の長さが決定された場合であっても、記憶手段へと記憶させる情報を簡素化することが可能となる。よって、遊技機のデータ領域を圧迫してしまうという問題が発生してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４２８７】

遊技機ＩＦ１において、前記合算動的表示期間が前記第１期間を超えたことを示すための超過情報を記憶可能な第２記憶手段を有し、前記動的表示手段は、前記合算動的表示期間が前記第１期間を超えた場合に、前記記憶手段に記憶されている前記処理情報と、前記第２記憶手段に記憶されている前記超過情報と、に基づいて、前記識別情報を動的表示可能であることを特徴とする遊技機ＩＦ２。

【１４２８８】

遊技機ＩＦ２によれば、遊技機ＩＦ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、合算動的表示期間が第１期間を超えたことを示すための超過情報と、処理情報とに基づいて識別情報を動的表示させることができるため、動的表示期間決定手段により決定された動的表示期間に対応させて確実に識別情報を動的表示させることができるという効果がある。

【１４２８９】

遊技機ＩＦ１またはＩＦ２において、前記特殊処理は、前記合算動的表示期間から前記第１期間を減算した減算値を算出するものであることを特徴とする遊技機ＩＦ３。

【１４２９０】

遊技機ＩＦ３によれば、遊技機ＩＦ１またはＩＦ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、合算動的表示期間から第１期間を減算した減算値が記憶手段に記憶されるため、第１期間よりも長い期間を示すための情報が記憶手段に記憶されることを抑制することができるという効果がある。

【１４２９１】

遊技機ＩＦ３において、前記遊技機は、前記合算動的表示期間として算出され得る期間の上限が、前記第１期間の２倍を超えることが無いように構成されていることを特徴とする遊技機ＩＦ４。

【１４２９２】

遊技機ＩＦ４によれば、遊技機ＩＦ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、合算動的表示期間が、第１期間を２倍した期間よりも短くなるため、第２記憶手段に合算動的表示期間が第１期間を超過したことを示す超過情報のみを記憶させるだけで、合算動的表示期間を的確に再現することができるという効果がある。

【１４２９３】

遊技機ＩＦ１からＩＦ４の何れかにおいて、前記主動的表示期間決定手段により決定される前記主動的表示期間は、何れも前記第１期間よりも短い期間であることを特徴とする

遊技機ＩＦ５。
【１４２９４】
遊技機ＩＦ５によれば、遊技機ＩＦ１からＩＦ４の何れかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、主動的表示期間のみで、第１期間よりも長い動的表示期間が設定されることが無いため、特殊処理が実行される頻度を抑制することができるという効果がある。
【１４２９５】
＜特徴ＩＧ群＞
所定数を上限に判別情報を記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記判別情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、前記記憶手段に記憶されている前記判別情報の数に対応させた第１図柄を、所定の動的態様で表示手段に表示可能な判別情報表示手段と、演出を実行可能な演出実行手段と、その演出実行手段により実行される前記演出の種別を決定可能な演出種別決定手段と、移行条件が成立したことに基づいて、前記演出実行手段により実行される前記演出の種別を異なる種別へと移行させることが可能な前記演出種別移行手段と、を有した遊技機において、前記判別情報数報知手段は、前記第１図柄が特定の前記動的態様で表示されている状態で前記移行条件が成立した場合に、前記特定の動的表示態様とは異なる特殊動的態様で前記第１図柄を表示可能であることを特徴とする遊技機ＩＧ１。
【１４２９６】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて抽選情報を取得し、取得した抽選情報を、所定数を上限に記憶可能に構成し、記憶された抽選情報に基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行される構成が提案されていた。また、記憶されている抽選情報の個数を遊技者に報知するための保留図柄を表示可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。上述した従来型の遊技機では、記憶されている抽選情報の個数を遊技者に報知するための保留図柄の表示態様が単調であり、演出効果を高めることが出来ないという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、保留図柄を用いて演出効果をより高めることが可能な遊技機を提供することを目的とする。
【１４２９７】
遊技機ＩＧ１によれば、移行条件の成立タイミングと、第１図柄の動的態様の表示タイミングに応じて、移行条件が成立した後の第１図柄の動的態様を異ならせることができるため、第１図柄の動的態様を用いた演出の演出効果を高めることができるという効果がある。
【１４２９８】
遊技機ＩＧ１において、前記記憶手段に記憶されている前記判別情報を、その判別情報が前記判別手段による前記判別に用いられるよりも前に事前判別可能な事前判別手段と、前記事前判別手段による前記事前判別の結果に基づいて前記第１図柄の動的態様を決定可能な動的態様決定手段と、を有し、前記動的態様決定手段は、前記事前判別手段により前記特定の判別結果となる前記判別情報が記憶されていると判別された場合の方が、前記事前判別手段により前記特定の判別結果となる前記判別情報が記憶されていないと判別された場合よりも、決定し易い第１動的態様を決定可能であり、前記遊技機は、前記第１動的態様で前記第１図柄が表示されている状態で前記移行条件が成立した場合に、前記特殊動的態様で前記第１図柄を表示可能であることを特徴とする遊技機ＩＧ２。
【１４２９９】
遊技機ＩＧ２によれば、遊技機ＩＧ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特殊動的態様で第１図柄が表示された場合に、特典遊技が実行される可能性を高くするこ

とができるため、特殊動的態様で第１図柄が表示されることを期待させながら遊技を行わせることができる。よって、移行条件が成立するタイミングに対して、より遊技者に興味を持たせることができるという効果がある。

【１４３００】

遊技機ＩＧ２において、前記第１動的態様は、少なくとも、前記第１図柄を、１の表示態様で動的表示される第１期間と、その第１期間よりも後の期間であって、前記１の表示態様とは異なる他の表示態様へと可変させる第２期間と、を含む動的表示期間にて前記第１図柄を動的表示させるものであって、前記判別情報数報知手段は、前記第１期間にて前記移行条件が成立した場合と、前記第２期間にて前記移行条件が成立した場合と、で異なる動的態様で前記第１図柄を動的表示可能であることを特徴とする遊技機ＩＧ３。

【１４３０１】

遊技機ＩＧ３によれば、遊技機ＩＧ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１動的態様で第１図柄が動的表示されている期間の経過状況に応じて、移行条件が成立した後の動的態様を異ならせることができるため、移行条件が成立するタイミングに対して、より遊技者に興味を持たせることができるという効果がある。

【１４３０２】

遊技機ＩＧ３において、前記第２期間は、前記第１期間よりも短く設定され、前記動的態様決定手段は、前記第１期間にて前記移行条件が成立した場合よりも、前記第２期間にて前記移行条件が成立した場合の方が、前記第１図柄の動的態様として、前記事前判別手段により前記特定の判別結果となる前記判別情報が記憶されていると判別された場合の方が、前記事前判別手段により前記特定の判別結果となる前記判別情報が記憶されていないと判別された場合よりも、決定し易い特殊第１動的態様を決定し易いことを特徴とする遊技機ＩＧ４。

【１４３０３】

遊技機ＩＧ４によれば、遊技機ＩＧ３の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、短い期間である第２期間中に移行条件が成立した場合に、特殊第１動的態様が決定され易いため、移行条件が成立するタイミングに対して、より遊技者に興味を持たせることができるという効果がある。

【１４３０４】

＜特徴ＩＨ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための複数の図柄列で構成された識別図柄を表示する表示手段と、その表示手段に前記識別図柄を動的表示した後に、前記判別結果を示すための表示態様で前記識別図柄を停止表示する表示制御手段と、前記判別手段により特定の判別結果を示すための停止表示態様で前記識別図柄が停止表示された場合に遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、を有した遊技機において、前記識別図柄は、第１図柄と、その第１図柄とは異なる第２図柄とを複合させて形成され、前記表示制御手段は、前記第１図柄に対する第１表示制御と、前記第２図柄に対する第１表示制御と異ならせて実行可能であることを特徴とする遊技機ＩＨ１。

【１４３０５】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、表示される図柄の態様が単調となってしまい、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、様々な態様で図柄を表示可能にすることで、遊技者が遊技に早期に飽きてしま

うことを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４３０６】

遊技機ＩＨ１によれば、第１図柄と第２図柄とを複合させて形成された識別図柄を用いて判別手段の判別結果を表示可能となり、且つ、表示制御手段によって、第１図柄と第２図柄とに対して別々の表示制御を実行することができるため、表示手段に表示される識別図柄を多彩な表示態様で表示することができるため、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４３０７】

遊技機ＩＨ１において、前記表示制御手段は、前記第１表示制御によって前記第１図柄が動的表示されるタイミングよりも遅らせて前記第２表示制御によって前記第２図柄を動的表示させることが可能であることを特徴とする遊技機ＩＨ２。

【１４３０８】

遊技機ＩＨ２によれば、遊技機ＩＨ１の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、識別図柄を形成する第１図柄と、第２図柄とのうち、第２図柄が動的表示されるタイミングを遅らせることができるため、識別図柄が動的表示される際の表示態様を遊技者に注視させることができる。よって、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４３０９】

遊技機ＩＨ１またはＩＨ２において、前記表示制御手段は、前記第１表示制御として、通常第１表示制御と、特定第１表示制御と、を実行可能であり、前記第２表示制御として、通常第２表示制御と、特定第２表示制御と、を実行可能であり、前記遊技機は、少なくとも、前記通常第１表示制御が実行される場合において、前記第２表示制御として、前記通常第２表示制御が実行される通常表示と、前記特定第２表示制御が実行される特定表示と、を実行可能であることを特徴とする遊技機ＩＨ３。

【１４３１０】

遊技機ＩＨ３によれば、遊技機ＩＨ１またはＩＨ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、第１図柄に対して通常第１表示制御を実行する場合に、第２図柄に対して通常第２表示制御を実行する通常表示と、特定第２表示制御を実行する特定表示と、を実行可能であるため、第１図柄の動的表示と、第２図柄の動的表示と、を組み合わせることで、バリエーションの富んだ識別図柄の動的表示を実行することができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４３１１】

遊技機ＩＨ１からＩＨ３の何れかにおいて、前記表示制御手段は、特定条件が成立した場合に、前記第２図柄を用いること無く、前記第１図柄のみで前記判別手段の判別結果を報知可能であることを特徴とする遊技機ＩＨ４。

【１４３１２】

遊技機ＩＨ４によれば、遊技機ＩＨ１からＩＨ３の何れかの奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、特定条件が成立した場合に、第１図柄のみで判別手段の判別結果を報知することができるため、遊技者に意外性のある演出を提供することができるという効果がある。

【１４３１３】

＜特徴ＩＩ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果に基づく識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別結果が特定の前記判別結果である場合に、遊技者に有利となる特典を付与することが可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記識別情報が表示される期間に前記識別情報が表示されることが可能な領域に視認可能な状態で識別図柄を配置させる動的表示手段と、前記識別図柄の動的表示パターンを決定することが可能な動的表示パターン決定手段と、を有し、前記動的表示パターン決定手段は、前記識別情報が表示される期間に前記識別図柄を動的表示させるタイミングにより、前記識別情報と配置される前記識別図柄との位置関係が特定の位置関係となることを規制可能な動的表示

パターンを決定させることが可能であることを特徴とする遊技機ＩＩ１。
【１４３１４】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、表示される図柄の態様が単調となってしまい、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、様々な態様で図柄を表示可能にすることで、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１４３１５】
遊技機ＩＩ１によれば、識別図柄の動的表示開始タイミングにより判別されて、そのタイミングに合わせた動的表示パターンが決定されることで特定の位置関係となることが規制されることで設計上不都合のある位置関係となることを抑制することができ、識別図柄の動的表示タイミングを柔軟に決定することが可能となるので、より遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４３１６】
遊技機ＩＩ１において、前記動的表示パターン決定手段は、複数の前記識別図柄を動的表示させるための動的表示パターンを決定することが可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＩＩ２。
【１４３１７】
遊技機ＩＩ２によれば、遊技機ＩＩ１の奏する効果に加え、動的表示パターンによって、複数の識別図柄を動的表示させることが可能となるので、識別図柄を動的表示させるための制御負荷を軽減することができるという効果がある。
【１４３１８】
遊技機ＩＩ１またはＩＩ２において、前記識別情報が表示される期間のうち、前記識別図柄を動的表示開始させるタイミングを決定可能な許容期間が予め設定されているものであることを特徴とする遊技機ＩＩ３。
【１４３１９】
遊技機ＩＩ３によれば、遊技機ＩＩ１またはＩＩ２の奏する効果に加え、識別情報が表示される期間のうち、識別図柄を動的表示させるタイミングを限定することで、識別情報が表示される期間が終了した後にも識別図柄が所定の位置に配置されない不具合を抑制できるという効果がある。
【１４３２０】
＜特徴ＩＪ群＞
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、を有した遊技機において、前記識別情報は、複数の識別図柄を組み合わせて構成されており、特定条件の成立に基づいて、前記識別図柄とは異なる特殊図柄を所定の位置に配置させるための設定をすることが可能な特殊図柄設定手段と、第１の期間では、前記複数の識別図柄を特定の組み合わせで停止表示させることで前記判別結果に基づく第１演出を実行し、前記第１の期間とは異なる第２の期間では、前記特殊図柄を少なくとも含む特定の組み合わせ態様で前記特殊図柄を配置させることで前記判別結果に基づく第２演出を実行することが可能な演出実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＩＪ１。
【１４３２１】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球

すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、表示される図柄の態様が単調となってしまい、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、様々な態様で図柄を表示可能にすることで、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４３２２】

遊技機ＩＪ１によれば、識別図柄のみで判別結果に基づく演出を実行する期間と、特殊図柄を含む組み合わせで判別結果に基づく演出を実行する期間とを切り替えて設定することができるので、第１演出と第２演出とで遊技者が判別結果に対する期待を可変させることができ、遊技が単調となる不具合を抑制し、遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４３２３】

遊技機ＩＪ１において、第１条件が成立している場合に、前記特殊図柄を含む組み合わせが形成される有効ラインと、第２条件が成立している場合に、前記特殊図柄を含む組み合わせが形成される有効ラインとが異なるようにされるものであることを特徴とする遊技機ＩＪ２。

【１４３２４】

遊技機ＩＪ２によれば、遊技機ＩＪ１の奏する効果に加え、有効ラインが成立している条件により可変されるので、遊技者が識別する有効ラインを予測して遊技を行うことができ、遊技の興趣をより向上できるという効果がある。

【１４３２５】

遊技機ＩＪ１またはＩＪ２において、前記特殊図柄が配置される期間において、前記特殊図柄と組み合わせされない前記識別図柄を通常の状態よりも視認困難な状態に可変させることが可能な可変手段を有するものであることを特徴とする遊技機ＩＪ３。

【１４３２６】

遊技機ＩＪ３によれば、遊技機ＩＪ１またはＩＪ２の奏する効果に加え、特殊図柄と組み合わせされない識別図柄が視認困難な状態に可変されるので、遊技者が特殊図柄の組み合わせを容易に判別できるという効果がある。

【１４３２７】

＜特徴ＩＫ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させる動的表示手段と、を有した遊技機において、前記識別情報が動的表示されることが可能な期間に前記表示手段の前面側で駆動することが可能な第１駆動手段と、その第１駆動手段の所定位置を識別することが識別手段と、前記第１駆動手段を所定の駆動パターンで駆動させることが可能な駆動パターン手段と、を有し、前記駆動パターン手段は、前記駆動パターンで駆動させた場合に所定タイミングで前記所定位置が識別されないことに基づいて、実行する駆動パターンのうち、一部の実行がされないようにされていることを特徴とする遊技機ＩＫ１。

【１４３２８】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立して

いる場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、表示される図柄の態様が単調となってしまい、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、様々な態様で図柄を表示可能にすることで、遊技者が遊技に早期に飽きてしまうことを抑制し、遊技者の遊技に対する興趣を向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４３２９】

遊技機ＩＫ１によれば、第１駆動手段を駆動パターンで駆動させる際に、所定位置を識別することができない場合には、駆動パターンのうち、一部を駆動させないことにより、第１駆動手段が他の構造物等と接触して破損してしまう不具合を抑制できるという効果がある。

【１４３３０】

遊技機ＩＫ１において、前記第１駆動手段は、回動可能な回動手段を有しており、前記識別手段は、前記回動手段の原点位置を前記所定位置として識別可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＩＫ２。

【１４３３１】

遊技機ＩＫ２によれば、回動手段の原点位置を識別できない場合に、駆動パターンに一部が実行されないことで、回動手段が正規の位置で回動停止できずに、第１駆動手段を使用した演出が遊技者に正しく伝わらない不具合を抑制できるという効果を有する。

【１４３３２】

遊技機ＩＫ２において、前記回動手段の前面側には前記原点位置が正規の位置となる文字情報が付されていることを特徴とする遊技機ＩＫ３。

【１４３３３】

遊技機ＩＫ３によれば、遊技機ＩＫ２の奏する効果に加え、文字情報が付されていることで、原点位置に配置された場合に、遊技者に文字情報を容易に識別させることができるという効果がある。

【１４３３４】

＜特徴ＩＬ群＞

遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段が操作されたことに基づいて演出態様を可変させる可変演出を実行可能な可変演出実行手段と、を有した遊技機において、１の前記操作に基づいて前記可変演出により可変された前記演出態様は、異なる２以上の遊技者に有利となる特典が付与されることを報知可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＩＬ１。

【１４３３５】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技者が操作可能な操作手段（枠ボタン２２等）への操作内容に基づいて演出態様を可変させる操作演出を複数回実行することで、演出態様を段階的に可変させる期間演出を実行可能なものがある。そして、期間演出の演出結果として、演出態様が特定段階まで可変された場合に、遊技者に有利な特典が付与される遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。しかしながら、従来型の遊技機では、期間演出の演出結果のみが予め決定されており、各操作演出の演出結果が予め決定されていないため、期間演出中に実行される複数回の操作演出の全てを用いること無く、期間演出の演出結果に対応する段階まで演出態様が可変されてしまい、期間演出の演出結果が低下してしまう問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出中における操作手段への操作意欲を高め、遊技者の遊技に対する興趣を向上させる遊技機を提供することを目的とする。

【１４３３６】

遊技機ＩＬ１によれば、１の操作に基づいて２以上の遊技者に有利となる特典が報知可能にされているので、操作手段を操作することによる特典を増大させることが可能となり遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４３３７】
遊技機ＩＬ１において、情報を取得可能な取得手段と、その取得手段により取得された情報が記憶される記憶手段と、その記憶手段に記憶された前記情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の判別結果を示すための態様で前記識別情報が停止表示された場合に、遊技者に有利な特典を付与することが可能な特典付与手段と、前記判別手段により判別が実行されるよりも前に前記記憶手段に記憶されている情報に基づいて前記判別手段により前記特定の判別結果と判別される場合に、前記前記演出態様が予め定められた報知態様に可変されることが可能に構成されているものであることを特徴とする遊技機ＩＬ２。
【１４３３８】
遊技機ＩＬ２によれば、遊技機ＩＬ１の奏する効果に加え、演出態様が報知態様に可変されることで、事前に特定の判別結果となることを遊技者が認識できるので、演出態様の可変に興味を持たせることができるという効果がある。
【１４３３９】
遊技機ＩＬ１またはＩＬ２のいずれかにおいて、前記演出態様の可変は、複数段階に分けて実行されるものであり、前記回数における演出の可変が終了した後に、前記複数段階の可変タイミングにおける情報に基づいた追加演出が追加可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＩＬ３。
【１４３４０】
遊技機ＩＬ３によれば、遊技機ＩＬ１からＩＬ３のいずれかにおいて、複数段階の可変タイミングにおける情報に基づいて追加演出が実行されるので、演出態様の可変に対応させた演出を実行することができるという効果がある。
【１４３４１】
＜特徴ＩＭ群＞
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果を示すための識別情報を表示手段に動的表示させることが可能な動的表示手段と、前記表示手段に特定の前記判別の結果を示すための前記識別情報が停止表示された場合に遊技者に特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、遊技の制御に必要な第１情報値を決定可能な第１情報値決定手段と、遊技の制御に必要な第２情報値を決定可能な第２情報値決定手段と、前記第１情報値と前記第２情報値とに基づいて特定条件が成立する場合に特殊処理を実行することが可能な特殊処理実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機ＩＭ１。
【１４３４２】
従来より、設定されている遊技状態と、特別図柄抽選の結果とに基づいて、異なる変動パターン（変動時間）を決定することで、単位時間当たりに実行させることが可能となる特別図柄抽選の回数を、遊技状態に応じて異ならせるように構成し、遊技者に対して、単位時間当たりに実行させることが可能な特別図柄抽選の回数が多くなる遊技状態が設定されることを目指して意欲的に遊技を行わせる遊技機が提案されており、大当たり遊技が終了してから実行される特別図柄変動の回数に基づいて、異なる変動パターン（変動時間）が決定されるように構成することで、同一の遊技状態で長時間の遊技を実行している遊技者に対して、飽きの来ない遊技を実行可能に構成している遊技機がある（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。このような従来型の遊技機において、様々な変動パターン（変動時間）を決定可能とするために、変動時間に関する情報を複数決定可能にし、決定された複数の情報に含まれる変動時間を合算することで変動パターンを決定するように構成された遊技機がある。このような遊技機では、複数の変動時間を組み合わせることにより、様々な変動パターンを決定することができ、遊技者に対して飽きの来ない遊技を実行させることが可能となるが、例えば、組み合わされる複数の変動時間として、長い変動時間がそれぞれ決定された場合に、合算後の変動パターンとして長時間の変動パターンが決定されてしまうことから、変動時間を記憶するためのデータ領域として、最長と

なる変動パターンに対応する変動時間に関する情報を格納できるようにデータ領域を大きく確保する必要があり、遊技機のデータ領域を圧迫してしまうという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、柔軟に決定される情報値に基づく制御を実行した場合にも制御負荷を軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４３４３】

遊技機ＩＭ１によれば、第１情報値と第２情報値とに基づいて特定条件が成立する場合に特殊処理が実行されることで、特殊処理が実行される頻度を軽減することができ、制御負荷を軽減することができるという効果がある。

【１４３４４】

遊技機ＩＭ１において、前記特定条件は、前記第１情報値と前記第２情報値とを加算した場合に、特定値以上となる場合に成立するものであることを特徴とする遊技機ＩＭ２。

【１４３４５】

遊技機ＩＭ２によれば、遊技機ＩＭ１の奏する効果に加え、第１情報値と第２情報値とを加算した値が特定値以上となる場合に、特殊処理が実行されるので、データ量が多いものに対して特殊処理を実行させることができるという効果がある。

【１４３４６】

遊技機ＩＭ２において、前記特殊処理は、加算した値が特定値以上であることを示す情報を付与し、前記加算した値より特定値を減算した値を示す情報を設定するための処理であることを特徴とする遊技機ＩＭ３。

【１４３４７】

遊技機ＩＭ３によれば、遊技機ＩＭ２の奏する効果に加え、特殊処理によって特定値以上であることを示す情報が付与されるので、容易に減算した値に特定値を加算することで、少ないデータ量で加算値を判別することができるという効果がある。

【１４３４８】

＜特徴ＩＮ群＞

所定数を上限に情報を記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、前記記憶手段に記憶されている前記情報の数に対応させた識別図柄を、所定の態様で表示手段に表示可能な情報表示手段と、を有した遊技機において、前記情報表示手段は、前記識別図柄のうち、少なくとも一つの態様を所定の抽選情報に基づいて可変させて表示させることが可能であり、前記可変させて表示させた前記識別図柄の態様が可変させる前の状態で表示させる設定がされた場合に、再度、所定の抽選情報に基づいて可変されていた前記識別図柄を可変させて表示させることが可能にされていることを特徴とする遊技機ＩＮ１。

【１４３４９】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて抽選情報を取得し、取得した抽選情報を、所定数を上限に記憶可能に構成し、記憶された抽選情報に基づいて遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行される構成が提案されていた。また、記憶されている抽選情報の個数を遊技者に報知するための保留図柄を表示可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。上述した従来型の遊技機では、記憶されている抽選情報の個数を遊技者に報知するための保留図柄の表示態様が単調であり、演出効果を高めることが出来ないという問題があった。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、演出効果が低下することを抑制することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４３５０】

遊技機ＩＮ１によれば、識別図柄が例えば、電源断等のアクシデント等により初期の態

様で表示された場合にも、再度、可変して表示されることが可能に設定されているので、演出効果が低下することを抑制できるという効果がある。

【１４３５１】

遊技機ＩＮ１において、前記情報表示手段は、前記識別図柄が可変されて表示されている状態で、電源が断した後に、電源が再度供給された場合に、前記可変されていた前記識別図柄を初期状態の前記識別図柄で表示させた後に、可変条件の成立に基づいて前記識別図柄を可変させて表示させることが可能にされているものであることを特徴とする遊技機ＩＮ２。

【１４３５２】

遊技機ＩＮ２によれば、遊技機ＩＮ１の奏する効果に加え、電源が復旧した後に、識別図柄を再度可変させることができるので、遊技者が可変していた識別図柄に対して興味を継続して持たせることができるという効果がある。

【１４３５３】

遊技機ＩＮ１またはＩＮ２において、前記識別図柄は、特定の周期で動的表示されて表示されるものであり、前記可変されて表示された識別図柄は、可変される前の識別図柄とは異なる動的表示態様で表示されるものであることを特徴とする遊技機ＩＮ３。

【１４３５４】

遊技機ＩＮ３によれば、遊技機ＩＮ１またはＩＮ２の奏する効果に加え、遊技者に可変された識別図柄であることを動的表示態様から識別し易くでき、遊技者が見逃す不具合を抑制できるという効果がある。

【１４３５５】

＜特徴ＩＯ群＞

遊技球が入球可能な特定領域と、その特定領域へと遊技球が入球したことに基づいて特典を付与可能な特典付与手段と、遊技球は前記特定領域へ入球させることが可能な領域へと遊技球を発射させるための案内報知を実行可能な報知実行手段と、を有した遊技機において、前記遊技機は、前記案内報知が実行された後に成立した実行条件により実行される演出が開始されるまでの期間を遅延させることが可能にされていることを特徴とする遊技機ＩＯ１。

【１４３５６】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４３５７】

遊技機ＩＯ１によれば、案内報知が実行されてから開始が成立した演出が開始されるまでの期間を遅延せることができるため、案内報知を最適な期間で実行させることが可能となり遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４３５８】

＜５０７７系の特徴群＞

＜特徴ＪＡ群＞（不利な第１遊技状態において特定の抽選結果となった場合に、当たりを介さずに実質的な大当たり確率が第１遊技状態よりも高い第２遊技状態を設定する）

判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、第１の設定条件の成立に基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において第２の設定条件が成立したことに基づいて、前

記特典遊技を介さずに前記第１遊技状態よりも遊技者に有利な第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＡ１。

【１４３５９】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、当たり遊技の終了後に、遊技者にとって有利度合いが高い遊技状態を設定することで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４３６０】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４３６１】

また、係る従来型の遊技機の中には、当たり遊技の実行が終了した後に設定される遊技状態として、有利度合いが異なる複数の遊技状態を設ける構成とすることで、当たり遊技の終了後の遊技状態として、より有利度合いが高い遊技状態が設定されることを期待させる遊技性を実現しているものも存在する。

【１４３６２】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、有利度合いが比較的低い遊技状態に設定された場合、当たり遊技が実行されない限り、より有利度合いが高い遊技状態へと移行する可能性が無いため、当たり遊技が実行されることのみを期待する遊技性となってしまい、遊技が単調になってしまうという問題点があった。

【１４３６３】

これに対して遊技機ＪＡ１によれば、第１遊技状態では、特典遊技を介さずに有利度合いが高い第２遊技状態が設定されるので、遊技者に対して特定の判別結果に加え、第２の設定条件が成立することにも期待させることができる斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４３６４】

遊技機ＪＡ１において、前記第２の設定条件は、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果となった場合に成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＡ２。

【１４３６５】

遊技機ＪＡ２によれば、遊技機ＪＡ１の奏する効果に加え、判別手段の判別が実行された場合に、遊技者に対して特定の判別結果となることに加え、第１の判別結果となることにも期待させることができる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４３６６】

遊技機ＪＡ１又はＪＡ２において、前記第２遊技状態において、当該第２遊技状態の遊技方法を遊技者に対して示唆可能な特定表示を表示させることが可能な表示制御手段を備え、前記第１遊技状態は、前記特典遊技が実行される割合が、前記判別手段の判別１回あたり第１の割合となる遊技状態であり、前記第２遊技状態は、少なくとも前記特定表示により示唆される遊技方法で遊技を行った場合に、前記第１の割合よりも高い第２の割合で前記特典遊技が実行され得る遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＡ３。

【１４３６７】

遊技機ＪＡ３によれば、遊技機ＪＡ１又はＪＡ２の奏する効果に加え、特典遊技を介さずに、特典遊技が比較的実行され難い遊技状態から実行され易い遊技状態に移行するという極めて斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４３６８】

遊技機ＪＡ３において、前記判別手段は、前記判別条件として予め定められた第１の判別条件が成立したことに基づいて判別を実行する第１判別手段と、前記判別条件として前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件が成立したことに基づいて判別を実行する第

２判別手段と、で少なくとも構成されており、前記第１判別手段の判別が実行されると、前記第１の割合で前記特典遊技が実行され、前記第２判別手段の判別が実行されると、実質的に前記第１の割合よりも高い割合で前記特典遊技が実行されることを特徴とする遊技機ＪＡ４。

【１４３６９】

遊技機ＪＡ４によれば、遊技機ＪＡ３の奏する効果に加え、第１判別手段の判別が実行されるか、第２判別手段の判別が実行されるかによって特典遊技が実行される割合が異なるので、第２判別手段の判別が実行されることをより強く期待して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４３７０】

遊技機ＪＡ４において、前記第１遊技状態は、前記第２の判別条件が成立困難な遊技状態であり、前記第２遊技状態は、前記特定表示により示唆される遊技方法で遊技を行った場合に、成立する前記判別条件のうち特定割合が前記第２の判別条件となることで、前記第２の割合で前記特典遊技が実行される遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＡ５。

【１４３７１】

遊技機ＪＡ５によれば、遊技機ＪＡ４の奏する効果に加え、遊技状態によって第２の判別条件が成立する割合を可変させて遊技状態毎に特典遊技が実行される割合を異ならせることができるという効果がある。

【１４３７２】

遊技機ＪＡ５において、遊技球が入球可能な第１入球手段と、その第１入球手段とは異なる第２入球手段と、前記第１入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記第１判別手段の判別に用いる第１判別情報を取得可能な第１情報取得手段と、前記第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記第２判別手段の判別に用いる第２判別情報を取得可能な第２情報取得手段と、前記第２入球手段へと遊技球が入球可能となる第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、遊技球が通過可能な通過手段と、その通過手段を遊技球が通過したことに基づいて特定の判別を実行する特定判別手段と、その特定判別手段の判別結果が所定の判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、その可変遊技実行手段により実行される前記可変遊技の種別として、前記第１位置へと可変される期間が前記第２入球手段へと遊技球が入球可能となる第１期間に設定される第１可変遊技と、前記第２入球手段へと遊技球が入球困難となる第２期間に設定される第２可変遊技と、を少なくとも含む複数のうち１の種別を決定する種別決定手段と、を備え、前記第１遊技状態は、前記第２可変遊技が決定され得ない遊技状態であり、前記第２遊技状態は、所定割合で前記第２可変遊技が決定される遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＡ６。

【１４３７３】

遊技機ＪＡ６によれば、遊技機ＪＡ５の奏する効果に加え、第１遊技状態であるか、第２遊技状態であるかによって第２入球手段へと遊技球を入球させることができるか否かが可変するので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４３７４】

遊技機ＪＡ６において、前記第１入球手段は、前記通過手段を通過した遊技球が入球可能な位置に設けられていることを特徴とする遊技機ＪＡ７。

【１４３７５】

遊技機ＪＡ７によれば、特定判別手段の判別と第１判別手段の判別とを毎回略同時に実行させることができるという効果がある。

【１４３７６】

遊技機ＪＡ７において、前記第２の割合は、前記第１判別手段の判別で特定の判別結果となる割合と、前記特定判別手段の判別で所定の判別結果となり、前記種別決定手段により前記第１可変遊技が決定され、当該第１可変遊技の実行中に前記第２入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて実行される前記第２判別手段の判別で前記特典遊技が実行さ

れる割合と、の合算であることを特徴とする遊技機ＪＡ８。
【１４３７７】
遊技機ＪＡ８によれば、遊技機ＪＡ７の奏する効果に加え、第２遊技状態では、第１遊技状態と同様に第１入球手段を狙って遊技球を発射することで、第１判別手段の判別で特典遊技が実行されることを期待できる上に、第１可変遊技が実行されて第２入球手段へと遊技球が入球し、第２判別手段の判別で特典遊技が実行されることも期待できる特殊な柚木状態を形成するので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４３７８】
＜特徴ＪＢ群＞（第１契機で設定された時短状態では第１タイミングで時短回数が更新され、第２契機で設定された時短状態では第２タイミングで更新される）
予め定められた第１の設定条件と、その第１の設定条件とは異なる第２の設定条件とのうちいずれかの設定条件が成立したことに基づいて、遊技者に有利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において予め定められた更新条件が成立したことに基づいて、特定のカウンタ値を所定の更新規則に従って更新する更新手段と、その更新手段により前記特定のカウンタ値が予め定められた特定値に更新されたことに基づいて、前記第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備え、前記第１の設定条件の成立を契機として設定された前記第１遊技状態では、前記更新条件として第１の更新条件が成立したことに少なくとも基づいて前記更新手段により前記特定のカウンタ値が更新され得る構成であり、前記第２の設定条件の成立を契機として設定された前記第１遊技状態では、前記更新条件として前記第１の更新条件とは異なる第２の更新条件が成立したことに少なくとも基づいて前記更新手段により前記特定のカウンタ値が更新され得る構成であることを特徴とする遊技機ＪＢ１。
【１４３７９】
ここで、パチンコ機等の遊技機において、所定契機で所定のカウンタ（例えば、時短回数をカウントするカウンタ）に対して所定の初期値を設定し、カウンタ値が特定値となるまで更新処理を行うものが存在する（例えば、特許文献１：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４３８０】
しかしながら、より好適なカウンタ値の更新方法が求められていた。
【１４３８１】
また、係る従来型の遊技機の中には、当たり遊技の実行を設定する際の遊技状態に応じて、当たり遊技終了後の遊技状態の有利度合いを異ならせることが可能に構成されているものも存在する。
【１４３８２】
しかしながら、係る遊技機においては、同一の遊技状態で同一の当たり遊技の実行が設定された場合に、当たり遊技終了後の遊技状態として必ず同一の遊技状態が設定されてしまうため、例えば、遊技者に有利な遊技状態として、終了条件を異ならせることで同一の遊技状態でありながら当たり遊技の実行可能性が異なる複数の状態を設ける構成とした場合に、当たり遊技の実行可能性以外の有利度合いに差をつけることが困難になってしまうという問題点がある。
【１４３８３】
これに対して遊技機ＪＢ１によれば、第１遊技状態が設定された契機に応じて特定のカウンタ値の更新タイミングを異ならせることができるので、特定のカウンタ値をより好適に更新することができるという効果がある。
【１４３８４】
遊技機ＪＢ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、その特典遊技実行手段により実行される前記特典遊技の種別として、第１特典遊技を少なくとも含む複数のうち１の種別を決定する種

別決定手段と、を備え、前記第１遊技状態において前記第１特典遊技のが実行が設定された場合と、前記第２遊技状態において前記第１特典遊技の実行が設定された場合とで、有利度合いを異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機ＪＢ２。

【１４３８５】

遊技機ＪＢ２によれば、遊技機ＪＢ１の奏する効果に加え、第１特典遊技の実行が設定されるタイミングが第１遊技状態であるか第２遊技状態であるかによって有利度合いが可変するので、第１特典遊技が実行されるタイミングに注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４３８６】

遊技機ＪＢ２において、前記第１の設定条件の成立を契機として設定された前記第１遊技状態では、前記第２の設定条件の成立を契機として設定された前記第１遊技状態よりも、前記第１遊技状態において前記第１特典遊技の実行を設定させることが困難であることを特徴とする遊技機ＪＢ３。

【１４３８７】

遊技機ＪＢ３によれば、遊技機ＪＢ２の奏する効果に加え、第１の設定条件の成立を契機として設定された第１遊技状態であるか、第２の設定条件の成立を契機として設定された第１遊技状態であるかによって第１遊技状態の間における第１特典遊技の実行され易さを異ならせることができるので、設定条件に応じて第１遊技状態の有利度合いを異ならせることができるという効果がある。

【１４３８８】

遊技機ＪＢ２又はＪＢ３において、前記第１の更新条件は、前記判別条件が成立してから新たな判別条件が成立し得る状態となるまでの間における予め定められた第１タイミングで成立し得る条件であり、前記第２の更新条件は、前記判別条件が成立してから新たな判別条件が成立し得る状態となるまでの間において前記第１タイミングよりも後のタイミングである第２タイミングで成立し得る条件であり、前記特典遊技は、前記第１タイミングよりも後のタイミングであり、前記第２タイミングよりも前のタイミングである第３タイミングで実行が設定され得る構成であることを特徴とする遊技機ＪＢ４。

【１４３８９】

遊技機ＪＢ４によれば、遊技機ＪＢ２又はＪＢ３の奏する効果に加え、第１遊技状態において特典遊技の実行が設定される場合に、第２タイミングで特定のカウンタ値が更新される第１遊技状態であれば、特定のカウンタ値が更新される前に特典遊技の実行を設定することができるため第１遊技状態の間に特典遊技の実行を設定し易くなる一方で、第１タイミングで特定のカウンタ値が更新される第１遊技状態であれば、特定のカウンタ値が更新された後で特典遊技の実行が設定されるため、第１遊技状態の間に特典遊技の実行を比較的設定し難くなるという効果がある。

【１４３９０】

遊技機ＪＢ４において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも前記入球手段へと遊技球が入球困難な第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記判別手段の判別結果が前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変される可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、前記可変遊技の実行中に前記入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて前記特典遊技の実行を設定する特典遊技実行設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＢ５。

【１４３９１】

遊技機ＪＢ５によれば、遊技機ＪＢ４の奏する効果に加え、可変遊技の実行中に入球手段へと遊技球が入球した場合に特典遊技の実行が設定されるので、入球手段へと遊技球が入球するか否かに注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４３９２】

遊技機ＪＢ５において、前記第１タイミングは、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果となってから前記可変手段が前記第１位置へと可変されるまでの間のタイミング

であり、前記第２タイミングは、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果となったことに基づいて実行された前記可変遊技において前記入球手段へと遊技球が入球したタイミングよりも少なくとも後のタイミングあることを特徴とする遊技機ＪＢ６。

【１４３９３】

遊技機ＪＢ６によれば、遊技機ＪＢ５の奏する効果に加え、第１遊技状態において第１の判別結果となって可変遊技が実行される場合に、第２タイミングで特定のカウンタ値が更新される第１遊技状態であれば、特定のカウンタ値が更新される前に特典遊技の実行を設定することができるため第１遊技状態の間に特典遊技の実行を設定し易くなる一方で、第１タイミングで特定のカウンタ値が更新される第１遊技状態であれば、特定のカウンタ値が更新された後で特典遊技の実行が設定されるため、第１遊技状態の間に特典遊技の実行を比較的設定し難くなるという効果がある。

【１４３９４】

遊技機ＪＢ１からＪＢ６のいずれかにおいて、前記第１遊技状態は、前記第２遊技状態よりも有利度合いが高い遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＢ７。

【１４３９５】

遊技機ＪＢ７によれば、遊技機ＪＢ１からＪＢ６のいずれかが奏する効果に加え、第１遊技状態の方が第２遊技状態よりも有利度合いが高い遊技状態であるので、特定のカウンタ値が特定値に更新されないことを遊技者に願わせることができるという効果がある。

【１４３９６】

＜特徴ＪＣ群＞（有利な第１遊技状態において第１条件と、その第１条件とは異なる第２条件と、を少なくとも含む複数の条件の全てが成立したことに基づいて、不利な第２遊技状態を設定する）

所定の設定条件の成立に基づいて遊技者に有利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定された後で、予め定められた第１条件と、その第１条件とは異なる第２条件と、を少なくとも含む複数の条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＣ１。

【１４３９７】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、当たり遊技の終了後に、遊技者にとって有利度合いが高い遊技状態を設定することで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４３９８】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４３９９】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが高い遊技状態が設定されている状況下で予め定められた複数の終了条件のうち１の条件が成立することで有利な遊技状態が終了されて不利な遊技状態へと移行するものも存在する。

【１４４００】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、他の条件の成立状況とは無関係に、複数の終了条件のうち１の終了条件が成立した時点で有利な遊技状態が終了されてしまうため、他の終了条件が成立するまでに比較的余裕がある状況であるにもかかわらず、１の終了条件が成立しただけで有利な遊技状態が終了されてしまい、遊技者に対して理不尽感を抱かせてしまう可能性がある。

【１４４０１】

これに対して遊技機ＪＣ１によれば、複数の条件が成立するまで有利度合いの高い第１遊技状態が継続するので、複数の条件の成立状況に注目する斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４４０２】
遊技機ＪＣ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記第１条件は、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となった場合に成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＣ２。
【１４４０３】
遊技機ＪＣ２によれば、遊技機ＪＣ１の奏する効果に加え、第１遊技状態において、第１の判別結果となること、および第２の判別結果とならないことを期待させることができるので、判別手段の判別結果により注目して遊技を行わせることができるという効果がある。
【１４４０４】
遊技機ＪＣ２において、前記第２条件は、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とも前記第２の判別結果とも異なる第３の判別結果となった場合に成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＣ３。
【１４４０５】
遊技機ＪＣ３によれば、遊技機ＪＣ２の奏する効果に加え、先に第１条件が成立した後は、第３の判別結果とならないことをより強く期待させることができる一方で、先に第２条件が成立した場合は、第２の判別結果とならないことをより強く期待させることができるので、条件の成立順に応じて異なる判別結果を避けたいと思わせることができる斬新な遊技性を実現することができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４４０６】
遊技機ＪＣ３において、前記第１条件は、前記第１遊技状態が設定された後で予め定められた第１回数、前記第２の判別結果になった場合に成立する条件であり、前記第２条件は、前記第１遊技状態が設定された後で予め定められた第２回数、前記第２の判別結果になった場合に成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＣ４。
【１４４０７】
遊技機ＪＣ４によれば、遊技機ＪＣ３の奏する効果に加え、第２判別結果になった回数、および第３判別結果となった回数の両方に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４４０８】
遊技機ＪＣ１からＪＣ４のいずれかにおいて、前記第１遊技状態が設定された後で、前記複数の条件が成立する順序によらず、前記複数の条件のうち少なくとも１の条件が未成立の状態である間は前記第１遊技状態を維持可能であることを特徴とする遊技機ＪＣ５。
【１４４０９】
遊技機ＪＣ５によれば、遊技機Ｃ１からＣ４のいずれかが奏する効果に加え、少なくとも１の条件が未成立の間は、条件の成立順によらず有利な第１遊技状態が維持されるので、全ての条件が成立しないことを強く期待させる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。
【１４４１０】
遊技機ＪＣ４において、前記第１遊技状態が設定された後で前記第１条件が成立し、且つ、前記第２条件が未成立の状況において、前記第２の判別結果の回数が前記第１回数よりも多い第３回数になったことに基づいて、前記第３の判別結果の回数が前記第２回数とは異なる第４回数になった場合に第２条件が成立するように変更する変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＪＣ６。
【１４４１１】
遊技機ＪＣ６によれば、遊技機ＪＣ４の奏する効果に加え、第１条件の成立後も第２の判別結果となり続けて第２の判別結果の回数が第３回数に到達した場合に、第２条件を成立させるための第３の判別結果の回数を異ならせることができるので、第１条件の成立後

においては、第２の判別結果の回数が第３回数に到達するか否かにより注目して遊技を行わせることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４１２】

遊技機ＪＣ６において、前記第４回数は、前記第２回数よりも多い回数であることを特徴とする遊技機ＪＣ７。

【１４４１３】

遊技機ＪＣ７によれば、遊技機ＪＣ６の奏する効果に加え、第２の判別結果の回数が第３回数に到達することで、第２条件を成立させるために要する第３の判別結果の規定回数が増加し、第１遊技状態が長く継続し易くなるので、第１条件が成立するまでは、第２の判別結果とならないことを期待させる遊技性とし、第１条件の成立後は、第２の判別結果となることを期待させる遊技性とすることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４１４】

遊技機ＪＣ１からＪＣ７のいずれかにおいて、前記第２遊技状態設定手段は、前記第１遊技状態において前記複数の条件のいずれとも異なる予め定められた特定条件が成立したことに基づいて、前記複数の条件の成立状況によらず、前記第２遊技状態を設定可能であることを特徴とする遊技機ＪＣ８。

【１４４１５】

遊技機ＪＣ８によれば、遊技機ＪＣ１からＪＣ７の何れかが奏する効果に加え、第１遊技状態において特定条件が成立すると、複数の条件の成立状況によらずに強制的に第２遊技状態が設定されるので、第１遊技状態が極端に長く継続しすぎてしまい、遊技者にとって過剰に有利となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４４１６】

遊技機ＪＣ８において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、を備え、前記特定条件は、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とならずに予め定められた特定回数実行されたことに基づいて成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＣ９。

【１４４１７】

遊技機ＪＣ９によれば、第１遊技状態を特定回数以内の判別回数で終了させることができるので、遊技者にとって過剰に有利となり過ぎてしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４４１８】

＜特徴ＪＤ群＞（時短状態を終了させ得る第１条件が成立する可能性を示唆する演出と、第２条件が成立する可能性を示唆する演出と、をそれぞれ独立して実行可能）

所定の設定条件の成立に基づいて遊技者に有利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態を終了させ得る第１条件が成立したか判別する第１条件判別手段と、前記第１遊技状態を終了させ得る条件であって前記第１条件とは異なる条件である第２条件が成立したか判別する第２条件判別手段と、前記第１条件が成立する可能性を示唆可能な第１演出と、前記第２条件が成立する可能性を示唆可能な第２演出と、を少なくとも実行可能な演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＤ１。

【１４４１９】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４４２０】

しかしながら、より好適な演出態様を実現することが求められていた。

【１４４２１】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが異なる複数の遊技状態のそれぞれに対応する演出態様の演出を実行可能に構成されていると共に、有利度合いが高い遊技状態の少なくとも一部において、当該遊技状態の終了条件が成立する可能性（遊技回数）を示す報知を行うことが可能に構成されたものも存在する。

【１４４２２】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、複数の終了条件が設けられていたとしても、最も成立し易い１の終了条件の成立可能性のみを報知するのが通常であるため、他の終了条件の成立可能性を遊技者が把握困難となってしまうという問題点があった。

【１４４２３】

これに対して遊技機ＪＤ１によれば、第１演出と第２演出とを確認することで、第１遊技状態が終了される可能性を遊技者に対してより正確に把握させることができるので、好適な演出態様を実現することができるという効果がある。

【１４４２４】

遊技機ＪＤ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段を備え、前記第１条件は、前記判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて成立し得る条件であり、前記第２条件は、前記判別手段の判別結果が前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＤ２。

【１４４２５】

遊技機ＪＤ２によれば、遊技機ＪＤ１の奏する効果に加え、第１遊技状態において、判別手段の判別結果に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４４２６】

遊技機ＪＤ２において、前記第１条件は、１の前記第１遊技状態において予め定められた第１回数、前記第１の判別結果となったことに基づいて成立する条件であり、前記第２条件は、１の前記第１遊技状態において予め定められた第２回数、前記第２の判別結果となったことに基づいて成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＤ３。

【１４４２７】

遊技機ＪＤ３によれば、遊技機ＪＤ２の奏する効果に加え、第１遊技状態において、第１の判別結果の回数と第２の判別結果の回数とにそれぞれ注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４２８】

遊技機ＪＤ３において、前記第１演出は、１の前記第１遊技状態において前記第１の判別結果となった回数に応じて演出態様が可変し得る演出であり、前記第２演出は、１の前記第１遊技状態において前記第２の判別結果となった回数に応じて演出態様が可変し得る演出であることを特徴とする遊技機ＪＤ４。

【１４４２９】

遊技機ＪＤ４によれば、第１演出および第２演出を確認することで、第１の判別結果となった回数および第２の判別結果となった回数を推測することができるので、遊技者の利便性を向上させることができるという効果がある。

【１４４３０】

遊技機ＪＤ３又はＪＤ４において、前記第１遊技状態として、前記第１回数と前記第２回数とのうち少なくとも一方が互いに異なる回数に設定される複数が設けられており、前記第１遊技状態が設定されるよりも前に、当該第１遊技状態において設定される前記第１回数と前記第２回数とのうち少なくとも一方を遊技者に示唆可能な示唆演出を実行する示唆演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＪＤ５。

【１４４３１】

遊技機ＪＤ５によれば、第１遊技状態にバリエーションを設けることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４３２】

遊技機ＪＤ３からＪＤ５のいずれかにおいて、前記判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段を備え、前記第１の判別結果と前記第２の判別結果とは、いずれも前記特定の判別結果とは少なくとも異なる判別結果であることを特徴とする遊技機ＪＤ６。

【１４４３３】

遊技機ＪＤ６によれば、遊技機ＪＤ３からＪＤ５のいずれかが奏する効果に加え、第１の判別結果も第２の判別結果も特定の判別結果とは異なる条件であるので、第１遊技状態において特定の判別結果となることを強く期待させることができるという効果がある。

【１４４３４】

遊技機ＪＤ１からＪＤ６のいずれかにおいて、前記第１遊技状態は、前記第１条件と前記第２条件との一方が成立したとしても、他方が成立していない間は継続され得る遊技状態で構成されていることを特徴とする遊技機ＪＤ７。

【１４４３５】

遊技機ＪＤ７によれば、遊技機ＪＤ１からＪＤ６のいずれかが奏する効果に加え、第１条件と第２条件との両方が成立するまで第１遊技状態が継続され得る斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４３６】

＜特徴ＪＥ群＞（第１遊技状態が設定された場合と、その第１遊技状態とは時短回数が異なる第２遊技状態が設定された場合とで、特図２の抽選回数を共通化する）

取得条件の成立に基づいて判別情報を取得する判別情報取得手段と、判別条件の成立に基づいて、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を用いて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて遊技者に有利な特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１の形成条件の成立に基づいて第１状態を形成する第１状態形成手段と、前記第１の形成条件とは異なる第２の形成条件の成立に基づいて第１状態とは異なる第２状態を形成する第２状態形成手段と、前記第１状態が形成された後で予め定められた第１条件が成立したことに基づいて、前記取得条件が成立し難い特定状態を形成する第１特定状態形成手段と、前記第２状態が形成された後で前記第１条件とは異なる第２条件が成立したことに基づいて、前記特定状態を形成する第２特定状態形成手段と、を備え、前記第１状態が設定されてから、前記特定状態が形成されるよりも前に取得された全ての前記判別情報を用いた判別が終了するまでの間の前記判別手段の判別回数が、前記第２状態が設定されてから、前記特定状態が形成されるよりも前に取得された全ての前記判別情報を用いた判別が終了するまでの間の前記判別手段の判別回数に一致し得る構成であることを特徴とする遊技機ＪＥ１。

【１４４３７】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、当たり遊技の終了後に、遊技者にとって有利度合いが高い遊技状態を設定することで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４４３８】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４４３９】

また、係る従来型の遊技機の中には、始動入賞口として、有利度合いが比較的低い抽選が実行される第１始動口と、有利度合いが比較的高い抽選が実行される第２始動口と、を設け、第２始動口への入賞に基づいて実行される第２特別図柄の抽選が実行され難い不利な遊技状態と、第２特別図柄の抽選が実行され易い遊技状態と、を形成可能に構成されて

いるものも存在する。係る従来型の遊技機においては、有利な遊技状態に移行して殻実行された第２特別図柄の抽選回数が規定回数に到達することにより、有利な遊技状態が終了されて不利な遊技状態に設定されるものが通常である。

【１４４４０】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、有利度合いが高い複数の状態において、終了条件が成立して不利な遊技状態に設定されるまでの第２特別図柄の抽選機会を共通化することが困難となる虞がある。

【１４４４１】

これに対して遊技機ＪＥ１によれば、異なる状態にもかかわらず同じ回数の判別を実行可能となるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４４４２】

遊技機ＪＥ１において、所定の設定条件の成立に基づいて、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段を備え、前記第１状態は、前記第１遊技状態が設定されたことに基づいて形成され得る状態であり、前記第２状態は、前記第２遊技状態が設定されたことに基づいて形成され得る状態であることを特徴とする遊技機ＪＥ２。

【１４４４３】

遊技機ＪＥ２によれば、遊技機ＪＥ１の奏する効果に加え、異なる遊技状態が設定されているにもかかわらず、第１状態と第２状態とで判別手段の判別回数を共通化することができるという効果がある。

【１４４４４】

遊技機ＪＥ２において、前記第１遊技状態において第１回数の前記判別手段の判別が実行されたことに基づいて、前記第１遊技状態とも前記第２遊技状態とも異なる第３遊技状態を設定可能な第３遊技状態設定手段を備え、前記第２遊技状態は、前記第１回数よりも多い第２回数の前記判別手段の判別を実行可能な遊技状態であり、前記第３遊技状態は、前記第２回数よりも少ない第３回数の前記判別手段の判別を実行可能な遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＥ３。

【１４４４５】

遊技機ＪＥ３によれば、第２状態が形成されると、第２遊技状態において第１回数の判別を実行した後で第３遊技状態において第３回数の判別を実行させることができるので、遊技が単調となってしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４４４６】

遊技機ＪＥ３において、前記第１条件は、前記第３遊技状態において前記第３回数の前記判別手段の判別が実行された場合に成立し得る条件であり、前記第２条件は、前記第２遊技状態において前記第２回数の前記判別手段の判別が実行された場合に成立し得る条件であり、前記第２回数は、前記第１回数と前記第３回数との和に一致することを特徴とする遊技機ＪＥ４。

【１４４４７】

遊技機ＪＥ４によれば、第１状態と第２状態とで、判別手段の判別回数を確実に一致させることができるという効果がある。

【１４４４８】

遊技機ＪＥ３又はＪＥ４において、前記判別情報取得手段は、第１の取得条件の成立に基づいて第１の判別情報を取得し、前記第１の取得条件とは異なる第２の取得条件の成立に基づいて第２の判別情報を取得することが可能であり、前記判別手段は、第１の判別条件の成立に基づいて前記第１の判別情報を用いて判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて前記第２の判別情報を用いて判別を実行する第２判別手段と、で少なくとも構成されており、前記第２判別手段の判別は、前記第１判別手段の判別よりも有利度合いが高く構成され、前記第３遊技状態設定手段は、前記第１遊技状態において前記第１回数の前記第２判別手段の判別が実行されたこと

に基づいて、前記第３遊技状態を設定可能であり、前記第２遊技状態は、前記第２回数の前記第２判別手段の判別を実行可能な遊技状態であり、前記第３遊技状態は、前記第３回数の前記第２判別手段の判別を実行可能な遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＥ５。

【１４４４９】

遊技機ＪＥ５によれば、有利度合いが高い第２判別手段の判別回数を、第１状態と第２状態とで共通化することができる斬新な遊技性を実現することができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４５０】

遊技機ＪＥ５において、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、当該判別情報を用いた前記判別手段の判別が実行されるまで記憶可能な判別情報記憶手段を備え、前記特定状態は、前記判別情報記憶手段に前記第２の判別情報が記憶されていない前記第１遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＥ６。

【１４４５１】

遊技機ＪＥ６によれば、第２の判別情報を記憶させた状態で第１遊技状態が設定されれば第２の判別を実行可能な第３遊技状態が設定され得る一方で、第２の判別情報が記憶されていなければ不利な特定状態を形成するため、第１遊技状態が設定された時点における第２の判別情報の記憶数に注目させることができるという効果がある。

【１４４５２】

遊技機ＪＥ６において、前記第１の形成条件が成立する場合に、前記第１遊技状態が設定されるよりも少なくとも前に、前記第２の判別情報が前記判別情報記憶手段に対して記憶され易くなる遊技方法を報知する報知演出を実行可能な演出実行手段を備えることを特徴とする遊技機ＪＥ７。

【１４４５３】

遊技機ＪＥ７によれば、遊技機ＪＥ６の奏する効果に加え、第１遊技状態が設定されるよりも前に報知演出を実行して判別情報記憶手段に第２の判別情報を記憶させることができるので、第１遊技状態において第２判別手段の判別を確実に実行可能にすることができる。よって、確実に、第１状態と第２状態とで第２判別手段の判別回数を一致させることができるという効果がある。

【１４４５４】

＜特徴ＪＦ群＞（１種２種の時短リミット機でリミット到達後に引き戻し）

第１の判別条件の成立に基づいて第１の判別を実行する第１判別手段と、前記第１の判別条件とは異なる第２の判別条件の成立に基づいて前記第１の判別よりも有利度合いが高い第２の判別を実行する第２判別手段と、前記第１の判別の判別結果と前記第２の判別の判別結果とのどちらかが予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、第１の設定条件の成立に基づいて、前記第２の判別条件が成立し易い第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態において第２の設定条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第２遊技状態設定手段と、を備え、前記第２遊技状態が設定されてから特定条件が成立するまでの間、前記第２の判別が実行され易い特定状態を形成可能であることを特徴とする遊技機ＪＦ１。

【１４４５５】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、始動入賞口への遊技球の入賞に基づいて行われる抽選の結果が当たりだった場合に、遊技者に有利となる当たり遊技が実行されるものがある。かかる遊技機の中には、当たり遊技の終了後に、遊技者にとって有利度合いが高い遊技状態を設定することで遊技者の遊技に対する興趣向上を図っているものも存在する（例えば、特許文献１：特開２００１－０３８００７号公報）。

【１４４５６】

しかしながら、更なる興趣の向上が求められていた。

【１４４５７】

また、係る従来型の遊技機の中には、当たり遊技の実行が終了した後に設定される遊技状態として、有利度合いが高い特定の遊技状態が規定回数に渡って連続して設定された後で、更に、特定の遊技状態に対応する当たり遊技が実行されたとしても、強制的に有利度合いが低い遊技状態を設定する制御を採用しているものも存在する。

【１４４５８】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、有利度合いが低い遊技状態に設定された場合、当たりとなる期待度が大きく低下してしまい、遊技者の遊技に対するモチベーションを大幅に低下させてしまうという問題点がある。

【１４４５９】

これに対して遊技機ＪＦ１によれば、有利度合いが低い第２遊技状態が設定されたにもかかわらず有利度合いが高い第２の判別が実行され易い状態を形成することができるので、第２遊技状態が設定されたことに対する失望感を軽減させることができる。よって、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４４６０】

遊技機ＪＦ１において、所定の取得条件の成立に基づいて前記第２判別手段の判別に用いるための判別情報を取得する取得手段と、その取得手段によって取得された前記判別情報を、予め定められた特定の情報数を上限として、前記第２判別手段の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、を備え、前記特定状態は、少なくとも前記特定の情報数よりも多い情報数の前記判別情報を用いた前記第２の判別を実行可能な状態であることを特徴とする遊技機ＪＦ２。

【１４４６１】

遊技機ＪＦ２によれば、遊技機ＪＦ１の奏する効果に加え、特定状態が形成されることで、比較的多い回数の第２の判別が実行されるため、特定状態が形成された場合に遊技者を喜ばせることができるという効果がある。

【１４４６２】

遊技機ＪＦ１又はＪＦ２において、前記特典遊技の終了後の遊技状態として、前記第１遊技状態と、前記第２遊技状態と、を少なくとも含む複数のうち１の遊技状態を決定する遊技状態決定手段を備え、前記第１遊技状態は、予め定められた第１条件が成立していない状態で前記特定の判別結果となった場合に、前記遊技状態決定手段により前記第２遊技状態よりも前記第１遊技状態が決定され易くなり、前記第１条件が成立している状態で前記特定の判別結果となった場合に、前記第１条件が成立していない状態よりも、前記遊技状態決定手段により前記第２遊技状態が決定され易くなる遊技状態であることを特徴とする遊技機ＪＦ３。

【１４４６３】

遊技機ＪＦ３によれば、遊技機ＪＦ１又はＪＦ２の奏する効果に加え、第１遊技状態において第１条件が成立していない間に特定の判別結果となることを期待させることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４６４】

遊技機ＪＦ３において、前記第１条件は、予め定められた特定回数の前記特典遊技に渡って連続して、前記遊技状態決定手段によって前記第１遊技状態が決定されたことに基づいて成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＦ４。

【１４４６５】

遊技機ＪＦ４によれば、遊技機ＪＦ３の奏する効果に加え、第１遊技状態が設定されると、特定回数の特典遊技に渡って連続して、有利な第１遊技状態に設定され易い極めて有利な状況を形成するので、第１遊技状態が設定された場合に遊技者に対して大きな満足感を抱かせることができるという効果がある。

【１４４６６】

遊技機ＪＦ１からＪＦ４のいずれかにおいて、前記第２遊技状態において予め定められた第２条件が成立したことに基づいて、前記第２の判別条件が成立し易い第３遊技状態を設定する第３遊技状態設定手段を備え、前記第２の設定条件の成立に基づいて設定された

前記第２遊技状態では、前記第２の設定条件とは異なる設定条件の成立に基づいて設定された前記第２遊技状態よりも前記第２条件が成立し易くなる構成であることを特徴とする遊技機ＪＦ５。

【１４４６７】

遊技機ＪＦ５によれば、遊技機ＪＦ１からＪＦ４のいずれかが奏する効果に加え、第２の設定条件の成立に基づいて設定された第２遊技状態の有利度合いを、他の契機で設定された第２遊技状態よりも高くすることができる斬新な遊技性を実現することができるという効果がある。

【１４４６８】

遊技機ＪＦ５において、前記第２条件は、前記第２遊技状態において前記第２判別手段の判別で前記特定の判別結果とは異なる第１判別結果となったことに基づいて成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＦ６。

【１４４６９】

遊技機ＪＦ６によれば、遊技機ＪＦ５の奏する効果に加え、第２遊技状態において第２判別手段の判別が実行された場合に、判別結果により注目して遊技を行わせることができるという効果がある。

【１４４７０】

遊技機ＪＦ６において、前記第１判別手段の判別は、前記第１判別結果となり得ない判別であることを特徴とする遊技機ＪＦ７。

【１４４７１】

遊技機ＪＦ７によれば、遊技機ＪＦ６の奏する効果に加え、第１判別手段の判別が実行されても第１判別結果とならないため、第２遊技状態において第２判別手段の判別が実行されることをより強く期待させることができるという効果がある。

【１４４７２】

遊技機ＪＦ６又はＪＦ７において、前記第２判別手段の判別は、前記第１判別結果とならなかった場合に前記特典遊技の実行が実質的に確定する構成であることを特徴とする遊技機ＪＦ８。

【１４４７３】

遊技機ＪＦ８によれば、遊技機ＪＦ６又はＪＦ７の奏する効果に加え、第２判別手段の判別が第２遊技状態において実行されると、特典遊技が実行されるか、第３遊技状態が実行されるかのどちらかであるため、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４７４】

遊技機ＪＦ８において、遊技球が入球可能な入球手段と、その入球手段へと遊技球が入球可能な第１位置と、その第１位置よりも遊技球が入球困難となる第２位置と、に可変可能な可変手段と、前記第２判別手段の判別結果が予め定められた第２判別結果となったことに基づいて、前記可変手段が所定期間、前記第２位置から前記第１位置へと可変する可変遊技を実行する可変遊技実行手段と、前記可変遊技の実行中に前記入球手段へと遊技球が入球したことに基づいて、前記特典遊技を実行する第２特典遊技実行手段と、を備え、前記第１判別手段の判別は、前記第２判別結果となり得ない判別であり、前記第２判別手段の判別は、前記特定の判別結果と前記第１判別結果と前記第２判別結果とのいずれかになる判別であることを特徴とする遊技機ＪＦ９。

【１４４７５】

遊技機ＪＦ９によれば、遊技機ＪＦ８の奏する効果に加え、第２遊技状態において第２判別手段の判別が実行されると、特定の判別結果となって特典遊技が実行されるか、第１判別結果となって第３遊技状態が設定されるか、第２判別結果となって可変遊技が実行されるので、第１の判別結果にも第２の判別結果にもなり得ない第１判別手段の判別に比較して、極めて有利度合いを高くすることができる。よって、第２判別手段の判別が実行された場合に、遊技者に対して大きな期待感を抱かせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４７６】
＜特徴ＪＧ群＞（遊技状態が変更されてから変更前の遊技状態で獲得した保留球が消化されるまでの期間で所定演出を実行）
所定の設定条件が成立したことに基づいて遊技者に有利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されたことに基づいて第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、その第１演出の実行中に予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態であることを遊技者が認識可能な演出態様で構成された第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＧ１。
【１４４７７】
ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。
【１４４７８】
しかしながら、より好適な演出態様を実現することが求められていた。
【１４４７９】
また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが異なる複数の遊技状態を設け、遊技状態毎に対応する演出態様の演出を実行可能に構成されているものも存在する。
【１４４８０】
しかしながら、係る従来型の遊技機では、１の遊技状態が終了されて設定されたと同時に設定された遊技状態に対応する演出を実行し、当該設定された遊技状態に対応する遊技方法の遊技を遊技者が即座に開始してしまうと、演出を好適に設定することが困難となってしまう可能性がある。
【１４４８１】
これに対して遊技機ＪＧ１によれば、第２演出を確認することで、第１遊技状態が設定されたことを遊技者に対して認識させることができるので、演出を好適に設定することができるという効果がある。
【１４４８２】
遊技機ＪＧ１において、所定の取得条件の成立に基づいて判別情報を取得する判別情報取得手段と、その判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を用いて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、所定の情報数を上限として、前記判別手段の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了した後で成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＧ２。
【１４４８３】
遊技機ＪＧ２によれば、遊技機ＪＧ１の奏する効果に加え、判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了してから第２演出を実行することができるので、判別情報記憶手段に判別情報が記憶されている間に第１遊技状態に対応する遊技を開始してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１４４８４】
遊技機ＪＧ２において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段において動的表示させる動的表示手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別に基づく前記識別情報の動的表示が終了した後で成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＧ３。
【１４４８５】

遊技機ＪＧ３によれば、遊技機ＪＧ２の奏する効果に加え、第１遊技状態が設定されるよりも前に取得された判別情報に基づく識別情報の動的表示の実行中に遊技者が第１遊技状態に対応する遊技を開始してしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４４８６】

遊技機ＪＧ２又はＪＧ３において、前記第１遊技状態が設定された後で実行された前記判別手段の判別の回数が予め定められた特定回数となった場合に成立する第１の終了条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態を終了させて前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第１終了手段と、前記第１遊技状態において前記第１の終了条件とは異なる第２の終了条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態を終了させて前記第２遊技状態を設定する第２終了手段と、を備え、前記第１遊技状態は、当該第１遊技状態に設定された直後に前記第１遊技状態に対応する遊技方法で遊技を行った場合と、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了した後で前記第１遊技状態に対応する遊技方法で遊技を行った場合とで、いずれも前記第１の終了条件が成立するよりも前に前記第２の終了条件が成立し易くなることを特徴とする遊技機ＪＧ４。

【１４４８７】

遊技機ＪＧ４によれば、遊技機ＪＧ２又はＪＧ３の奏する効果に加え、第１演出の間、遊技者が遊技を行わずに第１演出を確認し続け、第２演出の開始に基づいて第１遊技状態に対応する遊技方法の遊技を行ったとしても、遊技者が損をすることを抑制することができるという効果がある。

【１４４８８】

遊技機ＪＧ１からＪＧ４のいずれかにおいて、前記第１演出は、前記第１遊技状態が設定されていないと遊技者に思わせ得る演出態様で構成されていることを特徴とする遊技機ＪＧ５。

【１４４８９】

遊技機ＪＧ５によれば、遊技機ＪＧ１からＪＧ４のいずれかが奏する効果に加え、第２演出が実行されるまで、第１遊技状態が設定されていないと遊技者に思わせることができるので、特定の実行条件が成立するよりも前に遊技者が第１遊技状態に対応する遊技を開始してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４４９０】

＜特徴ＪＨ群＞（所定の遊技状態を終了させ得る特定条件が成立する可能性を示唆する演出）

所定の設定条件の成立に基づいて遊技者に有利な第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態を終了させ得る第１条件が成立したか判別する条件判別手段と、前記第１条件が成立する可能性を示唆可能な第１演出を少なくとも実行可能な演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＨ１。

【１４４９１】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４４９２】

しかしながら、より好適な演出態様を実現することが求められていた。

【１４４９３】

これに対して遊技機Ｈ１によれば、第１演出を確認することで、第１遊技状態が終了される可能性を遊技者に把握させることができるので、好適な演出態様を実現することができるという効果がある。

【１４４９４】

遊技機ＪＨ１において、判別条件の成立に基づいて判別を実行する判別手段を備え、前記第１条件は、前記判別手段の判別結果が予め定められた第１の判別結果となったことに基づいて成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＨ２。

【１４４９５】

遊技機ＪＨ２によれば、遊技機Ｈ１の奏する効果に加え、第１遊技状態において、判別手段の判別結果に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４４９６】

遊技機ＪＨ２において、前記第１条件は、１の前記第１遊技状態において予め定められた第１回数、前記第１の判別結果となったことに基づいて成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＨ３。

【１４４９７】

遊技機ＪＨ３によれば、遊技機Ｈ２の奏する効果に加え、第１遊技状態において、第１の判別結果の回数に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４４９８】

遊技機ＪＨ３において、前記第１遊技状態を終了させ得る条件であって前記第１条件とは異なる第２条件が成立したか判別可能な第２条件判別手段と、前記第２条件が成立する可能性を示唆可能な第２演出を実行可能な第２演出実行手段と、を備え、前記第２条件は、１の前記第１遊技状態において前記判別手段の判別結果が予め定められた第２回数、前記第１の判別結果とは異なる第２の判別結果となったことに基づいて成立する条件であることを特徴とする遊技機ＪＨ４。

【１４４９９】

遊技機ＪＨ４によれば、遊技機ＪＨ３の奏する効果に加え、第１遊技状態において、第１の判別結果の回数と第２の判別結果の回数との両方に注目して遊技を行わせることができるので、遊技者の遊技に対する興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４５００】

遊技機ＪＨ４において、前記第１演出は、１の前記第１遊技状態において前記第１の判別結果となった回数に応じて演出態様が可変し得る演出であり、前記第２演出は、１の前記第１遊技状態において前記第２の判別結果となった回数に応じて演出態様が可変し得る演出であることを特徴とする遊技機ＪＨ５。

【１４５０１】

遊技機ＪＨ５によれば、第１演出および第２演出を確認することで、第１の判別結果となった回数および第２の判別結果となった回数を推測することができるので、遊技者の利便性を向上させることができるという効果がある。

【１４５０２】

＜特徴ＪＩ群＞（遊技状態が変更された後の所定期間で所定演出を実行）

所定の設定条件が成立したことに基づいて第１遊技状態を設定する第１遊技状態設定手段と、前記第１遊技状態が設定されたことに基づいて第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、その第１演出の実行中に予め定められた特定の実行条件が成立したことに基づいて、前記第１演出とは異なる演出態様の第２演出を実行する第２演出実行手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＪＩ１。

【１４５０３】

ここで、パチンコ機等の遊技機において、液晶表示装置等の表示装置が設けられたものがある。この従来型の遊技機では、表示装置において図柄の変動表示が行われ、予め定められた図柄が停止表示されることで、遊技者に有利な当たり遊技が付与される。また、表示装置には、図柄以外にもキャラクタや風景等の様々な画像が表示され、多種多様な興趣演出を実行することで遊技の興趣向上を図っていた（例えば、特許文献１：特開２００３－３２５８８６号公報）。

【１４５０４】

しかしながら、より好適な演出態様を実現することが求められていた。

【１４５０５】

また、係る従来型の遊技機の中には、有利度合いが異なる複数の遊技状態を設け、遊技状態毎に対応する演出態様の演出を実行可能に構成されているものも存在する。

【１４５０６】

しかしながら、係る従来型の遊技機では、１の遊技状態が終了されて設定されたと同時に設定された遊技状態に対応する演出を実行し、当該設定された遊技状態に対応する遊技方法の遊技を遊技者が即座に開始してしまうと、演出を好適に設定することが困難となってしまう可能性がある。

【１４５０７】

これに対して遊技機ＪＩ１によれば、演出を好適に設定することができるという効果がある。

【１４５０８】

遊技機ＪＩ１において、前記第２演出は、前記第１遊技状態であることを遊技者が認識可能な演出態様で構成されていることを特徴とする遊技機ＪＩ２。

【１４５０９】

遊技機ＪＩ２によれば、遊技機ＪＩ１の奏する効果に加え、第２演出を確認することで、第１遊技状態が設定されたことを遊技者に対して認識させることができるという効果がある。

【１４５１０】

遊技機ＪＩ１又はＪＩ２において、所定の取得条件の成立に基づいて判別情報を取得する判別情報取得手段と、その判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を用いて判別を実行する判別手段と、その判別手段の判別結果が予め定められた特定の判別結果となったことに基づいて、遊技者に有利な特典遊技を実行する特典遊技実行手段と、前記判別情報取得手段によって取得された前記判別情報を、所定の情報数を上限として、前記判別手段の判別に用いられるまで記憶可能な判別情報記憶手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了した後で成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＩ３。

【１４５１１】

遊技機ＪＩ３によれば、遊技機ＪＩ１又はＪＩ２の奏する効果に加え、判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了してから第２演出を実行することができるので、判別情報記憶手段に判別情報が記憶されている間に第１遊技状態に対応する遊技を開始してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４５１２】

遊技機ＪＩ３において、識別情報を表示可能な表示手段と、前記判別手段の判別結果を示すための前記識別情報を前記表示手段において動的表示させる動的表示手段と、を備え、前記特定の実行条件は、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別に基づく前記識別情報の動的表示が終了した後で成立し得る条件であることを特徴とする遊技機ＪＩ４。

【１４５１３】

遊技機ＪＩ４によれば、遊技機Ｉ３の奏する効果に加え、第１遊技状態が設定されるよりも前に取得された判別情報に基づく識別情報の動的表示の実行中に遊技者が第１遊技状態に対応する遊技を開始してしまうことを抑制できるという効果がある。

【１４５１４】

遊技機ＪＩ３又はＪＩ４において、前記第１遊技状態が設定された後で実行された前記判別手段の判別の回数が予め定められた特定回数となった場合に成立する第１の終了条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態を終了させて前記第１遊技状態よりも有利度合いが低い第２遊技状態を設定する第１終了手段と、前記第１遊技状態において前記第１の終了条件とは異なる第２の終了条件が成立したことに基づいて、前記第１遊技状態を

終了させて前記第２遊技状態を設定する第２終了手段と、を備え、前記第１遊技状態は、当該第１遊技状態に設定された直後に前記第１遊技状態に対応する遊技方法で遊技を行った場合と、前記第１遊技状態に設定された時点で前記判別情報記憶手段に記憶されていた全ての判別情報を用いた判別が終了した後で前記第１遊技状態に対応する遊技方法で遊技を行った場合とで、いずれも前記第１の終了条件が成立するよりも前に前記第２の終了条件が成立し易くなることを特徴とする遊技機ＪＩ５。

【１４５１５】

遊技機ＪＩ５によれば、遊技機ＪＩ３又はＪＩ４の奏する効果に加え、第１演出の間、遊技者が遊技を行わずに第１演出を確認し続け、第２演出の開始に基づいて第１遊技状態に対応する遊技方法の遊技を行ったとしても、遊技者が損をすることを抑制することができるという効果がある。

【１４５１６】

＜５０７８系の特徴群＞

＜特徴Ａ群＞（大当たり間に、通常状態よりも大当たり遊技が実行され易い遊技状態を特図抽選の実行回数又は抽選結果に基づいて複数回設定可能）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が第１判別結果であることに基づいて特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態よりも前記判別手段による前記判別が実行され易い第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段は、前記特典遊技が終了した後に実行される前記判別手段による前記判別の回数が所定回数に到達した場合に成立可能な第１条件と、前記判別手段による前記判別の結果が前記第１判別結果とは異なる第２判別結果であることに基づいて成立可能な第２条件と、のうち何れかが成立したことに基づいて前記第２遊技状態を設定可能であり、前記遊技機は、１の前記特典遊技が実行されてから次の前記特典遊技が実行されるまでの遊技期間中に、前記遊技状態設定手段によって前記第２遊技状態を複数回設定させることが可能に構成されていることを特徴とする遊技機Ａ１。

【１４５１７】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行され、特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４５１８】

しかしながら、従来型の遊技機では、特典遊技が実行された場合のみ有利状態が設定されるため、当たり当選しない遊技が継続する遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１４５１９】

さらに、従来型の遊技機として、特典遊技の終了後に設定される有利状態が、次の特典遊技が実行されるまで継続する遊技機がある。このような遊技機では、有利状態が設定されることにより遊技者に付与される特典の有利度合いが高くなるため、遊技者に対して過剰に有利な特典が付与されてしまうことを抑制するため、有利状態そのものが設定され難い仕様となり、有利状態が設定されることを期待しながら長時間遊技を行っている遊技者の遊技意欲を低下させてしまうという問題があった。

【１４５２０】

また、特典遊技の終了後に設定される有利状態を、実行された抽選回数に応じて終了させる遊技機もある。このような遊技機では、有利状態中に所定回数の抽選を実行したことによって有利状態が終了してしまうと、次の特典遊技が実行されるまでの間、有利状態よりも不利な状態で遊技を実行しなければならず、有利状態が終了した遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１４５２１】

遊技機Ａ１によれば、第１遊技状態よりも遊技者に有利となる第２遊技状態を、特典遊技間にて複数回設定可能であるため、第１遊技状態中の遊技を実行している遊技者に対して、特典遊技を目指した遊技を長時間継続し易くすることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４５２２】

また、判別手段による判別結果に関わらず、判別手段により実行される判別の回数に基づいても第２遊技状態を設定することができるため、第２遊技状態が設定されることが無く、且つ、特典遊技も実行されない遊技が長時間継続してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４５２３】

遊技機Ａ１において、前記遊技機は、前記遊技期間中に実行される前記判別によって、前記第２条件の方が、前記第１条件よりも成立し易くなるように構成されていることを特徴とする遊技機Ａ２。

【１４５２４】

遊技機Ａ２によれば、遊技機Ａ１の奏する効果に加え、所定回数の判別が実行されるよりも前に、判別結果に基づいて第２遊技状態を設定し易くすることができるため、遊技期間中に実行される判別の結果に対して遊技者に興味を持たせることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４５２５】

遊技機Ａ１またはＡ２において、前記遊技期間中において前記第２条件を成立させることが可能となる回数の上限が、前記第１条件を成立させることが可能となる回数の上限よりも大きくなるように構成されていることを特徴とする遊技機Ａ３。

【１４５２６】

遊技機Ａ３によれば、遊技機Ａ１またはＡ２の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、遊技期間中に第２条件が成立し得る上限回数の方が、第１条件が成立し得る上限回数よりも大きいため、遊技期間中において、第２条件の成立に基づく第２遊技状態を複数回設定させ易くすることができる。よって、遊技期間中に実行される判別の結果に対して遊技者に興味を持たせることができ、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４５２７】

遊技機Ａ３において、前記遊技期間中に成立した前記第１条件の成立回数が上限に到達したことを報知可能な報知手段を有することを特徴とする遊技機Ａ４。

【１４５２８】

遊技機Ａ４によれば、遊技機Ａ３の奏する効果に加え、第１条件を成立させることができない遊技期間を遊技者に報知することができるため、第２遊技状態を設定させ易い遊技期間と、させ難い遊技期間と、を遊技者に把握させ易くすることができるという効果がある。

【１４５２９】

＜特徴Ｂ群＞（遊技状態を示唆する背景モードの種別と、表示される演出図柄との組合せで特図抽選結果の有利度合いを示唆）

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段により実行される前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて特典を付与可能な特典付与手段と、その特典付与手段により付与される前記特典の種別として、第１特典種別と、その第１特典種別とは異なる第２特典種別とを含む複数の特典種別の中から１の前記特典種別を決定可能な特典種別決定手段と、その特典種別決定手段により決定された前記特典種別を示唆するための第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、その第１演出実行手段により実行される前記第１演出の演出態様を設定可能な第１演出態様設定手段と、を有した遊技機において、第１遊技状態と、その第１遊技状態とは異なる第２遊技状態とを設定可能な遊技状態設定手段と、その遊技状態設定手段により設定された前記遊技状態を示唆するための第２演出を実行可能な第２演出実行手段と、その第２演出実行手段により実行される前記第２演出の態様種別と

して、複数の態様種別の中から１の前記態様種別を設定可能な第２演出態様設定手段と、を有し、前記第１演出態様設定手段は、特定第１演出態様と、その特定第１演出態様よりも前記第１特典種別が決定された場合に設定され難い特定第２演出態様と、を含む複数の演出態様から１の演出態様を設定可能であり、前記遊技機は、前記第２演出態様設定手段により設定された前記第２演出の態様種別に基づいて、前記第１演出態様設定手段により前記特定第１演出態様が設定される割合を異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機Ｂ１。

【１４５３０】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、複数の演出ステージが切り替わるように構成され、当たり抽選の結果を示すための変動演出の演出態様を、設定されている演出ステージに対応させて決定することで、変動演出が単調となることを抑制することが可能な遊技機が提案されていた（先行技術文献：特開２００９－２３３１７１号公報）。

【１４５３１】

また、複数の遊技状態を設定可能に構成し、設定されている遊技状態を遊技者に分かり難くするために、異なる遊技状態であっても設定可能な演出ステージを複数設け、設定されている遊技状態に応じて各演出ステージの選択割合を異ならせることで、切り替わった演出ステージの種別に基づいて現在の遊技状態を遊技者に予測させることが可能な遊技機も提案されている。

【１４５３２】

このような従来型の遊技機では、通常、設定されている遊技状態に応じて当たり当選時に付与される特典の内容を異ならせていることが一般的であり、当たり当選時における遊技状態を遊技者はいち早く察知したいものであるが、何れの演出ステージが設定されている場合であっても、当たり抽選の結果を示すための表示態様として共通の表示態様が設定されることから実際に特典が付与されるまで当たり当選時における遊技状態を遊技者が把握できないといった問題があった。

【１４５３３】

遊技機Ｂ１によれば、第１演出の演出態様と、遊技状態を示唆可能な第２演出の演出態様と、を組み合わせることで特典付与手段により付与される特典の種別を遊技者に予測させることが可能となるため、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４５３４】

遊技機Ｂ１において、前記第２演出態様設定手段は、前記遊技状態設定手段により前記第１遊技状態が設定された場合の方が、前記第２遊技状態が設定された場合よりも設定され易い第１態様種別と、前記第１遊技状態が設定された場合よりも、前記第２遊技状態が設定された場合の方が設定され易い第２態様種別と、を少なくとも設定可能であることを特徴とする遊技機Ｂ２。

【１４５３５】

遊技機Ｂ２によれば、遊技機Ｂ１の奏する効果に加え、第２演出の演出態様として設定される態様種別に基づいて、設定されている遊技状態を予測させることが可能となるため、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４５３６】

遊技機Ｂ１または遊技機Ｂ２において、前記遊技状態設定手段により、前記第１遊技状態から前記第２遊技状態へと前記遊技状態が切り替わる第１設定が実行される場合の方が、前記第２遊技状態から前記第１遊技状態へと前記遊技状態が切り替わる第２設定が実行される場合よりも、前記第２演出実行手段により前記第２演出を実行させ易く構成されていることを特徴とする遊技機Ｂ３。

【１４５３７】

遊技機Ｂ３によれば、遊技機Ｂ１またはＢ２の奏する効果に加え、遊技状態の移行パターンに応じて第２演出の実行のし易さを異ならせることができるため、第２演出が実行されるだけでも、新たに設定される遊技状態を遊技者に予測させることが可能となり、現在の遊技状態を予測させる楽しみを提供することができるという効果がある。

【１４５３８】
遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかにおいて、前記第１演出態様設定手段は、前記第２演出態様設定手段により設定される前記第２演出の態様種別に関わらず、共通の前記複数の演出態様から１の前記演出態様を設定可能であることを特徴とする遊技機Ｂ４。
【１４５３９】
遊技機Ｂ４によれば、遊技機Ｂ１からＢ３の何れかの奏する効果に加え、第２演出の態様種別に関わらず、第１演出の演出態様を共通化することができるため、第１演出を実行するための演出データの総量を削減することができるという効果がある。
【１４５４０】
＜特徴Ｃ群＞（同一抽選結果を示すための演出図柄の表示態様を、当選時の遊技状況に応じて決定する）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて、第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、前記判別の結果が前記特定の判別結果であることを示すための第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段により設定される前記第２遊技状態の終了条件を決定可能な終了条件決定手段と、前記第２遊技状態中に前記終了条件が成立するまでの残期間情報を判別可能な情報判別手段と、前記第２遊技状態中に実行された前記判別の結果が前記特定の判別結果である場合に、前記情報判別手段により判別された前記残期間情報に基づいて前記第１演出の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、を有することを特徴とする遊技機Ｃ１。
【１４５４１】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が特定当たりであった場合には、抽選結果が当たりであることを示すための演出を実行した後に、遊技者に有利となる特典遊技を実行し、その特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４５４２】
また、特典遊技の終了後に設定される有利状態の継続期間として、第１期間と、その第１期間よりも長い第２期間とを設定可能に構成し、第１期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、第２期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、を実行することで、遊技者に抽選結果を分かり易く把握させることができるようにする構成も提案されている。
【１４５４３】
しかしながら、従来型の遊技機では、例えば、有利状態の残期間として第１期間よりも長い期間を残している状態で第１期間の有利状態が設定される当たりに当選した場合には、今回の当たり当選が遊技者に不利となり、有利状態の残期間として第１期間よりも短い期間を残している状態で第１期間の有利状態が設定される当たりに当選した場合には、今回の当たり当選が遊技者に有利となる。つまり、同一の当たり（第１期間の有利状態が設定される当たり）に当選した場合であっても、既に設定されている有利状態の残期間によって、当たり当選によって遊技者に付与される特典の有利度合いが異なってしまうものであるにも関わらず、同一の当たり当選に対しては同一態様の演出が実行されてしまうため、今回の当たり当選が遊技者に有利な当たり当選であるか否かを実行される演出に基づいて把握し難いという問題があった。
【１４５４４】
遊技機Ｃ１によれば、第２遊技状態中に実行された判別手段の判別結果が、第２遊技状態を設定可能な特定の判別結果である場合に、その特定の判別結果を示すための第１演出の演出態様を、既に設定されている第２遊技状態の終了条件が成立するまでの情報に基づいて決定することができるため、第１演出の演出態様を異ならせることができる。よって、新たな第２遊技状態が設定されることが遊技者に有利であるか否かを第１演出の演出態様によって遊技者に把握させ易くすることができ、演出効果を高めることができるという

効果がある。
【１４５４５】
遊技機Ｃ１において、前記演出態様設定手段は、前記残期間情報に基づいて、既に設定されている前記第２遊技状態の終了条件が成立するまでの残期間の方が、前記遊技状態設定手段により新たに設定される前記第２遊技状態の終了条件が成立するまでの期間よりも長いことを示す第１演出態様と、既に設定されている前記第２遊技状態の終了条件が成立するまでの残期間よりも、前記遊技状態設定手段により新たに設定される前記第２遊技状態の終了条件が成立するまでの期間の方が長いことを示す第２演出態様と、を少なくとも決定可能であることを特徴とする遊技機Ｃ２。
【１４５４６】
遊技機Ｃ２によれば、遊技機Ｃ１の奏する効果に加え、実行される第１演出の演出態様が第１演出態様であるか、第２演出態様であるかによって、遊技者に有利な判別が実行されたか否かを容易に把握することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。
【１４５４７】
遊技機Ｃ２において、前記終了条件決定手段は、第１終了条件と、その第１終了条件よりも成立し難い第２終了条件と、を含む複数の終了条件のうち、少なくとも１の終了条件を決定可能であることを特徴とする遊技機Ｃ３。
【１４５４８】
遊技機Ｃ３によれば、遊技機Ｃ２の奏する効果に加え、異なる終了条件が決定された第２遊技状態を設定可能であるため、既に設定されている第２遊技状態の残期間情報が示す期間の長さと、新たに設定される第２遊技状態の終了条件が成立するまでの残期間情報が示す期間の長さと、に長短を設け易くすることができるため、第１演出に対する遊技者の興味をより強くすることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。
【１４５４９】
遊技機Ｃ３において、前記終了条件決定手段は、少なくとも、第２遊技状態中に実行された前記判別の回数に基づいて成立する前記終了条件を決定可能であり、前記第１終了条件は、前記第２遊技状態中に第１回数の前記判別が実行されたことに基づいて成立し、前記第２終了条件は、前記第１回数よりも少ない第２回数の前記判別が実行されたことに基づいて成立可能であることを特徴とする遊技機Ｃ４。
【１４５５０】
遊技機Ｃ４によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、第１終了条件と第２終了条件とが第２遊技状態中に実行される判別手段による判別の回数に基づいて成立するため、第１終了条件と第２終了条件との成立のし易さが逆転すること無く、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。
【１４５５１】
＜特徴Ｄ群＞（時短当選時の時短報知演出の実行有無を、設定される時短回数と先読み結果とに基づいて決定する）
所定数を上限に判別情報を記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記判別情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも前記判別を実行し易い第２遊技状態と、を設定可能な遊技状態設定手段と、その遊技状態設定手段により設定される前記第２遊技状態を終了させるための終了条件として、第１終了条件と、その第１終了条件よりも成立し易い第２終了条件と、を含む複数の終了条件の中から少なくとも１の終了条件を決定可能な終了条件決定手段と、前記第２遊技状態に対して決定された前記終了条件の種別を示唆可能な第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による前記判別が実行されるよりも前に前記記憶手段に記憶されている前記判別情報を事前判別可能な事前判別手段を有し、前記第１演出実行手段は、前記第１終了条件が決定された場合、或いは、前記第２終了条件が決定さ

れた場合であって、且つ、前記事前判別手段による前記事前判別の結果が実行条件を満たしている場合に前記第１演出を実行可能であることを特徴とする遊技機Ｄ１。
【１４５５２】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、所定期間の有利状態を設定可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４５５３】
また、継続期間の長さを異ならせて有利状態を設定可能に構成された遊技機もあり、この場合、有利状態が設定されたことを報知するための報知演出を用いて継続期間の長さを示す情報を遊技者に報知可能な構成が提案されている。
【１４５５４】
このような従来型の遊技機では、有利状態の継続期間が長い方が遊技者に有利となるため、報知演出によって長い継続期間を示す情報が報知されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができ、報知演出の演出効果を高めることができるものであったが、短い継続期間を示す情報が報知された場合に遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。
【１４５５５】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、有利状態の継続期間を示すための情報を報知するための報知演出が実行された場合において、報知される継続期間の長さに関わらず遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することで、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することを目的とする。
【１４５５６】
遊技機Ｄ１によれば、成立し難い第１終了条件が決定された第２遊技状態を設定した場合と、成立し易い第２終了条件が決定された第２遊技状態を設定した場合であって、且つ、事前判別手段による判別結果が実行条件を満たしている場合に、第１演出を実行可能に構成しているため、第１演出が第１終了条件を示唆している場合も、第２終了条件を示唆している場合も、遊技者の遊技意欲が低下すること無く、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。
【１４５５７】
遊技機Ｄ１において、前記終了条件決定手段は、少なくとも、第２遊技状態中に実行された前記判別の回数に基づいて成立する前記終了条件を決定可能であり、前記第１終了条件は、前記第２遊技状態中に第１回数の前記判別が実行されたことに基づいて成立し、前記第２終了条件は、前記第１回数よりも少ない第２回数の前記判別が実行されたことに基づいて成立可能であることを特徴とする遊技機Ｄ２。
【１４５５８】
遊技機Ｄ２によれば、遊技機Ｄ１の奏する効果に加え、第１終了条件と第２終了条件とが第２遊技状態中に実行される判別手段による判別の回数に基づいて成立するため、第１終了条件と第２終了条件との成立のし易さが逆転すること無く、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。
【１４５５９】
遊技機Ｄ１またはＤ２において、前記実行条件は、前記事前判別の結果が前記特定の判別結果に対応する結果である場合に成立可能であることを特徴とする遊技機Ｄ３。
【１４５６０】
遊技機Ｄ３によれば、遊技機Ｄ１またはＤ２の奏する効果に加え、第２終了条件が決定される第２遊技状態が設定された時点における事前判別の結果が、特典遊技が実行されることを示す事前判別の結果である場合に第１演出を実行することができるため、遊技者に対して、成立し難い第１終了条件では無く成立し易い第２終了条件が決定されたことを示す第１演出が実行された場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制

することができるという効果がある。
【１４５６１】
遊技機Ｄ３において、前記実行条件は、前記第２遊技状態が設定された後に実行される１回目の前記判別に対応する前記事前判別の結果が前記特定の判別結果に対応する結果である場合に成立可能であることを特徴とする遊技機Ｄ４。
【１４５６２】
遊技機Ｄ４によれば、遊技機Ｄ３の奏する効果に加え、第２終了条件が決定される第２遊技状態が設定された後の１回目の判別に対応する事前判別の結果が、特典遊技が実行されることを示す事前判別の結果である場合に第１演出を実行することができるため、遊技者に対して、成立し難い第１終了条件では無く成立し易い第２終了条件が決定されたことを示す第１演出が実行された場合であっても、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。
【１４５６３】
＜特徴Ｅ群＞（同一抽選結果を示すための演出図柄の表示態様を、当選時の遊技状況に応じて決定するの派生）
判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて、第１遊技状態とは異なる第２遊技状態を設定可能な遊技状態設定手段と、前記判別の結果が前記特定の判別結果であることを示すための第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、を有した遊技機において、前記遊技状態設定手段により設定される前記第２遊技状態の終了条件を決定可能な終了条件決定手段と、前記第２遊技状態中に前記終了条件が成立させるための情報を特定可能な情報特定手段と、前記情報特定手段により特定された前記情報に基づいて前記第１演出の演出態様を決定可能な演出態様決定手段と、を有することを特徴とする遊技機Ｅ１。
【１４５６４】
従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が特定当たりであった場合には、抽選結果が当たりであることを示すための演出を実行した後に、遊技者に有利となる特典遊技を実行し、その特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４５６５】
また、特典遊技の終了後に設定される有利状態の継続期間として、第１期間と、その第１期間よりも長い第２期間とを設定可能に構成し、第１期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、第２期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、を実行することで、遊技者に抽選結果を分かり易く把握させることができるようにする構成も提案されている。
【１４５６６】
しかしながら、従来型の遊技機では、例えば、有利状態の残期間として第１期間よりも長い期間を残している状態で第１期間の有利状態が設定される当たりに当選した場合には、今回の当たり当選が遊技者に不利となり、有利状態の残期間として第１期間よりも短い期間を残している状態で第１期間の有利状態が設定される当たりに当選した場合には、今回の当たり当選が遊技者に有利となる。つまり、同一の当たり（第１期間の有利状態が設定される当たり）に当選した場合であっても、既に設定されている有利状態の残期間によって、当たり当選によって遊技者に付与される特典の有利度合いが異なってしまうものであるにも関わらず、同一の当たり当選に対しては同一態様の演出が実行されてしまうため、今回の当たり当選が遊技者に有利な当たり当選であるか否かを実行される演出に基づいて把握し難いという問題があった。
【１４５６７】
遊技機Ｅ１によれば、特定の判別結果を示すための第１演出の演出態様を、既に設定されている第２遊技状態の終了条件が成立するまでの情報に基づいて決定することができるため、第１演出の演出態様を異ならせることができる。よって、新たな第２遊技状態が設

定されることが遊技者に有利であるか否かを第１演出の演出態様によって遊技者に把握させ易くすることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４５６８】

遊技機Ｅ１において、前記演出態様設定手段は、前記情報に基づいて、既に設定されている前記第２遊技状態の終了条件の方が、前記遊技状態設定手段により新たに設定される前記第２遊技状態の終了条件が成立よりも成立し難いことを示す第１演出態様と、既に設定されている前記第２遊技状態の終了条件よりも、前記遊技状態設定手段により新たに設定される前記第２遊技状態の終了条件の方が成立し難いことを示す第２演出態様と、を少なくとも決定可能であることを特徴とする遊技機Ｅ２。

【１４５６９】

遊技機Ｅ２によれば、遊技機Ｅ１の奏する効果に加え、実行される第１演出の演出態様が第１演出態様であるか、第２演出態様であるかによって、遊技者に有利な判別が実行されたか否かを容易に把握することができるため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１４５７０】

遊技機Ｅ２において、前記終了条件決定手段は、第１終了条件と、その第１終了条件よりも成立し難い第２終了条件と、を含む複数の終了条件のうち、少なくとも１の終了条件を決定可能であることを特徴とする遊技機Ｅ３。

【１４５７１】

遊技機Ｅ３によれば、遊技機Ｅ２の奏する効果に加え、異なる終了条件が決定された第２遊技状態を設定可能であるため、既に設定されている第２遊技状態と、新たに設定される第２遊技状態と、に成立のし易さを設け易くすることができるため、第１演出に対する遊技者の興味をより強くすることができ、演出効果を高めることができるという効果がある。

【１４５７２】

＜特徴Ｆ群＞（時短当選時の時短報知演出の実行有無を、設定される時短回数と先読み結果とに基づいて決定するの派生）

所定数を上限に判別情報を記憶可能な記憶手段と、所定の判別条件が成立した場合に、前記記憶手段に記憶された前記判別情報に基づいて判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による前記判別の結果が特定の判別結果であることに基づいて遊技者に有利となる特典遊技を実行可能な特典遊技実行手段と、第１遊技状態と、その第１遊技状態よりも前記判別を実行し易い第２遊技状態と、を設定可能な遊技状態設定手段と、その遊技状態設定手段により設定される前記第２遊技状態を終了させるための終了条件を決定可能な終了条件決定手段と、前記第２遊技状態に対して決定された前記終了条件を示すための第１演出を実行可能な第１演出実行手段と、を有した遊技機において、前記判別手段による前記判別が実行されるよりも前に前記記憶手段に記憶されている前記判別情報を事前判別可能な事前判別手段を有し、前記第１演出実行手段は、前記事前判別手段による前記事前判別の結果が実行条件を満たしている場合に前記第１演出を実行可能であることを特徴とする遊技機Ｆ１。

【１４５７３】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球したことに基づいて遊技の当否が抽選され、抽選結果が当たりであった場合には、所定期間の有利状態を設定可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４５７４】

また、継続期間の長さを異ならせて有利状態を設定可能に構成された遊技機もあり、この場合、有利状態が設定されたことを報知するための報知演出を用いて継続期間の長さを示す情報を遊技者に報知可能な構成が提案されている。

【１４５７５】

このような従来型の遊技機では、有利状態の継続期間が長い方が遊技者に有利となるた

め、報知演出によって長い継続期間を示す情報が報知されることを期待させながら遊技者に遊技を行わせることができ、報知演出の演出効果を高めることができるものであったが、短い継続期間を示す情報が報知された場合に遊技者の遊技意欲が低下してしまうという問題があった。

【１４５７６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、有利状態の継続期間を示すための情報を報知するための報知演出が実行された場合において、報知される継続期間の長さに関わらず遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することで、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４５７７】

遊技機Ｆ１によれば、事前判別手段による判別結果が実行条件を満たしている場合に、第１演出を実行可能に構成しているため、遊技者の遊技意欲が低下すること無く、遊技者の遊技に対する興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４５７８】

遊技機Ｆ１において、前記終了条件決定手段は、少なくとも、第２遊技状態中に実行された前記判別の回数に基づいて成立する前記終了条件を決定可能であることを特徴とする遊技機Ｆ２。

【１４５７９】

遊技機Ｆ２によれば、遊技機Ｆ１の奏する効果に加え、終了条件が第２遊技状態中に実行される判別手段による判別の回数に基づいて成立するため、遊技者に分かり易い遊技を提供することができるという効果がある。

【１４５８０】

遊技機Ｆ１またはＦ２において、前記実行条件は、前記事前判別の結果が前記特定の判別結果に対応する結果である場合に成立可能であることを特徴とする遊技機Ｆ３。

【１４５８１】

遊技機Ｆ３によれば、遊技機Ｆ１またはＦ２の奏する効果に加え、事前判別の結果が、特典遊技が実行されることを示す事前判別の結果である場合に第１演出を実行することができるため、遊技者の遊技意欲が低下してしまうことを抑制することができるという効果がある。

【１４５８２】

＜特徴Ｇ群＞

第１判別と第２判別とを実行することが可能な判別手段と、その判別手段による前記第１判別に対応した第１判別結果を示すための第１識別情報と、前記第２判別に対応した第２識別情報と、が表示されることが可能な表示手段と、その表示手段に前記第１識別情報または前記第２識別情報を動的表示させた後に前記第１判別結果または前記第２判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記第１判別結果または特定の前記第２判別結果を示すための態様で前記第１識別情報または前記第２識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与することが可能な特典付与手段と、前記特定の第２判別結果に基づいて前記特典として特定の特典が付与されることにより前記判別手段による前記第１判別または前記第２判別が実行され易い第１設定がされる第１状態を設定することが可能な状態設定手段と、を有した遊技機において、前記第１状態が設定されている状態で前記特定の特典が付与される場合に、前記特定の特典が付与された後の状態として終了条件が成立するまで前記第１状態を設定させることが可能な設定制御手段と、前記第２識別情報に対応して前記特定の特典が付与されることによって前記終了条件が成立する前記第２識別情報の動的表示がされている期間に実行させた前記第１判別による前記第１判別結果に対応して前記第２識別情報の動的表示が終了するまでに前記終了条件の成立がされないようにする設定を実行させることが可能な解除設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機Ｇ１。

【１４５８３】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が特定当たりであった場合には、抽選結果が当たりであることを示すための演出を実行した後に、遊技者に有利となる特典遊技を実行し、その特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４５８４】

また、特典遊技の終了後に設定される有利状態の継続期間として、第１期間と、その第１期間よりも長い第２期間とを設定可能に構成し、第１期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、第２期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、を実行することで、遊技者に抽選結果を分かり易く把握させることができるようにする構成も提案されている。

【１４５８５】

しかしながら、遊技が単調となり易く遊技の興趣が低下するという不具合があった。

【１４５８６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４５８７】

遊技機Ｇ１によれば、第２識別情報に対応して特典が付与されることで第１状態が継続して設定されない終了条件が成立することを、第２識別情報の動的表示期間中に第１判別を実行させることで、その第１判別結果により終了条件の成立を回避させることができるので、遊技者の遊技方法により第１状態の設定期間を延長させることが可能となり、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４５８８】

遊技機Ｇ１において、前記終了条件は、前記特定の特典が連続して所定回数付与されたことにより成立するものであることを特徴とする遊技機Ｇ２。

【１４５８９】

遊技機Ｇ２によれば、遊技機Ｇ１の奏する効果に加え、第１状態が連続して設定される回数を制限させることができ、射幸性が著しく過剰となることを抑制できるという効果がある。

【１４５９０】

遊技機Ｇ１またはＧ２において、前記終了条件が成立する前記特定の特典が付与されることとなる前記第２識別情報の動的表示期間として長い動的表示期間が決定され易く設定されているものであることを特徴とする遊技機Ｇ３。

【１４５９１】

遊技機Ｇ３によれば、遊技機Ｇ１またはＧ２の奏する効果に加え、終了条件が成立するまでの期間を長くすることができるので、遊技者に終了条件の成立を回避させる機会をより多く与えることができるという効果がある。

【１４５９２】

遊技機Ｇ１からＧ３のいずれかにおいて、前記終了条件が成立する前記特定の特典が付与されることとなる前記第２識別情報の動的表示が実行される期間に特定演出が実行されるものであることを特徴とする遊技機Ｇ４。

【１４５９３】

遊技機Ｇ４によれば、遊技機Ｇ１からＧ３のいずれかの奏する効果に加え、特定演出が実行されることで、終了条件の成立が決定されていることを容易に判別でき、第１判別を実行させる遊技に切り替えるタイミングを容易に遊技者が認識できるという効果がある。

【１４５９４】

＜特徴Ｈ群＞（Ｇ群の派生）

第１判別と第２判別とを実行することが可能な判別手段と、その判別手段による前記第１判別に対応した第１判別結果を示すための第１識別情報と、前記第２判別に対応した第２識別情報と、が表示されることが可能な表示手段と、その表示手段に前記第１識別情報

または前記第２識別情報を動的表示させた後に前記第１判別結果または前記第２判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記第１判別結果または特定の前記第２判別結果を示すための態様で前記第１識別情報または前記第２識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与することが可能な特典付与手段と、前記特定の第２判別結果に基づいて前記特典として特定の特典が付与されることにより前記判別手段による前記第１判別または前記第２判別が実行され易い第１設定がされる第１状態を設定することが可能な状態設定手段と、を有した遊技機において、前記第１状態が設定されている状態で前記特定の特典が付与される場合に、前記特定の特典が付与された後の状態として終了条件が成立するまで前記第１状態を設定させることが可能な設定制御手段と、前記第２識別情報に対応して前記特定の特典が付与されることによって前記終了条件が成立する前記第２識別情報の動的表示がされている期間に前記終了条件を解除可能な解除設定手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機Ｈ１。

【１４５９５】

従来より、パチンコ機などの遊技機として、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、抽選結果が特定当たりであった場合には、抽選結果が当たりであることを示すための演出を実行した後に、遊技者に有利となる特典遊技を実行し、その特典遊技の終了後に遊技の当否抽選が実行され易い有利状態が設定される構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４５９６】

また、特典遊技の終了後に設定される有利状態の継続期間として、第１期間と、その第１期間よりも長い第２期間とを設定可能に構成し、第１期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、第２期間の有利状態が設定される当たりに当選したことを示す演出と、を実行することで、遊技者に抽選結果を分かり易く把握させることができるようにする構成も提案されている。

【１４５９７】

しかしながら、遊技が単調となり易く遊技の興趣が低下するという不具合があった。

【１４５９８】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり遊技者の遊技に対する興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【１４５９９】

遊技機Ｈ１によれば、第２識別情報に対応して特典が付与されることで第１状態が継続して設定されない終了条件が成立することを、解除設定手段により回避させることができるので、遊技者の遊技方法により第１状態の設定期間を延長させることが可能となり、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４６００】

遊技機Ｈ１において、前記終了条件は、前記特定の特典が連続して所定回数付与されたことにより成立するものであることを特徴とする遊技機Ｈ２。

【１４６０１】

遊技機Ｈ２によれば、遊技機Ｈ１の奏する効果に加え、第１状態が連続して設定される回数を制限させることができ、射幸性が著しく過剰となることを抑制できるという効果がある。

【１４６０２】

遊技機Ｈ１またはＨ２において、前記終了条件が成立する前記特定の特典が付与されることとなる前記第２識別情報の動的表示期間として長い動的表示期間が決定され易く設定されているものであることを特徴とする遊技機Ｈ３。

【１４６０３】

遊技機Ｈ３によれば、遊技機Ｈ１またはＨ２の奏する効果に加え、終了条件が成立するまでの期間を長くすることができるので、遊技者に終了条件の成立を回避させる機会をより多く与えることができるという効果がある。

【１４６０４】

＜特徴Ｉ群＞
判別を実行可能な判別手段と、前記判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に前記識別情報を動的表示させた後に前記判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記判別結果を示すための態様で前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、特定条件の成立を判別することが可能な特定条件判別手段と、その特定条件判別手段により前記特定条件の成立が判別されたことに基づいて特定情報が記憶される記憶手段と、前記第１期間に前記特定情報が記憶されていることに基づいて第１演出を実行可能であり、前記第１期間とは異なる第２期間に前記特定情報が記憶されていることに基づいて前記第１演出とは異なる第２演出を実行可能な演出実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機Ｉ１。
【１４６０５】
従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。
【１４６０６】
しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。
【１４６０７】
本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。
【１４６０８】
遊技機Ｉ１によれば、第１期間と第２期間とで特定情報が記憶されていることで実行される演出が可変されるので、設定されている状態に合わせた演出を実行させることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４６０９】
遊技機Ｉ１において、遊技球が入球可能な入球手段を有し、前記特定条件判別手段は、前記入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記特定条件の成立を判別するものであり、前記記憶手段は、前記特定条件の成立が判別されたことに基づいてカウント情報が前記特定情報として記憶されるものであり、前記カウント情報は、前記識別情報が動的表示された回数に対応して更新されるものであり、前記遊技機は、前記カウント情報が所定の情報である場合に遊技者に有利となる設定を実行可能にされていることを特徴とする遊技機Ｉ２。
【１４６１０】
遊技機Ｉ２によれば、遊技機Ｉ１の奏する効果に加え、特定条件の成立によりカウント情報が記憶され、そのカウント情報が所定の情報である期間には遊技者に有利な設定がされるので、判別手段に特定の判別結果と判別される以外にも、入球手段に遊技球を入球させて特定条件を成立させる意欲を増大させることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。
【１４６１１】
遊技機Ｉ１またはＩ２において、前記第２期間では、前記第１期間であるよりも前記判別手段による判別が遊技者に有利となる判別が実行され易く設定されるものであり、前記第２演出は、前記第１演出よりも前記特定情報が記憶されていることが識別し難くされる演出であることを特徴とする遊技機Ｉ３。
【１４６１２】
遊技機Ｉ３によれば、遊技機Ｉ１またはＩ２の奏する効果に加え、第２期間では、特定情報が記憶されていることが識別し難くされるので、遊技者に有利な判別が実行され易い

判別手段の判別に集中させることができ、遊技の状態に合わせた演出をより実行できるという効果がある。

【１４６１３】

＜特徴Ｊ群＞

判別を実行可能な判別手段と、前記判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に前記識別情報を動的表示させた後に前記判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記判別結果を示すための態様で前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、前記識別情報が動的表示されることが可能な動的表示期間中に演出を実行可能な演出実行手段と、特定条件の成立を判別することが可能な特定条件判別手段と、その特定条件判別手段により前記特定条件の成立が判別されたことに基づいて特定情報が記憶される記憶手段と、を有し、前記演出実行手段は、第１期間である場合には前記第１期間が経過した後に設定される第２期間である場合よりも前記特定情報が記憶されていることを示すための報知情報を識別し難く実行する第１演出を実行可能にされ、前記第２期間へ移行することで前記特定情報が記憶されたことで設定された情報を示すための第２演出を実行可能にされていることを特徴とする遊技機Ｊ１。

【１４６１４】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４６１５】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１４６１６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４６１７】

遊技機Ｊ１によれば、第１期間である場合には特定情報が記憶されていることが識別し難くされ、その後の第２期間となると特定情報が記憶されていたことを第２演出により識別できるように構成したので、特定情報が記憶されたことを時間差で識別させることができ、判別手段による判別結果に対応する識別情報の動的表示に第１期間では集中させ、その後の第２期間では特定情報が記憶されたかを遊技者に意識させることができるので分かり易い遊技を提供することで、遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４６１８】

遊技機Ｊ１において、前記第１期間は、前記第２期間よりも遊技者に有利な期間に設定されているものであることを特徴とする遊技機Ｊ２。

【１４６１９】

遊技機Ｊ２によれば、遊技機Ｊ１の奏する効果に加え、有利な第１期間である場合には、遊技者に判別結果に対応した第１演出に集中させることで第１期間をより有利な期間であるように思わせることができるという効果がある。

【１４６２０】

遊技機Ｊ１またはＪ２において、前記判別手段による判別結果が特定の判別結果であることに基づいて前記第１期間を設定することが可能にされているものであることを特徴とする遊技機Ｊ３。

【１４６２１】

遊技機Ｊ３によれば、遊技機Ｊ１またはＪ２の奏する効果に加え、特定の判別結果と判別されることで第１期間が設定されるので、遊技者に判別手段による判別で、有利な期間

を設定することができ、遊技者に第１期間が設定されることを期待させて識別情報の動的表示に集中させることができるという効果がある。

【１４６２２】

遊技機Ｊ１からＪ３のいずれかにおいて、前記特定情報は、特定条件が成立した場合に判別されたカウント情報であり、前記第１期間から前記第２期間に移行した場合に、前記カウント情報に対応した報知態様が前記２演出として実行されるものであることを特徴とする遊技機Ｊ４。

【１４６２３】

遊技機Ｊ４によれば、遊技機Ｊ１からＪ３のいずれかにおいて、カウント情報が第１期間では識別し難くされるので、第１期間をカウント情報に妨げられずに楽しませることができるという効果がある。

【１４６２４】

＜特徴Ｋ群＞

判別を実行可能な判別手段と、前記判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に前記識別情報を動的表示させた後に前記判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記判別結果を示すための態様で前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、特定条件の成立を判別することが可能な特定条件判別手段と、その特定条件判別手段により前記特定条件の成立が判別されたことに基づいて特定情報が記憶される記憶手段と、有し、前記遊技機は、第１期間とその第１期間とは異なる第２期間とで、前記特定条件が成立したことに基づいて実行される演出の実行条件が可変されるものであることを特徴とする遊技機Ｋ１。

【１４６２５】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４６２６】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１４６２７】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４６２８】

遊技機Ｋ１によれば、第１期間と第２期間とで、特定条件が成立したことに基づいて実行される演出の実行条件が可変されるので、期間によって特定条件が成立したことを認識できる演出の実行タイミングを可変させることができ、遊技の状態に合わせて演出を実行させることで遊技の興趣を向上させることができるという効果がある。

【１４６２９】

遊技機Ｋ１において、遊技球が入球可能な入球手段を有し、前記特定条件判別手段は、前記入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記特定条件の成立について判別を実行し、前記特定条件の成立に基づいてカウント情報が前記特定情報として記憶されるものであることを特徴とする遊技機Ｋ２。

【１４６３０】

遊技機Ｋ２によれば、入球手段に入球させることで特定条件を成立させることができるので、入球手段への入球意欲を高めて遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４６３１】

遊技機Ｋ２において、前記カウント情報を前記識別情報の動的表示回数に対応して更新させることが可能な更新手段と、前記カウント情報が所定の値であることに基づいて遊技者に有利となる設定をすることが可能な設定手段と、を有することを特徴とする遊技機Ｋ３。

【１４６３２】

遊技機Ｋ３によれば、遊技機Ｋ２の奏する効果に加え、カウント情報が記憶されることで所定の動的表示回数まで遊技者に有利となる設定がされるので、特定条件の成立に対する価値を高めることができるという効果がある。

【１４６３３】

＜特徴Ｌ群＞

判別を実行可能な判別手段と、その判別手段による判別結果に基づいて第１状態と、その第１状態とは異なる第２状態とを含む複数の状態より１の状態を設定可能な状態設定手段と、前記判別結果を示すための識別情報が表示される表示手段と、その表示手段に前記識別情報を動的表示させた後に前記判別結果を示すための態様で前記識別情報を表示させることが可能な動的表示手段と、特定の前記判別結果を示すための態様で前記識別情報が表示された場合に、遊技者に有利となる特典を付与可能な特典付与手段と、を有した遊技機において、特定条件の成立を判別することが可能な特定条件判別手段と、その特定条件判別手段により前記特定条件の成立が判別されたことに基づいて特定情報が記憶される記憶手段と、記憶された前記特定情報の種別に対応する演出を前記状態設定手段により設定されている状態に対応させて実行することが可能な演出実行手段と、を有するものであることを特徴とする遊技機Ｌ１。

【１４６３４】

従来より、パチンコ機などの遊技機は、遊技盤面上に設けられた始動口に遊技球が入球すると、遊技の当否が抽選され、その抽選結果を報知するための図柄が所定期間変動表示された後に、抽選結果を示す態様で図柄が停止表示され、外れを示す抽選結果が報知された場合には、次の抽選結果を示すための図柄の変動表示が開始される。抽選結果が当たりであった場合には、遊技者に有利となる特典遊技が実行された後に、所定条件が成立している場合には、遊技状態を遊技者に有利となる遊技状態に可変させることが可能な構成が提案されていた（先行技術文献：特開２０１２－２１７７６６号公報）。

【１４６３５】

しかしながら、さらなる遊技の興趣向上が求められていた。

【１４６３６】

本発明は、上記例示した問題点等を解決するためになされたものであり、遊技の興趣をさらに向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【１４６３７】

遊技機Ｌ１によれば、記憶された特定情報の種別と設定されている状態とによって演出実行手段により対応する演出が実行可能であるので、遊技に状態に合わせた演出を実行可能であり、より遊技の興趣を向上できるという効果がある。

【１４６３８】

遊技機Ｌ１において、遊技球が入球可能な入球手段を有し、前記特定条件判別手段は、前記入球手段に遊技球が入球したことに基づいて前記特定条件の成立を判別するものであり、前記記憶手段は、前記特定条件の成立が判別されたことに基づいてカウント情報が前記特定情報として記憶されるものであり、前記カウント情報は、前記識別情報が動的表示された回数に対応して更新されるものであり、前記遊技機は、前記カウント情報が所定の情報である場合に遊技者に有利となる設定を実行可能にされていることを特徴とする遊技機Ｌ２。

【１４６３９】

遊技機Ｌ２によれば、遊技機Ｌ１の奏する効果に加え、特定条件の成立によりカウント情報が記憶され、そのカウント情報が所定の情報である期間には遊技者に有利な設定がされるので、判別手段に特定の判別結果と判別される以外にも、入球手段に遊技球を入球さ

せて特定条件を成立させる意欲を増大させることができ、遊技の興趣をより向上させることができるという効果がある。

【１４６４０】

遊技機Ｌ２において、前記演出実行手段は、前記カウント情報として特定のカウント情報が記憶されたことに基づいて前記カウント情報が記憶されたことを識別可能な第１演出を実行可能であり、前記特定のカウント情報と異なるカウント情報が記憶されたことに基づいて前記カウント情報が記憶されたことを前記第１演出よりも識別し難い第２演出を実行することが可能にされていることを特徴とする遊技機Ｌ３。

【１４６４１】

遊技機Ｌ３によれば、遊技機Ｌ２の奏する効果に加え、記憶されるカウント情報の種別よってカウント情報が記憶されたことを遊技者が識別できる度合いを可変させることができるので、遊技者にカウント情報が記憶されたことに注意を向ける割合を可変させて、遊技に合わせて分かり易く遊技をさせることができるという効果がある。

【１４６４２】

上述した各遊技機のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機Ｚ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１４６４３】

上述した各遊技機のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機Ｚ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１４６４４】

上述した各遊技機のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機Ｚ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１４６４５】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１３６９から図１４２３を参照し、第１０実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１３６９は、第１０実施形態におけるパチンコ機１０の正面図であり、図１３７０はパチンコ機１０の遊技盤Ａ１３の正面図であり、図１３７１はパチンコ機１０の背面図である。

【１４６４６】
なお、以下の説明では、図１３６９に示す状態のパチンコ機１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１３６９に示す状態のパチンコ機１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１３７０参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【１４６４７】
図１３６９に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図１３６９参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。
【１４６４８】
内枠１２には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤Ａ１３（図１３７０参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤Ａ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、球を遊技盤Ａ１３の正面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図１３７２参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤Ａ１３の正面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。
【１４６４９】
内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１３６９参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。
【１４６５０】
正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤Ａ１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。
【１４６５１】
正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が正面側へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１３６９参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図１３７２参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１（図１３７０参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【１４６５２】
正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図１

３６９参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【１４６５３】

また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤Ａ１３正面の貼着スペースＫ１（図１３７０参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。

【１４６５４】

窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１４６５５】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その左側部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤Ａ１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【１４６５６】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ａ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。

【１４６５７】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。

【１４６５８】

図１３７０に示すように、遊技盤Ａ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ａ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、スルーゲー

ト６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１３６９参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【１４６５９】

ベース板Ａ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板Ａ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ａ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ａ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ａ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【１４６６０】

遊技盤Ａ１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１３６９参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１３７０を参照して、遊技盤Ａ１３の構成について説明する。

【１４６６１】

遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニット１６（図１３６９参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１４６６２】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図１３７２参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図１３７０の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図１３７０の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１４６６３】

遊技領域の正面視左側下部（図１３７０の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図１３７２参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【１４６６４】

また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１４６６５】

尚、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１４６６６】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【１４６６７】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【１４６６８】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【１４６６９】

電動役物６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ａ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口６４０側へ入球可能となり、電動役物６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成される。

【１４６７０】

なお、電動役物６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面を伝って球が第２入賞口６４０に案内され易く構成され、電動役物６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【１４６７１】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口６４０

に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【１４６７２】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ａ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、スルーゲート６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板６０には、第３図柄表示装置８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＡ８６が配設されている。

【１４６７３】

第３図柄表示装置８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図１３７２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図１３７２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【１４６７４】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲート６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球がスルーゲート６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１４６７５】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１４６７６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１４６７７】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動

表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１４６７８】

スルーゲート６７は、可変表示装置ユニット８０の右側の領域において遊技盤Ａ１３に組み付けられ、遊技盤Ａ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲート６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１４６７９】

球のスルーゲート６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【１４６８０】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。

【１４６８１】

また、スルーゲート６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲート６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【１４６８２】

また、スルーゲート６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１４６８３】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤Ａ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１３７２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。

【１４６８４】

一方、スルーゲート６７の正面視右下側には、球が入賞し得る第２入賞口６４０が配設されている。この第２入賞口６４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１３７２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。なお、第２入賞口６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側でも良い。

【１４６８５】

また、第１入賞口６４および第２入賞口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と

を異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。

【１４６８６】

第２入賞口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲート６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１４６８７】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【１４６８８】

ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率は、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０にあるような電動役物６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１４６８９】

よって、通常中においては、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口６４０に入賞しづらいので、電動役物６４０ａのない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１４６９０】

一方、確変中や時短中は、スルーゲート６７に球を通過させることで、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲート６７を通過させて電動役物６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１４６９１】

なお、本実施形態におけるパチンコ機１０とは異なり、遊技盤１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【１４６９２】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機１０では、「右打ち」では第１入賞口６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲート６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる

。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【１４６９３】

第１入賞口６４の右方には可変入賞装置６５（図１３７０参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口６５ａが設けられている。パチンコ機１０においては、第１入賞口６４又は第２入賞口６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【１４６９４】

この特定入賞口６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【１４６９５】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口６４の下方右側や、第１入賞口６４の下方左側や、可変表示装置ユニット８０の左方または右方や、上方でも良い。

【１４６９６】

遊技盤Ａ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図１３６９参照）を通じて視認することができる。

【１４６９７】

遊技盤Ａ１３には、アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，６４０にも入賞しなかった球は、アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【１４６９８】

遊技盤Ａ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１４６９９】

図１３７１に示すように、パチンコ機１０の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１４７００】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとして

のＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１４７０１】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１４７０２】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１４７０３】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図１３７２参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【１４７０４】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図１３７２参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【１４７０５】

次に、図１３７２を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１３７２は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１４７０６】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【１４７０７】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１４７０８】

ＲＡＭ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１４７０９】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１４７１０】

主制御装置１１０のＭＰＵ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２０４を介して入出力ポート２０５が接続されている。入出力ポート２０５には、払出制御装置１１１、音声ランプ制御装置１１３、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口６５ａの開閉板を前後方向に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物６４０ａを駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイド２０９が接続され、ＭＰＵ２０１は、入出力ポート２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【１４７１１】

また、入出力ポート２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチ２０８、電源装置１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路２５３が接続され、ＭＰＵ２０１は各種スイッチ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【１４７１２】

払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【１４７１３】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１の

ＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１４７１４】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【１４７１５】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【１４７１６】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【１４７１７】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には駆動モータＡＭＴ１，ＡＭＴ２，ＡＭＴ３，ＡＭＴ４等が含まれる。

【１４７１８】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【１４７１９】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の

表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【１４７２０】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【１４７２１】

第３図柄表示装置８１における各種の画像の表示は、上述のように背面画像と、その背面画像の手前側に配置されて視認される第３図柄等の画像とが、層状になっているように遊技者に視認される。第３図柄表示装置８１を液晶表示装置として構成する場合には各層は液晶が配置される複数の層に対応し、各層の液晶の状態が切り替えられることで、どの層での表示を視認させるかが決定される。

【１４７２２】

第３図柄表示装置８１の態様は、別の態様も想定される。例えば、回転ドラムで構成され、回転ドラムの停止した位置で視認される図柄により遊技者に報知を行うようにしても良いし、前後に重なる層状に配置され変位可能に構成される複数の部材がセンターフレーム８６の内方で視認される状況を構成可能とし、その複数の部材により特定の記号等を遊技者に視認させることができるように構成しても良い。

【１４７２３】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１３７１参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１４７２４】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１４７２５】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１３７１参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ

消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【１４７２６】

次いで、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の構造について説明する。図１３７３は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の分解正面斜視図であり、図１３７４は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の分解背面斜視図である。なお、図１３７３及び図１３７４では、背面ケースＡ２１０の開口Ａ２１１ａに配設される液晶表示装置（可変表示装置ユニット８０）の図示が省略され、開口Ａ２１１ａを通して奥側を視認可能に図示される。また、図１３７３及び図１３７４の説明においては、図１３７０を適宜参照する。

【１４７２７】

動作ユニットＡ２００は、底壁部Ａ２１１と、その底壁部Ａ２１１の外縁から立設される外壁部Ａ２１２とから正面側が開放された箱状に形成される背面ケースＡ２１０を備える。背面ケースＡ２１０は、底壁部Ａ２１１の中央に矩形状の開口Ａ２１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ａ２１１ａは、第３図柄表示装置８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【１４７２８】

背面ケースＡ２１０は、外壁部Ａ２１２の正面側端部に遊技盤Ａ１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図１３７０参照）において遊技盤Ａ１３に面で支持される支持板部Ａ２１３を備える。

【１４７２９】

その支持板部Ａ２１３が遊技盤Ａ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ａ１３と動作ユニットＡ２００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【１４７３０】

背面ケースＡ２１０の背面側には、一対の変位規制装置Ａ２１４が配設される。変位規制装置Ａ２１４は、背面ケースＡ２１０の背面からの手動操作により、突出状態と没入状態とで状態変化可能に構成されており、突出状態において、後述する可動役物（第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００）が演出待機状態から移動開始することを規制する。

【１４７３１】

変位規制装置Ａ２１４を採用することにより、本実施形態のように、ベース板Ａ６０の中央の開口が導光板ユニットＡ７００で閉塞される場合であっても、パチンコ機１０の出荷や搬送を容易とすることができる。

【１４７３２】

詳述すると、従来、可動役物が変位する範囲に緩衝材（わた等のクッション部材）を詰めるなどして可動役物の変位を抑制し、遊技ホールに到着した後で緩衝材を抜き取るという手段により、出荷時や搬送時に可動役物が変位することを防止する場合があった。しかし、ベース板Ａ６０の中央の開口部が本実施形態のように閉塞されていると緩衝材を抜き取るための貫通箇所が無いため、遊技盤Ａ１３と背面ケースＡ２１０とを分解しないと緩衝材を抜き取ることができず、遊技ホールの負担が多大となる可能性がある。

【１４７３３】

この対策として、本実施形態では変位規制装置Ａ２１４を採用している。これにより、遊技盤Ａ１３及び背面ケースＡ２１０の固定を解除することなく、可動役物の移動を規制する突出状態と、その規制が解除される没入状態とで変位規制装置Ａ２１４の状態を切り替えることができる。

【１４７３４】
なお、一対の変位規制装置Ａ２１４は、それぞれ異なる可動役物の移動を規制する部材として配設されている。即ち、可動役物の個数が増減すれば、変位規制装置Ａ２１４の個数を増減させることで対応することができる。
【１４７３５】
ベース板Ａ６０は、光透過性の樹脂材料から板状に形成されており、正面側からベース板Ａ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ａ６０の形状や配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ、各種演出に利用することができる。なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。
【１４７３６】
動作ユニットＡ２００は、遊技盤Ａ１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されている。即ち、動作ユニットＡ２００は、背面ケースＡ２１０と、その背面ケースＡ２１０の正面視内側右部および正面視内側上部に配設されると共に背面ケースＡ２１０の手前側寄りに配設される第１動作ユニットＡ４００と、背面ケースＡ２１０の正面視内側左部および正面視内側上部に配設されると共に第１動作ユニットＡ４００と背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１との間に配設される第２動作ユニットＡ５００と、背面ケースＡ２１０の正面視内側下部に配設される第３動作ユニットＡ６００と、第１動作ユニットＡ４００の前側において背面ケースＡ２１０の外壁部Ａ２１２の前端面に締結固定される導光板ユニットＡ７００と、を備える。
【１４７３７】
具体的には、第３動作ユニットＡ６００は、開口Ａ２１１ａの下方位置において、第２動作ユニットＡ５００は、開口Ａ２１１ａの左方位置および上方位置において、それぞれ背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１に締結固定される。また、第１動作ユニットＡ４００は、開口Ａ２１１ａの右方位置において背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１に締結固定され、開口Ａ２１１ａの上方位置において第２動作ユニットＡ５００の前側面に締結固定される。まず、この動作ユニットＡ２００の動作制御の概要について説明する。
【１４７３８】
図１３７５から図１３８０は、動作ユニットＡ２００の動作制御の一例を示す動作ユニットＡ２００の正面図である。図１３７５では、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００が図示され、図１３７６では、張出状態の第１動作ユニットＡ４００と、演出待機状態の第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００とが図示される。
【１４７３９】
また、図１３７７では、張出状態の第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００及び第３動作ユニットＡ６００とが図示され、図１３７８では、張出状態の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態の第３動作ユニットＡ６００とが図示され、図１３７９では、張出状態の第３動作ユニットＡ６００と、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００とが図示される。
【１４７４０】
また、図１３８０では、演出待機状態から外形の変化を生じずに回転動作した後の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態における外形を維持したまま上昇した後における第３動作ユニットＡ６００とが図示される。
【１４７４１】
また、図１３７５から図１３８０において、導光板ユニットＡ７００の補助導光板ユニットＡ７００ｂの縁部と、装飾部材Ａ８０８の縁部と、センターフレームＡ８６の縁部とで囲む形状が想像線で図示される。この想像線で囲まれる形状が、正面視で第３図柄表示装置８１を視認可能な実際の大きさであり、この想像線で囲まれる形状よりも外側におい

ては（特に左右側においては）、導光板ユニットＡ７００の補助導光板ユニットＡ７００ｂや装飾部材Ａ８０８に目隠しされるので、退避状態における第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の視認性を低下させることができる。

【１４７４２】

図１３７６から図１３７８に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００の変位軌跡と第２動作ユニットＡ５００の変位形跡とが、正面視で部分的に重なるが、第１動作ユニットＡ４００の変位軌跡と第２動作ユニットＡ５００の変位軌跡とが前後でずれている（上面視で重ならない）ので、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００は、動作中に互いに衝突しない。そのため、図１３７８に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の双方を張出状態とすることができる。

【１４７４３】

図１３７６から図１３７９に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００の変位軌跡と、第３動作ユニットＡ６００の変位軌跡とは、正面視で部分的に重なる。そのため、例えば、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００が張出状態の時に、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態から状態変化すると、衝突する可能性がある。

【１４７４４】

これに対して、本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００や第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態からの状態変化を、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したり、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態からの状態変化を、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態であり且つ第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したりすることで、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００と、第３動作ユニットＡ６００とが衝突することを避けることができる。これにより、第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００の配置自由度を向上することができる（変位軌跡が正面視で重なることを許容できる）。

【１４７４５】

第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の動作態様は、回転動作中に、回転される回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さが変化する態様で実行されるよう構成されるが、詳細は後述する。

【１４７４６】

第３動作ユニットＡ６００の動作態様は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降動作と、移動部材Ａ６５０の開閉動作とが、異なるタイミングで実行可能となるように構成される。即ち、開閉動作ユニットＡ６００ｂが上側終端位置に配置された状態で、移動部材Ａ６５０の開閉動作が実行されるように制御される。

【１４７４７】

上述したように、本実施形態では、衝突の可能性がある場合を見越して各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の動作タイミングをずらすように制御する場合があるが、衝突の可能性をはじめから排除できていれば同時に駆動させることは当然可能であり、図１３８０に示すのは、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００が演出待機状態から同時に駆動され、互いに衝突しない位置まで移動した場合に相当する。

【１４７４８】

即ち、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の演出待機状態から図１３８０に示す状態まで移動させる状態変化を、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００がそれぞれ演出待機状態であることを条件として、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００をそれぞれ駆動させる駆動装置を駆動させることで実現可能に構成されているので、複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００による一体感のある動作演出を実現可能となる。

【１４７４９】

図１３８０に示す状態では、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００

は、回転動作中に回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さが変化し始める直前の姿勢となっている。即ち、これ以上の傾倒動作が生じた場合には回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さを変化させることに駆動力が消化されることになるので、回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの動作抵抗が上昇することになる。そのため、その動作抵抗が変化し始める姿勢となる図１３８０の姿勢において動作ユニットＡ４００，Ａ５００を停止させることを容易とすることができる。

【１４７５０】

更に傾倒動作が進めば、回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さの変化量は益々大きくなることから、動作抵抗は益々大きくなる。この抵抗により、バネ弾性による弾性力に似た動作抵抗の変化を生じさせることができるので、図１３８０の姿勢に動作ユニットＡ４００，Ａ５００を維持したり、傾倒し過ぎた場合であっても戻したりしやすくすることができる。

【１４７５１】

第３動作ユニットＡ６００については、後述するように、昇降動作に利用される駆動装置と、移動部材Ａ６５０を開閉させる駆動装置とは別であるので、昇降動作に利用される駆動装置の駆動のみ実行し、移動部材Ａ６５０の駆動を実行しないことにより、第３動作ユニットＡ６００を図１３８０の状態で停止させる制御を容易に行うことができる。

【１４７５２】

このようにして、第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００を同時に駆動させる制御を実行可能とし、一体感のある動作を実現しながら、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００が衝突することを避けることができる。

【１４７５３】

各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の配置に対応して、その後方に配置されている第３図柄表示装置８１の表示が見える範囲が変わる。即ち、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の全てが演出待機状態にある場合が第３図柄表示装置８１の表示が見える範囲（面積）が最大の状態（図１３７５参照）であり、張出状態となる動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００に対応して、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なるように構成される。

【１４７５４】

演出待機状態からの各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の張出程度によっても、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なる。また、例えば、同じ動作ユニット（例えば、第１動作ユニットＡ４００）が動作する場合であっても、図１３７６に示す状態と、図１３８０に示す状態とでは、動作量も、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形も異なる（張出位置側の方が大きい）ことから、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。

【１４７５５】

また、例えば、同じ動作ユニット（例えば、第３動作ユニットＡ６００）が動作する場合であっても、図１３７９に示す状態と、図１３８０に示す状態とでは、上下位置は同じであるが、移動部材Ａ６５０の左右配置が異なることで第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。

【１４７５６】

また、例えば、複数の同じ動作ユニット（例えば、第１動作ユニットＡ４００と第２動作ユニットＡ５００）が動作する場合であっても、図１３７８に示す状態と、図１３８０に示す状態とでは、複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００が交差しているか否かが異なることで、第３図柄表示装置８１の表示領域のうち複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００に隠されない範囲として連続的に視認される範囲の個数（図１３７８では上下左右の４個、図１３８０では１個）が異なっている。

【１４７５７】

このように、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により第３図柄表示装置８

１の表示領域を隠す範囲を複数種類設けることにより、第３図柄表示装置８１の表示と各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００とを合わせて視認させる演出のバリエーションを多くすることができる。

【１４７５８】

即ち、第３図柄表示装置８１では、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠されていない範囲において表示演出を展開するように制御されているところ、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠される範囲が複数種類で変化することから、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠されていない範囲における表示演出のバリエーションを多くすることができ、表示演出の演出効果を向上させることができる。

【１４７５９】

例えば、図１３８０のように、大きな範囲に広がる連続的に視認可能な表示領域が保持される場合には、全画面でアニメーションを流して遊技者に視認させることで遊技者をリラックスさせることができる一方、図１３７６、図１３７７又は図１３７８等のように表示領域が分割されているように視認される場合には、各分割された範囲における表示を区別させて（例えば、有利展開と不利展開とで区別された表示として）、それらの表示のうちいずれかが選択されて以後の演出展開が決まるように演出すれば、各分割された範囲における表示への注目力を向上させることができる。

【１４７６０】

次いで、図１３８１から図１３９４を参照して、第１動作ユニットＡ４００について説明する。図１３８１は、第１動作ユニットＡ４００の正面斜視図であり、図１３８２は、第１動作ユニットＡ４００の背面斜視図である。

【１４７６１】

第１動作ユニットＡ４００は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に保持される支持ユニットＡ４００ａと、その支持ユニットＡ４００ａに正面視右側下部に配置される回転軸棒ＡＪ１を中心に回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ４００ｂと、を備える。

【１４７６２】

第１動作ユニットＡ４００では、駆動モータＡＭＴ１が左上側に配設されており、回転軸棒ＡＪ１が右下側に配設されている。これにより、回転軸棒ＡＪ１の付近に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に比較して、回転軸棒ＡＪ１周辺の構造を簡素化でき、回転軸棒ＡＪ１の配置を右隅に寄せることができる。

【１４７６３】

更に、回転軸棒ＡＪ１の付近に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に見られるような、回転動作ユニットＡ４００ｂの前側または後側に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に比較して、第１動作ユニットＡ４００の前後幅を短くすることができる。従って、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の前後方向に複数の可動役物を積層配置する場合のスペースを十分に確保することができる。

【１４７６４】

図１３８３は、第１動作ユニットＡ４００の分解正面斜視図であり、図１３８４は、第１動作ユニットＡ４００の分解背面斜視図である。図１３８３及び図１３８４では、支持ユニットＡ４００ａが分解されており、回転動作ユニットＡ４００ｂは非分解の状態で図示される。

【１４７６５】

支持ユニットＡ４００ａは、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ４１０と、その固定支持ユニットＡ４１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ１を有し、その駆動モータＡＭＴ１の駆動力を回転動作ユニットＡ４００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ４２０と、を備える。

【１４７６６】

固定支持ユニットＡ４１０は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の底壁部Ａ２１

１の正面視右部に締結固定される縦長部材Ａ４１１と、その縦長部材Ａ４１１の上端側部と前後方向で対向配置される横長部材Ａ４１３と、その横長部材Ａ４１３と縦長部材Ａ４１１の間に配設される板金部材が前方に折曲形成される補強部材Ａ４１５と、その補強部材Ａ４１５の折曲形成された部分を横長部材Ａ４１３との間に挟み込む配置で横長部材Ａ４１３に締結固定される上カバー部材Ａ４１７と、を備える。

【１４７６７】

縦長部材Ａ４１１は、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転軸棒ＡＪ１が挿通される筒状支持部Ａ４１１ａと、右下側に配設される変位規制装置Ａ２１４（図１３７４参照）の突出先端が挿入される非演出用孔Ａ４１１ｂと、メンテナンス用に締結ネジを付け外しできる大きさに貫通形成される補修用孔Ａ４１１ｃと、回転動作ユニットＡ４００ｂの配置を検出することで第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態または張出状態であることを検出するための検出センサＡ４１１ｄと、を備える。

【１４７６８】

非演出用孔Ａ４１１ｂは、正面視において右側の装飾部材Ａ８０８に目隠しされる箇所に形成される（図１３７６参照）。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの配置に関わらず、非演出用孔Ａ４１１ｂを通して変位規制装置Ａ２１４（図１３７４参照）が遊技者に視認されることを避け易くすることができる。

【１４７６９】

なお、このような目隠しの効果は、上側の変位規制装置Ａ２１４についても同様に生じる。即ち、上側の変位規制装置Ａ２１４は第２動作ユニットＡ５００の変位を規制するためのものであるが、これについても上側の装飾部材Ａ８０８に目隠しされることで、変位規制装置Ａ２１４が遊技者に視認されることを避け易くすることができる。

【１４７７０】

検出センサＡ４１１ｄとしては、通常、フォトカプラ形式のセンサが利用されるが、これに限られるものではない。例えば、磁気センサでも良いし、接触式のセンサでも良い。

【１４７７１】

横長部材Ａ４１３は、樹脂材料から横長板状に形成される板状本体Ａ４１３ａと、その板状本体Ａ４１３ａに貫通形成される案内長孔Ａ４１４と、板状本体Ａ４１３ａの左端側において前方側に膨出された膨出部に駆動モータＭＴ１を支持可能に貫通形成されるモータ支持孔Ａ４１３ｂと、板状本体Ａ４１３ａの上端部から前方に板状に延設され、その延設先端側に雌ネジが形成された複数の突設部Ａ４１３ｃが形成される板状延設部Ａ４１３ｄと、を備える。

【１４７７２】

補強部材Ａ４１５は、金属板から折曲形成される部材であって、板状本体Ａ４１３ａの背面側に張り合わせるように配置され組立状態（図１３８１参照）において縦長部材Ａ４１１と横長部材Ａ４１３との間に挟まれる板状本体Ａ４１５ａと、その板状本体Ａ４１５ａの上端から正面側へ折曲形成され複数の突設部Ａ４１３ｃを挿通可能な複数の貫通孔Ａ４１５ｂが穿設される折曲板Ａ４１５ｃと、その折曲板Ａ４１５ｃから折曲形成され金属棒ＡＭＢ１が挿通される貫通孔が形成される一対の保持用折曲部Ａ４１５ｄと、案内長孔Ａ４１４を外側から囲む形状で穿設される長孔Ａ４１５ｅと、を備える。

【１４７７３】

上カバー部材Ａ４１７は、樹脂材料から形成される部材であって、横長部材Ａ４１３との間に補強部材Ａ４１５を挟む位置関係で貫通孔Ａ４１５ｂに挿通される突設部Ａ４１３ｃの雌ネジに螺入される締結ネジにより横長部材Ａ４１３に締結固定される板状本体Ａ４１７ａと、その板状本体Ａ４１７ａに一端が支持される付勢バネＡ４１７ｂと、その付勢バネＡ４１７ｂの他端が支持され、付勢バネＡ４１７ｂの付勢力で左右方向に延びる可動域の右端に付勢されるダンパ部材Ａ４１７ｃと、を備える。

【１４７７４】

駆動伝達ユニットＡ４２０は、駆動モータＡＭＴ１が左端側に支持される板金部材であって左右両端部において横長部材Ａ４１３に締結固定される支持部材Ａ４２１と、その支

持部材Ａ４２１の正面側に回転可能に支持される複数の回転部材から構成される伝達機構Ａ４２３と、その伝達機構Ａ４２３の回転部材を正面側から覆うように支持部材Ａ４２１に締結固定される被覆カバーＡ４２５と、伝達機構Ａ４２３と回転動作ユニットＡ４００ｂとを連結する連結機構Ａ４２７と、を備える。

【１４７７５】

伝達機構Ａ４２３は、内周側に歯が形成される環状のベルトＡ４２３ａと、そのベルトＡ４２３ａの歯と噛み合う形状の歯が外周側に形成され、ベルトＡ４２３ａを緩み無く支持可能となるように支持部材Ａ４２１の柱状部Ａ４２１ａに回転可能に支持される左右一対のプーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃと、駆動モータＡＭＴ１の駆動軸に相対動作不能に固定される駆動ギアＡ４２３ｄと、左プーリーＡ４２３ｃの背面側に形成されるギア部Ａ４２３ｅおよび駆動ギアＡ４２３ｄに歯合されるように支持部材Ａ４２１の柱状部Ａ４２１ａに回転可能に支持される伝達ギアＡ４２３ｆと、を備える。

【１４７７６】

被覆カバーＡ４２５は、支持部材Ａ４２１の本体板部に形成される雌ネジと締結固定されるだけでなく、プーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃや伝達ギアＡ４２３ｆを支持する柱状部Ａ４２１ａの先端に形成される雌ネジにも締結固定される。これにより、柱状部Ａ４２１ａの剛性を向上させることができ、プーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃや伝達ギアＡ４２３ｆの回転を安定させることができる。

【１４７７７】

連結機構Ａ４２７は、回転動作ユニットＡ４００ｂの上端側部が連結されると共に正面側の凹部Ａ４２７ｂで金属棒ＡＭＢ１を受け入れることで動作方向が左右方向とされる連結部材Ａ４２７ａと、その連結部材Ａ４２７ａの凹部Ａ４２７ｂを正面側から塞ぐように連結部材Ａ４２７ａに締結固定されることで連結部材Ａ４２７ａとの間からの金属棒ＡＭＢ１の脱落を防止する防止部材Ａ４２７ｃと、その防止部材Ａ４２７ｃとの間にベルトＡ４２３ａを挟む配置で防止部材Ａ４２７ｃに締結固定されるベルト固定部材Ａ４２７ｄと、を備える。

【１４７７８】

一対の凹部Ａ４２７ｂには、金属棒ＡＭＢ１が挿通される円筒状のカラーＡ４２７ｆが配設され、そのカラーに挿通された状態の金属棒ＡＭＢ１を外周の溝部で支持する滑車Ａ４２７ｇが回転可能に連結部材Ａ４２７ａに支持されている。これにより、金属棒ＡＭＢ１に対する連結部材Ａ４２７ａの姿勢がずれることを防止し易くできると共に、動作抵抗を低減させることができる。

【１４７７９】

ベルト固定部材Ａ４２７ｄのベルトＡ４２３ａと対向配置される上面部には、ベルトＡ２３ａの内周側に形成される歯形状に対応する係合突部Ａ４２７ｈが形成される。この係合突部Ａ４２７ｈとベルトＡ４２３ａの歯とが噛み合うようにベルトＡ４２３ａを配置させ、ベルトＡ４２３ａの外周側（上のベルトＡ４２３ａの上側）に防止部材Ａ４２７ｃを対向配置させるようにしてベルト固定部材Ａ４２７ｄと防止部材Ａ４２７ｃとを締結固定させる。

【１４７８０】

これにより、ベルトＡ４２３ａが係合突部Ａ４２７ｈから脱落することを避けることができる。また、ベルトＡ４２３ａを押圧するようにして固定する場合と異なり、ベルトＡ４２３ａの耐久性を向上させながら、ベルトＡ４２３ａが連結機構Ａ４２７に対して滑ることを防止することができる。

【１４７８１】

このような構造により、連結機構Ａ４２７は、駆動モータＡＭＴ１が駆動回転され、歯合伝達により左プーリーＡ４２３ｃが回転されることでベルトＡ４２３ａの左右に延びている箇所が左右方向に移動されることに伴って、金属棒ＡＭＢ１に案内されて左右方向に移動される。

【１４７８２】

連結部材Ａ４２７ａは、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が挿通される上下方向に延びる案内長孔Ａ４２７ｅを備える。回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８は、案内長孔Ａ４２７ｅ及び固定支持ユニットＡ４１０の案内長孔Ａ４１４に挿通されることで、連結機構Ａ４２７が左右方向に移動されることに伴って、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が上下方向かつ左右方向に移動される。

【１４７８３】

このように左右方向に移動する連結機構Ａ４２７を介して、回転動作ユニットＡ４００ｂに駆動力が伝達され、回転動作ユニットＡ４００ｂが変位される。以下、回転動作ユニットＡ４００ｂの詳細について説明する。

【１４７８４】

図１３８５は、回転動作ユニットＡ４００ｂの分解正面斜視図であり、図１３８６は、回転動作ユニットＡ４００ｂの分解背面斜視図である。図１３８５及び図１３８６に図示されるように、回転動作ユニットＡ４００ｂは、下端側に回転軸棒ＡＪ１が嵌合される基礎板部材Ａ４３０と、回転軸棒ＡＪ１と直交する平面上において回転軸棒ＡＪ１を通る直線方向にスライド移動可能となるように基礎板部材Ａ４３０に連結される移動部材Ａ４４０と、基礎板部材Ａ４３０及び移動部材Ａ４４０に挿通され移動部材Ａ４４０のスライド移動時に、そのスライド移動と直交する方向に移動可能とされる方向切替部材Ａ４５０と、その方向切替部材Ａ４５０の移動により配置または姿勢が変化されることで回転動作ユニット４００ｂの短手方向の長さが変化するように遊技者に見せるための装飾部材Ａ４６０と、基礎板部材Ａ４３０との間に形成される空間に方向切替部材Ａ４５０を配置するようにして基礎板部材Ａ４３０に嵌合または締結固定され方向切替部材Ａ４５０を正面側から覆う形状で形成される覆設部材Ａ４７０と、を備える。

【１４７８５】

基礎板部材Ａ４３０は、回転軸棒ＡＪ１が嵌合される長尺板状の板状本体Ａ４３１と、その板状本体Ａ４３１に回転軸棒ＡＪ１を通る同一直線上に穿設される上下一対の案内長孔Ａ４３２と、その一対の案内長孔Ａ４３２の間の位置において案内長孔Ａ４３２の延びる方向と直交する方向に延びるように穿設される複数の補助長孔Ａ４３３と、上側の案内長孔Ａ４３２の下端付近における板状本体Ａ４３１の短手方向端部に案内長孔Ａ４３２と平行な長孔として形成される一対の支持長孔Ａ４３４と、板状本体Ａ４３１から背面側に筒状に突設される誤動作防止筒部Ａ４３５と、案内長孔Ａ４３２が配置される直線と平行に延びる形状で板状本体Ａ４３１の下端部正面から突設される一対の案内延設部Ａ４３６と、板状本体Ａ４３１の下端部から下方へ板状に張り出す板状検出片Ａ４３７と、を備える。

【１４７８６】

誤動作防止筒部Ａ４３５は、右側の変位規制装置Ａ２１４（図１３７４参照）の突出先端が挿通可能な大きさで形成される貫通孔である。この誤動作防止筒部Ａ４３５は、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態において非演出用孔Ａ４１１ｂ（図１３７６参照）の前方に配置されている。

【１４７８７】

変位規制装置Ａ２１４の突出先端が前方に突出する突出状態にされると、その突出先端は非演出用孔Ａ４１１ｂを通り誤動作防止筒部Ａ４３５に挿通されることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作が規制される。

【１４７８８】

板状検出片Ａ４３７は、検出センサＡ４１１ｄ（図１３８３参照）の検出溝に配置可能となる前後位置に形成されている。板状検出片Ａ４３７は、回転軸棒ＡＪ１が支持される側（背面側）において形成されている。これにより、回転軸棒ＡＪ１の変形等により回転軸棒ＡＪ１が曲がる（傾斜する）事態が生じた場合であっても、板状検出片Ａ４３７の位置ずれを最小限にとどめることができるので、板状検出片Ａ４３７が検出センサＡ４１１ｄの検出溝に収まる前後位置から外れる位置に配置されることを回避し易くすることができる。

【１４７８９】
検出センサＡ４１１ｄ（図１３８３参照）により板状検出片Ａ４３７の配置が検出されることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢を把握することができるので、複数の動作ユニットＡ４００～Ａ６００が個別の駆動源で駆動される場合であっても、互いに衝突する事態が生じることを回避できる。
【１４７９０】
移動部材Ａ４４０は、内部に配設される発光基板の発光手段から照射される光によって正面側の装飾板Ａ４４１を明るく照らす演出を実行可能に構成され、その装飾板Ａ４４１との間で発光基板を挟むように配設される板状本体Ａ４４２と、その板状本体Ａ４４２の背面に突設される一対の挿通突部Ａ４４３と、基礎板部材Ａ４３０の補助長孔Ａ４３３に対応する位置において上下方向と左右傾斜する方向とを組合せた形状で穿設される複数の機能長孔Ａ４４４と、一対の挿通突部Ａ４４３が配置される直線と平行に延設される延設部Ａ４４５と、板状本体Ａ４２２の右上隅部から背面側に突設され駆動伝達ユニットＡ４２０の案内長孔Ａ４２７ｅ（図１３８３参照）に挿通される柱状突設部Ａ４４８と、を備える。
【１４７９１】
装飾板Ａ４４１は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ４４１ａと、その透光性領域Ａ４４１ａの短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ４４１ｂと、を備える。
【１４７９２】
これにより、機能長孔Ａ４４４を形成する関係上、基板の配置が短手方向中央部寄りに制限される場合であっても、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ４４１ａで行い、その他の鍍金領域Ａ４４１ｂでは鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。
【１４７９３】
挿通突部Ａ４４３は、基礎板部材Ａ４３０の案内長孔Ａ４３２に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により案内長孔Ａ４３２からの脱落が防止されるよう構成される。
【１４７９４】
機能長孔Ａ４４４は、上下一対の長孔と、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線で反転した形状となるもう一組の上下一対の長孔との、４つの長孔から構成されており、各長孔の形状は、反転の関係を除き共通とされている。
【１４７９５】
複数の機能長孔Ａ４４４のうち、上下一対の長孔は、一方の長孔を、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線に沿って平行移動させた位置に形成されている。即ち、上下一対の長孔の対応する箇所は、同一直線上に延びるか、平行配置される関係が維持される。
【１４７９６】
延設部Ａ４４５は、基礎板部材Ａ４３０の一対の案内延設部Ａ４３６の間隔よりも若干短い幅長さで形成され、移動部材Ａ４４０の移動時のガイドとして機能している。また、延設部Ａ４４５は、延設方向断面が正面側を開放したコの字状に形成されているが、この形状により、剛性の向上だけでなく、基板に接続される配線Ａ４４９の断線防止にも機能している。即ち、コの字の開放された側から延設部Ａ４４５に配線Ａ４４９を保持させることにより、他の動作部材と配線Ａ４４９との接触を避けることができる。
【１４７９７】
配線Ａ４４９は、フラットケーブルで構成されており、回転軸棒ＡＪ１周りの回転に対応する方向に撓み可能な配線と、延設部Ａ４４５の延びる方向に撓み可能な配線とで構成される。
【１４７９８】
本実施形態では、駆動モータＡＭＴ１を回転軸棒ＡＪ１から離れた位置に配設していることから（図１３８２参照）、回転軸棒ＡＪ１周りにスペースを確保し易くでき、このス

ペースを配線Ａ４４９が撓むためのスペースとして利用できる。これにより、配線Ａ４４９に無理な負荷が加えられることを避けることができ、配線Ａ４４９の耐久性を向上させることができる。

【１４７９９】

方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０についてまとめて説明する。方向切替部材Ａ４５０は、左右一対の部材から構成されており、板状本体Ａ４５１と、その板状本体Ａ４５１の左右内側部において背面から上下一対で突設される柱状部Ａ４５２と、板状本体Ａ４５１の左右外側部において穿設される上下一対の貫通孔Ａ４５３と、を備える。

【１４８００】

柱状部Ａ４５２は、移動部材Ａ４４０の機能長孔Ａ４４４と、基礎板部材Ａ４３０の補助長孔Ａ４３３とに順に挿通されており、移動部材Ａ４４０の配置に応じて、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線と直交する方向に変位可能となっている。即ち、移動部材Ａ４４０の配置に応じて、方向切替部材Ａ４５０は、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線と直交する方向に変位され得る（移動部材Ａ４４０の移動方向に対して直交する方向に変位され得る）。

【１４８０１】

装飾部材Ａ４６０は、左右一対の平行移動部材Ａ４６１と、左右一対の回転移動部材Ａ４６５と、を備える。平行移動部材Ａ４６１は、板状本体Ａ４６２と、その板状本体Ａ４６２の左右外側における下方隅部から背面側へ突設される柱状部Ａ４６３と、板状本体Ａ４６２の左右外側における中央側部から背面側へ突設される長尺柱状部Ａ４６４と、を備える。

【１４８０２】

回転移動部材Ａ４６５は、板状本体Ａ４６６と、その板状本体Ａ４６６の上端部において背面から突設される柱状部Ａ４６７と、その柱状部Ａ４６７よりも下側において穿設される貫通孔Ａ４６８と、を備える。

【１４８０３】

柱状部Ａ４６３は、先端に雌ネジが形成されている。その雌ネジに方向切替部材Ａ４５０の下側の貫通孔Ａ４５３に挿通される締結ネジが螺入されることで、装飾部材Ａ４６０と方向切替部材Ａ４５０とが締結固定される。

【１４８０４】

長尺柱状部Ａ４６４は、先端に雌ネジが形成されているが、締結固定に利用されるものではなく、部材の脱落を防ぐ目的で利用される。即ち、長尺柱状部Ａ４６４が挿通される回転移動部材Ａ４６５は、平行移動部材Ａ４６１に対して回転動作可能に構成される。

【１４８０５】

長尺柱状部Ａ４６４は、先に方向切替部材Ａ４５０の上側の貫通孔Ａ４５３に挿通され、その後から回転移動部材Ａ４６５の貫通孔Ａ４６８に挿通される。長尺柱状部Ａ４６４の先端にネジ頭の大きなネジが固定されることにより、回転移動部材Ａ４６５が長尺柱状部Ａ４６４から脱落することを防止することができる。

【１４８０６】

回転移動部材Ａ４６５の柱状部Ａ４６７は、基礎板部材Ａ４３０の支持長孔Ａ４３４に支持されることで、変位は小さくされる。このように構成することで、貫通孔Ａ４６８を変位させる方向切替部材Ａ４５０の変位よりも、回転移動部材Ａ４６５の柱状部Ａ４６７の反対側の端部（下端部）の変位を大きくすることができる。

【１４８０７】

覆設部材Ａ４７０は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ４７１と、その透光性領域Ａ４７１の短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ４７２と、を備える。

【１４８０８】

これにより、方向切替部材Ａ４５０や装飾部材Ａ４６０が配設されることで移動部材Ａ４４０側から照射される光が遮られ易い短手方向両側位置においても演出効果を高く維持

することができる。即ち、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ４７１で行い、その他の鍍金領域Ａ４７２では鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【１４８０９】

覆設部材Ａ４７０は、下端部において背面側に突設される一対の突設部Ａ４７３を備える。突設部Ａ４７３は、基礎板部材Ａ４３０の案内延設部Ａ４３６の正面側端部と対応する位置に配置される。

【１４８１０】

このように配置することにより、組立状態において、覆設部材Ａ４７０と基礎板部材Ａ４３０とで移動部材Ａ４４０の延設部Ａ４４５が挿通される開口部を形成することができる。これにより、移動部材Ａ４４０の移動方向を延設部Ａ４４５の延設方向に安定させることができる。

【１４８１１】

図１３８７（ａ）、図１３８７（ｂ）、図１３８８（ａ）及び図１３８８（ｂ）は、回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図である。図１３８７（ａ）、図１３８７（ｂ）、図１３８８（ａ）及び図１３８８（ｂ）では、回転動作ユニットＡ４００ｂの移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する様子が時系列で図示される。

【１４８１２】

即ち、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態（図１３７５参照）における回転動作ユニットＡ４００ｂ（図１３８７（ａ）参照）から、張出状態（図１３７６参照）における回転動作ユニットＡ４００ｂ（図１３８８（ｂ）参照）までの、相対移動の様子が図示される。なお、図１３８７及び図１３８７の紙面における上下は、実際の上下方向とは異なっており、移動部材Ａ４４０のスライド移動の方向が紙面の上下と合致する姿勢で図示されている。

【１４８１３】

機能長孔Ａ４４４は、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線に対して平行に延びる第１平行部Ａ４４４ａと、その第１平行部Ａ４４４ａに一端が連なるように形成され第１平行部Ａ４４４ａに対して傾斜する方向に直線状に延びる傾斜部Ａ４４４ｂと、その傾斜部Ａ４４４ｂの他端に連なるように形成され第１平行部Ａ４４４ａの延びる方向に対して平行に延びる第２平行部Ａ４４４ｃと、を備える。

【１４８１４】

ここで、図１３８７（ａ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第１平行部Ａ４４４ａの端部側に配置された状態が図示され、図１３８７（ｂ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第１平行部Ａ４４４ａと傾斜部Ａ４４４ｂとの交差位置に配置された状態が図示され、図１３８８（ａ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が傾斜部Ａ４４４ｂと第２平行部Ａ４４４ｃとの交差位置に配置された状態が図示され、図１３８８（ｂ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第２平行部Ａ４４４ｃの端部側に配置された状態が図示される。

【１４８１５】

第１平行部Ａ４４４ａの長さは十分に長く形成されている。これにより、移動部材Ａ４４０が、図１３８７（ａ）に示す状態から、基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動を開始しても、暫くは（図１３８７（ｂ）に示す状態までは）、方向切替部材Ａ４５０が移動部材Ａ４４０の短手方向に移動されることが無く、短手方向幅の短い外観を維持した状態で回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させることができる。

【１４８１６】

傾斜部Ａ４４４ｂは、第１平行部Ａ４４４ａが形成される位置から移動部材Ａ４４０の短手方向外側へ向けて延びる。そのため、第１平行部Ａ４４４ａに方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が配置されている状態から移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動し、柱状部Ａ４５２が傾斜部Ａ４４４ｂに入ると、方向切替部材Ａ４５０が移動部材Ａ４４０の短手方向外側へ向けて移動する。

【１４８１７】
方向切替部材Ａ４５０の一対の柱状部Ａ４５２は、一対の補助長孔Ａ４３３に挿通されており、一対が平行に案内される。そのため、方向切替部材Ａ４５０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動は、基礎板部材Ａ４３０の短手方向への平行移動となる。
【１４８１８】
その移動の速度は、傾斜部Ａ４４４ｂが直線状に形成されていることにより、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する速度に対して比例する。そのため、移動部材Ａ４４０と、方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０とが、連動する動作演出を実行させ易くすることができる。
【１４８１９】
第２平行部Ａ４４４ｃは、第１平行部Ａ４４４ａ程の長さは無く、必要最小限の長さで形成される。第２平行部Ａ４４４ｃを形成する目的は、回転動作ユニットＡ４００ｂの演出効果の向上のためである。
【１４８２０】
即ち、第１動作ユニットＡ４００が張出状態まで駆動され駆動モータＡＭＴ１（図１３８３参照）が停止された場合に、ダンパ部材Ａ４１７ｃに付勢バネＡ４１７ｂから与えられる付勢力で連結機構Ａ４２７が若干押し戻され、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して逆方向（戻る方向）に相対移動した場合であっても、第２平行部Ａ４４４ｃがあることで、移動部材Ａ４４０の短手方向における方向切替部材Ａ４５０の位置を変化させないようにすることができる。
【１４８２１】
これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態において駆動モータＡＭＴ１の駆動を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る付勢バネＡ４１７ｂの付勢力による押し戻し動作が、生じた場合であっても、張出状態における第１動作ユニットＡ４００の外観（回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。
【１４８２２】
図１３８７（ａ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第１長さＡＤ１とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第１角度Ａθ１とされる。
【１４８２３】
図１３８７（ｂ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第２角度Ａθ２とされる。
【１４８２４】
第２長さＡＤ２は第１長さＡＤ１よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２）。第２角度Ａθ２は第１角度Ａθ１よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２）。
【１４８２５】
図１３８８（ａ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第３長さＡＤ３とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第３角度Ａθ３とされる。
【１４８２６】
第３長さＡＤ３は第２長さＡＤ２よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２＜第３長さＡＤ３）。第３角度Ａθ３は第２角度Ａθ２よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２＞第３角度Ａθ３）。
【１４８２７】
図１３８８（ｂ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第４長さＡＤ４とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第４角度Ａθ４とされる。
【１４８２８】

第４長さＡＤ４は第３長さＡＤ３よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２＜第３長さＡＤ３＜第４長さＡＤ４）。第４角度Ａθ４は第３角度Ａθ３よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２＞第３角度Ａθ３＞第４角度Ａθ４）。

【１４８２９】

従って、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態となるまでにおいて、回転動作ユニットＡ４００ｂは、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が徐々に長くなるように変化され、それに伴い、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度が徐々に小さくなるように変化される。

【１４８３０】

図１３８９、図１３９０及び図１３９１は、第１動作ユニットＡ４００の正面図である。図１３８９、図１３９０及び図１３９１では、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて駆動される様子が時系列で図示される。

【１４８３１】

図１３８９では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態が図示され、図１３９０では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態と張出状態との間の状態であって、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が姿勢変化を除いて演出待機状態と同じとなる状態が図示され、図１３９１では、第１動作ユニットＡ４００の張出状態が図示される。

【１４８３２】

図１３８９に示す状態では、板状検出片Ａ４３７が検出センサＡ４１１ｄの検出溝に配置される。これにより、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態にあることを、対応する制御装置に把握させることができる。

【１４８３３】

案内長孔Ａ４１４は、図１３９０に示す柱状突設部Ａ４４８よりも右側に形成される回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧形状に沿う円弧部Ａ４１４ａと、図１３９０に示す柱状突設部Ａ４４８よりも左側において直線状に形成され円弧部Ａ４１４ａと滑らかに連なる（連なる部分における円弧部Ａ４１４ａの接線方向に延びる）直線部Ａ４１４ｂと、を備える。

【１４８３４】

即ち、柱状突設部Ａ４４８が円弧部Ａ４１４ａに配置されている状態では（図１３８９及び図１３９０参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作が生じても、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離は第１長さＡＤ１（図１３８７（ａ）参照）に維持され、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じないので、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は維持される。

【１４８３５】

図１３９０に示す状態から、図１３９１に示す状態への回転動作の過程において、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に回転移動部材Ａ４６５が張り出すように、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が変化される。

【１４８３６】

図１３９０に示す状態から図１３９１に示す状態までの間において、柱状突設部Ａ４４８が案内される直線部Ａ４１４ｂは、回転軸棒ＡＪ１を中心とする円と１点で交差する配置とされているので、柱状突設部Ａ４４８の配置と、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８の間の距離とが、一対一で対応する。

【１４８３７】

回転移動部材Ａ４６５の張出量は、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８の間の距離に対応するよう構成されているので（図１３８７及び図１３８８参照）、回転移動部材Ａ４６５が張出始める柱状突設部Ａ４４８の位置や、柱状突設部Ａ４４８の位置に対応した回転移動部材Ａ４６５の張出量を、構造面から特定できる。

【１４８３８】

そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢変化と回転移動部材Ａ４６５の張出とを個別の駆動源で実行する場合に問題となり得る、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢の変化量（角度）が不十分な状態で回転移動部材Ａ４６５が張り出して背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）と衝突するという事態を回避することができる。

【１４８３９】

駆動モータＡＭＴ１（図１３８３参照）の駆動力が伝達されベルトＡ４２３ａが動作されると、連結機構Ａ４２７が金属棒ＡＭＢ１に案内されて左右方向にスライド変位される。本実施形態では、駆動モータＡＭＴ１の駆動量の制御によって、回転動作ユニットＡ４００ｂが図１３８９に示す状態と図１３９０に示す状態とを往復するように動作させたり、回転動作ユニットＡ４００ｂが図１３９０に示す状態と図１３９１に示す状態とを往復するように動作させたり、回転動作ユニットＡ４００ｂが図１３８９に示す状態と図１３９１に示す状態とを往復するように動作させたりすることができる。

【１４８４０】

張出状態の側（左側）において、連結機構Ａ４２７はダンパ部材Ａ４１７ｃと当接し付勢バネＡ４１７ｂからの弾性力で減速される。これにより、第１動作ユニットＡ４００を張出状態とする向きでベルトＡ４２３ａを高速で動作させた場合であっても、連結機構Ａ４２７が張出状態の側（左側）で跳ね返る等して、ベルトＡ４２３ａに過大な負荷が加えられることを回避し易くすることができ、ベルトＡ４２３ａ及び連結機構Ａ４２７の耐久性を向上させることができる。

【１４８４１】

図１３８９に示す第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態から回転動作ユニットＡ４００ｂが始動する場合、柱状突設部Ａ４４８の始動方向は回転軸棒ＡＪ１を中心とし柱状突設部Ａ４４８を通る円の接線方向ＡＴ１へ向くことになる。

【１４８４２】

本実施形態では、図１３８９に示す状態において、接線方向ＡＴ１と金属棒ＡＭＢ１が延びる方向（左右方向）との成す角度が小さくなるように構成されているので、駆動モータＡＭＴ１の駆動力を効率的に伝達して回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作を実行させることができる。

【１４８４３】

図１３９０に示す状態において、接線方向ＡＴ１の向きが直線部Ａ４１４ｂと平行となる。そのため、図１３９０に示す状態から回転動作ユニットＡ４００ｂを正面視反時計回りに回転動作させる場合の回転方向の抵抗を小さくすることができる。

【１４８４４】

図１３９０に示す状態から図１３９１に示す状態までの間に、接線方向ＡＴ１の向きと、金属棒ＡＭＢ１が延びる方向（左右方向）との成す角度が漸増し、接線方向ＡＴ１の下方向の成分が大きくなる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させる力は自重の割合が増え、駆動モータＡＭＴ１の駆動力に余剰が生まれる。この余剰分の駆動力を、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動に利用することができる。

【１４８４５】

このように、駆動モータＡＭＴ１の駆動力を、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作にも、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動にも、利用するという構成を採用しながら、それら複数の動作に駆動力が必要となるタイミングをずらすように構成することで、一時点で必要とされる駆動力の最大値を下げることができ、駆動モータＡＭＴ１の小形化を図ることができる。

【１４８４６】

図１３９１に示すように、回転軸棒ＡＪ１と、駆動力の伝達箇所としての柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度よりも、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する方向としての移動方向ＡＭ１と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度の方が小さくなるように構成される。

【１４８４７】

本実施形態では、移動方向ＡＭ１と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度が鋭角とされており、金属棒ＡＭＢ１の延びる方向で伝達される駆動モータＡＭＴ１の駆動力の移動方向ＡＭ１へ向く成分を確保し易くすることができるので、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動よりも先に、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させる方向で駆動力が伝達されてしまい、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作抵抗が大きくなる事態が発生することを避けることができる。なお、本実施形態では、移動方向ＡＭ１が、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向と一致する。

【１４８４８】

柱状突設部Ａ４４８に駆動モータＡＭＴ１からの負荷が左右方向で伝達されると、その負荷は移動方向ＡＭ１で移動部材Ａ４４０を相対移動させる下向きの負荷と、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転軸棒ＡＪ１中心に回転させる（起こす）方向の上向きの負荷とに分解される。駆動モータＡＭＴ１からの負荷が左右方向（真横方向）であるからこそ、このように、上下方向への負荷の分解をスムーズに生じさせることができる。

【１４８４９】

この時、移動方向ＡＭ１に分解される負荷の方向には、回転軸棒ＡＪ１は配置されていないので、その負荷も、回転軸棒ＡＪ１を中心として回転動作ユニットＡ４００ｂを回転させるように作用する。

【１４８５０】

即ち、本実施形態では、柱状突設部Ａ４４８が、回転軸棒ＡＪ１を通り移動方向ＡＭ１と平行な直線からずれた位置に配置されているので、移動部材Ａ４４０を移動方向ＡＭ１で相対移動させる成分の負荷が、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転方向にも生じるので、柱状突設部Ａ４４８から回転軸棒ＡＪ１に向かう負荷が過大になる場合のように、回転動作不良が生じることを回避し易くすることができる。

【１４８５１】

図１３９２、図１３９３及び図１３９４は、第１動作ユニットＡ４００の背面図である。図１３９２、図１３９３及び図１３９４では、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて駆動される様子が時系列で図示され、縦長部材Ａ４１１の図示が省略される。

【１４８５２】

図１３９２では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態が図示され、図１３９３では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態と張出状態との間の状態であって、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が姿勢変化を除いて演出待機状態と同じとなる状態が図示され、図１３９４では、第１動作ユニットＡ４００の張出状態が図示される。

【１４８５３】

即ち、図１３９２が、図１３８９に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当し、図１３９３が、図１３９０に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当し、図１３９４が、図１３９１に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当する。

【１４８５４】

主に図１３９３を参照して、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態を起点とした回転動作ユニットＡ４００ｂの動作について説明する。なお、図１３８７及び図１３８８を適宜参照する。

【１４８５５】

図１３９３に示す状態から、回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２（図１３８７（ｂ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じるが、移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動は生じない。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、短手方向の変化は生じない。

【１４８５６】

回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに更に回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２の状態から第３長さＡＤ３（図１３８８（ａ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じ、更に移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動が生じる。

【１４８５７】

そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、且つ、短手方向の幅が広くなるように変化する。このように、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観の変化は、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作中において、長手方向のみが変化する状態と、長手方向が変化すると共に短手方向が変化する状態とで、２段階で生じるように構成される。

【１４８５８】

回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに更に回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第３長さＡＤ３の状態から第４長さＡＤ４（図１３８８（ｂ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じるが、移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動は生じない。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、短手方向の変化は生じない。

【１４８５９】

これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態（図１３９４参照）において駆動モータＡＭＴ１の駆動を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る、付勢バネＡ４１７ｂ（図１３８９参照）の付勢力による押し戻し動作が生じた場合であっても、張出状態における第１動作ユニットＡ４００の外観（回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。

【１４８６０】

このように、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒動作においては、各区間で基礎板部材Ａ４３０に対して相対動作する部材の個数が異なる。この相対動作する部材の個数に対応させて駆動モータＡＭＴ１の制御負荷を切り替えるよう制御することで（例えば、部材の個数が多くなる範囲で制御負荷を増加させ、部材の個数が少なくなる範囲で制御負荷を減少させることで）、動作抵抗の変化の影響を抑えることができ、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作速度が局所的に変化することを防止し易くすることができる。

【１４８６１】

図１３９３に示す状態から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分が一定で移動する場合における、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度の変化について説明する。まず、図１３９３に示す状態において、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を結ぶ直線と、案内長孔Ａ４１４の直線部Ａ４１４ｂとは、直交する。

【１４８６２】

図１３９３に示す状態から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分が一定で移動する場合、柱状突設部Ａ４４８が案内長孔Ａ４１４の直線部Ａ４１４ｂに案内されることから、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度Ａφ１は、図１３９４に示すように、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線を斜辺とし、図１３９３に示す回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線を底辺とし、直線部Ａ４１４ｂに沿う直線を高さＡＸ１とする直角三角形の鋭角の角度として特定される。

【１４８６３】

ここで、第１長さＡＤ１を単位長さと仮定した場合、直角三角形の関係式として三角関数から式１［ｔａｎＡφ１＝ＡＸ１］が成立するので、その逆関数として式２［Ａφ１＝ａｒｃｔａｎＡＸ１］が成立する。

【１４８６４】

式２から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分一定で移動することに伴い高さＡＸ１が一定速度で増加する場合、回転角度Ａφ１の変化量は漸減することになる。従って、本

実施形態において、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させ、連結機構Ａ４２７の連結部材Ａ４２７ａ（図１３８９参照）を一定速度で左右方向に移動させる場合に、図１３９３に示す状態から図１３９４に示す状態へ向けての始動時における回転角度Ａφ１の変化量を最大として、徐々に回転角度Ａφ１の変化量が減少するという動作態様で回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させることができる。

【１４８６５】

即ち、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させるという単純な制御を採用しながら、回転動作ユニットＡ４００ｂについては、回転速度を徐々に減少させるという動作態様を実現することができる。

【１４８６６】

これにより、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて動作する場合には、始動時は高速で回転させつつも、張出状態に近づく程、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を減少させる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの登場時の驚きを遊技者に与えつつ、張出状態においては回転動作ユニットＡ４００ｂの配置や姿勢を維持することで遊技者の視界に残し易くすることを、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる制御で実現することができる。

【１４８６７】

一方、第１動作ユニットＡ４００が張出状態から演出待機状態へ向けて動作する場合には、始動時は遅速で回転させつつも、演出待機状態へ近づく程、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を増加させる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの退避側への始動時の余韻を残しつつ、演出待機状態付近においては回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を高速とすることで、回転動作ユニットＡ４００ｂを速やかに退避させることを、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる制御で実現することができる。

【１４８６８】

これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作として、回転方向の変位と直動方向の変位とを同時に生じさせながら、回転方向の変位が目立つ（回転速度が大きい）動作状態と、回転方向の変位が目立たない（回転速度が小さい）状態であって直動方向の変位が目立つ動作状態とを、構成することができる。

【１４８６９】

即ち、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態（図１３９２参照）から背面視時計回りの回転動作を実行させる場合に、図１３９３に示す状態までは、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動をほとんど生じさせないようにされ、更に、図１３９３に示す状態からの回転動作において、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる場合における第１動作ユニットＡ４００の回転速度が漸減するようにされている。

【１４８７０】

これにより、第２長さＡＤ２の直線の先端が案内長孔Ａ４１４の中心線と一致する位置に柱状突設部Ａ４４８が配置される状態を境とする、回転方向の変位が目立つ動作状態と、回転方向の変位が目立たずに直動方向の変位が目立つ動作状態との、動作状態の移行を違和感なく且つスムーズに生じさせることができる。

【１４８７１】

図１３９２から図１３９４に示すように、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作にあたっては、図１３９２からの回転開始時から図１３９３に示す状態までは、柱状突設部Ａ４４８が円弧部Ａ４１４ａに案内されることから、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じず、回転動作のみが生じる。

【１４８７２】

図１３９３に示す状態から図１３９４に示す状態までは、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作に伴い、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動が生じる。相対移動の態様は、図１３８７及び図１３８８に示す順序で生じる。

【１４８７３】

図１３９３では、図１３８７及び図１３８８に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡ

Ｄ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４が、対応して図示される。図１３９３に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の姿勢が、図１３８７及び図１３８８に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の各状態における回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応する。

【１４８７４】

即ち、図１３９３に示す状態から、第２長さＡＤ２の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動のみが生じる（図１３８７（ａ）及び図１３８７（ｂ）参照）。

【１４８７５】

更に、第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動に加え、方向切替部材Ａ４５０の相対移動も生じる（図１３８７（ｂ）及び図１３８８（ａ）参照）。

【１４８７６】

更に、第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動のみが生じる（図１３８８（ａ）及び図１３８８（ｂ）参照）。

【１４８７７】

このように、本実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作に伴い、他の複数の部材の相対動作も生じるように構成されているが、各部材の相対動作の開始タイミングが同じではなく、互いにずれるように構成されている。これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作に必要な駆動力が急激に増大することを避けることができる。

【１４８７８】

図１３９３に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の長さの変化と、姿勢の変化との対応関係について説明する。右側に図示される第１長さＡＤ１と第２長さＡＤ２との間の角度と、第２長さＡＤ２と第３長さとの間の角度とは、ほとんど変わらないが（約１８度）、第１長さＡＤ１と第２長さＡＤ２との差と、第２長さＡＤ２と第３長さＡＤ３との差は、後者の方が前者よりも３倍以上ある。

【１４８７９】

そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂが右側に図示される第１長さＡＤ１の姿勢から第２長さＡＤ２の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さよりも、回転動作ユニットＡ４００ｂが第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さの方が３倍以上長くなる。

【１４８８０】

更に、回転動作ユニットＡ４００ｂが第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さよりも、回転動作ユニットＡ４００ｂが第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さの方が長くなる。

【１４８８１】

これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作態様を、回転動作が主の状態から、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動（直線的な動作）が主の状態へ、段階的に移行させることができる。

【１４８８２】

ここで、第１動作ユニットＡ４００の張出状態へ向けた回転動作の終盤（例えば、図１３９３の第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢までの状態）において、回転軸棒ＡＪ１を中心として背面視時計回り方向に移動する柱状突設部Ａ４４８に対して、移動方向ＡＭ１を背面視反時計回り方向に戻すように構成される（図１３８７及び図１３８８参照）。

【１４８８３】
即ち、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度を部分的に相殺するように、柱状突設部Ａ４４８と移動方向ＡＭ１との間の角度が小さくされるので、図１３９４に示される状態における移動方向ＡＭ１（図１３９１参照）の角度変化をおさえることができる。これにより、例えば、ダンパ部材Ａ４１７ｃを介して付勢バネＡ４１７ｂの付勢力で回転動作ユニットＡ４００ｂが若干押し戻されたとしても（図１３９１参照）、それによる移動方向ＡＭ１の角度変化を抑えることができる。
【１４８８４】
これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態において、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向幅が変化し難いように構成される（図１３８８参照）だけでなく、移動方向ＡＭ１の角度変化も抑えることができるので、第１動作ユニットＡ４００を張出状態で安定させ易くすることができる。
【１４８８５】
また、回転動作ユニットＡ４００ｂによれば、張出状態へ向かうほど長手方向に長くなるように構成されているので、回転動作ユニットＡ４００ｂに回転方向からかけられる空気抵抗は傾倒終端側ほど大きくなる。そのため、空気抵抗による制動作用を効果的に生じさせることができる。
【１４８８６】
更に、回転動作ユニットＡ４００ｂによれば、張出状態へ向かうほど方向切替部材Ａ４５０や装飾部材Ａ４６０が短手方向に張り出すことで、前後方向視の面積が大きくなる。そのため、前後方向への倒れに対する空気抵抗を大きくすることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの前後方向への倒れを防止し易くすることができる。
【１４８８７】
次いで、図１３９５から図１４０２を参照して、第２動作ユニットＡ５００について説明する。図１３９５は、第２動作ユニットＡ５００の正面斜視図であり、図１３９６は、第２動作ユニットＡ５００の背面斜視図である。
【１４８８８】
第２動作ユニットＡ５００は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に保持される支持ユニットＡ５００ａと、その支持ユニットＡ５００ａに正面視左側下部に配置される回転軸棒ＡＪ２を中心に回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ５００ｂと、を備える。
【１４８８９】
第２動作ユニットＡ５００では、駆動モータＡＭＴ２が右上側に配設されており、回転軸棒ＡＪ２が左下側に配設されている。これにより、回転軸棒ＡＪ２の付近に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に比較して、回転軸棒ＡＪ２周辺の構造を簡素化でき、回転軸棒ＡＪ２の配置を左隅に寄せることができる。
【１４８９０】
更に、回転軸棒ＡＪ２の付近に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に見られるような、回転動作ユニットＡ５００ｂの前側または後側に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に比較して、第２動作ユニットＡ５００の前後幅を短くすることができる。従って、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の前後方向に複数の可動役物を積層配置する場合のスペースを十分に確保することができる。
【１４８９１】
更に、駆動モータＡＭＴ２の軸線の方向を上下方向とすることで、前後幅を駆動モータＡＭＴ２の本体部の直径程度の前後幅に抑えている。これにより、第２動作ユニットＡ５００の前後幅を短くすることができる。
【１４８９２】
また、駆動モータＡＭＴ１（図１３８２参照）の軸線の方向と駆動モータＡＭＴ２の軸線の方向とを直交させていることにより、片方の駆動モータＡＭＴ１の駆動時に生じる振動（軸線と直交する平面上の振動）により、もう片方の駆動モータＡＭＴ２が動かされる

（誤動作される）ことを回避し易くすることができる。
【１４８９３】
図１３９７は、第２動作ユニットＡ５００の分解正面斜視図であり、図１３９８は、第２動作ユニットＡ５００の分解背面斜視図である。図１３９７及び図１３９８では、支持ユニットＡ５００ａが分解されており、回転動作ユニットＡ５００ｂは非分解の状態で図示される。
【１４８９４】
支持ユニットＡ５００ａは、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ５１０と、その固定支持ユニットＡ５１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ２を有し、その駆動モータＡＭＴ２の駆動力を回転動作ユニットＡ５００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ５２０と、を備える。
【１４８９５】
固定支持ユニットＡ５１０は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の底壁部Ａ２１１の正面視右部に締結固定される縦長部材Ａ５１１と、その縦長部材Ａ５１１の上端側部に締結固定される横長部材Ａ５１３と、その横長部材Ａ５１３の背面側に配設される板金部材から折曲形成される補強部材Ａ５１５と、縦長部材Ａ５１１の下側部に配設され回転動作ユニットＡ５００ｂの下端部を前側から覆うように構成される覆設部材Ａ５１７と、を備える。
【１４８９６】
横長部材Ａ５１３は、樹脂材料から横長板状に形成される板状本体Ａ５１３ａと、その板状本体Ａ５１３ａに貫通形成される案内長孔Ａ５１４と、板状本体Ａ５１３ａの右端側において前方側に二股状に突出された突出部で駆動伝達ユニットＡ５２０の駆動ギアＡ５２３ｄを支持可能に形成される支持部Ａ５１３ｂと、その板状本体Ａ５１３ａに一端が支持される付勢バネＡ５１３ｃと、その付勢バネＡ５１３ｃの他端が支持され、付勢バネＡ５１３ｃの付勢力で左右方向に延びる可動域の左端に付勢されるダンパ部材Ａ５１３ｄと、を備える。
【１４８９７】
なお、案内長孔Ａ５１４の形状は、第１動作ユニットＡ４００で上述した案内長孔Ａ４１４（図１３９２参照）の形状と左右対称とされる。これにより、回転動作ユニットＡ５００ｂの回転動作の関係（回転角度と長手方向の移動幅との関係）は、左右対称であることを除き、回転動作ユニットＡ４００ｂで説明した回転動作（図１３８９から図１３９４参照）と同じなので、第２動作ユニットＡ５００についての回転動作の説明は省略する。
【１４８９８】
なお、案内長孔Ａ５１４は、上側の変位規制装置Ａ２１４（図１３７４参照）の突設先端が挿通される箇所に相当する。上側の変位規制装置Ａ２１４が突出状態とされると、その突設先端が柱状突設部Ａ５４６（図１３９６参照）と干渉し、柱状突設部Ａ５４６の移動を制限するように構成される。
【１４８９９】
補強部材Ａ５１５は、金属板から折曲形成される部材であって、板状本体Ａ５１３ａの背面側に張り合わせるように配置される板状本体Ａ５１５ａと、その板状本体Ａ５１５ａから折曲形成され金属棒ＡＭＢ２が挿通される貫通孔が形成される一対の保持用折曲部Ａ５１５ｂと、案内長孔Ａ５１４を外側から囲む形状で穿設される長孔Ａ５１５ｃと、を備える。
【１４９００】
覆設部材Ａ５１７は、樹脂材料から形成される部材であって、板状部の左右側端部および下側端部が背面側に延設される形状から形成される本体部Ａ５１７ａと、その本体部Ａ５１７ａに形成され回転動作ユニットＡ５００ｂの回転軸棒ＡＪ２が挿通される筒状支持部Ａ５１７ｂと、回転動作ユニットＡ５００ｂの配置を検出することで第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態または張出状態であることを検出するための検出センサＡ５１７ｃと、を備える。

【１４９０１】
検出センサＡ５１７ｄとしては、通常、フォトカプラ形式のセンサが利用されるが、これに限られるものではない。例えば、磁気センサでも良いし、接触式のセンサでも良い。
【１４９０２】
駆動伝達ユニットＡ５２０は、横長部材Ａ５１３の右端部に締結固定され駆動モータＡＭＴ２が支持される支持部材Ａ５２１と、その支持部材Ａ５２１の上面側において回転可能に支持される複数の回転部材から構成される伝達機構Ａ５２３と、その伝達機構Ａ５２３の左端の回転部材を保持し横長部材Ａ５１３に締結固定される左端保持部材Ａ５２５と、伝達機構Ａ５２３と回転動作ユニットＡ５００ｂとを連結する連結機構Ａ５２７と、を備える。
【１４９０３】
伝達機構Ａ５２３は、内周側に歯が形成される環状のベルトＡ５２３ａと、そのベルトＡ５２３ａの歯と噛み合う形状の歯が外周側に形成され、ベルトＡ５２３ａを緩み無く支持可能となるように支持部材Ａ５２１及び左端保持部材Ａ５２５を介して横長部材Ａ５１３に回転可能に支持される左右一対のプーリーＡ５２３ｂ，Ａ５２３ｃと、駆動モータＡＭＴ２の駆動軸に相対動作不能に固定される駆動ギアＡ５２３ｄと、右プーリーＡ５２３ｂの下面から回転軸線を中心とする筒状に延設される筒状部の下端部に形成されるギア状部であって駆動ギアＡ５２３ｄと噛み合う伝達ギア部Ａ５２３ｅと、を備える。
【１４９０４】
プーリー５２３ｂ，５２３ｃ及び駆動ギアＡ５２３ｄの回転軸線は、互いに平行に構成される。これにより、駆動モータＡＭＴ２が駆動され、駆動ギアＡ５２３ｄが回転されると、その回転が伝達ギア部Ａ５２３ｅに伝達されることで右プーリーＡ５２３ｂが回転されることで、ベルトＡ５２３ａの左右方向に延びている箇所が左右方向に移動される態様でベルトＡ５２３ａが駆動される。
【１４９０５】
左端保持部材Ａ５２５は、樹脂材料から形成され板状本体Ａ５１３ａに締結固定され左プーリーＡ５２３ｃを回転可能に支持する上側部材Ａ５２５ａと、金属材料から形成され上側部材Ａ５２５ａとの間で左プーリーＡ５２３ｃを挟み込む配置で上側部材Ａ５２５ａに締結固定される下側部材Ａ５２５ｂと、を備える。
【１４９０６】
連結機構Ａ５２７は、回転動作ユニットＡ５００ｂの上端側部が連結されると共に正面側の凹部Ａ５２７ｂで金属棒ＡＭＢ２を受け入れることで動作方向が左右方向とされる連結部材Ａ５２７ａと、その連結部材Ａ５２７ａの凹部Ａ５２７ｂを正面側から塞ぐように連結部材Ａ５２７ａに締結固定されることで連結部材Ａ５２７ａとの間からの金属棒ＡＭＢ２の脱落を防止する防止部材Ａ５２７ｃと、を備える。
【１４９０７】
連結部材Ａ５２７ａは、上端部にベルト５２３ａの後面と当接される平面板状の当接部Ａ５２７ｄを備え、防止部材Ａ５２７ｃは、当接部Ａ５２７ｄと対応する位置に鋸歯状の鋸状当接部Ａ５２７ｅを備える。
【１４９０８】
当接部Ａ５２７ｄがベルトＡ５２３ａの平面状部（外周側部）と対向配置され、鋸状当接部Ａ５２７ｅがベルトＡ５２３ａの鋸歯状部（内周側部）と対向配置される状態で、当接部Ａ５２７ｄ及び鋸状当接部Ａ５２７ｅでベルトＡ５２３ａを挟み込むようにすることで、ベルトＡ５２３ａに対する平面当接部Ａ５２７ｄ及び鋸状当接部Ａ５２７ｅの滑りによる位置ずれを防止することができる。
【１４９０９】
防止部材Ａ５２７ｃとの締結固定のために連結部材Ａ５２７ａには柱状の締結部が形成されるが、その内の一つに滑車Ａ５２７ｇが回転可能に支持され、滑車Ａ５２７ｇの外周の溝に金属棒ＡＭＢ２が配置されるよう連結機構Ａ５２７が設計される。これにより、連結機構Ａ５２７と金属棒ＡＭＢ２との間で生じる動作抵抗を低減することができるので、

第２動作ユニットＡ５００を動作させるために駆動モータＡＭＴ２に要求される駆動力を低減することができ、駆動モータＡＭＴ２の小形化を図ることができる。

【１４９１０】

このような構造により、連結機構Ａ５２７は、駆動モータＡＭＴ２が駆動回転され、歯合伝達により右プーリーＡ５２３ｂが回転されることでベルトＡ５２３ａの左右に延びている箇所が左右方向に移動することに伴って、金属棒ＡＭＢ２に案内されて左右方向に移動される。

【１４９１１】

連結部材Ａ５２７ａは、回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６が挿通される上下方向に延びる案内長孔Ａ５２７ｆを備える。回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６は、案内長孔Ａ５２７ｆ及び固定支持ユニットＡ５１０の案内長孔Ａ５１４に挿通されることで、連結機構Ａ５２７が左右方向に移動されることに伴って、回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６が上下方向かつ左右方向に移動される。

【１４９１２】

このように左右方向に移動する連結機構Ａ５２７を介して、回転動作ユニットＡ５００ｂに駆動力が伝達され、回転動作ユニットＡ５００ｂが変位される。以下、回転動作ユニットＡ５００ｂの詳細について説明する。

【１４９１３】

図１３９９は、回転動作ユニットＡ５００ｂの分解正面斜視図であり、図１４００は、回転動作ユニットＡ５００ｂの分解背面斜視図である。図１３９９及び図１４００に図示されるように、回転動作ユニットＡ５００ｂは、下端側において回転軸棒ＡＪ２に回転可能に支持される基礎部材Ａ５３０と、回転軸棒ＡＪ２と直交する平面上において回転軸棒ＡＪ２を通る直線方向にスライド移動可能となるように基礎部材Ａ５３０に連結される移動部材Ａ５４０と、基礎部材Ａ５３０及び移動部材Ａ５４０に挿通され移動部材Ａ５４０のスライド移動時に、そのスライド移動と直交する方向に移動可能とされる方向切替部材Ａ５５０と、その方向切替部材Ａ５５０の移動により配置または姿勢が変化されることで回転動作ユニット５００ｂの短手方向の長さが変化するように遊技者に見せるための変化部材Ａ５６０と、その変化部材Ａ５６０よりも前側に配設固定され基礎部材Ａ５３０との間に形成される空間に移動部材Ａ５４０及び方向切替部材Ａ５５０を配置するようにして固定支持部材Ａ５６５を介して基礎部材Ａ５３０に固定される覆設部材Ａ５７０と、を備える。

【１４９１４】

基礎部材Ａ５３０は、長尺板状の板状本体Ａ５３１と、その板状本体Ａ５３１の長尺方向と平行な長孔として穿設される上下一対の案内長孔Ａ５３２と、その一対の案内長孔Ａ５３２の間の位置において上下方向と左右傾斜する方向とを組合せた形状で穿設される複数の機能長孔Ａ５３３と、板状本体Ａ５３１との間に空間を形成するようにして板状本体Ａ５３１の下端部の短手方向両端に締結固定される空間構成部材Ａ５３４と、その空間構成部材Ａ５３４に前後方向で穿設され回転軸棒ＡＪ２に支持される支持孔Ａ５３５と、空間構成部材Ａ５３４が締結固定される位置よりも上側において板状本体Ａ５３１の短手方向に張り出すように形成され締結ネジの挿通部として機能する一対の張出挿通部Ａ５３６と、を備える。

【１４９１５】

機能長孔Ａ５３３は、上下一対の長孔と、その一対の長孔に対して反転した形状となるもう一組の上下一対の長孔との、４つの長孔から構成されており、各長孔の形状は、反転の関係を除き共通とされている。

【１４９１６】

複数の機能長孔Ａ５３３のうち、上下一対の長孔は、一方の長孔を、案内長孔Ａ５３２の長手方向に沿って平行移動させた位置に形成されている。即ち、上下一対の長孔の対応する箇所は、同一直線上にあるか、平行配置される関係が維持される。

【１４９１７】

機能長孔Ａ５３３のうち、上下一対の長孔と、もう一組の上下一対の長孔とは、案内長孔Ａ５３２の延びる方向に沿って、配置がずらされている。このように構成することで、配置がずらされていない場合に比較して空きスペースを利用し易くなり、板状本体Ａ５３１の短手方向の長さを抑えながら板状本体Ａ５３１の短手方向の機能長孔Ａ５３３の長さを確保し易くすることができる。

【１４９１８】

空間構成部材Ａ５３４は、正面側下端部を起点として支持孔Ａ５３５から離れる方向に板状に張り出す板状検出片Ａ５３４ａを備える。板状検出片Ａ５３４ａは、検出センサＡ５１７ｃ（図１３９８参照）の検出溝に配置可能となる前後位置に形成されている。

【１４９１９】

板状検出片Ａ５３４ａは、回転軸棒ＡＪ２が支持される側（正面側）において形成されている。これにより、回転軸棒ＡＪ２の変形等により回転軸棒ＡＪ２が曲がる（傾斜する）事態が生じた場合であっても、板状検出片Ａ５３４ａの位置ずれを最小限にとどめることができるので、板状検出片Ａ５３４ａが検出センサＡ５１７ｃの検出溝に収まる前後位置から外れる位置に配置されることを回避し易くすることができる。

【１４９２０】

検出センサＡ５１７ｃにより板状検出片Ａ５３４ａの配置が検出されることで、回転動作ユニットＡ５００ｂの姿勢を把握することができるので、複数の動作ユニットＡ４００～Ａ６００が個別の駆動源で駆動される場合であっても、互いに衝突する事態が生じることを回避できる。

【１４９２１】

移動部材Ａ５４０は、樹脂材料から形成される板状本体Ａ５４１と、その板状本体Ａ５４１の正面側に締結固定され正面側に複数のＬＥＤ等の発光手段が配設される発光基板Ａ５４２と、発光基板Ａ５４２の上側部を覆う形状とされ発光基板Ａ５４２の発光手段からの光を透過可能な部分を有するように構成され板状本体Ａ５４１に締結固定される装飾部材Ａ５４３と、基礎部材Ａ５３０の案内長孔Ａ５３２に挿通される程度に突設される一対の挿通突部Ａ５４４と、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に対応する位置において案内長孔Ａ５３２の延びる方向と直交する方向に延びるように穿設される複数の補助長孔Ａ５４５と、板状本体Ａ５４１の左上隅部から背面側に突設され駆動伝達ユニットＡ５２０の案内長孔Ａ５２７ｆ（図１３９８参照）に挿通される柱状突設部Ａ５４６と、を備える。

【１４９２２】

移動部材Ａ５４０をこのように構成することで、発光基板Ａ５４２に配設される発光手段から照射される光によって装飾部材Ａ５４３を明るく照らす演出が実行可能となる。加えて、発光基板Ａ５４２に配設されるＬＥＤ等の発光手段は、光軸が前向き（基板前面と直交する方向）に配置されるＬＥＤだけでなく、特に短手方向端部において、光軸が横向き（基板前面と平行な方向）に配置されるＬＥＤを備える。これにより、光を利用した演出効果を向上させることができるが、詳細は後述する。

【１４９２３】

移動部材Ａ５４０の下端部は、第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態（図１３９５参照）において、基礎部材Ａ５３０の板状本体Ａ５３１と空間構成部材Ａ５３４との間に形成される空間に配置される。即ち、正面視で、移動部材Ａ５４０が支持孔Ａ５３５に挿通される回転軸棒ＡＪ２と重なり得るよう構成されており、移動部材Ａ５４０の配置自由度を向上させることができる。

【１４９２４】

装飾部材Ａ５４３は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ５４３ａと、その透光性領域Ａ５４３ａの短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ５４３ｂと、を備える。

【１４９２５】

これにより、機能長孔Ａ５３３や補助長孔Ａ５４５を形成する関係上、基板の配置が短

手方向中央部寄りに制限される場合であっても、正面向きの発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ５４３ａで行い、その他の鍍金領域Ａ５４３ｂでは鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【１４９２６】

また、装飾部材Ａ５４３の短手方向端部は背面側へは延びておらず、発光基板Ａ５４２の側面を覆っていない。これにより、発光基板Ａ５４２の横方向に照射される光が装飾部材Ａ５４３で減衰されることなく、発光演出において、対象物を十分に照らすことができる。

【１４９２７】

挿通突部Ａ５４４は、基礎部材Ａ５３０の案内長孔Ａ５３２に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により案内長孔Ａ５３２からの脱落が防止されるよう構成される。このように構成することで、移動部材Ａ５４０が、案内長孔Ａ５３２に沿って基礎部材Ａ５３０に対して相対移動可能に構成される。

【１４９２８】

方向切替部材Ａ５５０は、左右対応する部材の組から構成されており、対応する板状本体Ａ５５１と、その板状本体Ａ５５１の左右内側部において正面側へ突設される長手方向に一対で配置される正面柱状部Ａ５５２と、その正面柱状部Ａ５５２の突設方向と同一直線上で背面側へ突設される長手方向に一対で配置される背面柱状部Ａ５５３と、板状本体Ａ５５１の左右外側部において長手方向に穿設される貫通孔Ａ５５４と、板状本体Ａ５５１との間に移動部材Ａ５４０を配置可能な空間を保つようにして板状本体Ａ５５１の左右外側および上側の外周端部において板状本体Ａ５５１に締結固定される移動装飾部材Ａ５５５と、その移動装飾部材Ａ５５５の下端部から長手方向（貫通孔Ａ５５４と平行な方向）に穿設される貫通孔Ａ５５６と、を備える。

【１４９２９】

本実施形態では、板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は、演出を考慮して有色透明の光透過性の樹脂材料から形成される。特に、樹脂の色を黄色で構成していることから、移動部材Ａ５４０の鍍金領域Ａ５４３ｂ（金色の鍍金）との色の連続性を良くすることができ、動作時の発光演出効果を向上することができる。

【１４９３０】

板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は、全く違わない同形状の部材で構成することができれば、部材を共通化できる可能性があり好ましい場合がある。これに対し、本実施形態では、板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は対応する２部材で構成されており、全く同じ形状で構成されているものではないが、この形状の違いは機能的な要求から設計されたものである。

【１４９３１】

例えば、上端部における形状の違いは、移動部材Ａ５４０の柱状突設部Ａ５４６がある側において、柱状突設部Ａ５４６との干渉を避けるための切欠きが形成されていることで、異なる形状となっている。

【１４９３２】

また、例えば、正面柱状部Ａ５５２や背面柱状部Ａ５５３の配置の違いは、機能長孔Ａ５３３や補助長孔Ａ５４５が左右非対称な位置に配設されていることで、異なる形状となっている。

【１４９３３】

このような機能的な要求を背面側の構成に受け持たせることにより、遊技者に視認される移動装飾部材Ａ５５５の正面側の形状の設計自由度を向上させることができ、本実施形態では左右対称形状とすることで、回転動作ユニットＡ５００ｂの演出効果を向上させることができる。

【１４９３４】

正面柱状部Ａ５５２は、移動部材Ａ５４０の補助長孔Ａ５４５に挿通され、背面柱状部Ａ５５３は、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に挿通されている。これにより、方向

切替部材Ａ５５０は、基礎部材Ａ５３０に対する移動部材Ａ５４０の配置に応じて、補助長孔Ａ５４５の延びる方向に変位可能となっている。

【１４９３５】

背面柱状部Ａ５５３は、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により機能長孔Ａ５３３からの脱落が防止されるよう構成される。

【１４９３６】

一方で、基礎部材Ａ５３０に対して、移動部材Ａ５４０は挿通突部Ａ５４４により連結され、方向切替部材Ａ５５０は背面柱状部Ａ５５３により連結されることで脱落の防止としては十分なので、正面柱状部Ａ５５２においては、移動部材Ａ５４０との間にカラー部材ＡＣ１が配設され、ネジの螺入による脱落の防止は行われていない。

【１４９３７】

これにより、発光基板Ａ５４２を補助長孔Ａ５４５のすぐ近くまで形成させても、カラー部材ＡＣ１と発光基板Ａ５４２との擦れが生じることが無いので、発光基板Ａ５４２の耐久性が落ちることは無く、発光基板Ａ５４２の形状の設計自由度を向上させることができる。

【１４９３８】

また、ネジ頭が移動装飾部材Ａ５５５と干渉することを避けることができ、移動装飾部材Ａ５５５と移動部材Ａ５４０との前後間隔を短くすることができる。これにより、方向切替部材Ａ５５０の前後厚さを短くすることができる。

【１４９３９】

変化部材Ａ５６０は、左右一対の部材から構成されており、方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５４に変位可能（回転変位および貫通孔Ａ５５４の延びる方向の変位が可能）に支持される案内支持部材Ａ５６１と、その案内支持部材Ａ５６１が背面側に締結固定される翼状部材Ａ５６２と、その翼状部材Ａ５６２に回転可能に支持される中間変位部材Ａ５６３と、その中間変位部材Ａ５６３を翼状部材Ａ５６２との間に挟む配置で翼状部材Ａ５６２に締結固定される固定部材Ａ５６４と、基礎部材Ａ５３０の張出挿通部Ａ５３６に締結固定され中間変位部材Ａ５６３を回転可能に支持する固定支持部材Ａ５６５と、その固定支持部材Ａ５６５との間に中間変位部材Ａ５６３を挟む配置で固定支持部材Ａ５６５に締結固定される固定部材Ａ５６６と、を備える。

【１４９４０】

翼状部材Ａ５６２は、中間変位部材Ａ５６３を回転可能に支持する柱状部であって、先端部に形成される雌ネジに締結ネジが螺入されることで固定部材Ａ５６４が締結固定される支持締結部Ａ５６２ａと、案内支持部材Ａ５６１が締結固定される被締結部Ａ５６２ｂと、を備える。

【１４９４１】

中間変位部材Ａ５６３は、板状に形成される部材であって、支持締結部Ａ５６２ａが挿通される第１貫通孔Ａ５６３ａと、固定支持部材Ａ５６５が挿通され固定支持部材Ａ５６５に回転可能に支持される第２貫通孔Ａ５６３ｂと、方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５６に挿通され変位可能（回転変位および貫通孔Ａ５５６の延びる方向の変位が可能）に支持される挿通突部Ａ５６３ｃと、を備える。

【１４９４２】

固定支持部材Ａ５６５は、円弧状部の外周部から直線上の一対の脚部が形成される左右対称形状とされ、脚部の下端から背面側へ柱状に突設され基礎部材Ａ５３０の張出挿通部Ａ５３６に締結固定される柱状固定部Ａ５６５ａと、円弧状部の左右上端部において背面側に突設される柱状部であって中間変位部材Ａ５６３の第２貫通孔Ａ５６３ｂを回転可能に支持する柱状支持部Ａ５６５ｂと、を備える。

【１４９４３】

柱状支持部Ａ５６５ｂは、先端に雌ネジが形成されており、その雌ネジに固定部材Ａ５６６の挿通孔Ａ５６６ａに挿通された締結ネジが螺入されることで、中間変位部材Ａ５６

３の固定支持部材Ａ５６５からの脱落を防止する態様で固定支持部材Ａ５６５に固定部材Ａ５６６を締結固定することができる。

【１４９４４】

なお、本実施形態では、固定部材Ａ５６６の締結ネジの挿通部として、挿通孔Ａ５６６ａのみではなく、間に他の部材を挟むことなく固定支持部材Ａ５６５と締結固定するための締結ネジを挿通する挿通孔Ａ５６６ｂも用意されている。

【１４９４５】

そのため、締結ネジの螺入位置は、臨機応変に変更することができる。例えば、挿通孔Ａ５６６ａ，Ａ５６６ｂの全てに締結ネジを挿通し螺入しても良い。この場合、柱状支持部Ａ５６５ｂの強度を締結ネジの強度により向上することができるので、柱状支持部Ａ５６５ｂが破損して中間変位部材Ａ５６３が抜け落ちることを回避し易くすることができる。

【１４９４６】

また、例えば、挿通孔Ａ５６６ａ又は挿通孔Ａ５６６ｂのいずれか一方に締結ネジを挿通し螺入しても良い。この場合、締結ネジの必要個数を削減することができるので、製品の製造コストを低減することができる。

【１４９４７】

覆設部材Ａ５７０は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ５７１と、その透光性領域Ａ５７１の短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ５７２と、その鍍金領域Ａ５７２の背面側において短手方向外側端部から背面側へ延設され、その延設端部から折曲形成される一対の爪状部Ａ５７３と、固定支持部材Ａ５６５に締結固定される複数の被締結柱状部Ａ５７４と、を備える。

【１４９４８】

透光性領域Ａ５７１及び鍍金領域Ａ５７２により、発光基板Ａ５４２の形状が補助長孔Ａ５４５と干渉しない形状に制限される場合においても、発光演出の演出効果を高く維持することができる。即ち、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ５７１で行い、その他の鍍金領域Ａ５７２では鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【１４９４９】

爪状部Ａ５７３は、移動部材Ａ５４０の装飾部材Ａ５４３の短手方向両側を案内可能に支持するよう構成される。これにより、移動部材Ａ５４０の前後方向の位置ずれを抑制することができるので、特に、張出状態（図１３７７参照）において移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して前倒れしたり後倒れしたりすることを防止し易くすることができる。

【１４９５０】

被締結柱状部Ａ５７４は、固定支持部材Ａ５６５の一対の脚部の中央側部および円弧状部の中央部に対応する位置に配置され、各位置において固定支持部材Ａ５６５に挿通される締結ネジが螺入されることで、固定支持部材Ａ５６５に締結固定される。

【１４９５１】

図１４０１（ａ）、図１４０１（ｂ）、図１４０２（ａ）及び図１４０２（ｂ）は、回転動作ユニットＡ５００ｂの背面図である。図１４０１（ａ）、図１４０１（ｂ）、図１４０２（ａ）及び図１４０２（ｂ）では、回転動作ユニットＡ５００ｂの移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動する様子が時系列で図示される。なお、図１４０１（ａ）、図１４０１（ｂ）、図１４０２（ａ）及び図１４０２（ｂ）では、カラー部材ＡＣ１の図示が省略される。

【１４９５２】

図１４０１（ａ）、図１４０１（ｂ）、図１４０２（ａ）及び図１４０２（ｂ）では、第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態（図１３７５参照）における回転動作ユニットＡ５００ｂ（図１４０１（ａ）参照）から、張出状態（図１３７７参照）における回転動作ユニットＡ５００ｂ（図１４０２（ｂ）参照）までの、相対移動の様子が図示される。

【１４９５３】
案内長孔Ａ５３２は、平行に延びる一対の長孔であるが、一直線上に形成されているものではない。上側の案内長孔Ａ５３２は基礎部材Ａ５３０の短手方向中央部に形成される一方、下側の案内長孔Ａ５３２は回転軸棒ＡＪ２を避けるように短手方向中央部から少しずれた位置に配設される。
【１４９５４】
このように、案内長孔Ａ５３２を若干ずらした場合であっても、移動部材Ａ５４０を一対の案内長孔Ａ５３２で支持しているので、移動部材Ａ５４０を案内長孔Ａ５３２の延びる方向にスムーズに移動させることができる。また、このように案内長孔Ａ５３２の配置をずらすことで、回転軸棒ＡＪ２を基礎部材Ａ５３０の短手方向中央位置に配設することができる。
【１４９５５】
機能長孔Ａ５３３は、案内長孔Ａ５３２が延びる方向に対して平行に延びる第１平行部Ａ５３３ａと、その第１平行部Ａ５３３ａに一端が連なるように形成され第１平行部Ａ５３３ａに対して傾斜する方向に直線状に延びる傾斜部Ａ５３３ｂと、その傾斜部Ａ５３３ｂの他端に連なるように形成され第１平行部Ａ５３３ａの延びる方向に対して平行に延びる第２平行部Ａ５３３ｃと、を備える。
【１４９５６】
ここで、図１４０１（ａ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第１平行部Ａ５３３ａの端部側に配置された状態が図示され、図１４０１（ｂ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第１平行部Ａ５３３ａと傾斜部Ａ５３３ｂとの交差位置に配置された状態が図示され、図１４０２（ａ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が傾斜部Ａ５３３ｂと第２平行部Ａ５３３ｃとの交差位置に配置された状態が図示され、図１４０２（ｂ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第２平行部Ａ５３３ｃの端部側に配置された状態が図示される。
【１４９５７】
第１平行部Ａ５３３ａの長さは十分に長く形成されている。これにより、移動部材Ａ５４０が、図１４０１（ａ）に示す状態から、基礎部材Ａ５３０に対して相対移動を開始しても、暫くは（図１４０１（ｂ）に示す状態までは）、方向切替部材Ａ５５０が移動部材Ａ５４０の短手方向に移動し難いように構成される。
【１４９５８】
第２動作ユニットＡ５００の動作において、移動部材Ａ５４０の基礎部材Ａ５３０に対する相対移動は、回転軸棒ＡＪ２を中心とする回転動作ユニットＡ５００ｂの回転動作と同時に行われることになるが、図１４０１（ａ）に示す状態から図１４０１（ｂ）に示す状態までは、短手方向幅の短い外観を維持した状態で回転動作ユニットＡ５００ｂを回転動作させることができる。
【１４９５９】
傾斜部Ａ５３３ｂは、第１平行部Ａ５３３ａが形成される位置から基礎部材Ａ５３０の短手方向外側へ向けて延びる。そのため、第１平行部Ａ５３３ａに方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が配置されている状態から移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動し、背面柱状部Ａ５５３が傾斜部Ａ５３３ｂに入ると、方向切替部材Ａ５５０が移動部材Ａ５４０の短手方向外側へ向けて移動する。
【１４９６０】
方向切替部材Ａ５５０の一対の背面柱状部Ａ５５３は、一対の補助長孔Ａ５４５（図１４００参照）に挿通されており、一対が平行に案内される。そのため、方向切替部材Ａ５５０の移動部材Ａ５４０に対する相対移動は、移動部材Ａ５４０の短手方向への平行移動となる。
【１４９６１】
その移動の速度は、傾斜部Ａ５３３ｂが直線状に形成されていることにより、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動する速度に対して比例する。そのため、移

動部材Ａ５４０及び方向切替部材Ａ５５０が連動する動作演出を実行させ易くすることができる。

【１４９６２】

第２平行部Ａ５３３ｃは、第１平行部Ａ５３３ａ程の長さは無く、必要最小限の長さで形成される。第２平行部Ａ５３３ｃを形成する目的は、回転動作ユニットＡ５００ｂの演出効果の向上のためである。

【１４９６３】

即ち、第２動作ユニットＡ５００が張出状態まで駆動され駆動モータＡＭＴ２（図１３９７参照）が停止された場合に、ダンパ部材Ａ５１３ｄに付勢バネＡ５１３ｃから与えられる付勢力で連結機構Ａ５２７が若干押し戻され、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して逆方向（戻る方向）に相対移動した場合であっても、第２平行部Ａ５３３ｃがあることで、移動部材Ａ５４０の短手方向における方向切替部材Ａ５５０の位置を変化させないようにすることができる。

【１４９６４】

これにより、第２動作ユニットＡ５００の張出状態において駆動モータＡＭＴ２の駆動を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る、付勢バネＡ５１３ｃ（図１３９７参照）の付勢力による押し戻し動作が生じた場合であっても、張出状態における第２動作ユニットＡ５００の外観（回転動作ユニットＡ５００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。

【１４９６５】

ここで、第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂと、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニットＡ４００ｂとの違いについて説明する。まず、回転動作ユニットＡ５００ｂでは、案内長孔Ａ５３２が一直線上に配置されていないことは上述した通りである。

【１４９６６】

第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂでは、機能長孔Ａ５３３が基礎部材Ａ５３０の短手方向に並べられるのではなく、長手方向に配置がずらされている。これにより、基礎部材Ａ５３０の長手方向に並設される機能長孔Ａ５３３間の隙間に短手方向反対側に形成される機能長孔Ａ５３３の一部を入り込ませることができるので、基礎部材Ａ５３０の短手方向の長さを短くすることができる。

【１４９６７】

方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３の配置は、機能長孔Ａ５３３の配置の上下ずれの寸法に合わせて、上下にずれるように構成している。これにより、左右の方向切替部材Ａ５５０の相反する方向（移動部材Ａ５４０の短手方向）への動作タイミングを合致させることができる。

【１４９６８】

回転動作ユニットＡ４００ｂでは、移動部材Ａ４４０に機能長孔Ａ４４４が形成されていたが、回転動作ユニットＡ５００ｂでは、機能長孔Ａ５３３が基礎部材Ａ５３０に形成されている。

【１４９６９】

このことから、第１動作ユニットＡ４００では、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作し移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動することに伴い機能長孔Ａ４４４も基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動したが（図１３８７及び図１３８８参照）、第２動作ユニットＡ５００では、回転動作ユニットＡ５００ｂが回転動作し移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動しても、機能長孔Ａ５３３の配置は基礎部材Ａ５３０に対して相対移動することは無い。

【１４９７０】

逆に、第１動作ユニットＡ４００では基礎板部材Ａ４３０に補助長孔Ａ４３３（図１３８５参照）が形成されていたのが、第２動作ユニットＡ５００では移動部材Ａ５４０に補助長孔Ａ５４５が形成されおり（図１４００参照）、対応関係が逆となっている。

【１４９７１】
この関係から、第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂに形成される機能長孔Ａ５３３は、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニットＡ４００ｂに形成される機能長孔Ａ４４４と上下の関係が逆になっている。
【１４９７２】
このように、機能長孔Ａ４４４，Ａ５３３と補助長孔Ａ４３３，Ａ５４５の配置の対応関係が逆とされていることに、機能長孔Ａ４４４，Ａ５３３の上下の関係を逆にして対応することで、回転動作ユニットＡ５００ｂにおいても、長手方向に延びる過程で回転動作ユニットＡ５００ｂの短手方向の長さが増大するという、回転動作ユニットＡ４００ｂと同様の動作態様を実現させることができる。
【１４９７３】
第２動作ユニットＡ５００では、回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向における方向切替部材Ａ５５０の配置は、移動部材Ａ５４０の補助長孔Ａ５４５の配置に対応することになる。そのため、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向に相対移動することに伴い、方向切替部材Ａ５５０は、移動部材Ａ５４０の移動量と同様の移動量で回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向に移動し、それと同時に、移動部材Ａ５４０の短手方向に移動する。
【１４９７４】
即ち、方向切替部材Ａ５５０の移動は、移動部材Ａ５４０に対しては移動部材Ａ５４０の短手方向（案内長孔Ａ５３２の延びる方向と直交する方向）への相対移動となり、基礎部材Ａ５３０に対しては機能長孔Ａ５３３の形成方向に沿う相対移動となる。
【１４９７５】
変化部材Ａ５６０は、第２貫通孔Ａ５６３ｂが基礎部材Ａ５３０に固定される固定支持部材Ａ５６５の柱状支持部Ａ５６５ｂに支持される一方、挿通突部Ａ５６３ｃは変位可能な方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５６に支持され、案内支持部材Ａ５６１は変位可能な貫通孔Ａ５５４に支持される。これにより、変化部材Ａ５６０に対して、基礎部材Ａ５３０を支点とする移動部材Ａ５４０の短手方向への変位量に対応して回転するという、移動部材Ａ５４０の変位とも方向切替部材Ａ５５０の変位とも異なる変位を生じさせることができる。
【１４９７６】
なお、第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態から張出状態となるまでにおいて、回転動作ユニットＡ５００ｂは、回転軸棒ＡＪ２と柱状突設部Ａ５４６との間の距離が徐々に長くなるように変化され、それに伴い、回転軸棒ＡＪ２及び柱状突設部Ａ５４６を通る直線と、回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向（移動部材Ａ５４０の移動方向）に延びる直線との間の角度が徐々に小さくなるように変化されることは、図１３８７及び図１３８８を参照して第１動作ユニットＡ４００の説明で上述したのと同じであるので、ここでは説明を省略する。
【１４９７７】
次いで、図１４０３から図１４１０を参照して、第３動作ユニットＡ６００について説明する。図１４０３は、第３動作ユニットＡ６００の正面斜視図であり、図１４０４は、第３動作ユニットＡ６００の背面斜視図である。
【１４９７８】
第３動作ユニットＡ６００は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に保持される支持ユニットＡ６００ａと、その支持ユニットＡ６００ａに昇降動作可能に支持される開閉動作ユニットＡ６００ｂと、を備える。
【１４９７９】
図１４０５は、第３動作ユニットＡ６００の分解正面斜視図であり、図１４０６は、第３動作ユニットＡ６００の分解背面斜視図である。図１４０５及び図１４０６では、支持ユニットＡ６００ａが分解されており、開閉動作ユニットＡ６００ｂは非分解の状態で図示される。

【１４９８０】
支持ユニットＡ６００ａは、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ６１０と、その固定支持ユニットＡ６１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ３を有し、その駆動モータＡＭＴ３の駆動力を開閉動作ユニットＡ６００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ６２０と、を備える。
【１４９８１】
固定支持ユニットＡ６１０は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の底壁部Ａ２１１の正面視下部に締結固定される横長部材Ａ６１１と、その横長部材Ａ６１１の右上側部に締結固定される装飾部材Ａ６１３と、その装飾部材Ａ６１３の下側において横長部材Ａ６１１に締結固定される右側部材Ａ６１５と、横長部材Ａ６１１の左側部との間に駆動伝達ユニットＡ６２０が移動可能な空間を空けて締結固定される左側部材Ａ６１７と、を備える。
【１４９８２】
横長部材Ａ６１１は、板状本体Ａ６１１ａと、その板状本体Ａ６１１ａの上下端部から正面側に折曲形成される一組の支持形成部Ａ６１１ｂと、その支持形成部Ａ６１１ｂに上下方向で挿通され固定される金属製の円柱状部材から形成される昇降支持棒Ａ６１１ｃと、を備える。
【１４９８３】
昇降支持棒Ａ６１１ｃは、開閉動作ユニットＡ６００ｂの背面側部に挿通された状態で支持形成部Ａ６１１ｂに支持されることで、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降の方向を案内し、板状本体Ａ６１１ａに対する開閉動作ユニットＡ６００ｂの前後方向の配置を維持するように機能する。
【１４９８４】
装飾部材Ａ６１３は、背面側が開放された箱状に形成される本体部Ａ６１３ａと、その本体部Ａ６１３ａの正面側側面の左側端部から左方へ張り出し形成される張出部Ａ６１３ｂを備える。張出部Ａ６１３ｂは、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂの前倒れを抑制するよう機能するが、詳細は後述する。
【１４９８５】
右側部材Ａ６１５は、左側部材Ａ６１７と共同で、導光板ユニットＡ７００（図１３７３参照）を支持し、導光板ユニットＡ７００が締結固定される部材である。即ち、開閉動作ユニットＡ６００ｂは、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態において導光板ユニットＡ７００の後方に配置され、張出状態へ状態変化されることで導光板ユニットＡ７００の中央側へ向けて上昇変位されるよう構成される。
【１４９８６】
左側部材Ａ６１７は、板状本体Ａ６１７ａと、その板状本体Ａ６１７ａの背面側から円柱状に突設形成される支持部Ａ６１７ｂと、その支持部Ａ６１７ｂを中心とする円弧に沿って穿設される扇状貫通孔Ａ６１７ｃと、支持部Ａ６１７ｂと同軸となる配置で板状本体Ａ６１７ａに配設される金属棒に巻かれ、一端が固定され他端が扇状貫通孔Ａ６１７ｃを臨む位置に配設される上昇方向付勢の捩りバネＡ６１７ｄと、板状本体Ａ６１７ａの下側において背面側が開放された箱状に形成される箱状部Ａ６１７ｅと、その箱状部Ａ６１７ｅの背面側から円柱状に突設形成される支持部Ａ６１７ｆと、駆動モータＡＭＴ３の駆動ギアＡＭＧ３を挿通可能な大きさで箱状部Ａ６１７ｅに穿設される挿通孔Ａ６１７ｇと、その挿通孔Ａ６１７ｇの下側縁部から背面側へ断面円弧状で延設され延設端部において挿通孔Ａ６１７ｇを部分的に覆う覆設部Ａ６１７ｈと、支持部Ａ６１７ｆ側に検出隙間を向ける姿勢で箱状部Ａ６１７ｅの背面側に締結固定される検出センサＡ６１７ｉと、を備える。
【１４９８７】
覆設部Ａ６１７ｈは、駆動ギアＡＭＧ３が駆動モータＡＭＴ３の駆動軸から抜けて、駆動ギアＡＭＧ３が背面側へ脱落することを防止するストッパとして機能する。これにより、駆動ギアＡＭＧ３が駆動モータＡＭＴ３から脱落する事態を回避することができる。

【１４９８８】
検出センサＡ６１７ｉは、駆動伝達ユニットＡ６２０の配置を検出することで、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態なのか、張出状態なのかを、把握可能とするための装置である。
【１４９８９】
駆動伝達ユニットＡ６２０は、横長部材Ａ６１１と左側部材Ａ６１７との間において回転動作可能となるように支持部Ａ６１７ｂに支持され開閉動作ユニットＡ６００ｂに連結される回転動作部材Ａ６２１と、その回転動作部材Ａ６２１に駆動モータＡＭＴ３の駆動力を伝達可能となるように支持部Ａ６１７ｆに回転可能に支持される伝達部材Ａ６２５と、を備える。
【１４９９０】
回転動作部材Ａ６２１は、板状本体Ａ６２１ａと、その板状本体Ａ６２１ａの端部において左側部材Ａ６１７の支持部Ａ６１７ｂを挿通可能に穿設される挿通孔Ａ６２１ｂと、長手方向の直線が挿通孔Ａ６２１ｂを通る長孔として穿設される伝達長孔Ａ６２１ｃと、挿通孔Ａ６２１ｂに近い上端部から正面側に突設され捩りバネＡ６１７ｄの他端を受けるバネ受突部Ａ６２１ｄと、板状本体Ａ６２１ａの挿通孔Ａ６２１ｂが配設される端部と反対側の端部において正面側に円柱状に突設され開閉動作ユニットＡ６００ｂに挿通される挿通突部Ａ６２１ｅと、を備える。
【１４９９１】
回転動作部材Ａ６２１は、支持部Ａ６１７ｂが挿通孔Ａ６２１ｂに挿通されることで、左側部材Ａ６１７に回転可能に支持される。支持部Ａ６１７ｂの先端に螺入される抜け止め用のネジは、横長部材Ａ６１１の貫通孔Ａ６１１ｄを通して付け外し可能な構成となっている。即ち、本実施形態では、左側部材Ａ６１７を横長部材Ａ６１１に締結固定した後で、支持部Ａ６１７ｂの先端にネジを螺入させるという組立手順を採用することができる。
【１４９９２】
伝達部材Ａ６２５は、駆動ギアＡＭＧ３と歯合される本体ギア部Ａ６２５ａと、その本体ギア部Ａ６２５ａの背面側において全周からフランジ状に張り出す張出部Ａ６２５ｂと、その張出部Ａ６２５ｂの外周側端部から背面側に円柱状に突設される挿通突部Ａ６２５ｃと、張出部Ａ６２５ｂの外周側端部から折曲形成され回転軸から離れる方向に延設される延設部Ａ６２５ｄと、を備える。
【１４９９３】
挿通突部Ａ６２５ｃは、カラー部材ＡＣ１を介して回転動作部材Ａ６２１の伝達長孔Ａ６２１ｃに挿通される。これにより、伝達部材Ａ６２５の回転と回転動作部材Ａ６２１の回転とを連動させることができる。
【１４９９４】
延設部Ａ６２５ｄは、検出センサＡ６１７ｉの検出隙間を横切ることが可能な位置に配設される。即ち、延設部Ａ６２５ｄが検出センサＡ６１７ｉの検出隙間に配置されているか否かにより、伝達部材Ａ６２５の姿勢を対応する制御装置に把握させることができる。
【１４９９５】
図１４０７は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの分解正面斜視図であり、図１４０８は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの分解背面斜視図である。開閉動作ユニットＡ６００ｂは、樹脂材料から形成される板状部材Ａ６３０と、その板状部材Ａ６３０との間に空間を形成するように板状部材Ａ６３０の正面側に締結固定される空間形成部材Ａ６４０と、板状部材Ａ６３０と空間形成部材Ａ６４０との間の空間に移動可能に支持される一対の移動部材Ａ６５０と、板状部材Ａ６３０に締結固定される駆動モータＡＭＴ４と、その駆動モータＡＭＴ４の駆動力を移動部材Ａ６５０に伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ６６０と、その駆動伝達ユニットＡ６６０を板状部材Ａ６３０との間に挟むように板状部材Ａ６３０に締結固定される背面カバー部材Ａ６７０と、その背面カバー部材Ａ６７０との間で昇降支持棒Ａ６１１ｃを挟むように背面カバー部材Ａ６７０に締結固定される案内ユニッ

トＡ６８０と、を備える。
【１４９９６】
板状部材Ａ６３０は、板状本体Ａ６３１と、その板状本体Ａ６３１の背面側に円柱状に突設される突設支持部Ａ６３２と、その突設支持部Ａ６３２を中心とする円弧状に穿設される一対の円弧状孔Ａ６３３と、突設支持部Ａ６３２と平行に突設される突設支持部Ａ６３４と、背面カバー部材Ａ６７０との間の空間を形成するために板状本体Ａ６３１の外縁部に沿う枠状で背面側へ突設される枠状部Ａ６３５と、を備える。
【１４９９７】
空間形成部材Ａ６４０は、骨組みを形成する本体部材Ａ６４１と、その本体部材Ａ６４１の正面側に締結固定される透光性の透光部材Ａ６４２と、その透光部材Ａ６４２を囲むように内部がくり抜かれ正面側に鍍金が塗布された状態で本体部材Ａ６４１に締結固定される非透過性の鍍金部材Ａ６４３と、透光部材Ａ６４２の全域に光を照射可能に形成され本体部材Ａ６４１に締結固定される発光基板Ａ６４４と、移動部材Ａ６５０の配置を検出するために本体部材Ａ６４１の背面側に配設される検出センサＡ６４５と、を備える。
【１４９９８】
本体部材Ａ６４１は、背面側に左右方向に長い一対の案内溝部Ａ６４１ａと、その案内溝部Ａ６４１ａの端部付近に突設形成されるストッパ部Ａ６４１ｂと、を備える。案内溝部Ａ６４１ａは、上下に平行に並べられる一対の溝であり、左上から右下へ向かう直線状の長尺溝であって、移動部材Ａ６５０の移動を案内可能に構成される。ストッパ部Ａ６４１ｂは、移動部材Ａ６５０が空間形成部材Ａ６４０から脱落することを防止するための突部であり、移動範囲の終端位置に配置された移動部材Ａ６５０と係合可能に構成される。
【１４９９９】
発光基板Ａ６４４から延びるフラットケーブルＡ６４４ａにより、移動部材Ａ６５０への電力供給が可能となっている。本実施形態では、フラットケーブルＡ６４４ａが案内溝部Ａ６４１ａの長尺方向に沿って延びるように配設されている。これにより、移動部材Ａ６５０の移動時にフラットケーブルＡ６４４ａに過大な負荷が与えられることを回避し易くすることができ、フラットケーブルＡ６４４ａの耐久性を向上させることができる。
【１５０００】
移動部材Ａ６５０は、回転対称に配置される同一形状の一対の部材から構成され骨組みを形成する本体部材Ａ６５１と、異なる形状で形成され対応する本体部材Ａ６５１に締結固定される装飾部材Ａ６５５と、を備える。
【１５００１】
このように構成することで、駆動力が伝達される箇所については形状を共通化することで、伝達機構の簡素化および樹脂型の兼用を図ることができる一方で、遊技者に視認される側には装飾部材Ａ６５５を配設することで、簡素化された形状が演出面にまで影響を与えることを避けることができる。
【１５００２】
本体部材Ａ６５１は、長尺方向を案内溝部Ａ６４１ａの長尺方向に沿わせる姿勢で配設され左右方向外側への移動時に先頭になる側から正面側へ延設されることで上面視Ｌ字状に形成される長尺本体部Ａ６５２と、回転可能に構成され案内溝部Ａ６４１ａの内側に配置可能な大きさで形成される一対のローラー部材Ａ６５３と、を備える。
【１５００３】
長尺本体部Ａ６５２は、左右方向外側への移動時にストッパ部Ａ６４１ｂと対向配置され当接し得る被ストッパ部Ａ６５２ａと、長手方向略中央部から短手方向に板状に張り出す被検出部Ａ６５２ｂと、短手方向に延びる矩形状で背面側から凹設される凹設部Ａ６５２ｃと、を備える。
【１５００４】
被検出部Ａ６５２ｂは、検出センサＡ６４５の検出溝を横切ることができる形状で配設される。被検出部Ａ６５２ｂが検出センサＡ６４５の検出溝に配置されることで、移動部材Ａ６５０が移動終端に配置されたことを対応する制御装置に把握させることができる。

【１５００５】
本実施形態では、検出センサＡ６４５は下側の本体部材Ａ６５１の下側にのみ配置されているので、被検出部Ａ６５２ｂは下側の本体部材Ａ６５１に配設されていれば十分であり、上側の本体部材Ａ６５１には被検出部Ａ６５２ｂは不要であるが、樹脂型を共通化する関係上、上側の本体部材Ａ６５１にも被検出部Ａ６５２ｂが形成されている。
【１５００６】
ローラー部材Ａ６５３は、移動部材Ａ６５０の案内溝部Ａ６４１ａに対する動作抵抗を低下させるように機能する。即ち、移動部材Ａ６５０が案内溝部Ａ６４１ａに対して摺動する場合に比較して、ローラー部材Ａ６５３が転がることで摩擦力を低減することができるので、移動部材Ａ６５０の移動をスムーズに行わせることができる。
【１５００７】
装飾部材Ａ６５５は、本体部材Ａ６５１の被ストッパ部Ａ６５２ａが配設される側の端部とは反対側の端部の前側部に締結固定される部材であって、光透過性の樹脂材料から形成される透光部材Ａ６５６と、その透光部材を囲む枠状に形成される枠状部材Ａ６５７と、透光部材Ａ６５６及び枠状部材Ａ６５７側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を備える発光基板Ａ６５８と、を備える。
【１５００８】
装飾部材Ａ６５５と本体部材Ａ６５１との締結により、上面視で左右方向の一方が開放されたコの字を形成することができる。このコの字の内側にフラットケーブルＡ６４４ａが配設され、フラットケーブルＡ６４４ａの一端が発光基板Ａ６５８に接続される。このように構成することで、フラットケーブルＡ６４４ａが本体部材Ａ６５１や装飾部材Ａ６５５の外方にはみ出し、遊技者から視認されることを回避することができる。
【１５００９】
装飾部材Ａ６５５は、互いに近接配置される移動部材Ａ６５０の閉状態（図１３７５参照）では、透光部材Ａ６４２の前側を覆うように配設され、互いに離れる移動部材Ａ６５０の開状態（Ｂ５参照）では、透光部材Ａ６４２の前側から退き透光部材Ａ６４２及び装飾部材Ａ６５５を同時に視認させるように配設される。
【１５０１０】
即ち、装飾部材Ａ６５５のみを視認させて発光演出を行う状態と、装飾部材Ａ６５５の間に透光部材Ａ６４２を配置させ、これらを同時に視認させて発光演出を行う状態と、を移動部材Ａ６５０の配置に応じて切り替えることができる。
【１５０１１】
駆動伝達ユニットＡ６６０は、駆動モータＡＭＴ４の駆動軸に相対回転不能に固定される駆動ギアＡ６６１と、板状部材Ａ６３０の突設支持部Ａ６３２に回転可能に支持される回転板部材Ａ６６２と、板状部材Ａ６３０の突設支持部Ａ６３４に回転可能に支持され駆動ギアＡ６６１と回転板部材Ａ６６２とを連動させる伝達ギアＡ６６３と、を備える。
【１５０１２】
回転板部材Ａ６６２は、突設支持部Ａ６３２を挿通可能に穿設される貫通孔Ａ６６２ａと、その貫通孔Ａ６６２ａを中心とする扇状に形成される一対の扇状板部Ａ６６２ｂと、一方の扇状板部Ａ６６２ｂの円弧状部に伝達ギアＡ６６３と歯合されるギア歯が形成される円弧状ギア部Ａ６６２ｃと、貫通孔Ａ６６２ａを中心とする回転対称となる位置（本実施形態では、１８０度ずれた位置）において扇状板部Ａ６６２ｂの正面側に円柱状に突設される一対の突設部Ａ６６２ｄと、を備える。
【１５０１３】
回転板部材Ａ６６２が、円形の円板状部材では無く、円の一部をくり抜いたような形状から形成されていることにより、回転板部材Ａ６６２と板状本体Ａ６３１との間で擦れが生じる面積を低減することができる。これにより、回転板部材Ａ６６２の回転時に生じる抵抗を低減することができるので、駆動モータＡＭＴ４に要求される駆動力を低減させることができる。
【１５０１４】

突設部Ａ６６２ｄは、板状部材Ａ６３０の円弧状孔Ａ６３３を通り、移動部材Ａ６５０の凹設部Ａ６５２ｃに挿通される。即ち、突設部Ａ６６２ｄの配置が変化されることで、凹設部Ａ６５２ｃの配置が連動して変化されることに伴い移動部材Ａ６５０の移動が生じる。

【１５０１５】

背面カバー部材Ａ６７０は、板状部材Ａ６３０の枠状部Ａ６３５と同一形状の外形を有し板状部材Ａ６３０に締結固定される板状本体Ａ６７１と、その板状本体Ａ６７１の右端から板状に張り出す張出部Ａ６７２と、板状本体Ａ６７１の背面側に突設され案内ユニットＡ６８０の回転部材の回転軸を支持する上下一対の突設支持部Ａ６７３と、回転板部材Ａ６６２の回転軌跡と関連して板状本体Ａ６７１に穿設される複数の円弧状貫通孔Ａ６７４と、を備える。

【１５０１６】

張出部Ａ６７２は、演出待機状態において張出部Ａ６１３ｂ（図１４０５参照）の後方に配置される部分であって、仮に開閉動作ユニットＡ６００ｂが前倒れした状態で張出状態から演出待機状態に戻る場合等において、張出部Ａ６１３ｂから後ろ向きの負荷を受けることで、開閉動作ユニットＡ６００ｂの姿勢を元に戻す（後倒れさせる）部分として機能する。

【１５０１７】

案内ユニットＡ６８０は、正面側が開放された箱状に形成される箱状本体Ａ６８１と、その箱状本体Ａ６８１の内部に配置される左右方向に延びる回転軸で回転可能に構成される上下一対のローラー部材Ａ６８２と、箱状本体Ａ６８１の内部に配置され前後方向に延びる回転軸で回転可能に構成される左右一組が上下一対で配設される滑車状部材Ａ６８３と、左右に長い形状で穿設される長尺貫通孔Ａ６８４と、を備える。

【１５０１８】

ローラー部材Ａ６８２が箱状本体Ａ６８１の貫通孔Ａ６８１ａから背面側にはみ出すよう構成されているので、箱状本体Ａ６８１の背面が固定支持ユニットＡ６１０（図１４０５参照）の板状本体Ａ６１１ａと対向配置された場合に、板状本体Ａ６１１ａとの接触の関係を、箱状本体Ａ６８１の擦れではなく、ローラー部材Ａ６８２の転がりとすることができる。これにより、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降動作時に固定支持ユニットＡ６１０から受ける抵抗を低減し易くすることができる。

【１５０１９】

滑車状部材Ａ６８３の間には、箱状本体Ａ６８１の凹設部Ａ６８１ｂを通された昇降支持棒Ａ６１１ｃ（図１４０５参照）が配設される。これにより、案内ユニットＡ６８０は昇降支持棒Ａ６１１ｃに案内されて上下方向に昇降動作されることから、開閉動作ユニットＡ６００ｂの動作方向を安定させることができる。

【１５０２０】

長尺貫通孔Ａ６８４は、回転動作部材Ａ６２１の挿通突部Ａ６２１ｅ（図１４０５参照）が挿通される長孔である。即ち、長尺貫通孔Ａ６８４を介して、駆動モータＡＭＴ３（図１４０５参照）の駆動力が開閉動作ユニットＡ６００ｂに伝達される。

【１５０２１】

図１４０９及び図１４１０は、第３動作ユニットＡ６００の開閉動作ユニットＡ６００ｂの背面図である。図１４０９では、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂが図示され、図１４１０では、第３動作ユニットＡ６００の張出状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂが図示される。

【１５０２２】

なお、図１４０９及び図１４１０では、理解を容易とするために、背面カバー部材Ａ６７０及び案内ユニットＡ６８０の図示が省略され、背面カバー部材Ａ６７０の円弧状貫通孔Ａ６７４の配置が想像線で図示され、回転板部材Ａ６６２の突設部Ａ６６２ｄの配置が想像線で図示される。

【１５０２３】

図１４０９及び図１４１０に示すように、開閉動作ユニットＡ６００ｂの動作態様は、回転板部材Ａ６６２の回転に伴い突設部Ａ６６２ｄの配置が突設支持部Ａ６３２を中心とする円弧に沿って変化することに伴い、一対の移動部材Ａ６５０が突設支持部Ａ６３２の上側および下側で、対応する案内溝部Ａ６４１ａ（図１４０８参照）の形成方向（互いに平行な方向）に沿って、逆方向に平行移動するというものである。

【１５０２４】

ここで、上述のように、移動部材Ａ６５０の本体部材Ａ６５１は、回転対称に配置される同一形状の一対の部材から構成されており、且つ、突設部Ａ６６２ｄの配置も、本体部材Ａ６５１の回転対称の回転軸となる突設支持部Ａ６３２を中心に対称な位置とされているので、突設部Ａ６６２ｄから移動部材Ａ６５０に与えられる影響は、一対の部材で共通に与えられる。

【１５０２５】

即ち、例えば、回転板部材Ａ６６２が高速で回転すれば、一対の移動部材Ａ６５０が共通の速度で高速で平行移動するし、回転板部材Ａ６６２が突然反転動作（回転方向を変える動作）する場合でも、一対の移動部材Ａ６５０を同時に反転動作させることができる。

【１５０２６】

回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂと、背面カバー部材Ａ６７０の円弧状貫通孔Ａ６７４との配置関係について説明する。扇状板部Ａ６６２ｂと円弧状貫通孔Ａ６７４とが前後方向で重なる面積は回転板部材Ａ６６２の回転の過程で変化する。扇状板部Ａ６６２ｂと背面カバー部材Ａ６７０との間には挟まれる空気による空気抵抗が生じるが、背面カバー部材Ａ６７０に円弧状貫通孔Ａ６７４が形成されている箇所においては、その空気抵抗が低減されることになる。

【１５０２７】

図１４１０に、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲（図１４０９参照）の角度幅が第１領域ＡＥ２１で図示され、図１４０９に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転された後の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第２領域ＡＥ２２で図示され、その第２領域ＡＥ２２に扇状板部Ａ６６２ｂに配置された状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転された後の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第３領域ＡＥ２３で図示され、第３動作ユニットＡ６００の張出状態における回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第４領域ＡＥ２４で図示される。

【１５０２８】

図１４０９に示すように、本実施形態では、回転板部材Ａ６６２の姿勢に関わらず、一方の扇状板部Ａ６６２ｂは少なくとも１つの円弧状貫通孔Ａ６７４と対向配置される。そのため、図１４０９に示す状態（扇状板部Ａ６６２ｂが第１領域ＡＥ２１に配置される状態）は、扇状板部Ａ６６２ｂと円弧状貫通孔Ａ６７４との重なる面積が最も小さい状態、即ち、扇状板部Ａ６６２ｂにかけられる空気抵抗が最大となる状態として図示される。

【１５０２９】

第１領域ＡＥ２１に配置される状態において、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視時計回り側の縁部は、円弧状貫通孔Ａ６７４と調度重ならない位置に配置される。そのため、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転を開始すると、扇状板部Ａ６６２ｂと元々重なっていた円弧状貫通孔Ａ６７４（左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）に加えて、他の円弧状貫通孔Ａ６７４（上下に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）とも重なり始め、その状態は扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態まで継続される。

【１５０３０】

他の円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は、回転板部材Ａ６６２の回転角度が大きくなるにつれて大きくなるので、回転板部材Ａ６６２の回転開始から空気抵抗を徐々に小さくでき、更に回転が進むにつれて回転板部材Ａ６６２にかけられる空気抵抗が更に小さくなるようにすることができる。これにより、回転板部材Ａ６６２の回転および移動部材Ａ６５０の移動をスムーズに実行することができる。

【１５０３１】
扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態では、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部は、調度、左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４の背面視反時計回り側の縁部に重なる位置に配置される。即ち、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転すると、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部が背面視で円弧状貫通孔Ａ６７４の内部に入り込むことになる。
【１５０３２】
そのため、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転を継続すると、左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積が徐々に小さくなるが、一方で、他の円弧状貫通孔Ａ６７４（上下に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は徐々に大きくなる。これらは、同じ角度ずつの変化となるので、結局のところ、円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は一定に維持される。
【１５０３３】
この状態は、扇状板部Ａ６６２ｂが第３領域ＡＥ２３に配置される状態まで継続される。即ち、扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態から、第３領域ＡＥ２３に配置される状態までは、回転板部材Ａ６６２にかかる空気抵抗を一定に維持することができる。
【１５０３４】
扇状板部Ａ６６２ｂが第３領域ＡＥ２３に配置される状態から、扇状板部Ａ６６２ｂが第４領域ＡＥ２４に配置される状態までは、扇状板部Ａ６６２ｂが左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４と重なる面積が徐々に小さくなることから、回転板部材Ａ６６２の回転が進むにつれて回転板部材Ａ６６２にかけられる空気抵抗が大きくなるようにすることができるので、回転板部材Ａ６６２及び移動部材Ａ６５０の減速をスムーズに行うことができる。
【１５０３５】
扇状板部Ａ６６２ｂが第４領域ＡＥ２４に配置される状態は、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部が左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４の背面視時計回り側の縁部に調度重なる位置とされる。
【１５０３６】
そのため、図１４１０に示す状態から背面視反時計回り方向に回転板部材Ａ６６２を回転させる場合（第３動作ユニットＡ６００の張出状態における配置から演出待機状態における配置に動作させる場合）においても、上述と同様の空気抵抗の変化を生じさせることができる。
【１５０３７】
従って、図１４０９に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場合か、図１４１０に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合かに関わらず、双方向で、上述のような空気抵抗の変化を生じさせることができる。
【１５０３８】
また、回転板部材Ａ６６２を介する駆動力伝達により動作される移動部材Ａ６５０は上下に一対で構成されており、移動部材Ａ６５０から回転板部材Ａ６６２に与えられる荷重の向きは、回転板部材Ａ６６２の動作方向に関わらず同じである。
【１５０３９】
即ち、図１４０９に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場合には、上側の移動部材Ａ６５０からの負荷が左向きに生じ、下側の移動部材Ａ６５０からの負荷が右向きに生じる一方で、図１４１０に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合には、上側の移動部材Ａ６５０からの負荷が右向きに生じ、下側の移動部材Ａ６５０からの負荷が左向きに生じる。
【１５０４０】

即ち、回転板部材Ａ６６２に与えられる負荷は、方向が逆転しているだけで、回転方向の違いによる変化はない。従って、図１４０９に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場合か、図１４１０に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合かに関わらず、双方向で、生じる動作抵抗を同じとすることができ、動作速度を共通化とすることができる。

【１５０４１】

次いで、図１４１１から図１４１６を参照して、導光板ユニットＡ７００について説明する。図１４１１は、導光板ユニットＡ７００の分解正面斜視図であり、図１４１２は、導光板ユニットＡ７００の分解背面斜視図である。

【１５０４２】

図１４１１及び図１４１２に示すように、導光板ユニットＡ７００は、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）に保持され背面ケースＡ２１０の正面側開口の大部分を覆う大きさで形成される覆設導光板ユニットＡ７００ａと、その覆設導光板ユニットＡ７００ａの左側部に締結固定される補助導光板ユニットＡ７００ｂと、を備える。

【１５０４３】

覆設導光板ユニットＡ７００ａは、板状の導光板Ａ７０１と、その導光板Ａ７０１に向けて光を照射するＬＥＤ等の複数の発光手段を有し導光板Ａ７０１の左側に配設される左発光基板Ａ７０２と、導光板Ａ７０１に向けて光を照射するＬＥＤ等の複数の発光手段を有し導光板Ａ７０１の上側に配設される上発光基板Ａ７０３と、それら導光板Ａ７０１、左発光基板Ａ７０２及び上発光基板Ａ７０３の位置ずれを防止するように固定する前後一組の枠状部材Ａ７１０と、を備える。

【１５０４４】

導光板Ａ７０１は、光透過性の樹脂材料から矩形の平板状に形成され、右下部に切り欠きＡ７０１ａを備える。導光板Ａ７０１の裏面には、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って溝部が形成されており、左発光基板Ａ７０２や上発光基板Ａ７０３から導光板Ａ７０１へ光が入射されると、その溝部で光が屈折され、遊技者に対して特定のキャラクター等の輪郭に沿うライン状の光を視認させることができる。

【１５０４５】

左発光基板Ａ７０２及び上発光基板Ａ７０３は、複数のＬＥＤの光軸が、導光板Ａ７０１の端面に直角に入射するように配設される。導光板Ａ７０１に入射する方向を２方向で構成していることで、上述のライン状の光は、少なくとも、左発光基板Ａ７０２からの光のみを入射する場合と、上発光基板Ａ７０３からの光のみを入射する場合との２種類を生じさせることができる。

【１５０４６】

枠状部材Ａ７１０は、矩形の枠状から導光板Ａ７０１の切り欠きＡ７０１ａが分断された形状から形成され、背面ケースＡ２１０（図１３７３参照）の外壁部Ａ２１２の前端部に締結固定される一組の左右固定部Ａ７１１と、第３動作ユニットＡ６００（図１３７３参照）の右側部材Ａ６１５や左側部材Ａ６１７に締結固定される一対の下固定部Ａ７１２と、第１動作ユニットＡ４００の支持部材Ａ４２１（図１３８１参照）に前後方向で当接する当接支持部Ａ７１３と、を備える。

【１５０４７】

当接支持部Ａ７１３は、上下に並ぶベルトＡ４２３ａ（図１３８３参照）の間に配置される。上側のベルトＡ４２３ａに連結機構Ａ４２７が配設されることから、当接支持部Ａ７１３を下側のベルトＡ４２３ａ寄りの位置に配設させることで、連結機構Ａ４２７の移動を阻害することなく、枠状部材Ａ７１０の当接支持部Ａ７１３の支持に支持部材Ａ４２１の剛性を利用することができる。

【１５０４８】

図１４１３は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの分解正面斜視図であり、図１４１４は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの分解背面斜視図である。補助導光板ユニットＡ７００ｂは、表裏面にＬＥＤが配設される板状の発光基板Ａ７２０と、光透過性の樹脂材料から

板状に形成され発光基板Ａ７２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように発光基板Ａ７２０の正面側に配設される前側板部材Ａ７３０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され発光基板Ａ７２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように発光基板Ａ７２０の背面側に配設される後側板部材Ａ７４０と、光透過性の樹脂材料から形成され発光基板Ａ７２０との間に前側板部材Ａ７３０を挟むように配設される前カバー部材Ａ７５０と、を備える。

【１５０４９】

発光基板Ａ７２０は、上下に長尺の板状本体Ａ７２１と、その板状本体Ａ７２１から右方に先端円弧状に膨らむように形成される複数の膨出板部Ａ７２２と、その膨出板部Ａ７２２と対応する位置で板状本体Ａ７２１の左側部において凹設される複数の凹設部Ａ７２３と、板状本体Ａ７２１の正面側において上下に並べられる複数の指向性の高いＬＥＤ等の発光手段であって光軸が左方へ向けられる複数の正面発光部Ａ７２４と、その正面発光部Ａ７２４に対応する板状本体Ａ７２１の背面側の位置（矢印Ｆ―Ｂ上で平行移動させた位置）において上下に並べられる指向性の低いＬＥＤ等の発光手段であって光軸が左方へ向けられる複数の背面発光部Ａ７２５と、を備える。

【１５０５０】

膨出板部Ａ７２２が上下方向の複数位置に形成されていることで、前側板部材Ａ７３０や後側板部材Ａ７４０と発光基板Ａ７２０との支持面積（互いに面接触する面積）を大きく確保することができる。これにより、組立状態における発光基板Ａ７２０の姿勢の安定を図ることができる。

【１５０５１】

正面発光部Ａ７２４からの光は、前側板部材Ａ７３０に受光される。複数の正面発光部Ａ７２４の光の光軸は、それぞれ左方を向き互いに平行とされるので、前側板部材Ａ７３０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【１５０５２】

背面発光部Ａ７２５からの光は、後側板部材Ａ７４０に受光される。複数の背面発光部Ａ７２５の光の光軸は、それぞれ左方を向き互いに平行とされるので、後側板部材Ａ７４０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【１５０５３】

上述のように、正面発光部Ａ７２４と背面発光部Ａ７２５とが、前後方向で対応する位置に配置されているので、正面発光部Ａ７２４により照らされる前側板部材Ａ７３０の範囲と、背面発光部Ａ７２５により照らされる後側板部材Ａ７４０の範囲とを対応させることができる。

【１５０５４】

これにより、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の両方を発光させた場合には、それらの光が合わさることで、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０における正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５に照らされる範囲を、より明るく視認させることができる。

【１５０５５】

一方で、正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５の片側を発光させる場合においても、前側板部材Ａ７３０又は後側板部材Ａ７４０の明るくなる箇所は、位置ずれすることが無いので、演出の違和感を生じさせにくくすることができる。

【１５０５６】

正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５により明るく照らされる範囲が同じにされるので、例えば、正面発光部Ａ７２４のみを発光させた状態から、背面発光部Ａ７２５のみを発光させる状態へ移行させたとしても、遊技者が受ける平面的な光の明暗のパターン（正面視でどの位置が明るく、どの位置が暗くなるかというパターン）が変化することを避けることができる。これにより、遊技者の疲労間を低減させることができる。

【１５０５７】

前側板部材Ａ７３０は、正面側側面が平滑面として形成される板状本体Ａ７３１と、そ

の板状本体Ａ７３１の背面側側面において、特定のキャラクターや口ゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って形成されるライン状溝部Ａ７３２と、板状本体Ａ７３１の背面側に円柱状に突設され先端に形成される雌ネジにネジが螺入されることで枠状部材Ａ７１０（図１４１１参照）に締結固定される複数の締結部Ａ７３３と、前カバー部材Ａ７５０との締結固定のために円形に穿設される挿通貫通孔Ａ７３４と、前カバー部材Ａ７５０との位置合わせのために上下方向に長い長孔上に穿設される位置合わせ長孔Ａ７３５と、を備える。

【１５０５８】

正面発光部Ａ７２４からの光が前側板部材Ａ７３０に受光された場合、ライン状溝部Ａ７３２で光が屈折されることにより、上記イラストの形状の輪郭がライン状に明るく視認される。

【１５０５９】

後側板部材Ａ７４０は、前側板部材Ａ７３０の正面視外形と同一形状で光透過性の樹脂材料から形成される板状本体Ａ７４１と、その板状本体Ａ７４１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ７４１の背面側に配設される光不透過（又は透過性の低い）白色のシートＡ７４２と、板状本体Ａ７４１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ７４１の正面側に配設される光透過性の薄肉樹脂板Ａ７４３と、左上隅部において板状本体Ａ７４１、シートＡ７４２及び薄肉樹脂板Ａ７４３を前後方向に貫くように同位置に形成される第１貫通孔Ａ７４１ａ，Ａ７４２ａ，Ａ７４３ａと、下側部において板状本体Ａ７４１、シートＡ７４２及び薄肉樹脂板Ａ７４３を前後方向に貫くように同位置に形成される第２貫通孔Ａ７４１ｂ，Ａ７４２ｂ，Ａ７４３ｂと、を備える。

【１５０６０】

板状本体Ａ７４１は、正面側側面が平滑面で形成され、背面側側面に無数のシボが形成される。これにより、板状本体Ａ７４１に受光された光のうち、背面側へ抜けた光がシートＡ７４２に反射されると、その光は無数のシボで拡散され、面発光される。これにより、板状本体Ａ７４１の背面側部を効率的に明るくすることができる。

【１５０６１】

薄肉樹脂板Ａ７４３には、ライン状溝部Ａ７３２の輪郭の元となるイラストが描かれており、本実施形態では、イラストに対応する色が塗られている。そのため、背面発光部Ａ７２５からの光が後側板部材Ａ７４０に受光された場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に描かれたイラストが、板状本体Ａ７４１の背面側のシボにより面発光で明るく視認される。

【１５０６２】

前カバー部材Ａ７５０は、背面側に無数の半球状の突設部が形成される板状本体Ａ７５１と、その板状本体Ａ７５１の上縁部および右縁部から背面側に板状に延設される延設縁部Ａ７５２と、板状本体Ａ７５１の左端部において発光基板Ａ７２０の位置合わせに利用される突設部および締結に利用される雌ネジ部から構成される締結部Ａ７５３と、板状本体Ａ７５１の右端部から背面側に円柱状に突設される複数の円柱状締結部Ａ７５４と、その円柱状締結部Ａ７５４よりも細径で突設長さが短い突設部Ａ７５５と、正面側に装飾が施され板状本体Ａ７５１の正面側に貼り付けられる光透過性の装飾シールＡ７５６と、を備える。

【１５０６３】

組立において、突設部Ａ７５５が前側板部材Ａ７３０の位置合わせ長孔Ａ７３５に挿通され、円柱状締結部Ａ７５４が前側板部材Ａ７３０の挿通貫通孔に挿通されることで、前側板部材Ａ７３０を前カバー部材Ａ７５０に対して位置合わせすることができる。

【１５０６４】

更に続けて、前側板部材Ａ７３０に重ねるようにして発光基板Ａ７２０を締結部Ａ７５３で位置合わせし、その発光基板Ａ７２０に重ねるようにして後側板部材Ａ７４０を配置する。この時、円柱状締結部Ａ７５４が後側板部材Ａ７４０の第１貫通孔Ａ７４１ａ，Ａ７４２ａ，Ａ７４３ａに挿通され、前側板部材Ａ７３０の右下の締結部Ａ７３３が後側板部材Ａ７４０の第２貫通孔Ａ７４１ｂ，Ａ７４２ｂ，Ａ７４３ｂに挿通されることで、後

側板部材Ａ７４０を前側板部材Ａ７３０に対して位置合わせすることができる。
【１５０６５】
前カバー部材Ａ７５０に前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０を位置合わせした状態で、補助導光板ユニットＡ７００ｂを覆設導光板ユニットＡ７００ａ（図１４１１参照）に締結固定する場合、前側板部材Ａ７３０の締結部Ａ７３３及び前カバー部材Ａ７５０の円柱状締結部Ａ７５４に押圧力（締結力）がかけられる。
【１５０６６】
本実施形態では、締結部Ａ７３３及び円柱状締結部Ａ７５４が、発光基板Ａ７２０の外方に配設されているので、組立において押圧力（締結力）が意図せず過大になった場合であっても、発光基板Ａ７２０が割れたり破損したりする事態を回避し易くすることができる。
【１５０６７】
前カバー部材Ａ７５０の右上に配置される円柱状締結部Ａ７５４により、前側板部材Ａ７３０、後側板部材Ａ７４０及び前カバー部材Ａ７５０の位置合わせと、発光基板Ａ７２０に対する前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の押し付け（押圧）とを、一箇所で行うことができる。これにより、組立の工数を削減することができる。
【１５０６８】
図１４１５は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの背面図であり、図１４１６（ａ）は、図１４１５のＭＣＤＸＶＩａ－ＭＣＤＸＶＩａ線における補助導光板ユニットＡ７００ｂの断面図であり、図１４１６（ｂ）は、図１４１５のＭＣＤＸＶＩｂ－ＭＣＤＸＶＩｂ線における補助導光板ユニットＡ７００ｂの断面図である。図１４１６（ａ）では、円柱状締結部Ａ７５４の中心を通る断面が図示される。
【１５０６９】
補助導光板ユニットＡ７００ｂの組立時には、前カバー部材Ａ７５０に前側板部材Ａ７３０を位置合わせして組み付けた後で、発光基板Ａ７２０を前カバー部材Ａ７５０に組み付ける際に、締結部Ａ７５３の雌ネジが形成される締結部の端面と、膨出板部Ａ７２２が面で当接する前側板部材Ａ７３０の背面側側面との高さ（前後方向位置）が合うようになっており、発光基板Ａ７２０の姿勢が安定するようになっている。
【１５０７０】
更に、発光基板Ａ７２０の後ろから後側板部材Ａ７４０を組み付けると、後側板部材Ａ７４０の前側側面が膨出板部Ａ７２２と広範囲で面で当接することで、後側板部材Ａ７４０の姿勢の安定と、局所的な負荷の低減とを図っている。
【１５０７１】
図１４１５及び図１４１６（ａ）に示すように、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０とが発光基板Ａ７２０と重なる形状が同じとなるように形成されているので、円柱状締結部Ａ７５４に螺入される締結ネジによる押圧力が、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０を介して発光基板Ａ７２０にバランスよく伝えられる。押圧力が、発光基板Ａ７２０をせん断する力として機能することを避けることができるので、発光基板Ａ７２０の割れや欠けを避けることができる。
【１５０７２】
発光基板Ａ７２０の縁部に前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０から押圧力をかけられることで、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０とが、発光基板Ａ７２０の表裏面に押し付けられる。
【１５０７３】
これにより、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１に対する前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の前後位置を正確に合わせることで、正面発光部Ａ７２４に対する前側板部材Ａ７３０の前後位置および背面発光部Ａ７２５に対する後側板部材Ａ７４０の前後位置を容易に合わせることができるので、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０への受光位置を合わせ易くすることができる。
【１５０７４】

円柱状締結部Ａ７５４は、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の光軸と重ならない位置（間の位置）に配設される。これにより、前側板部材Ａ７３０に受光される正面発光部Ａ７２４からの光の光軸を円柱状締結部Ａ７５４が遮ることが無いので、前側板部材Ａ７３０を利用した発光演出の演出効果を向上させることができる。

【１５０７５】

図１４１６（ｂ）は、下から３個目の背面発光部Ａ７２５の中心を通る断面として図示される。図１４１５及び図１４１６（ｂ）に示すように、締結部Ａ７３３は、背面発光部Ａ７２５の光軸と重なる位置に配設されている。

【１５０７６】

このように締結部Ａ７３３を配設する場合であっても、締結部Ａ７３３は前側板部材Ａ７３０を貫通するような部分では無く、正面発光部Ａ７２４の光を遮ることはない。また、後側板部材Ａ７４０で受光される光は、後側板部材Ａ７４０を面発光させるために指向性を若干低くされることから（指向性の低いＬＥＤが選定され易いので）、光軸上に締結部Ａ７３３が配置されていたとしても光が完全に遮られるものではないので、発光演出への影響を少なくすることができる。即ち、後側板部材Ａ７４０を利用した発光演出の演出効果を下げることなく、前側板部材Ａ７３０の締結部Ａ７３３の配設自由度を向上させることができる。

【１５０７７】

前カバー部材Ａ７５０に対する後側板部材Ａ７４０の締結固定においては、板状本体Ａ７４１の正面側面が薄肉樹脂板Ａ７４３の左側縁部を板状本体Ａ７２１の背面側面との間で挟むように締結固定されることで、薄肉樹脂板Ａ７４３が板状本体Ａ７４１から浮き上がることが防止される。

【１５０７８】

この場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に与えられる負荷が、締結ネジのように点で生じる負荷ではなく、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１との間で薄肉樹脂板Ａ７４３の左側縁部に沿って線（面）で生じる負荷となるので、薄肉樹脂板Ａ７４３にかけられる単位面積当たりの押圧力を低減させることができる。これにより、薄肉樹脂板Ａ７４３の割れや欠けを回避し易くすることができる。

【１５０７９】

図１４１６（ａ）及び図１４１６（ｂ）で示すように、指向性の高いＬＥＤから選定される正面発光部Ａ７２４からの照射光の進行経路ＡＬ１は、前側板部材Ａ７３０に受光された後、前側板部材Ａ７３０の前後面で全反射する態様でライン状溝部Ａ７３２に到達するまでは左右方向に延び、ライン状溝部Ａ７３２に到達すると屈折され、正面側へ向きが変えられる。

【１５０８０】

そのため、正面側から前側板部材Ａ７３０を視認する際に正面発光部Ａ７２４から光が照射されている場合には、ライン状溝部Ａ７３２から正面側に向かう光が遊技者の目に届くので、ライン状溝部Ａ７３２の元となる形状としての、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭が光っているように視認させることができる。

【１５０８１】

背面発光部Ａ７２５からの光は、正面発光部Ａ７２４からの光よりも指向性が低いものとされているので、背面発光部Ａ７２５からの光は後側板部材Ａ７４０内を全反射する態様にはなく、後側板部材Ａ７４０を均一に照らすように機能する。

【１５０８２】

図１４１６に示すように、前側板部材Ａ７３０の正面発光部Ａ７２４側の端部および後側板部材Ａ７４０の背面発光部Ａ７２５側の端部は、発光基板Ａ７２０の正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の照射方向側（右側）の端部よりも、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５側に配置される。

【１５０８３】

これにより、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１を遮蔽板として利用することができ

るので、正面発光部Ａ７２４（背面発光部Ａ７２５）から照射された光が前側板部材Ａ７３０（後側板部材Ａ７４０）に受光される前に漏れることを避けることができる。これにより、例えば、正面発光部Ａ７２４から照射される光が後側板部材Ａ７４０に受光される事態や、背面発光部Ａ７２５から照射される光が前側板部材Ａ７３０に受光される事態を回避し易くすることができ、発光演出が不良となることを避け易くすることができる。

【１５０８４】

板状本体Ａ７５１は、背面側に形成される無数の半球状の突設部Ａ７５１ａにより、正面側からの光を受光した場合に、その光を拡散させて面発光させる。これにより、光演出の効果を向上させることができると共に、前カバー部材Ａ７５０の背面側の視認性を低くできるので、発光基板Ａ７２０の目隠しとして利用することができる。

【１５０８５】

板状本体Ａ７５１の背面側には発光基板Ａ７２０の正面発光部Ａ７２４が配設されるが、正面発光部Ａ７２４から照射される光は板状本体Ａ７５１側へ向く方向と直交する方向で前側板部材Ａ７３０に入射され、前側板部材Ａ７３０内で全反射されることから、板状本体Ａ７５１は正面発光部Ａ７２４から照射される光で照らされにくい構成となっており、暗く視認され、演出領域として使いにくいという事情がある。

【１５０８６】

これに対し、本実施形態では、板状本体Ａ７５１の背面側に形成される無数の半球状の突設部Ａ７５１ａにより、受光した光を拡散させることができるので、遊技者に板状本体Ａ７５１を明るい状態で視認させることができる。

【１５０８７】

更に、板状本体Ａ７５１の正面側面全域を覆う形状の装飾シールＡ７５６が板状本体Ａ７５１の正面側に貼り付けられることで、光により板状本体Ａ７５１の背面側に形成される無数の突設部Ａ７５１ａの形状が目立つ効果を低減し、明るく照らされた装飾シールＡ７５６の正面側の装飾の視認性を良くすることができる。

【１５０８８】

図１４１７（ａ）から図１４１７（ｆ）は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの視認態様を模式的に示す補助導光板ユニットＡ７００ｂの模式正面図である。説明の便宜上、補助導光板ユニットＡ７００ｂを矩形状の外形で図示し、その内側に三角形のイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が図示される場合として模式的に図示する。この三角形のイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が、薄肉樹脂板Ａ７４３やライン状溝部Ａ７３２（図１４１４参照）により形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭の一例に該当する。

【１５０８９】

図１４１７（ａ）から図１４１７（ｆ）では、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）の点灯または消灯の違いや、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）の点灯または消灯の違いによる、補助導光板ユニットＡ７００ｂの見映えの違いの一例が図示される。

【１５０９０】

図１４１７（ａ）では、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が消灯され、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が消灯される場合が図示される。この場合には、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が視認可能とされる。

【１５０９１】

図１４１７（ｂ）では、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が消灯され、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が点灯される場合が図示される。この場合には、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が照らされた状態で視認可能とされる。

【１５０９２】

図１４１７（ｃ）では、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が点灯され、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が消灯される場合が図示される。この場合には、ライン状溝部Ａ７３２（図１４１４参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラス

トＡＩＬ１，ＡＩＬ２の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認されることになる。この場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２の形状はライン状の光により遮られ、視認性が低下される。

【１５０９３】

図１４１７（ｄ）では、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が点灯され、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が点灯される場合が図示される。この場合には、図１４１７（ｃ）に図示される状態よりも、補助導光板ユニットＡ７００ｂの正面側部の明るさを向上させることができる。

【１５０９４】

図１４１７（ｅ）では、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも上側の正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が消灯され、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも下側の正面発光部Ａ７２４が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半部位置よりも上側の背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半部位置よりも下側の背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が消灯される場合が図示される。

【１５０９５】

この場合には、補助導光板ユニットＡ７００ｂの上側半分では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１が照らされた状態で視認可能とされ、補助導光板ユニットＡ７００ｂの下側半分では、ライン状溝部Ａ７３２（図１４１４参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ２の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認される。

【１５０９６】

図１４１７（ｆ）では、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも上側の正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも下側の正面発光部Ａ７２４が消灯され、背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）が消灯される場合が図示される。

【１５０９７】

この場合には、補助導光板ユニットＡ７００ｂの上側半分では、ライン状溝部Ａ７３２（図１４１４参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認され、補助導光板ユニットＡ７００ｂの下側半分では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ２が視認可能とされる。

【１５０９８】

図１４１７（ａ）から図１４１７（ｆ）に示すように、本実施形態では、補助導光板ユニットＡ７００ｂの正面側の視認態様を、正面発光部Ａ７２４（図１４１３参照）の点灯、消灯、及び背面発光部Ａ７２５（図１４１４参照）の点灯、消灯の組合せのバリエーションに対応して変化させることができる。

【１５０９９】

図１４１８は、遊技盤Ａ１３の分解正面斜視図であり、図１４１９は、遊技盤Ａ１３の分解背面斜視図である。図１４１８及び図１４１９に示すように、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０の窓部Ａ６０ａにセンターフレームＡ８６が正面側から締結固定され、そのセンターフレームＡ８６の左右を遊技球が流下可能となるように構成されている。

【１５１００】

遊技盤Ａ１３は、光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を分岐させる突設部を有する形状で形成されセンターフレームＡ８６の左上側に配設される流下分岐部材Ａ８０１と、光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を案内する流路として左右に並んで設けられる２本の案内流路を構成する形状で形成されセンターフレームＡ８６の右方前側に配設される案内部材Ａ８０２と、その案内部材Ａ８０２の下方においてベース板Ａ６０に固定され光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を案内する流路として左右に並んで設けられる２本の案内流路を構成する形状で形成される下流側案内部材Ａ８０３と、センターフレームＡ８６の内側に配設される光透過性の装飾部材Ａ８０８の背面側に配設され装飾部材Ａ８０８に光

を照射可能に構成される補助導光板ユニットＡ８１０と、を備える。
【１５１０１】
流下分岐部材Ａ８０１は、センターフレームＡ８６がベース板Ａ６０に配設された場合において窓部Ａ６０ａの内側の領域の前方に配置される。この場合、補助導光板ユニットＡ８１０から流下分岐部材Ａ８０１へ向かう光は、ベース板Ａ６０を通らず、ベース板Ａ６０の板厚よりも薄いセンターフレームＡ８６を通り流下分岐部材Ａ８０１に到達することになるので、流下分岐部材Ａ８０１に到達する光の減衰を抑えることができる。
【１５１０２】
案内部材Ａ８０２は、ベース板Ａ６０の窓部Ａ６０ａの右上領域Ａ６０ｂを正面側から覆う形状から形成される板状本体Ａ８０２ａと、その板状本体Ａ８０２ａから正面側に板状に延設される一対の延設板Ａ８０２ｂと、遊技球を減速させるために板状本体Ａ８０２ａ又は延設板Ａ８０２ｂから突設される複数の減速突部Ａ８０２ｃと、を備え、右上領域Ａ６０ｂの上下位置においてベース板Ａ６０に締結固定される。
【１５１０３】
案内部材Ａ８０２の背面側には、右上領域Ａ６０ｂに収められベース板Ａ６０の板厚よりも板厚の薄いセンターフレームＡ８６の張出板部Ａ８６ａを挟んで、補助導光板ユニットＡ８１０が配設される。この場合、補助導光板ユニットＡ８１０から案内部材Ａ８０２へ向かう光は、ベース板Ａ６０を通らず、ベース板Ａ６０の板厚よりも薄いセンターフレームＡ８６の張出板部Ａ８６ａを通り案内部材Ａ８０２に到達することになるので、案内部材Ａ８０２に到達する光の減衰を抑えることができる。
【１５１０４】
減速突部Ａ８０２ｃは、左側の流路については、向かい合う一対の延設板Ａ８０２ｂの両方から突設されており、これにより流下する遊技球を左右に揺らすことができる。右側の流路については、右側の延設板Ａ８０２ｂから突設されると共に、板状本体Ａ８０２ａから前方に突設されており、これにより流下する遊技球を左右および前後方向に揺らすことができる。
【１５１０５】
このように、案内部材Ａ８０２により形成される２本の流路を流下する遊技球は、どちらも減速突部Ａ８０２ｃからの減速を受けるが、その流下態様は、どちらの流路を流下するかによって異なる。これにより、遊技者は、遊技球の流下態様を見ることで、遊技球がどちらの流路を流下しているかを即座に把握することができる。
【１５１０６】
また、このように構成することで、外縁部材７３（図１３７０参照）に減速突部を形成する必要が無いので、外縁部材７３を共通部品として構成することができる。これにより、製品のコスト削減を図ることができる。
【１５１０７】
本実施形態では、案内部材Ａ８０２により、一本の流路よりも左右幅の広い二本の流路を構成することになるので、強度面での問題が生じやすい。これに対し、本実施形態では、流路を形成する延設板Ａ８０２ｂが板状本体Ａ８０２ａの中央に配置されており、案内部材Ａ８０２の補強材としての役割も担っている。これにより、案内部材Ａ８０２を厚みの薄い部材として構成しても、強度不足となることを避け易くすることができる。
【１５１０８】
下流側案内部材Ａ８０３は、板状本体Ａ８０３ａと、その板状本体Ａ８０３ａの背面から延設される延設板Ａ８０３ｂと、を備え、それらの前後関係が案内部材Ａ８０２と逆とされる。
【１５１０９】
案内部材Ａ８０２により形成される２本の流路と異なり、下流側案内部材Ａ８０３により形成される２本の案内流路は、その流路形状自体が、左右で異なる。即ち、左側の流路は、左下方に傾斜する流路であるが、右側の流路は、左右に蛇行する経路として形成される。これにより、いずれの流路を流下するかにより、遊技球の流下態様を大きく変化させ

ることができる。
【１５１１０】
図１４２０は、補助導光板ユニットＡ８１０の分解正面斜視図であり、図１４２１は、補助導光板ユニットＡ８１０の分解背面斜視図である。補助導光板ユニットＡ８１０は、表面にＬＥＤが配設される一組の板状の正面発光基板Ａ８２０と、裏面にＬＥＤが配設される一組の板状の背面発光基板Ａ８３０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され正面発光基板Ａ８２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように正面発光基板Ａ８２０の正面側に配設される前側板部材Ａ８４０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され背面発光基板Ａ８３０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように背面発光基板Ａ８３０の背面側に配設される後側板部材Ａ８５０と、光透過性の低い白色の樹脂材料から形成され背面発光基板Ａ８３０との間に後側板部材Ａ８５０を挟むように配設されるベース部材Ａ８６０と、を備える。
【１５１１１】
正面発光基板Ａ８２０は、上側に配設される上側基板Ａ８２１と、右側に配設される右側基板Ａ８２５と、を備える。上側基板Ａ８２１は、板状本体Ａ８２２と、板状本体Ａ８２２の正面側において右下隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が右側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８２３と、そのエッジ発光部Ａ８２３よりも左側に配設される複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が正面側へ向けられる複数の面発光部Ａ８２４と、を備える。
【１５１１２】
エッジ発光部Ａ８２３からの光は、前側板部材Ａ８４０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８２３の光の光軸は、それぞれ右側を向き、前側板部材Ａ８４０の前平面に対して平行とされるので、前側板部材Ａ８４０を広い範囲で光らせることができる。
【１５１１３】
更に、エッジ発光部Ａ８２３は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真右を向くのではなく、光軸の間隔が右側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８２３からの光を前側板部材Ａ８４０の広範囲に導光させることができる。
【１５１１４】
面発光部Ａ８２４からの光は、正面側に配設される装飾部材Ａ８０８（図１４１８参照）に受光される。複数の面発光部Ａ８２４の光の光軸は、それぞれ正面側を向き互いに平行とされるので、装飾部材Ａ８０８を広い範囲で均一に光らせることができる。
【１５１１５】
右側基板Ａ８２５は、板状本体Ａ８２６と、板状本体Ａ８２６の正面側において左上隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が上側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８２７と、そのエッジ発光部Ａ８２７よりも下側に配設される複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が正面側へ向けられる複数の面発光部Ａ８２８と、を備える。
【１５１１６】
エッジ発光部Ａ８２７からの光は、前側板部材Ａ８４０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８２７の光の光軸は、それぞれ上側を向き、前側板部材Ａ８４０の前平面に対して平行とされるので、前側板部材Ａ８４０を広い範囲で光らせることができる。
【１５１１７】
更に、エッジ発光部Ａ８２７は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真上を向くのではなく、光軸の間隔が上側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８２７からの光を前側板部材Ａ８４０の広範囲に導光させることができる。
【１５１１８】
上側基板Ａ８２１のエッジ発光部Ａ８２３からの光が前側板部材Ａ８４０の左端から受光されるのに対し、エッジ発光部Ａ８２７からの光は前側板部材Ａ８４０の下端から受光されるようになっているので、前側板部材Ａ８４０が正面視で中央側において括れ部Ａ８

４４を有するように括れた形状となっている場合であっても、前側板部材Ａ８４０の全域に光が届き易くすることができる。

【１５１１９】

面発光部Ａ８２８からの光は、正面側に配設される装飾部材Ａ８０８（図１４１８参照）に受光される。複数の面発光部Ａ８２８の光の光軸は、それぞれ正面側を向き互いに平行とされるので、装飾部材Ａ８０８を広い範囲で均一に光らせることができる。

【１５１２０】

背面発光基板Ａ８３０は、上側に配設される上側基板Ａ８３１と、右側に配設される右側基板Ａ８３５と、を備える。上側基板Ａ８３１は、板状本体Ａ８３２と、板状本体Ａ８３２の背面側において右下隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が右側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８３３と、を備える。

【１５１２１】

エッジ発光部Ａ８３３からの光は、後側板部材Ａ８５０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８３３の光の光軸は、それぞれ右側を向き、後側板部材Ａ８５０の前平面に対して平行とされるので、後側板部材Ａ８５０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【１５１２２】

更に、エッジ発光部Ａ８３３は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真右を向くのではなく、光軸の間隔が右側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８３３からの光を後側板部材Ａ８５０の広範囲に導光させることができる。

【１５１２３】

右側基板Ａ８３５は、板状本体Ａ８３６と、板状本体Ａ８３６の正面側において左上隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が上側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８３７と、を備える。

【１５１２４】

エッジ発光部Ａ８３７からの光は、後側板部材Ａ８５０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８３７の光の光軸は、それぞれ上側を向き、後側板部材Ａ８５０の前平面に対して平行とされるので、後側板部材Ａ８５０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【１５１２５】

更に、エッジ発光部Ａ８３７は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真上を向くのではなく、光軸の間隔が上側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８３７からの光を後側板部材Ａ８５０の広範囲に導光させることができる。

【１５１２６】

上側基板Ａ８３１のエッジ発光部Ａ８３３からの光が後側板部材Ａ８５０の左端から受光されるのに対し、エッジ発光部Ａ８３７からの光は後側板部材Ａ８５０の下端から受光されるようになっているので、後側板部材Ａ８５０が正面視で中央側において括れた形状となっている場合であっても、後側板部材Ａ８５０の全域に光が届き易くすることができる。

【１５１２７】

正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７と、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７とが、前後方向で対応する位置（矢印Ｆ―Ｂ上で平行移動させた位置）に配置されているので、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７により照らされる前側板部材Ａ８４０の範囲と、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７により照らされる後側板部材Ａ８５０の範囲とを対応させることができる。

【１５１２８】

これにより、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７と、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７との両方を発光させた場合には、それらの光が合わさることで、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０におけるエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又はエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７に照らされる範囲を、より明る

く視認させることができる。
【１５１２９】
一方で、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又は背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７の片側を発光させる場合においても、前側板部材Ａ８４０又は後側板部材Ａ８５０の明るくなる箇所は、位置ずれすることが無いので、演出の違和感を生じさせにくくすることができる。
【１５１３０】
正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又は背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７により明るく照らされる範囲が同じにされるので、例えば、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７のみを発光させた状態から、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７のみを発光させる状態へ移行させたとしても、遊技者が受ける平面的な光の明暗のパターン（正面視でどの位置が明るく、どの位置が暗くなるかというパターン）が変化することを避けることができる。これにより、遊技者の疲労間を低減させることができる。
【１５１３１】
前側板部材Ａ８４０は、正面側側面が平滑面として形成される板状本体Ａ８４１と、その板状本体Ａ８４１の背面側側面において、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って形成されるライン状溝部Ａ８４２と、ベース部材Ａ８６０との締結固定のために円形に穿設される挿通貫通孔Ａ８４３と、板状本体Ａ８４１の中腹部が括れるように形成される括れ部Ａ８４４と、を備える。
【１５１３２】
正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの光が前側板部材Ａ８４０に受光された場合、ライン状溝部Ａ８４２で光が屈折されることにより、上記イラストの形状の輪郭がライン状に明るく視認される。
【１５１３３】
括れ部Ａ８４４を有する板状本体Ａ８４１の形状は、ライン状溝部Ａ８４２の元となるイラストの形状の外形に合わせた結果の形状である。即ち、ライン状に光る形状は、板状本体Ａ８４１の全域で視認されることになるので、板状本体Ａ８４１に演出上無駄な箇所を生じさせないようにすることができる。
【１５１３４】
後側板部材Ａ８５０は、前側板部材Ａ８４０の正面視外形と同一形状で光透過性の樹脂材料から形成される板状本体Ａ８５１と、その板状本体Ａ８５１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ８５１の正面側に配設される光透過性の薄肉樹脂板Ａ８５５と、左上隅部において板状本体Ａ８５１及び薄肉樹脂板Ａ８５５を前後方向に貫くように同位置に形成される第１貫通孔Ａ８５１ａ，Ａ８５５ａと、下側部において板状本体Ａ８５１及び薄肉樹脂板Ａ８５５を前後方向に貫くように同位置に形成される第２貫通孔Ａ８５１ｂ，Ａ８５５ｂと、を備える。
【１５１３５】
板状本体Ａ８５１は、前側板部材Ａ８４０の括れ部Ａ８４４と対応する位置において括れ部Ａ８４４と同様の形状から形成される括れ部Ａ８５２を備え、正面側側面が平滑面で形成され、背面側側面に無数のシボが形成される。これにより、板状本体Ａ８５１に受光された光のうち、背面側へ抜けた光が白色のベース部材Ａ８６０に反射されると、その光は無数のシボで拡散され、面発光される。これにより、板状本体Ａ８５１の背面側部を効率的に明るくすることができる。
【１５１３６】
板状本体Ａ８５１は、括れ部Ａ８５２を備えており、括れ部Ａ８５２の片側から受光された光が括れ部Ａ８５２を通過した後においては括れ部Ａ８５２の幅に制限された範囲で進行し易いため、本実施形態の板状本体Ａ８５１のように、括れ部Ａ８５２の両側において括れ部Ａ８５２の幅よりも幅広に形成される場合には、括れ部Ａ８５２の片側から受光された光を板状本体Ａ８５１の全域に広げることは難しい。

【１５１３７】
そこで、本実施形態では、括れ部Ａ８５２の上側においてはエッジ発光部Ａ８３３からの光が板状本体Ａ８５１に受光され、括れ部Ａ８５２の下側においてはエッジ発光部Ａ８３７からの光が板状本体Ａ８５１に受光されるように構成することで、括れ部Ａ８５２を採用しながらも、括れ部Ａ８５２の上側または下側のみから光を受光する場合に比較して、板状本体Ａ８５１の全域に光を受光させることを可能にしている。これにより、板状本体Ａ８５１の全域を効率的に明るくすることができる。
【１５１３８】
薄肉樹脂板Ａ８５５には、ライン状溝部Ａ８４２の輪郭の元となるイラストが描かれており、本実施形態では、イラストに対応する色が塗られている。そのため、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７からの光が後側板部材Ａ８５０に受光された場合、薄肉樹脂板Ａ８５５に描かれたイラストが、板状本体Ａ８５１の背面側のシボにより面発光で明るく視認される。
【１５１３９】
ベース部材Ａ８６０は、白色の樹脂材料から形成される部材であって、正面視略Ｌ字状に形成される板状本体Ａ８６１と、その板状本体Ａ８６１に支持される後側板部材Ａ８５０の位置合わせを行う位置合わせ突部Ａ８６２と、後側板部材Ａ８５０が締結固定される締結部Ａ８６３と、背面発光基板Ａ８３０が位置合わせ及び締結固定される基板締結部Ａ８６４と、板状本体Ａ８６１から正面側に台状に形成される台部Ａ８６５と、板状本体Ａ８６１の正面から台部Ａ８６５の正面側側面に合う高さで円柱状に突設され先端に雌ネジが形成される円柱状締結部Ａ８６６と、板状本体Ａ８６１の正面から円柱状に突設され先端に雌ネジが形成され、円柱状締結部Ａ８６６の突設長さよりも正面発光基板Ａ８２０の厚さ分突設方向に長くされる板挟み締結部Ａ８６７と、を備える。
【１５１４０】
補助導光板ユニットＡ８１０の組立は、ベース部材Ａ８６０に対して、後側板部材Ａ８５０、背面発光基板Ａ８３０、正面発光基板Ａ８２０、前側板部材Ａ８４０の順で締結固定されることで行われる。
【１５１４１】
まず、ベース部材Ａ８６０に対する後側板部材Ａ８５０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する後側板部材Ａ８５０の締結固定は、対応する位置合わせ突部Ａ８６２に第１貫通孔Ａ８５１ａ及び第２貫通孔Ａ８５１ｂを挿通させた状態で板状本体Ａ８５１に挿通される締結ネジが締結部Ａ８６３に螺入されることで、行われる。
【１５１４２】
この時、締結ネジは板状本体Ａ８５１には挿通されるが、薄肉樹脂板Ａ８５５には挿通されない。そのため、板状本体Ａ８５１をベース部材Ａ８６０に締結固定した状態で、対応する位置合わせ突部Ａ８６２に第１貫通孔Ａ８５５ａ及び第２貫通孔Ａ８５５ｂを挿通させることで、ベース部材Ａ８６０及び板状本体Ａ８５１に対する薄肉樹脂板Ａ８５５の位置合わせを容易に行うことができる。
【１５１４３】
更に、締結時の押圧力により薄肉樹脂板Ａ８５５が割れる事態を避けることができる。また、板状本体Ａ８５１の締結は維持したままで、薄肉樹脂板Ａ８５５の交換を行うことも可能となる。
【１５１４４】
次に、ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定は、背面発光基板Ａ８３０が基板締結部Ａ８６４に締結固定されることで行われる。
【１５１４５】
基板締結部Ａ８６４は、それぞれ後側板部材Ａ８５０の貫通孔Ａ８５３に挿通されていることで、後側板部材Ａ８５０のベース部材Ａ８６０に対する位置合わせとしても機能する。

【１５１４６】
ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定においては、上側基板Ａ８３１の板状本体Ａ８３２の背面側面が薄肉樹脂板Ａ８５５の左側縁部を板状本体Ａ８５１の正面側面との間で挟むように締結固定され、右側基板Ａ８３５の板状本体Ａ８３６の背面側面側が薄肉樹脂板Ａ８５５の右下側縁部を板状本体Ａ８５１の正面側面との間で挟むように締結固定されることで、薄肉樹脂板Ａ８５５が板状本体Ａ８５１から浮き上がることが防止される。
【１５１４７】
この場合、薄肉樹脂板Ａ８５５に与えられる負荷が、締結ネジのように点で生じる負荷ではなく、左側縁部に沿って線（面）で生じる負荷となるので、薄肉樹脂板Ａ８５５にかけられる単位面積当たりの押圧力を低減させることができる。これにより、薄肉樹脂板Ａ８５５の割れや欠けを回避し易くすることができる。
【１５１４８】
上述のように、背面発光基板Ａ８３０の締結固定においては、板状本体Ａ８３２の背面側面が後側板部材Ａ８５０の正面側面と面で当接するように構成しているので、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７の光軸と、後側板部材Ａ８５０との、前後方向（後側板部材Ａ８５０の正面側面が向く方向）における位置合わせを容易に行うことができる。これにより、後側板部材Ａ８５０への受光を良好とすることができる。
【１５１４９】
次に、ベース部材Ａ８６０に対する正面発光基板Ａ８２０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する正面発光基板Ａ８２０の締結固定は、正面発光基板Ａ８２０の背面側面の左下側部が台部Ａ８６５に面で当接された状態で、正面発光基板Ａ８２０が円柱状締結部Ａ８６６に締結固定されることで行われる。
【１５１５０】
正面発光基板Ａ８２０と背面発光基板Ａ８３０とは平行となるように配設されており、それらの間には間隔が開けられているので、正面発光基板Ａ８２０と、背面発光基板Ａ８３０及び後側板部材Ａ８５０との間では、押圧力が生じないように構成される。
【１５１５１】
次に、ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定は、前側板部材Ａ８４０が板挟み締結部Ａ８６７に締結固定されることで行われる。
【１５１５２】
板挟み締結部Ａ８６７の配置は、正面発光基板Ａ８２０の外方かつ近傍とされているので、板挟み締結部Ａ８６７への締結固定時に生じる押圧力が、点での荷重として正面発光基板Ａ８２０に与えられることを避けることができる。これにより、正面発光基板Ａ８２０の割れや欠けを防止することができる。
【１５１５３】
前側板部材Ａ８４０には、正面発光基板Ａ８２０に配設されるエッジ発光部Ａ８２３等のＬＥＤの配置位置を確保するための貫通孔Ａ８４５が形成されており、この貫通孔Ａ８４５を除く板状本体Ａ８４１の背面側面が、正面発光基板Ａ８２０の板状本体Ａ８２２，Ａ８２６に対して面で押圧力をかけるようにして、ベース部材Ａ８６０に締結固定される。これにより、正面発光基板Ａ８２０の板状本体Ａ８２２，Ａ８２６を利用して、前側板部材Ａ８４０の支持面積を増大させることができる。
【１５１５４】
ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定においては、前側板部材Ａ８４０の板状本体Ａ８４１の背面側面が正面発光基板Ａ８２０の正面側面と面で当接するように構成しているので、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７の光軸と、前側板部材Ａ８４０との、前後方向（前側板部材Ａ８４０の正面側面が向く方向）における位置合わせを容易に行うことができる。これにより、後側板部材Ａ８５０への受光を良好とすることができる。

【１５１５５】
上述のように、正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０は、それぞれ、ベース部材Ａ８６０に形成される各構成部分に位置合わせされ、締結固定される。これにより、ベース部材Ａ８６０の正面側面と平行な方向における正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０の位置合わせを容易に行うことができる。
【１５１５６】
また、基板が前後に並ぶ一組ずつの正面発光基板Ａ８２０及び背面発光基板Ａ８３０で構成される場合であっても、光が受光される部材として対応する前側板部材Ａ８４０又は後側板部材Ａ８５０と、前後方向で当接するように締結固定させることで、ベース部材Ａ８６０の正面側面と交差する方向における正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０の位置合わせを容易に行うことができる。
【１５１５７】
図１４２２は、補助導光板ユニットＡ８１０の正面図であり、図１４２３は、図１４２２のＭＣＤＸＸＩＩＩ－ＭＣＤＸＸＩＩＩ線における補助導光板ユニットＡ８１０の断面図である。図１４２２では、装飾部材Ａ８０８の外形および右上領域Ａ６０ｂ（図１４１８参照）の外形が想像線で図示され、正面発光基板Ａ８２０の外形の内で前側板部材Ａ８４０と重なる箇所が隠れ線で図示され、図１４２３では、ベース部材Ａ８６０の中央側に配置される円柱状締結部Ａ８６６（図１４２０参照）の中心を通る断面が図示される。
【１５１５８】
図１４２２に示すように、正面発光基板Ａ８２０は、正面視で装飾部材Ａ８０８の外形内に収まるよう配設されており、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの光を受光する前側板部材Ａ８４０は、正面視で装飾部材Ａ８０８からはみ出して配設されている。
【１５１５９】
これにより、正面発光基板Ａ８２０を装飾部材Ａ８０８で目隠ししながら、補助導光板ユニットＡ８１０全体の前後厚さを抑えることができる。即ち、補助導光板ユニットＡ８１０の前側板部材Ａ８４０の背面側に発光基板を配置して前側板部材Ａ８４０の発光演出を行う場合、前側板部材Ａ８４０を発光させるのに適切な距離だけ離して発光基板を配置する必要があるので、ユニットの前後幅が嵩むことになり、その後方に動作役物を配置するスペースが削られることになる。
【１５１６０】
これに対し、本実施形態では、正面発光基板Ａ８２０の配置を前側板部材Ａ８４０の後方ではなく、前側板部材Ａ８４０に対して左右または前後方向にずらした位置とすることで、補助導光板ユニットＡ８１０の前後幅を短くすることができるので、補助導光板ユニットＡ８１０の後方に動作役物を配置するスペースを十分に確保することができる。
【１５１６１】
本実施形態では、案内部材Ａ８０２（図１４１８参照）を採用することで、窓部Ａ６０ａの右上領域Ａ６０ｂの前方にも遊技領域が形成される。補助導光板ユニットＡ８１０の右端部は、右上領域Ａ６０ｂに入り込んでいる。即ち、前後方向でベース板Ａ６０の板厚よりも内側に配置されている。
【１５１６２】
これにより、ベース板Ａ６０の後方に補助導光板ユニットＡ８１０が配置される場合に比較して、遊技盤Ａ１３（図１４１８参照）の前後厚さを低減させることができる。更に、ベース板Ａ６０の後方に補助導光板ユニットＡ８１０が配置されベース板Ａ６０の板厚分を透過して遊技領域に到達する光に比較して、遊技領域に進入する光の減衰が生じ難くなるようにすることができるので、右上領域Ａ６０ｂの前方の遊技領域を明るく照らすことができる。
【１５１６３】
前側板部材Ａ８４０は、正面発光基板Ａ８２０の縁部と重なる形状から形成される。即

ち、前側板部材Ａ８４０が正面発光基板Ａ８２０の正面側からベース部材Ａ８６０に締結固定される際に前側板部材Ａ８４０から正面発光基板Ａ８２０に与えられる押圧力は、正面発光基板Ａ８２０の縁部に沿って分けられることになるので、単位面積あたりの荷重を低減させることができる。

【１５１６４】

これにより、正面発光基板Ａ８２０と前側板部材Ａ８４０との間にかけられる負荷が過剰となることを避けながら、正面発光基板Ａ８２０と前側板部材Ａ８４０とを面接触させることができるので、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７の光軸と、前側板部材Ａ８４０との位置合わせを容易に行うことができる。

【１５１６５】

図１４２３で示すように、指向性の高いＬＥＤから選定されるエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの照射光の進行経路ＡＬ２は、前側板部材Ａ８４０に受光された後、前側板部材Ａ８４０の前後面で全反射する態様でライン状溝部Ａ８４２に到達するまでは左右方向に延び、ライン状溝部Ａ８４２に到達すると屈折され、正面側へ向きが変えられる。

【１５１６６】

そのため、正面側から前側板部材Ａ８４０を視認する際にエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７から光が照射されている場合には、ライン状溝部Ａ８４２から正面側に向かう光が遊技者の目に届くので、ライン状溝部Ａ８４２の元となる形状としての、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭が光っているように視認させることができる。

【１５１６７】

なお、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７（図１４２１参照）を構成するＬＥＤは、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７を構成するＬＥＤよりも指向性の低いＬＥＤが採用される。これにより、後側板部材Ａ８５０の全域を均一に発光させることができる。

【１５１６８】

即ち、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７（図１４２１参照）からの光は、後側板部材Ａ８５０からの光は後側板部材Ａ８５０内を全反射する態様にはなく、後側板部材Ａ８５０を均一に照らすように機能する。

【１５１６９】

図１３７０に戻って説明する。図１３７０に示すように、正面視におけるセンターフレームＡ８６の右下側に、下流側案内部材Ａ８０３が配設される。下流側案内部材Ａ８０３は、案内部材Ａ８０２に案内された遊技球が、スルーゲート６７を通過するか否かに関わらず案内される流路を構成する。

【１５１７０】

図１４２４は、下流側案内部材Ａ８０３の分解正面斜視図であり、図１４２５は、下流側案内部材Ａ８０３の分解背面斜視図である。なお、図１４２４及び図１４２５では、下流側案内部材Ａ８０３が固定されるベース板Ａ６０の一部のみが図示され、ベース板Ａ６０のその他の部分についての図示が省略される。

【１５１７１】

下流側案内部材Ａ８０３は、板状本体Ａ８０３ａと、その板状本体Ａ８０３ａの背面から延設される延設板Ａ８０３ｂと、を有する前側部材Ａ８０３ｚと、その前側部材Ａ８０３ｚの背面側に配置され前側部材Ａ８０３ｚとの間に遊技球が流下可能な経路を形成するように前側部材Ａ８０３ｚに締結固定された状態でベース板Ａ６０に締結固定される光透過性の樹脂材料から形成される後側部材Ａ８０４と、前側部材Ａ８０３ｚの板状本体Ａ８０３ａの前面に貼り付けられる装飾板部材Ａ８０５と、を備え、組立状態（図１３７０参照）において、案内部材Ａ８０２に案内された遊技球が、板状本体Ａ８０３ａと後側部材Ａ８０４との間の領域を流下可能に構成される。

【１５１７２】

延設板Ａ８０３ｂは、板状本体Ａ８０３ａの左縁部から延設され上下方向に延びる板部と左下方向に延びる傾斜板部から形成される左延設板Ａ８０３ｃと、その左延設板Ａ８０３ｃと対応する形状から形成されると共に対向配置され左延設板Ａ８０３ｃとの間の領域

に左側流路ＡＴＬ１を形成する中側左延設板Ａ８０３ｄと、その中側左延設板Ａ８０３ｄの途中位置から枝分かれして右方に延設される部分を有し左右に屈曲しながら下方へ延びるように形成される中側右延設板Ａ８０３ｅと、その中側右延設板Ａ８０３ｅと対向配置され中側右延設板Ａ８０３ｅとの間の領域に右側流路ＡＴＬ２を形成する右延設板Ａ８０３ｆと、を備える。

【１５１７３】

左側流路ＡＴＬ１を流下する遊技球は、左延設板Ａ８０３ｃ及び中側左延設板Ａ８０３ｄの延びる方向である左下方向へ流下する途中で、左延設板Ａ８０３ｃと中側左延設板Ａ８０３ｄとの間に配設され組立状態において後側部材Ａ８０４のセンサ支持部Ａ８０４ａに保持される球検出用の検出センサＡＳＥ１を通過して、後側部材Ａ８０４の開口部Ａ８０４ｂを通りベース板Ａ６０の後方へ向けて排出される。そのため、左側流路ＡＴＬ１に流入した遊技球は、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図１３７０参照）に案内されることはない。

【１５１７４】

左側流路ＡＴＬ１の延びる方向（左下方向）は、右側流路ＡＴＬ２から離れる方向なので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【１５１７５】

検出センサＡＳＥ１で遊技球が検出された場合の制御としては、種々の態様が考えられるが、本実施形態では、検出センサＡＳＥ１で遊技球の通過が検出された場合、１個の賞球が払い出されるように制御される。

【１５１７６】

なお、賞球の個数は一例であり、１個に限られることはなく、２個でも、それ以上の個数でも良い。一方で、本実施形態のように賞球個数を１個とすることで、右打ちされた遊技球が左側流路ＡＴＬ１を流れた場合の球減りを抑えることができる。

【１５１７７】

また、賞球の個数が２個またはそれ以上の個数の場合には、発射球を差し引いても、遊技者に払い出される賞球により遊技者の持ち球が増加する。これにより、左側流路ＡＴＬ１に球が流入した場合の残念感を低減することができる。

【１５１７８】

右側流路ＡＴＬ２に流入した遊技球は、中側右延設板Ａ８０３ｅの上流側において右下方向へ延びる傾斜面Ａ８０３ｅ１に沿って流下する。この場合、球の流下する向きは右側流路ＡＴＬ２と隣り合って設けられる左側流路ＡＴＬ１から離れる向きとなるので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【１５１７９】

傾斜面Ａ８０３ｅ１を転動する球は板状本体Ａ８０３ａの上縁付近を右方に流れるので、自由落下と類似の態様で球を流下させる左側流路ＡＴＬ１を流下する球に比較して、下流側案内部材Ａ８０３を上から覗き込むような方向視で見る場合の球の視認性を高くすることができる。換言すれば、下流側案内部材Ａ８０３を上から覗き込むような方向視で球が視認される期間を引き延ばすことができる。

【１５１８０】

右側流路ＡＴＬ２を流下する遊技球は、右延設板Ａ８０３ｆの内側から左方へ延設される延設板Ａ８０３ｆ１を転動し、その転動球を受け入れるように円弧状に湾曲形成される中側右延設板Ａ８０３ｅの湾曲面Ａ８０３ｅ２に沿って流下する。

【１５１８１】

延設板Ａ８０３ｆ１を転動する球は左側流路ＡＴＬ１に近づく向きで流下することになるが、湾曲面Ａ８０３ｅ２が左側流路ＡＴＬ１との間に隙間を空けて配置されており、湾

曲面Ａ８０３ｅ２に沿って流下する球は左側流路ＡＴＬ１から離れる向きで流下するように構成されることから、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【１５１８２】

また、左側流路ＡＴＬ１を流下する球の流下態様が重力方向に沿って左に傾斜しながら流下する態様であるのに対して、右側流路ＡＴＬ２を流下する球の流下態様が左右に蛇行しながら流下する態様であることからも、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【１５１８３】

また、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とで、下流側案内部材Ａ８０３の内部流路に滞在する期間を異ならせることができる。例えば、左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２とに同時に球が流入した場合に、左側流路ＡＴＬ１を流下する球は素早く下方へ流され、右側流路ＡＴＬ２を流下する球は左右方向に蛇行することから、左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２とを流下する球が同じ高さに位置する期間を短くすることができる（球の高さ位置を異ならせることができる）。これにより、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【１５１８４】

右側流路ＡＴＬ２を通過した遊技球は、ベース板Ａ６０の正面側を下方へ流下し、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図１３７０参照）側へ向けて案内される。そのため、下流側案内部材Ａ８０３を流下する球の内、右側流路ＡＴＬ２を流下した球に限って、第２入賞口６４０又は特定入賞口６５ａに入球し得るように構成される。

【１５１８５】

上述したように、右側流路ＡＴＬ２は左右に蛇行する流路として形成されているので、球が自由落下する場合に比較して、球の上下方向の速度を低減させることができる。これにより、第２入賞口６４０又は特定入賞口６５ａに到達した時における球の上下方向の速度を低減させることができるので、球との衝突で電動役物６４０ａの開閉板や可変入賞装置６５の開閉板が破損する事態の発生を防止し易くすることができる。

【１５１８６】

装飾板部材Ａ８０５は、樹脂材料から形成され、視認させる方向に関わらず同程度に光を透過させる透明シートＡ８０５ａと、視認させる方向により光の透過性が変化するように構成される視認態様変化シートＡ８０６と、を備える。

【１５１８７】

視認態様変化シートＡ８０６は、正面視で左側流路ＡＴＬ１を含む大きさで形成され、透明シートＡ８０５ａは、正面視で右側流路ＡＴＬ２を含む大きさで形成されており、視認態様変化シートＡ８０６及び透明シートＡ８０５ａから構成される装飾板部材Ａ８０５が板状本体Ａ８０３ａの外縁部よりも若干小さな領域を占めるような形状から形成される。

【１５１８８】

図１４２６は、視認態様変化シートＡ８０６の構成を模式的に示す模式図である。視認態様変化シートＡ８０６は、視野角制御シートとも言い換えることができるものであり、透明シリコーンゴムＡ８０６ａと黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂとを交互に配置したルーバーフィルムの表裏に透明樹脂フィルムＡ８０６ｃを張り合わせた構造とされており、製造時に黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂの配置間隔や姿勢を異ならせることにより透過する光の角度範囲（視野角）を設計することが可能となっている。

【１５１８９】

視認態様変化シートＡ８０６は、図１４２４に示すように板状本体Ａ８０３ａの正面側に貼り付けられるシートであり、ガラスユニット１６との間の隙間という限られた範囲に配置されるものであるため、その肉厚は非常に薄いことが求められる。本実施形態におい

ても、透明樹脂フィルムＡ８０６ｃはポリカーボネートを材料とする厚さ約０．２ｍｍのフィルムで、黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂの配置間隔（ピッチ）は約０．１ｍｍという、微細に設計されたシートが利用される。

【１５１９０】

図１４２７（ａ）及び図１４２７（ｂ）は、方向視の違いによる下流側案内部材Ａ８０３の見え方の変化を示す模式図である。図１４２７（ａ）では、図１４２６の矢印ＡＥＬ１方向視における見え方が図示され、図１４２７（ｂ）では、図１４２６の矢印ＡＥＬ２方向視における見え方が図示される。なお、図１４２７では、方向視の違いによる外形の変化が生じ得るが、便宜上外形の変化を無視し同形状で図示される。また、図１４２７では、視認態様変化シートＡ８０６を透過して視認される左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の内側面が実線で図示される。

【１５１９１】

本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６を透過させて視認態様変化シートＡ８０６の奥側を視認可能な視野角が約３０度になるように黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂ（図１４２６参照）の配置間隔や姿勢を設計している。

【１５１９２】

即ち、図１４２７（ａ）に示すように、矢印ＡＥＬ１（図１４２６参照）の方向視で視認態様変化シートＡ８０６を視認させた場合（下流側案内部材Ａ８０３の真正面から視認させた場合）には、視認態様変化シートＡ８０６を透過させて奥側に配置されている左側流路ＡＴＬ１を視認させることができる。

【１５１９３】

一方で、図１４２７（ｂ）に示すように、視野角よりも大きな角度の矢印ＡＥＬ２（図１４２６参照）の方向視で視認態様変化シートＡ８０６を視認させた場合（下流側案内部材Ａ８０３の真正面から横にずれた位置、例えば、第３図柄表示装置８１（図１３７０参照）の真正面から斜めに視認させた場合）には、視認態様変化シートＡ８０６を透過させることができず視認態様変化シートＡ８０６の正面側を視認させることになるので（表面に図形やイラスト等の装飾が施されている場合にはその装飾を視認させることになるので）、左側流路ＡＴＬ１を流下する球を視認させ難くすることができる。

【１５１９４】

このように、本実施形態では、矢印ＡＥＬ２の方向視で下流側案内部材Ａ８０３を視認させる場合よりも、矢印ＡＥＬ１の方向視で下流側案内部材Ａ８０３を視認させる場合の方が、遊技者は左側流路ＡＴＬ１を流下する遊技球を視認し易い。

【１５１９５】

上述したような視認態様変化シートＡ８０６の機能を利用して、下流側案内部材Ａ８０３を通る球の内、遊技者にとって利益の大きな側の球のみを遊技者に視認させるように演出することができる。このことについて詳述する。

【１５１９６】

パチンコ機１０で遊技を行う遊技者は、基本的には、第３図柄表示装置８１（図１３７０参照）の表示領域や、その手前側を動作する可動役物（例えば、動作ユニットＡ４００～Ａ６００）により展開される演出を視認しながら遊技を行うため、遊技領域の特定の範囲を凝視することは稀となることが多く、下流側案内部材Ａ８０３についても、第３図柄表示装置８１を正面から視認するそのままの姿勢で横目に見る（例えば、図１４２６の矢印ＡＥＬ２の方向視で見る）ということが多くなる。

【１５１９７】

例えば、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図１３７０参照）へ向けて球を発射するために右打ち遊技を行う時短中や確変中においても、遊技者は第３図柄表示装置８１（図１３７０参照）の表示領域における演出に注目したいため、下流側案内部材Ａ８０３を横目に見て遊技球が確かに流下していることを確認したら、下流側案内部材Ａ８０３から視線を外して、第３図柄表示装置８１の表示領域に注目することが通常である。

【１５１９８】

そのような短い時間でしか視認されない下流側案内部材Ａ８０３において、本実施形態では、左側流路ＡＴＬ１に流入した遊技球は第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図１３７０参照）側へは流れず遊技領域から排出されてしまう。このような構成は、パチンコ機１０の単位時間当たりの賞球性能を規格内に収めるために（遊技の時間調整や賞球調整のために）採用されるものであるが、遊技者にとっては、左側流路ＡＴＬ１に流れる球は余り好ましい球では無い。

【１５１９９】

そのような好ましくない球の流下を見せられることにより、遊技者の興趣は下げられてしまい、再びパチンコ機１０を遊技しようという意欲を削ぐ結果を招き易く、好ましくない場合がある。

【１５２００】

これに対し、本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、遊技者が下流側案内部材Ａ８０３を横目に見るような方向視（例えば、矢印ＡＥＬ２の方向視）では、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球については視認させず、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球のみを視認させるようにしている。

【１５２０１】

即ち、下流側案内部材Ａ８０３を横目に見る場合には右側流路ＡＴＬ２を流下する球しか見せないようにすることで、下流側案内部材Ａ８０３を遊技球が流下する流路を左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２との複数で用意しながら、遊技者に右側流路ＡＴＬ２を流下する遊技球のみを視認させることができるので、遊技者に対して、発射した球の全てが第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内されている（無駄なく案内されている）ように思わせることができ、遊技者の興趣を向上させることができるので、遊技者の再遊技の意欲を向上させることができる。

【１５２０２】

このように、本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６の利用により、第３図柄表示装置８１の表示領域で展開される表示演出を視認しながら遊技をしている遊技者が、左側流路ＡＴＬ１を流下する不利益な球（第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内されない球）を見ないで済むように構成でき、右側流路ＡＴＬ２を流下する都合の良い球（第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内される球）のみを見られるようにすることができる。

【１５２０３】

一方、遊技者によっては、左側流路ＡＴＬ１を流下するような不利益な球についても、視認したいと要望する。この場合には、第３図柄表示装置８１の前方から頭を動かして、下流側案内部材Ａ８０３の正面からの方向視（図１４２６の矢印ＡＥＬ１の方向視）で見ることで左側流路ＡＴＬ１を流れる球を視認することができるので、左側流路ＡＴＬ１を流下するような不利益な球についても視認したいと要望する遊技者の不満が蓄積することを回避することができ、このような遊技者の再遊技の意欲が低減されることを防止することができる。

【１５２０４】

図１４２８を参照して、第１１実施形態について説明する。第１０実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニット４００ｂが、傾倒動作に伴い長手方向（回転軸棒ＡＪ１と回転先端とを結ぶ方向）に延びるように構成される場合を説明したが、第１１実施形態の第１動作ユニットＡ２４００では、回転動作ユニット４００ｂの傾倒動作に伴い長手方向に延びたり縮んだりするように構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２０５】

図１４２８は、第１１実施形態における第１動作ユニットＡ２４００の背面図である。図１４２８では、演出待機状態における第１動作ユニットＡ２４００が図示される。なお、第１１実施形態における第１動作ユニットＡ２４００では、回転動作ユニット４００ｂは第１０実施形態と同一である一方で、支持ユニットＡ２４００ａは第１０実施形態の支

持ユニットＡ４００ａに対して、特に案内長孔Ａ２４１４が異なる。なお、図１４２８の説明では、図１３８７及び図１３８８を適宜参照する。

【１５２０６】

支持ユニットＡ２４００ａは、第１０実施形態で上述した案内長孔Ａ４１４の代わりに、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が案内される案内長孔Ａ２４１４を備える。

【１５２０７】

案内長孔Ａ２４１４は、右端部から左方へ円弧状に延びる第１円弧部Ａ２４１４ａと、その第１円弧部Ａ２４１４ａよりも左側において第１円弧部Ａ２４１４ａよりも半径の短い円弧状に形成される第２円弧部Ａ２４１４ｂと、その第２円弧部Ａ２４１４ｂよりも左側において第１円弧部Ａ２４１４ａよりも半径の長い円弧状に形成される第３円弧部Ａ２４１４ｃと、第１円弧部Ａ２４１４ａの左端部と第２円弧部Ａ２４１４ｂの右端部とを繋ぐ直線孔状に形成される第１直線部Ａ２４１４ｄと、第２円弧部Ａ２４１４ｂの左端部と第３円弧部Ａ２４１４ｃの右端部とを繋ぐ直線孔状に形成される第２直線部Ａ２４１４ｅと、を備える。

【１５２０８】

第１円弧部Ａ２４１４ａは、半径が第２長さＡＤ２（図１３８７（ｂ）参照）とされる第２半径ＡＲ２の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、第２円弧部Ａ２４１４ｂは、半径が第１長さＡＤ１（図１３８７（ａ）参照）とされる第１半径ＡＲ１の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、第１直線部Ａ２４１４ｄは、傾斜した直線状に形成される。

【１５２０９】

そのため、第１動作ユニットＡ２４００の演出待機状態から駆動モータＡＭＴ１が駆動され、回転動作ユニットＡ４００ｂが傾倒動作を開始すると、柱状突設部Ａ４４８が第１円弧部Ａ２４１４ａを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さは変化せず回転動作のみが継続される。

【１５２１０】

更に、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さが縮む方向に変化しながら回転動作が継続されるので、駆動抵抗が増加する。

【１５２１１】

更に、柱状突設部Ａ４４８が第２円弧部Ａ２４１４ｂを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さは変化せず回転動作が継続されるので、その分、駆動抵抗が減少する。

【１５２１２】

このように、案内長孔Ａ２４１４によれば、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄに進入する際に駆動抵抗を増加させるように構成されていることから、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄに進入する際の姿勢で回転動作ユニットＡ４００ｂを急停止させるような動作制御を容易に行うことができる。

【１５２１３】

柱状突設部Ａ４４８が、第１円弧部Ａ２４１４ａ、第１直線部Ａ２４１４ｄ、第２円弧部Ａ２４１４ｂの順で移動する際には、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さが変化するだけであり（図１３８７（ａ）及び図１３８７（ｂ）参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの幅方向の長さの変化は生じない。

【１５２１４】

第２直線部Ａ２４１４ｅは、回転軸棒ＡＪ１の中心を通る直線ＡＶＬ２上を延びる傾斜した直線状に形成される。そのため、第２直線部Ａ２４１４ｅを柱状突設部Ａ４４８が移動する際には、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作は停止され、長手方向に延びる変位のみが生じる。

【１５２１５】

第２直線部Ａ２４１４ｅを柱状突設部Ａ４４８が左側へ向けて移動する間に、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも長くなると、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向に延びる変位に加えて、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に広がる変位が生じる（方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０の左右外側への変位、図１３８８参照）。

【１５２１６】

そのため、柱状突設部Ａ４４８が第２直線部Ａ２４１４ｅを移動する間において、駆動モータＡＭＴ１にかけられる抵抗として、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向に延びる変位に伴う抵抗がかけられる状態から、その抵抗に加えて回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に広がる変位に伴う抵抗がかけられる状態へ移行される。

【１５２１７】

これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの変位の抵抗を増加させることができるので、駆動モータＡＭＴ１からの駆動力が一定とされる場合において、回転動作ユニットＡ４００ｂに生じる変位の速度を変化させることができる。即ち、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも短い状態に比較して、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも長い状態における変位の速度を遅くさせることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の変位を遊技者に印象付けることができる。

【１５２１８】

第３円弧部Ａ２４１４ｃは、半径が第４長さＡＤ４（図１３８８（ｂ）参照）とされる第４半径ＡＲ４の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒先端側ほど下側に配置される。

【１５２１９】

これにより、柱状突設部Ａ４４８が第２直線部Ａ２４１４ｅから第３円弧部Ａ２４１４ｃに進入した後は、回転動作ユニットＡ４００ｂが長手方向にも短手方向にも最大まで変位した状態（図１３８８（ｂ）参照）における、回転動作（傾倒動作）を生じさせることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の迫力を大きくすることができる。

【１５２２０】

なお、第３円弧部Ａ２４１４ｃの左端部の位置は、第１０実施形態における案内長孔Ａ４１４の左端部と同じ位置とされる。第３円弧部Ａ２４１４ｃの左端部に柱状突設部Ａ４４８が配置される状態から、回転動作ユニットＡ４００ｂを傾倒動作させる方向とは逆方向に駆動モータＡＭＴ１を駆動させた場合に、柱状突設部Ａ４４８が案内長孔Ａ２４１４を右側へ案内されることで回転動作ユニットＡ４００ｂが起き上がる方向に回転動作されることは、第１０実施形態における第１動作ユニットＡ４００と同様である。

【１５２２１】

図１４２９から図１４３１を参照して、第１２実施形態について説明する。第１０実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニット４００ｂが、起立した状態から傾倒動作に伴い倒れていくように動作する場合を説明したが、第１２実施形態の第１動作ユニットＡ３４００では、水平方向に延びる状態から傾倒動作に伴い倒れていくように動作するように構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２２２】

図１４２９から図１４３１は、第１２実施形態における第１動作ユニットＡ３４００の模式背面図である。図１４２９では、第１動作ユニットＡ３４００の第１の演出待機状態が模式的に図示され、図１４３０では、第１動作ユニットＡ３４００の張出状態が模式的に図示され、図１４３１では、第１動作ユニットＡ３４００の第２の演出待機状態が模式的に図示される。また、図１４２９から図１４３１では、配置関係の把握を容易とするために、背面ケースＡ２１０（図１３７５参照）の外形位置（下側部において図示が一部省略されている）と、第３図柄表示装置８１（図１３７０参照）の外形位置とが想像線で図

示される。
【１５２２３】
第１動作ユニットＡ３４００は、背面ケースＡ２１０の内側において背面ケースＡ２１０に締結固定される支持部材Ａ３４００ａと、その支持部材Ａ３４００ａに固定配置される回転軸棒ＡＪ３を中心として回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ３４００ｂと、を備える。
【１５２２４】
支持部材Ａ３４００ａは、回転動作ユニットＡ３４００ｂの変位を案内するための案内長孔Ａ３４１４を備えている。案内長孔Ａ３４１４は、回転軸棒ＡＪ３を中心とする円弧状に形成される円弧部Ａ３４１４ａと、その円弧部Ａ３４１４ａの下端部から直線状に延設され延設先端側の方が回転軸棒ＡＪ３に近い直線部Ａ３４１４ｂと、その直線部Ａ３４１４ｂの下側端部から下方に凹設される凹設部Ａ３４１４ｃと、を備える。
【１５２２５】
なお、支持部材Ａ３４００ａと回転動作ユニットＡ３４００ｂとが重なって図が見難くなることを避ける目的で、支持部材Ａ３４００ａは、外形が想像線で図示され、その外形の内側においては案内長孔Ａ３４１４を除き図示が省略される。
【１５２２６】
回転動作ユニットＡ３４００ｂは、回転軸棒ＡＪ３に回転可能に支持される基端側部材Ａ３４３０と、その基端側部材Ａ３４３０の回転先端側に配設され基端側部材Ａ３４３０に対して回転軸棒ＡＪ１を中心とする円の径方向に変位可能に構成される先端側部材Ａ３４４０と、を備える。
【１５２２７】
先端側部材Ａ３４４０は、移動本体Ａ３４４１と、その移動本体Ａ３４４１の回転軸棒ＡＪ３に近い側から前後方向に突設され、案内長孔Ａ３４１４に挿通される被案内突部Ａ３４４２と、を備える。
【１５２２８】
第１２実施形態における駆動力の伝達は、第１０実施形態においてベルトＡ４２３ａに案内される連結部材Ａ４２７ａの案内長孔Ａ４２７ｅが左右方向に移動することに伴い、柱状突設部Ａ４４８（図１３８３及び図１３８４参照）に駆動力が左右方向にかけられることで回転動作ユニットＡ４００ｂが変位されるのと同様に構成される。
【１５２２９】
即ち、第１２実施形態における第１動作ユニットＡ３４００では、ベルトＡ４２３ａ、連結部材Ａ４２７ａ及び案内長孔Ａ４２７ｅ（図示せず）の姿勢を９０度変化させて上下方向に移動させるように構成しており、これらが上下方向に移動することに伴い、案内長孔Ａ４２７ｅに挿通されている被案内突部Ａ３４４２に駆動力が上下方向にかけられることで回転動作ユニットＡ３４００ｂが変位される。
【１５２３０】
第１動作ユニットＡ３４００の、第１の演出待機状態からの回転動作について説明する。第１の演出待機状態（図１４２９参照）から被案内突部Ａ３４４２を下方へ移動させるように駆動力が生じると、回転動作ユニットＡ３４００ｂは回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転動作を開始する。
【１５２３１】
ここで、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の円弧部Ａ３４１４ａに案内されている間は、基端側部材Ａ３４３０に対する先端側部材Ａ３４４０の相対移動（回転動作ユニットＡ３４００ｂの長手方向の変位）は生じない（図１４３０参照）。
【１５２３２】
図１４３０に図示される状態から更に、被案内突部Ａ３４４２を下方へ移動させるように駆動力が生じると、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の直線部Ａ３４１４ｂに入ることになるので、回転が進むほど被案内突部Ａ３４４２が回転軸棒ＡＪ３に近づくことになる。

【１５２３３】
そのため、回転動作ユニットＡ３４００ｂは回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転動作に加えて、先端側部材Ａ３４４０が基端側部材Ａ３４３０に近づく方向への相対移動が開始されるので、駆動抵抗が増加する。
【１５２３４】
回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒が終端まで進むと、図１４３１に図示されるように、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の凹設部Ａ３４１４ｃに入り込む分、直線部Ａ３４１４ｂの下端側に配置されている場合に比較して、被案内突部Ａ３４４２と回転軸棒ＡＪ３との間の距離が長くなる方向に先端側部材Ａ３４４０が基端側部材Ａ３４３０に対して相対移動する。
【１５２３５】
即ち、第１の演出待機状態から回転動作ユニットＡ３４００ｂが傾倒動作する場合、回転動作ユニットＡ３４００ｂの先端側部材Ａ３４４０は、基端側部材Ａ３４３０に対して相対移動しない状態から基端側部材Ａ３４３０に対して近づく方向に相対移動する状態へ移行し、その後、基端側部材Ａ３４３０に対して近づく方向に相対移動する状態から基端側部材Ａ３４３０に対して離れる方向に相対移動する状態へ移行する。このように、回転動作ユニットＡ３４００ｂが傾倒動作する場合における先端側部材Ａ３４４０の基端側部材Ａ３４３０に対する相対移動のバリエーションを増加させることができる。
【１５２３６】
図１４３１に図示される状態において、被案内突部Ａ３４４２の回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転方向への移動は凹設部Ａ３４１４ｃにより防止される。そのため、回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒動作を高速で実行させた場合であっても、回転方向の戻り動作（反動による逆方向の回転動作）が生じることを、被案内突部Ａ３４４２が凹設部Ａ３４１４ｃに食い止められることにより防止することができる。
【１５２３７】
なお、図１４３１に図示される状態から上方向の駆動力を生じさせることにより、被案内突部Ａ３４４２が逆方向に案内される態様で回転動作ユニットＡ３４００ｂを回転動作（起き上がり動作）させることができる。
【１５２３８】
上述のように、第１２実施形態では、回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒動作の方向が自重で回転動作するような方向に設定されるので、傾倒動作開始時に要求される駆動力を低減することができる。
【１５２３９】
また、傾倒動作中に回転動作ユニットＡ３４００ｂが長手方向に縮むという外観の変化を生じさせることができる。これにより、傾倒動作中に回転動作ユニットＡ３４００ｂをコンパクトにする側に変形させる演出を実行することができ、その演出の際に生じる遠心力を低減させることで、途中で停止させる位置や、終端における停止を安定させることができる。
【１５２４０】
また、先端側部材Ａ３４４０の変位を規定するための案内長孔Ａ３４１４が回転軸棒ＡＪ３の近傍に配置されるので、案内長孔Ａ３４１４を形成するための支持部材Ａ３４００ａを小形化することができる。加えて、背面ケースＡ２１０における回転動作ユニットＡ３４００ｂの回転先端側の領域（図１４２９において第３図柄表示装置８１よりも右側の領域）にまで第１動作ユニットＡ３４００の構成を配設することを不要とすることができるので、背面ケースＡ２１０における動作ユニットの配置の自由度を向上させることができる。
【１５２４１】
図１４３２を参照して、第１３実施形態について説明する。第１０実施形態では、固定された下流側案内部材Ａ８０３により遊技領域を流下する球の視認性が変化する場合を説明したが、第１３実施形態の球案内ユニットＡ４９００では、球の視認性を変化させる部

分が変位可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２４２】

図１４３２（ａ）及び図１４３２（ｂ）は、第１３実施形態における球案内ユニットＡ４９００の断面図である。図１４３２（ａ）では、電動役物６４０ａが閉鎖された状態が図示され、図１４３２（ｂ）では、電動役物６４０ａが開放された状態が図示される。

【１５２４３】

図１４３２では、電動役物６４０ａの中間部を通り左右方向と直交する平面における断面図が図示され、理解を容易とするために、ベース板Ａ６０及びガラスユニット１６が想像線で図示され、電動役物６４０ａについては開閉板のみが図示されその他の駆動機構についての図示が省略される。

【１５２４４】

図１４３２に示すように、球案内ユニットＡ４９００は、ガラスユニット１６とベース板Ａ６０との間において球の流下経路を形成するユニットであって、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ａ６０に締結固定される流路形成部材Ａ４９１０と、その流路形成部材の前面に沿って昇降動作可能に構成され光透過性の樹脂材料から形成される導光変位部材Ａ４９２０と、その導光変位部材Ａ４９２０を流路形成部材Ａ４９１０とは反対側から挟むように配設され光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ａ６０に締結固定される覆設部材Ａ４９３０と、導光変位部材Ａ４９２０を駆動させるためのソレノイドＡ４９４０と、を備える。

【１５２４５】

流路形成部材Ａ４９１０は、ベース板Ａ６０の表面に沿って形成される背面側板部Ａ４９１１と、その背面側板部Ａ４９１１の正面側に球の直径よりも若干長い間隔を空けて平行配置される正面側板部Ａ４９１２と、背面側板部Ａ４９１１及び正面側板部Ａ４９１２の下端部を繋ぐ肉厚本体部Ａ４９１３と、を備える。

【１５２４６】

背面側板部Ａ４９１１には、電動役物６４０ａを貫通させる貫通孔Ａ４９１１ａが形成されており、その貫通孔Ａ４９１１ａにより電動役物６４０ａが正面側板部Ａ４９１２に近接配置される閉鎖状態（図１４３２（ａ）参照）と、後方に退避される開放状態（図１４３２（ｂ）参照）とで、前後に平行移動可能に構成される。

【１５２４７】

導光変位部材Ａ４９２０は、流路形成部材Ａ４９１０の正面側板部Ａ４９１２の前側面に対向配置され前側面に変位を案内される被案内板部Ａ４９２１と、その被案内板部Ａ４９２１の下端部から後方へ延設される延設部Ａ４９２２と、を備える。

【１５２４８】

被案内板部Ａ４９２１は、上側部の背面側から溝状に切りかかれる複数のライン状溝部Ａ４９２１ａを備える。ライン状溝部Ａ４９２１ａは、被案内板部Ａ４９２１の端部から入射した光を屈折させ正面側へ向けて出射させるように機能する（第１０実施形態で上述したライン状溝部Ａ７３２（図１４１６参照）と同様の機能を有する）。

【１５２４９】

覆設部材Ａ４９３０は、被案内板部Ａ４９２１の前側面に対向配置され、流路形成部材Ａ４９１０の正面側板部Ａ４９１２と共に被案内板部Ａ４９２１の変位を案内するように構成される前側案内板部Ａ４９３１と、その前側案内板部Ａ４９３１の下端部から後方へ延設され後端部がベース板Ａ６０に締結固定される延設部Ａ４９３２と、その延設部Ａ４９３２の前側端部の上面側に固定配置され上方へ向けて光を照射するＬＥＤ等の発光手段Ａ４９３３ａを有する発光基板Ａ４９３３と、を備える。

【１５２５０】

発光手段Ａ４９３３ａは、光軸が導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１の延設方向（上下方向）に沿うように配置および設計され、光が被案内板部Ａ４９２１の下端部から被案内板部Ａ４９２１の内側を上方向に導光されるように構成される。即ち、発光

手段Ａ４９３３ａから照射された光は、ライン状溝部Ａ４９２１ａまで到達するように構成される。

【１５２５１】

本実施形態では、発光手段Ａ４９３３ａから光が照射されると、ライン状溝部Ａ４９２１ａで屈折された光が正面側へ進行することになるので、ライン状溝部Ａ４９２１ａが明るく発光し、ライン状溝部Ａ４９２１ａを通した視認性が低下する。

【１５２５２】

そのため、ライン状溝部Ａ４９２１ａと重なる方向視で視認する場合には、その後方を流下する球の視認性が低下する。ライン状溝部Ａ４９２１ａを前後方向の方向視で視認するよりも、ライン状溝部Ａ４９２１ａを斜め下方に見下ろすような方向ＡＤＬ１の方向視で視認する方が、電動役物６４０ａ上を転動する球を視認し易くなる。

【１５２５３】

一方、図１４３２（ａ）において電動役物６４０ａの上面を転動する球を斜め上方から視認する方向ＡＤＬ１の方向視における位置から目の位置を変えずに、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球（図１４３２（ｂ）で図示される位置の球に相当）を斜め上方から視認するために方向ＡＤＬ２の方向視で視認しようとする場合には、目線上にライン状溝部Ａ４９２１ａが入り込むことになり、球の視認性が悪くなる。

【１５２５４】

そのため、球を視認性良く見たい遊技者は、電動役物６４０ａの開閉の度に目の位置を変える必要が生じることになるので、球の発射は右打ち遊技を行えばよいので遊技者の遊技負担を減らせているが、目の位置を頻繁に変えることによる遊技負担が増大することになる。

【１５２５５】

これに対し、本実施形態では、電動役物６４０ａの動作タイミングとソレノイドＡ４９４０の駆動タイミングとが同期するように制御される。即ち、電動役物６４０ａが開放状態となるのに合わせて、ソレノイドＡ４９４０が駆動され、導光変位部材Ａ４９２０が下方へ変位することで、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球への視線をライン状溝部Ａ４９２１ａが遮る状態を解消するようにしている。

【１５２５６】

これにより、遊技者は、目の位置を変えずに視線の方向を方向ＡＤＬ１と方向ＡＤＬ２とで変えるだけでも、電動役物６４０ａの開閉に応じて球の転動位置が変わっても球の視認性が損なわれることは無いので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【１５２５７】

なお、図１４３２（ａ）に示す状態において球案内ユニットＡ４９００を前後方向視で見る場合、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球がある場合には、その球への視線はライン状溝部Ａ４９２１ａに遮られることはない。そのため、電動役物６４０ａが開放状態から閉鎖状態に切り替えられた直後に電動役物６４０ａの真下を流下する球が存在する場合（例えば、オーバー入賞球が存在する場合）、その球については、前後方向視で遊技者に視認させることで、球を問題なく視認させることができる。

【１５２５８】

図１４３２（ａ）に示す状態に比較し、図１４３２（ｂ）に示す状態の方が、発光手段Ａ４９３３ａと被案内板部Ａ４９２１との間の距離が短い。そのため、発光手段Ａ４９３３ａからの光が被案内板部Ａ４９２１へ向けて照射される場合に、図１４３２（ａ）に示す状態に比較して図１４３２（ｂ）に示す状態の方が光の漏れが少ないことから、発光手段Ａ４９３３ａから照射される光量が同じでも図１４３２（ａ）に示す状態に比較して図１４３２（ｂ）に示す状態の方がライン状溝部Ａ４９２１ａを明るく照らすことができる。

【１５２５９】

一方、図１４３２（ｂ）に示す状態に比較して、図１４３２（ａ）に示す状態の方が、ライン状溝部Ａ４９２１ａの位置を遊技者側（上側）に寄せることができるので、ライン

状溝部Ａ４９２１ａにより屈折される光により照らされる覆設部材Ａ４９３０の範囲をより遊技者側（上側）に寄せることができる。

【１５２６０】

覆設部材Ａ４９３０の前側案内板部Ａ４９３１の前側面には図形やイラスト等の装飾が施されており、この装飾の照らされる範囲をより遊技者側（上側）に寄せるようにすることができるので、前側案内板部Ａ４９３１による演出効果を向上させることができる。

【１５２６１】

なお、導光変位部材Ａ４９２０に対して下方から光が照射される場合を説明したが、これに限定されるものではない。例えば、導光変位部材Ａ４９２０への光の照射は、左右側からでも良いし、上側からでも良いし、背面側からでも、正面側からでも良い。

【１５２６２】

図１４３３を参照して、第１４実施形態について説明する。第１０実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の柱状突設部Ａ４４８が移動部材Ａ４４０の背面側から突設形成されており、板状本体Ａ４４２に対して相対移動し得ない場合を説明したが、第１４実施形態の第１動作ユニットＡ５４００では、移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に配設される柱状突設部材Ａ５４４８が構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２６３】

図１４３３（ａ）及び図１４３３（ｂ）は、第１４実施形態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの背面図である。図１４３３（ａ）では、演出待機状態（図１３７５参照）に対応する状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの様子が図示され、図１４３３（ｂ）では、張出状態（図１３７５参照）に対応する状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの様子が図示される。

【１５２６４】

以下では、第１０実施形態で説明した回転動作ユニットＡ４００ｂとの違いに焦点を当てて、回転動作ユニットＡ５４００ｂの構成について説明する。本実施形態における回転動作ユニットＡ５４００ｂでは、第１０実施形態における柱状突設部Ａ４４８と対応する部材として、柱状突設部材Ａ５４４８が移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に配設されている。

【１５２６５】

即ち、柱状突設部材Ａ５４４８は、移動部材Ａ５４４０の板状本体Ａ５４４２に穿設される案内長孔Ａ５４４２ａに突設先端部分（背面側端部）が後方へ向けて挿通されて張り出す一方で、突設基端部（正面側部）が案内長孔Ａ５４４２ａよりも大きな形状から形成されることで抜け止めとして機能する結果、柱状突設部材Ａ５４４８が板状本体Ａ５４４２に対して案内長孔Ａ５４４２ａに沿って相対移動可能に構成される。

【１５２６６】

柱状突設部材Ａ５４４８は、一方向の付勢力を生じるバネなどの付勢部材（図示せず）により案内長孔Ａ５４４２ａの右側端部（図１４３３（ｂ）において柱状突設部材Ａ５４４８が配置される端部）へ向けて付勢される。

【１５２６７】

案内長孔Ａ５４４２ａは、演出待機状態において回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧に沿って延びる湾曲した長孔として形成される。これにより、柱状突設部材Ａ５４４８の配置が案内長孔Ａ５４４２ａの内部で変化した場合であっても、その変化によって柱状突設部材Ａ５４４８が案内長孔Ａ４１４の円弧部Ａ４１４ａ（図１３９２参照）から外れることを回避することができる。

【１５２６８】

これにより、演出待機状態から回転動作ユニットＡ５４００ｂが傾倒動作する場合に、柱状突設部材Ａ５４４８と円弧部Ａ４１４ａとの間で生じる動作抵抗が増加することを回避し易くすることができる。

【１５２６９】

回転動作ユニットＡ５４００ｂでは、基礎板部材Ａ５４３０が、長手方向先端部（図１４３３（ａ）上側端部）の短手方向片側（図１４３３（ａ）左側）から延設される延設案内部Ａ５４３８を備える。

【１５２７０】

延設案内部Ａ５４３８は、案内長孔Ａ５４４２ａのどこに柱状突設部材Ａ５４４８が配置されている場合であっても、柱状突設部材Ａ５４４８と当接し得る位置まで延設されており、当接時に生じる荷重により柱状突設部材Ａ５４４８を案内長孔Ａ５４４２ａに沿って移動させることができるようになっている。

【１５２７１】

即ち、図１４３３（ｂ）に図示されるように柱状突設部材Ａ５４４８が案内長孔Ａ５４４２ａの一端（図１４３３（ｂ）紙面左側端部）に配置されている状態から、移動部材Ａ５４４０が基礎板部材Ａ５４３０に対して回転軸棒ＡＪ１側へ移動する場合に、その移動途中で柱状突設部材Ａ５４４８が延設案内部Ａ５４３８の上側面に当接することで荷重を受けて案内長孔Ａ５４４２ａの他端（図１４３３（ａ）紙面右側端部）へ向けて移動される。そして、最終的には、移動部材Ａ５４４０の移動方向としての回転軸棒ＡＪ１を通る直線上に柱状突設部材Ａ５４４８が配置される。

【１５２７２】

上述のような構成により、第１動作ユニットＡ５４００の演出待機状態からの傾倒動作時における、回転動作ユニットＡ５４００ｂへの駆動力伝達を良好とすることができることについて説明する。

【１５２７３】

ここで、張出状態からの駆動力伝達においては、第１０実施形態で上述した通り、柱状突設部Ａ４４８に与えられる荷重のうちの、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動方向（回転軸棒ＡＪ１を通る直線方向）に平行な成分は、回転軸棒ＡＪ１を通らず、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転方向の力を生じさせるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの張出状態からの移動を良好とすることができる。

【１５２７４】

第１０実施形態では、この効果を生じさせるために、敢えて柱状突設部Ａ４４８の配置を移動部材Ａ４４０の短手方向の中心からずらしている。一方で、柱状突設部Ａ４４８の配置がずれた状態のまま回転動作ユニットＡ４００ｂを起立させ、その起立状態を柱状突設部Ａ４４８で支えて維持する場合、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向が鉛直方向に向く姿勢ではバランスが取りにくく、若干傾斜した姿勢にしがちである（図１３９２参照）という難点があった。

【１５２７５】

これに対し、本実施形態によれば、柱状突設部材Ａ５４４８を移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に構成しているので、回転動作ユニットＡ５４００ｂを起立させる際に（図１４３３（ａ）参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向が鉛直方向に向く姿勢でバランスを取り易くすることができる。

【１５２７６】

本実施形態では、案内長孔Ａ５４４２ａの長さの設計次第で、回転動作ユニットＡ５４００ｂを起立させる状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの姿勢を任意に設計することができる。このように、本実施形態では、張出状態からの駆動力伝達を良好とする効果を維持しながら、演出待機状態における姿勢の設計自由度を向上させることができる。

【１５２７７】

図１４３４を参照して、第１５実施形態について説明する。第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、方向視が左右方向に角度変化した場合における球流下経路（遊技領域）の見え方が変化する場合を説明したが、第１５実施形態の流路前側構成部材Ａ６９００では、方向視が上下方向に角度変化した場合における球流下経路（遊技領域）の見え方が変化するように構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１５２７８】
図１４３４は、第１５実施形態における流路前側構成部材Ａ６９００の断面図である。図１４３４では、球が通過可能な箇所において、上下方向の辺と前後方向の辺とにより構成される平面で流路前側構成部材Ａ６９００が断面視される。なお、流路前側構成部材Ａ６９００と対向配置されるベース板Ａ６０の前後側面が想像線で図示される。
【１５２７９】
流路前側構成部材Ａ６９００は、ベース板Ａ６０の前側に対向配置され非透過性の樹脂材料から形成される目隠し部材Ａ６９１０と、その目隠し部材Ａ６９１０の正面側に貼り付けられる（又は締結固定される）光透過性の樹脂材料から形成される板状部材であって、正面側に装飾が施される化粧板Ａ６９２０と、目隠し部材Ａ６９１０をベース板Ａ６０に締結固定する締結固定用部Ａ６９３０と、を備える。
【１５２８０】
目隠し部材Ａ６９１０は、上下方向に板状に延びる一対の板状本体Ａ６９１１（図１４３４にはその片側が図示されている）と、その一対の板状本体Ａ６９１１の間を左右方向に延び、一対の板状本体Ａ６９１１とで左右方向に延びる矩形長孔Ａ６９１２を構成する複数のルーバー部Ａ６９１３と、を備える。
【１５２８１】
矩形長孔Ａ６９１２及びルーバー部Ａ６９１３の左右方向長さは、球の直径よりは長くされており、配置箇所における遊技領域の左右幅に対応させた長さで形成される。また、ルーバー部Ａ６９１３の上下間隔は、球の直径よりも小さくなるように設計されている。
【１５２８２】
目隠し部材Ａ６９１０の製造方法としては、種々の態様が例示される。例えば、板状本体Ａ６９１１に複数のルーバー部Ａ６９１３が固定されるような態様でも良いし、板状本体Ａ６９１１の前後長さに対応する厚みの板にドリル加工等で孔を空けて矩形長孔Ａ６９１２を形成した残りの部分として複数のルーバー部Ａ６９１３が形成されるような態様でも良い。
【１５２８３】
ルーバー部Ａ６９１３は、前後方向に若干幅広に形成されており、その上下側面に装飾用のイラストが施されている。矢印ＡＥＬ６１の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認した場合、ルーバー部Ａ６９１３に視線が遮られることとなるので、その背面側を流下する球ＡＢ６１を視認し難い状況が生まれる。この場合、遊技者にはルーバー部Ａ６９１３の上側面に施されるイラストを視認させることにより演出効果の低下を避けている。
【１５２８４】
一方、矢印ＡＥＬ６２の方向視（前後方向に沿う方向視）で流路前側構成部材Ａ６９００を視認した場合、ルーバー部Ａ６９１３の上下側面と視線とが重なることは無く、ルーバー部Ａ６９１３の上下厚みで隠される以外の部分、即ち、矩形長孔Ａ６９１２を通して球ＡＢ６１を視認させることができる。
【１５２８５】
本実施形態では、図１４３４に示すように、ルーバー部Ａ６９１３が前後幅よりも上下厚みが短い形状とされているので、矢印ＡＥＬ６２の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認させる場合の方が、矢印ＡＥＬ６１の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認させる場合に比較して、流路前側構成部材Ａ６９００の後方を流下する球ＡＢ６１の視認性を向上させることができる。
【１５２８６】
次いで、図１４３５から図１４４５を参照して、本発明の第１６実施形態における基板ボックスＷ１００について説明する。まず、図１４３５から図１４３９を参照して、基板ボックスＷ１００の概略構成について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５２８７】
図１４３５は、第１６実施形態におけるパチンコ機Ｗ１０の背面図であり、図１４３６

は、基板ボックスＷ１００の正面斜視図であり、図１４３７は、基板ボックスＷ１００の背面斜視図であり、図１４３８は、基板ボックスＷ１００の正面図であり、図１４３９（ａ）は、基板ボックスＷ１００の背面図であり、図１４３９（ｂ）は、図１４３９（ａ）の矢印ＭＣＤＸＸＸＩＸｂ方向視における基板ボックスＷ１００の側面図であり、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。図１４４０（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面斜視図であり、図１４４０（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面斜視図であり、図１４４０（ａ）及び図１４４０（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００及び封印シールＷＳＬが取り外された状態が図示される。

【１５２８８】

なお、図１４３５から図１４３９における矢印Ｆ－Ｂ、矢印Ｌ－Ｒ及び矢印Ｕ－Ｄは、基板ボックスＢ１００の前後方向、左右方向および上下方向をそれぞれ示している。なお、以下の各図においても同様であるので、その説明は省略する。

【１５２８９】

また、第１６実施形態におけるパチンコ機Ｗ１０は、第１０実施形態におけるパチンコ機１０に対し、基板ボックスＷ１００を除き、その他の構成は同一とされる。よって、その他の説明は省略する。

【１５２９０】

図１４３５から図１４３９に示すように、基板ボックスＷ１００は、ボックスカバーＷ２００と、そのボックスカバーＷ２００により開口が覆われるボックスベースＷ３００と、それらボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を開封不能に連結（かしめ構造による連結）する封印ユニットＷ４００と、その封印ユニットＷ４００により連結されたボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の封印ユニットＷ４００とは反対側の端部に配設される保護カバーＷ５００及び封印シールＷＳＬとを備え、主制御基板（図示せず）が収納される。なお、基板ボックスＷ１００はに、サブ制御基板、発光演出または放音演出に伴う基板、各種スイッチ、コネクタ、遊技盤、役物または役物を駆動させるための駆動モータが収納されても良い。

【１５２９１】

封印ユニットＷ４００には、回転軸Ｗ４１０が形成される。回転軸Ｗ４１０は、基板ボックスＷ１００を内枠１２（図１３６９参照）の背面側に回転可能に軸支するための軸であり、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に平行、且つ、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に直交する軸として形成される。

【１５２９２】

また、回転軸Ｗ４１０は、背面視（矢印Ｆ方向視）において、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される。なお、回転軸Ｗ４１０を基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の左方側（矢印Ｌ方向側）に配設しても良く、回転軸Ｗ４１０を基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の上方側（矢印Ｕ方向側）、下方側（矢印Ｄ方向側）、正面側（矢印Ｆ方向側）、或いは、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設しても良い。

【１５２９３】

ボックスカバーＷ２００は、正面視略横長矩形の板状に形成される背面壁部Ｗ２０１と、その背面壁部Ｗ２０１の４辺からボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部を連結する左壁部Ｗ２０２及び右壁部）と、左壁部Ｗ２０２から左方側へ突出されるカバー側被係合部Ｗ２１０とを主に備える。ボックスカバーＷ２００は、各壁部によりボックスベースＷ３００側が開放された箱状に形成される。なお、ボックスカバーＷ２００は、光透過性の樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。

【１５２９４】

カバー側被係合部Ｗ２１０には、後述するベース側被係合部Ｗ３１０と共に、保護カバ

ーＷ５００が取り付けられる。カバー側被係合部Ｗ２１０は、左壁部Ｗ２０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出されるベース部Ｗ２１１と、ベース部Ｗ２１１の突出先端部に形成される側壁部Ｗ２１２と、側壁部Ｗ２１２から封印ユニットＷ４００とは反対側へ突出される平面部Ｗ２２０、上側張出部Ｗ２１３ａ及び下側張出部Ｗ２１３ｂと、ベース部Ｗ２１１及び平面部Ｗ２２０の背面からボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出されるカバー部Ｗ２１４とを主に備える。

【１５２９５】

ベース部Ｗ２１１は、左壁部Ｗ２０２と側壁部Ｗ２１２とを連結するための部位であり、板状に形成される。側壁部Ｗ２１２は、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）への変位を規制するための部位であり、板状に形成される。

【１５２９６】

側壁部Ｗ２１２には、上側張出部Ｗ２１３ａ、下側張出部Ｗ２１３ｂ及び平面部Ｗ２２０が配設される。上側張出部Ｗ２１３ａは、平面部Ｗ２２０よりも上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設され、下側張出部Ｗ２１３ｂは、平面部Ｗ２２０よりも上側張出部Ｗ２１３ａとは反対側（矢印Ｄ方向側）となる位置に配設される。

【１５２９７】

下側張出部Ｗ２１３ｂの背面は、側壁部Ｗ２１２の背面および後述する保護カバーＷ５００の立設部Ｗ５４０よりもボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【１５２９８】

平面部Ｗ２２０は、封印シールＷＳＬが貼着される部位であり、板状に形成される。平面部Ｗ２２０は、ボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突起Ｗ２２１及び一対の立設部Ｗ２２２と、平面部Ｗ２２０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端に配設される一対の両端壁部Ｗ２２３と、平面部Ｗ２２０の背面に凹設される凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂと、平面部Ｗ２２０の板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して穿設される一対の締結孔Ｗ２２５と、平面部Ｗ２２０の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における端部に切り欠かれる切欠き部Ｗ２２６（図１４４４参照）とを主に備える。

【１５２９９】

突起Ｗ２２１は、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）への変位を規制するための突起である。突起Ｗ２２１には、封印ユニットＷ４００とは反対側から封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれてボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗ２２１ａが形成される。

【１５３００】

立設部Ｗ２２２及び両端壁部Ｗ２２３は、側壁部Ｗ２１２と保護カバーＷ５００との間に形成される隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制するための部位である。

【１５３０１】

一対の立設部Ｗ２２２は、側壁部Ｗ２１２から所定の距離を隔てて上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びて形成される。上下方向における一対の立設部Ｗ２２２の両端部は、一対の両端壁部Ｗ２２３に接合され、一対の立設部Ｗ２２２と一対の両端壁部Ｗ２２３との間には隙間が非形成とされる。

【１５３０２】

一対の両端壁部Ｗ２２３は、板状に形成され、一対の両端壁部Ｗ２２３の板厚方向が対向された姿勢で上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗ２２０の両端部に配設される。一対の両端壁部Ｗ２２３のボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）の端部およびボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）の端部は、平面部Ｗ２２０の正面および背面よりもボックスベースＷ３００側およびボックスベースＷ３００とは反対側へそれぞれ突出して形成される。また、一対の両端壁部Ｗ２２３の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、平面部Ｗ２２０の封印ユニットＷ４００とは反対側の

端部よりも封印ユニットＷ４００とは反対側へ突出して形成される。なお、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面は、立設部Ｗ２２２の突出面と略同一面上に配設される。

【１５３０３】

凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、封印シールＷＳＬの貼着面と平面部Ｗ２２０との間に空間を形成させるための部位である。凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂがそれぞれ分離して形成されることにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとが貼着される面積を大きくできる。

【１５３０４】

なお、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、それぞれ連結して形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００の成形性を確保し易くできると共に、製造コストを低減できる。また、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、平面部Ｗ２２０の板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００の成形性を確保し易くできる。

【１５３０５】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ２２４ａの寸法は、後述する保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ａの左右方向における寸法と略同一またはやや大きく形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における凹部Ｗ２２４ａの寸法は、連結片Ｗ５３１ａの上下方向における寸法の略３倍の大きさに形成される。上下方向における凹部Ｗ２２４ｂの寸法は、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂの上下方向における寸法と略同一またはやや大きく形成され、左右方向における凹部Ｗ２２４ｂの寸法は、連結片Ｗ５３１ｂの左右方向における寸法の略３倍の大きさに形成される。

【１５３０６】

一対の締結孔Ｗ２２５は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を締結するねじ（図示せず）が挿入される孔である。一対の締結孔Ｗ２２５を挿通したねじがボックスベースＷ３００に締結されることにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が締結される。

【１５３０７】

切欠き部Ｗ２２６は、後述するボックスベースＷ３００の切欠き部Ｗ３２５と共に、封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に空間を形成させるための部位である。切欠き部Ｗ２２６は、平面部Ｗ２２０の上端から下端にかけて連続して形成される。また、切欠き部Ｗ２２６は、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ３２５とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成される。

【１５３０８】

カバー部Ｗ２１４は、ベース部Ｗ２１１及び平面部Ｗ２２０からボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部の右方側の端部を連結する右壁部）と、上壁部、下壁部および右壁部の立設先端部を連結する背面壁部Ｗ２１４ａとを主に備える。カバー部Ｗ２１４及び平面部Ｗ２２０により封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）が開放された箱状に形成される。

【１５３０９】

上壁部および下壁部は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びて形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突起Ｗ２２１及び一対の立設部Ｗ２２２の間にそれぞれ配設される。背面壁部Ｗ２１４ａは、板状に形成される。背面壁部Ｗ２１４ａの封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、突起Ｗ２２１よりも封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）に配設され、背面視（矢印Ｆ方向視）において、突起Ｗ２２１は、視認可能とされる。これにより、突起Ｗ２２１と後述する保護カバーＷ５００の係合孔Ｗ５３３との係合を視認可能とでき、ボックスカバーＷ２００と保護カバーＷ５００との係合状態を確認できる。

【１５３１０】

なお、背面視において、背面壁部Ｗ２１４ａの封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部が突起Ｗ２２１に重なる位置まで背面壁部Ｗ２１４ａが突出して形成されても良い。これにより、突起Ｗ２２１と係合孔Ｗ５３３との係合を解除させ難くできる。

【１５３１１】

ボックスベースＷ３００は、正面視略横長矩形の板状に形成される正面壁部Ｗ３０１と、その正面壁部Ｗ３０１の４辺からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部を連結する左壁部Ｗ３０２及び右壁部）と、左壁部Ｗ３０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ突出されるベース側被係合部Ｗ３１０とを主に備える。ボックスベースＷ３００は、各壁部により背面側が開放された箱状に形成される。なお、ボックスベースＷ３００は、光透過性の樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。

【１５３１２】

ベース側被係合部Ｗ３１０には、カバー側被係合部Ｗ２１０と共に、保護カバーＷ５００が取り付けられる。ベース側被係合部Ｗ３１０は、左壁部Ｗ３０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ突出される上側張出部Ｗ３１１、カバー部Ｗ３１２及び平面部Ｗ３２０を主に備える。

【１５３１３】

上側張出部Ｗ３１１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において、カバー側被係合部Ｗ２１０の上側張出部Ｗ２１３ａに対応する位置に配設される。また、上側張出部Ｗ３１１の正面は、正面壁部Ｗ３０１の正面と略同一面上に配設される。

【１５３１４】

カバー部Ｗ３１２は、板状に形成される正面壁部Ｗ３１２ａと、封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）の辺を除く正面壁部Ｗ３１２ａの３辺からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部を連結する左壁部Ｗ３１２ｂ）とを主に備える。上壁部、下壁部および左壁部Ｗ３１２ｂは、板状に形成され、それら上壁部、下壁部および左壁部Ｗ３１２ｂの立設先端部は平面部Ｗ３２０に接合される。

【１５３１５】

正面壁部Ｗ３１２ａの背面には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて一対の突起Ｗ３１２ｃがボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。一対の突起Ｗ３１２ｃは、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）への変位を規制するための突起である。一対の突起Ｗ３１２ｃには、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）から封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれてボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗ３１２ｄが形成される。

【１５３１６】

左壁部Ｗ３１２ｂには、側面視（矢印Ｒ方向視）において、一対の突起Ｗ３１２ｃに対応する位置に一対の挿通孔Ｗ３１２ｅが板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して穿設される。一対の挿通孔Ｗ３１２ｅの内形は、一対の突起Ｗ３１２ｃの外形よりも大きく形成され、側面視において、一対の突起Ｗ３１２ｃが視認可能とされる。

【１５３１７】

平面部Ｗ３２０は、封印シールＷＳＬが貼着される部位であり、板状に形成される。平面部Ｗ３２０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗ３２０の両端部に配設される一対の両端壁部Ｗ３２１と、平面部Ｗ３２０の板厚方向に（矢印Ｆ－Ｂ方向）にに貫通して穿設される一対の締結孔Ｗ３２２と、平面部Ｗ３２０からボックスカバーＷ２００とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される一対の抑制部Ｗ３２３と、平面部Ｗ３２０からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突出部Ｗ３２４とを主に備える。

【１５３１８】
一対の両端壁部Ｗ３２１は、板状に形成され、一対の両端壁部Ｗ３２１の板厚方向を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿わせた姿勢で平面部Ｗ３２０に配設される。一対の両端壁部Ｗ３２１のボックスカバーＷ２００とは反対側（矢印Ｆ方向側）の端部は、平面部Ｗ３２０の正面よりも突出して形成される。また、一対の両端壁部Ｗ３２１の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、平面部Ｗ３２０の封印ユニットＷ４００とは反対側の端部よりも突出して形成される。
【１５３１９】
一対の締結孔Ｗ３２２は、ボックスカバーＷ２００に穿設される一対の締結孔Ｗ２２５を挿通したねじ（図示せず）が締結される孔であり、一対の締結孔Ｗ３２２の内周にはめねじが設けられる。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が締結される。
【１５３２０】
一対の抑制部Ｗ３２３は、保護カバーＷ５００と封印シールＷＳＬとが当接することを抑制するための部位である。一対の抑制部Ｗ３２３の突出長さは、封印シールＷＳＬ厚さ寸法よりも長く形成される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、一対の抑制部Ｗ３２３は、一対の挿通孔Ｗ３１２ｅに対応する位置に配設される。
【１５３２１】
突出部Ｗ３２４は、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における平面部Ｗ３２０の端部に配設され、突出部Ｗ３２４の突出先端部には、切欠き部Ｗ３２５が切欠き形成される（図１４４４参照）。突出部Ｗ３２４のボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けての突出長さは、平面部Ｗ２２０の正面に対する一対の両端壁部Ｗ２２３の突出長さと同一に形成される。これにより、突出部Ｗ３２４及び平面部Ｗ２２０が当接した状態において、一対の両端壁部Ｗ３２１と一対の両端壁部Ｗ２２３との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の内側に針金が不正に挿入されることを抑制できる。
【１５３２２】
切欠き部Ｗ３２５は、ボックスカバーＷ２００の切欠き部Ｗ２２６と共に、封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に空間を形成させるための部位である。切欠き部Ｗ３２５は、平面部Ｗ３２０（突出部Ｗ３２４）の上端から下端にかけて連続して形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において切欠き部Ｗ２２６に対向して配設される。また、切欠き部Ｗ３２５は、左壁部Ｗ３０２側（矢印Ｒ方向側）から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ２２６とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成される。
【１５３２３】
保護カバーＷ５００は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に貼着された封印シールＷＳＬを遮蔽するためのものであり、正面視略縦長矩形の板状に形成される背面壁部Ｗ５１０と、その背面壁部Ｗ５１０から正面側（矢印Ｆ方向側）へ所定の間隔を隔てて対向され正面視略縦長矩形の板状に形成される正面壁部Ｗ５２０と、右方側（矢印Ｒ方向側）を除く背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の３辺を連結する壁部（上壁部、下壁部Ｗ５０１および左壁部Ｗ５０２）と、背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０に連結され板状に形成される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂと、下壁部Ｗ５０１から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて立設され板状に形成される立設部Ｗ５４０とを主に備える。
【１５３２４】
保護カバーＷ５００は、各壁部により右方側（矢印Ｒ方向側）が開放された箱状に形成される。なお、保護カバーＷ５００は、光透過性の樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。
【１５３２５】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の長さは、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の長さよりも長く形成される。また、背面壁部Ｗ５

１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離は、ボックスカバーＷ２００の両端壁部Ｗ２２３の背面からボックスベースＷ３００の両端壁部Ｗ３２１の正面までの距離と略同一またはやや大きく形成される。また、保護カバーＷ５００の上壁部および下壁部Ｗ５０１の対向間の距離は、一対の両端壁部Ｗ２２３（両端壁部Ｗ３２１）の対向面とは反対側の面どうしの距離よりも大きく形成される。

【１５３２６】

これらにより、保護カバーＷ５００の内側にカバー側被係合部Ｗ２１０及びベース側被係合部Ｗ３１０が配設可能とされると共に、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ５００の変位が規制される。

【１５３２７】

背面壁部Ｗ５１０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って断続して形成され、本実施形態では、１箇所において非形成とされる。背面壁部Ｗ５１０は、上下方向において非形成とされる側であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて立設されるリブ部Ｗ５１１と、そのリブ部Ｗ５１１の先端どうしを連結する連結部Ｗ５１２とを主に備える。

【１５３２８】

背面壁部Ｗ５１０の背面は、ボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２の背面よりもやや正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、背面壁部Ｗ５１０の背面が側壁部Ｗ２１２の背面よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、背面壁部Ｗ５１０が側壁部Ｗ２１２よりも背面側へ突出した態様で背面壁部Ｗ５１０及び側壁部Ｗ２１２の間に段差が形成されることを抑制できる。その結果、かかる段差を利用してボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制できる。

【１５３２９】

リブ部Ｗ５１１及び連結部Ｗ５１２は、係合部Ｗ５３０ａを支持するための部位である。リブ部Ｗ５１１が背面壁部Ｗ５１０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から立設されることにより、背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ｂの隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制できる。

【１５３３０】

リブ部Ｗ５１１の立設長さは、ボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０に対する両端壁部Ｗ２２３の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての突出長さよりも短く形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において、リブ部Ｗ５１１が封印シールＷＳＬに当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。

【１５３３１】

連結部Ｗ５１２は、左方側（矢印Ｌ方向側）におけるリブ部Ｗ５１１どうしを連結して配設され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結部Ｗ５１２の長さは、背面壁部Ｗ５１０の長さよりも短く形成される。

【１５３３２】

正面壁部Ｗ５２０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って断続的に形成され、本実施形態では、２箇所において非形成とされる。なお、上下方向において背面壁部Ｗ５１０に非形成部が形成される位置は、正面壁部Ｗ５２０に非形成部が形成される位置とは異なる位置とされる。正面壁部Ｗ５２０は、上下方向において非形成とされる側であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設されるリブ部Ｗ５２１と、そのリブ部Ｗ５２１の先端どうしを連結する連結部Ｗ５２２とを主に備える。

【１５３３３】

正面壁部Ｗ５２０の正面は、ボックスベースＷ３００の上側張出部Ｗ３１１の正面と略同一面上またはやや背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、正面壁部Ｗ５２

０の正面が上側張出部Ｗ３１１の正面よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、正面壁部Ｗ５２０が上側張出部Ｗ３１１よりも正面側へ突出した態様で正面壁部Ｗ５２０及び上側張出部Ｗ３１１の間に段差が形成されることを抑制できる。その結果、かかる段差を利用してボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制できる。

【１５３３４】

リブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２は、係合部Ｗ５３０ｂを支持するための部位である。リブ部Ｗ５２１が正面壁部Ｗ５２０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から立設されることにより、正面壁部Ｗ５２０及び係合部Ｗ５３０ａの隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ３２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制できる。

【１５３３５】

リブ部Ｗ５２１の立設長さは、ボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０に対する両端壁部Ｗ３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての突出長さよりも短く形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において、リブ部Ｗ５２１が封印シールＷＳＬに当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。

【１５３３６】

連結部Ｗ５２２は、左方側（矢印Ｌ方向側）におけるリブ部Ｗ５２１どうしを連結して配設され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結部Ｗ５２２の長さは、正面壁部Ｗ５２０の長さよりも短く形成される。

【１５３３７】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、保護カバーＷ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に係合させるための部位である。本実施形態では、保護カバーＷ５００における背面壁部Ｗ５１０側には一つの係合部Ｗ５３０ａが配設され、正面壁部Ｗ５２０側には上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂが配設される。

【１５３３８】

係合部Ｗ５３０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において一対の係合部Ｗ５３０ｂの間に配設される。これにより、上下方向において、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００と保護カバーＷ５００との係合位置を分散させることができ、不正にボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を取り外しにくくできる。

【１５３３９】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側（矢印Ｌ方向側）の端部に形成される複数（本実施形態では、３個）の連結片Ｗ５３１と、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂにおける連結片Ｗ５３１とは反対側（矢印Ｒ方向側）の端部に形成される傾斜部Ｗ５３２と、その傾斜部Ｗ５３２と連結片Ｗ５３１との間に穿設される係合孔Ｗ５３３とを主に備える。

【１５３４０】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、連結片Ｗ５３１を介して背面壁部Ｗ５１０（リブ部Ｗ５１１）又は正面壁部Ｗ５２０（リブ部Ｗ５２１）に連結される。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０よりも背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間側に配設される。その結果、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）が背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）と略同一面上に配設される場合と比較して、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた（係合された）状態では、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）及び封印シールＷＳＬの対向間の距離を小さくできる。

【１５３４１】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部は、正面壁部Ｗ５２０及び背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部よりも右方側へ突出して形成される。係合部Ｗ５３０ａに形成される傾斜部Ｗ５３２及び係合孔Ｗ５３３は、係合部Ｗ５３０ｂに形成される

傾斜部Ｗ５３２及び係合孔Ｗ５３３と形状が異なるものの、本実施形態では、同一の符号を付して説明する。

【１５３４２】

連結片Ｗ５３１のうち、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側（矢印Ｌ方向側）の端部から左方側へ向けて突出される連結片Ｗ５３１を連結片Ｗ５３１ａ、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側における上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端部から上下方向へ向けて突出される一対の連結片Ｗ５３１を連結片Ｗ５３１ｂとそれぞれ定義する。連結片Ｗ５３１ａは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０の連結部Ｗ５１２，Ｗ５２２に支持され、一対の連結片Ｗ５３１ｂは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０のリブ部Ｗ５１１，Ｗ５２１に接合される。

【１５３４３】

連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂは、背面視において略矩形の板状に形成される。板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの厚さ寸法は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂと略同一に形成され、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの正面および背面は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの正面および背面と略同一面上にそれぞれ配設される。即ち、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間には、段差が非形成とされる。これにより、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間に段差が形成される場合と比較して、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間に応力集中が生じることを抑制でき、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの強度を確保できる。

【１５３４４】

連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂにおいて封印シールＷＳＬに対向する面および封印シールＷＳＬに対向する面とは反対側の面を連結する一対の面（以下「連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの側面」と定義する）は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの封印シールＷＳＬに対向する面および封印シールＷＳＬに対向する面とは反対側の面に直交して形成される。なお、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの正面および背面とは、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた（係合された）状態において、封印シールＷＳＬに対し平行に形成される面であり、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面は、封印シールＷＳＬに対し直交して形成される面である。

【１５３４５】

ここで、連結片Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ｂの先端部との間の距離は、連結片Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａの先端部との間の距離よりも大きく形成される。また、上述したように、板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における係合部Ｗ５３０ｂの厚さ寸法は、係合部Ｗ５３０ａの厚さ寸法よりも小さく形成される。これらにより、係合部Ｗ５３０ｂは、係合部Ｗ５３０ａよりも弾性変形し易く形成される。

【１５３４６】

傾斜部Ｗ５３２は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂを弾性変形させ易くするための部位であり、右方側（矢印Ｒ方向側）から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成される。

【１５３４７】

係合孔Ｗ５３３は、ボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１又はボックスベースＷ３００の突起Ｗ３１２ｃを取り囲むための部位である。係合孔Ｗ５３３の内周面と突起Ｗ２２１，Ｗ３１２ｃの右方側（矢印Ｒ方向側）の面とが当接することにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。

【１５３４８】

立設部Ｗ５４０は、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられることを抑制するための部位である。

【１５３４９】

立設部Ｗ５４０は、下壁部Ｗ５０１から上壁部とは反対側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出され、立設部Ｗ５４０の突出長さは、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１と上側張出部Ｗ２１３ａとの間の距離よりも大きく形成される。

【１５３５０】

また、立設部Ｗ５４０は、下側張出部Ｗ２１３ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた場合において、立設部Ｗ５４０と下側張出部Ｗ２１３ｂとが当接することを抑制でき、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられる。

【１５３５１】

一方で、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた場合、立設部Ｗ５４０と上側張出部Ｗ３１１とが当接され、保護カバーＷ５００の右方側への変位が規制される。これにより、保護カバーＷ５００が右方側へ向けて変位され、係合部Ｗ５３０ａとボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３１２ｂとが当接する、又は、係合部Ｗ５３０ｂとボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２とが当接することを抑制できる。その結果、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが破損することを抑制できる。なお、立設部Ｗ５４０は、非形成とされても良い。

【１５３５２】

封印シールＷＳＬは、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制するためのものであり、シート状に形成される。封印シールＷＳＬは、上面視において略コ字状に折り曲げられ、平面部Ｗ２２０、平面部Ｗ３２０及び突出部Ｗ３２４にかけて貼着される。封印シールＷＳＬは、裏面側に接着剤が塗布される接着シートと、表面側に識別情報がプリントされる表示シートとを主に備え、接着シートの表面と表示シートの裏面とが貼着されて形成される。

【１５３５３】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの寸法は、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の対向間の距離よりもやや小さく形成される。封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０、平面部Ｗ３２０及び突出部Ｗ３２４にかけて貼着されることにより、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１側を除いて、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が封印シールＷＳＬにより遮蔽される。従って、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５を視認させ難くでき、不正を行う者が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５を利用して封印シールＷＳＬを容易に切断させ難くできる。

【１５３５４】

接着シートの裏面は、ボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０及びボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０に貼着される部位であり、接着シートと表示シートとの接着力よりも接着シートと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０との接着力が強く形成される。これにより、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０から封印シールＷＳＬを剥がそうとする場合、接着シートと表示シートとの接着が解除され、接着シートから表示シートが分離され、接着シートと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０との接着が維持される。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制し易くできる。

【１５３５５】

表示シートの表面には、識別情報として、複数の数字、パチンコ機Ｗ１０の名称（機種名）、メーカー名、又は、基板情報等が記載される（図示せず）。識別情報は、平面部Ｗ２２０に貼着される位置に記載される。これにより、内枠１２（図１３６９参照）が開放されることにより識別情報が視認可能とされる。その結果、識別情報が平面部Ｗ３２０に貼着される位置に記載される場合と比較して、識別情報を視認するために内枠１２に対し基板ボックスＷ１００を回転させる操作を不要とできる。

【１５３５６】

また、表示シートの表面には、紫外線などといった特定の波長の光が照射されることに

より視認可能となる特殊インキが模様を成して塗布される。
【１５３５７】
封印シールＷＳＬの外周縁は、鋸刃状に形成される。これにより、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０から封印シールＷＳＬを剥がす場合、鋸刃状の凹部に応力集中を生じさせ易くでき、封印シールＷＳＬを分断させ易くできる。その結果、封印シールＷＳＬの少なくとも一部を平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に貼着させた状態に維持させ易くでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制し易くできる。
【１５３５８】
なお、封印シールＷＳＬは、ＩＣチップを備えても良い。ＩＣチップに格納されるＩＤ情報をスキャナーで受信することにより、基板ボックスＷ１００が不正に取り換えられていないかを確認できる。また、不正を試みる者が封印シールＷＳＬを不正に入手することや、封印シールＷＳＬを偽造することを一層困難とできる。
【１５３５９】
次いで、図１４４１及び図１４４２を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００への保護カバーＷ５００の取り付けについて説明する。図１４４１（ａ）及び図１４４１（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図１４４１（ｃ）及び図１４４１（ｄ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。図１４４２（ａ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩａ－ＭＣＤＸＬＩＩａ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図であり、図１４４２（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図である。
【１５３６０】
なお、図１４４１（ａ）及び図１４４１（ｃ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられる前の状態が図示され、図１４４１（ｂ）及び図１４４１（ｄ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた後の状態が図示される。また、図１４４１（ａ）及び図１４４１（ｂ）では、突起Ｗ３１２ｃが破線により図示され、図１４４１（ｃ）及び図１４４１（ｄ）では、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが破線により図示される。また、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗｓ３２８との係合の態様については、一方（上方）及び他方（下方）において同一であるため、一方における断面図を図示して説明し、他方における説明は省略する。
【１５３６１】
図１４４１（ａ）及び図１４４１（ｃ）に示すように、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の位置をボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１及びボックスベースＷ３００の突起Ｗ３１２ｃの位置に合わせた状態から（図１４４０参照）、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる。
【１５３６２】
保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ａの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａとが当接し、係合部Ｗ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとが当接する（図１４４０参照）。係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａ及び突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとが当接された状態から保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される。
【１５３６３】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形されることにより、保護カバーＷ５００を背面側へ向けて回転させ易くできる。これにより、係合部Ｗ５３０ａが背面側（正面側）へ向けて弾性変形され、係合部Ｗ５３０ｂが正面側（背面側）へ向けて弾性変形される場合と比較して、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの弾性変形量を小さくできる。その結果、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの破損を抑制し易くできる

。
【１５３６４】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される状態から続けて保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図１４４１（ｂ）、図１４４１（ｄ）及び図１４４２に示すように、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ２２１が配設され（係合部Ｗ５３０ａと突起Ｗ２２１とが係合され）、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内側に一対の突起Ｗ３１２ｃが配設される（一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗ３１２ｃとが係合される）。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの弾性変形が解除される。
【１５３６５】
以下、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ３１２ｃが配設され、係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ２２１が配設された状態を規制状態と定義する。なお、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗ３１２ｃとの係合の態様については、一方側（上方側）及び他方側（下方側）において同一であるため、一方側における断面のみを図示し、他方側における断面図は省略して説明する。
【１５３６６】
背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離は、ボックスカバーＷ２００の両端壁部Ｗ２２３の背面からボックスベースＷ３００の両端壁部Ｗ３２１の正面までの距離と略同一またはやや大きく形成されるため、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ５００の変位が規制される。これにより、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（突起Ｗ３１２ｃ）との係合が解除されることが抑制される。
【１５３６７】
また、規制状態では、突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａとは反対側（矢印Ｒ方向側）の面と係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側面とが当接し、突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとは反対側（矢印Ｒ方向側）の面と係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内周面とが当接することにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に貼着された封印シールＷＳＬが露出されることを抑制できる。
【１５３６８】
また、規制状態では、背面視において、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される。詳細には、連結片Ｗ５３１ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、凹部Ｗ２２４ａの略中央となる位置に配設され、連結片Ｗ５３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、凹部Ｗ２２４ｂの略中央となる位置に配設される。
【１５３６９】
また、規制状態では、背面壁部Ｗ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗ５２０の右方側の端部がボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接される。また、係合部Ｗ５３０ａの右方側の端部が側壁部Ｗ２１２に当接される。これらにより、保護カバーＷ５００の右方側への変位が規制される。なお、背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部、係合部Ｗ５３０ａの右方側の端部あるいは正面壁部Ｗ５２０の右方側の端部の少なくともいずれか一つがボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２或いはボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接されても良い。
【１５３７０】
ここで、保護カバーＷ５００の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２との間に隙間が形成され、かかる隙間を利用して保護カバーＷ５００の内側へ針金が不正に挿入される虞がある。これにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が不正に解除される虞がある。

【１５３７１】
　これに対し、平面部Ｗ２２０に一対の立設部Ｗ２２２が配設されることにより、保護カバーＷ５００の内側へ針金が不正に挿入された場合であっても、その不正に挿入された針金を一対の立設部Ｗ２２２に当接させることができる。これにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が不正に解除されることを抑制できる。
【１５３７２】
　また、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面は、立設部Ｗ２２２の突出面と略同一面上に配設されるため、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面（立設部Ｗ２２２の突出面）と背面壁部Ｗ５１０の内面とが当接した状態において、立設部Ｗ２２２の突出面（一対の両端壁部Ｗ２２３の正面）と背面壁部Ｗ５１０の内面との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、かかる隙間を利用して針金が不正に挿入され、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が解除されることを抑制できる。
【１５３７３】
　次いで図１４４３から図１４４５を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷ５００の取り外しについて説明する。図１４４３（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図１４４３（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。図１４４４は、図１４４３（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＶ－ＭＣＤＸＬＩＶ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図である。図１４４５（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図１４４５（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。
【１５３７４】
　なお、図１４４３（ａ）及び図１４４３（ｂ）では、保護カバーＷ５００から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断された状態が図示される。また、図１４４５（ａ）及び図１４４５（ｂ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示され、保護カバーＷ５００から切断された係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが二点鎖線により図示される。
【１５３７５】
　また、図１４４４では、係合部Ｗ５３０ａの一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方が図示され、一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方における切断について説明するが、一対の連結片Ｗ５３１ｂの他方および連結片Ｗ５３１ａの切断の態様については、一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方と同一であるため、一対の連結片Ｗ５３１ｂの他方および連結片Ｗ５３１ａの切断の説明は省略する。また、係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの切断については、係合部Ｗ５３０ａの態様と同一であるため、係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの切断の説明は省略する。
【１５３７６】
　図１４４３に示すように、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断工具（図示せず）により切断されることで、保護カバーＷ５００（背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０）から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが分離される。なお、切断工具としては、ニッパ―、ハサミ、カッターナイフ又はナイフ等が例示される。
【１５３７７】
　例えば、切断工具がニッパ―やハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する場合は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面に一対の刃がそれぞれ当接され、一対の側面の対向側へ向けて一対の刃が変位することで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断される。
【１５３７８】
　また、例えば、切断工具がカッターナイフやナイフから構成され、単一の刃を用いて連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する場合は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面の一方に刃を当接させ、一対の側面の他方へ向けて刃が変位することで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断される。
【１５３７９】

上述したように、背面視において、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂは、凹部Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される（図１４４１参照）。即ち、図１４４４に示すように、凹部Ｗ２２４ｂは、封印シールＷＳＬを介して係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ｂと対向して封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、封印シールＷＳＬと凹部Ｗ２２４ｂとの間に空間を形成でき、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ可能とできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５３８０】

即ち、連結片Ｗ５３１ｂが切断された場合に、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成できる。これにより、封印シールＷＳＬの痕跡の有無に基づいて、封印シールＷＳＬの状態（封印シールＷＳＬが新品であるか再利用したものであるか）を確認可能とできる。また、封印シールＷＳＬに痕跡が形成されることで、封印シールＷＳＬが再利用されることを抑制できる。

【１５３８１】

また、連結片Ｗ５３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ２２４ｂの略中央となる位置に配設される。また、連結片Ｗ５３１ｂは、背面視において、凹部Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される（図１４４１参照）。従って、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために切断工具（図示せず）の先端が連結片Ｗ５３１ｂの側面側に配設された状態において、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ易くできる。その結果、連結片Ｗ５３１ｂの切断動作により封印シールＷＳＬが破損させ易くでき、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５３８２】

また、係合部Ｗ５３０ａ（連結片Ｗ５３１ｂ）は、リブ部Ｗ５１１に連結されるため、背面壁部Ｗ５１０と封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）との対向間隔よりも、連結片Ｗ５３１ｂと封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）との対向間隔が小さく形成される。これにより、切断工具の先端を封印シールＷＳＬに近づけることができ、凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ易くできる。その結果、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５３８３】

なお、上述したように、背面視において、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ａは、凹部Ｗ２２４ａに重なる位置に配設される（図１４４１参照）。これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断するのと同様、連結片Ｗ５３１ａを切断するために、背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５３８４】

連結片Ｗ５３１ａは、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂから左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出され、連結片Ｗ５３１ｂは、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂから上下方向へ向けて突出される。これにより、連結片Ｗ５３１ａを切断する場合と連結片Ｗ５３１ｂを切断する場合とで切断工具（図示せず）の向きを変更させる必要が生じる。その結果、不正を行う者が連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断するために要する時間を引き延ばすことができ、不正行為の抑制を図ることができる。

【１５３８５】

図１４４５に示すように、保護カバーＷ５００から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断されることにより、規制状態が解除され、保護カバーＷ５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位可能とされる。

【１５３８６】

このように、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する際に切断工具の先端（図示せず）で封印シールＷＳＬが破損され易くすることで、例えば、不正に連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断され（係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが分離され）保護カバーＷ５００が取り外された後、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが接着剤により接合された保護カバーＷ

５００が取り付けられた状態であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により連結片Ｗ５３１ｂが切断されたこと、即ち、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５３８７】

なお、不正を行う者が連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断されていない状態の保護カバーＷ５００を所持し、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断された保護カバーＷ５００に代えて、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断されていない状態の保護カバーＷ５００を取り付けた状態であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５３８８】

また、不正を行う者が平面部Ｗ２２０（平面部Ｗ３２０）から封印シールＷＳＬを不正に剥がし主制御基板（図示せず）に不正操作を行った後、その剥がした封印シールＷＳＬを平面部Ｗ２２０（平面部Ｗ３２０）に再び貼着することにより封印シールＷＳＬの貼着の解除を作業者（店員）に認識させ難くする場合であっても、不正を行う者による主制御基板への不正操作の虞を封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５３８９】

ここで、保護カバーＷ５００と比較して、不正を試みる者が封印シールＷＳＬを不正に入手することや、封印シールＷＳＬを偽造することは困難である。従って、本実施形態のように、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外す際、封印シールＷＳＬを破損させ易く（痕跡を付与し易く）することで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くすることが特に有効となる。

【１５３９０】

また、基板ボックスＷ１００が内枠１２（図１３６９参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設（軸支）され、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが基板ボックスＷ１００の背面側を構成するボックスカバーＷ２００に形成されるため、内枠１２が開放され内枠１２の背面側が視認可能とされた状態では、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）が視認可能とされる。これにより、例えば、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが基板ボックスＷ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）を構成するボックスベースＷ３００（平面部Ｗ３２０）に凹設され、内枠１２に対し基板ボックスＷ１００を回転させることにより封印シールＷＳＬの破損が視認可能とされる場合と比較して、作業者（店員）に封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を容易に認識させ易くできる。

【１５３９１】

封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が無い場合は、封印シールＷＳＬに不正操作が施されていない可能性が高いと判断できる。一方で、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が有る場合には、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外され、封印シールＷＳＬが剥がされた後に封印シールＷＳＬが再度、貼着された可能性が高いと判断できる。又は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外され、その際に封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が形成されたことにより、不正を試みた可能性が高いと判断できる。

【１５３９２】

次いで、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封について説明する。ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態において、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００と封印シールＷＳＬとの貼着を解除する、又は、ボックスカバーＷ２００（平面部Ｗ２２０）及びボックスベースＷ３００（突出部Ｗ３２４）の境界において、封印シールＷＳＬを切断する。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が開封される。

【１５３９３】

ここで、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が形成され

、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が対向して配設されることにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が組み合わされた状態では、断面視において、略Ｖ字状の空間が封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に形成される。これにより、切断工具の先端を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くでき、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる（図１４４４参照）。また、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を組み合わせることにより、封印シールＷＳＬの貼着面側に空間を容易に形成でき、突出部Ｗ３２４に凹部を形成する場合と比較して、ボックスベースＷ３００の製造コストを低減できる。

【１５３９４】

また、切欠き部Ｗ２２６が側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）から平面部Ｗ２２０の先端側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ３２５とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成され、切欠き部Ｗ３２５が左壁部Ｗ３０２側（矢印Ｒ方向側）から平面部Ｗ３２０の先端側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ２２６とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成されることにより、平面部Ｗ２２０及び突出部Ｗ３２４の境界において、平面部Ｗ２２０及び突出部Ｗ３２４と封印シールＷＳＬとの間に非貼着とされる領域が形成される（図１４４４参照）。その結果、封印シールＷＳＬを切断することにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の係合を解除させ易くできる。

【１５３９５】

次いで、図１４４６（ａ）及び図１４４６（ｂ）を参照して、本発明の第１７実施形態における基板ボックスＷ２１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５３９６】

図１４４６（ａ）は、第１７実施形態における基板ボックスＷ２１００の部分背面図であり、図１４４６（ｂ）は、図１４４６（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩｂ－ＭＣＤＸＬＶＩｂ線における基板ボックスＷ２１００の部分断面図である。なお、図１４４６（ａ）では、ボックスカバーＷ２２００の両端壁部Ｗ２２３及び両端突出部Ｗ２２２３ａが破線により図示され、図１４４６（ｂ）では、保護カバーＷ２５００から係合部Ｗ２５３０ａ，Ｗ２５３０ｂが切断された状態が図示される。

【１５３９７】

図１４４６（ａ）及び図１４４６（ｂ）に示すように、第１７実施形態における基板ボックスＷ２１００の保護カバーＷ２５００では、連結片Ｗ２５３１ｂが背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０に接続される。

【１５３９８】

連結片Ｗ２５３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０の端縁部から前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる垂下部Ｗ２５３１ｃと、その垂下部Ｗ２５３１ｃの先端から上下方向に延びる平行部Ｗ２５３１ｄとを備え、断面視において略Ｌ字状に形成される。また、第１６実施形態における背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０と比較して、背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０の対向間の距離が大きく形成される。

【１５３９９】

ボックスカバーＷ２２００の一対の両端壁部Ｗ２２３は、両端壁部Ｗ２２３から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される両端突出部Ｗ２２２３ａを備え、ボックスベースＷ２３００の一対の両端壁部Ｗ３２１は、両端壁部Ｗ３２１から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される両端突出部Ｗ２３２１ａを備える。

【１５４００】

両端突出部Ｗ２２２３ａの突出長さは、両端壁部Ｗ２２３及び背面壁部Ｗ５１０の対向間の距離と略同等またはやや小さく形成される。また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端突出部Ｗ２２２３ａの長さは、両端壁部Ｗ２２３の略１／３に形成され、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）における両端突出部Ｗ２２２３ａの一端は、側壁部Ｗ２１２に当接して配設される。

【１５４０１】
両端突出部Ｗ２３２１ａの突出長さは、両端壁部Ｗ３２１及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離と略同等またはやや小さく形成される。また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端突出部Ｗ２３２１ａの長さは、両端壁部Ｗ３２１の略１／３に形成され、カバー部Ｗ３１２側（矢印Ｒ方向側）における両端突出部Ｗ２３２１ａの一端は、左壁部Ｗ３１２ｂに当接して配設される（図１４４０参照）。
【１５４０２】
これらにより、規制状態においては、両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）及び背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）が当接することにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ２５００の変位が規制される。その結果、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（突起Ｗ３１２ｃ）との係合が解除されることが抑制される（図１４４２参照）。
【１５４０３】
ボックスカバーＷ２２００及びボックスベースＷ２３００からの保護カバーＷ２５００の取り外しは、連結片Ｗ５３１ａ及び連結片Ｗ２５３１ｂの垂下部Ｗ２５３１ｃが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷ２５００から係合部Ｗ２５３０ａ，Ｗ２５３０ｂが分離されることにより行われる。
【１５４０４】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、保護カバーＷ２５００が両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）よりも側壁部Ｗ２１２（左壁部Ｗ３１２ｂ）とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ変位された状態では、両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）及び背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）が非当接とされ、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ２５００の変位の規制が解除される。
【１５４０５】
ここで、連結片Ｗ２５３１ｂに垂下部Ｗ２５３１ｃが形成されることにより、連結片Ｗ２５３１ｂに垂下部Ｗ２５３１ｃが非形成の場合と比較して、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部と封印シールＷＳＬとの対向間の距離を小さくできる。これにより、切断工具の先端や（図示せず）、連結片Ｗ２５３１ｂの切断部を封印シールＷＳＬに当接させ易くでき、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【１５４０６】
また、垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部を封印シールＷＳＬに対向させることができ、ボックスカバーＷ２２００及びボックスベースＷ２３００から保護カバーＷ２５００を取り外す際、垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。これらにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４０７】
次いで、図１４４６（ｃ）を参照して、本発明の第１８実施形態における保護カバーＷ３５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５４０８】
図１４４６（ｃ）は、第１８実施形態における保護カバーＷ３５００の部分断面図であり、図１４４６（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩｂ－ＭＣＤＸＬＶＩｂ線における断面図に対応する。
【１５４０９】
図１４４６（ｃ）に示すように、第１８実施形態における保護カバーＷ３５００では、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが略同一面上に形成され、連結片Ｗ３５３１ｂを介して背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが連結される。
【１５４１０】
連結片Ｗ３５３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ３５３０ａ，Ｗ

３５３０ｂ、背面壁部Ｗ３５１０及び正面壁部Ｗ３５２０の端縁部から背面壁部Ｗ３５１０及び正面壁部Ｗ３５２０の対向側へ向けて延びる一対の垂下部Ｗ３５３１ｃと、一対の垂下部Ｗ３５３１ｃの先端どうしを連結する平行部Ｗ３５３１ｄとを備え、断面視において略コ字状に形成される。

【１５４１１】

ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷ３５００の取り外しは（図１４４６（ｂ）参照）、連結片Ｗ３５３１ｂの平行部Ｗ３５３１ｄが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷ３５００から係合部Ｗ３５３０ａ，Ｗ３５３０ｂが分離されることにより行われる。

【１５４１２】

背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが略同一面上に形成されることにより、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）との間に段差が形成されることを抑制できる。これにより、保護カバーＷ３５００に指を引っ掛け難くでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制し易くできる。

【１５４１３】

一対の垂下部Ｗ３５３１ｃが形成されることにより、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と封印シールＷＳＬとの対向間隔よりも、連結片Ｗ３５３１ｂと封印シールＷＳＬとの対向間隔が小さく形成される（図１４４６（ｂ）参照）。これにより、切断工具の先端を封印シールＷＳＬに近づけることができ、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５４１４】

次いで、図１４４７を参照して、本発明の第１９実施形態における基板ボックスＷ４１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５４１５】

図１４４７（ａ）は、第１９実施形態における基板ボックスＷ４１００の部分背面図であり、図１４４７（ｂ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｂ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図であり、図１４４７（ｃ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｃ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｃ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図であり、図１４４７（ｄ）は、図１４４７（ａ）のＭＣＤＸＬＶＩＩｄ－ＭＣＤＸＬＶＩＩｄ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図である。

【１５４１６】

図１４４７に示すように、第１９実施形態における基板ボックスＷ４１００の保護カバーＷ４５００は、突起Ｗ４５３４を備える。突起Ｗ４５３４は、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの突出先端において、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて四角錐状に突出して形成される。

【１５４１７】

なお、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂに突起Ｗ４５３４が形成されることにより、平面部Ｗ４２２０（平面部Ｗ４３２０）が突起Ｗ４５３４の突出量だけ正面側（背面側）に形成される。これにより、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００に保護カバーＷ４５００を取り付ける際、突起Ｗ４５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１５４１８】

また、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの突出先端に配設されるため、規制状態において、突起Ｗ４５３４は、封印シールＷＳＬよりも側壁部Ｗ２１２側（カバー部Ｗ３１２側）に配設される。

【１５４１９】

ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００から保護カバーＷ４５００を不正に取り外すために、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂを切断せず、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂを弾性変形させることにより係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）と平面部Ｗ４２２０の突起Ｗ２２１（平面部Ｗ４３２０の突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除することが考えられる。

【１５４２０】

本実施形態では、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて突出して形成されるため、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００の取り外しの際、突起Ｗ４５３４及び封印シールＷＳＬを当接させ易くできる。また、突起Ｗ４５３４が四角錐状に形成されるため、突起Ｗ４５３４及び封印シールＷＳＬが当接することにより、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５４２１】

また、突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬよりも側壁部Ｗ２１２側（カバー部Ｗ３１２側）に配設されるため、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００の取り外しの際、封印シールＷＳＬの貼着面および貼着面に対向する表面を連結する側面に突起Ｗ４５３４を当接させることができる。

【１５４２２】

これにより、封印シールＷＳＬの表面に突起Ｗ４５３４が当接され、突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬの表面を滑りながら（突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬを破損させないまま）ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００が取り外される場合と比較して、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５４２３】

また、突起Ｗ４５３４は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの両端部に一対が形成される。一対の突起Ｗ４５３４により封印シールＷＳＬが破損された場合、係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）と背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）との隙間から封印シールＷＳＬの破損を視認させ易くできる。

【１５４２４】

これらにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５４２５】

また、突起Ｗ４５３４を利用することにより、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００の開封（封印シールＷＳＬの切断）を容易に行うことができる。詳細に説明すると、保護カバーＷ４５００から係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）を分離させ、突起Ｗ４５３４を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させることにより、封印シールＷＳＬを切断し易くできる。

【１５４２６】

これにより、切断工具（図示せず）の携行を不要とできる。また、係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）は、保護カバーＷ４５００に対し小さく形成されるため、一対の両端壁部Ｗ２２３や一対の両端壁部Ｗ３２１との干渉を抑制できるので、封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。その結果、封印シールＷＳＬの切断を好適に行うことができる。

【１５４２７】

次いで、図１４４８（ａ）から図１４４８（ｃ）を参照して、本発明の第２０実施形態における基板ボックスＷ５１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。また、図１４４８（ａ）から図１４４８（ｃ）では、係合孔Ｗ５３３が破線により図示される。また、図１４４８（ａ）から図１４４８（ｃ）の説明においては、図１４４１（ｃ）を適宜参照する。

【１５４２８】

図１４４８（ａ）から図１４４８（ｃ）は、第２０実施形態における基板ボックスＷ５

１００の部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ－ＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ線における断面図に対応する。なお、図１４４８（ａ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷ５５００を取り付けるために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形された状態が図示され、図１４４８（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形され、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された状態が図示され、図１４４８（ｃ）は、図１４４８（ｂ）における状態から保護カバーＷ５５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位された状態が図示される。

【１５４２９】

図１４４８（ａ）から図１４４８（ｃ）に示すように、第２０実施形態における基板ボックスＷ５１００のボックスベースＷ５３００は、凹部Ｗ５３２６を備え、保護カバーＷ５５００は、突起Ｗ５５３４を備える。

【１５４３０】

なお、係合部Ｗ５５３０ｂに突起Ｗ５５３４が形成されることにより、平面部Ｗ５３２０が突起Ｗ５５３４の突出量だけ背面側に形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷ５５００を取り付ける際、突起Ｗ５５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１５４３１】

凹部Ｗ５３２６は、封印シールＷＳＬの貼着面と平面部Ｗ５２２０との間に空間を形成させるための部位であり、平面部Ｗ５３２０の正面に凹設される。凹部Ｗ５３２６は、規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成され、右方側（矢印Ｒ方向側）における凹部Ｗ５３２６の内側面は、突起Ｗ５５３４よりも右方側に配設される。

【１５４３２】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ５３２６の長さは、ボックスベースＷ５３００の突起Ｗ３１２ｃの左右方向における寸法よりも大きく形成され、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで保護カバーＷ５５００が左方側へ向けて変位された状態においても、左方側における凹部Ｗ５３２６の内側面は、突起Ｗ５５３４よりも左方側に配設される。

【１５４３３】

突起Ｗ５５３４は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂを弾性変形させた際、封印シールＷＳＬを破損させるための突起であり、封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される。

【１５４３４】

即ち、突起Ｗ５５３４が箱状に形成される保護カバーＷ５５００の内側へ向けて突出されるため、基板ボックスＷ５１００や保護カバーＷ５５００の製造作業や運搬作業等において、作業者（店員）が突起Ｗ５５３４に接触し、負傷することを抑制できる。

【１５４３５】

突起Ｗ５５３４は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ５５３０ｂの両端側に一対が形成される。これにより、係合部Ｗ５５３０ｂと正面壁部Ｗ５２０との隙間から封印シールＷＳＬの破損を視認させ易くできる（図１４４１（ｃ）参照）。

【１５４３６】

次いで、図１４４８（ｂ）を参照して、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態について説明する。図１４４８（ｂ）に示すように、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるため、係合部Ｗ５５３０ｂが不正に突起Ｗ３１２ｃの突出寸法よりも大きく封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形された状態では、一対の突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ５３２６により形成される空間に配設され、一対の突起Ｗ５５３４により封印シールＷＳＬが破損される。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞が

あることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４３７】
図１４４８（ｃ）は、図１４４８（ｂ）における状態から係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態を維持しつつ保護カバーＷ５５００を左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させ、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側に位置した状態（係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合が解除された状態）が図示される。
【１５４３８】
上述したように、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ５３２６の長さは、突起Ｗ３１２ｃの寸法よりも大きく形成されるため、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで保護カバーＷ５５００が左方側へ向けて変位された状態においても、凹部Ｗ５３２６により形成される空間に一対の突起Ｗ５５３４の先端を配設させることができる。これにより、封印シールＷＳＬが破損される領域を大きくでき、封印シールＷＳＬの破損を作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４３９】
このように、係合部Ｗ５５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断することなく、係合部Ｗ５５３０ｂを弾性変形させて係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させる場合には、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が付与され易くできる。
【１５４４０】
次いで、図１４４８（ｄ）を参照して、本発明の第２１実施形態における基板ボックスＷ６１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。また、図１４４８（ｄ）では、係合孔Ｗ５３３が破線により図示される。
【１５４４１】
図１４４８（ｄ）は、第２１実施形態における基板ボックスＷ６１００の部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ－ＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ線における断面図に対応する。なお、図１４４８（ｄ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形され、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された状態が図示される。
【１５４４２】
図１４４８（ｄ）に示すように、第２１実施形態における基板ボックスＷ６１００のボックスベースＷ６３００は、凹部Ｗ６３２６を備える。凹部Ｗ６３２６は、第２０実施形態における凹部Ｗ５３２６と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹設寸法が短く形成される。なお、本実施形態では、凹部Ｗ６３２６の凹設形状は、保護カバーＷ５５００の突起Ｗ５５３４の外形と略同一に形成される。また、凹部Ｗ６３２６は、規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。
【１５４４３】
これらにより、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態では、突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ６３２６により形成される空間に配設され、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６の内側に当接することにより、保護カバーＷ５５００の左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制される。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【１５４４４】
また、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態では、一対の突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ６３２６により形成される空間に配設され、一対の突起Ｗ５５３４により封印シールＷＳＬが破損される。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４４５】

次いで、図１４４９を参照して、本発明の第２２実施形態における基板ボックスＷ７１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５４４６】

図１４４９（ａ）は、第２２実施形態における基板ボックスＷ７１００の部分背面図であり、図１４４９（ｂ）は、図１４４９（ａ）のＭＣＤＸＬＩＸｂ－ＭＣＤＸＬＩＸｂ線における基板ボックスＷ７１００の部分断面図である。なお、図１４４９（ａ）では、一対の締結孔Ｗ７２２５が破線により図示される。

【１５４４７】

図１４４９に示すように、第２２実施形態における基板ボックスＷ７１００の平面部Ｗ７２２０及び平面部Ｗ７３２０には、一対の締結孔Ｗ７２２５及び一対の締結孔Ｗ７３２２が保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。即ち、一対の締結孔Ｗ７３２２は、封印シールＷＳＬを介して係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ｂと対向して封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて穿設される。

【１５４４８】

締結孔Ｗ７３２２は、背面視において、円状に形成され、締結孔Ｗ７３２２の直径は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも大きく形成される。

【１５４４９】

これらにより、ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結させるねじと封印シールＷＳＬとの間に空間を形成でき、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端を締結孔Ｗ７３２２に受け入れ可能とできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くでき、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５４５０】

締結孔Ｗ７３２２を利用して（切断工具の先端を締結孔Ｗ７３２２に受け入れ可能として）ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじに対応する位置に封印シールＷＳＬの痕跡（破損）が形成されるため、封印シールＷＳＬによりボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじが遮蔽される場合であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）に基づいてかかるねじの位置を把握できる。これにより、ねじの締結を解除する作業の作業性を向上できる。

【１５４５１】

また、ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじを挿通させるための機能と、切断工具の先端（図示せず）を配設させるための空間を形成するための機能とを一対の締結孔Ｗ７２２５に兼用させることができる。これにより、平面部Ｗ７２２０に凹部Ｗ２２４ｂ（図１４４０参照）を形成することを抑制でき、製造コストを低減できる。

【１５４５２】

次いで、図１４５０（ａ）を参照して、本発明の第２３実施形態における保護カバーＷ８５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５４５３】

図１４５０（ａ）は、第２３実施形態における基板ボックスＷ８１００の部分断面図であり、図１４４４（ａ）のＬＸＸＸＩＩａ部における断面に対応する。

【１５４５４】

図１４５０（ａ）に示すように、第２３実施形態における保護カバーＷ８５００の連結片Ｗ８５３１ｂは、断面視において平行四辺形に形成される。本実施形態では、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成される。

【１５４５５】
詳細には、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｂ方向側）から封印シールＷＳＬ側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて右方側（矢印Ｒ方向側）に傾斜して形成される。なお、封印シールＷＳＬとは反対側から封印シールＷＳＬ側へ向かうにつれて左方側（矢印Ｌ方向側）に傾斜して形成されても良い。
【１５４５６】
これにより、切断工具（図示せず）を用いて連結片Ｗ８５３１ｂを切断する際、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｂ方向側）から封印シールＷＳＬ側（矢印Ｆ方向側）へ向かう方向に対し右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて切断工具の先端を回転させ易くできる。その結果、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ可能とでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。従って、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４５７】
次いで、図１４５０（ｂ）及び図１４５０（ｃ）を参照して、本発明の第２４実施形態における保護カバーＷ９５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５４５８】
図１４５０（ｂ）は、第２４実施形態における基板ボックスＷ９１００の部分背面図であり、図１４５０（ｃ）は、図１４５０（ｂ）のＭＣＤＬｃ－ＭＣＤＬｃ線における基板ボックスＷ９１００の部分断面図である。
【１５４５９】
図１４５０（ｂ）及び図１４５０（ｃ）に示すように、第２４実施形態における保護カバーＷ９５００の連結片Ｗ９５３１ｂは、断面視において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延び縦長略矩形に形成される第１部Ｗ９５３１ｂ１と、その第１部Ｗ９５３１ｂ１の係合部Ｗ５３０ａ及びリブ部Ｗ５１１（連結部Ｗ５１２）側の端部に配設され、リブ部Ｗ５１１（連結部Ｗ５１２）の延びる方向に沿って延び、断面視において、横長略矩形に形成される第２部Ｗ９５３１ｂ２とを備える。
【１５４６０】
第１部Ｗ９５３１ｂ１は、第２部Ｗ９５３１ｂ２の延びる方向における略中央に配設される。第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の封印シールＷＳＬとは反対側に形成される面は、略同一面上に配設され、第１部Ｗ９５３１ｂ１と封印シールＷＳＬとの間の対向間隔よりも第２部Ｗ９５３１ｂ２と封印シールＷＳＬとの間の対向間隔が小さくされる。
【１５４６１】
これにより、切断工具（図示せず）により第１部Ｗ９５３１ｂ１を切断する際、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂにより形成される空間に受け入れさせ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。従って、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５４６２】
また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第１部Ｗ９５３１ｂ１は、第２部Ｗ９５３１ｂ２よりも小さく形成される。これにより、第２部Ｗ９５３１ｂ２よりも第１部Ｗ９５３１ｂ１を切断し易くできる。
【１５４６３】
なお、断面視において、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面積は、略同一に形成される。これにより、保護カバーＷ９５００を樹脂金型により成形する際には、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面積の相違を抑制でき、保護カバーＷ９５００（連結片Ｗ９５３１ｂ）の成形性を確保できる。
【１５４６４】
次いで、図１４５１を参照して、本発明の第２５実施形態における基板ボックスＷａ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して

その説明を省略する。

【１５４６５】

図１４５１（ａ）及び図１４５１（ｃ）は、第２５実施形態における基板ボックスＷａ１００の部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における断面に対応する。図１４５１（ｂ）は、図１４５１（ａ）のＭＣＤＬＩｂ－ＭＣＤＬＩｂ線における基板ボックスＷａ１００の部分断面図である。なお、図１４５１（ｃ）は、図１４５１（ａ）における状態から保護カバーＷａ５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位された状態が図示される。また、図１４５１の説明においては、図１４４１を適宜参照する。

【１５４６６】

図１４５１（ａ）及び図１４５１（ｂ）に示すように、第２５実施形態における基板ボックスＷａ１００の保護カバーＷａ５００は、その保護カバーＷａ５００の左壁部Ｗ５０２の内側面から突出される切断部Ｗａ５５０を備える。切断部Ｗａ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位である。

【１５４６７】

切断部Ｗａ５５０が左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されることにより、保護カバーＷａ５００（の左壁部Ｗ５０２）の強度を向上できる。これにより、保護カバーＷａ５００を破損させ難くできる。

【１５４６８】

切断部Ｗａ５５０の突出量は、規制状態における左壁部Ｗ５０２と封印シールＷＳＬとの対向間の距離よりも小さく形成される。これにより、規制状態において、切断部Ｗａ５５０が封印シールＷＳＬを切断することを抑制できる。

【１５４６９】

切断部Ｗａ５５０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に形成される切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における切断部Ｗａ５５０の寸法は、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の対向間の距離よりもやや小さく形成され、上下方向における封印シールＷＳＬの両端の間の距離よりも大きく形成される。

【１５４７０】

また、切断部Ｗａ５５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の略中央から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ偏った位置に配設される。これにより、例えば、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた場合、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設されることを抑制できる。従って、切断部Ｗａ５５０の機能を奏することを抑制できる。

【１５４７１】

切断部Ｗａ５５０は、保護カバーＷａ５００の内側面から切断部Ｗａ５５０の突出先端側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が小さく形成される。また、切断部Ｗａ５５０の突出先端側（矢印Ｒ方向側）は、図１４５１（ｂ）に示す断面視において、鋸刃状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に屈曲を繰り返して形成される。これらにより、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に形成される空間へ向けて切断部Ｗａ５５０が変位されることで、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５４７２】

図１４５１（ａ）に示すように、保護カバーＷａ５００の背面壁部Ｗａ５１０及び正面壁部Ｗａ５２０は、第１６実施形態における保護カバーＷ５００の背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が小さく形成される。これにより、規制状態において、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２との間には隙間が形成される（図１４４

１（ｂ）及び図１４４１（ｄ）参照）。かかる隙間は、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状において、封印シールＷＳＬとは反対側に形成される凹部と封印シールＷＳＬとの間の距離よりも大きく形成される。

【１５４７３】

一方で、係合部Ｗ５３０ａの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部がボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２に当接される。これにより、保護カバーＷａ５００の右方側への変位が規制され、規制状態が維持される。なお、係合部Ｗ５３０ｂの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部がボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接されることにより（図１４４２参照）、保護カバーＷａ５００の右方側への変位が規制されても良い。

【１５４７４】

次いで、図１４５１（ｃ）を参照して、切断部Ｗａ５５０による封印シールＷＳＬの切断について説明する。図１４５１（ｃ）に示すように、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断されることにより（図１４４３参照）、保護カバーＷａ５００は、封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側、図１４３６参照）へ向けて変位可能とされる。保護カバーＷａ５００を封印ユニットＷ４００側へ向けて変位させることにより、切断部Ｗａ５５０は、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れ可能とされ、切断部Ｗａ５５０により封印シールＷＳＬが切断される。

【１５４７５】

ここで、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１と背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０とが当接されることにより、保護カバーＷａ５００が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位されることを抑制できる。従って、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向された状態を維持でき、切断部Ｗａ５５０による封印シールＷＳＬの切断が容易とされる。

【１５４７６】

本実施形態では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷａ５００を取り外すために係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂを切断する作業と保護カバーＷａ５００を封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側、図１４３６参照）へ向けて変位可能とさせる作業とを別々に行う必要がなく、一連の作業として効率的に行うことができる。

【１５４７７】

上述したように、規制状態において、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２との間に形成される隙間は、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状において、封印シールＷＳＬとは反対側に形成される凹部と封印シールＷＳＬとの間の距離よりも大きく形成されるため、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状の全体を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる。これにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの両端の間において封印シールＷＳＬが切断され、封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離される。

【１５４７８】

また、保護カバーＷａ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２とが当接される（図１４４２参照）。これにより、保護カバーＷａ５００の右方側へ向けての変位が規制される。

【１５４７９】

なお、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に当接されることにより、保護カバーＷａ５００の右方側へ向けての変位が規制されても良い。この場合、切断部Ｗａ５５０により切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に封印シールＷＳＬを貼着させることができる。言い換えると、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５から封印シールＷＳＬを剥がしにくくできる

。これにより、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５から封印シールＷＳＬを剥がす際、封印シールＷＳＬを破損させ易くでき、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５４８０】

本実施形態では、保護カバーＷａ５００を側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより封印シールＷＳＬを容易に切断できる。これにより、例えば、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【１５４８１】

切断部Ｗａ５５０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に形成される切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設されるため、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、切断部Ｗａ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。

【１５４８２】

切断部Ｗａ５５０は、左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されるため、箱状に形成される保護カバーＷａ５００から露出されることを抑制できる。これにより、封印シールＷＳＬの切断作業、基板ボックスＷａ１００や保護カバーＷａ５００の製造作業や運搬作業等において、作業者（店員）が切断部Ｗａ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。

【１５４８３】

また、切断部Ｗａ５５０は、左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されるため、切断部Ｗａ５５０は、保護カバーＷａ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷａ５００は、切断部Ｗａ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷａ５００を把持することにより切断部Ｗａ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【１５４８４】

保護カバーＷａ５００（切断部Ｗａ５５０）は、樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形されるため、例えば、金属材料を用いて鋭利に形成される切断工具と比較して封印シールＷＳＬの切断性が低い。これに対し、封印シールＷＳＬの貼着面側に切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５による空間が形成されるため、切断部Ｗａ５５０の切断性が低い場合であっても、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５４８５】

次いで、図１４５２及び図１４５３を参照して、本発明の第２６実施形態における基板ボックスＷｂ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５４８６】

図１４５２（ａ）は、第２６実施形態における基板ボックスＷｂ１００の保護カバーＷｂ５００の正面図であり、図１４５２（ｂ）は、図１４５２（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＩｂ方向視における保護カバーＷｂ５００の側面図であり、図１４５２（ｃ）は、図１４５２（ｂ）の矢印ＭＣＤＬＩＩｃ方向視における保護カバーＷｂ５００の背面図である。図１４５３（ａ）は、基板ボックスＷｂ１００の背面図であり、図１４５３（ｂ）は、図１４５３（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＩＩｂ方向視における基板ボックスＷｂ１００の側面図であり、図１４５３（ｃ）は、図１４５３（ｂ）のＭＣＤＬＩＩＩｃ－ＭＣＤＬＩＩＩｃ線における基板ボックスＷｂ１００の部分断面図である。

【１５４８７】

なお、図１４５２及び図１４５３では、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが保護カバーＷｂ５００から切断された状態が図示される。また、図１４５２では、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが二点鎖線により図示され、図１４５３（ｂ）では、切断部Ｗｂ５５０及びガイド部Ｗｂ５６０が破線により図示される。また、保護カバーＷｂ５００から係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが切断されることにより、保護カバーＷｂ５００に形成される空間をそれぞれ空間ＷＳ１，ＷＳ２と定義する。

【１５４８８】
図１４５２に示すように、第２６実施形態における基板ボックスＷｂ１００の保護カバーＷｂ５００は、背面壁部Ｗ５１０に連結される係合部Ｗｂ５３０ａ及び切断部Ｗｂ５５０と、正面壁部Ｗ５２０に連結される係合部Ｗｂ５３０ｂ及びガイド部Ｗｂ５６０とをを備える。
【１５４８９】
係合部Ｗｂ５３０ａは、逃がし部Ｗｂ５３４ａを備える。逃がし部Ｗｂ５３４ａは、係合部Ｗｂ５３０ａと切断部Ｗｂ５５０との当接を抑制するための部位であり、背面視において、切断部Ｗｂ５５０に重なる位置において係合部Ｗｂ５３０ａの上面から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて凹設される。
【１５４９０】
逃がし部Ｗｂ５３４ａの底面（下方側に形成される面）は、後述する切断部Ｗｂ５５０の刃部Ｗｂ５５２よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における逃がし部Ｗｂ５３４ａの側面は、後述する切断部Ｗｂ５５０の支持部Ｗｂ５５１及び刃部Ｗｂ５５２よりも左右方向両端側に形成される。これにより、係合部Ｗｂ５３０ａと切断部Ｗｂ５５０との当接が抑制される。
【１５４９１】
係合部Ｗｂ５３０ａが切断される前の状態において、逃がし部Ｗｂ５３４ａは、切断部Ｗｂ５５０を取り囲んで形成される。これにより、作業者（店員）が切断部Ｗａ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。
【１５４９２】
切断部Ｗｂ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位であり、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５１１から係合部Ｗｂ５３０ａ側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出される支持部Ｗｂ５５１と、その支持部Ｗｂ５５１の突出先端部から係合部Ｗｂ５３０ａの先端側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出される刃部Ｗｂ５５２とを備える。
【１５４９３】
支持部Ｗｂ５５１は、リブ部Ｗ５１１と刃部Ｗｂ５５２との間に所定の間隔を設けて刃部Ｗｂ５５２を支持するための部位である。刃部Ｗｂ５５２は、支持部Ｗｂ５５１に支持され円柱状に形成される基部とその基部の突出先端部において、円錐状に形成される先端部とを備える。先端部が円錐状に形成されることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【１５４９４】
なお、切断部Ｗｂ５５０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５１１から係合部Ｗｂ５３０ａ側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出され、逃がし部Ｗｂ５３４ａは、係合部Ｗｂ５３０ａの下面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて凹設されても良い。
【１５４９５】
係合部Ｗｂ５３０ｂは、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２に連結され、逃がし部Ｗｂ５３４ｂを備える。逃がし部Ｗｂ５３４ｂは、係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接を抑制するための部位であり、正面視において、ガイド部Ｗｂ５６０に重なる位置において係合部Ｗｂ５３０ｂの下面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて凹設される。
【１５４９６】
逃がし部Ｗｂ５３４ｂの底面（上方側に形成される面）は、ガイド部Ｗｂ５６０の突出先端部よりも上方側（矢印Ｕ方向側）に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における逃がし部Ｗｂ５３４ｂの側面は、ガイド部Ｗｂ５６０の左右方向における側面よりも左右方向両端側に形成される。これにより、係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接が抑制される。
【１５４９７】
また、逃がし部Ｗｂ５３４ｂが形成されることにより、係合部Ｗｂ５３０ｂが保護カバーＷｂ５００から分離された状態では、係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除

させるため（図１４４１参照）、係合部Ｗｂ５３０ｂを変位させる際の係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接を抑制させ易くでき、ボックスベースＷｂ３００からの係合部Ｗｂ５３０ｂの取り外しを容易とできる。

【１５４９８】

ガイド部Ｗｂ５６０は、切断部Ｗｂ５５０により封印シールＷＳＬを切断する際、保護カバーＷｂ５００の姿勢を維持させるための部位であり、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１のうちの下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５２１から上方側へ向けて突出される。ガイド部Ｗｂ５６０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、切断部Ｗｂ５５０の刃部Ｗｂ５５２先端部よりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される。

【１５４９９】

なお、ガイド部Ｗｂ５６０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１のうちの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５２１から下方側へ向けて突出され、係合部Ｗｂ５３０ｂは、逃がし部Ｗｂ５３４ｂは、下方側に配設される一対のリブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２に連結される係合部Ｗｂ５３０ｂの上面から下方側へ向けて凹設されても良い。

【１５５００】

次いで、図１４５３を参照して、保護カバーＷｂ５００（切断部Ｗｂ５５０）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、本実施形態では、ボックスベースＷｂ３００の突出部Ｗｂ３２４の突出長さが第１６実施形態における突出部Ｗ３２４の突出長さよりも小さく形成され、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の対向する側の面とは反対側の面どうしの間隔が小さく形成される。また、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０には、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１（図１４４０参照）が非形成とされる。

【１５５０１】

図１４５３は、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが切断されて空間ＷＳ１，ＷＳ２が形成された保護カバーＷｂ５００を矢印ＭＣＤＬＩＩＩｂ方向視において、反時計回りに回転させ、空間ＷＳ１，ＷＳ２に平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０が配設され、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に刃部Ｗｂ５５２が配設された状態が図示される。

【１５５０２】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｂ５００は、切断部Ｗｂ５５０を備えるため、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷｂ２００及びボックスベースＷｂ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【１５５０３】

切断部Ｗｂ５５０は、空間ＷＳ１に配設されることにより、視認可能とされる。これにより、切断部Ｗｂ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設し易くでき、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５０４】

また、空間ＷＳ２に平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０が配設されることにより、ガイド部Ｗｂ５６０と突出部Ｗ３２４とを当接させることができる。これにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回転軸として保護カバーＷｂ５００が回転されることを抑制でき、切断部Ｗｂ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設し易くできる。

【１５５０５】

切断部Ｗｂ５５０は、保護カバーＷｂ５００のリブ部Ｗ５１１から突出されるため、切断部Ｗｂ５５０は、保護カバーＷｂ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷｂ５００は、切断部Ｗｂ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷｂ５００を把持することにより切断部Ｗｂ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【１５５０６】

次いで、図１４５４を参照して、本発明の第２７実施形態における基板ボックスＷｃ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５５０７】

図１４５４（ａ）は、第２７実施形態における基板ボックスＷｃ１００の保護カバーＷｃ５００の側面図であり、図１４５４（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスＷｃ１００の部分断面図である。なお、図１４５４（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｃ５００を用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。

【１５５０８】

図１４５４（ａ）に示すように、第２７実施形態における基板ボックスＷｃ１００の保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０を備える。切断部Ｗｃ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位であり、立設部Ｗｃ５４０の下方側（矢印Ｄ方向側）の端部において背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。

【１５５０９】

保護カバーＷｃ５００の下壁部Ｗ５０１に対する立設部Ｗｃ５４０の下壁部Ｗ５０１とは反対側（矢印Ｄ方向側）への立設長さは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される。

【１５５１０】

次いで、図１４５４（ｂ）を参照して、保護カバーＷｃ５００（切断部Ｗｃ５５０）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図１４５４（ｂ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から取り外された保護カバーＷｃ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、切断部Ｗｃ５５０（立設部Ｗｃ５４０）が左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かう姿勢とされる。

【１５５１１】

保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０を備えるため、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【１５５１２】

上述したように、下壁部Ｗ５０１に対する立設部Ｗｃ５４０の下壁部Ｗ５０１とは反対側（矢印Ｄ方向側）への立設長さは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して下壁部Ｗ５０１を平面部Ｗ２２０に当接させることにより、切断部Ｗｃ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、切断部Ｗｃ５５０の位置と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【１５５１３】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、切断部Ｗｃ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。下壁部Ｗ５０１と平面部Ｗ２２０との当接を維持しつつ、保護カバーＷｃ５００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５１４】

切断部Ｗｃ５５０は、保護カバーＷｃ５００の立設部Ｗｃ５４０から突出されるため、切断部Ｗｃ５５０は、保護カバーＷｃ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷｃ５００を把持することにより切断部Ｗｃ５５０を用いて

封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。
【１５５１５】
次いで、図１４５５を参照して、本発明の第２８実施形態における基板ボックスＷｄ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５５１６】
図１４５５（ａ）は、第２８実施形態における基板ボックスＷｄ１００の保護カバーＷｄ５００の正面図であり、図１４５５（ｂ）は、図１４５５（ａ）の矢印ＭＣＤＬＶｂ方向視における保護カバーＷｄ５００の側面図であり、図１４５５（ｃ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスＷｄ１００の部分断面図である。なお、図１４５５（ｂ）は、切断された係合部Ｗｄ５３０ａが立設部Ｗｄ５４０に取り付けられた状態が図示され、図１４５５（ｃ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｄ５００を用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。
【１５５１７】
図１４５５（ａ）及び図１４５５（ｂ）に示すように、第２８実施形態における基板ボックスＷｄ１００の保護カバーＷｄ５００は、ガイド部Ｗｄ５６０を備える。立設部Ｗｄ５４０は、左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、下壁部Ｗ５０１の略中央となる位置に配設される。
【１５５１８】
左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法は、下壁部Ｗ５０１の板厚方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗｄ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の寸法と略同一またはやや小さく形成される。また、背面壁部Ｗ５１０と正面壁部Ｗ５２０との対向方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法は、左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合孔Ｗ５３３の内側面どうしの寸法と略同一またはやや小さく形成される。これらにより、図１４５５（ｂ）に示すように、立設部Ｗｄ５４０を係合孔Ｗ５３３に嵌合（係合）でき、保護カバーＷｄ５００から切断された係合部Ｗｄ５３０ａを保護カバーＷｄ５００に取り付ける（保持する）ことができる。
【１５５１９】
なお、左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法が下壁部Ｗ５０１の板厚方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗｄ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の寸法よりもやや大きく形成され、背面壁部Ｗ５１０と正面壁部Ｗ５２０との対向方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法が左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合孔Ｗ５３３の内側面どうしの寸法よりもやや大きく形成されても良い。立設部Ｗｄ５４０を弾性変形させつつ立設部Ｗｄ５４０と係合孔Ｗ５３３とが係合されることにより、保護カバーＷｄ５００から係合部Ｗｄ５３０ａが外れることを抑制できる。また、保護カバーＷｄ５００に係合部Ｗｄ５３０ａが取り付けられた状態において、保護カバーＷｄ５００に対する係合部Ｗｄ５３０ａの姿勢が変化させることを抑制できる。その結果、係合部Ｗｄ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断することを容易に行える。
【１５５２０】
立設部Ｗｄ５４０に正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００がボックスカバーＷｂ２００及びボックスベースＷｂ３００に取り付けられることを抑制する機能と係合部Ｗｄ５３０ａを取り付ける（保持する）機能とを兼用させることができ、これらの機能を備えた部位がそれぞれ保護カバーＷｄ５００に配設される場合と比較して保護カバーＷｄ５００の製造コストを低減できる。また、係合部Ｗｄ５３０ａの取り付け部（保持部）を簡素化できる。また、保護カバーＷｄ５００の外面に配設される部位を低減させることができ、保護カバーＷｄ５００の配設の自由度を向上させることができる。
【１５５２１】
背面壁部Ｗ５１０には連結部Ｗ５１２が非形成とされ（図１４４０参照）、係合部Ｗｄ

５３０ａの連結片Ｗ５３１ａが左壁部Ｗ５０２に連結される。また、連結部Ｗ５１２が非形成とされることにより、第１６実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して（図１４４１参照）、左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合部Ｗｄ５３０ａの寸法が大きく形成される。本実施形態では、連結片Ｗ５３１ａ側（矢印Ｌ方向側）における係合孔Ｗ５３３の内側面と連結片Ｗ５３１ａと間の距離が、正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）における立設部Ｗｄ５４０の正面と背面壁部Ｗ５１０とは反対側に形成される正面壁部Ｗ５２０の正面との間の距離よりも大きく形成される。

【１５５２２】

これにより、係合部Ｗｄ５３０ａを保護カバーＷｄ５００に取り付けた状態において、連結片Ｗ５３１ａの切断面を正面壁部Ｗ５２０よりも背面壁部Ｗ５１０とは反対側へ配設できる。

【１５５２３】

ガイド部Ｗｄ５６０は、保護カバーＷｄ５００（係合部Ｗｄ５３０ａ）を用いて封印シールＷＳＬを切断する際、平面部Ｗ２２０の切欠き部Ｗ２２６及び平面部Ｗ３２０の切欠き部Ｗ３２５により形成される空間に係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａを配設させ易くするための部位である。ガイド部Ｗｄ５６０は、板状に形成され、そのガイド部Ｗｄ５６０の板厚方向を左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿わせた姿勢で配設される。

【１５５２４】

ガイド部Ｗｄ５６０における下壁部Ｗ５０１側（矢印Ｄ方向側）に形成されるガイド面Ｗｄ５６１と下壁部Ｗ５０１の外側面との間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図１４５５（ｃ）参照）。

【１５５２５】

次いで、図１４５５（ｃ）を参照して、保護カバーＷｄ５００（係合部Ｗｄ５３０ａ）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図１４５５（ｃ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｄ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において正面壁部Ｗ５２０がボックスベースＷ３００の突出部Ｗ３２４に対向した姿勢とされる。

【１５５２６】

上述したように、ガイド部Ｗｄ５６０における下壁部Ｗ５０１側（矢印Ｄ方向側）に形成されるガイド面Ｗｄ５６１と下壁部Ｗ５０１の外側面との間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介してガイド部Ｗｄ５６０のガイド面Ｗｄ５６１を平面部Ｗ３２０の正面に当接させることにより、切断された係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａを切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、連結片Ｗ５３１ａの位置と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【１５５２７】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、連結片Ｗ５３１ａを切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。ガイド面Ｗｄ５６１と平面部Ｗ３２０の正面との当接を維持しつつ、保護カバーＷｄ５００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５２８】

保護カバーＷｄ５００は、係合部Ｗｄ５３０ａよりも大きく形成されるため、作業者（店員）は、保護カバーＷｄ５００を把持することにより係合部Ｗｄ５３０ａ（連結片Ｗ５３１ａ）を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【１５５２９】

次いで、図１４５６（ａ）及び図１４５６（ｂ）を参照して、本発明の第２９実施形態における基板ボックスＷｅ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５５３０】

図１４５６（ａ）は、第２９実施形態における基板ボックスＷｅ１００の保護カバーＷｅ５００の部分背面図であり、図１４５６（ｂ）は、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線における基板ボックスＷｅ１００の部分断面図である。なお、図１４５６（ｂ）は、切断された係合部Ｗｄ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。

【１５５３１】

図１４５６（ａ）に示すように、第２９実施形態における基板ボックスＷｅ１００の保護カバーＷｅ５００は、連結片Ｗ５３１ｂが非形成とされ（図１４４０参照）、係合部Ｗｅ５３０ａと連結部Ｗ５１２と連結する一対の連結片Ｗｅ５３１ａを備える。

【１５５３２】

係合部Ｗｅ５３０ａと連結部Ｗ５１２との間の距離、即ち、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設長さは、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の凹設深さよりも短く形成される。

【１５５３３】

切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５は、平面部ｅ２２０及び突出部Ｗｅ３２４の対向面とは反対側へ向けてそれぞれ凹設して形成され、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間は、断面視において、略コ字状に形成される。切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の対向間の距離は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの幅寸法と略同等またはやや大きく形成される。これにより、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に切断された一対の連結片Ｗｅ５３１ａを受け入れ可能とできる。

【１５５３４】

また、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けての切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の切欠き寸法は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設寸法よりもやや大きく形成される。

【１５５３５】

一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図１４５６（ｂ）参照）。

【１５５３６】

次いで、図１４５６（ｂ）を参照して、係合部Ｗｅ５３０ａによる封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図１４５６（ｂ）では、保護カバーＷｅ５００から分離された係合部Ｗｅ５３０ａの姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において係合部Ｗｅ５３０ａの一対の連結片Ｗｅ５３１ａがボックスベースＷｅ３００の突出部Ｗｅ３２４に対向した姿勢とされる。

【１５５３７】

上述したように、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方の位置と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【１５５３８】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５が遮蔽された状

態であっても、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる（配設できる）。一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面と平面部Ｗｅ３２０の正面との当接を維持しつつ、係合部Ｗｅ５３０ａを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５３９】

また、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けての切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の切欠き寸法は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設寸法よりもやや大きく形成されることにより、切断された一対の連結片Ｗｅ５３１ａの切断側の端部が側壁部Ｗ２１２側における切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の底面と当接することを抑制でき、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の破損を抑制できる。

【１５５４０】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｅ５００に対し小さく形成される係合部Ｗｅ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断できるので、係合部Ｗｅ５３０ａと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１（図１４４０参照）との干渉を抑制して、封印シールＷＳＬの切断を容易に行うことができる。

【１５５４１】

また、一対の連結片Ｗｅ５３１ａが保護カバーＷｅ５００に連結される状態（一対の連結片Ｗｅ５３１ａが切断される前の状態）では、一対の連結片Ｗｅ５３１ａには切断部が非形成とされるため、作業者（店員）が一対の連結片Ｗｅ５３１ａの切断部に接触し、負傷することを抑制できる。

【１５５４２】

次いで、図１４５６（ｃ）及び図１４５６（ｄ）を参照して、本発明の第３０実施形態における保護カバーＷｆ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５５４３】

図１４５６（ｃ）は、第３０実施形態における保護カバーＷｆ５００の部分背面図であり、図１４５６（ｄ）は、図１４５６（ｃ）のＭＣＤＬＶＩｄ－ＭＣＤＬＶＩｄ線における保護カバーＷｆ５００の部分断面図である。

【１５５４４】

図１４５６（ｃ）及び図１４５６（ｄ）に示すように、第３０実施形態における保護カバーＷｆ５００の係合部Ｗｆ５３０ａは、切断部Ｗｆ５５０を備える。

【１５５４５】

係合部Ｗｆ５３０ａは、第１６実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して（図１４４１参照）、連結片Ｗ５３１ｂが連結部Ｗ５１２と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて所定の距離だけ変位されて配設され、連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側）における係合部Ｗｆ５３０ａの端部に切断部Ｗｆ５５０が形成される。なお、切断部Ｗｆ５５０は、一対のリブ部Ｗ５１１に対向して一対形成される。

【１５５４６】

切断部Ｗｆ５５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗｆ５３０ａの中央側から両端側へ向かうにつれて板厚方向における寸法が小さく形成される。即ち、切断部Ｗｆ５５０の先端部は、鋭利に形成される。これにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５４７】

一方で、切断部Ｗｆ５５０は、一対の連結片Ｗ５３１ｂよりも連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側、係合孔Ｗ５３３とは反対側）に配設されるため、係合孔Ｗ５３３とボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１との係合に影響を与えない（図１４４２参照）。言い換えると、切断部Ｗｆ５５０が形成されることにより、係合部Ｗｆ５３０ａの弾性が小さくされることを抑制できる。

【１５５４８】
従って、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００（図１４４１参照）に保護カバーＷｆ５００を取り付けるための係合力が、切断部Ｗｆ５５０の形成により低下されることを抑制できる。
【１５５４９】
また、切断部Ｗｆ５５０は、リブ部Ｗ５１１及び連結部Ｗ５１２に対向して配設される。これにより、保護カバーＷｆ５００から係合部Ｗｆ５３０ａが分離される前の状態において、作業者（店員）が切断部Ｗｆ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。
【１５５５０】
次いで、図１４５７（ａ）及び図１４５７（ｂ）を参照して、本発明の第３１実施形態における保護カバーＷｇ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５５５１】
図１４５７（ａ）は、第３１実施形態における保護カバーＷｇ５００の部分背面図であり、図１４５７（ｂ）は、図１４５７（ａ）のＭＣＤＬＶＩＩｂ－ＭＣＤＬＶＩＩｂ線における保護カバーＷｇ５００の部分断面図である。
【１５５５２】
図１４５７（ａ）及び図１４５７（ｂ）に示すように、第３１実施形態における保護カバーＷｇ５００は、連結片Ｗ５３１ｂが非形成とされ（図１４４０参照）、係合部Ｗｇ５３０ａと連結部Ｗ５１２と連結する一対の連結片Ｗｇ５３１ａを備える。
【１５５５３】
一対の連結片Ｗｇ５３１ａは、連結部Ｗ５１２側および係合部Ｗｇ５３０ａ側からその連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間へ向かうにつれて図１４５７（ｂ）に示す断面視において断面積が小さく形成される。言い換えると、一対の連結片Ｗｇ５３１ａは、連結部Ｗ５１２側および係合部Ｗｇ５３０ａ側からその連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間へ向けて一対の四角錐台が連結された形状に形成される。
【１５５５４】
これにより、保護カバーＷｇ５００から係合部Ｗｇ５３０ａを分離させる際、一対の連結片Ｗｇ５３１ａを切断し易くできる。また、一対の連結片Ｗｇ５３１ａの切断面は、連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間において図１４５７（ｂ）に示す断面積が一定に形成される場合と比較して小さく形成されるので、一対の連結片Ｗｇ５３１ａの切断部が鋭利に形成される。その結果、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【１５５５５】
次いで、図１４５７（ｃ）を参照して、本発明の第３２実施形態における基板ボックスＷｈ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５５５６】
図１４５７（ｃ）は、第３２実施形態における基板ボックスＷｈ１００の部分背面図である。
【１５５５７】
図１４５７（ｃ）に示すように、第３２実施形態における基板ボックスＷｈ１００の保護カバーＷｈ５００は、規制部Ｗｈ５７０を備える。
【１５５５８】
規制部Ｗｈ５７０は、係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形されることを規制するための部位である。規制部Ｗｈ５７０は、一対の連結片Ｗ５３１ｂよりも係合部Ｗ５３０ａの先端側（矢印Ｒ方向側）に配設され、係合部Ｗ５３０ａよりも正面壁部Ｗ５２０（図１４４０参照）とは反対側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【１５５５９】
これにより、平面部Ｗ２２０の突起Ｗ２２１と係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３との係合解除するために係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形された場合であっても、係合部Ｗ

５３０ａと規制部Ｗｈ５７０とが当接することで係合部Ｗ５３０ａの弾性変形を規制できる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００（図１４４０参照）から保護カバーＷｈ５００が不正に取り外されることを抑制し易くできる。

【１５５６０】

次いで、図１４５８を参照して、本発明の第３３実施形態における基板ボックスＷｉ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５５６１】

図１４５８（ａ）は、第３３実施形態における基板ボックスＷｉ１００の保護カバーＷｉ５００の側面図であり、図１４５８（ｂ）は、基板ボックスＷｉ１００の側面図であり、図１４５８（ｃ）は、図１４５８（ｂ）のＭＣＤＬＶＩＩＩｃ－ＭＣＤＬＶＩＩＩｃ線における基板ボックスＷｉ１００の断面図である。なお、図１４５８では、保護カバーＷｉ５００から係合部Ｗ５３０ａが分離された状態が図示される。

【１５５６２】

図１４５８（ａ）に示すように、第３３実施形態における基板ボックスＷｉ１００の保護カバーＷｉ５００は、第１６実施形態における保護カバーＷ５００の正面壁部Ｗ５２０に代えて、背面壁部Ｗ５１０が配設される。詳細に説明すると、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の両端部に一対の背面壁部Ｗ５１０が配設される。なお、一対の背面壁部Ｗ５１０は、図１４５８（ａ）に示す側面視において対称となる姿勢で配設される。また、一対の背面壁部Ｗ５１０は，第２９実施形態における係合部Ｗｅ５３０及び一対の連結片Ｗｅ５３１ａを備える（図１４５６（ｃ）及び図１４５６（ｄ）参照）。

【１５５６３】

次いで、図１４５８（ｂ）及び図１４５８（ｃ）を参照して、保護カバーＷｉ５００による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図１４５８（ｂ）及び図１４５８（ｃ）では、保護カバーＷｉ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において保護カバーＷｉ５００の一対の連結片Ｗｅ５３１ａがボックスベースＷｅ３００の突出部Ｗｅ３２４に対向した姿勢とされる。なお、本実施形態では、連結部Ｗ５１２側よりも係合部Ｗｅ５３０ａ側において一対の連結片Ｗｅ５３１ａが切断された状態が図示される。

【１５５６４】

一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方の位置と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【１５５６５】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５が遮蔽された状態であっても、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面と平面部Ｗｅ３２０の正面との当接を維持しつつ、係合部Ｗｅ５３０ａを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１５５６６】

本実施形態では、保護カバーＷｉ５００に形成される一対の連結片Ｗｅ５３１ａを用いて封印シールＷＳＬを切断させることにより、第２９実施形態における係合部Ｗｅ５３０ａに形成される一対の連結片Ｗｅ５３１ａを用いて封印シールＷＳＬを切断させる場合と比較して作業者（店員）は、保護カバーＷｉ５００を把持し易く、切断作業を容易に行える。

【１５５６７】
次いで、図１４５９から図１４６１を参照して、本発明の第３４実施形態における基板ボックスＷｊ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５５６８】
図１４５９（ａ）は、第３４実施形態における基板ボックスＷｊ１００の部分背面図であり、図１４５９（ｂ）は、図１４５９（ａ）の矢印ＭＣＤＬＩＸｂ方向視における基板ボックスＷｊ１００の部分側面図であり、図１４５９（ｃ）は、保護カバーＷｊ５００の背面図である。図１４６０（ａ）及び図１４６０（ｃ）は、図１４５９（ａ）のＭＣＤＬＸａ部における基板ボックスＷｊ１００の背面図であり、図１４６０（ｂ）は、図１４６０（ａ）のＭＣＤＬＸｂ－ＭＣＤＬＸｂ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図であり、図１４６０（ｄ）は、図１４６０（ｃ）のＭＣＤＬＸｄ－ＭＣＤＬＸｄ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図である。図１４６１（ａ）は、図１４５９（ａ）のＭＣＤＬＸａ部における基板ボックスＷｊ１００の背面図であり、図１４６１（ｂ）は、図１４６１（ａ）のＭＣＤＬＸＩｂ－ＭＣＤＬＸＩｂ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図である。
【１５５６９】
なお、図１４５９（ａ）及び図１４５９（ｂ）では、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｊ５００が取り外された状態が図示される。また、図１４６０（ａ）、図１４６０（ｃ）及び図１４６１（ａ）では、背面壁部Ｗｊ２１４ａの図示が一部省略される。
【１５５７０】
図１４５９（ａ）及び図１４５９（ｂ）に示すように、第３４実施形態における基板ボックスＷｊ１００のボックスカバーＷｊ２００は、第１６実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図１４４０参照）、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０を備える。
【１５５７１】
カバー部Ｗｊ２１４の背面壁部Ｗｊ２１４ａは、第１６実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成され、背面視において、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に重なる位置に配設される。背面壁部Ｗｊ２１４ａの正面には、後述する第２規制状態において、第２規制部Ｗｊ２５０に対向する位置に第２規制部Ｗｊ２５０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される規制壁部Ｗｊ２１４ｂが形成される。規制壁部Ｗｊ２１４ｂは、保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａの弾性変形を規制するための部位である。
【１５５７２】
平面部Ｗｊ２２０には、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に対応する位置に切欠きＷｊ２２７が形成され、その切欠きＷｊ２２７により形成される空間に後述する弾性変形規制手段Ｗｊ２３０の第２規制部Ｗｊ２５０が配設される。
【１５５７３】
上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０の寸法は、第１６実施形態における平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の寸法（図１４４０参照）よりも小さく形成され、保護カバーＷｊ５００の内側に平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０が配設された状態において、保護カバーＷｊ５００は、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００に対し上下方向に変位可能とされる。
【１５５７４】
弾性変形規制手段Ｗｊ２３０は、規制状態において保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａが不正に弾性変形されることを抑制するためのものであり、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０とを備える。なお、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０の説明においては、図１４６０及び図１４６１を適宜参照する。
【１５５７５】
第１規制部Ｗｊ２４０は、規制状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての保護

カバーＷｊ５００の変位を規制するための部位であり、平面部Ｗｊ２２０の背面から背面壁部Ｗｊ２１４ａ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。第１規制部Ｗｊ２４０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面壁部Ｗｊ２１４ａ側へ傾斜する傾斜部Ｗｊ２４１が形成される。

【１５５７６】

第２規制部Ｗｊ２５０は、規制状態において、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位を規制するための部位であり、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１規制部Ｗｊ２４０に対向して配設される。第２規制部Ｗｊ２５０は、切欠きＷｊ２２７により形成される平面部Ｗｊ２２０の側壁から第１規制部Ｗｊ２４０側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出される板状の支持部Ｗｊ２５１と、その支持部Ｗｊ２５１の突出先端部から規制壁部Ｗｊ２１４ｂ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される係合部Ｗｊ２５２とを備える。

【１５５７７】

支持部Ｗｊ２５１は、その支持部Ｗｊ２５１の板厚方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢で配設され、支持部Ｗｊ２５１の板厚は、平面部Ｗｊ２２０の板厚よりも小さく形成される。これにより、前後方向における外力が第２規制部Ｗｊ２５０に作用された場合、平面部Ｗｊ２２０に対して支持部Ｗｊ２５１を弾性変形させることができる。

【１５５７８】

係合部Ｗｊ２５２は、第１規制部Ｗｊ２４０側（矢印Ｄ方向側）から第１規制部Ｗｊ２４０とは反対側（矢印Ｕ方向側）へ向かうにつれて規制壁部Ｗｊ２１４ｂ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて傾斜して形成される。第１規制部Ｗｊ２４０とは反対側（矢印Ｕ方向側）に形成される係合部Ｗｊ２５２の上面は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に直交して形成される。

【１５５７９】

図１４５９（ｃ）に示すように、保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａは、第１６実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法が小さく形成される。これにより、保護カバーＷｊ５００の内側に平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０が配設された状態から、保護カバーＷｊ５００を上下方向に変位させた場合であっても係合部Ｗｊ５３０ａとカバー部Ｗｊ２１４との当接を抑制できる。

【１５５８０】

次いで、図１４６０及び図１４６１を参照して、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００への保護カバーＷｊ５００の取り付けについて説明する。まず、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、カバー部Ｗｊ２１４の規制壁部Ｗｊ２１４ｂが形成されていない位置に保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａを対向させ、保護カバーＷｊ５００をボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる。

【１５５８１】

係合部Ｗｊ５３０ａの先端部と第１規制部Ｗｊ２４０の傾斜部Ｗｊ２４１とが当接することにより、係合部Ｗｊ５３０ａは、第１規制部Ｗｊ２４０の突出先端側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される。

【１５５８２】

図１４６０（ａ）及び図１４６０（ｂ）に示すように、背面壁部Ｗｊ５１０と側壁部Ｗ２１２とが当接することにより、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００に対する右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位が規制される（以下「第１規制状態」と称す）。

【１５５８３】

第１規制状態においては、保護カバーＷｊ５００の係合孔Ｗ５３３の内側に第１規制部Ｗｊ２４０が配設され、係合部Ｗｊ５３０ａの弾性変形が解除される。また、第１規制状態においては、係合孔Ｗ５３３の内壁と第１規制部Ｗｊ２４０の右方側（矢印Ｒ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の左方側（矢印Ｌ方向側

）へ向けての変位が規制される。
【１５５８４】
次いで、図１４６０（ｃ）及び図１４６０（ｄ）に示すように、第１規制状態から保護カバーＷｊ５００を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗｊ５３０ａの上端部と第２規制部Ｗｊ２５０の係合部Ｗｊ２５２とが当接し、第２規制部Ｗｊ２５０がカバー部Ｗｊ２１４の背面壁部Ｗｊ２１４ａとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形される。
【１５５８５】
ここで、支持部Ｗｊ２５１の板厚が平面部Ｗｊ２２０の板厚よりも小さく形成されるため、係合部Ｗｊ５３０ａの上端部により支持部Ｗｊ２５１が弾性変形され、保護カバーＷｊ５００の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が許容される。
【１５５８６】
次いで、図１４６１（ａ）及び図１４６１（ｂ）に示すように、係合孔Ｗ５３３の内壁と第１規制部Ｗｊ２４０の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が規制される（以下「第２規制状態」と称す）。
【１５５８７】
第２規制状態においては、係合孔Ｗ５３３の内壁と係合部Ｗｊ２５２の上方側（矢印Ｕ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けての変位が規制される。その結果、第２規制状態から第１規制状態へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位が規制される。
【１５５８８】
また、第２規制状態においては、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において係合部Ｗｊ５３０ａの少なくとも一部が規制壁部Ｗｊ２１４ｂに重なる位置に配設される。従って、係合部Ｗｊ５３０ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制壁部Ｗｊ２１４ｂに当接することにより規制される。言い換えると、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００から保護カバーＷｊ５００を不正に取り外すために、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０と係合部Ｗｊ５３０ａ（係合孔Ｗ５３３）と係合が解除されることが規制壁部Ｗｊ２１４ｂにより規制される。
【１５５８９】
上述したように、背面視において、背面壁部Ｗｊ２１４ａが弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に重なる位置に配設されるため、第２規制部Ｗｊ２５０を遮蔽できる。これにより、第２規制部Ｗｊ２５０を不正に弾性変形させ、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０と係合部Ｗｊ５３０ａ（係合孔Ｗ５３３）との係合を解除させ難くできる。
【１５５９０】
これらにより、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００から保護カバーＷｊ５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【１５５９１】
次いで、図１４６２及び図１４６３を参照して、本発明の第３５実施形態における基板ボックスＷｋ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５５９２】
図１４６２（ａ）は、第３５実施形態における基板ボックスＷｋ１００の部分正面図であり、図１４６２（ｂ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＩＩｂ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図であり、図１４６２（ｃ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＩＩｃ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図である。図１４６３（ａ）及び図１４６３（ｃ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＩＩｂ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図であり、図１４６３（ｂ）及び図１４６３（ｄ）は、図１４６２（ａ）のＭＣＤＬＸＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＩＩｃ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図である。

【１５５９３】
なお、図１４６２では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。また、本実施形態では、保護カバーＷ５００において、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される係合部Ｗ５３０ｂを係合部Ｗ５３０ｂ１、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される係合部Ｗ５３０ｂを係合部Ｗ５３０ｂ２とそれぞれ異なる符号を付して説明する（図１４４０参照）。
【１５５９４】
図１４６２に示すように、第３５実施形態における基板ボックスＷｋ１００のボックスベースＷｋ３００は、第１６実施形態における一対の突起Ｗ３１２ｃのうちの下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される突起Ｗ３１２ｃに代えて（図１４４１参照）、突起Ｗｋ３１２ｃを備える。また、ボックスベースＷｋ３００のカバー部Ｗｋ３１２は、係止部Ｗｋ３１２ｆを備える。
【１５５９５】
突起Ｗｋ３１２ｃは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｋ３１２ｄを備える。突起Ｗｋ３１２ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される。詳細には、傾斜部Ｗｋ３１２ｄと正面壁部Ｗ３１２ａとの境界は、突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄと正面壁部Ｗ３１２ａとの境界よりも左方側に形成され、右方側に形成される突起Ｗｋ３１２ｃの側面は、右方側に形成される突起Ｗ３１２ｃの側面よりも左方側に形成される。また、左右方向における突起Ｗｋ３１２の寸法は、左右方向における突起Ｗ３１２の寸法の略１／２に形成される。
【１５５９６】
これらにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００に保護カバーＷ５００を取り付ける際、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとの当接よりも係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとの当接を早く行える（図１４６３参照）。また、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとの係合（係合部Ｗ５３０ｂ１の係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ３１２ｃが配設されること）よりも係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとの係合を早く行える。また、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態において、保護カバーＷ５００を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させることができる。
【１５５９７】
係止部Ｗｋ３１２ｆは、背面側（矢印Ｂ方向側）への係合部Ｗ５３０ｂの変位を規制するための部位であり、左壁部Ｗ３０２から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出される。係止部Ｗｋ３１２ｆは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｋ３１２ｇを備える。
【１５５９８】
左右方向における係止部Ｗｋ３１２ｆと突起Ｗｋ３１２ｃとの間の距離は、係合部Ｗ５３０ｂと係合孔Ｗ５３３の内側面との間の距離よりも大きく設定される。また、傾斜部Ｗｋ３１２ｇは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗｋ３１２に重なる位置に形成される。これらにより、係合部Ｗ５３０ｂが突起Ｗｋ３１２ｃに係合された状態から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて保護カバーＷ５００を変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂの先端部を傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接させることができる。
【１５５９９】
次いで、図１４６３を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００への保護カバーＷ５００の取り付けについて説明する。なお、図１４６３（ａ）及び図１４６３（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００へ保護カバーＷ５００が取り付けられる途中であり、係合部Ｗ５３０ｂ１が弾性変形された状態が図示され、図１４６３（ｃ）及び図１４６３（ｄ）は、規制状態における基板ボックスＷｋ１００が図示される。
【１５６００】
上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ１，Ｗ５３０ｂ

２の係合孔Ｗ５３３の位置をボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１及びボックスベースＷｋ３００の突起Ｗ３１２ｃ，Ｗｋ３１２ｃの位置に合わせた状態から（図１４４０及び図１４４１参照）、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が突起Ｗｋ３１２ｃの傾斜部Ｗｋ３１２ｄに当接する。係合部Ｗ５３０ｂ２が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形されることにより、保護カバーＷ５００の右方側へ向けての変位が許容される。

【１５６０１】

次いで、係合部Ｗ５３０ｂ２の係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗｋ３１２ｃが配設されることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が解除され、図１４６３（ｂ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合される。

【１５６０２】

上述したように、突起Ｗｋ３１２ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設されるため、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態では、図１４６３（ａ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ１の先端部が突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄに当接し、係合部Ｗ５３０ｂ１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形された状態とされる。

【１５６０３】

また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突起Ｗｋ３１２の寸法は、左右方向における突起Ｗ３１２の寸法の略１／２に形成されるため、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態において、保護カバーＷ５００の右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けての変位が許容される。

【１５６０４】

次いで、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態から保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図１４６３（ｃ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとが係合され、係合部Ｗ５３０ｂ１の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が解除され、基板ボックスＷｋ１００が規制状態となる。

【１５６０５】

上述したように、傾斜部Ｗｋ３１２ｇは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗｋ３１２に重なる位置に形成されるため、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図１４６３（ｄ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接し、係合部Ｗ５３０ｂ２が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形される。その結果、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制される。

【１５６０６】

このように、本実施形態では、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制されることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２が背面側へ向けて不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１５６０７】

また、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制されるため、保護カバーＷ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００に取り付ける動作（保護カバーＷ５００の右方側へ向けての変位）と係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側へ向けての弾性変形を規制させる動作とを同一とでき、基板ボックスＷｋ１００の規制状態への動作を容易とできる。

【１５６０８】

なお、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとが係合とが係合されることにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制され、係合部Ｗ５３０ｂ

２の正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての弾性変形が解除されることを抑制できる。
【１５６０９】
また、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接されることにより、保護カバーＷ５００を正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位させることができ、背面壁部Ｗ５１０と立設部Ｗ２２２との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、背面壁部Ｗ５１０と立設部Ｗ２２２との間に形成される隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制し易くできる。
【１５６１０】
次いで、図１４６４及び図１４６５を参照して、本発明の第３６実施形態における基板ボックスＷｌ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５６１１】
図１４６４（ａ）は、第３６実施形態における基板ボックスＷｌ１００の部分背面図であり、図１４６４（ｂ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＩＶｂ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図１４６４（ｃ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｃ－ＭＣＤＬＸＩＶｃ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図１４６４（ｄ）は、保護カバーＷｌ５００の背面図であり、図１４６４（ｅ）は、図１４６４（ｄ）のＸＣＶＩｅ－ＸＣＶＩｅ線における保護カバーＷｌ５００の断面図である。図１４６５（ａ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＶａ部における基板ボックスＷｌ１００の背面図であり、図１４６５（ｂ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＩＶｂ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図１４６５（ｃ）は、図１４６４（ａ）のＭＣＤＬＸＩＶｃ－ＭＣＤＬＸＩＶｃ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図である。
【１５６１２】
なお、図１４６４（ａ）から図１４６４（ｃ）では、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００が取り外された状態が図示される。また、図１４６５（ａ）では、先端部Ｗｌ４３６が破線により図示される。
【１５６１３】
図１４６４（ａ）から図１４６４（ｃ）に示すように、第３６実施形態における基板ボックスＷｌ１００のボックスカバーＷｌ２００は、第１６実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図１４４０参照）、弾性変形規制手段Ｗｌ２３０を備える。
【１５６１４】
弾性変形規制手段Ｗｌ２３０は、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００が不正に取り外されることを抑制するためのものであり、平面部Ｗ２２０から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される第１規制部Ｗｌ２４０と、第２規制部Ｗｌ２５０とを備える。
【１５６１５】
第１規制部Ｗｌ２４０及び第２規制部Ｗｌ２５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、後述する保護カバーＷｌ５００の連結部Ｗｌ５３５の上下方向における寸法だけ隔てて配設される。これにより、第１規制部Ｗｌ２４０及び第２規制部Ｗｌ２５０の対向間に連結部Ｗｌ５３５が配設可能とされる。
【１５６１６】
第１規制部Ｗｌ２４０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｌ２４１が形成される。左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において傾斜部Ｗｌ２４１とは反対側に形成される面である係止面Ｗｌ２４２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って形成される。
【１５６１７】
第２規制部Ｗｌ２５０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する第１傾斜部Ｗｌ２５１及び第１傾斜部Ｗ

ｌ２５１における右方側の端部から右方側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜する第２傾斜部Ｗｌ２５２が形成される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第１規制部Ｗｌ２４０の係止面Ｗｌ２４２に重なる位置に第２傾斜部Ｗｌ２５２が配設される。

【１５６１８】

図１４６４（ｄ）及び図１４６４（ｅ）に示すように、保護カバーＷｌ５００の係合部Ｗｌ５３０ａは、連結部Ｗｌ５３５と、その連結部Ｗｌ５３５の先端に配設される先端部Ｗｌ５３６とを備える。

【１５６１９】

連結部Ｗｌ５３５は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における係合部Ｗｌ５３０ａの略中央から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出される。連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左右方向における第１規制部Ｗｌ２４０の寸法よりも大きく形成され、左右方向における第２規制部Ｗｌ２５０の寸法よりも小さく形成される。

【１５６２０】

連結部Ｗｌ５３５の下面に形成される傾斜部Ｗｌ５３５ａは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成される。即ち、連結部Ｗｌ５３５は、先端部Ｗｌ５３６との連結部よりも係合部Ｗｌ５３０ａとの連結部が小さく形成される。これにより、係合部Ｗｌ５３０ａに対し連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）を変形させ易くできる。

【１５６２１】

先端部Ｗｌ５３６は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びて形成される。本実施形態では、連結部Ｗｌ５３５よりも上方側（矢印Ｕ方向側）における先端部Ｗｌ５３６を上側先端部Ｗｌ５３６ａ、連結部Ｗｌ５３５よりも下方側（矢印Ｄ方向側）における先端部Ｗｌ５３６を下側先端部Ｗｌ５３６ｂとそれぞれ符号を付して説明する。

【１５６２２】

次いで、図１４６５を参照して、規制状態における基板ボックスＷｌ１００について説明する。上述したように、連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左右方向における第１規制部Ｗｌ２４０の寸法よりも大きく形成されるため、第１規制部Ｗｌ２４０は、係合部Ｗｌ５３０ａと上側先端部Ｗｌ５３６ａとの間に形成される空間に配設される。

【１５６２３】

一方で、連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左右方向における第２規制部Ｗｌ２５０の寸法よりも小さく形成されるため、第２規制部Ｗｌ２５０の第２傾斜部Ｗｌ２５２と下側先端部Ｗｌ５３６ｂとが当接する。これにより、連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）、下側先端部Ｗｌ５３６ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位され、上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位される。

【１５６２４】

上述したように、傾斜部Ｗｌ５３５ａは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成されるため、係合部Ｗｌ５３０ａに対し連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）を回転させ易くできる。

【１５６２５】

上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されることにより、上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との係合量を大きくできる（左右方向における上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との重なりを大きくできる）。これにより、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００を不正に取り外し難くできる。

【１５６２６】

また、下側先端部Ｗｌ５３６ｂと第２規制部Ｗｌ２５０と係合を不正に解除するために、下側先端部Ｗｌ５３６ｂを背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位させる場合、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面

側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されるため、上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との係合量を大きくできる。これにより、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００を不正に取り外し難くできる。

【１５６２７】

次いで、図１４６６を参照して、本発明の第３７実施形態における基板ボックスＷｍ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５６２８】

図１４６６（ａ）は、第３７実施形態における基板ボックスＷｍ１００の部分正面図であり、図１４６６（ｂ）は、図１４６６（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩｂ－ＭＣＤＬＸＶＩｂ線における基板ボックスＷｍ１００の部分断面図である。なお、本実施形態における封印シールＷＳＬは、第１６実施形態における封印シールＷＳＬに対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法が小さい以外は同一に形成されるため、同一の符号を付して説明する。また、図１４６６（ａ）では、ボックスカバーＷｍ２００及びボックスベースＷｍ３００から保護カバーＷｍ５００が取り外された状態が図示される。

【１５６２９】

図１４６６に示すように、第３７実施形態における基板ボックスＷｌ１００のボックスベースＷｍ３００は、一対の弾性変形規制手段Ｗｍ３３０を備える。なお、平面部Ｗｍ３２０には、弾性変形規制手段Ｗｍ３３０に対応する位置に切欠きＷｍ３２７が形成され、その切欠きＷｍ３２７により形成される空間に弾性変形規制手段Ｗｍ３３０が配設される。また、ボックスカバーＷｍ２００の平面部Ｗｍ２２０は、規制突起Ｗｍ２２８を備え、保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂは、突起Ｗｍ５３４を備える。

【１５６３０】

弾性変形規制手段Ｗｍ３３０は、規制状態において保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂが不正に弾性変形されることを抑制するためのものであり、切欠きＷｍ３２７から突出される連結部Ｗｍ３３１と、その連結部Ｗｍ３３１の突出先端部から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される延設部Ｗｍ３３２と、その延設部Ｗｍ３３２の両端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４とを備える。

【１５６３１】

連結部Ｗｍ３３１は、板状であり、切欠きＷｍ３２７により形成される平面部Ｗｍ３２０の側壁から封印シールＷＳＬ側へ向けて突出される。連結部Ｗｍ３３１の正面に形成される傾斜部Ｗｍ３３１ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成される。即ち、連結部Ｗｍ３３１は、延設部Ｗｍ３３２との連結部よりも平面部Ｗｊ２２０の側壁との連結部が小さく形成される。これにより、平面部Ｗｊ２２０の側壁に対し延設部Ｗｍ３３２（当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４）を変形させ易くできる。

【１５６３２】

当接部Ｗｍ３３３は、後述する保護カバーＷｍ５００の突起Ｗｍ５３４が当接される部位であり、延設部Ｗｍ３３２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における延設部Ｗｍ３３２の一方側（矢印Ｌ方向側）の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。

【１５６３３】

規制部Ｗｍ３３４は、延設部Ｗｍ３３２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における当接部Ｗｍ３３３とは反対側（矢印Ｒ方向側）の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出され、規制状態において、保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に形成される。

【１５６３４】

平面部Ｗｍ２２０の規制突起Ｗｍ２２８は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向向けての弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の変位を規制するための突起であり、平面部Ｗｍ２２０からボックスベースＷｍ３００の平面部Ｗｍ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。前後

方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、規制突起Ｗｍ２２８は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におい延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設される。なお、規制突起Ｗｍ２２８は、前後方向において、連結部Ｗｍ３３１又は規制部Ｗｍ３３４に重なる位置に配設されても良い。

【１５６３５】

保護カバーＷｍ５００の突起Ｗｍ５３４は、弾性変形規制手段Ｗｍ３３０を変形（回転）させるための突起であり、係合部Ｗｍ５３０ｂの背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｍ５３４は、係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部から弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の延設部Ｗｍ３３２の延設寸法と略同等の距離を隔てて配設される。これにより、規制状態において、当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４の正面側（矢印Ｆ方向側）に係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部および突起Ｗｍ５３４を配設できる。

【１５６３６】

図１４６６（ｂ）に示すように、規制状態において、係合部Ｗｍ５３０ｂの突起Ｗｍ５３４と弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の当接部Ｗｍ３３３とが当接当接する。これにより、連結部Ｗｍ３３１（延設部Ｗｍ３３２）は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）、当接部Ｗｍ３３３が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位され、規制部Ｗｍ３３４が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位される。

【１５６３７】

上述したように、傾斜部Ｗｍ３３１ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成されるため、平面部Ｗｊ２２０の側壁に対し連結部Ｗｍ３３１（延設部Ｗｍ３３２）を回転させ易くできる。

【１５６３８】

規制部Ｗｍ３３４が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されることにより、規制部Ｗｍ３３４と係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部との間の距離を小さくできる。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。なお、規制状態において、規制部Ｗｍ３３４は、係合部Ｗｍ５３０ｂの背面に当接されても良い。

【１５６３９】

上述したように、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、規制突起Ｗｍ２２８が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におい延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設されるため、規制突起Ｗｍ２２８と延設部Ｗｍ３３２とが当接することにより延設部Ｗｍ３３２（当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４）が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位されることを規制できる。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。

【１５６４０】

次いで、図１４６７を参照して、本発明の第３８実施形態における基板ボックスＷｎ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５６４１】

図１４６７（ａ）は、第３８実施形態における基板ボックスＷｎ１００の部分正面図であり、図１４６７（ｂ）は、図１４６７（ａ）の矢印ＭＣＤＬＸＶＩＩｂ方向視における保護カバーＷｎ５００の側面図であり、図１４６７（ｃ）は、図１４６７（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩＩｃ－ＭＣＤＬＸＶＩＩｃ線における基板ボックスＷｎ１００の部分断面図である。なお、図１４６７（ａ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００から保護カバーＷｎ５００が取り外された状態が図示され、保護カバーＷｎ５００の突起Ｗｎ５３４及び一対の壁部Ｗｎ５３８が破線により図示される。

【１５６４２】

図１４６７に示すように、第３８実施形態における基板ボックスＷｎ１００のボックスベースＷｍ３００は、一対の爪部Ｗｍ３４０を備え、保護カバーＷｎ５００の係合部Ｗｎ５３０ｂは、突起Ｗｎ５３４及び一対の壁部Ｗｎ５３８を備える。

【１５６４３】

ボックスベースＷｍ３００の正面壁部Ｗｎ３１２ａには、一対の爪部Ｗｍ３４０に対応

する位置に切欠きが形成され、その切欠きにより形成される空間に一対の爪部Ｗｍ３４０が配設される。一対の爪部Ｗｍ３４０は、正面壁部Ｗｎ３１２ａの背面から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成され、正面壁部Ｗｎ３１２ａよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【１５６４４】

一対の爪部Ｗｍ３４０は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に保護カバーＷｎ５００を係合させるための部位であり、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、保護カバーＷｎ５００の係合部Ｗｎ５３０ｂに重なる位置に配設される。一対の爪部Ｗｍ３４０には、その爪部Ｗｍ３４０の突出先端側（矢印Ｌ方向側）となる位置に係合孔Ｗｍ３４１が穿設される。

【１５６４５】

係合孔Ｗｍ３４１は、後述する保護カバーＷｎ５００の突起Ｗｎ５３４の外形よりもやや大きく形成され、係合孔Ｗｍ３４１の内側に突起Ｗｎ５３４が配設（係合孔Ｗｍ３４１に突起Ｗｎ５３４が係合）されることにより、保護カバーＷｎ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に係合される。

【１５６４６】

係合部Ｗｎ５３０ｂは、その係合部Ｗｎ５３０ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における両端部において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて一対の連結片Ｗ５３１ｂをそれぞれ備える。これにより、係合部Ｗｎ５３０ｂの弾性変形が抑制される。

【１５６４７】

また、係合部Ｗｎ５３０ｂは、第１６実施形態における係合部Ｗ５３０ｂと比較して正面側（矢印Ｆ方向側）に形成され、本実施形態では、正面壁部Ｗ５２０と略同一面上に配設される。

【１５６４８】

突起Ｗｎ５３４は、係合部Ｗｎ５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｎ５３４は、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、係合孔Ｗｍ３４１に重なる位置に配設される。これにより、保護カバーＷｎ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に係合できる。

【１５６４９】

一対の壁部Ｗｎ５３８は、正面壁部Ｗ５２０と係合部Ｗｎ５３０ｂとの間に形成される隙間から不正に挿入された針金が係合孔Ｗｍ３４１と突起Ｗｎ５３４との係合を解除することを抑制するための部位である。一対の壁部Ｗｎ５３８は、係合部Ｗｎ５３０ｂにおいて、正面壁部Ｗ５２０に対向する側の端部に形成される。これにより、一対の壁部Ｗｎ５３８の対向間に突起Ｗｎ５３４が配設される。また、一対の壁部Ｗｎ５３８は、係合部Ｗｎ５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。

【１５６５０】

図１４６７（ｃ）に示すように、規制状態において、係合孔Ｗｍ３４１の内側に突起Ｗｎ５３４が配設され、係合孔Ｗｍ３４１の内側壁と突起Ｗｎ５３４とが当接することにより、保護カバーＷｎ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。

【１５６５１】

また、係合部Ｗｎ５３０ｂは、正面壁部Ｗ５２０と略同一面上に配設され、一対の爪部Ｗｍ３４０は、正面壁部Ｗｎ３１２ａよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるため、規制状態において、係合部Ｗｎ５３０ｂよりも背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）に一対の爪部Ｗｍ３４０が配設される。従って、保護カバーＷｎ５００により一対の爪部Ｗｍ３４０が遮蔽される。これにより、一対の爪部Ｗｍ３４０が不正に弾性変形されることを抑制でき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００から保護カバーＷｎ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１５６５２】

次いで、図１４６８を参照して、本発明の第３９実施形態における基板ボックスＷｏ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して

その説明を省略する。
【１５６５３】
図１４６８（ａ）は、第３９実施形態における基板ボックスＷｏ１００の部分背面図であり、図１４６８（ｂ）は、図１４６８（ａ）のＭＣＤＬＸＶＩＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＶＩＩＩｂ線における基板ボックスＷｏ１００の部分断面図である。なお、図１４６８（ａ）では、抜け止めピンＷｏ５８０の図示が省略される。
【１５６５４】
図１４６８に示すように、第３９実施形態における基板ボックスＷｏ１００の保護カバーＷｏ５００は、抜け止めピンＷｏ５８０を備え、平面部Ｗｑ２２０は、凹部Ｗｏ２２９を備える。
【１５６５５】
なお、保護カバーＷｏ５００が抜け止めピンＷｏ５８０を備えることにより、平面部Ｗｏ２２０は、係合部Ｗｏ５３０ａに対する正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての抜け止めピンＷｏ５８０の突出量だけ正面側に形成される。これにより、抜け止めピンＷｏ５８０と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。
【１５６５６】
カバー部Ｗｏ２１４の背面壁部Ｗｏ２１４ａは、第１６実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図１４４１参照）。背面壁部Ｗｏ２１４ａには、規制状態における背面視において、係合部Ｗｏ５３０ａの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に突起Ｗｏ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｏ２１４ｂは、ボックスカバーＷｏ２００と保護カバーＷｏ５００（係合部Ｗｏ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｏ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。
【１５６５７】
平面部Ｗｏ２２０には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、抜け止めピンＷｏ５８０に重なる位置に凹部Ｗｏ２２９が凹設される。凹部Ｗｏ２２９は、平面部Ｗｏ２２０の背面からボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、凹部Ｗｏ２２９と封印シールＷＳＬとの間に空間が形成される。
【１５６５８】
凹部Ｗｏ２２９は、背面視において、円状に形成され、凹部Ｗｏ２２９の内径は、後述する頭部Ｗｏ５８１の外径と略同一またはやや大きく形成される。これにより、係合部Ｗｏ５３０ａが変位（弾性変形）されると、凹部Ｗｏ２２９の内側へ抜け止めピンＷｏ５８０の一部を受け入れ可能とできる。
【１５６５９】
保護カバーＷｏ５００の係合部Ｗｏ５３０ａは、連結片Ｗ５３１ａと係合孔Ｗ５３３との対向間に挿通孔Ｗｏ５３８を備える。挿通孔Ｗｏ５３８は、後述する抜け止めピンＷｏ５８０のピン部Ｗｏ５８２を挿通させるための孔であり、背面視において、円状に形成される。
【１５６６０】
抜け止めピンＷｏ５８０は、樹脂材料を素材とし、板状に形成される頭部Ｗｏ５８１と、その頭部Ｗｏ５８１から板厚方向に立設され板状に形成される一対のピン部Ｗｏ５８２と備える。
【１５６６１】
頭部Ｗｏ５８１は、背面視において、円状に形成され、頭部Ｗｏ５８１の外径は、挿通孔Ｗｏ５３８の内径よりも大きく形成される。
【１５６６２】
一対のピン部Ｗｏ５８２の立設長さは、封印シールＷＳＬとは反対側における係合部Ｗｏ５３０ａの背面と封印シールＷＳＬとの間の寸法よりも小さく形成される。一対のピン部Ｗｏ５８２は、板厚方向に所定の間隔を隔てて配設される。また、一対のピン部Ｗｏ５８２はたわみ変形可能な板厚に形成され、一対のピン部Ｗｏ５８２は、互いに近接する方

向に変形可能とされる。
【１５６６３】
ピン部Ｗｏ５８２の立設先端部には、対向面側とは反対側へ向けて突出される係止部Ｗｏ５８３が形成される。係止部Ｗｏ５８３の対向面側とは反対側の部位には、立設先端側へ向かうにつれて係止部Ｗｏ５８３の対向面側へ傾斜して形成される傾斜部ｏ５８４が形成され、立設先端側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。
【１５６６４】
頭部Ｗｏ５８１側（立設先端側とは反対側）における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通不能な大きさに形成される。また、頭部Ｗｏ５８１側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形された場合には、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。また、立設先端側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。
【１５６６５】
これらにより、抜け止めピンＷｏ５８０は、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形されることにより、係止部Ｗｏ５８３が挿通孔Ｗｏ５３８を挿通される。一方で、一対のピン部Ｗｏ５８２のたわみ変形が解除されることにより、係止部Ｗｏ５８３は、係合部Ｗｏ５３０ａに当接され、挿通方向（矢印Ｆ方向）とは反対方向（矢印Ｂ方向）への変位が規制される。
【１５６６６】
傾斜部ｏ５８４が立設先端側へ向かうにつれて係止部Ｗｏ５８３の対向面側へ傾斜して形成されるため、傾斜部ｏ５８４と挿通孔Ｗｏ５３８の内周とが当接することにより、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形される。
【１５６６７】
頭部Ｗｏ５８１の外径は、挿通孔Ｗｏ５３８の内径よりも大きく形成されることにより、頭部Ｗｏ５８１が係合部Ｗｏ５３０ａに当接し、抜け止めピンＷｏ５８０の挿通方向（矢印Ｆ方向）への変位が規制される。これにより、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。
【１５６６８】
一方で、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００から不正に保護カバーＷｏ５００を取り外すために、係合部Ｗｏ５３０ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて不正に弾性変形された場合では、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接する。これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての係合部Ｗｏ５３０ａの弾性変形が規制され、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｏ５００の取り外しが抑制される。
【１５６６９】
また、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することにより、封印シールＷＳＬが破損される。これにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５６７０】
なお、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、抜け止めピンＷｏ５８０（一対のピン部Ｗｏ５８２）に重なる位置における平面部Ｗｏ２２０には、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹部が凹設されても良い。これにより、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することにより、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【１５６７１】
次いで、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００への保護カバーＷｏ５００の取り付けについて説明する。ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００へ保護カバーＷｏ５００を取り付ける際は、保護カバーＷｏ５００に抜け止めピンＷｏ

５８０が非係合とされ、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｏ５００が取り付けられた状態において、保護カバーＷｏ５００に抜け止めピンＷｏ５８０を係合させる。

【１５６７２】

これにより、抜け止めピンＷｏ５８０が係合された保護カバーＷｏ５００がボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられる場合と比較して、抜け止めピンＷｏ５８０（係止部Ｗｏ５８３）による封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１５６７３】

次いで、図１４６９を参照して、本発明の第４０実施形態における保護カバーＷｐ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５６７４】

図１４６９は、第４０実施形態における保護カバーＷｐ５００の背面図である。なお、本実施形態では、保護カバーＷｐ５００が取り付けられるボックスカバー及びボックスベースの図示は省略し、ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しの概念について説明する。また、図１４６９の説明においては、図１４６８を適宜参照する。

【１５６７５】

図１４６９に示すように、第４２実施形態における保護カバーＷｐ５００は、第２係合部Ｗｐ５９０を備える。保護カバーＷｐ５００は、保護カバーＷｐ５００の上壁部および下壁部Ｗ５０１の略中央において上壁部（下壁部Ｗ５０１）と平行な面に対し対称（図１４６９上下対称）に一対が形成される。また、保護カバーＷｐ５００の正面壁部Ｗｐ５２０には係合部Ｗ５３０ｂが非形成とされる（図１４４０参照）。

【１５６７６】

係合部Ｗｐ５３０ａは、その係合部Ｗｐ５３０ａの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における両端部において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて一対の連結片Ｗ５３１ｂをそれぞれ備える。一対の連結片Ｗ５３１ｂのうちの左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結片Ｗ５３１ｂは、背面壁部Ｗｐ５１０に連結され、一対の連結片Ｗ５３１ｂのうちの右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される連結片Ｗ５３１ｂは、第２係合部Ｗｐ５９０に連結される。

【１５６７７】

第２係合部Ｗｐ５９０は、抜け止めピンＷｏ５８０が係合される部位である。第２係合部Ｗｐ５９０は、挿通孔Ｗｏ５３８、連結片Ｗ５３１ａ及び一対の連結片Ｗ５３１ｂを備える。連結片Ｗ５３１ａは、第２係合部Ｗｐ５９０の左方側（矢印Ｌ方向側）の端部と背面壁部Ｗｐ５１０とに連結され、連結片Ｗ５３１ｂは、第２係合部Ｗｐ５９０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端部と係合部Ｗｐ５３０ａの上端部（下端部）及び上壁部（下壁部Ｗ５０１）とに連結される。

【１５６７８】

ボックスカバー及びボックスベースには、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、一対の係合部Ｗｐ５３０ａ一方の係合孔Ｗ５３３に対応する位置に、その係合孔Ｗ５３３に係合される突起をそれぞれ備える。それら突起は、背面壁部Ｗｐ５１０及び正面壁部Ｗｐ５２０の略中央において背面壁部Ｗｐ５１０（正面壁部Ｗｐ５２０）と平行な面に対し対称に配設される。

【１５６７９】

これにより、ボックスカバーに形成される突起と一対の係合部Ｗｐ５３０ａの一方（他方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能された状態では、ボックスベースに形成される突起および一対の係合部Ｗｐ５３０ａの他方（一方）の係合孔Ｗ５３３は非係合とされる。

【１５６８０】

ボックスカバーに形成される突起と一対の係合部Ｗｐ５３０ａの一方（他方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能された状態では、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａに連結される

第２係合部Ｗｐ５９０の挿通孔Ｗｏ５３８に抜け止めピンＷｏ５８０が挿通され、第２係合部Ｗｐ５９０と抜け止めピンＷｏ５８０とが係合される。

【１５６８１】

ボックスカバー及びボックスベースから不正に保護カバーＷｐ５００を取り外すために、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて不正に弾性変形された場合では、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接する。これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａの弾性変形が規制され、ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しが抑制される。

【１５６８２】

また、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することにより、封印シールＷＳＬが破損される。これにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５６８３】

ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しは、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０に連結される連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷｐ５００から一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離されることにより行われる。

【１５６８４】

ここで、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離された保護カバーＷｐ５００は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として１８０度回転（反転）させることにより、ボックスベースに形成される突起および一対の係合部Ｗｐ５３０ａの他方（一方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能とされる。

【１５６８５】

これにより、ボックスカバー及びボックスベースの開封を抑制するために、保護カバーＷｐ５００を２回用いることが（再利用）できる。その結果、ボックスカバー及びボックスベースの開封する毎に保護カバーＷｐ５００が廃棄される場合と比較して、パチンコ機Ｗ１０のメンテナンスコストを低減できる。

【１５６８６】

また、保護カバーＷｐ５００から一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離されているか否かにより、保護カバーＷｐ５００が再利用されてボックスカバー及びボックスベースに取り付けられる状態か、新しい保護カバーＷｐ５００がボックスカバー及びボックスベースに取り付けられる状態かを区別できる。従って、パチンコ機Ｗ１０のメンテナンス記録と照合することにより、例えば、メンテナンス記録では、保護カバーＷｐ５００が再利用される状態が記載されているのに対し、新しい保護カバーＷｐ５００をボックスカバー及びボックスベースに取り付けられている場合、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５６８７】

次いで、図１４７０を参照して、本発明の第４１実施形態における基板ボックスＷｑ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５６８８】

図１４７０（ａ）は、第４１実施形態における基板ボックスＷｑ１００の部分背面図であり、図１４７０（ｂ）は、図１４７０（ａ）のＭＣＤＬＸＸｂ－ＭＣＤＬＸＸｂ線における基板ボックスＷｑ１００の部分断面図である。

【１５６８９】

図１４７０に示すように、第４１実施形態における基板ボックスＷｑ１００の保護カバーＷｑ５００は、第２係合部Ｗｑ５９０及び一対の突起Ｗｑ５３４を備える。なお、保護カバーＷｑ５００が第２係合部Ｗｑ５９０を備えることにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方

向）における背面壁部Ｗｑ５１０の寸法が第１６実施形態における背面壁部Ｗ５１０の寸法よりも短く形成される。

【１５６９０】

また、係合部Ｗｑ５３０ａに一対の突起Ｗｑ５３４が形成されることにより、平面部Ｗｑ２２０が一対の突起Ｗｑ５３４の突出量だけ正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。これにより、ボックスカバーＷｑ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｑ５００を取り付ける際、一対の突起Ｗｑ５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１５６９１】

平面部Ｗｑ２２０には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、一対の突起Ｗｑ５３４に重なる位置に凹部Ｗｑ２２９が凹設される。凹部Ｗｑ２２９は、平面部Ｗｑ２２０の背面からボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、凹部Ｗｑ２２９と封印シールＷＳＬとの間に空間が形成される。

【１５６９２】

カバー部Ｗｑ２１４の背面壁部Ｗｑ２１４ａは、第１６実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図１４４１参照）。背面壁部Ｗｑ２１４ａには、規制状態における背面視において、係合部Ｗｑ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図１４４１参照）に重なる位置に突起Ｗｑ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｑ２１４ｂは、ボックスカバーＷｑ２００と保護カバーＷｑ５００（係合部Ｗｑ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｑ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。また、カバー部Ｗｑ２１４には、下方側（矢印Ｄ方向側）における側壁が非形成とされる。

【１５６９３】

第２係合部Ｗｑ５９０は、係合部Ｗｑ５３０ａの下方側（矢印Ｄ方向側）における端部に配設され、一対の突起Ｗｑ５３４は、係合部Ｗｑ５３０ａにおける第２係合部Ｗｑ５９０とは反対側（矢印Ｕ方向側）の端部に配設される。また、一対の突起Ｗｑ５３４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて配設される。

【１５６９４】

第２係合部Ｗｑ５９０には、挿通孔Ｗｏ５３８が穿設される（図１４６８参照）。その挿通孔Ｗｏ５３８を挿通して抜け止めピンＷｏ５８０のピン部Ｗｏ５８２が挿通された状態で、抜け止めピンＷｏ５８０が第２係合部Ｗｑ５９０に係合される。

【１５６９５】

次いで、ボックスカバーＷｑ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｑ５００の取り外しについて説明する。保護カバーＷｑ５００から係合部Ｗｑ５３０ａが分離された状態において、ボックスカバーＷｑ２００から係合部Ｗｑ５３０ａを取り外す場合、カバー部Ｗｑ２１４には下方側（矢印Ｄ方向側）における側壁が非形成とされるため、係合部Ｗｑ５３０ａを下方側へ向けて変位させることでボックスカバーＷｑ２００からの係合部Ｗｑ５３０ａの取り外しが容易とされる。

【１５６９６】

ここで、係合部Ｗｑ５３０ａの係合孔Ｗ５３３と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除するために、係合部Ｗｑ５３０ａを平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位させる必要がある。

【１５６９７】

一方で、第２係合部Ｗｑ５９０に抜け止めピンＷｏ５８０が係合され、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部が第２係合部Ｗｑ５９０よりも平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）に配設されるため、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部が背面壁部Ｗｑ５１０に当接され易い。

【１５６９８】

従って、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部と背面壁部Ｗｑ５１０との当接を抑制するために、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として抜け止めピンＷｏ５８０が平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて回転される。これにより、一対の突起Ｗｑ５３４

が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転され、一対の突起Ｗｑ５３４により封印シールＷＳＬが破損される。

【１５６９９】

また、一対の突起Ｗｑ５３４が封印シールＷＳＬと凹部Ｗｑ２２９との間に形成される空間に受け入れられ易く、一対の突起Ｗｑ５３４により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。また、封印シールＷＳＬにおいて、一対の突起Ｗｑ５３４により破損された領域を大きくできる。

【１５７００】

このように、本実施形態では、ボックスカバーＷｑ２００からの係合部Ｗｑ５３０ａの取り外しにおいて、封印シールＷＳＬを破損させ易くすることで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１５７０１】

次いで、図１４７１（ａ）を参照して、本発明の第４２実施形態における基板ボックスＷｒ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５７０２】

図１４７１（ａ）は、第４２実施形態における基板ボックスＷｒ１００の部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩｂ－ＭＣＤＸＬＩＩｂ線に対応する。なお、図１４７１（ａ）の説明においては、図１４４２（ａ）を適宜参照する。

【１５７０３】

図１４７１（ａ）に示すように、第４２実施形態における基板ボックスＷｒ１００のボックスカバーＷｒ２００は、第１６実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図１４４０参照）、突起Ｗｒ２１４ｂを備える。

【１５７０４】

なお、平面部Ｗｒ２２０には突起Ｗ２２１が非形成とされ、背面視において、係合部Ｗ５３０ａに重なる位置には係合孔Ｗ５３３よりも側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで切欠きが形成される。これにより、係合部Ｗ５３０ａが平面部Ｗｒ２２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形された場合においても、係合部Ｗ５３０ａが平面部Ｗｒ２２０に当接し、係合部Ｗ５３０ａの弾性変形が規制されることを抑制できる。

【１５７０５】

カバー部Ｗｒ２１４の背面壁部Ｗｒ２１４ａは、第１６実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図１４４１参照）。背面壁部Ｗｒ２１４ａには、背面視において、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に突起Ｗｒ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｒ２１４ｂは、ボックスカバーＷｒ２００と保護カバーＷｒ５００（係合部Ｗ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｒ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。

【１５７０６】

突起Ｗｒ２１４ｂが背面壁部Ｗｒ２１４ａから平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、ボックスカバーＷｒ２００と保護カバーＷｒ５００とを係合させるために係合部Ｗ５３０ａを正面壁部Ｗ５２０側（平面部Ｗｒ２２０側）へ向けて弾性変形させることができる。

【１５７０７】

一方で、一対の係合部Ｗ５３０ｂは、ボックスベースＷ３００と保護カバーＷｒ５００とを係合させるために背面壁部Ｗ５１０側（平面部Ｗ３２０側、矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される（図１４４２（ａ）参照）。従って、ボックスカバーＷｒ２００及びボックスベースＷ３００と保護カバーＷ５００との係合を不正に解除させるために係合部Ｗ５３０ａを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｆ方向）と一対の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｂ方向）とを反対方向とすることができる。

【１５７０８】

これにより、係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗｒ２１４ｂ（一対の突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除させるために係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）を弾性変形（変位）させると、その係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）の弾性変形（変位）に伴い一対の係合部Ｗ５３０ｂ（係合部Ｗ５３０ａ）を一対の突起Ｗ３１２ｃ（突起Ｗｒ２１４ｂ）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷｒ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｒ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１５７０９】

また、突起Ｗｒ２１４ｂが背面壁部Ｗｒ２１４ａから平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、突起Ｗｒ２１４ｂと係合孔Ｗ５３３との係合が背面壁部Ｗｒ２１４ａにより遮蔽される。これにより、突起Ｗｒ２１４ｂと係合孔Ｗ５３３との係合が不正に解除され難くできる。

【１５７１０】

次いで、図１４７１（ｂ）を参照して、本発明の第４３実施形態における基板ボックスＷｓ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５７１１】

図１４７１（ｂ）は、第４３実施形態における基板ボックスＷｓ１００の部分断面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＩＩａ－ＭＣＤＸＬＩＩａ線に対応する。なお、図１４７１（ｂ）の説明においては、図１４４２（ｂ）を適宜参照する。

【１５７１２】

図１４７１（ｂ）に示すように、第４３実施形態における基板ボックスＷｓ１００のボックスベースＷｓ３００は、第１６実施形態における一対の突起Ｗ３１２ｃに代えて（図１４４１参照）、一対の突起Ｗｓ３２８を備える。なお、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗｓ３２８との係合の態様については、一方（上方）及び他方（下方）において同一であるため（図１４４１参照）、一方における断面図を図示して説明し、他方における説明は省略する。

【１５７１３】

ボックスベースＷｓ３００の正面壁部Ｗ３１２ａには、突起Ｗ３１２ｃが非形成とされ、正面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３に重なる位置まで平面部Ｗｓ３２０が伸びて形成される。その平面部Ｗｓ３２０の延出先端部には、正面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に一対の突起Ｗｓ３２８が平面部Ｗ２２０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。一対の突起Ｗｓ３２８は、ボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）とを係合させるため（保護カバーＷ５００の左壁部Ｗ３０２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。

【１５７１４】

一対の突起Ｗｓ３２８が平面部Ｗｓ３２０から正面壁部Ｗ３１２ａとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、ボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００とを係合させるために一対の係合部Ｗ５３０ｂを正面壁部Ｗ３１２ａ側（平面部Ｗ２２０とは反対側）へ向けて弾性変形させることができる。

【１５７１５】

一方で、係合部Ｗ５３０ａは、ボックスカバーＷ２００と保護カバーＷ５００とを係合させるために正面壁部Ｗ５２０とは反対側（平面部Ｗ２２０とは反対側、矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される（図１４４２（ｂ）参照）。従って、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００との係合を不正に解除させるために係合部Ｗ５３０ａを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｂ方向）と一対の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｆ方向）とを反対方向とすることができる。

【１５７１６】

これにより、係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（一対の突

起Ｗｓ３２８）との係合を解除させるために係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）を弾性変形（変位）させると、その係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）の弾性変形（変位）に伴い一対の係合部Ｗ５３０ｂ（係合部Ｗ５３０ａ）を一対の突起Ｗｓ３２８（突起Ｗ２２１）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１５７１７】

次いで、図１４７２を参照して、本発明の第４４実施形態における基板ボックスＷｔ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５７１８】

図１４７２（ａ）は、第４４実施形態における基板ボックスＷｔ１００の部分背面図であり、図１４７２（ｂ）は、図１４７２（ａ）のＭＣＤＬＸＸＩＩｂ－ＭＣＤＬＸＸＩＩｂ線における基板ボックスＷｔ１００の部分断面図である。なお、図１４７２では、基板ボックスＷｔ１００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。

【１５７１９】

図１４７２に示すように、第４４実施形態における基板ボックスＷｔ１００のボックスカバーＷｔ２００（平面部Ｗｔ２２０）は、第１６実施形態における凹部Ｗ２２４ｂに代えて、（図１４４１参照）、突部Ｗｔ２２４ｂを備える。

【１５７２０】

突部Ｗｔ２２４ｂは、平面部Ｗｔ２２０の背面から平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出し、断面視において、略矩形状に形成される。突部Ｗｔ２２４ｂにより、平面部Ｗｔ２２０の強度を確保できる。

【１５７２１】

突部Ｗｔ２２４ｂには、一対の切欠きＷｔ２２４ｂ１が形成される。切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面どうしの間に形成される空間を切断空間ＷＳ３と定義する。切断空間ＷＳ３は、規制状態では、背面視において、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂに重なる位置に配設される。

【１５７２２】

切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面どうしの間の距離は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における連結片Ｗ５３１ｂ（図１４４１参照）の延設寸法と略同等またはやや大きく形成される。これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する際、切断工具（図示せず）の先端を切断空間ＷＳ３に受け入れ可能とできる。

【１５７２３】

突部Ｗｔ２２４ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延び一対の両端壁部Ｗ２２３を連結して形成される。これにより、切断空間ＷＳ３を除き、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの両端の間において封印シールＷＳＬを突部Ｗｔ２２４ｂに貼着できる。従って、上下方向における封印シールＷＳＬの両端側が突部Ｗｔ２２４ｂに貼着されない場合と比較して、封印シールＷＳＬにしわが生じることを抑制でき、平面部Ｗｔ２２０の背面と封印シールＷＳＬとの間に空間が生じることを抑制できる。その結果、平面部Ｗｔ２２０の背面から封印シールＷＳＬが剥がされ易くなることを抑制できる。

【１５７２４】

また、突部Ｗｔ２２４ｂと一対の両端壁部Ｗ２２３とが連結されることにより、一対の両端壁部Ｗ２２３の強度を確保できる。

【１５７２５】

なお、突部Ｗｔ２２４ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、封印シールＷＳＬの両端よりも一対の両端壁部Ｗ２２３側に延びて形成されていれば、一対の両端壁部Ｗ２２３に非連結とされても良い。

【１５７２６】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの突設先端部と一対の両端壁

部Ｗ２２３の突出先端部との間の距離は、係合部Ｗ５３０ａの正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）と背面壁部Ｗ５１０の正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）との間の距離よりも大きく形成される（図１４４０参照）。これにより、ボックスカバーＷｔ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００を取り付ける際、突部Ｗｔ２２４ｂに貼着された封印シールＷＳＬと係合部Ｗ５３０ａとが当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。

【１５７２７】

なお、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの突設先端部と一対の両端壁部Ｗ２２３の突出先端部との間の距離は、係合部Ｗ５３０ａの正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）と背面壁部Ｗ５１０の正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）との間の距離が略同一に形成されても良い。

【１５７２８】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法は、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成される。

【１５７２９】

次いで、突部Ｗｔ２２４ｂへの封印シールＷＳＬの貼着について説明する。封印シールＷＳＬは、突部Ｗｔ２２４ｂの突出形状に沿って貼着され、突部Ｗｔ２２４ｂの突出先端面と平面部Ｗｔ２２０とを連結する一対の側面および突出先端面に貼着される。

【１５７３０】

一方で、封印シールＷＳＬは、切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面や切断空間ＷＳ３における平面部Ｗｔ２２０には貼着されない。従って、封印シールＷＳＬは、切断空間ＷＳ３を取り囲んだ態様で突部Ｗｔ２２４ｂに貼着される。

【１５７３１】

これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する際（図１４４１参照）、切断工具（図示せず）の先端を切断空間ＷＳ３に配設させ易くできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５７３２】

また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法は、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬに対向する態様で切断工具（図示せず）の先端を配設させることができる。これにより、封印シールＷＳＬに形成される痕跡（破損）を大きくできる。

【１５７３３】

次いで、図１４７３を参照して、本発明の第４５実施形態における基板ボックスＷｕ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５７３４】

図１４７３は、第４５実施形態における基板ボックスＷｕ１００の部分背面図であり、図１４４１（ｂ）のＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ－ＭＣＤＸＬＶＩＩＩａ線における断面図に対応する。

【１５７３５】

図１４７３に示すように、第４５実施形態における基板ボックスＷｕ１００の保護カバーＷｕ５００は、突起Ｗｕ５３４を備える。突起Ｗｕ５３４は、第２０実施形態における突起Ｗ５５３４に対し、係合部Ｗｕ５３０ｂの突出先端側（矢印Ｒ方向側）に形成される突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃが突出先端側へ向けて凸となる円弧上に湾曲して形成される。係合部Ｗｕ５３０ｂの突出先端とは反対側（矢印Ｌ方向側）に形成される突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｄは、係合部Ｗｕ５３０ｂ及び突起Ｗｕ５３４の突出先端を直線状に連結して形成される。

【１５７３６】

これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷｕ５００を取り付けるために係合部Ｗｕ５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ

向けて弾性変形されると、突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃが封印シールＷＳＬに対向される。従って、ボックスベースＷ５３００や保護カバーＷｕ５００の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃと封印シールＷＳＬとが当接される場合においても、保護カバーＷｕ５００をカバー部Ｗ３１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる際、封印シールＷＳＬが破損されることを抑制し易くできる。

【１５７３７】

言い換えると、保護カバーＷｕ５００が突起Ｗｕ５３４を備える場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００への保護カバーＷｕ５００の取り付け時においては、封印シールＷＳＬの破損が抑制され易い。

【１５７３８】

一方で、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷｕ５００を不正に取り外すために、係合部Ｗｕ５３０ｂを弾性変形させつつ保護カバーＷｕ５００をカバー部Ｗ３１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させる場合、側面Ｗｕ５３４ｃ，Ｗｕ５３４ｄの連結部（突起Ｗｕ５３４の突出先端部）により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５７３９】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｕ５００が突起Ｗｕ５３４を備え、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷｕ５００を不正に取り外す場合、封印シールＷＳＬが破損され易い構成であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷｕ５００を取り付ける際、封印シールＷＳＬが破損されることを抑制し易くできる。

【１５７４０】

なお、側面Ｗｕ５３４ｄは、側面Ｗｕ５３４ｃ側（矢印Ｒ方向側）へ向けて凹状に湾曲して形成されても良い。これにより、側面Ｗｕ５３４ｃ及び側面Ｗｕ５３４ｄの連結部を鋭利に形成でき、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１５７４１】

次いで、図１４７４を参照して、本発明の第４６実施形態における基板ボックスＷｖ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１５７４２】

図１４７４（ａ）は、第４６実施形態における基板ボックスＷｖ１００の部分背面図であり、図１４７４（ｂ）は、図１４７４（ａ）のＭＣＤＬＸＸＩＶｂ－ＭＣＤＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスＷｖ１００の部分断面図である。なお、図１４７４（ａ）では、凹部Ｗｖ２２９及び封印シールＷＳＬの外形が破線により図示される。また、図１４７４の説明においては、図１４７０を適宜参照する。

【１５７４３】

図１４７４に示すように、第４６実施形態における基板ボックスＷｖ１００のボックスカバーＷｖ２００は、第４１実施形態におけるボックスカバーＷｑ２００に加え、凹部Ｗｖ２２９を備える。

【１５７４４】

凹部Ｗｖ２２９は、規制状態における背面視において、抜け止めピンＷｏ５８０に重なる位置に凹設される。凹部Ｗｖ２２９は、背面視において、円状に形成され、凹部Ｗｖ２２９の内径は、頭部Ｗｏ５８１の外径よりもやや大きく形成される。封印シールＷＳＬは、凹部Ｗｖ２２９よりも側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）において平面部Ｗｖ２２０に貼着される。言い換えると、封印シールＷＳＬは、凹部Ｗｖ２２９には非貼着とされる。

【１５７４５】

また、保護カバーＷｖ５００（係合部Ｗｖ５３０ａ）に形成される一対の突起Ｗｖ５３４の突出量は、第４１実施形態における一対の突起Ｗｑ５３４よりも短く形成される。詳細には、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）された状態にお

いて、一対の突起Ｗｖ５３４の突出先端部は、抜け止めピンＷｏ５８０の係止部Ｗｏ５８３の突出先端部よりもボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）に形成される。

【１５７４６】

また、一対の突起Ｗｖ５３４のうち、左壁部Ｗ５０２側（矢印Ｌ方向側）に配設される突起Ｗｖ５３４は、背面視において、封印シールＷＳＬに重なる位置に配設される。これにより、一対の突起Ｗｖ５３４がボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）向けて変位（回転）された場合、左壁部Ｗ５０２側に配設される突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとの当接させることができる。

【１５７４７】

なお、係合部Ｗｖ５３０ａに一対の突起Ｗｖ５３４が形成されることにより、平面部Ｗｖ２２０が一対の突起Ｗｖ５３４の突出量だけボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）に形成される。これにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｖ５００を取り付ける際、一対の突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１５７４８】

一方で、規制状態において、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）されることにより、抜け止めピンＷｏ５８０の係止部Ｗｏ５８３の突出先端部は、一対の突起Ｗｖ５３４の突出先端部よりもボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、係止部Ｗｏ５８３の突出先端部は、凹部Ｗｖ２２９により形成される空間に受け入れられる。

【１５７４９】

これらにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｖ５００を取り付ける際は、抜け止めピンＷｏ５８０が非配設（非係合）とされた状態の係合部Ｗｖ５３０ａを弾性変形させ、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図１４７１（ａ）参照）とボックスカバーＷｖ２００の突起Ｗｑ２１４ｂとが係合できる。

【１５７５０】

規制状態において、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）された状態では、係止部Ｗｏ５８３が凹部Ｗｖ２２９の底面に当接することにより係合部Ｗｖ５３０ａの弾性変形が規制される。これにより、係合部Ｗｖ５３０ａとボックスカバーＷｖ２００との係合の解除が抑制される。

【１５７５１】

また、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図１４４１参照）と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除するために、係合部Ｗｖ５３０ａを不正に弾性変形させた状態で保護カバーＷｖ５００を側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させた場合、係止部Ｗｏ５８３が凹部Ｗｖ２２９の内周面に当接されることにより保護カバーＷｖ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側へ向けての変位が規制される。これにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｖ５００の取り外しを抑制できる。

【１５７５２】

次いで、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｖ５００の取り外しについて説明する。保護カバーＷｖ５００から係合部Ｗｖ５３０ａが分離された状態において、ボックスカバーＷｖ２００から係合部Ｗｖ５３０ａを取り外す場合、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除すると共に、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部と凹部Ｗｖ２２９の内周面との当接を抑制するために、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として抜け止めピンＷｏ５８０が平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて回転される。これにより、一対の突起Ｗｖ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転される。この状態から係合部Ｗｖ５３０ａを側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させることにより、一対の突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとが当接され、封印シールＷＳ

Ｌが破損される。
【１５７５３】
このように、本実施形態では、ボックスカバーＷｖ２００からの係合部Ｗｖ５３０ａの取り外しにおいて、封印シールＷＳＬを破損させ易くすることで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５７５４】
次いで、図１４７５（ａ）を参照して、本発明の第４７実施形態における保護カバーＷｗ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５７５５】
図１４７５（ａ）は、第４７実施形態における基板ボックスＷｗ１００の部分断面図であり、図１４４４（ａ）のＬＸＸＸＩＩａ部における断面に対応する。
【１５７５６】
図１４７５（ａ）に示すように、第４７実施形態における保護カバーＷｗ５００の連結片Ｗｗ５３１ｂは、異なる樹脂材料を用いて二色成形により成形される。言い換えると、連結片Ｗｗ５３１ｂが剛性の異なる複数（本実施形態では、２種類）の部位から形成される。
【１５７５７】
連結片Ｗｗ５３１ｂは、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１及び第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１とは異なる剛性を有する樹脂材料から形成される第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２から構成され、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２は、係合部Ｗ５３０ａ（図１４４４参照）の突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並んで配設される。
【１５７５８】
これにより、切断工具（図示せず）を用いて連結片Ｗｗ５３１ｂを切断する際、切断工具の先端を回転させ易くできる。詳細には、例えば、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１が第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２よりも硬度が高い樹脂材料を用いて成形され、切断工具がニッパ―やハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗｗ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗｗ５３１ｂを切断する場合、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２が切断され易い。
【１５７５９】
従って、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５７６０】
次いで、図１４７５（ｂ）を参照して、本発明の第４８実施形態における保護カバーＷｘ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５７６１】
図１４７５（ｂ）は、第４８実施形態における基板ボックスＷｘ１００の部分断面図であり、図１４４４（ａ）のＬＸＸＸＩＩａ部における断面に対応する。
【１５７６２】
図１４７５（ｂ）に示すように、第４８実施形態における保護カバーＷｘ５００の連結片Ｗｘ５３１ｂは、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び正面壁部Ｗ５２０から背面壁部Ｗ５１０へ向かう方向（矢印Ｆ－Ｂ方向、図１４４４参照）における寸法が第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１よりも小さく形成される第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２から構成される。
【１５７６３】
第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２は、係合部Ｗ５３０ａ（図１４４４参照）の突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並んで配設され、断面視において、連結片Ｗｘ５３１ｂは略Ｌ字状に形成される。

【１５７６４】
これにより、切断工具がニッパ―やハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗｘ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗｘ５３１ｂを切断する場合、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１５７６５】
次いで、図１４７５（ｃ）を参照して、本発明の第４９実施形態における保護カバーＷｙ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１５７６６】
図１４７５（ｃ）は、第４９実施形態における基板ボックスＷｙ１００の保護カバーＷｙ５００の部分背面図である。なお、図１４７５（ｃ）の説明においては、図１４５６（ｂ）を適宜参照する。
【１５７６７】
図１４７５（ｃ）に示すように、第４９実施形態における基板ボックスＷｙ１００の保護カバーＷｙ５００は、切断部Ｗｙ５５０を備える。また、連結片Ｗｅ５３１ａが切断部Ｗｙ５５０と所定の距離を隔てて配設される。
【１５７６８】
切断部Ｗｙ５５０は、係合部Ｗｙ５３０ａから連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて一対の連結片Ｗ５３１ｂを連結する方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における幅寸法が小さく形成される。言い換えると、切断部Ｗｙ５５０は、背面視において、鋭角状に形成される。これにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【１５７６９】
なお、保護カバーＷｙ５００に係合部Ｗｙ５３０ａが連結された状態では、切断部Ｗｙ５５０が背面壁部Ｗ５１０及び連結部Ｗ５１２に取り囲まれて配設される。これにより、作業者（店員）が切断部Ｗｙ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。
【１５７７０】
連結片Ｗ５３１ａ及び切断部Ｗｙ５５０の対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図１４５６（ｂ）参照）。
【１５７７１】
これにより、保護カバーＷｙ５００から係合部Ｗｙ５３０ａを分離させ、切断部Ｗｙ５５０側（矢印Ｄ方向側）における連結片Ｗｅ５３１ａの側面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、切断部Ｗｙ５５０を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる（配設できる）。その結果、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５を探す手間を抑制でき、封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。
【１５７７２】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１４７６から図１４８９を参照し、第５０実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１４７６は、第５０実施形態におけるパチンコ機１０の正面図であり、図１４７７はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図１４７８はパチンコ機１０の背面図である。
【１５７７３】
なお、以下の説明では、図１４７６に示す状態のパチンコ機１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１４７６に示す状態のパチンコ機１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側

として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１４７７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１５７７４】

図１４７６に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠２と、その外枠２と略同一の外形形状に形成され外枠２に対して開閉可能に支持された内枠４とを備えている。外枠２には、内枠４を支持するために正面視（図１４７６参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠４が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【１５７７５】

内枠４には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤１３（図１４７７参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の前面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠４には、球を遊技盤１３の前面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図１４７９参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の前面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。

【１５７７６】

内枠４の前面側には、その前面上側を覆う前扉５と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。前扉５および下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１４７６参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として前扉５および下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠４の施錠と前扉５の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【１５７７７】

前扉５は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部５ｃが設けられている。前扉５の裏面側には２枚の板ガラス８を有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の前面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。

【１５７７８】

前扉５には、球を貯留する上皿１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１４７６参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図１４７９参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１（図１４７７参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１５７７９】

前扉５には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部５ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、前扉５の正面視（図１４７６参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【１５７８０】

また、右側の電飾部３２下側には、前扉５の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３前面の貼着スペースＫ１（図１４７７

参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の前面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。

【１５７８１】

窓部５ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１５７８２】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その中央部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の前面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【１５７８３】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の前面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。

【１５７８４】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。

【１５７８５】

図１４７７に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１４７６参照）の裏面側に取り付けられる。

【１５７８６】

ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、可変表示装置ユニット８０は、

ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１５７８７】

なお、ベース板６０の構成は樹脂材料に限られるものではない。例えば、薄い板材を張り合わせた木材からなり、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に目視できないように形成されるようにしても良い。

【１５７８８】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１４７６参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１４７７を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【１５７８９】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１４７６参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の円弧部材７０とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１５７９０】

なお、上述の遊技領域は狭義の解釈であり、広義の意味として、遊技領域を、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域として表現しても良い。この意味において、遊技領域は、遊技盤１３の正面側の領域に限られるものではない。例えば、後述するセンサＳＥの上流側に配置される経路も遊技領域に含まれる。

【１５７９１】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図１４７９参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図１４７７の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図１４７７の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。また、内レール６１の右下側の先端部と外レール６２の右上側の先端部との間には、レール間を繋ぐ円弧を内面側に設けて形成された樹脂製の円弧部材７０がベース板６０に打ち込んで固定されている。

【１５７９２】

以下、入賞に基づく抽選について詳しく説明する。本実施形態におけるパチンコ機１０では、第１入賞口６４、および第２入賞口６４０へ入賞（遊技者に対して何らかの利益（例えば、賞球の払い出し、抽選の実行、更に有利な状態への移行の利益等）の付与が期待できる入球）があったことを契機として特別図柄（第１図柄）の抽選が行われ、球が普通入賞口６６，６７（又は後述する普通入賞口（スルーゲート）７６５）を通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる。第１入賞口６４、および第２入賞口６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選では、特別図柄の大当たりか否かの当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われる。

【１５７９３】

なお、本パチンコ機１０では、特別図柄の低確率状態では、例えば、３２０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定され、特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変状態とも称する）では、例えば、６０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定される。なお、説明の便宜上、第１入賞口６４へ入球した遊技球が後述するセンサＳＥに検出された場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄１の抽選」と称し、第２入賞口６４０への入球した遊

技球が下流側のセンサ（図示せず）に検出された場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄２の抽選」と称する。

【１５７９４】

特別図柄の大当たりになると、パチンコ機１０が特別遊技状態へ移行すると共に、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される動作が最大１５回（１５ラウンド）繰り返される。その結果、特定入賞口６５ａに多量の球が入賞するので、通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。なお、特定入賞口６５ａへの入球に伴い賞球の払い出しがあることや、払い出し個数については後述する。

【１５７９５】

なお、特別図柄の大当たり種別としては、「大当たりＡ」、「大当たりＢ」、「大当たりＣ」、「大当たりａ」、「大当たりｂ」、「大当たりｃ」の６種類が設けられている。詳細については後述するが、大当たり種別によって、特別遊技のラウンド数や、特別遊技終了後における電動役物６４０ａの作動パターンが異なるように構成される。

【１５７９６】

特別図柄（第１図柄）の抽選が行われると、第１図柄表示装置３７において特別図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、１１秒～６０秒など）が経過した後に、抽選結果を示す特別図柄が停止表示される。第１図柄表示装置３７において変動表示が行われている間に球が第１入賞口６４、または第２入賞口６４０へと入球すると、その入球回数は入賞口の種別毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により示されると共に、第３図柄表示装置８１においても示される。第１図柄表示装置３７において変動表示が終了した場合に、第１入賞口６４についての保留球数（特別図柄１の保留球数）、または第２入賞口６４０についての保留球数（特別図柄２の保留球数）が残っていれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。なお、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合は、特別図柄２の保留球に基づく抽選が優先的に実行される。

【１５７９７】

なお、本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合は、特別図柄２の保留球に基づく抽選が優先的に実行されるように構成したが、これに限られるものではなく、例えば、特別図柄の取得順（入球順）に優先的に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで交互に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行しても良い。

【１５７９８】

普通図柄（第２図柄）の抽選では、普通図柄の当たりか否かの当否判定が行われる。普通図柄の当たりになると、所定時間（例えば、０．２秒または１秒）だけ第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが駆動され、第２入賞口６４０へ球が入球し易い状態になる。つまり、普通図柄の当たりになると、球が第２入賞口６４０へ入球し易くなり、その結果、特別図柄の抽選が行われ易くなる。

【１５７９９】

また、普通図柄（第２図柄）の抽選が行われると、第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、０．１秒または１秒など）が経過した後に、抽選結果を示す普通図柄が停止表示される。第２図柄表示装置８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口６６，６７，７６５を通過すると、その通過回数は最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により表示されると共に、第２図柄保留ランプ８４においても示される。第２図柄表示装置８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口６６，６７，７６５についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。

【１５８００】

本実施形態では、大当たり終了後の付加価値として、その大当たり終了後から次に大当たりとなるまでの間、パチンコ機１０が特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）へ移

行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＡ、大当たりＢ、大当たりａ、大当たりｂ）と、大当たり遊技の後に、特別図柄の抽選が１００回終了するまで普通図柄の時短状態となる場合（例えば、後述する大当たりＣ、大当たりｃ）と、が用意されている。

【１５８０１】

なお、本実施形態では、特別遊技状態の終了後に特別図柄の確変状態が付与される場合に、その特別図柄の確変状態が次に大当たりとなるまでの間継続される場合を説明したが、これに限られるものではなく、例えば、特別遊技状態が終了してから特別図柄の抽選が１００回終了するまで特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与され、特別図柄の抽選が１００回終了して以降は通常状態に設定されるようにしても良い。

【１５８０２】

なお、上述した特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与される特別図柄の抽選回数は、１００回に限られるものではない。例えば、５０回でも良いし、２００回でも良い。

【１５８０３】

また、上述した普通図柄の時短状態となる特別図柄の抽選回数は、１００回に限られる物ではない。例えば、５０回でも良いし、５回でも良いし、０回でも良い。

【１５８０４】

ここで、「特別図柄の高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）は、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変化しないが、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。一方、「特別図柄の低確率状態」とは、特別図柄の確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、特別図柄の確変中よりも大当たり確率が低い状態をいう。

【１５８０５】

また、「普通図柄の時短状態（時短中）」とは、普通図柄の当たり確率は変化しないが、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。また、「通常状態」とは、特別図柄の確変中でも普通図柄の時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も普通図柄（第２図柄）の当たり確率も変化しておらず、第２入賞口６４０へ球が入賞し易いわけでもない状態）のことをいう。

【１５８０６】

特別図柄の確変中や、普通図柄の時短中では、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間が変更され、通常状態に比較して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが励磁された状態（励磁状態、後述する移動板部材６４１が前側位置に配置され第１送球経路ＫＲ１に進入している状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが非励磁とされ退避した状態（非励磁状態、後述する移動板部材６４１が後側位置に配置され第１送球経路ＫＲ１から退避している状態）にある場合と比較して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、第２入賞口６４０へ球が入球し易い状態となる。即ち、特別図柄の抽選が行われやすくなる。

【１５８０７】

なお、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、普通図柄の当たりとなった場合における電動役物６４０ａの開放回数を、通常状態よりも増やすように構成してもよい。

【１５８０８】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間、および電動役物６４０ａの開放回数のうち少なくとも一方を変更するものとしてもよい。

【１５８０９】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口６４０に付随する電

動役物６４０ａが開放される時間や、電動役物６４０ａの開放回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、通常状態に比較してアップするように構成してもよい。

【１５８１０】

遊技領域の正面視左側下部（図１４７７の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤおよび７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図１４７９参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【１５８１１】

また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１５８１２】

この第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて特別図柄（第１図柄）の変動表示が行われている間に球が第１入賞口６４、または第２入賞口６４０へと入球した場合、その入球回数は入賞口の種別毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置８１においても示される。なお、本実施形態においては、第１入賞口６４の下流側に配置されるセンサＳＥ、および第２入賞口６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留回数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。

【１５８１３】

なお、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４の下流側に配置されるセンサＳＥ、第２入賞口６４０のいずれかに入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、８Ｒ確変大当たり、４Ｒ通常大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１５８１４】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「８Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が８ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。

【１５８１５】

また、「４Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことであり、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００

変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【１５８１６】
　また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。
【１５８１７】
　「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで電動役物６４０ａの作動パターンが変化すること（又は第２図柄（普通図柄）の当たり確率がアップすること）で第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２入賞口６４０への入賞のし易さもアップしていない状態）である。
【１５８１８】
　確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【１５８１９】
　なお、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物６４０ａを開放する回数はせず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。
【１５８２０】
　遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。
【１５８２１】
　可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４、第２入賞口６４０のいずれかの入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置８３と、普通入賞口６６，６７を遊技球が通過した回数に対応する保留球数を点灯状態により示す第２図柄保留ランプ８４と、が設けられている。
【１５８２２】
　また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。このセンターフレーム８６の中央に開口される開口部から第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。
【１５８２３】
　第３図柄表示装置８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図１４７９参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中および下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄

）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。

【１５８２４】

本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図１４７９参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【１５８２５】

本実施形態では、第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。本実施形態のパチンコ機１０においては、後述する主制御装置１１０（図１４７９参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示（同一の主図柄が揃った状態で最終的に停止する変動表示）が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生（特別遊技状態への移行が開始）するよう構成されている。一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示（揃わない状態で最終的に停止する変動表示）が行われる。

【１５８２６】

例えば、特別図柄の抽選結果が通常大当たりであれば、偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、確変大当たりであれば、奇数番号も加えたすべての番号「０，１，２，３，４，５，６，７，８，９」のうちいずれかの番号が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。

【１５８２７】

次に、第３図柄表示装置８１に表示される、遊技盤１３の右側の経路（流路）を狙って球を打ち出すように促す表示（右打ちナビ）について説明する。

【１５８２８】

本実施形態のパチンコ機１０では、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態となった場合に、電動役物６４０ａにより遊技球が案内され易くなるので、電動役物６４０ａが配置される遊技盤１３の右側へと球を打ち出す（右打ちする）ことにより、第２入賞口６４０へと球を入球させやすくなる。また、詳細については後述するが、第２入賞口６４０へと球が入球したことに基づいて行われる特別図柄の抽選（特別図柄２の抽選）により大当たりとなると、第１入賞口６４へと球が入球したことに基づいて行われる特別図柄の抽選（特別図柄１の抽選）により大当たりとなる場合に比較して、最大賞球個数を獲得できる大当たり（大当たりａ，ｂ，ｃ）となりやすい。

【１５８２９】

よって、大当たりの終了後に付与される特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態では、右打ちを実行することにより、遊技者にとって有利となる。換言すれば、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態に設定されたとしても、遊技者が右打ちしなければ第２入賞口６４０へと球を入球させることが難しいため、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態の恩恵を遊技者が十分に受けることができなくなってしまう。

【１５８３０】

そこで、本実施形態では、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態においては、特定の画像（右打ちナビ）を表示させることにより、遊技者が特別図柄の確変状態や普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に得られるように構成している。

【１５８３１】

右打ちナビでは、第３図柄表示装置８１に「右を狙え！！」との文字が表示されると共に、その文字の上下に右向きの矢印が３つずつ表示される。これらの文字、および矢印が表示されることにより、遊技者に対して球を遊技盤１３の右側に設けられた経路（流路）へと打ち出すべきであると感じさせることができる。よって、遊技者に対して、特別図柄の確変状態、および普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に獲得させることが

できる。
【１５８３２】
次に、本実施形態のパチンコ機１０において第３図柄表示装置８１に対して表示される警告画像の一例について説明する。この警告画像は、遊技者が遊技盤１３の右側に設けられた経路（流路）へと球を打ち出す（右打ちする）べき期間でないにもかかわらず、右打ちを実行していると判別された場合に第３図柄表示装置８１に対して表示される画像（右打ち警告画像）である。より具体的には、通常状態（特別図柄の確変状態でも、普通図柄の時短状態でもない状態）において、遊技者が右打ちを行っていると判別した場合に表示される。
【１５８３３】
本実施形態のパチンコ機１０では、通常状態において電動役物６４０ａが第２入賞口６４０に球を案内し難いよう制御される（右打ちを行ったとしても第２入賞口６４０へと球を入球させにくい）。このため、通常状態において右打ちを行うと、左打ちにより第１入賞口６４を狙って球を打ち出す場合に比較して、特別図柄の抽選を受ける機会が少なくなってしまう。即ち、通常状態において右打ちを行うと、大当たりとなりにくくなるので、遊技者にとって損となってしまう。よって、右打ち警告画像を表示させて左打ちを促すことにより、遊技者が損をしてしまうことを防止（抑制）できるように構成している。
【１５８３４】
通常状態において遊技者が右打ちを行っていると判別した場合には、第３図柄表示装置８１に対して、「警告」との文字と、「左打ちで遊技してね！！」との文字とが表示される。これらの文字が表示されることにより、遊技者に対して右打ちをすべきではない（左打ちを行うべきである）と気付かせることができる。また、ホールの店員も右打ち警告画面の有無を確認することにより、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法を実行している遊技者がいるか否かを容易に判別することができる。
【１５８３５】
本実施形態では、右打ちを行っているか否かの判断方法として、右打ちを行った場合に球が流入し得る普通入賞口（スルーゲート）６７（図１４７７参照）に対して球が入球したか否かによって判断する。
【１５８３６】
本実施形態では、通常状態において普通入賞口（スルーゲート）６７（図１４７７参照）に球が入球したことを検出した場合に、右打ち警告画像を表示させるように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、特別遊技状態（大当たり状態）以外の状態において、特定入賞口６５ａへと球が入賞（入球）したことを検出した場合に、不正遊技（右打ち遊技に限らず、例えば、可変入賞装置６５に負荷を与えて特定入賞口６５ａを開放させ、遊技球を無理やり入球させる遊技態様も含む）が行われていると判別して、右打ち警告画像を表示させるように構成してもよい。これにより、ホールの店員は右打ち警告画像の有無を確認するだけで容易に不正の有無を判別することができる。
【１５８３７】
また、例えば、特別遊技状態（大当たり状態）以外の状態において、特定入賞口６５ａへと球が入球したことを検出した場合に、ホールコンピュータに対して不正が行われていることを示す信号を出力するように構成してもよい。これにより、ホールコンピュータの操作者は容易に不正が行われている可能性の有無、および不正行為が行われているパチンコ機１０の台番号（位置）を判断することができる。
【１５８３８】
また、例えば、可変表示装置ユニット８０の右側流路を狭めることで、遊技球が通過せざるを得ない範囲を構成し、その範囲に、遊技球の通過を検出可能な検出センサを配設するようにしても良い。この場合、その検出センサにより遊技球の通過が検出されたことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。
【１５８３９】
また、例えば、可変表示装置ユニット８０の最上位置（図１４７７における左右中心位

置に相当）よりも左側に配置される可動部材（例えば、風車）の変位を検出可能な検出センサを配設しても良い。この場合、遊技球の打ち出しが行われている場合に、予想される動作タイミングを過ぎても可動部材の変位が検出されないことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１５８４０】

次に、可変入賞装置６５において異常が発生していることを検知した場合に表示される警告画像について説明する。ここで、可変入賞装置６５の異常とは、例えば、特別遊技状態（大当たり状態）でないにもかかわらず特定入賞口６５ａへの入球を検出した場合などが例示される。

【１５８４１】

可変入賞装置６５において異常が発生していると判別した場合は、第３図柄表示装置８１の中央部分に「警告」との文字が大きく表示される。また、その下部には、「ゲートエラー係員を呼んで下さい」との文字が表示される。これらの文字により、遊技者は、パチンコ機１０においてエラーが発生していると判別することができるので、ホールの店員等に対して迅速に修理等を依頼することができる。

【１５８４２】

第２図柄表示装置８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１５８４３】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置８３における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１５８４４】

第２図柄の変動表示にかかる時間（変動時間）は、遊技状態が通常状態中よりも、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中の方が短くなるように設定される。これにより、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、普通図柄（第２図柄）の抽選を通常状態中よりも多く行うことができる。よって、普通図柄の当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。従って、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１５８４５】

なお、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、当たり確率をアップさせたり、電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やしたりするなど、その他の方法によって第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、通常状態中よりも短く設定する場合は、普通図柄の当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、１回の普通図柄の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１５８４６】

普通入賞口（スルーゲート）６６，６７は、可変表示装置ユニット８０の両側の領域において遊技盤に組み付けられ、遊技盤に発射された球のうち、遊技盤を流下する球の一部が通過可能に構成されている。また、普通入賞口（スルーゲート）７６５は、経路構成装置７００の内部流路を流下する遊技球を検出可能に配設される。

【１５８４７】
普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。
【１５８４８】
球の普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ８４においても点灯表示される。第２図柄保留ランプ８４は、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。
【１５８４９】
なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置８３において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプ８４の点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。
【１５８５０】
また、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、ベース板６０に配設される普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、１つでも良いし、その他の複数（例えば、３つ以上）であっても良い。
【１５８５１】
また、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の左右両側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右いずれか一方でも良いし、可変表示装置ユニット８０の上方や下方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプ８４により点灯表示を行わないものとしてもよい。
【１５８５２】
可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチとしてのセンサＳＥがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１４７９参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。
【１５８５３】
一方、第１入賞口６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口６４０が配設されている。第２入賞口６４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１４７９参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。
【１５８５４】
また、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０は、それぞれ、球が入賞すると、第１入賞口スイッチとしてのセンサＳＥ又は第２入賞口スイッチ（流下する球が連続で通過することが無いよう配置される各スイッチ）がオンとなることに基づいて５個の球が賞球として払い出される入賞口（賞球口）の１つにもなっている。
【１５８５５】
なお、本実施形態においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場

合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。また、賞球数や賞球数の大小関係を逆にしても良い。

【１５８５６】

第２入賞口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａはスライド移動可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが非励磁状態（退避状態）となって、球が第２入賞口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３に表示された場合、電動役物６４０ａが励磁状態（進入状態）となり、球が第２入賞口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１５８５７】

なお、上述した通り、特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、通常状態中に比較して普通図柄の当たり確率が高く、また、普通図柄の変動表示にかかる時間も短いので、普通図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなるようにしても良い。即ち、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常状態中より長くなるようにしても良い。

【１５８５８】

特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、通常状態に比較して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０に設けられているような電動役物は有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１５８５９】

ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として最大の利益（特別遊技状態における賞球個数）が得られる大当たり（大当たりＡ，ａ，ｂ，ｃ）となる確率は、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０にあるような電動役物６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１５８６０】

よって、通常中においては、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが非励磁状態（退避状態）にある場合が多く、第２入賞口６４０に入賞しづらいので、電動役物６４０ａのない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１５８６１】

一方、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５に球を通過させることで、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが励磁状態（進入状態）となりやすく、第２入賞口６４０に入賞しやすい状態であるので、電動役物６４０ａが配設される側へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、普通入賞口（スルーゲート）６７を通過させて電動役物６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口６４０への入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１５８６２】

このように、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１５８６３】

第１入賞口６４の下側には可変入賞装置６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）６５ａが設けられている。

【１５８６４】

パチンコ機１０においては、第１入賞口６４、または第２入賞口６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で大当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させる。加えて、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１５８６５】

この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量（本実施形態では、１個の球の入賞に基づき１５個）の賞球の払い出しが行われる。

【１５８６６】

可変入賞装置６５は、具体的には、特定入賞口６５ａを覆う横長矩形状の開閉板と、その開閉板を前後方向に開閉駆動するための大開放口ソレノイド（図示せず）とを備えている。特定入賞口６５ａは、通常時は、球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。大当たりの際には大開放口ソレノイドを駆動して開閉板を後方に退避させ、球が特定入賞口６５ａに入賞しやすい開状態を一時的に形成し、その開状態と通常時の閉状態との状態を交互に繰り返すように作動する。

【１５８６７】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の下側に限らず、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右側や上側でも良い。

【１５８６８】

遊技盤１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図１４７６参照）を通じて視認することができる。

【１５８６９】

遊技盤１３には、第１アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，６４０にも入賞しなかった球は、第１アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。第１アウト口７１は、第１入賞口６４の下方に配設される。

【１５８７０】

遊技盤１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１５８７１】

図１４７８に示すように、パチンコ機１の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、

払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１５８７２】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１５８７３】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３および表示制御装置１１４、払出制御装置１１１および発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１５８７４】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）および基板ボックス１０２（払出制御装置１１１および発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１５８７５】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図１４７９参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【１５８７６】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図１４７９参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【１５８７７】

次に、図１４７９を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１４７９は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１５８７８】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログ

ラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂおよび第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【１５８７９】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１５８８０】

ＲＡＭ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１５８８１】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１５８８２】

主制御装置１１０のＭＰＵ２０１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２０４を介して入出力ポート２０５が接続されている。入出力ポート２０５には、払出制御装置１１１、音声ランプ制御装置１１３、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口６５ａの開閉板の下辺を軸として前方側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイド２０９が接続され、ＭＰＵ２０１は、入出力ポート２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【１５８８３】

また、入出力ポート２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチ２０８、電源装置１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路２５３が接続され、ＭＰＵ２０１は各種スイッチ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【１５８８４】

払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【１５８８５】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、Ｍ

ＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１５８８６】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【１５８８７】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【１５８８８】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【１５８８９】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。

【１５８９０】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄

の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【１５８９１】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【１５８９２】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３および第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【１５８９３】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１４７８参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧およびバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１５８９４】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１および払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０および払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０および払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０および払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１５８９５】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１４７８参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【１５８９６】

図１４８０から図１４８２を参照して、経路構成装置７００の全体構成について説明をする。図１４８０は、経路構成装置７００の分解正面斜視図であり、図１４８１は、経路

構成装置７００の部分拡大正面図であり、図１４８２（ａ）及び図１４８２（ｂ）は、図１４８１のＭＣＤＬＸＸＸＩＩａ－ＭＣＤＬＸＸＸＩＩａ線における経路構成装置７００の部分断面図である。

【１５８９７】

図１４８１では、振分け部材７６０の内周面、シーソー部材７６２、連通孔７５１及び回収孔７５２の外形が破線で図示される。また、図１４８２（ａ）では、電動役物６４０ａが後述する第１送球経路ＫＲ１から退避している退避状態が図示され、図１４８２（ｂ）では、電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入している進入状態が図示される。

【１５８９８】

図１４８０に示すように、経路構成装置７００は、遊技盤１３のセンターフレーム８６の下側に配設され、ベース板６０に対して正面側に配置される正面側形成部７１０と、ベース板６０に対して背面側に配置される背面側形成部７２０と、を主に備えて形成される。

【１５８９９】

正面側形成部７１０は、ベース板６０の正面側に取着される入賞部材７３０と、その入賞部材７３０の左右両側における正面側に配設される屈曲部材７４０と、を主に備えて形成される。

【１５９００】

背面側形成部７２０は、ベース板６０の背面側に取着される介設部材７５０と、その介設部材７５０の背面側に配設される振分け部材７６０と、介設部材７５０にソレノイド６４０ｓが固定配置される電動役物６４０ａと、を主に備えて形成される。

【１５９０１】

入賞部材７３０は、ベース板６０の板正面に配設され貫通孔６０ａを覆う形状で薄肉に形成されベース板６０に装着される覆設板部７１１と、その覆設板部７１１の左右中央位置において前後方向に穿設される上側球通過孔７１３と、その上側球通過孔７１３の下側に配置され前後方向に穿設される下側球通過孔７１４と、覆設板部７１１の左右方向中央上部に位置する第１入賞口６４と、その第１入賞口６４の下側（下側球通過孔７１４の下側）に位置する第２入賞口６４０と、左右方向両側に位置し前後方向に貫通形成される貫通孔７３１と、その貫通孔７３１の下側に位置し前後方向に貫通形成される下側挿通孔７３２と、右側の下側挿通孔７３２よりも左側において前後方向に貫通形成される球通過孔７３４ａを有する第１球送球部７３４と、その第１球送球部７３４の下縁部右端から右上方向に延びる長孔として前後方向に貫通形成される貫通孔７３５と、右側の下側挿通孔７３２よりも右側において前後方向に貫通形成される球通過孔７３６ａを有する第２球送球部７３６と、上側球通過孔７１３を基準として第１球送球部７３４と左右対称に形成される第３球送球部７３７と、を主に備えて形成される。

【１５９０２】

貫通孔７３１は、その内部に後述する屈曲部材７４０の上側突出部７４１が挿通される部材であり、上側突出部７４１の背面視における外形よりも少し大きく開口する正面視略矩形状に形成される。

【１５９０３】

下側挿通孔７３２は、背面側に配設される介設部材７５０の回収孔７５２と連通される孔であり、介設部材７５０の回収孔７５２と対向する位置に形成される。また、下側挿通孔７３２は、下面側が湾曲される正面視略Ｄ字形状に開口される。

【１５９０４】

下側挿通孔７３２の背面には、球の通過を検知するセンサＳＥは配設される。センサＳＥは、正面視略矩形状に形成されると共に、その側面に球の直径よりも少し大きい直径の貫通孔が形成される部材であり、その貫通孔の内部を球が通過することで球の通過を検出することができる。センサＳＥは、貫通孔の軸が下側挿通孔７３２の下面側の円弧軸と同軸上に位置して配設される。これにより、貫通孔の開口方向を背面側に向かうに従って少し下方に傾斜する様態とすることができるので、センサＳＥの貫通孔内部を通過する球が

貫通孔の内側に留まることを抑制できる。
【１５９０５】
第１球送球部７３４は、介設部材７５０の第１傾斜溝７５５の上流側端部に連通される位置に配置される球通過孔７３４ａと、その球通過孔７３４ａの正面視Ｕ字形状の縁部が正面側に突設される突設縁部７３４ｂと、その突設縁部７３４ｂの下流側部において球経路側に突設され、その突設先端が背面側へ傾斜する形状であることから流下してきた球を背面側に送球可能とされる下流側送球部７３４ｃと、を備える。
【１５９０６】
貫通孔７３５は、移動板部材６４１が前後方向に挿通可能な形状から形成される。即ち、移動板部材６４１の右側案内部６４３及び左側案内部６４５とそれらを連結する連結部との正面視における外形よりも若干大きな形状で形成される。
【１５９０７】
これにより、移動板部材６４１の退避状態では、貫通孔７３５により移動板部材６４１の前端部が支持され、移動板部材６４１の進入状態では、貫通孔７３５により移動板部材６４１の後端側が支持されることで、移動板部材６４１の配置を安定させることができる。
【１５９０８】
第２球送球部７３６は、介設部材７５０の第２傾斜溝７５７の上流側端部に連通される位置に配置される球通過孔７３６ａと、その球通過孔７３６ａの正面視Ｕ字形状の縁部が正面側に突設される突設縁部７３６ｂと、その突設縁部７３６ｂの下流側部において球経路側に突設され、その突設先端が背面側へ傾斜する形状であることから流下してきた球を背面側に送球可能とされる下流側送球部７３６ｃと、を備える。
【１５９０９】
第３球送球部７３７は、第１球送球部７３４の左右対称に形成される一方で、電動役物６４０ａにより遊技球が案内されるようには構成されていない。左方向からの球の入球を許容する形状であり、球の入球の頻度を少なくすることができる。第３球送球部７３７は一般入賞口６３（図１４７７参照）と同様の機能を有している。即ち、球の入球により、５個～１５個の球が賞球として払い出される。なお、第３球送球部７３７への入球が稀なことから、入球した場合の遊技者の利益の最大化を図るために、賞球個数は最大（１５個）で設定される。
【１５９１０】
屈曲部材７４０は、上述した入賞部材７３０の貫通孔７３１と下側挿通孔７３２との正面側に配設される部材であり、正面視におけるベース板６０（図１４７７参照）の左右方向略中央位置を対称に２つ配設され、その外形形状は概略左右対称に形成される。
【１５９１１】
また、屈曲部材７４０は、正面視において、遊技領域を形成する内レール６１（図１４７７参照）との間に、球が通過可能な大きさの隙間が形成される位置に配置される。これにより、屈曲部材７４０の下側の遊技領域を流下する球が、屈曲部材７４０と内レール６１との間に挟まれて遊技領域に留まることが抑制される。
【１５９１２】
屈曲部材７４０は、正面視略矩形の板状体から形成され、その背面から突出する上側突出部７４１と、その上側突出部７４１よりも下方から突出する下側突出部７４３と、上側突出部７４１及び下側突出部７４３の対向間に形成される開口７４４と、を備えて形成される。
【１５９１３】
上側突出部７４１は、背面視において下側が開放する略Ｕ字形状に形成され、その外形が、入賞部材７３０の貫通孔７３１の内形よりも少し小さく設定される。これにより、屈曲部材７４０を入賞部材７３０に配置する際には、上側突出部７４１を貫通孔７３１の内部に挿入して配設できる。よって、屈曲部材７４０を入賞部材７３０へ配置する際には、上側突出部７４１を挿入して位置決めすることができるので、その組み付け工程を簡易に

できる。
【１５９１４】
　下側突出部７４３は、上側突出部７４１の下側に形成されると共に、上側が開放される背面視略Ｕ字形状に形成される。即ち、背面視すると、上側突出部７４１と下側突出部７４３との互いの開放部分が上下方向に対向する様態に形成される。
【１５９１５】
　下側突出部７４３は、入賞部材７３０の貫通孔７３１から屈曲部材７４０側に送球される球を入賞部材７３０の下側挿通孔７３２に送球するための経路（以下、「第２送球経路ＫＲ２」と称す）を形成するための部材であり、下側挿通孔７３２と前後方向に対向する位置に形成される。
【１５９１６】
　下側突出部７４３の背面側への突出距離は、球の直径よりも大きい寸法に設定される。また、下側突出部７４３の突出先端面が入賞部材７３０と当接した状態で屈曲部材７４０が入賞部材７３０に配置される。よって、屈曲部材７４０と入賞部材７３０との対向間の距離寸法が球の直径よりも大きくされ、屈曲部材７４０と入賞部材７３０との対向間に球が鉛直方向に送球される送球路（以下、「第１送球経路ＫＲ１」と称す）が形成される。
【１５９１７】
　屈曲部材７４０には、上側突出部７４１の上部内面から下側突出部７４３の下部内面に亘って突出する案内部７４２が形成される。案内部７４２は、側面視において背面側が開放される略Ｕ字形状に突出される。
【１５９１８】
　案内部７４２は、入賞部材７３０の貫通孔７３１から屈曲部材７４０（第１送球経路ＫＲ１）に送球される球を鉛直方向に送球した後に、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２に送球する突壁であり、下側の内縁部の上下方向高さは、背面に配置される下側挿通孔７３２の下側の内縁部の高さよりも少し小さく形成される。
【１５９１９】
　案内部７４２は、背面側に配置される貫通孔７３１の正面視における左右方向中央線に沿って形成される。これにより、案内部７４２と当接して案内（背面側に折り返し）されるので、球を容易に左右方向に位置ずれさせることができる。
【１５９２０】
　開口７４４は、上側突出部７４１と下側突出部７４３との対向間に形成される所定の隙間であり、背面視における左右方向両側に形成される。また、開口７４４は、側面視において、背面側が開放する略Ｕ字形状に形成される。
【１５９２１】
　開口７４４は、背面側端部の上端の高さが、同じ前後位置の案内部７４２の先端側部と略同一の上下方向高さに設定されると共に、背面側端部の下端の高さが、移動板部材６４１の右側案内部６４３の下側面と略同一の上下方向高さに設定される。開口７４４は、第１送球経路ＫＲ１と第４送球経路ＫＲ４との連結部分の左右方向の側面に開口して形成される。
【１５９２２】
　振分け部材７６０は、正面視横長矩形に形成されると共に、正面側が開放された箱状体に形成される。また、振分け部材７６０は、正面視において左右方向略中央位置で屈曲されており、左右方向略中央位置から左右方向外側に向かうに従って下側に傾斜して形成される。また、振分け部材７６０の左右方向の両端部は、上述した入賞部材７３０の貫通孔７３１と対向する位置に設定される。
【１５９２３】
　振分け部材７６０は、正面視における左右方向中央位置から左右両側へ向けて下方傾斜する一対の傾斜面７６１と、その互いの傾斜面７６１の中央に配置されるシーソー部材７６２と、シーソー部材７６２の上方に形成される送球口７６３と、シーソー部材７６２の回転を規制するための規制壁部７６４と、右側の傾斜面７６１に案内される球が通過可能

な位置に配設される普通入賞口（スルーゲート）７６５と、を主に備えて形成される。
【１５９２４】
一対の傾斜面７６１は、左右反対方向に延びる傾斜面であって、水平面に対する傾斜角度が左右対称となるように形成される。なお、本実施形態では、上流側において若干急な傾斜角度となる領域を設け、その下流側において傾斜角度が緩やかとなる領域の傾斜角度が水平面に対して５度で形成される。
【１５９２５】
送球口７６３は、振分け部材７６０の正面側に開口を形成するための部材であり、入賞部材７３０の第１入賞口６４と対向する位置に形成される。これにより、振分け部材７６０が後述する介設部材７５０に配設されると、送球口７６３と介設部材７５０との対向間に空間を形成することができる。
【１５９２６】
その空間は、球の外径よりも大きい空間（即ち、球が通過可能な空間）に形成されると共に、ベース板６０に穿設された貫通孔６０ｂを介して入賞部材７３０の第１入賞口６４の内部空間と連結される。これにより、第１入賞口６４に入賞される球を送球口７６３と介設部材７５０との対向間の空間に送球して、その空間の内部を送球させることができる。
【１５９２７】
軸部７６２ｂは、シーソー部材７６２を軸周りに回転させるための軸支部であり、円柱形状に形成されると共に、シーソー部材７６２の円環内側に挿通される。この状態で、軸部７６２ｂが、介設部材７５０と振分け部材７６０との間に挟持されることで、シーソー部材７６２は軸部７６２ｂを軸に回転可能に配置される。
【１５９２８】
突起７６２ａは、上述した送球口７６３と介設部材７５０との対向間の空間から球が送球される際に、球を左右の傾斜面７６１に交互に一球ずつ振り分けるための突起であり、中央部の突起７６２ａの先端が位置する方向と左右方向反対側に球が送球される。両端に突設される突起７６２ａは、シーソー部材７６２の変位を規制すると共に、球の通過した際にかかる重みにより、中央部の突起７６２ａの先端が位置する方向を変位させる（シーソー部材７６２を回転させる）部材であり、突起７６２ａの先端面と規制壁部７６４とが当接することでシーソー部材７６２の回転が規制される。
【１５９２９】
一方、規制壁部７６４と当接していない突起７６２ａは、球が中央部の突起７６２ａに案内されると、案内された球がその突起７６２ａと衝突して下方に押し下げられる。これにより反対側の突起７６２ａが上方に変位されると共に、下方に変位された突起７６２ａの先端が規制壁部７６４と当接してその変位が規制される。
【１５９３０】
傾斜面７６１は、上述したシーソー部材７６２によって左右に振り分けられた球が転動して送球される経路（以下、「第３送球経路ＫＲ３」と称す）の転動面であり、振分け部材７６０の左右方向中央位置から外側に向かって下降傾斜して形成される。これにより、振分け部材７６０のシーソー部材７６２によって左右に振り分けられた球は、傾斜面７６１上を転動されて、傾斜面７６１の下降側の端部に送球（転動）される。
【１５９３１】
傾斜面７６１の下降側の端部には、その端部に向かうに従って、背面側の側面が前方に厚みを増すように介設部材７５０へ近接する方向へ傾斜して形成される。これにより、傾斜面７６１を転動してその端部まで送球された球を、振分け部材７６０の前方に配設される介設部材７５０の連通孔７５１に送球することができる。
【１５９３２】
普通入賞口（スルーゲート）７６５は、介設部材７５０と振分け部材７６０との間に配設され、介設部材７５０と振分け部材７６０とが連結固定されることで内側に固定配置される。

【１５９３３】
普通入賞口（スルーゲート）７６５の球通過孔の内側面であって、傾斜面７６１に沿う側の面が、傾斜面７６１の上面と面位置となるように、普通入賞口（スルーゲート）７６５の配置は設計される。
【１５９３４】
これにより、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過する際に、球に与えられる抵抗を最小限に抑えることができ、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設される右側の傾斜面７６１を流下する球と、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設されていない左側の傾斜面７６１を流下する球との、流下速度を均一化することができる。
【１５９３５】
普通入賞口（スルーゲート）７６５の機能は、上述した普通入賞口（スルーゲート）６６，６７と共通である。即ち、普通入賞口（スルーゲート）７６５は、球が通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる検出口としての機能を有する。
【１５９３６】
また、第２図柄表示装置８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過すると、その通過回数は、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の通過回数と共同で最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により表示されると共に、第２図柄保留ランプ８４においても示される。
【１５９３７】
なお、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。
【１５９３８】
第２図柄表示装置８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。
【１５９３９】
第２図柄表示装置８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。
【１５９４０】
介設部材７５０は、屈曲部材７４０と振分け部材７６０との前後間に介在する部材であって、正面視横長矩形状に形成されると共に、正面視における左右方向の中央下部に上述した可変入賞装置６５と、左右両側に前後方向に貫通される連通孔７５１と、その連通孔７５１の下側に開口される回収孔７５２と、連通孔７５１及び回収孔７５２の間で前後方向に左右長尺の形状で貫通形成される支持凹部７５３と、左右中央位置を下流側端部として正面視左側へ向かって下降傾斜する直線状の第１傾斜溝７５５と、その第１傾斜溝７５５の下方において左右中央位置を下流側端部として正面視左側へ向かって下降傾斜する直線状の第２傾斜溝７５７と、その第２傾斜溝７５７の下方に配置される第２回収孔７５８と、を主に備えて形成される。
【１５９４１】
連通孔７５１は、振分け部材７６０の左右両端部の正面側に形成されると共に、入賞部材７３０の貫通孔７３１の背面側に形成される。よって、振分け部材７６０の左右両端部の空間と、入賞部材７３０の貫通孔７３１の内部空間とが連通孔７５１を介して連結される。従って、上述した振分け部材７６０の傾斜面７６１の上部を転動する球を、連通孔７

５１を通過させて、入賞部材７３０の貫通孔７３１に送球する経路（以下、「第４送球経路ＫＲ４」と称す）を形成することができる。

【１５９４２】

回収孔７５２は、上述したように、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２の背面側に開口形成される開口である。即ち、回収孔７５２は、センサＳＥの背面側に連結されており、センサＳＥを通過する球が、その回収孔７５２の開口に送球される。回収孔７５２は、店舗に設置される球を循環する装置に連結されており、回収孔７５２に回収された球は、循環装置により循環されて遊技球として再び球発射ユニット１１２ａから打出しされる。

【１５９４３】

支持凹部７５３は、移動板部材６４１の右側案内部６４３が前後方向に移動するために十分な空間を確保するために形成される凹設溝部である。右側案内部６４３の下面と上下方向で対向する支持凹部７５３の下底面は、左右方向に水平な平面形状で形成される。また、右側案内部６４３の上面と上下方向で対向する支持凹部７５３の上天面は、傾斜面６４３ａと同様の傾斜角度の平面形状で形成される。

【１５９４４】

即ち、支持凹部７５３は、左側から右側へ凹設されており、左側が広く右側が狭い楔形状に形成され、機能的には、正面視における右側案内部６４３の上下幅よりも若干大きな上下幅（若干大きな楔形状）から形成される。

【１５９４５】

これにより、移動板部材６４１の利用において、前後方向にスライド移動させる際には、右側案内部６４３が支持凹部７５３の内側を案内されることになるので移動をスムーズに実行することができ、右側案内部６４３を第１送球経路ＫＲ１に進入させて流下してきた球を受け止める際には、支持凹部７５３の下底面により右側案内部６４３を下支えすることができる。即ち、支持凹部７５３は、移動板部材６４１の移動を円滑にさせる効果と、移動板部材６４１の上下位置を安定させる効果とを奏する。

【１５９４６】

第１傾斜溝７５５は、上流側端部が球通過孔７３４ａに連通する位置に配設され、下流側端部に到達した球を正面側形成部７１０の上側球通過孔７１３を通して正面側に送球可能な形状で構成される。

【１５９４７】

第２傾斜溝７５７は、上流側端部が球通過孔７３６ａに連通する位置に配設され、下流側端部に到達した球を正面側形成部７１０の下側球通過孔７１４を通して正面側に送球可能な形状で構成される。

【１５９４８】

本実施形態では、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７は、直線状溝形状で形成され、各溝が沿う直線が互いに平行となる関係で形成される。

【１５９４９】

第２回収孔７５８は、第２入賞口６４０に入球した球が送球される開口であり、第２入賞口スイッチ（図示せず）よりも上流側に配設される。第２回収孔７５８は、店舗に設置される球を循環する装置に連結されており、第２回収孔７５８に回収された球は、循環装置により循環されて遊技球として再び球発射ユニット１１２ａから打出しされる。

【１５９５０】

上側球通過孔７１３と下側球通過孔７１４とは、鉛直方向に沿う直線上に並べられ、その同一直線上における下側球通過孔７１４の下側に第２入賞口６４０が配置される（図１４８１参照）。

【１５９５１】

そのため、上側球通過孔７１３を通して正面側に送球された球は下側球通過孔７１４の正面側を通過して第２入賞口６４０に入球する。また、下側球通過孔７１４を通して正面側に送球された球は、上側球通過孔７１３から正面側に送球された球の流下経路と合流し、第２入賞口６４０に入球する。

【１５９５２】
　球の流下経路の合流位置において、上側球通過孔７１３から流下する球の流下方向は鉛直方向となっており、合流位置における落下速度を大きくすることができるので、上側球通過孔７１３及び下側球通過孔７１４から案内された球が合流位置に同時に到達したとしても、上側球通過孔７１３から流下する球を勢いで下方に通過させることができるので、球詰まりが生じることを回避し易い。
【１５９５３】
　また、下側球通過孔７１４の左右縁部から正面側に延設される壁部７１４ａにより、合流位置から球が左右に逸れることを防止し易くすることができる。また、壁部７１４ａは、左右外側から第２入賞口６４０へ球が入球することを防止するようにも作用する。
【１５９５４】
　上側球通過孔７１３の左右縁部および上側縁部から正面側に延設される壁部７１３ａにより、上側球通過孔７１３から正面側に送球された直後の球に対して、ベース板６０の正面側を流下してきた球が衝突することを防止することができる。また、壁部７１３ａは、ベース板６０の正面側を流下してきた球が第２入賞口６４０側へ向けて流下することを妨げるようにも作用する。
【１５９５５】
　電動役物６４０ａは、介設部材７５０に固定配置されるソレノイド６４０ｓと、そのソレノイド６４０ｓと連動可能に連結され、ソレノイド６４０ｓの駆動により前後方向にスライド移動する移動板部材６４１と、を備える。
【１５９５６】
　移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓの駆動力が伝達される板状部であって上下方向に延設される伝達板部６４２と、その伝達板部６４２の正面側端部に配設され正面側に突設形成される左側案内部６４５と、その左側案内部６４５の右方に延設される右側案内部６４３と、を備える。
【１５９５７】
　右側案内部６４３は、球の転動面となる上面が右側へ向けて下降傾斜する傾斜面６４３ａとして形成され、正面視で連通孔７５１と回収孔７５２との間に配設される。
【１５９５８】
　左側案内部６４５は、球の転動面となる上面が左側へ向けて下降傾斜する傾斜面６４５ａとして形成され、正面視で屈曲部材７４０と第１球送球部７３４とを繋ぐように配設される。傾斜面６４５ａの下流側端部の上面は、第１球送球部７３４の突設縁部７３４ｂの下側端部の上面と面位置となるよう配置される。
【１５９５９】
　第１送球部７３４の突設縁部７３４ｂが上方に開放された皿状ではなく、開放側は右側に向けられることで上側に蓋がある形状となっているので、左側案内部６４５で転動する球の受入をスムーズに行いながら、左側案内部６４５で跳ねた球や、第１送球部７３４に上側から到達するような経路で流下する球が、球通過孔７３４ａに飛び込み入球することは生じ難いようにすることができる。なお、突設蓋部７３４ｂの形状を皿状に形成して、上側からの球の飛び込みを可能とする形状を採用しても良い。
【１５９６０】
　なお、左側案内部６４５に着地した球であっても、跳ね返りが収まるまでは第１送球部７３４に入りにくい。そのため、左側案内部６４５での跳ね返りを小さくする構成を採用することが好ましい。
【１５９６１】
　例えば、左側案内部６４５の上方において球と衝突可能な釘を密に配置したり、覆設板部７１１の正面側に突設される減速凸部を複数配置したりすることで、球の流下の勢いを予め落とすようにしても良い。また、傾斜面６４５ａにクッション性の高いシート部材を貼り付けるようにして、球のバウンドを抑制するようにしても良い。
【１５９６２】

移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓが非励磁とされる非励磁状態では、第１送球経路ＫＲ１から退避する退避状態とされ（図１４８２（ａ）参照）、ソレノイド６４０ｓの励磁状態（駆動力が生じている状態）では、第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされる（図１４８２（ｂ）参照）。

【１５９６３】

以上のように構成される経路構成装置７００により、遊技球が次のように送球される。第１入賞口６４から入る球は、振分け部材７６０に送球されて振分け部材７６０のシーソー部材７６２により左右方向どちらか一方の第３送球経路ＫＲ３に送球される。第３送球経路ＫＲ３を送球される球は、その第３送球経路ＫＲ３の端部まで送球されると、正面側に配置される介設部材７５０の連通孔７５１の内部の第４送球経路ＫＲ４に送球される。第４送球経路ＫＲ４を送球される球は、屈曲部材７４０の背面側の第１送球経路ＫＲ１に送球される。第１送球経路ＫＲ１を送球される球は、屈曲部材７４０の下側突出部７４３に案内されて第２送球経路ＫＲ２に送球される。第２送球経路ＫＲ２を送球される球は、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２を通過して介設部材７５０の回収孔７５２に送球され、センサＳＥの内部を通過する。

【１５９６４】

第４送球経路ＫＲ４から第１送球経路ＫＲ１に送球される球は、ベース板６０の正面側へ向けて流下することになり、その球は、遊技者視線で遊技者に近づいてきているように見える。これにより、遊技領域を下方に流下する他の遊技球との流下態様の違いが明確化されるので、第４送球経路ＫＲ４から第１送球経路ＫＲ１に送球される球の存在感を高めることができる。

【１５９６５】

次いで、図１４８３及び図１４８４を参照して、球の流下態様の設定について説明する。図１４８３（ａ）、図１４８３（ｂ）、図１４８４（ａ）及び図１４８４（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置７００の部分正面図である。

【１５９６６】

図１４８３（ａ）、図１４８３（ｂ）、図１４８４（ａ）及び図１４８４（ｂ）では、第１入賞口６４に３個の球Ｐ１～Ｐ３が間を空けずに連続で入球した場合における流下態様が、０．５秒間隔の時系列で図示される。

【１５９６７】

即ち、図１４８３（ａ）の状態から０．５秒後の状態として図１４８３（ｂ）が図示され、図１４８３（ｂ）の状態から０．５秒後の状態として図１４８４（ａ）が図示され、図１４８４（ａ）の状態から０．５秒後の状態として図１４８４（ｂ）が図示される。なお、一例として、図１４８３（ａ）では、中央部の突起７６２ａの先端が左側を向いた状態が図示される。

【１５９６８】

図１４８３（ａ）に図示するように、球Ｐ１が中央部の突起７６２ａに案内されると、案内された球Ｐ１が両端部の突起７６２ａの一方と衝突して下方に押し下げられる。これにより反対側の突起７６２ａが上方に変位されると共に、下方に変位された突起７６２ａの先端が規制壁部７６４と当接してその変位が規制される（図１４８３（ｂ）参照）。

【１５９６９】

この状態で、シーソー部材７６２を押し下げた球Ｐ１は右側へ向けて流下しており、同時に次の球Ｐ２が中央部の突起７６２ａに案内される。この時、球Ｐ２が中央部の突起７６２ａに到達すると同時に、先にシーソー部材７６２を押し下げた球Ｐ１は普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過する（図１４８３（ｂ）参照）。

【１５９７０】

球Ｐ２は、シーソー部材７６２によって左側へ向けて流下され、同時に次の球Ｐ３が中央部の突起７６２ａに案内される。この時、球Ｐ３が中央部の突起７６２ａに到達すると同時に、球Ｐ１は右側案内部６４３の下側に配置される（図１４８４（ａ）参照）。その

後、球Ｐ３は、シーソー部材７６２によって右側へ向けて流下される（図１４８４（ｂ）参照）。

【１５９７１】

このように、本実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）７６５の配置が電動役物６４０ａの配置との関係で規定されている。即ち、球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過してから、右側案内部６４３の下側に配置されるまでの間に、次の球Ｐ３が普通入賞口（スルーゲート）７６５に到達しないように設計されている。

【１５９７２】

ここで、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されると、予め設定されている作動パターンに基づいて電動役物６４０ａの動作が実行される。電動役物６４０ａの動作は、作動パターンの途中で割り込みが生じるというものではない。作動パターンに基づく電動役物６４０ａの動作が継続されている時に普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されたとしても、その検出に因る電動役物６４０ａの動作の実行は、現在実行されている作動パターンに基づく電動役物６４０ａの動作が完了するまで保留される。

【１５９７３】

そのため、球の流下時間を基準として普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ影響を与えられるように電動役物６４０ａの作動パターンを設定しても、電動役物６４０ａの動作の実行が保留される事態が生じると、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ与える影響が予想外のものになる可能性がある。

【１５９７４】

これに対し、本実施形態では、球が右側案内部６４３に到達するまでの時間幅で電動役物６４０ａの作動パターンを設定するという前提において、次の球Ｐ３が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出される時まで、先の球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出されたことに伴う電動役物６４０ａの動作が継続されている事態を回避することができる（事前に電動役物６４０ａの動作が終了する）。

【１５９７５】

従って、球の通過が普通入賞口（スルーゲート）７６５で検出されたら、電動役物６４０ａの動作の実行が保留されることなく即座に、予め設定されている作動パターンに基づいて電動役物６４０ａの動作を実行させることができる。これにより、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ与える影響が予想外のものになる可能性を低くすることができる。

【１５９７６】

図１４８５（ａ）、図１４８５（ｂ）、図１４８６（ａ）及び図１４８６（ｂ）は、図１４８１の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＩＩＩａにおける経路構成装置７００の部分正面図である。図１４８５（ａ）及び図１４８５（ｂ）と、図１４８６（ａ）及び図１４８６（ｂ）とでは、右側の傾斜面７６１を球が流下する様子の異なる一例が、時系列で図示される。

【１５９７７】

即ち、図１４８５（ａ）では、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過している状態が図示され、図１４８５（ｂ）では、球の通過時に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態（図１４８２（ａ）参照）で維持され、球が回収孔７５２に案内されている状態が図示される。

【１５９７８】

また、図１４８６（ａ）では、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過している状態（図１４８５（ａ）と同様の状態）が図示され、図１４８６（ｂ）では、球の通過直前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされ（図１４８２（ｂ）参照）、球が第２球送球部７３６側に案内される状態が図示される。

【１５９７９】

なお、図１４８６（ｂ）において移動板部材６４１にドットが描画されているのは、移動板部材６４１が正面側にスライド移動しており手前側を球が通過することを許容しない

状態であることを模式的に示すものである。
【１５９８０】
ここで、移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓが非励磁とされる非励磁状態では、第１送球経路ＫＲ１から退避する退避状態とされ（図１４８２（ａ）参照）、ソレノイド６４０ｓの励磁状態（駆動力が生じている状態）では、第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされる（図１４８２（ｂ）参照）から、非励磁状態では、正面視で移動板部材６４１の上面に到達した球は移動板部材６４１の正面側を通過して下方向に流下する一方で、励磁状態では、正面視で移動板部材６４１の上面に到達した球は移動板部材６４１の傾斜面６４３ａ又は傾斜面６４５ａを転動して左右方向に流下する。
【１５９８１】
例えば、図１４８６（ｂ）に示す矢印に沿って流下する。詳述すれば、移動板部材６４１の励磁状態において、第１送球経路ＫＲ１に到達した球は傾斜面６４３ａの上面を転動して開口７４４を通過後落下して第２球送球部７３６に受け入れられる。
【１５９８２】
なお、移動板部材６４１の励磁状態において、右側の屈曲部材７４０と第１球送球部７３４との間を流下しようとする球は傾斜面６４５ａの上面を転動して球通過孔７３４ａに案内され、第２入賞口６４０に入球することになる。
【１５９８３】
図１４８７は、図１４７７の範囲ＭＣＤＬＸＸＸＶＩＩにおける遊技盤１３の部分正面図である。図１４８７では、ソレノイド６４０ｓが励磁状態とされ移動板部材６４１の進入状態が図示されている。
【１５９８４】
上述したように、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の機能は共通であるので、経路構成装置７００に入球した球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過することに因る場合に限らず、上述の右打ち遊技を行う場合に、球が普通入賞口（スルーゲート）６７を通過することに因っても電動役物６４０ａは作動する。
【１５９８５】
この場合、右打ち遊技で発射された遊技球は第１入賞口６４に案内される球よりも右側の屈曲部材７４０の天井面に到達する球の方が多くなるので（約１０倍となるので）、移動板部材６４１の進入状態において、球は、電動役物６４０ａの右側案内部６４３よりも左側案内部６４５に到達し易い。
【１５９８６】
左側案内部６４５に到達した球は、流下して第１球送球部７３４に到達するまでソレノイド６４０ｓが励磁状態で維持されていれば第２入賞口６４０に入球することになり、第１球送球部７３４に到達する前にソレノイド６４０ｓが非励磁状態に切り替えられたとしても、その真下に流下するだけであり、球が回収孔７５２に案内されることは無い。即ち、球が左側案内部６４５に到達した球により特別図柄１の抽選を獲得する事態を防止することができる。
【１５９８７】
進入状態における左側案内部６４５に到達した球は、着地位置に関わらず約１．０秒あれば、第１球送球部７３４に受け入れられる。一方で、０．５秒等のごく短い時間で移動板部材６４１が退避状態に変化する場合には、進入状態における左側案内部６４５の左端付近に球が着地した場合であっても、第１球送球部７３４への入球が阻害される可能性がある。
【１５９８８】
そのため、第１入賞口６４に入球せずに流下する球が、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５での球の検出による抽選の結果動作されて進入状態とされる左側案内部６４５にタイミングよく到達した場合に、その球が第１球送球部７３４に受け入れられるかどうかは、電動役物６４０ａの作動態様による。
【１５９８９】

特に、通常状態における作動パターン（後述する第４の作動パターン）では、移動板部材６４１が進入状態とされる期間が０．５秒よりも短いため、球が第１球送球部７３４に受け入れられる確率は極端に低くされている。

【１５９９０】

第１入賞口６４に入球した球においては、第１送球経路ＫＲ１に到達したタイミングで移動板部材６４１が進入状態であれば、右側案内部６４３に案内されて最終的に第２入賞口６４０に入球することになるので、センサＳＥ（図１４８２（ｂ）参照）を通過することはなく、特別図柄１の抽選を獲得する事態を防止することができる。一方で、球が第１送球経路ＫＲ１に到達したタイミングで移動板部材６４１が退避状態であれば、第２送球経路ＫＲ２に案内されてセンサＳＥを通過することから、特別図柄１の抽選を獲得することになる。

【１５９９１】

このように、本実施形態の電動役物６４０ａによれば、球が右側案内部６４３に到達し得る経路（第１入賞口６４に入球した後の経路）で流下するか、左側案内部６４５に到達し得る経路で流下するか、によって、その球による特別図柄１の抽選の獲得の可能性（特別図柄２の抽選の獲得の可能性）を異ならせることができる。

【１５９９２】

また、右側案内部６４３へは、球が間隔をあけて到達することは上述した通りであるが、左側案内部６４５へは、シーソー部材７６２の作用で間隔が空けられるものではないので、普通入賞口（スルーゲート）６７側を流下した複数の球が同時に到達し得る。従って、左側案内部６４５は、右側案内部６４３に比較して丈夫に形成しておくことが好ましい。

【１５９９３】

そのため、本実施形態では、左側案内部６４５を伝達板部６４２（図１４８０参照）に配設させるという構成を採用している。即ち、ソレノイド６４０ｓに近い側（駆動力伝達経路の上流側）である伝達板部６４２に左側案内部６４５を配設させることで、左側案内部６４５の姿勢変化を抑制するようにしている。これにより、左側案内部６４５に複数の球が乗ることで重みがかけられた場合であっても、左側案内部６４５が過度に姿勢変化して移動板部材６４１の動作抵抗が上昇することを避けることができる。

【１５９９４】

なお、左側案内部６４５を丈夫に形成する手段は、上述したものに限られるものではない。例えば、左側案内部６４５の板厚を右側案内部６４３の板厚よりも厚く形成しても良いし、左側案内部６４５の下部と伝達板部６４２とを連結するリブを形成しても良い。

【１５９９５】

図１４８８を参照して、ＲＯＭ２０２（図１４７９参照）の内容について説明する。図１４８８（ａ）は、主制御装置１１０内のＲＯＭ２０２の電気的構成を示すブロック図であり、図１４８８（ｂ）は、第１当たり種別カウンタＣ２と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１４８８（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタＣ４と普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。

【１５９９６】

図１４８８（ａ）に示すように、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２には、上記した固定値データの一部として、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、および変動パターン選択テーブル２０２ｄが少なくとも記憶されている。

【１５９９７】

第１当たり乱数テーブル２０２ａは、定期的（例えば、２ｍｓｅｃごと）に更新される第１当たり乱数カウンタの大当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。始動入賞に基づいて取得した第１当たり乱数カウンタの値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の大当たりであると判別される。

【１５９９８】
第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図１４８８（ｂ）参照）は、大当たり種別を決定するための判定値が記憶されているデータテーブルであり、第１当たり種別カウンタＣ２の判定値が、各大当たり種別、および特別図柄の抽選契機となった入賞口の種別に対応付けて規定されている。本実施形態のパチンコ機１０では特別図柄の大当たりと判定された場合に、始動入賞に基づいて取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂとが比較され、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する大当たり種別が選択される。
【１５９９９】
具体的には、特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりＡが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ１参照）。
【１６０００】
大当たりＡとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１６００１】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりＢが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ２参照）。
【１６００２】
大当たりＢとなった場合は、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第２の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１６００３】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりＣが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ３参照）。
【１６００４】
大当たりＣとなった場合は、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【１６００５】
特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、２０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。一方で、４ラウンドの大当たり遊技は、１５ラウンドの大当たり遊技に比較して短時間で終了するので、その後の大当たりの獲得を狙うための球の打ち出しを、早期に開始することができる。
【１６００６】
一方、特別図柄２の抽選（第２入賞口６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりａが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ４参照）。
【１６００７】
大当たりａとなった場合は、大当たりＡの時と同様に、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１６００８】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりｂが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ５参照）。
【１６００９】
大当たりｂとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後に

おける遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１６０１０】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりｃが対応付けられて規定されている（図１４８８（ｂ）の２０２ｂ６参照）。

【１６０１１】

大当たりｃとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第３の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６０１２】

上述したように、特別図柄２の抽選（第２入賞口６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなると、大当たり種別に関わらず１５ラウンドの大当たり遊技を実行可能である一方で、大当たり遊技終了後の電動役物６４０ａの作動パターンの振分けが特別図柄１の抽選で大当たりとなった場合と異なるように設定される。特に、大当たりｃで違いが顕著となるが、詳細は後述する。

【１６０１３】

第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図１４８８（ｃ）参照）は、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１４８８（ｃ）の２０２ｃ１参照）。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１４８８（ｃ）の２０２ｃ２参照）。

【１６０１４】

本実施形態のパチンコ機１０では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と、第２当たり乱数テーブル２０２ｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。変動パターン選択テーブル２０２ｄは、変動パターンの表示態様を決定するための変動種別カウンタの判定値が表示態様毎にそれぞれ規定されているデータテーブルである。

【１６０１５】

図１４８９（ａ）から図１４８９（ｄ）は、普通入賞口（スルーゲート）７６５における球の通過の検出と、電動役物６４０ａの状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１４８９（ａ）では、第１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４８９（ｂ）では、第２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４８９（ｃ）では、第３の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４８９（ｄ）では、第４の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【１６０１６】

なお、第４の作動パターンは、通常中や、大当たりＣ，ｃ（図１４８８（ｂ）参照）の終了後に特別図柄の抽選が１００回終了した後において採用される作動パターンである。

【１６０１７】

図１４８９（ａ）から図１４８９（ｄ）では、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されたことによる第２図柄の変動表示がされ（本実施形態では約０．１秒後）、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３に表示された場合、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出された時を基準とする電動役物６４０ａの各作動パターンの内、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１（本実施形態では約０．５秒）の時間長さにおける電動役物６４０ａの状態の意味について詳述する。

【１６０１８】

基準時間Ｔｄ１の長さは、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過してから右側案内部６４３を通過するまでの時間に該当する時間として設定されている。

【１６０１９】

図１４８９（ａ）に示すように、第１の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、第２図柄の変動表示の終了後（普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから０．１秒経過後）において基準時間Ｔｄ１に亘って電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した進入状態（図において、「進」とも示す。以降の図において同様である）で維持される。

【１６０２０】

第１の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１を超えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約３．０秒後まで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約３．０秒経過する）。

【１６０２１】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に到達した球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持することができる。これにより、球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。

【１６０２２】

加えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内し易くすることができる。

【１６０２３】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ易くすることができる。

【１６０２４】

図１４８９（ｂ）に示すように、第２の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、基準時間Ｔｄ１の経過直前に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態に変化し、基準時間Ｔｄ１の経過直後に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態（図において、「退」とも示す。以降の図において同様である）に変化する。

【１６０２５】

第２の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１を超えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約１．０秒後まで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約１．０秒経過する）。

【１６０２６】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に球が到達した場合であっても、球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持するとは言えないため、右打ち遊技で球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。

【１６０２７】

一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内し易くすることができる。球が右側案内部６４３に到達してから０．５秒間は、移動板部材６４１が進入状態に維持されるので、球を第２球送球部７３６側へ安定して送球することができる。

【１６０２８】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ易くすることができる。

【１６０２９】

図１４８９（ｃ）に示すように、第３の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、第２図柄の変動表示の終了後（普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから０．１秒経過後）、電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態で維持され、基準時間Ｔｄ１の経過直前に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態（図において、「退」とも示す。以降の図において同様である）に変化し、基準時間Ｔｄ１の経過直後に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態に変化する。

【１６０３０】

第３の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１経過後において、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約３．０秒間に到達するまで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約３．０秒経過する）。

【１６０３１】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に到達した球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持することができる。これにより、球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。

【１６０３２】

一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内する事態の発生を抑えることができる。

【１６０３３】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ難くすることができる。

【１６０３４】

なお、シーソー部材７６２によって右側に流された球が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出されるタイミングで普通図柄（第２図柄）の変動が継続中であった場合には、その球が第１送球経路ＫＲ１に到達する際に電動役物６４０ａが進入状態とされることは生じ得る。この場合は、シーソー部材７６２により右側に流された球が第２入賞口６４０に入球され、特別図柄２の抽選を獲得することができる。

【１６０３５】

図１４８９（ｄ）に示すように、第４の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態で維持され、移動板部材６４１が進入状態に変化した後、基準時間Ｔｄ１の経過直前に再び電動役物６４０ａの移動板部材６４１が退避状態に変化する。第４の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１で制御が完結する（普通図柄の変動終了までに約０．５秒経過する）。

【１６０３６】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に球が到達した場合であっても、球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態

を維持するとは言えないため、右打ち遊技で球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。

【１６０３７】

一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内する事態の発生を抑えることができる。

【１６０３８】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ難くすることができる。即ち、第１入賞口６４に複数の球が入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるよう構成することができる。

【１６０３９】

以上詳述した各作動パターンによれば、特別図柄１又は特別図柄２の抽選の獲得により大当たりの獲得を目指す遊技状態において、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。

【１６０４０】

例えば、第１の作動パターン及び第３の作動パターンでは、右打ち遊技において特別図柄２の抽選の獲得を目指すことができるので、第３図柄表示装置８１において上述した「右打ちナビ」を表示することが好ましい。

【１６０４１】

更に、第１の作動パターンでは、移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している状態（図１４８２（ｂ）参照）で維持される期間が長く、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している状態とされるので、第１入賞口６４に入球した場合であっても、シーソー部材７６２で右側に流された球の一部で特別図柄２の抽選を獲得することができる。これにより、右打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が受ける不利益を低く抑えることができる。

【１６０４２】

一方、第３の作動パターンでは、移動板部材６４１が進入状態（図１４８２（ｂ）参照）で維持される期間が長いが、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避している退避状態とされるので、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の通過と同時に普通図柄（第２図柄）の変動が開始される場合において、その球は移動板部材６４１の正面側を通過して、センサＳＥに案内される。

【１６０４３】

即ち、第１入賞口６４に入球した場合に、シーソー部材７６２で右側に流された球で特別図柄２の抽選を獲得する可能性を低くすることができる。これにより、右打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が受ける不利益を第１の作動パターンでの場合に比較して高くすることができる。

【１６０４４】

例えば、第２の作動パターン及び第４の作動パターンでは、右打ち遊技において特別図柄２の抽選の獲得を目指すことは、電動役物６４０ａの動作時間が短すぎることから困難であるので、第３図柄表示装置８１において上述した「右打ちナビ」を表示することはせず、左打ち遊技を推奨することが好ましい。

【１６０４５】

この場合において、第２の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している進入状態（図１４８２（ｂ）参照）とされるので、第１入賞口６４

に入球した場合であっても、シーソー部材７６２で右側に流された球の一部で特別図柄２の抽選を獲得することができる。

【１６０４６】

これにより、左打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が獲得できる特別図柄の抽選を、特別図柄１と特別図柄２との交互で生じさせることができる。なお、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が進入状態とされる場合に特別図柄２の抽選を獲得できるのは、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の通過と同時に普通図柄（第２図柄）の変動が開始される場合なので、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出された時に普通図柄（第２図柄）の変動が継続している場合には、特別図柄２の抽選を獲得し易いという効果を奏することができない。

【１６０４７】

一方で、第２の作動パターン（又は第４の作動パターン）では、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の検出から電動役物６４０ａの動作制御の終了までが０．５秒間で設定されるので、同時間幅が３秒間で設定される第１，第３の作動パターンに比較して、普通図柄（第２図柄）の変動が保留される事態が生じる可能性を低くすることができる。従って、特別図柄２の抽選を獲得し易いという効果を高確率で奏することができる。

【１６０４８】

一方、第４の作動パターンでは、移動板部材６４１の進入状態（図１４８２（ｂ）参照）は第２の作動パターン同様に短いことに加え、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が退避状態とされるので、第１入賞口６４に入球した場合に、シーソー部材７６２で右側に流された球で特別図柄２の抽選を獲得する可能性を低くすることができる。これにより、左打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が獲得できる特別図柄の抽選のほとんどを、特別図柄１の抽選で占めることができる。

【１６０４９】

以上詳述したように、各作動パターンによれば、特別図柄１又は特別図柄２の抽選の獲得により大当たりの獲得を目指す遊技状態において、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。

【１６０５０】

図１４８８（ｂ）に戻って特別図柄１の大当たりと特別図柄２の大当たりとの、遊技者が得られる利益の違いについて説明する。

【１６０５１】

まず、最大ラウンド（本実施形態において、１５ラウンド）の大当たりを獲得する確率は、特別図柄２の方が高い。特別図柄１の大当たりの内、最大ラウンドの大当たりは２０％であるのに比較して、特別図柄２の大当たりは１００％で最大ラウンドとなる。従って、少なくとも賞球個数の面から、特別図柄２の大当たりにより遊技者が得られる利益の方が、特別図柄１の大当たりにより遊技者が得られる利益に比較して大きい。

【１６０５２】

また、大当たり遊技終了後に高確率状態となる場合において、特別図柄２の大当たりであれば１００％で右打ち遊技となり、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得することができるが、特別図柄１の大当たりの内の３０％（大当たりＢ）では、右打ち遊技とはならず左打ち遊技が推奨され、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選が交互に生じることになる。

【１６０５３】

この場合、左打ち遊技では、右打ち遊技に比較して特別図柄の抽選を獲得する時間効率が落ちることに加え、１／２で特別図柄１の抽選が実行されることから最大ラウンドの大当たりを獲得するまでのハードルが多くなる。

【１６０５４】

また、大当たり遊技終了後に低確率状態となる場合において、特別図柄２の大当たり（大当たりｃ）であれば右打ち遊技となり、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得することがで

きるが、特別図柄１の大当たり（大当たりＣ）では、右打ち遊技とはならず左打ち遊技が推奨され、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選が交互に生じることになる。

【１６０５５】

この場合、左打ち遊技では、右打ち遊技に比較して特別図柄の抽選を獲得する時間効率が落ちることに加え、１／２で特別図柄１の抽選が実行されることから最大ラウンドの大当たりを獲得するまでのハードルが多くなる。

【１６０５６】

更に、特別図柄の抽選が１００回という条件は同じであるが、大当たりｃであれば特別図柄２の抽選を１００回獲得することが容易であることに対して、大当たりＣでは、特別図柄１の抽選が５０回、特別図柄２の抽選が５０回で１００回の抽選が終了してしまうので、実質的には特別図柄２の抽選を５０回しか獲得することができない。

【１６０５７】

まとめると、特別図柄２の抽選による大当たりは、特別図柄１の抽選による大当たりに比較して、少なくとも、第１に、最大ラウンドの大当たりを獲得し易いこと、第２に、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得する遊技状態にし易いこと、第３に、右打ち遊技により特別図柄の抽選を獲得する時間効率を高い状態で維持し易いこと、という有利な点を有する。

【１６０５８】

上記第５０実施形態では、特別図柄２での抽選が優先的に実行される場合において、抽選に係る変動時間が３秒～５分程度の選択肢から確率で選択される前提で説明したが、これに限定されるものではない。例えば、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行する場合において、特別図柄２の抽選に係る変動時間を意図的に長く設定する遊技状態を構成しても良い。

【１６０５９】

即ち、例えば、大当たりＢの終了後や、大当たりＣの終了後の特別図柄の１００回の抽選において、特別図柄２の抽選の変動時間が常に１０分で設定されるようにしても良い。この場合、第１入賞口６４に入球した球がセンサＳＥを通過する場合と、第２入賞口６４０を通過する場合とが交互に生じる前提において、特別図柄２の保留個数が満タンとなった後に第１入賞口６４に入球させると、球が第２入賞口６４０を通過しても特別図柄２の抽選を獲得することができず、特別図柄１の抽選が繰り返し実行されることになる。

【１６０６０】

また、遊技者は、特別図柄２の保留個数が満タンの場合には第１入賞口６４には入球させないように遊技することもできるが、この場合には遊技の時間効率を悪くすることができ、同一時間内における大当たりの発生回数を低減させることができる。これにより、遊技機店側の経営が赤字となることを回避し易くすることができる。

【１６０６１】

上述の遊技状態では、シーソー部材７６２から右側に流される球は、特別図柄２の保留個数が満タンになるまでは、特別図柄２の抽選を獲得する利益と賞球の払い出しを受ける利益とを遊技者に与えるので、特別図柄１の抽選を獲得する利益と賞球の払い出しを受ける利益とを遊技者に与えるものとしての、シーソー部材７６２から左側に流される球よりも遊技者が得られる利益が大きい。

【１６０６２】

一方で、特別図柄２の保留個数が満タンになっている状態では、シーソー部材７６２から右側に流される球は、賞球の払い出しを受ける利益を遊技者に与えるのみとなるので、特別図柄１の抽選を獲得する利益が加算されている分だけシーソー部材７６２から左側に流される球よりも遊技者が得られる利益が小さい。

【１６０６３】

即ち、シーソー部材７６２から右側に流される球と、左側に流される球との、遊技者に与えられる利益の大小を、特別図柄２の保留個数が満タンか否かにより切り替えることができる。

【１６０６４】
なお、上述の遊技状態において、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されたことに基づく移動板部材６４１の動作は複数の作動パターンから抽選で選択されるよう構成しても良い。
【１６０６５】
例えば、第２の作動パターンでの動作が５％であり、残りの９５％は第４の作動パターンで動作するように制御しても良い。この場合、第２の作動パターンで移動板部材６４１が動作すれば特別図柄２の抽選を獲得できるという利点があるので、移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。
【１６０６６】
一方で、特別図柄２の保留個数が満タンの場合には、第４の作動パターンで動作すれば特別図柄１の抽選を獲得できる一方で、第２の作動パターンで移動板部材６４１が動作すると特別図柄１，２の抽選共に獲得することができないという不利益があるので、この場合にも移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。即ち、特別図柄２の保留個数が満タンである場合も、満タンでない場合も、移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。
【１６０６７】
なお、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行する場合において、特別図柄１の抽選に係る変動時間を意図的に長く設定する遊技状態を構成しても良い。例えば、特別図柄１の抽選の変動時間を常に１０分で設定することで、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選との両方が生じ得る遊技状態において、特別図柄１の抽選の結果が出る前に特別図柄２の抽選を複数回実行することができる。これにより、特別図柄１の抽選による大当たりが意図せず発生し、遊技者に不利益を与える可能性を低くすることができる。
【１６０６８】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【１６０６９】
普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設される右側の傾斜面７６１を流下する球と、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設されていない左側の傾斜面７６１を流下する球との、流下速度の均一化を図ることができる。
【１６０７０】
また、第１入賞口６４に入球した球が第２入賞口６４０側の流路に分岐される位置（例えば、第１送球経路ＫＲ１）や、第２入賞口６４０側に落下する位置（例えば、上側球通過孔７１３、下側球通過孔７１４）において、球の流下方向が前後方向成分を有する。これにより、第２入賞口６４０への球の流下に関係が深い箇所を目立たせることができる。
【１６０７１】
また、第２入賞口６４０への経路は下側球通過孔７１４の正面側で合流することになるが、この合流位置は移動板部材６４１から十分離れている。これにより、合流位置で衝突した球からの負荷が移動板部材６４１に付与される事態を避けることができる。なお、上側球通過孔７１３と下側球通過孔７１４との左右位置をずらすと共に第２入賞口６４０の左右幅を球２個分以上に拡大することで、下側球通過孔７１４の正面側における流路の合流を避けるようにしても良い。
【１６０７２】
また、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されてから普通図柄の変動表示が終了するまでに、次の球が普通入賞口（スルーゲート）７６５で検出されないように管理することが可能な場合を形成可能である。これにより、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球に、その球が検出されたことにより動作制御される電動役物６４０ａをタイミングよく作用させることができる。
【１６０７３】
また、移動板部材６４１は、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球に対しても、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７を通過した球に対しても作用可能に配設され

る。これにより、移動板部材６４１の利用可能性を高めることができる。
【１６０７４】
即ち、移動板部材６４１を、第１入賞口６４への入球を狙う左打ち遊技が推奨される遊技状態においても、普通入賞口（スルーゲート）６７への入球を狙う右打ち遊技が推奨される遊技状態においても、有効に利用することができる。なお、これは左右対称盤面に限定された効果ではなく、例えば、非対称盤面（例えば、普通入賞口（スルーゲート）６６が省略された構成）においても奏する効果である。
【１６０７５】
また、移動板部材６４１に乗る球の個数について、左側案内部６４５では同時に複数の球が乗り得る一方で、右側案内部６４３に乗る球の個数を１個に限定している。これにより、左側案内部６４５よりも右側案内部６４３を丈夫に構成することで、移動板部材６４１の耐久性を向上させることができる。
【１６０７６】
また、電動役物６４０ａの作動パターンを複数用意することで、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。例えば、第１入賞口６４に繰り返し入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンと、を切り替えることができる。
【１６０７７】
また、特別図柄の抽選の獲得パターンとして、右打ち遊技を推奨する場合において、図らずも第１入賞口６４に入球した場合に、特別図柄１の抽選を繰り返し獲得し易いパターンと、シーソー部材７６２で右側に流された球については高確率で特別図柄１の抽選の獲得が回避されるパターンと、を切り替えることができる。
【１６０７８】
次いで、図１４９０から図１４９９を参照して、第５１実施形態について説明する。第５０実施形態では、経路構成装置７００により振り分けられる一方の経路を球が流下する場合に普通入賞口（スルーゲート）７６５を球が通過する場合を説明したが、第５１実施形態の振分ユニット９８０では、球が振り分けられる複数の経路において球が普通入賞口（スルーゲート）としての検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を通過するよう構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１６０７９】
図１４９０は、第５１実施形態における遊技盤１３の分解正面斜視図である。なお、図１４９０では、ベース板６０に配設される入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０以外のユニットの図示が省略される。
【１６０８０】
図１４９０に示すように、ベース板６０には、センターフレーム８６（図１４７７参照）が取り付けられる中央開口の下側にベース板６０の厚み方向に貫通する貫通孔２０６０ａがルータ加工によって形成される。
【１６０８１】
貫通孔２０６０ａは、後述する正面ユニット９４０の正面視における外形よりも若干小さく形成され、内側に正面ユニット９４０に配設される駆動ユニット９６０及び特定入賞口ユニット９５０が挿入される。
【１６０８２】
ベース板６０には、遊技領域（正面）側から入賞口ユニット９３０が配設され、遊技領域と反対（背面）側から送球ユニット９７０が配設され、それぞれタッピングネジ等により締結固定される。なお、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０の詳細な構成については後述する。
【１６０８３】
入賞口ユニット９３０は、正面ユニット９４０と、その正面ユニット９４０の背面側に配設される特定入賞口ユニット９５０と、その特定入賞口ユニット９５０の背面側に配設される駆動ユニット９６０と、その駆動ユニット９６０の駆動力で上下方向に動作可能に

構成される変位部材９６６とを主に備えて形成される。なお、変位部材９６６の説明は後述する。

【１６０８４】

特定入賞口ユニット９５０は、正面ユニット９４０に形成される特定入賞口６５ａの内側に一部が挿入されており、特定入賞口６５ａを介して遊技球を特定入賞口ユニット９５０の内側に送球可能とされる。

【１６０８５】

駆動ユニット９６０は、特定入賞口ユニット９５０の背面側に配設されると共に、変位部材９６６を介して正面ユニット９４０に配設される羽部材９４５に連結される。これにより、駆動ユニット９６０の駆動力で変位部材９６６を動作させることに伴い、羽部材９４５を回転変位させることができる。なお、羽部材９４５の動作についての詳しい説明は後述する。

【１６０８６】

次いで、図１４９１から図１４９３を参照して、正面ユニット９４０の詳細な説明をする。図１４９１（ａ）は、正面ユニット９４０の正面図であり、図１４９１（ｂ）は、正面ユニット９４０の背面図である。図１４９２は、正面ユニット９４０の分解正面斜視図であり、図１４９３は、正面ユニット９４０の分解背面斜視図である。なお、図１４９１（ａ）及び図１４９１（ｂ）では、羽部材９４５の外形が隠れ線で図示される。

【１６０８７】

図１４９１から図１４９３に示すように、正面ユニット９４０は、ベース板６０に締結される背面ベース９４１と、その背面ベース９４１に遊技球の直径よりも大きい距離を隔てて配設される正面ベース９４３と、背面ベース９４１及び正面ベース９４３の対向間に回転可能な状態で配設される２個（一対）の羽部材９４５とを主に備えて形成される。

【１６０８８】

背面ベース９４１は、正面視における外形が上下反対向きの略Ｔ字状に形成されると共に、所定の板厚を備える板状体から形成される。また、背面ベース９４１は、無色透明の樹脂材料から形成されており、入賞口ユニット９３０（正面ユニット９４０）がベース板６０に配設された状態において、背面ベース９４１を介してベース板６０の貫通孔２０６０ａの内部を視認できる。

【１６０８９】

背面ベース９４１は、下端部に切り欠き形成される第１アウト口７１と、その第１アウト口７１の上方に位置し水平方向に長い矩形状に貫通形成される特定入賞口６５ａと、その特定入賞口６５ａの上方に貫通形成される第２入賞口６４０と、第１アウト口７１と反対側の縁部（上縁部）に切り欠き形成される第１入賞口６４とを主に備える。

【１６０９０】

背面ベース９４１は、外縁部に板厚方向に貫通する貫通孔９４１ａを複数個備える。貫通孔９４１ａは、正面側から背面側に向かって縮径する第１貫通孔９４１ａ１と、背面側から正面側に向かって縮径する第２貫通孔９４１ａ２とから形成される。

【１６０９１】

第１貫通孔９４１ａ１は、背面ベース９４１（入賞口ユニット９３０）をベース板６０に締結固定するためのタッピングネジを挿通する孔であり、内径がタッピングネジの螺入部分の外径よりも大きく設定される。

【１６０９２】

また、第１貫通孔９４１ａ１は、上述したように、正面側から背面側に向かって縮径して形成されるので、タッピングネジの頭部を正面側の拡径部分に収容することができる。従って、タッピングネジの頭部が遊技領域に突出することを抑制できる。さらに、第１貫通孔９４１ａ１の近傍には、背面ベース９４１の背面から円柱状に突出する位置決め突起９４２ａが形成される。

【１６０９３】

位置決め突起９４２ａは、ベース板６０の貫通孔２０６０ａの周囲に形成される位置決

め孔に対応する位置に形成されると共に、位置決め孔の内径と略同一の外径に形成される。これにより、背面ベース９４１（入賞口ユニット９３０）をベース板６０に対して位置決めして配設できる。

【１６０９４】

第２貫通孔９４１ａ２は、背面ベース９４１と正面ベース９４３とを締結するためのネジを背面ベース９４１側から挿通する孔であり、内径がネジの螺入部分の外径よりも大きく設定される。即ち、正面ベース９４３は、背面ベース９４１の背面側からネジで締結される。この場合、正面ベース９４３の背面ベース９４１からの取り外しの作業は、入賞口ユニット９３０をベース板６０から取り外した状態とする必要がある。従って、遊技者が不正をして遊技盤１３の前面側（遊技領域側）から正面ベース９４３のみを取り外すことを抑制できる。

【１６０９５】

また、第２貫通孔９４１ａ２は、上述したように、背面側から正面側に向かって縮径して形成されるので、ネジの頭部を背面側の拡径部分に収容することができる。従って、背面ベース９４１の背面側にネジの頭部が突出することを抑制できる。その結果、背面ベース９４１の背面側に後述する特定入賞口ユニット９５０を配設する場合に、ネジの頭が特定入賞口ユニット９５０に当接することを抑制できる。

【１６０９６】

背面ベース９４１は、重力方向下側端部の外形が、遊技盤１３の内レール６１（図１４７７参照）の内縁に沿って形成される。第１アウト口７１は、切欠き底部の縁部（重力方向上側の縁部）が内レール６１の内縁と遊技球の直径以上離間する寸法に形成される。これにより、遊技盤１３の前面に形成される遊技領域を流下する遊技球のうち第１入賞口６４、第２入賞口６４０、特定入賞口６５ａ及び一般入賞口６３（図１４７７参照）のいずれにも流入しなかった遊技球を、第１アウト口７１を介して遊技盤１３の背面側（遊技領域の反対側）に送球できる。

【１６０９７】

第１入賞口６４は、第１アウト口７１と反対側の端部を半円形状に切り欠いて形成される。また、第１入賞口６４は、その内縁の寸法が遊技球の直径よりも大きい寸法に形成される。これにより、後述する第１受部９４１ｇの内部に流入する遊技球を第１入賞口６４を介して背面側（遊技領域の反対側（図１４９１（ｂ）紙面手前側）に送球できる。

【１６０９８】

第１入賞口６４の縁部には、遊技領域側（図１４９１（ａ）紙面手前側）に突出すると共にカップ状に形成される第１受部９４１ｇと、遊技領域と反対側（図１４９１（ｂ）紙面手前側）に断面Ｕ字状に突出する第１送球部９４２ｇとが形成される。

【１６０９９】

第１受部９４１ｇは、内側に１球分の遊技球を受け入れ可能な大きさに形成される。これにより、第１受部９４１ｇ（第１入賞口６４）の重力方向上側から遊技領域を流下する遊技球を第１受部９４１ｇの内側に流入させることができる。

【１６１００】

また、第１受部９４１ｇは、底面が背面側に下降傾斜して形成される。これにより、第１受部９４１ｇに流入した遊技球を第１入賞口６４を介して背面側（第１送球部９４２ｇ側）に送球できる。

【１６１０１】

さらに、第１受部９４１ｇは、ベース板６０の短手方向（図１４９１左右方向）両端の上端部から、下側に向けて左右方向外側に傾斜して延設される案内部９４１ｇ１を備える。案内部９４１ｇ１は、所定の厚みを備える板状体に形成されると共に、遊技領域と反対側（背面側）の側面が、背面ベース９４１の前面側に連結される。これにより、第１受部９４１ｇの剛性を高めることができ、流下領域を流下する遊技球が第１受部９４１ｇに衝突して、第１受部９４１ｇが破損することを抑制できる。

【１６１０２】

また、背面ベース９４１に第１入賞口６４、第２入賞口６４０及び特定入賞口６５を一体に形成すると、遊技領域を流下する遊技球に変化を与える遊技釘の配置が足りなくなる可能性があるため、遊技球の流下方向を変化させ難くなる。従って、遊技者の興趣が損なわれる恐れがあるところ、案内部９４１ｇ１に遊技球を衝突させることで、遊技球の流下方向に変化を与えることができ、遊技者の興趣が損なわれることを抑制できる。

【１６１０３】

さらに、案内部９４１ｇ１は、背面ベース９４１の正面側を第２入賞口６４０側に向かって流下する遊技球が衝突した場合に、その遊技球を左右方向外側に案内できる。これにより、第２入賞口６４０に遊技球が入球する確率が過度に高くなることを防止することができる。

【１６１０４】

第１送球部９４２ｇは、重力方向上側が開放するＵ字に形成されており、その内縁の対向間の距離寸法が遊技球の直径よりも大きく形成される。また、第１送球部９４２ｇは、底面が背面側に向かって下降傾斜して形成されると共に、突出先端側が、後述する送球ユニット９７０の流入口９８２ｄの縁部に当接される。これにより、第１受部９４１ｇの内側から第１入賞口６４を介して第１送球部９４２ｇに送球される遊技球を背面側に転動させて、送球ユニット９７０に送球することができる。

【１６１０５】

第１送球部９４２ｇは、突出先端の上方端部が、側面視矩形状に切り欠かれる第１凹欠部９４２ｇ１を備える。第１凹欠部９４２ｇ１は、後述する送球ユニット９７０の第２突起９８２ｄ１が載置される切欠きであり、第２突起９８２ｄ１の側面視形状と略同一の大きさに凹欠される。なお、第１送球部９４２ｇ及び送球ユニット９７０の配置についての詳しい説明は後述する。

【１６１０６】

第２入賞口６４０は、正面視において上方が湾曲した略Ｄ字状に貫通形成されると共に、内縁が遊技球の外径よりも大きく形成される。これにより、後述する羽部材９４５の対向間に送球される遊技球を第２入賞口６４０から背面側に送球できる。

【１６１０７】

第２入賞口６４０には、その縁部に、正面側に突出する正面側壁部９４１ｂと、背面側に突出する第２送球部９４２ｃとが形成される。

【１６１０８】

正面側壁部９４１ｂは、ベース板６０の短手方向における第２入賞口の両側縁部に沿って形成される。正面側壁部９４１ｂは、その突出先端面が後述する正面ベース９４３の送球ガイド部９４３ｄと当接する大きさに設定される。

【１６１０９】

第２送球部９４２ｃは、第２入賞口６４０の下側縁部の両端のそれぞれに背面視略Ｌ字に屈曲して形成される。第２送球部９４２ｃは、重力方向（図１４９１（ｂ）上下方向）における寸法が遊技球の半径よりも大きく設定される。これにより、後述する正面ベース９４３の転動部９４３ａを転動する遊技球が転動部９４３ａの上面から落下することを抑制できる。

【１６１１０】

一対の第２送球部９４２ｃは、ベース板６０の短手方向（図１４９１（ｂ）左右方向）における対向間の距離寸法が後述する正面ベース９４３の転動部９４３ａのベース板６０の短手方向（図１４９１（ｂ）左右方向）における長さ寸法と略同一に設定され、内側に転動部９４３ａが配設される。

【１６１１１】

第２送球部９４２ｃは、組立状態において変位部材９６６の内側に配置され、上下左右方向で変位部材９６６と対向配置される。第２送球部９４２ｃの外側面間の左右幅が変位部材９６６の第２開口９６６ｃの内側面間の左右幅よりも若干短く形成される。これにより、第２送球部９４２ｃにより、変位部材９６６の左右方向変位を制限することができる

。
【１６１１２】
　背面ベース９４１は、第２入賞口６４０の近傍の上側（第１入賞口６４側）に、背面ベース９４１の遊技領域側から遊技領域と反対側に向かって円形状に２箇所に凹設される第１軸孔９４１ｄと、その第１軸孔９４１ｄの軸を中心に湾曲して背面ベース９４１に貫通形成される２箇所の第１開口９４１ｅと、その２箇所の第１開口９４１ｅの対向方向外側に位置し背面側に突設される第１ガイド壁９４２ｂと、を備えて形成される。
【１６１１３】
　第１軸孔９４１ｄは、後述する羽部材９４５を軸支する軸部材９４５ａを支持可能とされ、軸部材９４５ａの外径と略同一の内径に形成される。これにより、軸部材９４５ａの一端を第１軸孔９４１ｄに挿入して支持できる。
【１６１１４】
　第１開口９４１ｅは、第１軸孔９４１ｄの中心を軸とする円弧状に開口される。また、第１開口９４１ｅは、羽部材９４５の突起９４５ｂを挿通可能とされ、羽部材９４５の回転軸（挿通孔９４５ｃ）の径方向における突起９４５ｂの最大幅寸法よりも大きく設定される。これにより、羽部材９４５が回転した際に突起９４５ｂが第１開口９４１ｅの内面に当接することを抑制できる。
【１６１１５】
　一対の第１ガイド壁９４２ｂは、後述する変位部材９６６が変位される際に、変位部材９６６の上下方向変位を案内する壁であり、一対の第１ガイド壁９４２ｂの対向間における距離寸法が、変位部材９６６の短手方向（左右方向）の距離寸法よりも若干大きく設定される。
【１６１１６】
　また、一対の第１ガイド壁９４２ｂは、背面視略Ｌ字に形成され、屈曲部分が互いに近づく方向に延設される。これにより、変位部材９６６の突出部９６６ａを第１ガイド壁９４２ｂの屈曲部分に当接させて、変位部材９６６の変位距離を規制できる。
【１６１１７】
　特定入賞口６５ａは、一対の羽部材９４５の対向方向（図１４９１（ｂ）左右方向）に長い矩形状に開口形成されており、その開口の内側に後述する特定入賞口ユニット９５０の開閉板が配設される。
【１６１１８】
　背面ベース９４１は、特定入賞口６５ａと第２送球部９４２ｃとの対向間に膨出する膨出部９４２ｈと、特定入賞口６５ａの外枠から第１ガイド壁９４２ｂ側（図１４９１（ｂ）上側）に突出する第２ガイド壁９４２ｄとを備える。
【１６１１９】
　膨出部９４２ｈは、背面ベース９４１の背面側に膨出すると共に、特定入賞口６５ａの外枠と第２送球部９４２ｃとに連結される。これにより、後述する変位部材９６６を背面ベース９４１の背面側に配設した場合に、変位部材９６６と背面ベース９４１の背面との接触面積を小さくすることができ、変位部材９６６の摩擦（摺動）抵抗を抑えることができる。
【１６１２０】
　第２ガイド壁９４２ｄは、変位部材９６６の下端部分の変位を案内する壁面であり、一対の第２ガイド壁９４２ｄの対向間の距離寸法が変位部材９６６の短手方向の距離寸法よりも若干大きく設定される。従って、変位部材９６６を一対の第２ガイド壁９４２ｄの対向間に配設した場合に、変位部材９６６の下端部分の変位部材９６６の短手方向（左右方向）への変位距離を規制できる。
【１６１２１】
　従って、変位部材９６６は、上述した第２送球部９４２ｃが内側に配置されて左右方向の変位が制限されるだけでなく、第２ガイド壁９４２ｄが外側に配置されて左右方向の変位が制限される。これにより、変位部材９６６の左右方向変位を長期間にわたって制限す

ることができる。
【１６１２２】
背面ベース９４１は、特定入賞口６５ａの左右両端の上側縁部に下側に向かって半円状に切り欠いて形成される第２アウト口９４１ｆを備える。第２アウト口９４１ｆは、正面ベース９４３に形成される第３受部９４４ａに流入した遊技球をベース板６０の背面側に送球するための切り欠きであり、遊技球の直径よりも大きい形状に形成される。
【１６１２３】
また、第２アウト口９４１ｆの縁部には、背面視略Ｕ字状に形成され背面側に突出する第３送球部９４２ｅが形成される。これにより、第２アウト口９４１ｆの内側を介して背面側に送球した遊技球を第３送球部９４２ｅの内側に送球できる。
【１６１２４】
第３送球部９４２ｅは、背面視Ｕ字の湾曲部分（下側部分）が背面側に突出するに従って重力方向下側に傾斜して形成されており、第２アウト口９４１ｆから送球された遊技球を背面側に転動させることができる。
【１６１２５】
背面ベース９４１は、第１開口９４１ｅの上側端部から上方に直線的に延びる形状で貫通形成される第３貫通孔９４１ｉと、その第３貫通孔９４１ｉの上端部から左右外側へ向けて第１軸孔９４１ｄの軸を中心とする円弧形状で貫通形成される第４貫通孔９４１ｊと、一対の第３貫通孔９４１ｉの間に遊技球が通過可能な大きさで穿設される送球孔９４１ｋと、その送球孔９４１ｋの下縁部を基端として背面側へ延びる転動板部９４１ｌと、を備えて形成される。
【１６１２６】
第３貫通孔９４１ｉは、羽部材９４５の組み付け時に延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅを背面側へ通すための貫通孔である。また、第４貫通孔９４１ｊは、羽部材９４５の動作時に延設部９４５ｄの変位を許容するための貫通孔であり、正面視（軸部材９４５ａの軸方向視）における延設部９４５ｄの変位軌跡を丸ごと含む形状で穿設される。なお、板状部９４５ｅは背面ベース９４１を通過して背面側に配置されているので、板状部９４５ｅの変位軌跡まで考慮することは不要である。
【１６１２７】
送球孔９４１ｋは、羽部材９４５の開放状態において板状部９４５ｅの上面を転動した球を正面側に送球するための開口である。送球孔９４１ｋの正面側においては送球孔９４１ｋの下方が開け放されているので（図１４９２及び図１４９３参照）、送球孔９４１ｋに正面側から球が進入する可能性を低くすることができる。
【１６１２８】
即ち、送球孔９４１ｋの前側領域を、板状部９４５ｅの上面を転動した球と、羽状本体９４５の上面を転動した球との合流位置として形成しながら、送球孔９４１ｋを通しての球の流れは専ら正面側へ向く流れとすることができる。
【１６１２９】
転動板部９４１ｌは、背面側へ向けて上昇傾斜する傾斜板として形成されており、延設先端側で乗った球を基端側（正面側）へ流下させるよう構成されている。転動板部９４１の上面を転動して基端側まで到達した球は、送球孔９４１ｋを通って背面ベース９４１の正面側（背面ベース９４１と正面ベース９４３との間の空間）に到達し、その後、流下することになる。
【１６１３０】
正面ベース９４３は、正面視における外形が背面ベースよりも小さい上下反対の略Ｔ字状に形成される。また、正面ベース９４３は、無色透明な板状体から形成される。これにより、正面ベース９４３と背面ベース９４１との対向間を流下する遊技球を遊技者に視認させることができる。
【１６１３１】
正面ベース９４３は、上述した背面ベース９４１の第２入賞口６４０及び第２アウト口

９４１ｆのそれぞれに対応する位置に突設される第２受部９４３ｃ及び第３受部９４４ａを主に備えて形成される。

【１６１３２】

第２受部９４３ｃは、背面視略Ｕ字に形成され、正面視において内側に背面ベース９４１の第２入賞口６４０が配置される。また、第２受部９４３ｃの開放側（Ｕ字の開放側）には、後述する一対の羽部材９４５が配設される。

【１６１３３】

さらに、第２受部９４３ｃの背面ベース９４１側への突出距離は、遊技球の直径よりも大きく設定される。よって、背面ベース９４１及び正面ベース９４３の対向間に遊技球を送球することができると共に、遊技球が後述する一対の羽部材９４５の対向間の外側から第２入賞口６４０に流入することを抑制できる。

【１６１３４】

また、第２受部９４３ｃは、その内縁から内側に突設される送球ガイド部９４３ｄと、湾曲部分の内側から背面ベース側に突設される転動部９４３ａとを備える。

【１６１３５】

送球ガイド部９４３ｄは、一対の羽部材９４５の下側に一対形成される。また、一対の送球ガイド部９４３ｄは、背面ベース９４１の正面側壁部９４１ｂと対応する位置にそれぞれ形成されており、背面ベース９４１と正面ベース９４３とが組み合わされると、その端面同士が当接される。これにより、一対の羽部材９４５の対向間に流入した遊技球を送球ガイド部９４３ｄの対向間に送球できる。

【１６１３６】

転動部９４３ａは、一対の送球ガイド部９４３ｄの対向間の下側に形成されると共に、上側の端面９４３ａ１が背面ベース９４１側に向かって下降傾斜して形成される。また、上述したように、転動部９４３ａは、背面ベース９４１と正面ベース９４３とが締結された（組み合わされた）状態において、第２入賞口６４０の内側下端に配置されると共に、先端が背面ベース９４１の背面側に突出される。

【１６１３７】

これにより、一対の送球ガイド部９４３ｄの対向間に送球された遊技球を転動部９４３ａの端面９４３ａ１に送球できると共に、その遊技球を端面９４３ａ１の上部を転動させて、背面ベース９４１の背面側に送球できる。

【１６１３８】

また、正面ベース９４３は、第２受部９４３ｃの開口側（上側）に、背面ベース９４１の第１軸孔９４１ｄと対向する位置に円環状に突設される円環突起９４３ｂを備える。円環突起９４３ｂは、その内縁の第２軸孔９４３ｂ１を備え、その第２軸孔９４３ｂ１の内側に後述する羽部材９４５を軸支する軸部材９４５ａの他端を挿入できる。上述したように、軸部材９４５ａは、一端が背面ベース９４１の第１軸孔９４１ｄに挿入される。よって、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に軸部材９４５ａを挟持して支持できる。

【１６１３９】

第３受部９４４ａは、背面視略Ｕ字形成されており、その内側に背面ベース９４１の第２アウト口９４１ｆが配置される。これにより、遊技盤１３の遊技領域を流下する遊技球を第３受部９４４ａの内側に流入させることができると共に、第３受部９４４ａに流入した遊技球を第２アウト口９４１ｆを介して背面側に送球することができる。

【１６１４０】

羽部材９４５は、正面視において、背面ベース９４１に形成される第２入賞口６４０を間に挟んで一対配設される。羽部材９４５は、有色の半透明材料から形成されており、正面ベース９４３を介して遊技者から視認可能とされる。

【１６１４１】

羽部材９４５は、正面視略三角形状に形成されると共に、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間幅よりも厚みが小さく形成される羽状本体９４５ｍと、その羽状本体

９４５ｍの背面側から突出する突起９４５ｂと、羽状本体９４５ｍの厚み方向（背面ベース９４１側から正面ベース９４３側）に貫通形成される挿通孔９４５ｃと、羽状本体９４５ｍの端部であって挿通孔９４５ｃが配置される側とは反対側の端部から背面側へ延設される連結部９４５ｄと、その延設部９４５ｄの先端側から羽状本体９４５ｍの長手方向（図１４９１（ａ）上下方向）に板状で延設される板状部９４５ｅと、を主に備える。

【１６１４２】

延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅは、組立状態（図１４９１（ａ）参照）において貫通孔９４１ｉ，９４１ｊを通過し、振分ユニット９８０の内部において動作可能に構成される部分であるが、詳細は後述する。

【１６１４３】

挿通孔９４５ｃは、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に支持される軸部材９４５ａの外径よりも大きい内径に形成される。よって、背面ベース９４１と正面ベース９４３とを締結（組立）する際に、挿通孔９４５ｃに軸部材９４５ａを挿通させることで、羽部材９４５を回転可能な状態で背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に配設できる。これにより、羽部材９４５は、回転先端側が近接する閉鎖状態（図１４９１（ａ）参照）と、回転先端側が左右両外側に開くように変位される開放状態とで変位可能とされる。

【１６１４４】

突起９４５ｂは、後述する変位部材９６６の摺動溝９６６ａ２に挿通され、駆動ユニット９６０の駆動力が伝達される伝達部分である。突起９４５ｂは、その先端が背面ベース９４１の第１開口９４１ｅを通って背面ベース９４１の背面側に突出して、摺動溝９６６ａ２に挿通可能な寸法に設定される。

【１６１４５】

変位部材９６６は、正面視において上側が開放したコ字形状で形成されており、上側端部から左右方向外側に突出する突出部９６６ａと、下側端部から背面側に膨出する膨出部９６６ｂと、を備え、正面視略中央位置に第２開口９６６ｃが貫通形成される。

【１６１４６】

第２開口９６６ｃは、正面視における内縁の形状が第２入賞口６４０よりも大きく形成されると共に、内側に第２入賞口６４０が配置される。これにより、第２入賞口６４０を介して遊技領域と反対側に送球される遊技球が変位部材９６６の内縁に衝突することを抑制できる。

【１６１４７】

突出部９６６ａは、変位部材９６６の短手方向両外側に位置すると共に長手方向に延設される当接部９６６ａ１と、変位部材９６６の板厚方向に貫通して形成される摺動溝９６６ａ２と、を備える。

【１６１４８】

摺動溝９６６ａ２は、内側に上述した羽部材９４５の突起９４５ｂが挿入される長孔であり、変位部材９６６の短手方向に長い長穴に形成される。また、摺動溝９６６ａ２は、幅寸法が羽部材９４５の回転軸（挿通孔９４５ｃ）の径方向における突起９４５ｂの幅寸法よりも大きく設定される。これにより、羽部材９４５が回転した際に、突起９４５ｂが摺動溝９６６ａ２の幅方向に対向する両内面に当接して、羽部材９４５の動作が規制されることを抑制できる。

【１６１４９】

膨出部９６６ｂは、背面側（背面ベース９４１側）に膨出して形成されると共に、背面視における内側部分に横長矩形の連結孔９６６ｂ１が形成される。連結孔９６６ｂ１は、駆動ユニット９６０の伝達部材が挿入される開口であり、内縁の形状が、伝達部材の先端の外形よりも大きく設定される。

【１６１５０】

駆動ユニット９６０の伝達部材を介して変位部材９６６が下側位置に配置されることに対応して、羽部材９４５は閉鎖状態とされる。一方で、駆動ユニット９６０の伝達部材を

介して変位部材９６６が上側位置に配置されることに対応して、羽部材９４５は開放状態とされる。

【１６１５１】

次いで、図１４９４及び図１４９５を参照して、振分けユニット９８０について説明する。図１４９４（ａ）は、振分けユニット９８０の正面図であり、図１４９４（ｂ）は、振分けユニット９８０の背面図であり、図１４９５（ａ）は、図１４９４（ａ）のＭＣＤＸＣＶａ－ＭＣＤＸＣＶａ線における振分けユニット９８０の断面図であり、図１４９５（ｂ）は、図１４９５（ａ）のＭＣＤＸＣＶｂ－ＭＣＤＸＣＶｂ線における振分けユニット９８０の断面図である。

【１６１５２】

振分けユニット９８０は、背面ベース９８５と、その背面ベース９８５の遊技者側に配設される正面ベース９８１と、その正面ベース９８１と背面ベースとの間に回転可能な状態で配設される振分け部９８３と、を主に備えて形成される。なお、振分け部９８３は、第５０実施形態におけるシーソー部材７６２に対応する部材である。

【１６１５３】

背面ベース９８５は、有色半透明（本実施形態では、青色）の樹脂材料から形成され、板状体に形成されるベース部９８５ａと、そのベース部９８５ａの厚み方向に貫通する複数の開口（開口９８５ｂ～９８５ｇ）と、その複数の開口の上側に凹設される凹部９８５ｈと、その凹部９８５ｈの反対面から突出する収容部９８６ｂとを主に備えて形成される。

【１６１５４】

ベース部９８５ａは、正面視縦長矩形に形成され、その外縁部に円形状に貫通する複数の締結孔９８６ｃ及び９８６ｄと、を備えて形成される。締結孔９８６ｃは、後述する正面ベース９８１を挿通したネジを螺合する孔である。これにより、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を締結固定することができる。また、締結孔９８６ｄは、後述する通路ユニット９９０を挿通するネジを螺合する孔である。これにより、背面ベース９８５（振分けユニット９８０）及び通路ユニット９９０を締結固定することができる。

【１６１５５】

凹部９８５ｈは、ベース部９８５ａの短手方向（左右方向）略中央位置において正面ベース９８１側から背面側に向かって凹設される。また、凹部９８５ｈは、内側に後述する振分け部９８３の一部を収容可能な大きさに形成されると共に、底面に円環状に突出する軸受部９８５ｊを備える。軸受部９８５ｊは、振分け部９８３を軸支する軸部材９８８ａの一端が挿入される孔であり、軸部材９８８ａの外径よりも大きい内径に形成される。

【１６１５６】

開口９８５ｂ及び開口９８５ｃは、それぞれベース部９８５ａの短手方向両端部に形成されるとともに、内縁の寸法が遊技球の直径よりも大きく設定される。また、開口９８５ｂ及び開口９８５ｃは、下側内面が正面ベース９８１側と反対側に向かうにつれて下降傾斜して形成される。これにより、正面ベース９８１側から流入する遊技球を正面ベース９８１の反対側（背面側）に転動させることができる。

【１６１５７】

開口９８５ｅは、左右中央位置よりも開口９８５ｂ側に形成され、開口９８５ｆは、左右中央位置よりも開口９８５ｃ側に形成される。以下において、開口９８５ｅ，９８５ｆでは同様の構成が採用されるので、第２通路ＴＲ２を流下した球を受け入れ可能な開口９８５ｆのについて詳細な説明を行い、第１通路ＴＲ１を流下した球を受け入れ可能な開口９８５ｅの説明は省略する。

【１６１５８】

開口９８５ｆは、正面ベース９８１側に開口する空間の流入通路９８５ｆ１と、正面ベース９８１側と反対側に開口する空間の排出通路９８５ｆ３と、重力方向に延設され流入通路９８５ｆ１及び排出通路９８５ｆ３を連結する中間通路９８５ｆ２と、その中間通路９８５ｆ２において遊技球の送球方向（重力方向）と略直交する方向に凹設される凹設部

９８５ｆ４と、を主に備えて形成される（図１４９４（ｂ）及び図１４９５（ａ）参照）。

【１６１５９】

流入通路９８５ｆ１は、後述する正面ベース９８１と背面ベース９８５との対向間に形成される第２通路ＴＲ２に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を流入通路９８５ｆ１に流入させることができる。

【１６１６０】

中間通路９８５ｆ２は、重力方向に延設して形成され、上側が流入通路９８５ｆ１に連通されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、流入通路９８５ｆ１を通過する遊技球を中間通路９８５ｆ２に流入させることができる。

【１６１６１】

凹設部９８５ｆ４は、その内側に後述する検出装置ＳＥ３を配設するための切り欠きであり、背面視において検出装置ＳＥ３の外形と略同一に設定される。これにより、検出装置ＳＥ３をベース部９８５ａの背面側（正面ベース９８１と反対側）から挿入して配設することができる。

【１６１６２】

検出装置ＳＥ３は、遊技球の通過を検知する装置であり、その厚み方向に遊技球よりも若干大きい内径の検出孔ＳＥ１ａが貫通形成される。検出孔ＳＥ１ａは、検出装置ＳＥ３の長手方向の一方に偏って形成されており、検出孔ＳＥ１ａが形成されていない長手方向の他方に検出装置ＳＥ１を制御する検出基板ＳＥ１ｂが配設される。

【１６１６３】

また、検出装置ＳＥ３は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が中間通路９８５ｆ２の延設方向に平行に設定されると共に、検出孔ＳＥ１ａの内部空間と中間通路９８５ｆ２の空間とが略一致する位置に配置される。これにより、遊技球が中間通路９８５ｆ２の上側から流下する場合に、検出装置ＳＥ３の検出孔ＳＥ１ａを通過させることができる。これにより、第２通路ＴＲ２を通過する遊技球を検出することができる。

【１６１６４】

また、検出装置ＳＥ３は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が重力方向と平行に形成されるので、遊技球を検出孔ＳＥ１ａに送球する際に、遊技球の自重を利用しやすくできる。その結果、遊技球が中間通路９８５ｆ２及び検出孔ＳＥ１ａとの連結部分に引っ掛ることを抑制できる。

【１６１６５】

凹設部９８５ｆ４は、流入通路９８５ｆ１及び排出通路９８５ｆ３の空間と連なって形成される。即ち、中間通路９８５ｆ２は、検出装置ＳＥ３を利用して形成される。これにより、中間通路９８５ｆ２の重力方向の長さ寸法が大きくなることを抑制できる。その結果、背面ベース９８５が重力方向に大型化することを抑制できる。

【１６１６６】

排出通路９８５ｆ３は、中間通路９８５ｆ２の下側に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。また、排出通路９８５ｆ３は、振分けユニット９８０及び通路ユニット９９０が組み合わされた状態において、通路ユニット９９０の挿通孔に連結される。これにより、中間通路９８５ｆ２を通過する遊技球を、排出通路９８５ｆ３に流入させることができると共に、その空間を通過させて通路ユニット９９０に送球できる。

【１６１６７】

開口９８５ｇは、左右中央位置における背面ベース９８５の下端部に形成される。また、開口９８５ｇは、下側の内面が正面ベース９８１側と反対側に向かって下降傾斜して形成される。これにより、正面ベース９８１側から流入する遊技球を正面ベース９８１と反対側に転動させることができる。

【１６１６８】

流入通路９８５ｆ１は、後述する正面ベース９８１と背面ベース９８５との対向間に形

成される第２通路ＴＲ２に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を流入通路９８５ｆ１に流入させることができる。

【１６１６９】

収容部９８６ｂは、一対の半円環体から形成される。また、収容部９８６ｂは、後述する磁性体９８８ｂを内側に収容する部分であり、その内径が、円柱体に形成される磁性体９８８ｂの外径と略同一に設定される。また、収容部９８６ｂの突設寸法は、磁性体９８８ｂの軸方向寸法よりも大きく設定される。これにより、収容部９８６ｂの内側に磁性体９８８ｂを収容できる。また、収容部９８６ｂは、一対の半円環体から形成されるので、磁性体９８８ｂの外径が製造の誤差により微小に大きく形成された場合でも、一対の半円環体を弾性変形させて磁性体９８８ｂを配設できる。

【１６１７０】

磁性体９８８ｂは、磁石から形成されており、収容部９８６ｂに配設されることで、ベース部９８５ａを介して正面ベース９８１側に磁界を発生させることができる。これにより、後述する振分け部９８３に配設される磁性体９８８ｃを反発させて振分け部９８３を変位させやすくできる。

【１６１７１】

背面ベース９８５は、後述する第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２に検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を配置するための切り欠きである開口部９８５ｋが、背面視において検出装置ＳＥ４，ＳＥ５の外形と略同一の形状で形成される。これにより、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５をベース部９８５ａの背面側（正面ベース９８１と反対側）から挿入して配設することができる。なお、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５の構造は検出装置ＳＥ３の構造として上述したものと同様なので、説明は省略する。

【１６１７２】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向に平行に設定されると共に、検出孔ＳＥ１ａの内部空間と第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の空間とが略一致する位置に配置される。

【１６１７３】

これにより、遊技球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の上側から流下する場合に、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５の検出孔ＳＥ１ａを通過させることができる。これにより、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を通過する遊技球を検出することができる。

【１６１７４】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が重力方向と平行に形成されるので、遊技球を検出孔ＳＥ１ａに送球する際に、遊技球の自重を利用しやすくできる。その結果、遊技球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２と検出孔ＳＥ１ａとの連結部分に引っ掛ることを抑制できる。

【１６１７５】

検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａに球が通過したと検出された場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる装置として構成される。

【１６１７６】

開口部９８５ｋは、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の空間と連なって形成される。即ち、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２は、検出装置ＳＥ３を利用して形成される。これにより、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の重力方向の長さ寸法が大きくなることを抑制できる。その結果、背面ベース９８５が重力方向に大型化することを抑制できる。

【１６１７７】

正面ベース９８１は、有色半透明（本実施形態では、青色）の樹脂材料から形成される。また、正面ベース９８１は、正面視において背面ベース９８５よりも大きい略矩形状に形成されると共に、ベース板９８１ａとそのベース板９８１ａから遊技者側（背面ベース９８５の反対側）に膨出する膨出部９８２と、を主に備えて形成される。

【１６１７８】

ベース板９８１ａは、正面視略矩形状の板部材に形成され、その外周縁部に板厚方向に貫通する複数の挿通孔９８１ｇと、背面ベース９８５側に向けて突設される第１ガイド壁９８１ｆと、膨出部９８２の重力方向一側（重力方向下側）に板厚方向に貫通する貫通孔９８１ｃとを主に備えて形成される。

【１６１７９】

挿通孔９８１ｇは、組み立て状態の送球ユニット９７０をベース板６０（図１４９０参照）に締結するネジ（図示しない）を挿通する孔であり、ネジの先端部分の外径よりも大きい内径に設定される。

【１６１８０】

第１ガイド壁９８１ｆは、半円の円環形状に形成されると共に、後述する膨出部９８２を間に挟む状態で短手方向に一対形成される。また、第１ガイド壁９８１ｆは、半円の開放部分をベース板９８１ａの短手方向略中央側に向けて形成される。

【１６１８１】

貫通孔９８１ｃは、一辺が遊技球の直径よりも大きい正方形に貫通形成される。また、貫通孔９８１ｃは、その縁部に沿って正面側に立設される側壁部９８１ｂを備えて形成される。

【１６１８２】

また、貫通孔９８１ｃは、上述した入賞口ユニット９３０の第２入賞口６４０に連通する部分であり、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着された状態において、第２入賞口６４０に流入した遊技球の転動方向と重なる位置に形成される。

【１６１８３】

側壁部９８１ｂは、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着された状態において、立設先端面が入賞口ユニット９３０の第２送球部９４２ｃ（図１４９３参照）と当接する寸法に形成される。また、側壁部９８１ｂは、下側の内面の転動面９８１ｃ１が、転動部９４３ａの端面９４３ａ１（図１４９３参照）よりも下側に位置されると共に、背面ベース９８５側に向かって下降傾斜して形成される。

【１６１８４】

膨出部９８２は、ベース板９８１ａから膨出するドーム状に形成されると共に、その内側に遊技球を挿通可能な大きさに設定され、その内側に流入口９８２ｄから流入される遊技球が通過する送球通路ＴＲ０と、その送球通路ＴＲ０から分岐する第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２とを備えて形成される。

【１６１８５】

膨出部９８２は、正面視縦長矩形に形成されると共に、上端部を切り欠いて形成される流入口９８２ｄと、正面視略左右中央位置において背面ベース９８５側に向かって延びる壁状に形成される立設壁９８２ａと、重力方向下の複数箇所において遊技球を背面側へ送球可能な湾曲面として形成される凹部９８２ｅ～９８２ｊとを主に備えて形成される。

【１６１８６】

また、膨出部９８２は、立設壁９８２ａの下側において前後方向で穿設される送球開口９８２ｋと、その送球開口９８２ｋの左右両側において前後方向に縦長矩形状で穿設される挿通開口９８２ｌと、その挿通開口９８２ｌの上端部から左右外側に延設される形状で穿設される回転許容開口９８２ｍと、を備える。

【１６１８７】

流入口９８２ｄは、正面視略Ｕ字状に切り欠き形成される。また、流入口９８２ｄは、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着された状態において、内縁部分が、入賞口ユニット９３０の第１入賞口６４に流入した遊技球の転動方向と重なる位置に形成される。

【１６１８８】

また、流入口９８２ｄは、上側縁部に背面ベース９８５側と反対側に突出する第２突起９８２ｄ１を備える。第２突起９８２ｄ１は、上述した入賞口ユニット９３０の第１凹欠

部９４２ｇ１（図１４９３参照）の内縁形状に形成されており、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に配設された場合に、第１凹欠部９４２ｇ１の内縁に第２突起９８２ｄ１が当接される。

【１６１８９】

また、第２突起９８２ｄ１から流入口９８２ｄの下側端面までの距離寸法Ｌ１４（図１４９４（ａ）参照）は、第１凹欠部９４２ｇ１の内縁から第１送球部９４２ｇの下側内縁までの距離寸法Ｌ１５（図１４９１（ｂ）参照）までの距離寸法よりも大きく設定される。これにより、第１入賞口６４を介して第１送球部９４２ｇに送球された遊技球が、流入口９８２ｄに流入する際に、流入口９８２ｄ（膨出部９８２）と第１送球部９４２ｇとの間に挟まりにくくできる。

【１６１９０】

立設壁９８２ａは、正面視において膨出部９８２の外縁形状と所定の間隔を隔てる矩形状に形成される。また、立設壁９８２ａは、流入口９８２ｄの下側に形成されると共に、上側に立設方向視三角形状に形成される当接部９８２ａ１を備えて形成される。

【１６１９１】

立設壁９８２ａは、膨出部９８２の外周部分の内縁との水平方向間隔が遊技球の直径よりも大きく設定されており、その対向間に遊技球が通過可能な空間の第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２が形成される。

【１６１９２】

第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２は、後述する振分け部９８３の下流側に形成されており、振分け部９８３を通過する遊技球がどちらかに送球される。振分け部９８３は、流入口９８２ｄに流入する遊技球を、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に交互に送球可能に設定される。これにより、第１入賞口６４に流入する遊技球の送球が単調になることを抑制できる。その結果、遊技者の興趣が損なわれることを抑制できる。

【１６１９３】

立設壁９８２ａの上側には、膨出部９８２の内側面から背面ベース９８５側に円環状に突出する軸受部９８２ｃが形成される。軸受部９８２ｃは、後述する振分け部９８３を軸支する軸部材９８８ａの他端側を支持する部分であり、内径が軸部材９８８ａの外径と略同一に設定される。よって、軸部材９８８ａを軸受部９８２ｃに挿入することで、軸部材９８８ａの他端側を支持できる。

【１６１９４】

また、上述したように、軸部材９８８ａの一端側は、背面ベース９８５の軸受部９８５ｊに挿入されるので、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み合わせる際に、軸部材９８８ａの一端を軸受部９８５ｊに挿入すると共に、軸部材９８８ａの他端側を軸受部９８２ｃに挿入することで、軸部材９８８ａを正面ベース９８１及び背面ベース９８５の間に支持できる。

【１６１９５】

当接部９８２ａ１は、後述する振分け部９８３の回転軌跡上に形成されており、振分け部９８３の作用部９８３ａが当接することで、振分け部９８３の回転変位量が規制される。

【１６１９６】

凹部９８２ｅ及び凹部９８２ｆは、膨出部９８２の下側の内側面から第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向と略直交する方向に凹設される。また、凹部９８２ｅ及び凹部９８２ｆの内側には、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２と連通する空間の第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２が形成される。

【１６１９７】

第１分岐通路ＢＫ１は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｂと連通される。従って、第１分岐通路ＢＫ１は、第１通路ＴＲ１を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されると共に、その受け入れた遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｂに流入可能とされる。

【１６１９８】
　第２分岐通路ＢＫ２は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｃと連通される。従って、第２分岐通路ＢＫ２は、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されると共に、その受け入れた遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｃに流入可能とされる。
【１６１９９】
　第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球は、図示しない球排出路へと案内される。即ち、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球は、第１アウト口７１に流入した球と同様、いかなる利益を遊技者に与えることなく排出される。
【１６２００】
　なお、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球により遊技者に与えられる利益については、種々の変更が可能である。例えば、予め設定された個数の賞球が払い出される利益として設計しても良いし、普通図柄の抽選や大当たり抽選を行うための検出装置に球が検出されることで得られる利益として設計しても良い。
【１６２０１】
　凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊは、膨出部９８２の下側の内側面から第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向に凹設される。即ち、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２は、凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊの分、下側に延設される。
【１６２０２】
　第１通路ＴＲ１は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｅと連通される。従って、第１通路ＴＲ１は、流入口９８２ｄに流入した遊技球が流入されると共に、その流入された遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｅに流入可能とされる。
【１６２０３】
　第２通路ＴＲ２は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｆと連通される。従って、第２通路ＴＲ２は、流入口９８２ｄに流入した遊技球が流入されると共に、その流入された遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｆに流入可能とされる。
【１６２０４】
　送球開口９８２ｋは、凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊの間に形成される。また、送球開口９８２ｋの内側には、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２と連通する空間の第３分岐通路ＢＫ３が形成される。よって、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に連通する第３分岐通路ＢＫ３が、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の間に形成されるので、振分けユニット９８０の小型化を図ることができる。
【１６２０５】
　第３分岐通路ＢＫ３の下側に形成される転動面９８２ｇは、正面側に向けて下降傾斜する傾斜面として形成される。これにより、第３分岐通路ＢＫ３は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において、正面ベース９８１の背面側を流下した遊技球が正面ベース９８１の正面側に通過可能となる通路となる。
【１６２０６】
　本実施形態では、第３分岐通路ＢＫ３は、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されており、その受け入れた遊技球は、送球開口９８２ｋ及び送球孔９４１ｋ（図１４９１（ａ）参照）を通して正面側へ流れ、第２入賞口６４０に入球可能となるように構成されている。
【１６２０７】
　膨出部９８２の傾斜部９８２ｂは、膨出部９８２の下側に形成されると共に、下側に向かって背面ベース９８５側に傾斜して延設される。また、傾斜部９８２ｂは、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み合わせた状態において、膨出部９８２の左右幅方向に亘って形成される。

【１６２０８】
これにより、第１通路ＴＲ１、第２通路ＴＲ２、第１分岐通路ＢＫ１及び第２分岐通路ＢＫ２を流下する遊技球を傾斜部９８２ｂに当接させることで、流下する遊技球を開口９８５ｂ～９８５ｆ側（背面側）に案内して開口９８５ｂ～９８５ｆに流入させ易くできる。
【１６２０９】
一方、第３分岐通路ＢＫ３を流下する遊技球を転動面９８２ｇに当接させることで、流下する遊技球を送球開口９８２ｋ側（正面側）に案内して、送球開口９８２ｋに流入させ易くすることができる。
【１６２１０】
転動面９８２ｇは、正面視で左右対称形状ではなく、左側部の方が右側部よりも下側に形成されることで左右非対称形状とされる。これにより、第３分岐通路ＢＫ３に左右から同時に球が到達した場合に第３分岐通路ＢＫ３において球が左右に並ぶことを避け易くすることができ、球の並ぶ方向（直列方向）が上下方向成分を有するようにすることができる。これにより、第３分岐通路ＢＫ３で球詰まりが生じることを避け易くすることができ、球詰まりと関連して羽部材９４５が動作不能となる事態を避けることができる。
【１６２１１】
挿通開口９８２ｌは、ベース部材６０に入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０を組み付ける際に、羽部材９４５の延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅを膨出部９８２の背面側へ挿通させるための開口である。
【１６２１２】
即ち、入賞口ユニット９３０の組立状態において背面ベース９４１の第３貫通孔９４１ｉに挿通され背面側に張り出した延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅ（図１４９１（ｂ）参照）は、送球ユニット９７０の挿通開口９８２ｌにも挿通され、延設部９４５ｄが挿通開口９８２ｌを貫いている状態で、膨出部９８２の背面側に板状部９４５ｅが配置される。
【１６２１３】
回転許容開口９８２ｍは、膨出部９８２を貫いている延設部９４５ｄの変位が規制されることを避けるために必要となる範囲に貫通形成される開口である。回転許容開口９８２ｍが最小限の大きさ（遊技球の直径よりも小さな幅）で形成されることにより、回転許容開口９８２ｍを通して遊技球が正面側に送球されることを避けることができる。次いで、図１４９６を参照して羽部材９４５の開閉動作に伴う板状部９４５ｅの変位について説明する。
【１６２１４】
図１４９６（ａ）及び図１４９６（ｂ）は、図１４９５（ａ）のＭＣＤＸＣＶｂ－ＭＣＤＸＣＶｂ線における振分けユニット９８０の断面図である。図１４９６（ａ）では、閉鎖状態における羽部材９４５（板状部９４５ｅ）が図示され、図１４９６（ｂ）では、開放状態における羽部材９４５（板状部９４５ｅ）が図示される。
【１６２１５】
図１４９６（ａ）に示すように、羽部材９４５の閉鎖状態では、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２から退避されており、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球は開口９８５ｅ，９８５ｆに流される。そのため、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下した球が第３分岐通路ＢＫ３側に案内されることの防止を図ることができる。
【１６２１６】
図１４９６（ｂ）に示すように、羽部材９４５の開放状態では、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に板状部９４５ｅが進入しており、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球は第３分岐通路ＢＫ３側に流される。そのため、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下した球が開口９８５ｅ，９８５ｆに案内されることの防止を図ることができる。
【１６２１７】

即ち、羽部材９４５は、開放状態と閉鎖状態とで切り替えられることで、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球が案内される側を切り替え可能に構成される。換言すれば、羽部材９４５は、羽状本体９４５ｍ（図１４９２参照）が配置される背面ベース９４１と正面ベース９４３との間の領域を流下する球の案内方向を切り替えるように作用するのみならず、板状部９４５ｅが配置される振分ユニット９８０の内部領域を流下する球の案内方向を切り替えるように作用する。

【１６２１８】

球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に羽部材９４５が開閉動作する場合について説明する。上流分岐位置ＢＫ０は、流下する球が羽部材９４５の作用を受ける位置の直前の位置として設定される。羽部材９４５の開放状態において球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に、羽部材９４５が閉鎖状態へ向けて開閉動作すると、球は板状部９４５ｅにより第３分岐通路ＢＫ３側に押し込まれる。

【１６２１９】

一方で、羽部材９４５の閉鎖状態において球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に、羽部材９４５が開放状態へ向けて開閉動作すると、球は開口９８５ｅ，９８５ｆに案内されるか、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内される。

【１６２２０】

このように、羽部材９４５の動作方向側が閉塞されることなく、動作方向側に球を案内可能な程度の空間が形成されるので、羽部材９４５と膨出部９８２との間で球が挟まることで球詰まりが生じる事態の発生を回避し易くすることができる。

【１６２２１】

開口９８５ｅ，９８５ｆに案内された場合には、球は検出装置ＳＥ３に検出されることで特別図柄１の抽選を獲得可能であり、賞球の払い出しの利益を受けることができるが、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された場合には、特別図柄１の抽選も、賞球の払い出しの利益も、得ることはできない。

【１６２２２】

従って、羽部材９４５が閉鎖状態の時に上流分岐位置ＢＫ０に球が到達した場合には、その直後に羽部材９４５が開閉動作することにより遊技者が不利益を受ける可能性がある。そのため、上流分岐位置ＢＫ０及び羽部材９４５に対する注目力を向上することができる。

【１６２２３】

図１４９６（ｂ）に示すように、羽部材９４５及び羽状部９４５ｅは左右対称形状で構成されるので、第１通路ＴＲ１で流下した球と、第２通路ＴＲ２で流下した球とで、羽部材９４５による拾い易さに差は生じないようにすることができる。なお、左右から同時に球が案内された場合における球詰まりの防止は、第３分岐通路ＢＫ３の転動面としての転動面９８２ｇの形状を上述したように左右非対称とすることにより図っている。

【１６２２４】

図１４９４及び図１４９５に戻って説明する。振分け部９８３は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間の寸法よりも若干小さい厚みに設定されると共に、正面視略Ｔ字状に形成される。また、振分け部９８３は、Ｔ字状の一辺側の作用部９８３ａと、その作用部９８３ａの延設方向略中央位置から突出する中間板９８３ｂと、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂの連結部分に貫通される貫通孔９８３ｃと、その貫通孔９８３ｃの軸を中心に円形状に膨出する当接部９８３ｄと、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂの背面ベース９８５側に連結して形成される壁部９８３ｅとを主に備えて形成される。

【１６２２５】

貫通孔９８３ｃは、正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間に支持される軸部材９８８ａが挿入される孔であり、軸部材９８８ａの外径よりも若干大きく形成される。これにより、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み上げる場合に、軸部材９８８ａを振分け部９８３の貫通孔９８３ｃに挿入した状態とすることで、振分け部９８３が回転可能な状態で正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間に配設される。

【１６２２６】
中間板９８３ｂは、貫通孔９８３ｃの径方向外側に向かって延設して形成されると共に、振分け部９８３の変位が一方または他方に回転して規制された状態において、その先端から中間板９８３ｂの内側までの離間距離Ｌ１７（図１４９５（ｂ）参照）が遊技球の直径よりも小さい寸法とされる。これにより、遊技球の送球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の一方または他方のどちらかに規制される。
【１６２２７】
また、中間板９８３ｂは、振分け部９８３が貫通孔９８３ｃを中心に回転されることで、第１通路ＴＲ１の一方に遊技球の送球を規制した状態から第２通路ＴＲ２の他方に遊技球の送球を規制した状態に切り換えられる。
【１６２２８】
作用部９８３ａは、正面視において中間板９８３ｂの延設方向と略直交する方向に延設して形成される。また、作用部９８３ａは、当接部９８３ｄとの連結位置が、中間板９８３ｂの当接部９８３ｄとの連結位置よりも下側に設定される。これにより、流入口９８２ｄを介して振分け部９８３に送球される遊技球は、作用部９８３ａ側に荷重をかけた状態とされる。その結果、振分け部９８３は、貫通孔９８３ｃを中心に回転変位される。
【１６２２９】
壁部９８３ｅは、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂに連結されると共に、貫通孔９８３ｃの軸方向視において略半円状の板状に形成される。壁部９８３ｅは、貫通孔９８３ｃの軸と直交する方向において作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂよりも外側に突出して形成されると共に、厚み寸法が上述した背面ベース９８５の凹部９８５ｈの凹設寸法よりも小さく設定される。
【１６２３０】
よって、背面ベース９８５及び正面ベース９８１の対向間に振分け部９８３を配設した状態において、凹部９８５ｈの内部に壁部９８３ｅを配置できる。これにより、流入口９８２ｄから振分けユニット９８０の内部に送球される遊技球が、凹部９８５ｈの内部に引っ掛ることで、その遊技球の流下が阻害されることを抑制できる。
【１６２３１】
また、壁部９８３ｅは、中間板９８３ｂの背面側であって、貫通孔９８３ｃから径方向外側端部に、中間板９８３ｂ側に向かって凹設される収容部９８３ｅ１を備える。収容部９８３ｅ１は、円柱状体に形成される磁性体９８８ｃを内側に収容する部分であり、磁性体９８８ｃの外径と略同一の内径の円形に凹設される。また、収容部９８３ｅ１は、背面ベース９８５側から正面ベース９８１側に向かって凹設されており、磁性体９８８ｃが背面ベース９８５側から内部に収容される。
【１６２３２】
磁性体９８８ｃは、磁石から形成されており、背面ベース９８５に配設される磁性体９８８ｂと反発する状態で配設される。これにより、振分け部９８３は、磁性体９８８ｃが背面ベース９８５に配設される磁性体９８８ｂから磁力が作用されて、貫通孔９８３ｃを軸に回転して作用部９８３ａの延設方向を一方または他方に傾いた状態にできる。
【１６２３３】
また、磁性体９８８ｃと磁性体９８８ｂとが反発される状態に配設されると共に、収容部９８３ｅ１が正面側に向かって凹設されるので、収容部９８３ｅ１に挿入する磁性体９８８ｃが収容部９８３ｅ１から抜け出ることを抑制できる。即ち、収容部９８３ｅ１に挿入される磁性体９８８ｃを係止する部分を必要としないので、振分け部９８３の構造を簡易にできると共に、振分け部９８３への磁性体９８８ｃの配設を簡易にできる。
【１６２３４】
なお、磁性体９８８ｂ及び磁性体９８８ｃの磁力は、遊技球の荷重よりも小さい磁着力に設定される。これにより、振分けユニット９８０の内側を送球される遊技球が磁性体９８８ｂ及び磁性体９８８ｃに磁着して、振分けユニット９８０の内側に停滞することを抑制できる。

【１６２３５】
次いで、駆動ユニット９６０の駆動による羽部材９４５の作動パターンについて説明する。まず、図１４９６を参照して、第１入賞口６４に入球した球の流下に要する時間の関係について説明する。
【１６２３６】
第１入賞口６４に入球した球は、送球通路ＴＲ０に到達した後、振分け部９８３を傾倒動作させて左右片側に流下される。この傾倒動作は、図１４８３（ａ）及び図１４８３（ｂ）においてシーソー部材７６２の動作として説明した内容と重複するので説明は省略するが、本実施形態では、その傾倒動作に要する時間を十分長く確保する目的で、磁性体９８８ｂ，９８８ｃの磁力が大きくなるように設計している。即ち、本実施形態では、振分け部９８３の傾倒動作（図１４８３（ａ）に示す状態から図１４８３（ｂ）に示す状態までの動作）に少なくとも０．８秒かかるように設計されている。
【１６２３７】
振分け部９６３の傾倒動作後、球が送球通路ＴＲ０から第１通路ＴＲ１側に流れた場合、その球が検出装置ＳＥ４に検出されるまでに０．４秒間要するように通路が設計される。また、振分け部９６３の傾倒動作後、球が送球通路ＴＲ０から第２通路ＴＲ２側に流れた場合、その球が検出装置ＳＥ５に検出されるまでに０．２秒間要するように通路が設計される。即ち、検出センサＳＥ４と検出センサＳＥ５との上下方向の距離は、球の流下速度で０．２秒間を要する距離として設定される。
【１６２３８】
流下する球が羽部材９４５の作用を受ける直前の位置として、上流分岐位置ＢＫ０が左右一対で設定される。送球通路ＴＲ０から第１通路ＴＲ１側又は第２通路ＴＲ２側に球が流れてから、上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．６秒間を要するように設計される。
【１６２３９】
即ち、検出装置ＳＥ４に球が検出されてから、その球が上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．２秒間を要する。また、検出装置ＳＥ５に球が検出されてから、その球が上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．４秒間を要する。
【１６２４０】
上流分岐位置ＢＫ０に球が到達したタイミングで羽部材９４５が閉鎖状態であれば、球は開口９８５ｂ，９８５ｃ又は開口９８５ｅ，９８５ｆを通過する一方で、上流分岐位置ＢＫ０に球が到達したタイミングで羽部材９４５が開放状態であれば、球は第３分岐通路ＢＫ３側に案内され、送球開口９８２ｋ（図１４９４（ａ）参照）を通過する。
【１６２４１】
上述のような流路構成によれば、駆動ユニット９６０の駆動による羽部材９４５の作動パターンを、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されてから０．６秒よりも短い時間で終了する作動パターンで設計するようにすれば、第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合であっても、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出したら即座に普通図柄の変動を開始することができる。
【１６２４２】
例えば、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が第１通路ＴＲ１側に流れて検出装置ＳＥ４で検出された場合、次の球が第２通路ＴＲ２側に流れるまでには０．８秒の空きがあり、検出装置ＳＥ５の方が０．２秒分だけ検出装置ＳＥ４よりも上側にあるとしても０．６秒の空きが確保される。即ち、先の球が検出装置ＳＥ４で検出されてから、次の球が検出装置ＳＥ５で検出されるまでに０．６秒を要する。
【１６２４３】
例えば、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が第２通路ＴＲ２側に流れて検出装置ＳＥ５で検出された場合、次の球が第１通路ＴＲ１側に流れるまでには０．８秒の空きがあり、検出装置ＳＥ４の方が０．２秒分だけ検出装置

ＳＥ５よりも下側にあるので１．０秒の空きが確保される。即ち、先の球が検出装置ＳＥ５で検出されてから、次の球が検出装置ＳＥ４で検出されるまでに１．０秒を要する。

【１６２４４】

このように、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が左右どちらに流れた場合であっても、球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される間隔は０．６秒以上となる。

【１６２４５】

この前提のもと、本実施形態で説明する第１１の作動パターン～第１４の作動パターンは、それぞれ球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で検出されてから０．５秒で完了する（普通図柄の変動表示の終了までに０．５秒を要する）ように設計されているので、第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合であっても、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出したら即座に普通図柄の変動を開始することができる。そのため、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５での球の検出から羽部材９４５の動作が実行されるまでに時間遅れが生じることを防止することができる。

【１６２４６】

図１４９７（ａ）から図１４９７（ｄ）は、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５における球の通過の検出と、羽部材９４５の状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１４９７（ａ）では、第１１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４９７（ｂ）では、第１２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４９７（ｃ）では、第１３の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１４９７（ｄ）では、第１４の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【１６２４７】

図１４９７（ａ）から図１４９７（ｄ）では、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されたことによる第２図柄の変動表示（０．１秒）の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３（図１４７７参照）に表示された場合における羽部材９４５の状態の計時変化について説明する。

【１６２４８】

図１４９７（ａ）に示すように、第１１の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．４秒間維持される。

【１６２４９】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においても、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においても、羽部材９４５が開放状態で維持される。

【１６２５０】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下するか第２通路ＴＲ２で流下するかに関わらず、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選よりも特別図柄２の抽選の方が多くなる。

【１６２５１】

図１４９７（ｂ）に示すように、第１２の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．２秒間維持される。その後の０．２秒間は、閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。

【１６２５２】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．

２秒後においては羽部材９４５が開放状態で維持されるが、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においては羽部材９４５が閉鎖状態とされる。

【１６２５３】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができるが、球が第２通路ＴＲ２で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させることはできないので、その球は検出装置ＳＥ３（図１４９５（ａ）参照）に検出される。

【１６２５４】

即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に生じる。球が第１通路ＴＲ１で流下する場合が特別図柄２の抽選に対応する。

【１６２５５】

図１４９７（ｃ）に示すように、第１３の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）、０．２秒後に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．２秒間維持される。その後、閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。

【１６２５６】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においては羽部材９４５が閉鎖状態とされるが、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においては羽部材９４５が開放状態で維持される。

【１６２５７】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させることはできないので、その球は検出装置ＳＥ３（図１４９５（ａ）参照）に検出されるが、球が第２通路ＴＲ２で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。

【１６２５８】

即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に生じる。球が第２通路ＴＲ１で流下する場合が特別図柄２の抽選に対応する。

【１６２５９】

図１４９７（ｄ）に示すように、第１４の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）、０．４秒が経過する直前に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その直後に閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。

【１６２６０】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においても、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においても、羽部材９４５が閉鎖状態で維持される。

【１６２６１】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下するか第２通路ＴＲ２で流下するかに関わらず、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。即ち、第１入賞口６４への入球に基

づいて獲得される抽選は、特別図柄２の抽選よりも特別図柄１の抽選の方が多くなる。

【１６２６２】

図１４９７（ａ）から図１４９７（ｄ）に示すように、羽部材９４５の作動パターンを異ならせることにより、第１入賞口６４に入球した場合に獲得される抽選が、特別図柄１の抽選となるか特別図柄２の抽選となるかを切り替えることができる。

【１６２６３】

即ち、第１１の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、特別図柄２の抽選を連続で獲得可能とされる。また、第１４の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、特別図柄１の抽選を連続で獲得可能とされる。

【１６２６４】

第１２の作動パターン又は第１３の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、第１通路ＴＲ１で流下する球と第２通路ＴＲ２で流下する球とで獲得される抽選の特別図柄が異なり、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されることになる。

【１６２６５】

ここで、特別図柄１の抽選による大当たりで遊技者が得られる利益と、特別図柄２の抽選による大当たりで遊技者が得られる利益とが異なる場合、その大当たりが特別図柄１の抽選によるものか、特別図柄２の抽選によるものかについての遊技者の注目度合いは大きい。

【１６２６６】

従来、振分け部９８３で左右に球が振り分けられる遊技機では、振分け部９８３により左右一方側（通常は左側）に流された球により特別図柄１の抽選を獲得でき、左右他方側（通常は右側）に流された球により特別図柄２の抽選を獲得できるように構成されていた。

【１６２６７】

そのため、振分け部９８３により球が左右どちらに流されるかを確認できれば、その後は球から目を離しても、これから実行される抽選が特別図柄１の抽選か特別図柄２の抽選かを把握することができた。この場合、振分け部９８３の下流側における球の流下経路に対する注目力が低下することになり、遊技領域を演出領域として有効利用できていないという問題点が生じる。

【１６２６８】

これに対し、本実施形態では、第１２の作動パターンでは第１通路ＴＲ１で流下する球により特別図柄２の抽選を獲得でき、第１３の作動パターンでは第２通路ＴＲ２で流下する球により特別図柄２の抽選を獲得できる。そのため、球が振分け部９８３により左右どちらに流されるかを確認するだけでは、その球が特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを把握することはできない。

【１６２６９】

即ち、振分け部９８３の下流側において、球が羽部材９４５の板状部９４５ｅに拾われるか否かを確認したり、球が送球孔９４１ｋ（図１４９３参照）を通り手前側に流れて第２入賞口６４０に入球するか否かを確認したりしないと、その球が特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを把握することはできないように構成できる。これにより、振分け部９８３の下流側における球の流下経路に対する注目力を向上することができ、遊技領域を演出領域として有効利用することができる。

【１６２７０】

なお、各作動パターンにおいて、主に第１入賞口６４に入球した球と羽部材９４５との関係について説明したが、羽部材９４５の羽状本体９４５ｍは背面ベース９４１（図１４９０参照）よりも正面側に配置されていることから、背面ベース９４１の正面側を流下する球が、羽部材９４５が開放状態となったタイミングでちょうどよく羽部材９４５に到達した場合には、その球が第２入賞口６４０に案内されることは当然生じ得る。

【１６２７１】

図１４９８は、図１４９１（ａ）のＭＣＤＸＣＶＩＩＩ－ＭＣＤＸＣＶＩＩＩ線におけ

る遊技盤１３の断面図であり、図１４９９（ａ）及び図１４９９（ｂ）は、図１４９８のＭＣＤＸＣＩＸａ－ＭＣＤＸＣＩＸａ線における入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０の部分断面図である。

【１６２７２】

図１４９９（ａ）では、羽部材９４５の閉鎖状態が図示され、図１４９９（ｂ）では、羽部材９４５の開放状態が図示される。なお、図１４９８及び図１４９９の説明では、図１４９７を適宜参照する。

【１６２７３】

図１４９８に示すように、振分ユニット９８０の送球開口９８２ｋよりも転動板部９４１ｌ及び送球孔９４１ｋが正面側に配置されるので、振分ユニット９８０の内部流路で第３分岐通路ＢＫ３に案内された球は正面側へ向けて流下する。

【１６２７４】

この球は、遊技者目線で自分側に近づいてくるように見えるので、遊技領域を下方に流下する球や、第１入賞口６４や第３受部９４４ａ等に入球する球のように後方へと流れることで、遊技者から遠ざかるように見える球とは明確に異なる流下態様で視認される。

【１６２７５】

これにより、遊技者に、自分側に近づいてくるように見える球に注目して遊技させることで、遊技者は、第１入賞口６４に入球した球が振分ユニット９８０の内部流路から抜け出して第２入賞口６４０側へ流れる事態が生じた場合に、その事態の発生に容易に気づくことができる。

【１６２７６】

従って、遊技者が気づかないうちに球が第２入賞口６４０に入球し、遊技者が気づかないうちに特別図柄２の抽選が実行される事態の発生を回避し易くすることができる。

【１６２７７】

また、振分ユニット９８０の正面側（背面ベース９４１の正面側）において流下する球は遊技者の視線を遮るように作用し得る。そのため、振分ユニット９８０の内部経路を流下している時の球の視認性を低下させ易くすることができるので、第３分岐通路ＢＫ３に案内され、自分側に近づいてくるように見える遊技球をより一層目立たせることができる。

【１６２７８】

なお、送球孔９４１ｋは正面ベース９４３の背面側に配置されるので、正面ベース９４３が不透明の樹脂材料から形成される場合には、送球孔９４１ｋ及び送球孔９４１ｋを通り正面側に案内される球の視認性を低下させることができる。

【１６２７９】

この場合、第１入賞口６４に入球する球は容易に確認できるが、その球が送球孔９４１ｋを正面側に流下することの把握を困難とすることができるので、第１入賞口６４に入球した球が、遊技者が気づかないうちに第２入賞口６４０に入球し、特別図柄２の抽選が実行される事態を容易に発生させることができる。

【１６２８０】

図１４９８に示すように、第２入賞口６４０の下流側（背面側）には、球の通過を検出可能な検出装置ＳＥ６が配設される。検出装置ＳＥ６は、検出装置ＳＥ３と同様の構成からなる遊技球の通過を検知する装置であり、その厚み方向に遊技球よりも若干大きい内径の検出孔ＳＥ１ａが貫通形成される。

【１６２８１】

検出装置ＳＥ３に球が通過することにより獲得できる抽選が特別図柄１の抽選であることに対して、検出装置ＳＥ６に球が通過することにより獲得できる抽選は、特別図柄２の抽選とされる。

【１６２８２】

第１１の作動パターン～第１４の作動パターン（図１４９７参照）の内、どの作動パターンで羽部材９４５が動作するかは、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図１４８８

参照）に基づいて、予め設定される。
【１６２８３】
本実施形態では、大当たり種別が大当たりＡ，ａ，ｂの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１１の作動パターンに設定される。大当たり種別が大当たりＢ，Ｃの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１２の作動パターンに設定される。大当たり種別が大当たりｃの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１３の作動パターンに設定される。第１１～第１３の作動パターンの継続期間以外の期間においては、羽部材９４５の作動パターンが第１４の作動パターンに設定される。
【１６２８４】
これにより、第１入賞口６４に入球し左右側に球が振り分けられるという同一の事象に対して、球により特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを、どの作動パターンで動作するかにより変化させることができる。従って、第１入賞口６４に入球した球の流下経路に対する注目力を向上することができ、遊技者の視線を引き付けることができる。
【１６２８５】
図１４９７で図示した他に、羽部材９４５の作動パターンとしては、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５や普通入賞口（スルーゲート）６６，６７（図１４７７参照）で球が検出されたタイミングから羽部材９４５が長時間（約２秒間）開放する長開放の作動パターンも用意されている。
【１６２８６】
長開放の作動パターンで羽部材９４５が動作される場合には、ベース板６０（図１４９０参照）の手前側を流下した球が羽状本体９４５ｍ（図１４９２参照）で拾われ易くすることができる。加えて、第１入賞口６４に入球した球が第３分岐通路ＢＫ３側に案内され易くすることができる（図１４９６（ｂ）参照）。
【１６２８７】
このように、羽状本体９４５ｍに拾われた球が第２入賞口６４０に繰り返し入球する状態を構成し易い。これに加え、第１入賞口６４に一旦入球した球を板状部９４５ｅ（図１４９６（ｂ）参照）によって第３分岐通路ＢＫ３側に案内して最終的には第２入賞口６４０に入球するように構成し易い。従って、特別図柄１での抽選を避け、特別図柄２での抽選を繰り返し獲得する遊技態様を遊技者に提供することができる。
【１６２８８】
図１４９９（ｂ）に示すように、羽部材９４５の開放状態において、背面ベース９４１の正面側において羽状本体９４５ｍに乗った球Ｐ２１と、背面ベース９４１の背面側において板状部９４５ｅに乗った球Ｐ２２とを、異なる前後位置（切り分けられた位置）で同時に案内することができる。
【１６２８９】
そのため、この状態で羽部材９４５が閉鎖状態に変化しても、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが衝突する事態が発生することを回避できる。これにより、羽部材９４５の開閉動作を球が邪魔して、開閉動作が完了しないという動作不良を避けることができる。
【１６２９０】
更に、羽状本体９４５ｍに同時に乗せられる球Ｐ２１の個数（本実施形態では、片側に１個）よりも、板状部９４５ｅの球Ｐ２２を乗せられる分、羽部材９４５の開放状態において同時に案内可能な球の個数を増やすことができる。
【１６２９１】
例えば、全球を羽部材９４５へ向けて発射する遊技態様では、羽部材９４５が開放状態の時に片側の羽部材９４５の羽状本体９４５ｍに同時に乗せられる球は１個であり、複数の球を同時に乗せることは困難である。
【１６２９２】
一方で、一部の球を羽部材９４５へ向けて発射して、残りの球を第１入賞口６４へ向けて発射する遊技態様では、羽状本体９４５ｍに球が乗っているか否かに関わらず、板状部

９４５ｅに球を乗せることができるので、片側の羽部材９４５に球が同時に乗る状態となり易い。

【１６２９３】

即ち、全球を羽部材９４５へ向けて発射する遊技態様か、一部の球を羽部材９４５の他に第１入賞口６４へ向けて発射する遊技態様かで、羽部材９４５に同時に乗せられる球の個数を変化させることができる。

【１６２９４】

第１入賞口６４を経由して羽部材９４５に到達する球Ｐ２２と、第１入賞口６４を経由せずに羽部材９４５に到達する球Ｐ２１とでは、到達前の球の流下方向が異なることから、到達後の球の流下速度が異なることから、同時に到達した球でも見え方が異なる。

【１６２９５】

即ち、球Ｐ２２は、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を鉛直下方に流下して、羽部材９４５の板状部９４５ｅに到達する一方、球Ｐ２１は、案内部９４１ｇ１（図１４９１（ａ）参照）よりも左右外側から左右内側に向く速度成分を有する流下方向で羽状本体９４５ｍに到達する。

【１６２９６】

従って、左右方向の速度成分が大きい分だけ、球Ｐ２１の方が球Ｐ２２に比較して、羽部材９４５到達後の左右内側への流下速度が速くなる。従って、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが羽部材９４５に同時に到達したとしても、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが正面視で重なる時間を短くすることができるので、羽部材９４５を転動する球の視認性を向上させることができる。

【１６２９７】

球Ｐ２２が転動板部９４１ｌの上面を転動して送球孔９４１ｋを通過して背面ベース９４１の正面側に流れるタイミングによっては、球Ｐ２１と衝突し得る（経路が合流する）。

【１６２９８】

ここで、送球孔９４１ｋの下縁の上下位置よりも、羽部材９４５の回転基端側における上面高さ上下位置の方が下側に配置される。これにより、転動板部９４１ｌを転動した球が背面ベース９４１の正面側に飛び込む上下位置と、羽状本体９４５ｍを転動した球が一対の羽部材９４５の間の空間に飛び込む上下位置とを、上下方向でずらすことができる。

【１６２９９】

そのため、球同士が衝突した場合に、それらの球の上下位置をずらすことができるので、自重に任せて流下させることで複数の球を順番に流下させることができる。これにより、球詰まりの抑制を図ることができる。

【１６３００】

なお、羽部材９４５の長開放の作動パターンでは、開放の継続期間が０．６秒を超えていることからも分かるように、例えば第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合において普通図柄の変動開始に待ち時間が生じる（普通図柄の変動が保留され得る）。

【１６３０１】

そのため、図１４９７で説明したような、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されたタイミングと羽部材９４５の開閉タイミングとを球の流下に要する時間と対応させて設定した場合と異なり、球の配置と羽部材９４５の開閉とを対応させることが困難となる。

【１６３０２】

従って、全ての球を第２入賞口６４０側に案内できるものではなく、第１入賞口６４に入球する球の内、いくつかは羽部材９４５が閉鎖状態（図１４９６（ａ）参照）のタイミングで上流分岐位置ＢＫ０に到達する可能性はある。

【１６３０３】

一方で、長開放の作動パターンにおいて、羽部材９４５が閉鎖状態で維持される時間（動作待ち時間、動作後待ち時間）を短時間（例えば、０．１秒）に設定することで、羽部

材９４５が閉鎖状態（図１４９６（ａ）参照）のタイミングで上流分岐位置ＢＫ０に到達する事態が生じる確率を極力低下させることができる。

【１６３０４】

板状部９４５ｅの上面を転動する球Ｐ２２は、振分け部９８３の動作の影響で、少なくとも１．８秒間隔をあけて球が到達する。即ち、複数の球が同時に乗ることは無いように構成される。

【１６３０５】

一方で、羽状本体９４５ｍに球Ｐ２１が到達する間隔は何ら制限されているものではなく、同時に複数の球が到達し得る。そのため、板状部９４５ｅに比較して羽状本体９４５ｍを丈夫に形成することが好ましい。

【１６３０６】

この点、本実施形態では、板状部９４５ｅよりも羽状本体９４５ｍの方が、板厚が大きく形成されることで、丈夫に形成されている。また、羽状本体９４５ｍは軸部材９４５ａに直接支持されることで、球の重みによる前後方向の姿勢変化や撓みを抑制することができる。

【１６３０７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１６３０８】

ベース板６０の正面側に配設される羽部材９４５の羽状本体９４５ｍから背面側に板状部９４５ｅを張り出させることで、ベース板６０の内部に配設される振分けユニット９８０の内部を流下する遊技球に作用可能とすることができる。

【１６３０９】

即ち、羽部材９４５は、ベース板６０の正面側を流下する遊技球を第２入賞口６４０側に案内し易い状態と、第２入賞口６４０側への流下を防止する状態とを切り替えることに加えて、第１入賞口６４に入球した遊技球を第２入賞口６４０側に案内し易い状態と、第２入賞口６４０側への流下を防止する状態とを切り替えることができる。

【１６３１０】

更に、羽状本体９４５ｍの上面を転動している球と、板状部９４５ｅの上面を転動している球との間には、仕切り板として機能する背面ベース９４１が配設されており、球同士の任意の位置での衝突を回避することができる。

【１６３１１】

これにより、羽状本体９４５ｍを転動している球と板状部９４５ｅを転動している球とが衝突することで球が羽部材９４５から零れる（第２入賞口６４０に案内される側の反対側に零れる）事態が発生することを回避することができる。

【１６３１２】

また、第１入賞口６４に入球した球が第２入賞口６４０側の流路に分岐される位置（例えば、第３分岐通路ＢＫ３）において、球の流下方向が前後方向成分を有する。これにより、第２入賞口６４０への球の流下に関係が深い箇所を目立たせることができる。

【１６３１３】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されてから普通図柄の変動表示が終了するまでに、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で検出されないように管理することが可能な場合を形成可能である。これにより、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を通過した球に、その球が検出されたことにより動作制御される羽部材９４５をタイミングよく作用させることができる。

【１６３１４】

第１通路ＴＲ１に球が送球されるタイミングと、第２通路ＴＲ２に球が送球されるタイミングとは、少なくとも０．８秒間隔が空けられるので、第３分岐通路ＢＫ３に左右から同時に球が進入することは無いが、加えて転動面９８２ｇが左右非対称に形成されることで、第３分岐通路ＢＫ３で球詰まりが生じることをより避け易くすることができる。これにより、球の流下経路の合流位置が羽部材９４５に近い構成であっても、球詰まりを原因とする羽部材９４５の動作不良が生じることを防止することができる。

【１６３１５】
　また、ベース板６０の正面側において羽部材９４５の上面を転動する球の速度と、ベース板６０の内部において羽部材９４５の上面を転動する球の速度とが異なるように構成される。これにより、前後で球が重なった状態が持続的に続くことを避けることができ、羽部材９４５の上面を転動している球の個数を把握し易くすることができる。
【１６３１６】
　また、羽部材９４５に乗る球の個数について、羽状本体９４５ｍでは同時に複数の球が乗り得る一方で、板状部９４５ｅに乗る球の個数を１個に限定している。これにより、板状部９４５ｅよりも羽状本体９４５ｍを丈夫に構成することで、羽部材９４５の耐久性を向上させることができる。
【１６３１７】
　また、電動役物６４０ａの作動パターンを複数用意することで、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。例えば、第１入賞口６４に繰り返し入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンと、特別図柄２の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、を切り替えることができる。
【１６３１８】
　また、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンにおいて、左右どちらの遊技球が特別図柄２の抽選に対応するかが反対となるパターンを形成することができる。これにより、振分け部９８３で球が左右どちらに流れたかを確認するだけでは情報として不十分となるので、振分け部９８３の下流側の領域に対する注目力を向上させることができる。
【１６３１９】
　また、特別図柄の抽選の獲得パターンとして、右打ち遊技を推奨する場合において、図らずも第１入賞口６４に入球した場合に、特別図柄１の抽選を獲得し易いパターンと、高確率で特別図柄１の抽選の獲得が回避されるパターンと、を切り替えることができる。
【１６３２０】
　次いで、図１５００を参照して、第５２実施形態について説明する。第５０実施形態では、経路構成装置７００により振り分けられる一方の経路を球が流下する場合に普通入賞口（スルーゲート）７６５を球が通過する場合を説明したが、第５２実施形態の経路構成装置３７００では、他方の経路を球が流下する場合に球の通過を検出可能な普通入賞口（スルーゲート）３７６５が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１６３２１】
　図１５００は、第５２実施形態における遊技盤１３の部分正面図である。経路構成装置３７００では、振分け部材７６０により左右に振り分けられる経路の内、左側の経路に普通入賞口（スルーゲート）３７６５が配設される。
【１６３２２】
　普通入賞口（スルーゲート）３７６５は、シーソー部材７６２からの左右方向距離が、シーソー部材７６２と普通入賞口（スルーゲート）７６５との左右方向距離と同じとなるように配設される。
【１６３２３】
　第１入賞口６４に入球した遊技球が右側に流れる場合だけでなく、左側に流れる場合も普通図柄の抽選を獲得することができるので、電動役物６４０ａの動作頻度を高めることができる。
【１６３２４】
　上記第５０実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の通過回数が最大４回まで保留される場合を説明した。この場合、保留が途切れることなく電動役物６４０ａを連続動作させ易く、右打ち遊技をスムーズに実行させることができるという利点がある。

【１６３２５】
これに対し、本実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５，３７６５の通過回数が最大１回まで保留されるように構成される。そして、保留球数が０個の時において普通図柄の抽選で選択される作動パターンと、保留球数が１個の時において普通図柄の抽選で選択される作動パターンとが、異なるように構成されている。保留球数が満タン（１個）という状態は、保留球数が４個の場合に比較して生じ易いので、作動パターンの違いが頻繁に生じる。
【１６３２６】
本実施形態では、一例として、確変状態において、普通図柄の保留球数が０個の時には、第２の作動パターンが選択され易く、普通図柄の保留球数が１個の時には、第１の作動パターンが選択され易いよう構成される。
【１６３２７】
この前提で、第１入賞口６４に連続で入球した場合（図１４８３及び図１４８４参照）に、３個目の球Ｐ３が移動板部材６４１に到達するタイミングで電動役物６４０ａを進入状態に維持し易くすることができる。
【１６３２８】
即ち、球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出され、その検出から基準時間Ｔｄ１が経過するよりも前に球Ｐ２が普通入賞口（スルーゲート）３７６５に検出されることになるので、球Ｐ２の検出による普通図柄の抽選で選択される作動パターンは第１の作動パターンになり易い。
【１６３２９】
そのため、球Ｐ３が移動板部材６４１に到達する前から電動役物６４０ａが進入状態で維持されることになるので、図１４８３（ａ）に示すような状態から、球Ｐ１，Ｐ２の双方を第２球送球部７３６に案内することができる。
【１６３３０】
なお、図１４８３（ａ）では、球Ｐ１が右側に流れる場合を説明したが、シーソー部材７６２の傾きが逆となっており、球Ｐ１が左側に流れる場合においても、球Ｐ２の検出による普通図柄の抽選で選択される作動パターンは第１の作動パターンになり易い。そのため、球Ｐ２が移動板部材６４１に到達する前から電動役物６４０ａが進入状態で維持されることになるので、球Ｐ２を第２球送球部７３６に案内することができる。
【１６３３１】
なお、本実施形態では、一例として普通図柄の保留球数が１個の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第５０実施形態での説明と同様に、普通図柄の保留球数を４個で設定しても良い。
【１６３３２】
次いで、図１５０１を参照して、第５３実施形態について説明する。第５０実施形態では、移動板部材６４１が、第１入賞口６４に入球した遊技球を案内する右側案内部６４３と、第１入賞口６４に入球しなかった遊技球を案内する左側案内部６４５と、を備え、案内部６４３，６４５間が仕切られる場合を説明したが、第５３実施形態の経路構成装置４７００では、第１入賞口６４に入球しなかった遊技球が右側案内部６４３側まで案内可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１６３３３】
図１５０１は、第５３実施形態における遊技盤１３の部分正面図である。図１５０１に示すように、電動役物４６４０ａの状態が退避状態と進入状態とで切り替えられることで前後方向にスライド移動する移動板部材４６４１が、右側案内部６４３と、その右側案内部６４３の傾斜面６４３ａの傾斜に沿って右側案内部６４３の左側端部から左上方向に延設される上流側案内部４６４５と、を備える。
【１６３３４】
上流側案内部４６４５は、球を転動させる傾斜面４６４５ａが右側へ向けて下降傾斜し

ており、その傾斜角度が右側案内部６４３の傾斜角度と同じ角度（水平に対して約５度）で形成される。

【１６３３５】

本実施形態では、屈曲部材７４０の左右内側壁部に、移動板部材４６４１の上面を転動する球が通過可能となる大きさの開口が形成される。即ち、開口７４４（図１４８２（ａ）参照）と同様の開口部が、屈曲部材７４０の左右内側壁部（右側案内部６４３の左側の壁部）に貫通形成される。

【１６３３６】

これにより、第１送球経路ＫＲ１への流入経路として、第１入賞口６４を通過した球の経路の他に、上流側案内部４６４５を転動して右側案内部６４３に至る経路を用意することができる。

【１６３３７】

図１５０１に示すように、上流側案内部４６４５から右側案内部６４３を経て球が転動する場合、移動板部材４６４１の動作タイミング次第で、球が回収孔７５２に受け入れられる場合もあるし、第２球送球部７３６に受け入れられる場合もある。

【１６３３８】

即ち、球が第１送球経路ＫＲ１上に配置されている時に電動役物４６４０ａが退避状態に切り替えられると、球は回収孔７５２へ向けて流下する。一方で、球がＫＲ１上に配置されている時に依然として電動役物４６４０ａが進入状態を維持していると、球は右側案内部６４３を右側に通過し、第２球送球部７３６へ向けて流下する。即ち、厳雄板部材４６４１の上面を右側へ転動する球を、回収孔７５２又は第２球送球部７３６へ向けて流下させることができる。

【１６３３９】

移動板部材４６４１は、右下方向に下降傾斜しているが、右打ちにより発射された球が屈曲部材７４０の上方を左方に通過して移動板部材４６４１に到達する場合、左方向への勢いで移動板部材４６４１を左向きに通過する可能性がある。

【１６３４０】

これに対し、本実施形態では、第１球送球部７３４の突設縁部７３４ｂが、移動板部材４６４１の左端部よりも上側に張り出すように配設される。即ち、移動板部材４６４１の左端部を通過しそうになった球を突設縁部７３４ｂに衝突させることで、球を跳ね返らせることができ、移動板部材４６４１の上面において球が右向きに転動する状態を形成し易くすることができる。

【１６３４１】

更に、球の跳ね返りの反発力が右向きに大きくなるほど、球が移動板部材４６４１の右端に到達するまでの時間を短縮することができる。即ち、突設縁部７３４ｂによって、球が移動板部材４６４１の左端部から零れ落ちることを防止する効果だけでなく、移動板部材４６４１が進入状態で維持されている間に球を移動板部材４６４１の右端部まで到達させ易くすることができる。

【１６３４２】

なお、移動板部材４６４１の左端部は球通過孔７３４ａよりも上側に配置されている。そのため、電動役物４６４０ａが進入状態の時に、球が移動板部材４６４１の上面を左側に進行して、左側端部に到達する直前に移動板部材４６４１が退避状態に変化する場合、球が放物線を描いて左向きに飛ぶことになり、低確率ではあるが、第１球送球部７３４の球通過孔７３４ａに球を入球させることができる。

【１６３４３】

次いで、図１５０２から図１５５１を参照し、第５４実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｂ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１５０２は、第５４実施形態におけるパチンコ機Ｂ１０の正面図であり、図１５０３はパチンコ機Ｂ１０の遊技盤Ｂ１３の正面図であり、図１５０４はパチンコ機Ｂ１０の背面図である。

【１６３４４】
なお、以下の説明では、図１５０２に示す状態のパチンコ機Ｂ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１５０２に示す状態のパチンコ機Ｂ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１５０３参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｂ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【１６３４５】
図１５０２に示すように、パチンコ機Ｂ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｂ１１と、その外枠Ｂ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｂ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｂ１２とを備えている。外枠Ｂ１１には、内枠Ｂ１２を支持するために正面視（図１５０２参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジＢ１８が取り付けられ、そのヒンジＢ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｂ１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。
【１６３４６】
内枠Ｂ１２には、多数の釘ＢＫＧ１や入賞口Ｂ６３，Ｂ６４等を有する遊技盤Ｂ１３（図１５０３参照）が着脱可能に装着される。この遊技盤Ｂ１３の前面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠Ｂ１２には、球を遊技盤Ｂ１３の前面領域に発射する球発射ユニットＢ１１２ａ（図１５０５参照）やその球発射ユニットＢ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｂ１３の前面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。
【１６３４７】
なお、釘ＢＫＧ１の図示は、特に詳述しない限り釘ＢＫＧ１の長さ方向視における外形を示す。即ち、釘ＢＫＧ１は一般的には正面側の先端部が膨らんだ形状（まち針に類似の形状）で形成されるが、その膨らんだ部分の形状が図示されており、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部の形状は図示されていない。従って、図１５０３において、釘ＢＫＧ１間の隙間が球の直径未満の長さであった場合でも、釘ＢＫＧ１の図示されていない細径部の間の隙間が球の直径以上の長さであれば、球が通過することはあり得る。
【１６３４８】
内枠Ｂ１２の前面側には、その前面上側を覆う正面枠Ｂ１４と、その下側を覆う下皿ユニットＢ１５とが設けられている。正面枠Ｂ１４および下皿ユニットＢ１５を支持するために正面視（図１５０２参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジＢ１９が取り付けられ、そのヒンジＢ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｂ１４および下皿ユニットＢ１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠Ｂ１２の施錠と正面枠Ｂ１４の施錠とは、シリンダ錠Ｂ２０の鍵穴Ｂ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。
【１６３４９】
正面枠Ｂ１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部Ｂ１４ｃが設けられている。正面枠Ｂ１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニットＢ１６が配設され、そのガラスユニットＢ１６を介して遊技盤Ｂ１３の前面がパチンコ機Ｂ１０の正面側に視認可能となっている。
【１６３５０】
正面枠Ｂ１４には、球を貯留する上皿Ｂ１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｂ１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿Ｂ１７の底面は正面視（図１５０２参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｂ１７に投入された球が球発射ユニットＢ１１２ａ（図１５０５参照）へと案内される。また、上皿Ｂ１７の上面には、枠ボタンＢ２２が設けられている。この枠ボタンＢ２２は、例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１（図１５０３参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【１６３５１】

正面枠Ｂ１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部Ｂ１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が設けられている。パチンコ機Ｂ１０においては、これら電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠Ｂ１４の正面視（図１５０２参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプＢ３４が設けられている。

【１６３５２】

また、右側の電飾部Ｂ３２下側には、正面枠Ｂ１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓Ｂ３５が形成され、遊技盤Ｂ１３前面の貼着スペースＢＫ１（図１５０３参照）に貼付される証紙等がパチンコ機Ｂ１０の前面から視認可能とされている。また、パチンコ機Ｂ１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材Ｂ３６が取り付けられている。

【１６３５３】

窓部Ｂ１４ｃの下方には、貸球操作部Ｂ４０が配設されている。貸球操作部Ｂ４０には、度数表示部Ｂ４１と、球貸しボタンＢ４２と、返却ボタンＢ４３とが設けられている。パチンコ機Ｂ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｂ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｂ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタンＢ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｂ１７に供給される。返却ボタンＢ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｂ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｂ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｂ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１６３５４】

上皿Ｂ１７の下側に位置する下皿ユニットＢ１５には、その中央部に上皿Ｂ１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿Ｂ５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿Ｂ５０の右側には、球を遊技盤Ｂ１３の前面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドルＢ５１が配設される。

【１６３５５】

操作ハンドルＢ５１の内部には、球発射ユニットＢ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＢ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＢ５１ｂと、操作ハンドルＢ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＢ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＢ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｂ１３の前面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＢ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＢ５１ａおよび発射停止スイッチＢ５１ｂがオフとなっている。

【１６３５６】

下皿Ｂ５０の正面下方部には、下皿Ｂ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＢ５２が設けられている。この球抜きレバーＢ５２は、常時、右方

向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿Ｂ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＢ５２の操作は、通常、下皿Ｂ５０の下方に下皿Ｂ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿Ｂ５０の右方には、上述したように操作ハンドルＢ５１が配設され、下皿Ｂ５０の左方には灰皿Ｂ５３が取り付けられている。

【１６３５７】

図１５０３に示すように、遊技盤Ｂ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｂ６０に、球案内用の多数の釘ＢＫＧ１や風車ＢＷＦの他、レールＢ６１，Ｂ６２、一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０、第３入賞口Ｂ６４ｂ、可変入賞装置Ｂ６５、上側可変入賞装置Ｂ７００、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７、可変表示装置ユニットＢ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｂ１２（図１５０２参照）の裏面側に取り付けられる。

【１６３５８】

ベース板Ｂ６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板Ｂ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４及び第２入賞口Ｂ６４０が配設される入賞ユニットＢ４００、第３入賞口Ｂ６４ｂが配設される可変入賞装置Ｂ６５、上側可変入賞装置Ｂ７００、可変表示装置ユニットＢ８０は、ルータ加工によってベース板Ｂ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｂ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１６３５９】

なお、ベース板Ｂ６０の構成は樹脂材料に限られるものではない。例えば、薄い板材を張り合わせた木材からなり、その正面側からベース板Ｂ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に目視できないように形成されるようにしても良い。

【１６３６０】

遊技盤Ｂ１３の正面中央部分は、正面枠Ｂ１４の窓部Ｂ１４ｃ（図１５０２参照）を通じて内枠Ｂ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１５０３を参照して、遊技盤Ｂ１３の構成について説明する。

【１６３６１】

遊技盤Ｂ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＢ６２が植立され、その外レールＢ６２の内側位置には外レールＢ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＢ６１が植立される。この内レールＢ６１と外レールＢ６２とにより遊技盤Ｂ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｂ１３とガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｂ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｂ１３の正面であって２本のレールＢ６１，Ｂ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｂ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１６３６２】

なお、上述の遊技領域は狭義の解釈であり、広義の意味として、遊技領域を、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域として表現しても良い。この意味において、遊技領域は、遊技盤Ｂ１３の正面側の領域に限られるものではない。例えば、後述する検出センサＢ４６２の上流側経路も遊技領域に含まれ得る。

【１６３６３】

２本のレールＢ６１，Ｂ６２は、球発射ユニットＢ１１２ａ（図１５０５参照）から発射された球を遊技盤Ｂ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＢ６１の先端部分（図１５０３の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｂ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＢ６２の先端部（図１５０３の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＢ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＢ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。また、内レールＢ６１の

右下側の先端部と外レールＢ６２の右上側の先端部との間には、レール間を繋ぐ円弧を内面側に設けて形成された樹脂製の円弧部材Ｂ７０がベース板Ｂ６０に打ち込んで固定されている。

【１６３６４】

遊技盤Ｂ１３の正面側における遊技領域Ｂ３０１は、内側中央位置に配置されるセンターフレームＢ８６に対して、左側遊技領域Ｂ３０２、右側遊技領域Ｂ３０３及び下側遊技領域Ｂ３０４で大きく分かれている。

【１６３６５】

左側遊技領域Ｂ３０２は、遊技球の発射強度を抑えて発射する左打ちをされた遊技球が流下する遊技領域であり、右側遊技領域Ｂ３０３は、左打ちよりも遊技球の発射強度を増大させて発射する右打ちをされた遊技球が流下する遊技領域である。また、下側遊技領域Ｂ３０４は、左側遊技領域Ｂ３０２又は右側遊技領域Ｂ３０３を通過した遊技球が流下する遊技領域である。

【１６３６６】

以下、入賞に基づく抽選について詳しく説明する。本実施形態におけるパチンコ機Ｂ１０では、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞（遊技者に対して何らかの利益（例えば、賞球の払い出し、抽選の実行、更に有利な状態への移行の利益等）の付与が期待できる入球）があったことを契機として特別図柄（第１図柄）の抽選が行われ、球が普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる。

【１６３６７】

第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に対して行われる特別図柄の抽選（特別図柄１の抽選）では、特別図柄の大当たりか否か（外れか）の当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われる。

【１６３６８】

第２入賞口Ｂ６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選（特別図柄２の抽選）では、特別図柄の大当たりか、外れか、又は小当たりかの当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われ、特別図柄の小当たりと判定された場合にはその小当たり種別の判定も行われる。

【１６３６９】

即ち、第２入賞口Ｂ６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選では、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に対して行われる特別図柄の抽選により大当たりか否かの判定が行われることに加えて、大当たりでは無い場合に、小当たりか外れかの判定が行われる。

【１６３７０】

本実施形態では、外れ以外であるが、大当たりとは異なる性質の当選として小当たりが用意されている。即ち、大当たりは、高確率状態や時短状態などに遊技状態を移行させる契機（遊技の節目）を発生させるが、小当たりは、遊技状態を移行させる契機を発生しない。

【１６３７１】

なお、高確率状態で小当たりに当選しても、その小当たりの終了を契機として高確率状態が終了することはなく（上限回数に達した場合を除く）、通常状態や時短状態で小当たりに当選しても、その小当たりの終了を契機として高確率状態に移行することはない。但し、小当たりは、大当たりと同様に可変入賞装置Ｂ６５を作動させる条件を満たすものとして位置づけられている。

【１６３７２】

なお、本パチンコ機Ｂ１０では、特別図柄の低確率状態では、３２０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定され、特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変状態とも称する）では、３２分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定される。なお、大当たりの確率は一例であり、特別図柄の低確率状態における確率が特別図柄の高確率状態における確率の１

０分の１未満にならない関係を満たす限りにおいて、種々の数値で設定可能である。
【１６３７３】
なお、説明の便宜上、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ遊技球が入球した場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄１の抽選」と称し、第２入賞口Ｂ６４０へ遊技球が入球した場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄２の抽選」と称する。
【１６３７４】
また、本パチンコ機Ｂ１０では、特別図柄の低確率状態では、３２０分の３１８の確率で特別図柄２の抽選において特別図柄の小当たりと判定され、特別図柄の高確率状態では、３２０分の３０９の確率で特別図柄２の抽選において特別図柄の小当たりと判定される。なお、小当たりの確率は一例であり、種々の数値で設定可能である。
【１６３７５】
特別図柄の小当たりになる（当選する）と、小当たり遊技が行われて可変入賞装置Ｂ６５が開閉動作する。遊技者は小当たり遊技中に可変入賞装置Ｂ６５の内側に配置される特定入賞口Ｂ６５ａに遊技球を入球させることで、ある程度の賞球を獲得することができる。本実施形態の小当たり遊技は、可変入賞装置Ｂ６５が開放されてから１．８秒後に閉鎖するという動作が実行される。
【１６３７６】
なお、特別図柄の小当たりにおける可変入賞装置Ｂ６５の作動パターンとしては、単一のパターンとしても良いし、複数種類のパターンを設けても良い。例えば小当たり種別によって、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉動作の回数や、開放および閉鎖時間により設定される作動パターンが異なるように構成されるようにしても良い。具体的には、１．８秒間の開放する作動パターンでも良いし、０．１２秒間の開放が数秒間隔で１５回（累計１．８秒間の開放）繰り返される作動パターンでも良いし、その他の作動パターンでも良い。
【１６３７７】
特別図柄の大当たりになる（当選する）と、パチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行すると共に、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は上側可変入賞装置Ｂ７００の第２特定入賞口Ｂ７００ａが所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される動作が最大１５回（１５ラウンド）繰り返される。その結果、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａに多量の球が入賞するので、通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。なお、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に伴い賞球の払い出しがあることや、払い出し個数については後述する。
【１６３７８】
なお、特別図柄の大当たり種別としては、「大当たりＡ」、「大当たりＢ」、「大当たりＣ」、「大当たりａ」、「大当たりｂ」、「大当たりｃ」の６種類が設けられている。詳細については後述するが、大当たり種別によって、特別遊技のラウンド数や、特別遊技終了後における電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが異なるように構成される。
【１６３７９】
特別図柄（第１図柄）の抽選が行われると、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて特別図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、１１秒～６０秒など）が経過した後に、抽選結果を示す特別図柄が停止表示される。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０へと入球すると、その入球回数は入賞口への入球に基づいて行われる抽選に対応する特別図柄の種別（特別図柄１又は特別図柄２）毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置Ｂ８１においても示される。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて変動表示が終了した場合に、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂについての保留球数（特別図柄１の保留球数）、または第２入賞口Ｂ６４０についての保留球数（特別図柄２の保留球数）が残っていれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。

【１６３８０】
本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合であっても、特別図柄１と特別図柄２とは、対応する先の特別図柄（特別図柄１又は特別図柄２）の変動表示が終了した場合に、対応する次の特別図柄（特別図柄１又は特別図柄２）の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。換言すれば、対応しない特別図柄（例えば、特別図柄１に対する特別図柄２）の変動が終了していなくても、対応する先の特別図柄の変動表示が終了すれば、対応する次の特別図柄の抽選が行われる。
【１６３８１】
なお、本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合であっても、特別図柄１と特別図柄２とは、対応する先の特別図柄の変動表示が終了した場合に、対応する次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始されるよう構成したが、これに限られるものではなく、例えば、特別図柄の取得順（入球順）に優先的に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで交互に抽選を実行しても良い。
【１６３８２】
また、特別図柄２の保留球に基づく抽選が特別図柄１の保留球に基づく抽選よりも優先的に実行されるように構成しても良く、この場合は、特別図柄２の保留球が０個よりも多い状態が維持される間、特別図柄１の保留球に基づく抽選が実行されることを回避できる。
【１６３８３】
普通図柄（第２図柄）の抽選では、普通図柄の当たりか否かの当否判定が行われる。普通図柄の当たりになると、所定時間（例えば、０．２秒、２．０秒または３．９秒）だけ第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが駆動され、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入球し得る状態になる。つまり、普通図柄の当たりになると、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入球し得る状態となり、その結果、特別図柄の抽選が行われ易くなる。
【１６３８４】
また、普通図柄（第２図柄）の抽選が行われると、第２図柄表示装置Ｂ８３において普通図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、０．０５秒または１秒など）が経過した後に、抽選結果を示す普通図柄が停止表示される。第２図柄表示装置Ｂ８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を通過すると、その通過回数は最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより表示されると共に、第２図柄保留ランプＢ８４においても示される。第２図柄表示装置Ｂ８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。
【１６３８５】
本実施形態では、大当たり終了後の付加価値として、その大当たり終了後から次に大当たりとなるまでの間、パチンコ機Ｂ１０が特別図柄の特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）へ移行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＡ、大当たりａ）と、パチンコ機Ｂ１０が特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）へ移行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＢ、大当たりｂ、大当たりｃ）と、大当たり遊技の後に、特別図柄の抽選が１００回終了するまで普通図柄の時短状態となる場合（例えば、後述する大当たりＣ、大当たりｃ）と、が用意されている。
【１６３８６】
なお、本実施形態では、特別遊技状態の終了後に特別図柄の確変状態が付与される場合に、その特別図柄の確変状態が次に大当たりとなるまでの間継続される場合を説明したが、これに限られるものではなく、例えば、特別遊技状態が終了してから特別図柄の抽選が１００回終了するまで特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与され、特別図柄の抽選が１００回終了して以降は通常状態に設定されるようにしても良い。

【１６３８７】
なお、上述した特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与される特別図柄の抽選回数は、１００回に限られるものではない。例えば、５０回でも良いし、２００回でも良い。
【１６３８８】
また、上述した普通図柄の時短状態となる特別図柄の抽選回数は、１００回に限られる物ではない。例えば、５０回でも良いし、５回でも良いし、０回でも良い。また、時短状態となる特別図柄の抽選回数と、特別図柄の確変状態が付与される特別図柄の抽選回数とが異なるように設定されても良い。
【１６３８９】
ここで、「特別図柄の高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。
【１６３９０】
本実施形態における「特別図柄の特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）」は、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時であり、且つ、高頻度で小当たりを伴う状態であり、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い状態で遊技を行いながら、特別遊技状態へ移行する前から、小当たり遊技によってまとまった数の賞球を獲得することができる遊技の状態のことである。普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態として形成される。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第３の作動パターンで動作される。
【１６３９１】
本実施形態における「特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）」は、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易い遊技の状態として形成される。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第２の作動パターンで動作される。
【１６３９２】
一方、「特別図柄の低確率状態」とは、特別図柄の確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、特別図柄の確変中よりも大当たり確率が低い状態をいう。
【１６３９３】
また、「普通図柄の時短状態（時短中）」とは、特別図柄の低確率状態の一態様であり、普通図柄の当たり確率はアップして、後述する入賞ユニットＢ４００の作用により第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第２の作動パターンで動作される。
【１６３９４】
また、「通常状態」とは、特別図柄の低確率状態（高確率状態ではない状態）の一態様であり、普通図柄の時短中ではない遊技の状態（大当たり確率も普通図柄（第２図柄）の当たり確率も変化しておらず、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易いわけでもない状態）のことをいう。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第１の作動パターンで動作される。
【１６３９５】
特別図柄の特殊確変中や、特別図柄の確変中や、普通図柄の時短中では、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変更され、基本的に通常状態に比較して、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ側に遊技球が案内され易い状態が長い時間維持されるよう設定される。
【１６３９６】
本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが非励磁とされた状態（非励磁状態、即ち、後述する移動板部材Ｂ６４１が前側位置に配置され第１送球経路ＢＫＲ１に進入している状態

）にある場合は、その電動役物Ｂ６４０ａが励磁された状態（励磁状態、即ち、後述する移動板部材Ｂ６４１が後側位置に配置され第１送球経路ＢＫＲ１から退避している状態）にある場合と比較して、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ側に遊技球が案内され易い状態となる。よって、特別図柄の特殊確変中、特別図柄の確変中、及び普通図柄の時短中は、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入球し易い状態となり、特別図柄の抽選が行われやすくなる。

【１６３９７】

なお、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、普通図柄の当たりとなった場合における電動役物Ｂ６４０ａの開放回数を、通常状態よりも増やすように構成してもよい。

【１６３９８】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変化せずに、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが開放される時間、および電動役物Ｂ６４０ａの開放回数のうち少なくとも一方を変更するものとしてもよい。

【１６３９９】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが開放される時間や、電動役物Ｂ６４０ａの開放回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、通常状態に比較してアップするように構成してもよい。

【１６４００】

遊技領域の正面視左側下部（図１５０３の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤおよび７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｂ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞したか、第２入賞口Ｂ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｂ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂが作動するように構成されている。

【１６４０１】

また、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｂ１０が特殊確変中か確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が特殊確変大当たりに対応した図柄か確変大当たりに対応した図柄か通常大当たりに対応した図柄か小当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｂ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１６４０２】

この第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて特別図柄（第１図柄）の変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０へと入球した場合、その入球回数は入賞口の種別毎（即ち特別図柄の種別ごとであって、特別図柄１に対応する第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球回数と、特別図柄２に対応する第２入賞口Ｂ６４０への入球回数とが別々）にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置Ｂ８１においても示される。

【１６４０３】
なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球、及び第２入賞口Ｂ６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留回数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。
【１６４０４】
なお、本パチンコ機Ｂ１０では、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０のいずれかに入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｂ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ特殊確変大当たり、８Ｒ確変大当たり、４Ｒ大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【１６４０５】
ここで、「１５Ｒ特殊確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の高確率状態）へ移行する確変大当たりのことであり、「８Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が８ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。
【１６４０６】
また、「４Ｒ大当たり」は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となるか、又は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する大当たりのことである。
【１６４０７】
遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｂ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＢ８０が配設されている。
【１６４０８】
可変表示装置ユニットＢ８０には、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、第２入賞口Ｂ６４０のいずれかの入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｂ８１と、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置Ｂ８３と、普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を遊技球が通過した回数に対応する保留球数を点灯状態により示す第２図柄保留ランプＢ８４と、が設けられている。
【１６４０９】
また、可変表示装置ユニットＢ８０には、第３図柄表示装置Ｂ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＢ８６が配設されている。このセンターフレームＢ８６の中央に開口される開口部から第３図柄表示装置Ｂ８１が視認可能とされる。
【１６４１０】
第３図柄表示装置Ｂ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｂ１１４（図１５０５参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば左、中および右の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。
【１６４１１】
本実施形態の第３図柄表示装置Ｂ８１は、主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂで行われるのに対して

、その第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｂ８１を構成するようにしても良い。

【１６４１２】

本実施形態では、第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、後述する主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示（同一の主図柄が揃った状態で最終的に停止する変動表示）が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生（特別遊技状態への移行が開始）するよう構成されている。

【１６４１３】

一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示（揃わない状態で最終的に停止する変動表示）が行われる。また、特別図柄の抽選結果が小当たりであった場合は、特定の小当たり用図柄が最終的に停止する変動表示が行われる。

【１６４１４】

例えば、特別図柄の抽選結果が通常大当たりであれば、偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特殊確変大当たり又は確変大当たりであれば、奇数番号も加えたすべての番号「０，１，２，３，４，５，６，７，８，９」のうちいずれかの番号が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。また、特別図柄の抽選結果が小当たりであれば、「賞球用意」との文字が付加された図柄が表示装置の表示領域の中央に停止する変動表示が行われる。

【１６４１５】

第２図柄表示装置Ｂ８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｂ１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置Ｂ８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置Ｂ８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１６４１６】

パチンコ機Ｂ１０は、第２図柄表示装置Ｂ８３における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｂ６４０に付随された電動役物Ｂ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１６４１７】

第２図柄の変動表示にかかる時間（変動時間）は、遊技状態が通常状態中よりも、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中の方が短くなるように設定される。これにより、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、普通図柄（第２図柄）の抽選を通常状態中よりも多く行うことができる。よって、普通図柄の当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配置される電動役物Ｂ６４０ａに遊技球が拾われる機会を遊技者に多く与えることができる。従って、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１６４１８】

なお、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、当たり確率をアップさせたり、電動役物Ｂ６４０ａの開放時間や開放回数を増やしたりするなど、その他の方法によって第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中にお

いて、通常状態中よりも短く設定する場合は、普通図柄の当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、１回の普通図柄の当たりに対する電動役物Ｂ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１６４１９】

普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７は、可変表示装置ユニットＢ８０の両側の領域において遊技盤に組み付けられ、遊技領域Ｂ３０１に発射された球の内、左側遊技領域Ｂ３０２又は右側遊技領域Ｂ３０３を流下する球が必ず通過する位置に配設されている（上流側の釘ＢＫＧ１配置が、球を普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に集めるように構成されている）。

【１６４２０】

なお、遊技領域Ｂ３０１に発射された球と普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７との関係はこれに限られるものではない。例えば、遊技領域Ｂ３０１に発射された球のうち、流下する球の一部が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過するように構成しても良い。

【１６４２１】

球の普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプＢ８４においても点灯表示される。第２図柄保留ランプＢ８４は、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｂ８１の下方に左右対称に配設されている。

【１６４２２】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置Ｂ８３において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｂ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプＢ８４の点灯を第３図柄表示装置Ｂ８１の一部で行うようにしても良い。また、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプＢ８４により点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１６４２３】

また、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、ベース板Ｂ６０に配設される普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、１つでも良いし、その他の複数（例えば、３つ以上）であっても良い。

【１６４２４】

また、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＢ８０の左右両側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の左右いずれか一方でも良いし、可変表示装置ユニットＢ８０の上方や下方でも良い。

【１６４２５】

可変表示装置ユニットＢ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｂ６４が配設されている。この第１入賞口Ｂ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４４２）に球の通過が検出され、第１入賞口スイッチがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で特別図柄１の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａで示される。

【１６４２６】

一方、第１入賞口Ｂ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｂ６４０が配設されている。第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４６２）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で特別図柄２の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂで示される。

【１６４２７】
なお、第２入賞口Ｂ６４０へは、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみが入賞するよう構成され、入賞ユニットＢ４００を介さない入賞が防止されるよう構成されているが、詳細は後述する。
【１６４２８】
また、第２入賞口Ｂ６４０の正面視下方には、球が入賞し得る第３入賞口Ｂ６４ｂが配設されている。第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第３入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第３入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で特別図柄１の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａで示される。
【１６４２９】
なお、第３入賞口Ｂ６４ｂへは、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみが入賞するよう構成され、入賞ユニットＢ４００を介さない入賞が防止されるよう構成されているが、詳細は後述する。
【１６４３０】
また、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ及び第２入賞口Ｂ６４０は、それぞれ、球が入賞すると、第１入賞口スイッチ、第３入賞口スイッチ又は第２入賞口スイッチがオンとなることに基づいて５個の球が賞球として払い出される入賞口（賞球口）の１つにもなっている。
【１６４３１】
なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。また、賞球数や賞球数の大小関係を逆にしても良い。
【１６４３２】
第２入賞口Ｂ６４０（及び第３入賞口Ｂ６４ｂ）には電動役物Ｂ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｂ６４０ａは、通常は電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態（前進閉鎖状態）となって、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置Ｂ８３に表示された場合、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態（後退開放状態）となり、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【１６４３３】
特別図柄の特殊確変中は、通常状態に比較して、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。一方、第１入賞口Ｂ６４は、第２入賞口Ｂ６４０に設けられているような電動役物Ｂ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。
【１６４３４】
ここで、第１入賞口Ｂ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として最大の利益（特別遊技状態における賞球個数）が得られる大当たり（大当たりＡ，ａ）となる確率は、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｂ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。
【１６４３５】
よって、通常中においては、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配

置される電動役物Ｂ６４０ａにより、遊技球が第２入賞口Ｂ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｂ６４０ａのない第１入賞口Ｂ６４へ球が到達し易い発射強度で球を発射し、第１入賞口Ｂ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１６４３６】

一方、特別図柄の特殊確変中や特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配置される電動役物Ｂ６４０ａが動作制御された場合に電動役物Ｂ６４０ａに球が拾われ易く、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入賞しやすい状態であるので、電動役物Ｂ６４０ａへ球が到達し易い発射強度で球を発射し、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過させて電動役物Ｂ６４０ａを動作させると共に、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１６４３７】

このように、本実施形態のパチンコ機Ｂ１０は、パチンコ機Ｂ１０の遊技状態（特殊確変状態であるか、確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか等）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を、第１入賞口Ｂ６４に球が到達し易い発射強度での発射と、電動役物Ｂ６４０ａへ球が到達し易い発射強度での発射とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１６４３８】

なお、本実施形態では、大当たり遊技中においては、電動役物Ｂ６４０ａが特別図柄の通常状態と同様の作動パターンで駆動される。そのため、大当たり遊技中において第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに入球し難いよう構成することができる。

【１６４３９】

なお、本実施形態では、左側遊技領域Ｂ３０２を流下した球も、右側流下領域Ｂ３０３を流下した球も、第１入賞口Ｂ６４又は電動役物Ｂ６４０ａに到達し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｂ６４へは左側流下領域Ｂ３０２を流下した球のみが到達し、電動役物Ｂ６４０ａへは右側流下領域Ｂ３０３を流下した球のみが到達するよう構成しても良い。

【１６４４０】

この場合、通常中においては、第１入賞口Ｂ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＢ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｂ６４への入賞によって大当たりの抽選の機械を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１６４４１】

一方、特別図柄の特殊確変中や特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが動作制御された場合に電動役物Ｂ６４０ａに球が拾われ易く、第２入賞口Ｂ６４０に入賞しやすい状態であるので、電動役物Ｂ６４０ａが配置される側へ向けて、可変表示装置ユニットＢ８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７を通過させて電動役物Ｂ６４０ａを動作させると共に、第２入賞口Ｂ６４０への入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１６４４２】

これにより、パチンコ機Ｂ１０の遊技状態に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１６４４３】

また、この場合、「右打ち」を行うべき状況において、第３図柄表示装置Ｂ８１に特定

の画像（右打ちナビ）を表示させることにより、遊技者が特別図柄の（特殊）確変状態や普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に得られるように構成しても良い。

【１６４４４】

右打ちナビでは、第３図柄表示装置Ｂ８１に「右を狙え！！」との文字が表示されると共に、その文字の上下に右向きの矢印が３つずつ表示される。これらの文字、および矢印が表示されることにより、遊技者に対して球を遊技盤Ｂ１３の右側に設けられた経路（流路）へと打ち出すべきであると感じさせることができる。よって、遊技者に対して、特別図柄の確変状態、および普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に獲得させることができる。

【１６４４５】

また、「左打ち」をすべき状況にも関わらず、遊技者が「右打ち」を実行している場合に、推奨される遊技態様と、実行中の遊技態様とが異なることを遊技者に対して報知できることが好ましい。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１において警告画像を表示するようにしても良い。

【１６４４６】

この警告画像は、遊技者が遊技盤Ｂ１３の右側に設けられた経路（流路）へと球を打ち出す（右打ちする）べき期間でないにもかかわらず、右打ちを実行していると判別された場合に第３図柄表示装置Ｂ８１に対して表示される画像（右打ち警告画像）である。より具体的には、通常状態（特別図柄の確変状態でも、普通図柄の時短状態でもない状態）において、遊技者が右打ちを行っていると判別した場合に表示される。

【１６４４７】

例えば、通常状態において電動役物Ｂ６４０ａが第２入賞口Ｂ６４０に球を案内し難いよう制御される（右打ちを行ったとしても第２入賞口Ｂ６４０へと球を入球させにくい）パチンコ機を想定する。この場合、通常状態において右打ちを行うと、左打ちにより第１入賞口Ｂ６４を狙って球を打ち出す場合に比較して、特別図柄の抽選を受ける機会が少なくなってしまう。即ち、通常状態において右打ちを行うと、大当たりとなりにくくなるので、遊技者にとって損となってしまう。よって、右打ち警告画像を表示させて左打ちを促すことにより、遊技者が損をしてしまうことを防止（抑制）できるように構成する。

【１６４４８】

通常状態において遊技者が右打ちを行っていると判別した場合には、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に、「警告」との文字と、「左打ちで遊技してね！！」との文字とが表示される。これらの文字が表示されることにより、遊技者に対して右打ちをすべきではない（左打ちを行うべきである）と気付かせることができる。また、ホールの店員も右打ち警告画面の有無を確認することにより、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法を実行している遊技者がいるか否かを容易に判別することができる。

【１６４４９】

右打ちを行っているか否かの判断方法としては、右打ちを行った場合に球が流入し得る普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７（図１５０３参照）に対して球が入球したか否かによって判断するようにすれば良い。

【１６４５０】

また、通常状態において普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７（図１５０３参照）に球が入球したことを検出した場合に、右打ち警告画像を表示させるように構成することが容易だが、これに限られるものではない。例えば、大当たり遊技中や小当たり遊技中以外の状態において、特定入賞口Ｂ６５ａへと球が入賞（入球）したことを検出した場合に、不正遊技（右打ち遊技に限らず、例えば、可変入賞装置Ｂ６５に負荷を与えて特定入賞口Ｂ６５ａを開放させ、遊技球を無理やり入球させる遊技態様も含む）が行われていると判別して、右打ち警告画像を表示させるように構成してもよい。これにより、ホールの店員は右打ち警告画像の有無を確認するだけで容易に不正の有無を判別することができる。

【１６４５１】

また、例えば、大当たり遊技中や小当たり遊技中以外の状態において、特定入賞口Ｂ６

５ａへと球が入球したことを検出した場合に、ホールコンピュータに対して不正が行われていることを示す信号を出力するように構成してもよい。これにより、ホールコンピュータの操作者は容易に不正が行われている可能性の有無、および不正行為が行われているパチンコ機Ｂ１０の台番号（位置）を判断することができる。

【１６４５２】

また、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の右側流路を狭めることで、遊技球が通過せざるを得ない範囲を構成し、その範囲に、遊技球の通過を検出可能な検出センサを配設するようにしても良い。この場合、その検出センサにより遊技球の通過が検出されたことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１６４５３】

また、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の最上位置（図１５０３における左右中心位置に相当）よりも左側に配置される可動部材（例えば、風車）の変位を検出可能な検出センサを配設しても良い。この場合、遊技球の打ち出しが行われている場合に、予想される動作タイミングを過ぎても可動部材の変位が検出されないことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１６４５４】

本実施形態では、第１入賞口Ｂ６４の下側には可変入賞装置Ｂ６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）Ｂ６５ａが設けられている。

【１６４５５】

パチンコ機Ｂ１０においては、第２入賞口Ｂ６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で小当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、小当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂを点灯させる。加えて、その小当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させて、小当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い小当たり遊技が実行される。この小当たり遊技として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａが、所定時間（例えば、１．８秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１６４５６】

また、パチンコ機Ｂ１０においては、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で大当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂを点灯させる。加えて、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させて、大当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１６４５７】

この特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量（本実施形態では、１個の球の入賞に基づき１５個）の賞球の払い出しが行われる。

【１６４５８】

可変入賞装置Ｂ６５は、具体的には、特定入賞口Ｂ６５ａを覆う横長矩形状の開閉板と、その開閉板を開閉駆動するための大開放口ソレノイド（図示せず）とを備えている。特定入賞口Ｂ６５ａは、通常時は、球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。大当たりの際には大開放口ソレノイドを駆動して開閉板を前方に傾倒させ、球が特定入賞口Ｂ６５ａに入賞しやすい開状態を一時的に形成し、その開状態と通常時の閉状態との状態を交互に繰り返すように作動する。なお、第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉態様については後述する。

【１６４５９】
可変入賞装置Ｂ６５は、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみでなく、入賞ユニットＢ４００には入球せずに入賞ユニットＢ４００の左右外方を釘ＢＫＧ１に案内されて流下する球も入球し得るように、横方向の長さが設計されている。即ち、特定入賞口Ｂ６５ａの横幅は、入賞ユニットＢ４００の横幅よりも長くなるように設計されている。
【１６４６０】
入賞ユニットＢ４００の内部に案内され易いか否かは、入賞ユニットＢ４００よりも上流側に配設される釘ＢＫＧ１の状態によって変化するが、本実施形態では、釘ＢＫＧ１の状態によって、遊技者が有利になりすぎたり不利になりすぎたりすることを防止することができる（有利さのバランスをとることができる）。
【１６４６１】
即ち、例えば、入賞ユニットＢ４００の内部に球が高い確率で案内され易い場合、入賞ユニットＢ４００の内部を介して球が案内される第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに球を通過させて抽選を受ける時短中や、確変中においては、特別図柄の抽選を頻繁に受けることができ遊技者にとって有利となる。
【１６４６２】
一方で、大当たり遊技や小当たり遊技において可変入賞装置Ｂ６５に球を入球させる場合には、入賞ユニットＢ４００の内部に入った球は可変入賞装置Ｂ６５に到達する前に第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに拾われてしまい、特定入賞口Ｂ６５ａにまで到達する球は少なくなる。加えて、入賞ユニットＢ４００から逸れて、入賞ユニットＢ４００の左右外方を流下する球も少ないとなれば、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球により頻度よく賞球の払い出しを受けるという遊技には不利である。
【１６４６３】
また、例えば、入賞ユニットＢ４００の内部に球が案内される確率が低い場合、入賞ユニットＢ４００の内部を介して球が案内される第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに球を通過させて抽選を受ける時短中や、確変中においては、特別図柄の抽選を受ける間隔が長くなり易く、遊技効率の面から遊技者にとって不利となる。
【１６４６４】
一方で、大当たり遊技や小当たり遊技において可変入賞装置Ｂ６５に球を入球させる場合には、入賞ユニットＢ４００の内部に入る球自体が少ないので、第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに拾われてしまい、特定入賞口Ｂ６５ａにまで到達することができないという球自体が少なくなる。加えて、入賞ユニットＢ４００から逸れて、入賞ユニットＢ４００の左右外方を流下する球は多くなるので、特定入賞口Ｂ６５ａが開状態となった時に、多数の球を特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ、多量の賞球の払い出しを受けることが期待できるので、遊技者にとって有利となる。
【１６４６５】
このように、釘ＢＫＧ１の状態によって入賞ユニットＢ４００の内部に球が案内され易い場合と球が案内され難い場合とが生じたとしても、釘ＢＫＧ１の状態が、特別図柄の抽選を獲得し大当たりを目指す期間において遊技者にとって有利に働く場合には、大当たり遊技中において遊技者にとって不利に働かせることができる一方で、釘ＢＫＧ１の状態が、特別図柄の抽選を獲得し大当たりを目指す期間において遊技者にとって不利に働く場合には、大当たり遊技中において遊技者にとって有利に働かせることができる。これにより、釘ＢＫＧ１の状態によって、遊技者が有利になりすぎたり不利になりすぎたりすることを防止することができる（有利さのバランスをとることができる）。
【１６４６６】
なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開放中に、球が特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞

口Ｂ７００ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。

【１６４６７】

また、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａは２つに限るものではなく、１つや、３以上の複数（例えば３つ）配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｂ６４の下側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の左右側や上側でも良い。

【１６４６８】

遊技盤Ｂ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＢＫ１が設けられ、貼着スペースＢＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｂ１４の小窓Ｂ３５（図１５０２参照）を通じて視認することができる。

【１６４６９】

遊技盤Ｂ１３には、第１アウト口Ｂ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｂ６３，Ｂ６４，Ｂ６４ｂ，Ｂ６５ａ，Ｂ６４０，Ｂ７００ａにも入賞しなかった球は、第１アウト口Ｂ７１、左アウト口Ｂ７１Ｌ又は右アウト口Ｂ７１Ｒを通って図示しない球排出路へと案内される。

【１６４７０】

第１アウト口Ｂ７１は、第１入賞口Ｂ６４の下方に配設される。左アウト口Ｂ７１Ｌは、特定入賞口Ｂ６５ａの左方に配設され、右アウト口Ｂ７１Ｒは、特定入賞口Ｂ６５ａの右方に配設される。

【１６４７１】

本実施形態では、特定入賞口Ｂ６５ａの配置を遊技領域の下縁付近としているので、内レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間の隙間が狭い。そのため、特定入賞口Ｂ６５ａの左右外方において遊技領域の下縁を転動する複数の球が全て第１アウト口Ｂ７１へ向かうように構成すると、内レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間に球詰まりが生じる可能性があり、遊技を中断させる要因となる。

【１６４７２】

これに対し、本実施形態では、左アウト口Ｂ７１Ｌ及び右アウト口Ｂ７１Ｒが配設されることで、特定入賞口Ｂ６５ａの左右外方において遊技領域の下縁を転動する球が第１アウト口Ｂ７１へ向かう前に、その球を、左アウト口Ｂ７１Ｌ又は右アウト口Ｂ７１Ｒを通って図示しない球排出路へと排出することができる。これにより、内レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間で球詰まりが生じる事態を回避することができるので、遊技が中断することを回避することができる。

【１６４７３】

遊技盤Ｂ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘ＢＫＧ１が植設されているとともに、風車ＢＷＦ等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１６４７４】

図１５０４に示すように、パチンコ機Ｂ１０の背面側には、制御基板ユニットＢ９０，Ｂ９１と、裏パックユニットＢ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＢ９０は、主基板（主制御装置Ｂ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｂ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｂ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＢ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｂ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｂ１１２）と電源基板（電源装置Ｂ１１５）とカードユニット接続基板Ｂ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１６４７５】

裏パックユニットＢ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＢ９２と払出ユニットＢ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１６４７６】
なお、主制御装置Ｂ１１０、音声ランプ制御装置Ｂ１１３および表示制御装置Ｂ１１４、払出制御装置Ｂ１１１および発射制御装置Ｂ１１２、電源装置Ｂ１１５、カードユニット接続基板Ｂ１１６は、それぞれ基板ボックスＢ１００～Ｂ１０４に収納されている。基板ボックスＢ１００～Ｂ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【１６４７７】
また、基板ボックスＢ１００（主制御装置Ｂ１１０）および基板ボックスＢ１０２（払出制御装置Ｂ１１１および発射制御装置Ｂ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【１６４７８】
払出ユニットＢ９３は、裏パックユニットＢ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＢ１３０と、タンクＢ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＢ１３１と、タンクレールＢ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＢ１３２と、ケースレールＢ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＢ２１６（図１５０５参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｂ１３３とを備えている。タンクＢ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｂ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＢ１３１には、当該タンクレールＢ１３１に振動を付加するためのバイブレータＢ１３４が取り付けられている。
【１６４７９】
また、払出制御装置Ｂ１１１には状態復帰スイッチＢ１２０が設けられ、発射制御装置Ｂ１１２には可変抵抗器の操作つまみＢ１２１が設けられ、電源装置Ｂ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＢ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＢ１２０は、例えば、払出モータＢ２１６（図１５０５参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＢ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２は、パチンコ機Ｂ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【１６４８０】
次に、図１５０５を参照して、本パチンコ機Ｂ１０の電気的構成について説明する。図１５０５は、パチンコ機Ｂ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【１６４８１】
主制御装置Ｂ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵＢ２０１が搭載されている。ＭＰＵＢ２０１には、該ＭＰＵＢ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭＢ２０２と、そのＲＯＭＢ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭＢ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｂ１１０では、ＭＰＵＢ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂおよび第３図柄表示装置Ｂ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｂ１０の主要な処理を実行する。
【１６４８２】

なお、払出制御装置Ｂ１１１や音声ランプ制御装置Ｂ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｂ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｂ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１６４８３】

ＲＡＭＢ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＢ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＢ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＢ２０３は、パチンコ機Ｂ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｂ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＢ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１６４８４】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＢ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＢ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｂ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＢ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＢ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＢ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｂ２５２からの停電信号ＢＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＢＳＧ１がＭＰＵＢ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１６４８５】

主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２０４を介して入出力ポートＢ２０５が接続されている。入出力ポートＢ２０５には、払出制御装置Ｂ１１１、音声ランプ制御装置Ｂ１１３、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉板の下辺を軸として前方側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＢ２０９が接続され、ＭＰＵＢ２０１は、入出力ポートＢ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【１６４８６】

また、入出力ポートＢ２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチＢ２０８、電源装置Ｂ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３が接続され、ＭＰＵＢ２０１は各種スイッチＢ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【１６４８７】

払出制御装置Ｂ１１１は、払出モータＢ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＢ２１１は、そのＭＰＵＢ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＢ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＢ２１３とを有している。

【１６４８８】

払出制御装置Ｂ１１１のＲＡＭＢ２１３は、主制御装置Ｂ１１０のＲＡＭＢ２０３と同様に、ＭＰＵＢ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＢ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＢ２１３は、パチンコ機Ｂ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｂ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＢ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０

１と同様、ＭＰＵＢ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｂ２５２から停電信号ＢＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＢＳＧ１がＭＰＵＢ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１６４８９】

払出制御装置Ｂ１１１のＭＰＵＢ２１１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２１４を介して入出力ポートＢ２１５が接続されている。入出力ポートＢ２１５には、主制御装置Ｂ１１０や払出モータＢ２１６、発射制御装置Ｂ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｂ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｂ１１１に接続されるが、主制御装置Ｂ１１０には接続されていない。

【１６４９０】

発射制御装置Ｂ１１２は、主制御装置Ｂ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＢ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＢ１１２ａを制御するものである。球発射ユニットＢ１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＢ５１に触れていることをタッチセンサＢ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＢ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＢ５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドルＢ５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【１６４９１】

音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）Ｂ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｂ２９～Ｂ３３、表示ランプＢ３４など）Ｂ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｂ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｂ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＢ２２１は、そのＭＰＵＢ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＢ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＢ２２３とを有している。

【１６４９２】

音声ランプ制御装置Ｂ１１３のＭＰＵＢ２２１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２２４を介して入出力ポートＢ２２５が接続されている。入出力ポートＢ２２５には、主制御装置Ｂ１１０、表示制御装置Ｂ１１４、音声出力装置Ｂ２２６、ランプ表示装置Ｂ２２７、その他装置Ｂ２２８、枠ボタンＢ２２などがそれぞれ接続されている。

【１６４９３】

音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、主制御装置Ｂ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｂ１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、枠ボタンＢ２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタンＢ２２が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｂ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｂ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｂ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｂ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｂ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｂ８１に各種の画像を表示する。

【１６４９４】
　また、音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、表示制御装置Ｂ１１４から第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｂ１１３では、表示制御装置Ｂ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｂ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｂ２２７の点灯および消灯を制御する。
【１６４９５】
　表示制御装置Ｂ１１４は、音声ランプ制御装置Ｂ１１３および第３図柄表示装置Ｂ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｂ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｂ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｂ１１４は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｂ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示と音声出力装置Ｂ２２６からの音声出力とをあわせることができる。
【１６４９６】
　電源装置Ｂ１１５は、パチンコ機Ｂ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｂ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｂ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２（図１５０４参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３とを有している。電源部Ｂ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｂ１１０～Ｂ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｂ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＢ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＢ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧およびバックアップ電圧を各制御装置Ｂ１１０～Ｂ１１４等に対して必要な電圧を供給する。
【１６４９７】
　停電監視回路Ｂ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０１および払出制御装置Ｂ１１１のＭＰＵＢ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＢＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｂ２５２は、電源部Ｂ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＢＳＧ１を主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１へ出力する。停電信号ＢＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｂ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。
【１６４９８】
　ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２（図１５０４参照）が押下された場合に、主制御装置Ｂ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｂ１１０は、パチンコ機Ｂ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｂ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｂ１１１に対して送信する。
【１６４９９】
　次いで、入賞ユニットＢ４００の全体構成について説明する。図１５０６は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図であり、図１５０７は、入賞ユニットＢ４００の背面斜視図で

ある。図１５０６及び図１５０７に示すように、入賞ユニットＢ４００は、ベース板Ｂ６０（図１５０３参照）の開口部を塞ぐようにしてベース板Ｂ６０の正面に締結固定される場合にベース板Ｂ６０に螺入される締結ネジが挿通される複数の挿通孔Ｂ４１１が穿設される板部材Ｂ４１０を備える。

【１６５００】

即ち、板部材Ｂ４１０よりも正面側の部分は、ベース板Ｂ６０（図１５０３参照）とガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）との間に配設される部分であり、板部材Ｂ４１０よりも背面側の部分は、ベース板Ｂ６０のガラスユニットＢ１６に対向する前側面よりも背面側に配設される部分である。

【１６５０１】

入賞ユニットＢ４００の板部材Ｂ４１０は、上端部左右中央位置に、上方からの球を受け、その球を後方へ送球可能な形状で形成される球受部Ｂ４１２を備え、球受部Ｂ４１２から後方へ送球された球が遊技盤Ｂ１３の第１入賞口Ｂ６４（図１５０３参照）に入球する。

【１６５０２】

入賞ユニットＢ４００の内側に案内された球の内、一部の球は第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）に入賞するよう構成されている。その球は、入賞ユニットＢ４００の内側において一度後方へ送球されてから、流下方向が前後逆転し、再び板部材Ｂ４１０の正面側に配置された後で、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞するが、球の流下の詳細は後述する。

【１６５０３】

図１５０８及び図１５１０は、入賞ユニットＢ４００の分解正面斜視図であり、図１５０９及び図１５１１は、入賞ユニットＢ４００の分解背面斜視図である。図１５０８及び図１５０９では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示され、図１５１０及び図１５１１では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。なお、非励磁状態と励磁状態とにおける電動役物Ｂ６４０ａの配置の詳細については後述する。

【１６５０４】

図１５０８から図１５１１に図示されるように、入賞ユニットＢ４００は、ベース板Ｂ６０（図１５０３参照）に締結固定される板部材Ｂ４１０と、その板部材Ｂ４１０の正面側に配設され板部材Ｂ４１０に締結固定される前意匠部材Ｂ４２０と、板部材Ｂ４１０の背面側に配設され板部材Ｂ４１０に締結固定される中段部材Ｂ４３０と、その中段部材Ｂ４３０の上側に配設され中段部材Ｂ４３０に締結固定される上段部材Ｂ４４０と、中段部材Ｂ４３０と上段部材Ｂ４４０との間において中段部材Ｂ４３０に前後スライド移動可能に支持され電動役物Ｂ６４０ａを構成するスライド部材Ｂ４５０と、を備える。

【１６５０５】

板部材Ｂ４１０は、光透過性の樹脂材料から形成され、左右中央位置において球が通過可能の左右幅で上下方向に長い略矩形状で穿設される中央開口部Ｂ４１３と、その中央開口部Ｂ４１３の上端部よりも右上側においてスライド部材Ｂ４５０の前側先端部に乗った後の球が通過可能な大きさで穿設される球通過開口Ｂ４１４と、その球通過開口Ｂ４１４の下側に連続的に形成され球通過開口Ｂ４１４の左右幅よりも左右外側に拡大されスライド部材Ｂ４５０が挿通可能とされる摺動開口Ｂ４１５と、その摺動開口Ｂ４１５の下側に連続的に形成され中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａの外形に対応する略矩形状で穿設され突出部Ｂ４３７ａが挿通支持される支持開口Ｂ４１６と、その支持開口Ｂ４１６の下側に連続的に形成され球が通過可能な左右幅で穿設される球排出開口Ｂ４１７と、を備える。

【１６５０６】

なお、球通過開口Ｂ４１４、摺動開口Ｂ４１５、支持開口Ｂ４１６及び球排出開口Ｂ４１７は、左右対称に構成されることから、左側の構成については同じ符号を付し、説明を省略する。

【１６５０７】
中央開口部Ｂ４１３は、中段部材Ｂ４３０の中央流路Ｂ４３１に案内され正面側へ流下した球が正面側に通過する開口である。また、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）では、球が背面側に通過して第２入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４６２）に案内される開口としても機能するが、詳細は後述する。
【１６５０８】
球通過開口Ｂ４１４は、板部材Ｂ４１０の正面側において非励磁状態（図１５０６参照）におけるスライド部材Ｂ４５０に乗った球が通過可能となる開口である。即ち、スライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球は球通過開口Ｂ４１４を通過することで板部材Ｂ４１０の背面側に案内される。
【１６５０９】
摺動開口Ｂ４１５は、スライド部材Ｂ４５０の前後動作時においてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１を摺動させる態様で支持する開口である。板部材Ｂ４１０は、摺動開口Ｂ４１５の左右端部から、摺動開口Ｂ４１５の内側面の形状を維持しながら後方に延設されるスライド支持部Ｂ４１８を備える。これにより、摺動開口Ｂ４１５よりも後方位置でスライド部材Ｂ４５０を支持することができるので、スライド部材Ｂ４５０が摺動開口Ｂ４１５の前後幅以上の変位幅でスライド変位する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０の変位を安定させることができる。
【１６５１０】
支持開口Ｂ４１６を通して、中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａが正面側に張り出される。中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａには、板部材Ｂ４１０よりも前側において球の通過を検出可能な検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａが配設されている。即ち、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０に受け止められた球の内、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態とされる前に球通過開口Ｂ４１４を通過しなかった球は、その真下において支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａを通過する。
【１６５１１】
球排出開口Ｂ４１７は、支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａを通過した球の通過を許容して、背面側に送球するための開口部である。
【１６５１２】
前意匠部材Ｂ４２０は、光透過性の樹脂材料から形成され、意匠面を構成する前板部Ｂ４２１と、その前板部Ｂ４２１の左右中央位置上端部において球受部Ｂ４１２の下縁部を受け入れ可能な形状で背面側に突設形成される接合部Ｂ４２２と、その接合部Ｂ４２２の下端部から左右一対で下方に延設される一対の仕切り板Ｂ４２３と、その仕切り板Ｂ４２３の下側部において中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａを支持可能な高さ位置で左右外方に突出形成される支持部Ｂ４２４と、その支持部Ｂ４２４よりも下側において球の流下経路を構成する湾曲壁として前板部Ｂ４２１から後方に突出形成される湾曲壁部Ｂ４２５と、接合部Ｂ４２２の上縁部から左右外側へ向けて突設形成され球の流下方向を変化可能に形成される左右一対の軒部Ｂ４２６と、その軒部Ｂ４２６よりも左右外側かつ下側において前板部Ｂ４２１の後側面から後側に突設形成される左右一対の球案内突条Ｂ４２７と、を備える。
【１６５１３】
前意匠部材Ｂ４２０が光透過性の樹脂材料から形成されていることから、前板部Ｂ４２１が前側から覆う態様であっても、前板部Ｂ４２１を通してその背面側の構成や、流下する球を視認することができる。即ち、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０や、傾倒部材Ｂ４７０）の状態や、前板部Ｂ４２１の背面側における球の流下態様を、遊技者は視認することができる。
【１６５１４】
接合部Ｂ４２２が、板部材Ｂ４１０の球受部Ｂ４１２の下縁との継ぎ目が目立たないように球受部Ｂ４１２を受入可能な形状から形成されているので、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とを正面視で一体的に見せることができる（図１５０６参照）。

【１６５１５】
そのため、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とに別々の意匠を形成する設計ばかりでなく、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とを組み合わせて完成する意匠を形成するよう設計しても良い。
【１６５１６】
接合部Ｂ４２２は、板部材Ｂ４１０の正面側における球の流下方向を制限する機能をも有している。即ち、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球が左右内側に流下する勢いで、直接左右中央位置に流れ込むことは、接合部Ｂ４２２と衝突することにより防止される。即ち、スライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球の流下経路は、スライド部材Ｂ４５０の状態と、接合部Ｂ４２２とにより制限されることになる。
【１６５１７】
そのため、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０に受け止められた球はスライド部材Ｂ４５０に乗って後方へ案内されるか、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられることで、支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａへ案内されることになる。
【１６５１８】
仕切り板Ｂ４２３は、板部材Ｂ４１０の正面側における球の流下方向を制限する機能を有している。即ち、仕切り板Ｂ４２３が配設されることにより、中央開口部Ｂ４１３を正面側に通過した球が左右外側に排出されることを防止して、専ら下方に流下するように球の流下経路を制限している。
【１６５１９】
湾曲壁部Ｂ４２５は、球の流下経路が左右外側へ流れるように形成されている。これにより、湾曲壁部Ｂ４２５に案内されて球排出開口Ｂ４１７を通り後方へ流れる球と、中央開口部Ｂ４１３を通り後方へ流れる球と、を正面視で区別し易くしている。
【１６５２０】
また、球の流下経路が左右外側へ流れないよう形成される場合と異なり、中央開口部Ｂ４１３の前後位置と球排出開口Ｂ４１７の前後位置との左右間隔を空けることで、特定の部材を配置するスペースを確保することができる。なお、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａに駆動力を伝達させるための部材（第１部材Ｂ４８１）を配置するためのスペース（受入凹部Ｂ４６５）が形成されるが、詳細は後述する。
【１６５２１】
軒部Ｂ４２６は、上側面が、接合部Ｂ４２２の上側面と同一傾斜の平滑面として形成され、接合部Ｂ４２２の左右側上側面に乗った球の流下方向を左右外側方向へ切り替える部分として機能するが、詳細は後述する。
【１６５２２】
球案内突条Ｂ４２７は、スライド部材Ｂ４５０に乗った球の内、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて流下する球の流下経路に沿って形成されており、流下する球と接触する部分として機能する。
【１６５２３】
これにより、長期間使用して球と擦れることにより前板部Ｂ４２１の後側面が摩耗してすり減る場合であっても、球案内突条Ｂ４２７の先端部からすり減らすことができるので、球と前板部Ｂ４２１の後側面との接触面積を小さいまま維持することができる。
【１６５２４】
また、前意匠部材Ｂ４２０は光透過性の樹脂材料から形成されているので、正面側に生じるか背面側に生じるかに寄らず、擦り傷により透過の程度が低下する。換言すれば、擦り傷が発生する面積が大きいほど、前意匠部材Ｂ４２０を通して前意匠部材Ｂ４２０の後ろ側に配設される部材を視認し難くなる。本実施形態では、前意匠部材Ｂ４２０の背面側を流下する球の視認性を確保するために、前意匠部材Ｂ４２０の透過の程度を高く維持しておくことが望ましい。
【１６５２５】
これに対し、本実施形態では、擦り傷の発生箇所を、球案内突条Ｂ４２７に限定するこ

とができるので、前意匠部材Ｂ４２０に生じる擦り傷を最低限に抑え、且つ、流下する球の視認性を確保することができる。

【１６５２６】

中段部材Ｂ４３０は、スライド部材Ｂ４５０を下支えする部材であって、スライド部材Ｂ４５０に左右方向から挟まれる位置に形成される中央流路Ｂ４３１と、非励磁状態におけるスライド部材Ｂ４５０の下側に配設される左右一対の検出センサＢ４３５と、を備える。

【１６５２７】

中央流路Ｂ４３１は、球の直径よりも若干長い左右幅で形成され正面側へ向けて下降傾斜する底面部Ｂ４３１ａと、底面部Ｂ４３１ａの左右において球の通過を防止するように上方へ立設される左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３と、底壁部４３１ａの後方において球の通過を防止するように上方へ立設される後壁部Ｂ４３４と、を備える。

【１６５２８】

左壁部Ｂ４３２は、後壁部Ｂ４３４との間に球の直径よりも若干長い前後幅の隙間Ｂ４３２ａを確保するよう構成され、右壁部Ｂ４３３は、後壁部Ｂ４３４との間に球の直径よりも若干長い前後幅の隙間Ｂ４３３ａを確保するよう構成される。

【１６５２９】

隙間Ｂ４３３ａは、隙間Ｂ４３２ａよりも正面側にずれた位置に配置されている。本実施形態では、隙間Ｂ４３２ａの前側端部と隙間Ｂ４３３ａの後側端部との前後方向位置がおおよそ合致するよう隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが配設される。

【１６５３０】

左壁部Ｂ４３２は、後端部から上半部が切り欠かれたような形状で位置合わせ部Ｂ４３２ｂが形成される。右壁部Ｂ４３３は、後端部から上半部が切り欠かれたような形状で位置合わせ部Ｂ４３３ｂが形成される。位置合わせ部Ｂ４３２ｂ，Ｂ４３３ｂは、上段部材Ｂ４４０を中段部材Ｂ４３０に組み付ける際の位置合わせに利用されるが、詳細は後述する。

【１６５３１】

左壁部Ｂ４３２は、後側部において、中央流路Ｂ４３１に面する右側面は平滑面とされる一方で、中央流路Ｂ４３１に面していない左側面に前側部よりも左右幅が短くなるよう切欠き部Ｂ４３２ｃが形成される。

【１６５３２】

右壁部Ｂ４３３は、後側部において、中央流路Ｂ４３１に面する左側面は平滑面とされる一方で、中央流路Ｂ４３１に面していない右側面に前側部よりも左右幅が短くなるよう切欠き部Ｂ４３３ｃが形成される。

【１６５３３】

切欠き部Ｂ４３２ｃ，Ｂ４３３ｃは、同様の前後幅で形成され、スライド移動時のスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａとの干渉を回避するよう機能するが、詳細は後述する。

【１６５３４】

後壁部Ｂ４３４は、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの後端部を結ぶ湾曲壁部として形成される。これにより、隙間Ｂ４３２ａを通過して後壁部Ｂ４３４に当接した球を、正面側へ滑らかに方向転換させることができる。

【１６５３５】

検出センサＢ４３５は、球の通過が検出されても図柄の抽選を伴わない検出センサとして構成される。即ち、球が検出センサＢ４３５を通過した場合に、特別図柄の抽選も普通図柄の抽選も実行されず、賞球の払い出しが実行される。本実施形態では、検出センサＢ４３５に１個の球の入賞が検出されることに対応して、５個の賞球が払い出されるよう制御される。

【１６５３６】

上段部材Ｂ４４０は、光透過性の樹脂材料から形成され、球受部Ｂ４１２に受け入れら

れた球が流下するための後方へ下降傾斜する流路を構成する上側流路構成部Ｂ４４１と、その上側流路構成部Ｂ４４１を流下した球を検出する検出センサＢ４４２と、上側流路構成部Ｂ４４１の上蓋として締結固定され検出センサＢ４４２を上側流路構成部Ｂ４４１に固定するための上蓋部材Ｂ４４３と、少なくとも中段部材Ｂ４３０の中央流路Ｂ４３１の天井部を構成する天井構成部Ｂ４４４と、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の流下を案内する左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６と、を備える。

【１６５３７】

上段部材Ｂ４４０が光透過性の樹脂材料から形成されていることで、ベース板Ｂ６０を介して入賞ユニットＢ４００を見下ろす遊技者視線において、上段部材Ｂ４４０の下側にある球流路（中央流路Ｂ４３１及びスライド部材Ｂ４５０に案内される流路）を、上段部材Ｂ４４０越しに視認させることができる。即ち、遊技者は、スライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１を流下する球を視認することができる。

【１６５３８】

検出センサＢ４４２は、第１入賞口Ｂ６４（図１５０３参照）に入球した球を検出する。即ち、球が検出センサＢ４４２を通過した場合に、特別図柄１の抽選が実行され、賞球の払い出しが実行される。

【１６５３９】

上蓋部材Ｂ４４３は、左側へ球が流れる経路が左側壁部Ｂ４４５の後端部よりも後側に配置されている。これにより、上側流路構成部Ｂ４４１を流下する球が左壁部４４５により案内される流路の上側に配置される事態が生じることを回避することができる。これにより、左壁部４４５により案内される球の視認性が、上側流路構成部Ｂ４４１を流下する球により低下することを回避することができる。

【１６５４０】

左側壁部Ｂ４４５は、前後方向に延び、後方端部で左右中央側へ向けて湾曲する壁部として形成される。湾曲部分の左右中央側の先端部の前後位置は、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の左側端部の前後位置と合致する。

【１６５４１】

右側壁部Ｂ４４６は、前後方向に延び、後方端部で左右中央側へ向けて湾曲する壁部として形成される。湾曲部分の左右中央側の先端部の前後位置は、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の右側端部の前後位置と合致する。

【１６５４２】

即ち、左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６は共に、中段部材Ｂ４３０の隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの後端部を形成する後壁部Ｂ４３４と連なるように形成され、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａに球を案内するよう構成されている。つまり、左側壁部Ｂ４４５の後端部よりも、右側壁部Ｂ４４６の後端部の方が、正面側にずれた位置に配置されている。

【１６５４３】

スライド部材Ｂ４５０は、非透過性の樹脂材料から形成され、左右一対の先端部Ｂ４５１と、その先端部Ｂ４５１の左右内側部から後方に延設される左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３と、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３を後方端部において連結固定する中央固定部Ｂ４５４と、を備える。

【１６５４４】

スライド部材Ｂ４５０が非透過性の樹脂材料から形成されることにより、スライド部材Ｂ４５０の下側を流下する球（例えば、下段部材Ｂ４６０の左右経路Ｂ４６３を流下する球）をスライド部材Ｂ４５０により隠す（見え難いように遮蔽する）ことができる。これにより、中段部材Ｂ４３０が光透過性の樹脂材料から形成される場合においても、スライド部材Ｂ４５０上を転動する球と、スライド部材Ｂ４５０の下側を流下する球（例えば、下段部材Ｂ４６０の左右経路Ｂ４６３を流下する球）とが、遊技者目線（入賞ユニットＢ４００を正面側から斜め下方向に見下ろす目線）方向で重なって見える事態の発生を回避することができる。

【１６５４５】

一対の先端部Ｂ４５１は、中央流路Ｂ４３１を挟んで左右対称形状に形成されると共に、中央流路Ｂ４３１を挟んで左右対称の位置に配置され、水平に対する同角度で左右一対が左右内側へ向けて下降傾斜し、且つ、後側へ向けて左右一対が同角度で下降傾斜する姿勢の板状に形成されている。

【１６５４６】

左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３は、先端部Ｂ４５１の傾斜に従いながら後方へ延設されており、その延設長さは、左案内板部Ｂ４５２の方が右案内板部Ｂ４５３よりも長い。従って、後端部における上下位置は、左案内板部Ｂ４５２の方が、右案内板部Ｂ４５３よりも低い。

【１６５４７】

左案内板部Ｂ４５２は、後側略半部の右縁部付近に、板上面の右方へ向けた下降傾斜の程度が大きくなるように形成される傾斜面部Ｂ４５２ａを備える。また、右案内板部Ｂ４５３は、後側略半部の左縁部付近に、板上面の左方へ向けた下降傾斜の程度が大きくなるように形成される傾斜面部Ｂ４５３ａを備える。

【１６５４８】

傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａは、スライド部材Ｂ４５０が、非励磁状態か、励磁状態かに関わらず、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａに対して左右方向で対向配置されるのに十分な前後幅で形成される。

【１６５４９】

即ち、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球が隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａを通過するタイミングにおいて、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態か、励磁状態かに関わらず、球を傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの傾斜に沿って流すことができるので、流下方向を左右内側へ向く方向に寄せることができる。

【１６５５０】

右案内板部Ｂ４５３の方が延設長さを短くされることから、右案内板部Ｂ４５３の後側にスペースを確保することが可能である。本実施形態では、その空いたスペースに電動役物Ｂ６４０ａを駆動するためのソレノイドＢＳＯＬ４１を配設することで、入賞ユニットＢ４００をソレノイドＢＳＯＬ４１の収まりよく（上面視で略正方形となる形状で）構成することができる。

【１６５５１】

なお、傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの形成幅（左右幅）は任意に設定可能とされる。例えば、中央流路Ｂ４３１の底面部Ｂ４３１ａの上方側まで張り出し、上面視で部分的に重なるように構成しても良い。この場合、球の流下をスムーズにすることができる。

【１６５５２】

図１５１２及び図１５１４は、入賞ユニットＢ４００の分解正面斜視図であり、図１５１３及び図１５１５は、入賞ユニットＢ４００の分解背面斜視図である。図１５１２から図１５１５では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、中段部材Ｂ４３０よりも下層の部材についても分解して図示される。また、図１５１２及び図１５１３では、入賞ユニットＢ４００を斜め上から視認する状態が図示され、図１５１４及び図１５１５では、入賞ユニットＢ４００を斜め下から視認する状態が図示される。

【１６５５３】

入賞ユニットＢ４００は、中段部材Ｂ４３０の下側に配設され中段部材Ｂ４３０に締結固定される下段部材Ｂ４６０と、中段部材Ｂ４３０と下段部材Ｂ４６０との間において下段部材Ｂ４６０に前後傾倒可能に支持され電動役物Ｂ６４０ａを構成する傾倒部材Ｂ４７０と、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力をスライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０に伝達する伝達部材Ｂ４８０と、を備える。

【１６５５４】

まず、図１５１２から図１５１５を参照して、入賞ユニットＢ４００の、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０、中段部材Ｂ４３０、上段部材Ｂ４４０及びスライド部材Ｂ４５０の構成について追加の説明をする。

【１６５５５】
前意匠部材Ｂ４２０は、一対の仕切り板Ｂ４２３の左右中間位置から左右外側に若干ずれた位置において、球の流下を案内する一対の突条部として形成される球案内突条Ｂ４２８を備える。
【１６５５６】
球案内突条Ｂ４２８の突設先端部（後端部）は、前側へ向けて下降傾斜する形状とされているので、後側から到達した球が案内される場合に、球に下向きの負荷を与えやすくすることができ、球が後側に跳ね返ることを回避し易くすることができる。
【１６５５７】
球案内突条Ｂ４２８は、板部材Ｂ４１０の中央開口部Ｂ４１３を正面側に通過した球の流下経路に沿って形成されており、流下する球と接触する部分として機能する。球案内突条Ｂ４２８は、流下する球の左右中心よりも左右外側にずれた一対の突条から形成されている。これにより、球案内突条Ｂ４２８の左右内側角部に球が接触し易くすることができるので、球案内突条Ｂ４２８の摩耗が角部から生じるようにすることができる。これにより、球案内突条Ｂ４２８の左右中央部の破損を抑制することができる。
【１６５５８】
これにより、長期間使用して球と擦れることにより前板部Ｂ４２１の後側面が摩耗してすり減る場合であっても、球案内突条Ｂ４２８の先端部からすり減らすことができるので、球と前板部Ｂ４２１の後側面との接触面積を小さいまま維持することができる。
【１６５５９】
また、前意匠部材Ｂ４２０は光透過性の樹脂材料から形成されているので、正面側に生じるか背面側に生じるかに寄らず、擦り傷により透過の程度が低下する。換言すれば、擦り傷が発生する面積が大きいほど、前意匠部材Ｂ４２０を通して前意匠部材Ｂ４２０の後ろ側に配設される部材を視認し難くなる。本実施形態では、前意匠部材Ｂ４２０の背面側を流下する球の視認性を確保するために、前意匠部材Ｂ４２０の透過の程度を高く維持しておくことが望ましい。
【１６５６０】
これに対し、本実施形態では、擦り傷の発生箇所を、球案内突条Ｂ４２８に限定することができるので、前意匠部材Ｂ４２０に生じる擦り傷を最低限に抑え、且つ、流下する球の視認性を確保することができる。
【１６５６１】
中段部材Ｂ４３０は、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３よりも左右外側に延設され検出センサＢ４３５を上側から押さえて支える支持延設部Ｂ４３６と、検出センサＢ４３５を乗せる板形状部材であって支持延設部Ｂ４３６が左右端部において締結固定されるベース板Ｂ４３７と、を備える。
【１６５６２】
左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の間に配置される底面部Ｂ４３１ａの反対面側（下面側）において、後端側寄りの位置から鉛直下方に向けて係止板部Ｂ４３１ｂが板状に突設される。係止板部Ｂ４３１ｂは、スライド部材Ｂ４５０の移動終端を規定する部分として機能するが、詳細は後述する。
【１６５６３】
支持延設部Ｂ４３６は、上側面が前後方向に沿う平滑面として形成され、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの上方を開放し球が通過可能な矩形状で穿設される開口部Ｂ４３６ａと、上側面に左右方向に延びる態様で上方へ向けて突設形成される突条部Ｂ４３６ｂと、を備える。
【１６５６４】
突条部Ｂ４３６ｂは、中段部材Ｂ４３０の組立状態（図１５１０参照）において前側面が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの縁部と滑らかに連通する位置に配設される。これにより、スライド部材Ｂ４５０の励磁状態（図１５１０参照）において先端部Ｂ４５１の正面側を下方に流れる球が先端部Ｂ４５１と検出センサＢ４３５との隙間に入り込んで

しまい、意図せず流下が滞ることを回避することができる。即ち、突条部Ｂ４３６ｂにより球の流下を案内することができ、球の流下を滑らかにすることができる。

【１６５６５】

また、突条部Ｂ４３６ｂは、スライド部材Ｂ４５０の非励磁状態（図１５０８参照）において、先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とのつなぎ目の真下に配置される。そのため、先端部Ｂ４５１に球が乗った場合に、その球の重みで先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とが前倒れする方向に撓み変形する事態になったとしても、先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とのつなぎ目を突条部Ｂ４３６ｂで下から支えることができるので、上記撓み変形を抑制することができる。

【１６５６６】

ベース板Ｂ４３７は、所々、上下方向に穿設されることで開口部が形成される。即ち、検出センサＢ４３５を配設させるために前側に突出形成される突出部Ｂ４３７ａには、検出センサＢ４３５の開口よりも大きな開口が検出センサＢ４３５の開口を塞がない配置で穿設され、右後端部では、嵌合支持されるソレノイドＢＳＯＬ４１の下側部においてソレノイドＢＳＯＬ４１のプランジャ―ＢＳＯＬ４１ａを貫通させるための開口部Ｂ４３７ｂが形成され、中央後端部では、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５を貫通させ変位を許容するために十分な前後幅の開口部Ｂ４３７ｃが形成される。

【１６５６７】

ベース板Ｂ４３７は、下側面において、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１を受け入れるための部分として前後方向に延びる受入凹部Ｂ４３７ｄと、下段部材Ｂ４６０に案内される球の経路の天井を構成し後方へ向けて下降傾斜する傾斜面部Ｂ４３７ｅと、その傾斜面部Ｂ４３７ｅの左右端部から下方に延設される一対の延設壁の前端部において後方へ向けて下降傾斜する傾斜ストッパＢ４３７ｆと、を備える。

【１６５６８】

傾斜ストッパＢ４３７ｆにより、傾倒部材Ｂ４７０の非励磁状態における姿勢を真上に起立する姿勢よりも若干傾斜した姿勢に設定しつつも、球の経路を塞ぐことができるので、傾倒部材Ｂ４７０の開閉角度を小さく抑えることができる。これにより、傾倒部材Ｂ４７０の開閉動作に要する時間を短縮できることから、球噛みの発生を抑えることができるが、詳細は後述する。

【１６５６９】

上段部材Ｂ４４０の天井構成部Ｂ４４４は、中段部材Ｂ４３０の底面部Ｂ４３１ａと上下方向で対向配置され前方へ向かう程上昇傾斜する傾斜面部Ｂ４４４ａと、その傾斜面部Ｂ４４４ａよりも左右両側に配置される部分の後端部から断面Ｌ字形状で下方へ延設される一対の延設部Ｂ４４４ｂと、を備える。

【１６５７０】

傾斜面部Ｂ４４４ａは、中央流路Ｂ４３１の天井部を構成しており、傾斜面部Ｂ４４４ａが前方へ向かう程上昇傾斜していることから、中央流路Ｂ４３１の断面積（開口面積）が前方へ向かう程大きくなる。即ち、下流側へ向かう程に流路面積が大きくなるので、中央流路Ｂ４３１を前方へ向けて流れるという流下態様において、球詰まりの発生を抑制することができる。

【１６５７１】

延設部Ｂ４４４ｂは、上段部材Ｂ４４０を中段部材Ｂ４３０に組み付ける場合に、後端部の左右内側端部を中段部材Ｂ４３０の位置合わせ部Ｂ４３２ｂ，Ｂ４３３ｂに係合させることで位置合わせ可能に設計されている。

【１６５７２】

このように組み付けることで、延設部Ｂ４４４ｂの後側面の前後位置が、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の後端部（隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの前端）の前後位置と一致する。即ち、延設部Ｂ４４４ｂには、前後方向で対向配置される左側壁部Ｂ４４５又は右

側壁部Ｂ４４６との間に隙間Ｂ４４４ｃが設けられ、この隙間Ｂ４４４ｃは、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの真上に配置され隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａと連続的につながるよう構成される。

【１６５７３】

換言すれば、球が通過する開口の下側部を隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが構成し、その隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが下側部を構成する開口の上側部は、隙間Ｂ４４４ｃにより構成される。これにより、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの上側部が開放され、球が跳ねた場合には隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａを飛び越えて球が流下できる場合と異なり、球が隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａ，Ｂ４４４ｃから外れた位置を通過することを防止することができる。

【１６５７４】

スライド部材Ｂ４５０は、前後方向に延びる態様で左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の下側面から下方に突設形成される一対の突条部Ｂ４５５を備える。突条部Ｂ４５５は、左右幅が左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３の左右幅よりも細く設計され、突設端部（下端部）が、スライド部材Ｂ４５０の移動方向（前後方向）に沿う形状とされている。

【１６５７５】

スライド部材Ｂ４５０の前後移動時には、突条部Ｂ４５５が中段部材Ｂ４３０の支持延設部Ｂ４３６に下支えされるが、この場合に、スライド部材Ｂ４５０と支持延設部Ｂ４３６との接触面積を抑えることができるのでスライド部材Ｂ４５０の移動抵抗を抑えることができると共に、左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３が上面に乗る球の重さによる前倒れ変位（変形）を抑制することができる。

【１６５７６】

突条部Ｂ４５５は、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３に沿って形成され、リブとして機能することで、前後方向に長尺の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の剛性を高めることができる。

【１６５７７】

突条部Ｂ４５５は、先端部Ｂ４５１よりも後方に配設される。換言すれば、先端部Ｂ４５１の下側面に突条部Ｂ４５５は形成されておらず、先端部Ｂ４５１の剛性までを高めるものではない。

【１６５７８】

これにより、スライド部材Ｂ４５０の弾性変形のし易さを、部位ごとに変化させることができる。即ち、先端部Ｂ４５１は、ある程度の弾性変形は許容するよう構成することで、例えばスライド部材Ｂ４５０が前方へ移動する場合に、スライド部材Ｂ４５０の前端部と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が噛み込んだとしても、先端部Ｂ４５１の弾性変形および弾性回復により生じる負荷により球の噛み込みを早期に解消することができる。

【１６５７９】

先端部Ｂ４５１が弾性変形する場合に、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３までもが弾性変形すると、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が前後方向に長尺な形状であることも影響し、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面を流下する球の流下経路の断面積が狭められる可能性がある。

【１６５８０】

この場合、既に球通過開口Ｂ４１４を通過済みであって左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を転動する球の流下抵抗が大きくなり、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を球が通過する時間が通常より長くなる要因となり得る。

【１６５８１】

これに対し、本実施形態では、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３には突条部Ｂ４５５が形成されており、その突条部Ｂ４５５がリブとして機能することで左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３までもが弾性変形することを回避することができる。これにより、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面を流下する球の流下経路の

断面積の大きさを維持することができ、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を球が通過する時間を管理し易くすることができる。

【１６５８２】

従って、先端部Ｂ４５１が弾性変形し易いことによる効果と、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が弾性変形し難いことによる効果と、の両方を同時に奏することができる。

【１６５８３】

次に、入賞ユニットＢ４００の、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０、中段部材Ｂ４３０、上段部材Ｂ４４０及びスライド部材Ｂ４５０以外の構成について説明する。

【１６５８４】

下段部材Ｂ４６０は、球の転動経路を複数構成する。即ち、下段部材Ｂ４６０は、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球を転動させる中央経路Ｂ４６１と、検出センサＢ４３５を通過した球を転動させる左右経路Ｂ４６３と、を備える。中央経路Ｂ４６１を転動した球は、その後方に配設される検出センサＢ４６２に通過を検出される。

【１６５８５】

検出センサＢ４６２は、第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）に入球した球の通過を検出する。即ち、球が検出センサＢ４６２を通過した場合に、特別図柄２の抽選が実行され、賞球の払い出しが実行される。

【１６５８６】

また、下段部材Ｂ４６０は、傾倒部材Ｂ４７０を傾倒可能に軸支する受部の下半部を構成する軸受部Ｂ４６４と、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１を受け入れるための部分として前後方向に延びる受入凹部Ｂ４６５と、スライド部材Ｂ４５０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５を傾倒可能に軸支する受部の下半部を構成する軸受部Ｂ４６６と、を備える。

【１６５８７】

軸受部Ｂ４６４は、上方が開放される凹部として構成され、傾倒部材Ｂ４７０の被支持突部Ｂ４７３が配置された状態で中段部材Ｂ４３０が下段部材Ｂ４６０に締結固定されることで、軸受部Ｂ４６４と中段部材Ｂ４３０とによって傾倒部材Ｂ４７０が傾倒可能に軸支される。

【１６５８８】

受入凹部Ｂ４６５は、前後方向に長い第１部材Ｂ４８１を受け入れるために前後方向に十分に長く、且つ、第１部材Ｂ４８１の上下方向変位を許容するために十分な深さを有する領域として、中央経路Ｂ４６１と左右経路Ｂ４６３との間の位置に形成される。受入凹部Ｂ４６５から第１部材Ｂ４８１が脱落することが防止されることで、第１部材Ｂ４８１の左右方向への変形を抑制することができる。

【１６５８９】

軸受部Ｂ４６６は、上方が開放される凹部として構成され、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５が配置された状態で中段部材Ｂ４３０が下段部材Ｂ４６０に締結固定されることで、軸受部Ｂ４６６と中段部材Ｂ４３０とによって第２部材Ｂ４８５が傾倒可能に軸支される。

【１６５９０】

傾倒部材Ｂ４７０は非励磁状態では、図１５１２に示すように起き上がり、中央経路Ｂ４６１側への入球を規制する姿勢とされる一方、励磁状態では傾倒変位し（図１５１０参照）、中央経路Ｂ４６１側への入球を許容する姿勢とされる。

【１６５９１】

傾倒部材Ｂ４７０は、先端へ向かう程に緩やかに内巻き（上向き）に湾曲する板状部Ｂ４７１と、その板状部Ｂ４７１の下端部において左右方向に円柱形状で突設される一対の円柱部Ｂ４７２と、その円柱部Ｂ４７２の左右端部から円柱部Ｂ４７２と同軸かつ円柱部Ｂ４７２よりも小径の円柱形状で突設される被支持突部Ｂ４７３と、右側の円柱部Ｂ４７２の外周部から側面視でＣ字形状に延設され伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１と当接

して負荷伝達を受ける被伝達部Ｂ４７４と、を備える。
【１６５９２】
板状部Ｂ４７１は、球の直径程度の左右幅で形成されており、複数の球が同時に着地することを防止できるように構成される。
【１６５９３】
円柱部Ｂ４７２は、被支持突部Ｂ４７３と同様に、下段部材Ｂ４６０に回転可能に軸支される部分である。円柱部Ｂ４７２が構成されることで、回転時の摺動負荷や、球からの負荷により生じる重力方向の負荷を受け持つ面積を確保することができるので、被支持突部Ｂ４７３だけで軸支される場合に比較して、機械的な摩耗を抑えることができる。
【１６５９４】
伝達部材Ｂ４８０は、後端部においてプランジャ－ＢＳＯＬ４１ａが左右方向で差し込まれることで上下方向での脱落が規制されるよう構成される第１部材Ｂ４８１と、その第１部材Ｂ４８１と連動する第２部材Ｂ４８５と、を備える。
【１６５９５】
プランジャ－ＢＳＯＬ４１ａがベース板Ｂ４３７の開口部Ｂ４３７ｂにより上下方向を除く前後左右への移動が制限されており、そのプランジャ－ＢＳＯＬ４１ａが左右方向で差し込まれる第１部材Ｂ４８１は、受入凹部Ｂ４６５により左右方向への移動が制限されることから、第１部材Ｂ４８１とプランジャ－ＢＳＯＬ４１ａとが左右方向で脱落する等して連結が解除されることを防止し易くすることができる。
【１６５９６】
ソレノイドＢＳＯＬ４１の励磁状態が切替られプランジャ－ＢＳＯＬ４１ａが上下方向に変位することで、第１部材Ｂ４８１は、上下方向に変位し、第２部材Ｂ４８５は、前後に傾倒する方向で変位するが、詳細は後述する。
【１６５９７】
図１５１６（ａ）は、入賞ユニットＢ４００の正面図であり、図１５１６（ｂ）は、図１５１６（ａ）の矢印ＭＤＸＶＩｂ方向視における入賞ユニットＢ４００の側面図であり、図１５１６（ｃ）は、図１５１６（ａ）の矢印ＭＤＸＶＩｃ方向視における入賞ユニットＢ４００の上面図である。
【１６５９８】
図１５１６（ａ）から図１５１６（ｃ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示される。また、図１５１６（ｂ）及び図１５１６（ｃ）には、入賞ユニットＢ４００が組み付けられるベース板Ｂ６０の前後側面の位置が想像線で図示される。本実施形態では、ベース板Ｂ６０の前側面の正面側を流下した球が、入賞ユニットＢ４００に到達する。
【１６５９９】
図１５１６（ｃ）に示すように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態では、軒部Ｂ４２６よりも左右外側にスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が配置され、その先端部Ｂ４５１は、図１５１６（ｂ）に示すように後方へ向けて下降傾斜している。
【１６６００】
そのため、ベース板Ｂ６０の正面側を流下する球が球受部Ｂ４１２から逸れて、軒部Ｂ４２６を介して先端部Ｂ４５１に乗った球や、軒部Ｂ４２６を介さず直接的に先端部Ｂ４５１に乗った球（飛び込み球）は、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿って後方に寄せられる。そして、球が球通過開口Ｂ４１４（図１５１２参照）を通過可能な位置に到達した場合には、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿ってスライド部材Ｂ４５０の上面を伝って左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３側へ流れる。
【１６６０１】
図１５１７（ａ）及び図１５１７（ｂ）は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩａ－ＭＤＸＶＩＩａ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５１７（ａ）では、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態が図示され、図１５１７（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。また、図１５１７（ａ）及び図１５１７（ｂ）では、ベース板Ｂ６０に植設される一部の釘ＢＫＧ１が

図示される。
【１６６０２】
スライド部材Ｂ４５０の状態の切り替えは、前後方向へのスライド移動であり、正面視で非励磁状態と励磁状態との違いを判別し難いよう構成される。これにより、スライド部材Ｂ４５０へ向けて流下する遊技球がスライド部材Ｂ４５０の上面を転動するか先端部Ｂ４５１の正面側を下方へ流れるかを予想し難くすることができる。
【１６６０３】
傾倒部材Ｂ４７０の状態の切り替えは、傾倒動作であり、非励磁状態と励磁状態との違いを判別し易いよう構成される。これにより、球が第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）に入球し得る状態か否かの判別を容易とすることができる。
【１６６０４】
図１５１７（ａ）及び図１５１７（ｂ）を参照して、入賞ユニットＢ４００に到達する球の流下態様について説明する。なお、図１５１７（ａ）及び図１５１７（ｂ）で図示される断面において入賞ユニットＢ４００は左右対称形状から形成されるので、左右片側での説明に留め、反対側の説明は省略する。
【１６６０５】
図１５１７（ａ）に示すように、球受部Ｂ４１２を逸れて流下する球は、例えば軒部Ｂ４２６を介して流れる経路ＢＤＲ１で流下する。この場合、軒部Ｂ４２６に遮られることで球通過開口Ｂ４１４への最短距離で球が流下することはなく、先端部Ｂ４５１上での滞在時間が延ばされる。また、軒部Ｂ４２６の傾斜により左右外側への速度成分を有して流下するので、スライド部材Ｂ４５０に着地して跳ねた後の球は、左右外側へ向けて跳ね返り易い。
【１６６０６】
これに対して、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の上面が左右内側へ向けて下降傾斜していることから、球の跳ね返りの方向を左右内側に寄せることができる。これにより、経路ＢＤＲ１で流下した球がスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の左右外側に零れる事態を回避し易くすることができる。
【１６６０７】
更に、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１を左右外側へ向けて流れる球と対向する位置に釘ＢＫＧ１が植設されている。そのため、球が先端部Ｂ４５１の左右外側へ向けて流れた場合であっても、勢いの大きな球ほど、釘ＢＫＧ１との衝突によりスライド部材Ｂ４５０側に戻り易いようにすることができる。先端部Ｂ４５１の左右外側へ向けて球が流れた場合に、その球の勢いが不十分であると、釘ＢＫＧ１との衝突によっても跳ね戻らず、釘ＢＫＧ１とスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１との間を球が流下することになる。
【１６６０８】
経路ＢＤＲ１とは異なる経路で流下する場合も、釘ＢＫＧ１の配置との影響から、通常は経路ＢＤＲ１がスライド部材Ｂ４５０に到達する地点と同一の地点ＢＤＲ１ａに到達し、スライド部材Ｂ４５０に案内される。
【１６６０９】
スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球と対向配置される位置に連なって植設される釘ＢＫＧ１の上を流下して地点ＢＤＲ１ａに到達する球は、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が釘ＢＫＧ１側に張り出して形成されていることから、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１と釘ＢＫＧ１との間に脱落することが抑制される。
【１６６１０】
なお、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされた球が先端部Ｂ４５１の左右内側部（球通過開口Ｂ４１４の前方位置）へ向かって飛ぶ場合もあるが、その球と軒部Ｂ４２６とが衝突し易いよう軒部Ｂ４２６の配置が設計されている。即ち、本実施形態では、球が釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされることによるイレギュラーな流下態様においても、球が地点ＢＤＲ１ａを経由せずに球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する事態の発生を抑制している。本実施形態で

は、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされて、地点ＢＤＲ１ａを経由せずに球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する球の頻度は、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされる球の１０個に１個程度となるように調整して設計される。

【１６６１１】

図１５１７（ｂ）に示すように、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の励磁状態において球が経路ＢＤＲ１で流下する場合、球はスライド部材Ｂ４５０に着地することはなく、軒部Ｂ４２６の傾斜により生じた左右方向の速度成分を維持しつつ流れる。

【１６６１２】

スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の左右外側への張出代がない分、釘ＢＫＧ１との間の隙間を狭くする作用を見込むことができず、球は開口部Ｂ４３６ａの左右外方へ逸れて流下する。また、上述した軒部Ｂ４２６の設計から、球が釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされることによるイレギュラーな流下態様で、球が球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する事態の発生は抑制されており、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過する事態の発生が抑制されている。

【１６６１３】

即ち、経路ＢＤＲ１に例示されるように球が流下する場合、スライド部材Ｂ４５０の非励磁状態であれば球は先端部Ｂ４５１の上面を左右内側へ案内され易く、スライド部材Ｂ４５０の励磁状態でれば球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに直接入球する事態は生じ難く、前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下し易い。

【１６６１４】

次いで、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流下態様について説明する。スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った球が、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿って左右内側へ向けて流れ、球通過開口Ｂ４１４を通過するまでスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合には、その球は問題なく先端部Ｂ４５１よりも後側へ流れ、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）に入球する可能性が高まる。

【１６６１５】

それ以外の場合として、球が先端部Ｂ４５１に乗っている間にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられる場合を説明する。

【１６６１６】

図１５１７（ａ）の球配置ＢＢ１は、スライド部材Ｂ４５０の左右外側端部に乗っている状態として図示される。球配置ＢＢ１に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は板部材Ｂ４１０により遮られているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球が後方に移動することはできず、その球は前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下する。

【１６６１７】

図１５１７（ｂ）の球配置ＢＢ２は、中段部材Ｂ４３０の開口部Ｂ４３６ａの左右外側縁部の上方に球の中心が配置される状態として図示される。球配置ＢＢ２に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は板部材Ｂ４１０により遮られているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球が後方に移動することはできない。

【１６６１８】

一方で、前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下するか、開口部Ｂ４３６ａ側へ流下するかは、その時の球の勢いや、球の中心位置の偏りにより変化する。開口部Ｂ４３６ａ側へ流下した球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過し、遊技者には賞球の払い出しが行われる。

【１６６１９】

そのため、球配置ＢＢ２に球がある時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合の球の行方は不確定であり、且つ、球の行方次第で遊技者が得られる利益が変化

するので、球配置ＢＢ２に球がある時のスライド部材Ｂ４５０に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１６６２０】

図１５１７（ｂ）の球配置ＢＢ３は、球通過開口Ｂ４１４の正面に球が配置される状態として図示される。球配置ＢＢ３に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は球通過開口Ｂ４１４で開放されているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球がスライド部材Ｂ４５０から受ける負荷により後方に移動する（スライド部材Ｂ４５０により押し込まれる形で後方に移動する）。

【１６６２１】

即ち、球配置ＢＢ３に球が配置される時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられたとしても、その球（１個のみ）については、球通過開口Ｂ４１４の後方へ流下させることができる。この場合において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の上側面は後方へ向けて下降傾斜しているので、スライド部材Ｂ４５０の移動中に球が前側に零れることを防止し易くすることができる。

【１６６２２】

なお、本実施形態によれば、球配置ＢＢ３は左右対称に形成されるので、左右両側の球配置ＢＢ３の両方に球が乗っている状態でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、球は２個ともスライド部材の移動と共に後方に移動し、球通過開口Ｂ４１４の後方へ流下する。

【１６６２３】

このように、本実施形態によれば、先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態からスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられるという同様の状態変化であっても、先端部Ｂ４５１上の球の配置次第で、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた後の球の流下経路が変化するよう構成されている。そのため、先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態において、その球およびスライド部材Ｂ４５０の移動態様に対する注目力を向上させることができる。

【１６６２４】

そして、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられる時の球配置ＢＢ１～ＢＢ３は、下流側（球配置ＢＢ３側）へ向かう程、遊技者が得られる可能性のある利益は大きくなる。そのため、スライド部材Ｂ４５０上に球が乗った後も、遊技者が得られる可能性のある利益は増大し続けることになるので、その球の流下に対する注目力を向上させることができる。

【１６６２５】

また、スライド部材Ｂ４５０上の球は、１個に限定されるものではなく、例えば、球配置ＢＢ１と球配置ＢＢ３とに同時に球が配置される可能性もある。この場合は、球配置ＢＢ３の球が球通過開口Ｂ４１４を後方へ通過し、球配置ＢＢ１の球が球配置ＢＢ３側へ到達するまで（本実施形態では約０．２秒間）、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持されている方が遊技者の得られる可能性のある利益は高くなるので、球およびスライド部材Ｂ４５０の動きに対する注目力を向上させることができる。

【１６６２６】

図１５１８は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩＩ－ＭＤＸＶＩＩＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５１９は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５２０は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸ－ＭＤＸＸ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５１８から図１５２０では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示される。

【１６６２７】

電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）では、図１５１８から図１５２０に示すように、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置される。

【１６６２８】

まず、図１５１８及び図１５２０を参照して、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の流路の構成について説明する。スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、前意匠部材Ｂ４２０とスライド部材Ｂ４５０との間の前後幅が球の直径未満になるので、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへの球の流入は防止されることになり、先端部Ｂ４５１に乗った球は球通過開口Ｂ４１４の後方へ導入される。

【１６６２９】

球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、中段部材Ｂ４３０と上段部材Ｂ４４０とに囲まれる領域に沿ってスライド部材Ｂ４５０上を転動する。上段部材Ｂ４４０は、スライド部材Ｂ４５０の上面に対向配置される天井面Ｂ４４７を備える。

【１６６３０】

天井面Ｂ４４７は、スライド部材Ｂ４５０の上面の傾斜とは異なり、前後方向（本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の変位方向）に沿って延設される平面として形成される。そのため、天井面Ｂ４４７とスライド部材Ｂ４５０との上下間に形成される流路の断面積が後方側（下流側）へ向かう程大きくなるので、球詰まりの発生を抑制することができたり、球の流下抵抗が上昇することを回避したりすることができる。

【１６６３１】

また、これにより、スライド部材Ｂ４５０上を後方へ向けて転動する球が上方へ跳ねた場合や、球が後方に押される負荷を受けて後方へ跳ねた場合であっても、球が天井面Ｂ４４７と衝突する事態が生じることを回避し易くすることができる。

【１６６３２】

図１５２０に示すように、天井面Ｂ４４７の上下位置よりも天井構成部Ｂ４４４の傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置の方が下側とされる。そのため、天井面Ｂ４４７近くまで球が跳ねていた場合であっても、隙間Ｂ４４４ｃを通って球が中央流路Ｂ４３１に合流する前に、球の高さ位置を傾斜面部Ｂ４４４ａまで落とすことができる。

【１６６３３】

即ち、球の勢いを落としてから中央流路Ｂ４３１に合流させることができる。これにより、中央流路Ｂ４３１に左右から球が任意のタイミングで導入され、衝突し得るような場合であっても、新たに中央流路Ｂ４３１に案内される球から中央流路Ｂ４３１に既に配置されていた球に対して、その球を逆流させる程の大きな負荷が与えられる事態が発生することを回避し易くすることができる。従って、中央流路Ｂ４３１内での球の逆流を抑制し、球流れを円滑化（スムーズに）することができる。

【１６６３４】

なお、この作用は、天井面Ｂ４４７の高さ位置は左右で同一とされることから、右案内板部Ｂ４５３に案内される球だけでなく、左案内板部Ｂ４５２に案内される球にも同様に生じる。

【１６６３５】

天井面Ｂ４４７は、後端部において湾曲面として形成され左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６と滑らかに連結される湾曲案内部Ｂ４４７ａを備える。球がスライド部材Ｂ４５０の上面で跳ねて湾曲案内部Ｂ４４７ａと衝突した場合、湾曲案内部Ｂ４４７ａの形状に沿って球の流下方向を下方に向けることができるので、球をスライド部材Ｂ４５０側に近づけることができる。

【１６６３６】

これにより、球を傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置よりも下側にスムーズに変位させることができるので、中央流路Ｂ４３１への球の合流をスムーズに行わせることができる。

【１６６３７】

図１５１８及び図１５２０に示すように、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の前後方向の移動幅は、数センチメートル（約３～５センチメートル）におよぶが、ベース板Ｂ６０の正面側で占める長さ（左右幅）は、左右片側において約１～２センチメートルに抑えられている（図１５１７参照）。

【１６６３８】

即ち、スライド部材Ｂ４５０は、球を案内する経路長さに比較して、ベース板Ｂ６０の正面側においてスライド部材Ｂ４５０が配設される範囲（正面視で占める面積）を小さくすることができるよう構成される。これにより、球をスライド部材Ｂ４５０で案内する長さを十分に確保しながら、スライド部材Ｂ４５０が占める遊技領域のスペースを小さくすることができるので、他の電動役物や、入賞口等を配設するスペースを遊技領域に確保することができる。

【１６６３９】

図１５２０に示すように、上段部材Ｂ４４０の傾斜面部Ｂ４４４ａと、スライド部材Ｂ４５０の右案内板部Ｂ４５３（及び左案内板部Ｂ４５２、図１５１８参照）とは、前後方向の傾斜角度が同一とされている。これにより、右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１へ球が通過する右開口部ＢＲＴ（右側の隙間Ｂ４４４ｃ、傾斜面部Ｂ４４４ａ及び右案内板部Ｂ４５３に区画される開口部）と、左案内板部Ｂ４５２から中央流路Ｂ４３１へ球が通過する左開口部ＢＬＴ（左側の隙間Ｂ４４４ｃ、傾斜面部Ｂ４４４ａ及び左案内板部Ｂ４５２に区画される開口）との面積が同一に確保される。

【１６６４０】

即ち、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴは前後位置が異なるため、後方の左開口部ＢＬＴの方が傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置が低くなることで開口部ＢＬＴ，ＢＲＴの面積（上下幅）が小さくなる可能性があるが、本実施形態では、傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置が低くなることに対応してスライド部材Ｂ４５０の右案内板部Ｂ４５３（及び左案内板部Ｂ４５２、図１５１８参照）の上下位置が同様に低くなるので、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴの上下幅を同一に確保することができる。

【１６６４１】

これにより、球が右案内板部Ｂ４５３に案内されるか、左案内板部Ｂ４５２に案内されるかによって、球が中央流路Ｂ４３１に合流する際の流下抵抗が変化する事態の発生を防止し易くすることができる。

【１６６４２】

一方で、球が右案内板部Ｂ４５３に案内されるか、左案内板部Ｂ４５２に案内されるかによって、スライド部材Ｂ４５０上を球が転動する前後長さは異なる（左案内板部Ｂ４５２の方が右案内板部Ｂ４５３に比較して約１１ｍｍ（球の直径分）以上長い）ので、球通過開口Ｂ４１４を球が通過してから中央流路Ｂ４３１に合流するまでに要する時間は異なるが、球の流下に要する時間についての詳細は後述する。

【１６６４３】

なお、図１５１８～図１５２０では、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴが、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されている場合の開口配置として想像線で図示される。また、他の実線との重なりを避けるために若干小さく図示されるが、形状が小さいものに限定する意図では無く、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１に滑らかに案内されるのに十分な大きさ及び配置で形成される。

【１６６４４】

次いで、図１５１９を参照して、中央流路Ｂ４３１について説明する。スライド部材Ｂ４５０に案内された球は、左右両側において前後で位置が異なる開口部ＢＬＴ，ＢＲＴで、傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの傾斜に沿って中央流路Ｂ４３１に導入される。

【１６６４５】

その導入された球は、中央流路Ｂ４３１に沿って正面側へ向けて流下し、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置にある場合には、球案内突条Ｂ４２８に衝突した後で下方へ流下し、入賞ユニットＢ４００から脱落して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）へ向けて流下する。

【１６６４６】

ここで、上側流路構成部Ｂ４４１には球受部Ｂ４１２に受け入れられた球が順番に流下することから、突然に球の個数が増えることは無く、上蓋部材Ｂ４４３の傾斜は上側流路構成部Ｂ４４１と平行となっている。一方で、中央流路Ｂ４３１には左右から同時に球が

案内される等、同時期に中央流路Ｂ４３１に複数の球が配置され、球が連なったり、球同士で生じる負荷により球が浮き上がったりする可能性がある。

【１６６４７】

これに対し、本実施形態では、中央流路Ｂ４３１の天井部を構成する傾斜面部Ｂ４４４ａは、前方へ向かう程上昇傾斜していることから、中央流路Ｂ４３１の断面積（開口面積）が前方へ向かう程大きくなる。即ち、下流側へ向かう程に流路面積が大きくなるので、中央流路Ｂ４３１を前方へ向けて流れるという流下態様において、球詰まりの発生を抑制することができる。即ち、途中位置で球が合流するという流路構成であっても、流路面積が大きく確保されていることから、球の流下抵抗が上昇することを回避することができる。

【１６６４８】

図１５２１は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＶＩＩＩ－ＭＤＸＶＩＩＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５２２は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５２３は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸ－ＭＤＸＸ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５２１から図１５２３では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。

【１６６４９】

なお、図１５２１～図１５２３では、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴが、図１５１８～図１５２０での図示と同様に、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されている場合の開口配置として想像線で図示される。

【１６６５０】

電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）では、図１５２１から図１５２３に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置される。

【１６６５１】

図１５２１及び図１５２３に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されると、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１は板部材Ｂ４１０の前側面よりも後方に配置される。これにより、スライド部材Ｂ４５０への新たな球の着地を防止することができる。

【１６６５２】

即ち、スライド部材Ｂ４５０の下流側に配置される中央流路Ｂ４３１よりも下流側に配置される第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）へ向けた新たな球の導入が生じない。そのため、スライド部材Ｂ４５０に乗っていた球が傾倒部材Ｂ４７０の正面側を流れきるまでに要する時間を超えて励磁状態を維持すれば、入賞ユニットＢ４００に案内されている球は全て傾倒部材Ｂ４７０に拾われ得る。加えて、スライド部材Ｂ４５０に案内される球が加算されることはないので、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球個数が過大となることを防止できる。なお、球の入球制御の詳細については後述する。

【１６６５３】

図１５２１及び図１５２３に示すように、スライド部材Ｂ４５０の下面には細幅の突条部Ｂ４５５が形成されており、その細幅の突条部４４５が中段部材Ｂ４３０の支持延設部Ｂ４３６に下支えされている。これにより、スライド部材Ｂ４５０が前後方向に傾倒する姿勢変化を抑制すると共に、スライド部材Ｂ４５０の前後移動時のスライド部材Ｂ４５０と支持延設部Ｂ４３６との接触面積を低減することで摩擦抵抗を低減することができる。

【１６６５４】

スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられ、前進位置から後退位置に変位する時に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に球が乗っている場合、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面が後方へ向けて下降傾斜していることから球滑りが抑制され、スライド部材Ｂ４５０と一体的に（スライド部材Ｂ４５０の変位量と同一の変位量で）後方へ移動する。加えて、スライド部材Ｂ４５０を介して与えられる負荷により球が

後方へ加速される。
【１６６５５】
一方で、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態から非励磁状態に切り替えられ、後退位置から前進位置に変位する時に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に球が乗っている場合、スライド部材Ｂ４５０の上面の傾斜との関係により、球が配置される前後位置におけるスライド部材Ｂ４５０の上下高さは下降し、スライド部材Ｂ４５０と球との上下間隔が広げられる。
【１６６５６】
即ち、球はスライド部材Ｂ４５０に対して浮いた状態を介して、再びスライド部材Ｂ４５０に着地することになり、球がスライド部材Ｂ４５０と一体的に前方に移動することは回避される。
【１６６５７】
加えて、スライド部材Ｂ４５０の変位開始時（球とスライド部材Ｂ４５０との上下間隔が空く前）に球に前転方向のスピンがかけられる場合には、スライド部材Ｂ４５０上の球の流下速度を増加させることができる。
【１６６５８】
スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態から励磁状態に切り替えられる際、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に既に乗っている球は、そのまま左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に乗ったままとされ、より下流側で流下経路の分岐が確定する。
【１６６５９】
一方、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態から励磁状態に切り替えられる際、球通過開口Ｂ４１４の前方に配置された球は、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて落下する可能性があることは、図１５１７で上述した通りである。即ち、球通過開口Ｂ４１４の前方の位置において、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過して遊技領域外に排出されるか、別の流下経路で流れるかという、球の流下経路の分岐が確定する可能性がある。
【１６６６０】
本実施形態では、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの方が、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３よりも正面側に位置するよう構成されている。これにより、検出センサＢ４３５への注目力を向上させることができ、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａ側に流下経路が分岐し、開口Ｂ４３５ａを通過する球を視認し易くすることができる。
【１６６６１】
図１５２２に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されている場合であっても、傾斜面部Ｂ４５２ａが左開口部ＢＬＴに配置される。即ち、傾斜面部Ｂ４５２ａは、スライド部材Ｂ４５０の配置に関わらず左開口部ＢＬＴに配置されるのに十分な前後幅で形成される。傾斜面部Ｂ４５３ａも同様である。
【１６６６２】
中央流路Ｂ４３１に導入された球が中央流路Ｂ４３１を通過した時に、依然として傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置されている場合、その球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて検出センサＢ４６２を通過する。
【１６６６３】
即ち、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置は、球が検出センサＢ４６２を通過して遊技領域外に排出されるか、別の流下経路で流れるかという、球の流下経路の分岐が確定する位置である。
【１６６６４】
本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０の方が、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３よりも正面側に位置するよう構成されている。これにより、傾倒部材Ｂ４７０への注目力を向上させることができ、検出センサＢ４６２側に流下経路が分岐し、検出センサＢ４６２側へ流下する球を視認し易くすることができる。
【１６６６５】

このように、入賞ユニットＢ４００では、球の流下経路の分岐が確定する位置を正面側に配置するように構成している。更に、球の流下経路の分岐が確定する複数の位置（球通過開口Ｂ４１４の前方の位置や、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置）を、球が間を空けずに通過するのではなく、十分な時間を空けて通過するよう構成することで、球に注目する遊技者が視線を動かす余裕を作ることができる。

【１６６６６】

加えて、球の流下経路の分岐が確定する複数の位置（球通過開口Ｂ４１４の前方の位置や、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置）間の、正面視における間隔を狭める（図１５１７参照）ことにより、球に注目する遊技者が視線を動かす余裕を作ることができる。

【１６６６７】

図１５２２に示すように、傾倒部材Ｂ４７０の回転軸としての被支持突部Ｂ４７３は、中央流路Ｂ４３１の前端部よりも後方に奥まった位置に配置されている。加えて、閉鎖位置における傾倒部材Ｂ４７０は、中段部材Ｂ４３０の傾斜ストッパＢ４３７ｆの傾斜に対応して若干前倒れしている（図１５１９参照）。

【１６６６８】

これにより、閉鎖位置における傾倒部材Ｂ４７０の前方に流下中の球が配置されている時に、傾倒部材Ｂ４７０が励磁状態とされ開放位置へ向けて変位したとしても、傾倒部材Ｂ４７０の前面は既に前方へ向けて傾斜しているので、球に対して下方向の負荷を与えやすく、球を早期に下方へ排出することができる。即ち、球が傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０との間で挟まり、傾倒部材Ｂ４７０の開放位置への変位が阻害される時間が長引く事態を回避し易くすることができる。

【１６６６９】

また、傾倒部材Ｂ４７０の開閉動作における回転角度を小さくすることができるので、開閉動作に要する時間を短くすることができる。従って、開閉のタイミングを制御し易くすることができると共に、過入球を防止し易くすることができる。

【１６６７０】

本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０の板状部Ｂ４７１の左右幅が球の直径程度の長さで形成され（図１５１７参照）、開放位置から閉鎖位置へ変位する間において複数の球を拾うことはできないように構成されていることからも、過入球を防止し易くすることができる。

【１６６７１】

傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が流下する流路の天井部を構成する傾斜面部Ｂ４３７ｅは、後側部において中央経路Ｂ４６１と平行な傾斜面として形成され、傾倒部材Ｂ４７０に近い側としての前側部において、前方へ向けた上昇傾斜の角度が増すように構成されている。

【１６６７２】

これにより、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が傾倒部材Ｂ４７０との衝突により跳ねた場合であっても、その球を中央経路Ｂ４６１と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間の経路にスムーズに導入させることができる。従って、傾倒部材Ｂ４７０に乗った球の重さや、その球の中央経路Ｂ４６１と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間の経路への流入抵抗が高いことにより球に変位を妨げられることにより、傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖位置へ向けた変位が遅れる事態の発生を回避することができる。

【１６６７３】

図１５２３に示すように、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、同一の前後位置におけるスライド部材Ｂ４５０の上下位置が上がるので、右開口部ＢＲＴの下縁がせり上がり、球が通過可能な面積が小さくなる。左開口部ＢＬＴも同様である。

【１６６７４】

この時、左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６の後端部に到達した球は、その位置においてスライド部材Ｂ４５０の上下位置が上がることの影響で、跳ね上がる。これにより、球の運動エネルギーが増大する可能性がある。

【１６６７５】
一方で、傾斜面部Ｂ４４４ａとスライド部材Ｂ４５０との上下間隔は、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されていた状態よりも狭められることで球の流下抵抗が上がり、傾斜面部Ｂ４４４ａにより球の勢いが落とされる作用が増強されている。これにより、球の勢い（運動エネルギー）を十分に落としてから中央流路Ｂ４３１に球を案内することができる。
【１６６７６】
図１５２４（ａ）及び図１５２４（ｂ）は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＸＩＶａ－ＭＤＸＸＩＶａ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５２４（ａ）では、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態が図示され、図１５２４（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。なお、図１５２４（ａ）及び図１５２４（ｂ）では、隙間Ｂ４４４ｃの前後方向の中間位置を通る断面が図示される。
【１６６７７】
本実施形態では、左開口部ＢＬＴと右開口部ＢＲＴとが前後に位置ずれしているため、左右の開口部が左右方向に延びる直線上に配置される場合にしばしばみられるような、開口部を通過する球同士が左右方向で衝突し、球同士で生じさせ合う負荷が左右方向外側に向くことでバランスしてしまい、球の流下が滞るという不具合を回避することができる。
【１６６７８】
一方、本実施形態では、左案内板部Ｂ４５２上の球が中央流路Ｂ４３１に導入される左開口部ＢＬＴよりも正面側に配置される右開口部ＢＲＴを通して、右案内板部Ｂ４５３上の球が中央流路Ｂ４３１に導入されるよう構成されるので、右開口部ＢＲＴを通過しようとする球と、中央流路Ｂ４３１を流下している球とが衝突する可能性がある（図１５２４（ａ）参照）。この場合、流路形状上はそうなり難いように設計していても、球が互いに与え合う負荷がバランスしてしまい球の流れが停止する事態が生じる可能性がある。
【１６６７９】
これに対し、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられ後退位置へ変位する場合に、中央流路Ｂ４３１を流下している球の上下位置には影響しない一方で、右案内板部Ｂ４５３に乗っている球の上下位置が上げられることで、中央流路Ｂ４３１に配置されている球と、右案内板部Ｂ４５３に乗っている球との間に一瞬ではあるが間隔を空けることができる。この間に中央流路Ｂ４３１に配置されている球が中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って流れることで、球が互いに与え合う負荷のバランスを崩すことができる。
【１６６８０】
また、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態に切り替えられ前進位置へ変位する場合に、中央流路Ｂ４３１を流下している球の上下位置には影響しない一方で、右案内板部Ｂ４５３の上下位置が下げられることで、右案内板部Ｂ４５３の上方の球と右案内板部Ｂ４５３との間に一瞬ではあるが間隔を空けることができる（浮かせることができる）。この間隔を埋めるように右案内板部Ｂ４５３の上方の球が下方へ変位する際に、その球は中央流路Ｂ４３１に配置されている球からの負荷に押されて左右外側へ変位すると考えられるので、球が互いに与え合う負荷のバランスを崩すことができる。
【１６６８１】
このように、本実施形態では、中央流路Ｂ４３１への合流位置で球が互いに与え合う負荷がバランスする事態が生じたとしても、スライド部材Ｂ４５０の状態が切り替えられることで、負荷がバランスしている一方の球の配置を変えることができ、負荷のバランスを崩すことができるよう構成されている。これにより、スライド部材Ｂ４５０から中央流路Ｂ４３１を介する球の流れをスムーズに保つことができる。
【１６６８２】
なお、上述の負荷のバランスを崩す作用は、スライド部材Ｂ４５０の状態が切り替えられるタイミングで生じることから、この作用を見込んで、スライド部材Ｂ４５０の作動パ

ターンを設計しても良い。即ち、スライド部材Ｂ４５０の状態の切り替えの頻度が高い方が、流下中の球同士の負荷のバランスを崩し易いので、球の流下を滑らかにすることができる。

【１６６８３】

次いで、図１５２５から図１５２９を参照して、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が配置される位置に到達した球の流下経路のバリエーションについて説明する。

【１６６８４】

図１５２５（ａ）から図１５２５（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５２５（ａ）から図１５２５（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５２５（ａ）から図１５２５（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【１６６８５】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５２５（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１５１７（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１５２５（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。

【１６６８６】

その後、図１５２５（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。その後、図１５２５（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下する。

【１６６８７】

図１５２５（ａ）から図１５２５（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過する期間に亘って電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態で維持される場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）へ向けて流下する。

【１６６８８】

図１５２６（ａ）から図１５２６（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５２６（ａ）及び図１５２６（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５２６（ｃ）及び図１５２６（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１５２６（ａ）から図１５２６（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５２６（ａ）から図１５２６（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【１６６８９】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５２６（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１５１７（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、球通過開口Ｂ４１４の正面側へ向けて左右内側へ流下し、図１５２６（ｂ）に示すように球配置ＢＢ２（図１５１７（ａ）参照）を経由する。

【１６６９０】

流下中の球が球配置ＢＢ２に配置されている時に、図１５２６（ｃ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられると、球は慣性で左右内側へ流れ、図１５２６（ｄ）に示すように球は球通過開口Ｂ４１４の正面側を下方へ流下して、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過する。

【１６６９１】
図１５２６（ａ）から図１５２６（ｄ）に示すように、先端部Ｂ４５１に球が乗った後、短時間の内に電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた場合、先端部Ｂ４５１に乗っていた球は球通過開口Ｂ４１４の前側を落下して検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過し得る。
【１６６９２】
もっとも、慣性が左右内側に作用しないほど極めて短時間の内に電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた場合には、先端部Ｂ４５１に乗っていていた球は開口Ｂ４３５ａから外れて検出センサＢ４３５の左右外側を流下し得る。
【１６６９３】
図１５２７（ａ）から図１５２７（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５２７（ａ）及び図１５２７（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５２７（ｃ）及び図１５２７（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１５２７（ａ）から図１５２７（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５２７（ａ）から図１５２７（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。
【１６６９４】
上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５２７（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１５１７（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１５２７（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。
【１６６９５】
その後、図１５２７（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。その後、図１５２７（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下して、傾倒部材Ｂ４７０に拾われて後方へ流下する。
【１６６９６】
図１５２７（ａ）から図１５２７（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過する間に電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切り替えられ、励磁状態で維持される場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して傾倒部材Ｂ４７０に拾われ第２入賞口Ｂ６４０（傾倒部材Ｂ４７０により開閉される開口、図１５０３参照）に入球する。
【１６６９７】
図１５２８（ａ）から図１５２８（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５２８（ａ）、図１５２８（ｂ）及び図１５２８（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５２８（ｃ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１５２８（ａ）から図１５２８（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５２８（ａ）から図１５２８（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。
【１６６９８】
上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５２８（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１５１７（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１５２８（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライ

ド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。

【１６６９９】

その後、図１５２８（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。この時点では、図１５２７（ｃ）に示すのと同様に、図１５２８（ｃ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態とされている。

【１６７００】

その後、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を球が通過するよりも前に、図１５２８（ｄ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態に切り替えられる。その後、図１５２８（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下する。

【１６７０１】

図１５２８（ａ）から図１５２８（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過する間に電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切り替えられ、再び非励磁状態に切り替えられた場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）へ向けて流下する。

【１６７０２】

このように、本実施形態では、球通過開口Ｂ４１４を球が通過した後で電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた時点では、その球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われるか否かが不明とされる。

【１６７０３】

即ち、球通過開口Ｂ４１４を球が通過してからの傾倒部材Ｂ４７０の状態変化の態様次第で、球が傾倒部材Ｂ４７０の正面側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂへ向けて流下するか、傾倒部材Ｂ４７０に拾われて第２入賞口Ｂ６４０へ向けて流下するかが変わるのであり、どちらへ向けて流下するかは球が傾倒部材Ｂ４７０に到達するまで不明とされる。これにより、球通過開口Ｂ４１４を通過して傾倒部材Ｂ４７０の正面側位置へ向けて流下する球に対する注目力を高い状態で維持することができる。

【１６７０４】

先端部Ｂ４５１に球が乗る時には、その球が球通過開口Ｂ４１４へ流入するか否かの分岐点となることから注目力を向上し、球が中央開口部Ｂ４１３を通過する時には、その球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われるか否かの分岐点として注目力を向上することができる。これにより、入賞ユニットＢ４００の内部を流下する球に対する注目力を複数位置で向上させることができる。

【１６７０５】

図１５２９（ａ）及び図１５２９（ｂ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５２９（ａ）及び図１５２９（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、先端部Ｂ４５１の正面側を流下する球の流れが矢印で図示される。なお、図１５２９（ａ）及び図１５２９（ｂ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【１６７０６】

図１５２９（ａ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合には先端部Ｂ４５１の左右外側部に着地する左右位置（球配置ＢＢ１、図１５１７（ａ）参照）を通る経路で球が流下した場合、球は開口部Ｂ４３６ａの左右外側へ流れる。即ち、球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過しない。

【１６７０７】

図１５２９（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０の前側位置へ向けて、左右内方への速度成分を有する球が飛び込むように流下する場合、その球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに入球する可能性はある。

【１６７０８】
一方で、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の配置が後方に奥まっていることから（図１５２１参照）、飛び込むように流下する球が先端部Ｂ４５１に乗ることは防止されている。この防止の作用は、球通過開口Ｂ４１４と先端部Ｂ４５１とで囲われる開口面積が減少されることによっても強化されている。
【１６７０９】
即ち、先端部Ｂ４５１が後方へ向けて下降傾斜するよう形成されていることから、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合（図１５１８参照）において球通過開口Ｂ４１４と共に開口部を形成するスライド部材Ｂ４５０の部分（先端部Ｂ４５１の後縁部に相当）の上下位置よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合（図１５２１参照）において球通過開口Ｂ４１４と共に開口部を形成し得るスライド部材Ｂ４５０の部分（先端部Ｂ４５１の前縁部に相当）の上下位置の方が、高い。
【１６７１０】
そのため、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される方が、球通過開口Ｂ４１４と先端部Ｂ４５１とで囲われる開口の下辺（先端部Ｂ４５１により形成される辺に相当）の上下位置が上がることで、開口面積が減少される。これにより、スライド部材Ｂ４５０の前側位置へ向けて左右内方への速度成分を有する球が飛び込むように流下する場合に、その球が先端部Ｂ４５１側に進入することを防止し易くすることができる。
【１６７１１】
このように、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球は、概ね入賞ユニットＢ４００の左右外側へ逸れて流れ、一部は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに入球する。
【１６７１２】
一方で、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球はスライド部材Ｂ４５０上に乗ることは防止されるので、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の下流側に配置される第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）や第３入賞口Ｂ６４ｂへ向けた新たな球の導入が行われる事態を回避することができる。
【１６７１３】
図１５２５から図１５２９に示すように、入賞ユニットＢ４００は、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った球の流下を複数位置で分岐させることができる。まず、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に球が乗った直後において（第１の分岐位置）、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合、その球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて流下し得る（図１５２６（ｃ）参照）。
【１６７１４】
一方で、開口Ｂ４３５ａに流下しなかった球は、先端部Ｂ４５１から傾斜に沿って流れる。その球が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合には、その球は、依然としてスライド部材Ｂ４５０に乗ったままとなる。また、底面部Ｂ４３１ａに乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合（図１５２７（ｃ）参照）には、その球は、依然として底面部Ｂ４３１ａに乗ったままとなる。
【１６７１５】
左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３を後方へ向けて流下する球は、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の前後幅全域に亘って形成される左右方向の傾斜によって、常時左右内側に寄せられながら、後方へ向けて流下する。これにより、球が左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の後端部に到達するよりも前から、球を下流の中央流路Ｂ４３１側に寄せることができる。従って、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の後端部に球が到達してから初めて中央流路Ｂ４３１側に方向転換するよりも、中央流路Ｂ４３１側への球の流入をスムーズにすることができる。
【１６７１６】

中央流路Ｂ４３１に流入した球は、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って前方へ向けて転動する。中央流路Ｂ４３１の前端部から球が落下する際に（第２の分岐位置）、電動役物Ｂ６４０ａの傾倒部材Ｂ４７０が非励磁状態で閉鎖位置に配置されていれば、球は下方へ落下し（図１５２５（ｄ）参照）、電動役物Ｂ６４０ａの傾倒部材Ｂ４７０が励磁状態で開放位置に配置されていれば、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて後方へ流下する（図１５２７（ｄ）参照）。

【１６７１７】

本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０を転動する遊技球の流下方向を前後方向を含むように設定することで、正面視におけるスライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０の寸法以上の経路長さで遊技球を転動させることができる。

【１６７１８】

パチンコ機Ｂ１０の開発の条件として、例えば、電動役物Ｂ６４０ａの正面視における幅寸法は無制限に延ばせるものではなく、長さの限界が設定される（例えば、５５ｍｍ）が、本実施形態によれば、正面視における電動役物Ｂ６４０ａの左右幅寸法はパチンコ機Ｂ１０の開発の条件を満たしつつ、電動役物Ｂ６４０ａを介する実際の球の転動長さを更に延ばすことができる。これにより、電動役物Ｂ６４０ａ上を流れて下流側の入賞口へ球が案内される構成において、正面視における電動役物Ｂ６４０ａの配置スペースを狭めながら、球の流下に要する時間を長くすることができる。

【１６７１９】

更に、電動役物Ｂ６４０ａとして、流下する遊技球に当接する箇所（先端部Ｂ４５１及び傾倒部材Ｂ４７０）を離れた位置に設けている。これにより、その間の中央流路Ｂ４３１の長さの分、電動役物Ｂ６４０ａの形状を超えて遊技球の流下長さを稼ぐことができる。

【１６７２０】

図１５３０（ａ）及び図１５３０（ｂ）は、図１５１６（ｂ）のＭＤＸＸＸａ－ＭＤＸＸＸａ線における入賞ユニットＢ４００の部分断面図である。図１５３０（ａ）では、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置された状態（非励磁状態）が図示され、図１５３０（ｂ）では、図１５３０（ａ）に示す状態からスライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態（励磁状態）に切り替えられた直後の状態が図示される。また、図１５３０（ａ）及び図１５３０（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時にスライド部材Ｂ４５０又は中央流路Ｂ４３１に球が配置されていた球について図示される。

【１６７２１】

図１５３０（ａ）及び図１５３０（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球は、スライド部材Ｂ４５０と共にスライド移動の変位量だけ後方に変位する。更に、左案内板部Ｂ４５２が後方へ向けて下降傾斜する傾斜面を構成するので（図１５１８参照）、球に後向きの負荷が与えられ、球は加速される。

【１６７２２】

一方で、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に中央流路Ｂ４３１に乗っていた球は、特段後方に変位することもなく、固定の床面を転動する。従って、同様の経路を球が流下する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球と、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に左案内板部Ｂ４５２に乗っておらず中央流路Ｂ４３１に乗っていた球とでは、流下に要する時間が異なるが、要する時間の違いの詳細については後述する。

【１６７２３】

なお、図１５３０（ａ）及び図１５３０（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０及び中央流路Ｂ４３１により形成される流下領域に２個の球が配置される場合において、スライド部材Ｂ４５０及び中央流路Ｂ４３１にそれぞれ１個ずつ球が配置される状態が図示されているが、これに限られるものではない。例えば、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３にのみ球が配置される場合も考えられるし、中央流路Ｂ４３１にのみ球が配置される場

合も考えられる。また、配置される球の個数は２個に限られるものではなく、１個の場合もあるし、３個以上の複数の場合もある。

【１６７２４】

図１５３１（ａ）及び図１５３１（ｂ）は、図１５１６（ｂ）のＭＤＸＸＸａ－ＭＤＸＸＸａ線における入賞ユニットＢ４００の部分断面図である。図１５３１（ａ）では、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置された状態（非励磁状態）が図示され、図１５３１（ｂ）では、図１５３１（ａ）に示す状態からスライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態（励磁状態）に切り替えられた直後の状態が図示される。また、図１５３１（ａ）及び図１５３１（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時にスライド部材Ｂ４５０又は中央流路Ｂ４３１に球が配置されていた球について図示される。

【１６７２５】

図１５３１（ａ）及び図１５３１（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に右案内板部Ｂ４５３に乗っていた球は、左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球と同様に、スライド部材Ｂ４５０と共にスライド移動の変位量だけ後方に変位する。更に、右案内板部Ｂ４５３が後方へ向けて下降傾斜する傾斜面を構成するので（図１５２０参照）、球に後向きの負荷が与えられ、球は加速される。

【１６７２６】

一方で、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に中央流路Ｂ４３１に乗っていた球は、特段後方に変位することもなく、固定の床面を転動する。従って、同様の経路を球が流下する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に右案内板部Ｂ４５３に乗っていた球と、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に右案内板部Ｂ４５３に乗っておらず中央流路Ｂ４３１に乗っていた球とでは、流下に要する時間が異なるが、要する時間の違いの詳細については後述する。

【１６７２７】

球がスライド部材Ｂ４５０上を流下して中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに要する時間について説明する。本実施形態では、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が右案内板部Ｂ４５３を転動して流下する場合、球の流下中にスライド部材Ｂ４５０のスライド動作が生じなければ、球通過開口Ｂ４１４を通過した球は約２．０秒で中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７２８】

一方、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が左案内板部Ｂ４５２を転動して流下する場合、球の流下中にスライド部材Ｂ４５０のスライド動作が生じなければ、球通過開口Ｂ４１４を通過した球は約２．４秒で中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７２９】

スライド部材Ｂ４５０は、球通過開口Ｂ４１４を通過してから中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでの経路の半分を構成する。即ち、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が右案内板部Ｂ４５３上を流下する場合、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受ける一方、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過した後にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受けることはない。

【１６７３０】

また、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が左案内板部Ｂ４５２上を流下する場合、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．２秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受ける一方、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．２秒を経過した後にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受けることはない。

【１６７３１】

本実施形態では、左右一対の球通過開口Ｂ４１４に球が同じタイミングで入球した場合であっても、スライド部材Ｂ４５０のスライド動作のタイミングによっては、球がスライ

ド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受ける場合と、球がスライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けない場合とが同時に生じ得る。

【１６７３２】

即ち、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過した後であって、約１．２秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、左案内板部Ｂ４５２上を流下していた球が後向きの負荷を受け、右案内板部Ｂ４５３上を流下していた球は後向きの負荷を受けない。

【１６７３３】

球がスライド部材Ｂ４５０に乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が後方へ向けてスライド動作した場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに要する時間が約０．５秒短縮される。

【１６７３４】

この０．５秒の内訳としては、概略で、スライド部材Ｂ４５０の前後方向の変位量（約１２ｍｍ）により約０．３秒短縮され、スライド部材Ｂ４５０から球に与えられる負荷による加速により０．２秒短縮される。

【１６７３５】

左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３を後方へ向けて転動した球は、隙間Ｂ４３２ａ又は隙間Ｂ４３３ａを通り（図１５２５（ｂ）参照）、中央流路Ｂ４３１に流入する。隙間Ｂ４３２ａと隙間Ｂ４３３ａとが、前後に位置ずれしていることから、隙間Ｂ４３２ａにおける球の通過と、隙間Ｂ４３３ａにおける球の通過とが同時に生じた場合に、それらが左右方向で正面衝突を起こすことを避けることができる。これにより、隙間Ｂ４３２ａ又は隙間Ｂ４３３ａを通過した球が、球との衝突により押し戻されて逆流する事態を避けることができる。

【１６７３６】

電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球がスライド部材Ｂ４５０上に到達することは防止されるので（図１５２９参照）、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられてから傾倒部材Ｂ４７０に到達するまでに最も時間がかかるのは、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態への切り替え時点にスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１上に乗っていた球であり、その球以降は傾倒部材Ｂ４７０に球が到達することはない。

【１６７３７】

図１５３２（ａ）から図１５３２（ｃ）は、電動役物Ｂ６４０ａの状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１５３２（ａ）では、第１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１５３２（ｂ）では、第２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１５３２（ｃ）では、第３の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【１６７３８】

図１５３２（ａ）から図１５３２（ｃ）では、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７で球の通過が検出されたことにより動作制御される電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンについて説明する。

【１６７３９】

なお、図１５０３に示すように、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａへ向けて流下する球は漏れなく普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過するように釘配置が設計され、球の発射間隔（０．６秒間隔）に比較して、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過すること（普通図柄の単一の抽選）を契機とする電動役物Ｂ６４０ａの作動時間（基準の作動パターンでの作動時間、普通図柄の抽選の間隔に相当）の方が長くされるので、弾球遊技中は普通図柄の保留球数が途切れ難く、普通図柄の保留球数が常に０よりも多い状態で維持され易い。そのため、電動役物Ｂ６４０ａの動作は、基準の作動パターンが間隔を空けずに繰り返し実行される。

【１６７４０】

図１５３２（ａ）に示すように、第１の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ１ａ（本実施

形態では０．１秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ１ｂ（本実施形態では３．９秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを基準の作動パターンＢＲＰ１として、これが繰り返される。

【１６７４１】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する０．１秒間の内訳として、０．０５秒間で第２図柄の変動表示が行われ、その終了後に０．０５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で維持されている。

【１６７４２】

スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができるが、０．１秒間は、球が球配置ＢＢ１から球配置ＢＢ３（図１５１７（ａ）参照）まで変位するのに要する時間（約０．２秒間）に比較して十分ではない。

【１６７４３】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第１の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過することが防止され、球が中央流路Ｂ４３１に導入されることが防止されるので、球が第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）に入球することを防止することができる。

【１６７４４】

図１５３２（ｂ）に示すように、第２の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ２ａ（本実施形態では１．８秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ２ｂ（本実施形態では０．２秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持され、その後、待機時間Ｂｔ２ａでスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ２ｂでスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを、基準の作動パターンＢＲＰ２として、これが繰り返される。

【１６７４５】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する１．８秒間の内訳として、０．０５秒間で第２図柄の変動表示が行われ、その終了後に１．７５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で維持されている。

【１６７４６】

スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができ、その後もスライド部材Ｂ４５０が０．２秒間前進位置で維持されていれば、球は球通過開口Ｂ４１４を通過してスライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１側へ案内される。

【１６７４７】

球が到達する位置およびタイミングと、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに経過する時間との対応関係について説明する。球配置ＢＢ１からＢＢ３に到達するまでに約０．２秒を要するので、球が球通過開口Ｂ４１４を通過し始めるのはスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから０．２秒後である。

【１６７４８】

球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第１左入球期間ＢＴＩＬ１（本実施形態では０．２～０．６秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．４秒後である第１左排出期間ＢＴＯＬ１（本実施形態では２．６～３．０秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。この場合、球は、スライド部材Ｂ４５０が動作する前に中央流路Ｂ４３１に到達するので、スライド部材Ｂ４５０からの負荷による球の流下速度変化は生じない。

【１６７４９】

また、球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第２左入球期間ＢＴＩＬ２（本実施形態では０．６秒～１．８秒）後に球

通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が０．５秒短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．９秒後である第２左排出期間ＢＴＯＬ２（本実施形態では２．５～３．７秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７５０】

一方、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第１右入球期間ＢＴＩＲ１（本実施形態では０．２～０．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．０秒後である第１右排出期間ＢＴＯＲ１（本実施形態では２．２～２．８秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。この場合、球は、スライド部材Ｂ４５０が動作する前に中央流路Ｂ４３１に到達するので、スライド部材Ｂ４５０からの負荷による球の流下速度変化は生じない。

【１６７５１】

また、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第２右入球期間ＢＴＩＲ２（本実施形態では０．８秒～１．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．５秒後である第２右排出期間ＢＴＯＲ２（本実施形態では２．３～３．３秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７５２】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過した場合に、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングで電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態（スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置される状態）とされているので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われないことから第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）へは案内されず、第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）側へ案内される。

【１６７５３】

このように、本実施形態では、球の配置によって（遅く入球した球に対して）、スライド部材Ｂ４５０の動作時に球に負荷が与えられ、球の通過に要する時間が短縮される。これにより、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合に球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するのに要する時間（左案内板部Ｂ４５２を介して流下する場合に要する時間（本実施形態では約２．４秒間））よりも短い周期の作動パターンでスライド部材Ｂ４５０を動作させながらも、そのスライド部材Ｂ４５０の作動パターンの周期内で、球を中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。

【１６７５４】

従って、１回目（ｎ回目）に前進位置にスライド部材Ｂ４５０が配置されている状態において球通過開口Ｂ４１４を通過した球を、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される状態を経由して、２回目（ｎ＋１回目）に前進位置にスライド部材Ｂ４５０が配置されている状態において中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。

【１６７５５】

即ち、球通過開口Ｂ４１４の球の通過と、中央流路Ｂ４３１の前端からの球の通過とを、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されるｎ回目の状態およびｎ＋１回目の状態を１セットで完結させることができる。

【１６７５６】

図１５３２（ｃ）に示すように、第３の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ３ａ（本実施形態では２．０秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ３ｂ（本実施形態では２．０秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを基準の作動パターンＢＲＰ３として、これが繰り返される。

【１６７５７】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する２．０秒間の内訳として、０．０５秒間で第２

図柄の変動表示が行われ、その終了後に１．９５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で維持されている。

【１６７５８】

スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができ、その後もスライド部材Ｂ４５０が０．２秒間前進位置で維持されていれば、球は球通過開口Ｂ４１４を通過してスライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１側へ案内される。

【１６７５９】

球が到達する位置およびタイミングと、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに経過する時間との対応関係について説明する。球配置ＢＢ１からＢＢ３に到達するまでに約０．２秒を要するので、球が球通過開口Ｂ４１４を通過し始めるのはスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから０．２秒後である。

【１６７６０】

球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第３左入球期間ＢＴＩＬ３（本実施形態では０．２～０．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．４秒後である第３左排出期間ＢＴＯＬ３（本実施形態では２．６～３．２秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７６１】

また、球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第４左入球期間ＢＴＩＬ４（本実施形態では０．８秒～２．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．９秒後である第４左排出期間ＢＴＯＬ４（本実施形態では２．７～３．９秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７６２】

一方、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第３右入球期間ＢＴＩＲ３（本実施形態では０．２～１．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．０秒後である第３右排出期間ＢＴＯＲ３（本実施形態では２．２～３．０秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７６３】

また、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第４右入球期間ＢＴＩＲ４（本実施形態では１．０秒～２．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．５秒後である第４右排出期間ＢＴＯＲ４（本実施形態では２．５～３．５秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【１６７６４】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過した場合に、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングで電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態（スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置される状態）とされているので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて、漏れなく第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）に案内され、第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）側へは案内されない。

【１６７６５】

このように、本実施形態では、球の配置によって（遅く入球した球に対して）、スライド部材Ｂ４５０の動作時に球に負荷が与えられ、球の通過に要する時間が短縮される。これにより、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合に球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するのに要する時間（左案内板部Ｂ４５２を介して流下する場合に要する時間（本実施形態では約２．４秒間））よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持される期間が短い作動パターンであっても、スライド部材Ｂ

４５０が後退位置で維持される間に球を中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。

【１６７６６】

従って、基準の作動パターンにおいて、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において前進位置に配置されるスライド部材Ｂ４５０に乗り中央流路Ｂ４３１側へ流下した球を、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態において開放位置に配置される傾倒部材Ｂ４７０で拾いきることができる。即ち、球通過開口Ｂ４１４の球の通過と、中央流路Ｂ４３１の前端からの球の通過とを、基準の作動パターンＢＲＰ３で完結させることができる。

【１６７６７】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａに案内された球は、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンに対応して、異なる入球口を通過することになる。まず、第１の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球は球通過開口Ｂ４１４を通過せず、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過するか、開口Ｂ４３５ａから逸れて落下する。

【１６７６８】

そのため、特別図柄の抽選に関するサポートが生じるものではなく、特別図柄の抽選は専ら第１入賞口Ｂ６４への入球によるものとなるので、特別図柄の抽選を間隔を空けずに頻繁に生じさせることは難しい。スライド部材Ｂ４５０の正面側を流下した球が開口Ｂ４３５ａを通過した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートのみが生じる。

【１６７６９】

次に、第２の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングでは電動役物Ｂ６４０ａは非励磁状態とされ、傾倒部材Ｂ４７０は閉鎖位置に配置されるので、球は傾倒部材Ｂ４７０の正面側を第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）側へ向けて流下する。

【１６７７０】

そのため、特別図柄１の抽選を頻繁に生じさせることができる。また、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートも生じる。

【１６７７１】

次に、第３の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングでは電動役物Ｂ６４０ａは励磁状態とされ、傾倒部材Ｂ４７０は開放位置に配置されるので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて第２入賞口Ｂ６４０（図１５０３参照）へ向けて、即ち、検出センサＢ４６２（Ｅ５参照）へ向けて流下する。

【１６７７２】

そのため、特別図柄２の抽選を頻繁に生じさせることができる。また、第２入賞口Ｂ６４０に球が入球した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートも生じる。

【１６７７３】

このように第１の作動パターンから第３の作動パターンが設定可能とされることで、電動役物Ｂ６４０ａが常時開閉駆動される設計においても、第２入賞口Ｂ６４０への入球が生じる場合と、第２入賞口Ｂ６４０への入球が防止される場合とを、切り替えることができる。

【１６７７４】

即ち、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が、第１の作動パターン又は第２の作動パターンで実行される場合には、球の第２入賞口Ｂ６４０への入球が防止され、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が、第３の作動パターンで実行される場合には、球の第２入賞口Ｂ６４０への入球が頻繁に生じる。

【１６７７５】

図１５３３は、保留種別、遊技状態、特別図柄の種別および変動時間の関係を説明する

図である。なお、理解を容易とするために、特別図柄２についてのみ図示し、特別図柄１についての図示を省略する。

【１６７７６】

特別図柄１では、変動時間は、低確率状態でも高確率状態でも同様に設定されており、特別図柄１の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合、変動時間は５秒または２０秒に決定され、特別図柄１の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【１６７７７】

一方、本実施形態では、特別図柄２の抽選の状態が上述した低確率状態または高確率状態のいずれかに設定され、設定されている遊技状態に基づいて変動時間が異なるようにして遊技が進行する。

【１６７７８】

図１５３３に示すように、低確率状態（本実施形態における通常状態または時短状態）において、特別図柄２の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合または小当たり図柄が決定された場合、変動時間は１０分間に決定される。一方で、低確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【１６７７９】

変動時間を１０分と長い時間で設定しているのは、低確率状態において第２入賞口Ｂ６４０に球が入球した場合に遊技者が得られる利益を低くするためである。これにより、入賞ユニットＢ４００の内部を流下する球が偶発的に第２入賞口Ｂ６４０に入球する事態が生じたとしても、遊技状態が高確率状態に移行されない限り、特別図柄２の変動を長引かせることができるので、特別図柄２の抽選による利益を遊技者が得られ難いようにすることができる。

【１６７８０】

本実施形態では、特別図柄２の保留球数は４個まで許容されるので、特別図柄２の保留球で大当たり図柄が決定されている場合、その決定に基づく大当たりが１０分後～３０分後に発生する（特別図柄の変動が停止する）という事態が生じ得る。

【１６７８１】

そのため、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定されたタイミングで遊技をしている遊技者と、その保留された特別図柄２に基づく大当たりが発生したタイミングで遊技をしている遊技者が異なる事態や、大当たりが発生するタイミングで遊技をしている遊技者がいない事態が生じ得る。

【１６７８２】

このような場合、大当たりが発生したタイミングで即座に特別遊技状態に移行すると、現在遊技をしている遊技者や、近くの別のパチンコ機で遊技をしている遊技者が、突然特別遊技が始まったことに驚いてしまい、遊技者に故障かと疑われる可能性がある。

【１６７８３】

これに対し、大当たりが決定された場合において、特別遊技状態に移行する条件を定めることができる。本実施形態では、大当たりが決定された後（特別図柄の変動が停止した後）で第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に表示される指示に従いスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、特別遊技状態に移行させることができる。

【１６７８４】

即ち、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が通過するまでは、特別遊技状態へ移行されることは無いように制御されることで、遊技者に故障かと疑われる可能性を低くすることができる。なお、特別遊技状態へ移行させるために球を通過させる箇所はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に限定されるものではなく、例えば、一般入賞口Ｂ６３を球が通過することで、特別遊技状態に移行されるように制御しても良い。

【１６７８５】

また、高確率状態（本実施形態における確変状態または特殊確変状態）において、特別

図柄２の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合、変動時間は５秒または２０秒に決定される。

【１６７８６】

また、高確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて小当たり図柄が決定された場合、変動時間は２秒に決定される。一方、高確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【１６７８７】

高確率状態では、特に特別図柄２の保留に基づいて小当たり図柄が決定された場合の変動時間が短く設定されているので、第２入賞口Ｂ６４０に球が頻繁に入球する状態（本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が第３の作動パターンで実行される場合）では、遊技者は、頻繁に小当たり遊技を実行させ特定入賞口Ｂ６５ａを開放させることができるので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に基づく賞球を頻繁に得ることができる。

【１６７８８】

なお、特別図柄の変動時間の設定はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、各図柄の変動時間として多種多様なバリエーションを加えても良いし、特別図柄の保留個数に対応して変動時間の長短が変わるようにしても良い。特別図柄の保留個数に対応して変動時間の長短が変わる場合には、一般的には、保留個数が少ない場合の方が、保留個数が多い場合（満タンに近い場合）に比較して、変動時間が長くなるように設定される。

【１６７８９】

本実施形態では、従来の機種に見られたような、不適切なタイミングで特別図柄２の抽選を獲得するように球を発射することで遊技者に不測の利益が生じるという問題点を解消することができる。

【１６７９０】

即ち、従来の機種においても、本実施形態のように特別図柄１の抽選に係る第１入球口への入球頻度が高くなる状態と、特別図柄２の抽選に係る第２入球口への入球頻度が高くなる状態とを切り替えられるように構成する例が見られた。

【１６７９１】

しかし、電動役物Ｂ６４０ａの設置個数が１個に限定される場合、第１入球口または第２入球口の何れか一方に付随するよう電動役物Ｂ６４０ａが設置され、他方の入球口には電動役物Ｂ６４０ａが設置されず、常に球が入球可能な状態とされることが想定される。

【１６７９２】

この場合において、遊技盤Ｂ１３の中央に配置される一方の入球口（第１入賞口Ｂ６４に相当、図１５０３参照）よりも、他方の入球口の入球効率が高い場合や、他方の入球口への入球による抽選で大当たりとなった場合に遊技者が得られる利益が極めて高い場合などには、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとしては一方の入球口に球を入賞させるべきタイミングであると報知していても、遊技者が他方の入球口へ向けて球を発射する可能性がある。

【１６７９３】

低確率状態における特別図柄２の変動時間を超長期とすることで他方の入球口の入球に基づく変動の消化効率を下げるという対策を行ったとしても、特別図柄２の保留個数に因らず特別図柄１の保留に基づく変動が開始される場合には、予め他方の入球口に入球させて特別図柄２を変動させた上で一方の入球口に球を入賞させるゲームを進行させることで、パチンコ機Ｂ１０が提供する遊技を行っている間に特別図柄２の変動時間を消化させることができるとすれば、その抑止力は低いと言える。

【１６７９４】

パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとしては一方の入球口に球を入賞させるべきタイミングであっても、他方の入球口への入球により大当たりとなると特別遊技状態に移行することになり、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとして意図されていない利益を遊技者に与えることになるとすれば、遊技の公平性の面で問題がある。

【１６７９５】
　これに対し、本実施形態では、単一のソレノイドＢＳＯＬ４１により駆動される電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）により、特別図柄１の抽選に係る第１入球口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）への入球頻度を上げるようにサポートする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動制御される状態）では、特別図柄２の抽選に係る第２入球口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）への入球頻度を下げることができる一方で、特別図柄２の抽選に係る第２入球口への入球頻度を上げるようにサポートする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動制御される状態）では、特別図柄１の抽選に係る第１入球口への入球頻度を下げることができる。
【１６７９６】
　更に、特別図柄１の抽選に係る第１入球口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）への入球頻度も、特別図柄２の抽選に係る第２入球口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）への入球頻度も、共に低くする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第１の作動パターンで駆動制御される状態）を構成することもできる。
【１６７９７】
　これにより、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとして意図されていない利益を遊技者に与えることを防止することができ、遊技の公平性の面で改良することができる。
【１６７９８】
　図１５３４から図１５３６は、図１５２４（ａ）のＭＤＸＸＸＩＶ－ＭＤＸＸＸＩＶ線におけるスライド部材Ｂ４５０、傾倒部材Ｂ４７０及び伝達部材Ｂ４８０の断面図である。図１５３４から図１５３６では電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作が時系列で図示されており、図１５３４では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５３５では、第１部材Ｂ４８１が上昇する一方でスライド部４５０の配置が前進位置で維持される状態が図示され、図１５３６では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。また、図１５３４から図１５３６では、配置の参考として板部材Ｂ４１０の外形が想像線で図示される。
【１６７９９】
　図１５３４から図１５３６で図示されるように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作は、スライド部材Ｂ４５０の動作タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作タイミングとにずれがある。
【１６８００】
　即ち、動作開始から途中位置までは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作し（図１５３４及び図１５３５参照）、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が動作する（図１５３５及び図１５３６参照）。この時、動作終了タイミングは、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とでほぼ同時となる（図１５３６参照）。
【１６８０１】
　以下で詳しく説明する。第１部材Ｂ４８１は、ソレノイドＢＳＯＬ４１のプランジャ―ＢＳＯＬ４１ａ（図１５１２参照）と一体的に動作することから、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動タイミングに同期して上下動作する。
【１６８０２】
　一方で、第１部材Ｂ４８１の後端部に形成される一対の伝達板部Ｂ４８２を介して第１部材Ｂ４８１から第２部材Ｂ４８５への駆動力伝達が行われる構成において、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態では、上板部Ｂ４８２ａが第２部材Ｂ４８５の偏心突部Ｂ４８６と当接される一方で、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６との間に隙間が確保されている。
【１６８０３】
　第２部材Ｂ４８５は、回転軸部Ｂ４８５ａを中心に回転動作可能に支持されており、スライド部材Ｂ４５０を介して係止板部Ｂ４３１ｂに係止される（図１５１９参照）ことで、非励磁状態（図１５３４参照）における配置が前転方向変位の終端位置となるように構成されている。

【１６８０４】
非励磁状態から第１部材Ｂ４８１が上昇する過程において、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６とが当接されるまでは第２部材Ｂ４８５の姿勢およびスライド部材Ｂ４５０の配置は維持され、傾倒部材Ｂ４７０のみが傾倒動作する。即ち、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力は傾倒部材Ｂ４７０に集中して伝達される。
【１６８０５】
第１部材Ｂ４８１が上昇する過程において、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６とが当接した後は、下板部Ｂ４８２ｂに偏心突部Ｂ４８６が持ち上げられる態様で第２部材Ｂ４８５が回転軸部Ｂ４８５ａを中心に後転方向に回転動作する。
【１６８０６】
このように、同一のソレノイドＢＳＯＬ４１（図１５１２参照）の駆動力を利用しながら、電動役物Ｂ６４０ａを励磁状態から非励磁状態に切り替える場合に、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が必要となるタイミングと、スライド部材Ｂ４５０に駆動力が必要となるタイミングとをずらしている。
【１６８０７】
特に、スライド部材Ｂ４５０への駆動力伝達が開始される状態（図１５３５参照）以降において、第１部材Ｂ４８１の上方から傾倒部材Ｂ４７０の被伝達部Ｂ４７４が退避されていることから、傾倒部材Ｂ４７０の動作は自重に任せ、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力がスライド部材Ｂ４５０の移動に費やされる。
【１６８０８】
また、上述のように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作において、傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作が先行して開始されるので、スライド部材Ｂ４５０の動作抵抗によらず傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作を開始することができる。
【１６８０９】
従って、スライド部材Ｂ４５０に球が乗っている場合であっても、その球の重さの影響で傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作が遅れるという事態の発生を回避することができるので、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置されることにより球が第２入賞口Ｂ６４０へ向けて案内される期間の開始タイミングが制御とずれる事態の発生を回避することができる。
【１６８１０】
また、傾倒部材Ｂ４７０の変位開始時に正面側に球が配置されており、傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０（図１５１９参照）との間で球を挟むような場合であっても、スライド部材Ｂ４５０に駆動力が割り振られることなく傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が伝達されていることから、球を下方に排斥するのに十分な力を生じさせることができる。そのため、傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟まった状態を早期に解消することができる。
【１６８１１】
一方で、スライド部材Ｂ４５０にソレノイドＢＳＯＬ４１（図１５１３参照）の駆動力が伝達される段階では（図１５３５及び図１５３６参照）、傾倒部材Ｂ４７０へ割り振られる駆動力は極めて少なくなり駆動力をスライド部材Ｂ４５０に集中させることができるので、スライド部材Ｂ４５０上に球が配置されている場合に、その球に対してスライド部材Ｂ４５０を介して与えられる後向きの負荷を確保することができる。
【１６８１２】
本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０へ向けて流下する球の経路が板部材Ｂ４１０と前意匠部材Ｂ４２０とに囲まれ、球が傾倒部材Ｂ４７０から逸れないように構成されている（図１５２２参照）。そのため、図１５３５に示すように、傾倒部材Ｂ４７０が全開放する前の状態であっても、傾倒部材Ｂ４７０に球の重みが与えられることで傾倒部材Ｂ４７０が開放位置へ変位される（押し下げられる）ことから、球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われ易く構成することができる。
【１６８１３】
電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態から非励磁状態への切替動作（図１５３６から図１５３

４へ戻る動作）においても、スライド部材Ｂ４５０の動作タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作タイミングとにずれがある。

【１６８１４】

即ち、動作開始（図１５３６参照）から途中位置（図１５３５参照）までは伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１に傾倒部材Ｂ４７０の被伝達部Ｂ４７４が押し下げられると共に、第１部材Ｂ４８１の下板部Ｂ４８２ｂに第２部材Ｂ４８５の係止突設部Ｂ４８７が押し下げられることで、傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が共に動作する。一方で、途中位置（図１５３５参照）でスライド部材Ｂ４５０が前進位置に既に到達しているので、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作される。

【１６８１５】

これにより、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態から非励磁状態への切替動作において、傾倒部材Ｂ４７０の動作完了よりも先にスライド部材Ｂ４５０を前進位置に配置させることができる。そのため、球が先端部Ｂ４５１に乗り易いようにすることができる（先端部Ｂ４５１に球が拾われる期間をなるべく延ばすことができる）と共に、傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われ易くすることができる（傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に到達するまでの期間を引き延ばすことができる）。

【１６８１６】

また、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の下側には突条部Ｂ４５５が形成されておらず、先端部Ｂ４５１において上下方向の弾性変形が許容される。そのため、励磁状態（図１５３６参照）から非励磁状態（図１５３４参照）への切替動作において、スライド部材Ｂ４５０と前意匠部材Ｂ４２０（図１５２１参照）との間に球が挟まり、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制され得る事態が生じたとしても、先端部Ｂ４５１を弾性変形させてスライド部材Ｂ４５０の前方変位を継続することができるので、スライド部材Ｂ４５０と連動する傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が不良となることを回避し、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作を確実に完了させることができる。

【１６８１７】

本実施形態では上述のように、同一のソレノイドＢＳＯＬ４１（図１５１２参照）の駆動力を利用しながら、電動役物Ｂ６４０ａを非励磁状態から励磁状態に切り替える場合に、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が必要となるタイミングと、スライド部材Ｂ４５０に駆動力が必要となるタイミングとをずらしている。

【１６８１８】

上述のように、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切替動作される場合には、傾倒部材Ｂ４７０の動作開始が先行し、その後でスライド部材Ｂ４５０の動作が開始され、傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０の動作終了のタイミングはほぼ同じとなるように設定されている。

【１６８１９】

スライド部材Ｂ４５０側からの負荷伝達について説明する。図１５３４に示すように、第２部材Ｂ４８５の下端部（回転軸部Ｂ４８５ａの下方の部分）には回転軸部Ｂ４８５ａの軸方向に沿って係止突設部Ｂ４８７が突設形成される。

【１６８２０】

係止突設部Ｂ４８７は、前後方向で第１部材Ｂ４８１の下板部Ｂ４８２ｂと当接するよう配設される。この当接部分に生じる摩擦力により、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態における第１部材Ｂ４８１の意図せぬ上昇（浮き上がり）を抑制することができ、傾倒部材Ｂ４７０を閉鎖位置に維持し易くすることができる。

【１６８２１】

更に、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０を後ろ向きに移動させ、連動して第２部材Ｂ４８５を後転方向に回転変位させる方向の負荷（後向きの負荷）がスライド部材Ｂ４５０に与えられた場合であっても、係止突設部Ｂ４８７の移動方向に下板部Ｂ４８２ｂが配置されていることにより、第２部材Ｂ４８５の回転変位が止められ、スライド部材Ｂ４５０の後方への変位も止められる。

【１６８２２】
この場合において、係止突設部Ｂ４８７の移動方向（回転軸部Ｂ４８５ａを中心とした円に沿う方向）と、第１部材Ｂ４８１の移動方向（上下方向）とが交差する（直交する）ことから、係止突設部Ｂ４８７を介して伝達される負荷によって第１部材Ｂ４８１が上下方向に変位することを防止している。これにより、非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０が予期せず後方に変位する事態の発生を回避し易くすることができる。
【１６８２３】
これにより、例えば、パチンコ機Ｂ１０（図１５０２参照）の外部から遊技領域内に不正に金属細線（ピアノ線や針金等）を進入させて、その金属細線を介してスライド部材Ｂ４５０に負荷を与え、電動役物Ｂ６４０ａの配置を変化させる不正行為への対策とすることができる。
【１６８２４】
特に、非励磁状態においてベース板Ｂ６０（図１５０３参照）の正面側に張り出しており、不正行為を行う者が負荷を与えることが容易であると考えるであろうスライド部材Ｂ４５０について対策を行うことで、不正行為の継続の抑制を図ることができる。
【１６８２５】
図１５３７は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における板部材Ｂ４１０、ベース板Ｂ４３７、スライド部材Ｂ４５０、傾倒部材Ｂ４７０及び伝達部材Ｂ４８０の断面図である。図１５３７では、構造の理解を容易とするための入賞ユニットＢ４００の不要な構成の図示が省略されており、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態に切り替えられる途中において傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間に球が挟まることで傾倒部材Ｂ４７０の動作が一時的に停止した状態が図示される。
【１６８２６】
上述したように、傾倒部材Ｂ４７０とスライド部材Ｂ４５０との動作は伝達部材Ｂ４８０を仲立ちとして連動する。本実施形態では、図１５３７に示すように、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間で球が挟まった（球噛みが生じた）場合において、スライド部材Ｂ４５０の前進が抑えられており、板部材Ｂ４１０の球通過開口Ｂ４１４（図１５１７参照）の正面側を流下する球が、スライド部材Ｂ４５０に拾われにくいように構成されている。
【１６８２７】
従って、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間で球が挟まった（球噛みが生じた）場合に、入賞ユニットＢ４００の内部に想定外に多量の球が滞留する事態が生じることを回避し易くすることができる。
【１６８２８】
これにより、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間に球が挟み込まれた場合に、スライド部材Ｂ４５０に次々に球が拾われ、傾倒部材Ｂ４７０側に向けて次々に球が流下して、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとで挟み込まれた球に対して後追いの球が次々に重なり、傾倒部材Ｂ４７０の動作不良を引き起こす事態が生じることを回避することができる。
【１６８２９】
図１５０３に戻って説明する。本実施形態では、遊技領域の左右幅略中央位置において、センターフレームＢ８６の上側部を構成するようにして、上側可変入賞装置Ｂ７００が配設される。レールＢ６１，Ｂ６２に沿って打ち出された球の一部は、釘に衝突しながら上側可変入賞装置Ｂ７００に到達する。
【１６８３０】
図１５３８（ａ）及び図１５３８（ｂ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１５３８（ａ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態が図示され、図１５３８（ｂ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態が図示される。
【１６８３１】

上側可変入賞装置Ｂ７００は、ベース板Ｂ６０に前後方向で穿設される開口を塞ぐようにベース板Ｂ６０に締結固定されガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）との間で球を流下させる経路を構成する基礎板部材Ｂ７１０と、その基礎板部材Ｂ７１０の上側部に前後方向で穿設される逆Ｖ字開口Ｂ７１１を通って前後方向にスライド移動可能とされる移動上蓋部材Ｂ７３０と、その移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した遊技球が通過（入賞）可能に構成される第２特定入賞口Ｂ７００ａが形成される検出センサと、基礎板部材Ｂ７１０の下側部に前後方向で穿設される矩形開口Ｂ７１２を通って前後方向にスライド移動可能とされる移動床部材Ｂ７４０と、球が通過可能な開口部Ｂ７５１が基礎板部材Ｂ７１０の正面側に配置され基礎板部材Ｂ７１０の正面側を流下する球の通過を検出可能に構成される複数の検出センサＢ７５０と、を備える。

【１６８３２】

また、移動床部材Ｂ７４０の正面側を通過した遊技球は、内レールＢ６１や外レールＢ６２と同様に帯状の金属板で湾曲形状に形成されベース板Ｂ６０の正面側に植立される中間レール部材Ｂ７８１に受け止められる。

【１６８３３】

中間レール部材Ｂ７８１の最下端部の後方位置において、ベース板Ｂ６０に球抜き開口Ｂ７８２が形成されている。中間レール部材Ｂ７８１に受け止められた球は球抜き開口Ｂ７８２を通って、図示しない球排出路へと案内される。

【１６８３４】

上側可変入賞装置Ｂ７００は、正面側に配設されるガラスユニットＢ１６との間で遊技領域を形成するように配置される。ガラスユニットＢ１６は透明なため、遊技者は正面視で第２特定入賞口Ｂ７００ａや検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を視認することができる。

【１６８３５】

なお、ガラスユニットＢ１６の背面側に、正面視で第２特定入賞口Ｂ７００ａや検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１と重なる大きさの樹脂板部材を配置し、その樹脂板部材と基礎板部材Ｂ７１０との間で球が流下するように構成しても良い。この場合、樹脂板部材として透過性の部材を採用するか、不透過性の部材を採用するかで、遊技球の視認性を異ならせることができる。例えば、不透過性の部材を採用した場合には、上側可変入賞装置Ｂ７００を、特定入賞口７００ａや開口部Ｂ７５１への球の通過を視認困難なものとして構成することができる。

【１６８３６】

基礎板部材Ｂ７１０は、上側部において左右端部がセンターフレームＢ８６の左右中央側の端部に近接する細幅の逆Ｖ字形状で穿設される逆Ｖ字開口Ｂ７１１と、下側部において左右長尺の矩形状で穿設される矩形開口Ｂ７１２と、逆Ｖ字開口Ｂ７１１の下側において正面側に延設される板状部であって第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ向けて下降傾斜する左右一対の傾斜転動板部Ｂ７１３と、その傾斜板部７１３よりも下側かつ検出センサＢ７５０よりも左右外側の位置において正面側に延設される板状部であって検出センサＢ７５０側へ向けて下降傾斜する左右一対の傾斜外壁板部Ｂ７１４と、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下方において第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球を受け入れ可能な間隔を空けて正面側に延設される一対の板状部であって下端部が矩形開口Ｂ７１２に近接配置される左右一対の貯留板部Ｂ７１５と、検出センサＢ７５０の下方において開口部Ｂ７５１を通過した球を内側に受け入れ可能な左右幅のＵ字形状で正面側に延設される左右一対の受入部Ｂ７１６と、その受入部Ｂ７１６の内側の形状で前後方向に穿設され受入部Ｂ７１６で受け入れられた球を背面側へ排出する左右一対の排出開口Ｂ７１７と、を備える。

【１６８３７】

傾斜転動板部Ｂ７１３、傾斜外壁板部Ｂ７１４、貯留板部Ｂ７１５及び受入部Ｂ７１６は、ガラスユニットＢ１６との間に球をこぼさないために十分な位置まで延設される。即ち、正面視において、球は傾斜転動板部Ｂ７１３、傾斜外壁板部Ｂ７１４、貯留板部Ｂ７１５及び受入部Ｂ７１６を貫通することはなく、その形状に沿って流下する。

【１６８３８】
傾斜外壁板部Ｂ７１４は、検出センサＢ７５０の上側において傾斜転動板部Ｂ７１３との間に球が入り込み得る隙間を構成する。これにより、検出センサＢ７５０の上側において左右外側へ逸れた球を、傾斜に沿って検出センサＢ７５０側へ案内することができる。
【１６８３９】
貯留板部Ｂ７１５は、第２特定入賞口Ｂ７００ａの中心軸から左右に同距離だけ離れた位置に配置される。即ち、第２特定入賞口Ｂ７００ａの中心軸が、貯留板部Ｂ７１５の左右側面と平行な平面であって一対の貯留板部Ｂ７１５の中間位置に配置される平面上に配置される。これにより、第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に流入し易くすることができる。
【１６８４０】
移動上蓋部材Ｂ７３０は、左右外側へ向けて下降傾斜する正面視逆Ｖ字形状に屈曲した板部Ｂ７３１を有し、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態では板部Ｂ７３１がベース板Ｂ６０の正面側に張り出し、移動上蓋部材Ｂ７３０に乗った球は板部Ｂ７３１の傾斜に沿って左右外側へ流される。
【１６８４１】
上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態に切り替えられると、板部Ｂ７３１はベース板Ｂ６０の前端面よりも後方に退避され、板部Ｂ７３１上に乗っていた球は傾斜転動板部Ｂ７１３へ向けて落下する。
【１６８４２】
この時、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態において板部Ｂ７３１の傾斜に沿って流下していた球は左右外側へ向けた速度を有しているため、傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側部に着地し易い。その上で、傾斜転動板部Ｂ７１３の左右内側へ向けた傾斜に沿って流れて、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過することになる。
【１６８４３】
即ち、板部Ｂ７３１の上面を流れる球の流下方向を、第２特定入賞口Ｂ７００ａに最短距離で向かう方向に比べて迂回した方向にさせ易く、第２特定入賞口Ｂ７００ａを球が通るまでの時間を長引かせることができる。
【１６８４４】
移動上蓋部材Ｂ７３０が左右両側に傾斜していることで、第２特定入賞口Ｂ７００ａを球が通るまでの時間を長引かせるという上記の効果を複数経路で生じさせることができるので、球の流下が遅くなることによって球の流下が滞ることを抑制することができる。
【１６８４５】
つまり、球が通るまでの時間を長引かせつつも、球の滑らかな流下を保ち易いので、球詰まりを疑って遊技者が球の発射を止めるという事態の発生を避けることができる。即ち、球の発射を促進することができる。
【１６８４６】
更に、球が通るまでの時間を長引かせることで複数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａの上側近辺に配置された場合であっても、それらは必ず第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するという構成なので、遊技者は第２特定入賞口Ｂ７００ａを視界に入れておくことで、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球を見失う事を避けられる。
【１６８４７】
なお、板部Ｂ７３１と傾斜転動板部Ｂ７１３との上下間隔は、左右中央側において最長となり、左右外側へ向かうにつれて短くなるよう構成されている。更に、左右外側端部においては、その上下間隔は球の直径未満となるように構成されている。
【１６８４８】
そのため、例えば、球が傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側端部に乗っている場合に、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態に切り替えられることで移動上蓋部材Ｂ７３０の板部Ｂ７３１が正面側にスライド移動すると、板部Ｂ７３１から球に対して左右内側へ押し込む方向の負荷が生じる。

【１６８４９】
これにより、板部Ｂ７３１の正面側を通過した球が傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側端部で滞留することを回避できると共に、その球が第２特定入賞口Ｂ７００ａに到達するまでの期間が過度に長くなることを回避することができる。
【１６８５０】
移動上蓋部材Ｂ７３０と、移動床部材Ｂ７４０とは、後述するソレノイドＢ７６３の駆動力により、同期して前後反対方向に動作する。図１５３８（ａ）及び図１５３８（ｂ）では、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形は、ガラスユニットＢ１６との間の隙間が、球を通過させないための長さとして十分に短い場合には実線で図示され、ガラスユニットＢ１６との間を球が通り得る程度にガラスユニットＢ１６との間の隙間が長い場合には想像線で図示される。
【１６８５１】
即ち、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態では、移動床部材Ｂ７４０は後側へ退避され、貯留板部Ｂ７１５の下方へ球が排出可能とされ（図１５３８（ａ）参照）、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、移動床部材Ｂ７４０は前側へ張り出され、貯留板部Ｂ７１５の下方への球の排出が不能とされる（図１５３８（ｂ）参照）。
【１６８５２】
上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態において移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を流下した球が第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過を検出されると賞球の払い出しが行われる一方、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１は、入球を契機として遊技状態を変化させるための特定領域として機能する。即ち、大当たり遊技中に球が開口部Ｂ７５１を通過したことを要件として、大当たり遊技終了後の遊技状態を高確率状態とするように制御されるが、詳細は後述する。
【１６８５３】
図１５３９（ａ）から図１５３９（ｃ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１５３９（ａ）から図１５３９（ｃ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の入球態様の一例が時系列で図示される。
【１６８５４】
図１５３９（ａ）から図１５３９（ｃ）において、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形が、実線で図示される意味と、想像線で図示される意味とは、図１５３８（ａ）及び図１５３８（ｂ）での図示における意味と同様である。
【１６８５５】
図１５３９（ａ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球は、傾斜転動板部Ｂ７１３を転動し第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するか、または、例えば第２特定入賞口Ｂ７００ａの真上から落下するような球は傾斜転動板部Ｂ７１３を介さずに第２特定入賞口Ｂ７００ａに直接流入する。
【１６８５６】
第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、図１５３９（ｂ）に示すように貯留板部Ｂ７１５と移動床部材Ｂ７４０とにより構成される領域に順番に貯留される。そして、球で貯留板部Ｂ７１５の上端付近まで満たされた場合に（貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に４個目で第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ１が配置された状態で）、球ＢＰ１の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ２は、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に入球することはできず、左右に流れて開口部Ｂ７５１を通過する（図１５３９（ｃ）参照）。
【１６８５７】
即ち、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近まで球で満たされた場合に、貯留板部Ｂ７１５の内側に配置された球ではなく、その後追いで貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達した球が開口部Ｂ７５１を通過する。
【１６８５８】
図１５３９に示す例によれば、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個

数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過すれば、球は開口部Ｂ７５１を通過することになる。

【１６８５９】

図１５４０（ａ）から図１５４０（ｃ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１５４０（ａ）から図１５４０（ｃ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の入球態様の一例が時系列で図示される。

【１６８６０】

図１５４０（ａ）から図１５４０（ｃ）において、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形が、実線で図示される意味と、想像線で図示される意味とは、図１５３８（ａ）及び図１５３８（ｂ）での図示における意味と同様である。

【１６８６１】

図１５４０（ａ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、貯留板部Ｂ７１５と移動床部材Ｂ７４０とにより構成される領域に球が貯留されている状態が維持され、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球は、傾斜転動板部Ｂ７１３を転動し第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するか、または、例えば第２特定入賞口Ｂ７００ａの真上から落下するような球は傾斜転動板部Ｂ７１３を介さずに第２特定入賞口Ｂ７００ａに直接流入する。

【１６８６２】

図１５４０（ａ）に示す状態は、図１５３９（ｂ）に示す状態と同様に、貯留板部Ｂ７１５の間に貯留される球に乗ることで貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に配置され得る球ＢＰ１が流下している。

【１６８６３】

この状態で、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態に切り替えられると、移動床部材Ｂ７４０が後方へ退避し、貯留板部Ｂ７１５の間の領域に貯留されていた球が下から順に排出される（図１５４０（ｂ）参照）。

【１６８６４】

図１５４０（ｂ）及び図１５４０（ｃ）では、球が１個だけ排出された状態が図示されるが、排出される球の個数は、移動床部材Ｂ７４０が後方へ退避している時間の長さに対応しており、短時間であれば一部の球が排出され、長時間であれば全球が排出される。

【１６８６５】

貯留板部Ｂ７１５の間の領域から球が排出されていることから、４個目で第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ１は、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近よりも球一つ分（即ち、排出個数分）だけ下方に配置され、図１５４０（ｃ）に示すように球ＢＰ１の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ２も、貯留板７１５の間の領域に入球することになり、球ＢＰ２が貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に配置されることになる。

【１６８６６】

図１５４０（ｃ）に示す状態から、更に球ＢＰ２の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に入球することはできず、左右に流れて開口部Ｂ７５１を通過する。

【１６８６７】

即ち、図１５４０に示す例によれば、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過したとしても、必ずしも球は開口部Ｂ７５１を通過するとは限らない。

【１６８６８】

球が開口部Ｂ７５１を通過するか否かは、後追いの球ＢＰ２が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過して貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達するまで、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に球ＢＰ１が配置されている状態（図１５３９（ｃ）参照）が維持されるか否かに因る。

【１６８６９】

貯留板部Ｂ７１５からの球の排出は、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖されるタイミングで

生じ（図１５４０（ｂ）参照）、排出される球の個数は開閉動作の長さに関係するので、移動上蓋部材Ｂ７３０の開閉動作の発生が頻繁であるほど、また、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖される時間が長いほど、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に球ＢＰ１が配置されている状態（図１５３９（ｃ）参照）が維持され難くなり、球が開口部Ｂ７５１を通過し難くなる。なお、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作制御の詳細については後述する。

【１６８７０】

図１５４１（ａ）から図１５４１（ｃ）は、図１５３８（ａ）のＭＤＸＬＩａ－ＭＤＸＬＩａ線における移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の断面図である。図１５４１（ａ）から図１５４１（ｃ）では、ベース板Ｂ６０の前端面および後端面が想像線で図示され、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態から開放状態へ切り替えられる様子が時系列で図示される。なお、図１５４１（ａ）から図１５４１（ｃ）では、理解を容易とするために、駆動伝達装置Ｂ７６０が断面図ではなく、右方向から視認する側面図として図示される。

【１６８７１】

駆動伝達装置Ｂ７６０は、ベース板Ｂ６０の背面側寄りの位置で固定配置される回転軸ＢＪ１に軸支される第１部材Ｂ７６１と、ベース板Ｂ６０の正面側寄りの位置で固定配置される回転軸ＢＪ２に軸支される第２部材Ｂ７６２と、電磁力によりプランジャ―Ｂ７６３ａを上下方向にスライド移動可能に構成されるソレノイドＢ７６３と、そのソレノイドＢ７６３のプランジャ―Ｂ７６３ａが嵌め込まれそのプランジャ―Ｂ７６３ａのスライド移動に同期して上下方向にスライド移動する伝達部材Ｂ７６４と、を備える。

【１６８７２】

上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態（図１５４１（ａ）参照）では、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢でベース部材６０側の下支え部（図示せず）に下支えされ、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置され、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢でベース部材６０側の下支え部（図示せず）に下支えされ、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される。

【１６８７３】

上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態（図１５４１（ｃ）参照）では、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢とされ、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置され、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢とされ、移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置される。

【１６８７４】

第１部材Ｂ７６１は、右側面から右方に突設部Ｂ７６１ａが断面円形状で突設形成され、伝達部材Ｂ７６４は、突設部Ｂ７６１ａの下方に位置するように突設部Ｂ７６１ａ側（本実施形態では、後側）に延設される後方延設部Ｂ７６４ａと、その後方延設部Ｂ７６４ａの上側において後方延設部Ｂ７６４ａと平行に突設部Ｂ７６１ａ側に延設され先端が屈曲形成される屈曲延設部Ｂ７６４ｂと、を備える。

【１６８７５】

第２部材Ｂ７６２は、右側面から右方に突設部Ｂ７６２ａが断面円形状で突設形成され、伝達部材Ｂ７６４は、突設部Ｂ７６２ａの上方に位置するように突設部Ｂ７６２ａ側（本実施形態では、後側）に延設される後方延設部Ｂ７６４ｃと、その後方延設部Ｂ７６４ｃの下側において後方延設部Ｂ７６４ｃと平行に突設部Ｂ７６２ａ側に延設され先端が屈曲形成される屈曲延設部Ｂ７６４ｄと、を備える。

【１６８７６】

ソレノイドＢ７６３は、電磁力が発生することで（励磁状態）、プランジャ―Ｂ７６３ａを上方に引き上げるよう構成され、電磁力が消えると（非励磁状態）、コイルバネの付勢力および重力によってプランジャ―Ｂ７６３ａが下方に下ろされる。

【１６８７７】

移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の連動について説明する。図１５４１（ａ）に示すように、ソレノイドＢ７６３の非励磁状態においてプランジャ―Ｂ７６３ａが下方側終端位置に配置されることに伴い、駆動伝達装置Ｂ７６０の伝達部材Ｂ７６４が下方側終端位置に配置される。

【１６８７８】
ソレノイドＢ７６３が励磁状態とされることで、伝達部材Ｂ７６４が上方へスライド移動されるが、そのスライド移動の過程で、まず屈曲延設部Ｂ７６４ｄの上面に突設部Ｂ７６２ａが押し上げられる態様で第２部材Ｂ７６２が前転方向に回動し始める（図１５４１（ｂ）参照）。
【１６８７９】
この間、後方延設部Ｂ７６４ａも同様に上方へスライド移動されるが、後方延設部Ｂ７６４ａと突設部Ｂ７６１ａとの隙間が埋められるに留まり、突設部Ｂ７６１ａは後方延設部Ｂ７６４ａから負荷を与えられない。即ち、第１部材Ｂ７６１は依然として前倒姿勢を維持している。
【１６８８０】
図１５４１（ｂ）の状態から更に伝達部材Ｂ７６４が上方へスライド移動すると、後方延設部Ｂ７６４ａの上面に突設部Ｂ７６１ａが押し上げられる態様で第１部材Ｂ７６１が後転方向に回動し、後倒姿勢に変化する（図１５４１（ｃ）参照）。
【１６８８１】
本実施形態では、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢から後倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量と、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢から前倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量とが同じとされる。
【１６８８２】
そのため、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢になる前に、第２部材Ｂ７６２は前倒姿勢になる。本実施形態では、屈曲延設部Ｂ７６４ｄの後方への延設長さが、第２部材Ｂ７６２の前倒姿勢における突設部Ｂ７６２ａの前端部を超えない長さとされているので、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢となった後において屈曲延設部Ｂ７６４ｄから第２部材Ｂ７６２へ上向きの負荷が生じることが防止される。
【１６８８３】
更に、屈曲延設部Ｂ７６４ｄの後端側において下方へ延びる部分の後面が突設部Ｂ７６２ａと当接し、斜め前下方への変位を規制することで、第２部材Ｂ７６２の後転方向への回動を防止している。
【１６８８４】
この場合において、突設部Ｂ７６２ａから伝達部材Ｂ７６４にかけられる負荷は主に前後方向の負荷となるので、突設部Ｂ７６２ａを介して伝達される負荷により伝達部材Ｂ７６４が上下方向に変位することを防止し易くすることができ、伝達部材Ｂ７６４の配置を維持し易くすることができる。
【１６８８５】
図１５４１（ａ）から図１５４１（ｃ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態から開放状態への切替動作は、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に動作するものではなく、動作タイミングに時間差がある。
【１６８８６】
即ち、事前に移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ向けた動作を開始し、その後で移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けた動作を開始する。これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に変位した直後に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を球が通過したとしても、その時には既に移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されているようにすることができる。
【１６８８７】
これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が通り過ぎるまで移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されず、球が移動床部材Ｂ７４０の正面側を通り過ぎてしまい、貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されない事態を回避することができる。
【１６８８８】
なお、これに加えて、本実施形態では移動上蓋部材Ｂ７３０の形状から、板部Ｂ７３１の上面を転動した球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するまでの期間が長くなるように図っていることからも、貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されない事態を回避することが

できる。
【１６８８９】
図１５４２（ａ）から図１５４２（ｃ）は、図１５３８（ａ）のＭＤＸＬＩａ－ＭＤＸＬＩａ線における移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の断面図である。図１５４２（ａ）から図１５４２（ｃ）では、ベース板Ｂ６０の前端面および後端面が想像線で図示され、上側可変入賞装置Ｂ７００が開放状態から閉鎖状態へ切り替えられる様子が時系列で図示される。なお、図１５４２（ａ）から図１５４２（ｃ）では、理解を容易とするために、駆動伝達装置Ｂ７６０が断面図ではなく、右方向から視認する側面図として図示される。
【１６８９０】
移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の連動について説明する。図１５４２（ａ）に示すように、ソレノイドＢ７６３の励磁状態においてプランジャ―Ｂ７６３ａが上方側終端位置に配置されることに伴い、駆動伝達装置Ｂ７６０の伝達部材Ｂ７６４が上方側終端位置に配置される。
【１６８９１】
ソレノイドＢ７６３が非励磁状態とされることで、ソレノイドＢ７６３に設けられるコイルバネの付勢力および重力によりプランジャ―Ｂ７６３ａが下方へ移動され、伝達部材Ｂ７６４が下方へスライド移動されるが、そのスライド移動の過程で、まず屈曲延設部Ｂ７６４ｂの下面に突設部Ｂ７６１ａが押し下げられる態様で第１部材Ｂ７６１が前転方向に回動し始める（図１５４２（ｂ）参照）。
【１６８９２】
この間、後方延設部Ｂ７６４ｃも同様に下方へスライド移動されるが、後方延設部Ｂ７６４ｃと突設部Ｂ７６２ａとの隙間が埋められるに留まり、突設部Ｂ７６２ａは後方延設部Ｂ７６４ｃから負荷を与えられない。即ち、第２部材Ｂ７６２は依然として前倒姿勢を維持している。
【１６８９３】
図１５４２（ｂ）の状態から更に伝達部材Ｂ７６４が下方へスライド移動すると、後方延設部Ｂ７６４ｃの下面に突設部Ｂ７６２ａが押し下げられる態様で第２部材Ｂ７６２が後転方向に回動し、後倒姿勢に変化する（図１５４２（ｃ）参照）。
【１６８９４】
本実施形態では、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢から前倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量と、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢から後倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量とが同じとされる。
【１６８９５】
そのため、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢になる前に、第１部材Ｂ７６１は前倒姿勢になる。本実施形態では、屈曲延設部Ｂ７６４ｂの後方への延設長さが、第１部材Ｂ７６１の前倒姿勢における突設部Ｂ７６１ａの前端部を超えない長さとされているので、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢となった後において屈曲延設部Ｂ７６４ｂから第１部材Ｂ７６１へ下向きの負荷が生じることが防止される。
【１６８９６】
更に、屈曲延設部Ｂ７６４ｂの後端側において上方へ延びる部分の後面が突設部Ｂ７６１ａと当接し、斜め前上方への変位を規制することで、第１部材Ｂ７６１の後転方向への回動を防止している。
【１６８９７】
この場合において、突設部Ｂ７６１ａから伝達部材Ｂ７６４にかけられる負荷は主に前後方向の負荷となるので、突設部Ｂ７６１ａを介して伝達される負荷により伝達部材Ｂ７６４が上下方向に変位することを防止し易くすることができ、伝達部材Ｂ７６４の配置を維持し易くすることができる。
【１６８９８】
図１５４２（ａ）から図１５４２（ｃ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開

放状態から閉鎖状態への切替動作は、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に動作するものではなく、動作タイミングに時間差がある。

【１６８９９】

即ち、事前に移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ向けた動作を開始し、その後で移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ向けた動作を開始する。これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球（例えば、規定個数目で第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過する球）について、その球が貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達するまでの時間を引き延ばすことができる。

【１６９００】

即ち、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ移動され、貯留板部Ｂ７１５から球が排出され始めるまでの時間を引き延ばすことができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過する可能性を高めることができる。

【１６９０１】

特に、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球は、板部Ｂ７３１の前側を通過するので、板部Ｂ７３１の傾斜の影響を受けておらず、左右内側向きの速度を有したまま流下することが多い。そのため、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの到達までの期間を短くすることができるので、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ変位する前に貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達することへの遊技者の期待感を高めることができる。

【１６９０２】

更に、本実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａから検出センサＢ７５０までの距離が短いことに加え、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近が第２特定入賞口Ｂ７００ａの真下に配置されることから、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通りさえすれば、その球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するかもしれないと思わせることができ、遊技者の期待感を上げることができる。

【１６９０３】

次いで、図１５４３を参照して、本実施形態の大当たり遊技における１ラウンド目に開放される第２特定入賞口Ｂ７００ａの開放パターンについて説明する。なお、図１５４３の説明では、図１５０３、図１５０５及び図１５３８から図１５４２を適宜参照する。

【１６９０４】

図１５４３（ａ）は、第１の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時変化を示した図であり、図１５４３（ｂ）は、第２の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時変化を示した図であり、図１５４３（ｃ）は、第３の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時変化を示した図である。

【１６９０５】

ＭＰＵＢ２０１（図１５０５参照）は、大当たりを決定した場合には、特図変動表示（図柄変動演出）の終了後に、決定した種類の大当たり遊技の制御を開始する。以下、大当たり遊技が付与される場合に行われる移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の作動制御について説明する。

【１６９０６】

なお、図１５４３（ａ）から図１５４３（ｃ）において、上開下閉は、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置されており且つ移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されている状態を意味し、上閉下開は、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されており且つ移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されている状態を意味する。本実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の変位のタイミングがずれることは上述の通りであるが、図１５４３（ａ）から図１５４３（ｃ）では、タイミングのずれを表現しない形で簡略して図示される。

【１６９０７】

まず、第１の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態では、後述するように、第１の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移

動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＢＯＰ１（１０秒）が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１６９０８】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【１６９０９】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１６９１０】

第１の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置された状態が常に継続されるので、図１５３９を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５側へ向けて流下させることができる。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を容易に生じさせることができる。

【１６９１１】

１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段は、ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１（２．０秒）が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１の経過後に、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１６９１２】

ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１は、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ変位される直前に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球が移動床部材Ｂ７４０の前側を通過するのに十分な時間として設定されればよく、本実施形態では約２秒間とされる。

【１６９１３】

２ラウンド目では、１ラウンド目の開始と同様に、第１の作動時間ＢＴ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に特定入賞口Ｂ６５ａが開放される。そして、ラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、特定入賞口Ｂ６５ａを閉鎖し、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１６９１４】

以降は同様に、各ラウンド遊技Ｒの間にラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１を挟んで３ラウンド目～最大１５ラウンド目のラウンド遊技Ｒが繰り返されて、特定入賞口Ｂ６５ａが開閉される。

【１６９１５】

そして、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段がラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１およびエンディング時間ＥＤ（例えば、１１秒）が経過するまで特定入賞口Ｂ６５ａが閉鎖状態で保持され、当該時間の経過に伴って大当り遊技が終了する。

【１６９１６】

次に、第２の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態

では、後述するように、第２の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＢＯＰ１（１０秒）が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１６９１７】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【１６９１８】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１６９１９】

第２の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置されると共に移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置される状態と、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されると共に移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される状態とが約１秒毎に切り替えられる。

【１６９２０】

換言すれば、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ球を誘導できると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留可能な状態と、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側への球の誘導が制限されると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球が排出される状態とが約１秒毎に切り替えられる。

【１６９２１】

本実施形態では、貯留板部Ｂ７１５の間の位置からの球の排出は１個当たり約０．２秒で完了されるよう形成される。そのため、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に約１秒間配置されている間に貯留板部Ｂ７１５の間の位置から最大で５個の球が移動床部材Ｂ７４０の前側を流下可能となる。また、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）から考えて、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に約１秒間配置されている間に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する球の個数は多くて３個程度である。

【１６９２２】

そのため、図１５４０を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球が排出され得る状態が構成される。その上で、単位時間（約１秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間側へ誘導できる球の個数よりも、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間から排出できる球の個数の方が多いので、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留させる状態を構成することが困難である。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を生じさせることが困難である。

【１６９２３】

一方で、見かけ上は開口部Ｂ７５１が閉鎖されていないことから、球のイレギュラーな流下態様や、パチンコ機Ｂ１０の設置時の傾斜等により、稀に開口部Ｂ７５１への入球が生じる可能性があるかもしれないと遊技者に思わせることができるので、上側可変入賞装置Ｂ７００に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１６９２４】

なお、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了した後の制御は、第１の特別作動パターンで動作する場合と同様なので、説明を省略する。

【１６９２５】

次に、第３の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態では、後述するように、第３の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示（図柄変動演出）が終了すると、タイマ手段（図示せず）が所定のオープニング時間ＢＯＰ１（１０秒）が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１６９２６】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１（最大３０秒）をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【１６９２７】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件（ラウンド遊技時間（第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間）の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞）が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１６９２８】

第３の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置で、且つ移動床部材Ｂ７４０を前進位置で約１秒間維持する状態と、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置で、且つ移動床部材Ｂ７４０を後退位置で約０．２秒間維持する状態とが、交互に切り替えられる。

【１６９２９】

換言すれば、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ球を誘導できると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留可能な状態が約１秒間維持される態様と、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側への球の誘導が制限されると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球が排出される状態が約０．２秒間維持される態様とが、交互に繰り返される。この時間設定によれば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態は、１ラウンド目のラウンド遊技において最大で約２５回形成可能とされる。

【１６９３０】

本実施形態では、貯留板部Ｂ７１５の間の位置からの球の排出は１個当たり約０．２秒で完了されるよう形成される。そのため、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に約０．２秒間配置されている間に貯留板部Ｂ７１５の間の位置から最大で１個の球が移動床部材Ｂ７４０の前側を流下可能となる。また、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）から考えて、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に１秒間配置されている間に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する球の個数は多くて３個程度である。

【１６９３１】

そのため、図１５４０を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球が排出され得る状態が構成される。

【１６９３２】

その上で、単位時間（約１秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間側へ誘導できる球の個数よりも、第２単位時間（約０．２秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間から排出できる球の個数の方が少ないので、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５の間の隙間

に貯留させる状態を構成することが、第２の特別作動パターンで上述する場合よりも容易とされる。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を第２の特別作動パターンで上述する場合よりも生じさせることが容易とされる。

【１６９３３】

一方で、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球は移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の変位が生じる毎に（約１．２秒間隔）、１個の割合で排出されるので、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を球が通過する頻度や、時間間隔によっては、球が開口部Ｂ７５１を通過せずに１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する場合も生じうる。

【１６９３４】

本実施形態における第３の特別作動パターンによれば、球が移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する頻度を上げることで、球が開口部Ｂ７５１を通過する可能性を高めることができるので、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおける遊技における球の発射態様を継続打ち（球の発射を止めることなく、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）で球を連続で発射させる態様）にさせ易い。

【１６９３５】

これにより、遊技者が単発打ち（超過賞球等の利益を得るための技術介入として、球の発射を意図的に止めて０．６秒間隔以上の間隔を空けて球を一発ずつ発射する態様）を行うことを防止し易くすることができので、遊技者の経験の多少に関わらず遊技者が得られる利益の均一化を図ることができる。

【１６９３６】

なお、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了した後の制御は、第１の特別作動パターンで動作する場合と同様なので、説明を省略する。

【１６９３７】

図１５４４を参照して、ＲＯＭＢ２０２（図１５０５参照）の内容について説明する。図１５４４（ａ）は、主制御装置Ｂ１１０内のＲＯＭＢ２０２の電気的構成を示すブロック図である。図１５４４（ａ）に示すように、主制御装置Ｂ１１０のＲＯＭＢ２０２には、上記した固定値データの一部として、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａ、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃ、および変動パターン選択テーブルＢ２０２ｄが少なくとも記憶されている。

【１６９３８】

第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａは、定期的（例えば、２ｍｓｅｃごと）に更新される第１当たり乱数カウンタの大当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。始動入賞に基づいて取得した第１当たり乱数カウンタの値が、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の大当たりであると判別される。

【１６９３９】

変動パターン選択テーブルＢ２０２ｄは、変動パターンの表示態様を決定するための変動種別カウンタの判定値が表示態様毎にそれぞれ規定されているデータテーブルである。なお、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ及び第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃの詳細は後述する。

【１６９４０】

図１５４４（ｂ）は、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａの内容を模式的に示した模式図であり、図１５４４（ｃ）は、特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１における第１当たり乱数カウンタＣ３と判定値との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１５４４（ｄ）は、特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２における第１当たり乱数カウンタＣ３と判定値との対応関係を模式的に示した模式図である。

【１６９４１】

第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａは、図１５４４（ｂ）に示す通り、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ遊技球が入球することにより取得される第１当たり乱数カウンタＣ３の値が、大当たりであるか否かを判別するための特別図柄１乱数テーブルＢ２０

２ａ１と、第２入賞口Ｂ６４０へ遊技球が入球することにより取得される第１当たり乱数カウンタＣ３の値が、大当たりであるか否かを判別するための特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２とが設定されたテーブルである。

【１６９４２】

具体的には、特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１は、図１５４４（ｃ）に示す通り、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく、特別図柄１の抽選において、当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。特別図柄１の抽選では、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「０」であるかが判別されて、「０」であれば、大当たりであると判別される。また、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「１～３１９」の値であると判別された場合は、外れであると判別される。

【１６９４３】

一方、特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２は、図１５４４（ｄ）に示す通り、第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく、特別図柄２の抽選において、当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。特別図柄２の抽選では、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「０」であるかが判別されて、「０」であれば、大当たりであると判別される。また、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「１～３１８」であるか判別されて、「１～３１８」であれば小当たりであると判別される。その他、「３１９」であると判別された場合は、外れであると判別される。

【１６９４４】

このように、本制御例のパチンコ機Ｂ１０における第１当たり乱数カウンタＣ３は、０～３１９の範囲の、２バイトのループカウンタとして構成されている。この第１当たり乱数カウンタＣ３において、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく特別図柄１の抽選時に、特別図柄１の大当たりとなる乱数値は１個であり、乱数値の総数が３２０ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が１なので、特別図柄１の大当たりとなる確率は、「１／３２０」となる。

【１６９４５】

一方で、第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく特別図柄２の抽選時に、特別図柄２の大当たりとなる乱数値は１個であり、乱数値の総数が３２０ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が１なので、特別図柄２の大当たりとなる確率は、「１／３２０」となる。また、小当たりとなる乱数値の総数は３１８であるので、特別図柄２の小当たりとなる確率は「３１８／３２０」となる。

【１６９４６】

特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１及び特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２における上記の説明は、本実施形態における低確率状態に該当する。高確率状態では、「０」に加えて更に、取得した第１乱数カウンタＣ３の値が「１～９」であれば大当たりであると判別されるよう変更される。従って、高確率状態において特別図柄１又は特別図柄２の大当たりとなる確率は、「１／３２」となる。

【１６９４７】

図１５４５（ａ）は、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂにおける第１当たり種別カウンタＣ２と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１５４５（ｂ）は、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃにおける第２当たり乱数カウンタＣ４と普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。

【１６９４８】

第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ（図１５４５（ａ）参照）は、大当たり種別を決定するための判定値が記憶されているデータテーブルであり、第１当たり種別カウンタＣ２の判定値が、各大当たり種別、および特別図柄の抽選契機となった入賞口の種別に対応付けて規定されている。本実施形態のパチンコ機Ｂ１０では特別図柄の大当たりと判定された場合に、始動入賞に基づいて取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂとが比較され、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する大当たり種別が選択される。

【１６９４９】
具体的には、特別図柄１の抽選（第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりＡが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ１参照）。
【１６９５０】
大当たりＡとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１６９５１】
この場合、遊技状態は単なる確変中ではなく、特殊確変中（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）に対応する。そのため、遊技者は、次の大当たりを獲得する前に、小当たりにより開放される特定入賞口Ｂ６５ａに球を入賞させることができ、多くの賞球の払い出しを受けることができる。
【１６９５２】
なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【１６９５３】
１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しないというシチュエーションは、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の発射が満足にされずに、所定時間（例えば、３０秒）が経過して１ラウンド目のラウンド遊技が終了した場合が想定される。
【１６９５４】
球発射ユニットＢ１１２ａの球詰まりや、遊技領域における球詰まりにより、そのような事態が生じる可能性はある。これに対し、本実施形態では、特別図柄の大当たりが決定された場合に、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を球が通過するまでは大当たり遊技が開始されないように制御されているので、球詰まりに気づかずに大当たり遊技が開始される状況を避け易くすることができる。
【１６９５５】
なお、特別図柄の大当たりが決定された後における第３図柄表示装置Ｂ８１での表示は、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うのか、上側可変入賞装置Ｂ７００を狙うのか、遊技者が混乱しないように工夫することが好ましい。例えば、大当たりが決定された直後は、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７及び上側可変入賞装置Ｂ７００の位置に向けた矢印を表示する等して狙わせ、大当たり遊技が開始された後はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７の位置に向けた矢印の表示を消し、上側可変入賞装置Ｂ７００の位置に向けた矢印の表示のみを残すようにしても良い。これにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球を通過させた後で上側可変入賞装置Ｂ７００に球を入球させるという遊技の流れをスムーズに行わせることができる。
【１６９５６】
なお、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて発射された球は、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態であれば、移動上蓋部材Ｂ７３０の傾斜に沿って左右に流され、遊技領域Ｂ３０１を流れてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過することになる。
【１６９５７】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりＢが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ２参照）。
【１６９５８】

大当たりＢとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１６９５９】

この場合、遊技状態は確変中に対応する。そのため、遊技者は、基本的には次の大当たりを獲得する前に多くの賞球の払い出しを受けることはできないので、短時間で次の大当たりを獲得できるようにと遊技を進行させることになる。

【１６９６０】

なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６９６１】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりＣが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ３参照）。

【１６９６２】

大当たりＣとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第２の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過することが困難とされるので、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６９６３】

この場合、遊技状態は時短中に対応する。そのため、遊技者は、基本的には次の大当たりを獲得する前に多くの賞球の払い出しを受けることはできないので、短時間で次の大当たりを獲得できるようにと遊技を進行させることになる。

【１６９６４】

また、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが大当たりＢの後の遊技状態と同一とされるので、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかは、電動役物Ｂ６４０ａの動作態様からは判別できない。そのため、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知しなければ、遊技者に予想させるという遊技態様を構成することができる。一方で、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知するようにしても良い。

【１６９６５】

特別図柄１の抽選（第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、２０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。一方で、４ラウンドの大当たり遊技は、１５ラウンドの大当たり遊技に比較して短時間で終了するので、その後の大当たりの獲得を狙うための球の打ち出しを、早期に開始することができる。

【１６９６６】

一方、特別図柄２の抽選（第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲には、大当たりａが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ４参照）。

【１６９６７】

大当たりａとなった場合は、大当たりＡの時と同様に、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通

過した場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンに設定される状態（特殊確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１６９６８】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～４９」の範囲には、大当たりｂが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ５参照）。

【１６９６９】

なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６９７０】

大当たりｂとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１６９７１】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりｃが対応付けられて規定されている（図１５４５（ａ）のＢ２０２ｂ６参照）。

【１６９７２】

なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６９７３】

大当たりｃとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第３の特別作動パターンとされ、遊技者の球の発射態様次第で、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過する場合と、開口部Ｂ７５１を球が通過しない場合とが形成される。

【１６９７４】

１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１６９７５】

一方、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（時短中に対応する）が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【１６９７６】

このいずれの場合も、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンで同じなので、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかは、電動役物Ｂ６４０ａの動作態様からは判別できない。そのため、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知しなければ、遊技者に予想させるという遊技態様を構成することができる。

【１６９７７】

一方で、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知するようにしても良い。現に、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのか

は、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過するか否かに因るので、開口部Ｂ７５１を遊技者が視認可能とされる本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、遊技者は、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを把握できている場合が多い。

【１６９７８】

そのため、仮に、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを遊技者が把握できていないという前提で第３図柄の変動演出を設計する場合には、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を視認し難くする工夫や、開口部Ｂ７５１から目を逸らさせるような工夫を設けることが好ましい。

【１６９７９】

例えば、開口部Ｂ７５１を視認し難くする工夫としては、上側可変入賞装置Ｂ７００に光を照射する照射手段の光量を、特に開口部Ｂ７５１付近において落としたり、開口部Ｂ７５１付近において極めて強くして眩しくさせたりすることで、開口部Ｂ７５１自体の視認性を落とすようにしても良いし、第３図柄表示装置Ｂ８１で実行する演出に遊技者の視線を集めることで、開口部Ｂ７５１への注目力を相対的に低下させるようにしても良い。

【１６９８０】

特別図柄２の抽選（第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、３０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。

【１６９８１】

一方で、１５ラウンドの大当たりを獲得できる可能性が、特別図柄１の抽選に比較して高く設定されている。そのため、特別図柄１の抽選を受ける状況に比較して、特別図柄２の抽選を受ける状況の方が、１５ラウンドの大当たりが獲得できるかもしれないという期待感を高めることができる。

【１６９８２】

第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃ（図１５４５（ｂ）参照）は、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１５４５（ｂ）のＢ２０２ｃ１参照）。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２３９」が規定されている（図１５４５（ｂ）のＢ２０２ｃ２参照）。

【１６９８３】

本実施形態のパチンコ機Ｂ１０では、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。

【１６９８４】

そして、普通図柄の高確率状態でも、普通図柄の低確率状態でも、頻繁に普通図柄の当たりとなる。そのため、電動役物Ｂ６４０ａが頻繁に作動する状態を構成させることができる。

【１６９８５】

次いで、本実施形態におけるエンディング演出について説明する。まず、パチンコ機Ｂ１０の上皿Ｂ１７と、上皿Ｂ１７付近に配置される操作ボタン群について説明する。

【１６９８６】

図１５４６は、正面枠Ｂ１４及び外枠Ｂ１１の上面図である。正面枠Ｂ１４には、球を貯留する上皿Ｂ１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｂ１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿Ｂ１７の底面は正面視（図１５０２参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｂ１７に投入された球が球発射ユニットＢ１１２ａ（図１５０５参照）へと案内される。

【１６９８７】

また、上皿Ｂ１７の上面には、枠ボタンＢ２２が設けられている。この枠ボタンＢ２２

は、例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１（図１５０３参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作されることが一般的であるが、本実施形態では、大当たり遊技中（大当たり演出中）に操作されることで特定の演出を実行させるために利用されるものであり、詳細は後述する。

【１６９８８】

また、上皿Ｂ１７の上面には、上述の貸球操作部Ｂ４０と同様の機能を有する第２貸球操作部Ｂ４０ｂが配設されている。第２貸球操作部Ｂ４０ｂには、第２度数表示部Ｂ４１ｂと、第２球貸しボタンＢ４２ｂと、第２返却ボタンＢ４３ｂとが設けられている。

【１６９８９】

パチンコ機Ｂ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で第２貸球操作部Ｂ４０ｂが操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。

【１６９９０】

具体的には、第２度数表示部Ｂ４１ｂはカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。第２球貸しボタンＢ４２ｂは、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｂ１７に供給される。第２返却ボタンＢ４３ｂは、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。

【１６９９１】

なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｂ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では第２貸球操作部Ｂ４０ｂが不要となるが、この場合には、第２貸球操作部Ｂ４０ｂの設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１６９９２】

また、上皿Ｂ１７の上面における第２貸球操作部Ｂ４０ｂの左方には球抜き操作部Ｂ４４が配設される。球抜き操作部Ｂ４４を押込み操作すると、球を上皿Ｂ１７から下皿Ｂ５０（図１５０２参照）へ向けて流下させることができるので、遊技者は、上皿Ｂ１７に貯留された球を全球発射せずとも、任意のタイミングで遊技を終了することができる。

【１６９９３】

また、上皿Ｂ１７の上面における枠ボタンＢ２２の右方には、方向操作部Ｂ４５が配設される。方向操作部Ｂ４５は、上面視で上下左右の各方向に対応した位置に配置される独立操作可能な４個の操作部を有しており、例えば、パチンコ機Ｂ１０から出力される音量の大小の調整を行ったり、第３図柄表示装置Ｂ８１等の表示装置やＬＥＤ等の発光手段の発光強度の調整を行ったり、遊技に関する演出（例えば変動演出）のタイプを複数態様で切り替え可能とされる場合にその切り替えを行ったりする場合に、遊技者等により操作される。

【１６９９４】

ここで、図１５４７を参照して、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容について説明する。図１５４７は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を説明するための図面であり、図１５４７（ａ）は、変動演出の表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、図１５４７（ｂ）は、実際の表示画面を例示した図である。

【１６９９５】

第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。各主図柄は、木箱よりなる後方図柄の上に「０」から「９」の数字を付して構成され、そのうち奇数番号（１，３，５，７，９）を付した主図柄は、木箱の前面ほぼ一杯に大きな数字が付加されている。これに対し、偶数番号（０，２，４，６，８）を付した主図柄は、木箱の前面ほぼ一杯にかんな、風呂敷、ヘルメット等のキャラクタを模した付属図柄が付加されており、付属図柄の右下側に偶数の数字が緑色で小さく、且つ、付属図柄の前

側に表示されるように付加されている。
【１６９９６】
　また、本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生するよう構成されている。一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示が行われる。
【１６９９７】
　例えば、特別図柄の抽選結果が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」（図１５４５参照）であれば奇数番号「７」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。また、「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」（図１５４５参照）であれば、「７」を除く奇数番号である「１，３，５，９」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われ、「大当たりＣ」又は「大当たりｃ」（図１５４５参照）であれば偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。
【１６９９８】
　一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。なお、本実施形態では、特別図柄の抽選結果が外れである場合に、特別図柄の大当たりになる可能性が高いことを示唆（予告）する連続予告演出が行われることがあり、その場合には、変動表示が行われると、所定の主図柄の組み合わせ（例えば、有効ラインＬＢ１上に、主図柄の組み合わせが左図柄列ＢＺ１から順に「３」「４」「１」）である、所謂「チャンス目」が必ず表示される。
【１６９９９】
　図１５４７（ａ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面は、大きくは上下に２分割され、下側の２／３が第３図柄を変動表示する主表示領域ＢＤｍ、それ以外の上側の１／３が予告演出、キャラクタおよび保留球数などを表示する副表示領域ＢＤｓとなっている。
【１７０００】
　主表示領域ＢＤｍは、左・中・右の３つの表示領域ＢＤｍ１～ＢＤｍ３に区分けされており、その３つの表示領域ＢＤｍ１～ＢＤｍ３に、それぞれ３つの図柄列ＢＺ１，ＢＺ２，ＢＺ３が表示される。各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３には、上述した第３図柄が規定の順序で表示される。即ち、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３には、数字の昇順または降順に主図柄が配列され、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３毎に周期性をもって上から下へとスクロールして変動表示が行われる。特に、左図柄列ＢＺ１においては主図柄の数字が降順に現れるように配列され、中図柄列ＢＺ２及び右図柄列ＢＺ３においては主図柄の数字が昇順に現れるように配列されている。
【１７００１】
　また、主表示領域ＢＤｍには、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３毎に上・中・下の３段に第３図柄が表示される。この主表示領域ＢＤｍの中段部が有効ラインＬＢ１として設定されており、毎回の遊技に際して、左図柄列ＢＺ１→右図柄列ＢＺ３→中図柄列ＢＺ２の順に、有効ラインＬＢ１上に第３図柄が停止表示される。その第３図柄の停止時に有効ラインＬＢ１上に大当たり図柄の組合せ（本実施形態では、同一の主図柄の組合せ）で揃えば大当たりとして大当たり動画が表示される。
【１７００２】
　一方、副表示領域ＢＤｓは、主表示領域ＢＤｍよりも上方に横長に設けられており、さらに左右方向に３つの小領域ＢＤｓ１～ＢＤｓ３に等区分されている。このうち、小領域ＢＤｓ１は、第１入賞口Ｂ６４，第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０に入球された球のうち変動が未実行である球（保留球）の数である保留球数を表示する領域であり、小領域ＢＤｓ２およびＤｓ３は、予告演出画像を表示する領域である。
【１７００３】
　実際の表示画面では、図１５４７（ｂ）に示すように、主表示領域ＢＤｍに第３図柄の

主図柄が合計９個表示される。副表示領域ＢＤｓにおいては、右の小領域ＢＤｓ３に動画（図示せず）が表示され、通常より大当たりへ遷移し易い状態であることが遊技者に示唆される。中央の小領域ＢＤｓ２では、通常は、所定のキャラクタ（本実施形態ではハチマキを付けた少年）が所定動作をし、時として所定動作とは別の特別な動作をしたり、別のキャラクタが現出する等して予告演出が行われる。

【１７００４】

第３図柄表示装置Ｂ８１（第１図柄表示装置３７）にて変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球した場合、その入球回数は最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７により示されると共に、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ１においても示される。小領域ＢＤｓ１には、保留球数１球につき１つの保留球数図柄（本実施形態では、「麦わら帽子」の図柄）が表示され、その保留球数図柄の表示数に応じて、保留球数が表示される。即ち、小領域ＢＤｓ１に１つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が１球であることを示し、４つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が４球であることを示す。また、小領域ＢＤｓ１に保留球数図柄が表示されていない場合は、保留球数が０球である、即ち、保留球が存在しないことを示す。

【１７００５】

同様に、第３図柄表示装置Ｂ８１（第１図柄表示装置３７）にて変動表示が行われている間に球が第２入賞口Ｂ６４０へ入球した場合、その入球回数は最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７により示されると共に、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ１においても示される。小領域ＢＤｓ１には、保留球数１球につき１つの保留球数図柄（本実施形態では、「星形状」の図柄）が表示され、その保留球数図柄の表示数に応じて、保留球数が表示される。即ち、小領域ＢＤｓ１に１つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が１球であることを示し、４つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が４球であることを示す。また、小領域ＢＤｓ１に保留球数図柄が表示されていない場合は、保留球数が０球である、即ち、保留球が存在しないことを示す。

【１７００６】

本実施形態では、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球した場合の保留球数が小領域ＢＤｓ１の上半部に横並びで表示されるのに対し（図１５４７（ｂ）参照）、第２入賞口Ｂ６４０へ入球した場合の保留球数が小領域ＢＤｓ１の下半部に横並びで表示される。

【１７００７】

なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球、及び第２入賞口Ｂ６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、小領域ＢＤｓ１における保留球数図柄の表示に代えて、保留球数を第３図柄表示装置Ｂ８１の一部に数字で、或いは、４つに区画された領域を保留球数分だけ異なる態様（例えば、色や点灯パターン）にして表示するようにしても良い。また、第１図柄表示装置３７により保留球数が示されるので、第３図柄表示装置Ｂ８１に保留球数を表示させないものとしてもよい。更に、可変表示装置ユニットＢ８０に、保留球数を示す保留ランプを最大保留数分の４つ設け、点灯状態の保留ランプの数に応じて、保留球数を表示するものとしてもよい。

【１７００８】

続けて、図１５４８を参照して、第３図柄表示装置Ｂ８１において行われる大当たり演出について説明する。図１５４８（ａ）は、大当たり演出の流れの一例を説明するための概略図であり、図１５４８（ｂ）は、エンディング演出の流れの一例を説明するための概略図であり、図１５４８（ｃ）、図１５４８（ｄ）及び図１５４８（ｅ）は、大当たり演出の一部であるエンディング演出において表示されるエンディング表示演出の表示画面を例示した図である。

【１７００９】

主制御装置Ｂ１１０では、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入球（始動入賞）すると、それをトリガとして、特別図柄の抽選が行われ、その後、第１図柄表示装置３７において特別図柄（第１図柄）の変動表示が実行される。更に、図１５４８（ａ）に示すように、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ変動パターンコマンドおよび停止種別コマンドが送信され、その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第１図柄表示装置３７の変動表示に応じて第３図柄の変動表示が行われる。

【１７０１０】

第３図柄表示装置Ｂ８１において第３図柄の変動表示が行われる場合には、まず、第３図柄の高速変動表示が開始され、その後、予め定められた時間（例えば、１秒～６０秒など）が経過すると、第３図柄の中速変動表示へ切り替わり、更に、第３図柄の低速変動表示へ切り替わる。ここで、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合には、同一番号の主図柄（第３図柄）が揃う停止表示が行われ変動演出が終了し、続けて、大当たり演出が開始される。一方、特別図柄の抽選結果が外れである場合には、同一番号の主図柄（第３図柄）が揃わない停止表示が行われて変動演出が終了し、保留されている始動入賞があれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、次の変動演出が開始される。

【１７０１１】

図１５４８（ａ）に示すように、大当たり演出は、ファンファーレ演出が行われる期間と、ラウンド演出が行われる期間と、エンディング演出が行われる期間との３つの期間に分けられる。

【１７０１２】

ファンファーレ演出は、これからパチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行して、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが繰り返し開放されることを遊技者に報知して、遊技者の期待感を高めるための演出であり、ラウンド演出は、これから開始されるラウンド数を遊技者に報知し、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａに向けて球を発射させるように促し、多数の賞球を払い出すことを報知するための演出である。

【１７０１３】

図１５４８（ｂ）に示すように、エンディング演出では、特別遊技状態の終了を遊技者に報知すると共に、大当たり終了後に遊技者に付与される遊技価値（特別図柄の大当たり確率の大小、次の大当たりを獲得するまでにまとまった賞球の払い出しが期待できるか否か、普通図柄の時短期間等）を遊技者に報知するエンディング表示演出が実行される。

【１７０１４】

また、エンディング演出には、場合に応じて、パチンコ機Ｂ１０の製造会社を報知する社名表示演出や、遊技終了時や離席時に残額が存在するカード等（記録媒体、他にコイン等）の返却のための操作するように示唆するカード忘れ防止表示演出が、実行されるが、詳細は後述する。

【１７０１５】

第３図柄表示装置Ｂ８１において大当たり演出が行われる場合には、図１５４８（ａ）に示すように、まず、第３図柄の停止表示がなされるタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へファンファーレコマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、変動演出に続けて、ファンファーレ演出が開始される。

【１７０１６】

次に、ファンファーレ演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第１ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、ファンファーレ演出に続けて、第１ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。本実施形態では、パチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行した後、その状態は、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉が大当たり種別に応じた回数だけ繰り返されるまで（最大１５ラウンド、図１５４５（ａ）参

照）継続される。
【１７０１７】
第１ラウンドが開始され、第２特定入賞口Ｂ７００ａが開放された後、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）が経過すると、第２特定入賞口Ｂ７００ａが閉鎖されると共に、第１ラウンドが終了する。すると、ラウンド間インターバル時間Ｉｎｔ１（図１５４３参照）を挟んで直ぐに第２ラウンドの開始タイミングとなり、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第２ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第１ラウンドに対応するラウンド演出に続けて、第２ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。
【１７０１８】
第２ラウンドが開始され、特定入賞口Ｂ６５ａが開放された後、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）が経過すると、特定入賞口Ｂ６５ａが閉鎖されると共に、第２ラウンドが終了する。すると、ラウンド間インターバル時間Ｉｎｔ１（図１５４３参照）を挟んで直ぐに第３ラウンドの開始タイミングとなり、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第３ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第２ラウンドに対応するラウンド演出に続けて、第３ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。
【１７０１９】
第３ラウンドが開始されると、第２ラウンドの場合と同様に、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉制御が行われる。その後は、新たなラウンドが開始されるタイミングとなる毎に、新たなラウンド数を示すラウンド数コマンドが主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ送信されると共に、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉制御が行われる。これにより、第１ラウンドから最終ラウンド（最大１５ラウンド）までの各ラウンド演出が順番に実行される。
【１７０２０】
そして、最終ラウンドの特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が終了したタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へエンディングコマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、エンディング演出が開始される。上述したように、エンディング演出では、特別遊技状態の終了が遊技者に報知されると共に、エンディング表示演出において大当たり終了後に遊技者に付与される遊技価値（特別図柄の大当たり確率の大小、次の大当たりを獲得するまでにまとまった賞球の払い出しが期待できるか否か、普通図柄の時短期間等）が遊技者に報知される。
【１７０２１】
エンディング表示演出では、例えば、図１５４８（ｃ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「チャンス１００回」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「まだ諦めるな」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【１７０２２】
時間表示Ｂ８１１は、エンディング演出（エンディング表示演出のみの場合を含む）の終了時を報知する役割を有し、適切なタイミングから終端位置Ｂ８１２へ向けて右端部が移動するが、詳細は後述する。
【１７０２３】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＣ」（図１５４５参照）である場合か、抽選結果が「大当たりｃ」であって大当たり遊技中に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１（図１５３８参照）を球が通過しなかった場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の抽選が１００回終了するまでは電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は低確率（本実施形態では、３２０分の１）であることを意味する。

【１７０２４】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりの可能性が少ないながらあることを遊技者は認識することができる。
【１７０２５】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【１７０２６】
また、エンディング表示演出では、例えば、図１５４８（ｄ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「確率変動突入」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「期待大」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【１７０２７】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」（図１５４５参照）である場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の次回大当たりとなるまでは、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は高確率（本実施形態では、３２分の１）であることを意味する。
【１７０２８】
また、この画面における識別表示Ｂ８０２、信頼度表示Ｂ８０３及び時間表示Ｂ８１１は、抽選結果が「大当たりｃ」であって大当たり遊技中に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１（図１５３８参照）を球が通過した場合にも表示されるが、その場合には、賞球表示Ｂ８０１が図１５４８（ｄ）に示す数値と異なり、図１５４８（ｃ）に示す「６００」とされる。
【１７０２９】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりに期待できることを遊技者は認識することができる。
【１７０３０】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【１７０３１】
なお、識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３の内容は、これに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、識別表示Ｂ８０２に「次回大当たり確定」と表示し、信頼度表示Ｂ８０３に「更なる賞球準備中」と表示するようにしても良い。
【１７０３２】
また、エンディング表示演出では、例えば、図１５４８（ｅ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「ラッシュ突入」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「超期待大」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【１７０３３】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」（図１５４５参照）である場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の次回大当たりとなるまでは、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パタ

ーンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は高確率（本実施形態では、３２分の１）であることを意味する。
【１７０３４】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりに期待できることに加えて、それ以上の利益を獲得可能であることを遊技者は認識することができる。
【１７０３５】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感に加えて、それ以上の利益（例えば、次の大当たりを獲得する前の段階において、小当たりを利用した入賞により賞球の増加が見込めること）に対する期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【１７０３６】
このように、識別表示Ｂ８０２は、大当たり遊技終了後の遊技状態に対応して表示を変化させるように構成されており、遊技者は、エンディング表示演出を視認することで、大当たり遊技終了後に得られる利益の予想を立てることができる。
【１７０３７】
なお、識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３の内容は、これに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、「ラッシュ突入」に代えて、「超確変突入」でも良いし、「小当たりラッシュ突入」でも良いし、「超有利モード」等の特有の名称を付して表示しても良い。
【１７０３８】
次いで、エンディング演出における社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出について説明する。図１５４８（ｂ）に示す例におけるエンディング演出では、エンディング表示演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ社名表示コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、エンディング表示演出に続けて、社名表示演出が開始される。
【１７０３９】
次に、社名表示演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へカード忘れ防止表示コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、社名表示演出に続けて、カード忘れ防止表示演出が開始される。
【１７０４０】
カード忘れ防止表示演出が終了することで、エンディング演出が終了する。エンディング演出の終了後は、保留されている始動入賞があれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、次の変動演出が開始される。一方で、保留されている始動入賞が無ければ（保留球数が０個であれば）、第３図柄表示装置Ｂ８１では変動待機画面が表示される。
【１７０４１】
図１５４９（ａ）は、エンディング演出において表示される社名表示演出の表示画面を例示した図であり、図１５４９（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１５４９（ａ）及び図１５４９（ｂ）では、エンディング表示演出に次いで社名表示演出が実行され、その社名表示演出に次いでカード忘れ防止表示演出が実行される場合（図１５４８（ｂ）参照）について説明する。
【１７０４２】
図１５４９（ａ）及び図１５４９（ｂ）で示す例では、エンディング演出の実行時間が、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出でそれぞれ均等に分けられ、エンディング演出の実行時間が１５秒に設定される。この場合には、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出はそれぞれ５秒ずつ割り当てられる。
【１７０４３】
図１５４９（ａ）に示すように、社名表示演出では、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の

中央付近における特定表示Ｂ８１０として、パチンコ機Ｂ１０の製造会社名（Ａカンパニー）が表示される。

【１７０４４】

また、図１５４９（ｂ）に示すように、カード忘れ防止表示演出に切り替わると、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の中央付近における特定表示Ｂ８１０として、カードユニットの差込口からカードが返却される様子を示す静止画（又は動画）が表示され、その下方に「カードの取り忘れにご注意下さい」とのコメントが表示される。

【１７０４５】

図１５４９（ａ）及び図１５４９（ｂ）で示す例におけるエンディング演出では、５秒間実行されるエンディング表示演出の終了後、社名表示演出が５秒間実行され、カード忘れ防止表示演出が５秒間実行されることから、エンディング表示演出の終了時から次の変動演出の開始まで１０秒の間が空くことになる。本実施形態では、その空いた時間を有効に利用することができるよう工夫されている。

【１７０４６】

図１５４９（ａ）及び図１５４９（ｂ）に図示されるように、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の実行中に共通して、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の下端部付近には時間経過とともに右先端部が右方へ移動する時間表示Ｂ８１１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の右上隅部には枠ボタンＢ２２を模式的に示す枠ボタン表示Ｂ８１３が表示され、その枠ボタン表示Ｂ８１３の右側には目盛りが上下に並んでおり現在の発光強度（パチンコ機Ｂ１０に配設されるＬＥＤ（例えば、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４（図１５０２参照））等の発光手段の発光強度や、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の明るさ）の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上から２番目の設定値であると表示する）目盛り表示Ｂ８１４が表示され、枠ボタン表示Ｂ８１３及び目盛り表示Ｂ８１４の下方には「長時間の光に注意して下さい」という内容の注意コメント表示Ｂ８１５が表示される。

【１７０４７】

本実施形態では、エンディング演出中では、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の押し込み操作が有効になるように制御される。即ち、エンディング演出中では、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されていない場合における枠ボタンＢ２２の操作は無効とされる。

【１７０４８】

第３図柄表示装置Ｂ８１の画面において、枠ボタン表示Ｂ８１３及び目盛り表示Ｂ８１４は、カード忘れ防止表示演出の途中（残り４秒の時点）で非表示とされるが、特定表示Ｂ８１０、時間表示Ｂ８１１及び注意コメント表示Ｂ８１５は、カード忘れ防止表示演出が終了するまで表示が継続される。

【１７０４９】

ここで、遊技球が第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球したとしても、エンディング演出の実行中は特別図柄の変動が停止されるので、特別図柄の保留球数が減少しない。そのため、特別図柄の保留球数が満タンの場合に第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球しても、遊技者は特別図柄の抽選を受けることができない。一方で、エンディング演出が終了した後であれば、特別図柄の変動が開始されるので、特別図柄の保留球数が満タンから減少し、始動口に球を入球させることで遊技者が特別図柄の抽選を受けることができる可能性が高まる。

【１７０５０】

また、エンディング演出中を含む大当たり遊技中は、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが通常中の作動パターンとされる。本実施形態では、第１の作動パターン（図１５３２（ａ）参照）となるので、遊技球がスライド部材Ｂ４５０に拾われ難い。一方で、エンディング演出が終了すれば、大当たり種別に対応した作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが駆動されることになるので、遊技球がスライド部材Ｂ４５０に拾われ易くなるので、遊技

球が第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１５０３参照）に入球し易くなる。
【１７０５１】
　このような事情から、遊技者は、ラウンド遊技が終了した後は、エンディング演出の終了後に球を発射開始した方が、損が少ないと考え易いところ、従来の遊技機では、エンディング演出がいつ終わるのかが分かり難かった。即ち、遊技結果としてはエンディング表示演出で示されているので、遊技者としてはすぐに変動演出が始まると思いやすく、エンディング表示演出から画面が切り替わるや否や球を発射すると考えられるが、実は社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の分だけエンディング演出が残っている場合があり、そのことに気付いた時には既に球は発射されており、遊技者はエンディング演出中に発射して数発の球を無駄にしたと不満に感じる可能性がある。
【１７０５２】
　これに対し、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１の移動態様は、エンディング演出の終了と同時に時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するように設定されている。即ち、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ移動し、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した後で変動演出が開始されるので、エンディング演出の長さと、エンディング演出の終了時を把握し易くすることができるので、エンディング演出中に球を発射するという事態を回避し易くすることができる。
【１７０５３】
　なお、時間表示Ｂ８１１の移動態様は何ら限定されるものではないが、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２の表示態様が、時間表示Ｂ８１１の左端部と終端位置Ｂ８１２との間の長さを１０秒分の長さの目安として設計されている。エンディング演出の開始時にエンディング演出の終了までが１０秒以上である場合には、エンディング演出の終了まで約１０秒となるタイミングまでは、時間表示Ｂ８１１の右端部は停止されたままとなるか極めて遅い速度で移動するように設定され、エンディング演出の終了まで約１０秒となるタイミングで、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ等速で移動を開始するように設定される。
【１７０５４】
　一方で、エンディング演出の開始時にエンディング演出の終了までが１０秒未満である場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部は即座に移動開始される。この場合において、時間表示Ｂ８１１の移動速度は、エンディング演出の終了と同時に時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する速度として設定される（即ち、エンディング演出の終了までが５秒であれば、１０秒間かけて終端位置Ｂ８１２まで移動する場合の速度の２倍の速度で設定される）。
【１７０５５】
　なお、本実施形態では、図１５４９（ａ）及び図１５４９（ｂ）に示すように、終端位置Ｂ８１２の上方に遊技球の打ち出し開始を示唆する「ＧＯ」の文字が常に表示されるようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した時または時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する数秒前（例えば、発射された球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するまでに要する平均的な秒数前）に「ＧＯ」の文字を表示させるようにしても良い。この場合の表示は、「ＧＯ」の文字が非表示の状態から表示されるものでも良いし、「ＧＯ」が半透明で表示される状態から実体化するように表示されるものでも良い。
【１７０５６】
　この場合、「ＧＯ」の文字が表示されることを目印にして球の発射を開始すれば、エンディング演出の終了前に球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過することを回避し易くすることができるので、遊技者は移動する時間表示Ｂ８１１を目で追う必要が無くなる。これにより、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【１７０５７】
　なお、「ＧＯ」の文字の表示態様は、何ら限定されるものではない。例えば、「球発射開始」や、「バーが到達したら打ち出し開始」というコメントと入れ替えても良い。また

、「ＧＯ」の文字の大きさが常に同じである必要はない。例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が移動するにつれて「ＧＯ」の文字が徐々に大きくなっていく態様でも良い。この場合において、「ＧＯ」の文字の最大の大きさが半透明で表示されており、徐々に大きくなる「ＧＯ」の文字の大きさが、半透明で示される最大の大きさと一致するタイミングを、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと合わせるように制御しても良い。

【１７０５８】

図１５４９に示す状態において、遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行しなかった場合には、図１５４９（ｂ）に示すカード忘れ防止表示演出の継続中に時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達した後で、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１５４７（ｂ）に示したような画面に切り替わり、変動演出が開始される。

【１７０５９】

図１５４９に示すように、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されている場合、一般的には枠ボタンＢ２２の操作が可能であることを示している。図１５４９に示す状態において、遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行した場合の第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の切り替わりについて説明する。

【１７０６０】

図１５５０（ａ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図であり、図１５５０（ｂ）は、エンディング演出終了直後における表示画面を例示した図である。

【１７０６１】

図１５５０（ａ）では、図１５４９（ｂ）に示す状態（枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されている状態）において、遊技者が枠ボタンＢ２２（図１５４６参照）を操作した場合に切り替えられる第３図柄表示装置Ｂ８１の画面が図示される。

【１７０６２】

枠ボタンＢ２２を操作して第３図柄表示装置Ｂ８１の画面が図１５５０（ａ）に示す状態に切り替えられた場合も、枠ボタンＢ２２を操作しなかった場合と同様に、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ移動し、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した後で第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１５５０（ｂ）に示したような画面に切り替わり、変動演出が開始される。

【１７０６３】

図１５５０（ａ）に示すように、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作すると、特定表示Ｂ８１０としての、カードユニットの差込口からカードが返却される様子を示す静止画（又は動画）及び「カードの取り忘れにご注意下さい」とのコメントは、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の左上隅に移動されると共に、表示態様が縮小される。これにより、特定表示Ｂ８１０の識別性を低下させることができ、遊技者の注意力を特定表示Ｂ８１０以外の部分に向けさせ易くすることができる。

【１７０６４】

画面の中央付近には方向操作部Ｂ４５を模式的に示す方向操作部表示Ｂ８１６が表示され、その方向操作部表示Ｂ８１６の左側には、目盛りが上下に並んでおり現在の発光強度の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上から２番目の設定値であると表示する）縦目盛り表示Ｂ８１７が表示され、方向操作部表示Ｂ８１６の下側には、目盛りが左右に並んでおり現在の音量の大小の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上（右）から３番目の設定値であると表示する）横目盛り表示Ｂ８１８が表示される。

【１７０６５】

更に、注意コメント表示Ｂ８１５の下側には、「長時間の音に注意して下さい」という内容の第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示される。注意コメント表示Ｂ８１５及び第２注意コメント表示Ｂ８１９は、遊技者が設定値を確認できる対象の種類に対応して表示されている。

【１７０６６】
図１５５０（ａ）に示すように、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されている状態では、方向操作部Ｂ４５の上下方向のボタンを操作することで、縦目盛り表示Ｂ８１７の設定値を変更することができる。即ち、目盛りが並ぶ方向と、目盛りの設定値を変更するために操作するボタンの方向とが対応しており、遊技者に操作方法を容易に理解させることができる。
【１７０６７】
図１５５０（ａ）に示すように、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されている状態では、方向操作部Ｂ４５の左右方向のボタンを操作することで、横目盛り表示Ｂ８１８の設定値を変更することができる。即ち、目盛りが並ぶ方向と、目盛りの設定値を変更するために操作するボタンの方向とが対応しており、遊技者に操作方法を容易に理解させることができる。
【１７０６８】
また、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されていない状態では方向操作部Ｂ４５の操作は無効となるように制御されている。これにより、遊技者は、方向操作部表示Ｂ８１６の有無を確認するだけで現在行う方向操作部Ｂ４５の操作が有効か無効かを認識することができる。
【１７０６９】
縦目盛り表示Ｂ８１７の端部付近に電球を模した表示がされており、縦目盛り表示Ｂ８１７により発光強度（パチンコ機Ｂ１０に配設されるＬＥＤ（例えば、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４（図１５０２参照））等の発光手段の発光強度や、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の明るさ）を設定可能であることを遊技者に容易に理解させることができる。また、横目盛り表示Ｂ８１８の端部付近に音符を模した表示がされており、横目盛り表示Ｂ８１８により音量の大小を設定可能であることを遊技者に容易に理解させることができる。
【１７０７０】
図１５５０（ｂ）に示す状態では、特別図柄の変動演出が開始される状態として同様とされる図１５４７（ｂ）に示す状態と異なり、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が縮小された状態で小領域ＢＤｓ３に配置される。
【１７０７１】
そのため、エンディング演出が終了して、変動演出が実行された後もしばらくは、方向操作部表示Ｂ８１６が継続して表示され、発光強度の設定を変更したり、音量の大小の設定を変更したりすることができる。
【１７０７２】
本実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６は、エンディング演出の終了後に開始される１回目の変動演出の高速変動表示中には継続して表示され、その変動演出の高速変動表示終了後に非表示とされる。
【１７０７３】
これにより、少なくとも、図柄が停止表示され変動演出が終了するタイミングでは方向操作部表示Ｂ８１６は非表示とされ、方向操作部Ｂ４５の操作は無効とされることから、遊技者が方向操作部Ｂ４５を操作する事態は生じないので、方向操作部Ｂ４５を操作することに集中しており図柄の停止表示を見逃すという事態を避けることができる。
【１７０７４】
また、高速変動中は、保留球数に空きができることから、特別図柄の抽選を受けるために遊技者は球の発射を開始することになるが、方向操作部Ｂ４５は片手操作が可能とされるので、球の発射を害することを回避することができる。遊技者が球を数発発射している間に（発射している状態を経て）、方向操作部表示Ｂ８１６は非表示とされる。
【１７０７５】
エンディング演出の終了後に開始される２回目の変動演出からは、方向操作部表示Ｂ８１６が非表示とされる。即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１５４７（ｂ）に示す

ような状態とされ、変動演出が実行される。
【１７０７６】
図１５５１は、エンディング演出と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図である。図１５５１に示すように、本実施形態では、エンディング表示演出は、大当たり種別に関わらず実行される（図１５５１中、○で表記）。
【１７０７７】
また、社名表示演出は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態が、遊技者にとって最も有利な状態となる場合に実行されるので、社名表示演出を視認した遊技者に対して、大当たり遊技終了後の遊技状態に対する期待感を持たせることができる。
【１７０７８】
本実施形態では、大当たり遊技終了後に特殊確変状態に突入する大当たり種別である「大当たりＡ」又は「大当たりａ」のエンディング演出において社名表示演出が実行され（図１５５１中、○で表記）、その他の大当たり種別の大当たり遊技のエンディング演出において社名表示演出は実行されない（図１５５１中、×で表記）。
【１７０７９】
なお、社名表示演出の実行の条件は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態に対応するものであり、大当たり遊技における払い出し個数に対応するものではない。即ち、大当たり遊技における払い出し個数が例えば０個であっても、社名表示演出は実行される。
【１７０８０】
なお、本実施形態では、「大当たりＡ」又は「大当たりａ」の大当たり遊技における払い出し個数は全大当たり種別の内で最大個数であるので、社名表示演出が実行された場合に、遊技者に対して、払出賞球個数が最大個数の大当たり遊技が実行されたことを実感させることができる。
【１７０８１】
また、カード忘れ防止表示演出は、大当たり遊技における払い出し個数が８ラウンド分の個数以上（所定の個数以上）である場合に実行されるので、カード忘れ防止表示演出を視認した遊技者に対して、多くの賞球を獲得した喜びを実感させることができる。
【１７０８２】
本実施形態では、１５ラウンドの大当たり種別である「大当たりＡ」又は「大当たりａ」及び８ラウンドの大当たり種別である「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」のエンディング演出においてカード忘れ防止表示演出が実行され（図１５５１中、○で表記）、その他の大当たり種別の大当たり遊技のエンディング演出においてカード忘れ防止表示演出は実行されない（図１５５１中、×で表記）。
【１７０８３】
このように、本実施形態では、大当たり種別に対応して、エンディング演出の内容が異なる。エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出は、それぞれ５秒間の演出となるので、組み合わせの違いに対応して、エンディング演出の実行時間が異なることになる。
【１７０８４】
例えば、大当たり種別が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、１５秒間かけて実行され、大当たり種別が「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、１０秒間をかけて実行され、大当たり種別が「大当たりＣ」又は「大当たりｃ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、５秒間をかけて実行される。
【１７０８５】
このような事情から、遊技者からすると、エンディング演出の終了時点を図りがたく球の発射タイミングに迷う可能性があるが、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１（図１５４９参照）によりエンディング演出の終了時点を把握可能になっている。
【１７０８６】
即ち、エンディング演出の時間が違っても、時間表示Ｂ８１１の右端部の移動スピード

が変更されること（又は、時間表示Ｂ８１１の移動開始点が変更されること）により、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達した時にエンディング演出が終了することは同一とされており、時間表示Ｂ８１１を視認することで、遊技者が球の発射タイミングに迷うことがないようにすることができる。これにより、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【１７０８７】

なお、大当たり種別に対応して規定され不変なのはエンディング演出の実行時間であり、エンディング演出中における内容は可変である。例えば、実行時間としては１５秒のエンディング演出であっても、ある条件が満たされれば（又はランダムで）、エンディング表示演出を１０秒として、残りの５秒で社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出を実行するようにしても良い。特に、初回の大当たり時には、エンディング表示演出を長めに設定することで、遊技者の興趣を向上させることができる。

【１７０８８】

次いで、図１５５２及び図１５５３を参照して、第５５実施形態について説明する。第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において中央流路Ｂ４３１を流下する球を下支えする部分としての底面部Ｂ４３１ａが固定の板部として構成される場合を説明したが、第５５実施形態の入賞ユニットＢ２４００では、中央流路Ｂ２４３１を流下する球を下支えする部分の形状が変化するよう構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７０８９】

図１５５２及び図１５５３は、図１５１６（ｃ）のＭＤＸＩＸ－ＭＤＸＩＸ線における第５５実施形態における入賞ユニットＢ２４００の断面図である。図１５５２では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示され、図１５５３では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。

【１７０９０】

電動役物Ｂ６４０ａは、第５４実施形態と同じ傾倒部材Ｂ４７０と、第５４実施形態のスライド部材Ｂ４５０と部分的に形状が異なるスライド部材Ｂ２４５０と、を備える。なお、スライド部材Ｂ２４５０は形状が部分的に異なるだけであり、動作態様は第５４実施形態のスライド部材Ｂ４５０と同じである。

【１７０９１】

スライド部材Ｂ２４５０の、第５４実施形態におけるスライド部材Ｂ４５０との違いについて説明する。スライド部材Ｂ２４５０は、中央固定部Ｂ４５４の前端部から下方に突設される下突設部Ｂ２４５６と、中央固定部Ｂ４５４の前端部から前方に突設される前突設部Ｂ２４５７と、を備える。

【１７０９２】

第５４実施形態における入賞ユニットＢ４００では、図１５２２に示すように、中央固定部Ｂ４５４の配置と、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の配置とが、上下方向で重なっておらず、中段部材Ｂ４３０にスライド部材Ｂ４５０を上から被せるようにして組み付けることが可能であったが、第５５実施形態における入賞ユニットＢ２４００では、前突設部Ｂ２４５７が後壁部Ｂ４３４の後端部よりも前側に張り出す形状とされており、そのままでは組み付け方法を流用することができない。

【１７０９３】

これに対して、本実施形態では、図１５５２に示す断面を中心とする左右幅（本実施形態では、約３ｍｍ程度の左右幅）で、底面部Ｂ４３１ａ、係止板部Ｂ４３１ｂ及び後壁部Ｂ４３４に連続的に切れ込みＢ２４３１ｄが形成される。即ち、切れ込みＢ２４３１ｄは、後壁部Ｂ４３４の上端部から下端部までを切り、その位置から底面部Ｂ４３１ａの途中位置まで、且つ、係止板部Ｂ４３１ｂの途中位置まで続く開放部として形成される。

【１７０９４】

切れ込みＢ２４３１ｄの左右幅が、前突設部Ｂ２４５７の左右幅よりも若干長い左右幅として形成されていることで、図１５５３に示す配置において、スライド部材Ｂ２４５０

の前突設部Ｂ２４５７の配置と、中段部材Ｂ２４３０の切れ込みＢ２４３１ｄの配置とを重ねることができる。

【１７０９５】

そのため、切れ込みＢ２４３１ｄを通してスライド部材Ｂ２４５０の前突設部Ｂ２４５７は中段部材Ｂ２４３０を上下方向に通過することができるので、中段部材Ｂ２４３０にスライド部材Ｂ２４５０を上から被せるようにして組み付けることが可能となっている。

【１７０９６】

下突設部Ｂ２４５６は、切れ込みＢ２４３１ｄの外側における係止板部Ｂ４３１ｂの後面と当接可能な位置まで突設される、スライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端を規定するための部分である。

【１７０９７】

第５４実施形態では、中央固定部Ｂ４５４の前端部が係止板部Ｂ４３１ｂの後面に突き当たる位置でスライド部材Ｂ４５０の前側移動終端が規定されていたが（図１５１９参照）、第５５実施形態においても、中央固定部Ｂ４５４の前端部から真下に突設される下突設部Ｂ２４５６の前面が係止板部Ｂ４３１ｂの後面に突き当たる位置でスライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端が規定されるので、第５５実施形態におけるスライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端位置と、第５４実施形態におけるスライド部材Ｂ４５０の前側移動終端位置とは、同じ位置とされる。

【１７０９８】

前突設部Ｂ２４５７は、上方へ向けて突設される一対の球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂを備える。球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂは、切れ込みＢ２４３１ｄに進入可能な左右位置において前後に並ぶように配設されており、後側の球干渉突設部Ｂ２４５８ｂよりも、前側の球干渉突設部Ｂ２４５８ａの方が、上端位置が低くなるように形成される。

【１７０９９】

球干渉突設部Ｂ２４５８ｂの上端位置と、球干渉突設部Ｂ２４５８ａの上端位置とを通る直線の前後方向傾斜角度は、中段部材Ｂ２４３０の底面部Ｂ４３１ａの上面の前後方向傾斜角度と同じとなるように形成される。

【１７１００】

球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂの突設長さは、スライド部材Ｂ２４５０が前進位置に配置された場合に、底面部Ｂ４３１ａの上面から上方に１～２ｍｍだけ張り出す程度の長さとされている（図１５５２参照）。これにより、スライド部材Ｂ２４５０が後退位置に配置された場合に、底面部Ｂ４３１ａの上面からはみ出さないように、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂの上端位置を切れ込みＢ２４３１ｄの内側（中段部材Ｂ２４３０の上下方向の肉厚寸法の内側）に収めることができる。

【１７１０１】

これにより、スライド部材Ｂ２４５０が前進位置に配置される場合には、中央流路Ｂ２４３１を流下する球に対して、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂを当接させることができる一方、スライド部材Ｂ２４５０が後退位置に配置される場合には、中央流路Ｂ２４３１を流下する球と、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂとが当接しないよう構成することができる。

【１７１０２】

図１５５２及び図１５５３で説明した構成により、第５５実施形態における入賞ユニットＢ２４００では、第５４実施形態で説明した入賞ユニットＢ４００により生じる作用に加えて、中央流路Ｂ２４３１を流下する球の流下速度を場合により変化させることができる。

【１７１０３】

例えば、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）になった場合には、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが中央流路Ｂ２４３１の外方に退避するので、中央流路Ｂ２４３１を流下する球が球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂとの当接により減速

されることはなくなる。
【１７１０４】
　加えて、第５４実施形態で上述したように、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化する際に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３（図１５０８参照）に乗っている球は、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３により後方に押し込まれることで流下方向（矢印Ｂ方向）に加速される。
【１７１０５】
　従って、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合には、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全区域において、球の流下速度が速くなり易い。
【１７１０６】
　また、例えば、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）になった場合には、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが底面部Ｂ４３１ａの上面から中央流路Ｂ２４３１側に張り出すので、中央流路Ｂ２４３１を流下する球が球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂに当接し減速される。これにより、中央流路Ｂ２４３１での球の流下の減速作用が、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）である場合に比較して生じ易くなり、球の流下態様を落ち着かせることができる（整流させることができる）。
【１７１０７】
　加えて、第５４実施形態で上述したように、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化する際に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３（図１５０８参照）に球が乗っていたとしても、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３は球との間に隙間を生じさせる方向（球を押込まない方向、矢印Ｆ方向）に変位するので、球の流下速度の変化は抑制される（加速されるわけではない）。
【１７１０８】
　従って、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合には、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全区域において、球の流下速度が遅くなり易い。
【１７１０９】
　このように、本実施形態では、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合には、球の流下速度を速める作用が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全体で生じる一方で、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合には、球の流下速度を遅くする作用が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全体で生じる。
【１７１１０】
　そのため、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合と、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合とで、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路を通過するのに要する期間の違い（長短の差）を大きくすることができる。
【１７１１１】
　次いで、図１５５４を参照して、第５６実施形態について説明する。第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において内部流路が前後に延びる流路として形成される場合を説明したが、第５６実施形態の入賞ユニットＢ３４００では、内部流路が左右に延びる流路として形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７１１２】
　図１５５４（ａ）は、第５６実施形態における入賞ユニットＢ３４００を模式的に示す模式図であり、図１５５４（ｂ）は、入賞ユニットＢ３４００の別例として入賞ユニットＢ３４００ｂを模式的に示す模式図である。なお、図１５５４において、釘ＢＫＧ１は、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部が実線で図示され、正面側先端部の膨らんだ部分が

想像線で図示される。
【１７１１３】
入賞ユニットＢ３４００は、例えば、右側遊技領域Ｂ３０３（図１５０３参照）におけるスルーゲートＢ６７の下流側などに配置され、遊技領域Ｂ３０１に配置される球の流下を案内するユニットとして構成される。
【１７１１４】
入賞ユニットＢ３４００は、遊技盤Ｂ１３のベース板Ｂ６０（図１５０３参照）とガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）との間に配設される板状部材から形成される流路構成部Ｂ３４１０と、遊技領域の内方に配置される突出状態（前進位置の状態に相当）と遊技領域の外方に退避する退避状態（後退位置の状態に相当）とで状態変化するように前後方向にスライド変位されるスライド部材Ｂ３４２０と、を備える。
【１７１１５】
スライド部材Ｂ３４２０は、流路構成部Ｂ３４１０の球入口Ｂ３４１１付近の第１スライド部材Ｂ３４２１と、球出口Ｂ３４１２付近の第２スライド部材Ｂ３４２２と、が分かれて配置されており、これらが背面側で一体的に構成されることで、一体的にスライド変位する。
【１７１１６】
即ち、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態となるのに同期して第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となり、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態となるのに同期して第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態となるように、スライド部材Ｂ３４２０が一体的に構成される。
【１７１１７】
入賞ユニットＢ３４００に入球した球の流下態様のバリエーションについて説明する。球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態であった場合や、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態であったとしても極めて短時間（球が右側に案内されるのに要する時間（例えば、０．２秒）よりも短い時間）で退避状態に切り替えられた場合には、球は途中排出部Ｂ３４１３から流路構成部Ｂ３４１０の外方（左側外方）に排出される。途中排出部Ｂ３４１３を通過した球は、本実施形態では、第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂを逸れて流下するように構成される。
【１７１１８】
一方、球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が、球を案内するのに十分な長さ（例えば、０．２秒）で突出状態を維持した場合、球は流路構成部Ｂ３４１０の内部に案内される。
【１７１１９】
流路構成部Ｂ３４１０の内部に案内された球が球出口Ｂ３４１２に到達するタイミングで第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となっているか、退避状態となっているかで、その後の球の流下経路が変化する。
【１７１２０】
即ち、第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となっていれば、球は第２入賞口Ｂ６４０の真上を第２スライド部材Ｂ３４２２の上面を転動しながら通過して、第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下する。なお、本実施形態では、第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ１が配置されており、この検出センサＢＳＥ１が第５４実施形態における検出センサＢ４４２（図１５０８参照）と同様の働きをする。
【１７１２１】
即ち、検出センサＢＳＥ１により、球が球通過開口ＢＳＥ１ａを通過したことが検出されると、第１入賞口スイッチがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で特別図柄１の抽選がなされるよう構成される。
【１７１２２】

一方で、第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態となっていれば、球は第２入賞口Ｂ６４０側へ流下する。なお、本実施形態では、第２入賞口Ｂ６４０の上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ２が配置されており、この検出センサＢＳＥ２が第５４実施形態における検出センサＢ４６２（図１５１２参照）と同様の働きをする。

【１７１２３】

即ち、検出センサＢＳＥ２により、球が球通過開口ＢＳＥ２ａを通過したことが検出されると、第２入賞口スイッチがオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１５０５参照）で特別図柄２の抽選がなされるよう構成される。

【１７１２４】

第２スライド部材Ｂ３４２２の真下に第２入賞口Ｂ６４０が配置されており、球が第２入賞口Ｂ６４０に入り易い配置となっているが、検出センサＢＳＥ２とその真上の釘ＢＫＧ１との間隔や、その反対側（右側）における検出センサＢＳＥ２と流路構成部Ｂ３４１０との間隔は、球の直径よりも長くなるように設計されている。即ち、第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態とされており、第２入賞口Ｂ６４０側へ流下した球の内の何個かは、第２入賞口Ｂ６４０から逸れて流下し得るよう構成される。

【１７１２５】

なお、図示はしていないが、入賞ユニットＢ３４００の下側に小当たり遊技で開閉動作される可変入賞装置Ｂ６５が配設されることで、入賞ユニットＢ３４００よりも下方に流れた球（第２入賞口Ｂ６４０にも第３入賞口Ｂ６４ｂにも入球せずに逸れた球、例えば、途中排出部Ｂ３４１３側に流れた球）を小当たり遊技で開放された特定入賞口Ｂ６５ａに入球させることができる。

【１７１２６】

図１５５４（ｂ）に示すように、途中排出部Ｂ３４１３の形成を省略し、第１スライド部材Ｂ３４２１の真下に一般入賞口Ｂ６３を配置しても良い。この時、球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態であった場合や、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態であったとしても極めて短時間（球が右側に案内されるのに要する時間（例えば、０．２秒）よりも短い時間）で退避状態に切り替えられた場合には、その球は一般入賞口Ｂ６３に入球する。

【１７１２７】

なお、図１５５４（ｂ）に示す実施形態では、一般入賞口Ｂ６３の上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ３が配置されており、この検出センサＢＳＥ３が第５４実施形態における検出センサＢ４３５（図１５１２参照）と同様の働きをする。即ち、検出センサＢＳＥ３により、球が球通過開口ＢＳＥ３ａを通過したことが検出されると、特別図柄の抽選も普通図柄の抽選も実行されず、賞球の払い出しが実行される。

【１７１２８】

図１５５４（ｂ）に示すように、球出口Ｂ３４１２から左側へ排出された球を零すことが無いように、入賞口を近接配置させるようにしても良い。なお、図１５５４（ｂ）に示す実施形態では、球出口Ｂ３４１２に第３入賞口Ｂ６４ｂが近接配置されることで、第２スライド部材Ｂ３４２２の突出状態において流路構成部Ｂ３４１０の外方（左方）に案内された球が確実に第３入賞口Ｂ６４ｂに入球される。

【１７１２９】

これにより、釘ＢＫＧ１に衝突して流下経路が変化する等して第３入賞口Ｂ６４ｂから球が逸れる事態が生じ得る図１５５４（ａ）に示す実施形態に比較して、第２スライド部材Ｂ３４２２の突出状態において流路構成部Ｂ３４１０の外方（左方）に案内された球による賞球が得られない事態が発生することを避けることができる。

【１７１３０】

次いで、図１５５５を参照して、第５７実施形態について説明する。第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において電動役物Ｂ６４０ａが離れて配置される複数の部材から構成され、上流側の部材が球に当たるタイミングと下流側の部材が球に当たるタイミン

グとの間隔を長くする場合を説明したが、第５７実施形態の入賞ユニットＢ４４００では、電動役物Ｂ４４２０が単一の部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７１３１】

図１５５５（ａ）及び図１５５５（ｂ）は、第５７実施形態における入賞ユニットＢ４４００を模式的に示す模式図である。図１５５５（ａ）では、電動役物Ｂ４４２０が、ベース板Ｂ６０（図１５０３参照）とガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）との間の領域（遊技領域）に張り出して配置される前進位置とされる状態が図示され、図１５５５（ｂ）では、電動役物Ｂ４４２０が、遊技領域から退避して後方に配置される後退位置とされる状態が図示される。

【１７１３２】

図１５５５（ａ）及び図１５５５（ｂ）では、電動役物Ｂ４４２０の部分の内、入賞ユニットＢ４４００の内部において、球の通過を遮る位置に配置されている部分の外形を実線で図示すると共に内部をドット模様で塗って図示する一方、球の通過を遮らない（許容する）位置に配置されている部分の外形を想像線で図示する。

【１７１３３】

なお、図１５５５において、釘ＢＫＧ１は、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部が実線で図示され、正面側先端部の膨らんだ部分が想像線で図示される。

【１７１３４】

入賞ユニットＢ４４００は、遊技盤Ｂ１３のベース板Ｂ６０（図１５０３参照）とガラスユニットＢ１６（図１５０２参照）との間に配設される板状部材から形成され球の流下経路を構成する流路構成部Ｂ４４１０と、その流路構成部Ｂ４４１０の内方に配置され球の流下経路を変化させる電動役物Ｂ４４２０と、を備える。

【１７１３５】

電動役物Ｂ４４２０は、球を転動させる上面を有し前後方向に変位可能に案内される転動板部Ｂ４４２１と、その転動板部Ｂ４４２１の下流側端部から突出形成され、球の流下を妨害可能な程度の強度で形成される妨害棒部Ｂ４４２５と、を備える。

【１７１３６】

本実施形態では、流路構成部Ｂ４４１０の上流側端部に開放形成される球入口Ｂ４４１１を通り流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されているか、後退位置に配置されているかで、球の流下経路が異なる。

【１７１３７】

まず、流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されている場合（図１５５５（ａ）参照）、球は転動板部Ｂ４４２１の上面を転動して流路構成部Ｂ４４１０を左側（特定入賞口Ｂ６５ａ側）へ流れる。

【１７１３８】

この時、妨害棒部Ｂ４４２５は、ベース板Ｂ６０の前面に対して球の直径の１．５倍以上に離れた位置に配置される。例えば、流路構成部Ｂ４４１０とガラスユニットＢ１６との間に配設され流路構成部Ｂ４４１０を前側から覆う板状部材に形成される開口部に入り込むことで、流路構成部Ｂ４４１０内を流下する球の流下を妨害しない位置に配置される。

【１７１３９】

一方、流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されている場合（図１５５５（ｂ）参照）、球は転動板部Ｂ４４２１の正面側を流下して流路構成部Ｂ４４１０を下側（第２入賞口Ｂ６４０側）へ流れる。

【１７１４０】

この時、妨害棒部Ｂ４４２５は、流路構成部Ｂ４４１０を流下する球と衝突し球の通過

を妨害（防止）可能な前後位置に配置される。これにより、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されている場合（図１５５５（ｂ）参照）において、流路構成部Ｂ４４１０の板状部（例えば、転動板部Ｂ４４２１の下側に配置される板状部Ｂ４４１２）で跳ねた球が妨害棒部Ｂ４４２５に向けて飛んだとしても、その妨害棒部Ｂ４４２５を超えて（通過して）、特定入賞口Ｂ６５ａ側へ球を案内する案内部Ｂ４４１３を流れることを防止することができる。

【１７１４１】

即ち、妨害棒部Ｂ４４２５に向けて飛んだ球は、その妨害棒部Ｂ４４２５に左方への勢いを殺され、真下に落下して第２入賞口Ｂ６４０に入球するか、又は右方へ跳ね返された後に、板状部Ｂ４４１２の上面を転動して第２入賞口Ｂ６４０に入球することになる。

【１７１４２】

このように、本実施形態では、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるか後退位置に配置されるかによって、球入口Ｂ４４１１に入球した球は、電動役物Ｂ４４２０を下方へ通過して板状部Ｂ４４１２上を転動して流下する方向か、電動役物Ｂ４４２０を左方へ通過して案内部Ｂ４４１３上を転動して流下する方向か、のいずれかの方向に分けられる。

【１７１４３】

入賞ユニットＢ４４００のように経路および入賞口Ｂ６５ａ，Ｂ６４０を形成する目的の一つに、球入口Ｂ４４１１に入球した球の大多数を特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内する状態（案内状態）と、球入口Ｂ４４１１に入球した球の大多数を特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内しない状態（非案内状態）と、を切り替え可能に電動役物Ｂ４４２０の動作を制御することが考えられる。

【１７１４４】

この制御は、電動役物Ｂ４４２０の作動パターン（開閉の長さ）を切り替えることにより達成可能だが、電動役物Ｂ４４２０の転動板部Ｂ４４２１の左右長さが短いと、非案内状態とされていても、球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内される事態が生じ易い。

【１７１４５】

例えば、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置される時間を、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置された数秒後に到達した球が転動板部Ｂ４４２１を通過するのに要する時間よりも短く設定したとしても、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるのと同時に球が到達した場合（球の到達タイミングと電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるタイミングとのずれがほとんど無い場合）や、球が通常よりも勢いが大きい状態（例えば、加速する方向の回転が生じている状態）で到達した場合には、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置されている内に球が案内部Ｂ４４１３側へ通過してしまう事態が生じ得る。

【１７１４６】

この対策として、第１に、通常は左右長さが５５ｍｍ以下で設計される転動板部Ｂ４４２１の左右長さを、それ以上の長さ（例えば、７７ｍｍや、１００ｍｍ）で設計しても良い。この場合、電動役物Ｂ４４２０の非案内状態として、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置される時間の設計自由度を向上させることができる。

【１７１４７】

また、転動板部Ｂ４４２１の左右幅を長く設計することにより、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されている状態において転動板部Ｂ４４２１に乗る球の個数を増加させることができる。

【１７１４８】

通常の左右長さ（５５ｍｍ以下）で転動板部Ｂ４４２１が形成されている場合、転動板部Ｂ４４２１に同時に乗る球はせいぜい２個～３個といったところであるが、それ以上の長さ（例えば、１００ｍｍ）で転動板部Ｂ４４２１が形成される場合、転動板部Ｂ４４２１に同時に４個以上の球が乗る状態を生じさせることができる。

【１７１４９】

転動板部Ｂ４４２１に同時に４個以上の球が乗っている状態で電動役物Ｂ４４２０が後

退位置に変位すると、４個以上の球が一度に第２入賞口Ｂ６４０側へ案内されるので、短時間で特別図柄２の保留個数を４個（満タン）にすることができる。

【１７１５０】

また、第５４実施形態で説明したように、球が１個ずつ電動役物６４０に案内される場合と異なり、電動役物Ｂ４４２０の上面に乗っている複数個の球は、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に変位した直後に同時に第２入賞口Ｂ６４０側へ落下するので、複数個の球を第２入賞口Ｂ６４０側に流下させるために電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置を維持することが要求される時間長さを短くすることができる。即ち、電動役物Ｂ４４２０の作動パターンの設計自由度を向上させることができる。

【１７１５１】

次の対策として、第２に、転動板部Ｂ４４２１が前進位置から後退位置へ変位する間際に転動板部Ｂ４４２１の下流側端部から案内部Ｂ４４１３へ移る球の流れを、妨害棒部Ｂ４４２５により断ち切ることができるよう構成することができる。

【１７１５２】

即ち、妨害棒部Ｂ４４２５の配設位置が、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部よりも案内部Ｂ４４１３側へ張り出す位置（本実施形態では、転動板部Ｂ４４２１の上面と直交して斜め左上方向に張り出すことで案内部Ｂ４４１３側に張り出している）とすることで、電動役物Ｂ４４２０の案内状態（図１５５５（ａ）参照）において転動板部Ｂ４４２１の下流側端部を球が通過しようとする場合であっても、その直後に電動役物Ｂ４４２０が非案内状態（図１５５５（ｂ）参照）とされれば、その通過した球の流れを妨害棒部Ｂ４４２５により遮ることができる。

【１７１５３】

これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さが短い場合であっても、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置される状態から、後退位置に配置される状態に切り替わる直前に、案内部Ｂ４４１３へ移る球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内されがたくすることができる。

【１７１５４】

換言すれば、転動板部Ｂ４４２１を左側に通過しようとする球を妨害棒部Ｂ４４２５により第２入賞口Ｂ６４０側に引き戻すことができる。これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さを最大限に使って、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置される状態において電動役物Ｂ４４２０に乗る球の個数を増やすことができ、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されることで第２入賞口Ｂ６４０側へ落下させる球の個数を増やすことができる。

【１７１５５】

また、これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さから想定される球の個数よりも多くの球を、電動役物Ｂ４４２０が前進位置から後退位置に変位した直後に第２入賞口Ｂ６４０側に流下させることができる。

【１７１５６】

即ち、転動板部Ｂ４４２１に乗っている球に加えて、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部を通過しかけた後で妨害棒部Ｂ４４２５に引き戻される（逆流させられる）球をも第２入賞６４０側に流下させることができるので、第２入賞口Ｂ６４０の入賞頻度を向上させることができる。

【１７１５７】

一方で、流路構成部Ｂ４４１０は、球入口Ｂ４４１１を除き電動役物Ｂ４４２０側に球が流入しないように流路を上から覆う態様で天井部Ｂ４４１４が形成される。即ち、電動役物Ｂ４４２０への球の導入は、球入口Ｂ４４１１に限定されることから、電動役物Ｂ４４２０上に滞留する球の個数が想定を超えて多くなる事態（例えば、球が２段以上に積み重なるような態様で滞留する事態）の発生を防止することができる。

【１７１５８】

このように、本実施形態によれば、転動板部Ｂ４４２１上を球が通過するか否かで球の流下経路が切り替えられる。即ち、電動役物Ｂ４４２０が前進位置で維持される期間が、転動板部Ｂ４４２１上を球が通過するのに要する時間を超える場合に、初めて球が特定入

賞口Ｂ６５ａ側へ流れることになる。
【１７１５９】
この点は、上述の第５４実施形態で説明したように、先端部Ｂ４５１さえ通過していれば左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３上を球が通過していようがいまいが、球の流下経路の切り替えには影響しない場合とは異なる。
【１７１６０】
なお、図１５５５（ａ）に図示される電動役物Ｂ４４２０の状態が、上述した第５４実施形態における電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態に相当し、図１５５５（ｂ）に図示される電動役物Ｂ４４２０の状態が、上述した第５４実施形態における電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の励磁状態に相当する。この場合において、転動板部Ｂ４４２１がスライド部材Ｂ４５０に相当し、妨害棒部Ｂ４４２５が傾倒部材Ｂ４７０に相当する。
【１７１６１】
次いで、図１５５６を参照して、第５８実施形態について説明する。第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００が、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下する場合を説明したが、第５８実施形態の上側可変入賞装置Ｂ５７００では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球の流下を切り替えるための切替装置Ｂ５７７０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７１６２】
図１５５６（ａ）及び図１５５６（ｂ）は、図１５０３の範囲ＭＤＸＸＸＶＩＩＩａにおける第５８実施形態における上側可変入賞装置Ｂ５７００の正面図である。図１５５６（ａ）では、上側可変入賞装置Ｂ５７００の閉鎖状態が図示され、図１５５６（ｂ）では、上側可変入賞装置Ｂ５７００の開放状態が図示される。
【１７１６３】
図１５５６（ａ）及び図１５５６（ｂ）に示すように、第５８実施形態における上側可変入賞装置Ｂ５７００は、第５４実施形態における基礎板部材Ｂ７１０の構成を部分的に流用して形成される基礎板部材Ｂ５７１０を備える。
【１７１６４】
基礎板部材Ｂ５７１０は、傾斜外壁板部Ｂ７１４から下側の構成の配置を下方に下げ、それにより傾斜転動板部Ｂ７１３と傾斜外壁板部Ｂ７１４との間にできた空間に、左右一対の中間板部Ｂ５７１８と、その中間板部Ｂ５７１８の一部と縁部が沿う形状で前後方向に穿設され中間板部Ｂ５７１８に受け入れられた球を背面側へ排出する左右一対の排出開口Ｂ５７１９と、を備える。
【１７１６５】
中間板部Ｂ５７１８は、傾斜転動板部Ｂ７１３と傾斜外壁板部Ｂ７１４との間にできた空間に向けて正面側に延設される板状部であって、左右外側端部からの球の零れを防止するための防止壁部Ｂ５７１８ａと、その防止壁部Ｂ５７１８ａの下端部と接続され第２特定入賞口Ｂ７００ａの左右方向位置側へ向けて上昇傾斜する方向に延設される傾斜板部Ｂ５７１８ｂと、その傾斜板部Ｂ５７１８ｂの延設端部と接続され切替装置Ｂ５７７０の球受回転部材Ｂ５７７１の回転軸ＢＪ５１を中心として球受回転部材Ｂ５７７１の半径よりも若干長い曲率半径の円弧形状で形成される円弧板部Ｂ５７１８ｃと、を備える。
【１７１６６】
切替装置Ｂ５７７０は、回転軸ＢＪ５１を回転中心として回転動作可能に構成される球受回転部材Ｂ５７７１と、その球受回転部材Ｂ５７７１に左右から対向配置される位置に左右一対で配設される流下規制部材Ｂ５７７８と、を備える。
【１７１６７】
流下規制部材Ｂ５７７８は、回転軸ＢＪ５１を中心として球受回転部材Ｂ５７７１の半径よりも若干長い曲率半径の円弧形状で形成され、基礎板部材Ｂ５７１０の部材前面よりも正面側に張り出して球受回転部材Ｂ５７７１から排出される球の通過を規制する前進位

置と、基礎板部材Ｂ５７１０の部材前面よりも背面側に退避して球受回転部材Ｂ５７７１から排出される球の通過を許容する後退位置と、で変位可能に構成される。
【１７１６８】
球受回転部材Ｂ５７７１は、第２特定入賞口Ｂ７００ａの左右中心の真下に配置され前後方向に延びる回転軸ＢＪ５１を中心に回転動作可能とされる円板形状部材であって、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球を受け入れ可能となるように外周側から凹設される球受凹部Ｂ５７７２が９０度間隔で４箇所形成される。
【１７１６９】
球受回転部材Ｂ５７７１を駆動する駆動装置と、流下規制部材Ｂ５７７８を駆動する駆動装置とは、ソレノイドＢ７６３（図１５４１参照）とは異なる駆動装置（図示せず）が利用される。この場合において、球受回転部材Ｂ５７７１を駆動する駆動装置が流下規制部材Ｂ５７７８を駆動する駆動装置に兼用されても良い。
【１７１７０】
本実施形態では、１ラウンド目のラウンド遊技において、ソレノイドＢ７６３は第１の特別作動パターン（図１５４３（ａ）参照）で駆動され、球受回転部材Ｂ５７７１は、９０度／秒の回転速度で時計回り方向に常時回転される。
【１７１７１】
流下規制部材Ｂ５７７８は、１ラウンド目のラウンド遊技における動作態様が、大当たり種別に応じて変化可能に設定される。例えば、大当たりＡ，Ｂ，ａ，ｂ（図１５４５参照）では、常に前進位置で固定され、大当たりＣでは、常に後退位置で固定され、大当たりｃでは、１秒ごとに前進位置と後退位置とが切り替えられるよう駆動される。
【１７１７２】
第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球の流下態様について説明する。本実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、球受回転部材Ｂ５７７１のいずれかの球受凹部Ｂ５７７２に必ず受け入れられる。
【１７１７３】
球が球受凹部Ｂ５７７２に受け入れられた状態で球受回転部材Ｂ５７７１が回転することで、球受凹部Ｂ５７７２の配置の変化に伴って、球受凹部Ｂ５７７２に受け入れられた球も変位する。
【１７１７４】
球受回転部材Ｂ５７７１の回転中において、球受凹部Ｂ５７７２の下側縁部（球受凹部Ｂ５７７２の回転軸ＢＪ５１を中心とした径方向外側端部における一対の縁部の内の下側の縁部。球の流下面を形成する側）が傾斜板部Ｂ５７１８ｂの上面と面一になった時に、流下規制部材Ｂ５７７８が後退位置に配置されている場合、傾斜板部Ｂ５７１８ｂと面一になった球受凹部Ｂ５７７２から球が排出されることになり、その球は排出開口Ｂ５７１９を通り上側可変入賞装置Ｂ５７００から排出される。このように排出される球は、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留されることは無い。
【１７１７５】
一方、球受回転部材Ｂ５７７１の回転中において、球受凹部Ｂ５７７２の下側縁部が傾斜板部Ｂ５７１８ｂの上面と面一になった時に、流下規制部材Ｂ５７７８が前進位置に配置されている場合、球の排出が流下規制部材Ｂ５７７８により規制され、球受凹部Ｂ５７７２から球が排出されることなく球受回転部材Ｂ５７７１の回転が継続される。その後、球受凹部Ｂ５７７２が左右一対の円弧板部Ｂ５７１８ｃの間の位置に配置されると、球は一対の円弧板部Ｂ５７１８ｃの隙間を通って、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下し、貯留され得る。
【１７１７６】
即ち、本実施形態では、切替装置Ｂ５７７０の動作態様に対応して、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下する場合と、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に到達することなく排出される場合と、を構成することができる。

【１７１７７】
そのため、第１の特別作動パターンで移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が駆動されることで、ラウンド遊技中は一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に案内された球が排出されずに貯留される態様であっても、特に大当たりｃの場合のように、ラウンド遊技中における流下規制部材Ｂ５７７８の配置が切り替わる場合には、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球タイミング次第で、一対の貯留板部Ｂ７１５に案内される球の個数が十分多くなる場合（本実施形態では、５個以上となる場合）と、それよりも少ない場合とが生じ得るので、遊技者の上側可変入賞装置Ｂ７００に対する注目力を向上させることができる。
【１７１７８】
また、切替装置Ｂ５７７０から一対の貯留板部Ｂ７１５側に球が１個通過すれば良いのではなく、１対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置を満タンにする個数を超える個数（本実施形態では５個以上）の球が通過して初めて開口部Ｂ７５１に球を確実に通過させることができるようになるので、遊技者の上側可変入賞装置Ｂ７００に対する注目力を長い間高い状態で維持することができる。
【１７１７９】
本実施形態によれば、球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するまでよりも、球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過して球受回転部材Ｂ５７７１により変位されている時の方が、球の流下速度が遅くされる。これにより、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に到達するまでの時間を遅らせることができる。従って、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された直後に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が即座に一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に到達することを回避することができる。
【１７１８０】
次いで、図１５５７から図１５５９を参照して、第５９実施形態について説明する。第５４実施形態では、時間表示Ｂ８１１により大当たり遊技のエンディング演出の終了時を把握できる場合を説明したが、第５９実施形態における発射時間表示Ｂ６８１１では、エンディング演出の終了時直前における適切な球の発射タイミングを把握できるように第３図柄表示装置Ｂ８１の表示が設計される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７１８１】
図１５５７（ａ）及び図１５５７（ｂ）は、第５９実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１５５７（ａ）では、枠ボタンＢ２２（図１５４６参照）を操作することにより特定表示Ｂ８１０が中央から移動された後における表示画面が図示され、図１５５７（ｂ）では、図１５５７（ａ）に示す状態において枠ボタンＢ２２を操作することで切り替えられた後における表示画面が図示される。
【１７１８２】
本実施形態では、図１５５７（ｂ）に示すように、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタンＢ２２を操作すると、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛表示８１８が、球を発射して狙うと遊技者が利益を得られる可能性がある位置を示唆する発射位置示唆表示Ｂ６８２０に切り替えられ、時間表示Ｂ８１１に重ねて、発射時間表示Ｂ６８１１が表示される。
【１７１８３】
発射位置示唆表示Ｂ６８２０は、遊技領域（の少なくとも一部）のイラストや写真等を（模式的に）表示する遊技領域表示Ｂ６８２１と、その遊技領域表示Ｂ６８２１の一部を矢印などで指し示し、球を発射して狙うべきであることが遊技者に分かるように表示する目標示唆表示Ｂ６８２２と、を備える。
【１７１８４】
本実施形態では、発射位置示唆表示Ｂ６８２０は、遊技領域表示Ｂ６８２１として、遊

技盤Ｂ１３（図１５０３参照）の全体が表示され、目標示唆表示Ｂ６８２２として、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７（図１５０３参照）が指し示されると共に「ここを狙って」とのコメントが表示される。

【１７１８５】

なお、発射位置示唆表示Ｂ６８２０はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技領域表示Ｂ６８２１として遊技盤Ｂ１３の全体を表示するのではなく、遊技盤Ｂ１３の一部を表示するようにしても良い。例えば、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を含む一部として、風車ＢＷＦ（図１５０３参照）よりも上側の部分のみが表示されるようにしても良いし、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７周辺（又はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７のいずれかの周辺）のみが表示されても良い。

【１７１８６】

遊技盤Ｂ１３の一部を表示するような場合において、遊技領域表示Ｂ６８２１は静止画として表示されても、動画として表示されても良い。例えば、発射位置示唆表示Ｂ６８２０において、これから発射される球の周辺を模式的に表示するものとして遊技領域表示Ｂ６８２１を構成し、その球が発射されて流下してスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するという経路に沿って遊技領域表示Ｂ６８２１を動かして（動画として表示して）、球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達したら遊技領域表示Ｂ６８２１をスルーゲートＢ６６，Ｂ６７周辺の表示で固定する（静止画として表示する）ようにしても良い。

【１７１８７】

また、例えば、目標示唆表示Ｂ６８２２として、球を発射して狙う位置を指し示すために矢印を表示するのではなく、その位置を光らせるように表示しても良いし、その位置を除く他の部分を暗く表示することで相対的に目立たせるように表示しても良い。

【１７１８８】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置は初めから固定されても良いし、移動した後で固定されるようにしても良い。例えば、球が発射される経路に沿って光を移動させて、その光がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７まで到達したら、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達した位置で光を固定するようにしても良い。

【１７１８９】

このように、発射位置示唆表示Ｂ６８２０が表示されることで、遊技者は、エンディング演出の終了後にどこを狙って球を発射するべきなのかを容易に把握することができる。これにより、エンディング演出の終了後における遊技の進行をスムーズにすることができる。

【１７１９０】

発射時間表示Ｂ６８１１は、時間表示Ｂ８１１と同様に、時間経過とともに右先端部が右方へ移動するものとして表示され、その移動速度は時間表示Ｂ８１１の移動速度と同じとされる。また、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部は、時間表示Ｂ８１１の右先端部よりも終端位置Ｂ８１２側に配置されており、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するよりも前に、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達する。

【１７１９１】

本実施形態では、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングから、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングまでに経過する時間長さは、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７（目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置）に到達するまでに経過する平均的な長さよりも若干長くなるように設計される。

【１７１９２】

そのため、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングで発射された球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでに、現在実行中の大当たり遊技のエンディング演出が終了する。

【１７１９３】

このように、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、発射した球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を大当たり遊技中（エンディング演出の終了前）に通過することを避けることができる。これにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が検出されることにより実行される第２図柄の抽選において遊技者が得られる利益の最大化を図ることができる。

【１７１９４】

即ち、一般的には大当たり遊技中にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が検出されることにより実行される第２図柄の抽選は、通常中の確率で行われるので、遊技者が得られる利益は最小となる。大当たり遊技の終了後であれば、大当たり種別に応じて第２図柄の抽選の確率が上昇し得るので、球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を大当たり遊技中に通過することを避けることで、第２図柄の抽選において遊技者が得られる利益（電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンの違いにより変化する利益）の最大化を図ることができる。

【１７１９５】

更に、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達してから球を発射する場合に比較して、大当たり遊技終了から、その大当たり遊技終了後において球が初めてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでの時間長さを短くすることができる。

【１７１９６】

このように、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、大当たり遊技終了間際に発射した球が大当たり遊技中（エンディング演出の終了前）にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過する事態の発生を最小限に抑えることで遊技者が得られる利益の最大化を図りながら、大当たり遊技終了後に球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでの期間を短縮することで遊技の進行をスムーズにすることができる。

【１７１９７】

図１５５８は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１５５８では、図１５５７（ｂ）に示す状態から発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達した時における表示画面が図示される。

【１７１９８】

図１５５８に示すように、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達すると、目標示唆表示Ｂ６８２２の表示態様が切り替わる。本実施形態では、目標示唆表示Ｂ６８２２においてコメントを囲む枠の形状が変化されると共に、「狙って」の部分が拡大される。

【１７１９９】

即ち、目標示唆表示Ｂ６８２２の「狙って」の部分が拡大されるタイミングは、発射示唆表示６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと一致する。そのため、遊技者に発射時間表示Ｂ６８１１を視認させずとも、発射位置示唆表示Ｂ６８２０を視認させるようにすれば、目標示唆表示Ｂ６８２２の変化のタイミングから適切な発射タイミングで球を発射させるように遊技者に促すことができる。

【１７２００】

これにより遊技者は、発射位置示唆表示Ｂ６８２０を視認することで、球を発射して狙う位置だけでなく、球を発射するタイミングをも把握することができる。従って、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示から必要な上方を取捨選択して遊技する遊技者の遊技負担を低減することができる。

【１７２０１】

図１５５９（ａ）及び図１５５９（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１５５９（ａ）では、図１５５７（ａ）に示す状態からエンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出された場合に切り替えられる表示画面が図示される。

【１７２０２】

また図１５５９（ｂ）では、図１５５９（ａ）の表示から時間が経過して、仮に発射示

唆表示６８１１が表示されていた場合に発射示唆表示６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングにおける表示が図示される。即ち、図１５５９（ｂ）における時間表示Ｂ８１１の右先端部の配置は、図１５５８における時間表示Ｂ８１１の右先端部の配置と同じである。

【１７２０３】

図１５５９（ａ）に示すように、図１５５７（ａ）に表示される状態から枠ボタンＢ２２（図１５４６参照）を操作することなく遊技者が球を発射した場合において、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出された場合、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛表示８１８が、遊技者に球の発射を停止することを促すための遊技停止示唆表示Ｂ６８３１に切り替えられる。

【１７２０４】

本実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１として、鉄道の踏切に設置される遮断機を模したイラストであって、遮断機が降りている状態の静止画が表示されると共に、「止めろ」とのコメントが表示される。これにより、球の発射を止めることを遊技者に促すことができるので、エンディング演出の終了前に発射される球の個数を減少させることができる。

【１７２０５】

図１５５９（ｂ）に示すように、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示された状態から時間が経過すると、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１は、遊技者に球の発射の準備を促すための遊技準備示唆表示Ｂ６８４１に切り替えられる。

【１７２０６】

本実施形態では、遊技準備示唆表示Ｂ６８４１として、鉄道の踏切に設置される遮断機を模したイラストであって、遮断機が上がっている状態の静止画が表示されると共に、「始め」とのコメントが表示される。これにより、球の発射を停止する期間が終了したことを遊技者に把握させることができ、遊技者に球の発射の準備をするように促すことができる。

【１７２０７】

本実施形態では、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作しない場合には発射時間表示Ｂ６８１１（図１５５７（ｂ）参照）は表示されないが、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１から遊技準備示唆表示Ｂ６８４１に切り替えられるタイミングは、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと一致する。

【１７２０８】

そのため、図１５５７（ａ）に示す状態で枠ボタンＢ２２を操作することで得られる利益（即ち、発射時間表示Ｂ６８１１を視認することで適切な球の発射タイミングを把握できる利益）と同様の利益を、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球が検出された場合に得ることができる。

【１７２０９】

これにより、例えば、枠ボタンＢ２２の故障などにより枠ボタンＢ２２の操作が行われない場合に、遊技者が得られる利益が過度に減少することを避けることができる。即ち、枠ボタンＢ２２の操作が行われないことで発射位置示唆表示Ｂ６８２０（図１５５７（ａ）参照）の表示が行われないために、遊技者が適切な球の発射タイミングを把握することができずに、エンディング演出の終了前にも関わらず遊技者が球の発射を開始した場合であっても、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１又は遊技準備示唆表示Ｂ６８４１が表示されることで、遊技者に球の発射を停止させたり、適切なタイミングで遊技者に球の発射の準備をさせたりすることができる。

【１７２１０】

なお、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１や遊技準備示唆表示Ｂ６８４１の態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遮断機のイラストではなく、パチンコ機Ｂ１０のハンドルＢ５１（図１５０２参照）の絵に×マークが付されたイラストを表示するようにしても良い。例えば、静止画ではなく動画として構成しても良い。例え

ば、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の一部ではなく表示画面の全体で表示するように構成しても良い。

【１７２１１】

なお、注意コメント表示Ｂ８１５や第２注意コメント表示Ｂ８１９の内容は、図１５５９に図示した内容に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、球の発射に対応した内容としても良い。即ち、ハンドルＢ５１（図１５０２参照）を模したイラストを表示して、ハンドルＢ５１に反時計回りの矢印を併記することで、球の発射を停止することを示唆するようにしたり、ハンドルＢ５１に時計回りの矢印を併記することで、球の発射開始タイミングを示唆するようにしたりしても良い。また、特別図柄の保留球数に対応するコメント（「満タン」、とか「空き１個あり」とか）を表示するようにしても良い。

【１７２１２】

次いで、図１５６０及び図１５６１を参照して、第６０実施形態について説明する。第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタンＢ２２を操作すると、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が表示され、光量の強弱や音量の大小の調整が可能となる場合を説明したが、第６０実施形態における状況示唆表示Ｂ７８２１では、遊技者により行われた光量や音量の設定に対する、現在実行中の光量や音量の設定についてのコメントが表示されるように設計される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７２１３】

図１５６０（ａ）、図１５６０（ｂ）及び図１５６１は、第６０実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１５６０（ａ）及び図１５６１では、エンディング演出として同じタイミング（時間表示Ｂ８１１の右先端部の位置が同じタイミング）の異なる大当たり遊技における表示画面が図示され、図１５６０（ｂ）では、図１５６０（ａ）に示す状態から時間が経過した後における表示画面が図示される。

【１７２１４】

本実施形態では、図１５６０（ａ）に示すように、エンディング演出における枠ボタン表示Ｂ８１３（図１５４９（ｂ）参照）に従って枠ボタンＢ２２（図１５４６参照）を操作すると、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が表示されると共に、その上方に状況示唆表示Ｂ７８２１が表示される。

【１７２１５】

状況示唆表示Ｂ７８２１は、種々のコメントが表示されるように設計されているが、図１５６０（ａ）では「キャンセル」と記載されており、光量や音量の設定の変更が初期化された（最大値に戻された）ことを示唆している。

【１７２１６】

即ち、本実施形態では、光量や音量の設定が、設定変更の実行から規定の時間が経過することにより音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１５０５参照）により初期化される（最大値に戻される）よう設定されており、その初期化が実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において、状況示唆表示Ｂ７８２１に「キャンセル」のコメントが表示されるようになっている。

【１７２１７】

これにより、例えば、方向操作部Ｂ４５（図１５４６参照）の左スイッチ及び下スイッチ（音量や光量を弱める側に変化させるために操作するスイッチ）は機能するが、右スイッチ及び上スイッチ（音量や光量を強める側に変化させるために操作するスイッチ）は故障している場合に、光量や音量を一度最低まで下げたら、それ以降は遊技者が変わっても光量や音量を一切上げることができないという事態の発生を避けることができる。

【１７２１８】

遊技者は状況示唆表示Ｂ７８２１に「キャンセル」のコメントが表示されたことを視認することで、光量や音量の設定の変更が初期化された（最大値に戻された）ことを把握できる。直前に光量や音量の設定の変更を行った遊技者と、現在遊技を行っている遊技者とが同じ場合、光量や音量の設定を、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に戻したいと考えると思われる。

【１７２１９】

これに対し、本実施形態では、その初期化が実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において、その初期化（最大値に戻される）の直前の状態における光量の設定が、縦目盛り表示Ｂ８１７に過去光量表示Ｂ７８１７として残され（薄塗りで図示される部分に相当）、その初期化（最大値に戻される）の直前の状態における音量の設定が、横目盛り表示Ｂ８１８に過去音量表示Ｂ７８１８として残される（薄塗りで図示される部分に相当）。

【１７２２０】

そのため、遊技者は、過去光量表示Ｂ７８１７を目印に方向操作部Ｂ４５を操作して光量の設定変更を行い、且つ過去音量表示Ｂ７８１８を目印に方向操作部Ｂ４５を操作して音量の設定変更を行うことで、光量や音量の設定を、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に容易に復帰させることができる。

【１７２２１】

上述したように、過去光量表示Ｂ７８１７及び過去音量表示Ｂ７８１８は、光量や音量の初期化が音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１５０５参照）により実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において表示される一方で、そのタイミングを逃すと表示が消失するように設定され、光量や音量の設定の変更の手間が増える（難易度が上がる）ようになっている。

【１７２２２】

これにより、過去光量表示Ｂ７８１７及び過去音量表示Ｂ７８１８が表示されているタイミングで方向操作部Ｂ４５を操作するように遊技者に仕向けることができるので、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１７２２３】

図１５６０（ｂ）に示すように、遊技者が方向操作部Ｂ４５を操作することで光量や音量の設定が初期化（最大値に戻される）の直前の状態に復帰されると、状況示唆表示Ｂ７８２１の「キャンセル」とのコメントが、「復帰完了」とのコメントに切り替えられる。

【１７２２４】

遊技者は状況示唆表示Ｂ７８２１に「復帰完了」のコメントが表示されたことを視認することで、光量や音量の設定が、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に復帰できたことを把握することができる。これにより、設定変更が実行できたので、規定の時間が経過するまでは、音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１５０５参照）による光量や音量の初期化（最大値に戻される）は行われない。

【１７２２５】

図１５６１に示す表示では、状況示唆表示Ｂ７８２１に「自動継続」とのコメントが表示されており、音量や光量の設定は、遊技者により設定された状態で維持されている。そのため、遊技者は音量や光量の設定の変更を行う必要が無いので、時間表示Ｂ８１１の動きに注視し、球の発射タイミングを図ることに集中することができる。

【１７２２６】

このように、エンディング演出における状況示唆表示Ｂ７８２１の内容を変化させ、その内容次第で、遊技者に光量や音量の設定の変更のための方向操作部Ｂ４５の操作を促せるように構成することで、エンディング演出に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１７２２７】

次いで、図１５６２から図１５６４を参照して、第６１実施形態について説明する。第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中において常に枠ボタン表示Ｂ８１３

が表示されており枠ボタンＢ２２の操作が可能となる場合を説明したが、第６１実施形態における枠ボタン表示Ｂ８８１３は、カード忘れ防止表示演出の実行中における、更に限定された期間において実体として表示され、枠ボタンＢ２２の操作が可能となる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７２２８】

図１５６２（ａ）、図１５６２（ｂ）及び図１５６３は、第６１実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を時系列で例示した図である。図１５６２（ａ）、図１５６２（ｂ）及び図１５６３では、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示は、半透明に表示されている場合が想像線で図示され、実体として表示されている場合が実線で図示される。

【１７２２９】

本実施形態においてカード忘れ防止表示演出が開始されると、図１５６２（ａ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に特定表示Ｂ８１０が表示されることに加えて、複数の半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が表示画面の縁部付近に点在するように表示される。枠ボタン表示Ｂ８８１３は、時間経過に伴って表示画面の中央に向けて移動する。

【１７２３０】

半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に到達して合体すると、図１５６２（ｂ）に示すように枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化する。枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化した状態において枠ボタンＢ２２の入力が有効となるように制御されており、枠ボタンＢ２２の入力が有効に検出されると第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に操作有効表示Ｂ８８１３ａ（本実施形態では、「Ｇｏｏｄ」とのコメント）が表示され、その後、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面が第５４実施形態で説明した図１５５０（ａ）に図示される状態に移行する。

【１７２３１】

遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行して、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を図１５５０（ａ）に図示される状態に移行させたい場合、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するタイミングを図るために、遊技者は移動する枠ボタン表示Ｂ８８１３を目で追うことになる。

【１７２３２】

枠ボタン表示Ｂ８８１３の移動経路上には特定表示Ｂ８１０が表示されているので、枠ボタン表示Ｂ８８１３を目で追う遊技者の視界に特定表示Ｂ８１０が入るように仕向けることができる。また、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化する位置を特定表示Ｂ８１０が表示される位置と重ねることで、遊技者が枠ボタン表示Ｂ８８１３の背後に表示される特定表示Ｂ８１０に注目するように仕向けることができる。

【１７２３３】

そもそも、カード忘れ防止表示演出が開始されてから、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するまでの期間は、特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示されるので、カード忘れ防止表示演出の開始直後に枠ボタンＢ２２を操作可能とされ特定表示Ｂ８１０を即座に表示画面の隅に移動させられる場合に比較して、特定表示Ｂ８１０が遊技者の視界に入り易くすることができる。

【１７２３４】

枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化した状態で枠ボタンＢ２２を操作しなかった場合、図１５６３に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央位置から外側へ向けて半透明に表示される枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動する。

【１７２３５】

図１５６３に示す状態では、枠ボタンＢ２２の入力が無効となるように制御されており、枠ボタンＢ２２が入力操作されても第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に操作無効表示Ｂ８８１３ｂ（本実施形態では、「Ｍｉｓｓ」とのコメント）が表示されるだけであり、表示画面は図１５５０（ａ）に図示される状態には移行されず、特定表示Ｂ８１０が表示

画面の中央に配置される状態で維持される。
【１７２３６】
このように、本実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中における枠ボタンＢ２２の操作タイミングを限定することで、以下のような好ましい作用を生じさせることができる。
【１７２３７】
即ち、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様が半透明の表示から実体としての表示に変わることで枠ボタンＢ２２を操作可能なタイミングを示唆する場合において、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様が変わるまでは特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に配置され、遊技者の視界に入り易いように構成されているので、特定表示Ｂ８１０に対する注目力を向上することができる。
【１７２３８】
更に、カード忘れ防止表示演出の途中において枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体としての表示から半透明の表示に切り替えられることで、枠ボタンＢ２２を操作して表示画面が図１５５０（ａ）に図示される状態に移行されるタイミングから、カード忘れ防止表示演出期間の終端までの期間が短くなりすぎることを回避することができる。
【１７２３９】
これにより、遊技者が枠ボタンＢ２２を有効に操作したにも関わらず、カード忘れ防止表示演出が終了するまでに光量や音量の設定を変更するのに十分な時間を確保できなかったために、光量や音量を好みの設定まで変更させることができない事態が生じることを避けることができる。
【１７２４０】
従って、せっかく枠ボタンＢ２２を操作しても光量や音量の設定を好みの状態まで変更させることができなかったという経験をした遊技者が、枠ボタンＢ２２の操作の価値を低く見積もるという事態が発生することを避けることができる。これにより、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作（エンディング演出中の操作のみならず、遊技中における操作）に対する意欲が低下するという事態の発生を未然に回避することができる。
【１７２４１】
なお、枠ボタン表示Ｂ８８１３に音符のマークや、電球のマークを付属させることで、枠ボタンＢ２２の操作により調整できる対象を示唆するようにしても良い。この場合、遊技者が音量の調整をしたいと考えている時には、音符のマークが付属されている場合には枠ボタン表示Ｂ８８１３への注目力を向上させることができ、電球のマークが付属されている場合には枠ボタン表示Ｂ８８１３から注意を逸らすことができる。
【１７２４２】
図１５６４は、カード忘れ防止表示演出における枠ボタン表示Ｂ８８１３の計時変化、枠ボタンＢ２２の操作の有効性の計時変化および枠ボタンＢ２２の操作の一例を示した図である。図１５６４では、一例として、カード忘れ防止表示演出の期間を等分に三分割し、半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が点在する第１期間ＢＴ８１（図１５６２（ａ）参照）と、枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体して実体化する第２期間ＢＴ８２（図１５６２（ｂ）参照）と、再び半透明になり枠ボタン表示Ｂ８８１３が点在する第３期間ＢＴ８３（図１５６３参照）と、にそれぞれ割り当てられた場合が図示されている。
【１７２４３】
カード忘れ防止表示演出の期間中にいつでも枠ボタンＢ２２を操作できた第５４実施形態と異なり、本実施形態では、第２期間ＢＴ８２においてのみ枠ボタンＢ２２の操作が有効とされる。第２期間ＢＴ８２で枠ボタンＢ２２を操作すれば、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面が図１５５０（ａ）に図示される状態に移行され、光量や音量の設定変更が可能となる。一方で、第１期間ＢＴ８１や第３期間ＢＴ８３で枠ボタンＢ２２をいくら操作しても、光量や音量の設定変更は不可能となるように制御されている。
【１７２４４】
図１５６４では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が同じ場合を図示したが、各期

間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さは目的に応じて種々の態様に変更可能とされる。以下、第１期間８１の長さの変化または第３期間ＢＴ８３の長さの変化により期待できる作用の一例について説明する。

【１７２４５】

例えば、第１期間ＢＴ８１をより短く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる第２期間ＢＴ８２への移行が早まる。そのため、光量や音量の設定の変更に費やせる期間の最大長さを長くすることができる。

【１７２４６】

第１期間ＢＴ８１を短くする設定は、例えば、初当り（連荘の一回目の大当たり）の大当たり遊技におけるエンディング演出で採用することが効果的である場合がある。時短状態や確変状態や大当たり遊技中においては、特定の歌が流れる場合があり、通常状態における音声には興味が無いが、特定の歌は聞きたいという遊技者がいる。

【１７２４７】

このような遊技者は、通常状態では音量を下げて遊技を行っていても、通常状態から大当たり遊技状態を経て、時短状態や確変状態へ移行する場合において、特定の歌が聞こえる程度まで音量を上げたいと考えている。

【１７２４８】

そのため、特に、初当りの大当たり遊技におけるエンディング演出において、光量や音量の設定の変更に費やせる期間の最大長さを長くすることで、通常状態から大当たり遊技状態を経て、時短状態や確変状態へ移行する適切なタイミングにおいて音量の設定変更を行うことが容易となり、上記特定の歌は聞きたいという遊技者の遊技に対する満足感を向上させることができる。

【１７２４９】

また、例えば、第１期間ＢＴ８１をより長く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる第２期間ＢＴ８２への移行が遅くなる一方で、特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示される期間を長く維持することができる。

【１７２５０】

第１期間ＢＴ８１を長くする設定は、例えば、連荘中の大当たり遊技におけるエンディング演出で採用することが効果的である場合がある。音量や光量の設定変更は、初当り時に行えば多くの場合十分であり、連荘中に音量や光量の設定変更をしたくなる事態が発生する可能性は低いため、第２期間ＢＴ８２への移行が遅くなることで音量や光量の設定変更に費やせる期間の最大長さが短くなっても、遊技者が受ける不利益は少ない。

【１７２５１】

一方で、連荘が続く程、遊技者の興奮の度合いは高くなるので、興奮のあまり、遊技を終了する際にカードユニットに挿入されたカード等の返却を忘れる可能性が高くなる。これに対し、第１期間ＢＴ８１が長く設定されている場合、カード忘れ防止表示演出中において特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示される期間を長く維持できるので、遊技者がカード等の返却に意識を向けるように仕向けることができる。

【１７２５２】

また、例えば、第２期間ＢＴ８２をより短く設定することで、枠ボタンＢ２２が操作され図１５５０（ａ）に図示される状態に移行されることを困難とすることができる。この場合、移動する枠ボタン表示Ｂ８８１３で遊技者の視線を特定表示Ｂ８１０に誘導できることに加え（図１５６２（ａ）参照）、複数の枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体した状態での操作を失敗するように仕向けることができ、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を図１５６３に示す状態まで移行させる可能性を高くすることができる。

【１７２５３】

これにより、カード忘れ防止表示演出中に亘り特定表示Ｂ８１０を表示画面の中央に維持することができることに加えて、枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動することで、特定表示Ｂ８１０に遊技者の視線を誘導する効果を期待できる。従って、枠ボタン表示Ｂ８８１３

が無い場合に比較して、遊技者に特定表示Ｂ８１０の印象を強く残すことができる。
【１７２５４】
　また、例えば、第２期間ＢＴ８２をより長く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を長く維持することができるので、枠ボタンＢ２２の操作機会を確保することができる。
【１７２５５】
　また、例えば、第３期間ＢＴ８３をより短く設定することで、相対的にＴ８２を長くすることができ、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を長く維持することができるので、枠ボタンＢ２２の操作機会を確保することができる。
【１７２５６】
　また、例えば、第３期間ＢＴ８３をより長く設定することで、第２期間ＢＴ８２において枠ボタンＢ２２を操作することで図１５５０（ａ）に図示される状態に移行した後の、カード忘れ防止表示演出の残り期間を長く確保することができるので、光量や音量の設定の変更が中途半端になることを回避し易くすることができる。
【１７２５７】
　なお、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さを、上記した理由以外の理由で変更するようにしても良い。例えば、大当たり遊技中において既に第１図柄の抽選が済んでいる保留球に大当たりがある場合に、第１期間ＢＴ８１が極めて短くされ、その分だけ第２期間ＢＴ８２が長くなるように制御されるようにしても良い。
【１７２５８】
　この場合、カード忘れ防止表示演出が、図１５６２（ａ）の状態を経由せずに、図１５６２（ｂ）の状態から開始されたかのように遊技者に見せることができるので、遊技者に違和感を与えることができる。この違和感により保留球に大当たりがあることを把握することができるようになると遊技者に分からせることで、カード忘れ防止表示演出に遊技者が注目するように仕向けることができるので、カード忘れ防止表示演出に対する注目力を向上させることができる。これにより、カードユニットに挿入されたカード等の返却について遊技者に意識させることができ、実際に遊技者がカード等を忘れる事態の発生を抑制することができる。
【１７２５９】
　次いで、図１５６５から図１５８０を参照して、第６２実施形態におけるセンターフレームＣ８６について説明する。
【１７２６０】
　上記各実施形態では、センターフレーム８６が一部品から構成される場合を説明したが、第６２実施形態におけるセンターフレームＣ８６は、上側フレームＣ８６ａと下側フレームＣ８６ｂとの２部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７２６１】
　図１５６５は、第６２実施形態における遊技盤Ｃ１３の正面図である。図１５６５に示すように、センターフレームＣ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＣ８６ａと下側フレームＣ８６ｂとを備える。
【１７２６２】
　上側フレームＣ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）における上側（図１５６５上側）及び左右（図１５６５左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＣ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１５６５下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＣ８６ａ及び下側フレームＣ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。
【１７２６３】
　なお、上側フレームＣ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１５６５下側）の内縁に沿って配設される

部分、即ち、下側フレームＣ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【１７２６４】

次いで、下側フレームＣ８６ｂについて説明する。図１５６６は、下側フレームＣ８６ｂの正面斜視図であり、図１５６７は、下側フレームＣ８６ｂの背面斜視図である。なお、図１５６６及び図１５６７では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＣ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。

【１７２６５】

図１５６６及び図１５６７に示すように、下側フレームＣ８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＣＯＰｉｎと、その受入口ＣＯＰｉｎに連通される第１通路ＣＲｔ１と、その第１通路ＣＲｔ１を案内された球が流下される第２通路ＣＲｔ２と、その第２通路ＣＲｔ２を案内された球（第２通路ＣＲｔ２をその長手方向に沿って往復動した球）が流下される第３通路ＣＲｔ３と、その第３通路ＣＲｔ３を案内された球が振分部材Ｃ１７０により振り分けられて流下される第４通路ＣＲｔ４及び第５通路ＣＲｔ５と、第４通路ＣＲｔ４を案内された球が流下される第６通路ＣＲｔ６と、第５通路ＣＲｔ５を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＣＯＰｏｕｔとが形成される（図１５７４及び図１５７５参照）。

【１７２６６】

なお、上側フレームＣ８６ａには、上側フレーム通路ＣＲｔ０（図１５６５参照）が形成される。上側フレーム通路ＣＲｔ０は、遊技領域のうちの正面視左側（図１５６５左側）の領域（センターフレームＣ８６（上側フレームＣ８６ａ）とレール６１との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＣＲｔ０の下流端に下側フレームＣ８６ｂの受入口ＣＯＰｉｎが連通される。

【１７２６７】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＣＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＣＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＣＲｔ０から下側フレームＣ８６ｂの第１通路ＣＲｔ１へ流入（入球）される。

【１７２６８】

下側フレームＣ８６ｂには、球の重さにより動作する振分部材Ｃ１７０が配設されており（図１５７４及び図１５７５参照）、連なった状態の球が第３通路ＣＲｔ３を案内される場合には、先行する球が第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる一方、後行する球が第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられる。なお、球の連なる間隔が所定量よりも大きい場合は、先行する球および後行する球の両球が第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる。

【１７２６９】

ここで、第５通路ＣＲｔ５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＣＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１５６５参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１７２７０】

一方、第６通路ＣＲｔ６には、その第６通路ＣＲｔ６を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｃ１８１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図１５６５左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｃ１８２が形成（配置）される。また、第６通路ＣＲｔ６には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が形成される。

【１７２７１】

そのため、第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられた球は、第６通路ＣＲｔ６において、中央

流出面Ｃ１８１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｃ１８２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１７２７２】

このように、本実施形態における下側フレームＣ８６ｂは、連なった状態の球が第３通路ＣＲｔ３へ流入された場合に、先行する球は通常の通路（第４通路ＣＲｔ４）へ振り分けられる一方、後行する球が第１入賞口６４に入賞し易い通路（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる通路（第５通路ＣＲｔ５））へ振り分けられる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、球が連なった状態が形成されることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７２７３】

次いで、図１５６６から図１５６７に加え、図１５６８から図１５８０を参照して、下側フレームＣ８６ｂの詳細構成について説明する。

【１７２７４】

図１５６８は、下側フレームＣ８６ｂの分解正面斜視図であり、図１５６９は、下側フレームＣ８６ｂの分解背面斜視図である。図１５７０は、下側フレームＣ８６ｂの上面図であり、図１５７１は、下側フレームＣ８６ｂの正面図であり、図１５７２は、下側フレームＣ８６ｂの背面図である。図１５７３（ａ）は、図１５７１の矢印ＭＤＬＸＸＩＩＩａ方向視における下側フレームＣ８６ｂの側面図であり、図１５７３（ｂ）は、図１５７１の矢印ＭＤＬＸＸＩＩＩｂ方向視における下側フレームＣ８６ｂの側面図である。

【１７２７５】

図１５７４及び図１５７５は、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における下側フレームＣ８６ｂの断面図であり、図１５７６は、図１５７１のＭＤＬＸＸＶＩ－ＭＤＬＸＸＶＩ線における下側フレームＣ８６ｂの断面図である。図１５７７（ａ）は、図１５７４のＭＤＬＸＸＶＩＩａ部における下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図であり、図１５７７（ｂ）は、図１５７０のＭＤＬＸＸＶＩＩｂ－ＭＤＬＸＸＶＩＩｂ線における下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図１５７４では、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態が、図１５７５では、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１７２７６】

図１５６６から図１５７７に示すように、下側フレームＣ８６ｂは、正面部材Ｃ１１０と、その正面部材Ｃ１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｃ１２０と、正面部材Ｃ１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｃ１３０と、その背面部材Ｃ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に配設される第１中間部材Ｃ１４０と、背面部材Ｃ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される第２中間部材Ｃ１５０と、背面部材Ｃ１３０及び第２中間部材Ｃ１５０の対向間に介設される第１介設部材Ｃ１６０及び振分部材Ｃ１７０と、正面部材Ｃ１１０並びに第１及び第２中間部材Ｃ１４０，Ｃ１５０の対向間に介設される第２介設部材Ｃ１８０と、背面部材Ｃ１３０の背面に配設される装飾部材Ｃ１９０及び迂回部材Ｃ２００と、を備える。

【１７２７７】

なお、下側フレームＣ８６ｂは、各部材どうしが、それぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が背面部材Ｃ１３０に回転可能に軸支されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１５６６参照）。

【１７２７８】

また、下側フレームＣ８６ｂは、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＣＲｔ１から第６通路ＣＲｔ６を通過する球を遊技者に視認させると共に、振分部材Ｃ１７０による振り分け動作とその動作に伴う装飾部材Ｃ１９０の変位を遊技者に視認させ

ることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１７２７９】
この場合、下側フレームＣ８６ｂは、第１中間部材Ｃ１４０または第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。第３通路ＣＲｔ３における球の連なり状態（先行する球と後行する球の間隔が所定量よりも小さい間隔か否か）と、振分部材Ｃ１７０による振り分け動作との少なくとも一方または両方を遊技者に視認させられる一方で、後行する球が振分部材Ｃ１７０により第５通路ＣＲｔ５に振り分けられたことを視認できれば、かかる球は流出口ＣＯＰｏｕｔから第１入賞口６４へ高確率で（本実施形態ではほぼ全球が）入球するため、第５通路ＣＲｔ５を案内される球を遊技者に視認させなくても足りるためである。
【１７２８０】
なお、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０は、光透過性（又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。
【１７２８１】
また、一方で、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方が有色の樹脂材料から構成される、或いは、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方に塗装が施されたりシールが添付されていても良い。即ち、第３通路ＣＲｔ３を通過する球や振分部材Ｃ１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。
【１７２８２】
正面部材Ｃ１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｃ１１１と、その正面部Ｃ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｃ１１２と、それら正面部Ｃ１１１及び底面部Ｃ１１２の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部Ｃ１１３とを備える。
【１７２８３】
正面部Ｃ１１１には、その正面部Ｃ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｃ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＣ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｃ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【１７２８４】
正面部Ｃ１１１には、第１入賞口６４（図１５６５参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＣＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＣＯＰｏｕｔは、上述したように、第５通路ＣＲｔ５を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。
【１７２８５】
底面部Ｃ１１２は、その上面に第２介設部材Ｃ１８０の底面が対向配置され、底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ１８０（凹部Ｃ１８３）との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。よって、例えば、第２介設部材Ｃ１８０に貫通形成した貫通孔を第５通路ＣＲｔ５の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。
【１７２８６】
底面部Ｃ１１２は、正面部Ｃ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、その底面部Ｃ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の正面に当接される。これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。
【１７２８７】
連結部Ｃ１１３には、受入口ＣＯＰｉｎが開口形成（板厚方向に穿設）される。受入口ＣＯＰｉｎは、上述したように、上側フレームＣ８６ａの上側フレーム通路ＣＲｔ０から球を受け入れる開口である。なお、ベース板６０にセンターフレームＣ８６を取り付けた（配設した）状態では、上側フレームＣ８６ａの背面が正面部Ｃ１１１及び連結部Ｃ１１３の正面に重ね合わされ、両者がタッピングネジにより締結固定される。これにより、上

側フレーム通路ＣＲｔ０の下流端と受入口ＣＯＰｉｎとが連通される。
【１７２８８】
皿部材Ｃ１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ１２１及び下側底面部Ｃ１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｃ１２３及び下側側壁部Ｃ１２４とを備える。
【１７２８９】
上側底面部Ｃ１２１は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＣＯＰｉｎから離間する方向（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。なお、上側底面部Ｃ１２１は、受入口ＣＯＰｉｎよりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側フレーム通路ＣＲｔ０との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｃ１２０は、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１へ球を自由落下させる構成とされる。
【１７２９０】
上側底面部Ｃ１２１には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｃ１２１ａが凹設される（図１５７７参照）。凹溝Ｃ１２１ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設される。凹溝Ｃ１２１の溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｃ１２１ａの溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、凹溝Ｃ１２１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【１７２９１】
これにより、上側底面部Ｃ１２１上の球を２箇所（上側底面部Ｃ１２１と凹溝Ｃ１２１ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｃ１２１ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球と通路との接触面積を大きくできる。よって、上側フレーム通路ＣＲｔ０から落下した球の衝撃を緩衝する（受け止める）と共に、球が転動する際の抵抗を大きくできる。
【１７２９２】
上述のように、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１へ球を落下させると共に、上側底面部Ｃ１２１上の球を２箇所で支持する構成とすることで、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）へ流入（落下）する場合に、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）において、先行する球の流下を遅らせて、後行する球を先行する球に追いつかせ易くできる。よって、先行する球と後行する球との間隔を減少させることができる。
【１７２９３】
上側側壁部Ｃ１２３は、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の上流側および下流側の端部と、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【１７２９４】
上側側壁部Ｃ１２３には、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の下流側の端部に切り欠き部Ｃ１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２３ａを介して、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ球が流下可能とされる。
【１７２９５】
下側底面部Ｃ１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１５７７（ｂ）参照）。
【１７２９６】
下側側壁部Ｃ１２４は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径

よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【１７２９７】

下側底面部Ｃ１２２は、上面視において、上側底面部Ｃ１２１と平行に並設され、上側底面部Ｃ１２１の下流端（矢印Ｂ方向側の端部）と下側底面部Ｃ１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。

【１７２９８】

上側側壁部Ｃ１２３における切り欠き部Ｃ１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｃ１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｃ１２３ａを介して、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ球が流下可能とされる。

【１７２９９】

下側側壁部Ｃ１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｃ１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ球が流下可能とされる。

【１７３００】

下側底面部Ｃ１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その上昇傾斜側（下側底面部Ｃ１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ球を流下させることができる。

【１７３０１】

これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。

【１７３０２】

下側底面部Ｃ１２２には、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を案内される球を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。

【１７３０３】

よって、下側底面部Ｃ１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させることができる。

【１７３０４】

なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図１５７０参照）。

【１７３０５】

また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を転動（往復動）する球が、切り欠

き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。

【１７３０６】

一方で、下側底面部Ｃ１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。

【１７３０７】

これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ１２２が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成される（図１５７７参照）。これにより、下側底面部Ｃ１２２の傾斜の作用により、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）で転動（往復動）させることができる。

【１７３０８】

これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。

【１７３０９】

なお、下側底面部Ｃ１２２の円弧形状（下側底面部Ｃ１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状、図１５７７（ｂ）参照）は、その長手方向の一端側および他端側における円弧形状の半径が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧形状の半径よりも小さくされる。即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧形状の半径が大きくされる。

【１７３１０】

これにより、初期段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【１７３１１】

なお、皿部材Ｃ１２０は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設されるところ、ベース板６０の窓部６０ａ内に配置されるので、窓部６０ａにより形成された前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の全長を確保して、球を連ならせ易くできる。

【１７３１２】

背面部材Ｃ１３０は、板状に形成される本体部Ｃ１３１と、その本体部Ｃ１３１の正面から立設される下ストッパ部Ｃ１３２、上ストッパ部Ｃ１３３及び軸支座部Ｃ１３４とを備える。

【１７３１３】

本体部Ｃ１３１には、その本体部Ｃ１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＣＲｔ５）を連通するための開口である開口Ｃ１３１ａが開口形成される。開口Ｃ１３１ａの下方には、本体部Ｃ１３１の外縁を窪ませた凹部Ｃ１３１ｂが形成される。凹部Ｃ１３１ｂは、迂回部材Ｃ２００との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部を形成する。

【１７３１４】

下ストッパ部Ｃ１３２は、振分部材Ｃ１７０が下方へ変位された際に、その振分部材Ｃ１７０の下面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ１７０の第２位置を規定する（図１５７５参照）。一方、上ストッパ部Ｃ１３３は、振分部材Ｃ１７０が上方へ変位された際に、その振分部材Ｃ１７０の上面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ１７０の第１位置（所定位置）を規定する（図１５７４参照）。

【１７３１５】

軸支座部Ｃ１３４は、軸Ｃ１９２を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。なお、軸Ｃ１９２は、装飾部材Ｃ１９０に固着されており、本体部Ｃ１３１の背面から挿通された軸Ｃ１９２に振分部材Ｃ１７０が回転不能に連結されることで、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が一体となって本体部Ｃ１３１（軸支座部Ｃ１３４）に回転可能に軸支される。また、軸Ｃ１９２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で軸支座部Ｃ１３４に軸支される。

【１７３１６】

第１中間部材Ｃ１４０は、板状の本体部Ｃ１４１と、その本体部Ｃ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ１４２、天面部Ｃ１４３及び通路部Ｃ１４４とを備え、背面部材Ｃ１３０の正面視左側に配設される。

【１７３１７】

第１中間部材Ｃ１４０が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、底面部Ｃ１４２、天面部Ｃ１４３及び通路部Ｃ１４４の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ１３０の正面に当接される。これにより、背面部材Ｃ１３０と第１中間部材Ｃ１４０（本体部Ｃ１４１、底面部Ｃ１４２及び天面部Ｃ１４３）とに区画された空間により第３通路ＣＲｔ３が形成されると共に、背面部材Ｃ１３０と第１中間部材Ｃ１４０（通路部Ｃ１４４）と第２位置にある振分部材Ｃ１７０とにより区画された空間により第４通路ＣＲｔ４が形成される（図１５７５参照）。

【１７３１８】

なお、底面部Ｃ１４２は、皿部材Ｃ１２０側から振分部材Ｃ１７０側へ向けて下降傾斜される。また、通路部Ｃ１４４は、第２位置にある振分部材Ｃ１７０に対向する位置に形成される対向部Ｃ１４４ａと、球の転動面を形成する底面部Ｃ１４４ｂとを備え、底面部Ｃ１４４ｂは、第２位置にある振分部材Ｃ１７０側から対向部Ｃ１４４ａ側へ向けて下降傾斜されると共に、背面部材Ｃ１３０側から正面部材Ｃ１１０側へ向けて下降傾斜して形成される。よって、第２位置へ変位した振分部材Ｃ１７０から球を第４通路ＣＲｔ４に受け入れると共にその球を第６通路ＣＲｔ６へ流出（転動）させることができる。

【１７３１９】

ここで、皿部材Ｃ１２０の下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）は前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って球を転動させ、皿部材Ｃ１２０から底面部Ｃ１４２へは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（本実施形態では右方向へ）球が流下され、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）は皿部材Ｃ１２０から流下された球を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（本実施形態では右方向へ）転動させる。

【１７３２０】

この場合、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動によって先行の球ＣＢ１及び後行の球ＣＢ２（図１５７８参照）の間隔が決定されるところ、それら両球ＣＢ１，ＣＢ２は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ左右方向に沿って流下されると共に、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を左右方向に沿って流下（転動）されるので、両球ＣＢ１，ＣＢ２の間隔を正面視により確認可能とし、遊技者に視認させ易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることがで

きる。
【１７３２１】
　第２中間部材Ｃ１５０は、板状の本体部Ｃ１５１と、その本体部Ｃ１５１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ１５２とを備え、背面部材Ｃ１３０の正面視右側に配設される。第２中間部材Ｃ１５０が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、底面部Ｃ１５２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ１３０の正面に当接される。
【１７３２２】
　本体部Ｃ１５１には、その外縁を窪ませた凹部Ｃ１５１ａが形成される。底面部Ｃ１５２は、その下面に迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）が対向配置され、凹部Ｃ１５１ａ及び底面部Ｃ１５２と迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。よって、例えば、迂回部材Ｃ２００を筒状に形成して第５通路ＣＲｔ５の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。
【１７３２３】
　第１介設部材Ｃ１６０は、第５通路ＣＲｔ５の一部における球の転動面を形成する部材であり、背面部材Ｃ１３０と第２中間部材Ｃ１５０との対向間に介設される。即ち、背面部材Ｃ１３０と第２中間部材Ｃ１５０（本体部Ｃ１５１）と第１介設部材Ｃ１６０とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。
【１７３２４】
　第１介設部材Ｃ１６０は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１５７５参照）。よって、振分部材Ｃ１７０によって第１介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）に振り分けられた球を、第１介設部材Ｃ１６０上で往復動させた後、開口Ｃ１３１ａへ流出させることができる。
【１７３２５】
　これにより、例えば、振分部材Ｃ１７０によって振り分けられた球を開口Ｃ１３１ａへ直接流出させる構成と比較して、開口Ｃ１３１ａへ流出するまでに要する時間を長くすることができる。即ち、第１入賞口６４に入球（入賞）する確率が高い状態の形成を期待する遊技者に対し、かかる状態が形成されたことを気づかせ易くできると共に、かかる状態を楽しむ時間を確保させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【１７３２６】
　なお、第１介設部材Ｃ１６０には、背面部材Ｃ１３０の開口Ｃ１３１ａに対応する位置（即ち、第１介設部材Ｃ１６０の転動面の内の鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１６０ａが凹設される。流出面Ｃ１６０ａは、第１介設部材Ｃ１６０を案内される球を、開口Ｃ１３１ａへ流出させるための部位であり、開口Ｃ１３１ａへ向けて下降傾斜する凹面として形成される。
【１７３２７】
　振分部材Ｃ１７０は、嵌合穴Ｃ１７１ａが一側に形成される本体部Ｃ１７１と、その本体部Ｃ１７１の嵌合穴Ｃ１７１ａが形成される側と反対側となる他側に形成される受入部Ｃ１７２と、本体部Ｃ１７１の上面側に形成される転動部Ｃ１７３とを備え、嵌合穴Ｃ１７１ａに嵌合された軸Ｃ１９２（軸支座部Ｃ１３４）を中心として回転可能とされる。
【１７３２８】
　嵌合穴Ｃ１７１ａは、断面Ｄ字状の穴として形成され、その断面形状に一致した断面形状を有する軸Ｃ１９２が嵌合されることで、本体部Ｃ１７１に軸Ｃ１９２が回転不能に固着される。軸Ｃ１９２は、装飾部材Ｃ１９０にも回転不要に固着されており、よって、軸Ｃ１９２を介して、本体部Ｃ１７１（振分部材Ｃ１７０）と装飾部材Ｃ１９０とが一体化（１のユニットとして形成）される。
【１７３２９】
　この場合、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットは、その重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して一側（軸Ｃ１９２を挟んで振分部材Ｃ１７０と反対側、図１５７４右側）に偏心される。よって、無負荷状態では、振分部材Ｃ１７０は、受入

部Ｃ１７２側が上昇され（正面視において軸Ｃ１９２を中心として時計回りに回転され）、上ストッパ部Ｃ１３３に回転が規制された状態（第１位置（所定位置）に配置された状態）とされる（図１５７４参照）。

【１７３３０】

一方、振分部材Ｃ１７０の受入部Ｃ１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して他側（軸Ｃ１９２に対して振分部材Ｃ１７０が配設される側、図１５７４左側）に偏心される。よって、受入部Ｃ１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ１７０は、受入部Ｃ１７２側が下降され（正面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され）、下ストッパ部Ｃ１３２に回転が規制された状態（第２位置に配置された状態）とされる（図１５７５参照）。

【１７３３１】

装飾部材Ｃ１９０は、本体部Ｃ１９１の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされ、振分部材Ｃ１７０の第１位置と第２位置との間の変位（回転）に伴って、装飾部材Ｃ１９０（本体部Ｃ１９１）も回転され、遊技者から視認される位置（形態）が変化される。よって、かかる装飾部材Ｃ１９０の位置（形態）に基づいて、振分部材Ｃ１７０の状態（即ち、球の振り分け方向）を遊技者に認識させることができる。また、振分部材Ｃ１７０を変位させるための錘としての役割と、球の振り分け方向を認識させる部位としての役割とを装飾部材Ｃ１９０に兼用させることができ、その分、製品コストを低減できる。

【１７３３２】

なお、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された後、受入部Ｃ１７２から第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ球が排出（流出）されると、振分部材Ｃ１７０は、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットの自重（重心位置の軸Ｃ１９２からの偏心）の作用により、第１位置（所定位置）へ復帰される。

【１７３３３】

このように、振分部材Ｃ１７０の第１位置への変位（復帰）は、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットの自重（重量）により行われるので、例えば、付勢ばねを設けて、その付勢ばねにより振分部材Ｃ１７０を第１位置へ向けて付勢する場合と比較して、構造を簡素化できる。

【１７３３４】

また、付勢ばねを利用する場合と比較して、振分部材Ｃ１７０の第１位置への変位（復帰動作）を低速とできるので、後行する球ＣＢ２を転動部Ｃ１７３上に到達させ易くできる。即ち、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）を開始してから、後行する球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３上へ流入不能となる位置まで変位（回転）されるのに要する時間を長くできる。更に、後行する球ＣＢ２の更に後続となる第３の球も転動部Ｃ１７３へ到達させる可能性を付与できる（図１５７８から図１５８０参照）。

【１７３３５】

受入部Ｃ１７２は、第１位置において第３通路ＣＲｔ３に対向する位置に形成される対向部Ｃ１７２ａと、第１位置において受け入れた球を支持すると共に第２位置において通路部Ｃ１４４へ向けて球を転動させるための転動面を形成する底面部Ｃ１７２ｂとを備える。

【１７３３６】

受入部Ｃ１７２は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、対向部Ｃ１７２ａが、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向に略直交し、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２へ向けて上昇傾斜するように形成される（図１５７４参照）。

【１７３３７】

ここで、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ１７２ａが、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向と直交する方向に対して傾斜（対向部Ｃ１７２ａの転動部Ｃ１７３側が底面部Ｃ１７２ｂ側よりも第３通路ＣＲｔ３から離間

される方向へ傾斜）されていると、対向部Ｃ１７２ａに衝突した球が上方へ跳ね上げられて、第３通路ＣＲｔ３へ逆流する虞がある。

【１７３３８】

これに対し、対向部Ｃ１７２ａは、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向に略直交されているので、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から受け入れた球を対向部Ｃ１７２ａにより受け止めて、第３通路ＣＲｔ３へ逆流することを抑制できる。

【１７３３９】

また、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（通路部Ｃ１４４）へ向けて下降傾斜するように形成されていると、受入部Ｃ１７２に受け入れた球が早期に第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ流出されてしまい、球の重さを利用できなくなることで、振分部材Ｃ１７０を第２位置に到達させられない虞がある。

【１７３４０】

これに対し、底面部Ｃ１７２ｂは、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２へ向けて上昇傾斜するように形成されているので、少なくとも振分部材Ｃ１７０が第１位置から所定量だけ回転するまでの間は、底面部Ｃ１７２ｂに球を保持しておくことができる。これにより、受入部Ｃ１７２に受け入れた球が第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ流出されるまでの時間を遅らせることができる。その結果、球の重さを有効に利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に確実に到達させることができる。

【１７３４１】

なお、上述した理由（第３通路ＣＲｔ３への逆流防止）により、対向部Ｃ１７２ａを、転動部Ｃ１７３側が底面部Ｃ１７２ｂ側よりも第３通路ＣＲｔ３へ近接する方向へ傾斜させても良い。

【１７３４２】

受入部Ｃ１７２は、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ向けて下降傾斜するように形成される（図１５７５参照）。これにより、受入部Ｃ１７２に受け入れた球を、第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ確実に流出させることができる。

【１７３４３】

また、球が底面部Ｃ１７２ｂを転動している間、その球の重量を振分部材Ｃ１７０に作用させ、振分部材Ｃ１７０を第２位置（即ち、後行する球を転動部Ｃ１７３（第５通路ＣＲｔ５）へ案内可能な状態）に維持しやすくできる。

【１７３４４】

転動部Ｃ１７３は、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を転動する球を、第２介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）へ案内する（振り分ける）ための部位であり、振分部材Ｃ１７０が第２位置へ配置された状態において、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）の下流端と、第２介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）の上流端との間に位置（架設）される。

【１７３４５】

転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）は、受入部Ｃ１７２の対向部Ｃ１７２ａから突出して形成される。即ち、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）には、対向部Ｃ１７２ａから上流側（第１中間部材Ｃ１４０（第３通路ＣＲｔ３）側、矢印Ｌ方向）へ向けて突出される板状の部位が形成される。この板状の部位が球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入されることで、両球（球ＣＢ１，ＣＢ２）を切り離すことができる。

【１７３４６】

振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）における高さ位置に対し、転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）における高さ位置が、鉛直方向下方（矢

印Ｄ方向）に位置される。即ち、底面部Ｃ１４２の下流端と転動部Ｃ１７３の上流端との間には段差が形成され、第２位置に配置された振分部材Ｃ１７０が第１位置へ向けて所定量（所定回転角）だけ変位（回転）された場合に、底面部Ｃ１４２の下流端と転動部Ｃ１７３の上流端とが同一の高さ位置に配置される。

【１７３４７】

ここで、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を転動する球が受入部Ｃ１７２へ流入されると、その球の重量で振分部材Ｃ１７０が第１位置から下方へ変位（回転）され、振分部材Ｃ１７０の下面が下ストッパ部Ｃ１３２に当接されることで、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置される。

【１７３４８】

この場合、下ストッパ部Ｃ１３２に下面が衝突した際の衝撃で振分部材Ｃ１７０が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上げられる虞があり、振分部材Ｃ１７０の上方への跳ね上がりにより、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端における高さ位置に対し、転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端における高さ位置が、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置されると、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ球を流入（転動）させることができなくなる虞がある。

【１７３４９】

特に、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に球が衝突し、その球の衝突による衝撃で振分部材Ｃ１７０が更に上方へ跳ね上げられると（球により振分部材Ｃ１７０が更に上方へ押し上げられると）、その球が、本来は転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球であったにも関わらず、受入部Ｃ１７２に流入される（受け入れられる）される虞がある。

【１７３５０】

これに対し、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、上述したように、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端と転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端との間には段差が形成されるので、衝撃により振分部材Ｃ１７０が上方へ跳ね上げられた場合でも、両者の間の段差の分、底面部Ｃ１４２の下流端よりも転動部Ｃ１７３の上流端が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置することを抑制できる。即ち、両者の段差の分だけ、振分部材Ｃ１７０が上方へ跳ね上げられることを許容できる。よって、転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ流入（転動）させ易くできる。

【１７３５１】

更に、振分部材Ｃ１７０は、転動部Ｃ１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）が、転動部Ｃ１７３から第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２）へ向けて下降傾斜して形成される。即ち、転動部Ｃ１７３の上流側の端面は、転動部Ｃ１７３の転動面側の縁部よりも、受入部Ｃ１７２（対向部Ｃ１７２ａ）側の縁部の方が、第１中間部材Ｃ１４０に近接される形状に形成される。

【１７３５２】

これにより、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に球が衝突した場合には、その球から振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に作用する力の方向を、振分部材Ｃ１７０を下方へ押し下げる方向の力とすることができる。その結果、転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ流入（転動）させ易くできる。

【１７３５３】

受入部Ｃ１７２と転動部Ｃ１７３とは、Ｃ１９２に対して、同じ側（球の重量により振分部材Ｃ１７０を回転させる方向が同じとなる側）に配置される。よって、受入部Ｃ１７２に受け入れた球の重量により振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された後、球が受入部Ｃ１７２から排出されたとしても、転動部Ｃ１７３を転動する球の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持することができる。即ち、第５通路ＣＲｔ５へ案内する球

がある場合、その球の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０の姿勢を、球を第５通路ＣＲｔ５へ案内するための姿勢に維持させることとができる。

【１７３５４】

よって、受入部Ｃ１７２に受け入れた球（底面部Ｃ１７２ｂを転動する球）の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持する必要がなく、かかる底面部Ｃ１７２ｂの延設長さを短くすることができ、その分、振分部材Ｃ１７０を小型化できる。その結果、振分部材Ｃ１７０の配置の自由度を高めることができる。

【１７３５５】

ここで、振分部材Ｃ１７０は、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から受入部Ｃ１７２へ向けて球が転動する方向（受入部Ｃ１７２が球を受け入れる方向、矢印Ｒ方向）と、受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が転動する方向（受け入れた球を転動させる方向、矢印Ｌ方向）とが逆方向とされる。即ち、受入部Ｃ１７２において、球の流下（転動）方向を反転（方向転換）させる構成とされる。

【１７３５６】

これにより、受入部Ｃ１７２が球を受け入れる方向と受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が転動する方向とが同方向とされる場合と比較して、反転に要する時間の分、球が振分部材Ｃ１７０（受入部Ｃ１７２）に滞留する時間を確保でき、その受入部Ｃ１７２に滞留される球の重量を利用して振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持し易くできる。その結果、転動部Ｃ１７３において球を安定して転動させることができる。

【１７３５７】

また、球の反転を利用して、その滞留時間を確保できることで、その分、受入部Ｃ１７２における底面部Ｃ１７２ｂの延設長さを短くして、振分部材Ｃ１７０を小型化できる。その結果、振分部材Ｃ１７０の配置の自由度を高めることができる。

【１７３５８】

第２介設部材Ｃ１８０は、第６通路ＣＲｔ６における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｃ１１１と第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０との対向間に介設される。即ち、正面部材Ｃ１１０と第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０と第２介設部材Ｃ１８０とに区画された空間により第６通路ＣＲｔ６が形成される。

【１７３５９】

第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）には、上述したように、第２介設部材Ｃ１８０（第６通路ＣＲｔ６）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２）が形成される。また、第６通路ＣＲｔ６の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が配置される。

【１７３６０】

なお、正面部材Ｃ１１０の正面部Ｃ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２が形成される領域を除き、第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｃ１８１又は側方流出面Ｃ１８２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。

【１７３６１】

第２介設部材Ｃ１８０の底面には、凹部Ｃ１８３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｃ１８３と正面部材Ｃ１１０の底面部Ｃ１１２との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。

【１７３６２】

装飾部材Ｃ１９０は、板状に形成される本体部Ｃ１９１と、その本体部Ｃ１９１に固着される軸Ｃ１９２とを備え、上述したように、軸Ｃ１９２を介して、振分部材Ｃ１７０に連結（一体化）される。なお、本体部Ｃ１９１の正面には、キャラクターなどの図柄が印刷やシールの添付により表示され、そのキャラクターの動き（変位）に基づいて、振分部

材Ｃ１７０の動作が遊技者に視認可能とされる。
【１７３６３】
なお、軸Ｃ１９２は、ベース板６０（図１５６５参照）に直交する姿勢で配置される。よって、下側フレームＣ８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）寸法の小型化を図ることができる。
【１７３６４】
迂回部材Ｃ２００は、板状の本体部Ｃ２０１と、その本体部Ｃ２０１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から立設される壁面部Ｃ２０２と、その壁面部Ｃ２０２の一部を正面側へ更に延設して形成される樋部Ｃ２０３とを備え、開口Ｃ１３１ａに対向する位置において、背面部材Ｃ１３０の背面側に配設される。
【１７３６５】
迂回部材Ｃ２００が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、壁面部Ｃ２０２の立設先端（矢印Ｆ方向側）が背面部材Ｃ１３０（本体部Ｃ１３１）の背面に当接され、且つ、樋部Ｃ２０３の立設先端（矢印Ｆ方向側）が第２中間部材Ｃ１５０（本体部Ｃ１５１）の背面に当接されると共に、樋部Ｃ２０３の縁部が第２中間部材Ｃ１５０（底面部Ｃ１５２）の底面に当接される。
【１７３６６】
これにより、背面部材Ｃ１３０（本体部Ｃ１３１）と迂回部材Ｃ２００（本体部Ｃ２０１及び壁面部Ｃ２０２）とに区画された空間、及び、第２中間部材Ｃ１５０（底面部Ｃ１５２）と迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される（図１５７６参照）。
【１７３６７】
なお、樋部Ｃ２０３は、背面部材Ｃ１３０側から第２中間部材Ｃ１５０側へ向けて下降傾斜される。よって、背面部材Ｃ１３０の開口Ｃ１３１ａから迂回部材Ｃ２００内へ流入された球を樋部Ｃ２０３上を転動させて、正面部材Ｃ１１０の底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ１８０（凹部Ｃ１８３）との間に形成される第５通路ＣＲｔ５へ流入させることができる。
【１７３６８】
次いで、振分部材Ｃ１７０による球の振り分け動作について説明する。図１５７８から図１５８０は、振分部材Ｃ１７０による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図であり、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【１７３６９】
なお、図１５７８（ａ）及び図１５７８（ｂ）は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態を示し、図１５７４に対応する。図１５７９（ｂ）及び図１５８０は、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態を示し、図１５７５に対応する。
【１７３７０】
図１５７８（ａ）に示すように、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、受入部Ｃ１７２は、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ可能（球ＣＢ１が流入可能）な位置に配置される。
【１７３７１】
即ち、受入部Ｃ１７２は、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線と交差する位置に対向部Ｃ１７２ａが配置され、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に底面部Ｃ１７２ｂが配置される。
【１７３７２】
なお、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。
【１７３７３】

一方、転動部Ｃ１７３は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ不能（球ＣＢ１が流入不能）な位置に配置される。

【１７３７４】

即ち、転動部Ｃ１７３は、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置（一段高い位置）に底面部Ｃ１７２ｂが配置される。なお、転動部Ｃ１７３と、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線との間の鉛直方向における間隔（段差の高さ）は、球の半径よりも大きな寸法に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ１７０の転動部Ｃ１７３に流入することを抑制できる。

【１７３７５】

なお、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の天面部Ｃ１４３の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ１７０の転動部Ｃ１７３に流入することを抑制できる。但し、かかる間隔を球の直径よりも大きな間隔としても良い。

【１７３７６】

第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を球ＣＢ１（先行する球）と球ＣＢ２（先行する球との間に所定の間隔を隔てて後行する球）とが転動する場合、図１５７８（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が振分部材Ｃ１７０の受入部Ｃ１７２に流入され（受け入れられ）、球ＣＢ１は、対向部Ｃ１７２ａに当接され（受け止められ）、受入部Ｃ１７２に保持される。

【１７３７７】

また、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さい場合には、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接される。上述したように、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、天面部Ｃ１４３の下流端と、転動部Ｃ１７３の上流端との間の間隔が、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定されるので、球ＣＢ２が、球ＣＢ１を乗り越えて、転動部Ｃ１７３へ流入されることを抑制できる。即ち、球ＣＢ２を球ＣＢ１の後方（上流側）に待機させることができる。

【１７３７８】

図１５７８（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が受入部Ｃ１７２に受け入れられると、図１５７９（ａ）に示すように、球ＣＢ１の重量により振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される。また、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付いている場合には、その球ＣＢ２の重量も振分部材Ｃ１７０に作用される。

【１７３７９】

ここで、受入部Ｃ１７２は、対向部Ｃ１７２ａの底面部Ｃ１７２ｂに連結される側の領域と、底面部Ｃ１７２ｂの対向部Ｃ１７２ａに結される側の領域とが、即ち、対向部Ｃ１７２ａと底面部Ｃ１７２ｂとの連結部分が、軸Ｃ１９２側へ向けて凸となり球の外形と略同一形状（球と略同径）となる円弧状に湾曲して形成され、その円弧状に湾曲した部分により球を保持可能とされる。

【１７３８０】

また、振分部材Ｃ１７０（底面部Ｃ１７２ｂの下流端（矢印Ｌ方向側の端部））と第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２と対向部Ｃ１４４ａとの連結部分）との間の間隔は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定され、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次拡大される。

【１７３８１】

即ち、振分部材Ｃ１７０が第１位置と第２位置との間の所定中間位置（図１５７９（ａ）と図１５７９（ｂ）との間の位置）まで変位（回転）されると、上述の振分部材Ｃ１７

０（底面部Ｃ１７２ｂの下流端（矢印Ｌ方向側の端部））と第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２と対向部Ｃ１４４ａとの連結部分）との間の間隔が球の直径と略同一の寸法（球が通過可能な寸法）まで拡大され、振分部材Ｃ１７０が所定中間位置から第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、上述した間隔が、更に拡大され、第２位置において最大の間隔が形成される。

【１７３８２】

よって、振分部材Ｃ１７０が第１位置から所定中間位置まで変位（回転）される間は、受入部Ｃ１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態が維持される。即ち、振分部材Ｃ１７０は、第１位置から所定中間位置までの間は、受入部Ｃ１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態で変位（回転）される。これにより、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ１４２の下流端に位置する状態を維持できる。

【１７３８３】

この場合、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔は、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次縮小され、振分部材Ｃ１７０が所定中間位置に到達する前に、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ１７２へ流入する（受け入れられる）ことを抑制できる。

【１７３８４】

また、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される場合、受入部Ｃ１７２（対向部Ｃ１７２ａと底面部Ｃ１７２ｂとの連結部分）に保持された球ＣＢ１の軌跡の外縁（軸Ｃ１９２と反対側の外縁）よりも、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）の軌跡が、軸Ｃ１９２に近い側を通過するように構成される。

【１７３８５】

よって、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ１４２の下流端に位置する状態を維持できると共に、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）により球ＣＢ２を押し戻す（押し返す）ことができる。即ち、転動部Ｃ１７３の上流端を球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入して、両球を切り離すことができる。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ１７２へ流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。また、球ＣＢ２を徐々に転動部Ｃ１７３へ転動させ、その後の転動を安定させることができる。

【１７３８６】

図１５７９（ａ）に示す状態から振分部材Ｃ１７０が第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、球ＣＢ１が通路部Ｃ１４４へ向けて底面部Ｃ１７２ｂを転動されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３に流下される（転動部Ｃ１７３に受け入れられる）。

【１７３８７】

図１５７９（ｂ）及び図１５８０に示すように、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置されると、球ＣＢ１が受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４（第４通路ＣＲｔ４）へ流入されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３を転動して、第１介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）へ流入される。

【１７３８８】

球ＣＢ１，ＣＢ２が第４通路ＣＲｔ４及び第５通路ＣＲｔ５へ流入された後は、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ向けて自重により復帰（変位）される。なお、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態で、或いは、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置への変位（回転）を開始した後であっても、第３の球が転動部Ｃ１７３到達し、その転動部Ｃ１７３の転動面に流入した場合には、第３の球が転動部Ｃ１７３を転動して第５通路ＣＲｔ５へ流入（案内）される。

【１７３８９】

上述したように、転動部Ｃ１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）は、転動部Ｃ１７３から第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４

２）へ向けて下降傾斜して形成されるので、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ変位（回転）を開始した後であっても、転動部Ｃ１７３の上流側の傾斜面（端面）を利用して、第３の球を転動部Ｃ１７３へ流入させ易くできる。

【１７３９０】

なお、振分部材Ｃ１７０は、１球の重量のみで、第１位置から第２位置まで変位（回転）可能に構成される。よって、球ＣＢ１と球ＣＢ２との間隔が所定量よりも大きな場合には、これら球ＣＢ１及び球ＣＢ２の両球が、受入部Ｃ１７２に順に受け入れられ、それぞれ上述した振り分け動作を経て第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる。

【１７３９１】

以上のように、第６２実施形態における下側フレームＣ８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下（両球が密着する間隔が０の場合を含む）の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第４通路ＣＲｔ４へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ１７０により球ＣＢ２を第５通路ＣＲｔ５へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第４通路ＣＲｔ４へ振り分ける（案内する）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【１７３９２】

次いで、図１５８１から図１５９６を参照して、第６３実施形態におけるセンターフレームＣ２０８６について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７３９３】

図１５８１は、第６３実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂの正面斜視図であり、図１５８２は、下側フレームＣ２０８６ｂの背面斜視図である。なお、図１５８１及び図１５８２では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＣ２０８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。

【１７３９４】

図１５８１及び図１５８２に示すように、下側フレームＣ２０８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＣＯＰ２０００ｉｎと、その受入口ＣＯＰ２０００ｉｎに連通される第１通路ＣＲｔ２００１と、その第１通路ＣＲｔ２００１を案内された球（第１通路ＣＲｔ２００１をその長手方向に沿って往復動した球）が流下される第２通路ＣＲｔ２００２と、その第２通路ＣＲｔ２００２を案内された球が振分部材Ｃ２１７０により振り分けられて流下される第３通路ＣＲｔ２００３及び第４通路ＣＲｔ２００４と、第３通路ＣＲｔ２００３を案内された球および第４通路ＣＲｔ２００４から落下した球（第４通路ＣＲｔ２００４の終端に到達しなかった球）が流下される第６通路ＣＲｔ２００６と、第４通路ＣＲｔ２００４を案内された球（第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球）が流下される第５通路ＣＲｔ２００５と、その第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＣＯＰ２０００ｏｕｔとが形成される（図１５８９及び図１５９０参照）。

【１７３９５】

なお、第６３実施形態におけるセンターフレームは、上側フレーム（図示せず）と下側フレームＣ２０８６ｂとから構成される。第６３実施形態における上側フレームは、その上側フレーム通路（図示せず）の形状が、第６２実施形態における上側フレームＣ８６ａの上側フレーム通路ＣＲｔ０と異なる点を除き、他の構成は第６２実施形態における上側フレームＣ８６ａと同一の構成であるので、その説明は省略する。

【１７３９６】

上側フレーム通路は、遊技領域のうちの正面視左側（図１５６５左側）の領域（センターフレーム（上側フレーム）とレール６１（図１５６５参照）との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路の下流端に下側フレームＣ

２０８６ｂの受入口ＣＯＰ２０００ｉｎが連通される。即ち、遊技領域から上側フレーム通路に流入（入球）した球は、受入口ＣＯＰ２０００ｉｎを介して、上側フレーム通路から下側フレームＣ２０８６ｂの第１通路ＣＲｔ２００１へ流入（入球）される。

【１７３９７】

下側フレームＣ２０８６ｂには、球の重さにより動作する振分部材Ｃ２１７０が配設されており（図１５８９及び図１５９０参照）、連なった状態の球が第２通路ＣＲｔ２００２を案内される場合には、先行する球が第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる一方、後行する球が第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられる。なお、球の連なる間隔が所定量よりも大きい場合は、先行する球および後行する球の両球が第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる。

【１７３９８】

ここで、第４通路ＣＲｔ４の終端に達した球は、第５通路ＣＲｔ５へ流下されるところ、第５通路ＣＲｔ２００５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＣＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１５６５参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１７３９９】

一方、第６通路ＣＲｔ２００６には、その第６通路ＣＲｔ２００６に案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｃ１８１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図１５６５左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｃ１８２が形成（配置）される。また、第６通路ＣＲｔ２００６には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が形成される。

【１７４００】

そのため、第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられた球は、第６通路ＣＲｔ２００６において、中央流出面Ｃ１８１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｃ１８２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第５通路ＣＲｔ２００５を案内される球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１７４０１】

このように、本実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂは、第６２実施形態の場合と同様に、連なった状態の球が第２通路ＣＲｔ２００２へ流入された場合に、先行する球は通常の通路（第３通路ＣＲｔ２００３）へ振り分けられる一方、後行する球が第１入賞口６４に入賞し易い通路（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる通路（第５通路ＣＲｔ２００５））へ球を流下させる第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、球が連なった状態が形成されることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７４０２】

更に、本実施形態では、第４通路ＣＲｔ２００４を案内される球が途中で第６通路へ落下可能に形成され、落下せずに第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球のみが第５通路ＣＲｔ２００５へ流下（流入）可能とされる。そのため、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、連なった状態の球のうちの後行する球が第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられた後は、かかる第４通路ＣＲｔ２００４の終端まで球が落下せずに達することを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７４０３】

次いで、図１５８１から図１５８２に加え、図１５８３から図１５９６を参照して、下側フレームＣ２０８６ｂの詳細構成について説明する。

【１７４０４】

図１５８３は、下側フレームＣ２０８６ｂの分解正面斜視図であり、図１５８４は、下

側フレームＣ２０８６ｂの分解背面斜視図である。図１５８５は、下側フレームＣ２０８６ｂの上面図であり、図１５８６は、下側フレームＣ２０８６ｂの正面図であり、図１５８７は、下側フレームＣ２０８６ｂの背面図である。図１５８８（ａ）は、図１５８６の矢印ＭＤＬＸＸＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームＣ２０８６ｂの側面図であり、図１５８８（ｂ）は、図１５８６の矢印ＭＤＬＸＸＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームＣ２０８６ｂの側面図である。

【１７４０５】

図１５８９及び図１５９０は、図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における下側フレームＣ２０８６ｂの断面図である。図１５９１は、図１５８７のＭＤＸＣＩ－ＭＤＸＣＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１５９２は、図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図１５８９では、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態が、図１５９０では、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１７４０６】

図１５８１から図１５９２に示すように、下側フレームＣ２０８６ｂは、正面部材Ｃ２１１０と、その正面部材Ｃ２１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｃ２１２０と、正面部材Ｃ２１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｃ２１３０と、その背面部材Ｃ２１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に配設される第１中間部材Ｃ２１４０、第２中間部材Ｃ２１５０、第１介設部材Ｃ２１６０、磁性部Ｃ２４００及び受け部材Ｃ２５００と、背面部材Ｃ２１３０及び第１中間部材Ｃ２１４０の対向間に介設される振分部材Ｃ２１７０と、正面部材Ｃ２１１０及び背面部材Ｃ２１３０の対向間に介設される第２介設部材Ｃ２１８０と、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される迂回部材Ｃ２２００及び磁石Ｃ２３００と、を備える。

【１７４０７】

なお、下側フレームＣ２０８６ｂは、各部材どうしそれぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、振分部材Ｃ２１７０が背面部材Ｃ２１３０及び第１中間部材Ｃ２１４０に回転可能に軸支されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１５８１参照）。

【１７４０８】

また、下側フレームＣ２０８６ｂは、振分部材Ｃ２１７０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分部材Ｃ２１７０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＣＲｔ２００１から第６通路ＣＲｔ２００６を通過する球を遊技者に視認させると共に、振分部材Ｃ２１７０による振り分け動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７４０９】

この場合、下側フレームＣ２０８６ｂは、少なくとも第１中間部材Ｃ２１４０が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。第２通路ＣＲｔ２００２における球の連なり状態（先行する球と後行する球の間隔が所定量よりも小さい間隔か否か）と、振分部材Ｃ２１７０による振り分け動作とを遊技者に視認させられると共に、後行する球が振分部材Ｃ２１７０により第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられたことを視認できれば、かかる球は流出口ＣＯＰｏｕｔから第１入賞口６４へ高確率で（本実施形態では第５通路ＣＲｔ２００５に流入されれば、ほぼ全球が）入球するため、第５通路ＣＲｔ２００５を案内される球を遊技者に視認させなくても足りるためである。

【１７４１０】

なお、振分部材Ｃ２１７０は、光透過性（又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【１７４１１】

また、一方で、第１中間部材Ｃ２１４０が有色の樹脂材料から構成される、或いは、第１中間部材Ｃ２１４０に塗装が施されたりシールが添付されていても良い。即ち、第３通

路ＣＲｔ２００３を通過する球や振分部材Ｃ２１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。
【１７４１２】
正面部材Ｃ２１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｃ１１１と、その正面部Ｃ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｃ１１２とを備える。
【１７４１３】
正面部Ｃ１１１には、その正面部Ｃ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｃ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＣ２０８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｃ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【１７４１４】
正面部Ｃ１１１には、第１入賞口６４（図１５６５参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＣＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＣＯＰｏｕｔは、上述したように、第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。
【１７４１５】
底面部Ｃ１１２は、その上面に第２介設部材Ｃ２１８０の底面が対向配置される。なお、底面部Ｃ１１２には、流出口ＣＯＰｏｕｔに連通する筒状の部位が形成され、この筒状の部位が第５通路ＣＲｔ２００５の一部とされる。よって、第５通路ＣＲｔ２００５の内壁面に正面部材Ｃ２１１０と第２介設部材Ｃ１８０との重なり部分（継ぎ目）が形成されないので、流出口ＣＯＰｏｕｔから第５通路ＣＲｔ２００５内を遊技者が覗き込んだ際の外観を良くすることができると共に、重なり部分（継ぎ目）から針金等の異物が侵入されることを回避できる。
【１７４１６】
底面部Ｃ１１２は、正面部Ｃ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、その底面部Ｃ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０の正面に当接される。これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。
【１７４１７】
皿部材Ｃ２１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ２１２１及び下側底面部Ｃ２１２２と、通路の側壁を形成する側壁部Ｃ２１２４を備える。
【１７４１８】
上側底面部Ｃ２１２１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＣＯＰ２０００ｉｎから離間する方向（矢印方向）へ向けて下降傾斜して形成される。
【１７４１９】
下側底面部Ｃ２１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１５７７（ｂ）参照）。
【１７４２０】
側壁部Ｃ２１２４は、上側底面部Ｃ２１２１（第１通路ＣＲｔ２００１）の通路幅と、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【１７４２１】
下側底面部Ｃ２１２２は、上面視において、上側底面部Ｃ２１２１と略９０度に交差され、上側底面部Ｃ２１２１の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と下側底面部Ｃ２１２２の長

手方向における一端側（矢印Ｆ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。
【１７４２２】
側壁部Ｃ２１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｃ２１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）から底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ球が流下可能とされる。
【１７４２３】
下側底面部Ｃ２１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その上昇傾斜側（下側底面部Ｃ２１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ２１２１から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ球を流下させることができる。
【１７４２４】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ２１２１から下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【１７４２５】
下側底面部Ｃ２１２２には、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を案内される球を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。
【１７４２６】
よって、下側底面部Ｃ２１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）させることができる。
【１７４２７】
なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ２１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図１５８５参照）。
【１７４２８】
また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ２１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ２１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ２１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。
【１７４２９】
一方で、下側底面部Ｃ２１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出

（流下）する虞がある。
【１７４３０】
これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ２１２２が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成される（図１５８９参照）。これにより、下側底面部Ｃ２１２２の傾斜の作用により、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する側壁部Ｃ２１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）で転動（往復動）させることができる。
【１７４３１】
これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。
【１７４３２】
なお、下側底面部Ｃ２１２２の円弧形状（下側底面部Ｃ２１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状、図１５７７（ｂ）及び図１５８８（ｂ）参照）は、その長手方向の一端側および他端側における円弧形状の半径が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧形状の半径よりも小さくされる。即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧形状の半径が大きくされる。
【１７４３３】
これにより、初期段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）させ易くできる。
【１７４３４】
背面部材Ｃ２１３０は、板状に形成される本体部Ｃ２１３１と、その本体部Ｃ２１３１の正面から立設される軸支座部Ｃ２１３４とを備える。
【１７４３５】
本体部Ｃ２１３１には、その本体部Ｃ２１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＣＲｔ２００５）を連通するための開口である開口Ｃ２１３１ａと、振分部材Ｃ２１７０（錘Ｃ２１７５）との干渉を回避するための開口である開口Ｃ２１３１ｃとが開口形成される。開口Ｃ２１３１ａの下方には、本体部Ｃ２１３１の外縁を窪ませた凹部Ｃ２１３１ｂが形成される。凹部Ｃ２１３１ｂは、迂回部材Ｃ２２００との対向間に第５通路ＣＲｔ２００５の一部を形成する。
【１７４３６】
軸支座部Ｃ２１３４は、振分部材Ｃ２１７０の軸Ｃ２１７４を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。なお、軸Ｃ２１７４は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で軸支座部Ｃ２１３４と第１中間部材Ｃ２１４０の軸支座部Ｃ２１４１ｂとに軸支される。
【１７４３７】
第１中間部材Ｃ２１４０は、板状の本体部Ｃ２１４１と、その本体部Ｃ２１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ２１４２、天面部Ｃ２１４３、通路部Ｃ２１４４及び下ストッパ部Ｃ２１４５とを備え、背面部材Ｃ２１３０の正面視左側に配設される。

【１７４３８】
本体部Ｃ２１４１には、その本体部Ｃ２１４１の正面側と背面側とに形成される通路（第３通路ＣＲｔ２００３及び第６通路ＣＲｔ２００６）を連通するための開口である開口Ｃ２１４１ａが形成される。また、本体部Ｃ２１４１の背面からは、軸支座部Ｃ２１４１ｂが立設される。軸支座部Ｃ２１４１ｂは、振分部材Ｃ２１７０の軸Ｃ２１７４を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。
【１７４３９】
第１中間部材Ｃ２１４０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１４２及び天面部Ｃ２１４３の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ２１３０の正面に当接される。これにより、背面部材Ｃ２１３０と第１中間部材Ｃ２１４０（本体部Ｃ２１４１、底面部Ｃ２１４２及び天面部Ｃ２１４３）とに区画された空間により第２通路ＣＲｔ２００２が形成されると共に、背面部材Ｃ２１３０と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２及び通路部Ｃ２１４４）と第２位置にある振分部材Ｃ２１７０とにより区画された空間により第３通路ＣＲｔ２００３が形成される（図１５９０参照）。
【１７４４０】
底面部Ｃ２１４２は、皿部材Ｃ２１２０側から振分部材Ｃ２１７０側へ向けて下降傾斜される。また、通路部Ｃ２１４４は、第２位置にある振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）と開口Ｃ２１４１ａとの対向間に位置し、第２位置にある振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）側から開口Ｃ２１４１ａ側へ向けて下降傾斜して形成される。よって、通路部Ｃ２１４４は、第２位置へ変位した振分部材Ｃ２１７０から球を受け入れると、その球を開口Ｃ２１４１ａを介して第６通路ＣＲｔ２００６へ流出（転動）させることができる。
【１７４４１】
なお、底面部Ｃ２１４２は、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）が上方へ変位された際に、その振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）の上面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ２１７０の第１位置を規定する（図１５８９参照）。一方、下ストッパ部Ｃ２１４５は、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）が下方へ変位された際に、その振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）の下面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ２１７０の第２位置を規定する（図１５９０参照）。
【１７４４２】
なお、振分部材Ｃ２１７０は、第１位置から第２位置に変位（回転）されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）が上方へ変位（上昇）される。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態における底面部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態における底面部Ｃ２１７３の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ側）に位置される。
【１７４４３】
第２中間部材Ｃ２１５０は、板状の本体部Ｃ２１５１と、その本体部Ｃ２１５１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ２１５２及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４とを備え、第１中間部材Ｃ２１４０との間に所定の間隔を隔てつつ、背面部材Ｃ２１３０の正面視右側に配設される。
【１７４４４】
なお、本実施形態では、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材Ｃ２１５０との間の対向間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）が、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）寸法に球の直径の少なくとも２倍以上の大きさを加算した寸法よりも大きな値に設定される。よって、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側（第１中間部材Ｃ２１４０との間、及び、第２中間部材Ｃ２１５０との間の両方）に、球が通過可能な空間をそれぞれ確保することができる。よって、球の流下する方向の種類（バリエーション）を増やし、遊技の興趣を高めることができる。
【１７４４５】
第２中間部材Ｃ２１５０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１５

２が、背面部材Ｃ２１３０の開口Ｃ２１３１ａに連通可能となる位置に配置されると共に、開口２１３１ａへ向けて下降傾斜される。よって、底面部Ｃ２１５２は、第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球（磁性部Ｃ２４００の終端から落下した球）を受け入れると、その球を開口Ｃ２１３１ａ内へ流入（転動）させることができる。即ち、底面部Ｃ２１５２の上面側に第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される。

【１７４４６】

第２中間部材Ｃ２１５０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１５２及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ２１３０の正面に当接される。また、底面部Ｃ２１５２の上面（転動面）の縁部に沿って本体部Ｃ２１５１及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４が所定量だけ上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。

【１７４４７】

磁性部Ｃ２４００から遠い側に位置する壁面部Ｃ２１５３は、第４通路ＣＲｔ２００４を案内される球の移動方向（磁性部Ｃ２４００の下縁（球を吸着する縁部）に沿う方向）の延長線と交差する面を形成する。これにより、第４通路ＣＲｔ２００４から排球された（磁性部Ｃ２４００から落下した）球を、壁面部Ｃ２１５３により直接受け止めて、或いは、底面部Ｃ２１５２でバウンドした（跳ね上がった）後に壁面部Ｃ２１５３により受け止めて、底面部Ｃ２１５２上へ落下させることができる。なお、実施形態では、壁面部Ｃ２１５３は、磁性部Ｃ２４００の終端（矢印Ｒ方向の端部）における下縁（球が吸着される縁部）よりも高い位置まで形成される。

【１７４４８】

一方、底面部Ｃ２１５２の上面からの突出寸法は、磁性部Ｃ２４００に近い側に位置する壁面部Ｃ２１５４の突出寸法、及び、本体部Ｃ２１５１の突出寸法が、磁性部Ｃ２４００から遠い側に位置する壁面部Ｃ２１５３の突出寸法よりも小さく（低く）される。これにより、底面部２１５２（第５通路ＣＲｔ２００５）から第１介設部材Ｃ２１６０又は第２介設部材Ｃ２１８０（第６通路ＣＲｔ２００６）へ球が落下可能として、遊技の興趣を高められる。なお、壁面部Ｃ２１５４及び本体部Ｃ２１５１の突出寸法は、球の直径よりも小さくされることが好ましい。

【１７４４９】

受け部材Ｃ２５００は、上面（転動面）を形成する第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２を備え、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材２１５０との対向間であって、磁性部Ｃ２４００の下方（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設される。よって、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２で受け止めて、第１介設部材Ｃ２１６０へ流下（転動）させることができる。

【１７４５０】

第１底面部Ｃ２５０１は、第２底面部Ｃ２５０２との接続部から第１中間部材Ｃ２１４０側（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成され、第２底面部Ｃ２５０２は、第１底面部Ｃ２５０１との接続部から第２中間部材Ｃ２１５０側（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。また、第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２は、受け部材Ｃ２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて下降傾斜される（図１５９２参照）。

【１７４５１】

上述したように、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側には、第１中間部材Ｃ２１４０及び第２中間部材Ｃ２１５０との間に少なくとも球１個分の空間がそれぞれ形成される。

【１７４５２】

よって、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に転動させて、第１介設部材Ｃ２１６０へ流下させることができる。この場合、第４通路ＣＲｔ２００４（磁

性部Ｃ２４００）から落下した球を受け止めた部位（第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２）に応じて、その球を流下させる方向を異ならせることができる。
【１７４５３】
　また、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に転動させた上で、それら第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の下流端から第１介設部材Ｃ２１６０へ流下させることができる。これにより、かかる球を、第１介設部材Ｃ２１６０の長手方向に沿って転動させ易くできる。
【１７４５４】
　なお、第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２の少なくとも一方または両方は、受け部材Ｃ２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて上昇傾斜されていても良く、或いは、受け部材Ｃ２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて非傾斜（即ち、水平）とされていても良い。
【１７４５５】
　また、受け部材Ｃ２５００は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一側のみに球が通過可能な空間が確保される形態（即ち、第１中間部材Ｃ２１４０又は第２中間部材Ｃ２１５０の一方との間のみに球が流下（通過）可能な空間が形成され、他方との間では球の流下（通過）が不能とされる形態）でも良い。この場合には、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向寸法を確保して、その分、球の転動時間を長くできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【１７４５６】
　第１介設部材Ｃ２１６０は、受け部材Ｃ２５００から流下された球を、第２介設部材Ｃ２１８０へ流下させる転動面を形成する部材であり、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材Ｃ２１５０との対向間に介設される。
【１７４５７】
　第１介設部材Ｃ２１６０の上面（転動面）には、球を第２介設部材Ｃ２１８０へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ２１６１及び側方流出面Ｃ２１６２）が形成される。中央流出面Ｃ２１６１は、第２介設部材Ｃ２１８０の中央流出面Ｃ１８１（即ち、第１入賞口６４）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）され、側方流出面Ｃ２１６２は、中央流出面Ｃ２１６１から遊技盤１３の幅方向（図１５６５左右方向）へ位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。また、第１介設部材Ｃ２１６０の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ２１６２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ２１６１が形成される。
【１７４５８】
　なお、側方流出面Ｃ２１６２は、第２介設部材Ｃ２１８０の側方流出面Ｃ１８２に対して、遊技盤１３の幅方向（図１５６５左右方向）における外側（矢印Ｌ方向または矢印Ｒ方向）へ位置を異ならせて形成（配置）される。よって、側方流出面Ｃ２１６２から流下される球を、第２介設部材Ｃ２１８０の側方流出面Ｃ１８２よりも外側（即ち、側方流出面Ｃ１８２へ向けて下降傾斜する第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面））へ流下させることができる。従って、かかる球を、第２介設部材Ｃ２１８０の長手方向に沿って転動させ易くできる。その結果、第２介設部材Ｃ２１８０の中央流出面Ｃ１８１から流下させる（即ち、第１入賞口６４へ入球（入賞）する）機会を形成して、遊技の興趣を高めることができる。
【１７４５９】
　振分部材Ｃ２１７０は、軸Ｃ２１７４が軸支される本体部Ｃ２１７１と、その本体部Ｃ２１７１の一側に形成される受入部Ｃ２１７２と、本体部Ｃ２１７１の上面側に形成される転動部Ｃ２１７３と、軸Ｃ２１７４を挟んで受入部Ｃ２１７２と反対側となる位置において本体部Ｃ２１７１に配設（取着）される真鍮製の錘Ｃ２１７５とを備え、軸Ｃ２１７４（軸支座部Ｃ２１３４，Ｃ２１４１ｂ）を中心として回転可能とされる。
【１７４６０】

振分部材Ｃ２１７０は、その重心位置が回転中心（軸Ｃ２１７４）に対して他側（錘Ｃ２１７５が配設される側、即ち、軸Ｃ２１７４を挟んで受入部Ｃ２１７２０と反対側、図１５８９右側）に偏心される。よって、無負荷状態では、振分部材Ｃ２１７０は、受入部Ｃ２１７２側が上昇され（正面視において軸Ｃ２１７４を中心として時計回りに回転され）、底面部Ｃ２１４２に回転が規制された状態（第１位置に配置された状態）とされる（図１５８９参照）。

【１７４６１】

一方、振分部材Ｃ２１７０の受入部Ｃ２１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ２１７４）に対して一側（受入部Ｃ２１７２が形成される側、即ち、軸Ｃ２１７４に対して錘Ｃ２１７５と反対側、図１５９０左側）に偏心される。よって、受入部Ｃ２１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ２１７０は、受入部Ｃ２１７２側が下降され（正面視において軸Ｃ２１７４を中心として反時計回りに回転され）、下ストッパ部Ｃ２１４５に回転が規制された状態（第２位置に配置された状態）とされる（図１５９０参照）。

【１７４６２】

なお、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された後、受入部Ｃ２１７２から第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ球が排出（流出）されると、振分部材Ｃ２１７０は、振分部材Ｃ２１７０の自重（重心位置の軸Ｃ２１７４からの偏心）の作用により、第１位置へ復帰される。

【１７４６３】

このように、振分部材Ｃ２１７０の第１位置への変位（復帰）は、振分部材Ｃ２１７０の自重（重量）により行われるので、例えば、付勢ばねを設けて、その付勢ばねにより振分部材Ｃ２１７０を第１位置へ向けて付勢する場合と比較して、構造を簡素化できる。

【１７４６４】

また、付勢ばねを利用する場合と比較して、振分部材Ｃ２１７０の第１位置への変位（復帰動作）を低速とできるので、後行する球ＣＢ２を転動部Ｃ２１７３上に到達させ易くできる。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）を開始してから、後行する球ＣＢ２が転動部Ｃ２１７３上へ流入不能となる位置まで変位（回転）されるのに要する時間を長くできる。更に、後行する球ＣＢ２の更に後続となる第３の球も転動部Ｃ２１７３へ到達させる可能性を付与できる（図１５９３から図１５９５参照）。

【１７４６５】

受入部Ｃ２１７２は、第１位置において第２通路ＣＲｔ２００２に対向する位置に形成される対向部Ｃ２１７２ａと、第１位置において受け入れた球を支持すると共に第２位置において通路部Ｃ２１４４へ向けて球を転動させるための転動面を形成する底面部Ｃ２１７２ｂとを備える。

【１７４６６】

受入部Ｃ２１７２は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、対向部Ｃ２１７２ａが、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向に略直交し、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２へ向けて上昇傾斜するように形成される（図１５８９参照）。

【１７４６７】

ここで、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａが、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向と直交する方向に対して傾斜（対向部Ｃ２１７２ａの転動部Ｃ２１７３側が底面部Ｃ２１７２ｂ側よりも第２通路ＣＲｔ２００２から離間される方向へ傾斜）されていると、対向部Ｃ２１７２ａに衝突した球が上方へ跳ね上げられて、第２通路ＣＲｔ２００２へ逆流する虞がある。

【１７４６８】

これに対し、対向部Ｃ２１７２ａは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向に略直交されているの

で、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から受け入れた球を対向部Ｃ２１７２ａにより受け止めて、第３通路ＣＲｔ２００３へ逆流することを抑制できる。

【１７４６９】

また、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（通路部Ｃ２１４４）へ向けて下降傾斜するように形成されていると、受入部Ｃ２１７２に受け入れた球が早期に第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ流出されてしまい、球の重さを利用できなくなることで、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に到達させられない虞がある。

【１７４７０】

これに対し、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２へ向けて上昇傾斜するように形成されているので、少なくとも振分部材Ｃ２１７０が第１位置から所定量だけ回転するまでの間は、底面部Ｃ２１７２ｂに球を保持しておくことができる。これにより、受入部Ｃ２１７２に受け入れた球が第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ流出されるまでの時間を遅らせることができる。その結果、球の重さを有効に利用して、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に確実に到達させることができる。

【１７４７１】

この場合、本実施形態では、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａに接続される基端側（図１５８９右側、矢印Ｒ方向側）の領域における上昇傾斜の角度が、対向部Ｃ２１７２ａと反対側となる先端側（図１５８９左側、矢印Ｌ方向側）の領域における上昇傾斜の角度よりも大きな角度に設定される。また、言い換えると、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａと反対側となる先端側（図１５８９左側）の領域における下降傾斜の角度が、対向部Ｃ２１７２ａに接続される基端側（図１５８９右側）の領域における下降傾斜の角度よりも大きな角度に設定される。

【１７４７２】

よって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）される初期段階では、底面部Ｃ２１７２ｂの基端側（図１５８９右側）の領域における上昇傾斜を利用して、受入部Ｃ２１７２（底面部Ｃ２１７２ｂ）における球の保持を確実としつつ、後期段階では、底面部Ｃ２１７２ｂの先端側（図１５８９左側）の領域における下降傾斜を利用して、通路部Ｃ２１４４（第３通路ＣＲｔ２００３）への球の排球をスムーズに行わせることができる。

【１７４７３】

なお、上述した理由（第２通路ＣＲｔ２００２への逆流防止）により、対向部Ｃ２１７２ａを、転動部Ｃ２１７３側が底面部Ｃ２１７２ｂ側よりも第２通路ＣＲｔ２００２へ近接する方向へ傾斜させても良い。

【１７４７４】

受入部Ｃ２１７２は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ向けて下降傾斜するように形成される（図１５９０参照）。これにより、受入部Ｃ２１７２に受け入れた球を、第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ確実に流出させることができる。

【１７４７５】

また、球が底面部Ｃ２１７２ｂを転動している間、その球の重量を振分部材Ｃ２１７０に作用させ、振分部材Ｃ２１７０を第２位置（即ち、後行する球を転動部Ｃ２１７３（第４通路ＣＲｔ４）へ案内可能な状態）を維持しやすくできる。

【１７４７６】

転動部Ｃ２１７３は、受入部Ｃ２１７２（底面部２１７２ｂ）に対して軸Ｃ２１７４を挟んで反対側となる領域に形成される。即ち、受入部Ｃ２１７２に受け入れられた球の重

量により振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）されると、その回転に伴って上方（矢印Ｕ方向）へ上昇される領域を少なくとも含む領域に転動部Ｃ２１７３が形成される。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）されると、転動部Ｃ２１７３の下流側が上方へ持ち上げられ、磁性部Ｃ２４００との間の距離が短縮される。よって、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【１７４７７】

この場合、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、転動部Ｃ２１７３が、軸Ｃ２１７４を挟んで水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）反対側のみに形成されていると、底面部２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３に球が流下された際に、その球の重量や落下の勢いによって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置へ向けて回転される虞がある。よって、転動部Ｃ２１７３の高さ位置（鉛直方向位置）が下がり、磁性部Ｃ２４００との間の距離が拡大されることで、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）られない虞がある。

【１７４７８】

これに対し転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、軸Ｃ２１７４と鉛直方向において重なる範囲（領域）にわたって形成される（図１５９０参照）。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流側（第２通路ＣＲｔ２００２側）の領域は、軸Ｃ２１７４よりも水平方向一側（矢印Ｌ方向側）に位置し、その上流側を転動する球の重量を、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に維持する方向の力として作用させることができる。

【１７４７９】

よって、底面部２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３に球が流下された際に、その球の重量や落下の勢いを利用して、第２位置にある状態を維持させる方向の慣性力を振分部材Ｃ２１７０に作用させ、その慣性力の作用により第２位置にある状態を維持する方向へ振分部材Ｃ２１７０が変位（回転）しようとしている間に、球を転動部Ｃ２１７３の下流側の領域まで転動させることができる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【１７４８０】

受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂの延設長さ（球を案内する方向の長さ）は、転動部Ｃ２１７３の延設長さよりも大きな寸法に設定される。よって、転動部Ｃ２１７３を球が転動する間、同時に、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂを別の球が転動する状態を形成しやすくできる。即ち、転動部Ｃ２１７３を球が転動する間、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂに別の球の重量を振分部材Ｃ２１７０に作用させておくことができる。

【１７４８１】

これにより、転動面Ｃ２１７３を球が転動する際に、その球の重量によって振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位される（転動面Ｃ２１７３の下流側が下方へ変位される）ことを抑制できる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【１７４８２】

特に、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂは、軸Ｃ２１７４から離間する方向（軸Ｃ２１７４に直交する方向）へ延設されるので、底面部Ｃ２１７２ｂを球が転動するに従って、力の作用点（球の重量が作用する位置）と支点（回転中心）との距離を大きく（増加）させることができる。即ち、底面部Ｃ２１７２ｂを球が転動するに従って、振分部材Ｃ２１７０を第２位置へ維持し易くできる（第２位置に配置された振分部材Ｃ２１７０を第１位置へ変位（回転させる）のに必要な力を大きくできる）。

【１７４８３】

これにより、転動面Ｃ２１７３を球が転動する際に、その球の重量によって振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位される（転動面Ｃ２１７３の下流側が下方

へ変位される）ことを抑制できる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【１７４８４】

ここで、振分部材Ｃ２１７０は、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から受入部Ｃ２１７２へ向けて球が転動する方向（受入部Ｃ２１７２が球を受け入れる方向、矢印Ｒ方向）と、受入部Ｃ２１７２を球が転動する方向（受け入れた球を転動させる方向、矢印Ｌ方向）とが逆方向とされる。即ち、受入部Ｃ２１７２において、球の流下（転動）方向を反転（方向転換）させる構成とされる。

【１７４８５】

これにより、受入部Ｃ２１７２が球を受け入れる方向と受入部Ｃ２１７２を球が転動する方向とが同方向とされる場合と比較して、反転に要する時間の分、球が振分部材Ｃ２１７０（受入部Ｃ２１７２）に滞留する時間を確保でき、その受入部Ｃ２１７２に滞留される球の重量を利用して振分部材Ｃ２１７０を第２位置に維持し易くできる。その結果、転動部Ｃ２１７３において球を安定して転動させることができる。

【１７４８６】

転動部Ｃ２１７３は、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）を転動する球を、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）へ案内する（振り分ける）ための部位であり、振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）の下流端と、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）の上流端との間に位置（架設）される。

【１７４８７】

上述したように、転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置と第２位置との間で変位（回転）されることで、その上面（転動面）の高さ位置が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ）方向へ変位（昇降）される。これにより、転動部Ｃ２１７３を磁性部Ｃ２４００よりも下方となる位置に配置できる。

【１７４８８】

その結果、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に配置して、転動部Ｃ２１７３を上方へ変位（上昇）させることで、磁性部Ｃ２４００に近づけて、重力の作用に抗して、球を吸着させ易くできる一方、振分部材Ｃ２１７０を第１位置に配置して、転動部Ｃ２１７３を下方へ変位（上昇）させることで、磁性部Ｃ２４００から離間させて、重力の作用も利用して、球を吸着させない態様を確実に形成できる。

【１７４８９】

転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）と受入部Ｃ２１７２の対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分は、上流側（第１中間部材Ｃ２１４０（第２通路ＣＲｔ２００２）側、矢印Ｌ方向）へ向けて突出される鋭角な突部形状に形成される。この突部形状の部位が球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入されることで、両球（球ＣＢ１，ＣＢ２）を切り離すことができる。

【１７４９０】

振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）における高さ位置に対し、転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）における高さ位置が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に位置される。即ち、底面部Ｃ２１４２の下流端と転動部Ｃ２１７３の上流端との間には段差が形成され、第２位置に配置された振分部材Ｃ１７０が第１位置へ向けて所定量（所定回転角）だけ変位（回転）された場合に、底面部Ｃ２１４２の下流端と転動部Ｃ２１７３の上流端とが同一の高さ位置に配置される。

【１７４９１】

ここで、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）を転動する球が受入部Ｃ２１７２へ流入されると、その球の重量で振分部材Ｃ２１７０が第１位置から下方へ変位（回転）され、振分部材Ｃ２１７０の下面が下ストッパ部Ｃ２１４５に当接されることで、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置される。

【１７４９２】
この場合、下ストッパ部Ｃ２１４５に下面が衝突した際の衝撃で振分部材Ｃ２１７０が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上げられる虞があり、振分部材Ｃ２１７０の上方への跳ね上がりにより、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端における高さ位置に対し、転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端における高さ位置が、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置されると、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球を流入（転動）させることができなくなる虞がある。
【１７４９３】
特に、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に球が衝突し、その球の衝突による衝撃で振分部材Ｃ２１７０が更に上方へ跳ね上げられると（球により振分部材Ｃ２１７０が更に上方へ押し上げられると）、その球が、本来は転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球であったにも関わらず、受入部Ｃ２１７２に流入される（受け入れられる）される虞がある。
【１７４９４】
これに対し、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、上述したように、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端と転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端との間には段差が形成されるので、衝撃により振分部材Ｃ２１７０が上方へ跳ね上げられた場合でも、両者の間の段差の分、底面部Ｃ２１４２の下流端よりも転動部Ｃ２１７３の上流端が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置することを抑制できる。即ち、両者の段差の分だけ、振分部材Ｃ２１７０が上方へ跳ね上げられることを許容できる。よって、転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）させ易くできる。
【１７４９５】
なお、第６２実施形態の場合と同様に、転動部Ｃ２１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ２１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）を、転動部Ｃ２１７３から第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２）へ向けて下降傾斜させても良い。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流側の端面を、転動部Ｃ２１７３の転動面側の縁部よりも、受入部Ｃ２１７２（対向部Ｃ２１７２ａ）側の縁部の方が、第１中間部材Ｃ２１４０に近接される断面形状としても良い。
【１７４９６】
これにより、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に球が衝突した場合には、その球から振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に作用する力の方向を、振分部材Ｃ２１７０を下方へ押し下げる方向の力とすることができる。その結果、転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）させ易くできる。
【１７４９７】
磁性部Ｃ２４００は、金属製の長尺板状体であり、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設された磁石Ｃ２３００から作用する磁力を利用して、球を吸着可能とされる。なお、磁石Ｃ２３００は、磁性部Ｃ２４００の長手方向に沿って複数が配列される。
【１７４９８】
振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球が流下されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球が、転動部Ｃ２１７３の下流端から磁性部Ｃ２４００の上流端へ飛び付く。即ち、磁性部Ｃ２４００の下縁（正面（矢印Ｆ方向の面）と下面（矢印Ｄ方向の面）とが交差して形成される稜線）に吸着される（図１５９６参照）。磁性部Ｃ２４００に吸着された球は、飛び付き（転動）による球の勢いと、磁性部Ｃ２４００の下降傾斜による重力の作用により、磁性部Ｃ２４００の下縁（長手方向

）に沿って移動される。
【１７４９９】
この場合、球の状態（振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７３から磁性部Ｃ２４００へ飛び付く際の球の速度や球の位置、球の回転状態など）に応じて、磁性部Ｃ２４００の下縁から球が落下する可能性（終端まで球が到達できない可能性）を持たせた不安定な状態を形成できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【１７５００】
特に、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）は、振分部材Ｃ２１７０と第５通路ＣＲｔ２００５との間の通路を形成するので、遊技の興趣を高めることができる。即ち、振分部材Ｃ２１７０によって第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられる球は、先行する球ＣＢ１との間の距離が所定量より小さい状態（即ち、先行する球ＣＢ１と連なった状態）で第２通路ＣＲｔ２００２を流下（転動）する球（後行する球ＣＢ２）だけであり、かかる後行する球Ｂ２が発生する可能性は比較的低い。そのような低い可能性を経て振分部材Ｃ２１７０に到達した球（後行する球Ｂ２）を、落下する可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）がある不安定な状態で変位させることで、無事に通過することを遊技者に期待させて、遊技の興趣を向上できる。
【１７５０１】
磁性部Ｃ２４００の厚み寸法は、球の直径よりも小さい値（本実施形態では、球の直径の６％）に設定される。よって、磁性部Ｃ２４００の下縁に外面点ＣＰ１が吸着された球は、位置ＣＰ１よりも下方となる位置の外面点ＣＰ２が本体部Ｃ２１３１の正面に当接される。この場合、球の重心は、外面点ＣＰ２よりも本体部Ｃ２１３１の正面から離れて位置するので、球の自重（重心に作用する重力）が、外面点ＣＰ１を支点として、外面点ＣＰ２を本体部２１３１の正面に押し当てる方向の力（即ち、図１５９６において外面点ＣＰ１を中心として球を右回り（時計まわり）に回転させる力）として作用される（図１５９６参照）。
【１７５０２】
これにより、磁性部Ｃ２４００に球が吸着されると、かかる球を、外面点ＣＰ１と外面点ＣＰ２との２点で支持することができ、その結果、磁性部Ｃ２４００の下縁（長手方向）に沿った球の移動を安定化できる。また、外面点ＣＰ２における本体部２１３１の正面との間の摩擦抵抗を利用して、球の移動速度を緩やか（低速化）することができる。よって、これによっても、球の移動を安定化できると共に、第４通路ＣＲｔ２００４の通過に要する時間を嵩ませて、球が落下せずに第５通路ＣＲｔ２００５に到達することを期待する遊技者の興趣を向上させることができる。
【１７５０３】
このように、背面部材Ｃ２１３０の本体部ｃ２１３１を挟んで、磁石Ｃ２３００と磁性部Ｃ２４００を配設し、磁性部Ｃ２４００に沿って球を移動（摺動）させる構成とすることで、吸着力の調整と摩擦力の適正化とを容易としつつ、球の通過経路を簡素な構造で形成できる。
【１７５０４】
第２介設部材Ｃ２１８０は、第６通路ＣＲｔ２００６における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｃ２１１０と第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０との対向間に介設される。即ち、正面部材Ｃ２１１０と第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０と第２介設部材Ｃ２１８０に区画された空間により第６通路ＣＲｔ２００６が形成される。
【１７５０５】
第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）には、上述したように、第２介設部材Ｃ２１８０（第６通路ＣＲｔ２００６）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２）が形成される。また、第６通路ＣＲｔ２００６の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面

Ｃ１８１が配置される。
【１７５０６】
なお、正面部材Ｃ２１１０の正面部Ｃ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２が形成される領域を除き、第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｃ１８１又は側方流出面Ｃ１８２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。
【１７５０７】
第２介設部材Ｃ２１８０の底面には、凹部Ｃ１８３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｃ１８３と正面部材Ｃ２１１０の底面部Ｃ１１２との対向間に第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される。
【１７５０８】
迂回部材Ｃ２２００は、板状の本体部Ｃ２２０１と、その本体部Ｃ２２０１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から立設される壁面部Ｃ２２０２と、その壁面部Ｃ２２０２の一部を正面側へ更に延設して形成される樋部Ｃ２２０３とを備え、開口Ｃ２１３１ａに対向する位置において、背面部材Ｃ２１３０の背面側に配設される。
【１７５０９】
迂回部材Ｃ２２００が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、壁面部Ｃ２２０２の立設先端（矢印Ｆ方向側）が背面部材Ｃ２１３０（本体部Ｃ２１３１）の背面に当接され、且つ、樋部Ｃ２２０３の立設先端（矢印Ｆ方向側）が第２介設部材Ｃ２１８０の背面に当接されると共に、樋部Ｃ２２０３の縁部が第１介設部材Ｃ２１６０の底面に当接される。
【１７５１０】
これにより、背面部材Ｃ２１３０（本体部Ｃ２１３１）と迂回部材Ｃ２２００（本体部Ｃ２２０１及び壁面部Ｃ２２０２）とに区画された空間、及び、第１介設部材Ｃ２１６０と迂回部材Ｃ２２００（樋部Ｃ２２０３）とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される（図１５９１及び図１５９２参照）。
【１７５１１】
なお、樋部Ｃ２２０３は、背面部材Ｃ２１３０側から第２介設部材Ｃ２１８０側へ向けて下降傾斜される。よって、背面部材Ｃ２１３０の開口Ｃ２１３１ａから迂回部材Ｃ２２００内へ流入された球を樋部Ｃ２２０３上を転動させて、正面部材Ｃ２１１０の底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ２１８０（凹部Ｃ１８３）との間に形成される第５通路ＣＲｔ２００５へ流入させることができる。
【１７５１２】
次いで、振分部材Ｃ２１７０による球の振り分け動作について説明する。図１５９３から図１５９５は、振分部材Ｃ２１７０による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１５８５のＭＤＬＸＸＸＩＸ－ＭＤＬＸＸＸＩＸ線における断面に対応する。図１５９６は、図１５９５（ｂ）のＭＤＸＣＶＩ－ＭＤＸＣＶＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図である。
【１７５１３】
なお、図１５９３（ａ）及び図１５９３（ｂ）は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態を示し、図１５８９に対応する。図１５９５（ａ）及び図１５９５（ｂ）は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態を示し、図１５９０に対応する。
【１７５１４】
図１５９３（ａ）に示すように、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、受入部Ｃ２１７２は、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ可能（球ＣＢ１が流入可能）な位置に配置される。
【１７５１５】
即ち、受入部Ｃ２１７２は、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線と交差する位置に対向部Ｃ２１７２ａが配置され、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線よ

りも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に底面部Ｃ２１７２ｂが配置される。
【１７５１６】
なお、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、転動部Ｃ２１７３と対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。
【１７５１７】
一方、転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ不能（球ＣＢ１が流入不能）な位置に配置される。
【１７５１８】
即ち、転動部Ｃ２１７３は、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置（一段高い位置）に底面部Ｃ２１７２ｂが配置される。なお、転動部Ｃ２１７３と、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線との間の鉛直方向における間隔（段差の高さ）は、球の半径よりも大きな寸法に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入することを抑制できる。
【１７５１９】
なお、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の天面部Ｃ２１４３の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入することを許容できる。
【１７５２０】
この場合、振分部材Ｃ２１７０が第１位置にある状態では、転動部Ｃ２１７３が、水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、軸Ｃ２１７４を挟んで、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）と反対側に位置し、且つ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から離間する方向（矢印Ｒ方向）へ向かって下降傾斜される。
【１７５２１】
よって、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入したとしても、かかる球により、振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ向けて回転される（即ち、転動部Ｃ２１７３が上方へ持ち上げられる）ことを抑制できると共に、転動部Ｃ２１７３の下降傾斜に沿って球を第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下させることができる。その結果、段差を乗り越えた球が磁性部Ｃ２４００に飛び付いて（吸着されて）、第４通路ＣＲｔ２００４を流下する（第５通路ＣＲｔ２００５へ到達する）ことを抑制できる。
【１７５２２】
但し、段差を乗り越えた球が磁性部Ｃ２４００に飛び付く（吸着される）ことが可能な位置に磁性部Ｃ２４００が配設されていても良い。即ち、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さく、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１を乗り越える場合に、球ＣＢ２が磁性部Ｃ２４００に飛び付き（吸着）可能な位置に磁性部Ｃ２４００が配設されていても良い。球ＣＢ２は、本来は、第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられるべき球であるので、かかる球が第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下されることを抑制して、遊技者に不利になることを抑制できる。
【１７５２３】
第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を球ＣＢ１（先行する球）と球ＣＢ２（先行する球との間に所定の間隔を隔てて後行する球）とが転動する場合、図１５９３（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が振分部材Ｃ２１７０の受入部Ｃ２１７２に流入され（受け入れられ）、球ＣＢ１は、対向部Ｃ２１７２ａに当接され（受け止められ）、受入部Ｃ２１７２に保持される。

【１７５２４】
　また、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さい場合には、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接される。これにより、球ＣＢ２を球ＣＢ１の後方（上流側）に待機させることができる。
【１７５２５】
　図１５９３（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２に受け入れられると、図１５９４（ａ）に示すように、球ＣＢ１の重量により振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される。また、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付いている場合には、その球ＣＢ２の重量も振分部材Ｃ２１７０に作用される。
【１７５２６】
　ここで、受入部Ｃ２１７２は、対向部Ｃ２１７２ａの底面部Ｃ２１７２ｂに連結される側の領域と、底面部Ｃ２１７２ｂの対向部Ｃ２１７２ａに連結される側の領域とが、即ち、対向部Ｃ２１７２ａと底面部Ｃ２１７２ｂとの連結部分が、軸Ｃ２１７４側へ向けて凸となり球の外形と略同一形状（球と略同径）となる円弧状に湾曲して形成され、その円弧状に湾曲した部分により球を保持可能とされる。
【１７５２７】
　また、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂの転動面における上流側（矢印Ｒ方向側）の領域）と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２の下流側（矢印Ｒ方向側）の端部）との間の間隔は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定され、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次拡大される。
【１７５２８】
　即ち、振分部材Ｃ２１７０が第１位置と第２位置との間の所定中間位置（図１５９４（ａ）と図１５９４（ｂ）との間の位置）まで変位（回転）されると、上述の振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂの転動面における上流側（矢印Ｒ方向側）の領域）と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２の下流側（矢印Ｒ方向側）の端部）との間の間隔が球の直径と略同一の寸法（球が通過可能な寸法）まで拡大され、振分部材Ｃ２１７０が所定中間位置から第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、上述した間隔が、更に拡大され、第２位置において最大の間隔が形成される。
【１７５２９】
　よって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から所定中間位置まで変位（回転）される間は、受入部Ｃ２１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態が維持される。即ち、振分部材Ｃ２１７０は、第１位置から所定中間位置までの間は、受入部Ｃ２１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態で変位（回転）される。これにより、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ２１４２の下流端に位置する状態を維持できる。
【１７５３０】
　この場合、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）との間の間隔は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次縮小され、振分部材Ｃ２１７０が所定中間位置に到達する前に、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ２１７２へ流入する（受け入れられる）ことを抑制できる。
【１７５３１】
　また、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される場合、受入部Ｃ２１７２（対向部Ｃ２１７２ａと底面部Ｃ２１７２ｂとの連結部分）に保持された球ＣＢ１の軌跡の外縁（軸Ｃ２１７４と反対側の外縁）よりも、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）の軌跡が、軸Ｃ２１７４に近い側を通過するように構成される。
【１７５３２】
　よって、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ２１４

２の下流端に位置する状態を維持できると共に、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）により球ＣＢ２を押し戻す（押し返す）ことができる。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流端を球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入して、両球を切り離すことができる。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ２１７２へ流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。また、球ＣＢ２を徐々に転動部Ｃ２１７３へ転動させ、その後の転動を安定させることができる。

【１７５３３】

図１５９４（ａ）に示す状態から振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、図１５９４（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が通路部Ｃ２１４４へ向けて底面部Ｃ２１７２ｂを転動されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ２１７３に流下される（転動部Ｃ２１７３に受け入れられる）。

【１７５３４】

図１５９５（ａ）及び図１５９５（ｂ）に示すように、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置されると、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２から通路部Ｃ２１４４（第３通路ＣＲｔ２００３）へ流入されると共に、転動部Ｃ２１７３を転動した球ＣＢ２が、磁性部Ｃ２４００に飛び移り（吸着され）、第４通路ＣＲｔ２００４へ流入される。

【１７５３５】

球ＣＢ１，ＣＢ２が第３通路ＣＲｔ２００３及び第４通路ＣＲｔ２００４へ流入された後は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて自重により復帰（変位）される。

【１７５３６】

なお、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態で、或いは、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置への変位（回転）を開始した後であっても、第３の球が転動部Ｃ２１７３到達し、その転動部Ｃ２１７３の転動面に流入した場合には、第３の球が転動部Ｃ２１７３を転動する。この場合、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２（底面部Ｃ２１７２ｂ）上にあるか否か、第３の球の転動速度（勢い）などに起因して、第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下されるか、磁性部Ｃ２４００に飛び移り（吸着され）、第４通路ＣＲｔ２００４へ流入されるかが決定される。即ち、２つの状態を形成可能とできる。

【１７５３７】

なお、振分部材Ｃ２１７０は、１球の重量のみで、第１位置から第２位置まで変位（回転）可能に構成される。よって、球ＣＢ１と球ＣＢ２との間隔が所定量よりも大きな場合には、これら球ＣＢ１及び球ＣＢ２の両球が、受入部Ｃ２１７２に順に受け入れられ、それぞれ上述した振り分け動作を経て第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる。

【１７５３８】

以上のように、第６３実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ２１７０により球ＣＢ２を上方へ持ち上げて第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分ける（案内する）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【１７５３９】

次いで、図１５９７から図１６００を参照して、第６４実施形態におけるセンターフレームＣ３０８６について説明する。

【１７５４０】

上記第６２実施形態では、振分部材Ｃ１７０が回転される場合を説明したが、第６３実施形態における振分部材Ｃ３１７０は、スライド変位される。なお、上述した各実施形態

と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７５４１】
図１５９７及び図１５９９は、第６４実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１５９８及び図１６００は、下側フレームＣ３０８６ｂの背面図である。なお、図１５９７及び図１５９８では、振分部材Ｃ３１７０が第１位置に配置された状態が、図１５９９及び図１６００では、振分部材Ｃ３１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。また、図１５９７及び図１５９９は、図１５７０のＭＤＬＸＸＩＶ－ＭＤＬＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【１７５４２】
ここで、第６４実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂは、第６２実施形態における下側フレームＣ８６ｂに対し、振分部材Ｃ３１７０を変位させる構造および振分部材Ｃ３１７０に装飾部材Ｃ３１９０を連動ささせる構造が異なる点を除き、その他の構成は同一に構成される。
【１７５４３】
図１５９７から図１６００に示すように、背面部材Ｃ３１３０の本体部Ｃ１３１には、直線状の２本の案内溝Ｃ３１３１ｃが互いに平行な姿勢で上下方向に沿って延設される。これら２本の案内溝Ｃ３１３１ｃは、下方側（矢印Ｄ方向側）ほど第１中間部材Ｃ１４０に近接する方向に傾斜する姿勢で配設される。
【１７５４４】
即ち、第２位置における振分部材Ｃ３１７０の水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）位置は、第１位置における振分部材Ｃ３１７０の水平方向位置よりも中間部材Ｃ１４０に近接する側（矢印Ｌ側）に位置されるる。
【１７５４５】
振分部材Ｃ３１７０には、上下一対を一組とする合計４本の軸Ｃ３１７１ａが本体部Ｃ３１７１の背面から突出される。軸Ｃ３１７１ａは、案内溝Ｃ３１３１ｃに摺動可能に挿通される被案内部であり、かかる軸Ｃ３１７１ａが案内溝Ｃ３１３１ｃに沿って摺動されることで、振分部材Ｃ３１７０が第１位置と第２位置との間をスライド変位（直動）される。
【１７５４６】
左右の案内溝Ｃ３１３１ｃには、軸Ｃ３１７１ａが一組ずつ配設される。よって、振分部材Ｃ３１７０は、回転による姿勢の変化を生じさせずに（即ち、底面部Ｃ１７２ｂ及び転動部Ｃ１７３の傾斜角度を一定に維持させたまま）、第１位置と第２位置との間をスライド変位可能とされる。
【１７５４７】
なお、案内溝Ｃ３１３１ｃに挿通された軸Ｃ３１７１ａの先端には、案内溝Ｃ３１３１ｃの溝幅よりも大径のカラーＣＷが配設され、かかるカラーＣＷが、軸Ｃ３１７１ａが案内溝Ｃ３１３１ｃから抜け出ることを規制する抜け止めとされる。
【１７５４８】
振分部材Ｃ３１７０は、案内溝Ｃ３１３１ｃの上端（矢印Ｕ方向の端部）に軸ｃ３１７１ａが当接して、上方への変位が規制されることで、第１位置に規定（配置）され（図１５９７及び図１５９８参照）、振分部材Ｃ３１７０の下面に下ストッパ部Ｃ１３２が当接して、下方への変位が規制されることで、第２位置に規定（配置）される（図１５９９及び図１６００参照）。
【１７５４９】
装飾部材Ｃ３１９０は、本体部Ｃ１９１と一体に形成され、軸Ｃ１９２を中心として径方向外方へ延設されるアーム部Ｃ３１９３を備え、アーム部Ｃ３１９３には、直線状の案内溝Ｃ３１９３ａが軸Ｃ１９２を中心とする径方向に沿って延設される。案内溝Ｃ３１９３ａには、軸Ｃ３１７１ａが摺動可能に挿通される。
【１７５５０】
装飾部材Ｃ３１９０は、その重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して一側（軸Ｃ１

９２を挟んで振分部材Ｃ３１７０と反対側、図１５９８左側）に偏心される。よって、無負荷状態では、装飾部材Ｃ３１９０は、アーム部Ｃ３１９３を上方へ持ち上げた姿勢とされ（背面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され、図１５９８参照）、振分部材Ｃ３１７０は、アーム部Ｃ３１９３により軸Ｃ３１７１ａが上方へ押し上げられることで、第１位置に配置された状態とされる（図１５９７及び図１５９８参照）。

【１７５５１】

一方、振分部材Ｃ３１７０の受入部Ｃ１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、振分部材Ｃ３１７０及び装飾部材Ｃ３１９０全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して他側（軸Ｃ１９２に対して振分部材Ｃ３１７０が配設される側、図１６００右側）に偏心される。即ち、受入部Ｃ１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ３１７０は、球の重量により案内溝Ｃ３１３１ｃに沿って下降され、第２位置に配置される。また、装飾部材Ｃ３１９０は、アーム部Ｃ３１９３が軸Ｃ３１７１ａにより下方へ押し下げられ、背面視において軸Ｃ１９２を中心として時計回りに回転された状態とされる（図１６００参照）。

【１７５５２】

第２位置において、受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が排球されると、装飾部材Ｃ３１９０が、その重心位置の偏心を利用して、背面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され、アーム部Ｃ３１９３を上方へ持ち上げた姿勢とされる。これに伴い、アーム部Ｃ３１９３により軸Ｃ３１７１ａが上方へ押し上げられることで、振分部材Ｃ３１７０が第１位置に配置（復帰）される（図１５９７及び図１５９８参照）。

【１７５５３】

振分部材Ｃ３１７０が第１位置と第２位置との間でスライド変位されることによる球ＣＢ１及び球ＣＢ２の振り分け動作については、上述した第６２実施形態の場合と同様であるので、その説明は省略する。

【１７５５４】

以上のように、第６４実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下（両球が密着する間隔が０の場合を含む）の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第４通路ＣＲｔ４へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ１７０により球ＣＢ２を第５通路ＣＲｔ５へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第４通路ＣＲｔ４へ振り分ける（案内する）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【１７５５５】

ここで、第６２実施形態の場合のように、振分部材Ｃ１７０が軸Ｃ１９２を中心として回転される構造では、受入部Ｃ１７２の変位量を確保する（第３通路ＣＲｔ３に対面する位置と第４通路ＣＲｔ４に対面する位置との間を変位可能とする）ために、軸Ｃ１９２と受入部Ｃ１７２との間の長さ（距離）を大きくする必要があり、幅方向（軸Ｃ１９２と受入部Ｃ１７２とを結ぶ方向）における振分部材Ｃ１７０の大型化を招く。

【１７５５６】

これに対し、本実施形態では、振分部材Ｃ３１７０を上下方向にスライド変位させるので、受入部Ｃ１７２の変位量を確保（即ち、第３通路ＣＲｔ３に対面する位置と第４通路ＣＲｔ４に対面する位置との間を変位可能と）しつつ、回転中心（軸Ｃ１９２）と受入部Ｃ１７２とを連結する部位を設ける必要がない分、幅方向における振分部材Ｃ３１７０の小型化を図ることができる。即ち、振分部材Ｃ３１７０の幅方向の寸法を、転動部Ｃ１７３の転動面の長さ寸法（矢印Ｌ－Ｒ方向寸法）とすることができる。

【１７５５７】

次いで、図１６０１を参照して、第６５実施形態における皿部材Ｃ４１２０について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省

略する。
【１７５５８】
図１６０１（ａ）は、第６５実施形態における皿部材Ｃ４１２０の上面図であり、図１６０１（ｂ）は、図１６０１（ａ）のＭＤＣＩｂ－ＭＤＣＩｂ線における皿部材Ｃ４１２０の断面図であり、図１６０１（ｃ）は、図１６０１（ａ）のＭＤＣＩｃ－ＭＤＣＩｃ線における皿部材Ｃ４１２０の断面図である。
【１７５５９】
皿部材Ｃ４１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ４１２１及び下側底面部Ｃ４１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｃ４１２３及び下側側壁部Ｃ４１２４を備える。
【１７５６０】
上側底面部Ｃ４１２１は、上面視において略直線状の通路（第１通路ＣＲｔ４００１）として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、下側底面部Ｃ４１２２へ近接する方向（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。
【１７５６１】
上側側壁部Ｃ４１２３は、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）の通路幅を区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。但し、通路幅は、複数の球を並列の状態で案内可能な寸法（球の２倍よりも大きい寸法）であっても良い。
【１７５６２】
上側側壁部Ｃ４１２３には、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）の下流側の端部に切り欠き部Ｃ４１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部ｃ４１２３ａを介して、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ球が流下可能とされる。
【１７５６３】
下側底面部Ｃ４１２２は、上面視において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設され、その延設方向一端側および他端側における形状が略直線状の直線部Ｃ４１２２ａと、それら一対の直線部Ｃ４１２２ａの間において、上面視において、流出面Ｃ１２２ａ側が凹となる円弧状に湾曲する円弧部Ｃ４１２２ｂとから形成される。なお、円弧部Ｃ４１２２ｂは、前後方向の略中央において、上側底面部Ｃ４１２１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）上流側（矢印Ｌ方向側）へ最も張り出した形状とされる。
【１７５６４】
また、下側底面部Ｃ４１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、一対の直線部Ｃ４１２２ａでは円弧部Ｃ４１２２ｂへ向かうにつれて鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて下降傾斜する平面として形成され、円弧部Ｃ４１２２ｂでは略水平に形成される。即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの上面（転動面）は、鉛直方向に直交する平面として形成される。
【１７５６５】
下側側壁部Ｃ４１２４は、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【１７５６６】
下側底面部Ｃ４１２２の直線部Ｃ４１２２ａは、上面視において、上側底面部Ｃ４１２１に対し、略直交して配設され、上側底面部Ｃ４１２１の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と下側底面部Ｃ４１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部、直線部Ｃ４１２２ａの上昇傾斜側）とが隣り合う位置に配設される。

【１７５６７】
上側側壁部Ｃ４１２３における切り欠き部Ｃ４１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｃ４１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｃ４１２３ａを介して、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ球が流下可能とされる。
【１７５６８】
円弧部Ｃ４１２２ｂの内径側（上面視における円弧の中心側、矢印Ｒ方向側）における下側側壁部Ｃ４１２４には、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向の略中央（湾曲形状の矢印Ｌ方向に最も張り出した位置）に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図１５７４参照）へ球が流下可能とされる。
【１７５６９】
下側底面部Ｃ４１２２は、上述したように、一対の直線部Ｃ４１２２ａ及び円弧部Ｃ４１２２ｂから形成され、直線部Ｃ４１２２ａの上昇傾斜側（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図１５７４参照）へ球を流下させることができる。
【１７５７０】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【１７５７１】
下側底面部Ｃ４１２２の円弧部Ｃ４１２２ｂには、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央（湾曲形状の矢印Ｌ方向に最も張り出した位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を案内される球を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される（図１５７４参照）。
【１７５７２】
よって、下側底面部Ｃ４１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させることができる（図１５７４参照）。
【１７５７３】
なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ４１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される。
【１７５７４】
また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側、矢印Ｌ方向側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ４１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ４１１２を転動する際

の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。
【１７５７５】
一方で、下側底面部Ｃ４１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。
【１７５７６】
これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２が円弧状に湾曲して形成され、その円弧部Ｃ４１２２ｂの内径側（上面視における円弧の中心側、矢印Ｒ方向側）に切り欠き部Ｃ１２４ａが形成される。よって、円弧部Ｃ４１２２ｂを転動する球には切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４へ向けて遠心力が作用され、これにより、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）で転動（往復動）させることができる。
【１７５７７】
これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図１５７４参照）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。
【１７５７８】
次いで、図１６０２（ａ）を参照して、第６６実施形態における下側フレームＣ５０８６ｂについて説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７５７９】
図１６０２（ａ）は、第６６実施形態における下側フレームＣ５０８６ｂの断面図であり、図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における断面に対応する。なお、図１６０２（ａ）では、下側フレームＣ５０８６ｂの背面部材Ｃ２１３０、磁石Ｃ２３００及び磁性部Ｃ５４００の断面のみ図示される。
【１７５８０】
磁性部Ｃ５４００は、金属製の長尺体であり、背面部材Ｃ２１３０と反対側（矢印Ｆ方向側）における端部から突部が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される。よって、磁性部Ｃ５４００は、断面形状が略Ｌ字状に形成される。また、磁性部Ｃ５４００の突部は、背面部材Ｃ２１３０側の端部が背面部材Ｃ２１３０の正面から球の半径よりも大きな間隔を隔てた位置に配設されると共に、磁性部Ｃ５４００の底面の断面形状は、幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直線状に形成される。
【１７５８１】
磁性部Ｃ５４００は、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設された磁石Ｃ２３００から作用する磁力を利用して、球を吸着可能とされる。なお、磁石Ｃ２３００は、磁性部Ｃ５４００の長手方向に沿って複数が配列される。
【１７５８２】
振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球が流下されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球が、転動部Ｃ２１７３の下流端から磁性部Ｃ５４００の上流端へ飛び付く（図１５９５参照）。即ち、磁性部Ｃ５４００の突部

の底面に吸着される。磁性部Ｃ５４００に吸着された球は、飛び付き（転動）による球の勢いと、磁性部Ｃ５４００の下降傾斜による重力の作用により、磁性部Ｃ５４００の長手方向に沿って磁性部Ｃ５４００の下流端へ移動される。これにより、磁性部Ｃ５４００に沿って流下された球を第５通路ＣＲｔ２００５（図１５９０参照）へ案内できる。

【１７５８３】

上述したように、磁性部Ｃ５４００の突部は、背面部材Ｃ２１３０側の端部が背面部材Ｃ２１３０の正面から球の半径よりも大きな距離隔てた位置に配設されるため、磁性部Ｃ５４００に沿って流下される球と背面部材Ｃ２１３０とが当接することが抑制される。よって、球に摩擦力が作用されることが抑制できるので、球の流下速度を高くすることができる。また、球が背面部材Ｃ２１３０の正面に支持されないことで、流下する際に球が揺れる態様を形成できると共に、球が磁性部Ｃ５４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。その結果、球の挙動を遊技者に注目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７５８４】

次いで、図１６０２（ｂ）を参照して、第６７実施形態における下側フレームＣ６０８６ｂについて説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７５８５】

図１６０２（ｂ）は、第６７実施形態における下側フレームＣ６０８６ｂの断面図であり、図１５８７のＭＤＸＣＩＩ－ＭＤＸＣＩＩ線における断面に対応する。なお、図１６０２（ｂ）では、下側フレームＣ６０８６ｂの背面部材Ｃ２１３０、磁石Ｃ２３００及び磁性部Ｃ６４００の断面のみ図示される。

【１７５８６】

第６７実施形態における磁性部Ｃ６４００は、第６６実施形態における磁性部Ｃ５４００に対し、磁性部Ｃ６４００の突部の底面が、背面部材Ｃ２１３０を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０に近接する面）として形成される点を除き、他の構成は第６６実施形態における磁性部Ｃ５４００と同一の構成である。

【１７５８７】

磁性部Ｃ６４００の突部の底面に吸着された球は、その底面の傾斜と、磁石部Ｃ２３００から直接作用される磁力との効果により、背面部材Ｃ２１３０に当接される。従って、球に摩擦力を作用させることができ、磁性部Ｃ６４００に沿って流下する球の流下速度を遅くできる。これにより、球の移動時間を長くでき、遊戯の興趣を高めることができる。

【１７５８８】

また、磁性部Ｃ６４００の突部と背面部材Ｃ２１３０とで球を挟み込むことができ、球が磁性部Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【１７５８９】

次いで、図１６０３から図１６１５を参照して、第６８実施形態におけるセンターフレームＤ８６について説明する。

【１７５９０】

上記各実施形態では、センターフレーム８６が一部品から構成される場合を説明したが、第６８実施形態におけるセンターフレームＤ８６は、上側フレームＤ８６ａと下側フレームＤ８６ｂとの２部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７５９１】

図１６０３は、第６８実施形態における遊技盤Ｄ１３の正面図である。図１６０３に示すように、センターフレームＤ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＤ８６ａと下側フレームＤ８６ｂとを備える。

【１７５９２】

上側フレームＤ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）における上側

（図１６０３上側）及び左右（図１６０３左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＤ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６０３下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＤ８６ａ及び下側フレームＤ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。

【１７５９３】

なお、上側フレームＤ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６０３下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＤ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【１７５９４】

次いで、下側フレームＤ８６ｂについて説明する。図１６０４は、下側フレームＤ８６ｂの正面斜視図であり、図１６０５は、下側フレームＤ８６ｂの背面斜視図である。なお、図１６０４及び図１６０５では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＤ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。

【１７５９５】

図１６０４及び図１６０５に示すように、下側フレームＤ８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＤＯＰｉｎと、その受入口ＤＯＰｉｎに連通される第１通路ＤＲｔ１と、その第１通路ＤＲｔ１を案内された球が流下される第２通路ＤＲｔ２と、その第２通路ＤＲｔ２を案内された球（第２通路ＤＲｔ２をその長手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って往復動した球）が流下される第３通路ＤＲｔ３と、その第３通路ＤＲｔ３を案内された球（第３通路ＤＲｔ３をその長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って往復動した球）が、第３通路ＤＲｔ３から流下される位置に応じて振り分けられる第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５及び第６通路ＤＲｔ６と、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５を案内された球が流下される第７通路ＤＲｔ７と、第６通路ＤＲｔ６を案内された球が流下される第８通路ＤＲｔ８と、第８通路ＤＲｔ８を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＤＯＰｏｕｔとが形成される（図１６１２から図１６１４参照）。

【１７５９６】

なお、第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８は、第６通路ＤＲｔ６の下流端に第８通路ＤＲｔ８の上流端が連通（接続）されており、１本の通路を形成する。即ち、該通路は、上流側の一部（前半）が第６通路ＤＲｔ６により、下流側の一部（後半）が第８通路ＤＲｔ８により、それぞれ形成される。

【１７５９７】

また、上側フレームＤ８６ａには、上側フレーム通路ＤＲｔ０（図１６０３参照）が形成される。上側フレーム通路ＤＲｔ０は、遊技領域のうちの正面視左側（図１６０３左側）の領域（センターフレームＤ８６（上側フレームＤ８６ａ）とレール６１との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端に下側フレームＤ８６ｂの受入口ＤＯＰｉｎが連通される。

【１７５９８】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＤＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＤＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＤＲｔ０から下側フレームＤ８６ｂの第１通路ＤＲｔ１へ流入（入球）される。

【１７５９９】

第３通路ＤＲｔ３の通路幅は、所定間隔を隔てて対向する側壁（中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２と背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２と）により区画されるところ、これら通路幅を区画する側壁の一方（背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２）は、一部が分断され（側壁が非形成とされ）、その分断された領域と上面視において隣接する位置に、球が流下可能な流下口ＤＯＰｆｌが開口される。

【１７６００】
第３通路ＤＲｔ３を案内された球（第３通路ＤＲｔ３をその長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って往復動した球）は、流下口ＤＯＰｆｌを介して、第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５又は第６通路ＤＲｔ６のいずれかへ流下（入球）可能とされる。
【１７６０１】
流下口ＤＯＰｆｌは、第３通路ＤＲｔ３の長手方向と直交する方向（矢印Ｂ方向）へ張り出し、第３通路ＤＲｔ３の長手方向に沿って延設される上面視略矩形の空間（開口）として形成される。なお、流下口ＤＯＰｆｌは、背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び連結部Ｄ１３３により区画される。
【１７６０２】
流下口ＤＯＰｆｌには、第３通路ＤＲｔ３の長手方向に沿って、第４通路ＤＲｔ４、第第６通路ＤＲｔ６及び５通路ＤＲｔ５の上流端（上流側の開口）が順に並設される。即ち、第６通路ＤＲｔ６の上流端（上流側の開口）は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向中央に位置し、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の上流端（上流側の開口）は、第６通路ＤＲｔ６の上流端を挟んで、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）及び他側（矢印Ｒ方向側）にそれぞれ位置する。
【１７６０３】
よって、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動し、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央を含む領域へ流下する球は、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）され、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）又は他側（矢印Ｒ方向側）を含む領域へ流下する球は、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ流入（入球）される。即ち、第３通路ＤＲｔ３を案内される球が、第４通路ＤＲｔ４から第６通路ＤＲｔ６のいずれに振り分けられるかは、第３通路ＤＲｔ３から流下する位置（領域）に応じて決定される。
【１７６０４】
ここで、第６通路ＤＲｔ６を案内された球は、第８通路ＤＲｔ８へ流下（流入）されるところ、第８通路ＤＲｔ８の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１６０３参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第６通路ＤＲｔ６へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【１７６０５】
一方、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５を案内された球は、第７通路ＤＲｔ７へ流下（流入）されるところ、第７通路ＤＲｔ７には、その第７通路ＤＲｔ７を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｄ１５１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図１６０３左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｄ１５２が形成（配置）される。また、第７通路ＤＲｔ７には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｄ１５２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｄ１５１が形成される。
【１７６０６】
そのため、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５に振り分けられた球は、第７通路ＤＲｔ７において、中央流出面Ｄ１６１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｄ１６２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第６通路ＤＲｔ６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。
【１７６０７】
このように、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂは、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動する球が第６通路ＤＲｔ６に振り分けられることで、第１入賞口６４に入賞しやすくする（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）ことができる。よって、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って球が往復動する際には

、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、第６通路ＤＲｔ６に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７６０８】

ここで、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂでは、第６通路ＤＲｔ６の上流端（上流側の開口）に、一対の変位部材Ｄ１８０が開閉可能（閉鎖位置と開放位置との間で変位可能）に配設される。一対の変位部材Ｄ１８０は、基端側が回転可能に軸支され、基端側の反対側となる先端側が上方側（矢印Ｕ方向側）となる姿勢で配設され、基端側を回転軸として、先端側を互いに近接または離間する方向へ変位（回転）させることで、閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）とされる。

【１７６０９】

一対の変位部材Ｄ１８０は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定間隔を隔てて配置され、それら一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）した球は、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）され、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）されなかった球は、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ流入（入球）される。

【１７６１０】

一対の変位部材Ｄ１８０の先端側の対向間隔は、開放位置での対向間隔が閉鎖位置での対向間隔よりも大きくされ、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に変位（回転）されると、閉鎖位置にある場合と比較して、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）可能な領域が拡大され、第４及び第５通路ＤＲｔ４，ＤＲｔ５に流入（入球）可能な領域が縮小される。即ち、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の間隔（寸法）に対し、一対の変位部材Ｄ１８０の先端側の対向間隔が占める割合は、開放位置における割合が閉鎖位置における割合よりも大きくされる。よって、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置にある状態では、閉鎖位置にある状態と比較して、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）されやすい。

【１７６１１】

この場合、一対の変位部材Ｄ１８０は、後述するように、第６通路ＤＲｔ６に球が流入（入球）されると、その球の重量（質量）を利用して、閉鎖位置から開放位置へ変位（回転）される。具体的には、第６通路ＤＲｔ６には、転動部材Ｄ１７０が配設され、その転動部材Ｄ１７０上を球が転動している間は、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置（変位）され、転動部材Ｄ１７０上に球が存在しない間は、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置（変位）される。

【１７６１２】

このように、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂは、第６通路ＤＲｔ６に球が流入（入球）された場合に、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に変位（回転）され（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくされ）、これにより、第６通路ＤＲｔ６へ入球された球に後行する球（例えば、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に往復動する球、後続の球）を第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすくできる。

【１７６１３】

よって、第６通路ＤＲｔ６へ第１の球が入球されれば、一対の変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位（回転）により、後行する第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、後行する第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されれば、その後行する第２の球の第６通路ＤＲｔ６への入球に起因して（第２の球の重量を利用した変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位により）、次に後行する第３の球（第２の球の後続となる第３の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、以降、これらの態様を繰り返すことができる。よって、第６通路ＤＲｔ６への球の入球により、第６通路ＤＲｔ６への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【１７６１４】

なお、本実施例では、一対の変位部材Ｄ１８０は、閉鎖位置に変位（回転）された状態では、対向間隔の最小値が球の直径よりも若干大きな寸法（例えば、球の直径の１．３倍）に設定され、開放位置に変位（回転）された状態では、先端側における対向間隔が球の

直径の約３倍に設定される。
【１７６１５】
次いで、図１６０４から図１６０５に加え、図１６０６から図１６１５を参照して、下側フレームＤ８６ｂの詳細構成について説明する。
【１７６１６】
図１６０６は、下側フレームＤ８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６０７は、下側フレームＤ８６ｂの分解背面斜視図である。図１６０８は、下側フレームＤ８６ｂの上面図であり、図１６０９は、下側フレームＤ８６ｂの正面図であり、図１６１０は、下側フレームＤ８６ｂの背面図である。
【１７６１７】
図１６１１（ａ）は、図１６０９の矢印ＭＤＣＸＩａ方向視における下側フレームＤ８６ｂの側面図であり、図１６１１（ｂ）は、図１６０９の矢印ＭＤＣＸＩｂ方向視における下側フレームＤ８６ｂの側面図である。
【１７６１８】
図１６１２（ａ）、図１６１３（ａ）及び図１６１４（ａ）は、下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応する。図１６１２（ｂ）、図１６１３（ｂ）及び図１６１４（ｂ）は、下側フレームＤ８６ｂの部分拡大背面図である。
【１７６１９】
なお、図１６１２（ａ）及び図１６１２（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図１６１４（ａ）及び図１６１４（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【１７６２０】
また、図１６１３（ａ）及び図１６１３（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置（又は第２位置から初期位置（第１位置））へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置（又は開放位置から閉鎖位置）へ向けて変位（回転）される際の変位途中の状態が図示される。
【１７６２１】
また、図１６１３（ａ）及び図１６１４（ａ）では、転動部材Ｄ１７０上を転動する球の図示が省略され、図１６１２（ｂ）、図１６１３（ｂ）及び図１６１４（ｂ）では、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。
【１７６２２】
図１６１５（ａ）は、図１６０８のＭＤＣＸＶａ－ＭＤＣＸＶａ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６１５（ｂ）は、図１６０８のＭＤＣＸＶｂ－ＭＤＣＸＶｂ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６１５（ｃ）は、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図である。
【１７６２３】
図１６０４から図１６１５に示すように、下側フレームＤ８６ｂは、正面部材Ｄ１１０と、その正面部材Ｄ１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｄ１２０と、正面部材Ｄ１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｄ１３０と、正面部材Ｄ１１０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に介設され、正面部材Ｄ１１０の背面および背面部材Ｄ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される中間部材Ｄ１４０と、正面部材Ｄ１１０及び中間部材Ｄ１４０の対向間に介設される第１介設部材Ｄ１５０と、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に介設される第２介設部材Ｄ１６０と、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に配設される転動部材Ｄ１７０及び変位部材Ｄ１８０と、背面部材Ｄ１３０の背面側に配設される伝達部材Ｄ１９０及び迂回部材Ｄ２００と、背面部材Ｄ１３０に変位可能に配設（回転可能に軸支）され、一側（矢印Ｆ方向側）に変位部材Ｄ１８０が固着されると共に

他側（矢印Ｂ側側）が伝達部材Ｄ１９０に当接可能とされる軸支部材Ｄ２１０と、を備える。

【１７６２４】

転動部材Ｄ１７０及び変位部材Ｄ１８０は、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間において、変位（回転）可能に配設され、伝達部材Ｄ１９０は、背面部材Ｄ１３０の背面側において、変位（回転）可能に配設される。

【１７６２５】

なお、下側フレームＤ８６ｂは、各部材どうしが、それぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、転動部材Ｄ１７０、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０が背面部材Ｄ１３０にそれぞれ変位可能に配設（回転可能に軸支）されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１６０４参照）。

【１７６２６】

また、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＤＲｔ１から第８通路ＤＲｔ８を通過する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｄ１８０の開閉動作（開閉状態）を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７６２７】

この場合、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の少なくとも一方の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。或いは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の少なくとも一方の一部の正面側に位置する領域のみが光透過性の樹脂材料から構成される形態でも良い。変位部材Ｄ１８０を視認できれば、その開閉状態に基づいて、第６通路ＤＲｔ６へ球が流下（入球）されやすい状態か否かを遊技者が把握でき、仮に、変位部材Ｄ１８０が視認できなくても、転動部材Ｄ１７０を視認できれば、その転動部材Ｄ１７０の回転状態（転動する球の有無により変化する姿勢）に基づいて、変位部材Ｄ１８０の開閉状態を遊技者が把握でき、遊技の興趣を高めることができるからである。

【１７６２８】

よって、転動部材Ｄ１７０を有色の樹脂材料から構成することが好ましい。転動部材Ｄ１７０の回転状態（転動する球の有無により変化する姿勢）を遊技者に視認させやすくできるからである。

【１７６２９】

なお、転動部材Ｄ１７０、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【１７６３０】

また、一方で、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、これら変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。

【１７６３１】

正面部材Ｄ１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｄ１１１と、その正面部Ｄ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｄ１１２と、それら正面部Ｄ１１１及び底面部Ｄ１１２の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部Ｄ１１３とを備える。

【１７６３２】

正面部Ｄ１１１には、その正面部Ｄ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）及び側方側（矢印Ｌ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｄ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＤ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｄ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結

されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【１７６３３】
正面部Ｄ１１１には、第１入賞口６４（図１６０３参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＤＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＤＯＰｏｕｔは、上述したように、第８通路ＤＲｔ８を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。
【１７６３４】
底面部Ｄ１１２は、その上面に第１介設部材Ｄ１５０の底面が対向配置され、底面部Ｄ１１２と第１介設部材Ｄ１５０（凹部Ｄ１５３）との対向間に第８通路ＤＲｔ８の一部（最下流となる部分）が形成される。よって、例えば、第１介設部材Ｄ１５０に貫通形成した貫通孔を第８通路ＤＲｔ８の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。
【１７６３５】
底面部Ｄ１１２は、正面部Ｄ１１１の長手方向全域にわたって連続して形成され、その底面部Ｄ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、中間部材Ｄ１４０における底面部Ｄ１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）に全域にわたって当接される。これにより、下側フレームＤ８６ｂの底面側からの針金等の異物の侵入が抑制される。
【１７６３６】
なお、底面部Ｄ１１２は、第８通路ＤＲｔ８を区画する部分の正面部Ｄ１１１からの立設寸法が、底面部Ｄ１１２の他の部分における立設寸法よりも大きくされ、底面部Ｄ１１２のうちの第８通路ＤＲｔ８を区画する部分は、その立設先端が、中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１の正面に当接される。
【１７６３７】
連結部Ｄ１１３の上面側（矢印Ｕ方向側）には、皿部材Ｄ１２０が配設され、タッピングネジにより締結固定される。
【１７６３８】
皿部材Ｄ１２０は、受入口ＤＯＰｉｎと、その受入口ＤＯＰｉｎから受け入れた球を案内する通路の底面を形成する上側底面部Ｄ１２１及び下側底面部Ｄ１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｄ１２３及び下側側壁部Ｄ１２４とを備える。
【１７６３９】
受入口ＤＯＰｉｎは、上述したように、上側フレームＤ８６ａの上側フレーム通路ＤＲｔ０から球を受け入れる開口である（図１６０３参照）。なお、ベース板６０にセンターフレームＤ８６を取り付けた（配設した）状態では、上側フレームＤ８６ａの背面が正面部Ｄ１１１及び連結部Ｄ１１３の正面に重ね合わされ、両者がタッピングネジにより締結固定される。これにより、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端と受入口ＤＯＰｉｎとが連通される。
【１７６４０】
上側底面部Ｄ１２１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＤＯＰｉｎから離間する方向（矢印Ｂ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。なお、上側底面部Ｄ１２１は、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端よりも鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｄ１２０は、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１へ球を自由落下させる構成とされる。
【１７６４１】
上側底面部Ｄ１２１には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｄ１２１ａが凹設される（図１５７７参照）。凹溝Ｄ１２１ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設される。凹溝Ｄ１２１ａの溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｄ１２１ａの溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、凹溝Ｄ１２１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【１７６４２】

これにより、上側底面部Ｄ１２１上の球を２箇所（上側底面部Ｄ１２１と凹溝Ｄ１２１ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｄ１２１ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球と通路との接触面積を大きくできる。よって、上側フレーム通路ＤＲｔ０から落下した球の衝撃を緩衝する（受け止める）と共に、球が転動する際の抵抗を大きくできる。

【１７６４３】

上述のように、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１へ球を落下させると共に、上側底面部Ｄ１２１上の球を２箇所で支持する構成とすることで、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）へ流入（落下）する場合に、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）において、先行する球の流下を遅らせて、後行する球を先行する球に追いつかせ易くできる。よって、先行する球と後行する球との間隔を減少させることができる。

【１７６４４】

上側側壁部Ｄ１２３は、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の下流側（矢印Ｂ方向側）の端部と、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の通路幅とをそれぞれ区画する壁部であり、鉛直方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に立設された板状体として形成される。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【１７６４５】

上側側壁部Ｄ１２３には、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の下流側の端部に切り欠き部Ｄ１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｄ１２３ａを介して、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ球が流下可能とされる。

【１７６４６】

下側底面部Ｄ１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１６１４参照）。

【１７６４７】

なお、下側底面部Ｄ１２２は、上側底面部Ｄ１２１の下流端（切り欠き部Ｄ１２３ａが形成される部分）よりも鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側底面部Ｄ１２１の下流端との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｄ１２０は、上側底面部Ｄ１２１から下側底面部Ｄ１２２へ球を自由落下させる構成とされる。

【１７６４８】

下側側壁部Ｄ１２４は、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の長手方向（球を案内する方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【１７６４９】

下側底面部Ｄ１２２は、上面視において、上側底面部Ｄ１２１と平行に並設され、上側底面部Ｄ１２１の下流端（矢印Ｂ方向側の端部）と下側底面部Ｄ１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。

【１７６５０】

上側側壁部Ｄ１２３における切り欠き部Ｄ１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｄ１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｄ１２３ａを介して、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ球が流下（落下）可能とされる。

【１７６５１】
下側側壁部Ｄ１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｄ１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｄ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｄ１２４ａを介して、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）から第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ球が流下可能とされる。
【１７６５２】
下側底面部Ｄ１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その一方の上昇傾斜側（下側底面部Ｄ１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｄ１２４ａから第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ球を流下させることができる。
【１７６５３】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ流入する場合に、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【１７６５４】
下側底面部Ｄ１２２には、切り欠き部Ｄ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｄ１２２ａが凹設される。流出面Ｄ１２２ａは、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）を案内される球を、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出させるための部位であり、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。
【１７６５５】
よって、下側底面部Ｄ１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｄ１２２ａを利用して、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出（流下）させることができる。
【１７６５６】
なお、流出面Ｄ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｄ１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｄ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図１６０８参照）。
【１７６５７】
また、上面視において、切り欠き部Ｄ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｄ１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｄ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｄ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｄ１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｄ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｄ１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｄ１２２ａを横切る）。
【１７６５８】
本実施形態では、下側底面部Ｄ１２２は、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直交し鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に平行な平面での断面形状が、水平方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に平行な直線形状に形成される。但し、上述した実施形態の場合（図１５７７参照）のように、下側底面部Ｄ１２２を切り欠き部Ｄ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜させても良い。
【１７６５９】

流出面Ｄ１２２ａの形成位置は、下側底面部Ｄ１２２の長手方向（下側底面部Ｄ１２２を往復動する球の転動方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）中央よりも一端側（本実施形態では、上側底面部Ｄ１２１の下流端側、矢印Ｂ方向側）に偏った（近接した）位置に配設される（図１６１４参照）。

【１７６６０】

この場合、下側底面部Ｄ１２２の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置は、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側の端部）と他端側（矢印Ｆ方向側の端部）とで同一とされ、下側底面部Ｄ１２２の円弧形状（下側底面部Ｄ１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状）は、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の曲率が、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の曲率よりも大きくされる。即ち、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の半径が、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の半径よりも小さくされる。

【１７６６１】

これにより、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の領域において、先行する球に後行する球を追いつかせ易くできると共に、追いついた際の衝突を緩やかとして（即ち、後行の球が先行の球に衝突した際の衝撃で、両球の間隔が広がることを抑制して）、先行する球と後行する球とが連なった状態を形成し易くできる。その結果、両球を、連なった状態で、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【１７６６２】

なお、皿部材Ｄ１２０は、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設されるところ、ベース板６０の窓部６０ａ内に配置されるので、窓部６０ａにより形成された前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の全長を確保して、球を連ならせ易くできる。

【１７６６３】

背面部材Ｄ１３０は、板状に形成される本体部Ｄ１３１と、本体部Ｄ１３１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置すると共に本体部Ｄ１３１と平行な姿勢で配設され板状に形成される側壁部Ｄ１３２と、それら本体部Ｄ１３１及び側壁部Ｄ１３２を連結する連結部Ｄ１３３と、本体部Ｄ１３１の背面から立設される区画壁Ｄ１３４と、を備える。

【１７６６４】

本体部Ｄ１３１には、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１を軸支する軸支部Ｄ１３１ａと、軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１を軸支する軸支孔Ｄ１３１ｂと、伝達部材Ｄ１９０の胴部Ｄ１９２が挿通される挿通孔Ｄ１３１ｃと、球を通過可能とする開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅと、球に当接可能とされる突部Ｄ１３１ｆとが形成される。

【１７６６５】

軸支部Ｄ１３１ａは、本体部Ｄ１３１の正面（矢印Ｆ方向側の面）に軸受として形成され、中間部材Ｄ１４０の背面には、軸支部Ｄ１３１ａに対面する位置に、軸支部Ｄ１４１ａが形成される。転動部材Ｄ１７０は、その幅方向（前後方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）一側の側面および他側の側面から軸Ｄ１７１の端部がそれぞれ突出される。軸Ｄ１７１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢に配設され、その軸Ｄ１７１の両端が、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ａとにそれぞれ軸支される。これにより、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に転動部材Ｄ１７０が回転可能に配設される。

【１７６６６】

軸支孔Ｄ１３１ｂは、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する孔として形成され、中間部材Ｄ１４０の背面には、軸支孔Ｄ１３１ｂに対面する位置に、軸支部Ｄ１４１ｂが形成される。軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向

）に沿う姿勢で、本体部Ｄ１３１の軸支孔Ｄ１３１ｂと変位部材Ｄ１８０の軸孔とに順に挿通され、変位部材Ｄ１８０の一側（中間部材Ｄ１４０側）の側面から突出された軸Ｄ２１１の一端が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｂに軸支される。これにより、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に変位部材Ｄ１８０が回転可能に配設される。

【１７６６７】

挿通孔Ｄ１３１ｃは、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成され、伝達部材Ｄ１９０の胴部Ｄ１９２の回転を許容する大きさの開口（孔）として形成される。伝達部材Ｄ１９０は、胴部Ｄ１９２の軸方向（前後方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）一側の端面および他側の端面から軸Ｄ１９１の端部がそれぞれ突出され、これら軸Ｄ１９１の両端が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃと迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１とにそれぞれ軸支される。これにより、中間部材Ｄ１４０と迂回部材Ｄ２００との対向間であって、背面部材Ｄ１３０の背面側において、伝達部材Ｄ１９０が回転可能に配設される。

【１７６６８】

開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅは、球の通過を許容する大きさの開口（孔）として、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。即ち、本体部Ｄ１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＤＲｔ５及び第８通路ＤＲｔ８）を連通するための開口として形成される。なお、開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅは、１球のみが通過可能（同時に２球が通過不能）な大きさに設定される。

【１７６６９】

ここで、第６通路ＤＲｔ６は、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側（中間部材Ｄ１４０との対向間）に形成され、第８通路ＤＲｔ８は、上流側（前半部分）が背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側（迂回部材Ｄ２００との対向間）に形成されると共に、下流側（後半部分）が背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側（中間部材Ｄ１４０の内部、正面部材Ｄ１１０及び第１介設部材Ｄ１５０の対向間）に形成される。

【１７６７０】

よって、第６通路ＤＲｔ６の下流端と第８通路ＤＲｔ８の上流端とが開口Ｄ１３１ｄにより接続され、第８通路ＤＲｔ８の上流側（前半部分）と下流側（後半部分）とが開口Ｄ１３１ｅにより接続される。即ち、第６通路ＤＲｔ６を流下（案内）された球は、開口Ｄ１３１ｄを通過することで、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側から背面側へ移動され、第８通路ＤＲｔ８へ流入される。また、第８通路ＤＲｔ８の上流側（前半部分）を流下（案内）された球は、開口Ｄ１３１ｅを通過することで、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側から正面側へ移動され、第８通路ＤＲｔ８の下流側（後半部分）へ流入される。

【１７６７１】

突部Ｄ１３１ｆは、本体部Ｄ１３１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から突設されると共に鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設される突条（細長いすじ状の突部）として形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔（本実施形態では等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では５箇所）に配設される（図１６１５（ｃ）参照）。なお、突部Ｄ１３１ｆの突設寸法および断面形状は、その延設方向（鉛直方向）に沿って同一とされる。

【１７６７２】

突部Ｄ１３１ｆの下端（矢印Ｄ方向側の端部）は、正面視において、第２位置に配置された転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面との間の距離が球の半径よりも小さくなる位置に設定される（図１６１４参照）。よって、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置された状態であっても、球と突部Ｄ１３１ｆとが当接可能とされる。

【１７６７３】

また、突部Ｄ１３１ｆの上端（矢印Ｕ方向側の端部）は、正面視において、初期位置（第１位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面との間の距離が球の直径よりも大きくなる位置に設定される（図１６１２参照）。よって、第２位置に配置された転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）の上面から球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がっ

た状態であっても、球と突部Ｄ１３１ｆとが当接可能とされる。
【１７６７４】
　複数の突部Ｄ１３１ｆの配設間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）は、本実施形態では、球の直径と略同等の間隔に設定される。また、複数の突部Ｄ１３１ｆは、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の背面から突設される複数の突部Ｄ１４１ｇに対し、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って位置を異ならせて配設される。即ち、背面部材Ｄ１３０の突部Ｄ１３１ｆと中間部材Ｄ１４０の突部Ｄ１４１ｇとは、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置される（図１６１５（ｃ）参照）。これにより、第６通路ＤＲｔ６における球の転動を遅延させることができる。
【１７６７５】
　即ち、第６通路ＤＲｔ６を通過する球に対して作用する作用手段として突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが機能し、その作用により球に抵抗が付与されることで、球の速度を低くすることができる。よって、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用する時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやすくされた状態）を維持し易く（長く）できる。
【１７６７６】
　突部Ｄ１３１ｆの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、突部Ｄ１３１ｆの断面形状を略矩形状としても良い。また、突部Ｄ１３１ｆは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状であっても良く、円弧状に湾曲して延設される曲線形状を少なくとも一部に含む形状であっても良い。
【１７６７７】
　なお、突部Ｄ１３１ｆを、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状とする場合には、球の転動面（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面）よりも上方（矢印Ｕ方向）側の方が第６通路ＤＲｔ６の上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する方向に傾斜させることが好ましい。転動面から跳ね上がった球が突部Ｄ１３１ｆに衝突された場合に、球を転動方向と反対側（上流側）へ押し戻す方向の力成分を球に作用させ、球を遅延させやすくできるからである。
【１７６７８】
　側壁部Ｄ１３２は、その上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部が、第２介設部材Ｄ１６０の上面よりも上方（矢印Ｕ方向）となる高さ位置に配設され、中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２と共に第３通路ＤＲｔ３の通路幅を区画する。
【１７６７９】
　区画壁Ｄ１３４は、本体部Ｄ１３１及び迂回部材Ｄ２００と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。即ち、本体部Ｄ１３１に迂回部材Ｄ２００が対向配置され、その対向間であって区画壁Ｄ１３４により区画された領域が第８通路ＤＲｔ８とされる。区画壁Ｄ１３４により区画される領域は、背面視（矢印Ｆ方向視）において、横長の略矩形状に形成され、長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）に開口Ｄ１３１ｄが、長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）に開口Ｄ１３１ｅが、それぞれ配設されると共に、長手方向一端側から他端側へ向けて下降傾斜される。
【１７６８０】
　中間部材Ｄ１４０は、板状に形成される本体部Ｄ１４１と、本体部Ｄ１４１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置すると共に本体部Ｄ１４１と平行な姿勢で配設され板状に形成される側壁部Ｄ１４２と、それら本体部Ｄ１４１及び側壁部Ｄ１４２を連結する連結部Ｄ１４３と、本体部Ｄ１４１の正面から立設される底面部Ｄ１４４と、本体部Ｄ１４１の背面から立設される区画壁（第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ、第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒ、第６通路区画壁Ｄ１４６、第８通路区画壁Ｄ１４７）と、を備える。
【１７６８１】
　本体部Ｄ１４１には、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１を軸支する軸支部Ｄ１４１ａと、

軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１を軸支する軸支部Ｄ１４１ｂと、伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１を軸支する軸支部Ｄ１４１ｃと、球を通過可能とする開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅ，Ｄ１４１ｆと、球に当接可能とされる突部Ｄ１４１ｇとが形成される。

【１７６８２】

軸支部Ｄ１４１ａ，Ｄ１４１ｂ，Ｄ１４１ｃは、本体部Ｄ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）に軸受として形成され、上述したように、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａ、軸支孔Ｄ１３１ｂ及び迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１と対面する位置にそれぞれ形成される。

【１７６８３】

即ち、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ａとに転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１が、背面部材Ｄ１３０の軸支孔Ｄ１３１ｂと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｂとに軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃと迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１とに伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１が、それぞれ軸支される。なお、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１、軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１、伝達部材Ｄ１９０のいずれも、その軸方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設される。

【１７６８４】

開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅ，Ｄ１４１ｆは、球の通過を許容する大きさの開口（孔）として、本体部Ｄ１４１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。

【１７６８５】

開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅは、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の出口（第７通路ＤＲｔ７へ球を流出させる開口）としてそれぞれ形成され、第１介設部材Ｄ１５０の上面（球の転動面）よりも上方に形成される。即ち、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５を案内された球は、開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅを介して、第７通路ＤＲｔ７へ流出（流下）される。

【１７６８６】

開口Ｄ１４１ｆは、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の背面側に位置する第８通路ＤＲｔ８の下流端と、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の正面側に位置する第８通路ＤＲｔ８の上流端とを連通させる連通口（開口）として形成される。即ち、開口Ｄ１４１ｄは、中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１を貫通する通路（第８通路ＤＲｔ８）の一部として形成される。

【１７６８７】

突部Ｄ１４１ｇは、本体部Ｄ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から突設されると共に鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設される突条（細長いすじ状の突部）として形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔（本実施形態では等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では６箇所）に配設される（図１６１５（ｃ）参照）。なお、突部Ｄ１４１ｇの突設寸法および断面形状は、その延設方向（鉛直方向）に沿って同一とされる。

【１７６８８】

複数の突部Ｄ１４１ｇの配設間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）は、本実施形態では、球の直径と略同等の間隔に設定される。また、複数の突部Ｄ１４１ｇは、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面から突設される複数の突部Ｄ１３１ｆに対し、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って位置を異ならせて配設される。即ち、背面部材Ｄ１３０の突部Ｄ１３１ｆと中間部材Ｄ１４０の突部Ｄ１４１ｇとは、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置される（図１６１５（ｃ）参照）。これにより、第６通路ＤＲｔ６における球の転動を遅延させることができる。

【１７６８９】

即ち、第６通路ＤＲｔ６を通過する球に対して作用する作用手段として突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが機能し、その作用により球に抵抗が付与されることで、球の速度を低くす

ることができる。よって、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用する時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され球が入球されやい状態）を維持し易く（長く）できる。

【１７６９０】

本実施形態では、背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１の正面と中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１の背面との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）は、球の直径よりも大きい寸法に設定され、複数の突部Ｄ１３１ｆの先端を連ねた仮想面（平面）と、複数の突部Ｄ１４１ｇの先端を連ねた仮想面（平面）との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）は、球の直径と略同一または球の直径よりも若干小さい寸法に設定される。但し、両仮想面の間の対向間隔を球の直径よりも大きい寸法に設定しても良い。

【１７６９１】

突部Ｄ１４１ｇの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、突部Ｄ１４１ｇの断面形状を略矩形状としても良い。また、突部Ｄ１４１ｇは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状であっても良く、円弧状に湾曲して延設される曲線形状を少なくとも一部に含む形状であっても良い。

【１７６９２】

なお、突部Ｄ１４１ｇを、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状とする場合には、球の転動面（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面）よりも上方（矢印Ｕ方向）側の方が第６通路ＤＲｔ６の上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する方向に傾斜させることが好ましい。転動面から跳ね上がった球が突部Ｄ１４１ｇに衝突された場合に、球を転動方向と反対側（上流側）へ押し戻す方向の力成分を球に作用させ、球を遅延させやすくできるからである。

【１７６９３】

側壁部Ｄ１４２は、その上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部が、第２介設部材Ｄ１６０の上面よりも上方（矢印Ｕ方向）となる高さ位置に配設され、上述したように、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２と共に第３通路ＤＲｔ３の通路幅を区画する。

【１７６９４】

連結部Ｄ１４３は、側壁部Ｄ１４２の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部と本体部Ｄ１４１の上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部とを長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の全域にわたって連続して連結し、その連結部Ｄ１４３の上面側（矢印Ｕ方向側）に第２介設部材Ｄ１６０が配設される。

【１７６９５】

連結部Ｄ１４３は、中間部材Ｄ１４０の第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定間隔を隔てて対向し、それらの対向間に第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５がそれぞれ形成される。即ち、連結部Ｄ１４３は、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の上面（上側の内面）を形成する。

【１７６９６】

底面部Ｄ１４４は、開口Ｄ１４１ｆを除く領域において、本体部Ｄ１４１の縁部に沿って連続して形成され、その底面部Ｄ１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）が、正面部材Ｄ１１０における底面部Ｄ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）に当接される。即ち、底面部Ｄ１４４は、開口Ｄ１４１ｆが開口される領域およびその近傍の領域において分断して形成される。

【１７６９７】

底面部Ｄ１４４が分断された領域（開口Ｄ１４１ｆを含む領域）では、上述したように、正面部材Ｄ１１０における底面部Ｄ１１２のうちの第８通路ＤＲｔ８を区画する部分の立設先端が、開口Ｄ１４１ｆの下方側（矢印Ｄ方向側）と左右の側方側（矢印Ｌ方向側および矢印Ｒ方向側）とにおいて、本体部Ｄ１４１の正面に当接される。

【１７６９８】

第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、本体部Ｄ１４１と背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及

び連結部Ｄ１３３と共に第４通路ＤＲｔ４を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【１７６９９】

即ち、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、転動部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設され、転動部は、長手方向一端側（矢印Ｒ方向側）が上面視において流下口ＤＯＰｆｌに重なる位置（流下口ＤＯＰｆｌに入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設されると共に、長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて下降傾斜され、長手方向他端側が開口Ｄ１４１ｄの下縁と重なる位置まで延設され、その延設端（長手方向他端）には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿う縦壁部が連結される。

【１７７００】

なお、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）の一部（開口Ｄ１４１ｄと重なる領域）が開口Ｄ１４１ｄへ向けても下降傾斜され、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ（転動面）の長手方向他端に達した球を開口Ｄ１４１ｄへ向けて転動可能とされる。

【１７７０１】

よって、流下口ＤＯＰｆｌから第４通路ＤＲｔ４へ入球された球は、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌの長手方向一端側（矢印Ｒ方向側）に受け入れ（受け止め）られ、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ上を長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて転動される。長手方向他端に到達した球は、長手方向他端に連結される縦壁部に当接され（受け止められ）、転動が規制された後、開口Ｄ１４１ｄを介して、第７通路ＤＲｔ７（第１介設部材Ｄ１５０）へ流出（流下）される。

【１７７０２】

第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒは、本体部Ｄ１４１と背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び連結部Ｄ１３３と共に第５通路ＤＲｔ５を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【１７７０３】

なお、第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒは、正面視において、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌに対して、変位部材Ｄ１８０を中心として、左右対称に形成され、その構成および作用は、上述した第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌの構成および作用と実質同一であるので、説明を省略する。

【１７７０４】

第６通路区画壁Ｄ１４６は、本体部Ｄ１４１と第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌと背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１と転動部材Ｄ１７０と共に第６通路ＤＲｔ６を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【１７７０５】

即ち、第６通路区画壁Ｄ１４６は、転動部材Ｄ１７０の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側、転動部材Ｄ１７０を転動する球の転動方向の延長線上）に並設され、その転動部材Ｄ１７０を転動した球を受け入れ可能に形成される転動部と、その転動面の端部（転動部材Ｄ１７０と反対側）に連結され上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って形成される縦壁部とを備える。

【１７７０６】

なお、第６通路区画壁Ｄ１４６は、転動部の上面（転動面）が開口Ｄ１４１ｆへ向けて下降傾斜され、転動部材Ｄ１７０から受け入れた球を開口Ｄ１４１ｆへ向けて転動可能とされる。

【１７７０７】

よって、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６へ入球され、転動部材Ｄ１７０を転動した球は、第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（転動面）に受け入れられ、その転動部の端

部に連結される縦壁部に当接され（受け止められ）、転動が規制された後、開口Ｄ１４１ｆを介して、第８通路ＤＲｔ８へ流出（流下）される。

【１７７０８】

第８通路区画壁Ｄ１４７は、第８通路ＤＲｔ８の一部（背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に形成される部分）を区画する部位であり、断面略矩形（枠状）の筒状に形成され、開口Ｄ１４１ｆと背面部材Ｄ１３０の開口Ｄ１３１ｅとを連通させる。即ち、背面部材Ｄ１３０の開口Ｄ１３１ｅから流出された球は、第８通路区画壁Ｄ１４７により区画される通路（空間）へ流入され、その通路（空間）を流下（転動）した後、開口Ｄ１４１ｆから流出され、第８通路ＤＲｔ８の残部（正面部材Ｄ１１０と第１介設部材Ｄ１５０との間に形成される部分）へ流入される。

【１７７０９】

第１介設部材Ｄ１５０は、第７通路ＤＲｔ７における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｄ１１０と中間部材Ｄ１４０との対向間に介設される。即ち、正面部材Ｄ１１０と中間部材Ｄ１４０と第１介設部材Ｄ１５０とに区画された空間により第７通路ＤＲｔ７が形成される。第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）は、正面視において、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、第４通路ＤＲｔ４（開口Ｄ１４１ｄ）又は第５通路ＤＲｔ５（開口Ｄ１４１ｅ）から流下された球が湾曲に沿って往復動可能とされる。

【１７７１０】

第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）には、上述したように、第１介設部材Ｄ１５０（第７通路ＤＲｔ７）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｄ１５１及び側方流出面Ｄ１５２）が形成される。また、第７通路ＤＲｔ７の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｄ１５２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面Ｄ１５１が配置される。

【１７７１１】

なお、正面部材Ｄ１１０の正面部Ｄ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｄ１５１及び側方流出面Ｄ１５２が形成される領域を除き、第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｄ１５１又は側方流出面Ｄ１５２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。

【１７７１２】

第１介設部材Ｄ１５０の底面には、凹部Ｄ１５３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｄ１５３と正面部材Ｄ１１０の底面部Ｄ１１２との対向間に第８通路ＤＲｔ８の一部が形成される。

【１７７１３】

第２介設部材Ｄ１６０は、第３通路ＤＲｔ３における球の転動面を形成する部材であり、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に介設される。即ち、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０と第２介設部材Ｄ１６０とに区画された空間により第３通路ＤＲｔ３が形成される。第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、正面視において、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、第２通路ＤＲｔ２から流下された球が湾曲に沿って往復動可能とされる。

【１７７１４】

なお、本実施形態では、第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央（一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間）に対応する位置が最も低くされ、第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）の長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）へ向かうに従って高さ位置が高くなるように形成される。

【１７７１５】

即ち、第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間

に対応する位置から長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）へ向けて上昇傾斜して形成される。よって、第３通路ＤＲｔ３の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って球が往復動可能とされる。

【１７７１６】

第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）には、球を第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）から流下口ＤＯＰｆｌへ流出させるために背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｄ１６１及び側方流出面Ｄ１６２）が形成（凹設）される。

【１７７１７】

中央流出面Ｄ１６１は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央（一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間）に対応する位置に配設（形成）される。一方、側方流出面Ｄ１６２は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０の対向空間よりも第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）の長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）となり、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０の対向空間に対応する（変位部材Ｄ１８０の先端よりも対向空間の中央側となる）位置に配設（形成）される。

【１７７１８】

よって、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球は一対の変位部材Ｄ１８０の対向間（即ち、第６通路ＤＲｔ６）へ入球可能とされ、側方流出面Ｄ１６２から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球は第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ入球可能とされる。

【１７７１９】

一方、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球と、側方流出面Ｄ１６２から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球との両者が、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間（即ち、第６通路ＤＲｔ６）へ入球可能とされる。

【１７７２０】

本実施形態では、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法は、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５へ球が流下（入球）可能な寸法に設定される。

【１７７２１】

即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０の先端と背面部材Ｄ１３０の連結部Ｄ１３３との間には、上面視において、球の直径よりも大きな隙間（間隔）が流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に確保（形成）される。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置されても、第６通路ＤＲｔ６だけでなく、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５への球の流下（入球）も可能とできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【１７７２２】

但し、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法を、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５の少なくとも一方へ球が流下（入球）不能な寸法に設定しても良い。

【１７７２３】

即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０の先端と背面部材Ｄ１３０の連結部Ｄ１３３との間の隙間（間隔）を、上面視において、球の直径よりも小さい寸法（球が通過不能な寸法）としても良い。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された場合には、第６通路ＤＲｔ６のみへ球を流下（入球）可能とできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【１７７２４】

中央流出面Ｄ１６１は、上面視において、その凹面の延設長さ（第３通路ＤＲｔ３を往復動する球の転動方向に直交する方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法）が、側方流出面Ｄ１６

２（凹面）の延設長さよりも大きくされる。また、中央流出面Ｄ１６１は、上面視において、その凹面の幅（第３通路ＤＲｔ３を往復動する球の転動方向に沿う方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法）が、側方流出面Ｄ１６２（凹面）の幅よりも大きくされる。

【１７７２５】

よって、中央流出面Ｄ１６１の形成個数（１箇所）が、側方流出面Ｄ１６２の形成個数（２箇所）よりも少ない場合であっても、第３通路ＤＲｔ３を往復動する球が中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌ（第６通路ＤＲｔ６）へ流下（入球）する確率を確保できる。

【１７７２６】

なお、凹面の延設長さ及び幅を、中央流出面Ｄ１６１と側方流出面Ｄ１６２とにおいて、同一に設定しても良い。また、本実施形態とは逆に、中央流出面Ｄ１６１（凹面）の延設長さを側方流出面Ｄ１６２（凹面）の延設長さよりも小さくしても良い。これらの場合には、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、第３通路ＤＲｔ３を往復動する球を流下口ＤＯＰｆｌ（第６通路ＤＲｔ６）へ流下（入球）させ難くして、相対的に、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された場合の有利度を顕著とできる。

【１７７２７】

また、中央流出面Ｄ１６１又は側方流出面Ｄ１６２の少なくとも一方または両方の形成（第２介設部材Ｄ１６０の上面への凹設）を省略しても良い。第３通路ＤＲｔ３を往復動する球が、流下口ＤＯＰｆｌへ流下する位置を流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って均等として、第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５又は第６通路ＤＲｔ６のいずれの通路へ球が流下（入球）するかのランダム性を高めることができる。

【１７７２８】

転動部材Ｄ１７０は、軸Ｄ１７１と、その軸Ｄ１７１が長手方向一端側に配設される長尺板状の本体部Ｄ１７２と、その本体部Ｄ１７２の長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側）に配設される伝達部Ｄ１７３と、軸Ｄ１７１を挟んで伝達部Ｄ１７３（本体部Ｄ１７２）の反対側に配設される錘部Ｄ１７４とを備え、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に軸Ｄ１７１を中心として回転可能に配設される。

【１７７２９】

軸Ｄ１７１は、上述したように、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設される。よって、軸Ｄ１７１を中心に転動部材Ｄ１７０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ１７２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。

【１７７３０】

本体部Ｄ１７２は、その上面が第６通路ＤＲｔ６における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ１７１が配設される側、矢印Ｌ方向側）を、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、上面視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。

【１７７３１】

本体部Ｄ１７２は、初期位置（第１位置）から第２位置までのいずれの状態（姿勢）にあっても、その長手方向一端側（軸Ｄ１７１が配設される側、矢印Ｌ方向側）の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。

【１７７３２】

軸Ｄ１７１は、本体部Ｄ１７２の内部に埋設され、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１を越える位置まで形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）を通過した後、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ転動（流入）される。

【１７７３３】

本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置

を境として、伝達部Ｄ１７３側が平坦面として形成され、錘部Ｄ１７４側が軸Ｄ１７１を中心とする湾曲面として形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面は、軸Ｄ１７１に直交する平面で切断した形状が、伝達部Ｄ１７３側では直線形状とされ、錘部Ｄ１７４側では軸Ｄ１７１と同芯の円弧形状とされる（図１６１２参照）。

【１７７３４】

本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１よりも伝達部Ｄ１７３側が平坦面として形成されるので、その領域を転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により本体部Ｄ１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。

【１７７３５】

なお、本体部Ｄ１７２の上面は、断面直線である必要はなく、段差が非形成であれば足り、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面（曲線どうし又は曲線と直線とが滑らかに連なる断面形状、例えば、正弦波（正弦曲線）形状）として形成されていても良い。

【１７７３６】

ここで、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球を、軸Ｄ１７１に到達する前に、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）へ転動（流入）させる構成も考えられる。しかしながら、このような構成では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球の重量の作用によって、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位されている状態（転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）が初期位置（第１位置）に復帰される前の状態）で、球が本体部Ｄ１７２の上面から排球されるため、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が瞬間的に作用されなくなる影響）を受け、転動部材Ｄ１７０にばたつきが発生する。転動部材Ｄ１７０がばたつくと、変位部材Ｄ１８０の開閉状態が不安定となり、遊技の興趣の低下を招く。

【１７７３７】

これに対し、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球は、軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）となる位置を越えて転動されるため、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球の重量の作用を抑制し、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が初期位置（第１位置）に復帰された状態で、球を本体部Ｄ１７２の上面から排球させることができる。よって、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が瞬間的に作用されなくなる影響）を受けても、転動部材Ｄ１７０にばたつきが発生することを抑制できる。その結果、変位部材Ｄ１８０の開閉状態を安定させ、遊技の興趣を向上できる。

【１７７３８】

なお、本実施形態では、上述したように、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）となる位置を境として、錘部Ｄ１７４側が軸Ｄ１７１を中心とする湾曲面として形成される。よって、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）を通過した後は、本体部Ｄ１７２の上面への球の重量は非作用とされる。即ち、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置よりも伝達部Ｄ１７３側の領域とされ、軸Ｄ１７１の上方となる位置よりも錘部Ｄ１７４側となる領域は、転動面としては機能されない。

【１７７３９】

伝達部Ｄ１７３は、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を伝達部材Ｄ１９０へ伝達するための部位であり、本体部Ｄ１７２の長手方向他端側から軸Ｄ１７１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設される。伝達部Ｄ１７３の延設先端側（矢印Ｒ方向側）は、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。

【１７７４０】

よって、転動部材Ｄ１７０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ１７１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）されると、伝達部Ｄ１７３によって伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３が下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される（図

１６１２から図１６１４参照）。
【１７７４１】
錘部Ｄ１７４は、転動部材Ｄ１７０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側から本体部Ｄ１７２の延設方向と反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【１７７４２】
転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ１７２上を球が転動していない状態）では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ１７４側に位置（偏心）される。その結果、転動部材Ｄ１７０は、錘部Ｄ１７４の重さ（重心位置の軸Ｄ１７１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰が可能とされる。
【１７７４３】
即ち、転動部材Ｄ１７０は、無負荷状態（本体部Ｄ１７２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、転動部材Ｄ１７０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【１７７４４】
一方、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２上を球が転動する際には、その球の重量により、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ１７２側（軸Ｄ１７１を挟んで錘部Ｄ１７４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転され）、第２位置に配置される。
【１７７４５】
なお、転動部材Ｄ１７０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の端面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６（転動部の縦壁部と反対側の端面）に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２が第６通路区画壁Ｄ１４６に当接されることで、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３の上方への変位（軸Ｄ１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第１位置（初期位置）に配置される（図１６１２参照）。
【１７７４６】
一方、転動部材Ｄ１７０の第２位置は、錘部Ｄ１７４の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６（転動部の下面）に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ１７０は、錘部Ｄ１７４が第６通路区画壁Ｄ１４６に当接されることで、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３の下方への変位（軸Ｄ１７１を中心とする正面視時計回りの回転）が規制され、第２位置に配置される（図１６１４参照）。
【１７７４７】
転動部材Ｄ１７０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）上の球を開口Ｄ１４１ｆ（第８通路ＤＲｔ８）へ向けて確実に転動させることができる。
【１７７４８】
このように、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）の下降傾斜を利用して、球を転動させるところ、転動部材Ｄ１７０は、軸Ｄ１７１を中心として回転可能に軸支され、本体部Ｄ１７２の上面の水平面に対する下降傾斜の角度は、球が転動されている状態（球の重量を受けている状態）における下降傾斜の角度が、球が非転動の状態（球の重量を受けていない無負荷状態）における下降傾斜の角度よりも小さくされる。

【１７７４９】
これにより、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球に勢いが付与されることを抑制できる。よって、球が本体部Ｄ１７２の上面を通過するのに要する時間を嵩ませる（長くする）ことができる。その結果、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されいてる時間を長くして、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（少なくとも一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が、閉鎖位置に配置された状態における対向間隔よりも広くされた状態）を維持しやすく（長く）できる。
【１７７５０】
本実施形態では、転動部材Ｄ１７０は、１球の球の重量が本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に作用された状態において、軸Ｄ１７１を中心として、錘部Ｄ１７４側の重量と本体部Ｄ１７２側の重量とがつり合うように形成される（転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１を通過する鉛直線上に位置される）。
【１７７５１】
よって、１球の球のみが転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を転動する場合、その球が、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも伝達部Ｄ１７３側（軸Ｄ１７１と反対側）に位置する状態では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転される）。
【１７７５２】
一方、球が、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも軸Ｄ１７１側（伝達部Ｄ１７３と反対側）に位置する状態では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ１７４側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として反時計回りに回転される）。
【１７７５３】
転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を２球以上の球が転動する場合（本体部Ｄ１７２に２球以上の球の重量が作用される場合）には、それら各球の転動位置（本体部Ｄ１７２の長手方向における位置）に関わらず、転動部材Ｄ１７０の重心位置が、軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転される）。
【１７７５４】
このように、転動部材Ｄ１７０の転動面（本体部Ｄ１７２）の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の途中（本実施形態では長手方向中央）につり合い位置を設けることで、そのつり合い位置を球が通過した後は、転動部材Ｄ１７０を第２位置から第１位置へ徐々に変位（回転）させることができる。その結果、変位部材Ｄ１８０を開放位置から閉鎖位置へ徐々に変位（回転）させることができる。
【１７７５５】
なお、１球の球の重量が作用した場合に、軸Ｄ１７１を中心として、錘部Ｄ１７４側の重量と本体部Ｄ１７２側の重量とがつり合う位置は、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも軸Ｄ１７１側であっても良く、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも伝達部Ｄ１７３側であっても良い。
【１７７５６】
変位部材Ｄ１８０は、第３通路ＤＲｔ３から流下口ＤＯＰｆｌへ流下（入球）された球を第６通路ＤＲｔ６へ向けて案内するための部材であり、上述したように、軸支部材Ｄ２１０に軸支され、閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）される。
【１７７５７】
軸支部材Ｄ２１０は、変位部材Ｄ１８０の基端側に固着される軸Ｄ２１１と、その軸Ｄ２１１の軸方向と直交する方向（径方向外方）へ張り出す張出部Ｄ２１２と、その張出部

Ｄ２１２から軸Ｄ２１１と平行な姿勢（矢印Ｆ－Ｂ方向に沿う姿勢）で突出され、伝達部材Ｄ１９０に連結される連結ピンＤ２１３とを備える。

【１７７５８】

軸支部材Ｄ２１０は、上述したように、軸Ｄ２１１が中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の軸支部Ｄ１４１ｂ及び背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の軸支孔Ｄ１３１ｂに軸支される。張出部Ｄ２１２は、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側に配設され、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１と平行な姿勢で背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。

【１７７５９】

軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１は、変位部材Ｄ１８０に固着される。また、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１に対して軸方向と直交する方向（径方向）に位置を異ならせる（軸Ｄ２１１に対して偏心した位置に配置される）。よって、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）に伴い、連結ピンＤ２１３が変位されると、その連結ピンＤ２１３の変位が軸Ｄ２１１の回転に変換され、軸Ｄ２１１と共に変位部材Ｄ１８０が変位（回転）される。

【１７７６０】

なお、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１よりも外側（一対の変位部材Ｄ１８０が対向する空間と反対側）に配設される。よって、連結ピンＤ２１３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位される（押し下げられる）ことで、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）され、連結ピンＤ２１３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位される（押し上げられる）ことで、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）される。

【１７７６１】

変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置および開放位置は、変位部材Ｄ１８０の基端側の外面が、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒの側面に当接されることで規定される。即ち、変位部材Ｄ１８０は、基端側の外面が、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒの側面に当接されることで、一対の変位部材Ｄ１８０どうしを互いに近接させる方向（対向間隔が小さくなる方向）又は互いに離間させる方向（対向間隔が大きくなる方向）への変位が規制され、閉鎖位置または開放位置に配置される（（図１６１２から図１６１４参照）。

【１７７６２】

また、変位部材Ｄ１８０及び軸支部材Ｄ２１０は、変位部材Ｄ１８０の基端側に軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１が固着されることで、一体化（ユニット化）される。

【１７７６３】

これら変位部材Ｄ１８０及び軸支部材Ｄ２１０が一体化された部品（以下「変位部材Ｄ１８０ユニット」と称す）は、少なくとも閉鎖位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０ユニット全体としての重心位置が、軸Ｄ２１１よりも他方の変位部材Ｄ１８０ユニット側に位置（偏心）される。即ち、軸Ｄ２１１（矢印Ｆ－Ｂ）方向視において、軸Ｄ２１１を通過する仮想線よりも他方の変位部材Ｄ１８０ユニット側に重心位置が位置（偏心）される。

【１７７６４】

その結果、変位部材Ｄ１８０ユニットは、重心位置の軸Ｄ２１１からの偏心を利用して（即ち、重心位置の偏心が、一対の変位部材Ｄ１８０を互いに近接させる方向へ回転させる力として作用され）、閉鎖位置に配置された姿勢の維持が可能とされる。

【１７７６５】

伝達部材Ｄ１９０は、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０（軸支部材Ｄ２１０）へ伝達するための部材であり、軸Ｄ１９１と、その軸Ｄ１９１が軸方向一側（矢印Ｆ方向側）の端面および他側（矢印Ｂ方向側）の端面から突出される円柱状の胴部Ｄ１９２と、その胴部Ｄ１９２の軸方向一側の外周面から径方向外方へ延設される被伝達部Ｄ１９３と、胴部Ｄ１９２の軸方向他側の外周面から径方向外方へ延設される本体部Ｄ１９４及び錘部Ｄ１９５とを備える。

【１７７６６】

軸Ｄ１９１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ）に沿う姿勢で配設され、上述したように、軸Ｄ１９１の一端は、胴部Ｄ１９２が背面部材Ｄ１３０の挿通孔Ｄ１３１ｃに挿通されることで、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃに軸支され、軸Ｄ１９１の他端は、迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１に軸支される。

【１７７６７】

被伝達部Ｄ１９３は、転動部材Ｄ１７０（伝達部Ｄ１７３）から転動部材Ｄ１７０の変位（回転）が伝達される部位であり、背面部材Ｄ１３０における本体部Ｄ１３１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【１７７６８】

上述したように、被伝達部Ｄ１９３の延設先端側（矢印Ｌ方向側）は、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）され、伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）されると、伝達部Ｄ１７３によって伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３が下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される（図１６１２から図１６１４参照）。

【１７７６９】

ここで、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、所定の隙間が形成され、球の重量を受けた転動部材Ｄ１７０が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される場合には、上述した所定の隙間を埋めた後に、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３が伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３に当接可能とされる。即ち、転動部材Ｄ１７０は、上述した隙間を埋めるだけの変位（下降）をしなければ、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３を下方へ押し下げることができない。

【１７７７０】

これにより、転動部材Ｄ１７０の変位が比較的小さい場合には、転動部材Ｄ１７０の変位を変位部材Ｄ１８０へ伝達させないようにすることができる。よって、例えば、遊技機を叩いて転動部材Ｄ１７０を変位（下降）させることや、針金等の異物で転動部材Ｄ１７０を変位（下降）させようとする不正を成功し難くできる。

【１７７７１】

本体部Ｄ１９４は、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）を軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３へ伝達するための部位であり、背面部材Ｄ１３０における本体部Ｄ１３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【１７７７２】

本体部Ｄ１９４には、溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒが形成され、これら溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒには、軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３がそれぞれ摺動可能に挿通される。よって、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）が伝達され、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されると、伝達部材Ｄ１９０の挿通溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒにおける内壁面により連結ピンＤ２１３が下方または上方へ変位される（押し下げ又は押し上げられる）。これにより、変位部材Ｄ１８０ユニットが変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が開放位置または閉鎖位置に配置される。

【１７７７３】

溝Ｄ１９４Ｒは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、溝の幅寸法（連結ピンＤ２１３が相対的に摺動変位する方向と直交する方向の寸法）が、連結ピンＤ２１３の直径と略同等または若干大きな寸法に設定され、軸Ｄ１９１を中心とする円弧と交差する方向に沿って直線状に延設される。よって、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されている間、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって下方または上方へ変位される（押し下げ又は押し上げられる）。

【１７７７４】

溝Ｄ１９４Ｌは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、軸Ｄ１９１側に中心を有する円弧状に湾曲する形状に延設され、下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部、転

動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において、連結ピンＤ２１３が位置する側の端部）における溝の幅寸法が、連結ピンＤ２１３の直径と略同等または若干大きな寸法に設定され、上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、連結ピンＤ２１３が位置する側の端部）へ向かうに従って溝の幅寸法が増加される。

【１７７７５】

詳細には、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面のうちの軸Ｄ１９１から遠い側の内壁面は、軸Ｄ１９１を中心とする円弧に沿った形状（軸Ｄ１９１を中心とする円形状を所定の中心角で分断した形状）とされ、軸Ｄ１９１に近い側の内壁面は、下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部）から上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部）へ向かうに従って軸Ｄ１９１からの距離が大きくされる円弧状に湾曲して形成される。

【１７７７６】

なお、軸支部材Ｄ２１０は、軸Ｄ２１１に対して連結ピンＤ２１３が偏心されるため、連結ピンＤ２１３と伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１との間の距離は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において最大とされ、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位されるに従って減少される。即ち、連結ピンＤ２１３は、下方（矢印Ｄ方向）へ変位された（押し下げられた）状態ほど、伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１との間の距離が小さくされる。

【１７７７７】

よって、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（即ち、連結ピンＤ２１３が最も上方（矢印Ｕ方向）へ変位された（押し上げされた）状態、図１６１２参照）から伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）される場合には、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面の両者から作用を受けない（当接されない）。

【１７７７８】

一方、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（即ち、連結ピンＤ２１３が最も下方（矢印Ｄ方向）へ変位された（押し下げられた）状態、図１６１４参照）から伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）される場合には、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面のうちの軸Ｄ１９１に近い側の内壁面から作用を受け（当接され）、その作用により徐々に上方（矢印Ｕ方向）へ変位される（押し上げられる）。

【１７７７９】

このように、連結ピンＤ２１３は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されても、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面から作用を受けないため、下方へ変位されず（押し下げられず）、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部）に達してから（図１６１３参照）、その上方側の延設端部における内壁面によって下方へ変位される（押し下げられる）。

【１７７８０】

これにより、一対の変位部材Ｄ１８０の動作態様（変位態様）を互いに異ならせることができる。即ち、一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方を停止させつつ他方のみを変位（回転）させる状態を形成できる。

【１７７８１】

即ち、本実施形態では、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、連結ピンＤ２１３と溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側における端部、内壁面）との間に所定の間隔が形成される（図１６１２参照）。

【１７７８２】

転動部材Ｄ１７０が球の重量を受けて初期位置（第１位置）から変位（回転）され、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）が開始されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の閉鎖位置からの変位（回転）が開始される。

【１７７８３】
一方、溝Ｄ１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の延設端部、内壁面）に達するまでの間は、下方へ変位されず（押し下げられず）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）が閉鎖位置に維持される。
【１７７８４】
転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）からの変位（回転）に伴って、伝達部材Ｄ１９０が更に変位（回転）されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって引き続き下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の閉鎖位置から開放位置への変位（回転）が継続される。
【１７７８５】
一方、溝Ｄ１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部、内壁面）に達すると（図１６１３参照）、その上方側の延設端部（内壁面）により下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）の閉鎖位置からの変位が開始される。
【１７７８６】
その後は、いずれの連結ピンＤ２１３も下方へ変位され（押し下げられ）、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）され、転動部材Ｄ１７０が第２位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置される。
【１７７８７】
このように、本実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングを異ならせる（一方に対し他方を遅らせる）ことができる。これにより、変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位（即ち、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球））を期待する遊技者に対し、開放状態に変化を形成でき、遊技の興趣を高めることができる。
【１７７８８】
錘部Ｄ１９５は、伝達部材Ｄ１９０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ１９４の長手方向一端側から軸Ｄ１９１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【１７７８９】
伝達部材Ｄ１９０は、錘部Ｄ１９５の重量により、伝達部材Ｄ１９０全体としての重心位置が、軸Ｄ１９１よりも錘部Ｄ１９５側に位置（偏心）される。その結果、伝達部材Ｄ１９０は、錘部Ｄ１９５の重さ（重心位置の軸Ｄ１９１からの偏心）を利用して、初期位置（変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置とする位置、図１６１２参照）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰（即ち、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置への復帰）が可能とされる。
【１７７９０】
即ち、伝達部材Ｄ１９０は、被伝達部Ｄ１９３が転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３によって下方（矢印Ｄ方向）へ変位されて（押し下げられて）いない状態では、本体部Ｄ１９４が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（背面視において、軸Ｄ１９１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置に配置される（変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置に配置させる）と共に、初期位置に維持される。これにより、伝達部材Ｄ１９０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【１７７９１】
迂回部材Ｄ２００は、背面部材Ｄ１３０の区画壁Ｄ１３４による区画領域よりも背面視において大きな外形を有する板状に形成され、区画壁Ｄ１３４の立設先端面（矢印Ｂ方向側の面）に配設されることで、区画壁Ｄ１３４と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。また

、迂回部材Ｄ２００には、区画壁Ｄ１３４による区画領域よりも背面視において外方となる領域に、軸支部Ｄ２０１が形成される。

【１７７９２】

次いで、図１６１２から図１６１４と図１６１５（ｃ）とを参照して、変位部材Ｄ１８０の開閉動作について説明する。

【１７７９３】

図１６１２に示すように、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）されていない状態では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置される。そのため、伝達部材Ｄ１９０は、転動部材Ｄ１７０から作用を受けず、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される。

【１７７９４】

この状態において、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球（図示せず）が流入（入球）されると、かかる球は、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間を通過（流下）し、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２における長手方向他端側（軸Ｄ１７１と反対側、矢印Ｒ方向側）の上面（転動面）に落下された後、本体部Ｄ１７２の上面を長手方向一端側（軸Ｄ１７１側、矢印Ｌ方向側）へ向けて転動される。

【１７７９５】

図１６１３に示すように、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を球が転動する状態では、その球の重量を受けて、転動部材Ｄ１７０が第２位置へ向けて変位（回転）され、図１６１４に示すように、転動部材Ｄ１７０が更に変位（回転）されて第２位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置され、それら変位部材Ｄ１８０の対向間隔が最大に拡大される。

【１７７９６】

転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球（図示せず）は、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側（軸Ｄ１７１側、矢印Ｌ側）から、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）へ転動（流入）され、開口Ｄ１３１ｄを介して、第８通路ＤＲｔ８へ転動（流入）される。

【１７７９７】

その後、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に球が存在しなくなると、転動部材Ｄ１７０が自重により初期位置（第１位置）へ復帰され、これに伴って、伝達部材Ｄ１９０が自重により初期位置へ復帰されることで、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ配置される（図１６１２参照）。

【１７７９８】

このように、本実施形態では、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）が軸Ｄ１７１を中心として回転可能に軸支され、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ流入（入球）された球が、軸Ｄ１７１側（矢印Ｌ方向側）へ向けて転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動される。

【１７７９９】

上述したように、転動部材Ｄ１７０は、長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、上面視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。

【１７８００】

よって、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）した球を、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に落下させることができる。

【１７８０１】

ここで、例えば、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球の転動方向が、軸Ｄ１７１から離間する方向に設定される構造では、球が転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を転動する初期段階では、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離が近いため、球が所定距離だけ転動して軸Ｄ１７１からの距離（力点と支点との間の距

離）が確保されるまでの間は、錘部Ｄ１７４の重量に対抗することができず、球の重量によって転動部材Ｄ１７０を初期位置（第１位置）から変位（回転）させることができない。

【１７８０２】

これに対し、本実施形態によれば、球が本体部Ｄ１７２の上面を転動する際に、その初期段階において、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離を確保して、錘部Ｄ１７４の影響を小さくできるので、球の重量によって転動部材Ｄ１７０を初期位置（第１位置）から変位（回転）させやすくできる。

【１７８０３】

即ち、球が第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入された直後に、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を初期位置（第１位置）から変位（回転）させ、変位部材Ｄ１８０の開放位置へ向けた変位（及び開放位置への配置）を速やかに行わせることができる。

【１７８０４】

特に、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入された球を、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に直接落下させることができるので、球の重量の作用のみでなく、球の落下する勢い（運動エネルギー）を利用して、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を初期位置（第１位置）から変位（回転）させることができる。この点においても、変位部材Ｄ１８０の開放位置へ向けた変位（及び開放位置への配置）を速やかに行わせることができる。

【１７８０５】

よって、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への球の流下（入球）を見届けた遊技者に対し、その直後に変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位を開始させることができ、テンポの良い演出を行うことができる。

【１７８０６】

また、第３通路ＤＲｔ３上を複数の球が転動する場合に、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ入球された第１の球と、その第１の球に後行する第２の球（第６通路ＤＲｔ６へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合に、後行する第２の球を第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）されやすくできる。

【１７８０７】

転動部材Ｄ１７０は、その上面（転動面）を球が転動する方向が、軸Ｄ１７１へ近づく方向とされるので、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面を球が転動するに従って、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離を徐々に短くして、錘部Ｄ１７４の影響を大きくできる。よって、転動部材Ｄ１７０を第２位置から初期位置（第１位置）へ向けて徐々に復帰させることができる。

【１７８０８】

即ち、球の転動が進行するに従って、開放位置に配置されていた変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置へ向けて徐々に変位（回転）させることができる。これにより、例えば、第３通路ＤＲｔ３上を他の球が往復動されている場合に、その他の球の第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への流入（入球）が、変位部材Ｄ１８０が開放されている有利な状態（少なくとも閉鎖位置に配置された状態よりも開放量が大きい状態）に間に合うか否かを遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７８０９】

更に、転動部材Ｄ１７０は、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が転動部材Ｄ１７０に落下される場合に、落下された球を、転動部材Ｄ１７０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における変位量が大きい側（軸Ｄ１７１から離間された側）で受け止めることができる。

【１７８１０】

よって、落下された球の運動エネルギーを、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）、即ち、

錘部Ｄ１７４を上方へ持ち上げるためのエネルギーとして吸収（消費）できる。その結果、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に落下した球が上方へ跳ね上がることを抑制できる。その結果、球の重量を転動部材Ｄ１７０に安定して作用させ、変位部材Ｄ１８０の状態を安定させる（例えば、閉鎖位置へ向けて変位部材Ｄ１８０が一時的に変位（回転）されることを抑制）できる。

【１７８１１】

また、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）した球を、転動部材Ｄ１７０とは別の部材（固定された非変位の部材、例えば、背面部材Ｄ１３０や中間部材Ｄ１４０の一部）に落下させる場合には、その別の部材の破損を招きやすくなるところ、上述のように、落下された球の運動エネルギーを、転動部材Ｄ１７０の変位により吸収（消費）できることで、球の衝突による転動部材Ｄ１７０やその転動部材Ｄ１７０を軸支する背面部材Ｄ１３０及び中間部材Ｄ１４０の破損を抑制できる。その結果、球の落下を許容できる分（球の落下高さの上限を緩やかとできる分）、設計の自由度を高めることができる。

【１７８１２】

第６通路ＤＲｔ６の側壁（内側面）を形成する背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１には、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇ（作用手段）が突設され、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球に作用可能に形成される。

【１７８１３】

即ち、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、所定間隔を隔てて対向配置される本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１から第６通路ＤＲｔ６内へ向けて突設されると共に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設される。

【１７８１４】

よって、球が第６通路ＤＲｔ６を通過する際には、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する場合だけでなく、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）から浮いた状態で移動する場合であっても、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを球に当接させ、抵抗を付与することで、球の速度を低くすることができる。

【１７８１５】

その結果、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用される時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態）を維持し易く（長く）できる。

【１７８１６】

この場合、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２）を挟んだ両側に形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置されるので、球が第６通路ＤＲｔ６を通過する際に、球を突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇに交互に当接させることができる。

【１７８１７】

これにより、球に抵抗を付与するだけでなく、球の速度成分に横方向（転動方向に直交する方向）の速度成分を付加することができる（球の進路を、直進ではなく、ジグザグとできる）。よって、球が第６通路ＤＲｔ６を通過するのに要する時間を長くできる。従って、この点からも、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用される時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態）を維持し易く（長く）できる。

【１７８１８】

一方で、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って延設されるので、鉛直方向へ移動する球には抵抗が付与され難くできる。よって、転動部材Ｄ１

７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）から球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がった場合には、その球を下方（転動面）へ速やかに落下させることができる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が上方へ変位された場合でも、かかる転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２に球の重量を速やかに作用させ、本体部Ｄ１７２を元の状態に速やかに復帰させることができる。

【１７８１９】

その結果、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を球が通過する間は、本体部Ｄ１７２に球の重量を作用させ、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態を維持し易くできる。

【１７８２０】

転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が平坦面として形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面は、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成され、段差が非形成とされる。よって、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により本体部Ｄ１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。

【１７８２１】

以上のように、本実施形態によれば、変位部材Ｄ１８０が変位（回転）可能に形成され、その変位（回転）によって、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のされやすさを変化させる構造において、変位部材Ｄ１８０は、第６通路ＤＲｔ６へ球が入球された場合に、第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくなる側（開放位置）へ変位されるので、第６通路ＤＲｔ６へ１の球が入球されれば、その球に後行する球（例えば、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に往復動する球、後続の球）を第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすくできる。

【１７８２２】

即ち、第６通路ＤＲｔ６へ第１の球が流入（入球）されれば、その第１の球の第６通路ＤＲｔ６への入球により変位部材Ｄ１８０が変位され、後行する第２の球（第１の球の後続となる第２の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されれば、その第２の球の第６通路ＤＲｔ６への入球により変位部材Ｄ１８０が変位され、後行する第３の球（第２の球の後続となる第３の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、第３の球の以降も、これらの態様を繰り返すことができる。

【１７８２３】

よって、第６通路ＤＲｔ６への１の球の流入（入球）により、第６通路ＤＲｔ６への球の入球の連鎖が発生することを遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【１７８２４】

この場合、変位部材Ｄ１８０の球が入球されやすくなる側（開放位置）への変位は、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球の重量を利用して行われる。よって、変位部材Ｄ１８０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【１７８２５】

特に、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６の球の転動面を転動部材Ｄ１７０により形成し、転動する球の重量の作用により転動部材Ｄ１７０が変位（回転）される構成であるので、球の重量を利用できる時間を確保できる。その結果、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）されやすくされた状態を維持しやすくできる。

【１７８２６】

次いで、図１６１６を参照して、第６９実施形態について説明する。第６８実施形態では、変位部材Ｄ１８０が外部から強制的に開放可能とされたが、第６９実施形態の変位部材Ｄ１８０は、外部から強制的に開放されることを規制可能とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７８２７】

図１６１６（ａ）及び図１６１６（ｂ）は、第６９実施形態における下側フレームＤ２０８６ｂの断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１６１６（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図１６１６（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１７８２８】

図１６１６に示すように、伝達部材Ｄ２１９０は、係合部Ｄ２１９６を備える。なお、伝達部材Ｄ２１９０は、第６８実施形態における伝達部材Ｄ１９０に対し、係合部Ｄ２１９６を更に備える点のみで相違し、その他の構成は同一である。

【１７８２９】

係合部Ｄ２１９６は、転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）を許容し、且つ、転動部材Ｄ１７０が初期値（第１位置）に配置された状態において、閉鎖位置にある変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）されることを規制するための部位であり、被伝達部Ｄ１９３の上面（矢印Ｕ方向側の面）から立設され、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）に外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）を対面させて配設される。

【１７８３０】

係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）は、転動部材Ｄ１７０が軸Ｄ１７１を中心として回転される際の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）の変位軌跡と交差しない形状（変位軌跡に接する形状、又は、変位軌跡との間に隙間を有する形状）に形成される。よって、転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）が許容される（図１６１６（ｂ）参照）。

【１７８３１】

よって、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）され、その球が転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面を転動する際には、その球の重量を利用して、転動部材Ｄ１７０を第２位置へ変位させることができる。その結果、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３により伝達部材Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３を下方へ変位させ（押し下げ）、変位部材Ｄ１８０を開放位置へ変位（回転）させることができる。

【１７８３２】

また、係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において、伝達部材Ｄ２１９０が正面視反時計回り（図１６１６（ａ）左回り、即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位される方向）の回転を規制可能な形状に形成される。

【１７８３３】

具体的には、伝達部材Ｄ２１９０が正面視反時計回り（図１６１６（ａ）左回り）に回転され、係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）が、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）に当接して押圧する際に、その伝達部Ｄ１７３の延設先端が軸Ｄ１７１へ向かう方向へ押圧される（伝達部Ｄ１７３の延設先端に係合部Ｄ２１９６から作用される力の延長線上に軸Ｄ１７１が位置される）。

【１７８３４】

よって、転動部材Ｄ１７０を変位（回転）させるための力成分が形成されず、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に維持される（回転不能とされる）ことで、伝達部材Ｄ２１９０の正面視反時計回り（図１６１６（ａ）左回り）の回転が規制される（図１６１６（ａ）参照）。即ち、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置から開放位置へ向けての変位（回転）が規制される。

【１７８３５】

このように、本実施形態によれば、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態（即ち、球の重量が作用されていない状態）では、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置

から開放位置へ向けた変位（回転）を規制することができる。即ち、例えば、針金等の異物を挿入して、閉鎖位置にある変位部材Ｄ１８０を、開放位置へ向けて強制的に変位させる不正（第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）しやすくする不正）を抑制できる。

【１７８３６】

この場合、本実施形態では、転動部材Ｄ１７０を利用する（転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３に伝達部材Ｄ２１９０の係合部Ｄ２１９６を係合させる）ことで、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置から開放位置へ向けた変位（回転）が規制される。よって、変位部材Ｄ１８０が強制的に変位（回転）されることを規制するための部品を別途設ける必要がなく、伝達部材Ｄ１９０を流用することができるので、その分、変位部材Ｄ１８０を強制的に変位させる不正を抑制するための構造を簡素化できる。

【１７８３７】

次いで、図１６１７を参照して、第７０実施形態について説明する。第６８実施形態では、転動部材Ｄ１７０を転動する球の転動方向が軸Ｄ１７１へ近づく方向とされたが、第７０実施形態の転動部材Ｄ３１７０は、球の転動方向が軸Ｄ３１７１から遠ざかる（離間される）方向とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７８３８】

図１６１７（ａ）及び図１６１７（ｂ）は、第７０実施形態における下側フレームＤ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１６１７（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図１６１７（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１７８３９】

図１６１７に示すように、転動部材Ｄ３１７０は、軸Ｄ３１７１と、その軸Ｄ３１７１が長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）に配設される長尺板状の本体部Ｄ３１７２と、その本体部Ｄ３１７２の長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側）に配設される錘部Ｄ３１７４と、その錘部Ｄ３１７４を挟んで本体部Ｄ３１７２の反対側に配設される伝達部Ｄ３１７３とを備え、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に軸Ｄ３１７１を中心として回転可能に配設される。

【１７８４０】

なお、転動部材Ｄ３１７０の各部Ｄ３１７１～Ｄ３１７４は、第６８実施形態における転動部材Ｄ１７０の各部Ｄ１７１～Ｄ１７４に対し、機能は実質的に同一であり、配置のみが相違する。また、伝達部材Ｄ３１９０は、第６８実施形態における伝達部材Ｄ３１９０に対し、被伝達部Ｄ３１９３の向き（延設方向）のみが相違し、その他の構成は同一である。

【１７８４１】

軸Ｄ３１７１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設され、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０とに形成される軸支部（図示せず）に軸支される。よって、軸Ｄ３１７１を中心に転動部材Ｄ３１７０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ３１７２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。

【１７８４２】

本体部Ｄ３１７２は、その上面が第６通路ＤＲｔ６における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ３１７１が配設される側と反対側、矢印Ｌ方向側）を、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側、矢印Ｒ方向側）を、上面視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。

【１７８４３】

本体部Ｄ３１７２は、第２位置に配置された状態（姿勢）では、その長手方向一端側（

軸Ｄ３１７１が配設される側と反対側、矢印Ｌ方向側）の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。

【１７８４４】

本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）は、平坦面として形成される。よって、転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ３１７４の作用により本体部Ｄ３１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。

【１７８４５】

なお、本体部Ｄ３１７２の上面は、平坦面（軸Ｄ３１７１に直交する平面で切断した断面が断面直線）である必要はなく、段差が非形成であれば足り、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面（曲線どうし又は曲線と直線とが滑らかに連なる断面形状、例えば、正弦波（正弦曲線）形状）として形成されていても良い。

【１７８４６】

錘部Ｄ３１７４は、転動部材Ｄ３１７０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ３１７２の長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側）から本体部Ｄ３１７２の延設方向と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。

【１７８４７】

伝達部Ｄ３１７３は、転動部材Ｄ３１７０の変位（回転）を伝達部材Ｄ３１９０へ伝達するための部位であり、錘部Ｄ３１７４の延設方向端部（矢印Ｒ方向側の端部）から軸Ｄ３１７１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて更に延設される。伝達部Ｄ３１７３の延設先端側（矢印Ｒ方向側）は、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。

【１７８４８】

よって、転動部材Ｄ３１７０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ３１７１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ３１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）されると、伝達部Ｄ３１７３によって伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３が上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、伝達部材Ｄ３１９０が軸Ｄ３１９１を中心として変位（回転）される。その結果、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ変位される。

【１７８４９】

なお、本実施形態では、伝達部Ｄ３１７３から被伝達部Ｄ３１９３へ向けて突起が突設（立設）される。但し、被伝達部Ｄ３１９３から伝達部Ｄ３１７３へ向けて突起が突設（立設）されても良い。即ち、転動部材Ｄ３１７０の変位（回転）が、伝達部Ｄ３１７３及び被伝達部Ｄ３１９３を介して、伝達部材Ｄ３１９０に伝達可能とされれば足りる。

【１７８５０】

転動部材Ｄ３１７０（本体部Ｄ３１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ３１７２上を球が転動していない状態）では、転動部材Ｄ３１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ３１７１よりも錘部Ｄ３１７４（及び伝達部Ｄ３１７３）側に位置（偏心）される。その結果、転動部材Ｄ３１７０は、錘部Ｄ３１７４（及び伝達部Ｄ３１７３）の重さ（重心位置の軸Ｄ３１７１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰が可能とされる（図１６１７（ａ）参照）。

【１７８５１】

即ち、転動部材Ｄ３１７０は、無負荷状態（本体部Ｄ３１７２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ３１７２が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視において、軸Ｄ３１７１を中心として時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、転動部材Ｄ３１７０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【１７８５２】
一方、転動部材Ｄ３１７０の本体部Ｄ３１７２上を球が転動する際には、その球の重量により、転動部材Ｄ３１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ３１７２側（軸Ｄ３１７１を挟んで錘部Ｄ３１７４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ３１７１を中心として反時計回りに回転され）、第２位置に配置される。
【１７８５３】
なお、転動部材Ｄ３１７０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、中間部材Ｄ１４０から突出されるストッパ部に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２がストッパ部に当接されることで、本体部Ｄ３１７２の下方への変位（軸Ｄ３１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第１位置（初期位置）に配置される（図１６１７（ａ）参照）。
【１７８５４】
一方、転動部材Ｄ３１７０の第２位置は、錘部Ｄ３１７４の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、中間部材Ｄ１４０から突出されるストッパ部に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ３１７０は、錘部Ｄ３１７４がストッパ部に当接されることで、本体部Ｄ３１７２の上方への変位（軸Ｄ３１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第２位置に配置される（図１６１７（ｂ）参照）。
【１７８５５】
転動部材Ｄ３１７０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、転動部材Ｄ３１７０（本体部Ｄ３１７２）上の球を開口Ｄ１３１ｄ（第８通路ＤＲｔ８）へ向けて確実に転動させることができる。
【１７８５６】
このように、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）の下降傾斜を利用して、球を転動させるところ、転動部材Ｄ３１７０は、軸Ｄ３１７１を中心として回転可能に軸支され、本実施形態では、本体部Ｄ３１７２の上面の水平面に対する下降傾斜の角度は、球が転動されている状態（球の重量を受けている状態）における下降傾斜の角度が、球が非転動の状態（球の重量を受けていない無負荷状態）における下降傾斜の角度よりも大きくされる。
【１７８５７】
即ち、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）した球は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）であって、軸Ｄ３１７１の近傍となる位置に落下され、本体部Ｄ３１７２の上面を軸Ｄ３１７１から離間される方向（遠ざかる方向）へ向けて転動される。
【１７８５８】
これにより、球が転動部材Ｄ３１７０の本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）を転動する初期段階では、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ３１７１（支点）との距離を短くし、錘部Ｄ３１７４の重量を支配的としておき、球が本体部Ｄ３１７２の上面を転動するに従って、軸Ｄ１９１からの距離（力点と支点との間の距離）を徐々に大きく（長く）し、錘部Ｄ１７４の重量に対抗させることができる。その結果、転動部材Ｄ３１７０を初期位置（第１位置）から第２位置へ徐々に変位（回転）させることができる。
【１７８５９】
即ち、球の転動が進行するに従って、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置から開放位置へ徐々に変位（回転）させ、その開放量（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔）を徐々に増加させることができる。これにより、例えば、第２の球が第３通路ＤＲｔ３を往復動する場合に、その第２の球が第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ流入（入球）する期待を徐々に高まらせることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１７８６０】

また、第６通路ＤＲｔ６へ入球された第１の球と、その第１の球に後行する第２の球（第６通路ＤＲｔ６へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的大きい場合でも、後行する第２の球を第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）させやすくできる。

【１７８６１】

一方で、転動部材Ｄ３１７０の上面（転動面）を球が転動する方向が、軸Ｄ１７１から遠ざかる（離間する）方向とされることで、少なくとも球が本体部Ｄ３１７２の終端（長手方向一端側、矢印Ｌ方向側の端部）に達した際には、転動部材Ｄ３１７０が第２位置に配置された状態とされる。

【１７８６２】

即ち、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）から中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ球が転動（流入）される直前の状態では、軸Ｄ１９１からの距離（力点と支点との間の距離）が最大とされ、球の重量が本体部Ｄ３１７２に最大に作用されていたところ、本体部Ｄ３１７２の上面から第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ球が転動（流入）されると、球の重量の作用が瞬間的になくなり、錘部Ｄ３１７４の作用のみとなる。

【１７８６３】

そのため、転動部材Ｄ３１７０が第２位置から初期位置（第１位置）へ最大の速度で復帰させ、開放位置に配置されていた変位部材Ｄ１８０を即座に閉鎖位置に配置させることができる。よって、テンポの良い演出を行うことができる。また、第２の球の第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への流入（入球）が、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて徐々に変位（回転）されている間に合うか否かを遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７８６４】

なお、本実施形態の転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）を転動する球が１球とされる場合には、その球が本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側の端部）へ向けて転動されるに従って転動部材Ｄ３１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ向けて徐々に変位（回転）され、球が本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側の端部）に達した際には（少なくとも球が中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６へ転動（流入）する前に）、転動部材Ｄ３１７０が第２位置に配置されるように構成される。

【１７８６５】

次いで、図１６１８を参照して、第７１実施形態について説明する。第６８実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの経路（第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８により形成される通路）中に転動部材Ｄ１７０のみが配設されたが、第７１実施形態における一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの経路（第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８により形成される通路）中には、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７８６６】

図１６１８（ａ）及び図１６１８（ｂ）は、第７１実施形態における下側フレームＤ４０８６ｂの部分拡大背面図であり、軸Ｄ４２２１に直交する平面で区画壁Ｄ４１３４及び第２転動部材Ｄ４２２０を切断した状態が図示される。

【１７８６７】

なお、図１６１８（ａ）では、第２転動部材Ｄ４２２０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図１６１８（ｂ）では、第２転動部材Ｄ４２２０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１７８６８】

図１６１８に示すように、背面部材Ｄ４１３０は、その背面から立設される区画壁Ｄ４１３４を備える。

【１７８６９】
区画壁Ｄ４１３４は、本体部Ｄ１３１、迂回部材Ｄ２００及び第２転動部材Ｄ４２２０と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。即ち、本体部Ｄ１３１に迂回部材Ｄ２００が対向配置され、その対向間であって区画壁Ｄ４１３４と第２転動部材Ｄ４２２０により区画された領域が第８通路ＤＲｔ８とされる。
【１７８７０】
第２転動部材Ｄ４２２０は、軸Ｄ４２２１と、その軸Ｄ４２２１が長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）に配設される長尺板状の本体部Ｄ４２２２と、その本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側）に配設される錘部Ｄ４２２４と、その錘部Ｄ４２２４を挟んで本体部Ｄ４２２２の反対側に配設される伝達部Ｄ４２２３とを備え、背面部材Ｄ４１３０と迂回部材Ｄ２００との間に軸Ｄ４２２１を中心として回転可能に配設される。
【１７８７１】
なお、第２転動部材Ｄ４２２０の各部Ｄ４２２１～Ｄ４２２４は、第６８実施形態における転動部材Ｄ１７０の各部Ｄ１７１～Ｄ１７４に対し、機能は実質的に同一であり、配置のみが相違する。また、背面部材Ｄ４１３０の区画壁Ｄ４１３４は、第６８実施形態における区画壁Ｄ１３４に対し、球の転動面を形成する壁部の一部が省略される（第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ４２２２に置き換えられる）点で相違し、その他の構成は同一である。
【１７８７２】
軸Ｄ４２２１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設され、背面部材Ｄ４１３０と迂回部材Ｄ２００とに形成される軸支部（図示せず）に軸支される。よって、軸Ｄ４２２１を中心に第２転動部材Ｄ４２２０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ４２２２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。
【１７８７３】
本体部Ｄ４２２２は、その上面が第８通路ＤＲｔ８における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側、矢印Ｌ方向側）を、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部（上面が転動面となる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ４２２１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、開口Ｄ１３１ｄの下流側（開口Ｄ１３１ｄから流下する球を受け入れ（受け取り）可能な位置）に配設される。
【１７８７４】
本体部Ｄ４２２２は、初期位置（第１位置）から第２位置までのいずれの状態（姿勢）にあっても、その長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側、矢印Ｌ方向側）の上面が、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部（上面が転動面となる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。
【１７８７５】
軸Ｄ４２２１は、本体部Ｄ４２２２の内部に埋設され、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）は、軸Ｄ４２２１を越える位置まで形成される。即ち、本体部Ｄ４２２２の上面を転動する球は、軸Ｄ４２２１の上方側（矢印Ｕ方向側）を通過した後、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部へ転動（流入）される。
【１７８７６】
錘部Ｄ４２２４は、第２転動部材Ｄ４２２０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側）から本体部Ｄ４２２２の延設方向と反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【１７８７７】
伝達部Ｄ４２２３は、第２転動部材Ｄ４２２０の変位（回転）を伝達部材Ｄ１９０へ伝達するための部位であり、錘部Ｄ４２２４の延設方向端部（矢印Ｒ方向側の端部）から伝

達部材Ｄ１９０（錘部Ｄ１９５）へ向けて延設される。伝達部Ｄ４２２３の延設先端側（矢印Ｕ方向側）は、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。

【１７８７８】

よって、第２転動部材Ｄ４２２０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ４２２１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ４２２３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）されると、伝達部Ｄ４２２３によって伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５が上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される。その結果、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ変位される。

【１７８７９】

第２転動部材Ｄ４２２０（本体部Ｄ４２２２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ４２２２上を球が転動していない状態）では、第２転動部材Ｄ４２２０全体としての重心位置が、軸Ｄ４２２１よりも錘部Ｄ４２２４（及び伝達部Ｄ４２２３）側に位置（偏心）される。その結果、第２転動部材Ｄ４２２０は、錘部Ｄ４２２４（及び伝達部Ｄ４２２３）の重さ（重心位置の軸Ｄ４２２１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置（第１位置）への復帰が可能とされる（図１６１８（ａ）参照）。

【１７８８０】

即ち、第２転動部材Ｄ４２２０は、無負荷状態（本体部Ｄ４２２２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ４２２２が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視において、軸Ｄ４２２１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、第２転動部材Ｄ４２２０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【１７８８１】

一方、第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ４２２２上を球が転動する際には、その球の重量により、第２転動部材Ｄ４２２０全体としての重心位置が本体部Ｄ４２２２側（軸Ｄ４２２１を挟んで錘部Ｄ４２２４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、第２転動部材Ｄ４２２０は、本体部Ｄ４２２２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ４２２１を中心として時計回りに回転され）、第２位置に配置される。

【１７８８２】

なお、第２転動部材Ｄ４２２０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の端面（矢印Ｌ方向側の面）が、第２転動部材Ｄ４２２０の第２位置は、本体部Ｄ４２２２の長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、それぞれ区画壁Ｄ４１３４に当接されることで規定される。

【１７８８３】

第２転動部材Ｄ４２２０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、第２転動部材Ｄ４２２０（本体部Ｄ４２２２）上の球を開口Ｄ１３１ｅへ向けて確実に転動させることができる。

【１７８８４】

このように、本実施形態によれば、第６通路ＤＲｔ６に転動部材Ｄ１７０が配設されると共に、その第６通路ＤＲｔ６の下流となる第８通路ＤＲｔ８に第２転動部材Ｄ４２２０が配設される。よって、第６８実施形態と比較して、経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）の長さが同一であっても、第２転動部材Ｄ４２２０が配設される分、球の重量を利用できる区間を確保（長く）できる。その結果、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位された状態（変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやすくされた状態）を維持（長く）しやすくできる。

【１７８８５】
ここで、１の部材（転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２））の長手方向寸法（上面（転動面）の長さ）を延長して、球の重量を利用できる区間を確保（長く）する構成では、下側フレームＤ８６ｂの限られたスペース（幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）寸法）に、長手方向寸法を延長した転動部材Ｄ１７０を配設することが困難となる。一対の変位部材Ｄ１８０の配設位置を下側フレームＤ８６ｂの幅方向一側（矢印Ｌ方向側）に偏らせれば、その分、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）の長手方向寸法（上面（転動面）の長さ）を延長することは可能であるが、その延長できる長さには限界がある。また、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状とすることができず、遊技の興趣が低下する。
【１７８８６】
これに対し、本実施形態によれば、複数の部材（本実施形態では、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）を配設して、球の重量を利用できる区間を確保（長く）する構成であるので、下側フレームＤ４０８６ｂの限られたスペースを有効に活用して、球の重量を利用できる区間を十分に確保（長く）できる。また、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状とでき、遊技の興趣を向上できる。
【１７８８７】
即ち、転動部材Ｄ１７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に第２転動部材Ｄ４２２０を配設し、これらを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に重ねる構成であるので、下側フレームＤ４０８６ｂのデッドスペースとなる前後方向の厚みを有効に活用して、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０により、球の重量を利用できる区間を確保（長く）できる。
【１７８８８】
また、このように、球の重量を利用できる区間を確保（長く）しつつ、一対の変位部材Ｄ１８０を下側フレームＤ４０８６ｂの幅方向（矢印Ｌ－Ｒ）中央に配設できるので、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状（幅方向中央へ向けて下降傾斜する形状）とでき、遊技の興趣を向上できる。
【１７８８９】
経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）に１の部材（転動部材Ｄ１７０）のみが配設される構成では、その経路を１の球が通過する間に変位部材Ｄ１８０の所定の変位（球の重量により閉鎖位置から開放位置へ配置され、球の通過後に閉鎖位置へ復帰される変位態様）が１回形成されるのみであるが、複数の部材（転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）が経路（通路）に配設される構成であれば、その経路を１の球が通過する間に変位部材Ｄ１８０の上述した所定の変位を複数回（本実施形態では２回）形成できる。変位部材Ｄ１８０の開放と閉鎖を繰り返されることで、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）を期待する遊技者に、変位部材Ｄ１８０の変位状態と第３通路ＤＲｔ３上の他の球との関係を着目させ、遊技の興趣を向上できる。
【１７８９０】
また、経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）に１の部材（転動部材Ｄ１７０）のみが配設される構成では、その経路を複数（２以上）の球が通過しても、変位部材Ｄ１８０の変位態様は１通り（即ち、球の重量により閉鎖位置から開放位置へ配置され、球の通過後に閉鎖位置へ復帰される変位態様）のみであるが、複数の部材（転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）が経路（通路）に配設される構成であれば、その経路を複数の球が通過する間に形成できる変位部材Ｄ１８０の変位態様を複数通りとできる。即ち、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方と他方とに球の重量が作用するタイミング（球が転動するタイミング）の組み合わせにより、変位部材Ｄ１８０の変位態様を多様とできる。その結果、意外性のある演出を行うことができる。
【１７８９１】
転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３は、伝達部材Ｄ１９０における被伝達部Ｄ１９３の上方側（矢印Ｕ方向側）に位置し、本体部Ｄ１７２に球の重量が作用した場合には、被伝達部Ｄ１９３を下方へ変位させる（押し下げる）。第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４

２２３は、伝達部材Ｄ１９０における錘部Ｄ１９５の下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、本体部Ｄ４２２２に球の重量が作用した場合には、錘部Ｄ１９５を上方へ変位させる（押し上げる）。

【１７８９２】

即ち、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０が球の重量の作用により動作して、伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させる場合、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）方向が同方向とされ、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の動作が対抗されない。同様に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方が初期位置へ復帰する動作（球の重量が作用されず錘部Ｄ１７４，Ｄ４２２４の重量で変位（回転））する場合、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の他方の動作の状態に関わらず、一方の動作と他方の動作は対抗されない（一方の動作と他方の動作との両方が許容される）。

【１７８９３】

このように、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の球の重量が作用された場合の変位（回転）をそれぞれ個別に独立して伝達部材Ｄ１９０へ伝達でき、且つ、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の球の重量の作用が解除された場合の変位（回転）をそれぞれ個別に独立して行わせることができる。

【１７８９４】

よって、経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）を複数の球が通過する場合には、それら球の転動する位置に応じて、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方または他方の動作のみに起因して伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させることも、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方および他方の両者の動作に起因して伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させることもでき、これらの組み合わせにより、変位部材Ｄ１８０が変位する態様を多様化できる。

【１７８９５】

例えば、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）されている途中に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方に球の重量が作用されれば、その一方の動作により変位部材Ｄ１８０を、閉鎖位置へ向けた変位の途中で、開放位置へ向けて変位させることができる。

【１７８９６】

また、例えば、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方に球の重量が作用され、その一方の動作により変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）されている途中に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の他方に球の重量が作用され、その他方の方が球の重量の作用が大きい（変位部材Ｄ１８０を変位させる力が強い）場合には、他方の動作により、変位部材Ｄ１８０を、より速い変位速度で、開放位置へ変位させることができる。

【１７８９７】

また、本実施形態によれば、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０へ伝達するための部材（伝達手段）と、第２転動部材Ｄ４２２０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０へ伝達するための部材（伝達手段）とを別々に設ける必要がなく、かかる部材（伝達手段）として、伝達部材Ｄ１９０を共用できる。よって、部品点数を低減して、構造の簡素化を図ることができる。その結果、動作の信頼性の向上と製品コストの低減とを達成できる。

【１７８９８】

次いで、図１６１９を参照して、第７２実施形態について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１７８９９】

図１６１９は、第７２実施形態における下側フレームＤ５０８６ｂの部分拡大背面図であり、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。なお、図１６１９（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が図示される。

【１７９００】
図１６１９に示すように、本体部Ｄ５１９４には、溝Ｄ５１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒが形成され、これら溝Ｄ５１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒには、軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３がそれぞれ摺動可能に挿通される。
【１７９０１】
なお、伝達部材Ｄ５１９０は、第６８実施形態における伝達部材Ｄ１９０に対し、溝Ｄ１９４Ｌの形状のみが相違し、その他の構成は同一である。
【１７９０２】
溝Ｄ５１９４Ｌは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、軸Ｄ１９１側に中心を有する円弧状に湾曲する形状に延設され、溝の幅寸法が連結ピンＤ２１３の直径よりも大きな寸法に設定される。溝の幅寸法は、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿って一定とされる。
【１７９０３】
詳細には、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面は、軸Ｄ１９１から遠い側の内壁面と軸Ｄ１９１に近い側の内壁面との両者が、軸Ｄ１９１を中心とする円弧に沿った形状（軸Ｄ１９１を中心とする円形状を所定の中心角で分断した形状）とされる。
【１７９０４】
よって、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面の両者から作用を受けず（当接されず）、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側または上方側の延設端部（矢印Ｄ方向側または矢印Ｕ方向側の端部）からのみ作用を受ける（下方側または上方側の延設端部における内壁面によって上方または下方へ変位される（押し下げ又は押し下げられる）。
【１７９０５】
これにより、本実施形態によれば、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置から開放位置へ変位させる場合だけでなく、開放位置から閉鎖位置へ変位させる場合においても、一対の変位部材Ｄ１８０の動作態様（変位態様）を互いに異ならせることができる（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方を停止させつつ他方のみを変位（回転）させる状態を形成できる）。
【１７９０６】
具体的には、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、連結ピンＤ２１３と溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側における端部、内壁面）との間に所定の間隔が形成される（図１６１４参照）。
【１７９０７】
転動部材Ｄ１７０の第２位置から初期位置（第１位置）への変位（回転）が開始され、これに伴い、伝達部材Ｄ５１９０の初期位置への変位（回転）が開始されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の開放位置からの変位（回転）が開始される。
【１７９０８】
一方、溝Ｄ５１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の延設端部、内壁面）に達するまでの間は、上方へ変位されず（押し上げられず）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）が開放位置に維持される。
【１７９０９】
転動部材の第２位置からの変位（回転）に伴って、伝達部材Ｄ５１９０が更に変位（回転）されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって引き続き上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の開放位置から閉鎖位置への変位（回転）が継続される。
【１７９１０】
一方、溝Ｄ５１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部、内壁面）に達すると、その下方側の延設端部（内壁面

）により上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）の開放位置からの変位が開始される。
【１７９１１】
その後は、いずれの連結ピンＤ２１３も上方へ変位され（押し上げられ）、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）され、伝達部材Ｄ１９０が初期位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される（図１６１２参照）。
【１７９１２】
このように、本実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングだけでなく、開放位置から閉鎖位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングも異ならせる（一方に対し他方を遅らせる）ことができる。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放された状態（即ち、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）がされやすい状態）を期待する遊技者に対し、閉鎖位置へ変位される態様に変化を持たせ、遊技の興趣を高めることができる。
【１７９１３】
次いで、図１６２０から図１６２３を参照して、第７３実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂについて説明する。
【１７９１４】
第６８実施形態では、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球は全て第８通路ＤＲｔ８（流出口ＤＯＰｏｕｔ）へ案内される場合を説明したが、第７３実施形態の第６通路ＤＲｔ６には、その途中に第９通路ＤＲｔ９が接続され、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球が、第８通路ＤＲｔ８（流出口ＤＯＰｏｕｔ）又は第９通路ＤＲｔ９（流出口ＤＯＰ６ｏｕｔ）のいずれか一方へ案内される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７９１５】
図１６２０は、第７３実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６２１は、下側フレームＤ６０８６ｂの分解背面斜視図である。図１６２２は、下側フレームＤ６０８６ｂの正面図であり、図１６２３（ａ）及び図１６２３（ｂ）は、下側フレームＤ６０８６ｂの部分拡大断面図である。
【１７９１６】
なお、図１６２３（ａ）は、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応し、図１６２３（ｂ）は、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における断面に対応する。
【１７９１７】
図１６２０から図１６２３に示すように、第７３実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂは、第６通路ＤＲｔ６の途中に接続される第９通路ＤＲｔ９と、その第９通路ＤＲｔ９に案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＤＯＰ６ｏｕｔとが形成される。
【１７９１８】
即ち、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）され、その第６通路ＤＲｔ６の終端に達した球は、第８通路ＤＲｔ８へ流入（入球）され、第８通路ＤＲｔ８を流下した後、流出口ＤＯＰｏｕｔから遊技領域へ流出される一方、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）され、その第６通路ＤＲｔ６の途中で第９通路ＤＲｔ８へ流入（入球）された球は、第９通路ＤＲｔ９を流下した後、流出口ＤＯＰ６ｏｕｔから遊技領域へ流出される。
【１７９１９】
ここで、第８通路ＤＲｔ８の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１６０３参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第６通路ＤＲｔ６から第８通路ＤＲｔ８へ流下された球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【１７９２０】
一方、第９通路ＤＲｔ９の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰ

６ｏｕｔは、第１入賞口６４（図１６０３参照）に対して水平方向一側へ位置を異ならせて配設される（鉛直方向下方に第１入賞口６４が重ならない位置に形成（配置）される）。そのため、第６通路ＤＲｔ６から第９通路ＤＲｔ９へ流下された球は、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第８通路ＤＲｔ８へ流下された球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１７９２１】

このように、本実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂは、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動する球が第６通路ＤＲｔ６に振り分けられた場合、その第６通路ＤＲｔ６を流下する球は、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することで、第１入賞口６４に入賞しやすくする（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）ことができる。よって、第６通路ＤＲｔ６を球が流下する際には、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９２２】

また、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が流下されれば、球の重量（重さ）が転動部材Ｄ１７０に作用される時間を最大限確保して、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）された（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくされた）状態を維持しやすくできる。一方、第６通路ＤＲｔ６を流下する球が、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されると、球の重量（重さ）を転動部材Ｄ１７０へ作用させることができなくなり、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）される（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球され難くなる）。よって、第６通路ＤＲｔ６を球が流下する際には、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）された状態を維持して、第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ球が振り分けられやすくするために、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することを遊技者に期待させることができ、この点からも遊技の興趣を高めることができる。

【１７９２３】

正面部材Ｄ６１１０は、正面部Ｄ１１１に開口形成される開口ＤＯＰ６ｏｕｔと、正面部Ｄ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｄ６１１２を備え、中間部材Ｄ６１４０は、本体部Ｄ１４１の正面から立設される底面部Ｄ１４４と、本体部Ｄ１４１に開口形成される開口Ｄ６１４８と、を備える。

【１７９２４】

底面部Ｄ６１１２は、正面部Ｄ１１１の長手方向全域にわたって連続して形成され、底面部Ｄ６１４４は、開口Ｄ１４１ｆを除く領域において、本体部Ｄ１４１の縁部に沿って連続して形成され、底面部Ｄ６１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）と底面部Ｄ６１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）とが全域にわたって当接される。これにより、下側フレームＤ６０８６ｂの底面側からの針金等の異物の侵入が抑制される。

【１７９２５】

底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４の一部（中間部材Ｄ６１４０における開口Ｄ６１４８の下方に位置する部分）は、第９通路ＤＲｔ９の転動面を形成する。かかる転動面を形成する部分は、第１介設部材Ｄ１５０の底面との間に所定間隔（球の直径よりも大きな間隔）を隔てて形成される。

【１７９２６】

また、底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４における上述した転動面を形成する部分は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央へ向けて下降傾斜して形成され、その鉛直方向における高さ位置が最も低い部分（長手方向の略中央となる部分）には、流出面Ｄ６１１２ａ，Ｄ６１４４ａがそれぞれ凹設される。

【１７９２７】

流出面Ｄ６１１２ａ，Ｄ６１４４ａは、底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４（転動面を形成する部分）を案内される球を、流出口ＤＯＰ６ｏｕｔへ流出させるための部位であり、流

出口ＤＯＰ６ｏｕｔへ向けて下降傾斜する凹面として一体に形成される。即ち、開口ＤＯＰ６ｏｕｔは、流出面Ｄ６１１２ａ，Ｄ６１４４ａに対応する位置（球が流出可能な位置）に開口形成される。

【１７９２８】

中間部材Ｄ６１４０の開口Ｄ６１４８は、転動部材Ｄ１７０（第６通路ＤＲｔ６）を転動する球を第９通路ＤＲｔ９へ受け入れる開口（孔）として、本体部Ｄ１４１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。即ち、開口６１４８は、第６通路ＤＲｔ６を区画する一対の側壁のうちの一方の側壁に開口形成され、開口６１４８を介して、第６通路ＤＲｔ６の途中に第９通路ＤＲｔ９の上流端が接続される。

【１７９２９】

開口Ｄ６１４８の転動部材Ｄ１７０の長手方向における寸法は、複数の球（本実施形態では３球）が同時に通過可能な大きさに設定される。また、開口Ｄ６１４８の下縁は、球の重量（重さ）により第２位置（最下方へ押し下げられた位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の上面よりも下方（矢印Ｕ方向側）となる位置に形成され（図１６２３（ａ）参照）、開口Ｄ６１４８の上縁は、球の重量（重さ）が作用されず初期位置（第１位置、最上方に復帰した位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の上面との間に球の直径よりも大きな間隔を隔てる位置に形成される。よって、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に関わらず、球が開口Ｄ６１４８を通過可能とされる。

【１７９３０】

開口Ｄ６１４８の第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ａ）右側）に位置する側縁（以下「上流側側縁」と称す）は、正面視において、転動部材Ｄ１７０の第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ａ）右側）の縁部よりも下流側（矢印Ｌ方向側、図１６２３（ａ）左側）に配設される。

【１７９３１】

本実施形態では、開口Ｄ６１４８の上流側側縁は、一対の変位部材Ｄ１８０の基部における対向空間と鉛直方向において重ならない位置（下流側となる位置）に配設される。即ち、一対の変位部材Ｄ１８０のうちの第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図１６２３（ａ）左側）に位置する変位部材Ｄ１８０の基部（上流側に位置する変位部材Ｄ１８０と対向する対向面）よりも所定距離（本実施形態では球の直径と略同等）だけ第６通路ＤＲｔ６における下流側に位置する。

【１７９３２】

これにより、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）し、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が即座に開口Ｄ６１４８を介して第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されることを回避し、転動部材Ｄ１７０を球が転動する形態を形成できる。よって、球の重量（重さ）を転動部材Ｄ１７０に作用させ、一対の変位部材Ｄ１８０を開放位置へ変位（回転）させることができると共に、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が達するか否かを遊技者に着目させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９３３】

また、本体部Ｄ１４１には、開口Ｄ６１４８の上流側側縁に対して、第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ｂ）右側）となる位置に突部Ｄ１４１ｇが突設される。よって、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）し、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が転動部材Ｄ１７０をその長手方向に沿って転動する際には、突部Ｄ１４１ｇの作用（当接）により球の転動を遅延させ（速度を低下させ）、転動部材Ｄ１７０を転動する球を遊技者に把握させやすくできると共に、突部Ｄ１４１ｇの作用（当接）により球を開口Ｄ６１４８と反対側（本体部Ｄ１３１側）へ移動させ、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が達することを遊技者に期待させることができる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９３４】

開口Ｄ６１４８の第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図１６２３（ａ）左側）に位置する側縁（以下「下流側側縁」と称す）は、正面視において、転動部材Ｄ１

７０の第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図１６２３（ａ）左側）の縁部（軸Ｄ１７１）よりも上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ａ）右側）に配設される。

【１７９３５】

本実施形態では、開口Ｄ６１４８の下流側側縁は、開口Ｄ１３１ｄと正面視において重ならない位置（上流側となる位置）に配設される。即ち、開口Ｄ１３１ｄの第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ａ）右側）の側縁よりも所定距離（本実施形態では球の直径と略同等）だけ第６通路ＤＲｔ６における上流側に位置する。

【１７９３６】

これにより、第６通路ＤＲｔ６の終端に球が達したにも関わらず、その球が開口Ｄ６１４８を介して第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されることを回避できる。よって、開口Ｄ６１４８の下流側側縁を球が通過すれば、第８通路ＤＲｔ８へ球を確実に流入（入球）させられるとの安心感を遊技者に感じさせるとができる。これにより、球の行方を遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９３７】

但し、開口Ｄ６１４８の下流側側縁を、開口Ｄ１３１ｄと正面視において重なる位置（開口Ｄ１３１ｄの下流側側縁と重なる位置または下流側となる位置）に配設しても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６の終端に球が達した後も、かかる球の流入（入球）先が第８通路ＤＲｔ８又は第９通路ＤＲｔ９のいずれとなるのかを未確定とできる。これにより、球の行方を遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９３８】

また、上述したように、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは千鳥状に配置され、開口Ｄ６１４８の上流側側縁よりも第６通路ＤＲｔ６における上流側には、突部Ｄ１３１ｆが本体部Ｄ１３１から突設される。よって、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が転動部材Ｄ１７０を転動する際には、突部Ｄ１３１ｆの作用（当接）により球を開口Ｄ６１４８側（本体部Ｄ１４１側）へ移動（転動方向を変化）させることができる。即ち、突部Ｄ１３１ｆの作用を受けた球が、開口６１４８の上流側側縁よりも第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図１６２３（ａ）及び図１６２３（ｂ）右側）に位置する本体部Ｄ１４１に衝突（当接）し、開口Ｄ６１４８から離間する側へ球を跳ね返されるのか、或いは、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されるのかを遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９３９】

更に、開口Ｄ６１４８の上流側側縁および下流側側縁の間には、正面視において重なる位置に、本体部Ｄ１３１の複数の突部Ｄ１３１ｆが配設される（図１６２３（ａ）参照）。これにより、転動部材Ｄ１７０を転動する球に突部Ｄ１３１ｆを作用（当接）させ、球の転動方向に変化（開口Ｄ６１４８側へ向く転動方向の成分）を付与することができる。これにより、突部Ｄ１３１ｆとの当接により、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ球が流入（入球）される可能性を形成して、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９４０】

ここで、パチンコ機１０は、鉛直方向に対して、１～２度程度、傾斜させた姿勢（所謂「寝かせ」が付与された姿勢、即ち、パチンコ機１０の底面に対して上面を背面側（矢印Ｂ方向側）に位置させた姿勢）で設置される。この場合、本実施形態では、開口Ｄ６１４８は、第６通路ＤＲｔ６を区画する壁部のうちの正面側（パチンコ機１０の正面側、矢印Ｆ方向側）に位置する壁部（本体部Ｄ１４１）に開口形成される。

【１７９４１】

よって、転動部材Ｄ１７０をその長手方向に沿って球が転動する際には、パチンコ機１０の「寝かせ」の分、本体部Ｄ１３１側を通過させやすくでき、その結果、球に突部Ｄ１３１ｆを作用させやすくできる。一方で、転動部材Ｄ１７０の転動面（上面）は、パチンコ機１０の「寝かせ」の分、本体部Ｄ１３１側から開口Ｄ６１４８側へ向けて上昇傾斜されるため、突部Ｄ１３１ｆの作用を受けて開口Ｄ６１４８へ向けて移動された球を、転動面（上面）の下降傾斜によって、本体部Ｄ１３１側へ移動させることができる。

【１７９４２】
これにより、球に突部Ｄ１３１ｆが比較的強く作用（当接）された場合には、球が、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）される一方、球に突部Ｄ１３１ｆが比較的弱く作用（当接）された場合には、開口Ｄ６１４８側へ向かった球を、転動面（上面）の下降傾斜によって、本体部Ｄ１３１側へ戻すことができる。よって、突部Ｄ１３１ｆの球への作用の態様（当接する際の球の速度や球の進入角度など）に応じて、球の転動態様に変化を付与でき、遊技の興趣を高めることができる。
【１７９４３】
また、このように、パチンコ機１０の「寝かせ」を利用することで、下側フレームＤ６０８６ｂの各部材を互いに直交する関係で構成できる。即ち、本体部Ｄ１３１と本体部Ｄ１４１とを平行に配置し、それら本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１に対して、転動部材Ｄ１７０の転動面（上面）を直交させる（即ち、軸Ｄ１７１を本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１に直交した姿勢で軸支させる）構成とできる。よって、これら各部材の一部の部材のみを他の部材に対して傾斜させた姿勢としたり、傾斜した姿勢で軸Ｄ１７１を軸支させたりする必要がなく、その分、構造の簡素化をして、各部品の成型性や組み立て性の向上を図ることができる。その結果、製品コストの低減を図ることができる。
【１７９４４】
次いで、図１６２４を参照して、第７４実施形態について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７９４５】
図１６２４（ａ）から図１６２４（ｃ）は、第７４実施形態における下側フレームＤ７０８６ｂの部分拡大背面図であり、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）と第２位置との間で変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）される際の遷移状態が図示される。
【１７９４６】
なお、図１６２４（ａ）から図１６２４（ｃ）では、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。また、図１６１９（ａ）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態に（図１６１２参照）、図１６２４（ｃ）は、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態に（図１６１４参照）、それぞれ対応する。図１６２４（ｂ）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置（又は第２位置から初期位置（第１位置））へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置（又は開放位置から閉鎖位置）へ向けて変位（回転）される際の変位途中の状態（図１６１３参照）に対応する。
【１７９４７】
図１６２４（ａ）から図１６２４（ｃ）に示すように、第７４実施形態における伝達部材Ｄ７１９０は、本体部Ｄ１９４の外縁に配設され、その本体部Ｄ１９４の外縁から軸Ｄ１９１の軸方向と直交する方向へ延設される表示部Ｄ７１９７を備える。詳細には、表示部Ｄ７１９７は、軸Ｄ１９１と反対側の端部となる本体部Ｄ１９４の長手方向端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて延設される。
【１７９４８】
ここで、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）と、中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）とは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における位置（高さ位置）が略同一とされる。
【１７９４９】
図１６２４（ａ）に示すように、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図１６１２参照）では、伝達部材Ｄ７１９０の変位（回転）に伴い、本体部Ｄ１９４の長手方向端部（軸Ｄ１９１と反対側の端部）が最も上方（矢印Ｕ方向側）に配置される。これにより、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも上方に表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一

部）が突出（配置）され、その突出した部分が遊技者から視認可能とされる。
【１７９５０】
一方、図１６２４（ｃ）に示すように、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（図１６１４参照）では、伝達部材Ｄ７１９０の変位（回転）に伴い、本体部Ｄ１９４の長手方向端部（軸Ｄ１９１と反対側の端部）が最も下方（矢印Ｄ方向側）に配置される。これにより、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも下方に表示部Ｄ７１９７の全体が没入（配置）される（表示部Ｄ７１９７の全体が側壁部Ｄ１３２の背面側に配置される）。よって、表示部Ｄ７１９７を遊技者が直接視認することが不能とされる。なお、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０を通して表示部Ｄ７１９７を透視することは可能とされる。
【１７９５１】
このように、背面部材Ｄ１３０（側壁部Ｄ１３２）の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）から表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一部）が突出する突出量（突出寸法）は、図１６２４（ａ）に示すように、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図１６１２参照）において最大とされる。図１６２４（ｂ）に示すように、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位されるに従って、上述した突出量（遊技者から視認可能な部分の大きさ）が徐々に減少され、変位部材Ｄ１８０が開放に配置された状態（図１６１４参照）において最小（非突出とされ遊技者から視認不能）とされる。
【１７９５２】
よって、遊技者は、背面部材Ｄ１３０（側壁部Ｄ１３２）の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも上方に表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一部）が突出しているか否かを視認することで、変位部材Ｄ１８０の変位状態（開放位置または閉鎖位置のいずれにあるか）を把握することができる。更に、その突出量（突出寸法）を視認することで、変位部材Ｄ１８０の変位状態（開放位置から閉鎖位置までの間のいずれの位置にあるか）を把握することができる。
【１７９５３】
次いで、図１６２５から図１６２７を参照して、第７５実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂについて説明する。
【１７９５４】
第７３実施形態では、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に関わらず、転動部材Ｄ１７０側への突部Ｄ１３１ｆの突設量（突設寸法）が一定とされる場合を説明したが、第７５実施形態の突部Ｄ１３１ｆは、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に応じて、転動部材Ｄ８１７０側への突設量（突設寸法）が変化（増減）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１７９５５】
ここで、第７５実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂは、突部Ｄ１３１ｆが第２突部Ｄ１３１ｆａを備える点、及び、転動部材Ｄ８１７０の錘部Ｄ８１７４の重量が異なる点を除き、他の構成（例えば、形状や配設数）は第７３実施形態のＤ６０８６ｂの構成とされる。よって、第２突部Ｄ１３１ｆａ及び転動部材Ｄ６０８７を除く他の構成についての説明は省略する。
【１７９５６】
図１６２５（ａ）及び図１６２５（ｂ）は、第７５実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６０８のＭＤＣＸＩＩａ－ＭＤＣＸＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１６２５（ａ）では、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図１６１２参照）が、図１６２５（ｂ）では、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（図１６１４参照）が、それぞれ図示される。
【１７９５７】
図１６２６（ａ）は、図１６２５（ａ）のＭＤＣＸＸＶＩａ－ＭＤＣＸＸＶＩａ線にお

ける下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６２６（ｂ）は、図１６２５（ｂ）のＭＤＣＸＸＶＩｂ－ＭＤＣＸＸＶＩｂ線における下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図である。図１６２７は、下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６１２のＭＤＣＸＶｃ－ＭＤＣＸＶｃ線における断面に対応する。

【１７９５８】

図１６２５から図１６２７に示すように、背面部材Ｄ８１３０に配設される複数（本実施形態では５本）の突部Ｄ１３１ｆには、所定（本実施形態では２本）の突部Ｄ１３１ｆから転動部材Ｄ８１７０へ向けて第２突部Ｄ１３１ｆａが突設される。なお、本実施形態では、第２突部Ｄ１３１ｆａが突設される（所定の）突部Ｄ１３１ｆは、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重なる３本の突部Ｄ１３１ｆのうちの下流側（矢印Ｌ方向側）に位置する２本の突部Ｄ１３１ｆとされる。

【１７９５９】

転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２には、背面部材Ｄ８１３０と対向する側の側面（縁部）に、上面視において突部Ｄ１３１ｆの突設方向（突部Ｄ１３１ｆを受け入れる方向）へ凹設される凹部が形成される（図１６２７参照）。凹部は、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向に沿って所定間隔（本実施形態では略等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では４箇所）に配設される。即ち、凹部は、突部Ｄ１３１ｆに対向する位置にそれぞれ形成（凹設）される。

【１７９６０】

なお、本実施形態では、凹部の上面視形状は、円弧状に湾曲した形状とされる。但し、矩形形状であっても良い。即ち、転動部材Ｄ８１７０が変位（回転）される際に、第２突部Ｄ１３１ｆａと干渉しない大きさであれば、その形状は限定されない。

【１７９６１】

第２突部Ｄ１３１ｆａは、突部Ｄ１３１ｆの正面（矢印Ｆ方向側の面）から上述した転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の凹部へ向けて突設され、その第２突部Ｄ１３１ｆａの突設先端側（一部）が、上面視において（図１６２７参照）、上述した転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の凹部に受け入れられる（凹部の内部空間に位置される）。即ち、上面視において、転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）の一部が第２突部Ｄ１３１ｆａにより形成される。

【１７９６２】

なお、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、第２突部Ｄ１３１ｆａの断面形状を略矩形状としても良い。また、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設方向は、突部Ｄ１３１ｆの突設方向と同方向とされる。但し、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設方向を、突部Ｄ１３１ｆの突設方向と異なる方向（傾斜する方向）としても良い。

【１７９６３】

第２突部Ｄ１３１ｆａの高さ位置（矢印Ｕ－Ｄ方向位置）は、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面（矢印Ｕ方向側の面）が、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）と略同一または若干低い位置となり（図１６２６（ａ）参照）、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面（矢印Ｕ方向側の面）が、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置となる（図１６２６（ｂ）参照）ように設定される。

【１７９６４】

即ち、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの側面（第６通路ＤＲｔ６の上流側を向く面、図１６２５（ａ）及び図１６２５（ｂ）右側の面）が本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも低い位置（矢印Ｄ方向側）に配置され、第６通路ＤＲｔ６を通過する（本体部Ｄ１７２の上面を転動する）球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接させない（作用させない）ようにできる。

【１７９６５】

一方、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ向けて所定量だけ変位（回転）された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの側面（第６通路ＤＲｔ６の上流側を向く面、図１６２５（ａ）及び図１６２５（ｂ）右側の面）の少なくとも一部が本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置（矢印Ｕ方向側）に配置され、第６通路ＤＲｔ６を通過する（本体部Ｄ１７２の上面を転動する）球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接させる（作用させる）ことができる。

【１７９６６】

なお、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置（矢印Ｕ方向側）に配置される第２突部Ｄ１３１ｆａの側面の面積が最大とされる。よって、この場合には、転動面をバウンドしながら球が転動（第６通路ＤＲｔ６を移動）する場合であっても、かかる球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接（作用）させやすくできる。

【１７９６７】

第２突部Ｄ１３１ｆａは、転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）を挟んで、開口Ｄ６１４８と反対側に形成される。即ち、第２突部Ｄ１３１ｆａは、開口Ｄ６１４８へ向けて突設される。本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球が、第２突部Ｄ１３１ｆａから作用を受けると（第２突部Ｄ１３１ｆａに当接されると）、その作用（当接）の反動で開口Ｄ６１４８（第９通路ＤＲｔ９）へ転動され、かかる開口Ｄ６１４８（第９通路ＤＲｔ９）へ流入（入球）され易くなる。即ち、球が第６通路ＤＲｔ６の終端に到達し難くなる。

【１７９６８】

転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ１７２上を球が転動していない状態）では、上述したように、転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ８１７４側に位置（偏心）され、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に維持（又は復帰）される。一方、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２上を球が転動し、その球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ１７２側（軸Ｄ１７１を挟んで錘部Ｄ８１７４と反対側）に位置（偏心）される状態では、本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（第２位置に配置される）。

【１７９６９】

この場合、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰ（図１６２５参照）に１球の球が位置する状態（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する状態）において、その球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１上に位置するように、錘部Ｄ８１７４の重量が設定される。

【１７９７０】

即ち、球が非転動とされる静的な状態を仮定すると、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰよりも上流側（軸Ｄ１７１と反対側）に１球の球が位置する（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は第２位置へ向かう方向へ変位（回転）され、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰ上に１球の球が位置する（球の重量が作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は軸Ｄ１７１を中心として釣り合い（即ち、転動部材Ｄ８１７０を変位（回転）させる力が非形成とされ）、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰよりも下流側（軸Ｄ１７１側）に１球の球が位置する（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は第１位置へ向かう方向へ変位（回転）される。

【１７９７１】

このように構成される転動部材Ｄ８１７０によれば、第３通路ＤＲｔ３から１球の球が初期位置（第１位置）にある転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）に流下されると、その球の重量（及び落下の勢い）により、本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位され、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される。

【１７９７２】

かかる球が本体部Ｄ１７２の上面を下流側（位置ＤＰ）へ向かって転動されると、球を

含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１へ徐々に近接されることで、本体部Ｄ１７２が上方（矢印Ｕ方向）へ徐々に変位（回転）され、転動部材Ｄ８１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）される。

【１７９７３】

本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が位置ＤＰに達すると、それまでの転動部材Ｄ８１７０の変位（回転）に伴う慣性力の影響により、転動部材Ｄ８１７０の第１位置へ向かう方向への変位（回転）が継続され、球が位置ＤＰを越えると、球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が錘部Ｄ８１７４側に偏心されることで、転動部材Ｄ８１７０の第１位置へ向かう方向への変位（回転）が加速される。

【１７９７４】

本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が、位置ＤＰを越えた後、上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａに達する前に、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される。即ち、１球の球のみが第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）された場合には、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球に第２突部Ｄ１３１ｆａは作用（当接）されない。

【１７９７５】

但し、球の第３通路ＤＲｔ３からの流下位置や流下方向、流下途中での変位部材Ｄ１８０との衝突などの要素に起因して、下流側へ向かる球の速度（転動速度）が平均的な速度よりも速い場合には、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される前に、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が上流側（又は下流側）の第２突部Ｄ１３１ｆａに到達して、球が第２突部Ｄ１３１ｆａから作用を受けることもある。即ち、１球のみの球が転動する場合であっても、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与できる場合を形成でき、上述した要素の影響を遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１７９７６】

なお、本実施形態では、上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａと位置ＤＰとの間の距離は、球の直径の略２倍に設定される。但し、かかる距離は、任意に設定可能である。１球の球のみが転動される場合には、上述した距離を短くすることで、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与しやすくできる一方、上述した距離を長くすることで、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与し難くできる。

【１７９７７】

ここで、本実施形態では、本体部Ｄ１７２上に２球の球が位置する状態（２球の球の重量が作用する状態）では、それら２球の球のそれぞれの位置に関わらず（例えば、２球とも位置ＤＰよりも下流側（軸Ｄ１７１と位置ＤＰとの間）に位置していたとしても）、それらの球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に偏心するように、錘部Ｄ８１７４の重量が設定される。

【１７９７８】

よって、例えば、１球の球のみが本体部Ｄ１７２上を転動し、その球の転動位置が位置ＤＰを越えたことで、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態（即ち、球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）されず、第６通路ＤＲｔ６の終端への球の到達が期待される状態）であっても、他の球が第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）される（転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面に２球の球が位置する状態とされる）と、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置され（又は、少なくとも第２位置へ向けて変位（回転）され）、球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）可能な状態（第９通路ＤＲｔ９へ球が流入（入球）され易い状態）を形成できる。

【１７９７９】

このように、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）した球（転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）を転動する球）が１球のみであれば、球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）し難くして、第６通路ＤＲｔ６の終端に球を到達させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞させることができる）一方、第１の球が転動されている状態で、更に第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ流下（入球）されると、第１の球に第２突部Ｄ１３１ｆａを

作用（当接）させ、第６通路ＤＲｔ６の終端に第１の球を到達させ難くすることができる。

【１７９８０】

即ち、第６通路ＤＲｔ６の終端に達した球は、第８通路ＤＲｔ８を介して、第１入賞口６４（図１６０３参照）に入賞されるため、遊技者は、転動部材Ｄ８１７０上に球が存在しない状態では、第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）を期待する。一方で、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）した後は、その第１の球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）しないように、逆に、次の球（第２の球）が第６通路ＤＲｔ６に更に流入（入球）しないことを期待する。このように、常に第６通路ＤＲｔ６への流入（入球）を期待させるのではなく、第６通路ＤＲｔ６への球の入球数に応じて期待する状況を変化させて、遊技の興趣を向上できる。

【１７９８１】

特に、本実施形態では、上述したように、第１の球が位置ＤＰへ近づくに従い、転動部材Ｄ８１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が開放位置から閉鎖位置へ徐々に変位（回転）される。第１の球が位置ＤＰを越えると、転動部材Ｄ８１７０が第１位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される。

【１７９８２】

即ち、第１の球が第２突部Ｄ１３１ｆａに近づくに従い、変位部材Ｄ１８０を徐々に閉鎖位置へ向けて変位（回転）させ、第２の球が第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）し難くできる。よって、第１の球が第６通路ＤＲｔ６の終端に達することの遊技者の期待度を高めることができる。

【１７９８３】

次いで、図１６２８から図１６４０を参照して、第７６実施形態におけるセンターフレームＥ８６について説明する。

【１７９８４】

図１６２８は、第７６実施形態における遊技盤Ｅ１３の正面図である。図１６２８に示すように、センターフレームＥ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＥ８６ａと下側フレームＥ８６ｂとを備える。

【１７９８５】

上側フレームＥ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１５１７参照）における上側（図１６２８上側）及び左右（図１６２８左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＥ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６２８下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＥ８６ａ及び下側フレームＥ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。

【１７９８６】

なお、上側フレームＥ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６２８下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＥ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【１７９８７】

次いで、図１６２９から図１６３０を参照して下側フレームＥ８６ｂについて説明する。図１６２９は、下側フレームＥ８６ｂの正面斜視図であり、図１６３０は、下側フレームＥ８６ｂの背面斜視図である。なお、図１６２９及び図１６３０では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＥ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。また、図１６３１から図１６４９についても同様である。

【１７９８８】

図１６２９及び図１６３０に示すように、下側フレームＥ８６ｂには、球を受け入れ可

能な開口として形成される一対の受入口ＥＯＰｉｎと、その一対の受入口ＥＯＰｉｎに連通される一対の第１通路ＥＲｔ１と、その一対の第１通路ＥＲｔ１を案内された球が流下される一対の第２通路ＥＲｔ２と、その一対の第２通路ＥＲｔ２を案内された球が流下される一対の第３通路ＥＲｔ３と、その一対の第３通路ＥＲｔ３に案内された球が後述する振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１により振り分けられて流下される第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５及び第６通路ＥＲｔ６と、第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６を案内された球が第４通路ＥＲｔ４へ案内される第７通路ＥＲｔ７と、第４通路ＥＲｔ４を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＥＯＰｏｕｔとが形成される。

【１７９８９】

なお、一対の受入口ＥＯＰｉｎ、第１通路ＥＲｔ１、第２通路ＥＲｔ２及び第３通路ＥＲｔ３は、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）にそれぞれ形成される。

【１７９９０】

また、上側フレームＥ８６ａには、一対の上側フレーム通路ＥＲｔ０が配設される（図１６２８参照）。上側フレーム通路ＥＲｔ０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＥＲｔ０の下流端に下側フレームＥ８６ｂの受入口ＥＯＰｉｎが連通される。

【１７９９１】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＥＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＥＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＥＲｔ０から下側フレームＥ８６ｂの第１通路ＥＲｔ１へ流入（入球）される。

【１７９９２】

下側フレームＥ８６ｂには、駆動モータＥ１９１により動作する振分通路Ｅ１５０が配設されており、球は、振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１に当接することによりその流下方向が変更（変化）され、第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６のいずれかに振り分けられる。

【１７９９３】

ここで、第４通路ＥＲｔ４の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＥＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１６２８参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１７９９４】

また、第７通路ＥＲｔ７へ振り分けられた球は、第４通路ＥＲｔ４へ案内されるため、第１入賞口６４へ入賞し易い。

【１７９９５】

また、第６通路ＥＲｔ６には、その第６通路ＥＲｔ６を案内される球を第７通路ＥＲｔ７へ案内するために背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第７通路ＥＲｔ７の正面側（矢印Ｆ方向側）に第１流出面Ｅ１４１ａが形成（配置）される。そのため、第６通路ＥＲｔ６の第１流出面Ｅ１４１ａに案内される球は、第１入賞口６４へ入賞し易い。

【１７９９６】

一方、第５通路ＥＲｔ５は、第６通路ＥＲｔ６側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、第５通路ＥＲｔ５と第７通路ＥＲｔ７との境界の背面側（矢印Ｂ方向側）には一対の立て壁部Ｅ１３５ｃがそれぞれ配設される。従って、第５通路ＥＲｔ５へ振り分けられた球は、第７通路ＥＲｔ７よりも第６通路ＥＲｔ６へ案内され易い。

【１７９９７】

第６通路ＥＲｔ６には、第１流出面Ｅ１４１ａに対して遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第２流出面Ｅ１４１ｂが形成（配置）される。

【１７９９８】
なお、第６通路ＥＲｔ６には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｅ１４１ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｅ１４１ａが形成される。従って、第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、第１流出面Ｅ１４１ａから第７通路ＥＲｔ７へ送球されるよりも第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出され易い。
【１７９９９】
即ち、第３通路ＥＲｔ３から第５通路ＥＲｔ５もしくは第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。
【１８０００】
このように、本実施形態における下側フレームＥ８６ｂは、球が振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１に当接することにより第４通路ＥＲｔ４から第６通路ＥＲｔ６のいずれかに振り分けられた場合に、第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球は第１入賞口６４（図１６２８参照）への入賞が容易となる（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）一方、第３通路ＥＲｔ３から第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、第７通路ＥＲｔ７（および第７通路ＥＲｔ７の下流に形成される第４通路ＥＲｔ４）を移動して第１入賞口６４へ入賞することが困難となる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、第３通路ＥＲｔ３を案内される球が第４通路ＥＲｔ４に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８００１】
次いで、図１６２９から図１６３０に加え、図１６３１から図１６３６を参照して、下側フレームＥ８６ｂの詳細構成について説明する。
【１８００２】
図１６３１は、下側フレームＥ８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６３２は、下側フレームＥ８６ｂの分解背面斜視図である。図１６３３は、下側フレームＥ８６ｂの上面図であり、図１６３４は、下側フレームＥ８６ｂの正面図であり、図１６３５は、下側フレームＥ８６ｂの背面図である。図１６３６（ａ）は、図１６３４の矢印ＭＤＣＸＸＸＶＩａ方向視における下側フレームＥ８６ｂの側面図であり、図１６３６（ｂ）は、図１６３４の矢印ＭＤＣＸＸＸＶＩｂ方向視における下側フレームＥ８６ｂの側面図であり、図１６３６（ｃ）は、図１６３４のＭＤＣＸＸＸＶＩｃ－ＭＤＣＸＸＸＶＩｃ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図である。
【１８００３】
図１６２９から図１６３６に示すように、下側フレームＥ８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ１８０と、そのカバー部材Ｅ１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ１９０と、を備える。
【１８００４】
駆動手段Ｅ１９０は、カバー部材Ｅ１８０に往復動可能に配設される。また、振分通路Ｅ１５０が駆動手段Ｅ１９０に係合されることで、振分通路Ｅ１５０は、ベース部材Ｅ１３０に往復動可能に配設される。
【１８００５】
中央通路Ｅ１６０、流路調整ブロックＥ１７０及びカバー部材Ｅ１８０は、タッピングネジによりベース部材Ｅ１３０にそれぞれ締結固定され、誘導部材Ｅ１２０及びベース部材Ｅ１３０は、タッピングネジにより正面部材Ｅ１１０にそれぞれ締結固定される。

【１８００６】
介設部材Ｅ１４０は、正面部材Ｅ１１０とベース部材Ｅ１３０とに挟持される。これらにより、下側フレームＥ８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１６２９参照）。
【１８００７】
また、下側フレームＥ８６ｂは、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＥＲｔ１から第７通路ＥＲｔ７を移動する球を遊技者に視認させると共に、振分通路Ｅ１５０の往復動を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８００８】
なお、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。
【１８００９】
また、一方で、下側フレームＥ８６ｂは、駆動手段Ｅ１９０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、駆動手段Ｅ１９０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。
【１８０１０】
正面部材Ｅ１１０は、正面を形成する板状の正面板Ｅ１１１と、その正面板Ｅ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｅ１１２とを備える。
【１８０１１】
正面板Ｅ１１１は、その長手方向両端に鉛直方向に延設される一対の鉛直部と、それら鉛直部どうしを連結し、長手方向両端から中央へ向けて鉛直方向下方に傾斜される傾斜部とから形成される。
【１８０１２】
正面板Ｅ１１１には、その正面板Ｅ１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｅ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＥ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｅ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【１８０１３】
正面板Ｅ１１１には、受入口ＥＯＰｉｎが開口形成（板厚方向に穿設）される。受入口ＥＯＰｉｎは、上述したように、上側フレーム通路ＥＲｔ０に流入（入球）した球を受け入れる開口である（図１６２８参照）。
【１８０１４】
正面板Ｅ１１１には、第１入賞口６４（図１６２８参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＥＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＥＯＰｏｕｔは、正面視円状であり、球の外形よりもやや大きく形成される。流出口ＥＯＰｏｕｔは、上述したように、第４通路ＥＲｔ４を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。
【１８０１５】
正面板Ｅ１１１には、上述したように、第１流出面Ｅ１４１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に張出し部Ｅ１１１ｂが突設される。また、第２流出面Ｅ１４１ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に正面視において第２流出面Ｅ１４１ｂと略同一の形状の切欠き部Ｅ１１１ｃが形成される。切欠き部Ｅ１１１ｃを通過することで、第６通路ＥＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される。
【１８０１６】
正面板Ｅ１１１の背面には、傾斜部の長手方向外側に一対の規制部Ｅ１１１ｄが突設される。正面部材Ｅ１１０とベース部材Ｅ１３０との間には介設部材Ｅ１４０が挟持されて

おり、規制部Ｅ１１１ｄが介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１の上面に当接することで、介設部材Ｅ１４０がベース部材Ｅ１３０から上方（矢印Ｕ方向）へ脱離することを抑制できる。これにより、正面部材Ｅ１１０若しくはベース部材Ｅ１３０に対して介設部材Ｅ１４０をタッピングネジにより締結固定することを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８０１７】

底面部Ｅ１１２は、正面板Ｅ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。

【１８０１８】

誘導部材Ｅ１２０は、正面部材Ｅ１１０と共に第１通路ＥＲｔ１を形成するためのものであり、一対の側面部Ｅ１２１と、一対の側面部Ｅ１２１を連結する背面部Ｅ１２２と、を備える。

【１８０１９】

一対の側面部Ｅ１２１は、側面視縦長略矩形の板状体に形成される。一対の側面部Ｅ１２１は、短手方向一端側の面（矢印Ｆ方向側の面）が正面板Ｅ１１１（正面部材Ｅ１１０）の背面（矢印Ｂ方向側の面）に当接した状態で、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に球の直径よりも大きな間隔を隔てて対向配置される。

【１８０２０】

背面部Ｅ１２２は、一対の側面部Ｅ１２１の短手方向他端どうし及び上端どうしを連結すると共に、側面部Ｅ１２１の短手方向一端から他端へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。

【１８０２１】

誘導部材Ｅ１２０及び正面板Ｅ１１１（正面部材Ｅ１１０）によって球が移動（流下、落下）可能に区画された空間により、第１通路ＥＲｔ１が形成される。また、第１通路ＥＲｔ１の下方（矢印Ｄ方向）は開放される。これにより、受入口ＥＯＰｉｎを通過して第１通路ＥＲｔ１に流入した球の流下方向を下方に変更（変化）して第２通路ＥＲｔ２に案内できる。

【１８０２２】

ベース部材Ｅ１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える。ベース部材Ｅ１３０については、図１６２９から図１６３６に加え、図１６３７から図１６４０を参照して詳細構成について説明する。

【１８０２３】

湾曲部Ｅ１３１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１６３６（ｃ）参照）。

【１８０２４】

湾曲部Ｅ１３１には、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置に流出面Ｅ１３１ａが凹設される。流出面Ｅ１３１ａは、湾曲部Ｅ１３１を案内される球を振分通路Ｅ１５０へ流出させるための部位であり、振分通路Ｅ１５０へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。

【１８０２５】

壁板Ｅ１３２には、切欠き部Ｅ１３２ａが振分通路Ｅ１５０側（一対の壁板Ｅ１３２の対向する側）に切欠き形成される。この切欠き部Ｅ１３２ａを通過することで湾曲部Ｅ１

３１から振分通路Ｅ１５０へ球が流下可能とされる。また、切欠き部Ｅ１３２ａは、球の直径よりも大きく形成される（本実施形態では球の直径の約５倍の大きさ）。切欠き部Ｅ１３２ａの大きさが大きいほど、前後方向において任意の位置から球を振分通路Ｅ１５０へ流下できる。

【１８０２６】

湾曲部Ｅ１３１と壁板Ｅ１３２とに区画された空間により第２通路ＥＲｔ２が形成される。なお、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）は、誘導部材Ｅ１２０（第１通路ＥＲｔ１）よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設され、第１通路ＥＲｔ１との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、第１通路ＥＲｔ１から第２通路ＥＲｔ２へ球が自由落下される。

【１８０２７】

また、誘導部材Ｅ１２０（第１通路ＥＲｔ１）は、湾曲部Ｅ１３１の正面側（矢印Ｆ方向側）における鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。従って、第１通路ＥＲｔ１から第２通路ＥＲｔ２の正面側の端部へ球を送球できる。

【１８０２８】

これにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）の正面側の端部へ流下された球は、湾曲部Ｅ１３１の円弧状に湾曲した形状に沿って前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動できる。これにより、前後方向への速度成分を有した状態で湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ球を送球できる。

【１８０２９】

第１斜面部Ｅ１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂと、溝部Ｅ１３３ｃとが形成される。

【１８０３０】

挿通孔Ｅ１３３ａは、第１斜面部Ｅ１３３の略中央に開口形成（板厚方向に穿設）され、後述する振分通路Ｅ１５０の被係合部Ｅ１５３が挿通可能に形成される（図１６３１、図１６３８（ｂ）参照）。

【１８０３１】

規制部Ｅ１３３ｂは、第１斜面部Ｅ１３３の下面において挿通孔Ｅ１３３ａの正面側の縁から立設され、その下面は第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面に対し平行に形成される（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）。

【１８０３２】

溝部Ｅ１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１３３の前後方向略中央において傾斜方向に沿って形成される溝であり、挿通孔Ｅ１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に一対形成される。溝部Ｅ１３３ｃには、後述する振分通路Ｅ１５０の被ガイド部Ｅ１５２が傾斜方向に摺動可能に配設される（図１６３１、図１６３８（ａ）、図１６４０（ａ）参照）。溝部Ｅ１３３ｃの周囲には、溝部Ｅ１３３ｃの破損を抑制するためのガイド壁が立設される。

【１８０３３】

第１斜面部Ｅ１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ２０２とが配設される。

【１８０３４】

円柱体Ｅ２０１は、第１斜面部Ｅ１３３における振分通路Ｅ１５０の変位を容易とするためのものであり、円柱状に形成され、また、その軸を中心として軸孔が形成される。軸孔に回転軸が挿通され、その回転軸が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った状態で第１斜面部Ｅ１３３に配設される。これにより、円柱体Ｅ２０１は、第１斜面部Ｅ１３３に回転可能に配設される。円柱体Ｅ２０１が軸周りに回転することにより、円柱体Ｅ２０１の外周面に当接する振分通路Ｅ１５０は容易に変位できる。

【１８０３５】
カバーＥ２０２は、円柱体Ｅ２０１を第１斜面部Ｅ１３３に保持するためのものであり、第１斜面部Ｅ１３３の外形よりやや小さい板状に形成される。カバーＥ２０２は、第１斜面部Ｅ１３３の挿通孔Ｅ１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ１３３ａよりも大きな孔が穿設され、一対の溝部Ｅ１３３ｃに対応する位置に溝部Ｅ１３３ｃの外形と略同一の溝が形成される。また、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【１８０３６】
カバーＥ２０２は、その上面が第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面と平行な状態で第１斜面部Ｅ１３３の上面に配設される。
【１８０３７】
カバーＥ２０２の円柱体Ｅ２０１に対応する位置に穿設される孔よりも長い回転軸が円柱体Ｅ２０１に挿通され、円柱体Ｅ２０１及び回転軸を第１斜面部Ｅ１３３に配設し、タッピングネジにより第１斜面部Ｅ１３３とカバーＥ２０２とが締結固定されることで、カバーＥ２０２は、回転軸および回転軸が挿通された円柱体Ｅ２０１を第１斜面部Ｅ１３３に保持できる。
【１８０３８】
なお、円柱体Ｅ２０１は、カバーＥ２０２に形成される孔を通して、その側面（外周面）の一部がカバーＥ２０２の上面から突出して配設され、これにより、円柱体Ｅ２０１と振分通路Ｅ１５０とが当接可能となる。
【１８０３９】
取付け部Ｅ１３４は、第１斜面部Ｅ１３３の傾斜方向下降側の端部より鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）において略水平に形成される。また、取付け部Ｅ１３４の前端は、第１斜面部Ｅ１３３の前端より背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【１８０４０】
取付け部Ｅ１３４及び第１斜面部Ｅ１３３と第２斜面部Ｅ１３５とを連結して湾曲部Ｅ１３４ａが配設され、湾曲部Ｅ１３４ａは、背面板Ｅ１３７側へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。
【１８０４１】
第２斜面部Ｅ１３５は、第５通路ＥＲｔ５（の一部）を形成するための部位であり、取付け部Ｅ１３４よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）において背面板Ｅ１３７から正面部材Ｅ１１０へ向けて下降傾斜して形成される。第２斜面部Ｅ１３５には、挿通孔Ｅ１３５ａと、中央通路Ｅ１３５ｂと、一対の立て壁部Ｅ１３５ｃと、仕切り部Ｅ１３５ｄと、送球壁Ｅ１３５ｅとが形成される。
【１８０４２】
第２斜面部Ｅ１３５と取付け部Ｅ１３４と湾曲部Ｅ１３４ａと背面板Ｅ１３７とに区画された空間に第５通路ＥＲｔ５が形成される。
【１８０４３】
挿通孔Ｅ１３５ａは、第２斜面部Ｅ１３５の略中央に球の外形よりも大きく開口形成（板厚方向に穿設）される。挿通孔Ｅ１３５ａの外周には、後述する中央通路Ｅ１６０の円筒壁Ｅ１６３の下端を挿入するための凹部が挿通孔Ｅ１３５ａの外縁に沿って凹設される。
【１８０４４】
中央通路Ｅ１３５ｂは、第７通路ＥＲｔ７を形成するための部位であり、鉛直方向下方へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、その湾曲形状は球の外形よりも大きく形成される。これにより、中央通路Ｅ１３５ｂに球が送球されると、中央通路Ｅ１３５ｂから第２斜面部Ｅ１３５の傾斜面へ球が送球（流出）されることを抑制できる。
【１８０４５】
中央通路Ｅ１３５ｂは、第２斜面部Ｅ１３５の正面側（矢印Ｆ方向側）の縁と挿通孔Ｅ１３５ａとを連結し、第２斜面部Ｅ１３５の正面側の縁から挿通孔Ｅ１３５ａへ向けて下

降傾斜して形成される。これにより中央通路Ｅ１３５ｂに案内された球を挿通孔Ｅ１３５ａへ向けて送球できる。即ち、中央通路Ｅ１３５ｂの円弧状に湾曲した空間により第７通路ＥＲｔ７が形成される。

【１８０４６】

なお、中央通路Ｅ１３５ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第１流出面Ｅ１４１ａと重なる位置に配設される。これにより、第１流出面Ｅ１４１ａから送球される球を中央通路Ｅ１３５ｂへ案内できる。

【１８０４７】

一対の立て壁部Ｅ１３５ｃは、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）とを区切るための部位であり、中央通路Ｅ１３５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端の背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設される。一対の立て壁部Ｅ１３５ｃの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、中央通路Ｅ１３５ｂの長さよりも短く形成され、中央通路Ｅ１３５ｂの挿通孔Ｅ１３５ａ側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【１８０４８】

これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が一対の立て壁部Ｅ１３５ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）において第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界を横切ることで、球は、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される。一方、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が一対の立て壁部Ｅ１３５ｃに当接することで、（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界を横切ることが抑制され、球は、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下し第６通路ＥＲｔ６へ案内される。このように、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ球が送球され難くすることにより、遊技の興趣を高めることができる。

【１８０４９】

仕切り部Ｅ１３５ｄは、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設され、挿通孔Ｅ１３５ａの外縁と背面板Ｅ１３７とを連結して形成される。これにより、一方の振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から流下された球が、第２斜面部Ｅ１３５の他方の振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）側へ案内されることを抑制できる。

【１８０５０】

送球壁Ｅ１３５ｅは、第２斜面部Ｅ１３５の下面から立設して形成される（図１６３８（ａ）参照）。送球壁Ｅ１３５ｅは、挿通孔Ｅ１３５ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の縁に沿った円弧部と、その円弧部の両端から正面側（矢印Ｆ方向側）に延設される直線部とから、下面視略Ｕ字状に形成される。これにより、送球壁Ｅ１３５ｅで囲まれた空間を球が送球可能に形成され、挿通孔Ｅ１３５ａを通過した球を後述するカバー部材Ｅ１８０の背面側通路Ｅ１８１ｂへ送球できる。

【１８０５１】

張出し部Ｅ１３６は、湾曲部Ｅ１３１側から第２斜面部Ｅ１３５側へ向けて下降傾斜して形成され、張出し部Ｅ１３６には、ガイド部Ｅ１３６ａが形成される。

【１８０５２】

ガイド部Ｅ１３６ａは、ベース部材Ｅ１３０への介設部材Ｅ１４０の組み付けを容易とするための部位であり、張出し部Ｅ１３６の対向する側（左右方向内側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設される。一対のガイド部Ｅ１３６ａの対向間に後述する介設部材Ｅ１４０の下側通路Ｅ１４３が配設される。

【１８０５３】

背面板Ｅ１３７は、正面視横長略矩形の板状から形成される。背面板Ｅ１３７は、一対の第１斜面部Ｅ１３３、一対の取付け部Ｅ１３４及び第２斜面部Ｅ１３５の背面側の端部に当接して配設され、背面板Ｅ１３７の上端は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）及び第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球よりも上方（矢印Ｕ方向）に位置する。これにより、背面板Ｅ１３７は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）又は

第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が背面板Ｅ１３７の背面側（矢印Ｂ方向側）に案内されることを抑制できる。

【１８０５４】

介設部材Ｅ１４０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設される転動部Ｅ１４１と、その転動部Ｅ１４１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突設される板状の当接部Ｅ１４２と、その当接部Ｅ１４２の背面から立設される下側通路Ｅ１４３と、を備える。

【１８０５５】

転動部Ｅ１４１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、延設方向中央に向けて下降傾斜して形成される。

【１８０５６】

転動部Ｅ１４１の上面は、正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）からベース部材Ｅ１３０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、上述したように、転動部Ｅ１４１の上面には、背面側（矢印Ｂ方向）へ向けて下降傾斜して形成される第１流出面Ｅ１４１ａと、正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される第２流出面Ｅ１４１ｂとが形成される。

【１８０５７】

また、転動部Ｅ１４１には、起伏が形成され、その頂部が中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）の正面に配置される。起伏の底部に第２流出面Ｅ１４１ｂが配置される一方、起伏の頂部に第１流出面Ｅ１４１ａが配置される。従って、第１流出面Ｅ１４１ａは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）の正面に配置される。

【１８０５８】

なお、第１流出面Ｅ１４１ａは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配置され、これにより、第１流出面Ｅ１４１ａを流下する球を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内できる。

【１８０５９】

転動部Ｅ１４１の上面の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端には切欠き部Ｅ１４１ｃが形成され、その切欠き部Ｅ１４１ｃには、正面部材Ｅ１１０の突設部Ｅ１１１ｅが当接される。また、介設部材Ｅ１４０は、張出し部Ｅ１３６の上面に当接して配設される。これにより、介設部材Ｅ１４０は、ベース部材Ｅ１３０（正面部材Ｅ１１０）に固定される。その結果、介設部材Ｅ１４０（転動部Ｅ１４１の上面）とベース部材Ｅ１３０と正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１の背面）とに区画された空間により第６通路ＥＲｔ６が形成される。

【１８０６０】

当接部Ｅ１４２には、流出口ＥＯＰｏｕｔの背面となる位置に通路口Ｅ１４２ａが開口形成（板厚方向に穿設）される。通路口Ｅ１４２ａは、正面視略矩形であり、球の外形よりもやや大きく形成される。

【１８０６１】

下側通路Ｅ１４３は、通路口Ｅ１４２ａの外縁からカバー部材Ｅ１８０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突設され、その下側通路Ｅ１４３により区画された空間により第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。

【１８０６２】

下側通路Ｅ１４３は、カバー部材Ｅ１８０側から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、下側通路Ｅ１４３の側面および下面は上面よりカバー部材Ｅ１８０側に突出して形成される。即ち、下側通路Ｅ１４３は、カバー部材Ｅ１８０側の上面が開放される。

【１８０６３】

また、下側通路Ｅ１４３の下面には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｅ１４３ａが凹設される（図１６３７（ａ）参照）。凹溝Ｅ１４３ａは、下側通路Ｅ１４３の下面の突出方向に沿って略直線状に延設される。

【１８０６４】
凹溝Ｅ１４３ａの溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｅ１４３ａの溝深さ（下側通路Ｅ１４３の下面に垂直方向の寸法）は、凹溝Ｅ１４３ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【１８０６５】
これにより、下側通路Ｅ１４３の下面上の球を２箇所（下側通路Ｅ１４３の下面と凹溝Ｅ１４３ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｅ１４３ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球を安定した状態で案内できる。詳しく説明すると、凹溝Ｅ１４３ａにより球が挟み込まれた態様となることで、幅方向に変位することを抑制された状態で幅方向中央を流下できる。
【１８０６６】
その結果、寸法公差や組立公差に起因して流出口ＥＯＰｏｕｔと通路口Ｅ１４２ａとの中心位置がずれ、通路口Ｅ１４２ａの正面に正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１）が一部配設された場合（通路口Ｅ１４２ａの外縁の一部が正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１）に塞がれた状態）においても、下側通路Ｅ１４３（第４通路ＥＲｔ４）を流下した球は、流出口ＥＯＰｏｕｔを通過して遊技領域へ流出される。
【１８０６７】
上述したように、下側通路Ｅ１４３は、張出し部Ｅ１３６の一対のガイド部Ｅ１３６ａの対向間に配設される。これにより、下側フレームＥ８６ｂの組立ての際、一対のガイド部Ｅ１３６ａに下側通路Ｅ１４３を当接させることで、ベース部材Ｅ１３０への下側通路Ｅ１４３（介設部材Ｅ１４０）の配設を容易に行える。
【１８０６８】
振分通路Ｅ１５０は、その上面を球が移動（流下、転動）するためのものであり、第１斜面部Ｅ１３３（カバーＥ２０２）の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。従って、第１斜面部Ｅ１３３と同様、振分通路Ｅ１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して配設される。振分通路Ｅ１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ１５２の間に立設される被係合部Ｅ１５３と、を備える。振分通路Ｅ１５０については、図１６２９から図１６３６に加え、図１６３７から図１６４０を参照して詳細構成について説明する。
【１８０６９】
突起部Ｅ１５１は、球の移動（流下）方向を変化させるための部位であり、振分通路Ｅ１５０の上面に規則的に、それら突起部Ｅ１５１どうしの間を球が移動（流下、転動）可能な間隔を備えて複数配設される。突起部Ｅ１５１の形状は、振分通路Ｅ１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成される。その略六角形状は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に平行に配設される２辺が他の４辺よりも長い、言い換えると、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）よりも振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に沿った方向に長く形成される。また、長く形成される２辺を除いた他の４辺は同一長さに形成される。また、突起部Ｅ１５１の側面は、振分通路Ｅ１５０に対し傾斜（本実施形態においては振分通路Ｅ１５０の上面に対して略４５度傾斜）して形成され、突起部Ｅ１５１は、六角錐の頭頂点側の一部が切り取られた態様に形成される。言い換えると、振分通路Ｅ１５０に平行な平面での断面積が、振分通路Ｅ１５０の上面から離れるに従い小さく形成される。
【１８０７０】
突起部Ｅ１５１は、長い辺同士を平行にして前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔（本実施形態においては振分通路Ｅ１５０の上面における対向間距離が球の直径の略４分の１）を隔てて形成される。また、前後方向に列をなして配設される一の組の突起部Ｅ１５１郡に対しその傾斜方向下降側に配設される一組の突起部Ｅ１５１郡は、突起部Ｅ１５１の前後方向における配設間距離の半分だけ前後方向にずれて配設される。即ち、前後方向において、傾斜方向下降側に配設される一組の突起部Ｅ１５１郡は、一の組の突起部Ｅ１５１郡の対向間にそれぞれ配設される。これにより、前後方向における一対の突起部Ｅ

１５１の長い辺の間を流下した球を、傾斜方向下降側に配設される突起部Ｅ１５１に当接させることができる。

【１８０７１】

また、突起部Ｅ１５１の短い辺どうしの対向間隔は、突起部Ｅ１５１の長い辺同士の対向間隔と同一に形成される。これにより、一の突起部Ｅ１５１は、その周囲に配設される突起部Ｅ１５１から同一の距離だけ隔てた態様で振分通路Ｅ１５０に配設される。振分通路Ｅ１５０の上面および突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａに区画された空間により、第３通路ＥＲｔ３が形成される。

【１８０７２】

なお、本実施形態における突起部Ｅ１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１とされる。また、突設先端における突起部Ｅ１５１どうしの対向間隔は球の直径よりも小さく形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球は、隣り合う突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａどうしに当接した状態で振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）できる。即ち、突起部Ｅ１５１は、球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制できる。

【１８０７３】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球は、突起部Ｅ１５１に当接することで球の流下方向が変更（変化）され、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）もしくは背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に形成される突起部Ｅ１５１の対向間に案内される。このように、突起部Ｅ１５１は、傾斜方向に沿って流下した球の流下方向を変更（変化）できる。

【１８０７４】

また、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う突起部Ｅ１５１の長い辺どうしの間を移動（流下、転動）することで、球は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に沿って湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０へ移動（流下、転動）できる。

【１８０７５】

また、振分通路Ｅ１５０を流下する球は、突起部Ｅ１５１に当接することで、その流下速度が減少される。これにより、振分通路Ｅ１５０が突起部Ｅ１５１を備えない場合と比較して、振分通路Ｅ１５０を流下する球の流下時間を長くできる。

【１８０７６】

また、突起部Ｅ１５１は、振分通路Ｅ１５０の上面から突設して形成されるため、遊技者に視認し易くできる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させ易くできる。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面を移動（流下、転動）する球は比較的移動速度が低く、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面の移動（流下、転動）に比較的時間を要するところ、突起部Ｅ１５１との当接により球の移動（流下、転動）に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化（変更）される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【１８０７７】

このように、本実施形態では、突起部Ｅ１５１により振分通路Ｅ１５０を流下する球の流下方向の変更（変化）と流下時間の延長（変化）とを行うことができ、遊技の興趣を高めることができる。また、流下方向の変更（変化）と流下時間の延長（変化）とを一つの部位（突起部Ｅ１５１）が行うことで、部品点数を削減して製品コストの削減を図ることができる。

【１８０７８】

なお、振分通路Ｅ１５０は傾斜して配設されるため、球の流下速度が減少した場合においても、球の自重により流下速度が増加されることで、第３通路ＥＲｔ３を流下できる。

【１８０７９】

振分通路Ｅ１５０の前後の縁に接して配設される突起部Ｅ１５１は、略六角形状の一部のみ形成される、言い換えると、突起部Ｅ１５１の形状が振分通路Ｅ１５０の前後の縁で

切り取られた態様に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０により多くの第３通路ＥＲｔ３を形成でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８０８０】

被ガイド部Ｅ１５２は、振分通路Ｅ１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の略中央に被係合部Ｅ１５３を挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に一対配設される（図１６３８（ａ）、図１６４０（ａ）参照）。被ガイド部Ｅ１５２の前後方向の寸法は、ベース部材Ｅ１３０の溝部Ｅ１３３ｃの溝幅と同等またはやや小さく形成される。被ガイド部Ｅ１５２が溝部Ｅ１３３ｃに挿入されることで、振分通路Ｅ１５０のベース部材Ｅ１３０に対する前後方向への変位が規制される。

【１８０８１】

上述したように、溝部Ｅ１３３ｃの周囲にはガイド壁が立設されるため、被ガイド部Ｅ１５２が溝部Ｅ１３３ｃのガイド壁に当接することで、溝部Ｅ１３３ｃが破損することを抑制できる。

【１８０８２】

被係合部Ｅ１５３には、その背面が正面側（矢印Ｆ方向側）へ凹設される係合凹部Ｅ１５３ａと、被係合部Ｅ１５３の下端に正面に向けて突設される規制片Ｅ１５３ｂとが形成される（図１６３８（ｂ）参照）。

【１８０８３】

係合凹部Ｅ１５３ａは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設して形成される。規制片Ｅ１５３ｂは、第１斜面部Ｅ１３３（振分通路Ｅ１５０）の傾斜面に対し平行であり、第１斜面部Ｅ１３３の規制部Ｅ１３３ｂの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０が傾斜方向に変位する場合、規制片Ｅ１５３ｂと規制部Ｅ１３３ｂとが当接することを抑制できる。一方、規制片Ｅ１５３ｂと規制部Ｅ１３３ｂとが当接することで、振分通路Ｅ１５０が上方（矢印Ｕ方向）に変位することを抑制できる。

【１８０８４】

振分通路Ｅ１５０は、カバーＥ２０２の上面から突出する円柱体Ｅ２０１の側面と当接した状態で、第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面と平行に配設される。円柱体Ｅ２０１がその軸を回転軸として回転することで、振分通路Ｅ１５０の変位を容易に行うことができる。

【１８０８５】

また、振分通路Ｅ１５０は、少なくとも一部が湾曲部Ｅ１３１の下方に配設される、即ち、振分通路Ｅ１５０が湾曲部Ｅ１３１の下方から取付け部Ｅ１３４側へ抜けきらない位置に配設され、振分通路Ｅ１５０と湾曲部Ｅ１３１との間の距離は、球の半径よりも小さく配設される（図１６３８（ａ）、図１６４０（ａ）参照）。これにより、振分通路Ｅ１５０に送球された球が、湾曲部Ｅ１３１の下方からベース部材Ｅ１３０の長手方向両端から流出することを抑制できる。また、湾曲部Ｅ１３１と振分通路Ｅ１５０とで球が挟持されることを抑制できる。

【１８０８６】

振分通路Ｅ１５０は、その傾斜面に垂直な方向視において傾斜方向に長い略矩形の板状体に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０の長手方向一端側（下降傾斜側）に配設される第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）若しくは中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）よりも短手方向である正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ球を送球し易くできる。

【１８０８７】

また、振分通路Ｅ１５０の短手方向となる前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、少なくとも球の直径の２倍よりも大きい寸法、本実施形態においては球の直径の略４．５倍の寸法に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側に複数（本実施形態では２箇所）の球の移動（流下、落下）領域を形成できる。この結果、振分通路Ｅ１５０を流下した球が複数形成される通路（第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５及び第６通路ＥＲｔ６）の内、第１入賞口６４に球が入賞する確率の高い第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられることを期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８０８８】
　また、下側フレームＥ８６ｂに不正を行っても、その不正を働き難くできる。詳細に説明すると、第４通路ＥＲｔ４よりも第１入賞口６４に球が入賞する確率の低い第５通路ＥＲｔ５又は第６通路ＥＲｔ６の一方に第４通路ＥＲｔ４へ球が流下する不正を行っても、第５通路ＥＲｔ５又は第６通路ＥＲｔ６の他方を球が移動（流下、落下）することで、その不正を働き難くできる。
【１８０８９】
　振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側は、その正面側の一部に切欠き部Ｅ１５０ａが形成される。切欠き部Ｅ１５０ａを通過することで、振分通路Ｅ１５０を流下（落下）した球を流路調整ブロックＥ１７０に当接し易くできる。
【１８０９０】
　中央通路Ｅ１６０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設される架設通路Ｅ１６１と、その架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央に開口形成（板厚方向に穿設）される上方孔Ｅ１６２と、架設通路Ｅ１６１の下面から上方孔Ｅ１６２に沿って立設される円筒壁Ｅ１６３と、架設通路Ｅ１６１の左右方向両端に配設される据付部Ｅ１６４と、を備える。
【１８０９１】
　架設通路Ｅ１６１の幅寸法（架設通路Ｅ１６１の延設方向および鉛直方向に垂直な方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）は、球の直径よりも大きく形成される。
【１８０９２】
　架設通路Ｅ１６１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球を架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央（架設通路Ｅ１６１の鉛直方向の最下方）に形成される上方孔Ｅ１６２へ案内できる。
【１８０９３】
　架設通路Ｅ１６１には、その後端側（矢印Ｂ方向側）の縁から鉛直方向上方（矢印Ｆ方向）へ向けて立設される背面壁Ｅ１６１ａが形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球が、その背面側から落下することを抑制できる。
【１８０９４】
　架設通路Ｅ１６１は、その延設方向に直交する平面での断面形状が鉛直方向下方へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球が、その正面側から流下（落下）することを抑制できる。
【１８０９５】
　上方孔Ｅ１６２は、上面視円状であり、第２斜面部Ｅ１３５に形成される挿通孔Ｅ１３５ａと略同一の大きさに、即ち、球の外形よりも大きく形成される。上方孔Ｅ１６２の周囲には上方へ向けて突設される突起部Ｅ１６２ａが形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１を流下する球が上方孔Ｅ１６２に案内され難くできる。
【１８０９６】
　円筒壁Ｅ１６３は、上方孔Ｅ１６２と略同一の内径を有する円筒状に形成され、その下端が、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａの外周に凹設される凹部に挿入した状態で第２斜面部Ｅ１３５に配設される。これにより、円筒壁Ｅ１６３の下端と第２斜面部Ｅ１３５の上面との間に隙間が形成されることを抑制できる。また、第２斜面部Ｅ１３５に対し中央通路Ｅ１６０の位置決めを行うことができる。
【１８０９７】
　左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において中央通路Ｅ１３５ｂに対応する位置には、円筒壁Ｅ１６３に切欠き部Ｅ１６３ａが切欠き形成され、その切欠きは球の直径よりも大きく形成される。
【１８０９８】
　架設通路Ｅ１６１の円弧状に湾曲した空間および円筒壁Ｅ１６３により囲まれた空間に

より第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。
【１８０９９】
据付部Ｅ１６４は、上面視縦長略矩形であり、中央通路Ｅ１６０がベース部材Ｅ１３０（取付け部Ｅ１３４）に固定（配設）された状態では、据付部Ｅ１６４の上面は、第１斜面部Ｅ１３３に配設されるカバーＥ２０２の上面と面一に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が変位されても、振分通路Ｅ１５０と中央通路Ｅ１６０（据付部Ｅ１６４）とが当接することを抑制できる。
【１８１００】
流路調整ブロックＥ１７０は、球の流下方向を変更（変化）させるためのものであり、略三角錐状に形成される。流路調整ブロックＥ１７０には、ベース部材Ｅ１３０の正面と平行な正面壁Ｅ１７１と、湾曲部Ｅ１３４ａに対向する外壁Ｅ１７２と、中央通路Ｅ１３５ｂに対向する内壁Ｅ１７３とが形成される。一対の流路調整ブロックＥ１７０は、中央通路Ｅ１３５ｂの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側にそれぞれ配設される。
【１８１０１】
流路調整ブロックＥ１７０は、上面視、第２斜面部Ｅ１３５の傾斜方向下降側（矢印Ｆ方向側）へ向かうに従いその幅が大きくなる三角形状に形成され、正面壁Ｅ１７１とベース部材Ｅ１３０の正面とが面一に形成された状態で第２斜面部Ｅ１３５に配設される。これにより、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）を流下する球が流路調整ブロックＥ１７０に当接することを抑制できる。
【１８１０２】
外壁Ｅ１７２は、湾曲部Ｅ１３４ａへ向けて凸状に湾曲して形成され、内壁Ｅ１７３は、中央通路Ｅ１３５ｂから流路調整ブロックＥ１７０の中心へ向けて凹状に湾曲して形成される。外壁Ｅ１７２と湾曲部Ｅ１３４ａとの間、内壁Ｅ１７３と中央通路Ｅ１３５ｂとの間は、球の外形よりも大きくそれぞれ配設され、これにより、外壁Ｅ１７２と湾曲部Ｅ１３４ａとの間、内壁Ｅ１７３と中央通路Ｅ１３５ｂとの間を球がそれぞれ流下できる。
【１８１０３】
カバー部材Ｅ１８０は、ベース部材Ｅ１３０の下方（矢印Ｄ方向）に配設される正面側カバー部材Ｅ１８１と、その正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される背面側カバー部材Ｅ１８２と、を備える。
【１８１０４】
なお、カバー部材Ｅ１８０及び後述する駆動手段Ｅ１９０においては、図１６２９から図１６３６に加え、図１６３８を適宜参照して説明する。
【１８１０５】
正面側カバー部材Ｅ１８１には、正面視横長略矩形に形成される本体部Ｅ１８１ａと、本体部Ｅ１８１ａの長手方向略中央に正面側カバー部材Ｅ１８１側（矢印Ｆ方向側）から背面側カバー部材Ｅ１８２側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凹設される背面側通路Ｅ１８１ｂと、本体部Ｅ１８１ａの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設されるモータ取付け面Ｅ１８１ｃと、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される第１上面板Ｅ１８１ｄと、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において第１上面板Ｅ１８１ｄから鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて平行に配設される第１下面板Ｅ１８１ｅと、第１下面板Ｅ１８１ｅの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて平行に立設される第２上面板Ｅ１８１ｆ及び第２下面板Ｅ１８１ｇと、第１下面板Ｅ１８１ｅ及び第２下面板Ｅ１８１ｇの上面に配設される複数の（本実施形態では５個）スライド突起Ｅ１８１ｈと、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における第１下面板Ｅ１８１ｅと第２下面板Ｅ１８１ｇとの間に配設される軸支部Ｅ１８１ｉとが形成される。
【１８１０６】
なお、モータ取付け面Ｅ１８１ｃ、第１上面板Ｅ１８１ｄ、第１下面板Ｅ１８１ｅ、第２上面板Ｅ１８１ｆ及び第２下面板Ｅ１８１ｇは、本体部Ｅ１８１ａの背面から立設される。

【１８１０７】
背面側通路Ｅ１８１ｂには、その下面から立設される送球板Ｅ１８１ｂ１と、送球板Ｅ１８１ｂ１に対して長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に立設される一対の支持板Ｅ１８１ｂ２とが形成される。
【１８１０８】
長手方向における送球板Ｅ１８１ｂ１は、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａの中心に対応する位置に配設され、送球板Ｅ１８１ｂ１の上面の背面側（矢印Ｂ方向側）には、背面側へ向けて上昇傾斜する送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３が形成される。これにより、中央通路Ｅ１６０の円筒壁Ｅ１６３内を案内された球は、送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３に当接し、その案内方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ変更（変化）される。
【１８１０９】
一対の支持板Ｅ１８１ｂ２は、送球板Ｅ１８１ｂ１上を流下する球を案内するための部位であり、送球壁Ｅ１３５ｅの直線部の鉛直方向下方にそれぞれ形成される。
【１８１１０】
背面側通路Ｅ１８１ｂの上面は、開口形成され、その開口を通して第２斜面部Ｅ１３５の送球壁Ｅ１３５ｅが背面側通路Ｅ１８１ｂに挿入され、第２斜面部Ｅ１３５の下面、送球板Ｅ１８１ｂ１、送球壁Ｅ１３５ｅ及び一対の支持板Ｅ１８１ｂ２に区画された空間により第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。
【１８１１１】
モータ取付け面Ｅ１８１ｃは、後述する駆動手段Ｅ１９０の取付け部材Ｅ１９２が配設（固定）される部位であり、モータ取付け面Ｅ１８１ｃには、長手方向略中央に中央切欠きＥ１８１ｃ１が形成され、その切欠き形状は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開口された上面視略Ｕ字状に形成される。
【１８１１２】
第１上面板Ｅ１８１ｄと第２上面板Ｅ１８１ｆとは平行して配設される。従って、第１下面板Ｅ１８１ｅと第２下面板Ｅ１８１ｇとも平行に配設される。第１上面板Ｅ１８１ｄと第１下面板Ｅ１８１ｅとにより区画された空間、第２上面板Ｅ１８１ｆと第２下面板Ｅ１８１ｇとにより区画された空間は、後述する駆動手段Ｅ１９０の第１伝達部材Ｅ１９４、第２伝達部材Ｅ１９５をそれぞれ配設するための空間である。
【１８１１３】
第１下面板Ｅ１８１ｅ及び第２下面板Ｅ１８１ｇの上面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に突起Ｅ１８１ｅ１がそれぞれ複数（本実施形態では第１下面板Ｅ１８１ｅは２箇所、第２下面板Ｅ１８１ｇは４箇所）形成される。突起Ｅ１８１ｅ１と第１伝達部材Ｅ１９４もしくは第２伝達部材Ｅ１９５とが当接することにより、第１下面板Ｅ１８１ｅと第１伝達部材Ｅ１９４との間、第２下面板Ｅ１８１ｇと第２伝達部材Ｅ１９５との間に発生する摩擦力を低減し、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５の変位を容易に行える（図１６３７（ｂ）参照）。
【１８１１４】
スライド突起Ｅ１８１ｈは、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５の変位をガイドするためのものであり、第１上面板Ｅ１８１ｄ、第１下面板Ｅ１８１ｅ、第２上面板Ｅ１８１ｆ及び第２下面板Ｅ１８１ｇに対して平行して配設される。
【１８１１５】
軸支部Ｅ１８１ｉは、本体部Ｅ１８１ａの背面（矢印Ｂ方向側の面）に軸受として形成され、背面側カバー部材Ｅ１８２の正面には、軸支部Ｅ１８１ｉに対面する位置に、軸支部Ｅ１８２ｄが形成される。後述する駆動手段Ｅ１９０のピニオンギヤＥ１９６は、その側面（前後方向の面、矢印Ｆ－Ｂ方向の面）から軸Ｅ１９７の端部がそれぞれ突出される。軸Ｅ１９７は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢に配設され、その軸Ｅ１９７の両端が、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと背面側カバー部材Ｅ１８２の軸支部Ｅ１８２ｄとにそれぞれ軸支される。これにより、正面側カバー部材Ｅ１８１と背面

側カバー部材Ｅ１８２との対向間にピニオンギヤＥ１９６が回動可能に配設される。
【１８１１６】
背面側カバー部材Ｅ１８２には、正面視横長略矩形に形成される本体部Ｅ１８２ａと、本体部Ｅ１８２ａの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）において本体部Ｅ１８２ａの正面から立設される第１上面板Ｅ１８２ｂと、本体部Ｅ１８２ａの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において本体部Ｅ１８２ａの正面から立設される第２上面板Ｅ１８２ｃと、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉに対面する位置において本体部Ｅ１８２ａの正面に配設される軸支部Ｅ１８２ｄと、を備える。
【１８１１７】
第１上面板Ｅ１８２ｂ、第２上面板Ｅ１８２ｃには、正面側（矢印Ｆ方向側）が開口された第１切欠きＥ１８２ｂ１、第２切欠きＥ１８２ｃ１がそれぞれ形成される。第１切欠きＥ１８２ｂ１、第２切欠きＥ１８２ｃ１には、後述する第１伝達部材Ｅ１９４の係合ベースＥ１９４ｂ、第２伝達部材Ｅ１９５の係合ベースＥ１９４ｂがそれぞれ挿通される。
【１８１１８】
軸支部Ｅ１８２ｄは、駆動手段Ｅ１９０の軸Ｅ１９７を軸支するためのものであり、本体部Ｅ１８２ａの正面（矢印Ｆ方向側の面）に軸受けとして形成され、上述したように、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと対面する位置に形成される。
【１８１１９】
即ち、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと背面側カバー部材Ｅ１８２の軸支部Ｅ１８２ｄとに駆動手段Ｅ１９０の軸Ｅ１９７が軸支され、その軸方向は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢とされる。
【１８１２０】
駆動手段Ｅ１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ１９４と、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される第２伝達部材Ｅ１９５と、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６と、ピニオンギヤＥ１９６の軸心を挿通する軸Ｅ１９７と、を備える。
【１８１２１】
駆動モータＥ１９１は、振分通路Ｅ１５０をその傾斜方向へ変位させるためのものであり、その軸を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けた状態で配設される。これにより、軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ向けて配設する場合と比較して、前後方向における配設スペースを小さくできる。
【１８１２２】
取付け部材Ｅ１９２は、駆動モータＥ１９１を正面側カバー部材Ｅ１８１に固定（配設）するためのものであり、取付け部材Ｅ１９２には、上面視略矩形の板状に形成されるベース部Ｅ１９２ａと、ベース部Ｅ１９２ａの外縁に沿って鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設される周壁部Ｅ１９２ｂとが形成される。
【１８１２３】
ベース部Ｅ１９２ａには、その略中央に駆動モータＥ１９１の軸を挿通するための挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に駆動モータＥ１９１の軸が挿通した状態で駆動モータＥ１９１が取付け部材Ｅ１９２に固定（配設）される。駆動モータＥ１９１の軸の上端は、周壁部Ｅ１９２ｂの上端よりも鉛直方向上方に配設される。
【１８１２４】
駆動力伝達部材Ｅ１９３は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第１伝達部材Ｅ１９４へ伝達するためのものであり、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１の内形よりも小さい円柱状に形成され、その軸心には駆動モータＥ１９１の軸が固着される。駆動力伝達部材Ｅ１９３には、軸心とは異なる位置に配設される偏心軸Ｅ１９３ａと、駆動力伝達部材Ｅ１９３の側壁から突設されるフランジ部Ｅ１９３ｂとが形成される。
【１８１２５】

偏心軸Ｅ１９３ａは、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される部位であり、駆動力伝達部材Ｅ１９３の直径よりも小さな円柱状に形成され、上面視、偏心軸Ｅ１９３ａの外縁は、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外縁に内接して配設される。従って、偏心軸Ｅ１９３ａの軸心は、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心とは異なる位置に配設される、即ち、駆動モータＥ１９１の軸に対し偏心して配設される。よって、駆動モータＥ１９１が駆動することで、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心（駆動モータＥ１９１の軸）を中心とした円状に変位する。

【１８１２６】

フランジ部Ｅ１９３ｂは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）への変位を規制するための部位であり、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において駆動モータＥ１９１側（矢印Ｄ方向側）の端部に配設される。フランジ部Ｅ１９３ｂの外形は、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１の内形よりも大きな円状に形成され、これにより、フランジ部Ｅ１９３ｂは、モータ取付け面Ｅ１８１ｃに当接できる。その結果、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１に挿通された駆動力伝達部材Ｅ１９３がモータ取付け面Ｅ１８１ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）へ脱離することを抑制できる。

【１８１２７】

第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ伝達するためのものである。

【１８１２８】

第１伝達部材Ｅ１９４には、上面視略矩形の板状に形成される本体部Ｅ１９４ａと、その本体部Ｅ１９４ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂから正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃと、本体部Ｅ１９４ａの他側（矢印Ｒ方向側）における側面から突設される第１ラック部Ｅ１９４ｄと、本体部Ｅ１９４ａの下面に凹設される伝達凹部Ｅ１９４ｅとが形成される。

【１８１２９】

本体部Ｅ１９４ａは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。本体部Ｅ１９４ａの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の大きさは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外形よりも大きく形成され、本体部Ｅ１９４ａの前端と後端との間、即ち、上面視、本体部Ｅ１９４ａと重なる位置に駆動力伝達部材Ｅ１９３が配設される。

【１８１３０】

係合部Ｅ１９４ｃは、正面視略円状であり、その外形は、係合凹部Ｅ１５３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の内壁の対向間距離と同等またはやや小さく形成される。これにより、係合部Ｅ１９４ｃを係合凹部Ｅ１５３ａに挿入できる。係合部Ｅ１９４ｃと係合凹部Ｅ１５３ａの左右方向の内壁とが当接することにより、駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ伝達できる。

【１８１３１】

また、係合凹部Ｅ１５３ａは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設されるため、係合部Ｅ１９４ｃは、係合凹部Ｅ１５３ａ内を鉛直方向に変位できる。即ち、鉛直方向における駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ非伝達とできる。

【１８１３２】

このように、係合部Ｅ１９４ｃは、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を振分通路Ｅ１５０へ伝達する一方、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を振分通路Ｅ１５０へ非伝達とすることで、振分通路Ｅ１５０は、ベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面に沿って変位できる。

【１８１３３】

第１ラック部Ｅ１９４ｄには、その下面にピニオンギヤＥ１９６と歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位によりピニオンギヤＥ１９６が回動される。

【１８１３４】

伝達凹部Ｅ１９４ｅは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設され、正面端から背面端ま

で形成される。また、伝達凹部Ｅ１９４ｅの凹溝の幅（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における内壁の対向間距離）は、偏心軸Ｅ１９３ａの外形と同等またはやや大きく形成される。偏心軸Ｅ１９３ａを伝達凹部Ｅ１９４ｅに挿入することで、駆動モータＥ１９１の駆動力が駆動力伝達部材Ｅ１９３を介して第１伝達部材Ｅ１９４に伝達される。

【１８１３５】

詳細に説明すると、駆動モータＥ１９１が駆動することで、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心（駆動モータＥ１９１の軸）を中心として円状に変位する。伝達凹部Ｅ１９４ｅの左右方向の内壁と偏心軸Ｅ１９３ａとが当接することにより、駆動モータＥ１９１の駆動による偏心軸Ｅ１９３ａの左右方向の変位が第１伝達部材Ｅ１９４に伝達され、第１伝達部材Ｅ１９４が左右方向に変位する。

【１８１３６】

一方、伝達凹部Ｅ１９４ｅは、本体部Ｅ１９４ａの正面端から背面端まで形成される、即ち、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外形よりも長く形成されるため、偏心軸Ｅ１９３ａと伝達凹部Ｅ１９４ｅの前後方向の内壁とは非当接とされる。従って、駆動モータＥ１９１の駆動による偏心軸Ｅ１９３ａの前後方向の変位は第１伝達部材Ｅ１９４に非伝達とされ、第１伝達部材Ｅ１９４が前後方向に変位することを抑制できる。

【１８１３７】

また、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視円状に変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を所定量に設定できる、即ち、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて左右方向へ変位することを抑制できる。また、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を往復動とすることができる。

【１８１３８】

第２伝達部材Ｅ１９５は、背面視横長略矩形の本体部Ｅ１９５ａと、その本体部Ｅ１９５ａの一側（矢印Ｌ方向側）における側面から突設される第２ラック部Ｅ１９５ｂと、本体部Ｅ１９５ａの長手方向略中央に配設されるガイド溝Ｅ１９５ｃと、本体部Ｅ１９５ａの他側（矢印Ｒ方向側）の上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃとが形成される。

【１８１３９】

第２ラック部Ｅ１９５ｂには、その上面にピニオンギヤＥ１９６と歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６の回動により、第２伝達部材Ｅ１９５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ変位される。

【１８１４０】

ガイド溝Ｅ１９５ｃは、長手方向（左右方向、矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設され、その内側に正面側カバー部材Ｅ１８１に形成され、正面側カバー部材Ｅ１８１と背面側カバー部材Ｅ１８２とを締結固定するための締結部が挿通される。正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部がガイド溝Ｅ１９５ｃに挿通されることで、第２伝達部材Ｅ１９５の左右方向への変位をガイドできる。また、正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部にはタッピングネジが螺合されるため、タッピングネジの剛性を利用して、正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部とガイド溝Ｅ１９５ｃとの当接による破損を抑制できる。

【１８１４１】

ピニオンギヤＥ１９６は、その軸方向が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設される。軸方向に穿設される挿通孔に軸Ｅ１９７が挿通され、軸Ｅ１９７が、正面側カバー部材Ｅ１８１及び背面側カバー部材Ｅ１８２に配設される軸支部Ｅ１８１ｉ，Ｅ１８２ｄに軸支されることで、ピニオンギヤＥ１９６は、カバー部材Ｅ１８０に回動可能に配設される。

【１８１４２】

次いで、図１６３７から図１６４０を参照して、駆動手段Ｅ１９０による振分通路Ｅ１５０の変位（往復）動作について説明する。図１６３７（ａ）及び図１６３９（ａ）は、正面部材Ｅ１１０の図示が省略された状態における下側フレームＥ８６ｂの正面図であり

、図１６３７（ｂ）及び図１６３９（ｂ）は、背面側カバー部材Ｅ１８２の図示が省略された状態における下側フレームＥ８６ｂの部分拡大背面図であり、図１６３７（ｃ）及び図１６３９（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの上面図である。

【１８１４３】

図１６３８（ａ）は、図１６３７（ｃ）のＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図１６３８（ｂ）は、図１６３８（ａ）のＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩｂ－ＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩｂ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図１６３８（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの部分拡大下面図である。図１６４０（ａ）は、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図１６４０（ｂ）は、図１６４０（ａ）のＭＤＣＸＬｂ－ＭＤＣＸＬｂ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図１６４０（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの部分拡大下面図である。

【１８１４４】

なお、図１６３７及び図１６３８では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図１６３９及び図１６４０では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【１８１４５】

図１６３７及び図１６３８に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、ベース部材Ｅ１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。

【１８１４６】

第１位置に配置された状態において、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上方には振分通路Ｅ１５０が配置される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ送球しやすくできる。

【１８１４７】

また、振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａは、上面視、流路調整ブロックＥ１７０の外壁Ｅ１７２に近づいた位置に配置される。よって、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を外壁Ｅ１７２に当接させ易くできる。これにより、球の送球方向を変更（変化）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１４８】

図１６３９及び図１６４０に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、ベース部材Ｅ１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において湾曲部Ｅ１３１側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５とは、第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。

【１８１４９】

第２位置に配置された状態において振分通路Ｅ１５０は、上面視その傾斜方向下降側の端部が、据付部Ｅ１６４の左右方向における略中央に配置される。よって、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を通過（流下、転動）した球は据付部Ｅ１６４の上面を転動できる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球されるまでの時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１５０】

振分通路Ｅ１５０と第１伝達部材Ｅ１９４、第２伝達部材Ｅ１９５とは、被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに係合部Ｅ１９４ｃが挿入されることで係合される。上述したように、係合凹部Ｅ１５３ａは、背面視鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設して形成されるため、係合凹部Ｅ１５３ａ内において、係合部Ｅ１９４ｃは鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向

）に変位できる。これにより、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位する場合においても、振分通路Ｅ１５０は、左右方向に変位すると共に、鉛直方向に変位できる。これにより、振分通路Ｅ１５０は、その傾斜方向（第１斜面部Ｅ１３３の傾斜方向）に沿って変位できる。即ち、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向と平行な方向（振分通路Ｅ１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部から中央通路Ｅ１６０側の端部へ向かう方向）に振分通路Ｅ１５０及びその上面に形成される突起部Ｅ１５１を変位（往復動）させることができる。その結果、球の移動（流下、転動）方向に変化（変更）を付与し易くできる。また、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様とできる。

【１８１５１】

また、上述したように、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球が、突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａどうしに当接した状態で振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）可能に配設されるため、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制できる。よって、球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制するために、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制できる。その結果、駆動手段Ｅ１９０を簡素化できる。

【１８１５２】

振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から湾曲部Ｅ１３１側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。

【１８１５３】

上述したように、偏心軸Ｅ１９３ａを第１伝達部材Ｅ１９４の伝達凹部Ｅ１９４ｅに挿入されるため、偏心軸Ｅ１９３ａの変位と同様、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【１８１５４】

また、第１伝達部材Ｅ１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ１９４ｄのラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６は、背面視時計回りに回動される。

【１８１５５】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６と歯合する第２ラック部Ｅ１９５ｂ、即ち、第２伝達部材Ｅ１９５は、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位し、第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【１８１５６】

このように、ピニオンギヤＥ１９６を介して第１伝達部材Ｅ１９４の変位が第２伝達部材Ｅ１９５へ伝達される。これにより、駆動モータＥ１９１の配設個数を抑制して、製品コストの削減を図ることができる。また、第１伝達部材Ｅ１９４の変位に連動して第２伝達部材Ｅ１９５が変位できる、即ち、第１伝達部材Ｅ１９４の変位と第２伝達部材Ｅ１９５の変位の同期を不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８１５７】

また、ピニオンギヤＥ１９６を介するため、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５との変位を逆方向（逆位相）とすることができる。即ち、ベース部材Ｅ１３０（第１斜面部Ｅ１３３）上において、一対の振分通路Ｅ１５０が変位（往復動）する際に発生する左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の振動を互いに打ち消すことができる。これにより、制振部材を不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８１５８】

振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位は、第１位置から第２位置への変位と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。なお、振分通路Ｅ１５０、第１伝達

部材Ｅ１９４の変位の方向、第２伝達部材Ｅ１９５の変位の方向、及び、ピニオンギヤＥ１９６の回動の方向以外は第１位置から第２位置への変位と同様であるため、その説明は省略する。

【１８１５９】

ここで、偏心軸Ｅ１９３ａの変位を同一方向に保つことで、振分通路Ｅ１５０を第１位置と第２位置との間で左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ往復動させることができる。詳細に説明すると、偏心軸Ｅ１９３ａの上面視円状の変位のうち、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ向かう変位では、振分通路Ｅ１５０を第１位置から第２位置へ変位させる。また、偏心軸Ｅ１９３ａの上面視円状の変位のうち、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側へ向かう変位では、振分通路Ｅ１５０を第２位置から第１位置へ変位させる。

【１８１６０】

このように、偏心軸Ｅ１９３ａを上面視円状に変位させることで、偏心軸Ｅ１９３ａの変位を同一方向に保った状態で振分通路Ｅ１５０を第１位置と第２位置との間で往復動させることができる。これにより、駆動モータＥ１９１の駆動方向を切り替えることを抑制できる。その結果、駆動モータＥ１９１を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８１６１】

また、偏心軸Ｅ１９３ａは上面視円状に変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて左右方向への変位することを抑制できる。例えば、駆動力伝達部材Ｅ１９３を介せず、駆動モータＥ１９１が第１伝達部材Ｅ１９４に係合される形態では、駆動モータＥ１９１の誤作動やセンサの制御不良等で、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて変位する虞がある。

【１８１６２】

これに対し、本実施形態では、偏心軸Ｅ１９３ａは上面視円状に変位することで第１伝達部材Ｅ１９４は所定の範囲内において左右方向へ変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４が他の部材（例えば、中央通路Ｅ１６０）に当接することを抑制できる。また、駆動モータＥ１９１の駆動方向の切り替え（駆動の停止や再駆動）による振動の発生を抑制でき、振分通路Ｅ１５０の往復動を滑らかにできる。

【１８１６３】

図１６２９から図１６３６に戻って、下側フレームＥ８６ｂを流下する球について説明する。

【１８１６４】

正面板Ｅ１１１に形成される受入口ＥＯＰｉｎを通過することで、球は、第１通路ＥＲｔ１へ案内され、次いで、球の自重により第１通路ＥＲｔ１を落下することで、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）へ案内される。

【１８１６５】

湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）へ案内された球は、その形状により、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動しつつ、壁板Ｅ１３２の切欠き部Ｅ１３２ａを通過することで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ案内される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ案内される球は、前後方向への速度成分を有した状態で切欠き部Ｅ１３２ａを通過できる。

【１８１６６】

また、切欠き部Ｅ１３２ａは、球の直径よりも大きく形成されるため、切欠き部Ｅ１３２ａの任意の位置から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ球を案内できる。

【１８１６７】

これらにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ流下される球を不規則にでき、従って、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１６８】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球は、上述したように、突起部Ｅ１５１に当接することによりその流下方向が変更（変化）される。ここで、球の流下方向が

、背面側（矢印Ｂ方向側）に変更（変化）され、ベース部材Ｅ１３０の背面板Ｅ１３７に当接すると共に背面板Ｅ１３７の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される突起部Ｅ１５１の側面Ｅ１５１ａに当接する、即ち、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１とに挟持されることで、球の流下が抑制される虞がある。

【１８１６９】

これに対し、本実施形態においては、駆動モータＥ１９１により振分通路Ｅ１５０が振分通路Ｅ１５０（第１斜面部Ｅ１３３）の傾斜方向に沿って往復動するため、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１とにより球が挟持されることを抑制できる。また、振分通路Ｅ１５０が変位（往復動）することで、球と突起部Ｅ１５１との当接を不規則にでき、振分通路Ｅ１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様化できる。これにより、振分通路Ｅ１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１７０】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球は、突起部Ｅ１５１に当接し、流下する球の速度が減少することで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。また、流下方向が変更（変化）されることで、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかの通路に案内される。

【１８１７１】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球が中央通路Ｅ１６０の架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に送球されると、架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央に形成される上方孔Ｅ１６２へ向けて案内される。架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）を流下する球が、上方孔Ｅ１６２の周囲に突設される突起部Ｅ１６２ａによりその案内方向が変更（変化）されることなく流下することで、上方孔Ｅ１６２を通過し、円筒壁Ｅ１６３（第４通路ＥＲｔ４）内を鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ流下（落下）する。

【１８１７２】

円筒壁Ｅ１６３内を流下（落下）した球は、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａを通過し、正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内され、送球板Ｅ１８１ｂ１の送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３に当接することで、その案内方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ変更（変化）され、送球板Ｅ１８１ｂ１の上面を流下する（図１６３６（ｃ）参照）。

【１８１７３】

送球板Ｅ１８１ｂ１の上面を流下した球は、そのまま介設部材Ｅ１４０の下側通路Ｅ１４３（第４通路ＥＲｔ４）を流下し、当接部Ｅ１４２の通路口Ｅ１４２ａを通過し、正面部材Ｅ１１０の流出口ＥＯＰｏｕｔから遊技領域へ流出される。

【１８１７４】

架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）を流下する球が、上方孔Ｅ１６２の周囲に突設される突起部Ｅ１６２ａによりその流下方向が変更（変化）される場合、架設通路Ｅ１６１の正面側（矢印Ｆ方向側）から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球される。

【１８１７５】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球が第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球されると、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ向けて案内される。

【１８１７６】

第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）上を介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ向けて流下される球が、第２斜面部Ｅ１３５に配設される流路調整ブロックＥ１７０に当接することで、その流下方向が変更（変化）される。流路調整ブロックＥ１７０の内壁Ｅ１７３に当接した球は、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される可能性

があり、これにより、遊技の興趣を高めることができる。
【１８１７７】
　第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）上を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ向けて流下される球のうち、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される一対の立て壁部Ｅ１３５ｃに当接することで、球が中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内されることが抑制される。
【１８１７８】
　中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内された球は、その傾斜方向により第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａ（矢印Ｂ方向）へ向けて流下し、挿通孔Ｅ１３５ａを通過して正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内される。
【１８１７９】
　ここで、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される球のうち、中央通路Ｅ１６０よりも背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に送球された球は、円筒壁Ｅ１６３に当接することで、挿通孔Ｅ１３５ａを通過することが抑制される。
【１８１８０】
　また、第２斜面部Ｅ１３５に形成される仕切り部Ｅ１３５ｄに当接することにより、球が振分通路Ｅ１５０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一側から他側もしくは他側から一側へ送球されることを抑制できる。これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される球が、取付け部Ｅ１３４の側面（左右方向に形成される面）に当接しその流下方向が変更（変化）されることで、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内されることを抑制できる。
【１８１８１】
　また、仕切り部Ｅ１３５ｄに当接することにより、球が円筒壁Ｅ１６３の背面側（矢印Ｂ方向側）を流下することを抑制できる。これにより、遊技者が第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球を見失うことを抑制できる。
【１８１８２】
　振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の前端（矢印Ｆ方向側の端部）、もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）から送球される球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）の転動部Ｅ１４１を、その延設方向中央へ向けて転動する。ここで、転動部Ｅ１４１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、延設方向中央に向けて下降傾斜して形成されるため、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ流下された球は、転動部Ｅ１４１の形状に沿って延設方向（左右方向）へ往復動し、第１流出面Ｅ１４１ａから中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される、もしくは第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出（流下）される。
【１８１８３】
　なお、流路調整ブロックＥ１７０は、正面視左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第２流出面Ｅ１４１ｂと重なる位置に配設される。これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が、そのまま第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出（流下）されることを抑制できる。従って、転動部Ｅ１４１を転動させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８１８４】
　上述したように、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に突起部Ｅ１５１を形成することで、球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）できる。言い換えると、球の移動（流下、転動）方向にランダム性を付与できる。即ち、球が振分通路Ｅ１５０を通過する（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）ことを阻害する又は補助する手段として、突起部Ｅ１５１を機能させることができる。
【１８１８５】
　同様に、駆動手段Ｅ１９０を備えることで球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）

でき、球が振分通路Ｅ１５０を通過する（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）ことを阻害する又は補助する手段として、駆動手段Ｅ１９０を機能させることができる。

【１８１８６】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）し、中央通路Ｅ１６０側の端部を通過した（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球は、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）のどちらかの通路に案内される。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下（流下方向側の端部を通過）した球が架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１８７】

ここで、振分通路Ｅ１５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部を通過した球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）、即ち、第１入賞口６４に球が入賞する確率の低い通路へ送球（案内）される。言い換えると、振分通路Ｅ１５０を長手方向に渡り切らなかった球は、第１入賞口６４に球が入賞する確率が低くなる。

【１８１８８】

これにより、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側（流下方向側）の端部を通過し（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）、第１入賞口６４に球が入賞する確率の高い架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球が送球（案内）されることを遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【１８１８９】

また、突起部Ｅ１５１に当接することで振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の流下速度を遅くでき、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１９０】

また、突起部Ｅ１６２ａにより、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に案内された球を第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球できる。

【１８１９１】

一方、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に形成される中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）により、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）に案内された球を第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）に送球できる。これにより、球が遊技領域に流出（流下）されるまで、球が背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８１９２】

次いで、図１６４１から図１６４２を参照して、第７７実施形態における下側フレームＥ２０８６ｂについて説明する。

【１８１９３】

上記第７６実施形態では、振分通路Ｅ１５０の上面に突起部Ｅ１５１が突設される場合を説明したが、第７７実施形態における振分通路Ｅ２１５０の上面は、円弧状に湾曲して形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８１９４】

図１６４１は、第７７実施形態における下側フレームＥ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６３７のＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１６４１（ａ）は、振分通路Ｅ２１５０と湾曲部Ｅ１３１とが当接した状態を示し、図１６４１（ｂ）は、図１６４１（ａ）に対し、コイルばねとして構成される弾性ばねＥ２１９０が縮んだ状態を示す。図１６４２（ａ）は、振分通路Ｅ２１５０

の正面斜視図であり、図１６４２（ｂ）は、図１６４２（ａ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｂ方向視における振分通路Ｅ２１５０の正面図であり、図１６４２（ｃ）は、図１６４２（ｂ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｃ方向視における振分通路Ｅ２１５０の下面図であり、図１６４２（ｄ）は、図１６４２（ｂ）の矢印ＭＤＣＸＬＩＩｄ方向視における振分通路Ｅ２１５０の側面図である。

【１８１９５】

図１６４１及び図１６４２に示すように、下側フレームＥ２０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ２１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ２１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ２１３０に配設される振分通路Ｅ２１５０、中央通路Ｅ１６０、一対の流路調整ブロックＥ１７０及び複数（本実施形態では２個）の弾性ばねＥ２１９０と、を備える（図１６２９参照）。

【１８１９６】

ベース部材Ｅ２１３０は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の平面部Ｅ２１３３と、中央通路Ｅ１６０側において一対の平面部Ｅ２１３３の上方（矢印Ｕ方向）に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ２１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図１６３１参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える。

【１８１９７】

平面部Ｅ２１３３は、上面視横長略矩形の板状体から形成され、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側に複数（本実施形態では２個）の支持部Ｅ２１３３ｂがそれぞれ形成される。

【１８１９８】

支持突起Ｅ２１３３ａは、円柱状に形成される。支持部Ｅ２１３３ｂは側面視略矩形の板状体であり、平面部Ｅ２１３３の上面から突設され、その突設方向先端側（矢印Ｕ方向側）には後述する支持軸Ｅ２０ｊを挿通するための挿通孔、即ち、支持軸Ｅ２０ｊの外形よりもやや大きな挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設される。複数の支持突起Ｅ２１３３ａ及び複数の支持部Ｅ２１３３ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔ててそれぞれ配設される。

【１８１９９】

振分通路Ｅ２１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜し、その傾斜面に垂直な方向視において横長略矩形に形成される。振分通路Ｅ２１５０の下面には、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１５０ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１５０ａよりも中央通路Ｅ１６０側に複数（本実施形態では２個）の支持部Ｅ２１５０ｂがそれぞれ形成される。

【１８２００】

支持突起Ｅ２１５０ａは、上面視、支持突起Ｅ２１３３ａに対応する位置にそれぞれ配設される。支持部Ｅ２１５０ｂは、支持部Ｅ２１３３ｂに対し、上面視前後方向に異ならせた位置にそれぞれ配設される。詳細には、一対の支持部Ｅ２１３３ｂの対向間に支持部Ｅ２１５０ｂがそれぞれ配設される。

【１８２０１】

支持部Ｅ２１５０ｂには、支持部Ｅ２１３３ｂに穿設される挿通孔と略同等の挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設される。

【１８２０２】

振分通路Ｅ２１５０の上面には、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から案内された

球が流下する転動面Ｅ２１５１が形成され、振分通路Ｅ２１５０の延設方向に垂直な平面での断面形状が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹となる円弧状に湾曲して形成される。この円弧状に湾曲した空間により第３通路ＥＲｔ２０３が形成される。

【１８２０３】

介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側、図１６２９参照）における転動面Ｅ２１５１の端部は、背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に形成される。従って、転動面Ｅ２１５１を流下する球は、背面板Ｅ１３７側における転動面Ｅ２１５１の端部を通過して背面板Ｅ１３７に当接するよりも、介設部材Ｅ１４０側における転動面Ｅ２１５１の端部を通過して介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球され易い（図１６２９参照）。

【１８２０４】

弾性ばねＥ２１９０は、上述したように、コイルばねとして構成され、その内径は、支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａの外径と同等またはやや大きく形成される。支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａを弾性ばねＥ２１９０の内側に挿通することで、支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａは、弾性ばねＥ２１９０を支持できる。

【１８２０５】

弾性ばねＥ２１９０が支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａにより支持された状態で支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔に支持軸Ｅ２０ｊを挿通することで、振分通路Ｅ２１５０を平面部Ｅ２１３３へ係合できる。

【１８２０６】

なお、支持軸Ｅ２０ｊは、平面部Ｅ２１３３に対し前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として振分通路Ｅ２１５０を回動可能に係合するためのものであり、支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔と同等またはやや小さな外径を有する棒状の円柱体として形成され、前後方向に沿った姿勢で支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔に挿通される。

【１８２０７】

これらにより、一対の振分通路Ｅ２１５０は、中央通路Ｅ１６０側が回動可能に係合された状態で、弾性ばねＥ２１９０により長手方向両端側が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（往復動）される。即ち、一対の振分通路Ｅ２１５０は、ベース部材Ｅ２１３０（平面部Ｅ２１３３）に変位（回動、往復動）可能にそれぞれ係合される。また、一対の振分通路Ｅ２１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側は、湾曲部Ｅ１３１の下面に当接した状態でそれぞれ配設される。

【１８２０８】

この状態では、弾性ばねＥ２１９０は縮んだ状態で配設され、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０との当接状態が維持される。即ち、本実施形態においては、弾性ばねＥ２１９０は振分通路Ｅ２１５０の鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、振分通路Ｅ２１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させる態様に形成される。

【１８２０９】

また、この状態では、転動面Ｅ２１５１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置は、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、転動面Ｅ２１５１を流下した球と据付部Ｅ１６４との当接を抑制でき、転動面Ｅ２１５１を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。

【１８２１０】

次いで、振分通路Ｅ２１５０を流下する球について説明する。湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動することにより前後方向への速度成分を有した状態で振分通路Ｅ２１５０に案内された球は、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を前後方向へ往復動しつつ、傾斜方向に従い中央通路Ｅ１６０側へ向けて流下する。

【１８２１１】
前後方向への往復動により、背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部を通過した球は、背面板Ｅ１３７と当接することで、再び転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ案内される。
【１８２１２】
一方、前後方向への往復動により、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部を通過した球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ案内される（図１６２９参照）。
【１８２１３】
転動面Ｅ２１５１の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）における端部を通過せず、即ち、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ案内されず、転動面Ｅ２１５１の傾斜方向下降側の端部を通過した球は、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される。
【１８２１４】
このように、振分通路Ｅ２１５０の延設方向に垂直な平面での断面形状が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に転動面Ｅ２１５１が湾曲して形成されることで球の流下方向を変更（変化）でき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかの通路に球を案内できる（図１６２９参照）。即ち、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８２１５】
また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から送球された球が、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）に当接（落下）することで、球の自重により振分通路Ｅ２１５０は、支持軸Ｅ２０ｊを回動中心として湾曲部Ｅ１３１側が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回動する。即ち、振分通路Ｅ２１５０の傾斜が小さくなる。これにより、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下する球の流下速度を遅くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。
【１８２１６】
また、湾曲部Ｅ１３１は、上述したように、延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１６３６（ｃ）参照）ので、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）に案内された球を、延設方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ球を流下させることができる。よって、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ流入する場合に、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。これにより、先行する球が転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下中に後行する球が転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）に案内されることで、先行する球の自重と後行する球の自重とにより振分通路Ｅ２１５０の傾斜をさらに小さくできる。その結果、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間をさらに長くでき、遊技の興趣を高めることができる。
【１８２１７】
次いで、図１６４３を参照して、第７８実施形態における下側フレームＥ３０８６ｂについて説明する。
【１８２１８】
上記第７７実施形態では、振分通路Ｅ２１５０の上面が、円弧状に湾曲して形成される場合を説明したが、第７８実施形態における振分通路Ｅ３１５０の上面は、平面状に形成

される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８２１９】

図１６４３は、第７８実施形態における下側フレームＥ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６３７（ｃ）のＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ－ＭＤＣＸＸＸＶＩＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１６４３（ａ）は、振分通路Ｅ３１５０と湾曲部Ｅ１３１とが当接した状態を示し、図１６４３（ｂ）は、図１６４１（ａ）に対し、弾性ばねＥ２１９０が縮んだ状態を示す。

【１８２２０】

図１６４３に示すように、下側フレームＥ３０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ３１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ３１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ３１３０に配設される振分通路Ｅ３１５０、中央通路Ｅ１６０、一対の流路調整ブロックＥ１７０及び複数（本実施形態では２個）の弾性ばねＥ２１９０と、ボールジョイントＥ３２００と、を備える（図１６２９参照）。

【１８２２１】

ベース部材Ｅ３１３０は、第７７実施形態におけるベース部材Ｅ２１３０に対し、支持部Ｅ２１３３ｂに代えてボールジョイントＥ３２００のソケットＥ３２２０が平面部Ｅ３１３３に配設される以外は同一に形成される。

【１８２２２】

平面部Ｅ３１３３の支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側における平面部Ｅ３１３３の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）略中央には、ボールジョイントＥ３２００のソケットＥ３２２０が配設される。

【１８２２３】

ここで、ボールジョイントＥ３２００について説明する。ボールジョイントＥ３２００は、ボール部材Ｅ３２１０と、ソケットＥ３２２０とから形成される。

【１８２２４】

ボール部材Ｅ３２１０には、球状に形成される球部Ｅ３２１１と、その球部Ｅ３２１１に結合される固定部Ｅ３２１２とが形成される。ソケットＥ３２２０には、その上面に球部Ｅ３２１１の外径と同等またはやや大きく形成される受け口Ｅ３２２１が凹設される。球部Ｅ３２１１が受け口Ｅ３２２１に挿入されることで、ソケットＥ３２２０に対してボール部材Ｅ３２１０が、変位可能に係合される。

【１８２２５】

振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜し、その傾斜面に垂直な方向視において横長略矩形の板状体から形成される。振分通路Ｅ３１５０の下面には、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１５０ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１５０ａよりも中央通路Ｅ１６０側にボール部材Ｅ３２１０が形成される。

【１８２２６】

支持突起Ｅ２１５０ａ及びボール部材Ｅ３２１０は、上面視、平面部Ｅ３１３３に形成される支持突起Ｅ２１３３ａ及びソケットＥ３２２０に対応する位置にそれぞれ配設される。

【１８２２７】

板状体に形成される振分通路Ｅ３１５０の上面には、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から案内された球が流下する転動面Ｅ３１５１が形成される。転動面Ｅ３１５１により第３通路ＥＲｔ３０３が形成される。

【１８２２８】

弾性ばねＥ２１９０が支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａにより支持された状態で平面部Ｅ３１３３の上面に配設されるソケットＥ３２２０（受け口Ｅ３２２１）に振分通路

Ｅ３１５０の下面に配設されるボール部材Ｅ３２１０（球部Ｅ３２１１）を挿入することで、振分通路Ｅ３１５０を平面部Ｅ３１３３へ係合できる。

【１８２２９】

これらにより、一対の振分通路Ｅ３１５０は、中央通路Ｅ１６０側が回動可能に係合された状態で、弾性ばねＥ２１９０により長手方向両端側が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（往復動）される。即ち、一対の振分通路Ｅ３１５０は、ベース部材Ｅ３１３０（平面部Ｅ３１３３）に変位（回動、往復動）可能にそれぞれ配設される。また、一対の振分通路Ｅ３１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は、湾曲部Ｅ１３１の下面に当接した状態でそれぞれ配設される。

【１８２３０】

この状態では、弾性ばねＥ２１９０は縮んだ状態で配設されており、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ３１５０との当接状態が維持される。即ち、本実施形態においては、弾性ばねＥ２１９０は振分通路Ｅ２１５０の鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、振分通路Ｅ２１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させる態様に形成される。

【１８２３１】

また、この状態では、転動面Ｅ３１５１の傾斜方向下降側（矢印Ｄ方向側）の端部、即ち、転動面Ｅ３１５１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置は、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、転動面Ｅ３１５１を流下した球と据付部Ｅ１６４との当接を抑制でき、転動面Ｅ３１５１を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。

【１８２３２】

次いで、振分通路Ｅ３１５０を流下する球について説明する。湾曲部Ｅ１３１を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動することにより前後方向への速度成分を有した状態で振分通路Ｅ３１５０に案内された球は、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を前後方向へ変位可能であり、傾斜方向に従い中央通路Ｅ１６０側へ向けて流下する。

【１８２３３】

ここで、前後方向における転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）への球の当接（落下）位置により、振分通路Ｅ３１５０は、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）もしくは背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する（図１６２９参照）。

【１８２３４】

詳細に説明すると、ボールジョイントＥ３２００を介して振分通路Ｅ３１５０がベース部材Ｅ３１３０（平面部Ｅ３１３３）に係合されるため、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の介設部材Ｅ１４０（図１６２９参照）側へ球が当接（落下）した場合、振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側への下降傾斜に加え、球の自重により、背面板Ｅ１３７側から介設部材Ｅ１４０側へ向けて下降傾斜する。一方、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の背面板Ｅ１３７側へ球が当接（落下）した場合、振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側への下降傾斜に加え、球の自重により、介設部材Ｅ１４０側から背面板Ｅ１３７側へ向けて下降傾斜する。即ち、前後方向において、球が当接（落下）した側へ転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）が下降傾斜する。

【１８２３５】

これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球の流下方向を変更（変化）でき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）（図１６２９参照）のいずれかの通路に球を案内できる。即ち、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８２３６】

また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から送球された球が、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）に当接（落下）することで、球の自重により振分通路Ｅ３１５０は、ボールジョイントＥ３２００を回動中心として湾曲部Ｅ１３１側が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回動する。即ち、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における振分通路Ｅ３１５０の傾斜が小さくなる。これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球の流下速度を遅くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８２３７】

また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）は、上述したように、延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図１６３６（ｃ）参照）ので、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）に案内された球を、延設方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ球を流下させることができる。よって、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ流入する場合に、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。これにより、先行する球が転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下中に、後行する球が転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）に案内されることで先行する球の自重と後行する球の自重とにより振分通路Ｅ３１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における傾斜をさらに小さくできる。その結果、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間をさらに長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８２３８】

また、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ球を流下させることで、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における振分通路Ｅ３１５０の傾斜方向を変更（変化）できる場合がある。

【１８２３９】

例えば、先行する球が、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の介設部材Ｅ１４０（図１６２９参照）側を流下している状態において、後行する球が、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の背面板Ｅ１３７側に当接（落下）した場合、前後方向における転動面Ｅ３１５１の傾斜の下降方向を介設部材Ｅ１４０側から背面板Ｅ１３７側に変更（変化）できる場合がある。このように、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を球が流下中に、前後方向における転動面Ｅ３１５１の傾斜方向が変更（変化）することで、球の送球先を変更でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８２４０】

本実施形態においては、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１３３ａに、同一の弾性ばねＥ２１９０がそれぞれ配設される場合を説明したが、異なる弾性ばね、即ち、異なる弾性係数を有する弾性ばねがそれぞれ配設されてもよい。

【１８２４１】

例えば、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に配設される弾性ばねの弾性係数を背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に配設される弾性ばねの弾性係数よりも小さくすることで、振分通路Ｅ３１５０を介設部材Ｅ１４０側に下降傾斜させ易くできる（図１６２９参照）。これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球が、転動面Ｅ３１５１と背面板Ｅ１３７とに当接した（挟持された）状態で転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下し、中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ１３７との間を流下（落下）して第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内されることを抑制できる。

【１８２４２】

次いで、図１６４４から図１６４５を参照して、第７９実施形態における下側フレームＥ４０８６ｂについて説明する。

【１８２４３】
上記第７６実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０が配設される場合を説明したが、第７９実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０に加え、一対の第２振分通路Ｅ４１５０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８２４４】
図１６４４（ａ）及び図１６４５（ａ）は、第７９実施形態における下側フレームＥ４０８６ｂの正面図であり、図１６４４（ｂ）及び図１６４５（ｂ）は、下側フレームＥ４０８６ｂの背面図である。なお、図１６４４及び図１６４５は模式的に図示され、図１６４４（ａ）及び図１６４５（ａ）では、正面部材Ｅ１１０及び誘導部材Ｅ１２０の図示が省略される。また、図１６４４（ｂ）及び図１６４５（ｂ）では、理解を容易とするため、振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び駆動手段Ｅ４１９０のみが表示される。また、図１６４４では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図１６４５では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【１８２４５】
図１６４４から図１６４５に示すように、下側フレームＥ４０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ４１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ４１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ４１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ４１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ４１８０と、そのカバー部材Ｅ４１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ４１９０と、を備える（図１６２９参照）。
【１８２４６】
ベース部材Ｅ４１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１（図１６２９参照）と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ４１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ４１３３の対向間に形成される一対の第３斜面部Ｅ４１３９と、その一対の第３斜面部Ｅ４１３９の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ４１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図１６３１参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ４１３７と、を備える。
【１８２４７】
第３斜面部Ｅ４１３９が形成されるため、第７６実施形態における第１斜面部Ｅ１３３に対し第１斜面部Ｅ４１３３は、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設され、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）が短く形成される。
【１８２４８】
第３斜面部Ｅ４１３９は、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１斜面部Ｅ４１３３と取付け部Ｅ１３４との間に配設され、第１斜面部Ｅ４１３３に平行に形成される。
【１８２４９】
背面板Ｅ４１３７は、第１斜面部Ｅ４１３３と同様、第７６実施形態における背面板Ｅ１３７に対し鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して配設される。
【１８２５０】
第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０に対し、傾斜方向における長さが短く形成され、その他は同一であるため、その説明は省略する。第２振分通路Ｅ４１５０に突起部Ｅ１５１が形成されることで、第２振分通路Ｅ４１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成される。第２振分通路Ｅ４１５０は、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）と中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）との間に配設される。即

ち、第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）であり、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。

【１８２５１】

駆動手段Ｅ４１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ４１９４と、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される第２伝達部材Ｅ４１９５及び第３伝達部材Ｅ４１９８と、第２伝達部材Ｅ４１９５に係合される第４伝達部材Ｅ４１９９と、複数（本実施形態では３個）のピニオンギヤＥ１９６と、を備える。

【１８２５２】

なお、本実施形態における複数のピニオンギヤＥ１９６は全て同一であるが、理解を容易とするため、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ａ、第１伝達部材Ｅ４１９４と第３伝達部材Ｅ４１９８との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ｂ、第２伝達部材Ｅ４１９５と第４伝達部材Ｅ４１９９との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ｃと符号を付して区別する。

【１８２５３】

第１伝達部材Ｅ４１９４は、第７６実施形態における第１伝達部材Ｅ１９４に対し、係合ベースＥ４１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの上面にピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。

【１８２５４】

第２伝達部材Ｅ４１９５は、第７６実施形態における第２伝達部材Ｅ１９５に対し、係合ベースＥ４１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、本体部Ｅ４１９５ａの上面であって長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一方側（矢印Ｌ方向側）にピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。

【１８２５５】

第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第２振分通路Ｅ４１５０へ伝達するためのものである。

【１８２５６】

第３伝達部材Ｅ４１９８には、本体部Ｅ４１９８ａと、その本体部Ｅ４１９８ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃ（図１６３１参照）とが形成される。本体部Ｅ４１９８ａの下面には、ピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６ｂの回動により、第３伝達部材Ｅ４１９８が左右方向へ変位される。

【１８２５７】

第４伝達部材Ｅ４１９９には、本体部Ｅ４１９９ａと、その本体部Ｅ４１９９ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃ（図１６３１参照）とが形成される。本体部Ｅ４１９９ａの下面には、ピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６ｃの回動により、第４伝達部材Ｅ４１９９が左右方向へ変位される。

【１８２５８】

図１６４４に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。

【１８２５９】
　一方、第２振分通路Ｅ４１５０、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において壁板Ｅ１３２側に位置する。即ち、第３伝達部材Ｅ４１９８と第４伝達部材Ｅ４１９９とは、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の第２振分通路Ｅ４１５０も互いに離間した位置に配設される。
【１８２６０】
　なお、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態において、第２振分通路Ｅ４１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも壁板Ｅ１３２側に位置する、即ち、上面視、第２振分通路Ｅ４１５０の全体が振分通路Ｅ１５０と重なる位置に配置される。従って、第２振分通路Ｅ４１５０は、球の通路を非形成とする位置に配置される。
【１８２６１】
　これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球は、第２振分通路Ｅ４１５０を移動（流下、転動）せず、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ送球（落下）される。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることができる。この結果、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から流下（落下）した球が、架設通路Ｅ１６１に当接し跳ね返ることで、架設通路Ｅ１６１から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ流下（落下）させ易くできる。
【１８２６２】
　一方、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることで、架設通路Ｅ１６１を流下することなく、直接、上方孔Ｅ１６２へ球を送球できる場合がある。これにより、球が架設通路Ｅ１６１を転動して上方孔Ｅ１６２へ向けて流下する場合と比較して、突起部Ｅ１６２ａとの当接による第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）への流下（落下）することを抑制できる（図１６３３参照）。
【１８２６３】
　このように、本実施形態では、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることで、第７６実施形態と比較して架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図１６２８参照）へ入賞し難くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を低くできる）。
【１８２６４】
　一方、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１を流下することなく、即ち、球が突起部Ｅ１６２ａに当接することなく上方孔Ｅ１６２へ送球されることで、球が上方孔Ｅ１６２を通過し易くできる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球が、架設通路Ｅ１６１を流下せず、直接、上方孔Ｅ１６２を通過することを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８２６５】
　図１６４５に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において壁板Ｅ１３２側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５とは、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。
【１８２６６】
　一方、第２振分通路Ｅ４１５０、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第３伝達部材Ｅ４１９８と第４伝達部材Ｅ４１９９とは、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態に比べ、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の第２振分通路Ｅ４

１５０も互いに近づいた位置に配設される。
【１８２６７】
なお、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において第２振分通路Ｅ４１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向上昇側の端部よりも上方孔Ｅ１６２側に位置する。即ち、上面視、第２振分通路Ｅ４１５０の一部は視認可能な位置に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０を流下した球を第２振分通路Ｅ４１５０に案内できる。その結果、第２振分通路Ｅ４１５０を流下した球を、架設通路Ｅ１６１を流下することなく、直接、上方孔Ｅ１６２へ送球し易くできる。
【１８２６８】
ここで、第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設されるため、球が第２振分通路Ｅ４１５０から架設通路Ｅ１６１へ流下（落下）された場合、振分通路Ｅ１５０から架設通路Ｅ１６１へ流下（落下）された場合と比較して、架設通路Ｅ１６１に当接することによる球の跳ね返り量を小さくできる。これにより、架設通路Ｅ１６１から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）への流下（落下）を抑制できる。
【１８２６９】
これらのように、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ案内されることで、架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図１６２８参照）へ入賞し易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる）。よって、第２振分通路Ｅ４１５０に球が案内される（振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において振分通路Ｅ１５０から球が送球される）ことを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８２７０】
また、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態においては、第２振分通路Ｅ４１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成されるため、第７６実施形態と比較して、第３通路ＥＲｔ３を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。
【１８２７１】
また、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ球を流下（落下）させることで、第２振分通路Ｅ４１５０に形成される突起部Ｅ１５１の上面に当接させることができる。従って、湾曲部Ｅ１３１から振分通路Ｅ１５０への流下（落下）に加え、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ球を流下（落下）させることで、突起部Ｅ１５１の上面を移動（流下、転動）させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。詳しく説明すると、平面状に形成される突起部Ｅ１５１の上面を移動（流下、転動）することで、球が第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）することを抑制できるため、第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）する態様と第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）しない態様との両方を形成し易くできる。
【１８２７２】
次いで、駆動手段Ｅ４１９０による振分通路Ｅ１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０の往復動作について説明する。
【１８２７３】
第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５と振分通路Ｅ１５０、及び、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９と第２振分通路Ｅ４１５０とは、係合部Ｅ１９４ｃが被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに挿入されることでそれぞれ係合される（図１６３８参照）。
【１８２７４】
振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から壁板Ｅ１３２側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。
【１８２７５】

駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に変位することで、第１伝達部材Ｅ４１９４は中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【１８２７６】

また、第１伝達部材Ｅ４１９４の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位により、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの下面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ａは、背面視時計回りに回動され、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの上面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ｂは、背面視反時計回りに回動される。

【１８２７７】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６ａと歯合する第２伝達部材Ｅ４１９５（第２ラック部Ｅ１９５ｂ）は、中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に変位し、第２伝達部材Ｅ４１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。また、ピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合する第３伝達部材Ｅ４１９８（本体部Ｅ４１９８ａ）は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位し、第３伝達部材Ｅ４１９８に係合される第２振分通路Ｅ４１５０は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位する。

【１８２７８】

また、第２伝達部材Ｅ４１９５の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位により、第２伝達部材Ｅ４１９５の本体部Ｅ４１９５ａの上面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ｃは、背面視時計回りに回動される。

【１８２７９】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合する第４伝達部材Ｅ４１９９の本体部Ｅ４１９９ａは、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位し、第４伝達部材Ｅ４１９９に係合される第２振分通路Ｅ４１５０は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位する。

【１８２８０】

振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位は、振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。

【１８２８１】

ここで、振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４から第４伝達部材Ｅ４１９９の変位方向およびピニオンギヤＥ１９６ａ，Ｅ１９６ｂ，Ｅ１９６ｃの回動方向以外は振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位と同様であるため、その説明は省略する。

【１８２８２】

このように、本実施形態では、一つの駆動モータＥ１９１により、一対の振分通路Ｅ１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０を往復動できるため、駆動モータＥ１９１の配設個数を削減し、製品コストの削減を図ることができる。

【１８２８３】

また、第１伝達部材Ｅ４１９４の変位により第２伝達部材Ｅ４１９５から第４伝達部材Ｅ４１９９を変位させることができる、即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４から第４伝達部材Ｅ４１９９の変位を連動させることができる。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０と一対の第２振分通路Ｅ４１５０との変位を連動させることができる。その結果、一対の振分通路Ｅ１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０の往復動を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８２８４】

次いで、図１６４６から図１６４９を参照して、第８０実施形態における下側フレーム

Ｅ５０８６ｂについて説明する。
【１８２８５】
上記第７６実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０が配設される場合を説明したが、第８０実施形態では、振分通路Ｅ１５０に加え、一対の振分通路Ｅ１５０の対向間に第３振分通路Ｅ５１５０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８２８６】
図１６４６（ａ）及び図１６４８（ａ）は、第８０実施形態における下側フレームＥ５０８６ｂの正面図であり、図１６４６（ｂ）及び図１６４８（ｂ）は、下側フレームＥ５０８６ｂの背面図である。図１６４７及び図１６４９は、下側フレームＥ５０８６ｂの上面図である。なお、図１６４６から図１６４９は模式的に図示され、図１６４６（ａ）及び図１６４８（ａ）では、正面部材Ｅ１１０及び誘導部材Ｅ１２０の図示が省略され、図１６４７（ａ）及び図１６４９（ａ）では、誘導部材Ｅ１２０の図示が省略される。また、理解を容易とするため、図１６４６（ｂ）及び図１６４８（ｂ）では、振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０及び駆動手段Ｅ５１９０のみが表示される。また、図１６４７（ｂ）及び図１６４９（ｂ）では、第３振分通路Ｅ５１５０及び駆動手段Ｅ５１９０のみが図示されると共に、第３振分通路Ｅ５１５０は、その外形のみが図示される。また、図１６４６及び図１６４７では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図１６４８及び図１６４９では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【１８２８７】
図１６４６から図１６４９に示すように、下側フレームＥ５０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０（図１６２９参照）と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ５１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ５１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ５１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ５１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ５１８０と、そのカバー部材Ｅ５１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ５１９０と、を備える。
【１８２８８】
ベース部材Ｅ５１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ５１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ５１３３の対向間に形成される一対の第３取付け部Ｅ５１３９と、その一対の第３取付け部Ｅ５１３９の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ５１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図１６３１参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ５１３７と、を備える。
【１８２８９】
第３取付け部Ｅ５１３９が形成されるため、第７６実施形態における第１斜面部Ｅ１３３に対し第１斜面部Ｅ５１３３は、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設され、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）が短く形成される。
【１８２９０】
第３取付け部Ｅ５１３９は、第３振分通路Ｅ５１５０を変位可能に係合するためのものであり、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１斜面部Ｅ５１３３と取付け部Ｅ１３４との間に配設され、その上面は水平に形成される。
【１８２９１】
長手方向他側（矢印Ｒ方向側）における第３取付け部Ｅ５１３９の上面には、後述する

第３振分通路Ｅ５１５０の被ガイド部Ｅ５１５２がスライド可能に挿通される第３ガイド部Ｅ５１３９ａが形成される。

【１８２９２】

第３ガイド部Ｅ５１３９ａは、上面視縦長略矩形の板状体と、その板状体の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）両端から第３取付け部Ｅ５１３９へ向けて突設される一対の板状体とから形成され、側面視コ字状に形成される。この第３ガイド部Ｅ５１３９ａと第３取付け部Ｅ５１３９とで囲まれた空間に被ガイド部Ｅ５１５２がスライド可能に挿通される。

【１８２９３】

背面板Ｅ５１３７は、第１斜面部Ｅ５１３３と同様、第７６実施形態における背面板Ｅ１３７に対し鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して配設される。

【１８２９４】

第３振分通路Ｅ５１５０は、その上面を球が流下するためのものであり、上面視横長略矩形の板状体から形成され、その上面に形成される突起部Ｅ１５１と、長手方向他側（矢印Ｒ方向側）に形成される被ガイド部Ｅ５１５２と、長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に形成される被係合部Ｅ５１５３とを備える。

【１８２９５】

第３振分通路Ｅ５１５０に突起部Ｅ１５１が形成されるため、第３振分通路Ｅ５１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成される。また、第３振分通路Ｅ５１５０の上面への突起部Ｅ１５１の配設の態様は、振分通路Ｅ１５０の配設の態様と同様とされる。

【１８２９６】

被ガイド部Ｅ５１５２は、上面視横長略矩形の板状体から形成され、上述したように、被ガイド部Ｅ５１５２が第３ガイド部Ｅ５１３９ａと第３取付け部Ｅ５１３９とで囲まれた空間に挿通されることで、第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ変位できる。

【１８２９７】

被係合部Ｅ５１５３は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第３振分通路Ｅ５１５０へ伝達するためのものであり、第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）の端面から下方（矢印Ｄ方向）に突設される。被係合部Ｅ５１５３の下端であって長手方向他側（矢印Ｒ方向側）における側面にはラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。

【１８２９８】

第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法は、第２位置に配設された一対の振分通路Ｅ１５０の対向間よりも大きく形成される。従って、振分通路Ｅ１５０から流下（落下）した球が、第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向両端に配設される被ガイド部Ｅ５１５２又は被係合部Ｅ５１５３に当接することを抑制できる。これにより、被ガイド部Ｅ５１５２又は被係合部Ｅ５１５３が破損することを抑制できる。

【１８２９９】

被ガイド部Ｅ５１５２が第３ガイド部Ｅ５１３９ａに挿通され、被係合部Ｅ５１５３に刻設されるラックギヤＥ１９４ｄ１と後述する第２ピニオンギヤＥ５１９６とが歯合した状態で第３振分通路Ｅ５１５０は第３取付け部Ｅ５１３９（ベース部材Ｅ５１３０）に配設される。

【１８３００】

駆動手段Ｅ５１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ５１９４と、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される第２伝達部材Ｅ５１９５と、ピニオンギヤＥ１９６と、第２ピニオンギヤＥ５１９６と、を備える。

【１８３０１】

第１伝達部材Ｅ５１９４は、第７６実施形態における第１伝達部材Ｅ１９４に対し、係合ベースＥ５１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、第１ラック部Ｅ５１９４ｄの正面（矢印Ｆ方向側の面）に第２ピニオンギヤＥ５１９６と歯合するラッ

クギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。
【１８３０２】
第２伝達部材Ｅ４１９５は、第７６実施形態における第２伝達部材Ｅ１９５に対し、係合ベースＥ５１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。
【１８３０３】
第２ピニオンギヤＥ５１９６は、その軸方向が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿う姿勢で配設され、ピニオンギヤＥ１９６に対し、軸方向における寸法（厚さ）が大きく形成される点で相違し、その他の構成は同一である。なお、第２ピニオンギヤＥ５１９６の軸方向における寸法（厚さ）は、第１伝達部材Ｅ５１９４の第１ラック部Ｅ５１９４ｄの鉛直方向における寸法と第３振分通路Ｅ５１５０の被係合部Ｅ５１５３の下端に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１の鉛直方向における寸法との合計よりも大きく形成される。これにより、第２ピニオンギヤＥ５１９６は、鉛直方向に位置を違えて第１ラック部Ｅ５１９４ｄと被係合部Ｅ５１５３とに歯合可能に形成される。
【１８３０４】
図１６４６及び図１６４７に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５は、ベース部材Ｅ５１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４と第２伝達部材Ｅ５１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。
【１８３０５】
第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ５１３７との間に配設される（以下「第３位置」と称す）。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内されることで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ５１３７との間に流下（落下）される球が第５通路ＥＲｔ５に送球されることを抑制できる。その結果、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内された球が中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。また、第３振分通路Ｅ５１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成されるため、第７６実施形態と比較して、第３通路ＥＲｔ３を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。
【１８３０６】
また、前後方向において第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７との対向間距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７とで球が挟持されることを抑制でき、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）上を球が流下できる。
【１８３０７】
図１６４８及び図１６４９に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５は、ベース部材Ｅ５１３０の長手方向において湾曲部Ｅ１３１側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４と第２伝達部材Ｅ５１９５とは、第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。
【１８３０８】
第３振分通路Ｅ５１５０は、少なくともその一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置、即ち、中央通路Ｅ１６０の上方（矢印Ｕ方向）に配設される（以下「第４位置」と称す）。これにより、振分通路Ｅ１５０から第３振分通路Ｅ５１５０に案内することで、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを抑制できる。なお、第３振分通路Ｅ５１５０に案内された球は、第３振分通路Ｅ５１５０の前端もしくは後端を横切って第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球される。
【１８３０９】
また、第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向における背面板Ｅ５１３７との対向間距離

が球の直径よりも大きく形成される位置に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７との間に流下される球を、第３振分通路Ｅ５１５０に当接することなく、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。

【１８３１０】

このように、本実施形態においては、第７６実施形態と比較して、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配設され、第３振分通路Ｅ５１５０が第３位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し易くできる。一方、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配設され、第３振分通路Ｅ５１５０が第４位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し難くできる。即ち、第３振分通路Ｅ５１５０（振分通路Ｅ１５０）の配設位置により、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）への送球の難易度を変化でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８３１１】

また、第３振分通路Ｅ５１５０は、一対の振分通路Ｅ１５０の対向間に配設されるため、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内できる場合がある。即ち、第３通路ＥＲｔ３を流下する球を、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）に加え、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）にも送球できることで、遊技の興趣を高めることができる。

【１８３１２】

次いで、駆動手段Ｅ５１９０による振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の往復動作について説明する。

【１８３１３】

振分通路Ｅ１５０と第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５とは、被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに係合部Ｅ１９４ｃが挿入されることでそれぞれ係合される（図１６３８参照）。

【１８３１４】

振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から湾曲部Ｅ１３１側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。

【１８３１５】

駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位することで、第１伝達部材Ｅ５１９４は中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ５１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【１８３１６】

また、第１伝達部材Ｅ５１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ５１９４ｄのラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６は、背面視時計回りに回動される。

【１８３１７】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６と歯合する第２伝達部材Ｅ５１９５の第２ラック部Ｅ１９５ｂは、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位し、第２伝達部材Ｅ５１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【１８３１８】

また、第１伝達部材Ｅ５１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ５１９４ｄの正面（矢印Ｆ方向側の面）に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合する第２ピニオンギヤＥ５１９６は、上面視反時計回りに回動される。

【１８３１９】

これにより、第２ピニオンギヤＥ５１９６と歯合する第３振分通路Ｅ５１５０の被係合部Ｅ５１５３は、背面板Ｅ５１３７側（矢印Ｂ方向側）から介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）へ変位し、これにより、第３振分通路Ｅ５１５０は、第３位置から第４位置へ変位する。

【１８３２０】

振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第４位置から第３位置への変位は、振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。

【１８３２１】

なお、振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５の変位方向、ピニオンギヤＥ１９６及び第２ピニオンギヤＥ５１９６の回動方向以外は振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位と同様であるため、その説明は省略する。

【１８３２２】

このように、本実施形態では、一つの駆動モータＥ１９１により、一対の振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を往復動できるため、駆動モータＥ１９１の配設個数を削減し、製品コストの削減を図ることができる。

【１８３２３】

また、第１伝達部材Ｅ５１９４の変位により第２伝達部材Ｅ５１９５及び第３振分通路Ｅ５１５０を変位させることができる、即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４、第２伝達部材Ｅ５１９５及び第３振分通路Ｅ５１５０の変位を連動させることがでる。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０と第３振分通路Ｅ５１５０との変位を連動させることができる。その結果、一対の振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の往復動を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８３２４】

また、第２ピニオンギヤＥ５１９６には、鉛直方向に位置を違えて被係合部Ｅ５１５３と第１ラック部Ｅ５１９４ｄとが歯合される（本実施形態においては、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に被係合部Ｅ５１５３が歯合され、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に第１ラック部Ｅ５１９４ｄが歯合される）。これにより、第１伝達部材Ｅ５１９４と第３振分通路Ｅ５１５０との変位の方向を直交できる、即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４がベース部材Ｅ５１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位すると共に、第３振分通路Ｅ５１５０をベース部材Ｅ５１３０の短手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位できる。これにより、ピニオンギヤの配設個数を抑制でき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８３２５】

次いで、図１６５０（ａ）を参照して、第８１実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂについて説明する。

【１８３２６】

上記第７６実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第８１実施形態では、第１斜面部Ｅ６１３３に対する振分通路Ｅ６１５０の配設角度が変化（変更）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８３２７】

図１６５０（ａ）は、第８１実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図１６５０（ａ）は、図１６３９（ｃ）のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応する。また、下側フレームＥ６０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。

【１８３２８】
第８１実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂは、第７６実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０及び振分通路Ｅ１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ６１３０及び振分通路Ｅ６１５０についてのみ説明する。
【１８３２９】
図１６５０（ａ）に示すように、ベース部材Ｅ６１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ６１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ６１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ６１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ６１３７と、を備える（図１６３１参照）。
【１８３３０】
第１斜面部Ｅ６１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ６１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ６１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃと、突出部Ｅ６１３３ｄとが形成される。
【１８３３１】
突出部Ｅ６１３３ｄは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におけるベース部材Ｅ６１３０の湾曲部Ｅ１３１側において第１斜面部Ｅ６１３３の上面から突出して形成される。
【１８３３２】
第１斜面部Ｅ６１３３には、振分通路Ｅ６１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ６２０１と、カバーＥ６２０２とが配設される。
【１８３３３】
円柱体Ｅ６２０１は、第７６実施形態における円柱体Ｅ２０１に対し外形が大きく形成される以外は同形状に形成される。これにより、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。
【１８３３４】
カバーＥ６２０２は、円柱体Ｅ６２０１の外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ６２０１に対応する位置に円柱体Ｅ６２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【１８３３５】
長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央通路Ｅ１６０側に配設される一対の円柱体Ｅ６２０１は、第１斜面部Ｅ６１３３に配設されるのに対し、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における湾曲部Ｅ１３１側に配設される一対の円柱体Ｅ６２０１は、突出部Ｅ６１３３ｄに配設される。これにより、第１斜面部Ｅ６１３３の傾斜角度に対し振分通路Ｅ６１５０の傾斜角度を異ならせる、詳細には、大きくすることができる。その結果、第１斜面部Ｅ６１３３に対し振分通路Ｅ６１５０の変位（往復動）を非平行とできる。
【１８３３６】
背面板Ｅ６１３７は、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。
【１８３３７】
振分通路Ｅ６１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ６１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ６１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ６１５２の間に立設される被係合部Ｅ６１５３と、を備える。

【１８３３８】
上述したように、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置が、上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ６１５２及び被係合部Ｅ６１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ６１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ６１５３ａも被係合部Ｅ６１５３と同様、下方に延設して形成される。
【１８３３９】
これにより、被ガイド部Ｅ６１５２が第１斜面部Ｅ７１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け出ることを抑制し、振分通路Ｅ６１５０のベース部材Ｅ６１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。
【１８３４０】
次いで、図１６５０（ｂ）及び図１６５０（ｃ）を参照して、第８２実施形態および第８３実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂについて説明する。
【１８３４１】
上記第７６実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第８２実施形態および第８３実施形態では、振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０の変位に伴い、振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０の配設角度が変化（変更）する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８３４２】
図１６５０（ｂ）は、第８２実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１６５０（ｃ）は、第８３実施形態における下側フレームＥ８０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図１６５０（ｂ）及び図１６５０（ｃ）は、図１６３９のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応する。また、下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。
【１８３４３】
第８２実施形態および第８３実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂは、第７６実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０及び振分通路Ｅ１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ７１３０，Ｅ８１３０及び振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０についてのみ説明する。
【１８３４４】
図１６５０（ｂ）に示すように、第８２実施形態におけるベース部材Ｅ７１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ７１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ７１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ７１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ７１３７と、を備える（図１６３１参照）。
【１８３４５】
第１斜面部Ｅ７１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ７１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ７１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃとが形成される。

【１８３４６】
第１斜面部Ｅ７１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では２個）の円柱体Ｅ７２０１ａ及び複数（本実施形態では２個）の円柱体Ｅ７２０１ｂと、カバーＥ７２０２とが配設される。
【１８３４７】
円柱体Ｅ７２０１ａは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において同一位置に配設され、第１斜面部Ｅ７１３３の中央通路Ｅ１６０側に配設される。なお、円柱体Ｅ７２０１ａは、第７６実施形態における円柱体Ｅ２０１に対し外形が大きく形成される以外は同形状に形成される。これにより、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。
【１８３４８】
円柱体Ｅ７２０１ｂは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において同一位置に配設され、第１斜面部Ｅ７１３３の湾曲部Ｅ１３１側に配設される。なお、円柱体Ｅ７２０１ｂの外形は、円柱体Ｅ７２０１ａの外形よりも大きく形成される。これにより、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。また、第１斜面部Ｅ７１３３の傾斜角度に対し振分通路Ｅ７１５０の傾斜角度を異ならせる、詳細には、大きくすることができる。その結果、第１斜面部Ｅ７１３３に対し振分通路Ｅ７１５０の変位（往復動）を非平行とできる。
【１８３４９】
カバーＥ７２０２は、円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂの外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂに対応する位置に円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂの外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【１８３５０】
背面板Ｅ７１３７は、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。
【１８３５１】
振分通路Ｅ７１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ７１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ７１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ７１５２の間に立設される被係合部Ｅ７１５３と、湾曲部Ｅ１３１側における振分通路Ｅ７１５０の下面に形成される斜面部Ｅ７１５４と、を備える。
【１８３５２】
上述したように、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ７１５２及び被係合部Ｅ７１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ７１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ７１５３ａも被係合部Ｅ７１５３と同様、下方に延設して形成される。
【１８３５３】
これにより、被ガイド部Ｅ７１５２が第１斜面部Ｅ７１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け出ることを抑制し、振分通路Ｅ７１５０のベース部材Ｅ７１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ７１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。
【１８３５４】
斜面部Ｅ７１５４は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側に向かうにつれて下降傾斜して形成され、その斜面部Ｅ７１５４に円柱体７２０１ｂが当接する。従って、振分通路Ｅ７１５０は、第１位置から第２位置へ向かうにつれてその傾斜角度を大きくされる。即ち、振分通路Ｅ７１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）できる。これにより、球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）を多様化でき、球の移動（流下、転動）方向が単調となることを抑制できる。その結果、遊技

の興趣を向上できる。
【１８３５５】
図１６５０（ｃ）に示すように、第８３実施形態におけるベース部材Ｅ８１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ８１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ８１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ８１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ８１３７と、を備える（図１６３１参照）。
【１８３５６】
第１斜面部Ｅ８１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ８１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ８１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃと、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄとが形成される。
【１８３５７】
第１斜面部Ｅ８１３３には、振分通路Ｅ８１５０を変位させるための複数（本実施形態では２個）の円柱体７２０１ａと、カバーＥ８２０２とが配設される。
【１８３５８】
カバーＥ８２０２は、円柱体Ｅ７２０１ａの外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ７２０１ａに対応する位置に円柱体Ｅ７２０１ａの外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【１８３５９】
湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄは、振分通路Ｅ８１５０の傾斜角度を変化（変更）させるための部位であり、第１斜面部Ｅ８１３３の湾曲部Ｅ１３１側において湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの上面から突出して形成され、その上面は下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹となる円弧状に湾曲して形成される。
【１８３６０】
湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの円弧状の湾曲面には、振分通路Ｅ８１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部が当接され、円柱体Ｅ７２０１ａと共に振分通路Ｅ８１５０を支持（保持）する。振分通路Ｅ８１５０が第１位置から第２位置へ向かうにつれて変位することにより、湾曲部Ｅ１３１側の端部は、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの湾曲面に沿って上方側（矢印Ｕ方向側）に変位する。これにより、振分通路Ｅ８１５０の傾斜角度を大きくできる。即ち、振分通路Ｅ８１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）できる。これにより、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様化でき、球の移動（流下、転動）方向が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【１８３６１】
背面板Ｅ８１３７は、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ８１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。
【１８３６２】
振分通路Ｅ８１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ８１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ８１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ８１５２の間に立設される被係合部Ｅ８１５３と、を備える。
【１８３６３】
上述したように、第７６実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ８１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第７６実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ８１５２及び被係合部Ｅ８

１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ８１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ８１５３ａも被係合部Ｅ８１５３と同様、下方に延設して形成される。

【１８３６４】

これにより、被ガイド部Ｅ８１５２が第１斜面部Ｅ８１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け出ることを抑制し、振分通路Ｅ８１５０のベース部材Ｅ８１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ８１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。

【１８３６５】

次いで、図１６５１を参照して、第８４実施形態および第８５実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂについて説明する。

【１８３６６】

上記第７６実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第８４実施形態および第８５実施形態では、振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ９１３０，Ｅ１０１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に非平行に変位（往復動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８３６７】

図１６５１（ａ）は、第８４実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂの部分上面図であり、図１６５１（ｂ）は、第８５実施形態における下側フレームＥ１００８６ｂの部分上面図である。なお、図１６５１では理解を容易とするため、振分通路Ｅ１５０の図示が省略される。また、下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。

【１８３６８】

第８４実施形態および第８５実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂは、第７６実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ９１３０，Ｅ１０１３０についてのみ説明する。

【１８３６９】

図１６５１（ａ）に示すように、第８４実施形態におけるベース部材Ｅ９１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ９１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ９１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ９１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える（図１６３１参照）。

【１８３７０】

第１斜面部Ｅ９１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ９１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ９１３３には、挿通孔Ｅ９１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）と、溝部Ｅ９１３３ｃとが形成される。

【１８３７１】

第１斜面部Ｅ９１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ９２０２とが配設される。

【１８３７２】

円柱体Ｅ２０１は、溝部Ｅ９１３３ｃに沿って（平行に）配設され、カバーＥ９２０２

は、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設され、挿通孔Ｅ９１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ９１３３ａの外形と略同等またはやや大きな孔が穿設される。

【１８３７３】

溝部Ｅ９１３３ｃは、挿通孔Ｅ９１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に一対形成される。

【１８３７４】

挿通孔Ｅ９１３３ａ及び一対の溝部Ｅ９１３３ｃは、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に非平行に延設される。詳細には、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側に向かうにつれて前方（矢印Ｆ方向）に傾斜して延設される。従って、振分通路Ｅ１５０（図１６３３参照）は、溝部Ｅ９１３３ｃの延設方向に沿って（平行に）変位される。

【１８３７５】

即ち、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置へ変位する場合、振分通路Ｅ１５０は中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ変位すると共に、後方側（矢印Ｂ方向側）へ変位される。これにより、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の前方側（矢印Ｆ方向側）に振分通路Ｅ１５０の突起部Ｅ１５１（図１６３３参照）を当接させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を後方側（矢印Ｂ方向側）へ変化（変更）させ易くできる。その結果、球が介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球し難くできる。

【１８３７６】

一方、振分通路Ｅ１５０が第２位置から第１位置へ変位する場合、振分通路Ｅ１５０は湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０へ変位すると共に、前方側（矢印Ｆ方向側）へ変位される。これにより、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の後方側（矢印Ｂ方向側）に振分通路Ｅ１５０の突起部Ｅ１５１を当接させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を前方側（矢印Ｆ方向側）へ変化（変更）させ易くできる。その結果、球が介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球し易くできる。

【１８３７７】

なお、係合凹部Ｅ１５３ａ（図１６３８（ａ）参照）に第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃが挿入されて係合されるため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の変位（往復動）に対し振分通路Ｅ１５０が非平行、即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても係合凹部Ｅ１５３ａと係合部Ｅ１９４ｃとの係合を維持できる。

【１８３７８】

このように、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置へ変位する場合と第２位置から第１位置へ変位する場合とで、球の移動（流下、転動）し易い方向を変化（変更）できるため、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様とできる。

【１８３７９】

図１６５１（ｂ）に示すように、第８５実施形態におけるベース部材Ｅ１０１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ１０１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ１０１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ１０１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える（図１６３１参照）。

【１８３８０】

第１斜面部Ｅ１０１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ１０１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ１０１３３には、挿通孔Ｅ１０１３３ａと

、規制部Ｅ１３３ｂ（図１６３８（ｂ）、図１６３９（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１０１３３ｃとが形成される。

【１８３８１】

第１斜面部Ｅ１０１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ１０２０２とが配設される。

【１８３８２】

カバーＥ１０２０２は、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設され、挿通孔Ｅ１０１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ１０１３３ａの外形と略同等またはやや大きな孔が穿設される。

【１８３８３】

挿通孔Ｅ１０１３３ａは、第７６実施形態における挿通孔Ｅ１３３ａに対し前後方向の幅（開口部）が大きく形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０（図１６３３参照）が長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位（往復動）すると共に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても、挿通孔Ｅ１０１３３ａと被係合部Ｅ１５３（図１６３８（ａ）参照）とが当接することを抑制できる。

【１８３８４】

溝部Ｅ１０１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１０１３３に垂直な方向視において曲線が組み合わされた形状に形成される。また、溝部Ｅ１０１３３ｃは、挿通孔Ｅ１０１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に一対形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置および第２位置から第１位置へ変位する場合において、振分通路Ｅ１５０を長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させると共に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。その結果、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置および第２位置から第１位置へ変位する過程において振分通路Ｅ１５０を前方側（矢印Ｆ方向側）へ変位させる態様と後方側（矢印Ｂ方向側））へ変位させる態様と作り出すことができ、球の移動（流下、転動）し易い方向の変化（変更）の回数を多くできる。

【１８３８５】

なお、係合凹部Ｅ１５３ａ（図１６３８（ａ）参照）に第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃが挿入されて係合されるため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の変位（往復動）に対し振分通路Ｅ１５０が非平行、即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても係合凹部Ｅ１５３ａと係合部Ｅ１９４ｃとの係合を維持できる。

【１８３８６】

次いで、図１６５２（ａ）及び図１６４１を参照して、第８６実施形態における振分通路Ｅ１１１５０について説明する。

【１８３８７】

上記第７７実施形態では、平面部Ｅ２１３３に対し前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として振分通路Ｅ２１５０が回動される場合を説明したが、第８６実施形態では、平面部Ｅ２１３３に対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０が回動される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８３８８】

図１６５２（ａ）は、第８６実施形態における振分通路Ｅ１１１５０の正面斜視図である。振分通路Ｅ１１１５０は、第７７実施形態における振分通路Ｅ２１５０の支持部Ｅ２１５０ｂの配設個数および配設位置が異なる以外は振分通路Ｅ２１５０と同一に形成されるため、振分通路Ｅ１１１５０の支持部Ｅ１１１５０ｂ以外の説明は省略する。

【１８３８９】

図１６５２（ａ）に示すように、振分通路Ｅ１１１５０の支持部Ｅ１１１５０ｂは、振分通路Ｅ１１１５０の中央通路Ｅ１６０側における下面から中央通路Ｅ１６０側に向けて突出して形成される。支持部Ｅ１１１５０ｂは、振分通路Ｅ１１１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央に配設される。

【１８３９０】
支持部Ｅ１１１５０ｂには、支持部Ｅ２１５０ｂに穿設される挿通孔と略同等の挿通孔、即ち、支持軸Ｅ２０ｊの外形よりもやや大きな挿通孔が支持部Ｅ１１１５０ｂの上面に垂直な方向に穿設される。
【１８３９１】
これにより、第８６実施形態における下側フレームＥ１１０８６ｂでは、平面部Ｅ２１３３に対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０を回動できる。詳細には、支持部Ｅ１１１５０ｂに穿設された挿通孔の軸心を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０の湾曲部Ｅ１３１側を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。これにより、振分通路Ｅ１１１５０の転動面Ｅ２１５１を移動（流下、転動）する球に前後方向への速度成分を付与でき、球の移動（流下、転動）を多様化できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。
【１８３９２】
次いで、図１６５２（ｂ）から図１６５２（ｅ）を参照して、第８７実施形態から第９０実施形態における振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０について説明する。なお、第８７実施形態から第９０実施形態においては適宜、図１６２９を参照して説明する。
【１８３９３】
上記第７６実施形態では、突起部Ｅ１５１が振分通路Ｅ１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成される場合を説明したが、第８７実施形態から第９０実施形態における振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の突起部Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、その形状が様々な態様に形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８３９４】
図１６５２（ｂ）は、第８７実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の振分通路Ｅ１２１５０に垂直な方向視の図であり、図１６５２（ｃ）は、第８８実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視の図であり、図１６５２（ｄ）は、第８９実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の部分拡大断面図であり、図１６５２（ｅ）は、第９０実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の部分拡大断面図である。なお、図１６５２（ｄ）及び図１６５２（ｅ）は、図１６３９のＭＤＣＸＬａ－ＭＤＣＸＬａ線における断面に対応する。また、突起部Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の上面に規則的に配設されるため、その一部のみを図示する。
【１８３９５】
図１６５２（ｂ）に示すように、第８７実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の突起部Ｅ１２１５１は、振分通路Ｅ１２１５０の上面から球状に突出して形成される。これにより、振分通路Ｅ１２１５０の上面を移動（流下、転動）する球を突起部Ｅ１２１５１の外面に沿わせて移動（流下、転動）させることができ、球が傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）することを抑制できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。
【１８３９６】
なお、突起部Ｅ１２１５１どうしの対向間距離は、球の直径よりも大きく形成される。これにより、球は、振分通路Ｅ１２１５０に留まることを抑制でき、振分通路Ｅ１２１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部から中央通路Ｅ１６０側の端部へ向けて振分通路Ｅ１２１５０の傾斜方向に沿って（平行に）移動（流下、転動）できる。その結果、球が振分通路Ｅ１２１５０に留まることを抑制するために、振分通路Ｅ１２１５０を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制でき、駆動手段Ｅ１９０を簡素化できる。

【１８３９７】
図１６５２（ｃ）に示すように、第８８実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の突起部Ｅ１３１５１は、振分通路Ｅ１３１５０の上面から突出され、振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視において略ひし形（四角形）状に形成される。また、突起部Ｅ１３１５１は、第７６実施形態における突起部Ｅ１５１と同様、四角錐の頭頂点側の一部が切り取られた態様に形成される。言い換えると、振分通路Ｅ１３１５０に平行な平面での断面積が、振分通路Ｅ１３１５０の上面から離れるに従い小さく形成される。
【１８３９８】
これにより、第７６実施形態における突起部Ｅ１５１に対し傾斜方向に沿って（平行に）形成される直線部を省略できるため、振分通路Ｅ１３１５０の上面において傾斜方向への球の移動（流下、転動）を少なくできる。言い換えると、振分通路Ｅ１３１５０の上面において傾斜方向に垂直な方向への球の移動（流下、転動）を多くできる。その結果、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかに案内されるまでに球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）回数を増やすことができ、遊技の興趣を向上できる。
【１８３９９】
図１６５２（ｄ）に示すように、第８９実施形態における振分通路Ｅ１４１５０の突起部Ｅ１４１５１は、振分通路Ｅ１４１５０の上面から円錐状に突出して形成される。これにより、振分通路Ｅ１４１５０の上面を移動（流下、転動）する球を突起部Ｅ１４１５１の外面に沿わせて移動（流下、転動）させることができると共に、突起部Ｅ１４１５１を乗り越えて球が移動（流下、転動）することを抑制できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできると共に、突起部Ｅ１４１５１による球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。
【１８４００】
図１６５２（ｅ）に示すように、第９０実施形態における振分通路Ｅ１５１５０の突起部Ｅ１５１５１は、その側面が、突起部Ｅ１５１５１の中心に向けて凹設される。これにより、振分通路Ｅ１５１５０の上面を移動（流下、転動）する球が、突起部Ｅ１５１５１を乗り越え易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【１８４０１】
次いで、図１６５３（ａ）を参照して、第９１実施形態における下側フレームＥ１６０８６ｂについて説明する。
【１８４０２】
上記第７９実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０の上面に突起部Ｅ１５１が形成され、球の流下（転動）方向が変化（変更）される場合を説明したが、第９１実施形態では、球が特定の位置へ向けて流下（転動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８４０３】
図１６５３（ａ）は、第９１実施形態における下側フレームＥ１６０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図１６５３（ａ）は、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が図示される。
【１８４０４】
第９１実施形態おける下側フレームＥ１６０８６ｂは、第７９実施形態おける下側フレームＥ４０８６ｂに対し、第２振分通路Ｅ４１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、第２振分通路Ｅ１６１５０についてのみ説明する。
【１８４０５】
図１６５３（ａ）に示すように、第２振分通路Ｅ１６１５０は、正面視において振分通路Ｅ１５０に対し平行に配設される、即ち、第２振分通路Ｅ１６１５０は、壁板Ｅ１３２から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して配設される（図１６４５（ａ）参照）。第２

振分通路Ｅ１６１５０は、第２振分通路Ｅ１６１５０に垂直な方向視において略矩形の板状体に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側における前後方向の長さと略同一に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過する球を第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）できる。言い換えると、振分通路Ｅ１５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部、もしくは振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａから流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。

【１８４０６】

第２振分通路Ｅ１６１５０の外縁には、案内部Ｅ１６１５４が立設され、案内部Ｅ１６１５４には案内切欠き部Ｅ１６１５４ａが中央通路Ｅ１６０側に切欠き形成される。案内切欠き部Ｅ１６１５４ａは球の直径よりもやや大きく形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１）に対応する位置に形成される。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０の案内切欠き部Ｅ１６１５４ａを通過した（第２振分通路Ｅ１６１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球を中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１、第４通路ＥＲｔ４）へ送球（案内、落下）できる。

【１８４０７】

また、案内部Ｅ１６１５４により、第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）された球が案内切欠き部Ｅ１６１５４ａ以外から送球（案内、落下）することを抑制でき、より確実に中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１、第４通路ＥＲｔ４）へ送球（案内、落下）できる。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。

【１８４０８】

このように、本実施形態においては、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置される、即ち、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）可能な状態において、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過する球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる（図１６２８参照）。

【１８４０９】

一方、振分通路Ｅ１５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部、もしくは振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａから流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。これにより、遊技者に球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過すること期待させることができる。

【１８４１０】

また、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、振分通路Ｅ１５０の端部から流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。これにより、遊技者に振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過することを期待させることができる。その結果、遊技性を多様化でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８４１１】

次いで、図１６５３（ｂ）を参照して、第９２実施形態における下側フレームＥ１７０８６ｂについて説明する。

【１８４１２】

上記第８０実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０の上面に突起部Ｅ１５１が形成され、球の流下（転動）方向が変化（変更）される場合を説明したが、第９２実施形態では、球が特定の位置へ向けて流下（転動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８４１３】

図１６５３（ｂ）は、第９２実施形態における下側フレームＥ１７０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図１６５３（ｂ）は、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状

態が図示される。
【１８４１４】
第９２実施形態おける下側フレームＥ１７０８６ｂは、第８０実施形態おける下側フレームＥ５０８６ｂに対し、第３振分通路Ｅ５１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、第３振分通路Ｅ１７１５０についてのみ説明する。
【１８４１５】
図１６５３（ｂ）に示すように、第３振分通路Ｅ１７１５０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。また、第３振分通路Ｅ１７１５０は、背面板Ｅ５１３７側（矢印Ｂ方向側）から介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して配設される。
【１８４１６】
第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁には、案内部Ｅ１７１５４が立設され、案内部Ｅ１７１５４には案内切欠き部Ｅ１７１５４ａが介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に切欠き形成される。案内切欠き部Ｅ１７１５４ａは球の直径よりもやや大きく形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において中央通路Ｅ１６０の上方孔Ｅ１６２に対応する位置に形成される。これにより、案内切欠き部Ｅ１７１５４ａを通過した（第２振分通路Ｅ１６１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球を上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）、もしくは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球（案内、落下）できる。
【１８４１７】
また、案内部Ｅ１７１５４により、第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）された球が案内切欠き部Ｅ１７１５４ａ以外から送球（案内、落下）することを抑制でき、より確実に上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球（案内、落下）できる。これにより、第３振分通路Ｅ１７１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。
【１８４１８】
このように、本実施形態においては、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過し、且つ、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）された球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる（図１６２８参照）。
【１８４１９】
なお、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、第３振分通路Ｅ１７１５０から上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）に送球（案内）でき、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、第３振分通路Ｅ１７１５０から中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に送球（案内）できる。即ち、振分通路Ｅ１５０が第１位置および第２位置のどちらに配置された状態においても、球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。
【１８４２０】
一方、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過したものの、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）および第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）されなかった球、即ち、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球（案内）された球は、第１入賞口６４へ入賞し難く（第１入賞口６４へ入賞する確率を低く）される。これにより、遊技者に球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過することに加え、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）されることを期待させることができる。その結果、遊技性を多様化でき、遊技の興趣を高めることができる。
【１８４２１】
次いで、図１６５４から図１６７１を参照して、第９３実施形態におけるセンターフレ

ームＦ８６について説明する。
【１８４２２】
図１６５４は、第９３実施形態における遊技盤Ｆ１３の正面図である。図１６５４に示すように、センターフレームＦ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＦ８６ａと下側フレームＦ８６ｂとを備える。
【１８４２３】
上側フレームＦ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）における上側（図１６５４上側）及び左右（図１６５４左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６５４下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ８６ａ及び下側フレームＦ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１５１２参照）が視認可能とされる。
【１８４２４】
なお、上側フレームＦ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６５４下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる（図１５１２参照）。
【１８４２５】
次いで、図１６５４に加え、図１６５５から図１６５６を参照して下側フレームＦ８６ｂについて説明する。図１６５５は、下側フレームＦ８６ｂの正面斜視図であり、図１６５６は、下側フレームＦ８６ｂの背面斜視図である。なお、図１６５５から図１６５６では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＦ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。また、図１６５５から図１６７１についても同様である。
【１８４２６】
図１６５４から図１６５６に示すように、下側フレームＦ８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される第１通路ＦＲｔ１と、その第１通路ＦＲｔ１を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ２及び一対の第３通路ＦＲｔ３と、第２通路ＦＲｔ２若しくは一対の第３通路ＦＲｔ３の一端側を案内された球が移動（流下、転動）される第４通路ＦＲｔ４と、一対の第３通路ＦＲｔ３の他端側もしくは第４通路ＦＲｔ４を案内された球が移動（流下、転動）される第５通路ＦＲｔ５と、第５通路ＦＲｔ５を案内された球が流下される第６通路ＦＲｔ６と、第１入賞口６４を案内された球が移動（流下、転動）される第７通路ＦＲｔ７と、第５通路ＦＲｔ５を案内された球が第６通路ＦＲｔ６へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ１（図１６５７参照）と、第６通路ＦＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１と、第７通路ＦＲｔ７を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ２とが形成される。
【１８４２７】
なお、一対の第３通路ＦＲｔ３は、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６５４左右対称）に配設される。
【１８４２８】
上側フレームＦ８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ０が配設される（図１６５４参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ０の下流端に第１通路ＦＲｔ１の上流端が連通される。
【１８４２９】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ０から下側フレームＦ８６ｂの第１通路ＦＲｔ１へ流入（入球）される。なお、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０に流入（入球）した球は、上側フレーム通路ＦＲｔ０から下側フレームＦ８６ｂの第１通路ＦＲｔ

１若しくは第５通路ＦＲｔ５へ流入（入球）されても良い。
【１８４３０】
ここで、第６通路ＦＲｔ６の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ５の流入口ＦＯＰｆ１（図１６５７参照）を通過して第５通路ＦＲｔ５から第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【１８４３１】
なお、第５通路ＦＲｔ５には、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ１１２ｂが形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ５の流出面Ｆ１１２ｂへ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ１を通過して第５通路ＦＲｔ５から第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。
【１８４３２】
また、第５通路ＦＲｔ５には、起伏Ｆ１１２ａが形成され、起伏Ｆ１１２ａの底部に流出面Ｆ１１２ｂが形成される。また、起伏Ｆ１１２ａの頂部は、流入口ＦＯＰｆ１（図１６５７参照）へ向けて下降傾斜される。従って、第５通路ＦＲｔ５のうち、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ、第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図１６５４左右方向）に沿って移動（流下、転動）される球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）されるよりも流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。
【１８４３３】
一方、起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方から起伏Ｆ１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、流入口ＦＯＰｆ１（図１６５７参照）へ向けての下降傾斜に沿って第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【１８４３４】
第１通路ＦＲｔ１には、その第１通路ＦＲｔ１を案内される球を第２通路ＦＲｔ２、第３通路ＦＲｔ３へ案内するために正面側（図１６５４紙面手前側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ１１４ａ、第２流出面Ｆ１１４ｂがそれぞれ形成（配置）される。第２流出面Ｆ１１４ｂは、第１流出面Ｆ１１４ａに対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。
【１８４３５】
なお、第１通路ＦＲｔ１には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｆ１１４ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｆ１１４ａが形成される。従って、第１通路ＦＲｔ１へ振り分けられた球は、第１流出面Ｆ１１４ａから第２通路ＦＲｔ２へ送球されるよりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第３通路ＦＲｔ３へ流出され易い。
【１８４３６】
第２通路ＦＲｔ２には、その第２通路ＦＲｔ２を案内される球を第４通路ＦＲｔ４へ案内するために第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂ（図１６６１参照）が形成（配置）される。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、上面視において、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａに重なる位置に配置される。これにより、第２通路ＦＲｔ２へ振り分けられた球は、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過し易い。
【１８４３７】
第４通路ＦＲｔ４には、その第４通路ＦＲｔ４を案内される球を第５通路ＦＲｔ５へ案内するために第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数（本実施形態においては２箇所）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂがそれぞれ形成（配置）される。
【１８４３８】
第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方に形成

（配置）され、複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）において、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部と底部（流出面Ｆ１１２ｂ）との間にそれぞれ配置される。

【１８４３９】

従って、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球は、第５通路ＦＲｔ５において、流入口ＦＯＰｆ１（図１６５７参照）へ向けての起伏Ｆ１１２ａの下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させやすく）できる。従って、第２通路ＦＲｔ２に振り分けられた球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い。

【１８４４０】

一方、複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球は、第５通路ＦＲｔ５において、その第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図１６５４左右方向）に沿って起伏Ｆ１１２ａの頂部から底部（流出面Ｆ１１２ｂ）へ向けて移動（流下、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（本実施形態では、第１入賞口６４に球を入賞させ難い）。

【１８４４１】

第３通路ＦＲｔ３には、その第３通路ＦＲｔ３を案内される球を第４通路ＦＲｔ４或いは第５通路ＦＲｔ５へ振り分ける（案内する）ために第３通路流出面Ｆ１３１ａ、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄがそれぞれ形成（配置）される。

【１８４４２】

第３通路流出面Ｆ１３１ａは、第３通路ＦＲｔ３の延設方向において第４通路ＦＲｔ４側に形成され、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、第４通路ＦＲｔ４（第３通路流出面Ｆ１３１ａ）とは反対側に形成される。また、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部および底部に対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）に位置を異ならせて形成される。従って、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過して第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられた球は、第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図１６５４左右方向）に沿って移動（流下、転動）する。

【１８４４３】

また、第３通路ＦＲｔ３には起伏が形成され、起伏の頂部は、第１通路ＦＲｔ１の第２流出面Ｆ１１４ｂの鉛直方向（図１６５４上下方向）における位置が最も低い位置よりも第４通路ＦＲｔ４側に配置される。従って、第３通路ＦＲｔ３へ振り分けられた（案内された）球は、第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４へ振り分けられる（案内される）よりも第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられ（案内され）易い。

【１８４４４】

第７通路ＦＲｔ７には、球の重さにより変位（回転）する可動通路Ｆ１９３が配設される（図１６６８参照）。可動通路Ｆ１９３の変位（回転）に連動して演出手段Ｆ１２０が動作することで、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【１８４４５】

下側フレームＦ８６ｂには、球の重さにより変位（回転）する変位部材Ｆ１３０及びその変位部材Ｆ１３０の動作に連動する確定通路Ｆ１４０が配設される。なお、確定通路Ｆ１４０の一対の遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配置され（図１６６５参照）、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１を通過し難い（第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられ難い）。言い換えると、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球が流入口ＦＯＰｆ１を通過することを妨げ易い位置に配設される。

【１８４４６】

なお、変位部材Ｆ１３０は、第３通路ＦＲｔ３に案内された球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）することで動作する。確定通路Ｆ１４０は、変位部材Ｆ１３０の動作に連動することで変位し、動作後においては、正面視、一対の遮断部Ｆ１４

３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも外側へ変位される（図１６６６参照）。
【１８４４７】
なお、本実施形態では、確定通路Ｆ１４０の遮断部Ｆ１４３ａが流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配置されることを確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させる、遮断部Ｆ１４３ａが流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも外側へ変位されることを確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる、とそれぞれ定義する。
【１８４４８】
従って、第３通路ＦＲｔ３に振り分けられた球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）することで確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させた状態では（図１６６６参照）、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくされる方向へ一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位される。これにより、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１を通過して第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【１８４４９】
なお、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させた状態では（図１６６５参照）、第３通路ＦＲｔ３の第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４へ案内（送球、流下）された球が第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過する確率は、第３通路ＦＲｔ３の第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５へ案内（送球、流下）された球が第５通路ＦＲｔ５の流入口ＦＯＰｆ１を通過する確率よりも高く設定される。従って、第３通路ＦＲｔ３へ振り分けられた球は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄよりも第３通路流出面Ｆ１３１ａへ向けて移動（流下、転動）する方が流入口ＦＯＰｆ１を通過して第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【１８４５０】
このように、本実施形態における下側フレームＦ８６ｂは、第１通路ＦＲｔ１をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球が第２通路ＦＲｔ２に振り分けられる（案内される）ことで、第１入賞口６４に入賞し易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させ易く）できる。
【１８４５１】
また、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させた状態において（図１６６５参照）、第１通路ＦＲｔ１をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球が第３通路ＦＲｔ３に振り分けられ（案内され）、次いで、第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４に振り分けられる（案内される）ことで、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５に振り分けられる（案内される）場合よりも第１入賞口６４に入賞し易くできる。
【１８４５２】
また、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５に振り分けられ（案内され）、第５通路ＦＲｔ５の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、その第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球の後続となる球が第３通路ＦＲｔ３を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）する（変位部材Ｆ１３０を動作させ、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる）ことで、第５通路ＦＲｔ５を移動する（第３通路ＦＲｔ３を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動する球の先行となる）球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４に入賞し易くできる）。
【１８４５３】
よって、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを非通過の球（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い球）であっても、変位部材Ｆ１３０を変位（回転）させる（確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる）ことで球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。これにより、第５通路ＦＲｔ５の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、変位部材Ｆ１３０を移動（流下、転動）する球の有無を遊技者に意識させ、遊技の興趣を高

めることができる。
【１８４５４】
次いで、図１６５５から図１６５６に加え、図１６５７から図１６６４を参照して、下側フレームＦ８６ｂの詳細構成について説明する。
【１８４５５】
図１６５７は、下側フレームＦ８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６５８は、下側フレームＦ８６ｂの分解背面斜視図である。図１６５９（ａ）は、確定通路Ｆ１４０の分解正面斜視図であり、図１６５９（ｂ）は、駆動手段Ｆ１８０の分解正面斜視図であり、図１６６０（ａ）は、確定通路Ｆ１４０の分解背面斜視図であり、図１６６０（ｂ）は、駆動手段Ｆ１８０の分解背面斜視図である。図１６６１は、下側フレームＦ８６ｂの上面図であり、図１６６２は、下側フレームＦ８６ｂの正面図であり、図１６６３は、下側フレームＦ８６ｂの背面図である。図１６６４（ａ）は、図１６６２の矢印ＭＤＣＬＸＩＶａ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図１６６４（ｂ）は、図１６６２の矢印ＭＤＣＬＸＩＶｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図１６６４（ｃ）は、図１６６２のＭＤＣＬＸＩＶｃ－ＭＤＣＬＸＩＶｃ線における下側フレームＦ８６ｂの断面図である。
【１８４５６】
図１６５５から図１６６４に示すように、下側フレームＦ８６ｂは、通路部材Ｆ１１０と、その通路部材Ｆ１１０の正面板Ｆ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される演出手段Ｆ１２０と、その演出手段Ｆ１２０に変位（回転）可能に係合（支持）され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される一対の変位部材Ｆ１３０と、演出手段Ｆ１２０の背面側に配設される確定通路Ｆ１４０と、その確定通路Ｆ１４０の背面側に配設される背面部材Ｆ１５０と、その背面部材Ｆ１５０に固定され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される振分通路Ｆ１６０と、その振分通路Ｆ１６０に固定され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される第２通路部材Ｆ１７０と、背面部材Ｆ１５０の背面側に配設される駆動手段Ｆ１８０と、を備える。
【１８４５７】
通路部材Ｆ１１０及び演出手段Ｆ１２０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び下方孔Ｆ１２１ａがそれぞれ形成され、それら流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び下方孔Ｆ１２１ａに確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂが挿通される。また、通路部材Ｆ１１０及び演出手段Ｆ１２０には第１切欠き部Ｆ１１３ｂ及び上方孔Ｆ１２１ｂがそれぞれ形成され、第１切欠き部Ｆ１１３ｂ及び上方孔Ｆ１２１ｂに振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２が挿通される。
【１８４５８】
変位部材Ｆ１３０は、演出手段Ｆ１２０に変位（回転）可能に係合（支持）される。変位部材Ｆ１３０には、確定通路Ｆ１４０の連結部材Ｆ１４５が回転不能に係合（固着）されており、変位部材Ｆ１３０が変位（回転）することで連結部材Ｆ１４５が変位（回転）する。これにより、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる。
【１８４５９】
また、駆動手段Ｆ１８０には、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２が係合されており、駆動手段Ｆ１８０が駆動することで可動部材Ｆ１２２が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動する。
【１８４６０】
また、通路部材Ｆ１１０には背面部材Ｆ１５０がタッピングネジにより締結固定される。演出手段Ｆ１２０、確定通路Ｆ１４０、振分通路Ｆ１６０及び駆動手段Ｆ１８０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ１５０にそれぞれ締結固定され、第２通路部材Ｆ１７０は、タッピングネジにより振分通路Ｆ１６０に締結固定される。これらにより、下側フレームＦ８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１６５５、図１６５６参照）。

【１８４６１】
　また、通路部材Ｆ１１０の下方側（矢印Ｄ方向側）であって、演出手段Ｆ１２０の正面側（矢印Ｆ方向側）には、第７通路Ｆ１９０がタッピングネジによりベース板６０に締結固定される。
【１８４６２】
　下側フレームＦ８６ｂは、通路部材Ｆ１１０、背面部材Ｆ１５０、振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、演出手段Ｆ１２０、変位部材Ｆ１３０、確定通路Ｆ１４０及び駆動手段Ｆ１８０が有色の樹脂材料から構成される。また、第７通路Ｆ１９０は、光透過性の樹脂材料から構成される。
【１８４６３】
　なお、変位部材Ｆ１３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される壁部Ｆ１３２の上端は、変位部材Ｆ１３０を移動（流下、転動）する球の上端よりも低く形成される。よって、第１通路ＦＲｔ１から第７通路ＦＲｔ７を移動する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｆ１３０、演出手段Ｆ１２０及び確定通路Ｆ１４０の動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８４６４】
　なお、演出手段Ｆ１２０、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。
【１８４６５】
　また、一方で、下側フレームＦ８６ｂは、駆動手段Ｆ１８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される演出手段Ｆ１２０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、駆動手段Ｆ１８０が遊技者に視認不能とされる。なお、駆動手段Ｆ１８０は、演出手段Ｆ１２０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、駆動手段Ｆ１８０が遊技者に視認可能となるように構成されても良い。
【１８４６６】
　通路部材Ｆ１１０は、第１通路ＦＲｔ１及び第５通路ＦＲｔ５を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ１１１と、その正面板Ｆ１１１の背面から突設される下側通路Ｆ１１２と、その下側通路Ｆ１１２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ１１３と、その立て壁部Ｆ１１３の背面から突設される上側通路Ｆ１１４と、下側通路Ｆ１１２及び上側通路Ｆ１１４の左右方向両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ１１５と、を備える。
【１８４６７】
　背面部材Ｆ１５０、立て壁部Ｆ１１３及び上側通路Ｆ１１４により区画された空間により第１通路ＦＲｔ１が形成され、正面板Ｆ１１１、下側通路Ｆ１１２及び立て壁部Ｆ１１３により区画された空間により第５通路ＦＲｔ５が形成される。
【１８４６８】
　正面板Ｆ１１１は、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球が遊技領域へ流出されることを抑制するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される中央部と、その中央部の左右方向両端側から外側へ向けて鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜される傾斜部とから形成される。正面板Ｆ１１１の傾斜部の上端は、下側通路Ｆ１１２の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球は、正面板Ｆ１１１の傾斜部の背面に当接可能となり、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制される。
【１８４６９】
　正面板Ｆ１１１には、その正面板Ｆ１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＦ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｆ１１１ａに挿通したタ

ッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【１８４７０】
正面板Ｆ１１１の中央部には、第１入賞口６４（図１６５４参照）の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置に流出口ＦＯＰｏｕｔ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、正面視略矩形状であり、球の外形よりもやや大きく形成される。上述したように、流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第６通路ＦＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。
【１８４７１】
正面板Ｆ１１１には、流出口ＦＯＰｏｕｔ１の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に張出し部Ｆ１１１ｂが鉛直方向上方へ向けて突設される。また、正面視における形状が下側通路Ｆ１１２の流出面Ｆ１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ１１１ｃが流出面Ｆ１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。張出し部Ｆ１１１ｂにより、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制され、切欠き部Ｆ１１１ｃを通過することで、第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられた球が遊技領域へ流出（流下）される。
【１８４７２】
下側通路Ｆ１１２は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、立て壁部Ｆ１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、下側通路Ｆ１１２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２へ案内（送球、流下）された球を立て壁部Ｆ１１３に当接させつつ左右方向に沿って揺動（移動、転動）させることができる。
【１８４７３】
なお、下側通路Ｆ１１２には、流入口ＦＯＰｆ１の正面側（矢印Ｆ方向側）となる位置に起伏Ｆ１１２ａが形成され、起伏Ｆ１１２ａの底部、言い換えると、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ向かうにつれて下降傾斜して形成される面と起伏Ｆ１１２ａとの境界には、一対の流出面Ｆ１１２ｂが凹面として形成（配置）される。起伏Ｆ１１２ａは、起伏Ｆ１１２ａの頂部から左右方向へ向けて下降傾斜されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側、流入口ＦＯＰｆ１側）へ向けて下降傾斜して形成される。一方、流出面Ｆ１１２ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される。
【１８４７４】
従って、起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方（矢印Ｕ方向）から起伏Ｆ１１２ａへ案内（送球、流下）された球は、起伏Ｆ１１２ａの頂部を背面側（矢印Ｂ方向側、流入口ＦＯＰｆ１側）へ向けて移動（流下、転動）し、流入口ＦＯＰｆ１を通過して（流入口ＦＯＰｆ１へ流入して）第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い。一方、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ１１２ｂへ向けて移動（流下、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い。
【１８４７５】
立て壁部Ｆ１１３は、下側通路Ｆ１１２と上側通路Ｆ１１４とを連結するための部位である。立て壁部Ｆ１１３には、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に膨出部Ｆ１１３ａが形成され、その膨出部Ｆ１１３ａには、流入口ＦＯＰｆ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。
【１８４７６】
膨出部Ｆ１１３ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。これにより、立て壁部Ｆ１１３に当接しつつ下側通路Ｆ１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が起伏Ｆ１１２ａを通過する際、その起伏Ｆ１１２ａを通過する球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分を付与できる。その結果、起伏Ｆ１１２ａを通過する球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くできる）。
【１８４７７】
流入口ＦＯＰｆ１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりも大き

く形成され、詳細には、球の外形の略３倍の大きさに形成される。なお、正面視において流入口ＦＯＰｆ１の縁により囲まれた領域のうち、左右方向略中央を除いた領域には確定通路Ｆ１４０の一対の開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が配設される。これにより、下側通路Ｆ１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され難い。

【１８４７８】

なお、一対の開閉部材Ｆ１４３の対向間は球の外形よりもやや大きく形成され、一対の開閉部材Ｆ１４３の対向間を通過した（開閉部材Ｆ１４３の対向間へ流入した）球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）される。

【１８４７９】

流入口ＦＯＰｆ１の上方側（矢印Ｕ方向側）における内周面には、上方へ向けて切り欠かれる第１切欠き部Ｆ１１３ｂが形成され、その第１切欠き部Ｆ１１３ｂの上方側における内周面には、上方へ向けて切り欠かれる第２切欠き部Ｆ１１３ｃが形成される。また、流入口ＦＯＰｆ１の左右方向両端側における立て壁部Ｆ１１３には、一対の挿通孔Ｆ１１３ｄが板厚方向に開口形成（板厚方向に穿設）される。

【１８４８０】

第１切欠き部Ｆ１１３ｂは、振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２が挿通される切欠きであり、第２切欠き部Ｆ１１３ｃは、第２通路部材Ｆ１７０の固定部Ｆ１７２が挿通される切欠きである。また、一対の挿通孔Ｆ１１３ｄは、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３が挿通される孔である。

【１８４８１】

立て壁部Ｆ１１３の上端は、上側通路Ｆ１１４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４の上面を移動（流下、転動）する球を立て壁部Ｆ１１３の背面に当接させることができ、上側通路Ｆ１１４の上面を移動（流下、転動）する球が下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ流出（流下）されることを抑制できる。

【１８４８２】

また、立て壁部Ｆ１１３には、正面視における形状が上側通路Ｆ１１４の第１流出面Ｆ１１４ａ及び第２流出面Ｆ１１４ｂの形状と略同一となる第３切欠き部Ｆ１１３ｅ及び第４切欠き部Ｆ１１３ｆが第１流出面Ｆ１１４ａ及び第２流出面Ｆ１１４ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ形成される。

【１８４８３】

第３切欠き部Ｆ１１３ｅを通過することで、第１通路ＦＲｔ１を案内された球が第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内（送球、流出）され、第４切欠き部Ｆ１１３ｆを通過することで、第１通路ＦＲｔ１を案内された球が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）される。

【１８４８４】

上側通路Ｆ１１４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。

【１８４８５】

なお、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における略中央には起伏が形成され、起伏の頂部から左右方向へ向かうにつれて下降傾斜される。また、起伏の頂部には第２通路部材Ｆ１７０側（正面側、矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ１１４ａが形成（配置）され、起伏の底部、言い換えると、左右方向に下降傾斜して形成される面と起伏面との境界には、変位部材Ｆ１３０側（正面側、矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として一対の第２流出面Ｆ１１４ｂが形成（配置）される。

【１８４８６】

従って、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）へ振り分けられた（案内された）球は、第１流出面Ｆ１１４ａから第３切欠き部Ｆ１１３ｅを通過して第２通路部材Ｆ１７０（

第２通路ＦＲｔ２）へ案内されるよりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第４切欠き部Ｆ１１３ｆを通過して変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）され易い。

【１８４８７】

また、上側通路Ｆ１１４は、背面部材Ｆ１５０側（矢印Ｂ方向側）に向けて下降傾斜して形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（流下、転動）する球は、第１流出面Ｆ１１４ａ又は第２流出面Ｆ１１４ｂを通過し易く、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）若しくは変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）されることに要する時間を嵩ませることができる。その結果、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ振り分けられる（案内される）ことを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８４８８】

留め部Ｆ１１５には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔Ｆ１１５ａが板厚方向に穿設され、その挿通孔Ｆ１１５ａに挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ１５０に締結されることで、通路部材Ｆ１１０に背面部材Ｆ１５０が固定（配設）される。

【１８４８９】

演出手段Ｆ１２０は、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くするためのものであり、固定部材Ｆ１２１と、その固定部材Ｆ１２１の下方（矢印Ｄ方向）であり、且つ、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される可動部材Ｆ１２２と、固定部材Ｆ１２１及び可動部材Ｆ１２２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される着色部材Ｆ１２３と、を備える。

【１８４９０】

固定部材Ｆ１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される本体部と、その本体部の左右方向両端側から下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される突出部とから形成される。可動部材Ｆ１２２は、左右方向に延設される本体部と、その本体部の左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突出される突出部とから形成される。固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた空間に開口部が形成される。

【１８４９１】

詳細は後述するが、可動部材Ｆ１２２は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動可能に配設される。これにより、固定部材Ｆ１２１及び可動部材Ｆ１２２により形成される開口部の大きさが変化可能に形成される。なお、可動部材Ｆ１２２は、固定部材Ｆ１２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されることで、固定部材Ｆ１２１と可動部材Ｆ１２２との当接が抑制される。

【１８４９２】

固定部材Ｆ１２１には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に配設される下方孔Ｆ１２１ａと、その下方孔Ｆ１２１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方孔Ｆ１２１ｂと、その上方孔Ｆ１２１ｂの左右方向両端側に配設される一対の挿通孔Ｆ１２１ｃとが開口形成（板厚方向に穿設）される。また、固定部材Ｆ１２１の背面には、一対の挿通孔Ｆ１２１ｃの左右方向中央側となる位置に一対の規制片Ｆ１２１ｄ（図１６６５参照）が形成される。

【１８４９３】

下方孔Ｆ１２１ａ及び上方孔Ｆ１２１ｂは、通路部材Ｆ１１０の流入口ＦＯＰｆ１及び第１切欠き部Ｆ１１３ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）にそれぞれ形成される。下方孔Ｆ１２１ａを介して確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３が固定部材Ｆ１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、上方孔Ｆ１２１ｂを介して振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１が通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される。

【１８４９４】

一対の挿通孔Ｆ１２１ｃは、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３を挿通させるための孔であり、通路部材Ｆ１１０の第２流出面Ｆ１１４ｂの下方（矢印Ｄ方向）に穿設される。挿通

孔Ｆ１２１ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）および背面側（矢印Ｂ方向側）における端部にはブッシュ（図示せず）がそれぞれ配設される。それらブッシュを介して軸Ｆ１３３が固定部材Ｆ１２１に回転可能に係合（軸支）される。

【１８４９５】

一対の規制片Ｆ１２１ｄは、確定通路Ｆ１４０（連結部材Ｆ１４５）の変位（回転）を規制するための部位であり、連結部材Ｆ１４５の錘支持部Ｆ１４５ｃに当接可能に形成される（図１６６５参照）。

【１８４９６】

可動部材Ｆ１２２は、球の外形よりも大きく形成され、詳細には、可動部材Ｆ１２２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が球の外形の略２０倍の大きさに形成される。これにより、球と比較して、可動部材Ｆ１２２の動作（変位）を遊技者に視認させ易くできる。

【１８４９７】

可動部材Ｆ１２２は、駆動手段Ｆ１８０に係合されており、駆動手段Ｆ１８０が駆動することで可動部材Ｆ１２２は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動される。なお、駆動手段Ｆ１８０は、球が第７通路ＦＲｔ７に案内されたことを契機として駆動する。よって、可動部材Ｆ１２２が上下方向に往復動することで、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【１８４９８】

着色部材Ｆ１２３は、駆動手段Ｆ１８０を遊技者に視認不能とさせるためのものであり、着色された板状体から形成される。着色部材Ｆ１２３の下端は、最も下方（矢印Ｄ方向）に位置した状態における可動部材Ｆ１２２の本体部の上端よりも下方に形成される。

【１８４９９】

また、着色部材Ｆ１２３は、可動部材Ｆ１２２とは異なる色に着色される。これにより、可動部材Ｆ１２２の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における往復動を遊技者に視認させ易くでき、下側フレームＦ８６ｂに振り分けられた（案内された）球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【１８５００】

変位部材Ｆ１３０は、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３を動作（変位、回転）させるためのものであり、通路部Ｆ１３１と、その通路部Ｆ１３１の正面端に配設される壁部Ｆ１３２と、を備える。通路部Ｆ１３１、壁部Ｆ１３２及び通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３により区画された空間により第３通路ＦＲｔ３が形成される。また、変位部材Ｆ１３０には、軸Ｆ１３３が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設（固着）される。

【１８５０１】

通路部Ｆ１３１は、上側通路Ｆ１１４の第２流出面Ｆ１１４ｂから案内（送球、流下）された球を振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）もしくは通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分ける（案内させる）ための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板状体から形成される。

【１８５０２】

通路部Ｆ１３１には左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ向かうにつれて下降傾斜される起伏が形成され、起伏の頂部よりも振分通路Ｆ１６０側（左右方向中央側）が上述した第３通路流出面Ｆ１３１ａとして形成される。起伏の頂部よりも振分通路Ｆ１６０側（第３通路流出面Ｆ１３１ａとは反対側、左右方向両端側）には転動面Ｆ１３１ｂが形成され、第３通路流出面Ｆ１３１ａと転動面Ｆ１３１ｂとの境界が起伏の頂部として形成される。また、通路部Ｆ１３１には転動面Ｆ１３１ｂの先端となる位置に下方側（矢印Ｄ方向側）に凹設される凹部Ｆ１３１ｃが形成される。

【１８５０３】

通路部Ｆ１３１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第３通路流出面Ｆ１３１ａに対向する位置（第３通路流出面Ｆ１３１ａの端部よりも左右方向中央側となる位置）には

、振分通路Ｆ１６０における背面側（矢印Ｂ方向側）が配置される。これにより、第３通路流出面Ｆ１３１ａから振り分けられた（案内された）球を振分通路Ｆ１６０の中央とは異なる位置（偏心した位置）へ案内（送球、流下）できる。

【１８５０４】

通路部Ｆ１３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅寸法は、球の直径よりも大きく形成され、転動面Ｆ１３１ｂは、起伏の頂部から凹部Ｆ１３１ｃへ向かうにつれて前後方向における幅寸法が徐々に大きく形成される。

【１８５０５】

第３通路流出面Ｆ１３１ａ及び転動面Ｆ１３１ｂは、通路部Ｆ１３１の延設方向（左右方向）において、起伏の頂部とは反対側へ向かうにつれて下降傾斜してそれぞれ形成される。また、転動面Ｆ１３１ｂは、壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。これらにより、転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられた（案内された）球を壁部Ｆ１３２へ当接させつつ転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）させることができる。

【１８５０６】

凹部Ｆ１３１ｃは、円筒状に形成され、その凹部Ｆ１３１ｃの底面Ｆ１３１ｃ１には上述した第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄが形成（穿設）される。言い換えると、底面Ｆ１３１ｃ１は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲に沿って連続して形成される。第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、球の直径よりもやや大きな直径を有する円状に形成され、その第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心は、凹部Ｆ１３１ｃの中心軸上に配置される。

【１８５０７】

凹部Ｆ１３１ｃの内径は、球の直径の略１．５倍の大きさに形成され、凹部Ｆ１３１ｃの内周面と第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの内周面との間の距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球の重心を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの内周面よりも中心側へ位置させることができ、球の重量を利用して凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球を、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて変位させることができる。

【１８５０８】

また、凹部Ｆ１３１ｃの凹設深さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ１３１ｃに案内（送球、流下）された球を遊技者に視認させることができる。また、凹部Ｆ１３１ｃの底面Ｆ１３１ｃ１は、平坦面に形成される。言い換えると、底面Ｆ１３１ｃ１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さが第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲に沿って連続して同一に設定される。

【１８５０９】

上述したように、転動面Ｆ１３１ｂが壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球を壁部Ｆ１３２に当接させつつ凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）できる。言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃ（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄ）の中心軸に対し、偏心した位置（中心軸とは異なる位置）へ向けて球を移動（流下、転動）させることができる。

【１８５１０】

これにより、球に作用する遠心力を利用して凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球を凹部Ｆ１３１ｃの内周面（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲）に沿って移動（流下、転動）させることができる。また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲）に当接した状態で球が移動（流下、転動）することで球の速度を低下させることができる。その結果、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入して凹部Ｆ１３１ｃから球が案内（送球、流下）されることを遅延させることができる（球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入することに要する時間を嵩ませることができる）。

【１８５１１】

また、通路部Ｆ１３１には、起伏の頂部よりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に下方側（矢印Ｄ方向側）に突出する連結部が形成され、その連結部には断面Ｄ字状の穴として形成される嵌合穴Ｆ１３１ｅが連結部の背面から正面側（矢印Ｆ方向側

）へ向けて凹設される。嵌合穴Ｆ１３１ｅは、軸Ｆ１３３を回転不能に嵌合（固着）させるための孔である。

【１８５１２】

壁部Ｆ１３２は、通路部Ｆ１３１の第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）が通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位である。

【１８５１３】

壁部Ｆ１３２は、有色の樹脂材料から構成されており、通路部Ｆ１３１の起伏を遊技者に視認不能とできる。これにより、通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）された球が第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されるかを遊技者に判別させ難くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８５１４】

一方、壁部Ｆ１３２の上端と通路部Ｆ１３１の上面との間の距離は球の直径よりも小さく形成される。これにより、通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）を移動（流下、転動）する球を遊技者に視認可能とできる。

【１８５１５】

軸Ｆ１３３は、金属材料から棒状に形成され、その軸Ｆ１３３の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢でブッシュ（図示せず）を介して固定部材Ｆ１２１に回転可能に係合される。

【１８５１６】

軸Ｆ１３３の前端側及び後端側は、嵌合穴Ｆ１３１ｅの断面形状および確定通路Ｆ１４０の連結本体部Ｆ１４５ａに穿設される挿通孔Ｆ１４５ａ１の断面形状に一致した外形にそれぞれ形成される。嵌合穴Ｆ１３１ｅに軸Ｆ１３３の前端側が嵌合（固着）されることで通路部Ｆ１３１に軸Ｆ１３３が回転不能に配設（軸支）され、挿通孔Ｆ１４５ａ１に軸Ｆ１３３の後端側が嵌合されることで連結本体部Ｆ１４５ａに軸Ｆ１３３が回転不能に配設（軸支）される。軸Ｆ１３３を介することで、変位部材Ｆ１３０と確定通路Ｆ１４０とが一体化（１のユニットとして形成）される。

【１８５１７】

確定通路Ｆ１４０は、通路部材Ｆ１１０の流入口ＦＯＰｆ１を通過した（流入口ＦＯＰｆ１へ流入した）球を第１入賞口６４へ案内（送球、流下）するためのものであり、第６通路部材Ｆ１４１と、その第６通路部材Ｆ１４１に配設される軸Ｆ１４２と、その軸Ｆ１４２に回転可能に係合される開閉部材Ｆ１４３と、その開閉部材Ｆ１４３に係合するとともに左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位するスライド部材Ｆ１４４と、そのスライド部材Ｆ１４４と変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３とを連結する連結部材Ｆ１４５と、その連結部材Ｆ１４５に配設される錘Ｆ１４６と、を備える。

【１８５１８】

第６通路部材Ｆ１４１は、取付け部Ｆ１４１ａと、その取付け部Ｆ１４１ａの正面から突設される通路部Ｆ１４１ｂ及び一対の球受け部Ｆ１４１ｃと、取付け部Ｆ１４１ａの背面から突設される軸受け部Ｆ１４１ｄと、その軸受け部Ｆ１４１ｄの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される複数（本実施形態においては４個）の締結部Ｆ１４１ｅと、を備える。

【１８５１９】

取付け部Ｆ１４１ａは、正面視、横長略矩形の板状体から形成される。第６通路部材Ｆ１４１へ案内（送球、流下）された球が取付け部Ｆ１４１ａに当接することにより、球が背面側（矢印Ｂ方向側）へ変位することが規制される。

【１８５２０】

通路部Ｆ１４１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ１４１ｂ１と、その底面部Ｆ１４１ｂ１の左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ１４１ｂ２と、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。一対の壁部Ｆ１４１ｂ２の対向面間の距離は球の外形よりもやや大きく形成され、底面部Ｆ１４１ｂ

１及び一対の壁部Ｆ１４１ｂ２により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６が形成される。

【１８５２１】

通路部Ｆ１４１ｂは、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過させることで、通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）を移動（流下、落下）する球が遊技領域へ流出（第１入賞口６４へ案内）される。

【１８５２２】

底面部Ｆ１４１ｂ１の上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ１４１ｂ３が突設される。突部Ｆ１４１ｂ３は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ１４１ｂ３の上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ１４１ｂ３の対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ１４１ｂ３の正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、底面部Ｆ１４１ｂ１の上面に球が接触しない深さに設定される。

【１８５２３】

これにより、底面部Ｆ１４１ｂ１上の球を２箇所（突部Ｆ１４１ｂ３の上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ１４１ｂ３が非形成の場合と比較して、通路部Ｆ１４１ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。よって、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過した球を第１入賞口６４へ入賞（案内）させ易くできる。

【１８５２４】

球受け部Ｆ１４１ｃは、流入口ＦＯＰｆ１を通過した球を通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）するための部位である。球受け部Ｆ１４１ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板状体から形成され、左右方向両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。

【１８５２５】

球受け部Ｆ１４１ｃの下面は、通路部Ｆ１４１ｂの壁部Ｆ１４１ｂ２の上端に当接して配設される。これにより、壁部Ｆ１４１ｂ２に第６通路ＦＲｔ６を形成する機能と球受け部Ｆ１４１ｃを支持（補強）する機能とを兼用させることができ、球受け部Ｆ１４１ｃの破損を抑制し易くできる。

【１８５２６】

軸受け部Ｆ１４１ｄは、軸Ｆ１４２を支持するための部位であり、その軸受け部Ｆ１４１ｄの上面には、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹部が凹設される。その凹部に軸Ｆ１４２の下端側が配設（係合）されることで、軸Ｆ１４２が軸受け部Ｆ１４１ｄに支持される。

【１８５２７】

締結部Ｆ１４１ｅは、確定通路Ｆ１４０と背面部材Ｆ１５０とを締結固定するためのタッピングネジが螺合される部位である。締結部Ｆ１４１ｅが取付け部Ｆ１４１ａの背面から突設されることにより、取付け部Ｆ１４１ａと背面部材Ｆ１５０との間に所定の空間を形成することができる。その空間を利用して軸Ｆ１４２や一対のスライド部材Ｆ１４４が配設される。

【１８５２８】

軸Ｆ１４２は、開閉部材Ｆ１４３を変位（回転）させる際の回転軸である。軸Ｆ１４２は、金属材料から円柱状に形成され、その軸Ｆ１４２の外径は、第６通路部材Ｆ１４１の軸受け部Ｆ１４１ｄに形成される挿通穴の内径よりもやや小さく形成される。

【１８５２９】

開閉部材Ｆ１４３は、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くするためのものである。開閉部材Ｆ１４３は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側開閉部材Ｆ１４３Ｌと右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側開閉部材Ｆ１４３Ｒとから構成され、それら左側開閉

部材Ｆ１４３Ｌ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒは、一対の球受け部Ｆ１４１ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ配設される。

【１８５３０】

左側開閉部材Ｆ１４３Ｌは、遮断部Ｆ１４３ａと、その遮断部Ｆ１４３ａの背面端から下方側（矢印Ｄ方向側）に突出する連結部Ｆ１４３ｂと、その連結部Ｆ１４３ｂの下端から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する突出部Ｆ１４３ｃと、を備える。

【１８５３１】

右側開閉部材Ｆ１４３Ｒは、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに対し、連結部Ｆ１４３ｂが省略され、突出部Ｆ１４３ｃが遮断部Ｆ１４３ａの上端から背面側（矢印Ｂ方向側）に突出する点を除いて、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６５４左右対称）に形成される。よって、右側開閉部材Ｆ１４３Ｒにおける左側開閉部材Ｆ１４３Ｌと対称に形成される部位には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１８５３２】

遮断部Ｆ１４３ａは、板状体から形成され、遮断部Ｆ１４３ａの上端側は背面側（矢印Ｂ方向側）に屈曲して形成される。その遮断部Ｆ１４３ａの屈曲された部位の背面端に連結部Ｆ１４３ｂが配設される。遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配設される。従って、遮断部Ｆ１４３ａは、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球と当接可能に配設される。

【１８５３３】

一対（左側開閉部材Ｆ１４３Ｌ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒ）の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くできる（第６通路ＦＲｔ６へ案内させ難くできる）。

【１８５３４】

また、遮断部Ｆ１４３ａは、軸Ｆ１４２を中心とする円弧状に湾曲して形成される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から左右方向中央側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に凸となる湾曲状に形成される。

【１８５３５】

これにより、遮断部Ｆ１４３ａに当接した球を通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）させると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）させることができる。その結果、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を流出面Ｆ１１２ｂへ案内（送球、流下）し易くできる（第６通路ＦＲｔ６へ案内させ難くできる）。

【１８５３６】

連結部Ｆ１４３ｂは、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの突出部Ｆ１４３ｃと右側開閉部材Ｆ１４３Ｒの突出部Ｆ１４３ｃとが当接することを抑制するための部位である。左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに連結部Ｆ１４３ｂが形成されることで、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに形成される突出部Ｆ１４３ｃが右側開閉部材Ｆ１４３Ｒに形成される突出部Ｆ１４３ｃの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。

【１８５３７】

突出部Ｆ１４３ｃは、軸Ｆ１４２に軸支されると共に、スライド部材Ｆ１４４に係合される部位である。突出部Ｆ１４３ｃの連結部Ｆ１４３ｂ側（正面側、矢印Ｆ方向側）には、軸支孔Ｆ１４３ｄが穿設され、その軸支孔Ｆ１４３ｄよりも背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置には、係合孔Ｆ１４３ｅが穿設される。

【１８５３８】

軸支孔Ｆ１４３ｄは、軸Ｆ１４２の外径と同等またはやや大きく形成され、軸支孔Ｆ１４３ｄに軸Ｆ１４２が挿通されることで、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌが軸Ｆ１４２を回転軸

として回転可能に係合（軸支）される。
【１８５３９】
係合孔Ｆ１４３ｅには、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃが挿通（係合）される。係合孔Ｆ１４３ｅは、上面視、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に長い長孔状に形成される。詳細には、係合孔Ｆ１４３ｅに左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃが挿通（係合）された状態において、係合孔Ｆ１４３ｅの内周面と第１係合部Ｆ１４４ｃとの間に左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの回転（変位）による突出部Ｆ１４３ｃの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位量よりも大きな隙間が形成される。
【１８５４０】
これにより、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位に対し、係合孔Ｆ１４３ｅの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における内周面と第１係合部Ｆ１４４ｃとが当接し、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの回転（変位）が規制されることを抑制できる。
【１８５４１】
スライド部材Ｆ１４４は、開閉部材Ｆ１４３を動作（変位、回転）させるためのものである。スライド部材Ｆ１４４は、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに係合される左側スライド部材Ｆ１４４Ｌと、右側開閉部材Ｆ１４３Ｒに係合される右側スライド部材Ｆ１４４Ｒとから構成される。
【１８５４２】
左側スライド部材Ｆ１４４Ｌは、スライド本体部Ｆ１４４ａと、そのスライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の下端部から左右方向中央側へ向けて延設される延設部Ｆ１４４ｂと、その延設部Ｆ１４４ｂから上方（矢印Ｕ方向）へ突出される第１係合部Ｆ１４４ｃと、スライド本体部Ｆ１４４ａから正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される第２係合部Ｆ１４４ｄと、を備える。
【１８５４３】
右側スライド部材Ｆ１４４Ｒは、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌに対し、延設部Ｆ１４４ｂがスライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の上端部から延設され、第１係合部Ｆ１４４ｃが下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される点を除いて、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図１６５４左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６５４左右対称）に形成される。よって、右側スライド部材Ｆ１４４Ｒにおける左側スライド部材Ｆ１４４Ｌと対称に形成される部位には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１８５４４】
スライド本体部Ｆ１４４ａは、板状体から形成され、スライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部は背面側（矢印Ｂ方向側）に屈曲して形成される。その背面側に屈曲される部位には板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に挿通孔Ｆ１４４ａ１がそれぞれ穿設される。
【１８５４５】
挿通孔Ｆ１４４ａ１には、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８が挿通（係合）され（図１６６５参照）、これにより、スライド部材Ｆ１４４はスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位可能に配設（係合）される。
【１８５４６】
左側スライド部材Ｆ１４４Ｌに形成される延設部Ｆ１４４ｂと右側スライド部材Ｆ１４４Ｒに形成される延設部Ｆ１４４ｂとは上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。これにより、右側スライド部材Ｆ１４４Ｒの第１係合部Ｆ１４４ｃ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒの突出部Ｆ１４３ｃは、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃ及び左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの突出部Ｆ１４３ｃの上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、第１係合部Ｆ１４４ｃ及び突出部Ｆ１４３ｃを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置にそれぞれ配設でき、確定通路Ｆ１４０（開閉部材Ｆ１４３及びスライド部材Ｆ１４４）の設計の自由度を向上させることができる。
【１８５４７】

第１係合部Ｆ１４４ｃは、開閉部材Ｆ１４３の係合孔Ｆ１４３ｅに挿通（係合）される部位であり、円柱状に形成される。左側スライド部材Ｆ１４４Ｌがスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位し係合孔Ｆ１４３ｅの内周面を押進することで、開閉部材Ｆ１４３が軸Ｆ１４２を回転軸として回転する。

【１８５４８】

第２係合部Ｆ１４４ｄは、連結部材Ｆ１４５のスライド係合部Ｆ１４５ｂに挿通（係合）される部位であり、円柱状に形成される。第２係合部Ｆ１４４ｄとスライド係合部Ｆ１４５ｂとの係合により、連結部材Ｆ１４５の変位（回転）にスライド部材Ｆ１４４が連動して変位する。

【１８５４９】

連結部材Ｆ１４５は、スライド部材Ｆ１４４を動作（変位）させるためのものであり、連結本体部Ｆ１４５ａと、その連結本体部Ｆ１４５ａから下方（矢印Ｄ方向）へ突出されるスライド係合部Ｆ１４５ｂと、連結本体部Ｆ１４５ａから左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ突出される錘支持部Ｆ１４５ｃと、を備える。

【１８５５０】

連結本体部Ｆ１４５ａは、円柱状に形成される。連結本体部Ｆ１４５ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って断面Ｄ字状の孔として形成される挿通孔Ｆ１４５ａ１が穿設される。挿通孔Ｆ１４５ａ１に変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３が回転不能に配設（固着）されることで、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）に連動して連結部材Ｆ１４５を変位（回転）させることができる。

【１８５５１】

スライド係合部Ｆ１４５ｂは、円柱状に形成され、そのスライド係合部Ｆ１４５ｂには、スライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄが挿通（係合）される挿通孔Ｆ１４５ｂ１が穿設される。

【１８５５２】

挿通孔Ｆ１４５ｂ１は、正面視、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い長孔状に形成される。詳細には、挿通孔Ｆ１４５ｂ１にスライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄが挿通（係合）された状態において、挿通孔Ｆ１４５ｂ１の内周面と第２係合部Ｆ１４４ｄとの間に連結部材Ｆ１４５の変位（回転）によるスライド係合部Ｆ１４５ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位量よりも大きな隙間が形成される。

【１８５５３】

これにより、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位に対し、挿通孔Ｆ１４５ｂ１の上下方向における内周面とスライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄとが当接し、連結部材Ｆ１４５の変位（回転）が規制されることを抑制できる。

【１８５５４】

錘支持部Ｆ１４５ｃは、背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ１４５ｃの内周面は、錘Ｆ１４６の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ１４５ｃの内周面に錘Ｆ１４６が配設（係合）されることで、錘Ｆ１４６が連結部材Ｆ１４５に配設（支持）される。

【１８５５５】

錘Ｆ１４６は、連結部材Ｆ１４５の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ１４６が挿通孔Ｆ１４５ａ１よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設されることで、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心は、挿通孔Ｆ１４５ａ１よりも左右方向両端側にに位置する。

【１８５５６】

背面部材Ｆ１５０は、下側フレームＦ８６ｂの背面を形成するためのものであり、背面壁部Ｆ１５１と、その背面壁部Ｆ１５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端、且つ、下端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される一対の第１固定部Ｆ１５２と、一対の第１固定部Ｆ１５２の上方（矢印Ｕ方向）において正面側へ向けて突出される一対の第２固

定部Ｆ１５３と、一対の第２固定部Ｆ１５３の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される一対の締結部Ｆ１５４と、一対の締結部Ｆ１５４の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される一対の第１支持部Ｆ１５５と、一対の第１支持部Ｆ１５５の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される第２支持部Ｆ１５６と、背面壁部Ｆ１５１の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突出部Ｆ１５７と、を備える。また、背面部材Ｆ１５０には、一対のスライド棒Ｆ１５８が配設（係合）される。

【１８５５７】

背面壁部Ｆ１５１は、横長略矩形の板状体から構成され、背面壁部Ｆ１５１には、一対の第１逃がし孔Ｆ１５１ａと、一対の第１逃がし孔Ｆ１５１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される一対の第２逃がし孔Ｆ１５１ｂとが板厚方向にそれぞれ開口形成（板厚方向に穿設）される。また、背面壁部Ｆ１５１の下端には、切欠き部Ｆ１５１ｃが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて切欠き形成される。

【１８５５８】

第１逃がし孔Ｆ１５１ａは、連結部材Ｆ１４５の錘支持部Ｆ１４５ｃの外形よりも大きく形成され、第１逃がし孔Ｆ１５１ａの内側に錘支持部Ｆ１４５ｃが配設される。これにより、下側フレームＦ８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚み寸法を小さくできる。

【１８５５９】

第２逃がし孔Ｆ１５１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凸となる半円状の湾曲部Ｆ１５１ｂ１と、その湾曲部Ｆ１５１ｂ１の左右方向中央側において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設される直線部Ｆ１５１ｂ２とから構成される。湾曲部Ｆ１５１ｂ１は、駆動手段Ｆ１８０の連結部材Ｆ１８４の外形よりもやや大きく形成され、第２逃がし孔Ｆ１５１ｂ（湾曲部Ｆ１５１ｂ１）を挿通して背面部材Ｆ１５０の正面側（矢印Ｆ方向側）へ連結部材Ｆ１８４が配設される。

【１８５６０】

直線部Ｆ１５１ｂ２は、駆動手段Ｆ１８０の連結部材Ｆ１８４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動するための逃がし孔である。直線部Ｆ１５１ｂ２の上端は、湾曲部Ｆ１５１ｂ１の上端と一体に形成され、直線部Ｆ１５１ｂ２の下端は、湾曲部Ｆ１５１ｂ１の下端よりも下方（矢印Ｄ方向）に形成される。これにより、連結部材Ｆ１８４が下方に変位した状態においては、連結部材Ｆ１８４の背面側（矢印Ｂ方向側）には背面壁部Ｆ１５１が位置する（湾曲部Ｆ１５１ｂ１が非形成とされる）。このように、背面壁部Ｆ１５１に開口形成（穿設）される湾曲部Ｆ１５１ｂ１を小さく形成することで、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。

【１８５６１】

切欠き部Ｆ１５１ｃは、駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１と第７通路Ｆ１９０のスイッチＦ１９２とを電気的に接続する配線（図示せず）を挿通させる部位であり、これにより、背面部材Ｆ１５０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置されるスイッチＦ１９２と背面部材Ｆ１５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１とが電気的に接続される。

【１８５６２】

第１固定部Ｆ１５２は、ベース板６０に背面部材Ｆ１５０を締結固定するための部位であり、四角柱状に形成される。第１固定部Ｆ１５２には挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、背面部材Ｆ１５０がベース板６０に固定（配設）される。通路部材Ｆ１１０の正面板Ｆ１１１に加え、第１固定部Ｆ１５２がベース板６０に固定（配設）されることで、下側フレームＦ８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を図ることができる。

【１８５６３】

また、第１固定部Ｆ１５２が背面壁部Ｆ１５１の下端に配設されるため、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第１固定部Ｆ１５２と正面板Ｆ１１１との間の距離を大きく設定でき、下側フレームＦ８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を一層図ることができる。

【１８５６４】
　第２固定部Ｆ１５３及び締結部Ｆ１５４は、通路部材Ｆ１１０に背面部材Ｆ１５０を締結固定するための部位であり、第２固定部Ｆ１５３は四角柱状に、締結部Ｆ１５４は円柱状に、それぞれ形成される。
【１８５６５】
　留め部Ｆ１１５の挿通孔Ｆ１１５ａを挿通したタッピングネジが第２固定部Ｆ１５３に締結固定されることで、背面部材Ｆ１５０が通路部材Ｆ１１０に固定（配設）される。また、締結部Ｆ１５４には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って挿通孔が穿設され、その挿通孔にタッピングネジが挿通されることで、背面部材Ｆ１５０が通路部材Ｆ１１０に固定（配設）される。
【１８５６６】
　第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６は、スライド棒Ｆ１５８を支持するための部位である。第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６には左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って挿通孔がそれぞれ穿設され、それら挿通孔にスライド棒Ｆ１５８が挿通されることで、背面部材Ｆ１５０にスライド棒Ｆ１５８が配設（支持）される。
【１８５６７】
　また、第２支持部Ｆ１５６には、その第２支持部Ｆ１５６の正面側（矢印Ｆ方向側）に、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って挿通孔Ｆ１５６ａが穿設され、第２支持部Ｆ１５６の正面端には係止部Ｆ１５６ｂが突出して形成される。
【１８５６８】
　挿通孔Ｆ１５６ａの内径は、軸Ｆ１４２の外径よりもやや大きく形成され、挿通孔Ｆ１５６ａに軸Ｆ１４２が挿通される。軸Ｆ１４２が確定通路Ｆ１４０の軸受け部Ｆ１４１ｄ及び第２支持部Ｆ１５６（挿通孔Ｆ１５６ａ）により支持（係合）されることで、軸Ｆ１４２が下側フレームＦ８６ｂに配設される。係止部Ｆ１５６ｂは、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３の変位（回転）を規制する部位である。
【１８５６９】
　突出部Ｆ１５７は、駆動手段Ｆ１８０のガイド部材Ｆ１８５を挿通したタッピングネジが締結固定される部位であり、円柱状から形成される。突出部Ｆ１５７が背面壁部Ｆ１５１の背面から突出されることで、タッピングネジの締結代を大きくできる。
【１８５７０】
　スライド棒Ｆ１５８は、確定通路Ｆ１４０のスライド部材Ｆ１４４をスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位させるためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。スライド棒Ｆ１５８の外周面には、第１支持部Ｆ１５５よりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置に、径方向へ向けての切り込みが形成され、その切り込みには金属リング状のＣリング（図示せず）が嵌合される。これにより、スライド棒Ｆ１５８は、第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６に抜去不能に支持される。
【１８５７１】
　スライド棒Ｆ１５８は、そのスライド棒Ｆ１５８の延設方向（軸方向）が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った姿勢で第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６に支持（配設）される。スライド棒Ｆ１５８がスライド部材Ｆ１４４の挿通孔Ｆ１４４ａ１に挿通（係合）されることで、スライド部材Ｆ１４４がスライド棒Ｆ１５８に配設（係合）される。
【１８５７２】
　振分通路Ｆ１６０は、振分通路Ｆ１６０に形成された複数の振り分け孔に応じて下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の異なる位置へ球を案内（送球、流下）するためのいわゆるクルーンと呼ばれる装置である。振分通路Ｆ１６０は、第４通路部Ｆ１６１と、その第４通路部Ｆ１６１の背面端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される固定部Ｆ１６２と、を備える。
【１８５７３】
　第４通路部Ｆ１６１は、上面視において円状であり、上方（矢印Ｕ方向）から下方（矢

印Ｄ方向）へ向けて凹設して形成され、第４通路部Ｆ１６１の凹設底面は、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。また、第４通路部Ｆ１６１は、固定部Ｆ１６２から正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される。

【１８５７４】

これらにより、第４通路部Ｆ１６１へ案内（送球、流下）された球を第４通路部Ｆ１６１の中央へ向けて移動（流下、転動）させると共に、その第４通路部Ｆ１６１の中央においては、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて移動（流下、転動）させることができる。

【１８５７５】

第４通路部Ｆ１６１の凹設底面には、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数（本実施形態においては２箇所）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂが板厚方向に穿設される。第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に穿設され、これにより、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ若しくは第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球を下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分ける（案内させる）ことができる。

【１８５７６】

第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方（矢印Ｕ方向）となる位置に穿設される。複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第１振り分け孔Ｆ１６１ａとは異なる位置であり、第１振り分け孔Ｆ１６１ａより正面側（矢印Ｆ方向側）に穿設される。

【１８５７７】

第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球は、起伏Ｆ１１２ａの頂部へ案内（送球、流下）されで、立て壁部Ｆ１１３の流入口ＦＯＰｆ１へ流入して確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【１８５７８】

また、第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂよりも第４通路部Ｆ１６１の流入口ＦＯＰｆ１側（矢印Ｂ方向側）に穿設される。これにより、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球が起伏Ｆ１１２ａの頂部を移動（流下、転動）する距離を小さくでき、球を確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易くできる。

【１８５７９】

一方、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流下）されるため、起伏Ｆ１１２ａの頂部から左右方向へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、正面板Ｆ１１１の切欠き部Ｆ１１１ｃを通過して遊技領域に流出（流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【１８５８０】

また、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、第１振り分け孔Ｆ１６１ａよりも第４通路部Ｆ１６１の遊技領域側（矢印Ｆ方向側、流入口ＦＯＰｆ１とは反対側）に穿設される。これにより、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球と流入口ＦＯＰｆ１との間の距離を大きくでき、球を流入口ＦＯＰｆ１へ案内させ難くできる（下側通路Ｆ１１２の流出面Ｆ１１２ｂへ案内させ易くできる）。

【１８５８１】

従って、振分通路Ｆ１６０に振り分けられた球が第２振り分け孔Ｆ１６１ｂよりも第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８５８２】

固定部Ｆ１６２は、振分通路Ｆ１６０を背面部材Ｆ１５０に締結固定させるためのものである。固定部Ｆ１６２の上面には下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹設される凹部が形成さ

れ、その凹部に第２通路部材Ｆ１７０の固定部Ｆ１７２が挿入（内嵌）される。
【１８５８３】
第２通路部材Ｆ１７０は、上側通路Ｆ１１４の第１流出面Ｆ１１４ａを案内された球を振分通路Ｆ１６０へ振り分ける（案内する）ためのものであり、通路部Ｆ１７１と、その通路部Ｆ１７１の下面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される固定部Ｆ１７２と、を備える。
【１８５８４】
通路部Ｆ１７１は、その通路部Ｆ１７１の上面を球が移動（流下、転動）する部位であり、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）に配設される。また、通路部Ｆ１７１は、第１流出面Ｆ１１４ａ（第３切欠き部Ｆ１１３ｅ）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【１８５８５】
また、通路部Ｆ１７１は、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて延設すると共に、正面側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。立て壁部Ｆ１１３との当接部を除く通路部Ｆ１７１の外縁には、立設部Ｆ１７１ａが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設され、その立設部Ｆ１７１ａに区画された空間により、第２通路ＦＲｔ２が形成される。
【１８５８６】
通路部Ｆ１７１の先端には球の外形よりもやや大きく形成される第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂが穿設される。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に形成される（上面視において第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂと第１振り分け孔Ｆ１６１ａとが重なる位置に形成される）。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過することで、通路部Ｆ１７１（第２通路ＦＲｔ２）へ振り分けられた（案内された）球は、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内される。
【１８５８７】
通路部Ｆ１７１の上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ１７１ｃが突設される。突部Ｆ１７１ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ１７１ｃの上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ１７１ｃの対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ１７１ｃの正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、通路部Ｆ１７１の上面に球が接触しない深さに設定される。
【１８５８８】
これにより、通路部Ｆ１７１上の球を２箇所（突部Ｆ１７１ｃの上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ１７１ｃが非形成の場合と比較して、通路部Ｆ１７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。これにより、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過した球を振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内させ易くできる。
【１８５８９】
固定部Ｆ１７２は、略矩形の直方体から形成され、固定部Ｆ１７２の外形は振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２に形成される凹部の内形と同等またはやや小さく形成される。固定部Ｆ１７２が固定部Ｆ１６２に形成される凹部に配設（固定、内嵌）されることで、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方に（矢印Ｕ方向）に第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを配設し易く（正確に配設）できる。
【１８５９０】
ここで、例えば、第２通路部材Ｆ１７０を背面部材Ｆ１５０に固定（配設）させる場合、背面部材Ｆ１５０へ振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０を固定する際の誤差（組立公差）や背面部材Ｆ１５０、振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂが振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に配置されない（上面視において、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂの中心と第１振り分け孔Ｆ１６１ａの中心とが一致しない）虞がある。この場合、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過した球が第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過せ

ず、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂへ振り分けられる（案内される）虞がある。
【１８５９１】
　これに対し、第２通路部材Ｆ１７０が振分通路Ｆ１６０に固定（配設）されることで、第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方に（矢印Ｕ方向）に第２通路部材Ｆ１７０の第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを配設し易く（正確に配設）でき、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内された球は、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過して確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。
【１８５９２】
　駆動手段Ｆ１８０は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作させるためのものであり、駆動力を発生させる駆動モータＦ１８１と、その駆動モータＦ１８１を支持（固定）する支持部材Ｆ１８２と、その支持部材Ｆ１８２を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して配設される伝達軸Ｆ１８３と、その伝達軸Ｆ１８３の端部に係合される連結部材Ｆ１８４と、その連結部材Ｆ１８４の左右方向両端側において連結部材Ｆ１８４を係合（支持）するガイド部材Ｆ１８５と、を備える。なお、駆動手段Ｆ１８０の駆動については、図１６６９及び図１６７１を適宜参照して説明する。
【１８５９３】
　駆動モータＦ１８１は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作（上下方向に往復動）させる駆動力を与えるためのものであり、その駆動モータＦ１８１の軸を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けた状態で配設される。これにより、軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ向けて配設する場合と比較して、前後方向における配設スペースを小さくできる。また、駆動モータＦ１８１の軸にはギア（図示せず）が配設（固着）される。
【１８５９４】
　支持部材Ｆ１８２は、駆動モータＦ１８１を支持（固定）するためのものであり、箱状に形成される。支持部材Ｆ１８２は、タッピングネジにより背面部材Ｆ１５０の背面に締結固定される。支持部材Ｆ１８２の下面には、駆動モータＦ１８１の外形よりもやや大きく形成される挿通孔が穿設され、その挿通孔を挿通して駆動モータＦ１８１の軸が支持部材Ｆ１８２の内側に配設される。
【１８５９５】
　伝達軸Ｆ１８３は、駆動モータＦ１８１の駆動力を連結部材Ｆ１８４へ伝達するためのものであり、軸部Ｆ１８３ａと、その軸部Ｆ１８３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される伝達部Ｆ１８３ｂと、その伝達部Ｆ１８３ｂの左右方向両端側の端面から突出する偏心軸Ｆ１８３ｃと、を備える。
【１８５９６】
　軸部Ｆ１８３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った棒状に延設され、軸部Ｆ１８３ａは、支持部材Ｆ１８２を貫通して配設される。軸部Ｆ１８３ａには、支持部材Ｆ１８２の内側となる位置にギア（図示せず）が配設（固着）され、その軸部Ｆ１８３ａに配設されるギアと駆動モータＦ１８１の軸に配設されるギア（図示せず）とが噛合することで、駆動モータＦ１８１の駆動力が伝達軸Ｆ１８３に伝達される。
【１８５９７】
　伝達部Ｆ１８３ｂは、円柱状に形成され、その伝達部Ｆ１８３ｂの軸心は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った姿勢で配設される。伝達部Ｆ１８３ｂの軸心に軸部Ｆ１８３ａが固定（配設）され、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心とは異なる位置に偏心軸Ｆ１８３ｃが配設される。即ち、偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心に偏心して配設される。これにより、伝達部Ｆ１８３ｂが軸部Ｆ１８３ａを回転軸として回転することで、側面視において偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）を中心とした円状に変位する。
【１８５９８】
　連結部材Ｆ１８４は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作（上下方向に往復動）させるためのものであり、本体部Ｆ１８４ａと、その本体部Ｆ１８４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端面から突出される一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂと、本体部Ｆ１

８４ａの正面に配設される取付け部Ｆ１８４ｃと、を備える。
【１８５９９】
本体部Ｆ１８４ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿ってスライド溝Ｆ１８４ａ１が開口形成される。スライド溝Ｆ１８４ａ１は、伝達軸Ｆ１８３の偏心軸Ｆ１８３ｃが配設可能に形成され、スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向における長さは偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向における変位量と同等またはやや大きく形成される。これにより、伝達軸Ｆ１８３を介して駆動モータＦ１８１の駆動力が連結部材Ｆ１８４に伝達される。
【１８６００】
詳細に説明すると、駆動モータＦ１８１が駆動することで、側面視において、偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）を中心として円状に変位する。スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った内壁を偏心軸Ｆ１８３ｃが押進することにより、偏心軸Ｆ１８３ｃの上下方向の変位が連結部材Ｆ１８４に伝達され、連結部材Ｆ１８４が上下方向に変位する。
【１８６０１】
一方、スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における長さは、偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向における変位量と同等またはやや大きく形成されるため、偏心軸Ｆ１８３ｃとスライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向両側に形成される内壁とは非当接とされる。従って、偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向の変位は連結部材Ｆ１８４に非伝達とされ、連結部材Ｆ１８４が前後方向に変位することを抑制できる。
【１８６０２】
また、偏心軸Ｆ１８３ｃは、側面視において円状に変位するため、連結部材Ｆ１８４の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）への変位を所定量に設定できる、即ち、連結部材Ｆ１８４が所定量を超えて上下方向へ変位することを抑制できる。また、偏心軸Ｆ１８３ｃを一定方向に変位させることで上下方向における連結部材Ｆ１８４の変位を往復動とすることができる。これにより、駆動モータＦ１８１の駆動方向を切り替えるための制御を不要とできる。
【１８６０３】
一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔ててそれぞれ配設される。一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂが一対のガイド溝Ｆ１８５ａにそれぞれ係合（挿通）されることで、ガイド部材Ｆ１８５に対する連結部材Ｆ１８４の回転が抑制される。
【１８６０４】
取付け部Ｆ１８４ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を板厚方向とする板状に形成される。取付け部Ｆ１８４ｃには、複数の挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２に締結されることで、連結部材Ｆ１８４に可動部材Ｆ１２２が固定（配設）される。
【１８６０５】
ガイド部材Ｆ１８５は、連結部材Ｆ１８４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へ変位（往復動）することを案内（連結部材Ｆ１８４が前後方向へ変位することを規制）するためのものである。ガイド部材Ｆ１８５には、複数の挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ１５０の突出部Ｆ１５７に締結されることで、背面部材Ｆ１５０にガイド部材Ｆ１８５が固定（配設）される。
【１８６０６】
ガイド部材Ｆ１８５には、連結部材Ｆ１８４の一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂに対応する位置に一対のガイド溝Ｆ１８５ａが穿設される。ガイド溝Ｆ１８５ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って延設され、ガイド溝Ｆ１８５ａの上下方向における延設長さは、被ガイド部Ｆ１８４ｂの上下方向における変位量よりもやや大きく形成される。ガイド溝Ｆ１８５ａに、被ガイド部Ｆ１８４ｂが挿通（配設）されることで、連結部材Ｆ１８４（被ガイド部Ｆ１８４ｂ）がガイド溝Ｆ１８５ａの延設方向（上下方向）に沿って変位可能とされると共に、連結部材Ｆ１８４（被ガイド部Ｆ１８４ｂ）の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向

）への変位が規制される。
【１８６０７】
　第７通路Ｆ１９０は、第１入賞口６４へ入賞した球を遊技領域へ流出（流下）させるためのものであり、背面通路部材Ｆ１９１と、その背面通路部材Ｆ１９１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるスイッチＦ１９２と、そのスイッチＦ１９２の上方（矢印Ｕ方向）に配設される可動通路Ｆ１９３と、を備える。
【１８６０８】
　背面通路部材Ｆ１９１は、第１入賞口６４へ入賞した球が背面側（矢印Ｂ方向側）に変位することを規制するための部材であり、正面視において横長略矩形の板状体から形成される。背面通路部材Ｆ１９１は、ベース板６０の背面から球の外形よりもやや大きな距離だけ隔てて配設され、ベース板６０、背面通路部材Ｆ１９１及び可動通路Ｆ１９３により囲まれた空間により第７通路ＦＲｔ７が形成される。
【１８６０９】
　背面通路部材Ｆ１９１は、その背面通路部材Ｆ１９１の周縁部に配設される複数（本実施形態においては４個）の係合突部Ｆ１９１ａと、背面通路部材Ｆ１９１の下端に配設されるスイッチ受け部Ｆ１９１ｂと、を備える。また、背面通路部材Ｆ１９１の下端側には、切欠き部Ｆ１９１ｃが切欠き形成される。
【１８６１０】
　係合突部Ｆ１９１ａには、挿通孔が穿設されており、その挿通孔に挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。また、係合突部Ｆ１９１ａの突設長さは、球の外形よりも大きく形成され、係合突部Ｆ１９１ａの突設先端をベース板６０の背面に当接させることで、ベース板６０と背面通路部材Ｆ１９１との間に球を案内（送球、流下）可能な空間を形成できる。
【１８６１１】
　スイッチ受け部Ｆ１９１ｂは、背面通路部材Ｆ１９１の下端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成され、スイッチ受け部Ｆ１９１ｂの上面にスイッチＦ１９２が支持（配設）される。切欠き部Ｆ１９１ｃは、可動通路Ｆ１９３の外形に沿った形状に切り欠かれ、これにより、背面通路部材Ｆ１９１と可動通路Ｆ１９３とが当接することが抑制される。
【１８６１２】
　スイッチＦ１９２は、駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１を駆動させる信号を出力するためのものであり、スイッチＦ１９２と駆動モータＦ１８１とは、配線（図示せず）により電気的に接続される。スイッチＦ１９２がオンされ、このオン動作に基づいて駆動モータＦ１８１へ信号が出力される。
【１８６１３】
　可動通路Ｆ１９３は、スイッチＦ１９２をオンするためのものであり、被軸支部Ｆ１９３ａと、その被軸支部Ｆ１９３ａから正面側に突設される軸Ｆ１９３ｂと、被軸支部Ｆ１９３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部に形成される通路部Ｆ１９３ｃと、を備える。
【１８６１４】
　軸Ｆ１９３ｂがベース板６０に穿設される挿通孔に挿通されることで、可動通路Ｆ１９３は、ベース板６０に回転可能に支持される。また、可動通路Ｆ１９３の重心は、軸Ｆ１９３ｂよりも通路部Ｆ１９３ｃ側に位置し、通路部Ｆ１９３ｃがスイッチＦ１９２に当接することで、可動通路Ｆ１９３の変位（回転）が規制される。なお、可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が非配設の状態においては、スイッチＦ１９２はオフの状態とされる。
【１８６１５】
　通路部Ｆ１９３ｃは、可動通路Ｆ１９３（第７通路ＦＲｔ７）へ案内（送球、流下）された球を遊技領域に流出（流下）させるための部位であり、通路部Ｆ１９３ｃには、通路部Ｆ１９３ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突出する

壁部Ｆ１９３ｃ１と、通路部Ｆ１９３ｃの下面から下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される押部Ｆ１９３ｃ２と、通路部Ｆ１９３ｃの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置に配設される流出面Ｆ１９３ｃ３と、が形成される。

【１８６１６】

通路部Ｆ１９３ｃは、背面通路部材Ｆ１９１側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されると共に、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。これにより、通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球を壁部Ｆ１９３ｃ１に当接させつつ左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）させることができ、球が遊技領域に流出（流下）されることを遅延させることができる。

【１８６１７】

また、通路部Ｆ１９３ｃの被軸支部Ｆ１９３ａとは反対側における端部が第１入賞口６４の下方（矢印Ｄ方向）に位置する。これにより、第１入賞口６４から通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球を通路部Ｆ１９３ｃに沿って揺動（移動、転動）させ易くできる。

【１８６１８】

押部Ｆ１９３ｃ２は、スイッチＦ１９２をオンさせるための部位であり、スイッチＦ１９２に当接した状態で配設される。可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が非配設の状態においては、スイッチＦ１９２はオフの状態であり、スイッチＦ１９２により可動通路Ｆ１９３の変位（回転）が規制される。可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が振り分けられ、可動通路Ｆ１９３の重量が増加することで、可動通路Ｆ１９３は、軸Ｆ１９３ｂを中心軸として変位（回転）し、スイッチＦ１９２がオンされる。

【１８６１９】

流出面Ｆ１９３ｃ３は、ベース板６０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として形成（配置）される。また、流出面Ｆ１９３ｃ３は、ベース板６０の流出口ＦＯＰｏｕｔ２の背面に形成され、これにより、通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球が流出口ＦＯＰｏｕｔ２へ流入して遊技領域へ流出（流下）される。

【１８６２０】

なお、本実施形態におけるベース板６０は、上記各実施形態におけるベース板６０に対し、流出口ＦＯＰｏｕｔ２が穿設される以外は同一に形成されるため、同一の符号を付して説明する。

【１８６２１】

次いで、図１６６５から図１６６６を参照して、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）に対する確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３の変位（回転）について説明する。図１６６５（ａ）及び図１６６６（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの部分拡大正面図であり、図１６６５（ｂ）及び図１６６６（ｂ）は、下側フレームＦ８６ｂの部分拡大背面図である。

【１８６２２】

なお、図１６６５は、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）前（以下「閉塞状態」と称す）における下側フレームＦ８６ｂが、図１６６６は、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）後（以下「開放状態」と称す）における下側フレームＦ８６ｂが、それぞれ図示される。また、図１６６５（ａ）及び図１６６６（ａ）においては、通路部材Ｆ１１０の張出し部Ｆ１１１ｂの図示が省略され、図１６６５（ｂ）及び図１６６６（ｂ）においては、背面部材Ｆ１５０の図示が省略される。

【１８６２３】

また、図１６６６では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０の変位（回転）後における下側フレームＦ８６ｂが図示されるが、左方側（矢印Ｌ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した状態や、一対の変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した状態においても下側フレームＦ８６ｂの開放状態と定義する。

【１８６２４】

図１６６５に示すように、閉塞状態において、一対の開閉部材Ｆ１４３の遮断部Ｆ１４３ａの対向面側の側面が背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂに当接することで開閉部材

Ｆ１４３の変位が規制される。
【１８６２５】
上述したように、遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。従って、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１へ流入し難く、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され難い。
【１８６２６】
一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の左右方向中央側には非配設とされ、流入口ＦＯＰｆ１で囲まれた領域における左右方向両側に配設される。
【１８６２７】
これにより、閉塞状態においても、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球は、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入して、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）可能となる。
【１８６２８】
また、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間は、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間へ流入して、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い。
【１８６２９】
閉塞状態において、変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心は、軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。これにより、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向する面と背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂとの当接状態が維持され、下側フレームＦ８６ｂが閉塞状態に維持される。
【１８６３０】
以下に図１６５９及び図１６６０を適宜参照して詳細に説明する。変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心が軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置することで、変位部材Ｆ１３０には、軸Ｆ１３３を回転軸として凹部Ｆ１３１ｃ側（左右方向両端側、図１６６１参照）が上方（矢印Ｕ方向）へ向けて回転する力が作用する。
【１８６３１】
軸Ｆ１３３と連結部材Ｆ１４５とは回転不能に係合（固着）されるため、連結部材Ｆ１４５のスライド係合部Ｆ１４５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて回転する力が作用し、スライド係合部Ｆ１４５ｂに係合されるスライド部材Ｆ１４４（第２係合部Ｆ１４４ｄ）には、左右方向両端側へ向けて変位する力が作用する。
【１８６３２】
スライド部材Ｆ１４４（第１係合部Ｆ１４４ｃ）には、開閉部材Ｆ１４３（係合孔Ｆ１４３ｅ）が係合されるため、スライド部材Ｆ１４４に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位する力が作用することで、開閉部材Ｆ１４３には、軸Ｆ１４２を回転軸として係合孔Ｆ１４３ｅが左右方向両端側へ向けて回転する力が作用する。
【１８６３３】
なお、遮断部Ｆ１４３ａと係合孔Ｆ１４３ｅとは、軸Ｆ１４２を挟んで前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に配設される。従って、遮断部Ｆ１４３ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて回転する力が作用し、これにより、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向面側の側面と背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂとの当接状態が維持され、下側フレームＦ８６ｂが閉塞状態に維持される。

【１８６３４】
次いで、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態から開放状態への動作について説明する。上側通路Ｆ１１４の第２流出面Ｆ１１４ｂ（第１通路ＦＲｔ１）を案内された球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）され（図１６５５参照）、球が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）することで、転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球を含む変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心が、軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。
【１８６３５】
これにより、変位部材Ｆ１３０は、軸Ｆ１３３を回転軸として凹部Ｆ１３１ｃ側（左右方向両端側、図１６６１参照）が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回転し、連結部材Ｆ１４５の連結本体部Ｆ１４５ａが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて回転する。上方へ回転した連結本体部Ｆ１４５ａが演出手段Ｆ１２０の規制片Ｆ１２１ｄに当接することで、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０の動作が規制され、下側フレームＦ８６ｂが開放状態に配置（維持）される。
【１８６３６】
なお、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０の各部材には上述した下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態の維持とは反対方向に力が作用することで下側フレームＦ８６ｂが開放状態へ動作されるため、その詳細な説明は省略する。
【１８６３７】
図１６６６に示すように、下側フレームＦ８６ｂの開放状態において、遮断部Ｆ１４３ａは、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認不能となる位置に変位される。従って、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態と比較して、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくなり、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くできる。
【１８６３８】
下側フレームＦ８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ１３０は、変位（回転）された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。
【１８６３９】
このように、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）を移動（流下、転動）する球が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されることで（図１６５５参照）、球の重量を利用して変位部材Ｆ１３０が閉塞状態から開放状態へ向けて変位（回転）する。これにより、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くでき、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。
【１８６４０】
従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を球が移動（流下、転動）している場合に、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球の有無を遊技者に意識させ、興趣を高めることができる。
【１８６４１】
なお、下側フレームＦ８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての動作は、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂから球が流出される（転動面Ｆ１３１ｂに球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての力（重力）の作用、は閉塞状態の維持と同様であるためその説明は省略する。
【１８６４２】

このように、球の重量を利用して下側フレームＦ８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。

【１８６４３】

ここで、遊技の興趣を高めるを高めるために、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）を移動（流下、転動）する球（以下「先行の球」と称す）が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられることで（図１６５５参照）、その先行の球の後続となる球（以下「後続の球」と称す）が第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）若しくは振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられ易く（第１入賞口６４へ入賞され易く）なる場合が考えられる。

【１８６４４】

この場合、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）先行の球は、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易く（第１入賞口６４へ入賞し難く）、従って、遊技者に最後まで注視され難い。

【１８６４５】

これに対し、本実施形態では、後続の球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで、先行の球を一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞させ易くできる）。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた先行の球を遊技者に最後まで注視させることができる。

【１８６４６】

また、後続の球が転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）することで、先行の球だけでなくその先行の球よりも先に下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球（以下「先々行の球」と称す）を第１入賞口６４へ入賞させ易くできる。

【１８６４７】

従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ複数（２個以上）の球が振り分けられた（案内された）状態において、後続の球が転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられることで、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する複数の球の全てを第１入賞口６４へ入賞させ易くできるため、遊技の興趣を高めることができる。

【１８６４８】

また、先行の球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで、先々行の球を第１入賞口６４へ入賞させ易くでき、先行の球が下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）状態では、先行の球は第１入賞口６４へ入賞可能となる。このように、先々行の球を第１入賞口６４へ入賞させ易くする役割と第１入賞口６４へ入賞する役割とを兼用させることができ、球の価値を高めることができる。

【１８６４９】

図１６５５から図１６６４に戻って、下側フレームＦ８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ０（図１６５４参照）を案内された球は、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の上流端に流入（入球）される。

【１８６５０】

上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の上流端に流入（入球）された球は、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って上側通路Ｆ１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）し、第１流出面Ｆ１１４ａ若しくは第２流出面Ｆ１１４ｂから第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）若しくは変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）される。

【１８６５１】

第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内（送球、流出）された球は、通路部Ｆ１７１の突出方向（矢印Ｆ方向）に沿って移動（流下、転動）し、通路部Ｆ１７１に穿

設される第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過して振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ案内（送球、流出）される。

【１８６５２】

変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）された球は、変位部材Ｆ１３０の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂ上を移動（流下、転動）する。第３通路流出面Ｆ１３１ａを移動（流下、転動）した球は、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ案内（送球、流出）され、転動面Ｆ１３１ｂ上を移動（流下、転動）した球は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過して通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流出）される。

【１８６５３】

ここで、変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１に形成される起伏の頂部（第３通路流出面Ｆ１３１ａと転動面Ｆ１３１ｂとの境界）は、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の第２流出面Ｆ１１４ｂの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における位置が最も低い位置よりも振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）側となる位置に形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）から通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）された球は、第３通路流出面Ｆ１３１ａ（振分通路Ｆ１６０、第４通路ＦＲｔ４）よりも転動面Ｆ１３１ｂ（下側通路Ｆ１１２、第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流下）され易い。

【１８６５４】

変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）された球が転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されることで、下側フレームＦ８６ｂが開放状態に配置され、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。

【１８６５５】

上述したように、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３は、通路部材Ｆ１１０の第２流出面Ｆ１１４ｂの下方（矢印Ｄ方向）に配設されるため、第２流出面Ｆ１１４ｂから案内（送球、流下）された球を軸Ｆ１３３の上方（矢印Ｕ方向）における通路部Ｆ１３１へ案内（送球、流下）させることができる。これにより、通路部Ｆ１３１へ球が案内（送球、流下）された際の衝撃を通路部Ｆ１３１に加え軸Ｆ１３３により受け止めることができ、通路部Ｆ１３１の破損を抑制し易くできる。

【１８６５６】

また、転動面Ｆ１３１ｂを球が転動（送球、流下）するに従って、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０を徐々に変位（回転）させることができる。これにより、連結部材Ｆ１４５の連結本体部Ｆ１４５ａと演出手段Ｆ１２０の規制片Ｆ１２１ｄとが当接する際の衝撃を小さくでき、連結本体部Ｆ１４５ａ又は規制片Ｆ１２１ｄの破損を抑制し易くできる。

【１８６５７】

ここで、図１６６７を参照して、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）について説明する。図１６６７は、変位部材Ｆ１３０の部分上面図であり、図１６６７（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態、図１６６７（ｂ）から図１６６７（ｄ）は、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における変位部材Ｆ１３０が図示される（図１６６５、図１６６６参照）。

【１８６５８】

図１６６７（ａ）に示すように、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）（図１６６１参照）から変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）された球ＣＢ１は、転動面Ｆ１３１ｂに形成される下降傾斜に沿って凹部Ｆ１３１ｃへ向けて移動（流下、転動）される。

【１８６５９】

図１６６７（ｂ）に示すように、転動面Ｆ１３１ｂが壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）

へ向けて下降傾斜して形成されるため、球ＣＢ１は、壁部Ｆ１３２に当接しつつ凹部Ｆ１３１ｃへ向けて移動（流下、転動）される。このように、球ＣＢ１を壁部Ｆ１３２に当接しつつ移動（流下、転動）させることで、壁部Ｆ１３２との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減できる。これにより、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における期間を長くできる。

【１８６６０】

図１６６７（ｃ）に示すように、球ＣＢ１が壁部Ｆ１３２に当接しつつ移動（流下、転動）されることにより、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃにおける壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ案内される。即ち、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃの軸心（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心）から偏心した位置へ向けて案内される。

【１８６６１】

図１６６７（ｄ）に示すように、凹部Ｆ１３１ｃの軸心（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心）から偏心した位置へ球ＣＢ１が案内されることで、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回され易い。これにより、球ＣＢ１が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入して変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）から流出（流下）されることを遅延させることができる。その結果、変位部材Ｆ１３０に球ＣＢ１の重量が作用している期間を長くでき、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における期間を長くできる。

【１８６６２】

また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って球ＣＢ１を移動（流下、転動）させることで、凹部Ｆ１３１ｃの内周面との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減でき、球ＣＢ１が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入することを遅延させることができる。

【１８６６３】

ここで、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１は、平坦面に形成される、言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃの内周面が径方向において同一に形成され、底面Ｆ１３１ｃ１が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において同一に形成される。従って、、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１に高低差が無く、球ＣＢ１を凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回させ易くできる。

【１８６６４】

また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１が連続して形成される、言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１に間欠部が非形成とされるため、球ＣＢ１を凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回させ易くできる。

【１８６６５】

図１６５５から図１６６４に戻って説明する。上述したように、通路部Ｆ１３１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第３通路流出面Ｆ１３１ａに対向する位置には、振分通路Ｆ１６０における背面側（矢印Ｂ方向側）が配置される。

【１８６６６】

これにより、第３通路流出面Ｆ１３１ａ（第３通路ＦＲｔ３）から第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球を円状に湾曲して形成される第４通路部Ｆ１６１の凹設側面に沿って移動（流下、転動）させることができ、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ若しくは第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流出）されることを遅延させることができる。その結果、遊技者に第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過することを期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８６６７】

第２通路部材Ｆ１７０の第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に形成される（上面視において第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂと第１振り分け孔Ｆ１６１ａとが重なる位置に形成される）ため（図１６６１参照）、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）から振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球は、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過し易い。

【１８６６８】
　一方、振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１は、固定部Ｆ１６２から正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成され、且つ、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、第１振り分け孔Ｆ１６１ａより正面側に穿設されるため、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）から振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球は、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過し易い。
【１８６６９】
　振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球は、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）に形成される起伏Ｆ１１２ａの頂部のへ案内（送球、流出）される。起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜により、起伏Ｆ１１２ａの頂部へ案内（送球、流出）された球は、流入口ＦＯＰｆ１へ向けて移動（流下、転動）し、開閉部材Ｆ１４３の一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間へ流入して確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。
【１８６７０】
　一方、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過、若しくは、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過した球は、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）に形成される起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流出）される。
【１８６７１】
　下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の流出面Ｆ１１２ｂは、起伏Ｆ１１２ａの底部に形成されるため、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられた球は、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。
【１８６７２】
　また、立て壁部Ｆ１１３には膨出部Ｆ１１３ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成されるため、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、膨出部Ｆ１１３ａに沿って移動（流下、転動）することで、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ１１３に穿設される流入口ＦＯＰｆ１へ流入し難く、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。
【１８６７３】
　ここで、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態では、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁部の内側に配設される。一方、下側フレームＦ８６ｂの開放状態では、遮断部Ｆ１４３ａは、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、閉塞状態よりも一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくされる。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、閉塞状態よりも開放状態において流入口ＦＯＰｆ１（一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間）へ流入し、確定通路Ｆ１４０の第６通路部材Ｆ１４１（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。
【１８６７４】
　従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を球が移動（流下、転動）している状態において、下側フレームＦ８６ｂが開放状態となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８６７５】
　流入口ＦＯＰｆ１（一対の遮断部Ｆ１４３ａの間）へ流入した球は、確定通路Ｆ１４０の第６通路部材Ｆ１４１（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され、第６通路部材Ｆ１４１の通路部Ｆ１４１ｂに形成された一対の突部Ｆ１４１ｂ３に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。次いで、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰ

ｏｕｔ１を通過して第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）される。
【１８６７６】
次いで、図１６６８から図１６７１を参照して、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２の動作（上下方向の往復動）について説明する。図１６６８及び図１６７０は、下側フレームＦ８６ｂの正面図である。図１６６９（ａ）及び図１６７１（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの背面図であり、図１６６９（ｂ）は、図１６６９（ａ）の矢印ＭＤＣＬＸＩＸｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図１６７１（ｂ）は、図１６７１（ａ）の矢印ＭＤＣＬＸＸＩｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図である。
【１８６７７】
なお、図１６６８及び図１６６９は、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態が図示され、図１６７０及び図１６７１は、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態が図示される。
【１８６７８】
また、図１６６８及び図１６７０においては、ベース板６０及び第７通路Ｆ１９０の背面通路部材Ｆ１９１の図示が省略され、図１６６９及び図１６７１においては、駆動手段Ｆ１８０のガイド部材Ｆ１８５の外形が二点鎖線で図示される。
【１８６７９】
図１６６８及び図１６６９に示すように、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態では、固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた空間に開口部が形成され、その開口部から着色部材Ｆ１２３が露出される（着色部材Ｆ１２３が遊技者に視認可能とされる）。また、駆動手段Ｆ１８０の伝達軸Ｆ１８３に配設される偏心軸Ｆ１８３ｃ及び連結部材Ｆ１８４は、最も下方（矢印Ｄ方向）に位置する。
【１８６８０】
次いで、可動部材Ｆ１２２の上方（矢印Ｕ方向）への動作（変位）について説明する。第１入賞口６４から第７通路Ｆ１９０（第７通路ＦＲｔ７）へ振り分けられた（案内された）球が可動通路Ｆ１９３の通路部Ｆ１９３ｃに案内（送球、流出）されることで、球および可動通路Ｆ１９３の重量により、可動通路Ｆ１９３は、軸Ｆ１９３ｂを回転軸として通路部Ｆ１９３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位（回転）する。
【１８６８１】
これにより、スイッチＦ１９２がオンされ、駆動モータＦ１８１が駆動される。駆動モータＦ１８１の駆動により、伝達軸Ｆ１８３が回転し、偏心軸Ｆ１８３ｃが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて変位する。偏心軸Ｆ１８３ｃと連結部材Ｆ１８４のスライド溝Ｆ１８４ａ１との係合により、連結部材Ｆ１８４が上方（矢印Ｕ方向）へ向けて変位することで、連結部材Ｆ１８４に固定（配設）される可動部材Ｆ１２２が上方へ向けて動作（変位）する。
【１８６８２】
可動部材Ｆ１２２の動作（変位）により、遊技者は、球が第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）されたことを視認でき、遊技者が第１入賞口６４を注視することを不要とできる。なお、可動通路Ｆ１９３へ案内（送球、流出）された球は、通路部Ｆ１９３ｃの流出面Ｆ１９３ｃ３からベース板６０の流出口ＦＯＰｏｕｔ２を通過して遊技領域へ流出（流下）される。
【１８６８３】
図１６７０及び図１６７１に示すように、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態と比較して、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態では、固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた開口部は小さく、その開口部から露出される着色部材Ｆ１２３の露出面積が減少する。このように、可動部材Ｆ１２２の動作（変位）により、着色部材Ｆ１２３の露出面積が変化（減少あるいは増加）することで、可動部材Ｆ１２２が動作（変位）したこと、即ち、球が第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）されたことを遊技者

に視認させ易くできる。
【１８６８４】
なお、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態では、可動部材Ｆ１２２の本体部の下端は、着色部材Ｆ１２３の下端よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設され、可動部材Ｆ１２２の下方から着色部材Ｆ１２３が露出することが抑制される。これにより、可動部材Ｆ１２２が上方（矢印Ｕ方向）に変位するにつれて着色部材Ｆ１２３の露出面積を減少させ続ける（可動部材Ｆ１２２の下方から着色部材Ｆ１２３が露出されることを抑制する）ことができ、可動部材Ｆ１２２が動作（変位）したことを遊技者に視認させ易くできる。
【１８６８５】
次いで、図１６７２を参照して、第９４実施形態における下側フレームＦ２０８６ｂについて説明する。上記第９３実施形態では、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３とスライド部材Ｆ１４４とが係脱不能に係合される場合を説明したが、第９４実施形態における確定通路Ｆ２１４０の開閉部材Ｆ２１４３とスライド部材Ｆ２１４４とは係脱可能に係合される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８６８６】
図１６７２（ａ）及び図１６７２（ｃ）は、第９４実施形態における下側フレームＦ２０８６ｂの部分拡大正面図であり、図１６７２（ｂ）及び図１６７２（ｄ）は、下側フレームＦ２０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図１６７２（ａ）及び図１６７２（ｂ）は、下側フレームＦ２０８６ｂの閉塞状態が図示され、図１６７２（ｃ）及び図１６７２（ｄ）は、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した場合における下側フレームＦ２０８６ｂの開放状態が図示される。また、図１６７２では、下側フレームＦ２０８６ｂの変位部材Ｆ１３０と、確定通路Ｆ２１４０の軸Ｆ１４２、開閉部材Ｆ２１４３、スライド部材Ｆ２１４４及び連結部材Ｆ１４５と、背面部材Ｆ１５０の一対のスライド棒Ｆ１５８と、が模式的に図示される。
【１８６８７】
図１６７２に示すように第９４実施形態における開閉部材Ｆ２１４３の遮断部Ｆ１４３ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側における背面から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する被規制部Ｆ２１４３ｆが形成される。また、スライド部材Ｆ２１４４のスライド本体部Ｆ１４４ａには、被規制部Ｆ２１４３ｆの背面側となる位置に正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出する規制部Ｆ２１４４ｅが形成される。
【１８６８８】
また、開閉部材Ｆ２１４３の突出部Ｆ２１４３ｃに形成される係合孔Ｆ２１４３ｅには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に切欠きＦ２１４３ｅ１が形成される。これらにより、不正に開閉部材Ｆ２１４３を操作して開閉部材Ｆ２１４３を変位（回転）させることを抑制できる。
【１８６８９】
詳細に説明すると、図１６７２（ａ）及び図１６７２（ｂ）に示すように、外力により軸Ｆ１４２を回転軸として開閉部材Ｆ２１４３を回転させる場合、係合孔Ｆ２１４３ｅに切欠きＦ２１４３ｅ１が形成されるため、開閉部材Ｆ２１４３の突出部Ｆ２１４３ｃ（係合孔Ｆ２１４３ｅ）とスライド部材Ｆ２１４４の第１係合部Ｆ１４４ｃとは非係合となる。
【１８６９０】
これにより、開閉部材Ｆ２１４３の回転に対し、スライド部材Ｆ２１４４は、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位されず、閉塞状態の位置に留まる。その結果、被規制部Ｆ２１４３ｆと規制部Ｆ２１４４ｅとが当接し、開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）が抑制される。
【１８６９１】
図１６７２（ｃ）及び図１６７２（ｄ）に示すように、変位部材Ｆ１３０の変位（回転

）に連動してスライド部材Ｆ２１４４が背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位される場合、スライド部材Ｆ２１４４の規制部Ｆ２１４４ｅは、開閉部材Ｆ２１４３の被規制部Ｆ２１４３ｆの背面側（矢印Ｂ方向側）とは異なる位置へ変位する。これにより、開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）可能となり、スライド部材Ｆ２１４４の変位に連動して開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）される。

【１８６９２】

なお、開閉部材Ｆ２１４３には、図示しない付勢ばね（例えば、ねじりばね）が係合され、その付勢ばねにより、開閉部材Ｆ２１４３の遮断部Ｆ１４３ａには左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位する付勢力が作用される。これにより、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）から球が流出（流下、落下）されると、下側フレームＦ２０８６ｂ（開閉部材Ｆ２１４３）は、開放状態から閉塞状態に動作される。

【１８６９３】

次いで、図１６７３を参照して、第９５実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂについて説明する。第９５実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂでは、確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃが破損して脱落した場合、スライド部材Ｆ３１４４の変位が規制される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８６９４】

図１６７３（ａ）及び図１６７３（ｂ）は、第９５実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂの部分拡大背面図であり、図１６７３（ａ）は、下側フレームＦ３０８６ｂの閉塞状態が図示され、図１６７３（ｂ）は、下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態が図示される。

【１８６９５】

なお、図１６７３（ｂ）では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した場合における下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態であり、左方側（矢印Ｌ方向側）に配置された確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃが破損して連結本体部Ｆ１４５ａから脱落した状態が模式的に図示される。

【１８６９６】

また、図１６７３では、演出手段Ｆ３１２０の固定部材Ｆ３１２１、変位部材Ｆ１３０、確定通路Ｆ３１４０、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８及び振分通路Ｆ１６０のみが図示される。

【１８６９７】

図１６７３に示すように第９５実施形態における確定通路Ｆ３１４０は、スライド部材Ｆ３１４４のスライド本体部Ｆ３１４４ａの上面が背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の上端と略同一の高さに形成され、スライド部材Ｆ３１４４には、スライド本体部Ｆ３１４４ａの上端から突設される規制部Ｆ３１４４ｅが形成される。

【１８６９８】

規制部Ｆ３１４４ｅは、スライド部材Ｆ３１４４において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に形成され、その規制部Ｆ３１４４ｅの上端には、左右方向両端側へ向かうにつれて上昇傾斜する呼び込み部Ｆ３１４４ｆが形成される。

【１８６９９】

また、演出手段Ｆ３１２０の固定部材Ｆ３１２１の背面には、規制部Ｆ３１２１ｅが形成される。規制部Ｆ３１２１ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと対面して配設され、下側フレームＦ３０８６ｂの閉塞状態において、規制部Ｆ３１４４ｅと所定（連結部材Ｆ３１４５の錘支持部Ｆ３１４５ｃの外形よりもやや大きい寸法）の距離を隔てて配設される。

【１８７００】

確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃは、四角柱状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に配設される。

【１８７０１】
本実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂでは、錘支持部Ｆ３１４５ｃが演出手段Ｆ３１２０の規制片Ｆ１２１ｄに当接した際の衝撃や連結本体部Ｆ１４５ａから錘支持部Ｆ３１４５ｃを不正に切断する等により、連結部材Ｆ３１４５から錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落した場合、その錘支持部Ｆ３１４５ｃは、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に落下される。脱落した錘支持部Ｆ３１４５ｃは、スライド部材Ｆ３１４４のスライド本体部Ｆ３１４４ａの上面および背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８により支持される。
【１８７０２】
連結部材Ｆ３１４５から錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落した場合、１のユニットとして形成される変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ３１４０の全体の重心が軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。これにより、スライド部材Ｆ３１４４は、左右方向中央側へ向けて変位され、下側フレームＦ３０８６ｂは開放状態へ向けて動作（変位）する。
【１８７０３】
ここで、本実施形態おける下側フレームＦ３０８６ｂでは、脱落した錘支持部Ｆ３１４５ｃがスライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に落下することで、錘支持部Ｆ３１４５ｃによりスライド部材Ｆ３１４４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位が規制される。これにより、錘支持部Ｆ３１４５ｃの脱落に起因して下側フレームＦ３０８６ｂが開放状態となることを抑制できる。
【１８７０４】
また、スライド部材Ｆ３１４４が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位され、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間の距離が錘支持部Ｆ３１４５ｃの外形の寸法よりも小さい状態（下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態）においては、錘支持部Ｆ３１４５ｃが呼び込み部Ｆ３１４４ｆに当接することで、スライド部材Ｆ３１４４を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位させることができる。これにより、下側フレームＦ３０８６ｂを閉塞状態とできる。言い換えると、錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落することにより、下側フレームＦ３０８６ｂが開放状態に維持されることを抑制できる。
【１８７０５】
次いで、図１６７４から図１６７５を参照して、第９６実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂについて説明する。第９６実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂでは、変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを球が通過することが抑制される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８７０６】
図１６７４（ａ）及び図１６７５（ａ）は、第９６実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂの上面図であり、図１６７４（ｂ）及び図１６７５（ｂ）は、下側フレームＦ４０８６ｂの部分拡大正面図である。なお、図１６７４は、下側フレームＦ４０８６ｂの閉塞状態が図示され、図１６７５は、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態が図示される。また、図１６７４及び図１６７５では、変位部材Ｆ４１３０の抑制部Ｆ４１３４の一部が破線にて図示される。
【１８７０７】
図１６７４から図１６７５に示すように第９６実施形態における変位部材Ｆ４１３０には、第９３実施形態における変位部材Ｆ１３０に加え、抑制部Ｆ４１３４が形成される。抑制部Ｆ４１３４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から形成され、その抑制部Ｆ４１３４の左右方向両端側の端部は、通路部Ｆ１３１に連結される。抑制部Ｆ４１３４の左右方向中央側の端部は、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて延設して形成される。また、抑制部Ｆ４１３４の左右方向中央

側の端部には、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する突出部Ｆ４１３４ａが突設される。

【１８７０８】

突出部Ｆ４１３４ａは、円柱状から形成され、その突出部Ｆ４１３４ａの外径は、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの内径よりも小さく形成される。

【１８７０９】

突出部Ｆ４１３４ａは、軸Ｆ１３３よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、軸Ｆ１３３を回転軸として変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、突出部Ｆ４１３４ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて回転（変位）される。

【１８７１０】

また、図１６７４に示すように、下側フレームＦ４０８６ｂの閉塞状態においては、突出部Ｆ４１３４ａは、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの内周面よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される。これにより、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球が突出部Ｆ４１３４ａに当接することを抑制できる。

【１８７１１】

一方、図１６７５に示すように、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態においては、軸Ｆ１３３を回転軸として変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、突出部Ｆ４１３４ａは、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを挿通した状態に配設される。

【１８７１２】

従って、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態においては、第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）へ案内された球は、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過することが抑制され、第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内（送球、流出）させることができる（第１入賞口６４へ入賞し易くできる）。

【１８７１３】

本実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂでは、開放状態において、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できると共に、振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）を移動（流下、転動）する球を通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易くできる。

【１８７１４】

言い換えると、変位部材Ｆ４１３０の通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられた球が、第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄのどちらへ向けて移動（流下、転動）する場合であっても通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８７１５】

次いで、図１６７６から図１６８８を参照して、第９７実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂについて説明する。上記第９３実施形態では、球が変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１へ振り分けられる（案内される）ことで開閉部材Ｆ１４３が変位（回転）する場合を説明したが、第９７実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂでは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５に球が保持されることで開閉部材Ｆ５１５８が変位（回転）する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１８７１６】

図１６７６は、第９７実施形態における遊技盤Ｆ５０１３の正面図である。図１６７６に示すように、センターフレームＦ５０８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＦ５０８６ａと下側フレームＦ５０８６ｂとを備える。

【１８７１７】
上側フレームＦ５０８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）における上側（図１６７６上側）及び左右（図１６７６左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ５０８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６７６下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ５０８６ａ及び下側フレームＦ５０８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１５１２参照）が視認可能とされる。
【１８７１８】
なお、上側フレームＦ５０８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６７６下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ５０８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。
【１８７１９】
次いで、図１６７６に加え、図１６７７から図１６７８を参照して下側フレームＦ５０８６ｂについて説明する。図１６７７は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面斜視図であり、図１６７８は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面斜視図である。
【１８７２０】
図１６７７から図１６７８に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される第１通路ＦＲｔ５１と、その第１通路ＦＲｔ５１を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ５２及び一対の第３通路ＦＲｔ５３と、第２通路ＦＲｔ５２若しくは一対の第３通路ＦＲｔ５３を案内された球が移動（流下、転動）される第４通路ＦＲｔ５４と、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が流下される第５通路ＦＲｔ５５と、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が第５通路ＦＲｔ５５へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ５１と、第５通路ＦＲｔ５５を流下された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１とが形成される。
【１８７２１】
なお、一対の第３通路ＦＲｔ５３は、遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６７６左右対称）に配設される。
【１８７２２】
上側フレームＦ５０８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ５０が配設される（図１６７６参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ５０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ５０の下流端に第１通路ＦＲｔ５１の上流端が連通される。
【１８７２３】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ５１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ５０から下側フレームＦ５０８６ｂの第１通路ＦＲｔ５１へ流入（入球）される。なお、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、上側フレーム通路ＦＲｔ５０から下側フレームＦ５０８６ｂの第１通路ＦＲｔ５１若しくは第４通路ＦＲｔ５４へ流入（入球）されても良い。
【１８７２４】
ここで、第５通路ＦＲｔ５５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ５４の流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第４通路ＦＲｔ５４から第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【１８７２５】
なお、第４通路ＦＲｔ５４には、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側

）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ５１１２ｂが形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第４通路ＦＲｔ５４から第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１８７２６】

また、第４通路ＦＲｔ５４には、起伏Ｆ５１１２ａが形成され、起伏Ｆ５１１２ａの底部に流出面Ｆ５１１２ｂが形成され、起伏Ｆ５１１２ａの頂部は、第５通路ＦＲｔ５５（流入口ＦＯＰｆ５１）に向けて下降傾斜される。従って、第４通路ＦＲｔ５４のうち、起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動（流下、転動）される球は、第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）されるよりも流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【１８７２７】

一方、起伏Ｆ５１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、その起伏Ｆ５１１２ａの下降傾斜に沿って第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１８７２８】

第１通路ＦＲｔ５１には、その第１通路ＦＲｔ５１を案内される球を第２通路ＦＲｔ５２、第３通路ＦＲｔ５３へ案内するために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ５１１４ａ、第２流出面Ｆ５１１４ｂがそれぞれ形成（配置）される。第２流出面Ｆ５１１４ｂは、第１流出面Ｆ５１１４ａに対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。

【１８７２９】

なお、第１通路ＦＲｔ５１には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｆ５１１４ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｆ５１１４ａが形成される。従って、第１通路ＦＲｔ５１へ振り分けられた球は、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ送球されるよりも第２流出面Ｆ５１１４ｂから第３通路ＦＲｔ５３へ流出され易い。

【１８７３０】

第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３には、その第２通路ＦＲｔ５２若しくは第３通路ＦＲｔ５３を案内される球を第４通路ＦＲｔ５４へ案内するために遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）の中央側から両端側へ向けて下降傾斜してそれぞれ形成される。

【１８７３１】

第２通路ＦＲｔ５２の下流端には、案内された球の重さにより動作（変位）する変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が配設され、動作（変位）後における変位部材Ｆ５１５５は、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる配置される。従って、第２通路ＦＲｔ５２へ案内された球は、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【１８７３２】

また、第３通路ＦＲｔ５３の下流端は、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部に対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）に異ならせた位置にそれぞれ配置されるため、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【１８７３３】

下側フレームＦ５０８６ｂには、球の重さにより動作（変位）する変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が配設される。なお、開閉部材Ｆ５１５８は、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面よりも内側に配置され、第４通路ＦＲｔ５４を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられ（案内さ

れ）難い。
【１８７３４】
　変位手段Ｆ５１５０は、第２通路ＦＲｔ５２を案内された球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流下）されることで動作（変位）する。開閉部材Ｆ５１５８は、変位部材Ｆ５１５５の動作に連動することで変位し、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面よりも外側へ変位される（図１６８８参照）。
【１８７３５】
　従って、第２通路ＦＲｔ５２に振り分けられた球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流下）され、変位部材Ｆ５１５５が動作（変位）している、言い換えると、開閉部材Ｆ５１５８が流入口ＦＯＰｆ１を開放させた状態では、第４通路ＦＲｔ５４を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）され易くなる（第１入賞口６４へ入賞し易くなる）。
【１８７３６】
　また、一対の開閉部材Ｆ５１５８の右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒは、一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに非連動とされ、第５通路ＦＲｔ５５へ少なくとも一球が案内（送球、流下）されるまで動作（変位）後における位置に留まり、右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒは流入口ＦＯＰｆ５１を開放させた状態となり続ける（図１６８８参照）。
【１８７３７】
　このように、本実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂは、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ（案内され）、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、その第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動（流下、転動）する球の後続となる球が第２通路ＦＲｔ５２へ案内（送球、流下）され、変位部材Ｆ５１５５が動作（変位）することで、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動する（変位部材Ｆ５１５５へ案内された球の先行となる）球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させやすくできる（第１入賞口６４に入賞し易くできる）。
【１８７３８】
　また、一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作（変位）することで、第５通路ＦＲｔ５５へ少なくとも一球が案内（送球、流下）されるまで、第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ易い（第１入賞口６４に入賞し易い）状態に維持できる。
【１８７３９】
　よって、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられた（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）球であっても、変位部材Ｆ５１５５が動作することで第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。その結果、第４通路ＦＲｔ５４を球が移動（流下、転動）している状態において、変位部材Ｆ５１５５、特に、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８７４０】
　次いで、図１６７７から図１６７８に加え、図１６７９から図１６８６を参照して、下側フレームＦ５０８６ｂの詳細構成について説明する。
【１８７４１】
　図１６７９は、下側フレームＦ５０８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６８０は、下側フレームＦ５０８６ｂの分解背面斜視図である。図１６８１は、変位手段Ｆ５１５０の分解正面斜視図であり、図１６８２は、変位手段Ｆ５１５０の分解背面斜視図である。図１６８３は、下側フレームＦ５０８６ｂの上面図であり、図１６８４は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面図であり、図１６８５は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面図である。図１６８６（ａ）は、図１６８４の矢印ＭＤＣＬＸＸＸＶＩａ方向視における下側フレームＦ５０８６ｂの側面図であり、図１６８６（ｂ）は、図１６８４の矢印ＭＤＣＬＸＸＸＶＩｂ方向視における下側フレームＦ５０８６ｂの側面図であり、図１６８６（ｃ）は、

図１６８４のＭＤＣＬＸＸＸＶＩｃ－ＭＤＣＬＸＸＸＶＩｃ線における下側フレームＦ５０８６ｂの断面図である。

【１８７４２】

図１６７７から図１６８６に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂは、通路部材Ｆ５１１０と、その通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２通路部材Ｆ５１２０と、通路部材Ｆ５１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される背面部材Ｆ５１３０と、その背面部材Ｆ５１３０と通路部材Ｆ５１１０との間に配設される第５通路部材Ｆ５１４０と、背面部材Ｆ５１３０の背面側に配設される変位手段Ｆ５１５０と、その変位手段Ｆ５１５０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される維持手段Ｆ５１６０と、を備える。

【１８７４３】

通路部材Ｆ５１１０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１が形成され、その流出口ＦＯＰｏｕｔ１に第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１が挿通される。また、通路部材Ｆ５１１０及び背面部材Ｆ５１３０には第１挿通孔Ｆ５１１３ｂ及び第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂがそれぞれ形成され、第１挿通孔Ｆ５１１３ｂ及び第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂに変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が挿通される。

【１８７４４】

また、背面部材Ｆ５１３０には第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄが形成され、第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄに変位手段Ｆ５１５０の一対の開閉部材Ｆ５１５８が挿通され、第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄに及び維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２が挿通される。

【１８７４５】

動作（変位）後における一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、維持手段Ｆ５１６０に係合されることで、その動作（変位）後における位置に留まる。維持手段Ｆ５１６０に球が案内（送球、流下）されることで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合が解除され、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、動作（変位）前の位置へ復帰する。

【１８７４６】

通路部材Ｆ５１１０には、背面部材Ｆ５１３０及び第２通路部材Ｆ５１２０がタッピングネジによりそれぞれ締結固定される。第５通路部材Ｆ５１４０、変位手段Ｆ５１５０及び維持手段Ｆ５１６０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ５１３０にそれぞれ締結固定される。これらにより、下側フレームＦ５０８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１６７７、図１６７８参照）。

【１８７４７】

下側フレームＦ５０８６ｂは、通路部材Ｆ５１１０、第２通路部材Ｆ５１２０及び維持手段Ｆ５１６０や変位部材Ｆ５１５５を除く変位手段Ｆ５１５０が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、第５通路部材Ｆ５１４０及び変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が有色の樹脂材料から構成される。また、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４は、その振り分け部材Ｆ５１５４の一部（表示部Ｆ５１５４ｄ）に塗装が施される。よって、第１通路ＦＲｔ５１から第５通路ＦＲｔ５５を移動する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｆ５１５５及び振り分け部材Ｆ５１５４の表示部Ｆ５１５４ｄの動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８７４８】

なお、第５通路部材Ｆ５１４０及び変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【１８７４９】

また、一方で、下側フレームＦ５０８６ｂは、維持手段Ｆ５１６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する第５通路部材Ｆ５１４０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或い

は、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、維持手段Ｆ５１６０が正面側から遊技者に視認不能とできる。なお、維持手段Ｆ５１６０は、第５通路部材Ｆ５１４０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、維持手段Ｆ５１６０が正面側から遊技者に視認可能となるように構成されても良い。

【１８７５０】

通路部材Ｆ５１１０は、第１通路ＦＲｔ５１及び第４通路ＦＲｔ５４を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ５１１１と、その正面板Ｆ５１１１の背面から突設される下側通路Ｆ５１１２と、その下側通路Ｆ５１１２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ５１１３と、その立て壁部Ｆ５１１３の背面から突設される上側通路Ｆ５１１４と、下側通路Ｆ５１１２及び上側通路Ｆ５１１４の左右方向両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ５１１５と、を備える。

【１８７５１】

背面部材Ｆ５１３０、立て壁部Ｆ５１１３及び上側通路Ｆ５１１４により区画された空間により第１通路ＦＲｔ５１が形成され、正面板Ｆ５１１１、下側通路Ｆ５１１２及び立て壁部Ｆ５１１３により区画された空間により第４通路ＦＲｔ５４が形成される。

【１８７５２】

正面板Ｆ５１１１は、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球が遊技領域へ流出されることを抑制するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される中央部と、その中央部の左右方向両端側から外側へ向けて鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜される傾斜部とから形成される。正面板Ｆ５１１１の傾斜部の上端は、下側通路Ｆ５１１２の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球は、正面板Ｆ５１１１の傾斜部の背面に当接可能となり、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制される。

【１８７５３】

正面板Ｆ５１１１には、その正面板Ｆ５１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＦ５０８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｆ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【１８７５４】

正面板Ｆ５１１１の中央部には、第１入賞口６４（図１６７６参照）の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置に流出口ＦＯＰｏｕｔ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第５通路ＦＲｔ５５を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。

【１８７５５】

正面板Ｆ５１１１には、流出口ＦＯＰｏｕｔ１の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に張出し部Ｆ５１１１ｂが鉛直方向上方へ向けて突設される。また、正面視における形状が下側通路Ｆ５１１２の流出面Ｆ５１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ５１１１ｃが流出面Ｆ５１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。切欠き部Ｆ５１１１ｃを通過することで、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される。

【１８７５６】

下側通路Ｆ５１１２は、第９３実施形態における下側通路Ｆ１１２に対し、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における起伏Ｆ５１１２ａ及び一対の流出面Ｆ５１１２ｂの形状や、下側通路Ｆ５１１２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【１８７５７】

起伏Ｆ５１１２ａは、第９３実施形態における起伏Ｆ１１２ａと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）方向の幅寸法が大きく形成される。また、流出面Ｆ５１１２ｂは、第９

３実施形態における流出面Ｆ１１２ｂと比較して、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向かうにつれて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹設寸法が大きく形成される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第１通路ＦＲｔ５１）の正面側を移動（流下、転動）する球は、流出面Ｆ５１１２ｂを左右方向に通過する（横切る）よりも流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出され易い。

【１８７５８】

立て壁部Ｆ５１１３は、下側通路Ｆ５１１２と上側通路Ｆ５１１４とを連結するための部位である。立て壁部Ｆ５１１３には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に膨出部Ｆ５１１３ａが形成され、その膨出部Ｆ５１１３ａには、流入口ＦＯＰｆ５１が開口形成（板厚方向に穿設）される。

【１８７５９】

また、立て壁部Ｆ５１１３には、流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される一対の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂと、その第１挿通孔Ｆ５１１３ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対の第２挿通孔Ｆ５１１３ｃと、流入口ＦＯＰｆ５１の上方に配設される第３挿通孔Ｆ５１１３ｄと、が開口形成（板厚方向に穿設）される。

【１８７６０】

流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりも大きく形成され、詳細には、球の外形の略５倍の大きさに形成される。上述したように、流入口ＦＯＰｆ５１は、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が第５通路ＦＲｔ５５へ流出される際の出口となる開口である。なお、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面により囲まれた領域のうち、左右方向左右方向略中央を除いた領域には変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が配設される。これにより、下側通路Ｆ５１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ難くできる。

【１８７６１】

膨出部Ｆ５１１３ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。これにより、立て壁部Ｆ５１１３に当接しつつ下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が起伏Ｆ５１１２ａを通過する際、起伏Ｆ５１１２ａを通過する球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分を付与できる。その結果、起伏Ｆ５１１２ａを通過する球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ１を通過させ難くできる）。

【１８７６２】

第１挿通孔Ｆ５１１３ｂは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を挿通させるための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜して配設される。これにより、変位部材Ｆ５１５５を変位させる（変位部材Ｆ５１５５と第１挿通孔Ｆ５１１３ｂとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。

【１８７６３】

第１挿通孔Ｆ５１１３ｂには、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて切欠かれる切欠き部Ｆ５１１３ｂ１が切欠き形成される。その切欠き部Ｆ５１１３ｂ１へ変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を変位させることで、変位手段Ｆ５１５０の第２軸受け部材Ｆ５１５２に対し、変位部材Ｆ５１５５を上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させることができ、変位部材Ｆ５１５５と第２軸受け部材Ｆ５１５２との係合を解除できる。

【１８７６４】

第２挿通孔Ｆ５１１３ｃには、タッピングネジが挿通され、その第２挿通孔Ｆ５１１３ｃを挿通したタッピングネジが第２通路部材Ｆ５１２０に締結されることで、第２通路部材Ｆ５１２０が立て壁部Ｆ５１１３に固定（配設）される。

【１８７６５】

第３挿通孔Ｆ５１１３ｄは、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４を挿通させるための部位であり、これにより、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４が立て

壁部Ｆ５１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【１８７６６】
立て壁部Ｆ５１１３の上端は、上側通路Ｆ５１１４の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、上側通路Ｆ５１１４の上面を移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ５１１３の背面に当接可能となり、第４通路ＦＲｔ５４へ流出（流下）されることを抑制できる。
【１８７６７】
また、立て壁部Ｆ５１１３の上端には、正面視における形状が上側通路Ｆ５１１４の第１流出面Ｆ５１１４ａ及び第２流出面Ｆ５１１４ｂの形状と略同一となる切欠きが第１流出面Ｆ５１１４ａ及び第２流出面Ｆ５１１４ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ形成される。それら切欠きを通過することで、第１通路ＦＲｔ５１を案内された球が第２通路ＦＲｔ５２、或いは、第３通路ＦＲｔ５３へ流出（流下）される。
【１８７６８】
上側通路Ｆ５１１４は、第９３実施形態における上側通路Ｆ１１４に対し、第１流出面Ｆ５１１４ａ及び一対の第２流出面Ｆ５１１４ｂの形状や、上側通路Ｆ５１１４の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。
【１８７６９】
第１流出面Ｆ５１１４ａは、第９３実施形態における第１流出面Ｆ１１４ａと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法が大きく形成される。従って、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、第１流出面Ｆ５１１４ａへ案内され易く、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ案内（送球、流下）され易い。
【１８７７０】
一方、第２流出面Ｆ５１１４ｂは、第９３実施形態における第２流出面Ｆ１１４ｂと比較して、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向かうにつれて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法が大きく形成される。従って、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の正面側を移動（流下、転動）する球は、第２流出面Ｆ１１４ｂを左右方向に通過する（横切る）よりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第２通路部材Ｆ５１２０（第２通路ＦＲｔ５２）へ流出され易い。
【１８７７１】
留め部Ｆ５１１５は、第９３実施形態における留め部Ｆ１１５に対し、留め部Ｆ５１１５の形状が異なることや、留め部Ｆ５１１５の板厚方向に穿設される挿通孔Ｆ１１５ａが１箇所であること以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。
【１８７７２】
第２通路部材Ｆ５１２０は、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３を形成するためのものであり、第２通路部Ｆ５１２１と、その第２通路部Ｆ５１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される湾曲部Ｆ５１２２と、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から突設される第２通路壁部Ｆ５１２３と、第２通路部Ｆ５１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される一対の第３通路部Ｆ５１２４（図１６８３参照）と、その第３通路部Ｆ５１２４の外縁に配設される第３通路壁部Ｆ５１２５と、一対の第３通路壁部Ｆ５１２５の間に配設される中央壁部Ｆ５１２６と、を備える。
【１８７７３】
第２通路部Ｆ５１２１、第２通路壁部Ｆ５１２３及び通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３により区画された空間により第２通路ＦＲｔ５２が形成され、第３通路部Ｆ５１２４（図１６８３参照）、第３通路壁部Ｆ５１２５及び通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３（膨出部Ｆ５１１３ａ）により区画された空間により第３通路ＦＲｔ５３が形成される。
【１８７７４】
第２通路部Ｆ５１２１は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。第２通路部Ｆ５１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１へ案内（送球、流下）された球を左右方向に沿って移動（流下、転動）させることができる。

【１８７７５】

また、第２通路部Ｆ５１２１は、立て壁部Ｆ５１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１を移動（流下、転動）する球が第３通路部Ｆ５１２４へ案内（送球、流出）されること、若しくは、湾曲部Ｆ５１２２に当接すること無く第２通路部Ｆ５１２１から移動（流下、落下）されることを抑制できる。

【１８７７６】

また、第２通路部Ｆ５１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側には、切欠き部Ｆ５１２１ａが切欠き形成される。切欠き部Ｆ５１２１ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の第３挿通孔Ｆ５１１３ｄを挿通した変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４を第２通路部Ｆ５１２１の上面に配設させるための切欠きである。

【１８７７７】

湾曲部Ｆ５１２２は、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球の変位の方向を変化させるための部位であり、上面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凹となる湾曲状に形成される。湾曲部Ｆ５１２２に当接することで、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球の変位の方向が第２通路部Ｆ５１２１の延設方向先端側（左右方向両端側）から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変更される。

【１８７７８】

第２通路壁部Ｆ５１２３は、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設して形成される。

【１８７７９】

第２通路壁部Ｆ５１２３の立設高さは、球の外形よりもやや小さく形成され、これにより、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が遊技者に視認可能とされる。なお、第２通路壁部Ｆ５１２３の立設高さは、球の外形よりもやや小さく形成されても良い。この場合においても、第２通路壁部Ｆ５１２３が光透過性の樹脂材料から構成されるため、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が遊技者に視認可能とされる。

【１８７８０】

第３通路部Ｆ５１２４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、第３通路部Ｆ５１２４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第３通路部Ｆ５１２４へ案内（送球、流下）された球を通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）させることができる。

【１８７８１】

第３通路壁部Ｆ５１２５は、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、第３通路部Ｆ５１２４の正面端及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設して形成される。

【１８７８２】

なお、第３通路壁部Ｆ５１２５は、第３通路部Ｆ５１２４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部には非形成であり、その非形成部を通過することで、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）される。

【１８７８３】

また、第３通路壁部Ｆ５１２５の上方側（矢印Ｕ方向側）には、第２通路壁部Ｆ５１２

３に連結する連結部Ｆ５１２５ａが形成される。連結部Ｆ５１２５ａが第２通路壁部Ｆ５１２３に連結されることで、第３通路壁部Ｆ５１２５に球が当接する等により第３通路壁部Ｆ５１２５が破損することを抑制し易くできる。

【１８７８４】

なお、連結部Ｆ５１２５ａは、第３通路部Ｆ５１２４の上面から球の外形よりも大きな距離だけ上方側（矢印Ｕ方向側）に隔てた位置に配設され、これにより、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球は、連結部Ｆ５１２５ａと第３通路部Ｆ５１２４との間を通過して通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）される。

【１８７８５】

中央壁部Ｆ５１２６は、上側通路Ｆ５１１４の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１へ案内（送球、流下）された球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、一対の第３通路壁部Ｆ５１２５の間において、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設して形成される。

【１８７８６】

背面部材Ｆ５１３０は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面を形成するためのものであり、背面壁部Ｆ５１３１と、その背面壁部Ｆ５１３１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から突出される一対の固定部Ｆ５１３２と、を備える。

【１８７８７】

背面壁部Ｆ５１３１は、横長略矩形の板状体から構成され、背面壁部Ｆ５１３１には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に形成される第１逃がし孔Ｆ５１３１ａと、第１逃がし孔Ｆ５１３１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）であって第１逃がし孔Ｆ５１３１ａよりも左右方向両端側に形成される一対の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂと、右方側（矢印Ｒ方向側）に形成される第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂの下方側に形成される第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃと、左方側（矢印Ｌ方向側）に形成される第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂの下方側に形成される第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄと、が板厚方向にそれぞれ開口形成（板厚方向に穿設）される。

【１８７８８】

第１逃がし孔Ｆ５１３１ａは、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４及び第２係合部Ｆ５１５７ｃを挿通させるための部位であり、横長略矩形に形成される。

【１８７８９】

第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を挿通させるための部位であり、横長略矩形にそれぞれ形成される。第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜してそれぞれ配設される。これにより、変位部材Ｆ５１５５を変位させる（変位部材Ｆ５１５５と第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。

【１８７９０】

第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄは、変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８を挿通させるための部位であり、横長略矩形に形成される。また、第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄには、維持手段Ｆ５１６０が挿通される。

【１８７９１】

第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜してそれぞれ配設される。これにより、開閉部材Ｆ５１５８を変位させる（開閉部材Ｆ５１５８と第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ又は第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。

【１８７９２】

固定部Ｆ５１３２は、ベース板６０に背面部材Ｆ５１３０を締結固定するための部位で

ある。通路部材Ｆ５１１０の正面板Ｆ５１１１に加え、固定部Ｆ５１３２がベース板６０に固定（配設）されることで、下側フレームＦ５０８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を図ることができる。

【１８７９３】

また、通路部材Ｆ５１１０の留め部Ｆ５１１５に穿設される挿通孔Ｆ１１５ａを挿通したタッピングネジが固定部Ｆ５１３２に締結固定されることで、背面部材Ｆ５１３０が通路部材Ｆ５１１０に固定（配設）される。

【１８７９４】

固定部Ｆ５１３２の正面端は、ベース板６０に当接して配設される。また、固定部Ｆ５１３２の下方端は、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５や開閉部材Ｆ５１５８よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これらにより、針金等の異物の侵入を抑制し易くでき、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５や開閉部材Ｆ５１５８を不正に操作することを抑制し易くできる。

【１８７９５】

第５通路部材Ｆ５１４０は、第５通路ＦＲｔ５５を形成するためのものであり、第５通路部Ｆ５１４１と、その第５通路部Ｆ５１４１の背面側（矢印Ｂ方向側）であって、第５通路部Ｆ５１４１の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対の誘導部Ｆ５１４２と、を備える。

【１８７９６】

第５通路部Ｆ５１４１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ５１４１ａと、その底面部Ｆ５１４１ａの左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ５１４１ｂと、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。また、底面部Ｆ５１４１ａの上面には、幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央から所定の距離だけ離れた位置に一対の突部Ｆ５１４１ｃがそれぞれ突設される。底面部Ｆ５１４１ａ及び一対の壁部Ｆ５１４１ｂにより区画された空間により第５通路ＦＲｔ５５が形成される。

【１８７９７】

第５通路部Ｆ５１４１は、第９３実施形態における確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂに対し、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における延設長さが異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【１８７９８】

第５通路部材Ｆ５１４０が背面部材Ｆ５１３０に固定された状態において、第５通路部Ｆ５１４１は、通路部材Ｆ５１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過させることで、第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）を移動（流下、落下）する球を遊技領域へ流出させることができる。

【１８７９９】

誘導部Ｆ５１４２は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過した球を維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２へ案内（送球、流下）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。

【１８８００】

変位手段Ｆ５１５０は、その変位手段Ｆ５１５０の動作（変位）に応じて通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２を移動（流下、落下）する球の第５通路部材Ｆ５１４０（第５通路ＦＲｔ５５）への案内のされ易さを変化させるためのものであり、第１軸受け部材Ｆ５１５１と、その第１軸受け部材Ｆ５１５１から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に所定の距離だけ隔てて配設される一対の第２軸受け部材Ｆ５１５２と、第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に固定（配設）されるスライド棒Ｆ５１５３と、第１軸受け部材Ｆ５１５１に回転可能に係合される振り分け部材Ｆ５１５４と、第２軸受け部材Ｆ５１５２に回転可能に係合される変位部材Ｆ５１５５と、その変位部材Ｆ５１５５に配設される錘Ｆ５１５６と、スライド棒Ｆ５１５３及び変位部材Ｆ５１５５に係合されるスライド部材Ｆ５１５７と、そのスライド部材Ｆ５１５７に係合される開閉部材Ｆ５１５８と、その開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に保持する保持部材Ｆ５１５９と、を備え

る。
【１８８０１】
本実施形態においては、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位部材Ｆ５１５５、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８を左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌと、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される変位部材Ｆ５１５５、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒと、それぞれ符号を付して区別する。
【１８８０２】
第１軸受け部材Ｆ５１５１は、第２軸受け部材Ｆ５１５２と共にスライド棒Ｆ５１５３を保持するためのものであり、第１軸受け部材Ｆ５１５１には、第１軸受け部材Ｆ５１５１の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ突出して形成される規制部Ｆ５１５１ａと、第１軸受け部材Ｆ５１５１の上面から上方（矢印Ｕ方向）へ突出して形成される軸部Ｆ５１５１ｂとが形成される。
【１８８０３】
また、第１軸受け部材Ｆ５１５１には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に締結されることで、第１軸受け部材Ｆ５１５１が背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。
【１８８０４】
規制部Ｆ５１５１ａは、板状体であり、第１軸受け部材Ｆ５１５１における下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。規制部Ｆ５１５１ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。また、規制部Ｆ５１５１ａには、スライド棒Ｆ５１５３を挿通するための挿通孔が形成される。
【１８８０５】
軸部Ｆ５１５１ｂは、円柱状に形成され、軸部Ｆ５１５１ｂには、振り分け部材Ｆ５１５４が回転可能に係合される。これにより、振り分け部材Ｆ５１５４は、軸部Ｆ５１５１ｂを回転軸として回転（変位）可能に係合される。
【１８８０６】
第２軸受け部材Ｆ５１５２は、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。なお、第２軸受け部材Ｆ５１５２は、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに対して垂直となる方向に所定（スライド棒Ｆ５１５３の軸方向寸法よりも小さい）距離だけ隔てた位置に配設される。
【１８８０７】
第２軸受け部材Ｆ５１５２には、第２軸受け部材Ｆ５１５２の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ突出して形成される規制部Ｆ５１５２ａが形成される。規制部Ｆ５１５２ａは、板状体であり、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに対し平行に配設される。また、規制部Ｆ５１５２ａには、スライド棒Ｆ５１５３を挿通するための挿通孔が形成される。
【１８８０８】
規制部Ｆ５１５２ａ若しくは第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａにスライド部材Ｆ５１５７が当接することで、スライド部材Ｆ５１５７の変位が規制される。
【１８８０９】
また、第２軸受け部材Ｆ５１５２には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に締結されることで、第２軸受け部材Ｆ５１５２が背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。
【１８８１０】
また、第２軸受け部材Ｆ５１５２には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて上昇傾斜する方向に突出する突出部（図示せず）が突設され、その突出部に玉軸受

Ｆ５１５２ｂが配設される。
【１８８１１】
玉軸受Ｆ５１５２ｂは、内輪と、その内輪の外周面に配設される複数の玉と、それら複数の玉を介して内輪に回転可能に配設される外輪と、から構成される。玉が自転することで、内輪の外周面と外輪の内周面とが当接する場合と比較して内輪と外輪との間に生じる摩擦が低くなり、内輪に対して外輪が容易に回転できる。第２軸受け部材Ｆ５１５２の突出部（図示せず）に内輪を外嵌することで、玉軸受Ｆ５１５２ｂは、突出部に支持（配設）される。
【１８８１２】
スライド棒Ｆ５１５３は、そのスライド棒Ｆ５１５３の延設方向に沿ってスライド部材Ｆ５１５７を変位させるためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。スライド棒Ｆ５１５３の外周面には、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａよりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置および第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａよりもやや左右方向両端側となる位置に、径方向へ向けての切り込みがそれぞれ形成される。
【１８８１３】
第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂ及び第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに穿設される挿通孔にスライド棒Ｆ５１５３を挿通した状態でスライド棒Ｆ５１５３に形成される切り込みに金属リング状のＣリング（図示せず）をそれぞれ嵌合することで、スライド棒Ｆ５１５３は、第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に抜去不能に支持される。
【１８８１４】
また、スライド棒Ｆ５１５３は、そのスライド棒Ｆ５１５３の延設方向（軸方向）が第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａ（第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａ）に垂直な方向に沿った姿勢で第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に支持される。従って、スライド棒Ｆ５１５３は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜した姿勢で配設される。
【１８８１５】
振り分け部材Ｆ５１５４は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）方向を変更させるためのものであり、被係合部Ｆ５１５４ａと、その被係合部Ｆ５１５４ａの正面端から立設される中間部Ｆ５１５４ｂと、その中間部Ｆ５１５４ｂの上端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される振り分け部Ｆ５１５４ｃと、中間部Ｆ５１５４ｂの正面に配設される表示部Ｆ５１５４ｄと、を備える。
【１８８１６】
被係合部Ｆ５１５４ａは、板状体から形成され、被係合部Ｆ５１５４ａのの背面側（矢印Ｂ方向側）における端部には挿通孔が穿設される。その挿通孔に第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂが挿通されることで、振り分け部材Ｆ５１５４は、第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂに軸支される。
【１８８１７】
また、被係合部Ｆ５１５４ａの延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の略中央には、上方（矢印Ｕ方向）へ向けて軸部Ｆ５１５４ａ１が突設される。軸部Ｆ５１５４ａ１は、円柱状から形成され、軸部Ｆ５１５４ａ１には、スライド部材Ｆ５１５７の第２係合部Ｆ５１５７ｃが係合される。
【１８８１８】
中間部Ｆ５１５４ｂは、板状体から形成され、通路部材Ｆ５１１０の第３挿通孔Ｆ５１１３ｄ及び第２通路部材Ｆ５１２０の切欠き部Ｆ５１２１ａを通過して通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３と第２通路部材Ｆ５１２０の中央壁部Ｆ５１２６との間に配設される。中間部Ｆ５１５４ｂの上端は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１よりも上方（矢印Ｕ方向）に配設され、これにより、振り分け部Ｆ５１５４ｃは、第２通路

部Ｆ５１２１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。
【１８８１９】
　また、中間部Ｆ５１５４ｂは、第２通路部材Ｆ５１２０の切欠き部Ｆ５１２１ａに沿って湾曲して形成される。これにより、振り分け部材Ｆ５１５４が回転（変位）した場合において、中間部Ｆ５１５４ｂと第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１とが当接することを抑制できる。
【１８８２０】
　振り分け部Ｆ５１５４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。振り分け部Ｆ５１５４ｃの上面には起伏が形成され、起伏の頂部は、振り分け部Ｆ５１５４ｃの左右方向の略中央に配設される。起伏は、左右方向両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、振り分け部Ｆ５１５４ｃへ振り分けられた球は、その下降傾斜に沿って左右方向中央側から左右方向両端側へ向けて移動（流下、落下）する。
【１８８２１】
　表示部Ｆ５１５４ｄは、振り分け部Ｆ５１５４ｃの位置を示す部位であり、振り分け部Ｆ５１５４ｃの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。表示部Ｆ５１５４ｄは、着色されており、表示部Ｆ５１５４ｄ（振り分け部Ｆ５１５４ｃ）の位置を遊技者に視認させ易くできる。
【１８８２２】
　変位部材Ｆ５１５５は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１から振り分けられた（案内された）球を通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）するためのものであり、第２軸受け部材Ｆ５１５２の玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支（係合）される軸支部Ｆ５１５５ａと、その軸支部Ｆ５１５５ａの外周面から正面側（矢印Ｆ方向側）に突設する腕部Ｆ５１５５ｂと、軸支部Ｆ５１５５ａの外周面から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する錘支持部Ｆ５１５５ｃと、腕部Ｆ５１５５ｂの先端に配設される本体部Ｆ５１５５ｄと、その本体部Ｆ５１５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される保持部Ｆ５１５５ｅと、その保持部Ｆ５１５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に配設される規制壁Ｆ５１５５ｆと、を備える。
【１８８２３】
　軸支部Ｆ５１５５ａは、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って凹設される円筒状に形成され、軸支部Ｆ５１５５ａの内周面は、玉軸受Ｆ５１５２ｂの外径よりもやや大きく形成される。軸支部Ｆ５１５５ａの内周面に玉軸受Ｆ５１５２ｂが内包されることで、変位部材Ｆ５１５５は、玉軸受Ｆ５１５２ｂに回転可能に軸支される。
【１８８２４】
　腕部Ｆ５１５５ｂは、板状体であり、背面部材Ｆ５１３０の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂを挿通して配設される。腕部Ｆ５１５５ｂの延設長さは、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１と通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３との間の距離よりも長く形成される。これにより、軸支部Ｆ５１５５ａが玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支された状態において腕部Ｆ５１５５ｂの先端は、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【１８８２５】
　また、パチンコ機１０（図１５１１参照）に衝撃等が加えられた場合、腕部Ｆ５１５５ｂを撓ませ易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端を変位させ易く）できる。
【１８８２６】
　腕部Ｆ５１５５ｂの外形は、背面部材Ｆ５１３０の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂよりも小さく形成される。これにより、腕部Ｆ５１５５ｂに外力が加えられた場合、腕部Ｆ５１５５ｂは、第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び第１挿通孔Ｆ５１１３ｂに挿通された状態において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）又は上下方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位可能に配設される。
【１８８２７】

また、軸支部Ｆ５１５５ａが玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支された状態では、腕部Ｆ５１５５ｂの上面と通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）における縁との間の距離は、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向寸法よりも小さく形成される。これにより、腕部Ｆ５１５５ｂが玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に変位した場合において、軸支部Ｆ５１５５ａと玉軸受Ｆ５１５２ｂとの軸支が解除されることを抑制できる。

【１８８２８】

なお、通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂに形成される切欠き部Ｆ５１１３ｂ１へ腕部Ｆ５１５５ｂを案内させることで、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向への腕部Ｆ５１５５ｂの変位量を大きくでき、軸支部Ｆ５１５５ａと玉軸受Ｆ５１５２ｂとの軸支を解除できる。

【１８８２９】

錘支持部Ｆ５１５５ｃは、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ５１５５ｃの内周面は、錘Ｆ５１５６の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ５１５５ｃの内周面に錘Ｆ５１５６が内包されることで、錘Ｆ５１５６が錘支持部Ｆ５１５５ｃに配設（支持）される。

【１８８３０】

また、錘支持部Ｆ５１５５ｃの上面には、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って突出する突出部Ｆ５１５５ｃ１が突設され、突出部Ｆ５１５５ｃ１がスライド部材Ｆ５１５７の第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２に挿通されることで、変位部材Ｆ５１５５とスライド部材Ｆ５１５７とが係合される。

【１８８３１】

本体部Ｆ５１５５ｄは、着色され、これにより、変位部材Ｆ５１５５が動作（回転、変位）していることを遊技者に視認させ易くできる。本体部Ｆ５１５５ｄには、下方側（矢印Ｄ方向側）に円筒状に凹設される凹部Ｆ５１５５ｄ１が形成され、その凹部Ｆ５１５５ｄ１の底面には貫通孔Ｆ５１５５ｄ２が円状に穿設される。凹部Ｆ５１５５ｄ１と貫通孔Ｆ５１５５ｄ２とは同一軸上に配置される。

【１８８３２】

凹部Ｆ５１５５ｄ１の内径は、球の直径の略１．５倍の大きさに形成され、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面と貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の内周面との間の距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球の重心を貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の内周面よりも内側へ位置させることができ、球の自重を利用して凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球を、貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ向けて変位させることができる。

【１８８３３】

また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の凹設深さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ５１５５ｄ１に球が案内（送球、流下）されたことを遊技者に視認させることができる。

【１８８３４】

保持部Ｆ５１５５ｅは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に球の直径よりも小さい距離だけ隔てて配設される一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１と、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部どうしを連結する湾曲状の湾曲部Ｆ５１５５ｅ２とを備え、上面視において略Ｕ字状に形成される。

【１８８３５】

保持部Ｆ５１５５ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第２通路部材Ｆ５１２０の湾曲部Ｆ５１２２と第２通路壁部Ｆ５１２３との間であって、第２通路部Ｆ５１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）且つ下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。これにより、湾曲部Ｆ５１２２に案内（送球）され、湾曲部Ｆ５１２２と第２通路壁部Ｆ５１２３との間から正面側へ向けて移動（流下、落下）した球は、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）される。

【１８８３６】

保持部Ｆ５１５５ｅは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて上昇傾斜して配設される。これにより、正面側に配設される直線部Ｆ５１５５ｅ１に当接させることで、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球の正面側へ向けての変位を規制できる。その結果、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球が、保持部Ｆ５１５５ｅから通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制し易くできる。

【１８８３７】

また、保持部Ｆ５１５５ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して配設される。これにより、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球を湾曲部Ｆ５１５５ｅ２に当接させた状態に維持でき、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１及び湾曲部Ｆ５１５５ｅ２により球を保持できる。

【１８８３８】

保持部Ｆ５１５５ｅは、本体部Ｆ５１５５ｄにおける背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、本体部Ｆ５１５５ｄの背面側における内周面へ向けた姿勢で配設される。言い換えると、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１の略中央を本体部Ｆ５１５５ｄの中心軸とは異なる位置（偏心した位置）へ向けた姿勢で配設される。これにより、保持部Ｆ５１５５ｅから振り分けられた（案内された）球を本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）の中心軸とは異なる位置（偏心した位置）へ案内（送球、流下）でき、貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを遅延させることができる。

【１８８３９】

規制壁Ｆ５１５５ｆは、板状体であり、上面視において、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。規制壁Ｆ５１５５ｆの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部は、保持部Ｆ５１５５ｅの背面側に配設される直線部Ｆ５１５５ｅ１の端部に連結され、規制壁Ｆ５１５５ｆの左右方向中央側の端部は、本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。

【１８８４０】

これにより、規制壁Ｆ５１５５ｆに沿って保持部Ｆ５１５５ｅから本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面側、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）の中心軸とは異なる位置へ球を案内（送球、流下）できる。その結果、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球をその凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って変位させる（凹部Ｆ５１５５ｄ１の中心軸へ向けて変位させ難くする）ことができ、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２を通過することに要する時間を嵩ませることができる。

【１８８４１】

錘Ｆ５１５６は、変位部材Ｆ５１５５の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ５１５６が玉軸受Ｆ５１５２ｂの回転軸よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に配設されることで、変位部材Ｆ５１５５及び錘Ｆ５１５６の全体の重心は、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。

【１８８４２】

スライド部材Ｆ５１５７は、変位部材Ｆ５１５５と開閉部材Ｆ５１５８とを連結するためのものである。左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌは、スライド本体部Ｆ５１５７ａと、そのスライド本体部Ｆ５１５７ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される第１係合部Ｆ５１５７ｂと、スライド本体部Ｆ５１５７ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される第２係合部Ｆ５１５７ｃと、を備える。

【１８８４３】

右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒは、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌに対し、第２係合部Ｆ５１５７ｃが省略されると共に、被係合部Ｆ５１５７ｄが配設される点を除いて、同一に形成される。よって、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒについては、被係合部Ｆ５１５７ｄについてのみ説明し、その他の部位における詳細な説明は省略する。

【１８８４４】

スライド本体部Ｆ５１５７ａは、板状体から形成され、スライド本体部Ｆ５１５７ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部は背面側に屈曲して形成される。その背面側に屈曲される部位には板厚方向に第１挿通孔Ｆ５１５７ａ１がそれぞれ穿設される。第１挿通孔Ｆ５１５７ａ１には、スライド棒Ｆ５１５３が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７はスライド棒Ｆ５１５３の延設方向に沿って変位可能に係合される。

【１８８４５】

また、スライド本体部Ｆ５１５７ａの下端部は、背面側に屈曲して形成され、その背面側に屈曲される部位には板厚方向に第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２が穿設される。第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２には、変位部材Ｆ５１５５の突出部Ｆ５１５５ｃ１が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と変位部材Ｆ５１５５とが係合される。

【１８８４６】

第１係合部Ｆ５１５７ｂは、板状体であり、スライド本体部Ｆ５１５７ａの正面端から下方側（矢印Ｄ方向側）に延設される。また、第１係合部Ｆ５１５７ｂの下端は正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲して形成され、その屈曲された部位には、挿通孔Ｆ５１５７ｂ１が穿設される。

【１８８４７】

挿通孔Ｆ５１５７ｂ１には、開閉部材Ｆ５１５８の突出部Ｆ５１５８ｃが挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と開閉部材Ｆ５１５８とが係合される。挿通孔Ｆ５１５７ｂ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成され、開閉部材Ｆ５１５８の突出部Ｆ５１５８ｃは、前後方向に変位可能に挿通（係合）される。

【１８８４８】

第２係合部Ｆ５１５７ｃは、板状体であり、スライド本体部Ｆ５１５７ａの正面端から上方側（矢印Ｕ方向側）に延設される。また、第２係合部Ｆ５１５７ｃの上端は正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲して形成され、その屈曲された部位には、挿通孔Ｆ５１５７ｃ１が穿設される。挿通孔Ｆ５１５７ｃ１には、振り分け部材Ｆ５１５４の軸部Ｆ５１５４ａ１が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と振り分け部材Ｆ５１５４とが係合される。

【１８８４９】

被係合部Ｆ５１５７ｄは、板状体から形成される。被係合部Ｆ５１５７ｄには挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが第１係合部Ｆ５１５７ｂに締結されることで、被係合部Ｆ５１５７ｄが第１係合部Ｆ５１５７ｂに固定（配設）される。

【１８８５０】

被係合部Ｆ５１５７ｄの右方側（矢印Ｒ方向側）は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて屈曲して形成され、その屈曲部には磁性材料から構成される磁性体（図示せず）が配設される。その磁性体が維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着されることで、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが磁性体Ｆ５１６４係合（固定）される。

【１８８５１】

開閉部材Ｆ５１５８は、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、落下）する球が流入口ＦＯＰｆ５１を通過し難くするためのものであり、遮断部Ｆ５１５８ａと、その遮断部Ｆ５１５８ａの下端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて延設される連結部Ｆ５１５８ｂと、その連結部Ｆ５１５８ｂの下面から下方（矢印Ｄ方向）に突出する突出部Ｆ５１５８ｃと、を備える。

【１８８５２】

遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の膨出部Ｆ５１１３ａに沿って湾曲して形成される。言い換えると、遮断部Ｆ５１５８ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。

【１８８５３】

これにより、遮断部Ｆ５１５８ａに当接することで、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、左右方向に沿って揺動（移動、転動）すると共に遮断部Ｆ５１５８ａの湾

曲形状に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。その結果、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を流出面Ｆ５１１２ｂがへ案内（送球、流下）し易くでき、第５通路ＦＲｔ５５へ案内させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ５１を通過させ難くできる）。

【１８８５４】

連結部Ｆ５１５８ｂは、保持部材Ｆ５１５９に係合（軸支）されるための部位であり、背面側（矢印Ｂ方向側）における連結部Ｆ５１５８ｂには、挿通孔Ｆ５１５８ｂ１が穿設される。挿通孔Ｆ５１５８ｂ１には、保持部材Ｆ５１５９の軸支部Ｆ５１５９ｃが挿通（係合、軸支）され、これにより、開閉部材Ｆ５１５８は、軸支部Ｆ５１５９ｃに回転可能に係合（軸支）される。

【１８８５５】

突出部Ｆ５１５８ｃは、円柱状に形成され、正面側（矢印Ｆ方向側）における連結部Ｆ５１５８ｂに配設される。突出部Ｆ５１５８ｃがスライド部材Ｆ５１５７の挿通孔Ｆ５１５７ｂ１に挿通されることで、開閉部材Ｆ５１５８とスライド部材Ｆ５１５７とが係合される。

【１８８５６】

ここで、スライド部材Ｆ５１５７の挿通孔Ｆ５１５７ｂ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成されるため、スライド部材Ｆ５１５７が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位し、開閉部材Ｆ５１５８（突出部Ｆ５１５８ｃ）が保持部材Ｆ５１５９の軸支部Ｆ５１５９ｃ回転軸として回転する（前後方向に変位する）場合においても、係合部Ｆ５１５８ｃ１と挿通孔Ｆ５１５７ｂ１の内周面とが当接することを抑制できる。

【１８８５７】

また、開閉部材Ｆ５１５８は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される突出部Ｆ５１５８ｃ及び背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される挿通孔Ｆ５１５８ｂ１により、スライド部材Ｆ５１５７及び保持部材Ｆ５１５９に係合（支持）される。これにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に距離を隔てた２箇所で開閉部材Ｆ５１５８を係合（支持）でき、開閉部材Ｆ５１５８の姿勢を安定化させることができる。

【１８８５８】

保持部材Ｆ５１５９は、開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に係合（軸支）するためのものであり、固定部Ｆ５１５９ａと、その固定部Ｆ５１５９ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に突出する突出部Ｆ５１５９ｂと、その突出部Ｆ５１５９ｂから上方側（矢印Ｕ方向側）に突出する軸支部Ｆ５１５９ｃと、を備える。

【１８８５９】

固定部Ｆ５１５９ａは、板状体から形成される。また、固定部Ｆ５１５９ａには挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０に締結されることで、保持部材Ｆ５１５９が背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）される。突出部Ｆ５１５９ｂは、板状体から形成され、固定部Ｆ５１５９ａの正面から正面側（矢印Ｆ方向側）に突出して形成される。

【１８８６０】

軸支部Ｆ５１５９ｃは、開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に軸支するための部位であり、円柱状に形成される。軸支部Ｆ５１５９ｃは、その軸支部Ｆ５１５９ｃの軸方向が玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向と平行となる姿勢で突出部Ｆ５１５９ｂに配設される。

【１８８６１】

また、軸支部Ｆ５１５９ｃは、突出部Ｆ５１５９ｂの突出先端側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、開閉部材Ｆ５１５８の連結部Ｆ５１５８ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）への延設寸法を短くでき、開閉部材Ｆ５１５８が軸支部Ｆ５１５９ｃを回転軸として回転する際の開閉部材Ｆ５１５８の姿勢の安定化を図ることができる。

【１８８６２】

維持手段Ｆ５１６０は、変位手段Ｆ５１５０の右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位後における状態を維持するためのものであり、軸配設部材Ｆ５１６１と、その軸配設部材Ｆ

５１６１に回転可能に軸支される通路部材Ｆ５１６２及び係合部材Ｆ５１６３と、係合部材Ｆ５１６３に配設される磁性体Ｆ５１６４と、を備える。

【１８８６３】

軸配設部材Ｆ５１６１は、板状体から形成され、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に対し平行に配設される第１壁部Ｆ５１６１ａと、その第１壁部Ｆ５１６１ａの左方側（矢印Ｌ方向側）における端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて延設される第２壁部Ｆ５１６１ｂと、を備える。

【１８８６４】

また、軸配設部材Ｆ５１６１には、挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０に締結されることで、維持手段Ｆ５１６０が背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）される。なお、軸配設部材Ｆ５１６１に形成される挿通孔の一部は、保持部材Ｆ５１５９の固定部Ｆ５１５９ａに形成される挿通孔に対応する位置に形成される。これにより、保持部材Ｆ５１５９を背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）するためのタッピングネジを軸配設部材Ｆ５１６１の固定（配設）に兼用でき、製品コストの削減を図ることができる。

【１８８６５】

第１壁部Ｆ５１６１ａには、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する第１軸部Ｆ５１６１ｃが突設され、第２壁部Ｆ５１６１ｂには、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出する第２軸部Ｆ５１６１ｄが突設される。第１軸部Ｆ５１６１ｃ及び第２軸部Ｆ５１６１ｄは、係合部材Ｆ５１６３及び通路部材Ｆ５１６２を軸支するための部位である。

【１８８６６】

通路部材Ｆ５１６２は、係合部材Ｆ５１６３を変位（回転）させるためのものであり、通路部Ｆ５１６２ａと、その通路部Ｆ５１６２ａの背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて延設される被軸支部Ｆ５１６２ｂと、その被軸支部Ｆ５１６２ｂの背面側の端部から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出する伝達部Ｆ５１６２ｃと、を備える。

【１８８６７】

通路部Ｆ５１６２ａは、板状体から形成され、正面側（矢印Ｆ方向側）を除く端部には、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する壁部が形成される。通路部Ｆ５１６２ａは、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、通路部Ｆ５１６２ａ及び第５通路部Ｆ５１４１により区画された空間により第５通路ＦＲｔ５５が形成される。通路部Ｆ５１６２ａへ振り分けられた球は、壁部が非形成とされる正面側（矢印Ｆ方向側）の端部を通過して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１へ案内（送球、流下）される。

【１８８６８】

被軸支部Ｆ５１６２ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる棒状体から形成される。被軸支部Ｆ５１６２ｂには挿通孔が形成され、その挿通孔に第２軸部Ｆ５１６１ｄが挿通されることで、通路部材Ｆ５１６２が軸配設部材Ｆ５１６１に回転可能に軸支される。

【１８８６９】

伝達部Ｆ５１６２ｃは、円柱状に形成される。伝達部Ｆ５１６２ｃと係合部材Ｆ５１６３の被伝達部Ｆ５１６３ｂとが係合することで、通路部材Ｆ５１６２の回転（変位）に伴い、係合部材Ｆ５１６３を変位（回転）させることができる。

【１８８７０】

係合部材Ｆ５１６３は、変位手段Ｆ５１５０の右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位を規制するためのものであり、被軸支部Ｆ５１６３ａと、その被軸支部Ｆ５１６３ａの延設方向一端に配設される被伝達部Ｆ５１６３ｂと、被軸支部Ｆ５１６３ａの延設方向他端に配設される保持部Ｆ５１６３ｃと、を備える。

【１８８７１】

被軸支部Ｆ５１６３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる棒状体から形成される。被軸支部Ｆ５１６３ａには挿通孔が形成され、その挿通孔に第１軸部Ｆ５１６１ｃが挿通されることで、係合部材Ｆ５１６３が軸配設部材Ｆ５１６１に回転可能に軸支される。

【１８８７２】
被伝達部Ｆ５１６３ｂは、通路部材Ｆ５１６２側（矢印Ｌ方向側）における被軸支部Ｆ５１６３ａの端部に配設される。被伝達部Ｆ５１６３ｂは、連結部Ｆ５１６３ｂ１と、その連結部Ｆ５１６３ｂ１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における端部から平行に突出される一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２と、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２の突出先端であって、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２の対向面から突出する係合部Ｆ５１６３ｂ３と、を備える。
【１８８７３】
一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端は、湾曲して形成される。また、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端の対向間の距離は、通路部材Ｆ５１６２の伝達部Ｆ５１６２ｃの外径と同等またはやや大きく形成される。一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の間に伝達部Ｆ５１６２ｃが配設されることで被伝達部Ｆ５１６３ｂと伝達部Ｆ５１６２ｃとが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において係合される。
【１８８７４】
なお、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２（係合部Ｆ５１６３ｂ３）は平行に配設されるため、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとは前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において非係合とされる（一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２に対して伝達部Ｆ５１６２ｃが前後方向に変位可能とされる）。これらにより、第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸とする通路部材Ｆ５１６２の回転に対し、第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として係合部材Ｆ５１６３を回転させることができる。
【１８８７５】
また、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端が湾曲して形成され、伝達部Ｆ５１６２ｃが円柱状に形成されるため、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとの接触面積を小さくでき、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとの間に生じる摩擦力を低減できる。これにより、通路部材Ｆ５１６２又は係合部材Ｆ５１６３の動作不良や被伝達部Ｆ５１６３ｂ又は伝達部Ｆ５１６２ｃの破損を抑制できる。
【１８８７６】
保持部Ｆ５１６３ｃは、磁性体Ｆ５１６４を保持（固定）するための部位である。保持部Ｆ５１６３ｃは、被伝達部Ｆ５１６３ｂとは反対側（矢印Ｒ方向側）における被軸支部Ｆ５１６３ａの端部から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出して形成される。
【１８８７７】
磁性体Ｆ５１６４は、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位を規制するためのものであり、鉄、コバルト、ニッケル又はそれらの合金等の磁性材料から構成される板状体に形成される。磁性体Ｆ５１６４には挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが保持部Ｆ５１６３ｃに締結されることで、磁性体Ｆ５１６４が保持部Ｆ５１６３ｃに保持（固定）される。
【１８８７８】
右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが磁性体Ｆ５１６４側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位した場合、磁性体Ｆ５１６４と右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）とが磁着する。これにより、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが変位前の状態へ復帰（変位）することを規制できる。
【１８８７９】
ここで、維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２、係合部材Ｆ５１６３及び磁性体Ｆ５１６４の全体の重心は、軸配設部材Ｆ５１６１にの第２軸部Ｆ５１６１ｄよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。これにより、通路部材Ｆ５１６２は、第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸として伝達部Ｆ５１６２ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）し、通路部Ｆ５１６２ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。通路部Ｆ５１６２ａが第５通路部材Ｆ５１４０に当接することで、通路部材Ｆ５１６２の回転（変位）が規制される。
【１８８８０】
次いで、図１６８７から図１６８９を参照して、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１

５５の変位（回転）に対する開閉部材Ｆ５１５８の変位（回転）について説明する。なお、開閉部材Ｆ５１５８の変位（回転）の説明においては、図１６８１から図１６８２を適宜参照して説明する。

【１８８８１】

図１６８７は、変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ及び右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ）の変位（回転）前における下側フレームＦ５０８６ｂを、図１６８８は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位（回転）後における下側フレームＦ５０８６ｂを、図１６８９は、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの変位（回転）後における下側フレームＦ５０８６ｂを、それぞれ図示しており、図１６８７（ａ）、図１６８８（ａ）及び図１６８９（ａ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面図であり、図１６８７（ｂ）、図１６８８（ｂ）及び図１６８９（ｂ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面図である。

【１８８８２】

なお、図１６８７から図１６８９において、第２通路部材Ｆ５１２０の中央壁部Ｆ５１２６の図示が省略され、第３通路壁部Ｆ５１２５の一部が破断された状態が図示される。また、下側フレームＦ５０８６ｂにおいて、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）する前の状態を閉塞状態、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）した後の状態を開放状態、とそれぞれ称す。

【１８８８３】

図１６８７に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態において、スライド部材Ｆ５１５７（左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ）のスライド本体部Ｆ５１５７ａが第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに当接することでスライド部材Ｆ５１５７の変位が規制され、開閉部材Ｆ５１５８の遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、通路部材Ｆ５１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、規制部Ｆ５１５１ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁よりも内側に配設される。

【１８８８４】

なお、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向面間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向中央側には非配設とされ、流入口ＦＯＰｆ５１で囲まれた領域における左右方向両側に配設される。

【１８８８５】

これにより、閉塞状態においても、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球は、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）可能となる。

【１８８８６】

また、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間は、下側通路Ｆ５１１２の起伏Ｆ５１１２ａの頂部の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。これにより、起伏Ｆ５１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、起伏Ｆ５１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間へ流入して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され易い。

【１８８８７】

閉塞状態において、変位部材Ｆ５１５５、錘Ｆ５１５６、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８の全体の重心は、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。玉軸受Ｆ５１５２ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて下降傾斜する方向へ傾いて配設されており、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位する。

【１８８８８】

これにより、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａには、下方側（矢

印Ｄ方向側）へ向けて変位する力が作用する。その結果、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａと第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａとの当接状態が維持され、下側フレームＦ５０８６ｂは、閉塞状態に維持される。

【１８８８９】

次いで、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態から開放状態への動作について説明する。第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１を案内された球が変位部材Ｆ５１５５の保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）、保持されることで、変位部材Ｆ５１５５、錘Ｆ５１５６、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８に保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球を加えた全体の重心が、正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する。

【１８８９０】

これにより、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄには、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位する力が作用し、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａには、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位する力が作用する。

【１８８９１】

スライド本体部Ｆ５１５７ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位し、第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに当接することで、スライド部材Ｆ５１５７の変位が規制され、下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態に配置（維持）される。

【１８８９２】

ここで、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態への動作は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）から振り分けられた（案内された）球が変位手段Ｆ５１５０の保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）され、球と共に変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）することにより行われる。

【１８８９３】

上述したように、本実施形態においては、腕部Ｆ５１５５ｂが撓み易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端が変位し易く）形成され、保持部Ｆ５１５５ｅから球が移動（流下、落下）され易く形成される。

【１８８９４】

ここで、第９３実施形態における下側フレームＦ８６ｂでは、球が変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで閉塞状態から開放状態へ動作される。従って、パチンコ機１０（図１５１１参照）に衝撃等が加えられた場合、変位部材Ｆ１３０が変位することで第１入賞口６４へ入賞し易い状態（開放状態）となる。

【１８８９５】

これに対し、本実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂでは、変位手段Ｆ５１５０の保持部Ｆ５１５５ｅに保持されることで閉塞状態から開放状態へ動作され、パチンコ機１０（図１５１１参照）に衝撃等が加えられた場合、保持部Ｆ５１５５ｅから球が移動（流下、落下）され易い。これにより、パチンコ機１０に衝撃等が加えられた場合、第１入賞口６４へ入賞し難い状態（閉塞状態）とできることで、パチンコ機１０に衝撃等が加えられることを抑制し易くできる。

【１８８９６】

図１６８８及び図１６８９に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態において、遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される。言い換えると、遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、通路部材Ｆ５１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ５１を介して遊技者から視認不能となる位置に配設される。従って、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態と比較して、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくなり、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易くできる。

【１８８９７】

下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ５１５５は、変位（回転）

された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。

【１８８９８】

このように、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）を移動（流下、転動）する球が第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）されることで（図１６７７参照）、球の重量を利用して変位部材Ｆ５１５５が閉塞状態から開放状態へ向けて変位（回転）する。これにより、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易くでき、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。

【１８８９９】

従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を球が移動（流下、転動）している場合に、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する球の有無を遊技者に意識させ、興趣を高めることができる。

【１８９００】

なお、下側フレームＦ５０８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての動作は、変位部材Ｆ５１５５から球が流出される（変位部材Ｆ５１５５に球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ５０８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての力（重力）の作用は開放状態の維持と同様であるためその説明は省略する。

【１８９０１】

このように、球の重量を利用して下側フレームＦ５０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。

【１８９０２】

ここで、閉塞状態において、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの起伏の頂部は、通路部材Ｆ５１１０の第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも右方側（矢印Ｒ方向側）となる位置に配設される。

【１８９０３】

これにより、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃに案内され、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）される。

【１８９０４】

第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ振り分けられ、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが回転することで、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌが、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位される。

【１８９０５】

また、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌの第２係合部Ｆ５１５７ｃと振り分け部材Ｆ５１５４の被係合部Ｆ５１５４ａとは係合されるため、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌの変位に連動して振り分け部Ｆ５１５４ｃが左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位される。その結果、振り分け部Ｆ５１５４ｃの起伏の頂部は、第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置に配設される。

【１８９０６】

なお、開放状態のうち、振り分け部材Ｆ５１５４、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌが動作（回転、変位）した状態を「第１開放状態」と称す。

【１８９０７】
従って、第１開放状態において、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃに案内され、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）される。
【１８９０８】
ここで、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、第２の球（第１の球に後行する球であって、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ流下される球）が、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて流下して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ衝突されると、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）する虞がある。第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落（流下）されると、遮断部Ｆ５１５８ａが閉塞状態に復帰されてしまい、流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入され難くなる。
【１８９０９】
特に、第４通路ＦＲｔ５４上に第３の球がある状態で、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ第１の球の重量が作用され、遮断部Ｆ５１５８ａが開放状態となることで、流入口ＦＯＰｆ５１への第３の球の流入を遊技者が期待していた場合には、第１の球の脱落（遮断部Ｆ５１５８ａの遮蔽状態への復帰）は、期待を中断させ、遊技の興趣の低下を招く。
【１８９１０】
これに対し、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態では、第２の球を、振り分け部Ｆ５１５４ｃの案内により、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）させることができる。即ち、第２の球が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）することを規制（抑制）できる。
【１８９１１】
これにより、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、かかる左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが第２の球の影響を受ける（第２の球が、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて流下して、別の第２の球の左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへの衝突により、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）する）ことを抑制できる。即ち、第２の球の衝突によって、遮断部Ｆ５１５８ａの状態が変化する（開放状態から閉塞状態となる）ことを抑制できる。その結果、流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入のし易さが途中で変化されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。
【１８９１２】
この場合、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用された状態では、第２の球を所定位置（例えば、第１通路ＦＲｔ５１上）に保留する（移動を停止させる）構成も考えられる。
【１８９１３】
これに対し、振り分け部Ｆ５１５４ｃは、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用された状態において、第２の球を、所定位置に保留するのではなく、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ案内する（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌよりも右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ移動し易くする）ので、流入口ＦＯＰｆ５１への球（例えば、第４通路ＦＲｔ５４上にある第３の球）の流入のし易さの変化を継続させ易くできる。
【１８９１４】
即ち、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態では、その状態が中断される（第２の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに衝突し、第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落する）ことを抑制しつつ、第２の球を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに受け取らせ、その受け取った第２の球の重量が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに作用された状態を形成することで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒによっても、流入口ＦＯＰｆ５１への球（第３の球）の流入がし易くされた状態を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９１５】
　また、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３の正面側（矢印Ｆ方向側）には、第２通路壁部Ｆ５１２３及び第３通路壁部Ｆ５１２５が立設されるので、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態において、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から流下する球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの側面に衝突（当接）され難くできる。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）することを抑制して、流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入のし易さが途中で変化されることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【１８９１６】
　なお、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させていた第１の球に別の球（第２の球）が当接する場合には、第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落しても、その第１球に代わって、別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させることができる場合がある。また、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの上面（重量を作用させる球が保持または転動される部位、保持部５１５５ｅ又は凹部Ｆ５１５５ｄ１）に別の球（第２の球）が当接する（受け取られる）場合には、重量を作用させていた第１の球に加え、或いは、第１の球に置き換わって、別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させることができる場合がある。よって、別の球（第２の球）が少なくとも左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの側面へ衝突（当接）し難くできれば有効となる。即ち、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転される左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに対し、第２通路壁部Ｆ５１２３及び第３通路壁部Ｆ５１２５が有効となる。
【１８９１７】
　この場合、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転されることで、第２通路ＦＲｔ５２の流下部（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を流下させる部位、第２通路壁部Ｆ５１２３が非形成とされる部位）及び第３通路ＦＲｔ５３の流下部（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を流下させる部位、第３通路壁部Ｆ５１２５が非形成とされる部位）から離れる方向へ変位することができる。これにより、流下部から流下した別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５の側面に衝突（当接）し難くできる。
【１８９１８】
　なお、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３の通路長さは任意に設定可能であり、本実施形態の場合よりも短い長さに設定されることが好ましい。また、振り分け部Ｆ５１５４ｃの大きさ（矢印Ｌ，Ｒ方向寸法）を本実施形態の場合よりも大きくして、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用された状態では、第２流出面Ｆ５１１４ｂ（一対の第２流出面Ｆ５１１４ｂのうちの左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ側に位置するもの）から第２通路ＦＲｔ５２へ流下される球も右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ案内されるように構成しても良い。また、第２流出面Ｆ５１１４ｂの形成を省略しても良い。いずれの場合においても、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、かかる左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが第２の球の影響を受けることを抑制し易くできる。
【１８９１９】
　第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ振り分けられ、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒが動作（回転、変位）することで下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態となる。以下、開放状態のうち、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒが動作（回転、変位）した状態を「第２開放状態」と称す。
【１８９２０】
　下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態においては、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）が、維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着される。これにより、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄから球が流出（流下）された状態においても、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）が動作（回転、変位）する（第２開放状態から閉塞状態へ動作する）こと

を抑制できる。従って、下側フレームＦ５０８６ｂは、第２開放状態（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくされた状態）に維持される。

【１８９２１】

これにより、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒから球が流出（流下）され、球の重量が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに非作用の状態においても、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易い状態を維持できる。

【１８９２２】

このように、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球が、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）することで、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）する場合と比較して、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球が一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入されることを遊技者に期待させ易くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９２３】

また、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球（先行の球）が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）することで、その先行の球の後続となる球（後続の球）を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）させることができる。言い換えると、先行の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ振り分けられてから所定の時間内に後続の球が上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９２４】

また、下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態において、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、変位された状態に維持されるため、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態であることを遊技者に理解させ易くできる。

【１８９２５】

次いで、第２開放状態から閉塞状態への動作（変位）について説明する。一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入した球が維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）されることで、通路部材Ｆ５１６２、係合部材Ｆ５１６３及び磁性体Ｆ５１６４に球を加えた全体の重心は軸配設部材Ｆ５１６１の第２軸部Ｆ５１６１ｄよりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する。これにより、通路部材Ｆ５１６２は第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸として通路部Ｆ５１６２ａ（伝達部Ｆ５１６２ｃ）が下方側（上方側）へ向けて回転する。

【１８９２６】

通路部Ｆ５１６２ａの下方側へ向けての回転により、係合部材Ｆ５１６３は第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として保持部Ｆ５１６３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転し、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合（着磁）が解除される。その結果、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態に配置される。

【１８９２７】

このように、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態（第１入賞口６４へ入賞され易い状態）へ動作されると、少なくとも一球が維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）される（第１入賞口６４へ入賞される）までの間、下側フレームＦ５０８６ｂを第２開放状態に維持することができる。

【１８９２８】

これにより、第２開放状態において、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入を確実化できる。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入されないまま、下側フレームＦ５０８６ｂが

第２開放状態から閉塞状態へ動作されることを抑制できる。その結果、遊技者に安心感を付与でき、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９２９】

次いで、下側フレームＦ５０８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ５０８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ５０（図１６７６参照）を案内された球は、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の上流端に流入（入球）される。

【１８９３０】

上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の上流端に流入（入球）された球は、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って上側通路Ｆ５１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）し、第１流出面Ｆ５１１４ａ若しくは第２流出面Ｆ５１１４ｂから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）若しくは第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）される。

【１８９３１】

第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球は、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの傾斜方向に沿って左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ側（矢印Ｌ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、湾曲部Ｆ５１２２に当接することで移動方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１の正面側に配設される左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球が案内（送球、流出）される。

【１８９３２】

ここで、湾曲部Ｆ５１２２は、上面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凹となる湾曲状に形成されるため、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球の移動速度の大きさを維持したまま、球の移動の方向を正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更できる。これにより、湾曲部Ｆ５１２２が非形成の場合と比較して、早く左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を案内（送球、流出）できる。

【１８９３３】

また、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支されるため、玉軸受Ｆ５１５２ｂが非配設の場合と比較して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球が案内（送球、流出）されてから左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが回転（変位）するまでの時間を短くでき、第１開放状態となるまでの時間を短くできる。

【１８９３４】

これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球の後続となる球が、続けて左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する（振り分け部Ｆ５１５４ｃの変位前に第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１へ案内される）場合であっても、後続の球が先行の球（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内された球）に当接することを抑制でき、先行の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから落下（流出）することを抑制できる。

【１８９３５】

左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと共に玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転（変位）し、流入口ＦＯＰｆ５１側（左右方向中央側）へ向けて変位される。

【１８９３６】

ここで、玉軸受Ｆ５１５２ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて下降傾斜して配設されるため、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、左右方向両端側から中央側へ向かうにつれて下方側（矢印Ｄ方向側）へ変位する。言い換えると、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２の傾斜部の傾斜方向に沿って変位する。

【１８９３７】

これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが下側通路Ｆ５１１２と第２通路部材Ｆ５１２０との間において変位する場合であっても、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと下側通路Ｆ５１１２又は第２通路部材Ｆ５１２０とが当接することを抑制するための空間を小さくできる。即ち、下側通路Ｆ５１１２と第２通路部材Ｆ５１２０との配設間距離を小さくでき、下側フレームＦ５０８６ｂを小型化できる。

【１８９３８】

また、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）と左側変位部材Ｆ５１５５Ｌとの距離（段差）を小さくできる。これにより、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する球を左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）させ易くできる。

【１８９３９】

また、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）との距離を小さくできる。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから振り分けられた球が下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）に当接する際の衝撃力を小さくでき、下側通路Ｆ５１１２の破損を抑制できる。

【１８９４０】

左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球は、保持部Ｆ５１５５ｅに保持される。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの回転（変位）時、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから球が落下（流出）することを抑制できる。

【１８９４１】

ここで、図１６８７から図１６８９に加え、図１６９０を参照して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位および左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）について説明する。図１６９０は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの部分上面図であり、図１６６７（ａ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態、図１６９０（ｂ）から図１６９０（ｄ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態における左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが図示される。

【１８９４２】

図１６９０（ａ）に示すように、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）（図１６８３参照）から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流下）された球ＣＢ５１は、保持部Ｆ５１５５ｅにより左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに保持される（保持部Ｆ５１５５ｅから変位することが抑制される）。

【１８９４３】

図１６９０（ｂ）に示すように、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌのスライド本体部Ｆ５１５７ａが第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに当接することで左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ）の変位が規制され、下側フレームＦ５０８６ｂは、第１開放状態に配置される。

【１８９４４】

下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、球ＣＢ５１は、保持部Ｆ５１５５ｅに保持された状態に維持される。このように、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態から第１開放状態への動作において、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が停止される（球ＣＢ５１が保持部Ｆ５１５５ｅに保持された状態に維持される）ことで、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを抑制できる。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態における期間を長くできる。

【１８９４５】

なお、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位が規制される（下側フレームＦ５０８６ｂが第１開放状態に配置される）ことで慣性力が作用することにより、保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球ＣＢ５１は、本体部Ｆ５１５５ｄへ向けて移動（流下、転動）される。このように、球ＣＢ５１に作用する慣性力を利用して球ＣＢ５１が移動（流下、転動）を再開できる（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除される）ことで、保持部Ｆ５１５５ｅによる保持を解除させる駆動装置を不要とできる。

【１８９４６】
　また、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態では閉塞状態と比較して、保持部Ｆ５１５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれての下降傾斜の角度が小さく形成される。これにより、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）を確実化させ易く（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除され易く）できる。
【１８９４７】
　図１６９０（ｃ）に示すように、球ＣＢ５１が規制壁Ｆ５１５５ｆに当接しつつ移動（流下、転動）されることにより、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１における規制壁Ｆ５１５５ｆ側（矢印Ｂ方向側）へ案内される。即ち、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１の軸心（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の中心）から偏心した位置へ案内される。
【１８９４８】
　図１６９０（ｄ）に示すように、凹部Ｆ５１５５ｄ１の軸心（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の中心）から偏心した位置へ球ＣＢ５１が案内されることで、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回され易い。これにより、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入して左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから流出（流下）されることを遅延させることができる。その結果、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに球ＣＢ５１の重量が作用している期間を長くでき、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態における期間を長くできる。
【１８９４９】
　また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って球ＣＢ５１を移動（流下、転動）させることで、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減でき、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを遅延させることができる。
【１８９５０】
　ここで、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３は、平坦面に形成される、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面が径方向において同一に形成され、底面Ｆ５１５５ｄ３が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において同一に形成される。従って、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３に高低差が無く、球ＣＢ５１を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回させ易くできる。
【１８９５１】
　また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３が連続して形成される、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３に間欠部が非形成とされるため、球ＣＢ５１を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回させ易くできる。
【１８９５２】
　図１６８７から図１６８９に戻って下側フレームＦ５０８６ｂを流下する球について説明する。下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの貫通孔Ｆ５１５５ｄ２（図１６８３参照）は、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の正面側（矢印Ｆ方向側）における上方（矢印Ｕ方向）に配設される。上述したように、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）された球は、立て壁部Ｆ５１１３に当接しつつ左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）する、即ち、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の背面側（矢印Ｂ向側）を揺動（移動、転動）する。
【１８９５３】
　これにより、本体部Ｆ５１５５ｄ（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）から下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ振り分けられた球が下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を揺動（移動、転動）する球に当接することを抑制できる。
【１８９５４】
　また、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの本体部Ｆ５１５５ｄは、通路部材Ｆ５１１０の流出面Ｆ５１１２ｂの上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、本体部Ｆ５１５５ｄから振り分けられた球を遊技領域へ流出（流下）させ易くできる。
【１８９５５】

次いで、下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態について説明する。下側フレームＦ５０８６ｂが第１開放状態に動作（変位）されると、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの頂部は第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置に配設される。これにより、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃの傾斜方向に沿って右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ側（矢印Ｒ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。これにより、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ球が案内（送球、流出）される。

【１８９５６】

球が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ振り分けられてから下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流出）されるまでの右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの動作（回転、変位）については、遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図１６７６左右方向）における中心に対し左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと線（面）対称（図１６７６左右対称）であるため、その詳細な説明については省略する。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態に動作（変位）する。

【１８９５７】

ここで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作（回転、変位）することで、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒは、維持手段Ｆ５１６０の保持部Ｆ５１６３ｃへ向けて変位する。これにより、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）が維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着される。その結果、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒから球が流出（流下）された状態においても、下側フレームＦ５０８６ｂは第２開放状態に維持される。

【１８９５８】

次いで、図１６８３を参照して、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）に形成される第２流出面Ｆ５１１４ｂから案内（送球、流出）される球の動作（変位）について説明する。第２流出面Ｆ５１１４ｂから案内（送球、流出）された球は、まず、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ振り分けられる（案内される）。

【１８９５９】

第２流出面Ｆ５１１４ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ振り分けられた（案内された）球は、正面側へ向けて移動（流下、転動）し、次いで、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ振り分けられる（案内される）。

【１８９６０】

ここで、第２流出面Ｆ５１１４ｂから振り分けられた（案内された）球を一旦、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）することで、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）する球に当接させることができる。

【１８９６１】

これにより、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）する球を第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）可能とできる。言い換えると、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２振り分けられた（案内された）球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流出）不能とでき、下側フレームＦ５０８６ｂを開放状態（第１開放状態または第２開放状態）へ動作させ難くできる。

【１８９６２】

その結果、第１流出面Ｆ５１１４ａから振り分けられた（案内された）球と第２流出面Ｆ５１１４ｂから振り分けられた（案内された）球とが非当接となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９６３】

第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）された球は、左右

方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて移動（流下、転動）し、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）の左右方向両端側の端部から通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）される。

【１８９６４】

ここで、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部の下方（矢印Ｄ方向）には、変位部材Ｆ５１５５の動作（変位）範囲が形成される。これにより、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）から振り分けられた（案内された）球が動作（変位）中の変位部材Ｆ５１５５の腕部Ｆ５１５５ｂに当接可能とできる。

【１８９６５】

上述したように、腕部Ｆ５１５５ｂが撓み易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端が変位し易く）形成されるため、球が腕部Ｆ５１５５ｂに当接することで、変位部材Ｆ５１５５の保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球を落下（流出）させ易くできる。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態から開放状態へ動作することを抑制可能とできる。

【１８９６６】

従って、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）から振り分けられた（案内された）球が変位部材Ｆ５１５５に非当接となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９６７】

図１６７７から図１６８６に戻って説明する。通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）された球は、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（流下、転動）し、開閉部材Ｆ５１５８の一対の遮断部Ｆ５１５８ａ及び流入口ＦＯＰｆ５１へ流入して第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内される、若しくは、下側通路Ｆ５１１２の流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）される。

【１８９６８】

ここで、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、流入口ＦＯＰｆ５１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁部の内側に配設される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ振り分けられた（案内された）球は、流入口ＦＯＰｆ５１へ流入し難く、流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。

【１８９６９】

また、立て壁部Ｆ５１１３には膨出部Ｆ５１１３ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成されるため、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、膨出部Ｆ５１１３ａに当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ５１１３に穿設される流入口ＦＯＰｆ５１へ流入し難く、流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。

【１８９７０】

ここで、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態では、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁部の内側に配設される。一方、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態では、遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、閉塞状態よりも一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくされる。これにより、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、閉塞状態よりも開放状態において流入口ＦＯＰｆ５１（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間）へ流入し、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。

【１８９７１】
従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）している状態において、下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１８９７２】
流入口ＦＯＰｆ５１（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間）へ流入した球は、維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）される。上述したように、通路部Ｆ５１６２ａへ球が案内（送球、流下）されることで、係合部材Ｆ５１６３は第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として保持部Ｆ５１６３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転する。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態に配置される場合においては（図１６８９参照）、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合（着磁）が解除され、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態に配置される。
【１８９７３】
維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）された球は、次いで、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され、第５通路部Ｆ５１４１に形成された一対の突部Ｆ５１４１ｃに沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、通路部材Ｆ５１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過して第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）される。
【１８９７４】
次いで、図１６９１から図１７０３を参照して、第９８実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂについて説明する。上記第９３実施形態では、流入口ＦＯＰｆ１及び流出面Ｆ１１２ｂが同一の通路（第５通路ＦＲｔ５）に形成される場合を説明したが、第９８実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂでは、流入口ＦＯＰｆ６１と流入口ＦＯＰｆ６２とが異なる通路にそれぞれ形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１８９７５】
図１６９１は、第９８実施形態における遊技盤Ｆ６０１３の正面図である。図１６９１に示すように、センターフレームＦ６０８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＦ６０８６ａと下側フレームＦ６０８６ｂとを備える。
【１８９７６】
上側フレームＦ６０８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）における上側（図１６９１上側）及び左右（図１６９１左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ６０８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１６９１下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ６０８６ａ及び下側フレームＦ６０８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１５１２参照）が視認可能とされる。
【１８９７７】
なお、上側フレームＦ６０８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａ（図１３７５参照）における下側（図１６９１下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ６０８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。
【１８９７８】
次いで、図１６９１に加え、図１６９２から図１６９３を参照して下側フレームＦ６０８６ｂについて説明する。図１６９２は、下側フレームＦ６０８６ｂの正面斜視図であり、図１６９３は、下側フレームＦ６０８６ｂの背面斜視図である。
【１８９７９】
図１６９２から図１６９３に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される一対の第１通路ＦＲｔ６１と、一対の第１通路ＦＲｔ６１

を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ６２と、その第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が移動（流下、転動）される一対の第３通路ＦＲｔ６３及び一対の第４通路ＦＲｔ６４と、一対の第３通路ＦＲｔ６３を案内された球が移動（流下、転動）される第５通路ＦＲｔ６５と、その第５通路ＦＲｔ６５を案内された球が流下される第６通路ＦＲｔ６６と、第５通路ＦＲｔ６５及び第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が第６通路ＦＲｔ６６及び第４通路ＦＲｔ６４へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２と、第６通路ＦＲｔ６６及び第４通路ＦＲｔ６４を流下された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２とが形成される。

【１８９８０】

なお、一対の第１通路ＦＲｔ６１、一対の第３通路ＦＲｔ６３及び一対の第４通路ＦＲｔ６４は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６９１左右対称）にそれぞれ配設される。

【１８９８１】

上側フレームＦ６０８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ６０が配設される（図１６９１参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ６０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ６０の下流端に第１通路ＦＲｔ６１の上流端が連通される。

【１８９８２】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ６０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ６１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ６０から下側フレームＦ６０８６ｂの第１通路ＦＲｔ６１へ流入（入球）される。

【１８９８３】

なお、図示は省略するが、上側フレーム通路ＦＲｔ６０は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６９１左右対称）にそれぞれ配設される。従って、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ６０に流入（入球）した球は、遊技盤Ｆ６０１３の右方側（図１６９１右方側）に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ６０から遊技盤Ｆ６０１３の右方側に配設される第１通路ＦＲｔ６１へ流入（入球）される。

【１８９８４】

ここで、第６通路ＦＲｔ６６の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ６５の流入口ＦＯＰｆ６１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１８９８５】

また、第２通路ＦＲｔ６２には、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面としておが形成（配置）される。そのため、第２通路ＦＲｔ６２の流出面Ｆ６１１２ｂに沿って案内（送球、流下）される球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【１８９８６】

一方、第４通路ＦＲｔ６４の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ６２は、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ６４へ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１８９８７】

なお、第２通路ＦＲｔ６２には、起伏Ｆ６１１２ａが形成され、起伏Ｆ６１１２ａの底

部は流入口ＦＯＰｆ６２の正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）に配設される。また、第２通路ＦＲｔ６２は、背面側（矢印Ｂ方向側、遊技領域とは反対側）へ向けて下降傾斜して形成されており、起伏の底部へ案内（送球、流下）される球は、第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられる確率が高い。

【１８９８８】

また、流出面Ｆ６１１２ｂは起伏Ｆ６１１２ａの頂部に形成される。従って、第２通路ＦＲｔ６２へ振り分けられた球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ送球されるよりも起伏Ｆ６１１２ａの底部から第４通路ＦＲｔ６４へ流出され易い。

【１８９８９】

結果として、起伏の底部へ案内（送球、流下）される球は、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ６１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球や第２通路ＦＲｔ６２の流出面Ｆ６１１２ｂから振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１８９９０】

第３通路ＦＲｔ６３には、その第３通路ＦＲｔ６３へ振り分けられた球を第５通路ＦＲｔ６５へ案内（送球、流下）するための当接部Ｆ６１５４が形成（配置）される。第３通路ＦＲｔ６３は、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に凹となる湾曲状に形成されており、当接部Ｆ６１５４は、第３通路ＦＲｔ６３において第１通路ＦＲｔ６１とは反対側の端部に配設される。

【１８９９１】

第１通路ＦＲｔ６１から第３通路ＦＲｔ６３に振り分けられた球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも大きい場合は、球は第３通路ＦＲｔ６３の湾曲面を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて移動（流下、転動）し、当接部Ｆ６１５４に当接する。これにより、球の移動（流下、転動）方向が変更され、第５通路ＦＲｔ６５へ振り分けられる。

【１８９９２】

なお、第３通路ＦＲｔ６３の湾曲底面には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１４ａが形成（配置）されており、球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合は当接部Ｆ６１５４に当接できず、流出面Ｆ６１１４ａから第２通路ＦＲｔ６２へ振り分けられる。

【１８９９３】

第５通路ＦＲｔ６５には、流入口ＦＯＰｆ６１及び一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが形成（配置）されており、第５通路ＦＲｔ６５へ振り分けられた球は、流入口ＦＯＰｆ６１若しくは一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過して第６通路ＦＲｔ６６若しくは第２通路ＦＲｔ６２へ案内（送球、流下）される。

【１８９９４】

なお、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂは、第２通路ＦＲｔ６２の起伏Ｆ６１１２ａの頂部（流出面Ｆ６１１２ｂ）に対して遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。そのため、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過した球は、第２通路ＦＲｔ６２の起伏Ｆ６１１２ａの頂部（流出面Ｆ６１１２ｂ）へ案内され難く、起伏Ｆ６１１２ａの底部から第４通路ＦＲｔ６４へ案内され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【１８９９５】

下側フレームＦ６０８６ｂには、球の重さにより動作する振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂが当接部Ｆ６１５４よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に配設されており（図１７０３参照）、当接部Ｆ６１７３ｂが第３通路ＦＲｔ６３に配置された状態においては、第３通路ＦＲｔ６３の湾曲面を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合であっても当接部Ｆ６１７３ｂに当接することにより球の移動（流下、転動）方向が変更され、球は第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられる。

【１８９９６】

よって、第３通路ＦＲｔ６３をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合であっても、振分手段Ｆ６１７０（変位部材Ｆ６１７３）が動作することで第５通路ＦＲｔ６５へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。その結果、第３通路ＦＲｔ６３を球が移動（流下、転動）している状態において、振分手段Ｆ６１７０（変位部材Ｆ６１７３）が動作することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１８９９７】

次いで、図１６９２から図１６９３に加え、図１６９４から図１７０１を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの詳細構成について説明する。

【１８９９８】

図１６９４は、下側フレームＦ６０８６ｂの分解正面斜視図であり、図１６９５は、下側フレームＦ６０８６ｂの分解背面斜視図である。図１６９６は、振分手段Ｆ６１７０の分解正面斜視図であり、図１６９７は、振分手段Ｆ６１７０の分解背面斜視図である。図１６９８は、下側フレームＦ６０８６ｂの上面図であり、図１６９９は、下側フレームＦ６０８６ｂの正面図であり、図１７００は、下側フレームＦ６０８６ｂの背面図である。図１７０１（ａ）は、図１６９９の矢印ＭＤＣＣＩａ方向視における下側フレームＦ６０８６ｂの側面図であり、図１７０１（ｂ）は、図１６９９の矢印ＭＤＣＣＩｂ方向視における下側フレームＦ６０８６ｂの側面図であり、図１７０１（ｃ）は、図１６９９のＭＤＣＣＩｃ－ＭＤＣＣＩｃ線における下側フレームＦ６０８６ｂの断面図である。

【１８９９９】

図１６９２から図１７０１に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂは、通路部材Ｆ６１１０と、その通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第５通路部材Ｆ６１２０と、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される第６通路部材Ｆ６１３０と、その第６通路部材Ｆ６１３０の背面側（矢印Ｄ方向側）に配設される中間通路部材Ｆ６１４０と、その中間通路部材Ｆ６１４０の背面側に配設される背面部材Ｆ６１５０と、その背面部材Ｆ６１５０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される一対の第１通路部材Ｆ６１６０と、背面部材Ｆ６１５０の背面側に配設される振分手段Ｆ６１７０と、を備える。

【１９０００】

通路部材Ｆ６１１０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２が形成され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１に第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１が挿通され、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２に第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２が挿通される。また、通路部材Ｆ６１１０には、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２が形成され、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２は、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１及び第２凹部Ｆ６１４２に対応する位置にそれぞれ配設される。

【１９００１】

中間通路部材Ｆ６１４０及び背面部材Ｆ６１５０には貫通孔Ｆ６１４３が形成され、貫通孔Ｆ６１４３に振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４が挿通される。また、背面部材Ｆ６１５０には挿通孔Ｆ６１５１ｂが形成され、挿通孔Ｆ６１５１ｂに振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３が挿通される。

【１９００２】

通路部材Ｆ６１１０には第５通路部材Ｆ６１２０及び背面部材Ｆ６１５０がタッピングネジによりそれぞれ締結固定される。第６通路部材Ｆ６１３０は、タッピングネジにより中間通路部材Ｆ６１４０に締結固定され、中間通路部材Ｆ６１４０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ６１５０にそれぞれ締結固定される。これらにより、下側フレームＦ６０８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１６９２、図１６９３参照）。

【１９００３】

下側フレームＦ６０８６ｂは、通路部材Ｆ６１１０、第５通路部材Ｆ６１２０、第６通路部材Ｆ６１３０、背面部材Ｆ６１５０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７

０の変位通路部材Ｆ６１７４が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、中間通路部材Ｆ６１４０及び振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＦＲｔ６１から第６通路ＦＲｔ６６を移動する球を遊技者に視認させると共に、振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３の動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９００４】

なお、中間通路部材Ｆ６１４０及び振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【１９００５】

また、一方で、下側フレームＦ６０８６ｂは、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する中間通路部材Ｆ６１４０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５が正面側から遊技者に視認不能とできる。なお、中間通路部材Ｆ６１４０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５が正面側から遊技者に視認可能となるように構成されても良い。

【１９００６】

通路部材Ｆ６１１０は、第２通路ＦＲｔ６２及び第３通路ＦＲｔ６３を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ６１１１と、その正面板Ｆ６１１１の背面から突設される下側通路Ｆ６１１２と、その下側通路Ｆ６１１２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ６１１３と、その立て壁部Ｆ６１１３の端部から背面側（矢印Ｂ方向側）に延設される上側通路Ｆ６１１４と、下側通路Ｆ６１１２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ６１１５と、を備える。

【１９００７】

正面板Ｆ６１１１、下側通路Ｆ６１１２、立て壁部Ｆ６１１３及び背面部材Ｆ６１５０により区画された空間により第２通路ＦＲｔ６２が形成され、上側通路Ｆ６１１４及び背面部材Ｆ６１５０により区画された空間により第３通路ＦＲｔ６３が形成される。

【１９００８】

正面板Ｆ６１１１には、複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２が開口形成（板厚方向に穿設）される。本実施形態における流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第６通路ＦＲｔ６６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口であり、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２は、第４通路ＦＲｔ６４を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。

【１９００９】

正面板Ｆ６１１１には、正面視における形状が下側通路Ｆ６１１２の流出面Ｆ６１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ６１１１ｂが流出面Ｆ６１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。切欠き部Ｆ６１１１ｂを通過することで、第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が第１入賞口６４へ送球される。

【１９０１０】

下側通路Ｆ６１１２は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、下側通路Ｆ６１１２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）された球を背面部材Ｆ６１５０若しくは立て壁部Ｆ６１１３に当接させつつ左右方向に沿って揺動（移動、転動）させることができる。

【１９０１１】

なお、下側通路Ｆ６１１２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における略中央には起伏Ｆ６１１２ａが形成され、起伏Ｆ６１１２ａの頂部には、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１２ｂが形成（配置）される

。
【１９０１２】
　また、起伏Ｆ６１１２ａの底部、言い換えると、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される部位と起伏Ｆ６１１２ａとの境界は、立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２の正面（矢印Ｆ方向）に形成（配置）される。従って、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ案内されるよりも起伏Ｆ６１１２ａの底部から立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２を通過して第４通路ＦＲｔ６４へ案内され易い（遊技領域へ流出され易い）。
【１９０１３】
　立て壁部Ｆ６１１３は、下側通路Ｆ６１１２と上側通路Ｆ６１１４とを連結するための部位である。上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は下側通路Ｆ６１１２と面一に形成されており、従って、立て壁部Ｆ６１１３は、左右方向における下側通路Ｆ６１１２の両端とは非連結に形成される。言い換えると、立て壁部Ｆ６１１３の左右方向における延設長さは、下側通路Ｆ６１１２の左右方向における延設長さよりも小さく形成される。
【１９０１４】
　立て壁部Ｆ６１１３には、流入口ＦＯＰｆ６１及び一対の流入口ＦＯＰｆ６２が開口形成（板厚方向に穿設）される。流入口ＦＯＰｆ６１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりもやや大きく形成される。流入口ＦＯＰｆ６２の左右方向における寸法は、球の外形の略２倍の大きさに形成される。上述したように、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２は、第５通路ＦＲｔ６５を案内された球が第６通路ＦＲｔ６６へ流出される際の出口となる開口である。
【１９０１５】
　立て壁部Ｆ６１１３は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凸となる湾曲状に形成され、これにより、立て壁部Ｆ６１１３に当接しつつ下側通路Ｆ６１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が下側通路Ｆ６１１２の起伏Ｆ６１１２ａを通過する際、その球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。その結果、起伏Ｆ６１１２ａを通過する球を流出面Ｆ６１１２ｂ（第１入賞口６４）へ案内し易くでき、第４通路ＦＲｔ６４へ案内させ難くできる。
【１９０１６】
　立て壁部Ｆ６１１３の上端は、上側通路Ｆ６１１４の上面の形状と略同一に形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内された球を上側通路Ｆ６１１４の正面から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ流出（流下、落下）させることができる。
【１９０１７】
　上側通路Ｆ６１１４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、上側通路Ｆ６１１４は、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて凹となる湾曲状に形成される。また、上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は、下側通路Ｆ６１１２の上面と面一に形成され、これにより、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球を上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分け易く（案内し易く）できる。
【１９０１８】
　また、上側通路Ｆ６１１４は、背面部材Ｆ６１５０側（矢印Ｂ方向側）に向けて下降傾斜して形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球を下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ流出（流下、落下）させ難くできる。
【１９０１９】
　上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における上方（矢印Ｕ方向）には、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４が配設される。左右方向両端側から中央側

へ向けて上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも大きい場合、球は、当接部Ｆ６１５４に当接できる。

【１９０２０】

一方、左右方向両端側から中央側へ向けて上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも小さい場合、球は、当接部Ｆ６１５４に非当接であり、上側通路Ｆ６１１４の湾曲形状に沿って左右方向両端側へ向けて移動（流下、転動）する。言い換えると、球は、上側通路Ｆ６１１４の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）する。

【１９０２１】

なお、上側通路Ｆ６１１４の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置（湾曲凹部）には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１４ａが形成（配置）される。従って、上側通路Ｆ６１１４へ振り分けられた球のうち、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に非当接となる球は、流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）される。

【１９０２２】

また、上側通路Ｆ６１１４の上方側（矢印Ｕ方向側）には、切欠きＦ６１１４ｂが形成される。切欠きＦ６１１４ｂの内周面は、振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂの外形よりもやや大きく形成され、切欠きＦ６１１４ｂを通過することで、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の下面側から上面側へ変位可能に配設される。

【１９０２３】

なお、上側通路Ｆ６１１４において、流出面Ｆ６１１４ａよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における上側通路Ｆ６１１４を第１傾斜部Ｆ６１１４ｃ、左右方向両端側における上側通路Ｆ６１１４を第２傾斜部Ｆ６１１４ｄ、とそれぞれ符号を付して説明する。

【１９０２４】

留め部Ｆ６１１５には、挿通孔Ｆ１１５ａが板厚方向に穿設され、その挿通孔Ｆ１１５ａに挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ６１５０に締結されることで、通路部材Ｆ６１１０に背面部材Ｆ６１５０が固定（配設）される。

【１９０２５】

留め部Ｆ６１１５は、ベース板６０の背面に当接して配設される。また、下側通路Ｆ６１１２は、正面板Ｆ６１１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一端から他端において連続的に形成される。これらにより、針金等の異物の侵入が抑制される。なお、留め部Ｆ６１１５は、ベース板６０の背面から所定の距離を隔てて配設され、留め部Ｆ６１１５とベース板６０の背面とが非当接とされても良い。

【１９０２６】

第５通路部材Ｆ６１２０は、第５通路ＦＲｔ６５を形成するためのものであり、第５通路部Ｆ６１２１と、その第５通路部Ｆ６１２１の外縁から立設される壁部Ｆ６１２２と、その壁部Ｆ６１２２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端から背面部材Ｆ６１５０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突設される連結部Ｆ６１２３と、を備える。また、壁部Ｆ６１２２の正面には有色部材Ｆ６１２４が配設される。第５通路部Ｆ６１２１、壁部Ｆ６１２２及び通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第５通路ＦＲｔ６５が形成される。

【１９０２７】

第５通路部Ｆ６１２１は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。第５通路部Ｆ６１２１には、流出面Ｆ６１２１ａと、その流出面Ｆ６１２１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に配設される一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂとが形成される。

【１９０２８】

第５通路部Ｆ６１２１は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４よりも正面側（矢

印Ｆ方向側）に配設される。これにより、上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球が第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路部Ｆ６１２１）に当接することを抑制できる。また、第５通路部Ｆ６１２１は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これにより、当接部Ｆ６１５４に当接した球を第５通路部Ｆ６１２１へ案内（送球、流下）できる。

【１９０２９】

第５通路部Ｆ６１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて張り出して形成され、その張り出し部に一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが穿設される。第５通路部Ｆ６１２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部（立て壁部Ｆ６１１３）と挿通孔Ｆ６１２１ｂとの間の部位の寸法は球の外形よりも大きく形成され、かかる部位を球が移動（流下、転動）可能に形成される。

【１９０３０】

第５通路部Ｆ６１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成されると共に、立て壁部Ｆ６１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。

【１９０３１】

流出面Ｆ６１２１ａは、第５通路部Ｆ６１２１の左右方向略中央であって、立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６１の正面側（矢印Ｆ方向側）となる位置に形成される凹面として形成される。従って、第５通路部Ｆ６１２１へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ６１２１ａへ案内（送球、流出）され易く、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（流入口ＦＯＰｆ６１）へ案内（送球、流出）され易い。

【１９０３２】

挿通孔Ｆ６１２１ｂは、第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられた球を下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下、落下）させるための部位である。これにより、第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられた球を中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（流入口ＦＯＰｆ６１）へ非案内とでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１９０３３】

なお、第５通路部Ｆ６１２１には、挿通孔Ｆ６１２１ｂが非形成とされても良い。これにより、第５通路部材Ｆ６１２０に案内（送球、流出）された球を確実に中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第１入賞口６４）へ案内（送球、流下）できる。

【１９０３４】

壁部Ｆ６１２２は、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球が、下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下）することを抑制するための部位であり、壁部Ｆ６１２２の突設高さは、球の外形よりも小さく形成される。これにより、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球を遊技者に視認させ易くできる。

【１９０３５】

壁部Ｆ６１２２には、流出面Ｆ６１２１ａの上方（矢印Ｕ方向）（一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂの対向間）となる位置に突部Ｆ６１２２ａが流入口ＦＯＰｆ６１側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される。突部Ｆ６１２２ａに当接することで、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球を背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて移動（流下、転動）させることができ、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ案内され難くできる。

【１９０３６】

連結部Ｆ６１２３は、第５通路部材Ｆ６１２０を背面部材Ｆ６１５０に固定（配設）させるための部位である。連結部Ｆ６１２３の下端と通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面との間の寸法は、球の外形よりも大きく形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が連結部Ｆ６１２３に当接することを抑制できる。

【１９０３７】

有色部材Ｆ６１２４は、有色の樹脂材料から構成される。これにより、第５通路部Ｆ６１２１を移動（流下、転動）する球が、流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１を通

過して第６通路ＦＲｔ６６へ案内（送球、流出）される、或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過して下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下、落下）されることを遊技者に視認させ難くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【１９０３８】

第６通路部材Ｆ６１３０は、中間通路部材Ｆ６１４０から振り分けられた（案内された）球を遊技領域へ流出させるためのものであり、第６通路部材Ｆ６１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される第６通路部Ｆ６１３１と、その第６通路部Ｆ６１３１の左右方向両側に形成される一対の第４通路部Ｆ６１３２と、を備える。

【１９０３９】

第６通路部Ｆ６１３１は、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１から振り分けられた球を遊技領域へ流出させるための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ６１３１ａと、その底面部Ｆ６１３１ａの左右方向両端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ６１３１ｂと、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。一対の壁部Ｆ６１３１ｂの対向面間の距離は球の外形よりもやや大きく形成され、底面部Ｆ６１３１ａ、一対の壁部Ｆ６１３１ｂ及び通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６６（の一部）が形成される。

【１９０４０】

第６通路部Ｆ６１３１は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、第６通路部Ｆ６１３１へ振り分けられた（案内された）球は、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過し、を遊技領域へ流出される。

【１９０４１】

底面部Ｆ６１３１ａの上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ６１３１ｃが突設される。突部Ｆ６１３１ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ６１３１ｃの上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ６１３１ｃの対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ６１３１ｃの正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、底面部Ｆ６１３１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。

【１９０４２】

これにより、底面部Ｆ６１３１ａ上の球を２箇所（突部Ｆ６１３１ｃの上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ６１３１ｃが非形成の場合と比較して、第６通路部Ｆ６１３１の幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。よって、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過した球を第１入賞口６４へ入賞（案内）させやすくできる。

【１９０４３】

第４通路部Ｆ６１３２は、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から振り分けられた球を遊技領域へ流出させるための部位であり、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設される底面部Ｆ６１３２ａと、その底面部Ｆ６１３２ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される側壁部Ｆ６１３２ｂと、底面部Ｆ６１３２ａの背面側の端部から上方へ向けて突設される背面壁Ｆ６１３２ｃと、側壁部Ｆ６１３２ｂと背面壁Ｆ６１３２ｃとを連結する湾曲部Ｆ６１３２ｄと、背面壁Ｆ６１３２ｃの上面から上方へ向けて突設される規制壁Ｆ６１３２ｅと、を備える。底面部Ｆ６１３２ａ、側壁部Ｆ６１３２ｂ、背面壁Ｆ６１３２ｃ、湾曲部Ｆ６１３２ｄ及び通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２により区画された空間により第４通路ＦＲｔ６４（の一部）が形成される。

【１９０４４】

第４通路部Ｆ６１３２は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ６２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられた（案内された）球は、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２を通過し、を遊技領域へ流出される。

【１９０４５】

底面部Ｆ６１３２ａの上面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って下方側（矢印Ｄ方向側）へ凹設する凹部Ｆ６１３２ａ１が形成される。凹部Ｆ６１３２ａ１は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、これにより、球の自重を利用して第４通路部Ｆ６１３２へ案内（送球、流下）された球を遊技領域へ流出させることができる。

【１９０４６】

また、凹部Ｆ６１３２ａ１は、底面部Ｆ６１３２ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される。これにより、第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）位置を第４通路部Ｆ６１３２の左右方向の略中央とできる。

【１９０４７】

ここで、中間通路部材Ｆ６１４０へ第６通路部材Ｆ６１３０を固定する際の誤差（組立公差）やベース板６０へ通路部材Ｆ６１１０固定する際の誤差（組立公差）等の要因に起因して、第４通路部Ｆ６１３２と流出口ＦＯＰｏｕｔ６２との相対的位置が設計された位置とは異なって配設され、第４通路部Ｆ６１３２を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１へ当接する虞がある。この場合、第４通路部Ｆ６１３２に球が滞留し易くなり、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ球が振り分けられ（案内され）難くなる。従って、変位通路部材Ｆ６１７４に球が滞留する虞がある。

【１９０４８】

これに対し、底面部Ｆ６１３２ａの上面に凹部Ｆ６１３２ａ１が形成され、第４通路部Ｆ６１３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央を球が移動（流下、転動）することで、球が通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１に当接することを抑制でき、第４通路部Ｆ６１３２を移動（流下、転動）する球を遊技領域に流出させ易くできる。その結果、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ球を振り分け（案内され）易くでき、変位通路部材Ｆ６１７４に球が滞留することを抑制できる。

【１９０４９】

背面壁Ｆ６１３２ｃには、挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが中間通路部材Ｆ６１４０に締結されることで、第６通路部材Ｆ６１３０が中間通路部材Ｆ６１４０に固定（配設）される。

【１９０５０】

湾曲部Ｆ６１３２ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側（背面側）へ向けて凹となる湾曲状に形成される。湾曲部Ｆ６１３２ｄに当接することで、左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する球の速さを小さくすることなく球を正面側（矢印Ｆ方向側）へ案内できる。これにより、第４通路部Ｆ６１３２に球を滞留させ難くでき、変位通路部材Ｆ６１７４に球を滞留させ難くできる。

【１９０５１】

規制壁Ｆ６１３２ｅは、上面視において、略Ｌ字状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される直線部とその直線部の左右方向中央側の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて延設される屈曲部とから形成される。通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２から振り分けられた（案内された）球を規制壁Ｆ６１３２ｅの屈曲部に当接させることで球が左右方向両端側（振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４）へ向けて変位することを規制でき、流入口ＦＯＰｆ６２を通過した球が変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられる（案内される）ことに要する時間を嵩ませることができる。

【１９０５２】

これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた（案内された）球が変位通路部材Ｆ６１７４を移動（流下、転動）している状態において、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられる（案内される）前に変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球の後続となる球を下側フレームＦ６０８６ｂに案内（流入）させ易くできる。

【１９０５３】

中間通路部材Ｆ６１４０は、第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１や通路部

材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２から振り分けられた（案内された）球を第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１や振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）させるためのものである。

【１９０５４】

中間通路部材Ｆ６１４０は、その中間通路部材Ｆ６１４０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される第１凹部Ｆ６１４１と、その第１凹部Ｆ６１４１の左右方向両側に形成される一対の第２凹部Ｆ６１４２と、その第２凹部Ｆ６１４２の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される一対の貫通孔Ｆ６１４３と、を備える。

【１９０５５】

第１凹部Ｆ６１４１及び通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６６（の一部）が形成され、第２凹部Ｆ６１４２及び立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第４通路ＦＲｔ６４（の一部）が形成される。

【１９０５６】

第１凹部Ｆ６１４１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて球の外形よりも大きく凹設して形成される。また、第１凹部Ｆ６１４１は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設され、その第１凹部Ｆ６１４１の上端は、通路部材Ｆ６１１０の流入口ＦＯＰｆ６１の背面側に、第１凹部Ｆ６１４１の下端は、第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１の背面側に、それぞれ配設される。これにより、球の自重を利用して、第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１（通路部材Ｆ６１１０の流入口ＦＯＰｆ６１）から振り分けられた球を第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１へ案内（送球、流下）できる。

【１９０５７】

第２凹部Ｆ６１４２は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて球の外形よりも大きく凹設して形成される。第２凹部Ｆ６１４２において球が当接する面として形成される転動面Ｆ６１４２ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、球の自重を利用して、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（流入口ＦＯＰｆ６２）から振り分けられた球を振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）できる。

【１９０５８】

貫通孔Ｆ６１４３は、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４を挿通させるための部位である。貫通孔Ｆ６１４３を挿通することで、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４を中間通路部材Ｆ６１４０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設できる。

【１９０５９】

背面部材Ｆ６１５０は、第５通路部材Ｆ６１２０、中間通路部材Ｆ６１４０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７０を支持するためのものであり、背面板Ｆ６１５１と、その背面板Ｆ６１５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される一対の側板Ｆ６１５２と、背面板Ｆ６１５１の下端に配設される下板Ｆ６１５３と、背面板Ｆ６１５１の正面から突設される当接部Ｆ６１５４と、背面板Ｆ６１５１の背面から突出される突出板Ｆ６１５５と、を備える。

【１９０６０】

背面板Ｆ６１５１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から構成される。背面板Ｆ６１５１の左右方向中央側における下方側（矢印Ｄ方向側）には、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凹設される凹部Ｆ６１５１ａが形成される。凹部Ｆ６１５１ａの上面は非形成とされ、言い換えると、凹部Ｆ６１５１ａは上方側が開放して形成され、その開放部を通過して振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５の下端が凹部Ｆ６１５１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【１９０６１】

また、背面板Ｆ６１５１には、当接部Ｆ６１５４の下方側（矢印Ｄ方向側）であって、通路部材Ｆ６１１０の切欠きＦ６１１４ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に挿通孔Ｆ６１５１ｂが板厚方向に穿設される。挿通孔Ｆ６１５１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて延設して形成され、その挿通孔Ｆ６１５１ｂには、振分手段Ｆ６１７

０の当接部Ｆ６１７３ｂが挿通される。
【１９０６２】
側板Ｆ６１５２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる板状体から構成され、側板Ｆ６１５２の下端は、下板Ｆ６１５３に連結して形成される。また、側板Ｆ６１５２の対向面とは反対側の面には一対の突起Ｆ６１５２ａがそれぞれ形成される。
【１９０６３】
突起Ｆ６１５２ａは、円柱状に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。突起Ｆ６１５２ａに第１通路部材Ｆ６１６０の固定孔Ｆ６１６４ａが嵌合されることで、第１通路部材Ｆ６１６０が背面部材Ｆ６１５０に固定（配設）される。
【１９０６４】
下板Ｆ６１５３は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から構成される。下板Ｆ６１５３は、一対の側板Ｆ６１５２に連結して配設され、下板Ｆ６１５３と一対の側板Ｆ６１５２との間には隙間が非形成とされる。
【１９０６５】
また、下板Ｆ６１５３の正面と一対の側板Ｆ６１５２の正面とは面一に形成され、下板Ｆ６１５３及び一対の側板Ｆ６１５２の正面は、ベース板６０の背面に当接される。これらにより、背面部材Ｆ６１５０の内側への針金等の異物の侵入が抑制される。
【１９０６６】
なお、一対の側板Ｆ６１５２と下板Ｆ６１５３とは非連結（非当接）に配設され、下板Ｆ６１５３と一対の側板Ｆ６１５２との間には隙間が形成されても良い。また、下板Ｆ６１５３の正面と一対の側板Ｆ６１５２の正面とは非面一に形成され、下板Ｆ６１５３の正面または一対の側板Ｆ６１５２の正面は、ベース板６０の背面に非当接とされても良い。
【１９０６７】
当接部Ｆ６１５４は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球を第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けるための部位である。当接部Ｆ６１５４は、上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の距離だけ隔てて配設される。なお、所定の距離とは、球の半径よりも大きく且つ球の直径よりも小さく設定される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球を当接部Ｆ６１５４に当接させることができる。また、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が当接部Ｆ６１５４を乗り越えることを抑制できる。
【１９０６８】
当接部Ｆ６１５４は、板状体から構成される。当接部Ｆ６１５４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行に配設される。当接部Ｆ６１５４の傾斜方向下側の面、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に対向する面には、傾斜方向上側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ向けて凹となる湾曲面Ｆ６１５４ａが湾曲して形成される。
【１９０６９】
上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）し、当接部Ｆ６１５４の湾曲面Ｆ６１５４ａに当接した球は、その球の移動（流下、転動）方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更され、これにより、球が上側通路Ｆ６１１４から第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けられる（案内される）。
【１９０７０】
突出板Ｆ６１５５は、振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６の変位を規制するための部位であり、板状体から構成される。突出板Ｆ６１５５の下面に錘支持部材Ｆ６１７６が当接することで、錘支持部材Ｆ６１７６の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が規制される。
【１９０７１】
第１通路部材Ｆ６１６０は、上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図１６９１参照）から振り

分けられた（案内された）球を通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）させるためのものである。第１通路部材Ｆ６１６０は、上側フレーム通路ＦＲｔ６０の下流端に連通される溝部Ｆ６１６１と、その溝部Ｆ６１６１の下流端に連通される凹部Ｆ６１６２と、凹部Ｆ６１６２の下面から突設される案内部Ｆ６１６３及び固定部Ｆ６１６４と、を備える。溝部Ｆ６１６１や凹部Ｆ６１６２により区画された空間により第１通路ＦＲｔ６１が形成される。

【１９０７２】

溝部Ｆ６１６１は、溝状に形成され、その溝部Ｆ６１６１の溝形状は、球の外形と略同等に形成（凹設）される。また、溝部Ｆ６１６１は、上流端（上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図１６９１参照）に連通される側の端部）から下流端（凹部Ｆ６１６２に連通される側の端部）へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、球の自重を利用して、上側フレーム通路ＦＲｔ６０から振り分けられた球を凹部Ｆ６１６２へ向けて移動（流下、転動）させることができる。

【１９０７３】

溝部Ｆ６１６１の溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、球の半径と略同等に形成される。これにより、上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図１６９１参照）から振り分けられた（案内された）球を溝部Ｆ６１６１に沿って移動（流下、転動）させることができ、溝部Ｆ６１６１の下流端以外の部位（溝部Ｆ６１６１の上流端と下流端との間の部位）から凹部Ｆ６１６２へ案内（送球、流下）されることを抑制できる。

【１９０７４】

溝部Ｆ６１６１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設して形成される直線部と、その直線部の下流端から湾曲して形成される湾曲部と、から形成される。溝部Ｆ６１６１の湾曲部は、凹部Ｆ６１６２の凹設側面に連結して形成される。

【１９０７５】

凹部Ｆ６１６２は、上方（矢印Ｕ方向）が開放された円筒状に形成され、その凹部Ｆ６１６２の底面は、下方側（矢印Ｄ方向側）へ凹となるすり鉢状に形成される。また、凹部Ｆ６１６２の底面には、凹設側面から球の外形よりも大きい距離だけ隔てて一対の挿通孔Ｆ６１６２ａが穿設される。

【１９０７６】

上述したように、溝部Ｆ６１６１の湾曲部と凹部Ｆ６１６２の凹設側面とが連結して形成されることで、溝部Ｆ６１６１から振り分けられた（案内された）球を凹部Ｆ６１６２の内周面に沿って移動（流下、転動）させることができる。これにより、一対の挿通孔Ｆ６１６２ａを通過させ難くできる。その結果、一対の挿通孔Ｆ６１６２ａを通過する第１の球と、その第１の球の後続となる第２の球との間隔を所定量以下とし易くできる。

【１９０７７】

挿通孔Ｆ６１６２ａは、凹部Ｆ６１６２から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ球を振り分ける（案内する）ための部位であり、球の外形よりもやや大きく形成される。一対の挿通孔Ｆ６１６２ａは、凹部Ｆ６１６２の中心軸から前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔てて形成される。

【１９０７８】

なお、正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される孔を挿通孔Ｆ６１６２ａ１、背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される孔を挿通孔Ｆ６１６２ａ２とそれぞれ異なる符合を付して区別する。挿通孔Ｆ６１６２ａ１は、通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に穿設され、挿通孔Ｆ６１６２ａ２は、立て壁部Ｆ６１１３よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に穿設される。

【１９０７９】

これにより、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過して右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０へ向けて下側通路Ｆ６１１２の上面を移動（流下、転動）する。これに対し、左方側に配設される第１通路部材

Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、下側通路Ｆ６１１２の左方側から左方側に形成される上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）される。

【１９０８０】

案内部Ｆ６１６３は、凹部Ｆ６１６２の挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２を通過した球を通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流出）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて下降傾斜して形成される。凹部Ｆ６１６２と下側通路Ｆ６１１２との間に案内部Ｆ６１６３を介設することで、下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流出）される際の球の衝撃を小さくでき、下側通路Ｆ６１１２の破損を抑制できる。また、下側通路Ｆ６１１２に当接した際の跳ね返り量を小さくでき、通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１を超えて下側通路Ｆ６１１２から遊技領域へ球が流出（流下、落下）されることを抑制できる。

【１９０８１】

案内部Ｆ６１６３には、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２の下方側（矢印Ｄ方向側）となる位置に一対のガイド凹部Ｆ６１６３ａが下側通路Ｆ６１１２側（左右方向両端側）へ向けて凹設して形成される。ガイド凹部Ｆ６１６３ａは、球の外形と略同等の形状に湾曲して形成され、これにより、案内部Ｆ６１６３に案内（送球、流出）された球は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）への変位が規制される。

【１９０８２】

その結果、挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球が、上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）されることや、挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過することを抑制できる。

【１９０８３】

固定部Ｆ６１６４は、第１通路部材Ｆ６１６０を背面部材Ｆ６１５０（側板Ｆ６１５２）へ固定（配設）させるための部位であり、固定部Ｆ６１６４には、一対の固定孔Ｆ６１６４ａが板厚方向に穿設される。固定孔Ｆ６１６４ａは、側板Ｆ６１５２の突起Ｆ６１５２ａが挿通可能に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成される。これにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、通路部材Ｆ６１１０（下側通路Ｆ６１１２）に対する第１通路部材Ｆ６１６０の配設位置を変更可能とできる。

【１９０８４】

その結果、一方の第１通路部材Ｆ６１６０に形成される挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球が、一方の第１通路部材Ｆ６１６０側に配設される上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）されることや、一方の第１通路部材Ｆ６１６０に形成される挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過し、他方の第１通路部材Ｆ６１６０へ向けて下側通路Ｆ６１１２を移動（流下、転動）する（立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過する）ことを生じさせることができる。

【１９０８５】

振分手段Ｆ６１７０は、球の重さにより動作して、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の移動方向を変更させるためのものであり、支持部材Ｆ６１７１と、その支持部材Ｆ６１７１に支持される第１軸Ｆ６１７２と、その第１軸Ｆ６１７２に軸支される一対の変位部材Ｆ６１７３と、その変位部材Ｆ６１７３に係合される一対の変位通路部材Ｆ６１７４と、その変位通路部材Ｆ６１７４と変位部材Ｆ６１７３とを連結する一対の連結部材Ｆ６１７５と、その連結部材Ｆ６１７５に配設される一対の錘支持部材Ｆ６１７６と、その錘支持部材Ｆ６１７６に配設される一対の錘Ｆ６１７７と、連結部材Ｆ６１７５を軸支する一対の第２軸Ｆ６１７８と、を備える。

【１９０８６】

変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６、錘Ｆ６１７７及び第２軸Ｆ６１７８は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６９１左右対称）にそれぞれ配設される。

【１９０８７】
　また、連結部材Ｆ６１７５を介することで、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが一体化（１のユニットとして形成）される。なお、本実施形態においては、連結部材Ｆ６１７５に錘支持部材Ｆ６１７６が固定（配設）され、その錘支持部材Ｆ６１７６に錘Ｆ６１７７が配設（支持）されることで、変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６及び錘Ｆ６１７７が一体化（１のユニットとして形成）される。
【１９０８８】
　支持部材Ｆ６１７１は、板状体から構成され、支持部材Ｆ６１７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて屈曲される一対の屈曲部Ｆ６１７１ａが形成される。屈曲部Ｆ６１７１ａには、挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に第１軸Ｆ６１７２が挿通されることで、第１軸Ｆ６１７２が支持部材Ｆ６１７１に支持される。
【１９０８９】
　また、支持部材Ｆ６１７１の下端には、切欠きＦ６１７１ｂが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて切欠き形成される。切欠きＦ６１７１ｂに錘支持部Ｆ６１７６ｂが当接することで、変位部材Ｆ６１７３（変位通路部材Ｆ６１７４）の変位が規制される。
【１９０９０】
　支持部材Ｆ６１７１及び一対の屈曲部Ｆ６１７１ａにより区画された空間に第１軸Ｆ６１７２、一対の変位部材Ｆ６１７３及び一対の連結部材Ｆ６１７５を配設することで、針金等の異物の侵入が抑制される。
【１９０９１】
　第１軸Ｆ６１７２は、一対の変位部材Ｆ６１７３を変位可能に係合（支持）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。第１軸Ｆ６１７２には、支持部材Ｆ６１７１の一対の屈曲部Ｆ６１７１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に切り込みが形成され、その切り込みには金属リング状のＣリング（図示せず）が嵌合される。これにより、第１軸Ｆ６１７２は、支持部材Ｆ６１７１に抜去不能に支持される。
【１９０９２】
　変位部材Ｆ６１７３は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球の移動方向を変更させるためのものであり、板状体から構成される本体部Ｆ６１７３ａと、その本体部Ｆ６１７３ａから正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出する当接部Ｆ６１７３ｂと、本体部Ｆ６１７３ａから背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄと、を備える。
【１９０９３】
　変位部材Ｆ６１７３は、着色されて構成される。これにより、変位部材Ｆ６１７３が変位したことを遊技者に視認させ易くできる。ここで、一対の変位部材Ｆ６１７３は、異なる色に着色される。これにより、一対の変位部材Ｆ６１７３の一方または他方が変位された状態を遊技者に視認させ易くできる。なお、一対の変位部材Ｆ６１７３は、同色に着色されても良い。
【１９０９４】
　本体部Ｆ６１７３ａは、板状体から構成され、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球が本体部Ｆ６１７３ａに当接することを抑制できる。
【１９０９５】
　なお、本体部Ｆ６１７３ａは、一対の変位部材Ｆ６１７３の一方と他方とで外形が異なるものの、その本体部Ｆ６１７３ａの外形は、変位部材Ｆ６１７３の機能に関与しないので同一の符号を付して説明する。
【１９０９６】
　当接部Ｆ６１７３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜

して形成され、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行に配設される。当接部Ｆ６１７３ｂの外形は、上側通路Ｆ６１１４の切欠きＦ６１１４ｂの内周面よりもやや小さく形成され、当接部Ｆ６１７３ｂは、切欠きＦ６１１４ｂの内側に配設される。

【１９０９７】

当接部Ｆ６１７３ｂは、板状体から構成され、上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行であると共に、略面一に配設される。当接部Ｆ６１７３ｂの傾斜方向下側の面、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に対向する面には、傾斜方向上昇側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ向けて凹となる湾曲面Ｆ６１７３ｂ１が湾曲して形成される。

【１９０９８】

詳細は後述するが、当接部Ｆ６１７３ｂが通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の距離だけ隔てた位置に配設され、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球と当接可能な位置に変位された場合、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、球の移動（流下、転動）方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更される。これにより、球が上側通路Ｆ６１１４から第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けられる（案内される）。

【１９０９９】

なお、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて傾斜方向上昇側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ傾斜して形成されても良い。

【１９１００】

被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄは、板状体からそれぞれ構成され、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄには、板厚方向に穿設される挿通孔がそれぞれ形成される。それら挿通孔に第１軸Ｆ６１７２が挿通されることで、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位が可能に支持される。

【１９１０１】

なお、被支持部Ｆ６１７３ｃは、当接部Ｆ６１７３ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の被支持部Ｆ６１７３ｃに生じるモーメントを低減でき、被支持部Ｆ６１７３ｃの破損を抑制できる。

【１９１０２】

また、第１軸Ｆ６１７２に対し、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄの２箇所により変位部材Ｆ６１７３を支持することで、第１軸Ｆ６１７２との支持が１箇所の場合と比較して、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の衝撃により被支持部Ｆ６１７３ｃ又は係合部Ｆ６１７３ｄが破損することを抑制し易くできる。

【１９１０３】

また、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の変位部材Ｆ６１７３の姿勢の変化を抑制し易くできる。

【１９１０４】

係合部Ｆ６１７３ｄには、係合部Ｆ６１７３ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲される屈曲部Ｆ６１７３ｄ１が形成される。その屈曲部Ｆ６１７３ｄ１には板厚方向に穿設される挿通孔Ｆ６１７３ｄ２が形成される。挿通孔Ｆ６１７３ｄ２は、連結部材Ｆ６１７５の被係合部Ｆ６１７５ｂ１が挿通可能に形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる長孔状に形成される。これにより、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが係合されると共に、被係合部Ｆ６１７５ｂ１は、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に対し、上下方向に変位可能に係合される。

【１９１０５】

変位通路部材Ｆ６１７４は、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する球を第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２へ振り分ける（案内する）ためのものであり、通路部Ｆ６１７４ａと、その通路部Ｆ６１７４ａの左右方向（

矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の縁部から立設される外側壁部Ｆ６１７４ｂと、通路部Ｆ６１７４ａの正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部から立設される正面壁部Ｆ６１７４ｃと、通路部Ｆ６１７４ａの左右方向中央側の縁部から立設される内側壁部Ｆ６１７４ｄと、通路部Ｆ６１７４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部から立設される連結部Ｆ６１７４ｅと、を備える。

【１９１０６】

通路部Ｆ６１７４ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる板状体から構成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて下降傾斜して配設される。通路部Ｆ６１７４ａには、その通路部Ｆ６１７４ａの上面から突設される突部Ｆ６１７４ａ１が形成される。

【１９１０７】

突部Ｆ６１７４ａ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる直線部と、その直線部の前端から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲される屈曲部と、から構成され、直線部の上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、屈曲部の上面は、左右方向中央側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。

【１９１０８】

突部Ｆ６１７４ａ１の直線部は、外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄから球の半径よりも小さい距離だけ隔てて配設される。また、突部Ｆ６１７４ａ１の屈曲部は、正面壁部Ｆ６１７４ｃ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄの正面端から球の半径よりも小さい距離だけ隔てて配設される。これらにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球は、突部Ｆ６１７４ａ１の上面を転動可能となり、球の自重を利用して第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２へ案内（送球、流下）される。

【１９１０９】

外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び正面壁部Ｆ６１７４ｃの突設高さは、球の半径よりも大きく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球が外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び正面壁部Ｆ６１７４ｃを乗り越え、ベース板６０と背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１との間に脱落することを抑制できる。また、正面壁部Ｆ６１７４ｃの突設高さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球を遊技者に視認させ易くできる。

【１９１１０】

また、外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄには、通路部Ｆ６１７４ａの突部Ｆ６１７４ａ１側（左右方向における通路部Ｆ６１７４ａの中央側）へ向けて突設する突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１がそれぞれ形成される。突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１は、突設先端へ向けて前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の幅寸法が小さくなるテーパ状に形成される。また、突起Ｆ６１７４ｂ１は、突起Ｆ６１７４ｄ１よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。

【１９１１１】

突部Ｆ６１７４ａ１の上面を移動（流下、転動）する球が突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１に当接することで、その球の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくできる。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）された球が変位通路部材Ｆ６１７４を通過することに要する時間を嵩ませることができる。

【１９１１２】

また、突起Ｆ６１７４ｂ１に当接することで、突部Ｆ６１７４ａ１の上面を移動（流下、転動）する球に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位させることができる。これにより、突起Ｆ６１７４ｂ１に当接した球を突起Ｆ６１７４ｄ１に当接させ易くできる。

【１９１１３】

連結部Ｆ６１７４ｅは、変位通路部材Ｆ６１７４と連結部材Ｆ６１７５とを締結固定するためのタッピングネジが螺合される部位である。変位通路部材Ｆ６１７４が連結部材Ｆ６１７５に固定され、連結部材Ｆ６１７５と変位部材Ｆ６１７３とが係合されることで、変位通路部材Ｆ６１７４の変位に連動して変位部材Ｆ６１７３を変位させることができる

。
【１９１１４】
連結部材Ｆ６１７５は、変位通路部材Ｆ６１７４の変位に変位部材Ｆ６１７３を連動させるためのものであり、被軸支部Ｆ６１７５ａと、その被軸支部Ｆ６１７５ａの外周面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する第１連結部Ｆ６１７５ｂと、被軸支部Ｆ６１７５ａの外周面から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて突出する第２連結部Ｆ６１７５ｃと、を備える。
【１９１１５】
被軸支部Ｆ６１７５ａは、円柱状に形成され、その被軸支部Ｆ６１７５ａの中心軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢で配設される。また、被軸支部Ｆ６１７５ａには、被軸支部Ｆ６１７５ａの中心軸に沿って挿通孔が穿設され、その挿通孔に第２軸Ｆ６１７８が挿通されることで、連結部材Ｆ６１７５が第２軸Ｆ６１７８に軸支される。
【１９１１６】
第１連結部Ｆ６１７５ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、第１軸Ｆ６１７２と変位部材Ｆ６１７３の屈曲部Ｆ６１７３ｄ１との間に配設される。第１連結部Ｆ６１７５ｂの上端部には、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する被係合部Ｆ６１７５ｂ１が形成され、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が変位部材Ｆ６１７３の挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に挿通されることで、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが係合される。
【１９１１７】
ここで、本実施形態における第１連結部Ｆ６１７５ｂは、第２軸Ｆ６１７８を回転軸として回転変位されるのに対し、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位が可能に支持される。よって、第１連結部Ｆ６１７５ｂ（被係合部Ｆ６１７５ｂ１）は、変位部材Ｆ６１７３に対して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に相対変位しつつ変位部材Ｆ６１７３を左右方向へ変位させる。
【１９１１８】
上述したように、変位部材Ｆ６１７３の挿通孔Ｆ６１７３ｄ２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる長孔状に形成され、詳細には、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に被係合部Ｆ６１７５ｂ１が挿通された状態では、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下端と被係合部Ｆ６１７５ｂ１とが当接不能に形成される。
【１９１１９】
これにより、振分手段Ｆ６１７０の動作時において、被係合部Ｆ６１７５ｂ１と挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の側面（上下方向に延びる内周面）とが当接することで、変位部材Ｆ６１７３が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位される。一方、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下端と被係合部Ｆ６１７５ｂ１とが当接不能なため、変位部材Ｆ６１７３が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位することを抑制できる。
【１９１２０】
また、変位部材Ｆ６１７３の屈曲部Ｆ６１７３ｄ１が係合部Ｆ６１７３ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲され、その屈曲部Ｆ６１７３ｄ１の正面側（矢印Ｆ方向側）に第１連結部Ｆ６１７５ｂが配設される。従って、屈曲部Ｆ６１７３ｄ１と第１連結部Ｆ６１７５ｂとの間に形成される隙間のうち、左右方向両端側が係合部Ｆ６１７３ｄにより遮蔽される。
【１９１２１】
ここで、屈曲部Ｆ６１７３ｄ１と第１連結部Ｆ６１７５ｂとの間に形成される隙間が露出される場合、かかる隙間に針金等の異物を挟み入れることで第１連結部Ｆ６１７５ｂ又は変位部材Ｆ６１７３の変位が抑制される虞がある。これに対し、本実施形態では、係合部Ｆ６１７３ｄが第１連結部Ｆ６１７５ｂと屈曲部Ｆ６１７３ｄ１との間に形成される隙間のうち、少なくとも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側を遮蔽することで、針金等の異物が挟み込まれることを抑制し易くできる。
【１９１２２】
第２連結部Ｆ６１７５ｃは、被軸支部Ｆ６１７５ａと変位通路部材Ｆ６１７４とを連結

するための部位であり、第１連結部Ｆ６１７５ｂよりも正面側（矢印Ｆ方向側）において被軸支部Ｆ６１７５ａに配設される。第２連結部Ｆ６１７５ｃの上面には、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて切欠きが形成され、これにより、第２連結部Ｆ６１７５ｃと錘支持部材Ｆ６１７６とが当接することを抑制できる。

【１９１２３】

錘支持部材Ｆ６１７６は、錘Ｆ６１７７を支持するためのものであり、延設部Ｆ６１７６ａと、その延設部Ｆ６１７６ａの先端に形成される錘支持部Ｆ６１７６ｂと、を備える。

【１９１２４】

延設部Ｆ６１７６ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から構成され、延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、タッピングネジ等により連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂに締結固定される。なお、延設部Ｆ６１７６ａの延設方向は、連結部材Ｆ６１７５の第２連結部Ｆ６１７５ｃの延設方向とは反対側、即ち、第２連結部Ｆ６１７５ｃが被軸支部Ｆ６１７５ａから左右方向両端側へ向けて延設されるのに対し、延設部Ｆ６１７６ａは、連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂから左右方向中央側へ向けて延設される。

【１９１２５】

延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）における中心に対し、遊技盤Ｆ６０１３の一側に配設され、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心に対し、遊技盤Ｆ６０１３の他側に配設される。言い換えると、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心に対し、延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）とは反対側に配設される。

【１９１２６】

例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂに締結固定される延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図１６９１左右方向）における中心よりも左方側に配設され、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心よりも右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される。

【１９１２７】

ここで、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の正面に固定（配設）され、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の背面に固定（配設）される。これにより、一対の連結部材Ｆ６１７５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される場合においても一対の錘支持部材Ｆ６１７６が当接することを抑制できる。

【１９１２８】

錘支持部Ｆ６１７６ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ６１７６ｂの内周面は、錘Ｆ６１７７の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ６１７６ｂの内周面に錘Ｆ６１７７が内包されることで、錘Ｆ６１７７が錘支持部Ｆ６１７６ｂに配設（支持）される。

【１９１２９】

また、錘支持部Ｆ６１７６ｂが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設されるため、振分手段Ｆ６１７０が背面部材Ｆ６１５０に配設された（組み付けられた）状態においても、錘Ｆ６１７７を挿脱できる。

【１９１３０】

錘Ｆ６１７７は、重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ６１７７が錘支持部Ｆ６１７６ｂに配設されることで、１のユニットとして形成される変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６及び錘Ｆ６１７７の全体（以下「振分手段Ｆ６１７０の可動部」と称す）の重心が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。

【１９１３１】
第２軸Ｆ６１７８は、連結部材Ｆ６１７５を軸支（回転可能に係合）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。第２軸Ｆ６１７８は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設され、第２軸Ｆ６１７８は、連結部材Ｆ６１７５の被軸支部Ｆ６１７５ａに穿設される挿通孔に挿通される。これにより、連結部材Ｆ６１７５は第２軸Ｆ６１７８を回転軸として回転可能に形成される。
【１９１３２】
連結部材Ｆ６１７５と変位部材Ｆ６１７３とが係合されることで、連結部材Ｆ６１７５の変位（回転）に連動して変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位可能に形成される。
【１９１３３】
次いで、図１７０２から図１７０３を参照して、振分手段Ｆ６１７０の動作について説明する。図１７０２（ａ）及び図１７０３（ａ）は、図１７０１（ｃ）のＭＤＣＣＩＩａ－ＭＤＣＣＩＩａ線における下側フレームＦ６０８６ｂの部分拡大断面図であり、図１７０２（ｂ）及び図１７０３（ｂ）は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分拡大背面図である。
【１９１３４】
なお、図１７０２（ｂ）及び図１７０３（ｂ）では、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１の図示が省略される。また、図１７０２は、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作前における下側フレームＦ６０８６ｂを、図１７０３は、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作後における下側フレームＦ６０８６ｂを、それぞれ図示しており、振分手段Ｆ６１７０の可動部が動作する前の状態を動作前状態、振分手段Ｆ６１７０の可動部が動作した後の状態を動作後状態、とそれぞれ定義する。
【１９１３５】
図１７０２に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、変位通路部材Ｆ６１７４の内側壁部Ｆ６１７４ｄが中間通路部材Ｆ６１４０の貫通孔Ｆ６１４３の内周面に当接することで変位通路部材Ｆ６１７４の動作（変位）が規制され、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面に対し面一となる位置に配設される。
【１９１３６】
これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することを抑制できる。また、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が、当接部Ｆ６１７３ｂの上面を移動（流下、転動）可能となり、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接可能となる。
【１９１３７】
なお、当接部Ｆ６１７３ｂが上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成された状態では、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の一部とみなす。このように、当接部Ｆ６１７３ｂを上側通路Ｆ６１１４の一部とすることで、例えば、球を移動（流下、転動）可能とするために、切欠きＦ６１１４ｂに嵌め込み可能に形成される嵌め込み部材を省略でき、製造コストを低減できる。
【１９１３８】
ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、当接部Ｆ６１７３ｂが背面部材Ｆ６１５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、当接部Ｆ６１７３ｂが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される構成が考えられる。この場合、前後方向における振分手段Ｆ６１７０の寸法が大きくなり、下側フレームＦ６０８６ｂが大型化する虞がある。
【１９１３９】
これに対し本実施形態における当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成されるため、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における振分手段Ｆ６１７０の寸法を小さくできる。また、上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における空間を有効に活用でき、下側フレームＦ６０８６ｂを小型化できる。

【１９１４０】
　また、動作前状態において、振分手段Ｆ６１７０の可動部の重心は、第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４が上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、変位通路部材Ｆ６１７４の内側壁部Ｆ６１７４ｄと中間通路部材Ｆ６１４０の貫通孔Ｆ６１４３の内周面との当接が維持される。その結果、下側フレームＦ６０８６ｂは、動作前状態に維持される。
【１９１４１】
　次いで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作について説明する。変位通路部材Ｆ６１７４に球が案内（送球、流下）されることで、球を加えた振分手段Ｆ６１７０の可動部の重心が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。
【１９１４２】
　これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部には、変位通路部材Ｆ６１７４が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、錘支持部材Ｆ６１７６の錘支持部Ｆ６１７６ｂは、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。
【１９１４３】
　その結果、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位し、当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の間隔だけ隔てた位置に変位し、上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球と当接可能な位置に配置される。なお、所定の間隔は、球の直径よりもやや小さい間隔に設定される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面と当接部Ｆ６１７３ｂとの間に球が挟まることを抑制できる。
【１９１４４】
　また、錘支持部Ｆ６１７６ｂは、背面部材Ｆ６１５０の突出板Ｆ６１５５や支持部材Ｆ６１７１に当接し、これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作（変位）が規制され、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態に配置（維持）される。
【１９１４５】
　上述したように、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の正面に固定（配設）されるのに対し、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の背面に固定（配設）される。そのため、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６の錘支持部Ｆ６１７６ｂは、背面部材Ｆ６１５０の突出板Ｆ６１５５とは非当接となる位置に配設される。
【１９１４６】
　これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部のうち、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、突出板Ｆ６１５５に当接し、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、支持部材Ｆ６１７１の切欠きＦ６１７１ｂの内周面に当接する。従って、左方側と右方側とで、振分手段Ｆ６１７０の可動部の変位量が異なる虞がある。
【１９１４７】
　これに対し、支持部材Ｆ６１７１に切欠きＦ６１７１ｂが形成されることで、動作前状態における突出板Ｆ６１５５及び切欠きＦ６１７１ｂと一対の錘支持部Ｆ６１７６ｂとの間の距離を同一とできる。これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部の左方側と右方側とで動作（変位）量を同一とできる。
【１９１４８】
　また、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作時において、連結部材Ｆ６１７５の被係合部Ｆ６１７５ｂ１は、第２軸Ｆ６１７８の上方（矢印Ｕ方向）を横切って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から左右方向両端側へ向けて変位する。これにより、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向中央側に位置する状態においては、被係合部Ｆ

６１７５ｂ１は上方へ向けて変位し、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向両端側に位置する状態においては、被係合部Ｆ６１７５ｂ１は下方（矢印Ｄ方向）へ向けて変位する。

【１９１４９】

従って、長孔状に形成される挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法を小さくでき、係合部Ｆ６１７３ｄ（屈曲部Ｆ６１７３ｄ１）を小さく形成できる。その結果、振分手段Ｆ６１７０の設計の自由度を向上や製品コストの削減を図ることができる。

【１９１５０】

ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、当接部Ｆ６１７３ｂが上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成されるため、動作前状態から動作後状態における当接部Ｆ６１７３ｂの変位量を小さくでき、動作前状態から動作後状態への動作に要する時間を短縮できる。

【１９１５１】

例えば、当接部Ｆ６１７３ｂが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される構成では、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量は、球の直径よりも大きく設定される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量を小さくでき、動作前状態から動作後状態への動作に要する時間を短縮できる。

【１９１５２】

また、例えば、上側通路Ｆ６１１４の上面から球の直径よりも大きな間隔だけ隔てて当接部Ｆ６１７３ｂが配設される構成では、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量は、球の半径よりも大きく設定される。また、かかる構成では、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作により、上側通路Ｆ６１１４の上面と当接部Ｆ６１７３ｂとの間に球が挟まる虞がある。

【１９１５３】

図１７０３に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態においては、変位部材Ｆ６１７３が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位され、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に当接可能な位置に配置される。

【１９１５４】

当接部Ｆ６１７３ｂは、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。これにより、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接不能な速度（運動エネルギー）であっても、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）から第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられる。

【１９１５５】

下側フレームＦ６０８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ６１７３は、変位された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。

【１９１５６】

このように、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球を当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接させることで、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の上面を移動（流下、転動）する球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態となる、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４を移動する球の有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９１５７】

また、当接部Ｆ６１７３ｂが流出面Ｆ６１１４ａよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中

央側、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を球が上昇する位置に配置される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を上昇する球は徐々に速度が低下され、球の移動（流下、転動）と、球と当接部Ｆ６１７３ｂとの当接とを遊技者に視認させ易くできる。

【１９１５８】

なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態へ向けての動作は、変位通路部材Ｆ６１７４から球が流出される（変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態へ向けての力（重力）の作用、は動作前状態の維持と同様であるためその説明は省略する。

【１９１５９】

このように、球の重量を利用して下側フレームＦ６０８６ｂを動作前状態から動作後状態、或いは、動作後状態から動作前状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。

【１９１６０】

図１６９２から図１７０１に戻って、下側フレームＦ６０８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ６０８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図１６９１参照）を案内された球は、第１通路部材Ｆ６１６０の溝部Ｆ６１６１（第１通路ＦＲｔ６１）の上流端に流入（入球）される。

【１９１６１】

第１通路部材Ｆ６１６０の溝部Ｆ６１６１の上流端に流入（入球）された球は、凹部Ｆ６１６２へ案内（送球、流出）され、凹部Ｆ６１６２の底面に穿設される挿通孔Ｆ６１６２ａ１若しくは挿通孔Ｆ６１６２ａ２から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）される。

【１９１６２】

下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）された球は、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って下側通路Ｆ６１１２の左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する。

【１９１６３】

なお、一方側（例えば、右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過して、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）の他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。

【１９１６４】

ここで、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）することや立て壁部Ｆ６１１３に当接することにより、球には摩擦力が作用し、球の速度（運動エネルギー）が減少する。

【１９１６５】

これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態においては、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）され、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する球は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接不能とされる。従って、球は、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃと第２傾斜部Ｆ６１１４ｄとを往復動した後、他方側の上側通路Ｆ６１１４に形成される流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）される。

【１９１６６】

また、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、凹面として形成される流出面Ｆ６１１４ａを通過することで球の速度（運動エネルギー）が減少される。

【１９１６７】

これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を移動（転動）する球と当接

部Ｆ６１５４との当接を抑制し易くできる。このように、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分けられた（案内された）球を下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）させる機能と、上側通路Ｆ６１１４を移動（転動）する球の速度（運動エネルギー）を減少させる機能とを流出面Ｆ６１１４ａに兼用させることができ、製品コストの削減を図ることができる。

【１９１６８】

流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ案内（送球、流下）される、若しくは、起伏Ｆ６１１２ａの底部から立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２へ流入して中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。

【１９１６９】

次いで、球が他方側（左方側）に配設される第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された場合について説明する。

【１９１７０】

他方側（左方側）に配設される第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、他方側に配設される振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂが動作前状態から動作後状態へ動作される。詳細には、他方側の変位部材Ｆ６１７３が変位された状態における動作後状態へ動作される。

【１９１７１】

他方側（左方側）に配設される変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、次いで、他方側に配設される第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態から動作前状態へ動作される。他方側に配設される第４通路部Ｆ６１３２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ６２を通過して遊技領域へ流出される。

【１９１７２】

なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態、詳細には、球が他方側（左方側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）を移動（流下、転動）している状態においては、その他方側に配設される変位通路部材Ｆ６１７４を移動する球（以下「第１の球」と称す）の後続となる球（以下「第２の球」と称す）であり、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入された第２の球は、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。

【１９１７３】

ここで、図１７０４を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球の移動（流下、転動）について説明する。図１７０４は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分上面図である。なお、図１７０４では、変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂを除く振分手段Ｆ６１７０の図示が省略される。

【１９１７４】

図１７０４（ａ）に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１に当接可能な位置に配設される。

【１９１７５】

詳細には、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達する位置よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に当接部Ｆ６１７３ｂが配設される。

【１９１７６】
次いで、図１７０４（ｂ）に示すように、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６１は、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇すると共に、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）される。言い換えると、球ＣＢ６１には、正面側へ向けての速度成分が付与される。
【１９１７７】
ここで、球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達した位置では、球の速度が０となり（又は速度が小さくなり）球の勢いが弱い。そのため、球ＣＢ６１が最も上方側へ到達する位置に当接部Ｆ６１７３ｂが配設された場合、球ＣＢ６１が当接部Ｆ６１７３ｂに当接しても正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて案内されない虞がある。
【１９１７８】
これに対し、本実施形態では、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達する位置よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に当接部Ｆ６１７３ｂが配設されるため、球ＣＢ６１の勢いが強い（速度が確保される）。これにより、球ＣＢ６１の勢いを利用して、当接部Ｆ６１７３ｂに当接した球ＣＢ６１を正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて案内し易くできる。
【１９１７９】
次いで、球ＣＢ６１が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位することにより、図１７０４（ｃ）に示すように、球ＣＢ６１は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられ、壁部Ｆ６１２２に当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての移動（流下、転動）が規制される。
【１９１８０】
ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作では、当接部Ｆ６１７３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から左右方向中央側へ向けて変位される。また、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（当接部Ｆ６１７３ｂへ向けて移動する）球ＣＢ６１には、左右方向中央側および上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動する。従って、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂの変位方向には、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれる。
【１９１８１】
これにより、球ＣＢ６１と当接部Ｆ６１７３ｂとの当接により球ＣＢ６１の移動方向（左右方向中央側へ向けての方向）へ当接部Ｆ６１７３ｂを変位させ（下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態における当接部Ｆ６１７３ｂの配設位置へ向けて後退させ）、衝撃を吸収できる。その結果、当接部Ｆ６１７３ｂの破損を抑制できる。
【１９１８２】
次いで、図１７０４（ｄ）に示すように、第５通路部Ｆ６１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての下降傾斜に沿って球ＣＢ６１は移動（流下、転動）され、流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入される。或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）される（図１６９２参照）。
【１９１８３】
図１６９２から図１７０１に戻って説明する。このように、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態へ動作される（第１の球が変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）される）ことで、第２の球や第２の球の後続となる球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分ける（案内させる）ことができる。上述したように、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易く、従って、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、第２の球や第２の球の後続となる球が下側フレームＦ６０８６ｂへ振り分けられる（案内される）ことを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９１８４】
　また、球の当接により変位部材Ｆ６１７３に作用する力の方向と変位部材Ｆ６１７３の動作後状態から動作前状態への変位の方向（左右方向中央側）との少なくとも一部を一致させることができる。これにより、球が当接した際、変位部材Ｆ６１７３を動作前状態へ向けて変位させることで変位部材Ｆ６１７３に加わる衝撃力を小さくでき、変位部材Ｆ６１７３が破損することを抑制できる。
【１９１８５】
　なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過して他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、球の速度（運動エネルギー）が減少した状態で変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに当接される。従って、球が当接した際の当接部Ｆ６１７３ｂに加わる衝撃力を小さくでき、変位部材Ｆ６１７３が破損することを抑制できる。
【１９１８６】
　次いで、他方側（左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）について説明する。他方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から振り分けられた（案内された）球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過せず、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。
【１９１８７】
　この場合、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球の移動量が小さい。また、立て壁部Ｆ６１１３に非当接とされる。これらにより、球に作用する摩擦力が小さく、球の速度（運動エネルギー）の減少が抑制される。
【１９１８８】
　その結果、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、一方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に形成される湾曲面Ｆ６１５４ａに当接可能となる。
【１９１８９】
　ここで、図１７０５を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球の移動（流下、転動）について説明する。図１７０５は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分上面図である。なお、図１７０５では、振分手段Ｆ６１７０の図示が省略される。
【１９１９０】
　図１７０５（ａ）に示すように、第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から振り分けられた（案内された）球ＣＢ６２は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して速度（運動エネルギー）が大きく、当接部Ｆ６１７３ｂに形成される湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接される。
【１９１９１】
　これにより、図１７０５（ｂ）に示すように、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６２は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇すると共に、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）される。言い換えると、球ＣＢ６２には、正面側へ向けての速度成分が付与される。
【１９１９２】
　次いで、図１７０５（ｃ）に示すように、球ＣＢ６２は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられ、壁部Ｆ６１２２に当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての移動（流下、転動）が規制される。

【１９１９３】
なお、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１は、その湾曲面Ｆ６１７３ｂ１の正面側（矢印Ｆ方向側）における先端が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて突出して形成されるため、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接する場合と比較して（図１７０４参照）、左右方向両端側における壁部Ｆ６１２２に当接する。
【１９１９４】
第５通路部Ｆ６１２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、球ＣＢ６２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）するに従い、背面側（壁部Ｆ６１１３）へ向けて移動（流下、転動）する。
【１９１９５】
これにより、図１７０５（ｄ）に示すように、球ＣＢ６２は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入されるよりも流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入され易い。
【１９１９６】
図１６９２から図１７０１に戻って説明する。下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、他方側（左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）については、上述した一方側（右方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）振り分けられた（案内された）場合と同様であるため、その説明は省略する。
【１９１９７】
なお、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と他方側（左方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球とでは、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が異なる。詳細には、他方側の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、一方側の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と比較して速度（運動エネルギー）が大きい。
【１９１９８】
これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と他方側（左方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球とで、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに当接した衝撃による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量を異ならせることができる。
【１９１９９】
また、本実施形態においては、動作前状態から動作後状態へ向けての動作中において変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接可能とされる。これにより、変位部材Ｆ６１７３（変位通路部材Ｆ６１７４）の変位の程度により、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１への振り分け位置を異ならせることができる。言い換えると、壁部Ｆ６１２２への当接位置を異ならせることができる。
【１９２００】
これらにより、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられた（案内された）球が、第５通路部材Ｆ６１２０の流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入される、或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）されるかを遊技者に判断させ難くすることができ、興趣を向上させることができる。
【１９２０１】
流入口ＦＯＰｆ６１へ流入された球は、順に中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１、第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１へ案内（送球、流下）され、通路

部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１から流出された後、第１入賞口６４へ入賞される。

【１９２０２】

第５通路部材Ｆ６１２０の挿通孔Ｆ６１２１ｂから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）については、上述した上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）と同一であるため、その説明は省略する。

【１９２０３】

なお、複数（２球以上）の球（例えば、第１の球および第１の球の先行となる球）が変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ続けて案内（送球、流下）される、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４に作用する球の重量が大きくなることで、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂと球との当接による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量を小さくできる。

【１９２０４】

これにより、例えば、球との当接による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量が小さい場合、球を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側における第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分け易く（案内し易く）できる。その結果、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入されるよりも流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入させ易くできる。

【１９２０５】

従って、複数の球が変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）に続けて案内（送球、流下）される、言い換えると、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球が連なった状態で変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）されることを遊技者に期待させることができ、興趣を向上させることができる。

【１９２０６】

また、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１と挿通孔Ｆ６１６２ａ２とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設される。これにより、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過するか否かを遊技者に視認させ難くできる。

【１９２０７】

言い換えると、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球が、一方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流下）される、もしくは、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過し他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流下）されるかを遊技者に視認させ難くできる。その結果、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球を遊技者に注視させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９２０８】

次いで、図１７０６から図１７０８を参照して、第９９実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂについて説明する。第９９実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂでは、第９８実施形態よりも動作後状態を長く維持するために、変位通路部材Ｆ７１７４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に第２変位通路Ｆ７１８０（第７通路ＦＲｔ７７）が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９２０９】

図１７０６（ａ）及び図１７０７（ａ）は、第９９実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂの断面図であり、図１７０６（ｂ）及び図１７０７（ｂ）は、下側フレームＦ７

０８６ｂの背面図である。図１７０８は、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへの球の振り分けを模式的に図示したものであり、図１７０８（ａ）、図１７０８（ｃ）及び図１７０８（ｅ）は、下側フレームＦ７０８６ｂの上面模式図であり、図１７０８（ｂ）、図１７０８（ｄ）及び図１７０８（ｆ）は、図１７０８（ａ）の矢印ＣＣＣＸＬｂ、図１７０８（ｃ）の矢印ＣＣＣＸＬｄ及び図１７０８（ｅ）の矢印ＣＣＣＸＬｆ方向視における下側フレームＦ７０８６ｂの正面模式図である。

【１９２１０】

なお、図１７０６（ａ）及び図１７０７（ａ）は、第２変位通路Ｆ７１８０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）中央において前後方向に垂直な平面で切断した断面に対応する。また、図１７０６は、振分手段Ｆ７１７０及び第２変位通路Ｆ７１８０の動作前における状態を、図１７０７は、振分手段Ｆ７１７０及び左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第２変位通路Ｆ７１８０の動作後における状態を、それぞれ図示している。また、図１７０６（ｂ）及び図１７０７（ｂ）では、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１の図示が省略される。

【１９２１１】

また、図１７０８（ａ）、図１７０８（ｃ）及び図１７０８（ｅ）は、下側フレームＦ７０８６ｂにおける第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａの一部、振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４及び第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの一部のみが図示され、図１７０８（ｂ）、図１７０８（ｄ）及び図１７０８（ｆ）は、下側フレームＦ７０８６ｂにおける第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａの一部、正面壁部Ｆ６１７４ｃを除く振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４及び第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの一部のみが図示される。

【１９２１２】

また、図１７０８では、所定の間隔を隔てた２球が中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４）へ振り分けられた状態が図示され、図１７０８（ａ）及び図１７０８（ｂ）は、それら２球が第２凹部Ｆ６１４２の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する状態、図１７０８（ｃ）及び図１７０８（ｄ）は、第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられた球のうち、先行となる球（以下「先行の球ＣＢ７１」と称す）が振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４へ振り分けられた状態、図１７０８（ｅ）及び図１７０８（ｆ）は、先行の球ＣＢ７１の後続となる球（以下「後続の球ＣＢ７２」と称す）が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分けられた状態、がそれぞれ図示される。

【１９２１３】

図１７０６から図１７０７に示すように第９９実施形態における振分手段Ｆ７１７０には、第９８実施形態における振分手段Ｆ６１７０に加え、変位通路部材Ｆ７１７４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に一対の第２変位通路Ｆ７１８０が配設される。

【１９２１４】

第２変位通路Ｆ７１８０は、その第２変位通路Ｆ７１８０の変位（回転）により変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）させるためのものであり、第２変位通路部材Ｆ７１８１と、その第２変位通路部材Ｆ７１８１を軸支する軸Ｆ７１８２と、第２変位通路部材Ｆ７１８１に配設される錘Ｆ７１８３と、を備える。

【１９２１５】

第２変位通路部材Ｆ７１８１は、球の通路となる第２変位通路部Ｆ７１８１ａと、その第２変位通路部Ｆ７１８１ａに一端が固定（配設）される支持部Ｆ７１８１ｂと、その支持部Ｆ７１８１ｂの他端に固定（配設）される被軸支部Ｆ７１８１ｃと、その被軸支部Ｆ７１８１ｃに固定（配設）される錘支持部Ｆ７１８１ｄと、を備える。

【１９２１６】

第２変位通路部Ｆ７１８１ａは、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａから振り分けられた（案内された）球が移動（流下、転動）するための部位であり、転動面Ｆ７１８１ａ１と、その転動面Ｆ７１８１ａ１の縁部から立設される壁部Ｆ７１８１ａ２と、を備える。転動面Ｆ７１８１ａ１及び壁部Ｆ７１８１ａ２により区画された空間により第７通路ＦＲｔ７７が形成される。

【１９２１７】

転動面Ｆ７１８１ａ１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側が正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲される、上面視において略Ｌ字状の板状体から構成される。また、転動面Ｆ７１８１ａ１（第７通路ＦＲｔ７７）の延設長さは、変位通路部材Ｆ７１７４の延設長さの略３倍の延設長さに形成される（図１６９６参照）。

【１９２１８】

壁部Ｆ７１８１ａ２は、第２変位通路部Ｆ７１８１ａに案内（送球、流下）された球の変位を規制するための部位であり、変位通路部材Ｆ７１７４側（左右方向中央側）の端部（第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上流端）および正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲される部位の正面側の端部（第２変位通路部Ｆ７１８１ａの下流端）を除く縁部から立設される。

【１９２１９】

転動面Ｆ７１８１ａ１において、上流端に壁部Ｆ７１８１ａ２が非形成とされることで、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａから第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ球が案内（送球、流下）され、転動面Ｆ７１８１ａ１の下流端に壁部Ｆ７１８１ａ２が非形成とされることで、第２変位通路部Ｆ７１８１ａから遊技領域に球が流出される。

【１９２２０】

なお、ベース板６０には、転動面Ｆ７１８１ａ１の下流端の正面（矢印Ｆ方向）となる位置に挿通孔（図示せず）が穿設され、かかる挿通孔を通過させることで、球が遊技領域に流出される。

【１９２２１】

壁部Ｆ７１８１ａ２の突設高さは、球の半径よりも大きく形成される。これにより、第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分けられた球が壁部Ｆ７１８１ａ２を乗り越え、ベース板６０と背面部材Ｆ６１５０との間に脱落することを抑制できる。

【１９２２２】

支持部Ｆ７１８１ｂは、第２変位通路部Ｆ７１８１ａと被軸支部Ｆ７１８１ｃとを連結するための部位であり、棒状体から構成される。被軸支部Ｆ７１８１ｃは、筒状に形成され、その被軸支部Ｆ７１８１ｃの内周側に軸Ｆ７１８２が挿通される。これにより、軸Ｆ７１８２（被軸支部Ｆ７１８１ｃ）を回転軸として第２変位通路部材Ｆ７１８１が回転可能に形成される。

【１９２２３】

錘支持部Ｆ７１８１ｄは、錘Ｆ７１８３を支持するための部位である。錘支持部Ｆ７１８１ｄは、一端（基端）が被軸支部Ｆ７１８１ｃに固定（配設）され、錘支持部Ｆ７１８１ｄの他端（先端）には錘Ｆ７１８３を固定（配設）するための凹部が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設して形成される。

【１９２２４】

軸Ｆ７１８２は、第２変位通路部材Ｆ７１８１を回転可能に係合（軸支）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。軸Ｆ７１８２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設され、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１と下板Ｆ６１５３とにより支持される。これにより、第２変位通路部材Ｆ７１８１は軸Ｆ７１８２を回転軸として回転可能に形成される。

【１９２２５】

錘Ｆ７１８３は、第２変位通路Ｆ７１８０の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ７１８３が錘支持部Ｆ７１８１ｄに配設されることで、第２変位通路Ｆ７１８０の重心は、軸Ｆ７１８２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。

【１９２２６】
振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４は、第９８実施形態における変位通路部材Ｆ６１７４に対し外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さが異なる以外は同一に形成され、その外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さは、球の直径よりもやや大きく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ７１７４に球が案内（送球、流下）された状態では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において球の最も上方側（矢印Ｕ方向側）の部位は、外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設先端よりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる。
【１９２２７】
また、外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さは、動作後状態において、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面よりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる寸法に形成される。これにより、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する球は、第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分け可能とされる。
【１９２２８】
次いで、第２変位通路Ｆ７１８０の動作について説明する。図１７０６に示すように、下側フレームＦ７０８６ｂの動作前状態において、第２変位通路Ｆ７１８０の錘支持部Ｆ７１８１ｄと振分手段Ｆ７１７０の錘支持部材Ｆ６１７６とは当接、或いは、所定の距離（例えば、１ｍｍ）だけ隔てて配設される。また、第２変位通路Ｆ７１８０の壁部Ｆ７１８１ａ２の上端が背面部材Ｆ７１５０の側板Ｆ７１５２から突設される突部Ｆ７１５２ｂに当接することで第２変位通路Ｆ７１８０の動作（変位）が規制される。
【１９２２９】
また、動作前状態において、一対の第２変位通路Ｆ７１８０の重心は、軸Ｆ７１８２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側にそれぞれ位置する。これにより、第２変位通路Ｆ７１８０には、第２変位通路部Ｆ７１８１ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、第２変位通路Ｆ７１８０の壁部Ｆ７１８１ａ２の上端と背面部材Ｆ７１５０の側板Ｆ７１５２から突設される突部Ｆ７１５２ｂとの当接が維持される。その結果、下側フレームＦ７０８６ｂは、動作前状態に維持される。
【１９２３０】
次いで、下側フレームＦ７０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作について説明する。第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａに球が案内（送球、流下）されることで、球を加えた第２変位通路Ｆ７１８０の全体の重心が軸Ｆ７１８２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。
【１９２３１】
これにより、第２変位通路Ｆ７１８０には、第２変位通路部Ｆ７１８１ａが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、錘支持部Ｆ７１８１ｄは、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。その結果、振分手段Ｆ７１７０の錘支持部材Ｆ６１７６が上方側へ向けて回転（変位）し、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位される（下側フレームＦ７０８６ｂが動作後状態へ動作される）。
【１９２３２】
ここで、図１７０８を参照して第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへの球の振り分けについて説明する。図１７０８（ａ）及び図１７０８（ｂ）に示すように、先行の球ＣＢ７１および後続の球ＣＢ７２が転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する状態（動作前状態）では、変位通路部材Ｆ７１７４の外側壁部Ｆ７１７４ｂの少なくとも一部が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面よりも上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設される。これにより、先行の球ＣＢ７１は、外側壁部Ｆ７１７４ｂに当接可能となり、転動面Ｆ６１４２ａから第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ案内される（変位通路部材Ｆ７１７４へ非案内とされる）ことを抑制できる。
【１９２３３】
次いで、図１７０８（ｃ）及び図１７０８（ｄ）に示すように、先行の球ＣＢ７１が変位通路部材Ｆ７１７４へ案内（送球、流下）されることで、先行の球ＣＢ７１の重量によ

り変位通路部材Ｆ７１７４が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）し、下側フレームＦ７０８６ｂは、動作後状態へ動作される（図１７０７参照）。

【１９２３４】

ここで、先行の球ＣＢ７１は、変位通路部材Ｆ７１７４の突起Ｆ６１７４ｂ１に当接することで、先行の球ＣＢ７１の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくでき、また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）させることができる。これにより、図１７０８（ｅ）及び図１７０８（ｆ）に示すように、後続の球ＣＢ７２を第２変位通路Ｆ７１８０へ振り分けやすくできる。

【１９２３５】

詳細には、先行の球ＣＢ７１が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて、即ち、後続の球ＣＢ７２へ向けて移動（流下、転動）することで、左右方向における先行の球ＣＢ７１と後続の球ＣＢ７２との距離を小さくできる。また、先行の球ＣＢ７１の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくすることで、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において先行の球ＣＢ７１と後続の球ＣＢ７２とが離間することを抑制できる。

【１９２３６】

これにより、突起Ｆ６１７４ｂ１が非形成の場合と比較して、先行の球ＣＢ７１の上方側（矢印Ｕ方向側）の部位に後続の球ＣＢ７２を当接（落下）させることができる。その結果、後続の球ＣＢ７２の下方側（矢印Ｄ方向側）への変位（落下、流下）量を小さくでき、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面へ後続の球ＣＢ７２を案内（送球、流下）し易くできる。

【１９２３７】

図１７０６から図１７０７に戻って説明する。転動面Ｆ７１８１ａ１（第７通路ＦＲｔ７７）の延設長さは、変位通路部材Ｆ７１７４の延設長さよりも長く形成されるため（図１６９６参照）、球が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａ（第７通路ＦＲｔ７７）を移動（流下、転動）することに要する時間を変位通路部材Ｆ７１７４を移動（流下、転動）することに要する時間よりも嵩ませることができる。これにより、変位通路部材Ｆ７１７４へ球が振り分けられる場合と比較して、第２変位通路部Ｆ７１８１ａ（第７通路ＦＲｔ７７）へ球が振り分けられることで動作後状態となる時間を嵩ませることができる。

【１９２３８】

従って、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する２球が所定の間隔よりも小さい間隔だけ隔てた状態で中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９２３９】

次いで、図１７０９を参照して、第１００実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂについて説明する。第１００実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂでは、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さが異なる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９２４０】

図１７０９は、第１００実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂの部分拡大上面図であり、図１７０９（ａ）は、動作前状態における下側フレームＦ８０８６ｂが、図１７０９（ｂ）は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態における下側フレームＦ８０８６ｂが、それぞれ図示される。

【１９２４１】

図１７０９に示すように、第１００実施形態における第５通路部材Ｆ８１２０の挿通孔Ｆ８１２１ｂは、第９８実施形態における挿通孔Ｆ６１２１ｂと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に穿設される。

【１９２４２】
詳細には、動作後状態において、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球の移動方向の延長線上に穿設される。これにより、動作後状態において、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球を挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）させ易くできる。
【１９２４３】
また、第５通路部材Ｆ８１２０には、挿通孔Ｆ８１２１ｂの縁に沿って立設部Ｆ８１２１ｂ１が配設される。立設部Ｆ８１２１ｂ１の立設高さは、所定以上の速度を有する球が乗り越え可能な高さに形成される。
【１９２４４】
また、背面部材Ｆ８１５０の当接部Ｆ８１５４に形成される湾曲面Ｆ８１５４ａの正面端は、第９８実施形態における湾曲面Ｆ６１５４ａの正面端と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置に形成される。これにより、動作前状態において、当接部Ｆ８１５４に当接することで第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球を一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂの間へ向けて移動（流下、転動）させ易くできる。言い換えると、一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）させ難くできる。
【１９２４５】
本実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂでは、動作後状態において、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、左方側に形成される上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）され、速度（運動エネルギー）の減少が抑制された状態で球が第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。
【１９２４６】
上述したように、挿通孔Ｆ８１２１ｂは、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接した球の移動方向の延長線上に穿設されるため、第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）され易く、第５通路部材Ｆ８１２０の壁部Ｆ８１２２に当接され難い。
【１９２４７】
これらにより、動作後状態において、一方側（上述の例では左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過し、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。
【１９２４８】
一方、動作後状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、速度（運動エネルギー）が減少した状態で第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。
【１９２４９】
従って、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【１９２５０】

また、動作前状態においては、背面部材Ｆ８１５０の当接部Ｆ８１５４は、当接部Ｆ６１７３ｂよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるため、当接部Ｆ８１５４に当接した球は、速度（運動エネルギー）が減少した状態で第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【１９２５１】

また、当接部Ｆ８１５４に当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂの間へ向けて移動（流下、転動）し、第５通路部材Ｆ８１２０の壁部Ｆ６１２２に当接され易く、挿通孔Ｆ８１２１ｂへ案内され難い。

【１９２５２】

従って、当接部Ｆ８１５４に当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【１９２５３】

上述したように、動作前状態においては、一対の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と比較して第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）され易く、第１入賞口６４へ入賞し易い。

【１９２５４】

一方、動作後状態、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態においては、左方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された後、挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【１９２５５】

このように、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さを変化させることで、動作前状態では、球が挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過することを遊技者に期待させ、動作後状態では、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した側（上述の例では左方側）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を球が通過しないことを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９２５６】

なお、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）から第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。この場合、球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【１９２５７】

従って、動作後状態では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）へ振り分けられた（案内された）球は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０へ振り分けられた（案内された）球よりも第１入賞口６４へ入賞し易い。これにより、動作後状態を契機として、右方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）へ球が振り分ける（案内する）ことを遊技者に意図させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９２５８】

次いで、図１７１０及び図１７１１を参照して、第１０１実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂについて説明する。第１０１実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂでは、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さが異なる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９２５９】

図１７１０（ａ）及び図１７１１（ａ）は、第１０１実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂの部分拡大上面図であり、図１７１０（ｂ）及び図１７１１（ｂ）は、下側フレームＦ９０８６ｂの部分拡大正面図である。

【１９２６０】

なお、図１７１０は、動作前状態における下側フレームＦ９０８６ｂが、図１７１１は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態における下側フレームＦ９０８６ｂが、それぞれ図示される。また、図１７１０（ｂ）及び図１７１１（ｂ）では、中間通路部材Ｆ９１４０に形成される連結孔Ｆ９１４４が破線で図示される。

【１９２６１】

図１７１０及び図１７１１に示すように第１０１実施形態における中間通路部材Ｆ９１４０には、中間通路部材Ｆ９１４０の上面と第１凹部Ｆ６１４１とを貫通する連結孔Ｆ９１４４が穿設される。また、連結孔Ｆ９１４４の上方側（矢印Ｕ方向側）における通路部材Ｆ９１１０には、挿通孔Ｆ９１１６が板厚方向に穿設される。

【１９２６２】

また、右方側（矢印Ｒ方向側）における背面部材Ｆ９１５０には当接部Ｆ６１５４が配設される一方、左方側（矢印Ｌ方向側）における背面部材Ｆ９１５０には当接部Ｆ６１５４が非配設とされる。

【１９２６３】

次いで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の移動（流下、転動）について説明する。第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、通路部材Ｆ９１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられ、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。従って、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、速度（運動エネルギー）の減少が抑制された状態で上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。

【１９２６４】

図１７１０に示すように、動作前状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、通路部材Ｆ９１１０の挿通孔Ｆ９１１６に到達し、中間通路部材Ｆ９１４０の連結孔Ｆ９１４４を介して第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）される。

【１９２６５】

よって、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球を第１入賞口６４へ入賞し易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させ易く）できる。

【１９２６６】

一方、動作前状態において、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、背面部材Ｆ９１５０の当接部Ｆ６１５４に当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【１９２６７】
　第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１には、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが穿設される。従って、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球と比較して右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、第１入賞口６４へ入賞し難い。
【１９２６８】
　次いで、図１７１１に示すように、動作後状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。言い換えると、通路部材Ｆ９１１０の挿通孔Ｆ９１１６へ案内（送球、流下）されることが当接部Ｆ６１７３ｂに抑制される。従って、動作前状態と比較して第１入賞口６４へ入賞し難い。
【１９２６９】
　なお、動作後状態において、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。従って、動作前状態と動作後状態とで第１入賞口６４への入賞されやすさはほぼ同一である。
【１９２７０】
　このように、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、動作前状態では、ほぼ確実に第１入賞口６４へ入賞できるのに対し、動作後状態では、動作前状態と比較して第１入賞口６４へ入賞され難い。
【１９２７１】
　従って、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、動作前状態において、上側通路Ｆ６１１４を上方側へ向けて移動（流下、転動）することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１９２７２】
　次いで、図１７１２を参照して、第１０２実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂについて説明する。第１０２実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂでは、第９８実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂの当接部Ｆ６１５４が非配設とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１９２７３】
　図１７１２（ａ）は、第１０２実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂの部分拡大上面図であり、図１７１２（ｂ）は、下側フレームＦ１００８６ｂの部分拡大正面図である。
【１９２７４】
　なお、図１７１２は、動作後状態における下側フレームＦ１００８６ｂが図示される。また、図１７１２（ａ）では、変位部材Ｆ１０１７３の当接部Ｆ１０１７３ｂを除く振分手段の図示が省略され、図１７１２（ｂ）では、第５通路部材Ｆ６１２０の図示が省略される。
【１９２７５】
　図１７１２に示すように、第１０２実施形態における当接部Ｆ１０１７３ｂには、上側通路Ｆ６１１４の傾斜における上昇方向（図１７１２（ｂ）矢印Ｊ方向、以下「上昇方向」と称す）側に第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が湾曲して形成される。第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２は、上側通路Ｆ６１１４の傾斜における下降方向（図１７１２（ｂ）矢印Ｋ方向、以下「下降方向」と称す）側へ向けて凹設される。

【１９２７６】
　次いで、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）について説明する。下側フレームＦ１００８６ｂの動作前状態において、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇方向（矢印Ｊ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、当接部Ｆ１０１７３ｂにおける上側通路Ｆ６１１４と面一に形成される案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側へ案内される。
【１９２７７】
　上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇方向（矢印Ｊ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、次第に速度が小さくなり、一旦止まった後、下降方向（矢印Ｋ方向）へ向けて移動（流下、転動）する。上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向（矢印Ｋ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、再度、当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも下降方向側へ案内される。
【１９２７８】
　一方、球が当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側（矢印Ｊ方向側）へ案内されてから当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）するまでの間に、下側フレームＦ１００８６ｂが動作後状態に動作された場合、当接部Ｆ１０１７３ｂは、球と当接可能となる位置へ向けて変位されるため、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２に当接される。
【１９２７９】
　第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２に当接されることにより、球は、第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２の湾曲面に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位され、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられる。
【１９２８０】
　ここで、当接部Ｆ１０１７３ｂに第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が非形成、例えば、上側通路Ｆ６１１４の上昇方向側（矢印Ｊ方向）が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って平坦な面として形成される場合、その当接部Ｆ１０１７３ｂの平坦面に球が当接し、球の移動（流下、転動）が規制される虞がある。
【１９２８１】
　この場合、下側フレームＦ１００８６ｂが動作前状態に動作されることにより、球は、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ球が振り分けられない（非案内となる）虞がある。
【１９２８２】
　従って、球が当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側（矢印Ｊ方向側）へ案内されてから当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）するまでの間に、下側フレームＦ１００８６ｂが動作後状態に動作された場合であっても、球が第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ球が振り分けられず（非案内となり）、遊技の興趣が低下する虞がある。
【１９２８３】
　これに対し、本実施形態では、当接部Ｆ１０１７３ｂに第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が形成されるため、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられることができ、遊技の興趣が低下することを抑制できる。
【１９２８４】

次いで、図１７１３及び図１７１４を参照して、第１０３実施形態における下側フレームＦ１１０８６ｂについて説明する。上記第９８実施形態では、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量を利用して、変位部材Ｆ６１７３が動作（変位）される場合を説明したが、第１０３実施形態では、球の重量の利用に加え、アクチュエータ（ソレノイドＦ１１００２）の駆動力によっても、変位部材Ｆ６１７３が動作（変位）可能とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９２８５】

図１７１３は、第１０３実施形態における下側フレームＦ１１０８６ｂの背面斜視図であり、図１７１４は、下側フレームＦ１１０８６ｂの部分拡大上面図である。第１０３実施形態における下側フレームＦ１１０８６ｂは、第９８実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂに対し、センサＦ１１００１と、ソレノイドＦ１１００２とを更に備える。

【１９２８６】

なお、図１７１４では、第１領域Ｆ１１００３ａ及び第２領域Ｆ１１００３ｂがハッチングを付した領域として模式的に図示される。第１領域Ｆ１１０３ａは、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ球が流入可能な領域（位置）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ２と同心の円環状の範囲として定義される。第２領域Ｆ１１０３ｂは、挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ球が流入可能な領域（位置）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ１と同心の円環状の範囲として定義される。本実施形態では、第１領域Ｆ１１０３ａと第２領域Ｆ１１０３ｂとは同一の大きさとされる。

【１９２８７】

図１７１３及び図１７１４に示すように、センサＦ１１０１は、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（即ち、凹部Ｆ６１６２に穿設される一対の挿通孔Ｆ６１６２ａのうちの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される孔）を通過する球を検出するためのセンサ（貫通孔の内周を通過する球を検出する近接スイッチ）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ２に連なるガイド凹部Ｆ６１６３ａの下流端に配設される。

【１９２８８】

なお、センサＦ１１０１は、一対（正面視左方側（矢印Ｌ方向側）及び右方側（矢印Ｒ方向側））の第１通路部材Ｆ６１６０における挿通孔Ｆ６１６２ａ２のそれぞれに配設される。また、センサＦ１１０１は、ガイド凹部Ｆ６１６３ａによる球の案内方向に影響を与えない態様で配設される。例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面側ではなく、下側通路Ｆ６１１２から正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）される。

【１９２８９】

ソレノイドＦ１１００２は、一対の変位部材Ｆ６１７３をそれぞれ独立して変位させるためのアクチュエータであり、背面板Ｆ６１５１の背面に一対が向かい合わせの姿勢（プランジャーＦ１１００２ｂを変位部材Ｆ６１７３に連結させた姿勢）で配設（固着、取着）される。

【１９２９０】

ソレノイドＦ１１００２は、コイル、固定鉄心および戻りばねが収容されるケースＦ１１００２ａと、そのケースＦ１１００２ａに対して出没（直線変位）可能とされるプランジャーＦ１１００２ｂとを備え、プランジャーＦ１１００２ｂの直線変位の方向を第１軸Ｆ６１７２と平行とする姿勢で配設される。

【１９２９１】

なお、ソレノイドＦ１１００２は、プル（吸引）ソレノイドとして構成される。即ち、非通電時には、戻りばねの弾性力によりプランジャーＦ１１００２ｂが突出した状態とされ、変位部材Ｆ６１７３が初期位置（当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接不能な位置）に配置され、通電時には、プランジャーＦ１１００２ｂがプル（吸引）動作されることで、変位部材Ｆ６１７３が第１軸Ｆ６１７２に沿って変位（スライド）され、かかる変位部材Ｆ６１７３が突出位置（上側通路Ｆ６１１４の上面から突出され、当接部Ｆ６１７３ｂに球が

当接可能な位置）に配置される。
【１９２９２】
なお、戻りばねの弾性力は、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用した場合に、その球の重量によっても、変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）可能な大きさに設定される。但し、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用しても、その球の重量では、変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）不能となるように構成しても良い。或いは、変位通路部材Ｆ６１７４及びその変位通路部材Ｆ６１７４の変位（球の重量が作用することによる変位）を変位部材Ｆ６１７３へ伝達する機構を省略しても良い（即ち、ソレノイドＦ１１００２の駆動によってのみ変位部材Ｆ６１７３が変位する構成としても良い）。
【１９２９３】
本実施形態では、センサＦ１１００１によって球の通過が検出されたことを契機（条件）として、ソレノイドＦ１１００２の所定時間の通電が実行される。具体的には、センサＦ１１０００１により球の通過が検出されると、その検出から即座にソレノイドＦ１１００２の通電が実行され、かかる通電が５秒間継続される。
【１９２９４】
なお、センサＦ１１０００１により球の通過が検出されてからソレノイドＦ１１００２の通電が開始されるまでの時間は、任意であり、球の通過の検出後、所定時間の経過を待って（待機して）、通電が開始されても良い。即ち、通電を開始するタイミングを球の通過の検出から遅延させても良い。後続の球に対する変位部材Ｆ６１７３（当接部Ｆ６１７３ｂ）の影響（後続の球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入し易くされる態様）を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。この場合、遅延の時間として、複数種類を準備し、それら複数種類からランダムに設定されても良い。
【１９２９５】
また、ソレノイドＦ１１００２の通電を継続する時間は任意であり、上記例示した時間（５秒）より短くても長くても良い。
【１９２９６】
ソレノイドＦ１１００２の通電は、断続的に行われても良い。例えば、第１の時間（例えば、０．５秒）の通電と、第２の時間（例えば、１秒）の非通電とが所定時間（例えば、５秒）の間、繰り返される態様が例示される。この場合、第１の時間と第２の時間とはどちらが長くても良く、同じ長さでも良い。第１の時間および（又は）第２の時間が、毎回、異なる長さであっても良い。
【１９２９７】
所定時間（例えば、５秒）の間、通電（例えば、０．５秒）と非通電（例えば、１秒）とを繰り返す態様を１セットとして、かかる１セットを複数回（例えば、１５回）実行しても良い。
【１９２９８】
また、センサＦ１１００１によって球の通過が検出され、且つ、所定確率（例えば、１９９分の１）の抽選の結果、当選した場合に、ソレノイドＦ１１００２の通電が実行されるようにしても良い。
【１９２９９】
ソレノイドＦ１１００２の通電を実行する条件は、上記各態様を組み合わせても良い。
【１９３００】
挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２へ流入した球は、第９８実施形態の場合と同様に、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２へ流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ６１へ流入し易くされる。よって、第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）へ流入した球が、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２のどちらから下側通路Ｆ６１１２へ流入するか、即ち、球が流下する位置（第１領域Ｆ１１００３ａ又は第２領域Ｆ１１００３ｂ）を遊技者に注視（意識）させることができる。その結果、第１領域Ｆ１１０３ａ（挿通孔Ｆ６１６２ａ２）からの流下を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【１９３０１】
一方で、センサＦ１１００１によって球の通過が検出されたことを契機（条件）として、ソレノイドＦ１１００２の所定時間の通電が実行され、これにより、流入口ＦＯＰｆ６１へ球が流入し易くなるように、変位部材Ｆ６１７３の変位が行われる。よって、第２領域Ｆ１１０３ｂ（挿通孔Ｆ６１６２ａ１）からの流下であっても、流入口ＦＯＰｆ６１への流入の期待を遊技者に持たせることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【１９３０２】
この場合、第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）は、第１領域Ｆ１１００３ａと第２領域Ｆ１１００３ｂとの間を球が移動可能に形成されるので、第１領域Ｆ１１００３ａ又は第２領域Ｆ１１００３ｂのどちらから球が流下されるのか、凹部Ｆ６１６２における球の移動を遊技者に注視させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【１９３０３】
また、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２から変位部材Ｆ６１７３までの球の経路は、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３まで移動する第１経路と、挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３まで移動する第２経路とを備えるところ、これら第１経路と第２経路との間を球が移動可能に形成される。
【１９３０４】
これにより、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３へ到達可能な経路と、挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３へ到達可能な経路との種類を、一定のスペース内において、より多く確保することができる。その結果、球の移動のバリエーションを多くして、遊技の興趣を高めることができる。
【１９３０５】
なお、第１経路とは、例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）における挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における背面板Ｆ６１５１側の領域と、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の上側通路Ｆ６１１４とを、順に、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の変位部材Ｆ６１７３まで移動する経路である。
【１９３０６】
一方、第２経路とは、例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）における挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における正面板Ｆ６１１１側の領域と、正面視中央の下側通路Ｆ６１１２（正面板Ｆ６１１１と立て壁部Ｆ６１１３との間の領域）と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における正面板Ｆ６１１１側の領域と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における背面板Ｆ６１５１側の領域と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の上側通路Ｆ６１１４とを、順に、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の変位部材Ｆ６１７３まで移動する経路である。
【１９３０７】
また、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２から球が流下する際には、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２への進入状態（進入角度、進入速度など）や進入時における挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２の内周面との接触状態（接触角度、接触強さ等）等に起因して、流下方向や流下速度、球の回転方向が変化される。そのため、第１経路と第２経路との間で球が移動可能に形成されていることが有効となり、これにより、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（挿通孔Ｆ６１６２ａ１）から流下したとした球が、第１経路の途中で第２経路へ（第２経路の途中で第１経路へ）移動するなどの種々の形態を形成することができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【１９３０８】
ここで、下側通路Ｆ６１１２及び上側通路Ｆ６１１４とには、球の転動面から突設され球が当接可能に形成される１又は複数の突起（当接手段）が形成されていても良い。この場合には、第１経路または（及び）第２経路を移動する球が突起（当接手段）に当接されることで、球の移動方向に変化を付与して、第１経路と第２経路との間での球の移動を形成し易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【１９３０９】
なお、突起（当接手段）の突設位置は、任意である。突起（当接手段）の配置としては、例えば、第１経路と第２経路との境界（例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２上であって、挿通孔Ｆ６１６２ａ２から流下した球が上側通路Ｆ６１１４へ向かう経路と挿通孔Ｆ６１６２ａ１から流下した球が正面視中央の下側通路Ｆ６１１２（正面板Ｆ６１１１と立て壁部Ｆ６１１３との間の領域）へ向かう経路とを隔て、正面板Ｆ６１１１と背面板Ｆ６１５１とに平行な仮想線）に沿って、所定間隔（球が間を通過可能な間隔）を隔てつつ、複数のが列設される形態が例示される。
【１９３１０】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１７１５から図１７２４を参照し、第１０４実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。
【１９３１１】
図１７１５は、第１０４実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１７１６は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図１７１７は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１７１８は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１７１９は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１７２０は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１７２１は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図１７２２は、正面枠Ｈ１４の分解斜視正面図であり、図１７２３は、正面枠Ｈ１４の分解斜視背面図である。なお、図１７２０では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。
【１９３１２】
また、以下の説明では、図１７１５に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１７１５に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１７１５参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【１９３１３】
また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。
【１９３１４】
図１７１５～図１７２３に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。
【１９３１５】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図１７１５参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【１９３１６】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【１９３１７】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【１９３１８】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【１９３１９】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【１９３２０】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１７１８参照）。

【１９３２１】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図１７２０及び図１７２１参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【１９３２２】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【１９３２３】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図１７２０参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図１７２０参照）を主に備

えて形成される。
【１９３２４】
さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図１７１９参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。
【１９３２５】
球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータ（図示しない）とを主に備えて形成される。
【１９３２６】
球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。
【１９３２７】
なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。
【１９３２８】
また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。
【１９３２９】
皿通路形成部材Ｈ１６０は、図１７２０に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。
【１９３３０】
なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図１７２０に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内

枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図１７１９に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【１９３３１】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【１９３３２】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図１７２２及び図１７２３に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【１９３３３】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図１７２１参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【１９３３４】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有するガラスユニットＨ１６が配設される（図１７１５参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【１９３３５】

ガラスユニットＨ１６は、図１７１５及び図１７１９に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【１９３３６】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって無色透明に形成されているが、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【１９３３７】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６

ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【１９３３８】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図１７１５に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【１９３３９】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【１９３４０】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【１９３４１】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【１９３４２】

窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図１７１５に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【１９３４３】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図１７１６参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図１７２０参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。

【１９３４４】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【１９３４５】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【１９３４６】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【１９３４７】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。

【１９３４８】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部材Ｈ１８１が配設される。ボタン部材Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図１７２０参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１９３４９】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【１９３５０】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図１７２２参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【１９３５１】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ること

ができる。
【１９３５２】
機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。
【１９３５３】
機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。
【１９３５４】
また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。
【１９３５５】
なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。
【１９３５６】
球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射球送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。
【１９３５７】
下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。
【１９３５８】
通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。
【１９３５９】
通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（

矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図１７２２参照）。

【１９３６０】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図１７２０参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図１７２０参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【１９３６１】

ファール球通路部Ｈ１４５（図１７２２参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【１９３６２】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図１７２３に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図１７２２参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【１９３６３】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【１９３６４】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【１９３６５】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【１９３６６】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図１７２０参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【１９３６７】

また、図１７２０に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１

上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【１９３６８】

図１７２０に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。

【１９３６９】

ベース板Ｈ６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１９３７０】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【１９３７１】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図１７１５参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図１７２０を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【１９３７２】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図１７１５参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【１９３７３】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図１７２０の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【１９３７４】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【１９３７５】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共

に、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【１９３７６】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【１９３７７】

外レールＨ６２の先端部（図１７２０の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１９３７８】

遊技領域の正面視左側下部（図１７２０の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【１９３７９】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１９３８０】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１９３８１】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【１９３８２】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限ら

れるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。
【１９３８３】
　また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。
【１９３８４】
　確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【１９３８５】
　なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。
【１９３８６】
　遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。
【１９３８７】
　なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。
【１９３８８】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１７２４参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【１９３８９】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【１９３９０】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【１９３９１】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１９３９２】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１９３９３】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【１９３９４】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１９３９５】
球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。
【１９３９６】
また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。
【１９３９７】
可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。
【１９３９８】
一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。
【１９３９９】
また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。
【１９４００】
第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【１９４０１】
なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ

開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。
【１９４０２】
　また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。
【１９４０３】
　上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【１９４０４】
　本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【１９４０５】
　なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。
【１９４０６】
　この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【１９４０７】
　一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【１９４０８】
　従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。
【１９４０９】
　第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図１７２０参照）が配設されており

、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【１９４１０】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【１９４１１】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【１９４１２】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【１９４１３】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【１９４１４】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【１９４１５】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【１９４１６】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車

は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【１９４１７】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【１９４１８】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。

【１９４１９】

図１７１６に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１９４２０】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１９４２１】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１９４２２】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができ

る。
【１９４２３】
　払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１７２４参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射装置Ｈ１１７ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。
【１９４２４】
　また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図１７２４参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【１９４２５】
　次に、図１７２４を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図１７２４は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【１９４２６】
　主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。
【１９４２７】
　なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【１９４２８】
　ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバ

ックアップされる。
【１９４２９】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【１９４３０】
主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。
【１９４３１】
なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。
【１９４３２】
入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【１９４３３】
なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。
【１９４３４】
払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。
【１９４３５】
払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、

パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１９４３６】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【１９４３７】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【１９４３８】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【１９４３９】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【１９４４０】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部材Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。

【１９４４１】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【１９４４２】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【１９４４３】
　また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部材Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部材Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。
【１９４４４】
　さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。
【１９４４５】
　なお、図１７２４では、操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。
【１９４４６】
　また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。
【１９４４７】
　表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。
【１９４４８】
　なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。
【１９４４９】
　電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１

と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１７２４参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１９４５０】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１９４５１】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１７２４参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【１９４５２】

次いで、図１７２５から図１７８５を参照し、第１０５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｋ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１７２５は、第１０５実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０の正面図であり、図１７２６はパチンコ機Ｋ１０の遊技盤Ｋ１３の正面図である。

【１９４５３】

なお、以下の説明では、図１７２５に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１７２５に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１７２６参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｋ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１９４５４】

なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。また、符号について、第１０４実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０が本実施形態ではパチンコ機Ｋ１０とされているように、共通の機能を有するものに対して類似の符号が設定されている。

【１９４５５】

即ち、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、正面枠Ｋ１４（第１０４実施形態の正面枠Ｈ１４に相当）と、ベース板Ｋ６０（第１０４実施形態のベース板Ｈ６０に相当）と、内レールＫ６１（第１０４実施形態の内レールＨ６１に相当）と、外レール

Ｋ６２（第１０４実施形態の外レールＨ６２に相当）と、一般入賞口Ｋ６３（第１０４実施形態の一般入賞口Ｈ６３に相当）と、第１入賞口Ｋ６４（第１０４実施形態の第１入賞口Ｈ６４に相当）と、第２入賞口Ｋ６４０（第１０４実施形態の第２入賞口Ｈ６４０に相当）と、電動役物Ｋ６４０ａ（第１０４実施形態の電動役物Ｈ６４０ａに相当）と、第１可変入賞装置Ｋ６５（第１０４実施形態の可変入賞装置Ｈ６５に相当）と、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（第１０４実施形態の特定入賞口Ｈ６５ａに相当）と、スルーゲートＫ６７（第１０４実施形態のスルーゲートＨ６７に相当）と、戻り球防止部材Ｋ６８（第１０４実施形態の戻り球防止部材Ｈ６８に相当）と、返しゴムＫ６９（第１０４実施形態の返しゴムＨ６９に相当）と、アウトロＫ７１（第１０４実施形態のアウトロＨ７１に相当）と、を備える。

【１９４５６】

更に、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、外縁部材Ｋ７３（第１０４実施形態の外縁部材Ｈ７３に相当）と、可変表示装置ユニットＫ８０（第１０４実施形態の可変表示装置ユニットＨ８０に相当）と、第３図柄表示装置Ｋ８１（第１０４実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１に相当）と、センターフレームＫ８６（第１０４実施形態のセンターフレームＨ８６に相当）と、を備える。

【１９４５７】

図１７２６に示すように、遊技盤Ｋ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｋ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＫＷＦの他、レールＫ６１，Ｋ６２、一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、第１可変入賞装置Ｋ６５、第２可変入賞装置Ｋ６５０、スルーゲートＫ６７、可変表示装置ユニットＫ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２（図１７２５参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【１９４５８】

ベース板Ｋ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、可変表示装置ユニットＫ８０は、ルータ加工によってベース板Ｋ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｋ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ｋ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【１９４５９】

遊技盤Ｋ１３の正面中央部分は、正面枠Ｋ１４に配設されるガラスユニットＨ１６（図１７２５参照）を通じて内枠Ｈ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１７２６を参照して、遊技盤Ｋ１３の構成について説明する。

【１９４６０】

遊技盤Ｋ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＫ６２が植立され、その外レールＫ６２の内側位置には外レールＫ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＫ６１が植立される。この内レールＫ６１と外レールＫ６２とにより遊技盤Ｋ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｋ１３とガラスユニットＨ１６（図１７２５参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｋ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｋ１３の正面であって２本のレールＫ６１，Ｋ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｋ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１９４６１】

２本のレールＫ６１，Ｋ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図１７２４参照）から発射された球を遊技盤Ｋ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＫ６１の先端部分（図１７２６の左上部）には戻り球防止部材Ｋ６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｋ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＫ６２の先端部（図１７２６の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＫ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム

Ｋ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【１９４６２】
遊技領域の正面視左側下部（図１７２６の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの機能は第１０４実施形態において説明したので、ここでは説明を省略する。
【１９４６３】
尚、本パチンコ機Ｋ１０では、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｋ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【１９４６４】
本パチンコ機Ｋ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｋ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【１９４６５】
電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも前方に張り出すことで、開閉板の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｋ６４０へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球を第２入賞口Ｋ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成される。
【１９４６６】
なお、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ｋ６４０ａの下方に第２入賞口Ｋ６４０が配置され、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い。即ち、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。
【１９４６７】
また、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に案内され易く、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成することができる。
【１９４６８】
遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｋ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能

な位置（ベース板Ｋ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニットＫ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＫ８０には、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｋ８１と、スルーゲートＫ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板Ｋ６０には、第３図柄表示装置Ｋ８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＫ８６が配設されている。

【１９４６９】

第３図柄表示装置Ｋ８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１７２４参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｋ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｋ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｋ８１を構成するようにしても良い。

【１９４７０】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＫ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｋ１０では、球がスルーゲートＫ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１９４７１】

パチンコ機Ｋ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｋ６４０に付随された電動役物Ｋ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１９４７２】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１９４７３】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１９４７４】

スルーゲートＫ６７は、可変表示装置ユニットＫ８０の右側の領域において遊技盤Ｋ１３に組み付けられ、遊技盤Ｋ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＫ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後

、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１９４７５】

球のスルーゲートＫ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｋ８１の下方に左右対称に配設されている。

【１９４７６】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｋ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｋ８１の一部で行うようにしても良い。

【１９４７７】

また、スルーゲートＫ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＫ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【１９４７８】

また、スルーゲートＫ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＫ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＫ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１９４７９】

可変表示装置ユニットＫ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｋ６４が配設されている。この第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【１９４８０】

一方、スルーゲートＫ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｋ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１７２４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。なお、第２入賞口Ｋ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｋ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｋ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【１９４８１】

また、第１入賞口Ｋ６４および第２入賞口Ｋ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。この場合の賞球個数の大小関係は逆転しても良い。

【１９４８２】

第２入賞口Ｋ６４０には電動役物Ｋ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｋ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）とな

って、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＫ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１９４８３】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【１９４８４】

ここで、第１入賞口Ｋ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｋ６４は、第２入賞口Ｋ６４０にあるような電動役物Ｋ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１９４８５】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｋ６４０ａのない第１入賞口Ｋ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＫ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｋ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１９４８６】

一方、時短中は、スルーゲートＫ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｋ６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＫ６７を通過させて電動役物Ｋ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｋ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１９４８７】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０とは異なり、遊技盤Ｋ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｋ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｋ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。

【１９４８８】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｋ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＫ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｋ１０は、パチンコ機Ｋ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【１９４８９】

第１入賞口Ｋ６４の右方には第２可変入賞装置Ｋ６５０（図１７２６参照）が配設されており、その下流側位置に第２特定入賞口Ｋ６５０ａが設けられている。パチンコ機Ｋ１０においては、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると

共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｋ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている第２特定入賞口Ｋ６５０ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【１９４９０】

この第２特定入賞口Ｋ６５０ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その第２特定入賞口Ｋ６５０ａが所定時間開放される。この第２特定入賞口Ｋ６５０ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【１９４９１】

抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、付与される時短の回数は３回とされ、第２入賞口Ｋ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、第２特定入賞口Ｋ６５０ａよりも上流側に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａが所定時間開放され、その第１特定入賞口Ｋ６５ａの開放中に、球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ内へ入賞し、その特定入賞口Ｋ６５ａの下流側の特定領域Ｋ６５ｃを通過することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【１９４９２】

このように、本パチンコ機Ｋ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。

【１９４９３】

また、特定入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６５０ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｋ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｋ６４の下方右側や、第１入賞口Ｋ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＫ８０の左方または右方や、上方でも良い。

【１９４９４】

遊技盤Ｋ１３には、アウト口Ｋ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｋ６３，Ｋ６４，Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａにも入賞しなかった球は、アウト口Ｋ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【１９４９５】

遊技盤Ｋ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１９４９６】

なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図１７２４参照）には、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１や駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ，ＫＭＴ５１，ＫＭＴ６１，ＫＭＴ７１，ＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２等が含まれる。

【１９４９７】

なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８（図１７２４参照）には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＫ２４７及び駆動ソレノイドＫ２５３等）を含む構成としても良い。

【１９４９８】

また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図１７２４参照）には、検出センサ

Ｋ４１３，Ｋ４１８，Ｋ５５６ａ，Ｋ５５６ｂ，Ｋ５５６ｃ，Ｋ５６５，Ｋ７１１ｅ，Ｋ７１６，Ｋ８５８等が含まれる。

【１９４９９】

次いで、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の構造について説明する。図１７２７は、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＡ２００の分解正面斜視図である。なお、図１７２７の説明においては、図１７２６を適宜参照する。

【１９５００】

動作ユニットＫ３００は、遊技盤Ｋ１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されているが、詳細は後述する。動作ユニットＫ３００の支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とが一体的に固定され、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上が図られている。

【１９５０１】

ベース板Ｋ６０は、光透過性の樹脂材料から板状に形成されており、正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ｋ６０の形状や配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ、各種演出に利用することができる。なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。

【１９５０２】

図１７２８は、遊技盤Ｋ１３の分解正面斜視図である。図１７２８では、入賞ユニットＫ２００から化粧カバーＫ２２０が分解された状態が図示されている。また、図１７２６と同様に球案内用の釘の図示が省略されると共に、それと加えて風車ＫＷＦ（図１７２６参照）の図示も省略されている。

【１９５０３】

図１７２９は、入賞ユニットＫ２００の分解正面斜視図であり、図１７３０は、入賞ユニットＫ２００の分解背面斜視図である。図１７２９及び図１７３０に図示されるように、入賞ユニットＫ２００は、ベース板Ｋ６０の前面に締結固定されるベース部材Ｋ２０１と、そのベース部材Ｋ２０１の正面側に配置されベース部材Ｋ２０１と共に球の流下経路を構成する化粧カバーＫ２２０と、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する電動役物Ｋ６４０ａを有する第１電動役物Ｋ２４０と、その第１電動役物Ｋ２４０よりも下側においてベース部材Ｋ２０１の背面側に配設され、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する可動板Ｋ２５１を有する第２可変入賞装置Ｋ６５０としての第２電動役物Ｋ２５０と、を備える。

【１９５０４】

ベース部材Ｋ２０１は、背面側に突条状に形成される突条縁部の内側において光拡散形状が形成される板状本体Ｋ２０２と、その板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０３と、案内開口Ｋ２０３の正面側を流下する球を減速させるよう正面側に突設される複数の減速突起Ｋ２０４と、案内開口Ｋ２０３よりも下側において板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０５と、その案内開口Ｋ２０５の下縁に沿って正面側に突設される突条部Ｋ２０６と、案内開口Ｋ２０５の上側において板上本体Ｋ２０２に凹設される複数の減速凹部Ｋ２０７と、案内開口Ｋ２０３よりも下側であり案内開口Ｋ２０５よりも上側の位置において左右方向に長尺の突条状に形成される長尺突条Ｋ２０８と、案内開口Ｋ２０５の上縁に沿って背面側に延設される延設部Ｋ２０９と、案内開口Ｋ２０５よりも下側において球を背面側へ案内可能に形成される複数の球案内部Ｋ２１０と、板状本体Ｋ２０２の光拡散形状が形成されている箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２１２を有しており板状本体Ｋ２０２の背面側に締結固定される電飾基板Ｋ２１１と、を備える。

【１９５０５】

化粧カバーＫ２２０は、ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と共に球の流下経路の前後を区画する板状本体Ｋ２２１と、その板状本体Ｋ２２１から背面側へ延設され球の流

下経路を形成する延設形成部Ｋ２２２と、その延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成され流下経路を分岐させる分岐形成部Ｋ２２３と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成されベース部材Ｋ２０１の案内開口Ｋ２０３へ向けて球を案内する傾斜面が後面に形成される傾斜形成部Ｋ２２４と、ベース部材Ｋ２０１の減速凹部Ｋ２０７の前方位置に対応して板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成される複数の減速突起Ｋ２２５と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域よりも下側の箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２２８を有しており延設形成部Ｋ２２２の延設先端と略面一を形成することで板状本体Ｋ２２１と十分な距離を開けて化粧カバーＫ２２０に締結固定される電飾基板Ｋ２２７と、を備える。

【１９５０６】

第１電動役物Ｋ２４０は、第２入賞口Ｋ６４０と、案内開口Ｋ２０３を通り前方に配置される張出状態（開放状態）において球を第２入賞口Ｋ６４０へ向けて案内可能な電動役物Ｋ６４０ａと、その電動役物Ｋ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＫ２４７が内部に配設され電動役物Ｋ６４０ａを下側から支える支持箱部材Ｋ２４６と、電動役物Ｋ６４０ａが前後方向に変位できるように電動役物Ｋ６４０ａの上面を案内すると共に第２入賞口Ｋ６４０への経路の天井部を形成する上カバー部材Ｋ２４８と、を備える。

【１９５０７】

電動役物Ｋ６４０ａは、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、左方へ向けて下降傾斜する第１形成面Ｋ２４１と、その第１形成面Ｋ２４１の下流側端部に連設され後方へ向けて下降傾斜する第２形成面Ｋ２４２と、その第２形成面Ｋ２４２における第１形成面Ｋ２４１に対する左右方向逆側（左側）において左前部を頂点として右方および後方へ向けて下降傾斜する第３形成面Ｋ２４３と、を備える。

【１９５０８】

第２電動役物Ｋ２５０は、案内開口Ｋ２０５を通り前後方向に進退動作可能な可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１を駆動させる駆動ソレノイドＫ２５３が内部に配設され可動板Ｋ２５１を下側から支える支持箱部材Ｋ２５２と、を備える。

【１９５０９】

可動板Ｋ２５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、駆動ソレノイドＫ２５３が非励磁の状態において前方側に張り出す張出状態（閉鎖状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が防止され、駆動ソレノイドＫ２５３が励磁された状態において後方に退避する退避状態（開放状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が許容される。

【１９５１０】

可動板Ｋ２５１の張出状態では、可動板Ｋ２５１を傾倒させる方向に球の重みが作用した場合に、突条部Ｋ２０６が可動板Ｋ２５１の下面と当接することで、その傾倒が防止される。

【１９５１１】

更に、可動板Ｋ２５１の後端側上方には延設部Ｋ２０９が配設されているので、延設部Ｋ２０９が可動板Ｋ２５１の上面と当接することで、可動板Ｋ２５１の傾倒が防止される。このように、複数箇所での当接により、可動板Ｋ２５１の傾倒を防止することができる。

【１９５１２】

図１７３１は、図１７２６のＭＤＣＣＸＸＸＩ部における遊技盤Ｋ１３の部分拡大正面図であり、図１７３２は、図１７３１のＭＤＣＣＸＸＸＩＩ－ＭＤＣＣＸＸＸＩＩ線における遊技盤Ｋ１３の断面図である。図１７３１では、化粧カバーＫ２２０の内側の形状が想像線で図示される。

【１９５１３】

図１７３１に図示されるように、分岐形成部Ｋ２２３は、電動役物Ｋ６４０ａの右端部へ向けて上面に到達した球を案内可能に配置されている。また、傾斜形成部Ｋ２２４は、

右側へ張り出す部分が、第１電動役物Ｋ２４０の第３形成面Ｋ２４３に対応して、正面視で右方へ向けて下降傾斜する。

【１９５１４】

これにより、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａの張出状態において、電動役物Ｋ６４０ａの上面に球が衝突して電動役物Ｋ６４０ａに上下方向に跳ねるような変位が生じた場合における第３形成面Ｋ２４３と傾斜形成部Ｋ２２４との衝突を面での衝突とすることができるので、衝突時の荷重が点で生じる場合に比較して、第３形成面Ｋ２４３が受ける荷重を分散させることができ、電動役物Ｋ６４０ａの破損を回避し易くすることができる。

【１９５１５】

図１７３１では、化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１の正面側に施される大形意匠Ｋ２２１ａと、小形意匠Ｋ２２１ｂとが、図示される。ここで、本実施形態では大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色として電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と同じ赤が選択され、縁取り以外の部分は、基本的には無色透明とされ、特に電飾基板Ｋ２２７と前後で重なる位置においては白色で不透明に施され、小形意匠Ｋ２２１ｂは有色（本実施形態では白）不透明の装飾として形成される。これに対応して、大形意匠Ｋ２２１ａには赤色を示す網掛けを付し、小形意匠Ｋ２２１ｂには網掛けを付さずに図示する。

【１９５１６】

小形意匠Ｋ２２１ｂは、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の流下経路に沿う方向を示す矢印先端部形状（左下側に頂点を有するカッコ形状）としてデザインされており、小形意匠Ｋ２２１ｂを視認した遊技者に対して球の流下経路について示唆するよう機能する。

【１９５１７】

このように、化粧カバーＫ２２０の装飾としての大形意匠Ｋ２２１ａと、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１との色を合わせることにより、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１を装飾の一部として遊技者に視認させることが可能となる。

【１９５１８】

本実施形態では、図１７３１に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１の傾斜の方向（左側へ向けて下降傾斜する方向）と、大形意匠Ｋ２２１ａの傾斜が揃っているので、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と大形意匠Ｋ２２１ａとを合わせて「一つの装飾模様」として視認させることができる。そして、この場合において、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１の配置の違いによる見え方の違いを利用して、視認される上述の「一つの装飾模様」を変化させることができる。

【１９５１９】

図１７３１に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の前方は、板状本体Ｋ２２１が無色透明とされており、視認性が良い。そのため、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により案内される球の視認性を向上させることができる。

【１９５２０】

更に、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の上下位置の前方は、板状本体Ｋ２２１の大形意匠Ｋ２２１ａとして有色（本実施形態では赤）透明とされており、無色透明よりも視認性が低下されている。これにより、遊技者の視線を視認性の良い電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）へ誘導することができるので、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により球が案内されている場合に、その球を判別させ易くすることができる。

【１９５２１】

図１７３２では、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の非励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（退避状態）及び可動板Ｋ２５１（張出状態）の配置が実線で図示され、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（張出状態）及び可動板Ｋ２５１（退避状態）の配置が想像線で図示される。

【１９５２２】
電動役物Ｋ６４０ａは、励磁状態（張出状態）において上面が球の流下面として機能する。即ち、案内開口Ｋ２０３を通り第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）へ案内される球は図１７３２に想像線で図示される張出状態の電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する。
【１９５２３】
そのため、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側かつ可動板Ｋ２５１よりも上側に配置され電動役物Ｋ６４０ａを斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１で視認する遊技者が視認可能な光を照射するＬＥＤとして図１７３２に図示される発光部Ｋ２１２からの光が、電動役物Ｋ６４０ａを転動する球に隠されて遊技者の目に届かなくなる事態を回避することができる。
【１９５２４】
即ち、図１７３２に図示される発光部Ｋ２１２からの光は、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側を通り遊技者の目に届くので、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の有無により発光部Ｋ２１２からの光の視認態様が変化することが防止される。
【１９５２５】
また、発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａ自体を明るく照らすように作用することで、電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくすることができる。発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａに到達するよりも前に、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮蔽されることは無いので、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａの明るさ（見映え）が変わることを防止できる。このように、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａを明るくすることができ、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の視認性を向上させることができる。
【１９５２６】
この場合において、第１形成面Ｋ２４１の形成部のように板厚の寸法がより小さい部分において電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくする程度を高めることができるので、電動役物Ｋ６４０ａの明るさは、第３形成面Ｋ２４３の形成部よりも第１形成面Ｋ２４１の形成部を明るくすることができる。
【１９５２７】
これにより、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の流下経路の下流側よりも上流側に遊技者の視線を誘導することができ、分岐形成部Ｋ２２３における球の分岐に注目させることができる。
【１９５２８】
これにより、分岐形成部Ｋ２２３の上面を左に流れて電動役物Ｋ６４０ａの上面に案内され得る球の存在と、分岐形成部Ｋ２２３の上面を右に流れて電動役物Ｋ６４０ａには案内されずに下流側へ流下する球の存在とを、遊技者に把握させることができるので、発射球数よりも第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）へ案内される球数が少ないことから、遊技領域から球が漏れたり、球の発射が適切に行われなかったりという遊技機不良が生じていると思い込み、遊技者が遊技を止めてしまう事態が生じることを防止し易くすることができる。
【１９５２９】
図１７３２に図示されるように、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１は、左右縁部が前後方向に延びる突条状に下方に突設され、その突設先端がベース部材Ｋ２０１の突条部Ｋ２０６に下支えされることで、張出状態における可動板Ｋ２５１の前傾方向の姿勢変化が防止されている。
【１９５３０】
また、可動板Ｋ２５１の上側には延設部Ｋ２０９が形成されており、可動板Ｋ２５１が前傾方向に姿勢変化する場合に、その姿勢変化を規制する。即ち、本実施形態では、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するための形状部がベース部材Ｋ２０１に形成されており、化粧カバーＫ２２０には形成されていない。
【１９５３１】

このように構成することで、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するという作用は生じさせつつ、化粧カバーＫ２２０に凹凸形状が形成される領域を狭めることができるので、化粧カバーＫ２２０を介して球の流下経路を視認する場合における流下経路の視認性を向上させることができる。

【１９５３２】

なお、延設部Ｋ２０９は、下面の形状が、前方または斜前上方向からの光を全反射させるように湾曲した形状とされている。これにより、延設部Ｋ２０９の基端部が配設される板状本体Ｋ２０２よりも後側に延びている可動板Ｋ２５１の後側部が遊技者に視認されることを避けることができ、可動板Ｋ２５１については、専ら、板状本体Ｋ２０２よりも前側に張り出している部分に注目させることができる。

【１９５３３】

なお、本実施形態では、延設部Ｋ２０９の形状の設計により延設部Ｋ２０９の下側の構造物を視認させないようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設部Ｋ２０９の表面に、ミラーテープや、遮光テープを貼り付けることで、光の透過を防止するように構成しても良い。

【１９５３４】

また、可動板Ｋ２５１付近を前後方向の方向視ＫＤＲ２２で視認する場合において、減速凹部Ｋ２０７の上縁部Ｋ２０７ａを介して張出状態における可動板Ｋ２５１の上面を視認できるように、減速凹部Ｋ２０７が形成される。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、可動板Ｋ２５１の色（本実施形態では赤色）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【１９５３５】

一方、可動板Ｋ２５１が退避状態とされると、可動板Ｋ２５１の先端は上縁部Ｋ２０７ａよりも後方に退避するので、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、突条部Ｋ２０６の上面付近の色（本実施形態では無色透明であり、上縁部Ｋ２０７ａと同じ）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【１９５３６】

即ち、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様（色味）を、可動板Ｋ２５１が張出状態とされるか（赤色で視認される）、可動板Ｋ２５１が退避状態とされるか（無色透明で視認される）で変化させることができる。これにより、可動板Ｋ２５１の状態が変化した場合における可動板Ｋ２５１付近の視認態様の変化の程度を大きくすることができる。

【１９５３７】

上縁部Ｋ２０７ａは、中央と右側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面に略平行なライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球よりも若干上側において、球の流下方向に平行に延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認される。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【１９５３８】

更に、上縁部Ｋ２０７ａは、左側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面を左側へ案内された球が案内される流路（可動板Ｋ２５１よりも左側の流路）へ向けた左方向へ下降傾斜するライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の左端部を過ぎて流下する球の流下方向に沿って延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認される。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を左方へ通り過ぎた後の球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【１９５３９】

図１７３１及び図１７３２を参照して、更に上縁部Ｋ２０７ａについて説明する。上縁部Ｋ２０７ａが形成される減速凹部Ｋ２０７は、球が進入可能となるように上下幅が球の直径よりも長くなるように形成されている。

【１９５４０】

そのため、遊技者が方向視ＫＤＲ２２で可動板Ｋ２５１付近を視認している場合に、可動板Ｋ２５１の上面を球が転動する場合であっても、その球により上縁部Ｋ２０７ａが隠されることはない。従って、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の上下において、可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１と同様に左下方へ傾斜する上縁部Ｋ２０７ａとにより、２本の赤色のライン状の装飾を遊技者に視認させることができる。

【１９５４１】

ここで、方向視ＫＤＲ２２に対して上縁部Ｋ２０７ａが鏡として作用して可動板Ｋ２５１を視認させる場合の光の通り道は、減速凹部Ｋ２０７を通るので、可動板Ｋ２５１上を流下する球がある場合であっても、球が減速凹部Ｋ２０７に進入していなければ上縁部Ｋ２０７ａの視認態様に影響はない。

【１９５４２】

また、球が減速凹部Ｋ２０７に進入している場合であっても、球は球体である一方で減速凹部Ｋ２０７の凹設側端部は平面であり、減速凹部Ｋ２０７が球により満たされることはないので、球に遮蔽されずに進行する光が上縁部Ｋ２０７ａで反射されて遊技者の目に届くことになる。

【１９５４３】

従って、可動板Ｋ２５１上を球が流下する場合であっても、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様の変化を小さくすることができる。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認される状態は、可動板Ｋ２５１上に球が有る場合にも、無い場合にも、共通に生じさせることができる。

【１９５４４】

図１７３１に図示されるように、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に、上縁部Ｋ２０７ａ及び可動板Ｋ２５１が沿うように配置されており、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色と、可動板Ｋ２５１の色とは共通とされる。

【１９５４５】

そのため、可動板Ｋ２５１が張出状態の場合には、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りを部分的に太くするように上縁部Ｋ２０７ａが作用し、可動板Ｋ２５１が退避状態の場合には、上縁部Ｋ２０７ａが透明に視認されることで、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りが均一となるように視認される。

【１９５４６】

大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状が部分的に太い場合が可動板Ｋ２５１の張出状態に対応し、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状の太さが均一である場合が可動板Ｋ２５１の退避状態に対応することから、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さを視認することで可動板Ｋ２５１の状態を把握することができる。

【１９５４７】

可動板Ｋ２５１上を転動する球の流下経路の手前側には、化粧カバーＫ２２０の減速突起Ｋ２２５が位置する。減速凹部Ｋ２０７とは違い、減速突起Ｋ２２５の上下幅は球の直径よりも小さくされる（球の半径よりも小さくされる）。これにより、可動板Ｋ２５１上を球が転動する場合に、球が減速突起Ｋ２２５により隠されて（見え難くされて）、遊技者が球の位置を把握できなくなる事態を避けることができる。

【１９５４８】

図１７３３、図１７３４、図１７３５及び図１７３６は、斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１における入賞ユニットＫ２００の斜視図である。図１７３３、図１７３４、図１７３５及び図１７３６では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１の配置の違いに伴う化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａ及び小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様の違いを説明するために、化粧カバーＫ２２０については、板状本体Ｋ２２１の外形が想像線で図示されると共に大形意匠２２１ａおよび小形意匠Ｋ２２１ｂの位置が図示され、背面側に張り出す形状部としての分岐形成部Ｋ２２３、傾斜形成部Ｋ２２４及び減速突起Ｋ２２５の配置が想像線で図示される。

【１９５４９】
　また、図１７３３、図１７３４、図１７３５及び図１７３６では、赤色の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取り、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１に、共通の網掛けが付される。なお、入賞ユニットＫ２００に案内された球の流下経路の詳細については図示が省略されているので、流下経路の詳細について図１７３１を適宜参照する。
【１９５５０】
　図１７３３では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に通常状態に対応する。
【１９５５１】
　図１７３３に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることもない（図１７３１参照）状態である。
【１９５５２】
　この状態において、大形意匠Ｋ２２１ａは、縁取りの内側の上下中央部に可動板Ｋ２５１が進入しているように視認され、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように遊技者に印象付けることができる。
【１９５５３】
　従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように視認されている場合と、第２入賞口Ｋ６４０及び第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内されない状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。
【１９５５４】
　図１７３４では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に時短状態や確変状態において頻繁に生じる状態に対応する。
【１９５５５】
　図１７３４に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）に案内され得る一方で、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることはない（図１７３１参照）状態である。
【１９５５６】
　この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図１７３３で図示されるように背景色が無色の場合に比較して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。
【１９５５７】
　従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。
【１９５５８】
　ここで、化粧カバーＫ２２０に施される小形意匠Ｋ２２１ｂを判別し易い装飾とすると、その装飾が邪魔になり球自体の流れが見え難くなる可能性があり、逆に、球の流れを見え易くするために淡い装飾とすると、装飾としては見え難い演出効果の小さいものになる可能性がある。光照射により形状を浮かび上がらせる導光パネル等を利用する手もあるが、高価であったり、ある程度の厚みを要する等の設計に絡む条件から配置が限定されたり

するといった問題点があり、万能ではない。
【１９５５９】
これに対し、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の前面の装飾で完結させるのではなく、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えに、電動役物Ｋ６４０ａが影響を及ぼし得るように構成することで、装飾の見映えと、球の見え易さとを両立させている。
【１９５６０】
即ち、小形意匠Ｋ２２１ｂ単体では目立たない装飾とすることで、電動役物Ｋ６４０ａが退避状態とされている場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせないことで化粧カバーＫ２２０の背面側を流下する球自体に注目させるようにする一方、電動役物Ｋ６４０ａが張出状態とされる場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂ自体を目立たせて、第２入賞口Ｋ６４０への入球に期待させる装飾としての演出効果を向上させることができる。
【１９５６１】
電動役物Ｋ６４０ａを背景として小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせる場合、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入すると、小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えが変化することが懸念される。
【１９５６２】
ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１（図１７２９参照）とで形成される流路の前後幅は球の直径よりも十分に長くされていること（約１９ｍｍ）、パチンコ機Ｋ１０は一般的に数度（約１度）だけ後側へ傾斜されていること、を考慮すれば、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球は後側に配置されるベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２に接しながら流下する可能性が高いので、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する前提となる球が化粧カバーＫ２２０側に寄る（前側寄りで流下する）事態が生じる可能性を低くすることができる。
【１９５６３】
従って、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する事態を生じ難くすることができるので、電動役物Ｋ６４０ａ上を球が転動している状態における小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えの変化を防止し易くすることができる。
【１９５６４】
図１７３５では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中の状態に対応する。
【１９５６５】
図１７３５に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７３１参照）に案内され得る状態である。
【１９５６６】
退避状態の可動板Ｋ２５１は、先端部が案内開口Ｋ２０５の後側まで十分に収納され（図１７３２参照）、方向視ＤＲ２１では視認不能とされる。また、退避状態の可動板Ｋ２５１の上側を覆う延設部Ｋ２０９（図１７３２参照）の全反射の作用により、延設部Ｋ２０９を介して可動板Ｋ２５１を視認することが不可能とされるので、図１７３５に図示される状態において、可動板Ｋ２５１を完全に隠すことができる。
【１９５６７】
図１７３５に図示される状態において、電動役物Ｋ６４０ａが小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色を構成することはなく、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側において可動板Ｋ２５１が視認されることも無いので、遊技者に対して、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状を印象的に視認させることができる。
【１９５６８】
従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状が切断されない状態で視認されている場合と、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下する

かを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【１９５６９】

なお、本実施形態では、方向視ＤＲ２１において、可動板Ｋ２５１が大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に視認されるか否かで状態の切替を把握可能に構成される一方で、方向視ＤＲ２２において、図１７３１で上述したように、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認されることで大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さが部分的に変化するか否かで状態の切替を把握可能に構成される。

【１９５７０】

このように、本実施形態では、見栄えの変化を生じさせる主体は可動板Ｋ２５１で共通としつつも、見栄えが変わる対象を複数設けてあるので、遊技者が入賞ユニットＫ２００を視認する方向視が遊技中に変化したとしても、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測させるという目的を達成させることができる。

【１９５７１】

図１７３６では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中において、第２図柄の抽選で当たりとなり、電動役物Ｋ６４０ａが駆動された状態に対応する。

【１９５７２】

図１７３６に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２９参照）に案内され得るか、又は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７３１参照）に案内され得る状態である。

【１９５７３】

この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図１７３３で図示されるように背景色が無色の場合に比較して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。

【１９５７４】

従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【１９５７５】

一方、特別遊技状態では電動役物Ｋ６４０ａの励磁時間が極端に短くされるので、実際に球が第２入賞口Ｋ６４０に入球する事態は発生し難いように構成されている。従って、電動役物Ｋ６４０ａを利用して、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えを変化させるだけの（第２入賞口Ｋ６４０への入球による賞球は発生させ難い）演出を実行させることができる。

【１９５７６】

図１７３７は、遊技盤Ｋ１３の背面斜視図であり、図１７３８は、遊技盤Ｋ１３の分解背面斜視図である。図１７３７に図示されるように、ベース板Ｋ６０は、内部においてセンターフレームＫ８６を内嵌可能な形状で開口形成される開口部Ｋ６０ｗを備えている。また、ベース板Ｋ６０は、内レールＫ６１及び外レールＫ６２（図１７２６参照）により外縁が区画される遊技領域の形成範囲においては強度面から肉厚が十分に確保されており、遊技領域の形成範囲の外方において、背面側から凹設されるようにして肉厚が削られる形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄを備える。

【１９５７７】

開口部Ｋ６０ｗは、センターフレームＫ８６を前後幅に亘って支持する目的から、ベース板Ｋ６０の厚み方向（前後方向）の位置が異なっても同一形状となるように形成される。これにより、センターフレームＫ８６を安定的に支持することができる。

【１９５７８】

左上側の第１形成凹部Ｋ６０ａは、外レールＫ６２（図１７２６参照）の左上側に配設される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７４の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７４により第１形成凹部Ｋ６０ａが目隠しされる。

【１９５７９】

右上側の第２形成凹部Ｋ６０ｂは、外縁部材Ｋ７３（図１７２６参照）及び外縁部材Ｋ７３よりも上側の範囲の後方に配置されており、外縁部材Ｋ７３により第２形成凹部Ｋ６０ｂが目隠しされる。

【１９５８０】

左下側の第３形成凹部Ｋ６０ｃは、外レールＫ６２（図１７２６参照）の左下側に配置され第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが内蔵される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７５の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７５により第３形成凹部Ｋ６０ｃが目隠しされる。

【１９５８１】

図１７３８に図示されるように、遊技盤Ｋ１３は、ベース板Ｋ６０の下側部の背面側に締結固定される左右長尺の樋用前側部材Ｋ９１と、その樋用前側部材Ｋ９１の背面側に締結固定され樋用前側部材Ｋ９１と共同で球を流下させる樋を構成する樋用後側部材Ｋ９２と、その樋用後側部材Ｋ９２の背面側に締結固定され正面側へ光を照射するＬＥＤが配置される電飾基板Ｋ９３と、その電飾基板Ｋ９３の取り外しを防止可能となるように電飾基板Ｋ９３を挟む用にして樋用後側部材Ｋ９２に締結固定される防止部材Ｋ９４と、その防止部材Ｋ９４と共同で球を流下させる樋を構成する補助部材Ｋ９５と、樋用後側部材Ｋ９２に製造条件から生じる不要な開口部を塞ぐ機能を有すると共に電気配線を結束バンドで束ねる支持部としての機能する閉塞部材Ｋ９６と、を備える。

【１９５８２】

電飾基板Ｋ９３からの光は、遊技領域の左下側に配置される一般入賞口Ｋ６３へ向けて照射される。即ち、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤを点灯させることにより、一般入賞口Ｋ６３を明るく視認させることができるので、遊技者の一般入賞口Ｋ６３への注目力を、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤの点灯または消灯により変化させることができる。

【１９５８３】

右下側の第４形成凹部Ｋ６０ｄは、外レールＫ６２の下縁よりも下側において外縁部材Ｋ７３の下端側形成部Ｋ７３ａ（図１７２８参照）の後方の領域を含むように配置されており、その下端側形成部Ｋ７３ａにより第４形成凹部Ｋ６０ｄの少なくとも一部が目隠しされる。

【１９５８４】

第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方には樋用前側部材Ｋ９１及び樋用後側部材Ｋ９２の左側部が配置されており、第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方の領域を球が流下可能に構成されている。

【１９５８５】

図１７３９は、動作ユニットＫ３００の分解正面斜視図である。なお、図１７３９の説明においては、図１７２７を適宜参照する。動作ユニットＫ３００は、左右に長尺に形成され正面視で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上側に配設される上側装飾部材Ｋ３３０と、上下に長尺で形成され正面視で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左側に配設される左側装飾部材Ｋ３５０と、上側装飾部材Ｋ３３０及び左側装飾部材Ｋ３５０が正面側に締結固定される前層側可動装置Ｋ４００と、その前層側可動装置Ｋ４００の後側に配設される後層側可動装置Ｋ８００と、前層側可動装置Ｋ４００及び後層側可動装置Ｋ８００が収容され締結固定される背面ケースＫ３１０と、を備える。

【１９５８６】

背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１と、その底壁部Ｋ３１１の外縁から立設される外壁部Ｋ３１２とから正面側が開放された箱状に形成される。背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１の中央に矩形状の開口Ｋ３１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ｋ３１１ａは、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【１９５８７】

背面ケースＫ３１０は、外壁部Ｋ３１２の正面側端部に遊技盤Ｋ１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図１７２６参照）において遊技盤Ｋ１３に面で支持される支持板部Ｋ３１３を備える。

【１９５８８】

その支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【１９５８９】

前層側可動装置Ｋ４００は、左右長尺に構成され初期位置としての上端位置から上下移動可能な第１可動装置Ｋ４０１と、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において昇降移動可能に構成される第２可動装置Ｋ７０１と、を備える。

【１９５９０】

上側装飾部材Ｋ３３０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、初期位置の第１可動装置Ｋ４０１を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【１９５９１】

左側装飾部材Ｋ３５０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、第１可動装置Ｋ４０１の左側における駆動力伝達機構を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【１９５９２】

後層側可動装置Ｋ８００は、前側に前層側可動装置Ｋ４００が配置される関係上、その前層側可動装置Ｋ４００よりも背面ケースＫ３１０における奥側（後側）に配設されることから、前層側可動装置Ｋ４００よりも可変表示装置ユニットＫ８０に近い位置に配設される。

【１９５９３】

後層側可動装置Ｋ８００は、前後に層状に配置される板状部材が左右方向にスライド移動されることで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を露出させたり、隠したりするように動作する第３可動装置Ｋ８０１を備える。

【１９５９４】

後層側可動装置Ｋ８００は、背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定され、前層側可動装置Ｋ４００は、後層側可動装置Ｋ８００よりも外側を通る締結部を介して背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定されると共に、後層側可動装置Ｋ８００の非可動部分に締結固定される。まず、動作ユニットＫ３００の動作制御の概要について例示して説明する。

【１９５９５】

図１７４０から図１７４６は、動作ユニットＫ３００の動作制御の一例を示す動作ユニットＫ３００の正面図である。図１７４０では、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１がそれぞれ演出待機状態である場合について図示される。即ち、図１７４０において、第１可動装置Ｋ４０１は上側装飾部材Ｋ３３０に隠されており、第３可動装置Ｋ８０１は前層側可動装置Ｋ４００に隠されているため、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１を正面視で視認することはできない。

【１９５９６】

図１７４１では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態よりも下降された下降配置状態とされることで、空いたスペースに第１可動装置Ｋ４０１が進入するように落下することで第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１は演出待機状態とされる場合について図示される。

【１９５９７】

第１可動装置Ｋ４０１の位置と第２可動装置Ｋ７０１の位置とが前後にずれておらず（上面視で重なっており）、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態のままだと落下後の第１可動装置Ｋ４０１と衝突してしまうことから、予め第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態とされた後で第１可動装置Ｋ４０１が落下するように駆動制御される。

【１９５９８】

第１可動装置Ｋ４０１は、少なくとも最背面側の部材（長尺装置Ｋ５４０の本体部Ｋ５４１）が非透過となるように構成されているので、第１可動装置Ｋ４０１と重なる部分については第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が隠される。従って、図１７４１に示す状態において、遊技者は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示を正面視で完全には視認することができない。

【１９５９９】

図１７４２では、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１がそれぞれ演出待機状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１が第３図柄表示装置Ｋ８１の手前側を塞ぐ閉塞状態とされる場合について図示される。

【１９６００】

第３可動装置Ｋ８０１は、正面視矩形状に形成される板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１は、光透過性に形成されており、その透過の度合いを部分的に異ならせている。これにより、図１７４２に示すように板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域が塞がれる場合に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認され易い部分と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に隠されて板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の表面の装飾が視認され易い部分とを構成することができる。

【１９６０１】

図１７４３では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態における上下位置を保ったまま、移動装置Ｋ５６０が左側にスライド移動された後で、下降配置状態とされていた第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化されており、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態とされる場合が図示される。

【１９６０２】

移動装置Ｋ５６０を左右にスライド移動させ第２可動装置Ｋ７０１と干渉しない位置（図１７４３参照）まで移動させた上で、第２可動装置Ｋ７０１を移動させることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１との間隔を狭め、且つ、動作ユニットＫ３００の正面視中央側に第２可動装置Ｋ７０１を寄せて、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１を遊技者に視認させ易くしている。

【１９６０３】

図１７４３に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが、正面視で部分的に重なるが、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが前後でずれている（上面視で重ならない）ので、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１は、動作中に互いに衝突しない（干渉しない）。そのため、図１７４３に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１を演出待機状態から落下位置状態へ変化させた状態において、第３可動装置Ｋ８０１を演出待機状態から閉塞状態に変化させることができる。

【１９６０４】

このようにして、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１を、それぞれ演出待機状態から駆動させる制御を実行可能とし、一体感のある動作を実現しながら、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１が衝突することを避けることが

できる。
【１９６０５】
図１７４３に示す状態では、第３可動装置Ｋ８０１の左側に描かれる装飾、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０に描かれる装飾、第２可動装置Ｋ７０１に描かれる装飾および入賞ユニットＫ２００の化粧カバーＫ２２０に描かれる装飾を一連で視認させることで意味を持たせる演出を実行可能とされる（第３可動装置Ｋ８０１に描かれる装飾については本図では図示を省略する。詳細は後述する）。
【１９６０６】
図１７４４では、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第２可動装置Ｋ７０１が上昇配置状態とされる場合が図示される。第２可動装置Ｋ７０１は、演出待機状態ではセンターフレームＫ８６の下側部と大部分が重なり視認性が悪いが（図１７２６参照）、上昇配置状態では、半分以上がセンターフレームＫ８６の下側部よりも上側に配置されることで、第２可動装置Ｋ７０１の視認性が向上される。
【１９６０７】
図１７４５では、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第１可動装置Ｋ４０１の右側のみが途中位置まで落下した片側落下状態とされる場合が図示され、図１７４６では、図１７４５の状態から第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が可動域の右端部まで変位された場合が図示される。
【１９６０８】
第１可動装置Ｋ４０１において、演出待機状態と片側落下状態との変化が生じる際には、移動装置Ｋ５６０の位置は左右方向中央側に維持される。これにより、昇降変位時に第１可動装置Ｋ４０１の左右バランスが崩れることを避けることができる。
【１９６０９】
図１７４６に図示される片側落下状態では、移動装置Ｋ５６０の姿勢が右斜め下に倒れる態様で傾くため、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いてしまい、見栄えが悪くなる。これに対し、本実施形態では、演出待機状態から片側落下状態へ変化し、更に演出待機状態に変化するまでの間、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠を回転させ続けるように制御される。これにより、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いて見栄えが悪くなるという事態を避けることができる。
【１９６１０】
本実施形態では、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠の回転は、移動装置Ｋ５６０が正面視右方に移動する際には正面視時計回り（右向き前転方向）とされ、移動装置Ｋ５６０が正面視左方に移動する際には正面視反時計回り（左向き前転方向）とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動と、回転動作とを遊技者に関連して把握させることができ、統一的な動作演出とすることができる。
【１９６１１】
図１７４０から図１７４６に示すように、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態に対応して、その後方に配置されている第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見える範囲が変わる。即ち、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の全てが演出待機状態にある場合が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見え易い範囲（面積や位置）が最大の状態（図１７４０参照）であり、演出待機状態から状態が変化される可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１に対応して、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なるように構成される。
【１９６１２】
演出待機状態からの各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態の変化の程度によっても、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なる。また、例えば、同じ可動装置（例えば、第１可動装置Ｋ４０１）が動作する場合であっても、図１７４１に示す状態と、図１７４６に示す状態とでは、動作量や、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域と重なる第１可動装置Ｋ４０１の面積や位置が異なることから、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。

【１９６１３】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１では、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を含む）における表示演出を視認させるように制御が設計されているところ、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠される範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を除く）が複数種類で変化することから、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲における表示演出のバリエーションを多くすることができ、表示演出の演出効果を向上させることができる。

【１９６１４】
次いで、図１７４７から図１７６８を参照して、第１可動装置Ｋ４０１について説明する。図１７４７は、前層側可動装置Ｋ４００の正面分解斜視図であり、図１７４８は、前層側可動装置Ｋ４００の背面分解斜視図である。

【１９６１５】
前層側可動装置Ｋ４００の内、第２可動装置Ｋ７０１を除く部分を構成する第１可動装置Ｋ４０１は、略左右対称形状の部材から左右一対で構成され背面ケースＫ３１０に締結固定される一対の支持部材Ｋ４１０と、その支持部材Ｋ４１０の下側部において回転可能に支持される一対の回転部材Ｋ４３０と、その回転部材Ｋ４３０を回転させる駆動力を発生させる一対の駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂと、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降可能に構成される昇降装置Ｋ５００と、を備える。

【１９６１６】
更に、第１可動装置Ｋ４０１は、支持部材Ｋ４１０の前方の開放部に蓋をするように支持部材Ｋ４１０に締結固定される左右一対の前カバー部材Ｋ４４０と、右側の前カバー部材Ｋ４４０に前側から締結固定され昇降装置Ｋ５００の動作態様を切り替える切替装置Ｋ４６０と、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降装置Ｋ５００の下降を許容する許容状態と昇降装置Ｋ５００の下降を防止する防止状態とで変化される左右一対の状態変化装置Ｋ４７０と、を備える。

【１９６１７】
更に、第１可動装置Ｋ４０１は、左側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０２と、その装飾部材Ｋ４０２へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０３と、右側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０４と、その装飾部材Ｋ４０４へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０５と、前層側可動装置Ｋ４００の組立状態（図１７３９参照）における支持部材Ｋ４１０及び前カバー部材Ｋ４４０と第２可動装置Ｋ７０１との隙間を上側から塞ぐ上カバー部材Ｋ４０６と、を備える。

【１９６１８】
前カバー部材Ｋ４４０の詳細について説明する。前カバー部材Ｋ４４０は、略Ｌ字状に形成される板状本体Ｋ４４１と、その板状本体Ｋ４４１に上下方向に延びる長孔として穿設され昇降装置Ｋ５００の昇降を案内する案内長孔Ｋ４４２と、その案内長孔Ｋ４４２の下端部近傍に配設される樹脂部材であって昇降装置Ｋ５００の下降時の衝撃を吸収可能な吸収部材Ｋ４４３と、板状本体Ｋ４４１の背面から回転部材Ｋ４３０へ向けて突設される突設部Ｋ４４４と、案内長孔Ｋ４４２の前方に配置され案内長孔Ｋ４４４を前側に通過した昇降装置Ｋ５００の締結部Ｋ５３３に連結される連結部材Ｋ４４５と、を備える。

【１９６１９】
図１７４９は、第１可動装置Ｋ４０１の分解正面斜視図であり、図１７５０は、第１可動装置Ｋ４０１の分解背面斜視図である。図１７４９及び図１７５０では、第１可動装置Ｋ４０１の内、支持部材Ｋ４１０、回転部材Ｋ４３０及び状態変化装置Ｋ４７０が図示され、前カバー部材Ｋ４４０及び切替装置Ｋ４６０の図示は省略される。

【１９６２０】

図１７４９及び図１７５０に示すように、支持部材Ｋ４１０は、正面視略Ｌ字状に形成される本体部Ｋ４１１と、その本体部Ｋ４１１の下側部の正面側に円筒状に突設され回転部材Ｋ４３０を回転可能に支持する支持部Ｋ４１２と、その支持部Ｋ４１２の左右方向外側に回転部材Ｋ４３０の姿勢を検出するために配設される検出センサＫ４１３と、本体部Ｋ４１１の下端部の正面側に円筒状に突設され状態変化装置Ｋ４７０の下側回転部材Ｋ４７１を回転動作可能に支持する支持部Ｋ４１４と、昇降装置Ｋ５００を案内可能に上下方向に延びる長孔として形成される案内長孔Ｋ４１５と、その案内長孔Ｋ４１５に沿ってギア歯が形成されるラックＫ４１６と、本体部Ｋ４１１の背面側に上下方向に並べて形成され状態変化装置Ｋ４７０の連動部材Ｋ４７３の昇降移動を案内する案内突設部Ｋ４１７と、本体部Ｋ４１１の上端部の正面側に配設され昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における位置に配置されているか否かを検出可能な検出センサＫ４１８と、本体部Ｋ４１１に上端部が吊り下げられ下端部が昇降装置Ｋ５００の鉤状部Ｋ５１５に引っかけられるコイルスプリングＫ４１９と、を備える。

【１９６２１】

更に、支持部材Ｋ４１０は、昇降装置Ｋ５００の昇降動作を案内するものとして上下方向に延びる金属棒Ｋ４２１と、その金属棒Ｋ４２１の下端が差し込まれる支持受部Ｋ４２２と、金属棒Ｋ４２１に昇降装置Ｋ５００を沿わせるために昇降装置Ｋ５００との間で金属棒Ｋ４２１を挟む位置で昇降装置Ｋ５００に締結固定される被固定部材Ｋ４２３と、金属棒Ｋ４２１の上端が支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１から上方向および前方向に抜けないようにするための抜け止めとしての補助部材Ｋ４２４と、を備える。

【１９６２２】

なお、本実施形態では、左側の金属棒Ｋ４２１に対しては前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１が補助部材Ｋ４２４と同様の機能を果たすように構成されることで、補助部材Ｋ４２４は右側にのみ配設されている。

【１９６２３】

回転部材Ｋ４３０は、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの駆動軸に固定される駆動ギアＫＧ４２の回転を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に支持される中間ギアＫＧ４３を介して伝達するために背面側の全周に亘ってギア歯Ｋ４３２が形成される円板状の本体部Ｋ４３１と、その本体部Ｋ４３１の中心部において円形に穿設され支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１２が挿通される回転中心孔Ｋ４３３と、本体部Ｋ４３１の外周側縁部において回転部材Ｋ４３０の回転軸線と平行な回転軸線で回転自在に連結され昇降装置Ｋ５００を下支えする伝達筒状部Ｋ４３４と、回転中心孔Ｋ４３３の同心円形状の突条において支持部材Ｋ４１０の検出センサＫ４１３が検出可能な幅で形成される切り欠き部Ｋ４３５と、本体部Ｋ４３１の外周側付近において背面側に突設される一組の突条により形成される案内溝Ｋ４３６と、を備える。

【１９６２４】

状態変化装置Ｋ４７０は、支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４に回転動作可能に支持される下側回転部材Ｋ４７１と、その下側回転部材Ｋ４７１の左右内側端部から回転部材Ｋ４３０側へ向けて突設され案内溝Ｋ４３６に受け入れられる切替突部Ｋ４７２と、下側回転部材Ｋ４７１の左右外側端部に配設される軸部を介して互いに相対動作可能に連結される連動部材Ｋ４７３と、連動部材Ｋ４７３の上下端部を構成する板状部に上下に長い長孔として穿設され支持部材Ｋ４１０の案内突設部Ｋ４１７が挿通されることで連動部材Ｋ４７３の動作方向を上下方向とするための複数の案内長孔Ｋ４７４と、連動部材Ｋ４７３の上端部付近において正面側に突設される切替突部Ｋ４７５と、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に回転動作可能に支持され切替突部Ｋ４７５の配置に対応して回転方向の姿勢が変化する上側回転部材Ｋ４７６と、を備える。

【１９６２５】

昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下支えされた状態において、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置が上方向に変化する際に持ち上げられることで、上昇移動可能に構成される。

【１９６２６】
図１７５１は、昇降装置Ｋ５００の分解正面斜視図であり、図１７５２は、昇降装置Ｋ５００の分解背面斜視図である。昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に直接的に押し上げられ得る左右一組の下側部材Ｋ５１０と、その下側部材Ｋ５１０の上端部の背面側に回転可能に支持される左右一対の変速ギアＫ５２０と、下側部材Ｋ５１０の昇降移動量が変速ギアＫ５２０により増減されて伝達されるように変速ギアＫ５２０に歯合されるラックＫ５３２を有しており下側部材Ｋ５１０と連動して昇降移動する左右一組の上側部材Ｋ５３０と、その上側部材Ｋ５３０に左右両端部が支持される長尺装置Ｋ５４０と、その長尺装置Ｋ５４０の長尺方向にスライド移動可能に構成される移動装置Ｋ５６０と、を備える。
【１９６２７】
下側部材Ｋ５１０は、正面視略Ｌ字形状に形成される本体部Ｋ５１１と、その本体部Ｋ５１１の下端において下側部材Ｋ５１０の移動方向（上下方向）と直交する平面状に形成される平面部Ｋ５１２と、本体部Ｋ５１１の背面側から円筒状に突設される内部に雌ネジが形成されており変速ギアＫ５２０を支持可能に構成される支持締結部Ｋ５１３と、金属棒Ｋ４２１（図１７４９参照）に案内される被案内部Ｋ５１４と、本体部Ｋ５１１の上端部の正面側に鉤形状に形成されコイルスプリングＫ４１９（図１７４９参照）の下端部が引っかけられる鉤状部Ｋ５１５と、を備える。
【１９６２８】
支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジは、変速ギアＫ５２０の抜け止めとして機能し、その頭部が支持部材Ｋ４１０の案内長孔Ｋ４１５の内側に配置される。これにより、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの頭部の張り出し分を吸収することができ、変速ギアＫ５２０の背面側面を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の前側面で支持することができる。更に、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの移動方向が案内長孔Ｋ４１５に制限されることによって、下側部材Ｋ５１０を安定して上下方向に移動させることができる。
【１９６２９】
鉤状部Ｋ５１５を介して、下側部材Ｋ５１０は、コイルスプリングＫ４１９（図１７４９参照）により上向きに付勢される。これにより、コイルスプリングＫ４１９の付勢力で昇降装置Ｋ５００の上昇移動を補助することができる。
【１９６３０】
変速ギアＫ５２０は、中間円板Ｋ５２１の背面側に第１ギアＫ５２２が形成され、中間円板Ｋ５２１の正面側に第１ギアＫ５２２と同軸で第２ギアＫ５２３が形成される。中間円板Ｋ５２１は、第１ギアＫ５２２の直径よりも直径が大きく、且つ、第２ギアＫ５２３の直径よりも直径が大きい円形状の板部として形成されており、これにより、第１ギアＫ５２２又は第２ギアＫ５２３と歯合している相手部材が前後方向に位置ずれして、反対の第２ギアＫ５２３又は第１ギアＫ５２２と歯合する事態が生じることが防止される。
【１９６３１】
第１ギアＫ５２２は、支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６（図１７４９参照）と歯合され、第２ギアＫ５２３は、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合される。第１ギアＫ５２２の歯数は８であり、第２ギアＫ５２３の歯数は１２である。
【１９６３２】
従って、下側部材Ｋ５１０が昇降移動した場合に、その下側部材Ｋ５１０の昇降移動量の１．５倍の移動量で、上側部材Ｋ５３０が下側部材Ｋ５１０に対して相対移動することになるが、昇降移動の詳細については後述する。
【１９６３３】
上側部材Ｋ５３０は、上下方向に長尺の本体部Ｋ５３１と、その本体部Ｋ５３１の背面側において左右外側に向けて上下方向に延設されるラックＫ５３２と、本体部Ｋ５３１の正面側に上下一対で突設される円筒状部であって内部に雌ネジが形成される締結部Ｋ５３３と、本体部Ｋ５３１の背面側に円筒状に突設されており長尺装置Ｋ５４０を回転動作可能に支持する回転軸部Ｋ５３４と、その回転軸部Ｋ５３４と平行な方向で円筒状に突設さ

れる補助突部Ｋ５３５と、金属棒Ｋ４２１（図１７４９参照）に案内される被案内部Ｋ５３６と、上側回転部材Ｋ４７６（図１７４９参照）に下支えされる湾曲面として形成される湾曲受部Ｋ５３７と、を備える。

【１９６３４】

締結部Ｋ５３３には、連結部材Ｋ４４５（図１７４７参照）が締結固定される。即ち、前カバー部材Ｋ４４０の案内長孔Ｋ４４２（図１７４７参照）を前側へ貫通した締結部Ｋ５３３の先端に連結部材Ｋ４４５が締結固定される。これにより、締結部Ｋ５３３の移動が案内長孔Ｋ４４２に制限されることになるので、上側部材Ｋ５３０の昇降移動を安定させることができる。

【１９６３５】

上側部材Ｋ５３０は被案内部Ｋ５３６に、下側部材Ｋ５１０は被案内部Ｋ５１４によって、それぞれ金属棒Ｋ４２１（図１７４９参照）に案内されるので、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０の前後左右方向の倒れを防止することができる。

【１９６３６】

図１７５３は、長尺装置Ｋ５４０の分解正面斜視図であり、図１７５４は、長尺装置Ｋ５４０の分解背面斜視図である。図１７５３及び図１７５４では、位置関係の理解を容易とするために上側部材Ｋ５３０及び移動装置Ｋ５６０が図示される。

【１９６３７】

長尺装置Ｋ５４０は、左右長尺の板状に形成される本体部Ｋ５４１と、その本体部Ｋ５４１の左右中央部において背面側に円筒状に突設される支持軸部Ｋ５４２と、その支持軸部Ｋ５４２に回転可能に支持される中央ギアＫ５４３と、支持軸部Ｋ５４２と平行な方向に円筒状に突設される複数の案内突設部Ｋ５４４と、その案内突設部Ｋ５４４に案内され本体部Ｋ５４１の長尺方向にスライド移動可能に構成される一対のスライドラックＫ５４５と、を備える。

【１９６３８】

本体部Ｋ５４１の前側部には、左右外側端部よりも内側に終端位置が形成される左右長尺の凹部Ｋ５４１ａが形成される。凹部Ｋ５４１ａは、長尺装置Ｋ５４０の組立状態（図１７５１参照）において、移動装置Ｋ５６０の背面側下端部が受け入れられる部分として機能している。

【１９６３９】

スライドラックＫ５４５は、図１７５４に示す状態における左右外側の上下幅よりも左右内側の上下幅の方が短くされる左右一組の板状部材であって、左右外側端の下端部において前後方向に穿設され上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４が受け入れられる受入部Ｋ５４６と、その受入部Ｋ５４６を中心とする円弧形状で穿設され補助突部Ｋ５３５が受け入れられる円弧状部Ｋ５４７と、図１７５４に示す状態における左右方向に長い長孔形状で穿設され案内突設部Ｋ５４４が受け入れられる複数の案内長孔Ｋ５４８と、中央ギアＫ５４３に歯合されるラックＫ５４９と、を備える。

【１９６４０】

スライドラックＫ５４５のスライド移動方向は、案内長孔Ｋ５４８が延設される方向（図１７５４に占めす状態における左右方向、本体部Ｋ５４１の長尺方向）に設定される。そのため、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が一致している時（最近接位置）を基準として、上側部材Ｋ５３０同士の上下方向の位置ずれ寸法が大きくなるにつれて、本体部Ｋ５４１の長尺方向外側へ向けて相対移動することになるが、詳細は後述する。

【１９６４１】

更に、長尺装置Ｋ５４０は、本体部Ｋ５４１に正面側から締結固定される化粧部材Ｋ５５１と、その化粧部材Ｋ５５１の内部に配設され正面側に光を照射するＬＥＤが配設される電飾基板Ｋ５５２と、化粧部材Ｋ５５１の左側端部に締結固定されるモータ支持部材Ｋ５５３と、そのモータ支持部材Ｋ５５３に支持される駆動モータＫＭＴ５１の駆動力を伝達可能な伝達ギア群ＫＧ５２を介して回転されることで移動装置Ｋ５６０の軸線方向の位置を変化させるように構成されるネジ軸Ｋ５５４と、化粧部材Ｋ５５１の背面側において

ネジ軸Ｋ５５４の両端部が回転可能に受け入れられる支持受部Ｋ５５５と、電飾基板Ｋ５５２の背面側において検出溝を背面側へ向けた姿勢で化粧部材Ｋ５５１の後側板部を貫通する位置に設けられるフォトカプラ形式の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃと、を備える。

【１９６４２】

ネジ軸Ｋ５５４の軸線方向は本体部Ｋ５４１の長手方向と一致しており、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の移動は、凹部Ｋ５４１ａの形成されている範囲に制限される。

【１９６４３】

検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃは、移動装置Ｋ５６０の配置を検出可能に構成されている。即ち、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されている場合には、中央検出センサＫ５５６ｂに検出され、移動装置Ｋ５６０が、ネジ軸５５４の軸線方向に沿って左右にスライド移動し、その移動範囲の右側終端位置に配置されている場合には右側検出センサＫ５５６ａに検出され、移動範囲の左側終端位置に配置されている場合には左側検出センサＫ５５６ｃに検出される。

【１９６４４】

図１７５５は、移動装置Ｋ５６０の分解正面斜視図であり、図１７５６は、移動装置Ｋ５６０の分解背面斜視図である。移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１と、その本体部Ｋ５６１の上端部に締結固定される前側受部Ｋ５７１と、その前側受部Ｋ５７１に後面側から締結固定される後側受部Ｋ５７２と、前側受部Ｋ５７１と後側受部Ｋ５７２との間に保持され自らの開口方向（図１７５５における矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸とする回転が防止されるように構成されるナットＫＮＴ６１と、を備える。

【１９６４５】

ナットＫＮＴ６１は、長尺開口部ＫＮＴ６１ａの内周側において、ネジ軸Ｋ５５４（図１７５３をご参照下さい）の外周に螺旋状に切られる溝部に対応するように形成される突条が、螺旋状に形成されている。

【１９６４６】

これにより、長尺開口部ＫＮＴ６１ａにネジ軸Ｋ５５４が挿通されている状態でネジ軸Ｋ５５４が回転駆動されると、その回転駆動量に対応して、ナットＫＮＴ６１はネジ軸Ｋ５５４の軸線方向に移動される。即ち、駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）の駆動に対応して、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の配置が変化するよう構成される（ボールネジの構造が流用される）。

【１９６４７】

前側受部Ｋ５７１は、ナットＫＮＴ６１の配設位置よりも下方から正面側へ板状に突設される被検出板部Ｋ５７１ａを備える。長尺装置Ｋ５４０の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃ（図１７５４参照）の検出溝に被検出板部Ｋ５７１ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃからの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃの出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）に、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されているか、移動範囲の左右方向終端位置に配置されているか、そのいずれでもないか、を判断させることができる。

【１９６４８】

更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の下端部に締結固定されるモータ受部Ｋ５７５と、そのモータ受部Ｋ５７５に保持される駆動モータＫＭＴ６１と、その駆動モータＫＭＴ６１の駆動軸に固定され本体部Ｋ５６１とモータ受部Ｋ５７５との間に配設される駆動ギアＫＭＧ６２と、その駆動ギアＫＭＧ６２に歯合される位置で本体部Ｋ５６１の支持軸部Ｋ５６２に回転可能に支持される伝達ギアＫＭＧ６３と、その伝達ギアＫＭＧ６３に歯合される終端ギアＫＭＧ６４と、本体部Ｋ５６１の円形開口部Ｋ５６３に挿通される中心挿通部Ｋ５７９が終端ギアＫＭＧ６４に締結固定される回転装飾部材Ｋ５７８と、を備える。

【１９６４９】
更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の正面側に配設され円形開口部Ｋ５６３に対応する位置に円形開口Ｋ５６４ａが形成される電飾基板Ｋ５６４と、その電飾基板Ｋ５６４の円形開口Ｋ５６４ａに対応する位置に円形開口Ｋ５６７ａが形成され、光透過性の樹脂材料から形成され電飾基板Ｋ５６４からの照射光を屈折可能（乱反射可能）なカットが形成される受光部材Ｋ５６７と、を備える。
【１９６５０】
電飾基板Ｋ５６４及び受光部材Ｋ５６７は、電飾基板Ｋ５６４、受光部材Ｋ５６７の順で本体部Ｋ５６１に重ねられ、円形開口部Ｋ５６３の中心軸線に円形開口Ｋ５６４ａ及び円形開口Ｋ５６７ａの中心軸線が合致するように配置され、本体部Ｋ５６１に締結固定される。
【１９６５１】
電飾基板Ｋ５６４は、背面側にフォトカプラ形式の検出センサＫ５６５が配設される。検出センサＫ５６５の検出溝は、本体部Ｋ５６１に穿設される開口部Ｋ５６１ａの背面側に位置し、伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブを受け入れ可能とされる。
【１９６５２】
伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブには切り欠き部ＫＭＧ６３ａが等間隔（１８０度間隔）で切り欠き形成されており、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５６５からの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５６５の出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）は伝達ギアＫＭＧ６３の位相を判断でき、回転装飾部材Ｋ５７８の位相を判断できる。
【１９６５３】
本実施形態では、伝達ギアＭＧ６３の歯数に対する終端ギアＫＭＧ６４の歯数が１／２の関係にあるので、伝達ギアＭＧ６３が半回転することで終端ギアＫＭＧ６４が一回転する。検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する位相から伝達ギアＭＧ６３が半回転すると、再び検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する。
【１９６５４】
即ち、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合、その切欠き部ＫＭＧ６３ａがどちらの切り欠き部ＫＭＧ６３ａであったとしても、終端ギアＫＭＧ６４及び回転装飾部材Ｋ５７８の位相は同じとされる。
【１９６５５】
図１７５７（ａ）及び図１７５７（ｂ）は、前層側可動装置Ｋ４００の部分拡大正面図である。図１７５７（ａ）及び図１７５７（ｂ）では、主に切替装置Ｋ４６０が図示されており、便宜上、手前側の装飾部分を部分的に破り図示することで、内部構造を視認可能となるようにしている。図１７５７（ａ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態が図示され、図１７５７（ｂ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態が図示される。
【１９６５６】
図１７５７（ａ）及び図１７５７（ｂ）に図示されるように、切替装置Ｋ４６０は、右側の前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１に締結固定される基板部材Ｋ４６１と、基板部材Ｋ４６１に支持孔部Ｋ４６２ｂを中心とする回転動作が可能に支持されるストッパ部材Ｋ４６２と、基板部材Ｋ４６１に締結固定される駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１と、基板部材Ｋ４６１に支持孔部Ｋ４６３ｂを中心とする回転動作が可能に支持され、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の駆動力をストッパ部材Ｋ４６２に伝達可能に構成される伝達部材Ｋ４６３と、を備える。
【１９６５７】
ストッパ部材Ｋ４６２は、支持孔部Ｋ４６２ｂが端部に穿設されるアーム部Ｋ４６２ａと、そのアーム部Ｋ４６２ａの長手方向に延びる長孔形状で穿設される案内長孔Ｋ４６２

ｃと、アーム部Ｋ４６２ａの長手方向における支持孔部Ｋ４６２ｂが形成される端部の反対側の端部から背面側に突設される突設受部Ｋ４６２ｄと、を備える。

【１９６５８】

伝達部材Ｋ４６３は、支持孔部Ｋ４６３ｂが形成されるアーム部Ｋ４６３ａと、そのアーム部Ｋ４６３ａとは異なる方向に支持孔部Ｋ４６３ｂから延びる補助アーム部Ｋ４６３ｃと、その補助アーム部Ｋ４６３ｃの延設先端部から後側に突設され駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの直進変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作される態様で連結される伝達基端突部Ｋ４６３ｄと、アーム部Ｋ４６３ａの先端部から後側に突設されストッパ部材Ｋ４６２の案内長孔Ｋ４６２ｃに受け入れられる伝達先端突部Ｋ４６３ｅと、を備える。

【１９６５９】

切替装置Ｋ４６０の作用について説明する。基板部材Ｋ４６１は、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込まないよう連結部材Ｋ４４５よりも前側に配設されている一方で、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄは、基板部材Ｋ４６１よりも下側において基板部材Ｋ４６１よりも後側まで延びており、状態次第で、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。

【１９６６０】

図１７５７（ａ）に図示されるように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態では、突設受部Ｋ４６２ｄが案内長孔Ｋ４４２の前方に配置されており、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。

【１９６６１】

即ち、図１７５７（ａ）に図示される状態における連結部材Ｋ４４５の下降変位は、突設受部Ｋ４６２ｄにより途中停止される、この場合、連結部材Ｋ４４５を介して昇降装置Ｋ５００等の荷重が突設受部Ｋ４６２ｄにかけられることになるが、突設受部Ｋ４６２ｄが支持孔部Ｋ４６２ｂを起点とする鉛直下方（連結部材Ｋ４４５を介した荷重の方向）に配置されていることから、連結部材Ｋ４４５を介する昇降装置Ｋ５００等の荷重によりストッパ部材Ｋ４６２が回転動作することを回避し易くすることができる。

【１９６６２】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態において、連結部材Ｋ４４５の移動を案内長孔Ｋ４４２の長さの途中位置で停止させることができる。また、連結部材Ｋ４４５の途中停止が頻繁に生じる動作制御を行う場合であっても、連結部材Ｋ４４５の途中停止のために駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させる必要はないので、励磁状態とする回数の増加を抑えることができ、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の寿命の長期化を図ることができる。

【１９６６３】

図１７５７（ｂ）に図示されるように、図１７５７（ａ）に図示される状態から駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されると、直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの上下変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作され、その回転動作と連動してストッパ部材Ｋ４６２が回転動作されることで、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する。

【１９６６４】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態では、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに停止されることはなく、連結部材Ｋ４４５が案内長孔Ｋ４４２の終端まで移動可能とされる。

【１９６６５】

これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される締結部Ｋ５３３を有する上側部材Ｋ５３０（図１７５１参照）の移動可能量を、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態（図１７５７（ａ）参照）と、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の励磁状態（図１７５７（ｂ）参照）とで切り替えることができる。

【１９６６６】

図１７５８から図１７６３は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図１７５８から図１７６３では、昇降装置Ｋ５００の右側部が、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回り方向で回転動作される第１の動作態様に基づいて昇降移動する様子が時系列で図示される。

【１９６６７】

なお、図１７５８から図１７６３では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。

【１９６６８】

図１７５８では、演出待機状態における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。即ち、回転部材Ｋ４３０は切り欠き部Ｋ４３５（図１７５０参照）が検出センサＫ４１３の検出溝に配置される位相とされ、上側部材Ｋ５３０は湾曲受部Ｋ５３７が進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に下支えされることで上下移動が防止され、上側部材Ｋ５３０の上下移動が防止されることに伴い変速ギアＫ５２０の回転も防止され、その変速ギアＫ５２０が支持される下側部材Ｋ５１０の上下移動も防止される。

【１９６６９】

即ち、図１７５８に図示されるように、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下方から退避している状態であっても、上側部材Ｋ５３０の上下移動が上側回転部材Ｋ４７６により防止されることで、下側部材Ｋ５１０の上下移動が防止されることになる。

【１９６７０】

図１７５９では、図１７５８に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。回転部材Ｋ４３０の回転中において、伝達筒状部Ｋ４３４が突設部Ｋ４４４の湾曲面に対向配置される。突設部Ｋ４４４が伝達筒状部Ｋ４３４よりも回転部材Ｋ４３０の回転中心側に配設されること、及び、突設部Ｋ４４４の突設先端（後側先端）が回転部材Ｋ４３０の前側面と対向配置されることにより、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の径方向に位置ずれするような姿勢ずれ（回転軸に対して回転部材Ｋ４３０が傾斜する姿勢ずれ）を防止することができる。

【１９６７１】

これにより、回転部材Ｋ４３０が、偏心した位置において本体部Ｋ４３１を回転軸線に対して傾斜させる方向の荷重を受けた場合であっても、回転部材Ｋ４３０の姿勢変化を抑制することができるので、回転部材Ｋ４３０の回転抵抗を低減することができる。

【１９６７２】

図１７５９では、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が、依然として案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａに維持される。切替突部Ｋ４７２が大径溝Ｋ４３６ａに維持される間は、状態変化装置Ｋ４７０の状態は図１７５８に図示される状態で維持されており、昇降装置Ｋ５００の上下位置も維持される。

【１９６７３】

また、図１７５８では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１７５７（ｂ）参照）が非励磁の状態（図１７５７（ａ）参照）が図示され、図１７５９以降は、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）が図示される。

【１９６７４】

図１７６０では、図１７５９に図示された状態から、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が受け入れられる部位が、案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａから小径溝Ｋ４３６ｂに切り替えられ、昇降装置Ｋ５００が落下を開始する直前の状態が図示される。

【１９６７５】

切替突部Ｋ４７２が小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられるようになると、下側回転部材Ｋ

４７１が支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４を中心に回転動作され、下側回転部材Ｋ４７１の回転動作により連動部材Ｋ４７３及び切替突部Ｋ４７５が上下移動されることで、上側回転部材Ｋ４７６が支持孔Ｋ４７６ａを中心に進入状態から退避状態へ回転移動される。

【１９６７６】

上側回転部材Ｋ４７６は、湾曲受部Ｋ５３７と対向配置される回転先端部Ｋ４７６ｂが、支持孔Ｋ４７６ａにおける回転中心を中心とする円弧形状面として形成されている。また、湾曲受部Ｋ５３７は、進入状態（図１７５８参照）における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂと面当たり可能な曲面形状から形成される。

【１９６７７】

これにより、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂに湾曲受部Ｋ５３７が当接している状態から、上側回転部材Ｋ４７６を退避状態へ回転移動させる際に生じる抵抗を摩擦抵抗に限定することができ、抵抗が過大となることを防止することができる。

【１９６７８】

また、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６に対して湾曲受部Ｋ５３７を介して与えられる昇降装置Ｋ５００の自重は、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ向かう方向の反対方向（図１７６０の反時計回り方向）の荷重として上側回転部材Ｋ４７６に付与される。

【１９６７９】

従って、湾曲受部Ｋ５３７と上側回転部材Ｋ４７６との間の動作抵抗を小さくしながらも、湾曲受部Ｋ５３７を介して上側回転部材Ｋ４７６へ付与される昇降装置Ｋ５００の自重により上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ変化する事態が生じることを防止することができる。

【１９６８０】

また、上述した上側回転部材Ｋ４７６の形状により、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態のように左右バランスが崩れた場合に、自重のみではなく左右方向成分を有する荷重が湾曲受部Ｋ５３７から上側回転部材Ｋ４７６に与えられる場合に、その荷重を上側回転部材Ｋ４７６の回転中心へ向けるようにすることができる。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の姿勢を安定させることができ、昇降装置Ｋ５００の支持を安定させることができる。

【１９６８１】

図１７６１では、図１７６０に図示された状態から、昇降装置Ｋ５００が落下した後の状態としての落下位置状態（図１７４１参照）が図示される。なお、落下位置状態に至るまでには、昇降装置Ｋ５００の右側部だけでなく、左側部も回転部材Ｋ４３０が回転され上側回転部材Ｋ４７６が回転移動されているが、左側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向は、右側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向（正面視反時計回り方向）の逆方向（正面視時計回り方向）になる。

【１９６８２】

昇降装置Ｋ５００の落下による移動は、上側部材Ｋ５３０が前カバー部材Ｋ４４０の吸収部材Ｋ４４３（図１７４８参照）に停止される位置まで生じるように構成されており、下側部材Ｋ５１０が回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に衝突するまで生じるようには構成されていない。

【１９６８３】

そのため、昇降装置Ｋ５００の落下時の衝撃荷重が伝達筒状部Ｋ４３４に伝達される事態が生じることを回避することができる。即ち、昇降装置Ｋ５００の落下の衝撃が伝達筒状部Ｋ４３４や下側部材Ｋ５１０に伝達されることによる破損の発生を回避し易くすることができる。

【１９６８４】

昇降装置Ｋ５００の下側部材Ｋ５１０、変速ギアＫ５２０及び上側部材Ｋ５３０の昇降移動の詳細について説明する。まず、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０は、それぞ

れ共通の金属棒Ｋ４２１によって上下方向にスライド移動可能に案内される。
【１９６８５】
下側部材Ｋ５１０が図１７６０に示す状態から下降する場合、変速ギアＫ５２０が支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６との歯合により回転され、その回転により上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２が変速ギアＫ５２０に対して上下方向に相対移動する。
【１９６８６】
即ち、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０が上下方向に移動した場合に、下側部材Ｋ５１０の移動による変速ギアＫ５２０の上下方向の移動量に加えて、変速ギアＫ５２０の回転時に歯合する上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２の移動量分、下側部材Ｋ５１０に対して相対移動する。
【１９６８７】
本実施形態では、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合する第２ギアＫ５２３の歯数は、下側部材Ｋ５１０の移動に伴い支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６と歯合して回転する第１ギアＫ５２２の歯数の１．５倍に設計されているので、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量に下側部材Ｋ５１０の移動量の１．５倍の長さが加算された移動量で移動される。
【１９６８８】
従って、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量ＫＶＤ１の２．５倍の移動量ＫＶＤ２で上下移動される（ＫＶＤ１：ＫＶＤ２＝２：５）。これにより、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離が、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図１７４９参照）により回転される回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下方向の移動距離に限定されることを避けることができる。
【１９６８９】
即ち、回転部材Ｋ４３０の直径を小さく抑えつつ、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離は長く設計することができるので、上側部材Ｋ５３０や回転部材Ｋ４３０の配置の設計自由度を向上することができる。
【１９６９０】
下側部材Ｋ５１０よりも左側において突設部Ｋ４４４が配設され、下側部材Ｋ５１０の左端部は突設部Ｋ４４４の右側平面部に上下方向に案内される。これにより、下側部材Ｋ５１０の左側への位置ずれを突設部Ｋ４４４により防止することができる。
【１９６９１】
図１７６２では、図１７６１に図示された状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回り方向に回転されることで伝達筒状部Ｋ４３４により下側部材Ｋ５１０が持ち上げられ、且つ、依然として下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられている状態が図示される。
【１９６９２】
回転部材Ｋ４３０の回転により伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下面と擦れながら回転移動することになるが、下側部材Ｋ５１０の下面が平面部Ｋ５１２として形成されているので、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。
【１９６９３】
更に、コイルスプリングＫ４１９から下側部材Ｋ５１０に付与される上向きの付勢力により、下側部材Ｋ５１０から伝達筒状部Ｋ４３４へ向けて下向きに与えられる荷重が低減されることによっても、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。
【１９６９４】
図１７６３では、図１７６２に図示される状態から、回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の大径溝Ｋ４３６ａに受け入れられている状態が図示される。
【１９６９５】

図１７６３では、上側回転部材Ｋ４７６が、図１７６２に図示される退避状態から、進入状態へ変化している。この際、上側部材Ｋ５３０の湾曲受部Ｋ５３７が上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂよりも上側に配置されており、湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間が生じている。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減することができる。

【１９６９６】

ここで、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させるためには、自重に抵抗して連動部材Ｋ４７３を上方へ変位させる必要があるので、進入状態の上側回転部材Ｋ４７６を退避状態に変化させる場合よりも大きな力が必要となる。

【１９６９７】

これに対し、本実施形態では、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させる場合において湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間を生じさせることで、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減させ、状態の変化に必要な力が過大となることを回避している。

【１９６９８】

図１７６３に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転されると、図１７５８に図示される状態に戻る。このように、回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され続ける場合、昇降装置Ｋ５００の上下移動は循環可能とされる。即ち、回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様は、昇降装置Ｋ５００の上下移動を循環させることができる動作態様である。

【１９６９９】

図１７６４及び図１７６５は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図１７６４及び図１７６５では、図１７５８に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転されることに基づいて昇降装置Ｋ５００の右側部が下降する第２の動作態様の一部が時系列で図示される。

【１９７００】

第２の動作態様は、演出待機状態（図１７５８参照）から図１７６４、図１７６５の順に変化した後で、回転部材Ｋ４３０を反時計回りに回転駆動させ演出待機状態に復帰するまでの動作態様である。

【１９７０１】

なお、図１７６４及び図１７６５では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。

【１９７０２】

また、図１７６４及び図１７６５では、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に侵入するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１７５７（ａ）参照）が非励磁の状態が図示される。

【１９７０３】

図１７６４では、図１７５８に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられることに基づいて、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態に変化されているが、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下側部材Ｋ５１０が下支えされることにより、昇降装置Ｋ５００は落下しない。

【１９７０４】

即ち、下側部材Ｋ５１０は、自重により回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に押し付けられる状態を維持しており、回転部材Ｋ４３０の回転に伴って、平面部Ｋ５１２と伝達筒状部Ｋ４３４との当接が維持されるように上下移動する。

【１９７０５】

図１７６５では、図１７６４に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回り

に回転され、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに受け止められ下降が停止される状態が図示される。

【１９７０６】

これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される上側部材Ｋ５３０の下降も停止され、それに伴い下側部材Ｋ５１０の下降も停止されるので、図１７６５に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転された場合には、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の平面部Ｋ５１２から離れる。

【１９７０７】

図１７６５に図示される状態から演出待機状態への復帰の際には、回転部材Ｋ４３０を反対方向（図１７６５において反時計回り方向）に回転させ、伝達筒状部Ｋ４３４で下側部材Ｋ５１０を押し上げる。

【１９７０８】

この場合において、回転部材Ｋ４３０の回転が図１７６５に図示される状態から開始されるか、図１７６５に図示される状態よりも回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに若干回転された状態から開始されるかに関わらず、昇降装置Ｋ５００から伝達筒状部Ｋ４３４にかけられる荷重は、図１７６５に図示される状態から生じる。

【１９７０９】

図１７６５に図示される状態は、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の回転軸としての支持部Ｋ４１２の真右に配置され、伝達筒状部Ｋ４３４の移動方向（伝達筒状部Ｋ４３４の移動軌跡に引かれた接線の方向）が上下方向を向く状態であるので、下側部材Ｋ５１０に対して上向きの荷重を効率的に付与することができる。これにより、図１７６５に図示される状態からの演出待機状態への復帰動作を迅速に行わせることができる。

【１９７１０】

なお、図１７６５に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転される場合、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の上面に当接し、下側部材Ｋ５１０に対して下側へ向く荷重を伝達させ得る。即ち、下側部材Ｋ５１０を上昇させる方向の荷重を生じさせることができないので、回転部材Ｋ４３０を正面視時計回りに回転させ続ける駆動制御では、昇降装置Ｋ５００の動作は循環しない。

【１９７１１】

図１７６６及び図１７６７は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大背面図である。図１７６６では、演出待機状態（図１７４０参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示され、図１７６７では、片側落下状態（図１７４５参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。

【１９７１２】

図１７６６に図示される第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態では、左右両側の上側部材Ｋ５３０が上側回転部材Ｋ４７６により支持される（図１７５９参照）。一方、図１７６７に図示される第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態では、左側の上側部材Ｋ５３０は上側回転部材Ｋ４７６により支持される一方で、右側の上側部材Ｋ５３０は、締結固定される連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに支持されることにより（図１７６５参照）、長尺装置Ｋ５４０が傾けられる。

【１９７１３】

図１７６７に図示される状態では、図１７６６に図示される状態から左右の回転軸部Ｋ５３４間の距離が延びており、この延びた寸法の分だけ、スライドラックＫ５４５が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に変位する。

【１９７１４】

一対のスライドラックＫ５４５は、互いに共通の中央ギアＫ５４３に歯合されており、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って相反する方向に変位することになるので、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿う変位量は互いに共通である。

【１９７１５】

即ち、演出待機状態からの右側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａと、演出待

機状態からの左側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤｂとは同じである（ＫＳＤａ＝ＫＳＤｂ）。
【１９７１６】
これにより、図１７６６に図示される状態から、図１７６７に図示される状態への変化における中央ギアＫ５４３の左右方向の位置ずれを抑制することができるので、その中央ギアＫ５４３を支持する本体部Ｋ５４１の左右方向の位置ずれを抑制することができる。
【１９７１７】
ここで、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される場合、左右の回転部材Ｋ４３０（図１７５０参照）が第１の動作態様で回転駆動され、左右の上側回転部材Ｋ４７６（図１７６０参照）が演出待機状態における進入状態から同時に退避状態に変化されることにより、左右の上側部材Ｋ５３０（図１７６１参照）が同時に落下することが好ましい。更に、上昇動作時には、左右の回転部材Ｋ４３０が同じ回転角度で回転動作されることで、左右の高さのずれが無い状態で昇降装置Ｋ５００を上昇させることができる。
【１９７１８】
しかし、左右の回転部材Ｋ４３０（図１７５０参照）の動作抵抗を全く同じにすることは困難であるし、それぞれ対応する駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図１７５０参照）により駆動されるところ、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの品質により、同じ電圧を供給した場合であっても若干回転速度のずれが生じ得る。そのため、昇降装置Ｋ５００の上下動作にあたり、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置にずれが生じる可能性がある。
【１９７１９】
更に、本実施形態では、回転部材Ｋ４３０の回転による伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置変化が、下側部材Ｋ５１０から上側部材Ｋ５３０へ伝達される際に２．５倍に増大させられる（図１７５８から図１７６３参照）。そのため、回転部材Ｋ４３０の位相のずれが小さくても、そのずれは２．５倍になって上側部材Ｋ５３０に支持される長尺装置Ｋ５４０の左右側の高さ位置のずれとして現れる。
【１９７２０】
このように、本実施形態では、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じ得る。昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じる場合、昇降装置Ｋ５００の上下移動中に長尺装置Ｋ５４０の姿勢が前後方向を向く直線を軸にして傾くことになり、見栄え悪くなり易い。
【１９７２１】
これに対し、本実施形態では、上述したように左右のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されているので、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾いた場合であっても、長尺装置Ｋ５４０の左右中心位置の左右方向の位置ずれを抑制することができる。
【１９７２２】
これにより、演出待機状態において長尺装置Ｋ５４０の左右中央位置に配置される移動装置Ｋ５６０の、昇降装置Ｋ５００の上下移動中における左右方向の位置ずれを抑制することができる。
【１９７２３】
スライドラックＫ５４５は、回転軸部Ｋ５３４側における基端側の構造が共通とされる一方、中央ギアＫ５４３と歯合されるラックＫ５４９の配置は上下で異なるように構成されている。
【１９７２４】
本実施形態では、図１７６７に図示される片側落下状態が頻繁に生じるように制御される一方、その逆側（左側が下端となるように傾斜する姿勢）となるように制御されることは極めて少ない（無い）。
【１９７２５】

そのため、本実施形態では、片側落下状態における中央ギアＫ５４３とラックＫ５４９との歯合状態を適正化し易いようにスライドラックＫ５４５を形成している。即ち、片側落下状態において、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側（回転軸部Ｋ５３４が上側となる側）のラックＫ５４９が中央ギアＫ５４３の上側に配置されるように形成している。

【１９７２６】

更に、回転軸部Ｋ５３４をラックＫ５４９の下端に配置することにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の中央ギアＫ５４３側への張出量を長くしている。これにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の自重により、そのラックＫ５４９と中央ギアＫ５４３との歯合態様を適正化し易くすることができる。

【１９７２７】

図１７６７に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態は、演出待機状態から、左側の上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４を基端側として傾倒することで変化される状態であって、その傾倒動作の基端側に駆動モータＫＭＴ５１が配設される。

【１９７２８】

即ち、重量物としての駆動モータＫＭＴ５１の配置を基端側とすることで、重心を基端側に寄せることができ、演出待機状態から片側落下状態への変化の際に上下移動する傾倒動作の先端側（右側）の重量を軽くすることができる。これにより、片側落下状態において連結部材Ｋ４４５からストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが受ける荷重（図１７６５参照）を低減することができる。

【１９７２９】

図１７６８を参照して、移動装置Ｋ５６０の駆動制御の一例について説明する。図１７６８（ａ）、図１７６８（ｂ）、図１７６８（ｃ）及び図１７６８（ｄ）は、第１可動装置Ｋ４０１の部分正面図である。

【１９７３０】

図１７６８（ａ）、図１７６８（ｂ）、図１７６８（ｃ）及び図１７６８（ｄ）では、第１可動装置Ｋ４０１の落下位置状態（図１７４１参照）の上下位置に長尺装置Ｋ５４０が配置された状態における移動装置Ｋ５６０の移動が時系列で図示されており、移動装置Ｋ５６０の左右位置については、図１７６８（ａ）に図示される配置が図１７４１の配置と同じであり、図１７６８（ｄ）に図示される配置が図１７４３の配置と同じである。

【１９７３１】

まず、図１７６８に図示される駆動制御が実行される場合には、第１可動装置Ｋ４０１の長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態（図１７４０参照）における上下位置から落下位置状態（図１７４１参照）における上下位置まで下降（落下）移動される。この移動の開始から落下位置状態に到達した後も継続して、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８は、駆動モータＫＭＴ６１（図１７５５参照）が正方向（正面視時計回り方向）に回転される際の駆動力により正面視時計回り方向に継続的に回転される。

【１９７３２】

図１７６８（ａ）で図示されるように移動装置Ｋ５６０が左右中央位置ＫＣ４１に配置される状態で継続される回転中に、伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａ（図１７５５参照）の検出センサＫ５６５（図１７５６参照）の検出溝への配置間隔から、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）は、回転装飾部材Ｋ５７８の実際の回転速度ＫＶＲ１を検出する。

【１９７３３】

その回転速度ＫＶＲ１が、予め規定される設計値に収まっていれば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）による制御により、検出センサＫ５６５の検出間隔の中間のタイミング（図１７６８（ｂ）参照）で、駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）が正方向（移動装置Ｋ５６０を右方へ移動させる方向、矢印Ｌの方向視時計回り方向）に回転駆動され、移動装置Ｋ５６０が速度ＫＶＳ１で移動される。

【１９７３４】

図１７６８（ｂ）からの駆動モータＫＭＴ５１の駆動開始後、検出センサＫ５６５から

の出力により検出センサＫ５６５の検出溝に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置されたと判定されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図１７５５参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）の駆動を停止するように制御される。

【１９７３５】

即ち、回転装飾部材Ｋ５７８の姿勢が検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置される際の適切な姿勢（上下左右の方向が合っている姿勢）で停止するタイミングと、移動装置Ｋ５６０の左右方向への移動が停止されるタイミングとを合致させることができる。

【１９７３６】

図１７６８（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２に配置される状態から、駆動モータＫＭＴ６１（図１７５５参照）が逆方向へ回転駆動されると同時に、駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）が逆方向に回転駆動されることで、移動装置Ｋ５６０が図１７６８（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３まで移動される。

【１９７３７】

この時、駆動モータＫＭＴ６１の回転速度ＫＶＲ２は、回転速度ＫＶＲ１よりも遅く設定され、駆動モータＫＭＴ５１の回転速度は同じとされることで移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動速度は速度ＫＶＳ１に維持される。

【１９７３８】

図１７６８（ｃ）から駆動モータＫＭＴ６１（図１７５５参照）が回転駆動された後、最初に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが検出センサＫ５６５の検出溝に配置されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図１７５５参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）の駆動を停止するように制御される。

【１９７３９】

ここで、図１７６８（ｂ）から図１７６８（ｃ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が半回転しており、図１７６８（ｃ）から図１７６８（ｄ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が一回転している。そのため、速度関係が同じであれば、図１７６８（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２と、図１７６８（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３とは、左右中央位置ＫＣ４１を境に左右対称な位置となる。

【１９７４０】

これに対し、本実施形態では、回転速度ＫＶＲ１よりも回転速度ＫＶＲ２の方が遅く設定されているので（ＫＶＲ１＞ＫＶＲ２）、左右中央位置ＫＣ４１から右側途中位置ＫＲ４２までの距離よりも、左右中央位置ＫＣ４１から左側途中位置ＫＬ４３までの距離の方が長くなる。このように、移動装置Ｋ５６０の停止位置を左右非対称に設定することができる。

【１９７４１】

本実施形態では、移動装置Ｋ５６０が左側途中位置ＫＬ４３に配置された状態が、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出始める配置に対応する（中央検出センサＫ５５６ｂの出力が切り替わる配置となる）。

【１９７４２】

この場合、被検出部Ｋ５７１ａ（図１７５５参照）は、移動装置Ｋ５６０の左右中心から左右方向に対称に延設されていることから、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の検出溝の外方に出るか否かは、左右いずれかに関わらず左右中央位置ＫＣ４１からの移動装置Ｋ５６０の移動量に因ることになる。

【１９７４３】

即ち、図１７６８（ａ）、図１７６８（ｂ）及び図１７６８（ｃ）に図示される状態では、依然として被検出部Ｋ５７１ａ（図１７５５参照）は中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の検出溝に配置されており、図１７６８（ｄ）に図示される状態で初めて、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出る（この条件を満

たす左右長さで被検出部Ｋ５７１ａが設計される）。
【１９７４４】
図１７６８（ｄ）に図示される状態は、上述のように図１７４３に図示される状態に対応しているので、中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出ていること、及び中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出る際に駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）が逆方向に駆動されていたと音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）で判定されたことに基づいて第２可動装置Ｋ７０１（図１７４３参照）が駆動されることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１が動作中に接触することを回避することができる。
【１９７４５】
本実施形態では、上述の回転速度ＫＶＲ１，ＫＶＲ２及び速度ＫＶＳ１が、図１７６８に時系列で図示される一連の動作直後に被検出部Ｋ５７１ａ（図１７５５参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の外方に配置されることを実現可能な関係の速度で設計される。
【１９７４６】
以上、詳述したように、第１可動装置Ｋ４０１では、回転部材Ｋ４３０の回転に伴う伝達筒状部Ｋ４３４の変位が増大されて、昇降装置Ｋ５００の変位が生じる。これにより、回転部材Ｋ４３０の回転角度が小さい場合であっても、昇降装置Ｋ５００の変位量を大きく確保することができる。
【１９７４７】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、演出待機状態からの回転部材Ｋ４３０の回転方向により、２種類の変位態様で昇降装置Ｋ５００を変位させることができるように構成される。この時、昇降装置Ｋ５００の変位量を変化させるものとしての切替装置Ｋ４６０が同期して制御されることにより、昇降装置Ｋ５００の変位速度だけでなく、変位範囲を変化させることができるので、演出のバリエーションを増加させることができる。
【１９７４８】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、昇降装置Ｋ５００の左右側の上下方向のスライド量にずれが生じても、スライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されることで移動装置Ｋ５６０の左右方向変位を抑制するよう構成される。これにより、昇降装置Ｋ５００の上下方向変位時の移動装置Ｋ５６０の左右位置のずれを抑えることができ、演出効果を向上させることができる。
【１９７４９】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動の速度や停止タイミングが、回転装飾部材Ｋ５７８の回転の速度や停止タイミングの検出を元に決められる。これにより、異なる駆動源で駆動される動作部材の動作を統一させることができ、演出に一体感を持たせることができる。
【１９７５０】
移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動には、ボールネジに利用される構造を流用しているので、移動装置Ｋ５６０の移動速度や、停止位置の制御を正確に行うことができる。これにより、演出の再現性を向上させることができる。
【１９７５１】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０のスライド移動の方向と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転動作の方向とが対応するように動作制御される。これにより、複数の可動部材の動作に一体感を持たせることができ、演出効果を向上させることができる。
【１９７５２】
図１７４７及び図１７４８に戻って説明する。図１７４７及び図１７４８に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００には、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において一対の支持部材Ｋ４１０を連結するように第２可動装置Ｋ７０１が配設される。以下で、第２可動装置Ｋ７０１の詳細について説明する。
【１９７５３】

図１７６９は、第２可動装置Ｋ７０１の分解正面斜視図であり、図１７７０は、第２可動装置Ｋ７０１の分解背面斜視図である。第２可動装置Ｋ７０１は、骨格を構成する部材であって一対の支持部材Ｋ４１０（図１７４７参照）に連結固定されるベース部材Ｋ７１０と、そのベース部材Ｋ７１０に対して上下方向にスライド移動可能に支持される上下スライド部材Ｋ７２０と、ベース部材Ｋ７１０に配設され上下スライド部材Ｋ７２０を駆動させる駆動力を発生させる駆動モータＫＭＴ７１と、その駆動モータＫＭＴ７１の駆動力を上下スライド部材Ｋ７２０に伝達する伝達装置Ｋ７３０と、上下スライド部材Ｋ７２０の正面側に配置され上下スライド部材Ｋ７２０に追従する移動が可能に構成される追従可能部材Ｋ７４０と、その追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の両方に支持されており、追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の移動に連動する一対の連動部材Ｋ７５０と、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０を挟むようにして正面側から上下スライド部材Ｋ７２０に締結固定される主装飾部材Ｋ７６０と、を備える。

【１９７５４】

ベース部材Ｋ７１０は、正面視矩形状の本体部Ｋ７１１と、その本体部Ｋ７１１の正面側に互いに平行に突設される複数の円筒状の支持部Ｋ７１２と、上下方向に延びる姿勢で本体部Ｋ７１１の正面視左側に配設固定される金属棒Ｋ７１３と、金属棒Ｋ７１３の延設方向と平行な上下方向に延びる長孔Ｋ７１４と、ベース部材Ｋ７１０の背面側において長孔Ｋ７１４の後方と長孔Ｋ７１４の上端部から左方に延びる範囲の後方とで略Ｌ字に形成される支持領域Ｋ７１５と、ベース部材Ｋ７１０に配設され伝達装置Ｋ７３０が演出待機状態にあることを検出可能とされる検出センサＫ７１６と、ベース部材Ｋ７１０の背面側に固定部材Ｋ７１７により固定される中継基板Ｋ７１８と、を備える。

【１９７５５】

本体部Ｋ７１１には、下端部において正面側から横長のカバー部材Ｋ７１１ａが締結固定される。カバー部材Ｋ７１１ａは、金属棒Ｋ７１３を前側から本体部Ｋ７１１に押さえる部材であって、金属棒Ｋ７１３の下方への脱落を防止する下側防止片Ｋ７１１ｂと、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸から駆動ギアＫＭＧ７２が脱落することを防止する前側防止片Ｋ７１１ｃと、を備える。

【１９７５６】

また、本体部Ｋ７１１には、長孔Ｋ７１４の中間部右側位置において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｄが形成され、その張出部Ｋ７１１ｄの内側に検出溝が前側に配置される検出センサＫ７１１ｅが配設される。また、金属棒Ｋ７１３の左側において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｆが形成される。検出センサＫ７１１ｅの出力の切替により、上下スライド部材Ｋ７２０が第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態にあるか否かを判別可能に構成されるが、詳細は後述する。

【１９７５７】

支持部Ｋ７１２の内、第１支持部７１２ａは、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸に固定される駆動ギアＫＭＧ７２に歯合される伝達ギアＫＭＧ７３を回転可能に支持する。なお、他の支持部７１２ｂ～７１２ｄについては後述する。

【１９７５８】

支持領域Ｋ７１５の左上終端部においてコイルスプリングＫＳＰ７４の一端が支持され、そのコイルスプリングＫＳＰ７４は、支持領域Ｋ７１５の交差位置の内側に円筒状に突設される支持部Ｋ７１５ａに回転可能に支持されるリング状のセットカラーＫＲＧ７５の外形円弧に沿って曲げられる。

【１９７５９】

コイルスプリングＫＳＰ７４の他端は、長孔Ｋ７１４を貫通する上下スライド部材Ｋ７２０の締結部Ｋ７２３に締結固定されることで締結部Ｋ７２３と共に上下方向にスライド移動可能な被案内部材ＫＬＧ７６に引っかけられる。即ち、コイルスプリングＫＳＰ７４が、被案内部材ＫＬＧ７６を介して上下スライド部材７２０を上方向に向けて付勢するように構成される。

【１９７６０】
検出センサＫ７１６は、演出待機状態において伝達装置Ｋ７３０の駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出溝に入ることに基づいて、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態であることを検出可能に構成される。
【１９７６１】
中継基板Ｋ７１８は、支持領域Ｋ７１５の後側開放部を部分的に塞ぐように形成される。即ち、中継基板Ｋ７１８が支持領域Ｋ７１５の後側開放部を塞ぐことにより、コイルスプリングＫＳＰ７４が後側に脱落することを回避し易くすることができる。
【１９７６２】
上下スライド部材Ｋ７２０は、板状の本体部Ｋ７２１と、その本体部Ｋ７２１の左下部において金属棒Ｋ７１３が挿通可能となるように上下方向に貫通される矩形の筒状に形成される被挿通部Ｋ７２２と、ベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に挿通され被案内部材ＫＬＧ７６が締結固定される上下一対の締結部Ｋ７２３と、互いに平行に左右方向に延びて連動部材Ｋ７５０の移動を案内する複数の長孔Ｋ７２４と、伝達装置Ｋ７３０の伝達終端部材Ｋ７３７を支持するために本体部Ｋ７２１の背面側へ円筒状に突設される複数の支持部Ｋ７２５と、位置検出に用いられ本体部Ｋ７２１の右上部から後方に延設される被検出片Ｋ７２６と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の上端を吊り下げ可能な爪部を有するバネ支持部Ｋ７２７と、を備える。
【１９７６３】
被挿通部Ｋ７２２が金属棒Ｋ７１３に案内されることにより、上下スライド部材Ｋ７２０は、金属棒Ｋ７１３の延設方向である上下方向に案内される。同様に、締結部Ｋ７２３がベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に案内されることによっても、上下スライド部材Ｋ７２０は上下方向に案内される。従って、上下スライド部材Ｋ７２０の移動方向は上下方向に制限される。
【１９７６４】
伝達装置Ｋ７３０は、支持部Ｋ７１２の第２支持部Ｋ７１２ｂに回転可能に支持され前層ギア部Ｋ７３１ａが伝達ギアＫＭＧ７３に歯合される駆動側二層ギアＫ７３１と、支持部Ｋ７１２の第３支持部Ｋ７１２ｃに回転可能に支持され駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂと係合する伝達側二層ギアＫ７３３と、支持部Ｋ７１２の第４支持部Ｋ７１２ｄに回転可能に支持され伝達側二層ギアＫ７３３の前層ギア部Ｋ７３３ａと基端側ギア部Ｋ７３５ａが歯合されることで伝達側二層ギアＫ７３３の回転と連動して回転動作するアーム部材Ｋ７３５と、そのアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに下側先端部Ｋ７３７ｃが連結される伝達終端部材Ｋ７３７と、を備える。
【１９７６５】
駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに外形が回転軸を中心とする円弧状に形成される円弧状部Ｋ７３２を備え、その円弧状部Ｋ７３２の最外径部は回転軸と平行な方向である後方へ向けて延設されており、この円弧状部Ｋ７３２の延設先端が検出センサＫ７１６の検出溝に進入可能に構成される。
【１９７６６】
伝達側二層ギアＫ７３３の後層伝達部Ｋ７３３ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに、回転軸側へ張り出す円弧状（凹形状）に形成される円弧状部Ｋ７３４を備え、この円弧状部Ｋ７３４と駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２とが面で当接可能に構成されるが、詳細は後述する。
【１９７６７】
伝達終端部材Ｋ７３７は、板状に形成されており、支持部Ｋ７２５の内の上下スライド部材Ｋ７２０の上端部に形成される第１支持部Ｋ７２５ａに回転可能に支持される基端側支持孔Ｋ７３７ａと、その基端側支持孔Ｋ７３７ａを中心とする円弧状に形成され支持部Ｋ７２５の内の第２支持部Ｋ７２５ｂが挿通される案内孔Ｋ７３７ｂと、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに対して相対回転可能に連結される下側先端部Ｋ７３７ｃと

、を備える。
【１９７６８】
追従可能部材Ｋ７４０は、板状に形成される本体部Ｋ７４１と、その本体部Ｋ７４１に上下方向に長い長孔上に穿設される複数（本実施形態では、左右中央と左右両端との３箇所）の上下長孔Ｋ７４２と、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と対応する位置において長孔Ｋ７２４の左右長さと同等の左右長さで形成され、本体部Ｋ７４１の左右中心側へ向けて下降傾斜する逆ハの字形状に形成される複数（本実施形態では、左右に上下一対ずつ）の傾斜長孔Ｋ７４３と、本体部Ｋ７４１の左端側下部から後方に延設される左側受部Ｋ７４４と、本体部Ｋ７４１の右端側下部から後方に延設される右側受部Ｋ７４５と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の下端に吊り下げられる爪部を有するバネ支持部Ｋ７４６と、を備える。
【１９７６９】
追従可能部材Ｋ７４０は、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により上下スライド部材Ｋ７２０の動作に追従するように構成されている一方で、常に追従するのでは無く、上下スライド部材Ｋ７２０の上昇の途中で、左側受部Ｋ７４４が張出部Ｋ７１１ｆに、右側受部Ｋ７４５が張出部Ｋ７１１ｄにせき止められることで、追従可能部材Ｋ７４０が置き去りにされる態様での上下スライド部材Ｋ７２０の移動を構成可能とされるが、詳細は後述する。
【１９７７０】
連動部材Ｋ７５０は、板状に形成される左右一対の本体部Ｋ７５１と、その本体部Ｋ７５１の背面側に上下一対で円筒状に突設される締結突設部Ｋ７５２と、を備える。
【１９７７１】
締結突設部Ｋ７５２は、正面側から、追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４の順で挿通され、先端に形成される雌ネジに螺入されるネジのネジ頭により脱落が防止される。
【１９７７２】
主装飾部材Ｋ７６０は、内部に電飾基板Ｋ７６１ａが配設され、その電飾基板Ｋ７６１ａからの光が照射される前側面が光透過性の板状部材から形成される本体部Ｋ７６１と、その本体部Ｋ７６１の背面から突設される複数の締結部Ｋ７６２と、を備える。
【１９７７３】
締結部Ｋ７６２は、正面側から追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２に挿通された状態で、上下スライド部材Ｋ７２０の本体部Ｋ７２１に締結固定される。即ち、主装飾部材Ｋ７６０の上下配置は上下スライド部材Ｋ７２０の上下配置と同一とされ、上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との上下方向の相対移動量は、追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２の寸法に制限される。
【１９７７４】
図１７７１（ａ）、図１７７１（ｂ）、図１７７２（ａ）及び図１７７２（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。なお、図１７７１（ａ）、図１７７１（ｂ）、図１７７２（ａ）及び図１７７２（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図１７６９参照）の図示が省略される。
【１９７７５】
図１７７１（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態では、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２に対して、伝達側二層ギアＫ７３３の円弧状部Ｋ７３４が面で当接されている。
【１９７７６】
この状態において、円弧状部Ｋ７３２は、円弧状部Ｋ７３４の最大径位置（円周方向の両端部）よりも伝達側二層ギアＫ７３３の回転軸に近い位置まで張り出していることによ

り、伝達側二層ギアＫ７３３の回転を規制することができる。これにより、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力の伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を停止した状態で安定させることができる。

【１９７７７】

図１７７１（ａ）に図示される第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態において、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が、検出センサＫ７１６の検出溝に入っている。本実施形態では、円弧状部Ｋ７３２の円弧方向の形成長さは検出溝を形成する検出センサＫ７１６の厚みよりも長い。そのため、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出しても駆動側二層ギアＫ７３１の位相を正確に判定することはできない。

【１９７７８】

一方、本実施形態では、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態においては伝達側二層ギアＫ７３３が回転することは無い（図１７７１（ａ）に図示される状態を維持する）ように構成されている（歯合回転が開始されないようにギア歯の形成位置が設計されている）ので、その伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側にあるアーム部材Ｋ７３５や伝達終端部材Ｋ７３７が演出待機状態における配置にあるか否かの判定は、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出することで行うことができる。

【１９７７９】

このように、検出センサＫ７１６に検出される状態における円弧状部Ｋ７３２の配置には許容幅を持たせつつも、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が検出されてさえいれば、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態おける配置に維持されていると音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）に判定させることができるので、第２可動装置Ｋ７０１に演出待機状態を形成させる駆動側二層ギアＫ７３１の位相にある程度の幅を持たせることができる。

【１９７８０】

換言すれば、図１７７１（ａ）に図示される状態から、駆動側二層ギアＫ７３１が正逆方向にある程度（本実施形態では４５度未満の角度）回転し、位相がずれたとしても、伝達側二層ギアＫ７３３に回転は生じず、そのままの状態が維持されるよう構成されている。

【１９７８１】

その前提に対応して、円弧状部Ｋ７３２は、駆動側二層ギアＫ７３１の回転軸を中心とする角度が９０度となるように形成されているので、検出センサＫ７１６が円弧状部Ｋ７３２の円弧方向中央位置に配置される状態から、正逆方向に４５度未満の角度で回転したとしても、円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝に入っている状態が維持される。

【１９７８２】

従って、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を、演出待機状態における配置にするための駆動側二層ギアＫ７３１の位相に約９０度分の許容幅を持たせることができる。そのため、駆動側二層ギアＫ７３１の停止時の位相が正確には定まりにくいほどの過大な速度での駆動から、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を瞬間的に停止させるような一般的には困難とされる動作態様を容易に実現することができる。

【１９７８３】

即ち、駆動側二層ギアＫ７３１については約９０度分の許容幅で停止させれば良く、その許容幅における駆動側二層ギアＫ７３１の回転開始時から回転継続中に亘ってアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態に維持されることから、駆動側二層ギアＫ７３１が停止するよりも前にアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態における配置で停止させることができる。

【１９７８４】

図１７７１（ｂ）では、図１７７１（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視反時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。

【１９７８５】

図１７７１（ｂ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図１７７１（ｂ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。

【１９７８６】

即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が上側へ９０度回転した上昇配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を上昇配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が上昇配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。

【１９７８７】

図１７７２（ａ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ向けて動作する際の略中間の状態が図示されており、この状態において追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５（図１７７０参照）がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄ（図１７６９参照）の下面に当接し、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止される。なお、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止されることによる演出効果については後述する。

【１９７８８】

図１７７２（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【１９７８９】

これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の重力方向（下向き）の変位を抑制することができる。

【１９７９０】

換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達される重力方向（下向き）の負荷は、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）上およびアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）上へ向かうことから、この負荷により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。

【１９７９１】

これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持することができるので、第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図１７６９参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。

【１９７９２】

図１７７３（ａ）及び図１７７３（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。な

お、図１７７３（ａ）及び図１７７３（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態（図１７７１（ａ）参照）から動作開始してから下降配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図１７６９参照）の図示が省略される。

【１９７９３】

図１７７３（ａ）では、図１７７１（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。

【１９７９４】

図１７７３（ａ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図１７７３（ａ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。

【１９７９５】

即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が下側へ９０度回転した下降配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を下降配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が下降配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。

【１９７９６】

なお、本実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態に変化したことが、上下スライド部材Ｋ７２０の被検出片Ｋ７２６がベース部材Ｋ７１０の検出センサＫ７１１ｅの検出溝に入ることにより判定されるように構成される。検出センサＫ７１１ｅによる検出は、他の可動装置との連動を伴う動作制御で利用されることになるが、詳細は後述する。

【１９７９７】

図１７７３（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【１９７９８】

これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の上向きの変位を抑制することができる。

【１９７９９】

換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達されるコイルスプリングＫＳＰ７４による上向きの付勢力は、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）からベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）へ向かう方向とされることから、この付勢力により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。

【１９８００】

これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持することができるので、第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図１７６９参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。

【１９８０１】

この場合、駆動モータＫＭＴ７１の駆動力で下降配置状態に変化させた後においてはコイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の大小に関わらず下降配置状態で維持することができるので、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の設計の幅を広げることができ、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力を十分に大きく設定しておくことで、十分な補助が得られ、下降配置状態からの駆動開始に必要となる駆動力を低減することができる。

【１９８０２】

図１７７４（ａ）、図１７７４（ｂ）及び図１７７４（ｃ）は、上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の模式正面図である。図１７７４（ａ）から図１７７４（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化するまでの上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の配置の変化が時系列で模式的に図示される。

【１９８０３】

図１７７４（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態においては、上下スライド部材Ｋ７２０に対して追従可能部材Ｋ７４０が小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により引き付けられており、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０も一体的に動作する。

【１９８０４】

連動部材Ｋ７５０の配置は上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との配置関係により決まるように構成されるため、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０が一体的に動作する状況においては、連動部材Ｋ７５０も上下スライド部材Ｋ７２０と一体的に動作する。なお、連動部材Ｋ７５０の動作原理についての詳細は後述する。

【１９８０５】

図１７７４（ｂ）では、追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄの下面に当接した状態が図示される（図１７７２（ａ）参照）。図１７７４（ｂ）における配置が、追従可能部材Ｋ７４０の移動範囲の上端位置となっており、これ以上に上下スライド部材Ｋ７２０が上昇を続ける場合には、上下スライド部材Ｋ７２０及び追従可能部材Ｋ７４０の一体性は崩れ、相対移動することになる。

【１９８０６】

図１７７４（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される（図１７７２（ｂ）参照）。図１７７４（ｃ）に図示されるように、上昇配置状態では、演出待機状態に比較して追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動する。これにより、小形コイルスプリングＫＳＰ７７は引き延ばされ、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる左右位置が変化される。

【１９８０７】

上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる位置に連動部材Ｋ７５０の締結突設部Ｋ７５２が配置されることから、追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動することに伴って連動部材Ｋ７５０の左右位置が変化する。即ち、左右内側の配置から、左右外側へ配置されるように左右位置が変化している。

【１９８０８】

このように、第２可動装置Ｋ７０１の上昇動作と連動して、連動部材Ｋ７５０の左右方向の動作をさせるように構成されているので、単純に上昇動作するのみの可動役物に比較

して、上昇動作時の注目力を向上させることができる。
【１９８０９】
図１７７４（ｃ）に図示される状態から上下スライド部材Ｋ７２０が下降される場合、図１７７４（ｂ）に図示される状態に到達するまでは小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により追従可能部材Ｋ７４０の配置が維持され、図１７７１（ｂ）に図示される状態に到達してからは上下スライド部材Ｋ７２０及び追従可能部材Ｋ７４０が一体的に下降され、図１７７４（ａ）に図示される状態に戻ることになる。即ち、上下スライド部材Ｋ７２０の下降動作は、図１７７４（ｃ）、図１７７４（ｂ）、図１７７４（ａ）の順の時系列で生じる。
【１９８１０】
以上、詳述したように、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の途中位置において、ある程度の角度範囲でアーム部材Ｋ７３５が回転した場合であっても、主装飾部材Ｋ７６０の位置が安定するように構成される。これにより、途中位置に主装飾部材Ｋ７６０を高速移動させ、停止させることが容易となる。
【１９８１１】
また、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の終端位置では、荷重の方向をアーム部材Ｋ７３５の回転軸へ向く方向に設定することで、アーム部材Ｋ７３５を終端位置において安定させることができる。
【１９８１２】
図１７３９に戻って説明する。図１７３９に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００よりも背面側において、背面ケースＫ３１０に後層側可動装置Ｋ８００が配設される。以下で、後層側可動装置Ｋ８００の詳細について説明する。なお、構造の説明を先に行うために、第３可動装置Ｋ８０１に形成される装飾についての図示は省略し、装飾の詳細については後述する。
【１９８１３】
図１７７５は、後層側可動装置Ｋ８００の分解正面斜視図であり、図１７７６は、後層側可動装置Ｋ８００の分解背面斜視図である。後層側可動装置Ｋ８００は、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１７４１及び図１７４２参照）の正面側を開閉動作可能に構成される第３可動装置Ｋ８０１と、その第３可動装置Ｋ８０１を背面側から支持する支持部材Ｋ８５０と、その支持部材Ｋ８５０の上側支持部材Ｋ８５１に正面側から第３可動装置Ｋ８０１を挟むように配設され上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される上前カバー部材Ｋ８６１と、上側支持部材Ｋ８５１に背面側から締結固定される上後カバー部材Ｋ８６４と、を備える。
【１９８１４】
更に、後層側可動装置Ｋ８００は、左右一対で配置される駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２と、その駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力を伝達するために上側支持部材Ｋ８５１に回転可能に支持されるギア部材群であって上側支持部材Ｋ８５１と上後カバー部材Ｋ８６４との間に配設される左右一対の伝達装置Ｋ８７０と、その伝達装置Ｋ８７０の動作に伴い左右方向にスライド移動する左右一対の基端側スライド部材Ｋ８８０と、を備える。
【１９８１５】
支持部材Ｋ８５０は、上述の上側支持部材Ｋ８５１と、伝達装置Ｋ８７０のギア群を回転可能に支持するように円筒状に突設される複数の支持部Ｋ８５２と、基端側スライド部材Ｋ８８０をスライド移動可能に支持するための左右方向に延設される複数の長孔Ｋ８５３と、正面側において左右方向に延びるようにギア歯が刻設される左右一対の上側延設ギア歯Ｋ８５４および下側延設ギア歯Ｋ８５５と、第３可動装置Ｋ８０１の金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の左右端部を支持する端側支持部Ｋ８５６と、金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の略中間位置を上側支持部材Ｋ８５１との間で挟持するように上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される複数の中間支持部材Ｋ８５７と、上側支持部材Ｋ８５１の背面側に配設され基端側スライド部材Ｋ８８０が第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態における位置に

配置されていることを検出する左右一対の検出センサＫ８５８と、第３可動装置Ｋ８０１の下端側を後側から支持する部材であって、背面ケースＫ３１０（図１７３９参照）に締結固定される下側支持部材Ｋ８５９と、を備える。

【１９８１６】

長孔Ｋ８５３は、右側においては二本、左側においては一本で形成されているが、基端側スライド部材Ｋ８８０を支持するという機能は共通である。即ち、右側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が異なるため、対応する平行な二本の長孔Ｋ８５３が形成される一方、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が同じため、左右に延びる長い一本の長孔Ｋ８５３に複数の円柱状突部Ｋ８８２が両方共支持される。

【１９８１７】

上前カバー部材Ｋ８６１は、背面側から突設される複数の円柱状部Ｋ８６２を備える。円柱状部Ｋ８６２は、左右に一対ずつ形成されており、それぞれが左右方向に延びる一本の直線上に形成される。

【１９８１８】

上後カバー部材Ｋ８６４は、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動を案内するために左右方向に延設されるように穿設される案内長孔Ｋ８６５を備える。左側の基端側スライド部材Ｋ８８０は、案内長孔Ｋ８６５から背面側へ貫通される抜け止め突部Ｋ８８８に抜け止め用のネジが固定され、この抜け止め用のネジのネジ頭が案内長孔Ｋ８６５に干渉することにより抜け止めされる。

【１９８１９】

伝達装置Ｋ８７０は、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の回転軸に固定される駆動ギアＫ８７１と、その駆動ギアＫ８７１の回転が伝達される中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３と、中間ギアＫ８７３と歯合する円周ギア部Ｋ８７５を有する延設回転部材Ｋ８７４と、を備える。

【１９８２０】

延設回転部材Ｋ８７４は、上述の円周ギア部Ｋ８７５と、その円周ギア部Ｋ８７５よりも背面側において回転中心から径方向外側へ延設される延設部Ｋ８７６と、を備える。延設部Ｋ８７６には、その延設先端部において背面側へ円柱状に突設される円柱突部Ｋ８７６ａが形成される。

【１９８２１】

伝達装置Ｋ８７０では、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２が回転駆動されると、駆動ギアＫ８７１から中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３を介して延設回転部材Ｋ８７４へ駆動力が伝達され、延設部Ｋ８７６が回転動作されることに伴って、円柱突部Ｋ８７６ａが変位され、その変位により基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向に変位される。

【１９８２２】

基端側スライド部材Ｋ８８０は、板状の本体部Ｋ８８１と、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３に案内される複数の円柱状突部Ｋ８８２と、左右中心側の円柱状突部Ｋ８８２の左右方向外側に配置され円柱状突部Ｋ８８２よりも正面側へ突設され第３可動装置Ｋ８０１のピニオンＫ８２５を回転可能に支持する回転支持部Ｋ８８３と、本体部Ｋ８８１に上下方向に延びる形状で前後方向に穿設される長孔Ｋ８８４と、左右方向外側端部から下方に延設され支持部材Ｋ８５０の検出センサＫ８５８の検出溝に進入可能に形成される被検出部Ｋ８８５と、を備える。

【１９８２３】

左側の基端側スライド部材Ｋ８８０には、背面側へ円柱状に突設され上後カバー部材Ｋ８６４の案内長孔Ｋ８６５に挿通された上で、先端部から抜け止め用のネジ部材が締結固定される抜け止め突部Ｋ８８８を備える。

【１９８２４】

図１７７７は、第３可動装置Ｋ８０１の分解正面斜視図であり、図１７７８は、第３可

動装置Ｋ８０１の分解背面斜視図である。なお、図１７７７及び図１７７８の説明では、図１７７５及び図１７７６を適宜参照する。

【１９８２５】

第３可動装置Ｋ８０１は、支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８３に左右方向にスライド移動可能に案内される後側開閉部材Ｋ８１０と、金属棒ＫＭＢ８３よりも正面側において支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８４に左右方向にスライド移動可能に案内される中側開閉部材Ｋ８２０と、その中側開閉部材Ｋ８２０よりも正面側において上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図１７７６参照）に左右方向にスライド移動可能に支持される前側開閉部材Ｋ８３０と、を備える。

【１９８２６】

後側開閉部材Ｋ８１０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８１１と、その板状部Ｋ８１１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８３を挟む位置に配置され板状部Ｋ８１１に締結固定され正面側に軸受構造が形成される軸受構造部材Ｋ８１３と、その軸受構造部材Ｋ８１３の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８１４に歯合され中側開閉部材Ｋ８２０の支持部Ｋ８２６に回転可能に支持されるピニオンＫ８１５と、支持部材Ｋ８５０の下側支持部材Ｋ８５９（図１７７５参照）に締結固定され下側支持部材Ｋ８５９との間で板状部Ｋ８１１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する溝形成部材Ｋ８１８と、を備える。

【１９８２７】

中側開閉部材Ｋ８２０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８２１と、その板状部Ｋ８２１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８４を挟む位置に配置され板状部Ｋ８２１に締結固定され板状部Ｋ８２１の上端部との間で軸受構造を形成する軸受構造部材Ｋ８２３と、板状部Ｋ８２１の背面側に突設される突設部の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８２４に歯合され基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に回転可能に支持されるピニオンＫ８２５と、を備える。

【１９８２８】

更に、中側開閉部材Ｋ８２０は、板状部Ｋ８２１の背面側に円筒状に突設され後側開閉部材Ｋ８１０のピニオンＫ８１５を回転可能に支持すると共に先端に螺入されるネジのネジ頭によりピニオンＫ８１５の抜け止めを行う支持部Ｋ８２６と、板状部Ｋ８２１の上端側における左右外側端部から正面側に突設され前側開閉部材Ｋ８３０と左右方向で当接可能とされる突設部Ｋ８２７と、後側開閉部材Ｋ８１０の溝形成部材Ｋ８１８の正面側に締結固定され溝形成部材Ｋ８１８との間で板状部Ｋ８２１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第２溝形成部材Ｋ８２８と、を備える。

【１９８２９】

前側開閉部材Ｋ８３０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８３１と、その板状部Ｋ８３１の上端側で左右方向に延設される部分に左右方向長尺形状で前後方向に穿設され上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図１７７６参照）に挿通されることで支持される長孔Ｋ８３３と、その長孔Ｋ８３３よりも下側において中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７を受け入れ可能に板状部Ｋ８３１に凹設される凹設部Ｋ８３５と、中側開閉部材Ｋ８２０の第２溝形成部材Ｋ８２８の正面側に締結固定され第２溝形成部材Ｋ８２８との間で板状部Ｋ８３１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第３溝形成部材Ｋ８３８と、を備える。

【１９８３０】

上述の構成から第３可動装置Ｋ８０１に生じる駆動力伝達は以下のようになる。即ち、基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動量がピニオンＫ８２５を介して中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１に伝達され、その板状部Ｋ８２１の移動量がピニオンＫ８１５を介して後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１に伝達される。板状部Ｋ８２１及び板状部Ｋ８１１の移動は、歯合により生じる。

【１９８３１】

また、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量が、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進することにより前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１に伝達される。板状部Ｋ８３１の移動は、中側開閉部材Ｋ８２０から押進されることにより生じる。

【１９８３２】

従って、板状部Ｋ８２１の移動に伴い板状部Ｋ８１１は常時連動することになる一方で、板状部Ｋ８２１が移動しても、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進しない範囲においては、板状部Ｋ８３１は静止したままとなる。

【１９８３３】

図１７７９（ａ）、図１７７９（ｂ）及び図１７７９（ｃ）は、上後カバー部材Ｋ８６４、延設回転部材Ｋ８７４、基端側スライド部材Ｋ８８０及びピニオンＫ８２５の正面図である。図１７７９（ａ）、図１７７９（ｂ）及び図１７７９（ｃ）では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態からの延設回転部材Ｋ８７４の動作例が時系列で図示される。

【１９８３４】

まず、図１７７９（ａ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の上側構成部Ｋ８６６に当接され、それ以上の回転が防止される。

【１９８３５】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右外側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【１９８３６】

図１７７９（ａ）に図示される状態から円柱突部Ｋ８７６ａが左右内側へ向けて回転すると、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通されている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図１７７６参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図１７７９（ｂ）に図示される連動切替状態へ移行する。

【１９８３７】

図１７７９（ｂ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態では、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの変位方向が左右方向に沿うことにより、基端側スライド部材Ｋ８８０へ伝達される左右方向の力が最大となる。

【１９８３８】

図１７７９（ｂ）に図示される状態から更に延設回転部材Ｋ８７４が回転されることにより、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通されている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図１７７６参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図１７７９（ｃ）に図示される閉塞状態へ移行する。

【１９８３９】

図１７７９（ｃ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の傾斜形成部Ｋ８６７に当接され、それ以上の回転が防止される。

【１９８４０】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右内側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【１９８４１】

これにより、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態へ移行した後において基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重において、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける割合を減らすことができる。

【１９８４２】

即ち、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される場合、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重の全てが延設回転部材Ｋ８７４の回転軸に与えられることになるので、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性が低下する可能性がある。

【１９８４３】

これに対し、本実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置されるので、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重が、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける成分と、傾斜形成部Ｋ８６７が受ける成分とに分解されるので、荷重の集中を避けることができ、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性を向上させることができる。

【１９８４４】

なお、正面視左側における上側構成部Ｋ８６６及び正面視右側における傾斜形成部Ｋ８６７は、上側支持部材Ｋ８５１（図１７７６参照）から背面側に突設形成されており、正面視左側における傾斜形成部Ｋ８６７及び正面視右側における上側構成部Ｋ８６６は、上後カバー部材Ｋ８６４の上縁部として形成されている。

【１９８４５】

また、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態において、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心とを結ぶ直線が、左右方向に延びる直線に対する角度は５度とされる。

【１９８４６】

そのため、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心との長さを２５ｍｍとした場合に、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することで基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向外側に戻る変位量は、０．１ｍｍであり（２５－２５ｃｏｓ（５°））、遊技者に認識されるほどの距離とはならないので、例えば、延設回転部材Ｋ８７４が過回転することにより板状部Ｋ８１１（図１７７７参照）が左右方向外側に戻ることで演出効果が低下するといった事態が生じる可能性を低減できる。

【１９８４７】

更に、基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に支持されるピニオンＫ８２５と、上側延設ギア歯Ｋ８５４及びラック部Ｋ８２４とのバックラッシュが０．１ｍｍ程度となるように設計しておけば、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することによる基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の変位は上述のバックラッシュに収まり、ラック部Ｋ８２４を有する中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１や、その板状部Ｋ８２１と連動する後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左右方向外側に変位することを避けることができる。以下、図１７８０を参照して、板状部Ｋ８２１と板状部Ｋ８１１との連動について説明する。

【１９８４８】

図１７８０は、後層側可動装置Ｋ８００の部分拡大正面図である。図１７８０では、内部構造を分かり易くするために、上前カバー部材Ｋ８６１及び前側開閉部材Ｋ８３０の図示が省略され、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が部分的に破られて図示されると共に中側開閉部材Ｋ８２０の外形が想像線で図示される。また、ピニオンＫ８１５は、上側において支持部材Ｋ８５０の下側延設ギア歯Ｋ８５５と歯合する大径ギアＫ８１５ａが図示され、下側において後側開閉部材Ｋ８１０のラック部Ｋ８１４と歯合する小径ギアＫ８１５ｂが図示される。

【１９８４９】

図１７８０を参照して、駆動力の伝達方法について説明する。まず、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力が伝達され伝達装置Ｋ８７０の延設回転部材Ｋ８７４が回転動作されることにより基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向にスライド移動され（図１７７９参照）、それにより移動される回転支持部Ｋ８８３を回転中心とするピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４との噛み合いで回転される（図１７８０において回転支持部Ｋ８８３が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。

【１９８５０】

ピニオンＫ８２５の回転により、下側で歯合されているラック部Ｋ８２４が左方へ移動されることになるので、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が左方へ移動する。この時、ピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４と噛み合う歯数と、ピニオンＫ８２５がラック部Ｋ８２４と噛み合う歯数とが同じなので、回転支持部Ｋ８８３の左右方向の移動量の倍の移動量で中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１を移動させることができる。

【１９８５１】

従って、板状部Ｋ８２１を目的の距離移動させるために必要な基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を短くすることができるので、基端側スライド部材Ｋ８８０の配置に要するスペースを削減することができる。

【１９８５２】

中側開閉部材Ｋ８２０が左右方向に移動されると、支持部Ｋ８２６に支持されるピニオンＫ８１５の大径ギアＫ８１５ａが下側延設ギアＫ８５５との噛み合いで回転される（図１７８０において支持部Ｋ８２６が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。

【１９８５３】

ピニオンＫ８１５の回転により、下側で小径ギアＫ８１５ｂと歯合されているラック部Ｋ８１４が左方へ移動されることになるので、後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左方へ移動する。

【１９８５４】

この時、大径ギアＫ８１５ａの歯数が２３で形成される一方、小径ギアＫ８１５ｂの歯数が１１で形成されることから、支持部Ｋ８２６の左右方向の移動量の３４／２３倍の移動量で後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１を移動させることができる。

【１９８５５】

このように構成することで、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０ではなく、中側開閉部材Ｋ８２０に対して行うことが可能となる。

【１９８５６】

ここで、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０に基端側スライド部材Ｋ８８０を介して駆動力を伝達するようにしても第３可動装置Ｋ８０１の開閉動作は実行可能であるところ、この場合、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を後側開閉部材Ｋ８１０の移動量に合わせて長く設定する必要が生じるので、延設回転部材Ｋ８７４（図１７７９参照）の長さが過大に必要となり、延設回転部材Ｋ８７４を利用した伝達機構を採用することができなくなる要因となる。

【１９８５７】

こうなった場合、回転速度が同じであっても、延設回転部材Ｋ８７４（図１７７９参照）の姿勢に対応して左右方向の速度が変化するという延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができなくなる。

【１９８５８】

これに対し、本実施形態では、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を中側開閉部材Ｋ８２０に対して行う構成を採用した上で、左右方向にスライド移動するピニオンＫ８１５を採用することにより、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量よりも後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１の移動量を増大させることで、後側開閉部材Ｋ８１０の移動量を最大としている。

【１９８５９】
　これにより、板状部Ｋ８１１の移動量は大きく確保したまま、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量は抑えることができるので、延設回転部材Ｋ８７４（図１７７９参照）の長さが過大となることを防止することができ、延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができる。
【１９８６０】
　図１７８１、図１７８２及び図１７８３は、後層側可動装置Ｋ８００の正面図である。図１７８１、図１７８２及び図１７８３では、演出待機状態から閉塞状態へ向けて第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化する様子が時系列で図示される。
【１９８６１】
　即ち、図１７８１では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態が図示され（図１７４１参照）、図１７８２では、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態が図示され、図１７８３では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態が図示される（図１７４２参照）。図１７８１から図１７８３では、連動の理解を容易にするために、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７の配置と、前側開閉部材Ｋ８３０の凹設部Ｋ８３５の配置とが想像線で図示される。
【１９８６２】
　また、図１７８１で図示される状態は図１７７９（ａ）に図示される状態に対応しており、図１７８２で図示される状態は図１７７９（ｂ）に図示される状態に対応しており、図１７８３で図示される状態は図１７７９（ｃ）に図示される状態に対応している。
【１９８６３】
　図１７８１に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右外側縁部と当接し、前側開閉部材Ｋ８３０の左右内側への移動が規制される。
【１９８６４】
　板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図１７８０参照）において、図１７８１に図示される演出待機状態から図１７８２に図示される連動切替状態までは、突設部Ｋ８２７は凹設部Ｋ８３５の内部を移動し、左右内側縁部と当接することは無い。
【１９８６５】
　そのため、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じない。従って、図１７８１に図示される状態から図１７８２に図示される状態までにおいて、前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１の配置は維持される。
【１９８６６】
　また、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図１７８１に図示される演出待機状態から中側開閉部材Ｋ８２０及び後側開閉部材Ｋ８１０を動作させるために要する駆動力を低減させることができる。
【１９８６７】
　更に、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図１７８１に図示される状態と図１７８２に図示される状態との間で板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を往復させる態様で駆動させる場合（中間往復駆動）に駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図１７７５参照）が受ける抵抗を低減させることができ、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２に蓄積される疲労を低減させることができる。
【１９８６８】
　板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図１７８０参照）において、図１７８２に図示される連動切替状態から図１７８３に図示される閉塞状態までは、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側縁部を押進するように当接するので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に伴って前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１も左右内側へ向けて移動される。
【１９８６９】

図１７８２に図示される連動切替状態は、板状部Ｋ８３１が移動を開始する状態なので、板状部Ｋ８３１の静止摩擦を上回る駆動力を要することになるが、本実施形態では、連動切替状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの移動方向が板状部Ｋ８３１の移動方向である左右方向に向くようにされ、力を効率的に伝達することができるよう構成される（図１７７９（ｂ）参照）。

【１９８７０】

これにより、板状部Ｋ８３１の静止摩擦以上の十分な駆動力を板状部Ｋ８３１に伝達することができるので、板状部Ｋ８３１との連動開始時における板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動速度の減少量を抑えることができ、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１と板状部Ｋ８３１との連動を滑らかに生じさせることができる。

【１９８７１】

図１７８３に図示される閉塞状態から、突設部Ｋ８２７の左右方向外側へ向けた移動が生じた場合、その移動の開始から突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の内側を移動する間においては、突設部Ｋ８２７から前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１へ向けて駆動力が伝達されることは無く、板状部Ｋ８３１は図１７８３に図示される配置で維持される。

【１９８７２】

従って、図１７８３に図示される閉塞状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向外側へ向けて移動開始させる際には板状部Ｋ８３１からの抵抗を受けないので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に要する駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図１７７５参照）の駆動力を低減することができる。同様のことが、図１７８１に図示される演出待機状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向内側へ向けて移動開始させる際にも言える。

【１９８７３】

また、これにより、上述した延設回転部材Ｋ８７４の過回転（図１７７９（ｃ）参照）による左右方向外側への戻り移動分がギアのバックラッシュに収まらない場合であっても、突設部Ｋ８２７の左右方向外側への移動により板状部Ｋ８３１が左右方向外側へ移動することを回避することができるので、板状部Ｋ８３１の配置を維持することができる。

【１９８７４】

図１７８１に図示される状態から図１７８２に図示される状態に変化した後、延設回転部材Ｋ８７４の回転方向を変えるように駆動させ、図１７８１に戻るように駆動制御させることも可能である。

【１９８７５】

この場合、図１７８２に図示される状態に変化するまで継続的に延設回転部材Ｋ８７４に駆動力を伝達させるように制御しても良いし、図１７８２に図示される状態に変化するよりも前に駆動力の発生を停止させるように制御しても良い。

【１９８７６】

後者の場合であっても、延設回転部材Ｋ８７４の自重により図１７７９（ｂ）に図示される姿勢までは回転が継続され、且つ、図１７８２に図示される状態で板状部Ｋ８３１の静止摩擦がかけられることから延設回転部材Ｋ８７４を図１７７９（ｂ）に図示される状態で停止させ易い。

【１９８７７】

即ち、延設回転部材Ｋ８７４が図１７７９（ｂ）に到達する程度の時間を空けて逆方向に駆動させるように制御する（パルス的に駆動力を発生させる）ことで、図１７４５に図示される状態と図１７８２に図示される状態とを往復する動作演出を実行することができる。

【１９８７８】

以上、詳述したように、第３可動装置Ｋ８０１では、３枚の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を連動させる動作態様ながら、その連動のタイプを変えることができる。即ち、動作開始時は板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１のみの連動としながら、動作途中から板状部Ｋ８３１も連動させるように構成される。これにより、動作を複雑化し、演出効果を向上することができる。

【１９８７９】
　また、第３可動装置Ｋ８０１では、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を移動終端まで移動させた後で延設回転部材Ｋ８７４が過回転し、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１からの反動による荷重の全てが回転軸に与えられることを避けている。これにより、延設回転部材Ｋ８７４の耐用年数を上げることができる。
【１９８８０】
　更に、延設回転部材Ｋ８７４の過回転の寸法を、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動が生じない程度に抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作による演出効果の低下（板状部Ｋ８１１間に隙間が生じる等の問題）を避けることができる。
【１９８８１】
　図１７２５に戻って説明する。本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、正面枠Ｋ１４の内側に配設されるガラスユニットＨ１６の上下左右を囲むようにして、表示ランプＫ９００が配設される。
【１９８８２】
　表示ランプＫ９００は、ガラスユニットＨ１６の上側に横長形状に形成されるトップランプＫ９１０と、ガラスユニットＨ１６の右側に縦長形状に形成される右側サイドランプＫ９２０と、ガラスユニットＨ１６の左側に縦長形状に形成される左側サイドランプＫ９３０と、を備える。
【１９８８３】
　表示ランプＫ９００は、パチンコ機Ｋ１０にエラーが発生している場合や、賞球の払い出しが生じている場合等に、パチンコ機Ｋ１０の内部状態に対応した機能用表示態様で発光したり、ガラスユニットＨ１６を通して視認される動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）や第３図柄表示装置Ｋ８１（図１７２６参照）等で行われる演出に対応した演出用表示態様で発光したりするように音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）に制御される。以下で、パチンコ機Ｋ１０が演出用表示態様で制御される際の一例について説明する。
【１９８８４】
　図１７８４（ａ）から図１７８４（ｆ）及び図１７８５（ａ）から図１７８５（ｅ）は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図１７８４（ａ）から図１７８４（ｆ）及び図１７８５（ａ）から図１７８５（ｅ）では、パチンコ機Ｋ１０で実行される演出制御の一例が時系列で図示される。
【１９８８５】
　図１７８４（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１で大当たりに対応した第３図柄が左右に揃った状態（停止していない状態）が表示され、大当たりが示唆されている状態が図示される。この状態において、表示ランプＫ９００は白色で発光され、遊技盤Ｋ１３は、背後からのＬＥＤ等照射により全体的に白色で発光される（白色の発光を第１の網掛けで図示する）。
【１９８８６】
　ここから、動作ユニットＫ３００及び第３図柄表示装置Ｋ８１における演出動作の後で、第３図柄が停止表示された状態を経て、大当たり遊技が開始される。演出動作の詳細について以下で説明する。
【１９８８７】
　図１７８４（ｂ）では、検出センサＫ７１１ｅ（図１７７３（ｂ）参照）からの出力が変化され、第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置される第２可動装置Ｋ７１０が下降配置状態になったと音声ランプ表示装置Ｈ１１３（図１７２４参照）が判定した後で、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態に変化した状態が図示される。
【１９８８８】
　第１可動装置Ｋ４０１の回転装飾部材Ｋ５７８は、移動装置Ｋ５６０が落下動作される前から既に正面視時計回り方向に回転動作されており、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置

状態に変化した後も回転動作が継続される。
【１９８８９】
遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される（虹色の発光を第２の網掛けで図示する）。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導することができる。
【１９８９０】
図１７８４（ｃ）では、移動装置Ｋ５６０の回転動作が継続される状態で、駆動モータＫＭＴ５１（図１７５４参照）が正方向に駆動されることで移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、右側検出センサＫ５５６ａ（図１７５４参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が逆方向に反転され、移動装置Ｋ５６０が左方に移動され、左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が正方向に反転され、移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動が停止される様子が図示される。
【１９８９１】
この時、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向は、移動装置Ｋ５６０が右方に移動している状態では右へ向けて前転する回転方向とされ、移動装置Ｋ５６０が左方に移動している状態では左へ向けて前転する回転方向とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向とを対応させて、一体感のある動作演出を実行することができる。
【１９８９２】
移動装置Ｋ５６０の電飾基板Ｋ５６４（図１７５５参照）では、回転装飾部材Ｋ５７８を虹色に発光させるようにＬＥＤの発光色が設計される。なお、電飾基板Ｋ５６４に限らず、ＬＥＤによる光を虹色に視認させるための設計は、ＬＥＤの発光色を予め決めておいて遊技者が虹色に視認可能に発光させるＬＥＤを選択するように設定しても良いし、各ＬＥＤを複数の発光色で発光可能に構成して発光色の切替を遊技者に虹色に視認させ易い順番で行うようにしても良い。
【１９８９３】
第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで移動装置Ｋ５６０の位置に対応する位置で移動装置Ｋ５６０の外形よりも若干大きな円形の虹色の渦巻きが表示される。即ち、渦巻きの表示も移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動に伴い移動される。更に、後側のレイヤーで表示領域全体に虹色の雲状の表示がされる。
【１９８９４】
遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導することができる。
【１９８９５】
図１７８４（ｄ）では、中央検出センサＫ５５６ｂの出力により移動装置Ｋ５６０が左右方向中央位置に配置されたことが把握されている状態で第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化された後の状態が図示される。
【１９８９６】
第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化されるまでの間、回転装飾部材Ｋ５７８は正面視時計回り方向の回転が継続される。即ち、第１可動装置Ｋ４０１は、回転装飾部材Ｋ５７８が回転動作されている状態で長尺装置Ｋ５４０及び移動装置Ｋ５６０が上昇される。
【１９８９７】

第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化され、移動装置Ｋ５６０が上側装飾部材Ｋ３３０に隠されると同時に、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）から一斉に光が照射される。更に、第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで男性キャラクターが力を溜める様子が表示される。

【１９８９８】

図１７８４（ｅ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１を除く発光が、左右内側へ向けて消灯していく様子が図示される。即ち、右側サイドランプＫ９２０及び左側サイドランプＫ９３０から消灯し始め、次に、トップランプＫ９１０の左右外側、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板における左右外側、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）が消灯し、最後にトップランプＫ９１０の左右内側、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板における左右内側および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）が消灯し、第３図柄表示装置Ｋ８１を除いてパチンコ機Ｋ１０が暗く視認される状態が形成される。

【１９８９９】

これにより、遊技者の視線を徐々に遊技領域の中央側、即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の中央側へ誘導することができ、この後実行される演出に向けた期待感を上昇させることができる。そして、遊技者の視線を誘導し終えたタイミングで、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されていた男性キャラクターの溜めた力を開放する動作が表示されており、この直後に第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される。

【１９９００】

図１７８４（ｆ）では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化された状態で、回転装飾部材Ｋ５７８の回転が維持されている様子が図示される。第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化されるのと同時に、パチンコ機Ｋ１０は全体的に明るく視認される。

【１９９０１】

即ち、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）から一斉に光が照射される。この光の態様は、白色光でも良いし、虹色でも良いし、白色光から虹色に変化する発光態様でも良い。

【１９９０２】

更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図１７５５参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が虹色に視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図１７５３参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。

【１９９０３】

図１７８５（ａ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７８を回転させながら右側途中位置ＫＲ４２（図１７６８（ｃ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。

【１９９０４】

この状態において、遊技領域とその内側の範囲では、回転装飾部材Ｋ５７８のみが電飾基板５６４（図１７５５参照）からの光で明るく照らされ、その他の電飾基板（入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）等）は消灯される。

【１９９０５】

第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域では、前側のレイヤーにおいて回転装飾部材Ｋ５７８の周辺に集中させる形状の光が表示され、後側のレイヤーが黒背景で表示されることで

、回転装飾部材Ｋ５７８に注目させる演出が実行される。
【１９９０６】
図１７８５（ｂ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７８を回転させながら左側途中位置ＫＬ４３（図１７６８（ｄ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。
【１９９０７】
この動作の過程で、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において黒背景から白背景に表示が変化されることに合わせて、第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態から閉塞状態へ変化される。これにより、遊技領域よりも内側における視界が明るくされる。
【１９９０８】
図１７８５（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４０１の被検出板部Ｋ５７１ａ（図１７５５参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）の検出溝から出たと、中央検出センサＫ５５６ｂの出力の変化から音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）に判定された場合において、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態から演出待機状態へ変化させた状態が図示される。
【１９９０９】
この状態において、第３図柄表示装置Ｋ８１では第３可動装置Ｋ８０１の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾（図１７８５（ｂ）中に「Ｓ」字の装飾として図示）を強調する表示が実行され、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を通して表示が遊技者に視認されることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１のみが視認される場合とは異なる態様で視認される。
【１９９１０】
図１７８５（ｃ）に図示される状態において、遊技者に対して、「ＳＦＭＥ」（ＳｉｅｎｃｅＦｉｃｔｉｏｎＭｙＥｎｅｒｇｙの頭文字を想定）との文字の羅列からなる一連の演出表示を視認させることができる。なお、本実施形態では例としてローマ字の羅列による一連の表示として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、仮名文字や漢字の羅列でも良いし、イラストや形状による羅列でもいい。
【１９９１１】
また、図１７８５（ｂ）から図１７８５（ｃ）に変化する過程において、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）から一斉に白色光が照射される。更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図１７５５参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が明るく視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図１７５３参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。
【１９９１２】
更に、図１７８５（ｃ）に変化した後（第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態へ変化され各可動装置が停止した後）において、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された上記装飾に対応する第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で虹色に表示される。それに加えて、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図１７４０参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図１７４０参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）及び第１可動装置Ｋ４０１の電飾基板Ｋ５６４（図１７５５参照）からの光により、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される。
【１９９１３】
このように、各可動装置が停止する前と停止した後とで、発光態様を統一的に変化させることで、遊技者に対して、各可動装置が移動中である期間と、各可動装置の移動が停止された後とを区別し易くすることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【１９９１４】
図１７８５（ｄ）では、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される状態は維持されたままで、回転装飾部材Ｋ５７８が回転されながら移動装置Ｋ５６０が左右中央位置まで到達した状態が図示される。回転装飾部材Ｋ５７８の回転は、移動装置Ｋ５６０が左右中央に到達した後も継続される。
【１９９１５】
図１７８５（ｅ）では、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態への変化を開始する（上昇移動する）のに合わせて第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態から演出待機状態へ向けて変化される。第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化されるのに合わせて、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示は、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示から第３図柄が左右に揃った状態の表示に切り替えられる。
【１９９１６】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の前側のレイヤーで板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動に追従するように移動されるように表示され、後側のレイヤーで第３図柄が左右に揃った後、停止表示される様子が表示される。即ち、図１７８５（ｅ）に図示されるように停止図柄が第３図柄表示装置Ｋ８１に表示され、大当たりの発生が示された後で、大当たり遊技が開始される。
【１９９１７】
第３図柄が表示されてから停止表示されるまでの間に、第１可動装置Ｋ４０１の検出センサＫ４１８（図１７４９参照）の出力が変化され、昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における高さに配置されていることが音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１７２４参照）に判定され、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化させるように制御される。
【１９９１８】
なお、上記演出制御の一例では、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）で視認させる内容と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で視認させる内容とを異なるものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面に各可動装置が配置される際の視認態様と同様の視認態様で遊技者に視認させるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置の形状や模様の表示（動画表示、静止画表示）を行うことができるよう構成しても良い。
【１９９１９】
正面視であれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面に各可動装置が配置される場合と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）の形状や模様が表示される場合とで、視認態様を似せることができる。この場合、各可動装置のいずれかが故障して動かなくなった場合であっても、故障した各可動装置に対応する表示で補うことにより、演出効果の低下を最小限に抑えることができる。
【１９９２０】
第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）に対応する表示を行う表示態様は、なにも各可動装置が故障した時にのみ実行されるものに限られるものではない。例えば、実行される演出に対応して、各可動装置が動作される場合と、各可動装置の動作は行われずに、各可動装置に対応する表示が第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる場合とが生じるようにしても良い。
【１９９２１】
この場合において、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）を動作させない場合において、各可動装置の電飾（第１可動装置Ｋ４０１の電飾基板Ｋ５６４（図１７５５参照）や、第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照））の発光をオフにしたり、目隠しとなる部材の背面側に隠した

りすることで、遊技者の視線を第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる各可動装置に対応する表示に誘導し易くすることができる。

【１９９２２】

また、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）に対応する表示が第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる場合としては、各可動装置自体を表示する場合に限られるものではない。例えば、第１可動装置Ｋ４０１において、回転装飾部材Ｋ５７８に対応する位置が白抜きされ、正面視で回転装飾部材Ｋ５７８の外方に対応する位置に表示を行うことで、表示を回転装飾部材Ｋ５７８の移動に対応させるようにしても良い。

【１９９２３】

この場合において、例えば、長尺装置Ｋ５４０（図１７６８参照）を光透過性の樹脂材料から構成し長尺装置Ｋ５４０を通して第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認可能に構成されていると、あたかも、回転装飾部材Ｋ５７８が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に浮いているかのように視認させることができる。

【１９９２４】

この場合において、更に第１可動装置Ｋ４０１が故障で動作しなくなった場合には、回転装飾部材Ｋ５７８に対応する位置として白抜きされていた位置に、回転装飾部材Ｋ５７８の形状や模様を表示することで、第１可動装置Ｋ４０１の動作に基づく視認態様と似た視認態様を表示による実行することができるので、遊技者に対して違和感を与え難くすることができる。

【１９９２５】

また、移動により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置される第１可動装置Ｋ４０１や第３可動装置Ｋ８０１では問題とならないが、移動により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に一部しか配置されない第２可動装置Ｋ７０１については、第３図柄表示装置Ｋ８１と重なる配置における表示態様のみを設定するようにしても良いし、第３図柄表示装置Ｋ８１の枠の下縁を、正面視における演出待機状態（又は上昇配置状態）の第２可動装置Ｋ７０１と重なる位置にまで下げるようにして表示領域を広げるようにしても良い。

【１９９２６】

この場合において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域おける第２可動装置Ｋ７０１の配置可能位置と同じ位置（表示領域の下側範囲）に、第２可動装置Ｋ７０１の形状や模様を表示するようにすることで、第２可動装置Ｋ７０１を動作させずとも、第２可動装置Ｋ７０１が動作しているかのように視認させることができる。

【１９９２７】

この場合において、第２可動装置Ｋ７０１が故障して動作不可能となった場合には、第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態に維持して、電飾基板Ｋ７６１ａ（図１７７０参照）を消灯しておくことで、第２可動装置Ｋ７０１の動作で実現されていた演出効果は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示により補うようにし、且つ、第２可動装置Ｋ７０１については目立たせなくすることで、取り外しなどの修理作業を省略することができる。

【１９９２８】

図１７８６から図１７９１を参照して、第１０６実施形態について説明する。第１０５実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第１０６実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ２１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９９２９】

図１７８６は、第１０６実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面図であり、図１７８７は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面斜視図である。図１７８６及び図１７８７に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００は

、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【１９９３０】

これにより、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）の配置位置が光照射装置Ｋ２１００により制限されることを回避することができる。換言すれば、光照射装置Ｋ２１００の有無に関係なく、動作ユニットＫ３００の配置をベース板Ｋ２０６０に寄せることができる。

【１９９３１】

また、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、遊技領域後方の視認性が光照射装置Ｋ２１００により低下されたり、視線が遮断されたりすることを防止することができる。即ち、光照射装置Ｋ２１００の有無に関わらず、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０を透視して背面側の動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）を容易に視認することができる。

【１９９３２】

ベース板Ｋ２０６０は、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの遊技領域側の縁部を構成すると共に遊技領域を形成する領域の外形の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅと、環状に形成される遊技領域の内側位置において、背面側へ向かうにつれて内形が拡大する方向の傾斜面が全周において形成される傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを備える。

【１９９３３】

本実施形態では、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅは、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設先端側（前側）における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り小さくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の後側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。

【１９９３４】

また、傾斜開口部Ｋ２０６０は、ベース板Ｋ２０６０の前端側における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り大きくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の前側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。

【１９９３５】

図１７８８は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解背面斜視図であり、図１７８９は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解正面斜視図である。

【１９９３６】

光照射装置Ｋ２１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ２１１１が配設される電飾基板Ｋ２１１０と、その電飾基板Ｋ２１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ２１２０と、を備える。

【１９９３７】

光照射装置Ｋ２１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組については説明を省略する。

【１９９３８】

電飾基板Ｋ２１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ２１１１が間隔を空けて配置されている。

【１９９３９】

中間部材Ｋ２１２０の正面視外形形状は、電飾基板Ｋ２１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状部側において、発光手段Ｋ２１１１の前方の領域を含むようにライン状に

傾斜面Ｋ２１２１が形成される。
【１９９４０】
傾斜面Ｋ２１２１は、背面側ほど円弧形状の径が大きくなる方向で傾斜形成され、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。
【１９９４１】
本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗ及び中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１に、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。
【１９９４２】
図１７９０は、図１７８６のＭＤＣＣＸＣ－ＭＤＣＣＸＣ線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の部分断面図である。図１７９０では、一の発光手段Ｋ２１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状が図示される。
【１９９４３】
また、図１７９０では、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３について図示される。
【１９９４４】
図１７９０に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１を透過する光は進行方向ＫＬＤ２１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。
【１９９４５】
傾斜面Ｋ２１２１及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜面Ｋ２１２１の形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。
【１９９４６】
図１７９０に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ２２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。
【１９９４７】
外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。
【１９９４８】
図１７９０に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ２３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図１７２８参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。
【１９９４９】
傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認

させることができる。
【１９９５０】
図１７９０に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ２１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ２１１０の発光手段Ｋ２１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図１７２８参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。
【１９９５１】
このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ２１１１を構成することで、発光手段Ｋ２１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ２１１０の小形化を図ることができる。
【１９９５２】
また、図１７９０に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ２１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装置Ｋ２１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。
【１９９５３】
図１７９０に図示されるように、発光手段Ｋ２１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。
【１９９５４】
そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。
【１９９５５】
なお、光照射装置Ｋ２１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図１７２８参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ２１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。
【１９９５６】
この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ２１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。
【１９９５７】
これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。
【１９９５８】
この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図１７２６参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）に対応する位置にあるので、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表

示演出を楽しんで視認することができる。
【１９９５９】
なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図１７９０においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。
【１９９６０】
図１７９１は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図１７９１では、パチンコ機Ｋ１０にベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００を配設した場合における、視認態様が図示される。
【１９９６１】
図１７９１に図示されるように、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される光照射装置Ｋ２１００からの光が傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを介してセンターフレームＫ８６に照射される。これにより、センターフレームＫ８６を明るく照らすことができる。
【１９９６２】
この時、動作ユニットＫ３００に配設される電飾基板や発光基板に配設されるＬＥＤを消灯させた状態で、光照射装置Ｋ２１００からは光を照射させることで、センターフレームＫ８６を目立たせることができ、その内側に配置される第３図柄表示装置Ｈ８１に注目させることができる。
【１９９６３】
また、センターフレームＫ８６は、上側装飾部材Ｋ３３０よりも前側に配置されているので、上側装飾部材Ｋ３３０の内部に配設される発光基板のＬＥＤを点灯させた状態で光照射手段Ｋ２１００から光を照射させることで、正面視において、発光される上側装飾部材Ｋ３３０がセンターフレームＫ８６に沿って視認される光により分断されているように見せることができる。
【１９９６４】
図１７９２から図１７９４を参照して、第１０７実施形態について説明する。第１０５実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第１０７実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ３１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１９９６５】
図１７９２は、第１０７実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解背面斜視図であり、図１７９３は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解正面斜視図である。
【１９９６６】
光照射装置Ｋ３１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ３１１１が配設される電飾基板Ｋ３１１０と、その電飾基板Ｋ３１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ３１２０と、を備える。
【１９９６７】
光照射装置Ｋ３１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組については説明を省略する。
【１９９６８】
電飾基板Ｋ３１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ３１１１が間隔を空けて配置されている。
【１９９６９】

中間部材Ｋ３１２０は、正面視外形形状が電飾基板Ｋ３１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように設計されており、発光手段Ｋ３１１１の前方において、遊技領域の外縁に対応する円弧形状の中心側に開放側が向くＵ字形状に穿設される複数の開口部Ｋ３１２１と、その開口部Ｋ３１２１のＵ字形状の内側の構成部においてＵ字形状の凹端部へ向かうにつれて背面側へ傾斜するように形成される複数の傾斜面Ｋ３１２２と、を備える。

【１９９７０】

傾斜面Ｋ３１２２は、中間部材Ｋ３１２０の遊技領域側の円弧と直交する方向で対向配置される開口部Ｋ３１２１の壁部との間隔が背面側へ向かう程狭くなる方向で傾斜形成され、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。

【１９９７１】

本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ及び傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。

【１９９７２】

図１７９４は、図１７８６のＭＤＣＣＸＣ－ＭＤＣＣＸＣ線に対応する線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の部分断面図である。図１７９４では、一の発光手段Ｋ３１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状が図示される。

【１９９７３】

図１７９４に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【１９９７４】

また、図１７９４では、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３について図示される。

【１９９７５】

図１７９４に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２を透過する光は進行方向ＫＬＤ３１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。

【１９９７６】

第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるが、開口部Ｋ３１２１で空間が閉じられていることにより光の拡散が開口部Ｋ３１２１内で抑制される。これにより、発光手段Ｋ３１１１の配置に対応した光であって、開口部Ｋ３１２１の大きさに拡大された点在光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。

【１９９７７】

図１７９４に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ３２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。

【１９９７８】

外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。

【１９９７９】

図１７９４に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ３３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図１７２８参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。

【１９９８０】

傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認させることができる。

【１９９８１】

図１７９４に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ３１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ３１１０の発光手段Ｋ３１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図１７２８参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。

【１９９８２】

このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ３１１１を構成することで、発光手段Ｋ３１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ３１１０の小形化を図ることができる。

【１９９８３】

また、図１７９４に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ３１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装置Ｋ３１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。

【１９９８４】

図１７９４に図示されるように、発光手段Ｋ３１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。

【１９９８５】

そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。

【１９９８６】

なお、光照射装置Ｋ３１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図１７２８参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ３１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。

【１９９８７】

この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ３１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する

光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。

【１９９８８】

これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。

【１９９８９】

この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図１７２６参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）に対応する位置にあるので、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示演出を楽しんで視認することができる。

【１９９９０】

なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図１７９０においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。

【１９９９１】

図１７９５から図１８２２を参照して、第１０８実施形態について説明する。上記各実施形態では、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８の前面に装飾が施されている場合を説明したが、第１０８実施形態では、移動装置Ｋ４５６０の前面側に表示が可能な小型の表示装置Ｋ４５８０が移動装置Ｋ４５６０に設けられている。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１９９９２】

図１７９５は、第１０８実施形態における動作ユニットＫ４３００の正面図である。図１７９５に図示されるように、動作ユニットＫ４３００では、移動装置Ｋ４５６０の略中央部に表示装置Ｋ４５８０が配設される。

【１９９９３】

表示装置Ｋ４５８０は、正面側に表示面が向けられた小形の液晶ディスプレイで構成されており、その周囲には内側の縁部が表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲むように略円形状から形成される回転装飾部材Ｋ４５７８が設けられている。

【１９９９４】

回転装飾部材Ｋ４５７８は、正面視における外形が略四角形とされ、その内側に開口が形成されており、その開口の内側縁部が表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲むように形成されることにより、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の枠を構成する。

【１９９９５】

移動装置Ｋ４５６０の背面側には駆動モータＫＭＴ４０６１が配設されており、駆動モータＫＭＴの駆動力が不図示の伝達機構を介して伝達されることで、回転装飾部材Ｋ４５７８が正逆方向に回転可能に構成される。

【１９９９６】

回転装飾部材Ｋ４５７８は、前後方向に開口される視認窓部Ｋ４５７８ａを備える。視認窓部Ｋ４５７８ａは、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心から放射線状に延びる２本の直線と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心と同軸の円弧として形成される２本の湾曲線とにより囲まれる略扇形状に形成される。

【１９９９７】

視認窓部Ｋ４５７８ａは、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲う枠部Ｋ４５８１（即ち、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の外側端部を形成する部分）よりも正面視内側に形成されている。そのため、視認窓部Ｋ４５７８ａを通して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における表示を視認させることができる。

【１９９９８】

図１７９６（ａ）、図１７９６（ｂ）、図１７９６（ｃ）及び図１７９６（ｄ）は、移

動装置Ｋ４５６０の正面図である。図１７９６（ａ）、図１７９６（ｂ）、図１７９６（ｃ）及び図１７９６（ｄ）では、移動装置Ｋ４５６０の視認態様の変化の一例が時系列で図示される。

【１９９９９】

図１７９６（ａ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の動作パターンが時系列で図示される。図１７９６（ａ）に図示されるように、まず第１の演出制御例では、回転装飾部材Ｋ４５７８は、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の上方に配置される状態（上から１番目に図示される状態）から、時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の右方に配置される状態に変化され（上から２番目に図示される状態）、続けて反時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の上方に配置される状態に戻る（上から１番目に図示される状態に相当）ことで、第１の演出制御例が終了される。

【２００００】

次に、第２の演出制御例では、回転装飾部材Ｋ４５７８は、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の上方に配置される状態（上から１番目に図示される状態）から、反時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の左方に配置される状態に変化され（上から３番目に図示される状態）、続けて時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の上方に配置される状態に戻る（上から４番目に図示される状態に相当）ことで、第２の演出制御例が終了される。

【２００００１】

図１７９６（ａ）では、説明の便宜上、第１の演出制御例と第２の演出制御例とを繋げて説明したが、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作制御としてはこれに限られるものではない。例えば、第１の演出制御例または第２の演出制御例で繰り返し回転動作されるような状態を構成可能にしても良いし、第２の演出制御例から第１の演出制御例につながるように回転動作されるような状態を構成可能にしても良いし、第１の演出制御例と第２の演出制御例とが交互に連続で実行されるような状態を構成可能にしても良い。

【２０００２】

図１７９６（ｂ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第１の視認態様が図示される。図１７９６（ｂ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第１の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の右方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される円形状の第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを視認可能とされる。

【２０００３】

更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。

【２０００４】

図１７９６（ｃ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第２の視認態様が図示される。図１７９６（ｃ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第２の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の左方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される丸形状および三角形状の第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能とされる。

【２０００５】

更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇△ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。また、「〇ＧＥＴ」や「〇△ＧＥＴ」との表示の違いから、遊技者に対して、得られる遊技価値の違いを想起させることができる。

【２０００６】

図１７９６（ｄ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第３の視認態様が図示される。図１７９６（ｄ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第３の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の右方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される円形状の第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを視認可能とされ、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の左方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される丸形状および三角形状の第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能とされる。

【２０００７】

更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇ＧＥＴ、〇△ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。また、「〇ＧＥＴ」や「〇△ＧＥＴ」との表示の違いから、遊技者に対して、得られる遊技価値の違いを想起させることができる。

【２０００８】

上述した、第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御される第１の演出用途例について説明する。この第１の演出用途例では、大当たり遊技状態において、移動装置Ｋ４５６０が遊技者から視認される位置に移動され（図１７９５参照）、上述の第１の演出制御例および第２の演出制御例で動作制御される。

【２０００９】

第１の演出用途例では、大当たり遊技状態における各ラウンド遊技の終了時に、第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御され、右打ちで発射された遊技球の流下が相対的に右寄りとなる遊技球が入球され易い第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に遊技球が入球した個数に対応して第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示され、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球される遊技球よりは相対的に左寄りの経路を流下する遊技球が入球され易い第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）に遊技球が入球した個数に対応して第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される。

【２００１０】

そのため、各ラウンド遊技において規定個数（本実施形態では１０個）の遊技球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されることで各ラウンド遊技が終了されることが通常であるので、基本的には、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘは、１０個の丸形状で視認されることになり、「〇ＧＥＴ」（図１７９６（ｂ）参照）との表示についても、入球個数に対応して「〇×１０ＧＥＴ」等の表示がされる。これにより、遊技者は、払い出される賞球個数を予想することができる。

【２００１１】

一方で、遊技態様によっては、１０個以上の遊技球が入球される場合も、入球される遊技球が１個や２個にも関わらず、時間経過によりラウンド遊技が終了される場合もある。この場合には、入球された遊技球の個数に対応した数で、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示される。

【２００１２】

また、各ラウンド遊技における電動役物Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）の開放時間は、遊技球の入球に満たない程度に短くされるので、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）への入球は基本的には生じず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認されるのは稀である。

【２００１３】

一方、稀であっても、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球が入球された場合には、ラウンド遊技中にも関わらず、賞球だけでなく、特別図柄の抽選をも獲得することができる。本実施形態では、賞球の払い出しのみに対応する表示として第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを表示し、賞球の払い出しに加えて別の利益（例えば、特別図柄の抽選）も遊技者に付与され得る表示として第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを表示することで、遊技者に付与され得る利益を区別して報知するようにしている。これにより、遊技者の遊技負担を低減すると共に、

視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙに対する注目力を向上させることができる。
【２００１４】
なお、上述の第１の演出用途例では、視認される視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙの有無によらず、各ラウンド遊技の終了時に第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２００１５】
例えば、視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙが視認されるように動作させる一方で、視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙが視認されない場合（表示されていない場合）には動作を実行しないようにしても良い。即ち、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されており、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されていない場合には、第１の演出制御例による動作のみを実行し、第２の演出制御例による動作は実行しないようにしても良い。
【２００１６】
この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第２の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されていないことを遊技者は把握でき、第２入賞口Ｋ６４０に入球していないことも把握できるので、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認して確認する必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２００１７】
また、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されている場合には、第１の演出制御例による動作を実行せず、第２の演出制御例による動作のみを実行させるようにしても良い。
【２００１８】
この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第１の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、ラウンド遊技中にも関わらず第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されていないという異常事態であることに遊技者が気付けるので、球の発射が実行されているか（球は供給されているか、球詰まりが生じていないか等）や、第２可変入賞装置Ｋ６５０は正常に作動しているのか等を確認するように促すことができる。
【２００１９】
また、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも表示されていない場合には、第１の演出制御例による動作も、第２の演出制御例による動作も実行せずに、ラウンド遊技を終了させるようにしても良い。
【２００２０】
この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできる（無くせる）ので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第１の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、ラウンド遊技中にも関わらず第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されていないという異常事態であることに遊技者が気付けるので、球の発射が実行されているか（球は供給されているか、球詰まりが生じていないか等）や、第２可変入賞装置Ｋ６５０は正常に作動しているのか等を確認するように促すことができる。
【２００２１】
また、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも表示されていない場合とは、そもそも遊技者が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに狙って遊技球を打ち出していない状況（遊技者が遊技をやめた状況や、遊技者が敢えて左打ちで球を発射させる変則打ちを行っている状況等）が想定されるので、この

ような状況にまで回転装飾部材Ｋ４５７８を回転させても、遊技者の注目力を集めることはできないことから、回転動作を実行させないようにしても良い。

【２００２２】

なお、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認される位置が、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の右方または左方の位置である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸の右方または左方の位置から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸を中心として上方に回転移動された上流側位置において第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認されるようにしても良いし、その上流側位置で視認された状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転に伴う視認窓部Ｋ４５７８ａの移動に伴い第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも回転移動するように構成しても良い。

【２００２３】

なお、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙの「△ＧＥＴ」の部分は、特別図柄の抽選が獲得できることを暗に示唆する意味合いのある報知である。そのため、例えば、入球による特別図柄の抽選が獲得できない状態（例えば、保留球数が満タンである状態）において第２入賞口Ｋ６４０に入球した場合には、特別図柄の抽選が獲得できないことと対応させて、「〇△ＧＥＴ」の代わりに「〇ＧＥＴ」との表示をするようにしても良い。

【２００２４】

図１７９７は、前層側可動装置Ｋ４４００の第１可動装置Ｋ４４０１の部分背面図である。図１７９７では、演出待機状態における長尺装置Ｋ５４０の外形（図１７６６参照）が想像線で図示される。

【２００２５】

図１７９７では、左側の上側部材Ｋ５３０は演出待機状態における配置から変化されず、右側の上側部材Ｋ５３０が移動範囲の最下端まで下降した状態が実線で図示される。即ち、右側の上側部材Ｋ５３０のみが、落下位置状態（図１７４１，図１７６１参照）における配置に位置している。

【２００２６】

図１７９７に想像線で図示される演出待機状態は、左右共に、上側部材Ｋ５３０の下方への変位が進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に規制されている状態であり（図１７５８参照）、図１７９７に実線で図示される状態は、右側の上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされ右側の上側部材Ｋ５３０のみが下方へ変位した状態である（図１７６１参照）。

【２００２７】

右側の上側部材Ｋ５３０の上下位置は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の配置次第で複数のバリエーションが生じ得る（図１７６１，１７６２，１７６３，１７６５参照）。従って、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の傾斜角度も複数のバリエーションが生じ得る。本実施形態では、左側の上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４を支点として、長尺装置Ｋ５４０の右側を回転動作の先端側とする変位を実行可能とされ、その変位に基づく長尺装置Ｋ５４０の姿勢の傾斜角度は何ら限定されるものではなく、（左右に沿う姿勢から約４５度未満で）任意の傾斜角度が可能とされる。

【２００２８】

長尺装置Ｋ５４０には、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作可能に支持されている。回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態における位置（左右両側共に進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に下方への変位が規制される位置）にあるか、右側の上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされ長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜した位置にあるかに関わらず、実行可能に構成される。

【２００２９】

図１７９７に実線で図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜された状態から、演出待機状態における位置として長尺装置Ｋ５４０の姿勢が左右方向に沿わされるまでの、上側回転部材Ｋ４７６の動作態様は、長尺装置Ｋ５４０の動作と連動されることを説明する。

【２００３０】
長尺装置Ｋ５４０を支持する上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０を介して、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４から押し上げ方向の荷重を受け得る（図１７６２参照）。伝達筒状部Ｋ４３４の配置は、回転部材Ｋ４３０の表面側の状態に対応する（図１７５０参照）。
【２００３１】
上側回転部材Ｋ４７６は、下側回転部材Ｋ４７１が回転部材Ｋ４３０の案内溝Ｋ４３６を介して受ける荷重により支持部Ｋ４１４を中心に回転動作（姿勢変化）されることにより、進入状態（図１７５９参照）と退避状態（図１７６０参照）とで変化される。案内溝Ｋ４３６の状態（位相）は、回転部材Ｋ４３０の裏面側の状態に対応する（図１７５０参照）。
【２００３２】
そのため、回転部材Ｋ４３０を介して、上側部材Ｋ５３０と上側回転部材Ｋ４７６とが連動され得る。即ち、図１７９７に図示される右側の上側部材Ｋ５３０が上昇方向に移動され、上側部材Ｋ５３０が上側回転部材Ｋ４７６に対応する上下高さ位置を通過することに基づいて（図１７６２参照）、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態から進入状態に変化される（図１７６３参照）。
【２００３３】
これにより、長尺装置Ｋ５４０の戻り動作が防止されることになり、長尺装置Ｋ５４０が左右に沿わされた姿勢に維持される。このようにして、長尺装置Ｋ５４０が、演出待機状態における位置に維持される。
【２００３４】
上側回転部材Ｋ４７６の進入状態への維持は、駆動力によるものではなく、回転部材Ｋ４３０の案内溝Ｋ４３６の形状的特徴から、下側回転部材Ｋ４７１の姿勢が維持されることによる。即ち、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が大径溝Ｋ４３６ａに維持されることによる。
【２００３５】
そのため、回転部材Ｋ４３０を駆動する駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図１７５０参照）の駆動力が解除された状態であっても、上側回転部材Ｋ４７６を進入状態で維持することができる。
【２００３６】
これにより、長尺装置Ｋ５４０を演出待機状態における位置に維持するための消費電力を低減させることができる。また、パチンコ機Ｋ４０１０の電源が遮断された場合（突然の停電や、店舗営業時間外の時）であっても、上側回転部材Ｋ４７６の状態を進入状態で維持することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の配置を演出待機状態の位置で安定させることができ、電源を遮断して行うメンテナンス作業を容易とすることができる。
【２００３７】
長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平線に対する傾斜角度は、図１７９７に図示される状態で最大となる（右第２傾斜姿勢）。この傾斜は、右が下になる傾斜のみならず、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が反転されることで、傾斜が左右逆の姿勢を構成することが可能である（左第２傾斜姿勢）。
【２００３８】
ここで、スライドラックＫ５４５が利用されることなく、長尺装置Ｋ５４０の左右いずれか（図１７９７における左側）の端部が回転軸部Ｋ５３４を軸に回転動作するのみである場合（例えば、スライドラックＫ５４５と本体部Ｋ５４１（図１７５３参照）とが一体成形される場合）、その回転軸部Ｋ５３４を中心とする長尺装置Ｋ５４０の回転動作により姿勢が傾斜することに伴い、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲の左右側終端（上述の回転軸部Ｋ５３４側終端）で、移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉する可能性がある。
【２００３９】

この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動幅が、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜していない場合と、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜している場合とで異なることから、演出効果を低下させる可能性がある。

【２００４０】

また、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図１７９７における右側）への移動装置Ｋ４５６０の移動終端位置は、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が大きくなるほど回転軸としての回転軸部Ｋ５３４側（図１７９７における左側）に寄ることからも、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を狭める原因となり得る。

【２００４１】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、図１７９７に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が傾斜される際に、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤＭだけスライドラックＫ５４５が左右外側へスライド移動される。これにより、移動装置Ｋ４５６０の役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置も調整される（回転軸部Ｋ５３４から離れる方向に変位する）。

【２００４２】

これにより、長尺装置Ｋ５４０が傾斜された状態に移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉することを避けることができるので、移動装置Ｋ４５６０を一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図１７４１参照）の領域からはみ出させることなく、十分な移動幅を確保することができる。

【２００４３】

加えて、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図１７９７における右側）への移動装置Ｋ４５６０の移動終端位置が回転先端側へ延ばされることからも、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を十分に確保することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の傾斜の大小に関わらず、演出領域の左右幅を大きく使った演出を構成可能とすることができる。

【２００４４】

図１７９８は、前層側可動装置Ｋ４４００の第１可動装置Ｋ４４０１の部分背面図である。図１７９８では、片側落下状態における長尺装置Ｋ５４０の外形（図１７６７参照）が想像線で図示される。

【２００４５】

図１７９８では、右側の上側部材Ｋ５３０は片側落下状態における配置から変化されず、左側の上側部材Ｋ５３０が移動範囲の最下端まで下降した状態が実線で図示される。即ち、左側の上側部材Ｋ５３０のみが、落下位置状態（図１７４１，図１７６１参照）における配置に位置している。

【２００４６】

図１７９８では、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平線に対する傾斜角度は、図１７９７に図示される状態よりも小さい（左第１傾斜姿勢）。この傾斜は、左が下になる傾斜のみならず、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が反転されることで、傾斜が左右逆の姿勢を構成することが可能である（右第１傾斜姿勢）。

【２００４７】

本実施形態では、上記各実施形態同様、右第１傾斜姿勢は、想像線で図示される片側落下状態における姿勢に他ならない。即ち、本実施形態では、左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置とでは、上下位置が異なる。

【２００４８】

なお、本実施形態では、上記各実施形態同様、切替装置Ｋ４６０が左右片側（本実施形態では右側）にのみ配置されることから（図１７４７参照）、図１７９８に図示されるように右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置との上下配置が異なるように構成されるが、必ずしもこれに限られるものでは無い。

【２００４９】

例えば、切替装置Ｋ４６０を左右両側に配置するように構成し、上側部材Ｋ５３０を左右いずれでも途中停止させられるものであれば、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置との上下位置を同じにすることは可能である。なお、切替装置Ｋ４６０を左側にのみ配置するよう構成すれば、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置の上下関係が、本実施形態における上下関係とは逆となる演出装置を構成することが可能となる。

【２００５０】

また、落下のように急速な変位を必要としない場合には、切替装置Ｋ４６０の有無に関わらず、上側部材Ｋ５３０の配置を片側落下状態における下側の配置（図１７９８に図示される右側（矢印Ｒ側）の上側部材Ｋ５３０の配置）にすることが、回転部材Ｋ４３０の回転制御により可能とされる（図１７６５参照）。

【２００５１】

そのため、左右一対の回転部材Ｋ４３０の制御の設定次第で、長尺装置Ｋ５４０の上下配置を異ならせることなく右第１傾斜姿勢にしたり左第１傾斜姿勢にしたりすることもできるし、長尺装置Ｋ５４０の上下配置を異ならせて右第１傾斜姿勢にしたり左第１傾斜姿勢にしたりすることもできる（図１７９８参照）。

【２００５２】

ここで、スライドラックＫ５４５が利用されることなく、長尺装置Ｋ５４０の左右いずれか（図１７９８に図示される右側（矢印Ｒ側））の端部が回転軸部Ｋ５３４を軸に回転動作するのみである場合（例えば、スライドラックＫ５４５と本体部Ｋ５４１（図１７５３参照）とが一体成形される場合）、その回転軸部Ｋ５３４を中心とする長尺装置Ｋ５４０の回転動作により姿勢が傾斜することに伴い、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲の左右側終端（上述の回転軸部Ｋ５３４側終端）で、移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉する可能性がある。

【２００５３】

この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動幅が、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜していない場合と、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜している場合とで異なることから、演出効果を低下させる可能性がある。

【２００５４】

また、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図１７９８に図示される左側（矢印Ｌ側））への移動装置Ｋ４５６０の移動終端位置は、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平に近づく程に回転先端側に寄ることからも、移動装置Ｋ４５６０が支持部材Ｋ４１０と干渉する可能性があり、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を狭める原因となり得る。

【２００５５】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、片側落下状態（図１７６７参照）から長尺装置Ｋ５４０が図１７９８に図示される状態に変化するまでの間にスライドラックＫ５４５がスライド変位する。即ち、まず長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢になるまでに、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂ（図１７６７参照）だけスライドラックＫ５４５が左右内側へスライド移動される。次に、長尺装置Ｋ５４０が図１７９８に図示される左第１傾斜姿勢になるまでに、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂ（図１７６７参照）だけスライドラックＫ５４５が左右外側へスライド移動される。

【２００５６】

これにより、移動装置Ｋ４５６０の役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置も調整される。即ち、役物移動幅ＫＳＤＦが、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平姿勢に近づく程、回転軸としての（図１７９８に図示される右側（矢印Ｒ側）の）回転軸部Ｋ５３４に近づく側に移動されるよう構成されている。

【２００５７】

これにより、長尺装置Ｋ５４０が傾斜された状態においては、移動装置Ｋ４５６０と支

持部材Ｋ４１０とを離すことができ、これらが干渉することを避けることができるので、移動装置Ｋ４５６０を一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図１７４１参照）の領域からはみ出させることなく、十分な移動幅を確保することができる。

【２００５８】

加えて、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平に近づく際に役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置を回転軸部Ｋ５３４に寄せることにより、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図１７９８に図示される左側（矢印Ｌ側））が、その回転先端側の支持部材Ｋ４１０に入り込むことを防止することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の傾斜の有無に関わらず、一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図１７４１参照））の領域の左右幅を大きく使った演出を構成可能とすることができる。

【２００５９】

本実施形態では、上記各実施形態と同様、移動装置Ｋ４５６０の配置は、回転駆動されるネジ軸Ｋ５５４とナットＫＮＴ６１（図１７５３及び図１７５５参照）とにより制御される。ネジ軸Ｋ５５４及びナットＫＮＴ６１はボールネジの構造を構成しているので、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜したとしても、自重で下降変位する（ネジ軸Ｋ５５４の延びる方向、即ち、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に変位する）ことは防止される。

【２００６０】

即ち、ネジ軸Ｋ５５４（図１７５３参照）が駆動モータＫＭＴ５１の駆動により回転されれば、移動装置Ｋ４５６０はネジ軸Ｋ５５４の延びる方向（長尺装置Ｋ５４０の長手方向）に変位される一方、ネジ軸Ｋ５５４が回転されることが無ければ、移動装置Ｋ４５６０の配置がネジ軸Ｋ５５４の延びる方向（長尺装置Ｋ５４０の長手方向）に対して変位することが防止される。

【２００６１】

図１７９９（ａ）から図１７９９（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図であり、図１８００は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図１７９９（ａ）では、長尺装置Ｋ５４０が右第１傾斜姿勢（図１７４６参照）とされた場合における視認態様の一例が図示され、図１７９９（ｂ）では、長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図１７９７参照）とされた場合における視認態様の一例が図示され、図１７９９（ｃ）では、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢とされた場合における視認態様の一例が図示される。なお、図１７９９の説明では、図１７２６を適宜参照する。

【２００６２】

図１７９９（ａ）に図示される状態は、第１可動装置Ｋ４４０１の第１の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第１の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が右第１傾斜姿勢となるように制御され（図１７６７参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端までスライド移動される（図１７９９（ａ）参照）。

【２００６３】

更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（反時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り（図１７６７参照）、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）へ戻るように右側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第１の動作パターンが完了される。

【２００６４】

図１７９９（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な矢印形状の第１背面表示Ｋ８１ａが複数表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０にはローマ字の「Ｖ」を意味する第１前面表示Ｋ４５８０ａが表示される（第１前面表示Ｋ４５８０ａは「Ｖを狙え」を意味する表示でも良い）。これに

より、遊技者に第１可変入賞装置Ｋ６５の第１特定入賞口Ｋ６５ａへ向けて遊技球を発射させ、特定領域Ｋ６５ｃ（図１７２６参照）の通過を狙わせるように報知することができる。

【２００６５】

なお、表示装置Ｋ４５８０の表示態様と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示態様とが連動するように構成しても良い。例えば、表示装置Ｋ４５８０に第１前面表示Ｋ４５８０ａが表示される状態で、特定領域Ｋ６５ｃに遊技球が入球することに基づいて、表示装置Ｋ４５８０における第１前面表示Ｋ４５８０ａは消えて、第３図柄表示装置Ｋ８１に「Ｖ」の表示が移動されるように構成しても良い（例えば、第１前面表示Ｋ４５８０ａが、表示装置Ｋ４５８０から第３図柄表示装置Ｋ８１に移動するように見えるように第３図柄表示装置Ｋ８１と表示装置Ｋ４５８０とで描画の設定をして、遊技者に視認させるようにしても良い）。

【２００６６】

上述の報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。

【２００６７】

即ち、第１可変入賞装置Ｋ６５（図１７２６参照）へ向けて遊技球を発射するように右打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）に沿って右方に通過した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。

【２００６８】

図１７９９（ａ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が右側へ移動されることにより、右打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも右側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。

【２００６９】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２００７０】

なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、反時計回りに反転するまでは時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。

【２００７１】

時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。

【２００７２】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、スルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を遊技球が通過したことを検出したことに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転開始されるようにすることで、回転装飾部材Ｋ４５７８の近傍を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転開始タイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【２００７３】
なお、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過する確率は、そのスルーゲートＫ６７の上流側の釘配置などの条件によるが、右打ちされた遊技球が全てスルーゲートＫ６７を通過する場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を遊技球が流下する場合に、もれなく回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させることができる。
【２００７４】
また、右打ちされた遊技球が全てはスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過するものではない（一部はスルーゲートＫ６７を外れ得る）場合であっても、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過した特定の時点を契機として、パチンコ機Ｋ４０１０の球発射間隔を空けて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させる（例えば、０．６秒間隔で回転動作させる）ことで、スルーゲートＫ６７を通過するか否かに関わらずスルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングに合わせて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させることができる。
【２００７５】
従って、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過する確率に関わらず、スルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるタイミングとをおおよそ合致させることができるので、遊技者は、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。
【２００７６】
遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃ（図１７２６参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃに注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃに入球したことを把握することができる。
【２００７７】
これにより、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃ（図１７２６参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃへ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。
【２００７８】
なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。
【２００７９】
図１７９９（ａ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が左方向へスライド移動するタイミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）の開放期間が終了するタイミングと対応させても良いし、特定領域Ｋ６５ｃ（図１７２６参照）を遊技球が通過するタイミングと対応させても良いし、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。
【２００８０】
特に、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）の開放期間が終了するタイミングと対応させる場合、移動装置Ｋ４５６０の動作態様を視認する遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が移動した場合に右打ちを終了すると無駄球を減少させられる可能性があることを報知する手段として移動装置Ｋ４５６０を機能させることができる。

【２００８１】
　また、この場合には、遊技球を右打ちしないタイミングに、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作されることになる。そのため、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りで回転動作する状況と、右打ちを継続する状況とを関連付けて把握している遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）の開放期間が終了した後にまで遊技球を右打ち発射しないようにさせるための報知を回転装飾部材Ｋ４５７８で実行することができる。
【２００８２】
　図１７９９（ｂ）に図示される状態は、図１７９９（ａ）に図示される状態よりも水平に対する長尺装置Ｋ５４０の傾斜角度が大きい状態であり、第１可動装置Ｋ４４０１の第２の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第２の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢となるように制御され（図１７９７参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端までスライド移動される（図１７９９（ｂ）参照）。
【２００８３】
　更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（反時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り（図１７９７参照）、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）へ戻るように右側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第２の動作パターンが完了される。
【２００８４】
　図１７９９（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に右第２傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な矢印形状の第２背面表示Ｋ８１ｂが複数表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０にローマ字の「Ｒ」を意味する第２前面表示Ｋ４５８０ｂが表示される。
【２００８５】
　図１７９９（ａ）に図示される状態よりも水平に対する長尺装置Ｋ５４０の傾斜角度が大きくされることで、図１７９９（ａ）に図示される状態よりも、遊技者の視線を斜め下方向（本実施形態では、左斜め下方向）に誘導することができる。これにより、遊技者に、第１特定入賞口Ｋ６５ａの左斜め下方向に位置する第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）へ向けて遊技球を発射させるように報知することができる。
【２００８６】
　この場合、表示装置Ｋ４５８０に描画される第２前面表示Ｋ４５８０ｂの「Ｒ」をラウンド遊技と対応付けることができるので、ラウンド数と対応付けて、第２前面表示Ｋ４５８０ｂを「Ｒ１」や「Ｒ５」等に表示を切り替えることで、表示装置Ｋ４５８０の表示により遊技の進行度合いを報知することができる。
【２００８７】
　また、第２特定入賞口Ｋ６５０ａと第２入賞口Ｋ６４０との配置関係から、図１７９９（ｂ）に図示される状態で、遊技者に第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）へ向けて遊技球を発射させるように報知することもできる。
【２００８８】
　この場合、表示装置Ｋ４５８０に描画される第２前面表示Ｋ４５８０ｂの「Ｒ」をラッシュ（確変遊技等）と対応付けることができるので、確変状態や時短状態の残り抽選回数と対応付けて「Ｒ１００」や「Ｒ２」等に第２前面表示Ｋ４５８０ｂを切り替えることで、表示装置Ｋ４５８０の表示により遊技の進行度合いを報知することができる。
【２００８９】
　上述の報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技

球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。
【２００９０】
即ち、第２入賞口Ｋ６４０又は第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）へ向けて遊技球を発射するように右打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）に沿って右方に通過した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。
【２００９１】
図１７９９（ｂ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が右側へ移動されることにより、右打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも右側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。
【２００９２】
これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２００９３】
なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、反時計回りに反転するまでは時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。
【２００９４】
時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。
【２００９５】
遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、スルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を遊技球が通過したことを検出したことに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転開始されるようにすることで、回転装飾部材Ｋ４５７８の近傍を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転開始タイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。
【２００９６】
なお、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過する確率は、そのスルーゲートＫ６７の上流側の釘配置などの条件によるが、右打ちされた遊技球が全てスルーゲートＫ６７を通過する場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を遊技球が流下する場合に、もれなく回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させることができる。
【２００９７】
また、右打ちされた遊技球が全てはスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過するものではない（一部はスルーゲートＫ６７を外れ得る）場合であっても、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過した特定の時点を契機として、パチンコ機Ｋ４０１０の球発射間隔を空けて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させる（例えば、０．６秒間隔で回転動作させる）ことで、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過したか否かに関わらずスルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングに合わせて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させることができる。
【２００９８】

従って、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）を通過する確率に関わらず、スルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるタイミングとをおおよそ合致させることができるので、遊技者は、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【２００９９】

なお、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａに注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球したことを把握することができる。

【２０１００】

これにより、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａへ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。

【２０１０１】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。

【２０１０２】

図１７９９（ｂ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が左方向へスライド移動するタイミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第２入賞口Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）に遊技球が入球し易い期間（時短中または確変中の期間）が終了するタイミングと対応させても良いし、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）が開放される期間（大当たり遊技におけるラウンド中の期間または大当たり遊技中の期間）が終了するタイミングと対応させても良いし、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。

【２０１０３】

特に、第２入賞口Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）に遊技球が入球し易い期間（時短中または確変中の期間）が終了するタイミングと対応させる場合、又は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）が開放される期間（大当たり遊技におけるラウンド中の期間または大当たり遊技中の期間）が終了するタイミングと対応させる場合、移動装置Ｋ４５６０の動作態様を視認する遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が移動した場合に右打ちを終了すると無駄球を減少させられる可能性があることを報知する手段として移動装置Ｋ４５６０を機能させることができる。

【２０１０４】

また、この場合には、遊技球を右打ちしないタイミングに、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作されることになる。そのため、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りで回転動作する状況と、遊技球が回転装飾部材Ｋ４５７８の上方位置を通り回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流れる状況（右打ちを継続する状況）とを関連付けて把握している遊技者に対して、第２入賞口Ｋ６４０ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の開放期間が終了した後にまで遊技球を右打ち発射しないようにさせるための報知を回転装飾部材Ｋ４５７８で実行することができる。

【２０１０５】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に、長尺装置Ｋ５４０の傾斜に対応した第１背面表示Ｋ８１ａや第２背面表示Ｋ８１ｂを表示する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域自体が傾斜したように遊技者に見得るように第３図柄表示装置Ｋ８１内の表示を構成しても良い。即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示を全体的に傾ける。これにより、あたかも長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜すると共に第３図柄表示装置Ｋ８１の姿勢も傾斜したかのように見せる演出を実行することができる。

【２０１０６】

なお、図１７９９（ａ）及び図１７９９（ｂ）についての上述の説明では、第１の動作パターンと第２の動作パターンとを独立した動作パターンとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、図１７９９（ａ）に図示される状態から、長尺装置Ｋ５４０が上昇されるのではなく、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される（図１７５７（ｂ）参照）ことにより更に落下され、図１７９９（ｂ）に図示される状態に変化し、その後で長尺装置Ｋ５４０の右側が上昇されることで演出待機状態（図１７６６参照）に戻るといった動作パターンを設定しても良い。

【２０１０７】

この動作パターンは、例えば、右打ち遊技における遊技の一組の流れが、遊技球を第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球させ、特定領域Ｋ６５ｃ（図１７２６参照）を通過させた後で、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に遊技球が入球し易くなる期間や、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）に遊技球が入球し易くなる期間が開始されるものである場合に、特に有効である。

【２０１０８】

この遊技の一組の流れとしては、例えば、特定領域Ｋ６５ｃに遊技球が入球することに基づいて特別遊技が開始され、第２特定入賞口Ｋ６５０ａが開放されるという遊技の流れや、特別遊技の期間の終了後に第２入賞口Ｋ６４０が開放されるという遊技（特別遊技の終了後に時短状態となる遊技）の流れ等が想定される。

【２０１０９】

この場合、上述の右打ち遊技における遊技の一組の流れでは、遊技球の入賞箇所としての注目箇所が変化（即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａ及び特定領域Ｋ６５ｃ近傍から第２特定入賞口Ｋ６５０ａ及び第２入賞口Ｋ６４０近傍へ変化）することになるが、この変化のタイミングで、図１７９９（ａ）の状態から図１７９９（ｂ）の状態に変化させるようにすれば、遊技者に対して注目箇所が変化したことをリアルタイムに報知することができる。これにより、遊技者が注目箇所の変化に対応できず、遊技球の入賞を見逃すという事態を避け易くすることができる。

【２０１１０】

図１７９９（ｃ）に図示される状態は、図１７９９（ｂ）に図示される状態と長尺装置Ｋ５４０の傾斜が左右対称である状態であり、第１可動装置Ｋ４４０１の第３の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第３の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢となるように制御され（図１７９９（ｃ）参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の左端までスライド移動される（図１７９９（ｃ）参照）。

【２０１１１】

更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７６６参照）へ戻るように左側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第３の動作パターンが完了される。

【２０１１２】

図１７９９（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に左右方向で左側を向く大

きな矢印形状の第３背面表示Ｋ８１ｃが一つ表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０には漢字の「左」を意味する第３前面表示Ｋ４５８０ｃが表示される。これにより、遊技者に、左打ちで遊技球を発射させるように報知することができる。

【２０１１３】

この報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、反時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。

【２０１１４】

即ち、遊技領域の左側に配置される一般入賞口Ｋ６３や第１入賞口Ｋ６４（図１７２６参照）へ向けて遊技球を発射するように左打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）に沿って左方に流下した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。

【２０１１５】

図１７９９（ｃ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が左側へ移動されることにより、左打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも左側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。

【２０１１６】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２０１１７】

なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、時計回りに反転するまでは反時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、反時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。

【２０１１８】

反時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。

【２０１１９】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合の一例について説明する。例えば、内レールＫ６１と外レールＫ６２との間を通過する遊技球を検出可能な検出装置を設けると共に、遊技領域に入球した遊技球が図１７９９（ｃ）に図示される状態における移動装置Ｋ４５６０の左方を通過するまでにかかる概略の必要流下期間を予め設定する。

【２０１２０】

この場合において、上述の検出装置により遊技球の通過が検出されてから、上述の必要流下期間だけ遅延させたタイミングで回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を開始させることで、遊技球が移動装置Ｋ４５６０の左方を通過するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作を開始するタイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【２０１２１】

また、遊技球の流下態様に対応させて回転動作の開始時期が設定される場合について、

例えば、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３（図１７２６参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３に注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３に入球したことを把握することができる。

【２０１２２】

これにより、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３（図１７２６参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３へ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。

【２０１２３】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。

【２０１２４】

図１７９９（ｃ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が右方向へスライド移動するタイミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第１入賞口Ｋ６４（図１７２６）に数球（１個でも良いし、複数個でも良い）の遊技球が入球したタイミングと対応させても良いし、第１入賞口Ｋ６４の保留が数個溜まったタイミングと対応させても良いし、アウト口７１（図１７２６参照）を数球の遊技球が通過したタイミングと対応させても良いし（この場合において、スルーゲートＫ６７で遊技球の通過が検出されないことを前提としても良いし、その前提を不要としても良い）、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。

【２０１２５】

なお、移動装置Ｋ４５６０がスライド移動する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転され、その回転方向がスライド移動の方向に対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作と移動装置Ｋ４５６０のスライド移動とは、独立した駆動装置により実行されるので、動作態様の対応関係は制御プログラム次第である。

【２０１２６】

例えば、図１７９９（ｃ）で図示した第３の動作パターンにおいて、演出待機状態に戻る途中動作として移動装置Ｋ４５６０が右方にスライド移動する場合における回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向を、反時計回り方向にしても良い（維持しても良い）。これにより、移動装置Ｋ４５６０を演出待機状態における配置（図１７６６参照）に戻す動作を実行しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向により、左打ち遊技を継続させるように遊技者に仕向けることができる。

【２０１２７】

また、例えば、図１７９９（ｃ）で図示した第３の動作パターンにおいて、演出待機状態に戻る途中動作として移動装置Ｋ４５６０が右方にスライド移動する場合における回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を、停止させても良い。これにより、移動装置Ｋ４５６０を演出待機状態における配置（図１７６６参照）に戻す動作を実行しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８の状態と、遊技球の流下方向との関係性を切断させるように演出することができる。

【２０１２８】

また、例えば、上述の回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を停止させる制御を、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０への入球に基づく特別図柄の抽選で大当たりが生じた場合

に実行可能に制御しても良い。特別図柄の抽選で大当たりが生じていれば、その大当たりの告知まで特別図柄の保留が減少しないので、保留が満タンとなった以降は遊技球をいくら第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０に入球させても特別図柄の抽選を得られず、無駄球が生じ易い状況が生じ得る。

【２０１２９】

そのため、遊技者は早急に球の発射を停止し、大当たりが告知されることを待つ方が得な場合が多い。即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が停止された状態と、回転装飾部材Ｋ４５７８の左右いずれにも遊技球が流下しない状態とを対応付けて報知することで、遊技者に遊技球の発射を停止するように仕向けることができる。

【２０１３０】

更には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が一度停止された状況において、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０に遊技球が入球された場合に、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を再開させるようにしても良い。これにより、遊技者の意図によらず発射が継続されている場合（例えば、操作ハンドルＨ５１（図１７１５及び図１７２５参照）の回動位置は戻しておらず発射停止スイッチＨ５１ｂ（図１７１５参照）で球の発射を停止させる操作をしている場合に、発射停止スイッチＨ５１ｂの押し込みが甘い場合）であっても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を遊技者に視認させることで、発射が継続されていることを遊技者に気づかせることができる。これに気付いた遊技者は、操作の改良をする（例えば、発射停止スイッチＨ５１ｂを強く押し込む）ことで、球の発射を停止させることで、無駄球の発射個数を抑えることができる。

【２０１３１】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の左右いずれにも遊技球を流下させることなく、演出に注視し、大当たりの告知のタイミングを待つように遊技者に仕向けることができる。そのため、遊技者は、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が停止していることを確認できれば、遊技球の発射を停止することにより無駄球を低減させることができることに加え、大当たりが得られることを把握することができる。従って、回転装飾部材Ｋ４５７８への遊技者の注目力を向上させることができる。

【２０１３２】

なお、図１７９９（ａ）から図１７９９（ｃ）に図示した表示態様は例示であり、何ら限定されるものではない。例えば、図１７９９（ｂ）で図示される第２背面表示Ｋ８１ｂの矢印を、左右反転させたうえで、図１７９９（ｃ）に図示される状態における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に採用しても良いし、図１７９９（ｃ）で図示される第３背面表示Ｋ８１ｃの矢印を、左右反転させたうえで、図１７９９（ａ）又は図１７９９（ｂ）に図示される状態における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に採用しても良い。

【２０１３３】

また、図１７９９（ａ）から図１７９９（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１において、矢印が下降傾斜する姿勢で表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、矢印が上昇傾斜する姿勢で表示されるようにしても良い。

【２０１３４】

この表示（例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂの上下を反転した形状の表示）を図１７９９（ｃ）に図示される左第２傾斜姿勢で採用することで、正面枠Ｋ１４の表示ランプＫ９００の一部として右上隅に配設される右上ランプＫ９４０へ向けた矢印として視認させることができる。

【２０１３５】

右上ランプＫ９４０は、例えば、通常は消灯されているが、特別図柄の抽選が大当たりとなった場合等の遊技者にとって利益となる事象が生じた場合や、球の払い出しが生じている場合等に基づいて点灯または点滅するよう制御される。そのため、遊技者にとって興味関心の大きな発光部であるが、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に注目力が集中する通常の遊技態様では、視界に収まりにくいほど外側の位置（正面枠Ｋ１４の右上隅）に配置されているので、きっかけが無ければ、右上ランプＫ９４０が点灯または点滅したこと

に遊技者が気づけない可能性がある。
【２０１３６】
これに対し、右上ランプＫ９４０が点灯または点滅するタイミングに合わせて、上述の表示（例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂの上下を反転した形状の表示）を図１７９９（ｃ）に図示される左第２傾斜姿勢で採用することで、第３図柄表示装置Ｋ８１における表示により、正面枠Ｋ１４に配設される右上ランプＫ９４０へ向けて遊技者の視線を誘導することができる。
【２０１３７】
これにより、遊技者の視線を第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも外方であって、正面枠Ｋ１４に配設される右上ランプＫ９４０に誘導することができるので、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を遊技者が見続ける場合に比較して、遊技者の目の疲労を低減させることができる。
【２０１３８】
この場合、遊技者の視界を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域および遊技領域の一部が収まる程度の狭い範囲から、正面枠Ｋ１４も含めた範囲まで広げさせるように仕向けることで、遊技者の目の位置を後退させることができる。これにより、遊技者の目の疲労を低減することができる。
【２０１３９】
なお、右上ランプＫ９４０に視線誘導するための表示を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の前方に収める必要はない。例えば、上側装飾部材Ｋ３３０の内部に配置されるＬＥＤの内、右上ランプＫ９４０から離れた側のＬＥＤから右上ランプＫ９４０に近い側のＬＥＤの順番でＬＥＤを光らせることで光の筋（帯）を形成し、右上ランプＫ９４０側に視線を誘導するようにしても良い。
【２０１４０】
また同様の発光のさせ方を、遊技領域の後方から前方へ向けて光を照射するＬＥＤや、ガラスユニットＨ１６の外方に配置される表示ランプＫ９００において実行させるようにしても良い。これにより、右上ランプＫ９４０への視線誘導を広い範囲で行うことができる。
【２０１４１】
なお、演出効果の観点から、長尺装置Ｋ５４０の移動時に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作している場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転していない状態で長尺装置Ｋ５４０の移動を実行させても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の落下時に回転装飾部材Ｋ４５７８が破損するという事態を避け易くすることができる。
【２０１４２】
また、回転装飾部材Ｋ４５７８の停止中における移動装置Ｋ４５６０のスライド移動を可能に構成しても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動にバリエーションを持たせることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。
【２０１４３】
また、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転駆動制御の設定は、上述したものに限られるものではない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示や、移動装置Ｋ４５６０の移動方向に関わらず、電源投入から一定の方向の回転が継続されるように制御してもいいし、等間隔で回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転されるように制御しても良い。
【２０１４４】
また、遊技球の流下に対応して回転装飾部材Ｋ４５７８が回転されるように構成しても良い。この場合、遊技球が特定の範囲を流下した場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転するように構成することで、遊技者は、回転装飾部材Ｋ４５７８を視認したままで、遊技球が特定の範囲を流下したことを把握することができるので、遊技負担の軽減を図ることができる。

【２０１４５】
なお、遊技球が特定の範囲を流下した場合の検出は、遊技球の通過を検出するためのセンサを設けても良いし、特定の範囲を流下する遊技球からの荷重により、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が生じるように構成されても良い。後者の場合において、遊技球の重さが伝達されることで回転装飾部材Ｋ４５７８の回転力が生じるように構成しても良いし、遊技球の荷重により回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を規制するためのロックが解除され、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が許容される構成でも良い。
【２０１４６】
特に、四角形状の回転装飾部材Ｋ４５７８の外形には、回転軸から遠い部分と、近い部分とが形成されていることから、引っかかりとなり、荷重を回転方向に伝達させ易くすることができる。
【２０１４７】
また、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）における遊技球の通過が検出されることに基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示領域が発光したり、スピーカー等の音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声が出力されたりするように制御しても良い。
【２０１４８】
表示装置Ｋ４５８０の表示領域が発光される場合において、その発光態様の設定については何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の何れで遊技球の通過が検出されたかに関わらず表示装置Ｋ４５８０の表示領域の全範囲を発光させるようにしても良いし、発光を入賞位置に対応させたものに設定しても良い。
【２０１４９】
前者の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光に気付いた遊技者は、その発光態様のみからでは、遊技球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）のどこを通過したのかを把握することができないので、遊技者の注目力を入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの配置位置側へ移させることができる。これにより、遊技者の目線を表示装置Ｋ４５８０の表示領域から遊技領域側へ誘導させることができる。
【２０１５０】
後者の場合、例えば、比較的右側に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）で遊技球の通過が検出された場合には表示装置Ｋ４５８０の表示領域の右側部を発光させる一方、第１特定入賞口Ｋ６５ａよりも左側に配置される第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）で遊技球の通過が検出された場合には表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左側部を発光させるようにしても良い。この場合、表示装置Ｋ４５８０の発光態様（発光範囲）を視認した遊技者に対して、遊技球がどこを通過したのかを予想させ易くさせることができる。
【２０１５１】
なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）を通過する遊技球を一律に扱っても良いし、又は、遊技球を区別して扱い、その区別に対応して発光の有無および音声出力の有無を切り替えるようにしても良い。
【２０１５２】
例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）を通過する遊技球を、特別遊技状態におけるラウンド遊技の規定個数（本実施形態では１０個）に収まる遊技球か、それを超えて通過する遊技球（オーバー入賞の遊技球）かで区別可能に構成しても良い。
【２０１５３】
この場合において、規定個数に収まる遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させない一方、規定個数を超えた遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力

させるように制御しても良い。
【２０１５４】
この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させた場合に、規定個数を超えた遊技球の通過が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）において生じることに伴う賞球の払い出しが得られることを同時に把握させることができるので、遊技の興趣の向上を図ることができる。
【２０１５５】
または、規定個数に収まる遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させる一方、規定個数を超えた遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させないように制御しても良い。
【２０１５６】
この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させたとしても、規定個数を超えた遊技球の通過が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）において生じているか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。そのため、オーバー入賞球の発生により、特別遊技状態で払い出される賞球にばらつきが生じる場合であっても、そのばらつきが遊技者に気付かれ難くすることができ、遊技者の不満が蓄積される事態を避け易くすることができる。
【２０１５７】
例えば、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）を通過する遊技球を、第２入賞口Ｋ６４０の入賞により抽選される第１図柄（例えば、特別図柄２）の保留球数に空きがある場合に通過した遊技球か、特別図柄２の保留球数が満タンである場合に通過した遊技球（オーバーフローの遊技球）かで区別可能に構成しても良い。
【２０１５８】
この場合において、特別図柄２の保留球数が満タンである場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させない一方、特別図柄２の保留球数に空きがある場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させるように制御しても良い。
【２０１５９】
この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させることで、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）の遊技球の通過により特別図柄２の抽選を得られたことを遊技者に把握させることができる。
【２０１６０】
または、特別図柄２の保留球数が満タンである場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させる一方、特別図柄２の保留球数に空きがある場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から入賞用の音声を出力させないように制御しても良い。
【２０１６１】
この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させることで、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）を遊技球が通過したにも関わらず特別図柄２の抽選が得られていないことを遊技者に把握させることができる。
【２０１６２】
この場合、遊技者に対して、このまま球の発射を継続するか（球の発射を継続しておけ

ば特別図柄２の保留球数に空きが出るや否や第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）に入球を生じさせて特別図柄２の抽選を得られる可能性があるので遊技の迅速さが高まる一方でアウト球の個数が多くなり易い）、特別図柄２の保留球数に空きが出るまで球の発射を一時中断するか（球の発射を停止すればアウト球は発生しなくなるが入球間隔は長くなる可能性が高く遊技の迅速さは低下し易い）の、遊技態様の選択に役立つ情報を提供することができ、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【２０１６３】

なお、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光と、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力とは、必ずしもセットで生じさせる必要はない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光は生じるが音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力は生じない場合や、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光は生じずに音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力のみが生じる場合等が設定されても良い。

【２０１６４】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の通過により表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光と、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力がされる場合に限られるものではない。例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの通過により、対応するＬＥＤが発光されるようにしても良い。

【２０１６５】

即ち、例えば、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に遊技球が入球した場合に、その後方から光を照射する発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）から光が照射されるようにしても良い。これにより、明るく視認される箇所と、遊技球の入球箇所とを対応づけることができるので、遊技者は、明るく視認される箇所から、入球により得られる利益を予想し易くなる。

【２０１６６】

また、表示装置Ｋ４５８０の表示と明るくされる入賞ユニットＫ２００とが近づけられている場合（図１７９９（ｂ）参照）、表示装置Ｋ４５８０における表示と入賞ユニットＫ２００の前側における意匠（「Ｅ」の記号）とを一連で視認させることができる。これにより、表示装置Ｋ４５８０だけで視認される態様とも、入賞ユニットＫ２００だけで視認される態様とも異なる態様で視認させることができるので、演出のバリエーションを増加させることができる。

【２０１６７】

なお、上述のように、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力のタイミングが、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）を遊技球が通過した場合に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。

【２０１６８】

例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図１７３１参照））の何れかが、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させることができる開放状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力される一方、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させ難くする閉鎖状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力されないように制御しても良い。

【２０１６９】

この場合、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様を確認させることで、

遊技球を右打ちで発射させる期間と、遊技球の打ち出しを停止させる期間とを、判別させ易くすることができる。

【２０１７０】

即ち、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力された場合に、遊技球を発射する一方で、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力されない場合に、遊技球の発射を停止させることで、発射された球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）のいずれにも入球せず遊技領域から排出されるという事態が生じる可能性を低くすることができ、遊技における無駄球の個数を削減させることができる。

【２０１７１】

または、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図１７３１参照））の何れかが、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させることができる開放状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力されない一方、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させ難くする閉鎖状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から特定の音声が出力されるように制御しても良い。

【２０１７２】

この場合であっても、発光の有無や音声の出力の有無と、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の何れかへの入球とを関連づけることができるので、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様を確認させることで、遊技球を右打ちで発射させる期間と、遊技球の打ち出しを停止させる期間とを、判別させ易くすることができる。

【２０１７３】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１７２６参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図１７３１参照））の何れかが、現在、開放状態か閉鎖状態かに関連して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様を切り替える制御に限らず、種々の制御態様が例示される。なお、音声の出力態様の切り替えとは、音の発生は継続している上で変化を生じさせることでも良いし、音が発生される状態と消音される状態（ミュート）との変化でも良い。

【２０１７４】

例えば、開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様を切り替えるように制御しても良い。

【２０１７５】

この場合において、例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の上流側に配置される開閉板が閉鎖状態から開放状態に切り替えられる数秒前に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるようにしても良い。

【２０１７６】

この場合、その切り替え時点を遊技球の発射開始の目安とすることで、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）が開放状態となってから球を発射する場合に生じ易い、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放状態となってからの一球目の遊技球の入賞タイミングが、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに到達するま

での移動時間（タイムラグ）分だけ遅れるという事態を解消することができる。
【２０１７７】
特に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるタイミングを、開閉板が閉鎖状態から開放状態に切り替えられる時点よりも、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に到達するまでの移動時間（タイムラグ）分だけ前の時点とすることで、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに到達する直前に、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板が開放状態に切り替えられる状況を生じさせることができることから、遊技をスムーズに進行させることができる。
【２０１７８】
また、例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の上流側に配置される開閉板が開放状態から閉鎖状態に切り替えられる数秒前に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるようにしても良い。
【２０１７９】
この場合、その切り替え時点を遊技球の発射停止の目安とすることで、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）が閉鎖状態となってから球の発射を停止する場合には防ぐことのできない、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの何れもが閉鎖状態となっているにも関わらず、既に発射してしまっている球が第３図柄表示装置Ｋ８１の右側を流下し、何れの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａにも入球せずにアウト口Ｋ７１（図１７２６参照）から排出されるという事態を解消することができる。
【２０１８０】
特に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるタイミングを、開閉板が開放状態から閉鎖状態に切り替えられる時点よりも、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に到達するまでの移動時間（タイムラグ）分だけ前の時点とすることで、その時点で球の発射を停止すれば、その前に発射された球については入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放状態の時に到達させることができることから、無駄球の低減を図ることができる。
【２０１８１】
なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）を特定せず、いずれかの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放された場合に報知を行うようにしても良いし、開放された入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに対応した報知を行っても良い。例えば、開放された入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに対応するＬＥＤが発光されるようにしても良い。
【２０１８２】
即ち、例えば、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）が開放された場合に、その後方から光を照射する発光部Ｋ２１２（図１７２９参照）から光が照射されるようにしても良い。これにより、明るく視認される箇所と、遊技球の入球可能箇所とを対応づけることができるので、遊技者は、明るく視認される箇所から、入球により得られる利益を予想し易くなる。
【２０１８３】
図１８０１を参照して、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）の上流側に配置される開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの特定の音声の出力態様を切り替えるように制御される第３の演出制御例について説明する。なお、以下では便宜的に、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点からの演出態様について説明するが、同様の演出を、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａでも適用させることは可能である。

【２０１８４】
図１８０１（ａ）及び図１８０１（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の部分正面図である。図１８０１（ａ）及び図１８０１（ｂ）では、第３の演出制御例が実行される場合における、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板Ｋ６５ｂ（図１７２６参照）が開放状態に変化される数秒前における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域内における変化が時系列で図示される。
【２０１８５】
即ち、図１８０１（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域にサイズが縮小されたパチンコ機Ｋ４０１０の正面図Ｋ４０１０Ｆが表示され、図１８０１（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも手前側の層において長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図１７９７参照）に変化された後、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図１７５４参照）により検出された状態が図示される。
【２０１８６】
この場合において、移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の環形状が所謂虫眼鏡のレンズ枠に見立てられ、表示装置Ｋ４５８０には、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０の正面図Ｋ４０１０Ｆにおける第１可変入賞装置Ｋ６５（図１７２６参照）付近の拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される。
【２０１８７】
表示装置Ｋ４５８０の表示は、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０との位置関係に合わせて変化されるように制御されており、図１８０１（ｂ）の位置では、第１可変入賞装置Ｋ６５（図１７２６参照）付近の拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される。
【２０１８８】
このように、表示装置Ｋ４５８０の表示が、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０の全体から一部に寄っていくように変化されることで、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される正面図Ｋ４０１０Ｆと、表示装置Ｋ４５８０に表示される拡大正面図Ｋ６５Ｆとを一連で視認させ易くすることができ、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示がパチンコ機Ｋ４０１０の一部を意味することを理解させ易くすることができる。
【２０１８９】
これにより、表示装置Ｋ４５８０の表示が何を意味しているのか、又は、表示装置Ｋ４５８０の表示がパチンコ機Ｋ４０１０を意味していることが理解できても表示がパチンコ機Ｋ４０１０のどの部分を意味しているかについて、遊技者が理解できないために、表示装置Ｋ４５８０の表示が意味をなさなくなるという事態の発生を回避し易くすることができる。
【２０１９０】
更に、第３図柄表示装置Ｋ８１に正面図Ｋ４０１０Ｆが表示される前後位置よりも、拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される前後位置の方が前側（遊技者側）とされることで、パチンコ機Ｋ４０１０の全体から、一部に変化される際に、表示が遊技者側に近づいてきているように、遊技者に錯覚させることができる。これにより、臨場感のある表示演出を構成することができる。
【２０１９１】
図１８０１（ｂ）に図示される状態において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、長尺装置Ｋ５４０の右上側の範囲において、表示装置Ｋ４５８０に向かう矢印と「狙え」との文字が表示され、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からは「ここを狙って球を打ち出せ」との音声が出力される。
【２０１９２】
これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板Ｋ６５ｂ（図１７２６参照）が開放状態に変化される前から、遊技球をどこに向かって発射すれば良いのか、どのタイミングで発射すれば良いのかを遊技者に把握させ易くなるため、遊技者の遊技負担を低減させること

ができる。以降、第３の演出制御例について続けて説明する。
【２０１９３】
第３の演出制御例では、図１８０１（ｂ）の表示に基づいて遊技者が右打ちで球を発射し、その球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）に入球されると（１球目の入球検出に基づいて）、表示装置Ｋ４５８０の表示が、上述したように右向きの矢印の模様（図１８００参照）に切り替えられ、第３図柄表示装置Ｋ８１における正面図Ｋ４０１０Ｆの表示が消される。代わりに、第３図柄表示装置Ｋ８１では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に、「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示（他に、「ポイントＧＥＴ」や、コインの表示等でも良い）が表示される。
【２０１９４】
第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に表示装置Ｋ４５８０に矢印形状（図１８００参照）が表示され、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作されるが、その表示態様および回転動作態様が一定ではなく、変化し得るように制御される。
【２０１９５】
即ち、第３の演出制御例では、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に比較して、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、同じか、それ以上となるように制御される。
【２０１９６】
これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）に入球される球数が多くなるほど、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が大きくなり易い状況を構成することができる。更に、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示の表示数が多くなるため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と数字表示の表示（数）とを一連で視認させることができる。
【２０１９７】
従って、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球個数と、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応付けて把握することができる。この場合、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度から、払い出される賞球個数の多少を予想し易くすることができるので、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。
【２０１９８】
なお、第３の演出制御例において、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に対する、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化量（速度上昇量）は、毎回同じでも良いし、異なるようにしても良い。
【２０１９９】
例えば、矢印形状（図１８００参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、先の遊技球の入球に基づく矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第１段階だった場合に、その後の遊技球の入球に基づく矢印形状の大きさ及びおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第２段階に変化するパターンのみならず、第３～５段階に変化するパターンをも実行可能に構成しても良い。
【２０２００】
この場合に、例えば、表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさが変化しきる前に、次の球が入球した（短時間で２球連続入球した）場合に矢印形状の大きさ及び回転装

飾部材Ｋ４５７８の回転速度が一段階増加し、更に次の球に基づいて表示される矢印形状の大きさが変化しきる前に更に次の球が入球した（短時間で３球連続入球した）場合に矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が二段階増加するように構成しても良い。この場合、矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化態様から、高頻度の入球が生じたことを遊技者に把握させることができる。

【２０２０１】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球されず、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１の上面を左方へ流されることで第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されなかった球が、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７３１参照）に入球した場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【２０２０２】

右側の球案内部Ｋ２１０（図１７３１参照）がアウトロＫ７１（図１７２６参照）と同様の機能を備える一方で、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７３１参照）は一般入賞口Ｋ６３（図１７２６参照）と同様の機能を備えており、入球に基づき賞球の払い出しが行われる。即ち、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７３１参照）への入球と同様、一般入賞口Ｋ６３に入球した場合にも、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される。

【２０２０３】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）に入球せずに下流に流れた球の存在に気付かせることができるので、開閉板Ｋ６５ｂが閉鎖状態の時に球の発射をしていないか、球の発射強度は適切か、といった、操作ハンドルＨ５１（図１７２５参照）の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【２０２０４】

即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）に発射球の全てが入球される状況下では、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えは生じずに図１８０１（ｂ）に図示される状態が維持され、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作も生じない一方で、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の一部が入球されない状況下においては、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えを生じ、回転装飾部材Ｋ４５７８も回転動作される。

【２０２０５】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２０２０６】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７３１参照）への入球では表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を生じさせず、一般入賞口Ｋ６３（図１７２６参照）への入球に基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【２０２０７】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）側、即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側を右方へ案内されずに、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側へ案内され流れた球の存在に気付かせることができるので、球の発射強度が弱くなっていないか、といった、

操作ハンドルＨ５１（図１７２５参照）の操作の見直しを遊技者に促すことができる。
【２０２０８】
即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が右方に流下し続ける状況が維持される時には表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行されることはなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が一つでも左方に流下する場合に表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行され得る。
【２０２０９】
そのため、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行された場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が左方に流下する程度に、発射強度が弱まっている証拠になるので、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、操作ハンドルＨ５１（図１７２５参照）の操作強度を見直させるよう促すことができる。
【２０２１０】
これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）に適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【２０２１１】
なお、上述の第３の演出制御例では、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が、遊技球の入球に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示または回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の少なくとも一方が、遊技球の入球に因らず発生するようにしても良い。
【２０２１２】
この場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、操作ボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作（押し込み、連打、長押し等）に基づいて増加可能に構成されても良い。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、操作ボタンＨ１８１の操作によりどの段階まで増加するのか（増加上限）と、遊技者が得られる利益の期待値（大当たり遊技における払い出し賞球個数の多少（獲得した大当たりのラウンド数の多少）、特図抽選の大当たり期待度など）とを対応させることにより、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作意欲を向上させることができる。
【２０２１３】
なお、上述した増加上限の設定を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じる場合の、矢印形状（図１８００参照）の大きさや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の増加上限に適用しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０や回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。
【２０２１４】
上述した第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図１８００参照）の大きさや、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が変化され得る（増加され得る）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上述の大きさや回転速度が減少され得るように制御しても良いし、増加と減少との両方の変化が可能とされるように制御しても良い。
【２０２１５】
また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される色彩や、回転装飾部材Ｋ４５７８を発光させる電極基板Ｋ５６４（図１７５５参照）のＬＥＤからの発光色の変化が生じるようにしても良い。即ち、色彩の変化に段階（例えば、初めは青色で発光されていたものが、青の次が緑色の発光、緑色の次が紫色の発光、紫色の次が赤色の発光、赤色の次が虹色

の発光と、変化する順番）が設けられ、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０で表示される色彩が変化されるように制御しても良い。

【２０２１６】

この場合、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０で表示される内容や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度といった、一瞬での認識が困難となる可能性がある情報よりも、容易に一瞬で認識できる色彩という情報により、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１７２６参照）への入球態様に基づく情報を得ることができるので、遊技者の遊技負担を軽減させることができる。

【２０２１７】

なお、入球により、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えが生じる入球口として、上流側に開閉板のある入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）を例に説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板の無い、第１入賞口Ｋ６４、一般入賞口Ｋ６３、スルーゲートＫ６７、アウト口Ｋ７１等（図１７２６参照）でも良い。

【２０２１８】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えの態様から、対応する入賞口への入球頻度（通過頻度）を遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者に対して遊技を継続するか否かの判断に有用な情報を提供することができる。

【２０２１９】

また、入球に基づいて光が照射される位置は、必ずしも表示装置Ｋ４５８０の表示領域に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、対応する入賞口の上流側の位置（遊技領域内の位置）でも良いし、対応する入賞口に案内される球が貯留され得る（一時滞留され得る）位置（例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａよりも上流側であり開閉板Ｋ６５ｂよりも下流側の位置や、第２入賞口Ｋ６４０よりも上流側であり電動役物Ｋ６４０ａ上方の位置や、第２特定入賞口Ｋ６５０ａよりも上流側であり可動板Ｋ２５１よりも下流側の位置（図１７２６，図１７３１参照））でも良い。この場合、対応する入賞口に未だ入球していない球が配置され得る位置が明るく照らされることにより、遊技球に対する視界を明るくすることができ、遊技球の視認性を向上させることができる。

【２０２２０】

この場合において、上述した表示装置Ｋ４５８０で実行される発光制御を、上述の対応する入賞口の上流側の位置や、対応する入賞口に案内される球が貯留され得る位置に光を照射する装置でも実行可能に構成される場合、発光制御を実行する位置を、表示装置Ｋ４５８０か、その他の位置かで状況に応じて切り替えることで、遊技者に注目させる位置を切り替えさせることができる。

【２０２２１】

上述のように、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）への入球により、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えが生じることで、入球したことを遊技者に把握させることが可能となる。

【２０２２２】

一方で、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に遊技球がこれから入球する可能性があることを報知することによっても、遊技者の期待感を高めることができる。以下では、遊技球がこれから入球し得ることを報知する報知態様の一例について説明する。

【２０２２３】

図１８０２は、図１７２６のＭＤＣＣＸＸＸＩ部に対応する範囲における遊技盤Ｋ１３の部分拡大正面図である。図１８０２では、入賞ユニットＫ２００が図示されており、化

粧カバーＫ２２０の内部形状が想像線で図示され、電飾基板Ｋ２１１，Ｋ２２７の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８が、隠れ線で図示される（図１７２９及び図１７３０参照）。

【２０２２４】

発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８はＬＥＤから形成されており、正面側へ光軸が向けられる。即ち、化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１に対して照射される光は、図１８０２で図示される発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８の配置を中心とする略円形の範囲において、その中心から離れるほど光量が落ちるような視認態様で視認される。

【２０２２５】

光が視認される範囲（円の直径）は、採用するＬＥＤ次第であるが、本実施形態では、隣り合う円の直径同士が外接する程度の関係となるように発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８を構成する。なお、円の直径が、隣の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８と重なるほど広いと淡く弱い光で視認され易く、円の直径が、隣の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８には届かない程度の大きさとすると中心部は強力な光となるが各個独立した光として視認され易い。ＬＥＤの採用時には、これらのバランスを考えて、演出効果の観点から選択するようにすれば良い。

【２０２２６】

本実施形態では、上記各実施形態と同様に、化粧カバーＫ２２０に大形意匠Ｋ２２１ａ及び小形意匠Ｋ２２１ｂ（図１７２９参照）が施されている分、意匠による演出効果を高めることができる一方で、化粧カバーＫ２２０の背面側を流下する遊技球の視認性が低下する可能性がある。

【２０２２７】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態と同様に、球の流下経路よりも背面側から化粧カバーＫ２２０側（正面側）へ向けて照射される光により、遊技球がどこへ向かって流下しているのかを遊技者に把握させることができるように構成される。

【２０２２８】

まず、球の流下態様の種類について説明する。遊技領域の右側を流下して第１可変入賞装置Ｋ６５（図１７２６参照）側から入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球は、まず第１流下態様ＫＦＬ５１で流下する。

【２０２２９】

第１流下態様ＫＦＬ５１で流下した遊技球は、分岐形成部Ｋ２２３に到達し、左右方向に分岐される。分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が左側へ流れた場合に、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態で維持される場合（図１７３４参照）、遊技球は第２流下態様ＫＦＬ５２で流下する。第２流下態様ＫＦＬ５２で流下した遊技球は、案内開口Ｋ２０３を通過し、第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）に入球する。

【２０２３０】

分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が左側へ流れた場合に、遊技球が通過しきる前に電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態に変化されると（図１７３３参照）、遊技球は第３流下態様ＫＦＬ５３で流下する。第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した遊技球は、減速凹部Ｋ２０７の正面側に到達する。

【２０２３１】

分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が右側へ流れた場合において、延設形成部Ｋ２２２の一部であって球案内部Ｋ２１０に連結される排出延設部Ｋ２２２ａから逸れた場合、遊技球は第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する。第４流下態様ＫＦＬ５４で流下した遊技球は、可動板Ｋ２５１に上流側端部から到達するように流れ、第３流下態様ＫＦＬ５３と合流し得る。

【２０２３２】

分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が右側へ流れた場合において、延設形成部Ｋ２２２の一部であって球案内部Ｋ２１０に連結される排出延設部Ｋ２２２ａに導入された場合、遊技球は第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する。第５流下態様ＫＦＬ５５で流下した遊技球は、右側の球案内部Ｋ２１０を通り遊技領域から排出される。

【２０２３３】

第３流下態様ＫＦＬ５３又は第４流下態様ＫＦＬ５４で遊技球が流下している場合に、可動板Ｋ２５１が閉鎖状態で維持されると（図１７３３参照）、球は第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する。第６流下態様ＫＦＬ５６で流下した遊技球は、入賞ユニットＫ２００の左側から遊技領域へ排出される。

【２０２３４】

第３流下態様ＫＦＬ５３又は第４流下態様ＫＦＬ５４で遊技球が流下している場合に、可動板Ｋ２５１が開放状態にされると（図１７３５及び図１７３６参照）、球は第７流下態様ＫＦＬ５７で流下する。第７流下態様ＫＦＬ５７で流下した遊技球は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球する。

【２０２３５】

上述のように、入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球の流下態様には複数のバリエーションがあるので、各バリエーションに対応させるものとして、遊技球の流下範囲の後方に複数の発光部Ｋ２１２（各発光部Ｋ２１２ａ～Ｋ２１２ｗ）が配置される。

【２０２３６】

発光部Ｋ２１２からの光は、その前方（光照射方向）に球が位置する場合には球により部分的に遮られる一方、前方に球が位置しない場合には化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１に投影される。

【２０２３７】

本実施形態では、球に当接して影響を与える凹凸形状の構成をベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２の前面側に集めて、板状本体Ｋ２２１の後面は大部分が平滑面となるように構成している。

【２０２３８】

これにより、板状本体Ｋ２２１に投影された光が凹凸形状により屈折する部分を狭めることができ、板状本体Ｋ２２１に投影された光を最大限に広い範囲で視認させることができる。更に、板状本体Ｋ２２１の板厚のばらつきを抑えることで、化粧カバーＫ２２０の明るさをほぼ均一にすることができる。

【２０２３９】

また、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する遊技球を可動板Ｋ２５１へ案内する位置において後方へ向かうほど下降傾斜する形状で形成される傾斜面部Ｋ２２９（図１７３０参照）が形成されている。

【２０２４０】

傾斜面部Ｋ２２９は、流下中の球の前後配置を後方側寄りに修正することで、その下流側における流下態様を調整し易くできる。即ち、可動板Ｋ２５１の上面を球が流下し始める当初から減速凹部Ｋ２０７側に球を寄せることで、十分な減速作用を生じさせることができる。

【２０２４１】

また、可動板Ｋ２５１が開放状態とされていた場合（図１７３５及び図１７３６参照）に第７流下態様ＫＦＬ５７で流下し始める当初から球を後方側に寄せることで、可動板Ｋ２５１の下流側で球が滞留することを回避でき、第２特定入賞口Ｋ６５０ａの通過を迅速に生じさせることができる。

【２０２４２】

傾斜面部Ｋ２２９に発光部Ｋ２１２から光が照射された場合には、傾斜面部Ｋ２２９の面で反射させることにより発光部Ｋ２１２からの光の向きを上方へ変化させることができるが、詳しくは後述する。

【２０２４３】

発光部Ｋ２１２は、黄色の光を照射可能な上流側発光部Ｋ２１２ａ，Ｋ２１２ｂと、赤色の光を照射可能な下流側発光部Ｋ２１２ｃ，Ｋ２１２ｄと、白色の光を照射可能な分散発光部Ｋ２１２ｇ，Ｋ２１２ｗと、を備える。

【２０２４４】

第１上流側発光部Ｋ２１２ａは、第１流下態様ＫＦＬ５１で流下する球に照射光の少な

くとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１上流側発光部Ｋ２１２ａから光が照射されている状態において第１流下態様ＫＦＬ５１で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の黄色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される。

【２０２４５】

即ち、遊技者は、光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化したことを視認することで、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握することができる。

【２０２４６】

第２上流側発光部Ｋ２１２ｂは、第２流下態様ＫＦＬ５２で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第２上流側発光部Ｋ２１２ｂから光が照射されている状態において第２流下態様ＫＦＬ５２で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の黄色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される。

【２０２４７】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後も継続して光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が第２流下態様ＫＦＬ５２で流下していると予測を立てることができる。

【２０２４８】

第１下流側発光部Ｋ２１２ｃは、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃから光が照射されている状態において第３流下態様ＫＦＬ５３で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の赤色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される。

【２０２４９】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が可動板Ｋ２５１側へ流下していると予測を立てることができる。

【２０２５０】

第２下流側発光部Ｋ２１２ｄは、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄから光が照射されている状態において第４流下態様ＫＦＬ５４で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の赤色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される。

【２０２５１】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が可動板Ｋ２５１側へ流下していると予測を立てることができる。

【２０２５２】

ここで、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化されたことを視認したとしても、それだけでは、遊技球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下しているのか、遊技球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下しているのかを区別することは困難である。

【２０２５３】

一方で、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した球は可動板Ｋ２５１の左右長さの途中位置に到達するのに対し、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下した球は可動板Ｋ２５１の上流側端部から到達するため、球が可動板Ｋ２５１に到達してから可動板Ｋ２５１が開放されるまでの時間が同じ場合、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した球に比較して第４流下態様ＫＦ

Ｌ５４で流下した球の方が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球され易い。
【２０２５４】
　そのため、遊技球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下しているのか、遊技球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下しているのかを区別できた方が、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様と可動板Ｋ２５１の動作態様とを共に把握した場合に、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球し得るか否かを正確に把握できるようになる。
【２０２５５】
　この観点から、本実施形態では、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃから照射される光の見え方と、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄから照射される光の見え方とを異ならせることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様の変化が第１下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が遮蔽されたことによるものなのか、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄからの光が遮蔽されたことによるものなのかを区別可能に構成される。
【２０２５６】
　即ち、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光は、前後方向で照射される光が化粧カバーＫ２２０に到達されるものなので、正面視で第１下流側発光部Ｋ２１２ｃを中心に広がる略円形の光として視認される一方、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄからの光は、傾斜面部Ｋ２２９で反射されて上方へ延びて化粧カバーＫ２２０に到達されるものなので、正面視で第２下流側発光部Ｋ２１２ｄを下端して上方に延びる帯状に視認される。
【２０２５７】
　そのため、光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化されることは同じであっても、その視認態様が変化される光により視認される形状が略円形であれば、球は第３流下態様ＫＦＬ５３で流下していることを遊技者が把握でき、視認態様が変化される光により視認される形状が帯状であれば、球は第４流下態様ＫＦＬ５４で流下していることを遊技者が把握できる。
【２０２５８】
　このように、本実施形態によれば、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様を、球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下している場合と、球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下している場合とで、異ならせることができる。
【２０２５９】
　第１分散発光部Ｋ２１２ｇは、第５流下態様ＫＦＬ５５又は第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１分散発光部Ｋ２１２ｇから光が照射されている状態において第５流下態様ＫＦＬ５５又は第６流下態様ＫＦＬ５６で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の白色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される。
【２０２６０】
　即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の白色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が入賞ユニットＫ２００から排出されていると予測を立てることができる。
【２０２６１】
　なお、分散発光部Ｋ２１２ｇは、第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する球に光を照射可能な位置に配置されるＬＥＤと、第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球に光を照射可能な位置に配置されるＬＥＤとがある。これらは、第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する球は球案内部Ｋ２１０を通して遊技領域から排出される一方、第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球は遊技領域に戻されるという点で異なるが、入賞ユニットＫ２００から排出されることは共通である。
【２０２６２】
　即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の白色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化

される場合に、入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球が第２入賞口Ｋ６４０にも第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されずに化粧カバーＫ２００から排出されると予測をたてることができる。

【２０２６３】

第２分散発光部Ｋ２１２ｗは、入賞ユニットＫ２００を流下する球に照射光が遮られない（正面視で球と重ならない）位置に配置される。そのため、第２分散発光部Ｋ２１２ｗから照射される光は、入賞ユニットＫ２００の内部を流下する遊技球の影響を受けることなく化粧カバーＫ２２０に到達する。これにより、入賞ユニットＫ２００の内部における球の流下の有無に因らず、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の正面視での明るさを確保することができる。

【２０２６４】

即ち、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）に最低限の明るさを確保させることにより、化粧カバーＫ２２０の内部を球が流下する際に生じる上述した化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様の変化（色の強弱を伴う変化）を認識し易くすることができる。

【２０２６５】

なお、第２分散発光部Ｋ２１２ｗの発光制御は、球の入球によらず一定のパターンで発光制御されるものでも良いし、球の入球によって発光の強弱が変化されるように制御されても良い。

【２０２６６】

例えば、球が案内開口Ｋ２０３を通過して第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）を通過したことが検出された場合に、約０．２秒、第２分散発光部Ｋ２１２ｗの発光強度が強くなるように発光制御することで、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）を介した白色の光の視認態様の変化から、第入賞口Ｋ６４０に遊技球が入球したことを遊技者が把握することができる。

【２０２６７】

同様のことを、発光部Ｋ２２８の発光制御で行っても良い。即ち、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過したことが検出された場合に、約０．２秒、発光部Ｋ２２８の発光強度が強くなるように発光制御することで、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）を介した白色の光の視認態様の変化から、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに遊技球が入球したことを遊技者が把握することができる。

【２０２６８】

上述した入賞ユニットＫ２００の構成によれば、化粧カバーＫ２２０の後方を流下する球自体を視認せずとも、化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様の変化により、入賞ユニットＫ２００に球が入球したことを把握させることができる。

【２０２６９】

入賞ユニットＫ２００に球が入球した後、後方からの光により化粧カバーＫ２２０に球の影が形成され、その影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂといった、他の領域よりも透過性の低い領域と重なることで化粧カバーＫ２２０の視認性を変化させ、演出効果の向上が図られている。

【２０２７０】

更に、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂと重なる位置を流下している間において第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球の可能性が残されている一方、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂから離れる（球が第５流下態様ＫＦＬ５５や第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する）と第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球の可能性が無くなる。

【２０２７１】

従って、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂの近くを流下するか否かについて注目させることができるので、球の影のみではなく、大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂの注目力をも向上させることができる。

【２０２７２】
　また、球がどこへ向けて流下しているのかを把握させることができる。即ち、光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１７２９参照）の視認態様が変化される状態が維持される場合には、球は第２入賞口Ｋ６４０（図１７２６参照）へ向かっており、光の赤色成分の強弱が変化する状態に化粧カバーＫ２２０の視認態様が変化された場合には、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに向かうようになっており、光の白色成分の強弱が変化する状態に化粧カバーＫ２２０の視認態様が変化された場合には、球が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されず入賞ユニットＫ２００から排出されるようになっていることを、遊技者に把握させることができる。
【２０２７３】
　なお、傾斜面部Ｋ２２９を球が衝突可能な位置に形成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球の流下範囲からは離して、球と衝突しない位置に傾斜面部Ｋ２２９と同様の形状部を構成しても良い。この場合、球との衝突により傾斜面部Ｋ２２９が破損する可能性が低いので、傾斜面部Ｋ２２９による光屈折の作用を長期に亘り生じさせることができる。
【２０２７４】
　また、傾斜面部Ｋ２２９の傾斜面を、後方へ向かうほど下降傾斜する傾斜面としたが、光の屈折を生じさせる目的からすれば、これに限られるものではなく、後方へ向かうほど左右方向に傾斜するでも良いし、後方へ向かうほど上昇傾斜する傾斜面としても良い。
【２０２７５】
　例えば、減速突起Ｋ２０４（図１７３１参照）が位置する範囲の正面側において、化粧カバーＫ２２０の背面に後方へ向かうほど上昇傾斜する傾斜面を形成すると、減速突起Ｋ２０４が位置する範囲において正面側へ照射される光を下方へ屈折させることで、化粧カバーＫ２２０に沿う上下方向に延びる帯状の光を遊技者に視認させることができる。即ち、傾斜面部Ｋ２２９で屈折され上方へ進行する光とは逆に、屈折した後で光を下方に進行させることによる光の帯を視認させることができる。
【２０２７６】
　なお、上述の実施形態では発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８は基本的には発光したままで維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技のラウンド遊技において発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８を点灯させる場合に、ラウンド間インターバルでも点灯を継続させても良いし、ラウンド間インターバルにおいては点灯を止めても良い。
【２０２７７】
　前者の場合、ラウンド間インターバルを遊技者に意識させることなく、楽に遊技させることができる。後者の場合、ラウンド間インターバルを遊技者に意識させることで、大当たり遊技における区切りを分かり易くし、大当たり遊技があとどれくらいで終了するのかを予測させ易くすることができる。これにより、遊技者が大当たり遊技のエンディング演出時にまで球の発射を継続して多量の無駄球が発生する事態を回避させ易くすることができる。
【２０２７８】
　また、上述の実施形態では発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８は基本的には発光したままで維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞時に発光態様が変更され、入賞ユニットＫ２００の視認態様を変更可能に構成しても良い。
【２０２７９】
　この場合において、第２入賞口Ｋ６４０への入賞においては、第２入賞口Ｋ６４０の入賞に対応する特別図柄の保留個数が満タンの時の入賞の場合にも発光態様が変更されるように構成されても良いし、特別図柄の保留個数が満タンの時の入賞では発光態様の変更が生じないようにしても良い。
【２０２８０】

前者の場合、発光態様の変更が賞球の払い出しと対応するので、遊技者に対して、賞球の払い出しが生じることを認識させることができる。後者の場合、発光態様の変更と特別図柄の抽選の発生とを対応づけることができるので、遊技者に対して、特別図柄の抽選が生じることを認識させることができる。

【２０２８１】

第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞においては、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞がラウンド遊技における規定個数を超えた入賞の場合に発光態様が変更されるように構成されても良いし、規定個数を超えた入賞では発光態様の変更が生じないようにしても良い。

【２０２８２】

前者の場合において、規定個数を超えた入賞の場合の発光態様の変化を、規定個数までの入賞と同様の態様としておけば発光態様の変更と賞球の払い出しの発生とを対応させることができ遊技者に賞球の払い出しの発生を認識させることができるが、規定個数までの入賞とは異なる態様で行うようにしても良い。

【２０２８３】

規定個数を超えた入賞の場合の発光態様の変化を、規定個数までの入賞とは異なる態様で行うようにする場合、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの超過入賞が発生したことを遊技者に意識させ易くすることができる。なお、規定個数を超えた入賞の場合の変化については、第３図柄表示装置Ｋ８１での表示に反映させても良い。

【２０２８４】

後者の場合、超過入賞については遊技者に意識させないようすることができるので、超過入賞が発生し易いのか、し難いのかを、遊技者に認識させ難くすることができ、大当たり遊技において超過入賞を狙って遊技球の発射間隔を変える等の特殊な発射態様を促す事態の発生を回避し易くすることができる。

【２０２８５】

なお、上述の入賞ユニットＫ２００では、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が正面視よりも斜め方向視からの方が向上し得ることで、遊技者に斜め方向視から視認しての遊技を促すことができる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、斜め方向視では、入賞ユニットＫ２００内を流下する遊技球を視認し難くなるように構成しても良い。

【２０２８６】

即ち、例えば、小形意匠Ｋ２２１ｂが背面側に張り出して形成されることで、正面視では小形意匠Ｋ２２１ｂ同士の隙間から奥側が視認し易い一方で、斜め方向視では小形意匠Ｋ２２１ｂの張り出した部分が重なって見えることで隙間が狭まり（無くなり）奥側が視認し難くなるように構成しても良い。

【２０２８７】

この場合、斜め方向視から視認したとしても入賞ユニットＫ２００の内部の状態を把握し難くすることができるので、遊技者に対して、斜め方向視から視認することを意識させないようにし、正面視での遊技を促すことができる。これにより、正面視で意匠性が最も高まるように設計されている小形意匠Ｋ２２１ｂと大形意匠Ｋ２２１ａとの組合せによる意匠を、綺麗に視認させる状態を維持することができる。このように遊技者の視線を誘導できる場合には、大形意匠Ｋ２２１ａ又は小形意匠Ｋ２２１ｂの一方を遊技球の流下範囲よりも後方に形成した場合であっても、小形意匠Ｋ２２１ｂと大形意匠Ｋ２２１ａとの組合せによる意匠を綺麗に見せることができる。

【２０２８８】

図１８０３（ａ）から図１８０３（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０３（ａ）から図１８０３（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の水平落下動作パターンが時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０２８９】

水平落下動作パターンでは、図１８０３（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０，図１７５８参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、同期して回転動作され、左右の回転部材Ｋ４３０が第１解除姿勢（図１７６１参照）とされる。

【２０２９０】

図１８０３（ｂ）に図示されるように、切替装置Ｋ４６０のストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する退避位置に配置されており（図１７５７（ｂ）参照）、第１可動装置Ｋ４４０１が切替装置Ｋ４６０に支持される状態ではない。そのため、昇降装置Ｋ４５００の左右両側の支持が解除され、落下動作が生じることで、図１８０３（ｂ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から落下位置状態（図１７４１参照）に変化される。

【２０２９１】

この場合、昇降装置Ｋ４５００において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の中間位置（図１８０３（ｂ）参照）に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。即ち、左右両端部で両持ち支持される長尺装置５４０の中間位置に移動装置Ｋ４５６０を配置させることにより、長尺装置Ｋ５４０の撓みによる衝撃吸収効果を利用して移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を低減させることができる。

【２０２９２】

図１８０３（ｃ）に図示されるように、図１８０３（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻される。これにより、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０２９３】

なお、水平落下動作パターンの動作中、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御される、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と同方向および同速度で回転する態様で表示されるように制御される。これにより、左右の回転部材Ｋ４３０の片側に動作不良が生じ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れた場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の見映えの低下を最低限に抑えることができる。

【２０２９４】

即ち、移動装置Ｋ４５６０が傾いて視認される場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の傾きを目立たせなくすることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【２０２９５】

図１８０４（ａ）から図１８０４（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０４（ａ）から図１８０４（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の水平下降動作パターンが時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０２９６】

水平下降動作パターンでは、図１８０４（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０，図１７５８参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、同期して回転動作され、左右の回転部材Ｋ４３０が第２解除姿勢（図１７６４参照）とされる（図１８０４（ｂ）参照）。

【２０２９７】

回転部材Ｋ４３０の第２解除姿勢では、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされることから（図１７６４参照）、左側の回転部材Ｋ４３０を反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０を時計回りに更に回転させることで、昇降装置Ｋ４５００を下降させることができる

（図１７６５参照）。左右の回転部材Ｋ４３０の回転を同期させていることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を代表途中停止位置まで下降させることができる（図１８０４（ｃ）参照）。

【２０２９８】

図１８０４（ｃ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻される。これにより、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０２９９】

なお、水平下降動作パターンの動作中、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御される、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と同方向および同速度で回転する態様で表示されるように制御される。これにより、左右の回転部材Ｋ４３０の片側に動作不良が生じ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れた場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の見映えの低下を最低限に抑えることができる。

【２０３００】

即ち、移動装置Ｋ４５６０が傾いて視認される場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の傾きを目立たせなくすることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【２０３０１】

なお、図１８０４（ａ）から図１８０４（ｃ）では、切替装置Ｋ４６０のストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する退避位置に配置される（図１７５７（ｂ）参照）場合を説明したが、回転部材Ｋ４３０が図１８０４（ｃ）に図示される姿勢に到達するまでは、ストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動を妨げることはなく（図１７６５参照）、ストッパ部材Ｋ４６２の配置が昇降装置Ｋ４５００の姿勢に影響を与えるものではない。そのため、切替装置Ｋ４６０を非励磁（図１７５７（ａ）参照）としたままで長尺装置Ｋ５４０を、水平下降動作パターンで動作させることも可能である。

【２０３０２】

一方、下降動作としては、図１８０４（ｃ）で図示される代表途中停止位置で長尺装置Ｋ５４０を停止させる態様に限らず、回転部材Ｋ４３０の回転を更に継続させて長尺装置Ｋ５４０を下降させる動作も可能であるところ、この場合には、切替装置Ｋ４６０が非励磁（図１７５７（ａ）参照）であると、ストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動の妨げとなり、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れることになる。

【２０３０３】

このように、水平下降動作パターンでは、回転部材Ｋ４３０の回転の反転位置（図１８０４（ｃ）参照）にバリエーションを設けることにより長尺装置Ｋ５４０の下降到達位置を異ならせることができるところ、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることで、長尺装置Ｋ５４０の下降到達位置の自由度を向上させることができる（より低い位置まで水平姿勢で到達できる）。

【２０３０４】

なお、回転部材Ｋ４３０が図１８０４（ａ）に図示される状態から、第２解除姿勢（図１８０４（ｂ）参照）に到達するまでに、長尺装置Ｋ５４０が上昇されるので（図１７６３参照）、長尺装置Ｋ５４０の配置を通して、回転部材Ｋ４３０が回転動作していることが遊技者に把握される可能性がある。

【２０３０５】

この場合、回転部材Ｋ４３０の状態が把握されてしまうと、この後に水平落下動作パターンで動作が生じるのか、水平下降動作パターンで動作が生じるのかを予測される可能性があり、第１可動装置Ｋ４４０１の演出効果が低減する可能性がある。前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１により回転部材Ｋ４３０への視界が遮蔽され（図１７４０，図１７４７参照）、回転部材Ｋ４３０の状態を正面視で視認することはできないようにされる

本実施形態でも、回転部材Ｋ４３０の回転に連動される長尺装置Ｋ５４０の動作を視認することで、回転部材Ｋ４３０の状態が予想される可能性がある。

【２０３０６】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、図１８０４で図示される水平下降動作パターンの他に、図１８０４（ａ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、同期して回転動作され、図１８０４（ｂ）に図示される状態に到達する前の第１反転姿勢（図１７６３参照）で回転方向が反転され、図１８０４（ａ）に図示される状態に戻る第１途中反転動作パターンも実行可能とされる。

【２０３０７】

ここで、第１反転姿勢（図１７６３参照）は、回転部材Ｋ４３０が長尺装置Ｋ５４０を移動範囲の上方端位置に到達させる姿勢であるので、第１反転姿勢に到達後も回転部材Ｋ４３０が同方向に回転を継続する水平下降動作パターンと、第１反転姿勢に到達後に回転部材Ｋ４３０が回転方向を反転させる第１途中反転動作パターンとで、長尺装置Ｋ５４０の配置および移動方向は変化しない。

【２０３０８】

従って、長尺装置Ｋ５４０を視認可能である一方、回転部材Ｋ４３０を視認不可能とされる遊技者に対して、現在、回転部材Ｋ４３０が何れの姿勢とされているのか（即ち、第１反転姿勢から何れの方向に回転したのか）を把握し難くさせることができる。

【２０３０９】

なお、水平下降動作パターンでの動作か、第１途中反転動作パターンでの動作かに関わらず、回転部材Ｋ４３０の第１反転姿勢に到達した時に回転部材Ｋ４３０の回転を一時停止させるように駆動制御しても良い。この場合、回転部材Ｋ４３０の反転時に必然的に生じる長尺装置Ｋ５４０の停止状態を、回転部材Ｋ４３０を第１反転姿勢で反転させない場合にも生じさせることができるので、遊技者が回転部材Ｋ４３０の姿勢の予想をすることをより困難にさせることができる。

【２０３１０】

また、第１反転姿勢で回転部材Ｋ４３０の回転方向を反転させる以外にも、第２解除姿勢（図１８０４（ｂ）参照）で回転部材Ｋ４３０の回転方向を反転させて、図１８０４（ａ）に図示される状態に戻る第２途中反転動作パターンも実行可能にしても良い。

【２０３１１】

本実施形態では、上記各実施形態同様、図１８０４（ａ）に図示される状態における長尺装置Ｋ５４０の上下位置（図１７５８参照）と、図１８０４（ｂ）に図示される状態における長尺装置Ｋ５４０の上下位置（図１７６４参照）とが同一とされる。

【２０３１２】

遊技中においては、遊技者が常に長尺装置Ｋ５４０に注目するということは無く、遊技者の注目力は遊技領域を流下する遊技球や、賞球の払い出し位置や、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示内容等に移り動く。そのため、回転部材Ｋ４３０を図１８０４（ａ）に図示される状態と図１８０４（ｂ）に図示される状態とで行き来させる動作を単に繰り返すだけでも、それにより生じる長尺装置Ｋ５４０の上下動作の回数を遊技者が逐一計測しているわけではないので、遊技者に対して、回転部材Ｋ４３０が図１８０４（ａ）に図示される状態なのか、図１８０４（ｂ）に図示される状態なのかを、把握させ難くすることができる。

【２０３１３】

このように、第１途中反転動作パターンや、第２途中反転動作パターンでの動作を実行可能とすることで、長尺装置Ｋ５４０の配置高さが同じであっても、それが図１８０３（ａ）に図示される状態なのか、図１８０４（ｂ）に図示される状態なのかを、遊技者に把握され難くすることができる。尚且つ、長尺装置Ｋ５４０の配置高さが同じ状態から、水平落下動作パターンでの動作も、水平下降動作パターンでの動作も、実行可能に構成されているので、第１可動装置Ｋ４４０１の演出効果を向上させることができる。

【２０３１４】
なお、上述のように長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態の高さ位置に配置される場合における回転部材Ｋ４３０の姿勢（位相）が複数態様想定される場合において、回転部材Ｋ４３０の姿勢（位相）に対応した報知が実行可能となるように構成しても良い。この報知は、遊技者側には報知されないシステム内部における報知でも良いし、遊技者側に認識される光照射を伴う報知でも良いし、スピーカー等の音声出力装置Ｈ２２６（図１７２４参照）から音声が出力される報知でも良い。
【２０３１５】
図１８０５（ａ）から図１８０５（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０５（ａ）から図１８０５（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１１の動作パターン及び第１２の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図１７５７（ａ）参照）とされることが拡大図示される。
【２０３１６】
第１１の動作パターン及び第１２の動作パターンでは、図１７９９（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０参照）から、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照）とされる。
【２０３１７】
これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）された後で、ストッパ部材Ｋ４６２に支持されることで、図１８０５（ａ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から片側落下状態（図１７４５参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。
【２０３１８】
移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図１７５４参照）により検出されることに基づいて、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図１７６１の左右対称姿勢に対応）とされる。
【２０３１９】
これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）されることで、図１８０５（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が左第１傾斜姿勢（図１７９８参照）とされる。
【２０３２０】
この場合、昇降装置Ｋ４５００の右側の変位に比較して左側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の左側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の右端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。
【２０３２１】
昇降装置Ｋ４５６０の左側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、反時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいて停止される（図１８０５（ｃ）参照）。
【２０３２２】
図１８０６（ａ）から図１８０６（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０６（ａ）から図１８０６（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１１の動作パターンの一部（上昇方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態におけ

る一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図１７５７（ａ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０３２３】

第１１の動作パターンでは、図１８０５（ｃ）に図示される状態の後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図１８０６（ａ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。

【２０３２４】

その後、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、中間支持姿勢（図１７６５参照）とされる。この過程において、昇降装置Ｋ４５６０の左側では、伝達筒状部Ｋ４３４を介して下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）が押し上げられることで、長尺装置Ｋ５４０の左側が上昇される。

【２０３２５】

一方、昇降装置Ｋ４５６０の右側は、ストッパ部材Ｋ４６２に支持された状態であり、回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢（図１７６５参照）となるまでは伝達筒状部Ｋ４３４を介する下側部材Ｋ５１０への荷重の伝達は生じない。そのため、図１８０６（ａ）に図示される状態と図１８０６（ｂ）に図示される状態とで、昇降装置Ｋ４５６０の右側の上下位置は維持される。

【２０３２６】

即ち、左右一対の回転部材Ｋ４３０が同期して回転動作するが、左側の回転部材Ｋ４３０では昇降装置Ｋ４５６０の左側を押し上げる負荷が生じるが、右側の回転部材Ｋ４３０では昇降装置Ｋ４５６０を押し上げる関係にはならず、負荷が生じない。

【２０３２７】

その後、左右一対の回転部材Ｋ４３０の同期回転が継続され、第１可動装置Ｋ４４０１が演出待機状態に戻ることで（図１８０６（ｃ）参照）、第１１の動作パターンが完了される。図１８０６（ｂ）に図示される状態からは、左右両側で、伝達筒状部Ｋ４３４を介して下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）が押し上げられ、長尺装置Ｋ５４０が上昇される。

【２０３２８】

ここで、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０３２９】

このように、第１１の動作パターンによれば、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転開始のタイミングをずらして制御するのではなく、同時に回転開始させることにより、昇降装置Ｋ４５６０の動作態様を、左右の上昇タイミングがずれる態様とすることができる。

【２０３３０】

図１８０７（ａ）から図１８０７（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０７（ａ）から図１８０７（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１２の動作パターンの一部（上昇方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０３３１】

第１２の動作パターンでは、図１８０５（ｃ）に図示される状態の後、切替装置Ｋ４６

０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される（図１７５７（ｂ）参照）と共に、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される（図１８０７（ａ）参照）。この状態において、長尺装置Ｋ５４０の姿勢は略左右水平とされる。

【２０３３２】

図１８０７（ａ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の右方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図１７４０参照）から下降配置状態（図１７４１参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図１７７３参照）。

【２０３３３】

検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図１８０７（ｂ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。

【２０３３４】

その後、図１８０７（ｃ）に図示されるように、図１８０７（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻され、第１２の動作パターンが完了される。

【２０３３５】

このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０３３６】

このように、第１２の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第１１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【２０３３７】

切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させる際に長尺装置Ｋ５４０の重量が抵抗になり、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１に必要とされる駆動力が過大となる可能性があるが、本実施形態では、上記各実施形態同様、移動装置Ｋ４５６０をスライド移動させる駆動力を発生させる駆動モータＫＭＴ５１（図１７５３参照）とは左右反対側に駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が配設されている。

【２０３３８】

これにより、駆動モータＫＭＴ５１の重さで長尺装置Ｋ５４０の重心を左側に寄せながら、その反対側（右側）において駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を動作させるよう構成することにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１にかけられる長尺装置Ｋ５４０の重さを低減させることができ、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１に必要とされる駆動力を低減させることができる。

【２０３３９】

図１８０８（ａ）から図１８０８（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０８（ａ）から図１８０８（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１３

の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０３４０】

第１３の動作パターンでは、図１８０８（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０参照）から、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照）とされる。

【２０３４１】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されており、連結部材Ｋ４４５（図１７５７（ｂ）参照）の下方からストッパ部材Ｋ４６２が退避されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されないので、図１８０８（ａ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図１７９７参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。

【２０３４２】

移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図１７５４参照）により検出されることに基づいて、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図１７６１の左右対称姿勢に対応）とされる。

【２０３４３】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）されることで、図１８０８（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢は略左右水平とされる。

【２０３４４】

図１８０８（ａ）から図１８０８（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の右側の変位に比較して左側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の左側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の右端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。

【２０３４５】

昇降装置Ｋ４５６０の左側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、反時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいて停止される（図１８０８（ｃ）参照）。

【２０３４６】

図１８０８（ｂ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の左方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図１７４０参照）から下降配置状態（図１７４１参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図１７７３参照）。

【２０３４７】

検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の反時計回りの回転動作が維持され

たまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。

【２０３４８】

移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図１８０８（ｃ）参照）。

【２０３４９】

なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。

【２０３５０】

図１８０８（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１２の動作パターンと同様、図１８０７（ｂ）及び図１８０７（ｃ）に図示される状態を経て、演出待機状態まで戻され、第１３の動作パターンが完了される。

【２０３５１】

即ち、第１３の動作パターンでは、図１８０８（ｃ）に図示される状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始され、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図１８０７（ｂ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。

【２０３５２】

その後、図１８０７（ｃ）に図示されるように、図１８０７（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態まで戻され、第１３の動作パターンが完了される。

【２０３５３】

このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０３５４】

このように、第１３の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第１１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１の動作パターン（及び第１２の動作パターン）と同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【２０３５５】

図１８０９（ａ）から図１８０９（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８０９（ａ）から図１８０９（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第２１の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図１７５７（ａ）参照）とされることが拡大図示される。

【２０３５６】

第２１の動作パターンでは、図１８０９（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回り

に回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図１７６１の左右対称姿勢に対応）とされる。

【２０３５７】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）される。これにより、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢（図１７９９（ｃ）参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。

【２０３５８】

移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）により検出されることに基づいて、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照）とされる。

【２０３５９】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされており、連結部材Ｋ４４５（図１７５７（ｂ）参照）の下方にストッパ部材Ｋ４６２が配置されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されることで、図１８０９（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が左第１傾斜姿勢（図１７９８参照）に変化される。

【２０３６０】

図１８０９（ａ）から図１８０９（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の左側の変位に比較して右側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の右側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の左端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。

【２０３６１】

昇降装置Ｋ４５６０の右側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間位置に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中間位置に到達することに基づいて停止される（図１８０９（ｃ）参照）。

【２０３６２】

なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。

【２０３６３】

なお、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が演出待機状態（図１７４０参照）である場合に、図１８０９（ｂ）に図示される状態から図１８０９（ｃ）に図示される状態に変化しても、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１との衝突は生じないので、図１８０９（ｃ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ４７０１は演出待機状態で維持される。

【２０３６４】

図１８０９（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１１の動作パターンと同様、図１８０６（ｂ）及び図１８０６（ｃ）に図示される状態を経て、演出待機状態まで戻され、第２１の動作パターンが完了される。

【２０３６５】

即ち、第２１の動作パターンでは、図１８０９（ｃ）に図示される状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態まで戻され、第２１の動作パターンが完了される。

【２０３６６】
　このように、第２１の動作パターンによれば、動作パターンを第１１～１３の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。
【２０３６７】
　なお、第２１の動作パターンにおいて、図１８０９（ｂ）に図示される状態以降において、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）を維持されることで、図１８０９（ｂ）に図示される長尺装置Ｋ５４０の左第１傾斜姿勢から、長尺装置Ｋ５４０の右側が落下して姿勢が水平にされた後で、長尺装置Ｋ５４０が上昇移動される動作パターンを第２２の動作パターンとして設定しても良い。
【２０３６８】
　即ち、第２２の動作パターンにおいても、動作パターンを第１１～１３，２１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３，２１の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。
【２０３６９】
　第２２の動作パターンの場合、連結部材Ｋ４４５（図１７５７（ｂ）参照）がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに上下方向で当接し、重みがかかった状態でストッパ部材Ｋ４６２が回転動作するのに十分な駆動力を生じさせる必要があるが、本実施形態では、上述の各実施形態同様、連結部材Ｋ４４５の下側先端が湾曲面から形成されているので、連結部材Ｋ４４５と突設受部Ｋ４６２ｄとの接触面積を小さくすることができる。これにより、摩擦抵抗を低減することができ、ストッパ部材Ｋ４６２の回転動作に要する駆動力を低減させることができる。
【２０３７０】
　図１８１０（ａ）から図１８１０（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図１８１０（ａ）から図１８１０（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第２３の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図１７５７（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。
【２０３７１】
　第２３の動作パターンでは、図１８１０（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図１７４０参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図１７６１の左右対称姿勢に対応）とされる。
【２０３７２】
　これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）される。これにより、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢（図１７９９（ｃ）参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。
【２０３７３】
　移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図１７５４参照）により検出されることに基づいて、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図１７６１参照）とされる。
【２０３７４】
　これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される

。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されており、連結部材Ｋ４４５（図１７５７（ｂ）参照）の下方からストッパ部材Ｋ４６２が退避されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されないので、図１８１０（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が略左右水平の姿勢に変化される。

【２０３７５】

図１８１０（ａ）から図１８１０（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の左側の変位に比較して右側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の右側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の左端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。

【２０３７６】

昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。

【２０３７７】

図１８１０（ｂ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の右方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図１７４０参照）から下降配置状態（図１７４１参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図１７７３参照）。

【２０３７８】

検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。

【２０３７９】

なお、図１８１０（ｂ）では、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）される時点において第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化している場合が図示されているが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）された後で第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化するように制御されても良い。

【２０３８０】

この場合、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）した時点においては、第２可動装置Ｋ４７０１が移動装置Ｋ４５６０の移動と干渉する位置に配置されていることから、移動装置Ｋ４５６０が右に移動するのか、それとも移動せずに昇降装置Ｋ４５００が上昇動作するのかを、遊技者に予測させ難くすることができる。これにより、第２可動装置Ｋ４７０１及び移動装置Ｋ４５６０に対する注目力を向上させることができる。

【２０３８１】

移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間位置に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図１７５４参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中間位置に到達することに基づいて停止される（図１８１０（ｃ）参照）。

【２０３８２】

なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。

【２０３８３】

図１８１０（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１２の動作パターンと同様である

。即ち、図１８０７（ｃ）に図示されるように、図１８１０（ｃ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻され、第２３の動作パターンが完了される。

【２０３８４】

このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図１７６１参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【２０３８５】

このように、第２３の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第２１，２２の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３，２１，２２の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【２０３８６】

なお、上述した実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８等を備える移動装置Ｋ４５６０が正面視でセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）の内方に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２０３８７】

例えば、正面視でセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）の外方に配置されるようにしても良い。この場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心を固定した方が、センターフレームＫ８６の外方を流下する遊技球と前後方向視で重なる範囲を限定することができるので、遊技球が回転装飾部材Ｋ４５７８と前後方向で重なることで遊技球を見失う事態の発生を回避し易くすることができる。

【２０３８８】

また、例えば、正面視で右上ランプＫ９４０とセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）との間に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合、移動装置Ｋ４５６０が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示と右上ランプＫ９４０の発光態様とを繋ぐ役割を果たし、右上ランプＫ９４０、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示および表示装置Ｋ４５８０の表示を一連で視認させ易くすることができる。

【２０３８９】

これらは、右上ランプＫ９４０との間に限らず、他の表示ランプＫ９００との間に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合にも、同様のことが言える。例えば、移動装置Ｋ４５６０が左側サイドランプＫ９３０と第３図柄表示装置Ｋ８１との間に配置される場合に、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転され、左側サイドランプＫ９３０において光が上方に立ち昇るように視認させるように左側サイドランプＫ９３０の内部に配置されるＬＥＤの発光タイミングが制御され、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側範囲において光が下方に下げられるように視認させるような動画表示を行う場合、あたかも、左側サイドランプＫ９３０及び第３図柄表示装置Ｋ８１により視認される光が回転装飾部材Ｋ４５７８を回転させているかのように遊技者に視認させることができる。このように、左側サイドランプＫ９３０による光と、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作と、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示とを、一連で視認させることができる。

【２０３９０】

また、例えば、移動装置Ｋ４５６０を左側装飾装置Ｋ３５０の正面側に配置される場合、左側装飾装置Ｋ３５０の内部の発光基板からの光により、移動装置Ｋ４５６０の外形部の明るさを確保することができる。これにより、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【２０３９１】

また、移動装置Ｋ４５６０が正面視でセンターフレームＫ８６（図１７２６参照）の外

方に配置される場合、ベース板Ｋ１３（図１８００参照）の背面側に配置されるようにしても良いし、ベース板Ｋ１３の正面側に配置されるようにしても良い。

【２０３９２】

ベース板Ｋ１３の正面側に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合、ガラスユニットＨ１６（図１８００参照）の背面側に配置されても良いし、ガラスユニットＨ１６の正面側に配置されるようにしても良い。遊技者に対して近い方が、より遊技者に認識させ易く、演出性の向上を図ることができる。

【２０３９３】

移動装置Ｋ４５６０がガラスユニットＨ１６（図１８００参照）の正面側に配置される場合に、移動装置Ｋ４５６０がガラスユニットＨ１６に回転可能に固定されるように構成しても良く、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１８００参照）から照射される光により照らされ得るようにしても良い。これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１の光により、ガラスユニットＨ１６の背面側に配置される動作ユニットＫ３００（図１７２７参照）を構成する可動部だけでなく、ガラスユニットＨ１６の正面側に配置される可動部（移動装置Ｋ４５６０）をも照らすことができる。

【２０３９４】

図１８１１（ａ）、図１８１１（ｂ）及び図１８１２は、第２可動装置Ｋ４７０１の正面図である。なお、図１８１１（ａ）、図１８１１（ｂ）及び図１８１２では、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態（図１７７３（ｂ）参照）からアーム部材Ｋ７３５が正面視時計回りに回転動作されることで上下スライド部材Ｋ４７２０が上昇移動される突破上昇動作パターンが時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ４７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ４７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ４７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図１７６９参照）の図示が省略される。

【２０３９５】

図１８１１（ａ）、図１８１１（ｂ）及び図１８１２では、理解を容易とするために、正面視で重なる伝達終端部材Ｋ４７３７、アーム部材Ｋ７３５及び駆動側二層ギアＫ７３１が部分的に破断されたり、想像線で図示されたりすることで、奥側の構成が視認可能となるように図示される。

【２０３９６】

本実施形態における第２可動装置Ｋ４７０１は、上述の第２可動装置Ｋ７０１から多くの構成を流用しながらも、第２可動装置Ｋ７０１では不可能とされていた下降配置状態からのアーム部材Ｋ７３５の時計回り方向の回転動作を可能とするために、一部の構成が変更されている。

【２０３９７】

例えば、金属棒Ｋ７１３の配置が、下降配置状態から時計回り方向に回転動作するアーム部材Ｋ７３５と干渉しないように左方に移動されている。これに伴い、上下スライド部材Ｋ４７２０の左右幅も拡大されている。

【２０３９８】

加えて、案内孔Ｋ４７３７ｂは終端が延長されており、下降配置状態から伝達終端部材Ｋ４７３７が正面視時計回り方向に回転動作しても、上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の第２支持部Ｋ７２５ｂ（図１７７０参照）と干渉しない構成としている。

【２０３９９】

上記各実施形態では、金属棒Ｋ７１３の右側においてベース部材Ｋ７１０の本体部Ｋ７１１から正面側に延設されるストッパ部Ｋ７１１ｇの右側面がアーム部材Ｋ７３５に回転方向から当接する（左右方向で当接する）ことで、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ４７３７の回転動作を下降配置状態で停止させる（せき止める）ように構成されていたが（図１７７３（ｂ）参照）、本実施形態では、ストッパ部Ｋ７１１ｇとアーム部材Ｋ７

３５とは当接しないため、この作用は望めない。
【２０４００】
一方で、本実施形態においても、上記各実施形態と同様に、下降配置状態において、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ４７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８と正面視で重なる位置に配置される。
【２０４０１】
そのため、第４支持部Ｋ７１２ｄを中心にアーム部材Ｋ７３５が下降配置状態から左右どちらの方向に回転動作した（振れた）場合、その回転動作に伴い基端側支持孔Ｋ７３７ａの高さ位置が上昇することになるが、その上昇変位を押し戻す方向（基端側支持孔Ｋ７３７ａの高さ位置を下げる方向）に、上下スライド部材Ｋ４７２０や、その上下スライド部材Ｋ４７２０に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図１７６９参照）の自重がかけられるので、アーム部材Ｋ７３５の姿勢を下降配置状態における姿勢（図１８１１（ａ）参照）で安定させることができる。
【２０４０２】
即ち、演出待機状態（図１７７１（ａ）参照）からアーム部材Ｋ７３５を正面視時計回り方向に回転動作させ下降配置状態に変化させる動作制御において、アーム部材Ｋ７３５を９０度回転させるための回転量で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させるように制御されるところ、制御不良が生じてアーム部材Ｋ７３５の回転角度に８８度～９２度といったばらつきが生じたとしても、そのばらつきが上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）、追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図１７６９参照）の自重で修正されることで、アーム部材Ｋ７３５の姿勢を下降配置状態における姿勢（図１８１１（ａ）参照）で安定させることができる。
【２０４０３】
図１８１１（ｂ）では、アーム部材Ｋ７３５の鉛直方向に対する傾斜角度が、図１７７３（ａ）に図示される状態と同じであり、左右が反転された状態が図示される。即ち、基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置は、図１７７３（ａ）に図示される状態と同じである。
【２０４０４】
図１８１２では、突破上昇動作パターンの動作終端状態が図示される。即ち、突破上昇動作パターンの動作終端状態は、後層伝達部Ｋ７３１ｂのギア歯と伝達側二層ギアＫ７３３の後層伝達部Ｋ７３３ｂのギア歯との噛み合いが解消する直前の回転角度の状態として設定される。
【２０４０５】
図１８１２に図示される状態において、アーム部材Ｋ７３５は上昇配置状態（図１７７２参照）における配置までは到達しない。即ち、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を時計回りに回転動作させる突破上昇動作パターンの動作終端状態における基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置は、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を反時計回りに回転動作させる階段上昇動作パターンの動作終端状態における基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置（図１７７２（ｂ）参照）よりも低い。
【２０４０６】
このような構成により、第２可動装置Ｋ４７０１によれば、下降配置状態を中心としてアーム部材Ｋ７３５を左右方向に往復回動させる（振動させる）ことにより、基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）を上下に往復動作（振動）させることができる。更に、下降配置状態

を起点とした２通りの動作態様を、駆動モータＫＭＧ７１（図１７７０参照）を一定の速さで駆動継続させることは同一としながら、アーム部材Ｋ７３５の回転方向を異ならせる（駆動モータＫＭＧ７１の駆動方向を異ならせる）ことにより生じさせることができる。

【２０４０７】

第１に、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を反時計回り方向に回転動作させる階段上昇動作パターンの場合、下降配置状態から基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が上昇された後（図１７７３（ａ）参照）、演出待機状態における配置で上昇動作が一時停止され（図１７７１（ａ）参照）、その後で上昇配置状態における高さ位置まで上昇移動される（図１７７１（ｂ），１７７２（ａ），１７７２（ｂ）参照）。

【２０４０８】

第２に、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を時計回り方向に回転動作させる突破上昇動作パターンの場合、下降配置状態から基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が上昇されるまでは階段上昇動作パターンと同じであるが（図１７７３（ａ）及び図１８１１（ｂ）参照）、上昇動作が一時停止されることはなく、動作終端状態まで一気に上昇移動される（図１８１２参照）。

【２０４０９】

第２可動装置Ｋ４７０１によれば、特に下降配置状態付近では、アーム部材Ｋ７３５の前側に配置される上下スライド部材Ｋ４７２０によりアーム部材Ｋ７３５への視界が遮られることで、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５が時計回り方向に回転したのか、反時計回り方向に回転したのかを、遊技者が判別困難となるように構成されている。

【２０４１０】

そのため、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態から上昇移動された場合に、ある程度の上昇高さまでは（図１７７３（ａ）及び図１８１１（ｂ）参照）、第２可動装置Ｋ４７０１が階段上昇動作パターンで動作されているのか、突破上昇動作パターンで動作されているのかを判別できないようにすることができる。

【２０４１１】

この場合において、第２可動装置Ｋ４７０１が階段上昇動作パターンで動作するか、突破上昇動作パターンで動作するかによって、その後の演出展開が変化したり、特図変動の大当たり期待度が変化したりするような設定を設けることで、第２可動装置Ｋ４７０１に対する注目力を向上させることができる。

【２０４１２】

ここで、途中停止させる動作パターンと、途中停止させない動作パターンとの切替は、上下スライド部材Ｋ４７２０に上下方向で当接可能な状態と、上下スライド部材Ｋ４７２０の移動軌跡から退避する状態とで切り替え可能な可動のストッパ部材を設けることでも実現可能である。この場合、円弧状部Ｋ７３２，Ｋ７３４を構成する必要もなくなる。

【２０４１３】

一方、ストッパ部材との当接により上下スライド部材Ｋ４７２０を停止させる構成の場合、動作速度が高速であるほど生じる負荷は大きくなるので、上下スライド部材Ｋ４７２０又はストッパ部材が破損する可能性が高くなる。破損を避けるために当接前にブレーキを生じさせたり、動作速度を遅くしたりする場合、途中停止させる動作パターンと、途中停止させない動作パターンとの違いが分かり難くなるため、演出効果が低くなる可能性がある。

【２０４１４】

これに対し、本実施形態によれば、階段上昇動作パターンにおいて上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が途中停止する状態は、円弧状部Ｋ７３４に対して円弧状部Ｋ７３２が擦れている状態であり（図１７７１（ａ）参照）、動作速度がどれだけ高速になったとしても破損する程の衝撃が生じるものではなく、むしろ回転方向の荷重が駆動力の伝達方向下流側（駆動側二層ギアＫ７３１よ

りも下流側の伝達側二層ギアＫ７３３、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ４７３７等）に伝達されにくいように構成されているため、途中位置（図１７７３（ａ）及び図１８１１（ｂ）参照）でのブレーキの必要は無く、高速動作が可能となる。

【２０４１５】

これにより、階段上昇動作パターンでは、高速で上昇動作していたものが突然止まるように演出できる一方、階段上昇動作パターンにおいて上昇速度を高めることができることに基づいて、その階段上昇動作パターンと紛らわしくさせる突破上昇動作パターンの上昇速度も高めることが可能となる。これにより、上昇移動の動作速度の設定自由度を向上させることができ、第２可動装置Ｋ４７０１の演出効果を向上させることができる。

【２０４１６】

図１８１３は、後層側可動装置Ｋ４８００の後側開閉部材Ｋ４８１０の板状部Ｋ４８１１、中側開閉部材Ｋ４８２０の板状部Ｋ４８２１及び前側開閉部材Ｋ４８３０の板状部Ｋ４８３１を模式的に示す正面模式図である。後側開閉部材Ｋ４８１０、中側開閉部材Ｋ４８２０及び前側開閉部材Ｋ４８３０は、上記各実施形態で上述した後層可動装置Ｋ８００の後側開閉部材Ｋ８１０、中側開閉部材Ｋ８２０及び前側開閉部材Ｋ８３０と略同一の構造を備えている一方で、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に施される装飾に違いがあるので、改めて説明する。

【２０４１７】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１には、各板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と正面視で外形が同一形状のシールが貼り付けられることに因り、正面視において略全体がそのシールの色で視認される。

【２０４１８】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に施される装飾は、シールに印刷された形状によるものである。左側の板状部Ｋ４８２１，Ｋ４８３１にローマ字の「Ｓ」の形状の輪郭ＫＯＬ４８１が施されるのは上記各実施形態と同様である（図１７８５（ｂ）参照）。

【２０４１９】

更に、本実施形態では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１にローマ字の「Ｇ」の形状の内側輪郭ＫＯＬ４８２ａと、その内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側を囲うローマ字の「Ｇ」の形状の外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂとが施され、右側の板状部Ｋ４８２１にローマ字の「Ｏ」の形状の輪郭ＫＯＬ４８３が施され、右側の板状部Ｋ４８３１に図形の「王冠」の形状の輪郭ＫＯＬ４８４が施される。

【２０４２０】

本実施形態では、無色透明のシールに赤色で形状部分が印刷される。輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側における範囲が赤色で印刷されていることから、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側においては赤色で視認され、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側においては無色透明で視認される。

【２０４２１】

実際の遊技中においては、閉塞状態（図１８１３参照）における板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、それ単体で視認されるものではなく、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方にある第３図柄表示装置Ｋ８１も透けて見える（図１７８５（ｂ）及び図１７８５（ｃ）参照）。そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に対応して変化し得る。

【２０４２２】

図１８１４（ａ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面図であり、図１８１４（ｂ）は、図１８１４（ａ）に図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面図であり、図１８１５（ａ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面図であり、図１８１５（ｂ）は、図１８

１５（ａ）に図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面図である。

【２０４２３】

図１８１４（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられたシールと同じ赤色（同じ濃さの赤色）の光で一面発光されるように表示される（第１態様）。

【２０４２４】

この場合、図１８１４（ｂ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側が表示領域の表示と同様に赤色で視認されることになり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側の赤色と区別がつき難くなり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４が判別し難くなる。

【２０４２５】

従って、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に遊技者の注目力が行き難くなり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様としては、単に一面赤色で塗りつぶされているような印象を与える。

【２０４２６】

図１８１５（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられたシールの赤色に対して、赤以外の色も含む光（例えば、白色光）で一面発光されるように表示される（第２態様）。

【２０４２７】

この場合、図１８１５（ｂ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側では第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で照射される（赤以外の色も含む）光の色で視認される一方で、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で照射される光の色の内、赤以外の色がシールに吸収され、赤色で視認される。

【２０４２８】

そのため、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側における（赤以外の色も含む）光の色と、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側における赤色とで、区別させ易くなり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を判別させ易くなる。

【２０４２９】

従って、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に遊技者の注目力を向かわせ易くなり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様としては、遊技者に対する何らかの示唆が生じているような印象を与える。

【２０４３０】

このように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示を一面同色の表示とする態様（図１８１４（ａ）及び図１８１５（ａ）参照）を採用しながらも、色の異なる第１態様と第２態様とでは、表示される光と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールに印刷される色との関係から、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様の印象を異ならせることができる。

【２０４３１】

なお、上述の実施形態では、無色透明の樹脂材料から形成される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に色付きのシールが貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、非透過のプリントシールを貼り付けるようにしても

良いし、色付きの樹脂材料（透明の樹脂材料でも良いし、非透過の樹脂材料でも良い）から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を形成しても良い。

【２０４３２】

この場合に、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４による形状の構成は、２色成形により作っても良いし、形状に合わせたリール部材を貼り付けるようにしても良いし、形状に合わせた凹部や凸部を形成することで光の透過性を異ならせ視認態様を調整するようにしても良い。

【２０４３３】

樹脂材料に付けられる色は、硬化剤の色である場合等、無色透明の樹脂材料に比較して材料強度や材料の粘りを向上させる場合が多い。そのため、色付きの樹脂材料から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を形成する場合、形状の設計自由度を向上させたままで十分な材料強度を発揮させることができる。

【２０４３４】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を、貼り付けられるシールに形成される形状として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の形状により輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を視認させるようにしても良い。

【２０４３５】

即ち、例えば、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿う形状で板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側から後方に突条状に突設形成されるリブ部を形成しても良い。

【２０４３６】

リブ部が形成される箇所において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の厚み寸法が大きくなるので、透過性が低くされ、暗く視認される。即ち、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿って暗く視認されるラインが形成されることで、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側との境界部を認識させ易くすることができ、演出性を向上させることができる。

【２０４３７】

更に、リブ部により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の材料強度を向上させることができ、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の曲げ変形や、折れ変形を防止し易くすることができる。

【２０４３８】

このように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿ったリブ部を形成することで、演出性を向上させつつ、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の耐久性の向上も図ることができる。

【２０４３９】

上述の構成によれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされているままで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の表示態様を切り替えることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様の印象を瞬時に切り替えることができる。

【２０４４０】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされているままで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の表示態様を一面赤色の表示（図１８１４（ａ）参照）から一面多色（例えば、赤色以外を含む色）の表示（図１８１５（ａ）参照）に切り替えることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様を図１８１４（ｂ）に図示される態様から図１８１５（ｂ）に図示される態様に瞬時に切り替えることができる。

【２０４４１】
このように、本実施形態によれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態という同じ状態を構成している場合において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４が判別され易く、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側を通して見える表示に注目させ易い（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に注目させ易い）場合と、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４が判別され難く一面同じ色で視認されるために手前側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に注目させ易い場合とを切り替えることができる。

【２０４４２】
即ち、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が透過性の材料から形成される場合に特有の、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１よりも後側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１による表示に注目させるという機能（図１８１５（ｂ）参照）に加えて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が非透過の材料から形成される場合に特有の、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１自体に注目させて後側の第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域には注目させ難くするという機能（図１８１４（ｂ）参照）をも生じさせることができる。

【２０４４３】
図１８１５（ａ）及び図１８１５（ｂ）を参照して、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示態様の設定の一例を説明する。上述した説明では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で一面同じ態様（色味）の光を見せるように制御する場合を説明したが、例えば、図１８１５（ａ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を複数の範囲に分割し、それぞれの範囲で別々の表示態様で表示可能に構成しても良い。

【２０４４４】
例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされている場合において、輪郭ＫＯＬ４８１を正面視で含む範囲において第１扉演出表示ＫＥＲ４８１が実行可能とされ、外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂを正面視で含む範囲において第２扉演出表示ＫＥＲ４８２が実行可能とされ、輪郭ＫＯＬ４８３を正面視で含む範囲において第３扉演出表示ＫＥＲ４８３が実行可能とされ、輪郭ＫＯＬ４８４を正面視で含む範囲において第４扉演出表示ＫＥＲ４８４が実行可能とされるように設定する。

【２０４４５】
各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４として、赤以外の色を含む表示を行う場合、その表示範囲は対応する各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４よりも大きいが、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側においてはシールに赤色以外の色が吸収されることにより、赤以外の色の表示が視認されるのは各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側に限定される。

【２０４４６】
例えば、第１扉演出表示ＫＥＲ４８１において、虹色の七色を等間隔で縞状に並べたような表示を行うようにしても良い。この場合、輪郭ＫＯＬ４８１の内側のみを虹色で視認させ、輪郭ＫＯＬ４８１の外側は赤色で視認させることができるので、遊技者に対して、ローマ字の「Ｓ」を虹色で視認させることができる。これにより、遊技者に対して、何らかの利益を獲得可能であること（例えば、特別図柄の抽選で大当たりとなったこと）を示唆することができる。

【２０４４７】
例えば、第２扉演出表示ＫＥＲ４８２において、縦方向に延びる黄色の帯状部が左方に移動する表示が等間隔で実行され、第３扉演出表示ＫＥＲ４８３において、横方向に延びる黄色の帯状部が上方に移動する表示が等間隔で実行されるようにしても良い。

【２０４４８】

この場合、内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの内側のみで黄色部が左方に移動し、輪郭ＫＯＬ４８３の内側のみで黄色部が上方に移動するように視認させ、内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側、外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側および輪郭ＫＯＬ４８３の外側は赤色で視認させることができるので、遊技者に対して、ローマ字の「ＧＯ」を黄色部が動く態様で視認させることができると共に、黄色部の移動方向として視線を左上方向に誘導させることができる。

【２０４４９】

これにより、遊技者の視線が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の右半分に偏っていたとしても、遊技者の視線を左方側へ誘導することができるので、輪郭ＫＯＬ４８１を視界に入れさせることで、虹色のローマ字の「Ｓ」の表示に気付かせることができる。

【２０４５０】

例えば、第４扉演出表示ＫＥＲ４８４において、一面金色で、表示したり、消したりを交互に繰り返す（点滅させる）ように制御しても良い。この場合、表示中には、輪郭ＫＯＬ４８４の内側のみを金色で視認させることで、「王冠」を印象付ける一方で、表示を消した場合には、「王冠」が無いかのように視認させることができる。

【２０４５１】

この場合において、表示する時間と、表示が消される時間との比を異ならせることにより、その印象を異ならせることができる。即ち、表示する時間の方が、表示が消される時間に比較して長い場合、「王冠」は濃く視認され、より実体化される。一方、表示する時間の方が、表示が消される時間に比較して短い場合、「王冠」は薄く視認され（透けて視認され）、残像のような印象を与える。

【２０４５２】

このように、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の外縁形状を単なる矩形という単純な形状としながらも、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の表示態様にのっとった形で各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状を遊技者に視認させることができる。

【２０４５３】

従って、第３図柄表示装置Ｋ８１における表示態様を、前方に配置される各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状を表示する場合に比較して簡素なパターンとすることができるので、描画に要する時間を短くしつつ、遊技者には、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状に対応した模様を視認さえることができる。

【２０４５４】

各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側の発光は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の発光を利用していることから、面発光で視認させることができる。そのため、点光源により発光される移動装置Ｋ４５６０（上述の各実施形態における移動装置Ｋ５６０に相当、図１７５５参照）等に比較して、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側を、より明るく、より均一に光らせることができ、視認性を向上させることができる。

【２０４５５】

なお、本実施形態では、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４を開閉動作する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４のみに対応させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２０４５６】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と同様に開閉動作可能な第２扉状可動役物が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前層側（又は後層側）に配設されても良い。その第２扉状可動役物の板状部にもシールが貼り付けられ、第２扉状可動役物の閉塞状態において正面視で各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３

，ＫＥＲ４８４と重なる位置において、シールに各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４とは異なる輪郭が施される。

【２０４５７】

この場合、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の表示態様が同じであっても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７４２参照）であって第２扉状可動役物が演出待機状態（図１７４０参照）とされる場合と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７４０参照）であって第２扉状可動役物が閉塞状態（図１７４２参照）とされる場合とで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側における視認態様を異ならせることができる。

【２０４５８】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１と同様に、閉塞状態（図１７７９（ｃ）及び図１７８３参照）における停止と、連動切替状態（図１７７９（ｂ）及び図１７８２参照）における停止とを容易に行うことができる。即ち、駆動力の停止タイミングが若干ずれた場合であっても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を、閉塞状態または連動切替状態で停止させることを容易に行うことができる。

【２０４５９】

左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１と同様に、左右それぞれで独立の駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図１７７６参照）により駆動されるため、左右それぞれで動作タイミングを合わせた駆動や、左右独立で動作させる駆動が可能とされる。

【２０４６０】

即ち、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の状態として説明した、演出待機状態（図１７８１参照）、連動切替状態（図１７８２参照）、閉塞状態（図１７８３参照）は、左右同時に動作される場合に限らず、左右いずれかが取り得る状態としても構成され得る。

【２０４６１】

ここで、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、相手側の扉と当接して停止される場合には、片側だけを動作させた場合の停止位置が定まらない可能性がある。これに対して、本実施形態では、上述の各実施形態と同様に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を、閉塞状態または連動切替状態で停止させることを、相手側の部材（左右反対側の部材）との当接に因ることなく行うことができるので、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の左右一方のみを動作させる場合でも、閉塞状態または連動切替状態で正確に停止させることができる。

【２０４６２】

左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作速度について説明する。上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１への駆動力伝達の上流側に位置する基端側スライド部材Ｋ８８０（図１７７９及び図１７８０参照）と同様に、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図１７７６参照）が一定の駆動速度で駆動されている場合であっても、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動速度を連動切替状態（図１７７９（ｂ）参照）において最大とすることができる。

【２０４６３】

図１８１６は、後層側可動装置Ｋ４８００の後側開閉部材Ｋ４８１０の板状部Ｋ４８１１、中側開閉部材Ｋ４８２０の板状部Ｋ４８２１及び前側開閉部材Ｋ４８３０の板状部Ｋ４８３１を模式的に示す正面模式図である。図１８１６では、連動切替状態（図１７７９（ｂ）及び図１７８２参照）における視認態様が図示される。

【２０４６４】

後層側可動装置Ｋ４８００は、動作により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、おおよそ重なることなく輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内容が明確に理解できる状態（図１８１３参照）と、板状部

Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、部分的に重なることで輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４（例えば、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ）が見え難くなる状態（図１８１６参照）とで、切替可能とされる。これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１による視認態様のバリエーションを増やして、注目力の向上および演出効果の向上を図ることができる。

【２０４６５】

図１８１６に図示されるように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の少なくとも一部が前後で重ねられることにより全体の左右幅が縮められることに加え、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの内側（無色透明）と板状部Ｋ４８２１に形成される輪郭ＫＯＬ４８２の外側（赤色）との重なる位置、及び、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側（赤色）と板状部Ｋ４８２１に形成される輪郭ＫＯＬ４８２の内側（無色透明）との重なる位置では、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側の色（赤色）で視認されることになることから、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして判別し易い（無色透明で視認される）部分の面積が減少される。

【２０４６６】

従って、図１８１３に図示される状態に比較して、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして形成される装飾の判別をし難くすることができる。仮に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前後方向の重なり加減が変化することなく左右にスライド移動することがあった場合に比較して、本実施形態では輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂが第３図柄表示装置Ｋ８１の前方の外方へ退避する前から重なり始める分、本実施形態の方が、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして視認される（無色透明で視認される）面積の減少が早期に生じることになり、輪郭ＫＯＬ４８２の判別をし難くさせることができる。

【２０４６７】

これにより、図１８１３に図示される状態と、図１８１６に図示される状態との、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂの判別のし易さの違いを、より際立たせることができ、視認態様のバリエーションの差を大きくすることができる。

【２０４６８】

図１８１６に図示される状態で、太い幅の想像線で図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に位置する範囲において上述の第１態様の表示を実行することにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左右側に配置される左右幅の長い枠構成部（フレームの一部）として視認させることができ、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる領域を板状部Ｋ４８１１の間隔に狭めることができる（縮小表示態様）。

【２０４６９】

即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の大きさが変化したように見せることができるので、遊技者に対して、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出だけではなく、見かけ上変化された（小さくされた）表示領域の大きさに適した表示演出を見せることを、同一の第３図柄表示装置Ｋ８１により実行することができる。

【２０４７０】

一方、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に位置する範囲において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールの色よりも濃い赤での濃淡による形状を視認させる表示（第３態様の表示）を行い（赤はシールにより吸収されないので板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１越しに濃淡による形状を遊技者が視認可能）、板状部Ｋ４８１１の間隔に置いても赤の濃淡による形状を視認させる表示を行うようにしても良い。

【２０４７１】

例えば、図１８１６に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上側範

囲において左右方向に帯状に延びる第４背面表示Ｋ８１ｄを板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールと同じ濃さの赤色で表示し、その第４背面表示Ｋ８１ｄの内側に右方向を向く矢印形状の第５背面表示Ｋ８１ｅを板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールの赤色よりも濃い赤色で表示する。

【２０４７２】

この場合、板状部Ｋ４８１１の内側端部で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域が仕切られているような印象を与えることはなく、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１越しに第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における第４背面表示Ｋ８１ｄ及び第５背面表示Ｋ８１ｅを透けて見せることができる。

【２０４７３】

この態様によれば、第５背面表示Ｋ８１ｅが板状部Ｋ４８１１の内側縁部と重なっていても遊技者に違和感を与えることがないので、第５背面表示Ｋ８１ｅを左右方向（例えば、矢印の向く右方向）にスライド移動する動的表示として表示する場合においても、遊技者に違和感を与えることが無い。

【２０４７４】

このように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置したまま、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出を実行することができる（非縮小表示態様）。

【２０４７５】

このように、本実施形態では、上述の各実施形態と同様に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置された状態において、遊技者に対して、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出だけではなく、見かけ上変化された（小さくされた）表示領域の大きさに適した表示演出を見せることができ、これらは、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示態様を切り替えることにより実現される。

【２０４７６】

なお、上述した縮小表示態様や、非縮小表示態様において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方の表示範囲の指定は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の投影範囲に限られるものではない。

【２０４７７】

例えば、縮小表示態様において、上述した第１態様の表示を実行させる範囲の左右内側端は、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端側（互いに対向配置される側）縁部よりも左右外側にずらすようにしても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作（停止位置）が不安定となったとしても、第１態様の表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われずに露出する事態の発生を回避し易くすることができる。

【２０４７８】

また、縮小表示態様において、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端側において上下方向に延びる帯状の表示を行うことで、左右の板状部Ｋ４８１１の間隔における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示範囲と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方における表示範囲とを区別させ易くすることができるが、この帯状の表示の位置についても、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端の投影範囲に限られるものではない。

【２０４７９】

例えば、左右の板状部Ｋ４８１１の対向する側（左右内側）にずらすようにしても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作（停止位置）が不安定となったとしても、帯状の表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われて、帯状の表示が視認され難くなる事態を回避し易くすることができる。

【２０４８０】

図１８１７（ａ）、図１８１７（ｂ）及び図１８１７（ｃ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１及び後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の上面図である。図１８１７（ａ）、図１８１７（ｂ）及び図１８１７（ｃ）では、第３図柄表示

装置Ｋ８１と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１との位置関係が模式的に図示される。

【２０４８１】

図１８１７（ａ）に図示されるように、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を覆う大きさで第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配設され、左右側端部が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右側の枠に接着される透明フィルムＫ４８９１と、その透明フィルムＫ４８９１の上下両側に一対で配設され透明フィルムＫ４８９１を把持する把持部Ｋ４８９２と、その把持部Ｋ４８９２を前後方向にスライド変位させる第１駆動装置Ｋ４８９３と、その第１駆動装置Ｋ４８９３を左右方向にスライド変位させる第２駆動装置Ｋ４８９４と、が第３図柄表示装置Ｋ８１に配設される。

【２０４８２】

把持部Ｋ４８９２が初期位置（図１８１７（ａ）参照）に配置されている状態では、透明フィルムＫ４８９１の前面は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓと平行とされており、透明フィルムＫ４８９１を通して視認される表示は、透明フィルムＫ４８９１が配設されていない場合と大きな変化はない。

【２０４８３】

図１８１７（ｂ）に図示されるように、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置される場合、透明フィルムＫ４８９１は、上面視で把持部Ｋ４８９２を頂点とする三角形状の２辺を形成する態様で変形され、透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓと非平行とされる。この場合、透明フィルムＫ４８９１を通して視認される表示は、透明フィルムＫ４８９１が配設されていない場合と変化し得る。

【２０４８４】

図１８１７（ｃ）では、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置され、後層側可動装置Ｋ４８００の右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は演出待機状態における配置とされる一方で、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は閉塞状態における配置とされた状態が図示される。

【２０４８５】

図１８１７（ｃ）に図示されるように、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置されることで、正面視における、透明フィルムＫ４８９１の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側の縁と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の透明フィルムＫ４８９１側の縁との前後間隔が狭められている。

【２０４８６】

更に、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置される場合における透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９と、閉塞状態における配置とされた板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が並べられる方向ＫＬ５０とが略平行とされる。

【２０４８７】

透明フィルムＫ４８９１は、第３図柄表示装置Ｋ８１側から入射された光を屈折させることで、平面ＫＳ４９と垂直な方向に進行させ、遊技者に視認させる。これにより、透明フィルムＫ４８９１の前面を視認面として視認される第３図柄表示装置Ｋ８１からの表示と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前面を通して視認される装飾とを、一連で視認させ易くすることができる。

【２０４８８】

なお、透明フィルムＫ４８９１を通して視認させる第３図柄表示装置Ｋ８１側の表示は、遊技者が平面ＫＳ４９と直交する方向視で視認する可能性を考慮して、把持部Ｋ４８９２の左右位置よりも若干左右方向に超えて（図１８１７（ｃ）において左側にまで超えて）連続的に形成されるようにしても良い。この場合、遊技者が平面ＫＳ４９と直交する方向視で視認した場合であっても、透明フィルムＫ４８９１と板状部Ｋ４８１１との間に隙間が視認されることを防止し易くすることができると共に、遊技者が正面視で視認している場合には、把持部Ｋ４８９２よりも左側の範囲においては板状部Ｋ４８１１とオーバー

ラップすることで、ほぼ板状部Ｋ４８１１の色（本実施形態では、赤色）で視認されることにより、把持部Ｋ４８９２の配置される左右中央位置で視認態様を区切ることができる。

【２０４８９】

なお、把持部Ｋ４８９２の前後位置は、第１駆動装置Ｋ４８９３を駆動させることにより変更可能とされる。そのため、透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９の傾斜角度は、任意に設定可能である。即ち、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と透明フィルムＫ４８９１との前後間隔を調整することで視認性（一連で視認されるか、一連ではないように視認されるか）を調整したり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が並べられる方向に対する平面ＫＳ４９の角度を敢えて傾斜させたりすることができる。

【２０４９０】

なお、把持部Ｋ４８９２の左右位置は、第２駆動装置Ｋ４８９４を駆動させることにより変更可能とされる。そのため、板状部Ｋ４８１１の端部が配置される左右位置と、把持部Ｋ４８９２の左右位置を合わせることで、板状部Ｋ４８１１の左右位置に関わらず、正面視における、透明フィルムＫ４８９１の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側の縁と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の透明フィルムＫ４８９１側の縁との前後間隔を狭めることができる。

【２０４９１】

なお、本実施形態では、透明フィルムＫ４８９１が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右端を頂点として延ばされた場合に板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の並ぶ方向ＫＬ５０に沿う位置関係で構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第３図柄表示装置Ｋ８１との前後間隔が図１８１７に図示される配置よりも短い場合には、透明フィルムＫ４８９１が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右端部よりも左右内側の部分を頂点として延ばされるよう構成することで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが平行な状態を構成することができる。

【２０４９２】

また、例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第３図柄表示装置Ｋ８１との前後間隔が図１８１７に図示される配置よりも長い場合には、透明フィルムＫ４８９１の端が固定される位置を第３図柄表示装置Ｋ８１の外枠から前方に離れた位置とすることで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが平行な状態を構成することができる。

【２０４９３】

なお、本実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向が左右方向であることに基づいて透明フィルムＫ４８９１の変形方向を設計したが、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向が変われば、透明フィルムＫ４８９１の変形方向も変わり得るのは当然である。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が前後方向にスライド移動するのであれば、把持部Ｋ４８９２を第３図柄表示装置Ｋ８１の左右に配置して透明フィルムＫ４８９１の変形を生じさせることも考えられる。

【２０４９４】

また、把持部Ｋ４８９２が上下片側に一つずつ配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、把持部Ｋ４８９２が上下片側に複数配置されるようにしても良い。この場合、変位する把持部Ｋ４８９２を場合ごとに切り替えることで透明フィルムＫ４８９１の変形態様を切り替えることができるし、複数の把持部Ｋ４８９２を同時に変位させることでも透明フィルムＫ４８９１の変形態様を異ならせることができる。

【２０４９５】

なお、本実施形態では、板状部Ｋ４８１１の厚み分、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０との間に間隔が生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１のスライド先端側（把持部Ｋ４８９２側）端部において、延ばされた透明フィルムＫ４８９１（図１８１７（ｂ）参照）と干渉しないように傾斜形成（鋭利に形成

）されることで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが上面視で面一となるように構成しても良い。この場合、透明フィルムＫ４８９１と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一連で視認させ易くすることができる。

【２０４９６】

図１８１８（ａ）、図１８１８（ｂ）、図１８１８（ｃ）、図１８１８（ｄ）、図１８１８（ｅ）、図１８１８（ｆ）、図１８１８（ｇ）、図１８１８（ｈ）及び図１８１８（ｉ）は、図１７９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＶＩＩＩ部におけるパチンコ機Ｋ４０１０の部分拡大正面図である。

【２０４９７】

図１８１８（ａ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）とされた場合が図示される。図１８１８（ｂ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７８３参照）とされた場合が図示される。

【２０４９８】

図１８１８（ｃ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７８３参照）とされた場合が図示される。図１８１８（ｄ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７８３参照）とされた場合が図示される。

【２０４９９】

図１８１８（ｅ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図１７８２参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）とされた場合が図示される。

【２０５００】

図１８１８（ｆ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図１７８２参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）とされた場合が図示される。図１８１８（ｇ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図１７８２参照）とされた場合が図示される。

【２０５０１】

図１８１８（ｈ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図１７８２参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７８３参照）とされた場合が図示される。

【２０５０２】

図１８１８（ｉ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図１７８２参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図１７８３参照）とされた場合が図示される。

【２０５０３】

このように、後層側可動装置Ｋ４８００（図１８１３参照）への電圧印加の態様に対応する状態の違いにより、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の配置態様が変化される。これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における視認態様が変化されることになる。

【２０５０４】

本実施形態では、上記各実施形態と同様に、図１８１８（ａ）から図１８１８（ｉ）に図示される状態を切り替えることで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の見せ方を切り替えることができる。

【２０５０５】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１で覆われる範囲において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を上述の第１態様で設定する場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２

１，Ｋ４８３１で覆われる範囲では一面同じ濃さの赤色で視認されることになり動的表示を視認させることができないので、図１８１８（ｂ）～図１８１８（ｉ）に図示される状態で動的表示を視認させることができる実質的な表示範囲（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１や表示装置Ｋ４５８０等のように、枠状に囲まれて視認される表示範囲）は、図１８１８（ａ）に図示される表示範囲よりも狭くなる。

【２０５０６】

また、例えば、図１８１８（ａ）に図示される状態から図１８１８（ｂ）に図示される状態に変化することで、右側の範囲が隠されるところ、その後で図１８１８（ａ）に図示される状態に再び変化された場合に、右側の範囲に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２０５０７】

また、例えば、図１８１８（ｅ）に図示される状態と図１８１８（ｆ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させることで、動的表示を視認させることができる実質的な表示範囲が左右に往復変位されているように遊技者に視認させることができる。この場合に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位と連動して左右にスライド移動されるように見えるように描画の設定を行うことで、実際に第３図柄表示装置Ｋ８１を左右にスライド移動させることをしなくても、あたかも第３図柄表示装置Ｋ８１が左右にスライド移動しているかのように見える演出を実現することができる。

【２０５０８】

これに限らず、図１８１８（ｂ）に図示される状態と図１８１８（ｃ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させる場合や、図１８１８（ｈ）に図示される状態と図１８１８（ｉ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させる場合においても、同様の演出を実現することができる。

【２０５０９】

図１８１９（ａ）、図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）は、図１７９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＶＩＩＩ部におけるパチンコ機Ｋ４０１０の部分拡大正面図である。図１８１９（ａ）、図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）では、パチンコ機Ｋ４０１０の変化の一例が時系列で図示される。なお、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の模様や、色彩の図示が省略される。

【２０５１０】

図１８１９（ａ）では、上述した第１１の動作パターン（図１８０５及び図１８０６参照）の左右対称の動作パターンで第１可動装置Ｋ４４０１が動作され、後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は左右共が閉塞状態（図１８１３参照）で維持される第１の複合動作パターンが時系列で図示される。このような動作パターンは、切替装置Ｋ４６０（図１８０５参照）を左側にも配置して、第１１の動作パターンにならって切替装置Ｋ４６０を適切に制御することで実現可能である。

【２０５１１】

移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。

【２０５１２】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。

【２０５１３】

図１８１９（ｂ）では、第２の複合動作パターンが時系列で図示される。第２の複合動作パターンは、途中まで（上から１，２枚目の図に対応）は、上述した第１の複合動作パターン（図１８０５及び図１８０７参照）で第１可動装置Ｋ４４０１が動作される。

【２０５１４】
一方、左右共が閉塞状態における後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の内、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）に途中で変化され（上から３枚目の図に対応）、その直後に左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されることで、長尺装置Ｋ５４０の左側が落下され、長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢となる（上から４枚目の図に対応）。
【２０５１５】
上述した第１２の動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達した後で駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１８０７（ａ）参照）が励磁されたが、第２の複合動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が右端に到達するよりも早いタイミングで駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される。
【２０５１６】
即ち、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端と中央との間を移動中とされるタイミング（上から３枚目の図に対応）において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が駆動されるのと合わせて駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１８０７（ａ）参照）が励磁される。
【２０５１７】
この場合、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされる間は移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って右下方向にスライド移動されるが、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化されることに合わせて、まず移動装置Ｋ４５６０が下方へ変位し、その後の移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜も水平寄りになる。
【２０５１８】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作が生じる側（左側）と、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化（右下方向から下方向への変化）が生じる側とを合わせることができるので、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一体的に視認させる動作演出を実行させることができる。
【２０５１９】
移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を、途中までは板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。
【２０５２０】
板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。
【２０５２１】
一方、移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後においては、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介することなく第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を受ける。
【２０５２２】
そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により生じていた赤みがかった変色が無くなり、移動装置Ｋ４５６０の外周あたりが第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で発光され、その光の色の影響を受けた態様で視認されることになる。
【２０５２３】
これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が切り替えられなくても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に切り替えられることで、移動装置Ｋ４５６０の見映えを変化させる演出を実行することができる。
【２０５２４】
図１８１９（ｃ）では、第３の複合動作パターンが時系列で図示される。第３の複合動

作パターンは、途中まで（上から１，２枚目の図に対応）は、図１８１９（ｂ）に図示される第２の複合動作パターンと同様に第１可動装置Ｋ４４０１が動作されるものであり、上述した第１１の動作パターンに沿う図１８１９（ａ）とも同様である。

【２０５２５】

一方、左右共が閉塞状態における後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の内、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図１７８１参照）に途中で変化され（上から３枚目の図に対応）、その直後に左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されることで（図１８０７（ａ）参照）、長尺装置Ｋ５４０の左側が落下され、長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢となる（上から４枚目の図に対応）。

【２０５２６】

上述した第１２の動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達した後で駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１８０７（ａ）参照）が励磁されたが、第３の複合動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が右端に到達するよりも早いタイミングで駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される。

【２０５２７】

即ち、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の中央と右端との間を移動中とされるタイミング（上から３枚目の図に対応）において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が駆動されるのと合わせて駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図１８０７（ａ）参照）が励磁される。

【２０５２８】

この場合、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされる間は移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って右下方向にスライド移動されるが、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化されることに合わせて、まず移動装置Ｋ４５６０が下方へ変位し、その後の移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜も水平寄りになる。

【２０５２９】

これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作が生じる側（右側）と、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化（右下方向から下方向への変化）が生じる側とを合わせることができるので、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一体的に視認させる動作演出を実行させることができる。

【２０５３０】

移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を、途中までは板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。

【２０５３１】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。

【２０５３２】

一方、移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後においては、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介することなく第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を受ける。

【２０５３３】

そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により生じていた赤みがかった変色が無くなり、移動装置Ｋ４５６０の外周あたりが第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で発光され、その光の色の影響を受けた態様で視認されることになる。

【２０５３４】

これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が切り替えられなくても（同様の発光

状態を維持した状態でも）、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に切り替えられることで、移動装置Ｋ４５６０の見映えを変化させる演出を実行することができる。

【２０５３５】

上述した第１～３の複合動作パターンでの移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作演出を可能とすることで、閉塞状態における板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前を移動装置Ｋ４５６０が斜め右方向に流下する態様の変位に対する遊技者の注目力を向上させることができる。なお、移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作を全て左右対称に変更することで、移動装置Ｋ４５６０が斜め左方向に流下する態様の変位を実行することもできる。

【２０５３６】

更に、移動装置Ｋ４５６０の斜め右方向への変位が、右側終端まで継続される場合（図１８１９（ａ）参照）に比較して、移動装置Ｋ４５６０の変位方向が途中で変化される場合（図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）参照）の方が、遊技者が得られる利益が高い（例えば、大当たりの可能性が高かったり、払い出される賞球が多かったりする）ように演出される場合、遊技者に対して、斜め右方向に流下する態様で変位する移動装置Ｋ４５６０を変位方向が変わるように願いながら目で追うように仕向けることができる。

【２０５３７】

これにより、移動装置Ｋ４５６０に視線を合わせさせながらも、それだけでなく、その視界（移動装置Ｋ４５６０を中心とする視界）の後方にある板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に対する注目力をも向上させることができる。

【２０５３８】

なお、図１８１９（ａ）から図１８１９（ｃ）では、移動装置Ｋ４５６０の後方に位置する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の後方から外れた位置に配置される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位する場合を構成しても良い。

【２０５３９】

例えば、移動装置Ｋ４５６０が図１８１９（ｂ）の上から２枚目の位置から、図１８１９（ｂ）の上から３枚目の位置まで変位した状態において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態のまま維持され、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化される動作パターンを構成しても良い。

【２０５４０】

この場合において、左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１は非励磁で維持される（図１８０５（ｃ）参照）。更に、この動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置（図１８１９（ａ）の３枚目の位置に相当）に到達する前に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態に変化されることから、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置に到達した後は、第１の複合動作パターンと同様に右下方向へスライド移動される。

【２０５４１】

これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化が生じない状況を構成することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は視界に入れながらも移動装置Ｋ４５６０については注目しないという遊技を避けさせ易くすることができる。

【２０５４２】

また、例えば、移動装置Ｋ４５６０が図１８１９（ｃ）の上から２枚目の位置から、図１８１９（ｃ）の上から３枚目の位置まで変位した状態において、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態のまま維持され、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化される動作パターンを構成しても良い。

【２０５４３】

この場合において、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１は非励磁で維持さ

れる（図１８０５（ｃ）参照）。そのため、この動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置に到達した後は、第１の複合動作パターンと同様に右下方向へスライド移動される。

【２０５４４】

これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化が生じない状況を構成することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は視界に入れながらも移動装置Ｋ４５６０については注目しないという遊技を避けさせ易くすることができる。

【２０５４５】

なお、図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）では、閉塞状態から演出待機状態に変化する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右片側である場合として第２の複合動作パターン及び第３の複合動作パターンを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、異なる複合動作パターンとして、第２，３の複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右共に閉塞状態から演出待機状態に変化する複合動作パターンで動作可能に構成しても良い。

【２０５４６】

この複合動作パターンであれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に変化するタイミングにおける移動装置Ｋ４５６０の配置が限定されるものではない。例えば、左右中央に配置される場合（図１８１９（ａ）の３枚目参照）でも良いし、スライド移動範囲の任意の配置で良い。

【２０５４７】

この複合動作パターンの場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の状態が変化しさえすれば、移動装置Ｋ４５６０の配置に因らず、移動装置Ｋ４５６０の変位方向が途中で変化されることになるので、移動装置Ｋ４５６０に対する注目力よりも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に対する注目力の方が高い状況を構成することができる。

【２０５４８】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の方が正面視での面積が大きいことから、視界に収める際のストレスは低くなるので、移動装置Ｋ４５６０を目で追う必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２０５４９】

なお、上述した各複合動作パターンは、それぞれ独立した制御態様で限定されるものではなく、各複合動作パターンの部分同士を組み合わせて別の複合動作パターンとすることは当然可能である。

【２０５５０】

なお、上述した各複合動作パターンを実行している際に、第３図柄表示装置Ｋ８１から正面側へ向けて光が照射されるようにしても良い。この場合において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全体から光が照射されるようにしても良いし、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の状態に対応して光を照射するようにしても良い。

【２０５５１】

例えば、閉塞状態の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われる範囲においては光を照射せず（又は、目立たない赤色の光を照射するようにして）、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変位され正面側が覆われなくなった箇所から鮮やかな光（例えば、白色光）を照射するようにしても良い。

【２０５５２】

即ち、例えば、図１８１９（ｂ）の３枚目の状態において第３図柄表示装置Ｋ８１の左半分の領域において前方へ向けて光が照射されるようにしたり、図１８１９（ｃ）の３枚目の状態において第３図柄表示装置Ｋ８１の右半分の領域において前方へ向けて光が照射されるようにしたりしても良い。

【２０５５３】

ここで、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光により移動装置Ｋ４５６０が照らされることで、移動装置Ｋ４５６０の視認態様（例えば、色味）が変化される。特に、回転装飾部材Ｋ４５７８の外形付近が、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光の色で視認されることになり、回転装飾部材Ｋ４５７８の演出効果の向上を図ることができる。

【２０５５４】

回転装飾部材Ｋ４５７８の内部にまで第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光による色の影響が生じるものではないが、例えば、表示装置Ｋ４５８０の見え方を考慮して、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光の態様を設計するようにしても良い。

【２０５５５】

例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１側から赤色の光が照射されている場合に、表示装置Ｋ４５８０からも赤色の光を照射するようにすることで、あたかも、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が回転装飾部材Ｋ４５７８の内側を透過したかのように視認させることができる。

【２０５５６】

また、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１側から白色の光が照射されている場合に、表示装置Ｋ４５８０からは黒色（又は銀色）の光を照射するようにし、回転装飾部材Ｋ４５７８の電飾を白色の光で点灯させることで、白色の背景（第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光および回転装飾部材Ｋ４５７８からの光）の中でひときわ目立つ黒色（又は銀色）の球体が斜め下方へ移動しているような印象を遊技者に与える演出を実行することができる。

【２０５５７】

即ち、表示装置Ｋ４５８０の視認態様に基づいて、移動装置Ｋ４５６０がより目立つように第３図柄表示装置Ｋ８１側から照射される光の色を設計することで、移動装置Ｋ４５６０に対する注目力をより向上させることができ、移動装置Ｋ４５６０による演出効果を向上させることができる。

【２０５５８】

なお、図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）で上述した各複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化することに基づいて移動装置Ｋ４５６０が落下した後で、移動装置Ｋ４５６０が演出待機状態における配置に戻る前に板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が再び閉塞状態（例えば、図１８１９（ｂ）の２枚目の状態を参照）に変化するように動作させるようにしても良い。

【２０５５９】

この場合に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の配置により、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通り移動装置Ｋ４５６０に到達するか、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通らずに移動装置Ｋ４５６０に到達するかの違いが生じ、同じ位置に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合であってもその視認態様が変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【２０５６０】

また、図１８１９（ｂ）及び図１８１９（ｃ）で上述した各複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後で再び閉塞状態に戻る態様を採用し、閉塞状態に戻るまでの期間にバリエーション（長短）を設けても良い。

【２０５６１】

この場合において、期間の長短に関わらず、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化することに基づいて移動装置Ｋ４５６０が落下方向に変位するようにしても良いし、又は、閉塞状態に戻るまでの期間が基準（例えば、０．２秒や１秒等、短期間）よりも短い場合には、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化しても長尺装置Ｋ５４０の傾斜姿勢が維持され、移動装置Ｋ４５６０は落下されずに斜め下方への移動を継続するように構成しても良い。

【２０５６２】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作と移動装置Ｋ４５６０の落下とが一対一で対応する場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の変位がどのような態様で実行されるかの予測をされ難くすることができるので、移動装置Ｋ４５６０への注目力を向上させることができる。
【２０５６３】
なお、上述の実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を照らす広範囲の光が第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられるシール部材の赤色よりも濃い赤色の、長尺装置Ｋ５４０の傾斜と平行な直線状の帯状の模様が、長尺装置Ｋ５４０の上方または下方に少し離れて重ならない位置に表示されるようにしても良い。
【２０５６４】
これにより、長尺装置Ｋ５４０の左側部が落下した後においても、帯状の模様が残る（板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通して視認される）ことにより、移動装置Ｋ４５６０の元の移動経路を遊技者が継続して視認可能にすることができる。そのため、遊技者が演出の時系列（例えば、移動装置Ｋ４５６０がどのような動きをして落下位置状態の位置に至ったか）を見失うことを避け易くすることができ、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２０５６５】
更に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合には、この帯状の模様も板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位に付き従って左右方向に変位するように表示態様を制御しても良い。
【２０５６６】
この場合において、移動装置Ｋ４５６０の落下前において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態に変化するように変位した場合に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の帯状の模様と移動装置Ｋ４５６０とが正面視で重なり始める位置関係となった場合に、あたかも帯状の模様と移動装置Ｋ４５６０とが干渉する（衝突する）ように移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を動作させる制御をしても良い。
【２０５６７】
例えば、閉塞状態へ向けて左右内側に進行する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の進行側端部に移動装置Ｋ４５６０が押されて、移動装置Ｋ４５６０が加速されるように動作させても良い。
【２０５６８】
又は、移動装置Ｋ４５６０と帯状の模様とが離れている時に比較して、移動装置Ｋ４５６０と帯状の模様とが正面視で重なり始める状態の方が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動速度が減速されるようにしても良い。この場合、あたかも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が移動装置Ｋ４５６０から荷重を受けて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動抵抗が増加されているかのように視認させることができる。
【２０５６９】
なお、図１８１９（ａ）から図１８１９（ｃ）では、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が、左端部を切替装置Ｋ４６０に支持される場合の姿勢で維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が僅かにずらされるようにして、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が一直線方向だけではなく、その直線方向と交差する方向をも含むようにしても良い。
【２０５７０】
例えば、左側の回転部材Ｋ４３０が、中間支持姿勢（図１７６５参照）と、その中間支持姿勢から回転部材Ｋ４３０が約１５度時計回りに回転された姿勢とで、交互に切り替え

られるような動作制御を行っても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の左側端部が上下に往復変位されることから、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜角度を、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動中に変化させることができる。

【２０５７１】

また、例えば、右側の回転部材Ｋ４３０が、第１解除姿勢（図１８０６（ａ）参照）と、その第１解除姿勢から回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢（図１８０６（ｂ）参照）とで、交互に切り替えられるような動作制御を行っても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の右側端部が上下に往復変位されることから、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜角度を、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動中に変化させることができる。

【２０５７２】

この場合において、右側の回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢とされた場合、左右の回転部材Ｋ４３０の姿勢が合致されることで長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢とされる。即ち、移動装置Ｋ４５６０の移動方向を、水平方向に対して下降傾斜する方向と、水平方向とで、変化させることができる。

【２０５７３】

また、例えば、左右の回転部材Ｋ４３０を共に動作させて、長尺装置Ｋ５４０に両側から作用するようにしても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動方向のバリエーションを増加させることができる。左右の回転部材Ｋ４３０の動作タイミングを合わせることで長尺装置Ｋ５４０に作用するタイミングをずらしても良いし、片側の回転部材Ｋ４３０の動作中にもう片方の回転部材Ｋ４３０を動作させるようにしても良い。

【２０５７４】

また、回転部材Ｋ４３０の回転を、長尺装置Ｋ５４０が落下位置状態における位置（図１８１９（ｂ）の４枚目参照）に配置されている状態で実行するようにしても良い。例えば、図１８１９（ｂ）の４枚目に図示される状態から、左右両側の回転部材Ｋ４３０を中間支持姿勢（図１８０６（ｂ）参照）にしてから、再び第１解除姿勢（図１８０６（ａ）参照）にするように動作させるようにしても良い。

【２０５７５】

この場合、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態（図１８０８（ｃ）参照）における配置に位置しておらず演出待機状態（図１８０８（ｂ）参照）における配置に位置している場合であっても、移動装置Ｋ４５６０が第２可動装置Ｋ４７０１の上方を離れて移動することになるので、移動装置Ｋ４５６０が第２可動装置Ｋ４７０１に移動を妨げられることを防止しつつ、移動装置Ｋ４５６０を右下の領域に到達させることができる。

【２０５７６】

言い換えれば、移動装置Ｋ４５６０を右下の領域に到達させる場合の経路として、長尺装置Ｋ５４０が落下位置状態における配置に位置した後で移動装置Ｋ４５６０が上昇方向へ移動することは無い上述の経路とは異なる移動経路を構成することができる。

【２０５７７】

なお、上記説明では、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が回転部材Ｋ４３０の回転動作に基づいて変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０と対向配置される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（図１７９５参照）から、長尺装置Ｋ５４０が移動する領域側（正面側）へ向けて障害部が棒状に突設され、その障害部がスライド移動中の移動装置Ｋ４５６０と干渉するように作用することで、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が変化するように構成しても良い。

【２０５７８】

即ち、例えば、図１８１９（ｂ）の２枚目に図示される移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の右下側から当接する位置に第１の障害部が配置されている場合、移動装置Ｋ４５６０が図１８１９（ｂ）の２枚目に図示される状態から更に右下方向へスライド移動される場合、第１の障害部と移動装置Ｋ４５６０とが干渉するので、第１の障害部を避けるように長尺装置Ｋ５４０ごと上方に変位される。そして、第１の障害部を右側へ越えると、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が自重により図１８１９（ｂ）の２枚目に図示される状

態に戻される。
【２０５７９】
　又は、自重による復帰では動きが不安定になる場合等、長尺装置Ｋ５４０の姿勢変化を安定させたい場合には、上述の第１の障害部と同様の作用を生じさせる第２の障害部を、移動装置Ｋ４５６０の右上側から当接する位置に配置するようにすれば良い。これにより、第２の障害部を移動装置Ｋ４５６０と干渉させることができ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢を図１８１９（ｂ）の２枚目の状態（元の姿勢）に確実に戻すことができるので、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動方向を戻すことができる。
【２０５８０】
　なお、上述の第１の障害部や第２の障害部は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（図１７９５参照）から突設されるものに限定されるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０よりも前側の層に配置される板状部から移動装置Ｋ４５６０側へ張り出すように設けられても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０との衝突で板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に荷重が加えられることを回避することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の耐久性を向上させることができると共に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作をスムーズにさせることができる。
【２０５８１】
　この場合において、移動装置Ｋ４５６０よりも前側の層に配置される板状部から張り出す正面視での形状は、移動装置Ｋ４５６０の移動する方向（左右方向に対して傾斜する方向）に対して交差する方向（直交する方向または略上下に延びる方向）に長尺の突条形状でも良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０と障害物との衝突により、移動装置Ｋ４５６０のスライド方向を、前後方向の成分を有する方向に変化させることができ、立体感のある演出を実行することができる。
【２０５８２】
　また、同様の障害物が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１から移動装置Ｋ４５６０側へ形成されても良い。この場合において、前方向に突設される障害物の正面視での配置と、後方向に突設される障害物の正面視での配置とは、重なるものでも良いし、ずれがあっても良い。重なる場合には移動装置Ｋ４５６０の前後位置のずれを修正し易くすることができ、ずれがある場合には移動装置Ｋ４５６０の前後変位を促進させることができる。
【２０５８３】
　図１８２０（ａ）及び図１８２０（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図１８２０（ａ）では、演出待機状態（図１７４０参照）における第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が実線で図示され、その第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態（図１７４４参照）とされた場合における外形の輪郭ＫＧ４７０１が想像線で図示され、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において演出待機状態における第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が図示される。
【２０５８４】
　また、図１８２０（ｂ）では、上昇配置状態（図１７４４参照）における第２可動装置Ｋ４７０１が実線で図示され、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において上昇配置状態における第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が図示される。
【２０５８５】
　第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２を利用する第４の演出制御例について説明する。第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２が、第２可動装置Ｋ４７０１の駆動の実行と対応して表示される。

【２０５８６】
第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２の表示のタイミングと、第２可動装置Ｋ４７０１の駆動実行のタイミングとは、同時でも、ずれがあって良い。例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２の表示のタイミングの方が早い場合、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２を表示させ、遊技者に視認させることにより、遊技者に対して、第２可動装置Ｋ４７０１が動作されるかもしれないという期待感を持たせることができる。
【２０５８７】
また、第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２の表示が、第２可動装置Ｋ４７０１の動作に連動して切り替えられる。即ち、第２可動装置Ｋ４７０１が演出待機状態の場合には第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される（図１８２０（ａ）参照）一方、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に変化されるのに合わせて第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される（図１８２０（ｂ）参照）。
【２０５８８】
これにより、第２可動装置Ｋ４７０１が動作される場合に、遊技者に視認される動作対象を、第２可動装置Ｋ４７０１の実際の大きさよりも大きく見せることができる。これにより、動作演出の迫力を増加させることができる。
【２０５８９】
第２可動装置Ｋ４７０１の動作中における外形に対応した形状の中間表示を、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と第２下側演出表示ＫＥＲ４７２との間の位置で表示可能に構成する場合、演出待機状態から上昇配置状態へ向けた第２可動装置Ｋ４７０１の移動に合わせて第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で表示する対象を、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１から、中間表示、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の順に変化させることで、第２可動装置Ｋ４７０１の近傍における表示を、第２可動装置Ｋ４７０１と共に移動しているように視認させることができる。
【２０５９０】
また、同様に、上昇配置状態から演出待機状態へ向けた第２可動装置Ｋ４７０１の移動に合わせて第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で表示する対象を、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２から、中間表示、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１の順に変化させることで、第２可動装置Ｋ４７０１の近傍における表示を、第２可動装置Ｋ４７０１と共に移動しているように視認させることができる。
【２０５９１】
なお、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される層と、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される層とは、同じでも良いし、前後で異なるようにしても良い。例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される層よりも前側の層に第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示されるように構成する場合には、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１を表示しながら第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を表示したとしても、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２に第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が隠されるように視認されることから（図１８２０（ｂ）参照）、表示が重なることで見映えが悪くなるという事態が生じない。これにより、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を第１下側演出表示ＫＥＲ４７１との切り替えの制御を簡素化することができる。
【２０５９２】
なお、第４の演出制御例では、第２可動装置Ｋ４７０１の動作タイミングに合わせて第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と第２下側演出表示ＫＥＲ４７２とが切り替えられる場合を説明したが、演出制御は必ずしもこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。
【２０５９３】
例えば、第２可動装置Ｋ４７０１が演出待機状態で維持されている状態において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の表示が開始される状況を構成可能としても良い。この場合、遊技者に対して、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態へ向けた動作を開始するかもし

れないという期待感を遊技者に持たせることができ、第２可動装置Ｋ４７０１に対する注目力を向上させることができる。

【２０５９４】

この場合において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の表示の透明度にバリエーションを持たせ、透明度が低い（実体に近い）程、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態へ向けた動作を開始する可能性が高いように構成することで、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２に対する注目力をも向上させることができる。

【２０５９５】

また、例えば、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態から演出待機状態に変化した後において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が消えずに維持される状況を構成可能としても良い。この場合、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に位置されている状態では部材同士が干渉するために実行不能とされている第１可動装置Ｋ４４０１の水平落下動作パターン（図１７４１及び図１８０３参照）を、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を維持することであたかも第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に残っているかのように見せながら実行することができる。

【２０５９６】

これにより、動作役物同士では動作軌跡の干渉が生じることで実現不可能な動作態様を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を利用して疑似的に実現させることができるので、演出の迫力を向上させることができる。

【２０５９７】

なお、第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の輪郭を、第２可動装置Ｋ４７０１の外形に対応した形状として形成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２可動装置Ｋ４７０１を含む範囲として、第３図柄表示装置Ｋ８１の枠の内周に沿って帯状に延びる輪郭の表示として形成しても良い。

【２０５９８】

この場合において、表示が第２可動装置Ｋ４７０１を起点として左右両側へ向けて第３図柄表示装置Ｋ８１の枠に沿って延びるように移動し、合流した後で枠状（環状）に形成されても良い。また、表示が枠状（環状）に形成されている状態で、第２可動装置Ｋ４７０１の変化（動作や発光等）に合わせて、追加の表示が枠状（環状）の表示に重なり延びるように形成されたり、枠状（環状）の表示の幅が変化するように制御されたり、枠状（環状）の表示の色や明るさが変化するように制御されても良い。

【２０５９９】

この場合、第２可動装置Ｋ４７０１の変化の影響を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全周に生じさせることができるので、遊技者が第２可動装置Ｋ４７０１を視認しておらず第２可動装置Ｋ４７０１の変化に気づかないという事態を回避し易くすることができる。

【２０６００】

図１８２１（ａ）から図１８２１（ｃ）、図１８２２（ａ）及び図１８２２（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図１８２１（ａ）では、下降配置状態（図１７４１参照）における第２可動装置Ｋ４７０１が実線で図示され、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態に位置されており、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が図示される。

【２０６０１】

更に、図１８２１（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の中央において、制限時間を示すバーとボタン部材Ｈ１８１とを模式的に表示して、ボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作を促す演出表示が実行される。

【２０６０２】

第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第１上側演出表示ＫＥＲ４５１を利用する第５の演出制御例について説明する。第５の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が、後に動作が実行される可能性がある可動部材を示唆する位置に表示される。即ち、第１上側演出表示ＫＥＲ４５１は、第１可動装置Ｋ４４０１の動作可能性を示唆する表示として表示され、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１は、第２可動装置Ｋ４７０１の動作可能性を示唆する表示として表示される。

【２０６０３】

第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作は、遊技者がボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）を操作することに応じて実行される。そのため、遊技者に対して、第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が動作することを願いながらボタン部材Ｈ１８１を操作させるように促すことができるので、ボタン部材Ｈ１８１の操作タイミングにおける遊技者の注目を、第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が移動して来得る位置（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置）に集めることができる。

【２０６０４】

なお、遊技者がボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作を実行しなかった場合における制御態様は種々の態様が例示される。例えば、操作待ち期間の終了後に第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されるようにしても良いし、予め遊技者が操作を実行しないという意思表示をしている場合（自動操作を有効としている場合）等において、操作待ち期間の途中で第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されるようにしても良いし、ボタン部材Ｈ１８１の操作が実行されなかった場合には第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されないようにしても良い。

【２０６０５】

図１８２１（ｂ）では、第５の演出制御例における第１操作後報知態様が図示される。第１操作後報知態様では、図１８２１（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１が代表途中停止位置（図１８０４（ｃ）参照）よりも上方の位置まで変位され、第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が消され、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に変化され、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される。

【２０６０６】

これにより、第２可動装置Ｋ４７０１に形成される「Ｍ」の模様が遊技者に注目されることになる。「Ｍ」は、例えば「ＭＡＸ」の頭文字と意味づけることができ、入賞ユニットＫ２００の「Ｅ」と合わせて「ＭＡＸ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから大きな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【２０６０７】

一方、図１８２１（ｃ）では、第５の演出制御例における第２操作後報知態様が図示される。第２操作後報知態様では、図１８２１（ａ）で図示される状態を経て、第２可動装置Ｋ４７０１は演出待機状態における位置まで変位され、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が消され、第１可動装置Ｋ４４０１が代表途中停止位置（図１８０４（ｃ）参照）に変化され、代表途中停止位置における移動装置Ｋ４５６０の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第２上側演出表示ＫＥＲ４５２が表示される。

【２０６０８】

これにより、移動装置Ｋ４５６０の表示装置Ｋ４５８０に表示される「Ｐ」の表示が遊技者に注目されることになる。「Ｐ」は、例えば「Ｐｅｔｉｔ」の頭文字と意味づけることができ、入賞ユニットＫ２００の「Ｅ」と合わせて「Ｐｅｔｉｔ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから小さな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【２０６０９】

第５の演出制御例による演出が、第１操作後報知態様へ進むか、第２操作後報知態様へ進むかによって、遊技者が得られる利益に差を設けるように制御することで、第１可動装

置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が移動して来得る位置（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置）に対する遊技者の注目力をより向上させることができ、ボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作に対する操作意欲を上昇させることができる。

【２０６１０】

図１８２２（ａ）では、第５の演出制御例における第３操作後報知態様が図示される。第３操作後報知態様では、図１８２１（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１（上記各実施形態の第１可動装置Ｋ４０１に相当）が落下位置状態（図１７４１参照）に変化され、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態の第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態（図１７４１参照）で維持され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（上記各実施形態の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に相当）が閉塞状態に変化される。

【２０６１１】

この場合、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側で「ＳＰＭＥ」と視認させ、「ＳＰｅｃｉａｌ－ＭＡＸ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから多大に大きな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【２０６１２】

第５の演出制御例において、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態で維持されるのは第３操作後報知態様のみに設定されている。これに対応して、例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１（図１８２０（ａ）参照）で表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の表示の変動方向が通常は上方向（立ち昇る方向）であるところ、第３操作後報知態様が予定されている状況においては表示の変動方向が下方向になる場合がある（例えば、２回に１回は下方向になる）ように設定することで、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１を視認した遊技者に対して、ボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作前から、第３操作後報知態様の演出動作が実行される可能性があるという期待感を持たせることができる。

【２０６１３】

図１８２２（ｂ）では、第５の演出制御例における第４操作後報知態様が図示される。第４操作後報知態様では、図１８２１（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１（上記各実施形態の第１可動装置Ｋ４０１に相当）が代表途中停止位置（図１８０４（ｃ）参照）よりも上方の位置まで変位され、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態の第２可動装置Ｋ７０１に相当）が突破上昇動作パターンの動作終端状態（図１８１２参照）に変化され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（上記各実施形態の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に相当）が連動切替状態（図１７８２参照）に変化され、第３図柄表示装置Ｋ８１ではガラス板が割れたような表示がされる。

【２０６１４】

このような表示を行うことで、遊技者に対して、抽選の外れを報知すると共に、あたかも第３図柄表示装置Ｋ８１の周囲の可動役物の動作による衝撃で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓ（図１８１７参照）が割れたかのように視認させることで、遊技者を驚かせ、遊技者の集中力を高めることができる。

【２０６１５】

第５の演出制御例による演出が、第１操作後報知態様へ進むか、第２操作後報知態様へ進むか、第３操作後報知態様へ進むか、第４操作後報知態様へ進むかによって、遊技者が得られる利益に差を設けるように制御することで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置に対する遊技者の注目力をより向上させることができ、ボタン部材Ｈ１８１（図１７２５参照）の操作に対する操作意欲を上昇させることができる。

【２０６１６】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１の周囲の可動役物の動作と第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示とを関連させる表示態様は、上述のものに限られるものでない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１にゴム状の部材が表示され、可動役物が第３図柄表示装置Ｋ

８１の表示領域の前方に張り出すと共に、あたかも可動役物によりゴム状の部材が曲げられる（押し縮められる）ように動画表示しても良い。これにより、可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【２０６１７】

また、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１に回転するルーレットが表示され、可動役物が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の前方に張り出すことに合わせてルーレットが停止されるように動画表示しても良い。これにより、あたかも可動役物から表示領域におけるルーレットに荷重がかけられたような状況を表現することができ、遊技者に対して可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【２０６１８】

また、例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態における配置から演出待機状態における配置へ向けて移動される際に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において板状部Ｋ４８１１の内側端部に左右内側から掌を当てる人間の手が表示され、板状部Ｋ４８１１の移動速度と同じ移動速度で同方向に移動されるように動画表示しても良い。これにより、あたかも表示領域における表示から可動役物（板状部Ｋ４８１１）に荷重がかけられたような状況を表現することができ、遊技者に対して可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【２０６１９】

なお、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側に配置され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ光を照射するのは、第３図柄表示装置Ｋ８１に限定されるものではない。例えば、電飾基板が配置されＬＥＤ光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ照射されるものでも良い。また、電飾基板が移動不能に固定されているものでも良いし、移動可能（例えば、可動役物に配置されることで移動可能）に構成されているものでも良い。また、パトランプや警告灯のように、ランプ状の発光手段から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ光が照射されるように構成しても良い。

【２０６２０】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、センターフレームＫ８６内に配置される場合に限られるものではない。例えば、遊技盤Ｋ１３（図１８０２参照）のベース板Ｋ６０の（開口部の）前側に配置され、その開口部を開閉するように構成しても良いし、ベース板Ｋ６０の背面側で開閉することで遊技領域の背景を変更可能に構成しても良い。いずれの場合でも、開閉される領域の視認態様を変更することで演出効果の向上を図ることができる。

【２０６２１】

図１８２３から図１８３０を参照して、第１０９実施形態について説明する。上記各実施形態では、遊技球が流下する遊技領域がセンターフレーム８６の外方に形成される場合を説明したが、第１０９実施形態では、正面視でセンターフレームＫ５０８６の内側の位置においても遊技球が流下可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２０６２２】

図１８２３及び図１８２４は、第１０９実施形態におけるパチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１８２３では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第１傾斜姿勢（図１７４６参照）とされた状態が図示され、図１８２４では、長尺装置Ｋ５５４０が右第２傾斜姿勢（図１７９７参照）とされた状態が図示される。

【２０６２３】

長尺装置Ｋ５５４０は、上述した長尺装置Ｋ５４０に内方されていた電飾基板Ｋ５５２（図１７５４参照）が取り除かれ、各構成部材が光透過性の樹脂材料から形成されており、移動装置Ｋ４５６０がスライド移動可能に配設される。

【２０６２４】

この場合、長尺装置Ｋ５５４０がセンターフレームＫ５０８６の正面視内方に登場した

場合（図１８２３及び図１８２４参照）に、移動装置Ｋ４５６０の配置位置を通して後方の第３図柄表示装置Ｋ８１が視認されることは無い（視線が遮断される）が、長尺装置Ｋ５５４０の配置位置では長尺装置Ｋ５５４０が透けることにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が視認される。

【２０６２５】

これにより、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が浮いているように視認させることができ、移動装置Ｋ４５６０の四方八方において第３図柄表示装置Ｋ８１からの報知態様（光や、表示）を視認させることができるので、移動装置Ｋ４５６０及び第３図柄表示装置Ｋ８１による視認態様のバリエーションを増加させることができる。

【２０６２６】

センターフレームＫ５０８６は、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の配置位置（左右中央位置、図１７６６参照）よりも左側において遊技球が流下可能に形成される左側流路Ｋ５０８６Ｌと、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の配置位置よりも右側において遊技球が流下可能に形成される右側流路Ｋ５０８６Ｒと、を備える。

【２０６２７】

左側流路Ｋ５０８６Ｌは、少なくとも後側面が光透過性の樹脂材料から形成される流路構造であって、センターフレームＫ５０８６の内方位置に遊技球を受け入れる第１流路Ｋ５０８６ａと、その第１流路Ｋ５０８６ａの下流側端部の分岐位置から遊技球を左側へ案内する第２流路Ｋ５０８６ｂと、その第２流路Ｋ５０８６ｂにおける遊技球の流下を検出可能な左側検出センサＫ５０８６ｃと、第１流路Ｋ５０８６ａの下流側端部の分岐位置から遊技球を右側へ案内する第３流路Ｋ５０８６ｄと、その第３流路Ｋ５０８６ｄにおける遊技球の流下を検出可能な右側検出センサＫ５０８６ｅと、を備える。

【２０６２８】

左側流路Ｋ５０８６Ｌを流下した遊技球の内、第２流路Ｋ５０８６ｂを流下した遊技球は、遊技領域の左右方向中央位置よりも左側においてベース板Ｋ５０６０（上記各実施形態におけるベース板Ｋ６０に相当、図１７２６参照）の前方に排出され、一般入賞口Ｋ６３又はアウト口Ｋ７１（図１７２６参照）を通して遊技領域から排出される。

【２０６２９】

左側流路Ｋ５０８６Ｌを流下した遊技球の内、第３流路Ｋ５０８６ｄを流下した遊技球は、遊技領域の左右方向中央位置に位置する第１入賞口Ｋ６４（図１７２６参照）の上方においてベース板Ｋ５０６０（上記各実施形態におけるベース板Ｋ６０に相当、図１７２６参照）の前方に排出される。第３流路Ｋ５０８６ｄの排出孔は、遊技球の排出位置を左右でばらつかせることができる程度に横長に形成されており、第３流路Ｋ５０８６ｄから排出された遊技球は、第１入賞口Ｋ６４に入球するか、又は第１入賞口Ｋ６４の左右側を逸れて流下しアウト口Ｋ７１（図１７２６参照）を通して遊技領域から排出される。

【２０６３０】

右側流路Ｋ５０８６Ｒは、少なくとも後側面が光透過性の樹脂材料から形成される流路構造であって、センターフレームＫ５０８６の内方位置に遊技球を受け入れる受入流路Ｋ５０８６ｊと、その受入流路Ｋ５０８６ｊにおける遊技球の流下を検出可能な検出センサＫ５０８６ｋと、受入流路Ｋ５０８６ｊの下流側端部の分岐位置から左側へ流れた遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌの第３流路Ｋ５０８６ｄに案内可能となるように第３流路Ｋ５０８６ｄに連結される連結流路Ｋ５０８６ｌと、受入流路Ｋ５０８６ｊの下流側端部の分岐位置から右側へ流れた遊技球をスルーゲートＫ６７（図１７２６参照）の上流側において遊技領域に排出する右排出流路Ｋ５０８６ｍと、を備える。

【２０６３１】

右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下した遊技球の内、連結流路Ｋ５０８６ｌを流下した遊技球は、上述の左側流路Ｋ５０８６Ｌの第３流路Ｋ５０８６ｄを流下した遊技球と同様に、第１入賞口Ｋ６４に入球するか、又は第１入賞口Ｋ６４の左右側を逸れて流下しアウト口Ｋ７１（図１７２６参照）を通して遊技領域から排出される。

【２０６３２】

右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下した遊技球の内、右排出流路Ｋ５０８６ｍを流下した遊技球は、上述した「右打ち」で発射された遊技球と同様に、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも右側を流下し、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７２６参照）に入球する可能性がある。また、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａのいずれの入賞口にも入球しなかった場合には、アウト口Ｋ７１（図１７２６参照）を通して遊技領域から排出され得る。

【２０６３３】

左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒは、遊技球が入球しさえすれば内部の振分け次第で第１入賞口Ｋ６４へ遊技球が入球する可能性があるので、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側において遊技球を流下させる「左打ち」と同じ目的の別の球発射方法として、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒへ入球させる球発射方法をするように遊技者に促すことができる。

【２０６３４】

本実施形態では、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側端部に一定間隔で前後方向にスライド動作し左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒを開閉する開閉弁Ｋ５０８６Ｖが配設される。即ち、開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放状態の時に遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球させることができる一方、開閉弁Ｋ５０８６Ｖが閉鎖状態の時には遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球させるができないように構成される。

【２０６３５】

開閉弁Ｋ５０８６Ｖの開閉動作のパターンは、電源投入から一定動作であればよく、種々の態様が例示される。例えば、閉鎖状態を１０秒維持した後で０．５秒だけ開放状態となり再び閉鎖状態を維持することの繰り返しの動作パターンでも良い。

【２０６３６】

また、閉鎖状態の時間間隔が同一である必要は無く、１０秒閉鎖され開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は２０秒間維持され、そこから開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は３０秒間維持され、そこから開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は１０秒間維持されるという繰り返しの動作パターンでも良い。

【２０６３７】

また、開放状態で維持される時間間隔が毎回０．５秒であっても良いし、０．５秒の場合と１．０秒の場合とが交互に生じるようにしても良いし、一定のパターンに準じて開放状態で維持される時間間隔が変化されるようにしても良い。

【２０６３８】

なお、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側の構成はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側における遊技領域において、不図示の複数本の釘により、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒ側に案内される遊技球の個数が過多とならないように調整されるようにしても良い。

【２０６３９】

遊技者としては、「左打ち」で球を発射した方が第１入賞口Ｋ６４に球を入球させ易いのか（発射球数に対する入球の割合が高いのか）、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを狙って球を発射した方が第１入賞口Ｋ６４に球を入球させ易いのか、を確認しながら球発射方法を変えることができる。これにより、遊技者の遊技態様のバリエーションを増加させることができ、好みの球発射方法を選択させることが可能となる。

【２０６４０】

ここで、「左打ち」を推奨される遊技状態においては、遊技者は第１入賞口Ｋ６４に入球させ大当たりを獲得することを目的としているので、遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球することで生じる不利益は無い場合が多い。

【２０６４１】

一方、「右打ち」を推奨される遊技状態（時短中や、確変中等）では、第２入賞口Ｋ６

４０へ入球させ、抽選においてより有利な振分を獲得して、有利な状態を継続させる（連荘させる）ことが可能であるところ、この状態において第１入賞口Ｋ６４へ入球した場合に不利な振分の大当たりを獲得する可能性があり、場合によっては有利な状態が途切れる危険性がある。即ち、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）では、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに遊技球を入球させることで遊技者に不利益が生じる可能性がある。

【２０６４２】

そのため、遊技者に対して、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）における球の発射強度を、最強に維持して、球が左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球することを防止させるように仕向けることができる。

【２０６４３】

これにより、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）における球の発射強度が遊技者によって変化するという事態を回避し易くすることができ、遊技領域の球の流下として想定される流下態様での遊技を実現させ易くすることができる。

【２０６４４】

例えば、スルーゲートＫ６７の上流側の釘（不図示）の配置が、最強の発射強度で球を発射した場合にスルーゲートＫ６７に球が案内され易いよう設計されているにも関わらず、遊技者が８０％程度の発射強度で発射を継続していることによりスルーゲートＫ６７にあまり球が案内されないという事態が生じ、遊技者に不満を持たせてしまうことを回避し易くすることができる。

【２０６４５】

本実施形態では、遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作可能に構成されるところ、球の流下態様が同じでも、回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技球の流下位置が異なれば回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様が異なるように構成される。

【２０６４６】

例えば、図１８２３に図示されるように、長尺装置Ｋ５５４０が右第１傾斜姿勢（図１７４６参照）とされ、移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端に配置されている場合には、左側検出センサＫ５０８６ｃで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じず、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作され、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される。

【２０６４７】

即ち、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下する遊技球が、回転装飾部材Ｋ４５７８から十分に離れている場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の外方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８に近い位置を流下する場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の内方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作され、その回転動作の方向は回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸に対して遊技球が流下する方向に対応する回転方向とされる。

【２０６４８】

これにより、遊技者は、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒの全体（広範囲）を注視せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することにより、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒにおける遊技球の流下の有無や、遊技球の流下位置を把握することができる。

【２０６４９】

例えば、図１８２４に図示されるように、長尺装置Ｋ５５４０が右第２傾斜姿勢（図１７９７参照）とされ、移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端に配置されている場合には、左側検出センサＫ５０８６ｃで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾

部材Ｋ４５７８の回転動作は生じず、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。

【２０６５０】

即ち、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下する遊技球が、回転装飾部材Ｋ４５７８から十分に離れている場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の外方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８に近い位置を流下する場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の内方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作され、その回転動作の方向は回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸に対して遊技球が流下する方向に対応する回転方向とされる。

【２０６５１】

これにより、遊技者は、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒの全体（広範囲）を注視せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することにより、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒにおける遊技球の流下の有無や、遊技球の流下位置を把握することができる。

【２０６５２】

例えば、図１８２４に図示される状態で「右打ち」遊技が実行される場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じるのは遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌに入球した場合のみとされるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、遊技球の発射強度が低下している可能性を示唆することができる。

【２０６５３】

上述したように、同じ位置を流下する遊技球が検出センサＫ５０８６ｋに検出される場合であっても、検出センサＫ５０８６ｋによる検出に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されない場合（図１８２４参照）と、検出センサＫ５０８６ｋによる検出に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合（図１８２３参照）とを、構成することができる。

【２０６５４】

換言すれば、回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技球の位置が異なる場合に、遊技球の流下と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様との関係が変化されるということである。又は、流下する遊技球の後方に配置される長尺装置Ｋ５５４０の長手方向に対する遊技球の流下方向（傾斜）が異なる場合に遊技球の流下と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様との関係が変化されるということでもある。

【２０６５５】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８を漫然と視認するのではなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の配置を意識しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８を視認したり、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを視認したりするように仕向けることができるので、遊技者の視線を一箇所に集中させるのではなく、複数箇所に動かすことができる。

【２０６５６】

なお、検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様は、種々の態様が例示される。例えば、検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋでの遊技球の通過が検出されることに基づいて、一定速度で回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されても良いし、既に回転動作されている場合に追加で検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋでの遊技球の通過が検出された場合に回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が増減（同一方向への回転動作であれば加速、相反する方向の回転動作であれば減速）されるようにしても良い。

【２０６５７】

即ち、図１８２３に図示される状態において検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されたことに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回り方向の回転動作が生じている

場合に、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出される場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が増加され時計回り方向に回転動作される。

【２０６５８】

一方、図１８２３に図示される状態において検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されたことに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回り方向の回転動作が生じている場合に、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出される場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が相反するため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が減速された後、反時計回り方向に回転動作される。

【２０６５９】

図１８２５は、遊技盤Ｋ５０１３の背面図であり、図１８２６は、図１８２５のＭＤＣＣＸＸＶＩ－ＭＤＣＣＣＸＸＶＩ線における遊技盤Ｋ５０１３の部分断面図である。なお、図１８２５では、ベース板Ｋ５０６０の形状の把握を用意とするために、入賞ユニットＫ２００（図１７２８参照）等の構成部材や樋用前側部材Ｋ９１等の排出経路構成部材（図１７３８参照）等の図示が省略される。また、図１８２６では、センターフレームＫ５０８６の図示が省略される。

【２０６６０】

ベース板Ｋ５０６０では、上記各実施形態で上述したベース板Ｋ６０の形状を流用しながら、上記各実施形態で上述したベース板Ｋ２０６０の外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ及び傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状を流用する。

【２０６６１】

図１８２５及び図１８２６に図示されるように、遊技盤Ｋ５０１３では、ベース板Ｋ５０６０の後側面に板状の導光部材Ｋ５１５０が固定されており、その導光部材Ｋ５１５０が端部から光を受光した場合にその光を導光部材Ｋ５１５０の内方位置において正面側に屈折させることで遊技者に対して光による形状を視認可能に構成される。

【２０６６２】

ベース板Ｋ５０６０の形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂの内側には、光照射装置Ｋ５１００が配設される。即ち、光照射装置Ｋ５１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ５０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【２０６６３】

光照射装置Ｋ５１００は、上述の光照射装置Ｋ２１００（図１７８８及び図１７８９参照）と同様に、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ２１１１が配設される電飾基板Ｋ２１１０と、その電飾基板Ｋ２１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ５０６０に締結固定される中間部材Ｋ２１２０と、を備え、更に、電飾基板Ｋ２１１０の背面側に配設され電飾基板Ｋ２１１０の背面に沿う方向に光を照射可能とされるＬＥＤ等からなる複数の第２発光手段Ｋ５１１２を備える。

【２０６６４】

電飾基板Ｋ２１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ５０６０の形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁を構成する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに沿って複数の発光手段Ｋ２１１１が間隔を空けて配置されている。この発光手段Ｋ２１１１が電飾基板Ｋ２１１０の正面側に配設されており、電飾基板Ｋ２１１０を挟んで発光手段Ｋ２１１１の前後反対側（前後方向で対応する位置）に第２発光手段Ｋ５１１２が配設される。

【２０６６５】

なお、便宜上、第２発光手段Ｋ５１１２と発光手段Ｋ２１１１とが前後方向で重なる位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。第２発光手段Ｋ５１１２の配置は、導光部材Ｋ５１５０により実現させる光演出の態様次第で変わり得る。

【２０６６６】

導光部材Ｋ５１５０は、センターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）が配設される

ベース板Ｋ５０６０の中央開口を覆うような大きさで形成されており、所々に光を屈折させるために切り欠き形成される光屈折部Ｋ５１５１を備える。

【２０６６７】

第２発光手段Ｋ５１１２から照射される光は、導光部材Ｋ５１５０に端部から受光され得るように構成されており、全反射されながら導光部材Ｋ５１５０の内部を導光される。導光される光が光屈折部Ｋ５１５１で屈折されることで、光は導光部材Ｋ５１５０の正面側に進行方向を変えられることになり、遊技者の目に届く。

【２０６６８】

即ち、第２発光手段Ｋ５１１２が点灯している状態において、光屈折部Ｋ５１５１が発光しているように遊技者に視認させることができる。そのため、第２発光手段Ｋ５１１２の配置は正面視で形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂに収まる位置におさえながら、光屈折部Ｋ５１５１を広い範囲で形成することで大きな形状の光を遊技者に視認させることができる。

【２０６６９】

また、第２発光手段Ｋ５１１２の並びは外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに沿うライン状としながら、光屈折部Ｋ５１５１の形状の設計次第で、複雑な形状の光を遊技者に視認させることができる。

【２０６７０】

本実施形態では、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、遊技領域後方の視認性が光照射装置Ｋ５１００により低下されたり、視線が遮断されたりすることを防止することができる。即ち、光照射装置Ｋ５１００の有無に関わらず、遊技者は、ベース板Ｋ５０６０を透視してベース板Ｋ５０６０の背面側の構造（例えば、動作ユニットＫ４３００（図１７９５参照）を視認し易くすることができる。

【２０６７１】

また、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の正面視内方に配設されている場合、電飾基板Ｋ２１１０を遊技者に直接視認させないようにするための目隠し部材（例えば、電飾基板Ｋ２１１０を囲うケース部材や、視認性を悪くするためにシボ加工を形成した板状部材）を配設するスペースが余分に必要となり、演出に利用できるスペースが制限される可能性があった。

【２０６７２】

これに対し、本実施形態では、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、そもそも遊技者の目線が光照射装置Ｋ５１００自体に向けられる可能性が低く、敢えて新たに目隠し部材を配設する必要はない。これにより、演出に利用できるスペースを確保することができる。

【２０６７３】

ここで、光照射装置Ｋ５１００に代替される光照射部が正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方に配置され、導光部材Ｋ５１５０も正面視でセンターフレームＫ５０８６の内方に配置されることで、光照射装置Ｋ５１００による視線の遮断作用が遊技領域と重なる位置で生じないようにする場合には、光屈折部Ｋ５１５１の配置がセンターフレームＫ５０８６の内方に制限されるため、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１８２３参照）の表示領域がセンターフレームＫ５０８６よりも大きいと、光屈折部Ｋ５１５１の配置や形状が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域には届かなくなり、演出効果が低下する可能性がある。

【２０６７４】

一方、本実施形態によれば、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、導光部材Ｋ５１５０の大きさがセンターフレームＫ５０８６の大きさに制限されることが無い。そのため、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１８２３参照）の表示領域がセンターフレームＫ５０８６の大きさよりも大きい場合でも、光屈折部Ｋ５１５１の配置や形状を第３図柄表示装置Ｋ８１の表

示領域の全域に届かせることが可能となるので、演出効果を向上させることができる。
【２０６７５】
上述のように、本実施形態では、導光部材Ｋ５１５０がセンターフレームＫ５０８６の外方にまで広がっているので、光屈折部Ｋ５１５１の形成次第で、センターフレームＫ５０８６の外方において、第２発光手段Ｋ５１１２からの光を遊技者に視認させることができる。以下で、複数の態様を例示して説明する。
【２０６７６】
まず、第２発光手段Ｋ５１１２の組を分ける。即ち、図１８２５に図示されているように、複数の第２発光手段Ｋ５１１２は、右側の光照射装置Ｋ５１００における第１範囲ＫＧ５１、第２範囲ＫＧ５２、第３範囲ＫＧ５３及び第４範囲ＫＧ５４と、左側の光照射装置Ｋ５１００における第５範囲ＫＧ５５、第６範囲ＫＧ５６及び第７範囲ＫＧ５７に分けられる。
【２０６７７】
各範囲ＫＧ５１～ＫＧ５４からの光は左下方向へ、各範囲ＫＧ５５～ＫＧ５７からの光は右下方向へ、導光部材Ｋ５１５０に沿って直線方向で進行されるところ、導光部材Ｋ５１５０には、線状の切り欠き部Ｋ５１５５ａ～Ｋ５１５５ｄが形成されており、交差する光の進行を遮断する。
【２０６７８】
第１切り欠き部Ｋ５１５５ａは、第２範囲ＫＧ５２から照射される光の進行範囲の左側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第６範囲ＫＧ５６から照射される光の進行範囲に対応した長さ及び位置とされる。
【２０６７９】
即ち、第１切り欠き部Ｋ５１５５ａにより、第２範囲ＫＧ５２から照射される光が第１切り欠き部Ｋ５１５５ａよりも左上側に漏れることが防止され、第６範囲ＫＧ５６から照射される光が第１切り欠き部Ｋ５１５５ａよりも右下側に通過することが防止される。
【２０６８０】
第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂは、第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲の右側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第４範囲ＫＧ５４側の端部から第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲に到達する直前までとされる。
【２０６８１】
即ち、第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂにより、第３範囲ＫＧ５３から照射される光が第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂよりも左上側に漏れることが防止され、第４範囲ＫＧ５４から照射される光が第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂよりも右下側に漏れることが防止される一方、第７範囲ＫＧ５７から照射される光は遮断されることなく進行可能とされる。
【２０６８２】
第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲の右側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂにつながる端部から、第３範囲ＫＧ５３から照射される光の進行範囲に対応した長さ及び位置とされる。
【２０６８３】
即ち、第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃにより、第７範囲ＫＧ５７から照射される光が第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃよりも右上側に漏れることが防止され、第３範囲ＫＧ５３から照射される光が第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃよりも左下側に通過することが防止される。
【２０６８４】
第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲の左側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第７範囲ＫＧ５７側の端部から第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲に到達する直前までとされる。
【２０６８５】

即ち、第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄにより、第６範囲ＫＧ５６から照射される光が第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄよりも右上側に漏れることが防止され、第７範囲ＫＧ５７から照射される光が第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄよりも左下側に漏れることが防止される一方、第４範囲ＫＧ５４から照射される光は遮断されることなく進行可能とされる。

【２０６８６】

導光部材Ｋ５１５０の光屈折部Ｋ５１５１は、第２発光手段Ｋ５１１２の配置に対応して異なる位置に異なる形状で形成される複数の屈折形状部Ｋ５１５１ａ～Ｋ５１５１ｆを備える。

【２０６８７】

第１屈折形状部Ｋ５１５１ａは、第１範囲ＫＧ５１から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第１屈折形状部Ｋ５１５１ａは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６の内方かつ右側の範囲に形成される。

【２０６８８】

第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、第２範囲ＫＧ５２から照射される光の進行範囲に形成され、第２範囲ＫＧ５２側端部近傍から左下方向に広がる放射線状で凹設形成される。また、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内外両側に亘って形成される横断部Ｋ５１５１ｂ１と、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲を挟んで横断部Ｋ５１５１ｂ１の反対側に横断部Ｋ５１５１ｂ１の延長線上に形成される延長部Ｋ５１５１ｂ２と、を備える。

【２０６８９】

このように、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲において凹設形成されていないので、第７範囲ＫＧ５７から光が照射された場合に第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂが光って見えることを防止し易くすることができる。

【２０６９０】

第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、第３範囲ＫＧ５３から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の外方かつ右側の範囲に形成される。

【２０６９１】

第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄは、第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下側に頂点を有する三角形形状で凹設形成される。また、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方かつ上側の範囲に形成される。

【２０６９２】

第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅは、第５範囲ＫＧ５５から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第５折形状部Ｋ５１５１ｅは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方かつ左側の範囲に形成される。

【２０６９３】

第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、第６範囲ＫＧ５６から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の外方かつ左側の範囲に形成される。

【２０６９４】

第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下側に頂点を有する三角形形状で凹設形成される。また、第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方かつ上側の範囲に形成される。

【２０６９５】

上述した導光部材Ｋ５１５０の形成態様により、光照射装置Ｋ５１００からの光の照射

態様の違いに対応して、異なる形状の光を遊技者に視認させることができる。以下、光の形状の視認態様の一例について説明する。

【２０６９６】

図１８２７は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１８２７では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第１傾斜姿勢（図１７４６参照）とされた状態が図示されると共に、第１の光演出態様が図示される。なお、図１８２７では、理解を容易とするために左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒの図示を省略している。

【２０６９７】

図１８２７に図示される第１の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左側において、右上方向を指す矢印形状の第６背面表示Ｋ８１ｆが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１８２５参照）の第１範囲ＫＧ５１と第２範囲ＫＧ５３とから光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１８２５参照）の第１屈折形状部Ｋ５１５１ａ及び第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃの形状で光って視認される。

【２０６９８】

更に、移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、右斜め下方向を向く矢印形状からなる第４前面表示Ｋ４５８０ｄが表示される。

【２０６９９】

この場合、図１８２７に図示されるように、各矢印形状によって、第６背面表示Ｋ８１ｆの下側終端を始点として、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃ、第４前面表示Ｋ４５８０ｄ、第１屈折形状部Ｋ５１５１ａの順で、時計回り方向に視線を誘導する作用を生じさせることができる。これにより、遊技者に対して、視線誘導の方向に沿って、遊技球を遊技領域の右側へ向けて発射するように促すことができる。

【２０７００】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される移動装置Ｋ４５６０及び導光部材Ｋ５１５０の第１屈折形状部Ｋ５１５１ａや、表示領域の外方に形成される第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができる。

【２０７０１】

特に、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、遊技領域に重なる矢印形状を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１で矢印を表示する場合に比較して、遊技球を発射して狙うべき位置を、遊技者に正確に把握させることができる。

【２０７０２】

図１８２８は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１８２８では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が上方に退避された状態（演出待機状態）が図示されると共に、第２の光演出態様が図示される。

【２０７０３】

図１８２８に図示される第２の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において第３背面表示Ｋ８１ｃが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１８２５参照）の第５範囲ＫＧ５５と第６範囲ＫＧ５６とから光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１８２５参照）の第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅ及び第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆの形状で光って視認される。

【２０７０４】

この場合、図１８２８に図示されるように、各矢印形状によって、遊技領域の右側への球の発射を止めて、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側を流下させるように遊技者の球発射強度を誘導する作用を生じさせることができる。これにより、遊技者に対して、遊技球を遊技領域の左側へ向けて発射するように促すことができる。

【２０７０５】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される導光部材Ｋ５１５０の第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅや、表示領域の外方に形成される第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができる。

【２０７０６】

特に、第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、遊技領域に重なる矢印形状を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１８２３参照）の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１で矢印を表示する場合に比較して、遊技球を発射して狙うべき位置を、遊技者に正確に把握させることができる。

【２０７０７】

図１８２９は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１８２９では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第２傾斜姿勢（図１８２４参照）とされた状態が図示されると共に、第３の光演出態様が図示される。なお、図１８２９では、理解を容易とするために左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒの図示を省略している。

【２０７０８】

図１８２９に図示される第３の光演出態様では、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においてエクスクラメーションマークからなる第５前面表示Ｋ４５８０ｅが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１８２５参照）の第２範囲ＫＧ５２から光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１８２５参照）の第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂの形状で光って視認される。更に、右上ランプＫ９４０が点灯制御される。

【２０７０９】

この場合、図１８２９に図示されるように、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂが正面視でセンターフレームＫ５０８６を突き抜けて右上方向に延びるように視認されるため、第５前面表示Ｋ４５８０ｅに注目した遊技者の視線を、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂにより形成されるラインにより右上方向に誘導することができ、右上ランプＫ９４０の点灯に気付かせることができる。

【２０７１０】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される移動装置Ｋ４５６０や、表示領域の内外に亘って形成される導光部材Ｋ５１５０の第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができ、遊技者の視線を遊技領域の外方にまで誘導することができる。

【２０７１１】

特に、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、遊技領域に重なる位置においてもライン状の形状に沿った光を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１での表示を遊技者に視認させる場合に比較して、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂによるラインが遊技領域で遮断されない分、遊技者の視線をガラスユニットＨ１６の外方に配設される右上ランプＫ９４０まで遊技者の視線を誘導させ易くすることができる。

【２０７１２】

なお、表示装置Ｋ４５８０における表示の実行タイミングと、第２範囲ＫＧ５２からの光の照射タイミングとの関係は、種々の態様が例示される。例えば、同時にでも良いし、時間差があっても良い。

【２０７１３】

例えば、表示装置Ｋ４５８０で第５前面表示Ｋ４５８０ｅを実行した後で第２範囲ＫＧ５２からの光照射を実行することで、遊技者の視線を、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に一端集めてから第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂに映すように演出することができる。これにより、表示装置Ｋ４５８０による表示と第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂでの光の形状とが生じた後においては右上ランプＫ９４０を含めた一連の視認態様を形成する一方で、その形

成過程において、遊技者の視線を右上ランプＫ９４０に効果的に誘導することができる。
【２０７１４】
図１８３０は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１８３０では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が上方に退避された状態（演出待機状態）が図示されると共に、第４の光演出態様が図示される。
【２０７１５】
図１８３０に図示される第４の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において「光ればオーブンだ」とのコメントからなる第７背面表示Ｋ８１ｇが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１８２５参照）の第４範囲ＫＧ５４と第７範囲ＫＧ５７とから光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１８２５参照）の第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの形状で光って視認される。
【２０７１６】
第２発光手段Ｋ５１１２（図１８２５参照）の第４範囲ＫＧ５４と第７範囲ＫＧ５７におけるＬＥＤは、開閉弁Ｋ５０８６Ｖ（図１８２３参照）の開放時に点灯制御される。この場合、遊技者は、図１８３０に図示されるように、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの形状の光を視認できれば、開閉弁Ｋ５０８６Ｖの状態変化を視認し難い場合であっても、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒ（図１８２３参照）に遊技球を入球させられるタイミングを把握することができる。これにより、遊技者に対して、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの光り方に注目して、球を発射させるという遊技態様を提供することができる。
【２０７１７】
このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置され、且つ、表示領域の外方に形成される第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇを発光制御させることにより、遊技者に対してこれらを一連の装飾として視認させることができる。
【２０７１８】
特に、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、ベース板Ｋ５０６０の背面側に固定されているから（図１８２６参照）、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも、左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒ（図１８２３参照）との距離が近い（前後方向でも近いし、前後方向と交差する方向でも近い）。
【２０７１９】
そのため、遊技者に対して、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇに注目させつつ、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇが光ったら第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇめがけて球を発射させるように促すことができるので、注目箇所と発射球で狙う箇所とが異なる場合に比較して、遊技者に違和感を持たれにくくすることができる。
【２０７２０】
図１８３１から図１８３２を参照して、第１１０実施形態について説明する。上記各実施形態では、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａの正面側に配置される化粧カバーＫ２２０に大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂが施される場合を説明したが、第１１０実施形態では、スルーゲートＫ６７から第１特定入賞口Ｋ６５ａまでの経路の正面側に装飾が施される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【２０７２１】
図１８３１は、第１１０実施形態における遊技盤Ｋ５０１３の正面図である。図１８３１に示すように、遊技盤Ｋ５０１３では、スルーゲートＫ６７の下流側において第１特定入賞口Ｋ６５ａへの流路を構成する第２入賞ユニットＫ５２７０が配設される。
【２０７２２】
第２入賞ユニットＫ５２７０は、スルーゲートＫ６７よりも下流に流下した遊技球を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、又は、より下流の入賞ユニットＫ２００に振り分け可能に構成

される。
【２０７２３】
第２入賞ユニットＫ５２７０は、遊技球の流路を構成すると共にベース板Ｋ６０に固定される流路構成部材Ｋ５２７１と、その流路構成部材Ｋ５２７１の正面側に固定され流路構成部材Ｋ５２７０と共に流路の前側部を構成する化粧カバーＫ５２８０と、を備える。
【２０７２４】
流路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０は、光透過性の樹脂材料から構成されており、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）からの光照射により、流路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０が明るくされる光演出が実行される。
【２０７２５】
図１８３２（ａ）は、図１８３１のＭＤＣＣＣＸＸＸＩＩａ部における遊技盤Ｋ５０１３の部分拡大正面図であり、図１８３２（ｂ）は、図１８３２（ａ）の部分拡大正面図である。図１８３２（ｂ）では、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃが図示される。
【２０７２６】
図１８３２（ａ）に図示されるように、流路構成部材Ｋ５２７１により構成される遊技球の流路の正面側において、化粧カバーＫ５２８０に記号（本実施形態では、「Ａ」、「Ｂ」等の記号）を視認させる模様が施されることにより、遊技球の流下に伴う演出性の向上を図っている。以下、詳述する。
【２０７２７】
流路構成部材Ｋ５２７１は、スルーゲートＫ６７（図１８３１参照）の下流に流下した遊技球を着地させるよう左右に亘って配置形成されると共に右方へ向けて下降傾斜する第１傾斜部Ｋ５２７２と、その第１傾斜部Ｋ５２７２の下流側端部に到達した遊技球を下方に流下させるよう鉛直方向に延びる鉛直構成部Ｋ５２７３と、その鉛直構成部Ｋ５２７３の下流側端部に到達した遊技球を着地させた後で左方へ流下させるように左方へ向けて下降傾斜する第２傾斜部Ｋ５２７４と、を備える。
【２０７２８】
即ち、スルーゲートＫ６７の下流側には、流路構成部材Ｋ５２７１により、遊技球を右方に迂回させて流下させる迂回流路が形成されるので、遊技球が鉛直下方に落下される場合に比較して、化粧カバーＫ５２８０を通して遊技球が視認される期間が長くされると共に、遊技球が視認される範囲も広くなる。
【２０７２９】
化粧カバーＫ５２８０は、光透過性の樹脂材料から形成されるシールが前側面に貼り付けられており、そのシールに印刷される模様として、「Ａ」との記号を形成する第１輪郭部Ｋ５２８１と、その第１輪郭部Ｋ５２８１の内側に形成される第１形成部Ｋ５２８２と、「Ｂ」との記号を形成する第２輪郭部Ｋ５２８３と、その第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に形成される第２形成部Ｋ５２８４と、「！！」との記号を形成する第３輪郭部Ｋ５２８５と、その第３輪郭部Ｋ５２８５の内側に形成される第３形成部Ｋ５２８６と、を備え、「ＡＢ」、「Ａ！！」、「Ｂ！！」又は「ＡＢ！！」という一連の装飾を視認させることが可能となるように構成している。
【２０７３０】
化粧カバーＫ５２８０側に流路構造の一部を設けることも可能だが、本実施形態では、化粧カバーＫ５２８０を単純な板部材として構成している。これにより、装飾を変更する（例えば、「ＡＢ」を「ＣＤ」に変更する。「ＡＢ」が数字の場合は、別の数字に変更する等）希望が生じた場合に、化粧カバーＫ５２８０を、別の装飾が形成される化粧カバーＫ５２８０と取り替えることで対処できるので、装飾の変更に伴う労力を低減させることができる。
【２０７３１】
なお、一連で視認させたい記号の選択は、遊技者に委ねるようにしても良いが、例えば

、特定の記号（の組）に光を照射し、他の記号には光を照射しないようにして、特定の記号を一連で視認させ易いように構成しても良い。この場合に、「Ａ」、「Ｂ」の全体ではなく、一部に光をあてることで、「Ａ」、「Ｂ」とは異なる記号を視認させることが可能に構成しても良いし、同時に「！！」に光をあてて、一連の装飾として視認させても良い。

【２０７３２】

本実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第３輪郭部Ｋ５２８５が黒色とされ、透過性が低く形成される一方、第１形成部Ｋ５２８２、第２形成部Ｋ５２８４及び第３形成部Ｋ５２８６は、黄色とされ、第１輪郭部Ｋ５２８１、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第３輪郭部Ｋ５２８５に比較して光が透過し易いように形成される。

【２０７３３】

第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の幅は、球の直径よりも短くされる。これにより、化粧カバーＫ５２８０の背面側を球が流下し、第１輪郭部Ｋ５２８１又は第２輪郭部Ｋ５２８３の後方に球が位置する場合に、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１又は第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【２０７３４】

このように構成することで、例えば、第１輪郭部Ｋ５２８１と第２輪郭部Ｋ５２８３とが隣り合って配置されている場合に、第１輪郭部Ｋ５２８１と第２輪郭部Ｋ５２８３との間に若干でも隙間がありさえすれば、その後方の第１流下位置ＫＰＤ５１に球が位置したとしても、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【２０７３５】

更に、本実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の幅が、球の半径よりも短くされている。これにより、例えば、第１輪郭部Ｋ５２８１との間に隙間を空けずに第２輪郭部Ｋ５２８３が配置された場合において、その後方の第２流下位置ＫＰＤ５２に球が位置したとしても、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【２０７３６】

第３輪郭部Ｋ５２８５及び第３形成部Ｋ５２８６により構成される模様は、流路構成部材Ｋ５２７１により構成される流路とはずれた位置に配置される。そのため、第３輪郭部Ｋ５２８５及び第３形成部Ｋ５２８６により化粧カバーＫ５２８０を介した球が隠される事態は生じ得ないので、設計の自由度が高い。現に、本実施形態では、第３輪郭部Ｋ５２８５が、左右方向の寸法が球の直径よりも長くなるように構成されており、装飾性の向上が図られている。

【２０７３７】

以上の構成から、図１８３２（ａ）に図示されるように、第１輪郭部Ｋ５２８１、第１形成部Ｋ５２８２、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第２形成部Ｋ５２８４の後方を球が流下可能に構成されていることから、無色透明の板を介して視認する場合に比較して、背面側の流路を球が通っているのか否かを分かり難くさせることができると共に、化粧カバーＫ５２８０のシールに印刷される模様を強調させて、化粧カバーＫ５２８０を目立たせることができる。

【２０７３８】

また、化粧カバーＫ５２８０の背面側を実際に球が通ると、化粧カバーＫ５２８０を介して視認される球の透け具合として、透過され易い場合と、透過されにくい場合とが繰り返されることで、長期に亘る球の見え方の変化を生じさせることができ、演出性を向上させることができる。

【２０７３９】

更に、化粧カバーＫ５２８０に球の影が映されることで、化粧カバーＫ５２８０の背面

側を流下する球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができる。この球の影と、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３や各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４とが重ねて視認されることにより、球が流下していない状況とは異なる模様を遊技者に視認させることができる。

【２０７４０】

流路構成部材Ｋ５２７１により構成される流路が迂回する略コの字状の流路とされ、左右方向および上下方向に球が流下する各位置において、第１輪郭部Ｋ５２８１や第２輪郭部Ｋ５２８３と球とが交差される。即ち、一球の遊技球が流下する場合であっても、透過され易い場合と、透過されにくい場合との変化を複数回生じさせることができるので、球が複数個流下して初めて球の見え方の変化が繰り返し生じる場合に比較して、演出性の向上をより容易に図ることができる。

【２０７４１】

背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）から白色光が照射される場合、流路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０が明るくされる。一方で、球が流路構成部材Ｋ５２７１により形成される流路を流下している場合には、球の影が化粧カバーＫ５２８０に映されることで、化粧カバーＫ５２８０に形成される模様の見え方が変化する。

【２０７４２】

まず、球が流下していない時には、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３と、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４との色の差が大きいため、「ＡＢ」との記号が鮮明に視認される。この「ＡＢ」との記号は、「ＡｄｖａｎｃｅＢａｓｅ（有利状態）」の頭文字を意味しており、この「ＡＢ」との記号を明るく視認させることで、遊技者に対して、通常状態よりも有利な状態であることを報知することができる。

【２０７４３】

一方で、球が流下している時には、球の影と、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３との色の違いが小さいため、球の影と第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３との見分けがつきにくく、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認される。この虫食いを視認することで、遊技者は、球が流下していることを把握することができる。

【２０７４４】

第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４は、後方を球が流下することで球形状の影の虫食いができたように視認され得る変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂと、球の流下経路とは重ならないことでそもそも後方を球が流下することは無く、球形状の虫食いが生じ得ない非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃと、を備える。

【２０７４５】

非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃは、上述の「ＡＢ」との記号の一部をなす領域である一方で、図１８３２（ｂ）に図示されるように、「ＨＫ」との記号をなす領域でもある。この「ＨＫ」との記号は、「ＨｏｌｅＫｅｅｐ（開口維持）」の頭文字を意味しており、この「ＨＫ」との記号を明るく視認させることで、遊技者に対して、例えば、下流側の第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１８３１参照）が開放され、球が入球可能な状態であることを報知することができる。

【２０７４６】

上述のように、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃには球の影が生じ無いので、流下する複数の球の間隔に関わらず、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃを完全な状態（虫食いの無い状態）で視認させ易くすることができる。

【２０７４７】

ここで、第２傾斜部Ｋ５２７４を球が流下している最中において既に、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認されるところ、この状況において第１傾斜部Ｋ５２７２を球が流下する場合がある。即ち、化粧カバーＫ５２８０の後方位置を球が流下する場合、その個数が一球の場合も複数球の場合も、第

１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認されることは同じであり、結局何球の球が流下しているのかを判別し難い場合がある。

【２０７４８】

これに対して、本実施形態では、第１形成部Ｋ５２８２の下端部に非透過形成部Ｋ５２８２ａが形成される。非透過形成部Ｋ５２８２ａは、略矩形の形状で非透過（透過性の低い）で白色に形成される。隣接する第１形成部Ｋ５２８２の色（本実施形態では、黄色）と色の区別がつき難い色関係であり、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）が消灯されている場合や、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）からの白色光により照らされている場合には非透過形成部Ｋ５２８２ａが遊技者に認識され難い。

【２０７４９】

一方、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）からの白色光により照らされている場合に、非透過形成部Ｋ５２８２ａの後方に遊技球が配置されると、球の影が非透過形成部Ｋ５２８２ａの周囲に映されることになる。この場合、非透過形成部Ｋ５２８２ａの色（本実施形態では白）に対して、球の影が黒色なので、色の区別がつき易くなり、非透過形成部Ｋ５２８２ａが遊技者に認識され易くなる。即ち、遊技者は、非透過形成部Ｋ５２８２ａを認識した回数をカウントすることで、化粧カバーＫ５２８０の後方を流下した遊技球の個数を正確に計数することができる。

【２０７５０】

なお、上述の各実施形態では、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３が同じ幅で形成され、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４が同じ幅で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３をそれぞれ異なる幅で形成しても良いし、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４をそれぞれ異なる幅で形成しても良いし、各幅を部位ごとに異ならせるデザインとしても良い。

【２０７５１】

また、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも幅が広い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の方が各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３よりも幅が広くなるように模様が形成されても良い。この場合において、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３は、その内外に関わらず、隣り合う部分と隙間を生じても良いし、隙間が埋められることで各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の間の構成が排斥されるように構成しても良い。

【２０７５２】

なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０に「ＡＢ」との記号が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、「波模様」、「波紋」、「星形状」、「稲妻形状」など、広がりのある形状でも良い。

【２０７５３】

なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０の背面側に形成される流路がベース板Ｋ６０の前側面よりも前側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ６０の前側面よりも後ろ側に形成される流路の前側に模様が形成されても良い。

【２０７５４】

即ち、例えば、球が流下する樋を構成する樋用前側部材Ｋ９１（図１７３８参照）に模様が形成されても良い。この場合、模様の背面側を球が通ることもできるし、模様の前面側を球が通ることもできるので、模様の視認態様の変化のバリエーションを増加させることができる。

【２０７５５】

なお、上記各実施形態では、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との透過性の違いを色の違い実現した（黄色よりも黒色の方が、光を遮光するフィルターとしてより多くの色の光を遮光できる）が、必ずしもこれに限られるものではない。

【２０７５６】
例えば、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の板厚の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の板厚よりも分厚く構成されることで、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも光を透過し難いように構成されても良い。この場合、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との色を同じとしても、板厚が大きい方が光の吸収がされ易いことから、透過性の違いを生じさせることができる。
【２０７５７】
この場合に、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４に対して各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３が前後方向に突設形成されることになるが、その形成方向は、前側でも、後側でも、前後両側でも良い。球が流下する領域側に形成される場合には球の流下方向に影響を与えることができるし、逆に、球が流下する領域とは反対側に形成されるようにすれば、球との衝突で削られることが無いので、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との透過性の違いを長期に亘り維持することができる。
【２０７５８】
また、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３を挟んで各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の反対側の領域（無色透明の領域）の板厚については、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４と同様としても良いし、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも薄く形成しても良い。各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも薄い方が、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の内側の領域に対する注目力を向上させ易くすることができる。
【２０７５９】
なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０の背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）から白色光が照射され化粧カバーＫ５２８０が明るくされる場合を説明したが、そのバリエーションの一例について説明する。
【２０７６０】
例えば、右打ち遊技を促すものとして、大当たり遊技中や時短中において電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）から白色光を照射する一方で、右打ち遊技を促さない通常状態においては、電飾基板Ｋ４０５は消灯させるようにして、「ＡＢ」との記号を暗くして視認し難くしても良い。
【２０７６１】
この場合、電飾基板Ｋ４０５（図１７４７参照）から常時光が照射される場合に比較して、遊技者が化粧カバーＫ５２８０の「ＡＢ」との記号を見て、有利状態であると勘違いし、誤って右打ち遊技を行う事態を回避し易くすることができる。
【２０７６２】
また、例えば、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂを照らすＬＥＤと、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃを照らすＬＥＤとを別で用意しても良い。この場合、「ＡＢ」との記号の全体が明るくされる状況の他に、ＬＥＤの点灯パターン次第で、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみが照らされる状況や、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃのみが照らされる状況を構成することができる。
【２０７６３】
この場合において、例えば、下流側の第１特定入賞口Ｋ６５ａ（又は、第２入賞口Ｋ６４０、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ、図１８３１参照）が開放されている期間において、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみを照らすＬＥＤを消灯し、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃのみを照らすＬＥＤを点灯させるようにしても良い。これにより、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃにより形成される「ＨＫ」を遊技者に認識させ易くでき、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（又は、第２入賞口Ｋ６４０、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ、図１８３１参照）へ向けた球の発射を実行するタイミングであることを容易に把握させることができる。
【２０７６４】
また、例えば、光の色は白に限られるものではなく、色付きの光を照射しても良いし、

各記号で照射する光の色を異ならせても良いし、色が順番に変化する（例えば、虹の七色で順番（赤橙黄緑青藍紫）に変化する）ように照射する光を制御しても良い。

【２０７６５】

また、例えば、光の照射態様（タイミング）は、化粧カバーＫ５２８０の「ＡＢ」との記号の全体を同時に明るくさせるように複数のＬＥＤが同時に点灯されても良いし、記号を読ませる順序を考慮して、左から右の順で明るくなるように、複数のＬＥＤの点灯タイミングをずらすようにしても良い。

【２０７６６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１８３３から図１９３６を参照し、第１１１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【２０７６７】

図１８３３は、第１１１実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１８３４は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図１８３５は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１８３６は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１８３７は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１８３８は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１８３９は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図１８４０は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図１８４１は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図１８３８では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【２０７６８】

また、以下の説明では、図１８３３に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１８３３に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１８３３参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【２０７６９】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【２０７７０】

図１８３３～図１８４１に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【２０７７１】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図１８３３参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【２０７７２】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１

又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【２０７７３】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【２０７７４】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【２０７７５】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【２０７７６】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１８３６参照）。

【２０７７７】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図１８３８及び図１８３９参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【２０７７８】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【２０７７９】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図１８３８参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図１８３８参照）を主に備えて形成される。

【２０７８０】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図１８３７参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専

用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【２０７８１】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放されたの内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【２０７８２】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）とを主に備えて形成される。

【２０７８３】

即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。

【２０７８４】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【２０７８５】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。

【２０７８６】

なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。

【２０７８７】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【２０７８８】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図１８３８に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路

部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【２０７８９】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図１８３８に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図１８３７に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【２０７９０】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【２０７９１】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図１８４０及び図１８４１に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【２０７９２】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図１８３９参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【２０７９３】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成されるガラスユニットＨ１６が配設される（図１８３３参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【２０７９４】

ガラスユニットＨ１６は、図１８３３及び図１８３７に示すように、窓部Ｈ１４ｅより

大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【２０７９５】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【２０７９６】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１８４２参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【２０７９７】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図１８３３に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【２０７９８】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【２０７９９】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【２０８００】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１８４２参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構

成されている。
【２０８０１】
窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図１８３３に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。
【２０８０２】
上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図１８３４参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図１８３８参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。
【２０８０３】
下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。
【２０８０４】
下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。
【２０８０５】
なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。
【２０８０６】
また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。
【２０８０７】
特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。
【２０８０８】

即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【２０８０９】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【２０８１０】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図１８３８参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【２０８１１】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【２０８１２】

また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。

【２０８１３】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図１８４０参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【２０８１４】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【２０８１５】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【２０８１６】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【２０８１７】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【２０８１８】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【２０８１９】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【２０８２０】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【２０８２１】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【２０８２２】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正

面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【２０８２３】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【２０８２４】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図１８４０参照）。

【２０８２５】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図１８３８参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図１８３８参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【２０８２６】

ファール球通路部Ｈ１４５（図１８４０参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【２０８２７】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図１８４１に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図１８４０参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【２０８２８】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【２０８２９】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【２０８３０】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【２０８３１】
なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図１８３８参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。
【２０８３２】
また、図１８３８に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。
【２０８３３】
図１８３８に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。
【２０８３４】
ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。
【２０８３５】
なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。
【２０８３６】
遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図１８３３参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図１８３８を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。
【２０８３７】
遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図１８３３参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。
【２０８３８】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図１８３８の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【２０８３９】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【２０８４０】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【２０８４１】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【２０８４２】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【２０８４３】

外レールＨ６２の先端部（図１８３８の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【２０８４４】

遊技領域の正面視左側下部（図１８３８の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図１８４２参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【２０８４５】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【２０８４６】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があっ

たことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【２０８４７】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【２０８４８】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【２０８４９】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【２０８５０】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【２０８５１】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【２０８５２】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６

４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【２０８５３】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【２０８５４】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【２０８５５】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【２０８５６】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【２０８５７】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【２０８５８】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【２０８５９】
なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。
【２０８６０】
第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１８４２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。また、第３図柄表示装置Ｈ８１は、後述する円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００に配設され、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴って第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を切り替える（表示を変更する）ものであっても良い。
【２０８６１】
また、第１１１実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲（上方）に退避位置における花弁動作装置Ｇ８００が配置され、その花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位されると花弁動作装置Ｇ８００が第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位される。よって、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位される際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の演出を花弁動作装置Ｇ８００と共に遊技者に視認させることができる。
【２０８６２】
なお、花弁動作装置Ｇ８００は、花回転ユニットＧ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２装飾ユニットＧ４８０が光透過性の材料から形成される。従って、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態においては、第２装飾ユニットＧ４８０の第２装飾ユニットＧ４８０を介して第３図柄表示装置Ｈ８１の少なくとも一部が遊技者に視認される。
【２０８６３】
第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１８４２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。
【２０８６４】
第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。
【２０８６５】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【２０８６６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【２０８６７】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【２０８６８】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【２０８６９】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【２０８７０】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【２０８７１】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１８４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【２０８７２】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられ

る第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１８４２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【２０８７３】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【２０８７４】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【２０８７５】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【２０８７６】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【２０８７７】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【２０８７８】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【２０８７９】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率

状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【２０８８０】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２０８８１】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２０８８２】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【２０８８３】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図１８３８参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【２０８８４】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【２０８８５】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【２０８８６】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【２０８８７】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【２０８８８】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【２０８８９】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【２０８９０】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【２０８９１】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【２０８９２】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【２０８９３】

また、上記第１１１実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成

しても良い。
【２０８９４】
例えば、上記第１１１実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。
【２０８９５】
図１８３４に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。
【２０８９６】
裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。
【２０８９７】
なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【２０８９８】
また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【２０８９９】
払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１８４２参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該

タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。

【２０９００】

また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図１８４２参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【２０９０１】

なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。

【２０９０２】

次に、図１８４２を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図１８４２は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【２０９０３】

主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【２０９０４】

なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【２０９０５】

ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【２０９０６】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電

源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【２０９０７】

主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【２０９０８】

なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【２０９０９】

入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【２０９１０】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【２０９１１】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【２０９１２】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視

回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【２０９１３】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【２０９１４】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【２０９１５】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【２０９１６】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【２０９１７】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、及び、駆動手段Ｈ７５０が含まれる。

【２０９１８】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【２０９１９】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【２０９２０】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるス

テージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【２０９２１】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【２０９２２】

なお、図１８４２では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【２０９２３】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【２０９２４】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【２０９２５】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【２０９２６】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１８４２参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対

して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【２０９２７】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【２０９２８】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１８４２参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【２０９２９】

次いで、図１８４３から図１８４９を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａについて説明する。図１８４３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの分解正面斜視図であり、図１８４４は、上側装飾ユニットＨ１４ａの分解背面斜視図であり、図１８４５は、化粧ユニットＨ３２０の分解正面斜視図であり、図１８４６は、化粧ユニットＨ３２０の分解背面斜視図である。

【２０９３０】

初めに、図１８４３及び図１８４４を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａ、及び、上側装飾ユニットＨ１４ａのベースユニットＨ３１０について説明する。図１８４３及び図１８４４に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３２０とを主に備える。

【２０９３１】

ベースユニットＨ３１０は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形状のベース部材Ｈ３１１と、そのベース部材Ｈ３１１の左右両側に配設されるスピーカー組立体Ｈ３１２と、それら一対のスピーカー組立体Ｈ３１２の間に配設される検出装置Ｈ３１３と、ベース部材Ｈ３１１の左側端部に配設される前扉取付金具Ｈ５７とを主に備える。

【２０９３２】

ベース部材Ｈ３１１は、後述する化粧ユニットＨ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）の空間を覆う部材であり、正面視において化粧ユニットＨ３２０と略同一の形状に形成される。また、ベース部材Ｈ３１１は、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央部に前後方向に開口する開口Ｈ３１１ａと、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に接続される配線を係止するための係止部Ｈ３１１ｂと、上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部に沿って背

面側に向かって立設される覆設部Ｈ３１１ｄと、その覆設部Ｈ３１１ｄよりも下方側に所定の間隔を隔てる位置から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ３１１ｅと、それら覆設Ｈ３１１ｄおよび立設部Ｈ３１１ｅの間の位置において背面側に向かって溝状に形成される係合凹部Ｈ３１１ｃとを主に備える。なお、ベースユニットＨ３１０は、ベース部材Ｈ３１１の背面側から挿通される螺子が化粧ユニットＨ３２０に螺入されることで、化粧ユニットＨ３２０の背面側に締結される。

【２０９３３】

開口Ｈ３１１ａは、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に連結される配線を通すための開口であり、複数の配線が挿通可能な大きさに形成される。なお、本実施形態では、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に連結される配線が同じ開口から挿通されるが、これに限られるものではなく、それぞれの配線が異なる開口から挿通されるよう複数の開口を備えるものであっても良い。

【２０９３４】

なお、本実施形態では、開口Ｈ３１１ａがベース部材Ｈ３１１の中央部の一か所に形成されることで、ベース部材Ｈ３１１の剛性を確保して、ベース部材Ｈ３１１が破損することを抑制できる。

【２０９３５】

係止部Ｈ３１１ｂは、開口Ｈ３１１ａから挿通されスピーカー組立体Ｈ３１２に接続される配線を係止するためのものであり、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）から略Ｌ字状に突出して形成される。また、係止部Ｈ３１１ｂは、開口Ｈ３１１ａの下方側からスピーカー組立体Ｈ３１２に向かう直線に沿って複数個形成される。

【２０９３６】

覆設部Ｈ３１１ｄは、上側装飾ユニットＨ１４ａが本体枠Ｈ１４ｄに配設される際に、本体枠Ｈ１４ｄの上端面を覆う部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かう立設寸法が本体枠Ｈ１４ｄの前後方向の厚みよりも大きく設定される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄに配設した際に本体枠Ｈ１４ｄの上端面を上側装飾ユニットＨ１４ａにより隠すことができる。

【２０９３７】

立設部Ｈ３１１ｅは、化粧ユニットＨ３２０とベースユニットＨ３１０とが組み付けられた際に、化粧ユニットＨ３２０の上面板Ｈ３３２を支持する部分であり、上面板Ｈ３３２の厚み分、ベース部材Ｈ３１１の上端面よりも下方側（矢印Ｄ方向側）の位置に形成される。即ち、上面板Ｈ３３２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が立設部Ｈ３１１ｅに載置された状態で配設される。また、上面板Ｈ３３２は、背面側の端部に形成される背面側凸部Ｈ３３２ｂがベース部材Ｈ３１１の係合凹部Ｈ３１１ｃに挿入されており、これにより、上面板Ｈ３３２も上方側（矢印Ｕ方向側）への移動が抑制される。

【２０９３８】

なお、ベース部材Ｈ３１１は、非透過の樹脂材料から形成されており、これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される化粧ユニットＨ３２０の光がベース部材Ｈ３１１側（矢印Ｂ方向側）に反射した場合に、その光がベース部材Ｈ３１１側から漏れ出ることを抑制できる。

【２０９３９】

スピーカー組立体Ｈ３１２は、電気信号を可聴音波に変換して聴こえるようにする音響機器であるスピーカー（コーン型スピーカー）Ｈ３１２ａと、そのスピーカーＨ３１２ａの前面フランジＨ３１２ａ１をベース部材Ｈ３１１に締結固定する締結部材Ｈ３１２ｂとを主に備える。

【２０９４０】

スピーカーＨ３１２ａは、遊技に関連して演出音（録音された音楽、効果音、音声など）を発するものであり、ベース部材Ｈ３１１の開口Ｈ３１１ａを通した配線が接続されることで、音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続されるように構成される（図１８４２参照）。音声ランプ制御装置Ｈ１１３によりスピーカーＨ３１２ａに電気振動が伝達されること

で、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）および背面側から遊技に関連した演出音を放音（出力）することができる。

【２０９４１】

なお、スピーカーＨ３１２ａの前面部には、スピーカーＨ３１２ａから発せられる音声の通過を許容する合成繊維素材からなる保護カバーが被覆されている。そして、この保護カバーが被覆されてなるスピーカーＨ３１２ａは、前面部の保護カバーが後述するスピーカーカバーＨ２７を介して外部の大気と直接接触することで、前面部側に放音（出力）された音を篭らせることなく、高音質にして再生出力できる。即ち、スピーカーＨ３１２ａは、前面部から放音（出力）される音が遊技者にとって聞こえやすい周波数帯の音を放音可能に構成される。

【２０９４２】

また、スピーカーＨ３１２ａは、振動（動作）して音を発生させる振動板（前面部側）が締結部材Ｈ３１２ｂにより遊技者側（正面視において遊技盤Ｈ１３の中央下方側）に向けた姿勢で配設される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音を遊技者に聞こえやすくできる。

【２０９４３】

締結部材Ｈ３１２ｂは、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う形状に形成されると共に、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）とスピーカーＨ３１２ａとの間に所定の隙間を形成するようにスピーカーＨ３１２ａを支持した状態でベース部材Ｈ３１１に配設される。これにより、後述する装飾ユニットＨ３３０の配設空間Ｈ３００ＦにスピーカーＨ３１２ａを配設した際に、スピーカーＨ３１２ａの背面側に空間（第２空間Ｈ３００Ｂを形成できる。

【２０９４４】

また、締結部材Ｈ３１２ｂは、背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う複数個所に開口される開口部Ｈ３１２ｂ１を備え、その開口部Ｈ３１２ｂ１を介してスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音を第２空間Ｈ３００Ｂに放音することが可能とされる。

【２０９４５】

検出装置Ｈ３１３は、光を照射する発光部およびその発光部から照射され対象物によって反射する光を受光する受光部を備える光センサとして形成され、ガラスユニットＨ１６の透明ガラスＨ１６ａの前方における遊技者の手指の有無を検出可能に形成される。なお、遊技者の手指の有無を検出する検出装置Ｈ３１３（各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。

【２０９４６】

検出装置Ｈ３１３の発光部は、光を遊技盤Ｈ１３（図１８３９参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に出射できるように、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて配設される。また、検出装置Ｈ３１３は、後述する化粧ユニットＨ３２０の内部空間に配設されると共に、化粧ユニットＨ３２０に形成される検出用開口部Ｈ３３３ａから発光部の光を上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側に出射可能となっている。これにより、検出装置Ｈ３１３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの内側の奥まった位置に配設され、遊技者が検出装置Ｈ３１３に直接触れることを抑制できる。

【２０９４７】

次いで、図１８４５及び図１８４６を参照して化粧ユニットＨ３２０について説明する。図１８４５及び図１８４６に示すように、化粧ユニットＨ３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状（図１８４４参照）に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備える。

【２０９４８】

装飾ユニットＨ３３０は、ベースユニットＨ３１０（図１８４３参照）の正面側（矢印

Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３及び左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿う位置に配設される上面板Ｈ３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の縁部に沿って配設され上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ３３４と、正面板Ｈ３３１の中央部正面側に配設される装飾板Ｈ３３５とを主に備える。

【２０９４９】

正面板Ｈ３３１は、後述する発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０が配設される部材であり、発光ユニットＨ３４０の光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。また、正面板Ｈ３３１は、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に対向配置される本体部Ｈ３３１ａと、その本体部Ｈ３３１ａの外縁部から背面側に向かって撓む外縁部Ｈ３３１ｂとを備え、背面側の中央部が凹む椀型に形成される。なお、正面板Ｈ３３３１は、正面視においてベースユニットＨ３１０の正面側を塞ぐ大きさに形成される。

【２０９５０】

本体部Ｈ３３１ａには、正面視おける左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央部に装飾板Ｈ３３５が配設される領域が形成されると共に、その領域の外側に音伝達ユニットＨ３５０のスピーカーカバーＨ２７を通過する音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側（正面側）に放音可能なスリットＨ３３１ａ１が形成される。

【２０９５１】

スリットＨ３３１ａ１は、ベースユニットＨ３１０のスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に開口して形成される。これにより、スピーカーＨ３１２ａから正面側に放音（出力）される音をスリットＨ３３１ａ１を介して正面側に放音できる。

【２０９５２】

また、スリットＨ３３１ａ１は、正面視において一方向に長い長孔に形成され、その幅が遊技球よりも小さく設定される。これにより化粧ユニットＨ３２０の内部に指や遊技球などが挿入されることを抑制できると共に、スピーカーＨ３１２ａからの音の放音性を確保できる。なお、本実施形態では、スリットＨ３３１ａ１は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い長孔に形成される。よって、パチンコ機Ｈ１０に対する上下方向の放音性を確保できる。

【２０９５３】

外縁部Ｈ３３１ｂは、本体部Ｈ３３１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される取付部材Ｈ３４１を正面板Ｈ３３１の内側に収容するための部分であり、外縁部Ｈ３３１ｂの背面側への延設距離が、取付部材Ｈ３４１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における厚みよりも大きく設定される。これにより、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂと取付部材Ｈ３４１とが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる状態で配設される。

【２０９５４】

なお、本実施形態では、外縁部Ｈ３３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において取付部材Ｈ３４１と所定の隙間を隔てる位置に形成され、これにより、外縁部Ｈ３３１ｂと取付部材Ｈ３４１との対向間に第１連通路Ｈ３００Ｃ（図１８４９（ａ）参照）が形成される。

【２０９５５】

上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０、音伝達ユニットＨ３５０、及び、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂに沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の端部同士が左面板Ｈ３３４により連結される。また、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）縁部には、後述する右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される。これに

より、化粧ユニットＨ３２０は、右側が右側装飾ユニットＨ１４ｃにより塞がれることで、背面側のみが開放する箱状に形成される。なお、右側装飾ユニットＨ１４ｃについての詳しい説明は後述する。

【２０９５６】

また、化粧ユニットＨ３２０には、箱状に形成される内側に後述する発光ユニットＨ３４０が配設される。なお、発光ユニットＨ３４０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が化粧ユニットＨ３２０よりも小さく形成される。従って、化粧ユニットＨ３２０に発光ユニットＨ３４０を配設することで、発光ユニットＨ３４０の左右両側（スリットＨ３３１ａ１）の背面側に一対の配設空間Ｈ３００Ｆを形成し、それら一対の配設空間Ｈ３００Ｆを利用して一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を化粧ユニットＨ３２０の内側に配設することができる。

【２０９５７】

また、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、非透過の樹脂材料から形成されており、発光ユニットＨ３４０から出射される光が上側装飾ユニットＨ１４ａの正面板Ｈ３３１からのみ抜け出るように構成される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの発光位置を限定して、遊技者の注目を一部（装飾板Ｈ３３５）に集めやすくできる。

【２０９５８】

上面板Ｈ３３２は、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って正面側に突出する正面側凸部Ｈ３３２ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って背面側に突出する背面側凸部Ｈ３３２ｂと、螺子を挿通可能な貫通孔を有する締結部Ｈ３３２ｃと、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端部の下面側から突設される被係合部Ｈ３３２ｇと、を主に備える。

【２０９５９】

正面側凸部Ｈ３３２ａ及び背面側凸部Ｈ３３２ｂは、それぞれ上面板Ｈ３３２の正面側に配設される正面板Ｈ３３１及び上面板Ｈ３３２の背面側に配設されるベース部材Ｈ３１１に係合される部分であり、上面板Ｈ３３２の上方側（矢印Ｕ方向側）の端部よりも一段低い位置から突出される。

【２０９６０】

なお、正面側凸部Ｈ３３２ａは、正面板Ｈ３３１の上方側の外縁部Ｈ３３１ｂよりも内側（下方側）に挿入されることで正面板Ｈ３３１と係合され、背面側凸部Ｈ３３２ｂは、ベース部材Ｈ３１１の係合凹部Ｈ３１１ｃに挿入されることでベース部材Ｈ３１１と係合可能とされる。これにより、上面板Ｈ３３２が上側装飾ユニットＨ１４ａに配設された状態で、上面板Ｈ３３２の正面側端部または背面側端部が正面板Ｈ３３１またはベース部材Ｈ３１１に対して浮き上がることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａが組み上げられた状態で、不正な部材が上面板Ｈ３３２側から挿入されることを抑制できる。

【２０９６１】

締結部Ｈ３３２ｃは、上面板Ｈ３３２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて突出して形成される。また、締結部Ｈ３３２ｃは、螺子を挿通可能な貫通孔を備えており、その貫通孔に背面側から挿通した螺子を覆設部材Ｈ３４３に螺入することで、正面板Ｈ３３１に配設された覆設部材Ｈ３４３に上面板Ｈ３３２を締結できる。即ち、上面板Ｈ３３２は、正面板Ｈ３３１に覆設部材Ｈ３４３が配設された後、覆設部材Ｈ３４３に締結される。

【２０９６２】

被係合部Ｈ３３２ｇは、上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端部から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって突出して形成されており、上面板Ｈ３３２の左右方向外側端部に形成される第１片Ｈ３３２ｇ１と、その第１片Ｈ３３２ｇ１よりも上面板Ｈ３３２の内側に形成される第２片Ｈ３３２ｇ２とを備える。

【２０９６３】

第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２は、後述する右側装飾ユニットＨ１４ｃの

屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂを対向間に挿入する部分であり（図１８５６参照）、屈曲部Ｈ４５２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚みよりも、若干大きい隙間を隔てて配設される。

【２０９６４】

下面板Ｈ３３３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面を構成する部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かうに連れて上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する状態で正面板Ｈ３３１に配設される。言い換えると、下面板Ｈ３３３は遊技盤Ｈ１３（ベースユニットＨ３１０）から正面側に向かって離れるほど下方側（矢印Ｄ方向側）に張り出す状態で配設される。

【２０９６５】

これにより、正面板Ｈ３３１の正面視における外形（特に上下方向の大きさ）を大きくした場合であっても、遊技盤Ｈ１３の遊技領域が小さくなることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ１３の遊技領域を確保したまま、正面板Ｈ３３１の装飾性（意匠性）を向上（正面板Ｈ３３１の装飾可能な領域を大きく）できる。

【２０９６６】

また、下面板Ｈ３３３は、ベース部材Ｈ３１１に配設される検出装置Ｈ３１３の発光部および受光部と対向する位置に開口される検出用開口部Ｈ３３３ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される放音用開口部Ｈ３３３ｂと、それら検出用開口部Ｈ３３３ａ及び放音用開口部Ｈ３３３ｂの間の位置から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって立設される区画壁Ｈ３３３ｃとを備える。

【２０９６７】

検出用開口部Ｈ３３３ａは、上述したように検出装置Ｈ３１３の検出光を通過させるための開口であり、検出装置Ｈ３１３の発光部および受光部と対応する大きさに形成される。これにより、ガラスユニットＨ１６の透明ガラスＨ１６ａの前方における遊技者の手指の有無を検出装置Ｈ３１３により検出可能とされる。

【２０９６８】

また、検出用開口部Ｈ３３３ａは、検出装置Ｈ３１３側に向かって立設される立設部Ｈ３３３ａ１を備え、その立設部Ｈ３３３ａ１の立設先端側に検出装置Ｈ３１３が配設される。これにより、検出用開口部Ｈ３３３ａと検出装置Ｈ３１３との接続部分を上側装飾ユニットＨ１４ａの内側に形成できる。その結果、検出装置Ｈ３１３と検出用開口部Ｈ３３３ａの開口端との隙間を上側装飾ユニットＨ１４ａの内側に設定でき（遊技者から視認しにくくでき）、検出装置Ｈ３１３と検出用開口部Ｈ３３３ａの開口端との間の隙間から不正な部材が上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に挿入されることを抑制できる。

【２０９６９】

なお、本実施形態では、検出装置Ｈ３１３が、光により遊技者の手指を検出するものとして説明したが、これに限らず、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等が配設されるものであっても良い。

【２０９７０】

放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、ガラスユニットＨ１６の正面側（上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側）に放音して、正面側からスピーカーＨ３１２ａの音が遊技者に伝達されるようにするための開口であり、正面視においてスピーカーＨ３１２ａと遊技盤Ｈ１３の第３図柄表示装置Ｈ８１（図１８３９参照）とを繋ぐ位置に形成される。

【２０９７１】

区画壁Ｈ３３３ｃは、下面板Ｈ３３３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に亘って立設される。また、区画壁Ｈ３３３ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）への立設距離は、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた際に、先端部が覆設部材Ｈ３４３の下面に当接される長さに設定される。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた状態では、区画壁Ｈ３３３ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）と区画壁Ｈ３３３ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）とが区画壁Ｈ３３

３ｃにより区画される。
【２０９７２】
装飾板Ｈ３３５は、模様やキャラクターや文字等の情報を表示する板部材であり、全体が透明な樹脂材料から形成されると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）の表面に模様やキャラクターや文字等の情報が描かれる。これにより、複数機種のパチンコ機Ｈ１０がある場合には、装飾板Ｈ３３５の装飾を見ることで遊技者にどのパチンコ機Ｈ１０であるのか認識させやすくなっている。
【２０９７３】
なお、パチンコ機Ｈ１０の機種（遊技機の仕様）を変更する場合には、上側装飾ユニットＨ１４ａの全部を変更しなくても、装飾板Ｈ３３５のみを該当の模様やキャラクターや文字等の情報が描かれる装飾板Ｈ３３５に変更することで、変更先のパチンコ機Ｈ１０に該当する装飾に切り替えることが可能となっている。
【２０９７４】
なお、本実施形態では、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上面板Ｈ３３２が透明な樹脂材料で形成され、下面板Ｈ３３３及び左面板Ｈ３３４が非透過の樹脂材料で形成され、発光ユニットＨ３４０から出射される光を正面板Ｈ３３１側から出射するだけでなく、上面板Ｈ３３２が配設される上方側からも出射可能に構成されていても良い。
【２０９７５】
また、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を透明な樹脂材料から形成しても良く、この場合には、装飾ユニットＨ３３０の全体から発光ユニットＨ３４０の光を出射することができる。
【２０９７６】
発光ユニットＨ３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に配設され光を発光可能に構成される基板部材Ｈ３４２と、基板部材Ｈ３４２との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。
【２０９７７】
取付部材Ｈ３４１は、装飾ユニットＨ３３０の正面板Ｈ３３１の背面と対向する位置に配設され、正面視において装飾ユニットＨ３３０の装飾板Ｈ３３５と同形状に形成される板状の正面側板部Ｈ３４１ａと、その正面側板部Ｈ３４１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される上側縁部Ｈ３４１ｂと、正面側板部Ｈ３４１ａの下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部に沿って正面側に向かって立設される下側縁部Ｈ３４１ｃと、その下側縁部Ｈ３４１ｃと所定の間隔を隔てて下側縁部Ｈ３４１ｃに沿って延設される区画部Ｈ３４１ｄとを主に備え、正面側板部Ｈ３４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子により、正面板Ｈ３３１の背面に締結される。なお、取付部材Ｈ３４１は、非透過性の樹脂材料から形成される。
【２０９７８】
正面側板部Ｈ３４１ａは、後述する基板部材Ｈ３４２のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａの光の照射領域を区画する部材であり、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａと対応する位置に開口する複数の開口部Ｈ３４１ａ１を備える。
【２０９７９】
取付部材Ｈ３４１は、非透過性の樹脂材料から形成されるので、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａの光を開口部Ｈ３４１ａ１を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に出射することで、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａの光の照射領域が広がりすぎることを抑制できる。その結果、複数のＬＥＤの発光色が混ざり合うことを抑制して、領域ごとに色違いの発光表示を装飾ユニットＨ３３０（装飾板Ｈ３３５）にさせることができる。
【２０９８０】
なお、取付部材Ｈ３４１の正面側板部Ｈ３４１ａは、正面板Ｈ３３１を介して装飾板Ｈ

３３５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されており、装飾板Ｈ３３５に描かれる模様やキャラクターや文字等（本実施形態では文字）の情報の表示を部分的に色違いで発光させられるようになっている。

【２０９８１】

上側縁部Ｈ３４１ｂは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介してＬＥＤＨ３４２ａから出射される光が上方側（矢印Ｕ方向側）に漏れ出ることを抑制する部分であり、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。

【２０９８２】

また、上側縁部Ｈ３４１ｂの上方側の側面には、凹凸状に形成される凹凸面Ｈ３４１ｂ１が形成される。凹凸面Ｈ３４１ｂ１は、凸部の頂点が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びて形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に向かって複数の凹凸が現れるように形成される。

【２０９８３】

下側縁部Ｈ３４１ｃは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介してＬＥＤＨ３４２ａから出射される光が下方側（矢印Ｄ方向側）に漏れ出ることを抑制する部分であり、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。

【２０９８４】

また、下側縁部Ｈ３４１ｃの下方側の側面には、凹凸状に形成される凹凸面Ｈ３４１ｃ１が形成される。凹凸面Ｈ３４１ｂ１は、凸部の頂点が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びて形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に向かって複数の凹凸が現れるように形成される。

【２０９８５】

区画部Ｈ３４１ｄは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介して区画部Ｈ３４１ｄと下側縁部Ｈ３４１ｃとの間に出射されるＬＥＤＨ３４２ａの光を区画する部分であり、下側縁部Ｈ３４１ｃと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てる位置に形成されると共に、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａを正面視した際に、上方側の領域と下方側の領域とで上側装飾ユニットＨ１４ａの発光態様を変更（区画）することができる。

【２０９８６】

また、区画部Ｈ３４１ｄは、正面側（矢印Ｆ方向側）への立設距離が下側縁部Ｈ３４１ｃの正面側への立設距離よりも大きく設定される。これにより、区画部Ｈ３４１ｄと下側縁部Ｈ３４１ｃとの間に出射される光を区画部Ｈ３４１ｄにより下方側へ反射させやすくできる。即ち、パチンコ機Ｈ１０の上方側に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａから遊技者側（下方側）に向かって光を照射させやすくできる。その結果、光による演出で遊技者の興趣を高めやすくできる。

【２０９８７】

基板部材Ｈ３４２は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される。このＬＥＤＨ３４２ａにより基板部材Ｈ３４２の正面側に向けて光を出射可能に形成される。また、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）には、基板部材Ｈ３４２に接続される配線を繋ぐコネクタＨ３４２ｂが配設される。

【２０９８８】

基板部材Ｈ３４２は、コネクタＨ３４２ｂにベース部材Ｈ３１１の開口Ｈ３１１ａを通した配線が接続されることにより、ＬＥＤＨ３４２ａから光を出射することが可能となっている。また、基板部材Ｈ３４２は、取付部材Ｈ３４１の正面側板部Ｈ３４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される係合部に係止されることにより、取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される。

【２０９８９】

覆設部材Ｈ３４３は、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う部材であり、正面視における外形が基板部材Ｈ３４２よりも大きく形成され、背面側から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。

【２０９９０】

また、覆設部材Ｈ３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。さらに、覆設部材Ｈ３４３は、正面視における上方側（矢印Ｕ方向側）の側面から上方に向かって立設される区画壁Ｈ３４３ｂを備え、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた際に区画壁Ｈ３４３ｂの先端部が上面板Ｈ３３２と当接される。

【２０９９１】

なお、区画壁Ｈ３４３ｂは左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されており、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた状態において、区画壁Ｈ３４３ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）と区画壁Ｈ３４３ｂの背面側とが区画壁Ｈ３４３ｂにより区画される。

【２０９９２】

正面視における覆設部材Ｈ３４３の中央部の開口形状は、基板部材Ｈ３４２の正面視における外形と酷似した形状に形成される。よって、覆設部材Ｈ３４３を取付部材Ｈ３４１に配設した場合に、取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される基板部材Ｈ３４２の背面に覆設部材Ｈ３４３が当接することを抑制できる。これにより、ＬＥＤＨ３４２ａを発光することにより基板部材Ｈ３４２に生じる熱を覆設部材Ｈ３４３の内部空間に逃がすことができる。その結果、基板部材Ｈ３４２（ＬＥＤＨ３４２ａ）が破損することを抑制できる。

【２０９９３】

また、覆設部材Ｈ３４３は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出した端部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔（図示しない）が形成され、その貫通孔を介して、基板部材Ｈ３４２により発生する熱を覆設部材Ｈ３４３の外側に逃がすことができると共に、基板部材Ｈ３４２のコネクタＨ３４２ｂに接続される配線を挿通できる。

【２０９９４】

なお、覆設部材Ｈ３４３は、非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａから照射される光が背面側に向かって反射したとしても、覆設部材Ｈ３４３を介して光が背面側に出射されることを抑制できる。その結果、ＬＥＤＨ３４２ａの光を所定の領域から出射させやすくでき、光による演出効果を向上しやすくできる。

【２０９９５】

音伝達ユニットＨ３５０は、正面視においてベースユニットＨ３１０に一対配設されるスピーカー組立体Ｈ３１２と対応する位置に配設されるものであり、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２の正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ１組ずつ配設される。

【２０９９６】

なお、本実施形態では、一対配設される音伝達ユニットＨ３５０の形状が左右で若干異なるが主要な構成は左右で同一であるため、左右で同一の符号を付すと共に正面視において左側に配設される音伝達ユニットＨ３５０を参照して説明する。

【２０９９７】

音伝達ユニットＨ３５０は、パンチングメタルから形成される薄板部材のスピーカーカバーＨ２７と、そのスピーカーカバーＨ２７の前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）に配設される第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２とを主に備え、装飾ユニットＨ３３０に一対形成される配設空間Ｈ３００Ｆの内部に配設される。

【２０９９８】

スピーカーカバーＨ２７は、スピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）される音を通過させると共に、スピーカーＨ３１２ａ側へ物体が挿通されることを抑制するための保護部材であり、スピーカーＨ３１２ａの振動板（音を発生させる部分）に沿って配設される。

【２０９９９】

また、スピーカーカバーＨ２７には、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる部分に複数の貫通孔が形成され、その貫通孔を介してスピーカーＨ３１２ａの正面側から放音（出力）される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音可能とされる。

【２１０００】

なお、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔の穴径は、直径２ミリほどで形成されており、遊技者の指や不正な部材が挿通されにくいように形成される。その結果、スピーカーＨ３１２ａの振動板にいたずらがされることを抑制して、スピーカーＨ３１２ａが破損することを抑制できる。

【２１００１】

また、本実施形態では、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて正面板Ｈ３３１のスリットＨ３３１ａ１が配置されるように構成される。これにより、スリットＨ３３１ａ１を介してスピーカーＨ３１２ａ側に不正な部材を挿通できたとしても、スピーカーカバーＨ２７までの所定の隙間により不正な部材を撓ませることで、不正な部材がそのままスピーカーカバーＨ２７の貫通孔に挿通されることを抑制できる。その結果、スピーカーＨ３１２ａの振動板にいたずらがされることを抑制して、スピーカーＨ３１２ａが破損することを抑制できる。

【２１００２】

第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２は、スピーカーカバーＨ２７を保持する部材であり、スピーカーカバーＨ２７よりも大きい外形に形成され、スピーカーカバーＨ２７の前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）にそれぞれ配設される。

【２１００３】

また、第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２は、スピーカーカバーＨ２７を通して放音される音が遮られないよう中央部（スピーカーカバーＨ２７の貫通孔が形成される領域と対応する部分）に開口する第１開口部Ｈ３５１ａ、第２開口部Ｈ３５２ａを備え、それら第１開口部Ｈ３５１ａ、第２開口部Ｈ３５２ａ及びスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外部に放音できる。

【２１００４】

さらに、スピーカーカバーＨ２７は、スピーカーＨ３１２ａの前面フランジＨ３１２ａ１と当接する位置に配設される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音をスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して、音伝達ユニットＨ３５０の正面側に放音することができる。

【２１００５】

一方、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から放音（出力）される音は、スピーカーＨ３１２ａよりも正面側（矢印Ｆ方向側）が音伝達ユニットＨ３５０により塞がれる（スピーカーＨ３１２ａの正面側と背面側とが音伝達ユニットＨ３５０により区画される）ことにより、音伝達ユニットＨ３５０の正面側に回り込むことが抑制される。即ち、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）され、開口部Ｈ３１２ｂ１を介して第２空間Ｈ３００Ｂに放音される音は、後述する第１空間Ｈ３００Ａ側に回り込むことが抑制される。

【２１００６】

即ち、装飾ユニットＨ３００の一対の配設空間Ｈ３００Ｆのそれぞれに音伝達ユニットＨ３５０及びスピーカーＨ３１２ａが配設されることで、配設空間Ｈ３００Ｆの正面側と背面側とが区画され、スピーカーＨ３１２ａの正面側に第１空間Ｈ３００Ａが形成されると共にスピーカーＨ３１２ａの背面側に第２空間Ｈ３００Ｂが形成される。

【２１００７】

なお、音伝達ユニットＨ３５０は、第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２の間にスピーカーカバーＨ２７を挟持した状態で、第２保持部材Ｈ３５２の背面側から挿通される螺子を第１保持部材Ｈ３５１に螺入することで、１組のユニットとして構成される。また、１組のユニットとして構成された音伝達ユニットＨ３５０は、第２保持部材Ｈ３

５２の背面側から挿通される螺子を覆設部材Ｈ３４３に螺入することで、発光ユニットＨ３４０と共に装飾ユニットＨ３３０に締結できる。

【２１００８】

次いで、図１８４７を参照して、放音用開口部Ｈ３３３ｂからの音の放音について説明する。図１８４７は、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面図である。なお、図１８４７では、装飾ユニットＨ３３０が透明視された状態で図示される。

【２１００９】

図１８４７に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａは、正面視におけるスピーカーカバーＨ２７の周囲を取り囲む態様で第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２が配設される（即ち、スピーカーＨ３１２ａの正面側と背面側とが音伝達ユニットＨ３５０及びスピーカーＨ３１２ａにより区画され、配設空間Ｈ３００Ｆの正面側を区画した第１空間Ｈ３００Ａが形成されると共に、配設空間Ｈ３００Ｆの背面側を区画した第２空間Ｈ３００Ｂが形成される）。

【２１０１０】

これにより、スピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側に放音される音が音伝達ユニットＨ３５０（第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２）の背面側（矢印Ｂ方向側）に回り込むことを抑制できる。

【２１０１１】

また、音伝達ユニットＨ３５０及び発光ユニットＨ３４０の正面側（矢印Ｆ方向側）を取り囲む態様で装飾ユニットＨ３３０（図１８４５参照）が配設されると共に、左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）に一対配設される音伝達ユニットＨ３５０の間に発光ユニットＨ３４０が配設される。これにより、それぞれのスピーカーカバーＨ２７の正面側に装飾ユニットＨ３３０、発光ユニットＨ３４０、音伝達ユニットＨ３５０で囲まれた第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４７参照）が形成される。

【２１０１２】

よって、左側のスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音される音を左側の第１空間Ｈ３００Ａに伝達させることができると共に、右側のスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側に放音される音を右側の第１空間Ｈ３００Ａに伝達させることができる。

【２１０１３】

また、図１８４７に示すように第１空間Ｈ３００Ａを形成する領域における下面板Ｈ３３３には、放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成される。これにより、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、正面板Ｈ３３１のスリットＨ３３１ａ１からだけではなく、放音用開口部Ｈ３３３ｂからも放音させることができる。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音を、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面側（スリットＨ３３１ａ１側）及び下方側（放音用開口部Ｈ３３３ｂ側）から放音させることができる。

【２１０１４】

即ち、第１１１実施形態における上側装飾ユニットＨ１４ａでは、スピーカーＨ３１２ａから放音（出力）した音をスピーカーＨ３１２ａの正面側のスリットＨ３３１ａ１と、スピーカーＨ３１２ａの下方側の放音用開口部Ｈ３３３ｂの２箇所から放音することができる。これにより、パチンコ機Ｈ１０の外側に音を好適に拡散する（広げる）ことができ、音の出力の態様を改善できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【２１０１５】

また、第１１１実施形態では、スリットＨ３３１ａ１と放音用開口部Ｈ３３３ｂとが第１空間Ｈ３００Ａに対して異なる方向に開口されるので、第１空間Ｈ３００Ａから異なる２方向に向けて音を放音することができる。これにより、音を立体的に拡散する（広げる）ことができ、音の出力の態様を改善できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【２１０１６】
なお、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａが配設される位置よりも上側装飾ユニット（パチンコ機Ｈ１０）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に形成される。これにより、放音用開口部Ｈ３３３ｂを介して上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側から放音される音を正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の中央側に伝達しやすくできる。その結果、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者に上側装飾ユニットＨ１４ａから放音される音を聞かせやすくできる。
【２１０１７】
また、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、上述したように正面視においてスピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と遊技盤Ｈ１３の第３図柄表示装置Ｈ８１（図１８３９参照）とを繋ぐ位置に形成される。即ち、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、正面視においてスピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と第３図柄表示装置Ｈ８１との間の位置に形成される。
【２１０１８】
これにより、スピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から放音（出力）される音が遊技者に聞こえるタイミングと、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出が遊技者に視認されるタイミングとに差ができることを抑制できる。よって、スピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から放音（出力）される音と第３図柄表示装置Ｈ８１の表示による演出とを遊技者に関連付けやすくできる。
【２１０１９】
なお、第１１１実施形態における放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と第３図柄表示装置Ｈ８１との間の位置に形成される場合について説明したが、第３図柄表示装置Ｈ８１でなく他の表示装置との間に放音用開口部Ｈ３３３ｂを形成しても良い。例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）を変位可能に形成される花回転ユニットＧ４００（図１９１０参照）の変位領域との間に放音用開口部Ｈ３３３ｂを形成して、花回転ユニットＧ４００の変位に合わせてスピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から音を出力しても良い。
【２１０２０】
次いで、図１８４８及び図１８４９を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に形成される音の伝達経路について説明する。図１８４８は、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面図であり、図１８４９（ａ）は、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図であり、図１８４９（ｂ）は、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸｂ線における上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１８４８及び図１８４９では、右側装飾ユニットＨ１４ｃが上側装飾ユニットＨ１４ａに配設された状態が図示される。なお、図１８４８及び図１８４９では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２１０２１】
図１８４８及び図１８４９（ａ）に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面板Ｈ３３１と取付部材Ｈ３４１とは、外縁部Ｈ３３１ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとの間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第１連通路Ｈ３００Ｃ（図１８４９（ａ）参照））を有した状態で正面板Ｈ３３１に取付部材Ｈ３４１が配設される。
【２１０２２】
また、外縁部Ｈ３３１ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとの間に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が正面板Ｈ３３１の本体部Ｈ３３１ａにより塞がれ、背面側（矢印Ｂ方向側）が覆設部材Ｈ３４３の区画壁Ｈ３４３ｂにより塞がれており、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間を有した状態とされる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上方側に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される空間の第１連通路Ｈ３００Ｃが形成される。
【２１０２３】

第１連通路Ｈ３００Ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される第１空間Ｈ３００Ａに連通される。これにより、一対のスピーカーカバーＨ２７の正面側に形成されるそれぞれの第１空間Ｈ３００Ａが、第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通される。

【２１０２４】

よって、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して隣の第１空間Ｈ３００Ａのスリット３３１ａ１又は放音用開口部Ｈ３３３ｂから上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音することができる。

【２１０２５】

即ち、一方側（例えば、左側）に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、他方側（例えば、右側）のスピーカーＨ３１２ａの正面側に迂回させて、上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができる。

【２１０２６】

ここで、第１連通路Ｈ３００Ｃを備えていない（即ち、一対の配設空間Ｈ３００Ｆが連通されていない）場合には、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、それぞれのスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）の第１空間Ｈ３００Ａを介して上側装飾ユニットＨ１４ａからしか放音できない。そのため、第１連通路Ｈ３００Ｃを備えていない場合には、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合に、上側装飾ユニットＨ１４ａの他方側からしか音が放音されなくなる。そのため、遊技者に違和感を与える可能性がある。

【２１０２７】

これに対し、第１１１実施形態では、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に迂回させて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができるので、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの両側から放音させることができる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、遊技者が違和感を感じることを抑制でき、遊技者が遊技を行わなくなることを抑制できる。

【２１０２８】

次いで、図１８４７及び図１８４８（ｂ）に示すように、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３とは、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第２連通路Ｈ３００Ｄ（図１８４９（ｂ）参照））を有した状態で覆設部材Ｈ３４３に下面板Ｈ３３３が配設される。

【２１０２９】

また、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が下面板Ｈ３３３の区画壁Ｈ３３３ｃにより塞がれており、背面側（矢印Ｂ方向側）がベース部材Ｈ３１１により塞がれる。即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間（第２連通路Ｈ３００Ｄ）を有した状態とされ、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される第２連通路Ｈ３００Ｄが形成される。

【２１０３０】

第２連通路Ｈ３００Ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される第２空間Ｈ３００Ｂに連通される。これにより、一対のスピーカーＨ３１２ａの背面側に形成されるそれぞれの第２空間Ｈ３００Ｂが、第２連通路Ｈ３００Ｄにより連通される。

【２１０３１】

これにより、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから背面側に向かって放音され、開口部Ｈ３１２ｂ１を介して第２空間Ｈ３００Ｂに放音される音を第２連通路Ｈ３００Ｄ内に伝

達させることができる。
【２１０３２】
下面板Ｈ３３３の第２連通路Ｈ３００Ｄの下面側の内壁を形成する部分には、検出用開口部Ｈ３３３ａが形成される。これにより、第２空間Ｈ３００Ｂ内を伝わる音は、検出用開口部Ｈ３３３ａから放音され、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側から放音されることとなる。
【２１０３３】
これにより、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音と、他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音とを、第２空間Ｈ３００Ｂ内で合わせて検出用開口部Ｈ３３３ａから放音することができる。そのため、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａ、又は、他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａのどちらか（例えば、一方側）が破損して音が一方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）されなくなったとしても、破損していない他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を検出用開口部Ｈ３３３ａから放音することができるので、遊技者が違和感を感じることを抑えることができる。
【２１０３４】
また、第１１１実施形態における検出用開口部Ｈ３３３ａでは、検出装置Ｈ３１３の検出光及び反射光を通過させる役割と、音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音させるための役割とをさせることができる。従って、下面板Ｈ３３３に形成する開口部の数を少なくすることができる。その結果、下面板Ｈ３３３の剛性が低下することを抑制できる。
【２１０３５】
さらに、スピーカーＨ３１２ａには、背面側（矢印Ｂ方向側）から配線等がコネクタにより連結されため、スピーカーＨ３１２ａの背面側に不正な部材が挿入されると不正な部材によりパチンコ機Ｈ１０の不正がされやすいところ、スピーカーＨ３１２ａの背面側に形成される第２連通路Ｈ３００Ｄからの音の放音部分に検出装置Ｈ３１３が配設される構造であるので、検出装置Ｈ３１３により上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に不正な部材が挿入されたことを検出装置Ｈ３１３により検出させることができる。その結果、不正部材が挿入されたまま遊技が継続されることを抑制できる。
【２１０３６】
なお、検出装置Ｈ３１３により不正がされていないか確認するタイミングとしては、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時や、パチンコ機Ｈ１０の大当たりの終了時等、検出装置Ｈ３１３により遊技盤Ｈ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）の人の手や指を検知していない時に、不正部材が検出用開口部内に挿入されていないかを検出するように構成される。
【２１０３７】
ここで、コーン型のスピーカーＨ３１２ａは、スピーカーの特性上、正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と背面側（矢印Ｂ方向側）から放音される音とが逆位相の関係になる。そのため、正面側から放音される音と背面側から放音される音とを合わせる（混ぜる）とそれらの音が打ち消し合う恐れがある。
【２１０３８】
これに対し、本実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音とを、上側装飾ユニットＨ１４ａの異なる経路を通じて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音させることができるので、正面側から放音される音と、背面側から放音される音とが打ち消し合うことを抑制できる。
【２１０３９】
特に、第１１１実施形態におけるスピーカーＨ３１２ａでは、前面側に保護カバーがされ正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音（出力）される音が背面側の第２空間Ｈ３００Ｂに放音（出力）される音に比べて高周波となり遊技者とって聞き取りやすい音とされる。上記したように、背面側の第２空間Ｈ３００Ｂに放音（出力）される音が、正面側の第１空間Ｈ３００Ａ側に回り込むことを抑制することで、第１空間Ｈ３００Ａに放音（出力）さ

れる聞き取りやすい音が聞こえにくくなることを抑制できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【２１０４０】

また、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音をスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と異なる経路（第２連通路Ｈ３００Ｄ）を伝達させることで、スピーカーＨ３１２ａの正面側から放音される音と、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音との音域を変更することができる。その結果、遊技者に聞こえる音の音域を増やすことができ、遊技者の興趣を高めることができる。

【２１０４１】

なお、第１１１実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの背面側に形成される第２空間Ｈ３００Ｂに音を放音するスリットＨ３３１ａ１（開口部）が形成されるのではなく、スピーカーＨ３１２ａの正面側に形成される第１空間Ｈ３００Ａにスリットを３３１ａ１が形成され（配設空間Ｈ３００Ｆに配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側にスリットＨ３３１ａ１（開口部）が形成され）、そのスリットＨ３３１ａ１が形成される側の第１空間Ｈ３００Ａ同士が第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通されるので、第１空間Ｈ３００Ａから第１連通路Ｈ３００Ｃを通して、遊技者が聞き取りやすい周波数帯の音（高音質な音）を他方側の第１空間Ｈ３００Ａに導くことができる。

【２１０４２】

よって、一対のスピーカーＨ３１２ａのうち一方側のスピーカーＨ３１２ａが故障した場合に、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）され第１連通路Ｈ３００Ｃを介して一方側のスピーカーＨ３１２ａが配設される第１空間Ｈ３００Ａから放音される音を遊技者が聞き取りやすくできる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２ａの一方が故障した場合において、遊技者が違和感を感じることを抑制できる。

【２１０４３】

次いで、図１８５０から図１８５７を参照して、右側装飾ユニットＨ１４ｃについて説明する。初めに図１８５０から図１８５３を参照して、右側装飾ユニットＨ１４ｃの全体構成について説明する。

【２１０４４】

図１８５０（ａ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面図であり、図１８５０（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの側面図であり、図１８５１（ａ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの分解正面斜視図であり、図１８５１（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの分解背面斜視図であり、図１８５２（ａ）は、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの分解正面斜視図であり、図１８５２（ｂ）は、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの分解背面斜視図であり、図１８５３は、支持板部Ｈ４１０の正面図である。

【２１０４５】

なお、図１８５０（ｂ）では、パチンコ機Ｈ１０の内側から外側（矢印Ｒ方向側）を視認した状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃの側面が図示される。また、図１８５３では、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部の外形が２点鎖線で図示される。

【２１０４６】

図１８５０から図１８５２に示すように、右側装飾ユニットＨ１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【２１０４７】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される

螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。
【２１０４８】
支持板部Ｈ４１０は、組立状態において本体枠Ｈ１４ｄの右側（矢印Ｒ方向側）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される固定板Ｈ４１１と、その固定板Ｈ４１１の上下方向に延設された領域の正面側に配設される基板部材Ｈ４１２と、を主に備える。
【２１０４９】
固定板Ｈ４１１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転させた略Ｌ字状に形成される延設部Ｈ４１１ａと、本体枠Ｈ１４ｄと対向する背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に沿って背面側へ向かって立設される内縁部Ｈ４１１ｃ，外縁部Ｈ４１１ｄとを主に備え、延設部Ｈ４１１ａ、外縁部Ｈ４１１ｄ、及び、内縁部Ｈ４１１ｃにより断面が略Ｃ字状に形成される。
【２１０５０】
なお、内縁部Ｈ４１１ｃは、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の内方側の延設部Ｈ４１１ａの外縁に沿って形成され、外縁部Ｈ４１１ｄは、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の外方側の延設部Ｈ４１１ａの外縁に沿って形成される。
【２１０５１】
また、内縁部Ｈ４１１ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離は、外縁部Ｈ４１１ｄの延設部Ｈ４１１ａからの背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離よりもガラスユニットＨ１６（図１８３７参照）の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚み分小さく設定される。これにより、内縁部Ｈ４１１ｃ（本体枠Ｈ１４ｄ）にガラスユニットＨ１６を配設した際に、正面枠Ｈ１４に対してガラスユニットＨ１６が背面側に部分的に飛び出ることが抑制される。
【２１０５２】
さらに、正面枠Ｈ１４の組立状態（図１８３７参照）において、外縁部Ｈ４１１ｄの内壁（左側壁および下側壁）が本体枠Ｈ１４ｄの外側面に当接され、内縁部Ｈ４１１ｃの内壁（右側壁）が本体枠Ｈ１４ｄの内側面に所定の間隔を隔てた状態で配設される。即ち、固定板Ｈ４１１は、本体枠Ｈ１４ｄの右側部分を外縁部Ｈ４１１ｄと内縁部Ｈ４１１ｃとで挟んだ状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。
【２１０５３】
また、固定板Ｈ４１１は、基板部材Ｈ４１２が取り付けられる領域の右側（矢印Ｒ方向側）において穿設される複数の右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と、その右側用締結孔Ｈ４１１ａ１よりも右側において固定板Ｈ４１１に穿設される支持孔Ｈ４１１ａ２と、基板部材Ｈ４１２が取り付けられる領域の左側（矢印Ｌ方向側）において固定板Ｈ４１１に穿設される左側用締結孔Ｈ４１１ａ３と、を主に備える。
【２１０５４】
延設部Ｈ４１１ａは、正面視において基板部材Ｈ４１２が重なる大きさに形成される。また、延設部Ｈ４１１ａには、基板部材Ｈ４１２が配設される領域に正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて台状にせり出す台部Ｈ４１１ｂが形成され、その台部Ｈ４１１ｂの正面に面当たりする状態で基板部材Ｈ４１２が固定板Ｈ４１１に締結固定される。なお、本実施形態では、基板部材Ｈ４１２は、正面側から挿入される螺子が延設部Ｈ４１１ａに螺入されることで台部Ｈ４１１ｂに締結固定される。
【２１０５５】
台部Ｈ４１１ｂは、正面枠Ｈ１４の組立状態（図１８５０（ａ）参照）において、幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側の側面が重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒに当接可能とされる。これにより、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への傾倒を抑制できる。即ち、支持板部Ｈ４１０に対する重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの姿勢を維持しやすくできる。
【２１０５６】
固定板Ｈ４１１の右側（矢印Ｒ方向側）側面においては、台部Ｈ４１１ｂよりも延設部Ｈ４１１ａの方が、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの外カバー部材Ｈ４７０、第１外

レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０を組み合わせた厚み分、右側にずれた位置に形成される。これにより、延設部Ｈ４１１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に外カバー部材Ｈ４７０、第１外レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部を支持板部Ｈ４１０に当接させることができる。

【２１０５７】

一方、固定板Ｈ４１１の左側（矢印Ｌ方向側）側面においては、台部Ｈ４１１ｂの側面と内縁部Ｈ４１１ｃの側面とが略同一の面位置に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において後述する左重板ユニットＨ４００Ｌの内カバー部材Ｈ４２０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部が内縁部Ｈ４１１ｃの背面側端部と同一の面位置に配置可能とされ、組立状態では内カバー部材Ｈ４２０の背面側端部Ｈ４２１ｂの内縁部が固定板Ｈ４１１の内縁部Ｈ４１１ｃの一部と当接される。

【２１０５８】

基板部材Ｈ４１２は、正面側に複数のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ４１２ａが配置される電子基板（プリント基板）である。複数のＬＥＤＨ４１２ａは、上下方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の間隔を空けて配設されると共に、後述する導光部材Ｈ４４０の湾曲形状に合わせて湾曲する列状に配置される（図１８５３参照）。即ち、複数のＬＥＤＨ４１２ａは、導光部材Ｈ４４０が正面側から投影された形状の内側に配置され、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）から導光部材Ｈ４４０へ向けて互いの光軸を平行にする姿勢で光を照射する。

【２１０５９】

なお、ＬＥＤＨ４１２ａの幅（発光部分の左右幅）よりも、導光部材Ｈ４４０のＬＥＤＨ４１２ａ側の端面の幅は長く形成される。よって、ＬＥＤＨ４１２ａから照射される光は、導光部材Ｈ４４０の幅方向外側に漏れることなく導光部材Ｈ４４０に入射し、導光部材Ｈ４４０のいずれかの面から出射される。

【２１０６０】

また、列状に配置される複数のＬＥＤＨ４１２ａの上端に配設されるＬＥＤＨ４１２ａ１は、導光部材Ｈ４４０よりも上方に配置されており、その光を外カバー部材Ｈ４７０の区画壁Ｈ４７８に照射可能とされる。なお、区画壁Ｈ４７８に照射される光については後述する。

【２１０６１】

右側用締結孔Ｈ４１１ａ１は、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの外カバー部材Ｈ４７０に形成される背面側締結部Ｈ４７６と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される背面側締結部Ｈ４５６と、第２外レンズ部材Ｈ４６０に形成される背面側締結部Ｈ４６５とを位置決めすると共に、それら背面側締結部Ｈ４５６，Ｈ４６５，Ｈ４７６に締結される螺子が背面側から挿通される孔である。背面側締結部Ｈ４５６，Ｈ４６５，Ｈ４７６に螺子が螺入されることにより、外カバー部材Ｈ４７０，第１外レンズ部材Ｈ４５０，第２外レンズ部材Ｈ４６０が支持板部Ｈ４１０に締結固定される。

【２１０６２】

左側用締結孔Ｈ４１１ａ３は、後述する左重板ユニットＨ４００Ｌの内カバー部材Ｈ４２０に形成される背面側締結部Ｈ４２８及び内レンズ部材Ｈ４３０に形成される背面側締結部Ｈ４３１ｂ１を位置決めすると共に、それら背面側締結部Ｈ４２８，Ｈ４３１ｂ１に締結される螺子が背面側から挿通される孔である。背面側締結部Ｈ４２８，Ｈ４３１ｂ１に螺子が螺入されることにより、内カバー部材Ｈ４２０及び内レンズ部材Ｈ４３０が支持板部Ｈ４１０に締結固定される。

【２１０６３】

支持孔Ｈ４１１ａ２は、外カバー部材Ｈ４７０の突出部Ｈ４７９が挿通される貫通孔である。支持孔Ｈ４１１ａ２は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｂ方向）に長い矩形状に貫通形成されると共に、突出部Ｈ４７９の外形よりも若干大きく形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の位置を規定しながら、外カバー部材Ｈ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部を延設部Ｈ４１１ａの正面側に当接させ

ることができる。
【２１０６４】
次いで、図１８５２及び図１８５４を参照して、左重板ユニットＨ４００Ｌについて説明する。図１８５４は、左重板ユニットＨ４００Ｌの分解正面斜視図である。図１８５２及び図１８５４に示すように、左重板ユニットＨ４００Ｌは、窓部Ｈ１４ｅ（図１８３３参照）の右側を構成すると共に光を透過可能な開口を有する内カバー部材Ｈ４２０と、その内カバー部材Ｈ４２０に右側から締結固定されると共に光透過性の無色の樹脂材料から形成される内レンズ部材Ｈ４３０と、右重板ユニットＨ４００Ｒと対向配置される導光部材Ｈ４４０と、を主に備える。
【２１０６５】
内カバー部材Ｈ４２０は、上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４２１と、その本体板部Ｈ４２１の上端および下端に穿設される上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３と、本体板部Ｈ４２１に開口される複数の開口部Ｈ４２４と、導光部材Ｈ４４０に挿通される円筒部であって導光部材Ｈ４４０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４２５と、内レンズ部材Ｈ４３０に挿通される円筒部であって内レンズ部材Ｈ４３０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４２６と、第１締結部Ｈ４２５及び第２締結部Ｈ４２６よりも長尺に形成され内レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０に挿通される円筒部であって内レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第３締結部Ｈ４２７と、本体板部Ｈ４２１の右側に突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定するネジが螺入される複数の背面側締結部Ｈ４２８と、を主に備える。
【２１０６６】
本体板部Ｈ４２１は、側面視（パチンコ機Ｈ１０の内側から外側に向かう方向視）において正面側（矢印Ｆ方向側）の端部を形成する正面側端部Ｈ４２１ａが波を模した形状とされ、全体が有色の非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ４２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部を形成する背面側端部Ｈ４２１ｂは、側面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に略直線状に延設され、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態では背面側端部Ｈ４２１ｂが固定板Ｈ４１１の内縁部Ｈ４１１ｃの背面側端部と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において略同一となる位置に配置される。
【２１０６７】
また、本体板部Ｈ４２１は、正面側端部Ｈ４２１ａの上方側の一部（内レンズ部材Ｈ４３０の下側レンズ部Ｈ４３２よりも上方側に位置する部分）において、右重板ユニットＨ４００Ｒに向かって立設される上側カバー部Ｈ４２１ａ１を備える。上側カバー部Ｈ４２１ａ１は、右重板ユニットＨ４００Ｒと左重板ユニットＨ４００Ｌとを組み合わせた場合に、右重板ユニットＨ４００Ｒ（外カバー部材Ｈ４７０）に立設先端部が当接する大きさに形成される。即ち、左重板ユニットＨ４００Ｌは、上方側の正面が上側カバー部Ｈ４２１ａ１により覆われた状態とされる。
【２１０６８】
一方、本体板部Ｈ４２１の上側カバー部Ｈ４２１ａ１よりも下方側（矢印Ｄ方向側）においては、正面側端部Ｈ４２１ａと右重板ユニットＨ４００Ｒ（第２外レンズ部材Ｈ４６０）との間に所定の隙間が形成され、その隙間に内レンズ部材Ｈ４３０が介在される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃの下方側は、内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって内レンズ部材Ｈ４３０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが張り出した状態とされる。
【２１０６９】
なお、本体板部Ｈ４２１は、非透過に形成されるものに限られることはなく、全部を光が透過可能な樹脂材料から形成したり、一部を光が透過可能な樹脂材料から形成したりしても良く、無色透明な樹脂材料から形成しても、半透明の樹脂材料から形成しても良い。
【２１０７０】

上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３は、外カバー部材Ｈ４７０（締結部Ｈ４７２）に螺入される螺子が挿通される開口であり、本体板部Ｈ４２１に配設される内レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０よりも上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の外側にずれた位置に形成される。これら上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３に挿通される螺子が外カバー部材Ｈ４７０の締結部Ｈ４７２に螺入されることで、内カバー部材Ｈ４２０が外カバー部材Ｈ４７０に固定される。

【２１０７１】

開口部Ｈ４２４は、上下３箇所に並設されると共に組立状態において内レンズ部材Ｈ４３０の視認窓として機能する。各開口部Ｈ４２４は、側面視において撓んだ略半月状に形成され、下方側の開口部Ｈ４２４から上方側の開口部Ｈ４２４に向かって開口される領域が大きくされる。なお、本体板部Ｈ４２１の開口部Ｈ４２４が形成される縁部は、内レンズ部材Ｈ４３０（矢印Ｒ方向側）に向かって撓んで形成されており、これにより、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０との間に隙間が形成されることが抑制される。

【２１０７２】

第１締結部Ｈ４２５は、本体板部Ｈ４２１の正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に主に形成されており、導光部材Ｈ４４０と内レンズ部材Ｈ４３０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重ねた場合に、内レンズ部材Ｈ４３０から張り出した導光部材Ｈ４４０の一部が締結される。即ち、第１締結部Ｈ４２５には、内レンズ部材Ｈ４３０を介さず導光部材Ｈ４４０が締結固定される。

【２１０７３】

第２締結部Ｈ４２６は、側面視における本体板部Ｈ４２１の中央領域に主に形成されており、内レンズ部材Ｈ４３０が締結される。即ち、第２締結部Ｈ４２６には、内レンズ部材Ｈ４３０のみが締結固定される。

【２１０７４】

第３締結部Ｈ４２７は、本体板部Ｈ４２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に主に形成されており、導光部材Ｈ４４０と内レンズ部材Ｈ４３０とを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重ねた場合に、内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０とが重なる領域に形成される。また、第３締結部Ｈ４２７は、左右に重ねた状態の内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０を挿通可能な長さに形成されており、内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０とを挿通した状態で締結される。

【２１０７５】

即ち、内レンズ部材Ｈ４３０は、第２締結部Ｈ４２６と第３締結部Ｈ４２７とにより内カバー部材Ｈ４２０に締結固定され、導光部材Ｈ４４０は、第１締結部Ｈ４２５と第３締結部Ｈ４２７とにより内カバー部材Ｈ４２０に締結固定される。

【２１０７６】

内レンズ部材Ｈ４３０は、内カバー部材Ｈ４２０と導光部材Ｈ４４０との間に配設され、導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して内カバー部材Ｈ４２０の開口部Ｈ４２４及び内カバー部材Ｈ４２０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射する部材であり、全体が透明の樹脂材料から形成される。

【２１０７７】

また、内レンズ部材Ｈ４３０は、内カバー部材Ｈ４２０の３箇所の開口部Ｈ４２４を覆う位置に形成される上側レンズ部Ｈ４３１と、その上側レンズ部Ｈ４３１の下方側に配設される下側レンズ部Ｈ４３２と、を主に備える。なお、上側レンズ部Ｈ４３１と、下側レンズ部Ｈ４３２とは、下側レンズ部Ｈ４３２側から挿通される螺子が上側レンズ部Ｈ４３１に螺入されることで締結固定されており、下側レンズ部Ｈ４３２が上側レンズ部Ｈ４３１よりも導光部材Ｈ４４０側（右重板ユニットＨ４００Ｒ）に近接する位置に配設される。

【２１０７８】

上側レンズ部Ｈ４３１は、開口部Ｈ４２４の内側から視認される部分あり、３箇所の開口部Ｈ４２４を覆う大きさに形成される。また、上側レンズ部Ｈ４３１は、開口部Ｈ４２

４と対応する位置に開口部Ｈ４２４の内側に向かって椀型に膨出する膨出部Ｈ４３１ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って導光部材Ｈ４４０側に向かって立設される背面側立設部Ｈ４３１ｂと、その背面側立設部Ｈ４３１ｂに連なる位置で穿設される第１開口部Ｈ４３１ｃ及び第２開口部Ｈ４３１ｄと、背面側立設部Ｈ４３１ｂから背面側から円柱状に突設される背面側締結部Ｈ４３１ｂ１と、を主に備える。

【２１０７９】

膨出部Ｈ４３１ａは、開口部Ｈ４２４に嵌り込む部分であり、それぞれの開口部Ｈ４２４と対応する形状の外形に形成される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃが組み立てられた状態において、開口部Ｈ４２４から膨出部Ｈ４３１ａが右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ張り出した状態とされる。

【２１０８０】

また、膨出部Ｈ４３１ａは、導光部材Ｈ４４０と対向する側の側面に凹凸が形成されており、この凹凸により膨出部Ｈ４３１ａ（上側レンズ部Ｈ４３１）に入射する光を開口部Ｈ４２４から拡散して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に出射することができる。

【２１０８１】

一方、膨出部Ｈ４３１ａは、開口部Ｈ４２４に嵌り込む側の側面（即ち、開口部Ｈ４２４から右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に突出する部分）が凹凸の少ない滑らかな面として形成される。これにより、膨出部Ｈ４３１ａの光拡散性を維持しつつ、膨出部Ｈ４３１ａの外面に異物（ちりやほこり等）が溜まる（入り込む）ことを抑制して膨出部Ｈ４３１ａの清掃性を向上できる。

【２１０８２】

背面側立設部Ｈ４３１ｂは、導光部材Ｈ４４０の側面に当接する高さに設定される。これにより、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）を上側レンズ部Ｈ４３１（内レンズ部材Ｈ４３０）に当接させて配設することで、右側装飾ユニットＨ１４ｃの前後方向における中央部（内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０との間）に所定の空間を形成できる。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に熱がこもることを抑制できる。

【２１０８３】

第１開口部Ｈ４３１ｃは、内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６と対応する位置に形成される。これにより、第１開口部Ｈ４３１ｃを挿通した螺子を内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６に螺入させて、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０とを締結することができる。

【２１０８４】

第２開口部Ｈ４３１ｄは、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７と導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５と対応する位置に形成されると共に、第３締結部Ｈ４２７の外形よりも大きい内径に形成される。また、第３締結部Ｈ４２７は、上述したように内レンズ部材Ｈ４３０の第２開口部Ｈ４３１ｄを挿通可能な長さに形成されており、第２開口部Ｈ４３１ｄの内側に挿入された状態で、導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５から挿通される螺子が螺入される。

【２１０８５】

なお、上側レンズ部Ｈ４３１は、内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５よりも正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する大きさに形成される。従って、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態では、上側レンズ部Ｈ４３１の正面側端部と内カバー部材Ｈ４２０の上側カバー部Ｈ４２１ａ１との間に所定の隙間が形成され、その隙間に内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部がＨ４２５が配置される。これにより、導光部材Ｈ４４０の第１開口部Ｈ４４４を挿通した螺子を上側レンズ部Ｈ４３１（内レンズ部材Ｈ４３０）を介さず内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入させることができる。

【２１０８６】

下側レンズ部Ｈ４３２は、上述したように、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側に張り出す

部分であり、正面側の端部が波形状に形成される。
【２１０８７】
　また、下側レンズ部Ｈ４３２の正面側（矢印Ｆ方向側）の端部には、外カバー部材Ｈ４７０側（矢印Ｒ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ４３２ａが形成される。立設部Ｈ４３２ａは、内カバー部材Ｈ４２０に導光部材Ｈ４４０を配設した状態において、導光部材Ｈ４４０よりも右重板ユニット側（矢印Ｒ方向側）に立設先端部が位置する大きさに形成される。即ち、立設部Ｈ４３２ａの内側に導光部材Ｈ４４０が収容される。これにより、導光部材Ｈ４４０から正面側（矢印Ｆ方向側）に出射される光を立設部Ｈ４３２ａを介して右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面側に出射させることが可能とされる。
【２１０８８】
　さらに、下側レンズ部Ｈ４３２には、上側レンズ部Ｈ４３１の第２開口部Ｈ４３１ｄと同様の機能を有する開口部Ｈ４３２ｂが正面側の一部に形成される。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態において、内カバー部材Ｈ４２０と導光部材Ｈ４４０との間に下側レンズ部Ｈ４３２を挟んだ状態とすることができる。従って、内カバー部材Ｈ４２０から下側レンズ部Ｈ４３２が離れることを抑制でき、内カバー部材Ｈ４２０と下側レンズ部Ｈ４３２との間に隙間が形成されることを抑制できる。
【２１０８９】
　導光部材Ｈ４４０は、上述したように、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａから照射される光を導光させる部材であり、全体が無色透明の熱可塑性樹脂材料から形成される。また、導光部材Ｈ４４０は、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０とを組み合わせた状態の左重板ユニットＨ４００Ｌよりも一回り小さく形成されており、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０の内側に収容された状態で内カバー部材Ｈ４２０に締結される。
【２１０９０】
　なお、導光部材Ｈ４４０に用いられる熱可塑性樹脂は特に限定されないが、透明性を有するものが好ましく、アクリル系樹脂（メタクリル系樹脂）、ポリカーボネート樹脂、ポリ塩化ビニル樹脂、非晶性ポリエステル樹脂、非晶性オレフィン系樹脂、ポリスチレン系樹脂、ＡＳ樹脂（アクリロニトリル、スチレン共重合化合物）を例示することができる。このうち、特にアクリル系樹脂を用いることで、平均輝度が高く、輝度分布の低下が少ない導光部材Ｈ４４０を得ることができる。
【２１０９１】
　導光部材Ｈ４４０は、側面に第１の凹凸で形成される第１凹凸面Ｈ４４１と、第１の凹凸とは異なる第２の凹凸で形成される第２凹凸面Ｈ４４２と、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に突出して形成される複数の入射部Ｈ４４３と、正面側の縁部に沿う位置に穿設される複数の第１開口部Ｈ４４４と、背面側の縁部に沿う位置に穿設される複数の第２開口部Ｈ４４５と、正面側の縁部から正面側に向かって突出して形成される複数の係合部Ｈ４４６と、を主に備える。
【２１０９２】
　第１凹凸面Ｈ４４１は、内レンズ部材Ｈ４３０の膨出部Ｈ４３１ａ及び下側レンズ部Ｈ４３２と対応する位置に主に形成される。即ち、第１凹凸面Ｈ４４１は、ＬＥＤＨ４１２ａから入射する光を内カバー部材Ｈ４２０及び外カバー部材Ｈ４７０が配設される方向（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ主に反射可能に構成される。これにより、上側レンズ部Ｈ４３１の膨出部Ｈ４３１ａおよび下側レンズ部Ｈ４３２から出射される光を遊技者に認識させやくできる。
【２１０９３】
　なお、本実施形態における第１凹凸面Ｈ４４１は、底面に対する傾斜角度４５°且つ底円の直径約１ｍｍの円錐形状部が、約３ｍｍ間隔で格子状に分散配置されるパターンを有する型板を熱可塑性樹脂に押し当てる（熱プレスする）ことにより形成される。ＬＥＤＨ４１２ａから照射された光の内、凹状部に到達した光は、凹状部により反射し、導光部材Ｈ４４０の左右側面から概略垂直な方向へ出射される。

【２１０９４】
第２凹凸面Ｈ４４２は、内レンズ部材Ｈ４３０の上側レンズ部Ｈ４３１および下側レンズ部Ｈ４３２を連結する部分と対応する位置に主に形成される。即ち、内カバー部材Ｈ４２０より覆設され遊技者から視認されにくい位置に形成される。
【２１０９５】
また、第２凹凸面Ｈ４４２は、内レンズ部材Ｈ４３０の膨出部Ｈ４３１ａと対応する位置に形成される側の第１凹凸面Ｈ４４１の周囲を取り囲むように形成されると共に、凸部の頂点が上下に延設される凹凸状に形成される。これにより、第２凹凸面Ｈ４４２は、導光部材Ｈ４４０の背面側から正面側に向けて入射する光を上下に反射して、第１凹凸面Ｈ４４１側に拡散できるようになっている。その結果、第１凹凸面Ｈ４４１から遊技者に向けて出射される光量を増やすことができる。
【２１０９６】
入射部Ｈ４４３は、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａと対応する位置に一個ずつ形成される。また、入射部Ｈ４４３の突出先端は、側面視において背面側に向かって湾曲する形状に形成されており、この湾曲形状によりＬＥＤＨ４１２ａから入射される光を上下方向に拡散できる。これにより、ＬＥＤＨ４１２ａの上下方向における配設間隔を空けても導光部材Ｈ４４０の全体に光を透過することができ、ＬＥＤＨ４１２ａの配設数を少なくすることができる。
【２１０９７】
第１開口部Ｈ４４４は、内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入される螺子が挿通される開口であり、第１締結部Ｈ４２５と対応する位置に形成される。よって、第１開口部Ｈ４４４を挿通させた螺子を第１締結部Ｈ４２５に螺入させることで、導光部材Ｈ４４０の正面側を内カバー部材Ｈ４２０に締結させることができる。
【２１０９８】
第２開口部Ｈ４４５は、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７に締結される螺子が挿通される開口であり、第３締結部Ｈ４２７と対応する位置に形成される。よって、第２開口部Ｈ４４５を挿通させた螺子を第３締結部Ｈ４２７に螺入させることで、導光部材Ｈ４４０の背面側を内カバー部材Ｈ４２０に締結させることができる。
【２１０９９】
係合部Ｈ４４６は、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの被係合部Ｈ４５７と係合する部分であり、被係合部Ｈ４５７の内側に挿入可能な大きさに形成される。なお、係合部Ｈ４４６と被係合部Ｈ４５７との係合は、左重板ユニットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとが組み立てられた状態で行われ、右重板ユニットＨ４００Ｒの背面側から左重板ユニットＨ４００Ｌが正面側にスライドされることで、被係合部Ｈ４５７に係合部Ｈ４４６が挿入されるようになっている。これにより、右重板ユニットＨ４００Ｒと左重板ユニットＨ４００Ｌとの正面側が互いに離れる左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位することを抑制できる。
【２１１００】
次いで、左重板ユニットＨ４００Ｌの組み立て方法について説明する。
【２１１０１】
初めに、左重板ユニットＨ４００Ｌは、内カバー部材Ｈ４２０の右側（矢印Ｒ方向側）から内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に配設される。この場合、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７の先端が第１開口部Ｈ４３１ｃに挿入されることで、内カバー部材Ｈ４２０に内レンズ部材Ｈ４３０を位置決めした状態で配設することができる。
【２１１０２】
内カバー部材Ｈ４２０に内レンズ部材Ｈ４３０を配設した後は、内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６に内レンズ部材Ｈ４３０の第２開口部Ｈ４３１ｄを挿通した螺子が螺入されることで、内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に固定される。
【２１１０３】

次に、内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に固定された状態で、導光部材Ｈ４４０が内カバー部材Ｈ４２０の右側（矢印Ｒ方向側）から内カバー部材Ｈ４２０に配設された後、導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５を挿通させた螺子が内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７に螺入され、導光部材Ｈ４４０の第１開口部Ｈ４４４を挿通させた螺子が内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入されることで、内レンズ部材Ｈ４３０に導光部材Ｈ４４０が固定される。これにより、左重板ユニットＨ４００Ｌが組み立てられる。

【２１１０４】

次いで、図１８５２及び図１８５５を参照して、右重板ユニットＨ４００Ｒについて説明する。図１８５５は、右重板ユニットＨ４００Ｒの分解正面斜視図である。図１８５２及び図１８５５に示すように、右重板ユニットＨ４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。

【２１１０５】

外カバー部材Ｈ４７０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４７１と、その本体板部Ｈ４７１の上端および下端に形成される２箇所の締結部Ｈ４７２と、本体板部Ｈ４７１に開口される複数の開口部Ｈ４７３と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に先端が挿入される円筒部であって第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４７４と、その第１締結部Ｈ４７４よりも短く形成される円筒部であって、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４７５と、本体板部Ｈ４７１の左側側面から突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定する螺子が螺入される複数の背面側締結部Ｈ４７６と、本体板部Ｈ４７１の背面側から突設され支持板部Ｈ４１０の支持孔Ｈ４１１ａ２に挿入される突出部Ｈ４７９と、を主に備える。

【２１１０６】

本体板部Ｈ４７１は、側面視（矢印Ｌ方向視）において、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が湾曲した円弧形状に形成されると共に、背面側の端部が上下方向に直線状に延設され、全体が非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ４７１は、上端から左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される立設部Ｈ４７７を備えており、正面視において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転した略Ｌ字状に形成される。

【２１１０７】

なお、本体板部Ｈ４７１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における延設長さは、支持板部Ｈ４１０と対応する長さに形成されており、右重板ユニットＨ４００Ｒを支持板部Ｈ４１０に配設した場合に固定板Ｈ４１１の正面側に重なる状態とされる。

【２１１０８】

立設部Ｈ４７７は、正面視における正面枠Ｈ１４の上部右側を構成する部分であり、正面枠Ｈ１４の組立状態において上側装飾ユニットＨ１４ａ側に向かって立設される先端部が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の右端部と当接する大きさに設定される。

【２１１０９】

また、立設部Ｈ４７７には、後述する第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに挿通される挿通部Ｈ４７７ａが複数個形成される。この挿通部Ｈ４７７ａを貫通孔Ｈ４５２ａに挿通した状態で、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に配設することで、立設部Ｈ４７７と対向する第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が立設部Ｈ４７７に対して相対変位することを抑制できる。

【２１１１０】

締結部Ｈ４７２は、左重板ユニットＨ４００Ｌを右重板ユニットＨ４００Ｒに固定するための螺子を螺入する部分であり、内カバー部材Ｈ４２０の本体板部Ｈ４２１に形成される上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３と対応する位置に形成される。左重板ユニ

ットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとは、それぞれが組み立てられた状態で内カバー部材Ｈ４２０の上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３に挿入される螺子を外カバー部材Ｈ４７０の締結部Ｈ４７２に螺入することで左重板ユニットＨ４００Ｌが右重板ユニットＨ４００Ｒに固定される。

【２１１１１】

複数の開口部Ｈ４７３は、第１外レンズ部材Ｈ４５０の複数の膨出部Ｈ４５５と対応する位置および形状に形成され、組立状態において第１外レンズ部材Ｈ４５０の視認窓として機能する。また、本体板部Ｈ４７１には、各開口部Ｈ４７３の開口縁に沿って第１外レンズ部材Ｈ４５０側にリブが立設され、そのリブの内側に膨出部Ｈ４５５が挿入された状態で配設される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０と第１外レンズ部材Ｈ４５０との間に隙間が形成されることが抑制される。

【２１１１２】

なお、本体板部Ｈ４２１の上部に形成される開口部Ｈ４７３（以下「上端開口部Ｈ４７３ａ」と称す（図１８５７（ｂ）参照））の縁部に沿って形成されるリブには、下方側を形成するリブから左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される区画壁Ｈ４７８が形成される。

【２１１１３】

区画壁Ｈ４７８は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の上方に立設先端部が位置する大きさに形成される。これにより、上端開口部Ｈ４７３ａと対向する位置から出射される導光部材Ｈ４４０から出射される光と、他の領域から出射される光とが混ざることを抑制できる。その結果、上端開口部Ｈ４７３ａから出射される光を他の光を区別しやすくできる。

【２１１１４】

第１締結部Ｈ４７４は、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための螺子を螺入する部分であり、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される第１挿通孔Ｈ４５３と対応する位置に形成される。

【２１１１５】

第２締結部Ｈ４７５は、第１外レンズ部材Ｈ４５０または第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための螺子を螺入する部分であり、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される第２挿通孔Ｈ４５４又は第２外レンズ部材Ｈ４６０に形成される挿通部Ｈ４６４と対応する位置に形成される。

【２１１１６】

第１挿通孔Ｈ４５３に挿通される螺子が第１締結部Ｈ４７４に螺入され、第２挿通孔Ｈ４５４又は挿通部Ｈ４６４に挿通される螺子が第２締結部Ｈ４７５に締結されることにより、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が外カバー部材Ｈ４７０に固定される。

【２１１１７】

背面側締結部Ｈ４７６は、外カバー部材Ｈ４７０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。外カバー部材Ｈ４７０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４７６に螺入されることで、支持板部Ｈ４１０に固定される。

【２１１１８】

第１外レンズ部材Ｈ４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４５１と、その本体板部Ｈ４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、第１挿通孔Ｈ４５３で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と

、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。
【２１１１９】
　また、第１外レンズ部材Ｈ４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射する部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。
【２１１２０】
　本体板部Ｈ４５１は、前後端部の形状が外カバー部材のＨ４７０の前後端部の形状に倣って形成されると共に、下方側の端部から下方側に張り出す張出部Ｈ４５１ａを備えて形成される。
【２１１２１】
　張出部Ｈ４５１ａは、外カバー部材Ｈ４７０の下方側から外カバー部材Ｈ４７０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出す部分であり、背面側の端部が外カバー部材Ｈ４７０の正面側の端面に沿って形成される。即ち、張出部Ｈ４５１ａは、外カバー部材Ｈ４７０の下方側において外カバー部材Ｈ４７０と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置される。
【２１１２２】
　屈曲部Ｈ４５２は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と所定の間隔を隔てて配設され、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と共に正面枠Ｈ１４の正面視における上部右側を構成する部分であり、正面視において右側から左側への立設距離が立設部Ｈ４７７よりも大きく設定される。即ち、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を配設した状態では、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７よりも張り出した状態とされる。
【２１１２３】
　また、屈曲部Ｈ４５２は、本体板部Ｈ４５１に連結される基端部Ｈ４５２ｃと、その基端部Ｈ４５２ｃの先端側に連なって形成されると共に基端部Ｈ４５２ｃよりも一段高く形成される先端部Ｈ４５２ｄと、その基端部Ｈ４５２ｃと先端部Ｈ４５２ｄとの段差部分に開口する貫通孔Ｈ４５２ａと、先端部Ｈ４５２ｄの先端側端部から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって屈曲する係合部Ｈ４５２ｂと、を主に備える。なお、屈曲部Ｈ４５２は、先端部Ｈ４５２ｄが外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７よりも張り出した状態とされる。
【２１１２４】
　貫通孔Ｈ４５２ａは、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の挿通部Ｈ４７７ａが挿通される部分であり、複数の挿通部Ｈ４７７ａと対応する位置にそれぞれ形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７に対して、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２の位置がずれることを抑制できる。
【２１１２５】
　なお、挿通部Ｈ４７７ａは、右側（矢印Ｒ方向側）から左側（矢印Ｌ方向側）に向かって突出して形成され、貫通孔Ｈ４５２ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して、左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０を配設する際に、貫通孔Ｈ４５２ａの内側に挿通部Ｈ４７７ａを挿通させることができる。
【２１１２６】
　係合部Ｈ４５２ｂは、上述した上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２（被係合部Ｈ３３２ｇ）と係合する部分であり、上面板Ｈ３３２との係合により、上面板Ｈ３３２に対して屈曲部Ｈ４５２が離間することを抑制して、上面板Ｈ３３２に対して立設部Ｈ４７７が離間することを抑制できる。なお、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの組み立て方法についての詳しい説明は後述する。
【２１１２７】
　第１挿通孔Ｈ４５３は、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の第１締結部Ｈ４７４に

螺入される螺子が挿通される部分であり、第１締結部Ｈ４７４と対応する位置に形成される。また、第１挿通孔Ｈ４５３は、外カバー部材Ｈ４７０側（矢印Ｒ方向側）から導光部材Ｈ４４０側（矢印Ｌ方向側）に向かって円形状に凹設される凹設底面に形成されており、凹設部に第１締結部Ｈ４７４の先端部を挿入可能とされる。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して第１外レンズ部材Ｈ４５０を位置決めしつつ、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を固定することができる。

【２１１２８】

第２挿通孔Ｈ４５４は、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５に螺入される螺子が挿通される部分であり、第２締結部Ｈ４７５と対応する位置に形成される。なお、第２挿通孔Ｈ４５４は、第１挿通孔Ｈ４５３のように第２締結部Ｈ４７５の先端部を挿入可能な凹設部を備えておらず、本体板部Ｈ４５１の側面に第２締結部Ｈ４７５の先端部を当接させた状態で螺子が挿通される。

【２１１２９】

膨出部Ｈ４５５は、開口部Ｈ４７３に嵌り込む部分であり、それぞれの開口部Ｈ４７３と対応する形状の外形に形成される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃが組み立てられた状態において、開口部Ｈ４７３から膨出部Ｈ４５５が右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ張り出した状態とされる。なお、上端開口部Ｈ４７３ａに挿入される上端側の膨出部Ｈ４５５（以下「上方側膨出部Ｈ４５５ａ」と称す）は、上端開口部Ｈ４７３ａの内縁と若干の隙間を隔てた状態で形成される。

【２１１３０】

背面側締結部Ｈ４５６は、第１外レンズ部材Ｈ４５０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。第１外レンズ部材Ｈ４５０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４５６に螺入されることで、支持板部Ｈ４１０に固定される。

【２１１３１】

被係合部Ｈ４５７は、導光部材Ｈ４４０の係合部Ｈ４４６と係合する部分であり、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、係合部Ｈ４４６と対応する位置に形成される。また、被係合部Ｈ４５７は、本体板部Ｈ４５１の正面側端部にブリッジ状に形成されており、そのブリッジにより前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する空間が形成される。

【２１１３２】

第２外レンズ部材Ｈ４６０は、全体が透明の樹脂材料から形成され、第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａを除いた部分の下側（矢印Ｄ方向側）に配設される。また、第２外レンズ部材Ｈ４６０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設される挟持部Ｈ４６１と、その挟持部Ｈ４６１よりも正面側に張り出される張出部Ｈ４６２と、挟持部Ｈ４６１及び張出部Ｈ４６２との間を連結する連結部Ｈ４６３と、を主に備える。

【２１１３３】

挟持部Ｈ４６１及び連結部Ｈ４６３は、第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための部分であり、外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５と対応する位置に開口する複数の挿通部Ｈ４６４を備える。挿通部Ｈ４６４に挿通した螺子を外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５に螺入することで、第２外レンズ部材Ｈ４６０を第１外レンズ部材Ｈ４５０と共に外カバー部材Ｈ４７０に固定できる。

【２１１３４】

また、挟持部Ｈ４６１には、背面側の端部に背面側締結部Ｈ４６５が形成される。背面側締結部Ｈ４６５は、第２外レンズ部材Ｈ４６０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。第２外レンズ部材Ｈ４６０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４６５に螺入されることで、支持板部Ｈ４

１０に固定される。
【２１１３５】
なお、上述した外カバー部材Ｈ４７０、第１外レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０の支持板部Ｈ４１０への固定は、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を固定した状態（即ち、右重板ユニットＨ４００Ｒの組立状態）で行われる。より詳しくは、左重板ユニットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとを組み付けた状態で行われる。
【２１１３６】
連結部Ｈ４６３は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａとの間に配設される部分であり、挟持部Ｈ４６１及び張出部Ｈ４６２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚みが薄く形成される。これにより、右重板ユニットＨ４００Ｒの組立状態において、第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａは、第２外レンズ部材Ｈ４６０の挟持部Ｈ４６１と張出部Ｈ４６２とにより前後が挟まれた状態とされる。
【２１１３７】
張出部Ｈ４６２は、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、上述した下側レンズ部Ｈ４３２と共に内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出す部分であり、正面側の端部が下側レンズ部Ｈ４３２と同形状の波形状に形成される。
【２１１３８】
また、張出部Ｈ４６２には、正面側の端部に内カバー部材Ｈ４２０側（矢印Ｌ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ４６２ａが形成される。立設部Ｈ４６２ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａの正面側に重なる大きさに形成される。即ち、組立状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃの下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａの正面側には、第２外レンズ部材Ｈ４６０の立設部Ｈ４６２ａが重なる状態で配設される。
【２１１３９】
第２外レンズ部材Ｈ４６０の立設部Ｈ４６２ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被係合部Ｈ４６２ａ１が形成され、下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａには、被係合部Ｈ４６２ａ１に向かって突出する係合部Ｈ４３２ａ１が形成される。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態において、被係合部Ｈ４６２ａ１に係合部Ｈ４３２ａ１が挿入された状態とされ、左重板ユニットＨ４００Ｌの正面側と右重板ユニットＨ４００Ｒの正面側とが互いに離れる左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位することが規制される。
【２１１４０】
なお、本実施形態では、第２外レンズ部材Ｈ４６０及び下側レンズ部Ｈ４３２が透明の樹脂材料から形成されると共に、導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過可能に形成されるので、立設部Ｈ４６２ａ及び立設部Ｈ４３２ａに光を透過させることで被係合部Ｈ４６２ａ１及び係合部Ｈ４３２ａ１を遊技者に認識させにくくできる。その結果、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【２１１４１】
次いで、右重板ユニットＨ４００Ｒの組み立て方法について説明する。初めに、右重板ユニットＨ４００Ｒは、外カバー部材Ｈ４７０の左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０が重ね合わされる。この際、第１外レンズ部材Ｈ４５０の貫通孔Ｈ４５２ａに外カバー部材Ｈ４７０の挿通部Ｈ４７７ａが挿通されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の第１挿通孔Ｈ４５３が形成される凹部に第１外レンズ部材Ｈ４５０の第１締結部Ｈ４７４の先端部が挿入される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して第１外レンズ部材Ｈ４５０を位置決めしつつ配置することができる。
【２１１４２】
次に、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０が配置された状態で、第２外

レンズ部材Ｈ４６０が外カバー部材Ｈ４７０の左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０に配設される。この場合、第２外レンズ部材Ｈ４６０の挟持部Ｈ４６１と張出部Ｈ４６２との間に第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａを挟み込まれる。これにより、第２外レンズ部材Ｈ４６０を第１外レンズ部材Ｈ４５０に対して位置決めしつつ配設できる。

【２１１４３】

最後に、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が配設された状態で、外カバー部材Ｈ４７０の第１締結部Ｈ４７４及び第２締結部Ｈ４７５に螺子が螺入されることで、右重板ユニットＨ４００Ｒを組み立てることができる。

【２１１４４】

なお、本実施形態では、第１外レンズ部材Ｈ４５０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが色違いの樹脂材料から形成されるため、第１外レンズ部材Ｈ４５０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが別部材から構成されるが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を同色（例えば、無色透明）の樹脂材料から１の部材として構成しても良い。

【２１１４５】

次いで、図１８５６及び図１８５７を参照をして、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとについて説明する。図１８５６（ａ）は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図１８５６（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の正面斜視図であり、図１８５７（ａ）は、図１８５０（ｂ）に示すＭＤＣＣＣＬＶＩＩａ線における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図であり、図１８５７（ｂ）は、図１８５０（ｂ）に示すＭＤＣＣＣＬＶＩＩｂ線における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。

【２１１４６】

なお、図１８５６（ａ）では、本体枠Ｈ１４ｄから上側装飾ユニットＨ１４ａを取り外した状態における正面枠Ｈ１４が図示される。また、図１８５７（ａ）及び図１８５７（ｂ）では、正面枠Ｈ１４が組み立てられた状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの一部（上面板Ｈ３３２）の断面が模式的に図示される。

【２１１４７】

図１８５６（ａ）及び図１８５６（ｂ）に示すように、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとは、右側装飾ユニットＨ１４ｃを本体枠Ｈ１４ｄに固定した後、正面側から上側装飾ユニットＨ１４ａが本体枠Ｈ１４ｄに配設されて螺子により固定される。

【２１１４８】

この場合、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２が、右側装飾ユニットＨ１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と隣り合う位置に配設される。なお、ここで説明する隣り合う位置とは、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７とが当接している状態から組立公差や部品の寸法公差などにより若干の隙間を有した状態を含む位置である。

【２１１４９】

本実施形態においては、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとを、正面視における左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に分割する（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの上下両端の間の位置で分割）のではなく、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に分割する（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの左右両端の間の位置で分割する）ことで、右側装飾ユニットＨ１４ｃの上下方向における装飾領域を増やすことができる。

【２１１５０】

即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０の視認窓（開口部Ｈ４７３）を介して視認される領域を大きくすることができる。その結果、右側装飾ユニットＨ１４ｃによる発光態様をパチンコ機Ｈ１０の周囲にいる人に見せやすくできる。即ち、パチンコ機Ｈ１０を遊技していない人に右側装飾ユニットＨ１４ｃ（パチンコ機Ｈ１０）を注目させやすくできる。

【２１１５１】
　また、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７とが左右方向に隣り合って配置され、上下方向に分割される（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの左右両端の間の位置で分割する）ので、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される基板部材Ｈ４１２や、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設される基板部材Ｈ３４２に生じる熱を上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との隙間から逃がしやすくできる。その結果、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される基板部材Ｈ４１２や、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設される基板部材Ｈ３４２が熱により破損することを抑制できる。
【２１１５２】
　しかしながら、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとを、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合って配設するので、組立公差や部品の寸法公差などに起因して上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの境界に隙間が形成されたり、上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１４ｃに作用された外力に起因して上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの境界に隙間が形成される虞がある。隙間が形成されると、隙間から異物（例えば、不正行為を行うための針金等、ちりやほこり等、液体）が侵入して内部の機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼす虞がある。特に、液体（例えば、遊技中に飲用するもの）は、微小な隙間であっても侵入しやすく、また、電気的構成に悪影響を及ぼしやすい。
【２１１５３】
　なお、機械的構成に悪影響を及ぼす例としては、摺動する変位部材の間に異物が噛み込み変位部材の摺動が停止される場合や、光を透過する透過面が異物により汚れて光の発光態様が悪くなる場合や、異物が侵入することで異音が発生する場合や、異物によりセンサ等の検出態様が悪くなる（誤検出する）場合等が挙げられ、電気的構成に悪影響を及ぼす例としては、異物が基板部材に付着し基板部材がショートする場合や、異物が駆動モータ等の駆動源となる電気部品に付着しショートする場合や、異物が配線のコネクタ等に入り込むことで誤った信号が電気部品に送信される場合等が挙げられる。
【２１１５４】
　また、上側装飾ユニットＨ１４ａは、上面（上面板Ｈ３３２）が略平坦な面に形成されており、遊技者が物を置きやすい構造となっている。そのため、遊技者が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面に置いた物が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面に溜まりやすくなっている。よって、正面枠Ｈ１４の上側に上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの隙間から異物が入り込む可能性が高くなる。
【２１１５５】
　これに対し、第１１１実施形態における右側装飾ユニットＨ１４ｃには、図１８５７（ａ）及び図１８５７（ｂ）に示すように、立設部Ｈ４７７の下方側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２（先端部Ｈ４５２ｄ）が立設部Ｈ４７７よりも立設部Ｈ４７７の立設方向（即ち、上側装飾ユニットＨ１４ａ側）に張り出されて形成される。
【２１１５６】
　即ち、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の重力方向下方側（矢印Ｕ方向側）に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２（先端部Ｈ４５２ｄ）が配置される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界に隙間が形成され、その隙間から侵入する異物を屈曲部Ｈ４５２で受け止めることができる。従って、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界から入った異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２１１５７】
　また、屈曲部Ｈ４５２は、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の下方に先端部Ｈ４５２ｄが配設される共に、その先端部Ｈ４５２ｄに連なって境界（連結部）から離間する方向に延設される

基端部Ｈ４５２ｃを備える。これにより、境界（連結部）に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を先端部Ｈ４５２ｄで受け止めると共に、その受け止めた異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼしにくい位置（本実施形態では、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部）へ向けて基端部Ｈ４５２ｃにより案内できる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２１１５８】

なお、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃ（屈曲部Ｈ４５２）は、それぞれ屈曲部Ｈ４５２の基端側（本体板部Ｈ４５１側）に向かって上面が下降傾斜して形成される。また、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃと所定の間隔を隔てる位置で先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃの上方側を覆設する位置に外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７が配設される。

【２１１５９】

即ち、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃ（屈曲部Ｈ４５２）と、立設部Ｈ４７７との対向間に右側装飾ユニットＨ１４ｃの右側に向かって延設される通路空間Ｈ４００Ａ（図１８５７（ａ）及び（ｂ）参照）が形成される。先端部Ｈ４５２ｄで受け止めた異物は、通路空間Ｈ４００Ａを介して所定の方向に案内されるので、異物の通過方向が通路空間Ｈ４００Ａにより規定される。よって、異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼしにくい位置（本実施形態では、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部）へ向けて案内しやすくできる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２１１６０】

また、本実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の下方に位置する屈曲部Ｈ４５２が、光を透過する第１外レンズ部材Ｈ４５０の一部により形成されるので、上面板Ｈ３３２に対する立設部Ｈ４７７の配置がずれて境界（連結部）の隙間が大きくなった場合に境界（連結部）の隙間から光を漏れ出させることができる。この光により、パチンコ機Ｈ１０を設置するパチンコ店（ホール）の管理者（店員）にパチンコ機Ｈ１０に異常がある（上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との間に隙間が形成された）ことを認識させることができる。その結果、境界（連結部）の隙間が大きくなった状態のままパチンコ機Ｈ１０が放置される（遊技可能な状態のままにされる）ことを抑制できる。

【２１１６１】

なお、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入する液体を先端部Ｈ４５２ｄで受け止めた場合には、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａの発光に伴う熱により、その液体を蒸発させて上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）からパチンコ機Ｈ１０の外部へ排出することができる。これにより、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した液体により機械的構成や電気的構成（特に、液体による部品のショート）に悪影響が生じることを抑制できる。

【２１１６２】

さらに、右側装飾ユニットＨ１４ｃの屈曲部Ｈ４５２には、その先端に係合部Ｈ４５２ｂが形成されており、この係合部Ｈ４５２ｂが、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２に形成される被係合部Ｈ３３２ｇに係合する（第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に挿入される）ように形成される。よって、係合部Ｈ４５２ｂは、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとが本体枠Ｈ１４ｄに配設された際に、上面板Ｈ３３２の第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２の対向間に挿入され、上面板Ｈ３３２の被係合部Ｈ３３２ｇに係合される。

【２１１６３】

これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃを本体枠Ｈ１４ｄに配設した後で、上側装飾ユニットＨ１４ａに対して右側装飾ユニットＨ１４ｃの位置がずれることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制して、その境界（連結部）の隙間から異物が入りやすくなることを抑制できる。

【２１１６４】

被係合部Ｈ３３２ｇは、右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との連結部分となる上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端部に形成される。よって、上面板Ｈ３３２の左右方向の両端部から離れた位置に別部材で被係合部Ｈ３３２ｇが形成される場合に比べて、部品の製造公差や組立公差により被係合部の（係合部Ｈ４５２ｂと係合する）位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制して、その境界（連結部）の隙間から異物が入りやすくなることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２１１６５】

また、屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂを上側装飾ユニットＨ１４ａに係合させるので、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）に対して、屈曲部Ｈ４５２の位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から異物が入った場合に、その異物を屈曲部Ｈ４５２で確実に受け止めることができる。

【２１１６６】

なお、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２とは、上側装飾ユニットＨ１４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が開放されて（所定の隙間を隔てて）形成される。これにより、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間への係合部Ｈ４５２ｂの配設は、本体枠Ｈ１４ｄに上側装飾ユニットＨ１４ａを配設する際に、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄの正面側から背面側に向かって挿入することで、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に係合部Ｈ４５２ｂを挿入することができる。その結果、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に係合部Ｈ４５２ｂを挟み込んだ状態で、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄに配設することができる。

【２１１６７】

なお、図１８５７に示すように、屈曲部Ｈ４５２は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間を隔てて配設される（通路空間Ｈ４００Ａを備える）と共に、上面側が本体板部Ｈ４５１側（矢印Ｒ方向側）に向かって下方側（矢印Ｄ方向側）に傾斜して形成される。これにより、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物を屈曲部Ｈ４５２の上面を転動させて（滑り落として）本体板部Ｈ４５１側（矢印Ｒ方向側）に移動させることができる。よって、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させることができる。その結果、異物を上側装飾ユニットＨ１４ａの装飾と関係のない位置に流下させることができ、異物により上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２１１６８】

また、屈曲部Ｈ４５２には、本体板部Ｈ４５１からの屈曲先端部に形成される係合部Ｈ４５２ｂが屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端部に沿って屈曲先端部の全域に形成される。そのため、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物が屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端側（矢印Ｌ方向側）に転動した（滑り落ちた）としても、屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端部を超えて異物が下方に落下することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２１１６９】

また、本実施形態では、屈曲部Ｈ４５２に段差が形成され、その段差に貫通孔Ｈ４５２ａが形成される。上述したように、右側装飾ユニットＨ１４ｃの上部は、上側装飾ユニッ

トＨ１４ａのスピーカーＨ３１２ａの背面側を覆う状態で配設される。従って、貫通孔Ｈ４５２ａによりスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音を貫通孔Ｈ４５２ａを介して立設部Ｈ４７７と屈曲部Ｈ４５２との間の隙間に放音させることができ、この音により屈曲部Ｈ４５２を微振動させることができる。

【２１１７０】

このスピーカーＨ３１２ａの音による屈曲部Ｈ４５２の微振動により、屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすく（移動させやすく）できる。その結果、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させやすくできる。

【２１１７１】

また、本実施形態では、貫通孔Ｈ４５２ａを介して放音される音が、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音であるので、スピーカーＨ３１２ａの正面側から放音される音に比べて低音となりやすい。そのため、スピーカーＨ３１２ａの音により屈曲部Ｈ４５２を振動させやすくできる。その結果、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させやすくできる。

【２１１７２】

次いで、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と、第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１とについて説明する。図１８５７に示すように、本体板部Ｈ４７１には、開口部Ｈ４７３が形成され、その開口部Ｈ４７３の内側に所定の隙間を空けた状態で本体板部Ｈ４５１の膨出部Ｈ４５５が挿入される。従って、本体板部Ｈ４７１と本体板部Ｈ４５１との対向間（通路空間Ｈ４００Ａ）は、開口部Ｈ４７３（特に上端開口部Ｈ４７３ａ）を介して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側の空間に連通される。即ち、通路空間Ｈ４００Ａとパチンコ機Ｈ１０の外部とを連通可能な開口部Ｈ４７３を備える。

【２１１７３】

よって、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物が落下する場合には、開口部Ｈ４７３（特に上端開口部Ｈ４７３ａ）を介して異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に排出することができる。

【２１１７４】

即ち、本実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）と、右側装飾ユニットＨ１４ｃの開口部Ｈ４７３とを連通する通路（本体板部Ｈ４７１及び本体板部Ｈ４５１の隙間と、立設部Ｈ４７７及び屈曲部Ｈ４５２の隙間）を備える。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から異物が入った場合に、その異物が右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部を下端まで落下することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２１１７５】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２及び右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７の境界（連結部）と、右側装飾ユニットＨ１４ｃの開口部Ｈ４７３とを連通する通路空間Ｈ４００Ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃのＬＥＤＨ４１２ａの光を拡散する導光部材Ｈ４４０のとは別の部材（第１外レンズ部材Ｈ４５０及び外カバー部材Ｈ４７０）に形成される。従って、通路を異物や液体が流れる場合にＬＥＤＨ４１２ａから出射される光の拡散性が悪くなることを抑制できる。その結果、異物を流す通路を有する右側装飾ユニットＨ１４ｃの装飾が視認されにくくなることを抑制できる。

【２１１７６】

さらに、第１１１実施形態では、通路空間Ｈ４００Ａの下方側（流下方向側）において第１外レンズ部材Ｈ４５０に膨出部Ｈ４５５が形成され、その膨出部Ｈ４５５が開口部Ｈ４７３に挿入される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レ

ンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に落下する（通路空間Ｈ４００Ａを通過する）異物を膨出部Ｈ４５５に当接させると共に、膨出部Ｈ４５５の外面に沿って落下させることができる。その結果、開口部Ｈ４７３から異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。異物が右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に留まることを抑制できる。

【２１１７７】

即ち、外カバー部材Ｈ４７０に対する第１外レンズ部材Ｈ４５０の位置決めとして膨出部Ｈ４５５を利用できるだけでなく、通路空間Ｈ４００を通過する異物を受け止めてパチンコ機Ｈ１０の外側に排出する手段としても膨出部Ｈ４５５を利用（兼用）できる。

【２１１７８】

特に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の上方側に形成される上方側膨出部Ｈ４５５ａは、屈曲部Ｈ４５２の基端部Ｈ４５２ｃと連続する高さに形成されるので、通路空間Ｈ４００Ａ内を通過する異物を基端部Ｈ４５２ｃ上を通過させてそのまま上方側膨出部Ｈ４５５ａに案内することができる。その結果、上端開口部Ｈ４７３ａから異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。

【２１１７９】

なお、通路空間Ｈ４００Ａの基端部Ｈ４５２ｃは、上端開口部Ｈ４７３ａに向かって傾斜して形成される。これより、第１１１実施形態における上端開口部Ｈ４７３ａは、外カバー部材Ｈ４７０に対して前後方向における寸法が１／５以下に小さく設定されるが、通路空間Ｈ４００Ａ内を通過する異物を上端開口部Ｈ４７３ａを通して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。

【２１１８０】

これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して異物が排出される部分を一部に限定して、異物が排出されていることを遊技者に分かりにくくできる。また、異物が排出される領域を外カバー部材Ｈ４７０の背面側に偏る位置に設定できるので、遊技者に視認されにくい位置から異物を排出することができる。その結果、遊技者の興趣が定価することを抑制できる。

【２１１８１】

また、上端開口部Ｈ４７３ａの下方に位置する開口部Ｈ４７３は、少なくとも一部が上端開口部Ｈ４７３ａと上下方向に重なる位置に形成されており、上端開口部Ｈ４７３ａに案内されず落下する異物を他の開口部Ｈ４７３を通して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくされる。

【２１１８２】

なお、上記第１１１実施形態では、上端開口部Ｈ４７３ａの前後方向の大きさが外カバー部材Ｈ４７０に対して十分に小さく設定される場合について説明したが、上端開口部Ｈ４７３ａの前後方向における大きさを外カバー部材Ｈ４７０の前後方向における大きさと略同一に設定しても良い。この場合には、上端開口部Ｈ４７３ａからほとんどの異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に排出することができ、上端開口部Ｈ４７３ａの下方側に他の開口部Ｈ４７３を不要とできる。その結果、設計の自由度を向上できる。

【２１１８３】

また、外カバー部材Ｈ４７０の上部に形成される上端開口部Ｈ４７３ａ（図１８６４（ｂ）参照）に上端開口部Ｈ４７３ａの下方側縁部に連なって区画壁Ｈ４７８が突設され、上端開口部Ｈ４７３ａに挿入される上方側膨出部Ｈ４５５ａの周囲に、区画壁Ｈ４７８と対応する形状の開口Ｈ４５５ａ１が形成され、その開口Ｈ４５５ａ１に区画壁Ｈ４７８が挿通される。

【２１１８４】

即ち、通路空間Ｈ４００Ａと上端開口部Ｈ４７３ａとが連通される下方側端部に区画壁Ｈ４７８が形成され、その区画壁Ｈ４７８が開口Ｈ４５５ａ１に挿入されるので、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を組付ける際には、開口Ｈ４５５ａ１への区画壁Ｈ４７８の挿入により、外カバー部材Ｈ４７０と第１外レンズ部材Ｈ４５０とを位置

決めできる。これにより、外カバー部材Ｈ４７０への第１外レンズ部材Ｈ４５０への組付け作業を容易とできる。

【２１１８５】

また、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０が配設された状態では、区画壁Ｈ４７８が通路空間Ｈ４００の下方に位置するので、通路空間Ｈ４００を上流（上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部））側から通過する異物を区画壁Ｈ４７８で受け止めると共に、その受け止めた異物を上端開口部Ｈ４７３ａに向けて案内できる。

【２１１８６】

従って、外カバー部材Ｈ４７０に対する第１外レンズ部材Ｈ４５０の位置決めとして区画壁Ｈ４７８を利用できるだけでなく、通路空間Ｈ４００を通過する異物を受け止めてパチンコ機Ｈ１０の外側に排出する手段としても区画壁Ｈ４７８を利用（兼用）できる。

【２１１８７】

次いで、図１８５８から図１８７７を参照して、上下皿ユニットＨ１５について説明する。初めに、図１８５８から図１８６０を参照して、上下皿ユニットＨ１５の全体構成について説明する。図１８５８は、上下皿ユニットＨ１５の正面図であり、図１８５９は、上下皿ユニットＨ１５の分解正面斜視図であり、図１８６０は、上下皿ユニットＨ１５の分解背面斜視図である。

【２１１８８】

図１８５８から図１８６０に示すように、上下皿ユニットＨ１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２１１８９】

ベース部材Ｈ５１０は、上下皿ユニットＨ１５を本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するための部材であり、正面視において本体枠Ｈ１４ｄよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に大きく形成されると共に、下方側の縁部が本体枠Ｈ１４ｄよりも下方側に位置して配設される。

【２１１９０】

上皿形成部材Ｈ５２０は、遊技領域に打ち出される球を貯留する上皿Ｈ１７を上下皿ユニットの上部に形成するための部材であり、ベース部材Ｈ５１０の上方側の縁部に沿ってベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【２１１９１】

操作ユニットＨ１８０は、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設されると共に、遊技者に操作されるボタン部Ｈ１８１を上皿形成部材Ｈ５２０の上面よりも上方側に突出させた状態で配設される。

【２１１９２】

下皿形成部材Ｈ５３０は、上下皿ユニットＨ１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０を覆う位置に配設される。また、下皿形成部材Ｈ５３０は、下皿Ｈ５０の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＨ５５０と、その下皿構成ユニットＨ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＨ５６０とを備える。

【２１１９３】

本体枠Ｈ１４ｄへのベース部材Ｈ５１０の配設は、ベース部材Ｈ５１０に上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を配設し、上下皿ユニットＨ１５を組み立てた状態で取り付けられる。

【２１１９４】

次いで、図１８６１及び図１８６２を参照して、ベース部材Ｈ５１０について説明する

。図１８６１（ａ）は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面図であり、図１８６１（ｂ）は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の背面図であり、図１８６２（ａ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩａ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図であり、図１８６２（ｂ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩｂ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図であり、図１８６２（ｃ）は、図１８６１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＩｃ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図である。

【２１１９５】

図１８６１に示すように、ベース部材Ｈ５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【２１１９６】

また、ベース部材Ｈ５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第１１１実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【２１１９７】

上皿用球流入部Ｈ５１３は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１８３９参照）の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｈ１７に流入させるための開口であり、前扉側上皿通路部Ｈ１４１と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｈ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｈ１７に流入させることができる。

【２１１９８】

下皿用球流入部Ｈ５１４は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１８３９参照）の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｈ５０に流入させるための開口であり、前扉側下皿通路部Ｈ１４２と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｈ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｈ５０に流入させることができる。

【２１１９９】

送球用球流出部Ｈ５１６は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１８３９参照）を介して、上皿Ｈ１７に貯留される球を発射位置送球ユニットＨ１７０に送球するための開口であり、発射位置送球ユニットＨ１７０の正面側開口Ｈ１７１と連通する位置に形成される。

【２１２００】

また、送球用球流出部Ｈ５１６の下方には、送球用球流出部Ｈ５１６と同様にベース部材Ｈ５１０の前後方向に開口する排出用球流出部Ｈ５１８が形成される。排出用球流出部Ｈ５１８は、球排出レバーＨ５４の操作により開放される開口であり、通路形成ユニットＨ１４０のファール球受口部Ｈ１４６（図１８４０参照）に連通される。これにより、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作した際に、上皿Ｈ１７に貯留した球を排出用球流出部Ｈ５１８を介して下皿Ｈ５０に球を送球することができる。

【２１２０１】

締結孔Ｈ５１１は、ベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）とベース部材Ｈ５１０とを締結固定するための螺子を螺入するための孔であり、本体枠Ｈ１４ｄに形成される螺子挿通用の貫通孔と対応する位置に形

成される。
【２１２０２】
　また、一部の締結孔Ｈ５１１は、本体枠Ｈ１４ｄの下部背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される通路形成ユニットＨ１４０の背面側から本体枠Ｈ１４ｄを介して挿通される螺子を螺入可能に形成される。即ち、通路形成ユニットＨ１４０を上下皿ユニットＨ１５に締結可能に構成される。これにより、上下皿ユニットＨ１５に対する通路形成ユニットＨ１４０の位置ずれを抑え、上皿用球流入部Ｈ５１３に対する前扉側上皿通路部Ｈ１４１の連通状態と、下皿用球流入部Ｈ５１４に対する前扉側下皿通路部Ｈ１４２の連通状態とを安定させることができる。その結果、通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から上皿Ｈ１７への球の流入、及び、前扉側下皿通路部Ｈ１４２から下皿Ｈ５０への球の流入を安定させることができる。なお、ベース部材Ｈ５１０への通路形成ユニットＨ１４０の配設は、上下皿ユニットＨ１５が組み立てられた状態で行われる。
【２１２０３】
　挿通孔Ｈ５１２は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を締結するための螺子を挿通するための孔であり、上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１のそれぞれに形成されるねじ穴と対応する位置に形成される。これにより、ベース部材Ｈ５１０に上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を締結固定できる。
【２１２０４】
　次いで、上皿形成部材Ｈ５２０について説明する。上皿形成部材Ｈ５２０は、ベース部材Ｈ５１０との対向間に上皿Ｈ１７の貯留空間を形成する部材であり、ベース部材Ｈ５１０側（背面側（矢印Ｂ方向側））から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって上方に湾曲するお椀型に形成され（図１８５９参照）、背面側がベース部材Ｈ５１０に当接した状態でベース部材Ｈ５１０に配設される。これにより、上皿形成部材Ｈ５２０とベース部材Ｈ５１０とで上方側が開口された空間（上皿Ｈ１７の貯留領域）が形成される。
【２１２０５】
　また、上皿形成部材Ｈ５２０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の一部がベース部材Ｈ５１０の上皿用球流入部Ｈ５１３の正面側に重なる位置に形成されており、上皿用球流入部Ｈ５１３を介して通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１からベース部材Ｈ５１０の正面側に送球される球を上皿形成部材Ｈ５２０に当接させて上皿Ｈ１７の貯留空間に貯留できるように構成される。
【２１２０６】
　なお、上皿形成部材Ｈ５２０は、上皿Ｈ１７に貯留される遊技球を正面視において右側（矢印Ｒ方向側）に１球ずつ流下可能に構成されており、これにより、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０に１球ずつ球を送球することができる。
【２１２０７】
　また、上皿形成部材Ｈ５２０は、正面視における右側（矢印Ｒ方向側）の上面に機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を備え、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を操作可能とされる。
【２１２０８】
　なお、第１１１実施形態では、遊技者が操作する機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４が、上皿形成部材Ｈ５２０の１箇所にまとまって構成されるので、遊技者に各操作部を探す手間を省かせることができる。また、機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０がまとまって構成されるので、それら機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０に繋がる配線を一か所にまとめることができ、配線を作業を簡易にできる。

【２１２０９】
次いで、図１８６２を参照して、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５について説明する。凸状部Ｈ５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、被挿入部Ｈ５５５ｅにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。また、凸状部Ｈ５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。
【２１２１０】
図１８６２に示すように、凸状部Ｈ５１５は、正面視において横長矩形に形成されると共に、突出先端に向かうほど正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状に）形成され、上面側の上面側傾斜部Ｈ５１５ａと、下面側の下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を備える。凸状部Ｈ５１５は、それら上面側傾斜部Ｈ５１５ａと、下面側の下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとの傾斜により、凸状部Ｈ５１５を下皿形成部材Ｈ５３０に挿入しやすくなっている。
【２１２１１】
また、下面側傾斜部Ｈ５１５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ５１５ｂ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ５１５ｂ２が開口形成される。
【２１２１２】
被係合部Ｈ５１５ｂ２は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。
【２１２１３】
凹部Ｈ５１５ｂ１は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ５５５ｂを被係合部Ｈ５１５ｂ２まで案内する案内溝であり、突設部Ｈ５５５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚み寸法よりも溝幅が大きく形成される。なお、凹部Ｈ５１５ｂ１に突設部Ｈ５５５ｂを案内することで、被係合部Ｈ５１５ｂ２に対する係合部Ｈ５５５ｂ１の位置ずれを抑えることができ、係合部Ｈ５５５ｂ１の被係合部Ｈ５１５ｂ２への係合を簡易にさせることができる。
【２１２１４】
なお、係合部Ｈ５５５ｂ１が被係合部Ｈ５１５ｂ２の内部に挿入され、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２とが係合状態とされた場合には、被係合部Ｈ５１５ｂ２の正面側（矢印Ｆ方向側）の内面に係合部Ｈ５５５ｂ１が当接することで、下皿形成部材Ｈ５３０に対してベース部材Ｈ５１０が離れる方向（対向間を広げる方向）に変位することが規制される。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との間に無理に隙間を形成して、その隙間から不正な部材が挿入されたりする（即ち、不正がされる）ことを抑制できる。
【２１２１５】
次いで、図１８６３から図１８６５を参照して下皿形成部材Ｈ５３０について説明する。初めに図１８６３から図１８６５を参照して下皿形成部材Ｈ５３０の全体構成について説明する。図１８６３（ａ）は、下皿形成部材Ｈ５３０の正面図であり、図１８６３（ｂ）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面図であり、図１８６４は、下皿形成部材Ｈ５３０の分解正面斜視図であり、図１８６５は、下皿形成部材Ｈ５３０の分解背面斜視図である。
【２１２１６】
図１８６３から図１８６５に示すように、下皿形成部材Ｈ５３０は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０を構成する下皿構成ユニットＨ５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。
【２１２１７】

化粧ユニットＨ５４０は、ベース部材Ｈ５１０に締結固定される第１化粧板Ｈ５４１と、その第１化粧板Ｈ５４１に締結固定されると共に第１化粧板Ｈ５４１と共に上下皿ユニットＨ１５の化粧面を形成する第２化粧板Ｈ５４２と、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）の一部を覆って配設される上側保護板Ｈ５７０及び下側保護板Ｈ５８０と、を主に備える。

【２１２１８】

第１化粧板Ｈ５４１は、正面側（矢印Ｆ方向側）が凸状に湾曲する板状に形成され、上端の一部が上皿形成部材Ｈ５２０の正面側の外縁と当接する形状に形成されると共に、下端がベース部材Ｈ５１０の正面と当接する形状に形成される。また、第１化粧板Ｈ５４１は、正面側の化粧面の一部に開口する第１開口部Ｈ５４１ａと、第２開口部Ｈ５４１ｂとを備え、全体が有色（桃色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【２１２１９】

第１開口部Ｈ５４１ａは、下皿Ｈ５０の貯留領域に正面側（矢印Ｆ方向側）からのアクセスを可能にするための開口であり、遊技者の手が挿入可能な大きさに形成される。また、第１開口部Ｈ５４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）には、下皿Ｈ５０を構成するための下皿構成ユニットＨ５５０が配設される。

【２１２２０】

第２開口部Ｈ５４１ｂは、下皿Ｈ５０の貯留領域に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０を配設するための開口であり、下皿Ｈ５０の貯留用域の下方側に形成される。また、第２開口部Ｈ５４１ｂは、球抜きユニットＨ５６０を内側に収容可能な大きさに形成される。なお、球抜きユニットＨ５６０の詳細な構成については後述する。

【２１２２１】

第２化粧板Ｈ５４２は、上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との間に配設される操作ユニットＨ１８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、操作ユニットＨ１８０の正面側の化粧面を形成する部材であり、上端が操作ユニットＨ１８０及び上皿形成部材Ｈ５２０の一部と当接する形状に形成され、下方側が第１化粧板Ｈ５４１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される。

【２１２２２】

また、第２化粧板Ｈ５４２は、全体が光を透過可能な無色透明の樹脂材料から形成される。これにより、背面側（矢印Ｂ方向側）の操作ユニットＨ１８０から出射される光を第２化粧板Ｈ５４２を介して上下皿ユニットＨ１５の正面側（矢印Ｆ方向側）に出射することができる。

【２１２２３】

よって、例えば、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１を操作が必要な場合に第２化粧板Ｈ５４２の正面側（矢印Ｆ方向側）から光を出射することで、遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要であることを認識させやすくできる。また、操作ユニットＨ１８０の光による演出を遊技者に視認させることができるので、操作ユニットＨ１８０光による演出効果を向上させやすくできる。

【２１２２４】

なお、第１１１実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１を非透過性の材料から形成して、第２化粧板Ｈ５４２を透過性の材料から形成する場合について説明したが、第１化粧板Ｈ５４１及び第２化粧板Ｈ５４２の両方を透過性の材料から形成することも可能である。この場合、上下皿ユニットＨ１５の光の透過領域を増やすことができるので、光による演出態様を増やすことができる。その結果、遊技者に与える興趣を向上させやすくできる。

【２１２２５】

上側保護板Ｈ５７０および下側保護板Ｈ５８０は、第１化粧板Ｈ５４１を保護する部材であり、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に形成される。なお、上側保護板Ｈ５７０及び下側保護板Ｈ５８０の詳細については後述する。

【２１２２６】

下皿構成ユニットＨ５５０は、下皿Ｈ５０の底面を形成する底板Ｈ５５１と、下皿Ｈ５

０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２１２２７】

底板Ｈ５５１は、底面を形成する底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ５５５と、を主に備える。

【２１２２８】

底面部Ｈ５５３は、下皿Ｈ５０に貯留される遊技球を支持する支持面であり、その一部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する底面口Ｈ５５３ａが形成される。また、底面部Ｈ５５３は、上面が底面口Ｈ５５３ａに向かって下降傾斜する形状に形成されており、球抜きレバーＨ５２の操作により底面口Ｈ５５３ａが開放された際に、下皿Ｈ５０に貯留された球を底面口Ｈ５５３ａに向かって転動可能とされる。

【２１２２９】

正面側側壁Ｈ５５４は、下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の側面を形成する部分であり、第１化粧板Ｈ５４１の背面に沿って形成されると共に、第１開口部Ｈ５４１ａの開口縁に上端が沿う形状に形成される。また、正面側側壁Ｈ５５４は、底面部Ｈ５５３から上方に向かって少なくとも遊技球の２球分の直径よりも高く立設される。これにより、下皿Ｈ５０の貯留領域に貯留される遊技球を積み重ねて保持することが可能とされる。

【２１２３０】

連結部Ｈ５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。

【２１２３１】

被挿入部Ｈ５５５ｅは、背面視において下方側が開放された門型に形成されると共に、前後方向に所定の厚みを有した形状に形成される。また、被挿入部Ｈ５５５ｅは、ベース部材Ｈ５１０に下皿構成ユニットＨ５５０を配設した際に、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が挿入される部分であり、凸状部Ｈ５１５と対応する位置に配置される。なお、被挿入部Ｈ５５５ｅについての詳細な説明は後述する。

【２１２３２】

側面板Ｈ５５２は、下皿Ｈ５０の貯留領域の上部を覆う上板Ｈ５５６と、その上板Ｈ５５６の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁から下方に向かって延設される背面側側壁Ｈ５５７と、を主に備える。

【２１２３３】

上板Ｈ５５６は、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの上方側の開口縁に沿う湾曲形状に形成されると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁が第１化粧板Ｈ５４１の背面に当接される。

【２１２３４】

背面側側壁Ｈ５５７は、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面を形成する部材であり、上板Ｈ５５６の背面側の縁部から底面部Ｈ５５３を超える下方側まで延設され、底面部Ｈ５５３の背面側の縁部に背面側側壁Ｈ５５７の正面を当接した状態で配設される。

【２１２３５】

また、背面側側壁Ｈ５５７は、ベース部材Ｈ５１０の下皿用球流入部Ｈ５１４と対向する位置に前後方向に開口する球案内開口Ｈ５３を備える。これにより、通路形成ユニットＨ１４０の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿用球流入部Ｈ５１４及び球案内開口Ｈ５３を介して下皿Ｈ５０に流入させることができる。

【２１２３６】

なお、球案内開口Ｈ５３は、下方側の開口縁が正面側側壁Ｈ５５４の上端よりも低い位

置に形成される。これにより、下皿Ｈ５０の貯留領域に球が貯留された際に、球案内開口Ｈ５３から流入される球が貯留領域に積み重なる球の上部を転動して、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５１４ａから流出することを抑制できる。

【２１２３７】

球抜きユニットＨ５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ５６２と、そのスライド板Ｈ５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ５２と、スライド板Ｈ５６２及び球抜きレバーＨ５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、を主に備える。

【２１２３８】

収容部材Ｈ５６１は、第１化粧板Ｈ５４１の第２開口部Ｈ５４１ｂの内側に収容可能な大きさに形成され、第２開口部Ｈ５４１ｂの上方に配設される下皿構成ユニットＨ５５０の下方側に隣り合う状態で配設される。また、収容部材Ｈ５６１は、箱状に形成される内部に後述するスライド板Ｈ５６２の変位を案内する案内機構を備えており、その案内機構によりスライド板Ｈ５６２の変位方向が一方向に規定される。

【２１２３９】

スライド板Ｈ５６２は、底面部Ｈ５５３の底面口Ｈ５５３ａの開口よりも大きい板状に形成され、底面口Ｈ５５３ａの下側縁部を塞ぐ閉塞位置と、その閉塞位置から変位して底面口Ｈ５５３ａを開放する開放位置とに変位可能に形成される。スライド板Ｈ５６２が閉塞位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域に球を貯留可能な状態とされ、スライド板Ｈ５６２が開放位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域にある球を底面口Ｈ５５３ａから払い出す状態とされる。なお、収容部材Ｈ５６１には、スライド板Ｈ５６２を開放位置に配置した場合に、球を下方に挿通させるための排出口Ｈ５６１ａが底面口Ｈ５５３ａと対応する位置に形成される。

【２１２４０】

球抜きレバーＨ５２は、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に遊技者が操作するためのレバーであり、スライド板Ｈ５６２に連なって形成される。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、スライド板Ｈ５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位される。

【２１２４１】

次いで、図１８６６を参照して、下皿構成ユニットＨ５５０の被挿入部Ｈ５５５ｅについて説明する。図１８６６（ａ）は、連結部Ｈ５５５の上面図であり、図１８６６（ｂ）は、連結部Ｈ５５５の下面図であり、図１８６６（ｃ）は、図１８６６（ｂ）のＭＤＣＣＣＬＸＶＩｃ線における連結部Ｈ５５５の断面図である。

【２１２４２】

上述したように、連結部Ｈ５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備える。

【２１２４３】

図１８６６に示すように、被挿入部Ｈ５５５ｅは、上面にＴ状に開口する開口部Ｈ５５５ａと、その開口部Ｈ５５５ａの下方側に位置し本体部Ｈ５５５ｄから突設される突設部Ｈ５５５ｂと、被挿入部Ｈ５５５ｅの側面から被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に向かって立設される複数のガイド壁Ｈ５５５ｃと、を主に備える。

【２１２４４】

開口部Ｈ５５５ａは、被挿入部Ｈ５５５ｅを形成する際に後述する突設部Ｈ５５５ｂを形成するための金型を挿通するための開口であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面視における外形よりも若干大きい開口に形成される。

【２１２４５】

突設部Ｈ５５５ｂは、本体部Ｈ５５５ｄから背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突設されており、その突設先端部の上面に凸状に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ５５５ｂは、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に凸状部Ｈ５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１に案内される部分であり、凹部Ｈ５１５ｂ１により形成される溝と対応する位置に形成される。

【２１２４６】

係合部Ｈ５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ５１０の被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合する部分であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面から上方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際、又は、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５から被挿入部Ｈ５５５ｅから引き抜かれる際に、突設部Ｈ５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０を取り外す作業を簡易にできる。

【２１２４７】

ガイド壁Ｈ５５５ｃは、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に、凸状部Ｈ５１５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における位置を調整する部分であり、被挿入部Ｈ５５５ｅの左右の両側壁に前後方向に所定の間隔で複数個並設される。

【２１２４８】

また、ガイド壁Ｈ５５５ｃは、背面側（凸状部Ｈ５１５の挿入部側）に形成されるガイド壁Ｈ５５５ｃに対して、正面側（凸状部Ｈ５１５の挿入方向側）に形成されるガイド壁Ｈ５５５ｃの方が被挿入部Ｈ５５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央側に張り出される（図１８６６（ｂ）参照）。

【２１２４９】

これにより、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入し始めたタイミングでの凸状部Ｈ５１５とガイド壁Ｈ５５５ｃとの隙間を大きくして、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に挿入しやすくできると共に、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入し終えるタイミングでの凸状部Ｈ５１５とガイド壁Ｈ５５５ｃとの隙間を小さくして、凸状部Ｈ５１５に対する被挿入部Ｈ５５５ｅの配置を調整することができる。その結果、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付ける作業を簡易にできる。

【２１２５０】

次いで、図１８６７から図１８６９を参照して、ベース部材Ｈ５１０への下皿形成部材Ｈ５３０の配設方法について説明する。図１８６７は、上下皿ユニットＨ１５の分解斜視図であり、図１８６８（ａ）及び（ｂ）は、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０を取り外した状態における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１８５８のＭＤＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットＨ１５の断面と対応し、図１８６９（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１８６９（ｂ）は、図１８６９（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＩＸｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２１２５１】

なお、図１８６８（ａ）では、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０が完全に取り外された状態における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示され、図１８６８（ｂ）では、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付け途中における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示される。

【２１２５２】

図１８６７から図１８６９に示すように、ベース部材Ｈ５１０への下皿形成部材Ｈ５３０の配設は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０が配設された状態で行われる。なお、上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０は、ベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子が上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０のそれぞれに螺入されることでベー

ス部材Ｈ５１０の正面側に締結固定される。
【２１２５３】
上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０が配設された状態におけるベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から下皿形成部材Ｈ５３０が押し込まれると、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５の正面側端部が下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部と初めに重なり合い、凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に挿入される。
【２１２５４】
即ち、突設部Ｈ５５５ｂ及び係合部Ｈ５５５ｂ１は、被挿入部Ｈ５５５ｅの内側（被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部よりも正面側）に位置し、被挿入部Ｈ５５５ｅよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に突出されないので、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５の正面側端部が下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部に初めに当接（案内）可能とされる。これにより、連結部Ｈ５５５に対する凸状部Ｈ５１５の所定以上の位置ずれが抑えられる。
【２１２５５】
図１８６８（ｂ）に示すように、被挿入部Ｈ５５５ｅの内側への凸状部Ｈ５１５の挿入がさらに行われると、凸状部Ｈ５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１の溝内に連結部Ｈ５５５に形成される突設部Ｈ５５５ｂが挿入され、凹部Ｈ５１５ｂ１の案内溝に沿って突設部Ｈ５５５ｂが移動されることで、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の左右の配設位置が位置決めされる。
【２１２５６】
即ち、連結部Ｈ５５５は、凸状部Ｈ５１５を位置決めする位置決め手段（突設部Ｈ５５５ｂ）を備え、凸状部Ｈ５１５は、突設部Ｈ５５５ｂによって位置決めされる被位置決め手段（凹部Ｈ５１５ｂ１）を備えるので、ベース部材Ｈ５１０へ下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける作業において、凹部Ｈ５１５ｂ１と突設部Ｈ５５５ｂとによって、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを位置決めすることができる。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材の相対位置を位置合わせすることなく螺子止めすることができ、組付け作業を効率化できる。
【２１２５７】
図１８６９に示すように、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置されると、突設部Ｈ５５５ｂの突設先端側（背面側）に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１が、凹部Ｈ５１５ｂ１に形成される被係合部Ｈ５１５ｂ２の内部に挿入される。これにより、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置された後、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との相対変位が規制される。
【２１２５８】
これにより、ベース部材Ｈ５１０へ下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける作業において、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材を仮固定することができるので、両者の部材を抑えることなく螺子止めすることができ、組付け作業を効率化できる。
【２１２５９】
従って、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける際には、位置決めを可能とする凹部Ｈ５１５ｂ１及び突設部Ｈ５５５ｂにそれぞれ係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２が形成されるので、凹部Ｈ５１５ｂ１及び突設部Ｈ５５５ｂにより位置決めされた状態で、係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２が係合可能とされる。その結果、係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２の係合を容易に行うことができる。
【２１２６０】
なお、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置された場合には、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の左右（矢印Ｌ－Ｒ方

向）両側に被挿入部Ｈ５５５ｅのガイド壁Ｈ５５５ｃが当接され（図１８６９（ｂ）参照）、ガイド壁Ｈ５５５ｃに対して凸状部Ｈ５１５の左右方向への変位が規制される。

【２１２６１】

即ち、凹部Ｈ５１５ｂ１と突設部Ｈ５５５ｂとによるベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との左右方向の位置決めに加えて、ガイド壁Ｈ５５５ｃと凸状部Ｈ５１５ｂｂ１とにより左右方向の位置決めがされる。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材の相対位置を位置合わせを確実にできる。

【２１２６２】

一方、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の上面および下面は、被挿入部Ｈ５５５ｅの上方側の内壁および突設部Ｈ５５５ｂの上面側傾斜部Ｈ５１５ａとの間に所定の隙間を空けて配設される（図１８６９（ａ）参照）。即ち、凸状部Ｈ５１５に対して被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）が上下方向に変位可能な状態で配設される。

【２１２６３】

また、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０が配設された（被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合部Ｈ５５５ｂ１が係合された）後では、ベース部材Ｈ５１０の挿通孔Ｈ５１２を介してベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を下皿形成部材Ｈ５３０（第１化粧板Ｈ５４１）の背面側に螺入することで下皿形成部材Ｈ５３０がベース部材Ｈ５１０に締結固定される。この場合、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを締結する螺子は、凸状部Ｈ５１５及び被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）を避けた位置に締結される。これにより、凸状部Ｈ５１５に対して被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）が上下方向に変位可能な状態でベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とが締結固定される。即ち、被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側に片持ち支持された状態とされると共に、凸状部Ｈ５１５は、ベース部材Ｈ５１０に片持ち支持された状態される。

【２１２６４】

また、被挿入部Ｈ５５５ｅを有する連結部Ｈ５５５には、操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。よって、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【２１２６５】

また、上述したように、被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された状態とされる。そのため、操作ユニットＨ１８０（ボタン部Ｈ１８１）を過剰に押圧する力が連結部Ｈ５５５に作用する場合には、連結部Ｈ５５５の非支持側（矢印Ｆ方向側）を操作ユニットＨ１８０の操作方向（下方）に変位させることで操作ユニットＨ１８０に作用する力を連結部Ｈ５５５で逃がすことができる。

【２１２６６】

詳しく説明すると、両側で支持される支持部材に操作ユニットＨ１８０が支持されたり、支持部材に操作ユニットＨ１８０が締結固定されるものであると、操作ユニットＨ１８０が過剰に押圧操作される場合にその押圧力を逃がすことができず、操作ユニットＨ１８０を支持する支持部材や操作ユニットＨ１８０に破損が生じやすいという問題がある。

【２１２６７】

これに対し、第１１１実施形態では、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された連結部Ｈ５５５に操作ユニットＨ１８０が支持されるので、操作ユニットＨ１８０を過剰に押圧する力が連結部Ｈ５５５に作用した場合に連結部Ｈ５５５を弾性変形させることができる。この場合、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５とが被締結とされるので、連結部Ｈ５５５の弾性変形に伴って操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５との当接位置（当接状態）を変更することができる。即ち、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０に作用する力が連結部Ｈ５５５に作用する場合に、連結部Ｈ５５５が破損し

たり操作ユニットＨ１８０が破損することを抑制できる。
【２１２６８】
即ち、第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０を配設するための配設スペースを前後に隔てて配置される下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０と、下皿形成部材Ｈ５３０から突出され、下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０の対向間に位置する連結部Ｈ５５５と、下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０の対向間に配置されると共にベース部材Ｈ５１０に配設される操作ユニットＨ１８０とを備え、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）が連結部Ｈ５５５に当接可能とされるので、操作ユニットに操作に伴い作用される操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内である場合には、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。
【２１２６９】
一方、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合には、連結部Ｈ５５５を弾性変形させて外力を逃がすことができる（操作力をベース部材Ｈ５１０と連結部Ｈ５５５とに分散させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０、下皿形成部材Ｈ５３０、及び、ベース部材Ｈ５１０の破損を抑制できる。
【２１２７０】
また、この場合、弾性変形される連結部Ｈ５５５が、上下皿ユニットＨ１５の正面側に配置される（即ち、装飾側となる）下皿形成部材Ｈ５３０に形成されるので、連結部Ｈ５５５を弾性変形させて外力を逃がした場合に、下皿形成部材Ｈ５３０の装飾面が撓むことを抑制できる。即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合に、その操作力をベース部材Ｈ５１０と連結部Ｈ５５５とに分散させると、連結部Ｈ５５５の弾性変形に伴って、操作ユニットＨ１８０が配設されるベース部材Ｈ５１０も弾性変形されやすい。そのため、ベース部材Ｈ５１０が装飾面とされると、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って装飾面の外観が悪化する（装飾面が撓んで部品同士の間に隙間が形成される）恐れがあるところ、連結部Ｈ５５５が形成される下皿形成部材Ｈ５３０が装飾面とされることで、遊技機の外観が悪化することを抑制できる。
【２１２７１】
さらに、第１１１実施形態では、被挿入部Ｈ５５５ｅを有する連結部Ｈ５５５には、本体部Ｈ５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８を介して本体部Ｈ５５５ｄの上面に当接した状態で配設される。
【２１２７２】
従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５を弾性変形させた場合に、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５との間に介在する弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させることで、操作ユニットＨ１８０の下面と、連結部Ｈ５５５の上面とが擦れることを抑制できる。即ち、弾性部材Ｈ５５８を操作ユニットＨ１８０の下面および連結部Ｈ５５５の上面に当接させた状態で、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０の下面と連結部Ｈ５５５の上面とが擦れて異音が発生したり、それらの当接面が破損（摩耗）したりすることを抑制できる。
【２１２７３】
なお、第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０が上方側から下方側に向かって操作され、その操作方向側に連結部Ｈ５５５が配置されるが、操作ユニットＨ１８０の操作方向は前後左右のどちらでもよく、その方向側に連結部Ｈ５５５が操作ユニットＨ１８０に当接した状態で配設される構造であればよい。
【２１２７４】
また、第１１１実施形態では、遊技者に操作される操作ユニットＨ１８０の下端が連結

部Ｈ５５５に当接した状態で配設されるが、操作ユニットＨ１８０の操作により変位する変位部材（例えば、花弁動作装置Ｇ８００のベースユニット６００）を連結部Ｈ５５５に当接した状態で配設しても良い。

【２１２７５】

この場合には、花弁動作装置Ｇ８００が変位基端でベースユニットＧ６００に当接した際に、ベースユニットＧ６００に作用する力を連結部Ｈ５５５を弾性変形させることで逃がすことができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００及びベースユニットＧ６００が破損することを抑制できる。

【２１２７６】

次いで、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合について説明する。

【２１２７７】

上記したように、連結部Ｈ５５５の被挿入部Ｈ５５５ｅには、ベース部材Ｈ５１０から突設される凸状部Ｈ５１５が内側に挿入されると共に、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の上面側傾斜部Ｈ５１５ａが、被挿入部Ｈ５５５ｅの上方側の内壁との間に所定の隙間を空けて配設される。従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、連結部Ｈ５５５の上方側の内壁を凸状部Ｈ５１５の上面に当接させて、連結部Ｈ５５５の弾性変形を抑制することができる。これにより、連結部Ｈ５５５の破損を抑制できる。

【２１２７８】

また、連結部Ｈ５５５（被挿入部Ｈ５５５ｅ）と凸状部Ｈ５１５とは、非固定とされるので、連結部Ｈ５５５が拘束されず、連結部Ｈ５５５が凸状部Ｈ５１５に対して摺動できる。よって、連結部Ｈ５５５及び凸状部Ｈ５１５の弾性変形性を確保できる。これにより、連結部Ｈ５５５が凸状部Ｈ５１５に当接した際に、連結部Ｈ５５５と凸状部Ｈ５１５との間で作用する反力が急激に増加することを抑制でき、連結部Ｈ５５５及び凸状部Ｈ５１５の破損を抑制できる。

【２１２７９】

なお、第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０は、凸状部Ｈ５１５に係合する係合部Ｈ５５５ｂ１に当接されず、係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される本体部Ｈ５５５ｄの上面に当接されるので、操作ユニットＨ１８０を操作した力が係合部Ｈ５５５ｂ１（突設部Ｈ５５５ｂ）に直接作用することを抑制できる。そのため、突設部Ｈ５５５ｂのみが撓んで、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２との係合が解除されることを抑制できる。

【２１２８０】

また、係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される連結部Ｈ５５５には、本体部Ｈ５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した（弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させた）状態で配設されるので、弾性部材Ｈ５５８により、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際の所定の範囲（連結部Ｈ５５５が弾性変形されない程度）の押圧力を吸収できる。

【２１２８１】

さらに、弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させた状態で操作ユニットＨ１８０を配設するので、操作ユニットＨ１８０や下皿形成部材Ｈ５３０の配置に誤差がある場合でも、弾性部材Ｈ５５８と操作ユニットＨ１８０との当接状態を維持することができる。よって、操作ユニットＨ１８０と弾性部材Ｈ５５８との間に隙間が形成されることを抑制でき、操作ユニットＨ１８０の操作した力により操作ユニットＨ１８０が下方に移動して操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８に当接することを抑制できる。その結果、操作ユニットＨ１８０を操作した際に衝撃が発生することを抑制できる。

【２１２８２】

次いで、図１８７０からＬ１５を参照して、第１化粧板Ｈ５４１に配設される下側保護板Ｈ５８０について説明する。図１８７０（ａ）は、上下皿ユニットＨ１５の下面図であ

り、図１８７０（ｂ）は、下側保護板Ｈ５８０の正面図であり、図１８７１（ａ）は、下側保護板Ｈ５８０の正面斜視図であり、図１８７１（ｂ）は、下側保護板Ｈ５８０の背面斜視図であり、図１８７２（ａ）は、図１８７０（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＩＩａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１８７２（ｂ）は、図１８７０（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＩＩｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２１２８３】

図１８７０から図１８７２に示すように、下側保護板Ｈ５８０は、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う正面側保護部Ｈ５８１と、その正面側保護部Ｈ５８１の下側縁部から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲される底面側保護部Ｈ５８２と、その底面側保護部Ｈ５８２の下面から下方側に向かって突出される突出部Ｈ５８３と、正面側保護部Ｈ５８１の左右方向一方側（第１１１実施形態では正面視左側（矢印Ｌ方向側））の上端部から背面側に向かって突出して形成される係合部Ｈ５８５と、正面側保護部Ｈ５８１の左右方向他方側（第１１１実施形態では正面視右側（矢印Ｒ方向側）の背面から背面側に向かって突出して形成される締結部Ｈ５８４と、を主に備え、光透過性の半透明な樹脂材料から形成される。

【２１２８４】

正面側保護部Ｈ５８１は、第１化粧板Ｈ５４１の下部前面を覆う位置に形成されると共に、第１化粧板Ｈ５４１の前面に沿う形状に形成される。また、底面側保護部Ｈ５８２は、第１化粧板Ｈ５４１の下面を覆う位置に形成され、第１化粧板Ｈ５４１の底面に沿う形状に形成される。これら正面側保護部Ｈ５８１及び底面側保護部Ｈ５８２により、第１化粧板Ｈ５４１の下部に直接、遊技者の手や物が当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１の下部が破損することを抑制できる。

【２１２８５】

ここで、パチンコ機Ｈ１０は、上述したように下皿Ｈ５０の前方に遊技者が操作する球抜きレバーＨ５２が配置されており、球抜きレバーＨ５２を操作する遊技者の手が第１化粧板Ｈ５４１の下部に当接しやすく、また、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から払い出された球を貯留する千両箱が配置され千両箱を交換する際に、その千両箱や遊技者の手が第１化粧板Ｈ５４１の下部に当接しやすくなっている。そのため、第１化粧板Ｈ５４１の下部は、他の装飾面を形成する部分（上側装飾ユニットＨ１５ａ、左側装飾ユニットＨ１５ｂ、又は、右側装飾ユニットＨ１５ｃ）に比べて破損しやすいという問題がある。

【２１２８６】

これに対し、第１１１実施形態では、正面側保護部Ｈ５８１と底面側保護部Ｈ５８２とにより第１化粧板Ｈ５４１の下部を覆うことができるので、第１化粧板Ｈ５４１の下部が破損することを抑制できる。

【２１２８７】

また、仮に、遊技者の手や物が当接することにより下側保護板Ｈ５８０が破損する場合には、第１化粧板Ｈ５４１に配置される下側保護板Ｈ５８０を交換するだけでよいので、第１化粧板Ｈ５４１を交換する場合に比べて、第１化粧板Ｈ５４１に配置される他の部材（例えば、球抜きユニットＨ５６０など）を第１化粧板Ｈ５４１から取り外す必要がなくなる。その結果、破損時の部品交換作業を簡易に行うことができる。

【２１２８８】

さらに、正面側保護部Ｈ５８１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に対して所定の隙間を少なくとも一部に有した状態で配設される（図１８７２参照）。従って、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって比較的大きな力が作用される場合には、第１化粧板Ｈ５４１との隙間の分、正面側保護部Ｈ５８１を撓ませることができる。よって、パチンコ機Ｈ１０の正面側から作用する力が第１化粧板Ｈ５４１の下部に直接作用することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１の破損を抑制できる。

【２１２８９】

なお、第１１１実施形態では、正面側保護部Ｈ５８１の背面側に所定の隙間を有した状態で第１化粧板Ｈ５４１が配設される場合について説明したが、正面側保護部Ｈ５８１の

背面側に所定の隙間を有した状態でＬＥＤを配置するものであってもよい。
【２１２９０】
底面側保護部Ｈ５８２は、第１化粧板Ｈ５４１の下面に上面の全域が当接した状態で配設される（図１８７２参照）。また、底面側保護部Ｈ５８２には、背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に貫通形成される被係合部Ｈ５８２ａが２箇所に形成される。
【２１２９１】
被係合部Ｈ５８２ａは、第１化粧板Ｈ５４１の下面から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｃと係合する部分であり、係合部Ｈ５４１ｃをその内部に収容可能な大きさに開口される。なお、係合部Ｈ５４１ｃへの被係合部Ｈ５８２ａの係合方法については後述する。
【２１２９２】
突出部Ｈ５８３は、下皿Ｈ５０に貯留された球を排出口Ｈ５６１ａから千両箱に排出する際に球が飛び散ることを防止する部分であり、下皿Ｈ５０の排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（矢印Ｆ方向側）に形成されると共に、下皿Ｈ５０の排出口Ｈ５６１ａよりもパチンコ機Ｈ１０の右側（矢印Ｒ方向側）に偏る位置に形成される。
【２１２９３】
ここで、下皿Ｈ５０には、その貯留領域に球を流入させる球案内開口Ｈ５３が貯留領域に対して正面視左側（矢印Ｌ方向側）に偏る位置に形成されると共に、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａが、下皿Ｈ５０の貯留領域において中央よりも正面側（矢印Ｆ方向側）であって正面視右側（矢印Ｒ方向側）に偏る位置に形成される。これにより、下皿Ｈ５０の貯留用域から排出される球に前方および右方に向かう方向成分を持たせて、千両箱の全体に散らばって排出させることができる。
【２１２９４】
しかしながら、千両箱にまだ球が貯留されていない場合など、千両箱に落下球が落下した際の衝撃が大きいと、千両箱に落下して跳ね上がる球が千両箱の上端を超える位置まで跳ね上がる場合がある。この場合、前方に向かう方向成分が球に付与されていると、その球が千両箱の正面側（矢印Ｆ方向側）から飛び出て遊技者側に落下し、遊技者がその球に注目することで遊技者に遊技を継続させることが困難となる恐れがある。
【２１２９５】
これに対し、第１１１実施形態では、正面視において突出部Ｈ５８３が排出口Ｈ５６１ａを挟んで球案内開口Ｈ５３と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）反対側（千両箱の正面右側の上部）に形成されるので、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がる場合に、その球を突出部Ｈ５８３に当接させることができる。その結果、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の上部から遊技者側に飛び出ることを抑制して、遊技者に遊技を継続させやすくできる。
【２１２９６】
また、突出部Ｈ５８３は、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（即ち、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）の底面の正面側に偏る位置）に形成されるので、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がって正面から飛び出ようとする場合に、その球を突出部Ｈ５８３に当接させやすくできる。その結果、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の上部から遊技者側に飛び出ることを抑制して、遊技者に遊技を継続させやすくできる。
【２１２９７】
さらに、突出部Ｈ５８３は、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されると共に、正面視における排出口Ｈ５６１ａ側に近い左側（矢印Ｌ方向側）から排出口Ｈ５６１ａから離れる右側（矢印Ｒ方向側）に向かって背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して延設される。これにより、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がる場合に、千両箱の右方から飛び出ることを抑制することができ、遊技者に遊技を継続させやすくできる。

【２１２９８】
なお、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成され、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（即ち、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）の底面の正面側に偏る位置）に形成される。これにより、下皿Ｈ５０から排出された球が突出部Ｈ５８３に当接する場合に、その当接により跳ね返る方向を分散させる（ばらけさせる）ことができる。その結果、球を千両箱の全体に散らばって排出させやすくできる（即ち、一か所に集中して払い出されることを抑制できる）。
【２１２９９】
係合部Ｈ５８５及び締結部Ｈ５８４は、下側保護板Ｈ５８０を第１化粧板Ｈ５４１配設する際に、下側保護板Ｈ５８０の上部が第１化粧板Ｈ５４１から脱落することを抑制する部分であり、正面側保護部Ｈ５８１の上部に形成される。
【２１３００】
係合部Ｈ５８５は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出されると共にその突出先端が上方に向かって屈曲するＬ字状に形成されており、第１化粧板Ｈ５４１に下側保護板Ｈ５８０が配設された際に、第１化粧板Ｈ５４１と下皿構成ユニットＨ５５０の正面側側壁Ｈ５５４との間に形成される隙間に配置可能に構成される。これにより、係合部Ｈ５８５が形成される下側保護板Ｈ５８０の左側上部が前後方向に動くことを抑制できるようになっている。
【２１３０１】
なお、係合部Ｈ５８５の形状は、第１化粧板Ｈ５４１又は下皿構成ユニットＨ５５０に係合するものであればなんでもよく、例えば下方に向かって屈曲するＬ字状に形成されてもよい。
【２１３０２】
締結部Ｈ５８４は、第１化粧板Ｈ５４１の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通した螺子が螺入される部分であり、これにより、係合部Ｈ５８５及び被係合部Ｈ５８２ａにより第１化粧板Ｈ５４１に係合させた下側保護板Ｈ５８０を第１化粧板Ｈ５４１に締結固定できる。
【２１３０３】
なお、第１化粧板Ｈ５４１への下側保護板Ｈ５８０の配設方法は、下側保護板Ｈ５８０の上部に形成される係合部Ｈ５８５を第１化粧板Ｈ５４１及び下皿構成ユニットＨ５５０の隙間に挿入した後で、下側保護板Ｈ５８０の下部に形成される被係合部Ｈ５８２ａを第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに係合させることで配設できる。
【２１３０４】
この場合、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃは、下側保護板Ｈ５８０の配設方向と対向する側（正面側（矢印Ｆ方向側））の側面の一部が突出基端側に向かって正面側に傾斜して形成される。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに下側保護板Ｈ５８０の被係合部Ｈ５８２ａを係合させる際に、下側保護板Ｈ５８０の底面側保護部Ｈ５８２を係合部Ｈ５４１ｃの傾斜面に沿って変形させて係合部Ｈ５４１ｃを乗り越えさせることができる。その結果、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに下側保護板Ｈ５８０の被係合部Ｈ５８２ａを係合させやすくできる。
【２１３０５】
次いで、図１８７３を参照して、正面枠Ｈ１４を床に立てて仮置きする場合について説明する。図１８７３（ａ）及び（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の側面図である。なお、図１８７３（ａ）及び（ｂ）では、正面枠Ｈ１４の下部が拡大して図示されると共に、床面が２点鎖線で図示される。また、図１８７３（ａ）では、正面枠Ｈ１４のベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１の下面が床面に当接した状態で配置された状態が図示され、図１８７３（ｂ）では、図１８７３（ａ）に示す状態から正面枠Ｈ１４が前方に傾倒された状態が図示される。
【２１３０６】

なお、正面枠Ｈ１４を床に立てて仮置きする場合とは、パチンコ機Ｈ１０の製造時における工場の製造ラインでの一時的な仮置きや、パチンコ店（ホール）での設置作業や点検作業において正面枠Ｈ１４を一時的にパチンコ機Ｈ１０から取り外して仮置きする場合である。

【２１３０７】

この仮置き時において、ベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１の下面が平坦面として構成されると、床面に凹凸があると、その凹凸を受けて正面枠Ｈ１４の姿勢が安定せず、正面枠Ｈ１４が倒れやすいという問題がある。

【２１３０８】

なお、正面枠Ｈ１４の正面側（矢印Ｆ方向側）の面または背面側（矢印Ｂ方向側）の面を床面に載置することは、正面枠Ｈ１４の正面側の装飾面や正面枠Ｈ１４の背面側に配設されるガラスユニットＨ１６に傷が生じる可能性や、正面枠Ｈ１４の背面側から連結される配線が挟み込まれて断線する可能性があるため、行うことができない上、載置するためのスペースが嵩む。そのため、工場での製造工程やパチンコ店での設置作業や点検作業においては、載置するためのスペースを最小とするために、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（上面側または下面側）の面が床面に載置される。

【２１３０９】

これに対し、第１１１実施形態における正面枠Ｈ１４では、図１８７３（ａ）に示すように、ベース部材Ｈ５１０がその正面側に配設される下皿形成部材Ｈ５３０よりも下方側に突出する位置に配設され（即ち、下皿形成部材Ｈ５３０がベース部材Ｈ５１０の下端よりも上方側に配設されると共に、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が下皿形成部材Ｈ５３０の前後方向における幅よりも小さくされる。

【２１３１０】

これにより、図１８７３（ａ）に示すように、ベース部材Ｈ５１０の下面が床面に当接する状態で正面枠Ｈ１４が仮置きされる場合には、下皿形成部材Ｈ５３０の荷重により正面枠Ｈ１４を前方側に傾けて、図１８７３（ｂ）に示すように、下皿形成部材Ｈ５３０に配設される下側保護板Ｈ５８０の突出部Ｈ５８３を床面に当接させることができる。

【２１３１１】

即ち、第１１１実施形態における正面枠Ｈ１４は、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（下面側）の面から突出される突出部Ｈ５８３を備え、その突出部Ｈ５８３がベース部材Ｈ５１０から正面側に離れた位置（正面枠Ｈ１４の下面における前後方向の前方側に偏る位置）に形成されるので、ベース部材Ｈ５１０の下端と突出部Ｈ５８３の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させることができる。これにより、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（下面側）の面が平坦面に形成される場合に比べて、床面の凹凸の影響を受けにくくすることができ、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させることができる。その結果、正面枠Ｈ１４を倒れにくくできる。

【２１３１２】

また、突出部Ｈ５８３は、ベース部材Ｈ５１０の下端と突出部Ｈ５８３の突出先端とが床面に当接される前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、正面枠Ｈ１４の下面の前後方向における中央よりも（正面枠Ｈ１４の重心よりも）正面側（矢印Ｆ方向側）に偏る位置に形成される。

【２１３１３】

これにより、正面枠Ｈ１４は、ベース部材Ｈ５１０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が下皿形成部材Ｈ５３０の前後方向における幅よりも小さくされるので、重心位置が正面側に偏りやすいところ、その重心よりも正面側に突出部Ｈ５８３が形成されるので、正面枠Ｈ１４の自立時における重心の偏りを抑制できる。即ち、当接位置の前後方向外側に正面枠Ｈ１４の重心位置が位置して正面枠Ｈ１４の自立時に正面枠Ｈ１４が正面側に倒れやすくなることを抑制できる。

【２１３１４】

なお、突出部Ｈ５８３は、ベース部材Ｈ５１０の下端よりも突出先端が上方（矢印Ｕ方

向）に位置するように構成される。従って、突出部Ｈ５８３を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に、正面枠Ｈ１４を正面側（矢印Ｆ方向側）に傾けた状態で保持することができる。よって、突出部Ｈ５８３が床面に支持される点と、ベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１が床面に支持される点との間に正面枠Ｈ１４の重心を配置しやすくでき、正面枠Ｈ１４を床面に立てて仮置きした場合に立てた状態での保持を安定させることができる。

【２１３１５】

また、突出部Ｈ５８３は、第１化粧板Ｈ５４１の下部に配設される球抜きユニットＨ５６０よりも突出先端が下方に位置するように構成される。これにより、突出部Ｈ５８３を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に、球抜きユニットＨ５６０が床面に当接することを抑制できる。従って、球抜きユニットＨ５６０に力が作用することを抑制して、球抜きユニットＨ５６０のスライド機構（スライド板Ｈ５６２のスライド変位）が破損することを抑制できる。

【２１３１６】

さらに、突出部Ｈ５８３は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の幅がベース部材Ｈ５１０及び下皿形成部材Ｈ５３０の左右方向の幅よりも小さく設定される。これにより、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に突出部Ｈ５８３の突出先端と床面との当接面積を小さくすることができる。よって、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に床面の凹凸の影響を受けにくくできる。その結果、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させ、正面枠Ｈ１４を倒れにくくすることができる。

【２１３１７】

なお、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成されるので、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に湾曲壁Ｈ５８３ａの一部が床面に当接される。これにより、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に突出部Ｈ５８３の突出先端と床面との当接面積を小さくすることができる。よって、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に床面の凹凸の影響を受けにくくできる。その結果、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させ、正面枠Ｈ１４を倒れにくくすることができる。

【２１３１８】

次いで、床面に仮置きした正面枠Ｈ１４持ち上げる場合について説明する。正面枠Ｈ１４を持ち上げる際には、次工程で正面枠Ｈ１４をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に取り付けることが多い。そのため、正面枠Ｈ１４を持ち上げる作業者は、正面枠Ｈ１４の正面側から正面枠Ｈ１４の下面に手を差し込んで正面枠Ｈ１４を持ち上げる。

【２１３１９】

この場合、図１８７３（ｂ）に示すように、突出部Ｈ５８３は、正面枠Ｈ１４の下面の正面側（矢印Ｆ方向側）端部よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるので、正面枠Ｈ１４の正面側の下面と床面との間に所定の隙間を形成できる。これにより、作業者は、正面枠Ｈ１４の正面側の下面と床面との間に指を差し入れて、突出部Ｈ５８３よりも正面側の部分に指を掛けることができる。その結果、作業者が正面枠Ｈ１４を持ち上げやすくできる。

【２１３２０】

また、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側（矢印Ｆ方向側）端部よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されることで、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側端部に形成される場合に比べて、自立状態における正面枠Ｈ１４の傾きを変更することなく、突出部Ｈ５８３の下方への突出距離を短くすることができる。従って、突出部Ｈ５８３を使用しない場合（例えば、遊技中）に突出部Ｈ５８３が邪魔になることを抑制できる。

【２１３２１】

さらに、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側端部に形成される場合に比べて背面側に突出部Ｈ５８３が形成されるので、遊技者から突出部Ｈ５８３が視認されること

を抑制できる。その結果、突出部Ｈ５８３が遊技者の興味を無駄に引き付けることを抑制して、遊技者を遊技に集中させることができる。

【２１３２２】

次いで、図１８７４を参照して、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に配設された正面枠Ｈ１４を外枠Ｈ１１に対して回転させる場合について説明する。図１８７４（ａ）は、正面枠Ｈ１４の下面図であり、図１８７４（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の側面図である。なお、図１８７４（ａ）及び（ｂ）では、作業者の手が２点鎖線で図示されると共に、正面枠Ｈ１４以外（例えば外枠Ｈ１１）の図示が省略される。

【２１３２３】

正面枠Ｈ１４は、上述したように正面視において外枠Ｈ１１（図１８３５参照）の正面視左側上下の２箇所に取り付けられたヒンジＨ１８を軸に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。また、上下皿ユニットＨ１５に形成される突出部Ｈ５８３は、正面枠Ｈ１４の正面視において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央よりも右側に偏る位置に形成されると共に、正面枠Ｈ１４の回転軸から径方向外側に向かって延設される（一端側が回転軸に近い側に形成され、他端側が回転軸から離れる位置に形成される）。

【２１３２４】

よって、図１８７４（ａ）及び（ｂ）に示すように、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合には、突出部Ｈ５８３に作業者の手を把持させやすくできる。従って、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を作業者が開放しやすくできる。

【２１３２５】

また、突出部Ｈ５８３は、複数の湾曲壁Ｈ５８３ａを連結した形状とされるので、１の湾曲壁Ｈ５８３ａの湾曲部分（凹部分）に遊技者の指を引っ掛けさせることができる。従って、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に滑ることを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２１３２６】

さらに、複数の湾曲壁Ｈ５８３ａには、その前後の側面に底面側保護部Ｈ５８２の下面と連結されるリブＨ５８３ｂが形成される。これにより、突出部Ｈ５８３の強度を確保して、突出部Ｈ５８３の破損を抑制できる。また、作業者が突出部Ｈ５８３に指を引っ掛けた場合に、突出部Ｈ５８３が底面側保護部Ｈ５８２に対して変形する（倒れる）ことを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に引っ掛かりにくくなることを抑制できる。

【２１３２７】

また、突出部Ｈ５８３は、正面側保護部Ｈ５８１よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に形成されるので、突出部Ｈ５８３に指を引っ掛ける作業者の指を上下皿ユニットＨ１５の背面側に入れさせやすくできる。よって、作業者の指を上下皿ユニットＨ１５の下部に配置する面積を増やすことができ、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に正面枠Ｈ１４を持ち上げる方向の力を作用させやすくできる。これにより、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合には、正面枠Ｈ１４の正面視右側を持ち上げつつ正面枠Ｈ１４を開放することができる。その結果、外枠Ｈ１１の回転軸から離間する正面枠Ｈ１４の右側がその自重により傾いて下面が外枠Ｈ１１に当接している（回転抵抗が大きい）場合であっても、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２１３２８】

次いで、図１８７５から図１８７７を参照して、上側保護板Ｈ５７０について説明する。初めに、図１８７５及び図１８７６を参照して、上側保護板Ｈ５７０の構成について説明する。図１８７５（ａ）は、上側保護板Ｈ５７０の正面図であり、図１８７５（ｂ）は、図１８７５（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＶｂ線における上側保護板Ｈ５７０の断面図であり、図１８７５（ｃ）は、図１８７５（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＶｃ線における上側保護板Ｈ５７０の断面図であり、図１８７６（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＶＩａ

線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１８７６（ｂ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＶＩｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２１３２９】

なお、図１８７６（ａ）における断面位置と図１８７５（ｂ）における断面位置とは、同じ位置における断面が図示され、図１８７６（ｂ）における断面位置と図１８７５（ｂ）における断面位置とは、同じ位置における断面が図示される。

【２１３３０】

Ｌ２１及び図１８７６に示すように、上側保護板Ｈ５７０は、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状の正面側保護部Ｈ５７１と、その正面側保護部Ｈ５７１の対向する縁部から第１化粧板Ｈ５４１側に向かって立設される挿入部Ｈ５７２と、正面側保護部Ｈ５７１の下端から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲して形成される屈曲部Ｈ５７３とを主に備える。

【２１３３１】

正面側保護部Ｈ５７１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に沿う形状の板状体から形成され、正面視において上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間の第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う位置に形成される。正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の前面側に配置されることにより、第１化粧板Ｈ５４１に直接、遊技者の手や物が当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１が破損することを抑制できる。

【２１３３２】

ここで、下皿Ｈ５０や下皿Ｈ５０の下方に配置される千両箱に貯留された球を、パチンコ機Ｈ１０の上皿Ｈ１７に送るには、下皿Ｈ５０や千両箱に貯留された球を遊技者が把持して上皿Ｈ１７の貯留領域に送る必要がある。また、パチンコ機Ｈ１０の遊技中には、右手で操作ハンドルＨ５１を把持しておく必要があり、遊技中に上皿Ｈ１７に球を送るには、左手で球をつかみ上皿Ｈ１７に球を送る必要がある。

【２１３３３】

従って、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側は、遊技者の左手の動線上に位置しやすく、遊技者の手や物（例えば、遊技者が把持する球）が当接しやすくなっている。そのため、第１化粧板Ｈ５４１の正面視における上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側は、他の装飾面を形成する部分（上側装飾ユニットＨ１５ａ、左側装飾ユニットＨ１５ｂ、又は、右側装飾ユニットＨ１５ｃ）に比べて破損しやすいという問題がある。

【２１３３４】

これに対し、第１１１実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１の正面視における上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側を覆う位置に正面側保護部Ｈ５７１が配置されるので、第１化粧板Ｈ５４１に遊技者の手や物が直接当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１が破損することを抑制できる。

【２１３３５】

また、仮に、遊技者の手や物が当接することにより上側保護板Ｈ５７０が破損する場合には、第１化粧板Ｈ５４１に配置される上側保護板Ｈ５７０を交換するだけでよいので、第１化粧板Ｈ５４１を交換する場合に比べて、第１化粧板Ｈ５４１に配置される他の部材（例えば、球抜きユニットＨ５６０など）を第１化粧板Ｈ５４１から取り外す必要がなくなる。その結果、破損時の部品交換作業を簡易に行うことができる。

【２１３３６】

挿入部Ｈ５７２は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長く形成されると共に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の厚みが小さく形成される正面側保護部Ｈ５７１の左右両側の縁部に沿って延設されると共に、背面側に向かって立設される。

【２１３３７】

また、第１化粧板Ｈ５４１には、上側保護板Ｈ５７０の正面側保護部Ｈ５７１が配設される部分に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹む凹部Ｈ５４１ｄが形成されると共に、挿入部Ｈ５７２と対応する位置にその挿入部Ｈ５７２を挿入可能な被挿入部Ｈ５４１ｄ１

が形成される（図１８７６（ｂ）参照）。
【２１３３８】
凹部Ｈ５４１ｄは、正面側保護部Ｈ５７１の前後方向における厚みより少し大きく背面側（矢印Ｂ方向側）に凹設された形状に形成される。これにより、正面側保護部Ｈ５７１が正面側に配設した際に、正面側保護部Ｈ５７１の正面を第１化粧板Ｈ５４１の化粧面に沿って配置する（正面側保護部Ｈ５７１と第１化粧板Ｈ５４１との化粧面の繋ぎ目の段差を少なくする）ことができる。その結果、上下皿ユニットＨ１５の化粧面を触る遊技者に違和感を感じさせにくくできる。
【２１３３９】
被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、挿入部Ｈ５７２の厚みよりも若干大きい溝状に形成されており、その溝の内部に挿入部Ｈ５７２を挿入可能に形成される。また、被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、その凹設底面に挿入部Ｈ５７２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が当接可能な長さに設定される。即ち、正面側保護部Ｈ５７１の背面と凹部Ｈ５４１ｄの正面との隙間は、被挿入部Ｈ５４１ｄ１の凹設底面に挿入部Ｈ５７２を当接させることで形成される。よって、正面側保護部Ｈ５７１の背面と凹部Ｈ５４１ｄの正面との隙間の形成を簡易にできると共に、その隙間を維持しやすくできる。
【２１３４０】
なお、被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、第１化粧板Ｈ５４１を背面側に曲げて形成されており、被挿入部Ｈ５４１ｄ１が形成される領域の第１化粧板Ｈ５４１の板厚と、被挿入部Ｈ５４１ｄ１以外の領域の第１化粧板Ｈ５４１の板厚とが略同一に形成される。これにより、被挿入部Ｈ５４１ｄ１の剛性を確保することができる。その結果、被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入して配設される上側保護板Ｈ５７０に所定の力が作用される場合に、被挿入部Ｈ５４１ｄ１が破損することを抑制できる。
【２１３４１】
一対形成されるうちの一方の被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、上端の凹設底面が切り欠かれる被係合部（図示せず）を備え、その被係合部に一方の挿入部Ｈ５７２の上端部から下方に向かって突設される係合部Ｈ５７２ａが挿入可能とされる。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）に上側保護板Ｈ５７０を配設した際に、上側保護板Ｈ５７０の上側右部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって移動することを抑制できる。
【２１３４２】
なお、正面側保護部Ｈ５７１には、係合部Ｈ５７２ａが形成される一方と左右方向反対側の背面側（矢印Ｂ方向側）から被締結部Ｈ５７１ａ（図１８７５（ｂ）参照）が突設される。被締結部Ｈ５７１ａは、第１化粧板Ｈ５４１側から正面側（矢印Ｆ方向側）に挿通される螺子を螺入させる部分であり、これにより、第１化粧板Ｈ５４１に対して上側保護板Ｈ５７０の上側左部を締結固定できる。
【２１３４３】
即ち、第１１１実施形態では、上側保護板Ｈ５７０の上側は、右側部分が係合部Ｈ５７２ａにより第１化粧板Ｈ５４１に係合され、左側部分が被締結部Ｈ５７１ａにより第１化粧板Ｈ５４１に締結される。これらの係合および締結により、上側保護板Ｈ５７０の上側部分が第１化粧板Ｈ５４１に対して正面側（矢印Ｆ方向側）に移動すること（脱落すること）を抑制できる。
【２１３４４】
本実施形態では、被締結部Ｈ５７１ａが正面視における正面側保護部Ｈ５７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方側に偏る位置に形成されるので、後述するように、正面側保護部Ｈ５７１に所定の力が作用する場合に正面側保護部Ｈ５７１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって撓ませることが可能とされる。
【２１３４５】
即ち、正面側保護部Ｈ５７１の左右の両端が締結固定されては、正面側保護部Ｈ５７１に所定の力が作用する場合に正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形できなくなるところ、第１１１実施形態では、左右方向の一方側が係合部Ｈ５７２ａによる係合とされるので

、正面側保護部Ｈ５７１の一方側への変形を可能とできる。
【２１３４６】
屈曲部Ｈ５７３は、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲して形成され、屈曲先端側の少なくとも一部が下皿Ｈ５０の貯留空間に入り込んだ位置に形成される。また、屈曲部Ｈ５７３は、第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に沿って形成されることにより、正面視において上方側（正面側保護部Ｈ５７１の内側）に向かって凹状に湾曲して形成される。
【２１３４７】
また、屈曲部Ｈ５７３には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する被係合部Ｈ５７３ａが形成され、その被係合部Ｈ５７３ａが第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの上側内縁から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｅに係合される。なお、係合部Ｈ５４１ｅへの被係合部Ｈ５７３ａの係合方法については後述する。
【２１３４８】
次いで、正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の前面に配設された状態について説明する。図１８７６に示すように正面側保護部Ｈ５７１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に対して所定の隙間を少なくとも一部に有した状態で配設される。
【２１３４９】
パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって比較的大きな力が作用される場合には、第１化粧板Ｈ５４１に対する正面側保護部Ｈ５７１の所定の隙間により正面側保護部Ｈ５７１を背面側に向かって撓ませることができる。よって、パチンコ機Ｈ１０の正面側から作用する力が第１化粧板Ｈ５４１に直接作用することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１の破損を抑制できる。
【２１３５０】
しかしながら、上側保護板Ｈ５７０の下方側は、第１化粧板Ｈ５４１から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｅに被係合部Ｈ５７３ａが係合されるだけであるので、第１化粧板Ｈ５４１に対する正面側保護部Ｈ５７１の所定の隙間により正面側保護部Ｈ５７１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって撓ませた際に、正面視において正面側保護部Ｈ５７１の外側に向かって屈曲部Ｈ５７３が広がり、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除される恐れがある。
【２１３５１】
これに対し、第１１１実施形態では、挿入部Ｈ５７２が形成される正面側保護部Ｈ５７１の左右の両端から中央側に向かって正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲した形状に形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１に正面側から所定の力が作用される場合に、正面側保護部Ｈ５７１を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に広がる方向に撓ませることができ被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。
【２１３５２】
即ち、第１１１実施形態では、正面側保護部Ｈ５７１に正面側（矢印Ｆ方向側）から所定の力が作用する場合に、重力方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における弾性変形量に比べて、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における弾性変形量を大きくすることができると共に、弾性変形量が小さい重力方向外側に第１化粧板Ｈ５４１（係合部Ｈ５４１ｅ）と係合する被係合部Ｈ５７３ａが形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１が弾性変形した場合に、被係合部Ｈ５７３ａの位置がずれることを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。
【２１３５３】
なお、上側保護板Ｈ５７０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に形成される挿入部Ｈ５７２が第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入されるので、正面側保護部Ｈ５７１に作用する力により正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形する場合に正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の化粧面に当接することを抑制できる。
【２１３５４】
また、挿入部Ｈ５７２が第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入されるので

、正面側保護部Ｈ５７１に作用する力により正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形する場合に、正面側保護部Ｈ５７１の位置がずれることを抑制できる。その結果、上下皿ユニットＨ１５の見た目が変わることを抑制できる。

【２１３５５】

また、第１１１実施形態では、屈曲部Ｈ５７３が、正面視において一対の挿入部Ｈ５７２の対向方向に延設されると共に、上方側（正面側保護部Ｈ５７１の内側）に向かって凹状に湾曲して形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に弾性変形する場合に、その正面側保護部Ｈ５７１の撓みにより屈曲部Ｈ５７３の左右両側が引っ張られる力を、屈曲部Ｈ５７３の被係合部Ｈ５７３ａが形成される部分を正面視における正面側保護部Ｈ５７１の中央側に傾倒させる方向の力に変換しやすくできる。

【２１３５６】

これにより、第１１１実施形態では、正面側保護部Ｈ５７１に正面側（矢印Ｆ方向側）から所定の力が作用して正面側保護部Ｈ５７１が弾性変形する場合に、被係合部Ｈ５７３ａが係合部Ｈ５４１ｅとの係合を解除する方向に変位することを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２１３５７】

また、係合部Ｈ５４１ｅは、第１開口部Ｈ５４１ａの内側に形成される。即ち、下皿Ｈ５０の内側に形成されるので、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合箇所を遊技者から視認されにくくできる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が遊技者により解除されることを抑制できる。

【２１３５８】

なお、第１１１実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１に突出形成される係合部Ｈ５４１ｅを上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａに係合される場合について説明したが、係合部Ｈ５４１ｅと被係合部Ｈ５７３ａとが反対に形成されていてもよく、第１化粧板Ｈ５４１に凹設される被係合部に上側保護板Ｈ５７０に突出形成される係合部を係合させても良い。

【２１３５９】

この場合には、上側保護板Ｈ５７０に被係合部Ｈ５７３ａの開口を形成する必要がなくなるので、第１化粧板Ｈ５４１に上側保護板Ｈ５７０を配設した際に、上下皿ユニットＨ１５の化粧面に開口が現れなくなるので、遊技者が上側保護板Ｈ５７０と第１化粧板Ｈ５４１との係合を外そうとすることを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２１３６０】

次いで、図１８７７を参照して、第１化粧板Ｈ５４１への上側保護板Ｈ５７０の配設方法について説明する。図１８７７（ａ）及び（ｂ）は、第１化粧板Ｈ５４１から上側保護板Ｈ５７０を分解した状態における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２１３６１】

なお、図１８７７（ａ）及び（ｂ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＶＩａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面と対応する。また、図１８７７（ａ）では、第１化粧板Ｈ５４１から上側保護板Ｈ５７０が完全に取り外された状態における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示され、図１８７７（ｂ）では、第１化粧板Ｈ５４１に上側保護板Ｈ５７０を取り付け途中における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示される。

【２１３６２】

図１８７７（ａ）及び（ｂ）に示すように、上側保護板Ｈ５７０を第１化粧板Ｈ５４１に取り付ける際には、第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に上側保護板Ｈ５７０の挿入部Ｈ５７２を挿入しつつ、上側保護板Ｈ５７０を第１化粧板Ｈ５４１に向かって押し込むことで、屈曲部Ｈ５７３が第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に当接する上下位置に合わせられる。

【２１３６３】

この場合、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅは、上側保護板Ｈ５７０の配設方向

と対向する側（正面側（矢印Ｆ方向側）の側面の一部が突出基端側に向かって正面側に傾斜して形成される。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅに上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａを係合させる際に、上側保護板Ｈ５７０の屈曲部Ｈ５７３を係合部Ｈ５４１ｅの傾斜面に沿って変形させて係合部Ｈ５４１ｅを乗り越えさせることができる。その結果、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅに上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａを係合させやすくできる。

【２１３６４】

次いで、図１８７８から図１９００を参照して、操作ユニットＨ１８０について説明する。初めに、図１８７８から図１８８０を参照して、操作ユニットＨ１８０の全体構成について説明する。図１８７８（ａ）は、操作ユニットＨ１８０の正面斜視図であり、図１８７８（ｂ）は、操作ユニットＨ１８０の背面斜視図であり、図１８７９は、操作ユニットＨ１８０の分解正面斜視図であり、図１８８０は、操作ユニットＨ１８０の分解背面斜視図である。

【２１３６５】

図１８７８から図１８８０に示すように、操作ユニットＨ１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ７１０と、その傾倒装置Ｈ７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５を介して傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。

【２１３６６】

下枠部材Ｈ７２０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって凹状のカップ型に形成されると共に、光を透過可能な透明な樹脂材料で形成される。これにより、下枠部材Ｈ７２０の内側に揺動装置Ｈ７３０を配設できると共に、その揺動装置Ｈ７３０から正面側（矢印Ｆ方向側に向かって出射される光を正面側に透過できる。

【２１３６７】

また、下枠部材Ｈ７２０は、上述した上下皿ユニットＨ１５の第２化粧板Ｈ５４２の背面に沿って湾曲した形状に形成される正面板Ｈ７２１と、その正面板Ｈ７２１の背面側（矢印Ｂ方向側）端部に連なって形成され、正面板Ｈ７２１の背面側の縁部から背面側に向かって上昇傾斜する形状に形成される背面板Ｈ７２２と、その背面板Ｈ７２２の背面側の上端から上方（矢印Ｕ方向）に突設される一対の突設部Ｈ７２３と、背面板Ｈ７２２から背面側に向かって延設され、下方側に駆動手段Ｈ７５０が保持される保持部形成板Ｈ７２４と、その保持部形成板Ｈ７２４の下方側に左右一対で配置される左側検出センサＨ７２５Ｌと、右側検出センサＨ７２５Ｒと、背面板Ｈ７２２の右側（矢印Ｒ方向側）の下端部に配設されるボタン検出センサＨ７２６と、を主に備える。

【２１３６８】

正面板Ｈ７２１は、操作ユニットＨ１８０を上下皿ユニットＨ１５（ベース部材Ｈ５１０）に配設した際に、第２化粧板Ｈ５４２（図１８５９参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される部分であり、第２化粧板Ｈ５４２の背面に沿う湾曲形状に形成される。また、正面板Ｈ７２１は、正面側の外縁に沿って正面側に向かって立設される壁部Ｈ７２１ａと、下端の一部に前後方向に開口される開口部Ｈ７２１ｂとを備える。

【２１３６９】

壁部Ｈ７２１ａは、正面側の立設先端部が第２化粧板Ｈ５４２の背面に当接可能な立設距離に設定される。よって、操作ユニットＨ１８０を上下皿ユニットＨ１５（ベース部材Ｈ５１０）に配設した際に、壁部Ｈ７２１ａを除く正面板Ｈ７２１の正面と、第２化粧板Ｈ５４２の背面との間に空間を形成することができる。その空間により、第２化粧板Ｈ５４２の正面に入力される衝撃が正面板Ｈ７２１（操作ユニットＨ１８０）に直接作用する

ことを抑制できる。その結果、後述する揺動装置Ｈ７３０の駆動手段Ｈ７８０及び変位部材Ｈ７９０が第２化粧板Ｈ５４２に入力される衝撃で揺動することを抑制できる。

【２１３７０】

開口部Ｈ７２１ｂは、後述する傾倒装置Ｈ７１０との隙間から下枠部材Ｈ７２０の内側にゴミ（埃等）や液体が流入された場合に、傾倒装置Ｈ７１０の外側に排出するための空間であり正面板Ｈ７２１の下方側端部に形成される。従って、下枠部材Ｈ７２０の内側に流入したゴミ（埃等）や液体を開口部Ｈ７２１ｂを介して操作ユニットＨ１８０の外側に排出することができる。

【２１３７１】

これにより、下枠部材Ｈ７２０の内側にゴミ（埃等）や液体が溜まって、操作ユニットＨ１８０の傾倒装置Ｈ７１０や揺動装置Ｈ７３０の変位が規制されたり、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３がショートしたりすることを抑制できる。

【２１３７２】

背面板Ｈ７２２は、後述する揺動装置Ｈ７３０を配設するためのベース板であり、揺動装置Ｈ７３０に螺入される螺子を挿通するための挿通孔Ｈ７２２ａが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される。なお、揺動装置Ｈ７３０は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって上昇傾斜する背面板Ｈ７２２に配設されることで、正面側（矢印Ｆ方向側）を上方側（矢印Ｕ方向側）に傾けた姿勢で配置される。

【２１３７３】

また、背面板Ｈ７２２は、左右の両外側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される一対の開口部Ｈ７２２ｂと、一方の開口部Ｈ７２２ｂ（正面視において右側の開口部Ｈ７２２ｂ）と隣り合う位置に配置されるボタン検出センサＨ７２６を下枠部材Ｈ７２０に締結固定するための螺子を螺入するねじ穴（図示しない）と、を備える。

【２１３７４】

一対の開口部Ｈ７２２ｂは、下枠部材Ｈ７２０の外側に配置される駆動手段Ｈ７５０と、下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される傾倒装置Ｈ７１０とを連結するための一対のアーム部材Ｈ７５５を挿通するための開口であり、それぞれのアーム部材Ｈ７５５の変位軌跡上に開口されると共に、アーム部材Ｈ７５５が変位された際にアーム部材Ｈ７５５と干渉しない程度の大きさに形成される。

【２１３７５】

一対の突設部Ｈ７２３は、背面板Ｈ７２２の上端から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって突設されると共に、その突設先端に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側から挿入可能に上方側が開放される下側軸受け部Ｈ７２３ａを備える。

【２１３７６】

下側軸受け部Ｈ７２３ａは、一対の突設部Ｈ７２３のそれぞれの突設先端側を半円形状に凹設して形成されると共に、一対の突設部Ｈ７２３の対向面側を開放した形状に形成される。なお、下側軸受け部Ｈ７２３ａは、その凹設部分の内側に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を配置可能に形成されており、円柱状に形成されるリング部材Ｈ７１３の直径よりも若干大きい直径の半円形状に形成される。

【２１３７７】

保持部形成板Ｈ７２４は、背面板Ｈ７２２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される駆動手段Ｈ７５０を変位可能に保持するための部分であり、背面板Ｈ７２２の上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部から背面側に延出して形成される。また、保持部形成板Ｈ７２４には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部の下面側に駆動手段Ｈ７５０を駆動する駆動力を発生させる駆動モータＨ７２７が配設用ブラケットＨ７２８を介して取り付けられると共に、その駆動モータＨ７２７の左右方向外側に左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒが配設される。

【２１３７８】

また、保持部形成板Ｈ７２４には、駆動手段Ｈ７５０の伝達軸棒Ｈ７５３の前後を保持する保持部Ｈ７２４ａが左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に離れた位置に一対形成される。そ

れぞれの保持部Ｈ７２４ａは、前後方向に所定の間隔を隔てた一対の突出部を備え、その一対の突出部の対向間に伝達軸棒Ｈ７５３を挟んで保持可能に形成される。

【２１３７９】

左側検出センサＨ７２５Ｌは、後述する駆動手段Ｈ７５０の左円板カムＨ７５４Ｌの回転位置を検出するセンサであり、右側検出センサＨ７２５Ｒは、駆動手段Ｈ７５０の右円板カムＨ７５４Ｒの回転位置を検出するセンサである。左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒは、それぞれの円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒと対応する位置に配設される。なお、左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒは、円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒに切り欠き形成される検出部Ｈ７５４ｇＬ，Ｈ７５４ｇＲにより検出光が遮られなくなることで、それぞれの円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒの回転位置を検出することができる。

【２１３８０】

ボタン検出センサＨ７２６は、上下一対の上方側センサＨ７２６ａと下方側センサＨ７２６ｂとを備えて形成され、上方側センサＨ７２６ａにより傾倒位置に配置される傾倒装置Ｈ７１０を検出可能とされ、下方側センサＨ７２６ｂにより傾倒位置から押し込まれた傾倒装置Ｈ７１０を検出可能とされる。即ち、上方側センサＨ７２６ａは、傾倒位置に配置される傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５を検出可能とされ、下方側センサＨ７２６ｂは、傾倒位置から押し込まれた位置の傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５を検出可能とされる。

【２１３８１】

なお、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各センサ（左側検出センサＨ７２５Ｌ、右側検出センサＨ７２５Ｒ、ボタン検出センサＨ７２６）の各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照）は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。

【２１３８２】

傾倒装置Ｈ７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１８８８参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。

【２１３８３】

なお、傾倒装置Ｈ７１０は、リング部材Ｈ７１３を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。なお、第１１１実施形態では、リング部材Ｈ７１３（回転軸）が傾倒装置Ｈ７１０の背面側に配置されるが、リング部材Ｈ７１３（回転軸）を正面側や左右のどちらか一方側に配置して、傾倒装置Ｈ７１０の背面側が上昇する形態や、左右のどちらか他方側が上昇する形態としても良い。

【２１３８４】

ボタン部Ｈ１８１は、遊技者が押圧操作する部材であり、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、上述した上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０（図１８５９参照）との対向間から上方側（矢印Ｕ方向側）に突出する位置に配置される。また、ボタン部Ｈ１８１は、無色透明の樹脂材料から形成されており、下方側（矢印Ｄ方向側）に配置される揺動装置Ｈ７３０から出射される光を上方側に向かって透過可能とされ

る。なお、第１１１実施形態におけるボタン部Ｈ１８１は、貝を模した形状に形成されており、上面視において左右方向に広がる扇状に形成される。なお、第１１１実施形態では、ボタン部Ｈ１８１が無色透明の樹脂材料から形成されるが、ボタン部Ｈ１８１を有色の光を透過可能な樹脂材料から形成して、ボタン部Ｈ１８１を透過する光にボタン部Ｈ１８１の色味を付与する構造であっても良い。

【２１３８５】

正面側透過部Ｈ７１１は、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、ボタン部Ｈ１８１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う部材であり、起立位置において上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間に下方側の端部が配置される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、傾倒装置Ｈ７１０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間から針金やピアノ線等の不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【２１３８６】

なお、正面側透過部Ｈ７１１（傾倒装置Ｈ７１０）は、光を透過可能な無色透明の樹脂材料から形成されるので、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態においては、下方側（矢印Ｄ方向側）に配置される揺動装置Ｈ７３０から出射される光を正面側透過部Ｈ７１１を介して正面上方側（即ち、遊技者側）に出射できる。また、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態においては、正面側透過部Ｈ７１１が正面板Ｈ７２１と対向する位置に配置されると共に後述する揺動装置Ｈ７３０の正面側に配置される。これにより、揺動装置Ｈ７３０から出射する光を正面側透過部Ｈ７１１及び正面板Ｈ７２１を介して正面側に出射できる。

【２１３８７】

さらに、正面側透過部Ｈ７１１は、遊技者により傾倒装置Ｈ７１０が下方に押し込まれた場合に、下方側の端部が後述する揺動装置Ｈ７３０に当接可能な大きさに形成され、傾倒装置Ｈ７１０を押圧操作に伴って揺動装置Ｈ７３０を変位可能とされる。これにより、傾倒装置Ｈ７１０の押圧操作に伴って揺動装置Ｈ７３０から出射される光の方向を変更できるので、揺動装置Ｈ７３０による光の態様を傾倒装置Ｈ７１０の押圧操作に伴って変更できる。なお、傾倒装置Ｈ７１０の当接による揺動装置Ｈ７３０の動作についての詳しい説明は後述する。

【２１３８８】

なお、第１１１実施形態では、揺動装置Ｈ７３０の正面板Ｈ７２１が透明の樹脂材料から形成され、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合に基板部材Ｈ７７３から出射される正面側透過部Ｈ７１１が正面板Ｈ７２１を介して正面側に出射される場合について説明したが、正面板Ｈ７２１を有色の不透明（光を非透過）の樹脂材料から形成しても良い。この場合には、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置では、基板部材Ｈ７７３から出射される光の正面側への光の透過が規制され、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置では、基板部材Ｈ７７３から出射される光の正面側への透過の規制が解除される。

【２１３８９】

即ち、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置される場合にのみ、正面側透過部Ｈ７１１から透過される基板部材Ｈ７７３の光を遊技者が視認可能とされる。これによれば、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合と起立位置に配置される場合とで遊技者側に出射される光の光量に差を設けやすくでき、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合に遊技者に傾倒装置Ｈ７１０に注目させやすくできる。

【２１３９０】

側面側反射部Ｈ７１２は、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、ボタン部Ｈ１８１の左右両側面を覆う部材であり、上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間に下方側の端部が配置される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、傾倒装置Ｈ７１０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間から針金やピアノ線等の不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【２１３９１】

また、側面側反射部Ｈ７１２は、下方側の端部に配設されるブラケットＨ７１４と重ない位置における左右両側に上方側に向かって凹設される被係合凹部Ｈ７１２ａを備える。被係合凹部Ｈ７１２ａは、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態から傾倒装置Ｈ７１０がねじりバネＨ７１７の付勢力で起立位置に変位することを抑制する（傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置に保持する）ために、後述する回転爪部材Ｈ７５７と係合する部分であり、回転爪部材Ｈ７５７と対応する位置に形成される。

【２１３９２】

また、側面側反射部Ｈ７１２は、傾倒装置Ｈ７１０の内部空間側に光を反射可能な塗装がされ、側面側反射部Ｈ７１２に照射される光を反射可能に形成される。ここで、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、側面側反射部Ｈ７１２が後述する揺動装置Ｈ７３０の背面側に配置される。これにより、揺動装置Ｈ７３０から側面側反射部Ｈ７１２側に光が出射される場合に、その光を正面側透過部Ｈ７１１側に反射させることができる。その結果、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される状態において、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１から正面側に出射される光量を増加して、遊技者の興趣を向上できる。

【２１３９３】

リング部材Ｈ７１３は、傾倒装置Ｈ７１０の回転軸となる部分であり、円柱状に形成される。また、リング部材Ｈ７１３は、左右方向に軸を有しボタン部Ｈ１８１の背面側の縁部に沿って配設される。これにより、ボタン部Ｈ１８１の正面側の端部を下方に配置した傾倒位置と、その傾倒位置からボタン部Ｈ１８１の正面側の端部を上方に配置した起立位置との間で傾倒装置Ｈ７１０を回転させることができる。

【２１３９４】

なお、傾倒装置Ｈ７１０の軸部材Ｈ７１６には、ねじりバネＨ７１７が配設されており、そのねじりバネＨ７１７が下枠部材Ｈ７２０と傾倒装置Ｈ７１０とに係合される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０は、下枠部材Ｈ７２０に対して正面側の端部を上方に押し上げる方向（起立位置に変位する方向）に付威された状態で下枠部材Ｈ７２０に配設される。

【２１３９５】

ブラケットＨ７１４は、アルミ等の金属材料を屈曲して構成され、下面視において側面側反射部Ｈ７１２の下縁部に沿う（正面側が開放された）コ字形状に形成される。ブラケットＨ７１４が傾倒装置Ｈ７１０の下面に配設されることで、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作時に傾倒装置Ｈ７１０が下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２に当接して傾倒装置Ｈ７１０が破損することを抑制できる。

【２１３９６】

また、ブラケットＨ７１４は、コ字形状の対向する板部分から下方側に屈曲して形成される連結部Ｈ７１４ａを備える。連結部Ｈ７１４ａは、傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０のアーム部材Ｈ７５５が連結される部分であり、アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂを挿通可能な貫通孔が形成される。アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂが連結部Ｈ７１４ａに挿通されることで、アーム部材Ｈ７５５の変位に連動して傾倒装置Ｈ７１０を変位させることができる。

【２１３９７】

検出片Ｈ７１５は、ボタン検出センサＨ７２６の検出光を遮る部材であり、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａを遮る部分と下方側センサＨ７２６ｂを遮る部分とが異なる突出長さで形成される。詳しく説明すると、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から押し込まれた位置を検出する下方側センサＨ７２６ｂを遮る部分の突出距離が、傾倒装置Ｈ７１０の傾倒位置を検出する上方側センサＨ７２６ａを遮る部分の突出距離よりも短く形成される。

【２１３９８】

上枠部材Ｈ７４０は、上面視において傾倒装置Ｈ７１０の側面側反射部Ｈ７１２の下端に屈曲形成される係合片Ｈ７１２ｂが引っかかる（上下方向に重なる）大きさの半円弧形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に変位した際に

、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置を超えて上方側に張り出し変位することを抑制できる。
【２１３９９】
　また、上枠部材Ｈ７４０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２と上下方向に対向配置されると共に下側が開放された半円形状に形成され、傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を支持する上側軸受け部Ｈ７４１を備える。
【２１４００】
　上側軸受け部Ｈ７４１は、下側軸受け部Ｈ７２３ａとの対向間に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を収容してリング部材Ｈ７１３を保持する部分であり、円柱状に形成されるリング部材Ｈ７１３の半径よりも若干大きい半径の半円形状に形成される。
【２１４０１】
　駆動手段Ｈ７５０は、傾倒装置Ｈ７１０の回転を制御する部分であり、下枠部材Ｈ７２０に配設される駆動モータＨ７２７の駆動力により駆動して、傾倒装置Ｈ７１０の回転を制御することができる。なお、駆動手段Ｈ７５０についての詳しい説明については後述する。また、駆動手段Ｈ７５０を駆動する駆動モータＨ７２７（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。
【２１４０２】
　保護カバー部材Ｈ７６０は、上面視において略矩形状に形成される底面部Ｈ７６１と、その底面部Ｈ７６１の外縁に沿って延設され上方側に向かって立設される側壁部Ｈ７６２とを備え、上方側が開放する箱状に形成され、その内側に駆動手段Ｈ７５０を収容した状態で下枠部材Ｈ７２０の下面側に配置可能に構成される。
【２１４０３】
　底面部Ｈ７６１は、正面側の端部から突出されると共に下方側に屈曲するＬ字形状に形成される係合部Ｈ７６３と、上方側に向かって突出され駆動手段Ｈ７５０の伝達軸棒Ｈ７５３を下方から支持する凸状部Ｈ７６４とを備える。
【２１４０４】
　係合部Ｈ７６３は、駆動手段Ｈ７５０の第１スプリングＨ７５８の下端を係合させる部分である。第１スプリングＨ７５８は、保護カバー部材Ｈ７６０に対して軸支される回転爪部材Ｈ７５７の第１係合部Ｈ７５７ｄと、保護カバー部材Ｈ７６０の係合部Ｈ７６３とに両端が係合されることで、回転爪部材Ｈ７５７の第１係合部Ｈ７５７ｄを下方側に引っ張る方向に付勢することができる。
【２１４０５】
　次いで、図１８８１から図１８８５を参照して、駆動手段Ｈ７５０について説明する。初めに図１８８１及び図１８８２を参照して、駆動手段Ｈ７５０の全体構成について説明する。図１８８１（ａ）は、駆動手段Ｈ７５０の正面図であり、図１８８１（ｂ）は、図１８８１（ａ）のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩｂ線における駆動手段Ｈ７５０の側面図であり、図１８８２は、駆動手段Ｈ７５０の正面分解斜視図である。
【２１４０６】
　図１８８１及び図１８８２に示すように、駆動手段Ｈ７５０は、板状の板金部材を折り曲げることにより骨組みを構成する本体部材Ｈ７５１と、その本体部材Ｈ７５１の左右両側に配設される軸部材Ｈ７５２と、駆動モータＨ７２７の駆動力を伝達する伝達軸棒Ｈ７５３と、その伝達軸棒Ｈ７５３の両端に回転不能に固定される一対の円板カムＨ７５４（左円板カムＨ７５４Ｌ、右円板カムＨ７５４Ｒ）と、その円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが挿通されるアーム部材Ｈ７５５と、軸部材Ｈ７５２に軸支されると共に円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１や第２突出部Ｈ７５４ｃ２と回転方向で当接する解除部材Ｈ７５６と、その解除部材Ｈ７５６と同軸で軸支され解除部材Ｈ７５６の回転に伴って相対動作する回転爪部材Ｈ７５７と、その回転爪部材Ｈ７５７を下倒れさせる方向へ向けた付勢力を発生するコイルスプリング状のバネ部材である第１スプリングＨ７５８と、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７との間で互いに離反させる方向の付勢力を発生

するねじりバネ状のバネ部材である第２スプリングＨ７５９と、を主に備える。
【２１４０７】
本体部材Ｈ７５１は、アルミ等の金属材料から形成され、左右両端から上方へ向かって折曲され正面視コ字形状に形成される。また、本体部材Ｈ７５１は、対向配置される板部分の対向位置（同軸上）に穿設される軸支孔Ｈ７５１ｂと、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板部分に穿設される挿通孔Ｈ７５１ｃと、を主に備える。なお、駆動モータＨ７２７は、正面時コ字状形状に形成される本体部材Ｈ７５１の内側に配置される。
【２１４０８】
軸支孔Ｈ７５１ｂは、軸部材Ｈ７５２の一端が圧入される孔であり、軸部材Ｈ７５２の外径と略同一の内径に形成される。軸支孔Ｈ７５１ｂに軸部材Ｈ７５２が圧入されることで、本体部材Ｈ７５１の左右両外側に軸部材Ｈ７５２が突出した状態で配設され、本体部材Ｈ７５１の左右両外側に解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７を配設可能とされる。
【２１４０９】
次いで、図１８８３を参照して、伝達軸棒Ｈ７５３について説明する。図１８８３（ａ）は、伝達軸棒Ｈ７５３の正面分解斜視図であり、図１８８３（ｂ）は、伝達軸棒Ｈ７５３の背面分解斜視図である。
【２１４１０】
図１８８３に示すように、伝達軸棒Ｈ７５３は、両端に円板カムＨ７５４（図１８８２参照）が固定される柱部材Ｈ７５３ａと、その柱部材Ｈ７５３ａに軸支されると共に駆動モータＨ７２７の回転ギヤと歯合する伝達ギヤＨ７５３ｂと、その伝達ギヤＨ７５３ｂと柱部材Ｈ７５３ａとの間で駆動力を伝達するか否かを軸方向の移動により切り替え可能な可動クラッチＨ７５３ｃと、その可動クラッチＨ７５３ｃを伝達ギヤＨ７５３ｂに押し付けるコイルバネＨ７５３ｄと、伝達ギヤＨ７５３ｂの軸部に挿入される挿入部材Ｈ７５３ｅと、を主に備える。
【２１４１１】
柱部材Ｈ７５３ａは、金属性の材料から形成されると共に、断面六角形の柱状体に形成される。また、柱部材Ｈ７５３ａは、その両端部に円板カムＨ７５４を係合させる溝状の係合溝Ｈ７５３ａ１を備える。
【２１４１２】
伝達ギヤＨ７５３ｂは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される円形状の挿通孔Ｈ７５３ｂ１と、可動クラッチＨ７５３ｃと対向配置される面から軸中心の円周位置において軸心方向に沿った凹凸が形成されるクラッチ部Ｈ７５３ｂ２と、を主に備える。
【２１４１３】
挿入部材Ｈ７５３ｅは、柱部材Ｈ７５３ａに対する伝達ギヤＨ７５３ｂの軸位置を決める部材であり、伝達ギヤＨ７５３ｂの挿通孔Ｈ７５３ｂ１に挿入可能な円柱状に形成される。また、挿入部材Ｈ７５３ｅは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される六角形状の挿通孔Ｈ４７５３ｅ１が形成され、柱部材Ｈ７５３ａに対して回転（空回り）不能な状態で配設される。
【２１４１４】
伝達ギヤＨ７５３ｂは、挿通孔Ｈ７５３ｂ１に挿入部材Ｈ７５３ｅが挿入された状態で柱部材Ｈ７５３ａに挿入されることで、柱部材Ｈ７５３ａが固定された場合にでも、柱部材Ｈ７５３ａ（挿入部材Ｈ７５３ｅ）に対して回転（空回り）することができる。
【２１４１５】
可動クラッチＨ７５３ｃは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される六角形状の挿通孔Ｈ７５３ｃ１と、伝達ギヤＨ７５３ｂと対向配置される面から軸中心の円周位置において軸方向に沿った凹凸が形成されると共にクラッチ部Ｈ７５３ｂ２と係合可能に構成されるクラッチ部Ｈ７５３ｃ２と、を主に備える。なお、本実施形態では、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２の頂部の角度が約１００°の山形の凸部および凹部から構成される。
【２１４１６】

柱部材Ｈ７５３ａの外形と同様の六角形状に挿通孔Ｈ７５３ｃ１が形成されることで、挿通孔Ｈ７５３ｂ１に柱部材Ｈ７５３ａを挿通させた状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対する伝達ギヤＨ７５３ｂの回転（空振り）が規制される。

【２１４１７】

また、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２とが係合されることで、駆動モータＨ７２７から伝達ギヤＨ７５３ｂに伝達される駆動力が、可動クラッチＨ７５３ｃを介して柱部材Ｈ７５３ａに伝達される。これにより、円板カムＨ７５４（図１８８２参照）を回転させることが可能になる。

【２１４１８】

なお、可動クラッチＨ７５３ｃは、通常はコイルバネＨ７５３ｄの付勢力により伝達ギヤＨ７５３ｂに近接する位置に配置され、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２の係合関係が保たれる。一方で、可動クラッチＨ７５３ｃに軸方向の負荷がかけられることにより、柱部材Ｈ７５３ａの軸方向に沿って伝達ギヤＨ７５３ｂから離反する態様で移動可能に構成される。

【２１４１９】

アーム部材Ｈ７５５は、樹脂材料から構成され、一方向に長い板状に形成される。またアーム部材Ｈ７５５は、長手方向一方側の端部に長手方向に沿って長孔状に穿設されると共に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが挿通される案内孔Ｈ７５５ａと、長手方向他方側の端部に配設されると共に傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａに挿通される円柱状の連結棒Ｈ７５５ｂと、を主に備える。

【２１４２０】

アーム部材Ｈ７５５は、傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａに連結棒Ｈ７５５ｂが回転可能な状態で軸支される。また、案内孔Ｈ７５５ａの長手方向における距離は、円板カムＨ７５４が回転された際の連結ピンＨ７５４ｅの回転軌跡の直径よりも大きく形成される。これらにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、円板カムＨ７５４が一回転以上回転した際に、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅの変位に伴って連結ピンＨ７５４ｅを案内孔Ｈ７５５ａに沿って摺動させられると共に、軸部Ｈ７１１ｅを軸に回転させられる。

【２１４２１】

次いで、図１８８４を参照して、円板カムＨ７５４について説明する。図１８８４（ａ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶａ方向視における右円板カムＨ７５４Ｒの側面図であり、図１８８４（ｂ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｂ方向視における右円板カムＨ７５４Ｒの側面図であり、図１８８４（ｃ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｃ方向視における左円板カムＨ７５４Ｌの側面図であり、図１８８４（ｄ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＩＶｄ方向視における左円板カムＨ７５４Ｌの側面図である。

【２１４２２】

なお、以下の説明では、左円板カムＨ７５４Ｌと右円板カムＨ７５４Ｒとのそれぞれにおいて、対向する側を「対向方向内側」と称し、対向する側と反対側を「対向方向外側」と称して説明する。

【２１４２３】

図１８８４（ａ）及び（ｂ）に示すように、右円板カムＨ７５４Ｒは、略円板状に形成される円板部Ｈ７５４ａと、その円板部Ｈ７５４ａの軸心部分に穿設される中心軸部Ｈ７５４ｂと、円板部Ｈ７５４ａの軸心部分が対向方向内側に向かって屈曲されることで対向方向内側に向かって凸状に膨出される第１膨出部Ｈ７５４ｃと、その第１膨出部Ｈ７５４ｃの径方向外側部分から対向方向外側に向かって屈曲されることで対向方向外側に向かって凸状に膨出される第２膨出部Ｈ７５４ｄと、その第２膨出部Ｈ７５４ｄから対向方向外側に向かって円柱状に突出されアーム部材Ｈ７５５（図１８８３参照）に連結される連結ピンＨ７５４ｅと、第２膨出部Ｈ７５４ｄよりも軸心側から対向方向外側に突設して形成される係合部Ｈ７５４ｆと、円板部Ｈ７５４ａの外周面の一部を軸心側に向かって切り欠

いて形成される右検出部Ｈ７５４ｇＲと、を主に備える。
【２１４２４】
なお、右円板カムＨ７５４Ｒは、右検出部Ｈ７５４ｇＲが、左円板カムＨ７５４Ｌの左検出部Ｈ７５４ｇＬと６０°の角度をなす位置に配置されることのみが異なり、その他は右円板カムＨ７５４Ｒの形状を鏡写しした形状から構成される。
【２１４２５】
中心軸部Ｈ７５４ｂは、内周が柱部材Ｈ７５３ａと対応する六角形状に形成される。これにより、中心軸部Ｈ７５４ｂに柱部材Ｈ７５３ａを挿通させた状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対する右円板カムＨ７５４Ｒの回転（空回り）が規制される。
【２１４２６】
第１膨出部Ｈ７５４ｃは、中心軸部Ｈ７５４ｂの軸を中心に円環形状に膨出して形成されると共に、外周面の一部から径方向の外側に突出する２箇所の第１突出部Ｈ７５４ｃ１と、第２突出部Ｈ７５４ｃ２とを備える。
【２１４２７】
第１突出部Ｈ７５４ｃ１と第２突出部Ｈ７５４ｃ２とは、後述する解除部材Ｈ７５６と当接する部分であり、同一の形状に形成されると共に中心軸部Ｈ７５４ｂの中心から径方向外側に同じ距離突出する位置に形成される。また、第１突出部Ｈ７５４ｃ１と第２突出部Ｈ７５４ｃ２とは、それぞれ円板部Ｈ７５４ａの軸を中心に公転方向に約１５０°ずれた位置に形成され、円板カムＨ７５４の回転時に異なるタイミングで解除部材Ｈ７５６に当接可能に構成される。
【２１４２８】
連結ピンＨ７５４ｅは、駆動手段Ｈ７５０の第１初期状態において、傾倒状態における傾倒装置Ｈ７１０の軸部Ｈ７１１ｅと最も離間距離の長い位置に配置される。即ち、中心軸部Ｈ７５４ｂに対して傾倒状態における傾倒装置Ｈ７１０の軸部Ｈ５１１ｅの反対側に連結ピンＨ７５４ｅが配設される。
【２１４２９】
係合部Ｈ７５４ｆは、円板部Ｈ７５４ａの中心軸部Ｈ７５４ｂを挟んで一対形成される。また、係合部Ｈ７５４ｆは、突出先端が略Ｌ字状に屈曲され、その屈曲部分の先端が柱部材Ｈ７５３ａの係合溝Ｈ７５３ａ１に挿入される。これにより、柱部材Ｈ７５３ａを右円板カムＨ７５４Ｒの中心軸部Ｈ７５４ｂに挿入した状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対して右円板カムＨ７５４Ｒの軸方向への変位が規制される。
【２１４３０】
次いで、図１８８５を参照して、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７とについて説明する。なお、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７とは左右一対で配設され、それらの構成は左右で同一なので、一方のみを説明する。
【２１４３１】
図１８８５（ａ）及び図１８８５（ｂ）は、図１８８２の矢印ＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶａ方向視における解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７の側面図である。なお、図１８８５（ａ）では、解除部材Ｈ７５６に対して回転爪部材Ｈ７５７が第２スプリングＨ７５９の付勢方向終端位置まで回転した角度大状態が図示され、図１８８５（ｂ）では、解除部材Ｈ７５６に対して回転爪部材Ｈ７５７が第２スプリングＨ７５９の付勢力に抗して終端位置まで回転した角度小状態が図示される。
【２１４３２】
図１８８５（ａ）及び図１８８５（ｂ）に示すように、解除部材Ｈ７５６は、軸部材Ｈ７５２に軸支される軸支孔Ｈ７５６ａを有する円環状に形成される本体部Ｈ７５６ｂ（図１８８２参照）と、軸支孔Ｈ７５６ａの中心軸を中心とする円弧形状で回転爪部材Ｈ７５７側に向かって本体部Ｈ７５６ｂから凸設される凸設ピンＨ７５６ｃと、本体部Ｈ７５６ｂから最大径で張り出す部分として構成される被当接部Ｈ７５６ｄと、を主に備え、樹脂材料から形成される。
【２１４３３】

解除部材Ｈ７５６は、軸支孔Ｈ７５６ａが軸部材Ｈ７５２に軸支されることで、本体部材Ｈ７５１に対して回転可能に保持され、被当接部Ｈ７５６ｄに円板カムＨ７５４が当接しない状態では、第２スプリングＨ７５９の付勢力により回転爪部材Ｈ７５７に対して軸部材Ｈ７５２を軸に図１８８５に示す状態において右回り方向に最大位置まで回転され、角度大状態とされる。

【２１４３４】

凸設ピンＨ７５６ｃは、回転爪部材Ｈ７５７に当接して、回転爪部材Ｈ７５７に駆動力を伝達する部分であり、回転爪部材Ｈ７５７に当接可能な長さに設定される。また、凸設ピンＨ７５６ｃには、第２スプリングＨ７５９の一端が係合されており、これにより、第２スプリングＨ７５９の付勢力が解除部材Ｈ７５６に伝達される。

【２１４３５】

被当接部Ｈ７５６ｄは、組立状態において、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２が当接可能に構成される部分である。被当接部Ｈ７５６ｄに第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２が当接されることで、解除部材Ｈ７５６を本体部材Ｈ７５１に対して回転させることができる。

【２１４３６】

回転爪部材Ｈ７５７は、軸部材Ｈ７５２に軸支される軸支孔Ｈ７５７ａを有する本体部Ｈ５７５ｂと、軸支孔Ｈ７５７ａの中心軸を中心とする円弧形状に沿って解除部材Ｈ７５６の凸設ピンＨ７５６ｃを案内可能な大きさで本体部Ｈ７５７ｂに穿設される（凸設ピンＨ７５６ｃの移動軌跡を内側に含む大きさで穿設される）案内長孔Ｈ７５７ｃと、本体部Ｈ７５７ｂから突設され第１スプリングＨ７５８の上端を係合可能に湾曲して形成される第１係合部Ｈ７５７ｄと、軸支孔Ｈ７５７ａの中心軸から径方向外側に最大径で張り出した位置から軸支孔Ｈ７５７ａを軸とする周方向に沿って本体部Ｈ７５７ｂから凸設される鉤状部Ｈ７５７ｅと、軸支孔Ｈ７５７ａを軸とする周方向に沿って本体部Ｈ５７５ｂに凹設され第２スプリングＨ７５９の端部が係合される第２係合部Ｈ７５７ｆと、を主に備える。

【２１４３７】

本実施形態では、図１８８５（ａ）に示す角度大状態において、解除部材Ｈ７５６が回転爪部材Ｈ７５７に対して後転方向（図１８８５（ａ）時計回り方向）の終端位置に配置される。そのため、角度大状態において、被当接部Ｈ７５６ｄに押し下げ方向の負荷がかけられると、解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７が一体となって後転方向に回転する。一方、角度大状態において、被当接部Ｈ７５６ｄに押し下げ方向の負荷がかけられると、図１８８５（ｂ）に示す角度小状態に至るまでは解除部材Ｈ７５６のみを回転させ回転爪部材Ｈ７５７の姿勢を維持することができる。

【２１４３８】

次いで、操作ユニットＨ１８０の動作について説明する。初めに、図１８８６及び図１８８７を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、遊技者が押し込み操作する場合に動作について説明する。

【２１４３９】

図１８８６及び図１８８７は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１８８６では、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図１８８７では、図１８８６の状態から遊技者が傾倒装置Ｈ７１０を終端位置まで押し込んだ状態が図示される。また、図１８８６及び図１８８７では、傾倒装置Ｈ７１０を押圧操作する遊技者の手の一例が２点鎖線で図示される。

【２１４４０】

図１８８６に示すように、傾倒装置Ｈ７１０は、ねじりバネＨ７１７により後転方向（図１８８６時計周り）の付勢力を受けると共に、側面側反射部Ｈ７１２の被係合凹部Ｈ７１２ａが回転爪部材Ｈ７５７の鉤状部Ｈ７５７ｅに引っ掛けられる。これにより、傾倒位置に配置された状態で傾倒装置Ｈ７１０が姿勢維持される。即ち、傾倒位置に配置された状態において傾倒装置Ｈ７１０には、後転方向（図１８８６時計回り）の付勢力が常時作

用される。
【２１４４１】
図１８８６に示す状態において、傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５ｇは、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａの検出溝に挿通されると共に、ボタン検出センサＨ７２６の下方側センサＨ７２６ｂの検出溝の手前に配置される。これにより、パチンコ機Ｈ１０は、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置されることと、遊技者による押圧操作がされていないこととを認識することができる。
【２１４４２】
図１８８７に示すように、遊技者が傾倒装置Ｈ７１０を押し込む操作を行うと、傾倒装置Ｈ７１０が前転方向（図１８８６反時計周り）に約３°回転する。この状態において、傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５ｇは、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａの検出溝に挿通されると共に、ボタン検出センサＨ７２６の下方側センサＨ７２６ｂの検出溝に挿通される。
【２１４４３】
従って、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａ及び下方側センサＨ７２６ｂの検出状態の変化を判定することにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から遊技者に押し込み操作されたことを判定することができる。
【２１４４４】
次いで、図１８８６、図１８８８及び図１８８９を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に第１の速度（円板カムＨ７５４の回転速度）で変位する場合の動作について説明する。図１８８８及び図１８８９は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１８８８及び図１８８９では、図１８８６に示す状態から円板カムＨ７５４が所定量だけ前転方向（図１８８８反時計回り方向）に回転し回転爪部材Ｈ７５７が姿勢変化した状態が図示される。
【２１４４５】
図１８８８及び図１８８９に示すように、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置され、かつ、駆動手段Ｈ７５０が第１初期状態とされる図１８８６に示す状態から、円板カムＨ７５４を前転方向（図１８８６反時計回り方向）に回転させると、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１が解除部材Ｈ７５６の被当接部Ｈ７５６ｄを押し下げることで解除部材Ｈ７５６が後転方向（図１８８６時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合が外れる位置まで後転方向に回転する。
【２１４４６】
このとき、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５の案内孔Ｈ７５５ａの一方の終端位置（傾倒装置Ｈ７１０に連結される側から遠い側の終端位置）に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが配置される。よって、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向の（起立位置への）動作は、アーム部材Ｈ７５５により規制されるので、傾倒装置Ｈ７１０の上昇動作が、円板カムＨ７５４の回転角度に対応した動作態様とされる。
【２１４４７】
そして、図１８８９に示すように、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが、傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａ（アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂが連結される位置）と円板カムＨ７５４の回転軸とを繋ぐ直線上まで回転されることで、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置まで変位される。
【２１４４８】
なお、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１と解除部材Ｈ７５６との当接が解除され、解除部材Ｈ７５６が図１８８８に示す状態から前転方向（図１８８８反時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒位置における傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａと係合可能な位置（図１８８６に示す位置と同じ位置）まで前転方向に回転される。
【２１４４９】

よって、図１８８９に示す起立位置に配置された状態から、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が遊技者に押圧操作される場合には、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５を円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅに倣って（案内孔Ｈ７５５ａに沿って連結ピンＨ７５４ｅを摺動させて）変位させることで、傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置まで変位させると共に、傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置に保持することができる。

【２１４５０】

また、図１８８９に示す起立位置に配置された状態から、円板カムＨ７５４が前転方向（図１８８９反時計回り方向）にさらに回転される場合には、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが前転方向に回転することで、アーム部材Ｈ７５５が下方に向けて引っ張られ、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に向けて変位される。即ち、円板カムＨ７５４の回転角度に対応した下降動作を傾倒装置Ｈ７１０にさせることができる。

【２１４５１】

次いで、図１８９０及び図１８９１を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に第２の速度（傾倒装置Ｈ７１０の軸部材Ｈ７１６に配設されるねじりバネＨ７１７の付勢力）で変位する場合の動作について説明する。図１８９０及び図１８９１は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＸＸＶＩ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１８９０では、図１８８５に示す状態から円板カムＨ７５４が回転され、第２突出部Ｈ７５４ｃ２が被当接部Ｈ７５６ｄに当接された状態が図示され、図１８９１では、図１８９０に示す状態から円板カムＨ７５４が所定量だけ前転方向（図１８９０の反時計回り方向）に回転し回転爪部材Ｈ７５７が姿勢変化した状態が図示される。

【２１４５２】

図１８９０及び図１８９１に示すように、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置され、かつ、駆動手段Ｈ７５０が第２初期状態とされる図１８９０に示す状態から、円板カムＨ７５４を前転方向（図１８９０反時計回り方向）に回転させると、円板カムＨ７５４の第２突出部Ｈ７５４ｃ２が解除部材Ｈ７５６の被当接部Ｈ７５６ｄを押し下げることで解除部材Ｈ７５６が後転方向（図１８９０時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合が外れる位置まで後転方向に回転する。

【２１４５３】

このとき、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５の案内孔Ｈ７５５ａの他方の終端位置（傾倒装置Ｈ７１０に連結される側に近い終端位置）に近い位置に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが配置される（即ち、一方の終端位置との間に距離を隔てた位置に配置される）。よって、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向の動作は、上記した第１の速度（円板カムＨ７５４の回転速度）に伴って変位されず、傾倒装置Ｈ７１０に配置されるねじりバネＨ７１７の付勢力による変位速度に伴って変位される。

【２１４５４】

なお、第１１１実施形態では、ねじりバネＨ７１７の付勢力による傾倒装置Ｈ７１０の変位速度は、第１の速度よりも速く設定される（即ち、付勢力が十分に強く設定される）。従って、第１１１実施形態では、第１の速度と第２の速度とで、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向への動作速度を変更することができるので、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出態様を増やすことができる。その結果、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出効果を向上できる。

【２１４５５】

また、第１１１実施形態では、円板カムＨ７５４を後転方向（図１８８６～図１８９１時計回り方向）に回転させて、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２を被当接部Ｈ７５６ｄに当接させて解除部材Ｈ７５６を前転方向（図１８８６～図１８９１反時計回り方向）に回転させた場合には、上記したように回転爪部材Ｈ７５７が非変位とされる（図１８８５（ｂ）参照）。これにより、回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合を解除しない態様で、円板カムＨ７５４の位置を変更することができる。その結果、第１の速度または第２の速度で連続して傾倒装置Ｈ

７１０を起立位置に変位させることが可能となり、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出効果を向上することができる。

【２１４５６】

次いで、図１８９２から図１９００を参照して、揺動装置Ｈ７３０について説明する。初めに、図１８９２から図１８９５を参照して、揺動装置Ｈ７３０の全体構成について説明する。図１８９２（ａ）は、揺動装置Ｈ７３０上面図であり、図１８９２（ｂ）は、図１８９２（ａ）の矢印ＭＤＣＣＣＸＣＩＩｂ方向視における揺動装置Ｈ７３０の側面図であり、図１８９３（ａ）は、図１８９２（ｂ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩａ線における揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１８９３（ｂ）は、図１８９２（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩｂ線における揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１８９４は、揺動装置Ｈ７３０の分解正面斜視図であり、図１８９５は、揺動装置Ｈ７３０の分解背面斜視図である。

【２１４５７】

なお、上記したように、揺動装置Ｈ７３０はパチンコ機Ｈ１０に対して変位部材Ｈ７９０を正面側上方に傾けた状態で下枠部材Ｈ７２０に配置される（図１８７９参照）が、揺動装置Ｈ７３０における以下の説明では、ベース手段Ｈ７７０、駆動手段Ｈ７８０、及び、変位部材Ｈ７９０が配設される方向（図１８９２（ａ）の上下方向）を前後方向として説明する。

【２１４５８】

図１８９２から図１８９５に示すように、揺動装置Ｈ７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。

【２１４５９】

なお、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設されており、第１コイルバネＨ７９３及び第２コイルバネＨ７９４により駆動手段Ｈ７８０に対して正面側に平行に張り出した状態（図１８９２（ａ）に示す状態）を駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の初期位置として説明する。

【２１４６０】

変位部材Ｈ７９０は、光を透過可能な無色透明な樹脂材料から形成されており、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース手段Ｈ７７０から出射される光を正面側に透過可能に構成される。また、変位部材Ｈ７９０は、正面側に向かって半球状に湾曲して形成される透過部Ｈ７９１と、その透過部Ｈ７９１の背面側の縁部３箇所から背面側に向かって突出する係合部Ｈ７９２と、を主に備える。

【２１４６１】

透過部Ｈ７９１は、背面側（矢印Ｂ方向側）から入射される光を拡散して正面側から出射させるための光拡散部であり、半円形状に形成される内方側の側面（背面側の側面）に凹凸状に形成される凹凸部Ｈ７９１ａを備え、無色透明の光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２１４６２】

なお、透過部Ｈ７９１の凹凸部Ｈ７９１ａは、透過部Ｈ７９１の外方側の側面（正面側の側面）に形成されても良いし、透過部Ｈ７９１の内方側および外方側の両側面に形成しても良い。また、透過部Ｈ７９１が平坦面を有する平板状に形成され、その平坦面の少なくとも一方の側面に凹凸部Ｈ７９１ａが形成されても良い。また、凹凸形状の凹凸部Ｈ７９１ａにより光を拡散するものでなく、レーザー光等により透過部Ｈ７９１の内部に形成した傷により光を拡散するものであっても良い。

【２１４６３】

係合部Ｈ７９２は、上方側の同一高さ位置に形成される一対の上側係合部Ｈ７９２ａと、下方側の縁部に形成される下側係合部Ｈ７９２ｂと、を備え、それら一対の上側係合部Ｈ７９２ａ及び下側係合部Ｈ７９２ｂがベース手段Ｈ７７０または駆動手段Ｈ７８０に変

位可能な状態で連結される。これにより、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能とされる。

【２１４６４】

一対の上側係合部Ｈ７９２ａは、背面側の突出先端部から屈曲する屈曲部Ｈ７９２ａ１と、その屈曲部Ｈ７９２ａ１から背面側に向かって円柱状に突出する円柱部Ｈ７９２ａ２と、を主に備える。

【２１４６５】

屈曲部Ｈ７９２ａ１は、駆動手段Ｈ７８０に係合される部分であり、組み立て状態では駆動手段Ｈ７８０の内側に配設され、変位部材Ｈ７９０が正面側（矢印Ｆ方向側）へ所定距離変位する場合に、駆動手段Ｈ７８０に当接して変位部材Ｈ７９０の正面側への変位を規制可能とされる。これにより、駆動手段Ｈ７８０からの変位部材Ｈ７９０の脱落を抑制できる。なお、第１１１実施形態では、一対の上側係合部Ｈ７９２ａのそれぞれの屈曲部Ｈ７９２ａ１が、それぞれ反対方向となる左右方向外側に向けて屈曲される。

【２１４６６】

円柱部Ｈ７９２ａ２は、上側係合部Ｈ７９２ａと駆動手段Ｈ７８０との間に配設される第１コイルバネＨ７９３を案内する部分であり、第１コイルバネＨ７９３の内径よりも小さい外径に形成され、第１コイルバネＨ７９３の内部に挿入可能とされる。なお、上側係合部Ｈ７９２ａは、円柱部Ｈ７９２ａ２に案内される第１コイルバネＨ７９３の付勢力により正面側に向かって付勢された状態で駆動手段Ｈ７８０に配設される。

【２１４６７】

下側係合部Ｈ７９２ｂは、ベース手段Ｈ７７０と係合される屈曲部Ｈ７９２ｂ１を備える。組み立て状態では、ベース手段Ｈ７７０に形成される溝部の内側に屈曲部Ｈ７９２ｂ１が挿入され、正面側（矢印Ｆ方向側）または背面側（矢印Ｂ方向側）へ変位部材Ｈ７９０が所定距離変位する場合に、ベース手段Ｈ７７０に当接して変位部材Ｈ７９０の正面側または背面側への変位を規制可能とされる。これにより、ベース手段Ｈ７７０からの変位部材Ｈ７９０の脱落を抑制できる。

【２１４６８】

なお、下側係合部Ｈ７９２ｂとベース手段Ｈ７７０との間には、第２コイルバネＨ７９４が配設されており、その第２コイルバネＨ７９４の付勢力により、下側係合部Ｈ７９２ｂは正面側に向かって付勢された状態で配設される。

【２１４６９】

変位部材Ｈ７９０は、第１コイルバネＨ７９３及び第２コイルバネＨ７９４により正面側に付勢されることで、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位した後で初期位置に変位することができる。即ち、変位部材Ｈ７９０に負荷がかけられていない状態（例えば、駆動手段Ｈ７８０からの駆動力が作用していない状態）では、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０が初期位置に配置される。

【２１４７０】

次いで、図１８９６を参照して、ベース手段Ｈ７７０について説明する。図１８９６（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０の分解正面斜視図であり、図１８９６（ｂ）は、ベース手段Ｈ７７０の分解背面斜視図である。

【２１４７１】

図１８９６（ａ）及び図１８９６（ｂ）に示すように、ベース手段Ｈ７７０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に締結固定される上側ベース部材Ｈ７７１と、その上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下側ベース部材Ｈ７７２と、上側ベース部材Ｈ７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４と、を主に備える。

【２１４７２】

上側ベース部材Ｈ７７１は、正面側に基板部材Ｈ７７３が取り付けられる正面部Ｈ７７１ａと、その正面部Ｈ７７１ａの上方側の縁部から背面側に向かって延設される上面部Ｈ

７７１ｂと、正面部Ｈ７７１ａの下方側の縁部の左右両端から背面側に向かって突出される第１係合部Ｈ７７１ｃと、正面部Ｈ７７１ａの下方側の縁部から下方側に向かって突出される第２係合部Ｈ７７１ｄと、正面部Ｈ７７１ａの左右両側に位置し前後方向に開口する円環形状に形成される挿通孔Ｈ７７１ｅと、を主に備え、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。

【２１４７３】

正面部Ｈ７７１ａは、正面視において上方側が開放される略コ字形状に形成され、開放部分を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３に配線を連結することができる。また、正面部Ｈ７７１ａの開放部分を覆設する位置に基板部材Ｈ７７３を配設可能に形成され、開放部分を介して基板部材Ｈ７７３の発光により生じる熱を放温することが可能とされる。これにより、基板部材Ｈ７７３が熱により破損することを抑制できる。

【２１４７４】

また、正面部Ｈ７７１ａには、左右両側に一対形成される挿通孔Ｈ７７１ｅの内側部分に第１拡散部材Ｈ７７４を挿通した螺子を螺入可能な締結部Ｈ７７１ａ１が円柱状に形成される。これにより、正面部Ｈ７７１ａの正面側に第１拡散部材Ｈ７７４を締結固定することができる。

【２１４７５】

なお、基板部材Ｈ７７３は、正面部Ｈ７７１ａに円柱状に形成される締結部Ｈ７７１ａ１を避けるように円弧状に凹設される凹部Ｈ７７３ａを備え、その凹部Ｈ７７３ａの内側に締結部Ｈ７７１ａ１を挿入した状態で正面部Ｈ７７１ａの正面側に配設される。これにより、上側ベース部材Ｈ７７１に対する基板部材Ｈ７７３の上下左右方向への移動を規制でき、また、正面側に第１拡散部材Ｈ７７４が配設されることで、上側ベース部材Ｈ７７１に対する基板部材Ｈ７７３の前後方向の移動が規制される。

【２１４７６】

上面部Ｈ７７１ｂは、後述する駆動手段Ｈ７８０を軸支する部分であり、上下方向に円形状に貫通され駆動手段Ｈ７８０の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが挿通される上側軸支部Ｈ７７１ｂ１を備える。これにより、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して相対変位可能な状態で保持される。

【２１４７７】

第１係合部Ｈ７７１ｃは、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に係合する部分であり、下枠部材Ｈ７２０に係合するように先端が屈曲される略Ｌ字状に形成される。下枠部材Ｈ７２０に揺動装置Ｈ７３０を配設する際には、第１係合部Ｈ７７１ｃを下枠部材Ｈ７２０に係合させることで、挿通孔Ｈ７７１ｅを挿通した螺子を下枠部材Ｈ７２０に締結させやすくできる。

【２１４７８】

なお、ベース手段Ｈ７７０は、挿通孔Ｈ７７１ｅを挿通した螺子を下枠部材Ｈ７２０に締結することにより、下枠部材Ｈ７２０に対して固定される。これにより、後述するように駆動手段Ｈ７８０が動作される際に、ベース手段Ｈ７７０が下枠部材Ｈ７２０に対して非変位とされる。

【２１４７９】

第２係合部Ｈ７７１ｄは、下側ベース部材Ｈ７７２に係合する部分であり、下側ベース部材Ｈ７７２に係合するように先端が屈曲される略Ｌ字状に形成される。上側ベース部材Ｈ７７１に下側ベース部材Ｈ７７２を配設する際には、第２係合部Ｈ７７１ｄを下側ベース部材Ｈ７７２に係合させることで、下側ベース部材Ｈ７７２を挿通した螺子を上側ベース部材Ｈ７７１に締結させやすくできる。

【２１４８０】

下側ベース部材Ｈ７７２は、上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、第２係合部Ｈ７７１ｄが係合される底面部Ｈ７７２ａと、その底面部Ｈ７７２ａの背面側（矢印Ｄ方向側）の縁部から上方側に延設され、上側ベース部材Ｈ７７１の背面側

の一部を覆う背面部Ｈ７７２ｂと、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。
【２１４８１】
底面部Ｈ７７２ａは、第２係合部Ｈ７７１ｄを挿入させると共に第２係合部Ｈ７７１ｄの先端を係合可能な形状に凹設される被係合部Ｈ７７２ａ１と、矩形状に開口され変位部材Ｈ７９０の下側係合部Ｈ７９２ｂの屈曲部Ｈ７９２ｂ１を挿入可能な開口部Ｈ７７２ａ２と、を主に備える。
【２１４８２】
開口部Ｈ７７２ａ２は、変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して初期位置から変位させる場合に、その変位を許容すると共に所定以上の変位を規制する部分であり、屈曲部Ｈ７９２ｂ１に対して所定の隙間を有する大きさに形成される。
【２１４８３】
背面部Ｈ７７２ｂは、上下方向に円形状に貫通され駆動手段Ｈ７８０の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが挿通される下側軸支部Ｈ７７２ｂ１と、前後方向に穿設され上側ベース部材Ｈ７７１に螺入する螺子を背面側から挿入可能な挿通孔Ｈ７７２ｂ２と、を主に備える。
【２１４８４】
下側軸支部Ｈ７７２ｂ１は、上面部Ｈ７７１ｂに形成される上側軸支部Ｈ７７１ｂ１と同軸上に形成される。これにより、駆動手段Ｈ７８０は、ベース手段Ｈ７７０に対して上下の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが軸支され、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１の中心を軸として回転可能とされる。
【２１４８５】
基板部材Ｈ７７３は、正面側に複数の発光手段Ｈ７７３ｂが配置される電子基板（プリント基板）であり、正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４に向けて光を発光可能とされる。なお、第１拡散部材Ｈ７７４に出射される光は、第１拡散部材Ｈ７７４を透過して変位部材Ｈ７９０の背面側に出射され、変位部材Ｈ７９０を介し操作ユニットＨ１８０の正面側から出射される。
【２１４８６】
第１拡散部材Ｈ７７４は、正面視において基板部材Ｈ７７３を覆設する大きさに形成される。これにより、操作ユニットＨ１８０の内部に不正部材を挿入できたとしても、基板部材Ｈ７７３まで、その不正部材が挿入されることを抑制できる。即ち、基板部材Ｈ７７３は、遊技者の操作が不可能な領域に配置される。
【２１４８７】
また、第１拡散部材Ｈ７７４は、発光手段Ｈ７７３ｂの光が照射される領域が正面側に向かって部分的に膨出され、その膨出部分の正面側の側面に凹凸状に形成される凹凸部Ｈ７７４ａが形成される。発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光は、凹凸部Ｈ７７４ａを介して正面側に出射されることにより左右上下方向に拡散される。これにより、第１拡散部材Ｈ７７４の正面側に配設される変位部材Ｈ７９０に発光手段Ｈ７７３ｂの光を照射しやすくできる。
【２１４８８】
また、第１拡散部材Ｈ７７４は、上側ベース部材Ｈ７７１の締結部Ｈ７７１ａ１に螺入する螺子を挿通可能に前後方向に挿通する挿通孔Ｈ７７４ｂを備え、正面側から挿通孔Ｈ７７４ｂを挿通した螺子を上側ベース部材Ｈ７７１に締結することで、上側ベース部材Ｈ７７１に締結固定される。
【２１４８９】
次いで、図１８９７を参照して、駆動手段Ｈ７８０について説明する。図１８９７（ａ）は、駆動手段Ｈ７８０の分解正面斜視図であり、図１８９７（ｂ）は、駆動手段Ｈ７８０の分解背面斜視図である。
【２１４９０】
図１８９７（ａ）及び図１８９７（ｂ）に示すように、駆動手段Ｈ７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ

７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される錘部材Ｈ７８２と、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ７８３と、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ７８４と、を主に備える。

【２１４９１】

錘部材Ｈ７８２は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａの回転により回転される部材であり、駆動軸Ｈ７８１ａが挿入される挿入孔Ｈ７８２ａを備える。また、錘部材Ｈ７８２は、半円形状に形成されると共に、挿入孔Ｈ７８２ａが円形部分の中心位置に形成される。即ち、錘部材Ｈ７８２は、駆動軸Ｈ７８１ａの軸に対して一方に偏る位置に配置される。

【２１４９２】

そのため、錘部材Ｈ７８２を駆動軸Ｈ７８１ａの軸を中心に回転させた際には、錘部材Ｈ７８２の回転に伴って錘部材Ｈ７８２の重心が駆動軸Ｈ７８１ａの軸回りを回転変位することとなり、錘部材Ｈ７８２の回転に伴って錘部材Ｈ７８２の遠心力が作用する方向を変更することができる。この遠心力の作用する方向の変化により、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して変位させることができる。なお、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位についての詳しい説明は後述する。

【２１４９３】

上側カバー部材Ｈ７８３は、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の上方側（矢印Ｕ方向側）を覆設するために下方側（矢印Ｄ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ７８３ａと、そのカバー部Ｈ７８３ａの左右両側から上方側に向かって突設されると共に上方側の端部に背面側に向かって凹設される収容凹部Ｈ７８３ｂ１が形成される突設部Ｈ７８３ｂと、カバー部Ｈ７８３ａの上面から上方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１に挿入される上側軸部Ｈ７８３ｃと、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。

【２１４９４】

収容凹部Ｈ７８３ｂ１は、上述した変位部材Ｈ７９０（図１８９５参照）の上側係合部Ｈ７９２ａが挿入される部分であり、左右外側の側面に上側係合部Ｈ７９２ａの屈曲部Ｈ７９２ａ１と係合可能な凸部Ｈ７８３ｂ２が内側に向かって突出される。

【２１４９５】

また、凸部Ｈ７８３ｂ２と上下に隣り合う部分には、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の一部が背面側に向かって切り欠かれる。これにより、凸部Ｈ７８３ｂ２を左右外側に変形可能とされ、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側に上側係合部Ｈ７９２ａを挿入する際には、凸部Ｈ７８３ｂ２を左右外側に変形させて上側係合部Ｈ７９２ａを挿入可能な大きさの開口を形成できる。

【２１４９６】

一方で、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側に上側係合部Ｈ７９２ａを挿入した後では、凸部Ｈ７８３ｂ２を元の位置に戻すことで、凸部Ｈ７８３ｂ２を上側係合部Ｈ７９２ａの屈曲部Ｈ７９２ａ１と前後方向に重なる位置に配置できる。その結果、変位部材Ｈ７９０が上側カバー部材Ｈ７８３（駆動手段Ｈ７８０）から抜け出ることを抑制できる。

【２１４９７】

なお、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側部分における左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の開口幅は、屈曲部Ｈ７９２ａ１を除く上側係合部Ｈ７９２ａの左右方向における厚みよりも若干大きく形成される。これにより、所定の駆動力が変位部材Ｈ７９０に作用する場合に変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して左右方向に変位可能とされる。なお、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位ついての詳しい説明は後述する。

【２１４９８】

下側カバー部材Ｈ７８４は、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の下方側（矢印Ｄ方向側）を覆設するために上方側（矢印Ｕ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ７８４ａと、カバー部Ｈ７８４ａの下面から下方に向かって円柱状に突設されベース

手段Ｈ７７０の下側軸支部Ｈ７７２ｂ１に挿入される下側軸部Ｈ７８４ｂと、下側カバー部材Ｈ７８４の背面側の縁部から下方側に向かって突設され正面側に弾性体Ｈ７８５が配設される被当接部Ｈ７８４ｃと、を主に備え、無色透明の樹脂材料から形成される。

【２１４９９】

被当接部Ｈ７８４ｃは、上述したボタン部Ｈ１８１が遊技者に押圧操作され傾倒装置Ｈ７１０が下方側に押し込まれる位置に変位した場合に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して当接される部分である。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作した場合には、その遊技者の操作力が駆動手段Ｈ７８０に作用される。従って、ボタン部Ｈ１８１の操作に伴って傾倒装置Ｈ７１０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０を変位させることができる。その結果、ボタン部Ｈ１８１を操作する遊技者の興趣を向上できる。なお、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作に伴う揺動装置Ｈ７３０の変位についての詳しい説明は後述する。

【２１５００】

次いで、図１８９８から図１９００を参照して、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０および変位部材Ｈ７９０を変位させた場合について説明する。初めに、図１８９８及び図１８９９を参照して、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位について説明する。図１８９８（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０の上面図であり、図１８９８（ｂ）は、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における駆動手段Ｈ７８０の断面図であり、図１８９９（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０の上面図であり、図１８９９（ｂ）は、図１８９９（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＸｂ線における駆動手段Ｈ７８０の断面図である。

【２１５０１】

なお、図１８９８（ａ）及び図１８９８（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に回転させた状態（以下「左向き状態」と称す）が図示され、図１８９９（ａ）及び図１８９９（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に反時計回り方向（正面側を右方向）に回転させた状態（以下「右向き状態」と称す）が図示される。また、以下の説明では、左向き状態と右向き状態との間の中間位置に駆動手段Ｈ７８０が配置される状態（図１８９２に示す状態）を「中間配置状態」と称して説明する。また、図１８９８（ｂ）及び図１８９９（ｂ）では、錘部材Ｈ７８２の変位により作用する遠心力の方向が矢印Ｈ７８２ｂの符号を付して図示される。

【２１５０２】

また、錘部材Ｈ７８２を駆動する駆動モータＨ７８１（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【２１５０３】

図１８９８に示すように、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１が回転されて、錘部材Ｈ７８２が駆動軸Ｈ７８１ａに対して右側に位置する際には、その錘部材Ｈ７８２の遠心力が右方向に作用される（図１８９８（ｂ）の矢印Ｈ７８２ｂ参照）。これにより、駆動手段Ｈ７８０の背面側が右方向に引っ張られ、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に反時計回り方向（正面側を右方向）に回転される。

【２１５０４】

一方、図１８９９に示すように、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１が回転されて、錘部材Ｈ７８２が駆動軸Ｈ７８１ａに対して左側に位置する際には、その錘部材Ｈ７８２の遠心力が左方向に作用される（図１８９９（ｂ）の矢印Ｈ７８２ｂ参照）。これにより、駆動手段Ｈ７８０の背面側が左方向に引っ張られ、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に回転される。

【２１５０５】
この場合、上記したように駆動手段Ｈ７８０には、変位部材Ｈ７９０が配設されるので、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を変位させた場合には、ベース手段Ｈ７７０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができる。よって、ベース手段Ｈ７７０の第１拡散部材Ｈ７７４及び基板部材Ｈ７７３に対する変位部材Ｈ７９０の姿勢を変化させることができるので、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して遊技者側に出射される光の態様を変更することができる。その結果、光の態様の変化による演出効果を向上することができる。
【２１５０６】
即ち、発光手段の正面に透過手段を配設し、発光手段から発光された光を透過手段に入射させ、透過手段を透過する光を遊技者に視認させることで、演出効果を得るものがある。この場合、発光手段の発光の態様（例えば、発光強度や点滅の間隔など）を変化させ、視認される光の態様を変化させるものもあるが、演出効果が十分ではない。また、発光手段と透過手段とを一体化（ユニット化）して、それら発光手段および透過手段から構成されるユニットを変位させることで、ユニットの変位に伴う光の移動を視認させるものもあるが、発光手段と透過手段との関係は一定であるため、透過手段を介して視認される光の態様（発光手段から透過手段に入射され、透過手段を透過する光の態様）自体は一様であり、演出効果が十分ではない。
【２１５０７】
これに対し、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３の正面側に配設され光を拡散可能な凹凸部Ｈ７９１ａを有する変位部材Ｈ７９０が、発光手段Ｈ７７３ｂの光の出射方向と交差する方向に発光手段Ｈ７７３ｂに対して変位することができるので、変位部材Ｈ７９０に対する光の入射位置を変更することができる。これにより、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変位部材Ｈ７９０の変位により変更できる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出を向上できる。
【２１５０８】
即ち、発光手段Ｈ７７３ｂに対して光を透過可能な変位部材Ｈ７９０が相対変位可能に配設されるので、発光手段Ｈ７７３ｂから変位部材Ｈ７９０への光の入射態様（入射角度）及び、変位部材Ｈ７９０を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）を変化させることができる。その結果、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。
【２１５０９】
さらに、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３が下枠部材Ｈ７２０に固定され、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３及び下枠部材Ｈ７２０に対して変位可能とされるので、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変化させる演出に加え、発光手段Ｈ７７３ｂの発光状態（発光、非発光）に関わらず、変位部材Ｈ７９０を変位させて変位部材Ｈ７９０の変位を視認させる演出も行うことができる。
【２１５１０】
また、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３が下枠部材Ｈ７２０に固定され、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３及び下枠部材Ｈ７２０に対して変位可能とされるので、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変更する際に、基板部材Ｈ７７３が振動することを抑制できる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）の破損を抑制できる。
【２１５１１】
さらに、上記したように、変位部材Ｈ７９０は、凹凸部Ｈ７９１ａを備え、変位部材Ｈ７９０に入射する光を拡散可能とされるので、凹凸部Ｈ７９１ａが形成されていない場合に比べて、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する変位部材Ｈ７９０の変位による光の態様の変化を大きくできる。その結果、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光

の態様を変化させ、演出効果を向上できる。
【２１５１２】
なお、第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０は、凹凸部Ｈ７９１ａを有する場合について説明したが、変位の前後で発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光の入射角を変更できるものであれば、変位部材Ｈ７９０が凹凸部Ｈ７９１ａを備えず平坦面に形成されるものであっても良い。
【２１５１３】
また、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に変位可能に構成されるので、駆動手段Ｈ７８０に伴って変位する変位部材Ｈ７９０も同様に回転変位される。従って、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位される際に、変位部材Ｈ７９０は前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも変位される。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光が変位部材Ｈ７９０に入射するまでの距離を変更することができるので、変位部材Ｈ７９０の変位に伴って、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して遊技者側に出射される光の態様を変更しやすくできる。その結果、発光手段による光の演出を向上できる。
【２１５１４】
なお、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、錘部材Ｈ７８２を駆動モータＨ７８１により回転させることで、錘部材Ｈ７８２の遠心力が作用する向きを変更してベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０の位置を左向き状態および右向き状態の間で変更することができると共に、駆動手段Ｈ７８０に配設される変位部材Ｈ７９０をベース手段Ｈ７７０に対して変位することができる。よって、駆動モータＨ７８１の駆動を継続させることで、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０の位置を左向き状態および右向き状態に繰り返し変位させることができる。
【２１５１５】
即ち、揺動装置Ｈ７３０に連結される（揺動装置Ｈ７３０と一緒に変位される）変位部材Ｈ７９０は、駆動モータＨ７８１が配設され、駆動モータＨ７８１の駆動力により変位される。従って、駆動モータＨ７８１の駆動力を利用して、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができるので、任意のタイミング（駆動モータＨ７８１を駆動するタイミング）で発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができる。
【２１５１６】
また、揺動装置Ｈ７３０に駆動モータＨ７８１が配設されるので、駆動モータＨ７８１が下枠部材Ｈ７２０に固定される基板部材Ｈ７７３に配設される場合に比べて、変位部材Ｈ７９０に駆動力を伝達するまでの介在部品を少なくできる。従って、駆動モータＨ７８１の駆動力を揺動装置Ｈ７３０（変位部材Ｈ７９０）に使えやすくできる。
【２１５１７】
また、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０は、上述したように、揺動装置Ｈ７３０はパチンコ機Ｈ１０に対して変位部材Ｈ７９０を正面側上方に傾けた状態で下枠部材Ｈ７２０に配置される（図１８７９参照）ので、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態となる位置に変位させる場合には、錘部材Ｈ７８２を駆動軸Ｈ７８１ａに対して下方側に配置することで、錘部材Ｈ７８２の重力によりベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とされる位置まで回転させることができる。即ち、駆動手段Ｈ７８０の錘部材Ｈ７８２の停止位置を変更する（錘部材Ｈ７８２を所定位置に停止させる）ことで、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の停止位置を変更することができる。
【２１５１８】
さらに、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して駆動手段Ｈ７８０に当接され、その当接により駆動手段Ｈ７８

０をベース手段Ｈ７７０に対して中間配置状態の位置に変位させることができる。
【２１５１９】
　また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された場合には、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０と共に所定位置（駆動手段Ｈ７８０が中間位置状態とされる位置）に変位される。従って、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができる。
【２１５２０】
　即ち、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１を押圧操作した際に、駆動手段Ｈ７８０及び変位部材Ｈ７９０を変位させることができ、変位部材Ｈ７９０の少なくとも一部を第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に対して近づける方向（第１拡散部材Ｈ７７４の正面側）に変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を変位させることができる。従って、第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に透過部Ｈ７９１が近づくので、透過部Ｈ７９１を介して基板部材Ｈ７７３から出射される光を拡散しやすくできる。その結果、ボタン部Ｈ１８１が操作されたことを光により遊技者に認識させやすくでき、遊技者の興趣を向上できる。
【２１５２１】
　なお、遊技者がボタン部Ｈ１８１の押圧操作に際に、変位部材Ｈ７９０の少なくとも一部が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に対して離れる方向（第１拡散部材Ｈ７７４の正面側から退避する方向）に変位するように構成しても良い。これによれば、透過部Ｈ７９１を第１拡散部材Ｈ７７４の正面側から退避させることができるので、上記した第１拡散部材Ｈ７７４の正面側に透過部Ｈ７９１が変位される場合に比べて、透過部Ｈ７９１による基板部材Ｈ７７３の光の拡散を抑えることができる。その結果、基板部材Ｈ７７３から出射される光を遊技者の手（ボタン部Ｈ１８１）に照射しやすくでき、遊技者の手に光を当てることでボタン部Ｈ１８１を押圧操作する際の興趣を向上できる。
【２１５２２】
　また、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接可能に変位される傾倒装置Ｈ７１０を備え、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接された傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴って駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位可能とされるので、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を傾倒装置Ｈ７１０の変位に連動させることができる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位による演出効果を高めることができる。
【２１５２３】
　なお、傾倒装置Ｈ７１０は、遊技者により操作される操作ユニットＨ１８０を備え、その操作ユニットＨ１８０）操作により、傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴って駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）を変位させることができるので、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を所望のタイミングで変位させることができる。これにより、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様と遊技者のボタン部Ｈ１８１の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。
【２１５２４】
　例えば、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができるので、光の演出態様の変更によりボタン部Ｈ１８１を所定位置まで押下したことを遊技者に認識させることができる。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を何度も押圧操作したり、遊技者がボタン部Ｈ１８１を必要以上に押圧操作し続けることを抑制できる。その結果、遊技者の間違った認識の操作によりボタン部Ｈ１８１が破損することを抑制できる。
【２１５２５】
　また、第１１１実施形態では、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が駆動モータＨ７８１の駆動力により変位可能とされるので、駆動モータＨ７８１の駆動力により駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位される態様に加え、傾倒装置Ｈ７１０の当接によ

り駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位（連動）される態様とを形成できる。これにより、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位の態様のバリエーションを増やすことができる。

【２１５２６】

なお、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１の押圧操作がされて傾倒装置Ｈ７１０が駆動手段Ｈ７８０に当接された場合には（当接状態では）、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位が規制される。即ち、傾倒装置Ｈ７１０を駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接させることで、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を規制することができるので、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を所望のタイミングで停止させることができる。

【２１５２７】

また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１は、遊技者により操作されるので、ボタン部Ｈ１８１の操作によって、傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴う駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を構成できる。よって、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位の規制を遊技者の所望のタイミングで行わせることができる。これにより、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）を介して視認される光の態様の変化と、ボタン部Ｈ１８１の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【２１５２８】

なお、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、左向き状態や右向き状態とされる際に遊技者にボタン部Ｈ１８１を押下させて駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とする位置に変位させる態様や、遊技者のボタン部Ｈ１８１の操作前に、駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とする位置に変位させて、ボタン部Ｈ１８１の押下持に駆動手段Ｈ７８０が変位しない態様を形成することができる。

【２１５２９】

また、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作し続けた場合には、変位部材Ｈ７９０の変位を規制した状態を維持することができるので、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様が変更しない演出態様を形成することができる。その結果、変位部材Ｈ７９０による光を演出態様（演出態様が変更される形態の他に演出態様が変更されない形態）を増やすことができ遊技者の興趣を向上できる。

【２１５３０】

さらに、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作し続けた場合に、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１を駆動することで、錘部材Ｈ７８２の回転により駆動手段Ｈ７８０に作用する遠心力を駆動手段Ｈ７８０に当接する傾倒装置Ｈ７１０に作用させることができる。これにより、ボタン部Ｈ１８１を押圧操作する感触を変更することができ、その結果、ボタン部Ｈ１８１を操作する遊技者の興趣を向上できる。

【２１５３１】

なお、第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に揺動される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０が上下または前後方向または上下方向に揺動されるように構成しても良い。

【２１５３２】

また、第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１の操作により変位部材Ｈ７９０を変位させる場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作に連動するものではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により変位部材Ｈ７９０を変位させるようにしても良い。この場合、各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作に合わせて、変位部材Ｈ７９０を変位させて光の態様を変更できるので、遊技者に各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５を操作できていることを認識させやすくできる。特に、決定ボタンＨ１９１に連動させるようにした場合には、変位部材Ｈ７９０の変位により光の態様の変化で調整後の設定に変更されたことを認識させやすくできる。

【２１５３３】

次いで、図１９００を参照して、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位に

ついて説明する。図１９００（ａ）及び図１９００（ｂ）は、揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１８９２（ｂ）のＭＤＣＣＣＸＣＩＩＩ線における断面に対応する。なお、図１９００（ａ）では、駆動手段Ｈ７８０が左向き状態に変位された状態が図示され、図１９００（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０が右向き状態に変位された状態が図示される。なお、左向き状態に変位された状態と、右向き状態に変位された状態とは、その変位方向が反対向きになるだけであるので、以下の説明では、左向き状態とされる場合についてのみ説明し、右向き状態とされる場合についての説明は省略する。

【２１５３４】

図１９００（ａ）に示すように、駆動手段Ｈ７８０が左向き状態に変位される場合には、ベース手段Ｈ７７０に対して軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に駆動手段Ｈ７８０が回転された際の慣性力が変位部材Ｈ７９０に伝達され、駆動手段Ｈ７８０に対して左方側（矢印Ｌ方向側）に変位する力が変位部材Ｈ７９０に作用する。

【２１５３５】

この場合、正面視における右方側（矢印Ｒ方向側）の上側係合部Ｈ７９２ａが収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内壁側に当接されることで、その当接部分を軸に回転され正面視における左方側（矢印Ｌ方向側）の上側係合部Ｈ７９２ａが収容凹部Ｈ７８３ｂ１の背面側に向かって押し込まれる。即ち、変位部材Ｈ７９０は、駆動手段Ｈ７８０に対して正面視における左方側が背面側に押し込まれ、透過部Ｈ７９１を左側に向かうにつれて背面側に傾けた姿勢とされる。

【２１５３６】

従って、第１１１実施形態では、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位と連動して変位部材Ｈ７９０を軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂの軸回りに変位させるだけでなく、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができる。

【２１５３７】

ここで、変位部材を変位するためにリンク構造等を変位部材に連結して、そのリンク構造により駆動手段の駆動力を変位部材に伝達して変位部材を変位させる構造では、変位部材の変位が駆動手段の駆動と一致（連動）するため、変位手段の変位の態様を複雑にすることが難しくなり、変位手段の変位による演出効果が低下する可能性があった。また、駆動手段の駆動力を変更して変位手段の変位態様を複雑にすることもできるが、この場合には駆動手段の制御が複雑になるという問題があった。

【２１５３８】

これに対し、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、ベース手段Ｈ７７０に対して変位する駆動手段Ｈ７８０と、その駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能に配設される変位部材Ｈ７９０を備え、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して変位させた際の慣性力により変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能に構成されるので、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１の駆動力を一定とした場合であっても、変位部材Ｈ７９０の変位速度にばらつきを持たせることができる。その結果、駆動モータＨ７８１の制御を複雑化することなく、変位部材Ｈ７９０の変位態様を複雑にして、変位部材Ｈ７９０の変位による演出効果を向上できる。

【２１５３９】

また、ベース手段Ｈ７７０に変位可能に配設される駆動手段Ｈ７８０と、その駆動手段Ｈ７８０に変位可能に配設される変位部材Ｈ７９０を備え、駆動手段Ｈ７８０に対して変位された変位部材Ｈ７９０を透過して光を出射することができるので、変位部材Ｈ７９０の変位の態様が一様になることを抑制できると共に、第２手段から出射される光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を大きくすることができる。

【２１５４０】

なお、駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位された変位部材Ｈ７９０は、駆動手段Ｈ７８０の収容凹部Ｈ７８３ｂ１と変位部材Ｈ７９０との間に配設される第１コイルバネＨ７９３により駆動手段Ｈ７８０に対して所定位置に変位するように構成される。これにより、

駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して左向き状態にして変位部材Ｈ７９０の左側を背面側に傾けた後、第１コイルバネＨ７９３によりその傾きを戻すことができる。

【２１５４１】

即ち、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０が変位した際の所定以上の慣性力が作用した場合に駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能とされる一方、駆動手段Ｈ７８０から慣性力が作用していない（駆動手段Ｈ７８０が停止した状態の）場合に第１コイルバネＨ７９３により駆動手段Ｈ７８０に対して所定位置に規定可能に構成される。

【２１５４２】

これにより、駆動手段Ｈ７８０が変位した際の慣性力が所定以下の場合には、駆動手段Ｈ７８０と変位部材Ｈ７９０とを一体に変位させることができる一方、所定以上の慣性力が駆動手段Ｈ７８０から作用する場合には駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができる。よって、変位部材Ｈ７９０を態様な態様で変位させることができる。

【２１５４３】

また、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を所定位置に付勢する第１コイルバネＨ７９３は、弾性変形に伴って付勢力が大きくされるバネ部材で構成されるので、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させた際に生じる外力の強度（ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０が回転した際に変位部材Ｈ７９０に作用する慣性力の強さ）によって、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させる態様と変位させない態様と切り替えることができる（即ち、錘部材Ｈ７８２の回転速度を変更して駆動手段Ｈ７８０のベース手段Ｈ７７０に対する回転速度を変更することで、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位量を変更することができる）。これにより、変位部材Ｈ７９０を多用な態様で変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２１５４４】

なお、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の姿勢を戻すための復帰手段としては、第１コイルバネＨ７９３の付勢力だけでなく、ゴムの弾性力、磁石の磁力、重力によるものであっても良い。しかしながら、磁力により駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規定する場合には、磁力線が直線でないため駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を規定位置に変位させる方向が定まりにくく、又、重力により駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規定する場合には、力が重力方向に作用するので駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規制することが難しい。従って、第１１１実施形態のように、弾性変形するバネやゴムにより、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規定することが好ましい。

【２１５４５】

また、上記したように、揺動装置Ｈ７３０は、基板部材Ｈ７７３に対して変位することで、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変更して、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。この場合、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位と連動して変位部材Ｈ７９０を軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂの軸回りに変位させるだけでなく、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができるので、単に変位部材Ｈ７９０が回転変位する場合に比べて、基板部材Ｈ７７３に対する変位部材Ｈ７９０の変位態様を変更しやすくできる。従って、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変更しやすくできる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。

【２１５４６】

即ち、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０が相対変位可能な方向は、駆動手段Ｈ７８０の変位に伴って回転変位される方向と異なる前後方向（駆動手段Ｈ７８０に対して前後方向）に設定される。これにより、変位部材Ｈ７９０を多方向に変位させることが

できるので、変位部材Ｈ７９０による光の演出態様を変更しやすくできる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。

【２１５４７】

また、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、駆動手段Ｈ７８０が回転変位された際の慣性力で変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位させるので、変位部材Ｈ７９０を変位させるための別の駆動手段を配設することなく、変位部材Ｈ７９０の変位態様を複雑にすることができる。その結果、製造コストを削減できる。

【２１５４８】

次いで、図１９０１から図１９０９を参照して、球発射ユニットＨ１１２ａについて説明する。初めに、図１９０１及び図１９０２を参照して、球発射ユニットＨ１１２ａが配設される内枠Ｈ１２について説明する。図１９０１は、内枠Ｈ１２の正面図であり、図１９０２は、内枠Ｈ１２の分解正面斜視図である。なお、図１９０１では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに遊技球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【２１５４９】

図１９０１及び図１９０２に示すように、内枠Ｈ１２の外形を形成する枠形成ユニットＨ１２ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）及び左右外側（矢印Ｌ－Ｒ方向側）の三方を囲うコ字形状に金属製の材料から構成される上側ベースユニットＨ１２ｂと、そのコ字形状に構成される上側ベースユニットＨ１２ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）の開放部分に配設され上側ベースユニットＨ１２ｂと共に枠状を形成する下側ベースユニットＨ１２ｃと、下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される球発射ユニットＨ１１２ａと、下側ベースユニットＨ１２ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される鉤ユニットＨ１２ｄと、を主に備える。

【２１５５０】

球発射ユニットＨ１１２ａは、下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）に凹設される収容凹部Ｈ１２ｃ１に球発射ユニットＨ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される駆動モータＨ８５０を収容した状態で下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側に配設されると共に、正面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１が枠形成ユニットＨ１２ａ（図１８３９参照）に配設される遊技盤Ｈ１３（図１８３８参照）の遊技領域と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に一致する位置に配置され、発射レールＨ１１２ａ１から発射される遊技球を遊技盤Ｈ１３の遊技領域に発射することができる。

【２１５５１】

なお、球発射ユニットＨ１１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）には、外枠Ｈ１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０が配設され、発射位置送球ユニットＨ１７０を介して上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに１球ずつ遊技球を送球可能とされる。

【２１５５２】

次いで、図１９０３から図１９０５を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａについて説明する。図１９０３は、球発射ユニットＨ１１２ａの分解正面斜視図であり、図１９０４は、発射位置送球ユニットＨ１７０の分解斜視図であり、図１９０５（ａ）は、図１９０１のＭＣＭＶａ線における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の断面図であり、図１９０５（ｂ）は、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の断面図である。なお、図１９０４では、正面側ケースＨ８６０及び送球手段Ｈ８８０が正面斜視図で図示されると共に、背面側ケースＨ８７０が背面斜視図で図示される。

【２１５５３】

図１９０３に示すように、球発射ユニットＨ１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手

段Ｈ８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備える。

【２１５５４】

なお、駆動モータＨ８５０には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａの検出、及び、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化を検出する可変抵抗器の抵抗の検出があった場合に、それらが接続される入出力ポートＨ２０５を介して駆動モータＨ８５０を駆動する制御信号が駆動モータＨ８５０に送信される。これにより、所定の駆動力（操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた駆動力）で駆動モータＨ８５０が駆動される。

【２１５５５】

ベース部材Ｈ８１０は、下側ベースユニットＨ１２ｃの収容凹部Ｈ１２ｃ１と対応する大きさの板状に形成され、収容凹部Ｈ１２ｃ１を覆設する状態で下側ベースユニットＨ１２ｃに配設される。また、ベース部材Ｈ８１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって膨出され案内手段Ｈ８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を配設する基部となる第１膨出部Ｈ８１１と、正面側に向かって膨出して形成され当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２を配設する基部となる第２膨出部Ｈ８１２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿通される貫通孔Ｈ８１３と、を主に備える。

【２１５５６】

発射手段Ｈ８３０は、金属材料から矩形状の板状に形成されると共に一端側に駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿入される挿入部Ｈ１１２ａ３を有する回転体Ｈ１１２ａ２と、弾性材料から形成され回転体Ｈ１１２ａ２の他端側の周囲を取り囲む状態で配設される発射部Ｈ８３１と、回転体Ｈ１１２ａ２と駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２とを締結固定するための締結部材Ｈ８３２と、を主に備える。

【２１５５７】

回転体Ｈ１１２ａ２は、ベース部材Ｈ８１０の貫通孔Ｈ８１３を正面側（矢印Ｆ方向側）に挿通された駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿入部Ｈ１１２ａ３に挿入されると共に締結部材Ｈ８３２により軸部Ｈ８５２と締結され、駆動モータＨ８５０の駆動力により軸部Ｈ８５２を軸に回転可能とされる。これにより、発射手段Ｈ８３０は、退避位置（図１９０６（ａ）参照）と発射位置（図１９０６（ｃ）参照との間で回転可能とされる。

【２１５５８】

発射部Ｈ８３１は、駆動モータＨ８５０により回転される回転体Ｈ１１２ａ２が回転された際に後述する球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球に当接する部分であり、正面視における反時計回り側の側面に発射レールＨ１１２ａ１上の球に当接する当接面Ｈ８３１ａを備え、弾性変形可能な弾性材料が形成される。

【２１５５９】

当接面Ｈ８３１ａは、発射手段Ｈ８３０が発射位置から退避位置側に若干退避した初期位置（図１９０６（ｂ）参照）で発射レールＨ１１２ａ１上の遊技球に当接可能に構成されており、初期位置を超えて発射位置まで発射手段Ｈ８３０が回転されることで当接面Ｈ８３１ａに当接する遊技球を発射することが可能とされる。

【２１５６０】

なお、発射部Ｈ８３１が弾性変形可能な樹脂材料から形成され、当接面Ｈ８３１ａに遊技球を当接した際に発射部Ｈ８３１を変形させることができるので、遊技球に当接した衝撃が発射手段Ｈ８３０側に伝わることを抑制できると共に、発射部Ｈ８３１を遊技球に当接させた際の当接音を小さくすることができる。

【２１５６１】

案内手段Ｈ８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ８２１

の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２１５６２】

第１案内部材Ｈ８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ８２１ａと、その背面部Ｈ８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２１５６３】

背面部Ｈ８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ８２１ａ１を備える。

【２１５６４】

凹部Ｈ８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。なお、凹部Ｈ８２１ａ１による遊技球の案内についての詳しい説明は後述する。

【２１５６５】

第２案内部材Ｈ８２２は、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球を初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接する位置に案内すると共に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が転動される発射レールＨ１１２ａ１を上面に有する。

【２１５６６】

発射レールＨ１１２ａ１は、前後方向における略中央部が下方側（矢印Ｄ方向側）に断面三角形状に凹んで形成されており、その凹部に沿って遊技球を案内可能とされる。なお、断面三角形状に凹設される下方側の頂部Ｈ１１２ａ４は、遊技球の発射方向視（図１９０５（ａ）参照）において転動部Ｈ８２１ｂと連なる略同一の高さ、もしくは転動部Ｈ８２１ｂよりも若干高い位置に設定される。これにより、球発射方向視において発射レールＨ１１２ａ１を案内される遊技球の方が、転動部Ｈ８２１ｂを案内される遊技球よりも上方を案内され、発射レールＨ１１２ａ１から転動部Ｈ８２１ｂに案内される遊技球が詰まる（転動部Ｈ８２１ｂの端部に当接する）ことを抑制できる。その結果、発射レールＨ１１２ａ１から転動部Ｈ８２１ｂへの遊技球の送球を安定させることができる。

【２１５６７】

上方側ガイド部Ｈ８２１ｄは、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が上方側（矢印Ｕ方向側）に弾むことを抑制するための部分であり、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合う位置に形成されると共に、第２案内部材Ｈ８２２と上下方向に１球分以上離れた位置に形成される（図１９０１参照）。

【２１５６８】

当接手段Ｈ８４０は、弾性部材から形成される第１弾性部材Ｈ８４１及び第２弾性部材Ｈ８４２を備え、第１弾性部材Ｈ８４１が初期位置の発射手段Ｈ８３０の回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設され、第２弾性部材Ｈ８７２が退避位置の発射手段Ｈ８３０の回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される。これにより、発射手段Ｈ８３０を回転させる際に発射手段Ｈ８３０を発射位置および退避位置で停止させやすくできると共に、停止させた際の衝撃を吸収することが可能とされる。なお、発射手段Ｈ８３０は、初期位置で回転体Ｈ１１２ａ２が第１弾性部材Ｈ８４１に当接された後、第１弾性部材Ｈ８

４１を弾性変形させつつ発射位置まで回転されることで遊技球を発射することが可能とされる。

【２１５６９】

次いで、図１９０４を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０について説明する。図１９０４に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【２１５７０】

送球手段Ｈ８８０は、ソレノイドＨ８８１と、そのソレノイドＨ８８１の駆動より第１位置および第２位置との間で変位可能な変位部材Ｈ８８２とを主に備え、第１位置に変位部材Ｈ８８２が変位されることにより上皿Ｈ１７（正面側開口Ｈ１７１）から１球の遊技球を正面側ケースＨ８６０及び背面側ケースＨ８７０の内側に流入させて保持し、第２位置に変位部材Ｈ８８２が変位されることにより正面側ケースＨ８６０及び背面側ケースＨ８７０の内側に流入させて保持した１球の遊技球を背面側開口Ｈ１７２から排出して発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能に構成される。これにより、１球ずつ遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能とされる。

【２１５７１】

なお、変位部材Ｈ８８２は、ソレノイドＨ８８１により変位されるものに限られず、例えば、モータ等の駆動手段により変位させても良い。また、変位部材Ｈ８８２は、駆動手段等の駆動源を備えず、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射される球の送球により一方向（第１位置）に変位され、自重により他方向（第２位置）に変位されるものであっても良い。

【２１５７２】

また、遊技球を送球するソレノイドＨ８８１（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。これにより、１球ずつ遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能とされる。

【２１５７３】

次いで、図１９０５を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａの配置について説明する。図１９０５に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置されると共に、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２が、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１よりも若干上方に配置される。これにより、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１に当接して（遮られて）詰まることなく、発射レールＨ１１２ａ１上に送球される。

【２１５７４】

また、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１と少なくとも一部が前後方向に重なる位置に形成される。これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れることができると共に、凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲面に沿って流下させることができる。

【２１５７５】

ここで、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａが平面状に形成される（背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成されていない）場合には、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２から遊技球が送球され背面部Ｈ８２１ａに当接すると、その当接した反力が正面側に向かって作用する。よって、背面部Ｈ８２１ａに当接した遊技球

は、正面側に向かって跳ね返り発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側に当接し背面側に向かって跳ね返る。即ち、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が前後に暴れた状態で発射レールＨ１１２ａ１上（初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置）に案内される。

【２１５７６】

そのため、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球が前後に暴れた状態で発射される虞があり、この場合、遊技球は発射レールＨ１１２ａ１に沿って真っ直ぐに送球されず、流路の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突することがある。このように、流路の内面に遊技球が衝突すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球の軌跡が安定しないという問題がある。

【２１５７７】

これに対し、第１１１実施形態における球発射ユニットＨ１１２ａは、背面側開口Ｈ１７２の背面側に重なる位置に凹部Ｈ８２１ａ１を備え、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を湾曲状に形成される凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接させることができるので、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接した遊技球に作用する反力を正面側だけでなく上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に作用させることができる。よって、背面部Ｈ８２１ａに当接した遊技球が正面側に向かって跳ね返ることを抑制できる。従って、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置に送球される遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球の軌跡を安定させやすくできる。

【２１５７８】

また、凹部Ｈ８２１ａ１の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部は、背面側開口Ｈ１７２よりも下方側に配置されており、これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接させやすくできる。

【２１５７９】

なお、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）には、背面側（矢印Ｂ方向側）に第１案内部材Ｈ８２１の背面部Ｈ８２１ａが配設され、正面側（矢印Ｆ方向側）に背面側ケースＨ８７０が配設される。これにより、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球は、背面部Ｈ８２１ａと背面側ケースＨ８７０と発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂとに囲われた空間（流路）を転動して、遊技盤Ｈ１３に送球される。

【２１５８０】

また、凹部Ｈ８２１ａ１は、正面視において背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球（図１９０６（ｂ）参照）と重なる背面側から発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂとの連結部分を超える長さに形成される。

【２１５８１】

これにより、発射手段Ｈ８３０に打ち出された遊技球がすぐに前後方向に暴れた場合でもその遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることができると共に、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂに送球された衝撃で前後方向に暴れた場合でも球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることができる。　即ち、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球に外力が加わりやすい転動面の切り替わり部分や発射位置の背面側に形成される。これにより、第１１１実施形態では、発射される遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【２１５８２】

次いで、図１９０６を参照して、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射について説明する。図１９０６（ａ）は、退避位置における発射手段Ｈ８３０の正面図であり、図１９０６（ｂ）は、初期位置における発射手段Ｈ８３０の正面図であり、図１９０６（ｃ）は、発射位置における発射手段Ｈ８３０の正面図である。なお、発射手段Ｈ８３０は、駆動モータＨ８５０の駆動力が働いていない状態（即ち、操作ハンドルＨ５１が操作されていな

い状態）では、初期位置に配置される。
【２１５８３】
図１９０６に示すように、発射手段Ｈ８３０は、操作ハンドルＨ５１が遊技者に操作されると、駆動モータＨ８５０が駆動され初期位置から退避位置に変位される。この場合、同時に発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２から１球の遊技球が発射レールＨ１１２ａ１上に送球され、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接可能な位置に保持される。
【２１５８４】
図１９０６（ａ）に示す退避位置に発射手段Ｈ８３０が変位された後は、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで発射手段Ｈ８３０が図１９０６（ｃ）に示す発射位置に向けて変位される。この場合、図１９０６（ｂ）に示す初期位置で、発射レールＨ１１２ａ１上に保持される遊技球に発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが当接されつつ、発射手段Ｈ８３０が発射位置まで変位されることで、当接面Ｈ８３１ａが当接した遊技球が所定の発射強さで発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂ上を転動して遊技盤Ｈ１３に送球される。
【２１５８５】
発射手段Ｈ８３０により遊技盤Ｈ１３へ遊技球を発射した（打ち出した）後は、再度図１９０６（ａ）に示す退避位置に発射手段Ｈ８３０を変位した後、図１９０６（ｃ）に示す発射位置に発射手段Ｈ８３０を変位させる動作が継続される。これにより、遊技盤Ｈ１３に１球ずつ所定の間隔で遊技球を送球できる。
【２１５８６】
次いで、図１９０７を参照して、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを送球される遊技球について説明する。図１９０７（ａ）及び図１９０７（ｂ）は、図１９０５（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図である。なお、図１９０７（ａ）及び図１９０７（ｂ）では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の遷移状態が順に図示される。
【２１５８７】
図１９０７（ａ）に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球は、通常、発射レールＨ１１２ａ１の凹みの頂部Ｈ１１２ａ４に沿って発射レールＨ１１２ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における中央部に案内される。
【２１５８８】
よって、図１９０７（ｂ）に示すように、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが当接して発射される遊技球は、発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に沿って転動し第１案内部材Ｈ８２１の転動部Ｈ８２１ｂに案内され、転動部Ｈ８２１ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における中央部を転動して遊技盤Ｈ１３まで送球される。
【２１５８９】
次いで、図１９０８及び図１９０９を参照して、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを送球される遊技球が前後方向に暴れる場合について説明する。図１９０８（ａ）及び図１９０８（ｂ）は、図１９０５（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図であり、図１９０９は、図１９０５（ａ）のＭＣＭＩＸ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図である。なお、図１９０８（ａ）及び図１９０８（ｂ）では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の遷移状態が順に図示される。また、図１９０９では、図１９０８（ｂ）に対応する位置に送球された遊技球が図示される。
【２１５９０】
図１９０８（ａ）に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の凹みの頂部Ｈ１１２ａ４に対して前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に偏る位置に配置された（前後に暴れた）状態で、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが遊技球に当接される場合には、遊技球に対して前後に偏る

位置に当接面Ｈ８３１ａが当接される（例えば、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に向かう傾斜面に沿って発射レールＨ１１２ａ１の前後方向における中央部に案内される前に、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが遊技球に当接される場合には、遊技球に対して正面側に偏る位置に当接面Ｈ８３１ａが当接される）。

【２１５９１】

これにより、発射レールＨ１１２ａ１に対して前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向かう方向の力成分が遊技球に付与された状態で発射手段Ｈ８３０から遊技球が発射され（打ち出され）、案内手段Ｈ８２０を転動して遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球が前後に暴れる恐れがあった。この場合、上述したように遊技球は発射レールＨ１１２ａ１に沿って真っ直ぐに送球されず、流路の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突することがある。このように、流路の内面に遊技球が衝突すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球の軌跡が安定しないという問題がある。

【２１５９２】

これに対し、第１１１実施形態における案内手段Ｈ８２０は、遊技球の発射経路における背面側（矢印Ｂ方向側）の壁部を形成する背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に遊技球が暴れる場合には、図１９０８及び図１９０９に示すように、遊技球の一部を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れて、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に遊技球を当接させることができる。

【２１５９３】

ここで、凹部Ｈ８２１ａ１は、上記したように遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に形成されるので、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、上方側または下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２１５９４】

なお、第１１１実施形態における案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１は、湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも上方側に配置され、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が背面側に向かって暴れる場合に、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部よりも下方側に当接させることができる。即ち、上方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。

【２１５９５】

従って、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に上方に向かう方向の反力を付与することができ、下方側に向かう方向の力成分が付与されて、発射レールＨ１１２ａ１と遊技球との転動部分の抵抗が増加することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２１５９６】

即ち、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ８７０により囲まれる通路）の内面（背面部Ｈ８２１ａに当接する場合に、遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を凹部Ｈ８２１ａ１により抑制可能とされるので、内面（背面部Ｈ８２１ａ）から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２１５９７】

また、凹設して形成される凹部Ｈ８２１ａ１により遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を抑制できるので、弾性変形可能な弾性部材に当接させて遊技球に作用する当

接方向の反力を抑制する場合に比べて、転動（送球）方向の抵抗が増加することを抑制できる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１に当接させることで遊技球に作用する反力を分散（上下方向の反力を付与）して、当接方向の反力を小さくできるので、転動方向の抵抗が増加することを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２１５９８】

さらに、凹部Ｈ８２１ａ１は、凹設して形成されるので、凸設して形成される場合に比べて、球発射ユニットＨ１１２ａの前後方向の小型化を図ることができると共に、流路の空間を増加させることができるので流路内に遊技球が詰まることを抑制できる。

【２１５９９】

案内手段Ｈ８２０の背面部Ｈ８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１８３８参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【２１６００】

即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ８２１ａ１の端部が背面部Ｈ８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ８２１ａ１の端部で凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【２１６０１】

また、第１１１実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０は、変位部材Ｈ８８２の背面側開口Ｈ１７２から遊技球を発射レールＨ１１２ａ１に送球する球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０４参照）が背面側開口Ｈ１７２から背面側（矢印Ｂ方向側）に飛び出た位置に配置されると共に、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若干下方に位置される。

【２１６０２】

よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合には、その遊技球を球送球部Ｈ８８２ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の端部に当接させることができる。これにより、球送球部Ｈ８８２ａに当接する遊技球に作用する反力に上方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、球送球部Ｈ８８２ａに当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、上方に向かう成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２１６０３】

また、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合に遊技球を球送球部Ｈ８８２ａに当接させることができるので、正面側に暴れる遊技球がそのまま背面側開口Ｈ１７２の内部に流入（即ち、逆流）することを抑制できる。その結果、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１への球の送球を安定させることができる。

【２１６０４】

さらに、凹部Ｈ８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その

遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【２１６０５】

なお、第１１１実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１の終端でのみ幅が狭く形成されるが、凹部Ｈ８２１ａ１は、全体に亘って溝幅が発射方向に向かって狭く形成されるものであっても良い。

【２１６０６】

また、第１１１実施形態では、発射方向側の終端側に向かうに従って凹部Ｈ８２１ａ１の幅が狭く（幅が小さく）形成される場合について説明したが、発射方向の終端側に向かうに従って凹部Ｈ８２１ａ１の幅が広く（幅が大きく）形成されても良い。

【２１６０７】

この場合には、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部を徐々に作用させることができる。即ち、遊技球と凹部Ｈ８２１ａ１との重なり（当接可能な）面積を徐々に大きくすることができる。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１への遊技球の衝突により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。即ち、遊技球が当接方向と異なる方向に暴れる（例えば、上側に弾んだり）することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【２１６０８】

次いで、図１９１０から図１９１２を参照して、動作ユニットＧ２００について説明する。図１９１０は、遊技盤Ｈ１３の正面図であり、図１９１１は、遊技盤Ｈ１３の分解正面斜視図であり、図１９１２は、動作ユニットＧ２００の分解正面斜視図である。

【２１６０９】

図１９１０から図１９１２に示すように、動作ユニットＧ２００は、箱状に形成される背面ケースＧ３００を備え、その背面ケースＧ３００の内部空間には、上方に演出動作ユニットＧ１０００が、下方に発光装飾ユニットＧ５００が、それぞれ配設される。

【２１６１０】

背面ケースＧ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｇ３０１と、その底壁部Ｇ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｇ３０２とを備え、それら各壁部Ｇ３０１，Ｇ３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部Ｇ３０１には、その中央に正面視矩形の開口Ｇ３０１ａが開口形成され、その開口Ｇ３０１ａを通じて、底壁部Ｇ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１が視認可能とされる。

【２１６１１】

演出動作ユニットＧ１０００は、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に配設される門型のベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）と、そのベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）に変位可能に配設される花弁動作装置Ｇ８００とを備え、その花弁動作装置Ｇ８００をベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）の前方（背面ケースＨ３００の上方（矢印Ｕ方向））に退避させる退避位置と、背面ケースＧ３００の開口Ｇ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１）の正面側に張り出す張出位置との間で変位させることができる（図１９１８参照）。即ち、演出動作ユニットＧ１０００は、変位可能に構成される花弁動作装置Ｇ８００を備える。

【２１６１２】

また、図１９１０では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態が図示されており、図１９１０に示すように、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態では、センターフレームＨ８６の上枠部から花弁動作装置Ｇ８００が視認可能とされる。また、花弁動作装置Ｇ８００の退避位置と張出位置との間の変位に連動して後述する円環形

成ユニットＧ７００が変位するように形成されており、以下の説明では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態の円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の位置を円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の退避位置、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態の円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の位置を円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の張出位置として説明する。

【２１６１３】

なお、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、変位可能に構成され、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００の変位により花弁動作装置Ｇ８００が変位可能に構成される。また、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、振動または動作可能に構成され、その振動または動作により花弁動作装置Ｇ８００が振動または動作可能に構成される。

【２１６１４】

発光装飾ユニットＧ５００は、樹脂材料から形成されるベース体Ｇ５１０と、そのベース体Ｇ５１０の正面側に配設される発光装置Ｇ５２０とを主に備え、発光装置Ｇ５２０の内部に配設された複数のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｇ５２１から発光する光の様態（例えば、照射するＬＥＤＧ５２１の数やＬＥＤ５２１の発光色）を変更することで、発光による演出を行う。

【２１６１５】

次いで、図１９１３から図１９３６を参照して、演出動作ユニットＧ１０００について説明する。

【２１６１６】

初めに、図１９１３から図１９１７を参照して、演出動作ユニットＧ１０００の全体構成について説明する。図１９１３（ａ）は、演出動作ユニットＧ１０００の正面図であり、図１９１３（ｂ）は、演出動作ユニットＧ１０００の背面図であり、図１９１４は、演出動作ユニットＧ１０００の花弁動作装置Ｇ８００側の分解正面斜視図であり、図１９１５は、演出動作ユニットＧ１０００の花弁動作装置Ｇ８００側の分解背面斜視図であり、図１９１６は、演出動作ユニットＧ１０００の円環形成ユニットＧ７００側の分解正面斜視図であり、図１９１７は、演出動作ユニットＧ１０００の円環形成ユニットＧ７００側の分解背面斜視図である。

【２１６１７】

図１９１３から図１９１７に示すように、演出動作ユニットＧ１０００は、門型に形成されるベースユニットＧ６００と、そのベースユニットＧ６００に配設される進退動作ユニットＧ９００と、ベースユニットＧ６００に配設され進退動作ユニットＧ９００の駆動力により上下動される花弁動作装置Ｇ８００と、ベースユニットＧ６００に配設され花弁動作装置Ｇ８００の上下動に連動して円環状態を形成する円環形成ユニットＧ７００とを主に備えて形成される。

【２１６１８】

なお、第１１１実施形態では、演出動作ユニットＧ１０００は、花弁動作装置Ｇ８００が上方の退避位置から下方に変位して張出位置に変位されるが、退避位置は必ずしも上方でなくても良く、下方の退避位置から上方に変位して張出位置に変位されるものであっても良い。即ち、正面視における演出動作ユニットＧ１０００を上下反対に配置しても良い。また、上下だけでなく、正面視における演出動作ユニットＧ１０００を９０度回転した状態で配置して、左右方向に花弁動作装置Ｇ８００が変位するように構成しても良い。

【２１６１９】

ベースユニットＧ６００は、背面ケースＧ３００底壁部Ｇ３０１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるベース部材Ｇ６１０と、そのベース部材Ｇ６１０の正面側に配設される左側保持部材Ｇ６２０、右側保持部材Ｇ６３０、左側配線部材Ｇ６４０と、右側配線部材Ｇ６５０と、を主に備えて形成される。なお、本実施形態では、ベースユニットＧ６００が、主に光を透過可能な樹脂材料から形成されるが、金属製の板材をプレス加工して形成

するものであっても良い。
【２１６２０】
ベース部材Ｇ６１０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形の本体板部Ｇ６１１と、その本体板部Ｇ６１１の左右両端から下方に向かって延設される左側延設部Ｇ６１２と、右側延設部Ｇ６１３と、を主に備える。
【２１６２１】
本体板部Ｇ６１１は、後述する進退動作ユニットＧ９００及び花弁動作装置Ｇ８００が配設される部分であり、進退動作ユニットＧ９００の各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９を軸支するピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｈと、進退動作ユニットＧ９００の左側アームユニットＧ９３０を軸支する軸支部Ｇ６１１ｊと、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０の摺動面の一部を形成する摺動部Ｇ６１１ｋとが正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。
【２１６２２】
また、本体板部Ｇ６１１の背面側（矢印Ｂ方向側）には、背面ケースＧ３００にベースユニットＧ６００を締結固定するためのめねじが形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔を通して螺子が締結される。これにより、背面ケースＧ３００にベースユニットＧ６００（演出動作ユニットＧ１０００）を固定した状態で配設可能とされる。
【２１６２３】
なお、本実施形態では、本体板部Ｇ６１１の背面側にめねじが形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ）方向に貫通する貫通孔が形成されるが、これに限らず、本体板部Ｇ６１１に前後方向に貫通する貫通孔が形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１にめねじが形成されてもよい。この場合、背面ケースＧ３００の正面側（矢印Ｆ方向側）に演出動作ユニットＧ１０００を配設した後、背面ケースＧ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に作業者が移動しなくても、演出動作ユニットＧ１０００を背面ケースＧ３００に配設作業した正面側から演出動作ユニットＧ１０００を背面ケースＧ３００にねじ止めすることができる。そのため、演出動作ユニットＧ１０００の背面ケースＧ３００への配設作業を簡易にすることができる。
【２１６２４】
ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｈは、上述したように進退動作ユニットＧ９００の各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９を軸支する部分であり、円形状に形成され正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される。
【２１６２５】
また、ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｅ，Ｇ６１１ｈには、突設先端部にめねじが形成されており、対応する各ギヤＧ９２１～Ｇ９２５，Ｇ９２８を軸支した状態で立設先端部に螺子が締結される。これにより、ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｅ，Ｇ６１１ｈから各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２５，Ｇ９２８が抜け落ちることを抑制できる。
【２１６２６】
一方、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇは、所定の内径を有する円環状に突設され、その外周側でギヤＧ９２６，Ｇ９２７を軸支可能に形成される。また、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇには、その中心部に金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎがそれぞれ嵌め込まれ、その金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎにより、後述する円環形成ユニットＧ７００（左側円環部材Ｇ７１０および右側円環部材Ｇ７２０）を軸支可能とされる。
【２１６２７】
なお、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇに軸支されるギヤＧ９２６，Ｇ９２７は、金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支される左側円環部材Ｇ７１０および右側円環部材Ｇ７２０と、本体板部Ｇ６１１との間に挟まれることで、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎから抜け落ちることが抑制される。
【２１６２８】
棒状部材Ｇ６１１ｍには、円形状に形成された小径部と、その小径部の軸方向一端側か

ら径方向外側に張り出した大径部とを備えたカラーＧ６１１ｉａが先端部に締結固定される。カラーＧ６１１ｉａは、円環状に形成されるアーム側従動ギヤＧ９２９の内側に小径部が挿入して配設される。また、カラーＧ６１１ｉａの小径部とアーム側従動ギヤＧ９２９の内側との間には、若干の隙間が形成される。これにより、ピン部Ｇ６１１ｉからアーム側従動ギヤＧ９２９が抜け落ちることを抑制できると共に、アーム側従動ギヤＧ９２９がピン部Ｇ６６１ｉ（カラーＧ６１１ｉａ）に対して回転可能とされる。

【２１６２９】

棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎは、後述する円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０を軸支する部分であり、本体板部Ｇ６１１の正面側に配設される左側保持部材Ｇ６２０との間で挟持される。なお、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇに軸支される進退動作ユニットＧ９００のギヤＧ９２６，Ｇ９２７は、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支される左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０によりピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇから抜け出ることが規制される。

【２１６３０】

軸支部Ｇ６１１ｊは、正面視（矢印Ｂ方向視）において本体板部Ｇ６１１の左側（矢印Ｌ方向側）に形成される。軸支部Ｇ６１１ｊは、上述したように進退動作ユニットＧ９００の本体部材Ｇ９３１を軸支する部分であり、正面視円形状に形成されると共に正面側に向かって突設される。この軸支部Ｇ６１１ｊにより、進退動作ユニットＧ９００の本体部材Ｇ９３１が軸支部Ｇ６１１ｊを軸として回転可能とされ、その軸支部Ｇ６１１ｊを中心（回転軸）とする本体部材Ｇ９３１の回転により進退動作ユニットＧ９００に配設される花弁動作装置Ｇ８００が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能とされる。

【２１６３１】

摺動部Ｇ６１１ｋは、正面視において本体板部Ｇ６１１の右側（矢印Ｒ方向側）の上端、下端、及び右端の縁部を囲うように正面側に立設される壁部Ｇ６１１ｐの上端部と下端部との左端同士を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に結んだ直線状に形成されており、壁部Ｇ６１１ｐよりも正面側への立設距離が低く設定される。これにより、壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとにより囲まれる領域の前方側に後述する右側保持部材Ｇ６３０を配設した際に、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面側との対向間に溝を形成することができ、その溝に後述する花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０を摺動可能な状態で保持することができる。

【２１６３２】

なお、正面視（矢印Ｂ方向視）において本体板部Ｇ６１１の壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとにより囲まれる領域は、他の領域に比べて正面側に位置して（即ち、摺動部Ｇ６１１ｋの形成部分で正面側に向かって段差が形成されて）おり、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面側との間に花弁動作装置Ｇ８００のカラーＧ８１５を配設した場合に、カラーＧ８１５の大径部の外周面が本体板部Ｇ６１１の正面に当接することを抑制できる。これにより、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０が摺動部Ｇ６１１ｋに沿って摺動する際の抵抗が増加すること抑制でき、花弁動作装置Ｇ８００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスムーズに変位させることができる。なお、花弁動作装置Ｇ８００の動作についての詳しい説明は後述する。

【２１６３３】

左側延設部Ｇ６１２は、後述する円環形成ユニットＧ７００が配設される部分であり、下方（矢印Ｄ方向）端部側に左側リンク軸支部Ｇ６１２ａと、その左側リンク軸支部Ｇ６１２ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に左側保持部Ｇ６１２ｂとを備える。

【２１６３４】

左側リンク軸支部Ｇ６１２ａは、円環形成ユニットＧ７００の左側リンク部材Ｇ７３０の一端が軸支される部分であり、正面視円形状に形成されると共に正面側に立設して形成される。これにより、左側リンク部材Ｇ７３０の一端が左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に回転可能な状態で保持される。

【２１６３５】

左側保持部Ｇ６１２ｂは、退避位置に配設される円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０の背面が当接可能な位置に形成されると共に、その円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０に連結される左側リンク部材Ｇ７３０の側面が当接可能な位置に形成される。これにより、退避位置に配置される左側円環部材Ｇ７１０に外部からの振動が作用した際に、左側円環部材Ｇ７１０が揺れ動いて、退避位置に配設される左側円環部材Ｇ７１０が遊技者から視認可能とされる位置（遊技盤Ｈ１３のセンターフレームＧ８６の内側領域）に変位することを抑制できる。

【２１６３６】

右側延設部Ｇ６１３は、左側延設部Ｇ６１２と同様に、後述する円環形成ユニットＧ７００が配設される部分であり、下方（矢印Ｄ方向）の端部側に右側リンク軸支部Ｇ６１３ａと、その右側リンク軸支部Ｇ６１３ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に右側保持部Ｇ６１３ｂとを備える。なお、右側リンク軸支部Ｇ６１３ａは、上述した左側リンク軸支部Ｇ６１２ａと連結される部材（右側リンク部材Ｇ７４０）が異なるだけであり、右側保持部Ｇ６１３ｂは、上述した左側保持部Ｇ６１２ｂと当接可能な部材（右側円環部材Ｇ７２０及び右側リンク部材Ｇ７４０）が異なるだけであり、その他の構成は同じであるので、それらの詳しい説明は省略する。

【２１６３７】

また、左側延設部Ｇ６１２と右側延設部Ｇ６１３との正面側には、左側延設部Ｇ６１２の左側リンク軸支部Ｇ６１２ａ、左側保持部Ｇ６１２ｂ、右側リンク軸支部Ｇ６１３ａ、及び、右側保持部Ｇ６１３ｂを避けて左側配線部材Ｇ６４０と右側配線部材Ｇ６５０とが左側延設部Ｇ６１２の正面と右側延設部Ｇ６１３の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される。これら左側配線部材Ｇ６４０及び左側延設部Ｇ６１２の間の空間と、右側配線部材Ｇ６５０及び右側延設部Ｇ６１３の間の空間とを介して、後述する円環形成ユニットＧ７００および花弁動作装置Ｇ８００に連結される電気配線が挿通される。これにより、退避位置と張出位置との間で変位する円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００に電気配線が接触して、電気配線が断線したり電気配線の被覆が剥がれたりすることを抑制できる。

【２１６３８】

左側保持部材Ｇ６２０は、本体板部Ｇ６１１の正面視左側端部から上端部に沿って本体板部Ｇ６１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央を超えた位置まで延設される板状に形成され、後述する進退動作ユニットＧ９００の各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う状態で本体板部Ｇ６１１に配設される。

【２１６３９】

また、左側保持部材Ｇ６２０は、後述する進退動作ユニットＧ９００の駆動モータＧ９１０の軸を挿通する貫通孔Ｇ６２１と、その貫通孔Ｇ６２１の周囲に駆動モータＧ９１０を左側保持部材Ｇ６２０に締結するためのめねじ部Ｇ６２２と、本体板部Ｇ６１１に配設される棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎの正面側（矢印Ｆ方向側）を保持する凹部Ｇ６２３とを主に備え、本体板部Ｇ６１１に締結される。

【２１６４０】

貫通孔Ｇ６２１は、左側保持部材Ｇ６２０の正面視において左側（矢印Ｌ方向側）上部の背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって一段低く形成される領域に形成される。これにより、左側保持部材Ｇ６２０に駆動モータＧ９１０を配設した際に、左側保持部材Ｇ６２０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に駆動モータＧ９１０が張り出すことを抑制できる。その結果、後述する円環形成ユニットＧ７００が退避位置に変位されて、その円環形成ユニットＧ７００が左側保持部材Ｇ６２０の正面側に位置する場合に、円環形成ユニットＧ７００が駆動モータＧ９１０に当接することを抑制できる。

【２１６４１】

また、駆動モータＧ９１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）から軸を貫通孔Ｇ６２１に挿通された後、駆動モータＧ９１０に形成された貫通孔を介して左側保持部材Ｇ６２０のめね

じ部Ｇ６２２に螺子が締結されることで、左側保持部材Ｇ６２０に配設される。なお、左側保持部材Ｇ６２０に配設された駆動モータＧ９１０には、貫通孔Ｇ６２１を挿通した軸に背面側から駆動ギヤＧ９１１が配設される。

【２１６４２】

凹部Ｇ６２３は、本体板部Ｇ６１１の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって円形状に凹設され、凹設された内縁が本体板部Ｇ６１１に配設される棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎと対応する形状（内径）に形成される。これにより、左側保持部材Ｇ６２０を本体板部Ｇ６１１に配設した際に、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎの先端部を凹部Ｇ６２３の内部空間に収容して保持することができる。

【２１６４３】

ここで、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎには、後述する円環形成ユニットＧ７００の被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａが配設される（挿入される）。従って、円環形成ユニットＧ７００は、被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａが棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに挿入された状態で、正面側（矢印Ｆ方向側）から左側保持部材Ｇ６２０がベース部材Ｇ６１０に配設されることで、ベースユニットＧ６００に保持される。

【２１６４４】

右側保持部材Ｇ６３０は、上述したように、本体板部Ｇ６１１に形成される壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとの正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う部材であり、壁部Ｇ６１１ｐの正面側への立設先端部に形成されるめねじに螺子で締結固定される。これにより、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面との間に空間を形成でき、その空間に後述する花弁動作装置Ｇ８００のアーム部Ｇ８１２（カラーＧ８１５）を摺動可能な状態で配設できる。

【２１６４５】

次いで、進退動作ユニットＧ９００について説明する。進退動作ユニットＧ９００は、駆動モータＧ９１０と、その駆動モータＧ９１０の軸に配設される駆動ギヤＧ９１１と、その駆動ギヤＧ９１１の回転により駆動モータＧ９１０の駆動力を伝達する複数の従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８，アーム側従動ギヤＧ９２９と、本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊに軸支されると共にアーム側従動ギヤＧ９２９の回転により回転変位する左側アームユニットＧ９３０と、その左側アームユニットＧ９３０に連結され左側アームユニットＧ９３０の回転により変位可能なスライド板Ｇ９４０と、そのスライド板Ｇ９４０のスライド方向を規定するスライドレールＧ９５０とを主に備える。

【２１６４６】

なお、本実施形態では、従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８，アーム側従動ギヤＧ９２９，左側アームユニットＧ９３０，スライド板Ｇ９４０が主に、樹脂材料から形成される。また、進退動作ユニットＧ９００の張出位置において、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設されるスライド板Ｇ９４０は、光を透過可能な材料から形成される。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１から出射される光が張出位置における進退動作ユニットＧ９００のスライド板Ｇ９４０より第３図柄表示装置Ｈ８１に反射して、スライド板Ｇ９４０と重ならない位置から視認される第３図柄表示装置Ｈ８１の表示が認識されにくくなることを抑制できる。

【２１６４７】

駆動モータＧ９１０は、上述したように、ベースユニットＧ６００の左側保持部材Ｇ６２０の貫通孔Ｇ６２１に軸を通して配設され、その軸に左側保持部材Ｇ６２０の背面側（矢印Ｂ方向側）から駆動ギヤＧ９１１が配設される。即ち、駆動モータＧ９１０の本体部分と駆動ギヤＧ９１１との間に左側保持部材Ｇ６２０を挟んだ状態で配設される。

【２１６４８】

従動ギヤＧ９２１は、駆動ギヤＧ９１１に刻設される歯に歯合されており、駆動ギヤＧ９１１が回転されることにより回転される。従動ギヤＧ９２１から順に歯合される従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８は、従動ギヤＧ９２１が駆動ギヤＧ９１１により回転されることで、中間のギヤＧ９２３から終端のギヤＧ９２８までが同期して回転される。

【２１６４９】
　また、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８は、後述する円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動力を伝達可能に構成されており、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａと、それら突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａに軸支されるカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂとを主に備えて形成される。
【２１６５０】
　突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａは、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８の回転軸と異なる位置（回転軸から径方向に離れた位置）に形成される。また、突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａは、後述する左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂに挿通され、その挿通された先端側にカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが配設される。これにより、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８が回転される（駆動モータＧ９１０から駆動力が伝達される）と、その従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８の回転に伴って突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａの位置が変位され、この変位に伴って左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が変位される（即ち、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動力が伝達される）。
【２１６５１】
　アーム側従動ギヤＧ９２９は、従動ギヤＧ９２２が従動ギヤＧ９２１と歯合する位置とは異なる位置で従動ギヤＧ９２１と歯合されており、駆動ギヤＧ９１１が回転されることで従動ギヤＧ９２１を介して回転可能に構成される。
【２１６５２】
　また、アーム側従動ギヤＧ９２９は、正面側に向かって円柱状に突設される突設部Ｇ９２９ａと、その突設部Ｇ９２９ａの突設先端部に軸支されるカラーＧ９２９ｂと、外周面の正面側端部から径方向外側に向かって突設されると共に周方向に延設される壁部Ｇ９２９ｃと、その壁部Ｇ９２９ｃの一部から径方向外側に向かって突出して形成される被検出部Ｇ９２９ｄと、歯が刻設される外周面および壁部の間に膨出される膨出部Ｇ９２９ｅとを主に備え、左側アームユニットＧ９３０に駆動力を伝達可能に構成される。
【２１６５３】
　突設部Ｇ９２９ａは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転軸と異なる位置から突設され、後述する左側アームユニットＧ９３０の被軸支部Ｇ９３１ａに挿通される。また、突設部Ｇ９２９ａには、左側アームユニットＧ９３０の被軸支部Ｇ９３１ａに挿通される先端側にカラーＧ９２９ｂが配設される。これにより、アーム側従動ギヤＧ９２９が回転される（駆動モータＧ９１０から駆動力が伝達される）と、そのアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴って突設部Ｇ９２９ａの位置が変位され、この変位に伴って左側アームユニットＧ９３０が変位される（即ち、左側アームユニットＧ９３０に駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される）。
【２１６５４】
　壁部Ｇ９２９ｃは、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面を保護する部分であり、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面の側端面に連なって形成される。これにより、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯の剛性を向上して、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯が破損することを抑制できる。また、壁部Ｇ９２９ｃにより、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面に対して、軸方向に従動ギヤＧ９２１が相対変位することを抑制できるので、従動ギヤＧ９２１がピン部Ｇ６１１ａから抜け落ちることを抑制できると共に、アーム側従動ギヤＧ９２９と従動ギヤＧ９２１との歯合状態が悪くなる（噛み合い位置が軸方向にずれる）ことを抑制できる。
【２１６５５】
　また、突設部Ｇ９２９ａは、壁部Ｇ９２９ｃから突設される。これにより、動作不良等で通常の動作よりも大きな駆動モータＧ９１０の駆動力が突設部Ｇ９２９ａに作用する場合に、壁部Ｇ９２９ｃを撓ませてその力を逃がすことができる。そのため、通常の動作よりも大きな駆動力が作用する場合に、アーム側従動ギヤＧ９２９とギヤＧ９２２との歯合位置がずれることを抑制でき、歯合位置がずれたまま駆動してアーム側従動ギヤＧ９２９

又はギヤＧ９２２の歯に過大が力が作用することを抑制できる。その結果、アーム側従動ギヤＧ９２９及びギヤＧ９２２の歯が破損すること抑制できる。

【２１６５６】

被検出部Ｇ９２９ｄは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転位置を検出するための突起であり、ベースユニットＧ６００のベース部材Ｇ６１０に配設される検出装置Ｇ６６０に検出可能に配設される。本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される際に、被検出部Ｇ９２９ｄが検出装置Ｇ６６０に検出可能とされる。これにより、退避位置に花弁動作装置Ｇ８００がその自重や外部から入力される振動で張出位置に変位しようとした場合に、退避位置から移動したことを検出して、花弁動作装置Ｇ８００を退避位置に戻すための制御を行うことができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００が誤って張出位置に変位して、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【２１６５７】

なお、本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄが検出装置Ｇ６６０に検出される場合について説明したが、これに限らず、花弁動作装置が張出位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄを検出する検出装置を別途備えてもよいし、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄが検出されるように検出装置Ｇ６６０を配置してもよい。

【２１６５８】

この場合には、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置から張出位置に変位された際に、その変位を検出装置で検出することができるので、その検出に伴い張出位置に変位する直前で花弁動作装置Ｇ８００の変位速度を低下させることで、張出位置に停止させることに伴い花弁動作装置Ｇ８００に作用する振動を抑えることができる。よって、花弁動作装置Ｇ８００を張出位置に張り出して花弁動作装置Ｇ８００を遊技者から視認しやすい状態とした際に、花弁動作装置Ｇ８００を遊技者に効果的に視認させることができる。その結果、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【２１６５９】

膨出部Ｇ９２９ｅは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転範囲を規定する部材であり、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置と張出位置とに変位された際に、本体板部Ｇ６１１から張り出した規制部Ｇ６１１ｒに当接可能とされる。なお、規制部Ｇ６１１ｒは、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置と張出位置とのそれぞれに配置される場合の膨出部Ｇ９２９ｅの対応する位置に形成される（即ち、２か所に形成される）。これにより、制御不良等により、アーム側従動ギヤＧ９２９が回転しすぎることを抑制して、突設部Ｇ９２９ａと左側アームユニットＧ９３０との連結部分が破損することを抑制できる。

【２１６６０】

左側アームユニットＧ９３０は、従動ギヤＧ９２１から伝達される駆動力をスライド板Ｇ９４０を介して花弁動作装置Ｇ８００に伝達する部材であり、正面視においてＴ字状に形成される本体部材Ｇ９３１と、その本体部材Ｇ９３１をベースユニットＧ６００に軸支するためのベース側カラーＧ９３２と、本体部材Ｇ９３１の背面側に配設されベース側カラーＧ９３２と同軸上の円環形状に形成されるバネ配設部材Ｇ９３３と、そのバネ配設部材Ｇ９３３の外周側に配設され本体部材Ｇ９３１に付勢力を作用させるねじりバネＧ９３４と、本体部材Ｇ９３１をスライド板Ｇ９４０に連結させるためのスライド側カラーＧ９３５とを主に備える。

【２１６６１】

本体部材Ｇ９３１は、正面視においてＴ字の上部側を左側（矢印Ｌ方向側）から右側（矢印Ｒ方向側）に向かって上方（矢印Ｕ方向側）に傾倒させた状態で配設され、左側（矢印Ｌ方向側）の端部が本体板部Ｇ６１１と左側保持部材Ｇ６２０との対向間に配設される。また、本体部材Ｇ９３１は、正面視においてＴ字に形成される下部側がスライド板Ｇ９４０の背面側に配設される。

【２１６６２】

本体部材Ｇ９３１は、正面視において左側（矢印Ｌ方向側）端部に形成される被軸支部

Ｇ９３１ａと、その被軸支部Ｇ９３１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿った溝状に形成される摺動溝Ｇ９３１ｂと、スライド板Ｇ９４０の背面側に位置しスライド板Ｇ９４０（正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される突設部Ｇ９３１ｃとを主に備えて形成される。

【２１６６３】

被軸支部Ｇ９３１ａは、本体板部Ｇ６１１に形成される軸支部Ｇ６１１ｊが挿通可能に形成される貫通孔であり、軸支部Ｇ６１１ｊの外径よりも若干大きな円形状に形成される。また、被軸支部Ｇ９３１ａには、ベース側カラーＧ９３２の小径部が若干の隙間を隔てた状態で配設される。これにより、本体部材Ｇ９３１は、本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊの軸を中心に回転可能な状態で本体板部Ｇ６１１（ベース部材Ｇ６１０）に配設される。

【２１６６４】

摺動溝Ｇ９３１ｂは、上述したようにアーム側従動ギヤＧ９２９の突設部Ｇ９２９ａが挿通される部分であり、突設部Ｇ９２９ａがアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴って回転された場合に、突設部Ｇ９２９ａが摺動溝Ｇ９３１ｂの内部を摺動可能な大きさに形成される。

【２１６６５】

突設部Ｇ９３１ｃは、スライド板Ｇ９４０に連結される部分であり、後述するスライド板Ｇ９４０の摺動溝Ｇ９４２に挿入可能な長さに形成される。また、突設部Ｇ９３１ｃは、突設先端にスライド側カラーＧ９３５が配設され、スライド側カラーＧ９３５の外周面が摺動溝Ｇ９４２の内縁に当接した状態とされる。これにより、被軸支部Ｇ９３１ａ（軸支部Ｇ６１１ｊ）を軸として本体部材Ｇ９３１を回転させた際に、本体部材Ｇ９３１に対してスライド板Ｇ９４０を相対変位させることができる。

【２１６６６】

バネ配設部材Ｇ９３３は、本体部材Ｇ９３１の背面側とベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側との間に配設され、円環状に形成された内側の空間に本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊが挿通される。

【２１６６７】

また、バネ配設部材Ｇ９３３は、円環状に形成された軸方向の両端が径方向外側に立設されており、その両端に立設される対向間にねじりバネＧ９３４が配設される。これにより、ねじりバネＧ９３４が、本体部材Ｇ９３１の背面側や、ベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側に当接することを抑制できる。

【２１６６８】

ねじりバネＧ９３４は、本体部材Ｇ９３１を退避位置側に付勢する付勢力をアーム部材に作用させるバネであり、弾性変形された状態でバネ配設部材Ｇ９３３の外周側に配設される。また、ねじりバネＧ９３４は、一端がベース部材Ｇ６１０に係止されると共に他端が本体部材Ｇ９３１の背面側に係止される。

【２１６６９】

なお、ねじりバネＧ９３４は、弾性変形させていない状態では、複数回旋回して形成されるバネ部分の内径が、バネ配設部材Ｇ９３３の軸方向両端に立設される部分の外径よりも大きく形成される。これにより、ねじりバネＧ９３４をバネ配設部材Ｇ９３３に簡易に配設することができる。

【２１６７０】

また、ねじりバネＧ９３４は、一端がベース部材Ｇ６１０に係止されると共に他端が本体部材Ｇ９３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に係止されて弾性変形された状態では、その弾性変形によりバネ部分の内径がバネ配設部材Ｇ９３３の軸方向両端に立設される部分の外径よりも小さくされる。これにより、ベース部材Ｇ６１０と本体部材Ｇ９３１とにねじりバネＧ９３４の両端が係合された状態とされた場合にねじりバネＧ９３４がベース部材Ｇ６１０や本体部材Ｇ９３１から脱落することを抑制できる。

【２１６７１】

本実施形態では、左側アームユニットＧ９３０を退避位置側に付勢するために、ねじりバネＧ９３４を配設したが、ねじりバネに限らず、コイルバネ、ゴム、磁石により左側アームユニットＧ９３０を退避位置側に付勢するように構成しても良い。また、退避位置側に左側アームユニットＧ９３０を付勢する形態でなく、張出位置側に付勢する形態や、退避位置と張出位置の間の位置に付勢する形態として、付勢される位置を基準位置として左側アームユニットＧ９３０を変位させても良い。

【２１６７２】

スライド板Ｇ９４０は、左側アームユニットＧ９３０に伝達される駆動力を花弁動作装置Ｇ８００に伝達するための伝達部材である。スライド板Ｇ９４０は、背面側（矢印Ｂ方向側）から螺子を挿通可能に貫通形成される第１貫通孔Ｇ９４１と、本体部材Ｇ９３１が連結される摺動溝Ｇ９４２と、正面側（矢印Ｆ方向側）から螺子を挿通可能に貫通形成される第２貫通孔Ｇ９４３とを主に備える。

【２１６７３】

第１貫通孔Ｇ９４１は、後述する花弁動作装置Ｇ８００にスライド板Ｇ９４０を締結するための螺子を挿通する孔であり、花弁動作装置Ｇ８００の背面側ベース部材Ｇ８２０のねじ穴（雌ねじ）と対応する位置に形成される。第１貫通孔Ｇ９４１を介してスライド板Ｇ９４０と花弁動作装置Ｇ８００とが締結されることで、スライド板Ｇ９４０の変位を介して左側アームユニットＧ９３０に伝達される駆動力を花弁動作装置Ｇ８００に伝達することができ、花弁動作装置Ｇ８００を退避位置と張出位置との間で変位させることが可能とされる。

【２１６７４】

摺動溝Ｇ９４２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い溝状に形成されており、その溝に本体部材Ｇ９３１のスライド側カラーＧ９３５が摺動可能な状態で配設される。なお、スライド側カラーＧ９３５は、上述したように本体部材Ｇ９３１の突設部Ｇ９３１ｃの突設先端に配設される。また、摺動溝Ｇ９４２は、本体部材Ｇ９３１の突設部Ｇ９３１ｃの円弧状の変位軌跡と異なる方向に溝が延設される。

【２１６７５】

従って、本体部材Ｇ９３１が被軸支部Ｇ９３１ａ（軸支部Ｇ６１１ｊ）を軸として回転されることに伴って突設部Ｇ９３１ｃが変位されると、スライド側カラーＧ９３５が摺動溝Ｇ９４２の内部を摺動しつつスライド板Ｇ９４０を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に押し出し、スライド板Ｇ９４０を後述するスライドレールＧ９５０に沿って上下方向に変位させる。

【２１６７６】

スライドレールＧ９５０は、伸縮式の直線案内機構であり、その伸縮方向を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿わせた姿勢で配設される。スライドレールＧ９５０は、ベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基部側レールＧ９５１と、その基部側レールＧ９５１の正面側に基部側レールＧ９５１に対して上下方向にスライド可能に配設される摺動側レールＧ９５２とを備える。

【２１６７７】

また、摺動側レールＧ９５２は、スライド板Ｇ９４０の背面側に第２貫通孔を介して締結固定される。これにより、スライド板Ｇ９４０は、摺動側レールＧ９５２に対する姿勢が固定されると共に、基部側レールＧ９５１に対する摺動側レールＧ９５２のスライド方向にスライド可能とされる。即ち、スライド板Ｇ９４０は、その変位方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に限定される。上述したように、スライド板Ｇ９４０には、花弁動作装置Ｇ８００が締結固定されるので、スライド板Ｇ９４０の上下方向の変位に伴って花弁動作装置Ｇ８００を上下方向に変位させることが可能とされる。

【２１６７８】

なお、本実施形態では、スライドレールＧ９５０の基部側レールＧ９５１及び摺動側レールＧ９５２がアルミの金属材料から形成されるが、これに限らず、スライドレールＧ９５０が樹脂材料から形成されるものであっても良い。

【２１６７９】
円環形成ユニットＧ７００は、正面視半円弧状に形成され、左右方向に対称に配設される一対の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と、それら一対の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０のそれぞれの一端側に配設される左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０とを主に備えて形成される。なお、円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、左側リンク部材Ｇ７３０、右側リンク部材Ｇ７４０は主に樹脂材料から形成される。
【２１６８０】
なお、それぞれ一対形成される左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と、左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０とは、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央部を軸に線対称に形成されるので、以下の説明では左側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側円環部材Ｇ７１０及び左側リンク部材Ｇ７３０を説明し、右側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側円環部材Ｇ７２０と、右側リンク部材Ｇ７４０との説明は省略する。また、符号については、左側円環部材Ｇ７１０の頭のＧ７１を右側円環部材Ｇ７２０でＧ７２と表記し、左側リンク部材Ｇ７３０の頭のＧ７３を右側リンク部材Ｇ７４０でＧ７４と表記する。
【２１６８１】
左側円環部材Ｇ７１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）が遊技者に視認可能な化粧面として形成されており、正面側に蝶や波や花等の装飾が形成されると共に、正面側の一部が光を透過可能な樹脂材料で形成される。詳しく説明すると、正面側に蝶や波や花等の輪郭線が光を非透過の樹脂材料で形成されると共に、それら蝶や波や花等の輪郭線の内側および外側が光を透過可能な樹脂材料で形成される。また、左側円環部材Ｇ７１０は、内部に光を出射可能なＬＥＤ（発光ダイオード）を有する発光基板を備えており、光を透過可能な材料から形成される部分を介してＬＥＤの光を遊技者側に照射可能に構成される。
【２１６８２】
また、左側円環部材Ｇ７１０は、半円環状に形成される一端側（正面視下方側（矢印Ｄ方向側））の背面に背面側に向かって円柱状に突出する突出部Ｇ７１１と、半円環状に形成される他端側（正面視上方側（矢印Ｕ方向側）の背面に背面側に向かって立設される連結部Ｇ７１２とを主に備えて形成される。
【２１６８３】
突出部Ｇ７１１は、後述する左側リンク部材Ｇ７３０に連結される部分であり、左側リンク部材Ｇ７３０よりも背面側に突出されると共に、その突出先端部にカラーＧ７１１ａが突設部に対して回転可能な状態で配設される。
【２１６８４】
連結部Ｇ７１２は、左側円環部材Ｇ７１０の背面側から立設される立設部Ｇ７１２ａと、その立設部Ｇ７１２ａの立設先端部から左側円環部材Ｇ７１０の背面に沿う方向に屈曲される屈曲部Ｇ７１２ｂとを主に備える。
【２１６８５】
立設部Ｇ７１２ａは、左側円環部材Ｇ７１０の背面とベース部材Ｇ６１０との間に進退動作ユニットＧ９００の左側アームユニットＧ９３０を配設するための空間を形成する部分であり、左側アームユニットＧ９３０の本体部材Ｇ９３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚みよりも背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離が大きく設定される。これにより、左側円環部材Ｇ７１０を本体部材Ｇ９３１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設することができ、左側円環部材Ｇ７１０の装飾面が本体部材Ｇ９３１に隠れることを抑制できる。なお、上記で説明する左側円環部材Ｇ７１０の背面とは、左側円環部材Ｇ７１０から突出部Ｇ７１１及び連結部Ｇ７１２を除いた部分における左側円環部材Ｇ７１０の背面である。
【２１６８６】
屈曲部Ｇ７１２ｂは、円環状に貫通形成される被軸支部Ｇ７１２ｂａと、その被軸支部Ｇ７１２ｂａと異なる位置に一方向に長い溝状に形成される摺動溝Ｇ７１２ｂｂとを主に

備えて形成される。
【２１６８７】
被軸支部Ｇ７１２ｂａは、左側円環部材Ｇ７１０の回転軸が挿通される貫通孔であり、上述したベース部材Ｇ６１０の棒状部材Ｇ６１１ｍが挿通可能な大きさに貫通形成される（右側の右側円環部材Ｇ７２０はベース部材Ｇ６１０のピン部Ｇ６１２ｎが挿通可能な大きさに貫通形成される）。これにより、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０は、被軸支部Ｇ７１２ｂ１が棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支されることで、それぞれ棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎを軸に回転可能な状態で配設される。
【２１６８８】
摺動溝Ｇ７１２ｂｂは、進退動作ユニットＧ９００の従動ギヤＧ９２５から進退動作ユニットＧ９００から伝達される駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される部分であり、従動ギヤＧ９２５の突設部Ｇ９２５ａ（カラーＧ９２５ｂ）が挿通可能な大きさに形成される（右側円環部材Ｇ７２０には摺動溝Ｇ７２２ｂｂに突設部Ｇ９２８ａ（カラーＧ９２８ｂ）が挿通される）。よって、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０は、駆動モータＧ９１０の駆動力で従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８（カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂ）が変位されることにより、駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される。
【２１６８９】
左側リンク部材Ｇ７３０は、左側円環部材Ｇ７１０の一端側を支持して、左側円環部材Ｇ７１０が前後方向に揺れ動くことを抑制する部材であり、ベース部材Ｇ６１０の左側延設部Ｇ６１２と左側円環部材Ｇ７１０とに連結される。
【２１６９０】
左側リンク部材Ｇ７３０は、正面視矩形の板状に形成されると共に、正面視における一端側に長手方向に沿う溝状に形成される溝部Ｇ７３１と、他端側に円環状に貫通形成される貫通孔Ｇ７３２とを主に備える。
【２１６９１】
貫通孔Ｇ７３２は、ベース部材Ｇ６１０の正面に対して平行な平面上を左側リンク部材Ｇ７３０が回転可能とするために、左側リンク部材Ｇ７３０の被軸支部となる貫通孔であり、ベース部材Ｇ６１０の正面に対して直交する前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される。
【２１６９２】
また、貫通孔Ｇ７３２には、ベース部材Ｇ６１０から前後方向に突設される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａが挿通可能に形成される。これにより、左側リンク軸支部Ｇ６１２ａが挿通された状態では、左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に左側リンク部材Ｇ７３０が回転可能とされる。
【２１６９３】
なお、貫通孔Ｇ７３２の内径と左側リンク軸支部Ｇ６１２ａの外径とは、貫通孔Ｇ７３２に左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを挿通可能とする分の若干の隙間を有する大きさに形成される。これにより、左側リンク部材Ｇ７３０が回転した際に、左側リンク部材Ｇ７３０の一端側が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。従って、左側リンク部材Ｇ７３０の一端側に連結される左側円環部材Ｇ７１０の一端側が前後方向に揺れ動くことを抑制できる。
【２１６９４】
溝部Ｇ７３１は、左側円環部材Ｇ７１０の突出部Ｇ７１１（カラーＧ７１１ａ）が挿通される部分であり、突出部Ｇ７１１と対応する位置に形成されると共に、カラーＧ７１１ａが摺動可能な溝幅に形成される。これにより、棒状部材Ｇ６１１ｍを軸に左側円環部材Ｇ７１０が回転された際に、溝部Ｇ７３１の内縁に沿って突出部Ｇ７１１を変位させることができると共に、貫通孔Ｇ７３２に挿通される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に左側リンク部材Ｇ７３０を回転させることができる。
【２１６９５】
次いで、図１９１８を参照して、ベース部材Ｇ６１０に対する花弁動作装置Ｇ８００の

動作および円環形成ユニットＧ７００の動作について説明する。図１９１８（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットＧ１０００の正面図である。なお、図１９１８（ａ）では、花弁動作装置Ｇ８００及び円環形成ユニットＧ７００が退避位置に配置され、図１９１８（ｂ）では、花弁動作装置Ｇ８００及び円環形成ユニットＧ７００が張出位置に配置された状態が図示される。

【２１６９６】

また、図１９１８（ａ）及び図１９１８（ｂ）では、理解を容易とするために、円環形成ユニットＧ７００の外形および摺動溝Ｇ７１２ｂｂ、突出部Ｇ７１１が破線で図示されると共に、ベースユニットＧ６００の左側保持部材Ｇ６２０を透明視した状態で図示される。

【２１６９７】

図１９１８に示すように、駆動モータＧ９１０の駆動力により駆動ギヤＧ９１１が回転されると、その駆動ギヤＧ９１１に歯合される従動ギヤＧ９２１が回転される。これにより、従動ギヤＧ９２１に歯合されるアーム側従動ギヤＧ９２９が回転され、そのアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴ってアーム側従動ギヤＧ９２９の突設部Ｇ９２９ａに配設されるカラーＧ９２９ｂがアーム側従動ギヤＧ９２９の回転軸を中心に変位される。

【２１６９８】

カラーＧ９２９ｂは、上述したように本体部材Ｇ９３１の摺動溝Ｇ９３１ｂの内縁側を摺動可能に配設される。これにより、カラーＧ９２９ｂが変位されることで駆動モータＧ９１０の駆動力が本体部材Ｇ９３１に伝達され、被軸支部Ｇ９３１ａを軸支する軸支部Ｇ６１１ｊ（図１９１４参照）を軸として（中心に）本体部材Ｇ９３１が回転される。

【２１６９９】

この本体部材Ｇ９３１の回転により、本体部材Ｇ９３１に連結されるスライド板Ｇ９４０（図１９１４参照）を介して花弁動作装置Ｇ８００が退避位置（図１９１８（ａ）に示す位置）から下方（矢印Ｄ方向）に変位され張出位置（図１９１８（ｂ）に示す位置）まで変位される。

【２１７００】

なお、花弁動作装置Ｇ８００の背面側に連結されるスライド板Ｇ９４０は、上述したようにスライドレールＧ９５０により変位方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に規定される。よって、左側アームユニットＧ９３０の回転変位を直線変位に変換して花弁動作装置Ｇ８００を上下方向に変位させることができる。

【２１７０１】

また、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０は、一端側（矢印Ｒ方向側）の端部にカラーＧ８１５が配設され、そのカラーＧ８１５が右側保持部材Ｇ６３０と本体板部Ｇ６１１の摺動部Ｇ６１１ｋとの対向間を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に摺動可能な状態で挟まれる。これにより、正面側ベース部材Ｇ８１０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。従って、花弁動作装置Ｇ８００が上下方向に変位される際に花弁動作装置Ｇ８００が前後方向に揺れ動くことを抑制できる。

【２１７０２】

次いで、円環形成ユニットＧ７００の変位について説明する。上述した花弁動作装置Ｇ８００の変位と同様に、駆動モータＧ９１０の駆動力により駆動ギヤＧ９１１が回転されると、駆動ギヤＧ９１１に歯合する従動ギヤＧ９２１が回転される。従動ギヤＧ９２１には、従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８が歯合されるので、従動ギヤＧ９２１が回転されることにより、従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８が連動して回転される。

【２１７０３】

ここで上述したように、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８には、その回転軸と異なる位置に突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａが配設されており、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８が回転されることに伴って突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａに配設されるカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが変位される。

【２１７０４】

カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂは、円環形成ユニットＧ７００の摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂに挿入されるので、カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂの変位によりカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂの内縁に沿って摺動しつつ、円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動モータＧ９１０の駆動力を伝達する。

【２１７０５】

このように、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８を介して円環形成ユニットＧ７００に駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達されることで、被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａを軸支する棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎを軸として（中心に）円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が回転される。

【２１７０６】

これら左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転により、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の突出部Ｇ７１１，Ｇ７２１が連結される左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０が、貫通孔Ｇ７３２，Ｇ７４２に挿通される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａ及び右側リンク軸支部Ｇ６１３ａを軸として回転される。

【２１７０７】

この左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０により、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転軸側から離れた位置の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０をベースユニットＧ６００に連結することができる。これにより、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が回転された際に、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転軸から離れた位置が回転軸方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。その結果、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の変位を遊技者に視認させやすくできる。

【２１７０８】

なお、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０（円環形成ユニットＧ７００）は、駆動モータＧ９１０の駆動力により、半円環状に形成される装飾面の下方側（矢印Ｄ方向側）端部を中央から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の外側に開いた退避位置（図１９１８（ａ）に示す位置）と、半円環状に形成される装飾面の下方側端部を左右方向の中央側に移動させて閉じた（退避位置よりも近づけた状態の）張出位置（図１９１８（ｂ）に示す位置）との間で変位可能に形成される。

【２１７０９】

また、上述したように、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、同じ駆動モータＧ９１０（駆動源）の駆動力により変位可能に構成され、連動するように構成される。よって、円環形成ユニットＧ７００が退避位置に配置された状態では、上述した花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される。これにより、演出動作ユニットＧ１０００の背面側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１を遊技者に視認させやすくできる。

【２１７１０】

また、円環形成ユニットＧ７００が張出位置に配置された状態では、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が正面視において１の円環を形成する位置に配置されると共に、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置され、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０により円環を形成した内側に花弁動作装置Ｇ８００が配置される。これにより、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００の演出を合わせて遊技者に視認させやすくできる。その結果、演出効果を向上できる。

【２１７１１】

さらに、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態では、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｇ８００とが演出動作ユニットＧ１０００の背面側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図１８３８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置され、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｇ８００とに合わせた表示が第３図柄表示装置Ｈ８１の表示面に表示される。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１と左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部

材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｈ８００とによる演出効果を向上できる。
【２１７１２】
なお、本実施形態では、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００が、同じ駆動モータＧ９１０（駆動源）の駆動力により変位される場合について説明したが、円環形成ユニットＧ７００と花弁動作装置Ｇ８００とで異なる２つの駆動源を備えるように構成しても良い。即ち、円環形成ユニットＧ７００と花弁動作装置Ｇ８００とを別々に変位させるように構成しても良い。この場合、円環形成ユニットＧ７００の変位態様を複数形成することができるので、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００による演出効果を向上できる。
【２１７１３】
次いで、図１９１９及び図１９２０を参照して、花弁動作装置Ｇ８００の全体構成について説明する。図１９１９は、花弁動作装置Ｇ８００の分解正面斜視図であり、図１９２０は、花弁動作装置Ｇ８００の分解背面斜視図である。
【２１７１４】
図１９１９及び図１９２０に示すように、花弁動作装置Ｇ８００は、正面側に配設される正面側ベース部材Ｇ８１０と、その正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側の一部を覆設した状態で配設される背面側ベース部材Ｇ８２０と、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側から軸を正面側に挿通した状態で正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側に配設される駆動モータＧ８３０と、その駆動モータＧ８３０に連結され駆動モータＧ８３０の駆動力が伝達されるギヤ列Ｇ８４１～Ｇ８４８と、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側の一部の覆設した状態で正面側ベース部材Ｇ８１０に配設されるカバー部材Ｇ８５０と、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側に配設されると共にギヤ列Ｇ８４１～Ｇ８４８から駆動力が伝達される花回転ユニットＧ４００とを主に備える。なお、本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００の駆動モータＧ８３０を除いた他の部分が主に光を非透過の樹脂材料から成型される。
【２１７１５】
正面側ベース部材Ｇ８１０は、正面視略円環の板状に形成される円環部Ｇ８１１と、その円環部Ｇ８１１から径方向外側に突出するアーム部Ｇ８１２とを主に備え、それら円環部Ｇ８１１及びアーム部Ｇ８１２が背面側（矢印Ｂ方向側）を開放した箱状に形成される。なお、背面側が開放した箱状の円環部Ｇ８１１及びアーム部Ｇ８１２は、背面側の空間に後述する従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８を配設可能に形成されており、開放された底面から解放部（背面側端部）までの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における距離が従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の歯面の厚みよりも大きく設定される。
【２１７１６】
円環部Ｇ８１１には、円環状に形成された内縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に刻設される刻設部Ｇ８１１ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の開放された底面から背面側に向かって円形状に突出される複数の軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃと、それら軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃと同様に背面側に向かって円形状に突出される複数の締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆとが形成される。
【２１７１７】
また、円環部Ｇ８１１には、円環状に形成された内側に背面側（矢印Ｂ方向側）からカラーＧ８１３が挿入されると共に、後述する従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出する検出センサＧ８１４が開放された底面に配設される。
【２１７１８】
アーム部Ｇ８１２には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される第１貫通孔Ｇ８１２ａと、その第１貫通孔Ｇ８１２ａの近傍で第１貫通孔Ｇ８１２ａよりも大きい内径で貫通形成される第２貫通孔Ｇ８１２ｂと、その第２貫通孔Ｇ８１２ｂの縁部に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円環状に立設される壁部Ｇ８１２ｃと、背面側の開放された底面から背面側に向かって円形状に突出される複数の軸支部Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅと、箱状に形成された側面に略円環状に立設される支持部Ｇ８１２ｆとが形成される。
【２１７１９】

刻設部Ｇ８１１ａは、後述する花回転ユニットＧ４００の回転ギヤＧ４２１（図１９２４参照）が歯合される歯面であり、歯底が円環部Ｇ８１１の中心から径方向外側に向かって延設されると共に円環状に形成された円環部Ｇ８１１の内縁に沿って歯面が円環状に連なって形成される。

【２１７２０】

軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅは、後述する従動ギヤＧ８４６，Ｇ８４８が軸支される部分であり、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６，Ｇ８４８の軸部と対応する位置に形成される。また、軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅには、背面側（矢印Ｂ方向側）の突出先端に螺子締結用の雌ねじが形成されており、背面側から螺子を締結することにより従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６，Ｇ８４８を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設可能とされる。

【２１７２１】

なお、軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅは、突出先端部が軸支部Ｇ８１１ｃよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置され、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設した際に背面側ベース部材Ｇ８２０の正面に軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅの突出先端面を当接可能とされる。そして、背面側ベース部材Ｇ８２０の貫通孔Ｇ８２２を背面側から挿通させた螺子を軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅの突出先端に締結することにより、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設できると共に、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設（締結）可能とされる。

【２１７２２】

締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆは、背面側ベース部材Ｇ８２０を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための螺子を締結する部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の先端に雌ねじが形成される。よって、背面側ベース部材Ｇ８２０の背面側から背面側ベース部材Ｇ８２０の貫通孔Ｇ８２２を挿通させた螺子を締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆに締結することで、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設（締結）可能とされる。

【２１７２３】

即ち、締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆだけでなく、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅでも正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０が締結される。よって、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を締結するための締結部を少なくすることができる。

【２１７２４】

第１貫通孔Ｇ８１２ａは、駆動モータＧ８３０の駆動軸を挿通するための挿通孔であり、駆動モータＧ８３０の軸が回転した際に内周面に駆動モータＧ８３０の軸が当接しない程度の内径に形成される。

【２１７２５】

第２貫通孔Ｇ８１２ｂは、従動ギヤＧ８４３の連結部Ｇ８４３ａを挿通させて、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される従動ギヤＧ８２と正面側ベース部材の背面側に配設される従動ギヤＧ８４２とを連結するための貫通孔であり、従動ギヤＧ８４３の連結部Ｇ８４３ａの外径よりも若干大きな内径に形成される。

【２１７２６】

また、第２貫通孔Ｇ８１２ｂに沿って正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって壁部Ｇ８１２ｃが立設される。これにより、第２貫通孔Ｇ８１２ｂに対して連結部Ｇ８４３ａがぶれることを抑制できる。その結果、従動ギヤＧ８４２，Ｇ８４３に歯合される駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４４の歯合状態を安定させることができる。

【２１７２７】

支持部Ｇ８１２ｆは、アーム部Ｇ８１２の右側（矢印Ｒ方向）側の側面から右側に向か

って円環状に突出して形成され、外周側にカラーＧ８１５が配設される。これにより、カラーＧ８１５が支持部Ｇ８１２ｆに対して回転可能な状態で支持される。

【２１７２８】

なお、カラーＧ８１５は、上述したようにベースユニットＧ６００の摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間に小径部が配設されると共に、大径部が摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間の外側に配設される。これにより、カラーＧ８１５が摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に摺動可能とされる。

【２１７２９】

背面側ベース部材Ｇ８２０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側を覆って、従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側への移動を規制する部材であり、従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側を覆設可能な大きさに形成される。

【２１７３０】

また、背面側ベース部材Ｇ８２０には、正面側ベース部材Ｇ８１０の円環部Ｇ８１１の正面視における中心と対応する位置に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹設される凹部Ｇ８２１と、背面側ベース部材Ｇ８２０を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための螺子を挿通する複数の貫通孔Ｇ８２２とが形成される。

【２１７３１】

凹部Ｇ８２１は、後述する花回転ユニットＧ４００の棒部材Ｇ４５１の背面側（矢印Ｂ方向側）端部（Ｄ字カット部Ｇ４５１ａ）を挿入するための凹みであり、棒部材Ｇ４５１の背面側端部のＤ形状の外形と略同一の内形に形成される。

【２１７３２】

駆動モータＧ８３０は、後述する花回転ユニットＧ４００の駆動源である。また、上述したように駆動モータＧ８３０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から第１貫通孔Ｇ８１２ａを介して駆動軸を正面側（矢印Ｆ方向側）に突出させた状態で配設される。

【２１７３３】

また、駆動モータＧ８３０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放する箱状に形成される正面側ベース部材Ｇ８１０の底面に配設される。これにより、駆動モータＧ８３０の背面側への突出距離を抑えることができ、花弁動作装置Ｇ８００（駆動モータＧ８３０）が背面側に部分的に突出することを抑制できる。

【２１７３４】

駆動ギヤＧ８４１は、駆動モータＧ８４０の駆動軸に連結されるギヤであり、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側で駆動モータＧ８４０の駆動軸に連結される。また、駆動ギヤＧ８４１は、従動ギヤＧ８４２に歯合されており、駆動ギヤＧ８４１が回転することにより従動ギヤＧ８４２を回転させることができる。

【２１７３５】

従動ギヤＧ８４２は、上述したように従動ギヤＧ８４３から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する連結部Ｇ８４３ａを介して、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される従動ギヤＧ８４３と連結される。これにより、従動ギヤＧ８４２が回転されることに伴って従動ギヤＧ８４３を回転させることができる。また、従動ギヤＧ８４３は、それぞれ順に歯合される従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４８の従動ギヤＧ８４４に歯合される。

【２１７３６】

よって、駆動モータＧ８４０の駆動力により駆動ギヤＧ８４１が回転されると、従動ギヤＧ８４２～Ｇ８４７を介して駆動モータＧ８４０の駆動力が終端の従動ギヤＧ８４８まで伝達される。

【２１７３７】

なお、終端の従動ギヤＧ８４８は、後述する花回転ユニットＧ４００の花弁側伝達部材

Ｇ４３０に連結される従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出するためのギヤであり、背面側の端部に径方向外側に突出する板状の被検出部Ｇ８４８ａを備える。この被検出部Ｇ８４８ａが、正面側ベース部材Ｇ８１０に配設される検出センサＧ８１４の検出光を遮ることで、従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出可能とされる。

【２１７３８】

また、従動ギヤＧ８４７には、花回転ユニットＧ４００の花弁側伝達部材Ｇ４３０に従動ギヤＧ８４７を締結するための螺子を挿通可能な貫通孔Ｇ８４７ａが複数個形成されており、これにより従動ギヤＧ８４７と花回転ユニットＧ４００（花弁側伝達部材Ｇ４３０）とが締結される。従って、従動ギヤＧ８４７が回転されることに伴って花回転ユニットＧ４００に駆動モータＧ８３０の駆動力を伝達することができる。また、従動ギヤＧ８４７と花回転ユニットＧ４００とが締結されるので、上述したように従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａと検出センサＧ８１４とにより従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出できる。従って、花回転ユニットＧ４００の回転位置を検出センサＧ８１４により検出可能とされる。なお、花回転ユニットＧ４００についての詳しい説明は後述する。

【２１７３９】

カバー部材Ｇ８５０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４２を正面側から視認不能にするための部材であり、光を非透過の樹脂材料から形成されると共に正面視において駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４２の正面側を覆う状態で正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側に配設される。

【２１７４０】

次いで、図１９２１から図１９２３を参照して、花回転ユニットＧ４００について説明する。図１９２１（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９２１（ｂ）は、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図であり、図１９２２は、花回転ユニットＧ４００の分解正面斜視図であり、図１９２３は、花回転ユニットＧ４００の分解背面斜視図である。なお、以下の説明では、理解を容易とするために、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における中央の（棒部材Ｇ４５１を軸（中心）とする）回転軸を軸ＧＯの符号を付して２点鎖線で図示している。

【２１７４１】

なお、花回転ユニットＧ４００は、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が変位可能に構成され、それら第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の変位により花回転ユニットＧ４００が変位可能に構成される。また、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０は、振動または動作可能に構成され、それら第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の振動または動作により花回転ユニットＧ４００が振動または動作可能に構成される。

【２１７４２】

図１９２１から図１９２３に示すように、花回転ユニットＧ４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設され光を発光可能に構成される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２１７４３】

なお、第１１１実施形態における花回転ユニットＧ４００は、主に樹脂材料から形成されると共に、光を透過可能な材料から形成され、基板部材Ｇ４４０から出射される光を正

面側（矢印Ｆ方向側）に透過可能に構成される。
【２１７４４】
　また、第１１１実施形態における花回転ユニットＧ４００では、第１回転ベースＧ４１０の周囲に５個の第１装飾ユニットＧ４２０が配設されるが、第１装飾ユニットＧ４２０の個数は５個以外の個数であっても良い。さらに、第１装飾ユニットＧ４２０は、第１回転ベースＧ４１０の周囲に等間隔で配設されるものでなくても良く、不等間隔で第１回転ベースＧ４１０の周囲に配設されるものであっても良い。
【２１７４５】
　第１固定ユニットＧ４５０は、背面側ベース部材Ｇ８２０の凹部Ｇ８２１に背面側（矢印Ｂ方向側）の先端が挿入されて背面側ベース部材Ｇ８２０と螺合される棒状の棒部材Ｇ４５１と、その棒部材Ｇ４５１の正面側（矢印Ｆ方向側）の先端に配設される円盤状の固定部材Ｇ４５２とを主に備えて形成される。
【２１７４６】
　棒部材Ｇ４５１は、金属製の材料から形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の長さを有する円柱形状に形成される。また、棒部材Ｇ４５１は、前後方向の両側端に外周面の一部を凹設したＤ字カット部Ｇ４５１ａを備えており、上端の外縁形状がＤ字形状に形成される。また、背面側の端部が挿入される背面側ベース部材Ｇ８２０の凹部Ｇ８２１と、正面側の端部が挿入される固定部材Ｇ４５２の貫通孔Ｇ４５２ｅとの内縁形状は、棒部材Ｇ４５１の両端部の外縁形状に対応したＤ字形状に形成される。これにより、棒部材Ｇ４５１が、背面側ベース部材Ｇ８２０及び固定部材Ｇ４５２に対して回転することが規制され、背面側ベース部材Ｇ８２０に対して固定部材Ｇ４５２の相対位置が規定（固定）される。
【２１７４７】
　固定部材Ｇ４５２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形の板状に形成されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｇ４４０よりも正面視における外形が大きく形成される。また、固定部材Ｇ４５２は、全体が光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。これにより、背面側に配設される基板部材Ｇ４４０のＬＥＤＧ４４１の光を透過して外側に出射可能とされる。
【２１７４８】
　また、固定部材Ｇ４５２は、正面視における略中央部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔Ｈ４５２ｅと、背面側（矢印Ｂ方向側）の一面に正面側に向かって凹設される収容凹部Ｇ４５２ａと、その収容凹部Ｇ４５２ａの凹設底面に形成される雌ねじの締結孔Ｇ４５２ｂと、正面側の一面に背面側に向かって凹設される３箇所の凹設部Ｇ４５２ｃと、基板部材Ｇ４４０に接続される配線（図示しない）を挿通するための開口部Ｇ４５２ｄとを主に備える。
【２１７４９】
　収容凹部Ｇ４５２ａは、固定部材Ｇ４５２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｇ４４０を内側に収容するための凹部であり、基板部材Ｇ４４０の外形と対応した円形状で背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凹設される。なお、収容凹部Ｇ４５２ａの正面側における凹設深さは、基板部材Ｇ４４０の板厚よりも大きく設定される。これにより、基板部材Ｇ４４０は、固定部材Ｇ４５２の内側に収容した状態で配設される。
【２１７５０】
　締結孔Ｇ４５２ｂは、基板部材Ｇ４４０を固定部材Ｇ４５２の背面側に固定するための螺子を締結するための雌ねじであり、基板部材Ｇ４４０を挿通した螺子が螺合される。これにより、基板部材Ｇ４４０が固定部材Ｇ４５２の背面側に固定される。
【２１７５１】
　凹設部Ｇ４５２ｃは、後述する第２固定ユニットＧ４７０のカラーＧ４７６ａを収容するための凹部であり、中央に螺子を挿通するための貫通孔が形成される。カラーＧ４７６ａを凹設部Ｇ４５２ｃに収容した状態で、凹設部Ｇ４５２ｃに背面側から挿通した螺子を第２固定ユニットＧ４７０に螺合することで、固定部材Ｇ４５２（第１固定ユニットＧ４

５０）と第２固定ユニットＧ４７０とが締結固定される。
【２１７５２】
なお、カラーＧ４７６ａは、第１固定ユニットＧ４５０（固定部材Ｇ４５２）と第２固定ユニットＧ４７０との間に配設される第２回転ベースＧ４６０を回転可能な状態で保持するための部材であり、中央に貫通孔が形成される円盤状に形成される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の貫通孔の内縁に沿って（当接した状態で）等間隔に３箇所に配設される。これにより、第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０が軸ＧＯを中心に相対回転可能な状態で配設される。
【２１７５３】
基板部材Ｇ４４０は、発光手段となるＬＥＤ（発光ダイオード）Ｇ４４１が配設される基板であり、正面側（矢印Ｆ方向側）にＬＥＤＧ４４１が複数個（本実施形態では１３個）分散配置されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側）にＬＥＤＧ４４２が複数個（本実施形態では１５個）分散配置される。なお、ＬＥＤＧ４４１は、正面側および軸ＧＯから離間する方向に向けて光を照射可能に配設され、ＬＥＤＧ４４２は、背面側および軸ＧＯから離間する方向に向けて光を照射可能に配設される。
【２１７５４】
また、基板部材Ｇ４４０には、固定部材Ｇ４５２の凹設部Ｇ４５２ｃと対応する位置の３か所に開口部Ｇ４４３が開口形成される。これにより、基板部材Ｇ４４０を第１固定ユニットＧ４５０に配設した状態で、凹設部Ｇ４５２ｃに基板部材Ｇ４４０側（背面側）から螺子を挿通させることができる。
【２１７５５】
さらに、開口部Ｇ４４３を利用してＬＥＤＧ４４１，Ｇ４４２の発光（特に、固定部材Ｇ５０との対向間に配設される正面側（矢印Ｆ方向側）のＬＥＤＧ４４１の発光）で基板部材Ｇ４４０に溜まる熱を放熱することができる。その結果、基板部材Ｇ４４０が破損することを抑制できる。
【２１７５６】
花弁側伝達部材Ｇ４３０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形状の板状に形成される伝達部Ｇ４３１と、その伝達部Ｇ４３１の背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出する軸支部Ｇ４３２とを主に備え、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、伝達部Ｇ４３１と軸支部Ｇ４３２との中心部には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する被挿通部Ｇ４３３が形成される。
【２１７５７】
伝達部Ｇ４３１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において湾曲状に開口形成される摺動溝Ｇ４３１ａが周方向に５か所に形成され、被挿通部Ｇ４３３により中心が開口した円環形状に形成される。また、円環形状に形成された伝達部Ｇ４３１の正面視における外径は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の外径よりも若干小さく形成される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、第２回転ベースＧ４６０の背面側に重なる大きさに設定される。
【２１７５８】
摺動溝Ｇ４３１ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。また、摺動溝Ｇ４３１ａは、径方向内側の内側端部Ｇ４３１ａ１（図１９２７（ａ）参照）から径方向外側の外側端部Ｇ４３１ａ２（図１９２７（ａ）参照）に向かうに従って、反時計回りの湾曲形状に形成される。これにより、伝達部Ｇ４３１（花弁側伝達部材Ｇ４３０）の回転に伴って、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを摺動させて、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることができる。
【２１７５９】
また、摺動溝Ｇ４３１ａは、正面視において湾曲して形成される摺動溝Ｇ４３１ａの内側の内面の第１摺動面Ｇ４３１ａ３により、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを軸ＧＯから径方向外側に押し出すことができると共に、正面視において湾曲して形

成される摺動溝Ｇ４３１ａの外側の内面の第２摺動面Ｇ４３１ａ４により、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを軸ＧＯに向かって径方向内側に押し出すことができる。なお、第１装飾ユニットＧ４２０（摺動部Ｇ４２５ａ）の変位についての詳しい説明は後述する。

【２１７６０】

軸支部Ｇ４３２は、正面側ベース部材Ｇ８１０と背面側ベース部材Ｇ８２０との対向間に配設される従動ギヤＧ８４７（図１９１９参照）に締結される部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に締結孔Ｇ４３２ａが形成され、その締結孔Ｇ４３２ａに従動ギヤＧ８４７の貫通孔Ｇ８４７ａを挿通した螺子が螺合される。これにより、従動ギヤＧ８４７と軸支部Ｇ４３２とが締結され、従動ギヤＧ８４７の回転に伴って花弁側伝達部材Ｇ４３０を回転させることができる。

【２１７６１】

また、軸支部Ｇ４３２は、円環状の外径が正面側ベース部材Ｇ８１０のカラーＧ８１３（図１９１９参照）の内径よりも小さく形成され、正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転可能な状態で配設される。

【２１７６２】

被挿通部Ｇ４３３は、上述した花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０と背面側ベース部材Ｇ８２０（図１９１９参照）との対向間に挿通される配線（図示しない）を花回転ユニットＧ４００の内側に通すための空間であり、前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、及び、第１固定ユニットＧ４５０の間に配設される基板部材Ｇ４４０に配線を繋ぐことができる。

【２１７６３】

第１回転ベースＧ４１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に円盤状に形成される溝形成部Ｇ４１１と、その溝形成部Ｇ４１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に円環状に突出する軸形成部Ｇ４１２と、それら溝形成部Ｇ４１１及び軸形成部Ｇ４１２の中心を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被軸支部Ｇ４１３とを主に備える。なお、本実施形態では、第１回転ベースＧ４１０の溝形成部Ｇ４１１と軸形成部Ｇ４１２とは、それぞれ異なる２の部材から形成され、溝形成部Ｇ４１１が光を透過可能な樹脂材料から形成されると共に軸形成部Ｇ４１２が光を非透過の樹脂材料から形成される。

【２１７６４】

溝形成部Ｇ４１１は、正面視において軸ＧＯから径方向外側に向かって延設して形成される第２摺動溝Ｇ４１１ａと、正面視における径方向外側の外縁部に所定の間隔で貫通形成される螺子挿通部Ｇ４１１ｂとを主に備え、被軸支部Ｇ４１３により中心が開口した円環形状に形成される。

【２１７６５】

第２摺動溝Ｇ４１１ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。また、第２摺動溝Ｇ４１１ａは、径方向内側の端部から径方向外側の端部に向かって直線状に形成される。即ち、上述した摺動溝Ｇ４３１ａと異なる溝形状に形成される。これにより、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの変位に伴って摺動される際に、摺動部Ｇ４２５ａを第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って変位させることができる（摺動部Ｇ４２５ａを摺動溝Ｇ４３１ａと第２摺動溝Ｇ４１１ａとに沿って変位させることができる）。

【２１７６６】

螺子挿通部Ｇ４１１ｂは、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを締結するための螺子を挿通するための挿通孔である。第１回転ベースＧ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から螺子挿通部Ｇ４１１ｂに挿通させた螺子を第２回転ベースＧ４６０の螺子締結部Ｇ４６５に螺合させることで、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを締結できる。即ち、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とは一体となって回転可能に構成される。

【２１７６７】
軸形成部Ｇ４１２は、被軸支部Ｇ４１３により中心が開口する円環状に形成される。また、軸形成部Ｇ４１２は、円環状に形成される外周面から径方向外側に円柱状に突出する装飾側軸部Ｇ４１２ａを備える。
【２１７６８】
装飾側軸部Ｇ４１２ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１を軸支する部分であり、軸形成部Ｇ４１２の周方向に所定の間隔で５個（第１装飾ユニットＧ４２０の配設個数）形成され、回転ギヤＧ４２１の第１被軸支部Ｇ４２１ａよりも若干小さい外径に形成されると共に、突出先端側に回転ギヤＧ４２１を螺子止めするための雌ねじが形成される。
【２１７６９】
被軸支部Ｇ４１３は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の軸支部Ｇ４３２が挿入される部分であり、軸支部Ｇ４３２の外径よりも若干大きい内径の円環形状に形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０に対して花弁側伝達部材Ｇ４３０の姿勢を維持した状態で回転させることができる。
【２１７７０】
第２回転ベースＧ４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される正面側立設部Ｇ４６２と、その正面側立設部Ｇ４６２の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所（本実施形態では５か所）から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。
【２１７７１】
円盤部Ｇ４６１は、正面視略円盤形状に形成される外径が第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２の外径よりも大きく形成される。また、背面側立設部Ｇ４６４の背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離は、第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における厚みよりも大きく設定される。これにより、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１と背面側立設部Ｇ４６４とにより形成される空間の内側に第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２を配設することができる（図１９２０（ｂ）参照）。
【２１７７２】
正面側立設部Ｇ４６２は、外周面に周方向に沿って所定の間隔で凹設される係合凹部Ｇ４６２ａ（図１９３３（ａ）参照）を備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、後述する第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、正面側立設部Ｇ４６２の外周面に軸ＧＯ側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形成される。なお、係合凹部Ｇ４６２ａについての詳しい説明は後述する。
【２１７７３】
歯Ｇ４６３は、後述する第２固定ユニットＧ４７０に配設される第１従動ギヤＧ４７４ａ，抵抗ギヤＧ４７５ｂの歯が歯合される部分であり、円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って全周に亘って形成される。これにより、第２回転ベースＧ４６０が回転されることに伴って第２固定ユニットＧ４７０に配設される第１従動ギヤＧ４７４ａ，抵抗ギヤＧ４７５ｂを回転させることができる。
【２１７７４】
なお、歯Ｇ４６３は、正面側立設部Ｇ４６２の内周面に凹設して形成されており、円盤部Ｇ４６１の内周面に非形成とされる。円盤部Ｇ４６１には歯Ｇ４６３を非形成とすることにより、円盤部Ｇ４６１の内周面を摺動面として利用することができ、カラーＧ４７６ａを円盤部Ｇ４６１の内周面に沿って配置することで、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０を回転させることができる。
【２１７７５】

背面側立設部Ｇ４６４は、外周面に凹凸状に形成される光拡散部Ｇ４６４ａが形成される。また、上述したように、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１と背面側立設部Ｇ４６４とにより形成される空間の内側に第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２が配設されるので、固定部材Ｇ４５２を介して固定部材Ｇ４５２に配設される基板部材Ｇ４４０のＬＥＤＧ４４１から出射される光を第１固定ユニットＧ４５０に入射させやすくできる。この場合、背面側立設部Ｇ４６４に光拡散部Ｇ４６４ａが形成されるので、第２回転ベースＧ４６０に入射されたＬＥＤＧ４４１の光を光拡散部Ｇ４６４ａにより径方向外側に向かって拡散して出射させることができる。

【２１７７６】

螺子締結部Ｇ４６５は、上述したように第１回転ベースＧ４１０の螺子挿通部Ｇ４１１ｂを挿通させた螺子を締結する部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に雌ねじが形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とが締結され、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを軸ＧＯを中心に一体に回転可能に構成される。

【２１７７７】

第２固定ユニットＧ４７０は、正面視円環状に形成される正面側光拡散部Ｇ４７１と、その正面側光拡散部Ｇ４７１の外周縁から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される側面側光拡散部Ｇ４７２と、を主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２１７７８】

正面側光拡散部Ｇ４７１は、背面側から入射されるＬＥＤＧ４４１の光を正面側に拡散して出射するための光拡散部であり、正面側が凹凸状に形成される。側面側光拡散部Ｇ４７２は、その側面側光拡散部Ｇ４７２の径方向内側から入射される光を径方向外側に拡散して出射するための光拡散部であり、外周面が凹凸状に形成される。これら正面側光拡散部Ｇ４７１及び側面側光拡散部Ｇ４７２により、基板部材Ｇ４４０の光を花回転ユニットＧ４００の正面側および正面視における花回転ユニットＧ４００の周囲に拡散することができる。

【２１７７９】

また、正面側光拡散部Ｇ４７１は、正面視（矢印Ｂ方向視）における中央部（軸ＧＯ側）に円形に形成される開口部Ｇ４７３と、背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出するギヤ保持部Ｇ４７４と、背面側から円柱状に突出する３か所のカラー保持部Ｇ４７６と、背面側を凹設して形成される凹部Ｇ４７５とを主に備える。

【２１７８０】

開口部Ｇ４７３は、第２装飾ユニットＧ４８０を転可能に保持するためのカラーＧ４７６ａが挿入される開口であり、カラーＧ４７６ａの小径部よりも若干小さい内径に形成される。なお、カラーＧ４７６ａには、第２装飾ユニットＧ４８０の連結部Ｇ４８１がカラーＧ４７６ａの内周面と若干の隙間を有した状態で挿入される。また、カラーＧ４７６ａに挿入された連結部Ｇ４８１の先端は、第２固定ユニットＧ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２従動ギヤＧ４７３ｂの側面に締結固定される。これにより、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２装飾ユニットＧ４８０が回転可能な状態で保持される。

【２１７８１】

ギヤ保持部Ｇ４７４は、後述する第１従動ギヤＧ４７４ａを軸支する部分であり、第１従動ギヤＧ４７４ａの内径よりも若干小さな外径に形成される。なお、第１従動ギヤＧ４７４ａは、第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３に歯合される。従って、第２固定ユニットＧ４７０に対して、第２回転ベースＧ４６０が回転されると、その第２回転ベースＧ４６０の回転に伴って第１従動ギヤＧ４７４ａが回転される。

【２１７８２】

また、第１従動ギヤＧ４７４ａには、第２装飾ユニットＧ４８０に締結固定される第２従動ギヤＧ４７３ｂが歯合されており、第１従動ギヤＧ４７４ａの回転に伴って第２従動ギヤＧ４７３ｂが回転可能とされる。即ち、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニット

Ｇ４７０に対して回転されると、第２装飾ユニットＧ４８０が第２回転ベースＧ４６０の回転方向と反対方向に回転される。

【２１７８３】

カラー保持部Ｇ４７６は、第２回転ベースＧ４６０を回転可能に保持するためのカラーＧ４７６ａが配設される突起であり、カラーＧ４７６ａの内径よりも若干小さい外径に形成される。また、カラーＧ４７６ａは、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の内周面に沿って（円盤部Ｇ４６１の内縁側に）配置される。これにより、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０を回転可能な状態で配設できる。

【２１７８４】

さらに、カラーＧ４７６ａは、第１固定ユニットＧ４５０の凹設部Ｇ４５２ｃに背面側の大径部が収容される。また、カラーＧ４７６ａの内側に配置されるカラー保持部Ｇ４７６には、凹設部Ｇ４５２ｃを挿通した螺子が締結される。これにより、第１固定ユニットＧ４５０と第２固定ユニットＧ４７０とが締結固定される。

【２１７８５】

凹部Ｇ４７５は、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニットＧ４７０に対して回転しすぎることを抑制するために第２回転ベースＧ４６０の回転に抵抗を付与する抵抗手段Ｇ４７５ａが配設される凹部であり、抵抗手段Ｇ４７５ａと対応する大きさに凹設される。

【２１７８６】

また、抵抗手段Ｇ４７５ａには、抵抗ギヤＧ４７５ｂが回転可能な状態で軸支されると共に、その抵抗ギヤＧ４７５ｂの歯が第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３に歯合する位置に配設される。よって、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニットＧ４７０に対して回転する場合に、抵抗ギヤＧ４７５ｂが回転される。抵抗ギヤＧ４７５ｂには抵抗手段Ｇ４７５ａから一定の回転抵抗が作用されるので、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０が回転する際に、第２回転ベースＧ４６０に抵抗手段Ｇ４６５ａから一定の回転抵抗が作用される。これにより、第２回転ベースＧ４６０が駆動モータＧ８３０の駆動力が切断された後も、その慣性力によって回転が継続されることを抑制できる。即ち、駆動モータＧ８３０の駆動力を切断持に第２回転ベースＧ４６０の回転を停止することができる。

【２１７８７】

また、第２固定ユニットＧ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）には、逆回転規制ユニットＧ４７７が配設される。逆回転規制ユニットＧ４７７は、背面側カバーＧ４７７ａと、その背面側カバーＧ４７７ａに回転可能な状態で支持される係合片Ｇ４７７ｂと、係合片Ｇ４７７ｂを付勢するねじりバネＧ４７７ｃとを主に備えて形成される。

【２１７８８】

係合片Ｇ４７７ｂは、正面視略矩形の板状に形成されると共に、第２回転ベースＧ４６０の正面側立設部Ｇ４６２の外周面に当接可能な状態で配設される。また、係合片Ｇ４７７ｂは、第２回転ベースＧ４６０の外周面に対して所定の位置で係合可能とされ、この係合により、第２回転ベースＧ４６０の第２固定ユニットに対する所定の方向（矢印ＧＬ方向（図１９３３参照））への回転が規制される。なお、係合片Ｇ４７７ｂと正面側立設部Ｇ４６２との係合について詳しい説明は後述する。

【２１７８９】

第２装飾ユニットＧ４８０は、正面視において略円形、詳細には花を模した形状に形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、第２装飾ユニットＧ４８０には、光を透過可能な塗料により、正面側に塗装が施される。よって、第２装飾ユニットＧ４８０は、背面側から入射する光を正面側に透過可能とされる。

【２１７９０】

また、第２装飾ユニットＧ４８０は、背面側の中央部に突出する連結部Ｇ４８１を備える。連結部Ｇ４８１は、上述したように、第２固定ユニットＧ４７０のカラーＧ４７６ａに挿入されと共に、第２固定ユニットＧ４７０の第２従動ギヤＧ４７３ｂに締結される部分であり、カラーＧ４７６ａの内周面と若干の隙間を有する大きさに形成される。これに

より、第２装飾ユニットＧ４８０は、連結部Ｇ４８１を軸に（軸ＧＯを中心に）第２固定ユニットＧ４７０に対して回転可能とされる。

【２１７９１】

なお、第１１１実施形態における第２装飾ユニットＧ４８０は、正面視において略円形に形成されるが、角形状や異形状に形成されるものであっても良い。また、第２装飾ユニットＧ４８０は、光を透過可能な樹脂材料から形成されるものではなく、正面側（矢印Ｆ方向側）側面および背面側（矢印Ｂ方向側）の側面に光を反射する装飾が施され、光を非透過に形成されるものであっても良い。

【２１７９２】

次いで、図１９２４を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０について説明する。図１９２４（ａ）は、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩＶ方向視における第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図１９２４（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ４２０の分解正面斜視図である。

【２１７９３】

なお、以下の説明では、図１９２４（ａ）に示す状態の第１装飾ユニットＧ４２０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１９２４（ａ）に示す状態の第１装飾ユニットＧ４２０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側として、それぞれ説明する。

【２１７９４】

図１９２４に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ４２６と、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６との間に配設される第２継手部材Ｇ４２３と、その第２継手部材Ｇ４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。

【２１７９５】

回転ギヤＧ４２１は、第１回転ベースＧ４１０（図１９２２参照）の装飾側軸部Ｇ４１２ａに配設されるギヤであり、装飾側軸部Ｇ４１２ａが挿通可能に貫通される第１被軸支部Ｇ４２１ａと、外周面に刻設される歯Ｇ４２１ｂと、装飾側軸部Ｇ４１２ａが挿入される側と反対面から突出する一対の連結部Ｇ４２１ｃとを主に備えて形成される。

【２１７９６】

第１被軸支部Ｇ４２１ａは、装飾側軸部Ｇ４１２ａの外径よりも若干大きい内径の貫通孔として形成される。回転ギヤＧ４２１は、図１９２４（ａ）に示す左側（矢印Ｌ方向側）から第１被軸支部Ｇ４２１ａに装飾側軸部Ｇ４１２ａを挿通させると共に、第１被軸支部Ｇ４２１ａを挿通させた装飾側軸部Ｇ４１２ａの先端に第１被軸支部Ｇ４２１ａの内径よりも大きい外径の頭部を有する螺子を締結することで、装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として第１回転ベースＧ４１０に対して回転可能な状態で配設される。

【２１７９７】

歯Ｇ４２１ｂは、正面側ベース部材Ｇ８１０（図１９１９参照）の刻設部Ｇ８１１ａに歯合する歯であり、刻設部Ｇ８１１ａと対応する形状に形成される。回転ギヤＧ４２１は、第１回転ベースＧ４１０（図１９２１（ｂ）参照）に軸支された状態で、第１固定ユニットＧ４５０（図１９２１（ｂ）参照）の棒部材Ｇ４５１が背面側ベース部材Ｇ８２０（図１９１９参照）に挿入され固定される（花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０及び背面側ベース部材Ｇ８２０に配設される）ことで、刻設部Ｇ８１１ａに歯合される。

【２１７９８】

なお、刻設部Ｇ８１１ａは、花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転した際の回転ギヤＧ４２１の回転軌跡と重なる位置に形成される。従って、回転ギヤＧ４２１は、花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転する

ことに伴って、装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として第１回転ベースＧ４１０に対して回転される。
【２１７９９】
連結部Ｇ４２１ｃは、板状に形成されると共に、その板状に形成された一面が第１被軸支部Ｇ４２１ａを挟んで対向した状態で形成される。また、一対の連結部Ｇ４２１ｃは、対向する方向に貫通する第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１を備えており、その第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に連結棒Ｇ４２１ｄが回転可能な状態で挿通される。
【２１８００】
連結棒Ｇ４２１ｄは、第１継手部材Ｇ４２２を回転ギヤＧ４２１に連結するための部材であり、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に挿通可能な外径の円柱状に形成される。また、連結部Ｇ４２１ｃは、円柱状に形成される軸方向中央部に径方向に貫通する第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１と、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２１ｄ２とを備える。
【２１８０１】
第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１は、後述する第１継手部材Ｇ４２２の連結棒Ｇ４２２ｃが挿通される部分であり、連結棒Ｇ４２２ｃよりも大きい外径に形成される。この第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１に連結棒Ｇ４２２ｃが挿通されることで、回転ギヤＧ４２１と第１継手部材Ｇ４２２とが連結される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１が第１回転ベースＧ４１０に対して回転されることに伴って回転される。
【２１８０２】
止め輪保持部Ｇ４２１ｄ２は、止め輪Ｇ４２１ｅが外嵌される部分であり、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に連結棒Ｇ４２１ｄが挿入された状態で止め輪Ｇ４２１ｅが連結棒Ｇ４２１ｄの両端に外嵌されることで、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１から連結棒Ｇ４２１ｄが抜け出ることが規制される。
【２１８０３】
なお、第１１１実施形態における連結棒Ｇ４２１ｄ及び止め輪Ｇ４２１ｅは、金属製の材料から形成されており、連結棒Ｇ４２１ｄが連結部Ｇ４２１ｃに対して回転した際に破損することが抑制される。また、第１１１実施形態における連結棒Ｇ４２１ｄは、止め輪Ｇ４２１ｅにより止められるが、連結棒Ｇ４２１ｄの端部に螺子を締結して第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１から抜け出ることが規制されるものであっても良い。
【２１８０４】
第１継手部材Ｇ４２２は、円盤状に形成される第１連結部Ｇ４２２ａと、その第１連結部Ｇ４２２ａの一面から突出する一対の第２連結部Ｇ４２２ｂとを主に備えて形成される。
【２１８０５】
第１連結部Ｇ４２２ａは、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６とを連結する部分であり、円盤状に形成される中央部に変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７を挿入する凹部Ｇ４２２ａ１が凹設される。
【２１８０６】
凹部Ｇ４２２ａ１は、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７の端部と同形状のＤ字状に凹設される。また、凹部Ｇ４２２ａ１には、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７の端部が圧入される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６とが連結され、第１継手部材Ｇ４２２の回転に伴って変位ユニットＧ４２６を回転させることができる。
【２１８０７】
第２連結部Ｇ４２２ｂは、板状に形成されると共に、その板状に形成された一面が凹部Ｇ４２２ａ１を挟んで対向した状態で形成される。また、一対の第２連結部Ｇ４２２ｂは、対向する方向に貫通する被軸支部Ｇ４２２ｂ１を備えており、その被軸支部Ｇ４２２ｂ１に連結棒Ｇ４２２ｃが回転可能な状態で挿通される。
【２１８０８】

連結棒Ｇ４２２ｃは、回転ギヤＧ４２１の連結棒Ｇ４２１ｄと連結される部材であり、連結棒Ｇ４２１ｄの第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１の内径よりも小さい外径の円柱状に形成される。連結棒Ｇ４２２ｃは、上述したように第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１に挿通されることで、回転ギヤＧ４２１の連結棒Ｇ４２１ｄに連結される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１が第１回転ベースＧ４１０に対して回転されることに伴って回転される。

【２１８０９】

また、連結棒Ｇ４２２ｃは、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２２ｃ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２２ｃ１は、止め輪Ｇ４２２ｄが外嵌される部分であり、被軸支部Ｇ４２２ｂ１に連結棒Ｇ４２２ｃが挿入された状態で止め輪Ｇ４２２ｄが連結棒Ｇ４２２ｃの両端に外嵌されることで、被軸支部Ｇ４２２ｂ１から連結棒Ｇ４２２ｃが抜け出ることが規制される。

【２１８１０】

なお、第１１１実施形態における連結棒Ｇ４２２ｃ及び止め輪Ｇ４２２ｄは、金属製の材料から形成されており、連結棒Ｇ４２２ｃが被軸支部Ｇ４２２ｂ１に対して回転した際に破損することが抑制される。また、第１１１実施形態における連結棒Ｇ４２２ｃは、止め輪Ｇ４２ｄにより止められるが、連結棒Ｇ４２２ｃの端部に螺子を締結して被軸支部Ｇ４２２ｂ１から抜け出ることが規制されるものであっても良い。

【２１８１１】

被摺動部材Ｇ４２５は、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図１９２２参照）に連結される部材であり、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａと、その摺動部Ｇ４２５ａの反対側（下方側）に貫通形成される被軸支部Ｇ４２５ｂとを主に備える。

【２１８１２】

摺動部Ｇ４２５ａは、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの溝幅よりも小さい外径の円柱状に形成され、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通可能とされる。また、摺動部Ｇ４２５ａは、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される際に基端側に第１カラーＧ４２５ａ１（図１９２２参照）が配設されると共に、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通された先端側に第２カラーＧ４２５ａ２（図１９２２参照）が配設される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０の伝達部Ｇ４３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を第１カラーＧ４２５ａ１と第２カラーＧ４２５ａ２とで挟んだ状態で、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される。これにより、摺動部Ｇ４２５ａに対して花弁側伝達部材Ｇ４３０が前後方向に揺れ動くことを抑制でき、摺動溝Ｇ４３１ａの内側を摺動部Ｇ４２５ａが摺動する際の抵抗を低減できる。

【２１８１３】

被軸支部Ｇ４２５ｂは、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とを連結する部分であり、伝達部材Ｇ４２４に配設される第１連結棒Ｇ４２４ｃを挿通可能な内径の貫通孔として形成される。

【２１８１４】

伝達部材Ｇ４２４は、一対の板状の部材から形成されると共に、互い一面側を対向した状態で配設される。また、伝達部材Ｇ４２４は、被摺動部材Ｇ４２５と第２継手部材Ｇ４２３とを連結する部材であり、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とを連結するための第１被軸支部Ｇ４２４ａと、第２継手部材Ｇ４２３と伝達部材Ｇ４２４とを連結するための第２被軸支部Ｇ４２４ｂとを備える。

【２１８１５】

第１被軸支部Ｇ４２４ａは、第１連結棒Ｇ４２４ｃが挿通される貫通孔であり、第１連結棒Ｇ４２４ｃを挿通可能な内径に形成されると共に、一対の伝達部材Ｇ４２４の対向する方向に貫通される。

【２１８１６】

第１連結棒Ｇ４２４ｃは、一対の伝達部材Ｇ４２４の間に被摺動部材Ｇ４２５（被軸支部Ｇ４２５ｂ）を挟んだ状態で、伝達部材Ｇ４２４の第１被軸支部Ｇ４２４ａと被摺動部

材Ｇ４２５の被軸支部Ｇ４２５ｂとに挿通される。これにより、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とが連結される。

【２１８１７】

また、第１連結棒Ｇ４２４ｃは、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２４ｃ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２４ｃ１は、止め輪Ｇ４２４ｄが外嵌される部分であり、第１被軸支部Ｇ４２４ａと被軸支部Ｇ４２５ｂとに第１連結棒Ｇ４２４ｃが挿入された状態で止め輪Ｇ４２４ｄが第１連結棒Ｇ４２４ｃの両端に外嵌されることで、第１被軸支部Ｇ４２４ａと被軸支部Ｇ４２５ｂとから第１連結棒Ｇ４２４ｃが抜け出ることが規制される。

【２１８１８】

なお、伝達部材Ｇ４２４と被摺動部材Ｇ４２５とは、第１連結棒Ｇ４２４ｃに対して回転可能に連結される。従って、後述する被摺動部材Ｇ４２５の変位に伴って被摺動部材Ｇ４２５に対して伝達部材Ｇ４２４の姿勢を変更することができる。

【２１８１９】

第２被軸支部Ｇ４２４ｂは、第２連結棒Ｇ４２４ｅが挿通される貫通孔であり、第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通可能な内径に形成されると共に、一対の伝達部材Ｇ４２４の対向する方向に貫通される。

【２１８２０】

第２連結棒Ｇ４２４ｅは、一対の伝達部材Ｇ４２４の間に第２継手部材Ｇ４２３（第１貫通孔Ｇ４２３ａ）を挟んだ状態で、伝達部材Ｇ４２４の第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第２継手部材Ｇ４２３の第１貫通孔Ｇ４２３ａとに挿通される。これにより、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とが連結される。

【２１８２１】

また、第２連結棒Ｇ４２４ｅは、第１連結棒Ｇ４２４ｃと同様に、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２４ｅ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２４ｅ１は、止め輪Ｇ４２４ｆが外嵌される部分であり、第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第１貫通孔Ｇ４２３ａとが挿入された状態で止め輪Ｇ４２４ｆが第２連結棒Ｇ４２４ｅの両端に外嵌されることで、第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第１貫通孔Ｇ４２３ａとから第２連結棒Ｇ４２４ｅが抜け出ることが規制される。

【２１８２２】

なお、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とは、第２連結棒Ｇ４２４ｅに対して回転可能に連結される。従って、伝達部材Ｇ４２４の変位（被摺動部材Ｇ４２５に対する姿勢の変化）に伴って伝達部材Ｇ４２４に対して第２継手部材Ｇ４２３の姿勢を変更することができる。

【２１８２３】

また、本実施形態における第１連結棒Ｇ４２４ｃ、第２連結棒Ｇ４２４ｅ、止め輪Ｇ４２４ｄ，Ｇ４２４ｆは、金属製の材料から形成されており、第１連結棒Ｇ４２４ｃ及び第２連結棒Ｇ４２４ｅが第１被軸支部Ｇ４２４ａ及び第２被軸支部Ｇ４２４ｂに対して回転した際に破損することが抑制される。

【２１８２４】

第２継手部材Ｇ４２３は、伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ４２６とを連結するための部材であり、矩形の立方体から形成される。また、第２継手部材Ｇ４２３は、異なる方向に貫通する第１貫通孔Ｇ４２３ａ及び第２貫通孔Ｇ４２３ｂを備える。なお、第１貫通孔Ｇ４２３ａと第２貫通孔Ｇ４２３ｂとは、互いにずれた位置に形成される。

【２１８２５】

第１貫通孔Ｇ４２３ａは、上述したように第２連結棒Ｇ４２４ｅが挿通される貫通孔であり、第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通可能な内径に形成される。第１貫通孔Ｇ４２３ａに伝達部材Ｇ４２４の第２被軸支部Ｇ４２４ｂを挿通した第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通させることで、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とが連結される。

【２１８２６】

第２貫通孔Ｇ４２３ｂは、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７が挿通される貫通孔であり、軸部Ｇ４２７を挿通可能な内径に形成される。第２貫通孔Ｇ４２３ｂに軸部Ｇ４２７を挿通することで、第２継手部材Ｇ４２３を介して伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ４２６とが連結される。これにより、伝達部材Ｇ４２４が変位されると、その伝達部材Ｇ４２４の変位に伴って変位ユニットＧ４２６を変位させることができる。

【２１８２７】

変位ユニットＧ４２６は、湾曲する板状に形成され、その湾曲する内側（矢印Ｌ方向側）の第１装飾面Ｇ４２６ａと、その第１装飾面Ｇ４２６ａと反対側（矢印Ｒ方向側）の側面の第２装飾面Ｇ４２６ｂと、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの正面側（矢印Ｆ方向側）の端部同士を繋ぐ第１端面Ｇ４２６ｃと、その第１端面Ｇ４２６ｃの反対側（矢印Ｂ方向側）に形成され軸部Ｇ４２７に連結される連結部Ｇ４２６ｄとを主に備える。

【２１８２８】

なお、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ，第１端面Ｇ４２６ｃに金や銀等の反射率の高い装飾が施される。これにより、変位ユニットＧ４２６に照射される光を反射することができる。なお、変位ユニットＧ４２６の光の反射についての詳しい説明は後述する。

【２１８２９】

また、第１１１実施形態における変位ユニットＧ４２６は、正面視において花弁側伝達部材Ｇ４３０（第２装飾ユニットＧ４８０）に沿って湾曲する板状に形成されるが、必ずしもこれに限られるものではなく、平板状や棒状（円柱状）に形成されるものであっても良い。また、第１１１実施形態における変位ユニットＧ４２６は、透明な樹脂材料で形成され、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂから入射する光を透過して第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂから出射することで、透過する光による演出を遊技者に視認させるものであっても良い。

【２１８３０】

連結部Ｇ４２６ｄは、軸部Ｇ４２７を変位ユニットＧ４２６に連結するための部分であり、湾曲形成される変位ユニットＧ４２６の湾曲方向の内方側（矢印Ｌ方向側）に張り出して形成される。これにより、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ及び第１端面Ｇ４２６ｃを軸部Ｇ４２７の軸線上から外れた位置に配置することができる。これにより、軸部Ｇ４２７を軸に変位ユニットＧ４２６を回転させた際に、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ及び第１端面Ｇ４２６ｃを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。

【２１８３１】

なお、連結部Ｇ４２６ｄには、軸部Ｇ４２７の上方側（矢印Ｕ方向側）の端部を挿入するための凹部（図示しない）が形成されており、その凹部に軸部Ｇ４２７の上方側の端部が圧入されることにより変位ユニットＧ４２６と軸部Ｇ４２７とが連結される。

【２１８３２】

次いで、図１９２５及び図１９２６を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０の変位について説明する。なお、以下の説明では、図１９２５（ａ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の位置を起立位置として、図１９２５（ｃ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の位置を傾倒基準位置（起立位置から第１装飾ユニットＧ４２０が倒れた状態の位置）として説明する。

【２１８３３】

初めに、図１９２５を参照して変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位について説明する。図１９２５（ａ）から図１９２５（ｃ）は、第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＩＶ方向視における側面図と対応する。なお、図１９２５（ａ）から図１９２５（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位する遷移状態が順に図示される。また、図１９２５（ａ）から図１９２５（ｃ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図１

９２７（ａ）参照）の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１及び外側端部Ｇ４３１ａ２の位置が２点鎖線で図示される。

【２１８３４】

図１９２５（ａ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１に当接する位置に摺動部Ｇ４２５ａが配設される状態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第１端面Ｇ４２６ｃを遊技者側（正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態で配設される。

【２１８３５】

なお、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される状態では、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが花回転ユニットＧ４００の軸ＧＯ側に向けて配置されており、正面視における花回転ユニットＧ４００が縮小した状態とされる（図１９２７参照）。

【２１８３６】

図１９２５（ｂ）及び図１９２５（ｃ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１に当接した位置から摺動部Ｇ４２５ａ（被摺動部材Ｇ４２５）が外側端部Ｇ４３１ａ２側（矢印Ｒ方向側）まで移動されると、その摺動部Ｇ４２５ａ（被摺動部材Ｇ４２５）の変位に伴って、被摺動部材Ｇ４２５に連結される伝達部材Ｇ４２４が第１連結棒Ｇ４２４ｃを軸として被摺動部材Ｇ４２５に対する姿勢を変えつつ外側端部Ｇ４３１ａ２側に変位される。

【２１８３７】

そして、伝達部材Ｇ４２４が変位されることにより、伝達部材Ｇ４２４に連結される第２継手部材Ｇ４２３が変位される。上述したように、第２継手部材Ｇ４２３には第２貫通孔Ｇ４２３ｂに変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７が挿通されているので、第２継手部材Ｇ４２３の変位に伴って変位ユニットＧ４２６が変位される。

【２１８３８】

変位ユニットＧ４２６は、軸部Ｇ４２７が第１継手部材Ｇ４２２に連結され、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１に対して連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転可能に配設される。従って、被摺動部材Ｇ４２５の変位に伴って駆動力が変位ユニットＧ４２６まで伝達されると、変位ユニットＧ４２６は、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として傾倒される。

【２１８３９】

連結棒Ｇ４２１ｄを軸とする変位ユニットＧ４２６の傾倒は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２に摺動部Ｇ４２５ａが当接することで規制される。なお、本実施形態では、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に約６０度回転され、傾倒基準位置において第１装飾面Ｇ４２６ａを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態とされる。

【２１８４０】

次いで、図１９２６（ａ）から図１９２６（ｄ）を参照して、傾倒基準位置に配設される変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合について説明する。図１９２６（ａ）から図１９２６（ｄ）は、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置された状態における第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩ方向視における側面図と対応する。

【２１８４１】

なお、図１９２６（ａ）から図１９２６（ｄ）では、傾倒基準位置に配置された変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸に回転された際の遷移状態が順に図示され、図１９２６（ａ）に示す状態を傾倒基準位置として、順に９０度ずつ回転された状態が図示される。また、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸に回転される場合に変位ユニットＧ４２６（第１装飾ユニットＧ４２０）が第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０（図１９２２参照）の周囲を回転するが、ここでの説明では、図１９２６（ａ）に示す図示を形式的に側面図として、図１９２６（ｂ）から図１９２６（ｄ）についても同様に側面図として説明する。

【２１８４２】
図１９２６（ａ）から図１９２６（ｄ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置（図１９２６（ａ）に示す位置）に変位された位置から回転ギヤＧ４２１が回転されると、その回転ギヤＧ４２１の回転に伴って、回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２が回転される。第１継手部材Ｇ４２２には、凹部Ｇ４２２ａ１に変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７（図１９２４（ｂ）参照）が連結されるので、第１継手部材Ｇ４２２が回転されることにより変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される。
【２１８４３】
これにより、第１装飾面Ｇ４２６ａを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた位置（傾倒基準位置）から変位ユニットＧ４２６が回転して、第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた位置（以下の説明では「傾倒半回転位置」と称す）に変位ユニットＧ４２６を回転させることができる。即ち、遊技者に視認させられる変位ユニットＧ４２６の表示面を変更することができる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。
【２１８４４】
また、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂは、軸部Ｇ４２７の軸心とずれた位置に形成される。従って、軸部Ｇ４２７を軸に変位ユニットＧ４２６を回転させると、装飾面（第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂ）の前後方向の位置を変位させることができる。
【２１８４５】
詳しく説明すると、図１９２６（ａ）に示す傾倒基準位置では、第１装飾面Ｇ４２６ａが軸部Ｇ４２７の軸心の延長線上よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置して遊技者に視認され、図１９２６（ｃ）に示す傾倒半回転位置では、第２装飾面Ｇ４２６ｂが軸部Ｇ４２７の軸心の延長線上よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置して遊技者に視認される。これにより、変位ユニットＧ４２６の変位に前後方向の動きを付与することができるので、遊技者の興趣を向上できる。
【２１８４６】
なお、図１９２６（ａ）から図１９２６（ｄ）に示す位置まで変位ユニットＧ４２６が約２７０度回転したあとは、さらに回転ギヤＧ４２１の回転が継続されることで、図１９２６（ａ）に示す回転基準位置まで回転される。即ち、変位ユニットＧ４２６は、回転ギヤＧ４２１の回転により軸部Ｇ４２７を軸とする回転が継続される。
【２１８４７】
次いで、図１９２７及び図１９２８を参照して、変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させる際の駆動手段の駆動力の伝達について説明する。
【２１８４８】
図１９２７（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９２７（ｂ）は、図１９２７（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩＩｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。図１９２８（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９２８（ｂ）は、図１９２８（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩＩＩｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。
【２１８４９】
なお、図１９２７及び図１９２８では、理解を容易とするための花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部材（基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０（図１９２２参照）の図示が省略される。また、図１９２７（ａ）及び図１９２８（ａ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側の第２摺動溝Ｇ４１１ａが鎖線で図示される。さらに、図１９２７及び図１９２８では、軸ＧＯを中心とする正面視右回りの回転に矢印ＧＲの符号が付して図示され、軸ＧＯを中心とする正面視左回りの回転に矢印ＧＬの符号が付して図示される。
【２１８５０】

初めに、上述したように、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、軸支部Ｇ４３２（図１９２２参照）が正面側ベース部材Ｇ８１０（図１９１９参照）と背面側ベース部材Ｇ８２０（図１９１９参照）との対向間に配設される従動ギヤＧ８４７（図１９１９参照）に締結される。従って、従動ギヤＧ８４２～Ｇ８４６を介して従動ギヤＧ８４７が駆動モータＧ８３０の駆動力により回転されると、花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転される。

【２１８５１】

花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａには、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿入されるので、図１９２７（ａ）及び図１９２８（ａ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０が正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転されると、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第１摺動面Ｇ４３１ａ３に沿って軸ＧＯの径方向外側に押し出される。

【２１８５２】

この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａには、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側（矢印Ｂ方向側）が第１回転ベースＧ４１０の第２摺動溝Ｇ４１１ａに挿入されるので、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第１摺動面Ｇ４３１ａ３により押し出されると、摺動部Ｇ４２５ａは、第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って軸ＧＯの径方向外側に向かって移動される。これにより、上述した図１９２５（ａ）から図１９２５（ｃ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位される。

【２１８５３】

なお、起立位置から傾倒基準位置に変位ユニットＧ４２６が変位される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが第１回転ベースＧ４１０の第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って変位される。そのため、正面視（矢印Ｂ方向視）における軸ＧＯを中心とする周方向（矢印ＧＲ方向や矢印ＧＬ方向）に第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることなく、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置に変位させることができる。

【２１８５４】

また、図１９２７及び図１９２８に示すように、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６が遊技盤Ｈ１３（図１９１０参照）の連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転可能に配設され、起立位置と傾倒基準位置との間で変位させることにより、正面視における変位ユニットＧ４２６の姿勢を変えることができるので、起立位置では正面視における外形を小さくできると共に、傾倒位置では正面視における外形を大きくできる。

【２１８５５】

これにより、花回転ユニットＧ４００の正面視における外形を小さくするために、変位ユニットＧ４２６を他の部材（例えば、第２装飾ユニットＧ４８０）の背面側に隠す必要がなくなるので、変位ユニットＧ４２６を隠す部材の正面視における外形の大きさに関係なく変位ユニットＧ４２６の外形の大きさを変更することができる。

【２１８５６】

詳しく説明すると、花回転ユニットＧ４００（第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０）において、第２装飾ユニットＨ４８０が第１装飾ユニットＧ４２０の外側に張り出され第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とが共に視認可能とされる拡大状態と、第２装飾ユニットＧ４８０を第１装飾ユニットＧ４２０に近づけて第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が視認不能とされる縮小状態とを形成し、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０との全体としての視覚上の大きさを変化させる演出が行われる。

【２１８５７】

しかしながら、この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）にスライド変位させて、第２装飾ユニットＧ４８０により第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を視認不能として縮小状態を形成する一方、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニ

ットＧ４８０の外方にスライド変位させて、第１装飾ユニットＧ４２０の所定の領域を視認可能として拡大状態を形成するものであると、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を配置するため、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の正面視における外形を第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における外形よりも小さくする必要があり（第２装飾ユニットＧ４８０の外形の大きさに依存するため）、変位ユニットＧ４２６の外形を大型化することが困難であるという問題がある。

【２１８５８】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における外形を大きくすると、その分、他の部材の配設スペースが減少される。即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の外形の大型化に伴い花回転ユニットＧ４００全体の正面視における外形が大きくなり、他の部材に干渉しやすくなる。

【２１８５９】

一方、第１装飾ユニットＧ４２０の正面視における大きさを小さくしたのでは、その分遮蔽できる面積が小さくなるため、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が小さくなり、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる（拡大状態とした）際の大きさを大きくすることができない。

【２１８６０】

これに対し、本実施形態では、花回転ユニットＧ４００の正面視における外形を小さくする際に、変位ユニットＧ４２６の姿勢を変えて、正面視における変位ユニットＧ４２６の外形を小さくすることができる。

【２１８６１】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０が変位されることで、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外側を向く状態（起立位置に配置された状態）と、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態（傾倒基準位置に配置された状態）とを形成可能に構成されるので、他の部材を配設するスペースを確保しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくできる。

【２１８６２】

具体的には、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における大きさ（外形）を小さくできるので、その分、他の手段（部材）を配設するスペースを確保できる。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、他の部材が第２装飾ユニットＧ４８０（第１装飾ユニットＧ４２０）と干渉し難くでき、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度を向上できる。

【２１８６３】

一方、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における大きさを小さくしても、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における大きさが第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の大きさに依存しないので、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を大きくできる。よって、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくすることができる。

【２１８６４】

言い換えると、パチンコ機Ｈ１０の役物が配設される空間は、上下左右方向に比べて前後方向（正面と背面とを結ぶ方向）のスペースに比較的余裕があるところ、その前後方向のスペースの利用して、第２装飾ユニットＧ４８０を前後方向に長くすることで、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視の大きさを小さくできると共に、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の大きさを大きくできる。これにより、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくできる。また、縮小状態は小さく、拡大状態は大きくでき、縮小状態と拡大状態との間の正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【２１８６５】
　また、変位ユニットＧ４２６は、起立位置で第１装飾面Ｇ４２６ａが軸ＧＯ側に向けて配置され（図１９２１（ｂ）参照）、傾倒基準位置で第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に向けられて配置される。上述したように第１装飾面Ｇ４２６ａには、光を反射可能な装飾が施されているため、起立位置に配置される場合と、傾倒基準位置に配置される場合とで光の反射方向を変更することができる。
【２１８６６】
　詳しく説明すると、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置され、第１固定ユニットＧ４５０、第２回転ベースＧ４６０、又は、第２回転ベースＧ４６０を介して基板部材Ｇ４４０から出射される光が第１装飾面Ｇ４２６ａに照射される場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面視において第２装飾ユニットＧ４８０側（軸ＧＯ側）に向けられているので、光が第２装飾ユニットＧ４８０側に向かって反射される。これにより、第２装飾ユニットＧ４８０を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて出射する光量を増やすことができる。その結果、第２装飾ユニットＧ４８０に注目させやすくできる。
【２１８６７】
　一方、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置され、第１固定ユニットＧ４５０、第２回転ベースＧ４６０、又は、第２回転ベースＧ４６０を介して基板部材Ｇ４４０から出射される光が第１装飾面Ｇ４２６ａに照射される場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側に向けられているので、光が遊技者側に反射される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０に注目させやすくできる。
【２１８６８】
　即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に配設され、光を発光可能に構成される基板部材Ｇ４４０を備え、第２装飾手段は、光透過性材料から構成され、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが光を反射可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態（拡大状態）とされた場合に、基板部材Ｇ４４０から発光され変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａで反射した光を遊技者に視認させるだけでなく、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に向く状態とされた場合には、基板部材Ｇ４４４０から発光され変位ユニットＧ４２６で反射した光を第２装飾ユニットＧ４８０にその背面側（矢印Ｂ方向側）から入射させ、第２装飾ユニットＧ４８０を透過した光（第２装飾ユニットＧ４８０の正面側から出射される光を）遊技者に視認させることができる。これにより、光の視認態様を変化させ、演出効果を向上できる。
【２１８６９】
　なお、第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の背面側にスライド変位させるものでは、縮小状態において基板部材Ｇ４４０から発光され変位ユニットＧ４２６で光を反射させても、その反射させた光が基板部材Ｇ４４０に遮られてしまい、第２装飾ユニットＧ４８０へ入射させることができないところ、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６で反射された光を第２装飾ユニットＧ４８０及び基板部材Ｇ４４０にの正面視外側から回り込ませることができ、基板部材Ｇ４４０に遮られることなく、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）へ入射させることができる。
【２１８７０】
　さらに、図１９２７及び図１９２８に示すように、起立位置から傾倒基準位置に変位する際の変位ユニットＧ４２６の回転軸（連結棒Ｇ４２１ｄ）は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配置される。そのため、第１装飾ユニットＧ４２０の回転軸（連結棒Ｇ４２１ｄ）を遊技者側から視認しにくくできる。これにより、遊技者が第１装飾ユニットＧ４２０の機構を理解することで、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させた際の遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【２１８７１】
　次いで、図１９２９から図１９３２を参照して、軸部Ｇ４２７を軸として変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から回転させる際の駆動手段の駆動力の伝達について説明する。

【２１８７２】
図１９２９（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９２９（ｂ）は、図１９２９（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＩＸｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図１９２９（ｃ）は、図１９２９（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＩＸｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図１９３０（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９３０（ｂ）は、図１９３０（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図１９３０（ｃ）は、図１９３０（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図１９３１（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９３１（ｂ）は、図１９３１（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図１９３１（ｃ）は、図１９３１（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図１９３２（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９３２（ｂ）は、図１９３２（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩＩｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図１９３２（ｃ）は、図１９３２（ａ）の矢印ＭＣＭＸＸＸＩＩｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。
【２１８７３】
なお、図１９２９から図１９３２では、傾倒基準位置に配置される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として９０度ずつ回転された状態が順に図示される。また、図１９２９から図１９３２では、理解を容易とするための花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部材（基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０（図１９２２参照）の図示が省略される。
【２１８７４】
上述したように、起立位置から傾倒基準位置に変位する変位ユニットＧ４２６は、駆動モータＧ８３０の駆動力が伝達されて花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転されることで、被摺動部材Ｇ４２５の摺動部Ｇ４２５ａが第１摺動面Ｇ４３１ａ３に押し出される。この変位により、摺動部Ｇ４２５ａは、摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２に当接する位置まで変位される。
【２１８７５】
この状態から、図１９２９及び図１９３０に示すように、駆動モータＧ８３０の駆動力の伝達を継続して軸ＧＯを中心に花弁側伝達部材Ｇ４３０を正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転させると、外側端部Ｇ４３１ａ２に当接する摺動部Ｇ４２５ａが花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転に伴って軸ＧＯを中心とする花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転方向（矢印ＧＲ方向）に変位される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第１装飾ユニットＧ４２０、及び、第１回転ベースＧ４１０までが一体となって、正面側ベース部材Ｇ８１０及び背面側ベース部材Ｇ８２０に対して軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される。
【２１８７６】
第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１の歯Ｇ４２１ｂは、正面側ベース部材Ｇ８１０の刻設部Ｇ８１１ａに歯合されているので、正面側ベース部材Ｇ８１０（正面側ベース部材Ｇ８１０）に対して第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に回転されることで、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１が装飾側軸部Ｇ４１２ａ（図１９２８（ｂ）参照）を軸として回転される。
【２１８７７】
上述したように、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１が装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として回転されると、その回転ギヤＧ４２１の回転に伴って、第１継手部材Ｇ４２２が回転されると共に、第１継手部材Ｇ４２２に軸部Ｇ４２７を介して連結される変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させられると共に、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させられる。

【２１８７８】
　これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させて、花回転ユニットＧ４００の正面視における視認可能領域を広げるだけでなく、その広げた視認可能領域で第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を複雑に変位させる（軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させると共に、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる）ことができる。
【２１８７９】
　この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させたあと、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に回転させる（第２装飾ユニットＧ４８０の周りを周回（公転）させる）だけでは、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０の両者の相対変位が単調であり、十分な演出効果を得ることができない。
【２１８８０】
　これに対し、第１１１実施形態における花回転ユニットＧ４００では、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に回転させると共に、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させることができる。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを周回（公転）する（軸ＧＯを中心に回転する）際に、軸部Ｇ４２７を軸に回転（自転）可能に構成されるので、両者の相対変位が単調となることを抑制でき、演出効果を高めることができる。
【２１８８１】
　また、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂには、光を反射可能な装飾がされるので、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂにより反射される光の方向へ変更することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくでき、演出効果を高めることができる。
【２１８８２】
　即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、軸部Ｇ４２７を軸に回転（自転）する際の回転中心を挟んで位置する第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂを備え、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂとが異なる態様に構成されるので、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを第１装飾ユニットＧ４２０が周回（公転）する際に、第１装飾ユニットＧ４２０の異なる装飾面（第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂ）を交互に現出させることができる。これにより、例えば、視認される外形や反射される光の態様の変化を大きくして、演出効果を高めることができる。
【２１８８３】
　さらに、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂが湾曲した形状に形成されるので、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとで光の反射態様が異ならせることができる。よって、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの反射光による演出を異なる態様で遊技者に視認させることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくでき、遊技者の興趣を向上できる。
【２１８８４】
　なお、第１１１実施形態では、変位ユニットＧ４２６が軸ＧＯから離れる方向に延びる軸（軸部Ｇ４２７の軸）を中心に回転（自転）される場合について説明したが、変位ユニットＧ４２６は、軸ＧＯと平行に伸びる軸を中心に回転（自転）するものであっても良い。この場合、第１装飾面Ｇ４２６ａへ光が照射される領域を一部にすることで、変位ユニットＧ４２６を回転（自転）させることで第１装飾面Ｇ４２６ａに対する光の照射領域が変更され、第１装飾面Ｇ４２６ａにより反射される反射光の反射態様を変更することができる。
【２１８８５】
　また、第１１１実施形態では、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約１８度回転

することで、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として約９０度回転するように設定される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約７２度回転することで、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として１回転するように設定される。

【２１８８６】

さらに、第１装飾ユニットＧ４２０は花弁側伝達部材Ｇ４３０（第１回転ベースＧ４１０）の軸ＧＯを中心とする周囲に５個等間隔で配設される。即ち、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０と約７２度の間隔を隔てて配設される。上述したように、第１装飾ユニットＧ４２０は、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約７２度回転することで、第１装飾ユニットＧ４２０が１回転するように設定されるので、正面視において変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置される位置を同一にできる（即ち、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａを遊技者に視認させる位置、及び、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを遊技者に視認させる位置を同じにできる）。

【２１８８７】

この場合、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置となる位置の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に正面側ベース部材Ｇ８１０のアーム部Ｇ８１２が配設される。即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が小さくされる位置の背面側にアーム部Ｇ８１２が配設される。これにより、アーム部Ｇ８１２と変位ユニットＧ４２６との干渉を抑えつつ、アーム部Ｇ８１２を花回転ユニットＧ４００に対して正面側に近づけて配置することができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に大型化することを抑制できる。

【２１８８８】

また、第１１１実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、同じ駆動モータＧ８３０の駆動力により行われるので、駆動手段（駆動モータＧ８３０）の配設数を少なくすることができる。その結果、製造コストを削減できると共に、花弁動作装置Ｇ８００が大型化することを抑制できる。

【２１８８９】

さらに、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、異なるタイミングで行われる（即ち、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位をした後、変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される）ので、それぞれの駆動のタイミングが重なって、駆動力の伝達が不安となることを抑制できる。その結果、変位ユニットＧ４２６の変位が不安定となることを抑制できる。

【２１８９０】

なお、第１１１実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、同じ駆動モータＧ８３０の駆動力により行われる場合について説明したが、これに限らず、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、それぞれ別の駆動手段の駆動力により変位されるように構成されていても良い。

【２１８９１】

この場合、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とに、駆動手段の駆動力を同時に付与することが可能になるので、起立位置から傾倒基準位置に変位させている途中に変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させ始めることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０に複雑な変位をさせることができ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２１８９２】

次いで、図１９３３から図１９３５を参照して、第２装飾ユニットＧ４８０の回転について説明する。図１９３３（ａ）及び図１９３３（ｂ）と図１９３４（ａ）及び図１９３

４（ｂ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９３５（ａ）から図１９３５（ｄ）は、従動ギヤＧ８４６からＧ８４８及び検出センサＧ８１４の背面図である。

【２１８９３】

なお、図１９３３（ａ）から図１９３４（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に回転する遷移状態が順に図示され、図１９３５（ａ）では、図１９３３（ａ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図１９３５（ｂ）では、図１９３３（ｂ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図１９３５（ｃ）では、図１９３４（ａ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図１９３５（ｄ）では、図１９３４（ｂ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示される。

【２１８９４】

また、図１９３３（ａ）から図１９３４（ｂ）では、第２装飾ユニットＧ４８０の全体が透明視され外形のみ２点鎖線で図示されると共に、第２固定ユニットＧ４７０の正面側光拡散部Ｇ４７１及び側面側光拡散部Ｇ４７２が透明視して図示される。さらに、図１９３３（ａ）から図１９３４（ｂ）では、第２装飾ユニットＧ４８０の所定の１箇所を仮想点ＧＡとして図示する。

【２１８９５】

上述したように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転により第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転される際には、第１回転ベースＧ４１０に連結される第２回転ベースＧ４６０が第１回転ベースＧ４１０と共に軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される。

【２１８９６】

第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３には、第１従動ギヤＧ４７４ａが歯合されており、第２回転ベースＧ４６０の回転により第１従動ギヤＧ４７４ａが回転され、第１従動ギヤＧ４７４ａに歯合する第２従動ギヤＧ４７３ｂが回転される。これにより、第２従動ギヤＧ４７３ｂに締結される第２装飾ユニットＧ４８０が回転させられる。

【２１８９７】

この場合、第２従動ギヤＧ４７３ｂと第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３との間に奇数個（本実施形態では、１個）の第１従動ギヤＧ４７４ａが配設されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向側）に回転される際に、第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印Ｌ方向側）に回転される。即ち、正面視において第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とは反対方向に回転される。

【２１８９８】

従って、軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０が回転（公転）される際には、第２装飾ユニットＧ４８０に対する第１装飾ユニットＧ４２０の回転（公転）を遊技者に視認させることができる。そのため、第２装飾ユニットＧ４８０が実際よりも速い速度で回転しているように感じさせることができ、その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の回転による演出効果を向上させることができる。

【２１８９９】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度と、第２装飾ユニットＧ４８０の回転の速度とが異なるので、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と同じ方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度が第２装飾ユニットＧ４８０の回転の速度よりも遅くすることで、第１装飾ユニットＧ４２０が第１装飾ユニットＧ４２０と逆方向に周回していると遊技者に錯覚させることができる。また、例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と反対方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度が第２装飾ユニットＧ４

８０の回転の速度よりも速くすることで、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させやすくし（見かけの速度をより速くして）、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）を着目させやすくできる。

【２１９００】

なお、本実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とが正面視において反対方向に回転される場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とを正面視において同じ方向に回転させるものであってもよい。即ち、第２従動ギヤＧ４７３ｂと第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３との間に偶数個（例えば２個）の第１従動ギヤＧ４７４ａを配設して、第２装飾ユニットＧ４８０を軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向）に回転させるものであっても良い。

【２１９０１】

この場合には、第２装飾ユニットＧ４８０に対する第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に視認させることで、第１装飾ユニットＧ４２０が実際よりも遅い速度で回転しているように感じさせることができる。そのため、花回転ユニットＧ４００よりも他の演出（例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示による演出）に注目させやすくできる。

【２１９０２】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０は、第１装飾ユニットＧ４２０の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される連結部Ｇ４８１を備え軸ＧＯを中心に回転（自転）可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と同じ方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを一体的に視認させ、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の回転（自転）を着目させやすくできる一方、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と反対方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合には、第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）の分、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させ（見かけの速度を速くして）、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）を着目させやすくできる。

【２１９０３】

また、第２従動ギヤＧ４７３ｂに対して、第１従動ギヤＧ４７３ａのギヤ比が約２倍に設定される。従って、図１９３３（ａ）及び図１９３３（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向側）に約１８度回転される際に、第２装飾ユニットＧ４８０は軸ＧＯを中心に正面視左周り（矢印Ｌ方向側）に約３６度回転される（図１９３３の仮想点ＧＡ参照）。

【２１９０４】

即ち、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が大きく設定される。そのため、第１装飾ユニットＧ４２０が複雑な（軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させると共に、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる）変位をする場合であっても、第２装飾ユニットＧ４８０が回転していることを遊技者に認識させることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の全体を遊技者に注目させることができ、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の変位による演出効果を向上できる。

【２１９０５】

なお、本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が大きく設定される場合について説明したが、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が小さく設定されても良い。

【２１９０６】

即ち、第２従動ギヤＧ４７３ｂに対して、第１従動ギヤＧ４７３ａのギヤ比が半分に設

定され、軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０が約１８度回転される際に、軸ＧＯを中心に第２装飾ユニットＧ４８０が約９度回転するようにしても良い。この場合には、第２装飾ユニットＧ４８０の回転を遊技者に認識させにくくできるので、第２装飾ユニットＧ４８０に対して第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくできる。その結果、遊技者の視線を一部に注目させやすくできる。

【２１９０７】

次いで、図１９３３から図１９３５を参照しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転され（変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転され）た位置から、第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転されて変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置（図１９３３（ａ）に示す位置）に変位される場合について説明する。

【２１９０８】

図１９３３（ａ）及び図１９３３（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として傾倒基準位置から約９０度回転された際には、第２回転ベースＧ４６０が正面側立設部Ｇ４６２の外周面に係合片Ｇ４７７ｂを当接した状態で回転して、第２回転ベースＧ４６０の係合凹部Ｇ４６２ａの内側から係合片Ｇ４７７ｂが抜け出され、正面側立設部Ｇ４６２に所定間隔を隔てて複数個所に形成される係合凹部Ｇ４６２ａの間に係合片Ｇ４７７ｂが配置された状態とされる。

【２１９０９】

図１９３３（ｂ）に示す状態から図１９３３（ａ）に示す傾倒基準位置に第１装飾ユニットＧ４２０を戻すためには、駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対方向にして花弁側伝達部材Ｇ４３０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させる。これにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第２摺動面Ｇ４３１ａ４に押し出されて第１回転ベースＧ４１０が正面視左回りに回転される。従って、第１回転ベースＧ４１０の正面視左回りの回転に伴って第１装飾ユニットＧ４２０を変位させて、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１を回転させることで、変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置まで戻す方向に軸部Ｇ４２７を軸として回転させることができる。

【２１９１０】

この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置まで回転されると第１回転ベースＧ４１０の正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転に伴って第２回転ベースＧ４６０も正面視左回りに回転され、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａが係合片Ｇ４７７ｂと対応する位置に変位され、係合凹部Ｇ４６２ａと係合片Ｇ４７７ｂとが係合される。即ち、係合片Ｇ４７７ｂ及び係合凹部Ｇ４６２ａは、第２回転ベースＧ４６０が正面視右回りの回転をされる場合に係合しない（引っ掛からない）形状に形成され、第２回転ベースＧ４６０が正面視左回りに回転される場合に係合する（引っ掛かる）形状に形成される。これにより、傾倒基準位置からの第２回転ベースＧ４６０の軸ＧＯを中心とする正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が規制される。よって、第２回転ベースＧ４６０に連結される第１回転ベースＧ４１０の回転も規制される。

【２１９１１】

なお、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置まで回転された後、駆動モータＧ８３０の同方向への駆動が継続される（花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が継続される）場合には、第１回転ベースＧ４１０の回転が規制されることにより、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第２摺動面Ｇ４３１ａ４に押し出されて傾倒基準位置から起立位置まで変位される。

【２１９１２】

詳しく説明すると、第１回転ベースＧ４１０の回転が規制されることにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０が第１回転ベースＧ４１０に対して相対変位される。これにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの変位（花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転）に伴って第２摺動

面Ｇ４３１ａ４に当接され、摺動部Ｇ４２５ａが外側端部Ｇ４３１ａ２から内側端部Ｇ４３１ａ１まで摺動される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置まで変位される。

【２１９１３】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）へ近接する方向への第１装飾ユニットＧ４２０の変位は、第１装飾ユニットＧ４２０の軸部Ｇ４２７を軸とする回転（自転）における回転位置が所定の回転位置（傾倒基準位置）にある場合に行われるように構成される。これにより、常に同じ姿勢で第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）へ近接させることができ、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側に干渉する（当接する）ことを抑制できる。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の外形形状の設計の自由度を高められると共に、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側へ第１装飾ユニットＧ４２０をより近接させることができる。

【２１９１４】

本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の正面視右回り（矢印ＧＲ方向）の回転数に関係することなく、所定の位置（係合片Ｇ４７７ｂ及び係合凹部Ｇ４６２ａが係合する位置）まで第１装飾ユニットＧ４２０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることで、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置に戻すことができる。これにより、花回転ユニットＧ４００の正面視における領域を拡大して、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出をした後、その演出時間よりも短いタイミングで花回転ユニットＧ４００の正面視における領域を縮小することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２１９１５】

なお、本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の配設間隔と、軸ＧＯを中心とする係合凹部Ｇ４６２ａとの形成間隔とが略同一に設定される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転させた後、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に変位を開始する位置を同じ位置に設定できる。従って、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される場合における花回転ユニットＧ４００の外形を同じすることができ、遊技者が違和感を持つことを抑制できる。

【２１９１６】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に近接する方向に最も変位した際に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）における周回位置が所定の周回位置となるように構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に最も近づいた状態において、第１装飾ユニットＧ４２０の周回位置を常に同じ周回位置とすることができる。これにより、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを第１装飾ユニットＧ４２０が周回（公転）する構成において、常に同じ周回位置において第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側に最も近づいた状態とすることができると共に、常に同じ周回位置を起点（始点）として第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側から離間する方向へ変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２１９１７】

次いで、駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対方向にして、図１９３４（ａ）及び図１９３４（ｂ）に示す位置から図１９３３（ａ）に示す傾倒基準位置に第１装飾ユニットＧ４２０を戻した場合について説明する。

【２１９１８】

図１９３４（ａ）及び図１９３４（ｂ）に示す位置から第２回転ベースＧ４６０を正面視左周り（矢印ＧＬ方向）に回転させた場合には、図１９３４（ａ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒半回転位置で、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａの内側に

係合片Ｇ４７７ｂが係合されることとなる。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置まで戻すことが不能とされる。

【２１９１９】

なお、本実施形態では、図１９３５（ｃ）及び図１９３５（ｄ）に示すように図１９３４（ａ）及び図１９３４（ｂ）に示す位置まで花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転されると、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重なることとなる。この検出により、図１９３４（ａ）及び図１９３４（ｂ）に示す位置から第２回転ベースＧ４６０を正面視左周り（矢印ＧＬ方向）に回転される駆動力が駆動モータＧ８３０から入力されることが規制される。

【２１９２０】

即ち、本実施形態では、図１９３４（ａ）及び図１９３４（ｂ）に示す位置から第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に回転されることが規制される。従って、変位ユニットＧ４２６が起立位置とされる場合には、花回転ユニットＧ４００を同じ態様にすることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２１９２１】

また、図１９３５（ａ）に示すように、図１９３３（ａ）に示す傾倒基準位置においても、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重なるように構成される。これにより、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置される位置に対して、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａと係合片Ｇ４７７ｂとの係合位置がずれた場合に、傾倒半回転位置に配置される状態で起立位置に戻される不具合を抑制できる。

【２１９２２】

一方、図１９３５（ｂ）に示すように、図１９３３（ｂ）に示す傾倒基準位置から変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として少し回転される場合には、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重ならないように構成される。従って、本実施形態においては、変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位された後、少なくとも軸部Ｇ４２７を軸として変位ユニットＧ４２６を回転させてから、起立位置への変位が行われるように構成される。

【２１９２３】

次いで、図１９３６を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合について説明する。図１９３６（ａ）から図１９３６（ｃ）は、花回転ユニットＧ４００を正面視した模式図である。

【２１９２４】

なお、図１９３６（ａ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置に配置された状態が模式的に図示され、図１９３６（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置に変位される途中の位置にある状態が模式的に図示され、図１９３６（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置された状態が模式的に図示される。また、図１９３６（ａ）から図１９３６（ｃ）では、第２装飾ユニットＧ４８０が透明視して図示されると共に、第２装飾ユニットＧ４８０の外形が２点鎖線で図示される。

【２１９２５】

図１９３６（ａ）に示すように、本実施形態における複数（５個）の第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置された場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしの間隔が小さくされた状態で花回転ユニットＧ４００のベース部分（第１回転ベースＧ４１０，花弁側伝達部材Ｇ４３０，基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０）の周囲に配設される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合に、正面視における花回転ユニットＧ４００の全体を大型化して花回転ユニットＧ４００の演出に注目させやすくできる。

【２１９２６】

しかしながら、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置に配置する場合には、第１装飾ユニットＧ４２０を連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転させて、花回転ユニットＧ４００のベース部分に対する姿勢を変更するものである（即ち、軸ＧＯに対する周方向の変位ユニットＧ４２６の１辺の長さ（大きさ）を変更せず、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯに向けて近づける）ため、変位ユニットＧ４２６を起立位置に変位させる場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６の間隔が小さくなる。そのため、起立位置に配置する場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしが衝突して起立位置まで変位ユニットＧ４２６を変位させることができなくなる恐れがある。

【２１９２７】

これに対し、本実施形態では、図１９３６（ｂ）及び図１９３６（ｃ）に示すように、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６を変位させる場合に、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部が、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部に比べて先行して軸ＧＯに向かって変位される。

【２１９２８】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態から第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態となる際に、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側に到着するように構成される。

【２１９２９】

これにより、図１９３６（ｃ）に示すように起立状態とした場合には、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部を、矢印ＧＬ方向側に隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部と軸ＧＯを中心とする径方向内側に重ねた状態で配設することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合に、隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしが衝突して起立位置まで変位ユニットＧ４２６を変位させることができなくなることを抑制できる。

【２１９３０】

また、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側に到着するように構成されることで、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に複数配設される第１装飾ユニットＧ４２０が、変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態では、隣り合う第１装飾手段の一方の一側に他方の他側が軸ＧＯから径方向外側に重なるので、縮小状態において第１装飾ユニットＧ４２０の配設に要するスペースを抑制できる。言い換えると、第１装飾ユニットＧ４２０の大きさを大きくできる。一方、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）では、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の間の隙間を小さくできる。

【２１９３１】

また、図１９３６（ｃ）に示すように起立状態とした場合に、全ての第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部を、矢印ＧＬ方向側に隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部の内側に配置でき、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の外側端部の径方向における重なり方がそれぞれの第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）で異なる状態にならないので、正面視における花回転ユニットＧ４００の見た目をよくすることができる。

【２１９３２】

さらに、図１９３６（ｃ）に示すように起立位置に第１装飾ユニットＧ４２０を配置した状態では、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部の正面側（矢印Ｆ方向側）に第２装飾ユニットＧ４８０の一部を重ねた状態とされる。

【２１９３３】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０は、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態において隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成される。これにより、縮小状態において第１装飾ユニットＧ４２０どうしが重なる部分を遊技者から見えにくくできる。よって、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）に遷移した際の意外性を向上できる。

【２１９３４】

なお、第１１１実施形態では、第２装飾ユニットＧ４８０が光を透過可能な透明な樹脂材料から形成されるので、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が視認可能とされる。しかしながら、第１１１実施形態における第２装飾ユニットＧ４８０では、有色（赤色）の透明な樹脂材料で形成されており、これにより第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に重なる第１装飾ユニットＧ４２０が遊技者から見えにくくされる。

【２１９３５】

また、第１１１実施形態では、起立位置の第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部の正面側に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに設定されるが、起立位置の第１装飾ユニットＧ４２０の全体に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに第２装飾ユニットＧ４８０が設定されるものであっても良く、さらに、傾倒位置（拡大状態）の第１装飾ユニットＧ４２０の全体に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに第２装飾ユニットＧ４８０が設定され、第２装飾ユニットＧ４８０を介して第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に視認させるものであっても良い。

【２１９３６】

次いで、図１９３７から図１９３８を参照して、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００について説明する。上記第１１１実施形態では、複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が同時に変位する場合について説明したが、第１１２実施形態では、複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が異なるタイミングで変位される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２１９３７】

初めに、図１９３７を参照して、花回転ユニットＧ２４００の花弁側伝達部材Ｇ２４３０について説明する。図１９３７は、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００を正面視した模式図である。

【２１９３８】

第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個（第１１２実施形態では６個）配設される第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ２４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２１９３９】

なお、図１９３７では、花弁側伝達部材Ｇ２４３０よりも正面側に配設される基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０の図示が省略される。

【２１９４０】

図１９３７に示すように、第１１２実施形態における花弁側伝達部材Ｇ２４３０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形の板状に形成される伝達部Ｇ２４３１と、その伝達部Ｇ２４３１の背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出する軸支部Ｇ４３２とを主に備え、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、伝達部Ｇ４３１と軸支部Ｇ４３２との中心部には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する被挿通部Ｇ４３３が形成される。

【２１９４１】

伝達部Ｇ２４３１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において湾曲状に開口形成される第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５が軸ＧＯを中心とする周方向に所定の間隔で交互に形成される。

【２１９４２】

なお、伝達部Ｇ２４３１の正面視における外径は、第１１１実施形態と同様に花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の外径よりも若干小さく形成される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、第２回転ベースＧ４６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる大きさに設定される。

【２１９４３】

第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５は、第１装飾ユニットＧ４２０の被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。

【２１９４４】

第１摺動溝Ｇ２４３４は、正面視（矢印Ｂ方向視）において伝達部Ｇ２４３１の径方向内側の内側端部Ｇ２４３４ａ１から径方向外側の外側端部Ｇ２４３４ａ２に向かうに従って、反時計周りの湾曲形状に形成される。

【２１９４５】

一方、第２摺動溝Ｇ２４３５は、正面視（矢印Ｂ方向視）において、軸ＧＯを中心とする周方向に沿って延設される非変位部Ｇ２４３５ａと、その非変位部Ｇ２４３５ａの一端から径方向外側に向かうに従って反時計回りの湾曲形状に形成される変位部Ｇ２４３５ｂとを備える。

【２１９４６】

また、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂが連結される側と反対側の非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１から変位部Ｇ２４３５ｂの径方向外側の外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする形成角度は、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３４ａ２までの軸ＧＯを中心とする形成角度と略同一に設定される。即ち、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の軸ＧＯを中心とする周方向の移動距離と、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の軸ＧＯを中心とする周方向の移動距離とが略同一に設定される。

【２１９４７】

さらに、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１と第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１とは、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定され、第２摺動溝Ｇ２４３５の外側端部Ｇ２４３５ｂ２と第１摺動溝Ｇ２４３４の外側端部Ｇ２４３４ａ２とは、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定される。即ち、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の径方向における移動距離と、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の径方向における移動距離とが略同一に設定される。

【２１９４８】

次いで、図１９３８を参照して、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００における変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位および傾倒基準位置から起立位置までの変位について説明する。

【２１９４９】

図１９３８（ａ）から図１９３８（ｃ）は、花回転ユニットＧ２４００を正面視した模式図である。なお、図１９３８（ａ）から図１８３５１（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置まで変位する遷移状態が順に図示される。

【２１９５０】

初めに、図１９３８を参照して、変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位について説明する。なお、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される場合には、図１９３７（ａ）に示すように、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される側の第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される側の第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６に対して軸ＧＯを中心とする径方向外側に重なった状態で配設される。

【２１９５１】

また、変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位は、第１１１実施形態と同様に、駆動モータＧ８３０（図１９１９参照）の駆動力により花弁側伝達部材Ｇ２４３０が正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転され、第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５の移動に伴って被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａが軸ＧＯを中心とする径方向外側に変位（摺動）されることで行われる。

【２１９５２】

図１９３８（ａ）及び図１９３８（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置から変位され始めた場合には、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が花弁側伝達部材Ｇ２４３０の回転に伴って第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から離間され、湾曲形成される第１摺動溝Ｇ２４３４の内側の第１摺動面Ｇ２４３４ａ３に当接して軸ＧＯを中心とする径方向外側に押し出される。これにより、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６は、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始する。

【２１９５３】

一方、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）は、花弁側伝達部材Ｇ２４３０の回転に伴って第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から離間される。この場合、第２摺動溝Ｇ２４３５の非変位部Ｇ２４３５ａは、軸ＧＯを中心とする湾曲状に形成されるので、非変位部Ｇ２４３５ａ内を摺動する被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）は、第１回転ベースＧ４１０に対して相対位置を変更しない。従って、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０は、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始し始めた際に、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始しない。

【２１９５４】

なお、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置への変位の開始は、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が第２摺動溝Ｇ２４３５の非変位部Ｇ２４３５ａと変位部Ｇ２４３５ｂとの連結部を超える位置まで変位されることで行われる。

【２１９５５】

即ち、変位部Ｇ２４３５ｂは、上述したように径方向外側に向かうに従って反時計回りの湾曲形状に形成されるので、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位部Ｇ２４３５ｂまで変位されると、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）に変位部Ｇ２４３５ｂの第１摺動面Ｇ２４３５ｂ３に当接される。これにより、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が軸ＧＯを中心とする径方向外側に押し出されて、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始する。

【２１９５６】

次いで、図１９３８（ｃ）を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置まで変位された場合について説明する。上記したように、第２摺動溝Ｇ２４３５の外側端部Ｇ

２４３５ｂ２と第１摺動溝Ｇ２４３４の外側端部Ｇ２４３４ａ２とが、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の傾倒基準位置までの変位された場合には、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０同士の背面側（矢印Ｂ方向側）への傾倒角度を同一にすることができる。

【２１９５７】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合の正面視における第１装飾ユニットＧ４２０のそれぞれの見え方を同一にすることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２１９５８】

次いで、第１１２実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合についての説明をする。なお、第１１２実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置まで変位させる場合には、第１１１実施形態と同様に駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対して花弁側伝達部材Ｇ２４３０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることで行われる。

【２１９５９】

第１１２実施形態では、上述したように、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする第２摺動溝Ｇ２４３５の形成角度が、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする第１摺動溝Ｇ２４３４の形成角度と同一に設定され、かつ、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする径方向の離間距離が、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３４ａ２までの軸ＧＯを中心とする径方向の離間距離と同一に設定されるので、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂの正面視における曲率が、第１摺動溝Ｇ２４３４の正面視における曲率よりも大きく形成される。

【２１９６０】

これにより、第１１２実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位を開始した場合に、第２摺動溝Ｇ２３４５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０を第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０に比べて早いタイミングで起立位置まで変位させることができる。即ち、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６は、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂと非変位部Ｇ２４３５ａとの連結部まで被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位されることで起立位置に変位される。

【２１９６１】

図１９３８（ｂ）及び図１９３８（ａ）に示すように、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂと非変位部Ｇ２４３５ａとの連結部まで被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位された第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０は、花弁側伝達部材Ｇ２４３０が正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が継続されることで、非変位部Ｇ２４３５ａの内部を摺動して非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１まで変位される。

【２１９６２】

なお、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０が非変位部Ｇ２４３５ａの内部を摺動して非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１まで変位される場合に、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０が第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１まで変位される。これにより、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の軸ＧＯを中心とする径方向外側に、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が重なって当接した状態（図１９３８（ａ）に示す状態）とされる。

【２１９６３】

以上説明したように、第１１２実施形態では、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の変

位ユニットＧ４２６が異なるタイミングで起立位置まで変位される。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態から変位ユニットＧ４２６がだい２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態となる際に、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるように構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０を複雑な軌跡で変位させることを回避しつつ、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０同士が干渉することを抑制できる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも先に第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に到着するようにする必要がなく、第１装飾ユニットＧ４２０の一側および他側が同時に第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に到着するようにできる。

【２１９６４】

よって、第１１２実施形態では、傾倒基準位置から起立位置まで変位ユニットＧ４２６変位させる場合に、第１１１実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０のように、変位ユニットＧ４２６の周方向の一方側（矢印ＧＬ方向側）を他方側（矢印ＧＲ方向側）に比べて先行させる必要がないので、傾倒基準位置における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａを遊技盤Ｈ１３の正面に対して平行に配置することができる。その結果、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合における花回転ユニットＧ２４００の演出効果を向上させることができる。

【２１９６５】

また、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、摺動部Ｇ４２５ａが挿入される摺動溝を第１摺動溝Ｇ２４３４と第２摺動溝Ｇ２４３５との２種類で隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０が衝突することを抑制できるので、第１装飾ユニットＧ４２０の配設数分、異なる形状の摺動溝を形成する必要がないので、花弁側伝達部材Ｇ２４３０の形状が複雑になったり、第１装飾ユニットＧ４２０の変位が複雑になることを抑制できる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位を安定して行うことができる。

【２１９６６】

なお、第１１２実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０に対して、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を先行して傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２１９６７】

例えば、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂにおいて、第２摺動面Ｇ２３４５ｂ４の正面視における曲率を、第１摺動溝Ｇ２４３４の第１摺動面Ｇ２４３４ａ３の正面視における曲率よりも大きくして、第２摺動面Ｇ２４３４ａ４により押し出されて傾倒基準位置から起立位置に変位される変位ユニットＧ４２６の変位よりも第２摺動面Ｇ２４３５ｂ４により押し出されて傾倒基準位置から起立位置に変位される変位ユニットＧ４２６の変位を遅くしても良い。

【２１９６８】

この場合、起立位置から傾倒基準位置に変位させる際の第１摺動面Ｇ２４３５ｂ３については第１摺動面Ｇ２４３４ａ３と同じ形状にすることができるので、起立位置から傾倒基準位置に変位ユニットＧ４２６を変位させる際には、第１摺動溝Ｇ２４３４と第２摺動溝Ｇ２４３５とで変位ユニットＧ４２６の変位タイミングを同じにできる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２１９６９】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）となる際に、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されるので、拡大状態から縮小状態となる際と、縮小状態から拡大状態となる際の第１装飾ユニットＧ４２０の変位の態様を異なら

せることができる。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることによる演出効果を向上できる。

【２１９７０】

次いで、図１９３９を参照して、第１１３実施形態における花回転ユニットＧ３４００について説明する。上記第１１１実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸に半回転される際に、係合片Ｇ４７７ｂが次の係合凹部Ｇ４６２ａと係合可能な状態とされる場合について説明したが、第１１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸に１回転される際に、係合片Ｇ４７７ｂが次の係合凹部Ｇ３４６２ａと係合可能な状態とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２１９７１】

初めに、図１９３９を参照して、第１１３実施形態における花回転ユニットＧ３４００の第２回転ベースＧ３４６０について説明する。図１９３９（ａ）及び図１９３９（ｂ）は、第１１３実施形態における花回転ユニットＧ３４００の正面図である。なお、図１９３９（ａ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置に配置された状態が図示され、図１９３９（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒半回転位置に配置された状態が図示される。

【２１９７２】

第１１３実施形態における花回転ユニットＧ３４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個（第１１３実施形態では４個）配設される第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ３４６０と、第２回転ベースＧ３４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２１９７３】

なお、図１９３９では、第２回転ベースＧ３４６０よりも正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０の図示が省略される。また、第１１３実施形態では、第１１１実施形態における花回転ユニットＧ４００に比べて、第１装飾ユニットＧ４２０の配設数が異なる（少ない）分、第１装飾ユニットＧ４２０が連結される第１回転ベースＧ４１０の装飾側軸部Ｇ４１２ａ及び花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの形成数が異なる（少ない）がそれらの形成される数が異なるだけであるので、以下の説明において第１１３実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０及び花弁側伝達部材Ｇ４３０を第１１１実施形態と同一の符号を付して説明する。

【２１９７４】

第１１３実施形態における第２回転ベースＧ３４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される正面側立設部Ｇ３４６２と、その正面側立設部Ｇ３４６２及び円盤部Ｇ４６１の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２１９７５】

正面側立設部Ｇ３４６２は、外周面に周方向に沿って所定の間隔で４か所（即ち、９０度の間隔で４か所）に凹設される係合凹部Ｇ４６２ａを備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、外周面側から径方向内側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形

成される。
【２１９７６】
　また、第１１３実施形態では、図１９３９（ａ）及び図１９３９（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に略４５度回転されると、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として回転され傾倒半回転位置（即ち、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた位置）に変位するように構成される。
【２１９７７】
　第２回転ベースＧ３４６０は、第１１１実施形態における第２回転ベースＧ４６０と同様に、第１回転ベースＧ４１０に締結されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に回転される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の回転に伴って軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０と同様に回転される。
【２１９７８】
　従って、図１９３９（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から傾倒半回転位置まで回転される場合には、第２回転ベースＧ３４６０が略４５度回転されるので、軸ＧＯを中心に略９０度の間隔で正面側立設部Ｇ３４６２に凹設される係合凹部Ｇ４６２ａの中間位置に第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが位置される。
【２１９７９】
　これにより、第１１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒半回転位置まで軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向に）回転させた状態で、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対にしたとしても、第１１１実施形態のように傾倒半回転位置で係合片Ｇ４７７ｂが係合凹部Ｇ４６２ａと係合することがなくなるので、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置を軸部Ｇ４２７を軸に回転させて傾倒基準位置に戻るまで、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることができる。
【２１９８０】
　よって、第１１３実施形態では、傾倒半回転位置（即ち、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態で変位ユニットＧ４２６が連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転して、変位ユニットＧ４２６が起立位置に向かって変位されることを抑制できる。
【２１９８１】
　これにより、第１１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒させた状態から起立させる場合にその起立された態様を同一にすることができる。即ち、第１１１実施形態における花回転ユニットＧ４００のように、変位ユニットＧ４２６が第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた状態で起立位置に変位することを抑制するために従動ギヤＧ８４８と検出センサＧ８１４とで、第１装飾ユニットＧ４２０の回転位置を検出する必要がなくなるので、第１１３実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を不要とすることができる。
【２１９８２】
　さらに、検出センサＧ８１４の検出による制御を不要とすることができるので、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を不要とすることで製造コストを低下できるだけでなく、花回転ユニットＧ４００の制御を簡易にできる。その結果、花回転ユニットＧ４００の変位を安定させやすくできる。
【２１９８３】
　次いで、図１９４０を参照して、第１１４実施形態における花回転ユニットＧ４００について説明する。上記第１１１実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が配設される場合について説明したが、第１１４実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が取り外される場合について説明する。なお、第１１４実施形態では、第１１１実施形態における花弁動作装置Ｇ８００から従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を取り外しただけであるので、第１１１実施形態と同一の符号を付してその説明は

省略する。
【２１９８４】
図１９４０（ａ）は、第１１４実施形態における花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図１９４０（ｂ）は、図１９４０（ａ）のＭＣＭＸＬｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。上記したように、第１１１実施形態における従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４は、軸部Ｇ４２７を中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転位置を検出するためのものであり、この検出により第１１１実施形態では、第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた姿勢で起立位置に変位されることが抑制される。
【２１９８５】
第１１４実施形態では、上述したように従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が取り外されるので、図１９４０（ａ）及び図１８３５３（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態（即ち、変位ユニットＧ４２６を傾倒半回転位置に配置した状態）で変位ユニットＧ４２６を起立位置に変位させることができる。なお、変位ユニットＧ４２６を傾倒半回転位置から起立位置に変位させる駆動については、変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる駆動と同じであるため、その詳しい説明は省略する。
【２１９８６】
図１９４０（ａ）及び図１８３５３（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が傾倒半回転位置から起立位置に変位された場合には、第２装飾面Ｇ４２６ｂを軸ＧＯ側に向けた姿勢で配置される。
【２１９８７】
ここで、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ側を中心に湾曲する板状に形成されるので、第２装飾面Ｇ４２６ｂを軸ＧＯ側に向けた姿勢で配置される場合には、変位ユニットＧ４２６の軸ＧＯを中心とする周方向の両端が軸ＧＯから径方向外側に離間する方向に湾曲した状態で配設される。
【２１９８８】
従って、傾倒基準位置から起立位置に変位された場合と正面視における態様を変更することができる。その結果、第１１４実施形態では、起立位置における第１装飾ユニットＧ４２０の配設態様を複数形成することができ、第１装飾ユニットＧ４２０による演出効果を向上できる。
【２１９８９】
また、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ，第１端面Ｇ４２６ｃに金や銀等の反射率の高い装飾が施されるので、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様と、傾倒半回転位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様とで、変位ユニットＧ４２６により光が反射される方向を変更することができる。
【２１９９０】
詳しく説明すると、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様では、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが軸ＧＯを中心とする周方向に湾曲した態様で配置されるので、基板部材Ｇ４４０から発光され第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０を介して変位ユニットＧ４２６に照射される光を軸ＧＯ側に向けて反射させることができる。その結果、第２装飾ユニットＧ４８０を介して正面側に出射される光の光量を多くすることができ、花回転ユニットＧ４００が縮小状態（変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置された場合）でも花回転ユニットＧ４００に注目させやすくできる。
【２１９９１】
一方、傾倒半回転位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様では、第２装飾面Ｇ４２６ｂの正面視における周方向の両端が軸ＧＯから径方向に離れる方向に湾曲した態様で配置されるので、基板部材Ｇ４４０から発光され第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０を介して変位ユニットＧ４２６に照射される光を花回転ユ

ニットＧ４００の外側へ向けて反射させることができる。これにより、花回転ユニットＧ４００の外側に配設される他の部材に花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０から出射される光を照射することができる。例えば、張出位置で花回転ユニットＧ４００を取り囲む態様で配設される円環形成ユニットＧ７００（図１９１３参照）に花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０から出射される光を照射することができる。その結果、花回転ユニットＧ４００以外（円環形成ユニットＧ７００）の演出効果を向上させることができる。

【２１９９２】

次いで、図１９４１を参照して、第１１５実施形態における花回転ユニットＧ５４００について説明する。上記第１１１実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置に変位される場合について説明したが、第１１５実施形態では、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６がどの位置からであっても起立位置に変位可能とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２１９９３】

図１９４１（ａ）及び図１９４１（ｂ）は、第１１５実施形態における花回転ユニットＧ５４００の正面図である。なお、図１９４１（ａ）では、変位ユニットＧ５４２６が起立位置に変位された状態の花回転ユニットＧ５４００が図示され、図１９４１（ｂ）では、変位ユニットＧ５４２６が傾倒位置に変位された状態の花回転ユニットＧ５４００が図示される。

【２１９９４】

図１９４１に示すように、第１１５実施形態における花回転ユニットＧ５４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個配設される第１装飾ユニットＧ５４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ５４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２１９９５】

第１装飾ユニットＧ５４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ５４２６と、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６との間に配設される第２継手部材Ｇ４２３と、その第２継手部材Ｇ４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。

【２１９９６】

変位ユニットＧ５４２６は、６角形の柱状に形成され、柱状に形成された一端側の中央部に軸部Ｇ４２７が連結される。また、６角形の柱状に形成される変位ユニットＧ５４２６の外周面には、６面のそれぞれに異なる文字が装飾される。なお、異なる文字とは、例えば、「チャンス」、「激熱」、「もしかしたら・・」、「期待度５０パーセント」等の大当たりの期待度を表現するものである。また、文字に限らず異なる絵柄や色をそれぞれ６面に装飾されるものであっても良い。

【２１９９７】

第２回転ベースＧ５４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される正面側立設部Ｇ５４６２と、その正面側立設部Ｇ５４６２及び円盤部Ｇ４６１の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かっ

て立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２１９９８】

正面側立設部Ｇ５４６２は、外周面に周方向に沿って連続して形成される係合凹部Ｇ４６２ａを備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、外周面側から径方向内側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形成される。

【２１９９９】

次いで、第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転される場合について説明する。なお、第１１５実施形態における第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６が起立位置から傾倒位置に変位する駆動は、第１１１実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位する駆動と同じであるため、その詳しい説明は省略する。

【２２０００】

第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される場合には、第１１１実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０と同様に、第１装飾ユニットＧ５４２０の回転ギヤＧ４２１が正面側ベース部材Ｇ８１０の刻設部Ｇ８１１ａに歯合することで、軸部Ｇ４２７を軸として回転される。即ち、６角形の柱状に形成される変位ユニットＧ５４２６の外周面の装飾を切り替えながら変位される。

【２２００１】

一方、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させるために、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対方向に切り替えた場合には、正面側立設部Ｇ５４６２に係合凹部Ｇ４６２ａが連続して形成されることにより、第２回転ベースＧ５４６０の軸ＧＯを中心とする正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が規制される。これにより、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対方向に切り替えた位置で、変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させることができる。

【２２００２】

従って、第１１５実施形態では、変位ユニットＧ５４２６のそれぞれの外周面に装飾される装飾を所定の外周面に切り替えた状態のまま起立位置に変位ユニットＧ５４２６を変位させることができる。その結果、起立位置における態様を複数形成することができ、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２２００３】

なお、第１１５実施形態では、第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転されて、正面視における変位ユニットＧ５４２６の装飾面が切り替えられる場合に、係合片Ｇ４７７ｂが隣りの係合凹部Ｇ４６２ａに係合する位置に配置されるように構成される。これにより、所定の装飾面を正面側に向けた状態に変位ユニットＧ５４２６が変位された場合に、その位置で変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させることができる。

【２２００４】

次いで、図１９４２を参照して、第１１６実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０について説明する。上記第１１１実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位される場合に、その回転軸からの変位ユニットＧ４２６の距離が一定（変わらない）状態とされる場合について説明したが、第１１６実施形態における変位ユニットＧ６４２６は、起立位置から傾倒基準位置に変位される場合に、その回転軸からの変位ユニットＧ５４２６の距離が変化される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２００５】

図１９４２（ａ）は、第１１６実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０の側面図であり、図１９２１（ａ）のＭＣＭＸＸＶＩ方向視における側面図と対応し、図１９４２

（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ６４２０の分解正面斜視図であり、図１９４３（ａ）及び図１８３５６（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ６４２０の側面図である。

【２２００６】

なお、図１９４３（ａ）及び図１８３５６（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ６４２０の変位ユニットＧ６４２６が傾倒基準位置まで変位される際の遷移状態が順に図示される。また、図１９４２（ａ）、図１９４３（ａ）、及び、図１９４３（ｂ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図１９２７（ａ）参照）の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１及び外側端部Ｇ４３１ａ２の位置が２点鎖線で図示される。

【２２００７】

図１９４２（ａ）及び図１８３５５（ｂ）に示すように、第１１６実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ６４２６と、変位ユニットＧ６４２６の一部を挟持した状態で配設される第２継手部材Ｇ６４２３と、その第２継手部材Ｇ６４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。

【２２００８】

第２継手部材Ｇ６４２３は、伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ６４２６とを連結するための部材であり、矩形の立方体から形成される。また、第２継手部材Ｇ６４２３は、異なる方向に貫通する第１貫通孔Ｇ４２３ａ及び第２貫通孔Ｇ４２３ｂと、第２貫通孔Ｇ４２３ｂに連通するように側面を凹設して形成される凹設部Ｇ６４２３ｃとを備える。なお、第１貫通孔Ｇ４２３ａと第２貫通孔Ｇ４２３ｂとは、互いにずれた位置に形成される。

【２２００９】

凹設部Ｇ６４２３ｃは、後述する変位ユニットＧ６４２６の連結部Ｇ６４２６ｄが挿入される部分であり、連結部Ｇ６４２６ｄの厚みに対して少し幅が広い溝状に形成される。また、凹設部Ｇ６４２３ｃは、第２貫通孔Ｇ６４２３ｂを上下に分断する位置まで凹設される。

【２２０１０】

変位ユニットＧ６４２６は、湾曲する板状に形成され、その湾曲する内側（矢印Ｌ方向側）の第１装飾面Ｇ４２６ａと、その第１装飾面Ｇ４２６ａと反対側（矢印Ｒ方向側）の側面の第２装飾面Ｇ４２６ｂと、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの正面側（矢印Ｆ方向側）の端部同士を繋ぐ第１端面Ｇ４２６ｃと、その第１端面Ｇ４２６ｃの反対側（矢印Ｂ方向側）に形成され、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される連結部Ｇ６４２６ｄとを主に備える。

【２２０１１】

連結部Ｇ６４２６ｄは、側面視略Ｌ字に形成されると共に、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される部分に軸部Ｇ６４２７を挿入可能な大きさに形成される摺動孔Ｇ６４２６ｄ１を備える。なお、連結部Ｇ６４２６ｄが、凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される（凹設部Ｇ６４２３ｃの内側面に挟まれる）ことで、第２継手部材Ｇ６４２３が軸部Ｇ６４２７に対して摺動変位した場合に、その第２継手部材Ｇ６４２３の変位に伴って変位ユニットＧ６４２６を変位させることができる。

【２２０１２】

軸部Ｇ６４２７は、金属製の棒部材から形成されると共に、その断面の一部が切り欠かれ断面がＤ字状に形成される。また、軸部Ｇ６４２７は、第１継手部材Ｇ４２２の凹部Ｇ４２２ａ１に一端が連結可能に構成されると共に、第２継手部材Ｇ６４２３の第２貫通孔Ｇ６４２３ｂ及び連結部Ｇ６４２６ｄの摺動孔Ｇ６４２６ｄ１に挿入可能に形成される。

【２２０１３】

なお、摺動孔Ｇ６４２６ｄ１は、軸部Ｇ６４２７の断面形状と同一のＤ字状に形成されると共に、軸部Ｇ６４２７の外形よりも若干大きく形成される。これにより、軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位ユニットＧ６４２６を摺動させることができると共に、軸部Ｇ６４２７が軸回りに回転される場合には、その回転に伴って変位ユニットＧ６４２６を回

転させることができる。
【２２０１４】
一方、第２継手部材Ｇ６４２３の第２貫通孔Ｇ４２３ｂは、軸部Ｇ６４２７の外形よりも大きい円形状の貫通孔として形成される。これにより、軸部Ｇ６４２７の軸回りに第２継手部材Ｇ６４２３を回転させることができると共に、軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って第２継手部材を摺動させることができる。
【２２０１５】
次いで、図１９４３を参照して、第１１６実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０の傾倒基準位置までの変位について説明する。
【２２０１６】
図１９４３（ａ）に示すように、第１１６実施形態における変位ユニットＧ６４２６は、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２まで変位する手前で、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に向けられた姿勢とされる。
【２２０１７】
図１９４３（ｂ）に示すように、図１９４３（ａ）に示す位置から摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２まで変位される場合には、第２継手部材Ｇ６４２３が軸部Ｇ６４２７の軸方向に押し出されることで、第２継手部材Ｇ４２３が軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位される。そして、変位ユニットＧ６４２６は、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに収容されるので、第２継手部材Ｇ６４２３の変位に伴って軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位される。
【２２０１８】
即ち、第１１６実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０は、変位ユニットＧ６４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）とされた後、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方へ変位可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の正面視における大きさを拡大状態よりも更に大きく見せることができる。よって、正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。
【２２０１９】
次いで、図１９４４（ａ）を参照して、第１１７実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上側装飾ユニットＨ１４ａの上方側に形成される場合について説明したが、第１１７実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａでは、第１連通路Ｈ７３００Ｃが上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下方側に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２０２０】
図１９４４（ａ）は、第１１７実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａの断面模式図であり、図１８４８のＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における断面に対応する。なお、図１９４４（ａ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２２０２１】
図１９４４（ａ）に示すように、第１１７実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ７３２０とを主に備える。
【２２０２２】
化粧ユニットＨ７３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ７３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備える。
【２２０２３】
発光ユニットＨ７３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定され

る取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される基板部材Ｈ３４２と、基板部材Ｈ３４２との背面側を覆う覆設部材Ｈ７３４３とを主に備える。

【２２０２４】

覆設部材Ｈ７３４３は、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う部材であり、正面視における外形が基板部材Ｈ３４２よりも大きく形成され、背面側から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。

【２２０２５】

また、覆設部材Ｈ７３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。さらに、覆設部材Ｈ７３４３は、正面視における下方側（矢印Ｄ方向側）の側面から下方に向かって立設される区画壁Ｈ７３４３ｂを備え、上側装飾ユニットＨ７０１４ａが組み立てられた状態において区画壁Ｈ７３４３ｂの先端部が下面板Ｈ３３３と当接される。なお、区画壁Ｈ７３４３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されており、上側装飾ユニットＨ７０１４ａが組み立てられた状態において区画壁Ｈ７３４３ｂの正面側と区画壁Ｈ７３４３ｂの背面側とが区画壁Ｈ７３４３ｂにより区画される。

【２２０２６】

なお、第１１７実施形態における取付部材Ｈ３４１は、第１１１実施形態における取付部材Ｈ３４１よりも上方側（矢印Ｕ方向側）に配設され、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂの上方側の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとが当接した状態で配設される。即ち、第１１７実施形態では、第１１１実施形態における第１連通路Ｈ３００Ｃが非形成とされる。

【２２０２７】

一方、取付部材Ｈ３４１の下方側は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面板Ｈ３３３と、取付部材Ｈ３４１との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第１連通路Ｈ７３００Ｃ）を有した状態とされる。

【２２０２８】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面板Ｈ３３３と取付部材Ｈ３４１との間に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が正面板Ｈ３３１の本体部Ｈ３３１ａにより塞がれ、背面側（矢印Ｂ方向側）が覆設部材Ｈ７３４３の区画壁Ｈ７３４３ｂにより塞がれており、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間（第１連通路Ｈ７３００Ｃ）を有した状態とされる。即ち、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下方側には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される第１連通路Ｈ７３００Ｃが形成される。

【２２０２９】

第１連通路Ｈ７３００Ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される第１空間Ｈ３００Ａ（装飾ユニットＨ３３０、発光ユニットＨ７３４０、音伝達ユニットＨ３５０で囲まれた空間）に連通される。これにより、一対のスピーカーカバーＨ２７の正面側に形成されるそれぞれの第１空間Ｈ３００Ａが、第１連通路Ｈ７３００Ｃにより連通される。

【２２０３０】

従って、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、第１連通路Ｈ７３００Ｃを介して隣の第１空間Ｈ３００Ａのスリット部Ｈ３３１ａ１又は放音用開口部Ｈ３３３ｂから上側装飾ユニットＨ７０１４ａの外側に放音することができる。

【２２０３１】

即ち、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に迂回させて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができるので、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの両側から放音させることができる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２

ａのどちらか一方側が破損した場合でも、遊技者が違和感を感じることを抑制でき、遊技者が遊技を行わなくなることを抑制できる。

【２２０３２】

また、第１１７実施形態では、第１連通路Ｈ７３００Ｃに放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成されるので、第１連通路Ｈ７３００Ｃ内を伝達される音を放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音させやすくできる。即ち、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音を第１連通路Ｈ７３００Ｃ内に伝達された音にできるので、第１１１実施形態のように、第１連通路Ｈ３００Ｃと異なる位置に放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成される場合に比べて、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音を大きくすることができる。その結果、遊技者にスピーカーＨ３１２ａの音を聞かせやすくできる。

【２２０３３】

さらに、第１１７実施形態では、第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが、下面板Ｈ３３３の区画壁Ｈ３３３ｃと覆設部材Ｈ７３４３の区画壁Ｈ７３４３ｂにより、前後に所定の空間を隔てて配設される。即ち、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下面板Ｈ３３３に沿って形成される第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが前後方向に所定の隙間を有して形成される。

【２２０３４】

これにより、区画壁Ｈ３３３ｃが振動して伝わる音が第１連通路Ｈ７３００Ｃ内に伝達されることを抑制できると共に、区画壁Ｈ７３４３ｂが振動して伝わる音が第２連通路Ｈ３００Ｄ内に伝達されること抑制できる。その結果、第１連通路Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達して上側装飾ユニットＨ７０１４ａの外側に放音される音が小さくなることを抑制できる。

【２２０３５】

なお、第１１７実施形態では、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下面板Ｈ３３３に沿って形成される第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが前後方向に所定の隙間を有して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとを隣り合う状態で配設しても良い。

【２２０３６】

次いで、図１９４４（ｂ）を参照して、第１１８実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が検出用開口から形成される場合について説明したが、第１１８実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａでは、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄを介して放音される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２０３７】

図１９４４（ｂ）は、第１１８実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａの断面模式図であり、図１８４８のＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における断面に対応する。なお、Ｎ１０（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２０３８】

図１９４４（ｂ）に示すように、第１１８実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ８３２０とを主に備える。

【２２０３９】

化粧ユニットＨ８３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ８３３０と、その装飾ユニットＨ８３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。

【２２０４０】

装飾ユニットＨ８３３０は、ベースユニットＨ３１０（図１８４３参照）の正面側（矢

印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ８３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の縁部に沿って配設され上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ３３４と、正面板Ｈ３３１の中央部正面側に配設される装飾板Ｈ３３５とを主に備える。

【２２０４１】

下面板Ｈ８３３３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面を構成する部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かうに連れて上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する状態で正面板Ｈ３３１に配設される。言い換えると、下面板Ｈ８３３３は遊技盤Ｈ１３（ベースユニットＨ３１０）から正面側に向かって離れるほど下方側（矢印Ｄ方向側）に張り出す状態で配設される。これにより、正面板Ｈ３３１の正面視における外形（特に上下方向の大きさ）を大きくした場合であっても、遊技盤Ｈ１３の遊技領域が小さくなることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ１３の遊技領域を確保したまま、正面板Ｈ３３１の装飾性（意匠性）を向上（正面板Ｈ３３１の装飾可能な領域を大きく）できる。

【２２０４２】

また、下面板Ｈ８３３３は、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される放音用開口部Ｈ３３３ｂと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄと、それら検出用開口部Ｈ３３３ａ及び第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄの間の位置に上方側に向かって突設され、それら検出用開口部Ｈ３３３ａ及び放音用開口部Ｈ３３３ｂの間の位置に上方側に向かって立設される区画壁Ｈ３３３ｃとを備える。

【２２０４３】

第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄは、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｆ方向側）から放音され、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音をガラスユニットＨ１６の正面側（上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側）に放音して、正面側からスピーカーＨ３１２ａの音が遊技者に伝達されるようにするための開口であり、下面板Ｈ８３３３の第２連通路Ｈ３００Ｄを形成する領域に形成される。

【２２０４４】

また、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄは、放音用開口部Ｈ３３３ｂよりも下面板Ｈ８３３３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央側に形成される。これにより、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音と、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音とが混ざり合うことを抑制できる。その結果、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。

【２２０４５】

なお、第１１８実施形態においては、下面板Ｈ８３３３に検出用開口部Ｈ３３３ａが形成されない場合について説明したが、下面板Ｈ３３３に検出用開口部Ｈ３３３ａが形成されていても良い。この場合には、検出用開口部Ｈ３３３ａの立設部Ｈ３３３ａ１に検出装置Ｈ３１３を当接した状態で配設して、検出用開口部Ｈ３３３ａから第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が漏れ出ないようにすることが好ましい。

【２２０４６】

また、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄを下面板Ｈ８３３３の中央部の１箇所に形成しても良い。この場合、左右のスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音され第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音を混ぜて第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから上側装飾ユニットＨ８０１４ａの外側へ放音することができる。その結果、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音を左右で均一の音量で遊技者に聞かせやすくでき、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【２２０４７】
次いで、図１９４５～図１９４７を参照して、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じた通路として形成される場合について説明したが、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａでは、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じた状態から開放される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２０４８】
初めに、図１９４５を参照して、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの全体構成について説明する。図１９４５は、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの分解背面斜視図である。
【２２０４９】
図１９４５に示すように、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ９３２０とを主に備える。
【２２０５０】
化粧ユニットＨ９３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ９３３０と、その装飾ユニットＨ９３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備えて形成される。
【２２０５１】
装飾ユニットＨ９３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ９３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６と、上面板Ｈ９３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。
【２２０５２】
上面板Ｈ９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。
【２２０５３】
上面板Ｈ９３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される網部材Ｈ９３３２ｅと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。
【２２０５４】
なお、第１１９実施形態における上面板Ｈ９３３２には、第１１１実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃ

が非形成とされる。これにより、第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。

【２２０５５】

側面板Ｈ９３３２ｄは、上面板Ｈ９３３２が後述する軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転された際にその回転を案内すると共に上面板Ｈ９３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の側面を塞ぐ板状の部材であり、上面板Ｈ９３３２の左右両側の端部から軸部Ｈ９３３２ｆを軸とする回転軌跡に沿って下方側に向かって延設される。これにより、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に空間Ｈ９３３２ｄ２（図１９４７（ｂ）参照）が形成される。

【２２０５６】

また、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの一方側の対向面には、駆動ユニットＨ９３３７の駆動力が伝達されるピン部Ｈ９３３２ｄ１（図１９４７参照）が他方側の側面板Ｈ９３３２ｄに向かって円柱形状に突設される。ピン部Ｈ９３３２ｄ１に駆動ユニットＨ９３３７の連結部材Ｈ９３３７ｂが連結されることで、駆動ユニットＨ９３３７の駆動力により上面板Ｈ９３３２を軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転させることができる。

【２２０５７】

網部材Ｈ９３３２ｅは、上面板Ｈ９３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ９０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制する部材であり、一対の側面板Ｈ９３３２ｄを繋ぐ状態で側面板Ｈ９３３２ｄの正面側縁部に沿って配設される。なお、網部材Ｈ９３３２ｅは、パンチングメタルや網状に編み込んだ金属材料から形成され、その金属材料の開口を介して網部材Ｈ９３３２ｅの音の通過が許容される。また、網部材Ｈ９３３２ｅは、側面板Ｈ９３３２ｄに締結固定されており、上面板Ｈ９３３２の変位に伴って変位可能とされる。

【２２０５８】

軸部Ｈ９３３２ｆは、後述する左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６に形成される被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａに軸支される。これにより、上面板Ｈ９３３２は、軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な状態で左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６に配設される。なお、上面板Ｈ９３３２の回転についての詳しい説明は後述する。

【２２０５９】

左面板Ｈ９３３４は、上述したように、正面板Ｈ３３１の背面側に連なる形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２の右側の軸部Ｈ９３３２ｆを軸支する被軸支部Ｈ９３３４ａを備える。また、右面板Ｈ９３３６も同様に、正面板Ｈ３３１の背面側に連なる形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２の左側の軸部Ｈ９３３２ｆを軸支する被軸支部Ｈ９３３６ａを備える。これにより、上面板Ｈ９３３２を回転可能な状態で上側装飾ユニットＨ９０１４ａに配設できる。

【２２０６０】

なお、一対の被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａは、背面側が開放される形状に形成されており、上面板Ｈ９３３２は、左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６を正面板Ｈ３３１に配設した後で、軸部Ｈ９３３２ｆを被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａに挿入することで配設される。

【２２０６１】

駆動ユニットＨ９３３７は、上面板Ｈ９３３２を回転させる駆動力を発生させるソレノイドＨ９３３７ａと、そのソレノイドＨ９３３７ａに連結される連結部材Ｈ９３３７ｂとを主に備え、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力により連結部材Ｈ９３３７ｂを上下方向に変位可能に配設される。

【２２０６２】

なお、上面板Ｈ９３３２を駆動するソレノイドＨ９３３７ａ（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【２２０６３】

連結部材Ｈ９３３７ｂは、柱状体の背面側の一部を切り欠いたコ字状に形成され、その切り欠かれた内側に上面板Ｈ９３３２のピン部Ｈ９３３２ｄ１が収容可能に構成される。なお、連結部材Ｈ９３３７ｂは、背面側が切り欠かれるので、上面板Ｈ９３３２を左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６の対向間に背面側から挿入して配設する際に、ピン部Ｈ９３３２ｄ１を連結部材Ｈ９３３７ｂの切り欠き部分に収容することができる。

【２２０６４】

次いで、図１９４６及び図１９４７を参照して、第１１９実施形態における上面板Ｈ９３３２の変位について説明する。図１９４６（ａ）及び（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの正面図であり、図１９４７（ａ）は、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの断面模式図であり、図１９４７（ｂ）は、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの断面模式図である。なお、図１９４６（ａ）及び図１９４７（ａ）では、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して閉じた状態が図示され、図１９４６（ｂ）及び図１９４７（ｂ）では、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して開放された状態が図示される。なお、図１９４６及び図１９４７では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２０６５】

図１９４６（ａ）及び図１９４７（ａ）に示すように、ソレノイドＨ９３３７ａの軸が引き込まれた状態では、上面板Ｈ９３３２の上面が正面板Ｈ３３１の上面と略面一となる位置に配設される。即ち、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して閉じた位置に配置される。

【２２０６６】

これに対し、図１９４６（ｂ）及び図１９４７（ｂ）に示すように、ソレノイドＨ９３３７ａの軸が突出された状態では、連結部材Ｈ９３３７ｂの移動に伴って、上面板Ｈ９３３２のピン部Ｈ９３３２ｄ１が連結部材Ｈ９３３７ｂの切り欠き内部を摺動しつつ上方に変位される。これにより、上面板Ｈ９３３２は、軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転され、網部材Ｈ９３３２ｅが配設される正面側（矢印Ｆ方向側）が上方に向けて変位される。

【２２０６７】

これにより、網部材Ｈ９３３２ｅ（空間Ｈ９３３２ｄ２）が上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側に突出した状態とされ、正面板Ｈ３３１と取付部材Ｈ３４１との間の隙間により形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して開放（空間Ｈ９３３２ｄ２を介して外部空間と連通される）される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音され、第１連通路Ｈ３００Ｃ内を伝達される音を網部材Ｈ９３３２ｅの開口（空間Ｈ９３３２ｄ２）を介して上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外側に放音することができる。

【２２０６８】

即ち、第１１９実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ９３３２により塞いで第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９参照）同士を第１連通路Ｈ３００Ｃで連通する態様と、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を開放して上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側からパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）の外部空間に第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音を放音する態様とを形成できる。従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路として、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側から放音する態様とした場合には、音の放射角度を大きくすることができる。その結果、音による演出態様を複数形成できるので、音による演出効果を高めることができる。

【２２０６９】

なお、第１１９実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ９３３２により塞いだ場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの両端部に側面板Ｈ９３３２ｄが配設されるが、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに向かって放音される音は、第１連通路Ｈ３００Ｃと側面板Ｈ９３３ｄとの間に形成される隙間を介して第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される。

【２２０７０】
　また、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放とは、空間Ｈ９３３２ｄ２の上方への突出面積（開口面積）が、少なくとも組立時の部品同士の隙間により生じる開口面積（最小の隙間）よりも、３倍以上とされることが好ましく、３倍以上の開口面積とされることで第１連通路Ｈ３００Ｃから空間Ｈ９３３２ｄ２を介して音を好適に放音できるからである。
【２２０７１】
　さらに、網部材Ｈ９３３２ｅは、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉鎖状態とされる際に第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側に沿って配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃが開放された際に、空間Ｈ９３３２ｄ２の正面側に配置される。これにより、不正部材が第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に挿入されることを抑制しつつ、網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通させることができる。
【２２０７２】
　また、第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２の変位により第１連通路Ｈ３００Ｃが開放される際に、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放幅（空間Ｈ９３３２ｄ２の上方への突出幅）が変化するので、空間Ｈ９３３２ｄ２から放音される音の態様を上面板Ｈ９３３２の変位に応じて変位させることができる。即ち、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放幅を変更して空間Ｈ９３３２ｄ２から出る音の音域や音量を変更することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。
【２２０７３】
　さらに、第１１９実施形態では、図１９４６（ａ）及び図１９４７（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図１９４６（ｂ）及び図１９４７（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を低下させることができる。
【２２０７４】
　この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。
【２２０７５】
　即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第１１９実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ９０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ９３３２の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２０７６】
　ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音させやすくできる。
【２２０７７】
　一方、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），

検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【２２０７８】

また、上面板Ｈ９３３２は、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ９３３２を変位させた際にその上面板Ｈ９３３２の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２０７９】

さらに、上面板Ｈ９３３２は、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２０８０】

また、正面視において上面板Ｈ９３３２は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ９３３２が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２０８１】

さらに、上面板Ｈ９３３２は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ９０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２０８２】

なお、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えは、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ９３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ９３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１８４２参照））を出力するように構成される。

【２２０８３】

よって、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）が操作された場合に上面板Ｈ９３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。

【２２０８４】

なお、第１１９実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８３８参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ９３３２を変位させて第１連通

路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。
【２２０８５】
この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。
【２２０８６】
一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）に注目することを抑制して、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音どうしが打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。
【２２０８７】
また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。
【２２０８８】
さらに、第１１９実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８３８参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１８３３参照）の操作がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態から上面板Ｈ９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音させやすくしても良い。
【２２０８９】
この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、その打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。
【２２０９０】
また、第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上面板Ｈ９３３２を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更するものであっても良い。
【２２０９１】
例えば、第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２に貫通孔を有する網部材Ｈ９３３２ｅが配設される場合について説明したが、網部材Ｈ９３３２ｅに変えて貫通孔を有していない板部材を上面板Ｈ９３３２（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間）に配設するように構成してもよい。この場合には、上面板Ｈ９３３２を上方側に変位させた際に、上面板Ｈ９３３２が上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外側に変位する分、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更（大きく）できる。
【２２０９２】
この場合、音が伝達される通路の幅が変更されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更する前と後とで、第１連通路Ｈ３００Ｃ内を伝達される音の音域を変更することができる。その結果、遊技者に聞こえる音を変更することができ、遊技者の興趣を向上できる。

【２２０９３】
　また、第１１９実施形態における網部材Ｈ９３３２ｅに変えて貫通孔を有していない板部材を上面板Ｈ９３３２（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間）に配設するように構成した場合には、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を狭める方向に変位された際に、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間に配設され、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを区画する（第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅をなくす）ように構成しても良い。
【２２０９４】
　これによれば、一方の配設空間Ｈ３００Ｆに配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音が、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して他方の配設空間Ｈ３００Ｆの第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）に伝達される音の態様を上面板Ｈ９３３２の変位に応じて変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａの音による演出効果を高めることができる。
【２２０９５】
　さらに、上記第１１９実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路として構成する場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに直接当接させる場合について説明したが、上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの間に弾性体から構成される弾性体を配設しても良い。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに密着させることができる。よって、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした場合に上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの間から音が漏れ出ることを抑制することができる。従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした場合と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合とで、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２０９６】
　次いで、図１９４８を参照して、第１２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃについて説明する。上記第１１１実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの音による振動で屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすく（移動させやすく）する場合について説明したが、第１２０実施形態では、ファンＨ１０４８０の風による風圧で屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすくする場合について説明する。
【２２０９７】
　初めに、図１９４８（ａ）を参照して、第１２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃについて説明する。図１９４８（ａ）は、第１２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの分解正面斜視図である。
【２２０９８】
　図１９４８（ａ）に示すように、第１２０実施形態における上側装飾ユニットＨ１００１４ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ１０４１０と、を主に備える。
【２２０９９】
　支持板部Ｈ１０４１０は、組立状態において本体枠Ｈ１４ｄの右側（矢印Ｒ方向側）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される固定板Ｈ４１１と、その固定板Ｈ４１１の上下方向に延設された領域の正面側に配設される基板部材Ｈ４１２と、固定板Ｈ４１１の上端から左右方向に延設された領域の正面側に配設されるファンＨ１０４８０と、を主に備える。
【２２１００】
　ファンＨ１０４８０は、内部に配設される羽を回転させて風を発生させる部材であり、上方向けて風を送れるように基板部材Ｈ４１２に配設される。また、ファンＨ１０４８０は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７及び第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４

５２の下方に配置され（図１９４８（ｂ）参照）、屈曲部Ｈ４５２の段差部に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに主に風を送ることができるように配置される。

【２２１０１】

これにより、第１２０実施形態では、ファンＨ１０４８０から送られる風を屈曲部Ｈ４５２の貫通孔Ｈ４５２ａを通して屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送ることができる。

【２２１０２】

次いで、図１９４８（ｂ）を参照して、屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送られる風について説明する。図１９４８（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１９４８（ｂ）は、第１１１実施形態の図１８５７（ｂ）における断面と対応する。また、図１９４８（ｂ）では、ファンＨ１０４８０から送られる風が矢印で模式的に図示される。

【２２１０３】

図１９４８（ｂ）に示すように、ファンＨ１０４８０から送られる風は、主に、貫通孔Ｈ４５２ａを介して屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送られる風と、貫通孔Ｈ４５２ａ内に送風されず上側装飾ユニットＨ１４ａ側または右側装飾ユニットＨ１４ｃ側に送風される風とに分散される。

【２２１０４】

貫通孔Ｈ４５２ａ内に挿通される風は、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間と、本体板部Ｈ４５１及び本体板部Ｈ４７１の間とに形成される異物の通路を通過して、主に上端開口部Ｈ４７３ａから右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの外部に送風されるように構成される。この風により、屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすくして、異物を上端開口部Ｈ４７３ａから排出しやすくできる。その結果、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの内部に異物が溜まることを抑制しやすくできる。

【２２１０５】

即ち、第１２０実施形態では、空気を流動させるファンＨ１０４８０を備えて、そのファンＨ１０４８０により通路空間Ｈ４００Ａの空気を外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間から離間する方向に流動させることができる。これにより、基端部Ｈ４５２ｃを流下する異物を開口部Ｈ４７３からパチンコ機Ｈ１０の外部に排出しやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界から入った異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２２１０６】

また、貫通孔Ｈ４５２ａ内に挿通される風の一部は、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間を通過して、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から正面枠Ｈ１４の外部に送風される。この風により、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間に入り込もうとする異物を正面枠Ｈ１４の外側に吹き飛ばすことができる。その結果、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から異物が上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に侵入することを抑制できる。

【２２１０７】

また、第１２０実施形態では、貫通孔Ｈ４５２ａ内に送風されず右側装飾ユニットＨ１４ｃ側に送風される風は、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの導光部材Ｈ４４０の周囲を通過して送風されるように構成される。

【２２１０８】

上記したように、導光部材Ｈ４４０は、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に配置される。従って、導光部材Ｈ４４０の周囲を通過する風を基板部材Ｈ４１２に当てることができる。これにより、ＬＥＤＨ４１２ａの発光により基板部材Ｈ４１２に蓄えられる熱を冷ますことができる。その結果、基板部材Ｈ４１２が破損することを抑制できる。

【２２１０９】

なお、第１２０実施形態では、ファンＨ１０４８０の回転（送風）は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時や、操作ハンドルＨ５１のタッチセンサＨ５１ａが所定期間操作されていない場合に行われる。即ち、第１２０実施形態では、遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態の場合に、ファンＨ１０４８０による風の送風が行われる。これにより、上端開口部Ｈ４７３ａから飛び出す異物が遊技者側に飛び出る場合にその異物や遊技者に当たることを抑制できる。

【２２１１０】

また、ファンＨ１０４８０の回転（送風）が遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態の場合だけでなく、常に（遊技中）に回転されるように形成されていても良い。これにより、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から正面枠Ｈ１４の外部に送風される風を遊技者に感じさせて、パチンコ機Ｈ１０の上部（上側装飾ユニットＨ１４ａの上面）に遊技者が物を置くことを抑制させることができる。その結果、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間に侵入しようとする異物を減らして、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２２１１１】

次いで、図１９４９（ａ）を参照して、第１２１実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃについて説明する。上記第１１１実施形態では、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に形成される通路を介して右側装飾ユニットＨ１４ｃ（正面枠Ｈ１４）の外側に排出する場合について説明したが、第１２１実施形態では、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの内部を通過させずに異物を正面枠Ｈ１４の外側に排出する場合について説明する。

【２２１１２】

初めに、図１９４９（ａ）を参照して、第１２１実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃについて説明する。図１９４９（ａ）は、第１２１実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１９４９（ａ）は、第１１１実施形態における図１８５７（ｂ）の断面と対応する。

【２２１１３】

図１９４９（ａ）に示すように、第１２１実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１１４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【２２１１４】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。

【２２１１５】

右重板ユニットＨ１１４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ１１４７０と、を主に備える。

【２２１１６】

外カバー部材Ｈ１１４７０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ１１４７１と、その本体板部Ｈ１１４７１の上端および下端に形成される２箇所の締結部Ｈ４７２と、本体板部Ｈ１１４７１に開口される複数の開口部Ｈ４７３と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に先端が挿入される円筒部であって第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４７４と、その第１締結部Ｈ４７４よりも

短く形成される円筒部であって、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ１１４７０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４７５と、本体板部Ｈ４７１の左側側面から突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定する螺子が螺入される複数の背面側締結部Ｈ４７６と、を主に備える。

【２２１１７】

本体板部Ｈ１１４７１は、側面視（矢印Ｌ方向視）において、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が湾曲した円弧形状に形成されると共に、背面側の端部が上下方向に直線状に延設され、全体が非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ１１４７１は、上端から左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される立設部Ｈ１１４７７を備えており、正面視において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転した略Ｌ字状に形成される。

【２２１１８】

なお、本体板部Ｈ１１４７１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における延設長さは、支持板部Ｈ４１０と対応する長さに形成されており、右重板ユニットＨ１１４００Ｒを支持板部Ｈ４１０に配設した場合に固定板Ｈ４１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態とされる。

【２２１１９】

立設部Ｈ１１４７７は、正面視における正面枠Ｈ１４の上部右側を構成する部分であり、正面枠Ｈ１４の組立状態において上側装飾ユニットＨ１４ａ側に向かって立設される先端部が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の右端部と当接する大きさに設定される。

【２２１２０】

また、立設部Ｈ１１４７７には、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに挿通される挿通部Ｈ４７７ａが複数個形成される。この挿通部Ｈ４７７ａをＨ４５２ａに挿通した状態で、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に配設することで、立設部Ｈ１１４７７と対向する第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が立設部Ｈ１１４７７に対して相対変位することを抑制できる。

【２２１２１】

さらに、立設部Ｈ１１４７７には、立設先端側（矢印Ｌ方向側）から下方側に向かって突出して形成される係合部Ｈ１１４７７ｂが形成される。なお、第１２１実施形態における係合部Ｈ１１４７７ｂは、第１１１実施形態における係合部Ｈ４５２ｂと同様に、上面板Ｈ３３２の被係合部Ｈ３３２ｇに係合する部分であり、先端側が被係合部Ｈ３３２ｇの第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２の間に挿入されるように構成される。

【２２１２２】

なお、第１２１実施形態では、被係合部Ｈ３３２ｇと係合する部分を立設部Ｈ１１４７７に形成したことにより、屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂの形成が省略される。

【２２１２３】

係合部Ｈ１１４７７ｂは、立設部Ｈ１１４７７の立設先端部よりも本体板部Ｈ１１４７１側に引いた（近い）位置に形成され、立設部Ｈ１１４７７に連なる基端側から被係合部Ｈ３３２ｇに係合する先端側までを繋ぐ領域が、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２との境界（連結部）の下方に配置される。

【２２１２４】

これにより、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の境界（連結部）の隙間から異物が正面枠Ｈ１４の内部に侵入する場合に、その異物を係合部Ｈ１１４７７ｂで受け止めることができる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に異物が入って上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２２１２５】

なお、第１２１実施形態では、連結部分における立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２

と係合部Ｈ１１４７７ｂにより形成される通路空間Ｈ１１４００Ａ（図１９４９ａ参照）が正面枠Ｈ１４の正面側まで開口される。これにより、第１２１実施形態では、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の境界（連結部）から正面枠Ｈ１４に侵入する異物を、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの内部を通過させずに正面枠Ｈ１４の外側に排出することができる。その結果、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃに異物を通過させるための通路を形成しなくてよくなるので、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃを小型化（薄型化）しやすくできる。

【２２１２６】

次いで、図１９４９（ｂ）を参照して、第１２２実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃについて説明する。上記第１１１実施形態では、立設部Ｈ４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から異物が正面枠Ｈ１４の内部に侵入する場合について説明したが、第１２２実施形態では、立設部Ｈ４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から異物が侵入することが規制される。

【２２１２７】

初めに、図１９４９（ｂ）を参照して、第１２２実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃについて説明する。図１９４９（ｂ）は、第１２２実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１９４９（ｂ）は、第１１１実施形態における図１８５７（ｂ）の断面と対応する。

【２２１２８】

図１９４９（ｂ）に示すように、第１２２実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１２４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【２２１２９】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。

【２２１３０】

右重板ユニットＨ１２４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。

【２２１３１】

第１外レンズ部材Ｈ１２４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４５１と、その本体板部Ｈ４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ１２４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、それら第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。

【２２１３２】

また、第１外レンズ部材Ｈ１２４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射す

る部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。
【２２１３３】
第１２２実施形態における屈曲部Ｈ１２４５２は、屈曲先端側（先端部Ｈ１２４５２ｄ）が外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７の下面と当接した状態で配設されると共に、先端が立設部Ｈ４７７を超える長さに設定される。
【２２１３４】
なお、第１２２実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２に形成される被係合部Ｈ３３２ｇが上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の内側に距離を隔てた位置に形成され、その被係合部Ｈ３３２ｇの第１片Ｈ３３２ｇ１を収容可能な収容部Ｈ１２４５２ｅが屈曲部Ｈ１２４５２に形成される。
【２２１３５】
第１２２実施形態における正面枠Ｈ１４の組立状態では、第１片Ｈ３３２ｇ１が収容部Ｈ１２４５２ｅに収容されることで、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとを係合させることができる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａに対して右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとの間に異物が侵入することを抑制でき、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。
【２２１３６】
また、第１２２実施形態では、外カバー部材Ｈ４７０の下面と当接した状態で屈曲部Ｈ１２４５２が配設されるので、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとを本体枠Ｈ１４ｄに配設した際に、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の下部に屈曲部Ｈ１２４５２の上面を配置することができる。
【２２１３７】
これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）に異物が侵入したとしても、屈曲部Ｈ１２４５２の上面により境界（連結部）の間から上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの内部に異物が侵入することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの視認性が悪くなることを抑制できる。
【２２１３８】
なお、第１２２実施形態では、外カバー部材Ｈ４７０の下面に屈曲部Ｈ１２４５２が単に当接した状態で配設される場合について説明したが、屈曲部Ｈ１２４５２が外カバー部材Ｈ４７０側に付勢される状態で配設されていても良い。この場合、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の下方に隙間ができることを抑制できる。よって、境界（連結部）に異物が侵入したとしてもその異物を屈曲部Ｈ１２４５２により確実に受け止めて、上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの内部に異物が侵入することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの視認性が悪くなることを抑制できる。
【２２１３９】
次いで、図１９５０を参照して、第１２３実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃについて説明する。上記第１１１実施形態では、膨出部Ｈ４５５が本体板部Ｈ４５１と一体に形成される場合について説明したが、第１２３実施形態では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外し可能に形成される。
【２２１４０】
初めに、図１９５０（ａ）及び図１９５０（ｂ）を参照して、第１２３実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃについて説明する。図１９５０（ａ）及び図１９５０

（ｂ）は、第１２３実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１９５０（ａ）及び図１９５０（ｂ）は、第１１１実施形態における図１８５７（ｂ）の断面と対応する。また、図１９５０（ａ）では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１に取り付けられた状態図示され、図１９５０（ｂ）では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外された状態が図示される。

【２２１４１】

図１９５０（ａ）及び図１９５０（ｂ）に示すように、第１２３実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１３４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【２２１４２】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。

【２２１４３】

右重板ユニットＨ１３４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。

【２２１４４】

第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ１３４５１と、その本体板部Ｈ１３４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、第１挿通孔Ｈ４５３で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５，Ｈ１３４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。

【２２１４５】

また、第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射する部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。

【２２１４６】

第１２３実施形態における第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、図１９５０に示すように本体板部Ｈ１３４５１の上端部に形成される膨出部Ｈ１３４５５が着脱可能に形成されており、その膨出部Ｈ１３４５５と対応する位置の本体板部Ｈ１３４５１に開口Ｈ１３４５１ｂが穿設される。

【２２１４７】

開口Ｈ１３４５１ｂは、膨出部Ｈ１３４５５の外径と対応する内径に形成されると共に、その内縁の一部から開口Ｈ１３４５１ｂの内側に向けて張り出す係合片Ｈ１３４５１ｂ１が形成される。

【２２１４８】

膨出部Ｈ１３４５５は、一方側（矢印Ｒ方向側）の端部が塞がった円筒形状に形成され

る。また、膨出部Ｈ１３４５５は、他方側（矢印Ｌ方向側）の端部に繋がるＬ字状に凹設される第１溝部Ｈ１３４５５ａと、一方側の端面に十字状に凹設される第２溝部Ｈ１３４５５ｂとを備える。

【２２１４９】

第１溝部Ｈ１３４５５ａは、開口Ｈ１３４５１ｂの係合片Ｈ１３４５１ｂ１を受け入れる部分であり、係合片Ｈ１３４５１ｂ１よりも溝幅に形成される。なお、第１溝部Ｈ１３４５５ａへの係合片Ｈ１３４５１ｂ１の挿入は、第１溝部Ｈ１３４５５ａの他方側の端部と係合片Ｈ１３４５１ｂ１との位置を合わせつつ、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１側に押し込むことで行われる。

【２２１５０】

この挿入された状態で、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１に対して、膨出部Ｈ１３４５５の軸回りに回転させることで、係合片Ｈ１３４５１ｂ１がＬ字状に形成される第１溝部Ｈ１３４５５ａの凹設先端側まで挿入される。これにより、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１から離れる方向に引き抜いた場合、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外されることを抑制できる。

【２２１５１】

なお、本体板部Ｈ１３４５１に対する膨出部Ｈ１３４５５の軸回りの回転は、膨出部Ｈ１３４５５の一方側の端面に形成される第２溝部Ｈ１３４５５ｂに専用の工具（第１２３実施形態では、マイナスドライバー）を挿入することで簡易に行えるようになっている。即ち、第２溝部Ｈ１３４５５ｂは、膨出部Ｈ１３４５５の取り外しのための工具を引っ掛ける部分（着脱する部分）として形成される。

【２２１５２】

以上のように構成される右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃによれば、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１から取り外すことができるので、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の隙間から侵入した異物が外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３まで落下した後、開口部Ｈ４７３から右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外側に排出されなかった（区画壁Ｈ４７８の上面に留まる）場合に、膨出部Ｈ１３４５５を取り外して、異物を右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外側に排出することが可能となる。その結果、右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの内部に異物が溜まり続けることを抑制できる。

【２２１５３】

次いで、図１９５１から図１９５３を参照して、第１２４実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５について説明する。上記第１１１実施形態では、突出部Ｈ５８３が固定される場合について説明したが、第１２４実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出し変位される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２１５４】

初めに、図１９５１を参照して、第１２４実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の全体構成について説明する。図１９５１は、第１２４実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の分解正面斜視図である。

【２２１５５】

図１９５１に示すように、第１２４実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０（図１９５２参照）と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０（図１９５２参照）及び操作ハンドルＨ５１（図１９５２参照）と、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１４５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０（図１９５２参照）とを主に備える。

【２２１５６】

下皿形成部材Ｈ１４５３０は、ベース部材Ｈ５１０（図１９５２参照）及び上皿形成部

材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１４０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）を構成する下皿構成ユニットＨ５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ１４５６０と、を主に備えて形成される。

【２２１５７】

球抜きユニットＨ１４５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ１４５６２と、そのスライド板Ｈ１４５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ５２と、スライド板Ｈ１４５６２及び球抜きレバーＨ５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、スライド板Ｈ１４５６２の少なくとも一部の下方に重なる位置に配設される第２スライド板Ｈ１４５６３と、を主に備える。

【２２１５８】

収容部材Ｈ５６１は、第１化粧板Ｈ５４１の第２開口部Ｈ５４１ｂの内側に収容可能な大きさに形成され、第２開口部Ｈ５４１ｂの上方に配設される下皿構成ユニットＨ５５０の下方側に隣り合う状態で配設される。また、収容部材Ｈ５６１は、箱状に形成される内部に後述するスライド板Ｈ１４５６２の変位を案内する案内機構を備えており、その案内機構によりスライド板Ｈ１４５６２の変位方向が一方向に規定される。

【２２１５９】

スライド板Ｈ１４５６２は、底面部Ｈ５５３の底面口Ｈ５５３ａの開口よりも大きい板状に形成され、底面口Ｈ５５３ａの下側縁部を塞ぐ閉塞位置と、その閉塞位置から変位して底面口Ｈ５５３ａを開放する開放位置とに変位可能に形成される。スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の貯留領域に球を貯留可能な状態とされ、スライド板Ｈ１４５６２が開放位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域にある球を底面口Ｈ５５３ａから払い出す状態とされる。なお、収容部材Ｈ５６１には、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に配置した場合に、球を下方に挿通させるための排出口Ｈ５６１ａが底面口Ｈ５５３ａと対応する位置に形成される。

【２２１６０】

また、第１２４実施形態におけるスライド板Ｈ１４５６２には、スライド板Ｈ１４５６２の閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）への変位方向と反対方向に収容部材Ｈ５６１から突出される押圧片Ｈ１４５６２ａが形成され、その押圧片Ｈ１４５６２ａの下方に第２スライド板Ｈ１４５６３が配設される。

【２２１６１】

第２スライド板Ｈ１４５６３は、第１化粧板Ｈ５４１の底面部に沿った板状に形成されると共に、収容部材Ｈ５６１の右側外方に配設される。また、第２スライド板Ｈ１４５６３は、上面側から上方に膨出する膨出部Ｈ１４５６３ａと、下面側から下方に張り出される突出部Ｈ１４５６３ｂ（Ｌ３３参照）と、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に当接する位置に配設され第２スライド板Ｈ１４５６３を第１化粧板Ｈ５４１に対して上方側に付勢するコイルバネＨ１４５６４（図１９５３参照）と、を主に備え、第１化粧板Ｈ５４１の底面側の上方に重なる位置に配置される。

【２２１６２】

膨出部Ｈ１４５６３ａは、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置から開放位置に変位される際に、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが当接する部分であり、閉塞位置におけるスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重ならない位置に形成されると共に、閉塞位置におけるスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａと少なくとも一部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重なる位置に形成される。

【２２１６３】

これにより、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置から開放位置にスライド変位された際に、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａを第２スライド板Ｈ１４５６３の膨

出部Ｈ１４５６３ａに当接させることができる。なお、この当接により第２スライド板Ｈ１４５６３が下方に変位されるが、その変位についての詳しい説明は後述する。

【２２１６４】

突出部Ｈ１４５６３ｂは、第２スライド板Ｈ１４５６３の後述する上下動の変位に伴って第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の底面から下方に張り出される部分であり、第２スライド板Ｈ１４５６３が上方に位置する場合（図１９５３（ａ）に示す状態の場合）に第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の底面から突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端（下端）が張り出さない長さに設定される。

【２２１６５】

なお、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０には、突出部Ｈ１４５６３ｂが形成される位置に突出部Ｈ１４５６３ｂと対応する形状の開口が形成される。突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の開口を介して突出部Ｈ１４５６３ｂを張出変位される。

【２２１６６】

また、突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成されており、湾曲形状による機能および作用は第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３と同様であるので、その詳しい説明は省略する。

【２２１６７】

次いで、図１９５２及び図１９５３を参照して、突出部Ｈ１４５６３ｂの変位について説明する。図１９５２（ａ）及び（ｂ）は、上下皿ユニットＨ１４０１５の側面図であり、図１９５３（ａ）は、図１９５２（ａ）のＭＣＭＬＩＩＩａにおける上下皿ユニットＨ１４０１５の断面図であり、図１９５３（ｂ）は、図１９５２（ｂ）のＭＣＭＬＩＩＩｂ線における上下皿ユニットＨ１４０１５の断面図である。

【２２１６８】

なお、図１９５２（ａ）及び図１９５３（ａ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上方に退避された状態（以下「退避状態」と称す）が図示され、図１９５２（ｂ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが下方に張り出した状態（以下「張出状態」と称す）が図示される。

【２２１６９】

図１９５２（ａ）及び図１９５３（ａ）に示すように、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置に配置される場合には、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａの右側に位置し、押圧片Ｈ１４５６２ａと膨出部Ｈ１４５６３ａとが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重ならない位置に配置される。

【２２１７０】

よって、第２スライド板Ｈ１４５６３は、第２スライド板Ｈ１４５６３と第１化粧板Ｈ５４１との間に配設されるコイルバネＨ１４５６４により上方に付勢され、膨出部Ｈ１４５６３ａが形成される部分を除く第２スライド板Ｈ１４５６３の上面が押圧片Ｈ１４５６２ａに当接する位置に配置される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に形成される突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成される開口の内側に配置される（即ち、退避状態とされる）。

【２２１７１】

一方、図１９５３（ｂ）及び図１９５３（ｂ）に示すように、スライド板Ｈ１４５６２が開放位置に配置される場合には、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配置される。

【２２１７２】

よって、第２スライド板Ｈ１４５６３は、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａの下面と膨出部Ｈ１４５６３ａとの当接により下方に向かって押し出される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に形成される突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成される開口から下方に張り出される（即ち、

張出状態とされる）。
【２２１７３】
即ち、第１２４実施形態では、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）の下面側から張り出される突出部Ｈ１４５６３ｂの張り出し量を変更可能に構成される。これにより、突出部Ｈ１４５６３ｂの張り出しが不要の場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させて、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを低くできる。よって、突出部Ｈ１４５６３ｂが遊技の邪魔になることやパチンコ機Ｈ１０（上下皿ユニットＨ１４０１５）の外観が悪化することを抑制できる。
【２２１７４】
特に、第１２４実施形態では、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作して、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させ下皿Ｈ５０（図１８５８参照）に貯留される球を千両箱に排出する際に、突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の底面から張り出させることができ、下皿Ｈ５０に貯留される球が排出されない状態持（スライド板Ｈ１４５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）に突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の内側に退避させることができる。即ち、遊技者の球吹きレバーＨ５２の操作により、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド変位させることができ、遊技者の任意のタイミング（球抜きタイミング）で突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを変更できる。
【２２１７５】
従って、第１２４実施形態では、球が排出されていない状態持に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させて突出部Ｈ１４５６３ｂが邪魔になることを抑制できる。よって、例えば、千両箱に払い出される球が一杯になり千両箱を交換する場合に、交換前後の千両箱が突出部Ｈ１４５６３ｂに引っ掛かることを抑制できる。その結果、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の周囲の作業性を向上できる。
【２２１７６】
なお、第１２４実施形態では、図１９５２（ａ）に示すように、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から非突出とされる（即ち、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）の内側に突出先端が配置される）。これにより、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端が遊技の邪魔になることや、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端が見えてパチンコ機Ｈ１０の外観が悪化することを確実に抑制できる。
【２２１７７】
また、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）から球を排出する際には、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出された状態とされるので、上記第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３同様に、千両箱に落下して跳ね返る球を当接させることができ、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の前方から飛び出ることを抑制できる。
【２２１７８】
なお、第１２４実施形態における突出部Ｈ１４５６３ｂを上記１実施形態における突出部Ｈ５８３のように、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を開放する際の持ち手として利用させる場合には、作業者に球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作させて、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させることで、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に、突出部Ｈ１４５６３ｂを持ち手として利用させることができる。
【２２１７９】
また、第１２４実施形態における突出部Ｈ１４５６３ｂを上記第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３のように、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を仮置きする場合の床の支持部として利用する場合も同様に、作業者に球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作させて、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させることで、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に、正面枠Ｈ１４を仮置きする場合の床の支持部として利用することができる。
【２２１８０】

この場合、第１２４実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂ（第２スライド板Ｈ１４５６３）の上部にスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが配置される。従って、突出部Ｈ１４５６３ｂを床面に当接させた状態で正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を仮置きした場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂが変形または破損することをスライド板Ｈ１４５６２（押圧片Ｈ１４５６２ａ）で抑制できる。

【２２１８１】

即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂは、他の部材の配置の邪魔にならないよう上下皿ユニットＨ１４０１５に対して比較的小さく形成される。そのため、突出部Ｈ１４５６３ｂに力が集中すると突出部Ｈ１４５６３ｂが変形または破損する恐れがあった。

【２２１８２】

これに対し、第１２４実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド板Ｈ１４５６２で支持できるので、突出部Ｈ１４５６３ｂに力が集中しすぎることを抑制して、突出部Ｈ１４５６３ａが変形または破損することを抑制できる。即ち、スライド板Ｈ１４５６２を突出部Ｈ１４５６３ｂの支持部（補強）として利用できる。

【２２１８３】

なお、第１２４実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２が突出部Ｈ１４５６３ｂ（第２スライド板Ｈ１４５６３）の上方に重なるだけであるが、スライド板Ｈ１４５６２を突出部Ｈ１４５６３ｂの前後に重なる大きさに形成（即ち、押圧片Ｈ１４５６２ａの前後幅を第２スライド板Ｈ１４５６３の前後幅よりも大きく形成して、押圧片Ｈ１４５６２ａに第２スライド板Ｈ１４５６３と前後に重なる領域を形成）しても良い。この場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂに前後方向における力が作用する場合であっても、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド板Ｈ１４５６２で支持することができる。その結果、突出部Ｈ１４５６３ａが変形または破損することを抑制できる。

【２２１８４】

また、第１２４実施形態では、球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）の操作に伴うスライド板Ｈ１４５６２の変位により、第２スライド板Ｈ１４５６３を上下にスライド変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を外枠Ｈ１１（図１８３５参照）から開放（取り外し）た際にスライド変位するスライド板を設け、そのスライド板の変位により第２スライド板Ｈ１４５６３を下方に変位させるように構成しても良い。

【２２１８５】

この場合、正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）が外枠Ｈ１１（図１８３５参照）から取り外された場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、上記第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３のように正面枠Ｈ１４を床に仮置きする場合の支持部として突出部Ｈ１４５６３ｂを利用することができる。

【２２１８６】

また、第１２４実施形態では、第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３が非形成とされる場合について説明したが、突出部Ｈ５８３を備えるものであっても良い。この場合には、第２スライド板Ｈ１４５６３の突出部Ｈ１４５６３ｂが突出部Ｈ５８３の正面側に沿って（正面側に隣り合う位置に）突出可能に形成されることが好ましい。これによれば、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を開放する場合に突出部Ｈ５８３を正面枠Ｈ１４の開放方向に引っ張る場合に、その力で突出部Ｈ５８３が変形または破損することを突出部Ｈ１４５６３ｂにより抑制できる。即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂを突出部Ｈ５８３の支持部（補強）として利用できる。

【２２１８７】

次いで、図１９５４を参照して、第１２５実施形態における上下皿ユニットＨ３５０１５について説明する。上記第１２４実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２（球抜きレバーＨ５２）の変位に連動して第２スライド板Ｈ１４５６３が変位される場合について説明したが、第１２５実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２（球抜きレバーＨ５２）の変位に第２スライド板Ｈ１４５６３が非連動とされる場合を形成可能に構成される。なお、上

記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２１８８】
図１９５４（ａ）から（ｄ）は、第１２５実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５の断面図であり、図１９５２（ａ）のＭＣＭＬＩＩＩａ線における断面と対応する。また、図１９５４（ａ）から図１９５４（ｄ）では、第２スライド板Ｈ１４５６３又は係合片Ｈ１５５４３が変位された際の遷移状態が順に図示される。さらに、図１９５４（ａ）及び（ｄ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下皿ユニットＨ１５０１５の内側に退避した退避状態が図示され、図１９５４（ｂ）及び（ｃ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下皿ユニットＨ１５０１５の下方から張り出した張出状態が図示される。
【２２１８９】
図１９５４に示すように、第１２５実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５は、上述した第１２４実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の第１化粧板Ｈ５４１の底面側に係合片Ｈ１５５４３が配設される。
【２２１９０】
係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の開口を介して張出変位された位置の（張出状態となる位置に変位された）第２スライド板Ｈ１４５６３の上面と係合する部材であり、一端側（上方側）に鉤状に形成される係合部Ｈ１５５４３ａを備える。
【２２１９１】
また、係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１に形成される軸受部Ｈ１５５４１ｆに軸支され、第１化粧板Ｈ５４１に対して回転可能な状態で配設されると共に、係合部Ｈ１５５４３ａが形成される側と反対側の他端側が第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成された開口（図示せず）を介して上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側に突出される。即ち、係合片Ｈ１５５４３は、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出される部分により操作可能とされる。
【２２１９２】
さらに、係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１の軸受部Ｈ１５５４１ｆとの間に配設されるねじりバネ（図示せず）により、係合部Ｈ１５５４３ａ側が第２スライド板Ｈ１４５６３側に近づく方向に付勢される。
【２２１９３】
係合部Ｈ１５５４３ａは、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた状態（退避状態）において、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部に当接する位置に配置される。また、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部が当接される係合部Ｈ１５５４３ａの当接面は、傾斜して形成される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３が退避状態から張出状態に変位される際には、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部が係合部Ｈ１５５４３ａの当接面を外側に押し出すことで、係合片Ｈ１５５４３が回転される。
【２２１９４】
以上のように構成される第１２５実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５によれば、図１９５４（ａ）及び図１９５４（ｂ）に示すように、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作して第２スライド板Ｈ１４５６３が張出位置にスライド変位されると、第２スライド板Ｈ１４５６３の張出変位に伴って係合片Ｈ１５５４３の係合部Ｈ１５５４３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３から離れる方向に回転された後、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３が係合部Ｈ１５５４３ａを超えて下方側まで変位されることで、ねじりバネの付勢力により係合部Ｈ１５５４３ａが再び第２スライド板Ｈ１４５６３に近づく方向に回転される。
【２２１９５】
この場合、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３が係合部Ｈ１５５４３ａを超えて下方側に位置することで、係合部Ｈ１５５４３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の上面に係合して、第２スライド板Ｈ１４５６３の上方側への変位

が規制される（以下の説明では「規制状態」と称す）。
【２２１９６】
この規制状態では、図１９５４（ｃ）に示すように、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作してスライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図１９５３参照）を塞ぐ位置）に変位させたとしても、係合部Ｈ１５５３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３に引っ掛かることで、第２スライド板Ｈ１４５６３の退避方向への変位が規制される。
【２２１９７】
一方、図１９５４（ｄ）に示すように、第１２５実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５は、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出される係合片Ｈ１５５４３を遊技者が操作することで、係合部Ｈ１５５４３ａと第２スライド板Ｈ１４５６３との係合が解除される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３が退避方向に変位され、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させた状態（即ち、図１９５４（ａ）に示す状態）とされる。
【２２１９８】
即ち、第１２５実施形態では、遊技者の球抜き操作（球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）の操作）により突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から張り出させる（張出状態とする）ことができると共に、球抜き操作を終えた後（球抜きレバーＨ５２を元の位置に戻した後）においても突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から張り出した状態（張出状態）に維持することができる。
【２２１９９】
また、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出した状態においては、遊技者の任意のタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた状態にできる。
【２２２００】
さらに、球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を操作した状態（スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させて遊技球を下皿Ｈ５０（図１８５８参照）から払出可能な状態）においては、図１９５４（ｂ）に示すように第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａの上方にスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが位置される。従って、遊技者が係合片Ｈ１５５４３を操作したとしても突出部Ｈ１４５６３ｂが下側保護板Ｈ５８０の内側に退避されることを抑制できる。よって、下皿Ｈ５０から遊技球を払い出し可能な場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂが不用意に退避方向に変位することを抑制できる。その結果、千両箱に落下して跳ね返る球を突出部Ｈ１４５６３ｂに当接させることができ、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の前方から飛び出ることを抑制できる。
【２２２０１】
また、突出部Ｈ１４５６３ｂに係合部Ｈ１５５４３ａを係合させて維持状態にし、球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を初期位置に戻した（スライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図１９５３参照）を塞ぐ位置）に変位させた）後、再度球抜きレバーＨ５２を操作してスライド板Ｈ１４５６２を開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位させる場合には、第２スライド板Ｈ１４５６３の下方側への変位が必要なくなるので、スライド板Ｈ１４５６２と第２スライド板Ｈ１４５６３との接触抵抗を小さくすることができる。即ち、第２スライド板Ｈ１４５６３を下方側に維持した状態とすることができるので、第２スライド板Ｈ１４５６３を下方側に変位させるためにスライド板Ｈ１４５６２を第２スライド板Ｈ１４５６３に当接させる必要がなくなり、その分、スライド板Ｈ１４５６２の操作抵抗を減らすことができる。
【２２２０２】
従って、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）からの非球抜き時（スライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図１９５３参照）を塞ぐ位置）に配置した状態）において、退避状態とされる位置への突出部Ｈ１４５６３ｂの変位を必要としない（突出部Ｈ１４５６３ｂが張出状態とされた状態で良い）遊技者の場合には、球抜きレバーＨ５２（図１

９５１参照）の操作抵抗を小さくすることができ、球抜きレバーＨ５２を操作させやすくできる。即ち、遊技者の好みにより、突出部Ｈ１４５６３ｂを張出状態とするか否かを遊技者に選択させることができる。

【２２２０３】

さらに、第１２５実施形態においては、上記第１１１実施形態における突出部Ｈ５８３のように突出部Ｈ１４５６３ｂを正面枠Ｈ１４（図１８３７参照）を仮置きする場合の床の支持部として利用する際には、球抜きレバーＨ５２（図１９５１参照）を初期位置に戻してスライド板Ｈ１４５６２を排出口Ｈ５６１ａ（図１９５３参照）を塞ぐ閉鎖位置に配置することができるので、正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に球が下皿Ｈ５０の貯留領域に払い出されたとしても、下皿Ｈ５０から球が払い出されることを抑制できる。これにより、床面に球が散らばることを抑制できる。

【２２２０４】

次いで、図１９５５及び図１９５６を参照して、第１２６実施形態における上下皿ユニットＨ１６０１５及び上側装飾ユニットＨ１６０１４ａについて説明する。上記第１２４実施形態では、第２スライド板Ｈ１４５６３を上下皿ユニットＨ１４０１５の下方側から突出させる場合について説明したが、第１２６実施形態では、第２スライド板Ｈ１６５６２を上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから突出させる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２２０５】

図１９５５（ａ）及び（ｂ）は、第１２６実施形態における正面枠Ｈ１６０１４の正面模式図であり、図１９５６（ａ）は、図１９５５（ａ）のＭＣＭＬＶＩａ線における上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの断面模式図であり、図１９５６（ｂ）は、図１９５５（ｂ）のＭＣＭＬＶＩｂ線における上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの断面模式図である。なお、図１９５５（ａ）及び図１９５６（ａ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの内側に退避した退避状態が図示され、図１９５５（ｂ）及び図１９５６（ｂ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出した張出状態が図示される。なお、図１９５５及び図１９５６では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２２０６】

図１９５５及び図１９５６に示すように、第１２６実施形態における正面枠Ｈ１６０１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）と、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１６０１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１６０１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１６０１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１８４０参照）と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０（図１８４０参照）とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２（図１８３９参照）に回動可能に取り付けられている。

【２２２０７】

上下皿ユニットＨ１６０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０（図１８５９参照）と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１６５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１６５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０（図１８５９参照）と、を主に備える。

【２２２０８】

下皿形成部材Ｈ１６５３０は、上下皿ユニットＨ１６０１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｈ５１０を覆う位置に配設される。また、下皿形成部材

Ｈ１６５３０は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＨ５５０（図１８６４参照）と、その下皿構成ユニットＨ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＨ１６５６０（図１８６４参照）とを備える。

【２２２０９】

球抜きユニットＨ１６５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１（図１８６４参照）と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ５６２（図１８６４参照）と、そのスライド板Ｈ５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ１６０５２と、スライド板Ｈ５６２及び球抜きレバーＨ１６０５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、を主に備える。

【２２２１０】

球抜きレバーＨ１６０５２は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）に貯留された球を下方へ排出する際に遊技者が操作するためのレバーであり、スライド板Ｈ５６２（図１８６４参照）に連なって形成されると共に、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、スライド板Ｈ５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位される。また、球抜きレバーＨ１６０５２には、上下皿ユニットＨ１６０１５の化粧面よりも背面側の位置に連結部材Ｈ１６５０１が連結される。

【２２２１１】

連結部材Ｈ１６５０１は、金属製の棒部材を曲げて形成されており、上下皿ユニットＨ１６０１５、右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの背面側を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にスライド変位可能に構成され、球抜きレバーＨ１６０５２の操作に伴って左右方向にスライド変位可能とされる。

【２２２１２】

また、連結部材Ｈ１６５０１は、球抜きレバーＨ１６０５２に連結される側と反対側の端部に、スライド板Ｈ１６５０２が連結され、球抜きレバーＨ１６０５２の操作により左右方向にスライド変位されることで、スライド板Ｈ１６５０２を左右方向にスライド変位可能とされる。

【２２２１３】

次いで、上側装飾ユニットＨ１６０１４ａについて説明する。上側装飾ユニットＨ１６０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ１６３２０とを主に備える。

【２２２１４】

化粧ユニットＨ１６３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放される箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ１６３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４５参照）とを主に備える。

【２２２１５】

発光ユニットＨ１６３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に上下方向に変位可能な状態で配設され光を発光可能に構成される基板ユニットＨ１６３４４と、その基板ユニットＨ１６３４４及び取付部材Ｈ３４１との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。

【２２２１６】

基板ユニットＨ１６３４４は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される基板部材Ｈ３４２と、その基板部材Ｈ３４２の正面側を覆う正面カバーＨ１６３４５と、基板部材Ｈ３４２の背面側を覆う背面カバーＨ１６３４６と、その背面カバーＨ１６３４６の背面側に連結される伝達部材Ｈ１６３４７とを主に備える。

【２２２１７】

なお、正面カバーＨ１６３４５は、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、背面

側に配設される基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を正面側に向けて透過可能とされる。これにより、ＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を取付部材Ｈ３４１の開口部Ｈ３４１ａ１（図１８４７参照）を介して装飾板Ｈ３３５に出射し、装飾板Ｈ３３５をＬＥＤＨ３４２ａの光で発光させることができる。

【２２２１８】

伝達部材Ｈ１６３４７は、基板ユニットＨ１６３４４に駆動力を伝達する部材であり、上下皿ユニットＨ１６０１５の球抜きレバーＨ１６０５２に連結される連結部材Ｈ１６５０１のスライド板Ｈ１６５０２に当接可能な位置に形成される。また、伝達部材Ｈ１６３４７は、下方側の一部がスライド板Ｈ１６５０２の傾斜面により支持されており、スライド板Ｈ１６５０２が変位されることにより傾斜面に沿って上方側に変位可能とされる。この伝達部材Ｈ１６３４７の変位により基板ユニットＨ１６３４４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能とされる。

【２２２１９】

なお、第１２６実施形態では、伝達部材Ｈ１６３４７が下方に位置する（退避状態とされる）場合（図１９５５（ａ）に示す位置に配置される場合）に、基板ユニットＨ１６３４４の上端面が装飾ユニットＨ３３０の上面と略一致する高さに設定されると共に、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に位置する（張出状態とされる）場合（図１９５５（ｂ）に示す位置に配置される場合）に基板ユニットＨ１６３４４の上端面が装飾ユニットＨ３３０から上方側に張り出すように設定される。

【２２２２０】

以上のように構成される第１２６実施形態における正面枠Ｈ１６０１４によれば、球抜きレバーＨ１６０５２の操作に伴って、正面枠Ｈ１６０１４の上方側から基板ユニットＨ１６３４４を張り出させることができる。従って、遊技者や遊技直前の遊技者に排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを認識させることができる。その結果、遊技者が排出口Ｈ５６１ａを開放したことを忘れて、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）に遊技球を貯留しようとした場合（例えば、上皿Ｈ１７の貯留が一杯になり、払い出される遊技球が下皿Ｈ５０の貯留領域に迂回した場合）に下皿Ｈ５０から遊技球が払い出されてしまうことを抑制できる。

【２２２２１】

また、正面枠Ｈ１６０１４の上方側から張り出す基板ユニットＨ１６３４４には、ＬＥＤＨ３４２ａが配設されるので、正面枠Ｈ１６０１４の外側から光を出射することができる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４が張り出していることを遊技者に認識させやすくできる（即ち、排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを遊技者に認識させやすくできる）。

【２２２２２】

さらに、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態が大当たりとなり遊技球が下皿Ｈ５０（図１８５８参照）から払い出され、遊技者が球抜きレバーＨ１６０５２を操作した際に、光を出射するＬＥＤＨ３４２を正面枠Ｈ１６０１４から張り出させることができるので、大当たり時にパチンコ機Ｈ１０の演出領域を増やすことができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２２２２３】

また、第１２６実施形態では、正面枠Ｈ１６０１４から基板ユニットＨ１６３４４を張り出した場合の上方側への張出距離が、正面視における正面枠Ｈ１６０１４よりも若干大きく形成される外枠Ｈ１１（図１８３５参照）よりも先端が外方側に張り出す距離に設定される。これにより、組み立てた状態のパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）を床に仮置きする場合には、基板ユニットＨ１６３４４と外枠Ｈ１１の上面の一部との２点を床面に当接させた状態にできる。その結果、床面の影響を受けることなく仮置きすることができ、パチンコ機Ｈ１０が倒れることを抑制できる。

【２２２２４】

なお、第１２６実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が張出状態とされる（図１９

５５に示す状態とされる）場合に、伝達部材Ｈ１６３４７の下方側にスライド板Ｈ１６５０２が配置される。即ち、基板ユニットＨ１６３４４の下方側がスライド板Ｈ１６５０２により支持（補強）される。これにより、基板ユニットＨ１６３４４を張出状態としてパチンコ機Ｈ１０を床面に仮置きする場合に、基板ユニットＨ１６３４４が変形または破損することを抑制できる。

【２２２２５】

さらに、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）よりも基板ユニットＨ１６３４４の先端が外方側に張り出すので、パチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）を背面側に傾倒させた状態で仮置きすることができる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４に作用する自重に比べて、外枠Ｈ１１に作用する自重を大きくできる。その結果、装飾面となる上側装飾ユニットＨ１６０１４ａが破損することを抑制できる。また、仮置きしたパチンコ機Ｈ１０が倒れる場合には、正面側よりも背面側に倒れやすくできるので、仮にパチンコ機Ｈ１０が倒れた場合に装飾面となる正面側に倒れることを抑制して、装飾面が破損する（ヒビや傷が入る）ことを抑制できる。

【２２２２６】

また、正面枠Ｈ１６０１４からの基板ユニットＨ１６３４４の張り出し量が大きくされることで、パチンコ店においてパチンコ機Ｈ１０の上方に配置されるデータ表示器（大当たり回数や遊技回数のデータ表示器）を遊技中や遊技直前の遊技者に視認させにくくできる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４が張り出していることを遊技者に認識させやすくできる（即ち、排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを遊技者に認識させやすくできる）。

【２２２２７】

なお、上記第１２６実施形態では、変位する基板ユニットＨ１６３４４にのみ基板部材Ｈ３４２が配置される場合について説明したが、基板ユニットＨ１６３４４の基板部材Ｈ３４４の他に固定された基板部材Ｈ３４２を別途配設して、基板ユニットＨ１６３４４の変位に関わらず他に固定された基板部材Ｈ３４２により装飾板Ｈ３４５を常に発光させるものとし、基板ユニットＨ１６３４４を張出状態とした際に正面視における発光領域を増やすものであっても良い。

【２２２２８】

また、上記第１２６実施形態では、変位する基板ユニットＨ１６３４４に光を出射可能なＬＥＤＨ３４２ａを備えた基板部材Ｈ３４２を配置する場合について説明したが、基板ユニットＨ１６３４４に基板部材Ｈ３４２を非搭載のものであっても良い。例えば、背面カバーＨ１６３４６のみで構成される基板ユニットＨ１６３４４であっても良い。

【２２２２９】

さらに、上記第１２６実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出されていない（図１９５５（ａ）に示す状態）場合に、ＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を取付部材Ｈ３４１の開口部Ｈ３４１ａ１（図１８４７参照）を介して装飾板Ｈ３３５に出射し、装飾板Ｈ３３５をＬＥＤＨ３４２ａの光で発光させることについて説明したが、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出されていない場合に、装飾板Ｈ３３５や取付部材Ｈ３４１に光を反射させて、上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの下方側（下面板Ｈ３３３）から光を出射可能に構成しても良い。

【２２２３０】

次いで、図１９５７（ａ）を参照して第１２７実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５について説明する。上記第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０の下面が被挿入部Ｈ５５５ｅに当接される場合について説明したが、第１２７実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５では、操作ユニットＨ１８０の下面が凸状部Ｈ１７５１５に当接される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２２３１】

図１９５７（ａ）は、第１２７実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５の断面図である。なお、図１９５７（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２２２３２】

図１９５７（ａ）に示すように、第１２７実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ１７５１０と、そのベース部材Ｈ１７５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ１７５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１７５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１７５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２２２３３】

ベース部材Ｈ１７５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【２２２３４】

また、ベース部材Ｈ１７５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ１７５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第１１１実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【２２２３５】

凸状部Ｈ１７５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ１７５３０の一対の側壁Ｈ１７５５５ｆに挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、一対の側壁Ｈ１７５５５ｆにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。

【２２２３６】

また、凸状部Ｈ１７５１５は、正面視において横長矩形に形成され、上面を形成する上面部Ｈ１７５１５ｄと、下面を形成する下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面を形成する側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を主に備える。なお、凸状部Ｈ５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。

【２２２３７】

上面部Ｈ１７５１５ｄは、前後方向に延設され、下面側傾斜部Ｈ５１５ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって上方に傾斜して形成される。また、一対の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃは、正面側に向かって近づく方向に傾斜して形成される。これら上面部Ｈ１７５１５ｄと下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとにより、凸状部Ｈ１７５１５は、突出先端側に向かって正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状）に形成される。

【２２２３８】

また、上面部Ｈ１７５１５ｄには、正面側（矢印Ｆ方向側）の上部に弾性変形可能な弾性部材Ｈ１７５１５ｅが配置されており、その弾性部材Ｈ１７５１５ｅに上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１７５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配置される。

【２２２３９】

下面側傾斜部Ｈ５１５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ５１５ｂ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ５１５ｂ２が開口形成される。

【２２２４０】
被係合部Ｈ５１５ｂ２は、後述する下皿形成部材Ｈ１７５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。
【２２２４１】
下皿形成部材Ｈ１７５３０は、ベース部材Ｈ１７５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１７０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１７５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。
【２２２４２】
下皿構成ユニットＨ１７５５０は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の底面を形成する底板Ｈ１７５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１７５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。
【２２２４３】
底板Ｈ１７５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１７５５５と、を主に備える。
【２２２４４】
連結部Ｈ１７５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１７５５５ｄと、その本体部Ｈ１７５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の左右両側の縁部に沿って背面側に向かって突出される一対の側壁Ｈ１７５５５ｆと、本体部Ｈ１７５５５ｄの背面側の下方側の縁部から背面側に向かって突出される突設部Ｈ５５５ｂと、を主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ１７５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。
【２２２４５】
一対の側壁Ｈ１７５５５ｆは、その対向間の幅が凸状部Ｈ１７５１５を挿入可能な大きさに形成され、その対向面にガイド壁Ｈ５５５ｃが複数個並設される。下皿形成部材Ｈ１７５３０をベース部材Ｈ１７５１０に配設した際には、一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に凸状部Ｈ１７５１５が挿入可能とされる。
【２２２４６】
ガイド壁Ｈ５５５ｃは、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に、凸状部Ｈ５１５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における位置を調整する部材であり、被挿入部Ｈ５５５ｅの左右の両側壁に前後方向に所定の間隔で複数個並設される。
【２２２４７】
また、突設部Ｈ５５５ｂは、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突設されており、その突設先端部の上面に凸状に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ５５５ｂは、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入される際に凸状部Ｈ１７５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１に案内される部分であり、凹部Ｈ５１５ｂ１により形成される溝と対応する位置に形成される。
【２２２４８】
係合部Ｈ５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ１７５１０の被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合する部分であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面から上方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入される際、又は、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間から引き抜かれる際に、突設部Ｈ５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ１７５１０に下皿形成部材Ｈ１７５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ１７５１

０から下皿形成部材Ｈ１７５３０を取り外す作業を簡易にできる。
【２２２４９】
以上のように構成される上下皿ユニットＨ１７０１５によれば、下方側（下面側傾斜部Ｈ５１５ｂ）に被係合部Ｈ５１５ｂ２が形成される凸状部Ｈ１７５１５の上方（上面部Ｈ１７５１５ｄ）に操作ユニットＨ１８０が載置され、凸状部Ｈ１７５１５の下方から被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合部Ｈ５５５ｂ１が係合されるので、操作ユニットＨ１８０が遊技者に操作された場合や操作ユニットＨ１８０が駆動された場合に、被係合部Ｈ５１５ｂ２と係合部Ｈ５５５ｂ１との係合が解除されることを抑制できる。
【２２２５０】
詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０が遊技者に操作された場合や操作ユニットＨ１８０が駆動された場合には、操作ユニットＨ１８０の下方側に向かう方向の力が入力されやすく、操作ユニットＨ１８０が載置される凸状部Ｈ１７５１５が下方側に向かって変形しやすい。
【２２２５１】
第１２７実施形態では、操作ユニットＨ１８０により凸状部Ｈ１７５１５の変位しやすい方向側から係合部Ｈ５５５ｂ１が挿入されるので、操作ユニットＨ１８０により凸状部Ｈ１７５１５が下方側に向かって変位した際に、被係合部Ｈ５１５ｂ２の内側に係合部Ｈ５５５ｂ１を挿入する嵌る方向に被係合部Ｈ５１５ｂ２を変位させることができる。その結果、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２との係合が解除されることを抑制できる。
【２２２５２】
次いで、図１９５７（ｂ）を参照して第１２８実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５について説明する。上記第１１１実施形態では、係合部Ｈ５５５ｂ１が被係合部Ｈ５１５ｂ２に下方側から係合する場合について説明したが、第１２８実施形態では、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に上方側から係合する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２２５３】
図１９５７（ｂ）は、第１２８実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５の断面図である。なお、図１９５７（ｂ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。
【２２２５４】
図１９５７（ｂ）に示すように、第１２８実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ１８５１０と、そのベース部材Ｈ１８５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ１８５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１８５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１８５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。
【２２２５５】
ベース部材Ｈ１８５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。
【２２２５６】
また、ベース部材Ｈ１８５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ１８５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第１１１実施形態

では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。
【２２２５７】
凸状部Ｈ１８５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、被挿入部Ｈ１８５５５ｅにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。
【２２２５８】
また、凸状部Ｈ１８５１５は、正面視において横長矩形に形成され、上面を形成する上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａと、下面を形成する下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂと、左右の側面を形成する側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を主に備える。なお、凸状部Ｈ１８５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。
【２２２５９】
上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって下方に傾斜して形成され、下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂは、正面側に向かって上方に傾斜して形成される。また、一対の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃは、正面側に向かって近づく方向に傾斜して形成される。これら上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａと下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂと側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとにより、凸状部Ｈ１８５１５は、突出先端側に向かって正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状）に形成される。
【２２２６０】
また、上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ１８５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ１８５１５ａ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ１８５１５ａ２が開口形成される。
【２２２６１】
被係合部Ｈ１８５１５ａ２は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の係合部Ｈ１８５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ１８５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。
【２２２６２】
凹部Ｈ１８５１５ａ１は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の係合部Ｈ１８５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ１８５５５ｂを被係合部Ｈ１８５１５ａ２まで案内する案内溝であり、突設部Ｈ１８５５５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚み寸法よりも溝幅が大きく形成される。なお、凹部Ｈ１８５１５ａ１に突設部Ｈ１８５５５ｂを案内することで、被係合部Ｈ１８５１５ａ２に対する係合部Ｈ１８５５５ｂ１の位置ずれを抑えることができ、係合部Ｈ１８５５５ｂ１の被係合部Ｈ１８５１５ａ２への係合を簡易にさせることができる。
【２２２６３】
下皿形成部材Ｈ１８５３０は、ベース部材Ｈ１８５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１８０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１８５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。
【２２２６４】
下皿構成ユニットＨ１８５５０は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の底面を形成する底板Ｈ１８５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１８５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。
【２２２６５】
底板Ｈ１８５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１８５５５と、を主に備える。

【２２２６６】
連結部Ｈ１８５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１８５５５ｄと、背面視において上方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ１８５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ１８５５５ｅと、本体部Ｈ１８５５５ｄの上方側の縁部から背面側に向かって突出される突設部Ｈ１８５５５ｂと、を主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ１８５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。
【２２２６７】
被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、背面視において上方側が開放された門型に形成されると共に、前後方向に所定の厚みを有した形状に形成される。また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、ベース部材Ｈ１８５１０に下皿構成ユニットＨ１８５５０を配設した際に、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が挿入される部分であり、凸状部Ｈ１８５１５と対応する位置に配置される。
【２２２６８】
また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、対向する側面から被挿入部Ｈ１８５５５ｅの内側に向かって立設される複数のガイド壁Ｈ５５５ｃ、を備え、そのガイド壁Ｈ５５５ｃにより凸状部Ｈ１８５１５の位置を左右位置を位置決めすることが可能に形成される。
【２２２６９】
突設部Ｈ１８５５５ｂは、本体部Ｈ１８５５５ｄの背面側端部から上方側に向かって突設されると共に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲される断面略Ｌ字状に形成され、背面側の突設先端部の下面に凸状に形成される係合部Ｈ１８５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ１８５５５ｂは、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅに挿入される際に凸状部Ｈ１８５１５の凹部Ｈ１８５１５ａ１に案内される部分であり、凹部Ｈ１８５１５ａ１により形成される溝と対応する位置に形成される。
【２２２７０】
係合部Ｈ１８５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ１８５１０の被係合部Ｈ１８５１５ａ２に係合する部分であり、突設部Ｈ１８５５５ｂの下面から下方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅに挿入される際、又は、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅから引き抜かれる際に、突設部Ｈ１８５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ１８５１０に下皿形成部材Ｈ１８５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ１８５１０から下皿形成部材Ｈ１８５３０を取り外す作業を簡易にできる。
【２２２７１】
以上のように構成される上下皿ユニットＨ１８０１５によれば、上方側から被係合部Ｈ１８５１５ａ２に挿入される係合部Ｈ１８５５５ｂ１が挿入可能に形成され、その係合部Ｈ１８５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ１８５５５ｂの上方側に操作ユニットＨ１８０が載置されるので、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５により支持することができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。
【２２２７２】
また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅ（連結部Ｈ１８５５５）は、下皿形成部材Ｈ１８５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された状態とされる。そのため、操作ユニットＨ１８０（ボタン部Ｈ１８１）を過剰に押圧する力が連結部Ｈ１８５５５に作用する場合には、連結部Ｈ１８５５５の非支持側（矢印Ｆ方向側）を操作ユニットＨ１８０の操作方向（下方）に変位させることで操作ユニットＨ１８０に作用する力を連結部Ｈ１８５５５で逃がすことができる。
【２２２７３】
即ち、下皿形成部材Ｈ１８５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された連結部Ｈ１８５５５に操作ユニットＨ１８０が支持されるので、操作ユニットＨ１８０を過剰に

押圧する力が連結部Ｈ１８５５５に作用した場合に連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させることができる。この場合、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５とが被締結とされるので、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形に伴って操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５との当接位置（当接状態）を変更することができる。即ち、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０に作用する力が連結部Ｈ１８５５５に作用する場合に、連結部Ｈ１８５５５が破損したり操作ユニットＨ１８０が破損することを抑制できる。

【２２２７４】

従って、操作ユニットに操作に伴い作用される操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内である場合には、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【２２２７５】

一方、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合には、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させて外力を逃がすことができる（操作力をベース部材Ｈ１８５１０と連結部Ｈ１８５５５とに分散させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０、下皿形成部材Ｈ１８５３０、及び、ベース部材Ｈ１８５１０の破損を抑制できる。

【２２２７６】

また、この場合、弾性変形される連結部Ｈ１８５５５が、上下皿ユニットＨ１５の正面側に配置される（即ち、装飾側となる）下皿形成部材Ｈ１８５３０に形成されるので、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させて外力を逃がした場合に、下皿形成部材Ｈ１８５３０の装飾面が撓むことを抑制できる。即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合に、その操作力をベース部材Ｈ１８５１０と連結部Ｈ１８５５５とに分散させると、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形に伴って、操作ユニットＨ１８０が配設されるベース部材Ｈ１８５１０も弾性変形されやすい。そのため、ベース部材Ｈ１８５１０が装飾面とされると、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って装飾面の外観が悪化する（装飾面が撓んで部品同士の間に隙間が形成される）恐れがあるところ、連結部Ｈ１８５５５が形成される下皿形成部材Ｈ１８５３０が装飾面とされることで、遊技機の外観が悪化することを抑制できる。

【２２２７７】

さらに、第１２８実施形態では、被挿入部Ｈ１８５５５ｅを有する連結部Ｈ１８５５５には、本体部Ｈ１８５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８を介して本体部Ｈ１８５５５ｄの上面に当接した状態で配設される。

【２２２７８】

従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させた場合に、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５との間に介在する弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させることで、操作ユニットＨ１８０の下面と、連結部Ｈ１８５５５の上面とが擦れることを抑制できる。即ち、弾性部材Ｈ５５８を操作ユニットＨ１８０の下面および連結部Ｈ１８５５５の上面に当接させた状態で、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０の下面と連結部Ｈ１８５５５の上面とが擦れて異音が発生したり、それらの当接面が破損（摩耗）したりすることを抑制できる。

【２２２７９】

次いで、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合について説明する。

【２２２８０】

上記したように、連結部Ｈ１８５５５の突設部Ｈ１８５５５ｂは、凸状部Ｈ１８５１５

の上方側に配置されると共に、凸状部Ｈ１８５１５の凹部Ｈ１８５１５ａ１に沿って挿入される。この場合、突設部Ｈ１８５５５ｂは、下面側が凹部Ｈ１８５１５ａ１の内面との間に所定の隙間が設けられた状態で配設されるとされる。従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、突設部Ｈ１８５５５ｂの下面を凹部Ｈ１８５１５ａ１の内面に当接させて、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形を抑制することができる。これにより、連結部Ｈ１８５５５の破損を抑制できる。

【２２２８１】

また、第１２８実施形態では、突設部Ｈ１８５５５ｂに形成される係合部Ｈ１８５５５ｂ１が下方側に向かって突出して形成され、その係合部Ｈ１８５５５ｂ１が係合される被係合部Ｈ１８５１５ａ２が凸状部Ｈ１８５１５の上方側に形成されるので、係合部Ｈ１８５５５ｂ１を上方側から被係合部Ｈ１８５１５ａ２に係合させることができる。

【２２２８２】

これにより、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に挿入される方向に変位される。

【２２２８３】

即ち、第１２８実施形態では、被係合部Ｈ１８５１５ａ２が係合部Ｈ１８５５５ｂ１よりも操作ユニットＨ１８０の操作方向側に形成されるので、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形されると、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に対し係合する方向に変位する。これにより係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との係合状態を維持しやすくできる。その結果、操作ユニットＨ１８０を押圧操作することで、係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との係合を解除する不正を抑制できる。

【２２２８４】

さらに、第１２８実施形態では、連結部Ｈ１８５５５の本体部Ｈ１８５５５ｄが係合部Ｈ１８５５５ｂ１よりも下方側に配置される。これにより、連結部Ｈ１８５５５に操作ユニットＨ１８０の押圧力が作用して連結部Ｈ１８５５５が基部側（本体部Ｈ１８５５５ｄ側）を起点に下方側に撓む場合に、係合部Ｈ１８５５５ｂ１の下方側への変位と共に係合部Ｈ１８５５５ｂ１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって変位させることができる。

【２２２８５】

これにより、操作ユニットＨ１８０の操作方向側の変位により連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される場合の係合部Ｈ１８５５５ｂ１の変位方向を被係合部Ｈ１８５１５ａ２との隙間が大きくなる方向とできる。即ち、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が、被係合部Ｈ１８５１５ａ２の正面側（矢印Ｆ方向側）の内面に当接することで、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が正面側に向かって変位することを抑制できるところ、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形により係合部Ｈ１８５５５ｂ１の正面側の内面から係合部Ｈ１８５５５ｂ１を離間させることができる。

【２２２８６】

そのため、連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される前（即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内）の状態における係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との間隔を小さくして、下皿形成部材Ｈ１８５３０とベース部材Ｈ１８５１０との対向間隔を大きくする方向に変位される不正を抑制できる一方、連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される（即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲外とされる）際には、係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２とが干渉して連結部Ｈ１８５５５の凸状部Ｈ１８５１５に対する相対変位が規制されることを抑制できる。

【２２２８７】

次いで、図１８３５９（ａ）を参照して、第１２９実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５について説明する。上記第１１１実施形態では、操作ユニットＨ１８０と連結

部Ｈ５５５とが非締結とされる場合について説明したが、第１２９実施形態では、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５とが締結される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２２８８】

図１９５８（ａ）は、第１２９実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５の断面図である。なお、図１９５８（ａ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２２２８９】

図１９５８（ａ）に示すように、第１２９実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１９５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１９５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２２２９０】

下皿形成部材Ｈ１９５３０は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１９０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１９５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【２２２９１】

下皿構成ユニットＨ１９５５０は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の底面を形成する底板Ｈ１９５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１９５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２２２９２】

底板Ｈ１９５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１９５５５と、を主に備える。

【２２２９３】

連結部Ｈ１９５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１９５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備える。

【２２２９４】

本体部Ｈ１９５５５ｄには、下方側から挿入される螺子を挿通可能な挿通孔Ｈ１９５５５ｄ１が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口され、その挿通孔Ｈ１９５５５ｄ１を挿通した螺子が操作ユニットＨ１８０の下方に螺入される。これにより、連結部Ｈ１９５５５と操作ユニットＨ１８０とが締結固定される。

【２２２９５】

従って、第１２９実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５では、連結部Ｈ１９５５５と操作ユニットＨ１８０とが締結されるので、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５とを一体化することができる。そのため、操作ユニットＨ１８０を押し込んだ後に連結部Ｈ１９５５５により上方に押し返される力が作用する場合に、操作ユニットＨ１８０のみが上方に変位して、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５との間に隙間が形成されることを抑制できる。その結果、操作ユニットＨ１８０の操作による変形を抑えやすくできる。

【２２２９６】

次いで、図１９５８（ｂ）を参照して、第１３０実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５について説明する。上記第１１１実施形態では、連結部Ｈ５５５と凸状部Ｈ５１

５とが係合される場合について説明したが、第１３０実施形態では、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２２９７】

図１９５８（ｂ）は、第１３０実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５の断面図である。なお、図１９５８（ｂ）は、図１８５８のＭＤＣＣＣＬＸＶＩＩＩ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２２２９８】

図１９５８（ｂ）に示すように、第１３０実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ２０５１０と、そのベース部材Ｈ２０５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ２０５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ２０５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ２０５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２２２９９】

ベース部材Ｈ２０５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【２２３００】

また、ベース部材Ｈ２０５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ２０５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第１１１実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【２２３０１】

凸状部Ｈ２０５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ２０５３０の連結部Ｈ２０５５５と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向配置され、その連結部Ｈ２０５５５に締結される部分であり、正面視における中央部に前後方向に開口して螺子を挿通可能な挿通孔Ｈ２０５１５ｆを備える。

【２２３０２】

下皿形成部材Ｈ２０５３０は、ベース部材Ｈ２０５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ２００１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）を構成する下皿構成ユニットＨ２０５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【２２３０３】

下皿構成ユニットＨ２０５５０は、下皿Ｈ５０（図１８５８参照）の底面を形成する底板Ｈ２０５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ２０５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２２３０４】

底板Ｈ２０５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ２０５５５と、を主に備える。

【２２３０５】

連結部Ｈ２０５５５は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の厚みを有して形成され、

背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子を螺入可能な締結孔Ｈ２０５５５ｇを備える。また、連結部Ｈ２０５５５は、上面に操作ユニットＨ１８０が当接されると共に、背面側がベース部材Ｈ２０５１０の凸状部Ｈ２０５１５の突設先端面に当接可能な大きさに設定される。

【２２３０６】

締結孔Ｈ２０５５５ｇは、凸状部Ｈ５１５に形成される挿通孔Ｈ２０５１５ｆを介してベース部材Ｈ２０５１０の背面側から挿通される螺子を螺入する部分であり、挿通孔Ｈ２０５１５ｆと対応する位置に形成される。挿通孔Ｈ２０５１５ｆを介して締結孔Ｈ２０５５５ｇに螺子止めされることにより、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定される。

【２２３０７】

第１３０実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５によれば、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定されるので、連結部Ｈ２０５５５及び凸状部Ｈ２０１５の前後の両側が保持される。そのため、操作ユニットＨ１８０が下方側に押し込まれる場合に、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とで支持して操作ユニットＨ１８０を押し込んだ力で操作ユニットＨ１８０が下方側に変位することを抑制できる。

【２２３０８】

次いで、図１９５９及び図１９６０を参照して、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０について説明する。上記第１１１実施形態では、駆動手段Ｈ７８０の錘部材Ｈ７８２の遠心力により駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させる場合について説明したが、第１３１実施形態では、駆動手段Ｈ２１７８０の当接手段Ｈ２１７８６を上側カバー部材Ｈ２１７８３及び下側カバー部材Ｈ２１７８４に当接させた衝撃で駆動手段Ｈ２１７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３０９】

図１９５９（ａ）は、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応し、図１９５９（ｂ）は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の分解正面斜視図であり、図１９６０（ａ）から図１８３５１（ｄ）は、揺動装置Ｈ２１７３０の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応する。

【２２３１０】

なお、図１９６０（ａ）から図１８３５１（ｄ）では、当接手段Ｈ２１７８６の遷移状態が順に図示され、図１９６０（ａ）では、当接手段Ｈ２１７８６が上側カバー部材Ｈ２１７８３に当接した状態が図示され、図１９６０（ｃ）では、当接手段Ｈ２１７８６が下側カバー部材Ｈ２１７８４に当接した状態が図示される。また、図１９６０（ａ）及び図１９６０（ｃ）では、当接手段Ｈ２１７８６による衝撃が作用する方向が矢印で図示される。

【２２３１１】

図１９６０に示すように、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ２１７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ２１７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。

【２２３１２】

駆動手段Ｈ２１７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される当接手段Ｈ２１７８６と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ２１７８３と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８５の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ２１７８４と、を主に備える。

【２２３１３】

当接手段Ｈ２１７８６は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａが挿通される挿通孔Ｈ２１７８６ａ１を有する第１部材Ｈ２１７８６ａと、その第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１が形成される側と反対側の端部に第１部材Ｈ２１７８６ａに対して相対変位可能な状態で連結される第２部材Ｈ２１７８６ｂと、それら第１部材Ｈ２１７８６ａ及び第２部材Ｈ２１７８６ｂを相対変位可能な状態で軸支する軸部材Ｈ２１７８６ｃと、第１部材Ｈ２１７８６ａに対して第２部材Ｈ２１７８６ｂを所定位置に復帰させる方向に付勢するバネ部材Ｈ２１７８６ｄと、を主に備える。

【２２３１４】

第１部材Ｈ２１７８６ａは、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結されており、駆動軸Ｈ７８１ａの回転に伴って駆動軸Ｈ７８１ａの回転軸回りに回転可能とされる。

【２２３１５】

第２部材Ｈ２１７８６ｂは、第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１が形成される側と反対側の端部に軸部材Ｈ２１７８６ｃにより第１部材Ｈ２１７８６ａに対して回転可能な状態で配設されると共に、第２部材Ｈ２１７８６ｂに外力が作用していない状態ではバネ部材Ｈ２１７８６ｄにより第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１の中心から径方向外側に直線状に配置される。

【２２３１６】

上側カバー部材Ｈ２１７８３は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の上方側（矢印Ｕ方向側）を覆設するために下方側（矢印Ｄ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ２１７８３ａと、そのカバー部Ｈ２１７８３ａの左右両側から上方側に向かって突設されると共に上方側の端部に背面側に向かって凹設される収容凹部Ｈ７８３ｂ１が形成される突設部Ｈ７８３ｂと、カバー部Ｈ２１７８３ａの上面から上方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１に挿入される上側軸部Ｈ７８３ｃと、カバー部Ｈ２１７８３ａの下面から下方側に向かって突設され先端が第２部材Ｈ２１７８６ｂの変位軌跡上に配設される上側突設部Ｈ２１７８３ａ１と、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。

【２２３１７】

下側カバー部材Ｈ２１７８４は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の下方側（矢印Ｄ方向側）を覆設するために上方側（矢印Ｕ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ２１７８４ａと、カバー部Ｈ２１７８４ａの下面から下方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の下側軸支部Ｈ７７２ｂ１に挿入される下側軸部Ｈ７８４ｂと、下側カバー部材Ｈ７８４の背面側の縁部から下方側に向かって突設され正面側に弾性体Ｈ７８５が配設される被当接部Ｈ７８４ｃと、カバー部Ｈ２１７８４ａの上面から上方側に向かって突設され先端が第２部材Ｈ２１７８６ｂの変位軌跡上に配設される下側突設部Ｈ２１７８４ａ１とを主に備え、無色透明の樹脂材料から形成される。

【２２３１８】

次いで、図１９６０を参照して、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０の動作について説明する。

【２２３１９】

図１９６０（ａ）から図１９６０（ｄ）に示すように、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動により当接手段Ｈ２１７８６が回転されると、当接手段Ｈ２１７８６の第２部材Ｈ２１７８６ｂが、上側カバー部材Ｈ２１７８３の上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側カバー部材Ｈ２１７８４の下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接しつつ変位される（図１９６０（ａ）及び図１９６０（ｃ）参照）。

【２２３２０】

この場合、第２部材Ｈ２１７８６ｂが上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接する衝撃により、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が第２部材Ｈ２１７８６ｂの当接方向に変位される。

【２２３２１】

詳しく説明すると、図１９６０（ａ）に示すように、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１に第

２部材Ｈ２１７８６ｂが正面視において左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）に向かって当接する場合には、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が右方側に変位される。これにより、駆動手段Ｈ２１７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に上面視反時計回り方向（正面側を左方向）に回転され、駆動手段Ｈ２１７８０が左向き状態とされる。

【２２３２２】

一方、図１９６０（ｃ）に示すように、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１に第２部材Ｈ２１７８６ｂが正面視において右方側（矢印Ｒ方向側）から左方側（矢印Ｌ方向側）に向かって当接する場合には、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が左方側に変位される。これにより、駆動手段Ｈ２１７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に上面視時計回り方向（正面側を右方向）に回転され、駆動手段Ｈ２１７８０が右向き状態とされる。

【２２３２３】

なお、第２部材Ｈ２１７８６ｂは、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接した後、それら上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１を乗り越える位置まで第１部材Ｈ２１７８６ａの変位に伴って変位されることで、図１９６０（ｂ）及び図１９６０（ｄ）に示すように、バネ部材Ｈ２１７８６ｄの付勢力により第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１の中心から径方向外側に直線状に配置され、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接可能な位置に再び配置される。

【２２３２４】

従って、第１３１実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動を継続して、第１部材Ｈ２１７８６ａを一方向回転させることで、第２部材Ｈ２１７８６ｂを上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に繰り返し当接させることができ、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ２１７８０の位置を右向き状態と左向き状態とに繰り返し変更することができる。

【２２３２５】

次いで、図１９６１及び図１９６２を参照して、第１３２実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０について説明する。上記第１１１実施形態では、駆動軸Ｈ７８１ａに対して錘部材Ｈ７８２の位置が変わらない場合について説明したが、第１３２実施形態では、駆動軸Ｈ７８１ａに対して錘部材Ｈ２２７８７ｂの位置が変更される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３２６】

図１９６１（ａ）は、第１３２実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応し、図１９６１（ｂ）は、駆動モータＨ７８１及び変位手段Ｈ２２７８７の分解正面斜視図であり、図１９６２（ａ）から図１８３５１（ｃ）は、揺動装置Ｈ２２７３０の断面図であり、図１８９８（ａ）のＭＤＣＣＣＸＣＶＩＩＩｂ線における断面に対応する。なお、図１９６２（ａ）から図１８３５３（ｃ）では、変位手段Ｈ２２７８７の遷移状態が順に図示される。

【２２３２７】

図１９６１に示すように、第１３２実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ２２７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ２１７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。

【２２３２８】

駆動手段Ｈ２２７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される変位手段Ｈ２２７８７と、駆動モータＨ７８１及び変位手段Ｈ２２７８７の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ７８３と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２

１７８５の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ７８４と、を主に備える。
【２２３２９】
変位手段Ｈ２２７８７は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａが挿通される挿通孔Ｈ２２７８７ａ１を中心に有する円柱状の回転ベースＨ２２７８７ａと、その回転ベースＨ２２７８７ａの外側に配設される錘部材Ｈ２２７８７ｂと、回転ベースＨ２２７８７ａの外周面側に連結される棒状の案内部材Ｈ２２７８７ｄと、その案内部材Ｈ２２７８７ｄが挿通されるコイルバネＨ２２７８７ｃと、を主に備える。
【２２３３０】
案内部材Ｈ２２７８７ｄは、一端側が回転ベースＨ２２７８７ａの外周面に連結されると共に、他端側の端部に拡径して形成される係合部Ｈ２２７８７ｄ１を備える。係合部Ｈ２２７８７ｄ１は、コイルバネＨ２２７８７ｃが案内部材Ｈ２２７８７ｄから抜け出ることを規制するための部材であり、コイルバネＨ２２７８７ｃの外径よりも大きく形成される。
【２２３３１】
錘部材Ｈ２２７８７ｂは、駆動手段Ｈ２２７８０に回転するための遠心力を作用させる部材であり、鉛等の比較的重い金属材料から形成される。また、錘部材Ｈ２２７８７ｂは、案内部材Ｈ２２７８７ｄが挿通される挿通孔Ｈ２２７８７ｂ１を備え、案内部材Ｈ２２７８７ｄに沿って摺動可能な状態で配設される。また、錘部材Ｈ２２７８７ｂは、コイルバネＨ２２７８７ｃにより、回転ベースＨ２２７８７ａに近づく方向に付勢されており、錘部材Ｈ２２７８７ｂに遠心力が作用していない状態では、回転ベースＨ２２７８７ａの外周面に当接した状態で配設される。
【２２３３２】
次いで、図１９６２を参照して、第１３２実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０の動作について説明する。
【２２３３３】
図１９６２（ａ）から図１９６２（ｃ）に示すように、第１３２実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動により回転ベースＨ２２７８７ａが回転されることで錘部材Ｈ２２７８７ｂが回転される。
【２２３３４】
この場合、錘部材Ｈ２２７８７ｂの回転に伴って、錘部材Ｈ２２７８７ｂに遠心力が作用することで、コイルバネＨ２２７８７ｃの付勢力に抗して回転軸から離れる方向に変位される。この錘部材Ｈ２２７８７ｂの変位により錘部材Ｈ２２７８７ｂを回転させた際に錘部材Ｈ２２７８７ｂから駆動手段Ｈ２２７８０に作用する遠心力を大きくすることができる。
【２２３３５】
また、第１３２実施形態では、錘部材Ｈ２２７８７ｂの回転速度を遅くして、錘部材Ｈ２２７８７ｂに作用する遠心力を小さくすることで、回転軸に対して錘部材Ｈ２２７８７ｂが離れにくくすることで、錘部材Ｈ２２７８７ｂを回転させた際に錘部材Ｈ２２７８７ｂから駆動手段Ｈ２２７８０に作用する遠心力を小さくすることができる。
【２２３３６】
これにより、例えば、変位手段Ｈ２２７８７の回転速度を遅くして、駆動手段Ｈ２２７８０に作用する錘部材Ｈ７８７ｂの遠心力を小さくして、駆動手段Ｈ２２７８０のベース手段Ｈ７７０に対する変位速度を遅くしたり、反対に、変位手段Ｈ２２７８７の回転速度を早くして、駆動手段Ｈ２２７８０に作用する錘部材Ｈ７８７ｂの遠心力を大きくして、駆動手段Ｈ２２７８０のベース手段Ｈ７７０に対する変位速度を早くするといった変更の調整幅を大きくすることができる。
【２２３３７】
次いで、図１９６３を参照して、第１３３実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０について説明する。上記第１１１実施形態では、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射経路における背面側（矢印Ｂ方向側）に凹部Ｈ８２１ａ１が形成される場合につい

て説明したが、第１３３実施形態では、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射経路における正面側（矢印Ｆ方向側）にも第２凹部Ｈ２３８７１が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３３８】

図１９６３（ａ）は、第１３３実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応し、図１９６３（ｂ）は、発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における断面図と対応する。

【２２３３９】

図１９６３（ａ）及び図１９６３（ｂ）に示すように、第１３３実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースのＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ２３８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ２３８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【２２３４０】

第１３３実施形態における背面側ケースＨ２３８７０は、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａと対面し、発射手段Ｈ８３０による発射経路の正面側（矢印Ｆ方向側）を形成する面が、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かうに従って背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して形成されると共に、遊技球の発射方向に沿って正面側に溝状に凹設される第２凹部Ｈ２３８７１を備える。

【２２３４１】

第２凹部Ｈ２３８７１は、遊技球の半径よりも大きい半径で正面側に向かって背面側ケースＨ２３８７０の背面側に凹設されると共に、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向（矢印Ｌ方向）と平行に形成される。また、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａに形成される凹部Ｈ８２１ａ１と前後方向に一部が重なる位置に形成される。

【２２３４２】

以上のように形成される発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａによれば、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ２３８７０により囲まれる通路）の内面（背面部Ｈ８２１ａ又は背面側ケースＨ２３８７０に当接する場合に、遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を凹部Ｈ８２１ａ１又は第２凹部Ｈ２３８７１により抑制可能とされる。内面（背面部Ｈ８２１ａ又は背面側ケースＨ２３８７０）から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２２３４３】

即ち、流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ２３８７０により囲まれる通路）の内面の両側（背面部Ｈ８２１ａ及び背面側ケースＨ２３８７０）に形成されるので、遊技球が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）のどちらに暴れた場合においても遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２２３４４】

また、球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１の内側に当接して正面側に跳ね返る遊技球の反力が依然として大きく発射位置送球ユニットＨ２３１７０と当接する位置まで跳ね返る場合には、その遊技球を第２凹部Ｈ２３８７１の内面に当接させて凹部Ｈ８７１と同様、遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。

【２２３４５】

即ち、第２凹部Ｈ２３８７１の内面に当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、上方側または下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る力方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発

射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２３４６】

また、第１３３実施形態では、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａに形成される凹部Ｈ８２１ａ１と前後方向に一部が重ならない位置に第２凹部Ｈ２３８７１が形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１とが重なっていない領域を利用して背面側開口Ｈ１７２を形成することができる。

【２２３４７】

次いで、図１９６４（ａ）を参照して、第１３４実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が凹設される場合について説明したが、第１３４実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａでは、背面部Ｈ２４８２１ａに凸部Ｈ２４８２１ａ２が凸設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３４８】

図１９６４（ａ）は、第１３４実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ２４１１２ａにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応する。

【２２３４９】

図１９６４（ａ）に示すように、第１３４実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２４８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備えて形成される。

【２２３５０】

案内手段Ｈ２４８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２４８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２４８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２４８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２３５１】

第１案内部材Ｈ２４８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２４８２１ａと、その背面部Ｈ２４８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なり第２案内部材Ｈ８２２が配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され第２案内部材Ｈ８２２に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２２３５２】

背面部Ｈ２４８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ２４８２１ａ２を備える。

【２２３５３】

凸部Ｈ２４８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に突出される。

【２２３５４】
なお、凸部Ｈ２４８２１ａ２の正面側への突出先端部は、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球するための球送球部Ｈ８８２ａ上を転動する遊技球の中心部よりも若干高い位置に形成される。
【２２３５５】
これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する場合に、下方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。そのため、当接した遊技球に作用する反力を正面側に跳ね返る方向だけでなく下方側に向く方向にも作用させることができる。よって、背面部Ｈ２４８２１ａに当接した遊技球が正面側に向かって跳ね返ることを抑制できる。その結果、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置に送球される遊技球が暴れることを抑制でき、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球を安定させやすくできる。
【２２３５６】
また、凸部Ｈ２４８２１ａ２の正面側への突出先端部は、発射手段Ｈ８３０により発射されて発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若干高い位置に形成されるので、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れて、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する場合に、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に下方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、下方側に向かう成分とに分散することができる。よって、正面側に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２３５７】
また、第１３４実施形態における凸部Ｈ２４８２１ａ２は、その突出先端部か発射位置送球ユニットＨ１７０の背面までの距離が遊技球の直径よりも小さくされる。これにより、発射手段Ｈ８３０に発射される遊技球が上下方向に暴れた場合に、その遊技球が凸部Ｈ２４８２１ａ２の突出先端部よりも上方に変位することを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２３５８】
次いで、図１９６４（ｂ）を参照して、第１３５実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１が円弧形状に凹設される場合について説明したが、第１３５実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａでは、凹部Ｈ２５８２１ａ１が角形状に凹設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２３５９】
なお、図１９６４（ｂ）は、第１３５実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ２５１１２ａにおける断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶａ線における断面図と対応する。
【２２３６０】
図１９６４（ｂ）に示すように、第１３５実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２５８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備えて形成される。
【２２３６１】
案内手段Ｈ２５８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ

方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２５８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２５８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２５８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２３６２】

第１案内部材Ｈ２５８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２５８２１ａと、その背面部Ｈ２５８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なり第２案内部材Ｈ８２２が配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され第２案内部材Ｈ８２２に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２２３６３】

背面部Ｈ２５８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２５８２１ａ１を備える。

【２２３６４】

凹部Ｈ２５８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に沿って案内させることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の半径よりも大きい溝幅の溝状に形成される。

【２２３６５】

また、第１３５実施形態における凹部Ｈ２５８２１ａ１は、溝幅に対する凹設深さが十分に深く形成されており、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、上端および下端の２点が遊技球に当接可能な形状に形成される。さらに、凹部Ｈ２５８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射され発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球が凹部Ｈ２５８２１ａ１の内側に受け入れられる場合に、初めに凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球が当接する位置に設定される。

【２２３６６】

これにより、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が前後方向に暴れる場合に、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球を当接させることで、遊技球に作用する反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向だけでなく上方側に持ち上がる方向にも作用させることができる。即ち、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端に当接した反力を正面側に跳ね返る成分と、上方側に向かう成分とに分散することができる。よって、正面側に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２３６７】

なお、背面側へ向かう方向の力が大きく（前後方向に暴れる力が大きく）、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球を当接させた際の上方側に向かう力で遊技球が持ち上がる場合には、その遊技球を凹部Ｈ２５８２１ａ１の上端（段差部分）側にも当接させることができる。即ち、遊技球の背面側の一部を凹部Ｈ２５８２１ａ１の上端と下端との間に挟み込むことができる。これにより、遊技球が正面側へ跳ね返ることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２３６８】

次いで、図１９６５及び図１９６６を参照して、第１３６実施形態における球発射ユニットＨ２６１１２ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後に暴れる場合に凹部Ｈ８２１ａ１に遊技球を受け入れる場合について説明したが、第１３６実施形態では、経路変更部材Ｈ２６８９０により遊技球を

凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３６９】

図１９６５は、第１３６実施形態における内枠Ｈ１２の正面図であり、図１９６６（ａ）は、経路変更部材Ｈ２６８９０の背面図であり、図１９６６（ｂ）は、図１９６６（ａ）の矢印ＭＣＭＬＸＶＩｂ方向視における経路変更部材Ｈ２６８９０の側面図であり、図１９６６（ｃ）は、図１９６６（ｂ）のＭＣＭＬＸＶＩｃ線における経路変更部材Ｈ２６８９０の断面図であり、図１９６６（ｄ）は、図１９６６（ａ）のＭＣＭＬＸＶＩｄ線における経路変更部材Ｈ２６８９０の断面図である。

【２２３７０】

図１９６５及び図１９６６に示すように、第１３６実施形態における球発射ユニットＨ２６１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、案内手段Ｈ８２０の遊技球の発射経路上に回転可能に配設される経路変更部材Ｈ２６８９０と、を主に備えて形成される。

【２２３７１】

経路変更部材Ｈ２６８９０は、図１９６６に示すように、円板状に形成され正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１部Ｈ２６８９１と、その第１部Ｈ２６８９１の軸回りに等間隔の３箇所から径方向に延設される３箇所の区画壁Ｈ２６８９２と、その区画壁Ｈ２６８９２を挟んで第１部Ｈ２６８９１と対向配置される扇形状の第２部Ｈ２６８９３と、を主に備える。

【２２３７２】

第２部Ｈ２６８９３は、円板状に形成される板の一部を切り欠いた凹欠部Ｈ２６８９３ａを有する扇形状に形成され、３箇所の区画壁Ｈ２６８９２に区画される内の２箇所の区画領域の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆って形成され、１箇所の区画領域の背面側を空けた状態で配設される。また、凹欠部Ｈ２６８９３ａが形成される領域において正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１部Ｈ２６８９１は他の部分における板厚よりも厚く形成される。

【２２３７３】

以上のように形成される球発射ユニットＨ２６１１２ａによれば、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射され、発射レールＨ１１２ａ１を転動する遊技球が第１部Ｈ２６８１と第２部Ｈ２６８９３（凹欠部Ｈ２６８９３ａ以外の部分）との間を通過する場合には、その遊技球を発射レールＨ１１２ａ１に沿って（即ち、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れず）、遊技領域に送球することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１と当接不能となる方向へ案内することができるので、凹部Ｈ８２１ａ１を利用せずに遊技球を送球する態様を形成できる。従って、送球される遊技球が暴れて、遊技球の軌跡が不安定となる態様で遊技球を送球できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。

【２２３７４】

一方で、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射され、発射レールＨ１１２ａ１を転動する遊技球が第１部Ｈ２６８１と第２部Ｈ２６８９３の凹欠部Ｈ２６８９３ａとの間を通過する場合には、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れて遊技領域に送球することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１と当接可能となる方向へ案内する態様を形成することができる。従って、送球される遊技球の暴れを抑制して、遊技球の軌跡を安定させた態様で遊技球を送球できる。

【２２３７５】

よって、第１３６実施形態では、経路変更部材Ｈ２６８９０により、凹部Ｈ８２１ａ１を利用せずに遊技球を送球する態様と、凹部Ｈ８２１ａ１を利用して遊技球を送球する態様とを形成できる。これにより、遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球がどちらによって案内された遊技球であるのかを遊技者に注目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２２３７６】

次いで、図１９６７（ａ）を参照して、第１３７実施形態における球発射ユニットＨ２７１１２ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、球発射ユニットＨ１１２ａが枠形成ユニットＨ１２ａの下側ベースユニットＨ１２ｃに配設される場合について説明したが、第１３７実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａが遊技盤Ｈ２７０１３に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２３７７】

図１９６７（ａ）は、第１３７実施形態における内枠Ｈ２７０１２の正面図である。なお、図１９６７（ａ）では、球発射ユニットＨ２７１１２ａが配設される領域が部分的に拡大されて図示される。

【２２３７８】

図１９６７（ａ）に示すように、第１３７実施形態における内枠Ｈ２７０１２は、外枠Ｈ１１（図１８３９参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａ（図１８３９参照）と、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４（図１８３４参照）とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１８３６参照）。

【２２３７９】

なお、内枠Ｈ２７０１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２７０１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１（図１８３９参照）と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２７０１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２（図１８３９参照）が配設される。遊技盤Ｈ２７０１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ２７０６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ２７０１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ２７０６０の正面と係合する（ベース板Ｈ２７０６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ２７０１２の内側に固定される。

【２２３８０】

また、第１３７実施形態における遊技盤Ｈ２７０１３は、正面視略正方形状に形成されると共に、下方側の縁部の一部から下方側に向かって突出する突出部Ｈ２７０６０ａを有するベース板Ｈ２７０６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レールＨ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等（図１８３８参照）を組み付けて構成される。

【２２３８１】

突出部Ｈ２７０６０ａは、球発射ユニットＨ２７１１２ａが配設される領域であり、その球発射ユニットＨ２７１１２ａから送球される球を受け入れる側の外レールＨ６２の延長線上に形成される。

【２２３８２】

また、突出部Ｈ２７０６０ａが形成される領域の背面側においては、内枠Ｈ２７０１２の下側ベースユニットＨ２７０１２ｃに凹部Ｈ２７０１２ｃ２が形成され、その凹部Ｈ２７０１２ｃ２の内側に突出部Ｈ２７０６０ａが配設される。

【２２３８３】

球発射ユニットＨ２７１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そ

のベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を主に備えて形成される。

【２２３８４】

案内手段Ｈ２７８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２７８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２７８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２７８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２３８５】

第１案内部材Ｈ２７８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２７８２１ａと、その背面部Ｈ２７８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１９０３参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ２７８２１ａの正面側に向かって立設される上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄとを主に備える。

【２２３８６】

背面部Ｈ２７８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２７８２１ａ１を２箇所に備える。なお、第１３７実施形態では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動面の影響を受けやすい２箇所に形成されるが、凹部Ｈ２７８２１ａ１は１箇所であっても３箇所以上に形成されていても良い。また、第１３７実施形態では、複数形成される凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視において同一直線状に形成されるが、それぞれの凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動面に対し異なる高さに形成されても良い。さらに、それぞれの凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視において非平行に延設されるものであってよい。

【２２３８７】

また、背面部Ｈ２７８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９０５（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ２７８２１ａは、遊技盤Ｈ２７０１３の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【２２３８８】

即ち、凹部Ｈ２７８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部が背面部Ｈ２７８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ２７８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部で凹部Ｈ２７８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ２７０１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【２２３８９】

凹部Ｈ２７８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ２７８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球が暴れやすくなる部分に形成

される。
【２２３９０】
即ち、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部の上方に亘って形成され、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部により形成される隙間（段差）等により球が弾む（暴れる）場合に、凹部に球を受け入れることで遊技球の送球を安定させることができる。
【２２３９１】
なお、発射レールＨ１１２ａ１は、発射当初の遊技球が暴れやすいため転動面が略Ｖ字状に凹設される一方、転動部Ｈ８２１ｂは、発射レールＨ１１２ａ１のように転動面を凹設した形状に形成すると、遊技球が転動する際に遊技球と転動面との当接面が増える（２点支持となる）ため、遊技球の転動面に凹設面が非形成（即ち、平面形状に形成される）とされる。そのため、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとがそれぞれ別の部材から形成される。
【２２３９２】
また、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされ、上方側に上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄが形成される。これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球は、上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄと発射レールＨ１１２ａ１との対向間を案内される。
【２２３９３】
ここで、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球の発射方向は、遊技球と発射手段Ｈ８３０（発射部Ｈ８３１）との当接状態に起因するため、発射直後の遊技球は暴れやすく不安定となりやすい。第１３７実施形態では、発射直後における位置（背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置）の背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされることで、前後の空間を狭めて発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制できる。
【２２３９４】
特に、第１３７実施形態では、遊技盤Ｈ２７０１３に球発射ユニットＨ２７１１２ａを配設するためにベース板Ｈ２７０６０の下方側に突出部Ｈ２７０６０ａが形成される。即ち、ベース板Ｈ２７０６０は、第１１１実施形態におけるベース板Ｈ６０に比べて上下方向に長く形成される。そのため、球発射ユニットＨ２７１１２ａをベース板Ｈ２７０６０に配設した場合には、ベース板Ｈ２７０６０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に撓みやすく、その場合に球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置も前後にずれやすいという問題がある。
【２２３９５】
この場合、球発射ユニットＨ２７１１２ａの正面側には発射位置送球ユニットＨ１７０が配設されるため、ベース板Ｈ２７０６０が正面側に撓む場合には、発射直後における前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の間隔が変更されにくいが、ベース板Ｈ２７０６０が背面側に撓む場合には、ベース板Ｈ２７０６０のみが背面側に変位して、発射位置送球ユニットＨ１７０と球発射ユニットＨ２７１１２ａとの前後の間隔が開くことで、発射直後における遊技球が前後に暴れる可能性が高くなる。
【２２３９６】
これに対し、第１３７実施形態では、上述したように発射直後（発射位置送球ユニットＨ１７０からの遊技球の送球位置）における背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされることで、前後の空間を狭めて発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制できる。
【２２３９７】
また、発射位置送球ユニットＨ１７０からの遊技球の送球位置における背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる、即ち、発射位置送球ユニットＨ１７０の球送球部Ｈ８８２ａにより背面側開口Ｈ１７２から送球され、背面側開口Ｈ１７２から

一部が突出される球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０４参照）により発射位置送球ユニットＨ１７０への遊技球の逆流が規制される領域よりも遊技球の発射方向側に凹部Ｈ２７８２１ａ１が形成されるので、背面側開口Ｈ１７２から突出した球送球部Ｈ８８２ａにより前後の空間を狭めやすくできる。その結果、発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【２２３９８】

また、上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄは、発射レールＨ１１２ａ１との対向面側に段差部Ｈ２７８２１ｄ１が形成され、発射位置側における発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離（上下幅）よりも、凹部Ｈ２７８２１ａ１が形成される手前の発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離が小さくされる。この段差部Ｈ２７８２１ｄ１の段差により、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が上方に暴れた場合においても、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部の手前で遊技球を下方側に落ち着かせることができる。

【２２３９９】

即ち、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１と対向する位置に配設される上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄに段差部Ｈ２７８２１ｄ１が形成されることで、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が上方側に暴れた状態のまま送球されることを抑制できる。なお、段差部Ｈ２７８２１ｄ１により発射位置側の転動面との間隔を大きくすることにより、発射手段Ｈ８３０により発射される球が発射位置で詰まることを抑制できる。

【２２４００】

さらに、段差部Ｈ２７８２１ｄ１により発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離が小さくされた部分は、転動部Ｈ８２１ｂ及び発射レールＨ１１２ａ１の連結部と対向する位置まで延設される。これにより、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部で遊技球が上方側に暴れて（遊技球が上方に弾んで）凹部Ｈ２７８２１ａ１に受け入れられなくなることを抑制できる。その結果、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部で遊技球が暴れることを抑制しやすくできる。

【２２４０１】

また、第１３７実施形態では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動部Ｈ８２１ｂの終端側（発射位置から離れる側）の上方にも形成される。この２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１は、転動部Ｈ８２１ｂの終端の前後に亘って形成される共に、発射方向における端部が正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁部まで形成される。

【２２４０２】

これにより、転動部Ｈ８２１ｂを転動して転動部Ｈ８２１ｂの終端からレールＨ６１，Ｈ６２の対向間（外レールＨ６２の上部）に向かって送球される遊技球が前後に暴れることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）の正面とベース部材Ｈ８１０の正面との前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における配置がずれた場合や、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）とベース部材Ｈ８１０との上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における配置がずれた場合に、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）とベース部材Ｈ８１０との境界に形成される段差に遊技球が引っ掛かり（当接して）、遊技球がレールＨ６１，Ｈ６２の対向間から外れた位置に送球されることを抑制できる。

【２２４０３】

なお、第１３７実施形態では、２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁部まで形成される場合について説明したが、正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁の内側に２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１の発射方向側の端部が設定されるものであっても良い。さらに、２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１がベース部材Ｈ８１０の外縁部で背面部Ｈ２７８２１ａの正面と連なるものでなく、２箇所の凹部Ｈ２７８２１ａ１がベース部材Ｈ８１０の外縁部で背面部Ｈ２７８２１ａよりも背面側に凹設され、その２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１が、遊技盤Ｈ２７０１３に凹設した凹部や遊技盤Ｈ２７０１３に配設された別のベース部材Ｈ８１０の凹部に連なる構成とされても良い。

【２２４０４】

また、第１３７実施形態では、遊技盤Ｈ２７０１３に球発射ユニットＨ２７１１２ａが

配設されるので、第１１１実施形態における球発射ユニットＨ１１２ａのように遊技盤Ｈ１３と別部材に配置されるものに比べて、遊技盤Ｈ２７０１３に対する球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置のずれを抑えることができる。従って、遊技盤Ｈ２７０１３と球発射ユニットＨ２７１１２ａとの間に（球発射ユニットＨ２７１１２ａから発射される遊技球の送球路上に）段差が形成されることを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ２７１１２ａから遊技盤Ｈ２７０１３への遊技球の送球を安定させられる。

【２２４０５】

次いで、図１９６７（ｂ）を参照して、第１３８実施形態における球発射ユニットＨ２８１１２ａについて説明する。上記２７実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａの全部が遊技盤Ｈ２７０１３に配設される場合について説明したが、第１３８実施形態では、球発射ユニットＨ２８１１２ａの遊技球の送球部分が遊技盤Ｈ２８０１３に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【２２４０６】

図１９６７（ｂ）は、第１３８実施形態における内枠Ｈ２８０１２の正面図である。なお、図１９６７（ｂ）では、球発射ユニットＨ２８１１２ａが配設される領域が部分的に拡大されて図示される。

【２２４０７】

図１９６７（ａ）に示すように、第１３８実施形態における内枠Ｈ２８０１２は、外枠Ｈ１１（図１８３９参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａ（図１８３９参照）と、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４（図１８３４参照）とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１８３６参照）。

【２２４０８】

なお、内枠Ｈ２８０１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２８０１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１（図１８３９参照）と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２８０１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２（図１８３９参照）が配設される。遊技盤Ｈ２８０１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ２８０６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ２８０１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ２８０６０の正面と係合する（ベース板Ｈ２７０６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ２８０１２の内側に固定される。

【２２４０９】

また、第１３８実施形態における遊技盤Ｈ２８０１３は、正面視略正方形状に形成されると共に、下方側の縁部の一部から下方側に向かって突出する突出部Ｈ２８０６０ａを有するベース板Ｈ２８０６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レールＨ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等（図１８３８参照）を組み付けて構成される。

【２２４１０】

突出部Ｈ２８０６０ａは、球発射ユニットＨ２８１１２ａの案内手段Ｈ２８８２０側が配設される領域であり、その球発射ユニットＨ２８１１２ａから送球される球を受け入れる側の外レールＨ６２の延長線上に形成される。

【２２４１１】

また、突出部Ｈ２８０６０ａが形成される領域の背面側においては、内枠Ｈ２８０１２の下側ベースユニットＨ２８０１２ｃに凹部Ｈ２８０１２ｃ２が形成され、その凹部Ｈ２８０１２ｃ２の内側に突出部Ｈ２８０６０ａが配設される。

【２２４１２】

球発射ユニットＨ２８１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ２８８１０と、そのベース部材Ｈ２８８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ２８８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、ベース部材Ｈ２８８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ２８８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を主に備えて形成される。

【２２４１３】

ベース部材Ｈ２８８１０は、ベース板Ｈ２８０６０の突出部Ｈ２８０６０ａの正面側に配設される第１ベース部材Ｈ２８８１４と、その第１ベース部材Ｈ２８８１４の下方側に隣り合う位置に配設され、下側ベースユニットＨ２８０１２ｃの収容凹部Ｈ２８０１２ｃ１に配設される第２ベース部材Ｈ２８８１５とを主に備える。

【２２４１４】

第１ベース部材Ｈ２８８１４は、正面視において突出部Ｈ２８０６０ａと対応する大きさの板状に形成される。また、第１ベース部材Ｈ２８８１４は、正面側に向かって膨出され案内手段Ｈ２７８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を配設する基部となる第１膨出部Ｈ８１１（図１９０３参照）を備え、正面側に案内手段Ｈ２７８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１が配設される。

【２２４１５】

第２ベース部材Ｈ２８１１５は、正面視において収容凹部Ｈ２８０１２ｃ１と対応する大きさの板状に形成される。また、第２ベース部材Ｈ２８８１５は、正面側に向かって膨出して形成され当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２を配設する基部となる第２膨出部Ｈ８１２（図１９０３参照）と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）の軸部Ｈ８５２が挿通される貫通孔Ｈ８１３（図１９０３参照）と、を主に備え、正面側に発射手段Ｈ８３０及び当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２が配設され、背面側に駆動モータＨ８５０が配設される。

【２２４１６】

即ち、第１３８実施形態におけるベース部材Ｈ２８８１０は、第１３７実施形態におけるベース部材Ｈ８１０に対して、遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、遊技球を発射する発射手段Ｈ８３０とが異なる部材（第１ベース部材Ｈ２８８１４、第２ベース部材Ｈ２８８１５）に配設される。

【２２４１７】

これにより、第１３７実施形態における遊技盤Ｈ２７０１３のベース板Ｈ２７０６０に比べて、第１３８実施形態における遊技盤Ｈ２８０１３のベース板Ｈ２８０６０では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における長さを短くできる。これにより、ベース板Ｈ２８０６０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に撓むことを抑制して、球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置が前後にずれることを抑制できる。その結果、発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【２２４１８】

なお、案内手段Ｈ２７８２０による遊技球の送球については、第１３７実施形態における案内手段Ｈ２７８２０と同様であるため、その詳しい説明は省略する。

【２２４１９】

また、第１３８実施形態では、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置に凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる場合について説明したが、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いて、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と対向する位置に遊技盤Ｈ２８０１３（ベース板Ｈ２８０６０）の正面を配置しても良い。即ち、遊技球の発射当初において、遊技盤Ｈ２８０１３の盤面に沿って遊技球を送球した後で、遊技盤Ｈ２８０１３に配設した案内手段Ｈ２７８２０に遊技球を送球するものであっても良い。

【２２４２０】
なお、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いた場合には、Ｖ字状に凹設される発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９０５（ａ）参照）を遊技盤Ｈ２８０１３側へ寄せて形成することで、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を送球される遊技球が遊技盤Ｈ２８０１３と当接するように構成しても良い。この場合には、遊技盤Ｈ２８０１３に遊技球が当接することで遊技球の暴れを抑制しやすくできる。
【２２４２１】
また、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いた場合には、その切り欠いた領域と隣り合う位置における背面部Ｈ２８８２１ａの端部を遊技盤Ｈ２８０１３に向かって傾斜して形成しても良い。これにより、遊技盤Ｈ２８０１３から背面部Ｈ２８８２１ａの正面側に送球される場合に、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に形成される前後方向の段差に引っ掛かることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ２８０１３の遊技球の送球を安定させることができる。
【２２４２２】
なお、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に形成される前後方向の段差に引っ掛かることを抑制するために、背面部Ｈ２８８２１ａ１の厚み分、遊技盤Ｈ１３を凹設して、その遊技盤に凹設した凹みに背面部Ｈ２８８２１ａ１を配設して、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に前後方向の段差が形成されることを抑制しても良い。
【２２４２３】
次いで、図１９６８（ａ）を参照して、第１３９実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａについて説明する。上記第１１１実施形態では、正面視において遊技球の発射方向（発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂ）と平行に凹部Ｈ８２１ａ１が形成される場合について説明したが、第１３９実施形態では、正面視において遊技球の発射方向と非平行に凹部Ｈ２９８２１ａ１が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。
【２２４２４】
図１９６８（ａ）は、第１３９実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａの正面図である。図１９６８（ａ）に示すように、第１３９実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２９８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を主に備える。
【２２４２５】
案内手段Ｈ２９８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２９８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２９８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２９８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。
【２２４２６】
第１案内部材Ｈ２９８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２９８２１ａと、その背面部Ｈ２９８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１９０３参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０４参照）から第２案内部材Ｈ

８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２２４２７】

背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。

【２２４２８】

背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２９８２１ａ１を１箇所に備える。

【２２４２９】

なお、第１３９実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１が１箇所に形成されるが、凹部Ｈ２９８２１ａ１は２箇所以上の複数個所に形成されていても良い。また、第１３９実施形態では、複数形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において転動面に対し異なる高さに形成されても良い。

【２２４３０】

また、背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９０５（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ２９８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１８３８参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【２２４３１】

即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部が背面部Ｈ２９８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部で凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【２２４３２】

凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの上方側に形成され、遊技球の発射方向と反対側の背面部Ｈ２９８２１ａの端部（遊技球の初期位置側の端部）から発射方向側の背面部Ｈ２９８２１ａの端部の手前まで延設される。

【２２４３３】

また、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に向かうにつれて発射レールＨ１１２ａ１に対して発射初期位置から上昇傾斜される。一方、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部から発射終端位置に向かうにつれて転動部Ｈ８２１ｂに対して下降傾斜される。

【２２４３４】

即ち、発射レールＨ１１２ａ１の上方では、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が上昇傾斜される一方、転動部Ｈ８２１ｂの上方では、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が下降傾斜される。

【２２４３５】

なお、発射される遊技球の初期位置に対応する位置（遊技球の発射方向と反対側の端部

）の凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射レールＨ１１２ａ１からの高さは、凹部Ｈ２９８２１ａ１に遊技球が受け入れられる際に発射レールＨ１１２ａ１から離間した遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側への凹設底部よりも下面側に当接するように構成される。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側への凹設底部は、発射レールＨ１１２ａ１の転動面から遊技球の半径よりも高い位置に設定される。

【２２４３６】

これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、上方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。

【２２４３７】

即ち、第１３９実施形態では、遊技球の送球方向に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が非平行に形成されるので、非平行な凹部Ｈ２９８２１ａ１に遊技球を当接させることで遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２２４３８】

また、第１３９実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接した遊技球に転動面から離れる上方側に反力を付与することができると共に、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が上昇傾斜されるので、発射レールＨ１１２ａ１上で遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１に受け入れられた場合に、その遊技球に凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜に沿って上方に持ち上げることができる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部で遊技球を浮かせやすくすることができる。

【２２４３９】

ここで、上記したように発射レールＨ１１２ａ１は、発射当初の遊技球が暴れやすいため転動面が略Ｖ字状に凹設される一方、転動部Ｈ８２１ｂは、発射レールＨ１１２ａ１のように転動面を凹設した形状に形成すると、遊技球が転動する際に遊技球と転動面との当接面が増える（２点支持となる）ため、遊技球の転動面に凹設面が非形成（即ち、平面形状に形成される）とされる。そのため、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとがそれぞれ別の部材から形成される。よって、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に段差が形成されやすく、その段差により遊技球が暴れる恐れがある。

【２２４４０】

これに対し、第１３９実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対する凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部で遊技球を浮かせやすくすることができるので、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が段差に引っ掛かって暴れることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２４４１】

なお、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により転動面から離れた遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１の下降傾斜により転動面側に向かわせることができる。これにより、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。

【２２４４２】

また、凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射方向側の終端は、転動部Ｈ８２１ｂの終端よりも手前に設定される。即ち、転動部Ｈ８２１ｂの終端から遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球は

、転動部Ｈ８２１ｂの転動面に沿って送球される。これにより、転動部Ｈ８２１ｂの終端から送球される遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の下降傾斜の影響を受けることを抑制して、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球が不安定となることを抑制できる。

【２２４４３】

さらに、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。なお、第１３９実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１の終端でのみ幅が狭く形成されるが、凹部Ｈ８２１ａ１は、全体に亘って溝幅が発射方向に向かって狭く形成されるものであっても良い。

【２２４４４】

なお、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６（図１９６９、図１８３７参照）が配設される。即ち、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技盤Ｈ１３に到達するまでの送球経路上に分岐する経路が形成される。

【２２４４５】

第１３９実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた遊技球を転動面側に送球することができるので、遊技球が前後方向に暴れることにより転動速度が遅くなり過ぎた場合に、その遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に受け入れることができる。その結果、転動速度が遅すぎる遊技球が遊技領域まで至らず、ファール球となることを抑制できる。その結果、遊技が一時的に停止することを抑制できる。

【２２４４６】

また、上記第１３９実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜される場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）においては、凹部Ｈ２９８２１ａ１を遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成されていても良い（即ち、第１１１実施形態における、凹部Ｈ８２１ａ１を第１３９実施形態における凹部Ｈ２９８２１ａ１と組み合わせても良い）。

【２２４４７】

この場合には、比較的暴れる要因の少ない、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）で、遊技球の発射方向と平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１により遊技球を発射（送球）方向に沿って案内することができる。これにより遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２２４４８】

なお、上記の説明では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１を遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成する場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の手前側が遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成されていても良い。

【２２４４９】

この場合には、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成される段差で遊技球が暴れる場合に、発射方向に対して傾斜して形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１により遊技球の暴れを抑制しやすくできると共に、発射方向に対して平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１により発射直後の遊技球の暴れを抑制しやすくできる。

【２２４５０】

また、第１３９実施形態では、発射方向側の終端側に向かうに従って凹部Ｈ２９８２１ａ１の幅が狭く（幅が小さく）形成される場合について説明したが、発射方向の終端側に向かうに従って凹部Ｈ２９８２１ａ１の幅が広く（幅が大きく）形成されても良い。

【２２４５１】

この場合には、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部を徐々に作用させることができる。即ち、遊技球と凹部Ｈ２９８２１ａ１との重なり（当接可能な）面積を徐々に大きくすることができる。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１への遊技球の衝突により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。即ち、遊技球が当接方向と異なる方向に暴れる（例えば、上側に弾んだり）することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【２２４５２】

次いで、図１９６８（ｂ）を参照して、第１４０実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａについて説明する。上記第１３９実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１が転動面に対して上昇傾斜および下降傾斜して形成される場合について説明したが、第１４０実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が転動面に対して下降傾斜して形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【２２４５３】

図１９６８（ｂ）は、第１４０実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａの正面図である。図１９６８（ｂ）に示すように、第１４０実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３０８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を主に備える。

【２２４５４】

案内手段Ｈ３０８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３０８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３０８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３０８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２４５５】

第１案内部材Ｈ３０８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ３０８２１ａと、その背面部Ｈ３０８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１９０３参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０４参照）から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２２４５６】

背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定と

なる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。

【２２４５７】

背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ３０８２１ａ１を２箇所に備える。

【２２４５８】

また、背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９０５（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ３０８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１８３８参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【２２４５９】

即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部が背面部Ｈ３０８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ３０８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部で凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【２２４６０】

凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの上方側に形成され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に亘って形成される。また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１側から転動部Ｈ８２１ｂ側に（遊技球の発射方向に）向かって遊技球の転動面に対して下降傾斜して形成される。

【２２４６１】

なお、発射レールＨ１１２ａ１側の凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部（遊技球の発射方向と反対側の端部）における発射レールＨ１１２ａ１からの高さは、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心よりも高い位置に形成されており、発射レールＨ１１２ａ１の転動面に対して上方側に所定の距離弾んだ遊技球が受け入れる位置に設定される。

【２２４６２】

また、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部における凹部Ｈ３０８２１ａ１は、背面側への凹設底部の位置が転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心と略一致する位置に設定される。

【２２４６３】

これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成された段差に引っ掛かって暴れた場合にその遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１に受け入れられると共に、その受け入れた遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１の背面側の凹設底部よりも高い位置の内面に当接させることができる。

【２２４６４】

よって、凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の

反力を弱めつつ、転動面側に向かわせることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制しつつ、上下方向に暴れることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２４６５】

即ち、第１４０実施形態では、遊技球の送球方向に対して凹部Ｈ３０８２１ａ１が非平行に形成されるので、非平行な凹部Ｈ３０８２１ａ１に遊技球を当接させることで遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２２４６６】

また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ３０８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【２２４６７】

さらに、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６が配設される。即ち、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技盤Ｈ１３に到達するまでの送球経路上に分岐する経路が形成される。

【２２４６８】

第１４０実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に凹部Ｈ３０８２１ａ１が下降傾斜して形成され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた遊技球を転動面側に送球することができるので、遊技球が前後方向に暴れることにより転動速度が遅くなり過ぎた場合に、その遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に受け入れることができる。その結果、転動速度が遅すぎる遊技球が遊技領域まで至らず、ファール球となることを抑制できる。その結果、遊技が一時的に停止することを抑制できる。

【２２４６９】

次いで、図１９６８（ｃ）を参照して、第１４１実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａについて説明する。上記第１４０実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が転動面に対して下降傾斜しつつ凹設される場合について説明したが、第１４１実施形態では、凸部Ｈ３１８２１ａ２が転動面に対して直交する方向に突設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【２２４７０】

図１９６８（ｃ）は、第１４１実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａの正面図である。図１９６８（ｃ）に示すように、第１４１実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３１８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を

主に備える。
【２２４７１】
案内手段Ｈ３１８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３１８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３１８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３１８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。
【２２４７２】
第１案内部材Ｈ３１８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ３１８２１ａと、その背面部Ｈ３１８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１９０３参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０４参照）から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。
【２２４７３】
背面部Ｈ３１８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、正面視において発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向と直交する方向に延設されつつ正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ３１８２１ａ２を備える。
【２２４７４】
凸部Ｈ３１８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に形成される。また、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に突出されると共に、その湾曲形状が正面視において遊技球の発射方向と直交する方向に延設される。即ち、発射方向に沿って前後方向に平行な平面で切断した凸部Ｈ３１８２１ａ２の断面は、半円形状に形成される。なお、凸部Ｈ３１８２１ａ２の断面は、半円形状に限られるものではなく、三角形状や、矩形状に形成されるものであっても良い。
【２２４７５】
また、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、詳細には、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方を起点に発射方向側（即ち、遊技球の発射方向と反対側における転動部Ｈ８２１ｂの端部上方）に形成される。さらに、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも若干高い位置に形成され、転動部Ｈ８２１ｂの上部に当接しつつ転動する遊技球が当接しない位置に形成される。
【２２４７６】
以上のように形成される凸部Ｈ３１８２１ａ２によれば、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成された段差に引っ掛かって上方側に弾む場合にその遊技球を凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させることができる。
【２２４７７】
これにより、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に発射方向と反対方向に向かう方向成分を付与することができる。よって、転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の転動速度を弱めて、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接した遊技球（即ち、上方に弾んだ遊技球）を落ち着かせることができる。従って、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越えて送球される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２４７８】

次いで、図１９６９（ａ）及び（ｂ）を参照して、第１４２実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０について説明する。上記第１３３実施形態では、背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成され、背面側ケースＨ２３８７０に第２凹部Ｈ２３８２１が形成される場合について説明したが、第１４２実施形態では、背面部Ｈ３２８２１ａ及び背面側ケースＨ３２８７０に凸部Ｈ３２８２１ａ２及び第２凸部Ｈ３２８７２が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【２２４７９】

図１９６９（ａ）は、第１４２実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０の断面図であり、図１９０１のＭＣＭＶｂ線における断面図と対応し、図１９６９（ｂ）は、図１９６９（ａ）におけるＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における球発射ユニットＨ３２１１２ａの正面図である。

【２２４８０】

図１９６９（ａ）及び図１９６９（ｂ）に示すように、第１４２実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３２８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）と、を主に備える。

【２２４８１】

案内手段Ｈ３２８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３２８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３２８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３２８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２４８２】

背面部Ｈ３２８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ３２８２１ａ２を遊技球の発射方向に沿って複数個（第１４２実施形態では５個）備える。

【２２４８３】

凸部Ｈ３２８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、正面視において略矩形状に形成されると共に、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。

【２２４８４】

発射位置送球ユニットＨ３２１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ３２８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ３２８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【２２４８５】

背面側ケースＨ３２８７０は、球発射ユニットＨ３２１１２ａの背面部Ｈ３２８２１ａと対面し、発射手段Ｈ８３０による発射経路の正面側（矢印Ｆ方向側）を形成する面が、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に平行に形成されると共に、背面側に向かって突出する第２凸部Ｈ３２８７２を遊技球の発射方向に沿って複数個（第１４２実施形態では４個）備える。

【２２４８６】
第２凸部Ｈ３２８７２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、背面側の端面が遊技球の発射方向に沿って背面側に向かって傾斜して形成される。また、第２凸部Ｈ３２８７２は、背面側ケースＨ３２８７０と対向する背面部Ｈ３２８２１ａに形成される複数の凸部Ｈ３２８２１ａ２と前後方向に重ならない位置に形成され、遊技球の発射方向において凸部Ｈ３２８２１ａ２の間に形成される。
【２２４８７】
なお、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、遊技球の発射方向に沿って遊技球の半径分離れて形成されると共に、正面側または背面側の傾斜面が略２０度傾斜して形成される。また、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の半径分の高さに位置するように形成され、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が当接可能とされる。
【２２４８８】
以上のように構成される球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０によれば、発射手段Ｈ８３０により発射され、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れる場合に、その遊技球を凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２に当接させることができる。上述したように凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、発射方向に沿って送球路の内側に向かって傾斜して形成される。そのため、凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２に当接する遊技球は、凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２の傾斜面に沿って転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２４８９】
また、第１４２実施形態では、発射方向側における凸部Ｈ３２８２１ａ２の側面および第２凸部Ｈ３２８７２の側面が発射方向と直交する方向（前後方向）に延設される。これにより、遊技球が発射方向と反対側に流下する場合にその遊技球を発射方向側における凸部Ｈ３２８２１ａ２の側面または第２凸部Ｈ３２８７２の側面に当接させて遊技球の流下速度を低下させることができる。
【２２４９０】
従って、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３２１１２ａ側まで逆流（流下）する場合には、その遊技球の流下速度を低下させることができる。これにより、遊技球が発射初期位置まで流下して、その遊技球が発射位置送球ユニットＨ３２１７０から発射レールＨ１１２ａ１上に送球された第２の遊技球（次に発射される遊技球）や発射手段Ｈ８３０に当接した際の衝撃を小さくできる。
【２２４９１】
その結果、衝突音を小さくして不具合が起きた際の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。また、第２の遊技球（次に発射される遊技球）に当接した際の衝撃を小さくすることで、第２の遊技球が発射初期位置からずれた位置に跳ねることを抑制でき、第２の遊技球の送球が不安定となることを抑制できる。
【２２４９２】
また、第１４２実施形態では、発射方向において転動部Ｈ８２１ｂを超えた位置に凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とが配置される。これにより、逆流する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂまで流下する前に遊技球の流下速度を低下させることができる。
【２２４９３】
ここで、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかっ

た球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６が配設される。
【２２４９４】
従って、逆流（流下）する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂまで流下する前に遊技球の流下速度を低下させることで、逆流した遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に案内することができる。これにより、逆流する遊技球が発射初期位置（遊技球を発射する送球路）まで流下して、第２の遊技球（次に発射される球）と当接することを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技領域まで至らなかった場合でも、第２の球の送球を安定させることができる。その結果、球の送球が不安定となり遊技が一時的に停止することを抑制できる。
【２２４９５】
なお、逆流した遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に案内するために凸部Ｈ３２８２１ａ２の発射方向側の側面をファール球受口部Ｈ１４６側に向く（ファール球受口部Ｈ１４６に対向する方向に向く）傾斜面として形成したり、凸部Ｈ３２８２１ａ２の全体を遊技球の発射（送球）方向に対して傾斜する方向に延設しても良い。
【２２４９６】
次いで、図１９６９（ｃ）を参照して、第１４３実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２について説明する。上記第１４２実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２が正面視略矩形に形成される場合について説明したが、第１４３実施形態では、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視略三角形状に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。
【２２４９７】
図１９６９（ｃ）は、第１４３実施形態における球発射ユニットＨ３３１１２ａの正面図であり、図１９６９（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。なお、第１４３実施形態では、第１４２実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａの凸部Ｈ３２８２１ａ２の形状が異なるだけであるので、その他の詳しい説明は省略する。
【２２４９８】
第１４３実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２は、正面視において略三角形状に形成され、そのうちの第１辺Ｈ３３８２１ａ３が転動面と平行に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４が第１辺Ｈ３３８２１ａ３の発射方向側の端部から転動面（転動部Ｈ８２１ｂ）に向かって発射方向と直交する方向に延設され、残りの第３辺Ｈ３３８２１ａ５がそれら２辺の端部同士を連結する方向に延設され、発射方向に沿って下降傾斜する形状とされる。
【２２４９９】
また、第１辺Ｈ３３８２１ａ３が、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面から離れる位置に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４の下端（転動部Ｈ８２１ｂ側の端部）が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面に近い位置に形成される。さらに、凸部Ｈ３３８２１ａ２は、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。
【２２５００】
以上のように形成される凸部Ｈ３３８２１ａ２よれば、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れて凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合に、その遊技球を正面側の傾斜面により転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２５０１】
また、第１４３実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２によれば、第１辺Ｈ３３８２１ａ３が、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面から離れる位置に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４の下端（転動部Ｈ８２

１ｂ側の端部）が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面に近い位置に形成されるので、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が上下に暴れて（上方に跳ねて）凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合に、その遊技球を下方側に向けて送球することができる。よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２５０２】

なお、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３３１１２ａ側まで逆流（流下）する場合については、第１４２実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様であるので、その詳しい説明については省略する。

【２２５０３】

また、第１４３実施形態においては、球発射ユニットＨ３３１１２ａの正面側に配設される発射位置送球ユニットＨ３２１７０の第２凸部Ｈ３２８７２が、凸部Ｈ３３８２１ａ２を前後方向に反転した形状に形成され、凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向および上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２５０４】

さらに、第１４３実施形態では、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視において略三角形状に形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視において四角形状に形成され、そのうちの一片が転動面に対して傾斜する方向に形成されても良い。この場合も同様に、凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接する遊技球を転動面の中央部に寄せることができる。

【２２５０５】

次いで、図１９６９（ｄ）を参照して、第１４４実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２について説明する。上記第１４２実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂから離間して形成される場合について説明したが、第１４４実施形態では、凸部Ｈ３４８２１ａ２が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂに連続して形成される。

【２２５０６】

図１９６９（ｄ）は、第１４４実施形態における球発射ユニットＨ３４１１２ａの正面図であり、図１９６９（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。なお、第１４４実施形態では、第１４２実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａの凸部Ｈ３２８２１ａ２の形状が異なるだけであるので、その他の詳しい説明は省略する。

【２２５０７】

第１４４実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂと連なる（隣り合う）位置から発射方向と直交する方向に延設され、上方側が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球よりも高い位置に設定される（即ち、送球経路の上下方向全域に亘って延設される）。また、凸部Ｈ３４８２１ａ２は、断面が略三角形状に形成され、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。

【２２５０８】

以上のように形成される凸部Ｈ３４８２１ａ２よれば、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れて凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合に、その遊技球を正面側の傾斜面により転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２５０９】

また、第１４４実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２によれば、送球経路の上下方向全域に亘って延設されるので、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が上下に暴れる（上方に跳ねる）場合でも凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接させることができる。即ち、前後に暴れる遊技球が凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接せずに送球されることを抑制できる。よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２５１０】

なお、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３４１１２ａ側まで逆流（流下）する場合については、第１４２実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様であるので、その詳しい説明については省略する。

【２２５１１】

また、第１４４実施形態においては、球発射ユニットＨ３４１１２ａの正面側に配設される発射位置送球ユニットＨ３２１７０の第２凸部Ｈ３２８７２が、凸部Ｈ３３８２１ａ２を前後方向に反転した形状に形成され、凸部Ｈ３４８２１ａ２と同様に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向および上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２５１２】

さらに、上記第１４４実施形態では、凸部Ｈ３４８２１ａ２の断面が略三角形状に形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３４８２１ａ２の断面形状が半円形に形成されるものであっても良い。この場合も同様に、凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接する遊技球を転動面の中央部に寄せることができる。

【２２５１３】

次いで、図１９７０を参照して、第１４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３５０１４ａについて説明する。上記第１２６実施形態では、球抜きレバーＨ１６０５２が操作された場合に上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明したが、第１４５実施形態では、シリンダ錠Ｈ２０の開錠操作により上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２５１４】

図１９７０（ａ）及び（ｂ）は、第１４５実施形態における正面枠Ｈ３５０１４の正面模式図である。なお、図１９７０（ａ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの内側に退避した退避状態が図示され、図１９７０（ｂ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出した張出状態が図示される。なお、図１９７０（ａ）及び（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２５１５】

図１９７０に示すように、第１４５実施形態における正面枠Ｈ３５０１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）と、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ３５０１４ａと、その上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１８４０参照）と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０（図１８４０参照）とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２（図１８３９参照）に回動可能に取り付けられている。

【２２５１６】
なお、正面枠Ｈ３５０１４には、内枠Ｈ１２（図１８３７参照）に配設される際に内枠Ｈ１２の係合片Ｈ１２ｆ（図１８３７参照）が係合可能な開口（図示しない）が本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）に形成される。正面枠Ｈ３５０１４と内枠Ｈ１２とは、係合片Ｈ１２ｆが係合されることで、内枠Ｈ１２に対する正面枠Ｈ３５０１４の開放が規制される。なお、係合片Ｈ１２ｆの係合の解除は、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行い係合片Ｈ１２ｆを持ち上げることで解除される。
【２２５１７】
第１４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３５０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０（図１８４３参照）と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ１６３２０とを主に備える。
【２２５１８】
化粧ユニットＨ１６３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放される箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ１６３４０（図１９５６参照）及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４５参照）とを主に備える。
【２２５１９】
発光ユニットＨ１６３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に上下方向に変位可能な状態で配設される基板ユニットＨ１６３４４と、その基板ユニットＨ１６３４４及び取付部材Ｈ３４１との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。
【２２５２０】
基板ユニットＨ１６３４４は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される基板部材Ｈ３４２と、その基板部材Ｈ３４２の正面側を覆う正面カバーＨ１６３４５と、基板部材Ｈ３４２の背面側を覆う背面カバーＨ１６３４６と、その背面カバーＨ１６３４６の背面側に連結される伝達部材Ｈ１６３４７とを主に備える。
【２２５２１】
なお、第１４５実施形態における伝達部材Ｈ１６３４７には、金属性の連結部材Ｈ３５３４７が連結され、その反対側の端部が係合片Ｈ１２ｆの上方に当接した状態で配設される。従って、係合片Ｈ１２ｆが上方に変位される（即ち、シリンダ錠Ｈ２０が開錠される）ことに伴って伝達部材Ｈ１６３４７を上方に変位可能とされる。
【２２５２２】
また、上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの上面板Ｈ３３２には、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に変位した場合に、伝達部材Ｈ１６３４７の下面と係合して、伝達部材Ｈ１６３４７を支持可能な係合片Ｈ３５３３１ｃが配設される。これにより、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に変位され、基板ユニットＨ１６３４４が上方に張り出した状態で基板ユニットＨ１６３４４をその張り出した位置に維持することができる。なお、係合片Ｈ３５３３１ｃの動作態様については、上記第１２５実施形態における係合片Ｈ１５５４３と同様であるので、その詳しい説明は省略する。
【２２５２３】
以上のように構成される第１４５実施形態における正面枠Ｈ３５０１４によれば、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放する際に基板ユニットＨ１６３４４を上方から突出させることができるので、正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に物が乗っていた場合に、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放する前に正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に乗せられたものを移動させる（落とす）ことができる。
【２２５２４】
これにより、パチンコ店において正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２（図１８３７参照）

から開放する際に、正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に物が乗せられていることを作業者に認識させることができる。従って、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放した際に、物が遊技領域内に落下することを抑制でき、遊技領域内に物が落下することでパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）が破損する（特に飲料等の液体が流入して電気的な制御基板に不具合が起こる）ことを抑制できる。

【２２５２５】

また、内枠Ｈ１２（図１８３７参照）から正面枠Ｈ３５０１４を開放する際に基板ユニットＨ１６３４４を張り出させ、その張出状態を係合片Ｈ３５３３１ｃにより維持することができるので、パチンコ店にて正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から取り外して床面に仮置きする場合に、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した際に基板ユニットＨ１６３４４を張り出した状態にさせやすくできる。これにより、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した後で、基板ユニットＨ１６３４４を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出す作業を不要とできる。その結果、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した際に正面枠Ｈ３５０１４をすぐに仮置きさせることができ、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から取り外す作業を簡易にできる。

【２２５２６】

上記第１４５実施形態では、係合片Ｈ３５３３１ｃを正面枠Ｈ３５０１４の外方から操作可能に構成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、係合片Ｈ３５３３１ｃの操作部分を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの内部に配置して、遊技者の操作を不能としパチンコ店の作業者（店員）のみが操作可能としても良い。

【２２５２７】

この場合、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２（図１８３７参照）に対して不正に開放された場合に、基板ユニットＨ１６３４４を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出させることができるので、パチンコ店の作業者（店員）に不正に開放され不正がされた可能性があることを認識させやすくできる。その結果、遊技者の不正を抑制しやすくできる。

【２２５２８】

次いで、図１９７１を参照して、第１４６実施形態における内枠Ｈ３６０１２について説明する。上記第１２５実施形態では、球抜きレバーＨ１６０５２が操作された場合に上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明したが、第１４６実施形態では、ケースレールＨ１３２の遊技球の送球が停止された場合にタンクＨ３６１３０の内方から張出部材Ｈ３６１３０ａが張り出される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２５２９】

図１９７１（ａ）及び（ｂ）は、第１４６実施形態における内枠Ｈ１２の背面模式図である。なお、図１９７１（ａ）では、タンクＨ３６１３０の内方に張出部材Ｈ３６１３０ａが退避した退避状態が図示され、図１９７１（ｂ）では、タンクＨ３６１３０の内方から張出部材Ｈ３６１３０ａが張り出された状態が図示される。なお、図１９７１（ａ）及び（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２５３０】

図１９７１に示すように、第１４６実施形態における内枠Ｈ３６０１２は、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａ（図１８３４参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１８３６参照）。

【２２５３１】

また、内枠Ｈ３６０１２の背面側には、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ３６１３０と、そのタンクＨ３６１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向

きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１８４２参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３（図１８３９参照）とを備えている。

【２２５３２】

タンクＨ３６１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。また、タンクＨ３６１３０は、その内縁部に沿って形成される略枠状の張出部材Ｈ３６１３０ａがタンクＨ３６１３０の内縁に沿って上下方向に変位可能に配設される。

【２２５３３】

また、張出部材Ｈ３６１３０ａには、駆動力が伝達される伝達部Ｈ３６１３０ａ１が連結され、その伝達部Ｈ３６１３０ａ１がタンクＨ３６１３０の下面の一部に形成された開口（図示しない）を介してタンクＨ３６１３０の下方側に突出される。

【２２５３４】

伝達部Ｈ３６１３０ａ１は、後述する連結部材Ｈ３６１３２ｂの一端に連結されるスライド板Ｈ３６１３２ｃの傾斜面に下面が当接されスライド板Ｈ３６１３２ｃに支持され、スライド板Ｈ３６１３２ｃがスライド変位されることで、傾斜面によって上方側にスライド変位可能とされる。

【２２５３５】

ケースレールＨ１３２は、パチンコ機Ｈ１０のメンテナンス時などに送球を停止する送球停止レバーＨ１３２ａを備え、変位可能に構成される送球停止レバーＨ１３２ａをケースレールＨ１３２の送球経路内に変位させることで、遊技球の送球を一時的に停止可能に構成される。

【２２５３６】

第１４６実施形態における送球停止レバーＨ１３２ａには、反対側にスライド板Ｈ３６１３２ｃが配設された連結部材Ｈ３６１３２ｂが連結される。よって、送球停止レバーＨ１３２ａが操作され、送球が停止された場合にスライド板Ｈ３６１３２ｃをスライド変位させることができる。

【２２５３７】

この場合、上記したように、スライド板Ｈ３６１３２ｃのスライド変位により張出部材Ｈ３６１３０ａの伝達部Ｈ３６１３０ａ１が上方に変位可能とされる。よって、第１４６実施形態では、ケースレールＨ１３２の遊技球の送球を送球停止レバーＨ１３２ａにより停止した場合に、張出部材Ｈ３６１３０ａをタンクＨ３６１３０から張り出させることができる。

【２２５３８】

このタンクＨ３６１３０からの張出部材Ｈ３６１３０ａの張出変位により、タンクＨ３６１３０の貯留空間を大きくすることができる。従って、ケースレールＨ１３２を送球を停止した後で、遊技ホールの島設備からタンクＨ３６１３０に遊技球が供給され続けた場合に、タンクＨ３６１３０の遊技球が溢れることを抑制できる。

【２２５３９】

また、タンクＨ３６１３０の張出部材Ｈ３６１３０ａにより高くすることができるので、遊技ホールの島設備からタンクＨ３６１３０に遊技球が供給された際に、遊技球がタンクＨ３６１３０の外方に飛び出ることを張出部材Ｈ３６１３０ａにより規制できる。

【２２５４０】

なお、遊技球がタンクＨ３６１３０に貯留された状態からケースレールＨ１３２の送球を許容した場合には、その送球に伴ってタンクＨ３６１３０に貯留された遊技球を送球させることができる。これにより、タンクＨ３６１３０に遊技球が貯留された状態から張出部材Ｈ３６１３０ａをタンクＨ３６１３０の内側に退避した場合に遊技球がタンクＨ３６１３０から溢れることを抑制できる。

【２２５４１】

また、第１４６実施形態では、張出部材Ｈ３６１３０ａの上方側への張出し距離は、内

枠Ｈ３６０１２が配設される外枠Ｈ１１（図１８３５参照）の外形よりも先端が外側へ突出させる。これにより、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ３６０１２を開放してメンテナンスのためケースレールＨ１３２の送球を送球停止レバーＨ１３２ａにより停止した場合に、送球停止レバーＨ１３２ａを戻し忘れて内枠Ｈ３６０１２が閉鎖されることを抑制できる。

【２２５４２】

即ち、送球停止レバーＨ１３２ａによりケースレールＨ１３２の送球を停止した状態では、外枠Ｈ１１に対する内枠Ｈ１２の閉鎖が張出部材Ｈ３６１３０ａにより規制される。その結果、遊技ができない（遊技球が送球されない）状態で、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２が閉鎖され遊技可能な状態として放置される（遊技者が遊技を開始可能な状態とされる）ことを抑制できる。

【２２５４３】

次いで、図１９７２を参照して、第１４７実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａについて説明する。上記第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２の正面側縁部に沿って配設した網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通する）場合について説明したが、第１２０実施形態では、開口が非形成の板部材Ｈ３７３３２ｈを上面板Ｈ９３３３に備える場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２５４４】

図１９７２（ａ）は、第１４７実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、図１９７２（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。なお、図１９７２（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３７３３２により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１４（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３７３３２により開放された状態が図示される。また、図１９７２では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２５４５】

図１９７２に示すように、第１４７実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３７３２０とを主に備える。

【２２５４６】

化粧ユニットＨ３７３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３７３３０と、その装飾ユニットＨ３７３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。

【２２５４７】

装飾ユニットＨ３７３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）及び右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３７３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９

３３６（図１９４６参照）と、上面板Ｈ３７３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。

【２２５４８】

上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）により連結される。

【２２５４９】

上面板Ｈ３７３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。

【２２５５０】

なお、第１４７実施形態における上面板Ｈ３７３３２には、第１１１実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃが非形成とされる。これにより、第１４７実施形態では、上面板Ｈ３７３３２を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。

【２２５５１】

板部材Ｈ３７３３２ｈは、上面板Ｈ３７３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制する部材であり、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）の内壁（内面）に沿う位置に形成される。また、板部材Ｈ３７３３２ｈは、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの正面側端部どうしを繋いで形成される。

【２２５５２】

なお、第１４７実施形態では、上面板Ｈ３７３３２の下面から板部材Ｈ３７３３２ｈが突出され、上面板Ｈ３７３３２と一体の樹脂材料で板部材Ｈ３７３３２ｈが形成されるが、板部材Ｈ３７３３２ｈを上面板Ｈ３７３３２と別体の樹脂材料で形成しても良い。この場合には、上面板Ｈ３７３３２に対する板部材Ｈ３７３３２ｈの取付位置に若干の調整幅を持たせることが好ましい。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの形成位置が製造誤差等によりずれたとしても上面板Ｈ３７３３２の取付位置を調整することが可能となり、側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２に隙間ができることを抑制できる。

【２２５５３】

次いで、第１４７実施形態における上面板Ｈ３７３３２の変位について説明する。なお、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転する変位については、第１１９実施形態に上面板Ｈ９３３２と同一であるので、その変位についての詳しい説明は省略する。

【２２５５４】

図１９７２（ａ）に示すように、第１連通路Ｈ３００Ｃの上部に沿って上面板Ｈ３７３３２が配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃを上面板Ｈ３７３３２の下面が塞ぐ状態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側の内面に沿って板部材Ｈ３７３３２ｈが配設される。

【２２５５５】

この状態から図１９７２（ｂ）に示すように、上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に上方側に回転された状態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側と上面板Ｈ３７３３２との間に空間が形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通する）ことができる。

【２２５５６】

一方、上面板Ｈ３７３３２の板部材Ｈ３７３３２ｈは、区画壁Ｈ３４３ｂの上端と板部材Ｈ３７３３２ｈの下端とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置され、一

対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に形成される空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とが非連通とされる。これにより、上面板Ｈ３７３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【２２５５７】

また、板部材Ｈ３７３３２ｈは、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側の側面と連なって位置する（一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に形成される空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とが板部材Ｈ３７３３２ｈにより非連通とされる）ので、第１連通路Ｈ３００Ｃに放音される音が空間Ｈ９３３２ｄ２側に回り込むことを抑制できる。これにより、第１１１実施形態における上面板Ｈ９３３２に比べて第１連通路Ｈ３００Ｃから外部空間に効率的に音を放音することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【２２５５８】

なお、第１４７実施形態における上面板Ｈ３７３３２の変位タイミングについては、第１１９実施形態と同様であるので、その詳しい説明は省略する。

【２２５５９】

次いで、図１９７３を参照して、第１４８実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａについて説明する。上記第１４７実施形態では、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの上部に樹脂の板部材から形成される上面板Ｈ３７３３２が配設される場合について説明したが、第１４８実施形態では、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上部に発光手段を有する光照射ユニットＨ３８３３６が配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２５６０】

図１９７３（ａ）は、第１４８実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、図１９７３（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。なお、図１９７３（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが発光ユニットＨ３７３３６により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１６（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが光照射ユニットＨ３８３３６の変位により開放された状態が図示される。また、図１９７３では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２５６１】

図１９７３に示すように、第１４８実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３８３２０とを主に備える。

【２２５６２】

化粧ユニットＨ３８３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３８３３０と、その装飾ユニットＨ３８３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３８３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。

【２２５６３】

装飾ユニットＨ３８３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（光照射ユニットＨ３８３３６、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）及び右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される光照射ユニットＨ３８３３６と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背

面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）と、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。

【２２５６４】

光照射ユニットＨ３８３３６、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。

【２２５６５】

光照射ユニットＨ３８３３６は、ＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３８３３６ａ１を有し光を発光可能に構成される基板部材Ｈ３８３３６ａと、その基板部材Ｈ３８３３６ａの発光側に配設される第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂと、基板部材Ｈ３８３３６ａを第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂとの間に挟む態様で配設される第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃとを主に備える。

【２２５６６】

第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂは、基板部材Ｈ３８３３６ａに配設した基板部材Ｈ３８３３６ａのＬＥＤＨ３８３３６ａ１から出射される光を透過可能な樹脂材料から形成される。これにより、基板部材Ｈ３８３３６ａから出射される光を第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂ側から出射可能とされる。

【２２５６７】

なお、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光の照射方向は、基板部材Ｈ３８３３６ａの配設面と直交する方向に設定されており、第１４８実施形態においては、光照射ユニットＨ３８３５６が第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を覆設する状態（図１９７３（ａ）に示す状態）の場合に、下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて設定されており、光照射ユニットＨ３８３５６が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する状態（図１９７３（ｂ）に示す状態）の場合に、下方側から若干前方側（矢印Ｆ方向側）に傾いた方向に向けて設定される。

【２２５６８】

第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上方を覆う板部材であり、第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂ及び基板部材Ｈ３８３３６ａよりも上面視における外形が大きく形成される。また、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。

【２２５６９】

なお、第１４８実施形態における第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃには、第１１１実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃが非形成とされる。これにより、第３８施形態では、光照射ユニットＨ３８３３６を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。

【２２５７０】

また、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃには、下面から板部材Ｈ３７３３２ｈが突出され、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃと一体の樹脂材料で板部材Ｈ３７３３２ｈが形成される。なお、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃと板部材Ｈ３７３３２ｈとを別体の樹脂材料から形成しても良い。

【２２５７１】

発光ユニットＨ３８３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側を覆う覆設部材Ｈ３８３４３とを主に備える。

【２２５７２】

覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視において取付部材Ｈ３４１と略同一の形状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。また、覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。

【２２５７３】

また、覆設部材Ｈ３８３４３は、光を非透過であって光の反射率の高い白色の樹脂材料から形成されると共に、下方側（矢印Ｄ方向側）の内面が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜して形成される。これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射される光を反射して正面板Ｈ３３１側に照射可能とされる。

【２２５７４】

さらに、覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視における上方側（矢印Ｕ方向側）の側面から上方に向かって立設される区画壁Ｈ３４３ｂと、光照射ユニットＨ３８３３６の閉鎖時においてＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に開口される上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄとを備え、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａを組み立てた際に（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６で塞いだ（覆設した）状態では）区画壁Ｈ３４３ｂの先端部が光照射ユニットＨ３８３３６の第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃに当接される。

【２２５７５】

上方側開口部Ｈ３８３４３ｃは、主に第１連通路Ｈ３００Ｃを覆設した状態における光照射ユニットＨ３８３３６のＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に形成されており、これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射された光を覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射可能とされる。

【２２５７６】

下方側開口部Ｈ３８３４３ｄは、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃと同様に第１連通路Ｈ３００Ｃを覆設した状態おける光照射ユニットＨ３８３３６のＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に形成されており、これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射された光を下面板Ｈ３３３に照射可能とされる。

【２２５７７】

よって、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した状態において、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射される光を上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを通して下面板Ｈ３３３に照射することができる。なお、第１４８実施形態では、下面板Ｈ３３３が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した状態において、下面板Ｈ３３３の一部（上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄと対応する位置）から出射することができる。

【２２５７８】

なお、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃは、下方側開口部Ｈ３８３４３ｄに比べて、正面側に長い長孔に形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放（光照射ユニットＨ３８３３６を起立させて第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を開放）した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から出射される光を覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射できる。さらに、下方側開口部Ｈ３８３４３ｄは、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１と非対向となる位置に形成される。

【２２５７９】

従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合には、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃから覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射された光が覆設部

材Ｈ３８３４３の下方側の内面により反射され正面板Ｈ３３１側に照射される。
【２２５８０】
即ち、第１４８実施形態においては、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放状態を切り替える（音の放音状態を変える）だけでなく、光による演出面を変更（光を正面板Ｈ３３１に照射するか、下面板Ｈ３３３に照射するかを変更）することができる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。
【２２５８１】
なお、第１４８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を下面板Ｈ３３３に照射し、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ２の光を正面板Ｈ３３１に照射する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、光の照射対象を反対にしたり、光の照射対象を変更しても良い。また、光を通過させる覆設部材Ｈ３８３４３の上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ又は下方側開口部Ｈ３８３４３ｄの開口位置を変更しても良い。
【２２５８２】
例えば、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を正面板Ｈ３３１に照射（反射）可能な位置に上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成すると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ２の光を下面板Ｈ３３３に照射可能な位置に上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成しても良い。
【２２５８３】
この場合には、通常の遊技状態（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により閉鎖した状態）では、正面板Ｈ３３１の装飾を遊技者に視認させることができ、遊技者が無駄に大当たりの期待をすることを抑制できる。
【２２５８４】
また、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃから覆設部材Ｈ３８３４３の内側に出射される光を覆設部材Ｈ３８３４３の内面に照射せず下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを介して正面板Ｈ３３１の下面側から出射可能となる位置に下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成しても良い。
【２２５８５】
また、第１４８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照）で検出し、その検出結果に基づき光照射ユニットＨ３８３３６を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（光照射ユニットＨ３８３３６を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１８４２参照））を出力するように構成される。
【２２５８６】
よって、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）が操作された場合に光照射ユニットＨ３８３３６が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。
【２２５８７】
さらに、第１４８実施形態では、Ｎ１６（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図１９７３（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上

側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を低下させることができる。
【２２５８８】
この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。
【２２５８９】
即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第１４８実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２５９０】
ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音させやすくできる。
【２２５９１】
一方、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。
【２２５９２】
また、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を変位させた際にその光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２５９３】
さらに、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２５９４】
また、正面視において光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）と

区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２５９５】

さらに、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ３８０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２５９６】

また、第１４８実施形態におけ光照射ユニットＨ３８３３６は、光を出射可能に構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放するために上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上部に突出された場合に遊技者に視認されやすくなる。そのため、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性が変化されることを光照射ユニットＨ３８３３６の変化を視認させることによって遊技者に認識させることができる。

【２２５９７】

なお、第１４８実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８４２参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。

【２２５９８】

この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。また、第１４８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した空間の背面側から光照射ユニットＨ３８３３６の光を遊技者側に照射することができるので、音による演出と光による演出とを遊技者に認識させることができ、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。

【２２５９９】

一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。

【２２６００】

また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。

【２２６０１】

さらに、第１４８実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８３８参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５

１（図１８３３参照）の操作がされる場合に、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音させやすくしても良い。

【２２６０２】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【２２６０３】

次いで、図１９７４を参照して、第１４９実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａについて説明する。上記第１４７実施形態では、上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆにより回転される場合について説明したが、第１４９実施形態では、上面板Ｈ３９３３２が軸部Ｈ９３３２ｆの他に第２軸部Ｈ３９３３２ｎにより回転される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２６０４】

図１９７４（ａ）は、第１４９実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応し、図１９７４（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ｂ）のＭＣＭＸＬＶＩＩｂ線における断面に対応する。なお、図１９７４（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３９３３２により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１７（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３９３３２により開放された状態が図示される。また、図１９７４では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２６０５】

図１９７４に示すように、第１４９実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３９３２０とを主に備える。

【２２６０６】

化粧ユニットＨ３９３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３９３３０と、その装飾ユニットＨ３９３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。

【２２６０７】

装飾ユニットＨ３９３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）及び右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３９３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上

面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）と、上面板Ｈ３９３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。

【２２６０８】

上面板Ｈ３９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。

【２２６０９】

上面板Ｈ３９３３２は、板状に形成される第１部材Ｈ３９３３２ｋと、その第１部材Ｈ３９３３２ｋに回転可能に配設される板状の第２部材Ｈ３９３３２ｍと、を主に備え、上面板Ｈ３９３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を塞いだ状態において、第１部材Ｈ３９３３２ｋの正面側に第２部材Ｈ３９３３２ｍが配設され、それらの上面が略同一の高さ（平行）に配設される。

【２２６１０】

また、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとは、第１部材Ｈ３９３３２ａと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの間に配設したねじりバネ（図示しない）により常に第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面と第２部材Ｈ３９３３２ｍの上面とが平行に位置する状態に付勢される。これにより、駆動ユニットＨ９３３７のソレノイドＨ９３３７ａから駆動力が第２部材Ｈ３９３３２ｍに伝達される際には、第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面と第２部材Ｈ３９３３２ｍの上面とを平行にした状態で第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとを回転させることができる。

【２２６１１】

また、第１部材Ｈ３９３３２ｋにソレノイドＨ９３３７ａによる駆動の方向（上方）と反対の方向（下方）に力が作用してねじりバネが弾性変形される場合には、第１部材Ｈ３９３３２ｋに対して第２部材Ｈ３９３３２ｍを回転させることができる。

【２２６１２】

第１部材Ｈ３９３３２ｋは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。

【２２６１３】

第２部材Ｈ３９３３２ｍは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ３９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ３９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、側面板Ｈ３９３３２ｄの一方に配設され駆動ユニットＨ９３３７の駆動力が伝達されるピン部Ｈ９３３２ｄ１と、第１部材Ｈ３９３３２ｋと連結される第２軸部Ｈ３９３３２ｎとを主に備える。

【２２６１４】

なお、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの上面が平行に配置された状態においては、第１部材Ｈ３９３３２ｋの側面板Ｈ９３３２ｄと第２部材Ｈ３９３３２ｍの側面板Ｈ３９３３２ｄとが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配設される。

【２２６１５】

次いで、第１４８実施形態における上面板Ｈ３９３３２の変位について説明する。第１４８実施形態における上面板Ｈ３９３３２は、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用していない場合には、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により第２部材Ｈ３９３３２ｍが上方へ持ち上げられることにより第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとがそれらの上面を平行にした状態で第１部材Ｈ３９３３２ｋの軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転される。

【２２６１６】

一方、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用する場合（例えば、上面板Ｈ３９３３２の上面に遊技者の私物（財布や携帯電話や飲料物）が乗せられた場合）には、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により第２部材Ｈ３９３３２ｍが上方へ持ち上げられることにより、第２部材Ｈ３９３３２ｍの第２軸部Ｈ３９３３２ｎを中心に回転され、第１部材Ｈ３９３３２ｋの変位が規制される。

【２２６１７】

詳しく説明すると、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力が作用し始めた状態では、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとがそれらの上面を平行にした状態で第１部材Ｈ３９３３２ｋの軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転され、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの上面が背面側から正面側に向かって上昇傾斜した状態とされる。この傾斜により、上面板Ｈ３９３３２の上面に乗せられた遊技者の私物を背面側（第１部材Ｈ３９３３２ｋ側）にスライドさせることで、正面側の第２部材Ｈ３９３３２ｍに遊技者の私物が乗っていない状態を形成できる。

【２２６１８】

第２部材Ｈ３９３３２ｍの上方側に外力が作用せず、第１部材Ｈ３９３３２ｋの上方側に外力が作用する状態とすることで、第２部材Ｈ３９３３２ｍを第１部材Ｈ３９３３２ｋに対して第２軸部Ｈ３９３３２ｎを中心に上方側に向かって回転させることができる。これにより、第１４８実施形態では、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用する場合であっても、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力により第１連通路Ｈ３００Ｃを開放可能とされる。

【２２６１９】

即ち、第１４９実施形態では、上面板Ｈ３９３３２を回転させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する際の回転軸（回転中心）の位置を変更可能に形成されるので、上面板Ｈ３９３３２の上方側に水平となる面（第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面）を形成しやすくできる。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成することができる。従って、上面板Ｈ３９３３２の回転により上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方側に乗せた遊技者の私物が落下したり、上面板Ｈ３９３３２の回転が遊技者の私物により回転しなくなることを抑制できる。その結果、上面板Ｈ３９３３２を回転して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際の音の変化による演出を安定させることができる。

【２２６２０】

また、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成した場合（即ち、第２部材Ｈ３９３３２ｍのみが変位された場合）には、第１部材Ｈ３９３３２ｋを上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外面側に維持することができるので、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの両者を変位させた場合に比べて、第１連通路Ｈ３００Ｃから放音される音が第１部材Ｈ３９３３２ｋの下方側に逃げることを抑制できる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃから放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。従って、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａに遊技者の視線を注目させやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に乗せられた遊技者の私物を退かことを遊技者に促すことができる（上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に私物が乗っていることを遊技者に認識させることができる）。

【２２６２１】

さらに、第１４９実施形態では、図１９７４（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図１９７４（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を低下させることができる。

【２２６２２】

この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。

【２２６２３】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第１４９実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６２４】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音させやすくできる。

【２２６２５】

一方、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【２２６２６】

また、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を変位させた際にその上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６２７】

さらに、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６２８】

また、正面視において上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６２９】
さらに、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ３９０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２６３０】
また、第１４９実施形態では、上面板Ｈ３９３３２を回転させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する際の回転軸（回転中心）の位置を変更可能に形成され（第１部材Ｈ３９３３２ｋを上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外面に配置した状態を形成可能とされ）るので、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態とした場合に上側装飾ユニットＨ３９０１４ａと上面板Ｈ３９３３２との当接面積を変更することができる。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化態様を複数形成することができる（即ち、中間の剛性となる状態を形成できる）。よって、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２２６３１】
なお、第１４９実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ３９３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ３９３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１８４２参照））を出力するように構成される。
【２２６３２】
よって、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）が操作された場合に上面板Ｈ３９３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。
【２２６３３】
なお、第１４９実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８４２参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ３９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。
【２２６３４】
この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。
【２２６３５】
一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放

音される音を小さくしても良い。
【２２６３６】
　また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。
【２２６３７】
　さらに、第１４９実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８３８参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１８３３参照）の操作がされる場合に、上面板Ｈ３９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音させやすくしても良い。
【２２６３８】
　この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。
【２２６３９】
　なお、第１４９実施形態では、上面板Ｈ３９３３２が２箇所の回転軸（軸部Ｈ９３３２ｆと第２軸部Ｈ３９３３２ｎ）を備える場合について説明したが、１箇所の回転軸を前後にスライド変位させて、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成するように構成しても良い。また、上面板Ｈ３９３３２が３箇所以上の回転軸を備えて形成されても良い。
【２２６４０】
　次いで、図１９７５を参照して第１５０実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａについて説明する。上記第１４７実施形態では、上面板Ｈ３７３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを介して第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）同士が連通される場合について説明したが、第１５０実施形態では、上面板Ｈ４０３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通が規制される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２６４１】
　図１９７５（ａ）から図１９７５（ｃ）は、第１５０実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａの断面模式図であり、図１９４６（ａ）のＭＣＭＸＬＶＩＩａ線における断面に対応する。なお、図１９７５（ａ）から図１９７５（ｃ）では、上面板Ｈ４０３３２の遷移状態が順に図示され、図１９７５（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖した状態が図示され、図１９７５（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃと第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）とを連通した状態が図示され、図１９７５（ｃ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態が図示される。なお、図１９７５では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２２６４２】
　図１９７５に示すように、第１５１実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ４０３２０とを主に備える。
【２２６４３】
　化粧ユニットＨ４０３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１

８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ４０３３０と、その装飾ユニットＨ４０３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。

【２２６４４】

装飾ユニットＨ４０３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ４０３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）及び右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ４０３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図１９４６参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図１９４６参照）と、上面板Ｈ４０３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７と、上面板Ｈ４０３３２の下面側に連結され上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って変位可能な第２変位部材Ｈ４０３３７と、を主に備える。

【２２６４５】

上面板Ｈ４０３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。

【２２６４６】

上面板Ｈ４０３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆと、一端が上面板Ｈ４０３３２の下面に連結されると共に他端が第２変位部材Ｈ４０３３７の上面に連結されるリンク部材Ｈ４０３３２ｑとを主に備える。

【２２６４７】

閉鎖部Ｈ４０３３２ｐは、上面板Ｈ４０３３２を第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側に配置した際に、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖する部材であり、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間と略同一の形状に形成される。上面板Ｈ４０３３２を第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側に配置した状態においては、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃの内部を塞ぐことで第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）同士の連通が解除される。

【２２６４８】

リンク部材Ｈ４０３３２ｑは、第２変位部材Ｈ４０３３７に連結されるリンク部材であり、上面板Ｈ４０３３２に対して回転可能な状態で配置される。また、リンク部材Ｈ４０３３２ｑの第２変位部材Ｈ４０３３７との連結側は、第２変位部材Ｈ４０３３７に対して回転可能な状態とされると共に、第２変位部材Ｈ４０３３７に対してスライド変位可能に連結される。これにより、上面板Ｈ４０３３２が回転変位された際には、リンク部材Ｈ４０３３２ｑの一端および他端が上面板Ｈ４０３３２及び第２変位部材Ｈ４０３３７に対して回転され、上面板Ｈ４０３３２及び第２変位部材Ｈ４０３３７に対するリンク部材Ｈ４０３３２ｑの姿勢を変化させることができると共に、第２変位部材Ｈ４０３３７に対してリンク部材Ｈ４０３３２ｑの他端をスライド変位させることで、第２変位部材Ｈ４０３３

７を上下方向にスライド変位させることができる。
【２２６４９】
次いで、第１５０実施形態における上面板Ｈ４０３３２の変位について説明する。なお、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により上面板Ｈ４０３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転する変位については、第１１９実施形態の上面板Ｈ９３３２と同一であるので、その変位についての詳しい説明は省略する。
【２２６５０】
図１９７５（ｂ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る直前の位置まで上面板Ｈ４０３３２を変位させた場合には、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの下面が第１連通路Ｈ３００Ｃの下面から離間されると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ位置に配置される。これにより、上方側が閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖された空間の第１連通路Ｈ３００Ｃが形成され、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）同士が第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通される。
【２２６５１】
また、図１９７５（ｃ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２を変位させた場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側が開放され第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とが連通される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃに放音される音を第１連通路Ｈ３００Ｃを介して外部空間に放音することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。
【２２６５２】
即ち、第１５０実施形態では、上面板Ｈ４０３３２により、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な（第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖した）状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを形成した（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより塞いだ）状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態とを形成することができる。その結果、音による演出態様を複数形成することができ、音による演出効果を高めることができる。
【２２６５３】
さらに、図１９７５（ｃ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２が変位されるので、開放時には第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間にアクセスしやすくできる。その結果、第１連通路Ｈ３００Ｃのメンテナンス性（清掃性）を向上することができる。
【２２６５４】
なお、第１５０実施形態では、図１９７５（ｃ）に示すように閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２が変位された状態では、第２変位部材Ｈ４０３３７が上面板Ｈ４０３３２の変位に伴ってリンク部材Ｈ４０３３２ｑにより上方側に変位され、駆動前の上面板Ｈ４０３３２が配置された位置（図１９７５（ａ）に示す位置）と重なる位置に第２変位部材Ｈ４０３３７が変位される。これにより、上面板Ｈ４０３３２を変位させたこと（第１連通路Ｈ３００Ｃを開放したこと）により、上側装飾ユニットＨ４００１４ａに隙間が形成されることを抑制できる。
【２２６５５】
即ち、第１５０実施形態では、上面板Ｈ４０３３２を変位させることによる隙間を第２変位部材Ｈ４０３３７により埋めることができる。従って、上面板Ｈ４０３３２の変位後において形成される隙間から不正な部材が挿入されることを抑制できる。
【２２６５６】
なお、第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側の内面および背面側の内面は、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な（第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖した）状態における閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面および背面側の側面と平行に形成されていても良く、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態において、第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側の内面および背面側の内面が閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面および背面側の側面と当接する状態としても良い。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を

非形成な状態において、第１連通路Ｈ３００Ｃの内面と閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面または背面側の側面との間を音が通過することを抑制できる。

【２２６５７】

さらに、第１５０実施形態では、図１９７５（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内面に当接した状態とされ、図１９７５（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内面の一部に当接した状態とされ、図１９７５（ｃ）に示すように、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃから離間した状態にすることができる。これにより、上面板Ｈ４０３３２を上方側に変位させた際に、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を上面板Ｈ４０３３２の変化に伴って低下させることができる。

【２２６５８】

この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。

【２２６５９】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１８４３参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第１５０実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａでは、上側装飾ユニットＨ４００１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ４０３３２の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６０】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。

【２２６６１】

第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合には、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を高めることができることに加えて、第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音をなくすことができるので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音させやすくできる。

【２２６６２】

第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合に比べて、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音される音の音量を小さくできる。

【２２６６３】

一方、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合に比べて、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【２２６６４】

また、上面板Ｈ４０３３２は、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ４０３３２を変位させた際にその上面板Ｈ４０３３２の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ４０３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６５】

さらに、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐは、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６６】

また、正面視において上面板Ｈ４０３３２は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ４０３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ４０３３２が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６７】

さらに、上面板Ｈ４０３３２は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ４００１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６８】

また、上記したように第１５０実施形態では、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐと第１連通路Ｈ３００Ｃの内面との当接面積を上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って変化させることができるので、上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を変化させることができる。よって、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２２６６９】

なお、第１５０実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ４０３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ４０３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１８４２参照））を出力するように構成される。

【２２６７０】

よって、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）が操作された場合に上面板Ｈ４０３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１８３３参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。

【２２６７１】

なお、第１４９実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１８３３参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）が第

１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８４２参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ４０３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。

【２２６７２】

この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。

【２２６７３】

一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１８４９（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。

【２２６７４】

また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。

【２２６７５】

さらに、第１４９実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１８３８参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１８３３参照）の操作がされる場合に、上面板Ｈ４０３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音させやすくしても良い。

【２２６７６】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１８３３参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【２２６７７】

次いで、図１９７６を参照して、第１５１実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａについて説明する。上記第１４７実施形態では、空間Ｈ９３３２ｄ２への不正部材の挿入を板部材Ｈ３７３３２ｈにより規制する場合について説明したが、第１５１実施形態では、第１空間Ｈ３００Ａの第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分に設けた検出装置（検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２）により空間Ｈ９３３２ｄ２への不正部材の挿入を規制する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２６７８】

図１９７６（ａ）は、第１５１実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａの断面模式図であり、図１８４８におけるＭＤＣＣＣＸＬＩＸａ線における断面に対応し、図１９７６（ｂ）は、図１９７６（ａ）の矢印ＭＣＭＬＸＸＶＩｂ方向視における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａの上面模式図である。なお、図１９７６（ｂ）では、上面板Ｈ３７３３２が透明視された状態で図示される。また、図１９７６では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２６７９】
図１９７６に示すように、第１５１実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１８４０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ４１３２０とを主に備える。
【２２６８０】
化粧ユニットＨ４１３２０は、第１１１実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１８４４参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ４１３３０と、その装飾ユニットＨ４１３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１８４４参照）とを主に備えて形成される。
【２２６８１】
装飾ユニットＨ４１３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３７３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６と、上面板Ｈ３７３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７（図１９７２参照）と、と主に備える。
【２２６８２】
また、第１５１実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａに形成される第１空間Ｈ３００Ａには、第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分の一方側に検出光出射装置Ｈ４１３６１が配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分の他方側に検出光検出装置Ｈ４１３６２が配設され、検出光出射装置Ｈ４１３６１から出射された光を第１連通路Ｈ３００Ｃを介して検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出可能に構成される。
【２２６８３】
なお、第１５１実施形態では、上側装飾ユニットＨ４１０１４ａに形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に略直線状に延設され、その直線部分を通して検出光出射装置Ｈ４１３６１の光を検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出可能とされ、それら検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間の物の有無を検出可能とされる。
【２２６８４】
このように、第１５１実施形態では、検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間を検出することで、上面板Ｈ３７３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を閉鎖する位置に配設される場合には、上面板Ｈ３７３３２の板部材Ｈ３７３３２ｈを第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に配置することで、上面板Ｈ３７３３２が規定の位置に配置されている（無理やり開口されていない）ことを検出することができる。
【２２６８５】
一方、上面板Ｈ３７３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃから板部材Ｈ３７３３２ｈが張り出すことで、検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２による上面板Ｈ３７３３２の検出が不要とされる。よって、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に挿入される不正な部材を検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出することが可能とされる。

【２２６８６】
従って、第１５１実施形態では、第１連通とＨ３００Ｃを開放した場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して空間Ｈ９３３２ｄ２（図１９７２参照）の内部空間に不正な部材が挿入されることを抑制できると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃの両端を介して第１空間Ｈ３００Ａに不正な部材が挿入されることを抑制できる。その結果、遊技者に不正行為がされることを抑制できる。
【２２６８７】
なお、検出光出射装置Ｈ４１３６１の光を検出する検出光検出装置Ｈ４１３６２（各種スイッチＨ２０８（図１８４２参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。
【２２６８８】
次いで、図１９７７を参照して第１５２実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０について説明する。上記第１１１実施形態では、変位部材Ｈ７９０を介して基板部材Ｈ７７３から出射される光を遊技者側に出射する場合について説明した、第１５２実施形態では、変位部材Ｈ４０７７３により基板部材Ｈ７７３から出射される光を遮る場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２６８９】
図１９７７（ａ）及び図１９７７（ｃ）は、第１５２実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０の正面模式図であり、図１９７７（ｂ）は、図１９７７（ａ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩｂ線における揺動装置Ｈ４２７３０の断面模式図であり、図１９７７（ｄ）は、図１９７７（ｃ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩｄ線における揺動装置Ｈ４２７３０の断面模式図である。なお、図１９７７（ａ）及び（ｂ）では、変位部材Ｈ４２７９０の変位前の状態が図示され、図１９７７（ｃ）および（ｄ）では、変位部材Ｈ４２７９０の変位後の状態が図示される。なお、図１９７７では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２２６９０】
図１９７７に示すように、第１５２実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ４２７９０と、を主に備える。
【２２６９１】
なお、第１５２実施形態における変位部材Ｈ４２７９０も第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０と同様にベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設される（図１８３４１－２参照）が、図１９７７では、理解を容易とするために変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して固定した状態で図示される。
【２２６９２】
変位部材Ｈ４２７９０は、光を非透過の有色材料（白色）から形成されており、背面側に配設されるベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）から出射される光を遮ることが可能とされる。また、変位部材Ｈ４２７９０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法がベース手段Ｈ７７０よりも小さく形成されており、ベース手段Ｈ７７０の正面側に重なって配置される際（例えば、図１９７７（ａ）及び（ｂ）に示す位置に配置される際）に、ベース手段Ｈ７７０の一部を隠すことが可能とされる。
【２２６９３】
なお、変位部材Ｈ４２７９０は、全体が光を非透過の有色材料から形成されるものに限られるものではなく、一部が光を透過可能な透明材料から形成されるもので形成され、光を非透過な領域と、光を透過可能な領域とを備えるものであっても良い。例えば、正面視において光を非透過な領域の周囲に光を透過可能な領域を形成して、非透過な領域の周囲から出射される光の出射角度を変更しても良い。これによれば、非透過な領域の周囲の光

の態様を変更できるので、非透過な領域の装飾面に遊技者の視線を注目させることができる。

【２２６９４】

また、正面視において光を透過可能な領域の周囲に光を非透過な領域を形成して、非透過な領域の中央から出射される光の出射角度を変更しても良い。この場合には、非透過な領域の中央の光の態様を変更できるので、光を透過可能な領域から出射される光に遊技者の視線を注目させることができる。

【２２６９５】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０の左右方向における寸法をベース手段Ｈ７７０よりも大きく形成したり、複数の変位部材Ｈ４２７９０を左右方向に並べて配置して、正面視におけるベース手段Ｈ７７０の全部を変位部材Ｈ４２７９０で隠すようにしても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０を変位させることで、基板部材Ｈ７７３から出射される光を視認可能な状態と、基板部材Ｈ７７３から出射される光を視認不可能な状態とを形成することができ、基板部材Ｈ７７３の光を視認不可な状態とすることで、基板部材Ｈ７７３の光を視認可能とする状態を形成した場合の遊技者の視線を基板部材Ｈ７７３の光に注目させやすくできる。

【２２６９６】

基板部材Ｈ７７３に配設される発光手段Ｈ７７３ｂは、正面視において上下左右に整列した状態で配設され、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０の正面側に重なって配設される際に、同列の発光手段Ｈ７７３ｂが変位部材Ｈ４２７９０により隠された状態とされる。

【２２６９７】

なお、発光手段Ｈ７７３ｂは、正面視において千鳥状に配設されるものや、正面視において一部に集まって配置されるものであっても良い。例えば、正面視において左右方向両外側の発光手段Ｈ７７３ｂの数を、左右方向中央部の発光手段Ｈ７７３ｂの数よりも多くして、左右両外側の発光量を多くしても良い。また、正面視における変位部材Ｈ４２７９０の形状を異形に形成して、同列の発光手段Ｈ７７３ｂの内の一部の発光手段Ｈ７７３ｂを隠しても良い。

【２２６９８】

また、第１５２実施形態では、図１９７７（ｃ）及びＳ４０（ｄ）に示すように、変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０の駆動力（慣性力）により上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を中心に回転された際に、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０と正面視において重ならない位置まで回転可能に設定される。

【２２６９９】

即ち、第１５２実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）の正面側に重なって配置される状態と、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０と重ならない位置に退避する状態とを形成することができる。

【２２７００】

これにより、第１５２実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０の変位と基板部材Ｈ７７３の発光とを合わせて視認させる状態と、変位部材Ｈ４２７９０を基板部材Ｈ７７３の正面側から退避させ、基板部材Ｈ７７３の発光のみを視認させる状態とを形成することができる。よって、演出の形態を複数形成することができ、遊技の興趣を向上できる。

【２２７０１】

なお、第１５２実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０は、ベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を中心に正面視において左右方向に回転可能に軸支されるが、左右方向に延設される軸を中心に上下方向に回転されるものであっても良い。

【２２７０２】

また、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出装置により検出して、基板部材Ｈ７７３の発光態様を変更しても良い。即ち、変位部材Ｈ４２７９０により隠れる領域に配置され

る発光手段Ｈ７７３ｂの光の照射をオフ、又は、照射量を少なくしても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に照射される光を少なくすることができるので、変位部材Ｈ４２７９０の背面側で光が反射して他の領域にその光が入ることを抑制できる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂの列ごとに発光色を分けた場合に反射光が混ざることを抑制して、光による演出効果を向上できる。

【２２７０３】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出装置により検出する場合には、変位部材Ｈ４２７９０を発光手段Ｈ７７３ｂにより注目させるために、正面視において変位部材Ｈ４２７９０と隣り合う位置（正面視において近い位置）の発光手段Ｈ７７３ｂの発光量を多くする一方、正面視において変位部材Ｈ４２７９０から離れる位置の発光手段の発光量をオフ、又は、少なくしても良い。これによれば、正面視において変位部材Ｈ４２７９０の周囲の発光量が多くなるので、変位部材Ｈ４２７９０に注目させやすくできる。

【２２７０４】

なお、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出する検出装置（各スイッチＨ２０８（図１８４２参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（発光手段Ｈ７７３ｂの光の照射量を調整する）を実行可能とされる。

【２２７０５】

また、第１５２実施形態では、揺動装置Ｈ４２７３０の正面側を覆設した状態で配設される傾倒装置Ｈ７１０（図１８７９参照）に光を非透過の領域が形成され、その非透過の領域が正面視において基板部材Ｈ７７３の左右両外側に形成される。これにより、ベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）と正面視において重ならない領域に変位部材Ｈ４２７９０が変位された場合には、変位部材Ｈ４２７９０を傾倒装置Ｈ７１０の非透過の領域により隠すことができる。

【２２７０６】

即ち、基板部材Ｈ７７３の全域を視認させる場合には、揺動装置Ｈ４２７３０の正面側に配設した別部材により、変位部材Ｈ４２７９０を遊技者から視認されにくくすることができる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂの発光に注目させることができ、発光手段Ｈ７７３ｂによる演出効果を向上できる。

【２２７０７】

さらに、第１１１実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して駆動手段Ｈ７８０に当接され、その当接により駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して中間配置状態の位置に変位させることができる。

【２２７０８】

また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された場合には、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０と共に所定位置（駆動手段Ｈ７８０が中間位置状態とされる位置）に変位される。従って、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができる。

【２２７０９】

なお、第１５２実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０を光を透過可能な透明の樹脂材料から形成すると共にその変位部材Ｈ４２７９０に凹凸形成して、変位部材Ｈ４２７９０を介して視認される光を、他の領域（変位部材Ｈ４２７９０を介さず視認される領域）の光と異なる態様で遊技者に視認させるものであっても良い。

【２２７１０】

また、変位部材Ｈ４２７９０は、光を非透過の白色ではなく、光を非透過の黒色の樹脂材料から形成され、正面側に装飾が施されるものであっても良い。即ち、発光手段の光を照射可能な位置の変位部材Ｈ４２７９０の側面（背面）が黒色に形成されるものであっても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に発光手段Ｈ７７３ｂの光が照射

されたとしても、その光を変位部材Ｈ４２７９０により吸収しやすくできる。即ち、変位部材Ｈ４２７９０が光を吸収しやすい色で構成されていても良い。これによれば、変位部材Ｈ４２７９０の背面から反射される光が他の領域の光に干渉することを抑制できる。

【２２７１１】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０を、光の透過量を電気（印加電圧の変更）により変更可能な調光ガラス等で構成して、所定の演出の際に光の透過量を変更するように構成しても良い。例えば、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作が必要な場合には、光の透過量を多くして遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要なことを認識させやすくする一方、ボタン部Ｈ１８１の操作が必要のない場合には、基板部材Ｈ７７３から出射される一部の光の透過量を変更して（又は遮って）視認される光の色合いを変更する演出を遊技者に視認させても良い。

【２２７１２】

なお、この場合には、変位不能に構成される複数の調光ガラスを並べて配置して、それぞれの調光ガラスの光の透過量を変更する（例えば、左右方向に複数枚配置される調光ガラスの光の透過量を左側から順に少なくして、左側の発光量を多くする）ことで、遊技者に視認される光の態様を変更してもよい。

【２２７１３】

また、上記第１５２実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０は、第１１１実施形態における揺動装置Ｈ７３０と同様に、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで揺動装置Ｈ４２７３０を変位可能に構成される。また第１５２実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで、変位部材Ｈ４２７９０が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に近づく方向に変位するように構成される。

【２２７１４】

これによれば、第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に変位部材Ｈ４２７９０を近づけることができるので、正面側に配設される変位部材Ｈ４２７９０で発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を遮りやすくできる。即ち、発光手段Ｈ７７３ｂの照射範囲を変位部材Ｈ４２７９０により狭くしやすくできる。第１５２実施形態では、基板部材Ｈの照射範囲を区画しやすくできる。

【２２７１５】

次いで、図１９７８及び図１９７９を参照して第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０について説明する。上記第１５２実施形態では、光を非透過の変位部材Ｈ４２７９０により基板部材Ｈ７７３の光を遮る場合について説明したが、第１５４実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０では、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に配置した第２変位部材Ｈ４３７９５により、基板部材Ｈ７７３の光が遮られる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２７１６】

初めに、図１９７８を参照して、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の全体構成について説明する。図１９７８（ａ）は、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の正面模式図であり、図１９７８（ｂ）は、図１９７８（ａ）のＭＣＭＬＸＸＶＩＩＩｂ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図である。なお、図１９７８では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２７１７】

図１９７８に示すように、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設されるベース手段Ｈ４３７７０と、そのベース手段Ｈ４３７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、ベース手段Ｈ４３７７０に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ４３７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ４２７９０と、ベース手段Ｈ７７０の内部空間（第１拡散部材Ｈ４３７７４と基板部材Ｈ７７３との対向間）を変位可能な状態で駆動手段Ｈ７８０の正面側に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５と、を主に備え

る。
【２２７１８】
なお、第１５３実施形態における変位部材Ｈ４２７９０も第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０と同様にベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設されるが、図１９７８及び図１９７９では、理解を容易とするために変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して固定した状態で図示される。また、以下の説明では、変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に相対変位可能に配設される部分を「連結部分」と称して説明する。
【２２７１９】
第２変位部材Ｈ４３７９５は、光を非透過の樹脂材料から形成されると共に、変位部材Ｈ４２７９０の駆動手段Ｈ７８０との連結部分側（即ち、上側係合部Ｈ７９２ａ（図１８９５参照）に配設される。即ち、変位部材Ｈ４２７９０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。よって、第２変位部材Ｈ４３７９５は、変位部材Ｈ４２７９０の変位に伴って変位可能とされる。なお、第１５２実施形態における第２変位部材Ｈ４２７９５は、上方側の一端側のみが変位部材Ｈ４２７９０に接続（配設）され、ベース手段Ｈ７７０内部空間（第１拡散部材Ｈ４３７７４及び基板部材Ｈ７７３の対向間）を変位可能とされる。
【２２７２０】
ベース手段Ｈ４３７７０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に締結固定される上側ベース部材Ｈ７７１と、その上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下側ベース部材Ｈ７７２と、上側ベース部材Ｈ７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ４３７７４と、を主に備える。
【２２７２１】
第１拡散部材Ｈ４３７７４には、正面側の一面に左右方向に３分割され、それぞれ異なる色が付与されたフィルムが配設（貼付）される。なお、図１９７９及び図１９８０では、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付された各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）がそれぞれ異なる位置に貼付され、それぞれ所定の模様を付して図示される。各フィルムに装飾される色としては、例えば、各色に危険、注意、正常等の意味を持たせるために「赤、黄、青」の信号機等の配色や、各色を混ぜて他の色を形成するために「赤、黄、緑」の光の３原色の配色がされる。
【２２７２２】
なお、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付される各フィルムは、第１拡散部材Ｈ４３７７４の背面側に配設（貼付）されても良く、また、３分割に限らず２分割や４分割以上に分割されるものであっても良い。さらに、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付される各フィルムは、正面側の一面に上下方向に分割されていても良い。
【２２７２３】
また、第１拡散部材Ｈ４３７７４は、基板部材Ｈ７７３の正面と所定の隙間（第２変位部材Ｈ４３７９５を変位可能な隙間）を隔てた状態で配設されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に第２変位部材Ｈ４３７９５を挿通可能な開口部Ｈ４３７７４ｆが形成される。
【２２７２４】
なお、開口部Ｈ４３７７４ｆは、第１拡散部材Ｈ４３７７４の上方側の縁部から下方側に沿って延設されており、これにより、上方側が連結される第２変位部材Ｈ４３７９５を開口部Ｈ４３７７４ｆを介して第１拡散部材Ｈ４３７７４の内側から張出変位可能とされる。
【２２７２５】
また、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ４３７７０に対して回転されていない状態（即ち、図１９７８に示す位置に配置される場合には）では、変位部材Ｈ４２７９０の背

面側に第２変位部材Ｈ４３７９５が重なって配設されると共に、変位部材Ｈ４２７９０に対して変位部材Ｈ４２７９０における左右方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法が若干小さくされる。

【２２７２６】

また、変位部材Ｈ４２９０がベース手段Ｈ４３７７０に対して回転されていない状態（即ち、図１９７８に示す位置に配置される場合）には、中央フィルムＨ３７７４ｃの正面側に変位部材Ｈ４２７９０が配設されると共に、中央フィルムＨ４３７７４ｃの背面側に第２変位部材Ｈ４３７９５が配設される。

【２２７２７】

これにより、発光手段Ｈ７７３ｂから中央フィルムＨ４３７７４ｃの背面側に照射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５で遮ることができる。その結果、遊技者に第１フィルムＨ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を視認させやすくできる。

【２２７２８】

即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５により発光手段Ｈ７７３ｂの光を遮らず、変位部材Ｈ４２７９０により中央フィルムＨ４３７７４ｃを介して出射される光を遮る場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面に照射される光が変位部材Ｈ４２７９０の背面で反射することにより、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅを介して出射される光と混ざり、第１フィルムＨ４３７７４ｄ及び第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光が正しく遊技者に認識されない可能性がある。

【２２７２９】

また、変位部材Ｈ４２７９０の変位を検出センサ等により検出して、変位部材Ｈ４２７９０の変位に合わせて変位部材Ｈ４２７９０の背面側に位置する発光手段Ｈ７７３ｂの発光を弱くする、又は、オフにすることも可能であるが、この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の変位を常に監視する必要があるため、制御が複雑になり変位部材Ｈ４２７９０の変位に合わせて発光手段Ｈ７７３ｂの光を弱めることが困難とされる。

【２２７３０】

これに対し、第１５３実施形態では、異なる色を付した中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側で、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５により遮ることができるので、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介して光が出射されることを抑制して、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光が他の領域の光を混ざることを抑制できる。その結果、第１フィルムＨ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を正しく遊技者に視認させることができる。

【２２７３１】

即ち、第１５３実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側で、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５により遮ることにより、発光手段Ｈ７７３ｂから同じ発光がされている（即ち、複数の発光手段Ｈ７７３ｂからの光の出射量が制御により変更されていない（全ての発光手段Ｈ７７３ｂが同様に発光している））場合でも、第１拡散部材Ｈ４３７７４（各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ））を介して視認される光の態様を変更できる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。

【２２７３２】

また、第１５３実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５により光の出射を遮られた領域の中央フィルムＨ４３７７４ｃを変位部材Ｈ４２７９０により遊技者に視認させにくくできる（即ち、光が出射されていない領域の正面側に変位部材Ｈ４２７９０が配置される）ので、遊技者が中央フィルムＨ４３７７４ｃに注目することを抑制できる。その結果、遊技者に第１フィルムＨ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を視認させやすくできる。

【２２７３３】
なお、第１５３実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４３７９５は、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光の透過量を変えるものであれば良い。
【２２７３４】
即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５が半透明の樹脂材料から形成され、第２変位部材Ｈ４３７９５に照射される基板部材Ｈ７７３の光の一部が第２変位部材Ｈ４３７９５を透過して第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）側に出射されるようにしても良い。この場合には、各フィルムの一部からの発光量を少なくすることができる。これにより、各フィルムを介して視認される光の色合いを複雑に変更できる。
【２２７３５】
また、第２変位部材Ｈ４３７９５を、光の透過量を電気より変更可能な調光ガラス等で構成して、所定の演出の際に光の透過量を変更するように構成しても良い。例えば、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作が必要な場合には、光の透過量を多くして遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要なことを認識させやすくする一方、ボタン部Ｈ１８１の操作が必要のない場合には、基板部材Ｈ７７３から出射される一部の光の透過量を変更して（又は遮って）各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）を介して視認される光の色合いを変更する演出を遊技者に視認させても良い。
【２２７３６】
なお、この場合には、変位不能に構成される複数の調光ガラスを並べて配置して、それぞれの調光ガラスの光の透過量を変更する（例えば、左右方向に複数枚配置される調光ガラスの光の透過量を左側から順に少なくして、左側の第１フィルムＨ４３３７４ｄを介して照射される光の透過量を多くする）ことで、遊技者に視認される光の態様を変更してもよい。
【２２７３７】
次いで、図１９７９を参照して、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の変位について説明する。図１９７９（ａ）及び図１９７９（ｃ）は、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の正面模式図であり、図１９７９（ｂ）は、図１９７９（ａ）のＭＣＭＬＸＸＩＸｂ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図であり、図１９７９（ｄ）は、図１９７９（ｃ）のＭＣＭＬＸＸＩＸｄ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図である。なお、図１９７９では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２２７３８】
図１９７９（ａ）及び（ｂ）に示すように、第２変位部材Ｈ４３７９５は、駆動手段Ｈ７８０の駆動により変位部材Ｈ４２７９０が変位されることで、変位部材Ｈ４２７９０の変位方向に変位され、第２変位部材Ｈ４３７９５が第１フィルムＨ４３７７４ｄの背面側に配置される場合には、第１フィルムＨ４３７７４ｄ側の中央フィルムＨ４３７７４ｃの略半分と第２変位部材Ｈ４３７９５が重なる位置に配置される。
【２２７３９】
これにより、第２フィルムＨ４３７７４ｅの中央フィルムＨ４３７７４ｃ側の略半分から中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光を正面側に出射できると共に、第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光を正面側に出射できる。
【２２７４０】
なお、中央フィルムＨ４３７７４ｃの左右方向における幅は、第１フィルムＨ４３７７４ｄ及び第２フィルムＨ４３７７４ｅの略２倍に設定されており、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光と、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅのどちらか一方を介した光とを遊技者に視認させる際に、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光の領域と、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光

の領域とを略同一にすることができる。
【２２７４１】
一方、図１９７９（ｃ）及び（ｄ）に示すように、第２変位部材Ｈ４３７９５が第１拡散部材Ｈ４３７７４の開口部Ｈ４３７７４ｆから第１拡散部材Ｈ４３７７４の外側へ張り出される場合には、第２変位部材Ｈ４３７９５が中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅと重ならない状態とされ、正面視において変位部材Ｈ４２７９０が第１拡散部材Ｈ４３７７４と重ならない位置に配置される。
【２２７４２】
これにより、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを介して正面側に出射されるそれぞれの光を遊技者に視認させることができる。
【２２７４３】
従って、第１５３実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５により、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅのうち２枚のフィルムを介して出射される光の形態や、全てのフィルムを介して出射される光の形態を形成することができる。これにより、例えば、２色または３色に発光される色を遊技者に視認されるまでに各フィルムの境界部分や各フィルムの全体で混ざり合わせることで、遊技者に複数の色を視認させることができる。その結果、基板部材Ｈ７７の光による演出効果を向上できる。
【２２７４４】
なお、上記第１５３実施形態では、第１拡散部材Ｈ４３７７４の正面側に３個のフィルムが配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、４個以上のフィルムから構成しても良いし、２個のフィルムにより基板部材Ｈ７７３から出射される光の色を変更しても良い。例えば、２個のフィルムにより基板部材Ｈ７７３から出射される光の色を変更する場合には、フィルムを介した色の光を遊技者にそのまま視認させて良い。
【２２７４５】
また、上記第１５３実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が変位部材Ｈ４３７９０の変位に連動される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４３７９５を変位するための駆動手段を別途配設しても良い。
【２２７４６】
さらに、上記第１５３実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを隣り合う状態で配設したが、それらフィルムの間に発光色を区画するための区画部材（例えば黒色のシール等）を配設しても良い。この場合には、区画部材により中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅから出射される光を区画することができるので、それぞれのフィルムを介して視認される色を区画することができ、隣り合う色同士が混ざることを抑制できる。
【２２７４７】
なお、本実施形態のように、区画部材を備えず、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを隣り合う状態で配設した場合には、それらの隣り合う領域を介して出射される光を混ぜることができる。これにより、複数の発光色を形成することができ、光による演出効果を向上できる。
【２２７４８】
また、第１５３実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０は、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで、変位部材Ｈ４３７９０が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）から離れる方向に変位されるように構成される。
【２２７４９】

これによれば、変位部材Ｈ４３７９０に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５を基板部材Ｈ７７３から離れる方向に変位させることができるので、第１拡散部材Ｈ７７４と基板部材Ｈ７７３との間を変位可能に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に近づける（基板部材Ｈ７７３から離す）ことができる。即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に貼付される各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に近づけることができる。よって、第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間の距離を狭めることができ、その対向間に光が入射することを抑制しやすくできる。その結果、各フィルムへの光の照射領域を区画しやすくできる。

【２２７５０】

次いで、図１９８０を参照して、第１５４実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０について説明する。上記第１１１実施形態では、揺動装置Ｈ７３０のベース手段Ｈ７７０が下枠部材Ｈ７２０に固定される場合について説明したが、第１５４実施形態では、揺動装置Ｈ４４７４０の変位部材Ｈ４４７９０が下枠部材Ｈ７２０に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２７５１】

図１９８０（ａ）は、第１５４実施形態における操作ユニットＨ４４１８０の断面模式図であり、図１９８０（ｂ）は、図１９８０（ａ）のＭＣＭＬＸＸＸｂ線における操作ユニットＨ４４１８０の断面模式図である。なお、図１９８０（ａ）では、操作ユニットＨ４４１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図１９８０では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２７５２】

図１９８０に示すように、第１５４実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に配設される変位部材Ｈ４４７９０と、その変位部材Ｈ４４７９０の背面側に軸支されるベース手段Ｈ４４７７０と、そのベース手段Ｈ４４７７０の背面側に配設される駆動手段Ｈ７８０と、を主に備える。

【２２７５３】

変位部材Ｈ４４７９０は、光を透過可能な無色透明な樹脂材料から形成されており、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース手段Ｈ４４７７０から出射される光を正面側に透過可能に構成される。また、変位部材Ｈ４４７９０は、正面側に向かって半球状に湾曲して形成される透過部Ｈ７９１と、その透過部Ｈ７９１の背面側の縁部３箇所から背面側に向かって突出する係合部Ｈ４４７９２と、を主に備える。

【２２７５４】

係合部Ｈ４４７９２は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１８７９参照）に係合された後、螺子により背面板Ｈ７２２に締結される部分であり、背面側の先端が背面板Ｈ７２２を超える長さに設定されると共に、先端が背面板Ｈ７２２と係合可能な鉤形状に形成される。

【２２７５５】

ベース手段Ｈ４４７７０は、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１を有する上側ベース部材Ｈ４４７７１と、下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を有する下側ベース部材Ｈ４４７７２と、上側ベース部材Ｈ４４７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ４４７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４と、を主に備え、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１が変位部材Ｈ４４７９０の係合部Ｈ４４７９２に軸支されることで、変位部材Ｈ４４７９０に対して回転可能に構成される。

【２２７５６】

なお、ベース手段Ｈ４４７７０の上側ベース部材Ｈ４４７７１及び下側ベース部材Ｈ４４７７２には、背面側に駆動手段Ｈ７８０が配設される。よって、駆動手段Ｈ７８０の駆動力により変位部材Ｈ４４７９０に対してベース手段Ｈ４４７７０が回転される。

【２２７５７】
第１５４実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０によれば、光を透過する変位部材Ｈ４４７９０（透過部Ｈ７９１）に対して、光を出射する基板部材Ｈ７７３を有するベース手段Ｈ４４７７０が変位されるので、第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０のように変位部材Ｈ７９０を変位させる場合に比べて、基板部材Ｈ７７３から出射される光の照射角度を大きくしやすくできる。
【２２７５８】
即ち、第１１１実施形態では、変位部材Ｈ７９０を透過させることで基板部材Ｈ７７３から出射される光の出射方向を変更することができなかったのに対して、第１５４実施形態では、光源の出射方向を変更することができるので、光の出射角度を変更しやすくできる。その結果、基板部材Ｈ７７３の光の照射角度を広くして、基板部材Ｈ７７３の光による演出領域を大きくすることができる。
【２２７５９】
なお、第１５４実施形態では、揺動装置Ｈ４４７４０を変位させる場合について説明したが、第１５４実施形態における変位部材Ｈ４４７９０を第１１１実施形態における変位部材Ｈ７９０に置き換えて（即ち、変位可能な変位部材Ｈ７９０として）、揺動装置Ｈ４４７４０と変位部材Ｈ７９０との両方を変位させても良い。なお、この場合、揺動装置Ｈ４４７４０と変位部材Ｈ７９０とのそれぞれを独立して変位可能とする構成とすることが好ましい。光を出射する基板部材Ｈ７７３に対して変位部材Ｈ７９０の位置を変位させて、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変更しやすくできるからである。
【２２７６０】
次いで、図１９８１を参照して、第１５５実施形態における操作ユニットＨ４５１８０について説明する。上記第１１１実施形態では、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３から出射される光をボタン部Ｈ１８１を介して出射する場合について説明したが、第１５５実施形態では、ボタン部Ｈ１８１に配設される第２基板部材Ｈ４５７１８の光をボタン部Ｈ１８１を介して出射する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２２７６１】
図１９８１（ａ）及び図１９８１（ｂ）は、第１５５実施形態における操作ユニットＨ４５１８０の断面模式図である。なお、図１９８１（ａ）及び図１９８１（ｂ）では、操作ユニットＨ４５１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図１９８１（ａ）は、傾倒装置Ｈ４５７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図１９８１（ｂ）では、傾倒装置Ｈ４５７１０が起立位置に配置された状態が図示される。なお、図１９８１では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２２７６２】
図１９８１に示すように、第１５５実施形態における操作ユニットＨ４５１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ４５７１０と、その傾倒装置Ｈ４５７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ４５７１０のリング部材Ｈ７１３（図１８７９参照）を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５（図１８７９参照）を介して傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０（図１８７９参照）と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。
【２２７６３】
傾倒装置Ｈ４５７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１

８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１８８８参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３（図１８８０参照）と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７（図１８８０参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４（図１８８０参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５（図１８８０参照）と、ボタン部Ｈ１８１の背面側であって軸部材Ｈ７１６の正面側に配設される第２基板部材Ｈ４５７１８と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。

【２２７６４】

なお、傾倒装置Ｈ４５７１０は、リング部材Ｈ７１３（図１８８０参照）を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置（図１９８１（ａ）に示す位置）と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置（図１９８１（ｂ）に示す位置）との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。

【２２７６５】

第２基板部材Ｈ４５７１８は、光を出射可能な発光手段Ｈ４５７１８ａを備え、その発光手段Ｈ４５７１８ａから出射される光をボタン部Ｈ１８１の上面に出射可能に形成される。なお、第２基板部材Ｈ４５７１８は、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で発光手段Ｈ４５７１８ａの光を出射可能に形成される。

【２２７６６】

また、ボタン部Ｈ１８１は、上述したように貝を模した形状に形成されており、図１９８１に示すように、上面に貝の装飾に沿った凹凸が形成される。よって、第１５５実施形態では、上面に対して鋭角となる方向（即ち、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向と異なる方向）からボタン部Ｈ１８１の装飾面（上面の凹凸）に光を照射することで、ボタン部Ｈ１８１の装飾を目立たせることができる。

【２２７６７】

即ち、第１５５実施形態では、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して直交する方向に近い方向から（鈍角となる交差角度で）光を入射させる基板部材Ｈ７７３と、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で光を入射させる第２基板部材Ｈ４５７１８とを備えることで、ボタン部Ｈ１８１の凹凸を介して視認される光の態様を変更することができる。その結果、光による演出効果を向上できる。

【２２７６８】

また、第１５５実施形態では、第２基板部材Ｈ４５７１８が傾倒装置Ｈ４５７１０に配設されるので、図１９８１（ｂ）に示すように傾倒装置Ｈ４５７１０が傾倒位置に配設された場合には、ボタン部Ｈ１８１の変位に伴って第２基板部材Ｈ４５７１８を変位させることができる。従って、傾倒装置Ｈ４５７１０の配置によって、基板部材Ｈ７７３から出射される光をボタン部Ｈ１８１に入射しにくくできると共に、第２基板部材Ｈ４５７１８から出射される光のボタン部Ｈ１８１へ入射量は略一定にすることができる。その結果、ボタン部Ｈ１８１の発光態様を複数形成することができ、光による演出効果を向上できる。

【２２７６９】

なお、第２基板部材Ｈ４５７１８は、傾倒装置Ｈ４５７１０でなく、例えば、下枠部材Ｈ７２０に配設され、傾倒位置または起立位置のどちらかにおける傾倒装置Ｈ４５７１０のボタン部Ｈ１８１に光を照射可能に構成されても良い。

【２２７７０】

また、第１５５実施形態では、ボタン部Ｈ１８１が光を透過可能に構成される場合について説明したが、ボタン部Ｈ１８１に光を反射可能な反射部材を設けて、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合には、ボタン部Ｈ１８１の反射部材により傾倒装置Ｈ７１０を介して揺動装置Ｈ７３０を遊技者から視認不能としつつ、ボタン部Ｈ１８１に設けた反射部材により基板部材Ｈ７７３から出射される光を正面側透過部Ｈ７１１側から出射す

るように構成しても良い。なお、傾倒装置Ｈ７１０を起立位置に配置した場合には、正面側透過部Ｈ７１１を介して揺動装置Ｈ７３０を遊技者に視認可能とすることができる。

【２２７７１】

次いで、図１９８２を参照して第１５６実施形態における操作ユニットＨ４６１８０について説明する。上記第１５５実施形態では、傾倒装置Ｈ４５７１０に第２基板部材Ｈ４５７１８が配設される場合について説明したが、第１５６実施形態では、第２基板部材Ｈ４６７４２が上枠部材Ｈ４６７４０に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２２７７２】

図１９８２（ａ）及び図１９８２（ｂ）は、第１５６実施形態における操作ユニットＨ４６１８０の断面模式図である。なお、図１９８２（ａ）及び図１９８２（ｂ）では、操作ユニットＨ４６１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図１９８２（ａ）は、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図１９８２（ｂ）では、傾倒装置Ｈ４６７１０が起立位置に配置された状態が図示される。さらに、図１９８２では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２２７７３】

図１９８２に示すように、第１５６実施形態における操作ユニットＨ４６１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ４６７１０と、その傾倒装置Ｈ４６７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ４６７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ４６７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５（図１８８０参照）を介して傾倒装置Ｈ４６７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０（図１８８０参照）と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。

【２２７７４】

傾倒装置Ｈ４６７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１８８８参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３（図１８８０参照）と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７（図１８８０参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４（図１８８０参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５（図１８８０参照）と、ボタン部Ｈ１８１の下面側にスライド変位可能に配設される変位部材Ｈ４６１８２と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。

【２２７７５】

なお、傾倒装置Ｈ４６７１０は、リング部材Ｈ７１３（図１８８０参照）を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。

【２２７７６】

変位部材Ｈ４６１８２は、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、ボタン部Ｈ１８１の下面に沿う板状に形成され、ボタン部Ｈ１８１にスライド変位可能な状態で配設される。また、変位部材Ｈ４６１８２には、一端が下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２に軸支されるリンク部材Ｈ４６１８２ａの他端が連結される。

【２２７７７】
このリンク部材Ｈ４６１８２ａにより傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位される駆動力に伴って、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１に対して引っ張られる。即ち、ボタン部Ｈ１８１に対し変位部材Ｈ４６１８２が追従して変位することをリンク部材Ｈ４６１８２ａにより規制して、ボタン部Ｈ１８１に対し変位部材Ｈ４６１８２を変位させることができる。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位される際に、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１に対して変位される。なお、第１５６実施形態では、図１９８２（ｂ）に示すように、ボタン部Ｈ１８１に対して変位部材Ｈ４６１８２が変位した際に、ボタン部Ｈ１８１の背面側（軸部材Ｈ７１６側）に形成した開口から変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１の外側に張出変位される。

【２２７７８】
また、変位部材Ｈ４６１８２は、ボタン部Ｈ１８１に対して張り出す側の端部からＬ字状に屈曲される屈曲部Ｈ４６１８２ｂと、レーザー加工等により変位部材の内部に凹凸加工される反射部Ｈ４６１８２ｃとを備える。

【２２７７９】
屈曲部Ｈ４６１８２ｂは、ボタン部Ｈ１８１に対して変位部材Ｈ４６１８２が内側に入り込み過ぎることを抑制する部分であり、ボタン部Ｈ１８１の背面側（軸部材Ｈ７１６側）に形成される開口の開口幅よりも厚く設定される。また、屈曲部Ｈ４６１８２ｂの屈曲先端面は、凹凸の少ない平坦面に形成され、後述する第２基板部材Ｈ４６７４２からの光を内部に導光可能に形成される。

【２２７８０】
上枠部材Ｈ４６７４０は、上面視において傾倒装置Ｈ４６７１０の側面側反射部Ｈ７１２の下端に屈曲形成される係合片Ｈ７１２ｂ（図１８７９参照）が引っかかる（上下方向に重なる）大きさの半円弧形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位した際に、傾倒装置Ｈ４６７１０が起立位置を超えて上方側に張り出し変位することを抑制できる。

【２２７８１】
また、上枠部材Ｈ４６７４０には、発光手段Ｈ４６７４２ａを有する第２基板部材Ｈ４６７４２が内側に配設される。第２基板部材Ｈ４６７４２は、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される状態において、第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光がボタン部Ｈ１８１に向けた状態で配設される。なお、第２基板部材Ｈ４６７４２は、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で発光手段Ｈ４６７４２ａの光を出射可能に形成される。

【２２７８２】
また、ボタン部Ｈ１８１は、上述したように貝を模した形状に形成されており、図１９８２に示すように、上面に貝の装飾に沿った凹凸が形成される。よって、第１５６実施形態では、上面に対して鋭角となる方向（即ち、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向と異なる方向）からボタン部Ｈ１８１の装飾面（上面の凹凸）に光を照射することで、ボタン部Ｈ１８１の装飾を目立たせることができる。

【２２７８３】
即ち、第１５６実施形態では、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して直交する方向に近い方向から（鈍角となる交差角度で）光を入射させる基板部材Ｈ７７３と、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で光を入射させる第２基板部材Ｈ４６７４２とを備えることで、ボタン部Ｈ１８１の凹凸を介して視認される光の態様を変更することができる。その結果、光による演出効果を向上できる。

【２２７８４】
さらに、第１５６実施形態では、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した場合に、図１９８２に示すように、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６１８２ｂが第２基板部材Ｈ４６７４２の正面側に配設される。これにより、第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光を変位部材Ｈ４６１８２の内部を透過させると共に、内部に形成した反射部により

所定の模様を表示することができる。
【２２７８５】
この場合、変位部材Ｈ４６１８２に表示される模様を、正面側透過部Ｈ７１１を介して遊技者に視認させることができる。従って、正面側透過部Ｈ７１１を介して揺動装置Ｈ７３０から出射される光を遊技者に視認させることができると共に、正面側透過部Ｈ７１１を介して変位部材Ｈ４６１８２に表示される模様を遊技者に視認させることができる。その結果、光による演出効果を向上できる。
【２２７８６】
なお、所定の模様としては、傾倒装置Ｈ４６７１０を遊技者に操作させるために表示する文字（例えば「押せ」）や、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態を表す表示（例えば「チャンス」や、キャラクター等の表示である。
【２２７８７】
さらに、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した場合には、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３から出射された光の一部を傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端側から入射させてボタン部Ｈ１８１の内部を透過させることができる。よって、ボタン部Ｈ１８１の上面に形成した装飾部（貝を模した凹凸）を発光させることができる。
【２２７８８】
即ち、第１５６実施形態では、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した状態において、基板部材Ｈ７７３の光と第２基板部材Ｈ４６７４２との光とで傾倒装置Ｈ４６７１０の異なる領域を発光させることができる。その結果、光による演出効果を向上できる。
【２２７８９】
なお、第１５６実施形態では、変位部材Ｈ４６１８２の内部に形成される反射部Ｈ４６１８２ｃは、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置された状態において第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光に対して、反射しにくい（そのまま透過させやすい）形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される場合には、変位部材Ｈ４６１８２が発光しにくく（模様を形成しにくく）して、変位部材Ｈ４６１８２が所定の変位をした場合にのみ、変位部材Ｈ４６１８２で光の演出をすることができる。
【２２７９０】
以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。
【２２７９１】
上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。
【２２７９２】
上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。
【２２７９３】
上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが傾倒と拡大とを合わせたような動作態様で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０の移動と移動部材Ａ４４０の移動とを利用して、左右方向にスライド移動する扉状の扉部材を移動させるようにしても良い。
【２２７９４】
この場合、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を基

礎板部材Ａ４３０の正面側に配置される第１扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第１支持部に支持させ、移動部材Ａ４４０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を移動部材Ａ４４０の正面側に配置される第２扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第２支持部に支持させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒動作と連動させる形で第１扉部材および第２扉部材を左右方向にスライド移動させることができる。

【２２７９５】

第１扉部材は第２扉部材よりも第３図柄表示装置８１の表示領域の外方側に配置され、第１扉部材および第２扉部材のスライド移動中において、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部は第１支持部を上下方向に案内され、移動部材Ａ４４０の回転先端部は第２支持部を上下方向に案内される。

【２２７９６】

この場合における第１扉部材および第２扉部材の左右位置および移動速度は、基礎板部材Ａ４３０及び移動部材Ａ４４０の回転先端部の左右位置および移動速度に対応する。そのため、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に基づいて移動する第１扉部材に対して、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に加えて移動部材Ａ４４０の長手方向の延びの分だけ移動量が大きくなることから、第１扉部材の移動速度よりも第２扉部材の移動速度を大きく構成することができる。

【２２７９７】

基礎板部材Ａ４３０が演出待機状態から張出状態へ向かうにつれて回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分が徐々に小さくなることから、第１扉部材が左右外側に退避する位置からの第１扉部材の左右方向の移動速度も徐々に小さくなるように構成される（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第１扉部材の左右方向の移動速度が徐々に小さくなる）。

【２２７９８】

一方、移動部材Ａ４４０の回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分も、基本的には張出状態へ向かうにつれて徐々に小さくなるが、移動部材Ａ４４０は傾倒終端側に近づくほど長手方向に延びる量が大きくなる。そのため、第２扉部材が左右外側に退避する位置からの第２扉部材の左右方向の移動速度は、移動部材Ａ４４０の延びが生じる傾倒終端側で大きくなる（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第２扉部材の左右方向の移動速度が駆動モータＭＴ１寄りに大きくなる）。

【２２７９９】

そのため、特に回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒終端側において、同時点における第１扉部材の移動速度と第２扉部材の移動速度とを大きく異ならせることができ、扉部材を利用した演出の演出効果を向上させることができる。

【２２８００】

なお、本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００と第２動作ユニットＡ５００とが左右一対で構成されているので、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００でそれぞれ扉部材を動かすように構成し、第３図柄表示装置８１の正面側で扉を閉める（左右の扉部材の移動方向先端側の縁部の間に正面視で隙間が無い状態とする）演出を実行可能な演出装置を構成しても良い。

【２２８０１】

また、第１動作ユニットＡ４００で左右方向に移動させる扉部材により第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。この場合において、第２動作ユニットＡ５００で左右方向に移動させる扉部材によっても第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。

【２２８０２】

本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の方が第２動作ユニットＡ５００の手前側に配置されるので、例えば、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材により第

３図柄表示装置８１の表示領域の全体が隠されている状態で、第２動作ユニットＡ５００の配置を遊技者に分からせない（隠す）ように構成することもできる。これにより、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材が第３図柄表示装置８１の手前側から退避するように動いたとしても、第２動作ユニットＡ５００により移動される扉部材によって第３図柄表示装置８１が隠されていたことで、第３図柄表示装置８１の表示を依然として見せない状態を構成することができる。これにより、遊技者の扉部材に対する注目力を向上させることができる。

【２２８０３】

上記第１０実施形態では、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、機能長孔Ａ４４４の形状により、移動部材Ａ４４０の長手方向への変位が先に生じ、その後で、移動部材Ａ４４０の長手方向と交差する方向への方向切替部材Ａ４５０の変位が生じたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能長孔Ａ４４４の形状を、第１平行部Ａ４４４ａを省略して、第１平行部Ａ４４４ａの長さ分だけ傾斜部Ａ４４４ｂの形成位置を移動部材Ａ４４０の回転先端側へ平行移動させ、同様に第２平行部Ａ４４４ｃも傾斜部Ａ４４４ｂの端部と連結されるように延ばすようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０の変位と方向切替部材Ａ４５０の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０の変位のみ生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【２２８０４】

また、傾斜部Ａ４４４ｂの回転軸棒ＡＪ１側端部から、回転軸棒ＡＪ１に近づくほど移動部材Ａ４４０の短手方向中心側へ向けて傾斜する長孔により形成される逆傾斜部が形成されるようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に広がる方向の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に近づく（中心側に寄る）方向の変位とが同時に生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【２２８０５】

上記第１０実施形態では、機能長孔Ａ４４４の形状が、一対が対称形状で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対を非対称で構成しても良い。この場合、左側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量と、右側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量とが異なる演出役物を構成することができるので、周囲の状況に合った変位態様を構成することができる（障害物に当たらないような変位量や変位タイミングを考慮して、左右で異なる変位を生じさせることができる）。

【２２８０６】

上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対する直線方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、回転動作ユニットＡ４００ｂに配設される別の回転部材が回転動作するように構成しても良い。この場合、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化とは異なる視認態様の変化を生じさせることができる。

【２２８０７】

上記第１０実施形態では、傾倒開始時において回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾倒開始時から回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化されるように案内長孔Ａ４１４の形状を設計することで、傾倒開始時における回転動作ユニットＡ４００ｂの動作抵抗を増加させることができるので、傾倒開始時の姿勢での回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢維持を容易とすることができる。

【２２８０８】
上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒方向動作および起き上がり方向動作の双方を駆動力により動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中位置からは駆動力の発生を解除して自重で傾倒を実行させるなど、駆動力によらない移動態様を実行可能としても良い。この場合、駆動力で動作させる場合と駆動力に因らずに動作させる場合とで、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作態様を異ならせ、動作のバリエーションを増やすことができる。更に、駆動の継続時間を短くすることができることから、駆動モータＡＭＴ１の耐用年数を延ばすことができる。
【２２８０９】
上記第１０実施形態では、基礎板部材Ａ４３０の正面側に移動部材Ａ４４０が部分的に重なるように配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０に回転先端方向へ延びる金属棒が配設されており、その金属棒の回転先端側に、金属棒の延びる方向にスライド変位可能に案内されるように移動部材Ａ４４０が配設されるようにすることで、基礎板部材Ａ４３０と移動部材Ａ４４０とが正面視で重ならないようにしても良い。この場合、基礎板部材Ａ４３０の正面側が移動部材Ａ４４０に隠されないので、基礎板部材Ａ４３０の正面側部分を演出に利用することができる。
【２２８１０】
上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応して生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、外形の変化の有無を切り替えるための別の駆動装置を用意しても良い。この駆動装置により、案内長孔Ａ４１４の形状を切り替えたり、機能長孔Ａ４４４の形状を切り替えたりすることにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応した回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の態様を複数種類用意することができる。
【２２８１１】
また別の駆動装置により、移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを駆動変位させるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢の変化が生じていない時に移動部材Ａ４４０及び方向切替部材Ａ４５０を同時に変位可能に構成しても良い。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが外形の変化を伴わずに傾倒終端に到達し、傾倒終端において別の駆動装置で移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを同時に駆動変位させることもできるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの演出効果の向上を図ることができる。
【２２８１２】
上記第１０実施形態では、駆動モータＡＭＴ１の動作速度を一定とし、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が漸減する態様で動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、角速度の減少量を考慮して、駆動モータＡＭＴ１の駆動速度を漸増させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が一定となる制御態様でも、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作を実行可能にしても良い。
【２２８１３】
上記第１０実施形態では、回転板部材Ａ６６２にかかる空気抵抗の変化により、回転板部材Ａ６６２の動作抵抗が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転板部材Ａ６６２にかけられる摩擦抵抗（例えば、移動方向と直交する方向から当接する板部材による接触抵抗）が変化するようにしても良いし、回転板部材Ａ６６２にかけられる粘性抵抗（例えば、ダンパ部材等による抵抗）が変化するようにしても良い。
【２２８１４】
上記第１０実施形態では、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０に挟まれる発光基板Ａ７２０からの光照射について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光基板の照射面側が前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の端面と対向配置されるように配置されても良い。

【２２８１５】
この場合において、前側板部材Ａ７３０（又は後側板部材Ａ７４０）には、発光基板Ａ７２０からの光照射（板の延びる方向に沿う方向への照射）が行われる一方、後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）へは、その後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）の光入射端面に光照射部の配置面が対向配置される別の発光基板（発光基板Ａ７２０に対して姿勢が９０度異なる発光基板）からの光照射が行われるように構成しても良い。これにより、発光基板Ａ７２０によっては対応が難しいと考えられる、前側板部材Ａ７３０又は後側板部材Ａ７４０の厚みが大きい場合にでも、適切な位置に光を入射させ易くすることができる。
【２２８１６】
上記第１０実施形態では、前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａと発光基板Ａ７２０とは間隔を空けて配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設部Ａ７５１ａが発光基板Ａ７２０に押圧力を付与し得る寸法関係で設計しても良い。この場合、発光基板Ａ７２０にかけられる押圧力を突設部Ａ７５１ａの数だけ分割させることができるので、発光基板Ａ７２０の配置を安定させることができる。
【２２８１７】
前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａは、光を拡散させることを一つの目的とし、それぞれ同形状で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、正面発光部Ａ７２４よりも左側位置（照射方向の逆側位置、前側板部材Ａ７３０の外方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率よりも、正面発光部Ａ７２４よりも右側位置（照射方向側の位置、前側板部材Ａ７３０の内方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率を大きくするように構成しても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０に近い側における突設部Ａ７５１ａの拡散角を小さくできるので、拡散した光が前側板部材Ａ７３０を広く照らしてしまい、ライン状溝部Ａ７３２によるライン状の光の視認性を低下させることを避けることができる。
【２２８１８】
上記第１０実施形態では、発光基板Ａ７２０には前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０に光を照射する発光部Ａ７２４，Ａ７２５が配設されることについて説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、発光基板Ａ７２０から前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部が配設されても良い。この場合、発光部Ａ７２４，Ａ７２５が発光基板Ａ７２０の端部付近に配設されていることから、発光部Ａ７２４，Ａ７２５から照射される光と干渉しない位置に前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部を設けることを容易とすることができ、光の干渉を避けることができる。
【２２８１９】
上記第１０実施形態では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状に合わせて前側板部材Ａ７３０のライン状溝部Ａ７３２が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ライン状溝部Ａ７３２を、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストとは別の図形やイラストの形状で形成しても良い。この場合、ライン状溝部Ａ７３２が発光される場合（ライン状溝部Ａ７３２の形状が発光される場合）と、ライン状溝部Ａ７３２が発光されない場合（薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストが見える場合）との見映えの違いを大きくすることができる。
【２２８２０】
なお、前側板部材Ａ７３０のみではなく薄肉樹脂板Ａ７４３にもライン状溝部Ａ７３２を形成するようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に前側板部材Ａ７３０を配置しても良い）。この場合に、背面発光部Ａ７２５にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、薄肉樹脂板Ａ７４３においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。
【２２８２１】
また、薄肉樹脂板Ａ７４３のみではなく前側板部材Ａ７３０にも特定のキャラクターや

ロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に後側板部材Ａ７４０を配置しても良い）し、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０の前後配置を逆にしても良い。

【２２８２２】

これらの各場合において、正面発光部Ａ７２４や背面発光部Ａ７２５の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、発光基板Ａ７２０の前側に配置される部材と後側に配置される部材とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。

【２２８２３】

上記第１０実施形態では、前カバー部材Ａ７５０から突設される部分により、前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が位置決めされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側板部材Ａ７３０から前後に突設される部分により、前カバー部材Ａ７５０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が位置決めされても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０から突設される部分の突設長さを短くすることができるので、組立中に前側板部材Ａ７３０を落とす等して誤って突設部分を破損する可能性を低めることができる。

【２２８２４】

また、後側板部材Ａ７４０から突設される部分により前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び前カバー部材Ａ７５０が位置決めされるようにしても良い。後側板部材Ａ７４０はライン状溝部が形成される部材とは異なるので、突設される部分の位置がライン状溝部により制限されることが無い。そのため、突設される部分の配置自由度を向上させることができる。

【２２８２５】

また、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置決めのみを行い、前カバー部材Ａ７５０との間では位置決めを行わないようにしても良い。この場合、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置は合わせたままで前カバー部材Ａ７５０を取り外すことができる。これにより、装飾部分としての前カバー部材Ａ７５０の取り替え（汚れた場合の取り替え、スペック変更に伴う取り替え等）を容易に行うことができる。

【２２８２６】

位置決めのために突設される部分の形成位置は、種々の態様が例示される。例えば、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定するのであれば前カバー部材Ａ７５０の後方位置に形成される方が良い。一方で、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定しないのであれば、締結部Ａ７３３がそうであるように、前カバー部材Ａ７５０の後方位置とは異なる位置に形成しても良い。

【２２８２７】

上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより、下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いで視認性を変化させる場合には、隣で遊技している遊技者に球の流下をのぞき見される可能性を低くできるという効果があるが、例えば、視認態様変化シートＡ８０６を、上下方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化するように構成する場合には、遊技者の後ろ側で立っている他者にのぞき見される可能性を低くできるという効果がある。

【２２８２８】

上記第１０実施形態では、前側部材Ａ８０３ｚの板状本体Ａ８０３ａの正面側に視認態様変化シートＡ８０６が貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設板Ａ８０３ｂの左右外側面に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２に対して左右

方向側からの方向視で視認する場合に、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し易い方向視と、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し難い方向視とをつくることができる。

【２２８２９】

上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、第３図柄表示装置８１の正面側に頭を配置した遊技者が横目で下流側案内部材Ａ８０３側を見る場合における球の視認性の低下について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置８１の表示面全体に視認態様変化シートＡ８０６と同様の機能を生じるシートを貼り付け、下流側案内部材Ａ８０３の正面側に頭を配置した遊技者が横目で第３図柄表示装置８１の表示を見難い（視認態様変化シートＡ８０６に遮光される）ように構成しても良い。この場合、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球に注目している状況において第３図柄表示装置８１の表示を視認させないことで遊技者の気を散らさないようにすることができ、更に、第３図柄表示装置８１から照射される光が遊技者に到達しないような構成とすることができるので、遊技者は、眩しい光を目に受ける状況を回避することができ、目を休めることができる。

【２２８３０】

上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、左側流路ＡＴＬ１を視認し難い場合を構成するようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、視認し難い場合を構成するのは右側流路ＡＴＬ２としても良いし、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２としても良く、その選択は任意である。右側流路ＡＴＬ２は第２入賞口６４０へ球を案内する流路であるところ、左側流路ＡＴＬ１の形状を変形して左側流路ＡＴＬ１を流下した球が特定入賞口６５ａへ案内されるように構成することで、視認態様変化シートＡ８０６の設計次第で、第２入賞口６４０へ案内される球のみを視認し易くしたり、特定入賞口６５ａへ案内される球のみを視認し易くしたりするといった演出が可能となる。

【２２８３１】

例えば、視認態様変化シートＡ８０６を左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆うように配置する前提において、左側流路ＡＴＬ１の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と左斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で右斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計され、右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と右斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で左斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計される場合、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くし、左斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は高くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くし、右斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は低くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くすることができる。

【２２８３２】

また、この場合において、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くするように構成しても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の両方共を同時に視認可能な状況を排除することができるので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方を同時に見たい遊技者に対して下流側案内部材Ａ８０３を上側から覗き込ませるという遊技をさせるように仕向けることができる。

【２２８３３】

視認態様変化シートＡ８０６の表面には、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状等の装飾を付すようにしても良い。

【２２８３４】

上記第１０実施形態では、流下する球の視認性を視認態様変化シートＡ８０６により変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後一対の光透過性板の間に光を非透過のルーバー板部が配置され、そのルーバーが首振り動作したり、撓んだりすることで、遊技者の視線を遮る場合と、透過させる場合とを切り替えられ

るようにしても良い。
【２２８３５】
　また、前後一対の非透過の板部材に開口が形成されており、例えば前側の板部材が後側の板部材に対して平行移動できるよう構成される場合に、各板部材に形成される開口の位置の正面視でのずれにより、前後の開口の内部を通る方向視については奥側を視認することができる一方で、前後いずれかの開口から外れる方向視については板部材に視線が遮られることで奥側を視認することができないように構成しても良い。
【２２８３６】
　上記第１０実施形態では、検出センサＳＥ１に球が検出されることで賞球が払い出される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球の払い出しは無くても良い。賞球の払い出しが無い場合の用途として、例えば、検出センサＳＥ１での球の検出に基づいて大当たり遊技の種類（ラウンド数等）を選択させるような遊技機への利用が想定される。このような遊技機では、大当たり遊技の種類を選択させるタイミング以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。
【２２８３７】
　また、賞球の払い出しが無い場合の別の用途として、例えば、検出センサＳＥ１が特定入賞口６５ａの下流側に配置され、大当たり遊技中に特定入賞口６５ａに入球した球の通過が検出された場合に大当たり終了後の遊技状態が所定の有利状態に移行するように制御される「Ｖ入賞口（特定領域）」として利用される遊技機への利用が想定される。このような遊技機では、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に球が案内されることは無いので、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。
【２２８３８】
　なお、大当たり中において、視認態様変化シートＡ８０６の正面位置に遊技者が頭を移動させれば、視認態様変化シートＡ８０６を透視して、その背面側の検出センサＳＥ１を視認することが可能となるので、大当たり遊技中において検出センサＳＥ１が見難いという不満を解消することができる。
【２２８３９】
　また、例えば、賞球の払い出しがある場合に、球の検出に対応して第３図柄表示装置８１において払い出し個数に対応した数字（「＋１」や「＋３」等）を表示するようにしても良い。この場合、遊技者は、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球を視認できない場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示から賞球の払い出しが生じたことを理解することができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。
【２２８４０】
　上記第１０実施形態では、補助導光板ユニットＡ８１０において、前側板部材Ａ８４０がライン状溝部Ａ８４２を備えることで光の輪郭を視認させるような光演出を可能とする一方で、後側板部材Ａ８５０にはライン状溝部Ａ８４２は形成されず、均一な面発光での光演出を行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２２８４１】
　例えば、前側板部材Ａ８４０のみではなく後側板部材Ａ８５０にもライン状溝部Ａ８４２を形成するようにしても良い。この場合に、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、後側板部材Ａ８５０においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。
【２２８４２】
　また、後側板部材Ａ８５０のみではなく前側板部材Ａ８４０にも特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良いし、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０の前後配置を逆にしても良い。

【２２８４３】
これらの各場合において、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７，Ａ８３３，Ａ８３７の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。
【２２８４４】
上記第１０実施形態では、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに平行とされるよう構成され、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７及びエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに放射状となる関係で構成される（進行方向先端側ほど隣の光軸との間隔が広がる態様で設定される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これらの光軸の関係を、逆にしても良い。
【２２８４５】
上記第１１実施形態では、案内長孔Ａ２４１４の直線状部が傾斜する方向に延びる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、直線状部の延びる方向が水平方向に延びるよう構成しても良い。この場合、往路と復路とでの動作抵抗の違いを小さくすることができる。
【２２８４６】
上記第１３実施形態では、導光変位部材Ａ４９２０を駆動させるソレノイドＡ４９４０を個別に用意する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物６４０ａの駆動装置を兼用しても良い。この場合、電動役物６４０ａの動作タイミングと導光変位部材Ａ４９２０の動作タイミングとを合わせ易くすることができる。
【２２８４７】
また、導光変位部材Ａ４９２０の代わりに、主には第３図柄表示装置８１の正面側に張り出す動作を行う可動役物（例えば、第１動作ユニットＡ４００）をセンターフレームＡ８６の内部領域を通してベース板Ａ６０の前側に張り出し可能に構成し、球の流路への視線を遮る位置まで移動可能に構成することで、可動役物を球の流路への視線を遮るために利用しても良い。この場合、可動役物に個別の駆動装置を、球の流路への視線を遮るための駆動装置に兼用すれば良いので、ソレノイドＡ４９４０を不要とすることができる。
【２２８４８】
上記第１３実施形態において、覆設部材Ａ４９３０の前側案内板部Ａ４９３１に特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストを形成するようにすれば、そのイラストによりライン状溝部Ａ４９２１ａを見え難くすることができる。これにより、発光手段Ａ４９３３ａを点灯させていない場合における球案内ユニットＡ４９００の見映えを良くすることができる。また、前側案内板部Ａ４９３１に形成されるイラストに対応した形状でライン状溝部Ａ４９２１ａを形成することで、演出効果を向上させることができる。
【２２８４９】
上記第１３実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、遊技者の視線が変化しなくても、導光変位部材Ａ４９２０が変位することで遊技者の視線と視認態様変化シートＡ８０６との相対的な位置関係が変化するので、遊技者が視線を変化させていないにも関わらず、導光変位部材Ａ４９２０の後方を流下する球の視認性を変化させる場合を生じさせることができる。
【２２８５０】
上記第１３実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１への光の入射、発光手段の個数や配置、点灯させる発光手段の選択、及び構造の設計に、第１０実施形態で説明した補助導光板ユニットＡ７００ｂや補助導光板ユニットＡ８１０の構造の全て又は全部を流用するようにしても良い。
【２２８５１】

上記第１４実施形態では、延設案内部Ａ５４３８に柱状突設部材Ａ５４４８が押進されることで移動部材Ａ５４４０に対して相対変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に基づいて歯合回転するギア及びラックと柱状突設部材Ａ５４４８とが連動するように構成することで、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に対応して柱状突設部材Ａ５４４８を変位させても良いし、柱状突設部材Ａ５４４８を駆動させるための駆動装置を回転動作ユニットＡ５４００ｂに配設させて駆動装置の駆動制御により柱状突設部材Ａ５４４８を駆動変位させても良い。

【２２８５２】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０に一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが連結（配設）され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０に一対の（二つの）係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが連結（配設）される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ或いは係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが省略されても良い。

【２２８５３】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが平面部Ｗ３２０，Ｗ４３２０，Ｗｅ３２０，Ｗｊ３２０，Ｗｍ３２０，Ｗｓ３２０の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂ側における正面に凹設され、正面視おいて、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設されても良い。

【２２８５４】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００の背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０において正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０と対向する側の面に立設部Ｗ２２２が立設されても良い。立設部Ｗ２２２が背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０における先端側（左壁部Ｗ５０２とは反対側）に配設されることにより、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００を取り外す際、立設部Ｗ２２２により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【２２８５５】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良く、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５

３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２（突出先端部）を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、傾斜部Ｗ５３２に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形させ易くさせる機能と封印シールＷＳＬを切断する機能とを兼用させることができ、製造コストを低減できる。

【２２８５６】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０が非成形とされ、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に受け入れ可能とされても良い。これにより、不正を行う者が誤って保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に係合させようと試み、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂと封印シールＷＳＬとを当接させ、封印シールＷＳＬを破損させる機会を付与できる。

【２２８５７】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、二つ以上（複数）の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが複数配設される場合、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａの少なくとも一つが第４２実施形態おけるカバー部Ｗｒ２１４の突起Ｗｒ２１４ｂによ

り係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第１６実施形態おける突起Ｗ２２１との係合を解除させるために突起Ｗ２２１に係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを弾性変形（変位）させることにより、第４２実施形態おける突起Ｗｒ２１４ｂに係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを突起Ｗｒ２１４ｂとの係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【２２８５８】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが一つ配設されても良く、三つ以上配設されても良い。係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが三つ以上配設される場合、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの少なくとも一つが第４３実施形態おける平面部Ｗｓ３２０の突起Ｗｓ３２８により係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第１６実施形態おける突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させるために突起Ｗ３１２ｃに係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、第４３実施形態おける突起Ｗｓ３２８に係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを突起Ｗｓ３２８との係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【２２８５９】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００における背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側には一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側には一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設され、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで異なる数の係合部が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで係合部が同数だけ配設されても良い。例えば、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが二つ配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側に係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが二つ配設されても良い。

【２２８６０】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの間に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの一方に重なる位置に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。即ち、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが上下方向において、一方に偏って配設されても良い。

【２２８６１】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、切欠き部Ｗ２２６，Ｗｅ２２６，Ｗ３２５，Ｗｅ３２５により形成される傾斜面が直線状に形成されても良く、封印シールＷＳＬの貼着面とは反対側へ向けて凹となる湾曲状に形成されても良い。

【２２８６２】

上記第１９実施形態では、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて四角錐状に突出して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、三角錐状等の多角錐状、円錐状、四角柱や三角柱状等の多角柱状、円柱状に形成されても良い。多角柱状や円柱状に形成される場合、封印シールＷＳＬの破断面を引きちぎった形状とでき、破断（破損）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、破断（破損）の痕跡を作業者に認識させ易くできる。

【２２８６３】

上記第１９実施形態から第２１実施形態、第４１実施形態および第４６実施形態におい

て、ボックスカバーＷ２００，Ｗ４２００，Ｗｑ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００に保護カバーＷ４５００，Ｗ５５００，Ｗｑ５００，Ｗｖ５００を取り付ける際、突起Ｗ４５３４，Ｗ５５３４，Ｗｑ５３４，Ｗｖ５３４により、封印シールＷＳＬが破損されても良い。

【２２８６４】

上記第２０実施形態および第２１実施形態において、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の一部が非形成とされても良い。例えば、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１において、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における一部が非形成とされる場合、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００への保護カバーＷ５５００の取り付けにおいて係合部Ｗ５５３０ｂの係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとが係合される前の状態、又は、またはボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００からの保護カバーＷ５５００の取り外しにおいて係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合が解除された後の状態では、保護カバーＷ５５００を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ変位可能とされる。これにより、突起Ｗ５５３４を封印シールＷＳＬに当接させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。

【２２８６５】

上記第２０実施形態および第２１実施形態において、保護カバーＷ５５００から切断された係合部Ｗ５５３０ｂの突起Ｗ５５３４を利用して封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、切断工具（図示せず）の携行を不要とでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易とできる。

【２２８６６】

上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）に延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの前半部分）まで伸びて形成されることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成することと、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制することを両立させることができる。

【２２８６７】

即ち、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断せずに係合部５５３０ｂを弾性変形させて突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された際には、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６に受け入れられるので、係合部５５３０ｂを突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成できる。一方で、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６の突起Ｗ３１２ｃとは反対側の内壁に当接されることで、係合部５５３０ｂの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制できる。

【２２８６８】

上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）において突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）へ延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの後半部分）まで伸びて形成されても良い。

【２２８６９】

上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限

るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）となる位置に形成されても良い。突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの途中に形成されても良い。

【２２８７０】

上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂの封印シールＷＳＬに対向する面または封印シールＷＳＬに対向する側とは反対側の面が封印シールＷＳＬに対し非平行に形成されても良い。

【２２８７１】

上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一方が対向する側とは反対側へ向けて凸となる曲面に形成されても良い。これにより、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の少なくとも一方に形成される曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【２２８７２】

上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一方が対向する側へ向けて凹となる曲面に形成されても良い。

【２２８７３】

上記第２３実施形態では、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の一方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成され、一対の側面の他方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し直交して形成されても良い。

【２２８７４】

上記第２４実施形態において、断面視では、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２が略楕円形に形成されても良い。これにより、曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【２２８７５】

上記第２４実施形態において、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の境界に段部が形成される（第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２とが直接連結される）場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２との間に、滑らかに連結する連結部が介設されても良い。即ち、介設部は、第１部Ｗ９５３１ｂ１から第２部Ｗ９５３１ｂ２へ向かうに従い、その介設部の断面形状が第１部Ｗ９５３１ｂ１の断面形状から第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面形状に徐々に変化する形状の部位として形成される。これにより、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の連結部に応力集中が生じることを抑制でき、連結片ＷＶ９５３１ｂの強度を確保できる。また、介設部により切断工具を第２部Ｗ９５３１ｂ２から第１部Ｗ９５３１ｂ１へ向けて変位させ易くできる。

【２２８７６】

上記第２４実施形態において、係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形された場合、第１部Ｗ９５３１ｂ１により封印シールＷＳＬを破損させても良い。

【２２８７７】

上記第２５実施形態において、切断部Ｗａ５５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の略中央から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ偏った位置に配設され、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた場合、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設されても良い。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断され、保護カバーＷａ５００が封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた状態においても、封印シールＷＳＬが切断させることを抑制できる。一方で、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷａ５００

を取り外し、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢で保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられることにより切断部Ｗａ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設でき、切断部Ｗａ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断できる。その結果、不正を行う者に切断部Ｗａ５５０を利用させ難くできる。

【２２８７８】

上記第２５実施形態では、切断部Ｗａ５５０が鋸刃状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、直線状に形成されても良く、切断部Ｗａ５５０の突出先端部が、０度から１８０度までのｓｉｎ波を連結した形状から形成されても良い。なお、切断部Ｗａ５５０が直線状に形成される場合、封印シールＷＳＬに対し平行に形成されても良く、少なくとも一部が傾斜して形成されても良い。切断部Ｗａ５５０が封印シールＷＳＬに対し平行に形成されることにより、封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。

【２２８７９】

上記第２５実施形態では、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状の全体が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れられ、封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、平面部Ｗ２２０側および平面部Ｗ３２０側における封印シールＷＳＬが一部において連結されても良い（少なくとも一部が切断されれば良い）。言い換えると、切断部Ｗａ５５０により封印シールＷＳＬにミシン目（上下方向において、所定の間隔を隔てて切断部と連結部とが形成される形状）が形成されても良い。これにより、封印シールＷＳＬを切断（平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離）させ易くできる。一方で、封印シールＷＳＬに形成される連結部を切断（破断）させる際、その破断面を引きちぎった形状とでき、切断（破断）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、切断の痕跡を作業者に認識させ易くできる。また、保護カバーＷａ５００を側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより封印シールＷＳＬにミシン目を形成することを容易に行うことができる。

【２２８８０】

上記第２６実施形態では、刃部Ｗｂ５５２が円錐状に形成される先端部を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではい。例えば、刃部Ｗｂ５５２の先端部が円柱状に形成され、刃部Ｗｂ５５２の先端部における断面形状が突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において一定とされても良い。言い換えると、刃部Ｗｂ５５２の先端部が鋭利に形成されなくても良い。これにより、刃部Ｗｂ５５２を用いて封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。また、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角錐や四角錐等の多角錐状に形成されても良く、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角柱や四角柱等の多角柱状に形成されても良い。

【２２８８１】

上記第２６実施形態から第２９実施形態、第３３実施形態および第４９実施形態において、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０における封印シールＷＳＬが貼着される面（ガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを沿わせる面）に凹凸が形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０に沿ってガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを一対の両端壁部Ｗ２２３の一方から他方へ向けて変位させた場合、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの一端と

他端との間において封印シールＷＳＬに形成される破断面の位置を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変化させることができる。その結果、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。

【２２８８２】

上記第２８実施形態において、立設部Ｗｄ５４０と係合孔Ｗ５３３との嵌合（係合）に加え、保護カバーＷｄ５００が係合部Ｗｄ５３０ａを係合するための係合部を備えても良い。例えば、保護カバーＷｄ５００の背面壁部Ｗ５１０に係合部が形成され、係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａとは反対側（傾斜部Ｗ５３２側）の端部が背面壁部Ｗ５１０に形成される係合部に係合されても良い。これにより、保護カバーＷｄ５００の異なる２箇所において係合部Ｗｄ５３０ａを係合でき、保護カバーＷｄ５００に対する係合部Ｗｄ５３０ａの取り付けを強固にできる。また、係合部Ｗｄ５３０ａの姿勢を維持し易くできる。その結果、係合部Ｗｄ５３０ａを用いることによる封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。

【２２８８３】

上記第３４実施形態では、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０（第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０）が平面部Ｗｊ２２０に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が平面部Ｗｊ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、規制状態において、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が係合部Ｗｊ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側となる位置に配設されても良い。ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０と係合部Ｗｊ５３０ａとが係合される。ボックスカバーＷｊ２００は、カバー部Ｗｊ２１４及び弾性変形規制手段Ｗｊ２３０を備えるため、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０がボックスベースＷｊ３００に形成されることにより、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【２２８８４】

上記第３５実施形態において、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに非当接とされても良い（係合部Ｗ５３０ｂ２が弾性変形されなくても良い）。これにより、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とが異なる方向にそれぞれ弾性変形されることを抑制できる。その結果、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）の弾性変形量を小さくでき、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）破損させ難くできる。

【２２８８５】

上記第３５実施形態では、カバー部Ｗｋ３１２の係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスベースＷｋ３００に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係止部Ｗｋ３１２ｆが側壁部Ｗ２１２の正面側（矢印Ｆ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、規制状態において、係止部Ｗｋ３１２ｆが係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部に当接される位置に配設されても良い。ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接される。ボックスベースＷｋ３００は、カバー部Ｗｋ３１２を備えるため、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスカバーＷ２００に形成されることにより、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【２２８８６】

上記第３５実施形態において、保護カバーＷ５００に係合部Ｗ５３０ｂ１又は係合部Ｗ５３０ｂ２が２箇所以上に形成され、ボックスベースＷｋ３００に突起Ｗ３１２ｃ又は突起Ｗｋ３１２ｃが２箇所以上に形成されても良い。例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ２が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ２の間に係合部Ｗ５３０ｂ１が形成される場合、係合部Ｗ５３０ｂ１

のボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）への弾性変形が係合部Ｗ５３０ｂ１の両端において抑制され易くでき、係合部Ｗ５３０ｂ１が不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。また、例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ１が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ１の間に係合部Ｗ５３０ｂ２が形成される場合、背面視において、係合部Ｗ５３０ｂ２を係合部Ｗ５３０ａに重なる位置に配設できる。これにより、係合部Ｗ５３０ａを不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。

【２２８８７】

上記第３６実施形態において、連結部Ｗｌ５３５に切欠きが形成されても良い。これにより、連結部Ｗｌ５３５を回転させ（捩じられ）易くできる。

【２２８８８】

上記第３７実施形態では、規制突起Ｗｍ２２８が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、規制部Ｗｍ３３４の下方に配設されても良い。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。

【２２８８９】

上記第４３実施形態では、一対の突起Ｗｓ３２８を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、一対の突起Ｗｓ３２８の一方（他方）のみが形成され、一対の突起Ｗｓ３２８の他方（一方）に対応する位置には、第１６実施形態における突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。言い換えると、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における一方（他方）には突起Ｗｓ３２８が形成され、他方（一方）には突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。これにより、保護カバーＷ５００の一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とで弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗｓ３２８（突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除させるために一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、他方（一方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗ３１２ｃ（突起Ｗｓ３２８）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【２２８９０】

上記第４４実施形態において、突部Ｗｔ２２４ｂに形成される一対の切欠きＷｔ２２４ｂ１に突部Ｗｔ２２４ｂどうしを連結する連結部が形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂの強度を確保できる。

【２２８９１】

上記第４４実施形態では、突部Ｗｔ２２４ｂが断面視において、略矩形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、平面部Ｗｔ２２０とは反対側へ向けて凸となる湾曲状に形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂに封印シールＷＳＬを貼着させ易くできる（突部Ｗｔ２２４ｂから封印シールＷＳＬが剥がれ難くできる）。

【２２８９２】

上記第４４実施形態では、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成されても良く、大きく形成されても良い。

【２２８９３】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成される場合、突部Ｗｔ２２４ｂに貼着された封印シールＷＳＬが連結片Ｗ５３１ｂにより遮蔽され、不正を行う者から視認不能とできる。これにより、不正を行う者が切断工具により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【２２８９４】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも大きく形成される場合、切断工具の先端を連結片Ｗ５３１ｂの一対の側面に対向させることにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する操作を行うことなく切断工具を封印シールＷＳＬに当接させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。
【２２８９５】
上記第４６実施形態において、凹部Ｗｖ２２９が一対の突起Ｗｖ５３４とは反対側（矢印Ｄ方向側）へ向けて延びて形成されても良い。これにより、保護カバーＷｖ５００から分離された係合部Ｗｖ５３０ａをボックスカバーＷｖ２００から取り外す際、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として突起Ｗｖ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転され、突起Ｗｖ５３４が封印シールＷＳＬに当接した状態を維持しつつ係合部Ｗｖ５３０ａを凹部Ｗｖ２２９の延びる方向（矢印Ｄ方向）へ向けて変位させることができる。その結果、封印シールＷＳＬに形成される痕跡（破損）を大きくできる。
【２２８９６】
上記第４８実施形態において、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２が異なる樹脂材料を用いて二色成形により成形されても良い。例えば、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１が第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも高い剛性を有する樹脂材料を用いて成形される場合、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１の形状（第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも正面壁部Ｗ５２０から背面壁部Ｗ５１０へ向かう方向における寸法が大きく形成される形状）に加え、剛性の高い樹脂材料を用いて成形されるため、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を一層回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【２２８９７】
上記第４８実施形態では、連結片Ｗｘ５３１ｂが断面視において、略Ｌ字状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、略コ字状に形成され、開放される側が封印シールＷＳＬに対向する姿勢で配設されても良い。これにより、切断中において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における連結片Ｗｘ５３１ｂの切断抵抗を変化させることができ、切断工具（図示せず）を回転させ易くできる。
【２２８９８】
上記各実施形態では、第１入賞口６４に入球した球が可動の電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４に入球した球の流下経路に、球の流下のランダム性を上昇させるための釘が配設し、釘との衝突により確率で球が第２入賞口６４０側に案内されるようにしても良い。
【２２８９９】
上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作は、普通図柄の抽選により決定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、パチンコ機１０の電源投入から一定パターンで動作するように制御されるものでも良い。この場合、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５に対する注目力を向上させることができる。
【２２９００】
また、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が一定動作する場合において、スルーゲート７６５や検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を依然として配置するようにしても良い。例えば、球の通過が検出されることにより、第３図柄表示装置８１や音響装置やＬＥＤ等により、球が通過したことを遊技者に報知するように制御しても良い。この場合、球が電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の近くを流下するタイミングであることを遊技者が把握し易くすることができる。
【２２９０１】
上記各実施形態では、普通図柄の抽選を保留可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、普通図柄の抽選が保留されず、普通図柄の変動中に普通入賞口６６等で球の通過が検出されたとしても、普通図柄の抽選がされないよ

うに構成しても良い。
【２２９０２】
上記各実施形態では、球の流下経路の分岐位置にシーソー部材７６２又は振分け部９８３が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分岐位置に釘を配置しても良いし、分岐位置に樹脂材料から形成される突設部を配置しても良い。これらと球とが衝突することで、球の流下経路を分岐させることができる。この場合、球が交互に流下する場合だけでなく、片側に連続で流下する場合（タイミング）を生じさせることができる。
【２２９０３】
上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作時間を、０．５秒～３秒程度の短い時間で設定したが、必ずしもこれに限れるものではない。例えば、通常状態における普通図柄の抽選の内の約１０％の確率で、３秒よりも長い時間（例えば、５秒間）において、電動役物６４０ａが進入状態で維持され、又は、羽部材９４５が開放状態で維持されるような長開放作動パターンで動作されるよう設定しても良い。
【２２９０４】
長開放作動パターンで動作されている場合、第１入賞口６４に入球した球を電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内し易くすることができる。そのため、長開放作動パターンで動作している時に発射した球（１分に１００球が上限という発射間隔から考えて限られた球数の球）の内、第１入賞口６４に入球した球が、第２入賞口６４０側へは案内されないという事態を回避することができる。
【２２９０５】
長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作している場合には、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５にめがけて球を発射する方が、特別図柄２の抽選を獲得し易いので遊技者にとって有利である。そのため、長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作開始する前に、第３図柄表示装置８１や、音響装置や、ＬＥＤ等の手段により、遊技者に電動役物６４０ａ又は羽部材９４５めがけて球を発射させるように、予め報知するように制御しても良い。
【２２９０６】
報知は、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の配置次第で変更されるものであるが、第５０実施形態では、右打ちを示唆するよう報知する方が、球が電動役物６４０に到達し易いので望ましい。
【２２９０７】
一方、第５１実施形態では、左打ち又は右打ちのどちらで球を発射しても羽部材９４５に到達し易さに差は無いが、それまでの発射状態を継続する意味で、左打ちを示唆するように報知する方が望ましい。なお、通常状態から右打ち遊技を行う遊技者向けに、発射を継続させるような内容で報知しても良い。
【２２９０８】
上記第５０実施形態では、センサＳＥで通過が検出されることにより特別図柄１の抽選を獲得可能とされ、第２入賞口６４０を球が通過して下流側のスイッチに球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側のセンサＳＥで通過が検出される場合および第２入賞口６４０の下流側のスイッチで球が検出される場合に特別図柄１の抽選を獲得可能とし、右側のセンサＳＥで通過が検出される場合に特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。
【２２９０９】
この場合、シーソー部材７６２により球が右側に流された場合に、電動役物６４０ａの退避状態において球が第１送球経路ＫＲ１を通過した方が遊技者の利益が大きくなるという遊技性を構成することができる。
【２２９１０】
上記第５０実施形態では、シーソー部材７６２の回転動作（左右傾倒動作）が０．５秒よりも短い時間で完了する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例

えば、回転軸部のクリアランスを小さくする等して、動作抵抗を増加させ、シーソー部材７６２の回転動作にかかる時間を１．０秒以上に設定しても良い。この場合、第１入賞口６４に球が連球で入球したとしても、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されたことによる変動表示が終了してから、次の球がシーソー部材７６２により左側に流されるという遊技性を構成することができる。

【２２９１１】

上記第５０実施形態では、案内部７４２が上側突出部７４１の内部に形成される流路の左右中央位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内部７４２が左右に並列されるよう構成しても良い。この場合、互いの突出先端面は、互いの対向する面に近づくほど、基部側に向かって傾斜して形成されるようにすることで、２つの案内部７４２と当接して案内（背面側に折り返し）される球が、左右方向に位置ずれすることを効果的に抑制できる。

【２２９１２】

上記第５０実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）７６５と屈曲部材７４０との間が樹脂製の経路でつながれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、釘で球を案内する経路を構成しても良い。この場合、球の流下速度をばらつかせることができる。

【２２９１３】

上記第５０実施形態では、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が平行な直線形状溝として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が、非平行でも良い。また、湾曲経路で形成されても良い。湾曲の場合は、金属レールのように球の下側の案内面が湾曲する態様でも良いし、前後に蛇行する態様で湾曲するものでも良い。

【２２９１４】

上記第５０実施形態では、移動板部材６４１が進入状態の時に左側案内部６４５が覆設板部７１１の正面側に配置され、その上面を球が転動可能となる場合を説明した。この場合において、覆設板部７１１の正面側に球の転動経路と交差する方向に延びる突条が突設されても良い。これにより、左側案内部６４５の上面を転動する球を突条に衝突させることによる球の減速を図ることができる。

【２２９１５】

上記第５０実施形態では、右側案内部６４３により右側に流された球は漏れなく第２球送球部７３６に受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３が第２球送球部７３６の上側位置まで延長して形成されており、第２球送球部７３６の右隣に一般入賞口６３が配設されるようにしても良い。

【２２９１６】

この場合、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が退避状態に変化すれば球は第２球送球部７３６に受け入れられるが、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が依然として進入状態で維持される場合には、球は第２球送球部７３６を右側に通過し、一般入賞口６３に受け入れられる。

【２２９１７】

即ち、右側案内部６４３により球が右側に流された時点では、球が第２球送球部７３６に案内されるのか、一般入賞口６３に案内されるのか判別できないので、球に対する注目力を向上させることができる。

【２２９１８】

上記第５０実施形態では、大当たり種別に対応した電動役物６４０ａの作動パターンが一つで制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり種別に対応して複数の作動パターンが予め設定されており、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球通過検出時にいずれの作動パターンで制御されるかが確率で選択され、選択された作動パターンで電動役物６４０ａの動作が実行されるようにしても良い。

【２２９１９】
上記第５０実施形態では、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンか第２の作動パターンで設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第４の作動パターンとなる場合を含むようにしても良い。この場合、高確率状態なのか、低確率状態なのかの判別をし難くすることができる。
【２２９２０】
上記第５０実施形態では、第１入賞口６４に入球した球がシーソー部材７６２を経由して下流側に流れる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、シーソー部材７６２及び左側流路の形成を省略するようにしても良い。即ち、第１入賞口６４及び右側経路のみから流路が構成去れるようにしても良い。
【２２９２１】
この場合、連球で入球する場合を排除し難くなるが、例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体であって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設して、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。
【２２９２２】
即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。
【２２９２３】
上記第５０実施形態では、第１入賞口６４に入球した球は、右側案内部６４３に乗り、左側案内部６４５とは反対側に流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３の傾斜が左側案内部６４５側に下降傾斜する形状とされ、第１入賞口６４に入球した球が右側案内部６４３から左側案内部６４５側に流れ、第１球送球部７３４に案内されるように構成しても良い。
【２２９２４】
この場合、十分長く移動板部材６４１が進入状態で維持された場合に、第１送球経路ＫＲ１に配置されていた球を第１球送球部７３４に案内することができ、特別図柄２の抽選を獲得することができる。
【２２９２５】
一方で、移動板部材６４１の進入状態が短い場合には第１球送球部７３４と屈曲部材７４０との間に球が落下することになるが、この位置に、球を受け入れることで遊技者に所定の利益を付与する受入口を配置しても良い。
【２２９２６】
その受入口に球が入球した場合における利益は、賞球の払い出しでも良いし、特別図柄１又は特別図柄２の抽選でも良いし、普通図柄の抽選でも良いし、転落抽選（高確率状態から低確率状態へ遊技状態を変化させる抽選）でも良いし、その他の利益でも良い。いずれにせよ、移動板部材６４１の上面を転動する球に対する注目力を向上することができる。
【２２９２７】
なお、右側案内部６４３の右端からより右側に上昇傾斜するように板を延長して、屈曲部材７４０の右側において落下した球を受け止め可能に構成しても良い。この場合において、屈曲部材７４０の右側から移動板部材６４１の上面を転動する球が第１送球経路ＫＲ１に到達するように構成される場合、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている状態で移動板部材６４１が退避状態となるように動作することで、球が第１送球経路ＫＲ１で落下してセンサＳＥに検出され、特別図柄１の抽選を獲得可能となる。
【２２９２８】
上記第５０実施形態では、遊技領域の左側に普通入賞口（スルーゲート）６６が配設さ

れる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側に配置される普通入賞口（スルーゲート）６６の配設を省略しても良い。この場合、左打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）７６５に限定され、右打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）６７，７６５とされる。

【２２９２９】

即ち、左打ちで球を発射させることで、電動役物６４０ａの動作を普通入賞口（スルーゲート）７６５での普通図柄の抽選による動作に限定することができるので、第１の作動パターン又は第２の作動パターンで電動役物６４０ａが動作する場合に、右側案内部６４３に案内されずにセンサＳＥに検出される事態の発生を回避し易くすることができる。

【２２９３０】

一方で、右打ちで球を発射させた方が、普通図柄の抽選は獲得し易いので、遊技効率を上げやすい。即ち、遊技者は、遊技効率は低下するがセンサＳＥに球が検出される事態の発生を回避し易いように遊技を実行するか、遊技効率は上がるがセンサＳＥに球が検出される可能性が若干上がる遊技を実行するか、好みで選択することができる。

【２２９３１】

上記第５０実施形態では、移動板部材６４１が屈曲部材７４０の外方まで張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側案内部６４５の形成が省略されても良い。この場合において、第２球送球部７３６を第２入賞口６４０として機能させても良い。

【２２９３２】

上記第５０実施形態では、右側案内部６４３へ球が振分け部材７６０により形成される経路から案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板６０の正面側から右側案内部６４３に案内されるものでも良い。この場合、右側案内部６４３の左端部から同一傾斜で左側に板部が延設され、その板部の上面を転動する球が屈曲部材７４０の内部に進入できるように屈曲部材７４０の左側面に開口を形成すればよい。

【２２９３３】

上記第５０実施形態では、移動板部材６４１の上面を転動し左右異なる方向に転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５の下端側において球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良いし、第２送球部７３６の後方に球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。

【２２９３４】

即ち、第２傾斜溝７５７の形成を省略する等して、左側案内部６４５の上面を転動した球を検出する位置と、右側案内部６４３の上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。

【２２９３５】

上記第５１実施形態では、羽部材９４５の上面を前後異なる位置で転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３分岐通路ＢＫ３の後方に球通過孔が形成され、その下流側に検出装置が配設され、その検出装置により球の通過が検出されることで、検出装置ＳＥ６と同様に、特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。

【２２９３６】

即ち、送球孔９４１ｋ及び送球開口９８２ｋの形成を省略する等して、羽状本体９４５ｍの上面を転動した球を検出する位置と、板状部９４５ｅの上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。

【２２９３７】

上記第５１実施形態では、板状部９４５ｅが羽部材９４５の回転先端側で羽状本体９４５ｍに連結固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば

、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転基端側に形成されても良いし、回転径方向の中間位置で形成されても良い。特に、延設部９４５ｄの回転基端側に形成される場合には、第４貫通孔９４１ｊや回転許容開口９８２ｍの形成幅を小さくすることができ、孔形成に伴い生じる背面ベース９４１や膨出部９８２の強度低下を最小限に抑えることができる。

【２２９３８】

なお、板状部９４５ｅに球が乗る場合、延設部９４５ｄを起点として板状部９４５ｅは撓み変形される可能性があるが、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転先端側に形成されている場合には、板状部９４５ｅが撓み変形から弾性回復する際に生じる弾性力が、球を第３分岐通路ＢＫ３側へ入れ込む方向で生じる。これにより、板状部９４５ｅの上面に到達した球を安定して第３分岐通路ＢＫ３側へ案内することができる。

【２２９３９】

上記第５１実施形態では、一対の羽部材９４５の両方に延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の羽部材９４５にのみ延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成されても良い。

【２２９４０】

上記第５１実施形態では、羽部材９４５の開放状態において、羽状本体９４５ｍの転動面と、板状部９４５ｅの転動面とが、同一の傾斜面で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの傾斜角度の方が、羽状本体９４５ｍの傾斜角度に比較して、浅い（水平との角度が小さい）ように形成しても良い。

【２２９４１】

この場合、羽状本体９４５ｍを転動する球の速度の方が、板状部９４５ｅを転動する球の速度よりも速くなり易くすることができる。そのため、前後に配置された球が正面視で重なった状態が維持される事態を回避し易くすることができる。

【２２９４２】

また、羽状本体９４５ｍに１個の球が乗っている場合に比較して、板状部９４５ｅに１個の球が乗っている場合の方が、球から羽部材９４５にかけられる動作抵抗が大きくなるようにすることができ、羽部材９４５の動作速度を低下させることができる。

【２２９４３】

また、羽部材９４５が前後方向のスライド移動で出没するよう構成される場合において、同様に、羽状本体９４５ｍの傾斜角度と板状部９４５ｅの傾斜角度とを異ならせても良い。この場合、板状部９４５ｅ及び羽状本体９４５ｍに同時に球が乗った場合であっても、羽部材９４５の動作長さによっては、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの一方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する一方で、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの他方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する前に落下する状態を生じさせることができる。

【２２９４４】

上記第５１実施形態では、羽部材９４５の開放状態における羽状本体９４５ｍの上面近傍から延設部９４５ｄが延設されることで羽状本体９４５ｍの上面と板状部９４５ｅの上面とが前後で重なって見える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの上面と、羽状本体９４５ｍの上面とを、上下でずらすように形成しても良い。この場合、板状部９４５ｅに球が乗っている状態で羽状本体９４５ｍに球が乗ったとしても、その上下位置にずれがあるので、前側の球で後側の球が完全に隠される事態を回避し易くすることができる。

【２２９４５】

上記第５１実施形態では、板状部９４５ｅが左右対称位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、羽状本体９４５ｍを左右対称形状としながら、左側の板状部９４５ｅよりも右側の板状部９４５ｅの方が上側に配置される（左右非対称で配置される）ように構成しても良い。この場合、正面から見易い羽状本体９４５ｍの見映えは左右対称を維持しながら、その背面側においてに配設される板状部９４５ｅの上面を転動する球の流下経路を左右非対称とすることができる。これにより、対称

線上に球が到達した場合に左右方向の負荷がバランスして球詰まりが生じる事態を回避し易くすることができる。

【２２９４６】

上記第５１実施形態では、磁性体９８８ｂ，９８８ｃを利用して振分け部９８３の動作抵抗を設計し、球の流下間隔の最短側を規定する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体であって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設しても良い。この場合、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。

【２２９４７】

即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。

【２２９４８】

上記第５３実施形態では、上流側案内部４６４５の傾斜面４６４５ａと右側案内部６４３の傾斜面６４３ａとが、同一傾斜である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２２９４９】

例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも大きくしても良い。この場合、傾斜面４６４５ａ上を転動する球の右側への加速を大きくすることができるので、第１送球経路ＫＲ１に球が配置されている状態で電動役物４６４０ａが退避状態となったとしても、勢いで第２球送球部７３６側に流れるという状態を構成することができる。即ち、右方向の加速が大きくなることで、球が回収孔７５２に流下する事態を回避し易くすることができる。この意味で、第１入賞口６４に入球した球に比較して、傾斜面４６４５ａを転動して流下する球の方が、第２球送球部７３６に入球し易くすることができる。

【２２９５０】

また、例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも小さくしても良い。この場合、傾斜面６４３ａ上に球が滞在する時間を長くすることができるので、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている時に電動役物４６４０ａが退避状態に変化し、球が回収孔７５２に流下する事態が生じ易くなる。

【２２９５１】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００の動作を複数態様で制御することで、入賞ユニットＢ４００の内部を通る球が、ほぼ第２入賞口Ｂ６４０に案内される状態と、ほぼ第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される状態とを切り替え可能とされることを利用して、大当たり遊技後の遊技状態として、小当たり遊技が頻繁に生じる（ほぼ毎回の特別図柄の変動で生じる）よう設定され、小当たり遊技において開放された特定入賞口Ｂ６５ａに球を入賞させることで大当たり遊技に移行される前から多量の賞球の払い出しを受けることができる特殊確変状態と、小当たり遊技は頻繁には生じない確変状態とを構成可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、小当たり遊技が頻繁に生じるような設定とはされず（必ずしも特定入賞口Ｂ６５ａは必要とはされず）、入賞ユニットＢ４００を利用して、特別図柄１の抽選を受けるための入賞口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）側に球を案内し易い状態と、特別図柄２の抽選を受けるための入賞口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）側に球を案内し易い状態とで切り替え可能とされても良い。

【２２９５２】

この場合、大当たり遊技終了後に移行される遊技状態において、遊技としては入賞ユニットＢ４００へ向けて球を発射するという共通の遊技態様としながら、大当たりを獲得した場合に期待される大当たりの大当たり種別の振分けを変えられるパチンコ機を構成することができる。

【２２９５３】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００が、第２入賞口Ｂ６４０にも第３入賞口Ｂ６４ｂにも球を案内し難い第１の作動パターンか、第３入賞口Ｂ６４ｂに球を案内し易い第２の作動パターンか、第２入賞口Ｂ６４０に球を案内し易い第３の作動パターンか、で電動役物Ｂ６４０ａが動作可能に構成させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの双方に球を案内し易い作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作可能としても良い。
【２２９５４】
そのための実現手段としては、例えば、第３の作動パターンにおける基準の作動パターンＢＲＰ３の動作時間Ｂｔ３ｂを１．０秒として、残りの１．０秒はスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持されるようにすれば、待機時間Ｂｔ３ａの間に先端部Ｂ４５１に拾われた球が第２入賞口Ｂ６４０に案内される場合と、第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される場合とを生じさせることができる。
【２２９５５】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、前進位置に配置されたスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態でソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させた場合に、先端部Ｂ４５１に乗っている球が先端部Ｂ４５１の上面に押し込まれる形で球通過開口Ｂ４１４を通過可能に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態では、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法が球の直径未満の長さに設計するようにしても良い。
【２２９５６】
即ち、先端部Ｂ４５１の上面は、前方へ向かう程に上昇傾斜する傾斜面として形成されているところ、スライド部材Ｂ４５０の変位方向は前後方向なので、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法は、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合の方が短くなる。
【２２９５７】
これを利用して、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合には球が球通過開口Ｂ４１４を通過可能とされる一方で、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球については、球通過開口Ｂ４１４の上縁部に球が引っかかる寸法関係で設計することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球が球通過開口Ｂ４１４を通過することを防止することができる。これにより、球通過開口Ｂ４１４への球の入球確率を下げることができる。
【２２９５８】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３が球の左右方向の通過を遮る程度の高さで形成されており、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１側への球の導入は、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る態様に限定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上下高さを低く設計して、球が左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を通過可能にしても良い。
【２２９５９】
また、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置が、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合と後退位置に配置される場合とで異なることを利用して、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の高さを、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合（上面の上下位置が低い場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを遮るのに十分とする（例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が上側となるように設計する）一方で、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合（上面の上下寸法が高い

場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容できる（球が通過可能とする、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が下側となるように設計する）ようにしても良い。

【２２９６０】

この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動して中央流路Ｂ４３１側へ流下する球の流下経路のバリエーションとして、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る流下経路の他に、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態において左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の上側を通る流下経路を構成することができる。

【２２９６１】

また、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置と、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置との関係を、左右で異ならせるようにしても良い。例えば、左壁部Ｂ４３２の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することは制限するように構成したり、右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部４３２の上側を球が通過することは制限するように構成したりしても良い。

【２２９６２】

この場合、スライド部材Ｂ４５０に案内される球の流下経路を、球が左側を流下するか、球が右側を流下するかで大きく異ならせることができる。

【２２９６３】

上記第５４実施形態では、球を拾うための構造としてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１と傾倒部材Ｂ４７０の板状部Ｂ４７１とを備え、先端部Ｂ４５１が正面視で板状部Ｂ４７１の左右外側かつ上側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０の二股の構造をやめて、先端部Ｂ４５１に対応する部分が板状部Ｂ４７１の真上に配置されるようにしても良い。

【２２９６４】

この場合、ベース板Ｂ６０とガラスユニットＢ１６との間の領域における先端部Ｂ４５１と板状部Ｂ４７１との間の位置に、球の通過を規制する固定の規制板を設けることで、先端部Ｂ４５１に拾われなかった球が板状部Ｂ４７１に拾われる入賞態様を避けることができる。

【２２９６５】

これにより、入賞ユニットＢ４００の左右方向寸法を低減することができる。また、先端部Ｂ４５１を１つとすることで、入賞ユニットＢ４００内の経路において球の合流が生じることを無くせるので、入賞ユニットＢ４００の設計自由度を向上することができる（設計を簡素化することができる）。

【２２９６６】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が水平方向に延びるように形成されており、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４の傾斜面部Ｂ４４４ａが正面側へ向かうほど上昇傾斜する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２２９６７】

例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に下降傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。

【２２９６８】

例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に上昇傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）を大きく確保することができるので、スライド部材Ｂ４５０が後方へ変位する際に、スライド部材Ｂ４５

０の上面に乗っていた球が後方へ押し込まれてスライド部材Ｂ４５０の後方側位置における球の密度が高くなったとしても、それによってスライド部材Ｂ４５０の上側で球詰まりが生じる可能性を低くすることができる。

【２２９６９】

例えば、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４が、正面側へ向かうほど下降傾斜するように構成しても良いし、水平方向に延びるように構成しても良い。この場合、中央流路Ｂ４３１の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。

【２２９７０】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０に拾われた球が通過する球通過開口Ｂ４１４や、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が通過する中央開口部Ｂ４１３の左右幅が、球の直径よりも若干長い程度とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４や中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径の複数倍（例えば、２倍）よりも若干長い程度の寸法で設計し、合わせて、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３、中央流路Ｂ４３１及び傾倒部材Ｂ４７０の左右幅も同様の左右幅で設計しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０や傾倒部材Ｂ４７０で一度に拾うことができる球の個数を増加させることができるので、入賞効率を上げることができる。

【２２９７１】

上記第５４実施形態では、球通過開口Ｂ４１４の左右幅と、中央開口部Ｂ４１３の左右幅とを合わせている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計し、中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計するようにしても良く、合わせて中央流路Ｂ４３１の左右幅および傾倒部材Ｂ４７０の左右幅を中央開口部Ｂ４１３の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【２２９７２】

この場合、中央流路Ｂ４３１から下流側の領域において球が左右に並んで流下できるようになるので、左右一対の球通過開口Ｂ４１４を同時に球が通過した場合であっても、中央流路Ｂ４３１で球が合流してしまい流下抵抗が増加するという事態を避け易くすることができる。

【２２９７３】

また、例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計し、中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計するようにしても良く、合わせてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の左右幅を球通過開口Ｂ４１４の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【２２９７４】

この場合、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが連動するという条件下において、入賞ユニットＢ４００の内部経路の最上流側（入口側）における第１入球効率（スライド部材Ｂ４５０に球が拾われる効率）を向上しながら、その第１入球効率よりも入賞ユニットＢ４００の内部経路の最下流側（出口側）における第２入球効率（傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる効率）を低減することができる。

【２２９７５】

これにより、遊技者に対して、入賞ユニットＢ４００の入口に入る見かけ上の入球効率（第１入球効率）が高いように見せて、実際に傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる確率（第２入球効率）は低減されるよう構成することができる。これにより、遊技者の入賞ユニットＢ４００への入球効率についての印象を良くすることができ、遊技者が遊技を継続するように仕向けることができる。

【２２９７６】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度と、

右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度とが同じとなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度を左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度よりも大きくしても良いし、左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度を右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度よりも大きくしても良い。

【２２９７７】

特に、後者の場合、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度で補わせることができるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを合わせ易くすることができる。

【２２９７８】

また、前者の場合は逆に、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度が助長することになるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを異ならせ易くすることができる。

【２２９７９】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０が、遊技領域から球を受ける先端部Ｂ４５１のみでなく、その後方流路においても球を転動させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、先端部Ｂ４５１のみで球と接触し、先端部Ｂ４５１の下流側へ流れた球は、左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３等を上から覆う固定板部（変位しない部分）の上面を転動するようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が加速されたり減速されたりする範囲を狭くすることができる。

【２２９８０】

また、この場合、先端部Ｂ４５１の構成および動作態様を変更し、前方に傾倒する動作態様（傾倒部材Ｂ４７０で例示される動作態様）としても良い。即ち、非励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した開放位置とされ、励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した閉鎖位置とされるように構成しても良い。

【２２９８１】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が傾倒部材Ｂ４７０に到達するまでの経路において固定の底面部Ｂ４３１ａを転動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａがスライド部材Ｂ４５０の動作と連動して動作するように構成しても良い。この場合、入賞ユニットＢ４００の内部流路において球詰まりが生じていたとしても、内部流路の全体で動作が生じることから、球をほぐすことができ、球詰まりの解消を図ることができる。なお、底面部Ｂ４３１ａの動作としては、スライド部材Ｂ４５０の逆方向に動作するものでも良いし、スライド部材Ｂ４５０と一体的に構成する等して同方向に動作するものでも良い。

【２２９８２】

上記第５４実施形態では、固定の底面部Ｂ４３１ａが球を直線的に転動させる傾斜面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａが湾曲形成されることで球の流下方向が湾曲するようにして球の流下速度の変化が顕著になるように構成しても良いし、流下中に球が落下する範囲を有するよう構成し球が跳ねることで流下態様がばらつくようにしても良いし、球が蛇行して流下するよう流路を繰り返し屈曲させることで球が通過するまでの時間を長くするようにしても良い。

【２２９８３】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、球通過開口Ｂ４１４が単なる開口部である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４に球通過を検出する検出センサが配設され、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出可能に構成しても良い。この場合、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出した場合に、第３図柄表示装置Ｂ８１等で遊技者に対して報知することで、遊技者に対して球通過開

口Ｂ４１４を球が通過したことに気付かせることができ、入賞ユニットＢ４００の注目力を向上させることができる。

【２２９８４】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が必ず傾倒部材Ｂ４７０側まで案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、内部流路に排出用開口が形成され、一部の球は排出用開口を通り排出されることで、先端部Ｂ４５１に拾われた球の一部しか傾倒部材Ｂ４７０まで案内されることは無いように構成しても良い。この場合において、スライド部材Ｂ４５０は排出用開口を開閉させる部材としても機能するように構成しても良い。

【２２９８５】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が、前後方向で同一傾斜の板状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中で傾斜が変わるようにしても良いし、上面が階段状に形成されるようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０上における球の配置次第で、スライド部材Ｂ４５０が後方に変位した際に球が受ける負荷の大きさを変化させることができる（例えば、階段状に形成される場合に、段の近くに球が配置されており段の側面から負荷を受けるか、段から離れて球が配置されており段の上面と滑るようにして負荷を受けるかで異ならせることができる）。

【２２９８６】

例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を小さく形成する場合、上流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも大きくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により狭める（縮める、密にする）ことができる。

【２２９８７】

また、例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を大きく形成する場合、上流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも小さくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により広げる（拡大する、疎にする）ことができる。

【２２９８８】

また、例えば、流下経路に沿って左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜の大小が複数回変化するように構成しても良い。この場合、球の配置によって、スライド部材Ｂ４５０の変位により球同士の間隔が縮まる場合と、球同士の間隔が広がる場合との両方を生じさせることができる。

【２２９８９】

また、例えば、左案内板部Ｂ４５２における上面の傾斜角度と、右案内板部４５２における上面の傾斜角度とを異ならせるようにしても良い。即ち、左案内板部Ｂ４５２の上面は前後方向で水平面に対する傾斜が同一の板状に形成される一方で、右案内板部Ｂ４５３の上面は水平面に対する傾斜が途中で変化するように形成されても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が受ける負荷の態様を、球が左案内板部Ｂ４５２上に配置されているか、球が右案内板部４５２上に配置されているかで異ならせることができる。

【２２９９０】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが、伝達部材Ｂ４８０が間に介在することにより連動するものであり、スライド部材Ｂ４５０又は傾倒部

材Ｂ４７０の一方で球噛み等の不具合が生じると、他方の動作にも影響を与える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２２９９１】

例えば、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５の部分であってスライド部材Ｂ４５０と対向配置される回動先端部の前側と、スライド部材Ｂ４５０の中央固定部Ｂ４５４とが対向する位置（間の位置）に前後方向で伸縮可能なコイルスプリングを介在させるように構成する。常には、第２部材Ｂ４８５側にスライド部材Ｂ４５０がコイルスプリングの付勢力で押し付けられており第２部材Ｂ４８５とスライド部材Ｂ４５０とが連動するように構成する一方で、スライド部材Ｂ４５０の前端と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟み込まれた（球噛みした）場合には、スライド部材Ｂ４５０の前方への変位が妨害される分だけコイルスプリングが縮むことでカバーされるように構成することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されていなくても第２部材Ｂ４８５を前方に傾倒させることができる。

【２２９９２】

これにより、第１部材Ｂ４８１の動作が第２部材Ｂ４８５に妨害されることを回避することができるので、スライド部材Ｂ４５０側で生じた球噛みにより、傾倒部材Ｂ４７０の動作が途中で停止することを回避し易くすることができる。

【２２９９３】

このように、伝達部材Ｂ４８０を利用して駆動力の伝達経路を複数設けるような場合であっても、一の伝達経路にコイルスプリング等の部材（緩衝材などでも良い）を介在させることで、一の伝達経路で生じた不具合が、他の伝達経路にまで伝わることを避けることができる。

【２２９９４】

上記第５４実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、下板部Ｂ４８２ｂに係止突設部Ｂ４８７が押し下げられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２２９９５】

例えば、係止突設部Ｂ４８７の形成を省略しても良い。電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態では、下板部Ｂ４８２ｂが第２部材Ｂ４８５の偏心突部Ｂ４８６と当接される一方で、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６との間に隙間が確保されている。

【２２９９６】

第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される。即ち、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６との当接が解除されても、第２部材Ｂ４８５の姿勢は維持される。

【２２９９７】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられるまでスライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持され、傾倒部材Ｂ４７０のみが起き上がり動作する。即ち、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力は傾倒部材Ｂ４７０に集中して伝達される。この場合、スライド部材Ｂ４５０の動作開始タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作開始タイミングとがずれることになる。

【２２９９８】

即ち、動作開始から途中位置までは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作し、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が動作する。第１部材Ｂ４８１が下降する過程において、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６とが当接した後は、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられる態様で第２部材Ｂ４８５が回転軸部Ｂ４８５ａを中心に前転方向に回転動作する。動作終了タイミングは、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とでほぼ同時となる。

【２２９９９】
この場合、励磁状態から非励磁状態への切替動作において、スライド部材Ｂ４５０と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟まり、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制され得る事態が生じたとしても、スライド部材Ｂ４５０の変位に先行して傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が開始されているので、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作まで抑制されることを防止することができる。
【２３０００】
これにより、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制されることと連動して、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が遅れ、予期せぬタイミングで球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われる事態を回避し易くすることができる。
【２３００１】
なお、第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される場合を例にしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２部材Ｂ４８５の重心が傾倒先端側に寄るように設計されることで、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位し得るようにしても良い。
【２３００２】
上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが単一のソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力により連動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０を駆動する駆動装置と、傾倒部材Ｂ４７０を駆動する駆動装置とを別々に構成し、非連動で動作可能に構成しても良い。
【２３００３】
この場合において、例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されてから約３秒経過（入賞ユニットＢ４００の内部に流入した球が通過しきるのに十分な時間が経過）してから傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に変位されるようにし、その後でスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される際には傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置されるような作動パターンを追加しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われることを防止し易くすることができる。
【２３００４】
上記第５４実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖する際に球を挟んだ場合においても先端部Ｂ４５１で球を拾い難く構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、そもそも、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいて傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖動作が生じないようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖をスムーズに実行することができる。
【２３００５】
また、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいては、傾倒部材Ｂ４７０は開放動作のみが生じるようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、球の重みが傾倒部材Ｂ４７０を開放させる方向に作用することから、傾倒部材Ｂ４７０の開放を補助することができると共に、傾倒部材Ｂ４７０から第１部材Ｂ４８１及び第２部材Ｂ４８５を介してスライド部材Ｂ４５０に負荷を伝達させることにより、スライド部材Ｂ４５０の後退位置へ向けた動作をスムーズに行わせることができる。
【２３００６】
上記第５４実施形態では、待機時間Ｂｔ１ａ～Ｂｔ３ａ及び動作時間Ｂｔ１ｂ～Ｂｔ３ｂから設定される作動パターンＢＲＰ１～ＢＲＰ３が繰り返し実行されることにより、入賞ユニットＢ４００を流下する球の流下経路が切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基準の作動パターンとしては動作時間のみが設定され、待機時間の代わりに第２図柄の変動表示にかかる時間が設定されるようにしても良い。

【２３００７】
例えば、基準の作動パターンとして動作時間を３．９秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を０．１秒で設定する場合、その０．１秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第１の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【２３００８】
また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を０．２秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を１．８秒で設定する場合、その１．８秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第２の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【２３００９】
また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を２．０秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を２．０秒で設定する場合、その２．０秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第３の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【２３０１０】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に釘ＢＫＧ１が配設され、釘ＢＫＧ１の状態次第で、入賞ユニットＢ４００の内部流路から下方へ流下した球の第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球確率が変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２３０１１】
例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、第５８実施形態で説明した切替装置Ｂ５７７０が配設され、切替装置Ｂ５７７０の動作に対する球の入球タイミング次第で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球されるか否かが決定されるものでも良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球させることができる。
【２３０１２】
また、例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、２個（又はＮ個）に１個の割合で第３入賞口Ｂ６４ｂ側に球を導入する振分装置（例えば、シーソー機構）を配設しても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに、振分装置により２個（又はＮ個）に１個は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球させることができるので、遊技者は安心して遊技を行うことができる。
【２３０１３】
上記第５４実施形態では、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が、釘ＢＫＧ１によりスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に導かれるように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への案内に、釘ＢＫＧ１に代えて、又は釘ＢＫＧ１と組み合わせて、樹脂材料による構造物を使用しても良い。この場合、樹脂材料による構造体が釘ＢＫＧ１よりも状態の変化が生じにくいので、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への球の案内を安定させることができる。
【２３０１４】
また、例えば、釘ＢＫＧ１の配設個数を減らしたり、配設位置を変えたりすることにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が全てスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するのではなく、一部の球はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７から逸れて流下するように構成しても良い。
【２３０１５】
上記第５４実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾われなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄１の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２３０１６】
例えば、抽選を獲得可能な特別図柄の割り振りを逆転させる（傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄１の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾わ

れなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる）ようにしても良い。この場合、大当たり終了後の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンを、大当たりＡ，ａの場合に第２の作動パターンとして、大当たりＢ，Ｃ，ｂ，ｃの場合に第３の作動パターンとすれば、第５４実施形態で説明した遊技性と同様の遊技性を保つことができる。更に、第５４実施形態で説明した場合と異なり、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球し易い状態において小当たり遊技が発生し易く、特定入賞口Ｂ６５ａに球が入球し易いよう構成されることから、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに拾われる事態を生じさせ易くすることができる。

【２３０１７】

また、例えば、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能な条件下で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することでも特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａを入賞ユニットＢ４００の左右外端よりも左右方向外側に張り出さない寸法および位置で配設するようにしても良い。

【２３０１８】

電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下する。一方で、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われることで、第３入賞口Ｂ６４ｂ側へは流れ出ない。そして、特定入賞口Ｂ６５ａは、入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下した球の内、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球を受け入れるよう配設されることで、新たな遊技性を構成することができる。

【２３０１９】

即ち、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、特別図柄２の抽選を獲得可能とされる。そのため、小当たり遊技として特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じ得る。

【２３０２０】

ここで、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下した球のほとんどが第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下するので、その内の何割かが第３入賞口Ｂ６４ｂから零れて特定入賞口Ｂ６５ａに入球することで、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることができる。

【２３０２１】

一方、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、ほとんどの球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に向かわない（傾倒部材Ｂ４７０に拾われる）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が生じ難く、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることはできない。

【２３０２２】

このように、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、遊技者は特別図柄２の抽選を獲得可能とされることから特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じるが、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンの違いによって特定入賞口Ｂ６５ａへ球が案内される確率が変化することで、特定入賞口Ｂ６５ａの開放時（小当たり遊技発生時）に特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ多量の賞球が得られる場合と、そうでない場合とを生じさせるという遊技性を構成することができる。

【２３０２３】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００に流入した球により遊技者が得られる利益として、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合には特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合には特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされるよう設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合に特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合に特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがさ

れるよう設定しても良い。
【２３０２４】
この場合、第１の作動パターンでは、球が稀に開口Ｂ４３５ａを通過することで、第１入賞口Ｂ６４への入球数に加えて開口Ｂ４３５ａを通過することで特別図柄１の抽選頻度が増加する。
【２３０２５】
第２の作動パターンでは、球は先端部Ｂ４５１に拾われ電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態において傾倒部材Ｂ４７０の正面側を通り第３入賞口Ｂ６４ｂに入賞しやすくされるので、入賞ユニットＢ４００に流入した球によって特別図柄の抽選頻度は増加されず、賞球の払い出しが多くなる。入賞ユニットＢ４００は、開口Ｂ４３５ａを球が通過可能に開放されている場合においても開口Ｂ４３５ａの球の通過は１０個に１個の割合とされることから、動作時間Ｂｔ２ｂの開口Ｂ４３５ａの開放では球が開口Ｂ４３５ａ側に流入することはほとんどない。そのため、第２の作動パターンにおいて、特別図柄１の抽選頻度の上昇はほとんど起きない。
【２３０２６】
第３の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ３ａにおいて先端部Ｂ４５１に拾われた球は、動作時間Ｂｔ３ｂにおいて傾倒部材Ｂ４７０に拾われ易いので、特別図柄２の抽選頻度が増加する。また、動作時間Ｂｔ３ｂにおいては、先端部Ｂ４５１の正面側を球が通り開口Ｂ４３５ａを通過し得るので、特別図柄１の抽選頻度も増加する。
【２３０２７】
また、検出センサＢ４３５ａの開口Ｂ４３５ａを、アウト口（賞球の払い出し無し、図柄抽選無しであり、遊技領域から球を排出する開口部）として、単に球の通過を計数するためのセンサとして利用しても良い。この場合、開口Ｂ４３５ａにより、開口Ｂ４３５ａを球が通過する頻度を計測することができる。
【２３０２８】
また、第２入賞口Ｂ６４０の機能と、第３入賞口Ｂ６４ｂの機能とを逆で設定しても良い。この場合、特殊確変状態とする場合の作動パターンを第２の作動パターンとし、確変状態とする場合の作動パターンを第３の作動パターンに設定すれば良く、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球する抽選で小当たりを発生させ、第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに入球し得るパチンコ機を構成することができる。
【２３０２９】
これにより、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り易ければ、小当たりは生じ易いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は少ないために特定入賞口Ｂ６５ａの入賞数が過多となることは抑制できる一方で、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り難ければ、小当たりは生じ難いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は多いために一旦特定入賞口Ｂ６５ａが開放されれば多量の球を特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ得る。即ち、第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球し易いかどうか（有利不利）と、特定入賞口Ｂ６５ａへ入球し易いかどうか（不利有利）とがバランスするパチンコ機を構成することができる。
【２３０３０】
上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５間に球が４個まで貯留可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５が間に球を１個だけ配置可能な形状で形成されるようにしても良い。この場合、貯留板部Ｂ７１５間で停留される球は移動床部材Ｂ７４０に乗っており、その球に衝突した球を検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に流入させることができる。この場合、球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通り易い状態にあるか否かを、貯留板部Ｂ７１５間における球の有無を確認することで容易に把握することができるので、貯留板部Ｂ７１５間の球の個数を数える必要がある場合に比較して遊技者の遊技負担を低減することができる。
【２３０３１】

上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５の左右両側において複数の検出センサＢ７５０が配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＢ７５０の配設個数は１個でも良い。また、１個配置する場合において、貯留板部Ｂ７１５の左右に配置されるいずれかを残し、何れかを除外するようにしても良いし、貯留板部Ｂ７１５の前後に位置ずれして検出センサＢ７５０が配置されるようにしても良い。

【２３０３２】

貯留板部Ｂ７１５の正面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球を遊技者に見せ易くすることができる。一方、貯留板部Ｂ７１５の背面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球が貯留板部Ｂ７１５に貯留される球に隠される作用を付加することができるので、開口部Ｂ７５１に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２３０３３】

上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、ラウンド遊技における規定個数と貯留板部Ｂ７１５間に貯留可能な球の個数との関係が、１０個対４個である場合を説明したが、個数の関係は任意に定められるものであり、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１０個対１０個とする場合、上側可変入賞装置Ｂ７００に対して、規定個数を超える個数の球の入賞（１１個以上の入賞、オーバー入賞）があった場合に、開口部Ｂ７５１を球が通過するパチンコ機を構成することができる。この場合、規定個数の入球に留まる場合に比較してラウンド遊技において得られる賞球個数が増加する喜びと、大当たり遊技が終了した後に移行される遊技状態が有利な状態になることに対する喜びとを、遊技者に同時に与えることができる。

【２３０３４】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を駆動する駆動装置とは別で移動床部材Ｂ７４０を駆動する駆動装置を設けるようにしても良い。

【２３０３５】

この場合の動作パターンは、上記第５４実施形態で説明したような動作パターンに加えて、多種多様な動作パターンを構成することができる。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を後退位置に配置することもできる。この場合、移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留されないようにすることができるので、球が開口部Ｂ７５１に入球する可能性を低めることができる。

【２３０３６】

また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を単独で前後（繰り返し）動作させるようにしても良い。この場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも長い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出させることができ、一方、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも短い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を留めることができる。

【２３０３７】

また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を前進位置に配置することもできる。この場合、ラウンド遊技中に移動上蓋部材Ｂ７３０が開閉を繰り返すような駆動態様であっても、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が貯留される状態を維持することができる。更に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されてから、移動床部材Ｂ７４０を前進位置から後退位置に変位させるまでに数秒のタイムラグが生じるようにすることで、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される直前に多数の球がまとまって入球したような場合に、それらの球が開口部Ｂ７５１側に到達し、開口部Ｂ７５１を通過し得るタイミングまで貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出しな

いようにすることができる。
【２３０３８】
上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００は、大当たり遊技において開閉される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側可変入賞装置Ｂ７００が小当たり遊技において開閉されるよう構成し、検出センサＢ７５０を、開口部Ｂ７５１を球が通過することにより大当たり遊技を実行可能とするための検出センサとして構成しても良い。
【２３０３９】
ここで、小当たり遊技における上側可変入賞装置Ｂ７００の開放時間の合計が１．８秒までとされる場合において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に配置したら０．１２秒経過する度に前進位置に配置させるという規則で移動上蓋部材Ｂ７３０を前後に繰り返し変位させる状態において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に１５回まで配置することができる（０．１２×１５＝１．８）。
【２３０４０】
移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球が排出されないよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球を貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留することができ、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満とされる駆動態様に対応する。
【２３０４１】
一方、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球が排出され得るよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置から次々に排出され、球を開口部Ｂ７５１に入球させ難い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上とされる駆動態様に対応する。
【２３０４２】
小当たり遊技は、予め規定された駆動パターンで移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が開閉されることになる。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間に多数の球を上側可変入賞装置Ｂ７００に入球させることが好ましいが、例えば、０．１秒と０．３秒との違いを見分けることは困難である。
【２３０４３】
そこで、小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間よりも、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングで、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。この報知に従い球を発射すれば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留させ開口部Ｂ７５１に球を入球させ易くすることができる。このように、球の発射の適切なタイミングを報知するようにすることで、報知外のタイミングで球を発射することによる球損の発生を回避し易くすることができる。
【２３０４４】
小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間が２回用意され、その間に移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が配置されるようにする場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される１回目の期間において球が開口部Ｂ７５１に入球しなかった場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される２回目の期間の前に、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。

【２３０４５】
この場合、例えば、球発射装置の詰まりなどで球を発射できていなかった場合においても、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が長めに（例えば、１５秒で）設定される場合には、その間に球発射装置の詰まりを修復できる可能性を高めることができる。
【２３０４６】
なお、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングは、上側可変入賞装置Ｂ７００の配置次第で変更され得る。上記第５４実施形態のように遊技領域の上端部付近に配置される場合には１～２秒とされるが、遊技領域の右下端位置等に配置される場合にはもっと長く、その上流側における球経路（釘ＢＫＧ１により形成される経路または樹脂部材により流路形成される経路）の長さによっては、５～１０秒程度の長さまで幅が生じる。
【２３０４７】
また、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を例示したが、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが独立で駆動するように構成される場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される期間が０．２秒未満となる駆動態様で繰り返し動作される期間を狙って、上述の報知を行うようにしても良い。
【２３０４８】
この場合、移動床部材Ｂ７４０の動作態様と、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作態様とは対応しないので、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される期間の長さを見て、移動床部材Ｂ７４０の動作と対応付けることは困難となる。従って、上述の報知に対する注目力を向上させることができる。
【２３０４９】
上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されている間において、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作により、開口部Ｂ７５１に球を誘導する誘導状態と、誘導しない非誘導状態とで状態が変化される状態変化手段が配設され、その状態変化手段の動作は、一対の貯留板部Ｂ７１５から排出された球の運動エネルギーにより行われるよう構成しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が排出された後において開口部Ｂ７５１に入球させ易くできる遊技機を構成することができる。
【２３０５０】
上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５への球の進入を、球によって妨害する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への球の入球の可否を切り替える開閉手段を配設しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置が球で満タンになる前においても、開閉手段により一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が進入できない状態を構成することができ、球が開口部Ｂ７５１を通過する事態を生じさせることができる。
【２３０５１】
この場合において、開閉手段の大きさとして種々の態様を例示することができるが、正面視における大きさが球の大きさよりも小さくすることで、開閉手段を目立たせないようにすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するタイミングを遊技者に予測され難くすることができる。
【２３０５２】
また、開閉手段の正面視における大きさを球の大きさよりも大きくすることで、開閉手段の状態を遊技者に把握させ易くすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するか否かを判別し易くすることができる。
【２３０５３】
上記第５４実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域に高確率で案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５と第２特定入賞口Ｂ７００ａとの間に球と接触可能

な配置で釘ＢＫＧ１が配設されるようにしても良い。
【２３０５４】
これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域が満タンになる前に、釘ＢＫＧ１と衝突した球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するイレギュラー入賞が誘発され易くなるようにすることができる。特に、第２特定入賞口Ｂ７００ａを複数の球が連なって通過した時など、球同士の接触により流下が乱れた場合にイレギュラー入賞が誘発され易くなる。
【２３０５５】
一方で、釘ＢＫＧ１は、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留されている球とは非接触となるような位置に配置される。これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留された球の排出をスムーズに行わせることができる。
【２３０５６】
なお、球と接触可能な配置で配設されるのは、必ずしも釘である必要はない。例えば、基礎板部材Ｂ７１０から前側に突設される突設部を構成し、この突設部と球とが衝突するようにしても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の場合に比較して、突設部の形状の設計自由度を向上させることができる。例えば、左右方向に長く開口部Ｂ７５１に近づく程に下降傾斜する突条状に形成することで、開口部Ｂ７５１に球が案内される可能性を高めることができる。
【２３０５７】
また、例えば、基礎板部材Ｂ７１０の正面側に可動部材を配設するようにし、その可動部材に衝突した球が、可動部材により勢いを付けられることで、球が開口部Ｂ７５１に案内され得るようにしても良い。可動部材の動作は、回転動作でも良いし、直線方向のスライド動作でも良いし、それらの組合せによる動作でも良い。
【２３０５８】
また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａが左右方向に往復変位したり、検出センサＢ７５０及び貯留板部Ｂ７１５が左右方向に往復変位したりすることで、タイミング次第で、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５側ではなく、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１側に流れる場合が生じるようにしても良い。
【２３０５９】
上記第５４実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａの真下に球が貯留される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路が形成され、その球通路の下流側端部に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１が形成され、球通路の途中位置において球貯留部が下方に延び、その球貯留部の下端に移動床部材Ｂ７４０が配設される構成において、球貯留部が満タンになると後追いの球が球貯留部の最上部の球の上を転動して球通路を下流側に流れ、その球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するように構成しても良い。
【２３０６０】
また、第２特定入賞口Ｂ７００ａの開口方向は斜め方向に向いていても良く、その第２特定入賞口Ｂ７００ａを開閉する部材はスライド変位するものでなくても、回動変位するもの（例えば、一対の開閉部材で構成されるチューリップタイプの一の開閉部材を利用したもの）でも良い。
【２３０６１】
なお、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路の方向は何ら限定されるものではない。例えば、正面視で斜め下方（左右側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良いし、左右方向視で斜め下方（前後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良い。
【２３０６２】
特に、後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜めの場合、開口部Ｂ７５１を、球貯留部よりも手前側に配置することができる。これにより、球貯留部に貯留される球よりも、開口部Ｂ７５１を通過する球を目立たせることができるので、開口部Ｂ７５１における球の通

過を遊技者が視認し易くすることができる。
【２３０６３】
上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が一定である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間経過に合わせて移動床部材Ｂ７４０の上面の上下位置が上下方向に変化することや、移動床部材Ｂ７４０として貯留板部Ｂ７１５の下端の球を乗せる板部材が複数枚で上下方向に並設され上から順に開放されるように動作すること等により、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置される複数の球の内、最下端に配置される球の上下位置を変化させることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が変化するようにしても良い。
【２３０６４】
また、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が変化するように貯留板部Ｂ７１５が変位可能に構成されても良い。この場合において、左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔である場合には４個で満タンになるとしても、左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合には８個で満タンになるので、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球を通過させる難易度を変化させることができる。
【２３０６５】
また、４個で満タンになるように構成する場合であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔である場合に比較して、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合の方が、貯留板部Ｂ７１５の上下長さを半分にすることができるので、球を貯留するための高さ寸法を短くすることができる。これにより、貯留板部Ｂ７１５の設計自由度を向上させることができる。
【２３０６６】
上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球を常に視認できるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置における球の視認性を低下可能に構成する（例えば、可動部材で目隠しするように構成したり、光の加減で見え難くするように構成したりする）ようにしても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置で球が満タンになるタイミングを遊技者に予想され難くすることができる。
【２３０６７】
なお、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留される球の個数が４個の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。０個でも良いし、１個でも良いし、３個でも良いし、５個以上でも良い。例えば８個（規定個数に近い数字）とすることで、第３の特別作動パターンにおいて検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球が通過する可能性を大きく低下させることができる。
【２３０６８】
上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留され、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球は球抜き開口Ｂ７８２を通り遊技領域から排出される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球が、複数孔を有するクルーンに排出されるようにしても良い。
【２３０６９】
このクルーンは、複数孔の内の１つを検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１と同様の機能を有する特定孔とすることで、ラウンド遊技中に球が開口部Ｂ７５１を通過することが確認できないままに移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置され、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球が流されたとしても、遊技者はクルーンの特定孔に球が入球することによる利益を獲得できる可能性があるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から流された球に対する注目力を向上させることができる。
【２３０７０】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球ではなく、その貯留された球の後追いの球が開口部Ｂ７５１を通過し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開閉可能に構成されており、その開閉部分の下流側にも検出センサＢ７５０が配設されており、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開放されることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に貯留された球の内のいずれかが流され、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過し得るように構成しても良い。

【２３０７１】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の駆動装置と移動床部材Ｂ７４０の駆動装置とが共にソレノイドＢ７６３であり、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作と移動床部材Ｂ７４０の動作とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０の駆動用にソレノイドＢ７６３とは別の駆動装置を設け、互いに独立して動作可能にしても良い。この場合、上記第５４実施形態で説明した動作態様に加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が前進位置に配置される場合や、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が後退位置に配置される場合を構成可能となる。

【２３０７２】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が左右両側に下降傾斜する板形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を一方向に傾斜する平板形状で形成しても良い。この場合であっても、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位するという動作の順番が好適に機能して、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に変位するのと同時に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流れた球が、移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されるよりも前に移動床部材Ｂ７４０の正面側を通過するという事態を避けることができる。

【２３０７３】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【２３０７４】

また、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【２３０７５】

上記第５４実施形態では、前進位置に配置される移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の背面側に配設される基礎板部材Ｂ７１０の前面が平滑面である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の流下方向と交差する方向（例えば、上下方向）に長尺な突条形状で基礎板部材Ｂ７１０の前面から正面側へ突設される複数の減速突起が、球の流下方向に沿って並べられるようにしても良い。この代わりに、又はこれに加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を階段状に形成して、球の流下速度を減速させるように構成しても良い。

【２３０７６】

これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動流下する球の流下速度を低下させることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０の一度の開放（前進位置から後退位置に変位すること）で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過する球の個数を多くすることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖状態（前進位置に配置された状態）とされた場合に一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が抜けていくという構成であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球を溜めやすくすることができ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通

過する可能性を高めることができる。
【２３０７７】
上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の下流側に一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の構成を省略し、球が一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０の側へ常に流下可能な状態とされていても良い。
【２３０７８】
上記第５４実施形態では、大当たり遊技において、１ラウンド目では移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能とされ、２ラウンド目以降のラウンド遊技では特定入賞口Ｂ６５ａが開放され特定入賞口Ｂ６５ａに入球可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。どのラウンド遊技でどちらの特定入賞口Ｂ６５ａ，Ｂ７００ａに入球可能となるように制御するかは任意に設定可能とされる。
【２３０７９】
例えば、２ラウンド目以降のラウンド遊技においても移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御されても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が小当たり遊技でのみ生じるように構成することができる（全ラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合に相当）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数の設定が、大当たり遊技における賞球個数に影響を与えることを回避することができる。
【２３０８０】
そのため、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を多く設定することで、大当たり遊技による賞球個数を抑える一方で、小当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【２３０８１】
また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を少なく設定することで、小当たり遊技による賞球個数を抑える（例えば、発射球と同等の賞球個数を維持する程度に抑える）一方で、大当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【２３０８２】
なお、複数のラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合、大当たり遊技後の遊技状態が開口部Ｂ７５１に遊技球が通過するか否かで変化するという事象については、第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される少なくとも１のラウンド遊技において遊技球が開口部Ｂ７５１を通過すれば、開口部Ｂ７５１に遊技球が通過したと認められる。
【２３０８３】
上記第５４実施形態では、特別図柄１の抽選で小当たりと判定されない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、特別図柄１でも特別図柄２でも小当たりと判定され得るようにしても良いし、特別図柄１で小当たりと判定され得る一方で特別図柄２では小当たりと判定され得ないように構成しても良い。
【２３０８４】
上記第５４実施形態では、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとなるように構成しても良い。
【２３０８５】

この場合、通常中（特別図柄の低確率状態）から第２入賞口Ｂ６４０に球が入球し得ることになるが、特別図柄の低確率状態における特別図柄２の変動時間は、大当たりを除き長期間（本実施形態では１０分）で設定されるので、特別図柄２の抽選で大当たりを獲得するようなことは稀であり、基本的には第１入賞口Ｂ６４への入球による特別図柄１の抽選で大当たりを目指す遊技性を構築することができる。

【２３０８６】

この場合において、例えば、大当たりＢの大当たり遊技を実行した後における遊技状態が次に大当たりを獲得するまでは高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように設定すると、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａを第３の作動パターンで動作させることになり、これは大当たりＡの大当たり遊技を実行した後における遊技状態と同じである。即ち、大当たり遊技終了後に規定回数（上記第５４実施形態では１００回）の特別図柄の抽選を挟んで特殊確変状態に移行する場合を構成可能とすることができる。

【２３０８７】

なお、大当たりＣの場合も、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように構成され、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａは第３の作動パターンで動作するように制御されるが、特別図柄の低確率状態なので、単に通常状態へ移行することになる。

【２３０８８】

上記第５４実施形態では、大当たり種別の振分けが特別図柄１と特別図柄２とで異なる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特別図柄１と特別図柄２とで大当たり種別の振分けが同じとなるように設定しても良い。この場合、どちらの特別図柄で大当たりを獲得したとしても差が生じないので、特別図柄１の大当たりに係る抽選と特別図柄２の大当たりに係る抽選とを同一視することができる。この場合、例えば、特別図柄２の抽選が長時間変動で実行される場合（例えば、１０分の変動）を除外し、特別図柄１の抽選で選択される変動時間と同様の変動時間とすることで、あたかも、特別図柄の保留球数が８個（特別図柄１の保留球数４個と特別図柄２の保留球数４個との合計）である遊技機を構成することができる。

【２３０８９】

また、例えば、特別図柄１の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第５４実施形態において１：１）と、特別図柄２の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第５４実施形態において１：１）とを異ならせるように構成しても良い。

【２３０９０】

この場合において、特別図柄２の大当たりの方が、特別図柄１の大当たりに比較して、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別の割合が大きいように構成することで、特別図柄２の大当たりが連続して発生し易い状態に移行可能な遊技機を構成することができる。

【２３０９１】

上記第５４実施形態では、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の表示と同時に方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の後に、方向操作部表示Ｂ８１６を表示して音量光量を調整可能となる調整期間を設けるようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、調整期間の終了タイミングを意味すると同時に、大当たり遊技終了後の変動演出の開始タイミングを意味するので、遊技者は時間表示Ｂ８１１を視認しておけば、調整期間における音量光量の

調整から変動演出の開始タイミング後の球発射までの行動を、適切なタイミングでスムーズに行うことができる。

【２３０９２】

エンディング演出の期間は大当たり種別により規定されるところ、エンディング演出の内部構成については大当たり種別が同じであっても変更可能となる。調整期間を設ける場合、調整期間が設けられていない場合に比較して、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出を実行する期間が狭められることになるが、いずれかの演出の継続時間を短くしたり、複数の演出を同時に行ったりすることで、遊技者に違和感を与えることなくエンディング演出を実行することができる。

【２３０９３】

調整期間を設けるか否かは、任意に設定することができるが、例えば、大当たり遊技中に実行される演出が、複数のバリエーションの内、特に光量が強くなり易い（光量最強）演出または特に音量が大きくなり易い（音量最大）とされた場合に、エンディング演出において調整期間を設けるようにしても良い。これにより、遊技者の遊技負担を低下させることができる。

【２３０９４】

調整期間を設けるかどうかとは無関係に、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを変更することができる。例えば、大当たりが連荘している最中において、短期間に何度も見ても情報量が増加するわけではない社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを短くしたり同時に表示したりすれば、その分だけエンディング表示演出を長くすることができる。エンディング表示演出は、実際に獲得できた賞球個数（現在実行中の大当たり遊技のみでも良いし、連荘中における累積でも良い）や、大当たり遊技終了後の遊技状態という、遊技者にとっての重要性が高い情報が表示されるので、表示期間を長くすることで、遊技者がその情報を見逃す可能性を低くすることができる。

【２３０９５】

例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる場合、連荘が途絶える可能性が高いので、その後遊技者が遊技を終えて離席する可能性が高い。そのため、エンディング演出においてカード忘れ防止表示演出の長さを長くすることで、遊技者がカードを持ち帰り忘れる可能性を低くすることができる。

【２３０９６】

例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が特殊確変状態へ移行する場合、遊技者の出玉への期待感が最も高まっているタイミングであるので、このタイミングにおいて社名表示演出を視認させることで、現在遊技しているパチンコ機および製造会社への印象が良くなるように図ることができる。また、大当たりが連荘すれば、ますます遊技者の期待感が高まっていくことから、連荘数が上がっていくほどに社名表示演出を長くするように設定することで、印象をよりよくさせることができる。

【２３０９７】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量光量の調整が可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出において音量光量の調整が実行されたかを判定し、その判定結果が、エンディング演出終了後の変動演出の決定に影響を与えるよう構成しても良い。

【２３０９８】

例えば、変動演出として、通常の主図柄停止の報知に比較して、光量や音量が大きくなり易い特定演出（一発告知演出など）が用意されている場合に、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行されたにも関わらず、特定演出を実行すると、ただでさえ光で目が疲労していると考えられる遊技者に対して、更なる疲労を与える可能性があり、途中で遊技を中断する可能性がある。そこで、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行された場合には、特定演出は実行されないように制御することで、遊技者の疲労の回復を待ちながら遊技を継続させることができる。

【２３０９９】
　また、大当たり遊技中において、大当たり遊技の終了後の遊技状態で流れる曲を変更する操作を遊技者が行った場合には、遊技者はその曲を聞きたいと感じているはずなので、現在実行中の大当たり遊技のエンディング演出において、方向操作部表示Ｂ８１６を表示する期間を確保するようにしても良い。
【２３１００】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出の終了タイミングで時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の終了タイミングにおいて普通図柄の変動表示が継続中であり、エンディング演出の終了タイミングと普通図柄の次変動の開始タイミングとの間に時間差がある場合には、その時間差の分、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングをエンディング演出の終了タイミングに対してずらす（遅らせる）ようにしても良い。これにより、エンディング演出の後で球を発射しているにも関わらず、大当たり遊技中から継続中の作動パターン（通常状態における作動パターン、第１の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に球が入球するという事態を回避することができる。
【２３１０１】
　即ち、エンディング演出の後で発射した球を、大当たり遊技終了後から移行した後の作動パターン（第２の作動パターン又は第３の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に入球させることができる。
【２３１０２】
　この場合においても、エンディング演出が終了したら、特別図柄の保留球があれば、エンディング演出の終了後に特別図柄の変動が開始される。一方で、時間表示Ｂ８１１の表示は継続して残したいので、例えば、主表示領域ＢＤｍにおいてはエンディング演出の表示を継続し、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ３において特別図柄の変動を表示し、普通図柄の次変動が開始されるタイミングとなり次第、小領域ＢＤｓ３の表示が主表示領域ＢＤｍ３に拡大されながら移動するように構成しても良い。
【２３１０３】
　画面上で特別図柄を移動させることになるので、低速変動中（リーチ等）になる前段階で移動させることが好ましい。そのため、上述のような表示態様（特別図柄の移動）は、エンディング演出の終了タイミングから普通図柄の次変動の開始タイミングまでの時間差の方が、特別図柄の低速変動中に移行するまでにかかる時間よりも短いという特定の条件が整った場合にのみ行うようにしても良い。
【２３１０４】
　但し、変動演出の決定は、変動開始時にされるので、エンディング演出の終了よりも後になる。そのため、上述のような表示態様を行うことができるかどうかは、エンディング演出中には不明となるので、エンディング演出終了後に、上記特定の条件が整っていると音声ランプ制御装置Ｂ１１３に判定された場合に、終端位置Ｂ８１２を右方に移動させたり、「＋２秒」等の数字を表示させたりすることで、球発射タイミングが後倒れしたことを報知するように構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達することで遊技者は球の発射を開始すると考えられるが、その直後に球発射タイミングが後倒れしたことの報知がされれば、それを見た遊技者は球の発射を停止させることができる。これにより、球損を最小限とさせることができる。
【２３１０５】
　上記第５４実施形態では、特定表示Ｂ８１０や枠ボタン表示Ｂ８１３等の表示が、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の一部に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面の全体に表示される（全画面表示される）ように構成しても良いし、表示画面の異なる部分に表示されるようにしても良い。
【２３１０６】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出において時間表示Ｂ８１１が初めから表示

される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の途中から表示されても良いし、枠ボタンＢ２２の操作により表示されるようにしても良い。また、枠ボタンＢ２２の操作を行う度に、時間表示Ｂ８１１が表示されたり、時間表示Ｂ８１１の表示が消えたりするようにしても良い。

【２３１０７】

上記第５４実施形態では、時間表示Ｂ８１１がバーとして表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面に任意の数字を表示し、その数字を目標値（例えば０（ゼロ））までカウントダウンさせていく表示としたり、目標値（例えば、６００）までカウントアップさせていく表示としても良い。この場合、表示が目標値となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。

【２３１０８】

また、この表示は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面において表示する場合に限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１とは別の第２の表示装置や、７セグメント表示器を用意して、それら第２の表示装置や、７セグメント表示器においてカウントダウン又はカウントアップさせる表示を実行しても良い。

【２３１０９】

なお、時間表示Ｂ８１１を、バーとカウントダウン（カウントアップ）との両方で表現するようにしても良い。例えば、時間表示Ｂ８１１をバーとして表示することに加えて、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する数秒前（例えば３秒前）から、表示画面に数字（例えば３）を表示し、その数字をカウントダウンさせていく表示を実行しても良い。この場合、表示が０（ゼロ）となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。

【２３１１０】

上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていなくても枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態を構成可能としても良い。

【２３１１１】

上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の内部に発光手段が配設され、枠ボタンＢ２２が操作可能なタイミングで発光手段が発光するように制御しても良い。この場合、操作対象（枠ボタンＢ２２）の位置を遊技者に把握させ易くすることができる。

【２３１１２】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において、社名表示演出は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態が、遊技者にとって最も有利な状態となる場合に実行され、カード忘れ防止表示演出は、大当たり遊技における払い出し個数が８ラウンド分の個数以上（所定の個数以上）である場合に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出が実行される条件と、カード忘れ防止表示演出が実行される条件とを入れ替えても良い。

【２３１１３】

また、社名表示演出またはカード忘れ防止表示演出の少なくとも一方は、大当たり種別によらず、大当たり遊技の度に常に実行されるように設定しても良いし、所定の大当たり回数目（例えば、連荘中において奇数回目の大当たりとか、３の倍数の大当たり等）で実行されるように設定しても良い。

【２３１１４】

なお、エンディング演出の内容は、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、「パチンコは遊技です。のめり込みに注意しましょう」という、遊技者を落ち着かせるための文字列を表示したり、不慣れな遊

技者等に向けて店員呼び出しボタンの説明をする動画を表示したり、可動役物を待機位置に復帰させるためのボタン操作について説明する動作を表示したりしても良い。これらいずれの表示を実行している間においても、枠ボタン表示Ｂ８１３を表示して枠ボタンＢ２２の操作を促したり、時間表示Ｂ８１１を表示して次演出への移行タイミングを報知したりすることができる。

【２３１１５】

上記第５４実施形態では、遊技者にとって最も有利な状態は、特殊確変状態である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技終了後の状態が、確変状態か時短状態（通常状態）かで異なる場合（特殊確変状態には移行しない場合）には、遊技者にとって最も有利な状態は確変状態とされる。

【２３１１６】

また、大当たり遊技終了後の状態が時短状態のみであり、時短状態が継続する抽選回数に差がある場合には、時短状態が継続する抽選回数が最も多くなる状態が、遊技者にとって最も有利な状態とされる。

【２３１１７】

また、大当たり遊技終了後の状態が確変状態のみであり、一方の大当たり種別では次回大当たりまで確変状態が継続される一方で、他方の大当たり種別では所定の抽選回数後は特殊確変状態に移行される場合（通常状態の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとされる場合等）には、他方の大当たり種別の方が特殊確変状態において小当たり遊技中に得られる賞球分有利なので、遊技者にとって最も遊技な状態とされるのは他方の大当たり種別の大当たり終了後の状態とされる。

【２３１１８】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において、エンディング表示演出が常に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出が実行されない大当たり種別を構成しても良い。特に、賞球の払い出し個数が他の大当たり種別に比較して極端に少ない大当たり種別（例えば、突然確変大当たりや、突然通常大当たり等）の時には、エンディング表示演出を省略した方が賞球の払い出しが極端に少ないことを遊技者に意識させないようにすることができ、且つ、大当たり遊技終了後の図柄の変動を早期に開始させることができる。

【２３１１９】

また、特に、特殊確変状態と大当たり遊技との境目を目立たせずに遊技を行わせるための演出（例えば、小当たり遊技における賞球個数と大当たり遊技における賞球個数とを合算して表記する演出）を構成する際には、連荘中にはエンディング表示演出を省略し、連荘の終了時にエンディング表示演出を実行することで、遊技者に対して特殊確変状態と大当たり遊技とをまとめて一つの有利状態として見せることができる。

【２３１２０】

また、上述の内容はエンディング表示演出に限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出についても、連荘に突入する最初の大当たりのエンディング表示において表示させる一方で、連荘中は大当たり種別に関わらず表示させないようにしても良い。

【２３１２１】

上記第５４実施形態では、賞球表示Ｂ８０１と識別表示Ｂ８０２とが同じタイミングで画面に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球表示Ｂ８０１が画面に表示されてから、表示が切り替わった後で識別表示Ｂ８０２が表示されるようにしても良い。この場合、大当たり遊技で獲得した利益と、大当たり遊技から移行された後で獲得できる利益とを、分けて遊技者に理解させることができるので、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【２３１２２】

上記第５４実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定したが、必ず

しもこれに限られるものではなく、各演出の長さは、大当たり種別ごとに任意に設定することができる。例えば、カード忘れ防止表示演出の実行期間を他の演出に比較して長くする（例えば、１０秒等）ようにしても良いし、カード忘れ防止表示演出を繰り返し実行するように構成しても良い。

【２３１２３】

また、繰り返し実行する場合には、連続で繰り返しても良いし、他の演出を挟んで繰り返すようにしても良い。例えば、カード忘れ防止表示演出の終了後に、エンディング表示演出（２回目）を表示させるように構成しても良い。この時、１回目のエンディング表示演出では賞球表示Ｂ８０１は表示するが識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示せず、２回目のエンディング表示演出において識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示して賞球表示は表示しないようにしても良い。

【２３１２４】

これにより、大当たり遊技で遊技者が獲得できた利益（賞球個数）を報知するタイミングと、大当たり遊技の終了後における遊技の状態を報知するタイミングとを分けることができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。また、エンディング演出の終盤に遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２）を表示することで、エンディング演出に対する遊技者の注目力を高い状態で維持することができる。

【２３１２５】

また、エンディング演出の所定のタイミングにおいて遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２を表示可能とする場合に、その表示への切り替えタイミングの前に枠ボタンＢ２２の操作を実行させるように演出しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３を行うことで、第３図柄表示装置Ｂ８１に対する遊技者の注目力を高めると共に、枠ボタンＢ２２の操作により遊技に参加している感覚を遊技者に与えることができ、枠ボタンＢ２２の操作直後に識別表示Ｂ８０２を表示することで遊技者が識別表示Ｂ８０２を見逃す事態を回避し易くすることができる。

【２３１２６】

なお、エンディング演出の長さは数秒間に限定されるものではなく、その長さは任意に（例えば、大当たり種別に応じて）設定可能である。即ち、数秒で終了するエンディング演出の他に、数分を要するエンディング演出が用意されても良い。

【２３１２７】

上記第５４実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定し、実行される演出の組合せ次第でエンディング演出の実行期間が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の実行期間は固定にして、社名表示演出が短く設定される場合には、代わりにカード忘れ防止表示演出が長くなるように構成しても良い。

【２３１２８】

この場合、社名表示演出が短い期間で終了したことを把握できた遊技者は、その時点でカード忘れ防止表示演出が長くなることを知ることができるので、音量や光量の設定変更にかけられる時間が長くなることを把握することができ、遊技者の枠ボタンＢ２２を操作する意欲を向上させることができる。

【２３１２９】

上記第５４実施形態では、エンディング表示演出の後に社名表示演出が実行され、その社名表示演出の後に、カード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の表示順は任意に設定可能であり、社名表示演出の前にカード忘れ防止表示演出が実行されるようにしても良い。

【２３１３０】

また、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出のいずれか２つの演出が同時に実行される（並列で実行される）ように構成しても良い。この場合、

表示の重なりを避けるために、第３図柄表示装置Ｂ８１における表示位置を分けるようにすると良い。これによれば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出が順に実行される（直列で実行される）場合に比較して、演出を同時に実行させている分だけエンディング演出に要する時間を短くすることができる。

【２３１３１】

上記第５４実施形態では、社名表示演出が実行されるとカード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出と社名表示演出とが実行され、カード忘れ防止表示演出が省略される大当たり種別を用意しても良い。

【２３１３２】

上記第５４実施形態では、エンディング表示演出の後で枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され、設定を変更することができようになる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され設定を変更することができる期間が経過した後で、エンディング表示演出が実行されるようにしても良い。

【２３１３３】

この場合において、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示される期間は、エンディング演出に入ってから（最終ラウンドのラウンド遊技が終了してから）開始されるようにしても良いし、大当たり遊技における終盤のラウンド遊技の消化中から開始されるようにしても良い。いずれの場合でも、エンディング表示演出から変動演出への移行をスムーズにすることができる。

【２３１３４】

なお、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能となるタイミングは、枠ボタンＢ２２を操作した後に限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されず、枠ボタンＢ２２の操作を介することなく、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能とする場合があっても良い。

【２３１３５】

上記第５４実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面の中央に表示され、音量や光量の調整を行っている最中にも特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に移動した状態で視認可能とされており、カード忘れ防止表示演出が継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、離席しようとしている遊技者が音量や光量を改めて調整するはずがないという判断から、音量や光量の調整が実行されたらカード忘れ防止表示演出が消えるように構成しても良い。

【２３１３６】

上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２を操作したら調整画面に移行するように説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るようにしても良い。これにより、音量や光量の設定変更のためには両手操作が最適であることを遊技者に分からせることができ、ハンドルＢ５１から手を離させることができるので、エンディング演出中における球発射を抑制することができる。

【２３１３７】

なお、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作するまえから、「枠ボタンを押した状態で光量や音量の設定変更が可能です」と表示させても良い。これにより、両手操作が必要であることを遊技者に一度で把握させることができる。エンディング演出において両手操作をさせることで、発射しても遊技者にとって利益率の悪いタイミングにおける球の発射を抑制することができる。即ち、報知は、遊技球の発射を抑えた方が遊技者にとって利益が高くなる可能性があるタイミングにおいて、複数の操作手段を同時に操作させる態様で行うようにすれば良い。

【２３１３８】

また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作する度に、音量の設定変更が可能な状態（表示態

様）と、光量の設定変更が可能な状態（表示態様）とを、切り替えられるようにしても良い。

【２３１３９】

また、例えば、エンディング演出中は、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るように制御される一方で、エンディング演出が終了して変動演出の表示画面に移行したら、枠ボタンＢ２２を押していなくても音量や光量の調整を実行できるように制御しても良い。これにより、エンディング演出の終了後にまで両手操作が強いられることを防止することができるので、遊技者は、ハンドルＢ５１を操作しながら音量や光量の設定変更をすることができる。

【２３１４０】

上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って枠ボタンＢ２２を操作した場合に特定表示Ｂ８１０が画面の端側に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って遊技者が枠ボタンＢ２２を操作した場合には、特定表示Ｂ８１０としての製造会社名（Ａカンパニー）が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の左上隅（端側）に移動され、それに続けて、特定表示Ｂ８１０にカード取り忘れ防止表示が表示されるようにしても良い。社名表示演出の実行中に、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央に方向操作部表示Ｂ８１６を表示させ、遊技者に対して音量や光量の設定変更が可能であることを報知するようにしても良い。

【２３１４１】

また、特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に表示された状態となっても、規定時間以内（例えば２秒以内）に音量や光量の設定変更が実行されなかった場合には、特定表示Ｂ８１０が画面中央（移動前の配置）に戻るように設定しても良い。

【２３１４２】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量や光量の設定の変更を行うことができるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出から移行する特殊確変中、確変中や時短中における特別図柄の変動演出のパターンにバリエーション（第１の態様、第２の態様）が設けられている場合に、そのいずれを選択するかの設定の変更を行うことができるようにしても良い。ここで、第１の態様と第２の態様との組合せとしては、任意に設定可能であるが、例えば、白黒表示態様とカラー表示態様との組合せや、漫画的な表示態様とアニメ的な表示態様との組合せや、枠ボタンＢ２２の連打操作を要求する表示態様と枠ボタンＢ２２の長押し操作を要求する表示態様との組合せ等が例示される。

【２３１４３】

また、例えば、大当たり演出中や、変動演出中に流れる曲（主題歌等）の設定を変更可能な場合は、エンディング演出において曲の設定の変更を行うことができるようにしても良い。エンディング演出ではなく、ファンファーレ演出中でも良いし、ラウンド遊技中でも良いし、ラウンド間インターバル中でも良いし、それらを跨いだ期間でも良い。

【２３１４４】

上記第５４実施形態では、エンディング演出中に、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２によってエンディング演出の終了タイミングを報知したり、枠ボタンＢ２２の操作に伴って表示演出が変化したりすることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出の終了タイミング又は発生タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、図柄の変動中やリーチ中に行われても良いし、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われても良い。

【２３１４５】

例えば、図柄の変動中やリーチ中に行われる場合において、報知される演出の終了タイミングは、特別図柄の変動が停止されるタイミングでも良いし、演出としての疑似連続変動が開始されるタイミングでも良い。前者の場合、特別図柄の保留球数が１減ることで新たな特別図柄の抽選を獲得できるようになるので、遊技者に対して球の発射を促すタイミ

ングとして適切である。後者の場合、特別図柄の変動自体は数分にわたる場合に、その途中のタイミングで短く区切ることで、遊技者の集中力を保つことができる。

【２３１４６】

リーチ終盤での枠ボタン表示Ｂ８１３に伴う枠ボタンＢ２２の操作が行われると、大当たりであれば大当たり用の表示画面に移行し、はずれであれば、はずれ用の表示画面に移行するように構成することで、枠ボタン表示Ｂ８１３を見ている遊技者に対して特別図柄の変動の結果を分からせ易くすることができる。

【２３１４７】

例えば、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われるようにしても良い。ラウンド中における、枠ボタン表示Ｂ８１３及び枠ボタンＢ２２の操作は、例えば、昇格演出（例えば、ファンファーレ演出では４ラウンド大当たりであると演出上報知したが実際は１５ラウンド大当たりであることを報知する演出など、ファンファーレ演出での報知により遊技者が得られると予想される利益よりも高い利益を遊技者が得られる大当たりであることを報知する演出）に利用することができる。

【２３１４８】

特に、上記第５４実施形態のように、ラウンド遊技において開口部Ｂ７５１を球が通過するか否かで大当たり遊技終了後の遊技状態が変化する場合において、そのラウンド遊技中に枠ボタン表示Ｂ８１３を表示するようにし、遊技者に対して枠ボタンＢ２２の操作を促すことで、遊技者の注意を開口部Ｂ７５１から逸らし、開口部Ｂ７５１を球が通過したか否かの確認をし損なう事態を生じさせることができる。

【２３１４９】

パチンコ機Ｂ１０が、表示画面の正面側に張り出す可動役物を備える場合に、ラウンド中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があり、昇格演出を実行する時に可動役物が表示画面の正面側に張り出すように制御されると、遊技者としては可動役物の動きで昇格演出に成功したことが分かり易い。ラウンド中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があったとしても、昇格演出を実行しない時（ファンファーレ演出での報知と実際の報知が同じである場合）には可動役物が表示画面の正面側に張り出さないように制御することで遊技者に対して昇格演出に失敗したことを分からせ易い。

【２３１５０】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間第１図柄の抽選が行われないと実行される遊技説明表示演出（デモ画面）中に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技説明表示演出が一巡したことを遊技者に分からせることができる。

【２３１５１】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間内で所定の検出口に球を通過させる遊技に関する演出において、所定時間内において所定の検出口を依然として球が通過していない場合に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技者に球が検出口を通過していないことに気付かせることができる。

【２３１５２】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中や、ラウンド間インターバルにおいて実行するようにしても良い。この場合、演出の終了タイミングで特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが開放されることになるので、遊技者は、球を発射するのに適したタイミングを容易に把握することができる。

【２３１５３】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるラウンド遊技およびラウンド間インターバルを複数含む期間中に行われるようにしても良い。これにより、単一のラウンド遊技やラウンド間インターバルとして設定される時間よりも長時間の演出を構成することができ、その長

時間の演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化を実行可能とすることにより、遊技者を飽きさせることなく遊技に集中させることができる。

【２３１５４】

上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出がエンディング演出において実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の保留球数が０になってから、所定時間が経過した時に実行されるようにしても良い。この場合、大当たりを獲得する前の遊技者に対しても、カード忘れ防止表示演出を視認させることができる。

【２３１５５】

また、例えば、長時間（例えば、６０秒以上）の第１図柄の変動開始時に実行されるようにしても良い。この場合、空き時間で飲み物等の購入をしようと考えている遊技者に対して、長時間の第１図柄の変動が開始されることを報知できると共に、離席時にカード忘れを起こさないように注意喚起することができる。

【２３１５６】

上記第５４実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間は、エンディング演出の終了までや、エンディング演出終了後の初回の変動中等までとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の変動中における第３図柄の高速変動表示中や、第３図柄の中速変動表示中に設定されても良い。この場合、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が終了するタイミングから、高速変動表示中から中速変動表示中へ移行するタイミングや、中速変動表示中から低速変動表示中（リーチ表示中等）へ移行するタイミングを、遊技者は把握可能となる。

【２３１５７】

また、特別図柄の変動中に亘って（低速変動表示中も含めて）、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間を構成可能としても良い。この場合において、方向操作部表示Ｂ８１６を小領域ＢＤｓ３に表示するようにしても良いし、小領域ＢＤｓ３と主表示領域ＢＤｍとで表示を入替可能としても良い。

【２３１５８】

この場合において、特別図柄の変動表示中において、調整可能とされる期間が用意されていることを示唆する報知が実行され、その後でその期間の報知が実行され、枠ボタン表示Ｂ８１３等がされ、方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能となり音量や光量の調整が可能とされるというように、報知を段階的に行うように構成しても良い。この場合、特別図柄の変動表示中であっても、遊技者の興味を段階的に移すことができるので、調整可能とされる期間が用意されていることに遊技者が気づかない事態が生じることを回避し易くすることができる。

【２３１５９】

これに加えて、音量光量の調整が次変動以降も有効となるように制御しても良いし、音量光量の調整を行った際に変動していた特別図柄が大当たりとなった場合に、音量光量の調整を維持した状態で大当たり遊技を行うことができるように制御しても良い。

【２３１６０】

また、例えば、初回の変動中までに限られず、複数回目の変動が終了するまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良いし、第１図柄の変動が所定の態様（例えば、長時間の変動や、大当たりを獲得する変動など）となるまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良い。

【２３１６１】

また、大当たりとなった変動演出の後半においてや、ファンファーレ演出において、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が用意されても良い。この場合、大当たり中の音量設定を行うことができ、期間の終了のタイミングから大当たり遊技の開始タイミングを遊技者は把握することができる。

【２３１６２】
上記第５４実施形態では、終端位置Ｂ８１２が固定されており、時間表示Ｂ８１１が時間経過と共に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１の移動速度は一定速度とされても良いし、時間表示Ｂ８１１の移動速度が途中で変化可能に構成されても良い。また、例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が逆方向（左側）に移動する場合があるように構成しても良い。
【２３１６３】
また、例えば、終端位置Ｂ８１２が動くことができるように構成しても良い。即ち、時間表示Ｂ８１１の移動中に、終端位置Ｂ８１２も移動することで、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想し難くすることができる。
【２３１６４】
なお、終端位置Ｂ８１２の移動は、時間表示Ｂ８１１が到達するのを待って、時間表示Ｂ８１１が到達した直後に移動するように構成しても良いし、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する前において移動するように構成しても良い。
【２３１６５】
また、時間表示Ｂ８１１の移動先としての終端位置Ｂ８１２の移動方向は、左右方向に限定されるものではない。例えば、上下方向に移動しても良いし、渦を巻くように移動しても良い。これにより、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想され難くすることができる。
【２３１６６】
上記第５４実施形態では、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、方向操作部８１６が表示画面の中央に表示され、特定表示Ｂ８１０は表示画面に隅に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作する前から特定表示Ｂ８１０が表示画面の隅に配置されていても良い。また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで表示画面の中央付近まで可動役物が張り出し、その可動役物に隠されない位置に特定表示Ｂ８１０の表示位置が変化するようにしても良い。
【２３１６７】
また、例えば、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、特定表示Ｂ８１０が消えるように設定しても良いし、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで始めて時間表示Ｂ８１１および終端位置Ｂ８１２が表示されるように構成しても良いし、これらの組合せでも良い。
【２３１６８】
上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量を変更した場合、表示画面における横目盛り表示Ｂ８１８の表示態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これに加えて、又はこれに代えて、音量を変更した場合に所定のセリフが出力されるようにしても良い。
【２３１６９】
例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」というセリフが出力されるように構成する場合、遊技者が音量を変更する度に、遊技者に対してカード忘れに対する注意喚起を行うことができる。
【２３１７０】
また、セリフの内容、音量または音声（声色）が、変更後の音量に対応して変化するようにしても良い。特に、セリフの内容（例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」又は「カードを確実にお持ち帰り下さい」）や声色が変わる場合（例えば、異なるキャラクターの声色）には、遊技者が自分の好みの音量に設定することを容易にすることができる。
【２３１７１】
上記第５４実施形態では、エンディング演出で注意コメント表示Ｂ８１５や第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示されるコメントが、遊技者が設定変更できる対象と一致する場

合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントが表示されるようにしても良い。

【２３１７２】

この場合において、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に「大当たり！？」や「大チャンス発生中」という期待表示（大当たりが獲得可能であるかもしれないと遊技者に期待させるコメント表示）を行うことで、遊技者はエンディング演出中に次の大当たりの獲得に期待することができるので、エンディング演出に対する遊技者の注目力を向上させることができると共に、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。

【２３１７３】

注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に期待表示がされ、既に大当たりの獲得が期待できる場合、球の無駄打ちを避けるため、大当たり遊技が開始されるまでは球の発射を控えることが通常である。そのため、エンディング演出の終了時点に合わせて時間表示Ｂ８１１を終端位置Ｂ８１２に到達させるようにしても、遊技者の注目力を高めることができない可能性が高い。

【２３１７４】

そこで、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了時点で終端位置Ｂ８１２に到達させる態様ではなく、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２３１７５】

この場合において、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２は、エンディング演出において表示開始され大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングまで表示が継続されるようにしても良いし、エンディング演出においては表示されずにその後の変動演出への移行後に表示されるようにしても良い。

【２３１７６】

前者の場合、エンディング演出を見ている段階から既に大当たりを獲得できていることに遊技者は気付けるので、大当たり遊技の終了直後に球を発射する必要性はないことを遊技者は把握することができる。そのため、遊技者は球の打ち出しを抑えることができる。

【２３１７７】

後者の場合、エンディング演出から変動演出へ移行されたら大当たりとなる抽選の変動演出を待たずに時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示されても良いし、大当たりとなる抽選の変動演出が開始された後または変動演出の開始と同時に表示されるようにしても良い。いずれの場合であっても、遊技者は、変動演出が終了する前から大当たりとなることを把握することができるので、例えば、変動演出が長時間となる（例えば、１変動に１０分を要する）場合であっても、遊技者は球の打ち出しを抑えることができるし、保留している始動入賞に大当たりがあることに気付かずに遊技機を離席するという事態を回避し易くすることができる。

【２３１７８】

なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、エンディング演出では期待表示を表示しないが、変動演出中に時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示され、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。

【２３１７９】

なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合において、大当たりとなる始動入賞の個数に対応して表示態様を変えるようにしても良い。例えば、大当たりとなる始動入賞の個数が２個の場合に、「大当たり×２！？」との期待表示を注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示するようにしても良いし、「複数回大当たり！？」との期待表示として、複数の大当たりとなるが、大当たりとなる始動入賞が何個あるかは不明とするようにしても良い。これにより、遊技者の興趣の向上を

図ることができる。
【２３１８０】
この時、時間表示Ｂ８１１を、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成する場合には、エンディング演出の終了から最初に大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングとすることで、遊技者の気持ちを大当たり遊技へスムーズに移行させることができる。
【２３１８１】
また、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントの表示位置を、小領域ＢＤｓ３に設定し、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２が操作されることで枠ボタン表示Ｂ８１３が消えたら、そのコメントを視認可能とするように構成しても良いし、コメントの表示を表示画面全体（全画面表示）に設定しても良い。この場合、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。
【２３１８２】
上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出から次の変動演出に移行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、カード忘れ防止表示演出と次の変動表示画面との間に、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に一枚絵（静止画）を表示させるようにしても良い。この場合において、一枚絵の表示開始時点で、図柄変動が開始される場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、一枚絵が表示開始される時点に合うように設定すると良い。
【２３１８３】
また、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してから暫くしてから図柄変動が開始されるようにしても良い。この場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してからのタイミングに設定すると良い。
【２３１８４】
上記第５４実施形態では、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球を発射開始するのに適したタイミングとして構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が、遊技者が球を発射することで所定の利益を得られる期間中に表示され、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球の発射を終了するのに適したタイミングとして構成するようにしてもいい。この場合、時間表示Ｂ８１１が右方に移動している期間中において、遊技者に球を発射させることを促すことができ、且つ、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。
【２３１８５】
また、この場合において、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する前のタイミングにおいて規定の条件が満たされた場合には、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に「準備完了」等の文字列を表示したり、表示画面の表示を切り替えたりして、規定の条件が満たされたことを遊技者に報知するようにしても良い。この場合において、規定の条件が満たされた後においても時間表示Ｂ８１１の表示を維持したままにしても良いし、規定の条件が満たされた場合には時間表示Ｂ８１１の表示を消すようにしても良い。
【２３１８６】
例えば、特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の保留球数が４個（満タン）になることを条件として表示画面に文字列が表示されるように遊技機が制御されていれば、遊技者は文字列を確認することで、球をこれ以上発射しても特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の抽選を獲得することができないことを把握することができる。これにより、時間表示Ｂ８１１の移動速度を急激に変化させる等の制御をすることなく、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。
【２３１８７】
上記第５４実施形態では、枠ボタンＢ２２を押す前は注意コメント表示Ｂ８１５が表示されており、枠ボタンＢ２２を押した後で第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示される場

合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２３１８８】
例えば、枠ボタンＢ２２を押した後も注意コメント表示Ｂ８１５のみが表示され、方向操作部８１６及び縦目盛り表示Ｂ８１７は表示されるが、横目盛り表示Ｂ８１８の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されていた注意コメント８１５の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（光量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。
【２３１８９】
例えば、枠ボタンＢ２２を押す前において注意コメント表示Ｂ８１５が消えており第２注意コメント表示Ｂ８１９のみが表示されている場合には、枠ボタンＢ２２を押した後も第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示され注意コメント表示Ｂ８１５の表示はされず、方向操作部８１６及び横目盛り表示Ｂ８１８は表示されるが、縦目盛り表示Ｂ８１７の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されていた第２注意コメント８１９の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（音量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。
【２３１９０】
これにより、遊技者は、自分が設定を変更したい対象（音量または光量）の設定を変更できるか否かを予め確認した上で、枠ボタンＢ２２を操作するか否かを選択することができるので、枠ボタンＢ２２の操作負担を低減することができる。
【２３１９１】
また、枠ボタン表示Ｂ８１３と、枠ボタンＢ２２を操作した場合における操作対象とが別箇所に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが音符になっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により音量の調整が可能である一方で、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが電球マークになっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により光量の調整が可能となるように制御しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３自体の表示態様を変化させることで、枠ボタンＢ２２の操作により調整可能となる対象を報知するようにしても良い。
【２３１９２】
また、枠ボタンＢ２２に対応する操作手段が複数あり、それぞれ形状が異なる場合には、枠ボタン表示Ｂ８１３として異なる形状に対応した表示を構成することができるので、枠ボタン表示Ｂ８１３によりどの操作手段を操作すればよいかを遊技者に報知することができる。この場合において、操作される操作手段に対応して、調整可能となる対象が変わるように構成しても良い。
【２３１９３】
上記第５５実施形態では、スライド部材Ｂ２４５０が前突設部Ｂ２４５７と一体成形される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前突設部Ｂ２４５７とスライド部材Ｂ２４５０とが別体で成形され、スライド部材Ｂ２４５０が前後方向にスライド移動することに伴う負荷伝達により、前突設部Ｂ２４５７が上下方向に出没変位することで、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出す場合と、底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出さない場合とが切り替えられるように構成しても良い。
【２３１９４】
この場合、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前後方向に変位する場合に比較して、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂから球に対して与えられる負荷の、中央流路Ｂ２４３１における球の流下方向に沿う成分を小さくすることができるので、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前方へ変位した際に誤って球を加速させる事態が生じることを避け易くすることができる。
【２３１９５】

上記第５７実施形態では、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とが一体形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１に妨害棒部Ｂ４４２５を組み付け可能に構成することで、妨害棒部Ｂ４４２５を組み付けずに使用する場合と、妨害棒部Ｂ４４２５を転動板部Ｂ４４２１に組み付けて使用する場合とで、転動板部Ｂ４４２１を兼用することができ、転動板部Ｂ４４２１を共通部品化することによるコストダウンを図ることができる。

【２３１９６】

また、例えば、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とを別体で形成し、転動板部Ｂ４４２１の動作時に妨害棒部Ｂ４４２５が連動するよう構成しても良い。これにより、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５との配置の自由度を向上することができる。なお、この場合において、転動板部Ｂ４４２１を駆動する駆動装置を、妨害棒部Ｂ４４２５を駆動する駆動装置と兼用するようにしても良いし、別の駆動装置を用意しても良い。

【２３１９７】

上記第５７実施形態では、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が、案内部Ｂ４４１３の右端部よりも右側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が左方に延長され、案内部Ｂ４４１３の上面に被さるように形成されても良い。この場合、転動板部Ｂ４４２１の上面を転動して流下する球をスムーズに案内部Ｂ４４１３に乗せることができる。即ち、球の重みで転動板部Ｂ４４２１の高さ位置が下がり（沈み込み）、転動板部Ｂ４４２１の上面が案内部Ｂ４４１３の上面よりも低位置に配置され、転動板部Ｂ４４２１の下流側に到達した球が案内部Ｂ４４１３側に移る際の流下抵抗が大きくなる事態が生じることを防止することができる。転動板部Ｂ４４２１の上流側端部や、可変入賞装置Ｂ６５の開閉部材の両端部においても同様のことがいえる。

【２３１９８】

上記第５７実施形態では、電動役物Ｂ４４２０が前後方向にスライド変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回動変位するように構成しても良い。回動変位の回転軸は、例えば、上記第５７実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部（流路構成部Ｂ４４１０の背面側に形成される横長の開口部）において開口部に沿う方向に延びるように配設されても良い。

【２３１９９】

その回転軸から下方に垂れ下がるように横長矩形状の開閉板を形成する。開閉板が垂れ下がった状態が非案内状態に対応し、この状態において開閉板の下流側端部において妨害棒部Ｂ４４２５に対応するように球の通過を妨害可能な妨害部分が形成される。非案内状態から開閉板が起き上がる方向（後転方向）に９０度回動されることで、開閉板が案内部Ｂ４４１３側に球を案内可能な状態とされ、この状態が案内状態に対応する。この状態において、妨害部分は流路構成部Ｂ４４１０の背面側に退避される。

【２３２００】

このように構成することで、非案内状態において回転軸よりも板状部Ｂ４４１２側へ球が流れた場合であっても、開閉板が後転方向に変位する際の球の配置次第で、球を回転軸よりも上側に救い上げることができる。

【２３２０１】

また、回動変位の回転軸は、例えば、上記第５７実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部の下端部において前後方向に延びるように配設されるようにしても良い。回転軸から、第５７実施形態における案内状態と同様の方向に開閉板が延びる状態を案内状態として構成する。案内状態から、回転軸を中心に反時計回りに９０度回転する状態（非案内状態に対応する）にまで開閉板が回動変位できるように、球入口Ｂ４４１１及び天井部Ｂ４４１４の上下配置が上方に引き上げられている。即ち、本構成によれば、案内状態から、開閉板が反時計回りに９０度回動された状態が非案内状態として構成されることとなり、第５７実施形態における転動板部Ｂ４４２１と、妨害棒部Ｂ４４２５とが、同じ部分により構成されることになる。

【２３２０２】
このように構成することで、開閉板が案内状態から非案内状態へ向けて回動される場合に、案内状態において開閉板の上面に乗っている球を、残らず案内部Ｂ４４１３側へ案内することができる。これにより、第５７実施形態において電動役物Ｂ４４２０が案内状態から非案内状態へ向けてスライド変位される場合に、案内状態において転動板部Ｂ４４２１の上面に乗っている球がほとんど板状部Ｂ４４１２側に流下することに比較して、案内部Ｂ４４１３側へ球を容易に案内させることができる。
【２３２０３】
上記第５８実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと開口部Ｂ７５１との間に回転変位する球受回転部材Ｂ５７７１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右に首振り可能に構成される回動部から形成され、球の流下経路を左右いずれかに振り分けるように動作可能としても良い。
【２３２０４】
また、例えば、スライド変位する開閉板を配設するようにしても良い。この場合において、開閉板を、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１の開閉に利用するようにしても良い。
【２３２０５】
また、開閉板が、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１上に配置されるように構成することで、球の流下経路を切り替えるように構成しても良い。即ち、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が開放される一方で開口部Ｂ７５１が閉鎖される状態と、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が閉鎖される一方で開口部Ｂ７５１が開放される状態と、を開閉板により切り替え可能に構成しても良い。
【２３２０６】
上記第５８実施形態では、球受凹部Ｂ５７７２に球が１個ずつ受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１を超える所定数（例えば、２個ずつ）受け入れられるように構成しても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１が一定速度で回転動作する場合に、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に複数個（所定数）の球をまとめて入球させることができる。
【２３２０７】
上記第５８実施形態では、球受回転部材Ｂ５７７１が時計回り方向に常に回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、常時回転動作することは同じとして、所定間隔で反時計回り方向に回転する動作タイミングを入れるようにしても良い。この場合、例えば、球受凹部Ｂ５７７２と流下規制部材Ｂ５７７８との間で球噛みが生じた場合であっても、回転方向が反転することにより球噛みの解消を図ることができる。
【２３２０８】
また、所定の大当たり種別の場合に、ラウンド遊技の初めの１０秒間は球受回転部材Ｂ５７７１が停止され、１０秒間が経過した後で球受回転部材Ｂ５７７１が回転動作されるようにしても良い。この場合、初めの１０秒間において一対の貯留板部Ｂ７１５側（開口部Ｂ７５１側）に球が流下しないようにすることができるので、釘ＢＫＧ１の状態として移動上蓋部材Ｂ７３０側に導かれる球よりも逸れる球の方が多いような状態の方が、初めの１０秒間における第２特定入賞口Ｂ７００ａの入球個数を減らせることから、開口部Ｂ７５１を球が通過する可能性を高めることができる。
【２３２０９】
また、大当たり種別ごとに、球受回転部材Ｂ５７７１の回転方向や、回転速度（一定か可変かも含めて）や、回転方向の反転の有無等を設定するようにしても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１に対する注目力を向上させることができる。
【２３２１０】
上記第５８実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が、第２特定入賞口Ｂ７００ａから球受凹部Ｂ５７７２に球が流れる際に球が横に

零れない程度に狭い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が球の直径よりも長くされ、球受凹部Ｂ５７７２が球で満たされている場合に第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は横に零れて傾斜板部Ｂ５７１８ｂへ流れるように構成しても良い。

【２３２１１】

この場合、球受回転部材Ｂ５７７１の回転が停止されても第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球が滞ることが無いので、球受回転部材Ｂ５７７１を所定のタイミングで停止させる制御を行うことができる。

【２３２１２】

ラウンド遊技中において球受回転部材Ｂ５７７１を停止させる時には、次に球受回転部材Ｂ５７７１が動作開始されるまで球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に流入しないようにすることができるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が導入されるタイミングや、開口部Ｂ７５１を球が通過するタイミングを遅らせることができる。

【２３２１３】

上記第５９実施形態では、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングから、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングまでに経過する所定の時間長さは、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７（目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置）に到達するまでに経過する平均的な長さよりも若干長くなるように設計される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するまでに経過する平均的な長さを比較対象として、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への入球確率を加味して、より長い時間で上述の所定の時間長さを設計するようにしても良い。

【２３２１４】

上記第５９実施形態では、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に目標示唆表示Ｂ６８２２としてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す表示を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技や、時短状態、確変状態または特殊確変状態における遊技が右打ちで行われる遊技機では、目標示唆表示Ｂ６８２２の代わりに「右打ち」との表示を表示画面に表示させるようにしても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２が拡大されるタイミングでは、「右打ち」の表示が全体として大型化されるように構成しても良い。または、エンディング演出中に亘り「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良いし、エンディング演出の途中から「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良い。

【２３２１５】

例えば、目標示唆表示Ｂ６８２２がファンファーレ演出で表示される場合、上側可変入賞装置Ｂ７００の第２特定入賞口Ｂ７００ａや開口部Ｂ７５１を狙うことを示唆するように目標示唆表示Ｂ６８２２を設計しても良い。この場合において、開口部Ｂ７５１で球の通過が検出されるまで、目標示唆表示Ｂ６８２２が、１ラウンド目のラウンド遊技中において表示画面に維持されるように設定される場合、遊技者は目標示唆表示Ｂ６８２２が消えることで球が開口部Ｂ７５１を通過したことを把握することができるため、目標示唆表示Ｂ６８２２に対する注目力を向上させることができる。

【２３２１６】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２のように表示画面においてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す方法の他に、例えば、遊技盤Ｂ１３のスルーゲートＢ６６，Ｂ６７付近を発光させる発光手段を配設させておき、目標示唆表示Ｂ６８２２がされるタイミングに倣って発光手段を発光させるようにしても良い。これにより、遊技者は、光を頼りにして球を狙う位置を把握することができる。

【２３２１７】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２は、エンディング演出において表示される場合を説明したが、これに限られるものではない。例えば、エンディング演出から変動演出に移行する

場合に、その変動演出においても、所定期間は継続して目標示唆表示Ｂ６８２２の表示を維持するように構成しても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２の表示期間は、所定の時間幅で設定されても良いし、目標とされる入球口での球の入球が（所定個数、例えば第１図柄の保留球数として許容される個数、本実施形態では４個）検出されるまで継続されても良い。

【２３２１８】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が球の発射の停止を促すために使用される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、枠ボタンＢ２２の操作の停止を促すために使用するようにしても良い。これにより、枠ボタンＢ２２の操作として不適切なタイミングとは知らずに枠ボタンＢ２２を操作するような遊技者に対して、不適切なタイミングで枠ボタンＢ２２を操作していることを分からせることができるので、遊技負担を低減させることができる。

【２３２１９】

また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、「右打ち」の実行を停止させることを促し、「左打ち」については停止させないような表記（例えば、「左打ちに戻してください」というコメント）で構成しても良い。

【２３２２０】

また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４等を強烈に発光させたり、異常色（例えば、濃赤色）で発光させたりしても良いし、スピーカーから大音量で「球の発射を止めてください」とか「左打ちに戻してください」等のコメントを出力したりしても良い。

【２３２２１】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７での球の通過が検出された場合に表示されると説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。即ち、所定の入球口への球の入球が予定されていない期間であるにも関わらず、所定の入球口での入球が検出された場合に表示するようにしても良い。

【２３２２２】

所定の入球口としては、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に限られるものではなく、様々な入球口（一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０、スルーゲートＢ６７、特定入賞口Ｂ６５ａ、第２特定入賞口Ｂ７００ａ、開口部Ｂ７５１等）が例示される。

【２３２２３】

例えば、球の入球が予定されていない期間としては、エンディング演出の実行中の他に、右打ち機（時短状態など所定の期間において右打ちで遊技を行う遊技機）において、所定の期間以外の期間が例示される。即ち、所定の期間以外の期間に、遊技領域の右側に配置される入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、不適切なタイミングで遊技者が右打ちすることを抑止することができる。

【２３２２４】

また、例えば、球の入球が予定されていない期間としては、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１が例示される。即ち、ファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１に、入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、特定入賞口Ｂ６５ａや第２特定入賞口Ｂ７００ａへの流下経路が開放されていない（閉鎖されている）タイミングにおける球の発射を抑制でき、無駄球の発生を最小限に抑えることができる。

【２３２２５】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１により即時の球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、所定の始動口（

例えば、第２入賞口Ｂ６４０）の入球に伴う抽選の保留球数に対応して表示を変えるようにしても良い。

【２３２２６】

即ち、例えば、球の発射により所定の始動口への入球が期待できるよう制御され、保留球数が満タン（４個）となるまで余裕がある場合には（例えば、保留球数が２個の場合には）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１としてその余裕分として遊技者が把握できるコメントを表示したり（例えば、「あと２個」）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１は表示せずに遊技準備示唆表示Ｂ６８４１を表示したりして、保留球数が満タンとなったら、上記第５９実施形態で説明したような遊技停止示唆表示Ｂ６８３１や、「準備完了」等のコメントのように球の発射が不要であることを示唆するように構成しても良い。

【２３２２７】

上記第５９実施形態では、球の発射が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示され、球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、又は遊技停止示唆表示Ｂ６８３１に合わせて、遊技者に利益の有る情報が表示（報知）されるように構成しても良い。これにより、球を無駄打ちしたという残念感だけが遊技者に与えられる場合に比較して、遊技者の残念感を低減させることができる。そればかりか、場合によっては、エンディング演出において遊技者が好んで球を発射するように仕向けることができる。

【２３２２８】

この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【２３２２９】

上記第６０実施形態では、光量や音量の設定変更を実行してから規定の時間が経過すると、設定変更がキャンセル（初期化）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、設定変更がキャンセルされる条件としては種々の態様が例示される。例えば、遊技が開始される前に表示画面において実行される遊技説明表示（所謂デモ画面）への移行を設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、時刻を判定できるように制御しておいて規定の時刻になることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、当日または複数日での大当たり回数が規定の大当たり回数とることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【２３２３０】

また、所定のタイミング（例えば、遊技開始前における遊技説明表示において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されているタイミングや、遊技中において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていないタイミング等）において枠ボタンＢ２２が操作されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、エンディング演出中に所定の入賞口またはスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、所定の大当たり種別の大当たりを獲得することを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、上皿Ｂ１７に貯留される球の量が許容量を超えた場合に報知される球抜き報知が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【２３２３１】

また、右打ち遊技すべきではないタイミングにおいてスルーゲートＢ６７で球の通過が

検出されるなど球が右側遊技領域Ｂ３０３を流下していると判定された場合に行われるよう設定される報知であって、遊技者に左打ちで遊技を行うことを促すための報知（例えば、「左打ちに戻してください」等の音声を出力する報知、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に左向きの矢印と「左打ちに戻してください」というコメントを表示する報知）が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【２３２３２】

上記第６０実施形態では、エンディング演出において音量も光量も設定変更可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、音量のみを変更できる状態と、光量のみを変更できる状態と、音量も光量も変更できる状態と、を切り替え可能に構成しても良い。この切り替えは、枠ボタンＢ２２の操作で切り替えても良いし、実行される演出に対応して音声ランプ制御装置Ｂ１１３により切り替えられるようにしても良い。

【２３２３３】

上記第６０実施形態では、音量や光量の設定変更がキャンセルされる直前における音量や光量の設定が過去光量表示Ｂ７８１７や過去音量表示Ｂ７８１８により遊技者が把握可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、現在の状態と、直前の設定値との差を表す数値を、「＋１」や「－２」等の表示や音声で報知しても良い。この場合、キャンセルされる前の設定に戻すために必要な操作を遊技者に把握させ易くすることができる。

【２３２３４】

上記第６０実施形態では、音量や光量の設定がキャンセルされる前の状態における設定を示唆する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が音量や光量の設定変更を実行している際に、設定変更前の設定が示唆されるように構成しても良い。この場合、遊技者が意図的に変更をかけたとしても、実際変更してみたら気に入らなかったというのであれば、元の設定に容易に戻すことができる。そのため、音量や光量の設定変更に対するハードルを下げることができる。

【２３２３５】

上記第６１実施形態では、点在する枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体したら実体化し、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる表示態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の操作を促す表示としてではなく（操作に関わる表示であるか否かに関わらず）、エンディング演出の経過時間の目安となる演出として、半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が所定のタイミングで実体化するように構成しても良い。

【２３２３６】

また、例えば、半透明な単一の枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動または停止しており、所定のタイミングで半透明な状態と実体化される状態とで切り替えられるように表示しても良い。この場合、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化されるタイミングを遊技者が予想し難くすることができるので、枠ボタン表示Ｂ８８１３に対する注目力を向上させることができる。

【２３２３７】

上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するタイミングを枠ボタンＢ２２の操作タイミングとして表示する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が移動する横長形状の枠に枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆するマークやコメント（「ＰＵＳＨ」等）などを表示するようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了タイミングを示唆する目的と、枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆する目的とで兼用することができる。

【２３２３８】

上記第６１実施形態では、点在している枠ボタン表示Ｂ８８１３が、移動して合体した後で更に離れる方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体して実体化した後、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を過ぎたら、枠ボタン表示Ｂ８８１３が消えるように制御しても良い。

【２３２３９】
上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が半透明か実体化しているかが、枠ボタンＢ２２の操作が有効となるか無効となるかに対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化している期間において、枠ボタンＢ２２の操作が無効となる状態と、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態とを構成しても良い。
【２３２４０】
例えば、枠ボタンＢ２２の操作の有効または無効の切替のタイミングは上記第６１実施形態で説明した態様と同じに設定しながら、カード忘れ防止表示演出が開始された直後から枠ボタン表示Ｂ８８１３が表示画面の中央で実体化されて表示されるように構成しても良い。
【２３２４１】
上記第６１実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が枠ボタンＢ２２の操作が無効になる期間と有効になる期間との区切りとして設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３はそれぞれ枠ボタンＢ２２の操作が有効とされ、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いは、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出態様の違いとして設定されるようにしても良い。
【２３２４２】
即ち、第１期間ＢＴ８１において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能となるが光量の設定変更は可能とならない調整表示画面に移行し、第２期間ＢＴ８２において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更も光量の設定変更も可能となる調整表示画面に移行し、第３期間ＢＴ８３において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能とならず光量の設定変更は可能となる調整表示画面に移行するようにしても良い。また、これとは別に、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いを、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出表示（表示が実行される動画）の違いとして設定されるようにしても良い。
【２３２４３】
上記第６１実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が同じ長さに設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さは任意に設定可能であり、その設定内容は種々の条件に対応させることができる。
【２３２４４】
例えば、大当たり種別ごとに各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さの設定を変えるようにしても良いし、確変状態が複数回続く連荘継続中においては今更設定を変更する可能性は少ないとして第２期間ＢＴ８２を短くするように設定しても良い。
【２３２４５】
また、特に音量や光量が大きくなる大当たり種別（最大ラウンドの大当たりや、格別に演出が激しい（長い）大当たり）の場合には設定変更を実行し易いように第２期間ＢＴ８２を長くするように設定しても良い。この場合において、第１期間ＢＴ８１を短く設定しておくと、エンディング演出において音量や光量の設定変更を実行する期間を長く確保することができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【２３２４６】
上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様に従い枠ボタンＢ２２を操作することで光量や音量の設定変更を実行可能となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで、遊技者に利益の有る情報が表示されるようにしても良い。
【２３２４７】
この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、上述したのと同様に、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なの

かという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【２３２４８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を球が直列に転動し、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に１球のみが流入される場合を説明したが、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を２球以上が並列に転動可能とし、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に２球以上が流入される構成であっても良い。

【２３２４９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、遊技領域のうちの正面視左側（図１５６５左側）の領域（センターフレームＣ８６（上側フレームＣ８６ａ）とレール６１との間の領域）を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される場合を説明したが、これに代えて、又は、これに加えて、遊技領域のうちの正面視右側（図１５６５右側）の領域を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される構成であっても良い。

【２３２５０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに１本の上側フレーム通路ＣＲｔ０が連通される場合を説明したが、上側フレームＣ８６ｂに複数本の上側フレーム通路ＣＲｔ０を形成し、それらが受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに連通される構成であっても良い。

【２３２５１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が自重により第１位置へ復帰される場合を説明したが、付勢手段を設け、その付勢手段の付勢力を、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第１位置へ復帰する際の補助力として付与しても良い。或いは、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第２位置へ変位する際の補助力として付与しても良い。なお、付勢手段としては、コイルばね、ねじりばね、板ばね等が例示される。

【２３２５２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０が軸Ｃ１９２，Ｃ２１７４に直接軸支される場合を説明したが、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０をリンク機構により変位可能としても良い。この場合、リンク機構は、平行リンク機構であっても良い、不等長リンク機構であっても良い。

【２３２５３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７３を転動した球が通過する通路（第４通路ＣＲｔ２００４）が磁性部Ｃ２４００により形成される場合を説明したが、他の通路と同様に、球を転動面に沿って転動させて通過（流下）させる通路として第４通路ＣＲｔ２００４を形成しても良い。

【２３２５４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、案内溝Ｃ３１３１ｃが直線状に形成される場合を説明したが、曲線状に湾曲して形成されていても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状であっても良い。

【２３２５５】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の円弧部Ｃ４１２２ｂは、上面視における円弧形状が一様（同一の曲率）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、異なる半径を有する円弧形状が組み合わされて形成されてもよい。例えば、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の一端側および他端側における円弧の曲率が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧の曲率よりも大きくされる、即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧の曲率が小さくされてもよい。この場合、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。
【２３２５６】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、円弧部Ｃ４１２２ｂでは、略水平に形成される、即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの上面（転動面）は、鉛直方向に直交する平面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成されてもよい。または、一対の直線部Ｃ４１２２ａと同様の下降傾斜する平面として形成されてもよく、一対の直線部Ｃ４１２２ａと異なる下降傾斜する平面として形成されてもよい。これらにより、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。
【２３２５７】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２（直線部Ｃ４１２２ａ及び円弧部Ｃ４１２２ｂ）が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成されてもよい。これにより、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）で転動（往復動）させることができる。
【２３２５８】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、流出面Ｃ１２２ａの周囲に鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突部が突設されてもよい。これにより、流出面Ｃ１２２ａから下側底面部Ｃ１２２，Ｃ２１２２，Ｃ４１２２の延設方向両端側へ球が転動することを抑制でき、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。
【２３２５９】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ５４００の底面の断面形状は、幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直線状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、磁性部Ｃ５４００の突部の底面の断面形状は、円弧状に湾曲して形成されてもよい。その円弧形状が、球の半径と略同一の半径を有し、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて凸となる場合、球と磁性部Ｃ５４００との接触面積を増やすことができ、球が磁性部Ｃ５４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、円弧形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる場合、流下する際に球が揺れる態様を形成できると共に、球が磁性部Ｃ５４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２

００５に到達できない可能性）を高くできる。その結果、球の挙動を遊技者に注目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【２３２６０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ６４００の突部の底面が、背面部材Ｃ２１３０を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０に近接する面）として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面部材Ｃ２１３０とは反対側を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０から離間する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ６４００に吸着された球と背面部材Ｃ２１３０とが離間する位置に配設させることができ、磁性部Ｃ６４００に沿って流下される球と背面部材Ｃ２１３０とが当接することを抑制できる。

【２３２６１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の本体部Ｃ２１３１が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に向かうに従い磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側（矢印Ｆ方向側）に近づく傾斜面（即ち、鉛直方向下方ほど磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側に近接する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００と背面部材Ｃ２１３０とで磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００に沿って流下される球を挟み込むことができ、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【２３２６２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００に加え、その鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に磁石Ｃ２３００が追加して配設されてもよい。追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着された球の中心よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向上方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着された球の中心よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向下方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【２３２６３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に加え、磁石Ｃ２３００から直接作用される磁力の効果により球を吸着でき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【２３２６４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の磁力に強弱の差を設けてもよい。例えば、上流側に配設される磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて強い場合、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着させ易くできる、即ち、第４通路ＣＲｔ２００４へ案内し易くできる。また、例えば、複数の磁石Ｃ２３００の一の磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて弱い場合、その一の磁石Ｃ２３００を通過する球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。これにより、遊戯の興趣を高めることができる。

【２３２６５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の配列方向が変化されてもよ

い。例えば、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凸形状となる態様に配列される場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に沿って流下する球を下流側に配列される磁石Ｃ２３００へ向かわせ易くでき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下することを抑制できる。一方、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凹形状となる態様に配列される場合、磁石Ｃ２３００の上流側と下流側との境界において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。また、磁石Ｃ２３００の配列形状は直線状に形成されてもよく、円弧状に形成されてもよい。また、磁石Ｃ２３００に代えて、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００が上記の形状（凸形状もしくは凹形状、且つ、直線状もしくは円弧状）に配列されてもよい。

【２３２６６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の隣り合う磁石Ｃ２３００が離間して形成されてもよい。この場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の延設方向において球に磁力が作用されない区間を作ることができ、この区間において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【２３２６７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置されるように形成しても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）されると、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）され難くなる側へ変位部材Ｄ１８０が変位（回転）される。よって、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）し、その第１の球が第６通路ＤＲｔ６の終端に達するまでの間に、第２の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）されることを、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）される場合よりも困難として、遊技の興趣を高めることができる。

【２３２６８】

なお、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成する場合には、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）が、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０に伝達される構造を、上述した場合（第６８実施形態から第７５実施形態の場合）と逆向きとすれば良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が上述した場合と逆方向に回転されるように、伝達部Ｄ１７３，Ｄ３１７３と被伝達部Ｄ１９３，Ｄ３１９３の位置関係を設定すれば良い。

【２３２６９】

具体的には、被伝達部Ｄ１９３を転動部材Ｄ１７０から離間する方向（図１６１２（ａ）右側、矢印Ｒ方向）へ延設させると共に、その被伝達部Ｄ１９３の上方まで伝達部Ｄ１７３を延設し、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ１７３が被伝達部Ｄ１９３を下方（矢印Ｄ方向）へ押し下げる（即ち、第６８実施形態の場合とは逆回り（図１６１２（ａ）において時計回り）に伝達部材

Ｄ１９０を回転させる）構成とすれば良い。
【２３２７０】
　また、被伝達部Ｄ３１９３を転動部材Ｄ１７０側（図１６１７（ａ）左側、矢印Ｌ方向）へ延設させると共に、その被伝達部Ｄ３１９３の下方まで伝達部Ｄ３１７３を延設し、転動部材Ｄ３１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ３１７３が被伝達部Ｄ３１９３を上方（矢印Ｕ方向）へ押し上げる（即ち、第７０実施形態の場合とは逆回り（図１６１７（ａ）において時計回り）に伝達部材Ｄ３１９０を回転させる）構成とすれば良い。
【２３２７１】
　上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により一対の変位部材Ｄ１８０へ伝達する）場合を説明したが、２の伝達部材を設け、一対の変位部材Ｄ１８０の一方を第１の伝達部材により、他方を第２の伝達部材により、それぞれ変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第１の伝達部材および第２の伝達部材により一対の変位部材Ｄ１８０の一方および他方へそれぞれ伝達する）構成としても良い。
【２３２７２】
　この場合、例えば、転動部材Ｄ１７０の変位を第１の伝達部材により、第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第２の伝達部材により、それぞれ伝達する構成としても良い。これにより、変位部材Ｄ１８０の変位態様を多様化して、遊技の興趣を向上できる。
【２３２７３】
　上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６において、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面と中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされ、また、複数の突部Ｄ１３１ｆの先端を連ねた仮想面（平面）と、複数の突部Ｄ１４１ｇの先端を連ねた仮想面（平面）との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされる場合を説明したが、これら両対向間隔のうちの少なくとも一方の対向間隔を上下方向に沿って変化させても良い。
【２３２７４】
　例えば、上方（矢印Ｕ方向、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から離間する方向）へ向かうに従って、対向間隔が狭くされるようにしても良い。これにより、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から跳ね上がった球を速やかに下降させ、球の重量を作用させやすくできる。かかる技術思想は、第８通路ＤＲｔ８における対向間隔においても同様である。
【２３２７５】
　上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面から突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇをそれぞれ突設する場合を説明したが、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面に凹部をそれぞれ凹設する構成としても良い。凹部によっても球の通過（転動）を遅延させることができる。
【２３２７６】
　上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の通過を遅延させる遅延手段の一例として、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを例示したが、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を通過（転動）する

球が当接可能な位置に配設され、その当接により変位または変形される手段（例えば、風車、金属製の弾性ばね（板ばねやコイルばね）、樹脂製の弾性片、ゴムシートなど）が例示される。即ち、球との当接により発生するエネルギー（運動エネルギーや粘性抵抗）を利用して、球の通過を遅延させる手段が例示される。

【２３２７７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を平坦面とする場合を説明したが、その上面（転動面）に凹凸や段差を設けても良い。これにより、球に抵抗を付与して、その通過（転動）を遅延させられる。

【２３２７８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）しやすくされる場合を説明したが、これとは逆の構成としても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の初期位置を開放位置とし、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置へ配置することで、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）され難くなるようにしても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）よりも第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５への球の流入（入球）の方が有利な遊技状態としても良い。

【２３２７９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ伝達する伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を設ける場合を説明したが、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を省略しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０と変位部材Ｄ１８０（変位部材Ｄ１８０ユニット）とを直接連結し、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ直接伝達する構成としても良い。

【２３２８０】

例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に、伝達部材Ｄ１９０（本体部Ｄ１９４）の溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒを設け、その溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒに軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３を連結（挿通）させる。これにより、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０が省略される分、部品点数を削減して、製品コストを低減できる。

【２３２８１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される一方、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されない場合を説明したが、これらを逆としても良い。

【２３２８２】

即ち、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されず、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される構成としても良い。

【２３２８３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が回転可能とされる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の少なくとも一方（又は両方）がスライド変位可能とされる構成でも良い。スライド変位される構成であっても、第６通路ＤＲｔ６への球の入球のしやすさを変化させ、遊技の興趣を向上できる。なお、スライド変位の態様としては、直線に沿って変位される態様、曲線に沿って変位される態様、直線と曲線とを組み合わせた形状に沿って変位される態様が例示される。

【２３２８４】

この変位態様については、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０についても同様であり、これらのうちの少なくとも１つ（又は全部）がスライド変位可能とされる構成でも良い。

【２３２８５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が自重により初期位置へ復帰可能に構成される場合を説明したが、初期位置へ復帰させる方向へ付勢力を付与する付勢手段を設けても良い。これらの初期位置への復帰を速やかに行わせることができれば、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置への速やかな配置を可能とでき、遊技の興趣を向上できる。なお、付勢手段としては、コイルばね、板ばね、ねじりばね、ゴム状弾性体などが例示される。

【２３２８６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｄ１８０が一対配設される場合を説明したが、変位部材Ｄ１８０の配設数は、１個であっても良く、３個以上であっても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【２３２８７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されることで、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化される場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されない形態であっても良い。例えば、一対の変位部材Ｄ１８０の一方と他方との変位（回転）方向が同方向とされる形態（対向間隔を一定としつつ、変位部材Ｄ１８０の先端側の開放部分の位置が左右（矢印Ｌ－Ｄ方向）に変位される形態）であっても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【２３２８８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の一方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動し、一対の変位部材Ｄ１８０の他方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動する構成としても良く、或いは、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる構成としても良い。

【２３２８９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが延設方向（上下方向）に沿って連続して形成される場合を説明したが、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って非連続に形成（断続的に形成）しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗を付与しやすくできる。この場合、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って千鳥状に配置しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗をより付与しやすくできる。

【２３２９０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、説明を省略したが、第６通路ＤＲｔ６

（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下した球が、本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２における転動方向と逆方向（矢印Ｒ方向）へ移動することを規制する規制手段を設けても良い。規制手段は、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれに設けても良い。また、規制手段としては、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれかから立設され、球に当接可能に形成される形状の部位が例示される。

【２３２９１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下される場合を説明したが、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０に形成される部位（受け部）の上面に落下され、その受け部から転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２へ球が流入（転動）される構成でも良い。落下の衝撃が収まった（小さくなった）状態で、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２が球を受け取れるので、球の重量が作用する初期段階での変位部材Ｄ１８０のばたつき（振動）を抑制できる。

【２３２９２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とが、上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される（即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に位置を違えて配設される）場合を説明した。この場合には、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の寸法を抑制できる。但し、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とを、正面視（矢印Ｂ方向視）において並列に配設（並設）する（即ち、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に位置を違えて配設する）構成でも良い。この場合、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とは、上面視（矢印Ｄ方向視）において、重なることが好ましい。その分、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法を抑制できる。

【２３２９３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とが上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される場合を説明したが、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とを上面視（矢印Ｄ方向視）において直列に配設（長手方向に沿って直線状に配設）しても良い。

【２３２９４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、表示部Ｄ７１９７を本体部Ｄ１９４に配設する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、表示部Ｄ７１９７を錘部Ｄ１９５に配設しても良い。即ち、表示部Ｄ７１９７を、錘部Ｄ１９５の外縁に配設し、その錘部Ｄ１９５の外縁から軸Ｄ１９１の軸方向と直交する方向へ延設させても良い。

【２３２９５】

この場合には、表示部Ｄ９１９７の配置を上述した場合とは逆の配置とする（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態で表示部Ｄ７１９７を遊技者から視認不能とし、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態で、表示部Ｄ７１９７の突出量を最大とする）ことができる。また、表示部Ｄ７１９７の重量を利用して、錘部Ｄ１９５に埋設する金属製の錘の量を減らす（又は省略する）ことができ、その分、部品点数を低減して、材料コストの低減を図ることができる。

【２３２９６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２突部Ｄ１３１ｆａが複数（本実施形態では５本）の突部Ｄ１３１ｆのうちの一部（本実施形態では２本）のみに形成される

場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２突部Ｄ１３１ｆａの形成本数は任意であり、１本であっても良く、３本以上であっても良い。複数の突部Ｄ１３１ｆの全部に第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。また、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重なる突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良く、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重ならない突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。

【２３２９７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ８１７０が第１位置に配置された状態において、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面が本体部Ｄ１７２の上面（転動面）から突出する寸法は、上流側（軸Ｄ１７１から遠い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各第２突部Ｄ１３１ｆａにおいて同一の寸法としても良い。或いは、下流側（軸Ｄ１７１に近い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法としても良い。

【２３２９８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における湾曲部Ｅ１３４ａと流路調整ブロックＥ１７０との間に対応する位置には、転動部Ｅ１４１の上面が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される傾斜面が形成されても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）を往復動する球を第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球する可能性を生じさせることができる。第５通路ＥＲｔ５へ送球された球は、第７通路ＥＲｔ７へ案内される可能性があるため、遊技の興趣を高めることができる。

【２３２９９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、中央通路Ｅ１６０の架設通路Ｅ１６１には背面壁Ｅ１６１ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面壁Ｅ１６１ａに加え、架設通路Ｅ１６１の前端側（矢印Ｆ方向側）の縁から鉛直方向上方（矢印Ｆ方向）へ向けて立設される前面壁が形成されてもよい。これにより、架設通路Ｅ１６１に案内された球が、架設通路Ｅ１６１の前端側の縁を通過して第２斜面部Ｅ１３５へ流下（落下）されることを抑制できる。従って、架設通路Ｅ１６１に案内された球が上方孔Ｅ１６２を通過し易くできる、即ち、第４通路ＥＲｔ４を流下して第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【２３３００】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、正面板Ｅ１１１に張出し部Ｅ１１１ｂが突設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、張出し部Ｅ１１１ｂが突設されなくても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ送球される可能性を生じさせることができる。即ち、転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる。

【２３３０１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、駆動モータＥ１９１により振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位（往復動）し、上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位（回動）する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、バイブレータにより振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ変位（往復動）できるのに加え、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方

向）へも変位（往復動）できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０上を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）させ易くできる。また、上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１との間に球が挟持されることを抑制できる。

【２３３０２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設されても良い。

【２３３０３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１伝達部材Ｅ１９４の第１ラック部Ｅ１９４ｄと第２伝達部材Ｅ１９５の第２ラック部Ｅ１９５ｂとの間にピニオンギヤＥ１９６が一つ配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、複数のピニオンギヤが配設されてもよい。この場合、各ピニオンギヤの歯数を異ならせる、即ち、減速機として作用させることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度とを異ならせることができる。また、ピニオンギヤが偶数個配設されることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）との変位方向を同一にできる。

【２３３０４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、挿通孔Ｅ１３３ａ，Ｅ９１３３ａ，Ｅ１０１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に形成される溝部Ｅ１３３ｃ，Ｅ９１３３ｃ，Ｅ１０１３３ｃが、同一形状である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、非同一形状に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に往復動させると共に、上面視において鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動する態様に変位させることができる。詳細には、被係合部Ｅ１５３（係合凹部Ｅ１５３ａ）を回動軸として振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の湾曲部Ｅ１３１側と中央通路Ｅ１６０側とで前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に異なる方向に変位させることができる。

【２３３０５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面から突設

される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面に凹設される凹部に形成されても良い。また、凹部は、その外縁が不連続とされても良く、突出される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１どうしの間に形成される空間が凹部とされても良い。

【２３３０６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成され、第８７実施形態では、突起部Ｅ１２１５１は、球状に形成され、第８８実施形態では、突起部Ｅ１３１５１は、振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視において略ひし形（四角形）状に形成され、第８９実施形態では、突起部Ｅ１４１５１は、振分通路Ｅ１４１５０に垂直な方向視において円状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、略五角形状や略七角形状など略多角形状、もしくは、多角錐状に形成されても良い。また、円柱状に形成されても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状に形成されても良い。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度は同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度が各側面でそれぞれ異なっていても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を略直交とさせることで、球が傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）することを抑制できる。また、例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を傾斜方向上昇側に形成される側面の傾斜角度よりも小さくすることで、球を傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）させ易くできる。その結果、球の移動（流下、落下）方向が変化（変更）される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【２３３０７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に複数の突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも一つの突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されれば良い。

【２３３０８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面の一部に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されても良い。

【２３３０９】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面への突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔は一定とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔がそれぞれ異なっても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）中央側に配設される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔を大きくすることで、前後方向両端側に送球された場合と比較して、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する回数を減らすことができる。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側において、球は、傾斜方向に沿って流下し易くなる。即ち、球の流下方向が変更（変化）され難くできる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側に送球された球を架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し易くできる。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の対向間距離（配設間隔）が、球の直径の略４分の１より大きくてもよく、球の直径の略４分の１より小さくても良い。対向間距離（配設間隔）を大きくすることで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面を移動（流下、転動）する球の流下速度を大きくした状態で球を突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接させることができ、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。

【２３３１０】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が連続的に変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動を断続的に行うことで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が断続的に変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を流下する球に慣性力を付与でき、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する際の衝撃力を変更（変化）でき、球の移動（流下、転動）方向の変更（変化）を多様とできる。

【２３３１１】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が駆動モータＥ１９１により駆動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、ソレノイドや弾性ばねにより駆動されても良い。

【２３３１２】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、駆動モータＥ１９１の軸に駆動力伝達部材Ｅ１９３が固着され、駆動モータＥ１９１の一方向への回動により振分通路Ｅ１５０

，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が往復動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動方向を切り換えることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を往復動させても良い。

【２３３１３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球が流下可能に振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１により球の流下が抑制されても良い。これにより、後行する球は、流下が抑制された先行する球に当接することができ、後行する球の流下方向を変更（変化）できる。即ち、流下が抑制された先行する球は、後行する球に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１と同様の効果を奏することができ、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を流下する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）できる。また、球の流下方向を不規則に変更（変化）できる。なお、流下が抑制された先行する球に後行して流下する球が当接することで、先行する球が流下を再開できる。

【２３３１４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して略４５度傾斜して形成され、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面が４５度よりも大きく傾斜しても良く、４５度よりも小さく傾斜しても良い。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１よりも高く形成されても良く、球の半径の略２分の１よりも低く形成されてもよい。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を大きく、もしくは、突設高さを高くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。一方、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を小さく、もしくは、突設高さを低くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。また、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１を乗り越えて振分通路Ｅ１５０，Ｅ

６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）し易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。

【２３３１５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に規制片Ｅ１５３ｂが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、規制片Ｅ１５３ｂが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０はその傾斜面に対し垂直な方向に変位できる。詳細に説明すると、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に流下（落下）する球の自重が作用することで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０は、第１伝達部材Ｅ１９４，Ｅ４１９４，Ｅ５１９４、第２伝達部材Ｅ１９５，Ｅ４１９５，Ｅ５１９５、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９に係合される係合部Ｅ１９４ｃを軸として回動できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜角度を変更（変化）でき、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の移動（流下、転動）時間を延長（変化）できる。

【２３３１６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０に切欠き部Ｅ１５０ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、切欠き部Ｅ１５０ａが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の上面に形成される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の数を増やすことができる。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０から中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球し易くできる、即ち、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【２３３１７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが同一の態様に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで、配設される突起部Ｅ１５１の配設個数又は配設間隔が異なっていても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２３３１８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０がそれぞれ遊技盤Ｅ１３の幅方向（図

１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが非対称に変位しても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２３３１９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。

【２３３２０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が弾性ばねＥ２１９０により変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０に加え、湾曲部Ｅ１３１及び壁板Ｅ１３２が弾性ばねＥ２１９０により変位されても良い。これにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）を移動（流下、転動）する球の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位速度を変化（変更）させることができ、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。

【２３３２１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接しなくても良い。この場合、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径よりも小さくすることで、球が湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間から流出することを抑制できる。

【２３３２２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設されても良い。この場合、弾性ばねＥ２１９０は伸びた状態で配設され、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との当接状態が維持される、もしくは、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径より小さい状態に維持される。

【２３３２３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータやソレノイドにより変位されても良い。

【２３３２４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、支持軸Ｅ２０ｊにより平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０とが係合され、弾性ばねＥ２１９０がコイルばねとして構成され、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位（回動）させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、弾性ばねＥ２１９０がねじりばねとして構成されても良い。この場合、ね

じりばねを支持軸Ｅ２０ｊに係合しておけばよく、これにより、弾性ばねＥ２１９０を係合するための支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａの配設を抑制できる。その結果、製品コストの削減を図ることができる。

【２３３２５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として回動され、第８６実施形態では、振分通路Ｅ１１１５０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回動軸として回動されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０を移動（流下、転動）する球を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に移動させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向の変化を多様化できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。

【２３３２６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、平面部Ｅ２１３３の支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持部Ｅ２１３３ｂが支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、支持部Ｅ２１３３ｂが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持突起Ｅ２１３３ａが支持部Ｅ２１３３ｂよりも中央通路Ｅ１６０側に形成されても良い。また、支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側と、その支持突起Ｅ２１３３ａよりも長手方向中央側に形成され、長手方向におけるそれら支持突起Ｅ２１３３ａの間に支持部Ｅ２１３３ｂが形成されても良い。

【２３３２７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に突起部Ｅ１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。即ち、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面が平坦に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から流下（落下）される球の変位を遊技者に予測し易くできる。また、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一部には突起部Ｅ１５１が配設され、残りの他部には突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。

【２３３２８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０が、振分通路Ｅ１５０に対し、傾斜方向における長さが短く形成され、その他は同一とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における長さが、振分通路Ｅ１５０の前後方向における長さよりも大きく形成されても良い。これにより、第２振分通路Ｅ４１５０に移動（流下、転動）された球を介設部材Ｅ１４０へ案内（送球）し易くできる。

【２３３２９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態において第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも壁板Ｅ１３２側に位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも上方孔Ｅ１６２（中央通路Ｅ１６０）側に位置しても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０を流下（落下）した球を第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０へ送球させ易くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図１６２８参照）へ入賞し易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる）。

【２３３３０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５

０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０は、短手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における全部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し難くできる。

【２３３３１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が、中央通路Ｅ１６０よりも介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に配設されても良い。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０が第３位置に配設される場合と同様、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内された球が架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【２３３３２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、斜面部Ｅ７１５４が直線状に形成され、第８３実施形態では、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが円弧状に湾曲して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、斜面部Ｅ７１５４が円弧状に湾曲して形成され、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線状に形成されても良い。また、斜面部Ｅ７１５４又は湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線と円弧を組み合わせた形状に形成されても良い。

【２３３３３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＥ９０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、下側フレームＥ９０８６ｂが非対称に形成されても良い。例えば、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成され、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成されても良い。例えば、上面視においてベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方と他方とで溝部Ｅ９１３３ｃが同一に形成され、振分通路Ｅ１５０の変位の態様が同一であっても良い。

【２３３３４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、溝部Ｅ１０１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１０１３３に垂直な方向視において曲線が組み合わされた形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、単一の曲線から形成されても良く、また、直線と曲線とが組み合わされた形状に形成されても良い。

【２３３３５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁には、案内切欠き部Ｅ１６１５４ａ，Ｅ１７１５４ａを除き、案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が立設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも外縁の一部に形成されれば良い。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁に案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が非形成の場合と比較して、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【２３３３６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｆ１３０の壁部Ｆ１３２の背面または転動面Ｆ１３１ｂの上面に突部が形成されても良い。これにより、転動面Ｆ１３

１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）を移動（流下、転動）する球が凹部Ｆ１３１ｃへ振り分けられる（案内される）ことを遅延させることができる。

【２３３３７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ（確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａ）が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ１３０に検出手段が配設され、変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂへ球が案内された、又は、変位部材Ｆ１３０が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。

【２３３３８】

なお、検出手段としては、カメラ、重量センサ、変位センサ、トルクセンサ等が挙げられる。また、例えば、ソレノイドがスライド部材Ｆ１４４のスライド本体部Ｆ１４４ａを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて押進することや、駆動モータが開閉部材Ｆ１４３を回転させることで遮断部Ｆ１４３ａが変位（回転）される。

【２３３３９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、他方側に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。

【２３３４０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、伝達軸Ｆ１８３の偏心軸Ｆ１８３ｃが伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）に偏心して配設され、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心を中心とした円状に変位されることで、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２が動作（上下方向に往復動）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動手段Ｆ１８０がラックアンドピニオン機構（ラック部材およびピニオン部材）から構成されることで可動部材Ｆ１２２が動作されても良い。

【２３３４１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが一対配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遮断部Ｆ１４３ａが１個配設されても良い。例えば、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが一方側へ向けて変位され、他方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが他方側へ向けて変位されることで遮断部Ｆ１４３ａの変位の態様を増やすことができる。

【２３３４２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、上側通路Ｆ１１４，Ｆ５１１４、或いは、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ送球されても良い。これにより、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ球が振り分けられ易くなり、下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ，Ｆ５０８６ｂが開放状態に動作されることを遊技者に一層期待させることができる。

【２３３４３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称に配設される、即ち、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３のの右方側に配設されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称にそれぞれ配設されても良い。従って、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流

入（入球）した球は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１へ流入（入球）されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０の一方から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１の一方へ流入（入球）されても良い。

【２３３４４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、かかる開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合には、開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）に連動して変位（スライド又は回転）可能とされ、且つ、変位部材Ｆ１３０が球の重量により変位されることで、開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）された場合には、開閉部材Ｆ２１４３に連動せず、非変位とされる所定部材を流入口ＦＯＰｆ１よりも上流に設け、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、所定部材が変位（スライド又は回転）され、かかる所定部材によって、流入口ＦＯＰｆ１へ球が流入し難くなるように構成しても良い。

【２３３４５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ５０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ５１５５に検出手段が配設され、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄへ球が案内された、又は、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。

【２３３４６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄと維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４とが磁着されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａとスライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａとの対向間にソレノイドが突出されることでスライド部材Ｆ５１５７の変位が規制されることや、スライド本体部Ｆ５１５７ａに磁性体が配設され、その磁性体が第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに配設される電磁石に着磁されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制されても良い。

【２３３４７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球ＣＢ５１に作用する慣性力を利用して球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開される（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態における保持部Ｆ５１５５ｅの下方（上方）となる位置に磁性体が配設され、その磁性体と球ＣＢ５１との間に作用する反発力により、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。また、下側フレームＦ５０８６ｂに駆動装置（例えば、ソレノイドや駆動モータ）が配設され、駆動装置の駆動により球ＣＢ５１が変位されることで球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。

【２３３４８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｆ５１５５のうちの左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ及び右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが同時に球を受け取り可能（第２通路Ｆ

Ｒｔ５２から球が流入可能）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。

【２３３４９】

例えば、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと右側変位部材Ｆ５１５５Ｒとが連動するように構成し、且つ、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された状態では、他方が球を受け取り不能な位置（球の重量が作用した場合に変位可能な範囲の終端）に配置されるようにしても良い。即ち、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて一方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて他方が変位され、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された他方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて他方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて一方が変位される。

【２３３５０】

この場合、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの一方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球を流入し難くさせる位置へ配置され、上記変位可能な範囲の終端に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの他方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの他方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入し易くする位置へ配置される。但し、その逆の配置であっても良い。

【２３３５１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１と挿通孔Ｆ６１６２ａ２とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設され、例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１が挿通孔Ｆ６１６２ａ２よりも左右方向両端側に並設されても良い。これにより、球が挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入される、或いは、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入されることを遊技者に視認させ易くできる。

【２３３５２】

この場合、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を正面側（背面側）へ向けて下降傾斜される。これにより、一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入した球は一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球と比較して正面側（背面側）へ向けての変位量が大きく、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過して他方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）され、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過せずに一方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）される。

【２３３５３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球が上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃと第２傾斜部Ｆ６１１４ｄとを往復動可能となる位置に当接部Ｆ６１７３ｂが配設されても良い。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂと当接可能となる位置に球を複数回到達させることができ、球を流入口ＦＯＰｆ６１へ流入させ易くできる。

【２３３５４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態において、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６１が当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例え

ば、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜される、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１に電磁石が配設される、又は、背面板Ｆ６１５１に正面側へ向けて風を送る送風装置が配設されることにより、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられても良い。

【２３３５５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１の上面に突部が形成されても良い。これにより、通路部Ｆ６１７４ａ又は転動面Ｆ７１８１ａ１から球が流出（流下、排出）されることを遅延させることができる。

【２３３５６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作前状態から動作後状態、或いは、動作後状態から動作前状態へ向けて動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂが動作され（振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が変位され）ても良い。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０に検出手段が配設され、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１へ球が案内された、又は、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０が変位（回転）したことを検出手段が検出することで、駆動装置が駆動されても良い。

【２３３５７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、動作後状態における振分手段Ｆ６１７０の状態を維持する（変位を規制する）ための維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成されても良い。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４から球が流出（流下、排出）された場合、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用されない状態においても、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作後状態に維持でき、遊技の興趣を高めることができる。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４の底面に磁性体が配設され、貫通孔Ｆ６１４３の内周面に電磁石が配設され、それら磁性体と電磁石とが着磁されることで振分手段Ｆ６１７０の変位が規制される。

【２３３５８】

なお、かかる維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成される場合、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されることを契機として維持手段による振分手段Ｆ６１７０の変位の規制を解除する解除手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂに形成されても良い。これにより、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入が確実化される。即ち、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されるまでの間、遊技者に安心感が付与され、興趣を高めることができる。

【２３３５９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向には、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、動作前状態から動作後状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向に、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれても良い。これにより、球ＣＢ６１と当接部Ｆ６１７

３ｂ，Ｆ１０１７３ｂとの当接により当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂが動作前状態における配設位置へ変位されることを抑制でき、球ＣＢ６１を第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ確実に振り分けることができる。

【２３３６０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作において、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を軸として回転されても良い。これにより、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３を左右方向に変位させるための空間を不要とでき、設計の自由度を向上させることができる。

【２３３６１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により変位部材Ｆ６１７３を変位させ、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入のし易さを変化させる形態を説明したが、かかる形態を他の実施形態に適用しても良い。

【２３３６２】

例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により開閉部材Ｆ１４３を変位（開放または閉鎖）させ、流入口ＦＯＰｆ１への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。

【２３３６３】

また、例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により抑制部Ｆ４１３４（変位部材Ｆ４１３０）を変位（開放または閉鎖）させ、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂ（第１振り分け孔Ｆ１６１ａ、即ち、流入口ＦＯＰｆ１）への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。

【２３３６４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、センサＦ１１００１を挿通孔Ｆ６１６２ａ２に配設したが、その配設位置は任意に設定できる。例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１に配設しても良い。

【２３３６５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ入球し易くされ、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなるように構成しても良い。

【２３３６６】

例えば、第１入賞口６４を第５通路ＦＲｔ５の流出面Ｆ１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１

４３ａ）が流入口ＦＯＰｆ１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ１に流入せず流出面Ｆ１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ１３０を変位させ、かかる変位部材Ｆ１３０の変位（開閉部材Ｆ１４３による流入口ＦＯＰｆ１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【２３３６７】

また、例えば、第１入賞口６４を第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ５１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ５１５８が流入口ＦＯＰｆ５１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ５１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ５１に流入せず流出面Ｆ５１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ５１３０を変位させ、かかる変位部材Ｆ５１３０の変位（開閉部材Ｆ５１５８による流入口ＦＯＰｆ５１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ５１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ５１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【２３３６８】

また、例えば、第１入賞口６４を流出口ＦＯＰｏｕｔ６２の鉛直方向下方に配置し、且つ、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用した場合、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）不能な位置に方向へ変位される（変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用していない状態では、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）可能な位置に配置（上側通路Ｆ６１１４の上面から突出されている）形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ６１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ６１に流入せず流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位通路部材Ｆ６１７４を変位させ、かかる変位通路部材Ｆ６１７４の変位（変位部材Ｆ６１７３に当接した他の球の進行方向が変更されることの回避）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ６１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【２３３６９】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に応じて入賞ユニットＫ２００の見え方が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御することにより、入賞ユニットＫ２００の見え方が変化するように構成しても良い。

【２３３７０】

この時、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に対応させるようにして、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良いし、第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態とは無関係に発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良い。

【２３３７１】

例えば、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に光を強化するようにしたり、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１が開放状態の時に光を強化するようにしたりしても良いし、逆に弱くするようにしても良い。

【２３３７２】

また、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を、球が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球した場合に変化させるように制御しても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００の見え方の違いから、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞を把握させることができる。

【２３３７３】
上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の板状本体Ｋ２０２の裏側に拡散形状が形成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体Ｋ２０２の裏側面または表裏面が平滑に形成されても良い。この場合、板状本体Ｋ２０２の透過性を向上させることができるので、入賞ユニットＫ２００内を流下する球や、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａや、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１等の視認性を向上させることができる。
【２３３７４】
上記各実施形態では、発光部Ｋ２２８からの光が電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮られないものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ｋ２２８を、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の経路の後方や、可動板Ｋ２５１上を転動する球の経路の後方に配置しても良い。この場合、発光部Ｋ２２８からの光が、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球や、可動板Ｋ２５１上を転動する球に遮られ得る。
【２３３７５】
これにより、発光部Ｋ２２８を点灯制御させている場合に、光が明滅しているように視認させることができ、発光部Ｋ２２８からの光の見え方を変化させることができる。この時、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球による光の明滅により、第２入賞口Ｋ６４０へ入球することを示唆することができる一方、可動板Ｋ２５１上を転動する球による光の明滅により、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球せずに球が可動板Ｋ２５１上を左方に通過し得ることを示唆することができる。
【２３３７６】
上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや、可動板Ｋ２５１が、有色で不透明である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも一方が、有色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合、化粧カバーＫ２２０と重ねて視認される場合の作用は維持しながら、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。また、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも一方が、無色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合であっても、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。
【２３３７７】
上記各実施形態では、可動板Ｋ２５１から反射した光が上縁部Ｋ２０７ａを介して視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａから反射した光を電動役物Ｋ６４０ａとは異なる位置で反射させて遊技者に視認させ、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握可能とさせるための反射部を上縁部Ｋ２０７ａとは別で設けても良い。
【２３３７８】
なお、反射部は入賞ユニットＫ２００の内側に配置されても良いし、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００とは異なる位置を視認して、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握させることができる。また、上縁部Ｋ２０７ａの機能を奏する部分についても、入賞ユニットＫ２００の内側に限らず、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。
【２３３７９】
上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１が前後方向でスライドし、遊技者側に見せる面が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右方向に沿う回転軸で前後方向に回転動作するように構成しても良い。この場合、閉状態で遊技者に見せる面（前面）と、開状態で遊技者に見せる面（閉状態での後面、開状態での上面）とが異なるので、表裏の面の態様を異ならせる（例えば、色を変える）ことで、開状態か閉状態かで、化粧カバーＫ２２０（小形意匠Ｋ２２１ｂ等）の背景色を変化させることができる。

【２３３８０】
上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１が赤色で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、電動役物Ｋ６４０ａと可動板Ｋ２５１とが異なる色で形成されても良いし、赤以外の青や黄色等あらゆる色を採用可能である。また、小形意匠Ｋ２２１ｂの色は白色に限定されるものでなく、金や黄色等あらゆる色を採用可能である。何れの色を採用した場合であっても、小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色となる場合と、ならない場合とを構成でき、小形意匠Ｋ２２１ｂの見え方を変化させることができる。この時、色の選択として、相対的に判別しやすい関係で色を選択した方が、演出効果を向上させることができる。
【２３３８１】
上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の上下変位が回転部材Ｋ４３０の変位に対して増大されるように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の変位量が回転部材Ｋ４３０の変位量と一致しても良い。この場合、昇降装置Ｋ５００の動作をより安定させることができる。
【２３３８２】
上記各実施形態では、切替装置Ｋ４６０により昇降装置Ｋ５００の右側構成部の下降が制限されることで、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢で片側落下状態を構成可能であることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢から、左側構成部を落下位置状態まで変位させることで、左側を下方にする第２の傾斜姿勢を構成可能にしても良い。この場合、演出待機状態から第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い、片側落下状態を経由して第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い。前者の方が、昇降装置Ｋ５００による状態変化を顕著にすることができる一方で、後者の方が、状態変化後の昇降装置Ｋ５００の姿勢を安定させ易くすることができる。
【２３３８３】
上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度を方向に因らず一定として、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度を変化させるよう制御する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度または移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度の少なくとも一方を、方向に対応して変化させるように制御するようにできれば良い。
【２３３８４】
上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まっている場合の動作制御について説明したが、回転装飾部材Ｋ５７８の動作制御は必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まらなかった場合にエラー信号を出して演出役物の動作を実行しないようにするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度から新たに駆動モータＫＭＴ５１の回転速度を算出して、その新たに算出された回転速度により移動装置Ｋ５６０を左右方向にスライド移動させるようにしても良い。これにより、回転装飾部材Ｋ５７８の回転後の停止位置と、移動装置Ｋ５６０の移動後の停止位置とを対応付けやすくすることができ、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まる場合と同様に、連動を適切に実行させることができる。
【２３３８５】
なお、速度の再計算をするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８を停止させるタイミングを、移動装置Ｋ５６０のスライド移動を停止させるタイミングとずらすことができるように制御しても良い。
【２３３８６】
上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、共通の回転部材Ｋ４３０の動作に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、異なる駆動装置からの駆動力で動作されるように制御しても良い。

【２３３８７】
上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、アーム部材Ｋ７３５が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下方向にスライド移動する可動ラックを構成し、この可動ラックの昇降量が主装飾部材Ｋ７６０に伝達されるようにしても良い。この場合、可動ラックにより左右幅を抑えて構成することができる。
【２３３８８】
上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、円弧状部Ｋ７３２，Ｋ７３４が面で当接することでアーム部材Ｋ７３５の回転を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させる位置に配置可能な可動のストッパ部材を設けるようにしても良い。この場合、ストッパ部材の配置により、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させ易い場合と、途中停止させない場合とを構成することができる。
【２３３８９】
上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の回転開始は、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が左右方向に沿う姿勢から生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が上方向を向く姿勢から生じさせるものでも良い。この場合、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が下方向を向くまでの回転角度を大きくすることができる。
【２３３９０】
上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の過回転を小さく抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作が生じないように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長孔Ｋ８８４の短手方向幅を十分に確保して円柱突部Ｋ８７６ａとの間に隙間を確保したり、円柱突部Ｋ８７６ａの回転軸側の肉部を削ることで長孔Ｋ８８４との隙間を確保したり、長孔Ｋ８８４の先端部に円柱突部Ｋ８７６ａの移動軌跡に沿う円弧形状部を設けることで円柱突部Ｋ８７６ａと長孔Ｋ８８４との干渉を避けるようにしても良い。
【２３３９１】
上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４が回転終端で面と当接して止まる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転終端で円柱突部Ｋ８７６ａが凹部に収容させることで止まるように構成しても良い。
【２３３９２】
上記各実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の外形傾斜部Ｋ２０６０ｅや、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗや、光照射装置Ｋ２１００の傾斜面Ｋ２１２１や、光照射装置Ｋ３１００の傾斜面Ｋ３１２２等の傾斜角度として一例を記載したが、必ずしもこれに限られるものではなく、光を屈折させたり反射させたりして、光らせる対象に光が届くような形状から形成されていればよい。
【２３３９３】
上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１が湾曲線に沿って並ぶ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右や上下等の所定の方向に延びる直線上に並ぶように構成しても良い。
【２３３９４】
上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１からの光が正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技領域内方へ向けて光が進行するように形成されても良い。この場合、正面視では隠される範囲（遊技領域外方の範囲）からの光によっても遊技領域を照らすことができるので、遊技領域をより明るくすることができる。
【２３３９５】
上記各実施形態では、光がベース板Ｋ２０６０の開口を通過する前における傾斜開口部

Ｋ２０６０ｗにおいて光が反射または屈折し正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ２０６０の開口を通過した後における傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部における反射または屈折によっても光を正面側へ進行させるようにしても良い。また、ベース板Ｋ２０６０の開口内に、光を反射または屈折可能な物体を配置して、その物体によりベース板Ｋ２０６０の開口内で光の進行方向を変化させて正面側に光を進行させるようにしても良い。この場合、ベース板Ｋ２０６０の開口縁部以外の箇所からも遊技者へ光を届けることができる。

【２３３９６】

上記各実施形態では、第１可動装置Ｋ４０１，Ｋ４４０１、第２可動装置Ｋ７０１，Ｋ４７０１及び後層側可動装置Ｋ８００，Ｋ４８００のそれぞれで、駆動力の伝達機構について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一の装置の伝達機構を、他の装置の伝達機構に流用することは可能である。この場合において、左右方向を上下方向に変えて採用することは当然可能であるし、左右一対のものを片方だけで利用したり、その逆を採用したりすることも可能である。

【２３３９７】

上記各実施形態では、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘと第２視認対象物Ｋ４５８０ｙとが、異なる形状である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、同一形状の対象物として視認させても良い。

【２３３９８】

上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８の外形形状が四角形とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、六角形や、八角形でも良い。この場合において、中心を特定できる多角形とすることで、回転させた場合の視認態様を美しくすることができる。また、中心と特定できる形状であれば多角形でなくてもよく、外形が曲線で構成された形状でも良い。

【２３３９９】

また、視認される物は表示される対象に限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の内部に収容されるか、又は、移動装置Ｋ４５６０に外方（例えば、長尺装置Ｋ５４０を介する経路）から供給される物体が視認窓部Ｋ４５７８ａを通して視認可能な位置（回転装飾部材Ｋ４５７８の後方位置）に適切なタイミングで移動可能に構成されても良い。

【２３４００】

上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転装飾部材Ｋ４５７８に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周の内側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能な視認部が表示されるように構成しても良い。

【２３４０１】

上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが開口形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、視認窓部Ｋ４５７８ａとして形成される範囲の板厚を、他の部分の板厚よりも薄くして、透過性を高くすることで背面側を視認可能とするように構成しても良い。

【２３４０２】

上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転移動される第１の演出制御例および第２の演出制御例で、一方向への回転角度が９０度である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、９０度より大きい角度（例えば、１２０度）でも良いし、９０度より小さい角度でも良い。この場合に、流下する球の速度に対応して回転角度が変化するようにしても良い。

【２３４０３】

上記各実施形態では、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の右側に、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の左側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右逆でも良

いし、回転軸の上と下とに配置されるものでも良い。どの場合であっても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸を基準として正反対となる異なる位置で異なる視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙを視認させることができるので、遊技者の見間違いを避け易くすることができる。

【２３４０４】

上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に右側を向いた矢印形状が表示される第３の演出制御例と、第１の演出用途例とを別で説明したが、これらを同時に実行しても良いし、別個独立で実行するようにしても良い。同時に実行する場合には、ラウンド遊技中においては、入球の検出のたびに回転装飾部材Ｋ４５７８が回転され、表示装置Ｋ４５８０の中央部付近に矢印形状を点灯表示し、ラウンド遊技の終了時になったら第１の演出用途例における制御を実行するようにしても良い。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の内側における視認態様を複雑にすることができる。

【２３４０５】

上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０を介して、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される場合と、矢印形状が表示される場合とを説明したが、表示態様は、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙの表示の代わりに矢印形状を表示するようにしても良いし、矢印形状の表示の代わりに第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを表示するようにしても良い。これにより、視認態様のバリエーションを増やすことができる。

【２３４０６】

上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０を介して、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される場合と、矢印形状が表示される場合とを説明したが、視認態様は必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の内側が空洞に形成されており、その空洞の内側において、回転装飾部材Ｋ４５７８（又は回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側を閉塞する透過性板が形成される場合にその透過性板）を通して視認可能な位置に、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙと同様の形状の物体を配置可能に構成されていても良い。この場合、物体同士が衝突することによる視認態様の変化により、演出効果を向上させることができる。

【２３４０７】

上記各実施形態では、長尺装置Ｋ５４０が前後方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右方向の回転軸や、上下方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させられるように構成しても良い。この場合、移動装置Ｋ５６０，Ｋ４５６０の前面側の見え方（見える角度）を変化させることができ、演出効果を向上させることができる。

【２３４０８】

また、例えば、上下方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させるように構成する場合において、透明フィルムＫ４８９１による平面ＫＳ４９と長尺装置Ｋ５４０の長手方向とが平行となるような姿勢を構成可能としても良い。

【２３４０９】

上記各実施形態では、上側部材Ｋ５３０の湾曲受部Ｋ５３７を上側回転部材Ｋ４７６が下側から支えることで長尺装置Ｋ５４０を演出待機状態における配置で維持する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側回転部材Ｋ４７６とは別で、上側部材Ｋ５３０を上側から挟むように支持する部材を構成しても良い。この部材に、上側回転部材Ｋ４７６側へ向かう付勢力を与えることで、上側部材Ｋ５３０の上向きの変位に対する抵抗力を生じさせることができる。これにより、搬送時における長尺装置Ｋ５４０の位置変化を防止することができる。

【２３４１０】

上記各実施形態では、上側回転部材Ｋ４７６の全体が樹脂材料により構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側部材Ｋ５３０と当接す

る回転先端部Ｋ４７６ｂには樹脂材料を構成し、上側部材Ｋ５３０と当接しない支持孔Ｋ４７６ａ付近は金属材料により構成するようにしても良い。これにより、金属材料により耐久性を向上させることができると共に、回転先端部Ｋ４７６ｂと当接する上側部材Ｋ５３０の摩耗を最小限に抑えることができる。

【２３４１１】

上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８が、中央側に開口が形成されるものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８が光透過性の樹脂材料から、内側の開口が閉塞するような形状で構成され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を前側から覆うように構成しても良い。この場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転による光の反射による視認性の変化を、表示装置Ｋ４５８０の表示領域全体に及ぼすことができるので、演出性を向上させることができる。

【２３４１２】

上記各実施形態では、遊技球の入賞に対応して、表示装置Ｋ４５８０に矢印形状が表示される場合を説明したが、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される内容は、上述の態様に限られるものではない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、球状体が流れる様子が表示されても良い。

【２３４１３】

この球状体は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の中央を真下に流下するように表示されても良いし、表示領域の中央に対して左右にずれた位置を流下するように表示されても良い。左右にずれた位置を流下するようにすれば、遊技者に対して、方向を示唆する視認態様を報知することができる。また、球状体の流下には、転動面上を球状体が転動する場合も含まれる。

【２３４１４】

この場合において、左右いずれか一方を流下する球状体の速度と、その直後に左右いずれか他方を流下する球状体の速度とが異なるように構成しても良い。例えば、右側を流下する球状体の速度よりも、その直後に左側を流下する球状体の方がゆっくりと流下するように表示させても良い。

【２３４１５】

表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体の流下方向は、真下方向でも良いし、左右成分を持つ方向でも良い。例えば、右側を流下する球状体は右下方向へ流下し、左側を流下する球状体は左下方向へ流下するように表示される場合、球状体が表示領域の右側を流下する場合と、表示領域の左側を流下する場合との、表示領域の視認態様の違いを大きくすることができる。

【２３４１６】

また、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転駆動制御の設定として、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体が流下する位置と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向とを対応させるように制御しても良い。

【２３４１７】

例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左右中央よりも右側を球状体が流下する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が正面視時計回りに回転され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左右中央よりも左側を球状体が流下する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が正面視反時計回りに回転されるようにしても良い。または、球状体の流下方向と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向との関係が上述の逆に設定されるものでも良い。

【２３４１８】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を視認せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域のどこを球状体が流下しているのかを予想することができる。従って、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を無理に大きくする必要を無くすことができるので、表示装置Ｋ４５８０を低コストで実装できると共に、表示装置Ｋ４５８０の背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の視認面積を大きく確保することができる。

【２３４１９】
この場合において、球状体の流下速度と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応させるようにしても良い。例えば、球状体がゆっくり流下する場合には回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度がゆっくりとなり、球状体が高速で流下する場合には回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度も高速となるように構成しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０の表示領域と、回転装飾部材Ｋ４５７８とで、一体感のある動作態様を遊技者に視認させることができる。
【２３４２０】
また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の表示態様を、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転時と停止時とで異ならせるようにしても良い。例えば、上述のように、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転される場合には、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に流下する球状体を表示させる一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８が停止される場合には、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に流下する球状体とは異なる形状のロゴ、キャラクター又は装飾形状が静止画として表示されるように構成しても良い。または、静止画ではなく動画表示されるように構成しても良い。
【２３４２１】
この場合、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８によって、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が流下される態様を伴う視認態様と、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が流下される態様を伴わない視認態様とを創出することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８の演出効果を向上させることができる。
【２３４２２】
また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体の流れる位置、流下速度、流下方向を、遊技球が実際に通過した遊技領域の位置、実際の流下速度、実際の流下方向と対応させるようにしても良い。
【２３４２３】
例えば、右打ち遊技の期間において長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢となるように制御され、右打ちした遊技球が流下する経路上に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０及び第２特定入賞口Ｋ６５０ａを遊技球が通過したと検出されることに基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が表示されるように制御しても良い。
【２３４２４】
この場合において、入賞口の実際の配置、及び入賞口に入球した遊技球の実際の流下方向に対応させて球状体を表示させることで、遊技者に対して、実際に遊技球が流下した位置を把握させ易くすることができる。
【２３４２５】
即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａで遊技球が検出された場合には、検出される度に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の右側範囲において、鉛直下方へ流下し、その後で右斜め下方へ流下する経路で、球状体が表示され、同時に、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転されるように駆動される。
【２３４２６】
また、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａで遊技球が検出された場合には、検出される度に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左側範囲において、鉛直下方へ流下し、その後で左斜め下方へ流下する経路で、球状体が表示され、同時に、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転されるように駆動される。
【２３４２７】
これにより、遊技者は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを注視しなくても、表示装置Ｋ４５８０の表示態様や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向を視認することで、遊技球がどこを流下してどの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを通過したのかを把握することができることから、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【２３４２８】
遊技球の流下速度は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの配置高さから、力学的

エネルギーに基づき検討すると、配置高さの同等な入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０を通過する際の遊技球の流下速度の絶対値は概ね同じと考えられる。配置高さの低い第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過する際の遊技球の流下速度の絶対値は、位置エネルギーが運動エネルギーに変換される分、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０を通過する際の遊技球の流下速度の絶対値よりも大きいと考えられる。

【２３４２９】

従って、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２入賞口Ｋ６４０を遊技球が通過したことが検出された場合における、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される球状体の流下速度の絶対値および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の絶対値に比較して、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを遊技球が通過したことが検出された場合における、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される球状体の流下速度の絶対値および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の絶対値が大きくなるように（高速になるように）制御される。

【２３４３０】

これにより、第２入賞口Ｋ６４０を遊技球が通過した場合と第２特定入賞口Ｋ６５０ａを遊技球が通過した場合とで、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における球状体の表示位置や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が同じであっても、球状体の流下速度や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度を遊技者に把握させることで、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０を通過したのか、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過したのかを遊技者に判別させることができる。

【２３４３１】

そのため、遊技者は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを注視しなくても、表示装置Ｋ４５８０の表示態様や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向および回転速度を視認することで、遊技球がどこを流下してどの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを通過したのかを把握することができることから、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【２３４３２】

上記各実施形態では、第３の演出制御例として、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に表示装置Ｋ４５８０に矢印形状が表示され、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、その表示態様および回転動作態様が一定ではなく、変化し得るように制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【２３４３３】

即ち、第３の演出制御例では、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に比較して、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、同じか、それ以上となるように制御される。

【２３４３４】

これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が大きくなり易い状況を構成することができる。更に、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示の表示数が多くなるため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と数字表示の表示（数）とを一連で視認させることができる。

【２３４３５】

従って、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球個数と、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応付けて把握することができる。この場合、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度から、払い出される賞球個数の多少を予想し易くすることができるので、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【２３４３６】

なお、第３の演出制御例において、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に

表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に対する、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化量（速度上昇量）は、毎回同じでも良いし、異なるようにしても良い。

【２３４３７】

例えば、球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、先の遊技球の入球に基づく球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第１段階だった場合に、その後の遊技球の入球に基づく球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第２段階に変化するパターンのみならず、第３～５段階に変化するパターンをも実行可能に構成しても良い。

【２３４３８】

この場合に、例えば、表示される球状体が表示装置Ｋ４５８０の下方へ流れきる前に、次の球が入球した（短時間で２球連続入球した）場合に球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が一段階増加し、更に次の球に基づいて表示される球状体が表示装置Ｋ４５８０の下方へ流れきる前に更に次の球が入球した（短時間で３球連続入球した）場合に球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が二段階増加するように構成しても良い。この場合、球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化態様から、高頻度の入球が生じたことを遊技者に把握させることができる。

【２３４３９】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球されず、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１の上面を左方へ流されることで第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されなかった球が、左側の球案内部Ｋ２１０に入球した場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【２３４４０】

右側の球案内部Ｋ２１０がアウト口Ｋ７１と同様の機能を備える一方で、左側の球案内部Ｋ２１０は一般入賞口Ｋ６３と同様の機能を備えており、入球に基づき賞球の払い出しが行われる。即ち、左側の球案内部Ｋ２１０への入球と同様、一般入賞口Ｋ６３に入球した場合にも、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される。

【２３４４１】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球せずに下流に流れた球の存在に気付かせることができるので、開閉板Ｋ６５ｂが閉鎖状態の時に球の発射をしていないか、球の発射強度は適切か、といった、操作ハンドルＨ５１の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【２３４４２】

即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の全てが入球される状況下では、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えは生じず、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作も生じない一方で、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の一部が入球されない状況下においては、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えを生じ、回転装飾部材Ｋ４５７８も回転動作される。

【２３４４３】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２３４４４】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側の球案内部Ｋ２１０への入球では表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を生じさせず、一般入賞口Ｋ６３への入球に基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【２３４４５】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ側、即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側を右方へ案内されずに、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側へ案内され流れた球の存在に気付かせることができるので、球の発射強度が弱くなっていないか、といった、操作ハンドルＨ５１の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【２３４４６】

即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が右方に流下し続ける状況が維持される時には表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行されることはなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が一つでも左方に流下する場合に表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行され得る。

【２３４４７】

そのため、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行された場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が左方に流下する程度に、発射強度が弱まっている証拠になるので、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、操作ハンドルＨ５１の操作強度を見直させるよう促すことができる。

【２３４４８】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２３４４９】

なお、上述の第３の演出制御例では、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が、遊技球の入球に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示または回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の少なくとも一方が、遊技球の入球に因らず発生するようにしても良い。

【２３４５０】

この場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作（押し込み、連打、長押し等）に基づいて増加可能に構成されても良い。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、操作ボタンＨ１８１の操作によりどの段階まで増加するのか（増加上限）と、遊技者が得られる利益の期待値（大当たり遊技における払い出し賞球個数の多少（獲得した大当たりのラウンド数の多少）、特図抽選の大当たり期待度など）とを対応させることにより、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作意欲を向上させることができる。

【２３４５１】

なお、上述した増加上限の設定を、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じる場合の、球状体の流下速度や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の増加上限に適用しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０や回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【２３４５２】

上記各実施形態では、球状体が表示装置Ｋ４５８０の中央部付近に表示される場合を説

明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球状体が、回転装飾部材Ｋ４５７８の視認窓部Ｋ４５７８ａを通して視認されるようにしても良い。この場合、例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と共に球状体が回転移動するように構成しても良い。これにより、球状体の移動態様を大きな円弧で構成することができる。

【２３４５３】

また、例えば、球状体の移動態様は上下方向に流下した後で、斜め左右方向に流下する態様を維持しつつも、斜め左右方向に流下する球の通過経路に視認窓部Ｋ４５７８ａが配置されるように回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作された後で停止されるようにしても良い。これにより、表示としての球状体と、回転装飾部材Ｋ４５７８とが一体動作しているように視認させることができる。

【２３４５４】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態において、背景色との違いから小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が向上される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａの閉鎖状態における小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が向上されるものでも良い。例えば、方向視ＫＤＲ２１で視認する遊技者が視認可能な光を照射するＬＥＤとして、下流側発光部Ｋ２１２ｃがあるが、下流側発光部Ｋ２１２ｃから照射される光の色が赤色であるため、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と同様に小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色を赤色（光の色）とすることができ、これにより小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性を向上させることができる。

【２３４５５】

なお、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態において、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が電動役物Ｋ６４０ａを透過して遊技者の目に届く場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａにより下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が遮蔽されるようにしても良い。

【２３４５６】

この場合、電動役物Ｋ６４０ａの状態の切り替えのたびに、電動役物Ｋ６４０ａによる背景色が視認される場合と、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光による背景色が視認される場合とが切り替えられるので、それらの背景色の違いによる視認態様の変化を利用した演出を実行することができる。これにより、電動役物Ｋ６４０ａの状態の切り替えの態様に対応した視認態様の変化（バリエーション）を生じさせることができる。

【２３４５７】

なお、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光により小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が向上される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光の色が白色とされる場合、小形意匠Ｋ２２１ｂの色と背景色（光の色）との差が小さくされることで、小形意匠Ｋ２２１ｂの識別性を低下させることができる。

【２３４５８】

なお、発光部Ｋ２１２の発光態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、入賞ユニットＫ２００における開閉の状態に関わらず常時点灯（消灯）されるようにされても良いし、入球検出で態様変更（色変化、光強さ変化）するような制御でも良いし、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示演出と連関して、態様変更（色変化、光強さ変化）するような制御でも良い。

【２３４５９】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００に入球した球による光の遮り方により、光の視認態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、流下経路に複数の検出センサを設けて、その検出センサを球が通過することに基づいて光の照射態様が変化されるように制御しても良い。この場合、球の流下経路以外の部分においても、光の視認態様を変化させることができる。

【２３４６０】

上記各実施形態では、可動板Ｋ２５１や電動役物Ｋ６４０ａが有色の樹脂材料から形成されることで、有色樹脂に特有の粘り、丈夫さを利用できることから、厚みの設計自由度

や、形状の自由度も向上させつつ、耐久性を向上させることで、球からの衝突による破損を抑制できる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、無色透明の樹脂材料から形成されるようにしても良い。この場合、可動板Ｋ２５１や電動役物Ｋ６４０ａと球とが重なったとしても、球が見えなくなることが無いので、流下する球の視認性を向上させることができる。

【２３４６１】

上記各実施形態では、小形意匠Ｋ２２１ｂを球が左右方向に下降傾斜して流下する位置の前方に配置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内開口Ｋ２０３のように、球が前後方向に下降傾斜して流下する位置の前方に配置するようにしても良い。この場合、鉛直方向の落下に比べて球の上下位置の変化がゆっくりとされることに加え、球の左右位置も変化されないことから、正面視で小形意匠Ｋ２２１ｂと球とが重なる期間をより長くすることができ、小形意匠Ｋ２２１ｂによる模様の見映えの変化を長く生じさせることができる。

【２３４６２】

上記各実施形態では、後層側可動装置Ｋ８００の傾斜形成部Ｋ８６７が固定片として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設回転部材Ｋ８７４の回転方向に数度移動可能に構成され、延設回転部材Ｋ８７４の停止時の位相を変更可能に構成しても良い。この場合、延設回転部材Ｋ８７４の戻りが防止される状態（傾斜形成部Ｋ８６７が延設回転部材Ｋ８７４の回転軸よりも上側に配置されている状態）と、延設回転部材Ｋ８７４の戻りが防止されない状態（傾斜形成部Ｋ８６７が延設回転部材Ｋ８７４の回転軸よりも下側に配置されている状態）とを切り替えることができる。

【２３４６３】

上記各実施形態では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右から同じ距離張出可能に構成され、閉塞時には左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の対向辺が左右中央位置付近に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の境界位置が、左右中央部から左右いずれかにずれる状態を構成可能にしても良い。

【２３４６４】

この場合、境界位置が左右中央部よりも左側にあれば、第２可動装置Ｋ４７０１は右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により開閉される範囲の下側に配置され、境界位置が左右中央部よりも右側にあれば、第２可動装置Ｋ４７０１は左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により開閉される範囲の下側に配置される。これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第２可動装置Ｋ４７０１との設計自由度を向上させることができる。

【２３４６５】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が背面からの光を透過可能に構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側に電飾基板が配設され、その電飾基板に配設されるＬＥＤの発光態様により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様（色や模様）が変更可能に構成されても良い。この場合、開閉により第３図柄表示装置Ｋ８１の目隠しを形成する作用を生じさせ易くすることができる。

【２３４６６】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側にリブが形成され、透過性を異ならせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側が湾曲面で構成されることで、厚みが不均一とされても良い。この場合、背面側の形状（例えばレンズ形状）により光を屈折させる態様を部分ごとに異ならせることができ、演出効果を向上させることができる。

【２３４６７】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１では、輪郭ＫＯＬ４８１等に沿って

リブが形成される（内側部においてリブが形成される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の外形に沿ってリブが形成されるようにしても良い。この場合において、全外形に沿うリブが形成される場合ばかりではなく、平行な２辺にリブが形成されるようにしても良く、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の剛性を高めることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動抵抗を低減することができる。

【２３４６８】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の代わりに、矩形の枠に複数枚のルーバーを備える開閉可能部材を配設しても良い。この場合、ルーバーを非透過性の材料から形成するようにすれば、ルーバーの状態次第で、ルーバーの板面の模様を視認させる状態と、ルーバーの板間から背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる状態とを切り替えることができる。

【２３４６９】

また、ルーバーを透過性の材料から形成するようにすれば、ルーバーの状態次第で、ルーバーの板面の模様を第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で照らす状態と、ルーバーの板間から背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる状態とを切り替えることができる。

【２３４７０】

上記各実施形態では、左右スライドする板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、複数枚の板状部材が一連で連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右スライドする板状部材は一枚でも良い。この場合、連動させる構成よりも故障する可能性を低くすることができる。

【２３４７１】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のスライド方向は、左右方向に限られるものではなく、上下方向でも良いし、斜め方向でも良いし、前後方向成分を有する方向でも良い。即ち、直線方向でも良いし、所定の軸を中心とする曲線方向でも良い。

【２３４７２】

上記各実施形態では、移動装置Ｋ４５６０が斜めにスライド移動している際に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の閉塞状態からの変位に基づいて長尺装置Ｋ５４０の右側端部が落下され、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が変化する場合を説明したが、この場合に、移動装置Ｋ４５６０の移動速度は、移動方向の変化前後で同じでも良いし、変わるようにしても良い。例えば、移動方向の変化前の方が移動装置Ｋ４５６０の移動速度を遅くする場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位を望ませながら移動装置Ｋ４５６０が左側端部まで移動しきるまでの期間を長くすることができるので、移動装置Ｋ４５６０への注目力を向上させることができる。

【２３４７３】

上記各実施形態では、左右一対の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向は左右対称にしたが、必ずしもこれに限れるものではない。例えば、上下方向でも良い。この場合に、上下対称でも良いし、配置位置は左右のままで、共に上方（又は下方）に移動することで退避されるように構成しても良い。また、移動方向が前後方向の成分を有するようにしても良い。

【２３４７４】

上記各実施形態における移動装置Ｋ４５６０の大きさは何ら限定されるものではない。直径１０ｍｍ程度の大きさから、センターフレームＫ８６を超える程の大きさまで、任意に設定可能である。

【２３４７５】

また、表示装置Ｋ４５８０による表示は、何ら限定されるものではない。一面同色で表示されても良いし、遊技者側に光を反射するように視認される態様（ミラー状等）に形成

されても良い。この場合、遊技者に対して表示装置Ｋ４５８０の表示領域を介して自分の表情を視認させることができ、演出効果を向上させることができる。

【２３４７６】

上記各実施形態では、移動装置Ｋ４５６０が単体でスライド移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０が前後に複数ならべて配置され、複数の移動装置Ｋ４５６０が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面側を順番にスライド移動するように構成しても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位に伴う複数の移動装置Ｋ４５６０の変位態様のバリエーションを増やすことができ、移動装置Ｋ４５６０の視認態様のバリエーションを増やすことができる。

【２３４７７】

上記各実施形態では、第３図柄表示装置Ｋ８１が正面視でセンターフレームＫ８６の内方に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の少なくとも一部がセンターフレームＫ８６の外方に位置するようにしても良い。この場合、流下する遊技球を、第３図柄表示装置Ｋ８１からの光により照らして演出効果を向上させることができる。

【２３４７８】

上記各実施形態では、一連で視認させる態様として、例えば、「ＳＦＭＥ」といったように、特定の意味を有する記号を順番に視認させる態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、４文字である必要は無く、「ＳＦ」、「ＳＭＥ」、「ＦＥ」といった、任意の文字列に注目させて一連で視認させるようにしても良い。また、任意の文字列には、上側装飾部材Ｋ３３０に形成される「Ｆ」の記号も採用可能である。注目させたい部分を発光させ、それ以外の部分を発光させないようにすることで、任意の文字列に注目させ易くすることができ、遊技者に読み間違いをさせないようにすることができる。

【２３４７９】

また、記号の内で、方向性を有する２つ以上の記号（例えば、矢印）をつなげて視認させる態様でも良い。また、記号同士のつながりでなく、可動役物同士のつながりとして、互いに近づく方向または遠ざかる方向に移動される連動を視認させる態様でも良い。この場合において、片方が停止されていても構わない。

【２３４８０】

例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂは、長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な表示として説明したが、これを、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態に位置する（水平姿勢）場合には、傾斜されずに右方向に向く矢印として表示され、長尺装置Ｋ５４０の動作に連動して、傾斜する方向の表示に切り替えられるようにしても良い。これにより、長尺装置Ｋ５４０の動作前から第２背面表示Ｋ８１ｂを表示するように演出することができる。

【２３４８１】

また、例えば、一連で視認させる態様には、同種の対象がまとまって視認される視認態様や、関連する視認態様を別領域に分ける仕切りとなるように視認される視認態様が含まれ得る。例えば、長尺装置Ｋ５４０が第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置され、長尺装置Ｋ５４０を挟む各領域における表示が互いに関連する表示である場合、それらは一連の視認態様で視認される。

【２３４８２】

なお、互いに関連する表示とは、例えば、一連の視認態様で視認される表示（例えば、記号のまとまり、大人同士、見方同士、等）の組や、相対する関係にある表示（例えば、男女、敵味方、勝ち負け、等）の組等が想定される。

【２３４８３】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に模様が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０の正面側において模様が形成されるようにしても良い。この場合において、長尺装置Ｋ５４

０の正面側に形成される模様と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される模様とを一連の視認態様で視認可能に構成しても良い。

【２３４８４】

また、長尺装置Ｋ５４０の視認される範囲は、長尺装置Ｋ５４０そのものの配置や姿勢に加え、移動装置Ｋ４５６０により隠される範囲によっても変わり得る。移動装置Ｋ４５６０の配置に対応して、視認される一連の視認態様が切り替えられ得るように構成しても良い。

【２３４８５】

また、長尺装置Ｋ５４０の配置により、長尺装置Ｋ５４０の上側または下側のみに板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が視認される場合も、長尺装置Ｋ５４０の上側にも下側にも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が視認される場合も生じ得るところ、少なくともその一方において、長尺装置Ｋ５４０の正面側に形成される模様と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される模様とを一連の視認態様で視認可能に構成しても良い。

【２３４８６】

上記各実施形態では、演出表示ＫＥＲ４７１，ＫＥＲ４７２が、第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２可動装置Ｋ４７０１の正面視における視認態様を動画表示するようにしても良い。この場合、第２可動装置Ｋ４７０１の故障により第２可動装置Ｋ４７０１が動かなくなっても、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示により第２可動装置Ｋ４７０１の動作態様を視認させることができる。また、第２可動装置Ｋ４７０１を動作させる場合と異なり、駆動音や、振動が生じないという利点がある。

【２３４８７】

上記各実施形態では、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットと、入賞ユニットＫ２００に形成される模様とを一連の視認態様で視認させ得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側装飾装置Ｋ３５０の正面側に、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットに形成される模様と一連の視認態様で視認され得る模様が形成されるようにしても良いし、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットに形成される模様や入賞ユニットＫ２００に形成される模様と、第２入賞ユニットＫ５２７０に形成される模様とが、一連の視認態様で視認され得るよう構成しても良い。これにより、一連の視認態様で視認され得る領域を広げることができる。

【２３４８８】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上下に亘る長さで形成され、板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１の動作と連動して長尺装置Ｋ５４０が動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が、特定の傾斜姿勢の長尺装置Ｋ５４０の上側または下側の領域を覆うことができるよう形成され（即ち、傾斜姿勢の長尺装置Ｋ５４０の下側に形成される三角形を、閉塞状態において全体で形成する形状から構成され）るようにしても良い。

【２３４８９】

この場合、長尺装置Ｋ５４０を挟んで左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が配設されていない側において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において動画表示を行うことで、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動と対応した動画表示を実行させることができる。

【２３４９０】

また、この場合において、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１を挟んで長尺装置Ｋ５４０の反対側において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認可能となるように、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１の長尺装置Ｋ５４０の長手方向と交差する方向における形成長さを短くするようにしても良い。これにより、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１を挟んで長尺装置Ｋ５４０の反対側の領域においても、移動装

置Ｋ４５６０のスライド移動と対応した動画表示を実行させることができる。
【２３４９１】
上記各実施形態において、球の検出位置に対応して回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を、時計回りの動作が、第１の演出用途例において説明した第１の演出制御例とし、反時計回りの動作が第１の演出用途例において説明した第２の演出制御例としても良い。これにより、遊技球の流下が頻度高く生じても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を小刻みに生じさせることができる。なお、第１の演出制御例および第２の演出制御例における動作の反転位置において、視認窓部Ｋ４５７８ａを通して第１視認対象物Ｋ４５８０が視認されるように表示制御される。
【２３４９２】
上記各実施形態において、導光部材Ｋ５１５０に入射された光を正面側に屈折させる光屈折部Ｋ５１５１について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ５０６０の背面に光屈折部を形成して、その屈折部を利用してベース板Ｋ５０６０に入射された光を正面側に屈折させるように構成しても良い。この場合、屈折された光の視認される位置を導光部材Ｋ５１５０よりも前側に位置させることができるので、遊技者にとって視認させ易くすることができる。
【２３４９３】
また、ベース板Ｋ５０６０自体に光屈折部が配設されるので、ベース板Ｋ５０６０の背面側に樋用前側部材Ｋ９１が締結固定されることで導光部材Ｋ５１５０を配設できない範囲においても光屈折による演出効果を生じさせることができる。
【２３４９４】
なお、光屈折部の配置を、光を一連の視認態様で視認させることを目的とするばかりではなく、特定の位置に注目させるために設計しても良い。例えば、光屈折部Ｋ５１５１を介して視認される光が、第１入賞口Ｋ６４や第１特定入賞口Ｋ６５ａ等の入賞口やスルーゲートＫ６７、入賞ユニットＫ２００等の付近を光らせるように光屈折部Ｋ５１５１が配置されても良い。
【２３４９５】
上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０にローマ字による記号を視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、数字による記号を視認可能に構成しても良い。この場合において、「８０％」等、遊技性（例えば、スペック表示）に関連する数字とすると、遊技者が遊技をする前に、ガラスユニットＨ１６越しに遊技性の報知を行うことができる。
【２３４９６】
その上で、化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下することで影が生じ、数字による記号の見え方が変化する（例えば、上下中央部の左隅部が暗く視認され、見え方が「３０％」に変化する）ように構成することで、遊技を開始して初めて把握できる数字による報知も行うことができる。
【２３４９７】
例えば、初めに見えた「８０％」は、化粧カバーＫ５２８０側を流下させない左打ち遊技を行う際に入球可能な第１入賞口Ｋ６４で抽選が開始される第１特別図柄の大当たりの確変割合を示し、右打ち遊技により化粧カバーＫ５２８０の背面側を球が流下する場合に見える「３０％」は、右打ち遊技で入球可能な第２入賞口Ｋ６４０で抽選が開始される第２特別図柄の大当たりの内の最高ラウンド大当たりの割合を示すようにすれば、視認される数字の変化を有効に利用して、遊技者に意味のある報知を行うことができる。
【２３４９８】
なお、「％」は、第３輪郭部Ｋ５２８５や第３形成部Ｋ５２８６と同様に、球の流下経路と正面視で重ならない位置に形成することで、遊技球の流下の有無に因らず同様の視認態様で視認させることができる。
【２３４９９】

また、上述の「８０％」の内、輪郭で囲まれる領域に、白色の小さな文字で「設定６の場合の値」と形成しておいて、遊技球が化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下しない内は白色光を白色の文字に当てて認識し難いようにし、遊技球が化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下する場合における球の影で白い文字を認識できるように構成しても良い。報知の内容は、「設定６と、それとは異なる設定とを選択できるが、設定６の時には８０％で、他の設定の時のことまでは言及しない」というものである。この場合、はじめから報知している内容は「設定６の場合に８０％」で共通であるが、球を右打ちで発射する前においては「設定６の場合」の部分を見え難くすることで、設定が判別された後か前かに関わらず、遊技機を魅力的に飾ることができる。

【２３５００】

上記各実施形態では、流路構成部材Ｋ５２７１により屈曲経路が形成される前方に化粧カバーＫ５２８０が配置され、流下する球と重なる位置に模様が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、流下経路が形成されず、遊技球が自由落下可能な範囲の正面側に化粧カバーＫ５２８０を配設するようにしても良い。この場合、流下する球と化粧カバーＫ５２８０の模様とが重なる期間を短くすることができるので、模様の視認性を維持し易くすることができる。

【２３５０１】

また、流路構成部材Ｋ５２７１により形成される流路は、左右方向に傾斜する直線経路が複数組み合わされた屈曲経路として構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路に曲線部が含まれても良いし、流下経路が曲線のみで構成されても良い。

【２３５０２】

また、流下経路が前後方向に延びる（前後方向に向かう程に傾斜する）部分を有しても良い。この場合、流下する遊技球の正面視における変位をゆっくりとさせることができるので、遊技球と化粧カバーＫ５２８０の模様とが重なる期間を長くすることができる。

【２３５０３】

上記各実施形態では、非透過形成部Ｋ５２８２ａが矩形状に形成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、矢印形状で形成されても良いし、その他の任意の記号で形成されるようにしても良い。これにより、遊技者に対して、記号の意味するところを報知することができ、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【２３５０４】

また、非透過形成部Ｋ５２８２ａは光を透過させないものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形成部Ｋ５２８２よりも透過性が低いが、非透過ではなく、光を透過するものとしても良い。これにより、非透過形成部Ｋ５２８２ａを利用した光演出を実行可能とすることができる。

【２３５０５】

上記各実施形態では、流路構成部材Ｋ５２７１の正面側で化粧カバーＫ５２８０が固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧カバーＫ５２８０が第１輪郭部Ｋ５２８１の左下端部付近を軸に時計回りに回転動作可能に構成されることで、模様が球流路の前方に配置される状態と、模様が球流路の前方から退避される状態と、を構成可能にしても良い。これにより、流路構成部材Ｋ５２７１により流下される球の視認性を切り替えることができる。

【２３５０６】

この場合において、模様全体が回転動作されても良いし、模様の一部が回転動作されても良い。例えば、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃの下側における変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみが回転動作され、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃ及び非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃの上側における変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂは配置が維持されても良い。この場合、回転動作によらず、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃにおける模様の位置を不変とすることができ、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃによる報知を常時実行することができる。

【２３５０７】
上記各実施形態では、枝分かれ分岐の無い球流路の前に化粧カバーＫ５２８０が配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２傾斜部Ｋ５２７４の下流側端部において流路が分岐するようにしても良い。この場合において、分岐流路の全ての前側に非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置されるようにしても良いし、一方の分岐流路の前側に非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置され、他方の分岐流路の前側には非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置されないようにしても良い。後者の場合、非透過形成部Ｋ５２８２ａと球の影とが重なることを視認することで、球が、どちらの分岐流路を流下したかを遊技者に把握させ易くすることができる。
【２３５０８】
上記各実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１を代表例として、背後を通る遊技球の視認性を維持するための種々の特定を行ったが、必ずしもこれに限られるものでは無い。例えば、同様の特定を、大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂに行うようにしても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００を球が流下する場合に、第１輪郭部Ｋ５２８１で説明したと同様の効果を生じさせることができる。
【２３５０９】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。
【２３５１０】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【２３５１１】
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【２３５１２】
上記第１１１実施形態では、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２がベース部材Ｈ３１１の左右両側に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、右側装飾ユニットＨ１４ｃに一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を別途配設して、それら一対のスピーカー組立体Ｈ３１２が配設される空間同士を連通する連通路を右側装飾ユニットＨ１４ｃに形成しても良い。
【２３５１３】
上記第１１１実施形態では、スピーカー組立体Ｈ３１２が配設される配設空間Ｈ３００Ｆが化粧ユニットＨ３２０に一対形成される場合について説明したが、配設空間Ｈ３００Ｆが３個以上形成され、それら配設空間が連通路によって連通されるものであっても良い。
【２３５１４】
上記第１１１実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄが複数の部材を組み合わせて形成する（隙間を空けて配設する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、中空形状の棒部材を一対の配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ又は第２空間Ｈ３００Ｂ）に両端が配置されるように配設して、棒部材の内部空間を利用して音を伝達可能に構成しても良い。
【２３５１５】
また、正面側が開放されるお椀型状に形成される覆設部材Ｈ３４３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側の一部を切り欠いて、覆設部材Ｈ３４３の内部空間を音が伝達するように構成しても良い。この場合、一対の配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ又は第２空間Ｈ３００Ｂ）を連通する連通路（第１連通路Ｈ３００Ｃ又は第２連通路Ｈ３００Ｄ）が装飾ユニットＨ３３０の中央部に形成され、連通路の外側を化粧ユニットＨ３２０で取り囲むことができるので、連通路を通過する音が連通路の内壁を伝わり連通路の外側に放音されたとしても、その音が装飾ユニットＨ３３０の外側まで伝わることを抑制できる。その結果、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１８４３参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１８４５参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１８４６参照））以外から音が放音されることを抑制できる。
【２３５１６】
上記第１１１実施形態および第１１７実施形態から第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、一方のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）された音を第１連通路Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄを通して、他方のスピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ、第２空間Ｈ３００Ｂ）に放音する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、変位部材が変位された際の駆動音や衝突音を第１連通路Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄを通して、他方のスピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ、第２空間Ｈ３００Ｂ）に伝達して駆動音や衝突音がパチンコ機Ｈ１０の外部に漏れ出にくくしても良い。
【２３５１７】
上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させることで開放される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される第２連通路Ｈ３００Ｄが下面板Ｈ３３３を変位させることで開放されるように構成しても良い。
【２３５１８】
さらに、第１１９実施形態では、上面板Ｈ９３３２を回転させる場合について説明したが、上面板Ｈ９３３２をスライド変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放するように構成しても良く、また、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する位置に変位でき

るものであれば、例えば、上面板Ｈ９３３２を上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内側に向かって変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放しても良い。

【２３５１９】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６が操作ユニットＨ１８０の操作に連動して変位される場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作ではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させても良い。この場合には、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により遊技者が上面板Ｈ９３３２の状態を常に変更することができる。その結果、遊技者の好みに合った放音態様に調整することが可能となり、遊技者の興趣を向上できる。

【２３５２０】

また、上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６が操作ユニットＨ１８０の操作に連動して変位される場合について説明したが、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所定のセンサ（スルーゲート）の通過に伴って、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させても良い。

【２３５２１】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させる）を実行可能とされる。

【２３５２２】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、下面板Ｈ３３３を変位して第２連通路Ｈ３００Ｄを開放するものであっても良い。

【２３５２３】

第１４７実施形態および第１４８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に板部材Ｈ３７３３２ｈが空間Ｈ９３３２ｄ２の外部空間との連通を規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、板部材Ｈ３７３３２ｈの先端が第１連通路Ｈ３００Ｃよりも上方に位置し、空間Ｈ９３３２ｄ２が外部空間と連通されるものであっても良い。

【２３５２４】

また、この場合、第１４８実施形態のように光照射ユニットＨ３８３３６に配設したＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を、空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とを連通する開口を介して遊技者が視認できるように、ＬＥＤＨ３８３３３６ａ１の光の向きを調整しても良い。これにより、ＬＥＤＨ３８３３３６ａ１の光を遊技者に直接視認させることができ、光により第１連通路Ｈ３００Ｃの放音状態が変更されたことを遊技者に認識させやすくできる。

【２３５２５】

さらに、光照射ユニットＨ３８３３６に配設したＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光が、外部空間と連通された第１連通路Ｈ３００Ｃを介して遊技者に視認されるようにＬＥＤＨ３８３３６ａの光の向きを調整しても良い。この場合も同様に、光により第１連通路Ｈ３００Ｃの放音状態が変更されたことを遊技者に認識させやすくできる。

【２３５２６】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態、第１４９実施形態、第１５０実施形態、及び、第１５１実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３

３２が板部材から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１４８実施形態のように、光を照射可能な基板部材Ｈ３８３３６ａを有する光照射ユニットＨ３８３３６から形成されるものであっても良い。

【２３５２７】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５０実施形態では、パチンコ機Ｈ１０の演出に注目させる際に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合について説明したが、これに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の演出に注目させる際に第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路として、パチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくして、遊技者にパチンコ機Ｈ１０の音を集中して聞かせるように構成しても良い。

【２３５２８】

第１５０実施形態では、上面板Ｈ４０３３２が変位され第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合に、上面板Ｈ４０３３２が正面側に向かって上昇傾斜した状態に配置される場合について説明したが、上面板Ｈ４０３３２が鉛直となる位置まで（約９０度）回転させるものであっても良い。なお、この場合には、第１４８実施形態のように光を照射可能な基板部材Ｈ３８３３６ａを有する光照射ユニットＨ３８３３６で構成されることが好ましい。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際に光照射ユニットＨ３８３３６から出射する光を上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を通さず遊技者に直接視認させることができ、光による演出態様を複数形成できるからである。

【２３５２９】

なお、上面板Ｈ４０３３２の回転角度については、第１５０実施形態に限られず、第１４７実施形態から第１５０実施形態における上面板Ｈ３７３３２、Ｈ３９３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６においても同様である。即ち、第１４７実施形態から第１５０実施形態における上面板Ｈ３７３３２、Ｈ３９３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を鉛直となる位置まで（約９０度）回転可能に構成しても良い。

【２３５３０】

上記第１５０実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間の全体に上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが配置され、第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通が規制される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ３００Ｃの一部を遮るように第１連通路Ｈ３００Ｃの内側面と同形状の板部材から形成される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内側に配置して、第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通を規制するものであっても良い。

【２３５３１】

この場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に配設される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの配設スペースを小さくできる（即ち、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの外形を小さくできる）ので、上面板Ｈ４０３３２に光を発光可能な基板部材Ｈ３８３３６ａが配設される場合に、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより光が遮られることを抑制できる。その結果、光による演出効果が低下することを抑制できる。

【２３５３２】

また、上面板Ｈ４０３３２に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設するものではなく、上面板Ｈ４０３３２とは関係ない位置に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設するものであっても良い。例えば、遊技者やパチンコ店の作業者（店員）が操作可能な位置に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設して、遊技者やパチンコ店の作業者（店員）の操作により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが変位されるものであっても良い。

【２３５３３】

例えば、パチンコ店の作業者（店員）のみが閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを操作可能として、パチンコ機Ｈ１０のスピーカーＨ３１２ａの破損時（故障時）にのみ閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に変位させて、スピーカーＨ３１２ａの破損時に一方側のスピーカーＨ３１２ａから他方側のスピーカーＨ３１２ａ側に音を伝達するように構成しても良い。

【２３５３４】

また、例えば、パチンコ機Ｈ１０の演出により、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを変位させたり、第１連通路Ｈ３００Ｃの外側に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを変位させるようにしても良い。即ち、パチンコ機Ｈ１０の演出に連動して第１連通路Ｈ４０３３２ｂの連通状態を変更（制御）するものであっても良い。これによれば、パチンコ機Ｈ１０の演出に合わせて音の態様を変化させることができるので遊技の興趣を向上できる。

【２３５３５】

また、上記第１５０実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間が埋まる形状に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが形成される場合について説明したが、第１連通路Ｈ３００Ｃの一部の領域を開放する（連通可能な空間が空いた）形状に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが形成されても良い。

【２３５３６】

第１４７実施形態、第１４９実施形態、及び、第１５１実施形態では、上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２が板状に形成される場合について説明したが、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を閉鎖する上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２の下面側から装飾部を張り出し形成しても良い。この場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際に、装飾部を遊技者に視認させることができ、正面視における装飾の形成領域を増やすことができる。なお、装飾部は第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅よりも小さく形成されることが好ましく、これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２で閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に装飾部を収容することができる。その結果、装飾部を形成した分、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ，Ｈ３９０１４ａ，Ｈ４１０１４ａを上下方向に大きくする必要がなくなり、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ，Ｈ３９０１４ａ，Ｈ４１０１４ａを大型化させず、装飾領域を増やすことができる。

【２３５３７】

上記第１５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４０３３７が上下方向に変位される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４０３３７は、前後方向にスライド変位されるものでも、回転変位されるものでもよい。例えば、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖する上面板Ｈ４０３３２に沿って第２変位部材Ｈ４０３３７を前後方向にスライド変位させる場合には、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部空間における第２変位部材Ｈ４０３３７の変位領域を最小にすることができる。これにより、第２変位部材Ｈ４０３３７を配設するためのスペースを確保できる。

【２３５３８】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を例に説明したが、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６に加えて、或いは、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６）と同様の効果が得られる。

【２３５３９】

上記第１１９実施形態、第１４７実施形態から第１５１実施形態では、スピーカーＨ３１２ａを例に説明したが、スピーカーＨ３１２ａに加えて、或いは、スピーカーＨ３１２ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、振動または動作が可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。振動または動作が可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（スピーカーＨ３１２ａ）と同様の効果が得られる。

【２３５４０】

上記第１２０実施形態では、遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態時にファンＨ１０４８０の回転（送風）が行われる場合について説明したが、遊技者が風を発生さ

せるか否か選択できるように構成しても良い。
【２３５４１】
なお、この場合、上端開口部Ｈ４７３ａの開口をパチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者側に向けて開口させる（即ち、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの内カバー部材Ｈ４２０側に開口を形成する）ことが好ましく、これにより、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者にファンＨ１０４８０の風を当てることができる。よって、遊技者が店舗の室温を高いと感じる場合には、ファンＨ１０４８０を遊技者にオンさせてファンＨ１０４８０の風が当たるようにすることで、快適に遊技できるようになる。
【２３５４２】
また、遊技者が風を発生させるか否か選択するものではなく、パチンコ機Ｈ１０の演出に合わせてファンＨ１０４８０を回転させるように構成してもよい。例えば、「大当たり」の期待が高い演出を行う場合に、ファンＨ１０４８０を回転させることでファンＨ１０４８０の風を感じる遊技者の「大当たり」への期待感を高めることができる。
【２３５４３】
なお、上記第１２０実施形態では、ファンＨ１０４８０により風を送る場合について説明したが、風を送ることが可能であれば良く、例えば、スライド変位する機構により空気を押し出して風を送るものであっても良い。また、スピーカーＨ３１２ａから音を放音（出力）した際のスピーカーＨ３１２ａの振動により発生する風により、通路空間Ｈ４００Ａの空気を流動させて異物を開口部Ｈ４７３から排出するようにしても良い。
【２３５４４】
上記第１２１実施形態では、立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２と係合部Ｈ１１４７７ｂとにより形成される通路空間Ｈ１１４００Ａ（図１９４９（ａ）参照）が正面枠Ｈ１４の正面側まで開口される場合について説明したが、通路空間Ｈ１１４００Ａが、正面枠Ｈ１４の背面側まで開口されるものであっても良い。
【２３５４５】
この場合には、立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から侵入する異物を正面枠Ｈ１４の背面側に案内することができる。即ち、異物を遊技者から視認されない位置に排出することができる。その結果、遊技者の興趣が低下擦ることを抑制できる。
【２３５４６】
上記第１１１実施形態では、通路空間Ｈ４００Ａを異物が通過する案内面となる屈曲部Ｈ４５２が、光を透過可能な第１外レンズ部材Ｈ４５０から形成される場合について説明したが、第１外レンズ部材Ｈ４５０とは別部材から形成されていても良い。この場合には、異物により第１外レンズ部材Ｈ４５０が汚れることを抑制でき、第１外レンズ部材Ｈ４５０を介して照射される光の光量を安定させることができる。
【２３５４７】
なお、第１１１実施形態では、ベース部材Ｈ５１０を下皿形成部材Ｈ５３０よりも下方側に設定したが、下皿形成部材Ｈ５３０をベース部材Ｈ５１０の下方側に位置する状態で配設し、ベース部材Ｈ５１０の下面側に突出する突出部を形成し、下皿形成部材Ｈ５３０の下端とベース部材の突出部の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させる構成としても良い。この場合には、正面枠Ｈ１４をベース部材Ｈ５１０に対して下方に配設できる分、遊技者が視認可能とされる面積を増加させることができる。その結果、遊技領域を増加させたり装飾面を増加させることができ、遊技者の興趣を向上させやすくできる。
【２３５４８】
上記第１１１実施形態では、正面枠Ｈ１４の下面側を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を自立させる場合について説明したが、正面枠Ｈ１４の上面側を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を自立させても良い。この場合には、上側装飾ユニットＨ１４ａの化粧ユニットＨ３２０（上面板Ｈ３３２）の上面に突出部Ｈ５８３を形成すると共に、化粧ユニットＨ３２０をベースユニットＨ３１０の上端よりも下方側に配置することが好ましい。これによれば、正面枠Ｈ１４の上面側を床面に当接させた際に、ベースユニットＨ３１０の上端と化

粧ユニットＨ３２０に形成した突出部Ｈ５８３の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させることができる。

【２３５４９】

上記第１２４実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作に伴ってスライド板Ｈ１４５６２を変位させることで、第２スライド板Ｈ１４５６３（突出部Ｈ１４５６３ｂ）を張出状態とする場合について説明したが、第２スライド板Ｈ１４５６３を備えず、突出部Ｈ５８３を備える構成としても良い。

【２３５５０】

この場合には、球抜きレバーＨ５２の操作に伴ってスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａを突出部Ｈ５８３の上方に（第１化粧板Ｈ５４１を挟んで突出部Ｈ５８３の反対側）に配置することで、突出部Ｈ５８３に力が作用する場合に突出部Ｈ５８３をスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａで支持（補強）することができる。下皿Ｈ５０から球を排出する際に球が突出部Ｈ５８３に当接した場合や、正面枠Ｈ１４を外枠Ｈ１１に対して開放する際に突出部Ｈ５８３を把持した場合や、正面枠Ｈ１４を床面に仮置きする場合に、突出部Ｈ５８３が変形することや破損することを抑制できる。

【２３５５１】

上記第１１１実施形態、第１２４実施形態および第１２５実施形態では、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂが下皿Ｈ５０から球を払い出す底面口Ｈ５５３ａよりも右側に偏る位置に形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、底面口Ｈ５５３ａの左右両側に一対形成されるものであっても良い。

【２３５５２】

上記第１１１実施形態、第１２４実施形態および第１２５実施形態では、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂが湾曲して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂは、一端から他端に向かって直線状に形成されるものや、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂは、円柱状に突出形成されるものであっても良い。

【２３５５３】

上記第１１１実施形態、第１２４実施形態および第１２５実施形態では、球抜き時に球が飛び散ることを抑制するために突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂを利用する場合について説明したが、球抜き時の球の当接面としての利用だけなく、演出部分として利用しても良い。例えば、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂに光を出射可能な発光手段を配設して、遊技者により球抜き操作等の所定の操作がされる際に突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂから光を照射するものであっても良い。これによれば、光により遊技者に所定の操作が正しくされていることを認識させることができる。また、光による演出で球が排出されている高揚感を遊技者に与えることができる。

【２３５５４】

上記第１２４実施形態および第１２５実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から非突出とされる場合について説明したが、突出部Ｈ１４６５３ｂを退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から突出されても良い。

【２３５５５】

即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５から最大限張り出した第１の突出状態と、その第１の突出状態よりも上下皿ユニットＨ１４０１５の突出距離が少ない第２の突出状態との間で、突出部Ｈ１４５６３ｂを変位させるものであっても良い。この場合には、第１の突出状態または第２の突出状態における突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを、正面枠Ｈ１４を自立させるのに適した高さ（重心位置を適切な位置に配置できる高さ）、排出口Ｈ５６１ａから排出される球が千両箱から飛び出ることを抑制する高さ、又は、千両箱を出し入れしやすい高さ等、適宜適した状態の突出高さに設定できる。

【２３５５６】

上記第１２４実施形態および第１２５実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作により変位するスライド板Ｈ１４５６２が突出部Ｈ１４５６３ｂを有する第２スライド板Ｈ１４５６３に当接することで突出部Ｈ１４５６３ｂが変位される場合について説明したが、遊技者の操作（例えば、操作ユニットＨ１８０の操作）をセンサで検出して、第２スライド板Ｈ１４５６３を別途配設する駆動手段により変位させて突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを変更するように構成しても良い。この場合には、遊技者が操作する操作部材に第２スライド板Ｈ１４５６３を変位する際の抵抗が作用しないので、遊技者に操作部材の操作をさせやすくできる。

【２３５５７】

なお、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（突出部Ｈ１４５６３ｂを変位させる）を実行可能とされる。

【２３５５８】

上記第１２４実施形態および第１２５実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下方向に変位して上下皿ユニットＨ１４０１５の下面から突出される場合について説明したが、上下方向の変位に限定されるものではなく、回転されることで上下皿ユニットＨ１４０１５の下面から突出されるものであっても良い。なお、この場合、突出部Ｈ１４５６３ｂは、直線状に形成されることが好ましく、これによれば、非突出とされる場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の下面に沿って配設しやすくできる。

【２３５５９】

上記第１２４実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂを有する第２スライド板Ｈ１４５６３が上下皿ユニットＨ１４０１５に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、右側装飾ユニットＨ１４ｃや上側装飾ユニットＨ１４ａに配設しても良い。

【２３５６０】

右側装飾ユニットＨ１４ｃ又は上側装飾ユニットＨ１４ａに配設する場合には、球抜きレバーＨ５２に変わって正面枠Ｈ１４に配設する機能調整操作部Ｈ１９０の操作等により第２スライド板Ｈ１４５６３を変位させて突出部Ｈ１４５６３ｂを正面視右側から突出させることで、正面枠Ｈ１４を床に仮置きする場合に右側装飾ユニットＨ１４ｃの右側側面を設置面として利用することができる。

【２３５６１】

上記第１１１実施形態では、リブＨ５８３ｂが湾曲壁Ｈ５８３ａの湾曲面の前後に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、リブＨ５８３ｂを各湾曲壁Ｈ５８３ａの連結部に形成しても良い。例えば、湾曲壁Ｈ５８３ａの凹側の側面の各湾曲壁Ｈ５８３ａの連結部にリブＨ５８３ｂを形成した場合には、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に対して滑ることをリブＨ５８３ｂで抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２３５６２】

また、リブＨ５８３ｂは、湾曲壁Ｈ５８３ａの正面側の片面のみに形成されていても良い。これによれば、外枠Ｈ１１（図１８３５参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指がリブＨ５８３ｂにより湾曲壁Ｈ５８３ａに引っ掛かりにくくなることを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２３５６３】

上記第１１１実施形態、第１２７実施形態、及び、第１２８実施形態では、操作ユニットＨ１８０が連結部Ｈ５５５，Ｈ１８５５５又は凸状部Ｈ１７５１５に載置される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、連結部Ｈ５５５，Ｈ１８５５５又は凸状部Ｈ１７５１５に機能調整操作部Ｈ１９０を載置しても良い。

【２３５６４】

上記第１２６実施形態、第１４５実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が上下方向に変位して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａ，Ｈ３５０１４ａの下面から突出される場合について説明したが、上下方向にスライド変位されるものに限られるものではなく、回転されるものあっても良い。即ち、回転により上側装飾ユニットＨ１６０１４ａ，Ｈ３５０１４ａの下面から突出されるものであっても良い。

【２３５６５】

上記第１２６実施形態、第１４５実施形態および第１４６実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａが遊技者や作業者の所定の操作により突出される場合について説明したが、遊技者の操作（例えば、操作ユニットＨ１８０の操作）をセンサで検出して、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａを別途配設する駆動手段により変位させて基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａの突出高さを変更するように構成しても良い。この場合には、遊技者が操作する操作部材に基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａの操作抵抗が作用しないので、遊技者に操作部材の操作をさせやすくできる。

【２３５６６】

なお、遊技者の操作を検出するセンサ（各スイッチＨ２０８（図１８４２参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号や基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理を実行可能とされる（例えば、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａを変位させる）。

【２３５６７】

上記第１２５実施形態および第１４５実施形態では、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを遊技者または作業者（店員）が操作可能に形成される場合について説明したが、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを別途配設する駆動モータにより駆動させても良い。この場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を所定のタイミングで退避させることができる。なお、所定のタイミングとは、例えば、所定の時間経過のタイミングや、所定の遊技状態とされたタイミングや、所定の操作がされたタイミングである。

【２３５６８】

例えば、第１２５実施形態において、所定の時間経過のタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成した場合には、球抜きレバーＨ５２が操作された後、所定の時間経過で突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させることができるので、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出された状態で放置される（非遊技状態とされる）ことを抑制できる。その結果、次に遊技する遊技者が遊技を開始する際に、球抜き孔が開放された状態となっていることを抑制でき、遊技球を貸し出し操作した際に下皿Ｈ５０に送球された遊技球がそのまま千両箱に払い出されて遊技者の手間（千両箱内の遊技球を拾い集めること）が増えることを抑制できる。

【２３５６９】

なお、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを駆動する駆動モータ（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【２３５７０】

また、第１２５実施形態において、所定の遊技状態とされたタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する場合には、例えば、大当たりが終了し、通常の遊技状態に戻った状態とされた際に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する。この場合には、大当たりが終了して遊技球が下皿Ｈ５０に払い出されなくなったタイミングで、突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させることができる。そのため、突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させる遊技者の操作を不要とできる。なお、この場合には、球抜きレバーＨ５２を別途駆動モータにより駆動して、大当たりの開始に伴って球抜きレバーＨ５２を変位させることで、大当たり時の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、パチンコ機

Ｈ１０の演出に集中させることができる。
【２３５７１】
なお、この場合の球抜きレバーＨ５２を駆動する駆動モータ（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。
【２３５７２】
さらに、第１２５実施形態において、所定の操作がされた場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する場合には、例えば、状態復帰スイッチＨ１２０（図１８３４参照）の操作がされた際に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する。この場合には、遊技中に突出部Ｈ１４５６３ｂが戻らなくなった場合に、状態復帰スイッチＨ１２０の操作により突出部Ｈ１４５６３ｂを退避位置に戻すことができる。
【２３５７３】
また、第１４６実施形態において、所定の操作がされたタイミングで基板ユニットＨ１６３４４を退避させるように構成する場合には、例えば、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２に対して閉じた位置に配置された場合（図１８３５参照）に退避するように構成する。この場合には、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２に配設された後、基板ユニットＨ１６３４４を退避位置へ変位させる操作を必要としないので、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２に組み付ける作業を簡易にできる。
【２３５７４】
上記第１２４実施形態および第１２５実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作に連動して上下皿ユニットＨ１４０１５，Ｈ１５０１５の下面から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球排出レバーＨ５４の操作に連動して上下皿ユニットＨ１４０１５，Ｈ１５０１５の下面から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させても良い。
【２３５７５】
この場合には、遊技をやめる際に上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に球を払い出す球排出レバーＨ５４の操作に伴って突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、遊技をやめる場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させて、下皿Ｈ５０から千両箱に払い出される遊技球が飛び散ることを抑制できる。
【２３５７６】
また、上記第１２６実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４を球抜きレバーＨ１６０５２の操作に連動して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出す場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球排出レバーＨ５４の操作に連動して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４ａを張り出させても良い。
【２３５７７】
この場合には、球排出レバーＨ５４が押圧されたままの状態で放置された場合に、次に遊技しようとする遊技者に球排出レバーＨ５４が押圧されたままの状態になっていることを認識させて、球排出レバーＨ５４を所定の位置に戻させることができる。これにより、次に遊技する遊技者が球を貸し出し操作した際に、その遊技球が上皿Ｈ１７に貯留されず上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に払い出されることを抑制できる。その結果、遊技者の手間（下皿Ｈ５０に払い出された遊技球を上皿Ｈ１７に戻すこと）が増えることを抑制できる。
【２３５７８】
第１２４実施形態、第１２５実施形態、第１２６実施形態、第１４５実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を、球抜きレバーＨ５２，Ｈ１６０５２又はシリンダ錠Ｈ２０の操作で張り出させる場合について説明したが、例えば、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所定のセンサ（スルーゲート）の通過や、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させても良い。この場合に

は、遊技状態により突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させることができるので、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４の張り出しを演出の一部として利用できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２３５７９】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号やに基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させる）を実行可能とされる。

【２３５８０】

また、第１２４実施形態および第１２５実施形態では、遊技状態とされた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、遊技球が下皿Ｈ５０から払い出される場合に確実に突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出した状態にできる。その結果、千両箱に払い出された遊技球が飛び散ることを抑制できる。

【２３５８１】

上記第１４６実施形態では、張出部材Ｈ３６１３０ａを送球停止レバーＨ１３２ａの操作で張り出させる場合について説明したが、例えば、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所定のセンサ（スルーゲート）の通過や、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って、張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させても良い。

【２３５８２】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１８４２参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させる）を実行可能とされる。

【２３５８３】

上記第１２４実施形態から第１２６実施形態、第１４５実施形態、第１４６実施形態では、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａを例に説明したが、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａに加えて、或いは、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａ）と同様の効果が得られる。

【２３５８４】

上記第１２４実施形態から第１２６実施形態、第１４５実施形態、第１４６実施形態では、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａについて説明したが、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａに加えて、或いは、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａ）と同様の効果が得られる。

【２３５８５】

上記第１１１実施形態では、下枠部材Ｈ７２０に固定される発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して、変位部材Ｈ７９０を相対変位させる場合について説明したが、下枠部材Ｈ７２０に変位部材Ｈ７９０を固定し、発光手段Ｈ７７３ｂを変位部材Ｈ７９０に対して相対変位させてもよい。この場合、発光手段Ｈ７７３ｂの光源の位置を変更することができるので、発光手段Ｈ７７３ｂの変位に伴って光源の移動を遊技者に注目（視認

）させることができ、光源の移動に伴う光の態様の変化を遊技者に見せやすくできる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２３５８６】

なお、下枠部材Ｈ７２０に発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）と変位部材Ｈ７９０とのどちらも固定せず、下枠部材Ｈ７２０に対して発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）と変位部材Ｈ７９０とをそれぞれ独立して変位させても良い。

【２３５８７】

上記第１１１実施形態、及び、第１５３実施形態から第１５６実施形態では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して回転変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、ベース手段Ｈ７７０にレール部材を配設して、そのレール部材に沿って駆動手段Ｈ７８０を左右方向に直線変位させるようにしても良い。

【２３５８８】

上記第１１１実施形態、及び、第１５３実施形態から第１５６実施形態では、駆動手段Ｈ７８０を変位させた際の慣性力で駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限るものではなく、例えば、駆動手段Ｈ７８０にソレノイドを別途配設して、そのソレノイドの駆動により駆動手段Ｈ７８０に配設される変位部材Ｈ７９０を変位させるようにしても良い。

【２３５８９】

なお、この場合の駆動手段Ｈ７８０を駆動するソレノイド（その他装置Ｈ２２８（図１８４２参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【２３５９０】

上記第１１１実施形態では、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して前後方向に変位可能に配設される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して左右方向に変位可能に配設しても良い。この場合には、駆動手段Ｈ７８０が回転する慣性力により変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０の回転方向にスライド変位させることができる。従って、駆動手段Ｈ７８０の回転範囲を狭くしつつ、駆動手段Ｈ７８０の先端に配設される変位部材Ｈ７９０の変位量を大きくできる。その結果、駆動手段Ｈ７８０の配設スペースを小さくしつつ、変位部材Ｈ７９０の変位量を確保して変位部材Ｈ７９０の変位による演出効果を高めることができる。

【２３５９１】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態、及び、第１５３実施形態では、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０に対して回転される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０に対してスライド変位されるように構成されても良い。また、この場合には、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向に対して直交する平面上を回転または直線変位されるように構成することが好ましい。変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０の変位により光の態様を変更しやすくできるからである。

【２３５９２】

上記第１１１実施形態では、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３と正面視において重なる範囲を変位可能に構成される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０（駆動手段Ｈ７８０）の変位領域を発光手段Ｈ７７３ｂと正面視において重ならない範囲を含む領域に設定しても良い。即ち、変位部材Ｈ７９０（駆動手段Ｈ７８０）の変位範囲を左右方向に大きくして、正面視において発光手段Ｈ７７３ｂと重ならない状態と、正面視において発光手段Ｈ７７３ｂと重なる状態とを形成可能に構成しても良い。この場合には、発光手段Ｈ７７３ｂの視認態様を増やすことができるので、変位部材Ｈ７９０の変位による演出

効果を向上できる。
【２３５９３】
上記第１１１実施形態、第１５２実施形態、及び、第１５３実施形態では変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０が上側ベース部材Ｈ７７１及び下側ベース部材Ｈ７７２に連結され、基板部材Ｈ７７３が上側ベース部材Ｈ７７１及び下側ベース部材Ｈ７７２に配設される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０を下枠部材Ｈ７２０に連結し、基板部材Ｈ７７３を下枠部材Ｈ７２０に配設するものであっても良い（即ち、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０及び基板部材Ｈ７７３が配設される対象が下枠部材Ｈ７２０とされても良い）。
【２３５９４】
上記第１５２実施形態、第１５３実施形態では、一個の揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０が配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０が複数個整列して配設されるものであっても良い。これによれば、複数色を同時に表示することができるので、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０の光による演出を複数形成できるので、光による演出効果を向上できる。
【２３５９５】
また、この場合に、各揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０に配設される変位部材Ｈ４２７９０を、各揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０の基板部材Ｈ７７３（第１拡散部材Ｈ４３７７４）と異なる個数（例えば、１個）にしても良い。
【２３５９６】
これによれば、１個の変位部材Ｈ４２７９０に対して、各基板部材Ｈ７７３から発光され第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）で色分けされた各発光色を１個の変位部材Ｈ４２７９０の周囲から遊技者に視認させることができる。そのため、変位部材Ｈ４２７９０の変位と、基板部材Ｈ７７３の光とによる演出効果を向上できる。なお、変位部材Ｈ４２７９０は、１個に限られるものではなく第１拡散部材Ｈ４３７７４の数に対して少ないものであれば良い（即ち、１個の変位部材Ｈ４２７９０に対して複数色の発光を視認させることが可能であれば良い）。
【２３５９７】
また、２個以上の変位部材Ｈ４２７９０を配設した場合には、各変位部材Ｈ４２７９０を基板部材Ｈ７７３の正面側で隣り合わせ（合体させ）、１個の変位部材Ｈ４２７９０が基板部材Ｈ７７３の正面側に配置されているように遊技者に視認させても良い。
【２３５９８】
この場合には、各変位部材Ｈ４２７９０の間に光を照射可能な位置の発光手段Ｈ７７３ｂの光の出射をオフにする、又は、各変位部材Ｈ４２７９０の間に照射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５で遮ることで、各変位部材Ｈ４２７９０の間から光が漏れ出ることを抑制できる。これにより、隣り合わせた（合体させた）状態の各変位部材Ｈ４２７９０を１個の変位部材Ｈ４２７９０として遊技者に視認させやすくできる。
【２３５９９】
上記第１５２実施形態、第１５３実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０の一部が光を透過可能な樹脂材料から形成されても良い。この場合には、光非透過の領域で背面側の第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４を視認させにくくできる一方、光を透過可能な領域で第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４を介して照射される光を遊技者に視認させることができる。
【２３６００】
上記第１５３実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、光を集光可能なレンズ部材や光を拡散可能な拡散部材を第２変位部材Ｈ４３７９５の両端部に配置して、変位部材Ｈ７９０の縁部（両端部）を介して視認される光の見え方を変更しても

良い。これにより、変位部材Ｈ７９０の周囲から出射される光を目立たせることができる。

【２３６０１】

上記第１５２実施形態、第１５３実施形態では、正面視において変位部材Ｈ４２７９０の左右幅が第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４の左右幅よりも小さく形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０の左右幅を第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４の左右幅よりも大きく形成しても良い。

【２３６０２】

上記第１５２実施形態、第１５３実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５が回転変位される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５をスライド変位させるものであっても良い。これによれば、第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４（基板部材Ｈ７７３）に対する変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５の姿勢を維持することができるので、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５に遮られて反射する光が他の発光領域に入射することで不具合が起きることを抑制できる。

【２３６０３】

なお、上記第１５２実施形態、第１５３実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５が回転変位されるので、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５を変位させた際の左右方向における変位領域を小さくすることができる。これにより、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０を傾倒装置Ｈ７１０の内側に配設しやすくできる。

【２３６０４】

上記第１５３実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５を変位させて、発光手段Ｈ７７３ｂの光が第１拡散部材Ｈ４３７７４に照射される領域を変更する場合について説明したが、第２変位部材を備えず第１拡散部材Ｈ４３７７４を基板部材Ｈ７７３に対して変位させることで、第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に照射される発光手段Ｈ７７３ｂの光の領域を変位するものであっても良い。

【２３６０５】

即ち、第１拡散部材Ｈ４３７７４を基板部材Ｈ７７３に対して変位させることで、第１拡散部材Ｈ４３７７４の光が非透過とされる領域のフィルムを基板部材Ｈ７７３の正面側から退避させるものであっても良い。

【２３６０６】

上記第１５６実施形態では、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１から張り出される場合（傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される場合）に、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６１８２ｂに第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光を入射可能に構成されるが、変位部材Ｈ４１６８２をボタン部Ｈ１８１の内部に収容した場合に、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６８１２ｂから第２基板部材Ｈ４６７４２の光を変位部材Ｈ４６１８２の内部に入射させるように第２基板部材Ｈ４６７４２の配置を変更しても良い。

【２３６０７】

上記第１５２実施形態から第１５６実施形態では、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００が１箇所に配設される場合について説明したが、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００を複数個並べて配置して、複数の揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００による演出を遊技者に視認させるものであっても良い。

【２３６０８】

上記第１１１実施形態、第１３１実施形態、第１３２実施形態では、錘部材Ｈ７８７ｂ，Ｈ２２７８７ｂを回転させた際の慣性力や、当接手段Ｈ２１７８６を当接させた際の慣性力で駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０を変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、駆動モータＨ７８１の駆動軸に連

結するクランクにより駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０を変位させても良い。この場合には、駆動モータＨ７８１の駆動に伴った変位を駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０にさせることができるので、慣性力により変位させる場合に比べて駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０の位置を制御しやすくできる。

【２３６０９】

また、上記第１１１実施形態、第１３１実施形態、第１３２実施形態では、駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０がベース手段Ｈ７７０に対して回転変位される場合について説明したが、スライドレールにより駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０がベース手段Ｈ７７０に対してスライド可能に連結されるものであっても良い。

【２３６１０】

上記第１５３実施形態では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１の操作により変位部材Ｈ４３７９０を変位させる場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作に連動するものではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により変位部材Ｈ４３７９０を変位させるようにしても良い。即ち、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により、第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に貼付される各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に近づけるように構成しても良い。この場合には、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間の距離を調整することができる。従って、第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間への光の入射量を遊技者が制御することができ、遊技者の好みに合わせた発光を遊技者に視認させることができる。

【２３６１１】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態から第１５６実施形態では、図示および説明を省略したが、操作ユニットＨ１８０，Ｈ４５１８０，Ｈ４６１８０とガラスユニットＨ１６の間に導光板を配設しても良い。なお、導光板は、所定の方向からの光のみを所定の方向に反射可能な反射部を有し、光を透過可能に構成される。また、導光版は、変位可能に構成されても良い。

【２３６１２】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態から第１５６実施形態では、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０を例に説明したが、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０に加えて、或いは、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）と同様の効果が得られる（第１５２実施形態、第１５３実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０の一部が光を透過可能に構成された場合）。

【２３６１３】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態から第１５６実施形態では、基板部材Ｈ７７３を例に説明したが、基板部材Ｈ７７３に加えて、或いは、基板部材Ｈ７７３に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を発光可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を発光可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（基板部材Ｈ７７３）と同様の効果が得られる。

【２３６１４】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態から第１５６実施形態では、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５を例に説明したが、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５に加えて、或いは、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光の光量を変更可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光の光量を変更可能に構成される手段であれば上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【２３６１５】

上記第１５３実施形態では、各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）を例に説明したが、各フィルムに加えて、或いは、各フィルムに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、出射される光の色を変更可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。出射される光の色を変更可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【２３６１６】

上記第１５４実施形態から第１５６実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０を例に説明したが、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を透過可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を透過可能に構成される手段であれば上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【２３６１７】

上記第１５５実施形態および第１５６実施形態では、第２基板部材Ｈ４５７１８を例に説明したが、第２基板部材Ｈ４５７１８に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を発光可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を発光可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【２３６１８】

上記第１１１実施形態、第１５２実施形態から第１５６実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０を例に説明したが、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０を変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０を変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態と同様の効果が得られる。

【２３６１９】

上記第１１１実施形態、第１３３実施形態、及び、第２５実施形～第１４０実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２４８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び第２凹部Ｈ２３８７１が凹設した溝状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、凹部Ｈ８２１ａ１を前後に貫通した開口で形成しても良い。なお、この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１の溝幅が遊技球の直径よりも小さい形状に形成され、前後に暴れる遊技球が凹部Ｈ８２１ａ１の開口縁に当接されるように構成される。

【２３６２０】

また、上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４０実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２４８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１、第２凹部Ｈ２３８７１、凸部Ｈ２４８２１ａ２により、流路の内面に当接する遊技球が内面から受ける前後方向の反力を小さくする場合について説明したが、流路の内面に弾性部材を配設して流路の内面から受ける前後方向の反力を小さくしても良い。

【２３６２１】

上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４４実施形態では、回転体Ｈ１１２ａ２の他端側に配設される発射部Ｈ８３１が弾性変形可能な弾性材料から形成される場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではなく、発射レールＨ１１２ａ１上の遊技球に当接した際の衝撃を吸収できるものであれば、例えば、金属製のコイルスプリングで構成され、遊技球と当接した際にスプリング部分で当接した際の衝撃を吸収するものであっても良い。

【２３６２２】

上記第１１１実施形態、第１３３実施形態、及び、第１３６実施形態では、案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも上方側に配置される場合について説明したが、案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が発射レール

Ｈ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも下方側に配置しても良い。
【２３６２３】
この場合には、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が背面側に向かって暴れる場合に、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部よりも上方側に当接させることができる。即ち、下方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。従って、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に下方に向かう方向の反力を付与することができ、遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の転動面から上方に離れることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れることを抑制できる。
【２３６２４】
上記第１１１実施形態では、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０４参照）が若干下方に配置される場合について説明したが、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若干上方に位置されてもよい。
【２３６２５】
この場合には、正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる遊技球を球送球部Ｈ８８２ａの下方側（矢印Ｄ方向側）の端部に当接させることができる。これにより、球送球部Ｈ８８２ａに当接する遊技球に作用する反力に下方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、球送球部Ｈ８８２ａに当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、下方に向かう成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２３６２６】
さらに、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合に遊技球が球送球部Ｈ８８２ａの下方側の端部に当接するので、遊技球が背面側開口Ｈ１７２の上方側に乗って背面側開口Ｈ１７２内に逆流することを抑制できる。その結果、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１への球の送球を安定させることができる。
【２３６２７】
上記第１１１実施形態および第１３６実施形態～第１４０実施形態では、案内手段Ｈ８２０，Ｈ２４８２０，Ｈ２５８２０，Ｈ２７８２０，Ｈ２９８２０，Ｈ３０８２０の背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａが、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９０５（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、案内手段Ｈ８２０，Ｈ２７８２０，Ｈ２９８２０，Ｈ３０８２０の背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａが、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）と平行に形成され、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅く形成されても良い。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部が遊技球の発射方向に沿って正面側に傾斜しても良い。
【２３６２８】
この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の傾斜により凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れた遊技球に対して発射方向と反対方向の抵抗を付与しやすくできる。そのため、遊技球の発射方向の速度を低下させやすくでき、遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上（前後方向における転動面の中央部）に戻しやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１

３の遊技領域に遊技球を安定して送球しやすくできる。
【２３６２９】
上記第１１１実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部が背面側開口Ｈ１７２よりも下方側に配置され、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接させやすくする場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１の上方側（矢印Ｕ方向）の縁部を背面側開口Ｈ１７２よりも上方側に配置して、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が勢いのある状態で送球される場合でも遊技球を確実に凹部Ｈ８２１ａ１に当接させるようにしても良い。
【２３６３０】
上記第１１１実施形態、第１３６実施形態から第１３９実施形態、及び、第３０実施径形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａに形成される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１をベース板Ｈ６０の端部（球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａとの境界部分）に形成しても良い。
【２３６３１】
この場合には、内枠Ｈ１２に対する遊技盤Ｈ１３の配置が前後に位置ずれしたとしても、ベース板Ｈ６０に形成される凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１によりベース板Ｈ６０と球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａとの境界部分に前後方向の段差が形成されることを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａから遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。
【２３６３２】
なお、ベース板Ｈ６０に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を直接凹設するものではなく、ベース板Ｈ６０に別途配設したベース部材に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を形成するものであっても良い。
【２３６３３】
上記第１３３実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１との一部が前後方向に重なって形成される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１とが遊技球の発射方向において互い違いに形成されていても良い。この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１により前後方向に暴れる力を抑えることができない場合に、第２凹部Ｈ２３８７１により継続して前後方向に暴れる力を抑えることができる。その結果、前後に暴れた状態で案内手段Ｈ８２０から遊技盤Ｈ１３に遊技球が送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。
【２３６３４】
なお、上記第１３４実施形態では、凸部Ｈ２４８２１ａ２が正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に凸設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に上下方向の力成分を付与できるものであれば、例えば、凸部Ｈ２４８１ａ２は、発射方向と直交する方向における断面が略三角形状に形成されていても良い。
【２３６３５】
上記第１１１実施形態、第１３６実施形態から第１４０実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が遊技球の半径よりも小さい半径の湾曲形状に形成され、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２

１ａ１の内側に遊技球が受け入れる場合に、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の下端部または上端部に遊技球を当接させるものであっても良い。

【２３６３６】

また、上記第１１１実施形態、第１３６実施形態から第１４０実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに凹設される場合について説明したが、遊技球の全部を受け入れ可能な大きさに凹設されても良い。

【２３６３７】

上記第１１１実施形態、第１３４実施形態から第１４４実施形態では、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１がＶ字状に形成される場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１の転動面に第１１１実施形態、第１３４実施形態から第１４４実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１又は凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を形成して、遊技球が転動面に形成された凹部または凸部によって所定の軌跡で送球されるように構成されても良い。

【２３６３８】

上記第１１１実施形態、第１３４実施形態から第１４４実施形態において、内枠Ｈ１２に対する遊技盤Ｈ１３の配置状態により、それぞれの球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２４１１２ａ，Ｈ２５１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａ，Ｈ３１１１２ａ，Ｈ３２１１２ａ，Ｈ３３１１２ａ，Ｈ３４１１２ａを取り換え可能に構成しても良い。これによれば、各パチンコ機Ｈ１０の遊技盤Ｈ１３の配設態様に合わせて球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２４１１２ａ，Ｈ２５１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａ，Ｈ３１１１２ａ，Ｈ３２１１２ａ，Ｈ３３１１２ａ，Ｈ３４１１２ａを配設するので、パチンコ機Ｈ１０毎による遊技球の発射のばらつきを抑えることができる。

【２３６３９】

また、上記第１１１実施形態、第１３４実施形態から第１４４実施形態において、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１のベース部材Ｈ８１０に対する配置を調整可能に形成しても良い。例えば、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１の螺子による締結部を長孔に形成して、ベース部材Ｈ８１０に対する配設位置を調整可能に形成されるものであっても良い。これによれば、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球状態に応じて、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１の配置を変更して、遊技盤Ｈ１３への遊技球の発射強度を調整することができる。

【２３６４０】

上記第１３５実施形態では、凹部Ｈ２５８２１ａ１の溝幅に対して凹部Ｈ２５８２１ａ１の凹設深さが十分に深く形成されており、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、上端および下端の２点が遊技球に当接可能に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端と凹設底面との２点が当接するように、凹部Ｈ２５８２１ａ１の溝幅および凹設深さを設定しても良い。

【２３６４１】

上記第１１１実施形態、及び、第２４～第１４１実施形態では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の流路における球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２３１１２ａ，Ｈ２５１１２ａの背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａにのみ凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ

１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１は、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動した後の遊技盤Ｈ１３に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が形成されていても良い。なお、第１３４実施形態および第１４１実施形態から第１４４実施形態における凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２においても同様である。

【２３６４２】

例えば、遊技盤Ｈ１３の遊技領域へ送球される遊技球を案内する内レールＨ６１及び外レールＨ６２の間の送球領域に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を凹設して、遊技領域に流入する手前で前後方向における遊技球の暴れを抑制するようにしても良い。即ち、所定の領域に送球される手前の位置に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を凹設して、所定の領域における遊技球の送球を安定させるようにしても良い。

【２３６４３】

上記第１３９実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を境界にして発射方向側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し下降傾斜して形成され、発射方向と反対側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し上昇傾斜して形成される場合について説明したが、発射方向側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し上昇傾斜して形成され、発射方向と反対側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し下降傾斜して形成されても良い。

【２３６４４】

上記第１４０実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が発射方向に対して下降傾斜して形成される場合について説明したが、上昇傾斜して形成されるものであっても良い。この場合には、凹部Ｈ３０８２１ａ１に受け入れた遊技球を発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部から上方に離間させる方向に送球することができるので、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の段差で遊技球が上下方向に暴れることを抑制できる。

【２３６４５】

また、上記第１３９実施形態および第１４０実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方側に凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、他の連結部や送球経路の分岐点などに凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１を形成して、凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１に遊技球を受け入れることにより遊技球を所定の方向に流下しやすくしても良い。

【２３６４６】

上記第１４２実施形態から第１４４実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２がそれぞれ正面視略矩形状、正面視略三角形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視略円形や半円形状に形成されても良い。

【２３６４７】

また、上記第１４２実施形態から第１４４実施形態では、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１とが発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に異なる位置（互い違い）に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１と正面視において重なる位置に配置されて良い。この場合、それら背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１との対向間が

遊技球の直径よりも若干大きい形状に形成される。

【２３６４８】

さらに、上記第１４２実施形態から第１４４実施形態では、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１とが送球経路の内側に向かって突設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１１１実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１のように凹設して形成されていても良い。

【２３６４９】

上記第１３７実施形態および第１３８実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａの案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０が遊技盤Ｈ２７０１３，Ｈ２８０１３に配設され、その案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０により発射手段Ｈ８３０により発射された球を案内する場合について説明したが、案内手段Ｈ２７８２０は、発射手段Ｈ８３０から離れた位置に形成されても良い。

【２３６５０】

例えば、球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａから発射され、転動部Ｈ８２１ｂの端部から外レールＨ６２まで遊技球が発射される領域の一部に球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａに配設される案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０とは別の案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０を配設しても良い。この場合には、転動部Ｈ８２１ｂの端部から外レールＨ６２まで飛んで送球される遊技球の姿勢（送球方向）を案内手段Ｈ２７８２０により正すことができる。その結果、遊技球が外レールＨ６２まで飛ばず、転動部Ｈ８２１ｂと外レールＨ６２との間から落下して、ファール球受口部Ｈ１４６に回収されることを抑制できる。

【２３６５１】

上記第１３７実施形態から上記第１４１実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ３１８２１ａ２が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に対して遊技球の送球方向にずれた位置に凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ３１８２１ａ２を形成しても良い。

【２３６５２】

これによれば、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成される段差により遊技球が暴れた場合に、遊技球が発射方向に送球されつつ最大の暴れ量となる位置で遊技球を凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れる又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させることができる。

【２３６５３】

これにより、送球に影響のない（遊技領域までの安定して送球される）程度の暴れ量で送球される遊技球は、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れず、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させず送球させることができる一方、送球に影響がある（遊技領域までの送球が不安定となる）暴れ量の大きい状態で送球される遊技球は、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れ、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させて送球することで、遊技領域までの送球を安定させることができる。従って、遊技領域までの送球を安定して行える遊技球まで、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れられ、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接されて、遊技球により遊技領域の到達位置が変わることを抑制できる。

【２３６５４】

上記第１４２実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、遊技球の発射方向に沿って遊技球の半径分離れて形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とが遊技球の発射方向に沿って遊技球の直径分離れて形成されても良い。また、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２との発射方向において離れる距離が遊技球の発射方向に沿って短く又は長く設定されるものであって

も良い。
【２３６５５】
例えば、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２との発射方向において離れる距離が長く設定される場合には、発射当初における遊技球の暴れを抑制しやすくできると共に、転動部Ｈ８２１ｂを遊技球が送球される位置で遊技球が凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２に当接する回数を少なくして遊技球の送球速度が遅くなることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３（図１８３８参照）への遊技球の送球を安定させることができる。
【２３６５６】
上記第１４２実施形態から第１４４実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２が突出して形成される場合について説明したが、凹設されるものであっても良い。例えば、第１１１実施形態、第１３７実施形態から第１４２実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１であっても良い。
【２３６５７】
また、第１３９実施形態および第１４０実施形態における凹部Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１のように遊技球の発射（送球）方向に対して非平行に形成されるものであっても良い。
【２３６５８】
上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４２実施形態では、それぞれ別形状に形成される凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を例に説明したが、それぞれ凹部または凸部を組み合わせて構成されるものであっても良い。例えば、遊技球の発射（送球）方向に対して平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１と、遊技球の発射（送球）方向に対して平行に形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１とを組み合わせて凹部を構成しても良い。
【２３６５９】
上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４２実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を例に説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２に加えて、或いは、変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２）と同様の効果が得られる。
【２３６６０】
上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４２実施形態では、背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａを例に説明したが、背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａに加えて、或いは、変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球が通過可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球が通過可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａ）と同様の効果が得られる。

【２３６６１】
上記第１１１実施形態、第１３３実施形態から第１４２実施形態では、発射手段Ｈ８３０を例に説明したが、発射手段Ｈ８３０に加えて、或いは、発射手段Ｈ８３０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球を送球可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球を送球可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（発射手段Ｈ８３０）と同様の効果が得られる。
【２３６６２】
上記第１１１実施形態から第１１６実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の回転軸となる軸ＧＯが前後方向に向いた状態で配設される場合について説明したが、軸ＧＯを左右方向や上下方向に向けた状態で第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を配置しても良い。
【２３６６３】
上記第１１１実施形態から第１１６実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が正面視においてセンターフレームＨ８６の内側に配置される場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０をセンターフレームＨ８６を介して視認可能となる位置や、正面視においてセンターフレームＨ８６の外側に配置して、遊技領域の一部に第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が配置されるものであっても良い。
【２３６６４】
上記第１１１実施形態から第１１６実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が回転する演出を遊技者に視認させる場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を円環形成ユニットＧ７００に当接可能に構成して、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を円環形成ユニットＧ７００に当接させて円環形成ユニットＧ７００を変位させる演出を遊技者に視認させるものであっても良い。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を他の部材に当接させて、他の部材を変位させるように構成しても良い。
【２３６６５】
上記第１１１実施形態から第１１６実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０が軸ＧＯを中心に右方向に回転する際に、第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に左方向に回転する場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の軸ＧＯを中心とする回転方向は左右のどちらであっても良い。
【２３６６６】
上記第１１１実施形態から第１１６実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０の変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６が光を非透過の装飾がされる場合について説明したが、変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６を光を透過可能な樹脂材料から形成して、入射する光を透過可能に構成して、背面側に配設される液晶等の表示を変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６を介して視認可能に構成しても良い。
【２３６６７】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチン

コ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【２３６６８】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【２３６６９】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【２３６７０】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【２３６７１】

＜回転中に外形が変化する変位手段＞

所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段を有する演出手段を備え、前記演出手段は、前記変位手段の傾倒中に、少なくとも前記回転軸から離れる方向に延びるような外形の変化を視認させることが可能に構成されることを特徴とする遊技機Ａ１。

【２３６７２】

パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。

【２３６７３】

しかし、上述した従来の遊技機では、変位手段が勢いよく傾倒するように演出したとしても、傾倒時に変位手段の外形が変化することはないので、迫力に欠け、演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。

【２３６７４】

これに対し、遊技機Ａ１によれば、演出手段が、変位手段の傾倒中に外形を変化可能に構成されることから、変位手段が勢いよく傾倒している最中に外形を変化させるという迫力ある演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。

【２３６７５】

遊技機Ａ１において、前記変位手段の傾倒中に、傾倒中の前記変位手段の前記外形を維持させる第１状態から傾倒中の前記変位手段の前記外形を変化させる第２状態へ移行可能

に構成されることを特徴とする遊技機Ａ２。
【２３６７６】
遊技機Ａ２によれば、遊技機Ａ１の奏する効果に加え、変位手段の傾倒動作が進むほど、外形が維持される第１状態から外形が変化する第２状態へ移行されるので、傾倒し始めにおいて必要となる力を抑えることができ、傾倒動作をスムーズに開始し易くすることができる。
【２３６７７】
遊技機Ａ２において、前記変位手段は、傾倒を開始する側の変位終端位置において前記第１状態となるように構成されることを特徴とする遊技機Ａ３。
【２３６７８】
遊技機Ａ３によれば、遊技機Ａ２の奏する効果に加え、傾倒開始時に外形を変化させるための力を不要とできるので、傾倒開始時に必要となる力を傾倒に必要な力のみにできることから、必要とされる力を低減することができる。
【２３６７９】
遊技機Ａ２又はＡ３おいて、前記第１状態から前記第２状態へ移行する方向で前記変位手段が傾倒する過程で、前記変位手段の傾倒角度に対する前記外形の変化の度合いが増大する区間を備えることを特徴とする遊技機Ａ４。
【２３６８０】
遊技機Ａ４によれば、遊技機Ａ２又はＡ３の奏する効果に加え、第２状態における変位手段の傾倒中における外形の変化が、第１状態で配置されていた側から離れる程に（傾倒する程に）大きくなるので、変位手段の傾倒の度合いと、変位手段の外形の変化の度合いとを対応付けることができる。
【２３６８１】
遊技機Ａ１からＡ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記所定の回転軸を中心に傾倒可能に支持される軸側手段と、その軸側手段に対して相対変位可能に構成される構成手段と、を備え、第１姿勢から傾倒することで第２姿勢となるよう構成され、前記第１姿勢よりも前記第２姿勢の方が、前記構成手段と前記所定の回転軸との距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ａ５。
【２３６８２】
遊技機Ａ５によれば、遊技機Ａ１からＡ４のいずれかの奏する効果に加え、傾倒の方向に対応して、構成手段と所定の回転軸との距離の変化の方向が一方向に定められることで、傾倒の角度が大きくなるほど効果の度合いを大きくさせることができる。
【２３６８３】
即ち、変位手段が傾倒するほど、構成手段が所定の回転軸から離れていくことになるので、変位手段の重心位置を傾倒先端側に移動させることができ、傾倒の勢いを変位手段の自重により補助することができるので、勢いよい傾倒動作を実現できることから、演出効果を高めることができる。
【２３６８４】
更に、変位手段が傾倒の逆方向（起き上がり方向）に変位するほど、構成手段が所定の回転軸に近づいていくことになるので、変位手段の重心位置を回転軸側に移動させることができ、起き上がり動作に必要となる力を減少させることができる。
【２３６８５】
遊技機Ａ５において、前記第１姿勢を終端姿勢とする所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いよりも、前記第２姿勢を終端姿勢とする前記所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いを大きくさせる度合い変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ａ６。
【２３６８６】
遊技機Ａ６によれば、遊技機Ａ５の奏する効果に加え、第２姿勢付近において、小さな傾倒角度であっても構成手段の所定の回転軸との距離を大きく変化させることができることから、所定の回転軸に対する変位手段の配置を大きくは変えずに、変位手段の外形を大

きく変化させるという演出を行うことができる。
【２３６８７】
更に、第２姿勢から第１姿勢へ起き上がる変位（傾倒とは逆方向の変位）を変位手段に生じさせる場合に、変位の開始後において構成手段と所定の回転軸との距離を大きく変化させる（短くする）ことができるので、変位手段の重心を早期に所定の回転軸側に寄せることができ、起き上がる変位に必要となる力を低減することができる。
【２３６８８】
遊技機Ａ５又はＡ６において、前記構成手段は、前記所定の回動軸を中心とする円の径方向に変位可能な第１構成手段と、前記径方向と直交する方向に変位可能な第２構成手段と、を備えることを特徴とする遊技機Ａ７。
【２３６８９】
遊技機Ａ７によれば、遊技機Ａ５又はＡ６の奏する効果に加え、第１姿勢と第２姿勢とで、変位手段の外形を更に異ならせることができる。
【２３６９０】
遊技機Ａ７において、前記変位手段の傾倒中において、前記第１構成手段の変位開始から遅れて、前記第２構成手段の変位が開始されることを特徴とする遊技機Ａ８。
【２３６９１】
遊技機Ａ８によれば、遊技機Ａ７の奏する効果に加え、第１構成手段の変位と第２構成手段の変位とが同時に開始される場合に比較して、必要とされる力を低減させることができる。
【２３６９２】
遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記軸側手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ９。
【２３６９３】
遊技機Ａ９によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、所定の回転軸側が膨らんだ外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【２３６９４】
遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記構成手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ１０。
【２３６９５】
遊技機Ａ１０によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、構成手段側の広い外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【２３６９６】
＜回転軸から離れた位置で駆動力伝達＞
所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備え、前記所定の回転軸よりも前記変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して前記駆動手段の駆動力が前記変位手段に伝達されるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ１。
【２３６９７】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【２３６９８】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１軸線の側における変位手段の構造が大型化し易く、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが困難となるという問題点があった。即ち、変位手段の配置に改善の余地があるという問題点があった。
【２３６９９】
これに対し、遊技機Ｂ１によれば、駆動手段の駆動力が、変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して伝達されることから、第１軸線の側における変位手段の構造を簡素

化することができ、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが容易となる。これにより、変位手段の配置を改善することができる。

【２３７００】

遊技機Ｂ１において、前記変位手段の傾倒中において、前記駆動手段による駆動力の方向を所定方向に維持しながら、前記配置部の変位方向を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｂ２。

【２３７０１】

遊技機Ｂ２によれば、遊技機Ｂ１の奏する効果に加え、駆動手段の駆動力の方向を維持している状態で、配置部の変位方向を変化可能に構成されるので、駆動手段の動作が単調であっても、配置部の変位を複雑にすることができる。

【２３７０２】

遊技機Ｂ１又はＢ２において、前記変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づくほど、前記配置部に与えられる駆動力の方向が、前記所定の回転軸と前記配置部とを通る直線方向に近づくことを特徴とする遊技機Ｂ３。

【２３７０３】

遊技機Ｂ３によれば、遊技機Ｂ１又はＢ２の奏する効果に加え、傾倒中に配置部に与えられる駆動力の方向を変化させることにより、変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づく場合に、傾倒方向に生じる荷重が過大となることを避けることができる。

【２３７０４】

これにより、変位手段の傾倒が高速で生じる場合であっても、変位手段が傾倒側の変位終端位置に到達する際の衝撃を和らげ易くすることができるので、変位手段の耐久性を向上することができる。また、衝撃吸収用の緩衝材を不要とできる。

【２３７０５】

遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力の方向は、前記変位手段に対して所定の直線方向の負荷を生じるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ４。

【２３７０６】

遊技機Ｂ４によれば、遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかの奏する効果に加え、駆動力を安定させ易くすることができる。また、駆動力のうち、変位手段の傾倒方向へ向く成分と変位手段の傾倒方向に対して直交する方向へ向く成分との比は、変位手段の位置（姿勢）に対応して定まるので、変位手段の傾倒方向への負荷の大小を、変位手段の位置（姿勢）に対応させることができる。

【２３７０７】

遊技機Ｂ４において、前記所定の直線方向と、前記配置部に当接される前記変位手段の当接部の移動方向のうちの前記所定の回転軸を中心とする回転方向成分との間の角度が大きくなるほど、前記配置部と、前記所定の回転軸との間の距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ５。

【２３７０８】

遊技機Ｂ５によれば、遊技機Ｂ４の奏する効果に加え、駆動力の方向と傾倒する変位手段の変位方向との間の角度が大きいという、傾倒方向の負荷を伝達し難い状況であっても、駆動力が伝達される配置部と所定の回転軸との間の距離を長くすることにより、変位手段の傾倒のための駆動力が不足することを回避し易くすることができる。

【２３７０９】

即ち、変位手段の傾倒範囲において、傾倒に必要となる駆動力が局所的に増減することを抑制することにより、必要となる駆動力の変化幅を小さく抑え、駆動手段の選定を容易とすることができる。

【２３７１０】

遊技機Ｂ４又はＢ５において、前記変位手段は、表示装置の前方位置と、表示装置の外方位置とで変位可能とされ、前記前方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度は、前記外方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度よりも大き

いことを特徴とする遊技機Ｂ６。
【２３７１１】
遊技機Ｂ６によれば、遊技機Ｂ４又はＢ５の奏する効果に加え、前方位置における回転方向の勢いを低減させることができるので、回転動作の停止を狙いの位置でさせ易い。そのため、回転途中では高速で回転動作させる一方、前方位置では回転をスムーズに止めるという動作を、容易に行うことができる。
【２３７１２】
遊技機Ｂ６において、前記外方位置から前記前方位置へ向かう程、前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度が大きくなることを特徴とする遊技機Ｂ７。
【２３７１３】
遊技機Ｂ７によれば、遊技機Ｂ６の奏する効果に加え、回転動作を段階的に減速させることができる。
【２３７１４】
遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかにおいて、前記変位手段に接続させる電気配線は、前記所定の回転軸側から接続されることを特徴とする遊技機Ｂ８。
【２３７１５】
遊技機Ｂ８によれば、遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかの奏する効果に加え、駆動手段の配置を傾倒先端側にずらしたことにより空いたスペースを、電気配線の配置スペースとして有効利用することができる。
【２３７１６】
遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかにおいて、前記配置部は、第２の所定の直線方向で移動されることで前記所定の回転軸との距離が変化可能に構成され、前記配置部を通る前記第２の所定の直線方向は、前記所定の回転軸を通らないように構成されることを特徴とする遊技機Ｂ９。
【２３７１７】
遊技機Ｂ９によれば、遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかの奏する効果に加え、配置部を第２の所定の直線方向で移動させるための力を、変位手段を所定の回転軸を中心に回転動作させるためにも利用することができる。
【２３７１８】
遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力を伝達可能な無端ベルトを備えることを特徴とする遊技機Ｂ１０。
【２３７１９】
遊技機Ｂ１０によれば、遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位幅を大きく確保し易くすることができる。
【２３７２０】
＜抵抗感を範囲ごとに変化させる＞
変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備える遊技機において、変位中の前記変位手段が受ける力の態様を、前記変位手段の位置に対応して変化させる態様変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ｃ１。
【２３７２１】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【２３７２２】
しかし、上述した従来の遊技機では、変位中の変位手段が受ける力について何ら考慮されておらず、変位途中において駆動手段に与えられる負荷が急激に変化する等する可能性があり、改良の余地があるという問題点があった。即ち、変位手段の変位について改良の余地があるという問題点があった。

【２３７２３】
これに対し、遊技機Ｃ１によれば、態様変化手段により、変位中の変位手段が受ける力の態様を、変位手段の位置に対応して変化させることができることから、変位途中において変位手段に与えられる力を適切に調整することができ、駆動手段に与えられる負荷が急激に変化することを防止できる。これにより、変位手段の変位を改良することができる。
【２３７２４】
遊技機Ｃ１において、前記変位手段は、第１範囲と、その第１範囲と異なる第２範囲とを変位可能であって、前記態様変化手段により前記変位手段が受ける力は、前記第１範囲に配置される場合よりも、前記変位手段が前記第２範囲に配置される場合の方が大きくなることを特徴とする遊技機Ｃ２。
【２３７２５】
遊技機Ｃ２によれば、遊技機Ｃ１の奏する効果に加え、変位手段が受ける力の態様を範囲ごとに変化させることができる。
【２３７２６】
遊技機Ｃ２において、前記第１範囲または前記第２範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含む範囲とされることを特徴とする遊技機Ｃ３。
【２３７２７】
遊技機Ｃ３によれば、遊技機Ｃ２の奏する効果に加え、変位終端において変位手段が受ける力が変化することを防止することができる。
【２３７２８】
遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の前記変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ４。
【２３７２９】
遊技機Ｃ４によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、変位手段の変位終端からの変位に要する駆動力を低減させることができる。
【２３７３０】
遊技機Ｃ４において、前記態様変化手段は、前記変位手段に対して相対変位可能な相対変位手段を備え、前記第２範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数が、前記第１範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数よりも多くされることを特徴とする遊技機Ｃ５。
【２３７３１】
遊技機Ｃ５によれば、遊技機Ｃ４の奏する効果に加え、相対変位する相対変位手段の個数を変化させることで演出効果を高めながら、態様変化手段から生じる力の増減を生じさせることができる。
【２３７３２】
遊技機Ｃ５において、前記相対変位手段は、第１の態様で相対変位する第１相対変位手段と、第２の態様で相対変位する第２相対変位手段と、を備え、前記変位手段が一方の変位終端から変位開始する場合に、前記第１相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ６。
【２３７３３】
遊技機Ｃ６によれば、遊技機Ｃ５の奏する効果に加え、複数態様で相対変位する相対変位手段が同時に相対変位を開始するのではなく、相対変位のタイミングがずらされることにより、変位手段の変位を安定させることができる。
【２３７３４】
遊技機Ｃ６において、前記変位手段が他方の変位終端から変位開始する場合に、前記第２相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ７。
【２３７３５】
遊技機Ｃ７によれば、遊技機Ｃ６の奏する効果に加え、変位手段が変位を開始する終端ごとに、先に相対変位する相対変位手段を異ならせることで、演出効果の向上を図ることができる。

【２３７３６】
遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ８。
【２３７３７】
遊技機Ｃ８によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、少なくとも一方の変位終端において、変位手段を減速させ易くすることができる。
【２３７３８】
遊技機Ｃ８において、前記変位手段が受ける前記力は、所定の抵抗力であることを特徴とする遊技機Ｃ９。
【２３７３９】
遊技機Ｃ９によれば、遊技機Ｃ８の奏する効果に加え、変位手段が受ける所定の抵抗力を変位終端で大きくし、変位途中で小さくするように構成することで、変位手段の変位の迅速化を図ることができる。
【２３７４０】
遊技機Ｃ８又はＣ９において、前記第１範囲は、前記変位手段の両方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ１０。
【２３７４１】
遊技機Ｃ１０によれば、遊技機Ｃ８又はＣ９の奏する効果に加え、両変位終端において変位手段を減速させ易くすることができるので、両変位方向において変位手段の変位の迅速化を図ることができる。
【２３７４２】
遊技機Ｃ１０において、前記変位手段は一対で構成され、その一対の前記変位手段から前記駆動手段側に伝達される荷重は、前記両方の変位終端において同じとされることを特徴とする遊技機Ｃ１１。
【２３７４３】
遊技機Ｃ１１によれば、遊技機Ｃ１０の奏する効果に加え、両方の変位終端からの変位開始に要する駆動力を同じにすることができる。
【２３７４４】
＜基板に位置合わせされる導光板に平行に光を照射＞
板状部材から構成される第１手段と、その第１手段の所定面側に配設される第１発光手段と、その第１発光手段の光を受光可能な板状の第１受光手段と、を備え、前記第１受光手段は、前記所定面と対向配置される側面が前記第１手段の前記所定面と当接されることを特徴とする遊技機Ｄ１。
【２３７４５】
パチンコ機等の遊技機において、発光手段が配設される板状部材と、その板状部材の発光手段に対向配置され、発光手段の光が入射されるよう構成される板状部を有する受光手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１９８６７５号公報を参照）。
【２３７４６】
しかし、上述した従来の遊技機では、受光手段を位置合わせするための他の部材が必要であり、構造が複雑化するという問題点があった。即ち、受光手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【２３７４７】
これに対し、遊技機Ｄ１によれば、第１手段と第１受光手段との当接により第１受光手段の第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して改善することができる。
【２３７４８】
遊技機Ｄ１において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接されることを特

徴とする遊技機Ｄ２。
【２３７４９】
遊技機Ｄ２によれば、遊技機Ｄ１の奏する効果に加え、第２受光手段についても第１手段との当接により第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段および第２受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して更に改善することができる。
【２３７５０】
遊技機Ｄ２において、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第１手段に、所定の押圧手段からの押圧により固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ３。
【２３７５１】
遊技機Ｄ３によれば、遊技機Ｄ２の奏する効果に加え、押圧手段からの押圧により３部材を固定可能とされるので、複数部材を固定するための固定箇所を減らすことができ、製造工数を削減できる。
【２３７５２】
遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１受光手段を支持可能に構成される支持手段を備え、その支持手段は、前記第１手段に嵌合可能な第１突設部と、前記第１受光手段に嵌合可能な第２突設部と、を備えることを特徴とする遊技機Ｄ４。
【２３７５３】
遊技機Ｄ４によれば、遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかの奏する効果に加え、支持手段によって第１手段および第１受光手段を支持することで、第１手段の板面と平行な方向における第１手段と第１受光手段との位置ずれを防ぐことができる。
【２３７５４】
なお、第２受光手段が配設される場合において、第２突設部が第２受光手段にも嵌合可能に構成するようにしても良い。この場合、第１手段の板面と平行な方向における第１受光手段と第２受光手段との位置ずれを防ぐことができる。
【２３７５５】
遊技機Ｄ３又はＤ４において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接され、前記第１手段は、前記第２突設部の外方に配置され、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第２突設部において所定の押圧手段により押圧され固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ５。
【２３７５６】
遊技機Ｄ５によれば、遊技機Ｄ３又はＤ４の奏する効果に加え、手段からの押圧力が第１手段の端部にかけられるようにすることができる。これにより、押圧力が過大になった場合でも、第１手段の端部が破損することで留めることができ、発光手段が配設される中央部側が破損することを避け易くすることができる。
【２３７５７】
遊技機Ｄ５において、前記第１受光手段または前記第２受光手段は、第１手段と当接する当接部の形状が対応するように構成されることを特徴とする遊技機Ｄ６。
【２３７５８】
遊技機Ｄ６によれば、遊技機Ｄ５の奏する効果に加え、所定の押圧手段からの押圧により第１受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分と、第２受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分とを対応させることができるので、第１手段にかけられる力の方向を面直方向にしやすく、表裏にかけられる力のバランスを良くすることができる。これにより、第１手段の面と傾斜する方向に力がかけられることによる第１手段の割れを防止することができる。
【２３７５９】
遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかにおいて、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反

対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が、前記反対面と当接され、前記第１発光手段は、前記第２発光手段に対応する位置に配置され、前記第２発光手段の照射方向に対して平行な方向に光を照射するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｄ７。

【２３７６０】

遊技機Ｄ７によれば、遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかの奏する効果に加え、第１発光手段から第１受光手段に光が照射される位置と、第２発光手段から第２受光手段に光が照射される位置とを、対応させることができる。これにより、異なる発光部により照らされる位置を合わせることができるので、第１受光手段および第２受光手段の平面と直交する方向視における発光演出を良好とすることができる。

【２３７６１】

遊技機Ｄ７において、前記第１発光手段は、複数の発光部を備え、それら複数の発光部からの光の光軸方向が互いに平行とされることを特徴とする遊技機Ｄ８。

【２３７６２】

遊技機Ｄ８によれば、遊技機Ｄ７の奏する効果に加え、第１発光手段の光により第１手段を広範囲で均一に光らせることができる。

【２３７６３】

遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１発光手段を支持可能に構成される支持手段、を備え、前記第１受光手段は、前記第１手段が配設される側の反対側の被支持面が前記支持手段の支持面に支持されるよう構成され、前記被支持面または前記支持面は、複数の突起部を備え、その複数の突起部は、所定の発光手段からの光を受けて演出可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｄ９。

【２３７６４】

遊技機Ｄ９によれば、遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかの奏する効果に加え、複数の突起部を、光を受けて演出する演出面と、押圧力を分割可能な構造面とで利用することができる。

【２３７６５】

遊技機Ｄ９において、前記所定の発光手段は、前記第１発光手段に対する前記第１受光手段の反対側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１０。

【２３７６６】

遊技機Ｄ１０によれば、遊技機Ｄ９の奏する効果に加え、所定の発光手段からの光と第１発光手段からの光とが干渉することを避けることができる。

【２３７６７】

遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかにおいて、前記第１手段は、複数枚の板状部材を備えることを特徴とする遊技機Ｄ１１。

【２３７６８】

遊技機Ｄ１１によれば、遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１受光手段へ光を照射する第１発光手段の配設箇所を増やすことができるので、第１受光手段の大きさの設計自由度を向上させることができる。

【２３７６９】

遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかにおいて、前記第１受光手段の受光側端部は、前記第１発光手段の照射方向側の前記第１手段の端部よりも前記発光手段側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１２。

【２３７７０】

遊技機Ｄ１２によれば、遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段を遮蔽部材として利用することで、第１受光手段に受光される前の光が漏れることを防止することができる。

【２３７７１】

＜光を通す方向を制限する制限手段＞

前面側に遊技球が流下可能な領域を構成する流下手段と、その流下手段よりも正面側に設けられ、背面側に位置する前記領域を遊技球が流下する場合がある正面側手段と、を備え、前記正面側手段は、第１方向の方向視と、その第１方向の方向視よりも前記領域を流下する遊技球を視認し易い第２方向の方向視とで視認可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１。

【２３７７２】

パチンコ機等の遊技機において、遊技球の流下経路の正面側に装飾用の文字や図形等が描かれた透明板が配設される遊技機がある（例えば、特開２０１７－２３５４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、装飾用の文字や図形越しに流下経路を流れる遊技球を視認することになるが、どちらか一方を見易くすると（例えば、装飾用の文字や図形を濃くすると）、他方の視認性が悪くなる（例えば、遊技球が見え難くなる）といった事態が生じ得ることになり、遊技中における遊技球の視認性について改善の余地があるという問題点があった。

【２３７７３】

これに対し、遊技機Ｅ１によれば、正面側手段は、見る方向によって、流下手段を流下する遊技球を視認し易い状態と、視認し難い状態とを構成できる。即ち、第１方向視においては正面側手段の正面側を視認させる一方で、第２方向視において正面側手段越しに遊技球を視認させるようにすることで、正面側手段を採用したまま、遊技中における遊技球の視認性を改善することができる。

【２３７７４】

遊技機Ｅ１において、前記正面側手段は、光透過性の樹脂材料から形成され、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ２。

【２３７７５】

遊技機Ｅ２によれば、遊技機Ｅ１の奏する効果に加え、方向選択手段により、光が透過可能な方向を制限することにより、方向の違いによる視認性の程度の違いをより明確にすることができる。

【２３７７６】

遊技機Ｅ２において、前記流下手段よりも正面側に配置され、遊技球が流下する領域の前側面を構成する前側面構成手段を備え、前記方向選択手段は、前記正面側手段と前記前側面構成手段との間の領域に配置され所定の厚みを有するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｅ３。

【２３７７７】

遊技機Ｅ３によれば、遊技機Ｅ２の奏する効果に加え、方向視の違いによる視認性の変化を、正面側手段と前側面構成手段との間という厚みの薄い領域に配置される方向選択手段により実現できるので、方向選択手段自体による光の減衰の影響を受け難くすることができ、第１方向の方向視と、第２方向の方向視との見え方の違いを顕著にすることができる。

【２３７７８】

遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかにおいて、前記方向選択手段により視認される方向で遊技球の視認性が変化する第１の流路と、視認される方向で遊技球の視認性が変化しない第２の流路とが隣り合って設けられることを特徴とする遊技機Ｅ４。

【２３７７９】

遊技機Ｅ４によれば、遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定範囲を視認する遊技者の視線の方向の違いにより、第２の流路に注目させ易い状態と、第１の流路および第２の流路の両方に同程度に注目させ易い状態とを生じさせることができる。

【２３７８０】

遊技機Ｅ４において、前記第１の流路を流下する遊技球を検出可能な検出手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ５。

【２３７８１】

遊技機Ｅ５によれば、遊技機Ｅ４の奏する効果に加え、方向選択手段により遊技球が第１の流路を流下したことを視認できない事態が生じても、検出手段により遊技球の流下が検出された場合に遊技者側に報知を行うように制御することが可能となるので、第１の流路を遊技球が流下したか否かを遊技者に把握させ易くすることができる。

【２３７８２】

遊技機Ｅ４又はＥ５において、前記第１の流路に流入した遊技球は、前記第１の流路を介して遊技領域から排出されることを特徴とする遊技機Ｅ６。

【２３７８３】

遊技機Ｅ６によれば、遊技機Ｅ４又はＥ５の奏する効果に加え、遊技領域から排出される予定の第１の流路を流下する遊技球に比較して、流下した後も遊技領域を流下し得る第２の流路を流下する遊技球に対して、より注目させることができる。

【２３７８４】

遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかにおいて、前記正面側手段は、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備え、その方向選択手段は、その表面側を覆うように光透過性の樹脂部材が配置され、その樹脂部材の表面に装飾図形が形成されることを特徴とする遊技機Ｅ７。

【２３７８５】

遊技機Ｅ７によれば、遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかの奏する効果に加え、第１方向から領域側へ視線を送る遊技者に対して、樹脂部材の表面の装飾図形を視認させることができるので、正面側手段の演出効果を向上させることができる。

【２３７８６】

遊技機Ｅ７において、前記方向選択手段は、積層配置される複数の板状部を有する板状手段から形成されることを特徴とする遊技機Ｅ８。

【２３７８７】

遊技機Ｅ８によれば、遊技機Ｅ７の奏する効果に加え、前後方向の隙間寸法が大きい場合に、その隙間を方向選択手段により埋め易くすることができる。

【２３７８８】

遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかにおいて、光照射手段を備え、その光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化されることを特徴とする遊技機Ｅ９。

【２３７８９】

遊技機Ｅ９によれば、遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段の光を点灯させる場合と、消灯させる場合とで、正面側手段の視認性に変化を生じさせることができるので、領域を流下する遊技球の視認性の切り替えを、演出に対応させて実行させることができる。

【２３７９０】

遊技機Ｅ９において、前記光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化される範囲を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１０。

【２３７９１】

遊技機Ｅ１０によれば、遊技機Ｅ９の奏する効果に加え、光照射手段の照射態様を切り替えることにより、正面側手段の範囲ごとの視認性を変化させることができる。これにより、遊技球が流下する領域を視認性良く視認できる方向を、光照射手段により切り替えることができる。

【２３７９２】

遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかにおいて、前記正面側手段は、変位可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１１。

【２３７９３】

遊技機Ｅ１１によれば、遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が目線を動かさなくても、正面側手段が変位することにより遊技者の目線と正面側手段との間の角度が変化する場合を生じさせることができ、領域の視認性を変化させることができる。

＜基板ボックスＷ１００～Ｗ３１００，Ｗ７００～Ｗ９１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備え、前記係合部材が取り外されて、前記配設部材が取り外される遊技機において、前記係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－０。

【２３７９４】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【２３７９５】

ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。

【２３７９６】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【２３７９７】

遊技機ＷＡ１－０によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【２３７９８】

この場合、係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされる。これにより、その状況に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【２３７９９】

遊技機ＷＡ１－０において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記連結部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－１。

【２３８００】

遊技機ＷＡ１－１によれば、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、連結部に対応する位置に形成されるので、連結部が切断される際に、凹部（空間）を利用して（連結部を切断するための工具の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を破損させやすくできる。即ち、切断部が切断された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【２３８０１】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【２３８０２】

なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成され

た配設部座合である可能性が高いと判断できる。
【２３８０３】
遊技機ＷＡ１－１において、前記第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、前記ねじの頭部は、前記凹部に位置することを特徴とする遊技機ＷＡ１－２。
【２３８０４】
遊技機ＷＡ１－２によれば、遊技機ＷＡ１－１の奏する効果に加え、第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、ねじの頭部は、凹部に位置するので、連結部が切断される際に形成される配設部材の痕跡を、ねじの頭部に対応する位置に形成することができる。よって、配設部材によりねじの頭部が隠れている場合でも、配設部材の痕跡に基づいて、ねじの位置を把握できる。その結果、ねじの締結を解除する作業の作業性を向上できる。
【２３８０５】
遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２において、前記係合部材は、前記本体部と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記連結部と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－３。
【２３８０６】
遊技機ＷＡ１－３によれば、遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２の奏する効果に加え、係合部材は、本体部と配設部材との間の対向間隔よりも連結部と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、連結部を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、連結部が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。
【２３８０７】
遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかにおいて、前記連結部は、少なくとも一方の側面が傾斜して形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－４。
【２３８０８】
遊技機ＷＡ１－４によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかの奏する効果に加え、連結片は、少なくとも一方の側面が傾斜して形成されるので、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を移動させることができる。よって、工具の先端を配設部材に当接させ、配設部材を破損させやすくできる。
【２３８０９】
例えば、一対の刃の間に連結片を挟み込んで（一対の刃を両側面に当接させて）、連結片を切断する工具を使用する場合には、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を回転させ、その回転に伴って、工具の先端を配設部材に当接させやすくできる。
【２３８１０】
遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかにおいて、前記連結部は、第１部分と、その第１部分よりも両側面の間の距離が小さくされる第２部分とを備え、前記第１部分と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記第２部分と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－５。
【２３８１１】
遊技機ＷＡ１－５によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかの奏する効果に加え、第２部分は、第１の部分よりも両側面間の距離が小さくされるので、第２部分の切断により、連結部の切断を容易とできる。
【２３８１２】
この場合、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、第２部分を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、第２部分が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。
【２３８１３】
また、このように、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされる（即ち、第２部分を配設部材側へ延長できる）ことで、その分、第１部分と第２部分との横断面の面積の差を抑制できる。よって、係合部材を樹脂材料から形成する場合には、その成形性を確保できる。

＜基板ボックスＷ４１００～Ｗ６１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記係合部材の係合部は、前記配設部材へ向けて突設される突部を備えることを特徴とする遊技機ＷＡ２－１。
【２３８１４】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【２３８１５】
ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。
【２３８１６】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。
【２３８１７】
遊技機ＷＡ２－１によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３８１８】
この場合、係合部材は、配設部材へ向けて突設される突部を備えるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。
【２３８１９】
また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。
【２３８２０】
なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成された配設部座合である可能性が高いと判断できる。
【２３８２１】
遊技機ＷＡ２－１において、前記突部は、前記係合部の外縁側に位置されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－２。
【２３８２２】
遊技機ＷＡ２－２によれば、遊技機ＷＡ２－１の奏する効果に加え、突部は、係合部の外縁側に位置されるので、第１部材に係合部材が係合された状態であっても、配設部材の痕跡を視認しやすくできる。即ち、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）の確認を行いやすくできる。
【２３８２３】
遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－

３。
【２３８２４】
遊技機ＷＡ２－３によれば、遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作（弾性変形）により第１部材との係合が解除される際には、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。
【２３８２５】
遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－４。
【２３８２６】
遊技機ＷＡ２－４によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されているので、配設部材の破損範囲を確保できる。
【２３８２７】
即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。
【２３８２８】
遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－５。
【２３８２９】
遊技機ＷＡ２－５によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されているので、配設部材の破損範囲の確保と、係合部材が第１部材から不正に取り外されることの抑制とを図ることができる。
【２３８３０】
即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。
【２３８３１】
一方で、係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位された後は、凹部に受け入れられた突部の先端を凹部の終端に係合させることができる。これにより、係合部材の所定方向への変位を規制することができるので、係合部材が第１部材から不正に取り外される

ことを抑制できる。
＜基板ボックスＷａ１００～Ｗｃ１００，Ｗｉ１００を一例とする発明の概念について＞
　第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が分離された前記本体部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－１。
【２３８３２】
　第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【２３８３３】
　上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【２３８３４】
　本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【２３８３５】
　遊技機ＷＢ１－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、係合部が分離された本体部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすいので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。
【２３８３６】
　遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、前記連結部が切断された状態では、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接する位置まで前記本体部が前記第１部材および前記第２部材に対して変位可能とされることを特徴とする遊技機ＷＢ１－２。
【２３８３７】
　遊技機ＷＢ１－２によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３８３８】
　この場合、本体部は、配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、連結部が切断された状態では、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接する位置まで本体部が第１部材および第２部材に対して変位可能とされるので、連結部を切断した後であって、第１部材および第２部材から本体部を取り外す前に、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる（配設部材の配設状態を変更する）ことができる。即ち、連結部を切断し、本体部を第１部材および第２部材から取り外す作業と、取り外した本体部（変更手段）を使用して配設部材の配設状態を変更する作業とを別々に行う必要がなく、これらの作業を一連の作業として効率的に行うことができるので、配設部材の配設状態の変更を容易に行うことができる。
【２３８３９】
　また、変更手段が配設部材の所定領域に対応する位置に配設されるので、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け（取り外し）作業時、或いは、連結部材の切断により係合部が分離された本体部の廃棄処理時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【２３８４０】
　また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。
【２３８４１】
　遊技機ＷＢ１－２において、前記本体部の前記変更手段は、前記配設部材の前記所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されていることを特徴とする遊技機ＷＢ１－３。
【２３８４２】
　遊技機ＷＢ１－３によれば、遊技機ＷＢ１－２の奏する効果に加え、本体部の変更手段は、配設部材の所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されているので、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させた際に、配設部材の配設状態を変更しやすくできる。
【２３８４３】
　遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ１－４。
【２３８４４】
　遊技機ＷＢ１－４によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３８４５】
　本体部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。
【２３８４６】
　この場合、変更手段は、係合部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。
【２３８４７】
　また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。
【２３８４８】
　遊技機ＷＢ１－４において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記本体部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－５。
【２３８４９】
　遊技機ＷＢ１－５によれば、遊技機ＷＢ１－４の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。
【２３８５０】
　遊技機ＷＢ１－５において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－６。
【２３８５１】
　遊技機ＷＢ１－６によれば、遊技機ＷＢ１－５の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接

部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。
＜基板ボックスＷｅ１００～Ｗｇ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部から分離された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－１。
【２３８５２】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【２３８５３】
上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【２３８５４】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【２３８５５】
遊技機ＷＢ２－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部から分離された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。
【２３８５６】
遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－２。
【２３８５７】
遊技機ＷＢ２－２によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３８５８】
係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。
【２３８５９】
この場合、変更手段は、本体部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。
【２３８６０】
遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記配設部材へ向けて突設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－３。
【２３８６１】
遊技機ＷＢ２－３によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合

部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【２３８６２】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され配設部材へ向けて突設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【２３８６３】

この場合、変更手段は、配設部材へ向けて突設され（即ち、配設部材に対向する位置に配設され）、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【２３８６４】

また、係合手段は、係合部から配設部材へ向けて突設されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、係合手段により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【２３８６５】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【２３８６６】

遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記係合部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－４。

【２３８６７】

遊技機ＷＢ２－４によれば、遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。

【２３８６８】

遊技機ＷＢ２－４において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－５。

【２３８６９】

遊技機ＷＢ２－５によれば、遊技機ＷＢ２－４の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。

【２３８７０】

遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、前記変更手段は、切断された前記連結部により形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－６。

【２３８７１】

遊技機ＷＢ２－６によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【２３８７２】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、変更手段は、切断された連結部により形成されるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【２３８７３】

この場合、係合部材の係合部は、比較的小さく、連結部は係合部よりも更に小さいので、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できると共に、配設部材の配設状態を変更することに適した形状（例えば、鋭利な形状）を形成しやすい。よって、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすくできる。

【２３８７４】

また、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされる（即ち、切断された連結部が変更手段となる）ので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【２３８７５】

遊技機ＷＢ２－６において、前記連結部は、前記係合部の一辺の一側の端部を前記本体部に連結する一側連結部と、前記係合部の前記一辺の前記一側と反対側の他側の端部を前記本体部に連結する他側連結部とを備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－７。

【２３８７６】

遊技機ＷＢ２－７によれば、連結部は、係合部の一辺の一側の端部を本体部に連結する一側連結部と、係合部の一辺の一側と反対側の他側の端部を本体部に連結する他側連結部とを備えるので、配設部材の所定領域における一側には一側連結部を使用して係合部を一側へ変位させると共に、配設部材の所定領域における他側には他側連結部を使用して係合部を他側へ変位させることで、所定領域の配設状態を変更できる。即ち、係合部を持ち替えて係合部の向きを反転させなくても、周囲の部材（第１部材または第２部材）との干渉を抑制しつつ、所定領域の一側の端部および他側の端部まで、その配設状態を変更（切断）できる。よって、配設部材の所定領域における配設状態を効率的に変更できる。

【２３８７７】

遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７において、前記連結部は、前記本体部に連結される側と前記係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる部位を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－８。

【２３８７８】

遊技機ＷＢ２－８によれば、遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７の奏する効果に加え、連結部は、本体部に連結される側と係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる所定部位を備えるので、所定部位の切断により、連結部の切断を容易とできる。また、配設部材の配設状態を変更することに適した形状（例えば、鋭利な形状）を、切断された連結部（所定部位）に形成しやすくできる。

＜基板ボックスＷｄ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部とその本体部から分離された前記係合部とが連結可能に形成され、前記本体部に連結された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－１。

【２３８７９】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【２３８８０】

上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。

【２３８８１】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【２３８８２】

遊技機ＷＢ３－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部とその本体部から分離された係合部とが連結可能に形成され、本体部に連結された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすい一方、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【２３８８３】

遊技機ＷＢ３－１において、前記係合部は、前記第１部材に係合される部位が前記本体部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。

【２３８８４】

遊技機ＷＢ３－２によれば、遊技機ＷＢ３－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材に係合される部位が本体部に連結されるので、本体部と連結するための部位を係合部に別途設ける必要がない。即ち、第１部材に係合される部位を、本体部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。

【２３８８５】

遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２において、前記係合部材は、前記第１部材と係合する姿勢を規定可能に前記本体部に形成される規定部を備え、前記本体部は、前記規定部が前記係合部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。

【２３８８６】

遊技機ＷＢ３－３によれば、遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２の奏する効果に加え、係合部材は、第１部材と係合する姿勢を規定可能に本体部に形成される規定部を備え、本体部は、規定部が係合部に連結されるので、係合部と連結するための部位を本体部に別途設ける必要がない。即ち、係合部材の姿勢を規定する部位（規定部）を、係合部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。

＜基板ボックスＷｊ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が前記第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、前記第１部材または前記第２部材は、前記所定方向へ変位された前記係合部材に対し、前記第１部材との係合が解除される方向への前記係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－１。

【２３８８７】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【２３８８８】

上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。

【２３８８９】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【２３８９０】
遊技機ＷＣ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３８９１】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、係合部材は、係合部が第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、第１部材または第２部材は、所定方向へ変位された係合部材に対し、第１部材との係合が解除される方向への係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３８９２】
遊技機ＷＣ１－１において、前記第１部材または前記第２部材は、前記抑制手段による前記係合部の変位の抑制が可能な位置から前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－２。
【２３８９３】
遊技機ＷＣ１－２によれば、遊技機ＷＣ１－１の奏する効果に加え、第１部材または第２部材は、抑制手段による係合部の変位の抑制が可能な位置から係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えるので、係合部と第１部材との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３８９４】
遊技機ＷＣ１－２において、前記規制手段は、前記所定方向へ変位された前記係合部材の前記係合部と係合可能に形成され、前記係合部と係合することで、前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされることを特徴とする遊技機ＷＣ１－３。
【２３８９５】
遊技機ＷＣ１－３によれば、遊技機ＷＣ１－２の奏する効果に加え、規制手段は、所定方向へ変位された係合部材の係合部と係合可能に形成され、係合部と係合することで、係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされるので、係合部材を所定方向へ変位させるだけで、係合部材の変位が規制手段により規制された状態を形成でき、係合部材の組み付け作業の作業性を向上できる。
【２３８９６】
遊技機ＷＣ１－３において、前記第１部材または前記第２部材は、前記規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－４。
【２３８９７】
遊技機ＷＣ１－４によれば、遊技機ＷＣ１－３の奏する効果に加え、１部材または第２部材は、規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えるので、係合部と規制手段との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
＜基板ボックスＷｋ１００，Ｗｌ１００，Ｗｒ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方と前記係合部材とは、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－１。

【２３８９８】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【２３８９９】
上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。
【２３９００】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【２３９０１】
遊技機ＷＣ２－１によれば、第１部材または第２部材の少なくとも一方と係合部材とは、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３９０２】
遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部および第２係合部と、を備え、前記第１係合部および前記第２係合部は、前記係合部材の変位に伴って、前記第１係合部材が前記第１部材に係合された後に、前記第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、前記第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ２－２。
【２３９０３】
遊技機ＷＣ２－２によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３９０４】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－２によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部および第２係合部は、係合部材の変位に伴って、第１係合部材が第１部材に係合された後に、第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３９０５】
即ち、第１部材との係合が解除される方向への第１係合部の変位は、規制手段により規制でき、規制手段による第１係合部の変位の規制を解除する方向への係合部材の変位は、第１部材と第２係合部との係合により規制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３９０６】
遊技機ＷＣ２－２において、前記第１係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向と、前記第２係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であることを特徴とする遊技機ＷＣ２－３。
【２３９０７】
遊技機ＷＣ２－３によれば、遊技機ＷＣ２－２の奏する効果に加え、第１係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向と、第２係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であるので、例えば、第１の方向へ係合部材を変位させて、第１係合部を係合させた後、第２の方向へ係合部材を変位させて、第２係合部を係合させる２段階の操作を行う必要がなく、第１部材および第２部材へ係合部材を取

り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができる。よって、係合部材の取り付け操作を簡素化して、作業効率を高めることができる。

【２３９０８】

また、２段階の操作が必要となる構成では、第２の方向への操作を作業者が失念すると、第２係合部が係合されず、第１部材および第２位部材から係合部材が不正に取り外される虞があるところ、第１部材および第２部材へ係合部材を取り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができることで、必要な操作を作業者が失念することを抑制でき、第２係合部を確実に係合させることができる。

【２３９０９】

遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第２部材に係合される第２係合部と、を備え、前記第１係合部と前記第１部材との係合が解除される前記第１係合部の変位の方向と、前記第２係合部と前記第２部材との係合が解除される前記第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされることを特徴とする遊技機ＷＣ２－４。

【２３９１０】

遊技機ＷＣ２－４によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【２３９１１】

ここで、第１部材および第２部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材および第２部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－４によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部と第１部材との係合が解除される第１係合部の変位の方向と、第２係合部と第２部材との係合が解除される第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされるので、第１係合部または第２係合部の一方を係合が解除される方向へ変位させると、その一方の変位に伴う係合部材の変位によって、第１係合部または第２係合部の他方を係合が維持される方へ変位させることができる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【２３９１２】

遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部は、前記係合部の第１部分および第２部分の２箇所が前記第１部材に係合され、前記第１部分または前記第２部分の一方と前記第１部材との係合が解除される方向へ前記係合部が変位されると、前記第１部分または前記第２部分の他方と前記第１部材との係合が維持される方向へ前記係合部が変位されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－５。

【２３９１３】

遊技機ＷＣ２－５によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【２３９１４】

ここで、第１部分および第２部分と第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部（第１部分および第２部分）との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－５によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１部分または第２部分の一方と第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位されると、第１部分または第２部分の他方と第１部材との係合が維持される方向へ係合部が変位されるので、第１部材と係合部との係合を解除し難くできる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

＜基板ボックスＷｏ１００～Ｗｑ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機において、取付部材を備え、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記取付部材は、前記係合部に取り付け可能に形成され、前記第１部材と前記係合部との係合が解除される方向への前記係合部の変位が前記取付部材により抑制可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－１。
【２３９１５】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【２３９１６】
上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。
【２３９１７】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【２３９１８】
遊技機ＷＤ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【２３９１９】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、取付部材は、係合部に取り付け可能に形成され、第１部材と係合部との係合が解除される方向への係合部の変位が取付部材により抑制可能に形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３９２０】
一方で、係合部に取付部材が取り付けられていても、本体部から係合部を分離（切断）することは可能であるので、正規の作業においては、係合部の分離（切断）により、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を容易に取り外すことができる。
【２３９２１】
遊技機ＷＤ１－１において、前記係合部は、前記第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、前記係合部の第１面側が前記第１部材へ近接され、前記取付部材は、前記係合部に取り付けられると、前記取付部材の一部が前記係合部の前記第１面と前記第１部材との間に配置されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－２。
【２３９２２】
遊技機ＷＤ１－２によれば、遊技機ＷＤ１－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、係合部の第１面側が第１部材へ近接され、取付部材は、係合部に取り付けられると、取付部材の一部が係合部の第１面と第１部材との間に配置されるので、第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位可能な距離を、取付部材の一部が配置される分、短くすることができる。その結果、第１部材と係合部との係合を解除され難くできるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【２３９２３】
遊技機ＷＤ１－２において、前記取付部材は、第１部材に係合された前記係合部に取り付け可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－３。
【２３９２４】
遊技機ＷＤ１－３によれば、遊技機ＷＤ１－２の奏する効果に加え、取付部材は、第１部材に係合された係合部に取り付け可能に形成されるので、第１部材に係合部を係合させ

る際に、係合部の変位が取付部材の一部によって阻害されない。よって、第１部材への係合部の係合（即ち、第１部材および第２部材への係合部材の装着）をスムーズに行うことができる。また、第１部材と係合部との係合代を大きくできるので、第１部材と係合部との係合が解除されることを抑制しやすくできる。

【２３９２５】

遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３において、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材を備え、前記係合部の取り付けられた前記取付部材の一部は、前記第１面から突設される突部として形成され、前記突部は、前記第１部材に配設される前記配設部材に向けて突設されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－４。

【２３９２６】

遊技機ＷＤ１－４によれば、遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３の奏する効果に加え、第１部材および第２部材に配設される配設部材を備え、係合部の取り付けられた取付部材の一部は、第１面から突設される突部として形成され、突部は、第１部材に配設される配設部材に向けて突設されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【２３９２７】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【２３９２８】

遊技機ＷＤ１－４において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－５。

【２３９２９】

遊技機ＷＤ１－５によれば、遊技機ＷＤ１－４の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。

【２３９３０】

＜無駄球を減らすための構成＞

遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記検出手段を通過した遊技球を前記動作手段まで所定経路で案内する案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１。

【２３９３１】

パチンコ機等の遊技機において、検出領域で遊技球の通過を検出してから規定の時間経過後に開閉動作する可動役物を備える遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、検出領域を通過した遊技球の流下経路は複数通りの流下態様で流下するので、遊技球の流下態様次第で、検出領域を通過した遊技球が可動役物に拾われる場合と、可動役物から零れる場合とがランダムに生じることになることから、可動役物から零れる遊技球が多い場合には、遊技者は遊技機店が遊技者に不利になる調整を行っているのではないかと誤解し易く、平等な環境で遊技することができていないと不満に思う可能性があるという問題点があった。

【２３９３２】
　これに対し、遊技機ＹＡ１によれば、検出手段を通過してからの遊技球の流下はランダムではなく、案内手段により遊技球が動作手段まで案内されるので、検出手段を通過した遊技球が動作手段に拾われるか、動作手段から零れるかの違いが、動作制御（入賞時に予め行われた抽選の当否に基づく制御）によるものであると遊技者に理解させることができる。即ち、案内手段の構成により規定される流下時間に基づいて、動作手段の動作制御のパターンが設定されているのであり、遊技機店の調整によるものではないと理解することができるので、平等な環境で遊技していると感じさせることができる。
【２３９３３】
　なお、遊技領域は、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域を意味し、例えば、遊技盤の正面側の領域に限られるものではない。例えば、遊技球の通過を検出することで第１図柄の抽選がされる検出装置の上流側に形成される流路であって、遊技盤の内部や遊技盤の背面側に配設される流路も遊技領域に含まれる。
【２３９３４】
　遊技機ＹＡ１において、前記案内手段は、前記遊技領域の背面側を通るように配設されることを特徴とする遊技機ＹＡ２。
【２３９３５】
　遊技機ＹＡ２によれば、遊技機ＹＡ１の奏する効果に加え、案内手段で案内される遊技球を、遊技領域で流下する遊技球により隠すことができるので、案内手段から動作手段までの領域における注目力を向上することができる。
【２３９３６】
　遊技機ＹＡ２において、前記案内手段に案内される遊技球は、所定範囲において遊技領域を構成する遊技盤の正面側に向けて流下することを特徴とする遊技機ＹＡ３。
【２３９３７】
　遊技機ＹＡ３によれば、遊技機ＹＡ２の奏する効果に加え、案内手段に案内される遊技球が遊技盤の正面側に流下することから、遊技者に遊技球が近づいてくるように視認させることができる。そのため、通常の下方に流下するだけの遊技球との比較において、案内手段に案内される遊技球を目立たせることができる。
【２３９３８】
　遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかにおいて、前記案内手段は、遊技球が前記検出手段から前記動作手段まで流下するのに要する時間を管理可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ４。
【２３９３９】
　遊技機ＹＡ４によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球を動作手段で拾うパターンの動作制御と、零すパターンの動作制御とを、容易に設定することができる。
【２３９４０】
　遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかにおいて、前記動作手段は、閉鎖状態または開放状態において遊技球を転動させる態様で流下を案内するよう構成され、遊技球の流下方向の幅寸法が、遊技球の直径の２倍以下に設定される第１動作部を備え、その第１動作部に前記案内手段に案内された遊技球が誘導されることを特徴とする遊技機ＹＡ５。
【２３９４１】
　遊技機ＹＡ５によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第１動作部によって、遊技球が動作手段に案内される時間を短縮することができると共に、動作手段で遊技球を１球ずつ案内することができる。動作手段の幅を短くすることができる。
【２３９４２】
　遊技機ＹＡ５において、前記動作手段は、第１動作部よりも長い第２動作部を備え、遊技球が前記第１動作部を転動するのに要する期間よりも、遊技球が前記第２動作部を転動

するのに要する期間の方が長く構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ６。
【２３９４３】
遊技機ＹＡ６によれば、遊技機ＹＡ５の奏する効果に加え、同様に動作手段に到達した遊技球の案内態様として、動作手段が同様の動作パターンで動作している場合に、遊技球が第１動作部に到達するか、第２動作部に到達するかによって、遊技球が下流側にどのように流下するかを変えることができる。
【２３９４４】
遊技機ＹＡ６において、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、異なる流下領域に案内されることを特徴とする遊技機ＹＡ７。
【２３９４５】
遊技機ＹＡ７によれば、遊技機ＹＡ６の奏する効果に加え、一の動作手段を利用して、球の案内方向を複数方向構成することができるので、動作手段による遊技球の案内時の見映えを複数通りで実現することができる。
【２３９４６】
遊技機ＹＡ７において、前記検出手段を通過した遊技球は、前記第１動作部に案内され得るよう構成され、前記検出手段を通過せずに流下した遊技球は、前記第２動作部に案内され得ることを特徴とする遊技機ＹＡ８。
【２３９４７】
遊技機ＹＡ８によれば、遊技機ＹＡ７の奏する効果に加え、検出手段を通過した遊技球が、その他の遊技球に弾かれて案内不良が生じる不具合を防止することができる。
【２３９４８】
遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかにおいて、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、動作手段上での衝突が抑制されることを特徴とする遊技機ＹＡ９。
【２３９４９】
遊技機ＹＡ９によれば、遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段上を転動する遊技球が衝突して、流下態様の不均一が生じることを回避し易くすることができる。
【２３９５０】
なお、第１動作部上に配置される遊技球と、第２動作部上に配置される遊技球との間に壁が配置されることで隔離されても良いし、壁は無いとしても衝突しないような流下態様に管理されても良い。
【２３９５１】
遊技機ＹＡ９において、前記第１動作部に案内される遊技球は、前記第２動作部に案内される遊技球の流下方向とは逆側へ流下することを特徴とする遊技機ＹＡ１０。
【２３９５２】
遊技機ＹＡ１０によれば、遊技機ＹＡ９の奏する効果に加え、第１動作部に案内される遊技球と、第２動作部に案内される遊技球とが、同方向に流下する場合と異なり、遊技球の流下速度に関わらず遊技球の衝突を回避することができる。
【２３９５３】
なお、遊技球の流下方向は、左右逆方向でも良いし、前後逆方向でも良い。また、所定軌跡（例えば、円形状軌跡）に沿う逆方向でも良い。
【２３９５４】
遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定経路として複数経路を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１１。
【２３９５５】
遊技機ＹＡ１１によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作パターンの種類は少なくしながら、遊技球の流下パターンを増やすことができる。
【２３９５６】

＜８チャンスの経路にセンサが配置され不利側から有利側に球を引き抜く構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、遊技球の流下経路を構成する構成手段と、その構成手段の下流側に配設され遊技球が第１入球口に案内される第１経路と、前記構成手段の下流側に配設され遊技球が第２入球口に案内される第２経路と、を備える遊技機において、前記第１経路を流下する遊技球を前記第２経路側へ移動させる移動手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＢ１。
【２３９５７】
パチンコ機等の遊技機において、入球口に遊技球が通る順番で、遊技球がどの経路に向かうかが周期的に変化する遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、入球口への入球の有利不利は遊技球が入球する周期でのみ変化することになり、全般的に有利な状態や、全般的に不利な状態を形成することが困難であるという問題点があった。換言すれば、遊技者の有利度合いの変化幅が制限されるという問題点があった。
【２３９５８】
これに対し、遊技機ＹＢ１によれば、移動手段によって、構成手段に構成される経路を流下した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかを無秩序に生じさせることができるので、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。
【２３９５９】
遊技機ＹＢ１において、前記構成手段に構成される経路は、分岐経路であることを特徴とする遊技機ＹＢ２。
【２３９６０】
遊技機ＹＢ２によれば、遊技機ＹＢ１の奏する効果に加え、移動手段の作用により遊技球の流下態様に変化が生じるだけでなく、経路の分岐によっても遊技球の流下態様に変化を生じさせることができるので、構成手段に入球した遊技球に対する注目力を向上させることができる。
【２３９６１】
遊技機ＹＢ１又はＹＢ２において、前記経路を流下する遊技球の通過を検出可能に構成される検出手段を備え、前記移動手段は、前記経路内における遊技球の流下に影響を与える態様で動作可能に構成される動作手段を備え、その動作手段は、第１状態の場合に遊技球が第１入球口へ向けて送球され、第２状態の場合に遊技球が第２入球口へ向けて送球されるよう構成され、前記検出手段で遊技球の通過が検出されることに基づいて動作制御可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ３。
【２３９６２】
遊技機ＹＢ３によれば、遊技機ＹＢ１又はＹＢ２の奏する効果に加え、動作手段の動作パターン次第で、構成手段に入球した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかが切り替えられるので、遊技球が入球する入球口の周期性を低くし易くすることができる。これにより、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。
【２３９６３】
遊技機ＹＢ３において、前記動作手段は、前記構成手段の外側を流下する遊技球を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ４。
【２３９６４】
遊技機ＹＢ４によれば、遊技機ＹＢ３の奏する効果に加え、構成手段に構成される流路を流下する遊技球を案内する手段と、構成手段に構成される流路外で流下する遊技球を案内する手段と、を動作手段で兼用することができる。
【２３９６５】
遊技機ＹＢ３又はＹＢ４において、前記構成手段の前記経路外に配設される第２検出手段を備え、前記検出手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、前記第２検出

手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、が異なることを特徴とする遊技機ＹＢ５。

【２３９６６】

遊技機ＹＢ５によれば、遊技機ＹＢ３又はＹＢ４の奏する効果に加え、動作手段への案内態様を複数種類で構成することができる。

【２３９６７】

なお、案内態様の違いについては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球の経路の違いであっても良いし、遊技球の流下速度の違いであっても良い。

【２３９６８】

遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記第１状態と前記第２状態との切り替えにより、遊技球の流下方向を上下方向と左右方向とで変化させることを特徴とする遊技機ＹＢ６。

【２３９６９】

遊技機ＹＢ６によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下方向の変化を遊技者が把握し易いようにすることができる。

【２３９７０】

遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかにおいて、前記検出手段は、遊技球の通過に基づいて所定の図柄が所定期間変動するように制御され、前記所定期間は、遊技球が前記経路に入球してから前記検出手段を通過するまでに要する期間よりも短く設定されることを特徴とする遊技機ＹＢ７。

【２３９７１】

遊技機ＹＢ７によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかの奏する効果に加え、構成手段の経路の入口から検出手段までの間に配置される遊技球が１個以下の状態を維持することにより、検出手段を遊技球が通過する時点において図柄が変動中であるという事態を回避することができる。従って、検出手段を遊技球が通過した直後に所定の図柄の変動を開始させることができる。

【２３９７２】

従って、遊技球が検出手段を通過するタイミングと、遊技球が検出手段を通過したことに基づく動作手段の動作制御を開始するタイミングと、を合わせることができる。

【２３９７３】

遊技機ＹＢ７において、前記動作手段は、前記検出手段で検出された遊技球を案内しない第１制御態様と、前記検出手段で検出された遊技球を案内する第２制御態様とで、制御態様が切替可能とされることを特徴とする遊技機ＹＢ８。

【２３９７４】

遊技機ＹＢ８によれば、遊技機ＹＢ７の奏する効果に加え、動作手段の動作が実行されたとしても、制御態様の違いにより、動作手段に遊技球が案内される場合と、案内されない場合とを構成できるので、動作手段の動作に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２３９７５】

遊技機ＹＢ８において、前記制御態様の切替は、前記検出手段での検出の度に実行可能に構成され、切替可能な前記制御態様の種類は、大当たり遊技の度に変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ９。

【２３９７６】

遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかにおいて、遊技球が前記第１入球口に入球することで遊技者が得られる利益と、遊技球が前記第２入球口に入球することで遊技者が得られる利益とが異なることを特徴とする遊技機ＹＢ１０。

【２３９７７】

遊技機ＹＢ１０によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に対する注目力を向上させることができる。

【２３９７８】
＜動作手段に複数位置で流下する構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、遊技球が流下可能な第１流下位置と、その第１流下位置とは異なる第２流下位置と、を備え、前記第１流下位置を流下する遊技球の流下態様と前記第２流下位置を流下する遊技球の流下態様とが異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１。
【２３９７９】
パチンコ機等の遊技機において、検出手段に遊技球が検出されることに基づいて可動役物が開放し、その可動役物により遊技球が入賞口へ案内される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球が可動役物に案内される態様は単調であり、可動役物の注目力を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。
【２３９８０】
これに対し、遊技機ＹＣ１によれば、動作手段が遊技球を流下させる複数の流下位置を備えており、遊技球がどの流下位置を流下するかで流下態様が異なるように構成されるので、遊技球が可動役物に案内される態様にバリエーションを設けることができ、可動役物の注目力を向上させることができる。
【２３９８１】
遊技機ＹＣ１において、前記流下態様は、遊技球の流下速度、流下方向または流下間隔であることを特徴とする遊技機ＹＣ２。
【２３９８２】
遊技機ＹＣ２によれば、遊技機ＹＣ１の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の流れをばらつかせることができ、その遊技球への注目力を向上させることができる。
【２３９８３】
遊技機ＹＣ１又はＹＣ２において、前記第１流下位置は、前記検出手段を通過した遊技球が流下可能な位置として設定されることを特徴とする遊技機ＹＣ３。
【２３９８４】
遊技機ＹＣ３によれば、遊技機ＹＣ１又はＹＣ２の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達していることを確認することで、遊技球が検出手段を通過したことを把握できるので、検出手段を視認する必要をなくすことができる。
【２３９８５】
また、検出手段を通過した遊技球と、検出手段を通過しなかった遊技球とが、動作手段の別位置で流下するようにすることで、動作手段に同時に乗せることができる遊技球の個数を、全球が検出手段を通過するように狙う発射態様か、一部の遊技球は検出手段を逸らすことを狙う発射態様かで、変化させることができる。
【２３９８６】
遊技機ＹＣ３において、前記検出手段を通過した遊技球の流下経路は、分岐しない経路として構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ４。
【２３９８７】
遊技機ＹＣ４によれば、遊技機ＹＣ３の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達したことを確認することで、その遊技球が検出手段を通過したことを把握することができる。
【２３９８８】
遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下した遊技球の流下経路と、前記第２流下位置を流下した遊技球の流下経路とは、前記動作手段の下流側における所定の合流位置において合流することを特徴とする遊技機ＹＣ５。

【２３９８９】
遊技機ＹＣ５によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段により流下された遊技球により遊技球が得られる利益を、その流下位置によらず同じとすることができる。
【２３９９０】
遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段から離れた位置に配置されることを特徴とする遊技機ＹＣ６。
【２３９９１】
遊技機ＹＣ６によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、合流時に遊技球で生じる負荷が動作手段の動作に与える影響を小さくすることができる。これにより、動作手段の動作を円滑に実行することができる。
【２３９９２】
遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段に近接配置されることを特徴とする遊技機ＹＣ７。
【２３９９３】
遊技機ＹＣ７によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の通過を検出する検出装置を、より上流側に配置することができるので、利益を早期に生じさせることができる。従って、動作手段に沿って遊技球が流下してから利益発生までの待ち時間を短縮することができる。
【２３９９４】
遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかにおいて、前記合流位置で遊技球が下方に落下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ８。
【２３９９５】
遊技機ＹＣ８によれば、遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかの奏する効果に加え、合流した後の球が逆流したり、球詰まりが生じたりする事態の発生を回避することができる。
【２３９９６】
遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が同じように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ９。
【２３９９７】
遊技機ＹＣ９によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に到達した遊技球に注目する側を統一することができるので、遊技者が注目すべき箇所を容易に把握させることができる。
【２３９９８】
遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１０。
【２３９９９】
遊技機ＹＣ１０によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下する方向を視認することで、遊技球が第１流下位置を流下したか、遊技球が第２流下位置を流下したかを、判断することができるので、動作手段に近接配置される遊技球が前後に重なり見難い構成においても、動作手段よりも下流側において遊技球の流下方向を把握することができる。
【２４０００】
遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかにおいて、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益を付与可能に構成される第１入球口と、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益よりも大きな第２の利益を付与可能に構成される第２入球口と、を備え、前記第１流下位置は、前記第１入球口に入球した遊技球の流下経路に配置され、前記動作手段は、前記第１流下位置を流下する遊技球を前記第２入球口側に案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１１。

【２４００１】
遊技機ＹＣ１１によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段によって、第１入球口に入球した遊技球により利益が付与される前に、その遊技球を第２入球口側に引き抜くことができる。
【２４００２】
これにより、例えば、左右対称盤面の遊技機（特別図柄の抽選のための入賞口や、特別遊技において開閉する入賞口が、左右中央位置に縦並びに配置され、それらの入賞口に左打ちでも右打ちでも入球させることができる盤面構成の遊技機）であっても、動作手段の動作によって、第１入球口への入球により利益が生じる頻度を落とすことができる。
【２４００３】
そのため、第１入球口への入球頻度を落とすために、第１入球口へ遊技球が案内されない右打ち経路を構成する必要性を下げることができ、遊技領域の設計自由度を向上させることができる。
【２４００４】
＜分岐手段で分岐する第１流路と第２流路との有利不利を変化可能＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、所定の入球領域の下流側に第１流路および第２流路を構成する構成手段と、を備え、遊技球が前記第１流路を流下する場合に遊技者が得られる第１の利益と、遊技球が前記第２流路を流下する場合に遊技者が得られる第２の利益と、の大小関係を変化可能に構成される変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ１。
【２４００５】
パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域を流下した遊技球が左側に流下した場合と、右側に流下した場合とで、遊技者が得られると期待される利益に違いがある遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球が流下した場合に有利な方向が固定されているため、分岐位置における遊技球の流下方向さえ確認できればその後で得られる利益が予想できてしまい、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が到達する前に遊技者の集中力のピークが来てしまうので、分岐位置から確定領域までの経路に対する注目力が低下することになり、遊技領域を演出領域として利用するという観点から改良の余地があるという問題点があった。
【２４００６】
これに対し、遊技機ＹＤ１によれば、変化手段によって、第１の利益と第２の利益との大小関係が切替可能とされることから、遊技者の集中力のピークを、遊技球が第１流路または第２流路に入球する時点ではなく、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が入球する時点に持ってくることができるので、分岐領域から確定領域までの経路に対する注目力を高く維持することができる。これにより、遊技境域を演出領域として有効利用することができる。
【２４００７】
なお、利益が確定する時点としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球が検出口（検出領域、特定領域等）を通過する時点としても良いし、遊技球が検出口を通過したことで確定した利益が遊技者側に報知される時点（遊技者が利益を認識できる時）としても良い。
【２４００８】
遊技機ＹＤ１において、前記第１の利益または前記第２の利益の内、大側の利益が遊技者に付与される場合に、遊技球を正面側に流下させる流下領域を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ２。
【２４００９】
遊技機ＹＤ２によれば、遊技機ＹＤ１の奏する効果に加え、遊技球が通常の流下態様（下方に流下する流下態様）と異なる際に大側の利益が遊技者に付与されることから、遊技球を視認させることで、大側の利益が付与されたことを遊技者に把握させ易くすることが

できる。
【２４０１０】
遊技機ＹＤ１又はＹＤ２において、前記第１流路および前記第２流路は合流可能に構成され、その合流位置への進入位置に上下方向の位置差があることを特徴とする遊技機ＹＤ３。
【２４０１１】
遊技機ＹＤ３によれば、遊技機ＹＤ１又はＹＤ２の奏する効果に加え、第１流路および第２流路から、遊技球が合流位置に同時に進入した場合であっても、衝突時の負荷が上下方向（第１流路および第２流路と交差する方向）で生じるので、遊技球が逆流することを回避し易くすることができる。
【２４０１２】
遊技機ＹＤ３において、前記進入位置は、遊技球の通過頻度が高い側が下側配置されることを特徴とする遊技機ＹＤ４。
【２４０１３】
遊技機ＹＤ４によれば、遊技機ＹＤ３の奏する効果に加え、高頻度で所定の進入位置を通過する遊技球が、他の進入位置に誤って入球することを避け易くすることができる。
【２４０１４】
遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかにおいて、前記第１流路および前記第２流路は、遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備え、前記第１流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、前記第２流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＤ５。
【２４０１５】
遊技機ＹＤ５によれば、遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作制御は同一としながら、第１流路を遊技球が流下する場合と、第２流路を遊技球が流下する場合とで、動作手段が遊技球に作用するか否かを異ならせることができる。
【２４０１６】
＜３状態で切替＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段の動作態様に対応して、遊技球が第１入球口に入球し易い第１状態と、遊技球が第２入球口に入球し易い第２状態と、遊技球が第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、で状態を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＥ１。
【２４０１７】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１始動口および第２始動口（第１の第２始動口）に入球し易い状態と、第２始動口（第２の第２始動口）のみに入球し易い状態と、で状態を切り替えることはできるが、第１始動口のみに入球し易い状態に切り替えることはできず、遊技球の入球態様の自由度が制限されるという問題点があった。
【２４０１８】
これに対し、遊技機ＹＥ１によれば、動作手段の動作態様に対応して、第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、第２入球口に入球し易い第２状態だけでなく、第１入球口に入球し易い第１状態にも状態を切り替えることができるので、遊技球の入球態様の自由度を向上させることができる。
【２４０１９】
遊技機ＹＥ１において、前記第３状態では、流下した遊技球が第１入球口に入球する場

合と、第２入球口に入球する場合とが、交互に生じることを特徴とする遊技機ＹＥ２。
【２４０２０】
遊技機ＹＥ２によれば、遊技機ＹＥ１の奏する効果に加え、第３状態における第１入球口への入球個数と第２入球口への入球個数とを均一化することができる。
【２４０２１】
遊技機ＹＥ１又はＹＥ２において、流下した遊技球が、前記第１入球口または前記第２入球口に入球可能に形成される所定流路を備えることを特徴とする遊技機ＹＥ３。
【２４０２２】
遊技機ＹＥ３によれば、遊技機ＹＥ１又はＹＥ２の奏する効果に加え、所定流路を遊技球が流下している時点では、その遊技球は第１入球口に入球する可能性も、第２入球口に入球する可能性も残されているので、所定流路を流下している遊技球に対する注目力を向上することができる。
【２４０２３】
＜サポートで特１特２の両方が貯まる＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、前記動作手段が配置される位置まで流下した遊技球の流下経路を、前記第１入球口側へ向かう第１経路と、前記第２入球口側へ向かう第２経路と、その他の経路と、に分岐可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＦ１。
【２４０２４】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動片の開状態において第２始動口（第２の第２始動口）に入球し易い状態を形成することができるが、第１始動口へ入球し易い状態を形成することはできず、可動片による遊技球の案内態様に改良の余地があるという問題点があった。
【２４０２５】
これに対し、遊技機ＹＦ１によれば、動作手段から下流側の流下経路として、第１経路と第２経路とが形成されることで、第１入球口へ遊技球を案内することも第２入球口へ遊技球を案内することもできるので、動作手段による遊技球の案内態様を改良することができる。
【２４０２６】
遊技機ＹＦ１において、前記第１入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益よりも、前記第２入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益が大きく設定され、前記第１入球口は前記動作手段の中央側の下方に配置され、前記第２入球口は前記動作手段の端側の下方に配置されることを特徴とする遊技機ＹＦ２。
【２４０２７】
遊技機ＹＦ２によれば、遊技機ＹＦ１の奏する効果に加え、動作手段の端側まで遊技球が流れきれば第２入球口に入球可能となるので、途中位置で落下する（タイミングよく動作手段が動作する）ことで第１入球口に入球する事態に比較して、第２入球口に遊技球が入球する事態を発生し易くすることができる。
【２４０２８】
遊技機ＹＦ１又はＹＦ２において、動作手段の端部からの遊技球の零れを防止するための零れ防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＦ３。
【２４０２９】
遊技機ＹＦ３によれば、遊技機ＹＦ１又はＹＦ２の奏する効果に加え、零れ防止手段によって動作手段から遊技球が勢い余って零れる事態を回避することができるので、動作手段に遊技球が到達した場合の遊技者の安心感を高めることができる。

【２４０３０】
　また、零れ防止手段で遊技球が高反発で跳ね返るようにすることで、動作手段の上面における遊技球の転動速度を高め、動作手段の上面を遊技球が短時間で通過し易くすることができる。
【２４０３１】
　＜振分け左右で構成違い＞
　遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する複数の検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、その動作手段に案内された遊技球が入球可能に構成される被案内入球口と、を備える遊技機において、前記複数の検出手段は、前記動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、その第１検出手段とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＹＧ１。
【２４０３２】
　パチンコ機等の遊技機において、普図始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１６－５４９７０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、普図始動口に案内される経路と、開閉部材側に案内される経路とが、別経路とされ、それぞれの経路を遊技球が交互に流下するため、普図始動口の真上に配置される釘に遊技球が衝突して普図始動口から逸れる事態が生じると、次に普図始動口に遊技球が案内されるまでに期間が開いてしまうことから、開閉部材が閉じている時に開閉部材側に遊技球が流下するという、期待感の薄い状態になり易い。この場合、遊技が間延びしてしまい、遊技者の興趣を低下させる可能性があるという問題点があった。
【２４０３３】
　これに対し、遊技機ＹＧ１によれば、動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、動作手段の上流側とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を備えるので、遊技球が検出手段に検出される状況を頻繁に生じさせることができる。これにより、動作手段の動作頻度を向上させることができるので、遊技者の興趣を向上させることができる。
【２４０３４】
　遊技機ＹＧ１において、前記第１検出手段と前記動作手段との間に所定の流路が形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ２。
【２４０３５】
　遊技機ＹＧ２によれば、遊技機ＹＧ１の奏する効果に加え、第１検出手段から動作手段への遊技球の流れを整流化することができる。
【２４０３６】
　遊技機ＹＧ１又はＹＧ２において、前記動作手段は、前記第２検出手段を通過する遊技球の流下経路側へ延びるように形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ３。
【２４０３７】
　遊技機ＹＧ３によれば、遊技機ＹＧ１又はＹＧ２の奏する効果に加え、第２検出手段側の注目力が第１検出手段側の注目力との比較において低くなり過ぎることを回避することができる。
【２４０３８】
　＜遊技球を案内する手段が長い＞
　入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を案内する案内手段と、その案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出する第１検出手段と、前記案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出した場合に、前記第１検出手段に遊技球の通過が検出されることに基づいて遊技者に与え得る利益とは異なる利益を遊技者に与え得る第２検出手段と、を備え、前記案内手段は、前記入球領域から流下した遊技球を受けるための所定部と、その所定部よりも下流側に配置され前記所定部の変位に対応して変位する下流側部と、を備え、少なくとも前記下流側部の配置に応じて、遊技球を前記第１検出手段に案内し易い第１状態と、遊技球を前記第２検出手段に案内し易い第２状態と、で状態変化可能に構成される

ことを特徴とする遊技機ＢＡ１。

【２４０３９】

パチンコ機等の遊技機において、所定の検出領域（第２始動入賞口２７）において遊技球の通過が検出された場合において、一定確率で開放されて奥側に配設される賞球口への遊技球の案内が可能となる可動役物（第２可変入賞装置３１）が配設され、その可動役物の開放動作を頻繁に生じさせて賞球口への入球が頻繁に生じることにより多量の賞球の払い出しを遊技者が獲得できる遊技状態が、通常状態よりも有利な遊技状態として設定される遊技機がある（例えば、特開２０１７－１６９６３０号公報を参照）。

【２４０４０】

しかし、上述した従来の遊技機では、別の検出領域（可変始動入賞口２８ａ）に可動部材（開閉部材２８ｂ）が配設されていることを理由に、所定の検出領域を開閉する可動部材が配設されておらず、常に遊技球を所定の検出領域に通過可能に構成されている。通常状態では遊技領域の左側に遊技球を流下させる遊技方法が推奨されているが、遊技初心者などは特に、誤って遊技領域の右側に遊技球を流下させるように発射してしまう場合がある。

【２４０４１】

所定の検出領域において遊技球の通過が検出された場合、可動役物の開放動作の抽選（小当たりの抽選）の他に、特別図柄の抽選（大当たりの抽選）も行われ、特別図柄の抽選による大当たりが発生すると、大当たり終了後の遊技状態としてペナルティが課され、通常状態よりも不利な遊技を強いられることとなる。遊技初心者からすれば、理由もわからずペナルティを課されたと疑念を抱きかねず、遊技機に対する興味関心が薄れ、新規の遊技者を獲得し損なる状況を生み出しかねない。即ち、遊技初心者に優しくなく、平等性に欠けるという問題点があった。

【２４０４２】

これに対し、遊技機ＢＡ１によれば、案内手段が第１状態で維持されることで、第１検出手段へ遊技球が案内され易い状態を構成することができ、この状態において第２検出手段（所定の検出領域）への遊技球の案内を抑制することができる。これにより、案内手段を利用することで、第２検出手段に遊技球を通過させることを防ぐことができ、遊技の平等性を高めることができる。

【２４０４３】

なお、案内手段は、所定部と下流側部とが一体的に形成されるよう構成されても良いし、所定部と下流側部とが別体で形成されるよう構成されても良い。

【２４０４４】

遊技機ＢＡ１において、前記下流側部は、前記第１状態において前記第２検出手段への遊技球の案内を防止可能とされ、前記第２状態において前記第１検出手段への遊技球の案内を防止可能とされるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ２。

【２４０４５】

遊技機ＢＡ２によれば、遊技機ＢＡ１の奏する効果に加え、下流側部により、案内手段を介して流下する遊技球が通過する検出手段を切り替えることができる。

【２４０４６】

遊技機ＢＡ１又はＢＡ２において、前記案内手段は、前記所定部が受けた遊技球を前記下流側部へ向けて流下させる中間部を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ３。

【２４０４７】

遊技機ＢＡ３によれば、遊技機ＢＡ１又はＢＡ２の奏する効果に加え、中間部により、案内手段を介して流下する遊技球が第１検出手段に案内されるのか、第２検出手段に案内されるのかが、不明確な状態を引き延ばすことができる。

【２４０４８】

なお、中間部は、下流側部の変位に対応して変位可能に構成しても良いし、下流側部の変位に関わらず変位しないように構成しても良い。

【２４０４９】

遊技機ＢＡ３において、前記中間部は、前記第１状態でも前記第２状態でも遊技球の流下方向が変化しないよう構成され、下流側において前記第１検出手段または前記第２検出手段への案内が行われることを特徴とする遊技機ＢＡ４。

【２４０５０】

遊技機ＢＡ４によれば、遊技機ＢＡ３の奏する効果に加え、入球領域に入球した後の遊技球が中間部を案内されている時に案内手段が第１状態と第２状態とで切り替わったとしても、中間部における遊技球の流下方向に影響を与えないので、中間部を案内されている遊技球の流下態様の変化から案内手段の状態変化を把握されるという事態の発生を避けることができる。

【２４０５１】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記第１状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を制限する位置に配置され、前記第２状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を許容する位置に配置されることを特徴とする遊技機ＢＡ５。

【２４０５２】

遊技機ＢＡ５によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の状態の切り替えによって、案内手段への新たな遊技球の入球の可否を切り替えることができる。

【２４０５３】

また、所定部における遊技球の通過と、下流側部における遊技球の通過と、のそれぞれに注目させることができる。即ち、遊技者の視線を複数位置で集めることができ、案内手段の注目箇所を増加させることができる。

【２４０５４】

遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、同時に実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ６。

【２４０５５】

遊技機ＢＡ６によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、異なる位置で同時に切替が実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えか、下流側部における切り替えか、いずれかを選択して視認させるという遊技性を付与することができる。

【２４０５６】

遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、タイミングがずれて実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ７。

【２４０５７】

遊技機ＢＡ７によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、別タイミングで異なる位置における切り替えが実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えと、下流側部における切り替えと、が視線をずらすことで視認することができるという遊技性を付与することができる。加えて、遊技者の視線の動きを誘導することができる。

【２４０５８】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかにおいて、前記所定部は、前後方向にスライド変位することを特徴とする遊技機ＢＡ８。

【２４０５９】

遊技機ＢＡ８によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかの奏する効果に加え、正面視における所定部の動きが目立つことを避けることができる。所定部は、案内手段への入球の可否を切り替える部分であり、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所ではないので、目立つことを避けることで、相対的に下流側部の動作を目立たせることができる。

【２４０６０】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかにおいて、前記下流側部は、回転動作する態様で変位することを特徴とする遊技機ＢＡ９。

【２４０６１】

遊技機ＢＡ９によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所としての下流側部の動きを目立たせることができる。

【２４０６２】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部と前記下流側部との間の正面視における距離よりも、前記所定部から前記下流側部へ流下する遊技球の流下距離が長くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１０。

【２４０６３】

遊技機ＢＡ１０によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかの奏する効果に加え、所定部から流れた遊技球が下流側部に到達する前に、遊技者が所定部から下流側部に視線を移動させ易くすることができる。

【２４０６４】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部を介さない遊技球が前記下流側部へ到達することを防止するための防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ１１。

【２４０６５】

遊技機ＢＡ１１によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、防止手段により、下流側部へ到達する遊技球の流下経路を制限することができるので、遊技球が意図しない経路で下流側部に到達し、誤った検出手段に入球する事態の発生を避けることができる。

【２４０６６】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記入球領域からの複数の遊技球を前記所定部が受ける第１期間よりも、その第１期間に前記所定部が受けた前記複数の遊技球が前記下流側部を通過する第２期間を短縮可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１２。

【２４０６７】

遊技機ＢＡ１２によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、案内手段により、所定部が遊技球を受けるタイミングのずれよりも、下流側部における遊技球の通過タイミングのずれを小さくすることができるので、下流側部での遊技球の流下方向の切替の精度を保ちながら、所定部において遊技球を受けるタイミングのずれの許容幅を拡大することができ、快適な遊技を提供し易くすることができる。

【２４０６８】

遊技機ＢＡ１２において、前記所定部は、変位する際に、遊技球を加速させる方向の負荷を遊技球に負荷する形状から構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１３。

【２４０６９】

遊技機ＢＡ１３によれば、遊技機ＢＡ１２の奏する効果に加え、所定部の変位が生じる際に遊技球を加速させる方向の負荷が生じることになるので、所定部が変位する前に所定部を通過した遊技球へ向けて、所定部が変位する際に所定部上に配置された遊技球を加速させることで、遊技球同士の間隔が縮まる状況を生じさせることができる。

【２４０７０】

＜流下経路を引き延ばす＞

入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、遊技球を流下させる第１可動部と、その第１可動部よりも下流側に配置され遊技球を流下させる第２可動部と、前記第１可動部および前記第２可動部の間に配置され遊技球を流下させる所定部と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ１。

【２４０７１】

パチンコ機等の遊技機において、遊技球が入球可能な検出センサと、その検出センサに遊技球を案内する可動部材と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。

【２４０７２】
しかし、上述した従来の遊技機では、検出センサへ向けた遊技球の流下経路が可動部材の長さに限定されるので、遊技球の流下が単調となり易いので遊技者を飽きさせ易い可能性があることから、遊技球の流下態様について改良の余地があるという問題点があった。
【２４０７３】
これに対し、遊技機ＢＢ１によれば、検出手段の上流側に配置される流下手段が、所定部を挟む複数の可動部を備えることから、可動部の長さや形状にバリエーションを持たせ易くでき、遊技球の流下態様について改良することができる。
【２４０７４】
遊技機ＢＢ１において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において前記所定部と上下方向で重なる重なり部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ２。
【２４０７５】
遊技機ＢＢ２によれば、遊技機ＢＢ１の奏する効果に加え、重なり部を介して所定部へ遊技球を流すことができるので、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。
【２４０７６】
遊技機ＢＢ１又はＢＢ２において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において、遊技球の流下する向きを前記所定部側へ向けさせるための傾斜部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ３。
【２４０７７】
遊技機ＢＢ３によれば、遊技機ＢＢ１又はＢＢ２の奏する効果に加え、傾斜部によって遊技球の流下向きを所定部側へ寄せることができるので、遊技球の流下が乱れた場合であっても、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。
【２４０７８】
＜下流側において遊技球を密集させる＞
入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、前記入球領域に所定間隔で入球した複数の遊技球が、前記下流側領域を流下する間隔を、前記所定間隔よりも短くするための所定手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１。
【２４０７９】
パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域から遊技球が流下した場合において、その遊技球から与えられる負荷により第１検出手段または前記第２検出手段への遊技球の案内が可能となる２種類の開放状態を構成可能な複数の可動役物が配設され、その可動役物は、それぞれ賞球口に所定個数の遊技球が入球した場合に機械的な負荷の伝達により開放状態から閉鎖するよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－２０２３３８号公報を参照）。
【２４０８０】
しかし、上述した従来の遊技機では、通常時は第１検出手段にも第２検出手段にも遊技球を案内しない状態で維持されているので、遊技球を第１検出手段に案内する第１状態と、遊技球を第２検出手段に案内する第２状態と、合計で３つの状態に切り替えられるが、いずれの状態においても、入球領域に入球した後の遊技球の流下経路は一本道とされており、入球領域に入球するタイミング（間隔）と、その入球に伴う賞球の払い出しのタイミング（間隔）とがほぼ同じとされるので、遊技者に与えられる利益が発生するタイミングが遊技球の発射間隔（一定間隔）に制限されてしまい、遊技に緩急をつけることが難しく、遊技者の興趣を高めることが難しいという問題点があった。
【２４０８１】
これに対し、遊技機ＢＢＺ１によれば、流下手段の所定手段により、遊技球が入球領域に入球する間隔よりも、遊技球が下流側領域を流下する間隔が短くなる場合を生じさせる

ことができるので、遊技球の発射間隔よりも短い間隔で遊技球が下流側領域を流下する場合を生じさせることができる。これにより、遊技球が入球領域に入球したことで遊技者に与えられる利益の発生タイミングが一定間隔となることを避け易くすることができ、遊技に緩急をつけることで、遊技者の興趣を高めることができる。

【２４０８２】

遊技機ＢＢＺ１において、前記所定手段は、前記入球領域側における遊技球の流下速度を、前記下流側領域側における遊技球の流下速度よりも大きくさせるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ２。

【２４０８３】

遊技機ＢＢＺ２によれば、遊技機ＢＢＺ１の奏する効果に加え、所定手段により、下流側領域側を流下する遊技球が、入球領域側における遊技球に追いつかれるような状態を構成することができる。

【２４０８４】

遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２において、前記流下手段は、一方向または他方向に変位可能に構成され、前記一方向における変位または前記他方向における変位によって、前記入球領域に入球した遊技球に対して前記下流側領域へ向けた所定の負荷を与え得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ３。

【２４０８５】

遊技機ＢＢＺ３によれば、遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２の奏する効果に加え、流下手段が往復変位可能に構成されており、遊技手段は、流下手段が一方向に変位する場合に流下手段を流下するか、流下手段が他方向に変位する場合に流下手段を流下するかによって、流下態様を変化させることができる。

【２４０８６】

遊技機ＢＢＺ３において、前記流下手段を流下する遊技球は、遊技球の流下方向に分岐が生じない非分岐位置と、遊技球の流下方向に分岐が生じ得る分岐位置と、のいずれかに配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ４。

【２４０８７】

遊技機ＢＢＺ４によれば、遊技機ＢＢＺ３の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を流下している間中において、遊技球が分岐位置に配置されている場合に比較して、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。

【２４０８８】

遊技機ＢＢＺ４において、前記分岐位置は、前記非分岐位置よりも視認性が高くなる側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ５。

【２４０８９】

遊技機ＢＢＺ５によれば、遊技機ＢＢＺ４の奏する効果に加え、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。

【２４０９０】

なお、視認性が高くなる側としては、種々の態様が例示される。例えば、遊技者に近い側（前側）であっても良いし、遊技領域を流下する遊技球に隠され難い位置側であっても良いし、ＬＥＤ等の発光演出が生じた場合に眩しくならない側であっても良い。

【２４０９１】

遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５において、前記分岐位置は、前記入球領域側の第１位置と、その第１位置よりも下流側の第２位置と、に配置され、前記第１位置と前記第２位置との間に前記非分岐位置が配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ６。

【２４０９２】

遊技機ＢＢＺ６によれば、遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５の奏する効果に加え、遊技球が流下手段上を流下する場合において、分岐位置に２回、間隔をあけて配置されることから、１個の遊技球が流下手段に案内される場合に遊技者の注目力を２回のタイミングで向上させることができる。これにより、遊技球への注目力を効率よく向上させることができる。

【２４０９３】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかにおいて、前記流下手段は、前記入球領域側の水平面に対する傾斜角度が、前記下流側領域側の水平面に対する傾斜角度よりも大きくされることを特徴とする遊技機ＢＢＺ７。
【２４０９４】
遊技機ＢＢＺ７によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかの奏する効果に加え、流下手段を流下する遊技球が、入球領域側でより加速され、下流側領域側における遊技球との間隔と短くすることができる。
【２４０９５】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記下流側領域よりも大きいことを特徴とする遊技機ＢＢＺ８。
【２４０９６】
遊技機ＢＢＺ８によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかの奏する効果に加え、入球領域に同時に複数の遊技球が入球し易くすることができ、それらの遊技球が下流側領域で密集する（連なる）状態が生じ易くなるようにすることができる。
【２４０９７】
遊技機ＢＢＺ８において、前記入球領域は複数箇所に分割配置可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ９。
【２４０９８】
遊技機ＢＢＺ９によれば、遊技機ＢＢＺ８の奏する効果に加え、遊技球の流下手段への入球箇所が複数用意されているので、流下手段への遊技球の入球頻度を高めることができる。
【２４０９９】
遊技機ＢＢＺ９において、遊技球が入球する前記入球領域の違いに対応して、前記流下手段に流下される遊技球の流下経路が異なることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１０。
【２４１００】
遊技機ＢＢＺ１０によれば、遊技機ＢＢＺ９の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を通過するまでの期間や、流下手段上の遊技球の配置等が、遊技球がいずれの入球領域に入球するかに対応して変化し得ることから、流下手段に入球した遊技球が、いずれの入球領域から入球したかについての遊技者の興味関心を高めることができ、入球領域への注目力を向上することができる。
【２４１０１】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかにおいて、前記流下手段を流下する遊技球が、前記下流側領域へ向けた流下経路から外れないようにするための流下経路制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１１。
【２４１０２】
遊技機ＢＢＺ１１によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、流下経路制限手段により、入球領域に入球した遊技球が確実に下流側領域に到達するように構成することができる。
【２４１０３】
＜入球領域から離れた位置で遊技球を受ける技術思想＞
遊技球を入球領域へ案内可能とする第１状態と、前記入球領域への遊技球の入球を制限する第２状態とで状態を切り替え可能とされる切替手段と、その切替手段へ向けて遊技球が流下可能な流下領域と、を備え、前記流下領域は、前記切替手段の前記入球領域から離れた側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＣ１。
【２４１０４】
パチンコ機等の遊技機において、賞球口へ遊技球を案内可能とする状態と賞球口への遊技球の入球を制限する状態とで切り替えられる可動役物への、遊技球の着地位置が、賞球口付近の下流側位置と、その下流側位置よりも上流側の上流側位置とで複数あり、下流側位置に着地するか上流側位置に着地するかに関わらず、遊技球が賞球口を通過可能に構成

される遊技機がある（例えば、特開２０１７－０２９５３１号公報を参照）。
【２４１０５】
しかし、上述した従来の遊技機では、上流側位置に着地した遊技球が賞球口に近接するタイミングで下流側位置に別の遊技球が着地して、複数の遊技球がかたまって賞球口を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりする可能性があるという問題点があった。換言すれば、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。
【２４１０６】
これに対し、遊技機ＢＣ１によれば、入球領域から離れた側において遊技球が切替手段に流下されるよう構成されているので（切替手段への遊技球の着地位置が制限されているので）、切替手段を流下する間に遊技球を整列させることができ、入球領域を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりすることを回避することができるので、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良を図ることができる。
【２４１０７】
遊技機ＢＣ１において、前記流下領域の外方における前記切替手段への流下を防止する防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ２。
【２４１０８】
遊技機ＢＣ２によれば、遊技機ＢＣ１の奏する効果に加え、防止手段によって、遊技球が流下領域の外方を通って切替手段へ到達することを防止することができる。
【２４１０９】
遊技機ＢＣ２において、前記切替手段は、遊技領域を構成する遊技盤前面よりも後側に少なくとも一部が配設されることを特徴とする遊技機ＢＣ３。
【２４１１０】
遊技機ＢＣ３によれば、遊技機ＢＣ２の奏する効果に加え、遊技球が切替手段に着地する位置を少なくとも遊技領域側（遊技盤前面）に登場させ、その他の少なくとも一部を遊技盤前面よりも後側に配設することで、切替手段上の遊技球の流下長さを遊技盤前面よりも後側に確保しながら、切替手段が遊技領域を侵食する長さを狭めることができる。これにより、他の構成を配置する領域を広く確保し、遊技領域の設計自由度を向上させることができる。
【２４１１１】
遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかにおいて、前記切替手段は、遊技球が転動可能な第１部と、その第１部よりも下流側に配置される第２部とを備え、前記流下領域から前記切替手段に着地する遊技球は、前記第１部に着地し易く構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ４。
【２４１１２】
遊技機ＢＣ４によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかの奏する効果に加え、切替手段上を長距離で転動させることで遊技球の跳ねを抑え流下を落ち着かせることができると共に、入球領域までの流下長さを確保でき、遊技球への注目力を向上させることができる。
【２４１１３】
遊技機ＢＣ４において、前記切替手段は、前記第１部と前記第２部との間に、前記第１状態および前記第２状態において遊技球を橋渡し可能な案内経路を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ５。
【２４１１４】
遊技機ＢＣ５によれば、遊技機ＢＣ４の奏する効果に加え、切替手段の第１部に着地した後の遊技球について、切替手段の状態に関係なく遊技球の転動を維持させる箇所としての案内経路が配設されることから、切替手段の状態切替と、遊技球の流下態様の変化とが一対一で対応する場合に比較して、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。

【２４１１５】
遊技機ＢＣ５において、前記案内経路における遊技球の流下長さが複数種類構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ６。
【２４１１６】
遊技機ＢＣ６によれば、遊技機ＢＣ５の奏する効果に加え、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。
【２４１１７】
なお、案内経路における遊技球の流下長さが変化する要因としては、種々の態様が例示される。例えば、切替手段への入球位置の違いで変化するよう構成されても良いし、切替手段への入球のタイミングと切替手段の状態が切り替えられるタイミングとの相対的な関係により変化するよう構成されても良い。
【２４１１８】
遊技機ＢＣ５又はＢＣ６において、前記切替手段は、前記案内経路よりも上流側における所定範囲に亘って、遊技球を案内経路側に接近するように移動させる接近手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ７。
【２４１１９】
遊技機ＢＣ７によれば、遊技機ＢＣ５又はＢＣ６の奏する効果に加え、接近手段により、案内経路に遊技球が乗るタイミングよりも事前に案内経路側に遊技球を寄せることができるので、案内経路への橋渡し部分における遊技球の滞留を回避することができる。
【２４１２０】
遊技機ＢＣ７において、前記接近手段は、前記切替手段の第１部または前記案内経路における遊技球の流下方向と直交する方向に遊技球を移動させる傾斜面であることを特徴とする遊技機ＢＣ８。
【２４１２１】
遊技機ＢＣ８によれば、遊技機ＢＣ７の奏する効果に加え、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下方向と、傾斜面の傾斜方向とが直交することから、傾斜面により遊技球に与えられる負荷が、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下速度を加速も減速もさせず、影響を最小限に抑えることができる。
【２４１２２】
遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかにおいて、前記第２部は、同時の複数個の遊技球の受入を制限するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ９。
【２４１２３】
遊技機ＢＣ９によれば、遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかの奏する効果に加え、第２部に想定以上の遊技球が入球する事態を回避し易くすることができる。
【２４１２４】
遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、前記切替手段は、前記流下領域側の端部側の所定区間に遊技球が着地してから、その遊技球が前記所定区間を通過するまでの間に状態が切り替えられた場合に、その遊技球が前記案内経路側に入球することを制限する入球制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１０。
【２４１２５】
遊技機ＢＣ１０によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、切替手段が微小時間での状態切替を実行した場合に、遊技球が案内経路側に誤って入球することを回避し易くすることができる。
【２４１２６】
遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかにおいて、前記切替手段は、下流側部において遊技球の流下速度を減速させる減速手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１１。
【２４１２７】
遊技機ＢＣ１１によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、切替手段の下流側において遊技球の流下態様を落ち着かせる（整流させる）ことができる。

【２４１２８】
＜複数個目の入球が、先の入球に影響されて検出手段を通過し易い＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通った遊技球が流下可能な第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域に遊技球が配置されていない状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第１の場合よりも、前記下流側領域に遊技球が配置されている状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第２の場合の方が、遊技球が前記第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１。
【２４１２９】
パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、その特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により後の遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。
【２４１３０】
しかし、上述した従来の遊技機では、開閉手段に遊技球が１個受け入れられた時点で特定入球口へ入球するものと考えられるので、遊技者が安心できてしまい、２個目以降の開閉手段への入球に注目させることが困難であるという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられる遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。
【２４１３１】
これに対し、遊技機ＢＤ１によれば、下流側領域に受け入れられた遊技球の内、複数個目に受け入れられた遊技球の方が、１個目に受け入れられた遊技球よりも、第２流下領域に受け入れられる可能性が高くなるよう構成されるので、下流側領域に流下した遊技球に対する注目力を持続させることができる。
【２４１３２】
遊技機ＢＤ１において、前記下流側領域に１球目で入球した遊技球よりも、２球目以降で入球した遊技球の方が、第２流下領域に入球し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ２。
【２４１３３】
遊技機ＢＤ２によれば、遊技機ＢＤ１の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を長い間維持することができる。
【２４１３４】
遊技機ＢＤ１又はＢＤ２において、前記下流側領域に遊技球が複数個同時に配置されている場合に、前記第２流下領域を遊技球が流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ３。
【２４１３５】
遊技機ＢＤ３によれば、遊技機ＢＤ１又はＢＤ２の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を、遊技球が下流側領域に配置されている間において維持することができる。また、遊技球の発射態様を遊技者に意識させることができる。
【２４１３６】
遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかにおいて、前記下流側領域に複数の遊技球が停留することで、第２流下領域に遊技球が受け入れられ易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ４。
【２４１３７】
遊技機ＢＤ４によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかの奏する効果に加え、下流

側領域における遊技球の配置態様に注目させることができる。
【２４１３８】
遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかにおいて、流下領域からの遊技球の流下経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段を備え、前記下流側領域は、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態へ切り替えられた直後において、前記第２流下領域側に遊技球が案内され難いように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ５。
【２４１３９】
遊技機ＢＤ５によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかの奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられた後における下流側領域に対する遊技者の注目力の維持期間を長くすることができる。
【２４１４０】
遊技機ＢＤ５において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から、前記下流側領域に所定期間に入球した遊技球よりも、前記所定期間経過後に入球した遊技球の方が、第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ６。
【２４１４１】
遊技機ＢＤ６によれば、遊技機ＢＤ５の奏する効果に加え、下流側領域に対する注目力を開閉手段が第１状態に切り替えられた時点から長く持続させることができる。
【２４１４２】
遊技機ＢＤ６において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から前記所定期間が経過した後においては、前記流下領域を流下した遊技球が前記第２流下領域を流下するまでの期間の変化を抑制可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ７。
【２４１４３】
遊技機ＢＤ７によれば、遊技機ＢＤ６の奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられ所定期間が経過した後における遊技球の流下態様（流下期間）を一定とすることで、下流側領域における注目力を下げ、遊技者をリラックスさせることができる。
【２４１４４】
遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかにおいて、前記流下領域に、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられてから数えて１個目で入球した遊技球を、前記第２流下領域側へ案内しないように構成される案内球選択手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ８。
【２４１４５】
遊技機ＢＤ８によれば、遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に遊技球を受け入れさせるために、開閉手段の第１状態において複数個の遊技球を入球させる必要が生じるので、開閉手段および開閉手段を通過する遊技球の個数に対する注目力を向上させることができる。
【２４１４６】
遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかにおいて、前記第２流下領域に受け入れられる遊技球の個数と、前記第２流下領域に受け入れられない遊技球の個数とを同等とするよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ９。
【２４１４７】
遊技機ＢＤ９によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に全球入球する場合のように、過度に多くの遊技球が受け入れられる場合が生じることで、遊技者に過度な期待を持たせることを回避することができる。
【２４１４８】
遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかにおいて、前記下流側領域が受入可能な遊技球の最大個数が設定され、その最大個数を超えた遊技球が前記第２流下領域に受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１０。
【２４１４９】
遊技機ＢＤ１０によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかの奏する効果に加え、下

流側領域および第２流下領域に対する注目力を向上させることができる。
【２４１５０】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかにおいて、通過した遊技球が前記第１流下領域側に流入し易い位置に、流下領域を配置可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ１１。
【２４１５１】
遊技機ＢＤ１１によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域に配置された遊技球が第１流下領域側に流入し易い状態が構成され易い。
【２４１５２】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかにおいて、前記下流側領域に配置された遊技球を前記下流側領域で留めるための滞留手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ１２。
【２４１５３】
遊技機ＢＤ１２によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを滞留手段により制限することができる。
【２４１５４】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかにおいて、前記第２流下領域は、前記第１流下領域よりも上側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＤ１３。
【２４１５５】
遊技機ＢＤ１３によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを、配置の高低差で防止することができる。
【２４１５６】
＜遊技球との当接、非当接の切り替え＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能な当接可能手段と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段を前記第１状態から前記第２状態に切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ１。
【２４１５７】
パチンコ機等の遊技機において、開閉部材により開閉される入球口に入球した遊技球の流下経路において複数の可動部材が配設され、可動部材からの負荷を受けて遊技球の流下経路が変化し得る遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。
【２４１５８】
しかし、上述した従来の遊技機では、可動部材は流下した遊技球と必ず当接し得るよう構成されているので、入球口に入球した遊技球の流下態様が変わり映えせず、遊技者を飽きさせる可能性が高く、遊技者の興趣を向上させる観点で改良の余地があるという問題点があった。
【２４１５９】
これに対し、遊技機ＢＥ１によれば、当接可能手段が、下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能とされるので、遊技球が当接可能手段に当接する場合と、当接可能手段に当接しない場合とで、遊技球の流下態様を大きく異ならせることができる。これにより、遊技球の流下態様のバリエーションを多くすることができ、遊技者の興趣を向上させる観点で改良することができる。
【２４１６０】
遊技機ＢＥ１において、前記当接可能手段に当接している遊技球を介して負荷を受けた遊技球が、前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ２

。
【２４１６１】
遊技機ＢＥ２によれば、遊技機ＢＥ１の奏する効果に加え、下流側領域における遊技球の流下態様に対する注目力を向上させることができる。
【２４１６２】
遊技機ＢＥ１又はＢＥ２において、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられた場合において、前記流下領域から前記下流側領域に流下した遊技球が前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ３。
【２４１６３】
遊技機ＢＥ３によれば、遊技機ＢＥ１又はＢＥ２の奏する効果に加え、開閉手段が開放されるタイミングで当接可能手段に遊技球が当接している場合に、開閉手段が開放された後で開閉手段を通過した遊技球が第２流下領域を流下し易くなることから、当接可能手段に対する注目力を向上させることができる。
【２４１６４】
＜遊技球の通過を止められる状態を経て第２遊技領域に遊技球が受け入れられる＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域の所定部における遊技球の通過が防止される状態から、前記第２流下領域に遊技球が流下可能な状態へ移行されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ１。
【２４１６５】
パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、その特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。
【２４１６６】
しかし、上述した従来の遊技機では、入球口と特定入球口との位置が、左右の違いがあるだけでほとんど変わらないので、遊技球が特定入球口に入球したかどうかを開閉手段越しには一目で把握させ難い。特定入球口へ遊技球が入球したことに起因して液晶装置に報知がされる場合には、液晶装置での表示の方が分かり易いので、遊技者の注目力が液晶装置に集中してしまうという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。
【２４１６７】
これに対し、遊技機ＢＥＺ１によれば、下流側領域の所定部において遊技球の通過が防止される状態を経て、第２流下領域に遊技球が流下するように構成されるので、第２流下領域への入球準備状態として下流側領域で停止している遊技球に遊技者の視線を集めることができ、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることができる。
【２４１６８】
遊技機ＢＥＺ１において、前記所定部は、前記第１流下領域に位置することを特徴とする遊技機ＢＥＺ２。
【２４１６９】
遊技機ＢＥＺ２によれば、遊技機ＢＥＺ１の奏する効果に加え、所定の利益の付与には影響しない領域としての第１流下領域への入球に対する注目力を向上させることができる

。
【２４１７０】
遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、所定の遊技球によって、遊技球の通過が防止されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ３。
【２４１７１】
遊技機ＢＥＺ３によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球が第２流下領域から逸れて流下した場合であっても、所定部を塞ぐかもしれないという期待感から、その遊技球に対する注目力を高い状態で維持することができる。
【２４１７２】
遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、遊技球とは異なる所定部材によって、遊技球の通過が防止され、前記所定部材の正面視における大きさは、遊技球の大きさよりも小さく設定されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ４。
【２４１７３】
遊技機ＢＥＺ４によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球の通過を防止する所定部材が、遊技球よりも目立たないようにすることができるので、遊技球に対する注目力を向上させることができる。
【２４１７４】
遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかにおいて、前記第１流下領域が遊技球で満たされた状態を経て、後追いで到達する遊技球が前記第２流下領域へ受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ５。
【２４１７５】
遊技機ＢＥＺ５によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の目線を第１流下領域に留める状態から、第２流下領域へ移行させることができるので、当初から第２流下領域に注目される場合に比較して、第２流下領域が視認される期間を長くすることができる。
【２４１７６】
更に、第２流下領域への入球時には、第１流下領域が遊技球で満たされることから、第２流下領域へ入球した遊技球を見失ったとしても、一目で第２流下領域へ入球可能な状態であると把握することができる。
【２４１７７】
遊技機ＢＥＺ５において、前記第１流下領域に遊技球を留める滞留状態と、前記第１流下領域から遊技球を排出する排出状態と、で切替可能とされる状態切替手段を備え、前記開閉手段の状態の切り替えに対応して、前記状態切替手段の状態が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＥＺ６。
【２４１７８】
遊技機ＢＥＺ６によれば、遊技機ＢＥＺ５の奏する効果に加え、開閉手段と状態切替手段との状態の切り替えを関連付けることができるので、いずれか一方を視認することで、他方の状態を予測し易くすることができる。
【２４１７９】
遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６において、前記第１流下領域に受け入れ可能な遊技球の上限個数が設定されていることを特徴とする遊技機ＢＥＺ７。
【２４１８０】
遊技機ＢＥＺ７によれば、遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６の奏する効果に加え、第１流下領域に配置されている遊技球の個数を確認することで、あと何球の遊技球を流下領域に通過させれば第２流下領域に遊技球が受け入れられるかの予測を立て易くすることができる。
【２４１８１】
遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかにおいて、変位可能に構成される変位手段を備え、その変位手段は、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出可能な排出可能状態と、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出不能な排出不能状態とで状態を切り替えるよう

に変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ８。
【２４１８２】
遊技機ＢＥＺ８によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域への遊技球の受入の前提として遊技者の注目力の高い下流側領域へ遊技球が排出されるか否かが、変位手段の状態により変化するように構成されることから、下流側領域および変位手段に対する注目力を向上させることができる。
【２４１８３】
即ち、流下領域を通過した遊技球が下流側領域に確実に流下する場合には、遊技球が流下領域を通過する個数を把握すれば第２流下領域に遊技球が流下するタイミングを経験から予測することができるので、下流側領域にまでは視線をやらずに遊技をしても不利益は大きくない可能性があった。
【２４１８４】
これに対し、変位手段の状態次第で下流側領域への遊技球の流下の有無が切り替えられる状況下では、流下領域を通過する遊技球の個数と、下流側領域に流下する遊技球の個数にずれが生じることから、下流側領域にも視線を向ける必要がある。これにより、下流側領域に対する注目力を向上させることができる。
【２４１８５】
遊技機ＢＥＺ８において、前記変位手段は、受け入れた遊技球の流下速度を、流下領域を流下する遊技球の流下速度に比較して減速可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ９。
【２４１８６】
遊技機ＢＥＺ９によれば、遊技機ＢＥＺ８の奏する効果に加え、変位手段に受け入れられた遊技球の流下速度を落とすことができるので、変位手段に受け入れられた遊技球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができる。
【２４１８７】
遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９において、前記変位手段は、遊技球を所定数まで受け入れ可能な球受部を備え、前記変位手段の変位により前記球受部に受け入れられた遊技球が変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ１０。
【２４１８８】
遊技機ＢＥＺ１０によれば、遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９の奏する効果に加え、変位手段の変位に伴い変位する遊技球の個数を、球受部に対して所定数までに制限することができるので、変位手段の変位速度を所定の範囲に設定することで、所定期間において変位手段から下流側領域に排出され得る遊技球の個数を所定の範囲に抑えることができる。
【２４１８９】
＜エンディングにおいて終了時点を知らせる報知手段＞
遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ１。
【２４１９０】
パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了したら特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技の終了時点が分かり難く、特図変動遊技が可能な状態に切り替わった直後に特別図柄の抽選を開始させたいという遊技者にとって、不満の元となっていた。
【２４１９１】
例えば、一般的な遊技進行として、特別図柄１の抽選で大当たりとなった後で、大当たり遊技終了後に特別図柄１よりも有利な特別図柄２の抽選を獲得容易な状態に移行する振分けが存在する遊技機があるが、このような遊技機では、大当たり遊技終了直後は特別図柄２の抽選が未獲得な状態で始まるので、特別図柄１の抽選が保留されていると、大当たり遊技終了後に特別図柄１の抽選が実行されてしまい、万が一その抽選で大当たりを獲得

すると、遊技者に不利益が生じる可能性があった。
【２４１９２】
この事態を回避するため、大当たり終了後の特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に、大当たり終了後になるべく間隔を空けずに特別図柄２の抽選を獲得することが好ましいので、特別図柄２の抽選を獲得できる状態になるや否や遊技球の発射を開始することが望まれる。
【２４１９３】
一方で、特別図柄２の抽選を獲得するために入球口は電動役物により開閉される場合が一般的であるが、その電動役物は大当たり遊技中には閉鎖状態で維持されており、大当たり遊技終了後に開放可能な状態となる。そのため、電動役物が開放される前に遊技球を発射しても、その多くは無駄球となり易い。
【２４１９４】
このような事情から、大当たり遊技中に電動役物側へ遊技球を発射しても電動役物が閉鎖状態を維持しており特別図柄２の抽選を獲得できないので遊技球の発射は避けたいが、それにも増して特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に特別図柄２の抽選を獲得するために大当たり遊技が終了するや否や開放された電動役物の下流側にある入球口に遊技球を打ち込みたいと遊技者は思うと考えられる。
【２４１９５】
これに対し、従来の遊技機では、いつ大当たり遊技が終了するのかが分かり難く、遊技球を発射させるタイミングを図りがたいという問題点があった。
【２４１９６】
これに対し、遊技機ＢＧ１によれば、所定の演出の終了時点を遊技者が把握可能に報知する報知手段を備えるようにしたので、その報知手段の報知を目安として遊技球を発射させるタイミングを図り易くすることができる。
【２４１９７】
遊技機ＢＧ１において、前記所定の演出は、第１演出またはその第１演出とは報知の内容が異なる第２演出の少なくとも一方が実行され、報知の組み合わせによって前記継続期間が変化可能とされ、前記報知手段は、前記所定の演出の前記継続期間の違いを遊技者に伝達可能に構成され、所定の演出の終了時点を示す終了手段と、現時点から前記終了時点までに経過する時間を示す時間報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ２。
【２４１９８】
遊技機ＢＧ２によれば、遊技機ＢＧ１の奏する効果に加え、所定の演出の継続期間が複数種類用意されている場合においても、現在行われている所定の演出の継続期間と、その終了時点とを把握することができる。
【２４１９９】
遊技機ＢＧ２において、前記時間報知手段は、現時点から前記所定の演出の終了時点までに経過する時間と、所定の時間差を設けた疑似時間を示す疑似時間報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ３。
【２４２００】
遊技機ＢＧ３によれば、遊技機ＢＧ２の奏する効果に加え、疑似時間報知手段により、所定の演出の終了時点よりも前の好ましいタイミングを遊技者に報知することができる。これにより、例えば、遊技球が発射されてから所定の入球口に到達するまでに経過し得る時間を所定の演出の実行中に消化することができ、所定の演出の終了直後に所定の入球口に遊技球を流入させるという遊技を実現させ易くすることができる。
【２４２０１】
遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかにおいて、前記所定の演出は、少なくとも所定の特典遊技の終了直前に実行可能とされるものであり、前記特典遊技の種別に対応して、実行の態様が変化されることを特徴とする遊技機ＢＧ４。
【２４２０２】
遊技機ＢＧ４によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかの奏する効果に加え、特典

遊技の種別と、所定の演出とを対応付けることができる。
【２４２０３】
遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかにおいて、前記報知手段は、前記所定の演出期間の終了時の所定期間前の時点を報知することを特徴とする遊技機ＢＧ５。
【２４２０４】
遊技機ＢＧ５によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかの奏する効果に加え、報知手段により所定演出期間の終了時を前もって把握させることができる。
【２４２０５】
なお、所定の演出期間のタイミングは、何ら限定されるものではなく種々の態様が例示される。例えば、所定の特定遊技中でも良いし、図柄変動中でも良いし、図柄変動待機中でも良い。
【２４２０６】
遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時に、表示手段の表示領域に遊技者を冷静にさせるための所定の静止画または動画が表示されることを特徴とする遊技機ＢＧ６。
【２４２０７】
遊技機ＢＧ６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の遊技に対するのめり込みを効果的に抑制することができる。
【２４２０８】
遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時の後において、表示手段の表示が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＧ７。
【２４２０９】
遊技機ＢＧ７によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかの奏する効果に加え、表示が切り替えられることにより所定の演出の終了時を過ぎたことを遊技者に把握させ易くすることができる。
【２４２１０】
遊技機ＢＧ７において、前記所定の演出の終了時の後において、前記所定の演出から継続して特定の演出を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ８。
【２４２１１】
遊技機ＢＧ８によれば、遊技機ＢＧ７の奏する効果に加え、所定の演出の終了時の後において新規で演出を実行する場合に比較して、所定の演出の実行中から特定の演出を実行することができるので、演出時間を長く確保することができる。
【２４２１２】
遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかにおいて、前記所定の演出は、表示手段の表示領域の少なくとも一部において視認可能に実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ９。
【２４２１３】
遊技機ＢＧ９によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかの奏する効果に加え、表示手段の表示領域を視認すれば所定の演出を確認することができるので、表示手段の表示領域外（例えば、遊技領域の外方等）で所定の演出が実行される場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【２４２１４】
遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、表示手段の表示領域における表示の、所定のタイミングにおける態様が異なる場合を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ１０。
【２４２１５】
遊技機ＢＧ１０によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、所定のタイミングにおける態様に対する注目力を向上させることができる。
【２４２１６】
なお、所定のタイミングにおける異なる態様については、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定のタイミングで動作開始する場合と、所定のタイミングで停止維持される場合とで異なる場合や、所定のタイミングで操作可能となる場

合と、所定のタイミングで操作不能とされる場合とで異なる場合等が例示される。
【２４２１７】
遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、前記所定の演出の終了時よりも前において、終了時であるように錯覚させる錯覚演出を実行させることを特徴とする遊技機ＢＧ１１。
【２４２１８】
遊技機ＢＧ１１によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、錯覚演出ごとに遊技者の集中力を高めることができる。
【２４２１９】
遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時から、所定の条件が満たされるまで表示手段の表示領域において遊技球の発射により所定の利益を獲得可能であることを示唆する示唆表示がされることを特徴とする遊技機ＢＧ１２。
【２４２２０】
遊技機ＢＧ１２によれば、遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかの奏する効果に加え、表示領域を視認する遊技者に対して、示唆表示により遊技球の発射に適したタイミングを知らせることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４２２１】
なお、所定の条件の態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定期間が経過することでも良いし、所定の入球口を所定個数の遊技球が通過したことや、その通過を検出したことでも良い。
【２４２２２】
遊技機ＢＧ１２において、前記示唆表示は、所定の入球口またはその所定の入球口を開閉する電動役物の開閉の抽選を実行する開閉抽選入球口を狙うことを示唆する表示であることを特徴とする遊技機ＢＧ１３。
【２４２２３】
遊技機ＢＧ１３によれば、遊技機ＢＧ１２の奏する効果に加え、示唆表示により、発射した遊技球の狙いが明確にされるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４２２４】
遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３において、前記所定の演出において、所定の発射可能タイミングまで継続される表示が構成され、前記所定の発射タイミングを過ぎても発射がされない場合または所定の検出口で遊技球が検出されない場合、そのいずれかがされるまで所定の報知が継続されることを特徴とする遊技機ＢＧ１４。
【２４２２５】
遊技機ＢＧ１４によれば、遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３の奏する効果に加え、所定の報知が継続されていることを確認すれば、所定の発射タイミングを過ぎてから、遊技球の発射がされていないか、所定の検出口で遊技球が検出されていないかのいずれかであることを、遊技者に把握させることができる。
【２４２２６】
遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかにおいて、前記所定の演出中に所定個数の入球または前記所定個数以上の入球を検出した場合に、所定の報知をすることを特徴とする遊技機ＢＧ１５。
【２４２２７】
遊技機ＢＧ１５によれば、遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかの奏する効果に加え、所定の報知により、所定の演出中に所定個数以上に入球が生じていることを遊技者に知らせることができるので、それをヒントに遊技者は遊技球の発射強度の調整等を行うことができ、遊技負担を軽減させることができる。
【２４２２８】
なお、所定の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定の四字熟語が表示されるものでも良いし、遊技球の発射を躊躇させるための表示がされるものでも良いし、所定の発光手段を発光させるものでも良いし、所定の音声を出力するものでも良い。

【２４２２９】
遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかにおいて、前記所定の演出は、遊技者により行われる音量の設定に関わらず所定の音量で実行されるか、又は、遊技者により行われる発光強度の設定に関わらず所定の発光強度や所定の発光色で実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ１６。
【２４２３０】
遊技機ＢＧ１６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の設定により、音や光に遊技者が気づかない事態が発生することを防止することができる。
【２４２３１】
＜エンディングにおいて音量光量の変更期間を設定する＞
遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に、遊技に関わる所定の設定を変更可能な変更可能状態を構成可能な変更手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＨ１。
【２４２３２】
パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良の余地があるという問題点があった。
【２４２３３】
これに対し、遊技機ＢＨ１によれば、所定の演出中に、変更可能状態を構成可能とされているので、所定の演出中における暇な時間を、所定の設定を変更させる時間に当てることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良することができる。
【２４２３４】
遊技機ＢＨ１において、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段を備え、前記変更可能状態において、前記報知手段による演出が継続されることを特徴とする遊技機ＢＨ２。
【２４２３５】
遊技機ＢＨ２によれば、遊技機ＢＨ１の奏する効果に加え、所定の設定を変更させた後で、ハンドルを再び握ることが好ましいタイミングを遊技者に知らせることができる。これにより、適切なタイミングで遊技球を発射しないことによる不利益を遊技者が受けることを避け易くすることができる。
【２４２３６】
遊技機ＢＨ１又はＢＨ２において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定が切り替え可能な状態を構成可能であることを特徴とする遊技機ＢＨ３。
【２４２３７】
遊技機ＢＨ３によれば、遊技機ＢＨ１又はＢＨ２の奏する効果に加え、変更可能な所定の設定が複数あることで、遊技者が暇となる時間が長い場合であっても、遊技者が手持無沙汰となることを避け易くすることができる。
【２４２３８】
遊技機ＢＨ３において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定または変更中の前記所定の設定が表示手段により表示されることを特徴とする遊技機ＢＨ４。
【２４２３９】
遊技機ＢＨ４によれば、遊技機ＢＨ３の奏する効果に加え、遊技に関わる所定の設定の内の、変更される対象を表示により明確とすることができる。これにより、遊技者の遊技

負担を低減することができる。
【２４２４０】
遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかにおいて、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域が変化することを特徴とする遊技機ＢＨ５。
【２４２４１】
遊技機ＢＨ５によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が行った所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域を変化させることで、遊技者が興味を持つと考えられる表示を遊技者の視線の先に配置させることができる。これにより、遊技者に視線を動かす煩わしさを感じさせることなく、遊技に集中させることができる。
【２４２４２】
遊技機ＢＨ５において、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示手段の表示領域の一部が視認不能とされる状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＨ６。
【２４２４３】
遊技機ＢＨ６によれば、遊技機ＢＨ５の奏する効果に加え、所定の操作により表示手段の表示領域の一部が視認不能となることから、視認不能となる可能性がある表示を視認できる状態で維持したいと考える遊技者に対して、所定の操作を行うか否かを考えさせることができる。これにより、遊技者がむやみに所定の操作を行う事態を回避し易くすることができる。
【２４２４４】
遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかにおいて、前記変更可能状態で前記所定の設定を変更した場合に、その変更が所定条件で戻される、又は前記変更が所定条件で無効化されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＨ７。
【２４２４５】
遊技機ＢＨ７によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかの奏する効果に加え、所定条件の成立により所定の設定が戻される、又は無効化されるので、違和感から、所定条件が成立したことを遊技者に把握させることができる。
【２４２４６】
なお、所定条件としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、大当たり遊技が開始されることでも良いし、大当たり遊技が所定回数継続されることでも良いし、所定期間に所定個数以上の遊技球を所定の検出手段で検出することでも良いし、所定のタイミングで所定の操作手段を操作することでも良い。
【２４２４７】
遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行するために操作した所定の操作手段の操作により達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ８。
【２４２４８】
遊技機ＢＨ８によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作をすることで所定の設定の変更を戻す、又は無効化することができるので、所定の設定の変更を戻す、又は無効化することを意図的に行うことを容易にすることができる。
【２４２４９】
遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行したタイミングによらず、所定のタイミングで達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ９。
【２４２５０】
遊技機ＢＨ９によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定条件が所定のタイミングで達成されるので、所定条件がいつまでたっても達成されないという事態を回避することができる。
【２４２５１】
なお、所定のタイミングは、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。

例えば、特図変動が所定回数実行された場合でも良いし、所定の内容の報知がされた場合でも良いし、正午など所定の時刻とされても良い。

【２４２５２】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、所定の状態が所定時間経過することにより達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ１０。

【２４２５３】

遊技機ＢＨ１０によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻ること、又は無効化されることにより、所定の状態が所定時間経過したことを遊技者に把握させることができる。

【２４２５４】

なお、所定の状態については何ら限定されるものではない。例えば、大当たり遊技が連荘した場合において獲得した大当たりの大当たり種別が同じ（又は所定のラウンド数以上や以下）で繰り返されることでも良いし、操作手段の操作がされないことでも良いし、特図変動が実行されないことでも良い。

【２４２５５】

遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかにおいて、前記所定の設定に予め所定の目標量を設定可能とされ、前記変更可能状態において、前記所定の設定と前記目標量との差分を把握可能とする差分報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＨ１１。

【２４２５６】

遊技機ＢＨ１１によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかの奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻された、又は無効となった場合であっても、遊技を行う遊技者が同じであれば、差分報知手段により目標量との差分を把握しながら所定の設定を変更することで、所定の設定を戻される前、又は無効とされる前の状態に容易に戻すことができる。

【２４２５７】

これにより、遊技を行う遊技者が交代した場合に、所定の設定が前の遊技者の設定のままで維持されることで後の遊技者に与える遊技負担を考慮して所定の設定の変更が戻される、又は無効化されるよう遊技機が制御されている場合においても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができることから、遊技を行う遊技者が交代していないにも関わらず意図せず所定の設定が戻された、又は無効化されたとしても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができるので、遊技者に与える遊技負担を軽減することができる。

【２４２５８】

＜同一の表示を状況によって表示態様変更＞

遊技に関する所定の表示演出を実行可能な演出実行手段を備え、前記所定の表示演出の実行中に前記所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ１。

【２４２５９】

パチンコ機等の遊技機において、表示装置の正面側に配置される可動役物と、表示装置の表示とを組み合わせて一体的な形状を視認させることができる遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動役物の配置位置、大きさ及び形状に合わせて、表示の配置位置、大きさ及び形状を決める必要があるので、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良の余地があるという問題点があった。

【２４２６０】

これに対し、遊技機ＢＩ１によれば、所定の表示演出の実行中に、所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されるので、可動役物の形状の影響を受けることなく、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良することができる。

【２４２６１】

遊技機ＢＩ１において、前記所定の表示演出は、表示領域の中央側に表示される場合よりも、表示領域の端側に表示される場合の方が、識別性が低下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ２。

【２４２６２】
遊技機ＢＩ２によれば、遊技機ＢＩ１の奏する効果に加え、表示領域のどの位置に表示されるかによって、所定の表示演出に対する注目力の調整を行うことができる。
【２４２６３】
なお、識別性を低下させる態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、半透明で表示するようにしても良いし、表示の大きさを小さくするようにしても良い。
【２４２６４】
遊技機ＢＩ１又はＢＩ２において、前記変更は、所定の操作手段が操作されることにより実行されることを特徴とする遊技機ＢＩ３。
【２４２６５】
遊技機ＢＩ３によれば、遊技機ＢＩ１又はＢＩ２の奏する効果に加え、所定の表示演出の表示態様の変更を実行するか否かを、遊技者に選択させることができる。これにより、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。
【２４２６６】
＜ボタン操作絡み＞
遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に所定の操作手段が操作されることにより、前記所定の演出を第１の状態から第２の状態に切り替え可能に構成される演出切替手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１。
【２４２６７】
パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。
【２４２６８】
これに対し、遊技機ＢＩＺ１によれば、所定の演出中に、所定の操作手段を操作することで実行される演出を切り替え可能とされるので、所定の演出中における暇な時間を、所定の操作手段を操作する時間に当てることができる。操作手段を操作することにより演出が切替可能とされるので、遊技者の操作手段の操作意欲を効果的に高めることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。
【２４２６９】
遊技機ＢＩＺ１において、前記所定の操作手段を操作可能であることを報知可能な操作報知手段を備え、前記操作報知手段の報知に従い前記所定の操作手段を操作することで、前記所定の演出の態様が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＩＺ２。
【２４２７０】
遊技機ＢＩＺ２によれば、遊技機ＢＩＺ１の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が操作報知手段により補助されることから、不慣れな遊技者であっても迷うことなく所定の操作手段を操作することができる。
【２４２７１】
遊技機ＢＩＺ２において、前記操作報知手段からの報知は、前記所定の演出の継続期間の一部の時間において実行されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ３。
【２４２７２】
遊技機ＢＩＺ３によれば、遊技機ＢＩＺ２の奏する効果に加え、操作報知手段からの報知が所定の演出の継続時間の一部の時間で実行されるので、その他の時間においては所定の演出を視認させる余裕を持たせることができる。
【２４２７３】
なお、操作報知手段からの報知のタイミングは何ら限定されるものではなく、種々の態

様が例示される。例えば、所定の演出の途中から操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の途中まで操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良い。また、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行される場合において、その報知の実行中に亘って操作が有効となっても良いし、操作が無効となる時間を含むようにしても良い。

【２４２７４】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかにおいて、前記所定の演出の後半の所定期間において、前記所定の操作手段の操作により演出が切り替えられないよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ４。

【２４２７５】

遊技機ＢＩＺ４によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかの奏する効果に加え、所定の演出の後半の所定期間における所定の操作手段の操作を無効とすることで、後半の所定期間における所定の演出に注目させることができる。

【２４２７６】

遊技機ＢＩＺ４において、前記所定の演出の後半の前記所定期間において、表示手段の表示領域における前記操作報知手段の表示を非表示とすることを特徴とする遊技機ＢＩＺ５。

【２４２７７】

遊技機ＢＩＺ５によれば、遊技機ＢＩＺ４の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が無効となる期間に入ったことを、表示手段の表示領域を視認することで把握することができる。

【２４２７８】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作により切り替えられる演出が複数種類用意されている場合において、前記所定の操作手段の操作により実行される演出を予測させるための付属報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ６。

【２４２７９】

遊技機ＢＩＺ６によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかの奏する効果に加え、付属報知手段により所定の操作手段の操作により実行される演出が予測できるので、所定の操作手段を操作したにも関わらず予想外の演出に切り替えられたという残念感や徒労感を低減することができ、遊技者は好みの演出に切り替えられる時にのみ所定の操作手段を操作すれば良いので、繰り返し所定の操作手段を操作する煩わしさを解消することができる。

【２４２８０】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作は、前記所定の演出の途中から可能となることを特徴とする遊技機ＢＩＺ７。

【２４２８１】

遊技機ＢＩＺ７によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかの奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が可能となるまでの間は、所定の演出に注目させることができる。

【２４２８２】

遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７において、前記付属報知手段は、特定の操作タイミングを示唆するための表示を備えており、前記特定の操作タイミングは、前記所定の演出の終了時点までに所定の調整期間を確保可能なタイミングとして設定されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ８。

【２４２８３】

遊技機ＢＩＺ８によれば、遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７の奏する効果に加え、調整期間の長さ次第で特定の操作タイミングが変化し得るので、特定の操作タイミングから、所定の操作手段を操作した後の演出の展開を予想させることができる。

【２４２８４】
遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかにおいて、前記所定の操作手段を操作したことで切り替えられた演出の態様は、所定の条件で、切り替えられる前の態様に戻されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ９。
【２４２８５】
遊技機ＢＩＺ９によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかの奏する効果に加え、所定の条件で演出の態様が切り替えられる前の状態に戻されるので、再び所定の操作手段を操作させることができる。これにより、所定の操作手段の操作回数を多くすることができ、遊技者が遊技に参加している雰囲気を高めることができる。
【２４２８６】
遊技機ＢＩＺ２から遊技機ＢＩＺ９のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、同時に操作される前記所定の操作手段の個数が異なる複数種類の態様が設けられていることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１０。
【２４２８７】
遊技機ＢＩＺ１０によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ９のいずれかの奏する効果に加え、同時に操作される所定の操作手段の個数が１個の場合と、２個以上となる場合とが設けられることになるので、敢えて２個の所定の操作手段を操作させるようにすることで、遊技球を発射する必要のないタイミングでの暇を紛らわせて遊技に熱中させることができる。この場合、遊技者の手を球発射用のハンドルから離させることができるので、遊技球の誤発射を抑制でき、発射した遊技球が無駄になることによる不要な不利益の発生を回避することができる。
【２４２８８】
遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となった場合に実行される報知を含むことを特徴とする遊技機ＢＩＺ１１。
【２４２８９】
遊技機ＢＩＺ１１によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、操作報知手段からの報知を視認させることで、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となったことを遊技者に把握させることができる。
＜振分部材Ｃ１７０～Ｃ３１７０を一例とする発明の概念について＞
球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記第１の球が第１の通路へ案内され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、前記変位部材は、前記球の重量が作用されていない状態では、前記所定位置に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１。
【２４２９０】
ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしながら、上述した従来の技術では、到達した遊技球の状態に関わらず、到達した順番に第１の通路と第２の通路へ交互に振り分けるのみであるので、かかる振り分け動作を遊技者に着目させることができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【２４２９１】
これに対し、遊技機ＣＡ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、第１の球が第１の通路へ案内され、変位部材が第１の球の重量で変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、変位部材は、球の重量が作用されていない状態では、所定位置に配置されるので、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第１の球の重量で所定位置から変位されている変位部

材により第２の球を第２の通路へ案内することができる一方、第１の球に第２の球が所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第２の球が到達する前に変位部材が所定位置へ配置されることで、第２の球も第１の通路へ案内することができる。このように、球の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔）に応じて案内する通路を変化させられるので、球の状態を遊技者に着目させて、遊技の興趣を向上することができる。

【２４２９２】

なお、第１の球の後続となる第２の球とは、第１の球に対して所定量よりも小さい間隔を隔てて後行する球を意味する。よって、第２の球は第１の球に当接した状態で転動や流下するものであっても良い。

【２４２９３】

遊技機ＣＡ１において、前記変位部材の前記所定位置への変位は、前記変位部材の重量により行われることを特徴とする遊技機ＣＡ２。

【２４２９４】

遊技機ＣＡ２によれば、遊技機ＣＡ１の奏する効果に加え、変位部材の前記所定位置への変位は、変位部材の重量により行われるので、付勢ばねを利用する場合と比較して、構造を簡素化できる。また、付勢ばねを利用する場合と比較して、変位部材への変位を低速とできるので、第２の球を第２の通路へ案内する前に変位部材が所定位置へ配置されることを抑制できる。更に、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を付与できる。

【２４２９５】

遊技機ＣＡ２において、前記変位部材は、前記球を前記第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され前記本体部を前記所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、前記錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされることを特徴とする遊技機ＣＡ３。

【２４２９６】

遊技機ＣＡ３によれば、遊技機ＣＡ２の奏する効果に加え、球を第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され本体部を所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされるので、錘部の位置（状態）に基づいて、球が案内される方向を遊技者に認識させることができる。また、本体部を変位させるための錘としての役割と球の案内方向を認識させる部位としての役割とを錘部に兼用させることができ、その分、製品コストを低減できる。

【２４２９７】

遊技機ＣＡ１からＣＡ３において、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ４。

【２４２９８】

遊技機ＣＡ４によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ３のいずれかにおいて、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面を備えるので、第１の球が第１面を転動している間、その球の重量を変位部材に作用させることができる。よって、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態（即ち、第２の球を第２の通路へ案内可能な状態）を維持しやすくできる。

【２４２９９】

遊技機ＣＡ４において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ５。

【２４３００】

遊技機ＣＡ５によれば、遊技機ＣＡ４の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向

けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【２４３０１】

遊技機ＣＡ４又はＣＡ５において、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ６。

【２４３０２】

遊技機ＣＡ６によれば、遊技機ＣＡ４又はＣＡ５の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【２４３０３】

遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面は、前記軸から離間する方向へ延設されることを特徴とする遊技機ＣＡ７。

【２４３０４】

遊技機ＣＡ７によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面は、軸から離間する方向へ延設されるので、第１の球が第１の通路へ向けて転動するに従って、その第１の球の重量を変位部材に効果的に作用させることができる。よって、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【２４３０５】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ８。

【２４３０６】

遊技機ＣＡ８によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【２４３０７】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸に対して同じ側に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ９。

【２４３０８】

遊技機ＣＡ９によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸に対して同じ側に配置されるので、第１の球が第１面から排出されたとしても、第２の球の重量を利用して、変位部材の姿勢を、第２の球を第２の通路へ案内するための姿勢とすることができる。その結果、第１面の長さを短くすることができ、その分、変

位部材の配置の自由度を高めることができる。
【２４３０９】
遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させることを特徴とする遊技機ＣＡ１０。
【２４３１０】
遊技機ＣＡ１０によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第１面へ向けて第１の球が転動する上流面を備え、第１面は、上流面から転動された第１の球の転動方向を反転させるので、その反転に要する時間の分、第１の球が第１面に滞留する時間を確保できる。よって、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。更に、第１面の長さを短くすることができ、その分、変位部材の配置の自由度を高めることができる。
【２４３１１】
遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記軸は、前記上流面を前記球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１１。
【２４３１２】
遊技機ＣＡ１１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、軸は、上流面を球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されるので、ベース部材に変位部材が配設されたユニットの小型化を図ることができる。特に、上流面を球が転動する方向を遊技機の幅方向に沿わせてベース部材を配設することで、遊技機の幅方向を有効活用して、変位部材を配設するスペースを確保しやすくできる。
【２４３１３】
遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材を備え、そのベース部材に前記変位部材がスライド変位可能に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１２。
【２４３１４】
遊技機ＣＡ１２によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材に変位部材がスライド変位可能に配設されるので、例えば、変位部材が回転可能にベース部材に軸支される場合と比較して、変位部材を小型化でき、その分、ベース部材における他の部材の配設スペースを確保できる。
【２４３１５】
遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態で前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態では、前記上流面の下流端よりも前記第２面の上流端が鉛直方向下方に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１３。
【２４３１６】
ここで、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位されると、その変位された際の衝撃で変位部材が跳ね上がることがあり、この変位部材の跳ね上がりにより、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方に位置すると、第２の球を上流面から第２面へ転動させることができなくなる虞がある。特に、跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突すると、その衝撃で変位部材が更に跳ね上げられ（第２の球で変位部材が押し上げられ）、第１の球が転動するべき通路（第１面）へ第２の球が流入する虞がある。

【２４３１７】
　これに対し、遊技機ＣＡ１３によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態では、上流面の下流端よりも第２面の上流端が鉛直方向下方に位置するので、その分、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返った場合に、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方へ位置することを抑制できる。よって、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。
【２４３１８】
　遊技機ＣＡ１３において、前記第２面の上流端は、前記上流面へ向けて下降傾斜されることを特徴とする遊技機ＣＡ１４。
【２４３１９】
　遊技機ＣＡ１４によれば、遊技機ＣＡ１３の奏する効果に加え、第２面の上流端は、上流面へ向けて下降傾斜されるので、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返り（跳ね上がり）、その跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突した際に、第２の球から変位部材へ作用する力を、変位部材を押し下げる方向の力として作用させることができる。その結果、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。
【２４３２０】
　遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させ、前記変位部材が第１の球の重量で前記所定位置から変位される際には、前記第１面の反転する位置にある前記第１の球の前記上流面側の変位軌跡よりも前記変位部材の前記上流面側の変位軌跡が前記上流面から離間された位置とされることを特徴とする遊技機ＣＡ１５。
【２４３２１】
　遊技機ＣＡ１５によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される際には、第１面の反転する位置にある第１の球の上流面側の変位軌跡よりも変位部材の上流面側の変位軌跡が上流面から離間された位置とされるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのけることができる。
【２４３２２】
　遊技機ＣＡ１５において、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記所定位置から所定以上の変位がされるまでは、前記第１面の転動方向を反転させる位置に前記第１の球を留めることを特徴とする遊技機ＣＡ１６。
【２４３２３】
　遊技機ＣＡ１６によれば、遊技機ＣＡ１５の奏する効果に加え、変位部材は、第１の球の重量で所定位置から所定以上の変位がされるまでは、第１面の転動方向を反転させる位置に第１の球を留めるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことをより確実に抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのける動作をより確実に実行できる。
【２４３２４】
　遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかにおいて、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、前記流出部が前記通過経路において前記変位部材よりも上流側に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１７。
【２４３２５】

遊技機ＣＡ１７によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかの奏する効果に加え、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、流出部が通過経路において変位部材よりも上流側に位置するので、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせ、これら第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連なった状態で変位部材に到達させやすくできる。即ち、流入部から流入される際の第１の球と第２の球との間隔が所定量よりも大きな間隔であっても、往復面を往復変位されることで、これら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせる（間隔を所定量以下とする）ことができる。

【２４３２６】

遊技機ＣＡ１７において、前記往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されることを特徴とする遊技機ＣＡ１８。

【２４３２７】

遊技機ＣＡ１８によれば、遊技機ＣＡ１７の奏する効果に加え、往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されるので、流入部から往復面へ流入され往復面を往復変位される第１の球と第２の球とがすれ違うことを抑制できる。よって、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【２４３２８】

遊技機ＣＡ１８において、前記往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、前記流出部は、前記往復面の最下方に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１９。

【２４３２９】

遊技機ＣＡ１９によれば、遊技機ＣＡ１８の奏する効果に加え、往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、流出部は、往復面の最下方に配置されるので、往復面を往復変位される慣性が弱まった状態で第１の球と第２の球とを流出部から流出させることができる。即ち、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせた状態を維持して流出させやすくできる。

【２４３３０】

遊技機ＣＡ１９において、前記往復面は、上面視直線状に形成されることを特徴とする遊技機ＣＡ２０。

【２４３３１】

遊技機ＣＡ２０によれば、遊技機ＣＡ１９の奏する効果に加え、往復面は、上面視直線状に形成されるので、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【２４３３２】

遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかにおいて、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２１。

【２４３３３】

遊技機ＣＡ２１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかの奏する効果に加え、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えるので、かかる吸着部材により球の通過経路を形成して、遊技の興趣を向上できる。即ち、吸着部材の下降傾斜した下面に球を吸着させると、球を自重により摺動させ吸着部材の下面に沿って変位させることができる。この場合、球の状態（球に作用される慣性力と吸着力との関係）によって、吸着部材の下面から球が落下する可能性（即ち、通過経路（吸着部材の下面）の終端まで球が到達できない可能性）を持たせた不安定な状態とできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４３３４】

遊技機ＣＡ２１において、前記吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２

２。
【２４３３５】
遊技機ＣＡ２２によれば、遊技機ＣＡ２１の奏する効果に加え、吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えるので、球が摺動する面を下面形成部材の下面により形成する構造とすることで、吸着力の調整と摩擦力の適正化を容易として、球の通過経路を簡素な構造で確実に形成できる。
【２４３３６】
遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２において、前記吸着部材は、前記第２の通路の少なくとも一部を形成することを特徴とする遊技機ＣＡ２３。
【２４３３７】
遊技機ＣＡ２３によれば、遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２の奏する効果に加え、吸着部材は、第２の通路の少なくとも一部を形成するので、遊技の興趣を向上できる。即ち、第２の球が変位部材により案内されて第２の通路へ到達できるのは、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なった状態で変位部材に到達した場合のみであり、その可能性は比較的低い。そのような低い可能性を経て到達した第２の球を、落下する可能性（吸着部材の下面の終端まで到達できない可能性）がある不安定を状態で変位させることで、無事に通過することを遊技者に期待させて、遊技の興趣を向上できる。
【２４３３８】
遊技機ＣＡ２３において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面と、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面とを備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ２４。
【２４３３９】
遊技機ＣＡ２４によれば、遊技機ＣＡ２３の奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面と、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面とを備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される（第１面の位置が下方へ変位される）ことで、第２面の位置を上方へ変位させることができる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。
【２４３４０】
遊技機ＣＡ２４において、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ２５。
【２４３４１】
遊技機ＣＡ２５によれば、遊技機ＣＡ２４の奏する効果に加え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。
【２４３４２】
遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５において、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ２６。
【２４３４３】
遊技機ＣＡ２６によれば、遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５の奏する効果に加え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２の面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

＜皿部材Ｃ１２０，Ｃ２１２０，Ｃ４１２０を一例とする発明の概念について＞
　球の通路を備えた遊技機において、前記通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を備えることを特徴とする遊技機ＣＢ１。
【２４３４４】
　ここで、球を往復動可能とする通路部材（ステージ）を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。しかしながら、上述した遊技機では、遊技の興趣が十分ではないという問題点があった。
【２４３４５】
　これに対し、遊技機ＣＢ１によれば、通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を備えるので、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３４６】
　遊技機ＣＢ１において、前記第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、前記第１の球および前記第２の球の案内先となる通路が変化されることを特徴とする遊技機ＣＢ２。
【２４３４７】
　遊技機ＣＢ２によれば、遊技機ＣＢ１の奏する効果に加え、第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、第１の球および第２の球の案内先となる通路が変化されるので、球が所定の通路へ案内されること（即ち、第１の球と第２の球との間隔が所定の間隔となること）を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３４８】
　この場合、第１の通路における往復動によって第１の球と第２の球の間隔とが決定されるところ、それら第１の球および第２の球が、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路へ第１の通路から流下されるので、第１の球と第２の球との間隔を遊技者に視認させ易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３４９】
　遊技機ＣＢ２において、前記第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、前記間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、前記第１の通路は、第１の球と第２の球とが前記往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されることを特徴とする遊技機ＣＢ３。
【２４３５０】
　遊技機ＣＢ３によれば、遊技機ＣＢ２の奏する効果に加え、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、第１の通路は、第１の球と第２の球とが往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されるので、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔を所定量以下とし易くできる。その結果、有利な通路へ案内されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３５１】
　遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかにおいて、中央が開口された遊技盤を備え、前記第２の通路は、前記遊技盤の開口に配置されることを特徴とする遊技機ＣＢ４。
【２４３５２】
　遊技機ＣＢ４によれば、遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかに記載の遊技機の奏する効果に加え、中央が開口された遊技盤を備え、第２の通路は、遊技盤の開口に配置されるので、前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、第２の通路の全長を確保し易くできる。
＜磁性部Ｃ２４００，ｃ５４００，ｃ６４００（通路部ＣＲｔ２００４）を一例とする発

明の概念について＞
　球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第１の球とは異なる通路へ案内されることを特徴とする遊技機ＣＣ１。
【２４３５３】
　ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしながら、上述した従来の技術では、球は重量方向下方へ流下するのみであるので、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【２４３５４】
　これに対し、遊技機ＣＣ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第１の球とは異なる通路へ案内されるので、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３５５】
　遊技機ＣＣ１において、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されることを特徴とする遊技機ＣＣ２。
【２４３５６】
　遊技機ＣＣ２によれば、遊技機ＣＣ１の奏する効果に加え、変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されるので、かかる通路の途中で球が落下される態様を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【２４３５７】
　遊技機ＣＣ２において、前記磁性部は、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置することを特徴とする遊技機ＣＣ３。
【２４３５８】
　遊技機ＣＣ３によれば、遊技機ＣＣ２の奏する効果に加え、磁性部は、変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置するので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位されていない場合には、上方へ持ち上げられるべき部分を第２の球が通過したとしても、その第２の球を磁性部に吸着させない態様を確実に形成できる。
【２４３５９】
　遊技機ＣＣ２又はＣＣ３において、前記変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、前記第１の球の重量が作用される部分と、前記上方へ持ち上げられる部分とが位置することを特徴とする遊技機ＣＣ４。
【２４３６０】
　遊技機ＣＣ４によれば、遊技機ＣＣ２又はＣＣ３の奏する効果に加え、変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、第１の球の重量が作用される部分と、上方へ持ち上げられる部分とが位置するので、上方へ持ち上げられる部分を第２の球が通過する際に、第１の球の重量を利用して、第２の球が通過する部分を上方へ持ち上げられた状態に維持しやすくできる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
　球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に変位され、前記通路への球の入球されやすさを変化させることを特徴とする遊技機ＤＡ１。

【２４３６１】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【２４３６２】
これに対し、遊技機ＤＡ１によれば、変位部材は、通路に球が入球された場合に変位され、通路への球の入球されやすさを変化させるので、よって、第１の球が通路へ入球され、更に、第２の球が通路へ入球されることを期待する場合、或いは逆に、第１の球が通路へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、通路へ第２の球が入球されるか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４３６３】
遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。
【２４３６４】
遊技機ＤＡ２によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。即ち、通路へ１の球が入球されれば、後行する球が連続して通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球されれば、その後行する球の通路への入球に起因して、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４３６５】
遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ３。
【２４３６６】
遊技機ＤＡ３によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、第１の球が通路へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、第２の球が通路へ入球され難くできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４３６７】
遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ４。
【２４３６８】
遊技機ＤＡ４によれば、遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【２４３６９】
遊技機ＤＡ２又はＤＡ３において、前記通路に入球された球が転動可能とされ前記転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を前記変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、前記変位部材は、前記転動する球の重さで前記転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ５。
【２４３７０】

遊技機ＤＡ５によれば、遊技機ＤＡ２又はＤＡ３の奏する効果に加え、通路に入球された球が転動可能とされ、転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、変位部材は、転動する球の重さで転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、球が転動部材を転動している間、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させておくことができる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【２４３７１】

遊技機ＤＡ５において、前記転動部材を複数備えることを特徴とする遊技機ＤＡ６。

【２４３７２】

遊技機ＤＡ６によれば、遊技機ＤＡ５の奏する効果に加え、転動部材を複数備えるので、その分、球が転動する区間（転動可能距離）を確保して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位されている期間を長くできる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【２４３７３】

遊技機ＤＡ５又はＤＡ６において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、前記転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における前記転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における前記転動部材の下降傾斜よりも小さくされることを特徴とする遊技機ＤＡ７。

【２４３７４】

遊技機ＤＡ７によれば、遊技機ＤＡ５又はＤＡ６の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における転動部材の下降傾斜よりも小さくされるので、転動部材を転動する球に勢いが付与されることを抑制できる。よって、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【２４３７５】

遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかにおいて、前記転動部材は、前記球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されることを特徴とする遊技機ＤＡ８。

【２４３７６】

遊技機ＤＡ８によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されるので、転動部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【２４３７７】

遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかにおいて、前記転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＡ９。

【２４３７８】

遊技機ＤＡ９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えるので、球の転動に影響を与えることができる。即ち、作用手段の作用により球の転動に抵抗を付与し、その転動の速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【２４３７９】

遊技機ＤＡ９において、前記作用手段は、前記通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、前記転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間

隔を隔てつつ複数が配設されることを特徴とする遊技機ＤＡ１０。
【２４３８０】
遊技機ＤＡ１０によれば、遊技機ＤＡ９の奏する効果に加え、作用手段は、通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設されるので、球が転動面を転動する際には、突部（作用手段）が当接されることで、球の転動に抵抗を付与して、その転動速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【２４３８１】
一方で、突部（作用手段）は、鉛直方向に沿って延設されるので、鉛直方向へ移動する球には抵抗が付与され難くできる。よって、転動部材の転動面から球が上方へ跳ね上がった場合には、その球を下方（転動面）へ速やかに落下させることができる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、転動部材が上方へ変位した場合でも、かかる転動部材が球の重量により変位された状態に速やかに復帰させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。
【２４３８２】
遊技機ＤＡ１０において、前記転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されることを特徴とする遊技機ＤＡ１１。
【２４３８３】
遊技機ＤＡ１１によれば、遊技機ＤＡ１０の奏する効果に加え、転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されるので、転動面を転動する球が上方（鉛直方向）へ跳ね上がることを抑制できる。よって、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。
【２４３８４】
なお、転動面は、平坦面である必要はなく、起伏を有する面（断面形状が円弧を滑らかに連ねて形成される面）であっても良い。即ち、転動面は、少なくとも球の直径の１／１０以上の高さの段差を有していなければ良い。
【２４３８５】
遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１において、前記突部は、前記通路の内側面であって前記転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが前記転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されることを特徴とする遊技機ＤＡ１２。
【２４３８６】
遊技機ＤＡ１２によれば、遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１の奏する効果に加え、突部は、通路の内側面であって転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されるので、球が転動面を転動する際に、球を突部に当接させやすくできる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【２４３８７】
遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１３。
【２４３８８】
遊技機ＤＡ１３によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位へ向けて転動

部材を転動するので、球が転動部材を転動する際には、その初期段階において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側への変位部材の変位を、球が通路へ入球し転動部材に達した際に速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【２４３８９】

また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に小さくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側にあった変位部材を初期位置（通路へ球が入球され難くされる側）へ向けて徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。

【２４３９０】

更に、通路へ入球された球が転動部材に落下される場合には、落下された球を、転動部材の変位量が大きい位置（軸支された部位から離れた位置）で受け止めることができる。よって、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、球が上方へ跳ね上がることを抑制できる。その結果、球の重量を転動部材に安定して作用させ、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球され難くされる側または通路へ球が入球され易くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【２４３９１】

遊技機ＤＡ１３において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材に落下されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【２４３９２】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材に落下されるので、落下された球の運動エネルギーを利用して、転動部材を速やかに変位させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位を速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）でも、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【２４３９３】

また、通路部材へ入球した球を、転動部材とは別の部材（固定された非変位の部材）に落下させる場合には、別の部材の破損を招きやすくなるところ、本発明によれば、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、破損を抑制できる。よって、球の落下を許容できる分、通路の設計の自由度を高めることができる。

【２４３９４】

遊技機ＤＡ１３において、前記転動部材を転動する球は、少なくとも前記転動部材の前記軸支された部位まで転動されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【２４３９５】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、転動部材を転動する球は、少なくとも転動部材の軸支された部位（回転軸）まで転動されるので、転動部材の軸支された部位（回転軸）に到達する前に球が排球される場合と比較して、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が作用されなくなる影響）を抑制して、転動部材が回転方向にばたつくことを抑制できる。よって、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球されやすくされる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【２４３９６】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位から離間される方向へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１６。

【２４３９７】

遊技機ＤＡ１６によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位から離間される方向へ向けて転動部材を転動するこので、球が転動部材を転動する際には、その後期段階（所定量を越えて転動した段階）において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位するタイミングを遅らせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的大きい場合に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【２４３９８】

また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に大きくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ向けて変位部材を徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。

【２４３９９】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１６のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記通路へ球が入球がされやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１７。

【２４４００】

遊技機ＤＡ１７によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１６の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、通路へ球が入球がされやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されるので、変位部材を、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ強制的に変位させる不正を抑制できる。

【２４４０１】

遊技機ＤＡ１７において、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記伝達手段の変位が前記転動部材に規制されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への前記変位部材の変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１８。

【２４４０２】

遊技機ＤＡ１８によれば、遊技機ＤＡ１７の奏する効果に加え、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、伝達手段の変位が転動部材に規制されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位が規制されるので、変位部材の強制的変位を規制するための部品を別途設ける必要がなく、伝達手段を流用することができる。即ち、変位部材を強制的に変位させる不正を抑制するための構造を簡素化できる。

【２４４０３】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかにおいて、前記転動部材と前記伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された前記転動部材は、前記隙間を埋めた後に前記伝達手段に当接されることを特徴とする遊技機ＤＡ１９。

【２４４０４】

遊技機ＤＡ１９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材と伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された転動部材は、隙間を埋めた後に伝達手段に当接されるので、転動部材の変位が比較的小さい場合には、伝達手段を介して、転動部材の変位を変位部材へ伝達することができない。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させるためには、隙間を越える変位を転動部材に形成する必要があり、よって、遊技機を叩いて転動部材を変位させることや、針金等の異物で転動部材を変位させようとする不正を成功し難くできる。

＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材の変位速度が変化可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＢ１。

【２４４０５】

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【２４４０６】

これに対し、遊技機ＤＢ１によれば、変位部材の変位速度が変化可能に形成されるので、通路への球の入球のされやすさの変化速度を変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４０７】

遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされることを特徴とする遊技機ＤＢ２。

【２４４０８】

遊技機ＤＢ２によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされるので、通路へ球が入りやすくされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。また、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度が相対的に遅くされることで、通路へ球が入りやすくされた状態の期間を確保して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、通路への入球が間に合うか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４０９】

遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされることを特徴とする遊技機ＤＢ３。

【２４４１０】

遊技機ＤＢ３によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされるので、通路への球の入りやすさを徐々に増加させ、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、その期待を徐々に高まらせることができる。また、通路へ球が入球され難くされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４１１】

遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＢ４。

【２４４１２】

遊技機ＤＢ４によれば、遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材を複数備え、前記複数の変位部材のうちの一の前記変位部材は、他の前記変位部材と変位態様が異なることを特徴とする遊技機ＤＣ１。

【２４４１３】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【２４４１４】
これに対し、遊技機ＤＣ１によれば、変位部材を複数備え、複数の変位部材のうちの一の変位部材は、通路他の変位部材と変位態様が異なるので、それら複数の変位部材の変位態様の組み合わせにより、通路への球の入球のされやすさの変化を大きくできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４１５】
なお、変位態様としては、変位を開始する時期（タイミング）、変位方向、変位速度、これらの組み合わせが例示される。
【２４４１６】
遊技機ＤＣ１において、前記一の変位部材の変位の開始は、前記他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされることを特徴とする遊技機ＤＣ２。
【２４４１７】
遊技機ＤＣ２によれば、遊技機ＤＣ１の奏する効果に加え、一の変位部材の変位の開始は、他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされるので、通路への球の入球のされやすさが変化される位置を異ならせると共にそのタイミングを異ならせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４１８】
遊技機ＤＣ１又はＤＣ２において、前記通路へ球を流下させる上流通路を備え、前記変位部材の変位方向は、前記上流通路における球の転動方向と略平行とされることを特徴とする遊技機ＤＣ３。
【２４４１９】
遊技機ＤＣ３によれば、遊技機ＤＣ１又はＤＣ２の奏する効果に加え、通路へ球を流下させる上流通路を備え、変位部材の変位方向は、上流通路における球の転動方向と略平行とされるので、上流通路を転動する球の転動方向や転動位置と変位部材の変位方向や変位位置とを、通路への球の入球のしやすさに関係づけることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４２０】
遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＣ４。
【２４４２１】
遊技機ＤＣ４によれば、遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、前記転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＤ１。
【２４４２２】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させ

る変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【２４４２３】

これに対し、遊技機ＤＤ１によれば、通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されるので、球が転動経路を転動する距離に応じて、球の重量を利用できる期間を変化させることができる。即ち、転動部材を転動する球の状態に応じて、通路への球の入球のされやすさを変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４２４】

遊技機ＤＤ１において、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。

【２４４２５】

遊技機ＤＤ２によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球が転動部材を転動する間、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。

【２４４２６】

即ち、通路へ１の球が入球され、その球が転動部材を転動している間は、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球され転動部材を転動すれば、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。一方で、通路へ入球された球が転動部材の転動経路の途中で落下されると、球の重量を利用できなくなり、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できなくなる。これにより、球の転動状態（転動経路の終端に達することができるか否か）を遊技者に注目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４２７】

遊技機ＤＤ１において、前記転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、前記転動する球を前記転動部材から落下させやすくする落下手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＤ３。

【２４４２８】

遊技機ＤＤ３によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、転動する球を転動部材から落下させやすくする落下手段を備えるので、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下されるか否かを遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４２９】

なお、遊技機ＤＤ３における変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるものであっても良く、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるものであっても良い。前者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性が高くなるので、かかる別の球が通路へ流下されるか否かを行方を遊技者に着目させやすくできる。後者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性を低くできるので、遊技者に安心感を付与できる。

【２４４３０】

遊技機ＤＤ２又はＤＤ３において、前記転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、前記落下通路を通過した球には、前記通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されることを特徴とする遊技機ＤＤ４。

【２４４３１】

遊技機ＤＤ４によれば、遊技機ＤＤ２又はＤＤ３の奏する効果に加え、転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、落下通路を通過した球には、通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されるので、転動部材の転動経路の途中で球が落下するか否かをより強く遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：下降傾斜されたトゲトゲステージが往復駆動、ステージを下降傾斜に沿って流下する際にトゲトゲで流下先にランダム性を持たせる。トゲトゲによる球の保持を往復駆動で抑制＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ１。

【２４４３２】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【２４４３３】

これに対し、遊技機ＥＡ１によれば、通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、変位手段により通路部材が変位されることで、通路部材を移動する球の移動方向の変化を多様化できる。これにより、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４３４】

遊技機ＥＡ１において、前記通路部材に配設され前記球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記付与手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ２。

【２４４３５】

遊技機ＥＡ２によれば、遊技機ＥＡ１の奏する効果に加え、通路部材に配設され球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、付与手段は、通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向の変化を多様化して、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。

【２４４３６】

また、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部または凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【２４４３７】

遊技機ＥＡ２において、前記変位手段は、前記通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に前記通路部材を変位させることを特徴とする遊技機ＥＡ３。

【２４４３８】

遊技機ＥＡ３によれば、遊技機ＥＡ２の奏する効果に加え、変位手段は、通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に通路部材を変位させるので、球の転動方向と平行な変位成分を突部に形成することができる。その結果、球の移動方向に変化を付与しやすくできる。また、球の移動方向の変化を多様とできる。

【２４４３９】

遊技機ＥＡ２又はＥＡ３において、前記突部は、前記突部どうしの間を球が移動可能な

間隔を少なくとも備えて配置されることを特徴とする遊技機ＥＡ４。
【２４４４０】
遊技機ＥＡ４によれば、遊技機ＥＡ２又はＥＡ３の奏する効果に加え、突部は、突部どうしの間を球が移動可能な間隔を少なくとも備えて配置されるので、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制できる。よって、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制するために、通路部材（転動部）を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制できる。その結果、変位手段を簡素化できる。
＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：ステージを通過したら所定の価値付与＞
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、前記通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ１。
【２４４４１】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球が通過できるか否か（ステージを渡り切って終端に到達できるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【２４４４２】
これに対し、遊技機ＥＢ１によれば、通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４４３】
遊技機ＥＢ１において、前記変化手段は、前記通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ２。
【２４４４４】
遊技機ＥＢ２によれば、遊技機ＥＢ１の奏する効果に加え、変化手段は、通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えるので、球が通路部材を移動する際に、変位手段により通路部材が変位されることで、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４４５】
遊技機ＥＢ２において、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ３。
【２４４４６】
遊技機ＥＢ３によれば、遊技機ＥＢ２の奏する効果に加え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、転動部を転動する球の転動方向（移動方向）にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として突部や凹部を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４４７】

遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかにおいて、前記通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記所定の価値は、前記第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、前記変化手段は、前記第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、前記第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ４。

【２４４４８】

遊技機ＥＢ４によれば、遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかの奏する効果に加え、通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、所定の価値は、第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、変化手段は、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成されるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なる態様として、遊技者に付与することができる。その結果、かかる遊技性を多様化して、遊技の興趣を向上できる。

【２４４４９】

なお、球の通過のしやすさを変化させる手段としては、例えば、通路部材の形状や姿勢（傾斜）、通路部材の変位態様（変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）など）、通路部材の球が移動する面（転動面）の態様（突部や凹部の有無、突部や凹部の態様（大きさ、形状、配置など））が例示される。即ち、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とが異なるとは、上述した手段の少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：球を滞留させる滞留手段＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、前記通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記通路部材および前記第２通路部材は、球の移動経路の途中で球が落下可能に形成され、前記第２通路部材を通過した球は、前記通路部材を通過した球よりも前記入球手段へ入球されやすくされることを特徴とする遊技機ＥＣ１。

【２４４５０】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、ステージの所定位置から流下された球は、入賞口（入球口）へ直接入球されるため、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【２４４５１】

これに対し、遊技機ＥＣ１によれば、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備えるので、通路部材を通過した球が第２通路部材を移動することで、その分、入球手段に球が入球されるまでに要する時間を嵩ませることができる。即ち、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。特に、第２通路部材を通過した球は、通路部材を通過した球よりも入球手段へ入球されやすくされるので、入球手段へ球が今から入球されるという高揚感を遊技者に持たせて、球の行方を追わせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２４４５２】

遊技機ＥＣ１において、前記第２通路部材は、球が転動可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えるこ

とを特徴とする遊技機ＥＣ２。
【２４４５３】
遊技機ＥＣ２によれば、遊技機ＥＣ１の奏する効果に加え、第２通路部材は、球が転動可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、第２通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向を変化させ、球が第２通路部材を通過できるか否か（第２通路部材を渡り切って、入球手段に入球される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４５４】
また、球の移動を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部や凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の行方を遊技者に追わせやすくできると共に、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。
【２４４５５】
遊技機ＥＣ１又はＥＣ２において、前記通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ３。
【２４４５６】
遊技機ＥＣ３によれば、遊技機ＥＣ１又はＥＣ２の奏する効果に加え、通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達することを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができる。よって、球が通路部材を通過できるか否か（球が第２通路部材に到達できるか否か、ひいては、入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４５７】
遊技機ＥＣ３において、前記第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ４。
【２４４５８】
遊技機ＥＣ４によれば、遊技機ＥＣ３の奏する効果に加え、第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達すること、及び、球が第２通路部材と通過して入球手段に入球すること、を阻害する又は補助する手段として、第２変位手段（第２通路部材の変位）を機能させることができる。よって、通路部材を通過した球が第２通路部材へ到達できるか否か、及び、その到達した球が第２通路部材を通過できるか否か（球が入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４５９】
遊技機ＥＣ４において、前記変位手段による前記通路部材の変位態様と、前記第２変位手段による前記第２通路部材の変位態様とが異なる態様であることを特徴とする遊技機ＥＣ５。
【２４４６０】
遊技機ＥＣ５によれば、遊技機ＥＣ４の奏する効果に加え、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるので、球の変位態様を多様化できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２４４６１】
なお、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるとは、例えば、変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）などの少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ５０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位される第２手段と、を備え、前記第２手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１。
【２４４６２】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。
【２４４６３】
遊技機ＦＡ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、第２手段が被流入部の大きさを変更する方向へ変位されるので、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４６４】
遊技機ＦＡ１において、前記被流入部の大きさを変更する方向へ前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ２。
【２４４６５】
遊技機ＦＡ２によれば、遊技機ＦＡ１の奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くした状態を維持できる。よって、球の流入を期待できる期間または期待し難い期間を確保でき、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４６６】
遊技機ＦＡ２において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、前記維持手段は、前記第１手段が受け取った球の重量により前記第２手段が前記被流入部の大きさを大きくする方向へ変位された状態を維持し、前記解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＡ３。
【２４４６７】
遊技機ＦＡ３によれば、遊技機ＦＡ２の奏する効果に加え、少なくとも１の球が被流入部に流入されるまでの間、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態が維持されるので、被流入部への球の流入を確実化できる。よって、遊技者に安心感を付与できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４６８】
遊技機ＦＡ３において、前記維持手段により維持された状態では、球を受け取ることで変位された位置に前記第１手段が維持されることを特徴とする遊技機ＦＡ４。
【２４４６９】
遊技機ＦＡ４によれば、遊技機ＦＡ３の奏する効果に加え、維持手段による維持がされた状態（被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態）であることを、第１手段の変位位置からも遊技者に理解させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４７０】
遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段から球が流下することを遅延させる遅延手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ５。
【２４４７１】
遊技機ＦＡ５によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４の奏する効果に加え、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置

）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。

【２４４７２】

遊技機ＦＡ５において、前記遅延手段は、前記第１手段に形成される開口と、その開口の周囲に沿って球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第１転動部とを備え、前記第１転動部を転動し前記開口へ流入されることで、球が前記第１手段から流下されることを特徴とする遊技機ＦＡ６。

【２４４７３】

遊技機ＦＡ６によれば、遊技機ＦＡ５の奏する効果に加え、開口の周囲に沿って第１転動部を転動することで、球の速度を低下させられるので、その分、第１手段からの球の流下を遅延させられる。即ち、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。

【２４４７４】

遊技機ＦＡ６において、前記第１転動部は、前記開口の周囲に沿って連続して形成され、前記遅延手段は、前記第１転動部における前記開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第２転動部を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ７。

【２４４７５】

遊技機ＦＡ７によれば、遊技機ＦＡ６の奏する効果に加え、第１転動部が、開口の周囲に沿って連続して形成されるので、第１転動部において球を周回させることができる。また、第２転動部が、第１転動部における開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされるので、第１転動部における球の周回を形成しやすくできる。その結果、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。

【２４４７６】

遊技機ＦＡ７において、前記第１転動部を球が転動する状態では、前記第１転動部の鉛直方向における高さが前記開口の周囲に沿って略同一に設定されることを特徴とする遊技機ＦＡ８。

【２４４７７】

遊技機ＦＡ８によれば、遊技機ＦＡ７の奏する効果に加え、高低差が形成されることを抑制して、第１転動部において球を周回させやすくできる。

【２４４７８】

遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかにおいて、前記遅延手段は、球が転動可能とされ前記第１手段に形成される転動部と、その転動部に球を保持する保持手段と、を備え、前記保持手段に保持された球は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位されることで、前記保持手段を乗り越えて転動可能とされることを特徴とする遊技機ＦＡ９。

【２４４７９】

遊技機ＦＡ９によれば、遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかの奏する効果に加え、球の転動を一時的に停止させることができる。よって、第１手段が球の重量により所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間を長くできる。その分、被流入部が大きくされている期間を長くできる。また、第１手段の姿勢変化を利用して保持手段の保持が解除される（球が転動を再開する）ので、解除する手段を設けることを不要とできる。

【２４４８０】

遊技機ＦＡ９において、前記遅延手段は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位された場合に、前記保持手段により保持された球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１０。

【２４４８１】

遊技機ＦＡ１０によれば、遊技機ＦＡ９の奏する効果に加え、作用手段の作用により、保持手段による球の保持の解除を確実化できる（球が保持手段を乗り越えやすくすることができる）。

【２４４８２】

遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記転動部が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＡ１１。

【２４４８３】

遊技機ＦＡ１１によれば、遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球の衝突により、保持手段による保持が解除されることを抑制できる。

【２４４８４】

遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１２。

【２４４８５】

遊技機ＦＡ１２によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【２４４８６】

遊技機ＦＡ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段および前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１３。

【２４４８７】

遊技機ＦＡ１３によれば、遊技機ＦＡ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。

＜下側フレームＦ６０８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部と、その被流入部へ向けて球が移動可能に形成される経路と、を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位され前記経路を移動する球に作用可能に形成される第２手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１。

【２４４８８】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【２４４８９】

遊技機ＦＢ１によれば、所定の球が経路を移動する場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、経路を移動する所定の球に第２手段が作用可能とされる。よって、経路を移動する所定の球の被流入部への流入の可能性が第２手段の作用により変化させることができる。その結果、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２４４９０】

遊技機ＦＢ１において、前記第１手段球が受け取った球の重量により変位された位置から変位される前の位置へ向かう前記第２手段の変位方向には、前記経路を前記第２手段へ向けて移動する球の移動方向成分が含まれることを特徴とする遊技機ＦＢ２。

【２４４９１】

遊技機ＦＢ２によれば、遊技機ＦＢ１の奏する効果に加え、経路を第２手段へ向けて移動する球が第２手段へ当接した際に、その球の移動方向へ第２手段も変位（初期位置へ向

けて後退）して、衝撃を吸収できる。よって、第２手段の破損を抑制できる。
【２４４９２】
遊技機ＦＢ２において、前記第１手段が受け取った球の重量により変位された前記第２変位手段は、前記経路を移動する球に対して、前記被流入部へ流入され易くなるように作用することを特徴とする遊技機ＦＢ３。
【２４４９３】
遊技機ＦＢ３によれば、遊技機ＦＢ２の奏する効果に加え、被流入部へ球を流入させ易くできるので、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４９４】
遊技機ＦＢ２又はＦＢ３において、前記経路は、傾斜して形成される傾斜部を備え、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能とされることを特徴とする遊技機ＦＢ４。
【２４４９５】
遊技機ＦＢ４によれば、遊技機ＦＢ２又はＦＢ３の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球は徐々に速度を低下させるので、球の移動と、その球への第２手段の作用とを遊技者に視認させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４９６】
遊技機ＦＢ４において、前記傾斜部は、傾斜して形成される第１傾斜部と、その第１傾斜部と反対方向へ傾斜して形成される第２傾斜部とを備え、前記第１傾斜部および前記第２傾斜部を球が往復移動可能に形成され、前記第２手段は、前記第１傾斜部または前記第２傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ５。
【２４４９７】
遊技機ＦＢ５によれば、遊技機ＦＢ４の奏する効果に加え、傾斜部（第１傾斜部および第２傾斜部）における球の往復移動により、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４４９８】
遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５において、前記第２手段が前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置は、前記傾斜部を上昇する球が到達可能な最大到達位置よりも下方となる位置であることを特徴とする遊技機ＦＢ６。
【２４４９９】
ここで、最大到達位置では、球の速度が低く（又は速度が０となり）、球の勢いが弱いため、傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に第２手段が変位され、第２手段に球が当接したとしても、被流入部へ流入されやすくなる方向へ球を案内できない虞がある。これに対し、遊技機ＦＢ６によれば、遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５の奏する効果に加え、最大到達位置よりも下方となる位置において、傾斜部を上昇する球に第２手段が作用可能とされることで、球の速度が確保されている状態で、球を第２手段に当接させることができる。よって、球の勢いを利用して、被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内しやすくできる。
【２４５００】
また、第１傾斜部および第２傾斜部を球が往復移動する構成においては、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させやすくできる。
【２４５０１】
遊技機ＦＢ６において、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置に変位された状態では、前記傾斜部を下降する球に作用可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ７。
【２４５０２】
遊技機ＦＢ７によれば、遊技機ＦＢ６の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球が通過した後に、第２手段が球に作用可能な位置に変位された場合であっても、傾斜部の頂部に

達して下降する球に作用を与える可能性を形成できる。
【２４５０３】
遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかにおいて、前記第２手段は、円弧状の湾曲に沿って球を案内可能に形成される案内部を備え、前記傾斜部を上昇する球は、前記案内部に沿って移動されることで、前記被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内されることを特徴とする遊技機ＦＢ８。
【２４５０４】
遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかの奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球を、湾曲に沿って徐々に案内（移動方向を転換）することができる。即ち、被流入部へ流入されやすくなる方向へ確実に案内できる。
【２４５０５】
遊技機ＦＢ８において、前記第２手段は、前記傾斜部から突出可能に形成され、前記第２手段が前記傾斜部から非突出とされた状態では、前記第２手段が前記傾斜部の一部とされることを特徴とする遊技機ＦＢ９。
【２４５０６】
ここで、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）を収納するためのスペースとして傾斜部の幅と同等のスペースを傾斜部の側方に確保する必要があり、大型化する。これに対し、遊技機ＦＢ９によれば、遊技機ＦＢ８の奏する効果に加え、第２手段（案内部）の収容に必要なスペースを傾斜部の側方に確保する必要がなく、また、傾斜部の厚み方向のデッドスペースを有効に活用できるので、その分、小型化できる。
【２４５０７】
また、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）に必要な変位量が大きい分、第２手段を変位させるのに要する時間が嵩む。これに対し、遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ７の奏する効果に加え、第２手段（案内部）に必要な変位量が抑制できる分、第２手段を変位させるのに要する時間を短縮できるので、傾斜部を上昇する球に作用する位置に第２手段を速やかに配置できる。
【２４５０８】
遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかにおいて、前記経路を移動する球に作用可能な位置に前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１０。
【２４５０９】
遊技機ＦＢ１０によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかの奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させやすくした状態を維持できる。よって、球の流入を期待しやすくでき、遊技の興趣を高めることができる。
【２４５１０】
遊技機ＦＢ１０において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、その解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＢ１１。
【２４５１１】
遊技機ＦＢ１１によれば、遊技機ＦＢ１０の奏する効果に加え、被流入部への球の流入を確実化できる。即ち、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位されれば、少なくとも１の球が流入されるまでの間、安心感を付与できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【２４５１２】
遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１２。
【２４５１３】

遊技機ＦＢ１２によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【２４５１４】

遊技機ＦＢ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段が前記所定位置へ変位可能に形成され、前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ１３。

【２４５１５】

遊技機ＦＢ１３によれば、遊技機ＦＢ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、コストを抑制できる。

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成され前記受け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第１手段と、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態で前記受け取った球とは別の球の影響を前記第１手段が受けることを抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ１。

【２４５１６】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【２４５１７】

遊技機ＦＣ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、被流入部への所定の球の流入のし易さを変化させることができる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。この場合、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制手段で抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５１８】

遊技機ＦＣ１において、前記第１手段へ向けて球が移動可能に形成される経路を備え、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段へ向けて移動し難くする第１規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ２。

【２４５１９】

遊技機ＦＣ２によれば、遊技機ＦＣ１の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球が第１手段へ向けて移動し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５２０】

遊技機ＦＣ２において、球を受け取り可能に形成され前記受け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第２手段を備え、前記経路は、前記第１手段および前記第２手段へ向けて球が移動可能に形成され、前記第１規制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段よりも前記第２手段へ移動し易くすることを特徴とする遊技機ＦＣ３。

【２４５２１】

遊技機ＦＣ３によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球を第２手段へ向けて移動し易くできるので、被流入部への所定の球の流入のし易さの変化を継続させ易くできる。即ち、第１手段に球の重量が作用されている状態では、その状態が中断される（例えば、経路を移動する球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制しつつ、経路を移動する球を第２手段に受け取らせ、その受け取った球の重量が第２手段に作用された状態を形成することで、第２手段によっても、被流入部への所定の球の流入のし易さが変化された状態を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５２２】

遊技機ＦＣ３において、前記第１手段または前記第２手段が受け取った球の重量により変位される第３手段を備え、前記第３手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ４。

【２４５２３】

遊技機ＦＣ４によれば、遊技機ＦＣ２又はＦＣ３の奏する効果に加え、第３手段の変位により球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段および第２手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５２４】

遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ４のいずれかにおいて、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が作用された状態において、前記第１手段の少なくとも側面に前記別の球が当接し難くする第２規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ５。

【２４５２５】

遊技機ＦＣ５によれば、遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ３のいずれかの奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第２規制手段により、第１手段の少なくとも側面に球が当接し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段の側面に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５２６】

なお、第１手段に重量を作用させていた球に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球が第１手段から脱落しても、その球に代わって、別の球が第１手段に重量を作用させることができる場合がある。また、第１手段の上面（重量を作用させる球が保持または転動される部位）に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球に加え、別の球も第１手段に重量を作用させることができる場合がある。よって、別の球が少なくとも第１手段の側面へ当接し難くできれば有効となる。

【２４５２７】

遊技機ＦＣ２において、前記第１手段の変位を前記第１規制手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ６。

【２４５２８】

遊技機ＦＣ６によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第１規制手段を変位させられる。よって、第１規制手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【２４５２９】

遊技機ＦＣ６において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第１規制手段の重量により、前記第１手段および前記第１規制手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ７。

【２４５３０】

遊技機ＦＣ７によれば、遊技機ＦＣ６の奏する効果に加え、第１手段および第１規制手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。

【２４５３１】
遊技機ＦＣ５において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記第１手段が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＣ８。
【２４５３２】
遊技機ＦＣ８によれば、遊技機ＦＣ５の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球が第１手段の側面に当接することを抑制できる。
＜下側フレームＦ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、前記被流入部へ球が移動可能に形成される経路と、前記被流入部への球の流入のし易さを変化させる変化手段と、を備え、第１位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球が、第２位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球よりも前記被流入部へ流入し易くされることを特徴とする遊技機ＦＤ１。
【２４５３３】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。
【２４５３４】
遊技機ＦＤ１によれば、被流入部への球の流入のし易さを変化手段により変化させることができるので、経路を移動する球に対する変化手段の影響を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【２４５３５】
この場合、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球が、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるので、球が経路へ流入する位置（第１位置または第２位置）を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【２４５３６】
なお、第１位置からの球が入り易くする構成としては、例えば、当接部Ｆ６１５４が例示される。
【２４５３７】
遊技機ＦＤ１において、前記第１位置から前記経路へ流入する球を検出可能に形成される検出手段を備え、少なくとも前記検出手段により球が検出されることを条件に、前記被流入部へ球が流入し易くなるように前記変化手段による変化が行われることを特徴とする遊技機ＦＤ２。
【２４５３８】
遊技機ＦＤ２によれば、遊技機ＦＤ１が奏する効果に加え、遊技者に期待感を持たせて、遊技の興趣を高めることができる。即ち、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球は、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるところ、更に、被流入部へ球が流入し易くなるように変化手段による変化が行われるので、被流入部への流入の期待を遊技者に持たせることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４５３９】
なお、変化手段による変化（被流入部へ球が流入し易くなる動作）が行われる条件としては、検出手段により球が検出されることに加え、所定時間の経過、抽選の当選、或いは、これらの組み合わせを条件としても良い。また、変化手段による変化が行われる期間としては、所定時間で区切っても良く、動作の回数で区切っても良い。
【２４５４０】

遊技機ＦＤ２において、前記第１位置および前記第２位置が形成される形成手段を備え、前記形成手段は、前記第１位置と前記第２位置との間を球が移動可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＤ３。

【２４５４１】

遊技機ＦＤ３によれば、遊技機ＦＤ２の奏する効果に加え、第１位置と第２位置との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置または第２位置のどちらから経路へ球が流下するか、形成手段における球の移動を遊技者に注視させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５４２】

遊技機ＦＤ２又はＦＤ３において、前記経路は、前記第１位置から流下した球が移動可能に形成される第１経路と、前記第２位置から流下した球が移動可能に形成される第２経路とを備え、前記第１経路と前記第２経路との間を球が移動可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＤ４。

【２４５４３】

遊技機ＦＤ４によれば、遊技機ＦＤ２又は遊技機ＦＤ３の奏する効果に加え、第１経路と第２経路との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置（第２位置）から流入した球が第１経路（第２経路）のみを移動可能に形成される場合と比較して、一定のスペース内に形成できる球の移動可能な経路の種類をより多く確保できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５４４】

遊技機ＦＤ４において、前記第１経路または前記第２経路から突設され球が当接可能に形成される１又は複数の当接手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ５。

【２４５４５】

遊技機ＦＤ５によれば、遊技機ＦＤ４の奏する効果に加え、第１経路または第２経路を移動する球が当接手段に当接されることで、球の移動方向に変化を付与して、第１経路と第２経路との間での球の移動を形成し易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２４５４６】

＜複数の手段を異なる契機で動作させる構造＞

第１位置と第２位置とを変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させ得る第１手段と、前記変位手段の変位を防止できる第１状態と前記変位手段の変位を防止できない第２状態とで状態変化可能な第２手段と、前記第１手段の動作に基づいて前記第２手段の状態を前記第１状態と前記第２状態とで変化可能に構成される変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１。

【２４５４７】

パチンコ機等の遊技機において、変位手段を所定位置から変位させる演出を行う演出役物において、変位手段を所定位置に保持する保持手段と、変位手段を所定位置に変位させるための駆動力を伝達する伝達手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。

【２４５４８】

しかし、上述した従来の遊技機では、保持手段と伝達手段とで、駆動装置が別であることから、例えば、伝達手段の駆動装置が故障している時に、保持手段の駆動装置が動かされ変位手段が所定位置から移動（落下）された場合に、変位手段を所定位置に復帰させることができなくなるので、変位手段の演出効果を低下させる可能性があるという問題点があった。即ち、上述した従来の遊技機では、変位手段の演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。

【２４５４９】

これに対し、遊技機ＫＡ１によれば、変化手段により、第２手段の状態の変化が第１手段の動作に基づくので、第１手段が動作し得ない状態において、第２手段が第１状態から第２状態に変化されることを防止することができる。これにより、変位手段が所定位置に

復帰できないにも関わらず第２手段が第１状態から第２状態に変化されてしまい変位手段が所定位置から変位させられる事態が生じることを防止することができるので、変位手段の演出効果の向上を図ることができる。

【２４５５０】

遊技機ＫＡ１において、前記第１位置は前記第２位置よりも上側に位置し、前記第２手段は、前記変位手段が所定位置よりも前記第１位置側に配置されている状態で前記所定位置よりも前記第２位置側に進入することで前記第１状態に変化されることを特徴とする遊技機ＫＡ２。

【２４５５１】

遊技機ＫＡ２によれば、遊技機ＫＡ１の奏する効果に加え、第２手段が第１状態にされる際に変位手段と第２手段との間に隙間を生じさせることで、摩擦力が生じることを回避でき、動作不良を防止することができる。

【２４５５２】

更に、変位手段と第２手段とは第１手段により連動することから、動作タイミングがずれることを避け易いことに加え、第２手段を別の駆動機構で動作させる場合には必要となる変位手段が所定位置よりも第１位置側に位置したことを検出する検出センサを不要とすることができる。

【２４５５３】

遊技機ＫＡ１又はＫＡ２において、前記第２手段は、所定の回転軸を中心に回転動作可能に構成され、前記第１状態において、前記変位手段からの荷重を前記回転軸へ向けさせる形状から構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ３。

【２４５５４】

遊技機ＫＡ３によれば、遊技機ＫＡ１又はＫＡ２の奏する効果に加え、変位手段からの荷重で第２手段の状態が変化される事態を回避し易くすることができる。

【２４５５５】

遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記変位手段と前記第２手段との間に隙間を空ける第１連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ４。

【２４５５６】

遊技機ＫＡ４によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第２手段を第１状態から第２状態へ変化させる場合における変位手段と第２手段との間の動作抵抗を小さくすることができる。

【２４５５７】

遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記第２手段を前記変位手段に擦らせる第２連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ５。

【２４５５８】

遊技機ＫＡ５によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の位置を基準にして変位手段の位置を特定することができるので、変位手段の変位開始位置を安定させることができる。

【２４５５９】

遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５において、前記第１連動状態と前記第２連動状態とでは、前記第１手段の動作方向が反転されることを特徴とする遊技機ＫＡ６。

【２４５６０】

遊技機ＫＡ６によれば、遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５の奏する効果に加え、第１手段の停止状態から、第１連動状態での連動が生じるのか、第２連動状態での連動が生じるのかを遊技者に分からせ難くすることができる。

【２４５６１】

遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかにおいて、前記変位手段が前記第１位置に配置されている状態において前記第２手段が前記第１状態から前記第２状態へ変化された場合に、

変位手段は、前記第１手段に支持されない状態での非支持変位を実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ７。
【２４５６２】
遊技機ＫＡ７によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変化手段に支持されていないことから第２手段との連動ではない動作態様で変位手段を動作させることができる。
【２４５６３】
遊技機ＫＡ７において、前記変位手段に前記非支持変位をさせる場合に、前記変位手段と前記第１手段との間を仕切るように配設される接触防止部を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ８。
【２４５６４】
遊技機ＫＡ８によれば、遊技機ＫＡ７の奏する効果に加え、非支持変位において第１手段と変位手段とが誤って接触し、破損することを避けることができる。
【２４５６５】
遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第１状態から前記第２状態に変化させる場合に、前記変化手段が重力方向に下降変位されることを特徴とする遊技機ＫＡ９。
【２４５６６】
遊技機ＫＡ９によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第２手段が第１状態から第２状態へ変化する際に、変化手段の変位に要する力を重力で補助させることができる。
【２４５６７】
遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、前記変位手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第１の比で変化させる第１変位量変化手段と、前記第２手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第２の比で変化させる第２変位量変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１０。
【２４５６８】
遊技機ＫＡ１０によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、第１手段の変位に伴う変位手段の変位量と第２手段の変位量とを異ならせることができるので、連動の設計自由度を向上させることができる。
【２４５６９】
＜付勢力での移動の停止位置が複数あるように構成＞
移動可能な第１移動手段と、その第１移動手段の移動に連動して第１位置から第２位置へ移動可能な第２移動手段と、その第２移動手段を前記第１位置から前記第２位置へ向けて付勢する付勢手段と、を備える遊技機において、前記第２移動手段が前記第１位置と前記第２位置との間の所定位置に配置された場合の前記第１移動手段の移動を防止可能な防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ１。
【２４５７０】
パチンコ機等の遊技機において、付勢力により液晶表示装置の前側に張り出す移動手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－２４０３８６号公報を参照）。
【２４５７１】
しかし、上述した従来の遊技機では、移動手段の配置は、液晶表示装置の前側か、液晶表示装置の前側とは異なる位置かの２位置に限定されており、取り得る状態のバリエーションが少ないことから遊技者が飽きてしまう可能性があり、移動手段を利用した演出効果に関して改善の余地があるという問題点があった。
【２４５７２】
これに対し、遊技機ＫＢ１によれば、防止手段が第１移動手段の移動を防止することにより、第２移動手段を第１位置と第２位置との間の所定位置で止めることができるので、第２移動手段の停止位置として、第１位置または第２位置の２種類だけでなく、所定位置も使うことができる。これにより、第２移動手段の取り得る状態のバリエーションを増や

すことができ、第２移動手段の演出効果を向上させることができる。
【２４５７３】
遊技機ＫＢ１において、駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記第１移動手段に伝達可能な伝達手段と、を備え、前記伝達手段は、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持しながら所定範囲で動作可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ２。
【２４５７４】
遊技機ＫＢ２によれば、遊技機ＫＢ１の奏する効果に加え、所定範囲においては伝達手段の配置が定まっていなくても第２移動手段を所定位置に維持することができるので、駆動手段の制御を簡素化することができる。
【２４５７５】
遊技機ＫＢ２において、前記伝達手段は、駆動手段の駆動方向に因らず、前記所定範囲における動作が生じた場合に前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持させるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ３。
【２４５７６】
遊技機ＫＢ３によれば、遊技機ＫＢ２の奏する効果に加え、付勢手段の付勢力に沿う方向の動作か、付勢力に抗する方向の動作かによらず、第２移動手段を所定位置に維持し易くすることができる。これにより、第２移動手段を高速移動させた後に所定位置で急速停止させる動作態様を、動作方向に因らず、簡素な制御で実現可能とすることができる。
【２４５７７】
遊技機ＫＢ２又はＫＢ３において、前記伝達手段は、前記第１移動手段側に配設される第１伝達手段と、前記駆動手段側に配設される第２伝達手段と、を備え、前記第２伝達手段は、前記第１伝達手段の凹設部に進入した状態において第１伝達手段の動作を停止させる動作停止手段を備え、前記遊技機は、前記動作停止手段の配置を検出する検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ４。
【２４５７８】
遊技機ＫＢ４によれば、遊技機ＫＢ２又はＫＢ３の奏する効果に加え、動作停止手段に複数の機能を兼用させることができ、動作停止手段の形状を簡素化させることができる。
【２４５７９】
遊技機ＫＢ４において、前記第２移動手段が所定位置に配置されるか否かで、前記検出手段の出力が切り替えられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ５。
【２４５８０】
遊技機ＫＢ５によれば、遊技機ＫＢ４の奏する効果に加え、検出手段の出力から第２移動手段が所定位置に配置されているか否かを判定することができる。
【２４５８１】
遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第１位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ６。
【２４５８２】
遊技機ＫＢ６によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第２移動手段が第１位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第１位置で停止させることができる。
【２４５８３】
遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第２位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ７。
【２４５８４】
遊技機ＫＢ７によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかの奏する効果に加え、第２移動手段が第２位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手

段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第２位置で停止させることができる。

【２４５８５】

遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが平行となることを特徴とする遊技機ＫＢ８。

【２４５８６】

遊技機ＫＢ８によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかの奏する効果に加え、所定位置に配置された第２移動手段への力の伝達効率を向上させることができる。

【２４５８７】

＜スライド移動する部材のスライド開始時までの助走範囲を構成＞

所定軸を中心に回転移動可能に支持される第１手段と、その第１手段の回転移動と連動して第１位置から第２位置へ移動可能な第２手段と、を備え、前記第２手段を前記第１位置から前記第２位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ１。

【２４５８８】

パチンコ機等の遊技機において、回転移動する第１手段と移動する第２手段とを備え、第１手段の周方向の力を第２手段に伝達させることで、第２手段を移動させる遊技機がある（例えば、特開２００７－０９８０２７号公報を参照）。

【２４５８９】

しかし、上述した従来の遊技機では、第２手段としての扉部材に力を伝達させる第１手段としてのピニオンは、第２手段の配置に関係なく荷重を与えるものであり、扉部材および自身の慣性に打ち勝って回転するために必要な駆動力が大きいことから、駆動装置が励磁されてからピニオンの回転が開始されるまでの時間差が長くなり易いという問題点があった。即ち、第２手段の動作に改善の余地があるという問題点があった。

【２４５９０】

そのため、遊技機の演出に合わせたタイミングで駆動装置が励磁されても、ピニオン及び扉部材の動作タイミングが遅れることになるので、演出に合致しないタイミングでピニオン及び扉部材が動作することになり、演出効果が低下する可能性がある。即ち、上述した従来の遊技機では、第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。

【２４５９１】

これに対し、遊技機ＫＣ１によれば、第２手段を第１位置から第２位置へ移動させる際に、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿うので、第１手段の回転の勢いを利用して第２手段の慣性に容易に打ち勝つことができ、第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の動作を改善することができ、第２手段の演出効果を改善することができる。

【２４５９２】

遊技機ＫＣ１において、前記第１手段の移動方向が前記第２手段の移動方向に沿う場合に、前記第１手段の回転先端が前記所定軸よりも下側に位置するよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ２。

【２４５９３】

遊技機ＫＣ２によれば、遊技機ＫＣ１の奏する効果に加え、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿う姿勢で第１手段を安定させ易くすることができる。

【２４５９４】

遊技機ＫＣ１又はＫＣ２において、前記第１手段に所定方向で当接し得る当接手段を備え、前記第１手段が前記当接手段と当接し停止されることに基づいて、前記第２手段が前記第２位置に維持可能とされることを特徴とする遊技機ＫＣ３。

【２４５９５】

遊技機ＫＣ３によれば、遊技機ＫＣ１又はＫＣ２の奏する効果に加え、第１手段が当接

手段と当接し停止されることに基づいて、第２手段が第２位置に配置されることから、第２手段を係止する必要を無くすことができるので、第２手段を第２位置で停止させるために第２手段に大きな荷重がかけられるという事態を避けることができ、第２手段の破損を防止することができる。

【２４５９６】

遊技機ＫＣ３において、前記当接手段は、前記第１手段に回転方向から当接する面であって、前記第２手段の移動方向に対して傾斜する傾斜面として構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ４。

【２４５９７】

遊技機ＫＣ４によれば、遊技機ＫＣ３の奏する効果に加え、傾斜面に第１手段が当接している状態で、第１手段に第２手段の移動方向の荷重が加えられた場合に、その荷重を、所定軸へ向かう方向と、第１手段の回転方向とに分散させることができる。これにより、所定軸が受ける荷重を低減することができる。

【２４５９８】

遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかにおいて、前記第１手段が所定方向に回転動作され前記第２手段が前記第１位置から前記第２位置まで移動された後に継続される前記第１手段の回転動作により、前記第２手段が移動されないように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ５。

【２４５９９】

遊技機ＫＣ５によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転による第２手段の配置のずれを回避し易くすることができる。

【２４６００】

遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第２位置から前記第１位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ６。

【２４６０１】

遊技機ＫＣ６によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかの奏する効果に加え、第１移動手段の移動方向に因らず第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の演出効果を改善することができる。

【２４６０２】

遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量に比例して前記第２手段の移動方向で移動可能とされる第３手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＣ７。

【２４６０３】

遊技機ＫＣ７によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の移動を開始させる前に予め第１手段を回転させている状態において、第３手段を移動させることができるので、遊技機の演出効果を向上させることができる。

【２４６０４】

遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量には、前記第３手段の移動が生じない程度の限界値が設定されており、前記第２手段が前記第２位置に到達してから前記第１手段が前記当接手段に当接するまでの回転量は、前記限界値以下となるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ８。

【２４６０５】

遊技機ＫＣ８によれば、遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転により第３手段が位置ずれすることを回避することができる。

【２４６０６】

遊技機ＫＣ７又はＫＣ８において、前記第２手段を移動させない範囲における前記第１手段の往復動作を可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ９。

【２４６０７】

遊技機ＫＣ９によれば、遊技機ＫＣ７又はＫＣ８の奏する効果に加え、第２手段の移動

が生じる場合に比較して、第３手段を抵抗少なく移動させることができる。
【２４６０８】
遊技機ＫＣ９において、前記第１手段への駆動力伝達が、第１手段の所定量の移動を待たずに停止されるよう制御されることを特徴とする遊技機ＫＣ１０。
【２４６０９】
遊技機ＫＣ１０によれば、遊技機ＫＣ９の奏する効果に加え、駆動力による勢いで移動した第１手段が、第２手段の慣性抵抗（静止摩擦）により停止されることになるので、第１手段の所定量の移動中において駆動力伝達を生じさせ続ける場合に比較して、第２手段の誤動作を回避し易くすることができる。
【２４６１０】
＜球に対する光の見え方を演出に利用するように発光手段を配置する＞
遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態を形成可能な形成手段と、所定の照射範囲に光を照射可能な光照射手段と、を備え、前記入球領域へ向かう第１流下態様または前記入球領域へ向かわない第２流下態様で遊技球を流下させ得るよう構成され、遊技球が前記第１流下態様で流下している場合における前記所定の照射範囲における視認態様と、遊技球が前記第２流下態様で流下している場合における前記所定の照射範囲における視認態様とを異ならせるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＤ１。
【２４６１１】
パチンコ機等の遊技機において、入球領域に遊技球を案内可能な状態と案内不能な状態とを切り替える可動体よりも上流側の下側領域に光照射手段を配置し、発光演出を行う遊技機がある（例えば、特開２０１６－１２０２２０号公報を参照）。
【２４６１２】
しかし、上述した従来の遊技機では、光照射手段の上側に形成される坂の上を遊技球が流下するものであり、光照射手段からの光が照射される領域には遊技球が入り込まないよう構成されているので、遊技球が流下した場合に光の見え方が変化することは無く光照射手段の付近では遊技球が明るく見えるのだが、可動体と光照射手段との間に若干の距離があるために可動体側に光が届きにくく、可動体付近が暗く視認されてしまい、通常の注目力で行う遊技では入球領域に遊技球が入っているのかどうかが判別し難い。
【２４６１３】
そのため、遊技者に可動体付近を覗き込む遊技を強いることになり、遊技者の遊技負担を大きくさせ、興趣の向上を図れなくなる可能性があった。即ち、上述した従来の遊技機では、遊技者の興趣の向上の観点で改善の余地があるという問題点があった。
【２４６１４】
これに対し、遊技機ＫＤ１によれば、遊技球が入球領域へ向かう第１流下態様で流下しているか、遊技球が入球領域へ向かわない第２流下態様で流下しているかによって、光照射手段からの光の見え方を異ならせることができるので、光照射手段からの光を視認することにより、遊技球が入球領域へ向かっているか否かを遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者の遊技負担を低減させることができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。
【２４６１５】
遊技機ＫＤ１において、前記光照射手段は、前記第１流下態様で流下する遊技球に光が遮蔽されない位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ２。
【２４６１６】
遊技機ＫＤ２によれば、遊技機ＫＤ１の奏する効果に加え、遊技球が入球領域に入球を継続している場合においても、光照射手段からの光による演出効果を維持することができる。
【２４６１７】
遊技機ＫＤ１又はＫＤ２において、前記光照射手段は、前記形成手段を光で照らす位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ３。

【２４６１８】
遊技機ＫＤ３によれば、遊技機ＫＤ１又はＫＤ２の奏する効果に加え、形成手段の視認性が低下することを回避し易くすることができる。
【２４６１９】
遊技機ＫＤ３において、前記形成手段よりも正面側に配置され遊技球の流下経路を覆う覆設手段を備え、前記覆設手段の正面側に描かれる形状は、前記形成手段の形状に沿う形状とされることを特徴とする遊技機ＫＤ４。
【２４６２０】
遊技機ＫＤ４によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ３のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の視認性が向上されることに伴って、覆設手段の視認性を向上させることができる。即ち、形成手段を介して視認される光により覆設手段の正面側に描かれる形状を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。
【２４６２１】
遊技機ＫＤ４において、前記覆設手段に描かれる前記形状は、後方を視認し易い第１視認部と、その視認容易部よりも視認性が劣る第２視認部とから形成され、前記第１視認部は、少なくとも前記第１流下態様における遊技球の流下経路の前方に形成され、前記形成手段を介して進行する光は、前記第１視認部を通過することを特徴とする遊技機ＫＤ５。
【２４６２２】
遊技機ＫＤ５によれば、遊技機ＫＤ４の奏する効果に加え、第１流下態様で流下する遊技球に対する注目力を向上させることができると共に、第１視認部を明るくすることで後方の視認性を向上させることができる。
【２４６２３】
遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかにおいて、形成手段を支持する支持手段を備え、その支持手段は、形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能に形成される反射部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ６。
【２４６２４】
遊技機ＫＤ６によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の色味が反射部を介しても視認されるように構成することができる。
【２４６２５】
遊技機ＫＤ６において、前記反射部は、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能とされ、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせない状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射不可能とされることを特徴とする遊技機ＫＤ７。
【２４６２６】
遊技機ＫＤ７によれば、遊技機ＫＤ６の奏する効果に加え、反射部の視認態様と、形成手段の状態とが対応づけられる。これにより、形成手段の状態の変化が分かり難い場合であっても、反射部を視認することで形成手段の状態を把握することができるので、遊技者の遊技負担を軽減させることができる。
【２４６２７】
遊技機ＫＤ６又はＫＤ７において、前記反射部は、遊技球の流下経路よりも上側に形成されることを特徴とする遊技機ＫＤ８。
【２４６２８】
遊技機ＫＤ８によれば、遊技機ＫＤ６又はＫＤ７の奏する効果に加え、流下経路を流下する遊技機により反射部が隠される事態を回避し易くすることができる。
【２４６２９】
遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかにおいて、前記覆設手段は、前記形成手段を背景として視認可能な位置に前記形成手段よりも小さな形状部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ９。
【２４６３０】
遊技機ＫＤ９によれば、遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかの奏する効果に加え、形成

手段を背景とした形状部の視認態様と、形成手段を背景としない形状部の視認態様とを異ならせることで、固定の覆設手段の見え方を変化させることができる。

【２４６３１】

遊技機ＫＤ９において、前記形状部が、前記形成手段の上流側位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ１０。

【２４６３２】

遊技機ＫＤ１０によれば、遊技機ＫＤ９の奏する効果に加え、形状部により注目させる箇所を形成手段の上流側位置とすることで、形状部付近で遊技者に視認された遊技球が入球領域に入球するまでの時間を長く確保することができる。これにより、遊技者に入球領域への入球を確認させる時間的余裕を与えることができる。

【２４６３３】

＜化粧板の背後の変位手段の見え方が配置によって異なる＞

遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる第１位置と遊技球を前記入球領域へ向かわせない第２位置とに変位可能な変位手段と、光透過性材料から形成され、所定方向視で前記変位手段の少なくとも一部と重なるよう配置される透過手段と、を備え、前記透過手段には所定の装飾が施され、前記変位手段が前記第１位置に配置されるか前記第２位置に配置されるかによって、前記所定方向視における前記変位手段と前記透過手段との重なる領域が変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＥ１。

【２４６３４】

パチンコ機等の遊技機において、入球領域の正面側に覆設される化粧部材が可動とされ、その化粧部材を動かすことで入球領域付近の見え方を変化させる遊技機がある（例えば、特開２０１５－１０７２９３号公報を参照）。

【２４６３５】

しかし、上述した従来の遊技機では、化粧部材を動作させるための駆動手段や伝達機構が別途必要となることから、入球領域付近の領域が駆動手段や伝達機構により圧迫され易く、入球領域付近の設計自由度が低くなるという問題点があった。

【２４６３６】

これに対し、遊技機ＫＥ１によれば、透過手段を通して変位手段が視認される構造において、変位手段の配置が変化することで透過手段と変位手段とが重なる領域が変化することから、透過手段を動作させなくても透過手段の所定の装飾を異なる態様で視認させることができる。これにより、駆動手段や伝達機構が配設されるスペースを空けることができ、入球領域付近の設計自由度を向上させることができる。

【２４６３７】

遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の背景とされることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ２。

【２４６３８】

遊技機ＫＥ２によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。

【２４６３９】

遊技機ＫＥ１又はＫＥ２において、前記所定の装飾は、前記入球領域と関連する形状とされることを特徴とする遊技機ＫＥ３。

【２４６４０】

遊技機ＫＥ３によれば、遊技機ＫＥ１又はＫＥ２の奏する効果に加え、所定の装飾への注目を、入球領域への注目へと誘導させ易くすることができる。

【２４６４１】

遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記所定方向視とは異なる方向視であって、前記所定の装飾と前記変位手段とが重ならない方向視において視認可能な位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＥ４。

【２４６４２】

遊技機ＫＥ４によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾における視認態様の変化を煩わしく感じる遊技者に対して、遊技負担を低減させることができる。

【２４６４３】

遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の後方から退避されることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ５。

【２４６４４】

遊技機ＫＥ５によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。

【２４６４５】

遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかにおいて、前記入球領域を複数備え、前記所定の装飾が、各入球領域に対応して複数設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ６。

【２４６４６】

遊技機ＫＥ６によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾を視認することで、複数の入球領域のどこに遊技球が案内されるのかを把握し易くすることができる。

【２４６４７】

遊技機ＫＥ６において、複数の前記所定の装飾は、異なる大きさで形成されることを特徴とする遊技機ＫＥ７。

【２４６４８】

遊技機ＫＥ７によれば、遊技機ＫＥ６の奏する効果に加え、所定の装飾による遊技球の入球先の判別をしやすくすることができる。また、複数の入球領域の利益差に応じて、所定の装飾の大小関係が設定されることで、遊技者に直感的に得られる利益を把握させることができる。

【２４６４９】

遊技機ＫＥ６又はＫＥ７において、複数の前記所定の装飾は、一方の内部に他方が配置される態様で設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ８。

【２４６５０】

遊技機ＫＥ８によれば、遊技機ＫＥ６又はＫＥ７の奏する効果に加え、複数の所定の装飾に注目させる場合に、遊技者が目線を変えることを不要することができる。これにより、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【２４６５１】

遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかにおいて、前記透過手段は、前記変位手段の位置を合わせる位置合わせ部を備えることを特徴とする遊技機ＫＥ９。

【２４６５２】

遊技機ＫＥ９によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかの奏する効果に加え、位置合わせ部により、変位手段が第１状態とされた場合における変位手段と所定の装飾との位置ずれを抑制することができる。

【２４６５３】

遊技機ＫＥ９において、前記位置合わせ部は、前記所定の装飾とは異なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＫＥ１０。

【２４６５４】
遊技機ＫＥ１０によれば、遊技機ＫＥ９の奏する効果に加え、所定の装飾の視認性を確保することができる。
【２４６５５】
＜複数の層を組み合わせて一連の装飾となる構造＞
第１の層に第１手段が配置可能とされ、所定方向視において前記第１の層と重なる第２の層に第２手段が配置可能とされる遊技機において、前記第２手段と、前記第１手段とは、独立して変位可能であり、前記所定方向視において所定領域に配置される前記第１手段および前記第２手段が、一連の視認態様で視認され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ１。
【２４６５６】
パチンコ機等の遊技機において、はさみの刃を模した形状から形成される第１手段および第２手段を備え、第１手段および第２手段により一連の視認態様で視認される遊技機がある（例えば、特開２０１１－１１０２５５号公報を参照）。
【２４６５７】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１手段および第２手段が互いに連動しているため、動作速度が遅くなり、第１手段および第２手段が液晶表示装置の外方に配置された状態から、第１手段および第２手段が液晶表示装置の前方に配置されて一連の視認態様で視認させる状態に変化するまでに時間が長くかかることになり、演出の自由度が低くなる可能性があるという問題点があった。即ち、第１手段および第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。
【２４６５８】
これに対し、遊技機ＫＦ１によれば、第１手段が、第２手段に対して独立して変位可能に構成されているので、第１手段の動作速度が第２手段の重さにより制限されることを避けることができ、第１手段および第２手段の動作の迅速化を図ることができ、第１手段および第２手段の演出効果を向上させることができる。
【２４６５９】
遊技機ＫＦ１において、前記第１手段が視認態様の異なる可動状態と非可動状態とを切替可能に構成され、非可動状態において前記一連の視認態様で視認されることを特徴とする遊技機ＫＦ２。
【２４６６０】
遊技機ＫＦ２によれば、遊技機ＫＦ１の奏する効果に加え、第１手段で動的に演出する状態と、第１手段を非可動として一連の形状に注目させる状態とを切り替えることができる。
【２４６６１】
遊技機ＫＦ１又はＫＦ２において、前記第１手段は、動作手段と被動作手段とを備え、動作手段の変位が、被動作手段の状態に対応して生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＦ３。
【２４６６２】
遊技機ＫＦ３によれば、遊技機ＫＦ１又はＫＦ２のいずれかの奏する効果に加え、動作手段と被動作手段とが独立動作する場合のように互いに衝突することを防止することができる。
【２４６６３】
遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかにおいて、前記第１手段が非可動状態とされる場合において前記第２手段が可動とされることを特徴とする遊技機ＫＦ４。
【２４６６４】
遊技機ＫＦ４によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかの奏する効果に加え、第２手段についても第１手段に独立して変位可能とされることから、動作演出のバリエーションを増加させることができる。
【２４６６５】
遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかにおいて、前記第１手段と前記第２手段とが一連の

視認態様で視認されない状態から、前記第１手段と前記第２手段とが移動することで互いに近づいた近接状態において一連の視認態様で視認されることを特徴とする遊技機ＫＦ５。

【２４６６６】

遊技機ＫＦ５によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかの奏する効果に加え、一連の視認態様で視認される範囲を狭めることができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【２４６６７】

遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかにおいて、前記第１手段または前記第２手段は、前記所定領域で動作が停止され、前記所定領域以外の領域では動作が継続され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ６。

【２４６６８】

遊技機ＫＦ６によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかの奏する効果に加え、所定領域において一連の視認態様で視認される場合以外における第１手段または第２手段の視認態様を継続動作により変化させることができるので、一連の視認態様で視認される態様への注目力を向上させることができる。

【２４６６９】

遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかにおいて、前記第１手段で囲われる領域に前記第２手段が配置され、前記第２手段の発光態様に対応して、前記第１手段の発光態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＦ７。

【２４６７０】

遊技機ＫＦ７によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかの奏する効果に加え、発光態様を対応させることにより第１手段および第２手段による演出効果を向上させることができる。

【２４６７１】

遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかにおいて、前記所定方向視において前記第１手段または前記第２手段と重なり得る位置に表示領域を有する表示装置を備え、前記表示領域からの光が、前記第１手段または前記第２手段に対応する領域で照らされることを特徴とする遊技機ＫＦ８。

【２４６７２】

遊技機ＫＦ８によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかの奏する効果に加え、表示装置の表示領域からの光により第１手段または第２手段を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。

【２４６７３】

遊技機ＫＦ８において、前記表示領域からの光の態様が、前記第１手段または前記第２手段の変位中と、前記第１手段または前記第２手段の非変位中とで変化可能とされることを特徴とする遊技機ＫＦ９。

【２４６７４】

遊技機ＫＦ９によれば、遊技機ＫＦ８の奏する効果に加え、第１手段または第２手段の見せ方を、変位中と非変位中とで異ならせることができるので、一連の視認態様で視認させる状態と、それ以外の状態とで、第１手段または第２手段の見せ方にバリエーションを設けることができる。

【２４６７５】

遊技機ＫＦ８又はＫＦ９において、前記表示領域で、前記第１手段または前記第２手段の視認態様に対応した表示がされることを特徴とする遊技機ＫＦ１０。

【２４６７６】

遊技機ＫＦ１０によれば、遊技機ＫＦ８又はＫＦ９の奏する効果に加え、第１手段または第２手段が透過性材料で構成されている場合に、表示領域における表示と第１手段または第２手段自体の装飾とが組み合わされた視認態様で視認させることができる。

【２４６７７】

また、第１手段または第２手段に動作不良が生じた場合であっても、表示領域における表示を第１手段または第２手段に代替させることができ、演出効果の低下を最小限に留めることができる。

【２４６７８】

遊技機ＫＦ８からＫＦ１０のいずれかにおいて、前記表示装置による表示と、前記第１手段または前記第２手段とが連動されることを特徴とする遊技機ＫＦ１１。

【２４６７９】

遊技機ＫＦ１１によれば、第１手段または第２手段が配置されていない層における表示装置の表示領域全体を利用して、第１手段または第２手段に連動される対象を遊技者に視認させることができる。これにより、遊技者に注目させる領域を広げられる。

【２４６８０】

遊技機ＫＦ８からＫＦ１１のいずれかにおいて、前記表示装置による表示を視認させる第１視認範囲と、前記第１視認範囲とは異なる態様で視認させる第２視認範囲と、を備え、前記第２視認範囲は、前記第１視認範囲よりも前側の層に形成されることを特徴とする遊技機ＫＦ１２。

【２４６８１】

遊技機ＫＦ１２によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１視認範囲と、第２視認範囲とを、前後配置の関係する視認態様で視認させることができるので、立体感または積層感のある演出を実現できる。

【２４６８２】

遊技機ＫＦ１２において、前記第１視認範囲と、前記第２視認範囲との隙間を狭める隙間防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＦ１３。

【２４６８３】

遊技機ＫＦ１３によれば、遊技機ＫＦ１２の奏する効果に加え、第１視認範囲における視認態様と、第２視認範囲における視認態様とを一連の視認態様で視認させ易くすることができる。

【２４６８４】

遊技機ＫＦ８からＫＦ１３のいずれかにおいて、前記第１手段または前記第２手段の変位に伴って変位される発光手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＦ１４。

【２４６８５】

遊技機ＫＦ１４によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段または第２手段の変位に対する、光演出の時間遅れを回避し易くすることができる。

【２４６８６】

遊技機ＫＦ８からＫＦ１４のいずれかにおいて、前記第１の層における視認態様は、電圧制御に基づく前記第２の層における状態に対応して変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＦ１５。

【２４６８７】

遊技機ＫＦ１５によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１４のいずれかの奏する効果に加え、第２の層における第２手段の状態に対応して第１手段の視認態様の変化を生じさせることができる。

【２４６８８】

遊技機ＫＦ１５において、前記第２の層における状態に対応して、所定の光を遮断する遮断範囲と、所定の光を遮断しない非遮断範囲と、を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＦ１６。

【２４６８９】

遊技機ＫＦ１６によれば、遊技機ＫＦ１５の奏する効果に加え、第２の層における状態によって背面からの光の透過態様を変化させることにより、第２の層および第１の層とを重ねた視認態様を変化させることができる。

【２４６９０】

＜ベース板の裏側に基板を配置＞
正面側に遊技領域が形成される遊技盤と、その遊技盤に光を照射する光照射手段と、を備え、前記光照射手段は、前記遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で光が前記遊技盤に進入し得る位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ１。
【２４６９１】
パチンコ機等の遊技機において、遊技盤の背面側に発光基板が配設され、発光基板に配設されるＬＥＤ等の発光手段から正面側へ向けて光が照射されることで、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材を明るく照らすように構成される遊技機がある（例えば、特開２００６－３３３８８７号公報を参照）。
【２４６９２】
しかし、上述した従来の遊技機では、限られた発光手段で遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材の広い範囲を明るく照らすために、発光基板を遊技盤からある程度離して配設する必要があるため、そのためのスペースを遊技盤の背面側に確保する必要がある一方で、発光基板と遊技盤との間に演出用の可動役物を配設してしまうと、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材に可動役物の影が映ることで暗くなってしまうため、この観点からは発光手段を遊技盤側に寄せて可動役物の配設スペースを作りたいという、相反する課題があった。即ち、光照射手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【２４６９３】
これに対し、遊技機ＫＧ１によれば、光照射手段からの光は遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で遊技盤に進入し得る位置に配置されることから、遊技盤の厚さ幅の内側で光の照射範囲を拡げられ、光により照らす面積を増大させることができることから遊技盤を明るく視認させることができると共に、光照射手段を遊技盤の後方に離して配置する必要がないので、遊技盤の背面側に可動役物の配設スペースを十分確保することができる。即ち、光照射手段の配置を改善することができる。
【２４６９４】
遊技機ＫＧ１において、前記光照射手段は、前記遊技盤の後方に配設されることを特徴とする遊技機ＫＧ２。
【２４６９５】
遊技機ＫＧ２によれば、遊技機ＫＧ１の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤で隠すように配設することができ、見栄えを良くすることができる。
【２４６９６】
遊技機ＫＧ１又はＫＧ２において、前記遊技盤は前記遊技領域が形成される範囲外において背面側に凹設される凹設部を備え、その凹設部により形成される空間に前記光照射手段が配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ３。
【２４６９７】
遊技機ＫＧ３によれば、遊技機ＫＧ１又はＫＧ２の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤の厚み寸法内に収めることができるので、遊技盤の背面側のスペースを確保し易くすることができる。
【２４６９８】
遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかにおいて、前記遊技盤は、背面側面に前記光照射手段からの光を正面側へ向けさせるための変化部を備えることを特徴とする遊技機ＫＧ４。
【２４６９９】
遊技機ＫＧ４によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかの奏する効果に加え、変化部の配置により正面視における光の見え方を容易に設計することができる。
【２４７００】
遊技機ＫＧ４において、前記遊技盤は、前記変化部にシボ加工が形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ５。
【２４７０１】
遊技機ＫＧ５によれば、遊技機ＫＧ４の奏する効果に加え、変化部で光を拡散させるこ

とができ、変化部を明るく視認させるためのＬＥＤ等の光照射部の個数を削減させることができる。

【２４７０２】

遊技機ＫＧ４又はＫＧ５において、前記変化部は、前記光照射手段から所定の光軸で発射される光が到達し得る複数位置に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ６。

【２４７０３】

遊技機ＫＧ６によれば、遊技機ＫＧ４又はＫＧ５の奏する効果に加え、所定の光軸で発射される光により変化部が明るく視認される範囲を広げることができる。

【２４７０４】

遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかにおいて、前記変化部は、前記遊技盤の内側の開口部の縁部に周状に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ７。

【２４７０５】

遊技機ＫＧ７によれば、遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかの奏する効果に加え、遊技盤の内側の開口部の縁部を略円環状に照らすことができる。これにより、開口部内側に配置される表示装置への視線誘導をし易くすることができる。

【２４７０６】

遊技機ＫＧ７において、前記変化部は、前記開口部の縁部前端よりも縁部後端の方が開口が大きくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ８。

【２４７０７】

遊技機ＫＧ８によれば、遊技機ＫＧ７の奏する効果に加え、開口部の縁部前端を基準として遊技盤にセンターフレームを配設することができ、変化部を介する光によりセンターフレームを明るく照らすことができる。

【２４７０８】

遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかにおいて、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光の進行方向が正面側へ向けられるまでの間、その光は前記遊技盤の厚み寸法内を進行することを特徴とする遊技機ＫＧ９。

【２４７０９】

遊技機ＫＧ９によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかの奏する効果に加え、正面側へ向けられる前の光が遊技領域内を進行する場合と異なり、遊技領域を流下する球に光が遮られることを回避することができる。

【２４７１０】

遊技機ＫＧ９において、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光は、前記遊技領域に配設される入球領域に入球した遊技球の通過経路を通過可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ１０。

【２４７１１】

遊技機ＫＧ１０によれば、遊技機ＫＧ９の奏する効果に加え、光照射手段から進入した光が遮蔽された場合と、遊技球が入球領域に入球したこととを対応付けることができるので、光照射手段から照射される光に対する注目力を向上させることができる。

【２４７１２】

＜視認部の視認態様が変化し得る回転動作手段＞

視認態様が変化し得る所定の視認部を有する動作手段を備え、前記所定の視認部が回転移動し得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ１。

【２４７１３】

パチンコ機等の遊技機において、演出効果を高める動きを生じ得る動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。

【２４７１４】

しかし、上述した従来の遊技機では、図柄の変動に対応して連動される動作手段が、遊技機中央部に固定された表示装置の手前側で開閉される動作をするに過ぎず、この場合、表示装置への注目力は向上されるが、動作手段を目で追わせるように注目させることは難しい。即ち、動作手段の演出効果について改善の余地があった。

【２４７１５】
これに対し、遊技機ＫＫＨ１によれば、所定の視認部が回転移動し得ることから、動作手段の回転動作が所定の一点を中心に継続される場合に、所定の視認部の視認態様の変化を確認するために、動作手段への注目力を向上させることができる。その場合に、回転中心からある程度の範囲を視界に収めておけば済むので、所定の視認部の視認態様の変化を確認しようとする遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４７１６】
遊技機ＫＫＨ１において、前記動作手段は、回転移動することに伴って前記所定の視認部を通した視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＫＨ２。
【２４７１７】
遊技機ＫＫＨ２によれば、遊技機ＫＫＨ１の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様の変化に注目させるタイミングを動作手段の回転移動中に限定させることができるので、所定の視認部の視認態様の変化がいつ生じるか分からない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４７１８】
遊技機ＫＫＨ１又はＫＫＨ２において、前記所定の視認部の視認態様は、前記動作手段の回転軸を挟んで位置する第１位置および第２位置で少なくとも変わり得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ３。
【２４７１９】
遊技機ＫＫＨ３によれば、遊技機ＫＫＨ１又はＫＫＨ２の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様が変化する箇所が１箇所である場合に比較して、所定の視認部の視認態様の変化の確認の難易度を上げることができるので、遊技者の動作手段に対する注目力をより向上させることができる。
【２４７２０】
遊技機ＫＫＨ３において、前記第１位置での前記所定の視認部の視認態様の変化が生じた場合と、前記第２位置での前記所定の視認部の視認態様の変化が生じた場合とで、遊技者が得られる利益が変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ４。
【２４７２１】
遊技機ＫＫＨ４によれば、遊技機ＫＫＨ３の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様の変化に対する遊技者の興味関心を向上させることができ、動作手段に対する注目力を増大させることができる。
【２４７２２】
遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ４のいずれかにおいて、前記所定の視認部の視認態様が、第１の視認態様で変化する場合と、第２の視認態様で変化する場合とがあることを特徴とする遊技機ＫＫＨ５。
【２４７２３】
遊技機ＫＫＨ５によれば、遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ４のいずれかの奏する効果に加え、所定の視認態様が、どのように変化するかに対する遊技者の興味を向上させることができ、遊技者の動作手段に対する注目力を向上させることができる。
【２４７２４】
＜球流下と回転動作手段とを関連させる演出＞
遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ５のいずれかにおいて、遊技者に視認され得るよう構成され、遊技球の流下に対応して動かされ得る動作手段を備える遊技機ＫＨ１。
【２４７２５】
パチンコ機等の遊技機において、演出効果を高める動きを生じ得る動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。
【２４７２６】
しかし、上述した従来の遊技機では、図柄の変動に対応して動作手段の演出動作が実行されることに留まり、その動作態様から実際の遊技球の流下についての情報を得ることは難しかった。そのため、遊技者の目線が動作手段に注目している場合には遊技球の流下態

様を把握することはできず、遊技球の流下の感じを見ながら遊技球の発射強度の調整をリアルタイムで行うことが困難であった。

【２４７２７】

この場合、液晶表示装置でのロングリーチを視認しながら遊技球の発射を継続することが困難であり、特別図柄の保留を満タンまで溜めた状態で遊技を行いたい遊技者の遊技負担を増加させる可能性が高く、興趣が低下する可能性がある。このように、上述した従来の遊技機では、動作手段に改善の余地があるという問題点があった。

【２４７２８】

これに対し、遊技機ＫＨ１によれば、遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ５のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動きを遊技者が視認することにより、遊技球の流下について遊技者に把握させることができる。これにより、動作手段を改善することができる。

【２４７２９】

遊技機ＫＨ１において、遊技球の流下に基づく所定条件が成立した場合に前記動作手段が動かされることを特徴とする遊技機ＫＨ２。

【２４７３０】

遊技機ＫＨ２によれば、遊技機ＫＨ１の奏する効果に加え、遊技領域に遊技球が流下してさえいれば動作手段に動きが生じる場合に比較して、動作手段の動きから、遊技者が遊技球の流下態様を予測し易くすることができる。

【２４７３１】

遊技機ＫＨ１又はＫＨ２において、前記動作手段が動き得る状態で支持され、一側端部を支点とする変位が可能に構成される支持手段と、その支持手段の変位を許容する許容状態と、前記支持手段の変位を規制する規制状態とを構成可能な規制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＨ３。

【２４７３２】

遊技機ＫＨ３によれば、遊技機ＫＨ１又はＫＨ２の奏する効果に加え、支持手段の配置に対応して、動作手段の配置にバリエーションを持たせることができるので、流下態様の状態の把握を容易にすることができる。

【２４７３３】

遊技機ＫＨ２又はＫＨ３において、遊技領域を流下する遊技球が所定部位を通過した場合に前記前記所定条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＫＨ４。

【２４７３４】

遊技機ＫＨ４によれば、遊技機ＫＨ２又はＫＨ３の遊技機の奏する効果に加え、動作手段の動きを視認することで、遊技球が所定部位を通過したことを遊技者に把握させることができる。

【２４７３５】

なお、所定部位としては、種々の態様が例示される。例えば、遊技球の流下が検出されることで所定の賞球の払い出しが実行される賞球口であっても良いし、賞球の払い出しは生じないが何らかの抽選が実行される開口でも良いし、賞球の払い出しも何らかの抽選も実行されず単に遊技球の流下を検出する検出センサであっても良いし、遊技球からのエネルギーの伝達により動作される動作部材の被衝突部であっても良い。

【２４７３６】

遊技機ＫＨ４において、前記動作手段の上側の第１所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が動かされない一方、前記第１所定部位よりも左側を遊技球が流下する場合には、前記動作手段が動かされ得ることを特徴とする遊技機ＫＨ５。

【２４７３７】

遊技機ＫＨ５によれば、遊技機ＫＨ４の奏する効果に加え、動作手段を視認することで、動作手段を基準にして、遊技球が左右どちら側を流下しているのかを遊技者に把握させることができる。これにより、例えば、右打ち遊技を実行しているつもりの遊技者に対して、遊技球が左側に流下していることに気付かせ易くすることができる。

【２４７３８】

遊技機ＫＨ４において、前記動作手段の上側の第２所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が右方側に動かされる一方、前記第２所定部位よりも左側を遊技球が流下する場合には、前記動作手段が左方側に動かされ得ることを特徴とする遊技機ＫＨ６。

【２４７３９】

遊技機ＫＨ６によれば、遊技機ＫＨ４の奏する効果に加え、動作手段の動きの方向と、遊技球の流下する方向とが対応しているので、動作手段を視認した遊技者に対して、遊技球の流下について直感的に理解させ易くすることができる。

【２４７４０】

遊技機ＫＨ６において、前記第２所定部位よりも上側に位置する第３所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が動かされないことを特徴とする遊技機ＫＨ７。

【２４７４１】

遊技機ＫＨ７によれば、遊技機ＫＨ６の奏する効果に加え、動作手段との離間幅と、動作手段の動きの有無とが対応しているので、動作手段が動いていないことを視認した遊技者に対して、遊技球が動作手段と離れた位置を流下していることを把握させ易くすることができる。

【２４７４２】

遊技機ＫＨ４から遊技機ＫＨ７のいずれかにおいて、前記所定部位を遊技球が通過したことに基づいて前記動作手段が動いている状態において、前記所定部位を遊技球が通過した場合に、前記動作手段の動く速度が変化されることを特徴とする遊技機ＫＨ８。

【２４７４３】

遊技機ＫＨ８によれば、遊技機ＫＨ４からＫＨ７のいずれかの奏する効果に加え、頻度や流下方向にランダム性を有する遊技球の流下を動作手段の動きに反映させることで、ランダム性の高い演出を動作手段で実行させることができる。更に、動作手段の動く速度の変化を視認した遊技者に対して、所定部位を再び遊技球が通過したことを把握させることができるので、遊技球の流下のパターン（流下態様のばらつきの程度）を遊技者が把握し易くすることができる。

【２４７４４】

遊技機ＫＨ３からＫＨ８のいずれかにおいて、前記支持手段は、前記規制手段が前記許容状態か前記規制状態かに関わらず、前記動作手段が動き得る状態で支持することを特徴とする遊技機ＫＨ９。

【２４７４５】

遊技機ＫＨ９によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ８のいずれかの奏する効果に加え、支持手段が変位される状態か、支持手段の変位が規制される状態かのいずれかでのみ動作手段が動き得る場合に比較して、動作手段による見映えの向上の効果を生じさせることができる状態を増やすことができる。

【２４７４６】

遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかにおいて、前記規制手段の前記許容状態から前記規制状態への変化は、前記支持手段の変位に連動して生じることを特徴とする遊技機ＫＨ１０。

【２４７４７】

遊技機ＫＨ１０によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかの奏する効果に加え、規制手段の状態の変化が支持手段の変位に連動して生じることから、規制手段と支持手段とがそれぞれ独立の基準で動作し得る場合に比較して、誤動作（例えば、動作タイミングが合わずに、干渉し合う等）の発生を回避し易くすることができる。

【２４７４８】

遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかにおいて、前記規制手段が前記許容状態とされる場合に、前記支持手段が前記規制手段の前記規制状態において配置される上下位置に、前記支持手段を維持可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＨ１１。

【２４７４９】
遊技機ＫＨ１１によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかの奏する効果に加え、規制手段の許容状態からの支持手段の変位と、規制手段の規制状態からの支持手段の変位とを、同じ上下位置から開始させることができるので、遊技者に注目させる高さ位置を統一することができ、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４７５０】
遊技機ＫＨ３からＫＨ１１のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記支持手段の変位に基づいて変位することを特徴とする遊技機ＫＨ１２。
【２４７５１】
遊技機ＫＨ１２によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ１１のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下に対応する動きの他に、支持手段の変位に基づく変位による動きをも生じさせることができるので、動作手段の視認態様のバリエーションを増加させることができる。
【２４７５２】
遊技機ＫＨ３からＫＨ１２のいずれかにおいて、前記支持手段の前記一側端部を支点とする変位は、前記動作手段が、前記支持手段の中心位置よりも前記一側端部側に配置された状態で生じることを特徴とする遊技機ＫＨ１３。
【２４７５３】
遊技機ＫＨ１３によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ１２のいずれかの奏する効果に加え、支持手段の変位時における変位が小さい側に動作手段が配置されることから、支持手段が急に停止される等の衝撃が生じた場合に動作手段が受ける衝撃（荷重）を小さくすることができる。
【２４７５４】
＜遊技球の流下範囲の正面側に装飾を形成するポイント＞
遊技球が流下する所定の流下領域の正面側に配設され所定の厚みを有する光透過部を備え、前記光透過部は、第１の光の透過率で構成される第１透過率部と、その第１透過率部よりも高い透過率で光を透過する第２透過率部と、を備え、正面視で前記第１透過率部と重なる遊技球の一部は、前記第２透過率部と重なるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＩ１。
【２４７５５】
パチンコ機等の遊技機において、遊技盤に模様が形成される遊技機がある（例えば、特開２０１１－８３３８１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、流下する遊技球により模様が隠されることで演出効果の妨げとなる可能性があるところ、単純に遊技領域の前側に模様を形成するだけでは、今度は逆に模様により遊技球が隠されてしまい遊技球を見失う事態を生じさせる可能性があることから、遊技球を見失わせることなく演出効果を向上させる観点から改善の余地があるという問題点があった。
【２４７５６】
これに対し、遊技機ＫＩ１によれば、遊技球が第１透過率部と重なる場合に、第２透過率部とも重なるように構成されているので、第１透過率部に遊技球が完全に覆われる状況を避けることにより遊技者が遊技球を見失う事態が生じることを避け易くしながら、光透過部の背面側を遊技球が流下する場合と流下しない場合とで視認態様を変化させることにより演出効果を向上させることができる。
【２４７５７】
遊技機ＫＩ１において、前記第１透過率部は、所定の記号の少なくとも一部を構成することを特徴とする遊技機ＫＩ２。
【２４７５８】
遊技機ＫＩ２によれば、遊技機ＫＩ１の奏する効果に加え、流下領域における遊技球の流下の有無に関わらず、所定の記号による何らかの意味合いを遊技者に認識させることができるので、演出性の向上を図ることができる。
【２４７５９】

遊技機ＫＩ２において、前記第１透過率部は、前記所定の記号の輪郭の少なくとも一部を構成することを特徴とする遊技機ＫＩ３。

【２４７６０】

遊技機ＫＩ３によれば、遊技機ＫＩ２の奏する効果に加え、所定の記号の識別を容易とさせることができる。

【２４７６１】

遊技機ＫＩ１からＫＩ３のいずれかにおいて、前記第１透過率部の、遊技球の流下方向の寸法または遊技球の流下方向に対して交差する方向の寸法の少なくとも一方は、遊技球の直径よりも短くされることを特徴とする遊技機ＫＩ４。

【２４７６２】

遊技機ＫＩ４によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ３のいずれかの奏する効果に加え、第１透過率部の設計自由度を向上させることができ、構成される模様の種類を増加させることによる演出効果の向上を図ることができる。

【２４７６３】

遊技機ＫＩ４において、前記第１透過率部が前記所定の記号の輪郭の少なくとも一部を構成する場合に、前記輪郭の幅が遊技球の半径未満とされることを特徴とする遊技機ＫＩ５。

【２４７６４】

遊技機ＫＩ５によれば、遊技機ＫＩ４の奏する効果に加え、所定の記号の輪郭が複数近接して隣り合うような場合においても、遊技球が輪郭により完全に隠される事態を避けることができる。

【２４７６５】

即ち、複数の輪郭が隙間なく並べられる場合には、複数の輪郭の外側において遊技球を視認させることができる一方で、複数の輪郭の間に隙間が生じる場合には、その隙間を通して遊技球を視認させることができる。

【２４７６６】

遊技機ＫＩ１からＫＩ５のいずれかにおいて、前記所定の流下領域における遊技球の流下方向は、水平方向成分を有することを特徴とする遊技機ＫＩ６。

【２４７６７】

遊技機ＫＩ６によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ５のいずれかの奏する効果に加え、自由落下する遊技球に比較して、所定の流下領域における遊技球の流下速度を遅くすることができるので、光透過部を介して遊技球を視認させる期間を長くすることができる。これにより、第１透過率部および第２透過率部により構成される模様の見え方が変化する状態を長く保ち易くすることができる。

【２４７６８】

遊技機ＫＩ１からＫＩ６のいずれかにおいて、前記所定の流下領域は、第１流下領域と、その第１流下領域とは異なる方向に遊技球を流下させる第２流下領域と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＩ７。

【２４７６９】

遊技機ＫＩ７によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ６のいずれかの奏する効果に加え、遊技球が第１流下領域を流下している場合において光透過部と重なる遊技球が変位する方向と、遊技球が第２流下領域を流下している場合において光透過部と重なる遊技球が変位する方向とが異なることから、光透過部に視認される模様に対する遊技球による影響の変位方向を複数種類生じさせることができるので（模様が動的に変化する状態における光透過部の視認態様を複数種類構成することができるので）、光透過部による演出効果の向上を図ることができる。

【２４７７０】

遊技機ＫＩ１からＫＩ７のいずれかにおいて、前記第１透過率部により構成される輪郭の内側に、前記第１透過率部よりも低い透過率で構成される構成部を備えることを特徴とする遊技機ＫＩ８。

【２４７７１】
遊技機ＫＩ８によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ７のいずれかの奏する効果に加え、構成部を配置することにより、第１透過率部を通して視認される光の視認性を相対的に向上させることができ、構成部の識別性を向上させることができる。
【２４７７２】
遊技機ＫＩ１からＫＩ８のいずれかにおいて、前記光透過部の前方に向けて光を照射する光照射装置を備え、前記光透過部を透過した前記光照射装置から照射される光により視認される模様を変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＩ９。
【２４７７３】
遊技機ＫＩ９によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ８のいずれかの奏する効果に加え、光透過部を透過した光照射装置から照射される光により視認される模様が変更可能に構成されることにより、光透過部による演出効果を向上させることができる。
【２４７７４】
遊技機ＫＩ９において、遊技球が前記光照射装置から照射される光により前記第２透過率部に影を映しながら流下する場合があることを特徴とする遊技機ＫＩ１０。
【２４７７５】
遊技機ＫＩ１０によれば、遊技機ＫＩ９の奏する効果に加え、光照射装置から光が照射されることにより第２透過率部に映される遊技球の影を濃くすることができ、遊技者が遊技球を見失う事態を避け易くすることができる。
【２４７７６】
遊技機ＫＩ１からＫＩ１０のいずれかにおいて、正面視で前記所定の流下領域と重ならない所定範囲に配設される補助部を備え、その補助部により形成される模様は、前記第１透過率部により形成される模様と一連の視認態様で視認され得ることを特徴とする遊技機ＫＩ１１。
【２４７７７】
遊技機ＫＩ１１によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１透過率部と一連の視認態様で視認さ得る補助部により演出効果を向上させることができると共に、遊技球の流下によらず補助部の視認性を高く維持することができる。
【２４７７８】
＜変位手段に光を照射する照射手段を備えるポイント＞
所定の領域を開閉可能な開閉部材と、その開閉部材の所定面側の領域を照らし得る光を照射可能な照射手段と、前記所定面側を変位可能な変位手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ１。
【２４７７９】
パチンコ機等の遊技機において、開閉部材を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、閉じた状態における開閉部材に対して背面側の表示装置から光が照射されることで開閉部材の視認態様が変化し得るところ、開閉部材の正面側を変位する他の部材があるわけではなく、開閉部材の視認態様のバリエーションが少ないことから、開閉部材の視認態様に改善の余地があるという問題点があった。
【２４７８０】
これに対し、遊技機ＫＪ１によれば、照射手段から光が照射される所定の開閉部材の所定面側において変位可能な変位手段を備えるので、変位手段が開閉部材と重なって視認される状態と、変位手段が開閉部材と重ならずに視認される状態とを構成できることから、開閉部材の視認態様のバリエーションを増加させることができ、開閉部材の視認態様を改善することができる。
【２４７８１】
遊技機ＫＪ１において、前記変位手段は、所定の直線に沿う方向で変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＪ２。
【２４７８２】

遊技機ＫＪ２によれば、遊技機ＫＪ１の奏する効果に加え、変位手段の変位を予測し易くすることで、変位手段を視認する遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【２４７８３】

遊技機ＫＪ１又はＫＪ２において、前記変位手段と前記開閉部材とが連動され得ることを特徴とする遊技機ＫＪ３。

【２４７８４】

遊技機ＫＪ３によれば、遊技機ＫＪ１又はＫＪ２の奏する効果に加え、開閉部材の変位と変位手段の変位とを、独立したものではなく、互いに関連し合うものとして遊技者に視認させることができることから、開閉部材の視認態様の改善を図ることができる。

【２４７８５】

遊技機ＫＪ１からＫＪ３のいずれかにおいて、前記開閉部材が開閉移動されることに基づいて、前記照射手段から照射される光の視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＪ４。

【２４７８６】

遊技機ＫＪ４によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ３のいずれかの奏する効果に加え、開閉部材の開閉移動と、照射手段から照射される光の視認態様の変化とを関連づけることにより、遊技者が開閉部材の開閉移動に気付き易い状態を構成することができる。

【２４７８７】

遊技機ＫＪ１からＫＪ４のいずれかにおいて、前記変位手段の変位の方向が変化されることに基づいて、前記照射手段から照射される光の視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＪ５。

【２４７８８】

遊技機ＫＪ５によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ４のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位の方向の変化と、照射手段から照射される光の視認態様の変化とを関連づけることにより、遊技者が変位手段の変位の方向の変化に気付き易い状態を構成することができる。

【２４７８９】

遊技機ＫＪ１からＫＪ５のいずれかにおいて、前記開閉部材を閉鎖状態から開放状態に変化させる方向の荷重に対する抵抗を生じさせる抵抗発生手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ６。

【２４７９０】

遊技機ＫＪ６によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ５のいずれかの奏する効果に加え、開閉部材に予期せぬ荷重がかけられたとしても開閉部材を閉鎖状態で維持し易くすることができるので、開閉部材の視認態様が予期せず変化されることを回避し易くすることができる。

【２４７９１】

遊技機ＫＪ１からＫＪ６のいずれかにおいて、前記変位手段が所定位置を所定方向に通過可能な第１状態と、前記変位手段が前記所定位置を前記所定方向に通過不能な第２状態と、を構成し得る切替手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ７。

【２４７９２】

遊技機ＫＪ７によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ６のいずれかの奏する効果に加え、切替手段の状態を視認することで、変位手段の変位を予想させることができる。これにより、切替手段に対する注目力を向上させることができる。

【２４７９３】

遊技機ＫＪ７において、前記切替手段の状態変化は、前記所定方向に通過する前記変位手段が到達する前に生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＪ８。

【２４７９４】

遊技機ＫＪ８によれば、遊技機ＫＪ７の奏する効果に加え、変位手段が所定位置に到達する前から切替手段の状態変化を把握させることができるので、切替手段の注目力を長期間に亘り向上させることができる。

【２４７９５】
遊技機ＫＪ１からＫＪ８のいずれかにおいて、前記変位手段の変位の方向を、第１の方向から、その第１の方向に対して交差する第２の方向に変化させる方向変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ９。
【２４７９６】
遊技機ＫＪ９によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ８のいずれかの奏する効果に加え、方向変化手段により変位手段の変位の方向をずらし得るので、変位手段の変位の方向が一定とされる場合に比較して、変位手段の視認態様のバリエーションを増やすことができる。
【２４７９７】
遊技機ＫＪ９において、前記方向変化手段は変位手段を挟むようにして両側に配設されることを特徴とする遊技機ＫＪ１０。
【２４７９８】
遊技機ＫＪ１０によれば、遊技機ＫＪ９の奏する効果に加え、方向変化手段が変位手段に両側から作用することにより、方向変化手段による変位手段の変位の方向の変化を複数態様で生じさせることができる。
【２４７９９】
遊技機ＫＪ１０において、前記両側に配置される前記方向変化手段は、変位手段に対して交互に作用することを特徴とする遊技機ＫＪ１１。
【２４８００】
遊技機ＫＪ１１によれば、遊技機ＫＪ１０の奏する効果に加え、方向変化手段が変位手段に作用するタイミングがずらされることにより、方向変化手段による変位手段の変位の方向の変化が高頻度で生じるようにすることができる。
【２４８０１】
＜上側装飾ユニットＨ１４ａの第１連通路Ｈ３００Ｃを一例とする発明の概念について＞
音声を出力可能に構成される第１音声出力手段および第２音声出力手段と、前記第１音声出力手段が配設される第１配設空間および前記第２音声出力手段が配設される第２配設空間と、を備えた遊技機において、前記第１配設空間と前記第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ１。
【２４８０２】
音声を出力可能な複数の音声出力手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４８０３】
しかしながら、上述した遊技機では、音声の出力の態様に関し、改善の余地があった。
【２４８０４】
即ち、遊技者からみて左右に所定の間隔を隔てて配設される第１音声出力手段と第２音声出力手段とを備えた遊技機において、第１音声出力手段または第２音声出力手段の一方が故障した場合、一方からのみ音声が出力され、他方から音声が出力されない態様となり、遊技者に違和感を与える虞がある。
【２４８０５】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、音声の出力の態様を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４８０６】
遊技機ＸＡ１によれば、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８０７】
即ち、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備えるので、第１音声出力手段（第２音声出力手段）から出力される音声を、連通空間を介して、第２配設空間（第１配設空間）へ導くことができる。よって、例えば、第２音声出力手段の故障時において、第１配設空間に加え、第２配設空間からも音声を出力できる。その結果、遊技者の違和感を抑制できる。

【２４８０８】
遊技機ＸＡ１において、前記第１配設空間および前記第２配設空間は、前記遊技機の正面側に形成される一又は複数の第１開口部をそれぞれ備え、
前記連通空間は、前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部側となる位置において、前記第１配設空間と前記第２配設空間とを連通可能に形成されることを特徴とする遊技機ＸＡ２。
【２４８０９】
遊技機ＸＡ２によれば、遊技機ＸＡ１の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８１０】
即ち、連通空間は、第１音声出力手段および第２音声出力手段よりも第１配設空間および第２配設空間の開口部側となる位置において、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成されるので、第１配設空間または第２配設空間から連通空間を介して第２配設空間または第１配設空間へ導かれる音声として、遊技者が聞き取りやすい音声（周波数帯）を導きやすくできる。よって、例えば、第２音声出力手段の故障時において、遊技者の違和感を抑制できる。
【２４８１１】
遊技機ＸＡ２において、前記連通空間は、一又は複数の第２開口部を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ３。
【２４８１２】
遊技機ＸＡ３によれば、遊技機ＸＡ２の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８１３】
即ち、連通空間は、一又は複数の第２開口部を備えるので、第２開口部からも音声を出力できる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。
【２４８１４】
遊技機ＸＡ３において、液晶表示手段を備え、前記第２開口部は、前記遊技機の正面視において、前記第１音声出力手段と前記液晶表示手段との間となる位置、又は、前記第２音声出力手段と前記液晶表示手段との間となる位置の少なくとも一方に形成されることを特徴とする遊技機ＸＡ４。
【２４８１５】
遊技機ＸＡ４によれば、遊技機ＸＡ３の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８１６】
即ち、第２開口部は、遊技機の正面視において、第１音声出力手段と液晶表示手段との間となる位置、又は、第２音声出力手段と液晶表示手段との間となる位置の少なくとも一方に形成されるので、第２開口部から出力される音声と液晶表示装置の表示による演出とを遊技者に関連付けやすくできる。その結果、演出効果を高めることができる。
【２４８１７】
遊技機ＸＡ１からＸＡ４のいずれかにおいて、前記第１配設空間および前記第２配設空間のそれぞれを、前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部側となる正面側配設空間と前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部と反対側となる背面側配設空間とに区画する区画手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ５。
【２４８１８】
遊技機ＸＡ５によれば、遊技機ＸＡ１からＸＡ４のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８１９】
即ち、第１配設空間および第２配設空間のそれぞれを、第１音声出力手段および第２音声出力手段よりも第１開口部側となる正面側配設空間と第１音声出力手段および第２音声

出力手段よりも第１開口部と反対側となる背面側配設空間とに区画する区画手段を備えるので、正面側配設空間における比較的高周波の音声と背面側配設空間における比較的低周波の音声とが重なり合い、前者の音声により後者の音声が打ち消されることを抑制できる。

【２４８２０】

遊技機ＸＡ１からＸＡ５のいずれかにおいて、変位可能に構成される変位手段を備え、前記変位手段は、前記連通空間の少なくとも一部を区画可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡ６。

【２４８２１】

遊技機ＸＡ６によれば、遊技機ＸＡ１からＸＡ５のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【２４８２２】

即ち、変位可能に構成される変位手段を備え、変位手段は、連通空間の少なくとも一部を区画可能に構成されるので、変位手段の変位により連通空間の形態を変化させることができる。これにより、第１音声出力手段（第２音声出力手段）から出力される音声が、連通空間を介して、第２配設空間（第１配設空間）へ導かれる際の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。即ち、第２配設空間（第１配設空間）から出力される音声の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【２４８２３】

遊技機ＸＡ６において、前記連通空間は、一又は複数の第２開口部を備え、一又は複数の前記第２開口部の大きさが前記変位手段の変位により変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡ７。

【２４８２４】

遊技機ＸＡ７によれば、遊技機ＸＡ６の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【２４８２５】

即ち、連通空間は、一又は複数の第２開口部を備え、一又は複数の第２開口部の大きさが変位手段の変位により変化可能に構成されるので、変位手段の変位により第２開口部の大きさを変化させることができる。これにより、第２開口部から出力される音声の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【２４８２６】

遊技機ＸＡ７において、前記変位手段が所定位置に変位された状態では、前記連通空間が開放されることを特徴とする遊技機ＸＡ８。

【２４８２７】

遊技機ＸＡ８によれば、遊技機ＸＡ７の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【２４８２８】

即ち、変位手段が所定位置に変位された状態では、連通空間が開放されるので、第１配設空間または第２配設空間から連通空間に導かれた音声の出力方向を広くできる。即ち、指向性（音の放射角度）を小さくできる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【２４８２９】

なお、連通空間の開放とは、第２開口部の大きさ（開口面積）が、最小の大きさ（最小の開口面積）の３倍以上とされることをいう。

【２４８３０】

遊技機ＸＡ６からＸＡ８のいずれかにおいて、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記変位手段が変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡ９。

【２４８３１】
遊技機ＸＡ９によれば、遊技機ＸＡ６からＸＡ８のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【２４８３２】
即ち、操作手段が操作された場合に変位手段が変位可能に構成されるので、出力される音声の態様が変化されるタイミングを操作手段の操作と関係付けることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【２４８３３】
＜上下皿ユニットＨ１５の突出部Ｈ５８３を一例とする発明の概念について＞
正面視略矩形に形成される前扉手段を備えた遊技機において、前記前扉手段の長手方向一側の面から突出可能に形成される突出手段を備え、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側または背面側とされることを特徴とする遊技機ＸＢ１。
【２４８３４】
正面視略矩形に形成される前扉手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４８３５】
しかしながら、上述した遊技機では、前扉手段に関し、改善の余地があった。
【２４８３６】
即ち、工場での製造工程やホールでの設置・点検作業において、前扉手段の長手方向一側（上方または下方）の面を床面に載置して前扉手段を一時的に自立させる（仮置きする）ことがあるところ、前扉手段の長手方向一側の面の全面が平坦面とされる構成では、床面に凹凸があると、その凹凸の影響を受けて前扉手段の姿勢が安定せず、前扉手段が倒れる虞があった。
【２４８３７】
なお、前扉手段の正面（遊技者側の面）又は背面を床面に載置することは、正面側のガラスや装飾手段（部材）または背面側の電気的構成に破損や傷が生じる虞があるため、行うことができないだけでなく、載置するためのスペースが嵩む。そのため、工場での製造工程やホールでの設置・点検作業においては、載置するためのスペースを最小とするために、前扉手段の長手方向一側（上方または下方）の面を床面に載置される。
【２４８３８】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、前扉手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４８３９】
遊技機ＸＢ１によれば、前扉手段を改善できる。
【２４８４０】
即ち、前扉手段の長手方向一側の面から突出可能に形成される突出手段を備え、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側または背面側とされるので、前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の背面側または正面側の外縁と突出手段とを床面に当接させて、前扉手段を自立させることができる。これにより、前扉手段の長手方向一側の面の全面が平坦面とされる構成と比較して、床面の凹凸の影響を受け難くでき、前扉手段の自立時の姿勢を安定させることができる。よって、前扉手段を倒れ難くできる。
【２４８４１】
遊技機ＸＢ１において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側とされることを特徴とする遊技機ＸＢ２。
【２４８４２】
遊技機ＸＢ２によれば、遊技機ＸＢ１の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【２４８４３】

即ち、前扉手段は、その重心が正面側に偏って位置するところ、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前扉手段の正面側とされるので、前扉手段の自立時における重心の偏りを抑制できる。よって、前扉手段の自立時の姿勢を安定させ、前扉手段を倒れ難くできる。

【２４８４４】

遊技機ＸＢ２において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における前記前扉手段の正面側の外縁との間に間隔を隔てた位置とされることを特徴とする遊技機ＸＢ３。

【２４８４５】

遊技機ＸＢ３によれば、遊技機ＸＢ２の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８４６】

即ち、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の正面側の外縁との間に間隔を隔てた位置とされるので、自立時の前扉手段を作業者が持ち上げる場合に、前扉手段の長手方向一側の面と床面との間に指を差し入れて、突出手段よりも前扉手段の正面側の部分に指をかけることができる。また、突出手段の突出位置が前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の正面側の外縁と接する位置（即ち、外縁と間隔を隔てない位置）とされる場合と比較して、突出手段の突出高さを低くすることができると共に突出手段の突出位置を遊技者から見え難い位置とできる。

【２４８４７】

遊技機ＸＢ１において、前記前扉手段の正面視において、前記前扉手段の幅寸法よりも前記突出手段の幅寸法が小さくされることを特徴とする遊技機ＸＢ２。

【２４８４８】

遊技機ＸＢ２によれば、遊技機ＸＢ１の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８４９】

即ち、前扉手段の正面視において、前扉手段の幅寸法よりも突出手段の幅寸法が小さくされるので、突出手段が床面に当接される面積を抑制して、床面の凹凸の影響を受け難くできる。よって、前扉手段の自立時の姿勢を安定させ、前扉手段を倒れ難くできる。

【２４８５０】

遊技機ＸＢ１からＸＢ４のいずれかにおいて、遊技球を貯留可能な貯留手段と、前記貯留手段へ遊技球を流入させる流入口手段と、前記貯留手段に貯留された遊技球を前記前扉手段の長手方向一側の面から流出させる流出口手段と、を備え、前記突出手段の少なくとも一部は、前記前扉手段の正面視において、前記流出口手段に対して前記流入口手段と反対側に位置されることを特徴とする遊技機ＸＢ５。

【２４８５１】

遊技機ＸＢ５によれば、遊技機ＸＢ１からＸＢ４のいずれかの奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８５２】

即ち、突出手段の少なくとも一部は、前扉手段の正面視において、流出口手段に対して流入口手段と反対側に位置されるので、貯留手段の遊技球を流出口手段から流出させる際に、遊技球を突出手段に当接させることができる。これにより、遊技球が飛び散ることを抑制できる。

【２４８５３】

遊技機ＸＢ５において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側とされ、前記突出手段は、前記前扉手段の長手方向一側の面の正面視において、前記前扉手段の背面側が凹となる湾曲形状の湾曲部を複数連結した形状に形成されることを特徴とする遊技機ＸＢ６。

【２４８５４】

遊技機ＸＢ６によれば、遊技機ＸＢ５の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８５５】

即ち、突出手段は、前扉手段の長手方向一側の面の正面視において、前扉手段の背面側

が凹となる湾曲形状の湾曲部を複数連結した形状に形成されるので、突出手段（湾曲部の凹）に手指をかけやすくできる。また、流出口手段から流出され突出手段に当接された遊技球の跳ね返り方向を分散させることができる。これにより、流出口手段から千両箱へ流出された遊技球が千両箱の一か所（所定箇所）に集中することを抑制できる。

【２４８５６】

遊技機ＸＢ６において、前記前扉手段の長手方向一側の面と前記突出手段の側面とを連結するリブを備えることを特徴とする遊技機ＸＢ７。

【２４８５７】

遊技機ＸＢ７によれば、遊技機ＸＢ６の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８５８】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面と突出手段の側面とを連結するリブを備えるので、突出手段の強度を確保して、突出手段の破損を抑制できる。

【２４８５９】

遊技機ＸＢ７において、前記リブは、前記湾曲部の凹となる側の側面であって、前記湾曲部同士が連結される部位に位置されることを特徴とする遊技機ＸＢ８。

【２４８６０】

遊技機ＸＢ８によれば、遊技機ＸＢ７の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８６１】

即ち、リブは、湾曲部の凹となる側の側面であって、湾曲部同士が連結される部位に位置されるので、突出手段（湾曲部の凹）にかけた手指が滑ることをリブにより抑制できる。

【２４８６２】

遊技機ＸＢ１からＸＢ８のいずれかにおいて、前記前扉手段の長手方向一側の面からの前記突出手段の突出高さが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ９。

【２４８６３】

遊技機ＸＢ９によれば、遊技機ＸＢ１からＸＢ８のいずれかの奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８６４】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面からの突出手段の突出高さが変更可能に構成されるので、突出手段の突出が不要の場合には、突出手段の突出高さを低くできる。よって、突出手段が遊技の邪魔になることや遊技機の外観が悪化することを抑制できる。

【２４８６５】

なお、突出手段の突出高さを変更する構成は、遊技者や作業者による操作により行われる構成であっても良く、駆動手段（モータ等のアクチュエータ）の駆動力により行われる構造であっても良い。遊技者等の操作により行われる構成は、遊技者等が突出手段を直接操作する構成するであっても良く、突出手段とは別の操作手段を遊技者等が操作した場合に、操作手段の操作（変位）が直接または間接的に突出手段に伝達され、突出手段の突出高さが変更される構成であっても良い。

【２４８６６】

また、突出手段の突出高さが変更されるタイミングは任意であり、所定の遊技状態が発生した場合に、制御により自動で（即ち、遊技者の操作とは無関係に）突出手段の突出高さが変更可能とされる構成であっても良い。

【２４８６７】

遊技機ＸＢ９において、前記前扉手段の長手方向一側の面から前記突出手段が非突出とされる状態を形成可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ１０。

【２４８６８】

遊技機ＸＢ１０によれば、遊技機ＸＢ９の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【２４８６９】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面から突出手段が非突出とされる状態を形成可能に構成されるので、突出手段が遊技の邪魔になることや遊技機の外観が悪化することをより確

実に抑制できる。
【２４８７０】
遊技機ＸＢ９又はＸＢ１０において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記突出手段の突出高さが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ１１。
【２４８７１】
遊技機ＸＢ１１によれば、遊技機ＸＢ９又はＸＢ１０の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【２４８７２】
即ち、操作手段が操作された場合に突出手段の突出高さが変更可能に構成されるので、突出手段の達出高さを任意のタイミングで変更することができる。
【２４８７３】
例えば、流出口手段（球抜き孔）を開閉するための操作手段（球抜きレバー）が操作された場合に、その操作に連動して突出手段の突出高さが変更可能に構成される場合には、操作手段（球抜きレバー）が非操作とされ流出口手段（球抜き孔）が閉じた状態では、突出手段の突出高さが第１の高さとされ、操作手段（球抜きレバー）が操作され流出口手段（球抜き孔）が開いた状態では、突出手段の突出高さが第１の高さと異なる高さの第２の高さに変更される構成としても良い。これにより、前扉手段を自立させるのに適した高さ（重心位置を適切な位置に配置できる高さ）と、流出口手段から遊技球を流出させるのに適した高さ（遊技球を跳ね返しやすい高さ、千両箱を出し入れしやすい高さ）とを適宜設定できる。第１の高さと第２の高さはどちらが大きな寸法であっても良い。
【２４８７４】
なお、操作手段の操作を検出する検出手段（センサ）と、駆動力を発生する駆動手段（アクチュエータ）と、その駆動手段の駆動力を突出手段に伝達する伝達手段（歯車やリンク等）とを配設し、検出手段により操作手段の操作が検出された場合に、駆動手段を駆動させ、駆動力を伝達手段により突出手段に伝達させることで、突出手段の突出高さを変更するように構成しても良い。
【２４８７５】
＜上下皿ユニットＨ１５の連結部Ｈ５５５を一例とする発明の概念について＞
遊技者により操作可能に構成される操作手段を備えた遊技機において、第１手段と、前記第１手段との間に間隔を隔てて位置する第２手段と、前記第２手段から突出され、前記第１手段および前記第２手段の対向間に位置する突出手段と、を備え、前記第１手段および前記第２手段の対向間には前記操作手段の少なくとも一部が位置し、前記操作手段は、前記第１手段に配設され、前記遊技者による前記操作手段の操作は、少なくとも第１方向へ向けた操作が可能とされ、前記突出手段は、前記操作手段の前記第１方向側の部位に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ１。
【２４８７６】
遊技者により操作可能に構成される操作手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４８７７】
しかしながら、上述した遊技機では、操作手段を支持する構造に関し、改善の余地があった。
【２４８７８】
即ち、遊技者により操作される操作手段には、操作に伴う外力が作用されるため、操作手段またはその操作手段を支持する手段に破損が生じやすいという問題点があった。
【２４８７９】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、操作手段を支持する構造を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４８８０】
遊技機ＸＣ１によれば、操作手段を支持する構造を改善できる。

【２４８８１】
即ち、第１手段と、第１手段との間に間隔を隔てて位置する第２手段と、第２手段から突出され、第１手段および第２手段の対向間に位置する突出手段と、を備え、第１手段および第２手段の対向間には操作手段の少なくとも一部が位置し、操作手段は、第１手段に配設され、遊技者による操作手段の操作は、少なくとも第１方向へ向けた操作が可能とされ、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成されるので、操作手段の操作に伴い作用される第１方向への外力が所定の範囲内である場合には、操作手段を突出手段により支持させることができる。これにより、操作手段がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作手段の操作感を向上できる。一方、上記第１方向への外力が所定の範囲を超える場合は、突出手段を弾性変形させて、外力を逃がす（外力を第１手段と第２手段とに分散させる）ことができる。これにより、操作手段およびその操作手段を支持する手段（第１手段および第２手段、突出手段）の破損を抑制できる。
【２４８８２】
なお、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成され、突出手段と操作手段とは非固定（相対変位可能）であるので、突出手段が拘束されず、突出手段が操作手段に対して摺動できる。よって、突出手段の弾性変形性を確保して、上記第１方向への外力を逃がしやすくできる。
【２４８８３】
遊技機ＸＣ１において、前記第２手段が前記遊技機の正面側に配設されることを特徴とする遊技機ＸＣ２。
【２４８８４】
遊技機ＸＣ２によれば、遊技機ＸＣ１の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【２４８８５】
即ち、上記第１方向への外力が所定の範囲を超える場合、第２手段側では、主に突出手段が弾性変形されるのに対し、第１手段側では、突出手段の弾性変形に伴う操作手段の第１方向への変位に伴って、第１手段も弾性変形されやすい。このように、第２手段の弾性変形は、第１手段の弾性変形よりも抑制されるので、第２手段が遊技機の正面側に配設されることで、操作手段が操作される際に遊技機の外観が悪化する（例えば、第２手段が変位して、第２手段と他の手段（部材）との境界に隙間が形成される）ことを抑制できる。
【２４８８６】
遊技機ＸＣ１又はＸＣ２において、前記第１手段から突出され、前記突出手段の前記第１方向側の部位との間に所定の間隔を隔てて位置する第２突出手段を備え、前記突出手段の前記第１方向側の部位が前記第２突出手段に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ３。
【２４８８７】
遊技機ＸＣ３によれば、遊技機ＸＣ１又はＸＣ２の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【２４８８８】
即ち、第１手段から突出され、突出手段の第１方向側の部位との間に所定の間隔を隔てて位置する第２突出手段を備え、突出手段の第１方向側の部位が第２突出手段に当接可能に構成されるので、上記第１方向への外力が所定の範囲を超え、突出手段を弾性変形させる場合に、初期段階（突出手段の第１方向側の部位と第２突出手段との間に間隔が形成されている間）は、第２突出手段が突出手段の弾性変形を阻害せず、突出手段の弾性変形性を確保できる一方、より大きな外力が上記第１方向へ入力された場合には、突出手段の第１方向側の部位を第２突出手段に当接させ、突出手段の弾性変形を抑制することができる。これにより、操作手段およびその操作手段を支持する手段（第１手段および第２手段、突出手段）だけでなく、突出手段の破損を抑制できる。
【２４８８９】
なお、第２突出手段は、突出手段の第１方向側の部位に当接可能に構成され、突出手段

と第２突出手段とは非固定（相対変位可能）であるので、突出手段が拘束されず、突出手段が第２突出手段に対して摺動できる。よって、突出手段および第２突出手段の弾性変形性を確保できる。これにより、突出手段が第２突出手段に当接した際に、突出手段と第２突出手段との間で作用する反力が急激に増加することを抑制でき、突出手段および第２突出手段の破損を抑制できる。

【２４８９０】

遊技機ＸＣ３において、前記突出手段は、位置決め手段を備え、前記第２突出手段は、前記位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＣ４。

【２４８９１】

遊技機ＸＣ４によれば、遊技機ＸＣ３の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【２４８９２】

即ち、突出手段は、位置決め手段を備え、第２突出手段は、位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備えるので、第１手段および第２手段の一方を他方に組み付ける作業において、位置決め手段と被位置決め手段とによって第１手段と第２手段とを位置決めすることができる。これにより、例えば、ねじによる締結作業を容易として、組付け作業を効率化できる。

【２４８９３】

遊技機ＸＣ３又はＸＣ４において、前記突出手段は、係合手段を備え、前記第２突出手段は、前記係合手段に係合可能に構成される被係合手段を備え、前記係合手段と前記被係合手段とが係合した状態において、前記突出手段と前記第２突出手段とが相対変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ５。

【２４８９４】

遊技機ＸＣ５によれば、遊技機ＸＣ３又はＸＣ４の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【２４８９５】

即ち、突出手段は、係合手段を備え、第２突出手段は、係合手段に係合可能に構成される被係合手段を備えるので、第１手段および第２手段の一方を他方に組み付ける作業において、係合手段と被係合手段との係合によって、第１手段および第２手段を仮固定できる。これにより、例えば、ねじによる締結作業を容易として、組付け作業を効率化できる。

【２４８９６】

この場合、係合手段と被係合手段とが係合した状態において、突出手段と第２突出手段とが相対変位可能に構成されるので、突出手段および第２突出手段が拘束されず、それら突出手段および第２突出手段の弾性変形性を確保できる。よって、上記第１方向への外力を逃がしやすくできると共に、突出手段と第２突出手段との間で作用する反力の急激な増加を抑制して、突出手段および第２突出手段の破損を抑制できる。

【２４８９７】

遊技機ＸＣ５において、前記係合手段および前記被係合手段は、前記第１手段および前記第２手段の対向間隔が大きくなる方向に前記第１手段または前記第２手段が変位されることを規制可能となるように係合可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ６。

【２４８９８】

遊技機ＸＣ６によれば、遊技機ＸＣ５の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【２４８９９】

即ち、係合手段および被係合手段は、第１手段および第２手段の対向間隔が大きくなる方向に第１手段または第２手段が変位されることを規制可能となるように係合可能に構成されるので、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向に変位される不正（例えば、第１手段または第２手段の上記方向への変位により隙間を形成し、その隙間から異物を挿入する不正）を抑制できる。

【２４９００】
なお、突出手段が第２手段から突出され、操作手段が第１手段に配設される、即ち、突出手段と第１手段とが非固定とされ、操作手段と第２手段とが非固定とされるため、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向へ変位されやすい。よって、遊技機ＸＣ６の構成が特に有効となる。
【２４９０１】
遊技機ＸＣ５又はＸＣ６において、前記突出手段は、位置決め手段を備え、前記第２突出手段は、前記位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備え、前記係合手段および前記被係合手段は、前記位置決め部により前記被位置決め部が位置決めされた状態で係合可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ７。
【２４９０２】
遊技機ＸＣ７によれば、遊技機ＸＣ５又はＸＣ６の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【２４９０３】
即ち、係合手段および被係合手段は、位置決め部により被位置決め部が位置決めされた状態で係合可能に構成されるので、係合手段および被係合手段の係合を容易に行うことができる。
【２４９０４】
遊技機ＸＣ５からＸＣ６のいずれかにおいて、前記被係合手段は、前記係合手段よりも前記第１方向側に位置することを特徴とする遊技機ＸＣ８。
【２４９０５】
遊技機ＸＣ８によれば、遊技機ＸＣ５からＸＣ６のいずれかの奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【２４９０６】
即ち、被係合手段は、係合手段よりも第１方向側に位置するので、操作手段の操作に伴い作用される第１方向への外力により突出手段が第１方向へ弾性変形された状態において、係合手段および被係合手段の係合を維持しやすくできる。よって、操作手段を第１方向へ変位させ、突出手段を弾性変形させることで、係合手段および被係合手段の係合を解除する不正を抑制できる。
【２４９０７】
なお、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成されるものであり、操作手段に固定されていないため、操作手段を第１方向と反対方向へ変位させても、突出手段は変位（弾性変形）されない。よって、操作手段を第１方向と反対方向へ変位させても、係合手段および被係合手段の係合に影響はなく、かかる係合が維持される。
【２４９０８】
遊技機ＸＣ８において、前記突出手段の前記第２手段側の基端は、前記係合手段および前記被係合手段よりも前記第１方向側に位置することを特徴とする遊技機ＸＣ９。
【２４９０９】
遊技機ＸＣ９によれば、遊技機ＸＣ８の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【２４９１０】
即ち、突出手段の第２手段側の基端は、係合手段および被係合手段よりも第１方向側に位置するので、上記第１方向への外力により突出手段が弾性変形される場合の係合手段の変位の方向を、被係合手段との間の間隔が大きくなる方向とできる。これにより、初期（突出手段が弾性変形される前）における係合手段と被係合手段との間の間隔を小さくして、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向に変位される不正（例えば、第１手段または第２手段の上記方向への変位により隙間を形成し、その隙間から異物を挿入する不正）を抑制できる一方、上記第１方向の外力により突出手段が弾性変形される場合に係合手段と被係合手段とが干渉（係合）して、突出手段の第２突出手段に対する相対変位（突出手段の弾性変形）が規制（阻害）されることを抑制できる。

【２４９１１】
＜右側装飾ユニットＨ１４ｃの屈曲部Ｈ４５２を一例とする発明の概念について＞
第１手段と、前記第１手段に隣り合って配設される第２手段とを備えた遊技機において、前記第１手段の縁部と前記第２手段の縁部との境界における重力方向下方に位置し、前記第１手段に配設される配設手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＤ１。
【２４９１２】
第１手段と、前記第１手段に隣り合わせて配設される第２手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４９１３】
しかしながら、上述した遊技機では、第１手段と前記第２手段とが隣り合って配設される構造に改善の余地があった。
【２４９１４】
即ち、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造では、第１手段および第２手段の寸法公差や組付け公差に起因して、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成される虞がある。また、第１手段または第２手段の一方または両方に作用された外力によっても隙間が形成される虞がある。隙間が形成されると、隙間から異物（例えば、不正行為を行うための針金等、ちりやほこり等、液体）が侵入して内部の機械的構成や電気的構成に悪影響を及ばす虞がある。特に、液体（例えば、遊技者が遊技中に飲用するもの）は、微小な隙間からであっても侵入しやすく、また、電気的機器に悪影響を及ぼしやすい。
【２４９１５】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４９１６】
遊技機ＸＤ１によれば、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９１７】
即ち、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界における重力方向下方に位置し、第１手段に配設される配設手段を備えるので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を配設手段で受け止めることができる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２４９１８】
遊技機ＸＤ１において、前記配設手段は、前記第１手段の縁部と前記第２手段の縁部との境界の重力方向下方に位置する下方手段と、その下方部に連なり前記境界から離間する方向へ延設される延設手段とを備えることを特徴とする遊技機ＸＤ２。
【２４９１９】
遊技機ＸＤ２によれば、遊技機ＸＤ１の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９２０】
即ち、配設手段は、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界の重力方向下方に位置する下方手段と、その下方手段に連なり境界から離間する方向へ延設される延設手段とを備えるので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を配設手段の下方手段により受け止めると共に、その受け止めた異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼしにくい位置へ向けて延設手段により案内できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２４９２１】
遊技機ＸＤ２において、前記配設手段の延設部と前記第１手段との間には、前記境界から離間する方向へ通過可能に形成される通路手段が形成されることを特徴とする遊技機Ｘ

Ｄ３。
【２４９２２】
遊技機ＸＤ３によれば、遊技機ＸＤ２の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９２３】
即ち、配設手段の延設部と第１手段との間には、境界から離間する方向へ通過可能に形成される通路手段が形成されるので、延設手段により異物を案内する際に、その通過方向を通路手段により規定でき、異物を所望の位置まで到達させやすくできる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２４９２４】
遊技機ＸＤ３において、前記第１手段には、前記通路手段と外部とを連通可能に形成される連通手段が形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ４。
【２４９２５】
遊技機ＸＤ４によれば、遊技機ＸＤ３の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９２６】
即ち、第１手段には、通路手段と外部とを連通可能に形成される連通手段が形成されるので、延設手段により案内された異物を連通手段から第１手段の外部へ排出できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２４９２７】
遊技機ＸＤ１からＸＤ４のいずれかにおいて、光を発光可能に形成される発光手段を備え、前記配設手段は、導光材料から構成され、前記発光手段から発光される光を受光可能に位置することを特徴とする遊技機ＸＤ５。
【２４９２８】
遊技機ＸＤ５によれば、遊技機ＸＤ１からＸＤ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９２９】
即ち、光を発光可能に形成される発光手段を備え、配設手段は、導光材料から構成され、発光手段から発光される光を受光可能に位置するので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、発光手段から発光され配設手段を導光（透過）された光で隙間を照射することができる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、隙間から外部へ光が漏れることで、隙間が形成されたことをホールの店員に認識させやすくできる。
【２４９３０】
また、発光手段および配設手段の発光に伴う熱により、発光手段（下方手段）に受け止められた液体を蒸発させて、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界の隙間から外部へ排出できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【２４９３１】
遊技機ＸＤ４において、空気を流動させることが可能に形成される流動手段を備え、前記流動手段は、前記通路手段の空気を前記境界から離間させる方向へ流動させることが可能に形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ６。
【２４９３２】
遊技機ＸＤ６によれば、遊技機ＸＤ４の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【２４９３３】
即ち、空気を流動させることが可能に形成される流動手段を備え、前記流動手段は、前記通路手段の空気を前記境界から離間させる方向へ流動させることが可能に形成されるの

で、延設手段により案内された異物を連通手段から第１手段の外部へ排出しやすくできる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２４９３４】

遊技機ＸＤ４において、前記第１手段または前記延設手段から突出される突出手段と、前記突出手段が挿入可能に前記延設手段または前記第１手段に形成される被挿入手段とを備え、前記被挿入手段に前記突出手段が挿入された状態では、前記突出手段が前記連通手段の下方に位置することを特徴とする遊技機ＸＤ７。

【２４９３５】

遊技機ＸＤ７によれば、遊技機ＸＤ４の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【２４９３６】

即ち、第１手段または延設手段から突出される突出手段と、突出手段が挿入可能に延設手段または第１手段に形成される被挿入手段とを備えるので、第１手段に配設手段を配設する（組み付ける）際に、突出手段の被挿入手段への挿入により、両者を位置決めできる。これにより、第１手段への配設手段の配設（組み付け）作業を容易とできる。

【２４９３７】

この場合、被挿入手段に突出手段が挿入された状態では、突出手段が連通手段の下方に位置するので、延設手段により案内される異物を突出手段により受け止めると共に、その受け止めた異物を連通手段へ向けて突出手段により案内できる。即ち、突出手段を、位置決めのための手段として利用できるだけでなく、異物を第１手段の外部へ排出させるための手段としても兼用できる。

【２４９３８】

遊技機ＸＤ７において、前記突出手段は、前記延設手段から突出され、前記被挿入手段は、前記第１手段に形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ８。

【２４９３９】

遊技機ＸＤ８によれば、遊技機ＸＤ７の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【２４９４０】

即ち、突出手段は、延設手段から突出され、被挿入手段は、第１手段に形成されるので、突出手段により受け止めた異物を第１手段の外部へ確実に排出できる。即ち、被挿入手段が延設手段に形成される場合、被挿入手段と突出手段との間に隙間が形成されていると、突出手段により受け止めた異物が被挿入手段と突出手段との間の隙間を通過して第１手段の内部に留まる虞がある。これに対し、被挿入手段が第１手段に形成されることで、突出手段で受け止めた異物が、被挿入手段と突出手段との間の隙間を通過したとしても、かかる異物を第１手段の外部へ排出することができる。

【２４９４１】

遊技機ＸＤ８において、前記連通手段の一部が前記被挿入手段とされることを特徴とする遊技機ＸＤ９。

【２４９４２】

遊技機ＸＤ９によれば、遊技機ＸＤ８の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【２４９４３】

即ち、連通手段の一部が被挿入手段とされるので、連通手段を、異物を第１手段の外部へ排出させるための手段としてだけでなく、位置決めのための手段としても兼用できる。

【２４９４４】

＜球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１を一例とする発明の概念について＞

遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機において、前記流路手段の内面に当接された遊技球に作用される当接方向の反力を抑制可能に構成される抑制手段を備えることを特徴とする遊

技機ＸＥ１。
【２４９４５】
遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４９４６】
しかしながら、上述した遊技機では、遊技球の送球に関し、改善の余地があった。
【２４９４７】
即ち、送球手段により遊技球が送球される際、遊技球の初期位置（送球手段に対する相対位置）にはばらつきが生じるため、遊技球は、流路手段に沿って真っ直ぐに送球されず、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突（当接）することがある。このように、流路手段の内面に遊技球が衝突（当接）すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、その軌跡が安定しないという問題点があった。
【２４９４８】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技球の送球を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４９４９】
遊技機ＸＥ１によれば、遊技球の送球を改善できる。
【２４９５０】
即ち、流路手段の内面に当接された遊技球に作用される当接方向の反力を抑制可能に構成される抑制手段を備えるので、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に遊技球が衝突（当接）した際に、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。
【２４９５１】
遊技機ＸＥ１において、前記抑制手段は、前記流路手段の内面の少なくとも一部に凹設される凹部として構成されることを特徴とする遊技機ＸＥ２。
【２４９５２】
遊技機ＸＥ２によれば、遊技機ＸＥ１の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【２４９５３】
即ち、抑制手段は、流路手段の内面の少なくとも一部に凹設される凹部として構成されるので、凹部に遊技球が衝突（当接）した際に、内面から受ける反力の成分として、遊技球の当接方向の成分と、遊技球の当接方向に直交する方向（遊技球を転動面に押し付ける方向または転動面から持ち上げる方向）の成分とを形成できる。これにより、遊技球の当接方向に直交する方向の成分の分、遊技球の当接方向の成分を小さくできるので、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。
【２４９５４】
また、抑制手段を流路手段の内面の少なくとも一部から突設される突部として構成する場合と比較して、流路手段を備えるユニットの小型化を図ることができる。
【２４９５５】
遊技機ＸＥ２において、前記凹部は、前記流路手段の一方側の内面の少なくとも一部と、前記流路手段の他方側の内面の少なくとも一部とにそれぞれ凹設されることを特徴とする遊技機ＸＥ３。
【２４９５６】
遊技機ＸＥ３によれば、遊技機ＸＥ２の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【２４９５７】
即ち、凹部は、流路手段の一方側の内面の少なくとも一部と、流路手段の他方側の内面の少なくとも一部とにそれぞれ凹設されるので、流路手段の内面（遊技球が転動する転動

面の側方の内面）の内の一方側または他方側のどちらに遊技球が衝突（当接）した場合でも、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２４９５８】

遊技機ＸＥ３において、前記流路手段の一方側の内面における凹部と、前記流路手段の他方側の内面における凹部とは、遊技球の送球方向に位置を異ならせていることを特徴とする遊技機ＸＥ４。

【２４９５９】

遊技機ＸＥ４によれば、遊技機ＸＥ３の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２４９６０】

即ち、流路手段の一方側の内面における凹部と、流路手段の他方側の内面における凹部とは、遊技球の送球方向に位置を異ならせているので、設計の自由度を高めることができる。例えば、他方側の凹部が位置を異ならせたことで空いたスペースに他の手段（例えば、流入手段）を配設することができる。

【２４９６１】

遊技機ＸＥ２からＸＥ４において、前記流路手段へ向かう遊技球が通過可能に構成される通過口手段を備え、通過口手段を通過して前記流路手段に流入された遊技球が前記凹部に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＥ５。

【２４９６２】

遊技機ＸＥ５によれば、遊技機ＸＥ２からＸＥ４の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２４９６３】

即ち、流路手段へ向かう遊技球が通過可能に構成される通過口手段を備え、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球が凹部に当接可能に構成されるので、凹部を利用して、流路手段上の遊技球の動きを早期に収束させることができる。これにより、遊技球の姿勢のばらつきを抑制して、送球手段により安定して送球できる。その結果、遊技球の暴れを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【２４９６４】

遊技機ＸＥ５において、少なくとも前記凹部の下方側の縁部は、前記通過口手段よりも下方側に位置することを特徴とする遊技機ＸＥ６。

【２４９６５】

遊技機ＸＥ６によれば、遊技機ＸＥ５の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２４９６６】

即ち、少なくとも凹部の下方側の縁部は、通過口手段よりも下方側に位置するので、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球を凹部に確実に当接させることができる。

【２４９６７】

遊技機ＸＥ５において、少なくとも前記凹部の上方側の縁部は、前記通過口手段よりも上方側に位置することを特徴とする遊技機ＸＥ７。

【２４９６８】

遊技機ＸＥ７によれば、遊技機ＸＥ５の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２４９６９】

即ち、少なくとも凹部の上方側の縁部は、通過口手段よりも上方側に位置するので、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球に勢いがあり流路手段で暴れる場合でも、かかる遊技球を凹部に確実に当接させることができる。

【２４９７０】

遊技機ＸＥ２からＸＥ７のいずれかにおいて、前記送球手段により送球される遊技球を

前記凹部と当接不能となる方向へ案内可能に構成される案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＥ８。
【２４９７１】
遊技機ＸＥ８によれば、遊技機ＸＥ２からＸＥ７のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【２４９７２】
即ち、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接不能となる方向へ案内可能に構成される案内手段を備えるので、凹部を利用せずに遊技球を送球手段により送球する態様を形成できる。即ち、遊技球が暴れて、その軌跡が不安定となる態様で遊技球を送球できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。
【２４９７３】
遊技機ＸＥ８において、前記案内手段は、前記送球手段により送球される遊技球を前記凹部と当接不能となる方向へ案内する態様と、前記送球手段により送球される遊技球を前記凹部と当接可能となる方向へ案内する態様とを構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＥ９。
【２４９７４】
遊技機ＸＥ９によれば、遊技機ＸＥ８の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【２４９７５】
即ち、案内手段は、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接不能となる方向へ案内する態様と、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接可能となる方向へ案内する態様とを構成可能とされるので、凹部を利用せずに遊技球を送球手段により送球する態様と、凹部を利用して遊技球を送球手段により送球する態様とを形成できる。即ち、遊技球が暴れて、その軌跡が不安定となる遊技球の送球の態様と、遊技球の暴れを抑制して、その軌跡を安定させた遊技球の送球の態様とを形成できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。
【２４９７６】
＜操作ユニットＨ１８０の揺動装置Ｈ７３０を一例とする発明の概念について＞
光を発光可能に構成される発光手段と、入射された光を透過可能に構成される透過手段とを備えた遊技機において、発光手段に対して透過手段が相対変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１。
【２４９７７】
光を発光可能に構成される発光手段と、入射された光を透過可能に構成される透過手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２４９７８】
しかしながら、上述した遊技機では、視認される光の態様に関し、改善の余地があった。
【２４９７９】
即ち、発光手段の正面に透過手段を配設し、発光手段から発光された光を透過手段に入射させ、透過手段を透過する光を遊技者に視認させることで、演出効果を得るものがある。この場合、発光手段の発光の態様（例えば、発光強度や点滅の間隔など）を変化させ、視認される光の態様を変化させるものもあるが、演出効果が十分ではない。発光手段と透過手段とを一体化（ユニット化）して、それら発光手段および透過手段から構成されるユニットを変位させることで、ユニットの変位に伴う光の移動を視認させるものもあるが、発光手段と透過手段との関係は一定であるため、透過手段を介して視認される光の態様（発光手段から透過手段に入射され、透過手段を透過する光の態様）自体は一様であり、演出効果が十分ではない。
【２４９８０】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、視認される光の

態様を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２４９８１】
遊技機ＸＦ１によれば、視認される光の態様を改善できる。
【２４９８２】
即ち、発光手段に対して透過手段が相対変位可能に構成されるので、発光手段と透過手段との関係を変化させることができる。これにより、発光手段から透過手段への光の入射の態様、及び、透過手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）を変化させることができる。その結果、透過手段を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。
【２４９８３】
遊技機ＸＦ１において、ベース手段を備え、前記発光手段は、前記ベース手段に固定され、前記透過手段は、前記ベース手段に変位可能に配設されることを特徴とする遊技機ＸＦ２。
【２４９８４】
遊技機ＸＦ２によれば、遊技機ＸＦ１の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【２４９８５】
即ち、ベース手段を備え、発光手段は、ベース手段に固定され、透過手段は、ベース手段に変位可能に配設されるので、発光手段から透過手段への光の入射の態様、及び、透過手段を透過する光の態様を変化させ、透過手段を介して視認される光の態様を変化させる演出に加え、発光手段の状態（発光状態、非発光状態）に関わらず、透過手段を変位させ、その透過手段の変位を視認させる演出も行うことができる。
【２４９８６】
また、発光手段がベース手段に固定されるので、変位（振動）に伴う発光手段の破損（例えば、断線）を抑制できる。
【２４９８７】
遊技機ＸＦ１又はＦＸ２において、前記透過手段は、光を拡散可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ３。
【２４９８８】
遊技機ＸＦ３によれば、遊技機ＸＦ１又はＸＦ２の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【２４９８９】
即ち、透過手段は、光を拡散可能に構成されるので、発光手段に対する透過手段の相対変位を利用して、透過手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化をより大きくすることができる。その結果、透過手段を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。
【２４９９０】
遊技機ＸＦ２又はＸＦ３において、前記透過手段に配設され、駆動力を発生可能に構成される駆動手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＦ４。
【２４９９１】
遊技機ＸＦ４によれば、遊技機ＸＦ２又はＸＦ３の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【２４９９２】
即ち、透過手段に配設され、駆動力を発生可能に構成される駆動手段を備えるので、駆動手段の駆動力を利用して、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成しやすくできると共に、駆動手段の駆動状態を切り替えることで、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を所望のタイミングで開始または停止させることができる。
【２４９９３】
また、駆動手段が透過手段に配設されることで、駆動手段の駆動力を透過手段に伝えや

すくでき、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成しやすくできる。なお、駆動手段を発光手段に配設し、駆動手段の駆動力が間接的に透過手段に伝わるようにしても良い。この場合でも、駆動手段の駆動力を利用して、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成できる。

【２４９９４】

遊技機ＸＦ２からＸＦ４のいずれかにおいて、変位可能かつ前記透過手段に当接可能に構成される当接手段を備え、前記透過手段に当接された前記当接手段の変位に伴って前記透過手段が変位可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ５。

【２４９９５】

遊技機ＸＦ５によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ４のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２４９９６】

即ち、透過手段に当接された当接手段の変位に伴って前記透過手段が変位可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を当接手段の変位に連動させることができ、演出効果を高めることができる。また、駆動手段を備える場合には、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）の態様として、駆動手段の駆動力による変位の態様に加え、当接手段との連動による変位の態様を形成することができ、変位の態様のバリエーションを増やすことができる。

【２４９９７】

遊技機ＸＦ２からＸＦ５のいずれかにおいて、変位可能かつ前記透過手段に当接可能に構成される当接手段を備え、前記当接手段の前記透過手段との当接により前記透過手段の変位が規制可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ６。

【２４９９８】

遊技機ＸＦ６によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ５のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２４９９９】

即ち、当接手段の透過手段との当接により透過手段の変位が規制可能とされるので、当接手段を透過手段に当接させることで、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を所望のタイミングで停止させることができる。

【２５０００】

遊技機ＸＦ５において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段の操作によって、前記当接手段の変位に伴う前記透過手段の変位を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ７。

【２５００１】

遊技機ＸＦ７によれば、遊技機ＸＦ５の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５００２】

即ち、操作手段の操作によって、当接手段の変位に伴う前記透過手段の変位を構成可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を遊技者の所望の態様（例えば、変位のタイミングや変位速度など）で形成できる。即ち、視認される光の態様（透過手段の変位）と遊技者の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【２５００３】

遊技機ＸＦ５において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段の操作によって、前記当接手段の当接による前記透過手段の変位の規制が構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ７。

【２５００４】

遊技機ＸＦ７によれば、遊技機ＸＦ５の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５００５】

即ち、操作手段の操作によって、当接手段の当接による透過手段の変位の規制が構成可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）の規制（停止）を遊技者の所望のタイミングで形成できる。即ち、透過手段の変位の規制（停止）と遊技者の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【２５００６】

遊技機ＸＦ２からＸＦ８のいずれかにおいて、前記透過手段は、ベース手段に変位可能に配設される第１手段と、前記第１手段に変位可能に配設される第２手段とを備え、少なくとも前記第２手段は、入射された光を透過可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ９。

【２５００７】

遊技機ＸＦ９によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ８のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５００８】

即ち、透過手段は、ベース手段に変位可能に配設される第１手段と、第２手段に変位可能に配設される第２手段とを備え、少なくとも第２手段は、入射された光を透過可能に構成されるので、第２手段の変位（発光手段に対する第２手段の相対変位）の態様が一様となることを抑制でき、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化をより大きくすることができる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２５００９】

遊技機ＸＦ９において、前記透過手段は、前記ベース手段に対する前記第１手段の変位と、前記第１手段に対する前記第２手段の変位とが異なる態様で変位可能となるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１０。

【２５０１０】

遊技機ＸＦ１０によれば、遊技機ＸＦ９の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５０１１】

即ち、透過手段は、ベース手段に対する第１手段の変位と、第１手段に対する第２手段の変位とが異なる態様で変位可能となるように構成されるので、それら第１手段および第２手段の異なる変位態様を組み合わせて、第２手段を多様な態様で変位させることができる。その結果、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を多様として、演出効果を高めることができる。

【２５０１２】

遊技機ＸＦ１０において、所定以上の外力が作用された状態では前記第１手段に対する前記第２手段の相対変位を許容可能に構成され、少なくともとも外力が作用されていない状態では前記第１手段に対する前記第２手段の相対位置を所定位置に規定可能に構成される規定手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＦ１１。

【２５０１３】

遊技機ＸＦ１１によれば、遊技機ＸＦ１０の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５０１４】

即ち、所定以上の外力が作用された状態では第１手段に対する第２手段の相対変位を許容可能に構成される規定手段を備えるので、所定以下の外力では第１手段および第２手段を一体に変位させる一方、所定以上の外力では第１手段に対して第２手段を相対変位させることができ、第２手段を多様な態様で変位させることができる。

【２５０１５】

この場合、規定手段は、少なくともとも外力が作用されていない状態では第１手段に対する第２手段の相対位置を所定位置に規定可能に構成されるので、外力の作用が終了した際に、第１手段に対する第２手段の相対位置が所定位置と異なる位置である場合には、第２手段の相対位置を規定手段により所定位置に規定する（第２手段を所定位置に変位させる）ことができる。即ち、外力の作用が終了した後であっても、少なくとも第２手段を変

位させることができる。これにより、第２手段を多様な態様で変位させることができ、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を多様とできる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２５０１６】

遊技機ＸＦ１１において、前記規定手段は、弾性材料から弾性変形可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１２。

【２５０１７】

遊技機ＸＦ１２によれば、遊技機ＸＦ１１の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【２５０１８】

即ち、規定手段は、弾性材料から弾性変形可能に構成されるので、外力の大きさに応じた（比例した）大きさの弾性変形を規定手段に生じさせ、この弾性変形を利用して、第１手段に対する第２手段の相対変位を外力の大きさに応じた（比例した）大きさで形成できる。例えば、重力や磁力を利用する場合と比較して、第１手段に対して第２手段が急激に相対変位することを抑制できる。

【２５０１９】

＜第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を一例とする発明の概念について＞

第１手段および第２手段を備え、少なくとも前記第２手段が変位可能に構成された遊技機において、前記第２手段が変位されることで、前記第２手段の所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態と、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態とを形成可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ１。

【２５０２０】

第１手段および第２手段を備え、少なくとも第２手段が変位可能に構成された遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【２５０２１】

しかしながら、上述した遊技機では、第１手段および第２手段に関し、改善の余地があった。

【２５０２２】

即ち、第２手段が変位されることで、正面視において、第２手段の所定領域が第１手段と共に視認可能とされる状態（以下「拡大状態」と称す）と、第２手段の所定領域が視認不能される状態（以下「縮小状態」と称す）とを形成して、第１手段および第２手段の全体としての視覚上の大きさを変化させる演出が行われる。

【２５０２３】

具体的には、第２手段を第１手段の背面側（正面視において重なる位置）にスライド変位させることで、正面視において、第２手段の所定領域を第１手段により遮蔽して、第２手段の所定領域を視認不能とする（縮小状態を形成する）。また、第２手段を第１手段の背面側から外方（正面視において重ならない位置）にスライド変位させることで、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認可能とする（拡大状態を形成する）。

【２５０２４】

しかしながら、このような従来の構成では、第２手段の所定領域の大きさが第１手段の正面視における大きさ（外形）に依存するため、第２手段の所定領域の大きさを十分に大きくすることができなかった。

【２５０２５】

即ち、第１手段の正面視における大きさ（外形）を大きくすると、その分、他の手段（部材）を配設するスペースが減少される。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、第１手段と干渉しやすくなり、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度が阻害される。

【２５０２６】

一方、第１手段の正面視における大きさを小さくしたのでは、その分、遮蔽できる面積

が小さくなるため、第２手段の所定領域が小さくなり、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくすることができない。

【２５０２７】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段および第２手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【２５０２８】

遊技機ＸＧ１によれば、第１手段および第２手段を改善できる。

【２５０２９】

即ち、第２手段が変位されることで、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態と、第２手段の所定領域が正面側を向く状態とを形成可能に構成されるので、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくできる。

【２５０３０】

具体的には、第１手段の正面視における大きさ（外形）を小さくできるので、その分、他の手段（部材）を配設するスペースを確保できる。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、第１手段（第２手段）と干渉し難くでき、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度を向上できる。一方、第１手段の正面視における大きさを小さくしても、第１手段の正面視における大きさが第２手段の所定領域の大きさに依存しないので、第２手段の所定領域を大きくできる。よって、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくすることができる。

【２５０３１】

言い換えると、遊技機の役物が配設される空間は、前後方向（正面と背面とを結ぶ方向）のスペースに比較的余裕があるところ、遊技機ＸＧ１によれば、上述した前後方向のスペースに着目し、第１手段を前後方向に長くすることで、第１手段の正面視の大きさを小さくできると共に、第２手段の所定領域の大きさを大きくできる。これにより、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくできる。また、縮小状態は小さく、拡大状態は大きくでき、縮小状態と拡大状態との間の正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【２５０３２】

遊技機ＸＧ１において、前記第１手段の背面側に配設され、光を発光可能に構成される発光手段を備え、前記第１手段は、少なくとも一部が光透過性材料から構成され、前記所定領域は、少なくとも一部が光を反射可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ２。

【２５０３３】

遊技機ＸＧ２によれば、遊技機ＸＧ１の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【２５０３４】

即ち、第１手段の背面側に配設され、光を発光可能に構成される発光手段を備え、第１手段は、少なくとも一部が光透過性材料から構成され、所定領域は、少なくとも一部が光を反射可能に構成されるので、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）とされた場合に、発光手段から発光され所定領域で反射した光を遊技者に視認させることができるだけでなく、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）とされた場合には、発光手段から発光され所定領域で反射した光を、第１手段にその背面側から入射させ、第１手段を透過した光（第１手段の正面側から出射される光）を遊技者に視認させることができる。これにより、光の視認態様を変化させ、演出効果を向上できる。

【２５０３５】

なお、第２手段を第１手段の背面側（正面視において重なる位置）にスライド変位させる上述した従来の構成では、縮小状態においては、発光手段から発光され所定領域で光を反射させても、その反射させた光が発光手段（発光手段の基板）に遮られてしまい、第１手段へ入射させることができない。これに対し、遊技機ＸＧ２によれば、所定領域で反射

された光を、第１手段および発光手段の正面視外方側から回り込ませることができ、発光手段（発光手段の基板）に遮られることなく、第１手段の背面側へ入射させることができる。

【２５０３６】

遊技機ＸＧ１又はＸＧ２において、前記第２手段は、前記第１手段の正面視外方側に複数が配設され、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態では、隣り合う前記第２手段の一方の一側に他方の他側が重なることを特徴とする遊技機ＸＧ３。

【２５０３７】

遊技機ＸＧ３によれば、遊技機ＸＧ１又はＸＧ２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【２５０３８】

即ち、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）では、隣り合う第２手段の一方の一側に他方の他側が重なるので、縮小状態において第２手段の配設に要するスペースを抑制できる。言い換えると、第２手段の大きさを大きくできる。一方、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）では、隣り合う第２手段の間の隙間を小さくできる。

【２５０３９】

遊技機ＸＧ３において、前記第１手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態において隣り合う前記第２手段の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ４。

【２５０４０】

遊技機ＸＧ４によれば、遊技機ＸＧ３の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【２５０４１】

即ち、第１手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）において隣り合う第２手段の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成されるので、縮小状態において第２手段どうしが重なる部分を遊技者から見えにくくできる。よって、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）に遷移した際の意外性を向上できる。

【２５０４２】

遊技機ＸＧ４において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態となる際に、前記第２手段の一側が他側よりも先に前記第１手段の正面視外方側に到着するように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ５。

【２５０４３】

遊技機ＸＧ５によれば、遊技機ＸＧ４の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【２５０４４】

即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）から第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）となる際に、第２手段の一側が他側よりも先に第１手段の正面視外方側に到着するように構成されるので、隣り合う第２手段の一方および他方の変位を同じ態様としつつ、これら隣り合う第２手段同士が干渉することを抑制できる。

【２５０４５】

遊技機ＸＧ４において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態となる際に、前記隣り合う前記第２手段の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるよ

うに構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ６。
【２５０４６】
遊技機ＸＧ６によれば、遊技機ＸＧ４の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０４７】
即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）から第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）となる際に、隣り合う前記第２手段の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるように構成されるので、第２手段を複雑な軌跡で変位させることを回避しつつ、隣り合う第２手段同士が干渉することを抑制できる。例えば、第２手段の一側が他側よりも先に第１手段の正面視外方側に到着するようにする必要がなく、第２手段の一側および他側が同時に第１手段の正面視外方側に到着するようにできる。
【２５０４８】
遊技機ＸＧ６において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態となる際に、前記隣り合う前記第２手段の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ７。
【２５０４９】
遊技機ＸＧ７によれば、遊技機ＸＧ６の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０５０】
即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）となる際に、隣り合う第２手段の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されるので、拡大状態から縮小状態となる際と、縮小状態から拡大状態となる際の第２手段の変位の態様を異ならせることができる。これにより、第２手段を変位させることによる演出効果を向上できる。
【２５０５１】
遊技機ＸＧ１からＸＧ７において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態とされた後、前記第１手段の正面視外方へ変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ８。
【２５０５２】
遊技機ＸＧ８によれば、遊技機ＸＧ１からＸＧ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０５３】
即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）とされた後、第１手段の正面視外方へ変位可能に構成されるので、第２手段の正面視における大きさを拡大状態よりも更に大きく見せることができる。よって、正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。
【２５０５４】
＜花回転ユニットＧ４００の第１装飾ユニットＧ４２０を一例とする発明の概念について＞
第１手段と、前記第１手段の周りを周回可能に構成された第２手段とを備えた遊技機において、前記第２手段は、前記第１手段の周りを周回する際に、回転可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ１。
【２５０５５】
第１手段と、第１手段の周りを周回可能に構成された第２手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【２５０５６】
しかしながら、上述した遊技機では、第１手段および第２手段に関し、改善の余地があった。
【２５０５７】
即ち、第１手段の周りを第２手段が周回（公転）する演出では、両者の相対変位が単調であり、十分な演出効果を得ることができない。
【２５０５８】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段および第２手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２５０５９】
遊技機ＸＨ１によれば、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０６０】
即ち、第２手段は、第１手段の周りを周回（公転）する際に、回転（自転）可能に構成されるので、両者の相対変位が単調となることを抑制でき、演出効果を高めることができる。
【２５０６１】
遊技機ＸＨ１において、前記第２手段は、前記回転の際の回転中心を挟んで位置する一側領域および他側領域を備え、前記一側領域と前記他側領域とが異なる態様に構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ２。
【２５０６２】
遊技機ＸＨ２によれば、遊技機ＸＨ１の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０６３】
即ち、第２手段は、回転の際の回転中心を挟んで位置する一側領域および他側領域を備え、一側領域と他側領域とが異なる態様に構成されるので、第１手段の周りを第２手段が周回する際に、第２手段の異なる態様（一側領域、他側領域）を交互に現出させることができる。これにより、例えば、視認される外形や反射される光の態様の変化を大きくして、演出効果を高めることができる。
【２５０６４】
なお、異なる態様とは、例えば、視認される形状（外形）が異なるもの、外面の粗さや色が異なるもの（即ち、光の反射態様が異なるもの）、材質が異なるもの、これらを組み合わせたもの等が例示される。
【２５０６５】
遊技機ＸＨ１又はＸＨ２において、前記第２手段は、前記第１手段の外方側に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、前記第１手段の外方側へ近接する方向への前記第２手段の変位は、前記第２手段の前記回転における回転位置が所定の回転位置にある場合に行われるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ３。
【２５０６６】
遊技機ＸＨ３によれば、遊技機ＸＨ１又はＸＨ２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０６７】
即ち、第１手段の外方側へ近接する方向への第２手段の変位は、第２手段の回転（自転）における回転位置が所定の回転位置にある場合に行われるので、常に同じ姿勢で第２手段を第１手段の外方側へ近接させることができ、第２手段が第１手段の外方側に干渉する（当接する）ことを抑制できる。これにより、第２手段の外形形状の設計の自由度を高められると共に、１手段の外方側へ第２手段をより近接させることができる。
【２５０６８】
遊技機ＸＨ１からＸＨ３のいずれかにおいて、前記第２手段は、前記第１手段の外方側に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、前記第２手段が前記第１手段の外方側に近接する方向に最も変位した際に、前記第２手段の前記周回における

周回位置が所定の周回位置となるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ４。
【２５０６９】
遊技機ＸＨ４によれば、遊技機ＸＨ１からＸＨ３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０７０】
即ち、第２手段が第１手段の外方側に近接する方向に最も変位した際に、第２手段の周回（公転）における周回位置が所定の周回位置となるように構成されるので、第２手段が第１手段の外方側に最も近づいた状態において、第２手段の周回位置を常に同じ周回位置とすることができる。これにより、第１手段の周りを第２手段が周回（公転）する構成において、常に同じ周回位置において第２手段を第１手段の外方側に最も近づいた状態とすることができると共に、常に同じ周回位置を起点（始点）として第２手段を第１手段の外方側から離間する方向へ変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。
【２５０７１】
遊技機ＸＨ１からＸＨ４のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される回転手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＨ５。
【２５０７２】
遊技機ＸＨ５によれば、遊技機ＸＨ１からＸＨ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０７３】
即ち、第１手段は、第２手段の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される回転手段を備えるので、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第２手段の周回（公転）と同じ方向に回転手段が回転（自転）される場合には、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを一体的に視認させ、遊技者に第２手段の回転（自転）を着目させやすくできる一方、第２手段の周回（公転）と反対方向に回転手段が回転（自転）される場合には、回転手段の回転（自転）の分、第２手段の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させ（見かけの速度を速くして）、遊技者に第２手段の周回（公転）を着目させやすくできる。
【２５０７４】
遊技機ＸＨ５において、前記第２手段の周回の速度と、前記回転手段の回転の速度とが異なることを特徴とする遊技機ＸＨ６。
【２５０７５】
遊技機ＸＨ６によれば、遊技機ＸＨ５の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【２５０７６】
即ち、第２手段の周回の速度と、前記回転手段の回転の速度とが異なるので、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第２手段の周回（公転）と同じ方向に回転手段が回転（自転）される場合に、第２手段の周回の速度が回転手段の回転の速度よりも遅くすることで、第２手段が第２手段と逆方向に周回していると遊技者に錯覚させることができる。また、例えば、第２手段の周回（公転）と反対方向に回転手段が回転（自転）される場合に、第２手段の周回の速度が回転手段の回転の速度よりも速くすることで、第２手段の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させやすくし（見かけの速度をより速くして）、遊技者に第２手段の周回（公転）を着目させやすくできる。
【２５０７７】
＜上側装飾ユニットＨ１４ａの第１連通路Ｈ３００Ｃを一例とする発明の概念について＞
動作可能に構成される動作手段と、その動作手段が配設される配設手段とを備えた遊技機において、変位可能に構成され前記配設手段との当接状態を変化可能に構成される変位

手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＩ１。
【２５０７８】
動作可能に構成される動作手段と、その動作手段が配設される配設手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【２５０７９】
しかしながら、上述した遊技機では、動作に伴う出力に改善の余地があった。
【２５０８０】
即ち、動作手段の動作に伴い音を出力する場合、動作手段の動作態様（例えば、動作（振動）の振動数や波形）を変化させることで、出力される音の態様を変化させることができる。しかしながら、動作手段の動作態様を変化させるのみでは、出力される音の態様の変化が不十分であるという問題点があった。
【２５０８１】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、動作に伴う出力を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【２５０８２】
遊技機ＸＩ１によれば、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０８３】
即ち、変位可能に構成され配設手段との当接状態を変化可能に構成される変位手段を備えるので、変位手段の配設手段との当接状態を変化させることで、配設手段の剛性を変化させることができる。これにより、動作手段の動作態様を一定とした場合でも、配設手段の剛性の変化に伴い、出力させる音の態様を変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０８４】
遊技機ＸＩ１において、前記動作手段は、所定間隔を隔てて前記配設手段に配設される第１動作手段および第２動作手段を備え、所定方向視において前記変位部材の一側に前記第１動作手段が位置されると共に前記変位部材の他側に前記第２動作手段が位置されることを特徴とする遊技機ＸＩ２。
【２５０８５】
遊技機ＸＩ２によれば、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０８６】
即ち、動作手段は、所定間隔を隔てて配設手段に配設される第１動作手段および第２動作手段を備え、所定方向視において変位部材の一側に第１動作手段が位置されると共に変位部材の他側に第２動作手段が位置されるので、所定方向視において第１動作手段と第２動作手段との間となる領域を含む領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態を変化させることができる。即ち、出力される音の態様に変化を与えやすい領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態（配設手段の剛性）を変化させることができる。これにより、配設手段の剛性を変化させた際に、出力させる音の態様を効率的に変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０８７】
遊技機ＸＩ１又はＸＩ２において、前記変位手段は、前記配設手段の外側の壁部の一部を構成することを特徴とする遊技機ＸＩ３。
【２５０８８】
遊技機ＸＩ３によれば、遊技機ＸＩ１又はＸＩ２の奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０８９】
即ち、変位手段は、配設手段の外側の壁部の一部を構成するので、出力される音の態様に変化を与えやすい領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態（配設手段の剛性）を変化させることができる。これにより、配設手段の剛性を変化させた際に、出力させる音の態様を効率的に変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。

【２５０９０】
なお、変位手段が構成する壁部（配設手段の外側の壁部の一部）は、遊技者から視認可能に構成されることが好ましい。変位手段の変位を遊技者に視認させることで、配設手段の剛性が変化されること（即ち、出力される音の態様が変化されること）を聴覚だけでなく視覚によっても認識させることができる。
【２５０９１】
遊技機ＸＩ２において、前記配設手段は、前記第１動作手段が配設される第１配設空間および前記第２動作手段が配設される第２配設空間と、前記第１配設空間および前記第２配設空間を連通可能に形成される連通空間とを備え、前記変位手段は、前記連通空間を区画する壁部の一部を構成することを特徴とする遊技機ＸＩ４。
【２５０９２】
遊技機ＸＩ４によれば、遊技機ＸＩ２の奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０９３】
即ち、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備え、変位手段は、連通空間を区画する壁部の一部を構成するので、変位手段の配設手段との当接状態の変化により配設手段の剛性を変化させることで、出力させる音の態様を変化させることができるだけでなく、変位手段の変位に伴い連通空間の外部への開放量（閉塞も含む）を変化させることで、出力される音の態様を変化させることもできる。特にこれら剛性の変化と開放量の変化とを同時に行わせることができるので、出力される音の態様の変化をより大きくすることができる。
【２５０９４】
遊技機ＸＩ１からＸＩ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記配設手段に一辺側が回転可能に軸支された板状体として構成されることを特徴とする遊技機ＸＩ５。
【２５０９５】
遊技機ＸＩ５によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ４のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０９６】
即ち、変位手段は、配設手段に一辺側が回転可能に軸支された板状体として構成されるので、変位手段を配設手段から離間する方向に変位（回転）させることで、変位手段が配設手段に対して当接されている領域を最小限とすることができる。即ち、軸支された部分以外を非当接とすることができる。これにより、配設手段の剛性の変化を大きくでき、出力させる音の態様をより変化させやすくできる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０９７】
遊技機ＸＩ１からＸＩ５のいずれかにおいて、前記変位手段と前記配設手段との当接部分には、弾性材料から構成される弾性体が介設されることを特徴とする遊技機ＸＩ６。
【２５０９８】
遊技機ＸＩ６によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ５のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【２５０９９】
即ち、変位手段と配設手段との当接部分には、弾性材料から構成される弾性体が介設されるので、変位手段を配設手段に密着させ、両者の間の滑りを抑制できる。これにより、配設手段の剛性を変化させやすくでき、出力させる音の態様をより大きく変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【２５１００】
遊技機ＸＩ１からＸＩ６のいずれかにおいて、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記変位手段が変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＩ７。
【２５１０１】

遊技機ＸＩ７によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ６のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。

【２５１０２】

即ち、操作手段が操作された場合に変位手段が変位可能に構成されるので、配設手段の剛性が変化されるタイミング（即ち、出力される音の態様が変化されるタイミング）を操作手段の操作と関係付けることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２５１０３】

＜球発射ユニットＨ２９１１２ａの凹部Ｈ２９８２１ａ１を一例とする発明の概念について＞

遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機において、前記流路手段を通過する遊技球に作用可能に構成される凹部または凸部を備え、前記凹部または凸部は、前記送球手段による送球方向に対して非平行に構成される非平行部を備えることを特徴とする遊技機ＸＪ１。

【２５１０４】

遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【２５１０５】

しかしながら、上述した遊技機では、遊技球の送球に関し、改善の余地があった。

【２５１０６】

即ち、送球手段により遊技球が送球される際、遊技球の初期位置（送球手段に対する相対位置）にはばらつきが生じるため、遊技球は、流路手段に沿って真っ直ぐに送球されず、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突（当接）することがある。このように、流路手段の内面に遊技球が衝突（当接）すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、その軌跡が安定しないという問題点があった。

【２５１０７】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技球の送球を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【２５１０８】

遊技機ＸＪ１によれば、遊技球の送球を改善できる。

【２５１０９】

即ち、流路手段を通過する遊技球に作用可能に構成される凹部または凸部を備え、凹部または凸部は、送球手段による送球方向に対して非平行に構成される非平行部を備えるので、非平行部に遊技球を衝突（当接）させて、遊技球が暴れることを抑制できる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１０】

遊技機ＸＪ１において、前記凹部または凸部は、前記送球手段による送球方向に対して略平行に構成される平行部を備えることを特徴とする遊技機ＸＪ２。

【２５１１１】

遊技機ＸＪ２によれば、遊技機ＸＪ１の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１２】

即ち、凹部または凸部は、送球手段による送球方向に対して略平行に構成される平行部を備えるので、比較的暴れが小さい遊技球を送球方向に沿って案内することができる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１３】

遊技機ＸＪ１又はＸＪ２において、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が大きくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ３。

【２５１１４】

遊技機ＸＪ３によれば、遊技機ＸＪ１又はＸＪ２の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１５】

即ち、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が大きくなるように構成されるので、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部または凸部を徐々に作用させることができる。即ち、凹部または凸部への遊技球の衝突（当接）により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１６】

遊技機ＸＪ１からＸＪ３のいずれかにおいて、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が小さくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ４。

【２５１１７】

遊技機ＸＪ４によれば、遊技機ＸＪ１からＸＪ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１８】

即ち、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、遊技球が通過している間、かかる遊技球に対して凹部または凸部の作用を継続させ、遊技球の暴れを収束させやすくできる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【２５１１９】

遊技機ＸＪ１からＸＪ４のいずれかにおいて、前記凹部または凸部は、前記送球手段の送球方向に通過する遊技球と、前記送球手段の送球方向と反対方向に通過する遊技球とに対して、異なる作用を付与可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ５。

【２５１２０】

遊技機ＸＪ５によれば、遊技機ＸＪ１からＸＪ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【２５１２１】

即ち、凹部または凸部は、送球手段の送球方向に通過する遊技球と、送球手段の送球方向と反対方向に通過する遊技球とに対して、異なる作用を付与可能に構成されるので、送球手段の送球方向に通過する遊技球に対しては、その軌跡を安定化させる一方、送球手段の送球方向とは反対方向に通過する遊技球（例えば、発射強度が弱く、発射手段へ戻ってくる遊技球）に対しては、遊技球の通過方向を変更させる（例えば、遊技球を回収口へ案内し、発射装置まで戻らないようにする）ことができる。その結果、遊技球の送球を改善できる。

【２５１２２】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１

からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機Ｚ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【２５１２３】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機Ｚ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【２５１２４】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１

からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機Ｚ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【２５１２５】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１９８３から図２０４０を参照し、第１５７実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【２５１２６】

図１９８３は、第１５７実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１９８４は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図１９８５は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１９８６は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１９８７は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１９８８は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１９８９は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図１９９０は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図１９９１は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図１９８８では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【２５１２７】

また、以下の説明では、図１９８３に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１９８３に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１９８３参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【２５１２８】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【２５１２９】

図１９８３～図１９９１に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【２５１３０】
外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図１９８３参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。
【２５１３１】
パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。
【２５１３２】
外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。
【２５１３３】
なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。
【２５１３４】
また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。
【２５１３５】
内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１９８６参照）。
【２５１３６】
また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図１９８８及び図１９８９参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。
【２５１３７】
なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。
【２５１３８】
また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図１９８８参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿

ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図１９８８参照）を主に備えて形成される。

【２５１３９】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図１９８７参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【２５１４０】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放されたの内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【２５１４１】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１９０３参照）とを主に備えて形成される。

【２５１４２】

即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて被案内物体である遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。

【２５１４３】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転動作物体である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【２５１４４】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われる伸縮装置として構成しても良い。

【２５１４５】

なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動主体としての駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、被回転物体である回転軸棒と一体的に回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。

【２５１４６】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでな

く、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【２５１４７】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図１９８８に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【２５１４８】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図１９８８に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図１９８７に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【２５１４９】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【２５１５０】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図１９９０及び図１９９１に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【２５１５１】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図１９８９参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【２５１５２】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右

側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成されるガラスユニットＨ１６が配設される（図１９８３参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【２５１５３】

ガラスユニットＨ１６は、図１９８３及び図１９８７に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【２５１５４】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【２５１５５】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【２５１５６】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図１９８３に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、遊技球が通過可能に構成される被通過進入物体である検出センサにより検出される払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【２５１５７】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに独立して配置される独立配置物体である電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【２５１５８】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるもの

に限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【２５１５９】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１９９２参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【２５１６０】

窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図１９８３に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【２５１６１】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図１９８４参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図１９８８参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【２５１６２】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【２５１６３】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【２５１６４】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【２５１６５】

また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球

が溢れることを抑制できる。
【２５１６６】
特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。
【２５１６７】
即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。
【２５１６８】
上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。
【２５１６９】
この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図１９８８参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【２５１７０】
なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。
【２５１７１】
また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。
【２５１７２】
操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図１９９０参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。
【２５１７３】
球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を

求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【２５１７４】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【２５１７５】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【２５１７６】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【２５１７７】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【２５１７８】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【２５１７９】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、回転移動物体である操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【２５１８０】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【２５１８１】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【２５１８２】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【２５１８３】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図１９９０参照）。

【２５１８４】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図１９８８参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図１９８８参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【２５１８５】

ファール球通路部Ｈ１４５（図１９９０参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【２５１８６】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図１９９１に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図１９９０参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【２５１８７】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【２５１８８】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しな

い）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【２５１８９】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【２５１９０】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図１９８８参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【２５１９１】

また、図１９８８に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【２５１９２】

図１９８８に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。

【２５１９３】

ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【２５１９４】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【２５１９５】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図１９８３参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図１９８８を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【２５１９６】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部

である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図１９８３参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【２５１９７】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図１９８８の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【２５１９８】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により被押進物体である他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【２５１９９】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、抑制物体としての壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【２５２００】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【２５２０１】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【２５２０２】

外レールＨ６２の先端部（図１９８８の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【２５２０３】

遊技領域の正面視左側下部（図１９８８の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【２５２０４】
　また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。
【２５２０５】
　尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【２５２０６】
　ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数（例えば、可変入賞装置Ｈ６５（図１９８８参照）が連続開放される最大回数）が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【２５２０７】
　大当たり中において、最大ラウンド数や現在のラウンド数は、数字の変更を視認させる状態で表示が可能な視認変更物体である表示層（ラウンド数が表示される表示層またはその表示層よりも後方の表示層）での表示と共に第３図柄表示装置Ｍ８１においても表示される。大当たりが終了する際には、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する視認可能物体である表示層においてエンディング表示（静止画または動画）が実行される。
【２５２０８】
　このエンディング表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、大当たりが終了したことを視覚的に把握することができ、戸惑うことなく大当たり後の遊技が開始されることを理解することができる。
【２５２０９】
　また、ラウンド間において、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する表示層においてインターバル表示（静止画または動画）が実行される。このインターバル表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、ラウンドの切れ目であることを視覚的に把握することができる。
【２５２１０】
　なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。
【２５２１１】
　また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後

述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【２５２１２】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａを駆動する駆動主体としてのソレノイドの制御態様が変更され、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【２５２１３】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【２５２１４】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【２５２１５】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【２５２１６】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【２５２１７】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成さ

れるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【２５２１８】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【２５２１９】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【２５２２０】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【２５２２１】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【２５２２２】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１９９２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。また、第３図柄表示装置Ｈ８１は、後述する円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００に配設され、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴って第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を切り替える（表示を変更する）ものであっても良い。

【２５２２３】

また、第１１１実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲（上方）に退避位置における花弁動作装置Ｇ８００が配置され、その花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位されると花弁動作装置Ｇ８００が第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位される。よって、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位される際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の演出を花弁動作装置Ｇ８００と共に遊技者に視認させることができ

る。
【２５２２４】
なお、花弁動作装置Ｇ８００は、花回転ユニットＧ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２装飾ユニットＧ４８０が光透過性の材料から形成される。従って、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態においては、第２装飾ユニットＧ４８０の第２装飾ユニットＧ４８０を介して第３図柄表示装置Ｈ８１の少なくとも一部が遊技者に視認される。
【２５２２５】
第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。
【２５２２６】
第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。
【２５２２７】
パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【２５２２８】
第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。
【２５２２９】
なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。
【２５２３０】
スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。ス

ルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【２５２３１】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【２５２３２】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【２５２３３】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【２５２３４】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【２５２３５】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【２５２３６】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【２５２３７】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する

羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【２５２３８】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【２５２３９】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【２５２４０】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【２５２４１】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【２５２４２】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２５２４３】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する被押進物体である電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２５２４４】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【２５２４５】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図１９８８参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞することが配置検出センサである不図示の入賞検出センサに検出されるまで）開放される。

【２５２４６】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【２５２４７】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【２５２４８】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【２５２４９】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【２５２５０】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【２５２５１】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢

印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【２５２５２】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【２５２５３】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【２５２５４】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【２５２５５】

また、上記第１５７実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。

【２５２５６】

例えば、上記第１５７実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。

【２５２５７】

図１９８４に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【２５２５８】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【２５２５９】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【２５２６０】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【２５２６１】

払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１９９２参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。

【２５２６２】

また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図１９９２参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【２５２６３】

遊技機が配置されるホール（遊技機店舗）では、払出エラーの発生時において、パチンコ機Ｈ１０の設定に影響を与えないように構成される非調整部である店員呼び出しボタン

を遊技者が操作することで、ホールの店員が払出エラーに気付くことができるように構成されている。

【２５２６４】

なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。

【２５２６５】

次に、図１９９２を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図１９９２は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【２５２６６】

主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【２５２６７】

なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【２５２６８】

ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【２５２６９】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【２５２７０】

主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの被押進物体である開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための駆動主体としての大開放

口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【２５２７１】

なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【２５２７２】

入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入賞した球が進入可能な被進入物体であって、球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【２５２７３】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【２５２７４】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【２５２７５】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【２５２７６】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【２５２７７】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット

Ｈ１１２ａを制御するものである。
【２５２７８】
　球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。
【２５２７９】
　音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。
【２５２８０】
　音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、及び、駆動手段Ｈ７５０が含まれる。
【２５２８１】
　なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。
【２５２８２】
　音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。
【２５２８３】
　また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。
【２５２８４】
　さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１

４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【２５２８５】

なお、図１９９２では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【２５２８６】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【２５２８７】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【２５２８８】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【２５２８９】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１９９２参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【２５２９０】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制

御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【２５２９１】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１９９２参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【２５２９２】

図１９９３はパチンコ機Ｈ１０の遊技盤Ｍ１３の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。本実施形態では、パチンコ機Ｈ１０は、少なくとも、正面枠Ｈ１４（図１９８７参照）と、ベース板Ｍ６０（ベース板Ｈ６０に相当、図１９８７参照）と、内レールＭ６１（内レールＨ６１に相当、図１９８７参照）と、外レールＭ６２（外レールＨ６２に相当、図１９８７参照）と、一般入賞口Ｍ６３（一般入賞口Ｈ６３に相当、図１９８９参照）と、第１入賞口Ｍ６４（第１入賞口Ｈ６４に相当、図１９８８参照）と、第２入賞口Ｍ６４０（第２入賞口Ｈ６４０に相当、図１９８９参照）と、電動役物Ｍ６４０ａ（電動役物Ｈ６４０ａに相当、図１９８８参照）と、第１可変入賞装置Ｍ６５（可変入賞装置Ｈ６５に相当、図１９８８参照）と、第１特定入賞口Ｍ６５ａ（特定入賞口Ｈ６５ａに相当、図１９８８参照）と、スルーゲートＭ６７（スルーゲートＨ６７に相当、図１９８８参照）と、戻り球防止部材Ｍ６８（戻り球防止部材Ｈ６８に相当、図１９８８参照）と、返しゴムＭ６９（返しゴムＨ６９に相当、図１９８８参照）と、アウトロＭ７１（アウトロＨ７１に相当、図１９８８参照）と、を備える。

【２５２９３】

更に、本実施形態では、パチンコ機Ｈ１０は、少なくとも、外縁部材Ｍ７３（外縁部材Ｈ７３に相当、図１９８８参照）と、可変表示装置ユニットＭ８０（可変表示装置ユニットＨ８０に相当、図１９８８参照）と、第３図柄表示装置Ｍ８１（第３図柄表示装置Ｈ８１に相当、図１９８８参照）と、センターフレームＭ８６（センターフレームＨ８６に相当、図１９８８参照）と、を備える。

【２５２９４】

図１９９３に示すように、遊技盤Ｍ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｍ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＭＷＦの他、レールＭ６１，Ｍ６２、一般入賞口Ｍ６３、第１入賞口Ｍ６４、第２入賞口Ｍ６４０、第１可変入賞装置Ｍ６５、第２可変入賞装置Ｍ６５０、スルーゲートＭ６７、可変表示装置ユニットＭ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２（図１９８８参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【２５２９５】

ベース板Ｍ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口Ｍ６３、第１入賞口Ｍ６４、第２入賞口Ｍ６４０、可変表示装置ユニットＭ８０は、ルータ加工によってベース板Ｍ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｍ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ｍ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ｍ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【２５２９６】

遊技盤Ｍ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４に配設されるガラスユニットＨ１６（図

１９９０参照）を通じて内枠Ｈ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１９９３を参照して、遊技盤Ｍ１３の構成について説明する。

【２５２９７】

遊技盤Ｍ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＭ６２が植立され、その外レールＭ６２の内側位置には外レールＭ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＭ６１が植立される。この内レールＭ６１と外レールＭ６２とにより遊技盤Ｍ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｍ１３とガラスユニットＨ１６（図１７２５参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｍ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｍ１３の正面であって２本のレールＭ６１，Ｍ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｍ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【２５２９８】

２本のレールＭ６１，Ｍ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図１９８８参照）から発射された球を遊技盤Ｍ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＭ６１の先端部分（図１９９３の左上部）には戻り球防止部材Ｍ６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｍ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＭ６２の先端部（図１９９３の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＭ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＭ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【２５２９９】

遊技領域の正面視左側下部（図１９９３の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの機能は上述したので、ここでは説明を省略する。

【２５３００】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｍ６４及び第２入賞口Ｍ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【２５３０１】

本パチンコ機Ｈ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｍ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【２５３０２】

電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも前方に張り出すことで、開閉板の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｍ６４０へ入球可能となり、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球を第２入賞口Ｍ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなるように構成される。

【２５３０３】

なお、電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ｍ６４０ａの下方に第２入賞口Ｍ６４０が配置され、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い。即ち、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｍ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｍ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。

【２５３０４】

また、電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｍ６４０に案内され易く、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｍ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【２５３０５】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｍ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ｍ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニットＭ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＭ８０には、第１入賞口Ｍ６４及び第２入賞口Ｍ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｍ８１と、スルーゲートＭ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板Ｍ６０には、第３図柄表示装置Ｍ８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＭ８６が配設されている。

【２５３０６】

第３図柄表示装置Ｍ８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１９９２参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｍ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｍ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｍ８１を構成するようにしても良い。

【２５３０７】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＭ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＭ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【２５３０８】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｍ６４０に付随された電動役物Ｍ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【２５３０９】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｍ６４０の電動役物Ｍ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【２５３１０】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ｍ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｍ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【２５３１１】

スルーゲートＭ６７は、可変表示装置ユニットＭ８０の右側の領域において遊技盤Ｍ１３に組み付けられ、遊技盤Ｍ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＭ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【２５３１２】

球のスルーゲートＭ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に左右対称に配設されている。

【２５３１３】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｍ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｍ８１の一部で行うようにしても良い。

【２５３１４】

また、スルーゲートＭ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＭ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【２５３１５】

また、スルーゲートＭ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＭ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＭ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【２５３１６】

可変表示装置ユニットＭ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｍ６４が配設されている。この第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｍ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【２５３１７】

一方、スルーゲートＭ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｍ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｍ１３の裏面側に設け

られる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。なお、第２入賞口Ｍ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｍ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｍ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【２５３１８】

また、第１入賞口Ｍ６４および第２入賞口Ｍ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。この場合の賞球個数の大小関係は逆転しても良い。

【２５３１９】

第２入賞口Ｍ６４０には電動役物Ｍ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｍ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｍ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＭ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｍ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【２５３２０】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ｍ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【２５３２１】

ここで、第１入賞口Ｍ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｍ６４は、第２入賞口Ｍ６４０にあるような電動役物Ｍ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【２５３２２】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｍ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｍ６４０ａのない第１入賞口Ｍ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＭ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｍ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２５３２３】

一方、時短中は、スルーゲートＭ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｍ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｍ６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＭ６７を通過させて電動役物Ｍ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｍ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【２５３２４】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０とは異なり、遊技盤Ｍ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｍ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｍ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。

【２５３２５】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｍ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＭ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【２５３２６】

第１入賞口Ｍ６４の右方には第２可変入賞装置Ｍ６５０（図１９９３参照）が配設されており、その下流側位置に第２特定入賞口Ｍ６５０ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｍ６４又は第２入賞口Ｍ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｍ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている第２特定入賞口Ｍ６５０ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【２５３２７】

この第２特定入賞口Ｍ６５０ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その第２特定入賞口Ｍ６５０ａが所定時間開放される。この第２特定入賞口Ｍ６５０ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【２５３２８】

抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｍ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、付与される時短の回数は３回とされ、第２入賞口Ｍ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、第２特定入賞口Ｍ６５０ａよりも上流側に配置され、第１特定入賞口Ｍ６５ａを前後方向への変位により開放する退避位置と閉鎖する張出位置とが切り替えられることで開閉させる張出物体である開閉板Ｍ６５ｂが所定時間開放され（後方側へ退避され）、その第１特定入賞口Ｍ６５ａの開放中に、球が第１特定入賞口Ｍ６５ａ内へ入賞し、その特定入賞口Ｍ６５ａの下流側の特定領域Ｍ６５ｃを通過することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【２５３２９】

この場合において、第１特定入賞口Ｍ６５ａへ向けて流下する遊技球の有無によって、開閉板Ｍ６５ｂの可動範囲が変化する場合（遊技球が開閉板Ｍ６５ｂの張出先端側（前側）に位置することで開閉板Ｍ６５ｂの移動を阻害する場合等）が生じても良い。

【２５３３０】

特定領域Ｍ６５ｃの上流側であって第１特定入賞口Ｍ６５ａの下流側の位置には、第１特定入賞口Ｍ６５ａに入球した遊技球を特定領域Ｍ６５ｃに入球させる入球状態と、特定領域Ｍ６５ｃに入球することを防止する防止状態とで切り替え可能に変位される下側変位

物体である不図示の切替手段が配設される。
【２５３３１】
　このように、本パチンコ機Ｈ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｍ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。
【２５３３２】
　また、特定入賞口Ｍ６５ａ，Ｍ６５０ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｍ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｍ６４の下方右側や、第１入賞口Ｍ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＭ８０の左方または右方や、上方でも良い。
【２５３３３】
　遊技盤Ｍ１３には、アウト口Ｍ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｍ６３，Ｍ６４，Ｍ６５ａ，Ｍ６４０，Ｍ６５０ａにも入賞しなかった球は、アウト口Ｍ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。
【２５３３４】
　遊技盤Ｍ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。
【２５３３５】
　なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図１９９２参照）には、駆動ソレノイドＭ４８７や駆動モータＭ４４２，Ｍ５０１，Ｍ７２０，Ｍ８２０や、回転クルーンＭ９５０を駆動させる駆動モータ等が含まれる。
【２５３３６】
　なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８（図１９９２参照）には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｍ６４０の電動役物Ｍ６４０ａの駆動源等を含む構成としても良い。
【２５３３７】
　また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図１９９２参照）には、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６，Ｍ７１３，Ｍ８１５，Ｍ９４２，Ｍ３４８９等が含まれる。なお、各種スイッチＨ２０８の接続先は、主制御装置Ｈ１１０に限られるものではなく、用途に応じて直接的に音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続されても良い。どちらに接続するかは、個別に任意に選択可能とされる。
【２５３３８】
　次いで、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の構造について説明する。図１９９４は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の分解正面斜視図であり、図１９９５は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の分解背面斜視図である。なお、図１９９４及び図１９９５では、背面ケースＭ３１０の開口Ｍ３１１ａに配設される液晶表示装置（可変表示装置ユニットＭ８０）の図示が省略され、開口Ｍ３１１ａを通して奥側を視認可能に図示される。
【２５３３９】
　動作ユニットＭ３００は、正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１（図１９９３参照）の表示領域の左右側領域および上側領域に配設される複合動作役物ユニットＭ４００と、その複合動作役物ユニットＭ４００の後方側に配置され正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の上側領域に配設されるスライド動作役物ユニットＭ７００と、そのスライド動作役物ユニットＭ７００と同様の前後位置において複合動作役物ユニットＭ４００の後方側に配置され正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の下側領域に配設される昇降動作役物ユニットＭ８００と、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が収容され締結固定された前側の層において複合動作役物ユニットＭ４００が収容され締結固定される背面ケースＭ３１０と、を備える。
【２５３４０】

背面ケースＭ３１０は、底壁部Ｍ３１１と、その底壁部Ｍ３１１の外縁から立設される外壁部Ｍ３１２とを備え、底壁部Ｍ３１１及び外壁部Ｍ３１２から正面側が開放された箱状に形成される。

【２５３４１】

背面ケースＭ３１０は、底壁部Ｍ３１１の中央に矩形状の開口Ｍ３１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ｍ３１１ａは、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【２５３４２】

背面ケースＭ３１０は、外壁部Ｍ３１２の正面側端部に遊技盤Ｍ１３の背面に対して平行に配置される板状部として延設され、遊技盤Ｍ１３に面で支持される支持板部Ｍ３１３を備える。

【２５３４３】

その支持板部Ｍ３１３が遊技盤Ｍ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｍ１３のベース板Ｍ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｍ１３と動作ユニットＭ３００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【２５３４４】

ベース板Ｍ６０は、光透過性の樹脂材料から形成される板状部材から形成されており、その板状部材が中央部において前後方向に貫通形成されており、その貫通形成された箇所には、光透過性の樹脂材料から形成され光を導光可能に構成される板状の導光板Ｍ２６０が配設されている。

【２５３４５】

ベース板Ｍ６０及び導光板Ｍ２６０が光透過性の樹脂材料から形成されていることにより、正面側からベース板Ｍ６０の背面側に配設された各種構造体（動作ユニットＭ３００に配設される複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００、昇降動作役物ユニットＭ８００及び第３図柄表示装置Ｍ８１等）を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ｍ６０の貫通部分の形状や導光板Ｍ２６０の配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ易くすることができ、各種演出に利用することができる。

【２５３４６】

なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。また、ベース板Ｍ６０を木製の板部材（ベニヤ等）から形成するようにしても良い。

【２５３４７】

導光板Ｍ２６０は、板状部の端部側（上側および右側）において略等間隔に配置される複数のＬＥＤから入射された光を複数の位置で正面側へ屈曲させ、正面視において特定の装飾模様やキャラクターが光で描画されているように視認させ得る一般的な導光板であって、背後に配置される各種構造体（複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）の動作中に発光させる制御や、各種構造体の停止中において発光させる制御が、実行可能とされる。

【２５３４８】

各種構造体（複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）が退避され、停止されている場合には、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域と視認可能物体である導光板Ｍ２６０とが正面視で重ねられることで、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域における表示と導光板Ｍ２６０により描画される形状とを合わせて視認させることができ、立体的な表示態様を実現可能となる。

【２５３４９】

本実施形態では、導光板Ｍ２６０に端部側から入射される光により描画される形状は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０に描画される形状に対応するも

のとして設計される。即ち、演出動作ユニットＭ５００の手前側においてスライド動作役物ユニットＭ７００に対応する特定表示（例えば、スライド動作役物ユニットＭ７００に装飾されているキャラクターに関連する絵が拡大して描画される表示）を視認させることが可能に構成される。

【２５３５０】

なお、導光板Ｍ２６０に端部側から入射される光により描画される形状は、スライド動作役物ユニットＭ７００に描画される形状に対応するものに限られるものではない。例えば、複合動作役物ユニットＭ４００の形状に対応するものでも良いし、昇降動作役物ユニットＭ８００の形状に対応するものでも良いし、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に（一時的に）表示される形状に対応するものでも良い。

【２５３５１】

図１９９６は、複合動作役物ユニットＭ４００の分解正面斜視図であり、図１９９７は、複合動作役物ユニットＭ４００の分解背面斜視図である。複合動作役物ユニットＭ４００は、背面ケースＭ３１０に直接締結固定されるか又は背面ケースＭ３１０に締結固定された物体に締結固定されることで間接的に固定されることにより背面ケースＭ３１０（図Ｚ１参照）に対して位置が固定される部分（左側支持装飾部Ｍ４１０、背面側支持部Ｍ４３０、昇降駆動部Ｍ４４０、切替動作部Ｍ４８０）と、当該部分に変位可能に支持されており背面ケースＭ３１０に対して相対変位可能に構成される部分（演出動作ユニットＭ５００）とにより構成される。

【２５３５２】

即ち、複合動作役物ユニットＭ４００は、最前面の左側部において背面ケースＭ３１０（図１９９６参照）に締結固定される左側支持装飾部Ｍ４１０と、その左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側において間隔を空けて対向配置されておりスライド動作役物ユニットＭ７００（図１９９６参照）に締結固定されることで背面ケースＭ３１０に対する位置が固定される背面側支持部Ｍ４３０と、最前面の右側部において背面ケースＭ３１０に締結固定される昇降駆動部Ｍ４４０と、その昇降駆動部Ｍ４４０と背面ケースＭ３１０との間の位置において背面ケースＭ３１０の底壁部Ｍ３１１に締結固定されると共に昇降駆動部Ｍ４４０が締結固定される切替動作部Ｍ４８０と、その切替動作部Ｍ４８０に上下端部が支持され上下方向に延びている金属棒Ｍ４０１と、その金属棒Ｍ４０１により被案内部Ｍ５５０の変位が案内される演出動作ユニットＭ５００と、を主に備える。

【２５３５３】

図１９９６及び図１９９７に図示されるように、複合動作役物ユニットＭ４００は、演出動作ユニットＭ５００の左右端部を前後両側で支持可能に構成されている。これにより、演出動作ユニットＭ５００の前後方向への変位を抑制することができる。

【２５３５４】

即ち、第１に、演出動作ユニットＭ５００は、左端部の前側突部Ｍ５１１が左側支持装飾部Ｍ４１０の板状ベースＭ４１１の案内長孔Ｍ４１２に変位可能に支持され、左端部の後側突部Ｍ５３１が背面側支持部Ｍ４３０の板状ベースＭ４３１において案内長孔Ｍ４１２の後方位置に貫通形成され案内長孔Ｍ４１２と平行に形成される案内長孔Ｍ４３２に変位可能に支持されることにより、前後両側から支持されている。

【２５３５５】

第２に、金属棒Ｍ４０１に案内される被案内部Ｍ５５０の前側には昇降駆動部Ｍ４４０が対向配置され、被案内部Ｍ５５０の後側には切替動作部Ｍ４８０が対向配置されている。被案内部Ｍ５５０と昇降駆動部Ｍ４４０及び切替動作部Ｍ４８０との間は、通常、僅かな隙間が空くように構成されており、変位の抵抗が生じることを防止している。一方で、意図せず演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が前後方向に大きく変位した場合には、その変位を当接により防止可能に構成されている。

【２５３５６】

演出動作ユニットＭ５００は、被案内部Ｍ５５０の背面側から検出片Ｍ５５４が突設されており、その検出片Ｍ５５４が切替動作部Ｍ４８０の上端側において検出可能に構成さ

れる。
【２５３５７】
図１９９８は、演出動作ユニットＭ５００の分解正面斜視図であり、図１９９９は、演出動作ユニットＭ５００の分解背面斜視図である。演出動作ユニットＭ５００は、金属棒Ｍ４０１によって上下方向への変位を案内される部分（板状本体部Ｍ５１０、被案内部Ｍ５５０等）と、その部分に変位可能に支持される部分（可動装飾ユニットＭ６００）とにより構成される。
【２５３５８】
即ち、演出動作ユニットＭ５００は、樹脂材料から略長方形状の板状に形成され骨格を成す板状本体部Ｍ５１０と、その板状本体部Ｍ５１０の背面側に左側寄りで配置され板状本体部Ｍ５１０との間に空間を形成するように板状本体部Ｍ５１０に対して締結固定される左側蓋部Ｍ５３０と、板状本体部Ｍ５１０の背面側に右側寄りで配置され板状本体部Ｍ５１０との間に空間を形成するように板状本体部Ｍ５１０に対して締結固定される右側蓋部Ｍ５４０と、を主に備える。
【２５３５９】
更に、演出動作ユニットＭ５００は、右側蓋部Ｍ５４０を回転移動可能に支持する被案内部Ｍ５５０と、右側蓋部Ｍ５４０に対して回転移動可能に支持される扇形状の扇形状構成部Ｍ５６０と、右側蓋部Ｍ５４０に配設される駆動モータＭ５０１と、その駆動モータＭ５０１の駆動力を伝達可能に構成される伝達部Ｍ５８０と、板状本体部Ｍ５１０に回転移動可能に支持され伝達部Ｍ５８０により駆動モータＭ５０１の駆動力が伝達可能とされる可動装飾ユニットＭ６００と、を主に備える。
【２５３６０】
板状本体部Ｍ５１０は、大部分が有色（例えば、赤色）で透明の樹脂材料から形成されており、左側端部において前方へ向けて円柱状に突設される前側突部Ｍ５１１と、中央よりも左側の領域における複数位置において点在され無色透明の略星状に形成される透過部Ｍ５１２と、その透過部Ｍ５１２に対応する位置にＬＥＤ等の発光手段を配置可能となるように内部において締結固定される電飾基板Ｍ５１３と、可動装飾ユニットＭ６００の回転軸を形成する部分であって前方に延設される筒状部Ｍ５１４と、その筒状部Ｍ５１４を中心とする円弧に沿って形成されており可動装飾ユニットＭ６００の変位を案内可能な領域を構成する領域構成部である円弧状貫通部Ｍ５１５と、その円弧状貫通孔Ｍ５１５の上端部側において検出溝が前側を向く姿勢で配設されており可動装飾ユニットＭ６００を検出可能な検出センサＭ５１６と、筒状部Ｍ５１４に対して円弧状貫通部Ｍ５１５の反対側の領域において筒状部Ｍ５１４を中心とする円弧に沿って形成される複数の補助貫通部Ｍ５１７と、筒状部Ｍ５１４と円弧状貫通部Ｍ５１５との間の領域において前後方向に貫通形成される伝達用貫通孔Ｍ５１８と、を主に備える。
【２５３６１】
前側突部Ｍ５１１は、左側支持装飾部Ｍ４１０（図１９９６参照）の案内長孔Ｍ４１２に挿通され、その案内長孔Ｍ４１２の延びる直線方向（水平方向、左右方向）に変位が案内される。前側突部Ｍ５１１は、左側支持装飾部Ｍ４１０を挟むように配置される一対の円環形状のカラー部材（図示せず）に挿通される。これにより、左側支持装飾部Ｍ４１０と板状本体部Ｍ５１０との間に円環形状のカラー部材が介在することになるので、変位を滑らかにすることができる。
【２５３６２】
電飾基板Ｍ５１３に配置されるＬＥＤから照射される光のうち、透過部Ｍ５１２を通して遊技者に視認される光は、透過部Ｍ５１２以外（周囲）の位置を通って遊技者に視認される光に比較して、明るく視認される。即ち、電飾基板Ｍ５１３に配置されるＬＥＤを発光させることにより、板状本体部Ｍ５１０の前面を全体的に明るくしながら、点在する透過部Ｍ５１２をより明るく視認させることができる。
【２５３６３】
円弧状貫部Ｍ５１５は、前面側における開口として形成されている。板状本体部Ｍ５１

０は、円弧状貫通部Ｍ５１５を囲む位置から円弧状貫通部Ｍ５１５の外形よりも若干大きな形状で背面側へ向けて延設される枠状部Ｍ５２１を備える。即ち、円弧状貫通部Ｍ５１５と枠状部Ｍ５２１との間には段部が形成される。

【２５３６４】

検出センサＭ５１６は、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端位置に配置されている場合に検出溝に被検出部Ｍ６１６が位置するように配設される。

【２５３６５】

左側蓋部Ｍ５３０は、主に樹脂材料から形成される板状部であって、左端端部において後方へ向けて円柱状に突設される後側突部Ｍ５３１と、右側端部において湾曲面として形成される湾曲縁部Ｍ５３２と、を備える。

【２５３６６】

後側突部Ｍ５３１は、背面側支持部Ｍ４３０（図１９９６参照）の案内長孔Ｍ４３２に挿通され、その案内長孔Ｍ４３２の延びる直線方向（水平方向、左右方向）に変位が案内される。後側突部Ｍ５３１は、背面側支持部Ｍ４３０を挟むように配置される一対の円環形状のカラー部材（図示せず）に挿通される。これにより、背面側支持部Ｍ４３０と左側蓋部Ｍ５３０との間に円環形状のカラー部材が介在することになるので、変位を滑らかにすることができる。

【２５３６７】

本実施形態では、後側突部Ｍ５３１と前側突部Ｍ５１１とが前後方向に延びる同一直線上に配置されており、案内長孔Ｍ４１２と案内長孔Ｍ４３２とが同一の直線に対して平行に延びていることから、演出動作ユニットＭ５００の左端部は、前側突部Ｍ５１１及び後側突部Ｍ５３１を介して前後から両持ちで支持される。

【２５３６８】

湾曲縁部Ｍ５３２は、枠状部Ｍ５２１の後方に位置し、その枠状部Ｍ５２１と共通の湾曲面を構成するよう形成される。即ち、湾曲縁部Ｍ５３２の湾曲面は、筒状部Ｍ５１４の中心軸を中心とする円弧に合致する形状とされる。

【２５３６９】

右側蓋部Ｍ５４０は、主に樹脂材料から形成される板状部であって、右端側において背面側に突設され被案内部Ｍ５５０に支持される金属製の突設軸部Ｍ５４１と、その突設軸部Ｍ５４１に対して平行に突設され被案内部Ｍ５５０に挿通される金属製の補助突設部Ｍ５４２と、断面が突設軸部Ｍ５４１よりも大きな円形に類似する形状の柱形状で背面側へ突設される大径支持部Ｍ５４３と、その大径支持部Ｍ５４３に支持される扇形状構成部Ｍ５６０の抜け止めが可能となるように大径支持部Ｍ５４３の外形よりも直径の大きな円形板状に形成され大径支持部Ｍ５４３の突設先端側から金属製の締結ネジＭ５０２で締結固定される脱落防止部Ｍ５４４と、大径支持部Ｍ５４３の円形状の中心と同軸の円弧形状に沿う位置に突設される突設補助部Ｍ５４５と、その突設補助部Ｍ５４５の外周側において大径支持部Ｍ５４３を中心とする円弧に沿う形状で凹設形成（背面側の面が前方側へ変位されるよう形成）される段部Ｍ５４６と、伝達部Ｍ５８０の構成部材を回転可能に支持する複数の突設部Ｍ５４７と、を主に備える。

【２５３７０】

大径支持部Ｍ５４３は、その外形を構成する円形状が、筒状部Ｍ５１４を構成する円形状の中心との関係で同心円とされる。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０の回転中心と、可動装飾ユニットＭ６００の回転中心とが同一となるように構成される。

【２５３７１】

大径支持部Ｍ５４３は、脱落防止部Ｍ５４４を締結固定する締結ネジＭ５０２が内部に位置することから、樹脂材料のみから形成される場合に比較して強度が向上される。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０を安定的に支持することができ、扇形状構成部Ｍ５６０の動作を長期間にわたって安定させることができる。このように扇形状構成部Ｍ５６０は、大径支持部Ｍ５４３という一点での支持でありながら、扇形状構成部Ｍ５６０の動作を長期間にわたって安定させることができる。

【２５３７２】
段部Ｍ５４６は、扇形状構成部Ｍ５６０の回転先端側部と対向配置される。扇形状構成部Ｍ５６０の段部Ｍ５４６に対する当接面積が小さくなるように（抑制されるように）、段部Ｍ５４６の形状や配置および扇形状構成部Ｍ５６０の形状や配置が設計されることで、扇形状構成部Ｍ５６０の変位時の抵抗を抑制することができ、扇形状構成部Ｍ５６０の動作不良を防止し易くすることができる。
【２５３７３】
被案内部Ｍ５５０は、上下方向一直線上に貫通形成されており金属棒Ｍ４０１（図１９９６参照）が挿通可能とされる直線貫通部Ｍ５５１と、右側蓋部Ｍ５４０の突設軸部Ｍ５４１を回転可能に軸支する貫通孔Ｍ５５２と、その貫通孔Ｍ５５２を中心とする円弧形状で貫通形成され右側蓋部Ｍ５４０の補助突設部Ｍ５４２が挿通される円弧状孔Ｍ５５３と、背面側から後方へ向けて板状に突設され切替動作部Ｍ４８０（図１９９６参照）により検出され得る検出片Ｍ５５４と、右側寄り下端位置から下方へ向けて延設される下方延設部Ｍ５５５と、上端部付近から前方へ向けて突設される被支持突部Ｍ５５６と、を主に備える。
【２５３７４】
演出動作ユニットＭ５００は、被案内物体である被案内部Ｍ５５０を備えていれば何でも良く、樹脂材料から構成される部材に限定されるものではなく、金属材料から構成される部材であってもよい。
【２５３７５】
扇形状構成部Ｍ５６０は、主に光透過性の低い（不透明な）樹脂材料から形成されており、右側蓋部Ｍ５４０の大径支持部Ｍ５４３に回転可能に軸支される円筒部Ｍ５６１と、円筒部の外周側に扇形状で延設される板状本体部Ｍ５６２と、その板状本体部Ｍ５６２の周方向端部において直線に沿って前方へ突設される突条部Ｍ５６３と、板状本体部Ｍ５６２の回転先端側に肉厚の形状で形成される円弧状肉厚部Ｍ５６４と、その円弧状肉厚部Ｍ５６４の内周側において回転中心を中心とする円弧形状で貫通形成される円弧状孔Ｍ５６５と、その円弧状孔Ｍ５６５よりも外周側において円弧状肉厚部Ｍ５６４よりも肉厚に形成される外周側増厚部Ｍ５６６と、その外周側増厚部Ｍ５６６の前面側から回転中心を中心とする円弧形状に沿って突設される円弧突条Ｍ５６７と、外周側増厚部Ｍ５６６の周方向端部から径方向に延設される延設部Ｍ５６８と、を主に備える。
【２５３７６】
扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成されていることから、扇形状構成部Ｍ５６０の軽量化を図ることができるので、駆動モータＭ５０１の駆動力で可動装飾ユニットＭ６００を押し上げる場合に扇形状構成部Ｍ５６０の自重による動作抵抗を小さくすることができ、駆動モータＭ５０１の負担を低減させることができる。また、扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成されていることから、設計自由度を向上させることができる。
【２５３７７】
円弧状孔Ｍ５６５は、右側蓋部Ｍ５４０の突設補助部Ｍ５４５が挿通されることで、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動を安定させる。突設補助部Ｍ５４５には先端側から雌ネジが形成されており、突設補助部Ｍ５４５の幅長さよりも直径の大きな頭部を有する雄ネジを螺入することや、円環状のカラーが嵌められた雄ネジを螺入することにより、突設補助部Ｍ５４５からの扇形状構成部Ｍ５６０の脱落を防止することができる。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動を安定させつつ、軸方向の変位（脱落）を規制することができる。
【２５３７８】
外周側増厚部Ｍ５６６は、対向配置される右側蓋部Ｍ５４０の段部Ｍ５４６の凹設深さに対応して、増厚形成されている。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０と右側蓋部Ｍ５４０との間隔は、円弧状肉厚部Ｍ５６４の位置においても、外周側増厚部Ｍ５６６の位置においても、ほぼ同様となるように構成されている。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０の回転先端側が意図せず右側蓋部Ｍ５４０に近接する方向で変位した場合に、円弧状肉厚部Ｍ５６

４ばかりが右側蓋部Ｍ５４０と当接し負荷が与えられ外周側増厚部Ｍ５６６には負荷が与えられないという事態を避けることができ、外周側増厚部Ｍ５６６にも負荷を分担させることができる。

【２５３７９】

円弧突条Ｍ５６７は、外周側増厚部Ｍ５６６において右側蓋部Ｍ５４０の段部Ｍ５４６と優先して当接する部分となっており、少なくとも円弧突条Ｍ５６７が残存している（すり減っていない）状況において外周側増厚部Ｍ５６６は右側蓋部Ｍ５４０と離間するよう構成されている。また、この場合、設計寸法から円弧状肉厚部Ｍ５６４においても右側蓋部Ｍ５４０と離間する。

【２５３８０】

延設部Ｍ５６８は、略正方形の断面を構成する形状で延設される。即ち、前後方向幅と上下方向（周方向）幅とが同じ長さで構成される。これにより、延設部Ｍ５６８が特定の方向に撓む事態を避けることができ、全方位で十分な剛性を有するよう構成することができる。更に、特定の方向の幅が小さい（薄い）場合に比較して、荷重（繰り返し荷重や衝撃荷重）を受けた場合に破損する可能性を低くすることができる。

【２５３８１】

伝達部Ｍ５８０は、駆動モータＭ５０１の駆動軸に固定される被回転物体であるモータギアＭ５８１と、そのモータギアＭ５８１に歯合可能となるように一つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持されるピン付きギアＭ５８２と、そのピン付きギアＭ５８２に歯合可能となるように二つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持される増厚ギアＭ５８３と、その増厚ギアＭ５８３と歯合可能となるように背面側に突設される三つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持される円板付きギアＭ５８４と、を主に備える。

【２５３８２】

円板付きギアＭ５８４は、扇形状構成部Ｍ５６０の動作と関連して動作可能に構成されており、扇形状構成部Ｍ５６０の上方向への動作を抑制する抑制物体であれば何でも良く、樹脂材料から構成されるものに限らず、金属材料から構成されてもよい。

【２５３８３】

図２０００は、可動装飾ユニットＭ６００の分解正面斜視図であり、図２００１は、可動装飾ユニットＭ６００の分解背面斜視図である。可動装飾ユニットＭ６００は、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４を中心として回転移動する動作が可能な部分（板状本体部Ｍ６１０、前側蓋部Ｍ６２０、右側装飾部Ｍ６７０等）と、その部分を基準として直線方向にスライドする動作が可能な部分（前側スライド移動体Ｍ６４０、左側装飾部Ｍ６８０等）とにより構成される。

【２５３８４】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００は、樹脂材料から略長方形状の板状に形成され骨格を成す板状本体部Ｍ６１０と、外周縁部において背面側に向けて突設されるリブ部によって板状本体部Ｍ６１０の外周縁部を封じるように板状本体部Ｍ６１０に締結固定され光透過性の樹脂材料から形成される前側蓋部Ｍ６２０と、その前側蓋部Ｍ６２０と板状本体部Ｍ６１０とにより間に収納される電飾基板Ｍ６３０と、前側蓋部Ｍ６２０の前側平面に沿ってスライド移動可能に構成され光透過性の樹脂材料から形成される前側スライド移動体Ｍ６４０と、を主に備える。

【２５３８５】

また、可動装飾ユニットＭ６００は、回転動作物体である板状本体部Ｍ６１０の後側平面に沿ってスライド移動体Ｍ６４０と一体的にスライド移動可能に構成される樹脂製の後側スライド移動体Ｍ６５０と、その後側スライド移動体Ｍ６５０と板状本体部Ｍ６１０とを変位可能に連結する樹脂製のリンク部材Ｍ６６０と、光透過性の樹脂材料から形成され前側蓋部Ｍ６２０の右側寄り領域を前側から覆う形状から構成され前側蓋部Ｍ６２０に締結固定される右側装飾部Ｍ６７０と、光透過性の樹脂材料から形成され前側スライド移動体Ｍ６４０を前側から覆う形状から構成され前側スライド移動体Ｍ６４０に締結固定される左側装飾部Ｍ６８０と、を主に備える。

【２５３８６】
板状本体部Ｍ６１０は、右上端部付近において貫通形成される円形開口部Ｍ６１１と、その円形開口部Ｍ６１１の近傍において貫通形成される矩形状開口部Ｍ６１２と、左側端部付近において左右方向に延びる長孔状に貫通形成される複数の長孔状開口部Ｍ６１３と、上縁部における左右方向略中央位置から後方へ向けて延設される延設支持部Ｍ６１４と、右側端部から後方へ向けて突設される複数の補助突設部Ｍ６１５と、を主に備える。
【２５３８７】
また、板状本体部Ｍ６１０は、円形開口部Ｍ６１１及び延設支持部Ｍ６１４の間の位置において円形開口部Ｍ６１１を中心とする円に沿う板形状で後方へ向けて突設される被検出部Ｍ６１６と、円柱形状で後方へ向けて突設されリンク部材Ｍ６６０を回転移動可能に支持する突設支持部Ｍ６１７と、長孔状開口部Ｍ６１３の延びる方向と平行に延びる長尺形状で後方へ向けて突設され前側スライド移動体Ｍ６４０の右端における前後方向の位置に左端が合致するように配置される補助突設部Ｍ６１８と、その補助突設部Ｍ６１８の上方において背面側へ向けて延設され右端部に鉤状部が形成される鉤状支持部Ｍ６１９と、外周側を縁取る枠状部の外側において前面に沿って左方に延設される延設当接部Ｍ６０５と、を主に備える。
【２５３８８】
円形開口部Ｍ６１１は、内径が、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４（図１９９８参照）の外径よりも長くなるように設計されている。即ち、円形開口部Ｍ６１１は、筒状部Ｍ５１４との間には若干の隙間が生じるように構成されていることから、可動装飾ユニットＭ６００が板状本体部Ｍ５１０に対して適切に支持されている場合には何ら抵抗を与えるものではない一方で、可動装飾ユニットＭ６００が板状本体部Ｍ５１０に対して位置ずれする場合であっても、その位置ずれの度合いを抑制可能に構成される。
【２５３８９】
延設支持部６１４は、樹脂材料からリング状に形成されるカラー部材Ｍ６０１を介して板状本体部Ｍ５１０の円弧状貫通部Ｍ５１５（図１９９８参照）に挿通される部分であって、先端側において樹脂製（又は金属製）の当接部材Ｍ６０２が締結固定される。当接部材Ｍ６０２の形状が円弧状貫通部Ｍ５１５よりも大きく形成されていることから、当接部材Ｍ６０２は延設支持部Ｍ６１４の板状本体部Ｍ５１０からの脱落を防止する機能を有する。
【２５３９０】
補助突設部Ｍ６１５は、板状本体部Ｍ５１０の補助貫通部Ｍ５１７に挿通される部分であって、一方（下側）の補助突設部Ｍ６１５の先端側にフランジ付きのネジが固定されることで補助貫通部Ｍ５１７からの脱落が防止され、他方（上側）の補助突設部Ｍ６１５の先端には鉤形状部が形成されている。この鉤形状部に弾性バネＭ６０３（図１９９９参照）の端部が引っかけられることにより、板状本体部Ｍ６１０は、正面視時計回り方向に付勢されることになる。
【２５３９１】
被検出部Ｍ６１６は、板状本体部Ｍ５１０の検出センサＭ５１６の検出溝に進入可能とされている。本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端位置に配置されている場合に検出センサＭ５１６の検出溝に進入するよう配置されているが、配置位置については任意に設定可能であり、また、配置個数も自由に設定可能である。
【２５３９２】
突設支持部Ｍ６１７は、板状本体部Ｍ６１０の上側寄りの領域において背面側へ向けて増厚形成される荷重付与部Ｍ６０４の下側の空間に配置されており、この空間においてリンク部材Ｍ６６０を回転移動可能に支持する。突設支持部Ｍ６１７の先端部にはツバ付きネジが螺入固定されており、リンク部材Ｍ６６０の後方への変位（板状本体部Ｍ６１０から離間する方向への変位）を抑制できる。
【２５３９３】
前側蓋部Ｍ６２０は、板状本体部Ｍ６１０の円形開口部Ｍ６１１に挿通されるように後

方へ向けて円柱形状で延設される回転軸部Ｍ６２１と、右寄りの領域において前側に増厚形成される増厚部Ｍ６２２と、その増厚部Ｍ６２２とは異なる箇所（増厚されていない箇所）において板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に対応する形状で貫通形成される複数の長孔状開口部Ｍ６２３と、その長孔状開口部Ｍ６２３と増厚部Ｍ６２２との間の位置において上下方向に亘って複数の星状の模様が形成される装飾部Ｍ６２４と、を主に備える。

【２５３９４】

回転軸部Ｍ６２１は、板状本体部Ｍ６１０及び電飾基板Ｍ６３０を通過した状態で、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４に挿通されることで板状本体部Ｍ５１０に対する回転移動の回転軸部を構成する。また、回転軸部Ｍ６２１は、その先端側において大径の円形板部Ｍ６２１ａが締結ネジＭ５０２に締結固定されることで、板状本体部Ｍ５１０からの脱落が防止される。

【２５３９５】

増厚部Ｍ６２２は、左端部の形状が、短手方向に延びる当接端部Ｍ６２２ａの間に長手方向（長孔状開口部Ｍ６１３が延設される方向と平行）に延びる修正部Ｍ６２２ｂが形成される（所謂「イナズマ状」に形成される）。これにより、対応して配置される前側スライド移動体Ｍ６４０の配置を良好に修正することができる。

【２５３９６】

長孔状開口部Ｍ６２３は、背面側へ延設される外周縁部Ｍ６２３ａを有しており、この外周縁部Ｍ６２３ａの延設端部が板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３の内周面に当接するよう構成されている。

【２５３９７】

これにより、長孔状開口部Ｍ６２３と板状本体部Ｍ６１０との間に生じ得る隙間が埋められるので、電飾基板Ｍ６３０からの光が長孔状開口部Ｍ６２３の内側に漏れることを避け易くすることができる。更に、外周縁部Ｍ６２３ａの延設端部が長孔状開口部Ｍ６１３の内周面と当接することにより補強され、前側スライド移動体Ｍ６４０の動作を安定的に支持することができる。

【２５３９８】

装飾部Ｍ６２４は、前側に若干盛り上がって模様が形成されており、その形成範囲は、前側スライド移動体Ｍ６４０が移動された場合に露出し得る領域に渡るように構成されている。即ち、前側スライド移動体Ｍ６４０が増厚部Ｍ６２２から離れる離間位置に配置されている場合における増厚部ＭＭ６２２と前側スライド移動体Ｍ６４０との間の領域に少なくとも形成される。そのため、装飾部Ｍ６２４は前側スライド移動体Ｍ６４０が増厚部Ｍ６２２に近接配置されている場合には前側スライド移動体Ｍ６４０に覆われる。

【２５３９９】

電飾基板Ｍ６３０は、前側蓋部Ｍ６２０の領域全体を背面側からカバーする形状から形成されており前側蓋部Ｍ６２０に複数位置でネジ留めされる板状本体部Ｍ６３１と、その板状本体部Ｍ６３１の右側寄り位置において前側蓋部Ｍ６２０の回転軸部Ｍ６２１が挿通される円形開口部Ｍ６３３と、板状本体部Ｍ６３１の左側寄り位置において前側蓋部Ｍ６２０の外周縁部Ｍ６２３ａが挿通される複数の長孔状開口部Ｍ６３４と、を主に備える。

【２５４００】

板状本体部Ｍ６３１は、正面側にＬＥＤ等の発光部Ｍ６３２が複数個分散配置されている。発光部Ｍ６３２は、無数の矩形状で図示されており、その位置は、広い面を構成している箇所に限らず、円形開口部Ｍ６３３と板状本体部Ｍ６３１の右上角部との間や、上側の長孔状開口部Ｍ６３４と板状本体部Ｍ６３１の上縁部との間や、下側の長孔状開口部Ｍ６３４と板状本体部Ｍ６３１の下縁部との間や、複数の長孔状開口部Ｍ６３４の間等にも漏れなく配置されている。

【２５４０１】

円形開口部Ｍ６３３は、前側蓋部Ｍ６２０の回転軸部Ｍ６２１と同心であって、板状本体部Ｍ６１０の円形開口部Ｍ６１１よりも直径の大きな円形状から形成される。内周側に

板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４（図１９９９参照）が挿通され遮蔽部として機能することにより、発光部Ｍ６３２から出射される光が円形開口部Ｍ６３３の内周側の領域に漏れ出すことを防止することができる。

【２５４０２】

長孔状開口部Ｍ６３４は、前側蓋部Ｍ６２０の外周縁部Ｍ６２３ａの外形よりも大きな形状で貫通形成されており、外周縁部Ｍ６２３ａが挿通される。そのため、発光部Ｍ６３２から出射される光のうち、正面視で長孔状開口部Ｍ６３４の内周側へ向かう成分は外周縁部Ｍ６２３ａにより反射または吸収（減衰）されることになるので、発光部Ｍ６３２から出射される光が長孔状開口部Ｍ６３４の内周側の領域に漏れ出すことを防止することができる。

【２５４０３】

なお、電飾基板Ｍ６３０は、第３図柄表示装置の表示領域と正面視で重なり得る位置に配置されるものに限られるものではなく、演出動作ユニットＭ５００の変位とは独立して配置を設定可能に構成される独立配置物体として電飾基板Ｍ４２１のように常時第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外方（表示領域と重ならない位置）に配置されても良く、背後からＬＥＤ等の発光手段から光が照射されることで視認される明るさが変化され得るものでも良く、上下左右または前方からの光照射により視認される明るさが変化され得るものでも良い。

【２５４０４】

前側スライド移動体Ｍ６４０は、前側蓋部Ｍ６２０の前側において増厚部Ｍ６２２を除く領域を埋める形状から形成される板状本体部Ｍ６４１と、その板状本体部Ｍ６４１の右端側において背面側から厚みを減らすように凹設形成される凹設形成部Ｍ６４２と、左右一対で後方へ向けて突設され前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３に挿通される複数の突設案内部Ｍ６４３と、を主に備える。

【２５４０５】

板状本体部Ｍ６４１は、前側蓋部Ｍ６２０の正面側における平面状部に背面側が面で支持されていることで、前側スライド移動体Ｍ６４０の前側蓋部Ｍ６２０に対する安定した移動を可能としている。

【２５４０６】

凹設形成部Ｍ６４２により前側スライド移動体Ｍ６４０の背面の位置が前側へ変化しており、これにより生じた前側蓋部Ｍ６２０との間の隙間領域に、装飾部Ｍ６２４が配置される。即ち、凹設形成部Ｍ６４２により、装飾部Ｍ６２４を盛り上げ形成した場合であっても装飾部Ｍ６２４と前側スライド移動体Ｍ６４０とが擦れることを避けることができる。

【２５４０７】

突設案内部Ｍ６４３は、前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３及び板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に挿通され、その端部において後側スライド移動体Ｍ６５０に締結固定される。即ち、前側スライド移動体Ｍ６４０の移動は、長孔状開口部Ｍ６２３及び長孔状開口部Ｍ６１３により、その延設される直線方向に案内される。

【２５４０８】

後側スライド移動体Ｍ６５０は、左右方向に延びる長尺本体部Ｍ６５１と、その長尺本体部Ｍ６５１の左側端部から上方へ延びる延設部Ｍ６５２と、長尺本体部Ｍ６５１の右側端部において上下方向に延びる長孔状に開口形成される伝達開口部Ｍ６５３と、長尺本体部Ｍ６５１の中間部において左右方向に延びる長孔状に開口形成される案内開口部Ｍ６５４と、延設部Ｍ６５２に一端が支持される弾性バネＭ６５５と、を主に備える。

【２５４０９】

長尺本体部Ｍ６５２は、前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３及び板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に挿通された前側スライド移動体Ｍ６４０の突設案内部Ｍ６４３が締結固定される。即ち、後側スライド移動体Ｍ６５０及び前側スライド移動体Ｍ６４０は、長孔状開口部Ｍ６２３が延設される直線方向に沿ってスライド移動可能に案内さ

れる。
【２５４１０】
伝達開口部Ｍ６５３には、リンク部材Ｍ６６０の端部が挿通され、その挿通端においてツバ付きネジが螺入固定されることで、リンク部材Ｍ６６０の後側スライド移動体Ｍ６５０からの脱落が防止される。
【２５４１１】
案内開口部Ｍ６５４は、板状本体部Ｍ６１０の補助突設部Ｍ６１８が挿通される。補助突設部Ｍ６１８が左右方向に延びた形状とされていることから、案内開口部Ｍ６５４の形状と合わせて、後側スライド移動体Ｍ６５０の変位を左右方向に案内する。補助突設部Ｍ６１８は、その端部においてツバ付きネジが螺入固定される場合、後側スライド移動体Ｍ６５０の板状本体部Ｍ６１０に対する後方への変位（離間する方向への変位）を抑制できるので採用しても良いが、本実施形態では、リンク部材Ｍ６６０側（端側）にネジを採用することで、補助突設部Ｍ６１８でのネジの採用を省略している。これにより、省略されるネジ頭部の分、可動装飾ユニットＭ６００と板状本体部Ｍ５１０との間隔を狭めることができる。
【２５４１２】
弾性バネＭ６５５は、延設部Ｍ６５２に一方の端部が支持されており、他方の端部が板状本体部Ｍ６１０の鉤状支持部Ｍ６１９に支持されており、後側スライド移動体Ｍ６５０に対して右方向の付勢力を作用させる。
【２５４１３】
弾性バネＭ６５５は、後側スライド移動体Ｍ６５０が移動可能範囲の右側終端位置に配置されている状態において既に付勢力を生じさせる（自然長よりも延ばされている）状態となるように長さが設定されている。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０に対して常時右向きの付勢力が生じるようにすることができるので、後側スライド移動体Ｍ６５０を移動可能範囲の右側終端位置に安定させることができる。
【２５４１４】
リンク部材Ｍ６６０は、板状本体部Ｍ６１０の突設支持部Ｍ６１７に回転移動可能に支持される長尺板状に形成される板状本体部Ｍ６６１と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状に突設され後側スライド移動体Ｍ６５０の伝達開口部Ｍ６５３に挿通される伝達突設部Ｍ６６２と、板状本体部Ｍ６６１の他方の端部において中央部が割れた二股形状に形成される伝達爪部Ｍ６６３と、を主に備える。
【２５４１５】
伝達突設部Ｍ６６２に対して伝達開口部Ｍ６５３が挿通される場合、後側スライド移動体Ｍ６５０の長尺本体部Ｍ６５１はリンク部材Ｍ６６０に後側から被せられる。伝達突設部Ｍ６６２は、その端部においてツバ付きネジが螺入固定される。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のリンク部材Ｍ６６０に対する後方への変位（離間する方向への変位）を抑制できる。
【２５４１６】
伝達爪部Ｍ６６３は、伝達部Ｍ５８０のピン付きギアＭ５８２（図１９９９参照）の回転を受けて荷重が伝達される。伝達爪部Ｍ６６３に荷重が伝達されることで被押進物体であるリンク部材Ｍ６６０が回転移動すると、一体形成されている伝達突設部Ｍ６６２の位置も変化することになり、連動して後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される。
【２５４１７】
右側装飾部Ｍ６７０は、前側蓋部Ｍ６２０の増厚部Ｍ６２２の前方に配置され、前側蓋部Ｍ６２０に後方側から挿通される締結ネジにより締結固定される。これにより、締結ネジを右側装飾部Ｍ６７０で隠すことができる。
【２５４１８】
左側装飾部Ｍ６８０は、前側スライド移動体Ｍ６４０の前方に配置され、板状本体部Ｍ６４１に後方側から挿通される締結ネジにより締結固定される。これにより、締結ネジを左側装飾部Ｍ６８０で隠すことができる。

【２５４１９】
図２００２（ａ）、図２００２（ｂ）、図２００３（ａ）及び図２００３（ｂ）は、演出動作ユニットＭ５００の正面図である。演出動作ユニットＭ５００に対して可動装飾ユニットＭ６００が反時計回り方向に回転動作開始する動作が時系列で図示される。
【２５４２０】
図２００２（ａ）には、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して動作範囲の正面視時計回り方向終端に位置する起き上がり側終端状態が図示され、図２００２（ｂ）には、起き上がり側終端状態から可動装飾ユニットＭ６００が正面視反時計回り方向に回転移動された後における中間状態が図示され、図２００３（ａ）には、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して動作範囲の正面視反時計回り方向終端に位置する傾倒側終端状態が図示され、図２００３（ｂ）には、傾倒側終端状態から前側スライド移動体Ｍ６４０が平行移動した伸長状態が図示される。
【２５４２１】
図２００２（ａ）、図２００２（ｂ）、図２００３（ａ）及び図２００３（ｂ）に図示されるように、演出動作ユニットＭ５００に対する可動装飾ユニットＭ６００の動作は、回転移動と平行移動とが一連の流れの中の異なるタイミングで実行されるよう構成される。
【２５４２２】
即ち、図２００２（ａ）、図２００２（ｂ）及び図２００３（ａ）では、平行移動は停止される一方、下側変位物体である可動装飾ユニットＭ６００が回転移動する様子が時系列で図示されており、図２００３（ａ）及び図２００３（ｂ）では、回転移動は停止される一方、可動装飾ユニットＭ６００が平行移動される様子が時系列で図示されている。
【２５４２３】
可動装飾ユニットＭ６００は、図２００２（ａ）、図２００２（ｂ）、図２００３（ａ）及び図２００３（ｂ）に時系列で図示される状態を逆向きに移行することで、伸長状態から、傾倒側終端状態、中間状態を経て起き上がり側終端状態まで復帰することができる（復帰制御により復帰する動作が実行される）。
【２５４２４】
本実施形態では、復帰制御は、可動装飾ユニットＭ６００の動作のみに使用されるものではなく、他の動作ユニット（演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）と兼用される。
【２５４２５】
復帰制御では、まず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２００１参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。
【２５４２６】
可動装飾ユニットＭ６００の回転移動は、ほとんどの場合、可動装飾ユニットＭ６００の回転の中心軸線ＭＪ１の位置が固定された状態で実行される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００が平行移動している最中に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合のように、可動装飾ユニットＭ６００の速度方向が複雑となる場合に比較して、可動装飾ユニットＭ６００及び可動装飾ユニットＭ６００と連動される扇形状構成部Ｍ５６０の動作を制御し易くすることができ、可動装飾ユニットＭ６００及び扇形状構成部Ｍ５６０の動作不良を回避することができる。
【２５４２７】

＜発光制御＞

演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に基づいて電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤを点灯させたり消灯させたりする制御の一例について説明する。

【２５４２８】

電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤの制御は、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が切替動作部Ｍ４８０（図１９９６参照）に検出されているかどうか（被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に配置されているかどうか）で切り替えられる。ここでは、検出片Ｍ５５４が切替動作部Ｍ４８０に検出され被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に配置されている場合を説明する。

【２５４２９】

可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２００２（ａ）参照）では、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が配置される。この状態においては、電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤは、中程度の発光強度の点灯が維持される通常発光で制御される。

【２５４３０】

可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２００２（ａ）参照）では、可動装飾ユニットＭ６００が複数の透過部Ｍ５１２と重なっており、この重なっている透過部Ｍ５１２を通る光については可動装飾ユニットＭ６００に隠されて効果的に視認させることが難しいが、可動装飾ユニットＭ６００に隠されていない透過部Ｍ５１２については光を視認させることができる。

【２５４３１】

可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態（図２００２（ａ）参照）から変化し、検出センサＭ５１６から被検出部Ｍ６１６（図２００１参照）が離れたことが検出されると、可動装飾ユニットＭ６００に隠されていた透過部Ｍ５１２が露出されるので（図２００３（ｂ）参照）、電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤは、電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）のＬＥＤの発光強度のみが強化される露出発光で制御される。

【２５４３２】

駆動主体としての駆動モータＭ５０１（図１９９９参照）の動作速度および動作時間を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）において計測し、可動装飾ユニットＭ６００が伸長状態（図２００３（ｂ）参照）とされた場合に、電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤは、露出発光からの変化として電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）のＬＥＤが通常発光の時よりも強く発光される強発光で制御される。この場合、装飾部Ｍ６２４が露出される態様で左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動しており、可動装飾ユニットＭ６００の正面視での面積が大きくされていることからも、可動装飾ユニットＭ６００を目立たせることができる。

【２５４３３】

＜検出＞

可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が検出センサＭ５１６により検出されることから、当接部材Ｍ６０２の位置について音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）が把握することが可能とされる。可動装飾ユニットＭ６００については、遊技者に注目させることが多く、連動して第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を切り替えることもあり、この連動が適切に実行されるか否かが遊技者の興趣の向上に大きく関わるためである。

【２５４３４】

一方、扇形状構成部Ｍ５６０は、上述のように回転動作可能に構成されているが、その姿勢を検出するようには構成されていない。遊技者に見えない部分であるので検出の重要性が低いためであり、検出センサを配設しないことで製品コストの削減を図ることができる。更に、扇形状構成部Ｍ５６０は、当接部材Ｍ６０２と連動することから、一方の検出

で足り、必要不可欠な箇所にのみ検出センサを配置することで省コスト化を図ることができる。

【２５４３５】

図２００４（ａ）、図２００４（ｂ）、図２００５（ａ）、図２００５（ｂ）、図２００６（ａ）及び図２００６（ｂ）は、伝達部Ｍ５８０の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ６００の部分正面図である。

【２５４３６】

図２００４（ａ）、図２００４（ｂ）、図２００５（ａ）、図２００５（ｂ）、図２００６（ａ）及び図２００６（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【２５４３７】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は、図２００４（ａ）が図２００２（ａ）の状態（起き上がり側終端状態）に対応し、図２００５（ｂ）が図２００２（ｂ）の状態（中間状態）に対応し、図２００６（ａ）が図２００３（ａ）の状態（傾倒側終端状態）に対応し、図２００６（ｂ）が図２００３（ｂ）の状態（伸長状態）に対応する。

【２５４３８】

＜自重動作＞

図２００４（ａ）に図示されるように、可動装飾ユニットＭ６００は、ピン付きギアＭ５８２の回転軸と平行に突設される柱状部Ｍ５８２ａに、荷重付与部Ｍ６０４が下から支えられることにより板状本体部Ｍ５１０に対する姿勢が保たれる。荷重付与部Ｍ６０４は、起き上がり側終端状態におけるピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの回転開始方向（柱状部Ｍ５８２ａの中心軸とピン付きギアＭ５８２の回転軸とを通る直線に対して直交する直線方向）に沿って延びる平面形状から形成されることから、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが連動する場合に滑らかに連動させることができる（柱状部Ｍ５８２ａの荷重付与部Ｍ６０４による案内を滑らかにすることができる）。

【２５４３９】

柱状部Ｍ５８２ａは、外周の一部が平面状とされ正面視における断面Ｄ字形状とされており、その平面状部が、起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）において可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４の下面と面で接触するようにされている。これにより、荷重付与部Ｍ６０４に対してピン付きギアＭ５８２が滑り回転することを避けることができる。

【２５４４０】

可動装飾ユニットＭ６００は、大径支持部Ｍ５４３及び筒状部Ｍ５１４（図１９９８参照）において共通の中心軸線ＭＪ１を中心とした回転移動が鉛直下方へ向けた移動により開始されるものであり、水平方向に延びる荷重付与部Ｍ６０４の下面と直角に交差する直線であって起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）において柱状部Ｍ５８２ａの中心を通る直線がピン付きギアＭ５８２の回転軸を通るよう構成される。

【２５４４１】

これにより、起き上がり側終端状態において、可動装飾ユニットＭ６００から柱状部Ｍ５８２ａに上下方向で付与される荷重がピン付きギアＭ５８２の回転軸へ向かうようになるので、可動装飾ユニットＭ６００の自重による荷重によりピン付きギアＭ５８２が回転する事態を避け易くすることができる。

【２５４４２】

図２００４（ａ）に図示される状態から駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させ、ピン付きギアＭ５８２及び柱状部Ｍ５８２ａを正面視反時計回りに回転移動させることで荷重付与部Ｍ６０４を介する支持力が効かなくなると、可動装飾

ユニットＭ６００は、自らの自重により回転移動される（図２００４（ｂ））。
【２５４４３】
駆動モータＭ５０１の動作制御としては、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態である場合における駆動モータＭ５０１の正方向への駆動が、荷重付与部Ｍ６０４を介する支持力が効かなくなる角度までに限定される場合（可動装飾ユニットＭ６００の下方への移動は自重に因る移動）と、指定した角度（例えば、可動装飾ユニットＭ６００の中間状態（図２００５（ｂ）参照）の角度）まで継続される場合とを設定可能とされる。前者の場合、駆動モータＭ５０１の駆動継続時間を短くすることができることから駆動モータＭ５０１の寿命の長期化を図ることができ、後者の場合、可動装飾ユニットＭ６００の停止位置の安定を図ることができる。
【２５４４４】
可動装飾ユニットＭ６００は、当接部材Ｍ６０２が案内される円弧状貫通部Ｍ５１５の形成される範囲において回転動作可能に構成されているが、図２００５（ｂ）に図示される中間状態において停止し易くされている。これは、可動装飾ユニットＭ６００の回転動作開始後における駆動モータＭ５０１のみによるものではなく、回転動作開始後に駆動モータＭ５０１の通電を解除した場合であっても機能する工夫にもよるものであって、扇形状構成部Ｍ５６０と円板付きギアＭ５８４とが機能する。
【２５４４５】
図２００４（ａ）に図示されるように、駆動モータＭ５０１により回転駆動されるピン付きギアＭ５８２は、可動装飾ユニットＭ６００から荷重を受けるだけでなく、増厚ギアＭ５８３を介して円板付きギアＭ５８４からも荷重を受ける。
【２５４４６】
円板付きギアＭ５８４は、背面側へ円弧状に突出され、回転動作中に扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３を押進可能となるように形成される円弧形成部Ｍ５８４ａを備える。起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）において、円弧形成部Ｍ５８４ａは、突条部Ｍ５６３と接触しておらず扇形状構成部Ｍ５６０から離間されていることにより、円板付きギアＭ５８４が空回りする態様とされ、回転抵抗が低い。これにより、起き上がり側終端状態からの可動装飾ユニットＭ６００の回転移動をスムーズに開始させることができる。
【２５４４７】
駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させることで可動装飾ユニットＭ６００の下方向への回転動作が開始された直後に、駆動モータＭ５０１の通電が解除される場合、可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４が柱状部Ｍ５８２ａを押し下げることでピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回り方向に回転され、その回転に伴って正面視時計回り方向に回転される増厚ギアＭ５８３を介して円板付きギアＭ５８４が正面視反時計回り方向に回転される。
【２５４４８】
扇形状構成部Ｍ５６０は、段部Ｍ５４６（図１９９９参照）から円弧突条Ｍ５６７が受ける摩擦力により、自重による回転動作が生じ難いようにされている。即ち、可動装飾ユニットＭ６００が回転動作して当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８から離れたとしても、静止摩擦により扇形状構成部Ｍ５６０の姿勢は維持される。そのため、扇形状構成部Ｍ５６０の下降方向の回転移動は、自重により開始されるものではなく、円弧形成部Ｍ５８４ａに押進されることにより開始されることになる。
【２５４４９】
即ち、円板付きギアＭ５８４の正面視反時計回り方向への回転により扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３が円弧形成部Ｍ５８４ａに当接された後で押進開始され（図２００５（ａ））、扇形状構成部Ｍ５６０が静止摩擦以上の荷重を受けた場合に扇形状構成部Ｍ５６０の動作が開始される。
【２５４５０】
円板付きギアＭ５８４が扇形状構成部Ｍ５６０を押進する際に受ける抵抗は、そのまま

、増厚ギアＭ５８３を介してピン付きギアＭ５８２の回転動作の抵抗として作用する。ピン付きギアＭ５８２の回転動作の抵抗は柱状部Ｍ５８２ａで下支えされる可動装飾ユニットＭ６００の回転動作の抵抗と言い替えることができる。この抵抗は一定では無く、互いの接触の仕方や、接触が生じる位置によって異なる。

【２５４５１】

図２００４（ａ）に図示される状態から駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させる場合、円板付きギアＭ５８４は正面視反時計回り方向に回転されることで円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から遠ざかるため、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動が開始される時点（当接部材Ｍ６０２が延設部Ｍ５６８から離れ始める時点）においては、扇形状構成部Ｍ５６０は静止した状態で維持され、円板付きギアＭ５８４も空転される（図２００４（ａ）、図２００４（ｂ））。

【２５４５２】

その後の円板付きギアＭ５８４の正面視反時計回り方向の回転中において円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３に当接し（図２００５（ａ））、押進することにより扇形状構成部Ｍ５６０が回転移動して、中間状態（図２００５（ｂ）参照）に至る。即ち、下降方向への回転動作において、当接部材Ｍ６０２の移動と扇形状構成部Ｍ５６０との移動は同時に開始されるものではなく、当接部材Ｍ６０２の移動開始から遅れて扇形状構成部Ｍ５６０の移動が開始されるよう構成される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００（当接部材Ｍ６０２）の下降方向への移動開始が遅れることを回避し易くすることができる。

【２５４５３】

可動装飾ユニットＭ６００の中間状態（図２００５（ｂ）参照）では、扇形状構成部Ｍ５６０が抑制物体としての突設補助部Ｍ５４５により規定される動作終端に位置されていると共に、円弧形成部Ｍ５８４ａが寸法の長い外周側で扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と当接していることから、円板付きギアＭ５８４が受ける摩擦抵抗が大きくなっており、扇形状構成部Ｍ５６０の上昇方向への戻りが防止される（変位が抑制される）。

【２５４５４】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００の動作速度が高速になっている場合であっても、その動作に追従して回転移動される扇形状構成部Ｍ５６０の円弧状孔Ｍ５６５の上側内側面が突設補助部Ｍ５４５に衝突して扇形状構成部Ｍ５６０が跳ね返る（跳ね戻る）動作が防止される（変位が抑制される）。

【２５４５５】

更に、可動装飾ユニットＭ６００がピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａに下支えされるのみの構成であるから、柱状部Ｍ５８２ａの変位速度によっては柱状部Ｍ５８２ａと可動装飾ユニットＭ６００が離間する（可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４が柱状部Ｍ５８２ａに対して浮く）事態が生じ得るところ、扇形状構成部Ｍ５６０が跳ね返る（跳ね戻る）動作が防止される（変位が抑制される）ことにより、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８の下面と当接する当接部材Ｍ６０２を具備する可動装飾ユニットＭ６００が浮くような事態を避けることができ、柱状部Ｍ５８２ａの変位速度に関わらず可動装飾ユニットＭ６００を中間状態（図２００５（ｂ）参照）で安定させ易くすることができる。

【２５４５６】

円板付きギアＭ５８４が受ける摩擦抵抗が大きくされることにより、駆動モータＭ５０１の駆動力の伝達経路において上流側に位置するピン付きギアＭ５８２の回転抵抗も大きくされる。これにより、円板付きギアＭ５８４及びピン付きギアＭ５８２を停止させ易くすることができることから、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａに支えられている可動装飾ユニットＭ６００を中間状態（図２００５（ｂ）参照）で停止させ易くすることができる。なお、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態から中間状態まで回転移動する際におけるピン付きギアＭ５８２の回転角度は９０度とされる。

【２５４５７】

＜駆動＞
可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）から、可動装飾ユニットＭ６００の回転動作開始後に駆動モータＭ５０１の駆動を正方向で継続させる場合について説明する。駆動モータＭ５０１の駆動を正方向で継続させる場合においても、ピン付きギアＭ５８２を可動装飾ユニットＭ６００の中間状態に対応する状態（図２００５（ｂ）参照）に至る直前まで回転させた直後に、通電を解除するよう制御することで、残りは惰性で、可動装飾ユニットＭ６００の自重によりピン付きギアＭ５８２が回転され、中間状態（図２００５（ｂ）参照）で停止させ易くすることができる。
【２５４５８】
このように駆動モータＭ５０１を制御することで、惰性で中間状態（図２００５（ｂ）参照）に落ち着くことになるので、中間状態までピン付きギアＭ５８２を駆動モータＭ５０１の駆動力により回転させる駆動態様に比較して、可動装飾ユニットＭ６００の回転し過ぎを避けられる。即ち、慣性で、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態を超えて回転動作することを避け易くすることができる。
【２５４５９】
中間状態（図２００５（ｂ）参照）に到達した後もピン付きギアＭ５８２が継続回転するように駆動モータＭ５０１の正方向の駆動を継続すれば、円板付きギアＭ５８４が更に回転して円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から離れることになり、駆動モータＭ５０１にかけられる回転抵抗を低減させることができる。これにより、駆動モータＭ５０１の駆動力をピン付きギアＭ５８２の回転に集中させた状態で（増厚ギアＭ５８３及び円板付きギアＭ５８４は空転させた状態で）、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向に変位する形で傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）へ向けて可動装飾ユニットＭ６００を回転移動させることができる。
【２５４６０】
中間状態から更に駆動モータＭ５０１が正方向で駆動されピン付きギアＭ５８２が回転されると、可動装飾ユニットＭ６００は円弧状貫通部Ｍ５１５に移動を規制されることにより傾倒側終端状態で停止され、柱状部Ｍ５８２ａは荷重付与部Ｍ６０４から離れてリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３と接触可能となる（図２００６（ａ）参照）。
【２５４６１】
なお、柱状部Ｍ５８２ａが荷重付与部Ｍ６０４から離れてからリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３に接触する（図２００６（ａ）参照）までの間、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の外形は傾倒側終端状態で維持される。
【２５４６２】
即ち、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒側終端状態（図２００３（ａ）参照）におけるピン付きギアＭ５８２の状態は、図２００６（ａ）に図示される状態に限定されるものではなく、可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４との間の領域において柱状部Ｍ５８２ａは配置され得る。
【２５４６３】
傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）から更に駆動モータＭ５０１が正方向で駆動されピン付きギアＭ５８２が回転されると、柱状部Ｍ５８２ａによりリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３が押進され、突設支持部Ｍ６１７を中心にリンク部材Ｍ６６０が回転移動され、これに連動して後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される（図２００６（ｂ）参照）。柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３に当接する伝達爪部Ｍ６６３の部位は、当接開始時（図２００６（ａ）参照）及び方向転換時（図２００６（ｂ）参照）において同じであり、この部位が、当接する部位として伝達爪部Ｍ６６３の最も先端側にあたる。そのため、当接開始時の部位において強度を確保できるように設計すれば良いので、当接開始時の部位よりも先端側において柱状部Ｍ５８２ａが当接し得る場合に比較して、伝達爪部Ｍ６６３の設計難易度を低減させることができる。
【２５４６４】
これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０に締結固定される前側スライド移動体Ｍ６４

０（図２００１参照）及びその前側スライド移動体Ｍ６４０に締結固定される左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動され、伸長状態を構成する（図２００３（ｂ）参照）。
【２５４６５】
このように、左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動される際において、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４と離れているため、スライド移動を実行している際に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動することを防止することができる。
【２５４６６】
即ち、左側装飾部Ｍ６８０をスライド移動させる際に、駆動モータＭ５０１の駆動力が可動装飾ユニットＭ６００の回転移動に使用される可能性を無くすことができ、駆動力をスライド移動に集中させることができる。
【２５４６７】
＜往復＞
これは、往復スライド動作させるように駆動する場合も同様である。即ち、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）と身長状態（図２００６（ｂ）参照）とが交互に切り替えられるように駆動モータＭ５０１の駆動を正逆で交互に切り替える制御を行うことで、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒姿勢（角度）は維持したままで、左側装飾部Ｍ６８０を往復移動させることができる。
【２５４６８】
この往復移動において、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動される移動（伸長状態（図２００６（ｂ）参照）から傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）へ変化する向きの移動）は、弾性バネＭ６５５（図２００１参照）の付勢力に補助されることにより必要な駆動力が低減される。
【２５４６９】
この弾性バネＭ６５５が配設されていることにより、駆動モータＭ５０１の駆動の切替の制御は、駆動モータＭ５０１の駆動方向を正回転と逆回転とで切り替える反転態様でも良いし、駆動モータＭ５０１へ通電させる状態と通電を解除させる状態とで切り替える入切態様でも良い。
【２５４７０】
即ち、伸長状態（図２００６（ｂ）参照）において駆動モータＭ５０１の通電を解除した場合、弾性バネＭ６５５の付勢力により後側スライド移動体Ｍ６５０が傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）へ向けて移動され、これに伴ってリンク部材Ｍ６６０が回転移動され、そのリンク部材Ｍ６６０に被案内物体である柱状部Ｍ５８２ａが押進されることでピン付きギアＭ５８２が正面視時計回りに回転移動される。
【２５４７１】
そのため、逆方向に駆動される前段階（反転時において回転方向速度＝０となる段階）において既にピン付きギアＭ５８２の回転を開始させることができるので、左側装飾部Ｍ６８０の動作方向の反転を迅速に行わせることができる。
【２５４７２】
また、ピン付きギアＭ５８２の正面視時計回り方向の回転と連動して、円板付きギアＭ５８４も正面視時計回り方向に回転されるところ、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動途中において、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と擦れる位置に到達する。
【２５４７３】
これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動が弾性バネＭ６５５（図２００１参照）の付勢力により終端まで加速度的に移動しきるものに限定されるものではく、途中位置で制動させることができるので、この制動を利用することで後側スライド移動体Ｍ６５０の伸長状態近傍での往復スライド動作（伸縮動作）をさせる場合においても駆動モータＭ５０１への負荷が大きくなることを避けることができる。
【２５４７４】

即ち、伸縮動作では、伸長状態（図２００６（ｂ）参照）において駆動モータＭ５０１の通電を解除し、その解除中において弾性バネＭ６５５（図２００１参照）の付勢力で後側スライド移動体Ｍ６５０、ピン付きギアＭ５８２及び円板付きギアＭ５８４が動作されることで円弧形成部Ｍ５８４ａが突条部Ｍ５６３と擦れる位置に到達するのを待ち、その到達後に再び駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動させ伸長状態とすることを繰り返すように制御される。

【２５４７５】

後側スライド移動体Ｍ６５０は、そのスライド方向が、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動における移動方向に対して傾斜されている。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動による荷重（反力）を可動装飾ユニットＭ６００の回転方向にかけられる成分と、可動装飾ユニットＭ６００の回転方向と直角の方向にかけられる成分とに分けることができる。

【２５４７６】

駆動モータＭ５０１の駆動方向を交互に逆転させることで生じさせる往復動作は、傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）及び伸長状態（図２００６（ｂ）参照）間でのみ生じさせることができるわけではなく、傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）から起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）までも可能であるし、伸長状態（図２００６（ｂ）参照）から傾倒側終端状態（図２００６（ａ）参照）を経て起き上がり側終端状態（図２００４（ａ）参照）に戻すことも可能である。

【２５４７７】

＜下から上＞

図２００７（ａ）、図２００７（ｂ）、図２００８（ａ）及び図２００８（ｂ）は、伝達部Ｍ５８０の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ６００の部分正面図である。図２００７（ａ）、図２００７（ｂ）、図２００８（ａ）及び図２００８（ｂ）では、可動装飾ユニットＭ６００が上昇方向に回転移動される様子が時系列で図示される。

【２５４７８】

図２００７（ａ）、図２００７（ｂ）、図２００８（ａ）及び図２００８（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【２５４７９】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は、図２００７（ａ）が図２００３（ａ）の状態（傾倒側終端状態）に対応し、図２００７（ｂ）が図２００２（ｂ）の状態（中間状態）に対応し、図２００８（ｂ）が図２００２（ａ）の状態（起き上がり側終端状態）に対応する。

【２５４８０】

駆動モータＭ５０１を逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動させる場合、傾倒側終端状態（図２００７（ａ）参照）では、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から離れているので、抵抗の少ない状態でピン付きギアＭ５８２の正面視時計回り方向の回転を生じさせ、柱状部Ｍ５８２ａで荷重付与部Ｍ６０４を押し上げることで可動装飾ユニットＭ６００を正面視反時計回りに回転移動させることができる。

【２５４８１】

この場合において、円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３に最接近する中間状態（図２００７（ｂ）参照）から、更にピン付きギアＭ５８２が可動装飾ユニットＭ６００を上昇させる方向（正面視時計回り方向）に回転されることに対応して、円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向（正面視時計回り方向）へ変位される。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０と円板付きギアＭ５８４とを連動

させることができ、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動が円板付きギアＭ５８４に妨害されることを回避することができる。

【２５４８２】

傾倒側終端状態（図２００７（ａ）参照）から、可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８に接近する方向で変位され、当接された場合、更に可動装飾ユニットＭ６００が同方向に回転移動されると、当接部材Ｍ６０２に延設部Ｍ５６８が押進されることになり、当接部材Ｍ６０２と共に扇形状構成部Ｍ５６０が変位される。なお、当接部材Ｍ６０２に当接されるまでの間、扇形状構成部Ｍ５６０は停止されるよう構成されているので、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０との当接位置を安定させることができ、動作の再現性を高くさせることができる。

【２５４８３】

扇形状構成部Ｍ５６０は、当接部材Ｍ６０２に押進されることで変位される被押進物体であれば何でも良く、外形は偏心した形状に関わらず対称形状でもよく、配置が固定される部材に配設される物体であってもよく、一の部材から構成されるものに限られるものではなく複数部材から構成されても良く、対象物から荷重が与えられない位置に退避可能に構成されても良く、幅長さが一定となる形状でも良く、箇所によって幅広、幅狭が生じるような形状でも良く、対象物から荷重が長期間継続して与えられるよう構成されても良く、対象物から荷重が衝突の一時点で与えられるよう構成されても良く、これらの組合せでも良い。

【２５４８４】

駆動モータＭ５０１が逆方向で駆動され、中間状態（図２００７（ｂ）参照）から起き上がり側終端状態（図２００８（ｂ）参照）へ向けて可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合、駆動モータＭ５０１の駆動力は、可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２を介して扇形状構成部Ｍ５６０に伝達される。つまり、可動装飾ユニットＭ６００と扇形状構成部Ｍ５６０とが共に（一体的に）回転動作される。

【２５４８５】

このように、扇形状構成部Ｍ５６０の動作態様は、下方向移動時（正面視反時計回り方向移動時）と、上方向移動時（正面視時計回り方向移動時）とで、当接部材Ｍ６０２との関係が異なる。即ち、下方向移動時においては、当接部材Ｍ６０２のみが先に下方向へ移動し扇形状構成部Ｍ５６０は少し遅れて下方向へ移動するといったように当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０とが離れたが、上方向移動時においては、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０を押し上げる態様となることから、離れずに一体的な動作とされる。

【２５４８６】

特に上方向移動時において当接部材Ｍ６０２の移動に対する扇形状構成部Ｍ５６０の動作遅れを低減させられることにより、可動装飾ユニットＭ６００の上方向移動（復帰制御による退避動作）を迅速に行うことができることから、俊敏な動作を遊技者に視認させることができる。

【２５４８７】

中間状態（図２００７（ｂ）参照）において、円板付きギアＭ５８４の円弧形状部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と当接することから、駆動モータＭ５０１の駆動力の強弱により動作態様を変化させることができる。即ち、円弧形状部Ｍ５８４ａと突条部Ｍ５６３との間の摩擦力よりも弱い駆動力で駆動モータＭ５０１を駆動させる場合、中間状態（図２００７（ｂ）参照）で停止され姿勢が維持され得る一方、突条部Ｍ５６３との間の摩擦力を超える駆動力で駆動モータＭ５０１を駆動させる場合、円板付きギアＭ５８４を更に回転させることができ、中間状態を超えて当接部材Ｍ６０２を介して扇形状構成部Ｍ５６０を押し上げることができる。

【２５４８８】

当接部材Ｍ６０２は、円弧状貫通部Ｍ５１５に案内される被案内物体として可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される物体であれば何でも良く、外形は矩形状（非球体

形状）でも、球体形状でもよい。
【２５４８９】
上述したように、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８とが当接可能に構成されているところ、可動装飾ユニットＭ６００の動作中において延設部Ｍ５６８が視認可能に構成されている（図２００２、図２００３参照）。これにより、当接部材Ｍ６０２との当接により延設部Ｍ５６８が破損する不良が発生した場合に、正面視で不良に気付かせ易い。そのため、延設部Ｍ５６８が破損しているのにも関わらず遊技を継続する事態を防止し易くすることができる。
【２５４９０】
この作用は、扇形状構成部Ｍ５６０が光透過性の低い（不透明）な樹脂材料から形成されることからも補完されている。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０が透明である場合、円弧状貫通部Ｍ５１５を通して延設部Ｍ５６８が露出しているとしても、背後の構造が透き通って視認されるだけであり、延設部Ｍ５６８の状態の変化に気づかせることが難しい。
【２５４９１】
これに対し、扇形状構成部Ｍ５６０が不透明で構成されることで、延設部Ｍ５６８の状態の変化に気づき易くすることができる。なお、延設部Ｍ５６８を黒色の樹脂材料から形成することで、背後の構造と同時に視認された場合であっても違和感なく視認させることができる。
【２５４９２】
なお、上述した説明は、中間状態（図２００７（ｂ）参照）から起き上がり側終端状態（図２００８（ｂ）参照）までの間、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４に常時接触することを前提としているが、ピン付きギアＭ５８２の回転が高速でされ、可動装飾ユニットＭ６００がピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａから離間されるように回転動作しても良い。
【２５４９３】
この場合において、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８を押し上げる場合、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０を下降側終端姿勢に押し下げる位相（図２００７（ｂ）参照）まで到達する前に扇形状構成部Ｍ５６０を上向きに回転移動させることができるので、より上方まで回転移動させることができる。即ち、駆動モータＭ５０１の駆動態様により、当接部材Ｍ６０２及び扇形状構成部Ｍ５６０の動作態様を変化させることができる。
【２５４９４】
なお、この場合においても、円弧形成部Ｍ５８４ａにより扇形状構成部Ｍ５６０の変位が抑制される。また、扇形状構成部Ｍ５６０と当接部材Ｍ６０２とが接触している状態において、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４を下支えしているわけでは無いので、上向きの勢いが失われれば、当接部材Ｍ６０２は扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向に変位される。
【２５４９５】
図２００９は、左側支持装飾部Ｍ４１０の分解正面斜視図であり、図２０１０は、左側支持装飾部Ｍ４１０の分解背面斜視図である。左側支持装飾部Ｍ４１０は、演出動作ユニットＭ５００よりも前側（即ち、扇形状構成部Ｍ５６０と当接部材Ｍ６０２とが近接離反する動作が実行される領域よりも前側）において演出動作ユニットＭ５００の動作を案内可能な箇所を有し、且つ、その案内可能となる部分以外の箇所において発光演出を実行可能とされる。
【２５４９６】
左側支持装飾部Ｍ４１０は、光透過性の材料（樹脂やガラス）から上下方向に長い板状に形成される板状ベースＭ４１１と、その板状ベースＭ４１１に長孔状に開口形成される案内長孔Ｍ４１２と、その案内長孔Ｍ４１２とは異なる領域（外側の領域）に配置される装飾受け部Ｍ４１３と、その装飾受け部Ｍ４１３の前側に配設される電飾基板Ｍ４２１と、を主に備える。

【２５４９７】
　また、左側支持装飾部Ｍ４１０は、電飾基板Ｍ４２１を被覆するように無色の光透過性の樹脂材料から形成され装飾受け部Ｍ４１３に締結固定される被覆部Ｍ４２４と、その被覆部Ｍ４２４の一部を被覆可能な形状とされ被覆部Ｍ４２４よりも透過率の低い有色（本実施形態では赤色）の樹脂材料から形成される低透過率部Ｍ４２６と、被覆部Ｍ４２４及び低透過率部Ｍ４２６によりカバーされない位置において電飾基板Ｍ４２１の前側に配設される六角形状の枠状部Ｍ４２７と、無色の光透過性樹脂材料から枠状部Ｍ４２７の内側部の隙間を埋める有底カップ形状に形成されるカップ形状部Ｍ４２８と、を主に備える。
【２５４９８】
　左側支持装飾部Ｍ４１０は、案内長孔Ｍ４１２において背面側に位置する演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０を支持することから、板状ベースＭ４１１によって板状本体部Ｍ５１０の少なくとも一部を隠し得る。
【２５４９９】
　一方で、延設部Ｍ５６８（図２００３（ａ）参照）を備える扇形状構成部Ｍ５６０は、左側支持装飾部Ｍ４１０と前後方向で重なり得る位置に無く、左側支持装飾部Ｍ４１０によっては隠されないようになっている。これにより、演出動作ユニットＭ５００及び扇形状構成部Ｍ５６０の配置や変位に関わらず、左側支持装飾部Ｍ４１０によって扇形状構成部Ｍ５６０が視認し難くなることを避けることができ、扇形状構成部Ｍ５６０の破損等の不良に正面視で気づき易くすることができる。
【２５５００】
　板状ベースＭ４１１には、背面ケースＭ３１０（図１９９４参照）に締結固定される被固定孔部Ｍ４１４ａが形成され、装飾受け部Ｍ４１３の後面側には、背面側支持部Ｍ４３０（図１９９７参照）に締結固定される雌ネジ部Ｍ４１４ｂが形成される。
【２５５０１】
　案内長孔Ｍ４１２は、演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１（図１９９６参照）が左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側平面に沿って変位可能に挿通される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００（当接部材Ｍ６０２）を含む演出動作ユニットＭ５００が、左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側平面に沿って変位可能とされる。
【２５５０２】
　案内長孔Ｍ４１２の縁部は板状ベースＭ４１１の背面部よりも後方へ向けて突条状に突設形成されている。これにより、左側支持装飾部Ｍ４１０と演出動作ユニットＭ５００との接触面積を減らすことができ（面接触では無いようにすることができ）、演出動作ユニットＭ５００の左側支持装飾部Ｍ４１０に対する動作抵抗を低減させることができる。
【２５５０３】
　また、案内長孔Ｍ４１２の前後両側には、演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１（図１９９８参照）が挿通される円形環状のカラー部材Ｍ４０２が配置される。後側に配置されるカラー部材Ｍ４０２は、板状ベースＭ４１１及び演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０（図１９９８参照）に挟まれ、前側に配置されるカラー部材Ｍ４０２は、前側突部Ｍ５１１の先端側に螺入されるツバ付きネジ（図示せず）により脱落が防止される。
【２５５０４】
　このカラー部材Ｍ４０２が案内長孔Ｍ４１２と演出動作ユニットＭ５００との間に介在し、案内長孔Ｍ４１２との当接により演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１の変位に伴って適宜回転することにより、変位抵抗を低減し、案内長孔Ｍ４１２が受ける摩擦力を低減することができる。
【２５５０５】
　被覆部Ｍ４２４は、案内長孔Ｍ４１２の一部（左側部）と重なり、その他の部分（右側部）と重ならないように構成される。即ち、案内長孔Ｍ４１２は、一部が被覆部Ｍ４２４に隠されており、その他の部分が被覆部Ｍ４２４に隠されずに露出される。
【２５５０６】

上側の被覆部Ｍ４２４の前方には、可動装飾ユニットＭ６００の延設当接部Ｍ６０５（図２００１参照）が重なり得る。即ち、演出動作ユニットＭ５００の配置として、案内長孔Ｍ４１２の右側端部に板状本体部Ｍ５１０の前側突部Ｍ５１１が位置する状態では延設当接部Ｍ６０５は被覆部Ｍ４２４の前方から外れる（右側に離れる）一方で、前側突部Ｍ５１１の配置が左側へ移行するにつれて、延設当接部Ｍ６０５が被覆部Ｍ４２４の前方に重なるようになる。

【２５５０７】

この場合、延設当接部Ｍ６０５は、正面視で被覆部Ｍ４２４と重なる位置において被覆部Ｍ４２４に背面側から当接され得る。これにより、可動装飾ユニットＭ６００の前後位置のずれを戻すことができる。また、この当接位置は、案内長孔Ｍ４１２のうち、被覆部Ｍ４２４に隠されて露出していない位置に対応する。

【２５５０８】

図２０１１は、昇降駆動部Ｍ４４０の分解正面斜視図であり、図２０１２は、昇降駆動部Ｍ４４０の分解背面斜視図である。昇降駆動部Ｍ４４０は、演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０に作用することで、演出動作ユニットＭ５００に対して上下方向の変位を生じさせる。

【２５５０９】

昇降駆動部Ｍ４４０は、金属材料から上下方向に延設されボールネジのネジ軸を構成するように形成されるネジ軸部Ｍ４４１と、そのネジ軸部Ｍ４４１との間にギアが介在されておりネジ軸部Ｍ４４１を回転させる駆動力を発生させる駆動モータＭ４４２と、ネジ軸部Ｍ４４１が挿通される内部にネジ軸部Ｍ４４１に対応する固定ネジが形成されネジ軸部Ｍ４４１の回転方向および回転量に対応して上下方向に移動される昇降移動体Ｍ４４３と、を主に備える。

【２５５１０】

また、昇降駆動部Ｍ４４０は、ネジ軸部Ｍ４４１を支持するようにネジ軸部Ｍ４４１の前後に配設され樹脂材料から形成される支持部Ｍ４５０と、その支持部Ｍ４５０に変位可能に支持される変位部Ｍ４６０と、その変位部Ｍ４６０を挟んで支持部Ｍ４５０の前側に配設される前側蓋部Ｍ４７０と、を主に備える。

【２５５１１】

ネジ軸部Ｍ４４１は、ボールネジのリード（ネジ軸の一回転に伴いナット（本実施形態では昇降移動体Ｍ４４３に相当）が軸方向に進む距離）が５［ｍｍ］となるように形成される。本実施形態では、このリードの長さが、変位部Ｍ４６０に許容される上下方向スライド変位量に対応する。

【２５５１２】

昇降移動体Ｍ４４３は、略直方体状で樹脂材料から形成され、ネジ軸部Ｍ４４１が上下方向に挿通されており、上下方向に長尺の板形状で前方へ突設される前方突設部Ｍ４４４と、右方へ突設される右方突設部Ｍ４４５と、上下方向に長尺の板形状が二股で形成され後方へ突設される後方二股部Ｍ４４６と、その後方二股部Ｍ４４６の上側に配設され後方二股部Ｍ４４６よりも柔軟な樹脂材料から形成されるクッション部材Ｍ４４７と、を主に備える。

【２５５１３】

昇降移動体Ｍ４４３は、樹脂材料から形成されているため、軽量化を図ることができる。これにより、昇降移動体Ｍ４４３の動作方向が上下方向という自重の影響を受けやすい方向でありつつも、その影響を最小限に抑えることができる。即ち、上昇移動させる場合における移動抵抗を低減させることができるので、駆動源としての駆動モータＭ４４２にかかる負荷を低減することができるし、下降移動させる場合においても自重による加速を抑制することができるので、停止位置を安定させることができる。

【２５５１４】

後方二股部Ｍ４４６は、金属棒Ｍ４０１（図１９９６参照）に対して左右側から対向配置される。即ち、昇降移動体Ｍ４４３は、金属棒Ｍ４０１に沿って昇降動作するように構

成されており、その左右方向への過変位や、ネジ軸部Ｍ４４１を中心とする回転が、金属棒Ｍ４０１との当接により防止される（姿勢を維持させる）。

【２５５１５】

クッション部材Ｍ４４７は、上下方向視で被案内部Ｍ５５０（図２００２参照）と少なくとも一部が重なるように形成されている。そのため、昇降移動体Ｍ４４３が昇降移動（上昇移動）される場合に、クッション部材Ｍ４４７が被案内部Ｍ５５０と当接すれば（押し上げれば）、被案内部Ｍ５５０を昇降移動（上昇移動）させることが可能とされる。

【２５５１６】

支持部Ｍ４５０は、ネジ軸部Ｍ４４１を両端部でベアリングを介して支持可能に構成される板状本体部Ｍ４５１と、その板状本体部Ｍ４５１の上端部において後方側からネジ軸部Ｍ４４１を挟み込むように配置され板状本体部Ｍ４５１に締結固定される後方蓋部Ｍ４５６と、を主に備える。

【２５５１７】

板状本体部Ｍ４５１は、上下方向に延びる溝形状で後方側から凹設形成される凹設溝部Ｍ４５２と、その凹設溝部Ｍ４５２と検出溝が一致するように配設される検出センサＭ４５３と、前方側へ柱状に突設され変位部Ｍ４６０を変位可能に支持する複数の支持突設部Ｍ４５４と、弾性バネＭ４４８の一端を支持する鉤状部Ｍ４５５と、を主に備える。

【２５５１８】

凹設溝部Ｍ４５２は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入可能な左右幅で形成される。即ち、凹設溝部Ｍ４５２は昇降移動体Ｍ４４３の上下方向変位幅に対応する長さで凹設形成されており、被案内物体の所定部としての前方突設部Ｍ４４４を介して昇降移動体Ｍ４４３の上下方向変位を案内すると共に、昇降移動体Ｍ４４３がネジ軸部Ｍ４４１を中心に回転することを防止する（姿勢を維持させる）。

【２５５１９】

このように構成されていることから、検出センサＭ４５３の検出溝には、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入可能とされる。即ち、前方突設部Ｍ４４４は、昇降移動体Ｍ４４３の変位方向の案内や回転の防止をする部分として用いられると共に、昇降移動体Ｍ４４３の位置を配置検出センサである検出センサＭ４５３に検出させる部分にも用いられる（兼用される）。

【２５５２０】

凹設溝部Ｍ４５２及び検出センサＭ４５３の検出溝による昇降移動体Ｍ４４３の移動可能方向が上下方向で一致されていることから、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入する前段階から前方突設部Ｍ４４４の移動方向を検出センサＭ４５３の検出溝を移動する際と同じ上下方向とすることができる。これにより、前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３と接触する可能性を低くすることができ、接触による破損が生じる可能性を低くすることができる。

【２５５２１】

検出センサＭ４５３は、図２０１２に図示されるように、検出溝が凹設溝部Ｍ４５２の開放側（後方側）に向けられる姿勢で、凹設溝部Ｍ４５２の左右側両側壁に断面コの字形状で切り欠き形成される切欠き部Ｍ４５２ａの内部に左右端部が収容される形で配設される。この場合、検出センサＭ４５３の上面の少なくとも一部（左右端部）は、切欠き部Ｍ４５２ａの上側部と対向配置され、切欠き部Ｍ４５２ａの上側部に被覆されることになる。これにより、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３との衝突をより生じさせ難くすることができる。

【２５５２２】

後方蓋部Ｍ４５６は、変位部Ｍ４６０の回転連動部Ｍ４６６を回転可能に支持する支持軸部Ｍ４５７と、その支持軸部Ｍ４５７を中心とする円弧状に穿設される円弧状補助孔Ｍ４５８と、を主に備える。

【２５５２３】

変位部Ｍ４６０は、上下に長い金属棒部の両端に樹脂板部が固定される長尺本体部Ｍ４

６１と、その長尺本体部Ｍ４６１の下端位置から後方に突設され板状本体部Ｍ４５１の貫通孔Ｍ４５１ａを通って後方に張り出す受動突設部Ｍ４６２と、支持突設部Ｍ４５４が挿通可能な大きさの上下方向に長い長孔状で長尺本体部Ｍ４６１の樹脂板部に穿設される複数の案内長孔Ｍ４６３と、支持軸部Ｍ４５７に支持される回転連動部Ｍ４６６と、その回転連動部Ｍ４６６の前面から円弧状補助孔Ｍ４５８に挿通されるように突設される複数の円柱状挿通部Ｍ４６７と、下端側の円柱状挿通部Ｍ４６７が挿通されるように長尺本体部Ｍ４６１の上端部において前後方向に穿設される左右方向に長い長孔形状の連動孔Ｍ４６４と、を主に備える。

【２５５２４】

長尺本体部Ｍ４６１は、弾性バネＭ４４８の一端が支持される鉤状部Ｍ４６１ａを備える。弾性バネＭ４４８の付勢力が常時上向きに掛けられることにより、通常、長尺本体部Ｍ４６１は変位可能範囲の上端位置に配置される。

【２５５２５】

受動突設部Ｍ４６２は、昇降移動体Ｍ４４３の右方突設部Ｍ４４５に押し下げられる部分である。即ち、昇降移動体Ｍ４４３が下降して右方突設部Ｍ４４５が受動突設部Ｍ４６２を押し下げると、変位部Ｍ４６０の長尺本体部Ｍ４６１は変位可能範囲の上端位置から下降変位する。

【２５５２６】

案内長孔Ｍ４６３に挿通される支持突設部Ｍ４５４の先端側には、リング形状のカラー部材Ｍ４５４ａに挿通されるネジ部材（図示せず）が螺入される。このカラー部材Ｍ４５４ａが案内長孔Ｍ４６３の幅よりも長い直径で形成されているので、カラー部材Ｍ４５４ａにより長尺本体部Ｍ４６１の脱落を防止することができる。

【２５５２７】

連動孔Ｍ４６４に回転連動部Ｍ４６６が変位可能に連結されていることで、長尺本体部Ｍ４６１の上下動作に伴って回転連動部Ｍ４６６が回転動作される。回転連動部Ｍ４６６は、左上端部において左方へ向けて嘴形状で張出形成される部分を有しており、その嘴形状部の上側部Ｍ４６６ａが支持軸部Ｍ４５７を中心とする円弧形状で形成され、嘴形状部の下側先端部において下方に垂下部Ｍ４６６ｂが突設される。

【２５５２８】

ここで、回転連動部Ｍ４６６に支持される被案内部Ｍ５５０（図１９９８参照）の被支持突部Ｍ５５６は、上面が水平な面状に形成されており、下面が回転連動部Ｍ４６６の上側部Ｍ４６６ａと面で当接可能な湾曲形状で形成される。

【２５５２９】

回転連動部Ｍ４６６に垂下部Ｍ４６６ｂが形成されていることにより、被案内部Ｍ５５０が上昇移動され回転連動部Ｍ４６６を下側から押し上げる場合に、被支持突部Ｍ５５６の上面と回転連動部Ｍ４６６の下面とが面で当接することを避け、摩擦抵抗を低減することができる。

【２５５３０】

一方で、回転連動部Ｍ４６６を押し上げた後においては、被案内部Ｍ５５０の被支持突部Ｍ５５６の下面に沿って回転連動部Ｍ４６６の上側部Ｍ４６６ａが滑り込むように回転連動部Ｍ４６６を回転させることができる。これにより、被案内部Ｍ５５０が上昇移動されることに伴う、回転連動部Ｍ４６６の回転動作（制限状態への移行）をスムーズに実行させることができる。

【２５５３１】

上側の円弧状補助孔Ｍ４５８に挿通される円柱状挿通部Ｍ４６７の先端側には、リング形状のカラー部材Ｍ４６７ａに挿通されるネジ部材（図示せず）が螺入される。このカラー部材Ｍ４６７ａが円弧状補助孔Ｍ４５８の幅よりも長い直径で形成されているので、カラー部材Ｍ４６７ａにより回転連動部Ｍ４６６の後方蓋部Ｍ４５６からの脱落を防止することができる。

【２５５３２】

前側蓋部Ｍ４７０は、変位部Ｍ４６０の長尺本体部Ｍ４６１を前側から覆い得る大きさで形成され板状本体部Ｍ４５１に前側から締結固定され、その下側寄りの位置においてＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｍ４７１が締結固定される。

【２５５３３】

図２０１３（ａ）、図２０１３（ｂ）及び図２０１３（ｃ）は、昇降駆動部Ｍ４４０の背面図である。図２０１３（ａ）、図２０１３（ｂ）及び図２０１３（ｃ）では、昇降移動体Ｍ４４３及び変位部Ｍ４６０の一方向（解除状態へ向かう方向）の変位が時系列で図示されており、変位部Ｍ４６０の変位に付いての理解を容易とするために板状本体部Ｍ４５１の図示が一部省略され（破られて図示され）、特に省略された箇所においてカラー部材Ｍ４５４ａのみが図示され、そのカラー部材Ｍ４５４ａを支持する支持突設部Ｍ４５４の図示が省略される。

【２５５３４】

図２０１３（ａ）及び図２０１３（ｂ）では、制限状態における変位部Ｍ４６０が図示され、図２０１３（ｃ）では、解除状態における変位部Ｍ４６０が図示される。即ち、変位部Ｍ４６０は、通常は弾性バネＭ４４８の付勢力で長尺本体部Ｍ４６１が変位可能範囲の上端位置に配置される制限状態とされる一方で、駆動モータＭ４４２が逆方向に駆動されることで下降変位される昇降移動体Ｍ４４３により弾性バネＭ４４８の付勢力を超える力で受動突設部Ｍ４６２が押し下げられることで長尺本体部Ｍ４６１が変位可能範囲の下端位置に配置される解除状態に変化される。

【２５５３５】

この長尺本体部Ｍ４６１の上下方向の変位に伴い、回転連動部Ｍ４６６が、制限状態における左方に張り出す姿勢（図２０１３（ａ）及び図２０１３（ｂ）参照）から、解除状態における右側へ退避する姿勢（図２０１３（ｃ）参照）へ向けて回転移動される。

【２５５３６】

図２０１３（ａ）で図示される状態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入しておらず（検出センサＭ４５３で昇降移動体Ｍ４４３を検出不可能とされており）、図２０１３（ｂ）で図示される状態および図２０１３（ｃ）で図示される状態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している（検出センサＭ４５３で昇降移動体Ｍ４４３を検出可能とされている）。

【２５５３７】

つまり、昇降移動体Ｍ４４３の右方突設部Ｍ４４５が受動突設部Ｍ４６２に当接する前段階において昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２に近接配置されていることが検出可能となるように構成されているので、検出センサＭ４５３の検出を駆動モータＭ４４２の駆動停止制御に利用することで、受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置に昇降移動体Ｍ４４３を容易に待機させておくことができる。

【２５５３８】

受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）に昇降移動体Ｍ４４３を待機させておく場合の制御態様は何ら限定されるものではなく種々の態様が例示される。一例として、本実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が変位しないように停止させておくようにされている。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の誤動作により意図せず回転連動部Ｍ４６６が制限状態から解除状態に切り替えられるという不具合を回避することができる。

【２５５３９】

また、例えば、定期的（又は不定期）に、昇降移動体Ｍ４４３を前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝から退避する程度に上昇させ、その上昇した後の位置（図２０１３（ａ）参照）から下降させることで昇降移動体Ｍ４４３を元の位置（図２０１３（ｂ）参照）に戻すという動作を繰り返すように制御しても良い。この場合、回転連動部Ｍ４６６の動作を生じさせることなく、昇降移動体Ｍ４４３の動作が可能であることを定期的（又は不定期）に把握させることができ、昇降移動体Ｍ４４３（又はその駆動源となる

駆動モータＭ４４２）に動作不良が生じていないことを主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３に把握させることができる。

【２５５４０】

この動作により検出センサＭ４５３からの出力が切り替えられることになるが、本実施形態では、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えを、他の特定の装置の出力の切り替えに利用しないようにしている。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の動作が開始されていることを遊技者に予想させ難くすることができるので、昇降移動体Ｍ４４３の動作を起点とする演出動作ユニットＭ５００（図１９９６参照）の演出動作の開始タイミングを図り難くすることができ、演出動作に対する注目力を向上させることができる。

【２５５４１】

なお、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えを他の特定の装置の出力の切り替えに利用しても良い。他の特定の装置の出力の切り替えとしては、例えば、発光手段（電飾基板Ｍ４２１（図２００９参照）に配置されるＬＥＤ、電飾基板Ｍ５１３（図１９９８参照）に配置されるＬＥＤ、発光部Ｍ６３２（図２０００参照）等）の制御（点灯消灯の切り替え等）に利用しても良いし、第３図柄表示装置Ｍ８１（図１９９３参照）における表示の制御（エフェクトの発生消滅の切り替え等）に利用しても良いし、音声出力装置Ｈ２２６（図１９９２参照）からの音声出力の制御（切り替えのタイミングで音声を出力する等）に利用しても良い。

【２５５４２】

この場合、遊技者に視認させるものではない昇降移動体Ｍ４４３の動作を検出する検出センサＭ４５３を、遊技者に知覚させて演出を行う装置としての、発光手段や、第３図柄表示装置Ｍ８１や、音声出力装置Ｈ２２６等の制御に兼用することができる。

【２５５４３】

他の特定の装置の出力の切り替えが生じる頻度については、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えが生じたら毎回、他の特定の装置の出力の切り替えを実行するようにしても良い。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動を他の特定の装置を利用した演出に効率的に作用させることができる。

【２５５４４】

また、例えば、特定のタイミングに検出センサＭ４５３の出力の切り替えが生じたら（例えば、被案内部Ｍ５５０が他の位置から上昇端位置に配置が変化され、可動装飾ユニットＭ６００が他の状態から起き上がり側終端状態に変化された後における初回の検出の切り替えが生じたら）他の特定の装置の出力の切り替えを実行するようにしても良い。この場合、初回の検出以降は、昇降移動体Ｍ４４３による検出センサＭ４５３の出力の切り替えが生じても、他の特定の装置の出力の切り替えは生じないようにできるので、昇降移動体Ｍ４４３がどう動作制御されていても他の特定の装置で実行される演出を邪魔することがない。これにより、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動の制御の自由度を向上させることができる。

【２５５４５】

なお、回転動作しながらの落下移動が可能な演出動作ユニットＭ５００は、見映えの変更がされる視認変更物体であればよく、配置が固定されるように構成しても良いし、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるよう構成されても良いし、非透過とされることで背面側を視認できなく構成しても良い。

【２５５４６】

図２０１３（ｃ）に図示される状態から、受動突設部Ｍ４６２から離間するように昇降移動体Ｍ４４３を上昇させると、弾性バネＭ４４８の付勢力により長尺本体部Ｍ４６１が再び上昇変位される。長尺本体部Ｍ４６１が上昇変位されることに伴って回転連動部Ｍ４６６が解除状態における姿勢から制限状態における姿勢となるように回転移動される。

【２５５４７】

なお、ここでは昇降移動体Ｍ４４３による変位部Ｍ４６０の状態変化の説明を行ったが

、本実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を押し下げること以外にも、回転連動部Ｍ４６６が回転方向の荷重を受けることで状態が変化され得る。

【２５５４８】

図２０１４、図２０１５及び図２０１６は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図２０１４、図２０１５及び図２０１６では、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から下降する動作の一例（第１の上下移動制御）が時系列で図示されており、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが実線で図示され、クッション部材Ｍ４４７の外形が想像線で図示され、クッション部材Ｍ４４７及び回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【２５５４９】

複合動作役物ユニットＭ４００は、通常、演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置で回転連動部Ｍ４６６に下支えされているが（図２０１４参照）、回転連動部Ｍ４６６が回転移動されると支えが解除され、上下方向に移動可能とされる。

【２５５５０】

第１の上下移動制御の実行は、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）において昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向（逆方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されると同時に開始される。これにより、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ（図２０１３（ｃ）参照）、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿った落下を開始する。

【２５５５１】

図２０１５及び図２０１６で図示されるように、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされると、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下する。この落下に伴い第３図柄表示装置Ｍ８１（図１９９３参照）の正面側位置に張り出す張出物体である演出動作ユニットＭ５００の左端側では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ４１２に沿って案内されることで直線方向（水平方向、左右方向）にスライド移動される。

【２５５５２】

即ち、演出動作ユニットＭ５００は、右端部では被案内部Ｍ５５０が上下方向にスライド移動され、左端部では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ４１２に沿って右下方向にスライド移動される。

【２５５５３】

なお、図２０１４、図２０１５及び図２０１６では、切替動作部Ｍ４８０の回転切替部Ｍ４９０が停止姿勢とされ、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置までは落下せず、中間位置まで落下される動作が図示される。図２０１４及び図２０１６で図示されるように、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が下降移動されることにより、より上下方向中央側（第３図柄表示装置Ｍ８１の前方側（図１９９３参照））へ進出することになり、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００に対する遊技者の注目力を高めることができる。本実施形態では、これとは別に、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置まで落下する動作が実行可能とされる。

【２５５５４】

図２０１４及び図２０１５では、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態（図２００２（ａ）参照）とされている様子が図示され、図２０１６では、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態（図２００２（ｂ）参照）とされている様子が図示される。

【２５５５５】

ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第１の上下移動制御が開始されてから、８５［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されている状態である場合には、第１の上下移動制御の開始から２５０［ｍｓｅｃ］後に駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）が正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始されることで、可動装飾

ユニットＭ６００が中間状態にされる。
【２５５５６】
第１の上下移動制御では駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）の回転速度は１８０［ｒｐｍ］（ピン付きギアＭ５８２が６０［ｒｐｍ］で回転する速度）に設定されているので、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態から中間状態となるまでに２５０［ｍｓｅｃ］経過する。従って、第１の上下移動制御の開始から５００［ｍｓｅｃ］経過した状態が、図２０１６で図示されている状態に対応する。
【２５５５７】
中間状態は可動装飾ユニットＭ６００が回転移動可能な範囲の途中位置であり駆動制御のみで位置決めをすると位置ずれが生じ得るが、本実施形態では図２００４及び図２００６で上述したように円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と擦れ制動されることにより位置ずれを生じさせることなく中間状態における停止位置（可動装飾ユニットＭ６００の姿勢）を安定させることができる。これにより、図２０１６に図示されるような、可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が水平とされる状態で容易に維持することができる。
【２５５５８】
図２０１７は、切替動作部Ｍ４８０の分解正面斜視図であり、図２０１８は、切替動作部Ｍ４８０の分解背面斜視図である。なお、図２０１７及び図２０１８では、内部形状を視認し易くするために、カップ状本体部Ｍ４８１が、実際の形状（図１９９６参照）から一部破断された（図示を省略された）状態で図示される。切替動作部Ｍ４８０は、被案内部Ｍ５５０（図２０１４参照）の移動可能範囲を切り替える部分として機能する。
【２５５５９】
図２０１７及び図２０１８に図示されるように、切替動作部Ｍ４８０は、前側が開放されるカップ形状で形成されるカップ状本体部Ｍ４８１と、そのカップ状本体部Ｍ４８１に締結固定される駆動ベースＭ４８５と、その駆動ベースＭ４８５及びカップ状本体部Ｍ４８１に締結固定される蓋部Ｍ４８６と、その蓋部Ｍ４８６及び駆動ベース部Ｍ４８５の間に配置される駆動ソレノイドＭ４８７と、その駆動ソレノイドＭ４８７のプランジャに連結されスライド動作可能に構成されるスライド体Ｍ４８８と、そのスライド体Ｍ４８８のスライド動作に基づいて回転移動下方に構成される回転切替部Ｍ４９０と、を主に備える。
【２５５６０】
カップ状本体部Ｍ４８１は、カップ形状部が樹脂材料から形成されており、金属棒Ｍ４０１（図１９９６参照）を配置可能に上下端部において凹設形成される凹設支持部Ｍ４８２と、検出溝が前方に向けられる姿勢で配設される検出センサＭ４８３と、下端側において被案内部Ｍ５５０の下方延設部Ｍ５５５（図１９９８参照）と対応する位置（移動方向視で重なる位置）に配設されカップ形状部よりも柔軟な樹脂材料から形成されるクッション部材Ｍ４８４と、を主に備える。
【２５５６１】
凹設支持部Ｍ４８２は、下側に形成される箇所においては手前側に蓋部（脱落防止板）が一体形成されることで配置された金属棒Ｍ４０１の脱落が防止され、上側に形成される箇所においては後方蓋部Ｍ４５６（図２０１２参照）の上端位置から後方に張り出し形成される箇所により蓋をされることで金属棒Ｍ４０１の脱落が防止される。
【２５５６２】
即ち、金属棒Ｍ４０１の組立においては、先に下側の凹設支持部Ｍ４８２に先端を差し込むようにし、反対側の先端を上側の凹設支持部Ｍ４８２に入れてから昇降駆動部Ｍ４４０を切替動作部Ｍ４８０に締結固定することで、組立を容易に行うことができる。
【２５５６３】
検出センサＭ４８３は、検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入可能とされる位置に配設されており、検出結果により、被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に位置しているか否かを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参

照）が把握可能に構成される。
【２５５６４】
検出センサＭ４８３は、被案内物体である被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４を検出可能に構成されていれば何でも良く、移動範囲の終端において検出するものでも良く、対象物を移動範囲の途中において検出するものでも良い。また、被案内部Ｍ５５０が検出時に停止するものでもよく、被案内部Ｍ５５０が検出時に停止しないものでも良い。
【２５５６５】
駆動ベースＭ４８５は、浅い皿状に形成されており、その皿状の底面部において回転切替部Ｍ４９０の回転軸となる金属軸棒部Ｍ４８５ａが前方へ延びる姿勢で支持されており、皿形状の内側に駆動ソレノイドＭ４８７、スライド体Ｍ４８８及び回転切替部Ｍ４９０が配置された上で、蓋部Ｍ４８６に蓋をされる構成となっている。回転切替部Ｍ４９０は蓋部Ｍ４８６の円弧開口部Ｍ４８６ａを通って一部が前方に張り出される。
【２５５６６】
蓋部Ｍ４８６は、上下端部に締結ネジが挿通可能に開口形成される開口部Ｍ４８６ｂが形成されており、その開口部Ｍ４８６ｂに挿通された締結ネジにより駆動ベースＭ４８５と締結固定されるが、同様にしてカップ状本体部Ｍ４８１にも締結固定される。
【２５５６７】
即ち、開口部Ｍ４８６ｂは、挿通された締結ネジが駆動ベースＭ４８５の被締結部Ｍ４８５ｂに螺入される開口と、挿通された締結ネジがカップ状本体部Ｍ４８１の被締結部Ｍ４８１ａに螺入される開口と、を備えており、蓋部Ｍ４８６の固定に必要な数の締結ネジを螺入することにより、駆動ベースＭ４８５も同時にカップ状本体部Ｍ４８１に固定されるよう設計されている。
【２５５６８】
この設計によれば、カップ状本体部Ｍ４８１、駆動ベースＭ４８５及び蓋部Ｍ４８６を前後方向に積層するという配置としつつも、カップ状本体部Ｍ４８１に駆動ベースＭ４８５を締結固定し、蓋部Ｍ４８６を駆動ベースＭ４８５のみに締結固定する（積層順に固定する）場合に比較して、駆動ベースＭ４８５又は蓋部Ｍ４８６がカップ状本体部Ｍ４８１に対して位置ずれする程度を低減することができる。
【２５５６９】
即ち、蓋部Ｍ４８６がカップ状本体部Ｍ４８１の被締結部Ｍ４８１ａに締結固定されることから、複数部材を積層配置した場合において間に他の部材が挟まる蓋部Ｍ４８６とカップ状本体部Ｍ４８１との間における位置ずれを最小限に抑えることができる。
【２５５７０】
蓋部Ｍ４８６は、上述した円弧開口部Ｍ４８６ａ、開口部Ｍ４８６ｂの他、更に、駆動ソレノイドＭ４８７の本体部の位置ずれを当接により防止可能に形成される位置ずれ防止部Ｍ４８６ｃと、金属軸棒部Ｍ４８５ａの先端部（駆動ベースＭ４８５に支持される側とは反対側の端部）を受け入れ可能に開口形成される受入部Ｍ４８６ｄと、を主に備える。
【２５５７１】
回転切替部Ｍ４９０は、非透過の樹脂材料から形成され金属軸棒部Ｍ４８５ａに回転可能に支持されており、金属軸棒部Ｍ４８５ａが挿通される円形開口部である支持孔Ｍ４９１と、その支持孔Ｍ４９１の軸線と平行に背面側へ突設される突設部Ｍ４９２と、その突設部Ｍ４９２の突設方向と平行な方向に延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ４９３と、開放部が上側に位置するコの字形状で前方へ向けて延設される延設支持部Ｍ４９４と、その延設支持部Ｍ４９４の開放部から一部がはみ出す態様で支持されるクッション部材Ｍ４９５と、を主に備える。
【２５５７２】
突設部Ｍ４９２は、スライド体Ｍ４８８の移動先端側から前方へ突設される突設爪部Ｍ４８８ａよりも上側に位置するように形成されており、上下方向視で突設爪部Ｍ４８８ａと重なる長さで形成される。
【２５５７３】

延設支持部Ｍ４９４は、コの字形状の下側板部からの長さが、左側板よりも右側板の方が長い（右側板が左側板よりも長く張り出す）形状で形成されている。これにより、クッション部材Ｍ４９５の露出が右側よりも左側の方が多くされる。

【２５５７４】

クッション部材Ｍ４９５は、延設支持部Ｍ４９４よりも柔軟な樹脂材料から形成されており、延設支持部Ｍ４９４と共に円弧開口部Ｍ４８６ａを通って円弧開口部Ｍ４８６ａよりも前側に位置するよう構成される。これにより、クッション部材Ｍ４９５は、演出動作ユニットＭ５００の下方延設部Ｍ５５５と同程度の前後方向位置に位置することになる。

【２５５７５】

図２０１９（ａ）及び図２０１９（ｂ）は、駆動ベースＭ４８５、駆動ソレノイドＭ４８７、スライド体Ｍ４８８及び回転切替部Ｍ４９０の正面図である。図２０１９（ａ）では、駆動ソレノイドＭ４８７に通電されていない状態が図示され、図２０１９（ｂ）では、駆動ソレノイドＭ４８７に通電されている状態が図示される。

【２５５７６】

図２０１９（ａ）及び図２０１９（ｂ）に図示されるように、駆動ソレノイドＭ４８７が通電されると、ボディの中央部で上下方向に延びるプランジャが上方へ引き込まれることで、スライド体Ｍ４８８が上方へスライド移動される（図２０１９（ｂ）参照）。

【２５５７７】

駆動ベースＭ４８５には上下方向に延びる長孔形状で穿設される一対の案内長孔Ｍ４８５ｃが形成されており、スライド体Ｍ４８８の後方から突設される補助突部Ｍ４８８ｂが案内長孔Ｍ４８５ｃに摺動されるよう支持されていることで、スライド体Ｍ４８８の変位方向が上下方向に案内される。

【２５５７８】

図２０１９（ａ）に図示される回転切替部Ｍ４９０の停止姿勢とされる状態から、駆動ソレノイドＭ４８７が通電され、スライド体Ｍ４８８が上方へ変位されると、突設爪部Ｍ４８８ａにより突設部Ｍ４９２が押進されることで、回転切替部Ｍ４９０は持ち上げられる態様で回転移動され、解除姿勢とされる。駆動ソレノイドＭ４８７の通電が維持されている限り、回転切替部Ｍ４９０は解除姿勢で維持される。

【２５５７９】

図２０１９（ｂ）に図示される回転切替部Ｍ４９０の解除姿勢とされる状態から、駆動ソレノイドＭ４８７の通電が解除されると、駆動ソレノイドＭ４８７に内蔵される戻りバネ（図示せず）の付勢力によりスライド体Ｍ４８８が下方へ変位される。スライド体Ｍ４８８が下方へ変位されると、突設爪部Ｍ４８８ａにより金属棒部Ｍ４９３が押進されることで、回転切替部Ｍ４９０は押し下げられる態様で回転移動され、停止姿勢とされる。

【２５５８０】

駆動ソレノイドＭ４８７が通電されていない状態では、突設爪部Ｍ４８８ａの左端平面（左右方向に直交する平面）が金属棒部Ｍ４９３の右端曲面と当接することで、回転切替部Ｍ４９０の戻り動作（右方へ戻るように回転する動作）を防止することができ、回転切替部Ｍ４９０を停止姿勢で安定的に維持させることができる。

【２５５８１】

即ち、スライド体Ｍ４８８の変位は案内長孔Ｍ４８５ｃにより上下方向のみが許容されており左右方向へは規制されているところ、そのスライド体Ｍ４８８に金属棒部Ｍ４９３が左右方向で当接されることで、被案内物体である回転切替部Ｍ４９０の回転が規制される。

【２５５８２】

図２０２０、図２０２１及び図２０２２は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図２０２０、図２０２１及び図２０２２では、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から下降する動作の一例（第２の上下移動制御（第１動作パターン））が時系列で図示されており、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが実線で図示され、クッション部材Ｍ４４７

の外形が想像線で図示され、クッション部材Ｍ４４７及び回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【２５５８３】

第２の上下移動制御における第１の上下移動制御（図２０１４から図２０１６参照）との違いとして、図２０２０に図示されるように、駆動ソレノイドＭ４８７（図２０１７参照）に通電され回転切替部Ｍ４９０が解除姿勢とされる。即ち、第２の上下移動制御では、回転連動部Ｍ４６６の回転移動よりも前に予め駆動ソレノイドＭ４８７に通電されるよう制御され、通電された状態が維持される（図２０２０、図２０２１及び図２０２２参照）。

【２５５８４】

駆動ソレノイドＭ４８７（図２０１７参照）に通電されると回転切替部Ｍ４９０は解除姿勢とされる。この解除姿勢において回転切替部Ｍ４９０のクッション部材Ｍ４９５は被案内部Ｍ５５０の下方延設部Ｍ５５５の移動軌跡から退避される。

【２５５８５】

これにより、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下した場合であっても、切替動作部Ｍ４８０の回転切替部Ｍ４９０が停止姿勢とされていた場合（図２０１５参照）と異なり、被案内部Ｍ５５０が中間位置で停止されず、落下終端位置（図２０２２参照）まで落下される。

【２５５８６】

即ち、被案内部Ｍ５５０が回転切替部Ｍ４９０のクッション部材Ｍ４９５と当接されることはなく、クッション部材Ｍ４９５が配置され得る位置を通過して、クッション部材Ｍ４８４に停止される。

【２５５８７】

図２０２３は、第２の上下移動制御（第１動作パターン）における検出センサＭ４５３、駆動モータＭ４４２、被案内部Ｍ５５０、検出センサＭ４８３、駆動モータＭ５０１、検出センサＭ５１６及び対応表示ＭＥ５９０の計時変化を示した図である。なお、図２０２３において、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６について、ＯＮは検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６の検出溝に検出対象が進入している状態を意味する。

【２５５８８】

なお、図２０２３では、駆動モータＭ５０１の動作開始から検出センサＭ５１６の検出結果の切り替えまで、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、駆動モータＭ５０１の動作開始と同時点で検出センサＭ５１６の検出結果が切り替えられるよう図示される。

【２５５８９】

また、図２０２３では、被案内部Ｍ５５０の上昇端位置からの落下動作開始（又は上昇移動後の上昇端位置への到達）と検出センサＭ４８３の検出結果の切り替えとに、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、被案内部Ｍ５５０の上昇端位置からの落下動作開始（又は上昇移動後の上昇端位置への到達）と同時点で検出センサＭ４８３の検出結果が切り替えられるよう図示される。

【２５５９０】

また、駆動モータＭ４４２の回転速度は正方向および逆方向において一定速度で制御されるので、図２０２３ではその向きのみが示される。一方で、駆動モータＭ５０１の回転速度には大小があるので、図２０２３ではその向きのみではなく、駆動モータＭ５０１の回転速度の大小がタイミングチャートの上下方向の幅長さに対応して図示される。なお、駆動モータＭ４４２のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さと、駆動モータＭ５０１のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さとに対応関係は無い。以下では、第２の上下移動制御（第１動作パターン）について、図２０２０、図２０２１、図２０２２に基づいて、図２０２３を参照しながら説明する。

【２５５９１】

第２の上下移動制御における演出動作ユニットＭ５００の動作開始は、昇降駆動部Ｍ４

４０の検出センサＭ４５３（図２０１３参照）の検出状態を把握して準備がされる。即ち、検出センサＭ４５３の検出状態は、第２の上下移動制御での動作開始前に音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）において把握される。

【２５５９２】

即ち、第２の上下移動制御の実行は、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）において昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向（逆方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることに基づいて開始される（図２０２３におけるタイミングａ参照）。駆動モータＭ４４２は、ネジ軸部Ｍ４４１を６００［ｒｐｍ］で回転させる回転速度で１００［ｍｓｅｃ］駆動され停止されるが（ネジ軸部Ｍ４４１を１回転させ停止されるが）、この駆動により回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされる（図２０１３（ｃ）参照）変位を受動突設部Ｍ４６２（図２０１３（ｃ）参照）に生じさせる長さで昇降移動体Ｍ４４３が下降されるようネジ軸部Ｍ４４１（図２０１３（ｃ）参照）が形成されており、第２の上下移動制御の実行開始から１００［ｍｓｅｃ］後に変位部Ｍ４６０が解除状態とされることに基づいて被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿った落下を開始する。

【２５５９３】

なお、検出センサＭ４５３（図２０１３参照）による検出状態は、演出動作ユニットＭ５００の戻り動作（上昇動作）の開始時においても音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）において把握されるものであるため、検出センサＭ４５３は重要性が高い。この検出センサＭ４５３についての制御を、主制御装置Ｈ１１０（図１９９２参照）で行うようにしても良い。

【２５５９４】

図２０２２に図示されるように、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合、被案内部Ｍ５５０の下縁部と、昇降移動体Ｍ４４３のクッション部材Ｍ４４７の上面部との間には、若干の隙間が生じる。即ち、昇降移動体Ｍ４４３が動作範囲の下端位置に配置されている場合（図２０１３（ｃ）参照）には十分な隙間が生じるようにされ、その下端位置から昇降移動体Ｍ４４３が上昇して変位部Ｍ４６０が制限状態に切り替えられた場合（図２０１３（ｂ）参照）であっても僅かな隙間が生じるようにされる。

【２５５９５】

昇降移動体Ｍ４４３が上昇して変位部Ｍ４６０が制限状態に切り替えられた場合（図２０１３（ｂ）参照）には、依然として昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３に検出されており、前方突設部Ｍ４４４を検出センサＭ４５３（図２０１３参照）の検出溝から退避させるためには昇降移動体Ｍ４４３を更に上昇させる必要があるが、その上昇中に被案内部Ｍ５５０の下縁部に昇降移動体Ｍ４４３のクッション部材Ｍ４４７が押し当てられることになるため、検出センサＭ４５３での検出の切り替えに先立って被案内部Ｍ５５０が昇降移動体Ｍ４４３により押し上げ開始される。

【２５５９６】

そのため、検出センサＭ４５３（図２０１３参照）での検出の切り替えによって、昇降移動体Ｍ４４３の上昇動作が開始されたことのみではなく、被案内部Ｍ５５０の落下終端位置からの上昇動作も開始されることを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）に把握させることができる。

【２５５９７】

第２の上下移動制御では、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（図２０１３（ｂ）参照）から、昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位されるように駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ（図２０１３（ｃ）参照）、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下を開始する（図２０２１参照）。

【２５５９８】

この落下に伴い演出動作ユニットＭ５００の左端側では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ

４１２に沿って案内されることで直線方向（水平方向、左右方向）にスライド移動され、演出動作ユニットＭ５００の右端部では被案内部Ｍ５５０が上下方向にスライド移動されることは第１の上下移動制御（図２０１４から図２０１６参照）と同様である。

【２５５９９】

一方で、第２の上下移動制御では、検出センサＭ４８３の検出結果に関わらず、昇降移動体Ｍ４４３を下降方向に変位させる駆動モータＭ４４２（図２０１３（ｂ）参照）の駆動開始（逆方向への駆動開始）に基づいて可動装飾ユニットＭ６００に予備的な回転移動を実行させるように制御されることが、第１の上下移動制御とは異なる。

【２５６００】

即ち、図２０２１に図示されるように、回転連動部Ｍ４６６は回転移動され被案内部Ｍ５５０の落下が開始はされているが前側突部Ｍ５１１はほとんど変位していない状態となるまでの予備期間において、可動装飾ユニットＭ６００に水平な姿勢をとらせる程度の駆動量で駆動モータＭ５０１（図２００４（ａ）参照）を駆動させる制御（低速の第１動作の制御）が昇降移動体Ｍ４４３を下降方向に変位させる駆動モータＭ４４２（図２０１３（ｂ）参照）の駆動開始に基づいて（駆動開始から１００［ｍｓｅｃ］遅れて）実行される（図２０２３におけるタイミングｂ参照）。

【２５６０１】

本実施形態では、第１動作における駆動モータＭ５０１の回転速度は、約２３４［ｒｐｍ］に設定される。これは、落下開始からの経過時間（被案内部Ｍ５５０が自由落下により図２０２１まで移動する（実寸で約３６［ｍｍ］移動する）のに要する期間（約８５［ｍｓｅｃ］））で、可動装飾ユニットＭ６００を水平とさせるために若干の角度（約５［度］）だけ傾倒させるためにピン付きギアＭ５８２を若干の角度（約４０［度］、図２００４（ａ）及び図２００４（ｂ）参照）調度回転させられる回転速度として設定される。

【２５６０２】

即ち、駆動モータＭ５０１が第１動作で駆動されることにより回転動作される可動装飾ユニットＭ６００は、自由落下する被案内部Ｍ５５０の移動に対応して動作され、被案内部Ｍ５５０が図２０２１で図示される位置を通過するのと同時に図２０２１に図示される姿勢（水平姿勢）にされる。

【２５６０３】

この低速な第１動作が予備的に実行されることで、被案内部Ｍ５５０の落下よりも先に可動装飾ユニットＭ６００が下方へ移動する等、演出動作ユニットＭ５００における可動装飾ユニットＭ６００の位置（相対位置）が不安定になることを避け、可動装飾ユニットＭ６００が水平状態を保ったまま下降変位するように遊技者に視認させる演出を実行可能となる。

【２５６０４】

第２の上下移動制御において、予備期間における検出センサＭ４８３の検出結果が把握される。即ち、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第２の上下移動制御が開始されてから、１５０［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されている状態である場合には、被案内部Ｍ５５０が問題なく落下開始されたと判断され、第２の上下移動制御の開始から１８５［ｍｓｅｃ］後（図２０２３におけるタイミングｃ参照）から駆動モータＭ５０１（図２００４（ａ）参照）に同方向かつ速度を上げた駆動制御（高速の第２動作の制御）が実行され、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態を超えて傾倒側終端状態まで動作される。

【２５６０５】

本実施形態では、第２動作における駆動モータＭ５０１の回転速度は、約４２３［ｒｐｍ］に設定される。これは、図２０２１に図示される状態から被案内部Ｍ５５０が落下終端位置（図２０２２参照）に到達するまでの経過時間（被案内部Ｍ５５０が自由落下により上昇端位置から落下終端位置まで移動する（実寸で約２１６［ｍｍ］移動する）のに要

する期間（約２１５［ｍｓｅｃ］と被案内部Ｍ５５０が自由落下により図２０２１まで移動する（実寸で約３６［ｍｍ］移動する）のに要する期間（約８５［ｍｓｅｃ］）との差である約１３０［ｍｓｅｃ］）で、被案内部Ｍ５５０の動作に対応して可動装飾ユニットＭ６００を水平とさせるために必要な角度（約３３［度］）だけ傾倒させるためにピン付きギアＭ５８２を必要な角度（約１１０［度］、図２００４（ｂ）及び図２００７（ｂ）参照）調度回転させられる回転速度として設定される。

【２５６０６】

即ち、駆動モータＭ５０１が第１動作から第２動作での駆動に切り替えられることにより回転動作される可動装飾ユニットＭ６００は、自由落下する被案内部Ｍ５５０の移動に対応して動作され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達するのと同時に傾倒側終端状態（図２０２２参照）にされる。

【２５６０７】

この第１動作よりも長期間で高速の第２動作が実行されることで、被案内部Ｍ５５０の落下速度の上昇に合わせた可動装飾ユニットＭ６００の回転移動速度の上昇を図ることができ、可動装飾ユニットＭ６００が水平状態を保ったまま下降変位するように遊技者に視認させる演出を実行可能となる。

【２５６０８】

第２動作において、上述したように駆動モータＭ５０１が約１３０［ｍｓｅｃ］駆動継続された後で停止される（図２０２３におけるタイミングｄ参照）ことで可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態で維持されることになるが、駆動モータＭ５０１の停止が若干遅れた（勢いで過回転した）場合であっても、ピン付きギアＭ５８２は可動装飾ユニットＭ６００から柱状部Ｍ５８２ａを離間させる方向へ回転動作するに留まるので（図２００６（ａ）参照）、可動装飾ユニットＭ６００を傾倒側終端状態で維持させることができる。

【２５６０９】

上述した通り、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作は、制御を実行開始後まず検出センサＭ４８３の検出結果によらず予備期間において第１動作を実行し、予備期間の終了時に検出センサＭ４８３の検出が切り替えられていたことが判断できたことを条件として、第２動作が継続的に実行される。

【２５６１０】

このように、第２の上下移動制御では、演出動作ユニットＭ５００も可動装飾ユニットＭ６００も、最初の動作は予め決められたタイミングで開始される。この場合に、可動装飾ユニットＭ６００の動作は第１動作からの開始とされており、先に第２動作が実行されるものではない。

【２５６１１】

また、第２の上下移動制御は、昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位されるように駆動モータＭ４４２（図２０１３（ｂ）参照）が駆動制御されることをきっかけに開始されることから、可動装飾ユニットＭ６００の動作開始よりも先に演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０の下降動作が開始されるよう制御される。

【２５６１２】

＜表示＞

第２の上下移動制御が開始される場合、その開始と同時（図２０２３におけるタイミングａ参照）に第３図柄表示装置Ｍ８１（図１９９３参照）において演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の外形の形状に対応する対応表示ＭＥ５９０（オーラのように演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００から外側に放射されているように視認される表示）が表示される。

【２５６１３】

第２の上下移動制御によって、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が高速で下降方向に移動されることに加えて、対応表示ＭＥ５９０が表示されることで、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００に対する注目力を向上させる

ことができる。
【２５６１４】
＜発光＞
落下が検出センサＭ４８３により検出されたことに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０の発光態様が変化される。即ち、第１動作の実行中は全体で均一な白色ベースの発光が継続されるところ、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０の落下が確認された直後、電飾基板Ｍ６３０が消灯するよう制御される。
【２５６１５】
その後、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達するまでの期間において消灯が維持され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達した直後において全体で均一な白色ベースの発光を再開するよう制御される。この時、再開した時の光量は、再開前と同じでも良いし、異なっていても良い。再開時の方が光量を大きくすると、動作演出の迫力を増すことができる。
【２５６１６】
図２０２１から図２０２２に図示される第２動作では、被案内部Ｍ５５０が落下移動する際に、何ら対策しなければ、可動装飾ユニットＭ６００が慣性で板状本体部Ｍ５１０に追従するだけであり姿勢が傾斜しがちであるところを、落下中の被案内部Ｍ５５０の位置に合わせて可動装飾ユニットＭ６００を水平な姿勢とできるように駆動モータＭ５０１（図２００４（ａ）参照）を駆動させるよう制御される。
【２５６１７】
第１動作の終了時点として図２０２１に図示されるのが、駆動モータＭ５０１が図２００４（ａ）の状態から回転駆動された後において図２００５（ｂ）までは至らない状態であることから、第２動作が開始され駆動モータＭ５０１が高速回転されると、駆動モータＭ５０１に連動されて高速回転される円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａからの荷重により扇形状構成部Ｍ５６０が図２００５（ｂ）の状態に変位される。
【２５６１８】
この場合、円弧形成部Ｍ５８４ａによる負荷により扇形状構成部Ｍ５６０（図２００４（ａ）参照）が傾倒方向に回転移動され、これに伴い延設部Ｍ５６８が可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２を押し下げるように作用することで、可動装飾ユニットＭ６００が慣性により板状本体部Ｍ５１０に追従した傾斜姿勢（右下傾斜の姿勢）となることを回避し易くすることができる。
【２５６１９】
図２０１６に図示される可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が水平であり、図２０２２でも水平姿勢とされる。つまり、単に上下スライド動作のみを実行するエレベーター態様の移動役物と同様に、姿勢を水平に維持した状態での段階別の位置移動を実行することができる。
【２５６２０】
回転切替部Ｍ４９０は、姿勢が切り替えられることにより、被案内部Ｍ５５０の移動幅を切り替えて演出動作ユニットＭ５００の動作態様を切り替えるように機能する。このうち、被案内部Ｍ５５０に対して移動方向（上下方向）から当接する場合と（図２０１５及び図２０１６参照）、被案内部Ｍ５５０に対して側方から当接可能となる場合とがある。
【２５６２１】
即ち、図２０２２に図示されるように、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合、被案内部Ｍ５５０は回転切替部Ｍ４９０の移動軌跡内に配置される。即ち、回転切替部Ｍ４９０の駆動ソレノイドＭ４８７（図２０１９（ａ）参照）の通電を解除して回転切替部Ｍ４９０が被案内部Ｍ５５０に接近するように移動可能とすると、回転切替部Ｍ４９０が延設支持部Ｍ４９４において被案内部Ｍ５５０と当接可能となる。
【２５６２２】
回転切替部Ｍ４９０が延設支持部Ｍ４９４において被案内部Ｍ５５０と当接している場合、被案内部Ｍ５５０を制動させる荷重がかけられることで被案内部Ｍ５５０の動作速度

が若干低下し得るが、動作自体を妨げるものではなく、被案内部Ｍ５５０を上昇方向へ動作させることが可能である。

【２５６２３】

可動装飾ユニットＭ６００は、配置によらず遊技者が視認可能とされる。これにより、可動装飾ユニットＭ６００に対しては、動作により張り出した状態に関わらず、上方に退避している状態においても、常に注目力の向上を図ることができる。

【２５６２４】

図２０２４及び図２０２５は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図２０２４及び図２０２５では、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが図示され、回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【２５６２５】

図２０２６は、第２の上下移動制御（第２動作パターン）における検出センサＭ４５３、駆動モータＭ４４２、被案内部Ｍ５５０、検出センサＭ４８３、駆動モータＭ５０１、検出センサＭ５１６及び対応表示ＭＥ５９０の計時変化を示した図である。なお、図２０２６において、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６について、ＯＮは検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６の検出溝に検出対象が進入している状態を意味する。

【２５６２６】

なお、図２０２６では、駆動モータＭ５０１の動作開始から検出センサＭ５１６の検出結果の切り替えまで、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、駆動モータＭ５０１の動作開始と同時点で検出センサＭ５１６の検出結果が切り替えられるよう図示される。

【２５６２７】

また、駆動モータＭ４４２の回転速度は正方向および逆方向において一定速度で制御されるので、図２０２６ではその向きのみが示される。一方で、駆動モータＭ５０１の回転速度には大小があるので、図２０２６ではその向きのみではなく、駆動モータＭ５０１の回転速度の大小がタイミングチャートの上下方向の幅長さに対応して図示される。なお、駆動モータＭ４４２のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さと、駆動モータＭ５０１のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さとに対応関係は無い。以下では、第２の上下移動制御（第２動作パターン）について、図２０２４、図２０２５に基づいて、図２０２６を参照しながら説明する。

【２５６２８】

図２０２４では、第２の上下移動制御における動作制御が実行されたものの、何らかの理由（例えば、駆動の不良や、動作不良）によって回転連動部Ｍ４６６の動作が完全にはされず、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に残存した場合（第２の上下移動制御（第２動作パターン））が図示される。この場合、可動装飾ユニットＭ６００については、第２の上下移動制御における第１動作は実行されている。

【２５６２９】

この場合においても、既に対応表示ＭＥ５９０が表示されていることから、このままでは遊技者に違和感を与えることになる。対応表示ＭＥ５９０を即座に別の表示に切り替えるように制御しても良いが、一瞬でも表示が実行されてしまうと、遊技者に与える違和感を薄らげることは難しい。

【２５６３０】

これに対して本実施形態では、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第２の上下移動制御が開始されてから、１５０［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されていない状態である場合には、第２の上下移動制御の開始から１８５［ｍｓｅｃ］後（図２０２６におけるタイミングａ参照）から、駆動モータＭ５０１を第１の上下移動制御の時と同じ１８０［ｒｐｍ］の回転速度で往復回転させることで可動装飾

ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態と傾倒側終端状態（図２０２５参照）とで往復動作させる制御が実行される。

【２５６３１】

即ち、初回は可動装飾ユニットＭ６００を３３度傾倒させるため、ピン付きギアＭ５８２を１１０度回転させるために駆動モータＭ５０１が正方向に約３１０［ｍｓｅｃ］回転駆動され、その後（図２０２６におけるタイミングｂ参照）は、正逆交互に４２０［ｍｓｅｃ］回転駆動されることで、ピン付きギアＭ５８２が１５０度正逆回転され、可動装飾ユニットＭ６００の往復動作が実行される。

【２５６３２】

これにより、対応表示ＭＥ５９０を、前方を回転移動する可動装飾ユニットＭ６００そのものや可動装飾ユニットＭ６００の残像により隠すことができるので、対応表示ＭＥ５９０のみが視認されることによる違和感を遊技者に与えることを避けることができ、更には、対応表示ＭＥ５９０を可動装飾ユニットＭ６００の動作に対応した表示であるかのように遊技者に視認させることができる。これにより、演出効果を向上させることができる。

【２５６３３】

本実施形態では、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００という少なくとも４種類の動作ユニットが備えられているが（図１９９４参照）、中には動作領域が互いに重なる動作ユニットがあるため、全動作ユニットを自由に動作させると不具合が生じる可能性が有る。そのため、復帰制御では、可動装飾ユニットＭ６００を動作させる場合において、他の動作ユニットの状況を把握するための制御が実行される。

【２５６３４】

以下では、第２の上下移動制御後の復帰制御について、図２０２０、図２０２１、図２０２２、図２０２４、図２０２５に基づいて、図２０２５及び図２０２６を参照しながら説明する。

【２５６３５】

復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行される。即ち、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動の制御が先に実行開始され、続いて被案内部Ｍ５５０の上昇移動の制御が実行開始される。

【２５６３６】

詳細には、復帰制御では、まず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２００１参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合（図２０２３におけるタイミングｅ、図２０２６におけるタイミングｃ参照）には、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。

【２５６３７】

復帰制御では、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される。図２０２３におけるタイミングｆ、図２０２６におけるタイミングｄ参照）。

【２５６３８】

その駆動モータＭ５０１が停止された状態において検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２

１（図１９９２参照）により判別される。検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態ではない場合には、昇降移動体Ｍ４４３が上昇方向に変位される方向（正方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が回転駆動され、その回転駆動は、検出センサＭ４８３の検出溝に、昇降移動体Ｍ４４３により上昇される被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入しているとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別されるまで（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されるまで、図２０２３におけるタイミングｇ参照）継続される。被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されると、被案内部Ｍ５５０は回転連動部Ｍ４６６に下支えされるため（図２０２０参照）、昇降移動体Ｍ４４３によらずとも被案内部Ｍ５５０は上昇端位置で維持される。

【２５６３９】

次に、復帰制御では、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入している状態であるかが判別され、検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される。

【２５６４０】

この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）に配置されるまで（図２０２３におけるタイミングｈ参照）継続される。

【２５６４１】

次に、復帰制御では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【２５６４２】

本実施形態では、復帰制御により被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が上方向に移動開始した後においても、対応表示ＭＥ５９０（図２０２２参照）が維持される。対応表示ＭＥ５９０は、駆動モータＭ４４２の動作が停止された後において消され、第３図柄表示装置Ｍ８１では別の表示が実行される。この場合、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置され、且つ可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされた状態（図２０２０参照）と併せて、対応表示ＭＥ５９０を視認させることができる。

【２５６４３】

これにより、復帰制御が開始される前の被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００に実行される動作態様に関わらず、停止された可動装飾ユニットＭ６００（図２０２０参照）に対応する表示として対応表示ＭＥ５９０を視認させることができ、対応表示ＭＥ５９０の演出効果を向上させることができる。

【２５６４４】

上述のように、復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行されるが、図２０２４の状態では、被案内部Ｍ５５０は既に上昇端位置に配置されているので、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態に戻す動作制御（第２の上下移動制御の第１動作を実行させるよう制御される駆動モータＭ５０１（図２００４（ａ）参照）を第１動作の逆方向に駆動させる制御）のみが実行されるようにしても良い。

【２５６４５】

なお、図２０２４に図示されるように被案内部Ｍ５５０が下降移動を開始していなかった場合に、第１動作のみの実行で終了し、即座に復帰制御を実行させるようにしても良い。第１動作は低速かつ短時間の動作であるので、第２動作まで実行された場合に比較して

、遊技者に動作前の状態（図２０２０参照）との違いを把握させ難くすることができ、可動装飾ユニットＭ６００が動作を開始したという印象を最小限に抑えることができる。

【２５６４６】

復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行される（可動装飾ユニットＭ６００の回転移動の制御が先に実行開始され、続いて被案内部Ｍ５５０の上昇移動の制御が実行開始される）が、図２０２４の状態では、被案内部Ｍ５５０は既に上昇端位置に配置されているので、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態に戻す動作制御のみが完全な態様で実行され、被案内部Ｍ５５０を上昇させる動作制御は簡略化される。

【２５６４７】

即ち、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）ことは、復帰制御についての上述の説明と同じ（完全な態様）であるが、駆動モータＭ４４２の動作制御が簡略化される。

【２５６４８】

詳細には、駆動モータＭ５０１が停止された状態（図２０２６におけるタイミングｄ参照）において検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別された結果、駆動モータＭ４４２により昇降移動体Ｍ４４３が上昇されるのに要する最短期間として設定される予定期間（約１００［ｍｓｅｃ］）が経過する前に検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、更に、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合、駆動モータＭ４４２の正方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）への回転駆動が、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入していない位置（図２０１３（ａ）参照）まで上昇されたとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別される（図２０２６におけるタイミングｅ参照）まで継続される。

【２５６４９】

この駆動モータ４４２が正方向に回転駆動されている状態において昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入していない位置まで上昇されたとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別された場合、駆動モータＭ４４２は停止され、続いて駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される（図２０２６におけるタイミングｆ参照）。

【２５６５０】

この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）に配置されるまで）継続される。

【２５６５１】

そして、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【２５６５２】

このように、図２０２４及び図２０２５に図示される状態からの復帰制御では、昇降移動体Ｍ４４３により被案内部Ｍ５５０を上昇端位置まで押し上げる場合に比較して、昇降

移動体Ｍ４４３の動作距離が短くなるように制御されているため（簡略化されているため）、被案内部Ｍ５５０の配置に関わらず昇降移動体Ｍ４４３を同じ距離で上下に昇降移動（往復移動）させる場合に比較して、復帰制御に要する時間を短縮化することができる。

【２５６５３】

本実施形態では、復帰制御により可動装飾ユニットＭ６００が上方向に移動開始した後においても、対応表示ＭＥ５９０（図２０２２参照）が維持される。対応表示ＭＥ５９０は、駆動モータＭ４４２の動作が停止された（図２０２３におけるタイミングｈ、図２０２６におけるタイミングｇ参照）後において消され、第３図柄表示装置Ｍ８１では別の表示が実行される。この場合、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置され、且つ可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされた状態（図２０２０参照）と併せて、対応表示ＭＥ５９０を視認させることができる。

【２５６５４】

これにより、復帰制御が開始される前の被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００に実行される動作態様に関わらず、停止された可動装飾ユニットＭ６００（図２０２０参照）に対応する表示として対応表示ＭＥ５９０を視認させることができ、対応表示ＭＥ５９０の演出効果を向上させることができる。

【２５６５５】

本実施形態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合（図２０２３におけるタイミングｈ、図２０２６におけるタイミングｇ参照））に、駆動モータＭ４４２が停止され、且つ、対応表示ＭＥ５９０も消えるよう制御される。

【２５６５６】

そのため、昇降移動体Ｍ４４３の動作距離が長いか短いかによって、対応表示ＭＥ５９０の維持期間が異なる場合を構成することができ、対応表示ＭＥ５９０を利用した演出の演出効果を向上させることができる。

【２５６５７】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００に第２動作が実行された後、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避された後において対応表示ＭＥ５９０の維持期間を長く確保することができることから、遊技者が対応表示ＭＥ５９０を見逃す事態を避けることができる。

【２５６５８】

一方、可動装飾ユニットＭ６００に第２動作が実行されなかった場合（往復移動する可動装飾ユニットＭ６００そのものや可動装飾ユニットＭ６００の残像により対応表示ＭＥ５９０を隠す動作が実行された場合、図２０２６参照）対応表示ＭＥ５９０については可動装飾ユニットＭ６００の往復動作により隠されてはいるものの、第２動作が実行された場合に比較して、露出される箇所が多く、対応表示ＭＥ５９０に対する遊技者の視認の程度も大きい。

【２５６５９】

そのため、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避された後において対応表示ＭＥ５９０の維持期間を短く設定することにより、遊技者が対応表示ＭＥ５９０を視認する期間が過度に長くなることを避け、遊技者が対応表示ＭＥ５９０に飽きることを避けることができる。

【２５６６０】

なお、対応表示ＭＥ５９０を維持する期間の設定はこれに限られるものではなく、種々の態様が設定可能とされる。例えば、対応表示ＭＥ５９０が維持される条件として、復帰制御により被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が復帰されてから予め設定される特定の秒数だけ維持されるよう設定されても良いし、被案内部Ｍ５５０又は可動装飾ユニットＭ６００が次に動作されるまで維持されるよう設定されても良い。

【２５６６１】
なお、第２の上下移動制御において第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される表示は対応表示ＭＥ５９０に限られるものではなく、例えば、対応表示ＭＥ５９０とは異なる第２対応表示ＭＥ５９２（図２０２４参照）が対応表示ＭＥ５９０の代替または対応表示ＭＥ５９０と併せて表示されようにしても良い。この第２対応表示ＭＥ５９２の意味合いについては何ら限定されるものではないが、本実施形態では、表示される場合の方が、表示されない場合に比較して、大当たり期待度（即ち、抽選が大当たりである割合）が高いことを示唆する。
【２５６６２】
第２対応表示ＭＥ５９２は、対応表示ＭＥ５９０の内部領域の一部に表示され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合（図２０２２参照）には板状本体部Ｍ５１０に隠される一方で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されている場合（図２０２４参照）には板状本体部Ｍ５１０には隠されないが、可動装飾ユニットＭ６００には隠され得る（図２０２５参照）位置に構成される。
【２５６６３】
即ち、可動装飾ユニットＭ６００が往復回転動作される場合において、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態の場合には第２対応表示ＭＥ５９２が隠れ、傾倒側終端状態における位置から退避すると第２対応表示ＭＥ５９２が露出されることから、可動装飾ユニットＭ６００が往復回転動作をしている最中に遊技者は第２対応表示ＭＥ５９２を視認することができる。
【２５６６４】
第２対応表示ＭＥ５９２の表示開始タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅らせる。詳しくは、第２の上下移動制御が開始されて所定時間（約２５０［ｍｓｅｃ］）経過した時に表示される。これにより、被案内部Ｍ５５０が落下する場合において、落下終端位置に到達する前に第２対応表示ＭＥ５９２が実行されることを避けることができる。また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示終了タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示終了タイミングと同じとしている。
【２５６６５】
これにより、第２対応表示ＭＥ５９２が視認されるタイミングを、被案内部Ｍ５５０が落下したか否かで異ならせることができる。即ち、被案内部Ｍ５５０が落下した場合（図２０２２参照）、復帰制御により被案内部Ｍ５５０が上昇され板状本体部Ｍ５１０が上方に退避されることで始めて第２対応表示ＭＥ５９２を視認可能となる。
【２５６６６】
一方で、被案内部Ｍ５５０が落下しなかった場合（図２０２４及び図２０２５参照）、復帰制御が開始される前に可動装飾ユニットＭ６００が往復動作している最中において第２対応表示ＭＥ５９２が視認可能とされる。従って、第２対応表示ＭＥ５９２に注目させるタイミングを複数構成することができるので、第３図柄表示装置Ｍ８１に対する注目力を向上させることができる。
【２５６６７】
上述したように、第２の上下移動制御において、第１動作の後の第２動作は、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０が下降移動を開始したことが検出された場合に実行される。即ち、検出センサＭ４８３は、演出動作ユニットＭ５００の動作状況を把握可能なセンサとしての機能を有する。
【２５６６８】
なお、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入可能に構成される被進入物体である検出センサＭ４８３は、検出片Ｍ５５４を移動範囲の終端において検出するものに限られるものではなく、検出片Ｍ５５４を移動範囲の途中において検出するものでも良い。
【２５６６９】
このように、本実施形態では、第２の上下移動制御の途中であっても、検出センサＭ４８３の検出状況に基づき、第２の上下移動制御が中断され、可動装飾ユニットＭ６００を

戻す動作を含む復帰制御に切り替えられ得るよう構成される。
【２５６７０】
＜発光制御＞
電飾基板Ｍ６３０のＬＥＤの発光パターンの一例として、光が横一文字で視認されるよう制御可能（点灯させるＬＥＤを選択可能）に構成されている。即ち、電飾基板Ｍ６３０のＬＥＤの発光態様として、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置された場合における可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２０２０参照）において光が横一文字で視認される第１横ライン発光態様と、可動装飾ユニットＭ６００が第１動作され姿勢が傾斜した場合（図２０２４参照）において光が横一文字で視認される第２横ライン発光態様とが、用意されている。
【２５６７１】
本実施形態では、第２の上下移動制御において可動装飾ユニットＭ６００の第１動作が実行された後で、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０が落下を開始していないと判断された場合、第２の上下移動制御の開始時において電飾基板Ｍ６３０が第１横ライン発光態様で制御されていた場合に電飾基板Ｍ６３０の発光態様を第２横ライン発光態様に変化可能に制御される。
【２５６７２】
これにより、可動装飾ユニットＭ６００の動作に不具合が生じた場合であっても、可動装飾ユニットＭ６００を通した光の視認態様は正常な状態と変わりなく視認されることから、可動装飾ユニットＭ６００に不具合が生じたことを遊技者に気付かれないようにすることができる。
【２５６７３】
また、検出センサＭ４８３の検出の切り替わりが生じていないことから、電飾基板Ｍ６３０を消灯する制御が開始されないので、電飾基板Ｍ６３０の発光が維持される。そのため、可動装飾ユニットＭ６００の状態の変化を目立たせ難くでき、遊技者に違和感を与え難くすることができる。
【２５６７４】
図２０２７は、スライド動作役物ユニットＭ７００の分解正面斜視図であり、図２０２８は、スライド動作役物ユニットＭ７００の分解背面斜視図である。スライド動作役物ユニットＭ７００は、左右長尺に形成されており左端部から垂下する垂下部を有し背面ケースＭ３１０の底壁部Ｍ３１１（図１９９４参照）に締結固定される本体部Ｍ７１０と、その本体部Ｍ７１０に締結固定される駆動モータＭ７２０と、その駆動モータＭ７２０の駆動力が伝達されることで直線方向にスライド変位可能に本体部Ｍ７１０に支持される第１スライド部Ｍ７３０と、を主に備える。
【２５６７５】
また、スライド動作役物ユニットＭ７００は、第１スライド部Ｍ７３０が本体部Ｍ７１０との前後方向間に位置するように配置され本体部Ｍ７１０に締結固定される固定伝達部Ｍ７４０と、その固定伝達部Ｍ７４０の下方に配置され第１スライド部Ｍ７３０のスライド移動に連動されて第１スライド部Ｍ７３０の移動方向と平行な直線方向にスライド変位可能に本体部Ｍ７１０に支持される第２スライド部Ｍ７５０と、第１スライド部Ｍ７３０、固定伝達部Ｍ７４０及び第２スライド部Ｍ７５０を本体部Ｍ７１０との間に配置させるように本体部Ｍ７１０に締結固定される前カバー部Ｍ７６０と、その前カバー部Ｍ７６０に一部が重なるように前カバー部Ｍ７６０の前方に配置され第２スライド部Ｍ７５０に締結固定される移動装飾部Ｍ７７０と、を主に備える。
【２５６７６】
本体部Ｍ７１０は、左右両端まで亘って右下傾斜の長孔状に穿設される主案内開口Ｍ７１１と、その主案内開口Ｍ７１１の上側において主案内開口Ｍ７１１と平行であって主案内開口Ｍ７１１よりも短い長孔状に穿設される補助案内開口Ｍ７１２と、その補助案内開口Ｍ７１２の左端部側に検出溝が向けられる検出センサＭ７１３と、左端の垂下部に締結固定される中継基板Ｍ７１４と、その中継基板Ｍ７１４に接続され移動装飾部Ｍ７７０に

電力を供給する帯状ケーブルＭ７０１を折り返し位置（左右長さの半分の位置）の長さまで本体部Ｍ７１０に固定するケーブル固定部Ｍ７１５と、垂下部において中継基板Ｍ７１４の前方の開放部に蓋をする蓋部Ｍ７１６と、帯状ケーブルＭ７０１を下面に沿って案内可能となるように前側に張り出す平面壁状部Ｍ７１７と、を主に備える。

【２５６７７】

駆動モータＭ７２０は、本体部Ｍ７１０の背後に締結固定されており、本体部Ｍ７１０を前方へ貫通される駆動軸に駆動ギアＭ７２１が固定されており、その駆動ギアＭ７２１に歯合されており互いに連動して回転可能に構成される伝達ギアＭ７２２が本体部Ｍ７１０に回転可能に支持される。

【２５６７８】

第１スライド部Ｍ７３０は、上面にギア歯（複数の凹部および凸部）が形成される板状部材であって、背面側へ円柱状に突設形成され補助案内開口Ｍ７１２に挿通される複数の案内突部Ｍ７３１と、左端部から上方へ板状に延設され検出センサＭ７１３の検出溝に進入可能とされる検出片Ｍ７３２と、左側寄りの位置から前方へ円柱形状で突設される支持突設部Ｍ７３３と、その支持突設部Ｍ７３３に回転可能に支持される移動伝達ギアＭ７３４と、を主に備える。

【２５６７９】

案内突部Ｍ７３１には、先端から雌ネジが形成されており、補助案内開口Ｍ７１２の上下幅よりも長い直径で形成されるリング状のカラー部材Ｍ７３１ａを介して締結ネジが螺入される。これにより、第１スライド部Ｍ７３０の補助案内開口Ｍ７１２からの脱落が防止されると共に、スライド移動時に生じる抵抗をカラー部材Ｍ７３１ａの滑り回転により低減させることができる。

【２５６８０】

支持突設部Ｍ７３３には、先端から雌ネジが形成されており、その先端にツバ付きのネジが螺入固定されることにより、移動伝達ギアＭ７３４が支持突設部Ｍ７３３から脱落することを防止する。

【２５６８１】

固定伝達部Ｍ７４０は、下面に形成されるギア歯（複数の凹部および凸部）が主案内開口Ｍ７１１の延びる方向と平行な方向に延びるように形成される板状部材であって、本体部Ｍ７１０に締結固定された状態において移動伝達ギアＭ７３４が歯合可能とされる。

【２５６８２】

第２スライド部Ｍ７５０は、移動伝達ギアＭ７３４に歯合されるギア歯（複数の凹部および凸部）が上面に形成される板状部材であって、背面側へ円柱状に突設形成され主案内開口Ｍ７１１に挿通される複数の案内突部Ｍ７５１と、移動装飾部Ｍ７７０が締結固定可能に開口形成される複数の締結孔Ｍ７５２と、を主に備える。

【２５６８３】

案内突部Ｍ７５１には、先端から雌ネジが形成されており、主案内開口Ｍ７１１の上下幅よりも長い直径で形成されるリング状のカラー部材Ｍ７５１ａを介して締結ネジが螺入される。これにより、第２スライド部Ｍ７５０の主案内開口Ｍ７１１からの脱落が防止されると共に、スライド移動時に生じる抵抗をカラー部材Ｍ７５１ａの滑り回転により低減させることができる。

【２５６８４】

締結孔Ｍ７５２の間には、締結孔Ｍ７５２の中心間を通る直線方向に沿う凹部を形成する上下一対のリブ部が形成される。このリブ部により、第２スライド部Ｍ７５０の剛性が向上される。

【２５６８５】

前カバー部Ｍ７６０は、主案内開口Ｍ７１１と平行な直線方向に延びる形状の突条として前方へ突設される突条部Ｍ７６１を備える。突条部Ｍ７６１は、移動装飾部Ｍ７７０が後方変位したり、移動装飾部Ｍ７７０が後倒れ方向に姿勢変化したりした場合に背面が当接可能とされており、その形成方向が移動方向と合致されていることから、当接が生じた

場合であっても移動装飾部Ｍ７７０の移動抵抗の上昇を抑制することができる。
【２５６８６】
移動装飾部Ｍ７７０は、正面視において、人の頭部を模した意匠として設計される。この頭部に対応する胴体部等については、第３図柄表示装置Ｍ８１（図１９９３参照）での表示に補完される。移動装飾部Ｍ７７０は、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外方に位置することから、換言すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１のみで表示する場合には第３図柄表示装置Ｍ８１の表示枠の内側で表示を完結させなければみっともない場合が多いところ、移動装飾部Ｍ７７０により表示を補完するように構成することで、実質的に、表示枠の大きさを拡大することができ、演出の自由度を向上させることができる。
【２５６８７】
移動装飾部Ｍ７７０は、背面側から円柱状に突設され中心部に雌ネジを有し第２スライド部Ｍ７５０の締結孔Ｍ７５２に締結固定される複数の締結突設部Ｍ７７１と、その締結突設部Ｍ７７１の間に形成される突条部Ｍ７７２と、下端部から後方に張り出す部分を有することで右面視Ｌ字形状で右方に延設される配線案内部Ｍ７７３と、帯状ケーブルＭ７０１を基板に接続する直前において留める配線留め部Ｍ７７４と、内部に配設され帯状ケーブルＭ７０１が接続される電飾基板Ｍ７７５と、を主に備える。
【２５６８８】
突条部Ｍ７７２は、第２スライド部Ｍ７５０の締結孔Ｍ７５２の中心間に形成される凹部に嵌め込まれる。これにより、互いに締結固定される第２スライド部Ｍ７５０及び移動装飾部Ｍ７７０の剛性の向上を図ることができる。
【２５６８９】
配線案内部Ｍ７７３は、帯状ケーブルＭ７０１を案内すると共に帯状ケーブルＭ７０１が下方へ垂れることを防止可能な形状とされている。即ち、本実施形態によれば、移動装飾部Ｍ７７０がスライド移動しても帯状ケーブルＭ７０１が下方に垂れることが防止される。
【２５６９０】
電飾基板Ｍ７７５は、正面側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を有する基板であって、移動装飾部Ｍ７７０の明るさや色合いを変化可能に制御される。発光態様の制御は、停止時だけでなく、移動装飾部Ｍ７７０の移動中において移動態様に対応した制御が可能とされる。
【２５６９１】
図２０２９（ａ）及び図２０２９（ｂ）は、スライド動作役物ユニットＭ７００の正面図である。なお、図２０２９（ａ）及び図２０２９（ｂ）では、内部構造の理解を容易とするために前カバー部Ｍ７６０の図示が省略され、移動装飾部Ｍ７７０については外形のみが想像線で図示される。
【２５６９２】
図２０２９（ａ）及び図２０２９（ｂ）に図示されるように、スライド動作役物ユニットＭ７００は、移動装飾部Ｍ７７０が移動可能範囲の左端位置（上端位置）に配置される第１の状態と、移動装飾部Ｍ７７０が移動可能範囲の右端位置（下端位置）に配置される第２の状態とを往復移動可能に構成される。
【２５６９３】
移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態は、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が位置していることから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）により把握される。移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態から駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）が正方向（正面視時計回り）に駆動回転されることで、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態へ向けて移動される。
【２５６９４】
本実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が、第１の状態から第２の状態へ向けて移動される場合には第１の速度（本実施形態では、駆動モータＭ７２０が１５０［ｒｐｍ］で回転される際の速度）とされ、第２の状態から第１の状態へ向けて移動される場合

には第２の速度（本実施形態では、駆動モータＭ７２０が１００［ｒｐｍ］で回転される際の速度）とされるように、駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）は動作制御される。これにより移動装飾部Ｍ７７０の移動態様を画一化することができるので、例えば、稀に移動装飾部Ｍ７７０が超高速で移動するような場合と異なり、遊技者が移動装飾部Ｍ７７０を見失う事態を避けることができる。

【２５６９５】

移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との間の変位は、主案内開口Ｍ７１１及び補助案内開口Ｍ７１２に沿う直線方向の変位であり、第２スライド部Ｍ７５０の上面に形成されるギア歯に歯合される移動伝達ギアＭ７３４を介して第１スライド部Ｍ７３０と連動される。

【２５６９６】

ここで移動伝達ギアＭ７３４は、第１スライド部Ｍ７３０の移動に伴い固定伝達部Ｍ７４０に対して歯合回転されるので、第１スライド部Ｍ７３０の移動速度に対して移動伝達ギアＭ７３４に歯合される第２スライド部Ｍ７５０の移動速度が増速される。これにより、第２スライド部Ｍ７５０に締結固定される移動装飾部Ｍ７７０の移動速度も増速可能とされる。

【２５６９７】

移動伝達ギアＭ７３４は、伝達ギアＭ７２２と同形状で形成されるギア部材である。また、第２スライド部Ｍ７５０の上面に形成されるギア歯は、固定伝達部Ｍ７４０の下面に形成されるギア歯および第１スライド部Ｍ７３０の上面に形成されるギア歯と同形状で形成されている。

【２５６９８】

これにより、第１スライド部Ｍ７３０の移動速度に対する第２スライド部Ｍ７５０（及び移動装飾部Ｍ７７０）の増速の程度は、２倍となる。即ち、第２スライド部Ｍ７５０（及び移動装飾部Ｍ７７０）の変位量は、第１スライド部Ｍ７３０の変位量の２倍となる。

【２５６９９】

これにより、第１スライド部Ｍ７３０の移動量を抑えながら、第２スライド部Ｍ７５０の移動量を大きく確保することができる。本実施形態によれば、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態では、第１スライド部Ｍ７３０の左右方向位置を固定伝達部Ｍ７４０と同程度としながら第２スライド部Ｍ７５０を固定伝達部Ｍ７４０よりも左側に引き込んだ位置とする一方で、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態では、第１スライド部Ｍ７３０及び第２スライド部Ｍ７５０の左右位置を固定伝達部Ｍ７４０よりも右側に同程度張り出した位置とすることができる。即ち、移動装飾部Ｍ７７０は、所定の直線方向に平行移動することで退避した第１の状態と張出した第２の状態とで変位する張出物体として構成される。

【２５７００】

図２０３０（ａ）、図２０３０（ｂ）及び図２０３０（ｃ）は、導光板Ｍ２６０の正面図である。図２０３０（ａ）、図２０３０（ｂ）及び図２０３０（ｃ）では、光の導光態様が異なる場合が図示される。

【２５７０１】

図２０３０（ａ）に図示されるように、導光板Ｍ２６０は、上面側に第１電飾基板Ｍ２６１が配置され、右面側に第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３が配置される。第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３は、対向配置される導光板Ｍ２６０の各面に対して平行に延びる板状基板であって、導光板Ｍ２６０に対向する位置にＬＥＤ等の発光手段が等間隔に配置される。

【２５７０２】

第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段から照射される光は導光板Ｍ２６０の端部から導光板Ｍ２６０へ導光され、導光板Ｍ２６０面上に楔形状で凹設される凹設部で屈折されることで、凹設部により形成される形状が光により描かれる態様で遊技者に視認される。

【２５７０３】

第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段の点灯、消灯は、それぞれ独立して実行可能に制御される。例えば、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を全て消灯させている状態（図２０３０（ａ）参照）から、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を同時に点灯させ、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段については消灯したままの状態（図２０３０（ｂ）参照）としたり、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させ第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段については消灯したままの状態（図２０３０（ｃ）参照）としたりする制御が可能である。

【２５７０４】

第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３を任意のタイミングで個別に点灯、消灯させる制御は当然可能である。また、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３のうち任意の基板を組み合わせて同時に点灯、消灯させる制御が可能とされる。

【２５７０５】

また、第１電飾基板Ｍ２６１（第２電飾基板Ｍ２６２、第３電飾基板Ｍ２６３）に配置されるＬＥＤ等の発光手段は、全てを同時に点灯、消灯させる制御に限られず、一部のＬＥＤのみを点灯させるといった制御も可能とされる。

【２５７０６】

この場合において、例えば、第１電飾基板Ｍ２６１に配置されるＬＥＤ等の発光手段のうち、左側半分のみを点灯させる状態と、右側半分のみを点灯させる状態とを構成したり、それらを切り替えたりするように制御することが可能である。同様に、例えば、第１電飾基板Ｍ２６１に配置されるＬＥＤ等の発光手段のうち、左端のＬＥＤを点灯させた直後に、隣のＬＥＤを点灯させ、またその直後に更に隣のＬＥＤを点灯させ、といったふうに点灯させるＬＥＤを動的に変化させるように制御することが可能である。

【２５７０７】

図２０３０（ｂ）に図示されるように、本実施形態では、導光板Ｍ２６０が複雑な形状であって、第１電飾基板Ｍ２６１が導光板Ｍ２６０の上面全体を覆ってはいない態様であるにも関わらず、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることにより、導光板Ｍ２６０の全体で光により描かれる第１発光形状Ｍ２７１を視認させることができる。

【２５７０８】

第１発光形状Ｍ２７１は、動作ユニットＭ３００（図１９９４参照）で遊技者に視認されるいずれかの意匠と関係のある形状とされている。そのため、動作ユニットＭ３００における動作と、第１発光形状Ｍ２７１を視認させる第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３の制御とを対応付けることにより、一体的な演出として遊技者に視認させることができる。

【２５７０９】

第１発光形状Ｍ２７１が遊技者に視認される場合（第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段が点灯制御される場合）、導光板Ｍ２６０の全域が発光しているように視認させ、導光板Ｍ２６０を透過して後方を視認することを困難とすることができる。

【２５７１０】

図２０３０（ｃ）に図示されるように、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることにより、導光板Ｍ２６０の上端側のみで光により描かれる第２発光形状Ｍ２７２を視認させることができる。

【２５７１１】

第２発光形状Ｍ２７２は、第１発光形状Ｍ２７１とは異なり、動作ユニットＭ３００（図１９９４参照）で遊技者に視認されるいずれかの意匠に関わらず、遊技者が意味内容を

把握可能となる態様で形成される（本実施形態では、「大チャンス」の文字が形成される）。そのため、動作ユニットＭ３００における動作の実行の有無に関わらず、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることで遊技者の注目力を第２発光形状Ｍ２７２に集めることができ、特定の意味内容の報知を実行することができる。

【２５７１２】

第２発光形状Ｍ２７２を構成する位置で導光板Ｍ２６０面上に楔形状で凹設される凹設部は、第１電飾基板Ｍ２６１から照射される光は屈折させず、第２電飾基板Ｍ２６２から照射される光は屈折させる形状で形成される。

【２５７１３】

これにより、第１発光形状Ｍ２７１と第２発光形状Ｍ２７２とを、独立して遊技者に視認させることができる。また、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を全て点灯させれば、第１発光形状Ｍ２７１と第２発光形状Ｍ２７２とを同時に視認させることができる。

【２５７１４】

図２０３１、図２０３２及び図２０３３は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０３１、図２０３２及び図２０３３では、関連動作制御の一例（第１の関連動作制御）が時系列で図示される。第１の関連動作制御は、上述した第２の上下移動制御を含んで構成される。

【２５７１５】

図２０３１では、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態とされており、図２０３２では、被案内部Ｍ５５０が中間位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態とされており、図２０３３では、被案内部Ｍ５５０が中間位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が伸長状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされている。

【２５７１６】

第１の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１において、移動装飾部Ｍ７７０の意匠を補完する意匠であって移動装飾部Ｍ７７０の意匠と一体的に把握可能な連動意匠Ｍ７８１が表示され、移動装飾部Ｍ７７０が移動することに基づいて共に移動する態様で動的に表示される。即ち、移動装飾部Ｍ７７０が左側終端（第１の状態）から右側終端（第２の状態）まで移動する一連の動作に合わせて、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が更新（可変）される。

【２５７１７】

連動意匠Ｍ７８１は、移動装飾部Ｍ７７０に描かれる「人」に対応する胴体と、両腕と、その両腕に装着された「ボクシング用グローブ」と、を備えており、右腕は構え、左腕は正面側に延ばして突きを出している態様から構成される。

【２５７１８】

移動装飾部Ｍ７７０の移動が、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示面と平行な同一平面内でのスライド移動とされており、移動装飾部Ｍ７７０の移動前後で正面視における移動装飾部Ｍ７７０の形状が不変とされることから、第３図柄表示装置Ｍ８１で表示される連動意匠Ｍ７８１においても同じ形状を表示しておき移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて表示を変位させるように制御すれば移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とを一体的に視認させることが可能となるので、動作制御および表示の制御の難易度を低くすることができる。

【２５７１９】

図２０３１に図示される状態は、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態とされた状態（図２０２２参照）から、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ回転移動された状態に相当する。

【２５７２０】

図２０３１において、可動装飾ユニットＭ６００が第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と重なる位置にあるので、前後の位置関係の分、表示よりも、可動装飾ユニットＭ６００に遊技者の注目を集め易くすることができる（目立たせることができる）。

【２５７２１】

図２０３１及び図２０３２に図示されるように、被案内部Ｍ５５０の上昇移動は、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態になった後で実行される。これは、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態（図２０２２参照）や伸長状態（図２００３（ｂ）参照）の時に被案内部Ｍ５５０の上昇移動を行うと、その上昇移動に伴う板状本体部Ｍ５１０の姿勢変化の影響で可動装飾ユニットＭ６００の回転先端側がより下側へ張り出し、他の役物（昇降動作役物ユニットＭ８００、球案内ユニットＭ９００等、図１９９５参照）と衝突し得るためであり、その衝突を未然に防ぐためである。

【２５７２２】

図２０３１及び図２０３２に図示されるように、可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり方向への回転移動は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が停止している時に実行される。

【２５７２３】

図２０３２及び図２０３３に図示されるように、スライド動作ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動は、被案内部Ｍ５５０が中間位置で停止された後で実行される。このように制御される理由の一つは、移動中における移動装飾部Ｍ７７０の縁を演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０で覆うことで、その視認性を低下させることにある。

【２５７２４】

本実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との間の変位は、第１スライド部Ｍ７３０が駆動ギアＭ７２１に歯合される伝達ギアＭ７２２を介してスライド移動され、第２スライド部Ｍ７５０が上面に形成されるギア歯に歯合される移動伝達ギアＭ７３４を介して第１スライド部Ｍ７３０と連動されることにより生じるようになっており、介在されるギアがいくつもあるため、動作時におけるバックラッシを避けることが困難であり、駆動モータＭ７２０に実行される駆動制御と、移動装飾部Ｍ７７０の変位態様とにずれが生じ得る。更には、ギアを歯合回転させるために必要となる隙間が各歯合箇所に設けられるため、バックラッシの発生箇所もバラバラとなり得るため、連動意匠Ｍ７８１の動的表示を、駆動モータＭ７２０の駆動制御から想定される移動装飾部Ｍ７７０の変位に対応させたとしても、実際の移動装飾部Ｍ７７０の変位と連動意匠Ｍ７８１の動的表示との間でずれが生じ得る。

【２５７２５】

これに対し、スライド動作ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０と第３図柄表示装置Ｍ８１との境界領域が遊技者に視認され易くなることを避け、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とを分断して視認させることで、第１の関連動作制御において第３図柄表示装置Ｍ８１において移動装飾部Ｍ７７０の配置に合わせて連動意匠Ｍ７８１を表示させる場合において、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との間に多少の位置ずれが生じたとしても、遊技者に与える違和感を最小限に抑えることができる。

【２５７２６】

スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態（図２０３２参照）から第２の状態（図２０３３参照）に変化するまでの期間に、同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される。

【２５７２７】

即ち、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から移動開始すると同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動を開始し、移動装飾部Ｍ７７０及び可動装飾ユニットＭ６００は共に等速で移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達すると同時に可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態に到達する。

【２５７２８】

この可動装飾ユニットＭ６００の回転移動により遊技者の注目が可動装飾ユニットＭ６００に誘導されることにより、板状本体部Ｍ５１０の内側に形成される円弧状貫通部Ｍ５１５を通して第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が視認され得るよう構成されている場合であっても、遊技者が移動装飾部Ｍ７７０と表示との間の領域を視認する可能性を低くすることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０と表示との間に多少の位置ずれが生じたとしても、遊技者に与える違和感を最小限に抑えることができる。

【２５７２９】

図２０３２に図示される状態から図２０３３に図示される状態への可動装飾ユニットＭ６００の回転移動により、板状本体部Ｍ５１０の下側において視認される第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の面積が小さくされる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における動的表示を更に視認させにくい状態を構成可能となる。

【２５７３０】

このように、演出動作ユニットＭ５００において、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置される場合か、中間位置に配置される場合かに関わらず、可動装飾ユニットＭ６００が同様の最大動作幅で動作可能となるよう構成される。

【２５７３１】

ここで、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動と同時に実行されるので、移動装飾部Ｍ７７０の移動開始時には、板状本体部Ｍ５１０の下側において視認される第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の面積は十分大きくされているため、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１を遊技者に明確に視認させることができる。

【２５７３２】

スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動が開始されると、可動装飾ユニットＭ６００が回転移動を開始することで連動意匠Ｍ７８１が表示される面積が徐々に小さくされることになるが、移動装飾部Ｍ７７０が右下方向へ移動するのと共に同方向に一体的に移動を開始する連動意匠Ｍ７８１の移動開始時点においては連動意匠Ｍ７８１が表示される面積は小さくされていないので、移動開始時点における連動意匠Ｍ７８１を遊技者が視認し易く構成される。

【２５７３３】

そのため、遊技者に対して、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とが一体的に移動しているという印象を持たせることができ、連動意匠Ｍ７８１が見え難くなった後においても、移動装飾部Ｍ７７０を視認させることにより連動意匠Ｍ７８１の存在を遊技者に想像させ続けることができる。

【２５７３４】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００に隠されているにも関わらず、その隠されている部分については、遊技者に記憶を基に補完させるように図ることにより、演出動作ユニットＭ５００に連動意匠Ｍ７８１が分断されて表示範囲（表示の内容）の大きさが制限されることを回避することができる。

【２５７３５】

第１の関連動作制御では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態まで到達した後、第１の状態側に所定量（約２ｃｍ）戻された後で再び第２の状態まで到達する繰り返し往復動作が実行される。この繰り返し往復動作と同時に、第３図柄表示装置Ｍ８１では、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０と移動タイミング、移動速度、移動量および移動方向を同じとして平行移動されるように制御される。

【２５７３６】

これにより、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達した後においても、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とが一体的な意匠であるとの印象を遊技者に想起させることができ、板状本体部Ｍ５１０及び可動装飾ユニットＭ６００に隠されている箇所の裏側に表示されているだろう内容を遊技者が自ら補完し易くすることができる。

【２５７３７】

移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の繰り返し往復移動と同時に、可動装飾ユニットＭ６００の伸縮動作が実行される。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の意匠と、可動装飾ユニットＭ６００との関連性を遊技者に想起させ、広範囲での演出動作を遊技者に視認させることができる。

【２５７３８】

上述したように、第１の関連動作制御では、演出動作ユニットＭ５００の上昇動作開始前に可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態まで変位され（図２０３１参照）、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達した後で演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が上昇され（図２０３２参照）、その後で可動装飾ユニットＭ６００が最大動作幅（傾倒側終端状態、伸長状態）となるまで演出動作ユニットＭ５００に対して相対的に回転移動される（図２０３３参照）。

【２５７３９】

このように、被案内部Ｍ５５０が移動される際には可動装飾ユニットＭ６００の演出動作ユニットＭ５００に対する移動（相対移動）が停止され、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して移動（相対移動）する場合には被案内部Ｍ５５０が移動されずに停止されるように構成されており、互いの動作が独立している。

【２５７４０】

これにより、被案内部Ｍ５５０の移動中に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合（第２の上下移動制御等）と異なり、被案内部Ｍ５５０と可動装飾ユニットＭ６００とが、互いに、動作の影響を受けることを回避できる（反動や助走が生じないように構成できる）。

【２５７４１】

図２０３３に図示される状態からの第１の関連動作制御における復帰制御は、スライド動作役物ユニットＭ７００の動作に対応して複合動作役物ユニットＭ４００の動作タイミングが設定されている。

【２５７４２】

まず、第１の関連動作制御における復帰制御では、駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）の駆動と駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）の駆動とが同時に開始される。即ち、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動回転されることによる可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態へ向かう動作と、駆動モータＭ７２０が逆方向（正面視反時計回り）に駆動回転されることによるスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図２０３３参照）から第１の状態へ向かう動作とが同時に実行される。

【２５７４３】

詳細には、第１の関連動作制御における復帰制御では、開始時にまず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２００１参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。

【２５７４４】

また、第１の関連動作制御における復帰制御では、上述の制御と平行して、開始時にまず検出センサＭ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２（図２０２７参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）が逆方向（正面視反時計回り方向）に回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２が

進入していると判別されるまで（移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態となるまで）継続される。

【２５７４５】

次いで、第１の関連動作制御における復帰制御では、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２００１参照）が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【２５７４６】

また、第１の関連動作制御における復帰制御では、上述の制御と平行して、検出センサＭ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２（図２０２７参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態である場合には、駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【２５７４７】

次いで、上述のように駆動モータＭ５０１（図１９９８参照）及び駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）が停止された状態（検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入しており、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態）において、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別される。

【２５７４８】

検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態ではない場合には、昇降移動体Ｍ４４３が上昇方向に変位される方向（正方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が回転駆動され、その回転駆動は、検出センサＭ４８３の検出溝に、昇降移動体Ｍ４４３により上昇される被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入しているとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別されるまで（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されるまで）継続される。被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されると、被案内部Ｍ５５０は回転連動部Ｍ４６６に下支えされるため（図２０２０参照）、昇降移動体Ｍ４４３によらずとも被案内部Ｍ５５０は上昇端位置で維持される。

【２５７４９】

復帰制御では、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が進入している状態であるかが判別され、検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される。

【２５７５０】

この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２０１３（ｂ）参照）に配置されるまで）継続される。

【２５７５１】

次いで、復帰制御では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【２５７５２】

このように、第１の関連動作制御における復帰制御では、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態に到達したことが検出センサＭ７１３（図２０２９参照）により検出され、且つ、可

動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ向けて移動され、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達したことが検出センサＭ５１６により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動される。

【２５７５３】

第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１は、移動装飾部Ｍ７７０と一体的に移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態で停止することに伴い異なる表示に切り替えられる。

【２５７５４】

このような制御とすることで、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１を退避させる場合において、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１よりも前側に配置される演出動作ユニットＭ５００の可動装飾ユニットＭ６００についても同時に動作させることで注目させることができ、遊技者の視線（注目力）が退避する移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１のみに集中することを避けることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の動作にずれが生じた場合であっても、そのずれを遊技者が視認する可能性を低くすることができる。

【２５７５５】

図２０３４は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０３４では、手前側に導光板Ｍ２６０が配置され第１発光形状Ｍ２７１で発光されている様子が図示される。

【２５７５６】

導光板Ｍ２６０は、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の手前側において第１発光形状Ｍ２７１を視認させることが可能に構成される。第１発光形状Ｍ２７１は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０（図２０３３参照）の意匠に対応する形状とされている。

【２５７５７】

即ち、第１発光形状Ｍ２７１では、移動装飾部Ｍ７７０の胴体等が表示された連動意匠Ｍ７８１の備えるグローブが拡大された状態で描かれ、中央に「Ｋ．Ｏ．」の文字が表記され、中央部へ向けた直線が無数に描かれる。導光板Ｍ２６０が第１発光形状Ｍ２７１により全体が密に埋められているため、第１発光形状Ｍ２７１を介して光が視認されている状態では、導光板Ｍ２６０の背後の状態が見え難くなる。

【２５７５８】

第１発光形状Ｍ２７１を介する光を照射するのは、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図２０３０参照）である。第１の関連動作制御では、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３からの光照射が、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図２０３３参照）とされてから時間を空けて実行される。

【２５７５９】

これにより、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態へ向けた移動中や、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされるのと同時に第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図２０３０参照）からの光照射が実行される場合に比較して、スライド移動中や移動終了直後における移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の視認性を向上させ、遊技者が見逃すことを回避し易くすることができる。

【２５７６０】

なお、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３からの光照射が、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図２０３３参照）とされると同時に実行されるようにしても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態となるや否や第１発光形状Ｍ２７１に注目させることができるので、移動装飾部Ｍ７７０から遊技者の視線を早期に外すことができ、移動装飾部Ｍ７７０の復帰制御を実行させるタイミングを早めることができる。

【２５７６１】

第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図２０３０参照）からの光照射が実行された後は、第１発光形状Ｍ２７１で導光板Ｍ２６０が埋められることになり遊技者は移動装飾部Ｍ７７０（図２０３３参照）や第３図柄表示装置Ｍ８１を視認し難くなる。

【２５７６２】

第１の関連動作制御では、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図２０３０参照）からの光照射が実行されている状態において移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態から第１の状態へ向けてスライド移動され、このスライド移動と共に連動意匠Ｍ７８１が平行移動される。これにより、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界が多少ずれた場合であっても、そもそも視認が困難なので、遊技者に違和感を与えることを避けることができる。

【２５７６３】

＜顔がスライド移動しなかった場合のエラー制御＞

第１の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１（図２０３３参照）の平行移動が、移動装飾部Ｍ７７０を駆動させる駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）の駆動開始と連動するように実行される。

【２５７６４】

駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）の駆動開始後において、検出センサＭ７１３（図２０２７参照）により検出態様が切り替われば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）は駆動モータＭ７２０が正常に駆動されていると判断し、連動意匠Ｍ７８１の平行移動を継続させる。

【２５７６５】

一方で、駆動モータＭ７２０（図２０２７参照）の駆動開始後において、検出センサＭ７１３（図２０２７参照）により検出態様が切り替わらなかった場合、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）は駆動モータＭ７２０に動作不良が生じていると判断し、連動意匠Ｍ７８１の移動態様を変更することで対処するよう構成されている。

【２５７６６】

即ち、移動方向（傾斜角度）をより下向き側へ変化させ、連動意匠Ｍ７８１の上側に空いた領域に移動装飾部Ｍ７７０の意匠と同様の表示（立体的な移動装飾部Ｍ７７０を正面視での平面的な意匠で変換した表示）をさせるように制御される。これにより、駆動モータＭ７２０に動作不良が生じた場合であっても遊技者に与える違和感を少なくすることができる。

【２５７６７】

移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との関連動作は、これに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の移動方向と連動意匠Ｍ７８１の移動方向とを非平行とする場合を構成可能としても良いし、逆方向とする場合を構成可能としても良い。

【２５７６８】

また、基準となるタイミングからの移動装飾部Ｍ７７０の動作回数をカウントし、その動作回数に対応して連動意匠Ｍ７８１として表示される態様を切り替えるようにしても良い。例えば、胴体に数字が描かれ、それが「１」、「２」、「３」と順に増えていくように切り替えても良いし、連動意匠Ｍ７８１の衣服の装飾が徐々に豪華になっていく態様で切り替えても良い。

【２５７６９】

また、移動装飾部Ｍ７７０の動作は、第１の状態から第２の状態へ到達する動作に限定されるものではなく、第１の状態から第２の状態の手前まで行って、第１の状態に戻るような動作を構成することも可能である。この場合において、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０に常に追従するように構成しても良いし、連動意匠Ｍ７８１だけは移動範囲の端まで移動する（移動装飾部Ｍ７７０と分離される）ように表示されても良いし、これらを場合によって切り替えても良い。

【２５７７０】

図２０３５、図２０３６及び図２０３７は、昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図で

ある。図２０３５、図２０３６及び図２０３７では、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が、下端位置状態（図２０３５参照）から中間位置状態（図２０３６参照）を経て上端位置状態（図２０３７参照）へ向けて変化される様子が時系列で図示される。なお、図２０３５、図２０３６及び図２０３７では、理解を容易とするために前カバー部材Ｍ８０１（図１９９４参照）の図示が省略される。

【２５７７１】

図２０３５、図２０３６及び図２０３７に図示されるように、昇降動作役物ユニットＭ８００は、背面ケースＭ３１０（図１９９４参照）に締結固定されるＬ字形状のベース板Ｍ８１０と、そのベース板Ｍ８１０の左下端部において背面側に締結固定される駆動モータＭ８２０と、その駆動モータＭ８２０の駆動力が伝達されるように前カバー部材Ｍ８０１（図１９９４参照）に固定される金属棒部Ｍ８０２に回転可能に支持される扇形状ギアＭ８３０と、その扇形状ギアＭ８３０の回転移動に伴って回転移動されるようにベース板Ｍ８１０に支持される回転アーム部材Ｍ８４０と、その回転アーム部材Ｍ８４０に一端が支持され他端が前カバー部材Ｍ８０１（図１９９４参照）のバネ支持部Ｍ８０３に支持される弾性バネＭ８５０と、回転アーム部材Ｍ８４０の先端部が摺動可能に支持される昇降移動部材Ｍ８６０と、を主に備える。

【２５７７２】

ベース板Ｍ８１０は、左端部において上下方向に延びる姿勢で締結固定され昇降移動部材Ｍ８６０の移動を案内する金属棒部Ｍ８１１と、その下方において前方へ向けて円柱状に突設される支持突設部Ｍ８１２と、その支持突設部Ｍ８１２の右方において前方へ向けて延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ８１３と、右端部において上下方向に伸縮可能に配設される金属製の伸縮可能ガイドレールＭ８１４と、その伸縮可能ガイドレールＭ８１４側（右側）に検出溝を向けて配設され昇降移動部材Ｍ８６０の位置を検出可能に構成される検出センサＭ８１５と、を主に備える。

【２５７７３】

駆動モータＭ８２０は、駆動軸に固定される駆動ギアＭ８２１と、その駆動ギアＭ８２１に歯合されベース板Ｍ８１０の支持突設部Ｍ８１２に回転可能に支持される伝達ギアＭ８２２と、を主に備える。

【２５７７４】

駆動モータＭ８２０は、駆動力を回転移動に変換できるものであれば何でも良く、駆動モータＭ４４２、駆動ソレノイドＭ４８７又は駆動モータＭ７２０のように配置が固定されているものでも良く、駆動モータＭ５０１のように配置位置が変化し得るものでも良く、駆動モータＭ５０１のように駆動力を平行移動に変換できる伸縮装置でも良く、駆動力を回転移動にも平行移動にも変換できる伸縮回転装置でも良く、これらの組合せでも良い。

【２５７７５】

扇形状ギアＭ８３０は、円弧状に並んで形成されるギア歯が伝達ギアＭ８２２に歯合されると共に金属棒部Ｍ８０２に回転可能に支持されており、回転により変位する位置において金属棒部Ｍ８３１が回転軸と平行に後方へ突設される姿勢で配置される。

【２５７７６】

回転アーム部材Ｍ８４０は、金属棒部Ｍ８１３に回転可能に支持される本体部Ｍ８４１と、その本体部Ｍ８４１において金属棒部Ｍ８１３の中心を通る直線に沿う長孔状に穿設される連動長孔Ｍ８４２と、本体部Ｍ８４１の回転先端側において昇降移動部材Ｍ８６０が配置される後方側へ向けて延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ８４３と、金属棒部Ｍ８１３と金属棒部Ｍ８４３との間に配設され弾性バネＭ８５０の一端が支持されるバネ支持部Ｍ８４４と、を主に備える。

【２５７７７】

昇降移動部材Ｍ８６０は、移動先端側の装飾体が「チャンピオンベルト」の意匠を模した横長の形状から形成されており、金属棒部Ｍ８１１が挿通されることにより上下方向に移動可能に案内される案内部Ｍ８６１と、回転アーム部材Ｍ８４０の金属棒部Ｍ８４３が

挿通可能となるように左右方向に延びる長孔状に穿設される伝達長孔Ｍ８６２と、検出センサＭ８１５の検出溝に配置可能となるように下端部から延設される検出片Ｍ８６３と、内部に配設され正面側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を備える電飾基板Ｍ８６４と、を主に備える。

【２５７７８】

昇降移動部材Ｍ８６０の上端位置状態（図２０３７参照）又は下端位置状態（図２０３５参照）では、正面視において、金属棒部Ｍ８０２及び金属棒部Ｍ８３１を通る直線と、金属棒部Ｍ８３１及び金属棒部Ｍ８１３を通る直線とが直角に交差する。

【２５７７９】

これにより、昇降移動部材Ｍ８６０側から回転アーム部材Ｍ８４０に伝達される荷重が扇形状ギアＭ８３０の金属棒部Ｍ８３１から金属棒部Ｍ８０２（扇形状ギアＭ８３０の回転軸）に向けられることになり、扇形状ギアＭ８３０が回転することを防止でき、昇降移動部材Ｍ８６０が移動することを防止することができる。

【２５７８０】

一方、昇降移動部材Ｍ８６０の中間位置状態（図２０３６参照）では、金属棒部Ｍ８０２及び金属棒部Ｍ８３１を通る直線と、金属棒部Ｍ８３１及び金属棒部Ｍ８１３を通る直線とが一直線上に配置され、その直線上に連動長孔Ｍ８４２が配置される。

【２５７８１】

昇降移動部材Ｍ８６０の中間位置状態（図２０３６参照）では、下端位置状態（図２０３５参照）や上端位置状態（図２０３７参照）に比較して、扇形状ギアＭ８３０の小さな角度の回転を、同様に小さな角度の回転移動として回転アーム部材Ｍ８４０に伝達させ易い。そのため、昇降移動部材Ｍ８６０を小幅で上下往復移動させる場合には、中間位置状態（図２０３６参照）を基準として実行することで、応答性良く上下往復移動を実行させることができる。

【２５７８２】

本実施形態では、扇形状ギアＭ８３０の金属棒部Ｍ８３１が回転軸としての金属棒部Ｍ８０２と回転アーム部材Ｍ８４０の回転軸としての金属棒部Ｍ８１３との間に位置する。これにより、回転アーム部材Ｍ８４０の回転先端の移動量に必要な扇形状ギアＭ８３０の回転角度を低減させることができる。

【２５７８３】

図２０３７には、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置され可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態とされた場合（図２０２２参照）における可動装飾ユニットＭ６００の配置が最下端領域ＭＥ６００として想像線で図示される。

【２５７８４】

図２０３７に図示される通り、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００が正面視で視認される最下端領域ＭＥ６００と、上端位置状態における昇降移動部材Ｍ８６０が正面視で視認される領域とが重複されるように構成される。

【２５７８５】

従って、可動装飾ユニットＭ６００を到達させる位置に、昇降移動部材Ｍ８６０を到達させることが可能であるので、例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１において最下端領域ＭＥ６００に注目させるための表示を可能とし、その表示をした後で、その最下端領域ＭＥ６００に可動装飾ユニットＭ６００が到達する動作制御か、又は昇降移動部材Ｍ８６０が到達する動作制御かを、選択的に実行可能に構成することで、遊技者の注目力を最下端領域ＭＥ６００に集中させることができる。

【２５７８６】

更に、この場合において、可動装飾ユニットＭ６００が到達するか、昇降移動部材Ｍ８６０が到達するかによって、対応する抽選が大当たりである確率が異なる場合、遊技者の注目力を最下端領域ＭＥ６００に更に集中させることができる。

【２５７８７】

なお、関係する意匠を視認させる視認可能物体であって平行移動可能な昇降移動部材Ｍ

８６０は、非透過とされることで背面側を視認できなくするものに限られず、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるものでもよい。

【２５７８８】

また、関係する意匠を視認させる視認可能物体であって回転移動可能な可動装飾ユニットＭ６００は、非透過とされることで背面側を視認できなくするものに限られず、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるものでもよい。

【２５７８９】

＜制御＞

昇降動作役物ユニットＭ８００の動作は、例えば、第１の関連動作制御において制御される。即ち、第１の関連動作制御では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図２０３３参照）とされてから時間を空けて駆動モータＭ８２０が制御されることで昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態から上端位置状態へ向けて上昇移動される。

【２５７９０】

これにより、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態へ向けた移動中や、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされるのと同時に駆動モータＭ８２０が制御される場合に比較して、スライド移動中や移動終了直後における移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の視認性を向上させ、遊技者が見逃すことを回避し易くすることができる。

【２５７９１】

そして、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１をしっかり視認させた後において、第３図柄表示装置Ｍ８１の手前側において連動意匠Ｍ７８１を部分的に隠す位置に昇降移動部材Ｍ８６０を上昇させることで、遊技者の視線を連動意匠Ｍ７８１から昇降移動部材Ｍ８６０に誘導することができることから、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１が退避する時にまで注目させることを避けることができる。

【２５７９２】

本実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が「チャンピオンベルト」を模した意匠とされていることから、連動意匠Ｍ７８１におけるボクシング用グローブとの関連性を遊技者に想像させることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１に注目していた遊技者の視線を、昇降移動部材Ｍ８６０に自然に誘導することができる。

【２５７９３】

図２０３８は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の部分正面斜視図である。図２０３８では、導光板Ｍ２６０及び風車ＭＷＦの図示が省略され、球案内ユニットＭ９００の構造が視認可能とされる。球案内ユニットＭ９００は、センターフレームＭ８６（図１９９３参照）の開口部を通った遊技球を前後に蛇行させながら流下させる第１流路Ｍ９１０と、その第１流路Ｍ９１０の下流側において右方へ向けて下降傾斜され遊技球の流下方向を分岐させる分岐部Ｍ９２０と、その分岐部Ｍ９２０から右方に向けて延設される第２流路Ｍ９３０と、分岐部Ｍ９２０から前方へ向けて延設開始された後で２回屈曲される第３流路Ｍ９４０と、を主に備える。

【２５７９４】

また、球案内ユニットＭ９００は、第２流路Ｍ９３０又は第３流路Ｍ９４０を流下した遊技球を受け入れ可能な股構成部を有し固定の回転軸Ｍ９５１を中心に円周方向に係属回転可能に構成される６股の回転クルーンＭ９５０と、その回転クルーンＭ９５０の所定の股部に受け入れられた遊技球が流入可能とされ、流入した遊技球が第１入賞口Ｍ６４の真上位置から前方へ排出される流入排出経路Ｍ９６０と、分岐部Ｍ９２０における遊技球の流下方向を変化可能に動作される動作部Ｍ９７０と、を主に備える。

【２５７９５】

回転クルーンＭ９５０及び動作部Ｍ９７０は、電源投入から一定のパターンでの動作が継続されるよう制御される。即ち、回転クルーンＭ９５０は、一定の速度（本実施形態では６秒間で１回転する速度）で上面視時計回りに継続的に回転動作され、動作部Ｍ９７０は、実線で図示される状態と想像線で図示される状態とで１０秒毎に切り替えられる。

【２５７９６】
第２流路Ｍ９３０では、等間隔で突条Ｍ９３１が前後から突設されている。これにより、第２流路Ｍ９３０を流下する遊技球の流下速度が過大となることを避けることができるので、第２流路Ｍ９３０の終端から回転クルーンＭ９５０の後方に位置する股部へ向けた遊技球の落下を落ち着いた状況（遊技球の流下速度が小さい状況）で生じさせることができる。これにより、第２流路Ｍ９３０の終端で遊技球が逆流方向（左方向）に跳ね返ってしまい落下するまでの時間が長くなる不具合や、回転クルーンＭ９５０の股部から遊技球が跳ね飛ばされる不具合を回避し易くすることができる。
【２５７９７】
第３流路Ｍ９４０においても、上述の突条Ｍ９３１と同様に、等間隔で突条Ｍ９４１が突設されており、更に流入位置において遊技球を検出可能に構成される検出センサＭ９４２が配設される。
【２５７９８】
回転クルーンＭ９５０は、受け入れた遊技球を流入排出経路Ｍ９６０に流入させることができる２箇所の有利股部Ｍ９５２（図２０３８において回転軸Ｍ９５１の前方および後方に位置）と、受け入れた遊技球を流入排出経路Ｍ９６０に流入させないよう底面が閉じられている４箇所の不利股部Ｍ９５３と、を備える。
【２５７９９】
不利股部Ｍ９５３に到達した遊技球は、回転クルーンＭ９５０の回転に基づいて不利股部Ｍ９５３が回転軸Ｍ９５１の正面に到達した時に前方に流されてステージ前側上面Ｍ９０１を転動するか、又は回転クルーンＭ９５０の回転に基づいて不利股部Ｍ９５３が回転軸Ｍ９５１の左前側に到達した時に左前方に流されてステージ中側上面Ｍ９０２を転動して段差を落ちてステージ前側上面Ｍ９０１を転動して、前方（ベース板Ｍ６０の前方）へ流下される。
【２５８００】
動作部Ｍ９７０は、一方の端部を軸として回転可能に構成される羽状動作部Ｍ９７１と、第３流路Ｍ９４０の途中位置において前後方向にスライド移動可能に構成される板状動作部Ｍ９７２と、を主に備える。
【２５８０１】
羽状動作部Ｍ９７１は、第２流路Ｍ９３０側へ遊技球が流下可能とし第３流路Ｍ９４０側への遊技球の流下を防止する第１状態（図２０３８において実線で図示）と、第３流路Ｍ９４０側へ遊技球が流下可能とし第２流路Ｍ９３０側への遊技球の流下を防止する第２状態（図２０３８において想像線で図示）とで切り替えられる。
【２５８０２】
板状動作部Ｍ９７２は、羽状動作部Ｍ９７１と同期して状態が切り替えられる。即ち、羽状動作部Ｍ９７１が第１状態（図２０３８において実線で図示）の場合には、第３流路Ｍ９４０から退避して遊技球の流下を許容する第１状態（図２０３８において実線で図示）とされ、羽状動作部Ｍ９７１が第２状態（図２０３８において想像線で図示）の場合には、第３流路Ｍ９４０内に張り出して遊技球の流下をせき止める第２状態（図２０３８において想像線で図示）とされる。
【２５８０３】
板状動作部Ｍ９７２の配置は、検出センサＭ９４２を基準として設定される。即ち、本実施形態では、板状動作部Ｍ９７２が第２状態（図２０３８において想像線で図示）の場合において、板状動作部Ｍ９７２に複数個の遊技球が流下をせき止められる状況において、そのせき止められた４個目の遊技球が検出センサＭ９４２に検出される（継続的に検出される）ように、板状動作部Ｍ９７２に配置が設定される。
【２５８０４】
即ち、板状動作部Ｍ９７２が第２状態（図２０３８において想像線で図示）で維持される１０秒間において４個の遊技球が第３流路Ｍ９４０側に案内された場合、４個目の遊技球が検出センサＭ９４２に検出された状態が継続される。

【２５８０５】
＜報知＞
第３図柄表示装置Ｍ８１における表示制御において本実施形態が有する制御の一例（発射状況表示）について説明する。発射状況表示では、羽状動作部Ｍ９７１及び板状動作部Ｍ９７２が第１状態とされているか第２状態とされているかが把握可能とされており、第２状態とされている場合において検出センサＭ９４２で遊技球の検出がされた場合に、その検出が極短期間（例えば、１秒未満）であれば遊技球の流下であると判断し、検出が長期間（例えば、１秒以上）であれば遊技球の滞留であると判断する。
【２５８０６】
検出センサＭ９４２において長期間の検出がされた場合、板状動作部Ｍ９７２の上流側に４個の遊技球が滞留しており、板状動作部Ｍ９７２が第１状態（図２０３８において実線で図示）に切り替えられた場合、滞留していた４個の遊技球が一度に回転クルーンＭ９５０に案内され、それらの遊技球が第１入賞口Ｍ６４に入球し得る。
【２５８０７】
ここで、遊技球の個数（４個）は、第１特別図柄の変動を保留させる個数（保留個数、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａによる表示に対応）と関係して設定されている。即ち、本実施形態では、第１特別図柄の保留個数が４個であることを基に、検出センサＭ９４２までの滞留可能個数が４個となるように板状動作部Ｍ９７２の配置が設定されている。
【２５８０８】
４個の遊技球が一度に回転クルーンＭ９５０に案内される場合、この時点で第１特別図柄の保留個数が満タンになる可能性が有る。そのため、検出センサＭ９４２において長期間の検出がされた場合には、第３図柄表示装置Ｍ８１において、球案内ユニットＭ９００へ向けた遊技球の発射を停止するように促す表示がされるよう制御される。
【２５８０９】
一方、検出センサＭ９４２において長期間の検出がされていない場合（板状動作部Ｍ９７２の上流側に４個の遊技球が滞留していない場合）には、球案内ユニットＭ９００へ向けた遊技球の発射を促す表示を実行可能に制御される。即ち、球案内ユニットＭ９００における遊技球の流下状態の検出に基づいて、異なる報知を実行可能に制御される。
【２５８１０】
これらの報知が実行される第３図柄表示装置Ｍ８１は、球案内ユニットＭ９００を流下した遊技球が排出される流入排出経路Ｍ９６０よりも上側に配置されているので、遊技者が報知に気付き易くすることができる。
【２５８１１】
＜演出制御＞
図２０３９は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０３９に図示される状態は、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が、それぞれ第３図柄表示装置Ｍ８１と重なる位置には配置されず、退避している状態に相当する。図２０３９では、関連動作制御の一例（第２の関連動作制御）について説明する。
【２５８１２】
図２０３９では、複合動作役物ユニットＭ４００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされており、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態とされている。
【２５８１３】
第２の関連動作制御の開始時には、図２０３９に図示されるように、第３図柄表示装置Ｍ８１において、正面視で最下端領域ＭＥ６００（図２０３７参照）と重なる領域において到達領域表示Ｍ８１ａが表示される。到達領域表示Ｍ８１ａは、背景表示を透視可能な態様で背景表示の手前の層でされるものであって、可動装飾ユニットＭ６００の意匠と昇降移動部材Ｍ８６０の意匠とが交互に出現するような動的な表示として構成される。

【２５８１４】
第２の関連動作制御の開始後は、演出待機動作として、到達領域表示Ｍ８１ａの表示態様に合わせて、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作するよう制御される。
【２５８１５】
即ち、第２の関連動作制御の演出待機動作では、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００及び到達領域表示Ｍ８１ａに対する注目力を向上させることができる。
【２５８１６】
一方、第２の関連動作制御の演出待機動作では、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて昇降移動部材Ｍ８６０の意匠が表示されている期間において昇降移動部材Ｍ８６０が中間位置状態への上昇移動と下端位置状態への下降移動とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される。
【２５８１７】
到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間が終了されると、第２の関連動作制御は３通りに分岐する。即ち、可動装飾ユニットＭ６００が到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動し停止して演出実行後に復帰制御が実行されることで退避される第１演出動作、昇降移動部材Ｍ８６０が到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動し停止して演出実行後に退避（下端位置状態まで下降変位）される第２演出動作、又は可動装飾ユニットＭ６００も昇降移動部材Ｍ８６０も到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動せずに退避される第３演出動作のいずれかが実行される。
【２５８１８】
これにより、第２の関連動作制御において、到達領域表示Ｍ８１ａが表示される領域に対する注目力を、到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間が終了されるまで維持し続けることができる。
【２５８１９】
なお、第２の関連動作制御では、可動装飾ユニットＭ６００が退避された状態で昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動する場合を説明しているが、昇降移動部材Ｍ８６０の上昇移動は、これに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御において説明したように（図２０３２、図２０３３参照）、被案内部Ｍ５５０が中間位置に配置されている状態において昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動可能に構成される。
【２５８２０】
即ち、昇降移動部材Ｍ８６０と可動装飾ユニットＭ６００とが前後に位置ずれされていることから、正面視で重なる配置となっても衝突することはなく、傾倒側終端状態や伸長状態の可動装飾ユニットＭ６００の背後において昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動可能とされる。
【２５８２１】
換言すれば、最下端領域ＭＥ６００において、昇降移動部材Ｍ８６０と可動装飾ユニットＭ６００とを共に視認させることができる。この場合において、昇降移動部材Ｍ８６０の上流側に可動装飾ユニットＭ６００が配置される関係は維持されることから、遊技者に視認させる意匠の上下関係まで変化することは防止することができる。
【２５８２２】
図２０４０は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０４０では、複合動作役物ユニットＭ４００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされており、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態とされている。
【２５８２３】

第２の関連動作制御において、到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間中において、その到達領域表示Ｍ８１ａ（図２０３９参照）よりも前側の層で重なるように操作示唆表示Ｍ８１ｂを実行可能とされる。操作示唆表示Ｍ８１ｂは、「ボタンを押せ」との表示の下に、操作対象を分かり易くするためのボタン部Ｈ１８１（図１９８３参照）を表すイラストが表示され、そのイラストの下に操作可能期間をカウントダウンするバーが表示される。

【２５８２４】

操作可能期間のカウントダウンは、バーの網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に徐々に（一定速度で）近づくアニメーションとして表示され、網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に到達するタイミングが、操作示唆表示Ｍ８１ｂにおける操作可能期間の終期と一致するように制御される。

【２５８２５】

操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されているにも関わらず、遊技者がボタン部Ｈ１８１（図１９８３参照）を操作しなかった場合、網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に到達するタイミングで到達領域表示Ｍ８１ａ（図２０３９参照）の表示期間が終了し、そのタイミングで第２の関連動作制御における第１演出動作、第２演出動作または第３演出動作が実行される。

【２５８２６】

一方、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されている期間において遊技者がボタン部Ｈ１８１（図１９８３参照）を操作した場合、その操作が検出されたタイミングで到達領域表示Ｍ８１ａ（図２０３９参照）の表示期間が終了し、そのタイミングで第２の関連動作制御における第１演出動作、第２演出動作または第３演出動作が実行される。

【２５８２７】

可動装飾ユニットＭ６００の復帰制御は、第１の関連動作制御における復帰制御と同様であって、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態となっていることが検出センサＭ７１３（図２０２９参照）により検出されている状態であれば、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ向けて移動され、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達したことが検出センサＭ５１６（図２０３３参照）により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動され、上昇端位置に到達したことが検出センサＭ４８３（図２０２２参照）に検出されることで音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）に把握される。

【２５８２８】

このように、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されている期間に遊技者がボタン部Ｈ１８１（図１９８３参照）を操作したことに基づいて、第１演出動作が実行された場合に、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御された場合において、検出センサＭ５１６（図２０３３参照）及び検出センサＭ４８３（図２０２２参照）の検出結果から可動装飾ユニットＭ６００の復帰制御が終了したことを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）に把握させることができる。この復帰の検出までに、ボタン部Ｈ１８１の操作から少し時間が空けられる。

【２５８２９】

なお、遊技者は、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示される期間以外でもボタン部Ｈ１８１を押し込み操作することは可能であるが、本実施形態では、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示される期間以外の期間にボタン部Ｈ１８１が操作されたとしても、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に影響が与えられないように制御される（演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００がボタン部Ｈ１８１の操作と独立して制御される）。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を手当たり次第に操作した場合であっても、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に不具合が生じることを避けることができる。

【２５８３０】

なお、ボタン部Ｈ１８１は、遊技者が操作可能な操作物体であれば何でも良く、発光制御されても良く、発光制御されなくても良く、所定の直線方向で変位可能とされ押し込み

又は引き抜き操作がされるスライド操作物体でも良く、所定の回転軸を中心とした回転移動が可能とされ回転移動させる操作がされる回転移動物体でも良く、パチンコ機に配設されていても良く、操作によりパチンコ機に作用を与えるものであればパチンコ機とは離れた位置に配設されても良く、これらの組合せでも良い。

【２５８３１】

＜上書動作制御（検出結果で動作制御を上書）＞

第２の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１における到達領域表示Ｍ８１ａ（図２０３９参照）と重なる動作部材が有ることを前提として制御される。即ち、第１演出動作では可動装飾ユニットＭ６００により到達領域表示Ｍ８１ａが隠され、第２演出動作では昇降移動部材Ｍ８６０により到達領域表示Ｍ８１ａが隠されることを前提として設計されている。

【２５８３２】

一方で、経年劣化等により動作不良が生じる等、様々な理由によって、制御通りに可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作されない場合があり、この場合には隠される前提の到達領域表示Ｍ８１ａが遊技者に視認されることになり、みっともない場合がある。

【２５８３３】

これに対し、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の一方に動作不良が疑われた場合に、代わりに可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の他方を動作させることで到達領域表示Ｍ８１ａを隠すように実行される上書動作制御を備える。

【２５８３４】

第１の上書動作制御は、可動装飾ユニットＭ６００側に動作不良が疑われた場合に昇降移動部材Ｍ８６０を動作させる制御である。即ち、第２の関連動作制御において第１演出動作が実行されたにも関わらず、検出センサＭ４８３（図２０２２参照）の検出が２秒間切り替わらなかった場合に、被案内部Ｍ５５０が下降しない不具合が生じたと判断し、第１演出動作を第２演出動作に切り替えて実行するよう構成される。これにより、２秒のタイムラグは生じるものの、昇降移動部材Ｍ８６０によって到達領域表示Ｍ８１ａを隠すことができる。

【２５８３５】

第２の上書動作制御は、昇降移動部材Ｍ８６０側に動作不良が疑われた場合に可動装飾ユニットＭ６００を動作させる制御である。即ち、第２の関連動作制御において第２演出動作が実行されたにも関わらず、検出センサＭ８１５（図２０３５参照）の検出が２秒間切り替わらなかった場合に、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇しない不具合が生じたと判断し、第２演出動作を第１演出動作に切り替えて実行するよう構成される。これにより、２秒のタイムラグは生じるものの、可動装飾ユニットＭ６００によって到達領域表示Ｍ８１ａを隠すことができる。

【２５８３６】

本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、抽選にかかる変動ごとに割り当てられたタイミングで実行されるか、抽選の非実行時において、所定のタイミング（時間間隔、時刻等）で実行される。後者の場合において、例えば、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が第３図柄表示装置Ｍ８１の正面側に重なった状態で維持されてもよく、遊技者が着席して遊技を開始したことが検出されることにより第３図柄表示装置Ｍ８１の正面側から退避されるように制御しても良い。この場合、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０により隠されている箇所における表示の実行を省略することができるので、第３図柄表示装置Ｍ８１の処理負担を下げることができる（低電力モード）。

【２５８３７】

本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、大当たり中において実行されるように構成されても良い。例えば、ラウンド遊技の切り替えのタイミングに合

わせて動作制御が実行されることで、遊技者がラウンド遊技の切り替えのタイミングを把握し易くすることができる。この場合において、実際は「１０ラウンド」の大当たり遊技であるにもかかわらず第３図柄表示装置Ｍ８１においては「３ラウンド」の大当たり遊技であるように表示しておき、途中で「１０ラウンド」の大当たり遊技であることを報知する場合（所謂、昇格演出）、「３ラウンド」の終了時に動作制御が実行されることで、大当たり遊技が終了してしまうと思い込んでいた遊技者に対して、意外性と、「まだ大当たりが続く」という歓喜を付与することができる。

【２５８３８】

本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、一の抽選に係る変動中（又は大当たり中）において、複数の動作制御が実行される場合があっても良いし、一の動作制御が複数回実行される場合があっても良い。また、各動作制御の説明は、理解を容易とするためにまとまりよい範囲で説明したものであるので、例えば、各動作制御として説明した動作の一部だけが実行される場合があっても良い。

【２５８３９】

本実施形態（及び各実施形態）において説明した主制御装置Ｈ１１０と音声ランプ制御装置Ｈ１１３の機能は、一例であって、これに限られるものではない。例えば、主制御装置Ｈ１１０の機能の少なくとも一部を音声ランプ制御装置Ｈ１１３が備えるようにしても良いし、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の機能の少なくとも一部を主制御装置Ｈ１１０が備えるようにしても良い。

【２５８４０】

図２０４１から図２０４２を参照し、第１５８実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図２０４１は、第１５８実施形態における可動装飾ユニットＭ２６００の分解背面斜視図であり、図２０４２（ａ）及び図２０４２（ｂ）は、演出動作ユニットＭ２５００及び可動装飾ユニットＭ２６００の部分正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５８４１】

図２０４１に図示されるように、可動装飾ユニットＭ２６００は、上述した可動装飾ユニットＭ６００に対して、延設支持部Ｍ６１４（図２００１参照）が左側の円筒部のみから形成される延設支持部Ｍ２６１４に変更され、その延設支持部Ｍ２６１４の直径方向に穿設される開口を通って一端側の腕部が延びており他端側は延設支持部Ｍ２６１４に巻きつけられるねじりバネＭ２６１４ａと、延設支持部Ｍ２６１４に変位可能に支持される当接部材Ｍ２６０２と、を主に備える。

【２５８４２】

当接部材Ｍ２６０２は、樹脂材料から形成されており、内側開口Ｍ２６０２ａが長孔形状（外形が長円形状）で形成される筒状部材であって、長手方向に穿設される受入孔部Ｍ２６０２ｂと、長孔形状の左端部側を含む円柱形状領域と右端部側を含む長孔形状領域とで分けるように上下から突設される一対の突条部Ｍ２６０２ｃとを備え、開口方向視における外周の４隅が円弧で形成される。

【２５８４３】

一対の突条部Ｍ２６０２ｃ同士の間隔は、延設支持部Ｍ２６１４の直径未満とされ、且つねじりバネＭ２６１４ａを構成する金属線材の太さ以上とされる。従って、ねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部は一対の突条部Ｍ２６０２ｃ間を通過可能とされる一方で、延設支持部Ｍ２６１４は一対の突条部Ｍ２６０２ｃ間を通過することができない。

【２５８４４】

当接部材Ｍ２６０２は、内側開口Ｍ２６０２ａにおける突条部Ｍ２６０２ｃの左側の領域（円柱形状領域）に延設支持部Ｍ２６１４が挿通され、受入孔部Ｍ２６０２ｂにねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部が挿通される。

【２５８４５】

これにより、当接部材Ｍ２６０２は、延設支持部Ｍ２６１４を軸に回転移動可能な態様

で延設支持部Ｍ２６１４に支持されることになり、回転移動が生じても、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により、長手方向がねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部の延びる方向に合う姿勢に復帰される。

【２５８４６】

また、当接部材Ｍ２６０２が延設支持部Ｍ２６１４の延設方向（前後方向）の変位が生じたとしても、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により復帰される。そのため、本実施形態では、延設支持部Ｍ２６１４の先端側には脱落防止用のツバ付きのネジは非配設とし、当接部材Ｍ２６０２の延設支持部Ｍ２６１４に対する変位を許容している。

【２５８４７】

これにより、当接部材Ｍ２６０２と、扇形状構成部Ｍ２５６０との当接位置がばらつき得るように構成することができるので、扇形状構成部Ｍ２５６０に荷重がかけられることで生じる疲労の蓄積の程度を低減することができる。

【２５８４８】

図２０４２（ａ）及び図２０４２（ｂ）に図示されるように、扇形状構成部Ｍ２５６０は、上述した扇形状構成部Ｍ５６０（図１９９８参照）に対して、延設部Ｍ５６８が短くされ延設部Ｍ２５６８に変更されたことのみが異なる。

【２５８４９】

図２０４２（ａ）では、扇形状構成部Ｍ２５６０の延設部Ｍ２５６８の下側から当接部材Ｍ２６０２が上昇してきて当接した状態が図示されており、図２０４２（ｂ）では、延設部Ｍ２５６８の先端側と擦れる当接部材Ｍ２６０２に与えられる荷重による回転移動により当接部材Ｍ２６０２の姿勢が変化し、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜けようとする状態が図示される。

【２５８５０】

このように、延設部Ｍ２５６８に当接部材Ｍ２６０２が当接する前と、当接している最中とで、円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向における当接部材Ｍ２６０２の長さに対する円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向の長さが変化し得るよう構成されており、当接部材Ｍ２６０２は円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向に変位可能とされる。

【２５８５１】

なお、当接部材Ｍ２６０２は、円弧状貫通部Ｍ５１５に案内される被案内物体として可動装飾ユニットＭ２６００の一部として構成される物体であれば何でも良く、図２０４２（ａ）に図示される形状に限らず、外形は矩形状（非球体形状）でも、球体形状でもよい。

【２５８５２】

本実施形態では、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が大きい場合において、図２０４２（ｂ）のような状態となる。即ち、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が小さい場合には、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性力により姿勢維持される当接部材Ｍ２６０２を介する荷重により、可動装飾ユニットＭ２６００に対する当接部材Ｍ２６０２の姿勢が維持されたままで扇形状構成部Ｍ２５６０が上昇方向に回転移動される。

【２５８５３】

一方で、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が大きい場合には、当接部材Ｍ２６０２を介する荷重により扇形状構成部Ｍ２５６０が静止摩擦に打ち勝ち上昇方向に回転移動される前に（又は、回転移動の開始後に）、当接部材Ｍ２６０２の姿勢変化が生じ、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜け得る。これらは、上昇方向の移動に関わらず、下降方向の移動も同様である。

【２５８５４】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８に近い側の先端側で延設部Ｍ２５６８と擦れながら回転する態様で姿勢変化することになるが、当接部材Ｍ２６０２の４隅が円弧形状とされているので、当接部材Ｍ２６０２と延設部Ｍ２５６８との擦れによる延設部Ｍ２５６８側の損耗を抑制することができる。

【２５８５５】

この場合、延設部Ｍ２５６８から当接部材Ｍ２６０２にかけられる荷重の方向は、延設支持部Ｍ２６１４の周囲を回転する方向とされる。そのため、延設支持部Ｍ２６１４に対して軸直方向の荷重が生じる場合に比較して、延設支持部Ｍ２６１４の耐久性を向上させ易くすることができる。更に、延設部Ｍ２５６８と当接部材Ｍ２６０２とが当接したとしても、当接部材Ｍ２６０２の姿勢変化が生じれば延設部Ｍ２５６８にかけられる荷重が低減されるので、延設部Ｍ２５６８の耐久性を向上させることができる。

【２５８５６】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜ける場合には、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側に対して面で当接する（図２０４２（ｂ）参照）。そのため、当接部材Ｍ２６０２及び延設部Ｍ２５６８とで相互に生じる荷重が一点に生じる場合（例えば、当接部材Ｍ２６０２の外形が真円形状とされる場合）に比較して、荷重を分散させることができるので、当接部材Ｍ２６０２及び延設部Ｍ２５６８の疲労の蓄積を回避し易く、破損を防止し易く、耐久性を向上させ易くすることができる。

【２５８５７】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜ける場合には、扇形状構成部Ｍ２５６０が停止される場合に限らず、当接部材Ｍ２６０２の動作速度によっては当接部材Ｍ２６０２が通り抜ける際に扇形状構成部Ｍ２５６０が動かされる（当接部材Ｍ２６０２が動作する扇形状構成部Ｍ２５６０を追い越す）挙動も生じ得る。

【２５８５８】

この場合、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８から離れた時には扇形状構成部Ｍ２５６０の姿勢が中途半端な位置で維持されることになるが、その後、円板付きギアＭ５８４の回転により円弧形成部Ｍ５８４ａが突条部Ｍ５６３を介して扇形状構成部Ｍ５６０を押し下げる。

【２５８５９】

当接部材Ｍ２６０２の動作速度は、柱状部Ｍ５８２ａに荷重付与部Ｍ６０４が持ち上げられることから多くの場合においてピン付きギアＭ５８２の回転速度に一対一で対応するが、ピン付きギアＭ５８２の回転態様によっては、非対応となる。

【２５８６０】

例えば、ピン付きギアＭ５８２が極端に高速で回転動作された場合（例えば、駆動モータＭ５０１の回転が６００［ｍｓｅｃ］で生じた場合）、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４との衝突により可動装飾ユニットＭ２６００が跳ね上げられ得る（柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが離間する）し、柱状部Ｍ５８２ａにより荷重付与部Ｍ６０４を途中位置まで持ち上げた後でピン付きギアＭ５０１の回転方向を反転させて極端に高速で回転させると、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢変化を置き去りにして柱状部Ｍ５８２ａが回転移動し得る（柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが離間する）。

【２５８６１】

特に、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４との衝突により可動装飾ユニットＭ２６００が跳ね上げられる場合、例えば、ピン付きギアＭ５８２の姿勢が可動装飾ユニットＭ２６００の中間状態に対応している場合（図２０４２（ａ）参照）において、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢が中間状態の姿勢よりも起き上がり終端状態の姿勢（図２０４２（ｂ）参照）側に変化され得る。

【２５８６２】

この場合において、ピン付きギアＭ５８２と円板付きギアＭ５８４とはギアの歯合により位相関係が一対一で対応しているので、扇形状構成部Ｍ２５６０の上方への回転動作は、突条部Ｍ５６３が円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａと当接することにより抑制される。そのため、当接部材Ｍ２６０２との当接により扇形状構成部Ｍ２５６０が上方へ回転動作することを抑制することができ、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜け、当接部材Ｍ２６０２が扇形状構成部Ｍ２５６０から離間する態様で上方へ移動する状況を構成し易くすることができる。

【２５８６３】

なお、扇形状構成部Ｍ２５６０について、静止摩擦で姿勢を維持する構成ではなく、追加の錘が付けられることで自重により動作範囲の下側終端（図２０４２（ａ）参照）に付勢されるようにしても良い。この場合、円板付きギアＭ８８４の回転によらずとも扇形状構成部Ｍ２５６０の姿勢を下げることができる。この場合において、錘の位置は、延設部Ｍ２５６８に位置しても良いし、延設部Ｍ２５６８と中心軸線ＭＪ１との間に位置しても良いし、中心軸線ＭＪ１に対して延設部Ｍ２５６８の反対側に位置しても良い。

【２５８６４】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を上方に通り抜けた場合、再度当接部材Ｍ２６０２が下降する方向で移動すると延設部Ｍ２５６８と当接し得る。ここで、当接部材Ｍ２６０２がゆっくりと下降される場合、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により可動装飾ユニットＭ２６００に対する当接部材Ｍ２６０２の姿勢が維持されることから、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢を当接部Ｍ２６０２が、突設補助部Ｍ５４５にそれ以上の下降変位を規制された場合における扇形状構成部Ｍ２５６０の延設部Ｍ２５６８の上面に当接した状態（起き上がり側終端状態と中間状態との間の状態）で維持することができる。これにより、可動装飾ユニットＭ２６００で姿勢を容易に停止させられる状態（下降動作からの姿勢維持が容易となる状態）を増やすことができることから、可動装飾ユニットＭ２６００に注目させる位置を増やすことができ、可動装飾ユニットＭ２６００による演出効果を向上させることができる。

【２５８６５】

一方、第２の上下移動制御における第２動作のように高速で可動装飾ユニットＭ２６００を下降動作させる場合には、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力に抗して当接部材Ｍ２６０２の姿勢が変化され、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を下方向へ通り抜け得る。

【２５８６６】

図２０４３から図２０４４を参照し、第１５９実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第１５７実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が実際に表示できる領域全体におよぶ表示（通常表示）とされる場合を説明したが、第１５９実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から切り替え可能とされる。

【２５８６７】

図２０４３は、第１５９実施形態における正面枠Ｈ３０１４の分解正面斜視図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。正面枠Ｈ３０１４では、上述した正面枠Ｈ１４（図１９９０参照）との比較において、上下皿ユニットＨ１５における度数表示部Ｈ４１の右隣位置に、遊技者が操作可能に構成される調整ボタンＨ３０４４が配設されていることが異なる。

【２５８６８】

調整ボタンＨ３０４４は、抽選に係る変動表示に合わせて操作タイミングを報知されるボタン部Ｈ１８１とは異なり、任意のタイミングで操作が可能とされる。そのため、抽選に係る変動表示とは独立したタイミングで、遊技者に注目させるための制御が実行可能とされる。

【２５８６９】

例えば、抽選に係る変動表示がされていない状況において調整ボタンＨ３０４４の内部に配置されるＬＥＤを発光制御して調整ボタンＨ３０４４自体を明るく照らしたり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３におけるＬＥＤを特定の発光態様（例えば、ＬＥＤを順に点灯させて光が調整ボタンＨ３０４４に徐々に近づく等の態様）で発光させたりすることで、操作有効状態であることを示唆し、調整ボタンＨ３０４４への操作を促すようにする制御が可能とされる。

【２５８７０】

調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態である場合には上述のような発光をさせるように制御され、調整ボタンＨ３０４４が操作無効状態である場合には、上述の発光を止めるよ

う制御される。例えば、上述した第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行される場合には、演出の都合上、調整を不可能とするように制御されるため、調整ボタンＨ３０４４が操作無効状態とされる。

【２５８７１】

図２０４４は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ３４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０４４では、遊技者により調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）が操作された後の状態が図示される。

【２５８７２】

図２０４４に図示されるように、調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、被案内部Ｍ５５０が中間位置まで下降し、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態まで回転移動するように制御されると共に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示の大きさが、実際の表示領域よりも小さい調整領域Ｍ３０８１ａに変化する。

【２５８７３】

調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が通常表示であった場合に、調整表示に切り替えられる。調整表示では、調整ボタンＨ３０４４の操作前における表示（通常表示）が調整領域Ｍ３０８１ａの上下幅に収まる程度に上下方向および左右方向が等比となるように縮小された表示が調整領域Ｍ３０８１ａの左右中央に配置され、調整領域Ｍ３０８１ａの左端位置には、調整ボタンＨ３０４４の操作後であることが容易に把握できるように「調整中」の文字が表示される（明るく表示される）。

【２５８７４】

このように、調整表示によれば、表示自体が小さくされる一方で、表示位置が第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に寄せられる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に配置される第１入賞口Ｍ６４（図１９９３参照）に注目しながら、その視界の端で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示を視認するという遊技態様（第３図柄表示装置Ｍ８１の全域はそもそも視認していない態様）においても、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示内容を見逃す可能性を低くすることができる。

【２５８７５】

なお、調整ボタンＨ３０４４は、第３図柄表示装置における表示の調整が可能であれば何でも良く、他の機能が制限されるものではないので、例えば、ボタン部Ｈ１８１のように抽選に係る変動表示に合わせて操作タイミングを報知されるものでも良く、抽選に係る変動表示とは無関係に操作が報知されるものでも良く、抽選に係る変動表示が実行中において操作が出来なくなるものでも良く、抽選に係る変動表示が実行中であっても操作可能であっても良く、機能調整操作部Ｈ１９０のように遊技に関わる音声や光量の調整が可能であっても良く、操作しても遊技に関わる調整は実行されない非調整部でも良く、球貸しボタンＨ４２のように操作により遊技球が払い出されるものでも良く、操作によって遊技球が払い出されるものではなくても良く、これらの組合せでも良い。

【２５８７６】

図２０４４に図示される状態から、調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）が再び操作されると、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は復帰制御により退避され、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出センサＭ４８３に検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が縮小された表示（調整表示）から元の表示（通常表示）に戻され、「調整中」の文字の表示が消される（暗く表示される）。即ち、調整ボタンＨ３０４４を繰り返し操作することで、表示態様を切り替えることができる。

【２５８７７】

即ち、調整ボタンＨ３０４４の操作前においては、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されていることが検出センサＭ４８３により検出される。一方で、複合動作役物ユニッ

トＭ３４００では、調整ボタンＨ３０４４の操作後において中間位置に配置された被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）を検出可能な検出センサＭ３４８９が配設される。

【２５８７８】

従って、何らの駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）も実行されていないのに、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出された場合には、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）は調整ボタンＨ３０４４が操作されたと判断し、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から調整表示に切り替えるように制御される。

【２５８７９】

または、何らかの駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）が実行されているか否かに関わらず、各駆動制御において被案内部Ｍ５５０が中間位置に配置される期間の最大長さを超える時間長さで検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出された場合には、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１９９２参照）は調整ボタンＨ３０４４が操作されたと判断し、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から調整表示に切り替えるように制御される。

【２５８８０】

このように制御されるので、上述した各駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）の実行中に検出センサＭ３４８９に検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出されたとしても、その検出（上述した各駆動制御において被案内部Ｍ５５０が中間位置に配置される期間の最大長さを超えない時間長さの検出）により即座に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が通常表示から調整表示へ切り替えられることを回避でき、各駆動制御中の第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を、検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出センサＭ４８３に検出されることに基づく通常表示で維持することができることから、一体感のある演出を実行することができる。

【２５８８１】

また、このように制御することで、上述した各駆動制御において被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４を検出し得る位置に検出センサＭ３４８９を配置しても、検出センサＭ３４８９による検出が、各駆動制御の実行中における視認態様に影響を与えないようにすることができる。

【２５８８２】

なお、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入可能に構成される被通過進入物体である検出センサＭ３４８９は、検出片Ｍ５５４を移動範囲の途中において検出するものに限られるものではなく、検出片Ｍ５５４を移動範囲の終端において検出するものでも良い。

【２５８８３】

調整ボタンＨ３０４４の操作に基づく変化は、第３図柄表示装置Ｍ８１において生じるようにされるだけでも良いが、それ以外の報知がされても良い。例えば、通常表示である場合に調整ボタンＨ３０４４が押されることに基づいて、音声出力装置Ｈ２２６（図１９９２参照）から「調整ボタンが押されました」等の報知が実行されても良い。この場合、遊技者は調整ボタンＨ３０４４を操作したことを確認できるので、操作できているか分からずに何度も押し込み操作するという事態を避けることができる。また、この報知が実行されている間に調整ボタンＨ３０４４を再操作する場合に、報知を停止する（キャンセルする）ように制御することで、調整ボタンＨ３０４４を誤操作により操作した場合に、報知だけが継続されるという事態を避けることができる。

【２５８８４】

また、例えば、調整ボタンＨ３０４４自体が裏側に配置されるＬＥＤからの光で発光されるよう構成される前提において、通常表示である場合に調整ボタンＨ３０４４が押される（押し込まれる、又は長押しされる）ことに基づいて、発光のベースが白色から橙色に変更されるようにしても良い。この場合、調整ボタンＨ３０４４を視認すれば、遊技者は調整ボタンＨ３０４４を操作したことを確認できるので、操作できているか分からずに何

度も押し込み操作するという事態を避けることができる。また、この報知が実行されている間に調整ボタンＨ３０４４を再操作すると、発光のベースが橙色から白色に戻るように制御することで、調整ボタンＨ３０４４を誤操作により操作したとしても、再操作すれば調整ボタンＨ３０４４の視認態様が橙色のまま維持される事態を避けることができる。この報知態様によれば、上述のように音声の報知で実行される場合に比較して、抽選に係る変動表示と連動して出力される音声と重なって聞こえ難くなる事態が生じることを回避することができる。

【２５８８５】

可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の発光色は、第３図柄表示装置Ｍ８１で通常表示を表示するよう制御されている場合にはベースが白色の発光態様とされる一方で、第３図柄表示装置Ｍ８１で調整表示を表示するよう制御されている場合にはベースが橙色の発光態様とされる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示の調整の有無について遊技者に把握させ易くすることができる。

【２５８８６】

あくまで、調整表示は通常表示に対応する表示態様を縮小したものとなる。そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１で調整表示を表示するよう制御されている場合に可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の発光のベースが橙色の発光態様とされるとしても、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示色のベースは橙色とはならず、通常表示と同様の色味で表示される。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を違和感なく視認させることができる。

【２５８８７】

可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の発光色の切替は、事前の調整では変わらないよう制御される。通常表示においては、正面枠Ｈ３０１４（図２０４３参照）の機能調整操作部Ｈ１９０を操作することにより電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の明るさを遊技者が任意に変更可能とされるが、この調整はあくまで通常表示における調整であって、これを調整表示において流用できるとは限らないためである。

【２５８８８】

本実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示とされる場合、表示の大きさが縮小され迫力に欠ける可能性があるので、電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の発光の明るさが最大で固定される。これにより、調整表示となって表示が縮小されることで第３図柄表示装置Ｍ８１から受けとる光の量が少なくなったとしても、電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）からの光の量を増やすことにより、遊技者が視認する光の総量が低下することを回避することができる。

【２５８８９】

第３図柄表示装置Ｍ８１における通常表示と調整表示との切替は、調整ボタンＨ３０４４の操作自体の検出ではなく、検出センサの検出結果を把握することにより実行される。ここで、調整ボタンＨ３０４４の操作実行から、検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）による検出の切替が生じるまでに当然タイムラグがある。

【２５８９０】

そのため、調整ボタンＨ３０４４を誤操作した場合であっても、すぐに再操作すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が変化することを避けることができるので、誤操作であっても表示が即座に切り替えられる場合に比較して、調整ボタンＨ３０４４の操作に対するストレスを低減することができる。

【２５８９１】

上述した第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行開始される場合には、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられるよう制御される。

【２５８９２】

即ち、第１の関連動作制御等の制御が開始される前に予め検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出される位置に被案内部Ｍ５５０が配置されてい

るか否か（即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示となっているか否か）が判断され、被案内部Ｍ５５０が配置されていると判断された場合、第１の関連動作制御等の制御が開始される前に、複合動作役物ユニットＭ３４００に復帰制御が実行される。復帰制御の実行後、検出センサＭ４８３で検出片Ｍ５５４が検出されたことに基づいて、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が調整表示から通常表示に切り替えられる。これにより、第１の関連動作制御等により動作される複合動作役物ユニットＭ３４００と第３図柄表示装置Ｍ８１における表示とを一体的に視認させることができる。

【２５８９３】

そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１において調整表示がされている時に第１の関連動作制御等の制御が開始される場合、その開始と同時期に可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２０００参照）の発光色が、ベースが橙色の発光態様からベースが白色の発光態様に切り替えられる。

【２５８９４】

この第１の関連動作制御等の制御が終了した後は、通常表示が維持される。即ち、第１の関連動作制御等の制御が終了した後において調整表示での遊技を遊技者が望む場合には、改めて調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）を操作すればよい。

【２５８９５】

遊技者が常に調整表示での遊技を望む場合には、第１の関連動作制御等の制御が実行される度に調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）を操作する必要があり、手間に感じる可能性はあるが、通常表示への変更が時間経過で生じるものでは無いので、比較的負担は少ない。

【２５８９６】

例えば、調整表示から通常表示への変更が３０秒毎にされる場合、遊技者は３０秒毎に調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）を操作する必要があり、大変な手間である。一方、第１の関連動作制御等の制御は、第３図柄の変動表示と共に毎回実行されるものではなく、変動表示のうちの一部の変動表示において実行されるものである。そのため、遊技者が調整ボタンＨ３０４４を操作する機会が多くなることを避けることができ、調整表示での遊技を望む遊技者の遊技負担を低減することができる。

【２５８９７】

第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示となっている場合において、第１の関連動作制御等の制御が開始される場合に、複合動作役物ユニットＭ３４００に強制的に復帰制御が実行される制御態様に代替して（又は追加して）、復帰制御させるか否かを遊技者に選択させる制御を構成可能としても良い。

【２５８９８】

即ち、第１の関連動作制御等の制御が開始される前段階において、第３図柄表示装置Ｍ８１で「演出確認を望む場合はボタンを押せ」との表示の下に操作示唆表示Ｍ８１ｂ（図２０４０参照）がされ、バーの網掛け部Ｍ８１ｃにより報知される操作可能期間の内に遊技者がボタン部Ｈ１８１（図２０４３参照）を操作したことが音声ランプ制御装置Ｈ１１３で把握された場合に、複合動作役物ユニットＭ３４００に復帰制御が実行されるように構成しても良い。この場合、遊技者に対して、実行される演出を支配している感覚を付与することができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２５８９９】

遊技者の選択のもと、報知に従いボタン部Ｈ１８１を操作した場合には表示は通常表示に戻され、通常表示のもとで第１の関連動作制御等の制御が実行される。一方で、遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作しなければ第３図柄表示装置Ｍ８１の表示は調整表示で維持されることから、第１の関連動作制御が終了した後に再度調整表示に戻すために調整ボタンＨ３０４４を操作するという煩わしさから遊技者を解放することができる。

【２５９００】

なお、遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作せず調整表示で維持された場合における調整領域Ｍ３０８１ａにおける表示の内容は、種々の態様が例示される。例えば、第１の関連動

作制御等の制御によって動作が実行されるべき複合動作役物ユニットＭ３４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が縮小されたサイズで調整領域Ｍ３０８１ａにおいて表示され、第１の関連動作制御等の制御による動作と同様の動作態様で動作するように動的に表示しても良い。即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示を縮小させた状態で視認させるだけではなく、表示の前方や周囲に配置される構成も含めて縮小させた状態で視認できるように構成しても良い。この場合、表示は調整表示のサイズで維持しながら、第１の関連動作制御等の制御と同様の動作により構築される演出を調整領域Ｍ３０８１ａにおける表示により視認させることができる。

【２５９０１】

遊技者が通常表示での遊技を望む場合、敢えて調整ボタンＨ３０４４（図２０４３参照）を操作するモチベーションが無く、調整ボタンＨ３０４４の存在が無駄になる可能性が有る。これに対し、本実施形態では、調整表示とされている場合（検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図１９９９参照）が検出されている場合）に限り導光板Ｍ２６０で第２発光形状Ｍ２７２（図２０３０（ｃ）参照）が発光され得るよう制御される。

【２５９０２】

この第２発光形状Ｍ２７２（図２０３０（ｃ）参照）の発光は、抽選に関して取得された乱数に応じて実行の有無が選択されるものであって、抽選に係る入賞の検出と同時に実行される。本実施形態では、抽選が大当たりである場合に発光される。

【２５９０３】

そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される変動を待つことなく大当たりとなったことが把握できることから、通常表示での遊技を望む遊技者に対しても、調整ボタンＨ３０４４を操作するモチベーションを与えることができる。

【２５９０４】

導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２（図２０３０（ｃ）参照）による報知は、第２発光形状Ｍ２７２（図２０３０（ｃ）参照）の配置が固定されており、且つ、第３図柄表示装置Ｍ８１の前側に配置される層状部における表示であるため、遊技者に気付かせ易くすることができる。

【２５９０５】

図２０４５から図２０４８を参照し、第１６０実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第１５７実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転が３６０度未満の回転角度に限定される場合を説明したが、第１６０実施形態では、３６０度以上の回転角度での回転が可能とされる。

【２５９０６】

図２０４５は、第１６０実施形態における可動装飾ユニットＭ３６００の分解背面斜視図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。可動装飾ユニットＭ３６００では、上述した可動装飾ユニットＭ６００（図２００１参照）との比較において、リンク部材Ｍ６６０の形状が部分的に変更されたリンク部材Ｍ３６６０が構成されており、荷重付与部Ｍ６０４が前後方向に平行移動可能に支持される変位部材Ｍ３６９０に形成されることが異なる。

【２５９０７】

図２０４５に図示されるように、変位部材Ｍ３６９０は、下縁部に荷重付与部Ｍ６０４が形成されており、板状本体部Ｍ３６１０に形成される案内対向面Ｍ３６０７に左右両側を案内される状態で前後方向への平行移動が可能に支持される。

【２５９０８】

板状本体部Ｍ３６９０は、荷重付与部Ｍ６０４の右下端部において形成されるテーパ面Ｍ３６９１と、上端側において後方に板バネ式の被検出部が張り出す検出センサＭ３６９３と、電飾基板Ｍ６３０との間に配置されるコイルスプリングＭ３６９５と、を備える。

【２５９０９】

テーパ面Ｍ３６９１は、下方へ向かう程に前方へ向かう傾斜として形成されており、下

方から荷重を受けた場合に、板状本体部Ｍ３６９０を前方側へ逃がす（退避させる）ように構成される。板状本体部Ｍ３６９０の前方側への変位は、荷重付与部Ｍ６０４が板状本体部Ｍ３６１０の板部後側面よりも埋没する位置まで可能とされている。板状本体部Ｍ３６９０を前方へ変位させる荷重が取り去られるとコイルスプリングＭ３６９５の弾性力により板状本体部Ｍ３６９０が後方側へ変位され、荷重付与部Ｍ６０４が板状本体部Ｍ３６１０の板部後側面よりも後方へ張り出す。

【２５９１０】

検出センサＭ３６９３は、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡と重なる位置に配設される。具体的には、柱状部Ｍ５８２ａからの荷重により板状本体部Ｍ３６９０が前方側へ退避された後もピン付きギアＭ５８２が同方向に回転された場合に柱状部Ｍ５８２ａを検出センサＭ３６９３が検出可能に構成されているが、詳細は後述する。

【２５９１１】

図２０４６（ａ）、図２０４６（ｂ）、図２０４７（ａ）及び図２０４７（ｂ）は、可動装飾ユニットＭ３６００の部分正面図である。図２０４６（ａ）、図２０４６（ｂ）、図２０４７（ａ）及び図２０４７（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作に基づいて可動装飾ユニットＭ３６００が動作される様子が時系列で図示される。

【２５９１２】

図２０４６（ａ）、図２０４６（ｂ）、図２０４７（ａ）及び図２０４７（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ３６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ３６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【２５９１３】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ３６００は、図２０４６（ａ）では、傾倒側終端状態が図示され、図２０４６（ｂ）では、伸長状態が図示され、図２０４７（ａ）では、伸長状態から更に後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される超伸長状態が図示され、図２０４７（ｂ）では、傾倒側終端状態が図示される。

【２５９１４】

リンク部材Ｍ３６６０は、突設支持部Ｍ６１７に回転移動可能に支持される長尺板状に形成される板状本体部Ｍ６６１と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状に突設され後側スライド移動体Ｍ６５０の伝達開口部Ｍ６５３に挿通される伝達突設部Ｍ６６２と、板状本体部Ｍ６６１の他方の端部において板状に形成されており正面視反時計回り方向にピン付きギアＭ５８２が回転される場合に柱状部Ｍ５８２ａに押進される被押進面を有する被押進板部Ｍ３６６３と、その被押進板部Ｍ３６６３に対向配置される対向突部Ｍ３６６４と、を主に備える。

【２５９１５】

被押進板部Ｍ３６６３は、柱状部Ｍ５８２ａに押進されることでリンク部材Ｍ３６６０の回転動作が生じる部分として構成されている。被押進板部Ｍ３６６３は、対向突部Ｍ３６６４よりも長く形成されており、柱状部Ｍ５８２ａとの接触位置が動作中に変化する。即ち、押進開始時には被押進板部Ｍ３６６３の中腹辺り（途中部）に接触するが（図２０４６（ａ）参照）、ピン付きギアＭ５８２が回転するにつれて接触位置が変化し、最終的には先端側に移る（図２０４７（ａ）参照）。これにより、ピン付きギアＭ５８２から被押進板部Ｍ３６６３に付与される荷重の集中位置をずらすことで、部材の疲労の集中を避けることができる。

【２５９１６】

なお、被押進板部Ｍ３６６３は、伝達爪部Ｍ６６３（図２００１参照）よりも長くされることに起因して、正面視において荷重付与部Ｍ６０４と重なる長さになったが、被押進板部Ｍ３６６３の前側部が荷重付与部Ｍ６０４と干渉しないように凹設形成される。そのため、被押進板部Ｍ３６６３が荷重付与部Ｍ６０４に荷重を付与する事態は回避すること

ができており、干渉しないような離間配置とされる。
【２５９１７】
正面視反時計回り方向のピン付きギアＭ５８２の回転が継続されると、柱状部Ｍ５８２ａにより変位部材Ｍ３６９０のテーパ面Ｍ３６９１（図２０４５参照）が押進され、変位部材Ｍ３６９０が前方側へ退避されるため、柱状部Ｍ５８２ａが変位部材Ｍ３６９０の荷重付与部Ｍ６０４にせき止められなくなり、同方向へのピン付きギアＭ５８２の回転が継続可能とされる（図２０４７（ａ）及び図２０４７（ｂ）参照）。即ち、ピン付きギアＭ５８２は正面視反時計回り方向に１回転以上の回転動作が可能とされる。
【２５９１８】
ピン付きギアＭ５８２の回転が正面視反時計回り方向で継続される場合、柱状部Ｍ５８２ａは被押進板部Ｍ３６６３の先端を越えて通過することになるが、柱状部Ｍ５８２ａからの押進力が失われることでリンク部材Ｍ３６６０の姿勢は弾性バネＭ６５５（図２０４５参照）の付勢力により時間経過で即座に戻る（図２０４７（ｂ）参照）。
【２５９１９】
この場合、ピン付きギアＭ５８２が正面視時計回り方向に回転しそうになったとしても、被押進板部Ｍ３６６３の背面側に柱状部Ｍ５８２ａが遮られることから、ピン付きギアＭ５８２の回転移動を防止することができる。
【２５９２０】
即ち、被押進板部Ｍ３６６３の背面側に柱状部Ｍ５８２ａから荷重が与えられた場合、リンク部材Ｍ３６６０は正面視反時計回り方向へ傾倒動作され得るが、その傾倒動作は、リンク部材Ｍ３６６０と連動される後側スライド移動体Ｍ６５０に固定される左側装飾部Ｍ６８０の移動が右側装飾部Ｍ６７０（図２０４５参照）により規制される（防止される）。従って、ピン付きギアＭ５８２の回転移動がリンク部材Ｍ３６６０により防止される。
【２５９２１】
そのため、ピン付きギアＭ５８２の回転速度が想定以上に高速となり、変位部材Ｍ３６９０の退避方向への変位が間に合わずに柱状部Ｍ５８２ａが逆方向に跳ね返るような回転が発生した場合であっても、柱状部Ｍ５８２ａの戻りをリンク部材Ｍ３６６０により制限することができ、ピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転動作をスムーズに再開させることができる。
【２５９２２】
図２０４８は、ピン付きギアＭ５８２及びリンク部材Ｍ３６６０の正面図である。図２０４８では、ピン付きギアＭ５８２とリンク部材Ｍ３６６０との動作関係が、状態違いを想像線で描くことにより図示される。
【２５９２３】
即ち、図２０４８では、ピン付きギアＭ５８２が正面反時計回りで回転動作される場合における柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３に当接開始する状態（図２０４６（ａ）参照）が実線で図示される。更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、ピン付きギアＭ５８２の回転軸と突設支持部Ｍ６１７の中心軸とを結ぶ直線状に柱状部Ｍ５８２ａが位置された場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ１及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ１が想像線で図示される。
【２５９２４】
更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、可動装飾ユニットＭ３６００が伸長状態（図２０４６（ｂ）参照）とされた場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ２及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ２が想像線で図示される。更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、可動装飾ユニットＭ３６００が超伸長状態（図２０４７（ａ）参照）とされた場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ３及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ３が想像線で図示される。
【２５９２５】
なお、リンク部材Ｍ３６６０の部位についても、符号の対応は同様とする。例えば、外

形Ｍ３６６０Ｆ３において、被押進板部Ｍ３６６３に対応する箇所は外形Ｍ３６６３Ｆ３と図示する。

【２５９２６】

図２０４８に図示されるように、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで回転される場合におけるリンク部材Ｍ３６６０の押進では、ピン付きギアＭ５８２により押進されるリンク部材Ｍ３６６０の部位が徐々に変化される。即ち、押進が開始される時点における柱状部Ｍ５８２ａと被押進板部Ｍ３６６３との当接位置よりも、外形Ｍ５８２Ｆ３と外形Ｍ３６６３Ｆ３との当接位置の方が、被押進板部Ｍ３６６３の先端側とされる。これにより、柱状部Ｍ５８２ａから被押進板部Ｍ３６６３へ付与される荷重を複数位置で分散させることができ、局所的な疲労が蓄積される事態を避け易くすることができる。

【２５９２７】

外形Ｍ５８２Ｆ３の位置を柱状部Ｍ５８２ａが超えてピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作されると、リンク部材Ｍ３６６０は姿勢が復帰され（図２０４７（ｂ）参照）、柱状部Ｍ５８２ａが板バネ式の被検出部を押し込むことにより検出センサＭ３６９３（図２０４５参照）に検出される。

【２５９２８】

検出センサＭ３６９３は、被検出部が柱状部Ｍ５８２ａに押し込まれることに基づいて検出されることに因り特定の遊技が開始される。開始される特定の遊技の態様は種々の態様が例示されるが、例えば、演出動作ユニットＭ５００の電飾基板Ｍ５１３における発光の制御でも良いし、演出動作ユニットＭ５００以外の演出役物（例えば、可動装飾ユニットＭ３６００、スライド動作役物ユニットＭ７００（図２０３３参照）又は昇降動作役物ユニットＭ８００（図２０３７参照））の動作制御または発光制御でも良いし、所定の変動表示でも良いし、遊技者に所定の利益（一定数貯めることで演出の開放に利用可能な仮想のポイント等）を付与するものでも良い。

【２５９２９】

これにより、ピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転を継続した場合に、可動装飾ユニットＭ３６００の姿勢が傾倒側終端状態から変化しない構成であっても、柱状部Ｍ５８２ａを検出センサＭ３６９３で検出させることで特定の遊技を開始させることにより、遊技者が遊技に飽きる事態を回避することができる。

【２５９３０】

なお、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢の検出は行わないことから、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢の検出を行う場合には考慮する必要が生じる検出に必要となる時間長さの停止を考慮することなく、リンク部材Ｍ３６６０を高速動作させる制御を実行する等しても遊技に支障は無い。

【２５９３１】

図２０４９から図２０５２を参照し、第１６１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第１５７実施形態では、リンク部材Ｍ６６０が可動装飾ユニットＭ６００と共に回転移動する場合を説明したが、第１６１実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００の回転移動がリンク部材Ｍ６６０に相当する回転移動部材Ｍ４６６０に対して独立に実行可能に構成される。

【２５９３２】

図２０４９は、第１６１実施形態における複合動作役物ユニットＭ４４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５９３３】

複合動作ユニットＭ４４００の可動装飾ユニットＭ４６００では、上述した可動装飾ユニットＭ６００（図２００１参照）との比較において、リンク部材Ｍ６６０に相当する回転移動部材Ｍ４６６０は回転軸が固定配置で構成されている。それに伴い、被案内部Ｍ５５０が自由落下する構成は除外されており（上昇端位置で固定とされており）、可動装飾

ユニットＭ４６００の傾倒動作と、回転移動部材Ｍ４６６０の回転動作とが、単一のピン付きギアＭ５８２（図１９９８参照）の回転動作により実現される。

【２５９３４】

回転移動部材Ｍ４６６０を回転可能に支持する円柱状の回転軸部Ｍ４４７６が形成される支持板Ｍ４４７５が前側蓋部Ｍ４７０から左方へ延設されている。可動装飾ユニットＭ４６００の周囲側のうち右下側を構成する壁部は、支持板Ｍ４４７５と干渉しないように必要箇所が切欠き形成されている。これにより、可動装飾ユニットＭ４６００は、支持板Ｍ４４７５と干渉することなく傾倒動作が可能に構成される。

【２５９３５】

図２０５０（ａ）及び図２０５０（ｂ）は、ピン付きギアＭ５８２の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ４６００及び回転移動部材Ｍ４６６０の部分正面図である。

【２５９３６】

図２０５０（ａ）及び図２０５０（ｂ）では、ピン付きギアＭ５８２の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、ピン付きギアＭ５８２及び回転移動部材Ｍ４６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ４６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【２５９３７】

なお、図２０５０（ａ）及び図２０５０（ｂ）では、外形線として図示される可動装飾ユニットＭ４６００は傾倒側終端状態とされている。また、図２０５０（ａ）では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態が図示され、図２０５０（ｂ）では、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態が図示される。

【２５９３８】

回転移動部材Ｍ４６６０は、上述の板状本体部Ｍ６６１（図２０４５参照）と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状で突設される被検出部Ｍ４６６２と、上述の被押進板部Ｍ３６６３（図２０４５参照）と、上述の対向突部Ｍ３６６４（図２０４５参照）と、板状本体部Ｍ６６１に一体形成され一直線に延設される延設構成部Ｍ４６６５と、を主に備える。

【２５９３９】

被検出部Ｍ４６６２は、伝達突設部Ｍ６６２（図２０４５参照）に類似の形状から構成されているが、伝達対象としての後側スライド移動体Ｍ６５０（図２０４５参照）は省略されているため、動力を伝達する部位としては機能しない。本実施形態では、被検出部Ｍ４６６２を支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）の検出溝に進入させることで、回転移動体Ｍ４６６０の姿勢を音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に把握させるための部位として機能する。

【２５９４０】

即ち、支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）に被検出部Ｍ４６６２が検出されている状態において、回転移動部材Ｍ４６６０は、延設構成部Ｍ４６６５が下方に垂下する待機状態（図２０５０（ａ）参照）であることが音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に把握される。なお、支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）は、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの検出には利用されないため、柱状部Ｍ５８２ａの形状や大きさに制限されることなく、被検出部Ｍ４６６２が進入可能な大きさの検出溝が形成されれば良いので、検出センサの設計自由度を向上させることができる。

【２５９４１】

延設構成部Ｍ４６６５は、可動装飾ユニットＭ４６００よりも後方側に配置されており、可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒するほど隠される量が多くなるが、少なくとも一部（特に延設先端側）が常時視認可能とされる。従って、可動装飾ユニットＭ４６００の姿勢に因らず、遊技者に視認される箇所を利用した演出を実行することが可能とされる。

【２５９４２】
回転移動部材Ｍ４６６０を押進する柱状部Ｍ５８２ａと当接する荷重付与部Ｍ６０４は、変位部材Ｍ３６９０の下縁部として構成される（図２０４５参照）。従って、上述したように、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで回転動作される場合には変位部材Ｍ３６９０が退避されることで、柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越える位置までピン付きギアＭ５８２を回転動作させることが可能とされ（図２０４７（ｂ）参照）、ピン付きギアＭ５８２に一回転以上の回転動作を実行させることができる。
【２５９４３】
なお、円板付きギアＭ５８４のギア歯の数とピン付きギアＭ５８２のギア歯の数との関係から、ピン付きギアＭ５８２が１回転することに対応して円板付きギアＭ５８４が３回転するので、ピン付きギアＭ５８２に一方向で一回転以上の回転動作を実行する場合であっても、ピン付きギアＭ５８２と円板付きギアＭ５８４との角度関係は周期的に維持される。
【２５９４４】
図２０５１及び図２０５２は、複合動作役物ユニットＭ４４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図２０５１及び図２０５２では、可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒側終端状態とされている。
【２５９４５】
また、図２０５１では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態が図示され、図２０５２では、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態が図示される。即ち、図２０５１に図示される状態は図２０５０（ａ）に図示される状態と同じであり、図２０５２に図示される状態は図２０５０（ｂ）に図示される状態と同じである。
【２５９４６】
図２０５１及び図２０５２に図示されるように、傾倒側終端状態の可動装飾ユニットＭ４６００の後方側で回転移動部材Ｍ４６６０が回転動作される場合、回転移動部材Ｍ４６６０は可動装飾ユニットＭ４６００の下側へ垂れる姿勢から、可動装飾ユニットＭ４６００を上側へ追い越す姿勢となる最大角度で回転動作されることから、回転基端側は可動装飾ユニットＭ４６００に重なって隠されることが有るのに対し、回転先端側は可動装飾ユニットＭ４６００とは重ならないため回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢に関わらず視認させることができる。
【２５９４７】
延設構成部Ｍ４６６５は、前方側へ光を照射可能に構成されるＬＥＤ等に例示される発光部Ｍ４６６６を複数備えている。発光部Ｍ４６６６が点灯または点滅制御されることにより、延設構成部Ｍ４６６５の形状を利用したライン状の発光演出を行うことができる。複数個の発光部Ｍ４６６６の発光態様を独立で制御することで、多くのバリエーションの発光演出を行うことができる。
【２５９４８】
発光部Ｍ４６６６は、延設構成部Ｍ４６６５の延設方向に並んでおり、延設構成部Ｍ４６６５の延設先端側から基端側に等間隔で２６個配置されている。回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態では、全ての発光部Ｍ４６６６が視認可能とされており（図２０５１参照）、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態では、延設先端側における複数個（１７個）の発光部Ｍ４６６６が視認可能とされ、残り（延設基端側）は可動装飾ユニットＭ４６００に隠される。
【２５９４９】
このように、発光部Ｍ４６６６の視認態様は、延設構成部Ｍ４６６５が停止された状態においても、延設構成部Ｍ４６６５の姿勢が異なれば発光部Ｍ４６６６が並ぶ方向が異なることに加え、視認される発光部Ｍ４６６６の個数にも違いが生じるので、異なった態様で視認させることができる。
【２５９５０】
これに加えて、延設構成部Ｍ４６６５の往復動作の実行中に複数の発光部Ｍ４６６６の

発光態様を制御することで、延設構成部Ｍ４６６５の移動軌跡において発光部Ｍ４６６６から照射される光の残像により文字や絵を視認させる演出が実行可能とされている。以下、詳しく説明する。

【２５９５１】

光の残像により文字や絵を視認させる演出を実行させるためには、まず視認させたい文字や絵の仮想外形線Ｍ４６９０Ｆを延設構成部Ｍ４６６５の動作軌跡上に配置し、延設構成部Ｍ４６６５が回転動作される場合において、仮想外形線Ｍ４６９０Ｆと重なる位置の発光部Ｍ４６６６を、その重なるタイミングで発光させ、重ならなくなったら消灯させるという制御を行う。

【２５９５２】

この制御のためには、発光部Ｍ４６６６の点灯および消灯のタイミングを決めるために、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度と、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点とを、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に把握させることが前提となる。

【２５９５３】

延設構成部Ｍ４６６５の回転動作は、駆動モータＭ５０１（図２０５０（ａ）参照）の回転駆動により実行されるので、駆動モータＭ５０１の回転駆動制御により速度を任意に設定可能とされるので、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に延設構成部Ｍ４６６５の回転速度を把握させることができる。

【２５９５４】

詳細には、駆動モータＭ５０１（図２０５０（ａ）参照）が例えば３００［ｒｐｍ］で回転する場合にピン付きギアＭ５８２は１００［ｒｐｍ］で回転するよう構成されており、ピン付きギアＭ５８２が例えば５２［度］回転動作する場合に延設構成部Ｍ４６６５が７８［度］回転動作されているので（図２０５０（ａ）及び図２０５０（ｂ）参照）、ピン付きギアＭ５８２が１００［ｒｐｍ］で回転する場合に延設構成部Ｍ４６６５は１５０［ｒｐｍ］で回転する。従って、延設構成部Ｍ４６６５は駆動モータＭ５０１の回転数（角速度）の半分の回転数（角速度）で回転動作される。

【２５９５５】

また、支持板Ｍ４４７５の検出センサ（図示せず）に被検出部Ｍ４６６２（図２０５０（ａ）参照）が検出されることにより、回転移動部材Ｍ４６６０が待機状態から回転開始するタイミングが検出される。即ち、支持板Ｍ４４７５の検出センサ（図示せず）の検出結果から、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点を、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に把握させることが前提となる。

【２５９５６】

上述の通り、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度と、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点とを、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図１９９２参照）に把握させることができているため、回転動作する回転移動部材Ｍ４６６０に配設される複数の発光部Ｍ４６６６を適切に発光制御する（適切なタイミングで点灯消灯させる）ことで、光の残像により文字や絵を視認させる演出が実行可能とされる。

【２５９５７】

光の残像により文字や絵を視認させる演出の一例について説明する。例えば、延設構成部Ｍ４６６５を約４０度の回転角度ＭＲ１で往復動作させる範囲では、可動装飾ユニットＭ４６００と重なる面積が狭いため、動作軌跡の大部分を光の残像により視認させる文字や絵を形成する領域として利用することができ、延設構成部Ｍ４６６５の延設方向に沿う縦長の残像形状Ｍ４６９１Ｆ（例えば「アツイ」との文字、図２０５１参照）であっても視認させることができる。

【２５９５８】

また、例えば、延設構成部Ｍ４６６５を約７８度の回転角度ＭＲ２で往復動作させる範囲では、回転基端側において可動装飾ユニットＭ４６００と重なる部分においては光の残像を視認させることは難しいが、可動装飾ユニットＭ４６００と重ならない回転先端側の

大部分を光の残像により視認させる文字や絵を形成する領域として利用することができ、延設構成部Ｍ４６６５の回転方向に沿う湾曲帯状領域内に並ぶ残像形状Ｍ４６９２Ｆ（例えば「オメデトウ」との文字、図２０５２参照）であっても視認させることができる。

【２５９５９】

本実施形態では、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆは、抽選に係る変動中に視認させるように延設構成部Ｍ４６６５の動作制御がされるところ、残像形状Ｍ４６９２Ｆが視認される変動の大当たり期待度（即ち、抽選が大当たりである割合）の方が、残像形状Ｍ４６９１Ｆが視認される変動の大当たり期待度よりも高くされている。

【２５９６０】

なお、残像形状Ｍ４６９１Ｆや残像形状Ｍ４６９２Ｆで視認させる形状は例示であり、これに限られるものではない。片仮名の羅列である場合を例示したが、文字の種類が限定されるものでは無く、漢字、平仮名、アルファベットでも良いし、文字では無く絵を視認させるようにしても良い。

【２５９６１】

また、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆがそれぞれ単独で視認される場合を例示したが、これに限られるものではない。例えば、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆをそれぞれ同時に視認させるようにしても良いし、交互に視認させるようにしても良いし、残像形状Ｍ４６９１Ｆが視認される期間の後で残像形状Ｍ４６９２Ｆが視認される期間が設定されても良い。

【２５９６２】

延設構成部Ｍ４６６５の回転速度は、上述の通りピン付きギアＭ５８２（図２０５０（ａ）参照）の回転速度に対応する。同様に、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ回転動作する場合の回転速度もピン付きギアＭ５８２の回転速度に対応する。そのため、ピン付きギアＭ５８２を回転動作させることで可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とを同様の速度で連続的（段階的）に動作させることができる。

【２５９６３】

可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とが同様の速度で連続的に動作される場合、可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とが連動しているように遊技者に視認させることができ、可動装飾ユニットＭ４６００及び延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力を向上させることができる。

【２５９６４】

ここで、延設構成部Ｍ４６６５により視認される残像表示Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆは、上述した通り、残像表示Ｍ４６９１Ｆが視認される場合よりも残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認される場合の方が遊技者にとって有利となるところ、残像表示Ｍ４６９２Ｆを視認させるために必要となる延設構成部Ｍ４６６５の回転角度は残像表示Ｍ４６９１Ｆを視認させるために必要となる延設構成部Ｍ４６６５の回転角度よりも大きいため、延設構成部Ｍ４６６５の動作速度を予測させる可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度に高低が有る場合に、高速である方が、残像表示Ｍ４６９２Ｆが表示されるかもしれないという期待感を遊技者に持たせ易い。

【２５９６５】

本実施形態では、駆動モータＭ５０１（図２０５０（ａ）参照）の駆動制御として、少なくとも、１８０［ｒｐｍ］の第１回転制御（低速制御）と、４２３［ｒｐｍ］の第２回転制御（高速制御）とが可能に構成される。駆動モータＭ５０１が第１回転制御で動作される場合に延設構成部Ｍ４６６５により残像表示Ｍ４６９１Ｆが視認され、駆動モータＭ５０１が第２回転制御で動作される場合に延設構成部Ｍ４６６５により残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認されるように構成される。

【２５９６６】

多くの場合、駆動モータＭ５０１は第１回転制御で駆動制御される。そのため、可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認され

るのは残像表示Ｍ４６９１Ｆとされる。
【２５９６７】
一方、稀（例えば、５０変動に１回程度の割合）に、第１回転制御での駆動制御が開始された駆動モータＭ５０１が、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態に至る前に第２回転制御に切り替えられる場合があり、この場合には可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認されるのは残像表示Ｍ４６９２Ｆとされる。そのため、可動装飾ユニットＭ４６００の動作に対する注目力を向上させることができる。
【２５９６８】
また、ごく稀（例えば、１００変動に１回程度の割合）に、可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態から回転動作開始させる時点から駆動モータＭ５０１が第２回転制御で動作される。この場合には可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認されるのは残像表示Ｍ４６９２Ｆとされる。そのため、可動装飾ユニットＭ４６００の動作に対する注目力を向上させることができる。
【２５９６９】
このように、可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度は、初めから第１回転制御での速度が維持される場合、第１回転制御での速度から第２回転制御での速度に途中で切り替えられる場合、初めから第２回転制御での速度が維持される場合があるが、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる際にボタン部Ｈ１８１（図１９９０参照）を操作することに基づく所定条件が成立した場合に、可動装飾ユニットＭ４６００の速度が第１回転制御での速度から第２回転制御での速度に途中で切り替えられる場合における切り替えタイミングを早めることができるよう構成される。
【２５９７０】
即ち、ボタン部Ｈ１８１の操作を行うことで、より早いタイミングで可動装飾ユニットＭ４６００を第２回転制御での速度で動作させることができ、より早いタイミングで残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認され得るか否か（大当たり期待度が高いか否か）を知ることができるかもしれないという期待から、ボタン部Ｈ１８１に対する操作意欲を向上させることができる。
【２５９７１】
ボタン部Ｈ１８１の操作に基づく所定条件の成立としては、例えば、操作有無のみの判定から成立としても良いし、操作の判定があった場合に一定確率で成立するものとしても良いし、操作回数が規定値を越えた場合に成立するものとしても良いし、連打速度（一定期間における操作回数）が規定値を越えた場合に成立するものとしても良い。
【２５９７２】
また、ボタン部Ｈ１８１の操作に基づく所定条件の成立としては、例えば、操作量（押し込み量）が規定値以下の場合には第１回転制御が維持され、操作量（押し込み量）が規定値を超えると成立し第２回転制御に切り替えられるものとしても良いし、操作量が規定値以下の場合にはその操作量の大小に対応して、第２回転制御での速度よりも小さい範囲で駆動モータＭ５０１の動作速度が段階的に変化されるように構成し、操作量（押し込み量）が規定値を超えると成立し第２回転制御に切り替えられるものとしても良い。
【２５９７３】
ボタン部Ｈ１８１の操作タイミングについては、報知はせず、可動装飾ユニットＭ４６００の動作を視認した遊技者が自発的に行うようにしても良いが、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる際に第３図柄表示装置Ｍ８１において操作示唆表示Ｍ８１ｂ（図２０４０参照）を表示することで、ボタン部Ｈ１８１を操作すべきタイミングであることを遊技者が分かり易くなることからボタン部Ｈ１８１への操作意欲を向上させることができ、更に、操作示唆表示Ｍ８１ｂがされることで可動装飾ユニットＭ４６００の動作開始を遊技者に予測させることができ、可動装飾ユニットＭ４６００の動作開始前から可動装飾ユニットＭ４６００に対する注目力を向上させることができる。
【２５９７４】

また、上述の通り、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度は、ピン付きギアＭ５８２（図２０５０（ａ）参照）の回転速度に対応する。同様に、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ回転動作する場合の回転速度もピン付きギアＭ５８２の回転速度に対応するが、可動装飾ユニットＭ４６００を回転させる場合と延設構成部Ｍ４６６５を回転させる場合とは独立している（柱状部Ｍ５８２ａは荷重付与部Ｍ６０４又は回転移動部材Ｍ４６６０のいずれか一方と当接する（図２０５０（ａ）及び図２０５０（ｂ）参照）ため、ピン付きギアＭ５８２の回転速度をタイミングよく変えることで可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度と延設構成部Ｍ４６６５の動作速度とを変えることもできる。

【２５９７５】

なお、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度とは異なる速度で延設構成部Ｍ４６６５を動作させる場合（可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒側終端状態となった後で駆動モータＭ５０１（図２０５０（ａ）参照）の回転速度を変化させる場合）、可動装飾ユニットＭ４６００の動作から延設構成部Ｍ４６６５の動作内容を予測することを困難とさせることができるので、延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力をより長く維持することができる。

【２５９７６】

この場合において、延設構成部Ｍ４６６５を動作させる速度は、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度よりも遅い場合があっても良いし、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度よりも速い場合があっても良い。バリエーションが多いほど、遊技者の延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力を向上させることができる。

【２５９７７】

また、この場合において、延設構成部Ｍ４６６５の動作態様を複数構成しても良い。例えば、動作範囲の途中までの回転動作としても良いし（図２０５１参照）、動作範囲の終端まで回転動作しても良いし（図２０５２参照）、延設構成部Ｍ４６６５の回転はさせない角度で駆動モータＭ５０１を一旦停止させて、回転方向を反転させて可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態に戻しても良い。

【２５９７８】

また、その駆動モータＭ５０１を一旦停止させた後で、回転方向を反転させるのではなく、一拍おいてから、延設構成部Ｍ４６６５の回転動作を生じさせるようにしても良い。なお、延設構成部Ｍ４６６５の回転動作という場合には、回動状態へ向けて回転動作されて待機状態に復帰する一往復の動作に限らず、複数回の往復回転動作を含む。また、回動状態へ向けて回転動作されて待機状態に復帰する一往復の動作としては、ピン付きギアＭ５８２が往復動作することにより構成されるものも、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作して柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越えることにより生じるものも含む。

【２５９７９】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【２５９８０】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【２５９８１】

上記第１５７実施形態では、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合には、検出センサＭ４５３での検出の切り替えに先立って被案内部Ｍ５５０が昇降移動体Ｍ４４３により押し上げ開始される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０と昇降移動体Ｍ４４３との上下間隔をより大きく確保するようにして、被案内部Ｍ５５０が押し上げられない状態（落下終端位置で維持された状態

）での昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動によって前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝から退避可能（検出結果を切り替え可能）としても良い。この場合、昇降移動体Ｍ４４３を昇降移動させるように制御させて、その昇降移動を検出センサＭ４５３で検出することにより、昇降移動体Ｍ４４３が動作不良を起こしていないことを定期的に確認させたり、検出センサＭ４５３の検出結果を他の特定の装置の出力の切り替えに利用したりする制御を、被案内部Ｍ５５０を落下終端位置で維持した状態でも実行することが可能となる。

【２５９８２】

従って、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動を、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置にある場合においても落下終端位置に対して独立させることができるので、昇降移動体Ｍ４４３によって、動作不良の確認をしたり、他の特定の装置の出力の切り替えをしたりする制御を実行するタイミングの自由度を向上させることができる。換言すれば、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置とは異なる位置にある時に限って上述の制御を実行するという煩わしさが解消され、制御を簡素に構築することができる。

【２５９８３】

上記第１５７実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動体Ｍ４４３を金属材料から構成するようにしても良い。この場合、より硬質であって、昇降移動体Ｍ４４３の破損の可能性を低減させることができ、更に、検出センサＭ４５３による前方突設部Ｍ４４４の検出の感度を向上させることができる。

【２５９８４】

上記第１５７実施形態では、上下方向に延びる凹設溝部Ｍ４５２の左右幅が略均一な溝として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設溝部Ｍ４５２の左右幅が上から下に向かうにつれて縮小されていくように変化され、検出センサＭ４５３に到達する上下位置で最小（検出センサＭ４５３の検出溝の幅長さと同等）とされるように構成しても良い。この場合、上側の位置において前方突設部Ｍ４４４の左右位置が変化していたとしても凹設溝部Ｍ４５２との衝突を回避し易くすることができる一方、検出センサＭ４５３に近づく下側の位置において前方突設部Ｍ４４４の左右位置が変化していた場合には前方突設部Ｍ４４４の位置を凹設溝部Ｍ４５２の内壁に当接させることで検出センサＭ４５３の検出溝の中心側へ寄せる（案内する）ことができるので、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３とが真正面から衝突し破損するという事態を避けることができる。また、昇降移動体Ｍ４４３の姿勢を維持させるための後方二股部Ｍ４４６等の構成を省略することができ、姿勢維持に伴い生じていた移動抵抗を低減させることができる。

【２５９８５】

上記第１５７実施形態では、検出センサＭ４５３の検出溝の上部が開放されており、その開放される箇所を前方突設部Ｍ４４４が通る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４５３の検出溝の上部を覆う柔軟な膜部材が構成され、前方突設部Ｍ４４４が下降する際にはその膜部材を引き延ばしながら変位するように構成しても良い。この場合、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３の検出溝との間に柔軟な膜部材を介在させることができるので、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３の検出溝とが直接的に接触することを回避させることができるので、前方突設部Ｍ４４４及び検出センサＭ４５３が破損する可能性を低減させることができる。

【２５９８６】

上記第１５７実施形態では、左側蓋部Ｍ５３０及び右側蓋部Ｍ５４０が共に樹脂材料から構成されることで軽量化が図られており演出動作ユニットＭ５００を上昇移動させる駆動モータＭ４４２の負担が低減される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側蓋部Ｍ５３０又は右側蓋部Ｍ５４０の少なくとも一方を金属材料から構成するようにしても良い。

【２５９８７】

この場合において、左側蓋部Ｍ５３０を金属材料から構成し右側蓋部Ｍ５４０を樹脂材料から構成する場合、左側蓋部Ｍ５３０を光が透過することを避けることができるので、左側蓋部Ｍ５３０が第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と重なるように配置される場合であっても第３図柄表示装置Ｍ８１からの照射光が左側蓋部Ｍ５３０の手前側まで透けて遊技者に視認される事態を避けることができる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１からの照射光の色味が板状本体部Ｍ５１０や可動装飾ユニットＭ６００に重なって視認されることを回避でき、板状本体部Ｍ５１０や可動装飾ユニットＭ６００の演出効果を向上させることができる。

【２５９８８】

また、第１の関連動作制御において、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ向けて移動を開始する時点における移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界部を隠す機能を向上させることができ、更に、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達した場合には右側蓋部Ｍ５４０を部分的に光が透過することにより移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界部を隠す機能を弱めることができる。

【２５９８９】

上記第１５７実施形態では、板状本体部Ｍ５１０と被案内部Ｍ５５０とが互いに相対変位可能な別体で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体部Ｍ５１０と被案内部Ｍ５５０とが互いに相対変位不能（例えば、一体構造）に構成されても良い。この場合、板状本体部Ｍ５１０に姿勢変化を生じさせることなく被案内部Ｍ５５０の案内される方向（直線方向）への移動を構成することができる。

【２５９９０】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が回転軸を構成する大径支持部Ｍ５４３に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側蓋部Ｍ５３０の湾曲縁部Ｍ５３２側端部の背面に扇形状構成部Ｍ５６０の回転軸を中心とする円弧形状のレール部が形成され、このレール部に扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８が移動（摺動）可能に支持されることで、円弧形状に沿って扇形状構成部Ｍ５６０が移動すると大径支持部Ｍ５４３を中心とする回転移動が生じるように構成しても良い。この場合、扇形状構成部Ｍ５６０の支持に利用される領域の面積を大きくすることができるので、扇形状構成部Ｍ５６０が高頻度で動作した場合であっても、扇形状構成部Ｍ５６０の支持に利用される箇所の損耗を抑えることができる。

【２５９９１】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が回転軸を構成する大径支持部Ｍ５４３に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大径支持部Ｍ５４３の代わりに円形孔が穿設されており、その円形孔に脱落防止部Ｍ５４４の小径円形部（前方部）が挿通されることにより脱落防止部Ｍ５４４が支持される構造としても良い。この場合、脱落防止部Ｍ５４４を、扇形状構成部Ｍ５６０の脱落を防止する役割と、扇形状構成部Ｍ５６０を支持する役割とで兼用することができる。

【２５９９２】

この場合において、締結ネジＭ５０２が右側蓋部Ｍ５４０の前方まで貫通する長さとして、その締結ネジＭ５０２を右側蓋部Ｍ５４０の手前側に配設され円形孔よりも外形が大きい追加の抜け止め板に締結させることにより、脱落防止部Ｍ５４４の抜け止めを図るようにしても良い。これにより、脱落防止部Ｍ５４４の軸方向の位置ずれを防止することができる。また、脱落防止部Ｍ５４４の小径円形部（前方部）や締結ネジＭ５０２が右側蓋部Ｍ５４０だけでなく、板状本体部Ｍ５１０まで挿通される長さで構成されても良い。

【２５９９３】

なお、構成材料としては、基本的には締結ネジＭ５０２が金属材料から形成され、脱落防止部Ｍ５４４が樹脂材料から形成されるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、脱落防止部Ｍ５４４も金属材料から形成するようにしても良い。この場合、脱落防止部Ｍ５４４の強度や耐久性を向上させることができる。

【２５９９４】

また、締結ネジＭ５０２を樹脂材料から形成するようにしても良い。この場合、透過性の樹脂材料を採用することにより締結ネジＭ５０２を通して光を通過させることができることから、後方から照射される光（例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示による光）を締結ネジＭ５０２の位置を通して前方へ通過させることができるので、締結ネジＭ５０２の前方の位置において電飾基板Ｍ６３０に円形開口部Ｍ６３３が形成されている構成であっても、締結ネジＭ５０２の前方の位置（可動装飾ユニットＭ６００の中心軸線ＭＪ１に対応する位置）を光らせる演出を採用することができる。

【２５９９５】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０は円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａからの下方への荷重により下方へ押し下げられる態様で変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３又は円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａの一方が鉄などの磁性体材料から形成され、他方に磁石が配設されることにより、円弧形成部Ｍ５８４ａと突条部Ｍ５６３との間で引き合う方向の磁力が生じるようにしても良い。この場合、円板付きギアＭ５８４の回転動作により扇形状構成部Ｍ５６０を上方へ変位させる場合を構成可能とされ、当接部材Ｍ６０２の上昇方向の変位に先立って扇形状構成部Ｍ５６０を上方へ退避させることもできることから、毎回当接部材Ｍ６０２に扇形状構成部Ｍ５６０を当接させて上方へ変位させる場合に比較して当接回数を減らすことができ、耐用年数を長くすることができる。

【２５９９６】

上記第１５７実施形態では、荷重付与部Ｍ６０４は、起き上がり側終端状態におけるピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの回転開始方向（柱状部Ｍ５８２ａの中心軸とピン付きギアＭ５８２の回転軸とを通る直線に対して直交する直線方向）に沿って延びる平面形状から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹凸形状から形成されても良い。この場合、柱状部Ｍ５８２ａの回転動作時に荷重付与部Ｍ６０４から抵抗を与えることができ、柱状部Ｍ５８２ａが滑り動作することを防止し易くすることができ、ピン付きギアＭ５８２を特定の位相で停止させ易くすることができる。また、ピン付きギアＭ５８２の回転動作時に荷重付与部Ｍ６０４の凹部および凸部に柱状部Ｍ５８２ａが交互に当接することで可動装飾ユニットＭ６００を振動変位させることができる。

【２５９９７】

上記第１５７実施形態では、当接部材Ｍ６０２の上面の一部に扇形状構成部Ｍ５６０の下面が当接するよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８の延設長さを延長し、当接部材Ｍ６０２の上面の全体に扇形状構成部Ｍ５６０の下面が当接するよう構成しても良い。この場合、当接部材Ｍ６０２から扇形状構成部Ｍ５６０に与えられる荷重をより大きな面積で分散させることができ、延設部Ｍ５６８が受ける圧力を最小限とすることができるので、扇形状構成部Ｍ５６０の材料や形状の設計自由度を向上させることができると共に、扇形状構成部Ｍ５６０の耐久性を向上させることができる。

【２５９９８】

上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の動作中において延設部Ｍ５６８が視認可能に構成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円弧状貫通部Ｍ５１５の上端縁と延設支持部Ｍ６１４の上縁とを連結するようにして不透明な膜状で伸縮可能な遮蔽膜部材が配設され、この遮蔽膜部材が円弧状貫通部Ｍ５１５の内側を覆い視線を遮蔽することにより、正面視で延設部Ｍ５６８を視認不能に構成しても良い。この場合、延設部Ｍ５６８という内部の構造を遊技者に視認させないようにすることで、可動装飾ユニットＭ６００により構成される動作演出に注目させ易くすることができる。

【２５９９９】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成される場合を説

明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０を金属材料から形成しても良い。この場合、扇形状構成部Ｍ５６０の強度を向上させることができ、荷重の蓄積により延設部Ｍ５６８が破損するという事態を避けることができる。

【２６０００】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が光透過性の低い（不透明な）樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、光透過性の高い（透明な）樹脂材料から形成しても良い。この場合、延設部Ｍ５６８が正面視で露出している場合であっても、目立たせないようにすることができ、背面側の意匠や表示を透かすことができる。これにより、演出効果を目的としない（換言すれば、装飾を意図しない）内部構造（背面側構造）としての延設部Ｍ５６８について目立たせないようにすることができる。

【２６００１】

上記第１５７実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８が略正方形（交差する２方向の幅が同じ長さ）の断面を構成する形状で延設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後方向（中心軸線ＭＪ１と平行な方向）の幅よりも、その前後方向と交差する方向の幅（正面視で視認される方向の幅、即ち、中心軸線ＭＪ１を中心とする円の接線方向の幅）が小さい形状で延設されるようにしても良い。この場合、延設部Ｍ５６８が露出して視認される場合であっても、正面視で視認される幅が狭くなっているので、延設部Ｍ５６８が後方の意匠や表示を隠す度合を小さくすることができる。これにより、後方の意匠や表示の視認性を向上させることができる。

【２６００２】

上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の左右長さを十分に確保しながら、被案内部Ｍ５５０の上昇移動時における可動装飾ユニットＭ６００の動作タイミングを制限することで可動装飾ユニットＭ６００が他の役物（昇降動作役物ユニットＭ８００、球案内ユニットＭ９００等）と衝突することを未然に防ぐ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態または伸長状態で維持されたままで被案内部Ｍ５５０を上昇移動させたとしても可動装飾ユニットＭ６００の回転先端側が他の役物と衝突しない程度に可動装飾ユニットＭ６００の左右長さを短く形成しても良い。この場合、被案内部Ｍ５５０（による演出動作ユニットＭ５００）の配置に関わらず可動装飾ユニットＭ６００を任意の状態とすることができる（動作終端まで動作可能とされる）ので、演出動作ユニットＭ５００の動作と可動装飾ユニットＭ６００の動作との組合せの設計自由度を向上させることができる。

【２６００３】

上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の正面視の形状の全体において光が透過して視認されるように意匠が描かれる（白地で図示される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸部Ｍ６２１の正面側の領域は黒色で塗りつぶされる意匠を描くようにしても良い。この場合、回転軸部Ｍ６２１が電飾基板Ｍ６３０を貫通する態様とされ、電飾基板Ｍ６３０から光が照射されないとしても、正面視の視認態様が違和感なく形成される。

【２６００４】

上記第１５７実施形態では、円弧状貫通部Ｍ５１５の幅が一定で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、配置に応じて異ならせても良い。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０に近い上側ほど狭く、離れる程に広くなるようにすれば、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０とが当接する位置における支持を強固としつつ、当接が生じない箇所では動作抵抗を下げることができる。これを逆とすれば、当接により当接部材Ｍ６０２の配置がずれた場合であっても、下降側において円弧状貫通部Ｍ５１５に配置を修正させることができる。

【２６００５】

上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の検出を一側終端位置でのみ行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作範囲の両端に

おいて検出可能にしても良いし、動作範囲の途中位置で検出できるようにしても良い。
【２６００６】
上記第１５７実施形態では、第２の関連動作制御の演出待機動作として、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御においてスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０に対して制御される、第２の状態まで到達した後、第１の状態側に所定量（約２ｃｍ）戻された後で再び第２の状態まで到達する繰り返し往復動作と同期して（周期が同じか、又は動作の始期および終期が同じ）、上述したような可動装飾ユニットＭ６００の繰り返し往復移動が実行されるように制御しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の繰り返し往復動作と可動装飾ユニットＭ６００の繰り返し往復移動とを一体的に視認させることができ、演出効果を向上させることができる。
【２６００７】
上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の第１動作を、第２の上下移動制御における動作として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０は上昇端位置に配置が維持された状態で可動装飾ユニットＭ６００に第１動作と復帰制御による動作とを順に実行しても良いし、これを連続で繰り返すように制御しても良い。この場合、可動装飾ユニットＭ６００が高頻度で上下動作している様子を遊技者に視認させることができ、何らかの抽選についての前兆演出であると想像させることができる。また、第１動作と復帰制御による動作とを順に実行する（ことを繰り返す）制御の後で第２の上下移動制御や、第１の関連動作制御や、第２の関連動作制御が実行される場合を構成しても良い。
【２６００８】
上記第１５７実施形態では、第２の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合において、可動装飾ユニットＭ６００の第２動作を実行せずに復帰制御を行う場合を説明したが、制御の切り替えは必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合においても制御の切り替えが生じるように構成しても良い。
【２６００９】
即ち、第１の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合においては、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態から動作させることなく、起き上がり側終端状態のままで維持させるように構成しても良い。
【２６０１０】
また、例えば、検出センサＭ４８３の検出結果に因らず可動装飾ユニットＭ６００を傾倒側終端まで変位させるように駆動モータＭ５０１が駆動制御されても良い。この場合において、事後的に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を可動装飾ユニットＭ６００の配置（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置される場合における傾倒側終端状態における配置）と重なる領域を含み若干拡大された領域に集中させる態様（可動装飾ユニットＭ６００と同時に視認して違和感のない態様）に切り替えても良い。
【２６０１１】
上記第１５７実施形態では、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作方向が上下方向となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が前後方向でも良いし、前後方向の成分を含む方向でも良い。この場合、遠近感による演出効果により、迫力のある動作演出を実行することができる。
【２６０１２】
上記第１５７実施形態では、演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０に可動装飾ユニットＭ６００が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体部Ｍ５１０とは離れた位置において別の駆動源で駆動される可動装

飾ユニットＭ６００が配設されており、板状本体部Ｍ５１０の動作と、可動装飾ユニットＭ６００の動作とが関連して実行されるように構成しても良い。

【２６０１３】

上記第１５７実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００がガラスユニットの後方に配置される場合を説明したが、同構成を利用したユニットがガラスユニットの手前側に配設されており、遊技者が触れられるように構成しても良い。この場合において、可動装飾ユニットＭ６００をボタン部Ｈ１８１のような操作部材として採用しても良い。

【２６０１４】

上記第１５７実施形態では、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作が単一の検出センサＭ４８３の検出結果を基に開始される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４８３を上下方向に複数個並べて、複数の検出センサＭ４８３の検出結果から動作の開始を判断可能にしても良い。また、検出センサＭ４８３の個数を増やすのではなく、演出動作ユニットＭ５００の検出片Ｍ５５４の配設個数を増やす（複数個縦に並べて配設する）ことで、検出センサＭ４８３による検出を複数回生じさせることが可能にしても良い。この場合、演出動作ユニットＭ５００が下降を開始していることを複数回の検出から判断できるので、検出の安定性を向上させることができる。

【２６０１５】

上記第１５７実施形態では、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作は予定された時間設定で実行されるよう構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者からの操作によって変更されるようにしても良い。即ち、第２の上下移動制御中において、遊技者がボタン部Ｈ１８１に所定の操作を行うことにより、復帰制御の開始が早まるようにしても良い。この場合、可動装飾ユニットＭ６００が退避して対応表示ＭＥ５９０や第２対応表示ＭＥ５９２を視認可能となるタイミングを早めることができるので、ボタン部Ｈ１８１の操作を意欲的に実行させることができる。

【２６０１６】

上記第１５７実施形態では、第２対応表示ＭＥ５９２の表示開始タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅らせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、対応表示ＭＥ５９０が表示されるよりも前に第２対応表示ＭＥ５９２を表示させる場合を構成しても良い。この場合、遊技者は第２の上下移動制御が開始される可能性を事前に予想することができることから、第２の上下移動制御が開始されてからの注目力だけでなく、それ以前から、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２６０１７】

また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示態様は、一つに限定されるものではなく、複数態様あっても良い。例えば、第２対応表示ＭＥ５９２が白色で表示される場合と、赤色で表示される場合とが有り、後者の方が大当たり期待度を大きく設定しても良い。この場合、第２対応表示ＭＥ５９２を注意深く視認するようになり、注目力をより向上させることができる。

【２６０１８】

また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示色として、表示が終了するまで同色であっても良いし、途中で変更されるようにしても良い。例えば、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも前においては白色で第２対応表示ＭＥ５９２が表示され、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅れて第２対応表示ＭＥ５９２が赤色に変化されるように構成しても良い。この場合、第２対応表示ＭＥ５９２が一度視認されたら注目力が低下されるものではなく、色が変化するかもしれないという期待から遊技者の注目力を維持し続けさせることができる。

【２６０１９】

一方で、例えば、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも前においては赤色で第２対応表示ＭＥ５９２が表示され、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅

れて第２対応表示ＭＥ５９２が白色に変化されるように構成しても良い。この場合、第２の上下移動制御が開始された後の視認では第２対応表示ＭＥ５９２が赤色で表示されたことを見逃すように構成することができるので、第２の上下移動制御が開始される前から第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に対する注目力を向上させることができる。

【２６０２０】

上記第１５７実施形態では、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作として、第１動作パターンで開始され、途中から第２動作パターンに切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２の上下移動制御の開始時点から第２動作パターンで制御が開始されるようにしても良い。この場合、対応表示ＭＥ５９０として第２動作パターンに更に適切な表示（例えば、可動装飾ユニットＭ６００の往復動作と同期して変動する表示）を設定すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１を利用した演出の演出効果を更に高めることができる。

【２６０２１】

上記第１５７実施形態では、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様として、可動装飾ユニットＭ６００の配置に対応して通常発光、露出発光、強発光とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、配置の変更は生じていなくとも、上述の通常発光、露出発光、強発光での発光態様でそれぞれ切り替えられるように構成しても良いし、点灯と消灯とを繰り返す制御が可能に構成しても良いし、発光色の規則的な変化がループされるよう構成しても良いし、他の動作ユニットの動作に対応して発光態様が切り替えられるように構成しても良い。

【２６０２２】

例えば、発光色の規則的な変化がループされる場合、視認される光の変化から移動装飾部Ｍ７７０の動作タイミングを予想されることを避けることができるので、移動装飾部Ｍ７７０が動作開始するまでの間、移動装飾部Ｍ７７０の登場する位置に対する注目力を向上させることができる。

【２６０２３】

例えば、第１の関連動作制御において、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ移動する場合において、移動装飾部Ｍ７７０の左右位置と合う透過部Ｍ５１２に対応する電飾基板Ｍ５１３のＬＥＤを、移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて順に発光させるように制御可能とすることで、移動装飾部Ｍ７７０の移動に伴って透過部Ｍ５１２を光らせる光が移動しているように遊技者に視認させることができる。

【２６０２４】

この後、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達したら、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様を通常発光、露出発光または強発光で維持させることで、透過部Ｍ５１２を通して視認される光の態様が変化され、遊技者は移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達したことを把握し易くなる。

【２６０２５】

上記第１５７実施形態では、第１の関連動作制御の説明として、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態に変化するまでの期間に、同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動され、この場合において被案内部Ｍ５５０が中間位置に維持されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ４４２が微少の往復動作を繰り返すことにより板状本体部Ｍ５１０が微少長さの上下往復移動を繰り返す中でスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が移動するように構成しても良い。なお、板状本体部Ｍ５１０の繰り返し移動のタイミングは、移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミングに対して同期する必要はない。

【２６０２６】

この場合であっても、板状本体部Ｍ５１０の上下幅の内側に移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界（少なくとも移動装飾部Ｍ７７０の下端部）が隠されていれば、遊技者が演出に違和感を受けることを避けることができる。また、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１よりも手前側で繰り返し動作する板状本体部Ｍ５１０及び可動装飾ユニ

ットＭ６００に注目させることができるので、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界に注目されることを避けることができる。

【２６０２７】

上記第１５７実施形態では、第１の関連動作制御の説明として、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態から第１の状態へ向けて移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態に到達したことが検出センサＭ７１３により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との往復移動が一回生じる度に被案内部Ｍ５５０が上昇位置へ復帰されるのではなく、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動が複数回生じる間、被案内部Ｍ５５０の位置が上昇位置へ復帰されないように構成しても良い。この場合、演出動作が画一的になることを避けることができるので、移動装飾部Ｍ７７０や、被案内部Ｍ５５０により動作される可動装飾ユニットＭ６００等に対する注目力を向上させることができる。

【２６０２８】

この場合において、移動装飾部Ｍ７７０に設定される往復移動の回数としては、１を最小として１ずつ増加する数（自然数）で設定されても良いし、特定の自然数（例えば、「３」「１０」）で設定されても良い。抽選に係る変動においては基本的に変動時間が長いほど大当たりの期待度が高いため、後者の設定の場合、３回目の往復移動を超えて４回目の往復移動が開始されると、この往復移動は１０回まで継続されることから、遊技者に大当たりかもという期待感を与えることができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【２６０２９】

上記第１５７実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００は、移動装飾部Ｍ７７０の動作の際に電飾基板Ｍ７７５の発光態様が維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ移動される場合に比較して、第２の状態から第１の状態へ移動される場合の方が発光強度を暗くする（又は消灯する）ように構成しても良い。また、その逆でも良い。

【２６０３０】

上記第１５７実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、移動装飾部Ｍ７７０の平行移動に対応して共に平行移動するよう表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の移動方向は移動装飾部Ｍ７７０の移動方向と平行なわけではなく、所定のラインに沿って移動装飾部Ｍ７７０に引っ張られる移動として構成されても良い。また、移動に対応する場合に限定されるものではなく、例えば、移動装飾部Ｍ７７０の発光色に対応した色味で連動意匠Ｍ７８１が表示され、移動装飾部Ｍ７７０の発光色の変化に対応して連動意匠Ｍ７８１の表示色も変化されるように構成されても良い。

【２６０３１】

上記第１５７実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、一定の形状を有する構成である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、「雲」や「雷」など不定形の構成とされても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の移動と連動意匠Ｍ７８１の変化とのずれを目立たなくすることができる。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の移動に対応して、連動意匠Ｍ７８１としての「雲」から「雷」が落ちるといった表示をさせても良い。移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が高速になるほど「雷」の落ちる頻度が上がったり、「雷」の落ちる範囲が広がったりすることで、対応していることを遊技者が分かり易くすることができる。

【２６０３２】

上記第１５７実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、移動装飾部Ｍ７７０の平行移動に対応して共に平行移動するよう表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の移動タイミング（周期）と移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミング（周期）とが異なるように制御されても良いし、移動装飾部Ｍ７７０の停止中において、連動意匠Ｍ７８１が移動するようにしても良い。この場合において、移動

装飾部Ｍ７７０側から拡大されるような動的な表示として構成されても良いし、移動装飾部Ｍ７７０の移動中において表示と非表示とが切り替えられるように構成しても良い。これにより、移動装飾部Ｍ７７０又は連動意匠Ｍ７８１の一方だけに注目される事態を避けることができ、双方に注目される機会を生じさせることができる。

【２６０３３】

また、例えば、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０側から拡大されるような動的な表示として構成される場合において、その動的な表示の繰り返し周期は、移動装飾部Ｍ７７０の移動の周期と独立させるように制御すればよい。この場合、連動意匠Ｍ７８１と移動装飾部Ｍ７７０とを別体として視認させ易くすることができるので、連動意匠Ｍ７８１と移動装飾部Ｍ７７０との境界でずれが生じても違和感を持たれ難くすることができる。

【２６０３４】

また、移動装飾部Ｍ７７０の移動が生じても連動意匠Ｍ７８１の配置は維持されるように構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｍ８１における連動意匠Ｍ７８１の描画のためのデータを削減することができ、ロードのための時間を短くすることができる。この場合において、移動装飾部Ｍ７７０の移動方向が前後方向であれば、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との正面視における位置ずれが生じることも無いので、より演出効果の向上を図ることができる。

【２６０３５】

また、連動意匠Ｍ７８１が、グローブでパンチするような動作態様で表示されることに対応して可動装飾ユニットＭ６００が第１動作と復帰制御による動作とが繰り返される態様で動作するように制御しても良い。これにより、連動意匠Ｍ７８１と連動される動作役物の数を増やし、遊技者の注目力を広範囲に広げることができる。

【２６０３６】

上記第１５７実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０と共に平行移動する連動意匠Ｍ７８１の表示態様が維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１におけるグローブに追加の装飾がされ、この装飾が移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて変化するように構成しても良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１における変化を視認することで、遊技者は、移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミングを把握することができる。

【２６０３７】

追加の装飾としては、種々の態様が例示される。例えば、グローブの傷が増えていくものでも良いし、パンチの打ち出し回数に対応する「１」「２」等の数字が増加される態様で追加されるものでも良い。または、グローブの傷などの特定のアイコンが徐々に減少されるものでも良い。

【２６０３８】

増加される態様について代表して以下で説明する（なお、減少される態様についても同様に設計できることは言うまでもない）。追加の装飾として、この数字が、特定の変動表示における任意のタイミングにおける移動装飾部Ｍ７７０の移動に対応して「１」から開始され、同変動表示内における移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の度に１ずつ増加するように制御する場合、移動装飾部Ｍ７７０の連続した動作の開始時期を認識させ易くすることができるし、連続した動作の途中から移動装飾部Ｍ７７０に遊技者が注目し始めた場合であっても、数字を見れば途中であることを認識することができる。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の移動回数を遊技者にわざわざ記憶させることを強いることなく、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の回数を連動意匠Ｍ７８１で視認される追加の装飾と対応付けることができ、追加の装飾の数字が多くなるほど抽選に係る変動表示が長いことを認識させることで、大当たり期待度（遊技者が得られる利益）が大きいことを遊技者に予想させ、遊技者の期待感を高めることができる。

【２６０３９】

この追加の装飾として数字が描かれる場合において、「１」から開始されるのではなく、「０」や、「２」以上の数字から開始されるものでも良い。この場合、連動意匠Ｍ７８

１に初めから注目していた遊技者に対して、なぜ「１」から開始しないのかという違和感を抱かせることができる。そして、大当たり期待度の高い変動表示において、「０」や、「２」以上の数字から開始される場合が生じるように制御することで、追加の装飾を含めた連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上させることができる。

【２６０４０】

この追加の装飾として数字が描かれる場合において、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の度に１ずつ増加する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動に合わせて、追加の装飾の数字において、同じ数字が繰り返される態様や、２以上増加された数字に変化される態様が生じるように制御しても良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１に注目していた遊技者に対して、なぜ「１」ずつ増加しないのかという違和感を抱かせることができる。そして、大当たり期待度の高い変動表示において、同じ数字が繰り返される態様や、２以上増加された数字に変化される態様が生じるように制御することで、追加の装飾を含めた連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上させることができる。そして、この違和感は、追加の装飾をある程度の長さ見ていれば把握できるが、追加の装飾を一瞬見るだけでは把握できないため、遊技者の連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を長期にわたり向上させることができる。また、この場合に連動意匠Ｍ７８１の色味も変化させるように制御することで、連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上させることができる。

【２６０４１】

なお、ここでいう追加の装飾の態様は、少なくとも「初回」か「途中」かが認識可能であればよく、数字に限定されるものではない。例えば、「スタート」から開始され、「コンティニュー」に続く態様や、「開始」から開始され、「継続」に続く態様でも良い。

【２６０４２】

追加の装飾の変化の時期については、種々の態様が例示される。例えば、追加の装飾の変化は、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動に合わせて生じるものであって、第２の関連動作制御の演出待機動作として到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行する動作が実行されても生じないように制御されても良い。この場合、追加の装飾の変化を視認した遊技者に対して可動装飾ユニットＭ６００よりも移動装飾部Ｍ７７０に注目すべきタイミングであることを認識させ易くすることができる。

【２６０４３】

また、例えば、追加の装飾の変化は、第２の関連動作制御の演出待機動作として到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行する動作の繰り返し回数と同期して生じるように制御されても良い。この場合、追加の装飾の変化と可動装飾ユニットＭ６００の動作とを一体的に視認させることができることから、連動意匠Ｍ７８１及び可動装飾ユニットＭ６００の演出効果を向上させることができる。

【２６０４４】

また、例えば、追加の装飾の変化が、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様として、通常発光、露出発光、強発光での発光態様でそれぞれ切り替えられるタイミングと同期して生じるように構成しても良い。この場合、追加の装飾の変化と電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様の変化とを一体的に視認させることができることから、連動意匠Ｍ７８１及び電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の演出効果を向上させることができる。

【２６０４５】

上記第１５７実施形態では、対応表示ＭＥ５９０、第２対応表示ＭＥ５９２、到達領域表示Ｍ８１ａが可動装飾ユニットＭ６００の移動先の位置に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者の注目を集めるための表示であればよく、実際には第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の前方に配置されないものでも、表示することが可能である。例えば、第１可変入賞装置Ｍ６５の形状が表示され、特定領域Ｍ６５ｃをより目立つように明るく表示するような態様での表示でも良い。この場合、

遊技者の注目を特定領域Ｍ６５ｃに集めることができる。
【２６０４６】
上記第１５７実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が視認可能な状態において移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ向けてスライド移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の表示が別の表示に切り替えられた状態で移動装飾部Ｍ７７０が移動される場合を構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界がそもそも生じ無いので、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界を隠す必要は無く、移動装飾部Ｍ７７０の動作タイミングの自由度を向上させることができる。
【２６０４７】
上記第１５７実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が固定され移動態様が画一化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ７２０の駆動制御を複数パターンの速度で実行可能に構成することで、移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が複数生じるように構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の動作速度の違いを、現在行われている変動に係る抽選の大当たり期待度と対応させることにより、移動装飾部Ｍ７７０の動作に対する注目力を向上させることができることから、演出効果の向上を図ることができる。
【２６０４８】
上記第１５７実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０が直線方向で移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が蛇行しながら移動される構成でも良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１も同様に蛇行した移動態様とすることで移動装飾部Ｍ７７０との対応を維持させることができるし、蛇行の方向転換時において速度が変化する（減速する）ことが通常である分、移動装飾部Ｍ７７０に生じるバックラッシによる速度変化が目立ち難くすることができ、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との動作ずれについても同様に目立ち難くすることができる。
【２６０４９】
上記第１５７実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０は右側へ向かうにつれて下降傾斜する直線方向でスライド移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が前後方向に移動するように構成しても良い。この場合、正面視では移動装飾部Ｍ７７０が移動したか否かを遊技者に気付かせ難く、視線の方向を変えることで（斜め方向から見ることで）変化に気づき易い態様とすることができるので、移動装飾部Ｍ７７０への注目力を向上させると共に、移動装飾部Ｍ７７０の移動を把握したい場合には視線の方向を変える等、遊技者に意欲的に取り組ませることができ、漫然と遊技することの解消を図ることができる。
【２６０５０】
上記第１５７実施形態では、第１の関連動作制御において、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が動作不良を起こしていると判断した場合に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を別態様に切り替える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、それと代えて又はそれに加えて、導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２を発光可能に構成しても良い。第２発光形状Ｍ２７２は、正面視で移動装飾部Ｍ７７０の動作軌跡と重なるため、発光により、移動装飾部Ｍ７７０の動作不良を目立たせ難くすることができる。
【２６０５１】
上記第１５７実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の関連動作制御として特定される一定のパターンで動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技待機状態（抽選に係る変動表示が停止されている状態等）において移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態（又は第２の状態）にある場合に遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作することに対応して移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（又は第１の状態）へ向けて移動するように構成しても良い。この場合、遊技者の操作によって移動装飾部Ｍ７７０の移動を生じさせることができることから、ボタン部Ｈ

１８１に対する遊技者の操作意欲を高めることができる。
【２６０５２】
　また、例えば、遊技者がボタン部Ｈ１８１の操作をすることで移動装飾部Ｍ７７０が移動されるよう制御される期間は、遊技待機状態に限るものではない。例えば、大当たり中において上述のように制御されても良い。この場合、大当たり中における遊技の楽しみ方として、遊技球を発射させることの他に、ボタン部Ｈ１８１を操作して移動装飾部Ｍ７７０を自由に移動させることを追加することができる。
【２６０５３】
　この場合において、ボタン部Ｈ１８１を操作することで移動装飾部Ｍ７７０を第１の状態へ早期に移動させることができ、対応する連動意匠Ｍ７８１を第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域から退避させ、代わりに後方で隠されていた演出動作をより長い時間視認可能となることから、ボタン部Ｈ１８１に対する操作意欲を向上させることができる。
【２６０５４】
　上記第１５７実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第３図柄表示装置Ｍ８１の上側に隣接する領域内においてスライド移動可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の中央側（表示領域内）まで移動可能に構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の全周を第３図柄表示装置Ｍ８１での表示と接する位置とすることができるので、移動装飾部Ｍ７７０と第３図柄表示装置Ｍ８１での表示との一体感を高めるように演出することができる。
【２６０５５】
　上記第１５７実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が、第１の関連動作制御の終盤において上昇移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御に関わらず、所定の契機において昇降移動部材Ｍ８６０を上昇移動させる場合を用意しても良い。所定の契機としては、例えば、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に維持された状態において可動装飾ユニットＭ６００の第１動作と復帰制御による動作とが数回繰り返されたことが検出された場合や、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から離れてから上昇端位置に戻るという上下動作が数回繰り返されたことが検出された場合に、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動されるように構成しても良い。これにより、意外性のある演出動作を視認させることができる。
【２６０５６】
　上記第１５７実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が、第１の関連動作制御の終盤において上昇移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動する代わりに又は上昇移動に加えて、第３図柄表示装置Ｍ８１において、昇降移動部材Ｍ８６０の意匠と同様の表示（立体的な昇降移動部材Ｍ８６０を正面視での平面的な意匠で変換した表示）をさせるように制御しても良い。この場合、昇降移動部材Ｍ８６０が動作不良を起こしても、それにより第１の関連動作制御の見映えが落ちることを避けることができる。また、この表示を、昇降移動部材Ｍ８６０に動作不良が生じたと主制御装置Ｈ１１０又は音声ランプ制御装置Ｈ１１３において判断した場合に実行するように構成しても良い。
【２６０５７】
　上記第１５７実施形態では、第２の関連動作制御の演出待機動作として、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作に代えて、又は動作に加えて、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が発光するよう制御されても良い。この場合において、動作の順に発光させる対象を切り替えるようにすれば、発光によっても、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の一方に注目させることができる。
【２６０５８】
　上記第１５８実施形態では、延設部Ｍ２５６８の角部が略直角形状とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上隅は略直角形状とされ、下隅

は面取り傾斜形状とされても良い。この場合、当接部材Ｍ２６０２が下から通り抜ける場合よりも、上から通り抜ける場合の方が通過を困難とできるので、延設部Ｍ２５６８の上側に当接部材Ｍ２６０２を維持させ易くすることができる。

【２６０５９】

上記第１５８実施形態では、当接部材Ｍ２６０２が正面視で細長い形状とされ姿勢変化可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視の外形が円形の形状から構成されても良い。即ち、当接部材Ｍ２６０２の内側開口Ｍ２６０２ａが円形状で形成され、受入孔部Ｍ２６０２ｂは円の直径方向で穿設され突条部Ｍ２６０２ｃの形成は省略するよう構成すれば良い。

【２６０６０】

この場合において、ねじりバネＭ２６１４ａの一端側において直線方向に伸縮するコイルスプリングが形成され、そのコイルスプリングの弾性力により、形状変形された当接部材Ｍ２６０２を可動装飾ユニットＭ２６００の回転軸を通る直線方向（動作円の直径方向）に変位可能に構成することで、延設部Ｍ２５６８に下側から当接して当接部材Ｍ２６０２と延設部Ｍ２５６８とが共に動作する態様と、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜けようと動作する態様とを構成することができる。

【２６０６１】

この場合、ねじりバネＭ２６１４ａが屈曲変形される場合に比較してバネの変形を緩やかにできることから、ねじりバネＭ２６１４ａが折れる等の不良を防止し易く、耐久性の向上を図ることができる。更に、当接部材Ｍ２６０２の外形が円形で構成されることから、構造的に均一とすることができ、局所的に疲労が蓄積されて破損するという事態を避け易く、耐久性の向上を図ることができる。

【２６０６２】

なお、当接部材Ｍ２６０２の形状は、外形が円形の筒状に限らず、外形が略球状に構成されるようにしても良い。例えば、当接部材Ｍ２６０２の外形を球状で形成した上で、延設支持部Ｍ２６１４と対向する側に延設支持部Ｍ２６１４を受け入れ可能な凹部を形成し、その凹部に延設支持部Ｍ２６１４が受け入れられるようにして当接部材Ｍ２６０２を配置しても良い。この場合、当接部材Ｍ２６０２の強度をより向上させることができる。

【２６０６３】

また、当接部材Ｍ２６０２を構成する材料について、樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接部材Ｍ２６０２を金属材料から構成しても良い。

【２６０６４】

当接部材Ｍ２６０２が樹脂材料から構成される場合には、材料的に軽量であるという利点や、安価であるという利点がある一方で、衝撃に弱く破損し易いという難点があり、それを解消するために肉厚になり易く、配置させるためのスペース確保が難しい場合があった。これに対し金属材料から形成する場合、強度的には十分であるので、無理に肉厚にする必要は無く、配置の自由度を向上させることができる。

【２６０６５】

上記第１５９実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の視認態様が、検出センサＭ４８３及び検出センサＭ３４８９により被案内部Ｍ５５０が検出されることに基づいて変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９に検出されるはずとして設定される期間において検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９に検出されないことに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００の視認態様が変化されるように構成しても良い。検出されることに基づくか、検出されないことに基づくかは、検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９ごとに設定が可能とされる。

【２６０６６】

上記第１５９実施形態では、調整表示として、縦の縮尺と横の縮尺とが同じ比率で縮小される表示となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、縦

だけ縮められた表示（表示が全体的に縦に潰された態様）となっていても良い。また、表示の大きさは変更されず、単に可動装飾ユニットＭ６００により隠される部分が生じるだけでも良い。

【２６０６７】

また、調整表示について、表示位置は左右中央である必要は無く、右端または左端にあっても良いし、左右方向位置のいずれかにあっても良い。また、その位置を遊技者が設定可能とされていても良い。

【２６０６８】

上記第１５９実施形態では、調整表示において、電飾基板Ｍ６３０の発光態様を変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示として、電飾基板Ｍ６３０の発光態様を切り替えることに代えて、又はそれに加えて、導光板Ｍ２６０の発光を切り替えるようにしても良い。調整表示において導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２を発光させるようにすることで、通常表示との違いを導光板Ｍ２６０の視認態様で示すと共に、可動装飾ユニットＭ６００が下降して空いたスペース（演出跡地）が露出されることを防止することができる。

【２６０６９】

上記第１５９実施形態では、第１の関連動作制御等の制御が開始される前において、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示における縮小された表示の領域内において、第１の関連動作制御において動作される可動部（可動装飾ユニットＭ６００、移動装飾部Ｍ７７０、昇降移動部材Ｍ８６０等）の意匠が第３図柄表示装置Ｍ８１に動的に表示されることで遊技者に第１の関連動作制御と同等の動作態様を視認させるようにしても良い。また、この場合において、実際の可動体の前後関係に基づいて表示層の前後関係を設定するようにしても良い。

【２６０７０】

上記第１５９実施形態では、第１の関連動作制御等の制御が開始される前において、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられ、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ボタン部Ｈ１８１の操作に基づいて可動装飾ユニットＭ６００が動作されるようにしても良い。このボタン部Ｈ１８１の操作は、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示や、音声出力により示唆されるものではなくても良い。

【２６０７１】

この場合において、可動装飾ユニットＭ６００の動作態様（動作速度、動作方向、動作量等）が、変動中の抽選が大当たりかどうかや、抽選の大当たり期待度の大小に基づいて変化するように構成される場合、ボタン部Ｈ１８１の操作意欲を高めると共に可動装飾ユニットＭ６００に対する注目力を向上させることができる。

【２６０７２】

上記第１５９実施形態では、調整表示にされることに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００が下降されることで表示の視認範囲が狭められる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動部材Ｍ８６０の上昇により表示範囲を上寄りで狭めるようにしても良いし、可動装飾ユニットＭ６００及び昇降移動部材Ｍ８６０を近接方向に動作させて表示範囲を上下中央位置寄りで狭めるようにしても良い。

【２６０７３】

昇降移動部材Ｍ８６０の上昇により表示範囲を変える場合、通常は球案内ユニットＭ９００の背後に隠されており特定の演出動作（第１の関連動作制御等）が実行されないと視認することができない昇降移動部材Ｍ８６０を、遊技者が調整ボタンＨ３０４４を操作したタイミングで視認することが可能となる。これにより、昇降移動部材Ｍ８６０が視認される頻度を引き上げることができ、昇降移動部材Ｍ８６０の演出効果を向上させることができる。

【２６０７４】

この場合において、橙色にＬＥＤの発光ベースが変更されるのを、昇降移動部材Ｍ８６０だけではなく、可動装飾ユニットＭ６００と共通で行っても良い。即ち、昇降移動部材Ｍ８６０の電飾基板Ｍ８６４と、可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０とで行っても良い。

【２６０７５】

この場合において、発光ベースが別々に変更されても良い。例えば、電飾基板Ｍ８６４は白色ベースから橙色ベースに変更され、電飾基板Ｍ６３０は白色ベースから赤色ベースに変更されても良い。

【２６０７６】

または、発光ベースの発光色は変更されず、光量が明確に変化されるようにしても良い。例えば、通常は使用しないようなＬＥＤの最大光量で発光させるように制御しても良い。

【２６０７７】

上記第１５９実施形態では、調整表示における表示色のベースは橙色（電飾基板Ｍ６３０の発光のベースに合わせた色味）とはならず、通常表示と同様の色味で表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示における表示色のベースについても橙色に変化させても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示の大小だけではなく、表示の色味からも、通常表示ではなく調整表示となっていることを遊技者に把握させ易くすることができる。そのため、先に遊技を行っていた遊技者が調整表示に変更したままで席を立った場合に、その後で遊技を開始した遊技者が、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が通常表示ではなく調整表示とされていることに気づかずに調整表示のまま遊技を継続する事態を回避し易くすることができる。

【２６０７８】

上記第１５９実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示とされる場合、電飾基板Ｍ６３０の発光の明るさが最大で固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能調整操作部Ｈ１９０を操作することによる電飾基板Ｍ６３０による発光の明るさ等についての設定が、調整表示とされる場合にも流用されるように制御しても良い。この場合、調整表示とされた場合に電飾基板Ｍ６３０の発光の明るさが突然変化した際に、その変化を、抽選に係る変動表示に対応した明るさの変化であると遊技者が勘違いする事態の発生を回避し易くすることができる。

【２６０７９】

上記第１５９実施形態では、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出される時間長さについてある条件が成立した場合に通常表示から調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出されたら即座に通常表示から調整表示に切り替えられるように構成しても良い。この場合、通常表示と調整表示とを切り替える制御が容易となり、制御のためのデータ容量を縮小させることができる。

【２６０８０】

上記第１５９実施形態では、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出される時間長さについてある条件が成立した場合に通常表示から調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、事前に設定された数値との比較によるものであれば十分であり、事前に設定された検出回数とのずれ（回数超過または回数未達）や、事前に設定された検出頻度とのずれ（頻度超過または頻度未達）を条件として通常表示から調整表示に切り替えられるよう構成しても良い。

【２６０８１】

上記第１５９実施形態では、調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、被案内部Ｍ５５０が中間位置まで下降し、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態まで回転移動するように制御されると共に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整ボタンＨ３０４４が操作されると被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が第

１の関連動作制御で動作され、その途中で被案内部Ｍ５５０が中間位置とされ、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態とされる状態において停止されると共に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示に切り替えられるように構成しても良い。

【２６０８２】

この場合、調整ボタンＨ３０４４が操作された場合における可動装飾ユニットＭ６００の動作範囲を大きくすることで、可動装飾ユニットＭ６００への遊技者の注目力を向上させることができる。なお、この場合においても、再び調整ボタンＨ３０４４が操作された場合における可動装飾ユニットＭ６００の動作は、復帰制御で構成されることから、通常表示への切り替えを即座に実行させることが可能とされるので、調整表示から通常表示に切り替えるのに要する待ち時間を短縮させることができる。

【２６０８３】

上記第１５９実施形態では、調整表示への切り替えと共に可動装飾ユニットＭ６００を動作させるための操作部として調整ボタンＨ３０４４のみを備える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、操作することで昇降移動部材Ｍ８６０を上昇移動または下降移動させることができる第２調整ボタンを追加で備えるようにしても良い。即ち、昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態の時に第２調整ボタンが操作されると昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態へ向けて上昇移動され、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態の時に第２調整ボタンが操作されると昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態へ向けて下降移動される。

【２６０８４】

第２調整ボタンの操作により昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合、調整ボタンＨ３０４４の操作により動作される演出動作ユニットＭ５００の動作態様によっては（例えば、第１の関連動作制御による動作の場合）、演出動作ユニットＭ５００が昇降移動部材Ｍ８６０と干渉し、移動を完了できないため、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態である場合には演出動作ユニットＭ５００の動作の実行を開始しないように制御しても良い。これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができる。

【２６０８５】

また、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態であることを検出する検出センサを追加し、その検出センサの検出結果により昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態であると判断された場合には、演出動作ユニットＭ５００の動作が開始される前に、遊技者に対して第２調整ボタンを操作することを促す報知を実行するように構成しても良い。これに応じて遊技者が第２調整ボタンを操作した場合には、昇降移動部材Ｍ８６０が下降移動されることで、演出動作ユニットＭ５００が移動を完了できる状態となる。これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができると共に、報知により遊技者の遊技に対する参加意欲を促進することができる。

【２６０８６】

なお、第２調整ボタンは、新規の構成として正面枠Ｈ３０１４に追加するようにしても良いが、既にある構成を兼用するようにすれば、新規の構成を追加する場合に比較して正面枠Ｈ３０１４の外観に与える影響を少なくでき、製造用の金型を流用することができるので、製造コストの低減を図ることができる。例えば、ボタン部Ｈ１８１や、機能調整操作部Ｈ１９０や、球抜きレバーＨ５２や、球排出レバーＨ５４等に、第２調整ボタンとしての機能を兼用させるように構成することが想定される。

【２６０８７】

この場合において、ボタン部Ｈ１８１が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、ボタン部Ｈ１８１が上下皿ユニットＨ１５の左右中央位置において他の操作部材に比較して大きな構造物として配設されていることから、操作させ易く、遊技者が操作部を探す際のストレスを低減することができる。

【２６０８８】

機能調整操作部Ｈ１９０が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、特に、決定ボ

タンＨ１９１にその機能を持たせることで、決定ボタンＨ１９１の有効利用を図ることができる。決定ボタンＨ１９１は、音量や光量の設定をした後においては、操作されること自体が稀であり、構成として無駄となってしまう。これに対し、決定ボタンＨ１９１に第２調整ボタンとしての機能を持たせることで、音量や光量の設定をした後においても機能調整操作部Ｈ１９０を意味のある構成とすることができる。

【２６０８９】

球抜きレバーＨ５２が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時には下皿Ｈ５０には球が未だ貯留されていないはずなので、第２調整ボタンとして操作しても、下皿５０に貯留されている遊技球を意図せず排出することになるという事態を避け易い。

【２６０９０】

更に、ファール球が下皿へ供給される関係上、気づかない間に下皿Ｈ５０に球が数球残される（溜まる）ことがあるが、上皿Ｈ１７やボタン部Ｈ１８１に視界が遮られることで下皿Ｈ５０の内部は視認されにくくなっており、下皿Ｈ５０の残球に遊技者が気づかないことがある。これに対し、球抜きレバーＨ５２が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時に積極的に球抜きレバーＨ５２を操作させることで、下皿Ｈ５０の残球の存在を遊技者に気付かせ易くすることができる。

【２６０９１】

球排出レバーＨ５４が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時において、球貸しボタンＨ４２を操作する前には上皿Ｈ１７には球が未だ貯留されていないはずなので、第２調整ボタンとして操作しても、上皿Ｈ１７に貯留されている遊技球を意図せず排出することになるという事態を避け易いため、せっかく上皿Ｈ１７に貯留されている球を無駄に排出するという事態を避けられる。

【２６０９２】

なお、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合に調整ボタンＨ３０４４の操作により動作される演出動作ユニットＭ５００が昇降移動部材Ｍ８６０と干渉することから、第２調整ボタンの操作を促す報知をする代わりに、又は報知をすることに加えて、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合に調整ボタンＨ３０４４が操作された場合には昇降移動部材Ｍ８６０が演出動作ユニットＭ５００と干渉しない位置に移動する制御（下端位置状態へ向けて移動する制御）がされ、その制御が完了した後で演出動作ユニットＭ５００が動作されても良い。

【２６０９３】

これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができる。更に、調整ボタンＨ３０４４の操作に加え、別のボタンの操作も必要とされる場合に比較して、遊技者が煩わしく感じることを避け易く、遊技を快適とすることができる。

【２６０９４】

上記第１５９実施形態では、調整ボタンＨ３０４４の操作により演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避され、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３に検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が縮小された表示（調整表示）から元の表示（通常表示）に戻される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３に検出された場合に、調整表示のまま維持可能に構成しても良い。この場合において、更に、現在実行されている変動表示に対応する抽選の大当たり期待度が高い場合に調整表示で維持され易いように制御を構築することで、遊技者に対して調整ボタンＨ３０４４の操作を意欲的に実行させることができる。

【２６０９５】

上記第１５９実施形態では、第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行開始される場合には、演

出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられるよう制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、制御の実行に関わらず、調整ボタンＨ３０４４の操作がされない限り調整表示から通常表示に切り替えられることは無いように構成しても良い。この場合、調整ボタンＨ３０４４を一度操作すれば、調整表示で維持した状態で遊技を継続することができるので、調整ボタンＨ３０４４を繰り返し操作する必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２６０９６】

上記第１６０実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０の復帰動作が弾性バネＭ６５５の付勢力による場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、リンク部材Ｍ３６６０の所定部に錘が配設され自重による回転で復帰しても良い。この場合、リンク部材Ｍ３６６０の復帰動作をバネ弾性に基づく弾性的な動作ではなく、重力加速度に基づく動作とすることができるので、仮に弾性バネＭ６５５が劣化したとしてもリンク部材Ｍ３６６０の動作不良が生じることを避けることができるし、更にはリンク部材Ｍ３６６０の復帰動作が後側スライド移動体Ｍ６５０に起因する状況を回避することができ、後側スライド移動体Ｍ６５０の配設を省略することができる。また、リンク部材Ｍ３６６０に駆動力を付与する別の駆動装置を配設して、その駆動装置の駆動によってリンク部材Ｍ３６６０の回転動作を任意のタイミングで実行可能に構成することにより、駆動力で復帰するようにしても良い。この場合、駆動装置の駆動力によりリンク部材Ｍ３６６０を任意の姿勢で停止させることも可能となる。

【２６０９７】

上記第１６０実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転が駆動モータＭ５０１の駆動制御のみ対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ５０１の駆動が解除されている場合においてピン付きギアＭ５８２の回転が発生する場合を構成可能としても良い。即ち、例えば、円弧形成部Ｍ５８４ａに金属材料から形成される錘部を配設することで、可動装飾ユニットＭ３６００が起き上がり側終端状態である場合からのピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転角度が小さい場合（駆動力が弱い場合）に、錘部による回転動作によりピン付きギアＭ５８２が元の姿勢に戻るように構成しても良い。この場合、駆動モータＭ５０１の駆動力が意図せず弱くなった場合に、演出意図に合わない不十分な角度でピン付きギアＭ５８２が停止する事態が生じても、ピン付きギアＭ５８２を自動的に元の姿勢に戻すことができる。

【２６０９８】

なお、円弧形成部Ｍ５８４ａに金属材料から形成される錘部を配設しない構成であれば、自動的にピン付きギアＭ５８２を回転させることはできないとしても、ピン付きギアＭ５８２及び円板付きギアＭ５８４の回転抵抗を低減させることができるので、ピン付きギアＭ５８２を回転動作させるのに必要となる駆動モータＭ５０１の駆動力を抑制させることができるので、駆動モータＭ５０１の駆動力が意図せず弱くなる事態が発生し難くすることができる。また、ピン付きギアＭ５８２に対して正面視時計回りに方向に付勢力を付与する付勢バネを採用することで、ピン付きギアＭ５８２に戻り動作をさせるように構成しても良い。

【２６０９９】

上記第１６０実施形態では、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作中に柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越えた場合に、リンク部材Ｍ３６６０が即座に傾倒する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、弾性バネＭ６５５を省略することで、リンク部材Ｍ３６６０の回転動作は柱状部Ｍ５８２ａから付与される荷重でのみ実行され柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０から離間している状態ではリンク部材Ｍ３６６０の姿勢が維持されるように構成しても良い。

【２６１００】

この場合、リンク部材Ｍ３６６０に付勢力がかけられていないので、押進時における動作抵抗を低減させることができ、ピン付きギアＭ５８２の回転動作に要する駆動モータＭ５０１の駆動力を小さく抑えることができるし、更に、柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ

３６６３を越えた後でピン付きギアＭ５８２の回転方向を反転させた場合でも被押進板部Ｍ３６６３に柱状部Ｍ５８２ａが進行を遮られることが無いので、ピン付きギアＭ５８２の回転動作の設計自由度を向上させることができる。

【２６１０１】

なお、この場合であっても、ピン付きギアＭ５８２が正面視時計回り方向で回転動作する場合に柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４を押進することでリンク部材Ｍ３６６０の姿勢を変化させることから、リンク部材Ｍ３６６０の往復回転動作は問題なく実行可能である。

【２６１０２】

上記第１６０実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の爪（被押進板部Ｍ３６６３）のみが形成され、残りの爪（対向突部Ｍ３６６４）は省略しても良い。対向突部Ｍ３６６４があれば、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの動作速度に対応した速度でリンク部材Ｍ３６６０を動作させることができる（追従動作させることができる）が、リンク部材Ｍ３６６０の戻り動作は付勢力や自重に任せるとして対向突部Ｍ３６６４を省略しても良い。

【２６１０３】

この場合、ピン付きギアＭ５８２の動作の設計自由度を向上させることができる。即ち、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで継続回転される場合において、仮にリンク部材Ｍ３６６０の姿勢が中途半端な状態で柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０に衝突しても（例えば、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢が復帰しきる前に柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０に衝突するほどにピン付きギアＭ５８２の回転速度が高速とされたとしても）、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４と衝突する事態が生じることは無く、常に柱状部Ｍ５８２ａを被押進板部Ｍ３６６３で受けることができるので、ピン付きギアＭ５８２を高速で回転制御させることができる。また、リンク部材Ｍ３６６０の初期姿勢の設定の自由度についても向上させることができ、柱状部Ｍ５８２ａを待ち受ける際のリンク部材Ｍ３６６０の姿勢にバリエーションを増やす設計をすることができる。

【２６１０４】

上記第１６０実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、二股の爪とされている部分の先端部が連結され、柱状部Ｍ５８２ａを内周側に配置させる異形孔形状を有する構成としても良い。この場合、柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０から外れることを防止することができ、動作を安定させることができる。

【２６１０５】

上記第１６０実施形態では、検出センサＭ３６６３として接触式のセンサが採用されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、柱状部Ｍ５８２ａが進入可能な検出溝を備える非接触式のセンサを採用しても良い。この場合、センサに柱状部Ｍ５８２ａからの荷重が付与されることが無く、荷重による欠損の可能性を低くすることができるので、安定して柱状部Ｍ５８２ａの移動を検出することができる。

【２６１０６】

また、検出センサＭ３６６３の配置についても、変位部材Ｍ３６９０に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、柱状部Ｍ５８２ａの移動を検出可能な位置であれば、固定配置でも良い。この場合、変位部材Ｍ３６９０の移動により検出センサＭ３６６３の位置が設計位置（変位許容位置）から外れることを避けることができるので、柱状部Ｍ５８２ａの検出を安定させることができる。

【２６１０７】

上記第１６１実施形態では、回転移動部材Ｍ４６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の爪（被押進板部Ｍ３６６３）のみが形成され、残りの爪（対向突部Ｍ３６６４）は省略しても良い。対向突部Ｍ３

６６４があれば、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの動作速度に対応した速度で回転移動部材Ｍ４６６０を動作させることができる（追従動作させることができる）が、回転移動部材Ｍ４６６０の戻り動作は付勢力や自重に任せるとして対向突部Ｍ３６６４を省略しても良い。

【２６１０８】

この場合、ピン付きギアＭ５８２の動作の設計自由度を向上させることができる。即ち、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで継続回転される場合において、仮に回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢が中途半端な状態で柱状部Ｍ５８２ａが回転移動部材Ｍ４６６０に衝突しても（例えば、回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢が復帰しきる前に柱状部Ｍ５８２ａが回転移動部材Ｍ４６６０に衝突するほどにピン付きギアＭ５８２の回転速度が高速とされたとしても）、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４と衝突する事態が生じることは無く、常に柱状部Ｍ５８２ａを被押進板部Ｍ３６６３で受けることができるので、ピン付きギアＭ５８２を高速で回転制御させることができる。また、回転移動部材Ｍ４６６０の初期姿勢の設定の自由度についても向上させることができ、柱状部Ｍ５８２ａを待ち受ける際の回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢にバリエーションを増やす設計をすることができる。

【２６１０９】

上記第１６１実施形態では、ピン付きギアＭ５８２は可動装飾ユニットＭ４６００に遮蔽されることで視認されないようになっており、可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度から回転移動部材Ｍ４６６０の回転動作について遊技者に予測させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ピン付きギアＭ５８２ａと重なる位置における可動装飾ユニットＭ４６００の部品が光透過性材料から形成されており、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが正面視で視認可能に構成されても良い。

【２６１１０】

この場合、回転移動部材Ｍ４６６０を押進する柱状部Ｍ５８２ａの動作速度を直接視認させることができるので、例えば可動装飾ユニットＭ４６００から柱状部Ｍ５８２ａが離間する場合（可動装飾ユニットＭ４６００を置き去りにして柱状部Ｍ５８２ａが下方へ回転移動する場合等）であっても、回転移動部材Ｍ４６６０の動作を柱状部Ｍ５８２ａの動作態様から予測することが可能となるので、柱状部Ｍ５８２ａに対する注目力を向上させることができる。

【２６１１１】

なお、柱状部Ｍ５８２ａを視認させる領域は、柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡の全体を含む領域として設定しても良いし、柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡の一部のみを含む領域として設定しても良い。例えば、回転移動部材Ｍ４６６０に近い側（例えば、ピン付きギアＭ５８２の回転軸よりも下側）においてピン付きギアＭ５８２ａが視認可能とされ、回転移動部材Ｍ４６６０から離れた側（例えば、ピン付きギアＭ５８２の回転軸よりも上側）においてピン付きギアＭ５８２ａが視認不能とされるように構成しても良い。

【２６１１２】

この場合、回転移動部材Ｍ４６６０に当接する以前から当接するタイミングまで柱状部Ｍ５８２ａを視認可能とすることで、柱状部Ｍ５８２ａの動作速度を遊技者に把握させることができ、柱状部Ｍ５８２ａに対する注目力を向上させることができる一方で、回転移動部材Ｍ４６６０に当接しない場合にまで柱状部Ｍ５８２ａに注目が向かうことを避けることができる。これにより、遊技者の目線を分散させることができる。

【２６１１３】

上記第１６１実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００の起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ向けた動作中においてボタン部Ｈ１８１を操作することでピン付きギアＭ５８２の動作速度が変化され得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態とされている状態でボタン部Ｈ１８１を操作すると、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回り方向で回転動作される場合を構成可能としても良い。

【２６１１４】
この場合において、ボタン部Ｈ１８１の操作によるピン付きギアＭ５８２の動作態様は種々の態様が例示される。例えば、ピン付きギアＭ５８２は所定の角度を往復回転動作するものでも良いし、一方向に回転動作するものでも良い。また、例えば、ボタン部Ｈ１８１を一回操作する度に一定の角度回転動作される（複数回の操作で、一定の角度と操作回数との積となる角度で回転動作される）ものでも良いし、ボタン部Ｈ１８１を操作している期間においてピン付きギアＭ５８２の動作が継続されるものでも良いし、ボタン部Ｈ１８１の操作量を検出可能に構成し操作量が大きいほどピン付きギアＭ５８２の動作速度が高速となるように構成しても良い。
【２６１１５】
また、ボタン部Ｈ１８１の操作が解除された時においてピン付きギアＭ５８２が停止するものでも良いし、動作前の状態に復帰するように戻り動作するものでも良い。戻り動作するものである場合、ボタン部Ｈ１８１の操作を解除した状態でも可動装飾ユニットＭ４６００の動作が継続されることから、ボタン部Ｈ１８１及び可動装飾ユニットＭ４６００に注目を分散させることができる。また、戻り動作の有無が、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの変位量に基づいて決定されても良い。柱状部Ｍ５８２ａの変位量が僅か（例えば、回転移動部材Ｍ４６６０に到達しない量）である場合には戻り動作させる一方、それ以上に変位している場合（回転移動部材Ｍ４６６０を越える程度に変位している場合）には、同方向に回転動作させる方が戻り動作に必要な回転角度を抑えられる。
【２６１１６】
上記第１６１実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転動作に対応して可動装飾ユニットＭ４６００が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ４６００の回転先端側を下支え可能な出没式のストッパ装置を備え、没入状態では可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作を許容し、突出状態では可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態で固定する（回転動作を許容しない）ように構成しても良い。
【２６１１７】
この場合、可動装飾ユニットＭ４６００は起き上がり側終端状態で維持したままで回転移動部材Ｍ４６６０を回転動作させることが可能となるので、動作態様として、可動装飾ユニットＭ４６００の独立動作だけでなく、回転移動部材Ｍ４６６０の独立動作も構成させることができる。なお、このストッパ装置を上記第１５７実施形態～上記第１６０実施形態において採用しても良い。
【２６１１８】
上記第１６１実施形態では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態において延設構成部Ｍ４６６５が視認可能とされ、発光演出を実行可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、待機状態において延設構成部Ｍ４６６５が視認不能に構成されても良い。これにより、延設構成部Ｍ４６６５へ注目させるタイミングを、延設構成部Ｍ４６６５が待機状態から動作した場合に限定させることができ、延設構成部Ｍ４６６５が待機状態にある場合には注目を他の箇所（例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示等）に向けさせることができる。
【２６１１９】
上記第１６１実施形態では、延設構成部Ｍ４６６５において発光部Ｍ４６６６が等間隔で配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不等間隔でも良い。特に、可動装飾ユニットＭ４６００に隠されない回転先端側において残像を形成可能な領域は、回転動作軌跡としての円の径方向の幅が狭いため、回転先端側における発光部Ｍ４６６６の配置間隔を狭めることで、より精密な表示を可能とすることができる。
【２６１２０】
上記第１６１実施形態では、延設構成部Ｍ４６６５を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設構成部Ｍ４６６５の構成を省略しても良い。この場合に

おいても、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆについては、対応する透過表示を第３図柄表示装置Ｍ８１で実行させることで同様の演出効果を生じさせることができる。

【２６１２１】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【２６１２２】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【２６１２３】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【２６１２４】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【２６１２５】

＜所定領域において一緒に動作させる構造＞

表示装置と、その表示装置の表示領域の正面視外方から変位され前記表示装置の前方側に位置し得る第１手段が当接可能とされる第２手段と、を備え、所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づく前記第１手段との当接により前記第２手段が変位される遊技機であって、前記所定領域における前記第１手段の変位を案内可能な案内手段を備え、前記遊技機は、前記第１手段の変位に基づく前記第２手段の変位を抑制する第３手段を備え、前記第２手段の変位が前記第３手段に抑制された後において、前記第１手段は前記第２手段から離間する態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＭＡ１。

【２６１２６】

パチンコ機等の遊技機において、変位可能な第１手段および第１手段の上方側への変位

に基づいて変位される第２手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１手段と第２手段とが常時接触されており、第１手段の変位を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【２６１２７】

これに対し、遊技機ＭＡ１によれば、第１手段と、第２手段とが、所定領域において共に変位されるものであって、第２手段の変位を抑制する第３手段を備え、第２手段の変位が第３手段に抑制された後において、第１手段は第２手段から離間する態様で変位可能とされることから、第１手段の変位を好適とすることができる。

【２６１２８】

第１手段は、それ単体で動作可能に構成される可動装飾ユニットＭ６００自体でも良いし、可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される当接部材Ｍ６０２でも良いし、可動装飾ユニットＭ２６００の当接部材Ｍ２６０２でも良い。また、樹脂材料から構成される部材であってもよく、金属材料から構成される部材であってもよい。第２手段は、扇形状構成部Ｍ５６０でも良い。案内手段は、円弧状貫通部Ｍ５１５でも良い。第３手段は、突設補助部Ｍ５４５でも良いし、円板付きギアＭ５８４でも良い。

【２６１２９】

遊技機ＭＡ１において、前記第１手段は、前記第２手段の変位が前記第３手段に抑制された後において下方へ変位される場合に前記第２手段から離間されることを特徴とする遊技機ＭＡ２。

【２６１３０】

遊技機ＭＡ２によれば、遊技機ＭＡ１の奏する効果に加え、第３手段によって第２手段の変位が抑制された後においても、その抑制が第１手段にまで影響を及ぼす事態を避け易くすることができる。

【２６１３１】

遊技機ＭＡ１又はＭＡ２において、前記所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づいて前記第２手段が変位された場合において、前記第１手段が前記第２手段を越える態様で変位されることを特徴とする遊技機ＭＡ３。

【２６１３２】

遊技機ＭＡ３によれば、遊技機ＭＡ１又はＭＡ２の奏する効果に加え、第１手段の変位が、第３手段により抑制された第２手段に制限を受けないで実行されるよう構成することができる。

【２６１３３】

遊技機ＭＡ１からＭＡ３のいずれかにおいて、前記所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づいて前記第２手段が変位され、前記第１手段が前記第２手段から離間された場合において、前記第２手段は、変位される前の位置へ復帰する動作が可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ４。

【２６１３４】

遊技機ＭＡ４によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段により変位される前の第２手段の位置を安定させることができる。

【２６１３５】

遊技機ＭＡ１からＭＡ４のいずれかにおいて、前記第２手段は前後方向の変位はせず、前記第１手段は前後方向の変位が許容されることを特徴とする遊技機ＭＡ５。

【２６１３６】

遊技機ＭＡ５によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段と第２手段との当接位置を変化させることができ、当接位置における疲労の蓄積を低減させることができる。

【２６１３７】

遊技機ＭＡ１からＭＡ５のいずれかにおいて、駆動手段を備え、前記第１手段は前記駆動手段の駆動力で上向きに移動されることを特徴とする遊技機ＭＡ６。

【２６１３８】
遊技機ＭＡ６によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ５のいずれかの奏する効果に加え、自重による変位の他、駆動手段の駆動力による変位を構成することができる。駆動手段は駆動モータＭ５０１でも良い。
【２６１３９】
遊技機ＭＡ１からＭＡ６のいずれかにおいて、検出手段を備え、前記第１手段の変位は前記検出手段により検出可能とされ、前記第２手段の変位は前記検出手段により検出されないことを特徴とする遊技機ＭＡ７。
【２６１４０】
遊技機ＭＡ７によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ６のいずれかの奏する効果に加え、検出手段の配設個数を削減することができる。
【２６１４１】
遊技機ＭＡ１からＭＡ７のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第２手段は、共通の回転軸を中心として回転移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ８。
【２６１４２】
遊技機ＭＡ８によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段の変位の方向を合わせることができる。
【２６１４３】
遊技機ＭＡ１からＭＡ８のいずれかにおいて、前記第２手段は、所定の回転軸を中心とした回転移動が、前記所定の回転軸の移動中に実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ９。
【２６１４４】
遊技機ＭＡ９によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の動作態様を複数種類構成可能となる。
【２６１４５】
遊技機ＭＡ１からＭＡ９のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段に近接する方向で前記所定領域へ向けて変位され前記第２手段に当接可能に構成されており、前記第１手段が前記第２手段に近接する方向で前記所定領域へ向けて変位される場合において、前記第２手段は、前記第１手段が当接していない状態において停止されることを特徴とする遊技機ＭＡ１０。
【２６１４６】
遊技機ＭＡ１０によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第１手段が第２手段に対して近接する方向で変位される場合に第２手段が停止されることから、当接位置を安定させることができる。
【２６１４７】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１０のいずれかにおいて、前記所定領域の少なくとも一部において、前記第１手段の変位方向が所定方向からその逆方向に変化可能に構成されており、前記第２手段が前記第３手段により前記第１手段の前記逆方向への変位に対する抵抗を生じるように構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ１１。
【２６１４８】
遊技機ＭＡ１１によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１手段が逆方向よりも所定方向に変位し易いようにすることができるので、第１手段の所定方向への変位を安定的に生じさせることができる。
【２６１４９】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１１のいずれかにおいて、前記第２手段は、所定の回転軸を中心に往復動作可能に構成され、前記所定の回転軸は、少なくとも金属部材を含み、皿状部を端部に有する棒状部材であることを特徴とする遊技機ＭＡ１２。
【２６１５０】
遊技機ＭＡ１２によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、第２手段を所定の回転軸で支持するという支持強度が足らなくなりがちな構成にあっても

、回転軸が少なくとも金属部材を含むことで強度を確保することができ、更に回転軸の形状により第２手段の軸線方向の位置ずれを防止し易くすることができる。
【２６１５１】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１２のいずれかにおいて、前記案内手段には、前記第１手段を検出可能な検出手段が配設されることを特徴とする遊技機ＭＡ１３。
【２６１５２】
遊技機ＭＡ１３によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、案内手段を、第１手段の変位を案内するものと、検出手段を配設するものとで兼用させることができる。
【２６１５３】
遊技機ＭＡ１２又はＭＡ１３において、前記案内手段は、前記所定の回転軸を配置させる孔部を備えることを特徴とする遊技機ＭＡ１４。
【２６１５４】
遊技機ＭＡ１４によれば、遊技機ＭＡ１２又はＭＡ１３の奏する効果に加え、第１手段の変位を案内する案内手段の孔部に第２手段の回転軸としての所定の回転軸が配置されることから、第１手段の変位を第２手段の変位に対応させ易くすることができる。
【２６１５５】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１４のいずれかにおいて、前記第１手段の速度が大きい場合の方が、前記第１手段の速度が小さい場合に比較して、前記第１手段が前記第２手段を超えて通過され易いよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ１５。
【２６１５６】
遊技機ＭＡ１５によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の速度を異ならせることにより、第１手段の変位態様を異ならせることができるので、第１手段の変位のバリエーションの増加を図ることができる。
【２６１５７】
＜移動手段の移動途中で動作する第２動作手段を有する構成＞
駆動手段と、移動手段へ前記駆動手段の駆動力を伝達させるための伝達手段と、前記移動手段を所定方向に移動させる場合に動作される第１動作手段と、前記移動手段の移動可能領域に少なくとも一部が位置するように構成されており前記移動手段に当接されることに基づく動作が可能に構成される第２動作手段と、を備え、前記第２動作手段は、前記第１動作手段の所定部から離間して配置されており、前記移動手段は、前記第２動作手段と当接する第１領域と、その第１領域とは異なる第２領域とを移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ１。
【２６１５８】
パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動して回転移動される移動手段である回転移動ギアの偏心した位置から円柱状に突設される突設部を介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアの動作により実現される動作は動作手段が往復される態様に限定されており、動作による演出が単調となっていた。一方で、単純に動作手段の動作態様を増加させるとしても、回転移動ギアの回転（抵抗）に影響を及ぼす可能性があり、それを解決するための困難性が生じることは想像に難くない。即ち、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアにより生じる動作が複数構成される場合に、回転移動ギアである移動手段の移動を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【２６１５９】
これに対し、遊技機ＭＢ１によれば、移動手段により動作される第１動作手段と第２動作手段とが構成され、それらが離間して配置されていることから、移動手段に対する第１動作手段からの影響と、第２動作手段からの影響とが、同時に生じることを回避し易くすることができるので、移動手段の移動を好適とすることができる。
【２６１６０】

なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、移動手段は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、伝達手段は、モータギアＭ５８１でもよく、第１動作手段は、板状本体部Ｍ６１０でもよく、第２動作手段は、リンク部材Ｍ６６０でもよい。

【２６１６１】

遊技機ＭＢ１において、前記第１動作手段の所定動作が実行された後で前記第２動作手段が動作され得ることを特徴とする遊技機ＭＢ２。

【２６１６２】

遊技機ＭＢ２によれば、遊技機ＭＢ１の奏する効果に加え、第１動作手段の動作が実行されたことを把握させた場合に第２動作手段が動作することを事前に把握させることができるので、第２動作手段に注目させることができる。

【２６１６３】

遊技機ＭＢ２において、前記所定動作が実行された後で前記第２動作手段が動作されない場合を構成可能とされており、前記所定方向に移動している前記移動手段が前記第２動作手段に当接するよりも前の所定領域の少なくとも一部において前記移動手段が視認可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ３。

【２６１６４】

遊技機ＭＢ３によれば、遊技機ＭＢ２の奏する効果に加え、第２動作手段が動作するか否かを所定領域の移動手段を視認することで把握することができるので、遊技者の注目力を所定領域に集めることができ、移動手段の移動に注目させることができる。

【２６１６５】

遊技機ＭＢ３において、前記所定領域の少なくとも一部は、前記所定領域における前記第２動作手段に近い側に位置することを特徴とする遊技機ＭＢ４。

【２６１６６】

遊技機ＭＢ４によれば、遊技機ＭＢ３の奏する効果に加え、第２動作手段に当接し得ない位置でまで移動手段に注目させることを避け、不必要な注目力の分散を防止することができる。

【２６１６７】

遊技機ＭＢ１からＭＢ４のいずれかにおいて、前記第２動作手段が前記所定方向に移動する前記移動手段と一側の面で当接可能に構成され、その当接後、前記移動手段が前記第２動作手段から前記所定方向に離れる場合と、前記移動手段が前記第２動作手段から前記所定方向の逆方向に離れる場合とを構成可能であることを特徴とする遊技機ＭＢ５。

【２６１６８】

遊技機ＭＢ５によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ４のいずれかの奏する効果に加え、第２２動作手段に当接された後の移動手段の移動のバリエーションを増やすことができ、第２動作手段および移動手段に対する注目力を向上させることができる。

【２６１６９】

遊技機ＭＢ１からＭＢ５のいずれかにおいて、前記第２動作手段は、前記所定方向に移動する前記移動手段と一側の面で当接可能に構成され、その一側の面に当接し前記第１領域を通過した前記移動手段の前記所定方向の逆方向への移動を他側の面で遮ることが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ６。

【２６１７０】

遊技機ＭＢ６によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段により移動手段の逆方向への移動を遮ることができるので、移動手段の所定方向への移動を継続させ易くすることができる。

【２６１７１】

遊技機ＭＢ１からＭＢ６のいずれかにおいて、前記第１動作手段が前記第２動作手段と一体的に変位する場合を構成可能であることを特徴とする遊技機ＭＢ７。

【２６１７２】

遊技機ＭＢ７によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ６のいずれかの奏する効果に加え、第１動作手段と第２動作手段とが別々に動作される場合のみではなく、一体的に変位する場合

を構成できることで、第１動作手段および第２動作手段を利用した動作演出のバリエーションを増やすことができる。
【２６１７３】
遊技機ＭＢ１からＭＢ７のいずれかにおいて、前記第１動作手段の動作速度と第２動作手段の動作速度とが対応することを特徴とする遊技機ＭＢ８。
【２６１７４】
遊技機ＭＢ８によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ７のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段の動作が開始される前から第２動作手段の動作速度を予測させることができる。
【２６１７５】
遊技機ＭＢ１からＭＢ８のいずれかにおいて、前記第１動作手段の動作力と第２動作手段の動作力とが対応することを特徴とする遊技機ＭＢ９。
【２６１７６】
遊技機ＭＢ９によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ８のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段の動作が開始される前から第２動作手段の動作力（動作量）を予測させることができる。
【２６１７７】
遊技機ＭＢ１からＭＢ９のいずれかにおいて、前記第２動作手段を常時視認可能とさせることを特徴とする遊技機ＭＢ１０。
【２６１７８】
遊技機ＭＢ１０によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ９のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段の動きを把握させ易くすることができ、第２動作手段に対する注目力を向上させることができる。
【２６１７９】
＜一方の動きに合わせて他方の動きが変化＞
制御手段と、その制御手段の制御に基づいて動作可能に構成される第１可動部および第２可動部と、前記第２可動部の動作と対応した表示を実行可能に構成される表示手段と、を備え、移動手段の所定部の検出に基づいて前記第１可動部の動作開始を前記制御手段に判断させることが可能に構成され、前記第１可動部の動作開始に対応して前記第２可動部が第１の制御態様で動作可能に構成され、前記第２可動部は、所定領域側に進出している状態と、前記所定領域側から退避している状態と、を切り替え可能とされ、前記制御手段は、前記第１の制御態様における前記第２可動部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、前記第１の制御態様での動作実行期間中であっても前記第２可動部が第２の制御態様で動作するよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１。
【２６１８０】
パチンコ機等の遊技機において、第１可動部と、その第１可動部に対応する第２可動部とが、独立して動作可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１可動部の動作に対応して第２可動部が動作されることで適切な演出が実行されるものであるところ、第１可動部または第２可動部の一方に動作不良があるかに関わらず、他方の動作が実行されるものとなっており、第１可動部および第２可動部の動作を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。
【２６１８１】
これに対し、遊技機ＭＣ１によれば、制御手段は、第１の制御態様における第２可動部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、第１の制御態様での動作の途中であっても第２可動部は第２の制御態様での動作を実行するよう構成されるので、第１可動部に動作不良があった場合であっても第２可動部の制御態様を変えることで、第１可動部および第２可動部の動作を好適とすることができる。
【２６１８２】
なお、第１可動部は、板状本体部Ｍ５１０（演出動作ユニットＭ５００）でも良い。第２可動部は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。移動手段の所定部は、前方突設部Ｍ４

４４でも良い。
【２６１８３】
遊技機ＭＣ１において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第１の制御態様での動作に対応するよう構成されており、前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作実行期間中において継続して実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ２。
【２６１８４】
遊技機ＭＣ２によれば、遊技機ＭＣ１の奏する効果に加え、所定の条件が成立した場合に遊技者が対応した表示を視認した場合であっても、敢えて表示を消さずに継続して実行し、第２可動部の動作を第２の制御態様で継続させることにより、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。
【２６１８５】
遊技機ＭＣ１又はＭＣ２において、前記対応した表示は、前記第２可動部の動作停止後において継続して実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ３。
【２６１８６】
遊技機ＭＣ３によれば、遊技機ＭＣ１又はＭＣ２の奏する効果に加え、第２可動部の動作停止後において対応した表示が継続して実行可能とされていることから、第２可動部が第１の制御態様での動作を完了して停止したか、第２可動部が第２の制御態様での動作を実行した後で停止したかに関わらず、停止した第２可動部および対応した表示に基づく同様の視認態様を遊技者に視認させることができるので、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。
【２６１８７】
遊技機ＭＣ１からＭＣ３のいずれかにおいて、前記対応した表示の実行期間が複数構成可能とされることを特徴とする遊技機ＭＣ４。
【２６１８８】
遊技機ＭＣ４によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ３のいずれかの奏する効果に加え、対応した表示の実行期間が複数構成可能とされるので、対応した表示を利用した演出効果を向上させることができる。
【２６１８９】
遊技機ＭＣ４において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第１の制御態様での動作に対応するよう構成されており、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作が実行された場合の方が、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作が実行されなかった場合に比較して、前記対応した表示の実行期間が短くされることを特徴とする遊技機ＭＣ５。
【２６１９０】
遊技機ＭＣ５によれば、遊技機ＭＣ４の奏する効果に加え、対応した表示を、対応する第１の制御態様での動作と視認される状態が継続して実行される場合には長く残す一方、第１の制御態様とは異なる第２の制御態様での動作と視認される状態では短くすることで、対応した表示を視認する遊技者が違和感を抱く可能性を低くすることができ、対応した表示の演出効果を向上させることができる。
【２６１９１】
遊技機ＭＣ１からＭＣ５のいずれかにおいて、前記第２可動部は、発光可能に構成される発光手段を備え、前記発光手段の発光態様が前記第２可動部の移動に基づいて変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ６。
【２６１９２】
遊技機ＭＣ６によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ５のいずれかの奏する効果に加え、移動中における第２可動部の演出効果を向上させることができる。
【２６１９３】
遊技機ＭＣ１からＭＣ６のいずれかにおいて、前記所定の条件は、前記第１可動部の動作に関連することを特徴とする遊技機ＭＣ７。

【２６１９４】
遊技機ＭＣ７によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ６のいずれかの奏する効果に加え、第１可動部と第２可動部との連動を適切に実行することができる。
【２６１９５】
遊技機ＭＣ１からＭＣ７のいずれかにおいて、移動手段の所定部を検出可能な検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＣ８。
【２６１９６】
遊技機ＭＣ８によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ７のいずれかの奏する効果に加え、検出手段による検出によって第１可動部の動作開始を制御手段が判断できるので、第２可動部の動作を適切なタイミングで開始させることができる。なお、検出手段は、検出センサＭ４５３でも良い。
【２６１９７】
遊技機ＭＣ８において、前記検出手段には、前記第２可動部の動作準備段階に検出可能な第１の検出手段と、前記第２可動部の所定の動作に伴って検出可能となる第２の検出手段とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ９。
【２６１９８】
遊技機ＭＣ９によれば、遊技機ＭＣ８の奏する効果に加え、第２可動部の動作準備段階による検出と、第２可動部の動作開始後の検出とを別々の検出センサで行うことで、第２可動部の動作を正確に実行させることができる。
【２６１９９】
本願発明の第２の検出手段は、検出センサＭ５１６や検出センサＭ８１５のように対象物を移動範囲の終端において検出するものでも良く、対象物を移動範囲の途中において検出するものでも良く、対象物が検出時に停止するものでもよく、対象物が検出時に停止しないものでも良い。
【２６２００】
遊技機ＭＣ９において、第１可動部の復帰動作は、前記第１の検出手段の検出に基づいて実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ１０。
【２６２０１】
遊技機ＭＣ１０によれば、遊技機ＭＣ９の奏する効果に加え、第１可動部の復帰の開始タイミングを制御手段に把握させることができるので、第１可動部の復帰動作を適切に実行することができる。例えば、第１可動部の復帰動作の時間遅れや、復帰動作が必要以上に長く実行される事態を避けることができる。
【２６２０２】
遊技機ＭＣ１からＭＣ１０のいずれかにおいて、前記第２可動部は前記第１可動部とは独立した制御態様で動作するよう構成され、前記第２可動部の動作には、前記第１可動部の動作開始と合わせて動作開始される第１動作と、前記第１可動部の動作開始とずれて動作開始される第２動作とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ１１。
【２６２０３】
遊技機ＭＣ１１によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、第２可動部の動作にバリエーションを持たせることで、第１可動部と第２可動部とが同一の態様で連動する場合のように、遊技者が第１可動部の視認のみで足りると感じ第２可動部の動作にまで注目しないという事態を避けることができる。
【２６２０４】
遊技機ＭＣ１１において、前記第２可動部の前記第２動作は、前記検出手段により前記第１可動部の動作開始が判断された後に実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ１２。
【２６２０５】
遊技機ＭＣ１２によれば、遊技機ＭＣ１１の奏する効果に加え、第２動作が第１可動部の動作開始前に実行されるという不具合を回避し易くすることができる。
【２６２０６】
遊技機ＭＣ１からＭＣ１２のいずれかにおいて、遊技者が操作可能な操作手段を備え、

前記第１可動部、前記第２可動部は、終了動作のタイミングが前記操作手段の操作に基づいて可変となるよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１３。

【２６２０７】

遊技機ＭＣ１３によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１２のいずれかの奏する効果に加え、操作手段の操作の有無により第１可動部および第２可動部に実行される動作にバリエーションを持たせることができるので、遊技者の操作手段の操作に対する意欲を高めることができる。なお、操作手段は、遊技者が操作可能な操作物体であれば良く、ボタン部Ｈ１８１でもよい。

【２６２０８】

遊技機ＭＣ１からＭＣ１３のいずれかにおいて、前記第１可動部は、終端位置まで至る終端動作と、前記終端位置までは至らない中間動作と、が構成され得ることを特徴とする遊技機ＭＣ１４。

【２６２０９】

遊技機ＭＣ１４によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１３のいずれかの奏する効果に加え、第１可動部の動作にバリエーションを持たせることができ、第１可動部に対する注目力を向上させることができる。

【２６２１０】

遊技機ＭＣ１４において、前記第１可動部の動作を前記終端動作と前記中間動作とで変化させることが可能に構成される第２の移動手段を備え、前記第２の移動手段は、前記第１可動部の一部に動作方向で当接する場合と、前記動作方向と交差する方向で当接する場合とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ１５。

【２６２１１】

遊技機ＭＣ１５によれば、遊技機ＭＣ１４の奏する効果に加え、第２の移動手段の当接により第１可動部の動作を変えることができるので、停止位置の精度を向上させることができる。なお、第２の移動手段は回転切替部Ｍ４９０でも良い。

【２６２１２】

遊技機ＭＣ１４又はＭＣ１５において、前記第１可動部が前記終端動作をする場合も、前記第１可動部が前記中間動作をする場合も、前記第２動作による動作量は同様となるように構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１６。

【２６２１３】

遊技機ＭＣ１６によれば、遊技機ＭＣ１４又はＭＣ１５の奏する効果に加え、第１可動部の動作態様に対応して第２可動部の動作量を可変とする場合に比較して第２可動部の動作制御を容易とすることができ、第２可動部の動作を安定させることができる。

【２６２１４】

＜可動部と表示とを一体で視認させる＞

所定位置から開始される動作が可能な特定手段と、視認領域において前記特定手段の動作に対応した表示を視認させることが可能な所定手段と、前記特定手段と前記対応した表示との間で所定の態様を視認させることが可能な第１手段と、を備え、前記特定手段の所定動作が終了した場合に前記対応した表示を隠すことが可能な表示がされることを特徴とする遊技機ＭＤ１。

【２６２１５】

パチンコ機等の遊技機において、動作手段と一体的に視認される表示を実行可能な表示装置を備える遊技機がある（例えば、特開２０１１－１７７２３０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、動作手段の動作の駆動伝達態様に起因する動作遅れを完全に排除することが困難なため、表示を動作手段の動作に対応させる観点で改良の余地があるという問題点があった。

【２６２１６】

これに対し、遊技機ＭＤ１によれば、動作する特定手段と対応した表示との間に第１手段が所定の態様で視認されるため、特定手段と対応した表示とを分断して視認させることができ、対応した表示に対する特定手段の動作遅れが生じたとしても、目立たせなくする

ことができるので、表示を動作手段の動作に対応させることができる。
【２６２１７】
なお、特定手段は、移動装飾部Ｍ７７０でも良い。第１手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良いし、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００でも良い。特定手段の動作に対応した表示は、連動意匠Ｍ７８１でも良い。
【２６２１８】
また、特定手段に対応した表示は、特定手段の移動に対応して特定手段の移動方向と同方向に移動しても良いし、特定手段の移動方向とは異なる方向に移動しても良いし、特定手段が停止したら表示も停止するように構成しても良いし、特定手段が移動している時に表示のみが変化しても良いし、一定の表示が視認されるようにしても良いし、一定期間において増減し得る表示が視認されるようにしても良いし、この増減が特定手段の往復動作の回数に対応して生じても良いし、特定手段とは無関係に他の対象物との関係で生じても良いし、これらの組合せでも良い。
【２６２１９】
遊技機ＭＤ１において、前記特定手段を前記所定位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備える遊技機ＭＤ２。
【２６２２０】
遊技機ＭＤ２によれば、遊技機ＭＤ１の奏する効果に加え、特定手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、第２手段により遊技者の意識を逸らすことができる。第２手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良いし、導光板Ｍ２６０でも良いし、昇降移動部材Ｍ８６０でも良い。
【２６２２１】
遊技機ＭＤ１又はＭＤ２において、前記第１手段は、少なくとも前記特定手段の動作実行期間に前記特定手段の動作の態様とは異なる態様で視認手段を視認させることを特徴とする遊技機ＭＤ３。
【２６２２２】
遊技機ＭＤ３によれば、遊技機ＭＤ１又はＭＤ２の奏する効果に加え、特定手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、視認手段により特定手段の動作の態様とは異なる態様が視認されることにより、特定手段の動作とその動作に対応した表示の変化とのずれから遊技者の意識を逸らすことができる。視認手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。
【２６２２３】
遊技機ＭＤ３において、前記視認手段は、前記特定手段側から前記対応する表示側へ向けて移動する態様で視認されることを特徴とする遊技機ＭＤ４。
【２６２２４】
遊技機ＭＤ４によれば、遊技機ＭＤ３の奏する効果に加え、視認手段により視認される移動態様により、遊技者の視線を対応した表示側に誘導させることができるので、特定手段に動作遅れが生じた場合であっても、対応した表示の変化の滑らかさと同様に滑らかに動作しているものであると錯覚させることができる。
【２６２２５】
遊技機ＭＤ１からＭＤ４のいずれかにおいて、前記特定手段の動作に基づいて、前記特定手段の動作に対応した表示が変化可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ５。
【２６２２６】
遊技機ＭＤ５によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ４のいずれかの奏する効果に加え、特定手段と、特定手段の動作に対応した表示との関連を強めることができる。
【２６２２７】
遊技機ＭＤ１からＭＤ５のいずれかにおいて、前記特定手段が所定の直線方向に変位可能とされ、その変位を案内する案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＤ６。
【２６２２８】
遊技機ＭＤ６によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ５のいずれかの奏する効果に加え、特定

手段を対応した表示と一体的に移動させる場合にずれを生じさせにくいようにすることができる。

【２６２２９】

遊技機ＭＤ１からＭＤ６のいずれかにおいて、前記特定手段は、所定方向視において視認される外形が動作により変化しないよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＤ７。

【２６２３０】

遊技機ＭＤ７によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ６のいずれかの奏する効果に加え、対応した表示を特定手段の動作に対応して平行移動させるだけで一体的な視認を維持できる。

【２６２３１】

遊技機ＭＤ１からＭＤ７のいずれかにおいて、前記特定手段の動作態様を複数構成可能であって、前記特定手段に対応した表示は、前記特定手段の各動作態様に対応されることを特徴とする遊技機ＭＤ８。

【２６２３２】

遊技機ＭＤ８によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ７のいずれかの奏する効果に加え、特定手段の動作態様に関わらず特定手段と、特定手段の動作に対応した表示との関連を強めることができる。

【２６２３３】

遊技機ＭＤ１からＭＤ８のいずれかにおいて、前記特定手段の前記所定位置への復帰動作において、前記特定手段が視認され難く構成されることを特徴とする遊技機ＭＤ９。

【２６２３４】

遊技機ＭＤ９によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ８のいずれかの奏する効果に加え、復帰動作時にまで対応した表示を特定手段に対応させて表示する必要性を低めることができ、表示の自由度を向上させることができる。

【２６２３５】

遊技機ＭＤ１からＭＤ９のいずれかにおいて、前記特定手段を前記所定位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備え、前記特定手段の動作終了から前記第２手段が前記対応した表示を隠すまでに所定の時間遅れがあることを特徴とする遊技機ＭＤ１０。

【２６２３６】

遊技機ＭＤ１０によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ９のいずれかの奏する効果に加え、特定表示により特定手段を隠す前に、動作終了時における特定手段と、特定手段の動作と対応した表示とを一体的に視認させる時間を確保することで、特定手段による演出効果の向上を図ることができる。

【２６２３７】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１０のいずれかにおいて、前記第１手段は、視認領域において、前記特定手段と前記対応した表示との間に正面視で位置する所定領域上において視認され、前記所定領域が前記第１手段により後方側を視認できないように遮蔽されている状態において前記特定手段が動作可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１１。

【２６２３８】

遊技機ＭＤ１１によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、特定手段と対応した表示との間に位置する所定領域上が遮蔽されている状態で特定手段が動作されることから、動作中における特定手段と対応した表示とを分断された状態で視認させることができる。

【２６２３９】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１１のいずれかにおいて、前記特定手段が動作範囲の終端に配置されている場合において、前記第２手段が視認可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１２。

【２６２４０】

遊技機ＭＤ１２によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、特定手段を動作範囲の終端に配置しつつ第２手段を視認させることにより、遊技者の視線

が分散されることを避けることができ、第２手段への注目力を向上させることができる。
【２６２４１】
遊技機ＭＤ１からＭＤ１２のいずれかにおいて、前記特定手段の所定の動作が実行されることに基づいて、前記対応する表示が変化可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１３。
【２６２４２】
遊技機ＭＤ１３によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１２のいずれかの奏する効果に加え、対応する表示を視認することで、特定手段の動作内容を把握させることができる。
【２６２４３】
遊技機ＭＤ１からＭＤ１３のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記特定手段が前記所定位置から動作したことを判断可能に構成される検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＤ１４。
【２６２４４】
遊技機ＭＤ１４によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１３のいずれかの奏する効果に加え、特定手段の動作に対応する表示を検出手段の検出結果を基に実行させることができる。
【２６２４５】
遊技機ＭＤ１４において、所定期間における前記検出手段の検出結果に基づいて、前記所定手段が異なる表示態様で前記対応する表示を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１５。
【２６２４６】
遊技機ＭＤ１５によれば、遊技機ＭＤ１４の奏する効果に加え、所定期間において対応する表示を常には見ていなくても、途中で視認することで、その時点における検出手段の検出結果について把握することができるので、常に見ていないと対応する表示から遊技者が情報を取得できない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２６２４７】
＜検出に基づく判断により、視認態様を変化させる＞
表示装置を備える遊技機であって、前記表示装置よりも遊技機正面側に位置する所定領域へ向けて移動可能に構成される移動手段の所定部を検出可能な複数の検出手段と、その検出手段による検出結果に基づく視認態様が複数構成される視認可能手段と、を備え、前記検出は、前記移動手段が前記所定領域から移動したことに基づく第１の検出と、その第１の検出とは異なる検出であって前記移動手段が前記所定領域側へ移動する場合に生じる第２の検出とがあり、前記視認可能手段の視認態様は、前記第１の検出の結果に基づく態様とは異なる態様で前記第２の検出の結果に基づく態様が実行可能に構成され、前記遊技機は、前記視認可能手段が前記第２の検出に基づく視認態様となっている場合に前記視認態様を解除させるために遊技者が操作可能であって操作に基づいて所定の報知が実行されるように構成される操作手段とは異なる第２の操作手段を備え、前記第２の操作手段の操作に基づく所定条件の成立により前記第１の検出が生じ得ることを特徴とする遊技機ＭＥ１。
【２６２４８】
パチンコ機等の遊技機において、装飾され遊技者に視認させる視認可能手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、上昇位置では視認可能手段が退避されており視認されず、下降位置でのみ視認されるものとなっており、その視認態様のバリエーションに乏しく、視認可能手段を好適に視認させる観点で改善の余地があるという問題点があった。
【２６２４９】
これに対し、遊技機ＭＥ１によれば、視認可能手段の視認態様は、第１の検出の結果に基づく態様とは異なる態様で第２の検出の結果に基づく態様が実行可能に構成されることから、視認態様のバリエーションを多くすることができ、視認可能手段を好適に視認させる観点で改善することができる。
【２６２５０】

視認可能手段は、電飾基板Ｍ６３０でも良い。移動手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良い。第１の検出は、検出センサＭ４８３でも良い。第２の検出は、検出センサＭ３４８９でも良い。操作手段は、調整ボタンＨ３０４４でも良い。

【２６２５１】

遊技機ＭＥ１において、前記視認可能手段の視認態様の変化は、前記操作手段の操作とは同期されないことを特徴とする遊技機ＭＥ２。

【２６２５２】

遊技機ＭＥ２によれば、遊技機ＭＥ１の奏する効果に加え、操作手段を誤って操作しても視認可能手段の視認態様が変化されることは無いので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２６２５３】

遊技機ＭＥ１又はＭＥ２において、前記視認可能手段による視認態様は、時間経過では変更されないように制御されることを特徴とする遊技機ＭＥ３。

【２６２５４】

遊技機ＭＥ３によれば、遊技機ＭＥ１又はＭＥ２の奏する効果に加え、視認可能手段による視認態様が意図せず変化されることを避けることができる。

【２６２５５】

遊技機ＭＥ１からＭＥ３のいずれかにおいて、遊技機の光量を設定可能な設定ボタンを備え、その設定ボタンによる設定変更が、前記第２の検出に基づく前記視認態様に影響を与えないように構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ４。

【２６２５６】

遊技機ＭＥ４によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ３のいずれかの奏する効果に加え、光量の設定の影響で第２の検出に基づく視認態様が把握され難くなる事態を避けることができる。

【２６２５７】

遊技機ＭＥ１からＭＥ４のいずれかにおいて、前記視認可能手段の視認態様は、前記第２の検出が所定長さよりも長い場合に前記第２の検出の結果に基づく態様とされることを特徴とする遊技機ＭＥ５。

【２６２５８】

遊技機ＭＥ５によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ４のいずれかの奏する効果に加え、第２の検出が生じる度に視認可能手段の視認態様が変化される場合に比較して検出手段の配置の自由度を向上させることができる。

【２６２５９】

遊技機ＭＥ１からＭＥ５のいずれかにおいて、前記第２の操作手段を操作させる期間であることを報知可能な可変表示を実行可能な可変表示手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ６。

【２６２６０】

遊技機ＭＥ６によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が第２の操作手段を操作し損ねる事態を回避し易くすることができる。

【２６２６１】

遊技機ＭＥ１からＭＥ６のいずれかにおいて、前記視認可能手段は、演出ボタンとは異なる操作手段を操作させることを促す視認をさせることを特徴とする遊技機ＭＥ７。

【２６２６２】

遊技機ＭＥ７によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ６のいずれかの奏する効果に加え、視認可能手段を視認することで操作手段の操作が示唆されていることに気づくことができるので、視認可能手段の注目力を向上させることができる。

【２６２６３】

遊技機ＭＥ１からＭＥ７のいずれかにおいて、前記視認可能手段の視認態様の変化は、前記操作手段の操作とは同期されないことを特徴とする遊技機ＭＥ８。

【２６２６４】

遊技機ＭＥ８によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ７のいずれかの奏する効果に加え、操作手段を誤って操作しても視認可能手段の視認態様が変化されることは無いので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【２６２６５】

遊技機ＭＥ１からＭＥ８のいずれかにおいて、前記視認可能手段による視認態様は、時間経過では変更されないように制御されることを特徴とする遊技機ＭＥ９。

【２６２６６】

遊技機ＭＥ１からＭＥ９のいずれかにおいて、遊技機の光量を設定可能な設定ボタンを備え、その設定ボタンによる設定変更が、前記第２の検出に基づく前記視認態様に影響を与えないように構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ１０。

【２６２６７】

遊技機ＭＥ１からＭＥ１０のいずれかにおいて、前記視認可能手段は、前記移動手段の配置によらず遊技者が視認可能に配設されることを特徴とする遊技機ＭＥ１１。

【２６２６８】

遊技機ＭＥ１からＭＥ１１のいずれかにおいて、前記移動手段は、前記遊技機に配設される第２の操作手段が操作されたことにより動作され、その動作中に所定条件が成立することに基づいて検出されることを特徴とする遊技機ＭＥ１２。

【２６２６９】

遊技機ＭＥ１２において、前記遊技機は、前記第２の操作手段を操作させる期間であることを報知可能な可変表示を実行可能な可変表示手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ１３。

【２６２７０】

遊技機ＭＥ１３において、前記可変表示は、所定の限界幅において、最大から最小側へ向かって変化させる場合があることを特徴とする遊技機ＭＥ１４。

【２６２７１】

遊技機ＭＥ１２からＭＥ１４のいずれかにおいて、前記第２の検出は、前記第２の操作手段の操作から時間遅れが生じてされることを特徴とする遊技機ＭＥ１５。

【２６２７２】

遊技機ＭＥ１からＭＥ１５のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記第２の検出に基づく視認態様を解除させる所定手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ１６。

【２６２７３】

遊技機ＭＥ１からＭＥ１６のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記可変表示手段において前記移動手段による所定の目標手段を表示可能に構成され、前記所定の目標手段として表示される状態に前記移動手段が到達できない場合において、状態を切替可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ１７。

【２６２７４】

目標手段は、到達領域表示Ｍ８１ａのように移動手段の移動先を予測させるように構成されても良く、移動手段の移動先以外であっても移動手段が登場する回数に関する数字から構成されても良く、その数字が移動手段の登場の度に増加（減少）されるように更新される登場更新手段でも良く、登場の有無に関わらず移動手段の検出に基づいて更新される検出更新手段でも良く、その数字は更新されるものではなく数字の回数だけ移動手段が登場することを予告するものでも良く、これらの組合せでも良い。

【２６２７５】

＜当接位置を変えながら動作する構成＞

駆動手段と、その駆動手段により回転動作される伝達手段と、その伝達手段の所定部に当接されることにより動作される動作手段と、を備え、前記動作手段は、前記伝達手段の所定部に当接される被当接部と、その被当接部の動作方向に動作される被動作部と、を備え、前記被動作部は、所定の直線方向に案内されることを特徴とする遊技機ＭＦ１。

【２６２７６】

パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動して回転

移動される回転移動ギアの偏心した位置から円柱状に突設される突設部を介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアの動作により実現される動作は動作手段が回転方向に往復される態様に限定されており、動作による演出が単調となっており、動作手段の動作を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。

【２６２７７】

これに対し、遊技機ＭＦ１によれば、伝達手段が回転動作される一方で動作手段の被動作部は所定の直線方向に案内されることから、動作方向を複数構成することができ、動作が単調となることを避けることができることから、動作手段の動作を好適とすることができる。なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、伝達手段の所定部は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、動作手段は、リンク部材Ｍ６６０（リンク部材Ｍ３６６０又は回転移動部材Ｍ４６６０）及び後側スライド移動体Ｍ６５０でも良い。

【２６２７８】

遊技機ＭＦ１において、前記被当接部に対して前記所定部が当接する位置は、前記伝達手段の回転動作に基づいて変化されることを特徴とする遊技機ＭＦ２。

【２６２７９】

遊技機ＭＦ２によれば、遊技機ＭＦ１の奏する効果に加え、所定部と被当接部との当接位置をばらつかせることにより、局所的な負担が生じることを避けることができる。

【２６２８０】

遊技機ＭＦ１又はＭＦ２において、前記被動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能な付勢手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＦ３。

【２６２８１】

遊技機ＭＦ３によれば、遊技機ＭＦ１又はＭＦ２の奏する効果に加え、被動作部を駆動手段の駆動力に限らず、付勢手段の付勢力によっても動作させることができるので、被動作部の動作バリエーションを増加させることができる。

【２６２８２】

＜一緒に動作させる所定領域がある構造＞

所定の表示装置の表示領域の正面視外方から前記表示装置の前方側に変位され得る変位手段が当接可能とされる被当接手段を備え、所定領域における前記変位手段の上方側への変位に基づく前記変位手段との当接により前記被当接手段が変位される遊技機であって、前記変位手段の変位に基づく前記被当接手段の変位を抑制する抑制手段を備え、前記被当接手段の変位が前記抑制手段に抑制された後において、前記変位手段は前記被当接手段から離間する態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＭＧ１。

【２６２８３】

パチンコ機等の遊技機において、変位可能な変位手段および変位手段の上方側への変位に基づいて変位される被当接手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、変位手段と被当接手段とが常時接触されており、変位手段の変位を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【２６２８４】

これに対し、遊技機ＭＧ１によれば、変位手段と、被当接手段とが、所定領域において共に変位されるものであって、被当接手段の変位を抑制する抑制手段を備え、被当接手段の変位が抑制手段に抑制された後において、変位手段は被当接手段から離間する態様で変位可能とされることから、変位手段の変位を好適とすることができる。

【２６２８５】

変位手段は、それ単体で動作可能に構成される可動装飾ユニットＭ６００自体でも良いし、可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される当接部材Ｍ６０２でも良いし、可動装飾ユニットＭ２６００の当接部材Ｍ２６０２でも良い。また、樹脂材料から構成される部材であってもよく、金属材料から構成される部材であってもよい。被当接手段は、扇形状構成部Ｍ５６０でも良い。抑制手段は、突設補助部Ｍ５４５でも良いし、円板付きギ

アＭ５８４でも良い。
【２６２８６】
遊技機ＭＧ１において、前記所定領域における前記変位手段の上方側への変位に基づいて前記被当接手段が変位された場合において、前記変位手段が前記被当接手段を越える態様で変位されることを特徴とする遊技機ＭＧ２。
【２６２８７】
遊技機ＭＧ２によれば、遊技機ＭＧ１の奏する効果に加え、変位手段の変位が、抑制手段により抑制された被当接手段に制限を受けないで実行されるよう構成することができる。
【２６２８８】
遊技機ＭＧ１又はＭＧ２において、前記変位手段は、前記被当接手段の変位が前記抑制手段に抑制された後において下方へ変位される場合に前記被当接手段から離間されることを特徴とする遊技機ＭＧ３。
【２６２８９】
遊技機ＭＧ３によれば、遊技機ＭＧ１又はＭＧ２の奏する効果に加え、抑制手段によって被当接手段の変位が抑制された後においても、その抑制が変位手段にまで影響を及ぼす事態を避け易くすることができる。
【２６２９０】
＜移動手段の移動途中で第２動作手段を動作させる構成＞
駆動装置と、その駆動装置の駆動力を移動手段へ伝達させるための伝達手段と、前記移動手段を所定方向に移動させる場合に動作される動作手段と、前記移動手段の移動可能領域に少なくとも一部が位置するように構成されており前記移動手段に当接されることに基づく動作が可能に構成される第２動作手段と、を備え、前記移動手段は、前記第２動作手段と当接する第１領域と、その第１領域とは異なる第２領域とを移動可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＭＨ１。
【２６２９１】
パチンコ機等の遊技機において、回転移動される移動手段である回転移動ギアを介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、動作による演出が単調となっていた。即ち、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアにより生じる動作を複数構成させる場合に、回転移動ギアである移動手段の移動を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【２６２９２】
これに対し、遊技機ＭＨ１によれば、移動手段により動作される動作手段と第２動作手段とが構成され、それらが異なる領域において当接されることから、移動手段に対する動作手段からの影響と、第２動作手段からの影響とが、同時に生じることを回避し易くすることができるので、移動手段の移動を好適とすることができる。
【２６２９３】
なお、駆動装置は、駆動モータＭ５０１でもよく、移動手段は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、伝達手段は、モータギアＭ５８１でもよく、動作手段は、板状本体部Ｍ６１０でもよく、第２動作手段は、リンク部材Ｍ６６０でもよい。
【２６２９４】
遊技機ＭＨ１において、前記動作手段の所定動作の実行後に前記第２動作手段の動作が実行され得ることを特徴とする遊技機ＭＨ２。
【２６２９５】
遊技機ＭＨ２によれば、遊技機ＭＨ１の奏する効果に加え、動作手段の動作が生じた場合に第２動作手段が動作することを遊技者に事前に把握させることができるので、第２動作手段に注目させることができる。
【２６２９６】
遊技機ＭＨ２において、前記所定動作の実行後に前記第２動作手段の動作が実行されな

い場合を構成可能とされており、前記所定方向へ移動中の前記移動手段が前記第２動作手段に当接するよりも前の所定領域の少なくとも一部において前記移動手段が視認可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＨ３。

【２６２９７】

遊技機ＭＨ３によれば、遊技機ＭＨ２の奏する効果に加え、第２動作手段の動作の有無を所定領域において移動手段を視認することで把握することができるので、遊技者の注目力を所定領域に集めることができ、移動手段の移動に注目させることができる。

【２６２９８】

＜一側の動きが変わると他側の動きも引きずられて変化＞

制御手段と、その制御手段の制御に基づいて動作可能に構成される第１動作部および第２動作部と、を備え、変位手段の所定部の検出に基づいて前記第１動作部の動作開始を前記制御手段に判断させることが可能に構成され、前記第２動作部の動作と対応した表示を実行可能に構成される表示手段を備え、前記第１動作部の動作開始に対応して前記第２動作部が第１の制御で動作可能に構成され、前記制御手段は、前記第１の制御における前記第２動作部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、前記第１の制御での動作実行期間中であっても前記第２動作部が第２の制御で動作するよう構成されており、前記第２動作部は、所定領域側に進出している状態と、前記所定領域側から退避している状態と、を切り替え可能とされることを特徴とする遊技機ＭＩ１。

【２６２９９】

パチンコ機等の遊技機において、第１動作部と、その第１動作部に対応する第２動作部とが、独立して動作可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１動作部の動作に対応して第２動作部が動作されることで適切な演出が実行されるものであるところ、第１動作部または第２動作部の一方に動作不良があるかに関わらず、他方の動作が実行されるものとなっており、第１動作部および第２動作部の動作を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【２６３００】

これに対し、遊技機ＭＩ１によれば、制御手段は、前記第１の制御における前記第２動作部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、第１の制御での動作の途中であっても第２動作部は第２の制御での動作を実行するよう構成されるので、第１動作部に動作不良があった場合であっても第２動作部の制御を変えることで、第１動作部および第２動作部の動作を好適とすることができる。

【２６３０１】

なお、第１動作部は、板状本体部Ｍ５１０（演出動作ユニットＭ５００）でも良い。第２動作部は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。変位手段の所定部は、前方突設部Ｍ４４４でも良い。

【２６３０２】

遊技機ＭＩ１において、前記対応した表示は、前記第２動作部の動作停止後において継続して実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＩ２。

【２６３０３】

遊技機ＭＩ２によれば、遊技機ＭＩ１の奏する効果に加え、第２動作部の動作停止後において対応した表示が継続して実行可能とされていることから、第２動作部が第１の制御での動作を完了して停止したか、第２動作部が第２の制御での動作を実行した後で停止したかに関わらず、停止した第２動作部および対応した表示に基づく同様の視認態様を遊技者に視認させることができるので、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。

【２６３０４】

遊技機ＭＩ１又はＭＩ２において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２動作部の前記第１の制御での動作に対応するよう構成されており、前記対応した表示は、前記第２動作部の前記第２の制御での動作実行期間中において継続して実行されることを

特徴とする遊技機ＭＩ３。
【２６３０５】
遊技機ＭＩ３によれば、遊技機ＭＩ１又はＭＩ２の奏する効果に加え、所定の条件が成立した場合に遊技者が対応した表示を視認した場合であっても、敢えて表示を消さずに継続して実行し、第２動作部の動作を第２の制御で継続させることにより、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。
【２６３０６】
＜可動部に関連した表示を実行する＞
第１位置から動作可能な動作手段と、視認領域において前記動作手段の動作に対応した表示を視認させることが可能な手段と、前記動作手段と前記対応した表示との間で所定の態様を視認させることが可能な第１手段と、を備え、前記動作手段の所定動作が終了した場合に前記対応した表示を隠すことが可能な表示がされることを特徴とする遊技機ＭＪ１。
【２６３０７】
パチンコ機等の遊技機において、動作手段に対応して視認される表示を実行可能な表示装置を備える遊技機がある（例えば、特開２０１１－１７７２３０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、表示を動作手段の動作に対応させる観点で改良の余地があるという問題点があった。
【２６３０８】
これに対し、遊技機ＭＪ１によれば、動作する動作手段と対応した表示との間に第１手段が所定の態様で視認されるため、動作手段と対応した表示とを分断して視認させることができ、対応した表示に対する動作手段の動作遅れが生じたとしても、目立たせなくすることができるため、表示を動作手段の動作に対応させることができる。
【２６３０９】
なお、動作手段は、移動装飾部Ｍ７７０でも良い。第１手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良いし、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００でも良い。動作手段の動作に対応した表示は、連動意匠Ｍ７８１でも良い。
【２６３１０】
また、動作手段に対応した表示は、動作手段の移動に対応して動作手段の移動方向と同方向に移動しても良いし、動作手段の移動方向とは異なる方向に移動しても良いし、動作手段が停止したら表示も停止するように構成しても良いし、動作手段が移動している時に表示のみが変化しても良いし、一定の表示が視認されるようにしても良いし、一定期間において増減し得る表示が視認されるようにしても良いし、この増減が動作手段の往復動作の回数に対応して生じても良いし、動作手段とは無関係に他の対象物との関係で生じても良いし、これらの組合せでも良い。
【２６３１１】
遊技機ＭＪ１において、前記第１手段は、少なくとも前記動作手段の動作実行期間に前記動作手段とは異なる態様で視認手段を視認させることを特徴とする遊技機ＭＪ２。
【２６３１２】
遊技機ＭＪ２によれば、遊技機ＭＪ１の奏する効果に加え、動作手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、視認手段により動作手段の動作の態様とは異なる態様が視認されることにより、動作手段の動作とその動作に対応した表示の変化とのずれから遊技者の意識を逸らすことができる。視認手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。
【２６３１３】
遊技機ＭＪ１又はＭＪ２において、前記動作手段を前記第１位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備える遊技機ＭＪ３。
【２６３１４】
遊技機ＭＪ３によれば、遊技機ＭＪ１又はＭＪ２の奏する効果に加え、動作手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、第２手段により遊技者の意識を逸らすことができる。第２手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良いし、導光板Ｍ２６０でも良い

し、昇降移動部材Ｍ８６０でも良い。
【２６３１５】
＜動作中に当接箇所が変化する構成＞
駆動手段と、その駆動手段により回転動作される回転動作手段と、その回転動作手段の所定部に当接されることにより変位される変位手段と、を備え、前記変位手段は、前記回転動作手段の所定部に当接される当接部と、その当接部の動作方向側に動作される動作部と、を備え、前記動作部は、所定の直線方向に案内されることを特徴とする遊技機ＭＫ１。
【２６３１６】
パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動される回転ギアから突設される突設部を介して駆動力が伝達される変位手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転ギアの動作により実現される動作は変位手段の回転方向への動作に限定されており、動作による演出が単調となっており、変位手段の変位を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【２６３１７】
これに対し、遊技機ＭＫ１によれば、回転動作手段が回転動作される一方で変位手段の動作部は所定の直線方向に案内されることから、動作方向を複数構成することができ、動作が単調となることを避けることができることから、変位手段の変位を好適とすることができる。なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、回転動作手段の所定部は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、変位手段は、リンク部材Ｍ６６０（リンク部材Ｍ３６６０又は回転移動部材Ｍ４６６０）及び後側スライド移動体Ｍ６５０でも良い。
【２６３１８】
遊技機ＭＫ１において、前記動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＫ２。
【２６３１９】
遊技機ＭＫ２によれば、遊技機ＭＫ１の奏する効果に加え、動作部を駆動手段の駆動力に限らず、付勢力によっても動作させることができるので、動作部の動作バリエーションを増加させることができる。
【２６３２０】
遊技機ＭＫ１又はＭＫ２において、前記所定部に対して前記当接部が当接する位置は、前記回転動作手段の回転動作に基づいて変化されることを特徴とする遊技機ＭＫ３。
【２６３２１】
遊技機ＭＫ３によれば、遊技機ＭＫ１又はＭＫ２の奏する効果に加え、所定部と当接部との当接位置をばらつかせることにより、局所的な負担が生じることを避けることができる。
【２６３２２】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭＤ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＭＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【２６３２３】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭ

Ｄ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＭＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【２６３２４】

遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭＤ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＭＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

＜その他＞

＜符号＞

１０	パチンコ機（遊技機）
１６	ガラスユニット（前側面構成手段）
８１	第３図柄表示装置（表示装置）
Ａ６０	ベース板（流下手段）
Ａ４００	第１動作ユニット（演出手段）
Ａ４００ｂ	回転動作ユニット（変位手段）
Ａ４１４	案内長孔（度合い変化手段、態様変化手段の一部）
Ａ４２３ａ	ベルト（無端ベルト）
Ａ４２７	連結機構（当接部）
Ａ４３０	基礎板部材（軸側手段、変位手段）
Ａ４４０	移動部材（構成手段の一部、第１構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ４４４	機能長孔（態様変化手段の一部）
Ａ４４８	柱状突設部（配置部）
Ａ４４９	配線（電気配線）
Ａ４５０	方向切替部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ４６０	装飾部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５００	第２動作ユニット（演出手段）
Ａ５００ｂ	回転動作ユニット（変位手段）
Ａ５１４	案内長孔（度合い変化手段、態様変化手段の一部）
Ａ５２３ａ	ベルト（無端ベルト）
Ａ５２７	連結機構（配置部）
Ａ５３０	基礎部材（軸側手段、変位手段）
Ａ５３３	機能長孔（態様変化手段の一部）

Ａ５４０　移動部材（構成手段の一部、第１構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５４６　柱状突設部（当接部）
Ａ５５０　方向切替手段（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５６０　変化部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ６６２　回転板部材（変位手段）
Ａ６７４　円弧状貫通孔（態様変化手段の一部）
Ａ７１０　枠状部材（押圧手段の一部）
Ａ７２０　発光基板（第１手段）
Ａ７２４　正面発光部（第１発光手段、複数の発光部）
Ａ７２５　背面発光部（第２発光手段、複数の発光部）
Ａ７３０　前側板部材（第１受光手段）
Ａ７４０　後側板部材（第２受光手段）
Ａ７５０　前カバー部材（押圧手段の一部、支持手段）
Ａ７５３　締結部（第１突設部）
Ａ７５４　円柱状締結部（第２突設部）
Ａ８０３ｚ　前側部材（正面側手段）
Ａ８０６　視認態様変化シート（方向選択手段）
Ａ８２０　正面発光基板（第１手段の一部、板状部材）
Ａ８３０　背面発光基板（第１手段の一部、板状部材）
Ａ４９２０　導光変位部材（方向選択手段の一部、板状手段）
Ａ４９３０　覆設部材（方向選択手段の一部、板状手段）
Ａ４９３３ａ　発光手段（光照射手段）
ＡＪ１　回転軸棒（回転軸）
ＡＪ２　回転軸棒（回転軸）
ＡＭＴ１　駆動モータ（駆動手段）
ＡＭＴ２　駆動モータ（駆動手段）
ＡＭＴ４　駆動モータ（駆動手段）
ＡＳＥ１　検出センサ（検出手段）
ＡＴＬ１　左側流路（第１の流路）
ＡＴＬ２　右側流路（第２の流路）
Ｗ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｗ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００　ボックスカバー（第１部材、第２部材）
Ｗｊ２１４ａ　背面壁部（遮蔽手段）
Ｗｊ２１４ｂ　規制壁部（抑制手段）
Ｗ２２０　平面部（被当接部）
Ｗ２２３　両端壁部（当接部）
Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂ　凹部
Ｗｊ２５０　第２規制部（規制手段）
Ｗ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００　ボックスベース（第１部材、第２部材）
Ｗｋ３１２ｆ　係止部（規制手段）
Ｗ３２０，Ｗｅ３２０　平面部（被当接部）
Ｗ３２１　両端壁部（当接部）
Ｗ５３２６，Ｗ６３２６　凹部
Ｗ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５

００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００　保護カバー（係合部材）
Ｗ５０１　下壁部（当接部）
Ｗ５０２　左壁部（本体部）
Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０　背面壁部（本体部）
Ｗ５１０　背面壁部（当接部）
Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０　正面壁部（本体部）
Ｗ５２０　正面壁部（当接部）
Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ　係合部
Ｗ５３０ａ　係合部（第１係合部、第２係合部）
Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂ　係合部（第１部分、第２部分）
Ｗ５３０ｂ　係合部（第１係合部、第２係合部）
Ｗ５３０ｂ１　係合部（第２係合部）
Ｗ５３０ｂ２　係合部（第１係合部）
Ｗ５３１ａ，Ｗｅ５３１ａ，Ｗｆ５３１ａ　連結片（連結部）
Ｗｅ５３１ａ　連結片（変更手段、当接部、連結部、一側連結部、他側連結部）
Ｗ５３１ｂ，Ｗ２５３１ｂ，Ｗ３５３１ｂ，Ｗ８５３１ｂ，Ｗ９５３１ｂ，Ｗｗ５３１ｂ，Ｗｘ５３１ｂ　連結片（連結部）
Ｗ９５３１ｂ１　第１部（第２部分）
Ｗ９５３１ｂ２　第２部（第１部分）
Ｗ４５３４，Ｗ５５３４，Ｗｑ５３４，Ｗｕ５３４，Ｗｖ５３４　突起（突部）
Ｗｄ５４０　立設部（規定部）
Ｗａ５５０，Ｗｂ５５０，Ｗｙ５５０　切断部（変更手段）
Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０　ガイド部（当接部）
Ｗｏ５８０　抜け止めピン（取付部材）
Ｗｏ５８３　係止部（突部）
ＷＳＬ　封印シール（配設部材）
１０　パチンコ機（遊技機）
１３　遊技盤（遊技盤本体）
６０　ベース板（遊技領域構成手段の一部）
６７　普通入賞口（検出手段、第２検出手段）
１１２ａ　球発射ユニット（遊技球発射装置）
６４０　第２入賞口（第２入球口）
６４０ａ　電動役物（動作手段）
６４３　右側案内部（第１動作部、第１流下位置）
６４５　左側案内部（第２動作部、第２流下位置）
７００　経路構成装置（遊技領域構成手段の一部）
７３４　第１球送球部（零れ防止手段）
７３６ａ　球通過孔（被案内入球口）
７４０　屈曲部材（案内手段の一部）
７５０　介設部材（案内手段の一部）
７６０　振分け部材（案内手段の一部）
７６５　普通入賞口（検出手段、第１検出手段）
９３０　入賞口ユニット（遊技領域構成手段の一部）
９４５　羽部材（移動手段、動作手段）
９４５ｅ　板状部（動作手段の一部、第１流下位置）

９４５ｍ　羽状本体（動作手段の一部、第２流下位置）
９８０　振分ユニット（遊技領域構成手段の一部、構成手段の一部）
３７６５　普通入賞口（検出手段、第２検出手段）
ＢＫ３　第３分岐通路（第２経路の一部）
ＳＥ３　検出装置（第１入球口）
ＳＥ４，ＳＥ５　検出装置（検出手段）
ＳＥ６　検出装置（第２入球口）
ＴＲ１　第１通路（第１経路の一部）
ＴＲ２　第２通路（第１経路の一部）
Ｂ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｂ１３　遊技盤（遊技盤）
Ｂ２２　枠ボタン（操作手段の一部）
Ｂ６４ｂ　第３入賞口（検出手段、第２検出手段、第１検出手段）
Ｂ６６，Ｂ６７　スルーゲート（開閉抽選入球口）
Ｂ８１　第３図柄表示装置（演出実行手段の一部、報知手段の一部、変更手段の一部、演出切替手段の一部、操作報知手段の一部、表示手段）
Ｂ１１３　音声ランプ制御装置（演出実行手段の一部、報知手段の一部、変更手段の一部、演出切替手段の一部、操作報知手段の一部）
Ｂ４１０　板部材（入球制限手段の一部）
Ｂ４１３　中央開口部（入球領域の一部、下流側領域の一部、分岐位置の一部（第２位置）の後方に配置）
Ｂ４１４　球通過開口（入球領域の一部）
Ｂ４２０　前意匠部材（防止手段の一部）
Ｂ４２２　接合部（案内手段の一部、防止手段）
Ｂ４２３　仕切り板（案内手段の一部、防止手段）
Ｂ４２８　球案内突条（下流側領域の一部）
Ｂ４３０　中段部材（流下経路制限手段の一部）
Ｂ４３１　中央流路（案内手段の一部、中間部、流下手段の一部、非分岐位置の一部、案内経路の一部、所定部）
Ｂ４４０　上段部材（流下経路制限手段の一部）
Ｂ４５０　スライド部材（案内手段の一部、流下手段の一部、切替手段の一部、第１可動部）
Ｂ４５１　先端部（所定部、第１部）
Ｂ４５２　左案内板部（所定手段の一部、非分岐位置の一部）
Ｂ４５２ａ　傾斜面部（接近手段、重なり部、傾斜部）
Ｂ４５３　右案内板部（所定手段の一部、非分岐位置の一部）
Ｂ４５３ａ　傾斜面部（接近手段、重なり部、傾斜部）
Ｂ４７０　傾倒部材（案内手段の一部、下流側部、分岐位置の一部（第２位置）に配置、第２部、第２可動部）
Ｂ６４０　第２入賞口（検出手段、第１検出手段、第２検出手段）
Ｂ６４０ａ　電動役物（案内手段の一部、切替手段の一部）
Ｂ７００ａ　第２特定入賞口（流下領域、案内球選択手段の一部）
Ｂ７１５　貯留板部（下流側領域の一部、第１流下領域の一部、案内球選択手段の一部、滞留手段の一部）
Ｂ７３０　移動上蓋部材（開閉手段）
Ｂ７４０　移動床部材（滞留手段の一部、状態切替手段、当接可能手段）
Ｂ７５１　開口部（第２流下領域、案内球選択手段の一部）
Ｂ７８２　球抜き開口（第１流下領域の一部）
Ｂ８１０　特定表示（所定の表示演出の一部）
Ｂ８１１　時間表示（報知手段の一部、時間報知手段）

Ｂ８１２　終端位置（報知手段の一部、終了手段）
Ｂ８１３　枠ボタン表示（操作報知手段の一部）
Ｂ８１５　注意コメント表示（付属報知手段の一部）
Ｂ８１９　第２注意コメント表示（付属報知手段の一部）
ＢＢ３　球配置（分岐位置の一部、第１位置）
ＢＤＲ１　経路（流下領域の一部）
Ｂ２４５８ａ　球干渉突設部（減速手段）
Ｂ２４５８ｂ　球干渉突設部（減速手段）
Ｂ５７７０　切替装置（変位手段）
Ｂ５７７２　球受凹部（球受部）
Ｂ６８１１　発射時間表示（疑似時間報知手段）
Ｂ６８２２　目標示唆表示（示唆表示の一部）
Ｂ６８４１　遊技準備示唆表示（示唆表示の一部）
Ｂ７８１７　過去光量表示（差分報知手段）
Ｂ７８１８　過去音量表示（差分報知手段）
Ｃ１３　遊技盤
Ｃ６０　ベース板（遊技盤）
Ｃ６０ａ　開口
Ｃ１２２，Ｃ２１２２，Ｃ４１２２　下側底面部（往復面、第１の通路）
Ｃ１２２ａ　流出面（流出部）
Ｃ１２３ａ，Ｃ４１２３ａ　切り欠き部（流入部）
Ｃ１３０，Ｃ２１３０　背面部材（ベース部材）
Ｃ１４０，Ｃ２１４０　第１中間部材（ベース部材）
Ｃ１４２，Ｃ２１４２　底面部（上流面、第２の通路）
Ｃ１４４，Ｃ２１４４　通路部（第１の通路）
Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０　振分部材（変位部材、本体部）
Ｃ１７２，Ｃ２１７２　受入部（第１面）
Ｃ１７２ｂ，Ｃ２１７２ｂ　底面部（第１面）
Ｃ１７３，Ｃ２１７３　転動部（第２面）
Ｃ２１７４　軸
Ｃ１９０　装飾部材（錘部）
Ｃ１９２　軸
Ｃ２３００　磁石（吸着部材）
Ｃ２４００，Ｃ５４００　磁性部（吸着部材、下面形成部材）
ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎ　受入口（流入部）
ＣＲｔ２　第２通路（第１の通路）
ＣＲｔ３　第３通路（第２の通路）
ＣＲｔ４　第４通路（第１の通路）
ＣＲｔ５　第５通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００１　第１通路（第１の通路）
ＣＲｔ２００２　第２通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００３　第３通路（第１の通路）
ＣＲｔ２００４　第４通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００５　第５通路（第２の通路）
ＣＢ１　球（第１の球）
ＣＢ２　球（第２の球）
Ｄ１３　遊技盤（遊技機）
Ｄ１３１ｆ　突部（作用手段、突部）
Ｄ１３１ｆａ　第２突部（落下手段）
Ｄ１４１ｇ　突部（作用手段、突部）

Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０　転動部材
Ｄ１８０　変位部材
Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０　伝達部材（伝達手段）
Ｄ４２２０　第２転動部材（転動部材）
ＤＲｔ３　第３通路（上流通路）
ＤＲｔ６　第６通路（通路）
ＤＲｔ９　第９通路（落下通路）
Ｅ１３５ｂ　中央通路（入球手段）
Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０　振分通路（通路部材、第１通路部材）
Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０　振分通路（通路部材）
Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０　第２振分通路（通路部材、第２通路部材）
Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０　第３振分通路（通路部材、第２通路部材）
Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１　突起部（付与手段、突部、変化手段、変位手段）
Ｅ２１５１，Ｅ３１５１　転動面（転動部）
Ｅ１６０　中央通路（入球手段）
Ｅ１９０，Ｅ４１９０，Ｅ５１９０　駆動手段（変化手段、変位手段、第２変位手段）
Ｅ２１９０　弾性ばね（変位手段）
Ｅ１９６，Ｅ１９６ａ　ピニオンギヤ（変位手段）
Ｅ１９６ｂ，Ｅ１９６ｃ　ピニオンギヤ（第２変位手段）
Ｅ５１９６　第２ピニオンギヤ（第２変位手段）
Ｆ１３０　変位部材（第１変位手段）
Ｆ１３１ｂ　転動面（第２転動部）
Ｆ１３１ｃ　凹部（遅延手段、第１転動部）
Ｆ１３１ｄ　第３通路貫通孔（開口）
Ｆ１４３　開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４３Ｌ　左側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４３Ｒ　右側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４４　スライド部材（伝達手段）
Ｆ１４５　連結部材（伝達手段）
Ｆ５１２１　第２通路部（流下部）
Ｆ５１２３　第２通路壁部（第２規制手段）
Ｆ５１２５　第３通路壁部（第２規制手段）
Ｆ５１５４　振り分け部材（抑制手段）
Ｆ５１５４ｃ　振り分け部（抑制手段、第１規制手段）
Ｆ５１５５　変位部材（第１変位手段、第１手段）
Ｆ５１５５Ｌ　左側変位部材（第１変位手段、第１手段）
Ｆ５１５５Ｒ　右側変位部材（第１変位手段、第２手段）
Ｆ５１５５ｄ１　凹部（遅延手段、第１転動部）
Ｆ５１５５ｄ２　貫通孔（開口）
Ｆ５１５５ｅ　保持部（第２転動部、転動部、保持手段）
Ｆ５１５７　スライド部材（伝達手段）
Ｆ５１５８　開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１５８ａ　遮断部（第３手段）
Ｆ５１５８Ｌ　左側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１５８Ｒ　右側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１６２　通路部材（解除手段）
Ｆ５１６３　係合部材（維持手段）
Ｆ６１１２　下側通路（経路）

Ｆ６１１４　上側通路（経路）
Ｆ６１１４　上側通路（経路、傾斜部）
Ｆ６１１４ｃ　第１傾斜部（傾斜部）
Ｆ６１１４ｄ　第２傾斜部（傾斜部）
Ｆ６１６０　第１通路部材（形成手段）
Ｆ６１６２　凹部（形成手段）
Ｆ６１７４　変位通路部材（第１変位手段）
Ｆ６１７３　変位部材（第２変位手段、変化手段）
Ｆ６１７３ｂ１　湾曲面（案内部）
Ｆ６１７５　連結部材（伝達手段）
Ｆ７１８１　第２変位通路部材（第１変位手段）
Ｆ１１００１　センサ（変化手段）
Ｆ１１００２　ソレノイド（変化手段）
Ｆ１１００３ａ　第１領域（第１位置）
Ｆ１１００３ｂ　第２領域（第２位置）
ＦＯＰｆ１，ＦＯＰｆ５１，ＦＯＰｆ６１　流入口（被流入部）
ＦＲｔ３　第３通路（第１転動部、第２転動部）
ＦＲｔ５２　第２通路（流下部、経路）
ＦＲｔ６３　第３通路（経路、傾斜部）
Ｋ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｋ１３　遊技盤
Ｋ６０　ベース板（遊技盤）
Ｋ６０ａ　第１形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｂ　第２形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｃ　第３形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｄ　第４形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６３　一般入賞口（入球領域の一部）
Ｋ６５ａ　第１特定入賞口（入球領域の一部）
Ｋ８１　第３図柄表示装置（表示装置、照射手段）
Ｋ２０１　ベース部材（支持手段）
Ｋ２０７ａ　上縁部（反射部）
Ｋ２１２　発光部（光照射手段）
Ｋ２２０　化粧カバー（覆設手段、透過手段）
Ｋ２２１ａ　大形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２１ｂ　小形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２４　傾斜形成部（位置合わせ部）
Ｋ２５１　可動板（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ４００　前層側可動装置（第１手段の一部）
Ｋ４０５　電飾基板（光照射装置）
Ｋ４３０　回転部材（第１手段、方向変化手段）
Ｋ４４４　突設部（接触防止部）
Ｋ４７０　状態変化装置（変化手段）
Ｋ４７６　上側回転部材（第２手段、規制手段）
Ｋ５００　昇降装置（変位手段、動作手段）
Ｋ５４０　長尺装置（支持手段）
Ｋ６４０ａ　電動役物（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ６４０　第２入賞口（入球領域の一部）
Ｋ７０１　第２可動手段（被動作手段）
Ｋ７１６　検出センサ（検出手段）
Ｋ７３０　伝達装置（伝達手段）

Ｋ７３１　駆動側二層ギア（第２伝達手段）
Ｋ７３２　円弧状部（防止手段、動作停止手段）
Ｋ７３３　伝達側二層ギア（第１伝達手段）
Ｋ７３５　アーム部材（第１移動手段）
Ｋ７６０　主装飾部材（第２移動手段）
Ｋ８００　後層側可動装置（第２手段）
Ｋ８２０　中側開閉部材（第３手段）
Ｋ８３０　前側開閉部材（第２手段）
Ｋ８６７　傾斜形成部（当接手段、抵抗発生手段）
Ｋ８７４　延設回転部材（第１手段）
Ｋ９００　表示ランプ（第１手段の一部）
Ｋ２０６０　ベース板（遊技盤）
Ｋ２０６０ｅ　外形傾斜部（変化部）
Ｋ２０６０ｗ　傾斜開口部（変化部）
Ｋ２１００　光照射装置（光照射手段）
Ｋ３１００　光照射装置（光照射手段）
Ｋ４５６０　移動装置（変位手段）
Ｋ４５７８　回転装飾部材（動作手段）
Ｋ４５７８ａ　視認窓部（視認部の一部）
Ｋ４７０１　第２可動装置（切替手段）
Ｋ４８１１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８２１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８３１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８９１　透明フィルム（隙間防止手段の一部）
Ｋ５０８６ｅ　右側検出センサ（第２所定部位）
Ｋ５０８６ｋ　検出センサ（第１所定部位）
Ｋ５２７２　第１傾斜部（第１流下領域の一部）
Ｋ５２７３　鉛直構成部（第２流下領域の一部）
Ｋ５２８０　化粧カバー（光透過部）
Ｋ５２８１　第１輪郭部（第１透過率部）
Ｋ５２８２　第１形成部（第２透過率部）
Ｋ５２８２ａ　非透過形成部（構成部）
Ｋ５２８２ｃ　非変化領域（補助部）
ＫＯＬ４８１　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８２ａ　内側輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８２ｂ　外側輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８３　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８４　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＭＴ７１　駆動モータ（駆動手段）
ＫＳＰ７４　コイルスプリング（付勢手段）
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１４，Ｈ１６０１４，Ｈ３５０１４　正面枠（前扉手段）
Ｈ１４ａ，７０１４ａ，８０１４ａ，９０１４ａ，３７０１４ａ，３８０１４ａ，３９０１４ａ，４００１４ａ，４１０１４ａ　上側装飾ユニット（第２手段、配設手段）
Ｈ１４ｃ，１００１４ｃ，１１０１４ｃ，１２０１４ｃ，１３０１４ｃ　右側装飾ユニット（第１手段）
Ｈ８１　第３図柄表示装置（液晶表示手段）
Ｈ２０　シリンダ錠（操作手段）
Ｈ５０　下皿（貯留手段）
Ｈ５２　球抜きレバー（操作手段）

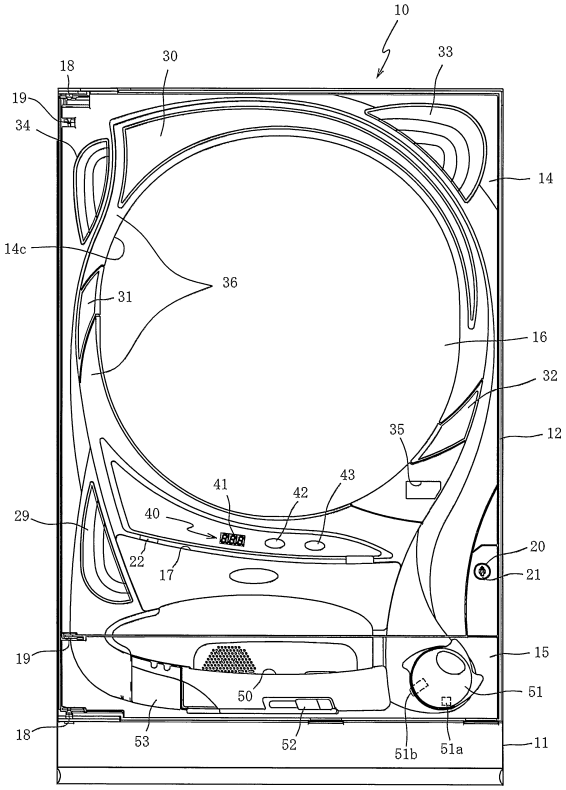
Ｈ５３　球案内開口（流入口手段）
Ｈ１１２ａ１　発射レール（流路手段の一部）
Ｈ３６１３０ａ　張出部材（突出手段）
Ｈ１３２ａ　送球停止レバー（操作手段）
Ｈ１７２　背面側開口（通過口手段）
Ｈ１８０，Ｈ４４１８０，Ｈ４５１８０，Ｈ４６１８０　操作ユニット（操作手段）
Ｈ３００Ａ　第１空間（正面側配設空間）
Ｈ３００Ｂ　第２空間（背面側配設空間）
Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ　第１連通路（連通空間）
Ｈ３００Ｆ　配設空間（第１配設空間，第２配設空間）
Ｈ３００Ｄ　第２連通路（連通空間）
Ｈ３１２　スピーカー組立体（動作手段、第１音出力手段、第２音出力手段）
Ｈ３１２ａ　スピーカー（動作手段、第１音出力手段、第２音出力手段、流動手段）
Ｈ３３１ａ１　スリット（第１開口部）
Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２　上面板（変位手段）
Ｈ３３３ａ　検出用開口部（第２開口部）
Ｈ３３３ｂ　放音用開口部（第２開口部）
Ｈ９３３２ｄ２　開口（第２開口部）
Ｈ３８３３６　光照射ユニット（変位手段）
Ｈ１６３４４　基板ユニット（突出手段）
Ｈ３５０　音伝達ユニット（区画手段）
Ｈ４００Ａ，１１４００Ａ　通路空間（通路手段）
Ｈ４５２　屈曲部（配設手段）
Ｈ４５２ｄ　先端部（下方手段）
Ｈ４５２ｃ　基端部（延設手段）
Ｈ４５５　膨出部（突出手段）
Ｈ４５５ａ１　開口（被挿入手段）
Ｈ４７３　開口部（被挿入手段、連通手段）
Ｈ４７８　区画壁（突出手段）
Ｈ１０４８０　ファン（流動手段）
Ｈ５１０，Ｈ１７５１０，Ｈ１８５１０　ベース部材（第１手段）
Ｈ５１５，Ｈ１７５１５　凸状部（突出手段、第２突出手段）
Ｈ１８５１５ａ１　凹部（被位置決め手段）
Ｈ１８５１５ａ２　被係合部（被係合手段）
Ｈ５１５ｂ１　凹部（被位置決め手段）
Ｈ５１５ｂ２　被係合部（被係合手段）
Ｈ５３０，Ｈ１７５３０，Ｈ１８５３０　下皿形成部材（第２手段）
Ｈ５５５，Ｈ１８５５５　連結部材（突出手段）
Ｈ５５５ｂ，Ｈ１８５５５ｂ　突出部（位置決め手段）
Ｈ５５５ｂ１，Ｈ１８５５５ｂ１　係合部（係合手段）
Ｈ１７５５５　連結部（第２突出手段）
Ｈ５６１ａ　排出口（流出口手段）
Ｈ１４５６３　第２スライド板（突出手段）
Ｈ５８３　突出部（突出手段）
Ｈ５８３ａ　湾曲壁（湾曲部）
Ｈ５８３ｂ　リブ
Ｈ７１０，Ｈ４５７１０，Ｈ４６７１０　傾倒装置（当接手段）
Ｈ７２０　下枠部材（ベース手段）
Ｈ７７０，Ｈ４４７７０　ベース手段

Ｈ７７３　基板部材（発光手段）
Ｈ７８０，２１７８０，２２７８０　駆動手段
Ｈ７８０，２１７８０，２２７８０　駆動手段（第１手段）
Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９　変位手段（第２手段）
Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０　変位部材（透過手段）
Ｈ７９３　第１コイルバネ（規定手段）
Ｈ７９４　第２コイルバネ（規定手段）
Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａ　背面部（流路手段の一部）
Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１　凹部（抑制手段、非平行部、平行部）
Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２　凸部（抑制手段、非平行部、平行部）
Ｈ８３０　発射手段（送球手段）
Ｈ８７０，Ｈ２３８７０，Ｈ３２８７０　背面側ケース（流路手段の一部）
Ｈ２３８７１　第２凹部（抑制手段、凹部、非平行部、平行部）
Ｈ３２８７２　第２凸部（抑制手段、凸部、非平行部、平行部）
Ｈ２６８９３　経路変更部材（案内手段）
Ｇ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０　第１装飾ユニット（第２手段）
Ｇ４２６，Ｇ５４２６，Ｇ６４２６　変位ユニット（所定領域）
Ｇ４２６ａ　第１装飾面（一側領域）
Ｇ４２６ｂ　第２装飾面（他側領域）
Ｇ４４０　基板部材（発光手段）
Ｇ４８０　第２装飾ユニット（第１手段）
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１１３　音声ランプ制御装置（制御手段）
Ｈ３０４４　調整ボタン（操作手段）
Ｈ１８１　ボタン部（操作手段、第２の操作手段）
Ｍ４４４　前方突設部（移動手段の一部、変位手段の一部）
Ｍ４８３　検出センサ（第１の検出センサ、第１の検出）
Ｍ４９０　回転切替部（第２の移動手段）
Ｍ５０１　駆動モータ（駆動手段、駆動装置）
Ｍ５１０　板状本体部（案内手段、第１可動部、第１動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部）
Ｍ５１５　円弧状貫通部（案内部）
Ｍ５１６　検出センサ（検出手段、第２の検出手段）
Ｍ５４５　突設補助部（第３手段、抑制手段）
Ｍ５６０　扇形状構成部（第２手段、被当接手段）
Ｍ５８１　モータギア（伝達手段）
Ｍ５８２ａ　柱状部（伝達手段の一部、移動手段、回転動作手段の一部）
Ｍ５８４　円板付きギア（第３手段、抑制手段）
Ｍ６００　可動装飾ユニット（第２可動部、第２動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部、変位手段）
Ｍ６０２　当接部材（第１手段、変位手段）
Ｍ６１０　板状本体部（動作手段、第１動作手段）
Ｍ６３０　電飾基板（視認可能手段）
Ｍ６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ７７０　移動装飾部（特定手段、動作手段）
Ｍ７８１　連動意匠（対応した表示）

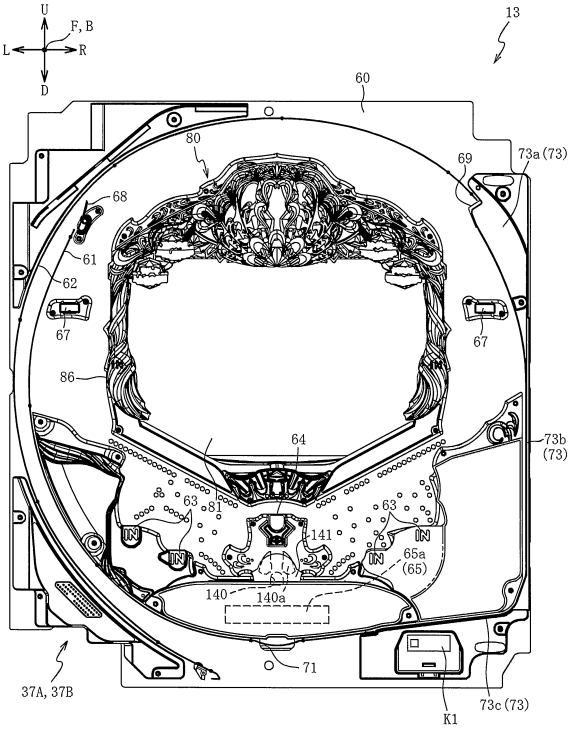
Ｍ８１５　検出センサ（第２の検出手段）
Ｍ８６０　昇降移動部材（第２可動部、第２の手段）
Ｍ３４８９　検出センサ（第２の検出）
Ｍ３６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ４６６０　回転移動部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
【符号の説明】
【２６３２５】
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１１３　音声ランプ制御装置（制御手段）
Ｈ３０４４　調整ボタン（操作手段）
Ｈ１８１　ボタン部（操作手段、第２の操作手段）
Ｍ４４４　前方突設部（移動手段の一部、変位手段の一部）
Ｍ４８３　検出センサ（第１の検出センサ、第１の検出）
Ｍ４９０　回転切替部（第２の移動手段）
Ｍ５０１　駆動モータ（駆動手段、駆動装置）
Ｍ５１０　板状本体部（案内手段、第１可動部、第１動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部）
Ｍ５１５　円弧状貫通部（案内部）
Ｍ５１６　検出センサ（検出手段、第２の検出手段）
Ｍ５４５　突設補助部（第３手段、抑制手段）
Ｍ５６０　扇形状構成部（第２手段、被当接手段）
Ｍ５８１　モータギア（伝達手段）
Ｍ５８２ａ　柱状部（伝達手段の一部、移動手段、回転動作手段の一部）
Ｍ５８４　円板付きギア（第３手段、抑制手段）
Ｍ６００　可動装飾ユニット（第２可動部、第２動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部、変位手段）
Ｍ６０２　当接部材（第１手段、変位手段）
Ｍ６１０　板状本体部（動作手段、第１動作手段）
Ｍ６３０　電飾基板（視認可能手段）
Ｍ６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ７７０　移動装飾部（特定手段、動作手段）
Ｍ７８１　連動意匠（対応した表示）
Ｍ８１５　検出センサ（第２の検出手段）
Ｍ８６０　昇降移動部材（第２可動部、第２の手段）
Ｍ３４８９　検出センサ（第２の検出）
Ｍ３６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ４６６０　回転移動部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）

【図面】

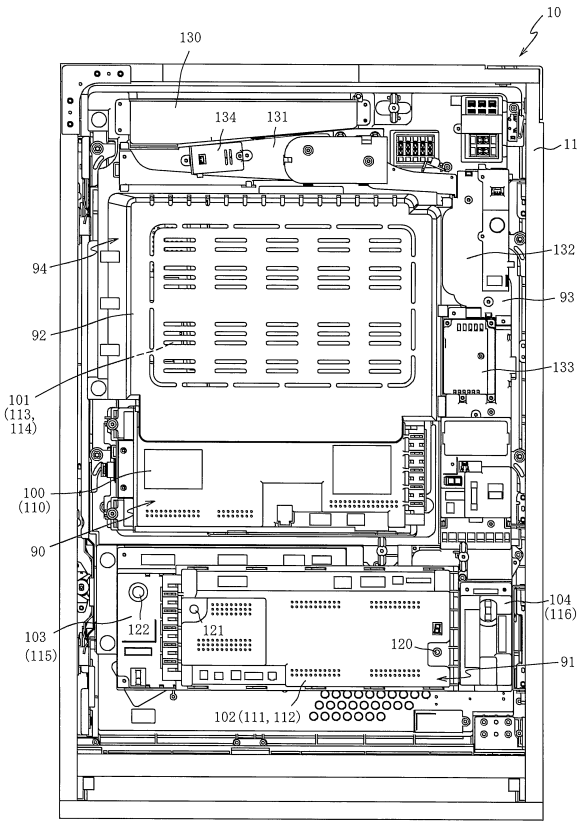
【図１】


10
18
30
33
19
34
14
14c
36
31
16
32
12
35
41
42
43
29
40
22
17
20
21
19
15
50
51
18
53
52
51b
51a
11

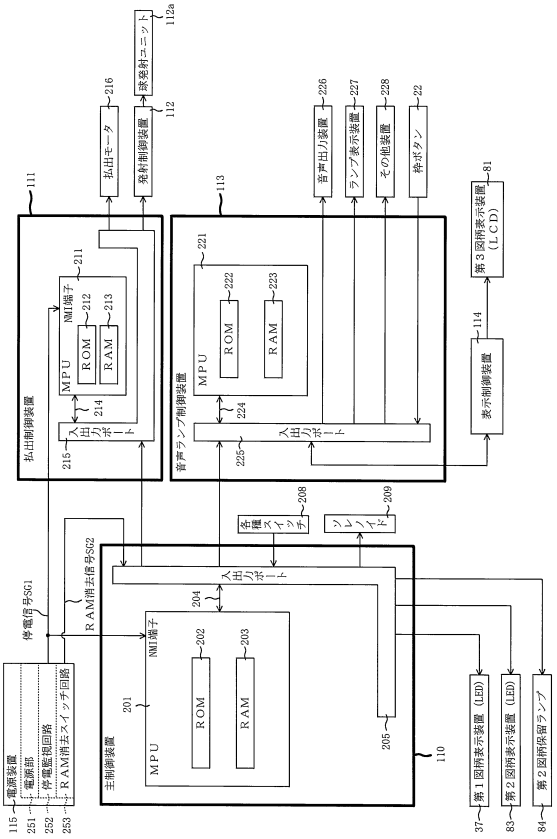
【図２】


U
F, B
L
R
D
13
60
80
69
73a (73)
68
61
62
67
67
86
64
73b (73)
63
63
141
65a (65)
140
140a
71
37A, 37B
K1
73c (73)

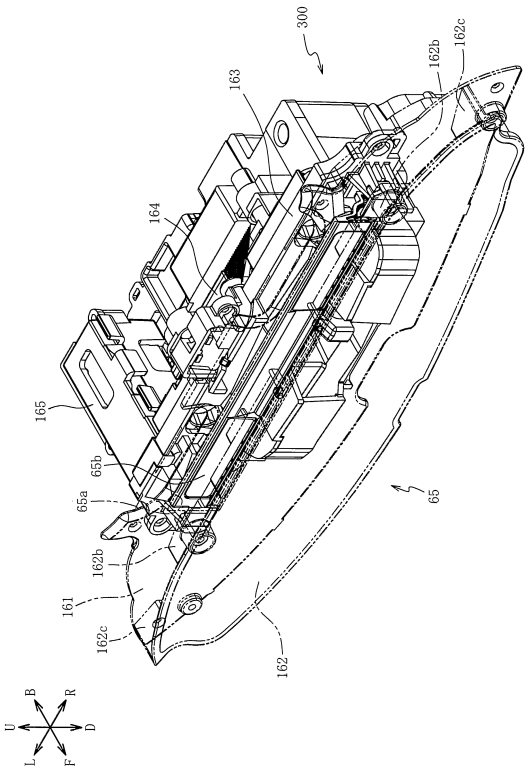
【図３】


10
130
134
131
11
94
132
92
93
133
101 (113, 114)
100 (110)
90
104 (116)
103 (115)
122
121
120
91
102 (111, 112)

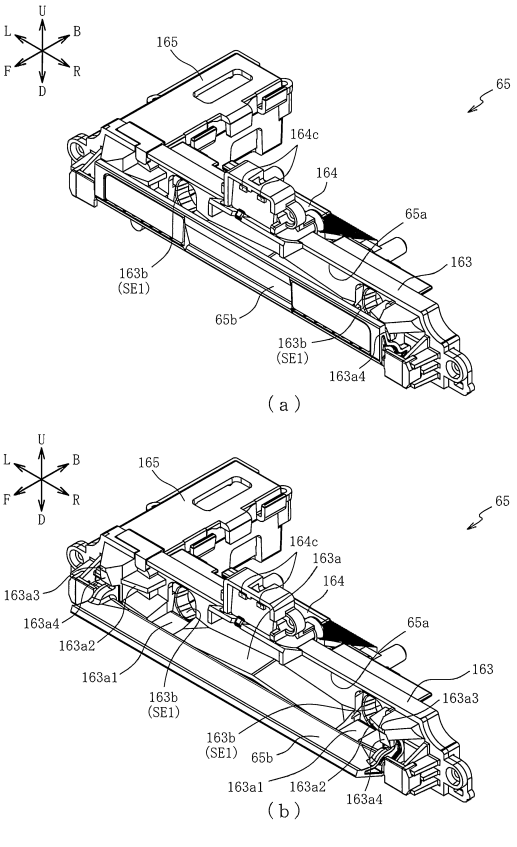
【図４】


112a
発射制御ユニット
112
216
払出モータ
発射制御装置
111
払出制御装置
MPU
NMI端子
211
ROM
212
RAM
213
214
入出力ポート
215
113
音声ランプ制御装置
221
MPU
ROM
222
RAM
223
224
入出力ポート
225
226
音声出力装置
227
ランプ表示装置
228
その他装置
22
枠ボタン
81
第３図柄表示装置 (LCD)
114
表示制御装置
208
209
電源スイッチ
リセットSW
入出力ポート
204
NMI端子
201
MPU
ROM
202
RAM
203
205
110
主制御装置
停電信号SG1
RAM消去信号SG2
RAM消去スイッチ回路
停電監視回路
電源部
電源装置
115
251
252
253
37
第１図柄表示装置 (LED)
83
第２図柄表示装置 (LED)
84
第２図柄保留ランプ

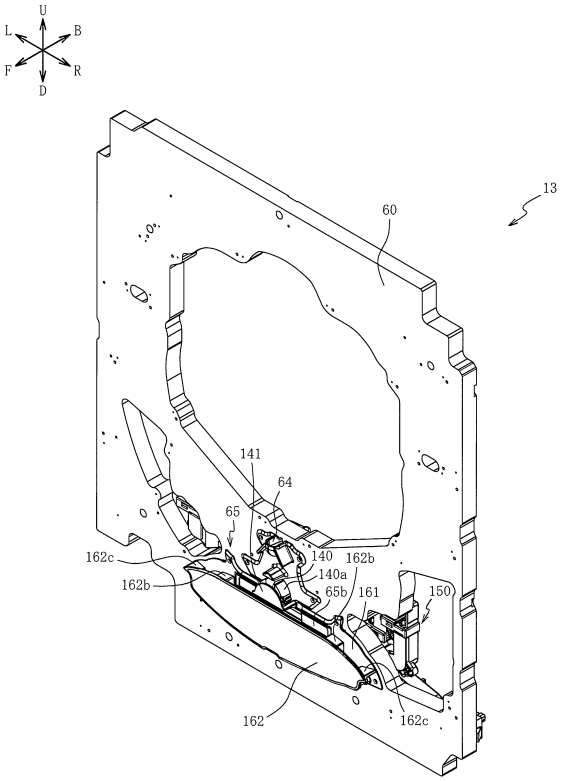
【図５】


300
163
162b
162c
164
165
65b
65a
162b
161
162c
162
65
U
L
B
R
F
D

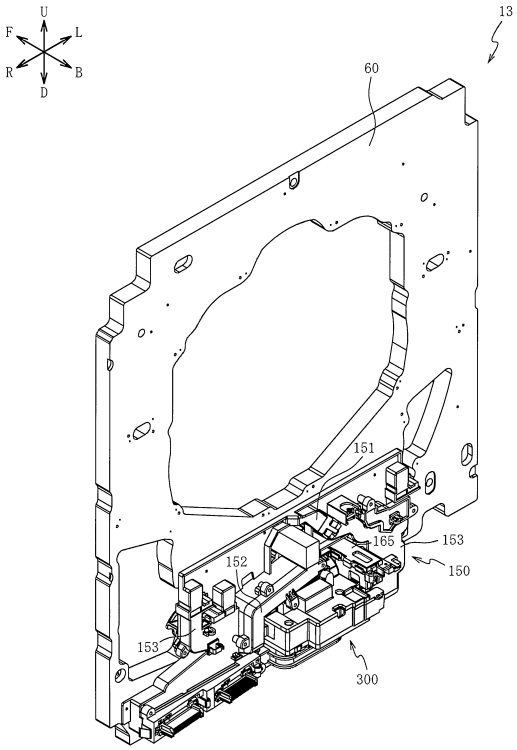
【図６】


U
L
B
F
R
D
165
65
164c
164
65a
163
163b
(SE1)
65b
163b
(SE1)
163a4
(a)
163a
163a3
163a4
163a2
163a1
163b
(SE1)
163b
(SE1)
65b
163a1
163a2
163a4
(b)

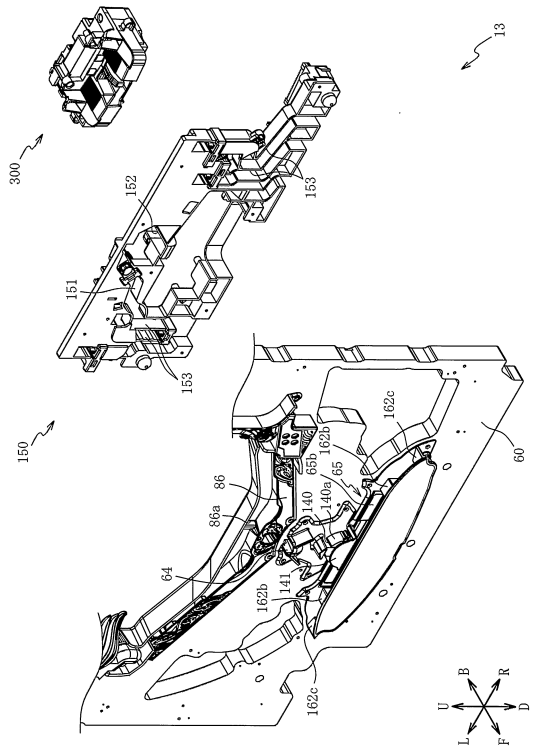
【図７】


U
L
B
F
R
D
13
60
141
64
65
162c
140
162b
140a
162b
65b
161
150
162
162c

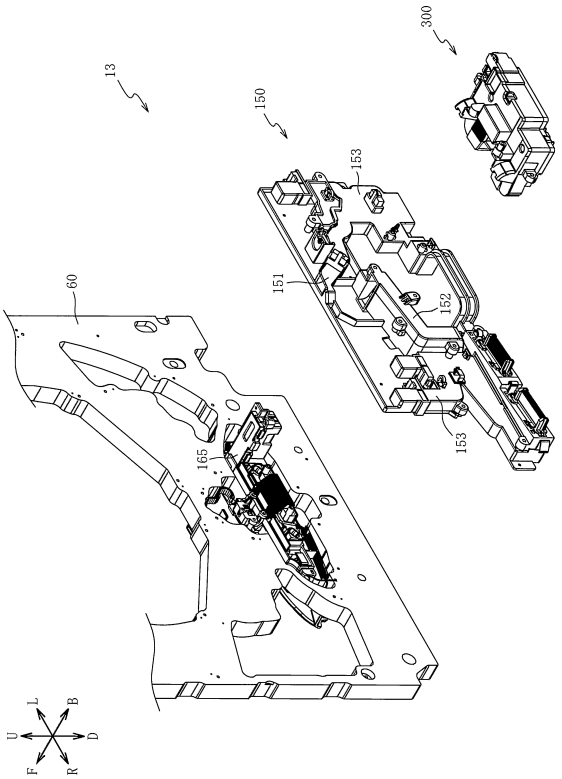
【図８】


U
F
L
R
B
D
13
60
151
165
153
152
150
153
300

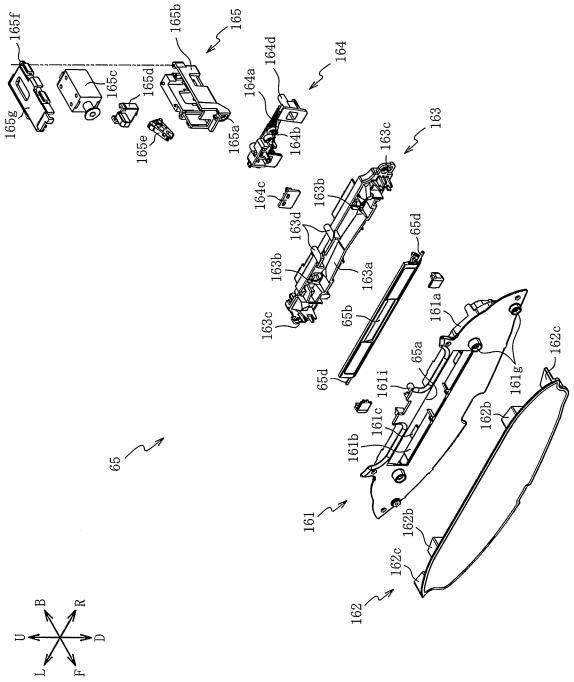
【図９】



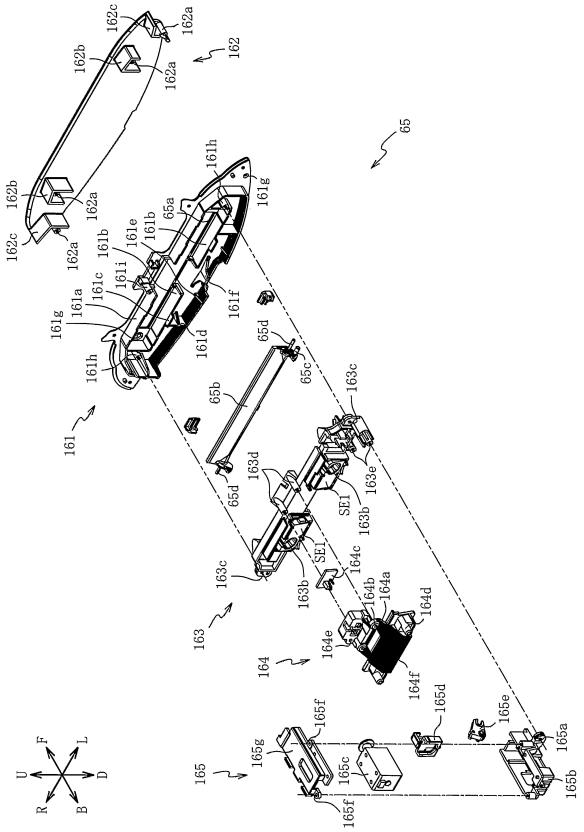
【図１０】



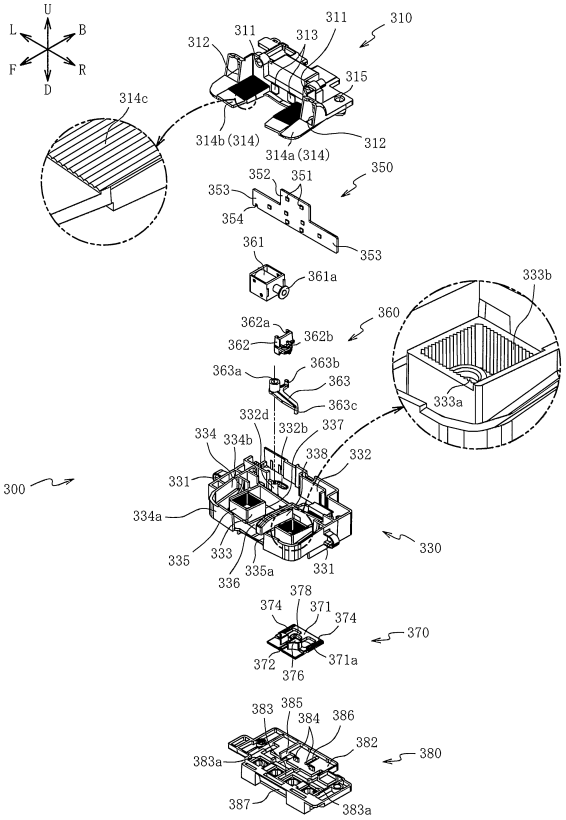
【図１１】



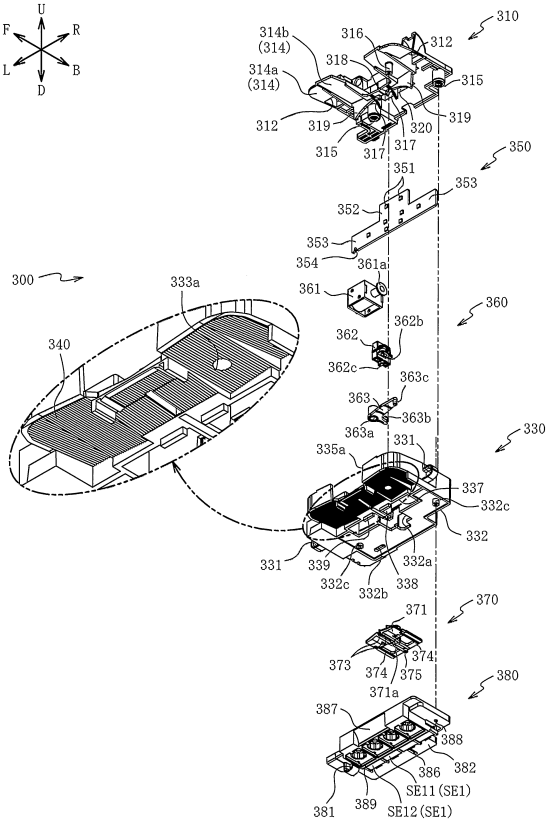
【図１２】



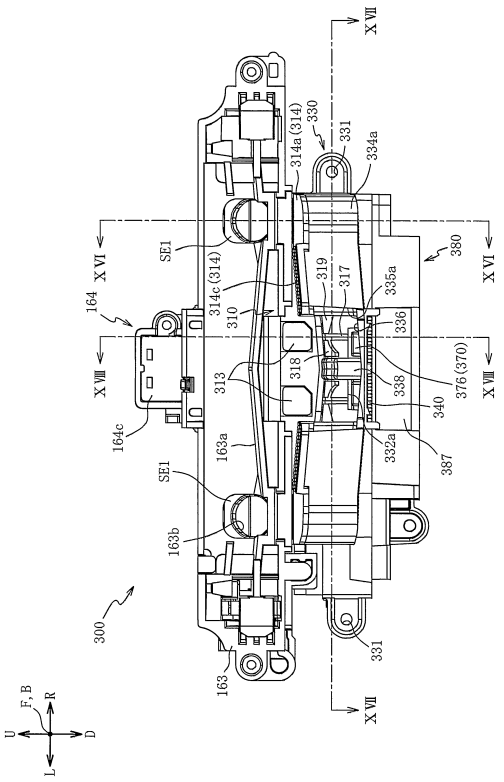
【図１３】



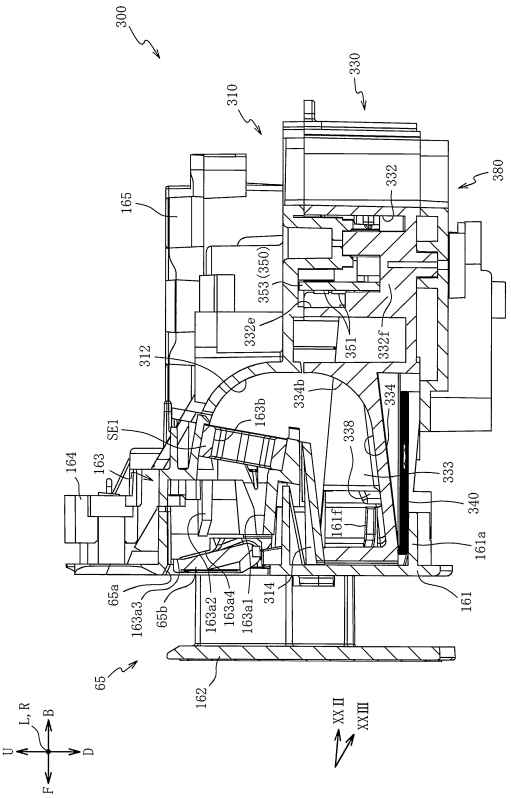
【図１４】



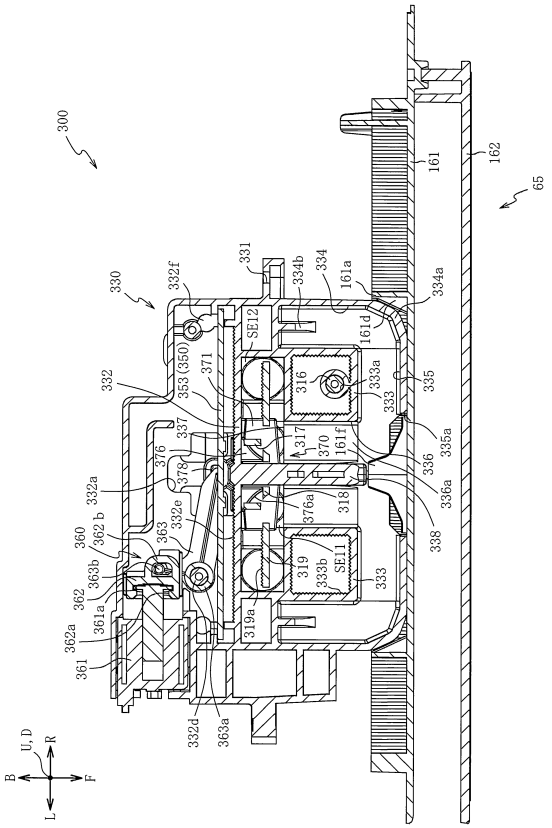
【図１５】



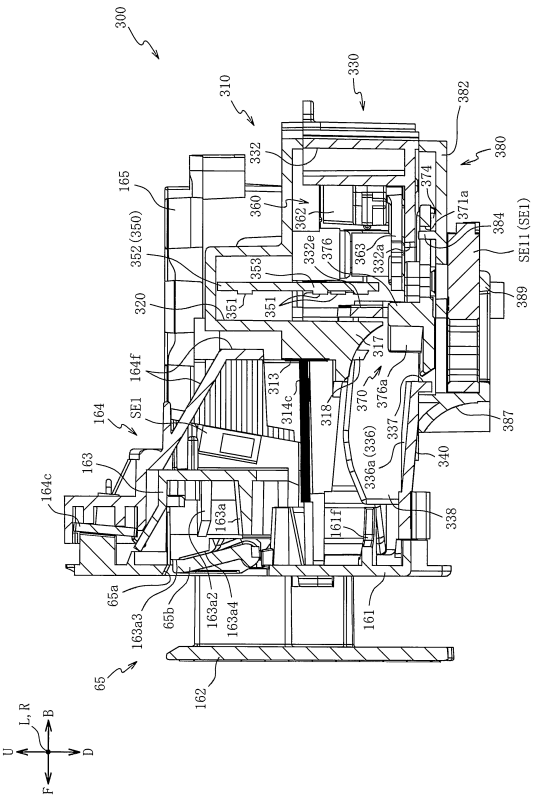
【図１６】



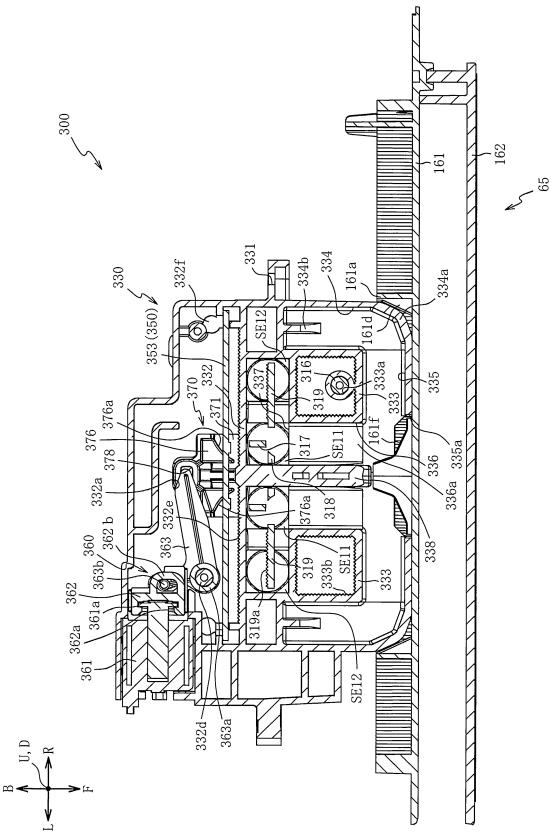
【図１７】



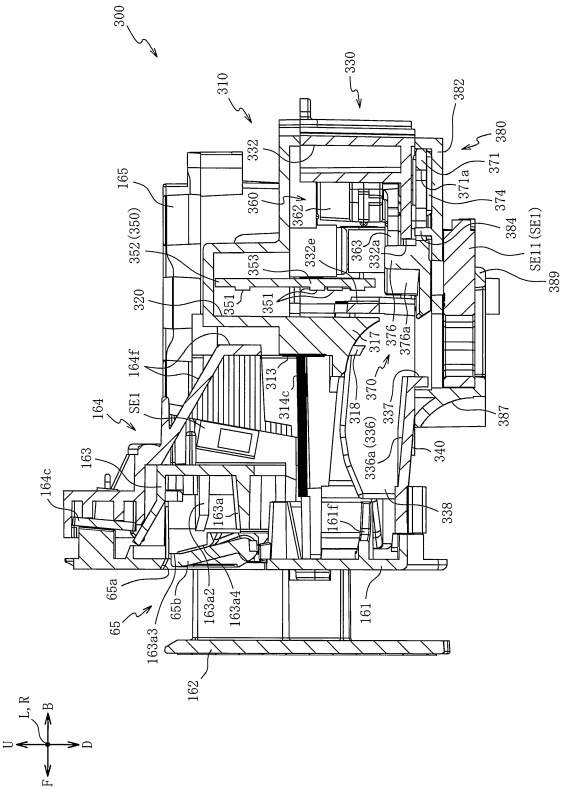
【図１８】



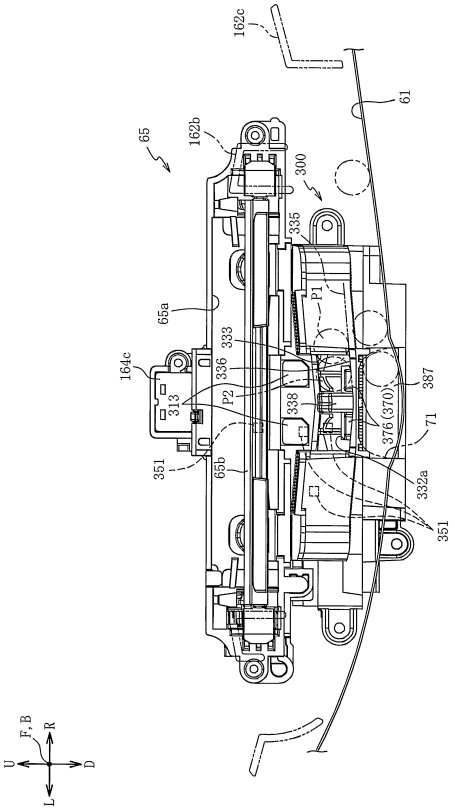
【図１９】



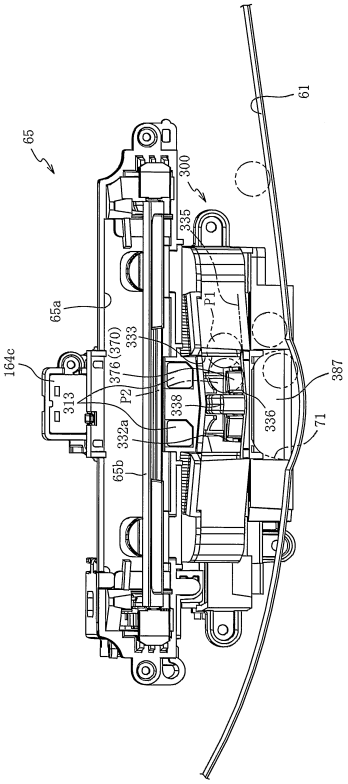
【図２０】



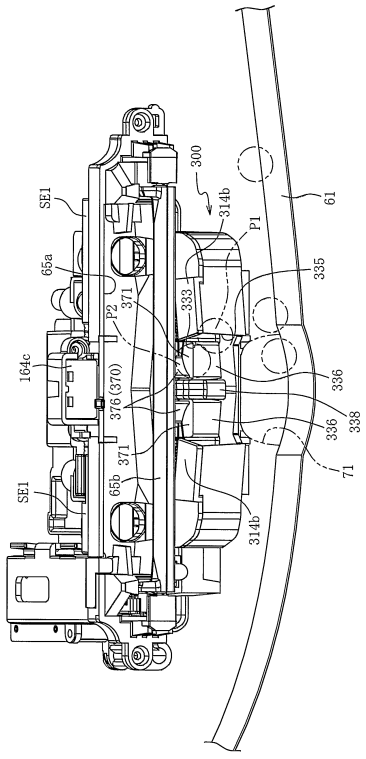
【図２１】



【図２２】



【図２３】



【図２４】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202a
第１当たり種別選択テーブル	202b
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202d

（ａ）

202

第１当たり種別選択テーブル202b

大当たり種別		第１当たり種別カウンタＣ２の値(0～99)		ラウンドカウント	開閉板の作動パターン	スライド変位部材の作動パターン
特別図柄１	大当たりＡ１	0～9	202b1	4R 10C	第１の作動パターン	X
	大当たりＡ２	10～19	202b2			Y
	大当たりＢ１	20～39	202b3		第２の作動パターン	X
	大当たりＢ２	40～49	202b4			Y
	大当たりＣ１	50～79	202b5		第３の作動パターン	X
	大当たりＣ２	80～99	202b6			Y
特別図柄２	大当たりａ	0～99	202b7	15R 10C	第３の作動パターン	X

（ｂ）

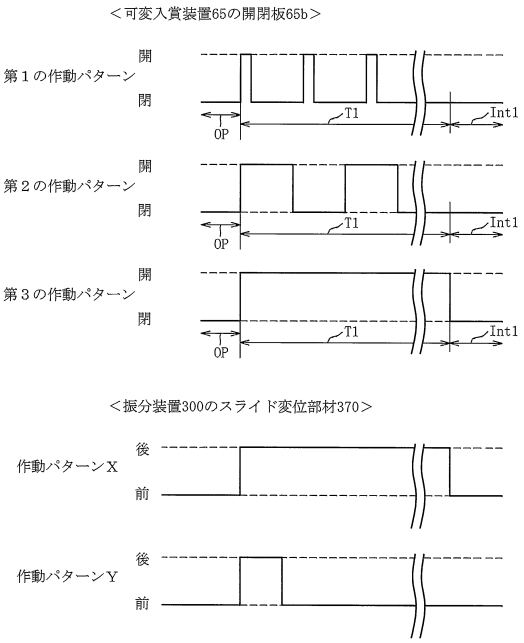
202

第２当たり乱数テーブル202c

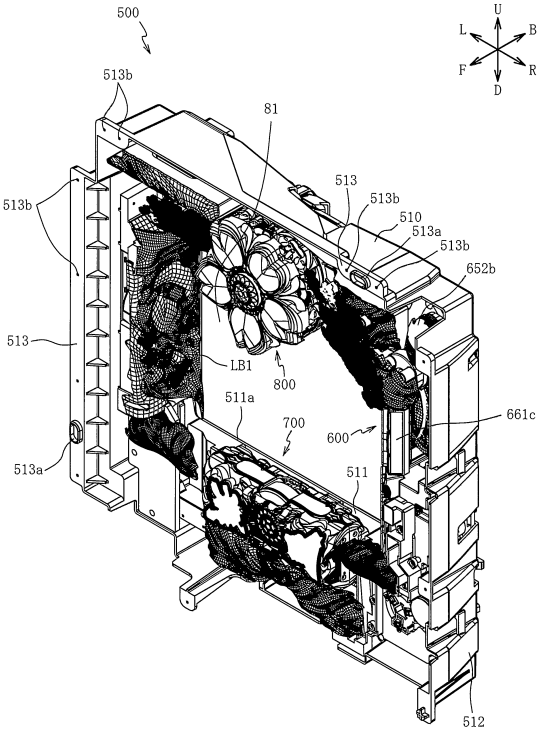
乱数テーブル	第２当たり乱数カウンタＣ４の値（0～239）	
低確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～28	202c1
高確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	202c2

（ｃ）

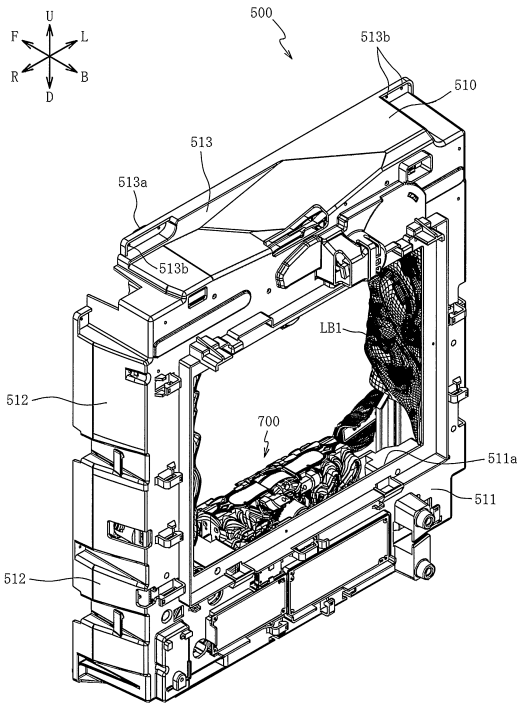
【図２５】



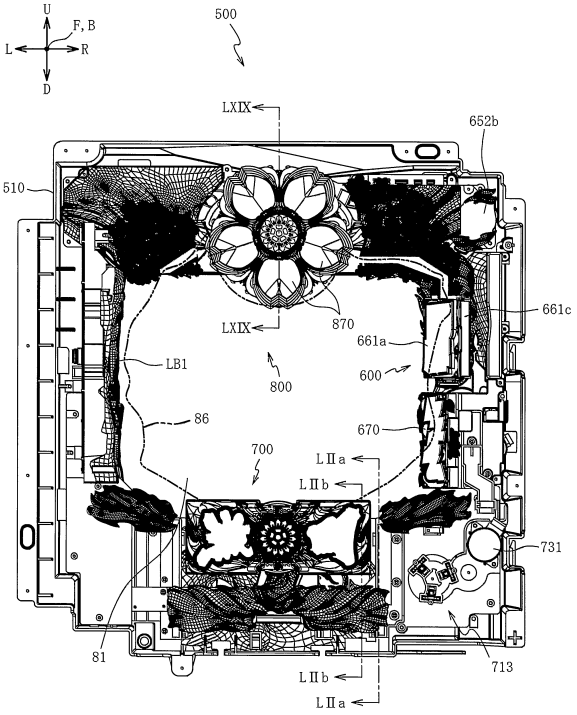
【図２６】



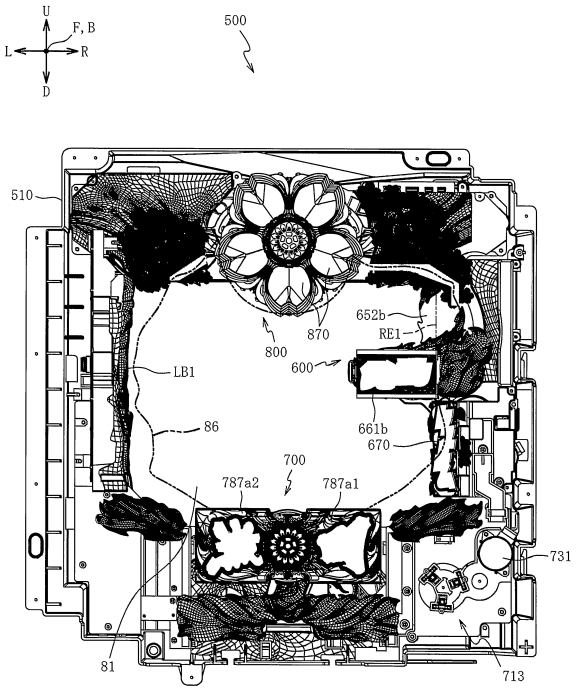
【図２７】



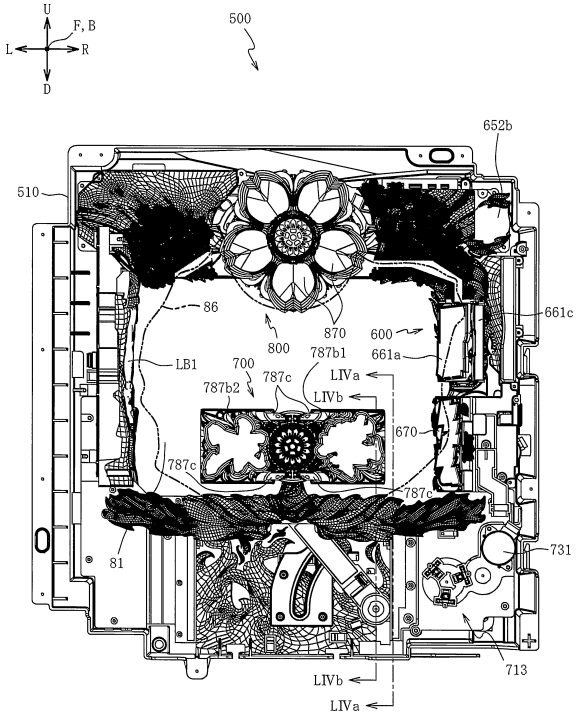
【図２８】



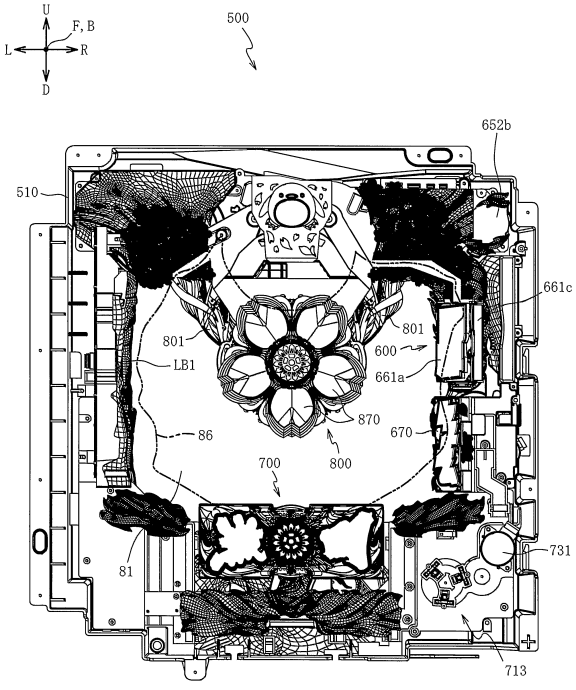
【図２９】



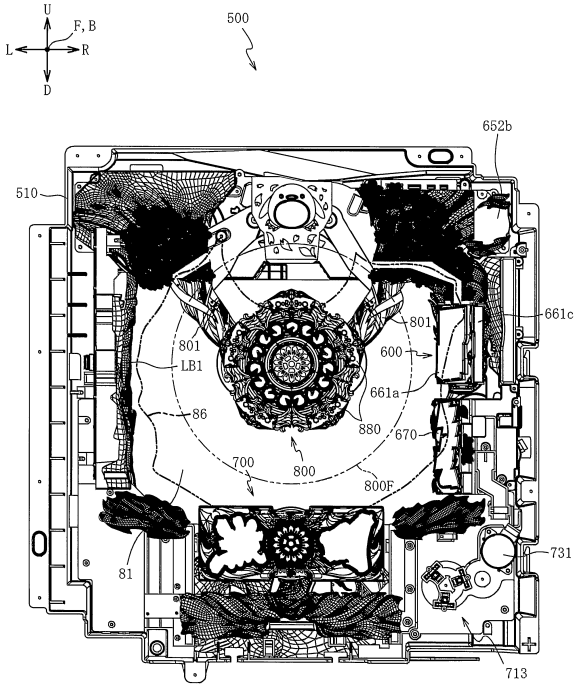
【図３０】



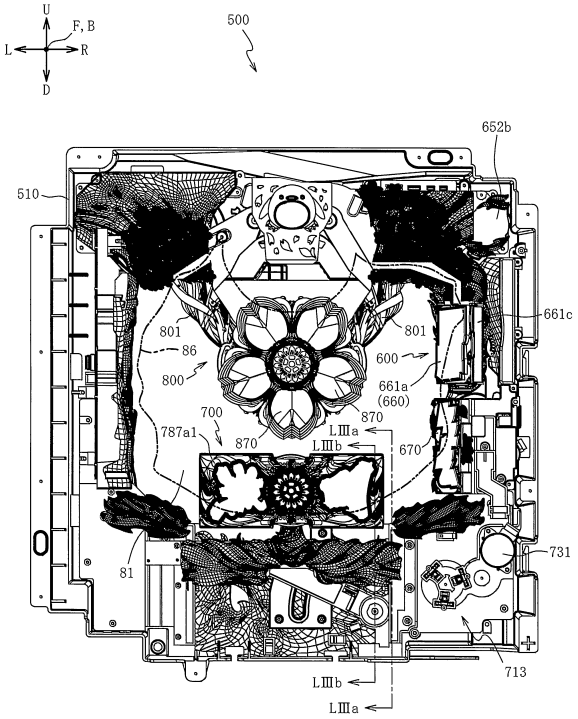
【図３１】



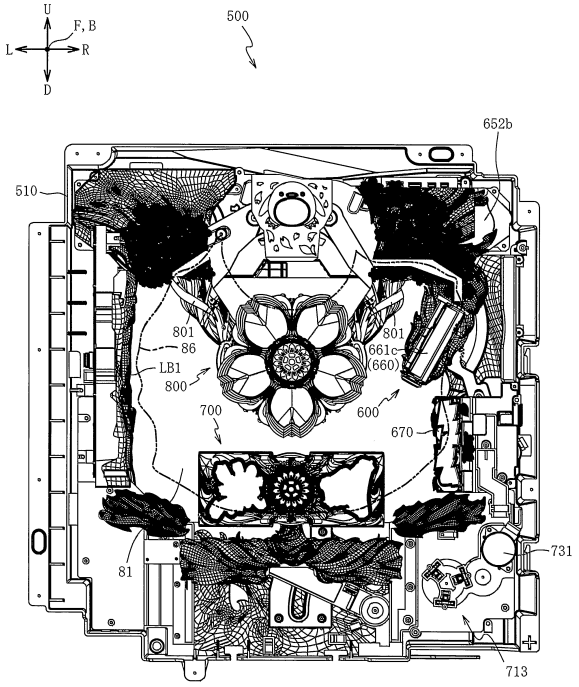
【図３２】



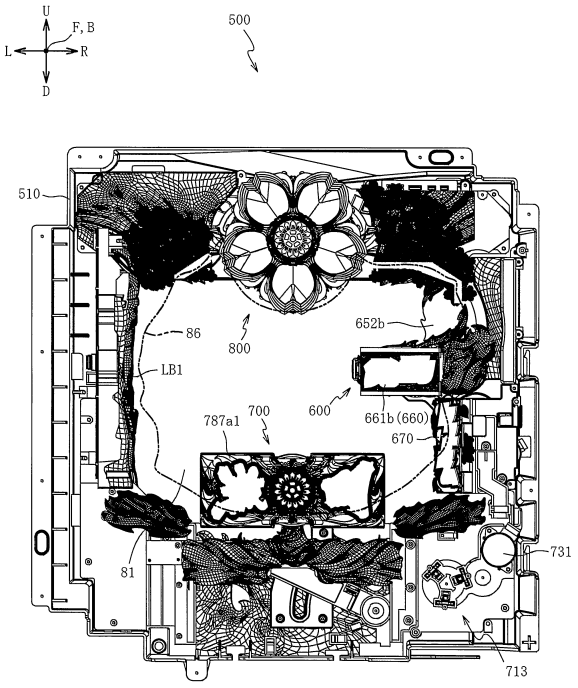
【図３３】



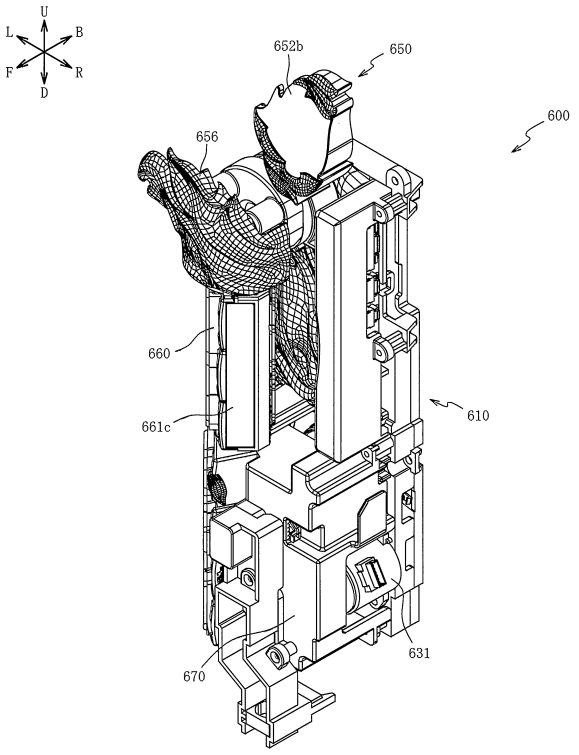
【図３４】



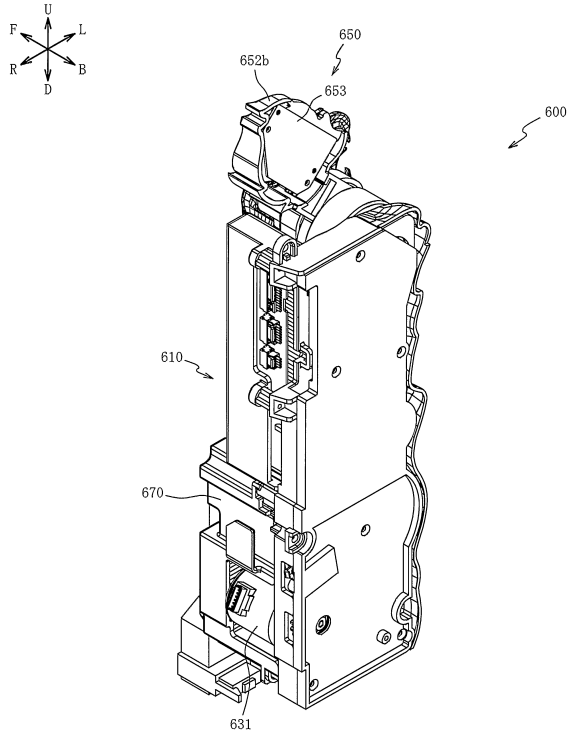
【図３５】



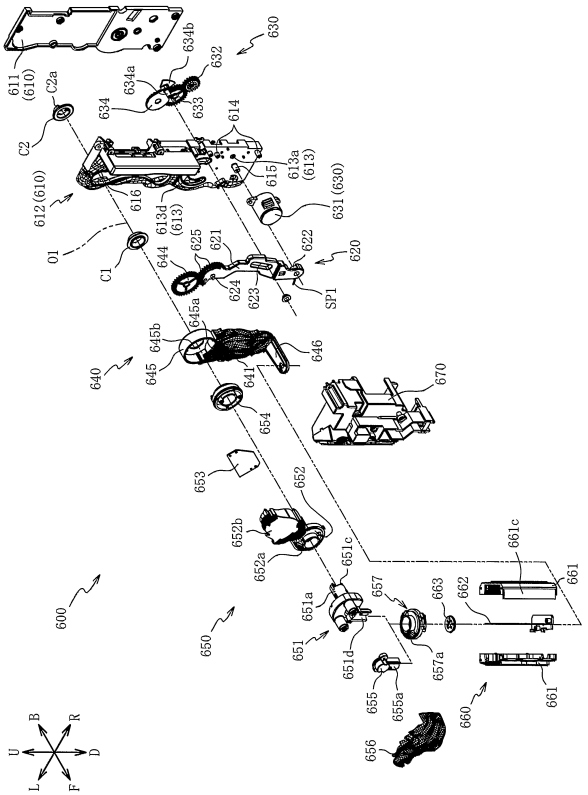
【図３６】



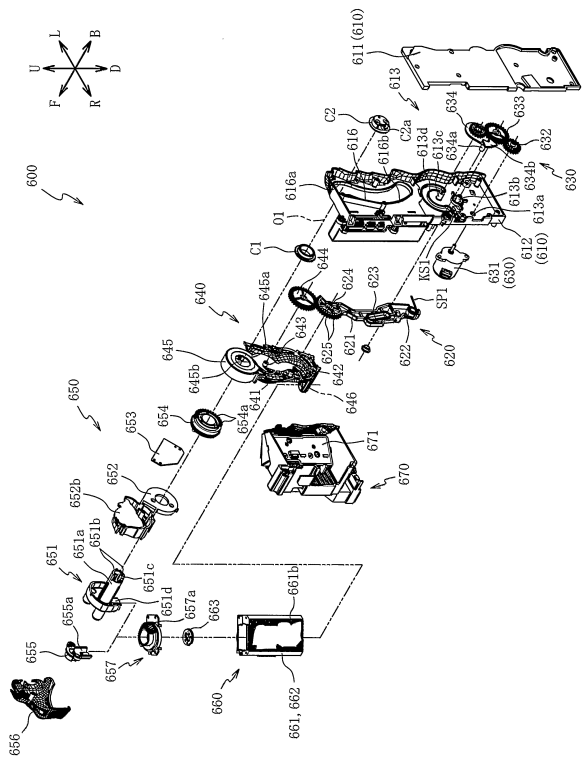
【図３７】



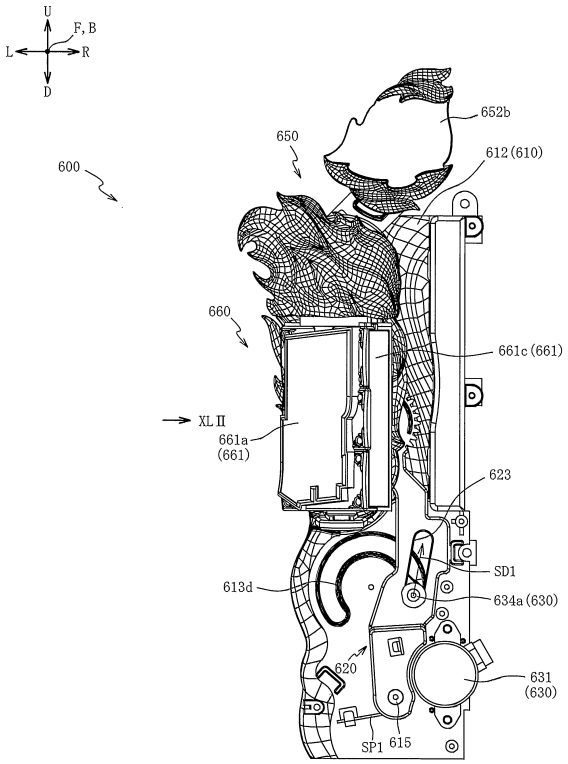
【図３８】



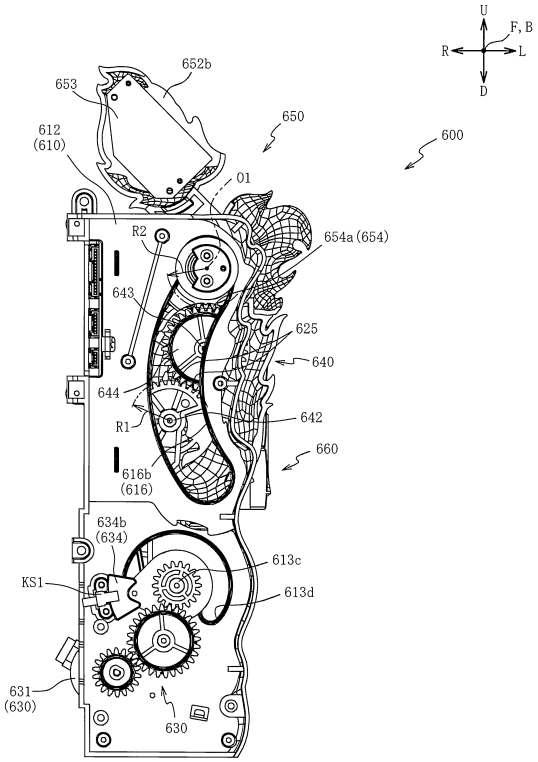
【図３９】



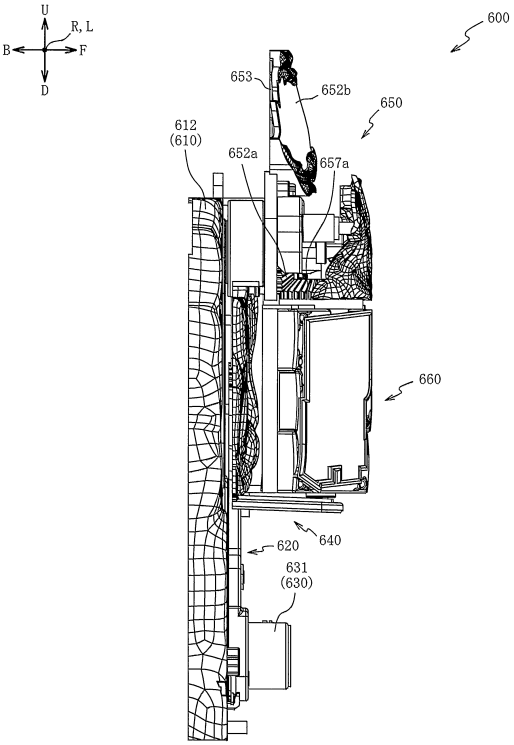
【図４０】



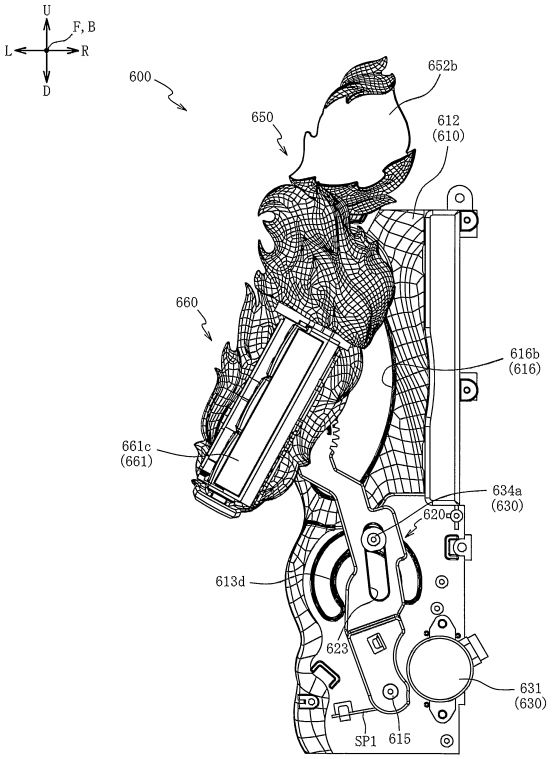
【図４１】



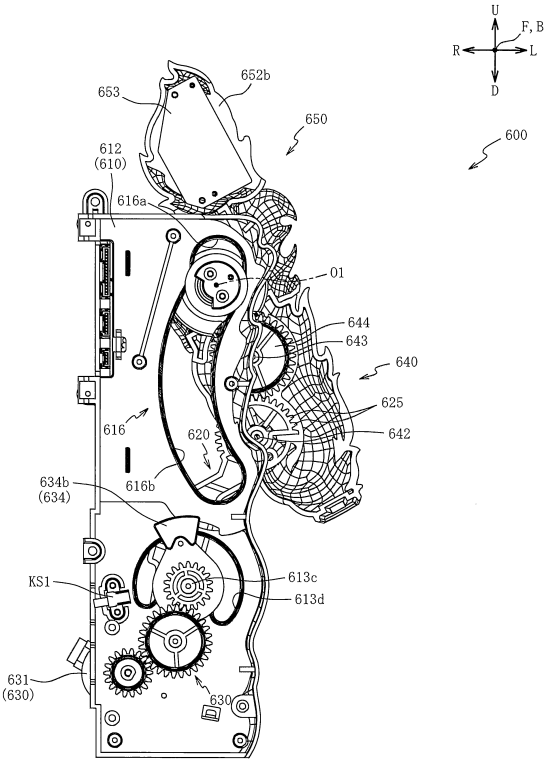
【図４２】



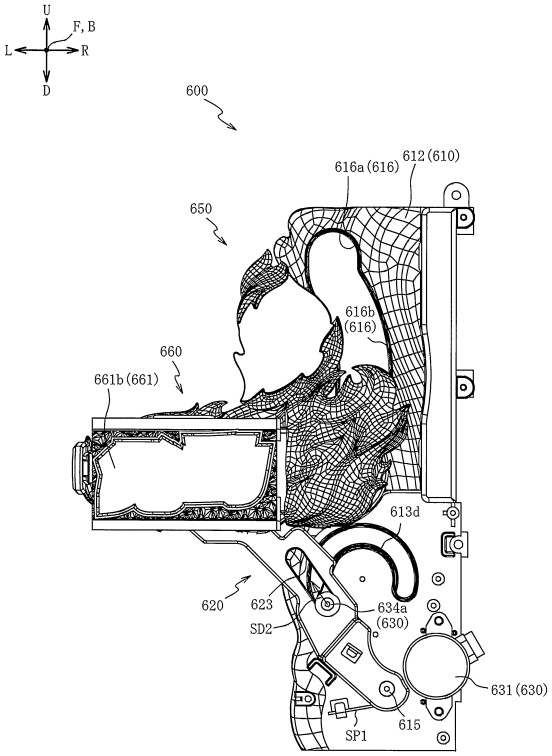
【図４３】



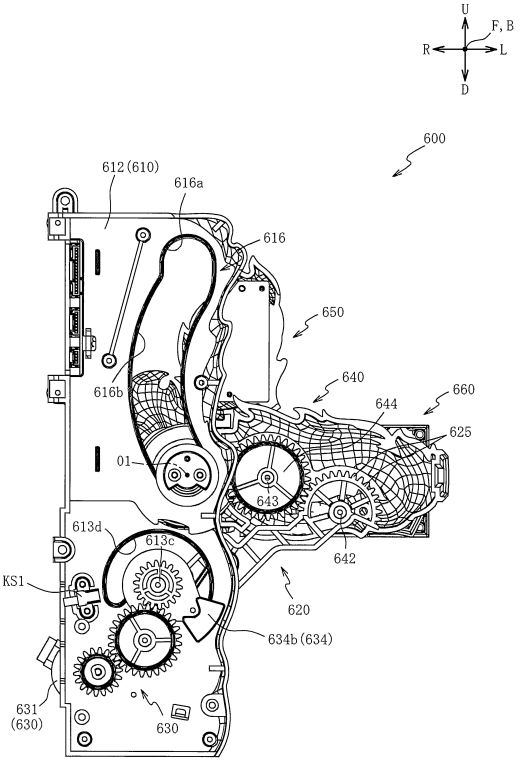
【図４４】



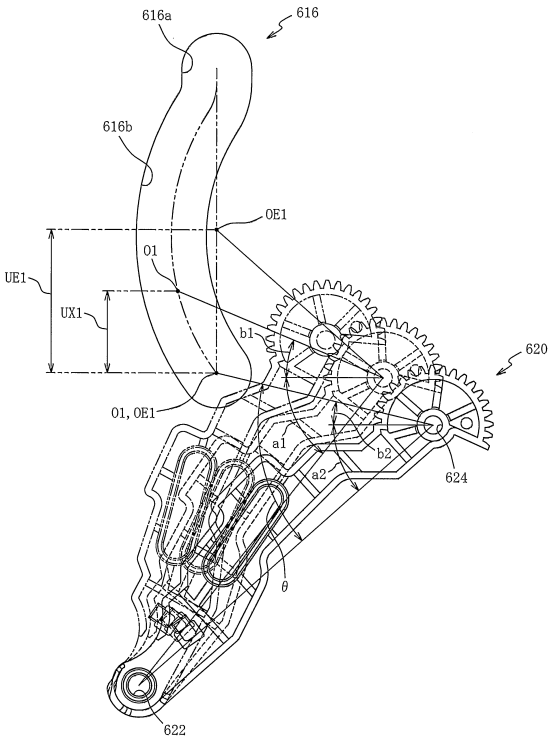
【図４５】



【図４６】



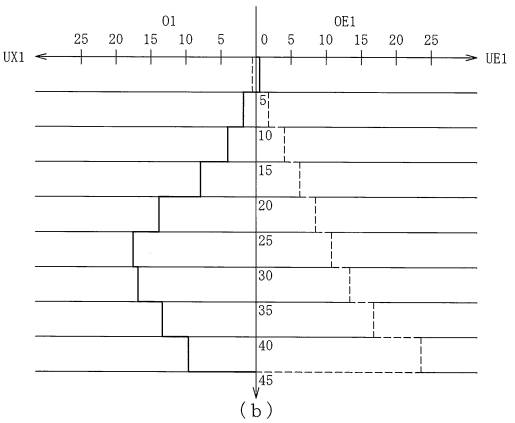
【図４７】



【図４８】

角度幅（度）	軸線O1の上下変位量UX1	仮想軸線OE1の上下変位量UE1
0～5	-0.524	-0.524
5～10	1.815	1.815
10～15	4.060	4.060
15～20	7.935	6.261
20～25	13.831	8.468
25～30	17.535	10.768
30～35	16.834	13.347
35～40	13.364	16.758
40～45	9.674	23.526

（ａ）

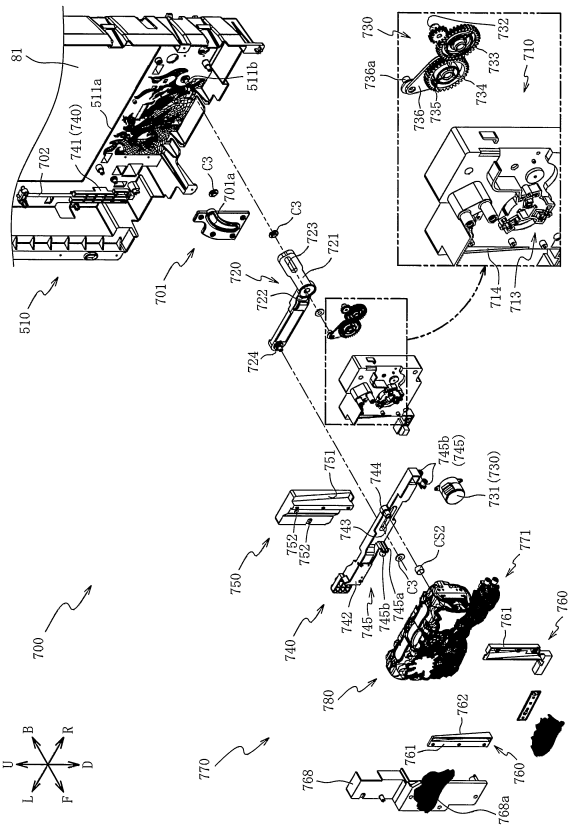


（ｂ）

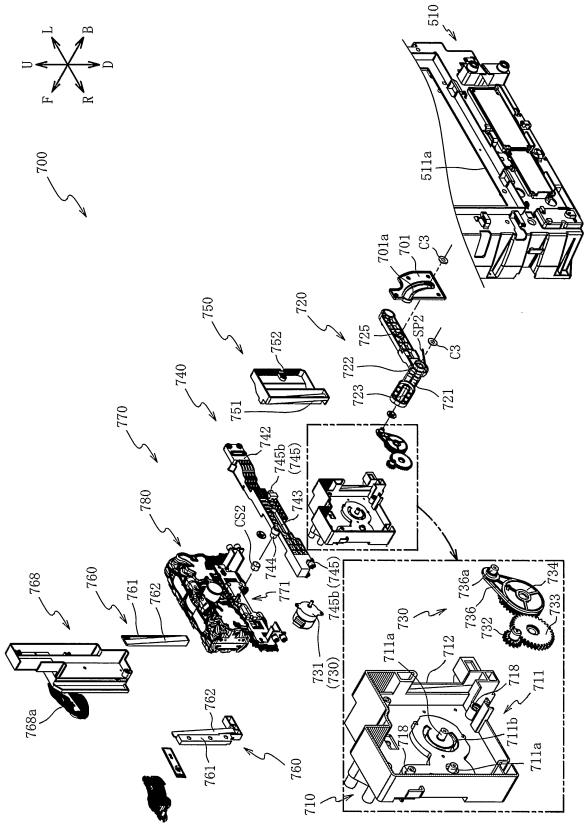
【図４９】

角度幅（度）	角度θの変化量（度）
0～5	13.23
5～10	13.70
10～15	13.73
15～20	17.92
20～25	20.86
25～30	20.07
30～35	16.35
35～40	11.62
40～45	7.42

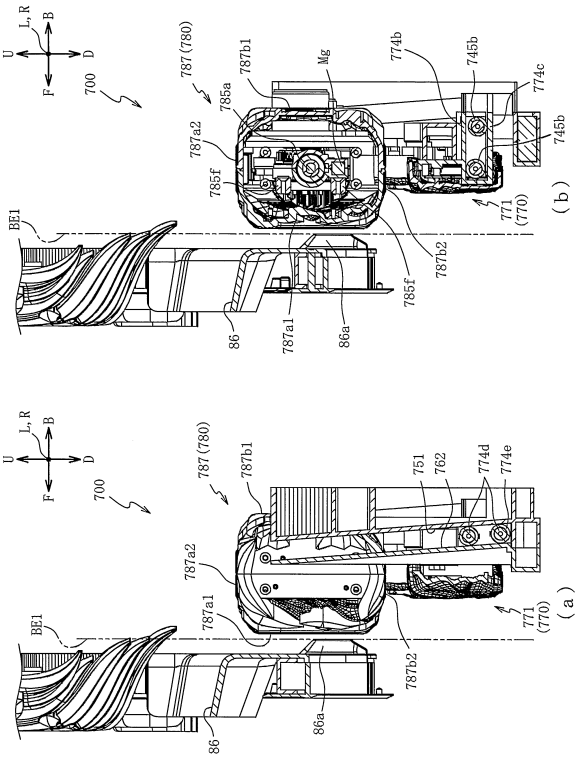
【図５０】



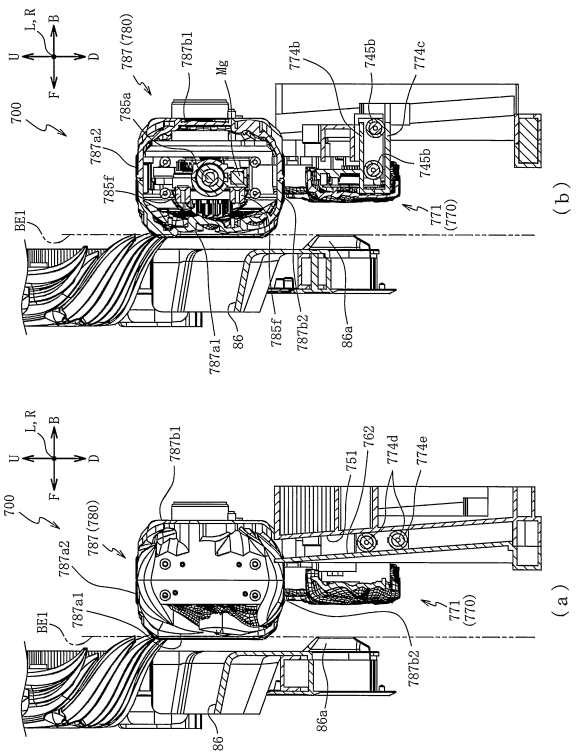
【図５１】



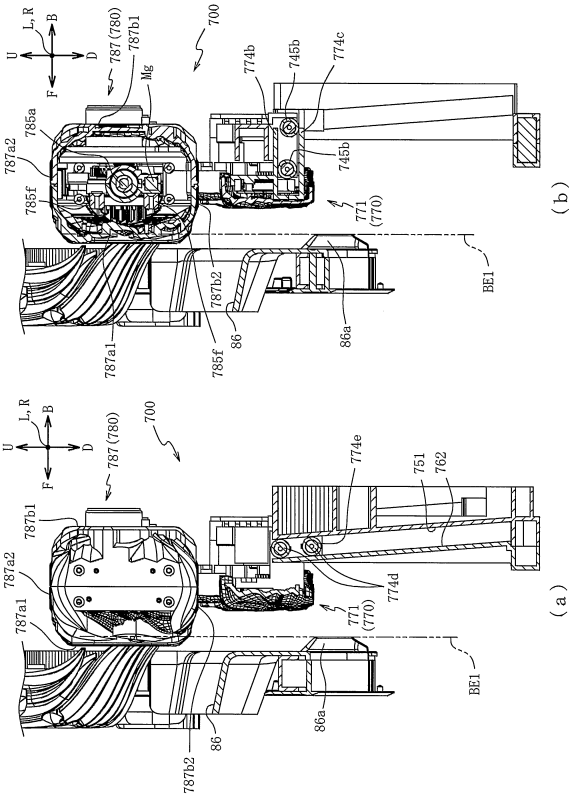
【図５２】



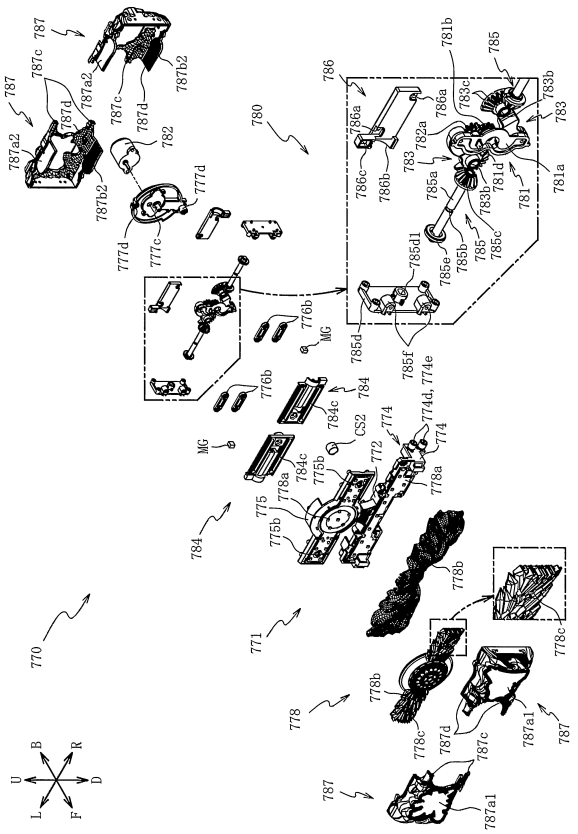
【図５３】



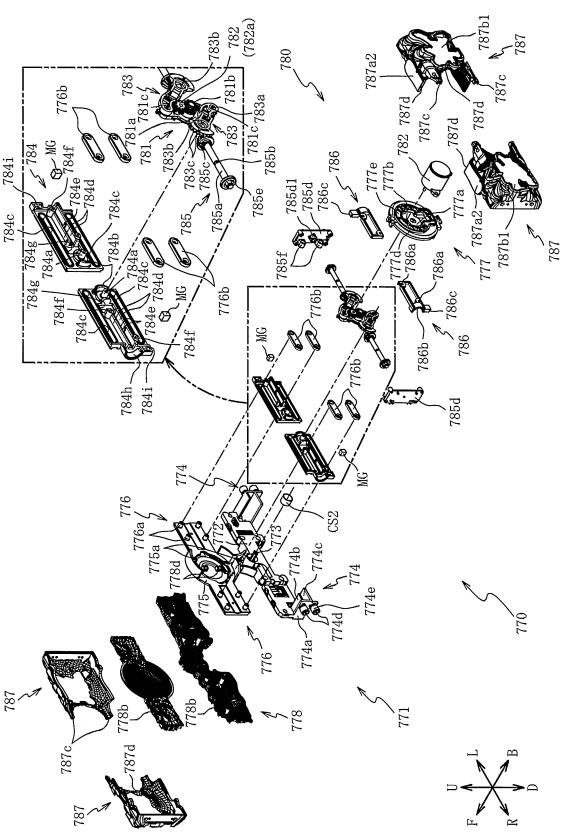
【図５４】



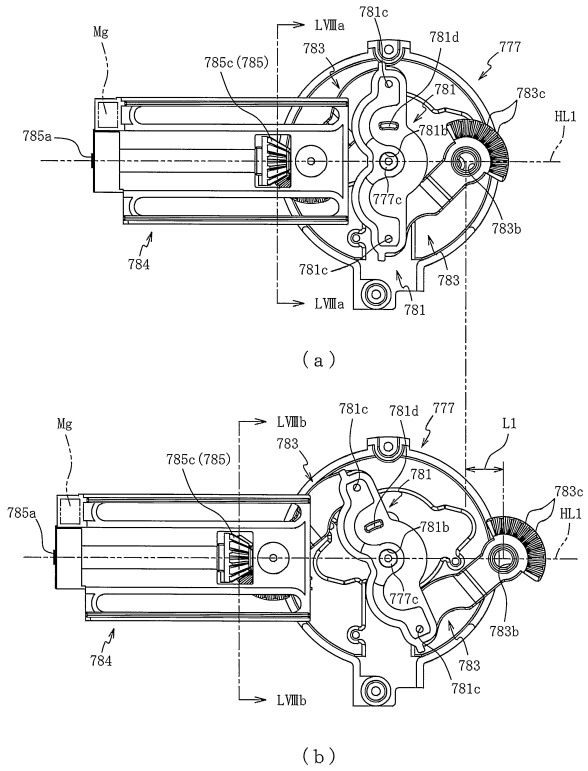
【図５５】



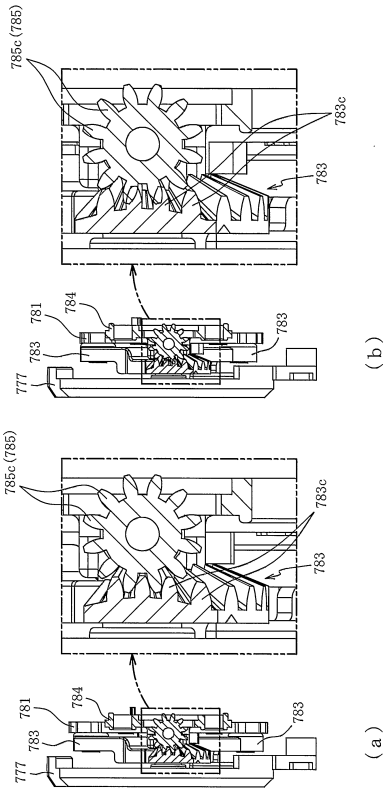
【図５６】



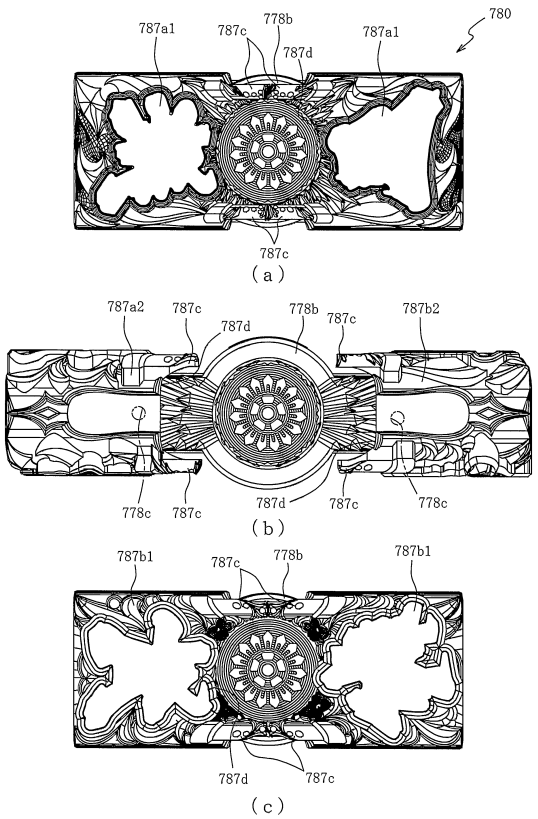
【図５７】



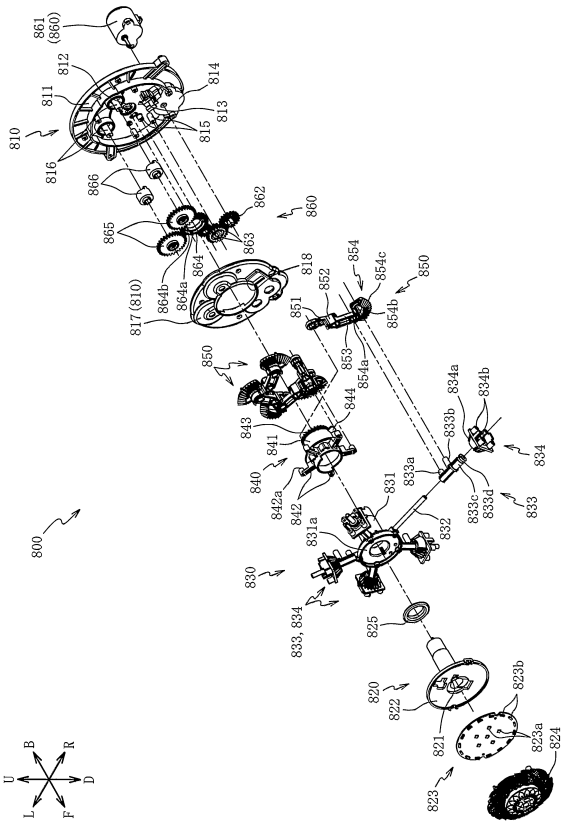
【図５８】



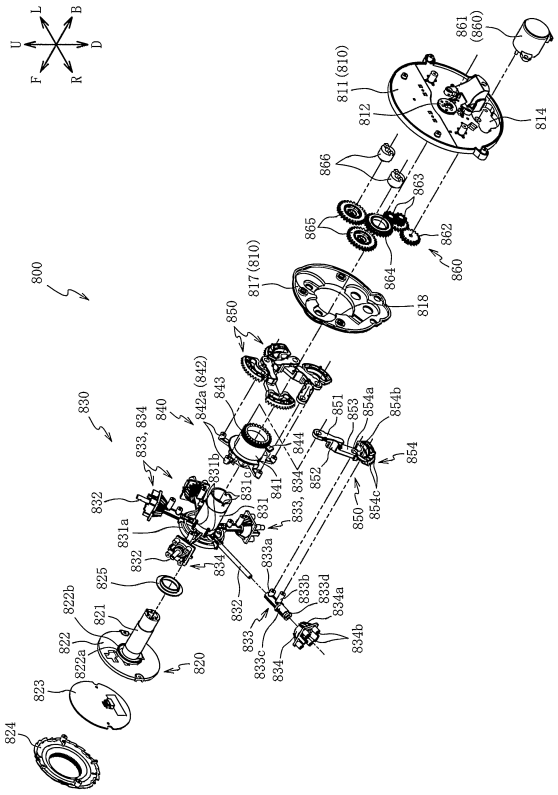
【図５９】



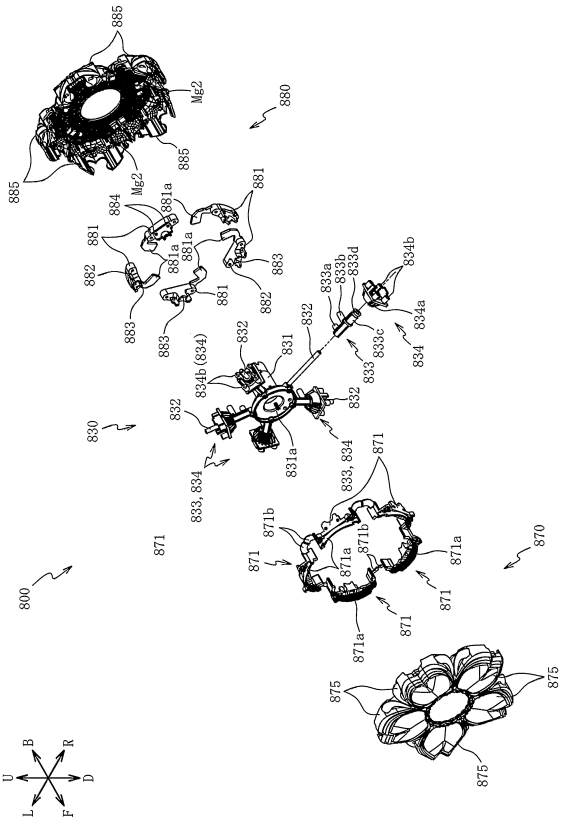
【図６０】



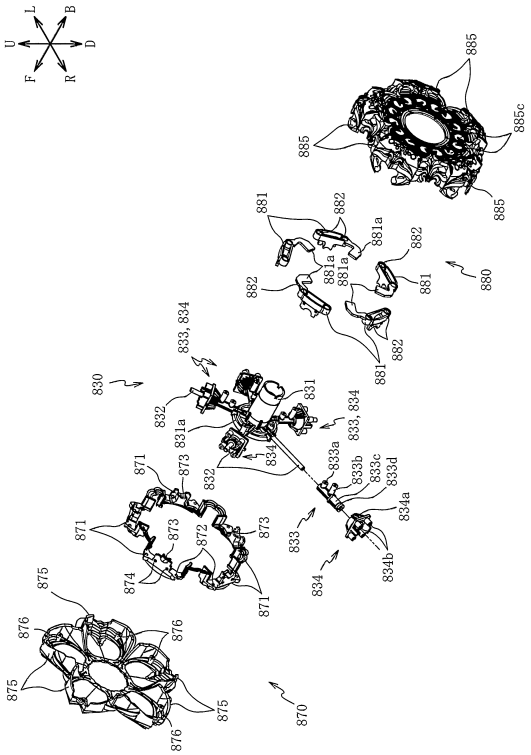
【図６１】



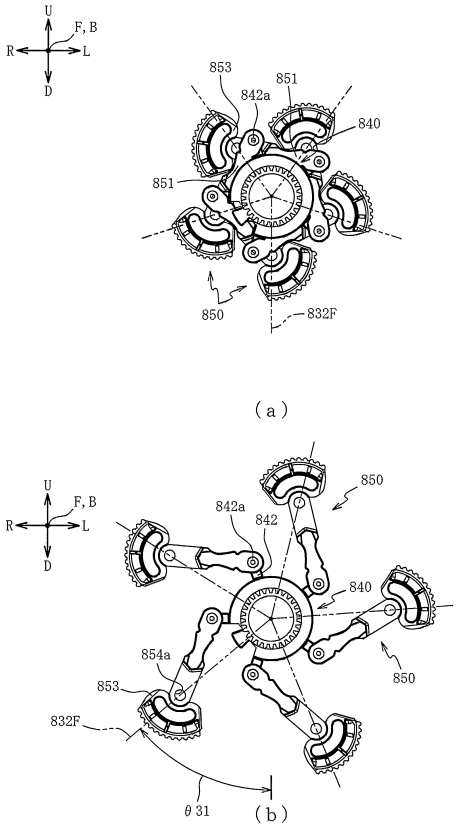
【図６２】



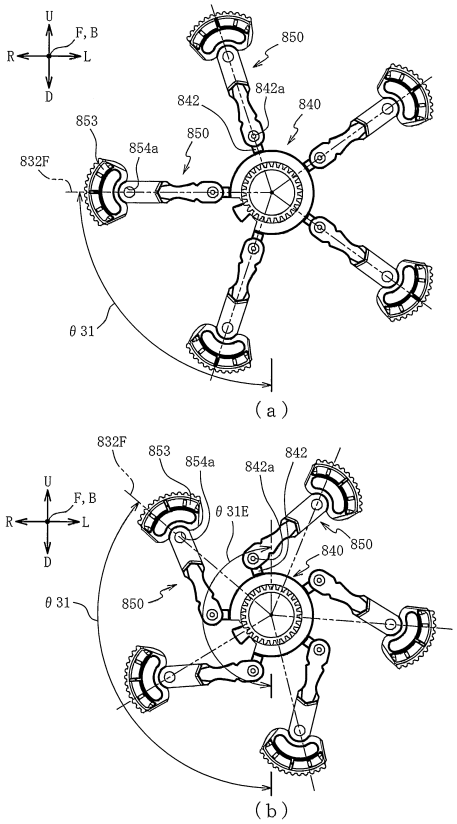
【図６３】



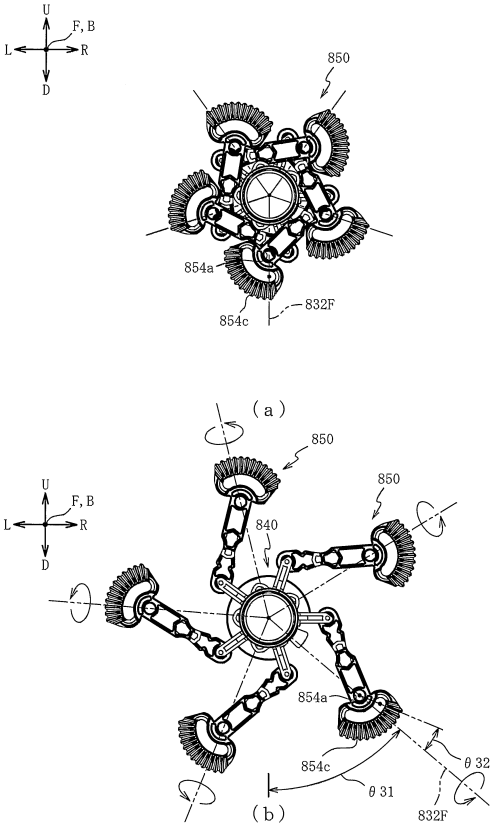
【図６４】



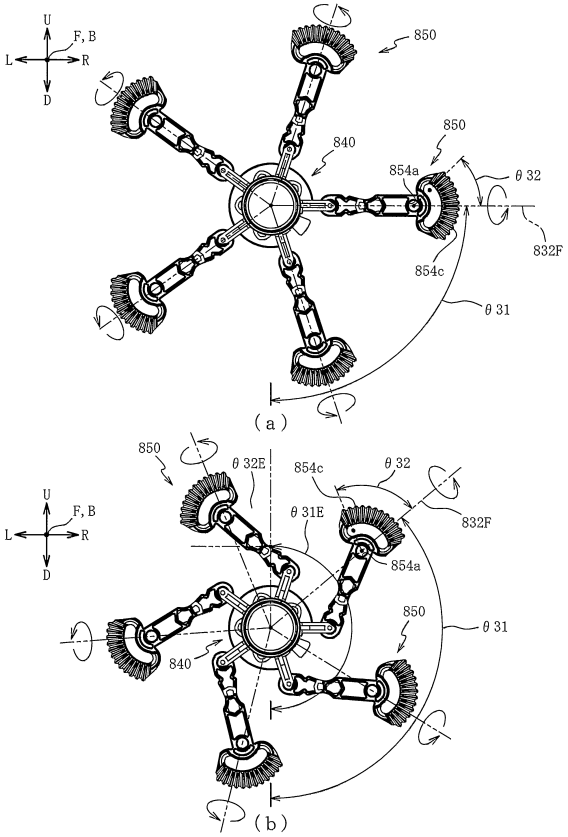
【図６５】



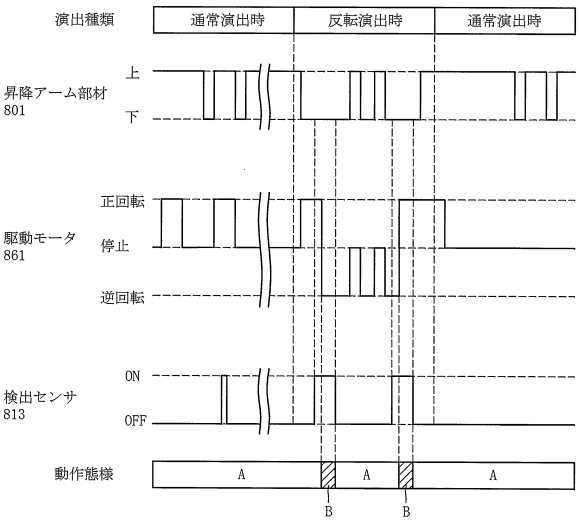
【図６６】



【図６７】

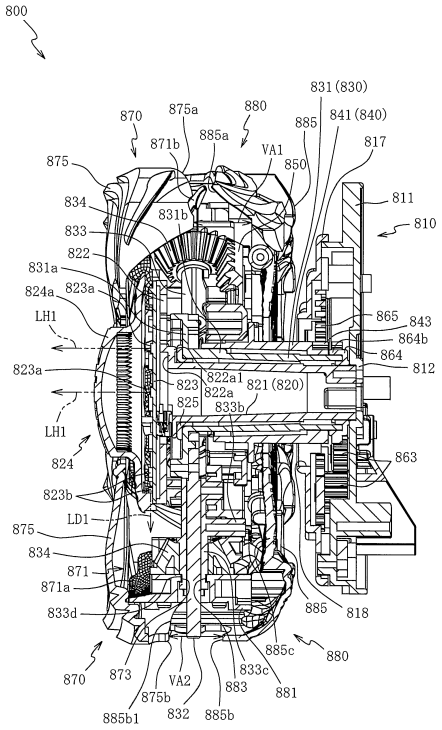


【図６８】

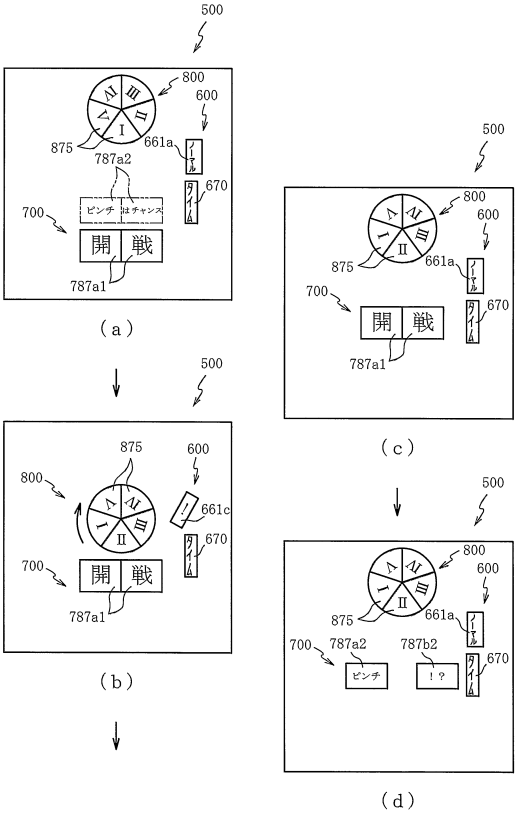


A：一体回転動作または停止
B：切替回転動作

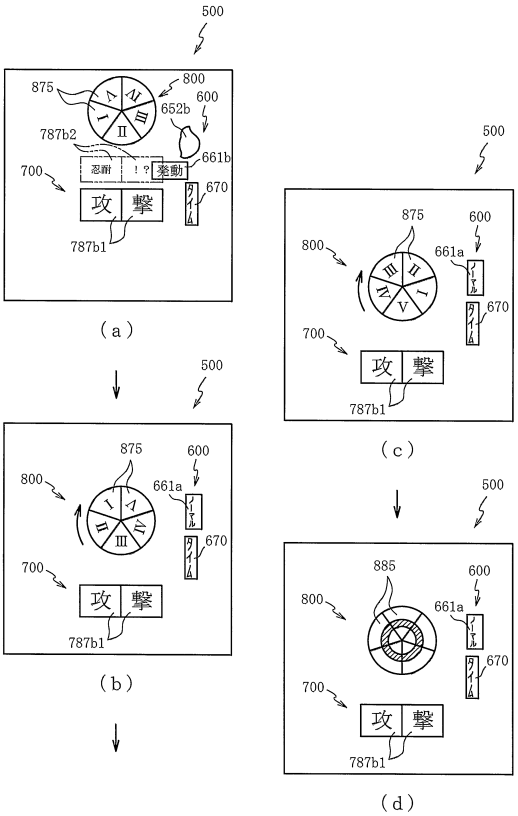
【図６９】



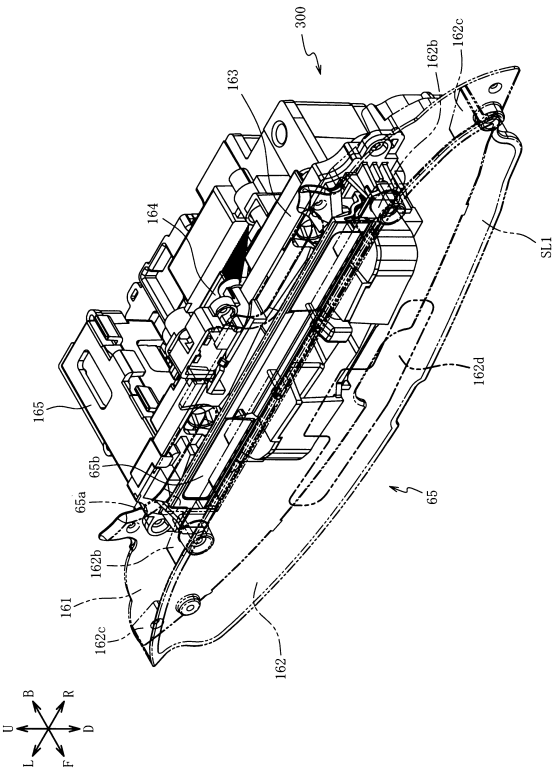
【図７０】



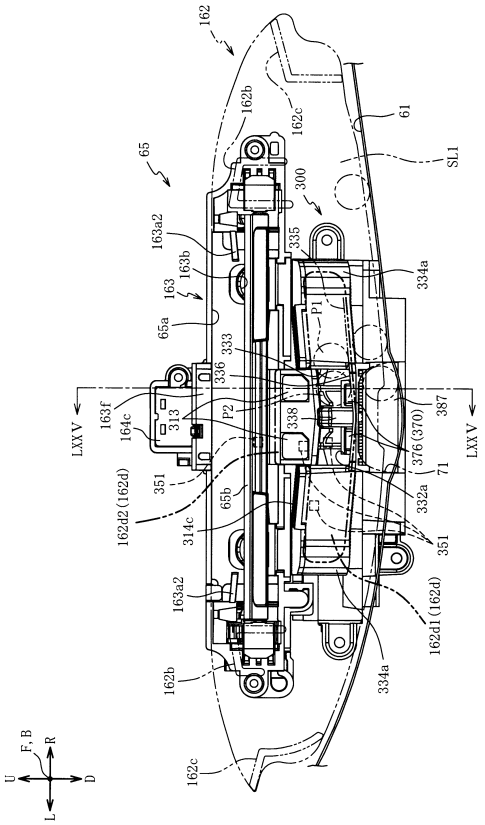
【図７１】



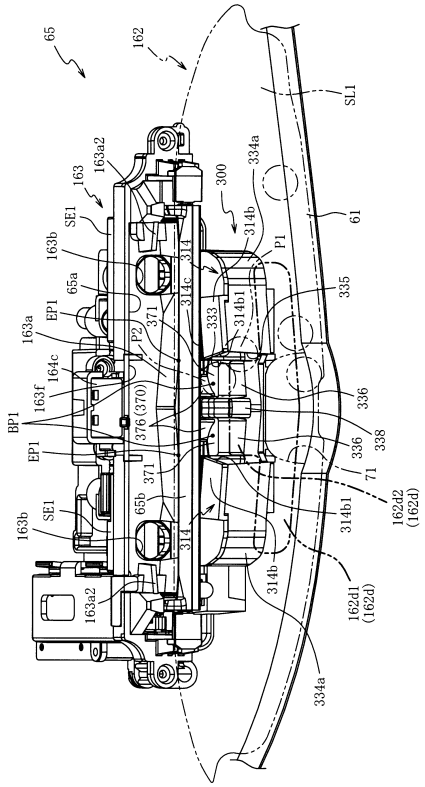
【図７２】



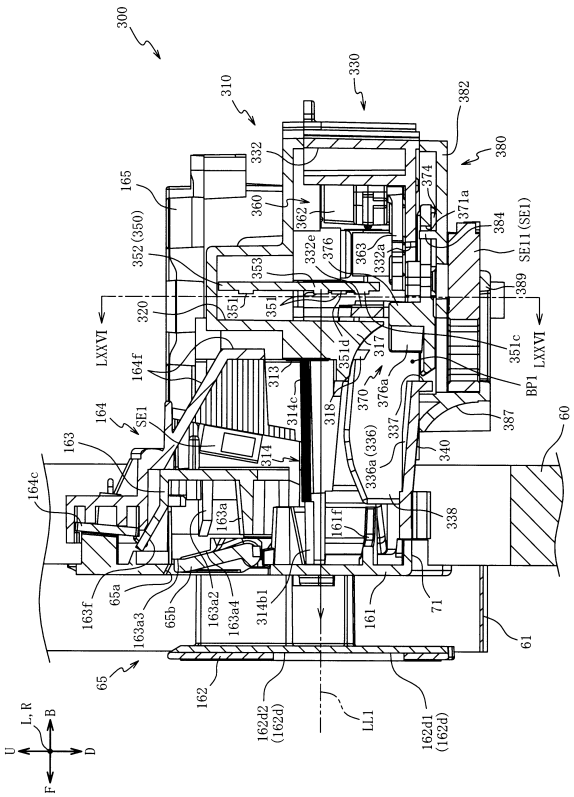
【図７３】



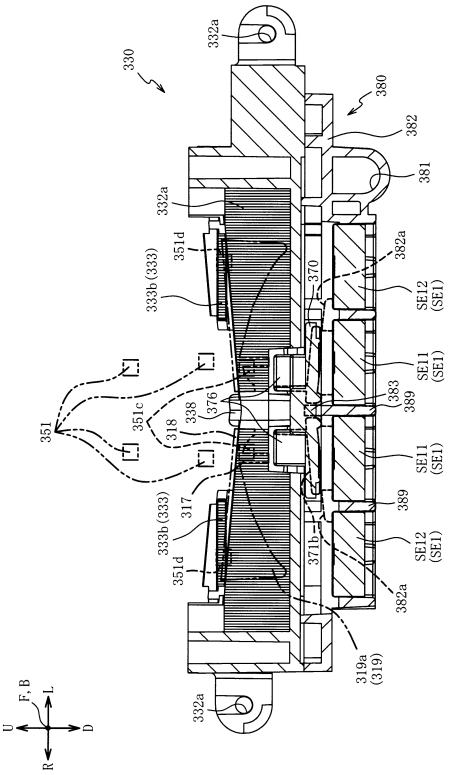
【図７４】



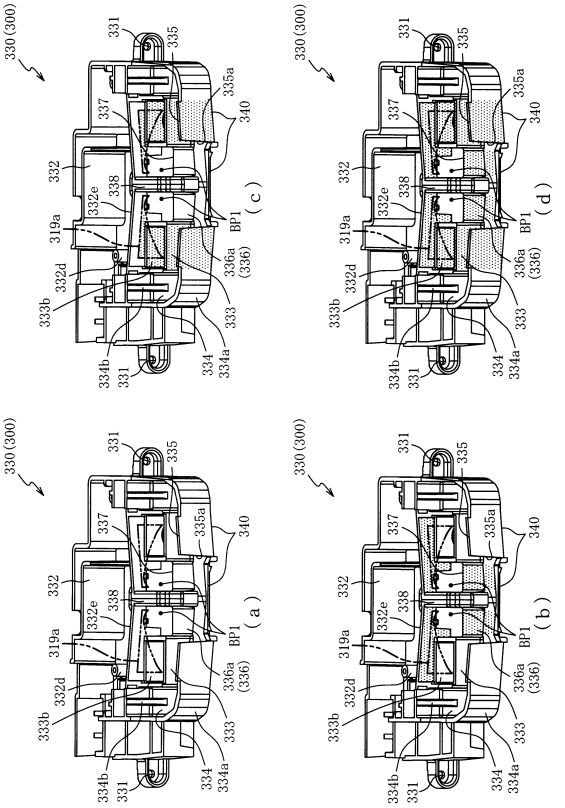
【図７５】



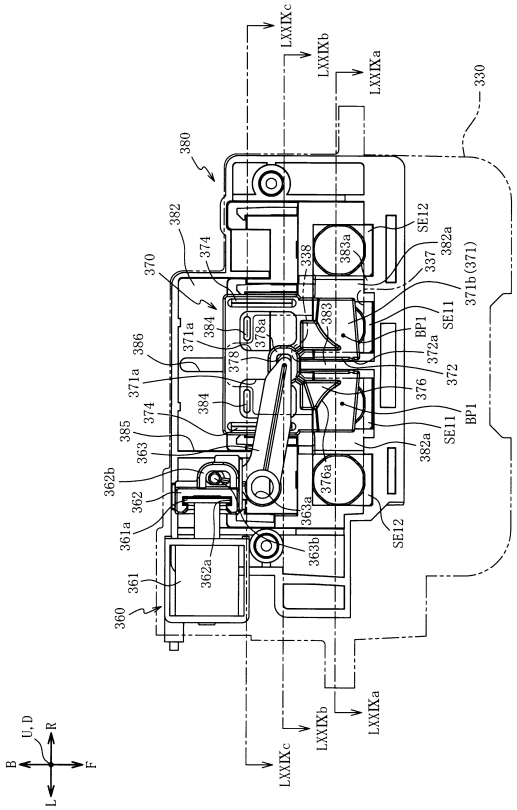
【図７６】



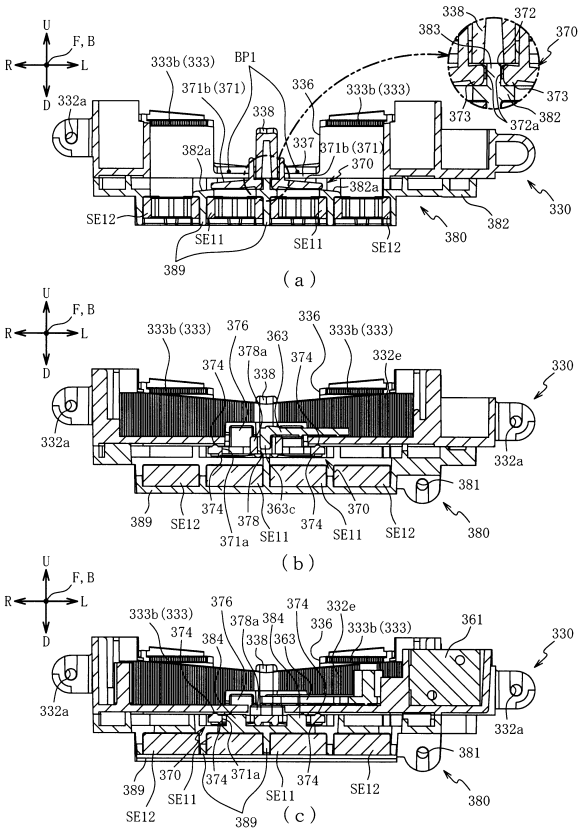
【図７７】



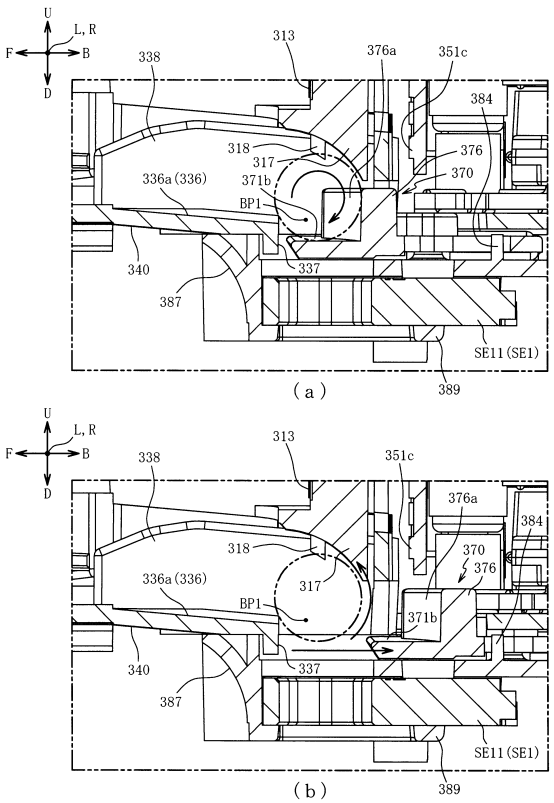
【図７８】



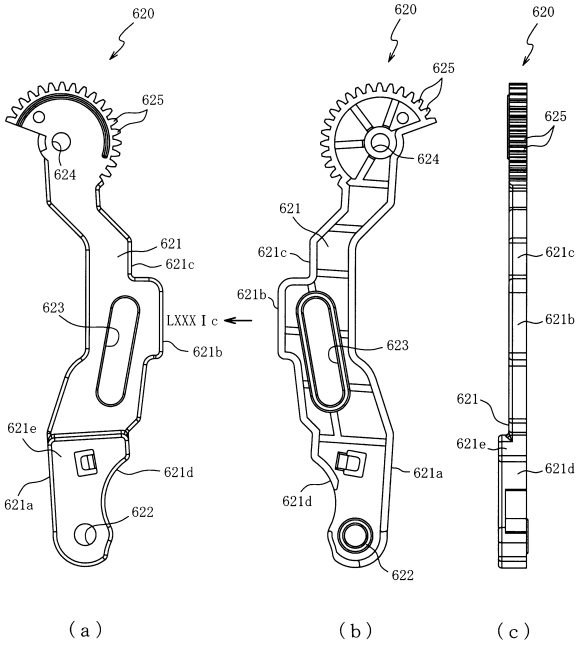
【図７９】



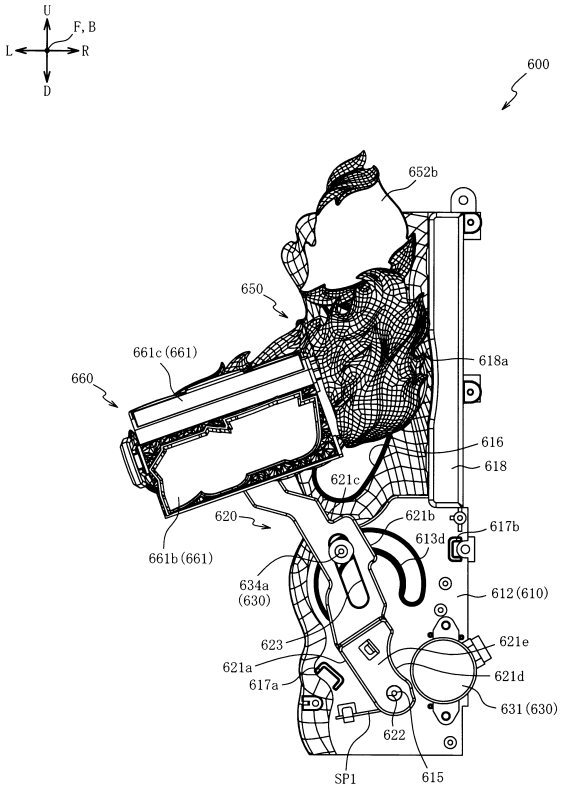
【図８０】



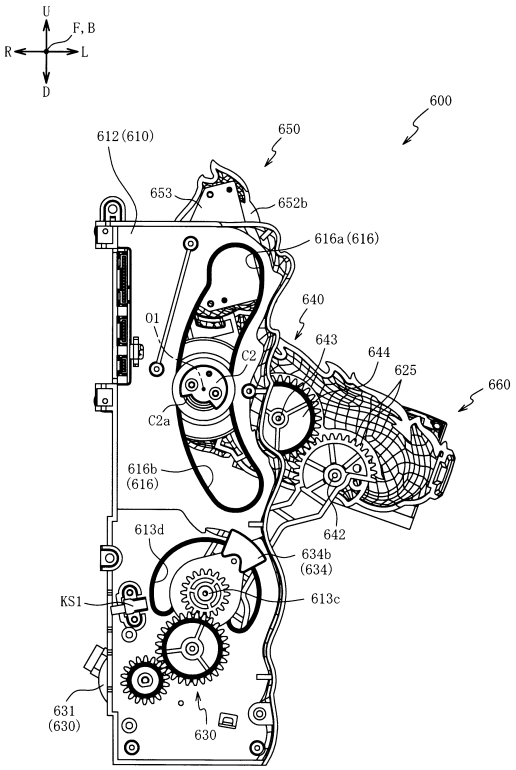
【図８１】



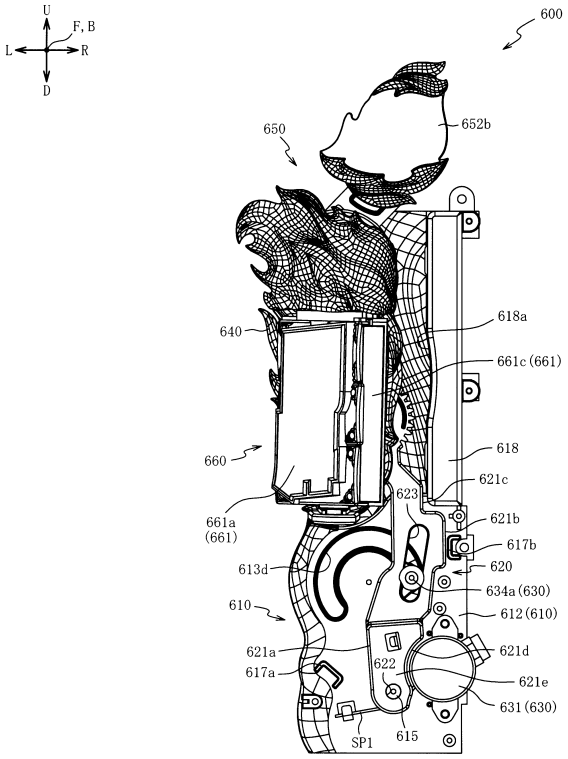
【図８２】



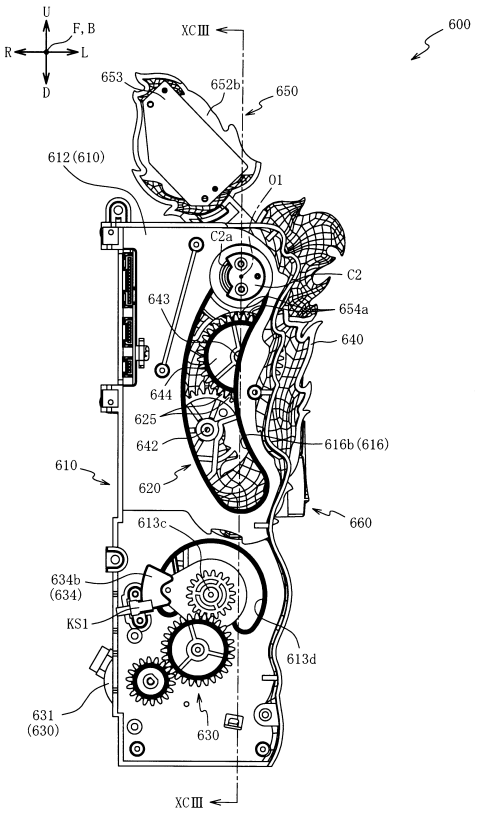
【図８３】



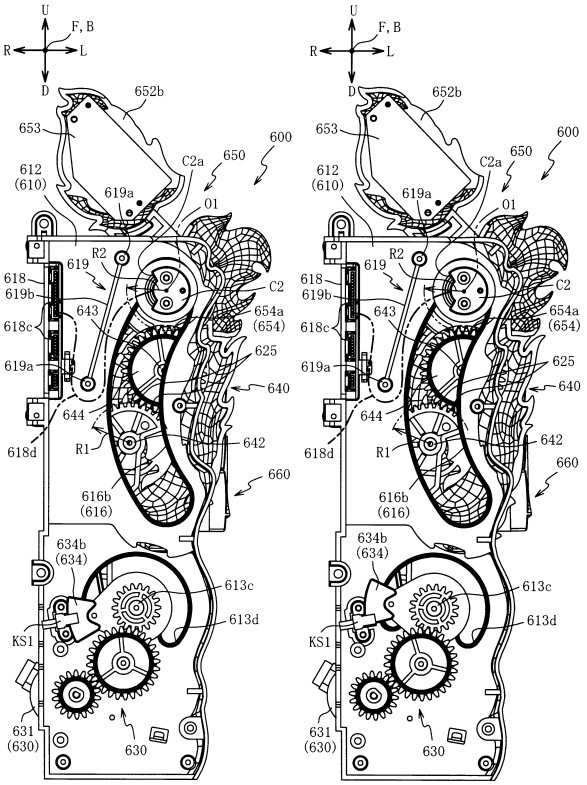
【図８４】



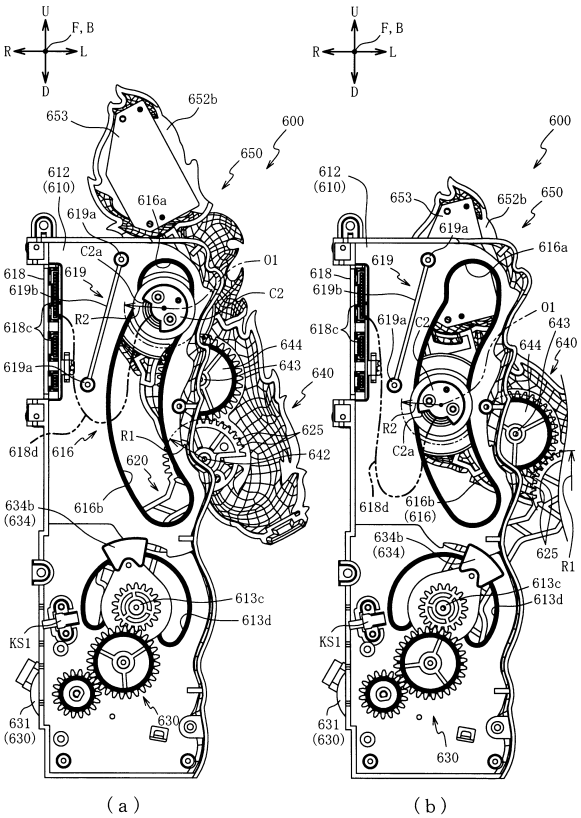
【図８５】



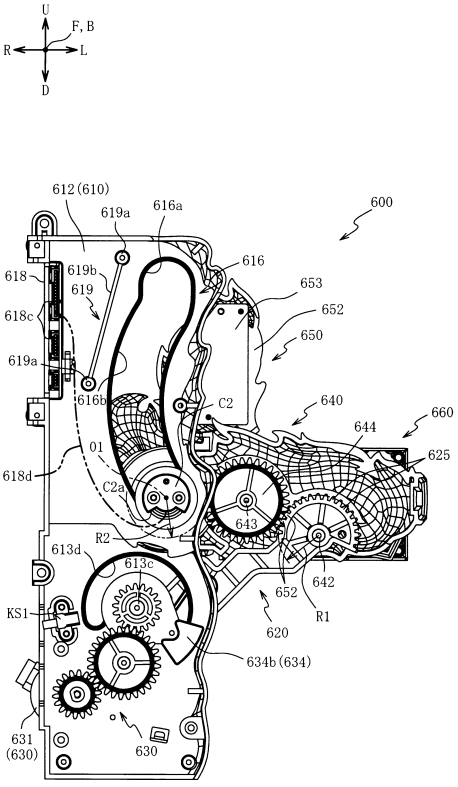
【図８６】



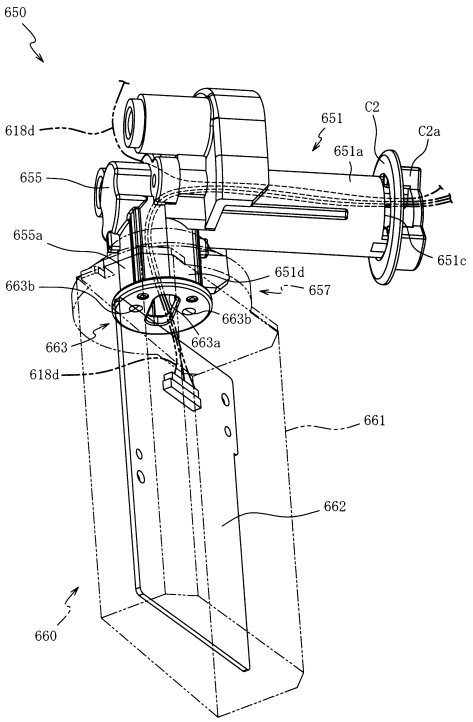
【図８７】



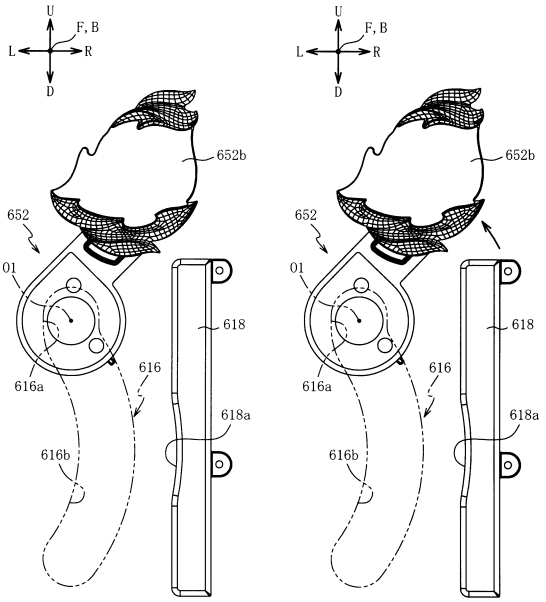
【図８８】



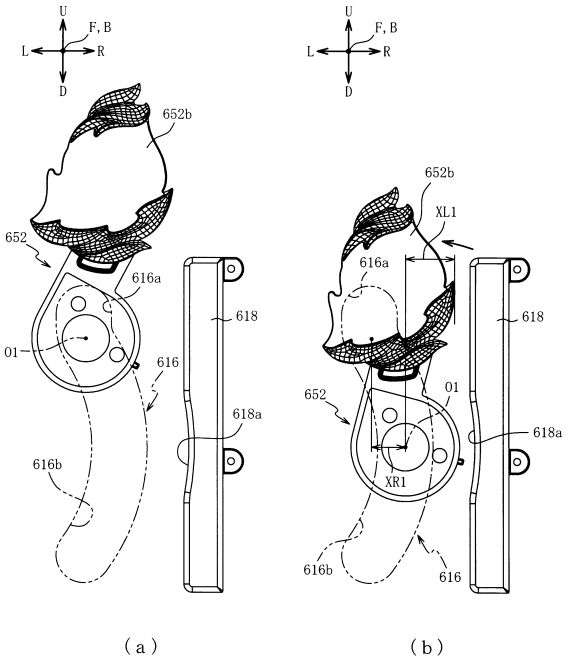
【図８９】



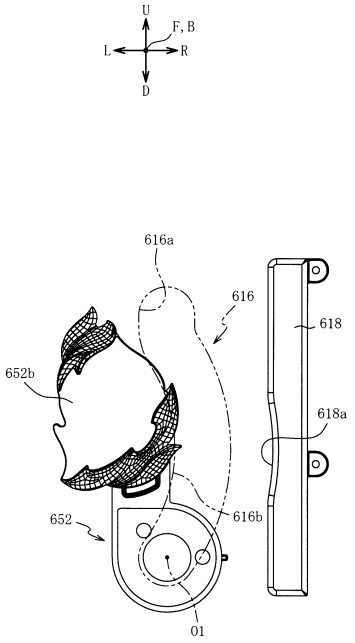
【図９０】



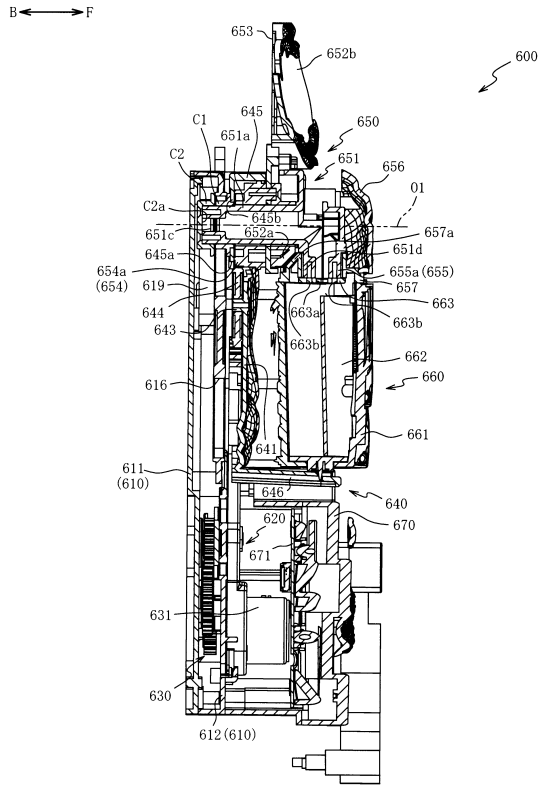
【図９１】



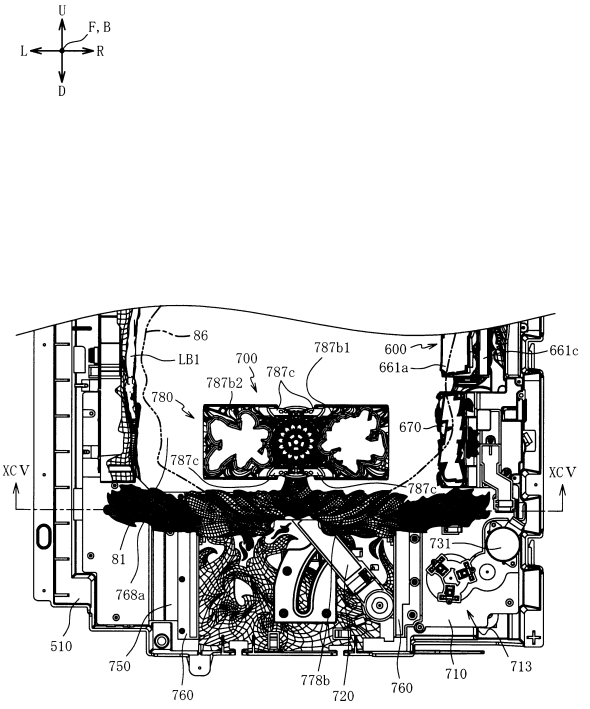
【図９２】



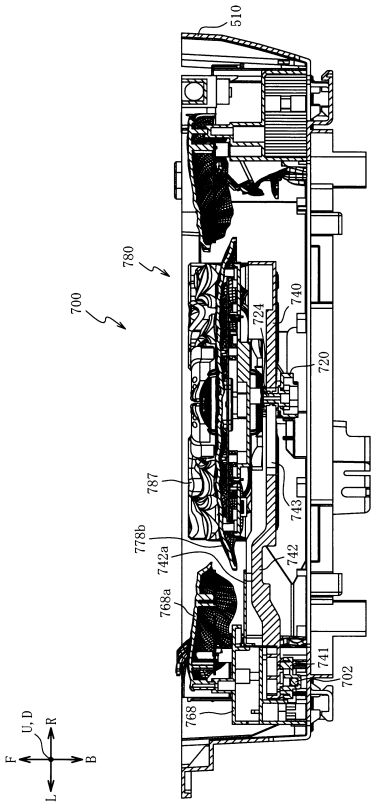
【図９３】



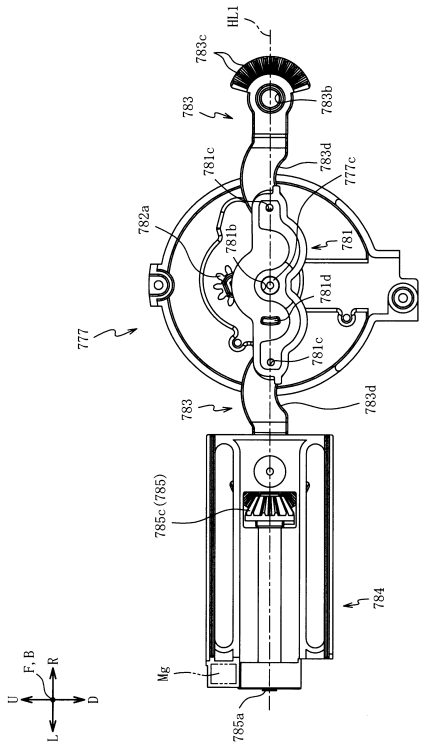
【図９４】



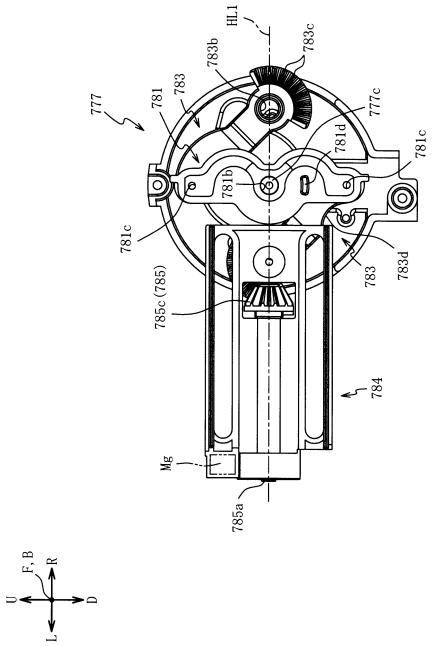
【図９５】



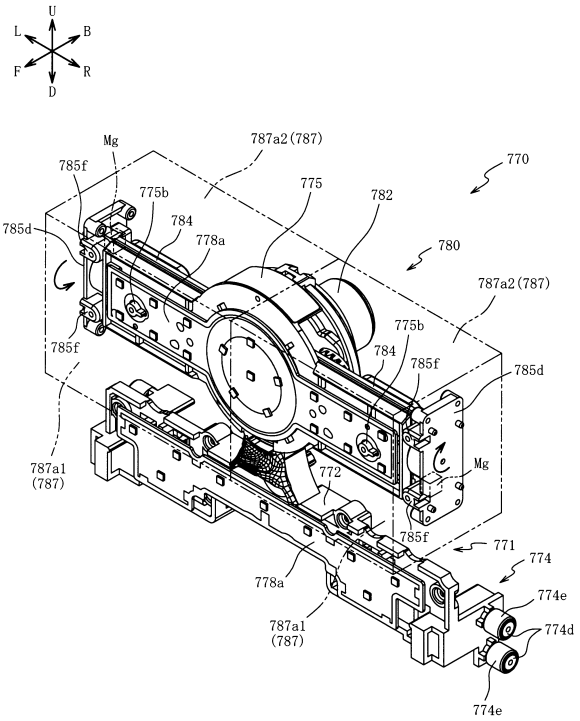
【図９６】



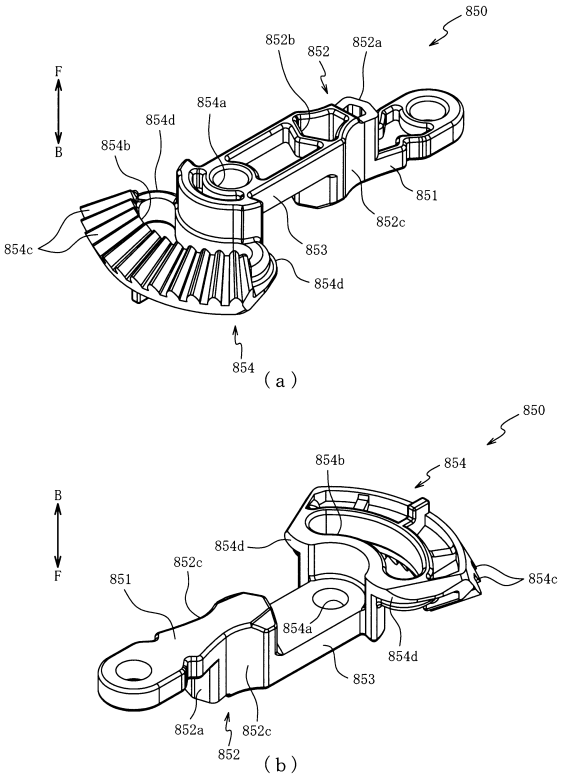
【図９７】



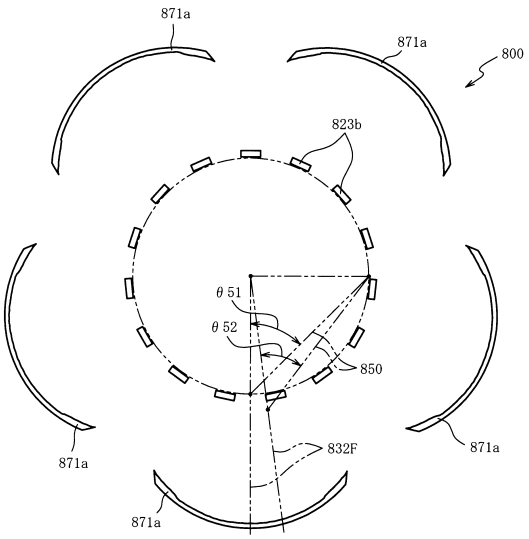
【図９８】



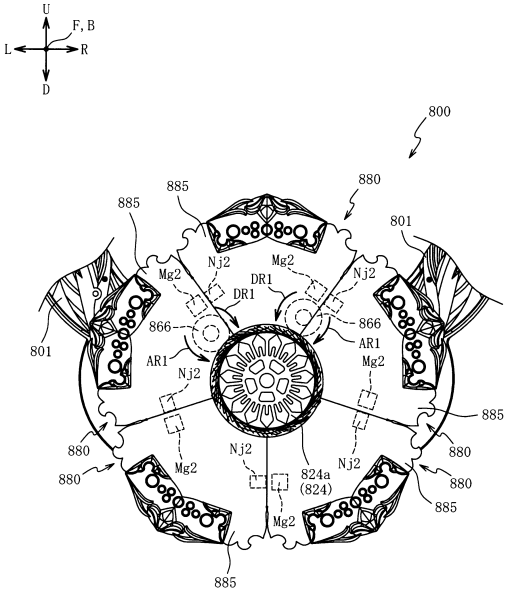
【図９９】



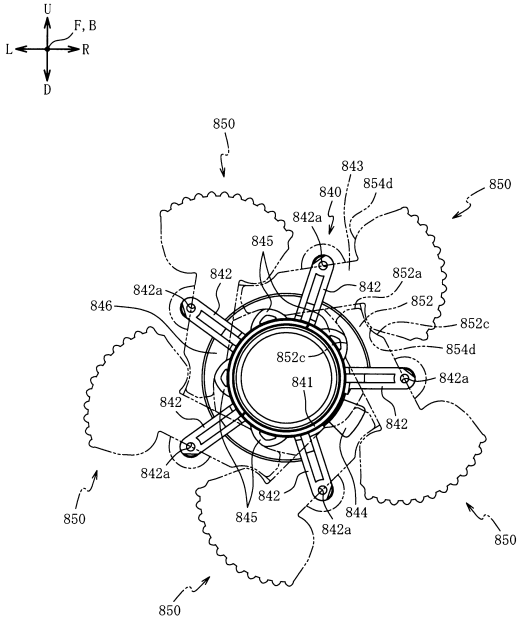
【図１００】



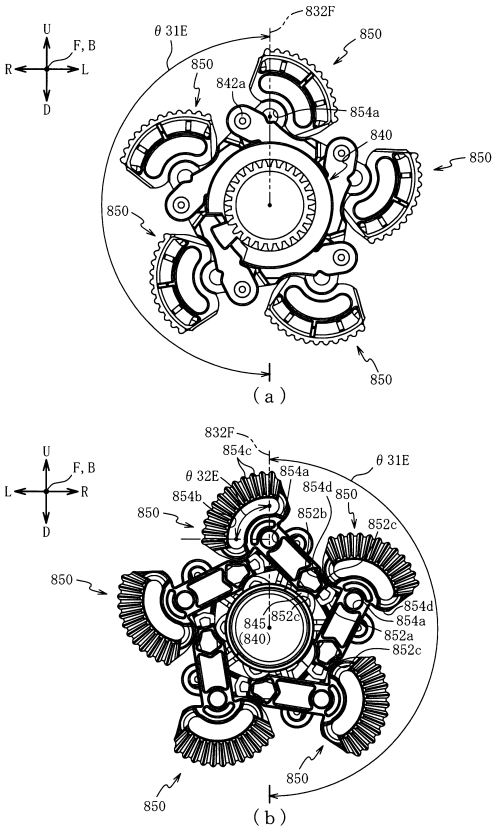
【図１０１】



【図１０２】



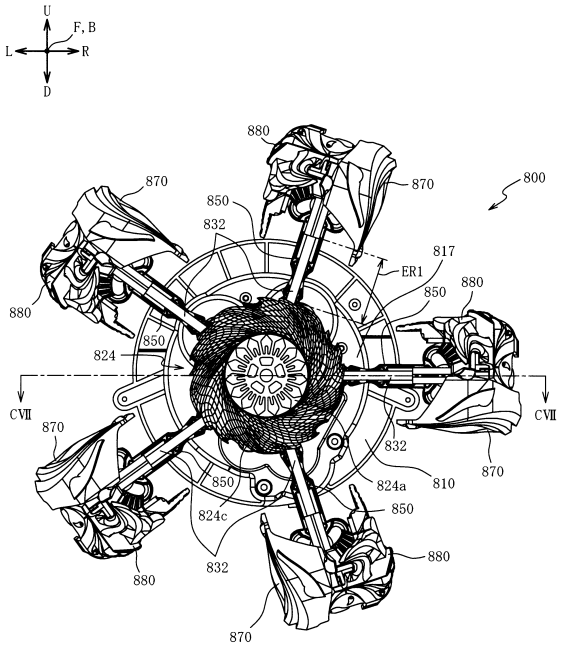
【図１０３】



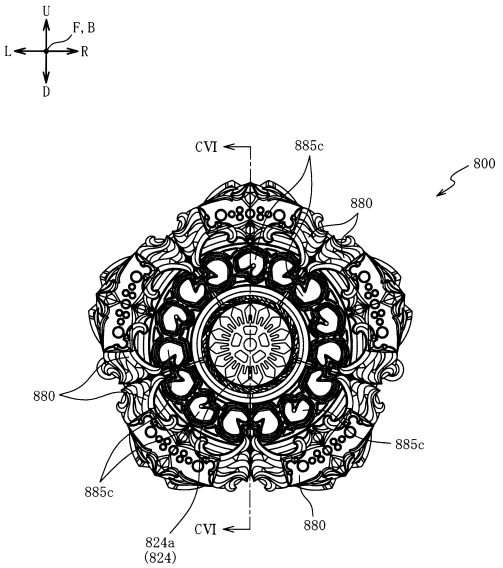
（ａ）

（ｂ）

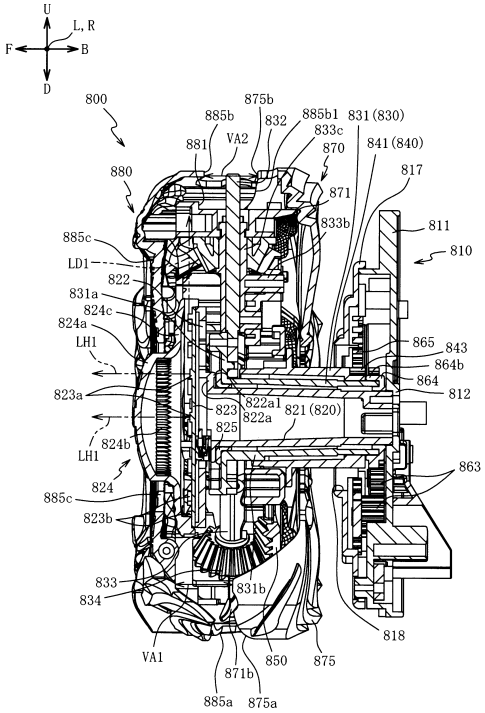
【図１０４】



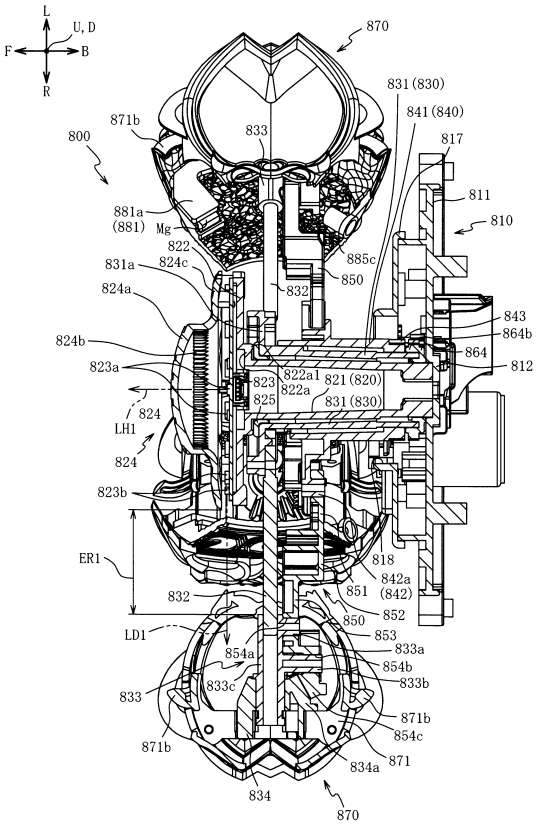
【図１０５】



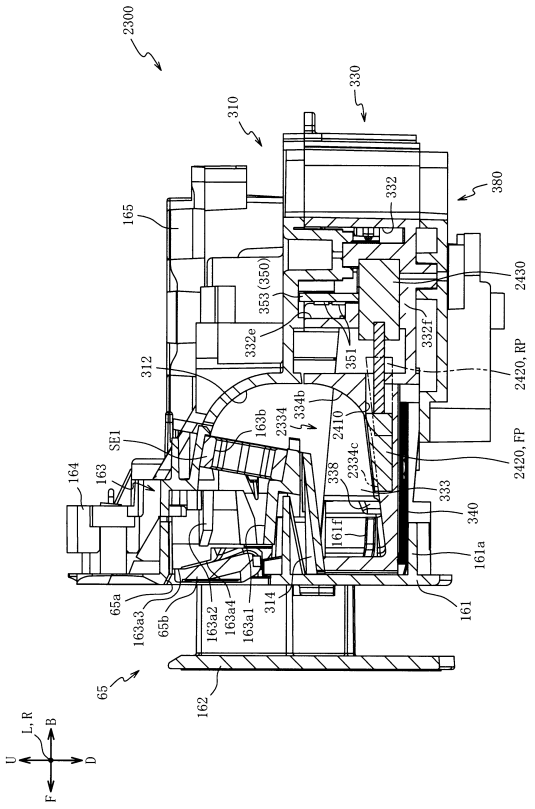
【図１０６】



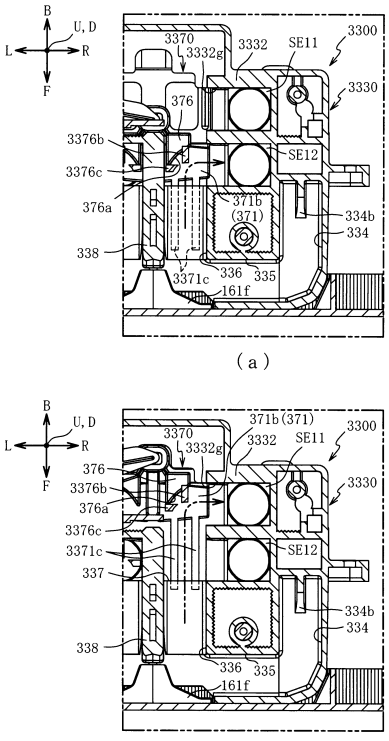
【図１０７】



【図１０８】



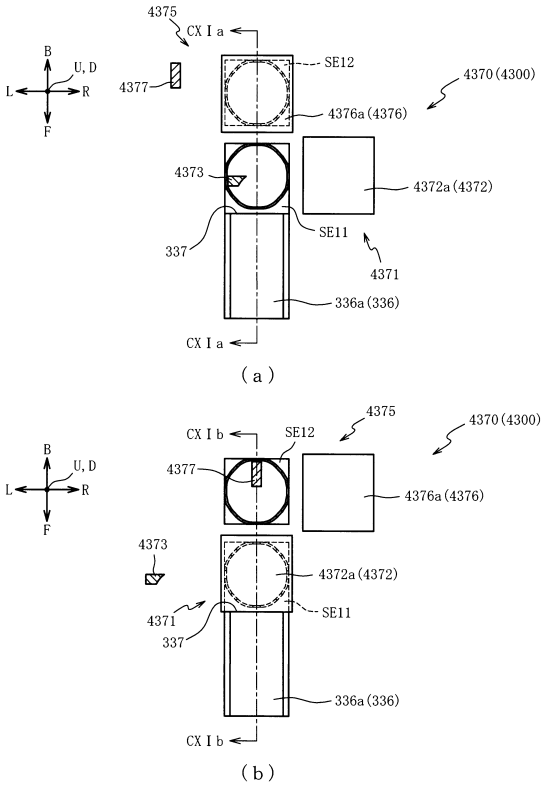
【図１０９】



（ａ）

（ｂ）

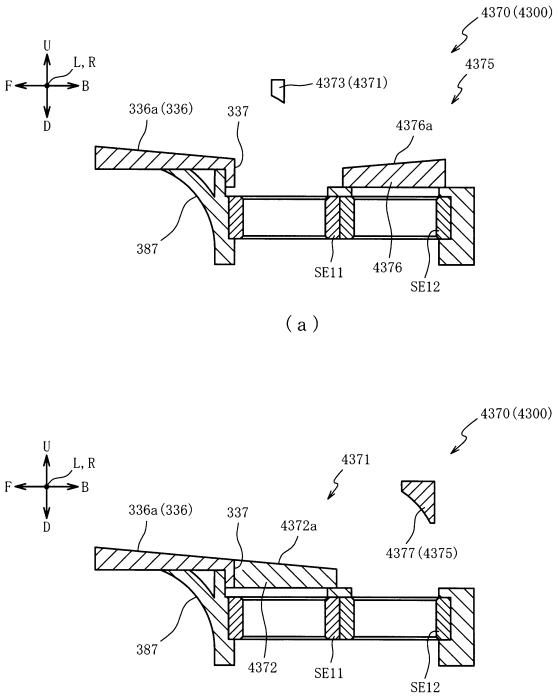
【図１１０】



（ａ）

（ｂ）

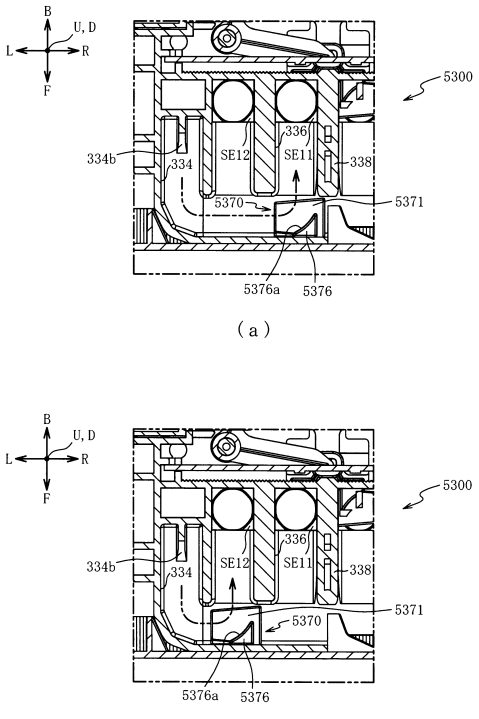
【図１１１】



（ａ）

（ｂ）

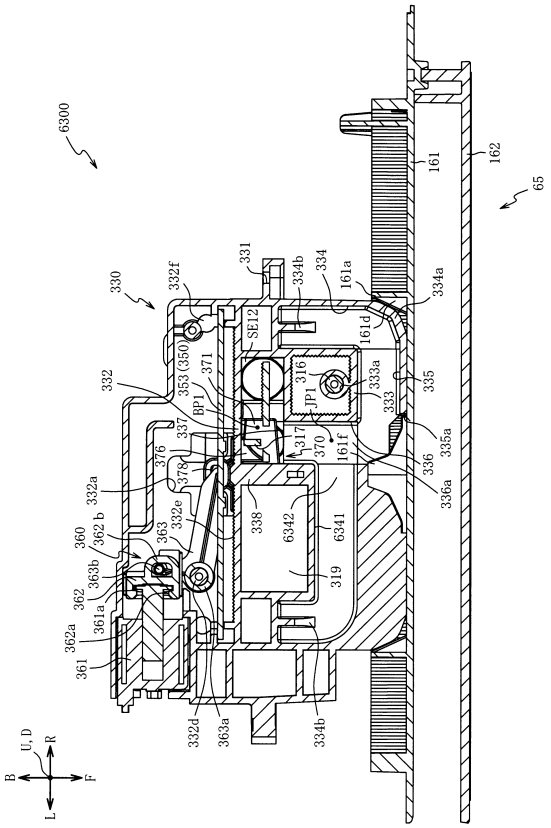
【図１１２】



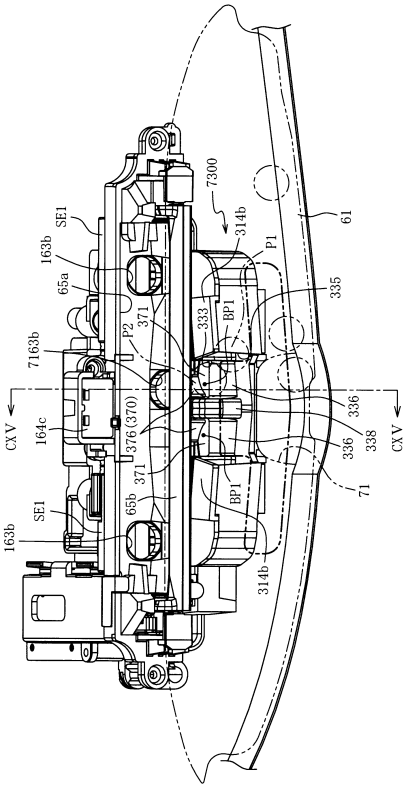
（ａ）

（ｂ）

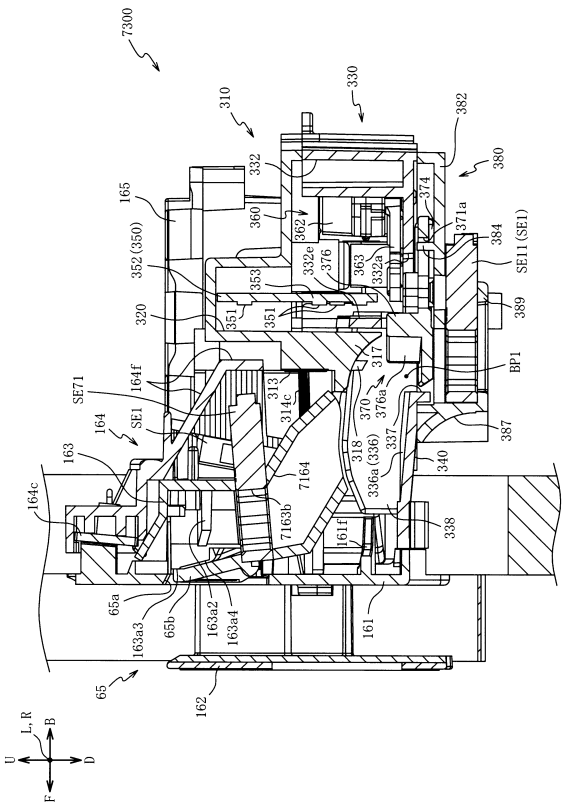
【図１１３】



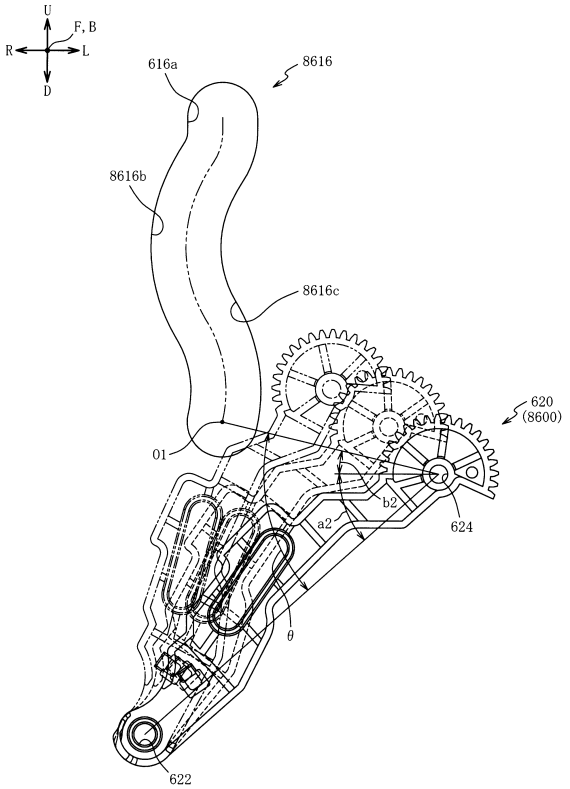
【図１１４】



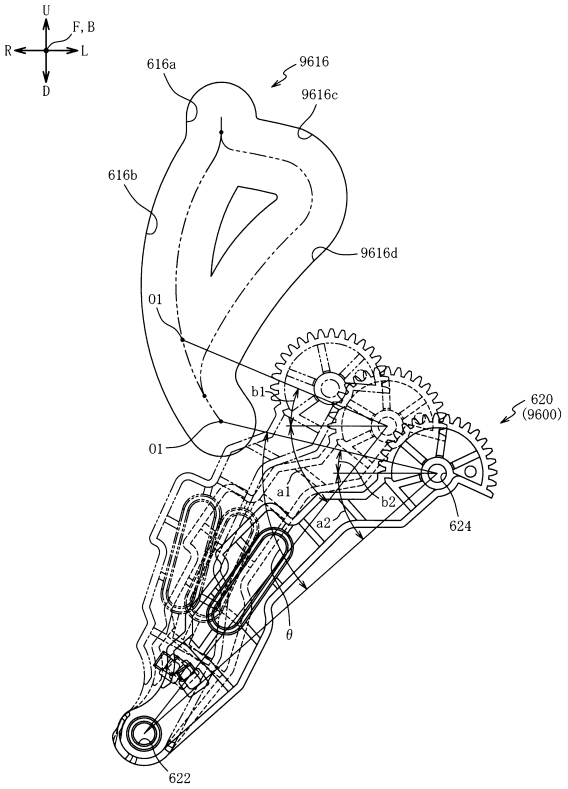
【図１１５】



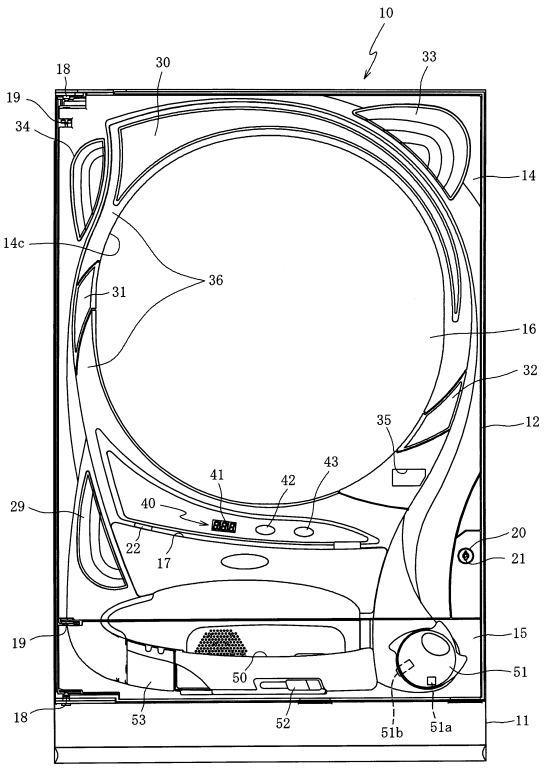
【図１１６】



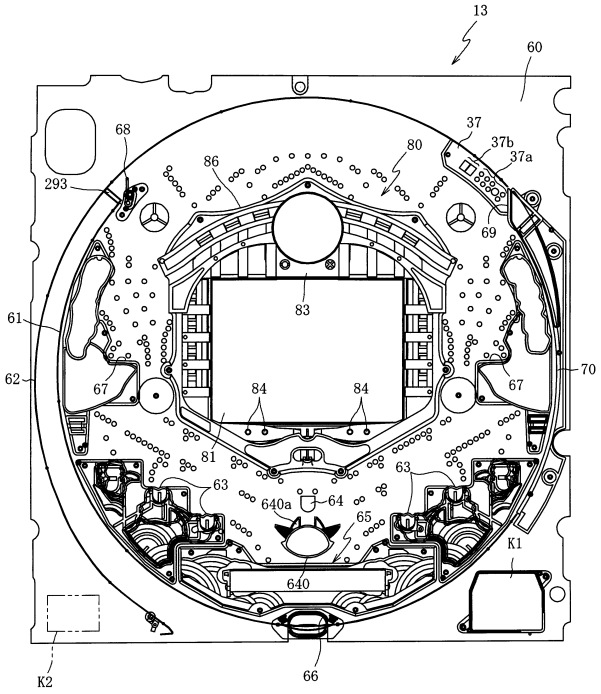
【図１１７】



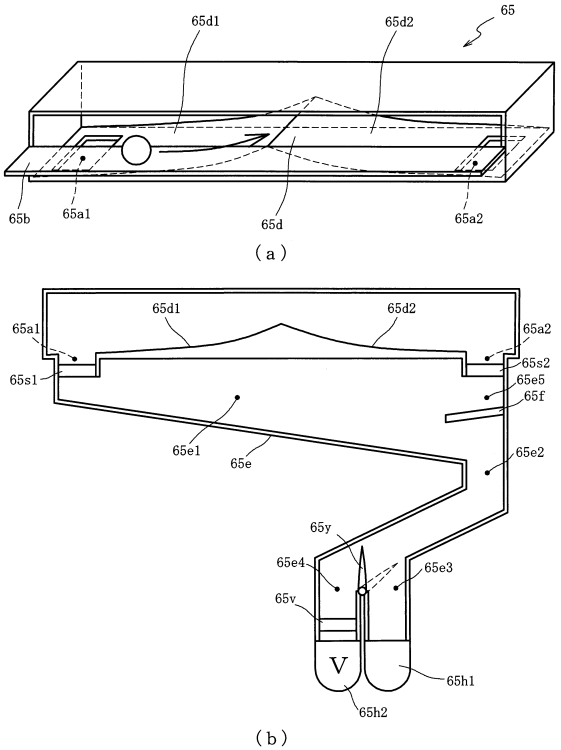
【図１１８】



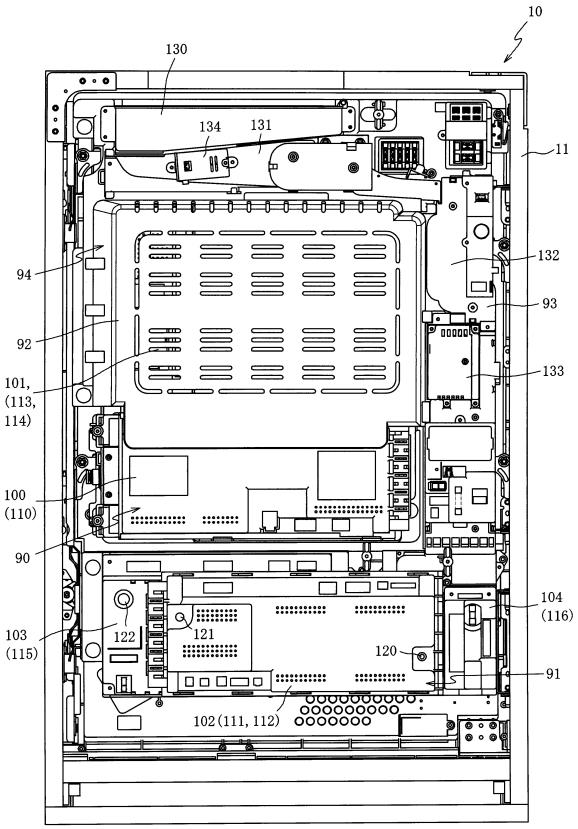
【図１１９】



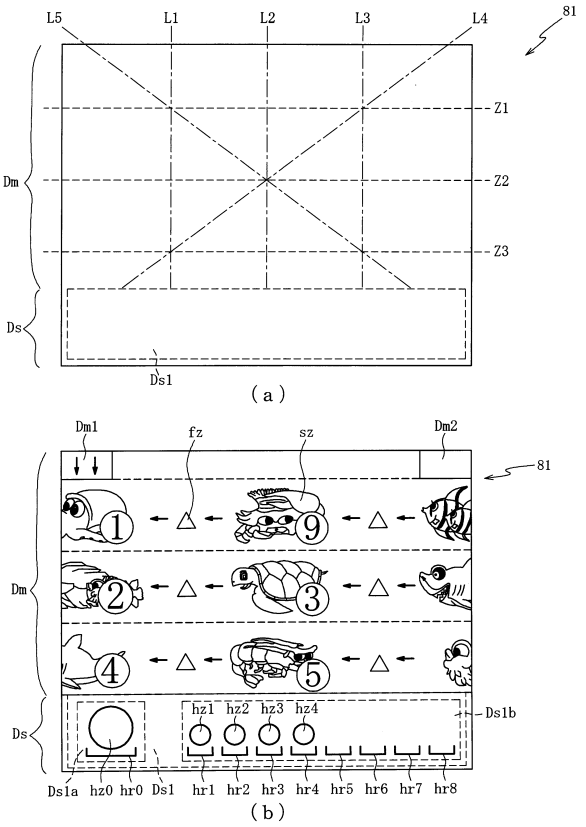
【図１２０】



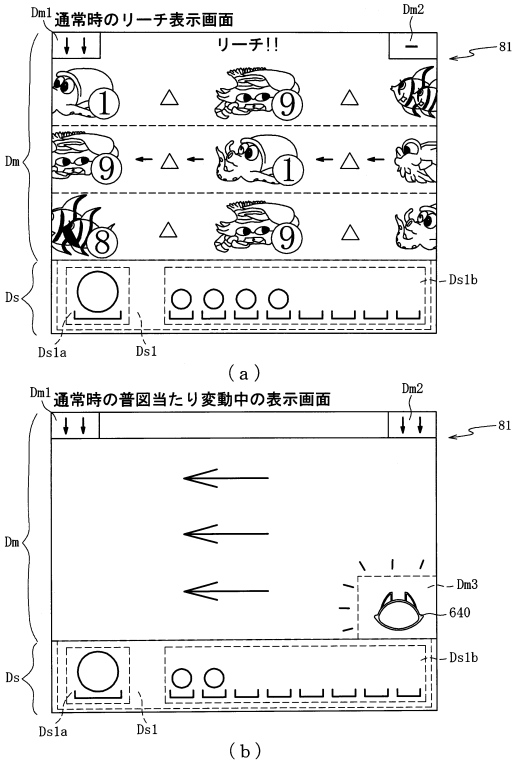
【図１２１】



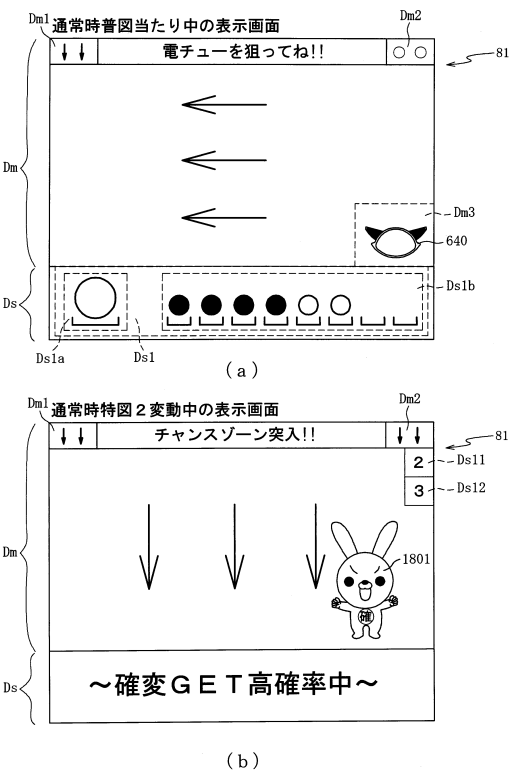
【図１２２】



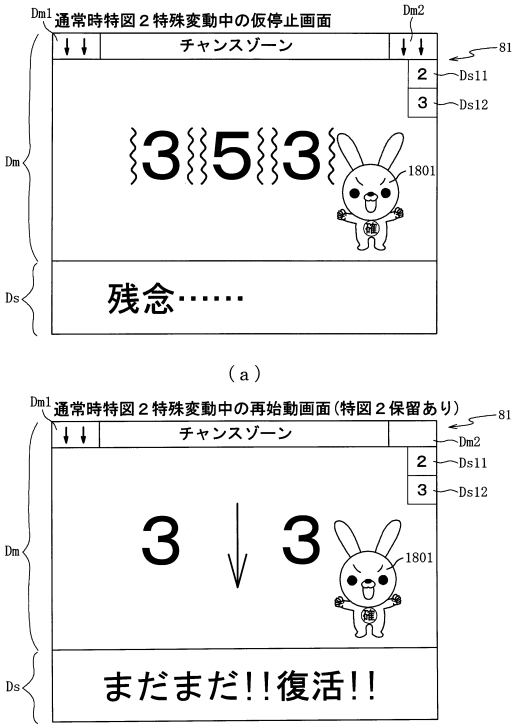
【図１２３】



【図１２４】



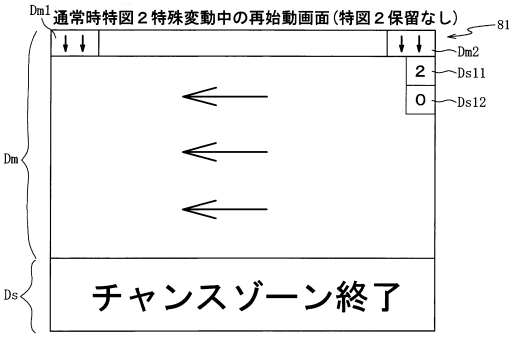
【図１２５】



（ａ）

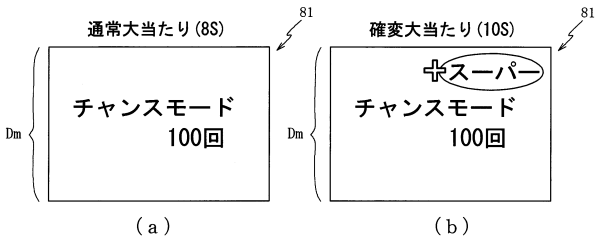
（ｂ）

【図１２６】



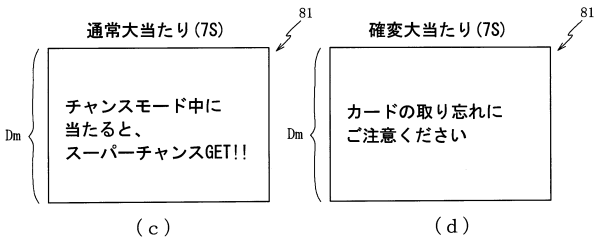
【図１２７】

大当たり遊技のエンディング期間（前半）の表示画面



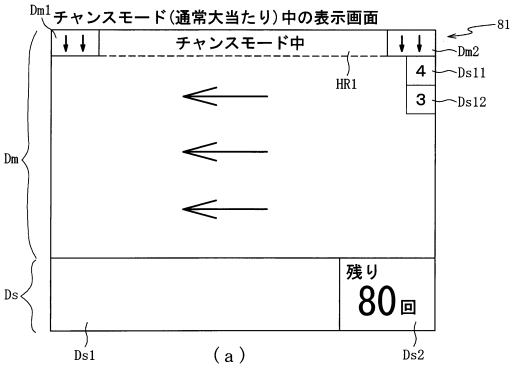
（ａ）　（ｂ）

大当たり遊技のエンディング期間（後半）の表示画面

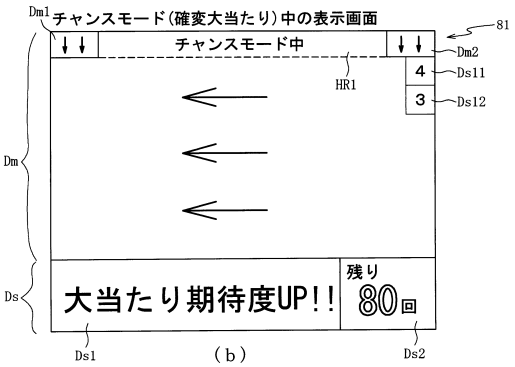


（ｃ）　（ｄ）

【図１２８】

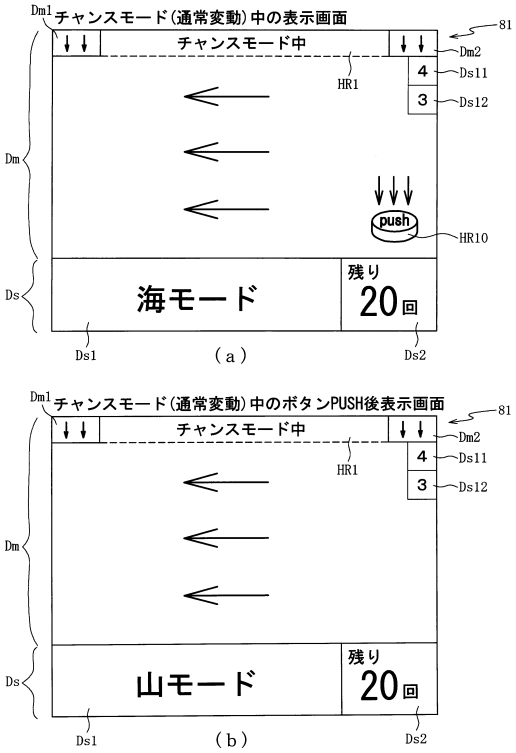


（ａ）

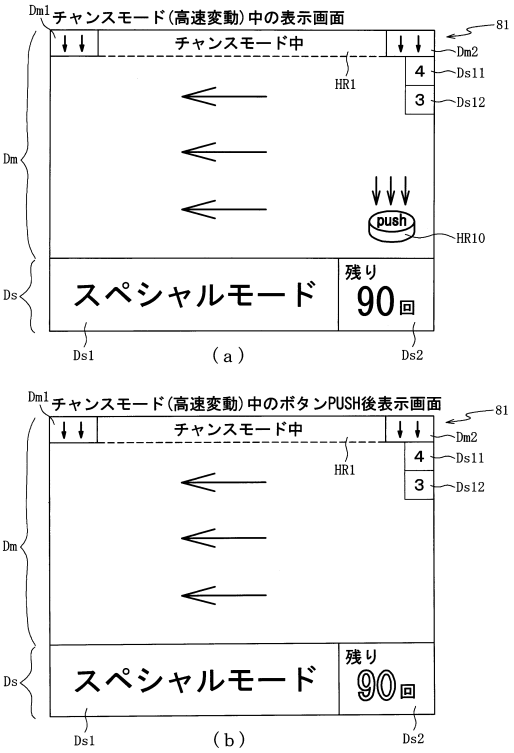


（ｂ）

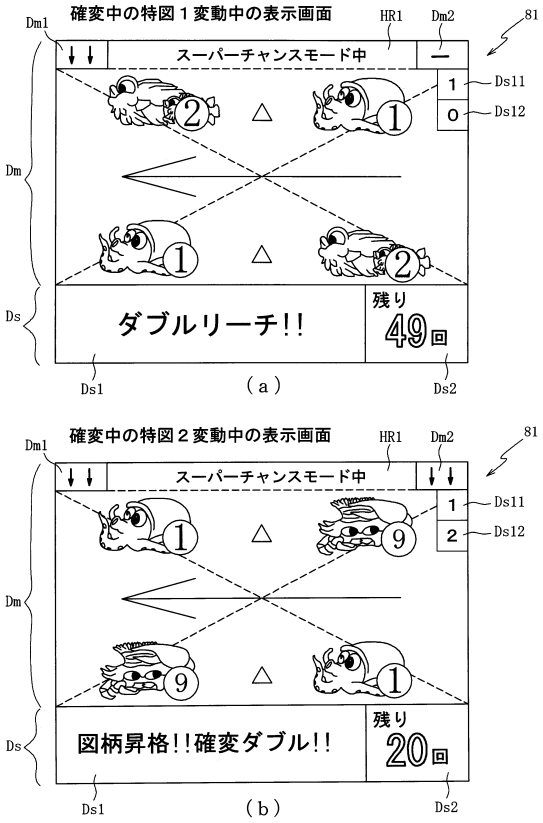
【図１２９】



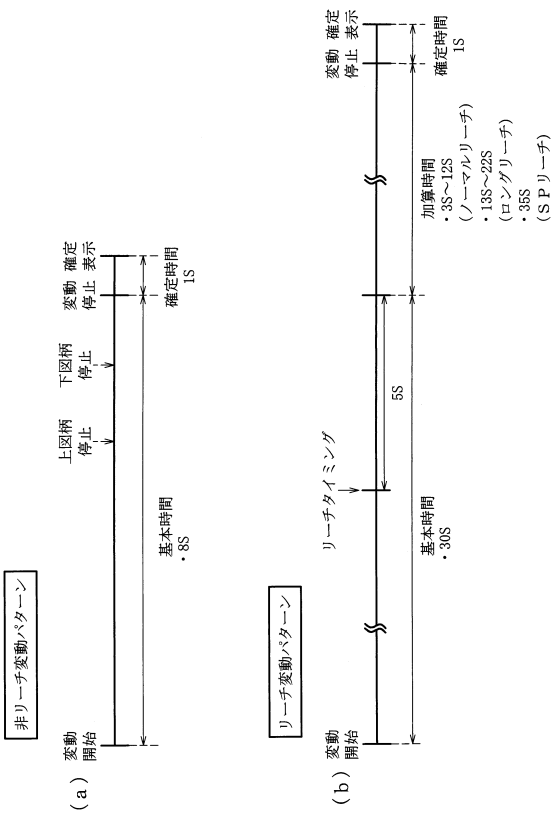
【図１３０】



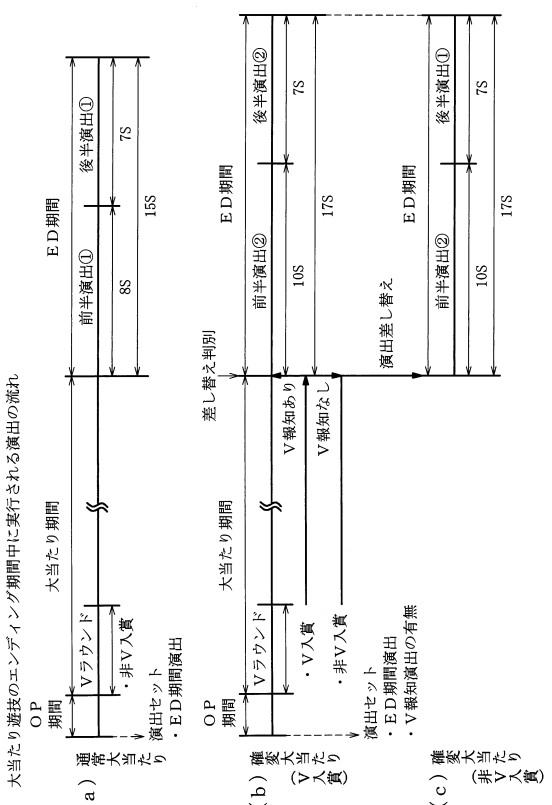
【図１３１】



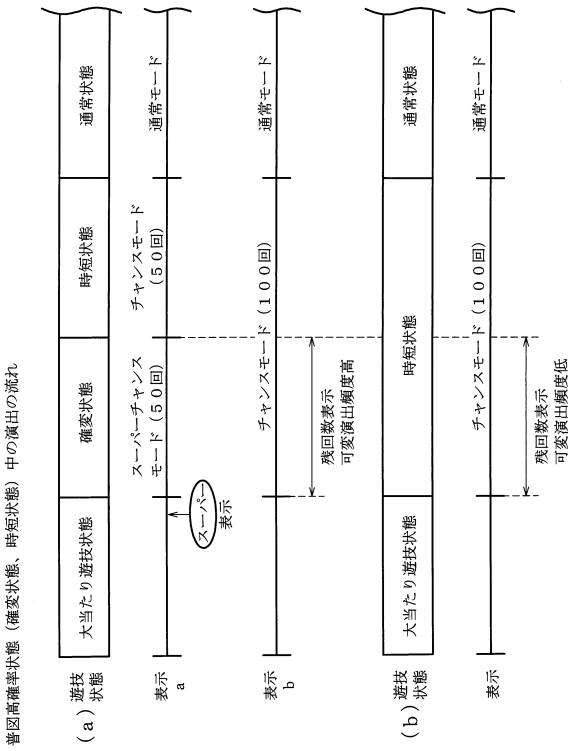
【図１３２】



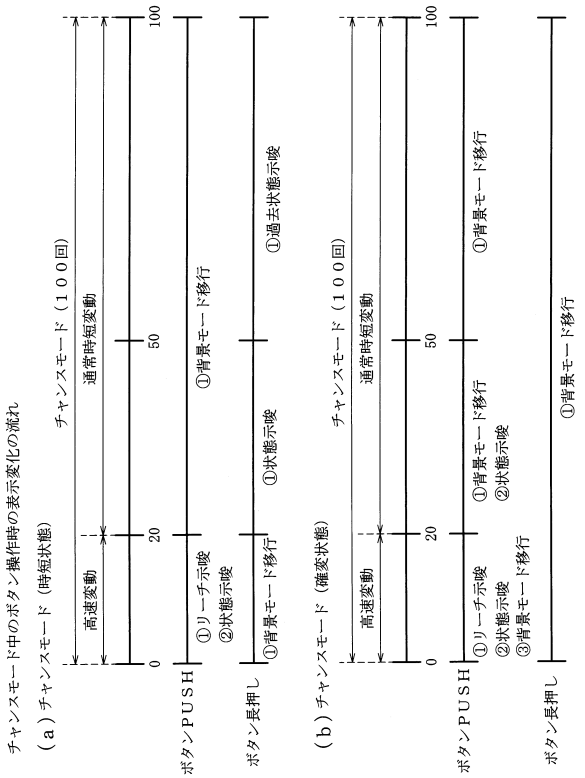
【図１３３】



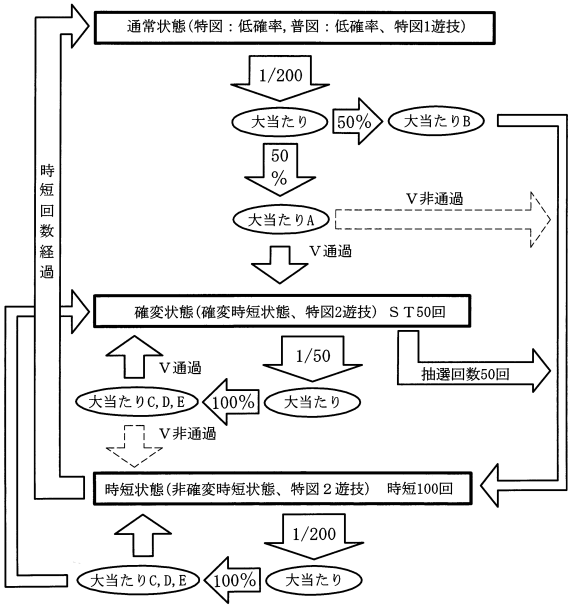
【図１３４】



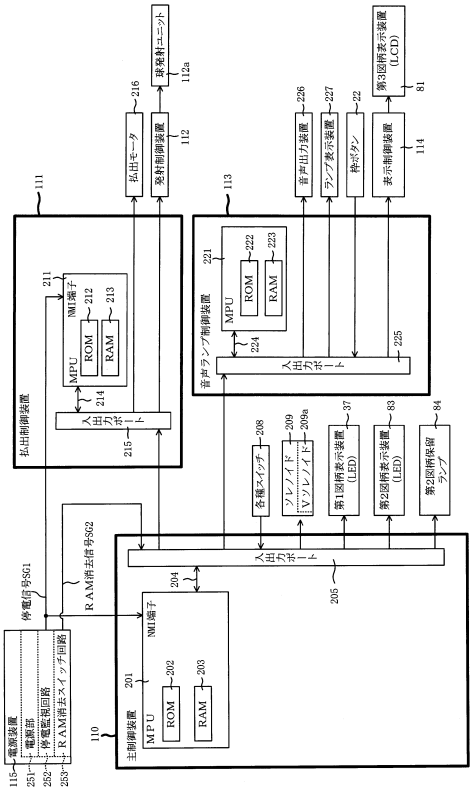
【図１３５】



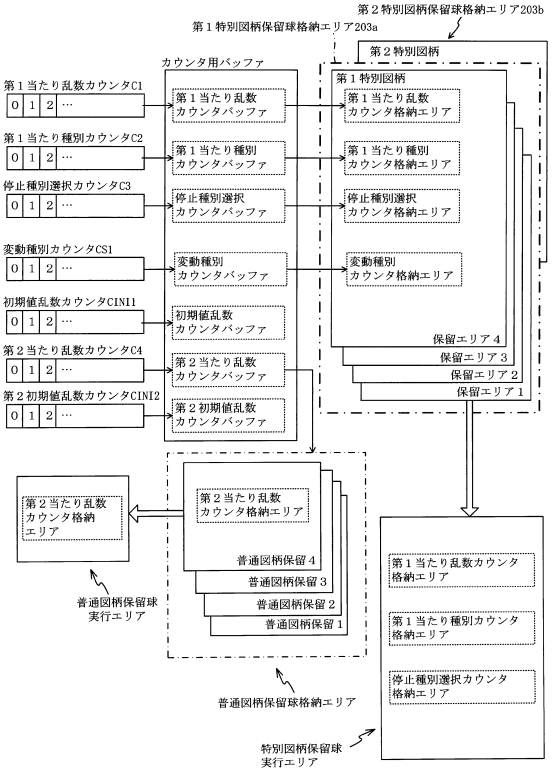
【図１３６】



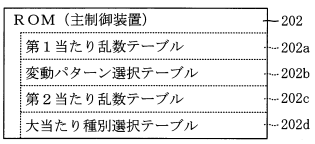
【図１３７】



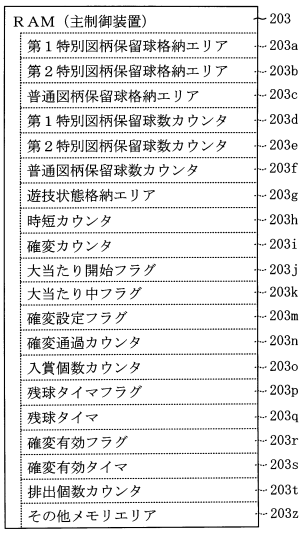
【図１３８】



【図１３９】



（ａ）



（ｂ）

【図１４０】

（ａ）

202

第１当たり乱数テーブル202a

遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
特別図柄の低確率状態	0～4
特別図柄の高確率状態	0～19

（ｂ）

202

第２当たり乱数テーブル202c

遊技状態	第２当たり乱数カウンタＣ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～2
普通図柄の高確率状態	0～149

【図１４１】

（ａ）

202

特図１大当たり用テーブル202d1

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ 203h	確変カウンタ 203i	エンディング期間(S)
大当たりＡ（７Ｒ確変大当たり）	0～49	100	50(非Ｖ時は0)	17
大当たりＢ（７Ｒ通常大当たり）	50～99	100	0	15

（ｂ）

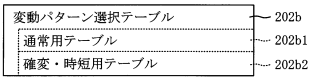
202

特図２大当たり用テーブル202d2

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ 203h	確変カウンタ 203i	エンディング期間(S)
大当たりＣ（４Ｒ確変大当たり）	0～29	100	50(非Ｖ時は0)	17
大当たりＤ（７Ｒ確変大当たり）	30～69	100	50(非Ｖ時は0)	
大当たりＥ（１６Ｒ確変大当たり）	70～99	100	50(非Ｖ時は0)	

（ｃ）

【図１４２】



（ａ）

202

通常用テーブル202b1

図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間(S) 基本(S)	変動時間(S) 加算(S)
特図１	当たり	0～19	ノーマル	30	3～12
		20～169	スーパー	30	13～22
		170～198	ＳＰ	55	35
	外れ	0～179	外れ	8	－
		180～198	リーチ外れ	30	3～22
特図２	当たり	0～99	特殊リーチ	10	30
		100～198	特殊外れ	10	－
	外れ	0	特殊リーチ	10	30
		1～198	特殊外れ	10	－

（ｂ）

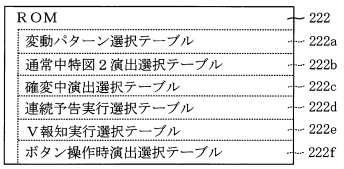
【図１４３】

202

確変・時短用テーブル202b2

図柄種別	変動回数	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間(S) 基本(S)	変動時間(S) 加算(S)
特図１	1～20	共通	0～198	短変動	5	－
	21～49	当たり	0～198	当たり	30	－
		外れ	0～179	長外れ	30	－
			180～198	短外れ	5	－
	50	共通	0～198	中変動	20	－
	51～100	当たり	0～198	長変動	30	－
		外れ	0～179	長変動	30	－
			180～198	第２長変動	60	－
特図２	1～20	共通	0～198	短変動	5	－
	21～49	当たり	0～149	第２短変動	10	－
			150～198	長変動	30	－
		外れ	0～191	第２短変動	10	－
			192～198	長変動	30	－
	50	共通	0～198	中変動	20	－
	51～100	当たり	0～149	第２短変動	10	－
			150～198	長変動	30	－
		外れ	0～191	短変動	5	－
			192～198	長変動	30	－

【図１４４】



（ａ）

（ｂ）

【図１４５】

222

通常中特図２演出選択テーブル222b

抽選結果	特図２保留数	特図１保留数	演出カウンタ223f（0～99）	演出内容
大当たり	3	－	0～79	擬似３演出（10S×3）
			80～99	特殊擬似２演出（20S→10S）
	2	－	0～99	擬似２演出（15S×2）
	1	－	0～89	擬似１演出（30S×1）
			90～99	擬似４演出（10S×2→5S×2）
	0	1～4	0～99	特殊終了演出
		0	0～99	擬似無し演出
外れ	3	－	0～99	擬似３演出（10S×3）
	2	－	0～99	擬似２演出（15S×2）
	1	－	0～99	擬似１演出（30S×2）
	0	－	0～99	擬似無し演出

【図１４６】

222

確変中演出選択テーブル222c

図柄種別	抽選結果	演出カウンタ223f（0～99）	演出内容
特図１	確変大当たり	0～49	確変シングルリーチ
		50～99	ダブルリーチ
	通常大当たり	0～99	ダブルリーチ
	外れ	0～99	非リーチ
特図２	確変大当たり	0～49	特殊ダブルリーチ
		50～99	確変ダブルリーチ
	外れ	0～4	ダブルリーチ
		5～10	確変ダブルリーチ
		11～99	非リーチ

【図１４７】

222

連続予告実行選択テーブル222d

抽選結果	特図２保留数	演出カウンタ223f（0～198）	連続予告有無
大当たり	3	0～79	有
		80～198	無
	4	0～149	有
		150～198	無
外れ	3	0～194	無
		195～198	有
	4	0～189	無
		190～198	有

（ａ）

Ｖ報知実行選択テーブル222e

大当たり種別	演出カウンタ223f（0～198）	Ｖ報知有無
大当たりＡ	0～149	有
	150～198	無
大当たりＣ，Ｄ，Ｅ	0～189	有
	190～198	無

（ｂ）

【図１４８】

ボタン操作時演出選択テーブル 222f
- 時短状態選択テーブル 222f1
- 確変状態選択テーブル 222f2

（ａ）

222

時短状態選択テーブル222f1

操作タイミング	特図変動回数	操作方法	演出カウンタ223f（0～198）	実行演出
第１期間（高速変動）	1～20	長押し	0～198	背景モード移行
		通常押し	0～149	無
			150～189	リーチ示唆
			190～198	状態示唆
第２期間（通常時短変動）	21～49	長押し	0～198	状態示唆
		通常押し	0～198	背景モード移行
特定期間（特定時短変動）	50	－	－	－
第３期間（通常時短変動）	51～100	長押し	0～198	過去状態示唆
		通常押し	0～198	背景モード移行

（ｂ）

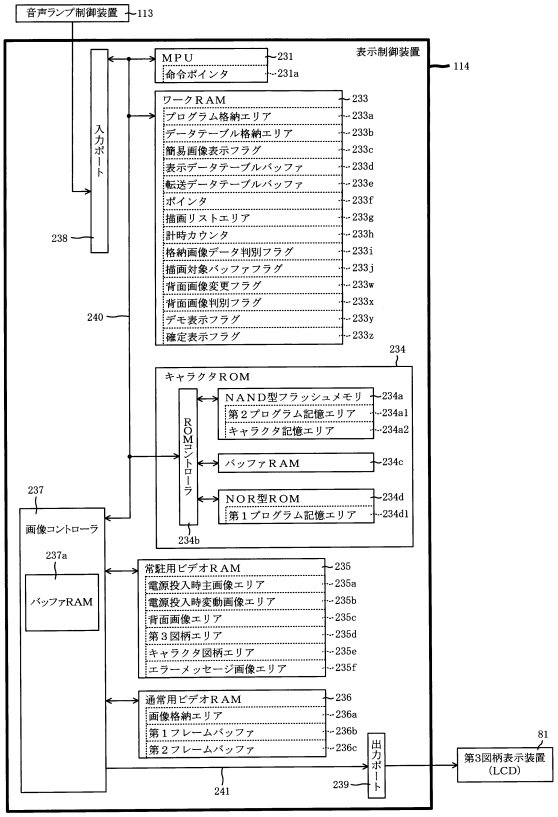
【図１４９】

223

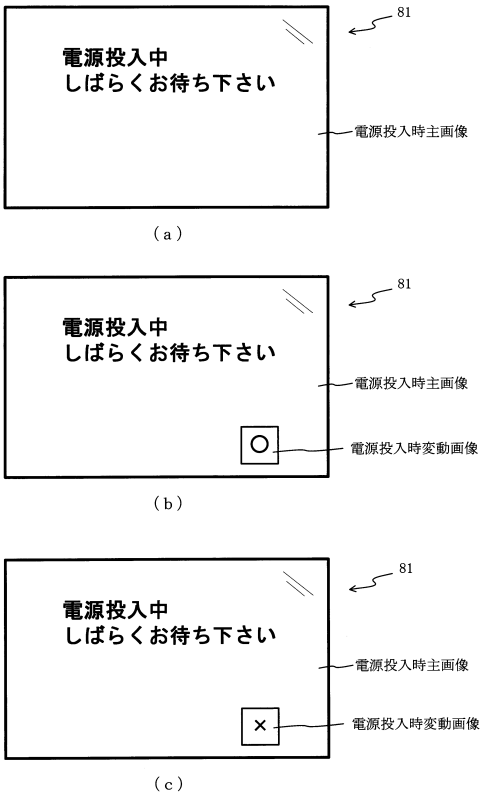
確変状態選択テーブル222f2

操作タイミング	特図変動回数	操作方法	演出カウンタ 223f(0～198)	実行演出
第１期間（高速変動）	1～20	長押し	0～198	背景モード移行
		通常押し	0～119	無
			120～139	リーチ示唆
			140～189	状態示唆
			190～198	背景モード移行
第２期間（通常時短変動）	21～49	長押し	0～198	状態示唆
		通常押し	0～169	背景モード移行
			170～198	状態示唆
特定期間（特定時短変動）	50	－	－	－
第３期間（通常時短変動）	51～100	長押し	0～198	過去状態示唆
		通常押し	0～198	背景モード移行

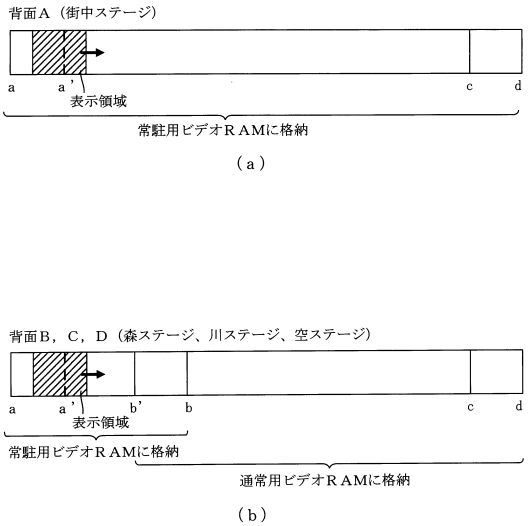
【図１５０】



【図１５１】



【図１５２】



【図１５３】

表示データテーブル

アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	背面画像　：背面種別 図柄１　：図柄種別オフセット 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報 図柄２　：… ⋮ エフェクト１：エフェクト種別 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報 エフェクト２：… ⋮ キャラクタ１：キャラクタ種別 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報 キャラクタ２：… ⋮
0002H	⋮
0003H	⋮
⋮	⋮
02F0H	End

【図１５４】

転送データテーブル

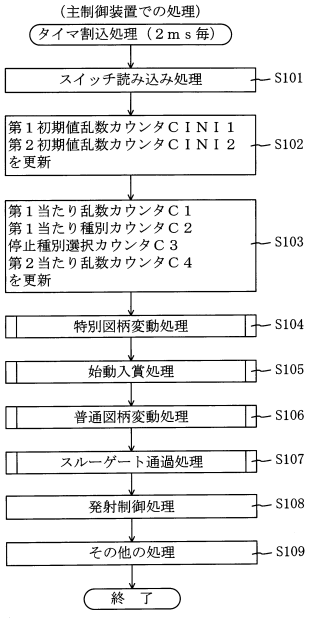
アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	転送対象画像データ：格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス
0002H	
⋮	⋮
0097H	転送対象画像データ：格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス
⋮	⋮
02F0H	End

【図１５５】

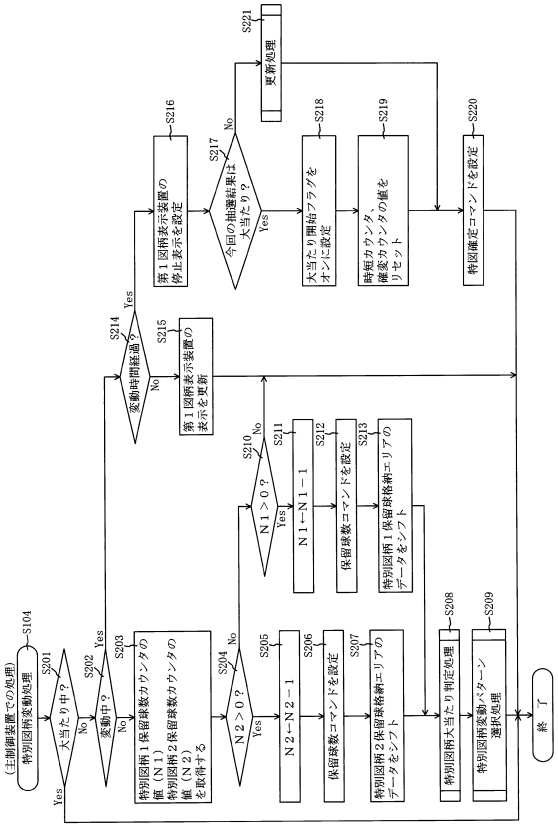
描画リスト

種別	詳細情報
背面画像	スプライト（表示物）のデータの格納ＲＡＭ種別とアドレス 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報
図柄１	⋮
図柄２	⋮
⋮	⋮
エフェクト１	⋮
エフェクト２	⋮
⋮	⋮
キャラクタ１	⋮
キャラクタ２	⋮
⋮	⋮
保留球数図柄１	⋮
⋮	⋮
エラー図柄１	⋮
転送データ	転送対象画像データの格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス

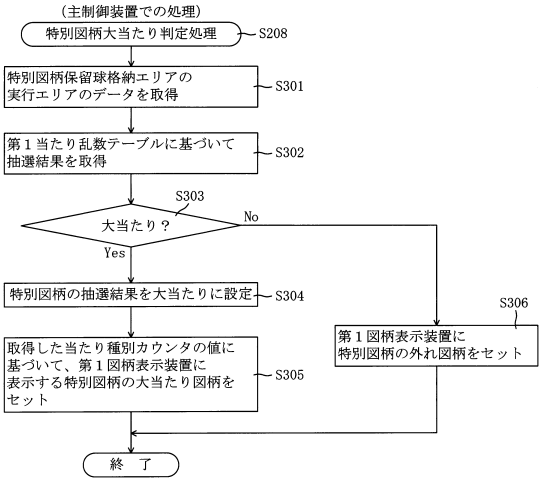
【図１５６】



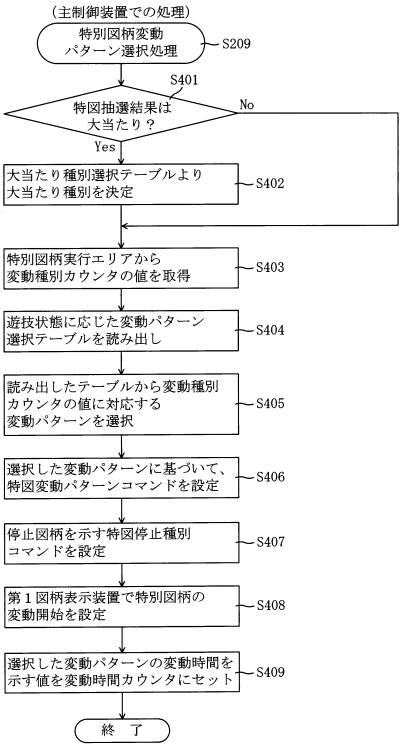
【図１５７】



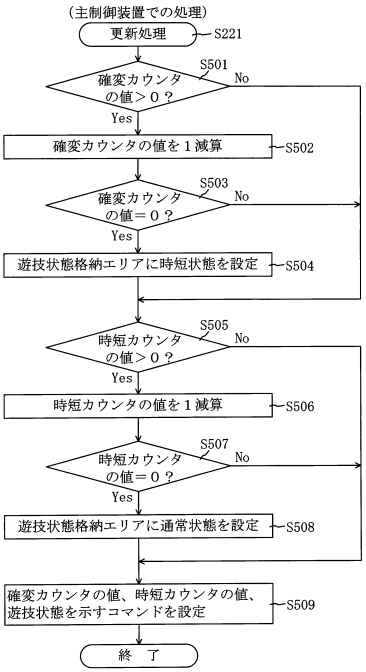
【図１５８】



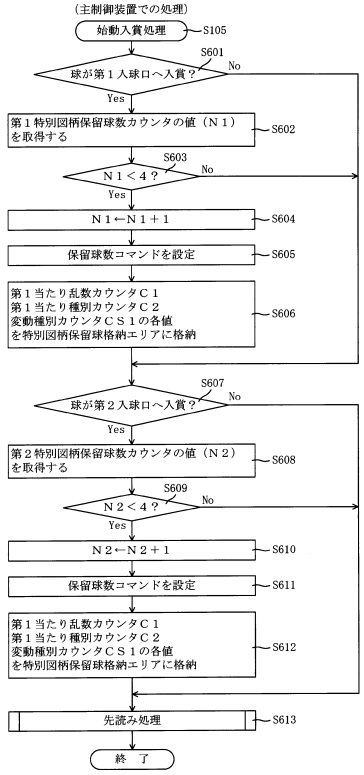
【図１５９】



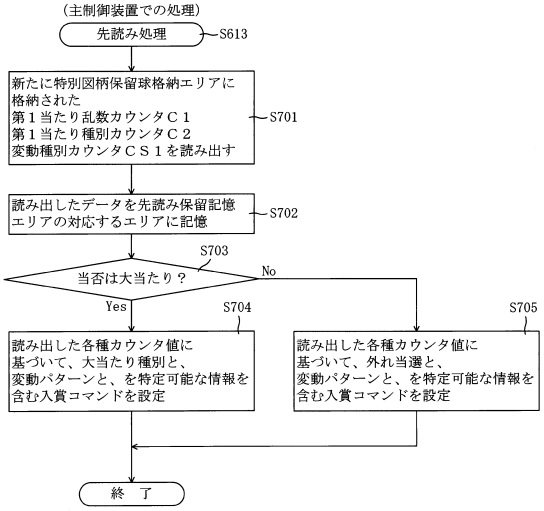
【図１６０】



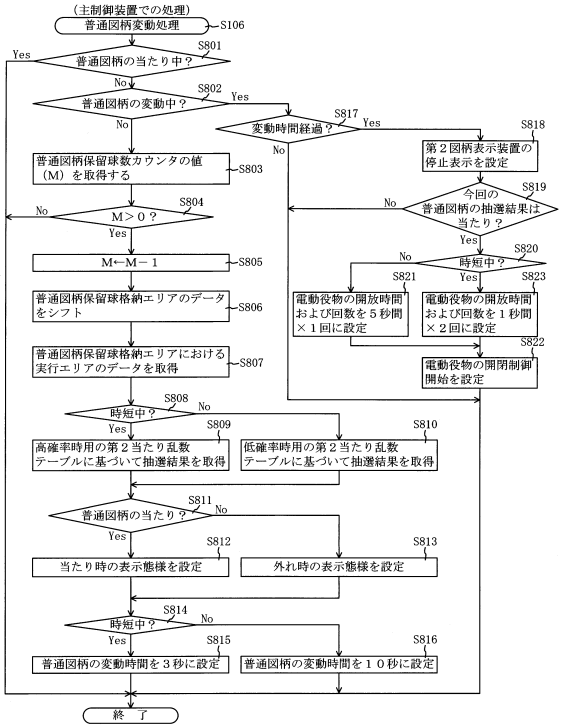
【図１６１】



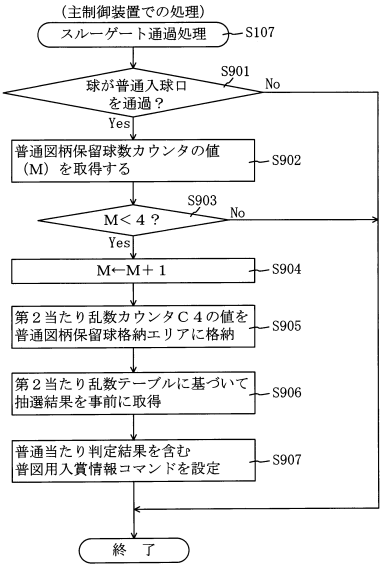
【図１６２】



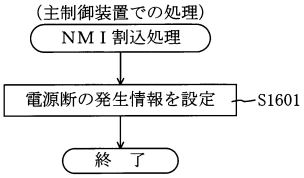
【図１６３】



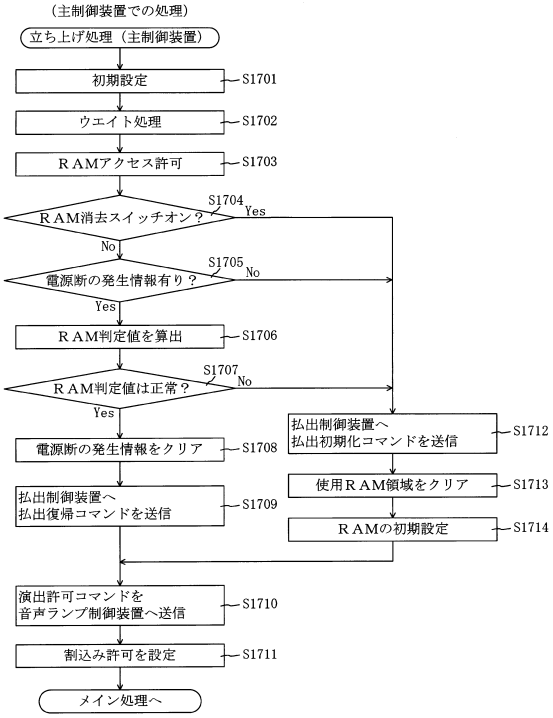
【図１６４】



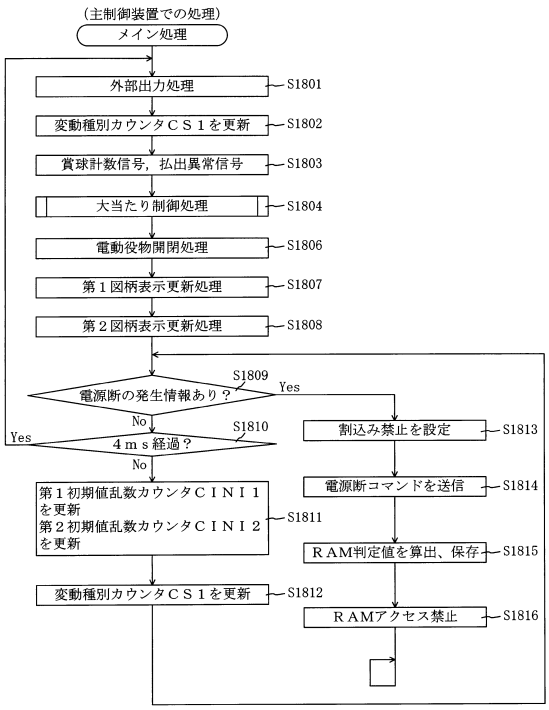
【図１６５】



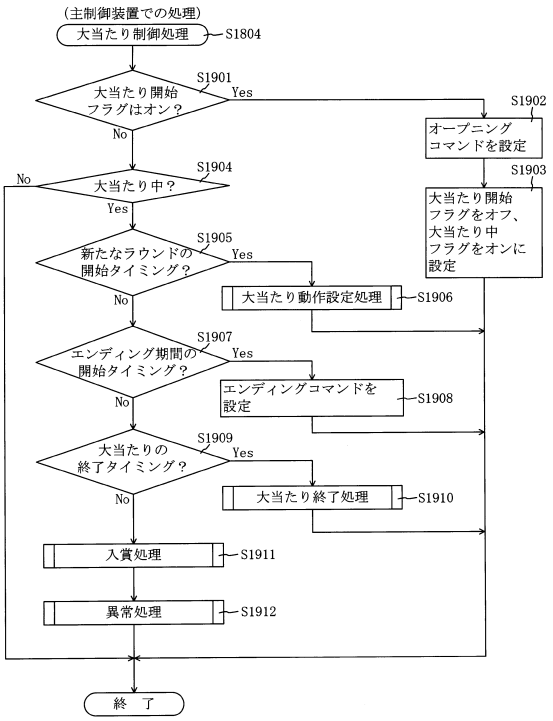
【図１６６】



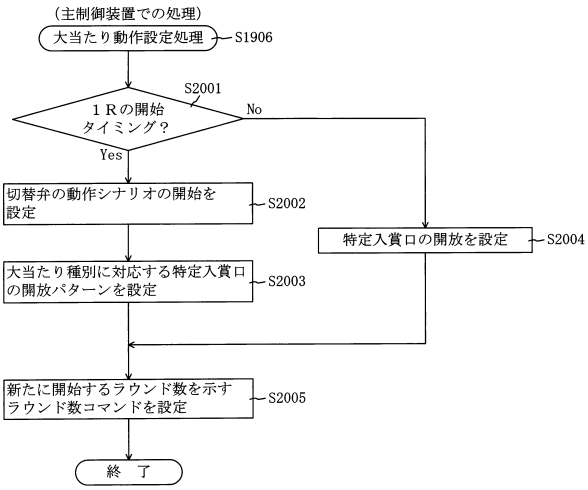
【図１６７】



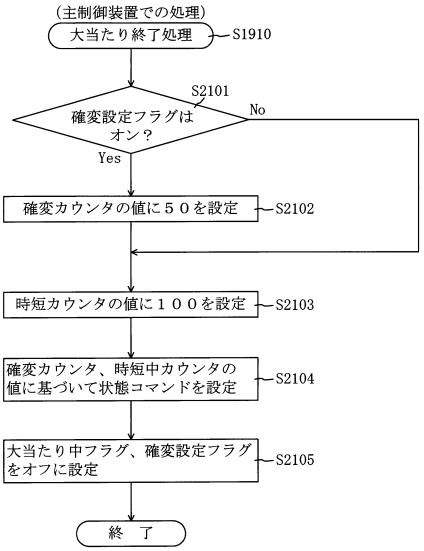
【図１６８】



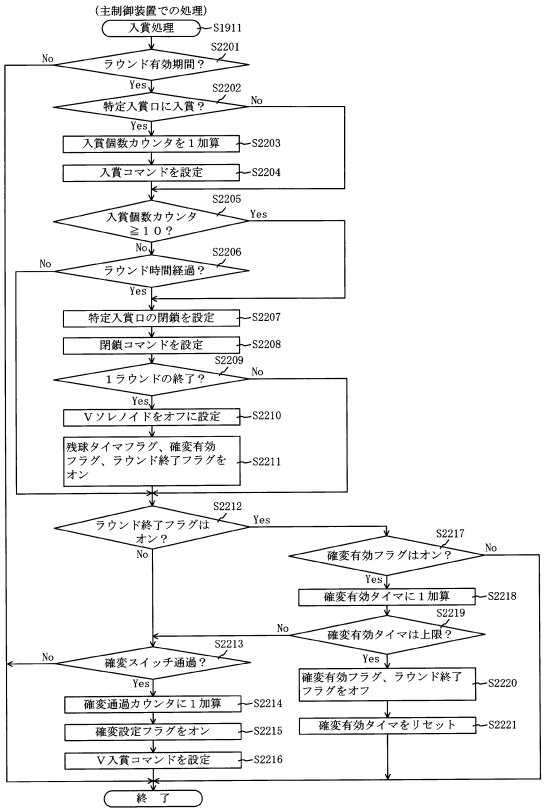
【図１６９】



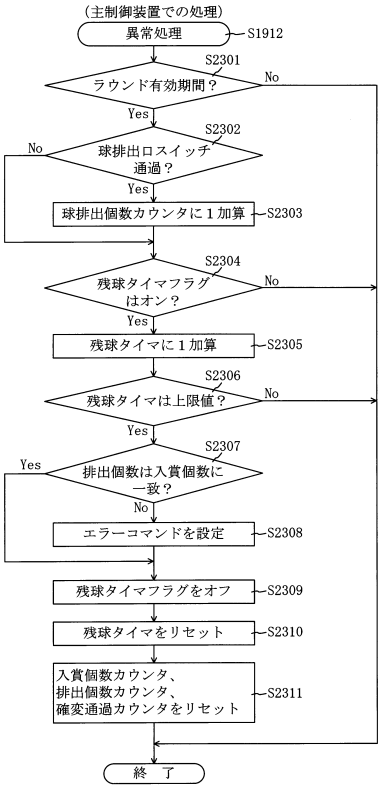
【図１７０】



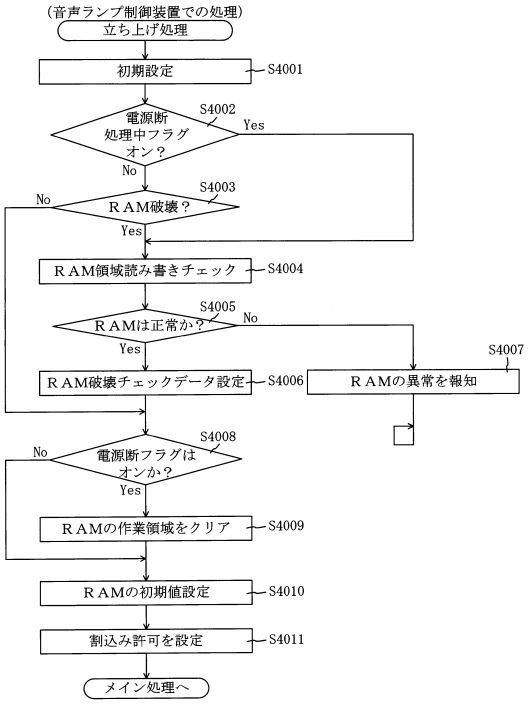
【図１７１】



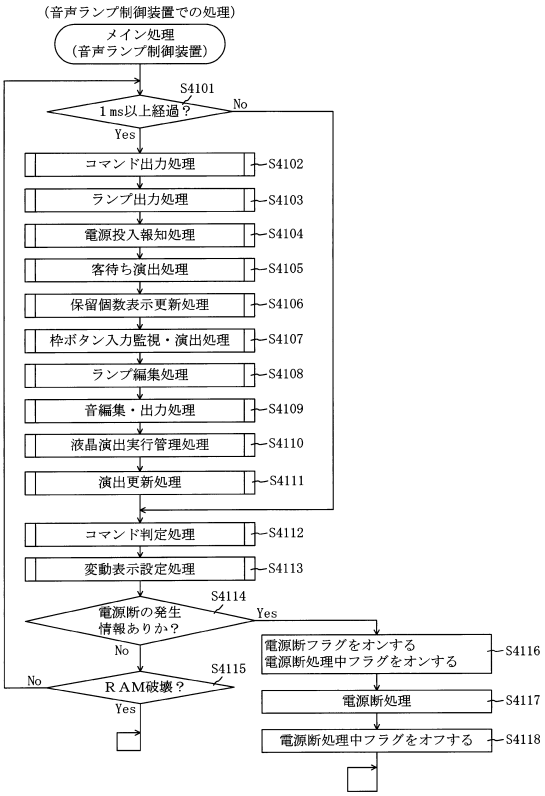
【図１７２】



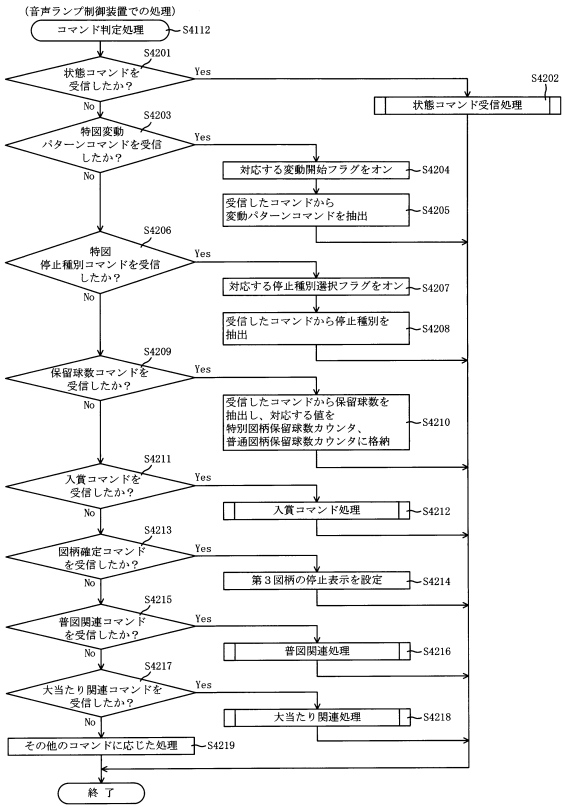
【図１７３】



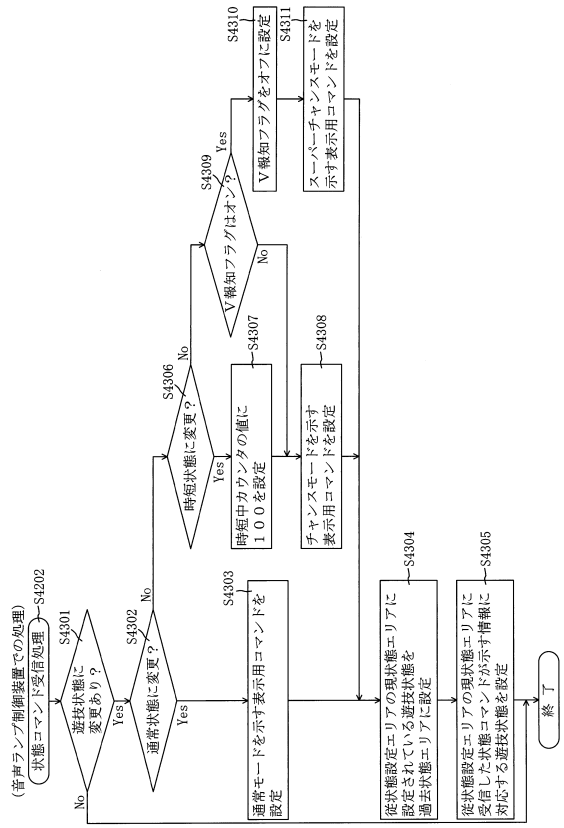
【図１７４】



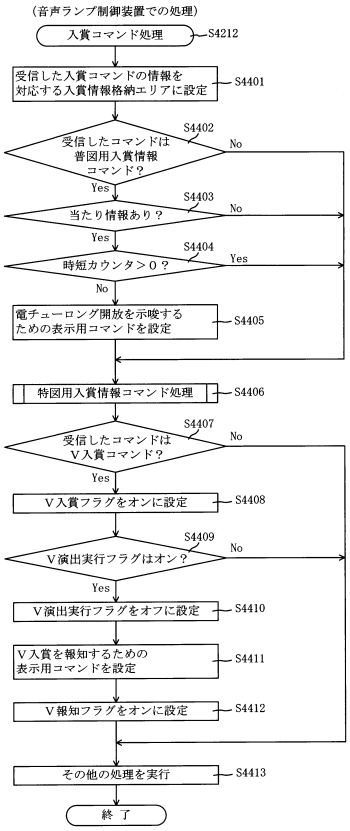
【図１７５】



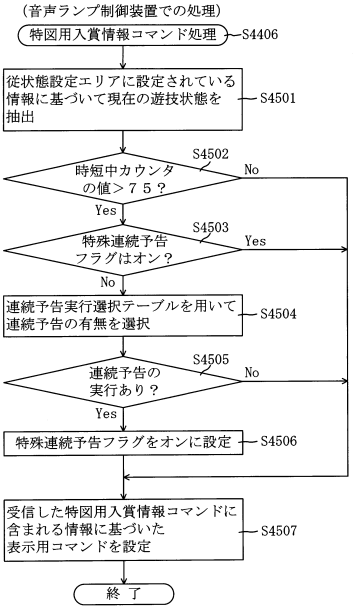
【図１７６】



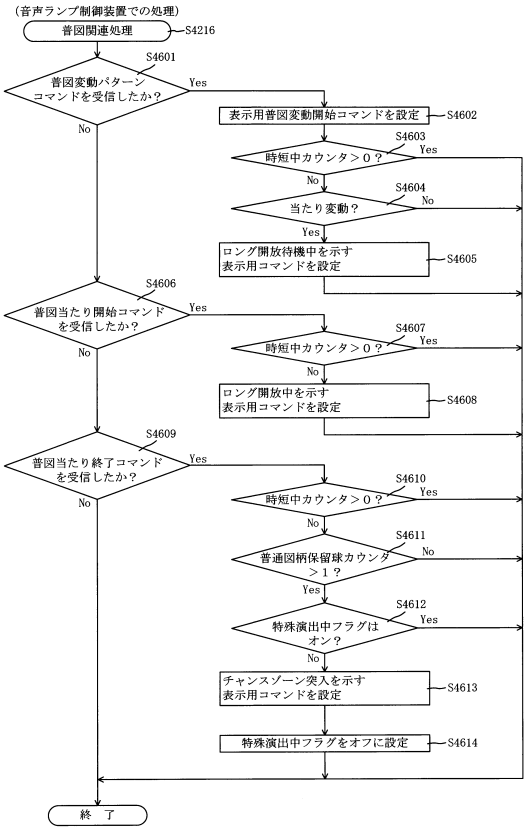
【図１７７】



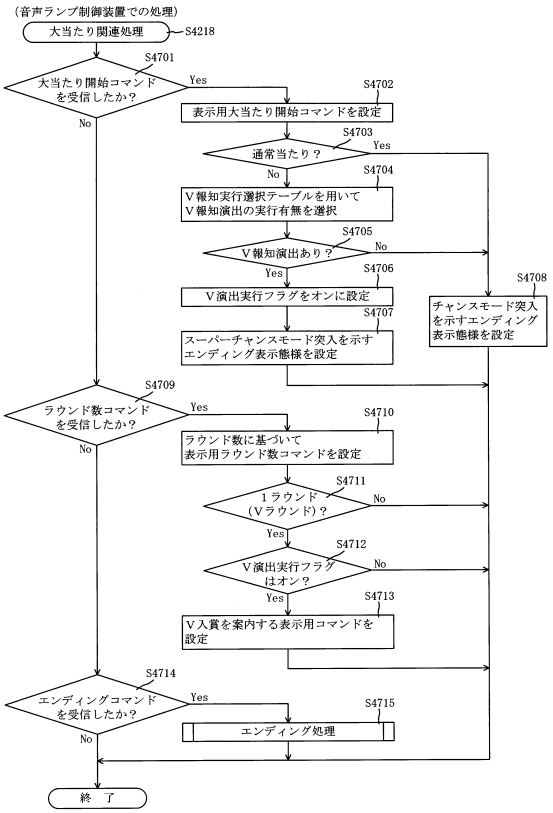
【図１７８】



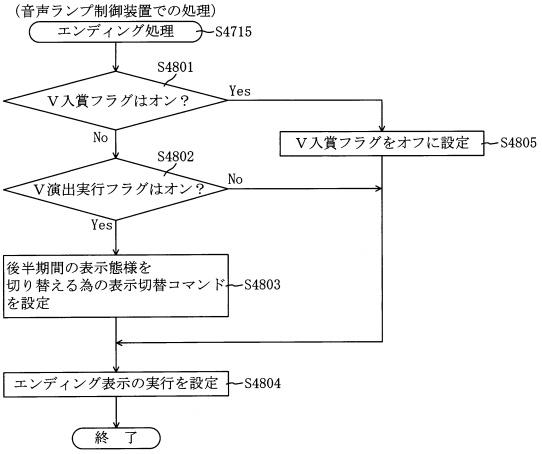
【図１７９】



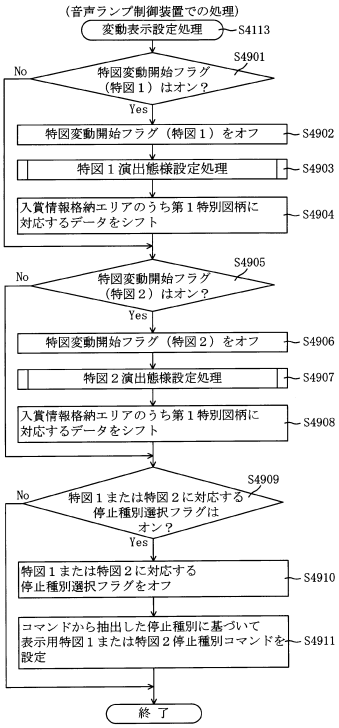
【図１８０】



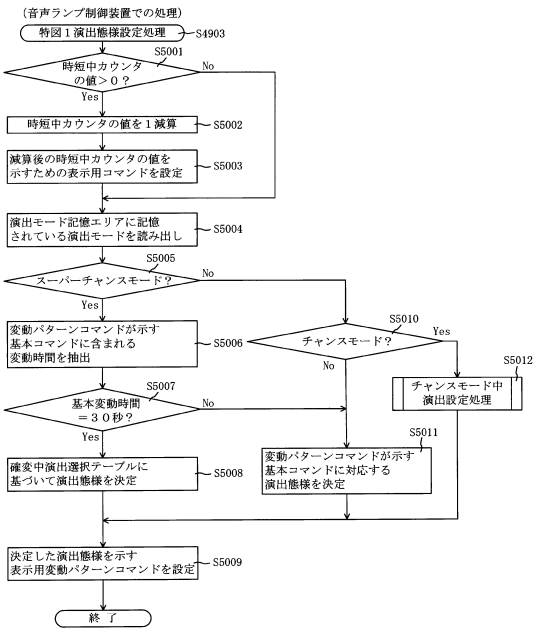
【図１８１】



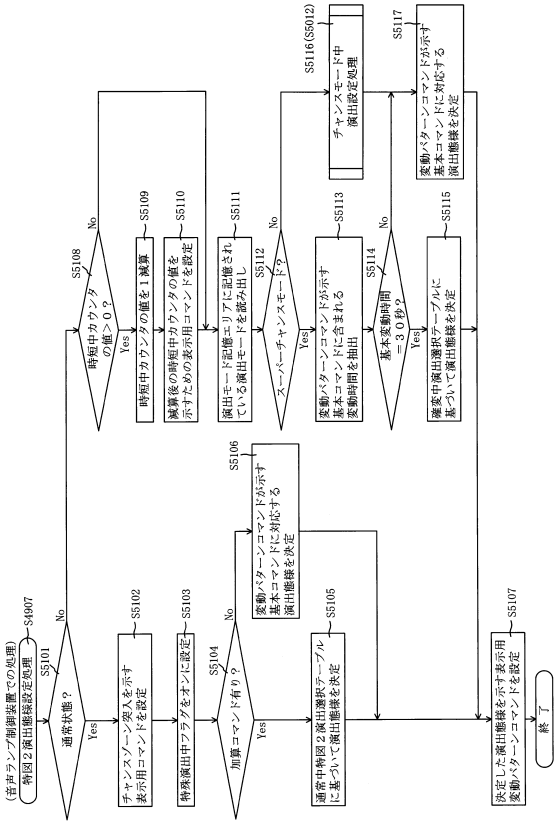
【図１８２】



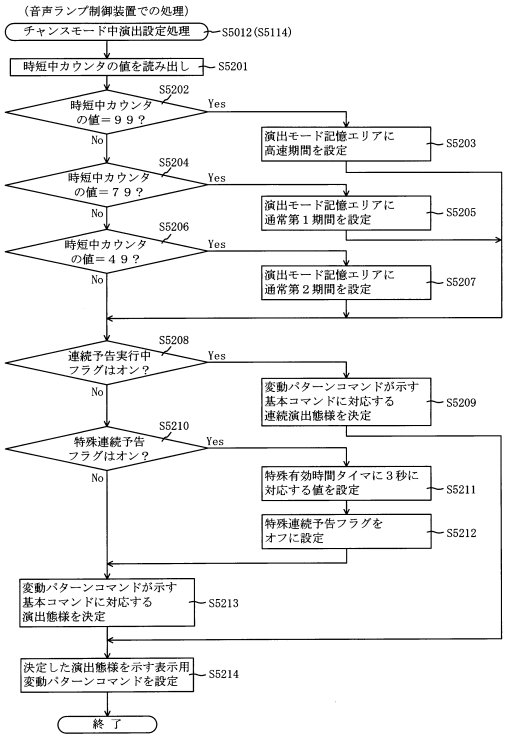
【図１８３】



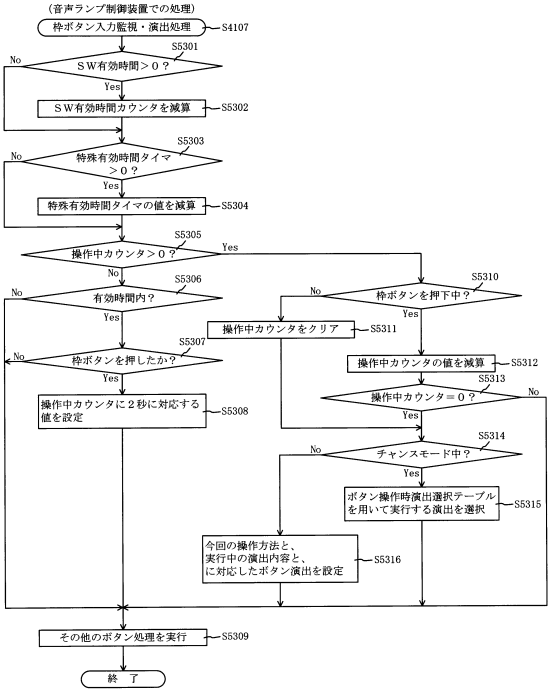
【図１８４】



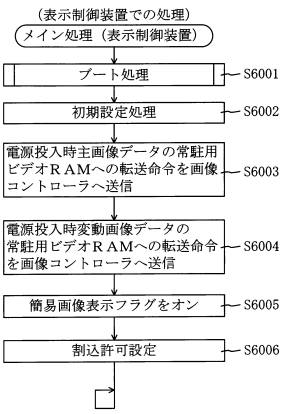
【図１８５】



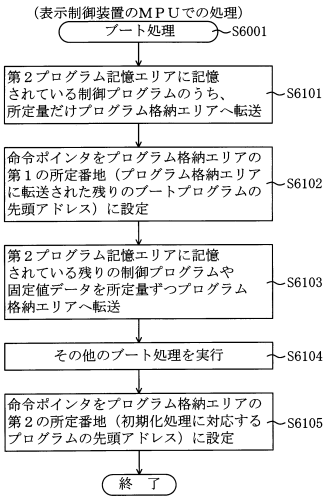
【図１８６】



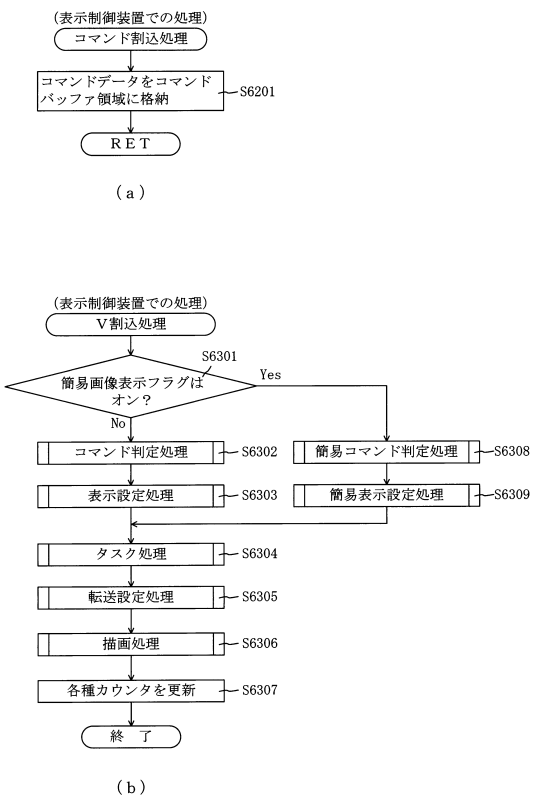
【図１８７】



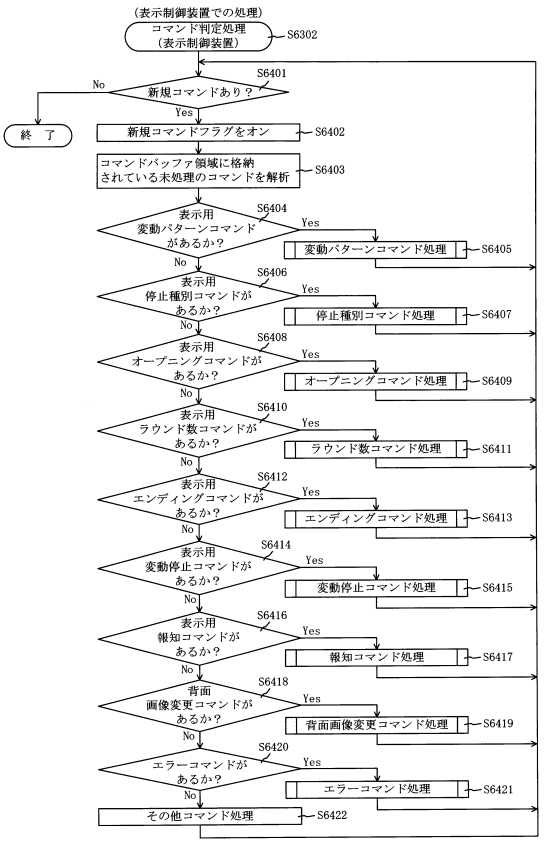
【図１８８】



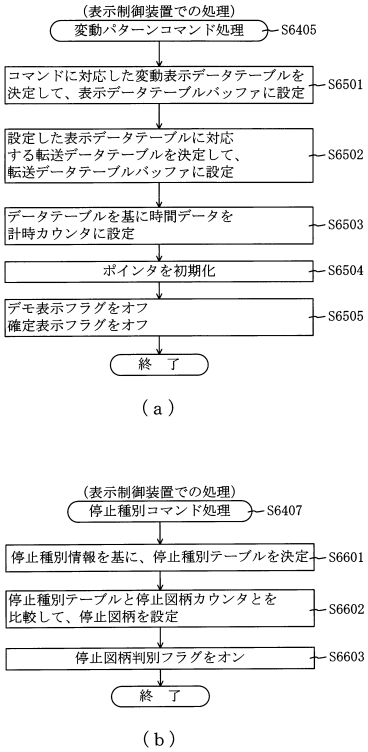
【図１８９】



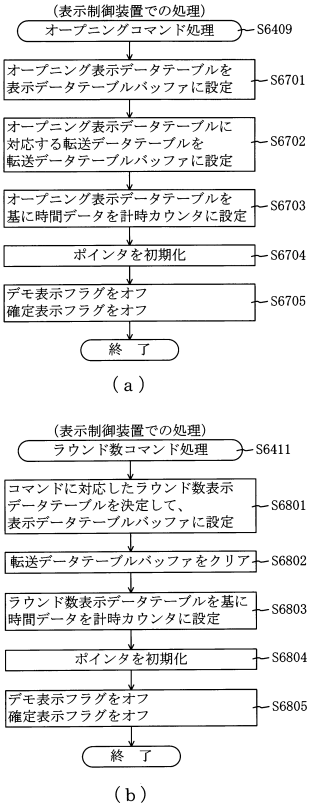
【図１９０】



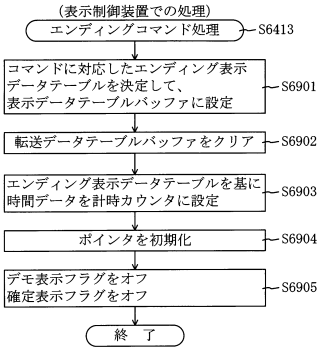
【図１９１】



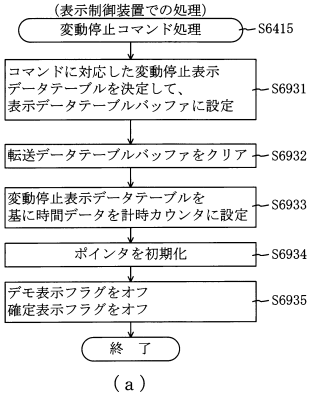
【図１９２】



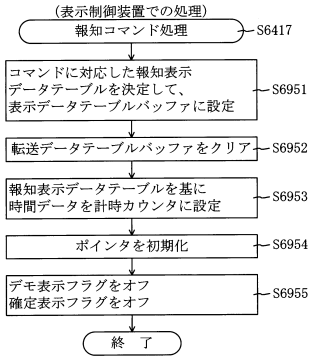
【図１９３】



【図１９４】

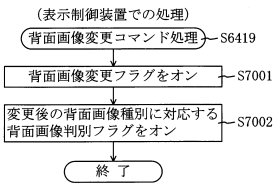


（ａ）

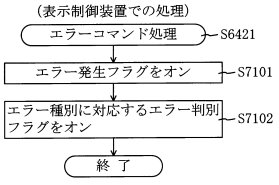


（ｂ）

【図１９５】

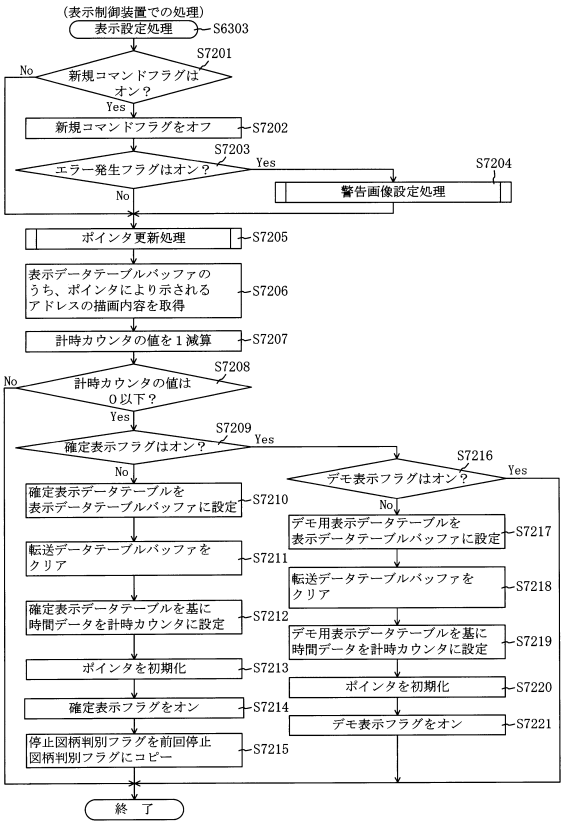


（ａ）

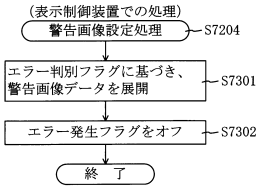


（ｂ）

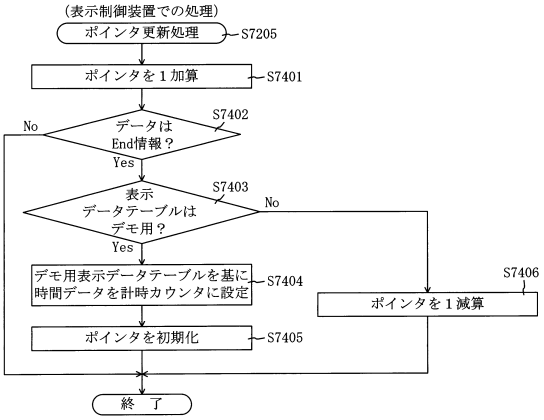
【図１９６】



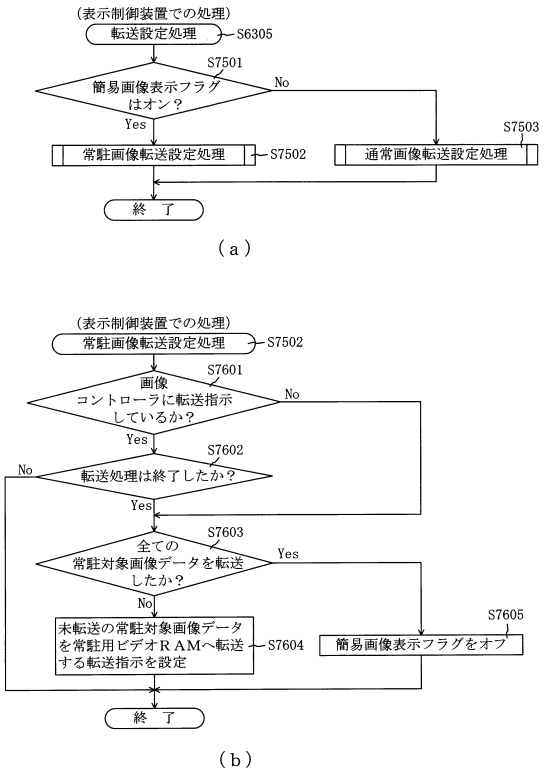
【図１９７】



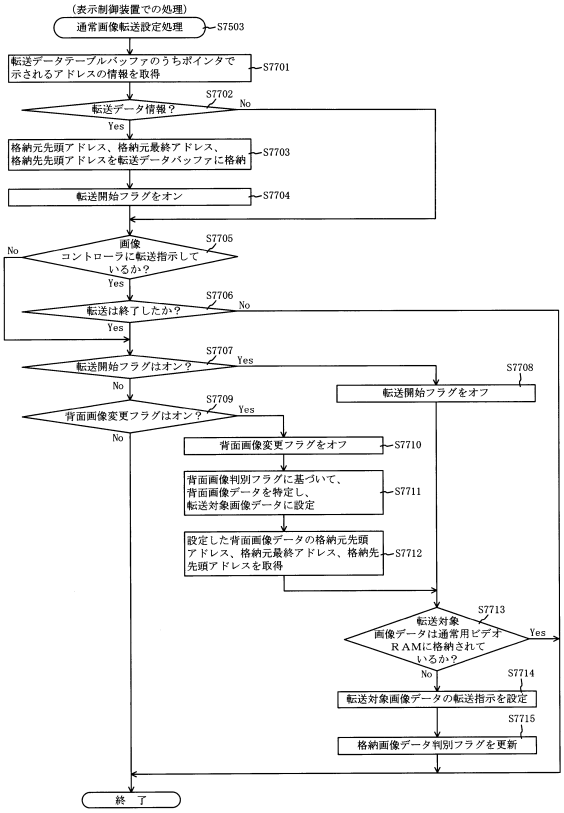
【図１９８】



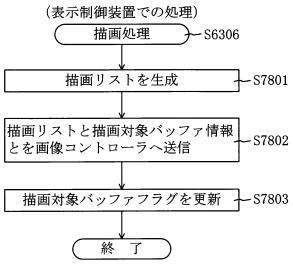
【図１９９】



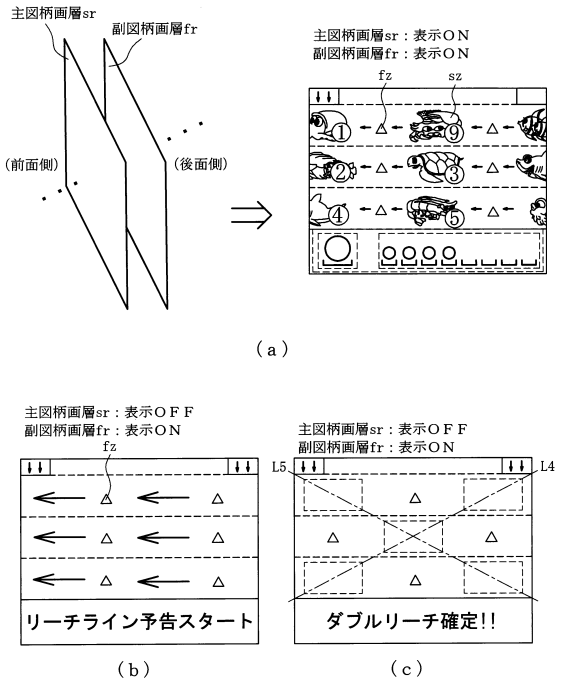
【図２００】



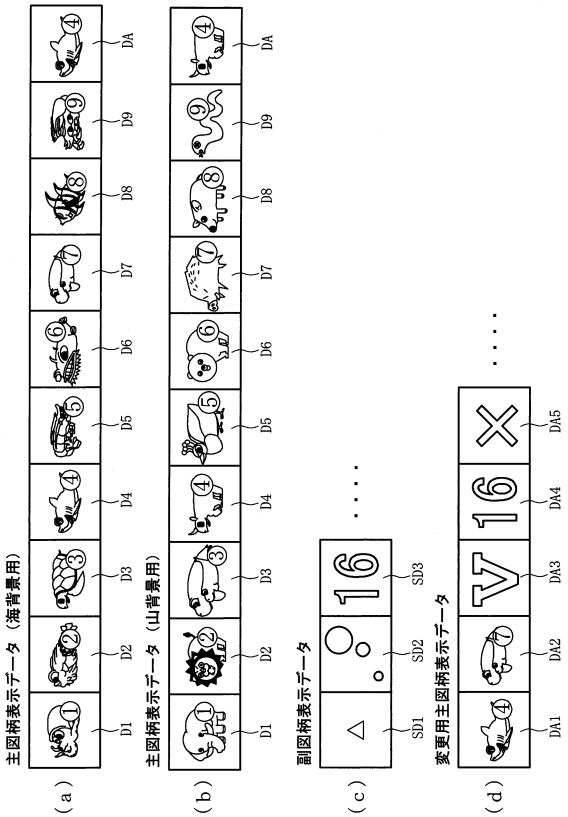
【図２０１】



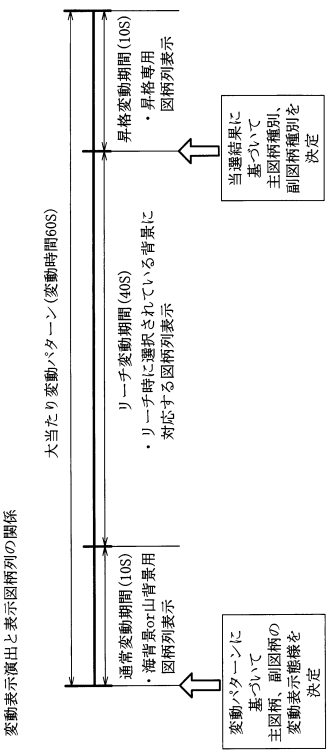
【図２０２】



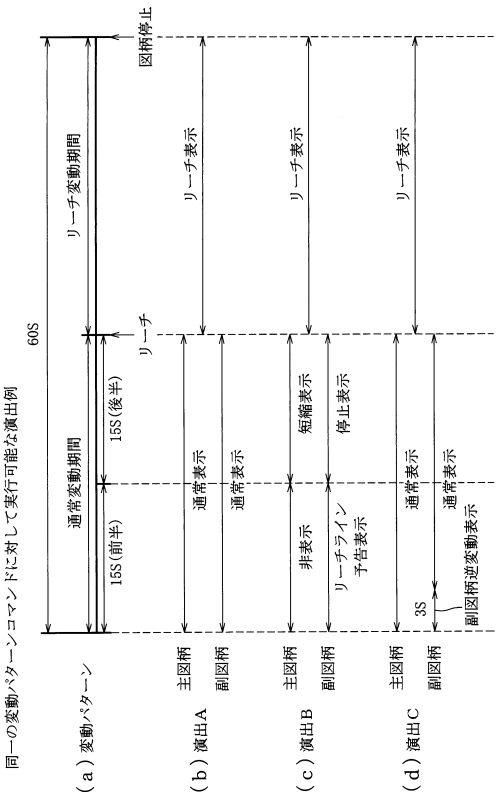
【図２０３】



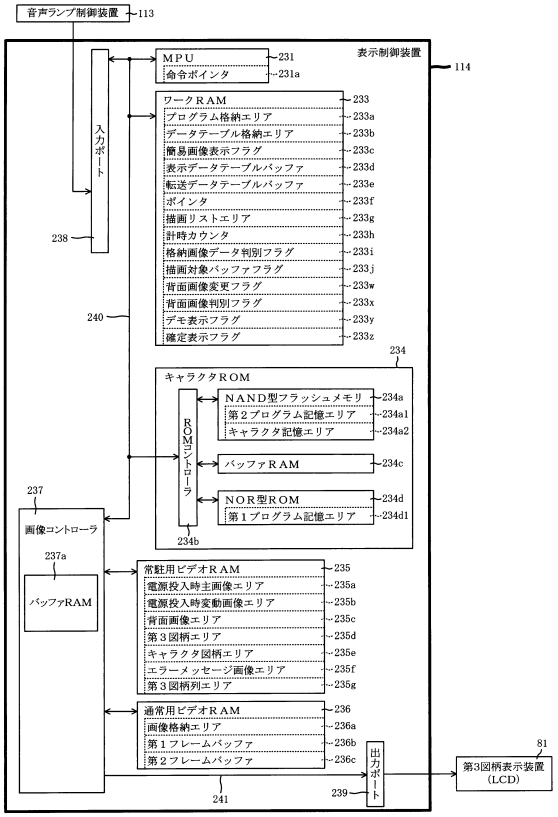
【図２０４】



【図２０５】



【図２０６】



【図２０７】

表示データテーブル

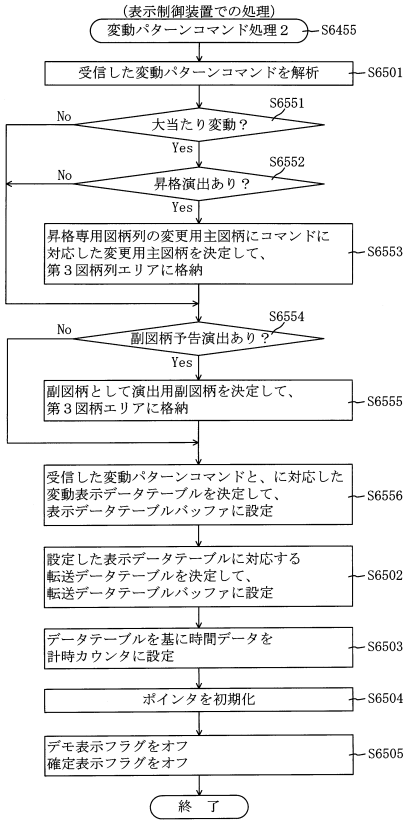
アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	背面画像　：背面種別 副図柄１　表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報 副図柄２　：… ⋮ 主図柄列１　図柄種別オフセット 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報 主図柄列２　：… ⋮ エフェクト１：… エフェクト２：… キャラクタ１：… キャラクタ２：… ⋮
0002H	⋮
0003H	⋮
⋮	⋮
02F0H	End

【図２０８】

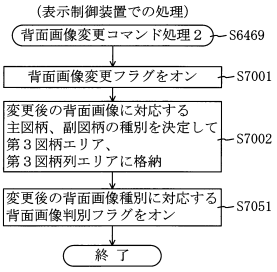
描画リスト

種別	詳細情報
背面画像	スプライト（表示物）のデータの格納ＲＡＭ種別とアドレス 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報
副図柄１	⋮
副図柄２	⋮
⋮	⋮
主図柄列１	
主図柄列２	
⋮	⋮
エフェクト１	⋮
エフェクト２	⋮
⋮	⋮
キャラクタ１	⋮
キャラクタ２	⋮
⋮	⋮
保留球数図柄１	⋮
⋮	⋮
エラー図柄１	⋮
転送データ	転送対象画像データの格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス

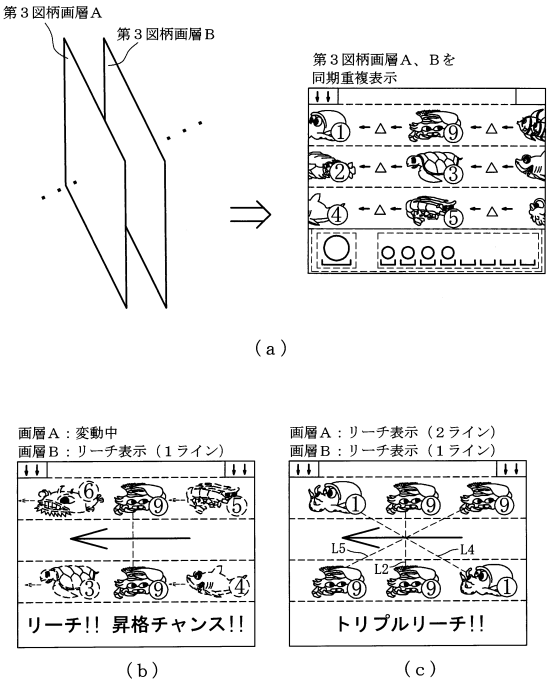
【図２０９】



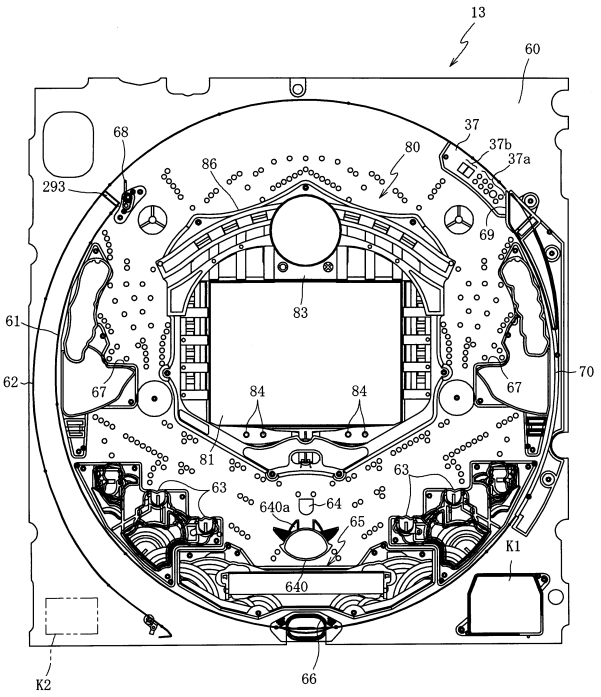
【図２１０】



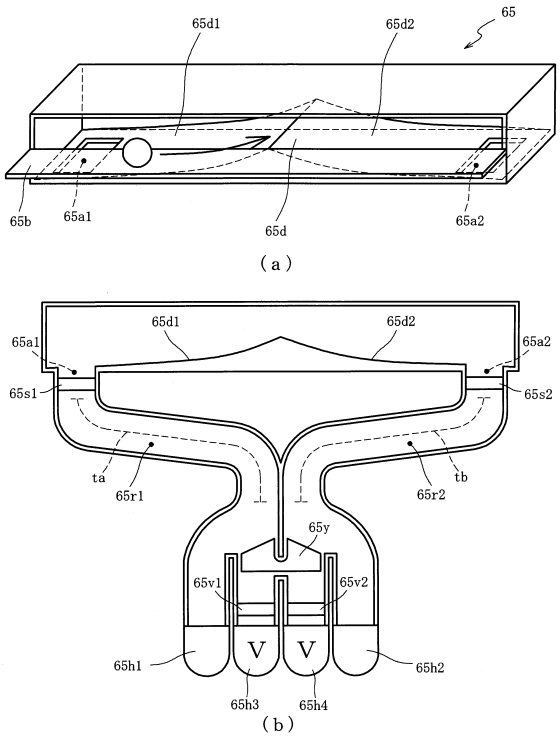
【図２１１】



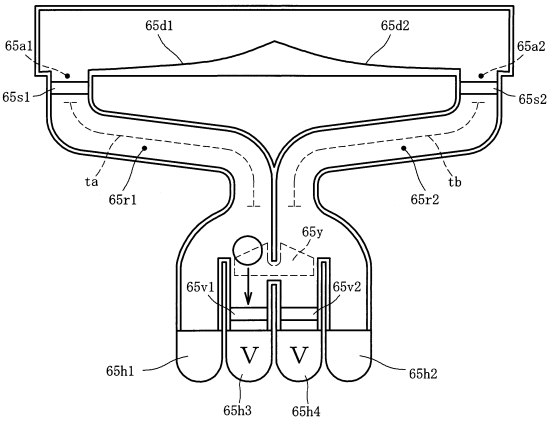
【図２１２】



【図２１３】



【図２１４】



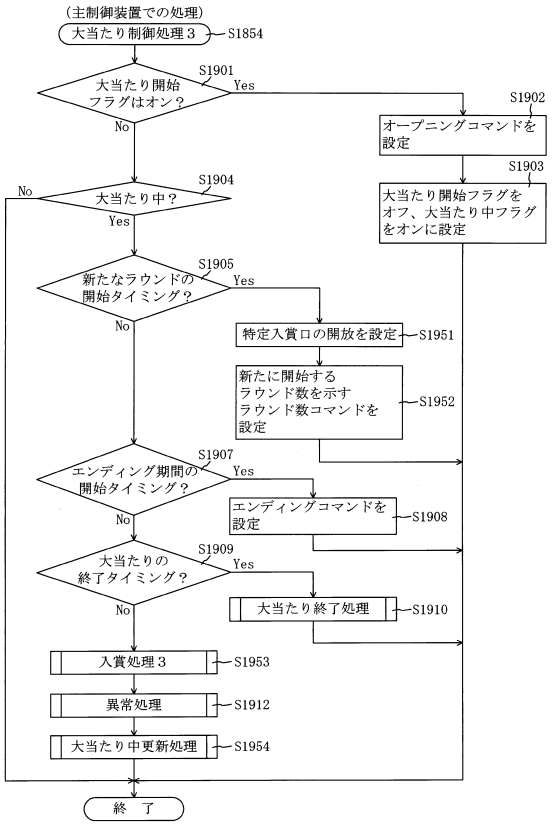
【図２１５】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
確変設定フラグ	203m
確変通過カウンタ	203n
入賞個数カウンタ	203o
残球タイマフラグ	203p
残球タイマ	203q
確変有効フラグ	203r
確変有効タイマ	203s
排出個数カウンタ	203t
Ｖ期間タイマ	203ca
その他メモリエリア	203z

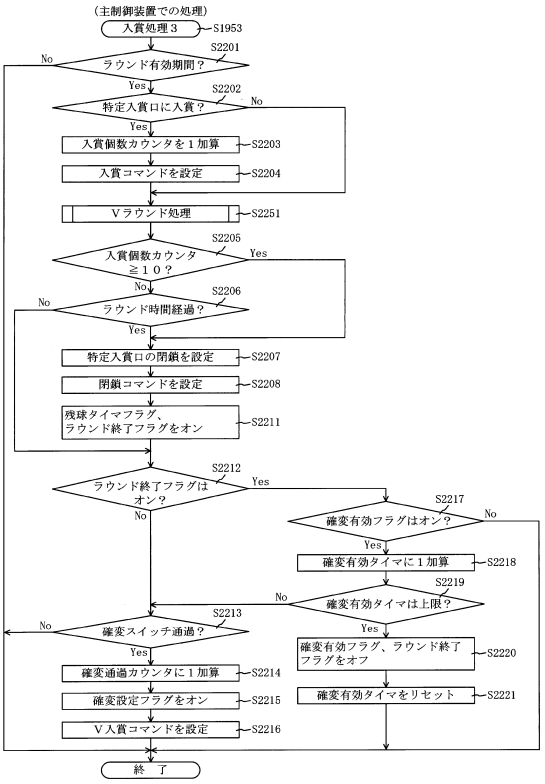
【図２１６】

ＲＡＭ	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
特殊演出中フラグ	223i
Ｖ入賞フラグ	223j
Ｖ演出実行フラグ	223k
時短中カウンタ	223n
特殊連続予告フラグ	223o
演出モード記憶エリア	223p
連続予告実行中フラグ	223q
ＳＷ有効時間カウンタ	223r
特殊有効時間カウンタ	223s
操作中カウンタ	223t
Ｖタイマ	223ca
その他メモリエリア	223z

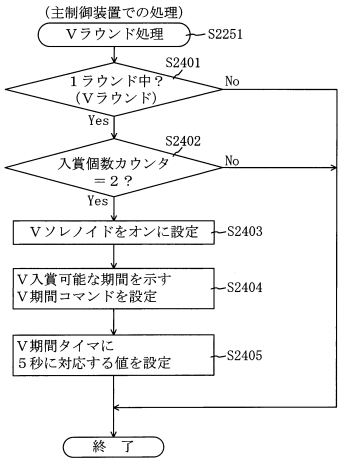
【図２１７】



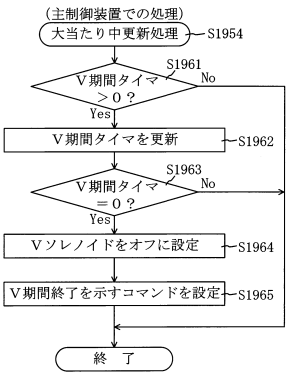
【図２１８】



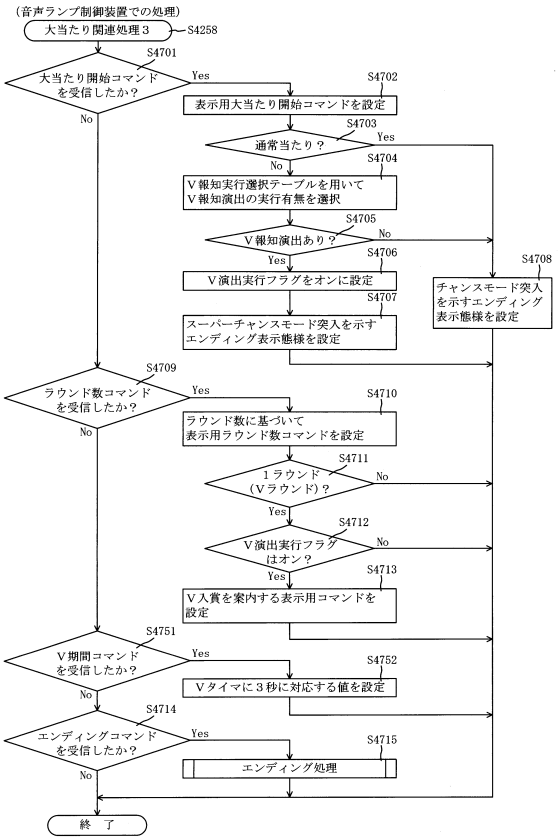
【図２１９】



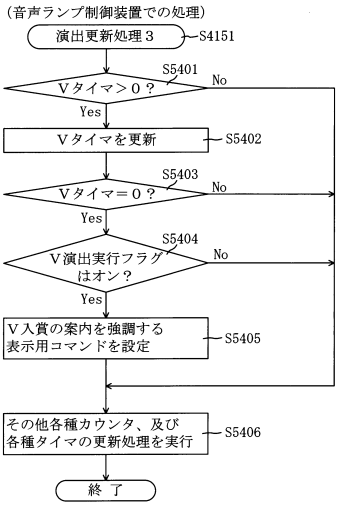
【図２２０】



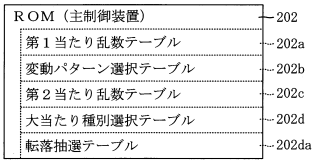
【図２２１】



【図２２２】



【図２２３】



【図２２４】

202

特図２大当たり用２テーブル202dd2

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h		確変カウンタ203i	エンディング期間(S)
		当選時の遊技状態			
		時短状態	確変状態		
大当たりＣ（４Ｒ確変大当たり）	0～29	50	100	50(非Ｖ時は0)	17
大当たりＤ（７Ｒ確変大当たり）	30～69	100	90	50(非Ｖ時は0)	
大当たりＥ（１６Ｒ確変大当たり）	70～99	100	100	50(非Ｖ時は0)	

（ａ）

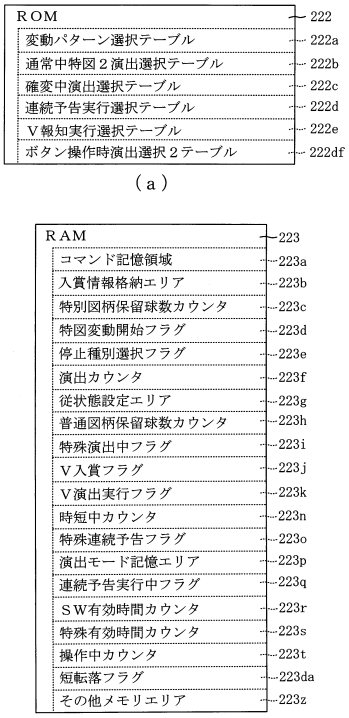
202

転落抽選テーブル202da

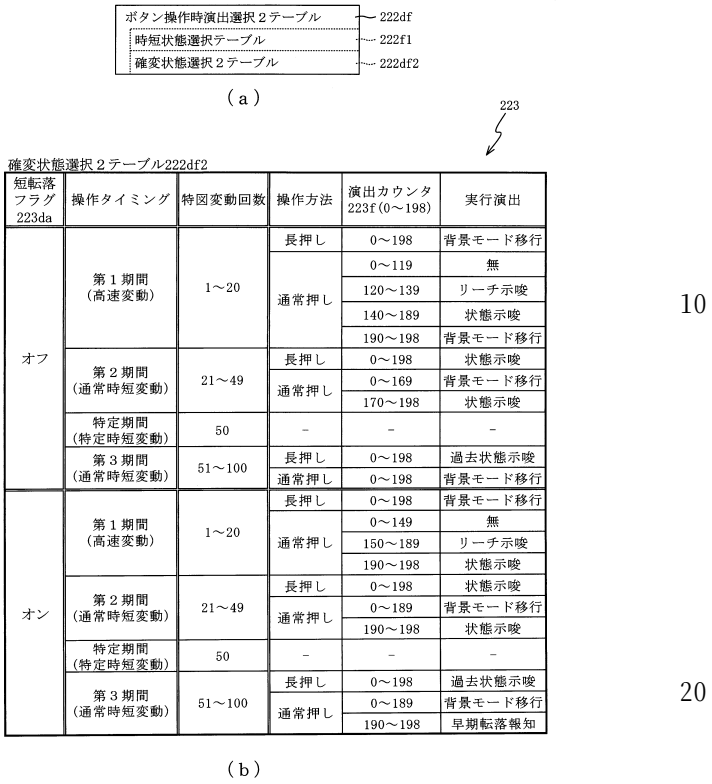
乱数テーブル	転落抽選カウンタＣｄ１（0～999）
特別図柄の確変状態	0, 1

（ｂ）

【図２２５】



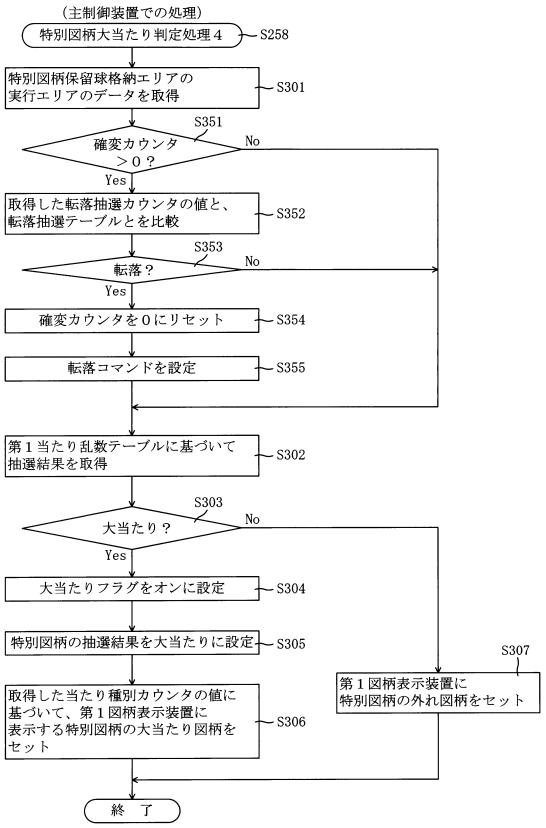
【図２２６】



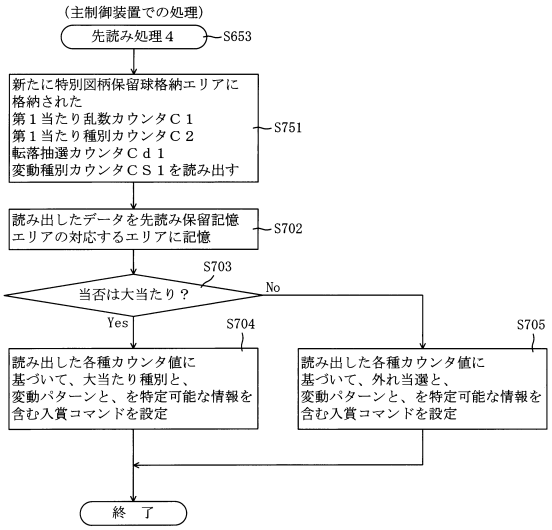
短転落フラグ 223da	操作タイミング	特図変動回数	操作方法	演出カウンタ 223f(0～198)	実行演出
オフ	第１期間（高速変動）	1～20	長押し	0～198	背景モード移行
			通常押し	0～119	無
				120～139	リーチ示唆
				140～189	状態示唆
				190～198	背景モード移行
	第２期間（通常時短変動）	21～49	長押し	0～198	状態示唆
			通常押し	0～169	背景モード移行
				170～198	状態示唆
	特定期間（特定時短変動）	50	－	－	－
	第３期間（通常時短変動）	51～100	長押し	0～198	過去状態示唆
			通常押し	0～198	背景モード移行
オン	第１期間（高速変動）	1～20	長押し	0～198	背景モード移行
			通常押し	0～149	無
				150～189	リーチ示唆
				190～198	状態示唆
	第２期間（通常時短変動）	21～49	長押し	0～198	状態示唆
			通常押し	0～189	背景モード移行
				190～198	状態示唆
	特定期間（特定時短変動）	50	－	－	－
	第３期間（通常時短変動）	51～100	長押し	0～198	過去状態示唆
			通常押し	0～189	背景モード移行
				190～198	早期転落報知

（ｂ）

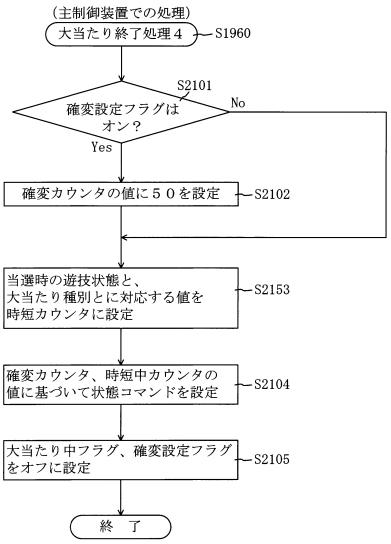
【図２２７】



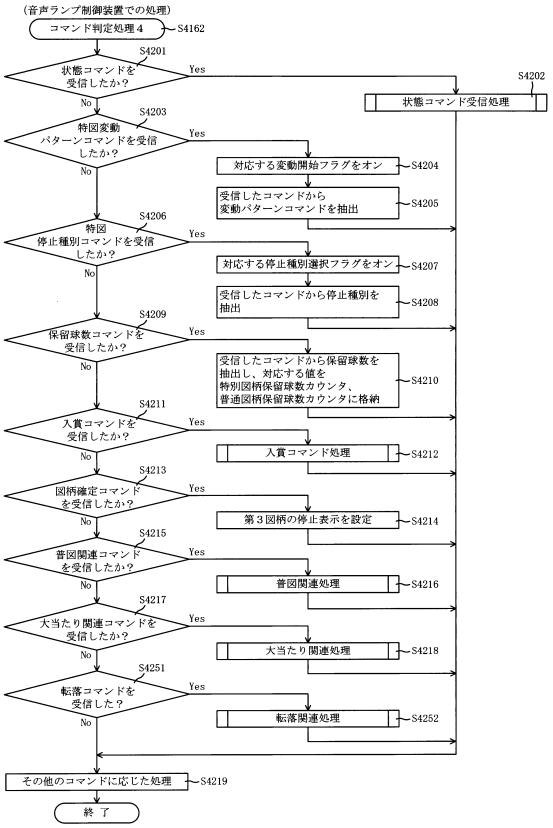
【図２２８】



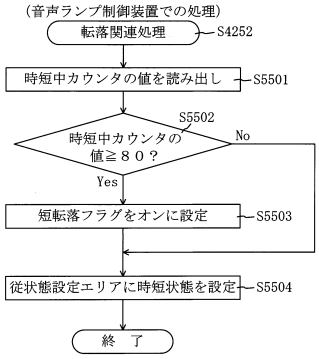
【図２２９】



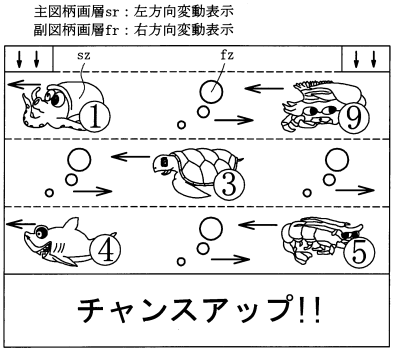
【図２３０】



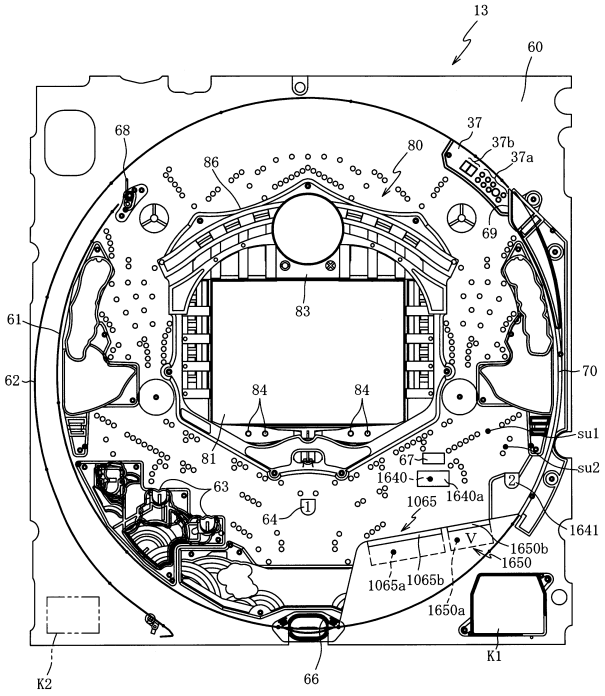
【図２３１】



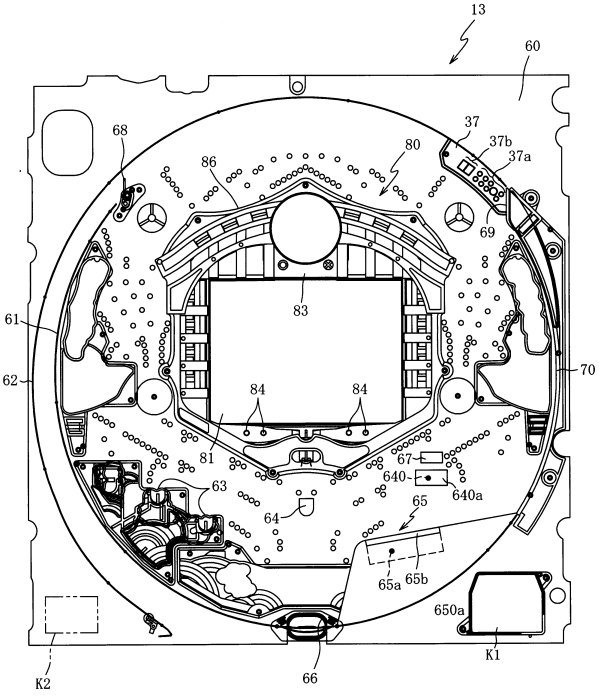
【図２３２】



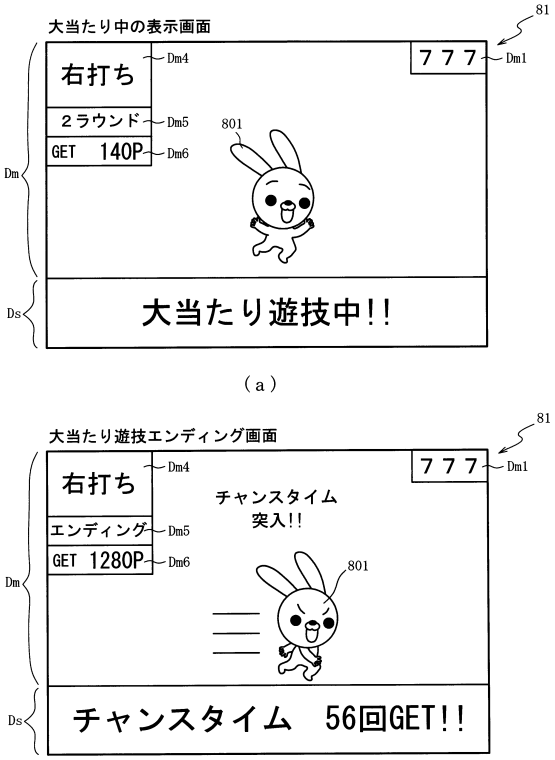
【図２３３】



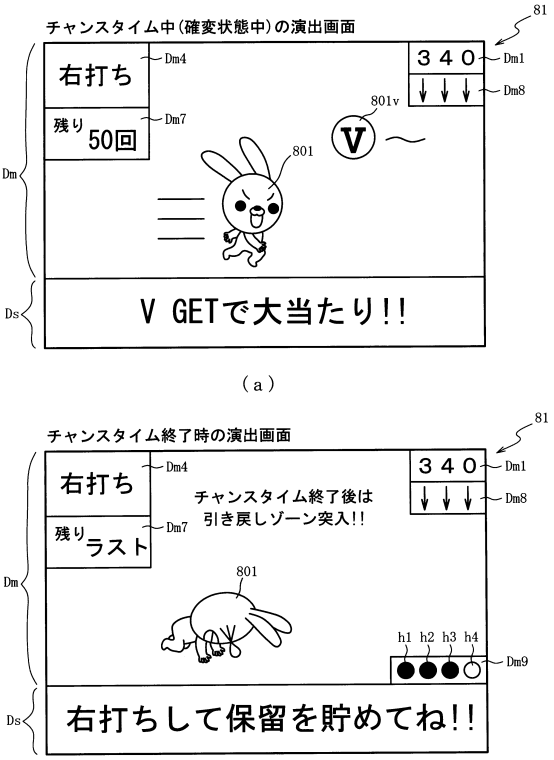
【図２３４】



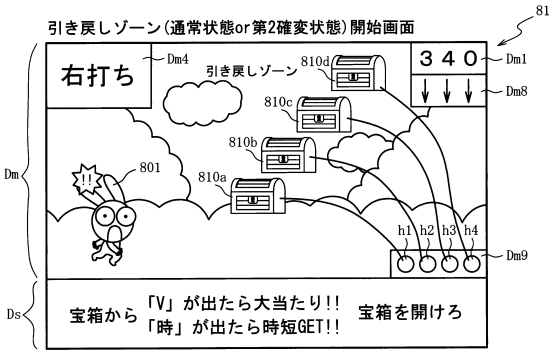
【図２３５】



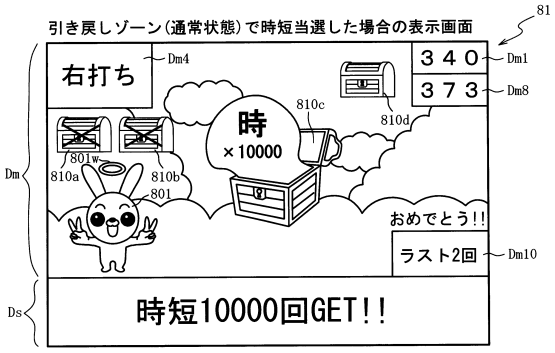
【図２３６】



【図２３７】

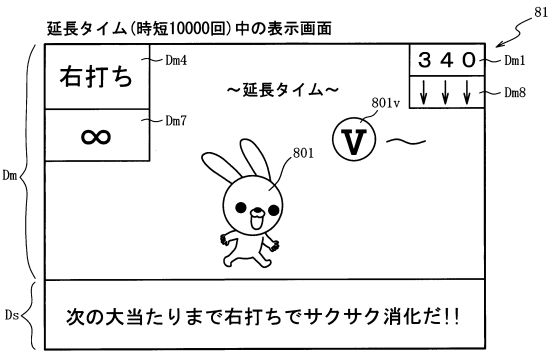


（ａ）

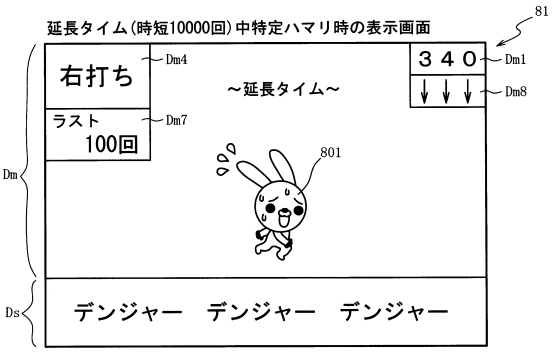


（ｂ）

【図２３８】

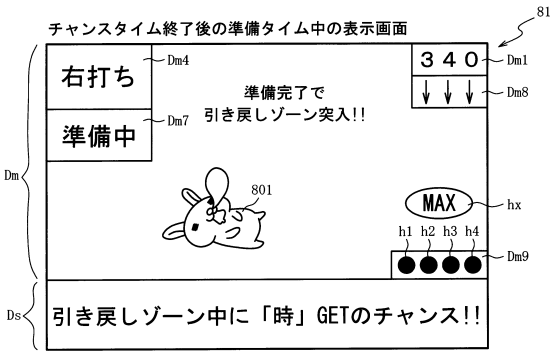


（ａ）



（ｂ）

【図２３９】



【図２４０】

引き戻しモードのモード種別説明

モード種別	背景	モード内容
モードＡ	天国	引き戻しモード中に 大当たり当選又は時短当選の可能性極大
モードＢ	夜	引き戻しモード中に 大当たり当選又は時短当選の可能性大
モードＣ	夕	引き戻しモード中に 大当たり当選又は時短当選の可能性中
モードＤ	昼	引き戻しモード中に 大当たり当選又は時短当選の可能性小

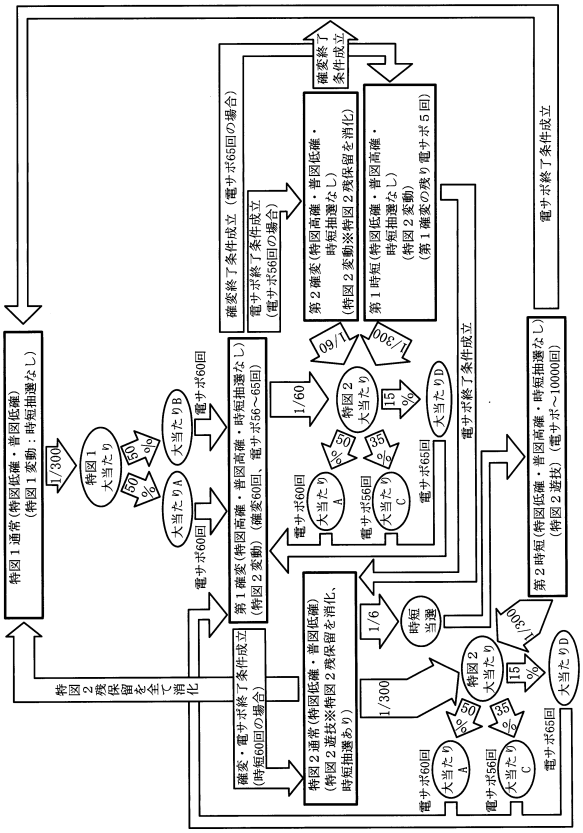
（ａ）

引き戻しモード中の示唆態様説明

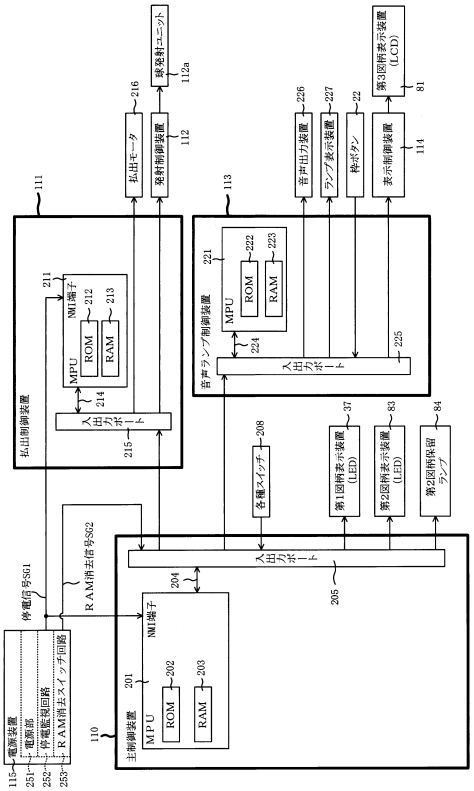
示唆種別	表示態様	示唆内容
示唆Ａ	金宝箱	当該変動で大当たり当選又は時短当選 可能性大
示唆Ｂ	デカ宝箱	当該変動で大当たり当選又は時短当選 可能性中
示唆Ｃ	天使の輪	通常状態示唆大
示唆Ｄ	チャンス 文字	通常状態示唆中

（ｂ）

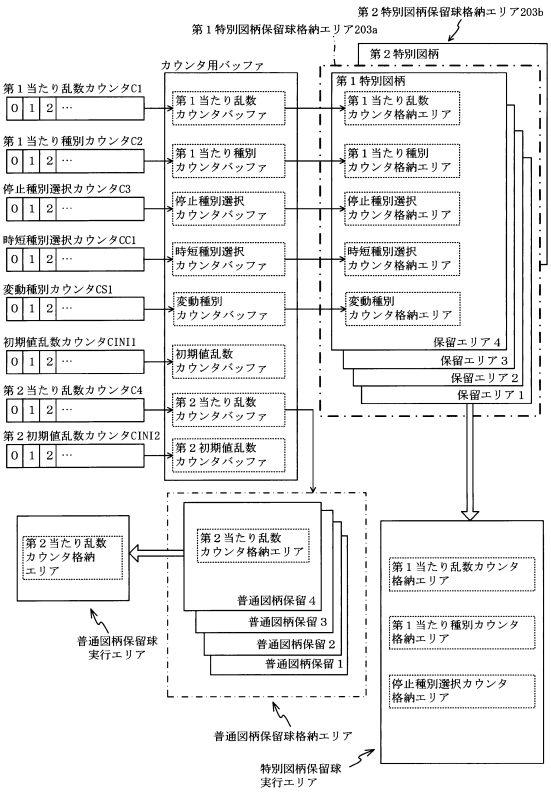
【図２４１】



【図２４２】



【図２４３】



【図２４４】

（ａ）

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数５テーブル	202da
変動パターン選択５テーブル	202db
第２当たり乱数テーブル	202c
大当たり種別選択５テーブル	202dd
時短当たり乱数５テーブル	202de
時短種別選択５テーブル	202df

（ｂ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
その他メモリエリア	203z

【図２４５】

（ａ）

202

第１当たり乱数５テーブル202da

遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
特別図柄の低確率状態	0～2
特別図柄の高確率状態	0～14

（ｂ）

202

第２当たり乱数テーブル202c

遊技状態	第２当たり乱数カウンタＣ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～2
普通図柄の高確率状態	0～149

（ｃ）

202

時短当たり乱数５テーブル202de

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄	共通	－
第２特別図柄	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	51～200
	それ以外	－

【図２４６】

（ａ）

大当たり種別選択５テーブル 202dd
特図１大当たり用５テーブル 202dd1
特図２大当たり用５テーブル 202dd2

（ｂ）

202

特図１大当たり用５テーブル202dd1

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i
大当たりＡ５（16R確変大当たり）	0～49	60	60
大当たりＢ５（6R確変大当たり）	50～99	60	60

（ｃ）

202

特図２大当たり用５テーブル202dd2

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i
大当たりＡ５（16R確変大当たり）	0～49	60	60
大当たりＣ５（6R確変大当たり）	50～84	56	60
大当たりＤ５（6R確変大当たり）	85～99	65	60

【図２４７】

（ａ）

変動パターン選択５テーブル 202db
通常・第２確変用５テーブル 202db1
確変・時短用５テーブル 202db2

（ｂ）

202

通常・第２確変用５テーブル202db1

図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間(S) 基本(S)
特図１	当たり	0～19	ノーマル	30
		20～169	スーパー	30
		170～198	ＳＰ	55
	外れ	0～179	外れ	8
		180～198	リーチ外れ	30
特図２	当たり	0～149	スーパー	30
		150～198	ＳＰ	55
	外れ（時短）	0～169	スーパー	30
		170～198	ＳＰ	55
	外れ	0～19	リーチ外れ	30
		20～198	外れ	8

【図２４８】

（ａ）

202

確変・時短用５テーブル202db2

時短種別	図柄種別	変動回数	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間(S)
大当たり後時短	共通	1～60	当たり	0～198	ミドル変動	15
			外れ	0～189	ショート変動	5
				190～198	ミドル変動	15
		61～65	共通	0～198	特殊変動	5
時短Ａ	特図１	－	共通	0～198	ロング変動	20
	特図２	1～99	当たり	0～198	ミドル変動	15
			外れ	0～189	ショート変動	5
				190～198	ミドル変動	15
		100	共通	0～198	特殊変動	10
		101～200	共通	0～198	超短変動	2
		201～10000	共通	0～198	特殊短変動	0.5
時短Ｂ	特図１	－	共通	0～198	ロング変動	20
	特図２	1～99	当たり	0～198	ミドル変動	15
			外れ	0～189	ショート変動	5
				190～198	ミドル変動	15
		100	共通	0～198	特殊変動	10

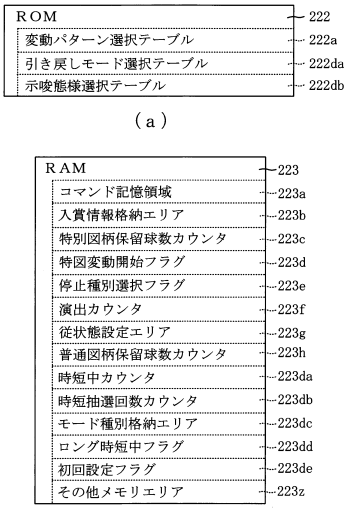
（ｂ）

202

時短種別選択５テーブル202df

時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～99）	時短カウンタ203h
時短Ａ	0～89	10000
時短Ｂ	90～99	100

【図２４９】



【図２５０】

222

引き戻しモード選択テーブル222da

特図２保留数	時短抽選回数カウンタ223db	保留内大当たりの有無	保留内時短当選の有無	演出カウンタ223f（0～99）	モード種別
4	4	有	—	0～49	モードA
				50～99	モードB
		無	有	0～79	モードB
				80～99	モードA
			無	0～19	モードB
				20～59	モードC
				60～99	モードD
	0	有	—	0～59	モードB
				60～99	モードC
		無		0～79	モードC
				80～99	モードB
1～3	–	有	—	0～19	モードB
				20～59	モードC
				60～99	モードD
		無	有	0～49	モードB
				50～99	モードD
			無	0～19	モードB
				20～99	モードD

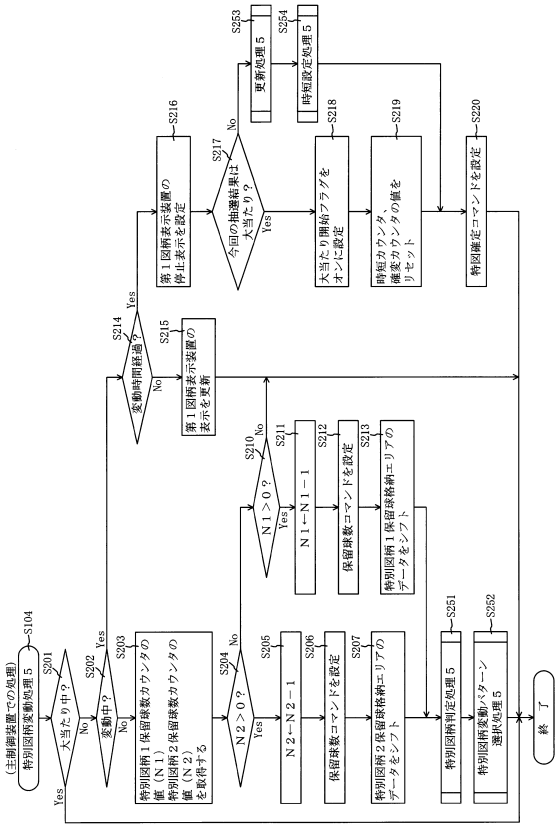
【図２５１】

222

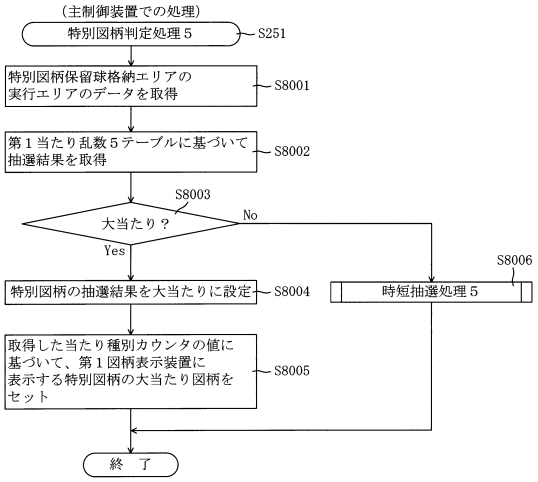
示唆態様選択テーブル222db

モード種別	抽選結果	演出カウンタ223f（0～99）	示唆態様
モードA	当たり	0～79	示唆B
		80～99	示唆A
	外れ（時短）	0～89	示唆B
		90～99	示唆A
	外れ	0～99	–
モードB	当たり	0～39	示唆B
		40～99	–
	外れ（時短）	0～29	示唆A
		30～99	示唆B
	外れ	0～9	示唆B
		10～99	–
モードC	当たり	0～19	示唆B
		20～99	–
	外れ（時短）	0～39	示唆B
		40～99	示唆D
	外れ	0～19	示唆D
		20～99	–
モードD	当たり	0～9	示唆B
		10～99	–
	外れ（時短）	0～19	示唆B
		20～99	–
	外れ	0～9	示唆C
		10～99	–

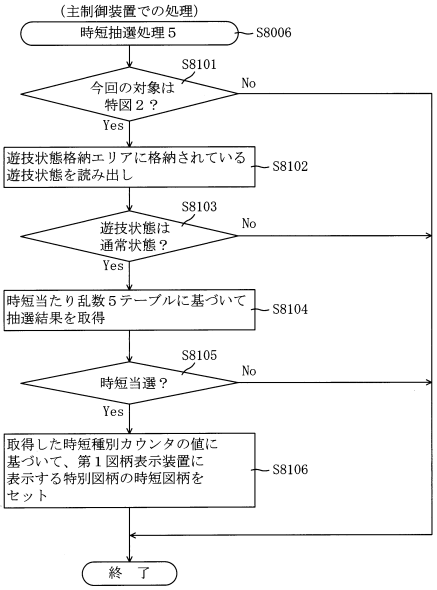
【図２５２】



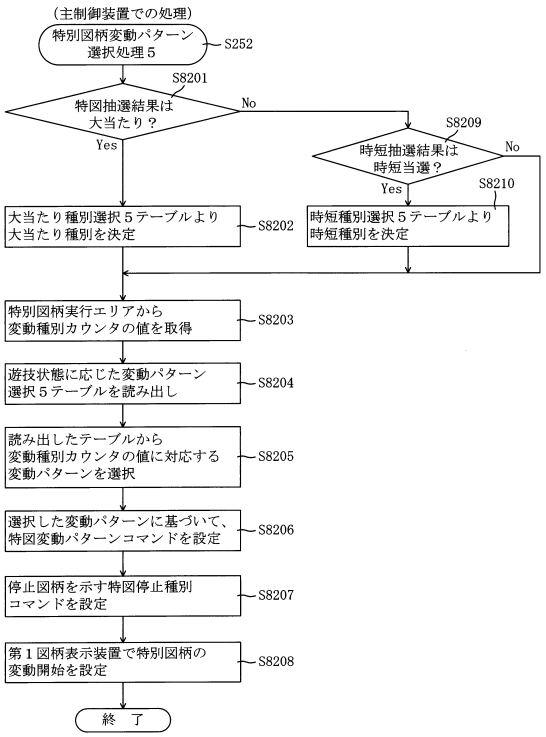
【図２５３】



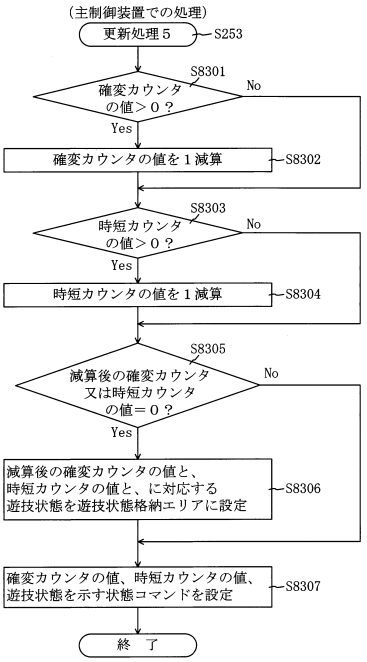
【図２５４】



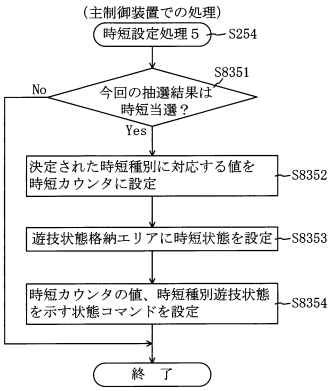
【図２５５】



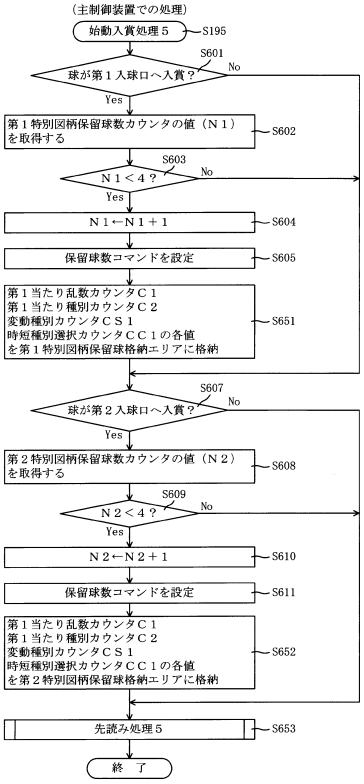
【図２５６】



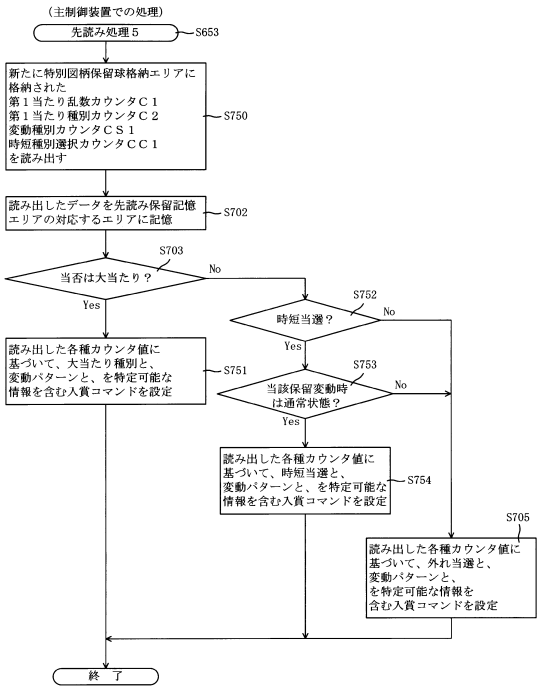
【図２５７】



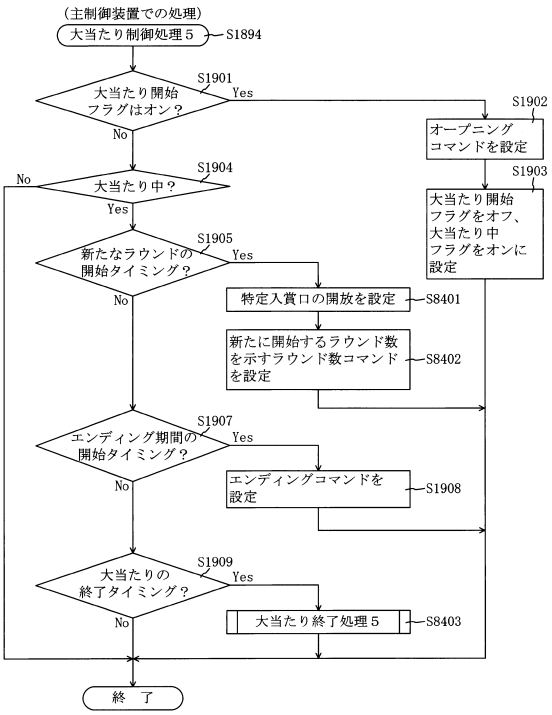
【図２５８】



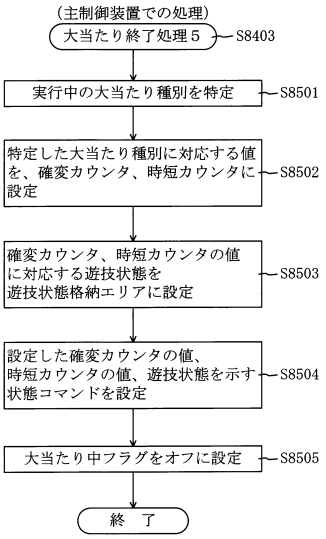
【図２５９】



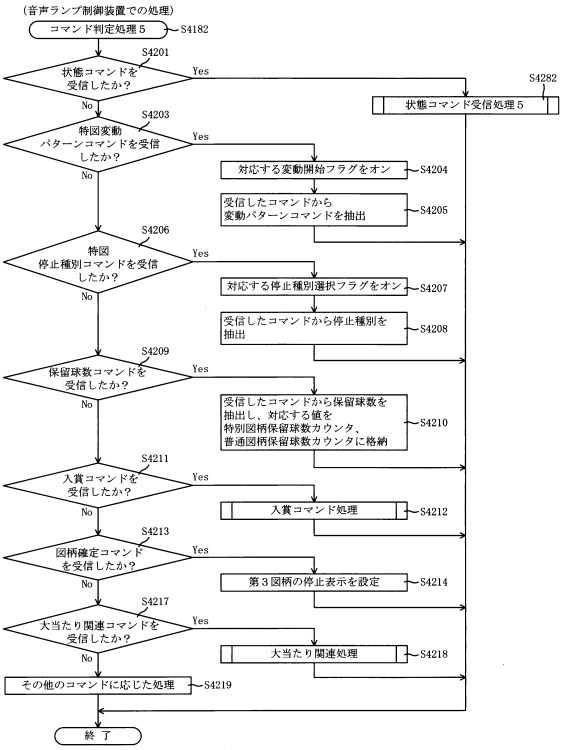
【図２６０】



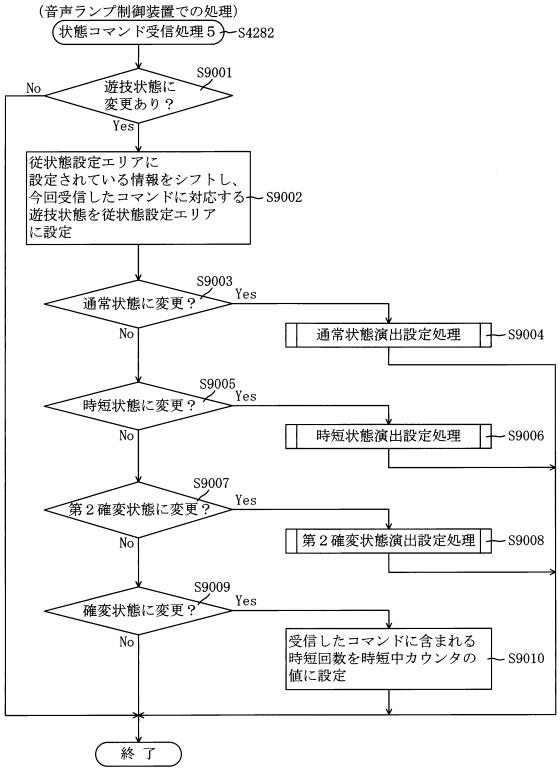
【図２６１】



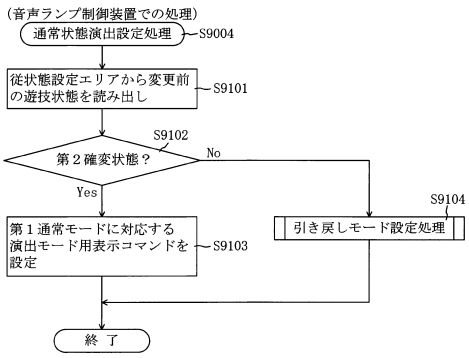
【図２６２】



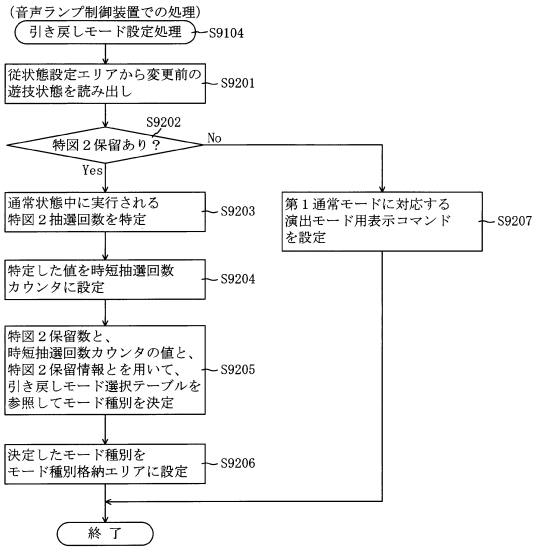
【図２６３】



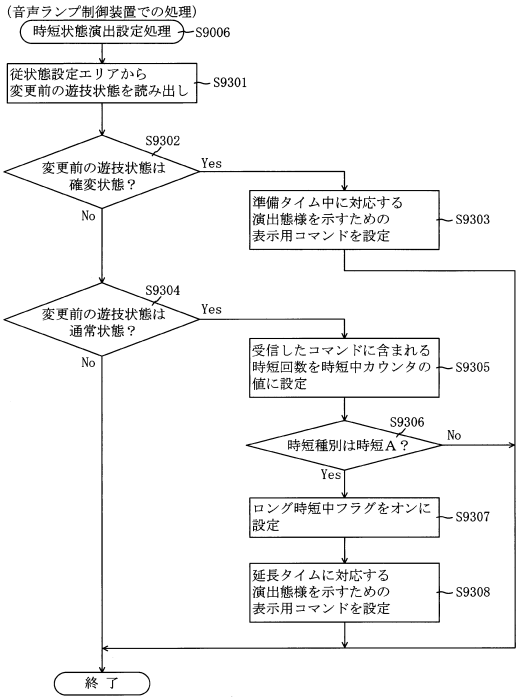
【図２６４】



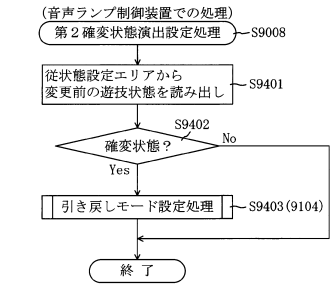
【図２６５】



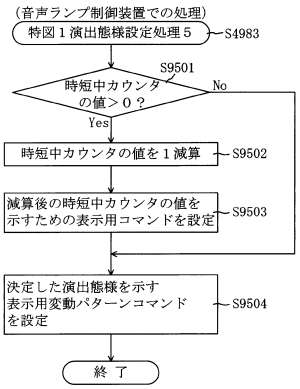
【図２６６】



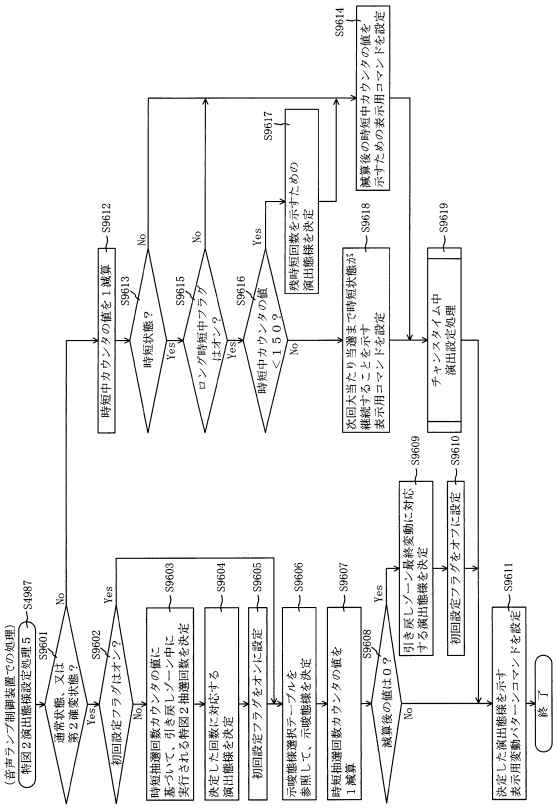
【図２６７】



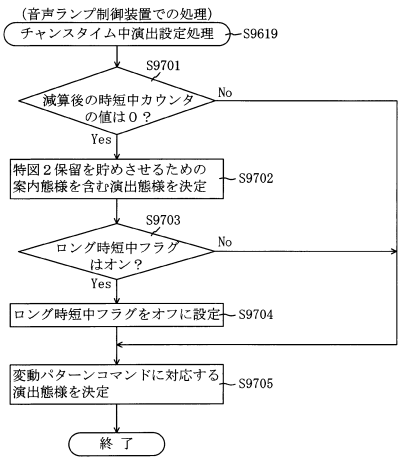
【図２６８】



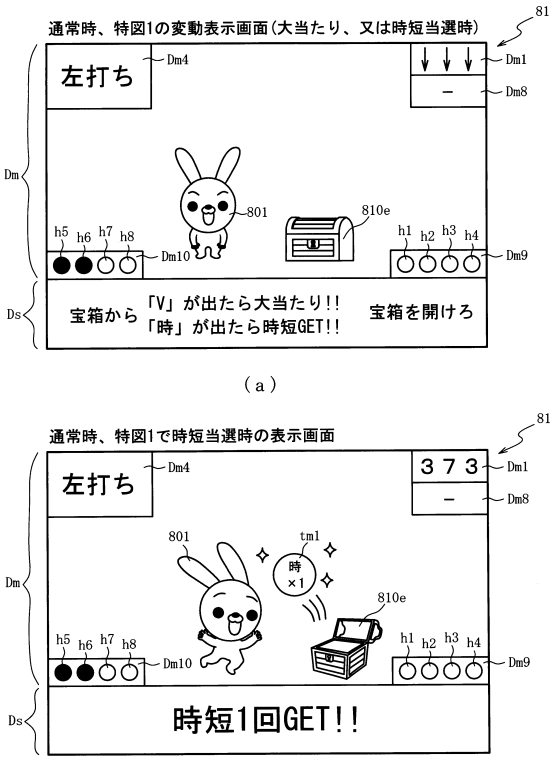
【図２６９】



【図２７０】



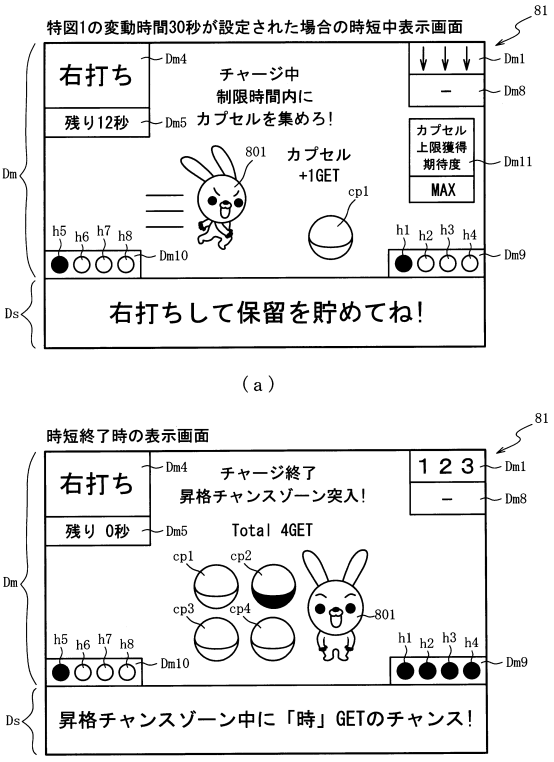
【図２７１】



(a)

(b)

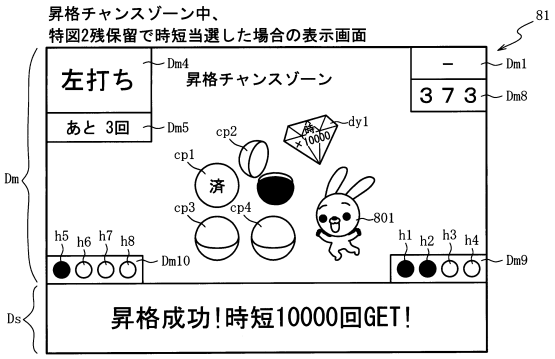
【図２７２】



(a)

(b)

【図２７３】



【図２７４】

202

時短当たり乱数５ａテーブル202dae

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	51～54
	それ以外	－
第２特別図柄	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	51～200
	それ以外	－

（ａ）

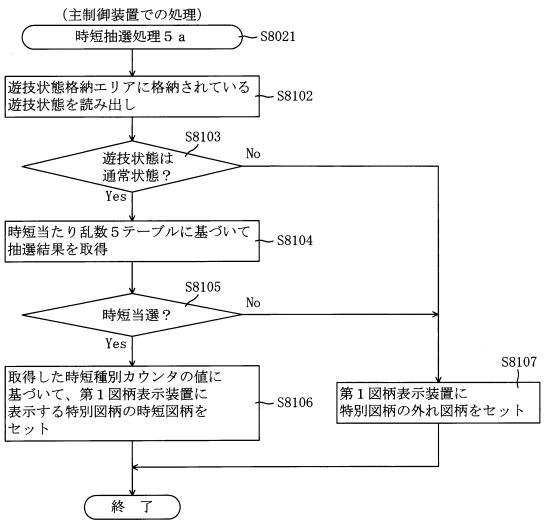
202

時短種別選択５ａテーブル202daf

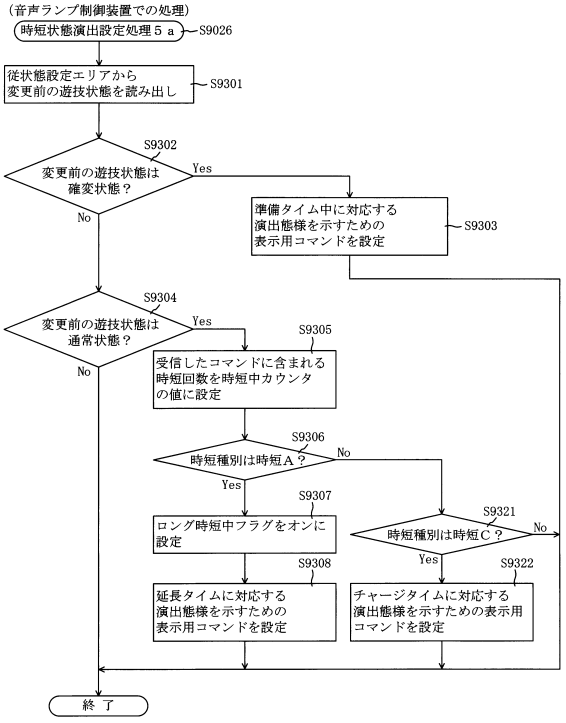
特図種別	時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～99）	時短カウンタ203h
第１特別図柄	時短Ｃ	0～99	1
第２特別図柄	時短Ａ	0～89	10000
	時短Ｂ	90～99	100

（ｂ）

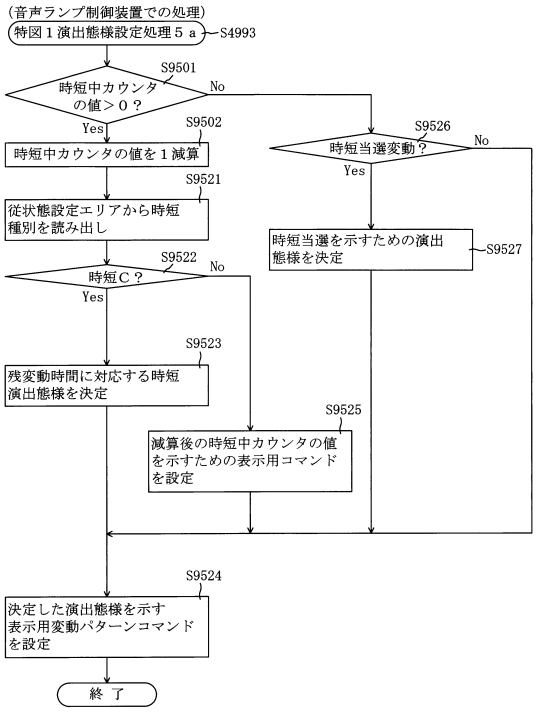
【図２７５】



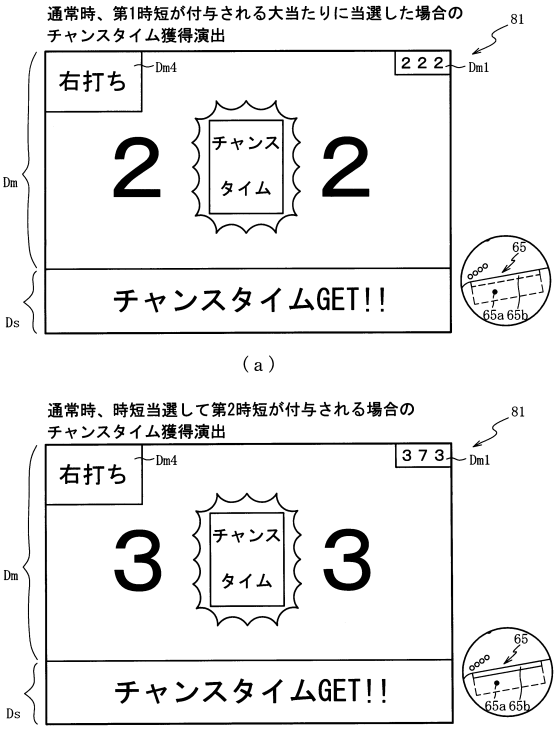
【図２７６】



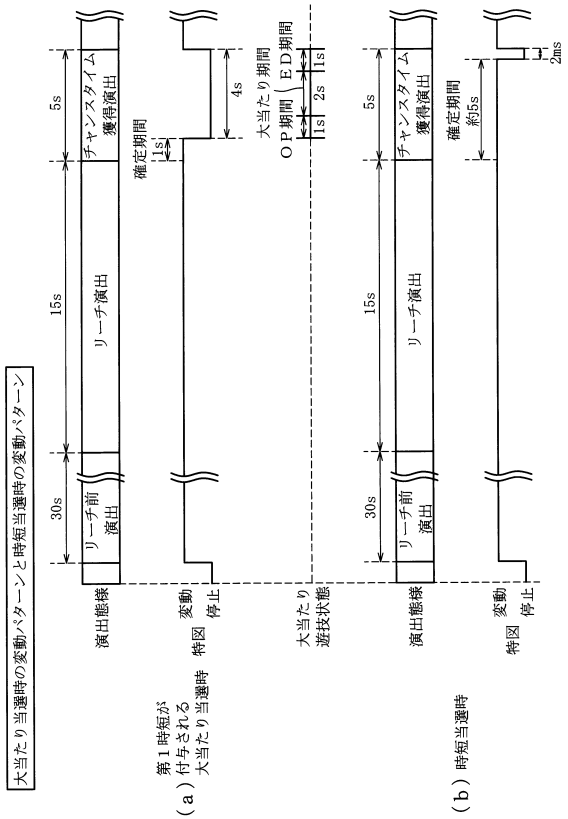
【図２７７】



【図２７８】



【図２７９】



【図２８０】

202

時短当たり乱数５bテーブル202dbe

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１(0～899)
共通	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	51～54
	それ以外	－

（ａ）

202

大当たり用５bテーブル202dbd1

大当たり種別	当選時の遊技状態	第１当たり種別カウンタＣ２(0～99)	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i
大当たりＡ５b(16R確変大当たり)	第１時短	0～49	100	60
	第２時短	0～24	200	60
		25～49	10000	60
	それ以外	0～49	60	60
大当たりＢ５b(2R時短大当たり)	第１時短	50～74	100	0
		75～79	200	0
	第２時短	50～94	200	0
		95～99	10000	0
	それ以外	50～64	50	0
		65～84	200	0
		85～99	10000	0

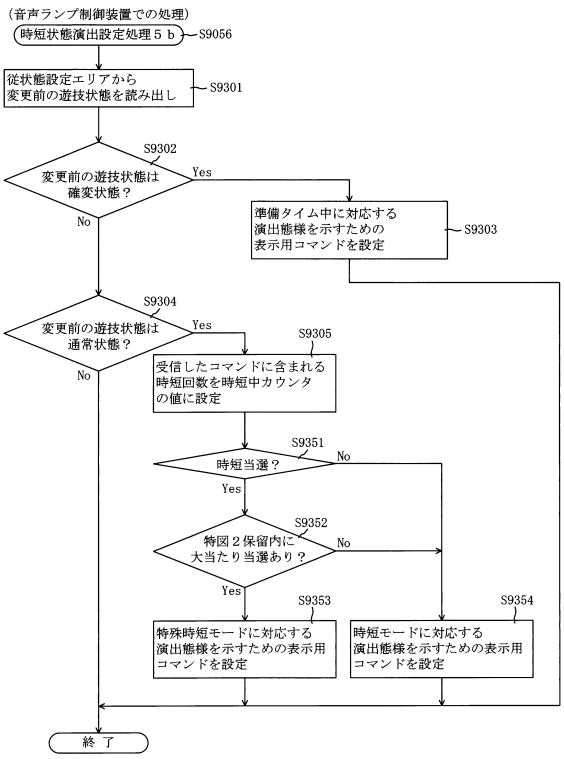
（ｂ）

【図２８１】

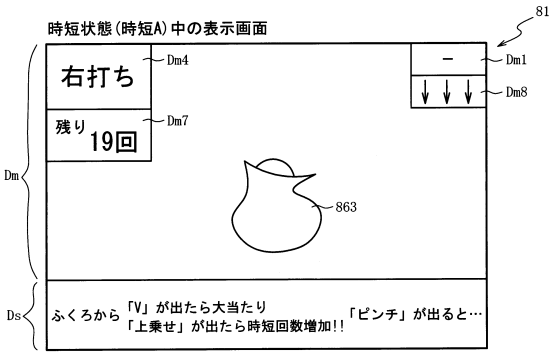
時短種別選択５ｂテーブル202dbf

特図種別	時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～99）	時短カウンタ203h
共通	時短Ａｂ	0～29	50
	時短Ｂｂ	30～59	200
	時短Ｃｂ	60～99	10000

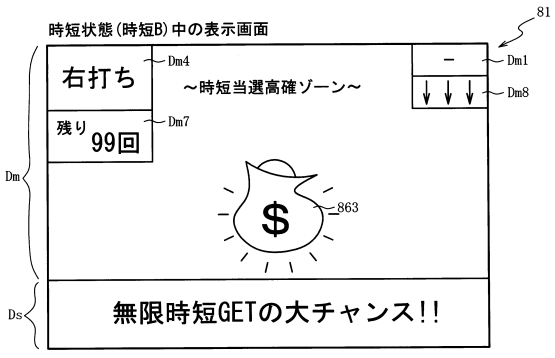
【図２８２】



【図２８３】

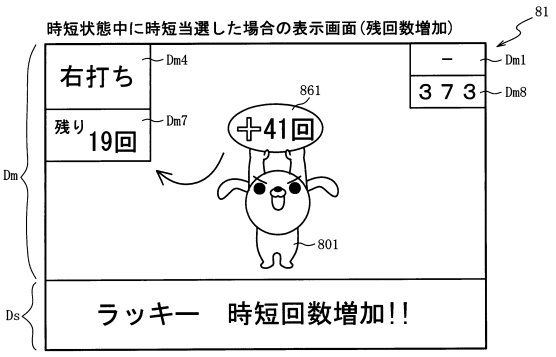


（ａ）

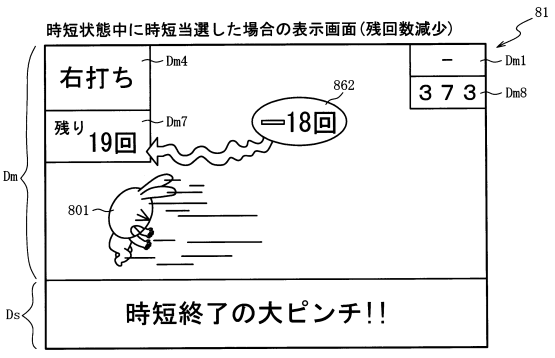


（ｂ）

【図２８４】

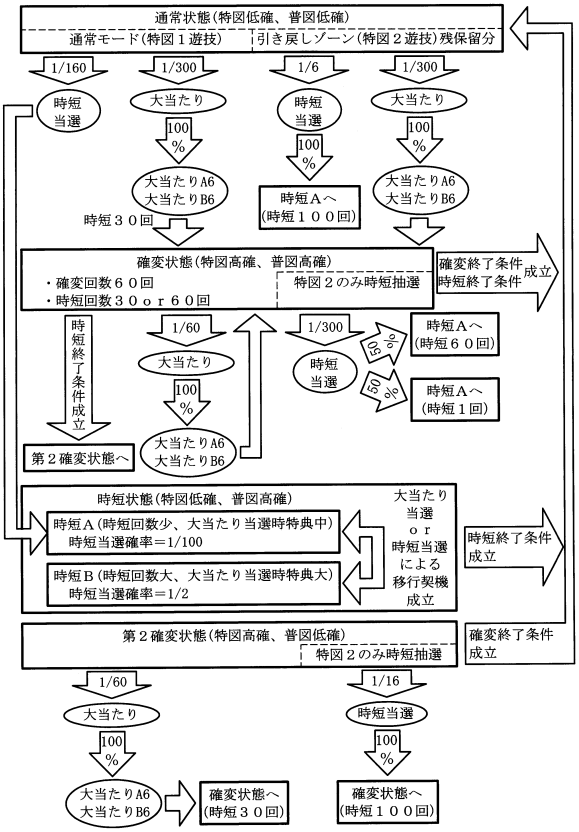


（ａ）



（ｂ）

【図２８５】



【図２８６】

202

時短当たり乱数6テーブル202ee

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１(0～899)
第1特別図柄	通常状態	51～54
	それ以外	－
第２特別図柄	通常状態	51～200
	確変状態	51～53
	時短Ａ状態	51～59
	時短Ｂ状態	51～500
	それ以外	51～100

(ａ)

202

時短種別選択6テーブル202ef

特別図柄種別	当選時の遊技状態	時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１(0～99)	時短カウンタ203h
共通	確変状態	時短Ａ	0～49	60
			50～99	1
	時短Ａ状態	時短Ａ	0～29	30
		時短Ｂ	30～99	100
	時短Ｂ状態	時短Ｂ	0～79	10000
		時短Ａ	80～99	1
	それ以外	時短Ａ	0～99	100

(ｂ)

【図２８７】

202

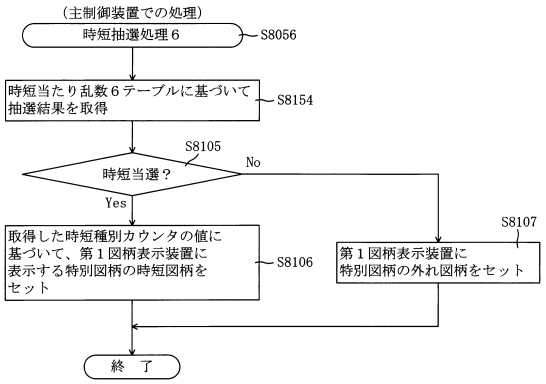
大当たり用６テーブル202ed

当選時の遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２(0～99)	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i
通常状態 第２確変状態	大当たりＡ６ (16R確変大当たり)	0～49	30	60
	大当たりＢ６ (6R確変大当たり)	50～99	30	60
時短Ａ状態	大当たりＡ６ (16R確変大当たり)	0～49	60	60
	大当たりＢ６ (6R確変大当たり)	50～99	30	60
時短Ｂ状態	大当たりＡ６ (16R確変大当たり)	0～49	10000	60
	大当たりＢ６ (6R確変大当たり)	50～99	10000	60
確変状態	大当たりＡ６ (16R確変大当たり)	0～49	60	60
	大当たりＢ６ (6R確変大当たり)	50～99	30	60

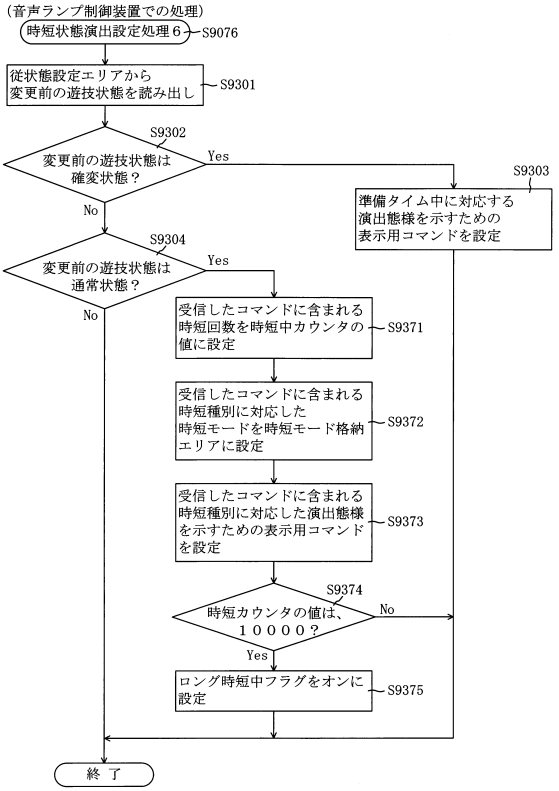
【図２８８】

RAM	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
時短中カウンタ	223da
時短抽選回数カウンタ	223db
モード種別格納エリア	223dc
ロング時短中フラグ	223dd
初回設定フラグ	223de
時短モード格納エリア	223ea
その他メモリエリア	223z

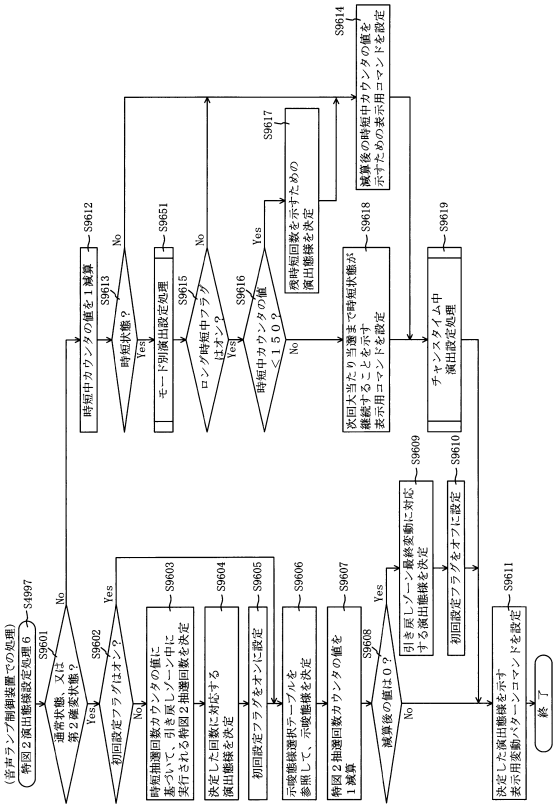
【図２８９】



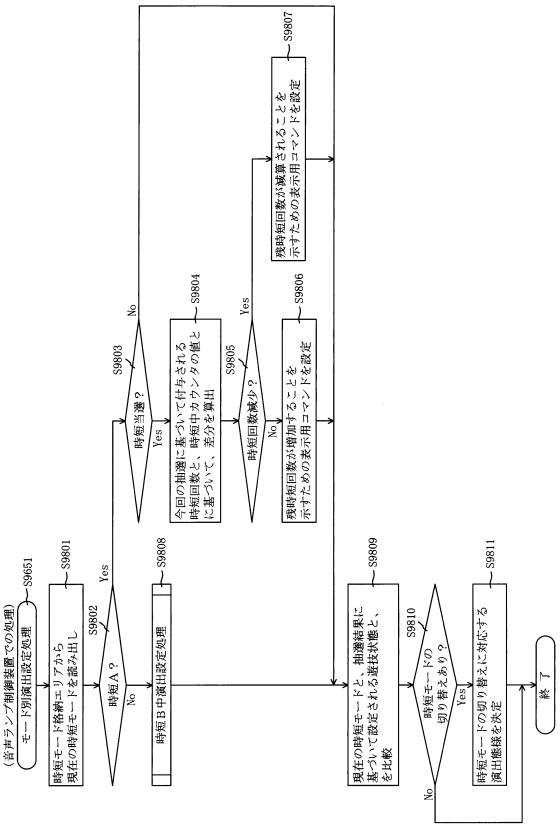
【図２９０】



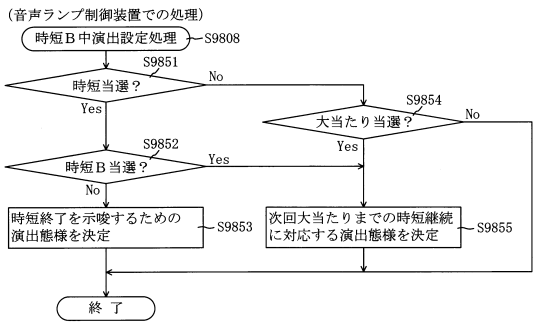
【図２９１】



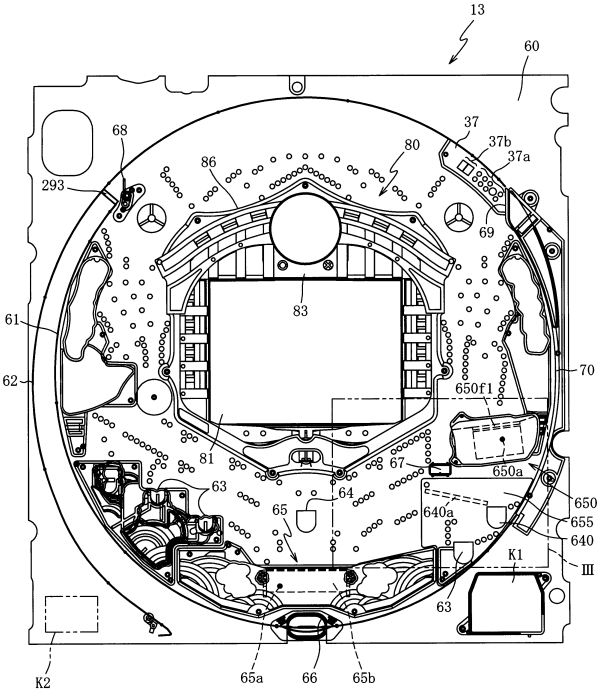
【図２９２】



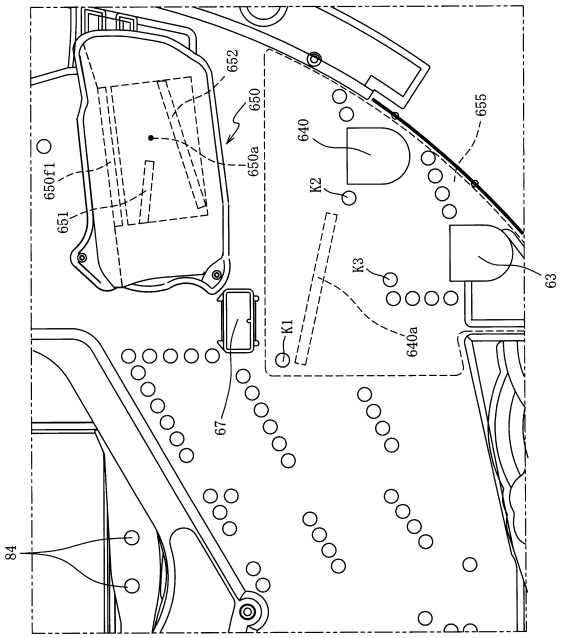
【図２９３】



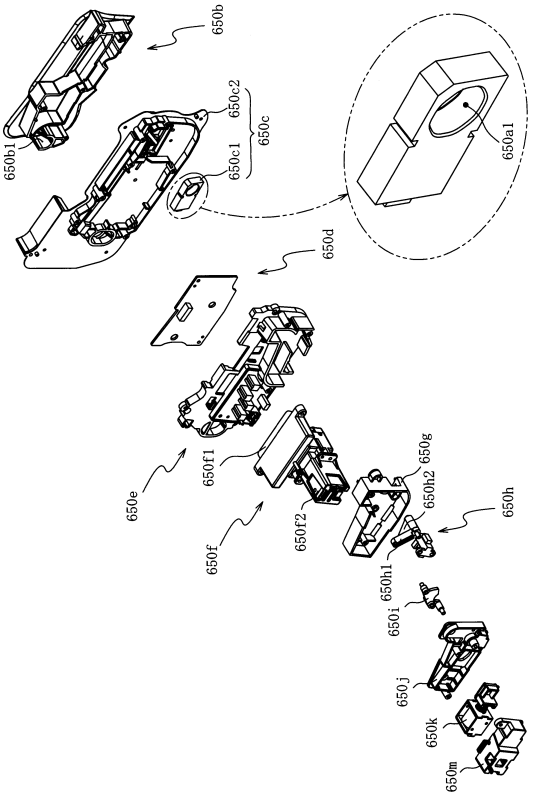
【図２９４】



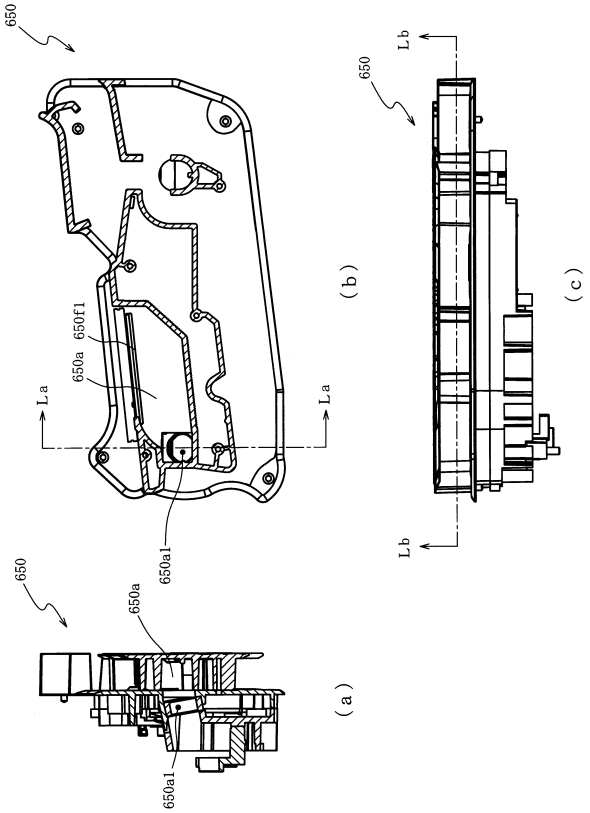
【図２９５】



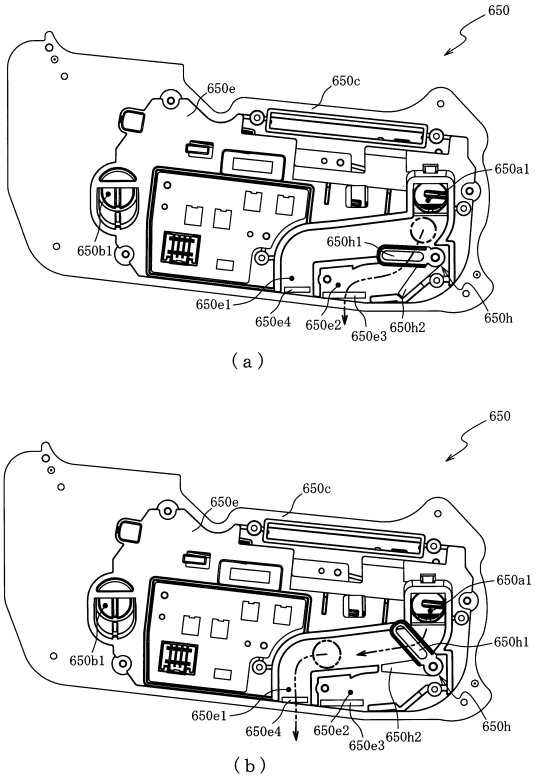
【図２９６】



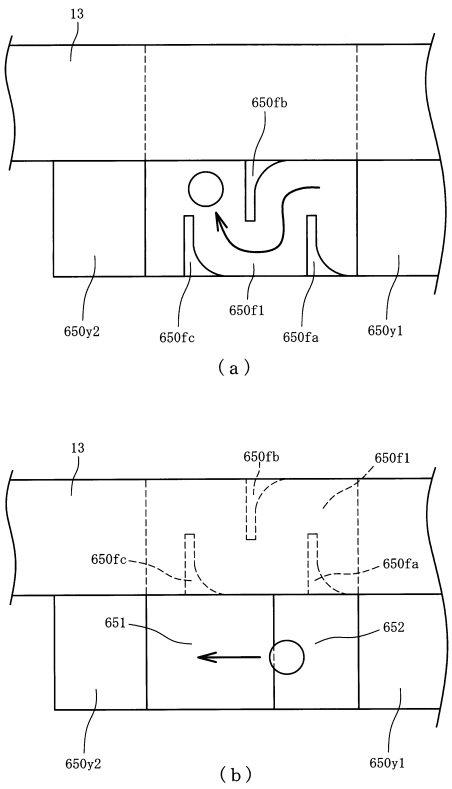
【図２９７】



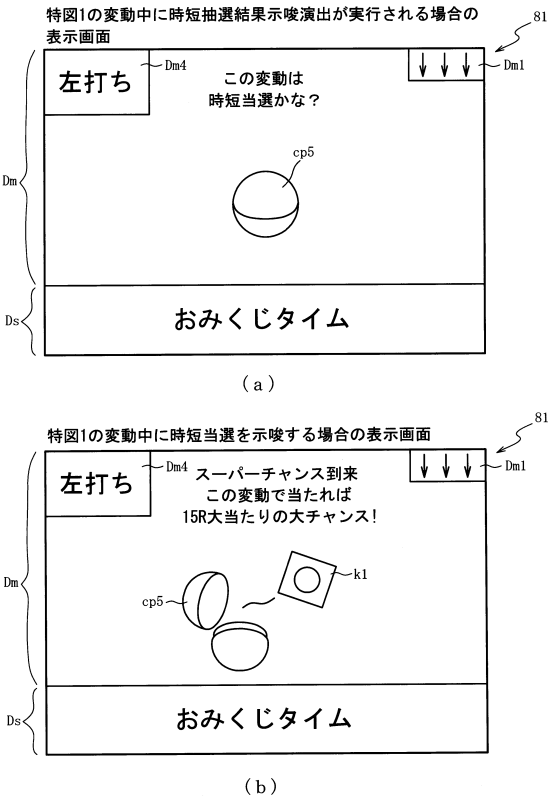
【図２９８】



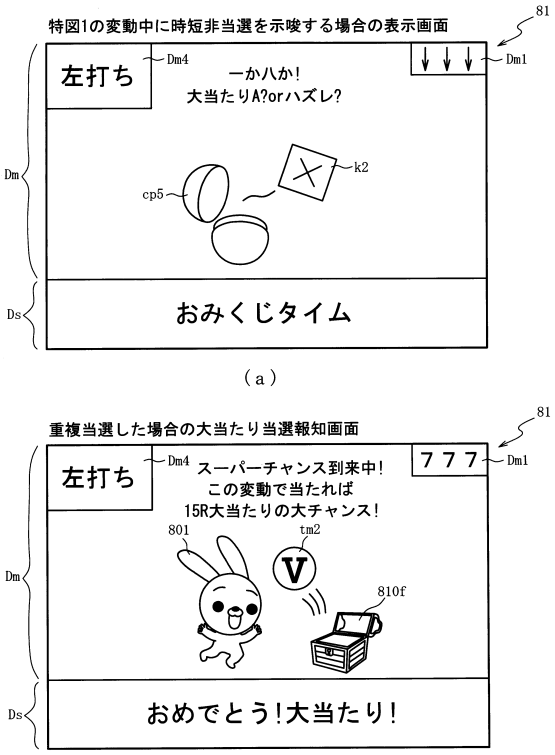
【図２９９】



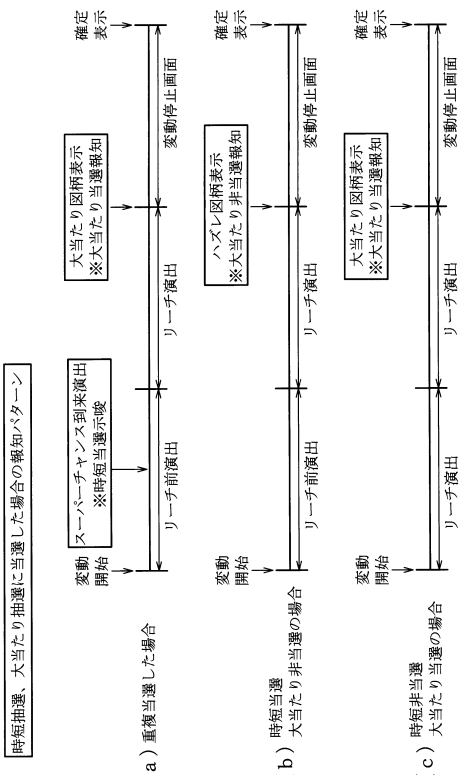
【図３００】



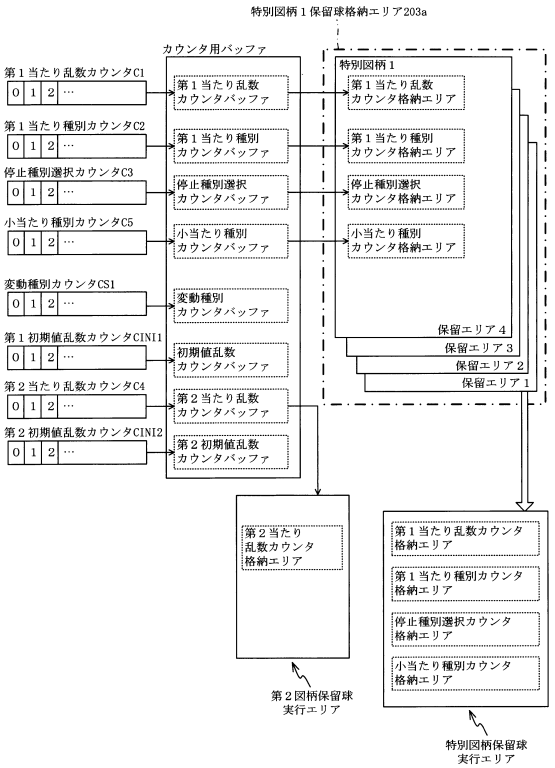
【図３０１】



【図３０２】



【図３０３】



【図３０４】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数７テーブル	202fa
大当たり種別選択７テーブル	202fb
第２当たり乱数７テーブル	202fc
変動パターン選択７テーブル	202fd
時短付与７テーブル	202fe
小当たり種別選択７テーブル	202ff
開放シナリオ７テーブル	202fg
時短当たり乱数７テーブル	202fh
時短種別選択７テーブル	202fi

（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
小当たりＡカウンタ	203fg
小当たりＢカウンタ	203fh
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図３０５】

（ａ）

第１当たり乱数７テーブル	202fa
特別図柄１乱数７テーブル	202fa1
特別図柄２乱数７テーブル	202fa2

（ｂ）

202

特別図柄１乱数７テーブル202fa1

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１(0～999)
大当たり判定値	0～4

（ｃ）

202

特別図柄２乱数７テーブル202fa2

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１(0～999)
大当たり判定値	0～4
小当たり判定値	5～144

【図３０６】

（ａ）

大当たり種別選択７テーブル	202fb
特図１大当たり種別選択７テーブル	202fb1
特図２大当たり種別選択７テーブル	202fb2

（ｂ）

202

特図１大当たり種別選択７テーブル202fb1

遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２(0～99)
通常状態	大当たりＡ（15Ｒ時短有大当たり）	0～9
	大当たりＢ（5Ｒ時短有大当たり）	10～49
	大当たりＣ（5Ｒ時短無大当たり）	50～99
時短状態	大当たりＤ（15Ｒ時短有大当たり）	0～9
	大当たりＡ（15Ｒ時短有大当たり）	10～49
	大当たりＢ（5Ｒ時短有大当たり）	50～99

（ｃ）

202

特図２大当たり種別選択７テーブル202fb2

遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２(0～99)
共通	大当たりＤ（15Ｒ時短有大当たり）	0～99

（ｄ）

202

時短付与７テーブル202fe

大当たり種別	時短付与内容（回数） 時短カウンタ 203h	小当たりＡカウンタ 203fg	小当たりＢカウンタ 203fh
大当たりＡ（15Ｒ）	100	1	3
大当たりＢ（5Ｒ）	100	1	3
大当たりＣ（5Ｒ）	—	—	—
大当たりＤ（15Ｒ）	100	2	10

【図３０７】

202

小当たり種別選択７テーブル202ff

小当たり種別	小当たり種別カウンタ値Ｃ５(0～99)
小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）	0～89
小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）	90～99

【図３０８】

（ａ）

変動パターン選択７テーブル	202fd
通常用変動パターン７テーブル	202fd1
時短用変動パターン７テーブル	202fd2

（ｂ）

202

通常用変動パターン７テーブル202fd1

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特１	外れ	短外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ(80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ(80秒)	30～189
		スペシャルリーチ(140秒)	190～198
特２	外れ	ロング外れ(180秒)	0～198
	大当たり小当たり	ロング当たり(180秒)	0～198

【図３０９】

202

時短用変動パターン７テーブル202fd2

図柄種別	変動回数	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
特１	1～4	外れ	短外れ（2秒）	0～198
		大当たり	短大当たり（2秒）	0～198
	5～	外れ	外れ(20秒)	0～198
		大当たり	当たり(20秒)	0～198
特２	1～	外れ	中外れ（30秒）	0～198
		小当たり	短小当たり（10秒）	0～160
			中小当たり（30秒）	161～198
		大当たり	中大当たり（30秒）	0～198

【図３１０】

（ａ）

202

時短当たり乱数７テーブル202fh

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
共通	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	3, 4, 140～287
	それ以外	－

（ｂ）

202

時短種別選択７テーブル202fi

時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～99）	時短カウンタ203h
時短Ａ	0～99	1

【図３１１】

ROM 222
- 変動パターン選択テーブル 222a
- 抽選結果報知態様選択テーブル 222fa

（ａ）

RAM 223
- 入賞情報格納エリア 223a
- 特別図柄１保留球数カウンタ 223b
- 変動開始フラグ 223c
- 停止種別選択フラグ 223d
- 演出カウンタ 223e
- 遊技状態格納エリア 223f
- 時短情報更新エリア 223g
- 仮当たり判定フラグ 223h
- 仮時短情報更新エリア 223i
- 仮時短終了フラグ 223j
- 時短下限フラグ 223k
- 準終了条件フラグ 223m
- 時短終了前変動フラグ 223n
- 状態演出カウンタ 223o
- その他メモリエリア 223z

（ｂ）

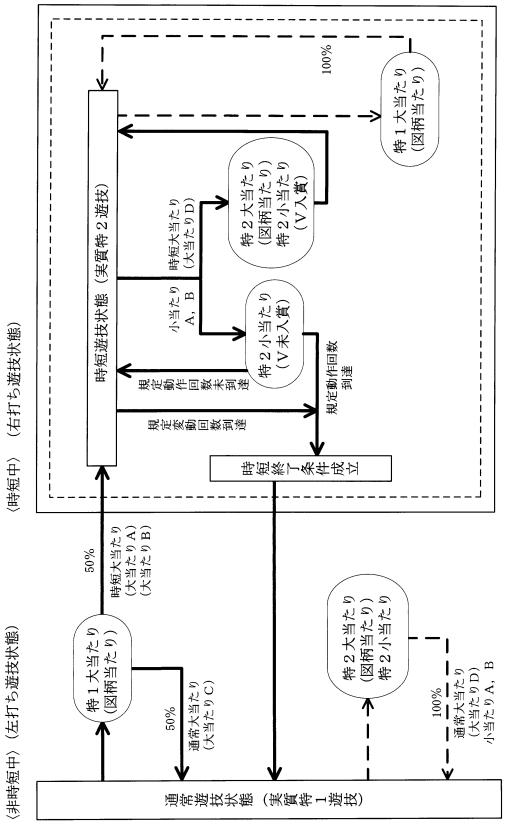
【図３１２】

222

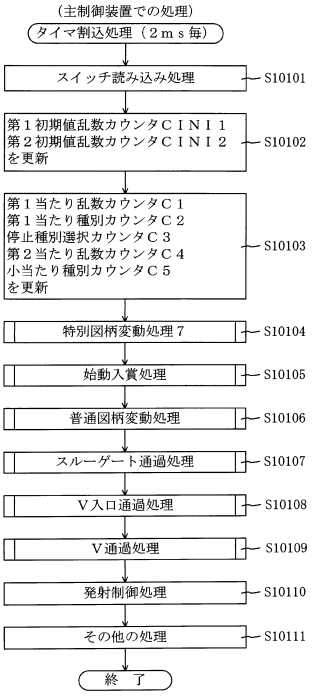
抽選結果報知態様選択テーブル222fa

遊技状態	抽選結果	演出カウンタ223f（0～99）	報知態様
通常状態	大当たりＡ	0～64	時短当選示唆＋大当たり当選報知
		65～79	時短非当選示唆＋大当たり非当選報知
		80～99	大当たり当選報知
	大当たりＢ，Ｃ	0～4	時短当選示唆＋大当たり当選報知
		5～99	大当たり当選報知
	外れ	0～98	大当たり非当選報知
		99	時短非当選示唆＋大当たり非当選報知
時短状態	大当たりＡ，Ｄ	0～89	時短当選示唆＋大当たり当選報知
		90～99	大当たり当選報知
	大当たりＢ，Ｃ	0～79	時短当選示唆＋大当たり当選報知
		80～99	大当たり当選報知
	外れ	0～9	時短当選示唆＋大当たり非当選報知
		10～99	大当たり非当選報知

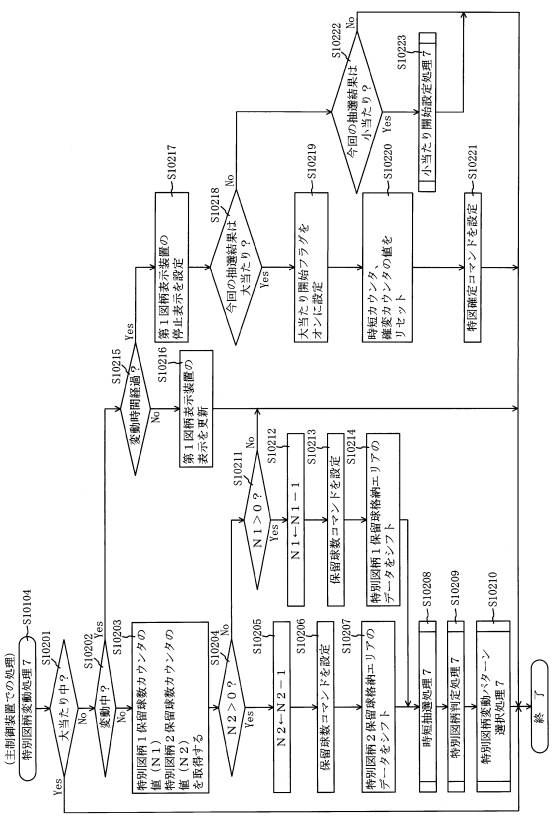
【図３１３】



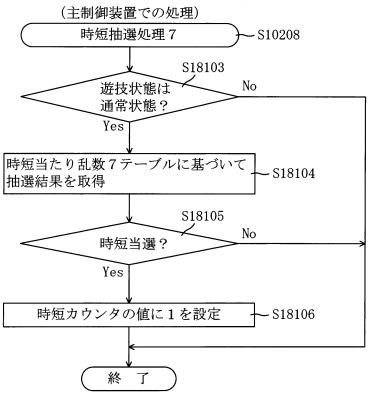
【図３１４】



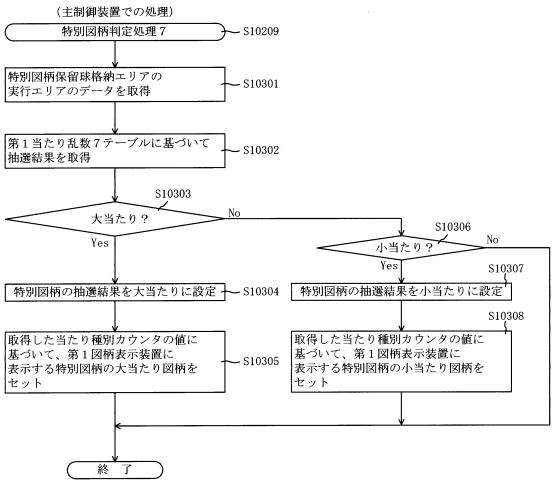
【図３１５】



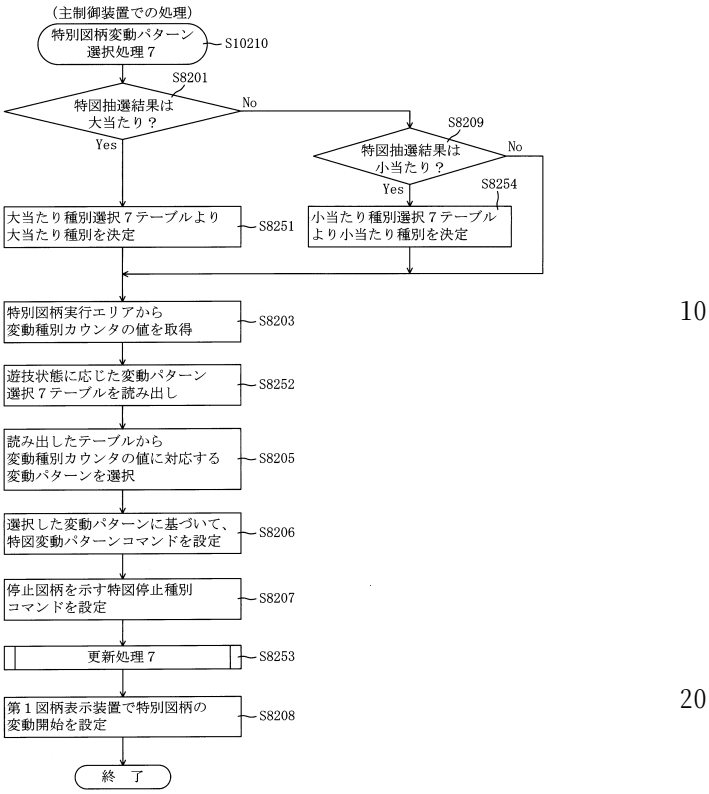
【図３１６】



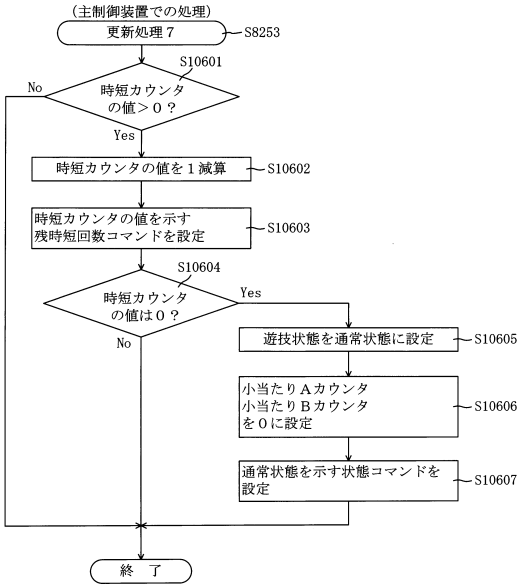
【図３１７】



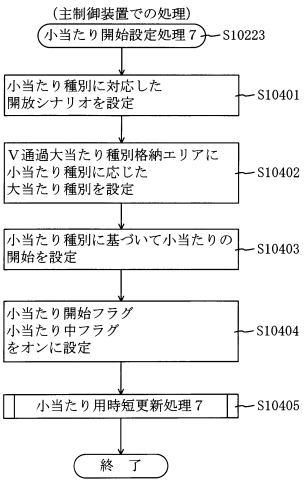
【図３１８】



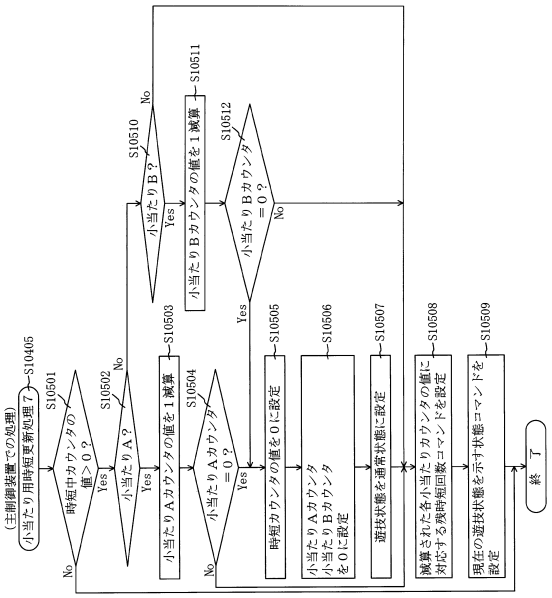
【図３１９】



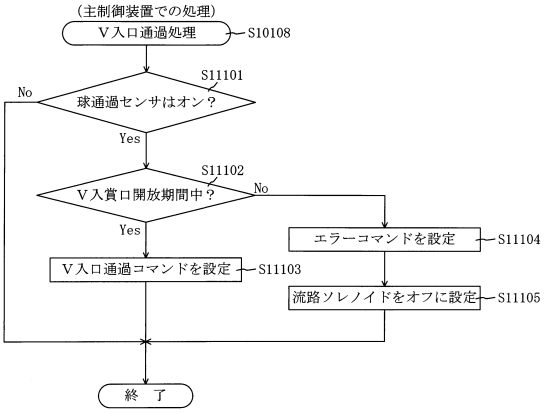
【図３２０】



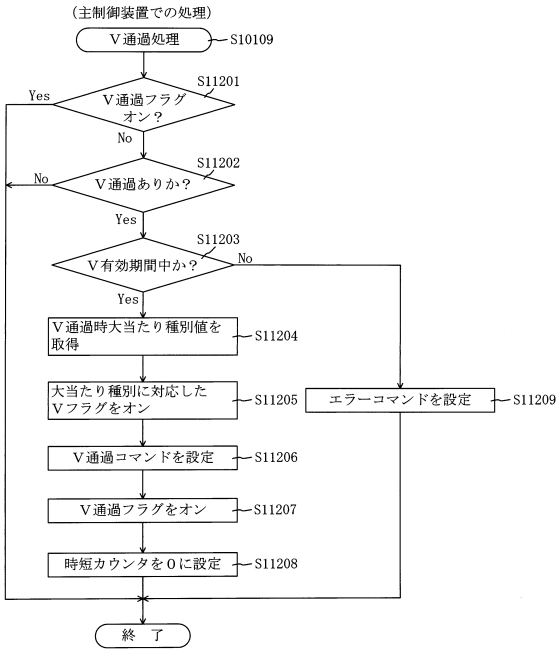
【図３２１】



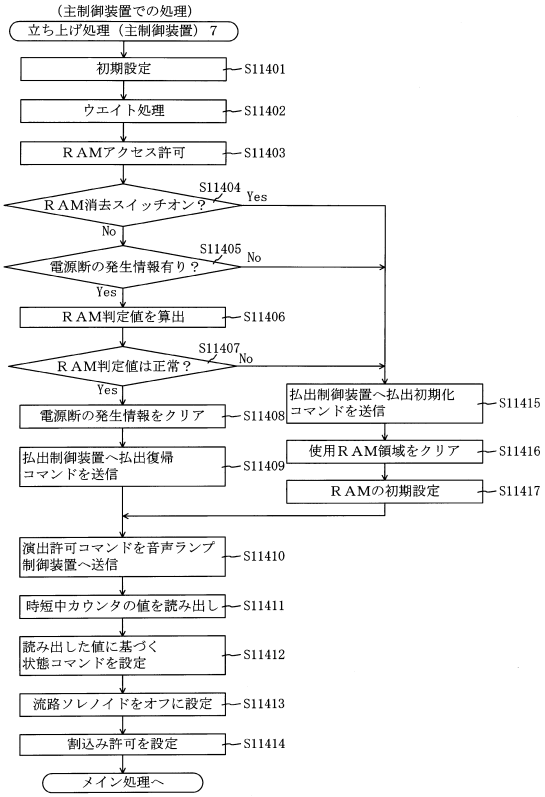
【図３２２】



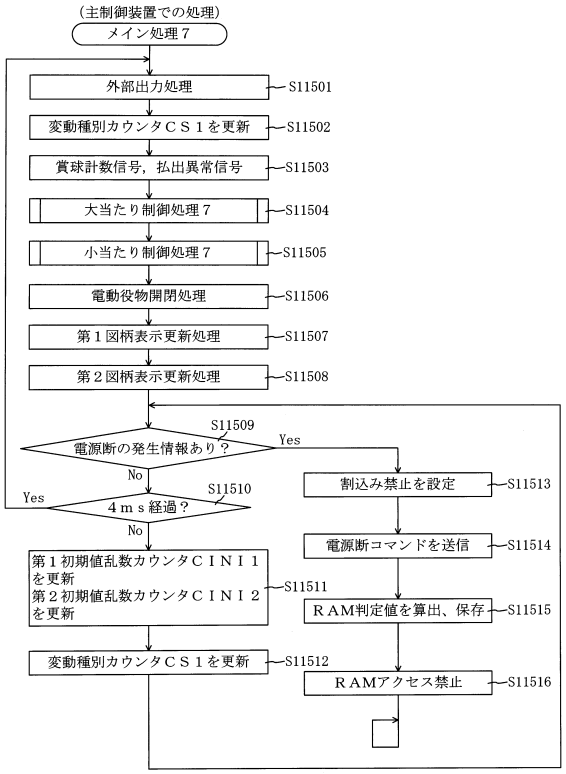
【図３２３】



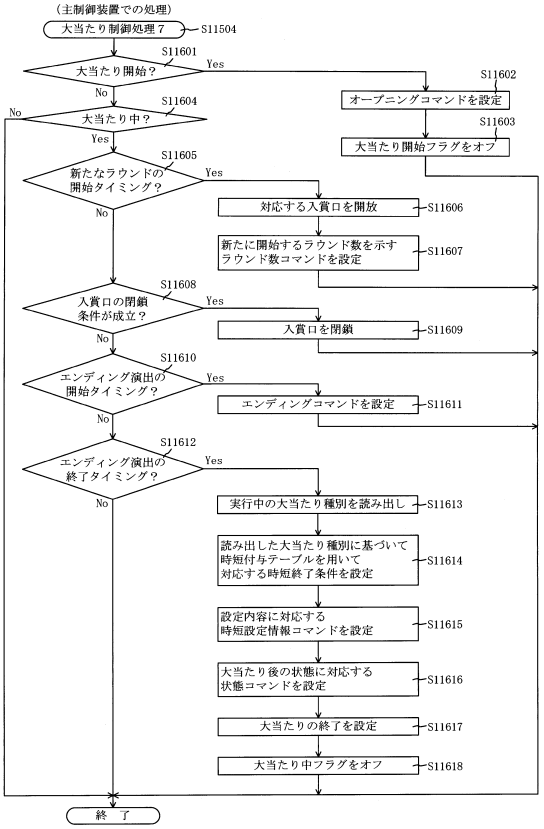
【図３２４】



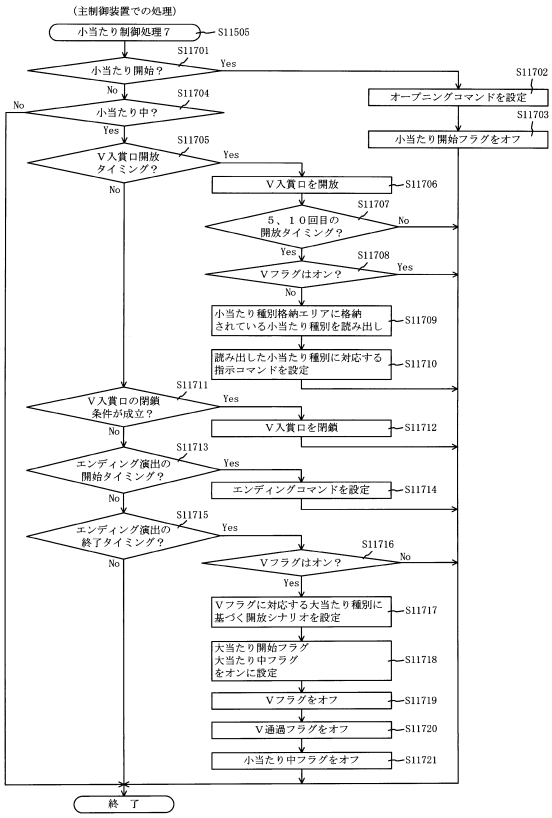
【図３２５】



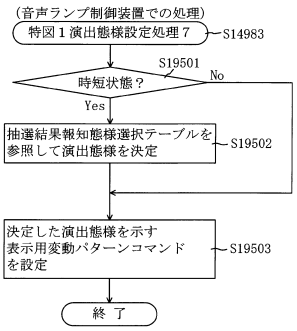
【図３２６】



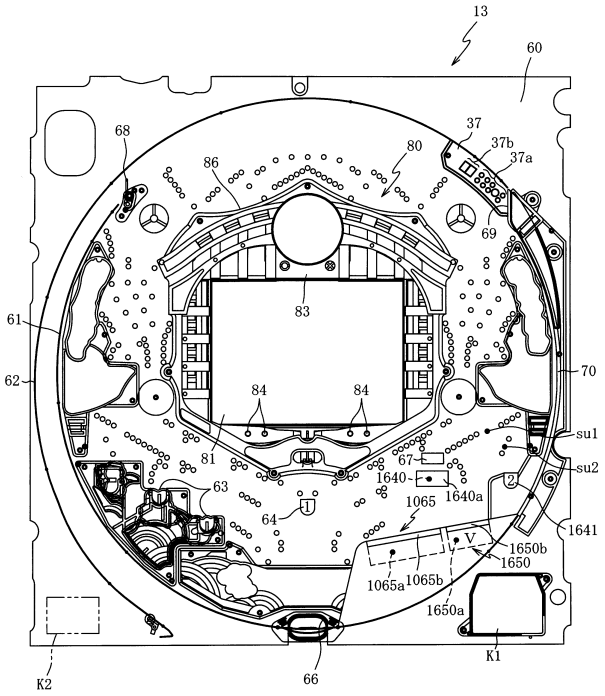
【図３２７】



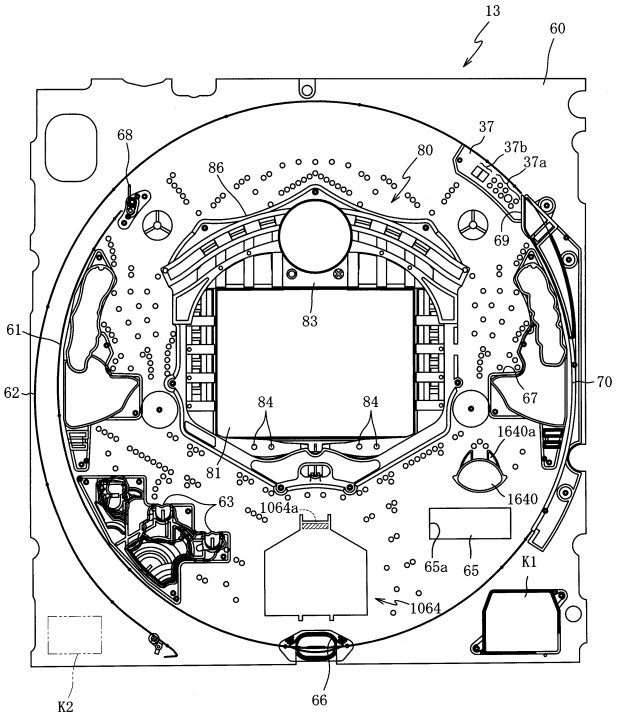
【図３２８】



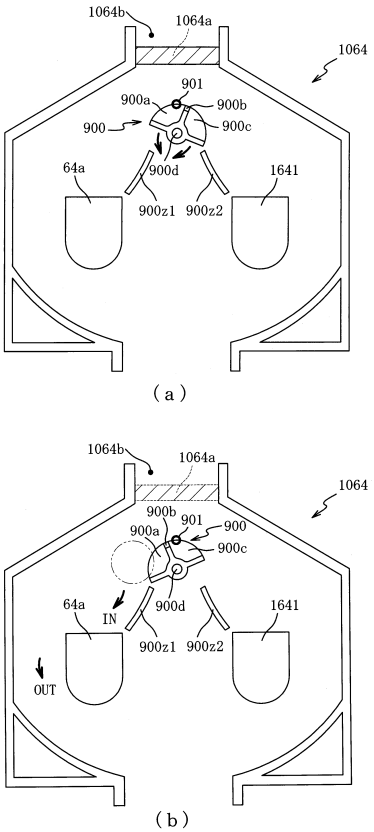
【図３２９】



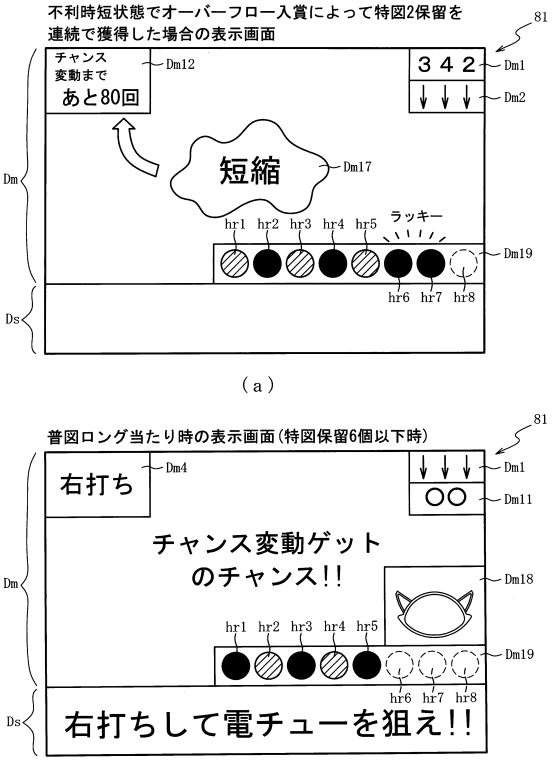
【図３３０】



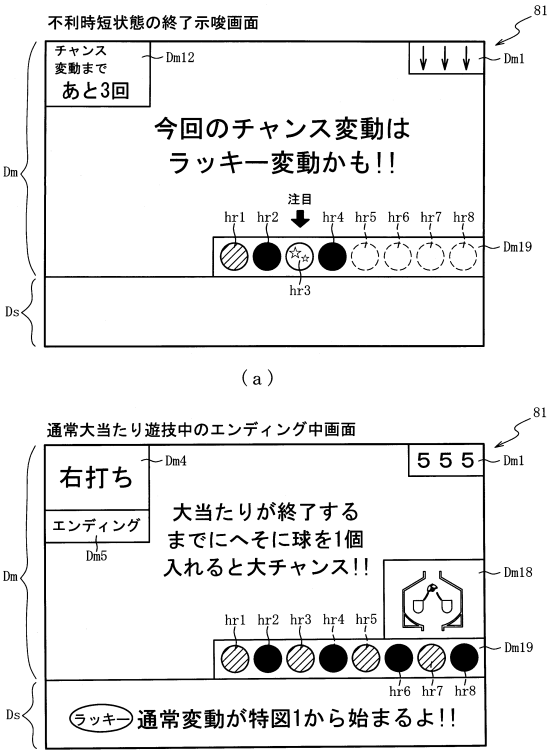
【図３３１】



【図３３２】



【図３３３】



【図３３４】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数５テーブル	202da
変動パターン選択８テーブル	202gb
第２当たり乱数テーブル	202c
大当たり種別選択８テーブル	202gd
時短当たり乱数８テーブル	202ge
時短種別選択８テーブル	202gf

（ａ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
変動実行フラグ	203ga
変動順格納エリア	203gb
時短短縮フラグ	203gc
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図３３５】

202

大当たり種別選択８テーブル202gd

遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i
通常	大当たりＡ８（16Ｒ確変大当たり）	0～94	60	60
	大当たりＢ８（6Ｒ確変大当たり）	95～99	60	60
それ以外	大当たりＡ８（16Ｒ確変大当たり）	0～49	60	60
	大当たりＢ８（6Ｒ確変大当たり）	50～99	60	60

（ａ）

202

時短当たり乱数8テーブル202ge

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	3～899
	それ以外	－
第２特別図柄	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	3～899
	それ以外	－

（ｂ）

【図３３６】

202

確変・時短用８テーブル202gb2

時短種別	特図１保留数	特図２保留数	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間(S)
大当たり後時短	0～4	0～4	0～198	各種変動	5～90
時短Ａ８	0～2	0～2	0～198	各種変動	5～90
		3，4	0～198	各種短変動	5～60
	3	0～2	0～198	各種短変動	5～60
		3，4	0～198	短変動	5
	4	0～2	0～198	各種短変動	5～60
		3	0～198	短変動	5
時短Ｂ８	0～4	0～4	0～198	各種短変動	5～60

（ａ）

202

時短種別選択８テーブル202gf

図柄種別	時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～99）	時短終了条件
特図１	時短Ａ８ａ	0～95	１．１回転目が特図１変動 ２．特図変動合計１００回
	時短Ｂ８	96～99	１．特図変動合計１００回
特図２	時短Ａ８ｂ	0～98	１．１回転目が特図２変動 ２．特図変動合計１００回
	時短Ｂ８	99	１．特図変動合計１００回

（ｂ）

【図３３７】

ROM	222
変動パターン選択テーブル	222a
引き戻しモード選択テーブル	222da
示唆態様選択テーブル	222db
先読み保留態様選択テーブル	222ga

（ａ）

RAM	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
時短中カウンタ	223da
時短抽選回数カウンタ	223db
モード種別格納エリア	223dc
初回設定フラグ	223de
振り分け状態格納エリア	223ga
保留態様格納エリア	223gb
不利時短中フラグ	223gc
その他メモリエリア	223z

（ｂ）

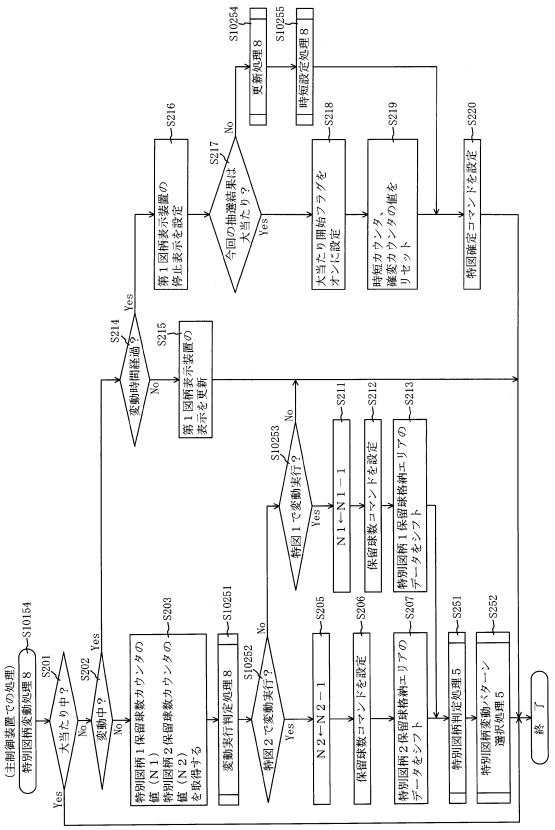
【図３３８】

222

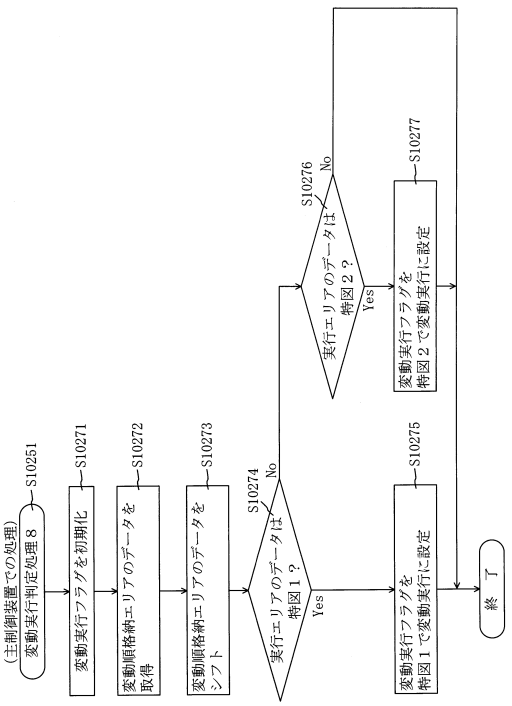
先読み保留態様選択テーブル222ga

特図種別	先読み結果	演出カウンタ223（0～99）	表示態様
特図１	大当たり	0～79	２つ星
		80～99	３つ星
	時短Ｂ８	0～49	２つ星
		50～99	１つ星
	時短Ａ８ａ外れ	0～99	１つ星
特図２	大当たり	0～99	２つ星
	時短Ｂ８	0～29	２つ星
		30～99	１つ星
	時短Ａ８ｂ外れ	0～99	１つ星

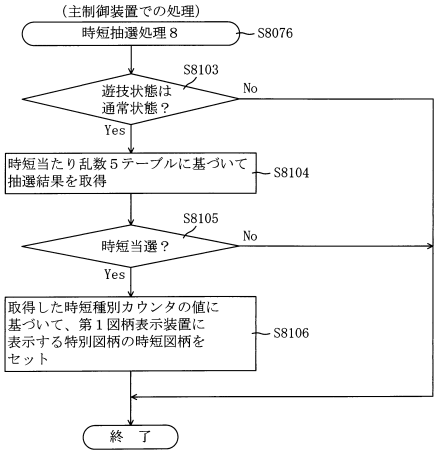
【図３３９】



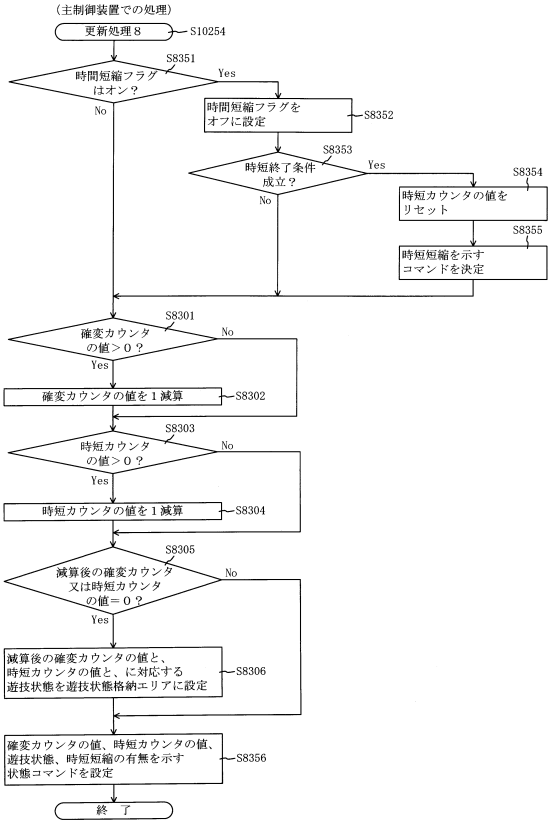
【図３４０】



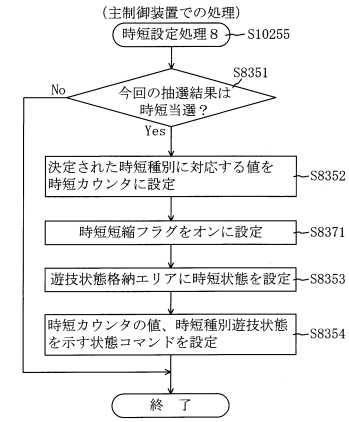
【図３４１】



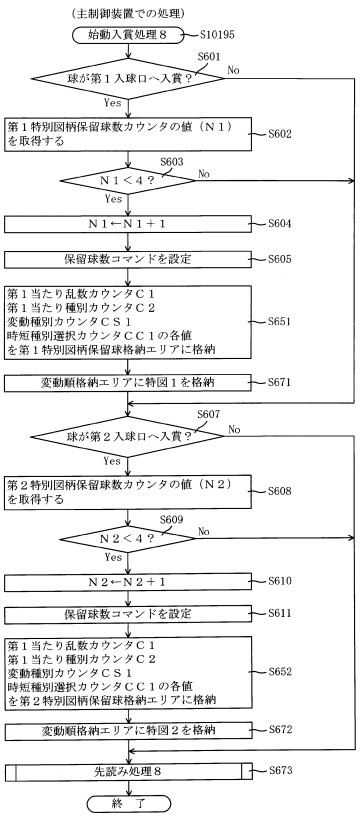
【図３４２】



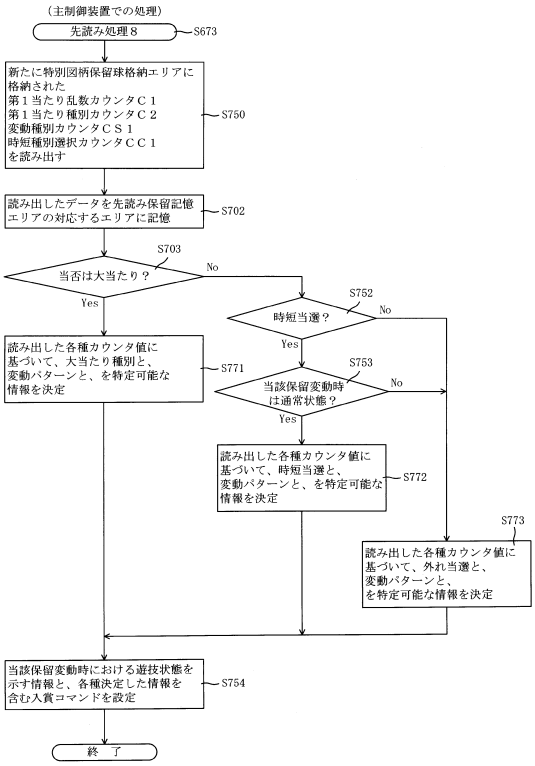
【図３４３】



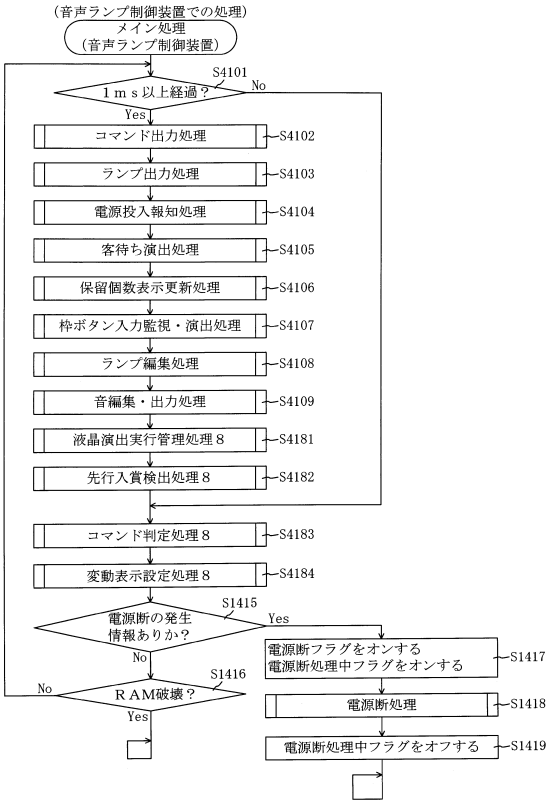
【図３４４】



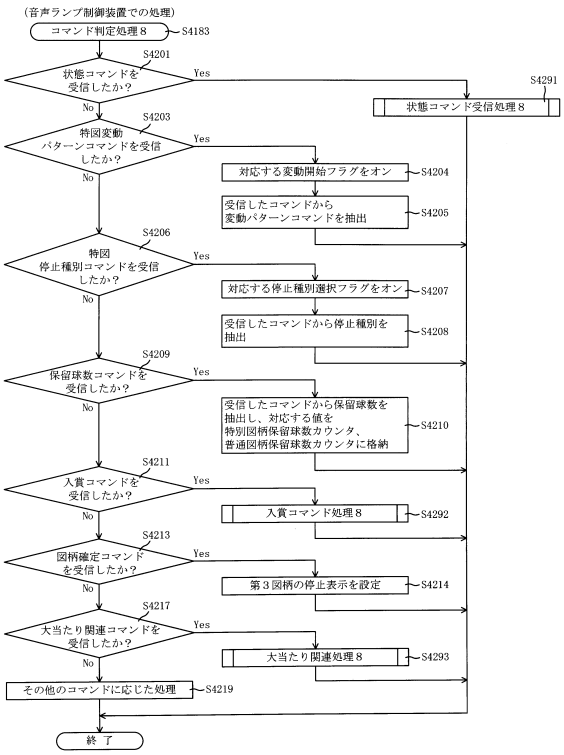
【図３４５】



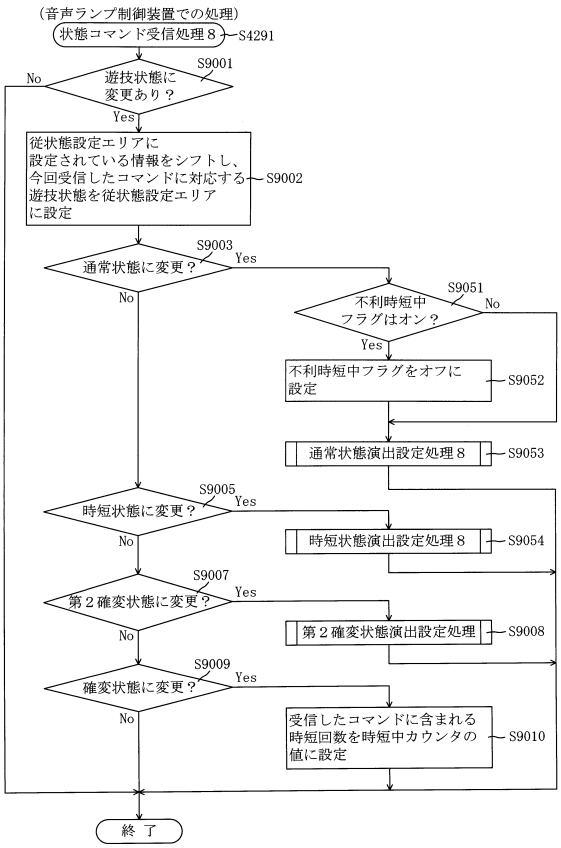
【図３４６】



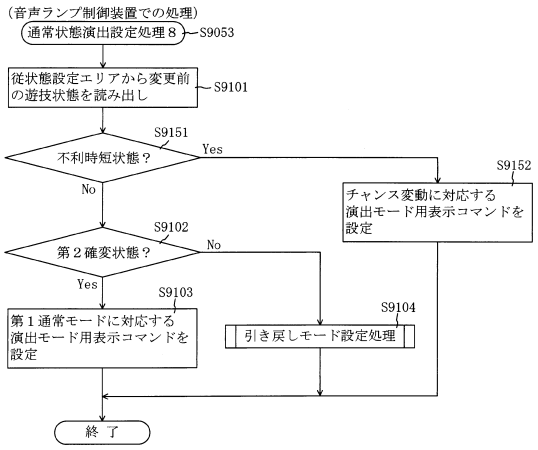
【図３４７】



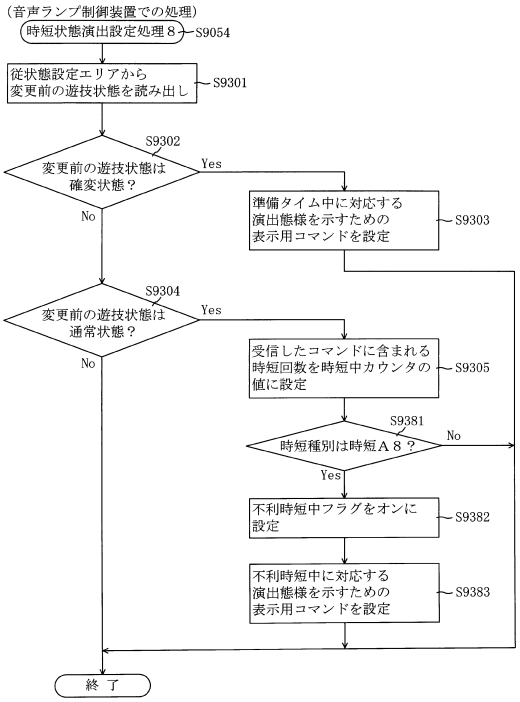
【図３４８】



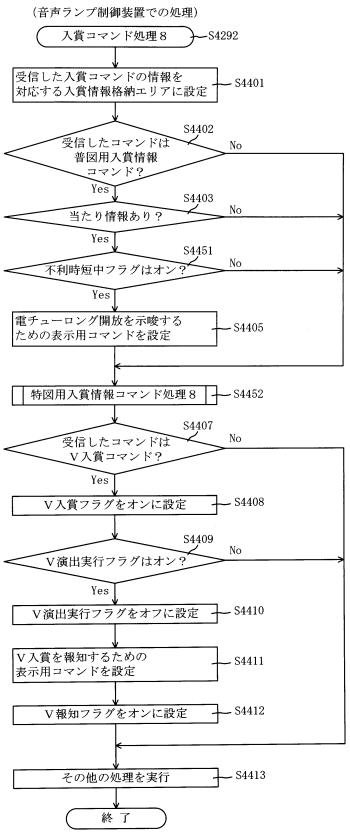
【図３４９】



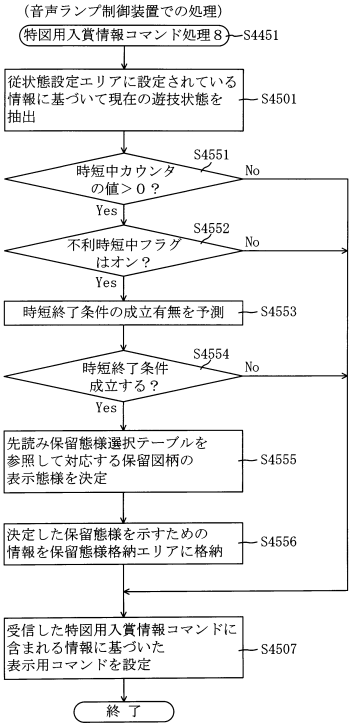
【図３５０】



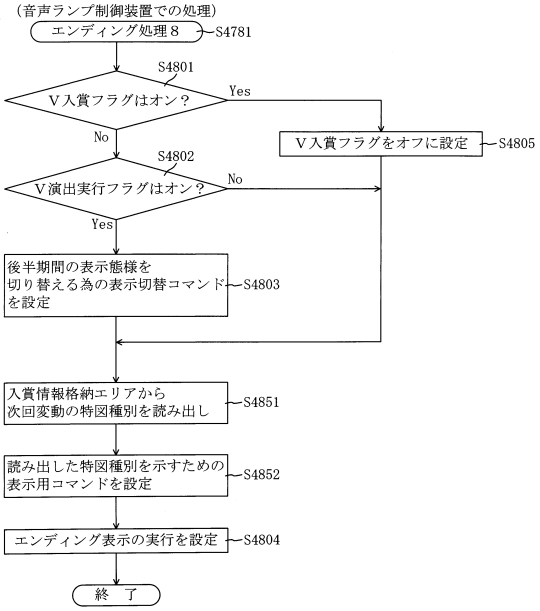
【図３５１】



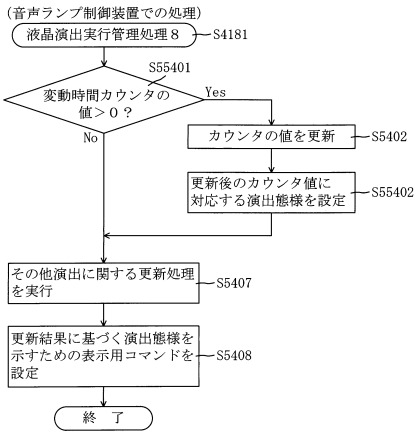
【図３５２】



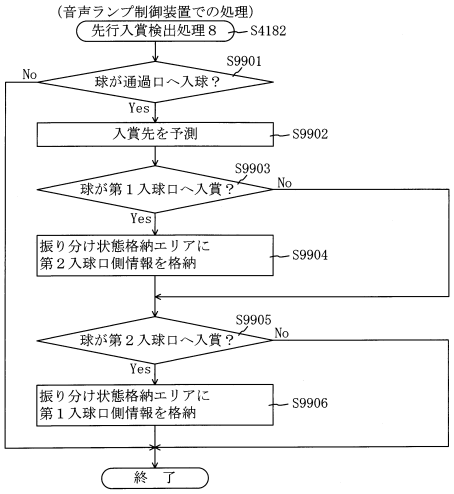
【図３５３】



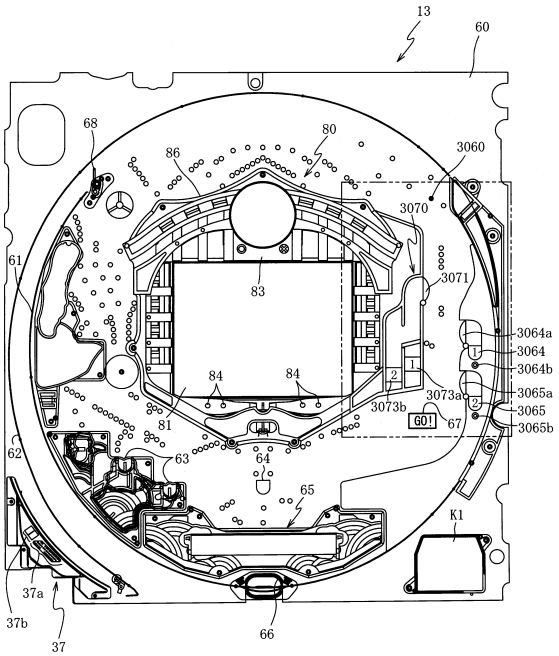
【図３５４】



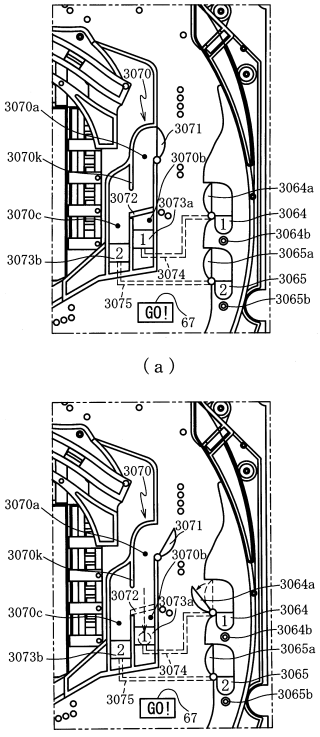
【図３５５】



【図３５６】



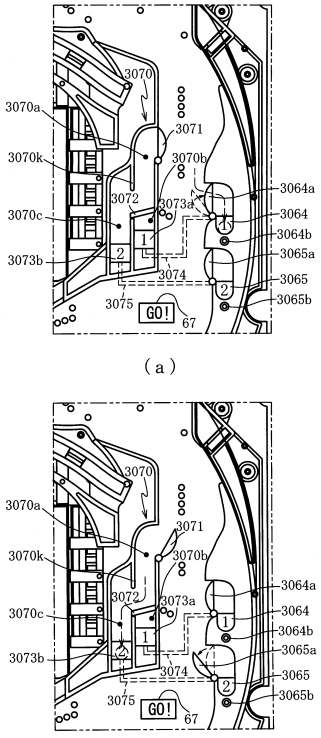
【図３５７】



（ａ）

（ｂ）

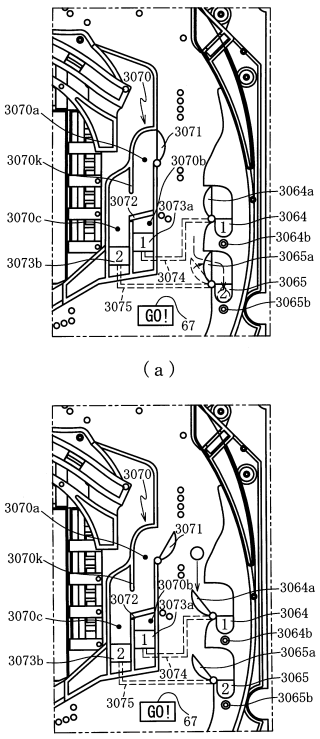
【図３５８】



（ａ）

（ｂ）

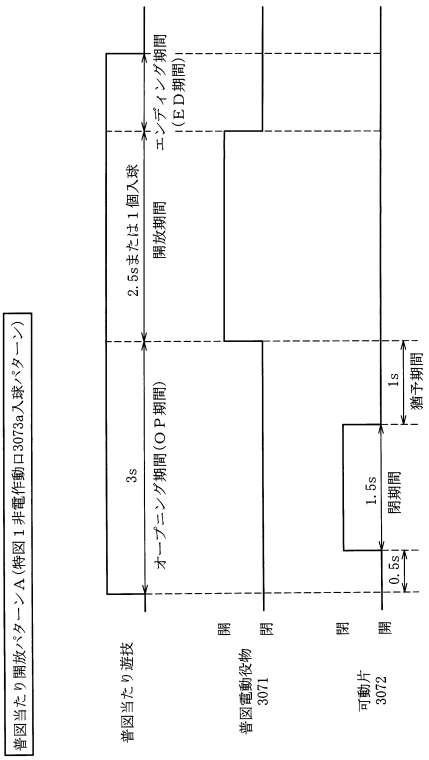
【図３５９】



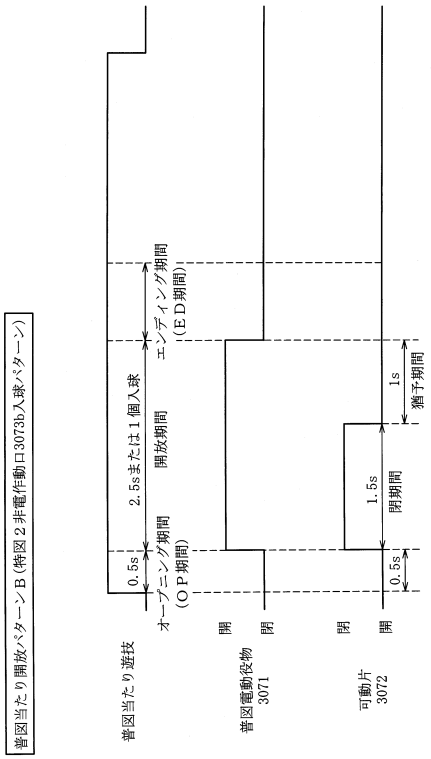
（ａ）

（ｂ）

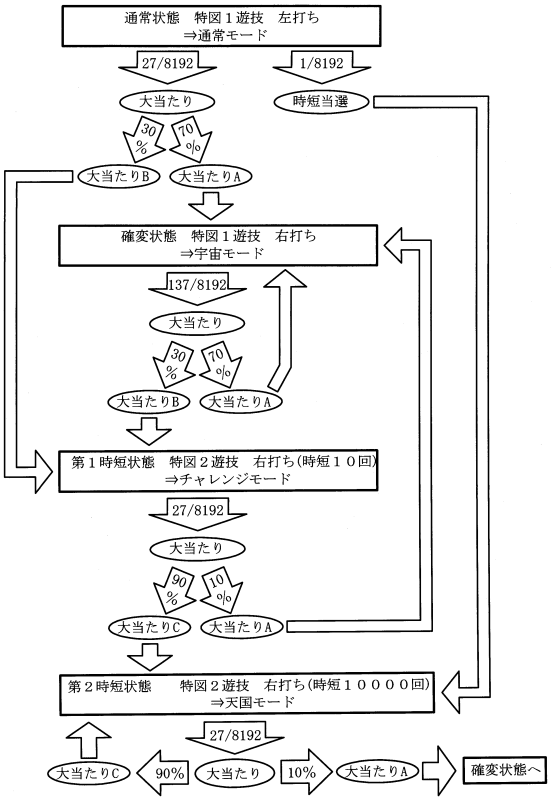
【図３６０】



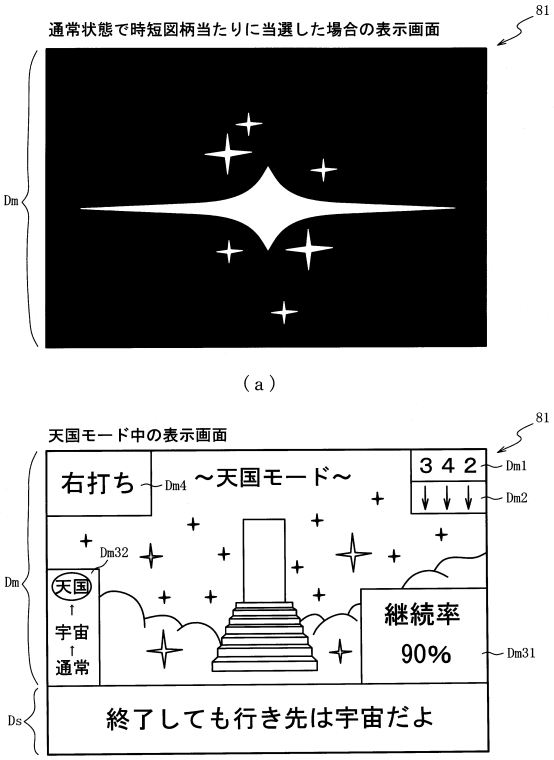
【図３６１】



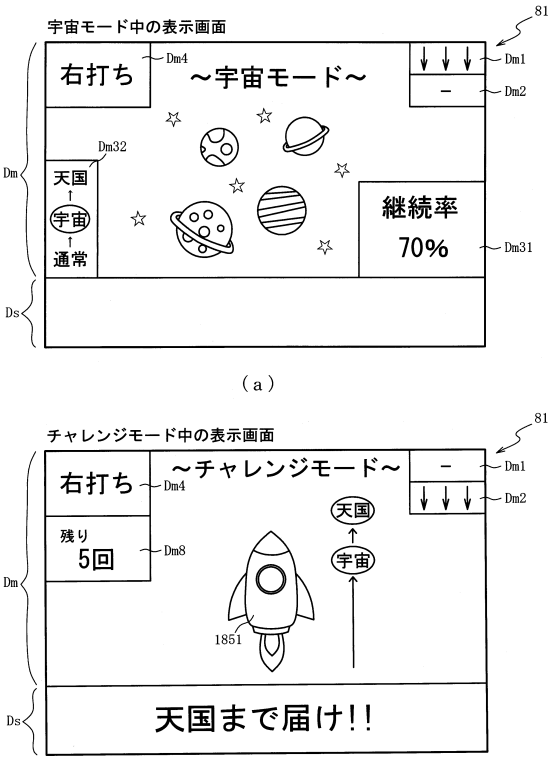
【図３６２】



【図３６３】



【図３６４】



【図３６５】

（ａ）

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数９テーブル	202ha
大当たり種別選択９テーブル	202hd
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202b
普図当たり種別選択９テーブル	202hf
時短当たり乱数９テーブル	202he

（ｂ）

第１当たり乱数９テーブル202ha

特別図柄の確率状態	抽選結果	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～8191）
低確率	大当たり	0～26
	外れ	27～8191
高確率	大当たり	0～136
	外れ	137～8191

【図３６６】

（ａ）

大当たり種別選択９テーブル202hb

特別図柄の種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）
特図１	大当たりＡ９（９Ｒ確変大当たり）	0～69
	大当たりＢ９（９Ｒ第１時短大当たり）	70～99
特図２	大当たりＡ９（９Ｒ確変大当たり）	0～9
	大当たりＣ９（９Ｒ第２時短大当たり）	10～99

（ｂ）

時短当たり乱数９テーブル202he

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～8191）	時短種別
特図１	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	8191	第２時短
	それ以外	－	－
特図２	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	8191	第２時短
	それ以外	－	－

【図３６７】

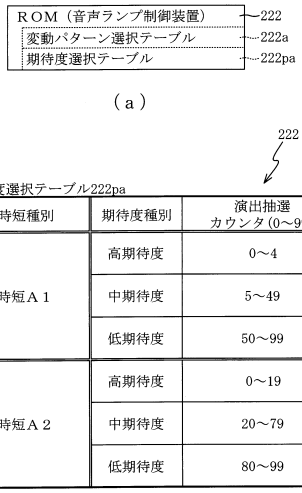
普図当たり種別選択９テーブル202hf

遊技状態	普図当たり種別	普図当たり種別カウンタＣ６（0～99）
確変第１時短	普図当たりＡ	0～99
	普図当たりＢ	－
第２時短	普図当たりＡ	－
	普図当たりＢ	0～99

【図３６８】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
実行エリア	203c
普通図柄保留球格納エリア	203d
第１特別図柄保留球数カウンタ	203e
第２特別図柄保留球数カウンタ	203f
普通図柄保留球数カウンタ	203g
時短中カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203k
大当たり中フラグ	203m
小当たり中フラグ	203ea
大当たり種別格納エリア	203eb
Ｖ通過フラグ	203ec
特図２変動回数カウンタ	203pa
その他メモリエリア	203z

【図３６９】



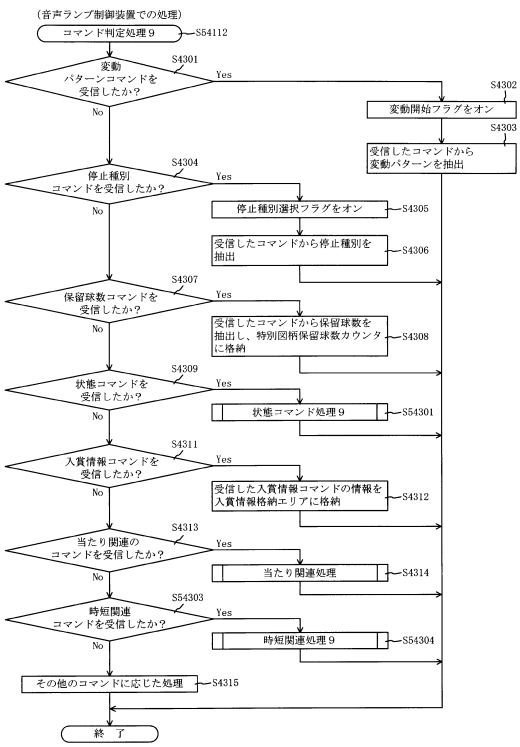
（ａ）

時短種別	期待度種別	演出抽選カウンタ(0～99)
時短Ａ１	高期待度	0～4
	中期待度	5～49
	低期待度	50～99
時短Ａ２	高期待度	0～19
	中期待度	20～79
	低期待度	80～99

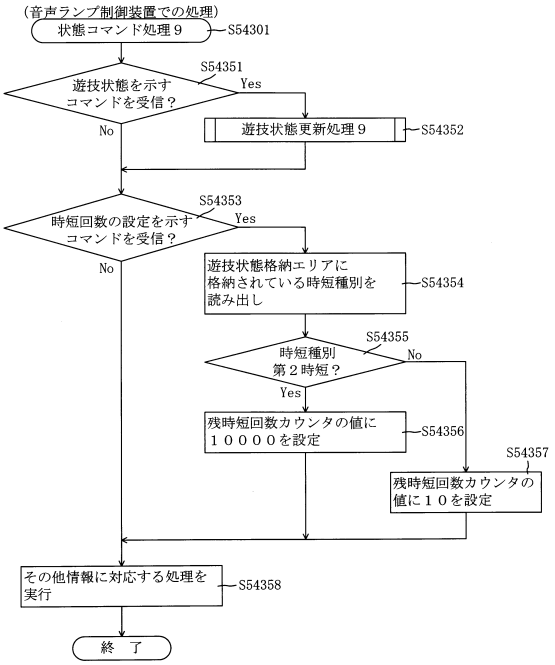
（ｂ）

【図３７０】

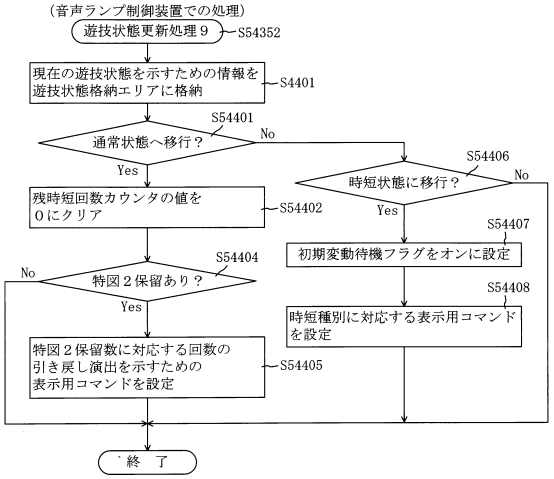
【図３７１】



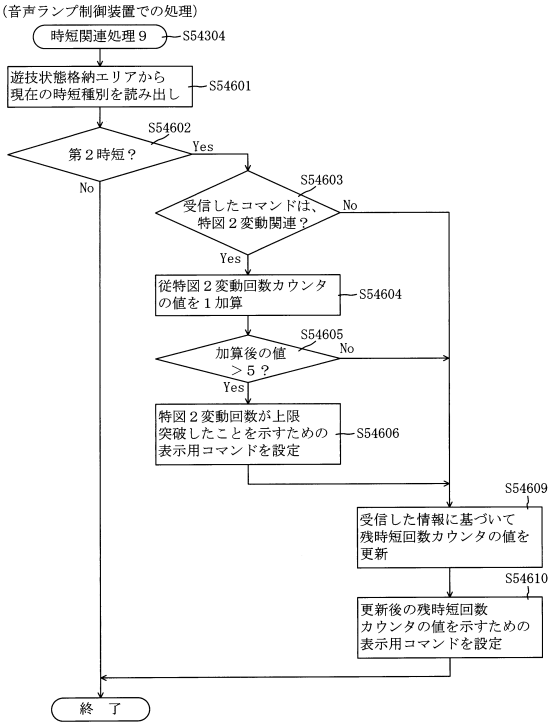
【図３７２】



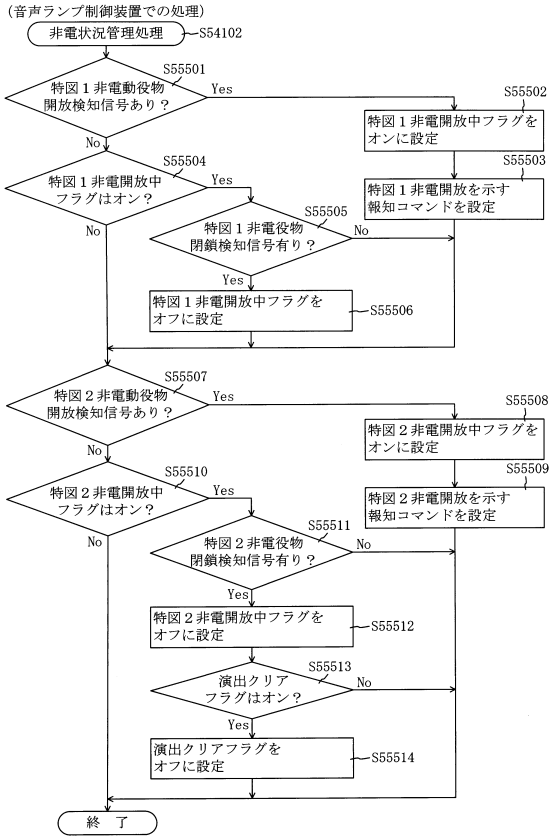
【図３７３】



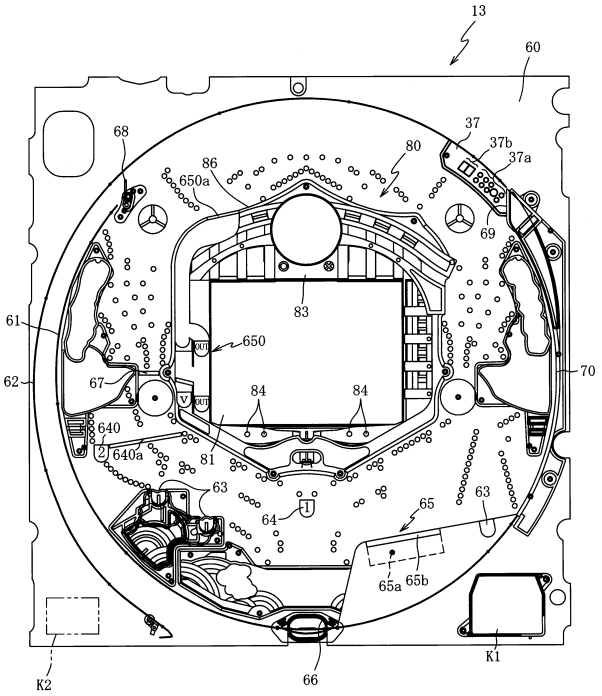
【図３７４】



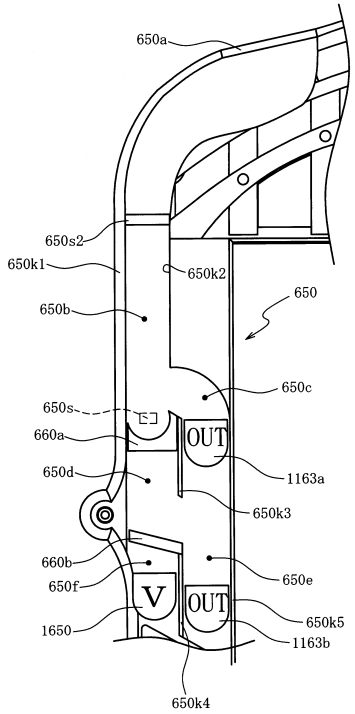
【図３７５】



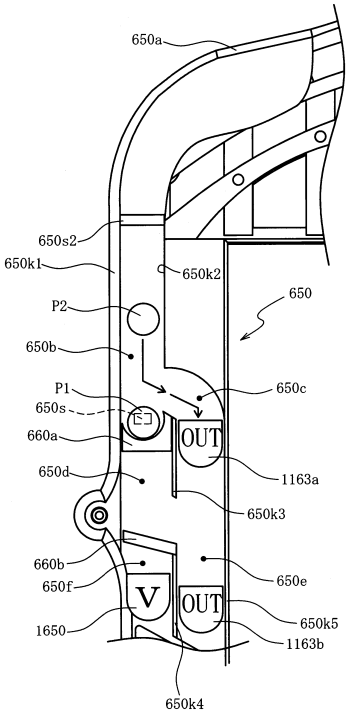
【図３７６】



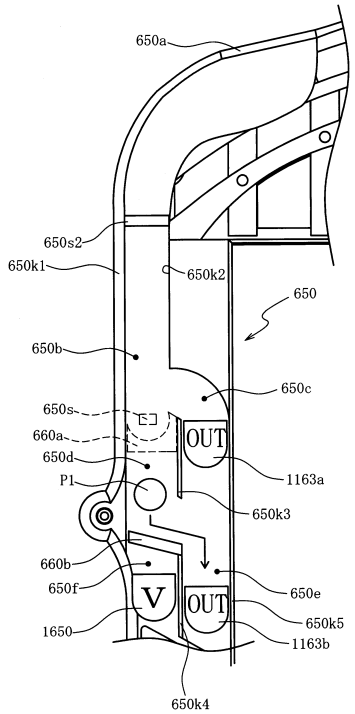
【図３７７】



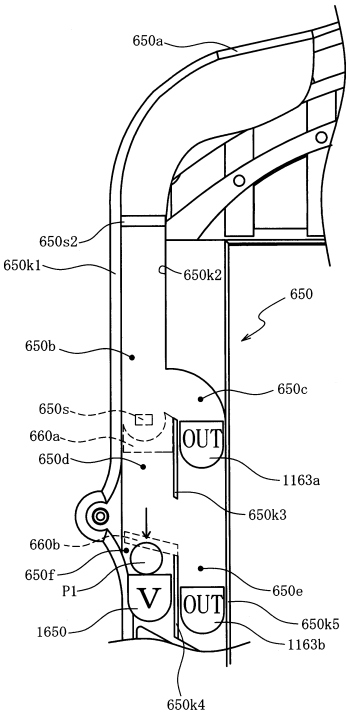
【図３７８】



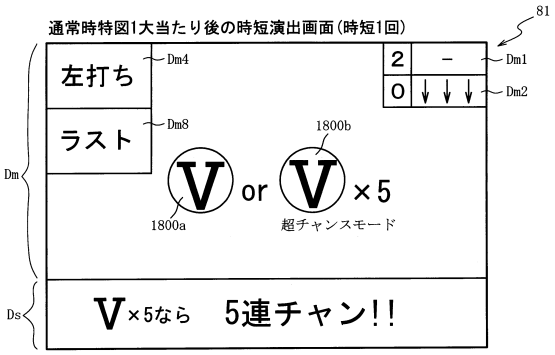
【図３７９】



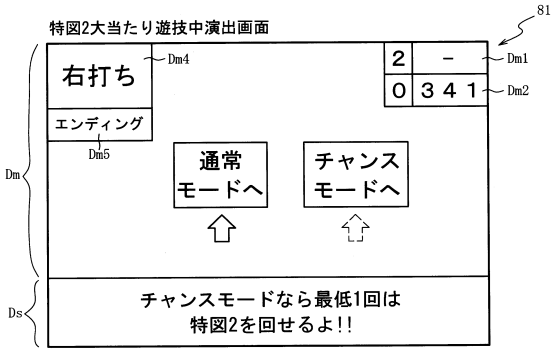
【図３８０】



【図３８１】

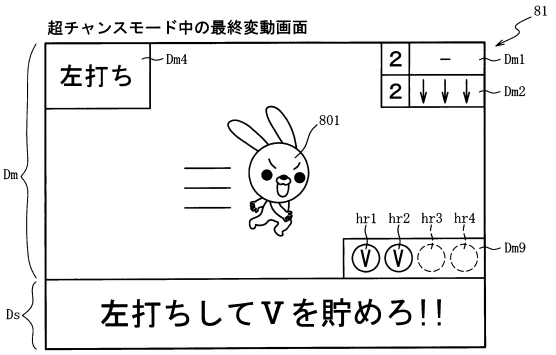


（ａ）

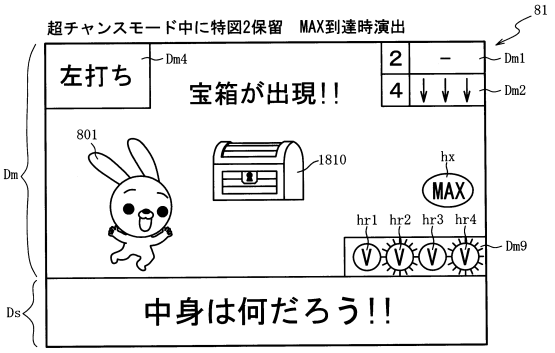


（ｂ）

【図３８２】

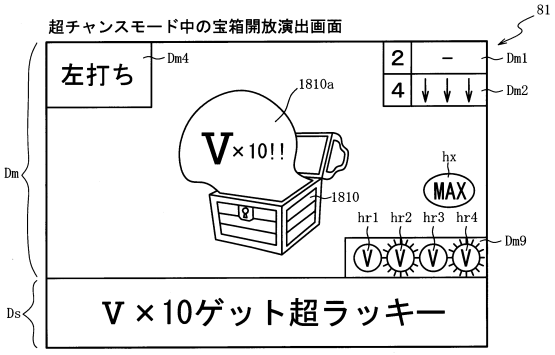


（ａ）

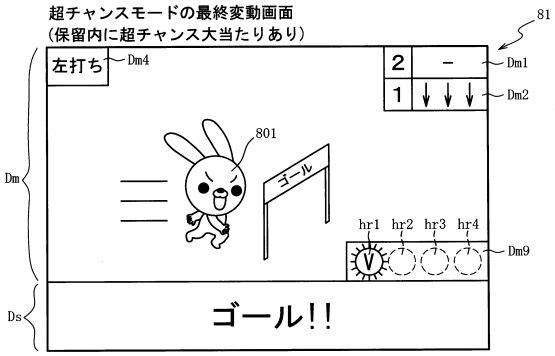


（ｂ）

【図３８３】

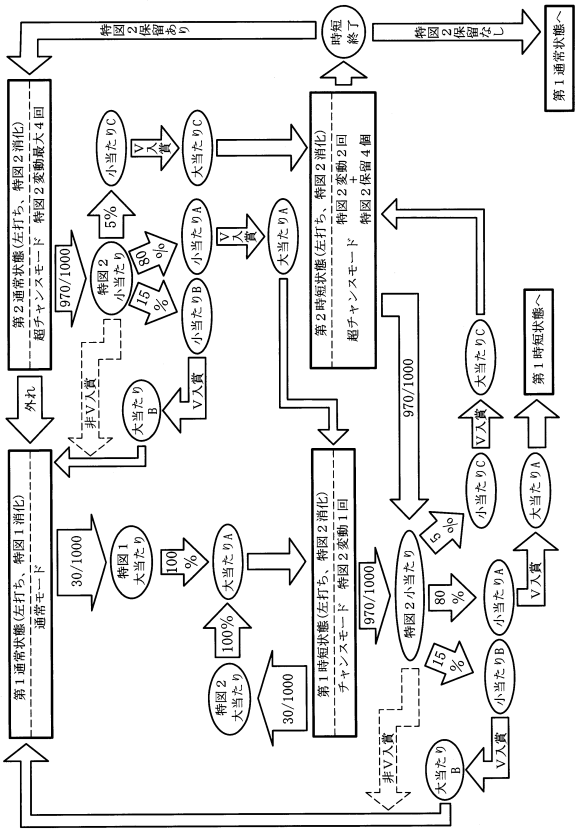


（ａ）

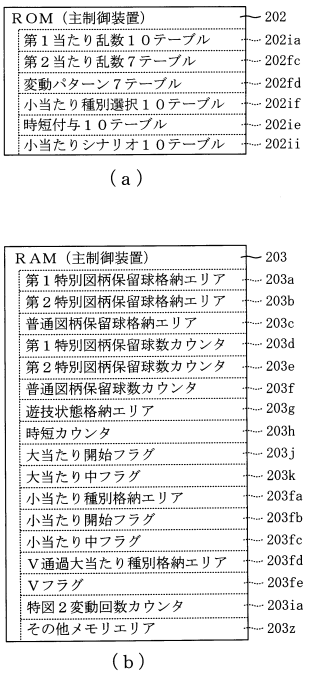


（ｂ）

【図３８４】



【図３８５】



【図３８６】

（ａ）

（ｂ）

特別図柄１乱数１０テーブル202ia1

判定値	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
大当たり判定値	0～29
小当たり判定値	－

（ｃ）

特別図柄２乱数１０テーブル202ia2

判定値	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
大当たり判定値	0～29
小当たり判定値	30～999

【図３８７】

小当たり種別選択１０テーブル202if

小当たり種別	小当たり種別カウンタＣ５（0～99）
小当たりＡ（Ｖ通過可）（Ｖ通過時　大当たりＡ（５Ｒ））	0～79
小当たりＢ（Ｖ通過可）（Ｖ通過時　大当たりＢ（５Ｒ））	80～94
小当たりＣ（Ｖ通過不可）（Ｖ通過時　大当たりＣ（５Ｒ））	95～99

【図３８８】

時短付与１０テーブル202ie

大当たり種別	時短付与内容（回数） 時短カウンタ 203h	特図２変動回数カウンタ 203ia
大当たりＡ（５Ｒ）	10	1
大当たりＢ（５Ｒ）	0	0
大当たりＣ（５Ｒ）	10	2

【図３８９】

ROM	222
変動パターン選択テーブル	222a
最終変動演出選択テーブル	222ia
告知対象選択テーブル	222ib

（ａ）

RAM	223
入賞情報格納エリア	223a
特別図柄１保留球数カウンタ	223b
特別図柄２保留球数カウンタ	223b1
変動開始フラグ	223c
停止種別選択フラグ	223d
演出カウンタ	223e
状態格納エリア	223ia
時短最終変動フラグ	223ib
実行済フラグ	223ic
その他メモリエリア	223z

（ｂ）

【図３９０】

222

最終変動演出選択テーブル222ia

当否判定	特別図柄２保留球数カウンタ223b1	演出カウンタ223e（0～99）	
		0～69	70～99
大当たり 小当たりＣ	1～3	ゴール	貯めろ弱
	0	貯めろ弱	ゴール
小当たりＡ	0～3	貯めろ弱	貯めろ強
小当たりＢ	1～3	貯めろ強	貯めろ弱
	0	貯めろ強	

（ａ）

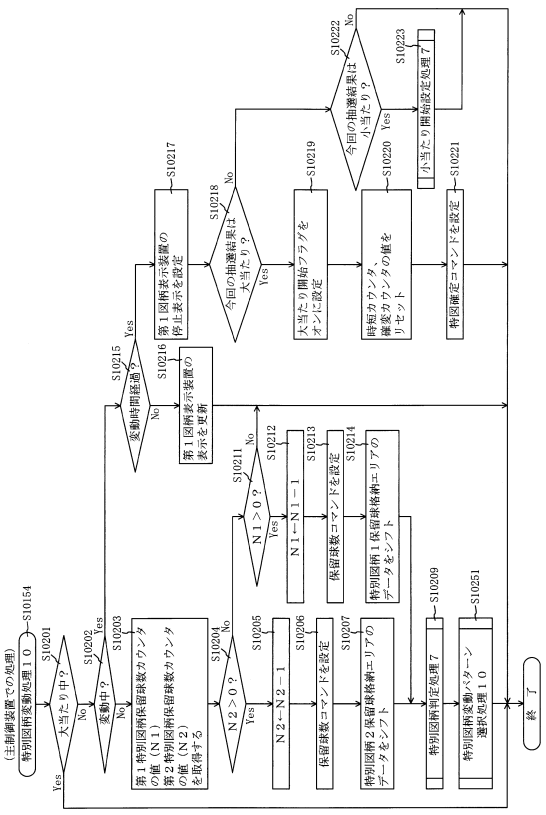
222

告知対象選択テーブル222ib

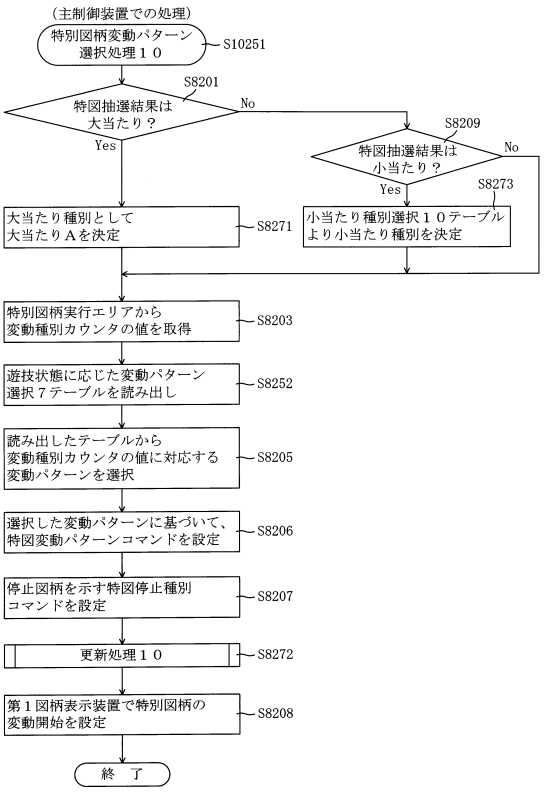
最終小当たりＣ保留格納位置	保留内小当たりＣ保留数	告知対象とする小当たりＣ保留
1	－	エリア１
2	1	エリア１
	2	エリア２
3	1	エリア３
	2	エリア２
	3	エリア１
4	1	エリア４
	2	エリア３
	3	エリア２
	4	エリア１

（ｂ）

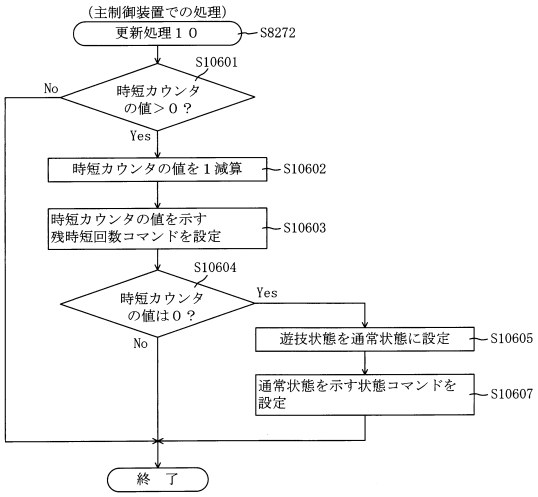
【図３９１】



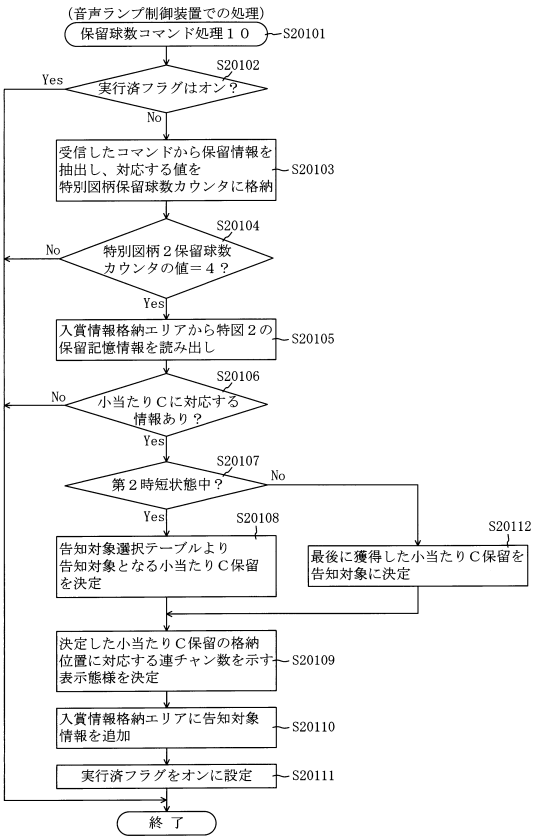
【図３９２】



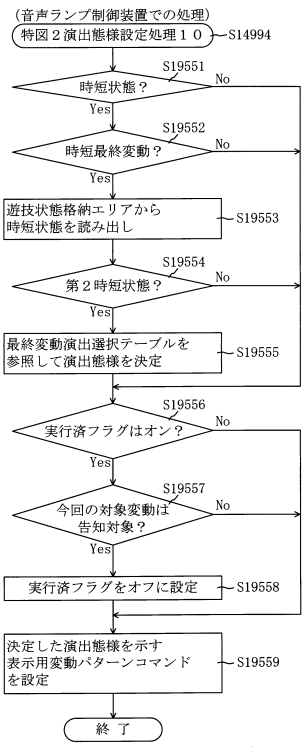
【図３９３】



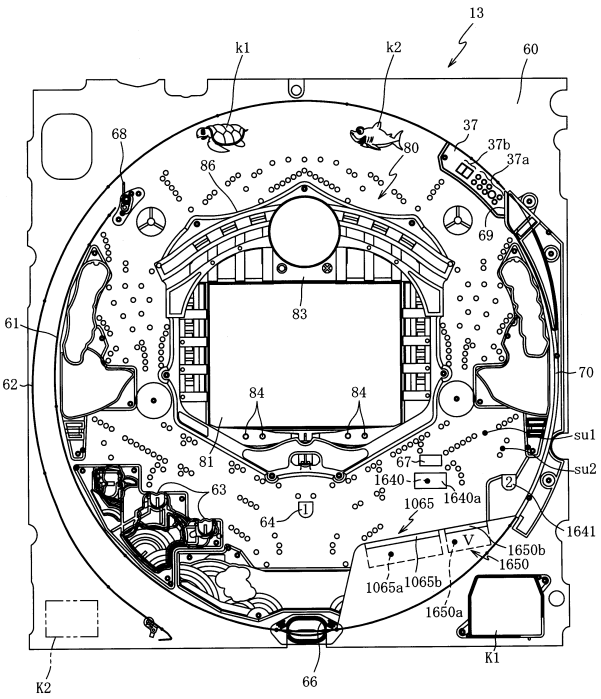
【図３９４】



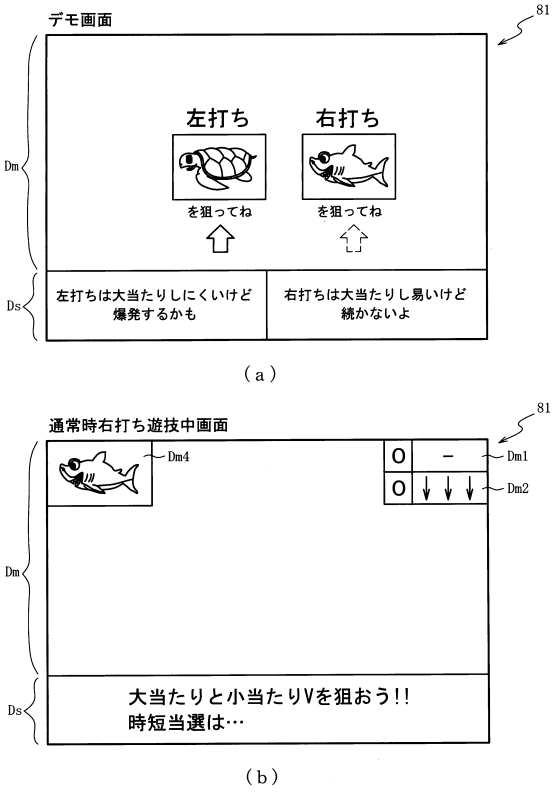
【図３９５】



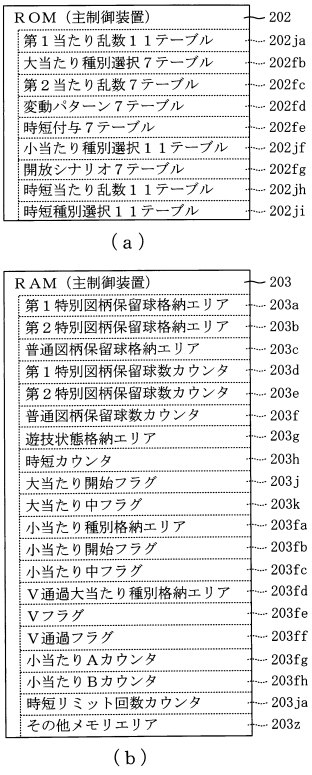
【図３９６】



【図３９７】



【図３９８】



【図３９９】

（ａ）

202

特別図柄２乱数１１テーブル202ja2

判定値	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～999）
大当たり判定値	0～4
小当たり判定値	5～54

（ｂ）

202

小当たり種別選択１１テーブル202jf

小当たり種別	小当たり種別 カウンタＣ５（0～99）
小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）	0～4
小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）	5～99

【図４００】

（ａ）

202

時短当たり乱数１１テーブル202jh

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～999）
共通	特別図柄及び 普通図柄の 低確率状態	900～949
	それ以外	－

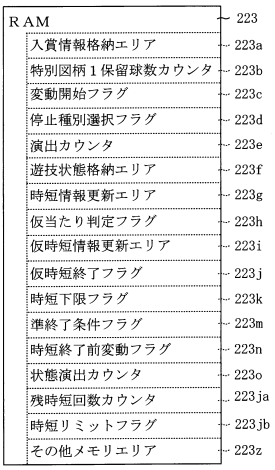
（ｂ）

202

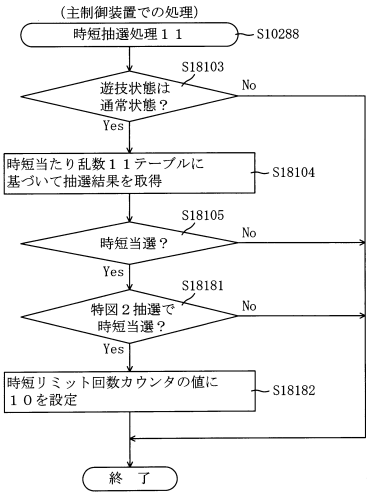
時短種別選択１１テーブル202ji

特別図柄種別	時短種別	時短種別選択カウンタ ＣＣ１（0～99）	時短カウンタ 203h	時短リミット
特図１	時短Ａ１１	0～99	200	なし
特図２	時短Ｂ１１	0～99	200	あり

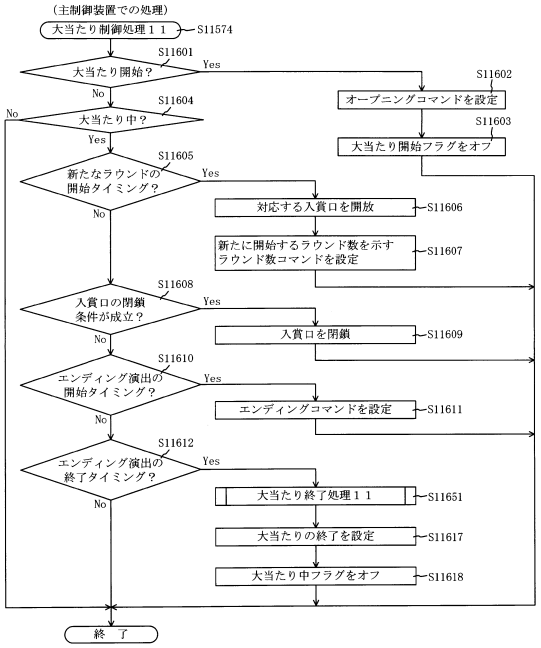
【図４０１】



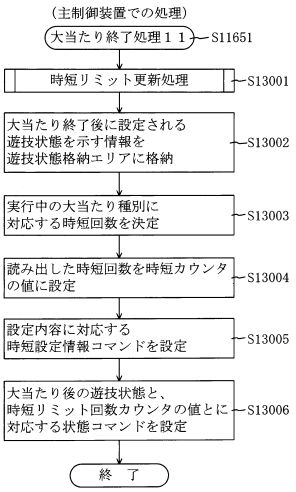
【図４０２】



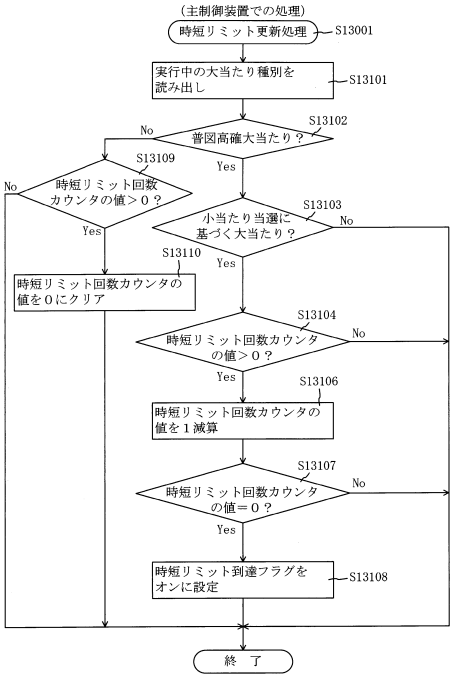
【図４０３】



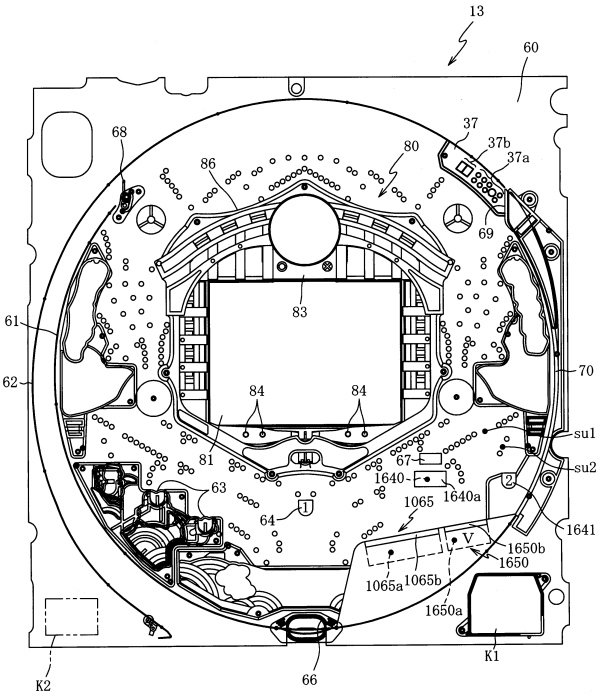
【図４０４】



【図４０５】



【図４０６】



【図４０７】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数１２テーブル	202ka
大当たり種別選択１２テーブル	202kb
第２当たり乱数１２テーブル	202kc
変動パターン１２テーブル	202kd
小当たり乱数１２テーブル	202ke
小当たり種別選択１２テーブル	202kf
開放シナリオ７テーブル	202fg
時短当たり乱数１２テーブル	202kh

【図４０８】

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
小当たりＡカウンタ	203fg
小当たりＢカウンタ	203fh
時短リミット回数カウンタ	203ja
特図１変動時間タイマ	203ka
特図２変動時間タイマ	203kb
特図１仮停止フラグ	203kc
特図２仮停止フラグ	203kd
特図１変動停止フラグ	203ke
特図２変動停止フラグ	203kf
時短当選変動状態フラグ	203kg
時短リミット到達フラグ	203kh
その他メモリエリア	203z

【図４０９】

（ａ）

202

第１当たり乱数１２テーブル202ka

特別図柄種別	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄 第２特別図柄 共通	0～17

（ｂ）

202

第２当たり乱数１２テーブル202kc

遊技状態	第２当たり乱数カウンタ Ｃ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～2
普通図柄の高確率状態	0～149

（ｃ）

202

時短当たり乱数１２テーブル202kh

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄 第２特別図柄 共通	通常状態	100～117
	時短状態	－

（ｄ）

202

小当たり乱数１２テーブル202ke

特別図柄種別	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～899）
第２特別図柄	500～517

【図４１０】

（ａ）

大当たり種別選択１２テーブル 202kb
特図１大当たり用１２テーブル 202kb1
特図２大当たり用１２テーブル 202kb2

（ｂ）

202

特図１大当たり用１２テーブル202kb1

大当たり種別	第１当たり種別 カウンタＣ２ （0～99）	時短カウンタ 203h
大当たりＡ （5Ｒ時短Ａ大当たり）	0～99	5

【図４１１】

202

特図２大当たり用１２テーブル202kb2

遊技状態		変動回数	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ ＣＳ２（0～99）	時短カウンタ203h
通常状態	非時短当選 変動状態	0～	大当たりＡ （5Ｒ時短Ａ大当たり）	0～99	5
	時短当選 変動状態	0～	大当たりＢ （10Ｒ時短Ｂ大当たり）	0～99	10000
時短状態	時短Ａ状態	0～	大当たりＢ （10Ｒ時短Ｂ大当たり）	0～49	10000
			大当たりＣ （5Ｒ時短Ｂ大当たり）	50～99	10000
	時短Ｂ状態	0～50	大当たりＢ （10Ｒ時短Ｂ大当たり）	0～99	10000
		51～	大当たりＢ （10Ｒ時短Ｂ大当たり）	0～49	10000
			大当たりＤ （10Ｒ時短Ｂ大当たり）	50～99	10000

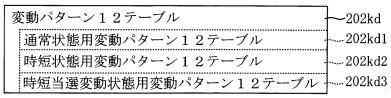
【図４１２】

202

小当たり種別選択１２テーブル202kf

小当たり種別	小当たり種別 カウンタＣ５（0～99）
小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＣ）	0～79
小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）	80～99

【図４１３】



【図４１４】

202

通常状態用変動パターン１２テーブル202kd1

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第１特別図柄	外れ	短外れ（7秒）	0～139
		ガセ外れ（20秒）	140～149
		ノーマルリーチ各種（40秒）	150～179
		スーパーリーチ（80秒）	180～198
	時短当選	ロング時短当たり（300秒）	0～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種（40秒）	0～29
		スーパーリーチ（80秒）	30～189
		スペシャルリーチ（140秒）	190～198
第２特別図柄	外れ	ロング外れ（600秒）	0～198
	時短当選	時短当たり（600秒）	0～198
	大当たり小当たり	ロング当たり（600秒）	0～198

【図４１５】

202

時短状態用変動パターン１２テーブル202kd2

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第１特別図柄	外れ	ロング外れ（600秒）	0～198
	大当たり	ロング当たり（600秒）	0～198
第２特別図柄	外れ	短外れ（3秒）	0～198
	大当たり小当たり	短当たり（5秒）	0～198

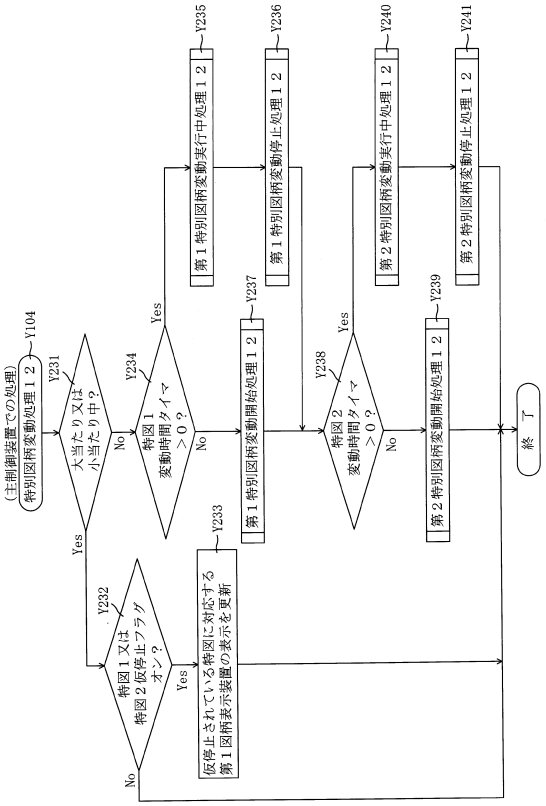
【図４１６】

202

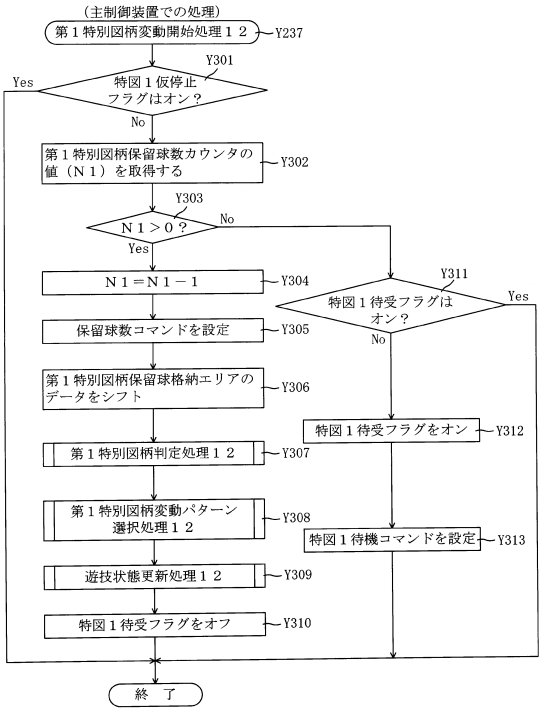
時短当選変動状態用変動パターン１２テーブル202kd3

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第２特別図柄	外れ	短外れ（0.5秒）	0～198
	時短当選	短時短当たり（0.5秒）	0～198
	大当たり小当たり	短当たり（0.5秒）	0～198

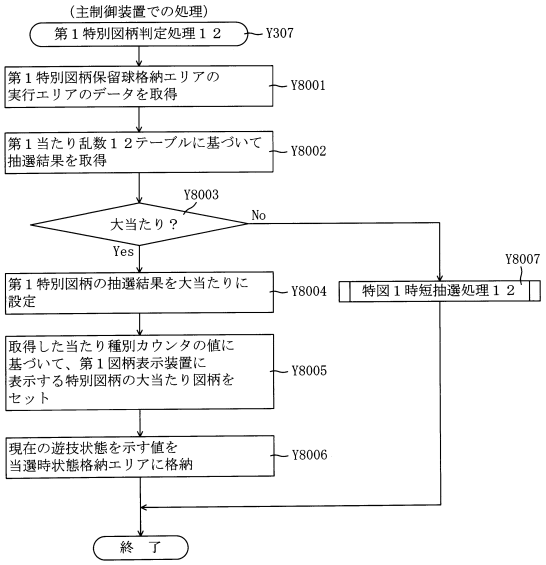
【図４１７】



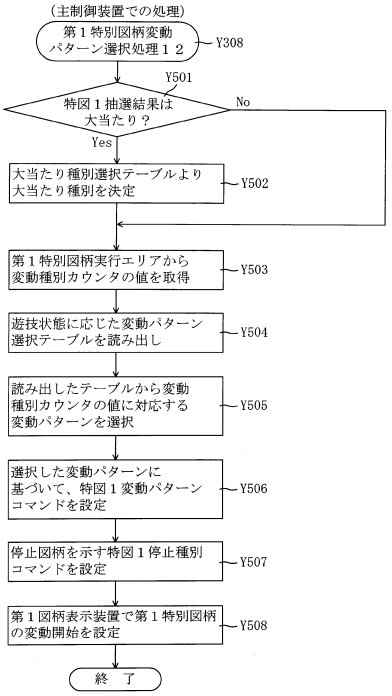
【図４１８】



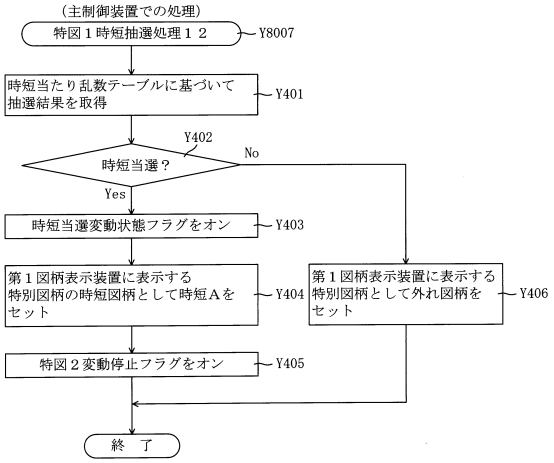
【図４１９】



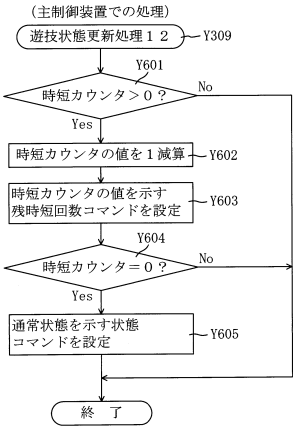
【図４２０】



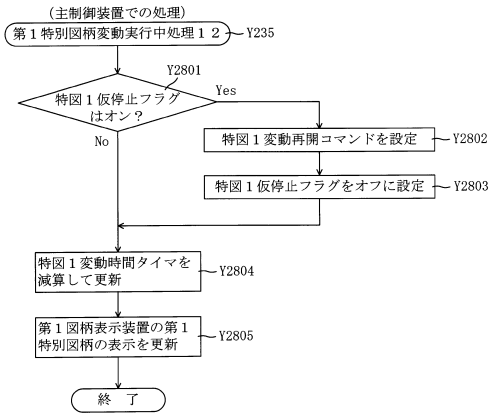
【図４２１】



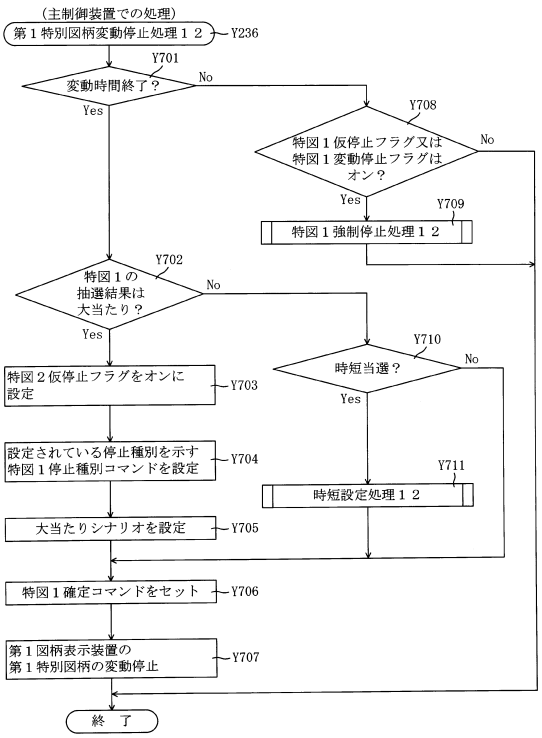
【図４２２】



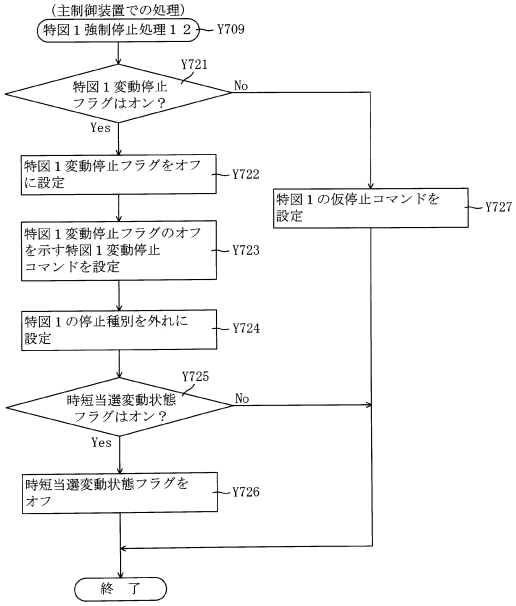
【図４２３】



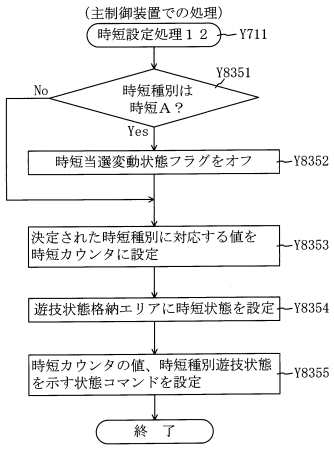
【図４２４】



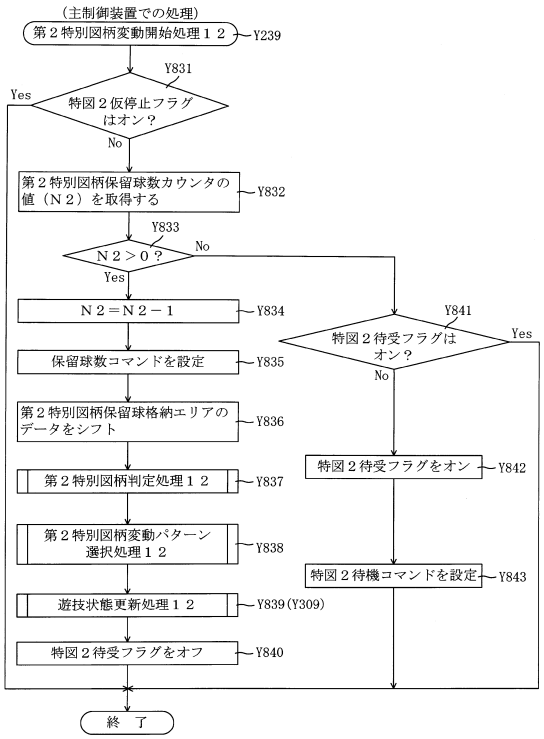
【図４２５】



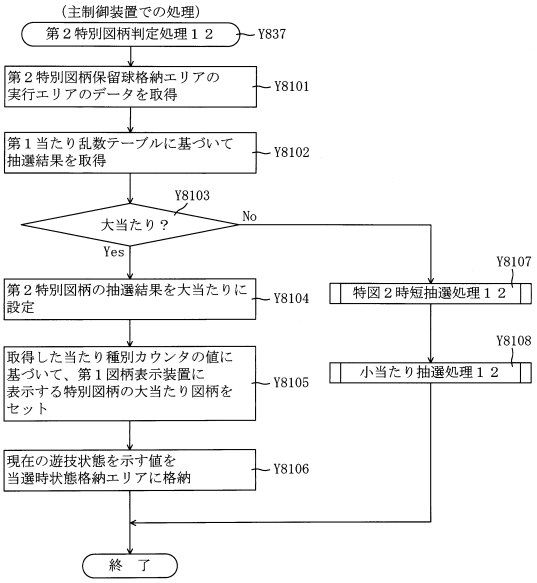
【図４２６】



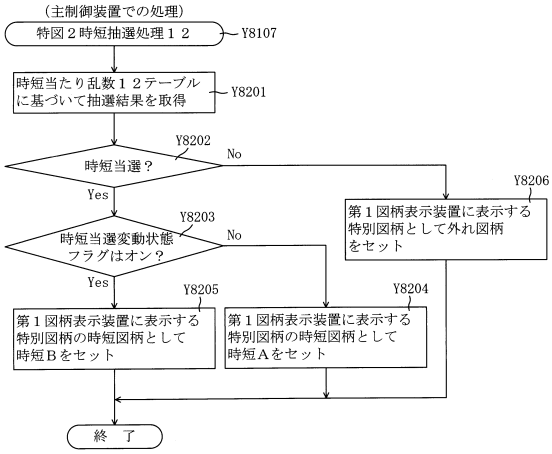
【図４２７】



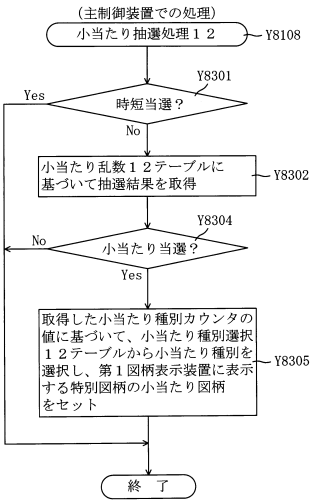
【図４２８】



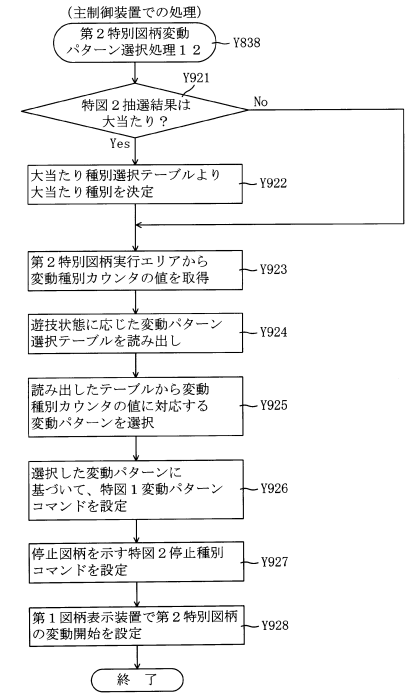
【図４２９】



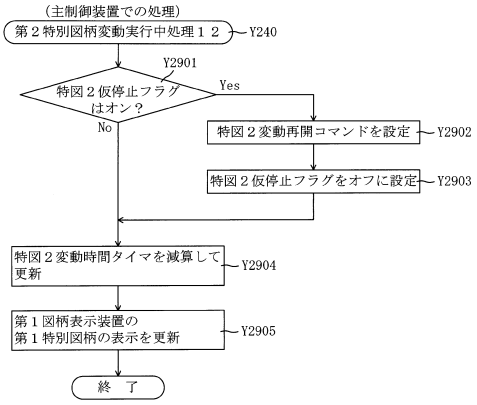
【図４３０】



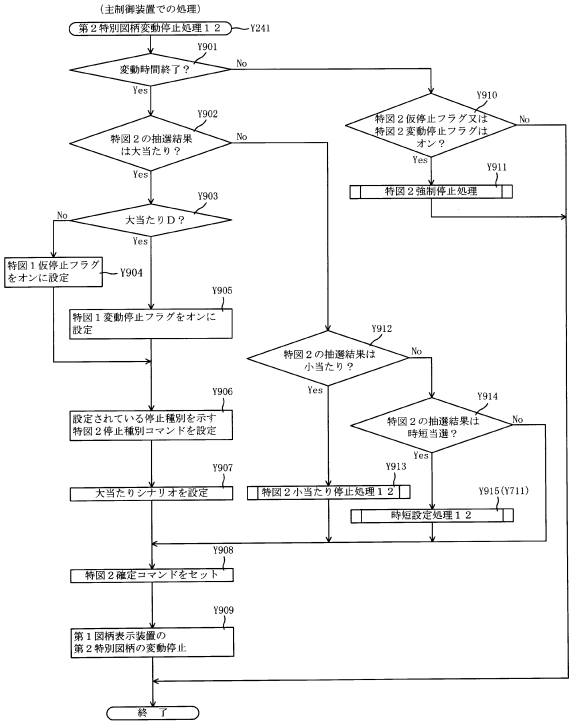
【図４３１】



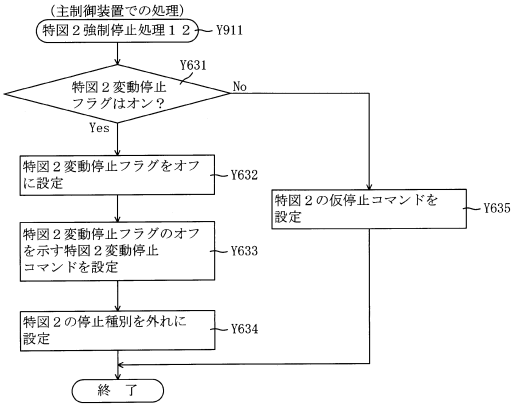
【図４３２】



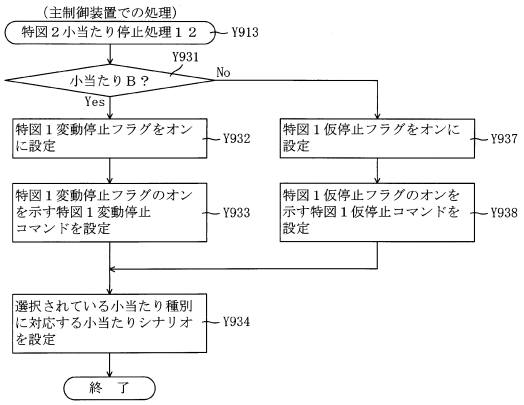
【図４３３】



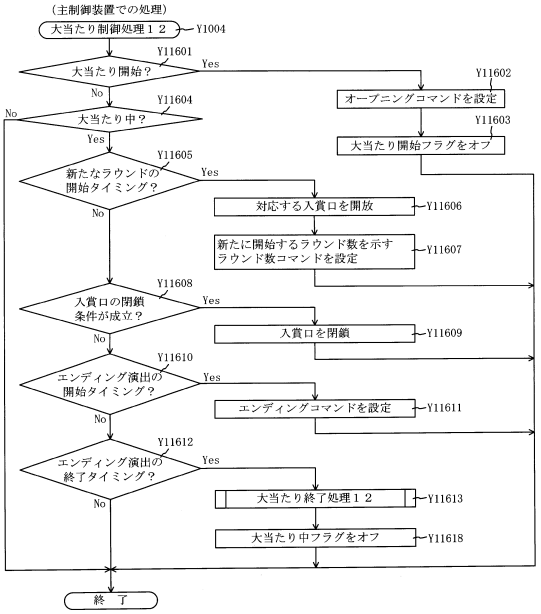
【図４３４】



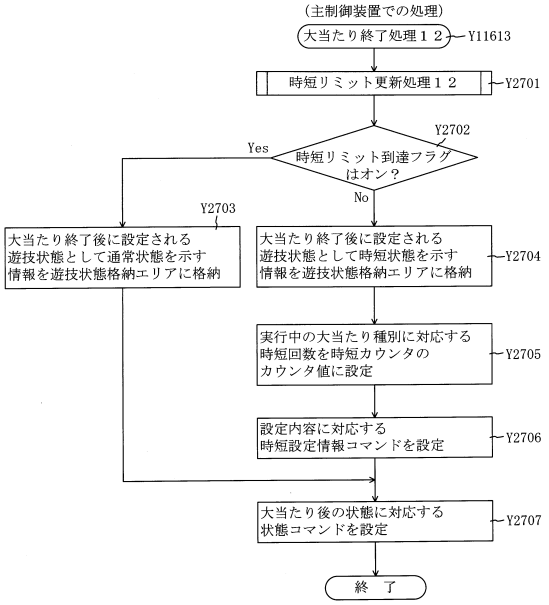
【図４３５】



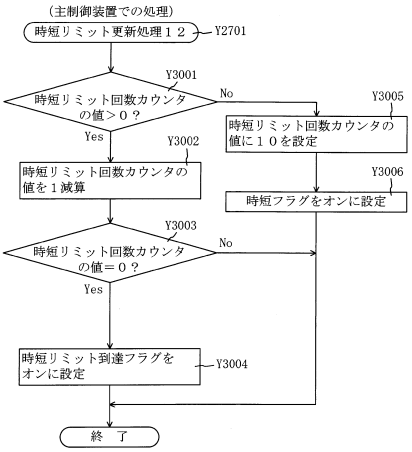
【図４３６】



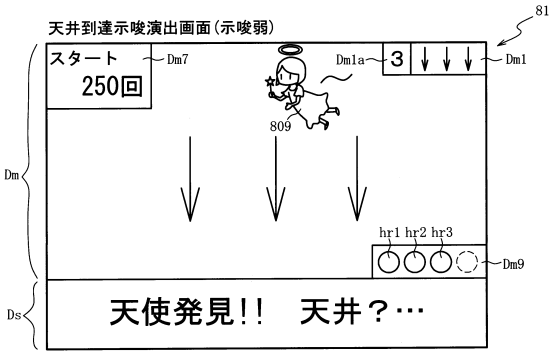
【図４３７】



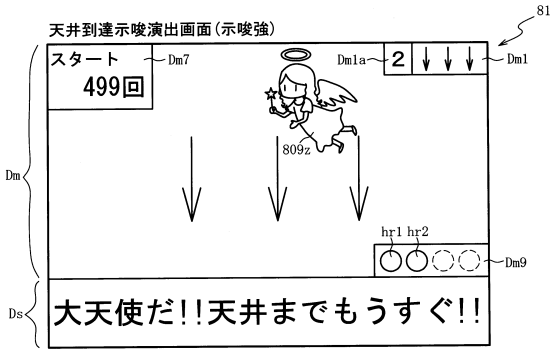
【図４３８】



【図４３９】

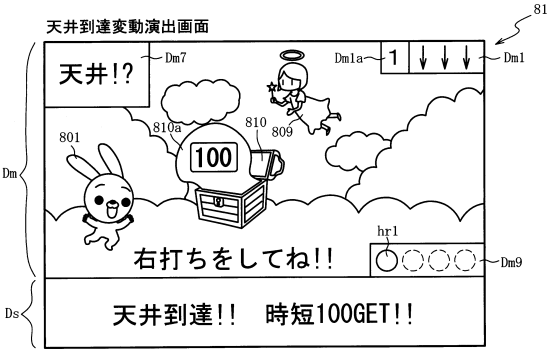


（ａ）

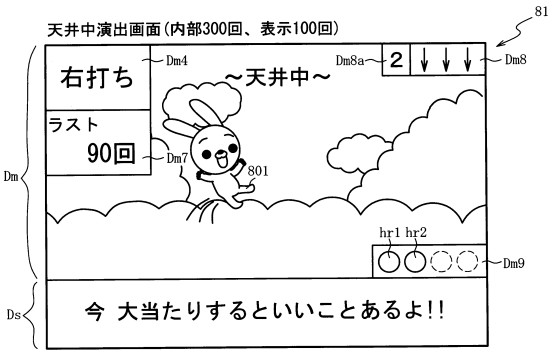


（ｂ）

【図４４０】

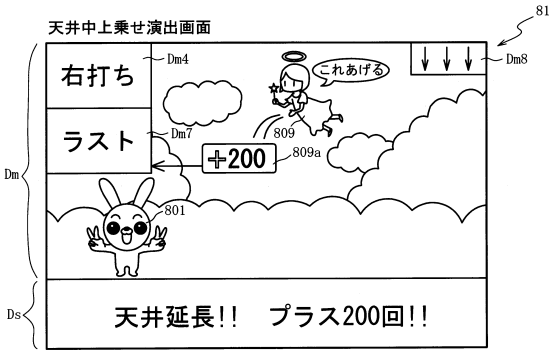


（ａ）

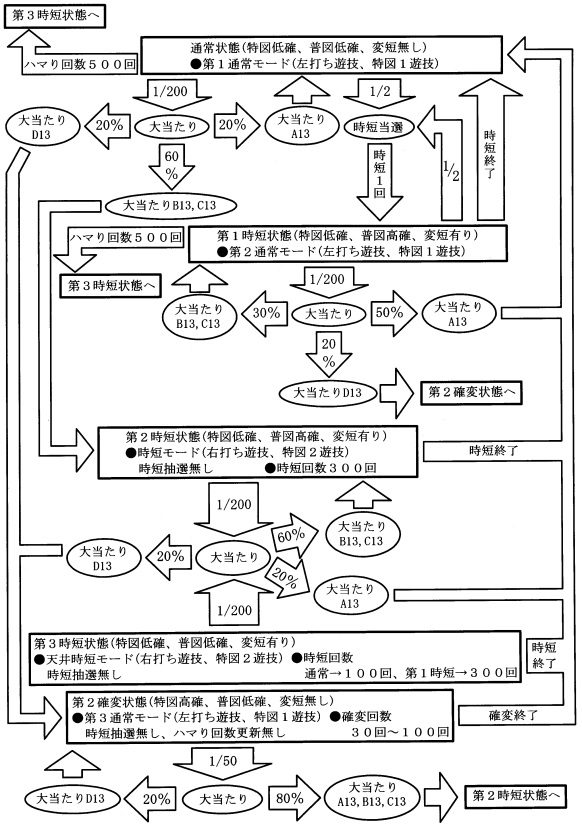


（ｂ）

【図４４１】



【図４４２】



【図４４３】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数１３テーブル	2021a
変動パターン選択５テーブル	202db
第２当たり乱数１３テーブル	2021c
大当たり種別選択１３テーブル	2021d
時短当たり乱数１３テーブル	2021e
時短種別選択１３テーブル	2021f

（ａ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
特図抽選カウンタ	2031a
第１天井待機フラグ	2031b
第２天井待機フラグ	2031c
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図４４４】

（ａ）

202

第１当たり乱数１３テーブル2021a

遊技状態	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～999）
特別図柄の 低確率状態	0～4
特別図柄の 高確率状態	0～19

（ｂ）

202

第２当たり乱数１３テーブル2021c

遊技状態	第２当たり乱数カウンタ Ｃ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～298
普通図柄の高確率状態	0～299

（ｃ）

202

時短当たり乱数１３テーブル2021e

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数 カウンタＣ１（0～999）
共通	通常 第１時短	500～999
	それ以外	－

【図４４５】

202

大当たり種別選択１３テーブル2021d

大当たり当選時遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i	大当たり後の遊技状態
通常状態（第１通常）	大当たりＡ１３（10R通常大当たり）	0～19	0	0	通常（第１通常）
	大当たりＢ１３（10R時短大当たり）	20～49	100	0	第２時短（時短）
	大当たりＣ１３（2R時短大当たり）	50～79	300	0	第２時短（時短）
	大当たりＤ１３（10R確変大当たり）	80～99	0	30	第２確変
第１時短状態（第２通常）	大当たりＡ１３（10R通常大当たり）	0～49	0	0	通常（第１通常）
	大当たりＢ１３（10R時短大当たり）	50～69	100	0	第１時短（第２通常）
	大当たりＣ１３（2R時短大当たり）	70～79	300	0	第１時短（第２通常）
	大当たりＤ１３（10R確変大当たり）	80～99	0	30	第２確変
第２時短状態第３時短状態（時短）	大当たりＡ１３（10R通常大当たり）	0～9	0	0	通常（第１通常）
	大当たりＢ１３（10R時短大当たり）	10～59	100	0	第２時短（時短）
	大当たりＣ１３（2R時短大当たり）	60～79	300	0	第２時短（時短）
	大当たりＤ１３（10R確変大当たり）	80～99	0	30	第２確変
第２確変状態	大当たりＡ１３（10R通常大当たり）	0～29	0	0	通常（第１通常）
	大当たりＢ１３（10R時短大当たり）	30～49	100	0	第２時短（時短）
	大当たりＣ１３（2R時短大当たり）	50～79	300	0	第２時短（時短）
	大当たりＤ１３（10R確変大当たり）	80～89	0	30	第２確変
	大当たりＥ１３（10R確変大当たり）	90～99	0	100	第２確変

【図４４６】

時短種別選択１３テーブル — 2021f
- 時短当選用１３テーブル — 2021f1
- 天井用１３テーブル — 2021f2

（ａ）

202

時短当選用１３テーブル2021f1

時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～999）	時短カウンタ203h
第１時短	0～998	1
第２時短	999	300

（ｂ）

202

天井用１３テーブル2021f2

時短種別	天井到達時の遊技状態	時短カウンタ203h
第３時短	通常	100
	第１時短	300

（ｃ）

【図４４７】

ＲＯＭ — 222
- 変動パターン選択テーブル — 222a
- 天井到達示唆演出選択テーブル — 2221a
- 天井到達時演出選択テーブル — 2221b

（ａ）

ＲＡＭ — 223
- コマンド記憶領域 — 223a
- 入賞情報格納エリア — 223b
- 特別図柄保留球数カウンタ — 223c
- 特図変動開始フラグ — 223d
- 停止種別選択フラグ — 223e
- 演出カウンタ — 223f
- 従状態設定エリア — 223g
- 普通図柄保留球数カウンタ — 223h
- 時短中カウンタ — 223da
- 天井時短カウンタ — 2231a
- 後乗せフラグ — 2231b
- 特図抽選回数カウンタ — 2231c
- その他メモリエリア — 223z

（ｂ）

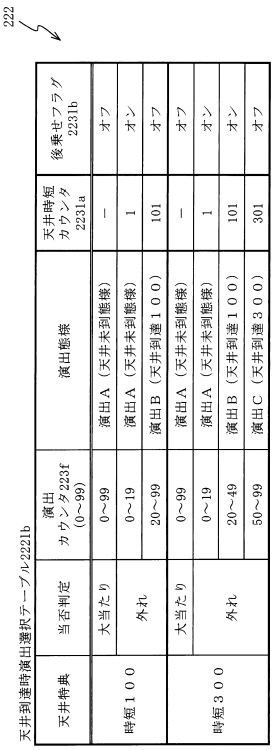
【図４４８】

222

天井到達示唆演出選択テーブル2221a

特図抽選回数カウンタ2231c	先読み結果	演出カウンタ223f（0～99）	示唆態様
0～200	大当たりＣ１３	0～79	天井示唆（強）
		80～99	－
	それ以外	0～99	－
201～460	大当たりＣ１３	0～79	天井示唆（強）
		80～99	－
	時短当選	0～19	天井示唆（強）
		20～39	天井示唆（弱）
		40～99	－
	それ以外	0～4	天井示唆（弱）
		5～99	－
461～495	大当たりＣ１３	0～19	天井示唆（強）
		20～99	－
	時短当選	0～39	天井示唆（弱）
		40～99	天井示唆（強）
	それ以外	0～49	天井示唆（弱）
		50～69	天井示唆（強）
		70～99	－
496～500	共通	0～9	－
		10～39	天井示唆（弱）
		40～99	天井示唆（強）

【図４４９】

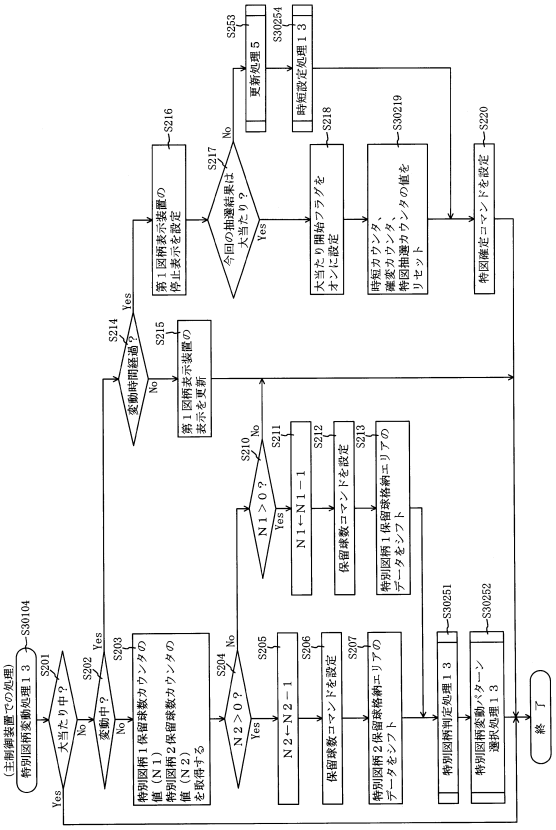


222

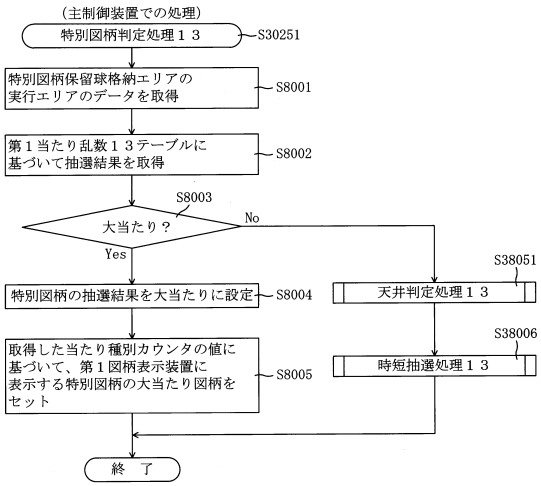
天井到達時演出選択テーブル2221b

天井特典	当否判定	演出カウンタ223f（0～99）	演出態様	天井時短カウンタ2231a	後乗せフラグ2231b
時短１００	大当たり	0～99	演出Ａ（天井未到態様）	－	オフ
	外れ	0～19	演出Ａ（天井未到態様）	1	オン
		20～99	演出Ｂ（天井到達１００）	101	オフ
時短３００	大当たり	0～99	演出Ａ（天井未到態様）	－	オフ
	外れ	0～19	演出Ａ（天井未到態様）	1	オン
		20～49	演出Ｂ（天井到達１００）	101	オン
		50～99	演出Ｃ（天井到達３００）	301	オフ

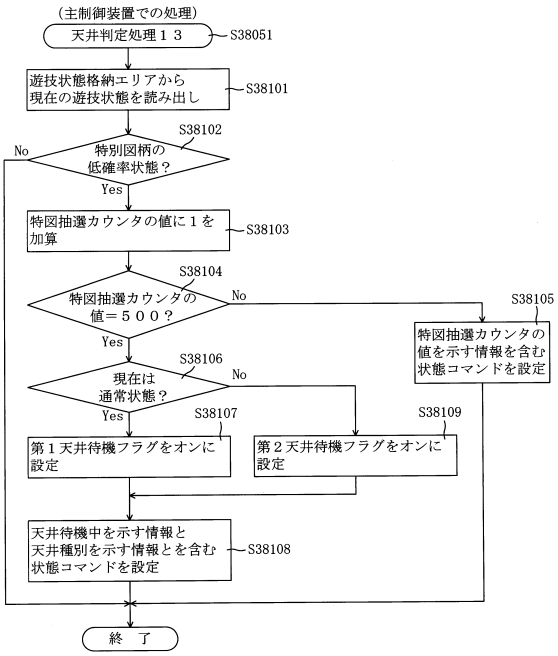
【図４５０】



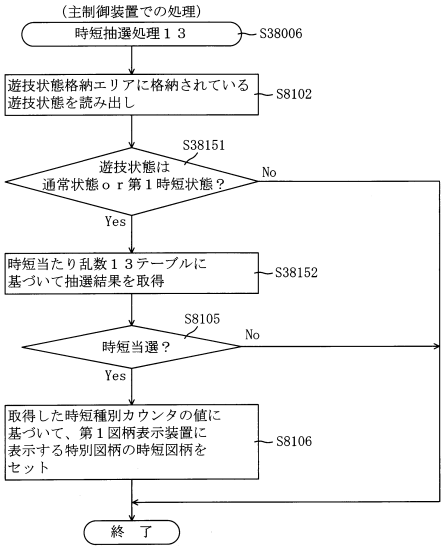
【図４５１】



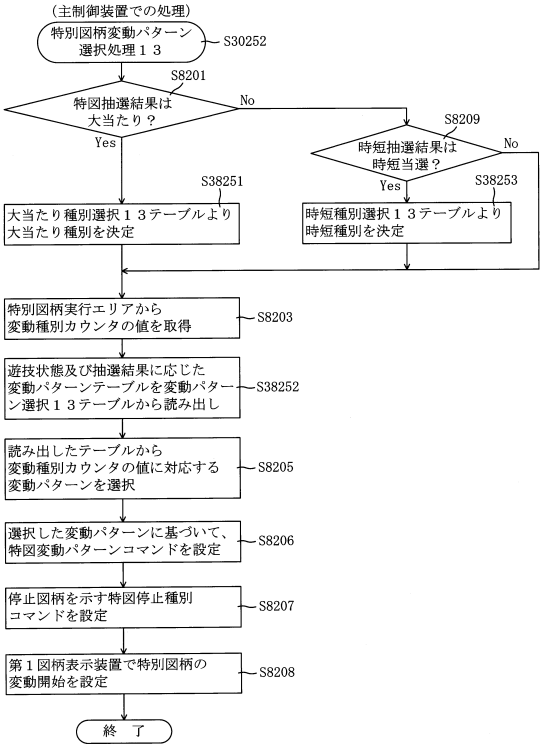
【図４５２】



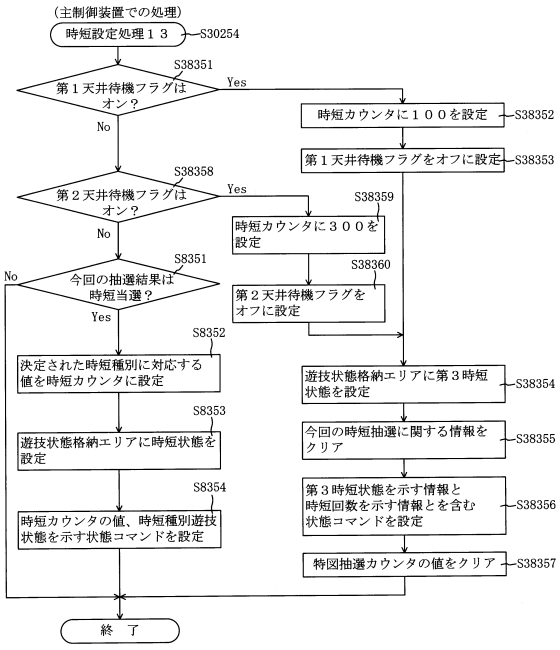
【図４５３】



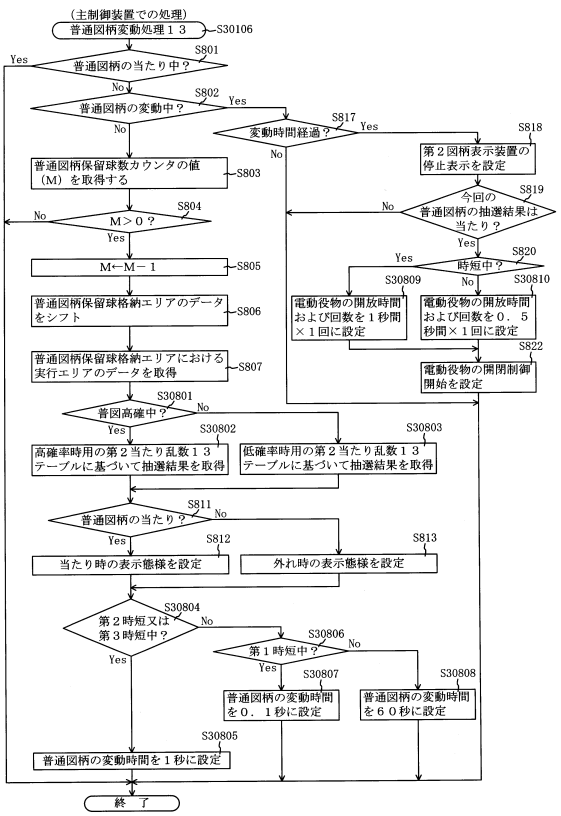
【図４５４】



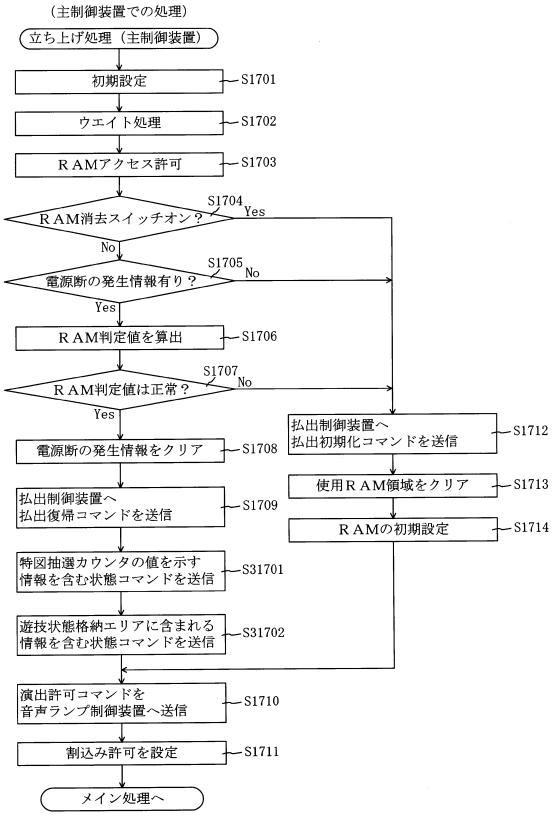
【図４５５】



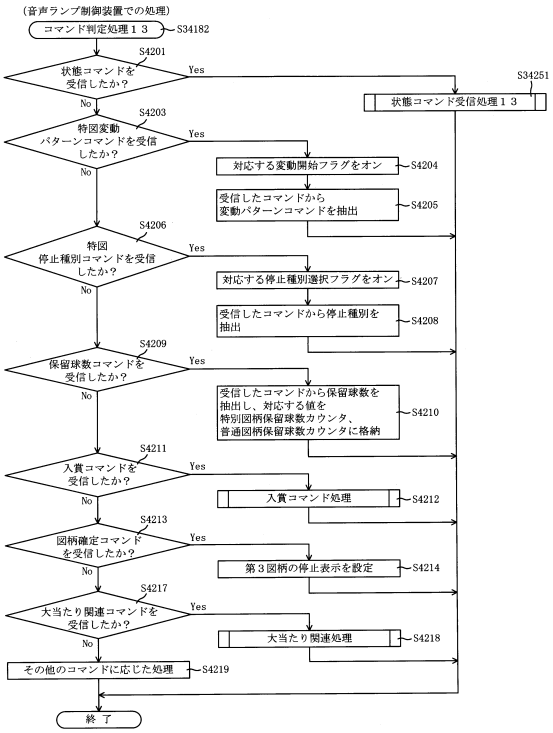
【図４５６】



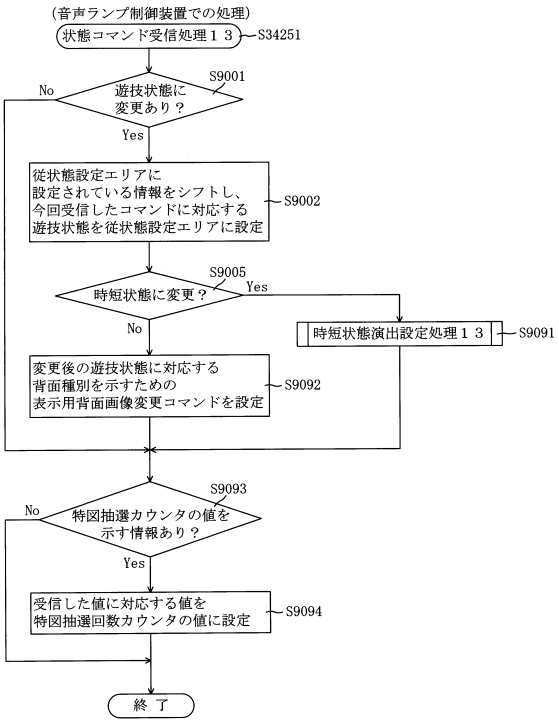
【図４５７】



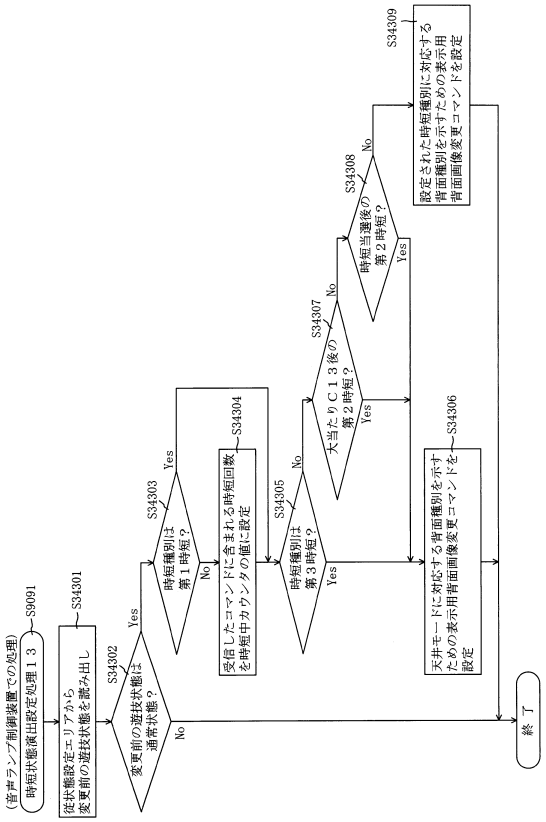
【図４５８】



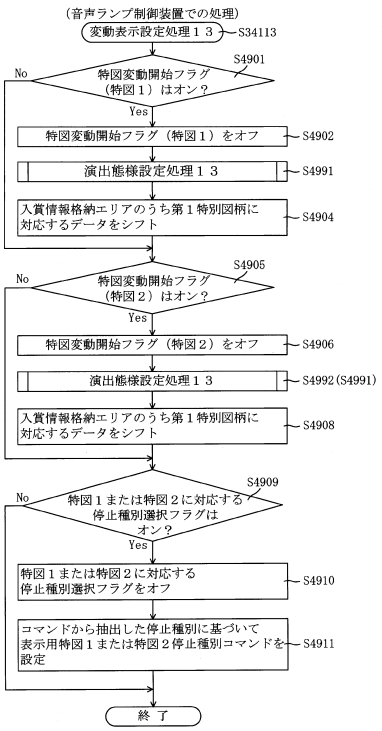
【図４５９】



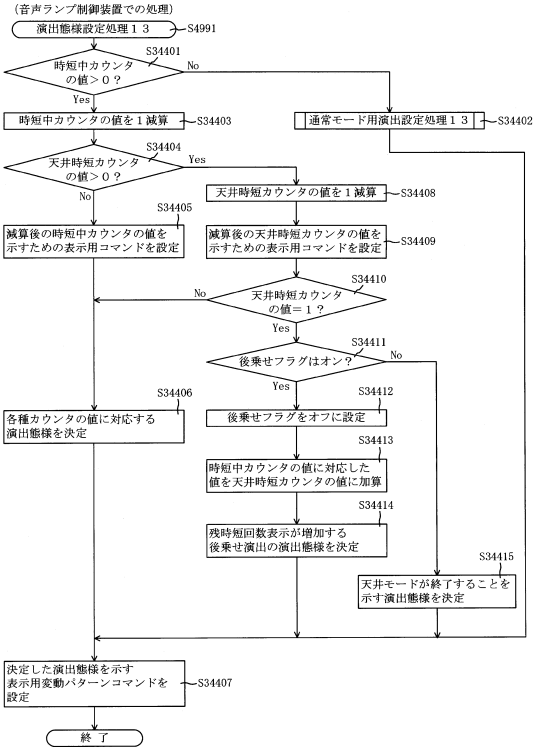
【図４６０】



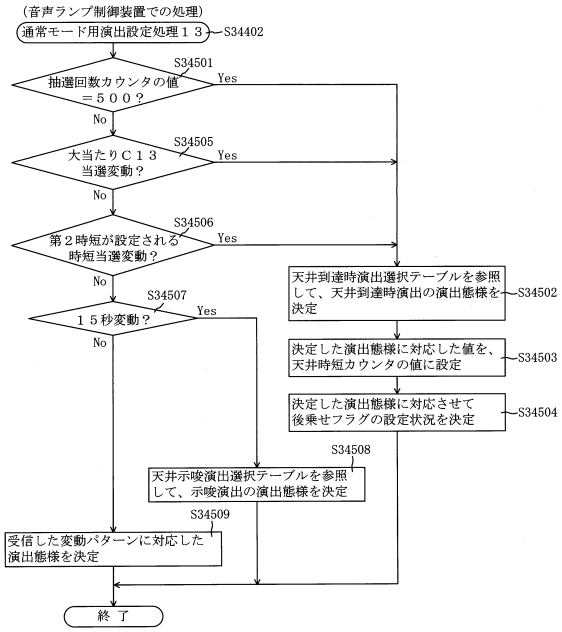
【図４６１】



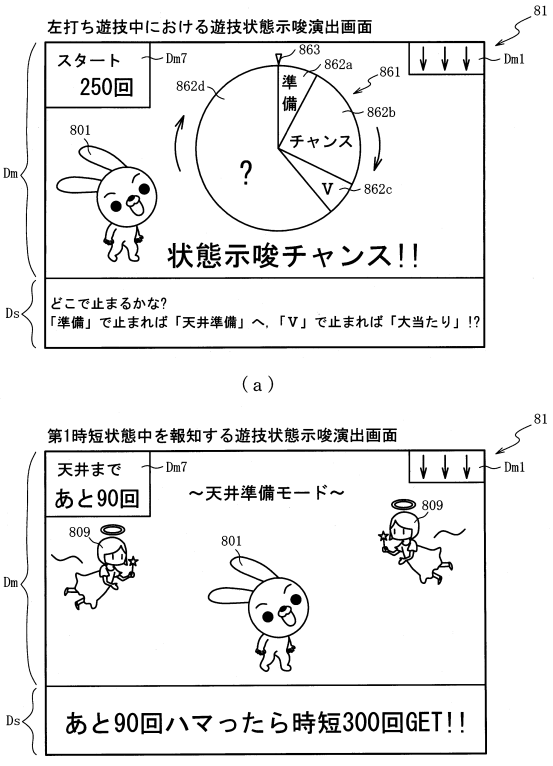
【図４６２】



【図４６３】



【図４６４】



【図４６５】

(a)

202

時短当たり乱数１３ａテーブル202lae

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１(0～999)
共通	通常	998,999
	それ以外	－

(b)

202

時短当選用１３ａテーブル202laf1

時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１(0～999)	時短カウンタ203h
第１時短	0～998	1000
第２時短	999	300

【図４６６】

(a)

ROM 222
- 変動パターン選択テーブル 222a
- 遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル 2221aa
- 天井到達時演出選択テーブル 2221b

(b)

RAM 223
- コマンド記憶領域 223a
- 入賞情報格納エリア 223b
- 特別図柄保留球数カウンタ 223c
- 特図変動開始フラグ 223d
- 停止種別選択フラグ 223e
- 演出カウンタ 223f
- 従状態設定エリア 223g
- 普通図柄保留球数カウンタ 223h
- 時短中カウンタ 223da
- 天井時短カウンタ 2231a
- 後乗せフラグ 2231b
- 特図抽選回数カウンタ 2231c
- 報知済フラグ 2231aa
- その他メモリエリア 223z

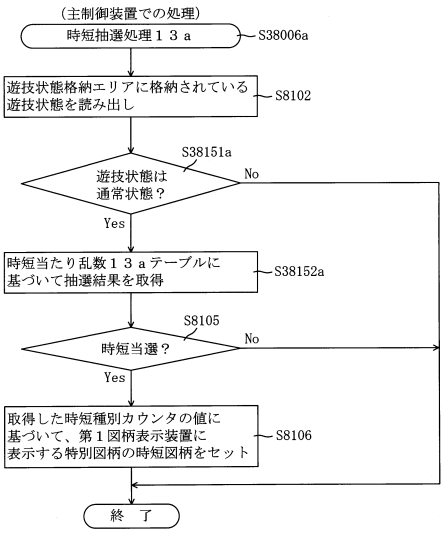
【図４６７】

222

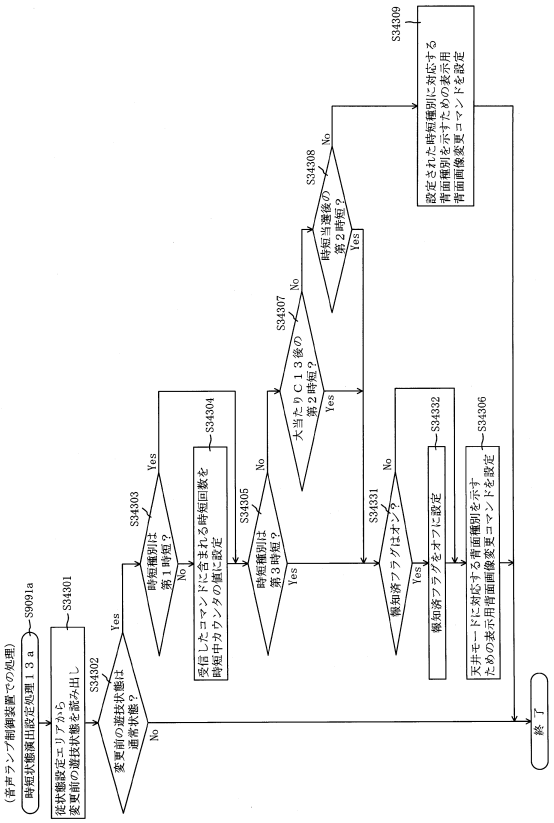
遊技状態示唆演出選択１３ａテーブル2221aa

特図抽選回数カウンタ2231c	遊技状態	抽選結果	演出カウンタ223f(0～99)	示唆態様
1～200までの50の倍数以外	第１通常（通常）	大当たり	0～79	V
			80～99	チャンス
		それ以外	0～89	?
			90～99	チャンス
	第２通常（第１時短）	大当たり	0～79	V
			80～99	チャンス
		それ以外	0～49	?
			50～99	チャンス
50,100,150,200	第１通常（通常）	大当たり	0～99	V
		それ以外	0～39	?
			40～99	チャンス
	第２通常（第１時短）	大当たり	0～99	V
		それ以外	0～19	?
			20～99	チャンス
201～490までの50の倍数以外	第１通常（通常）	大当たり	0～89	V
			90～99	チャンス
		それ以外	0～69	?
			70～99	チャンス
	第２通常（第１時短）	大当たり	0～89	V
			90～99	チャンス
		それ以外	0～19	?
			20～99	チャンス
250, 300, 350, 400, 450	第１通常（通常）	大当たり	0～99	V
		それ以外	0～49	?
			50～99	チャンス
	第２通常（第１時短）	大当たり	0～99	V
		それ以外	0～49	チャンス
			50～99	準備
491～500	第１通常（通常）	大当たり	0～69	V
			70～99	チャンス
		それ以外	0～99	チャンス
	第２通常（第１時短）	大当たり	0～79	V
			80～99	チャンス
		それ以外	0～98	準備
			99	チャンス

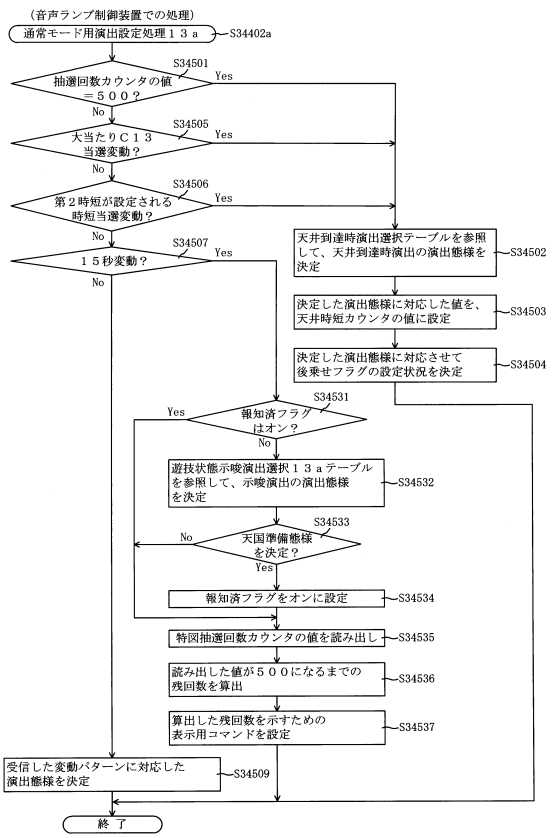
【図４６８】



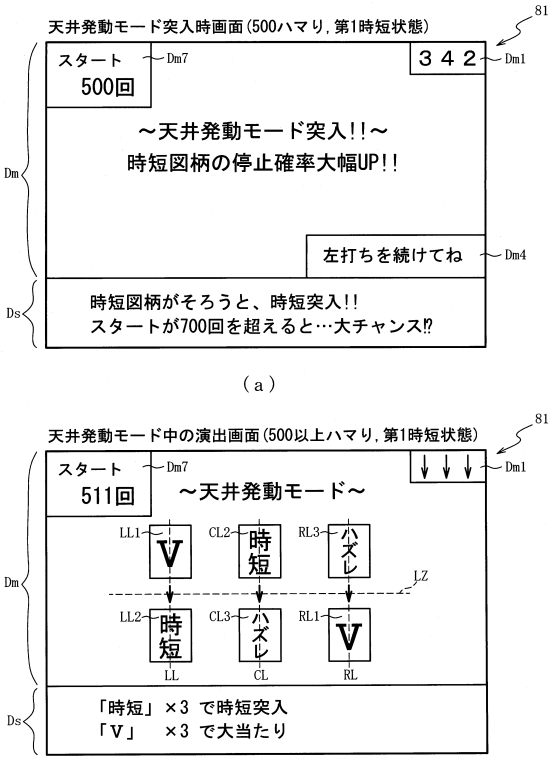
【図４６９】



【図４７０】



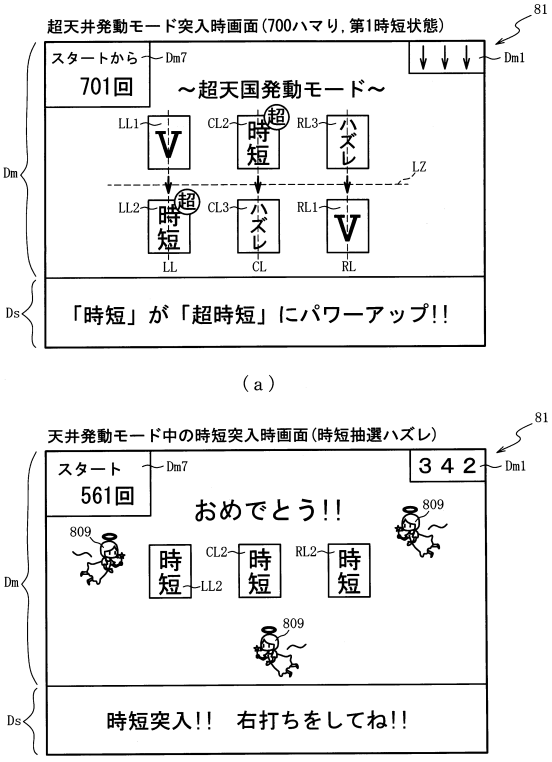
【図４７１】



（ａ）

（ｂ）

【図４７２】



（ａ）

（ｂ）

【図４７３】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数１３テーブル	202la
変動パターン選択５テーブル	202db
第２当たり１３乱数テーブル	202lc
大当たり種別選択１３テーブル	202ld
時短当たり乱数１４テーブル	202me
時短種別選択１４テーブル	202mf

（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
特図抽選カウンタ	2031a
第１天井待機フラグ	2031b
第２天井待機フラグ	2031c
第３天井待機フラグ	203ma
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図４７４】

（ａ）

時短当たり乱数１４テーブル202me

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
共通	通常 第１時短	100～999
	それ以外	－

（ｂ）

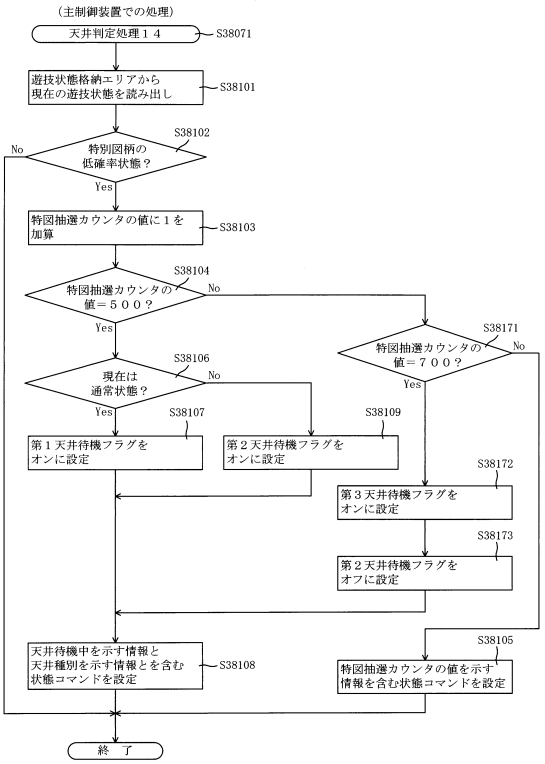
天井用１４テーブル202mf2

時短種別	天井時短設定時のハマリ回数	時短カウンタ203h
第２時短	501～700	300
	700～	10000

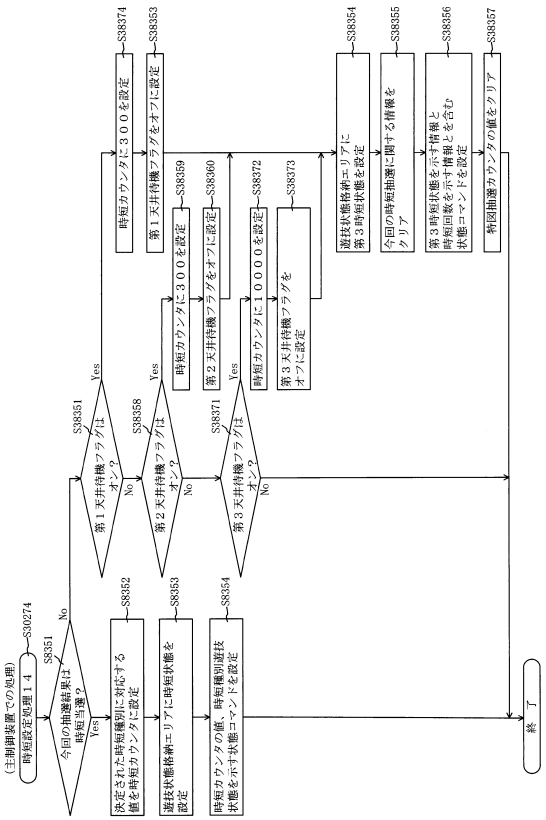
【図４７５】

RAM	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
時短中カウンタ	223da
天井時短カウンタ	2231a
後乗せフラグ	2231b
特図抽選回数カウンタ	2231c
天井発動モード中フラグ	223ma
その他メモリエリア	223z

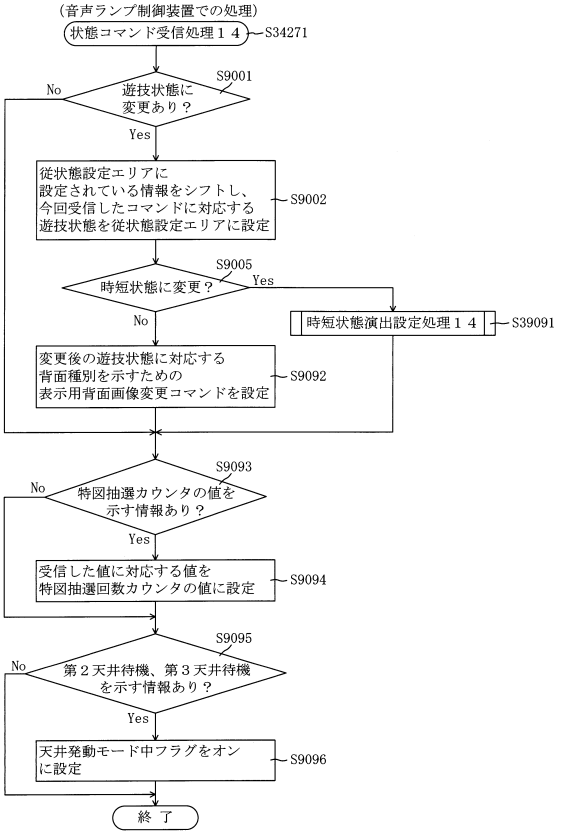
【図４７６】



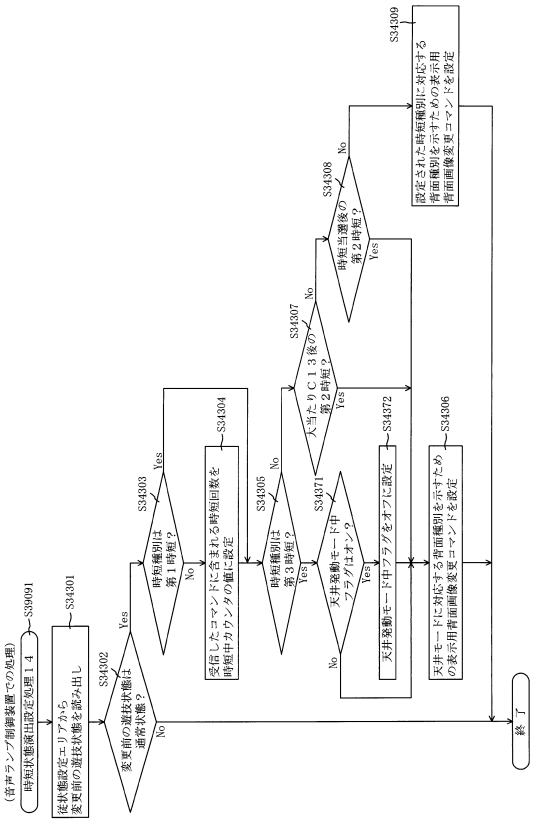
【図４７７】



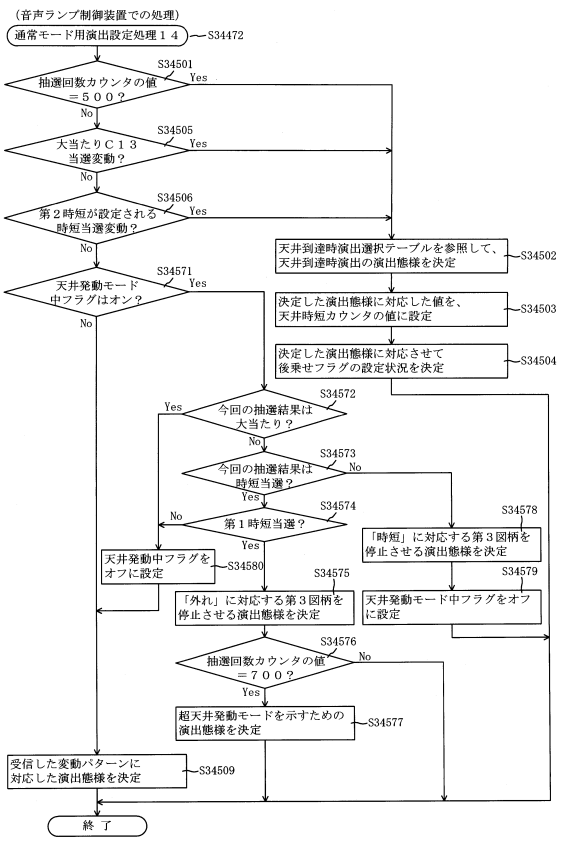
【図４７８】



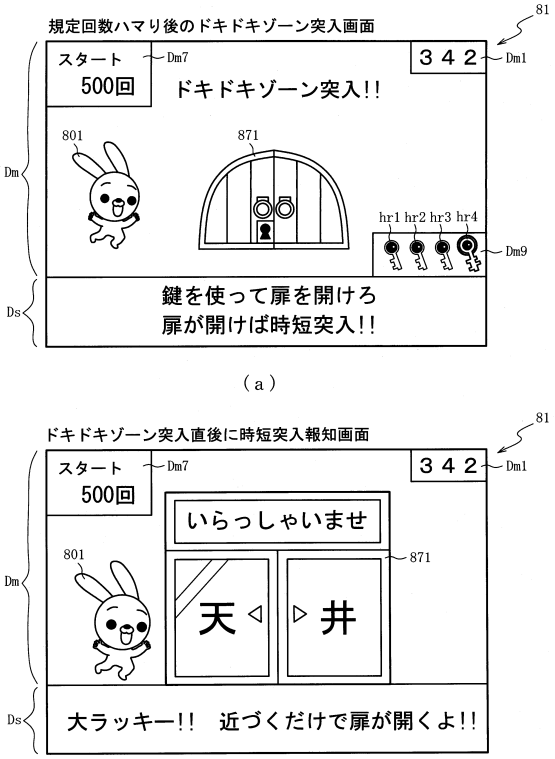
【図４７９】



【図４８０】



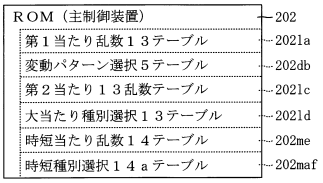
【図４８１】



（ａ）

（ｂ）

【図４８２】

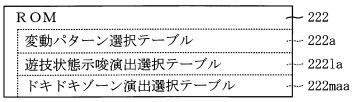


【図４８３】

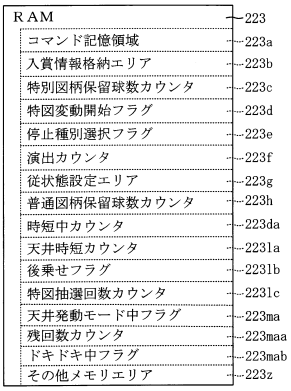
時短当選用１４ａテーブル202maf1

時短種別	時短種別選択カウンタＣＣ１（0～999）	時短カウンタ203h
第１時短	0～99	100
	100～199	101
	200～299	102
	300～599	200
	600～899	300
第２時短	900～999	300

【図４８４】



（ａ）



（ｂ）

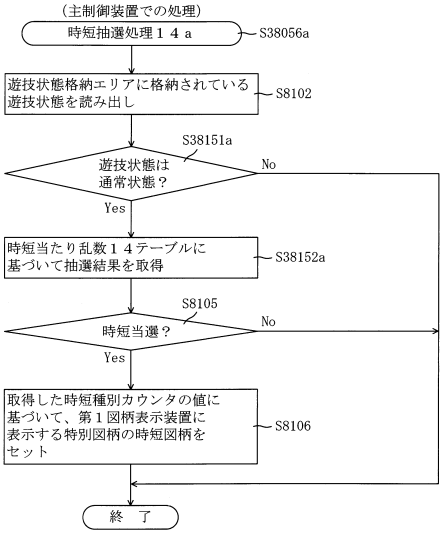
【図４８５】

222

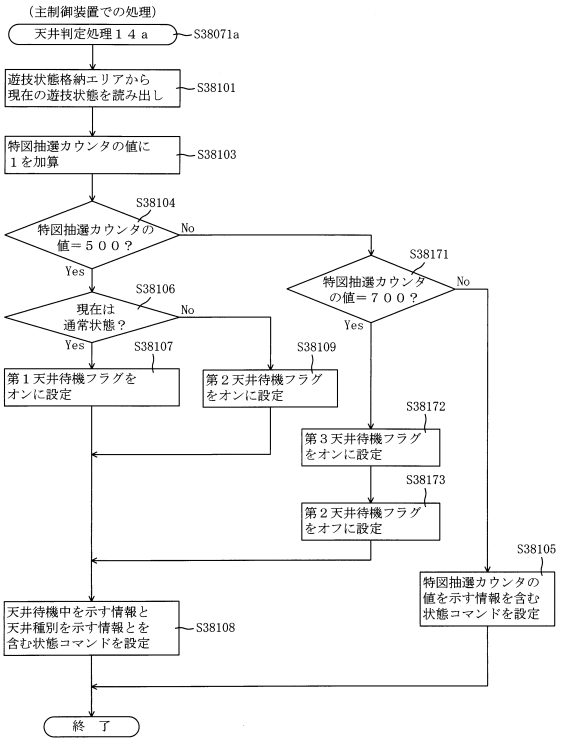
ドキドキゾーン演出選択テーブル222maa

残回数カウンタ223maa	先読み結果	演出カウンタ223f(0～99)		
		0～49	50～89	90～99
1	－	自動ドア		
2	全外れ	保２強カギ	ノーマル	自動ドア
	当たりあり	自動ドア	保２強カギ	
3	全外れ	保３強カギ	自動ドア	ノーマル
	当たりあり	自動ドア		ノーマル
4	全外れ	保４強カギ	自動ドア	
	当たりあり	保４強カギ	自動ドア	ノーマル
5～20	全外れ	チャンス		ランダム強カギ
	当たりあり	ノーマル	当保強カギ	自動ドア
21～100	全外れ	チャンス	ノーマル	
	当たりあり	当保強カギ	自動ドア	ノーマル
101～300	全外れ	ノーマル		チャンス
	当たりあり	自動ドア	当保強カギ	ノーマル

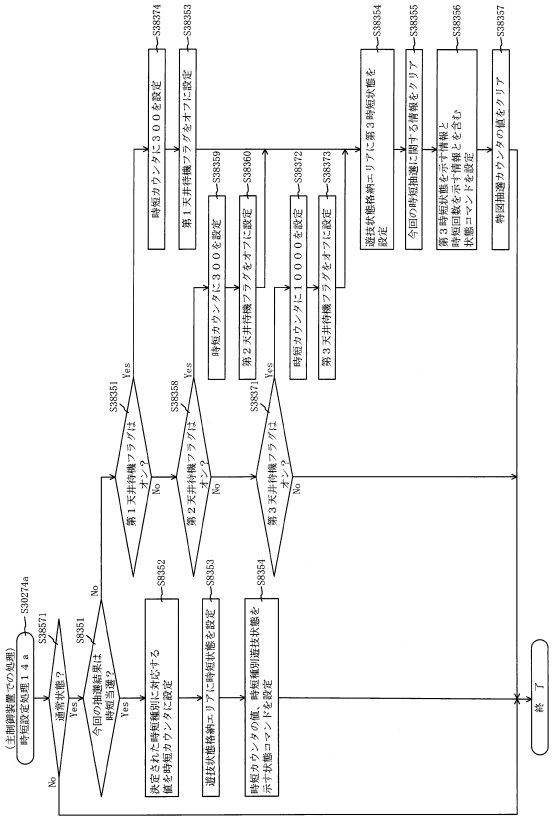
【図４８６】



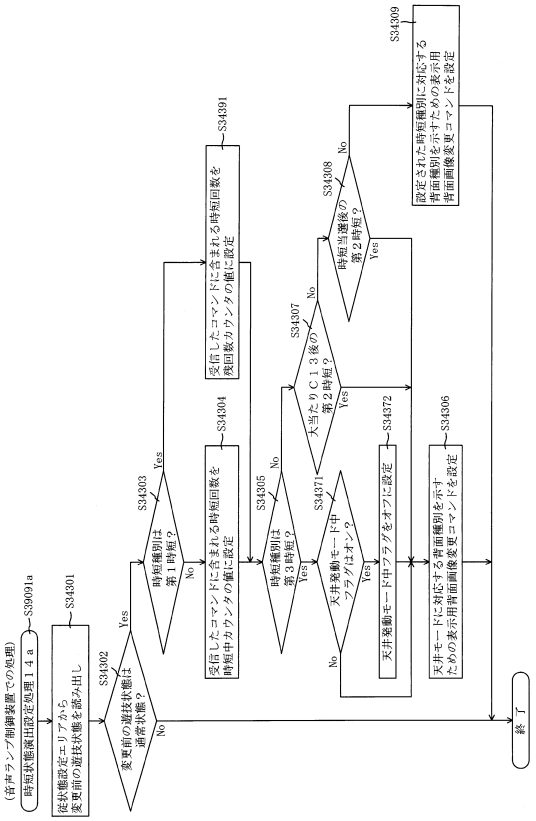
【図４８７】



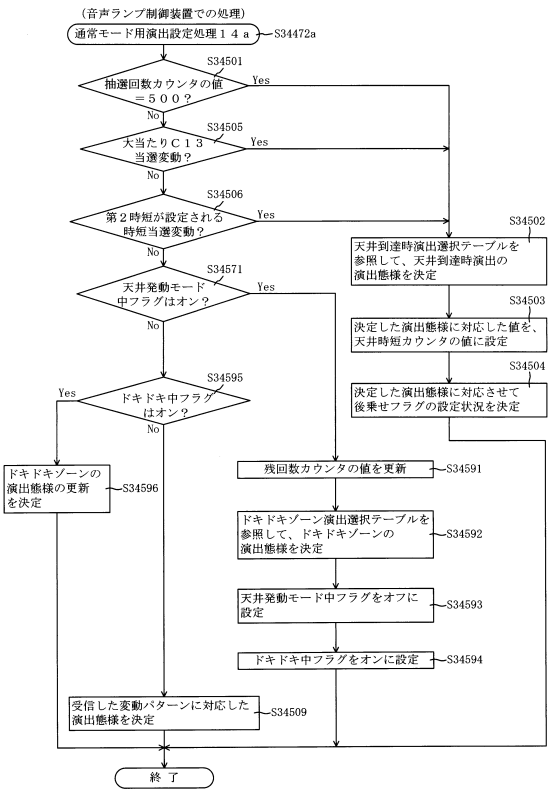
【図４８８】



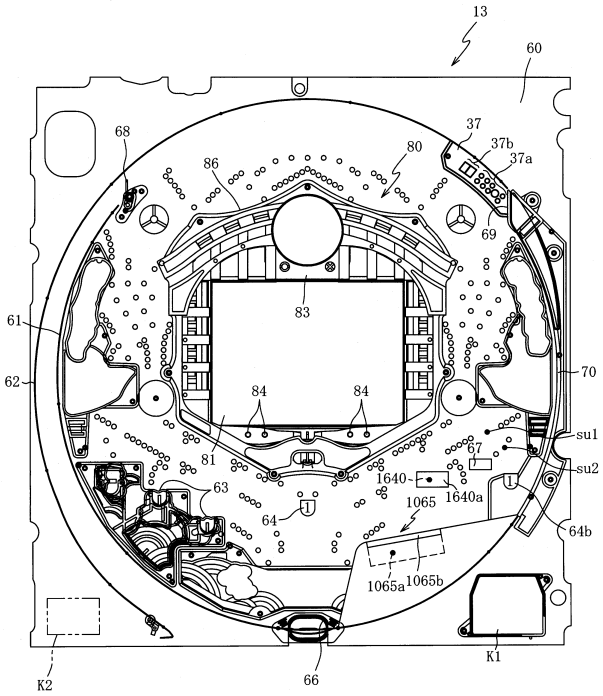
【図４８９】



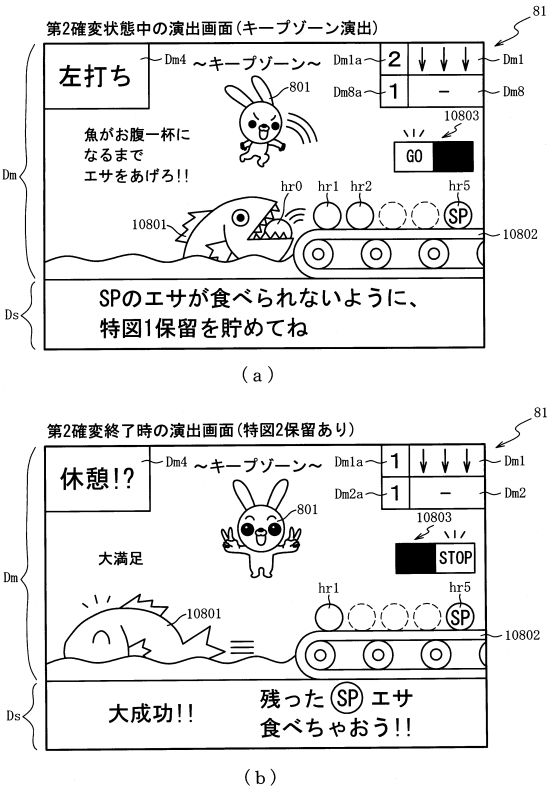
【図４９０】



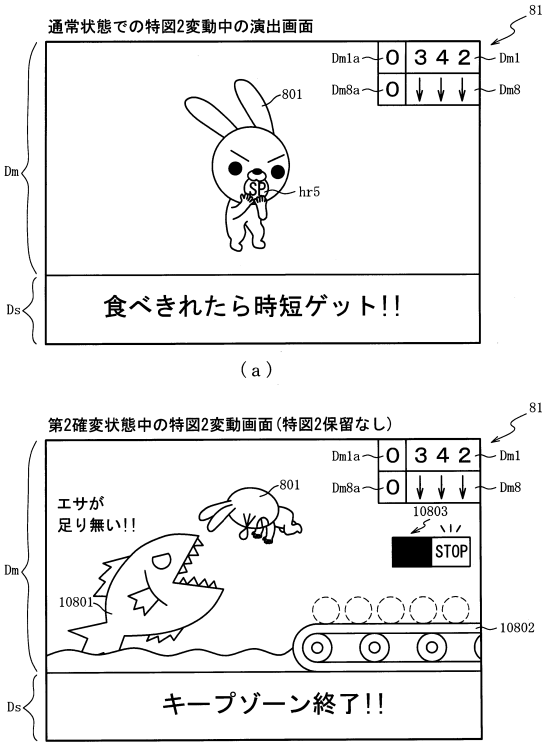
【図４９１】



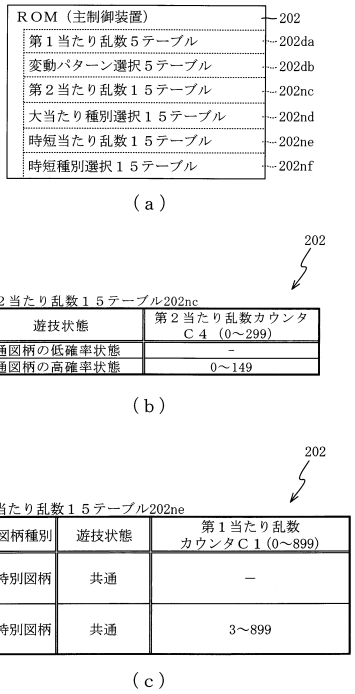
【図４９２】



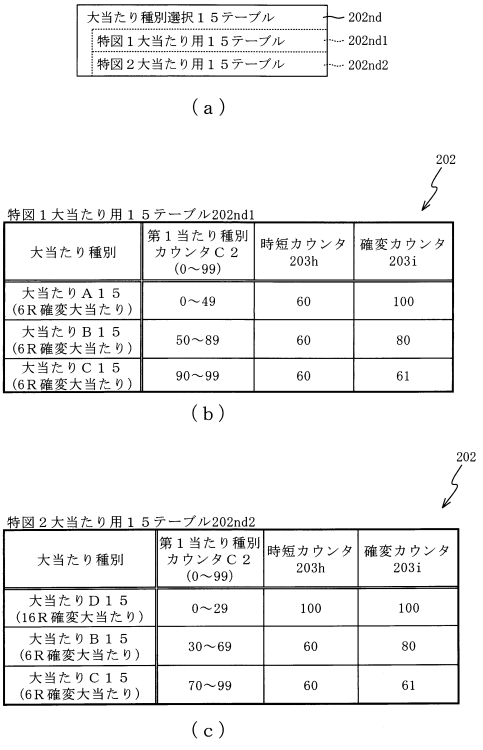
【図４９３】



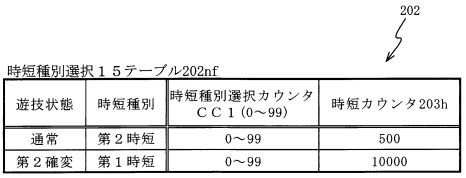
【図４９４】



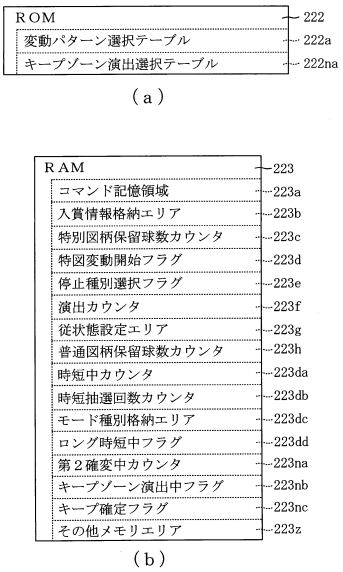
【図４９５】



【図４９６】



【図４９７】



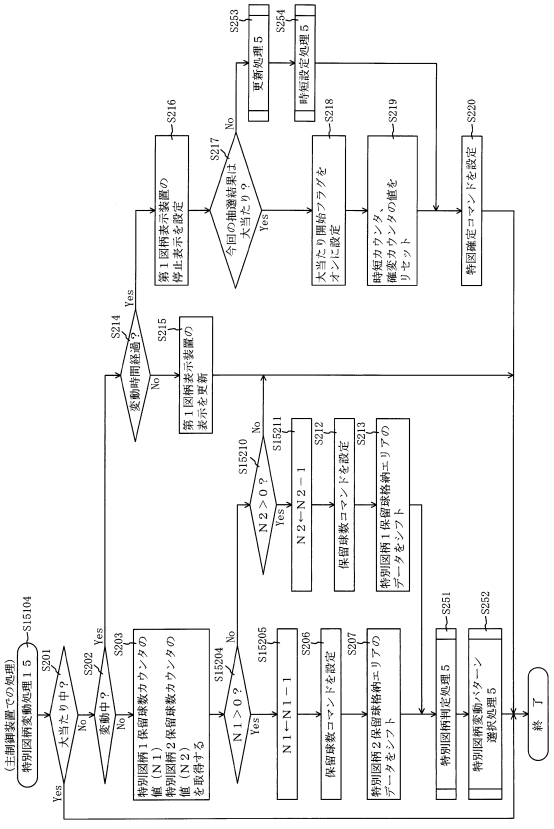
【図４９８】

222

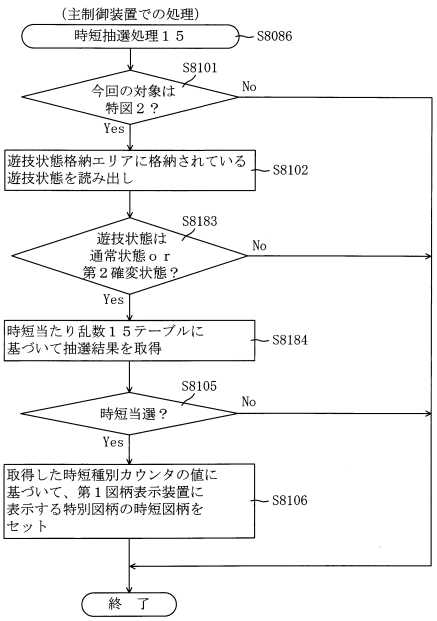
キープゾーン演出選択テーブル222na

第２確変状態残期間	特図１変動時間（S）	演出カウンタ223f（0～99）	示唆態様１（コンベア）	示唆態様２（サカナ）
40	短時間（～60）	0～79	高速	大食漢
		80～99	高速	小食
	長時間（60～）	0～99	低速	小食
20	短時間（～60）	0～39	高速	大食漢
		40～99	低速	小食
	長時間（60～）	0～99	低速	小食
1	－	0～99	低速	プレミア

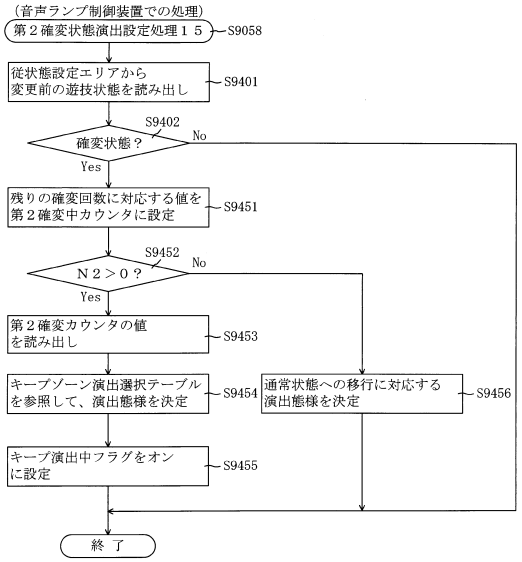
【図４９９】



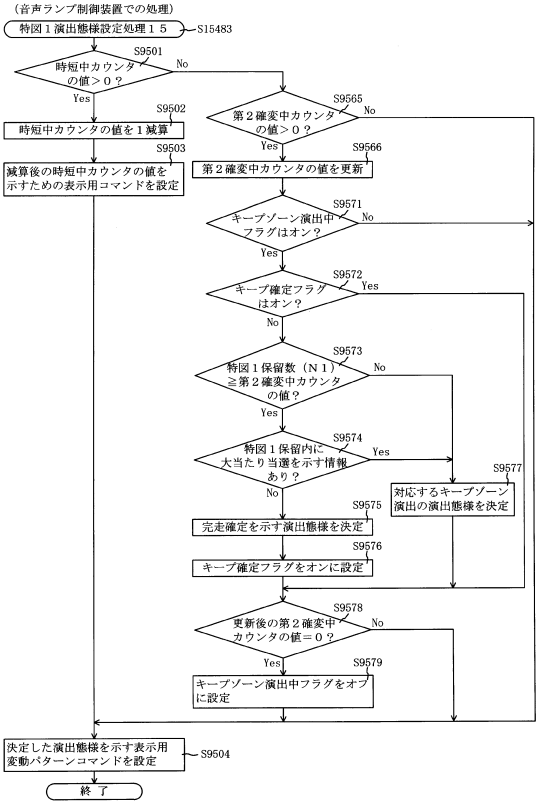
【図５００】



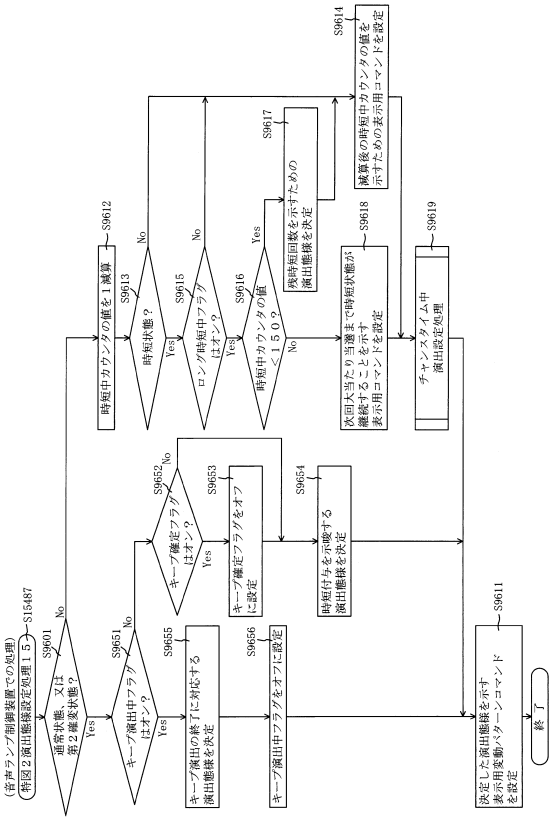
【図５０１】



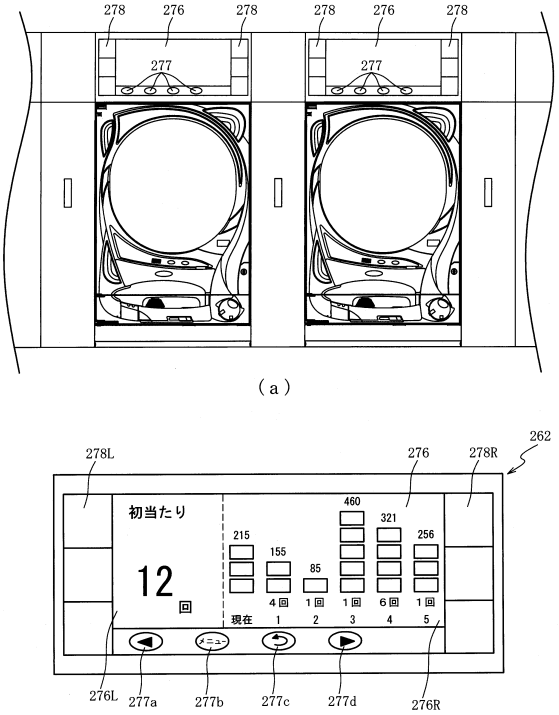
【図５０２】



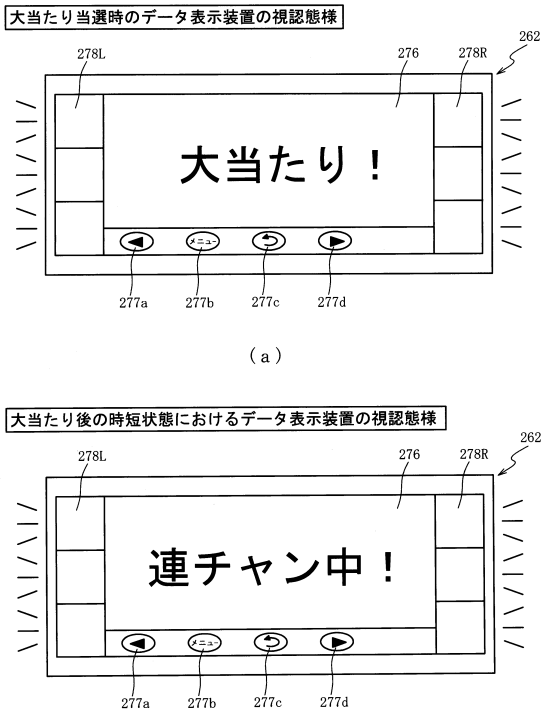
【図５０３】



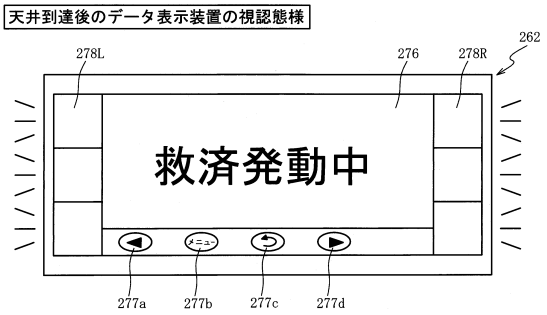
【図５０４】



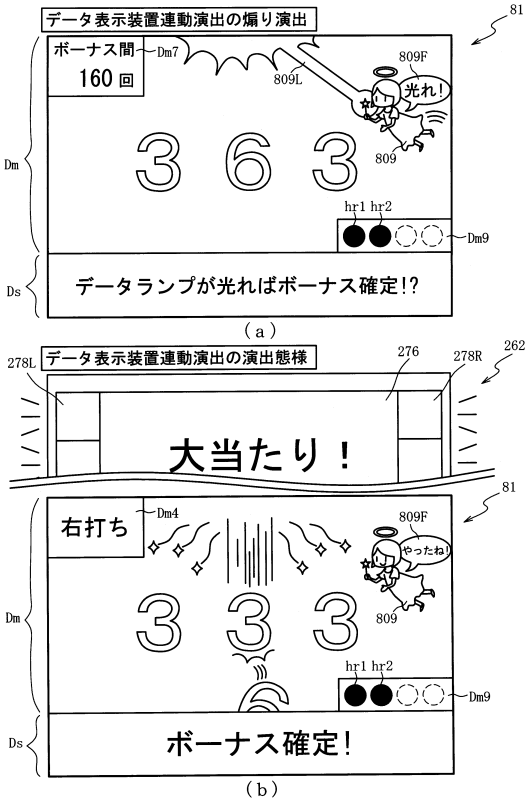
【図５０５】



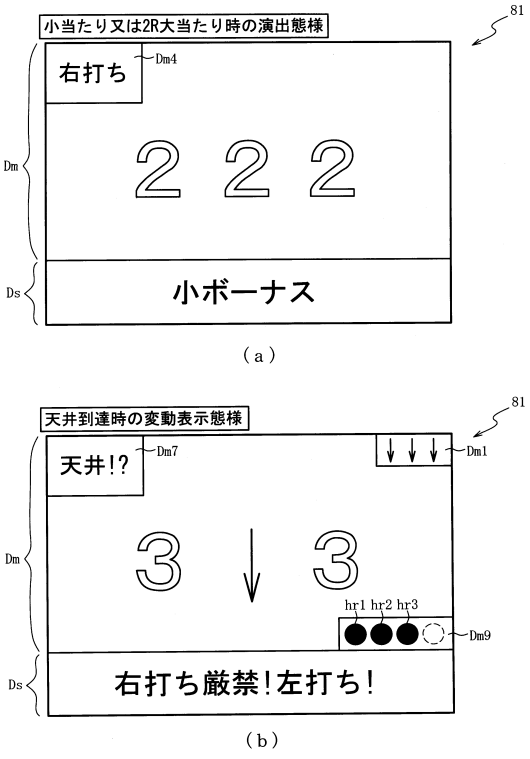
【図５０６】



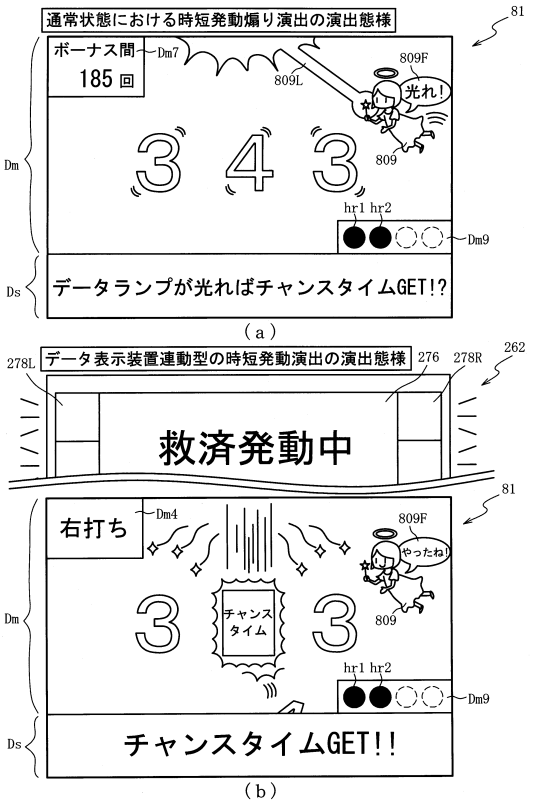
【図５０７】



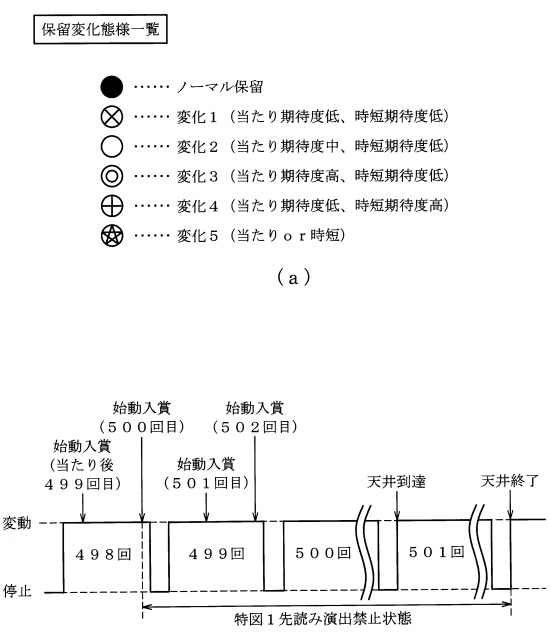
【図５０８】



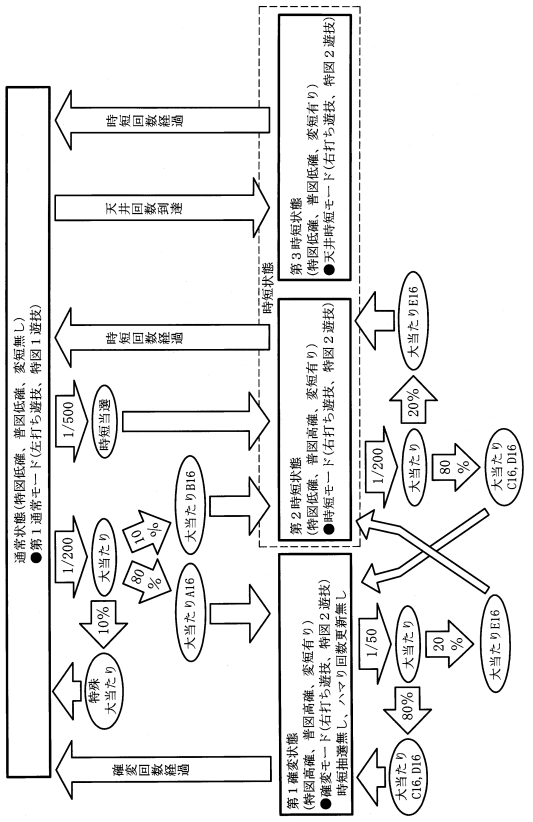
【図５０９】



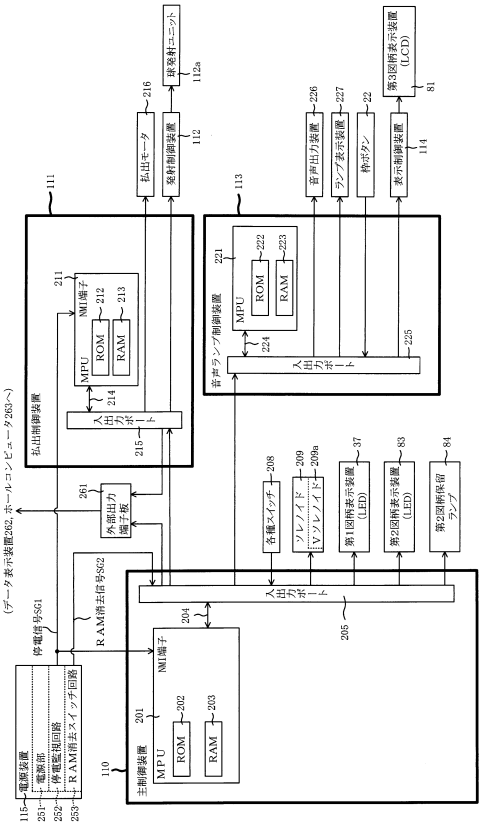
【図５１０】



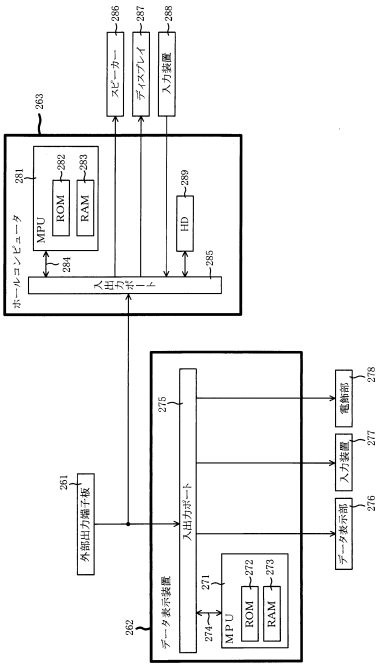
【図５１１】



【図５１２】



【図５１３】

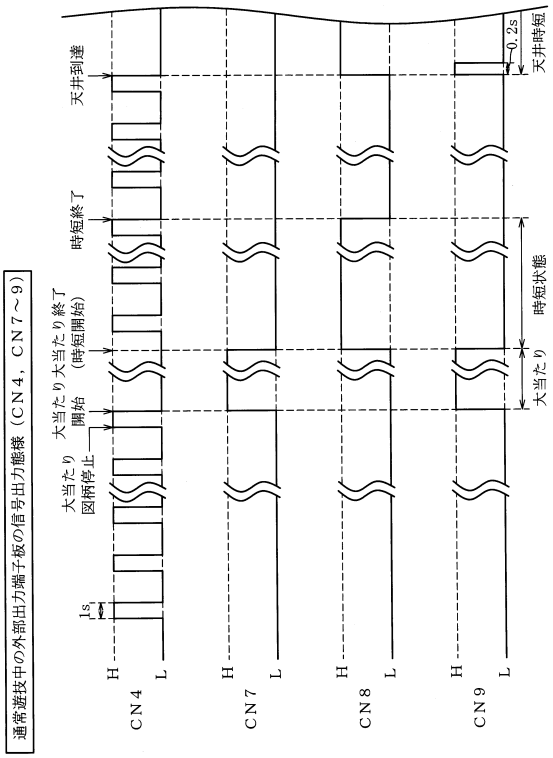


【図５１４】

外部出力信号一覧

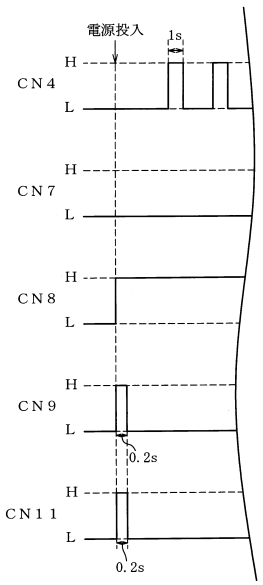
出力チャンネル	出力信号	概要
ＣＮ１	払出信号	払出モータにより実際に払い出した賞球を１０個検出する度に０．２秒間Ｈを出力
ＣＮ２	内枠開放信号	内枠が開放されている間はＨを出力
ＣＮ３	扉開放信号	前面枠が開放されている間はＨを出力
ＣＮ４	図柄停止信号	特別図柄の変動が停止する度に１秒間Ｈを出力
ＣＮ５	始動口信号	球が第１入球口、および第２入球口へと入球する度に０．２秒間Ｈを出力
ＣＮ６	アウト球検出信号	アウト球を１０球検出する毎に０．２秒間Ｈを出力
ＣＮ７	大当たり１信号	大当たり状態の間はＨを出力
ＣＮ８	大当たり２信号	時短状態の間はＨを出力
ＣＮ９	大当たり３信号	大当たり状態の間、天井到達時、および天井終了時にＨを出力
ＣＮ１０	入賞検出信号	球の入賞に基づいて払い出すべき賞球数が１０球となる毎に０．２秒間Ｈを出力
ＣＮ１１	セキュリティ信号	電源投入時、各種異常検出時にＨを出力

【図５１５】



【図５１６】

電源投入時が天井時短状態の場合の信号出力態様（ＣＮ４，ＣＮ７～９，ＣＮ１１）



【図５１７】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数１６テーブル	202pa
変動パターン選択１６テーブル	202pb
第２当たり１３乱数テーブル	2021c
大当たり種別選択１６テーブル	202pd
時短当たり乱数１６テーブル	202pe

（ａ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
特図抽選カウンタ	2031a
天井時短フラグ	203pa
アウト球カウンタ	203pb
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図５１８】

202

第１当たり乱数１６テーブル202pa

抽選結果	遊技状態	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
大当たり	特別図柄の低確率状態	0～4
	特別図柄の高確率状態	0～19
小当たり	共通	20～44

（ａ）

変動パターン選択１６テーブル	202pb
通常用１６テーブル	202pb1
確変・時短用１６テーブル	202pb2

（ｂ）

202

通常用１６テーブル202pb1

変動回数	図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間（S）
500	共通	共通	0～198	スーパー	30
上記以外	共通	当たり	0～19	ノーマル	15
			20～169	スーパー	30
			170～198	ＳＰ	55
		特殊当たり小当たり	0～198	ノーマル	15
		外れ（時短）	0～169	スーパー	30
			170～198	ＳＰ	55
		外れ	0～149	短外れ	5
			150～189	長外れ	10
			190～196	ノーマルリーチ外れ	15
			197	スーパーリーチ外れ	30
			198	ＳＰリーチ外れ	55

（ｃ）

【図５１９】

202

大当たり種別選択１６テーブル202pd

特図種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h	確変カウンタ203i	大当たり後の遊技状態
特図１	大当たりＡ１６（4R確変大当たり）	0～79	80	80	第１確変
	大当たりＢ１６（4R時短大当たり）	80～89	100	0	第２時短
	特殊大当たり ※	90～99	0	0	通常
特図２	大当たりＣ１６（10R確変大当たり）	0～49	80	80	第１確変
	大当たりＤ１６（6R確変大当たり）	50～79	80	80	第１確変
	大当たりＥ１６（6R時短大当たり）	80～99	100	0	第２時短

※時短状態中に当選した場合は時短１００回付与

（ａ）

202

時短当たり乱数１６テーブル202pe

特図種別	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～999）
特図１	998, 999
特図２	－

（ｂ）

【図５２０】

ＲＯＭ	222
変動パターン選択テーブル	222a
保留態様選択テーブル	222pa
時短示唆演出選択テーブル	222pb

（ａ）

ＲＡＭ	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
時短中カウンタ	223da
天井時短カウンタ	2231a
後乗せフラグ	2231b
特図抽選回数カウンタ	2231c
ボーナス間カウンタ	223pa
ボーナス履歴格納エリア	223pb
先読み抑制フラグ	223pc
普図変動時間タイマ	223pd
連動演出フラグ	223pe
その他メモリエリア	223z

（ｂ）

【図５２１】

222

保留態様選択テーブル222pa

変動種別	演出カウンタ値223f(0～99) ノーマル保留	変化1	変化2	変化3	変化4	変化5
ＳＰリーチ当たり	0～4	5～19	20～44	45～84	85～89	90～99
スーパーリーチ当たり	0～9	10～29	30～59	60～89	90～93	94～99
ノーマルリーチ当たり	0～19	20～44	45～79	80～96	97	98,99
ＳＰリーチ時短	0～4	5～19	20～44	45～64	65～89	90～99
スーパーリーチ時短	0～9	10～29	30～64	65～79	80～93	94～99
ＳＰリーチ外れ	0～9	10～39	40～79	80～98	99	－
スーパーリーチ外れ	0～19	20～74	75～98	99	－	－
ノーマルリーチ外れ	0～49	50～94	95～99	－	－	－
スーパーリーチ外れ（天井）	0～39	40～49	50～53	54	55～84	85～99

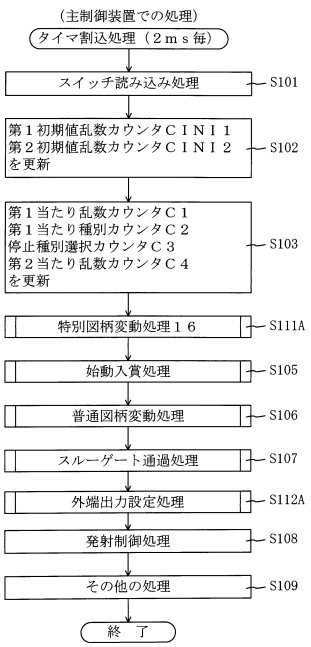
【図５２２】

222

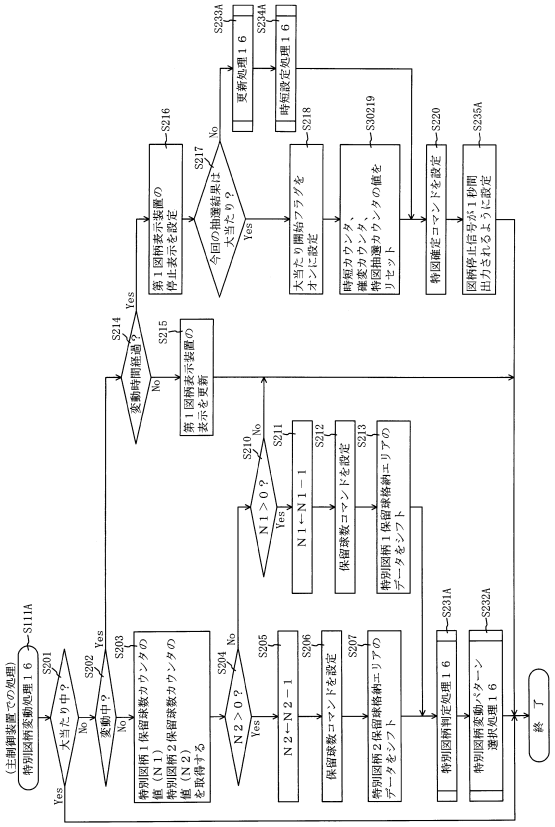
時短示唆演出選択テーブル222pb

特図抽選回数カウンタ2231c	前回のボーナス後又は最古の小ボーナス後の抽選回数	抽選結果	演出カウンタ223f(0～99)	示唆態様
496～500	共通	共通	0～59	時短示唆（強）
			60～89	時短示唆（弱）
			90～99	－
上記以外	496～500	確変大当たり／時短大当たり	0～4	時短示唆（弱）
			5～99	－
		時短当選	0～49	時短示唆（強）
			50～74	時短示唆（弱）
			75～99	－
		上記以外	0～4	時短示唆（強）
			5～49	時短示唆（弱）
			50～99	－
	上記以外	確変大当たり／時短大当たり	0～4	時短示唆（弱）
			5～99	－
		時短当選	0～24	時短示唆（強）
			25～49	時短示唆（弱）
			50～99	－
		上記以外	0	時短示唆（強）
			1～4	時短示唆（弱）
			5～99	－

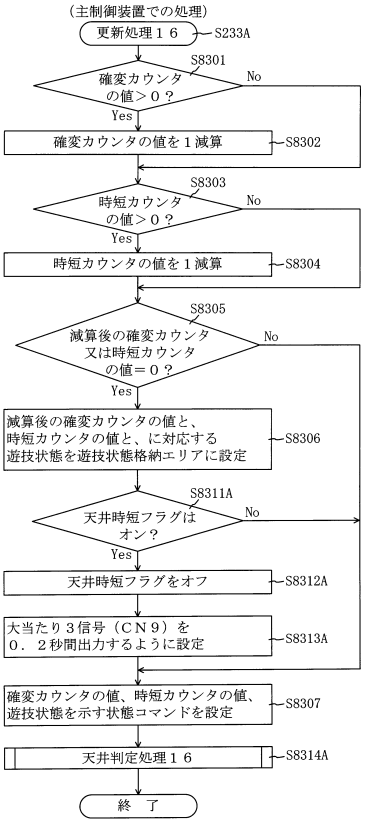
【図５２３】



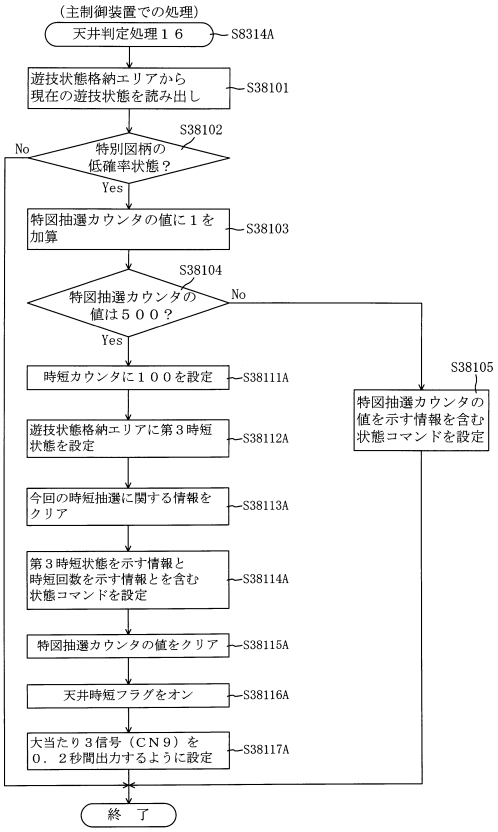
【図５２４】



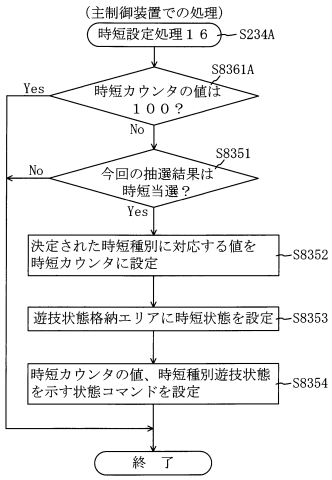
【図５２５】



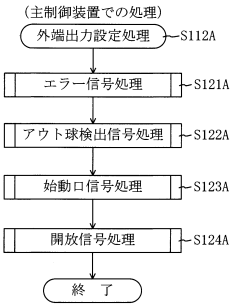
【図５２６】



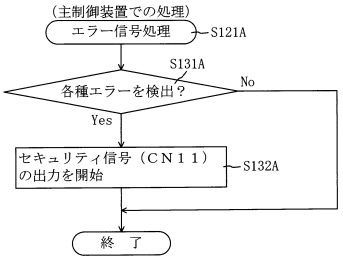
【図５２７】



【図５２８】

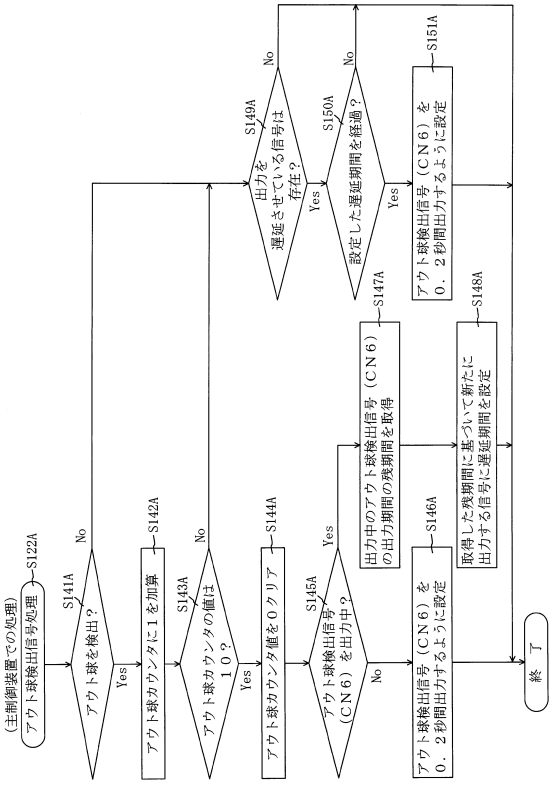


（ａ）

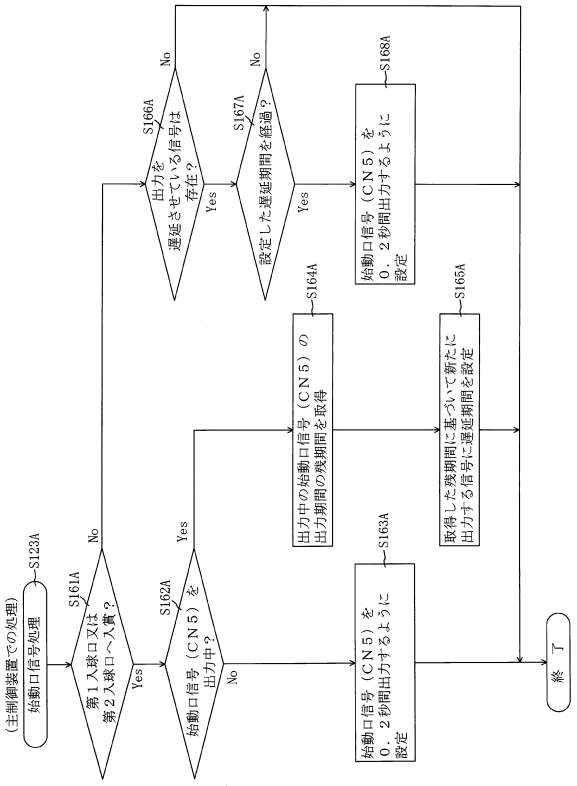


（ｂ）

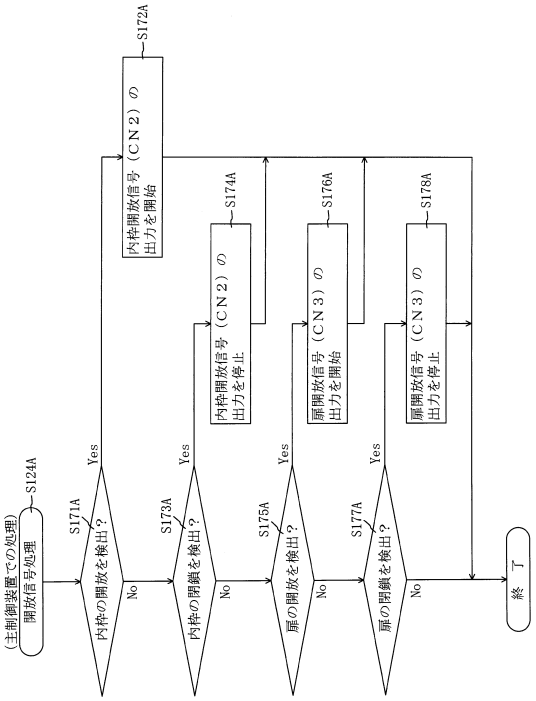
【図５２９】



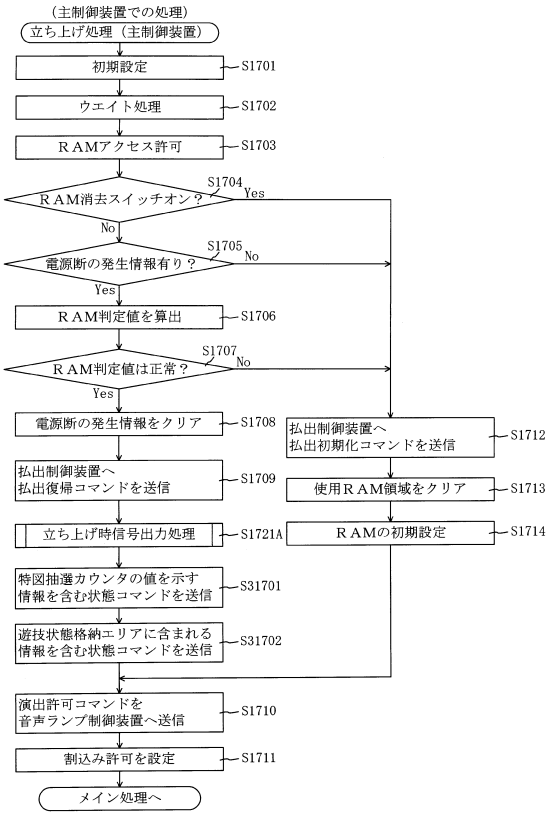
【図５３０】



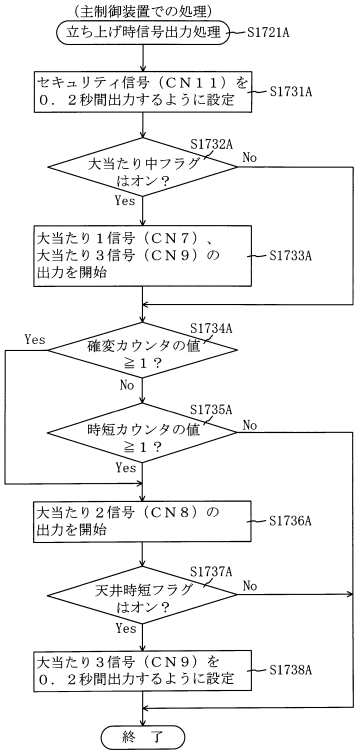
【図５３１】



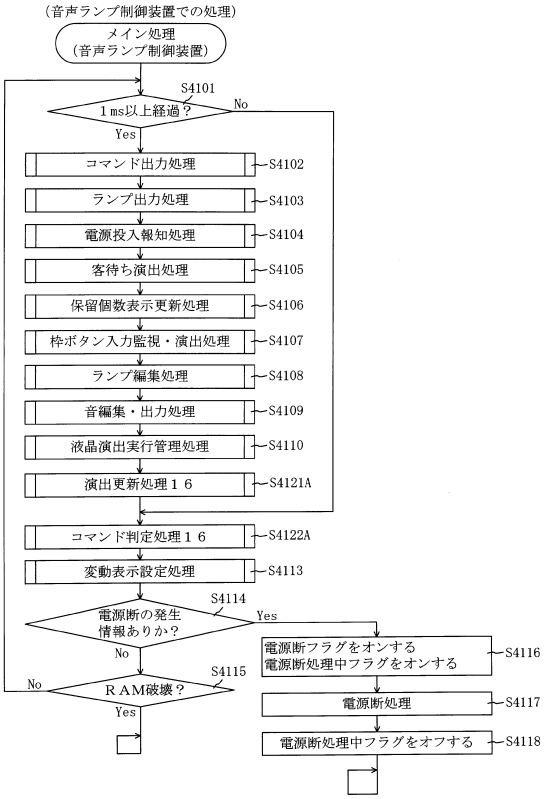
【図５３２】



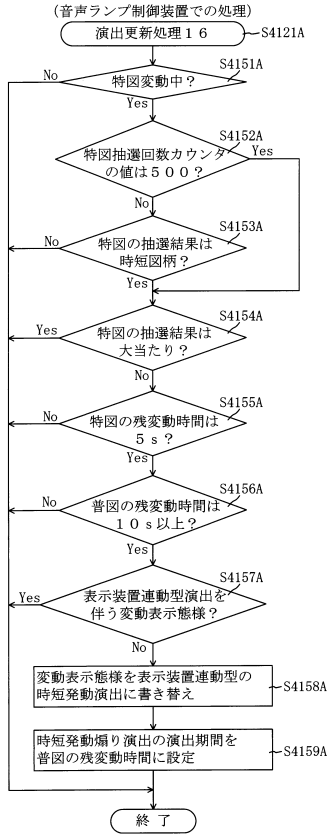
【図５３３】



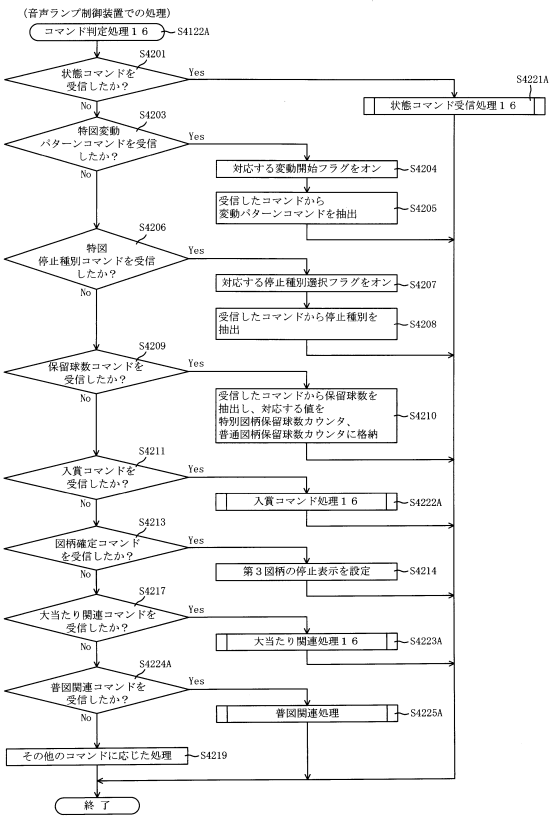
【図５３４】



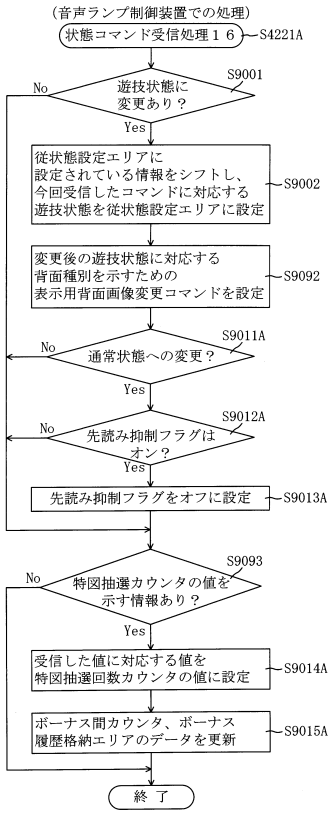
【図５３５】



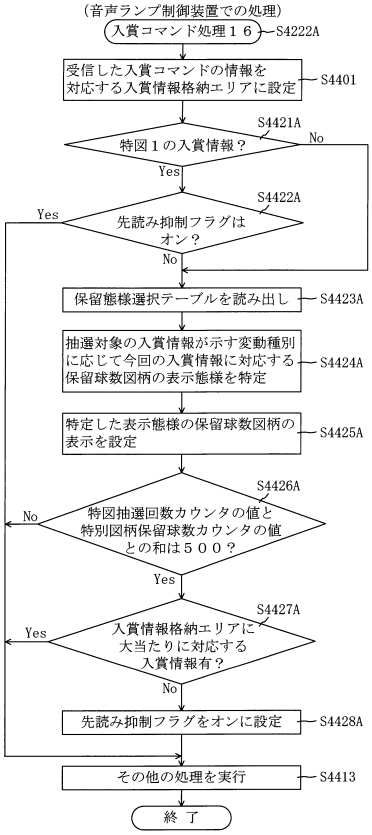
【図５３６】



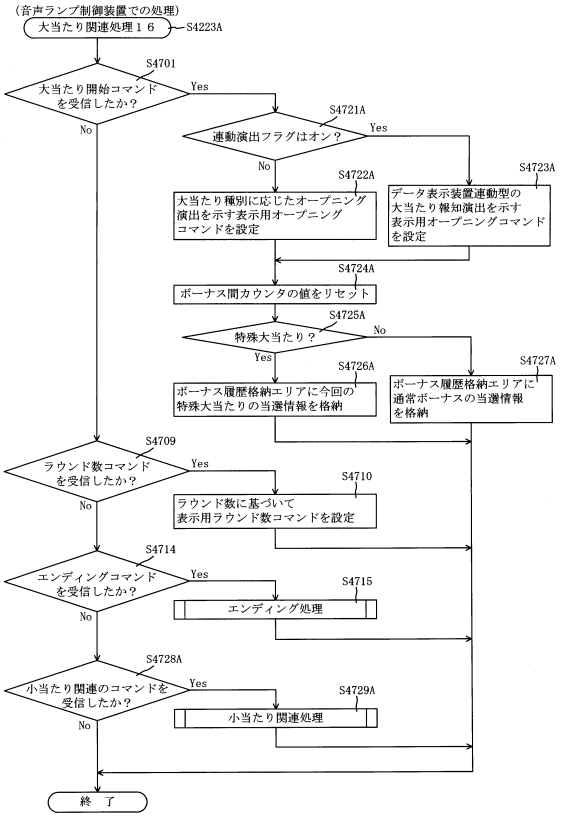
【図５３７】



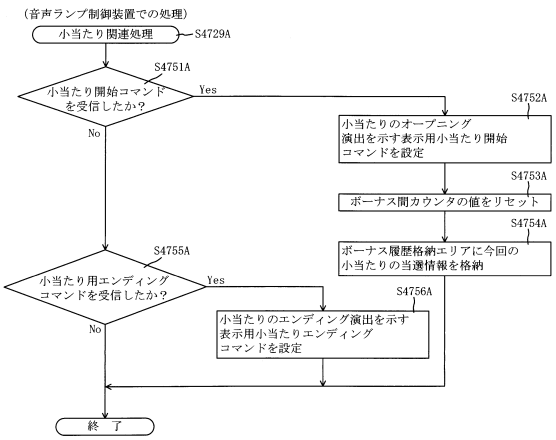
【図５３８】



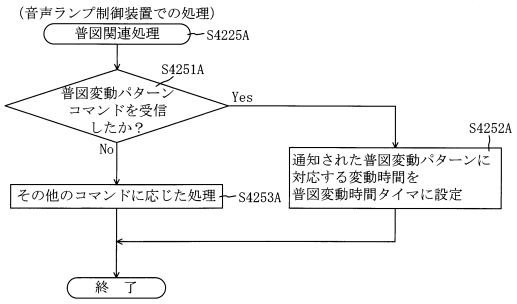
【図５３９】



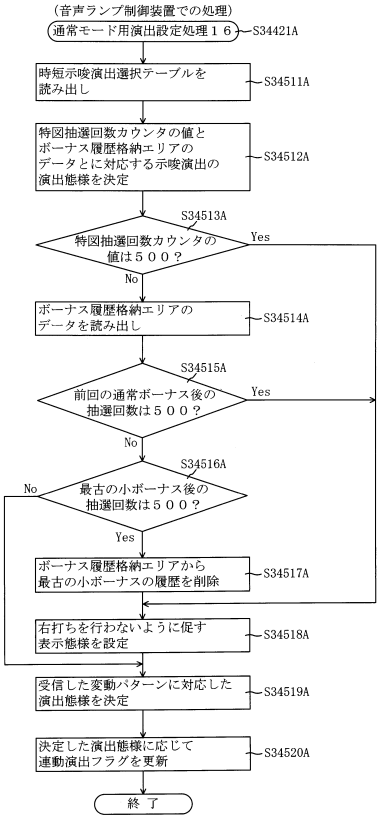
【図５４０】



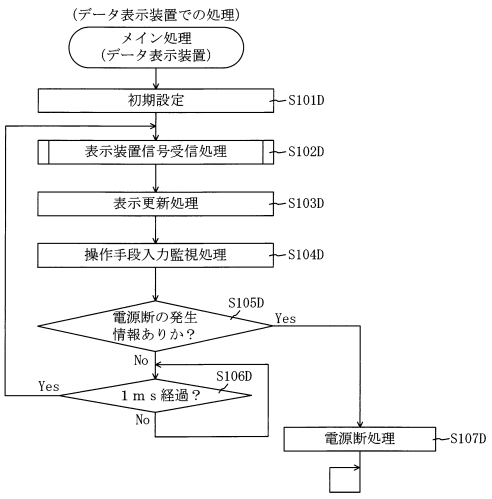
【図５４１】



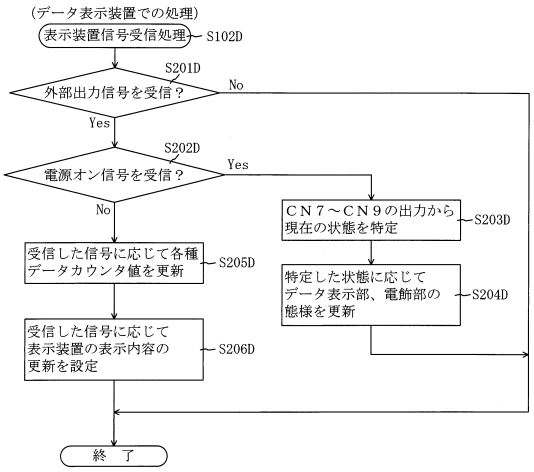
【図５４２】



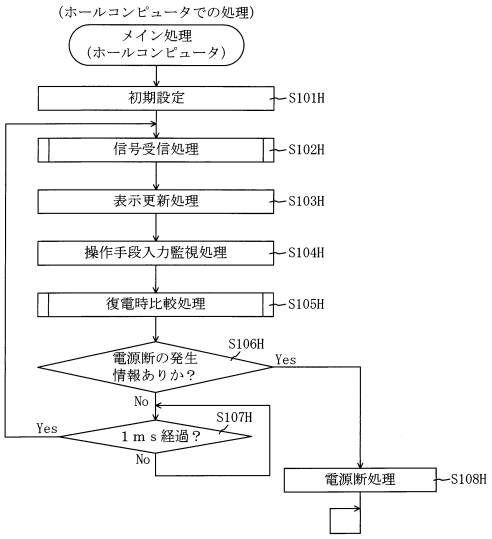
【図５４３】



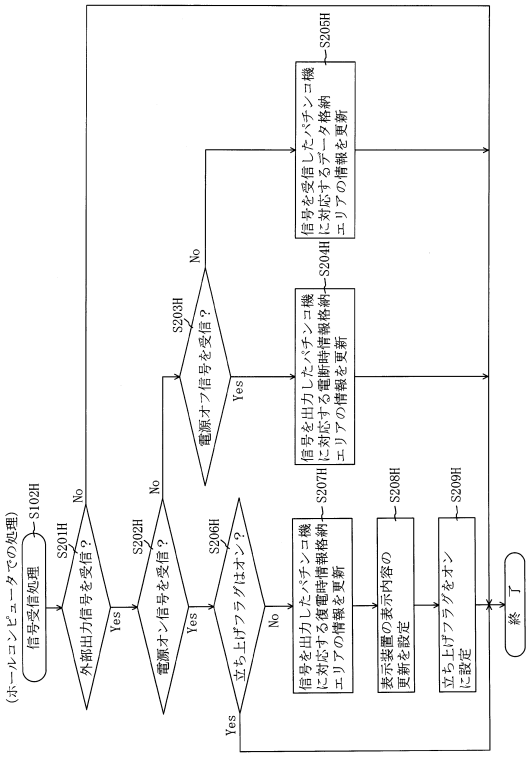
【図５４４】



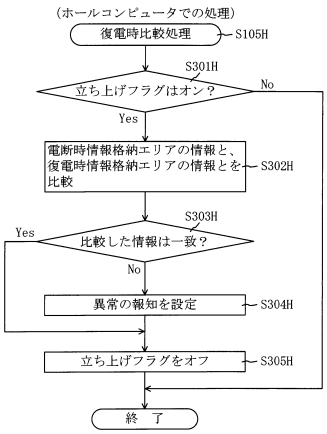
【図５４５】



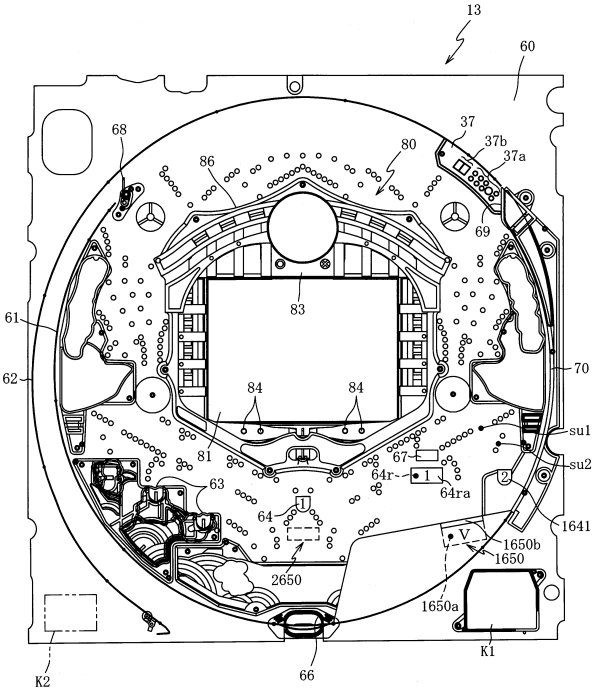
【図５４６】



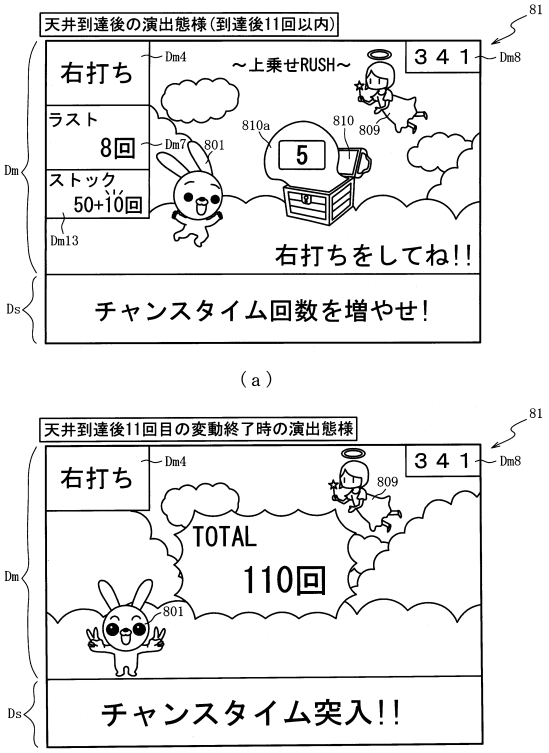
【図５４７】



【図５４８】



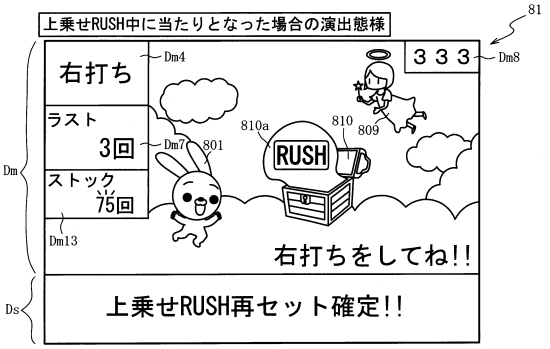
【図５４９】



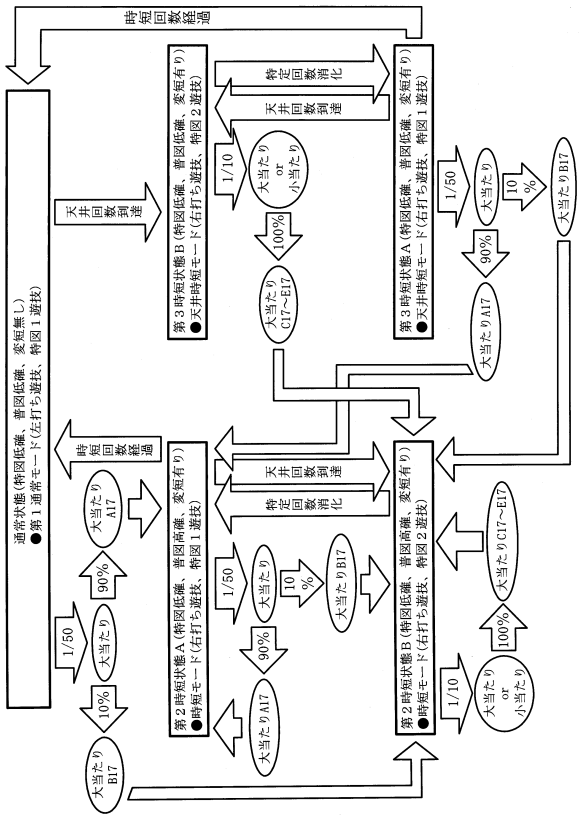
（ａ）

（ｂ）

【図５５０】



【図５５１】



【図５５２】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数１２テーブル	202ka
大当たり種別選択１７テーブル	202qb
第２当たり乱数１７テーブル	202qc
変動パターン１７テーブル	202qd
小当たり乱数１７テーブル	202qe
小当たり種別選択１７テーブル	202qf
開放シナリオ７テーブル	202fg
時短当たり乱数１７テーブル	202qh
時短当たり種別選択テーブル	202qi
変動パターンシナリオテーブル	202qj

【図５５３】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
時短リミット回数カウンタ	203ja
特図１変動時間タイマ	203ka
特図２変動時間タイマ	203kb
特図１変動停止フラグ	203ke
特図２変動停止フラグ	203kf
特図抽選カウンタ	203qa
大当たりフラグ	203qb
特図１小当たりフラグ	203qc
特図２小当たりフラグ	203qd
その他メモリエリア	203z

【図５５４】

大当たり種別選択１７テーブル	202qb
特図１大当たり用１７テーブル	202qb1
特図２大当たり用１７テーブル	202qb2

（ａ）

202

特図１大当たり用１７テーブル202qb1

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h
大当たりＡ１７（5R特図１時短大当たり）	0～89	51
大当たりＢ１７（5R特図２時短大当たり）	90～99	56

（ｂ）

202

特図２大当たり用１７テーブル202qb2

大当たり種別	第１当たり種別カウンタＣ２（0～99）	時短カウンタ203h
大当たりＣ１７（15R特図２時短大当たり）	0～84	86
大当たりＤ１７（8R特図２時短大当たり）	85～89	86
大当たりＥ１７（4R特図２時短大当たり）	90～99	86

（ｃ）

【図５５５】

202

第２当たり乱数１７テーブル202qc

遊技状態	第２当たり乱数カウンタＣ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～298
普通図柄の高確率状態	0～299

（ａ）

変動パターン１７テーブル	202qd
通常用テーブル	202qd1
特１時短用テーブル	202qd2
特２時短用テーブル	202qd3

（ｂ）

202

特１時短用テーブル202qd2

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第１特別図柄	外れ（小当たり）	短外れ（3秒）	0～198
	大当たり	短当たり（5秒）	0～198
第２特別図柄	時短当選	ロング外れ（600秒）	0～198
	大当たり小当たり	ロング当たり（600秒）	0～198

（ｃ）

【図５５６】

202

小当たり乱数１７テーブル202qe

特別図柄種別	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄	18～899
第２特別図柄	18～89

（ａ）

202

小当たり種別選択１７テーブル202qf

特別図柄種別	小当たり種別	小当たり種別カウンタＣ５（0～99）
第１特別図柄	小当たりＡ１７（Ｖ通過不可能）	0～99
第２特別図柄	小当たりＢ１７（Ｖ通過時大当たりＣ１７）	0～49
	小当たりＣ１７（Ｖ通過時大当たりＤ１７）	50～69
	小当たりＤ１７（Ｖ通過時大当たりＥ１７）	70～99

（ｂ）

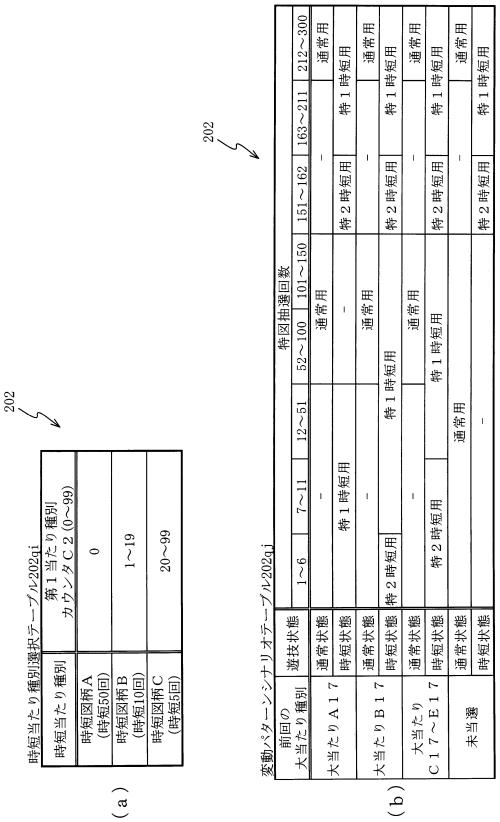
202

時短当たり乱数１７テーブル202qh

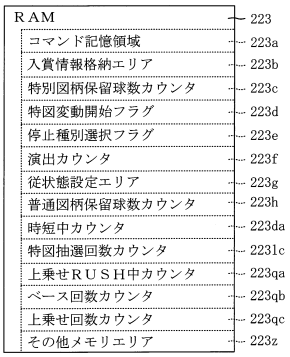
特別図柄種別	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～899）
第１特別図柄	－
第２特別図柄	90～899

（ｃ）

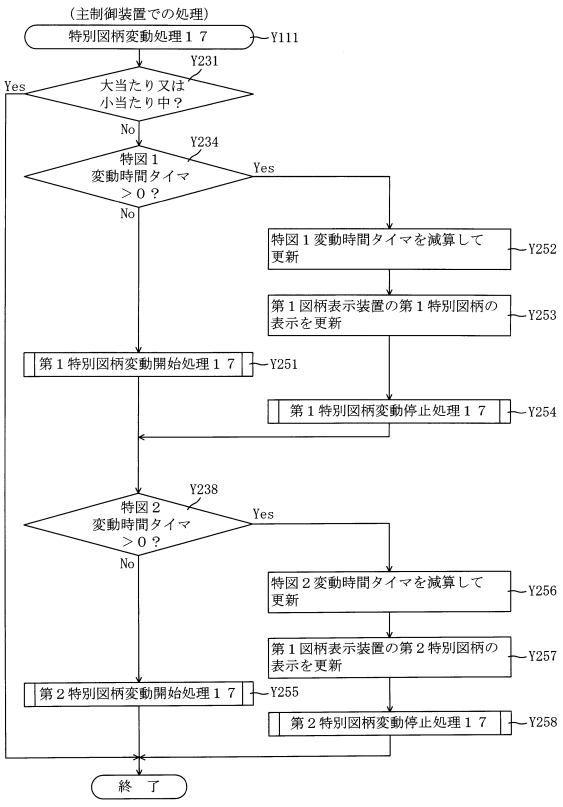
【図５５７】



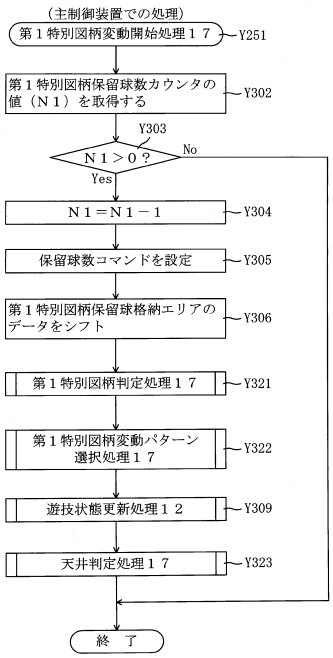
【図５５８】



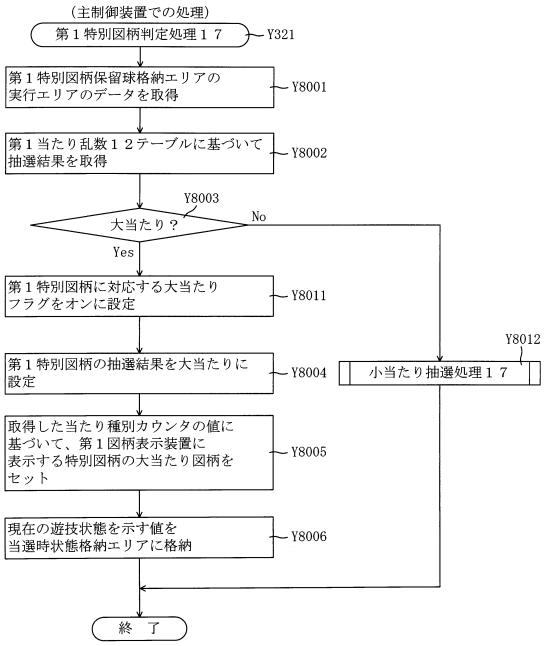
【図５５９】



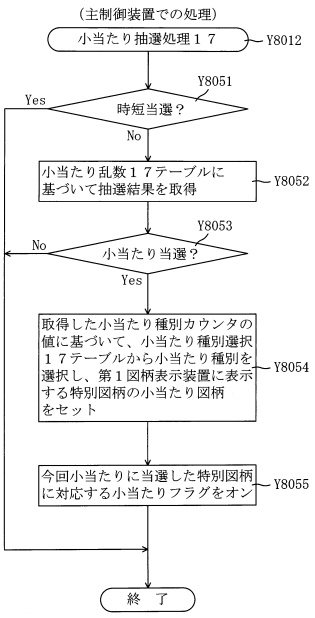
【図５６０】



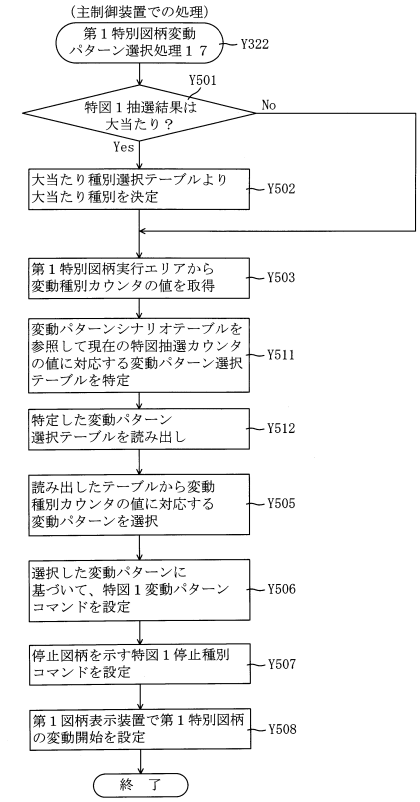
【図５６１】



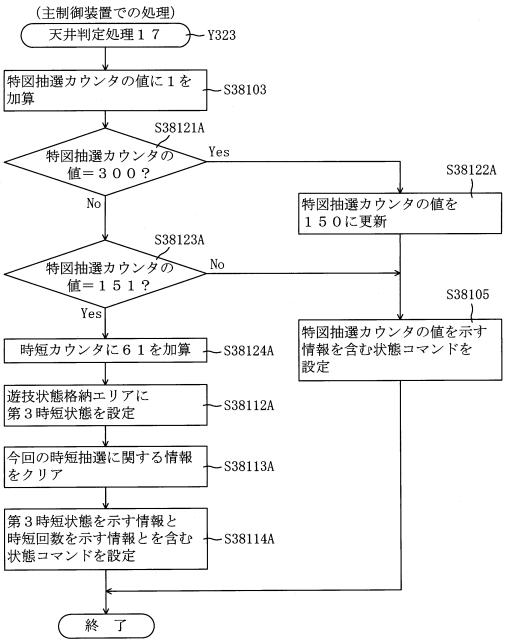
【図５６２】



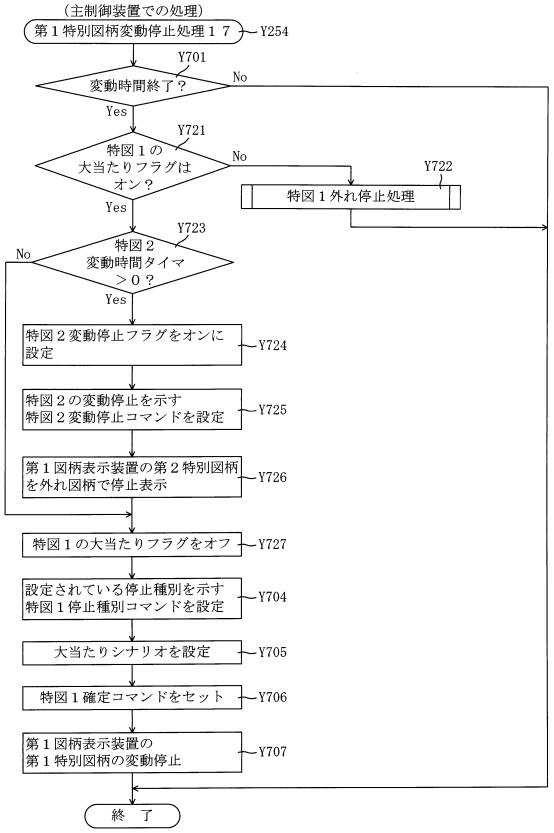
【図５６３】



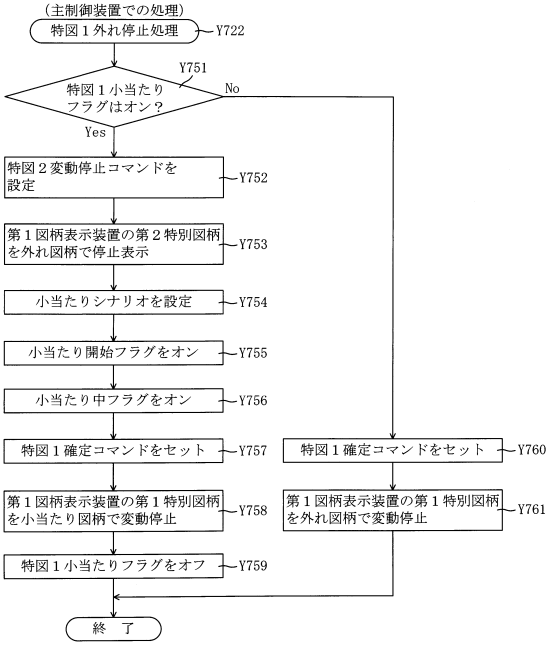
【図５６４】



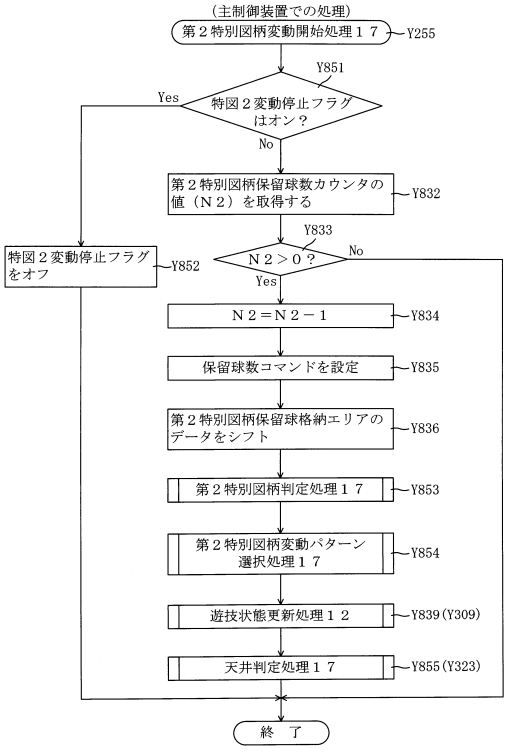
【図５６５】



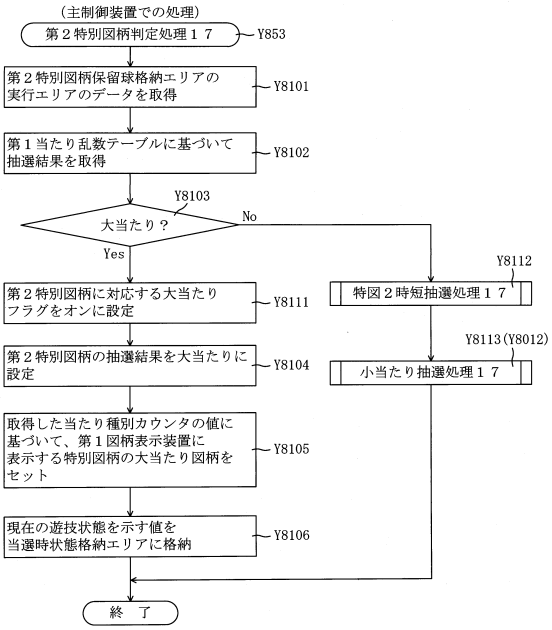
【図５６６】



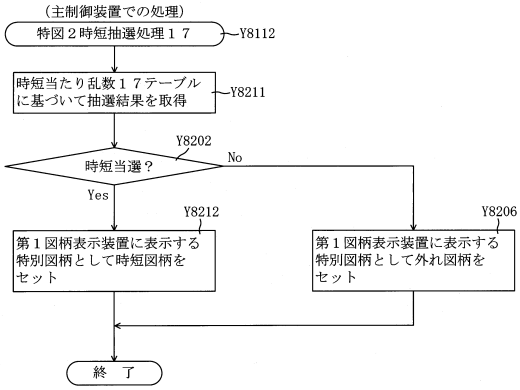
【図５６７】



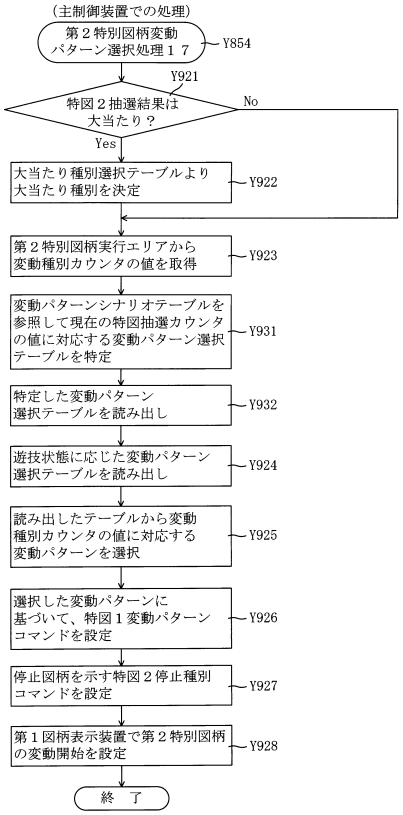
【図５６８】



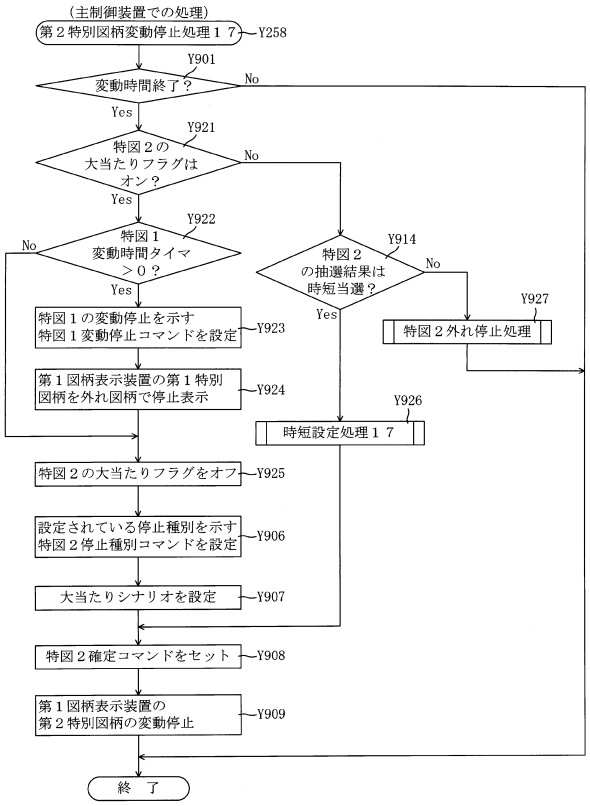
【図５６９】



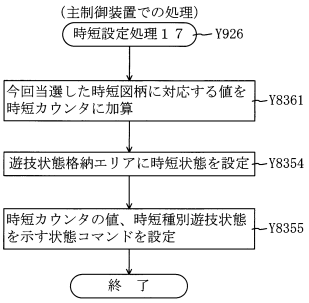
【図５７０】



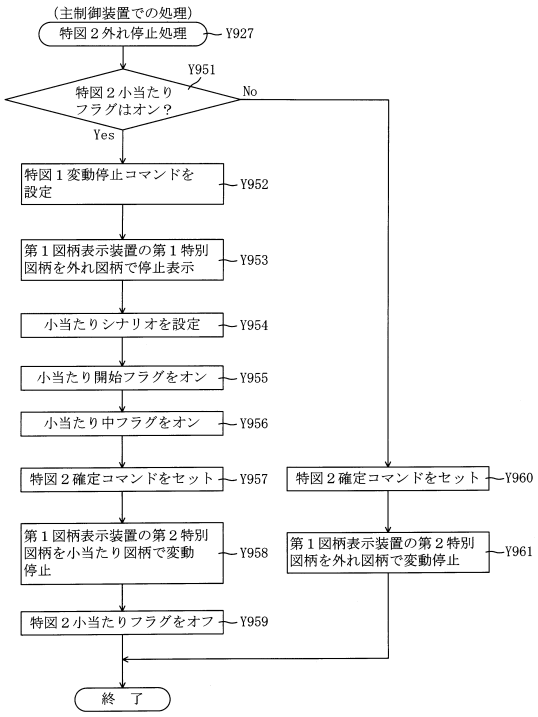
【図５７１】



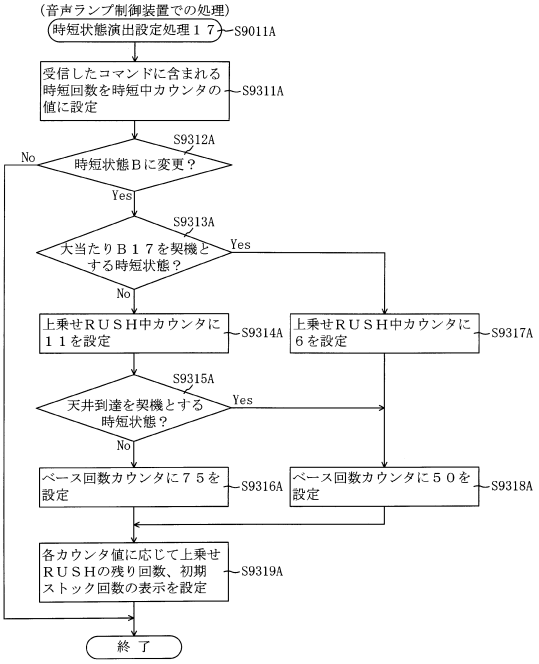
【図５７２】



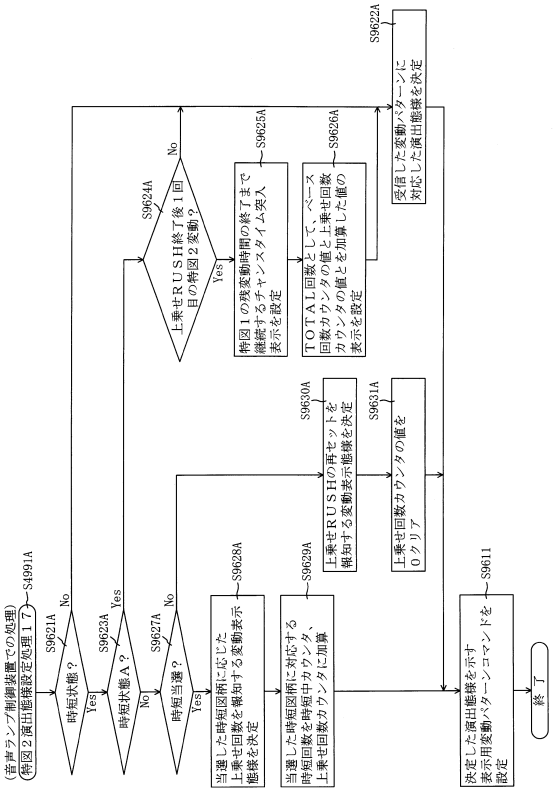
【図５７３】



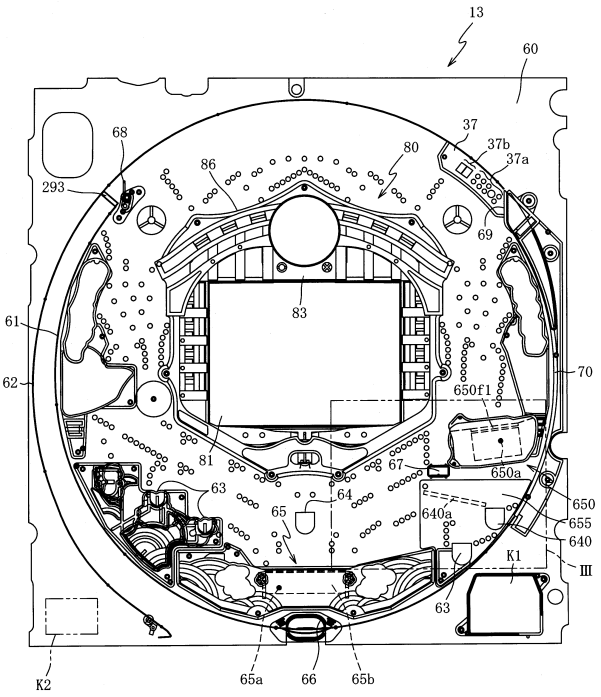
【図５７４】



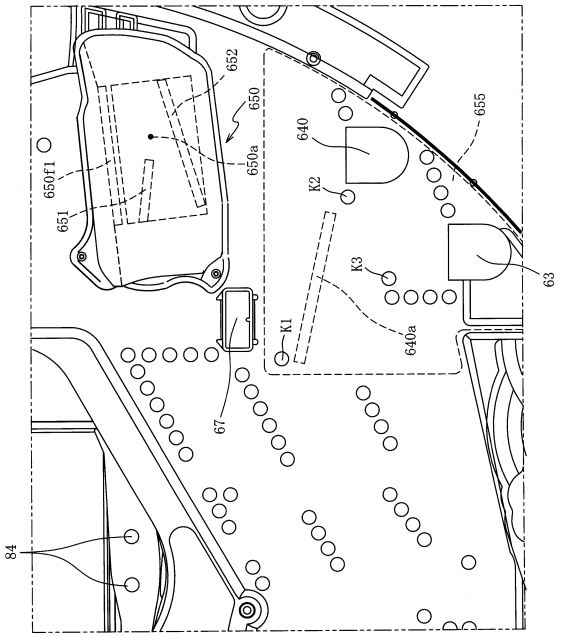
【図５７５】



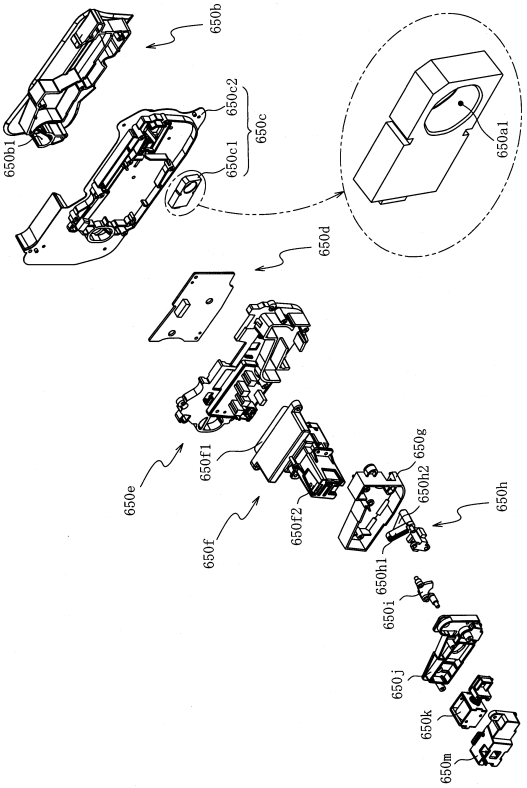
【図５７６】



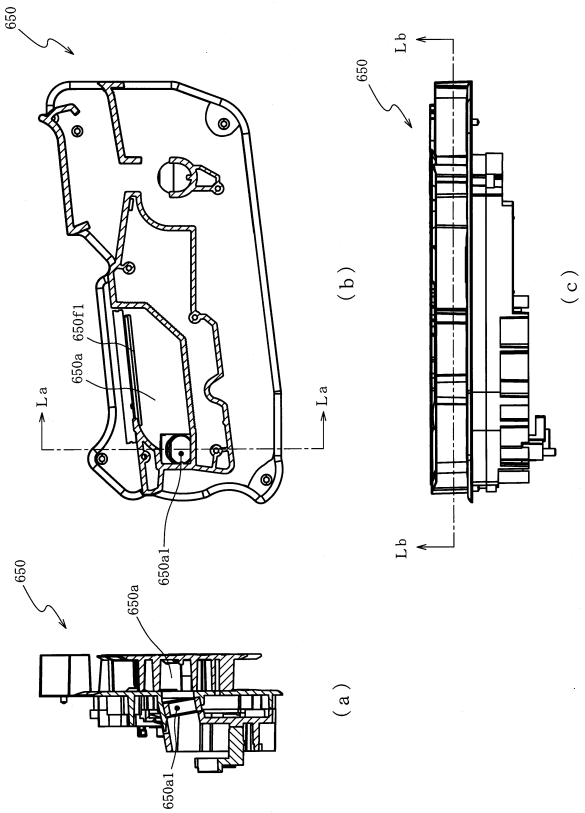
【図５７７】



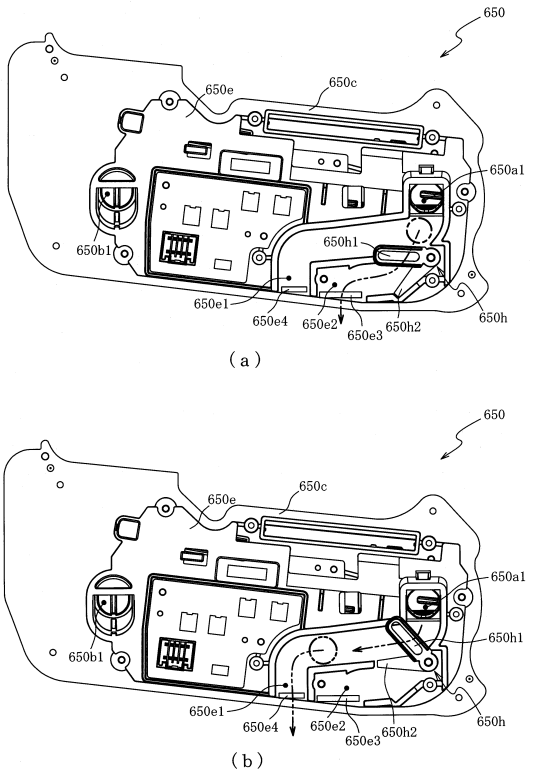
【図５７８】



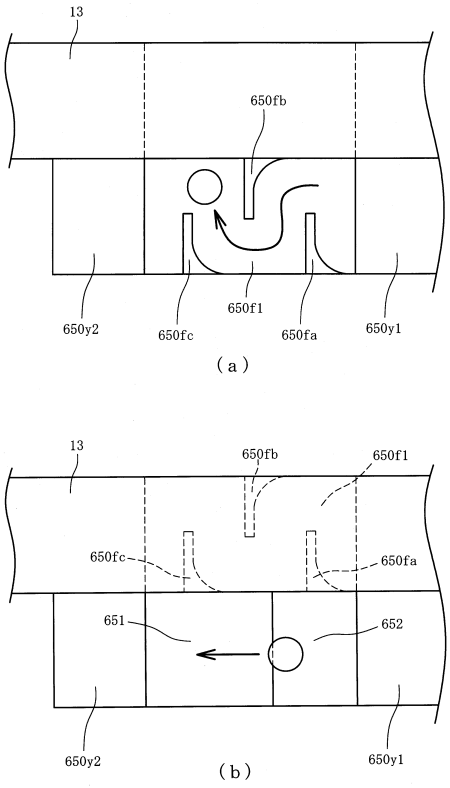
【図５７９】



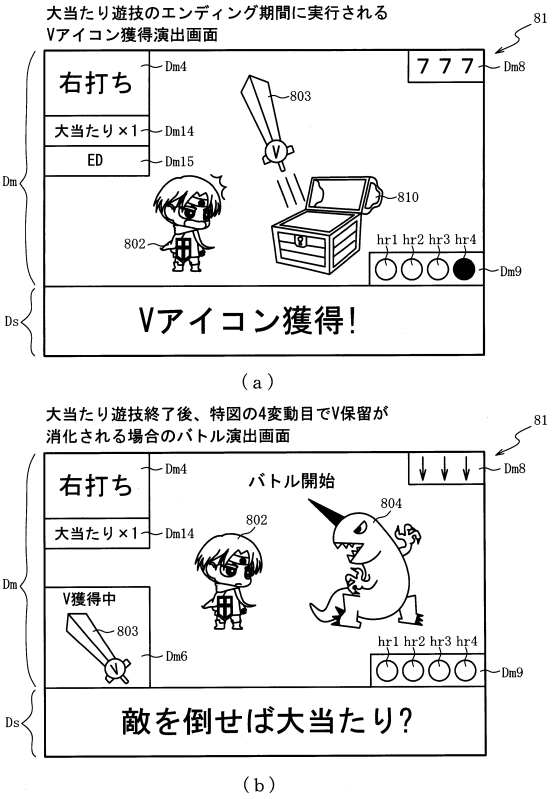
【図５８０】



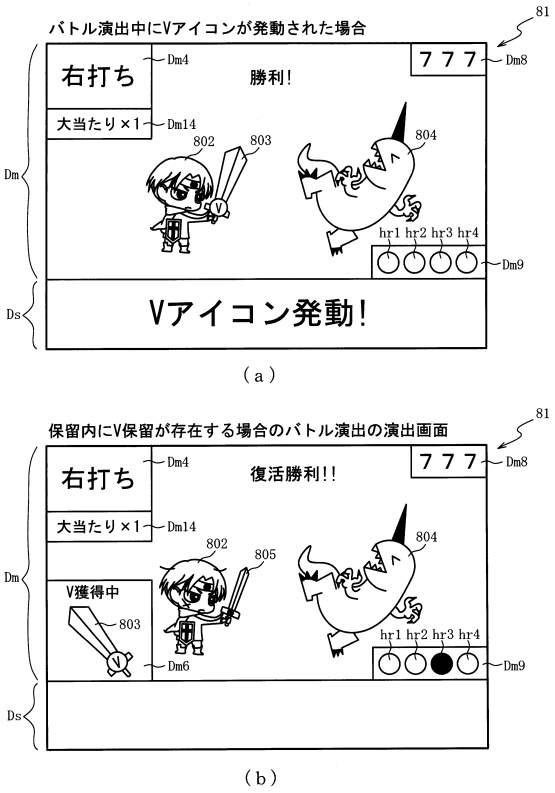
【図５８１】



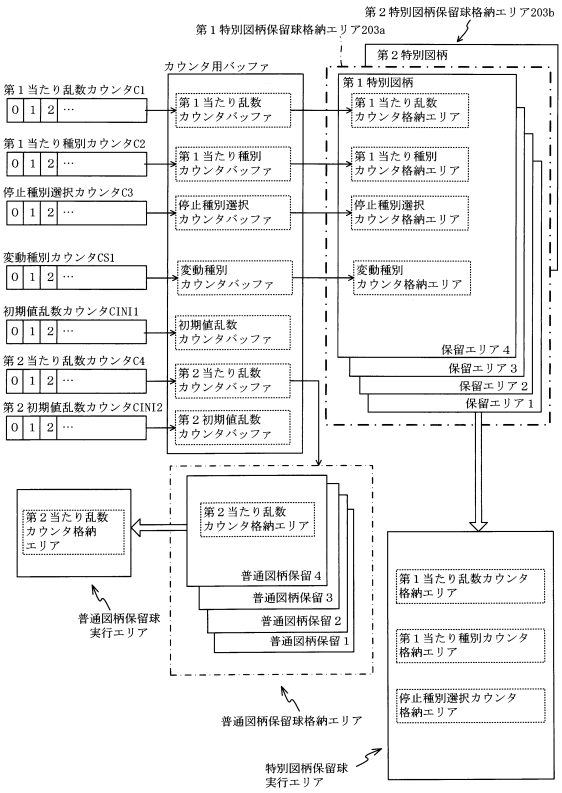
【図５８２】



【図５８３】



【図５８４】



【図５８５】

（ａ）

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数１８テーブル	202ra
大当たり種別選択１８テーブル	202rb
第２当たり乱数１８テーブル	202rc
変動パターン選択１８テーブル	202rd
時短付与１８テーブル	202re
小当たり種別選択１８テーブル	202rf
開放シナリオ７テーブル	202fg
時短当たり乱数１８テーブル	202rh
時短種別選択１８テーブル	202ri

（ｂ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
小当たりＡカウンタ	203fg
小当たりＢカウンタ	203fh
小当たりＣカウンタ	203ra
その他メモリエリア	203z

【図５８６】

（ａ）

第１当たり乱数１８テーブル	202ra
特別図柄１乱数１８テーブル	202ra1
特別図柄２乱数１８テーブル	202ra2

（ｂ）

特別図柄１乱数１８テーブル202ra1

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～999）
大当たり判定値	0～4

（ｃ）

特別図柄２乱数１８テーブル202ra2

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～999）
大当たり判定値	0～4
小当たり判定値	5～144

【図５８７】

（ａ）

大当たり種別選択１８テーブル	202rb
特図１大当たり種別選択１８テーブル	202rb1
特図２大当たり種別選択１８テーブル	202rb2

（ｂ）

特図１大当たり種別選択１８テーブル202rb1

遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２（0～99）
通常状態	大当たりＡ （16R時短有大当たり）	0～9
	大当たりＢ （7R時短有大当たり）	10～49
	大当たりＣ （7R時短無大当たり）	50～99
時短状態	大当たりＤ （16R時短有大当たり）	0～9
	大当たりＡ （16R時短有大当たり）	10～49
	大当たりＢ （7R時短有大当たり）	50～99

（ｃ）

特図２大当たり種別選択１８テーブル202rb2

遊技状態	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２（0～99）
共通	大当たりＥ （10R時短有大当たり）	0～99

（ｄ）

時短付与１８テーブル202re

大当たり種別	時短付与内容（回数）			
	時短 カウンタ 203h	小当たりＡ カウンタ 203fg	小当たりＢ カウンタ 203fh	小当たりＣ カウンタ 203ra
大当たりＡ （16R）	7	2	5	3
大当たりＢ （7R）	7	2	5	3
大当たりＣ （7R）	—	—	—	—
大当たりＤ （16R）	100	4	10	7
大当たりＥ （10R）	7	2	5	3

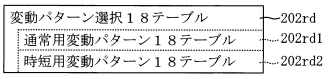
【図５８８】

小当たり種別選択１８テーブル202rf

小当たり種別	小当たり種別 カウンタ値Ｃ５（0～99）
小当たりＡ（Ｖ通過時大当たりＡ）	0～49
小当たりＢ（Ｖ通過時大当たりＢ）	50～79
小当たりＣ（Ｖ通過時大当たりＥ）	80～99

【図５８９】

（ａ）



（ｂ）

202

通常用変動パターン１８テーブル202rd1

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特１	外れ	短外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ 各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ (80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ 各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ (80秒)	30～189
		スペシャルリーチ (140秒)	190～198
特２	外れ	ロング外れ (180秒)	0～198
	大当たり 小当たり	ロング当たり (180秒)	0～198

【図５９０】

202

時短用変動パターン１８テーブル202rd2

図柄種別	変動回数	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特１	1～4	外れ	短外れ（2秒）	0～198
		大当たり	短大当たり（2秒）	0～198
	5～	外れ	外れ(10秒)	0～198
		大当たり	当たり(10秒)	0～198
特２	1～	外れ	外れ（10秒）	0～198
		小当たり	短小当たり（10秒）	0～160
			長小当たり（30秒）	161～198
		大当たり	長大当たり（30秒）	0～198

【図５９１】

（ａ）

202

時短当たり乱数１８テーブル202rh

特別図柄種別	遊技状態	第１当たり乱数 カウンタＣ１(0～999)
共通	特別図柄及び普通図柄の低確率状態	3, 4, 140～287
	それ以外	－

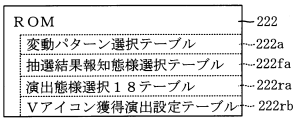
（ｂ）

202

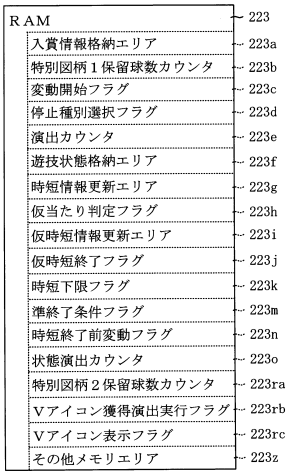
時短種別選択１８テーブル202ri

時短種別	時短種別選択カウンタ ＣＣ１(0～99)	時短カウンタ203h
時短Ａ	0～99	1

【図５９２】



（ａ）



（ｂ）

【図５９３】

演出態様選択１８テーブル	222ra
通常用演出態様設定テーブル	222ra1
時短用演出態様設定Ａテーブル	222ra2
時短用演出態様設定Ｂテーブル	222ra3

（ａ）

222

時短用演出態様設定Ａテーブル222ra2

変動パターン	演出態様	演出カウンタ値ＣＳ１（0～198）
短外れ	バトルなし外れ	0～198
外れ	バトルなし外れ	0～149
	バトルあり外れ（敗北）	150～198
短小当たり	バトルなし当たり	0～49
	バトルあり当たり（勝利）	50～198
長小当たり	バトルあり当たり（勝利）	0～149
	バトルあり当たり（復活勝利）	150～189
	プレミア当たり	190～198
短大当たり	バトルなし当たり	0～198
大当たり	バトルあり当たり（勝利）	0～198
長大当たり	プレミア当たり	0～198

（ｂ）

222

時短用演出態様設定Ｂテーブル222ra3

変動パターン	演出態様	演出カウンタ値ＣＳ１（0～198）
短外れ	バトルなし外れ	0～198
外れ	バトルなし外れ	0～149
	バトルあり外れ（敗北）	150～198
短小当たり	バトルなし当たり	0～49
	バトルあり当たり（勝利）	50～198
長小当たり	バトルあり当たり（勝利）	0～189
	バトルあり当たり（復活勝利）	190～198
短大当たり	バトルなし当たり	0～198
大当たり	バトルあり当たり（勝利）	0～198
長大当たり	プレミア当たり	0～198

（ｃ）

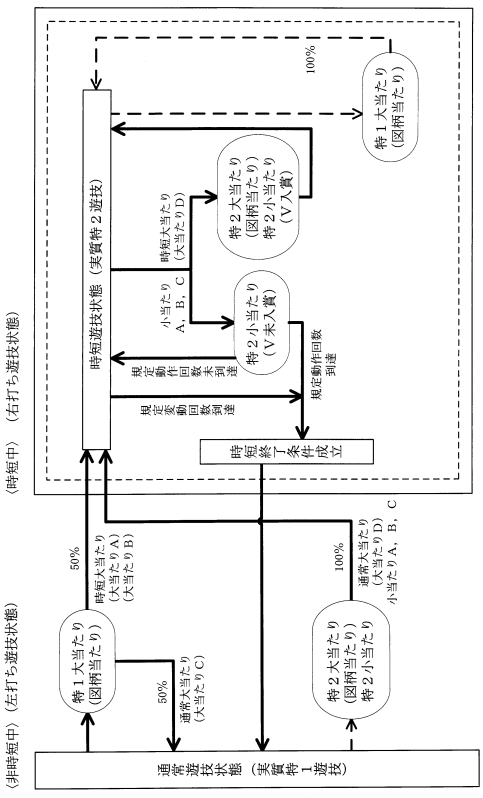
【図５９４】

222

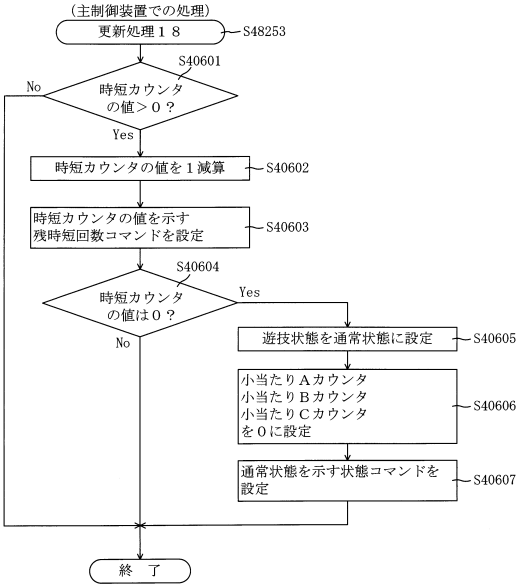
Ｖアイコン獲得演出設定テーブル222rb

Ｖ保留の位置	保留数	エンディング演出態様	演出カウンタ値ＣＳ１（0～198）
保留１	1	Ｖアイコン獲得演出あり	0～99
		Ｖアイコン獲得演出なし	100～198
	2	Ｖアイコン獲得演出あり	0～69
		Ｖアイコン獲得演出なし	70～198
	3	Ｖアイコン獲得演出あり	0～39
		Ｖアイコン獲得演出なし	40～198
	4	Ｖアイコン獲得演出あり	0～9
		Ｖアイコン獲得演出なし	10～198
保留2	2	Ｖアイコン獲得演出あり	0～119
		Ｖアイコン獲得演出なし	120～198
	3	Ｖアイコン獲得演出あり	0～89
		Ｖアイコン獲得演出なし	90～198
	4	Ｖアイコン獲得演出あり	0～29
		Ｖアイコン獲得演出なし	30～198
保留3	3	Ｖアイコン獲得演出あり	0～139
		Ｖアイコン獲得演出なし	140～198
	4	Ｖアイコン獲得演出あり	0～89
		Ｖアイコン獲得演出なし	90～198
保留4	4	Ｖアイコン獲得演出あり	0～169
		Ｖアイコン獲得演出なし	170～198

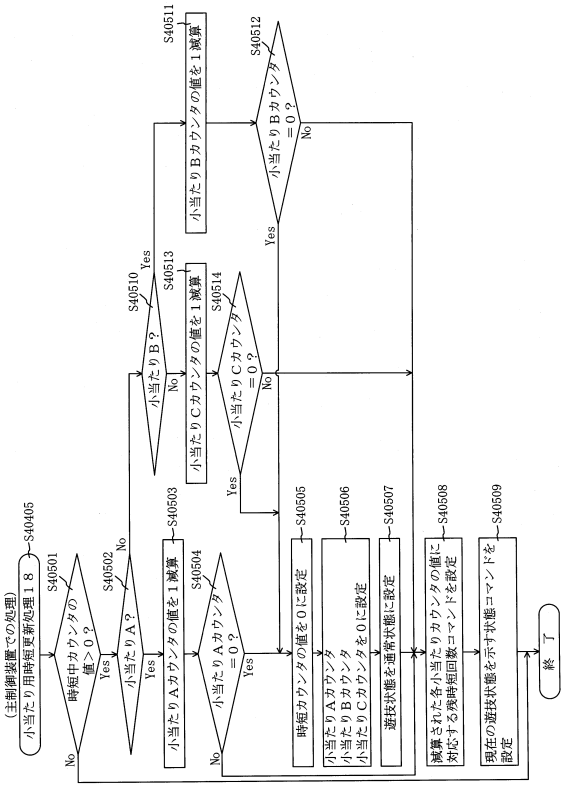
【図５９５】



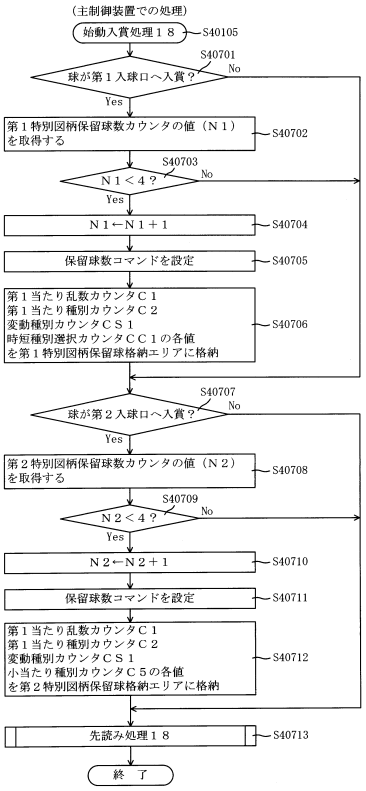
【図５９６】



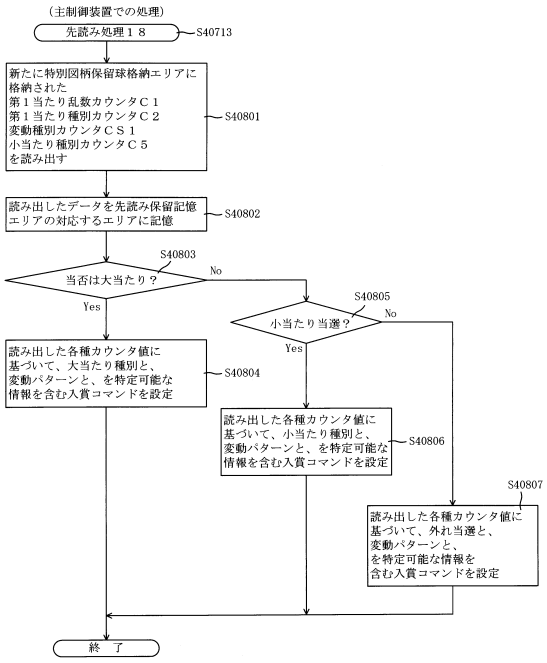
【図５９７】



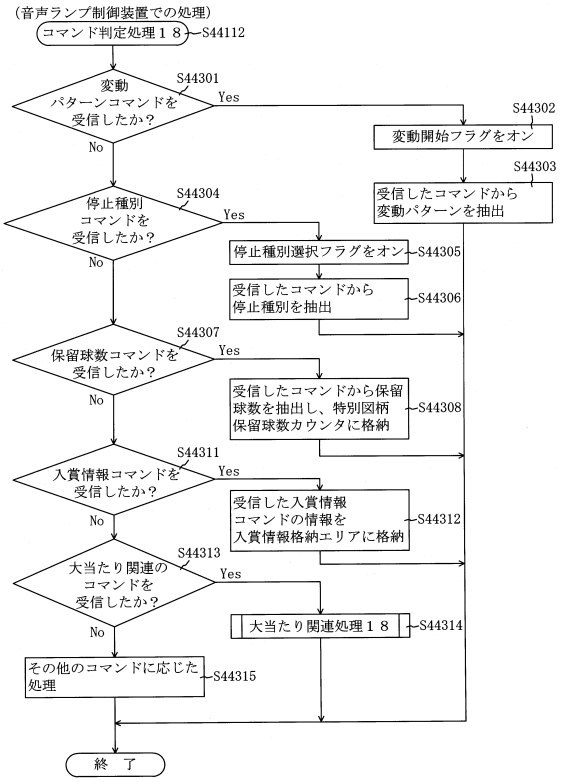
【図５９８】



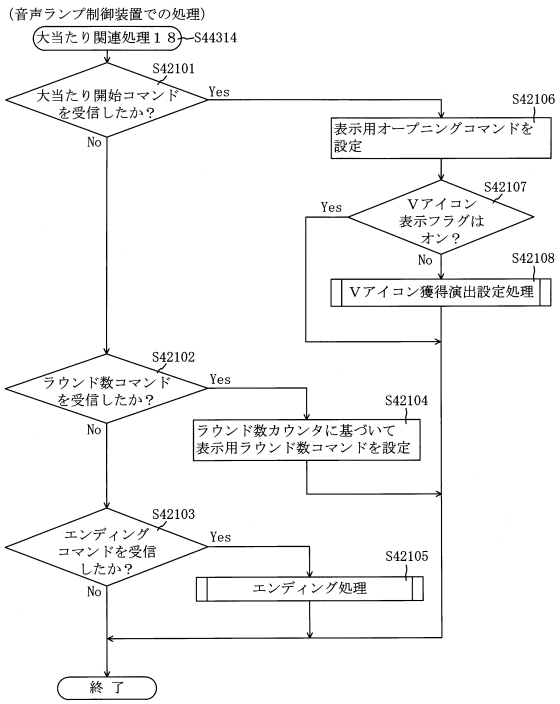
【図５９９】



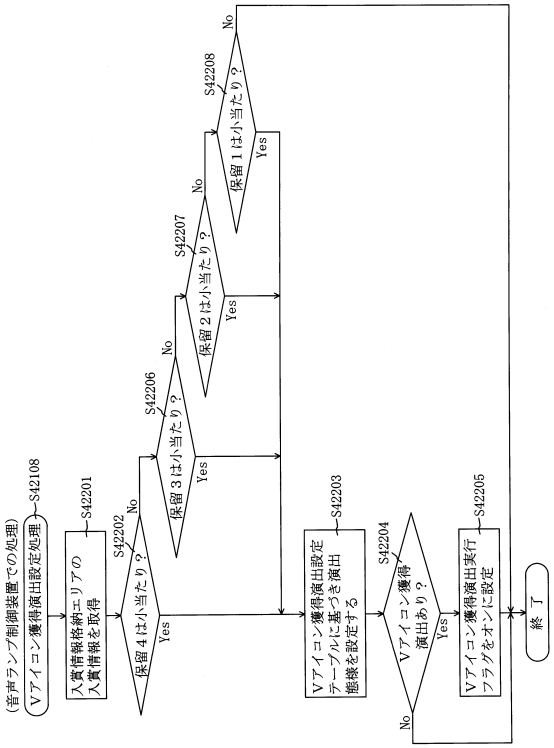
【図６００】



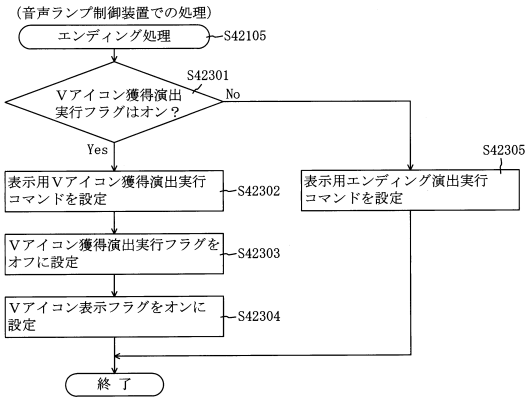
【図６０１】



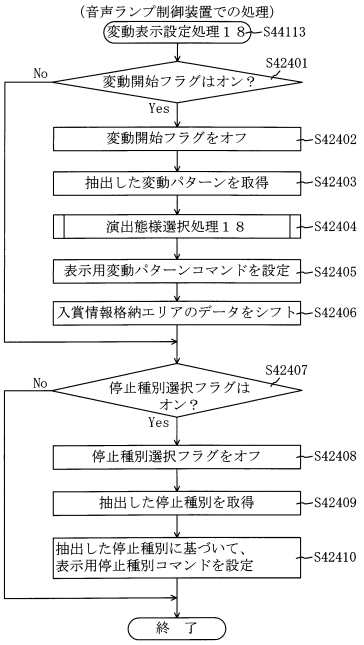
【図６０２】



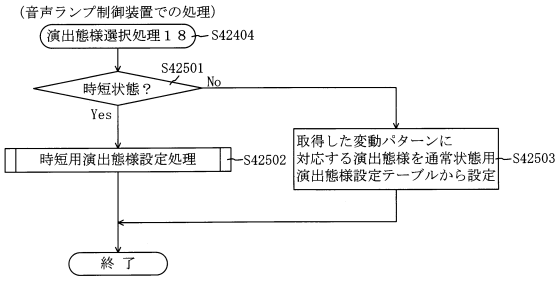
【図６０３】



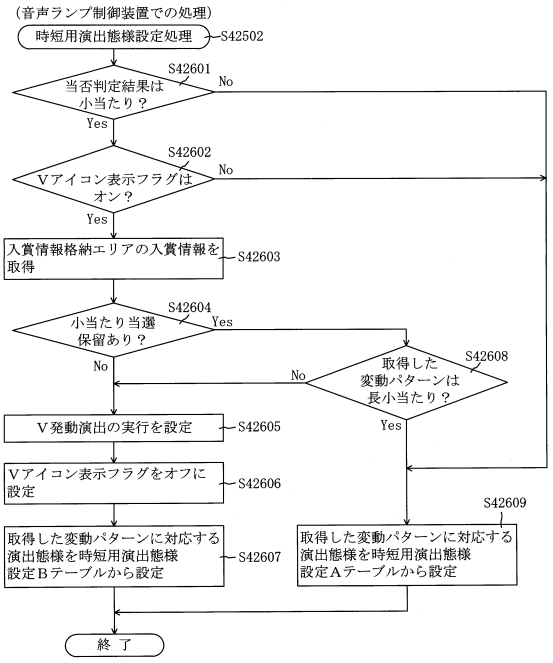
【図６０４】



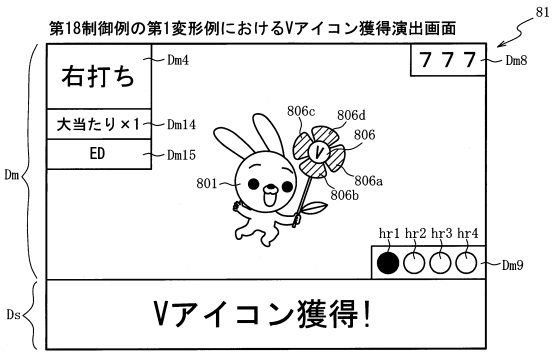
【図６０５】



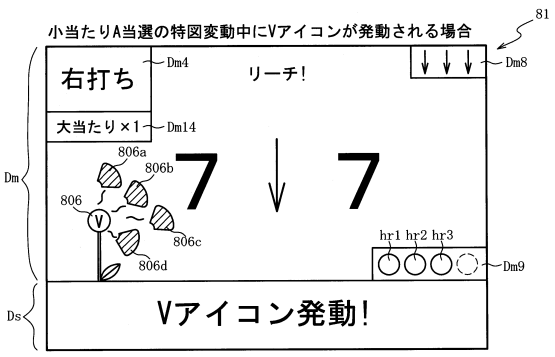
【図６０６】



【図６０７】

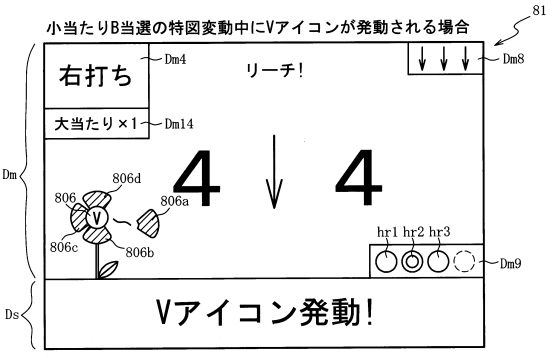


（ａ）

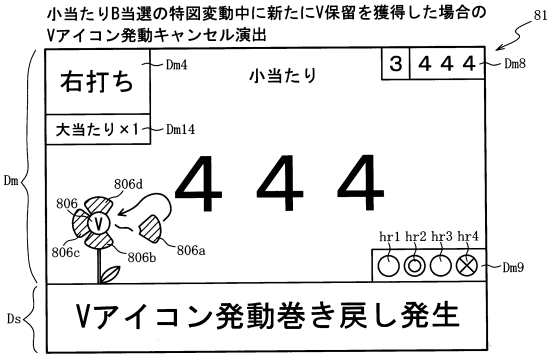


（ｂ）

【図６０８】

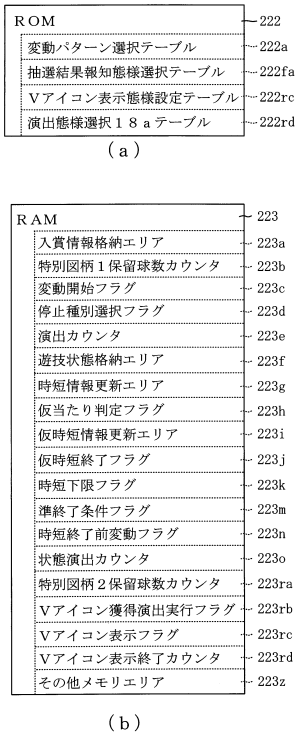


（ａ）



（ｂ）

【図６０９】



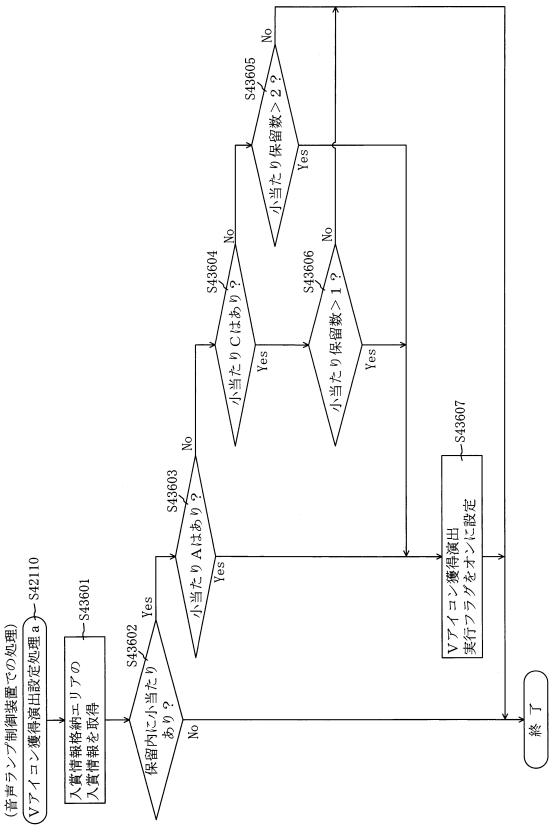
【図６１０】

222

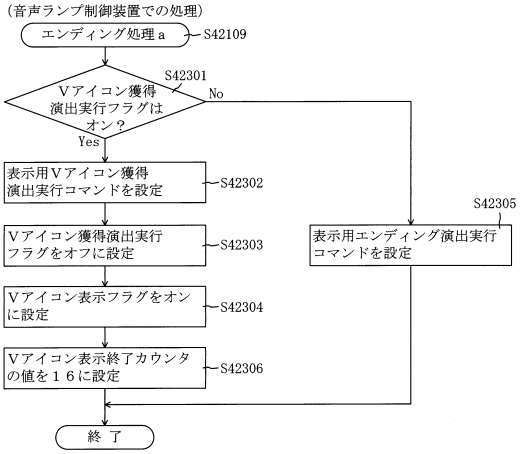
Vアイコン表示態様設定テーブル222rc

Vアイコン表示終了カウンタ値	小当たり種別	Vアイコン表示態様
0	小当たりＡ	残り花びら全消化
	小当たりＢ	
	小当たりＣ	
1～8	小当たりＣ	花びら２枚消化
	小当たりＢ	
9～12	小当たりＣ	花びら１枚消化

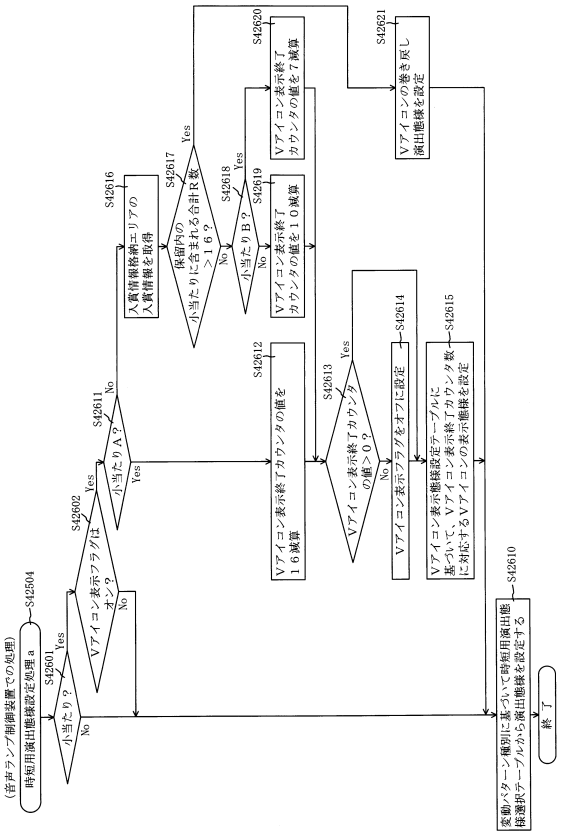
【図６１１】



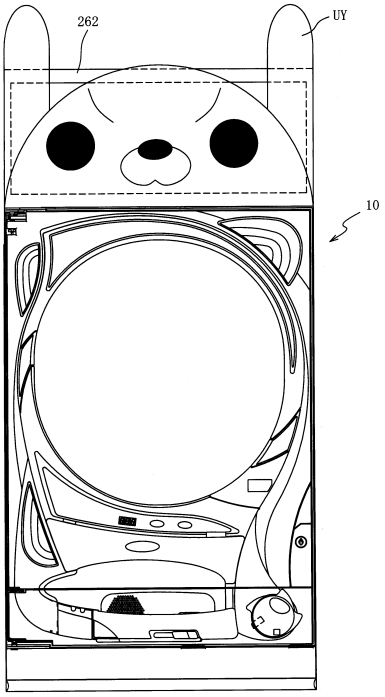
【図６１２】



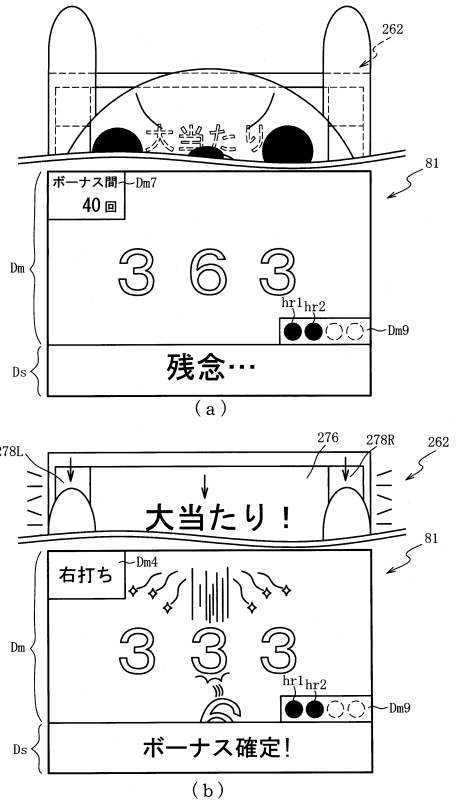
【図６１３】



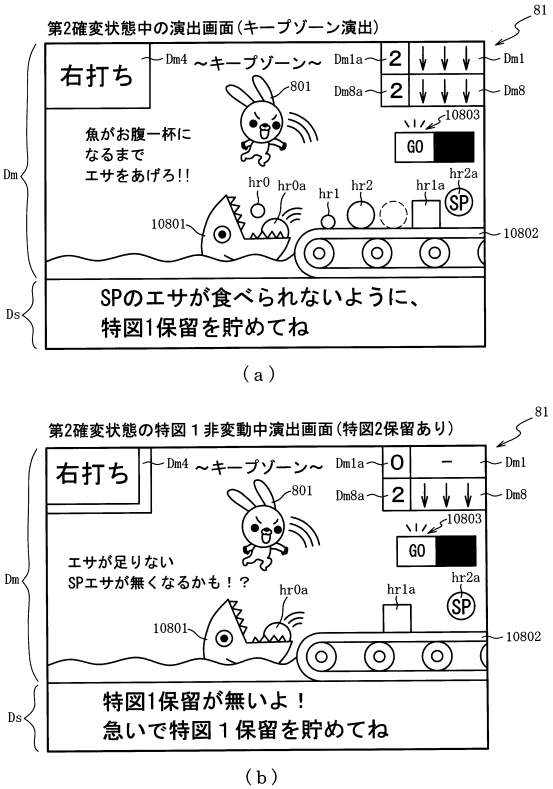
【図６１４】



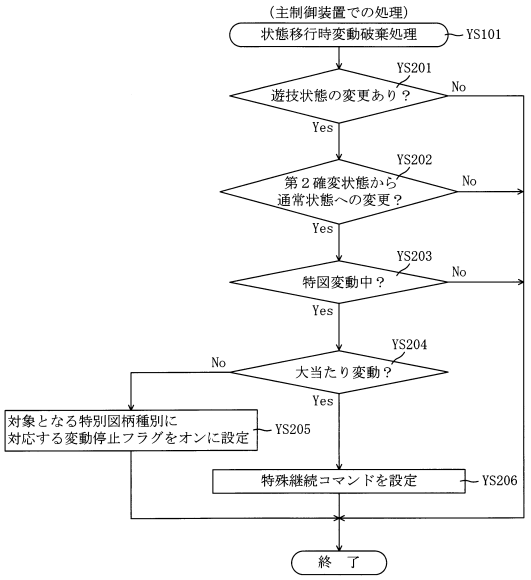
【図６１５】



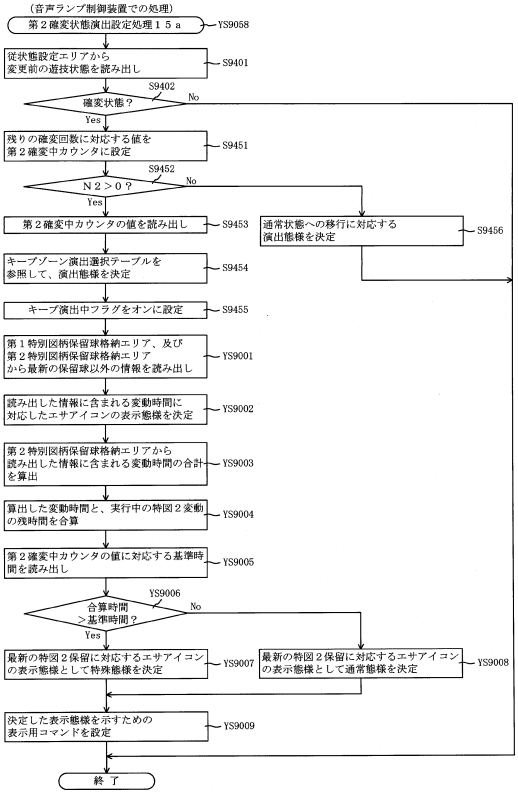
【図６１６】



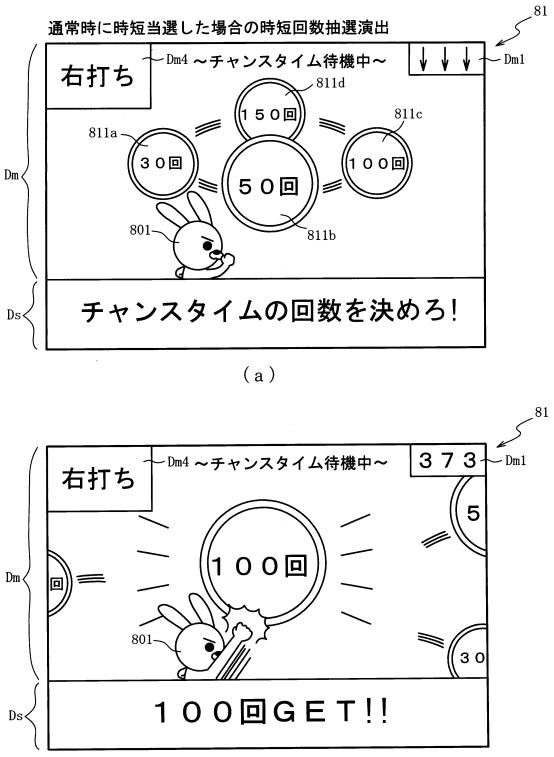
【図６１７】



【図６１８】



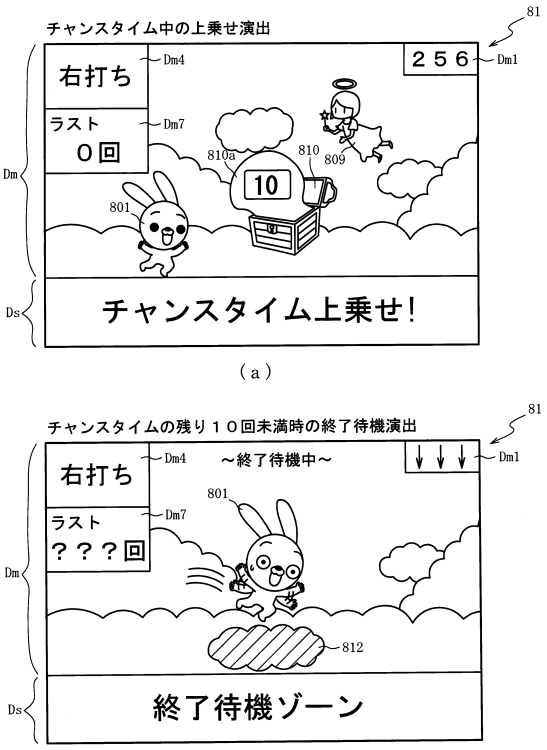
【図６１９】



（ａ）

（ｂ）

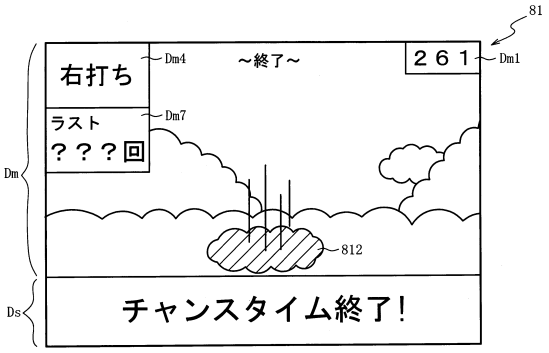
【図６２０】



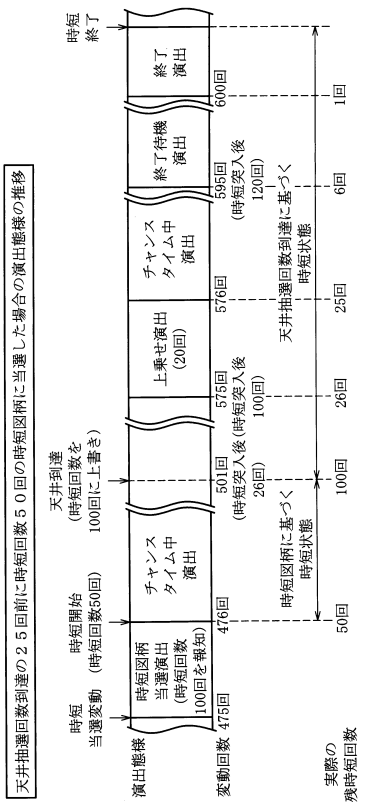
（ａ）

（ｂ）

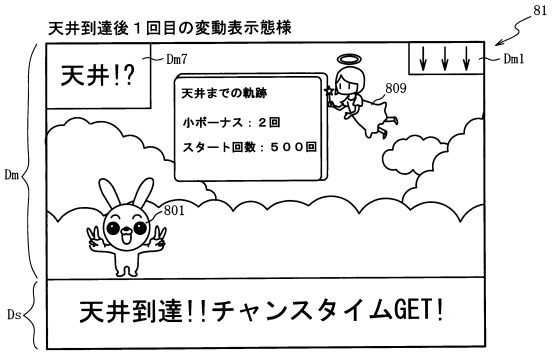
【図６２１】



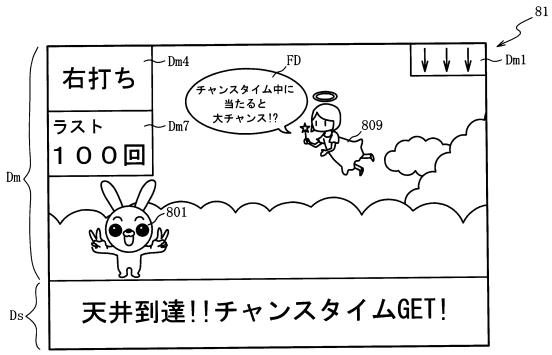
【図６２２】



【図６２３】

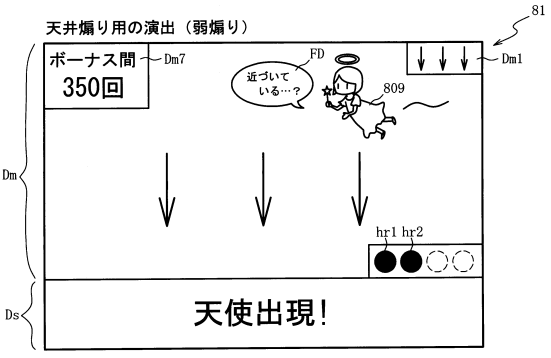


（ａ）

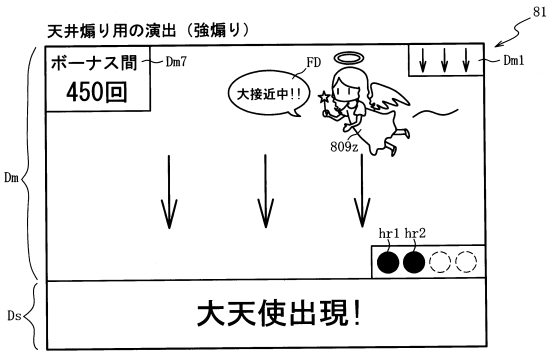


（ｂ）

【図６２４】

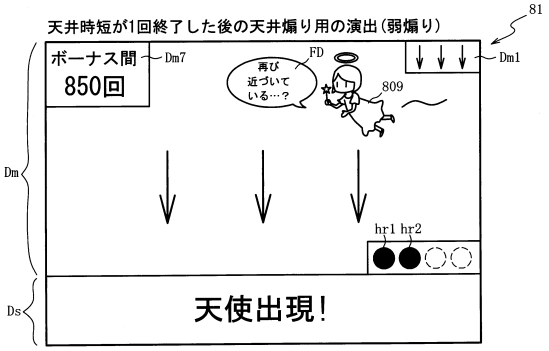


（ａ）



（ｂ）

【図６２５】



【図６２６】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数１９テーブル	202sa
変動パターン選択１９テーブル	202sb
第２当たり１３乱数テーブル	202lc
大当たり種別選択１６テーブル	202pd
時短当たり乱数１６テーブル	202pe
時短当たり種別選択１９テーブル	202si
変動パターンシナリオ１９テーブル	202sj

（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
特図抽選カウンタ	203la
天井時短フラグ	203pa
天井時短待機フラグ	203sa
シナリオ格納エリア	203sb
アウト球カウンタ	203pb
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図６２７】

202

第１当たり乱数１９テーブル202sa

抽選結果	遊技状態	設定	第１当たり乱数カウンタ Ｃ１（0～999）
共通	低確率状態	1	0～4
		2	0～5
		3	0～6
		4	0～7
		5	0～8
		6	0～9
	高確率状態	1	0～19
		2	0～23
		3	0～27
		4	0～31
		5	0～36
		6	0～39
小当たり	共通	共通	40～64

【図６２８】

変動パターン選択１９テーブル	202sb
通常用１９テーブル	202sb1
確変・時短用１９テーブル	202sb2
天井煽り用テーブル	202sb3
天井到達時用テーブル	202sb4

（ａ）

202

天井煽り用テーブル202sb3

図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタ ＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間（S）
共通	当たり	0～19	ノーマル	15
		20～169	スーパー	30
		170～198	ＳＰ	55
	特殊当たり 小当たり	0～198	ノーマル	15
	外れ （時短）	0～169	スーパー	30
		170～198	ＳＰ	55
	外れ	0～149	ノーマルリーチ外れ	15
		150～198	スーパーリーチ外れ	30

（ｂ）

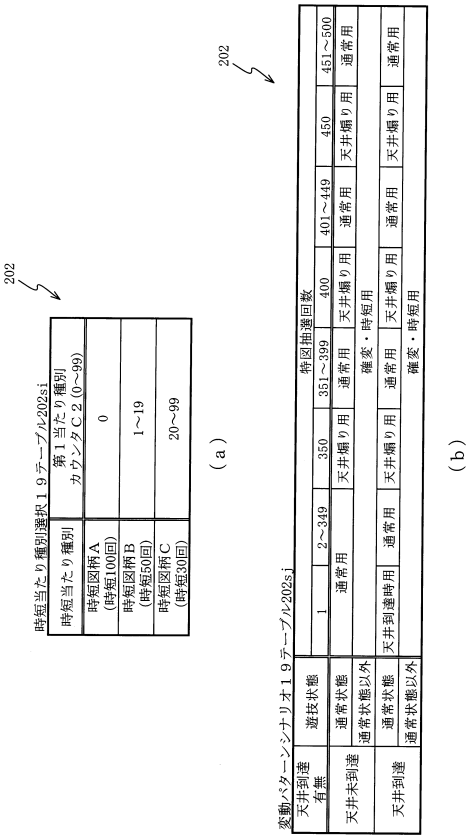
202

天井到達時用テーブル202sb4

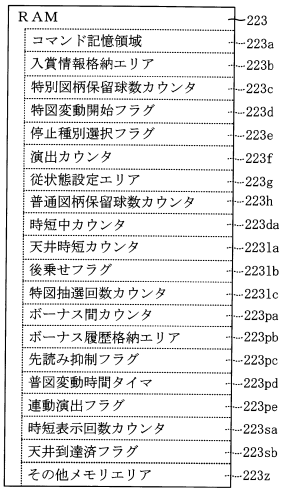
図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタ ＣＳ１（0～198）	変動パターン	変動時間（S）
共通	大当たり	0～19	ノーマル	15
		20～169	スーパー	30
		170～198	ＳＰ	55
	特殊当たり	0～198	ノーマル	15
	上記以外	0～198	スーパー	30

（ｃ）

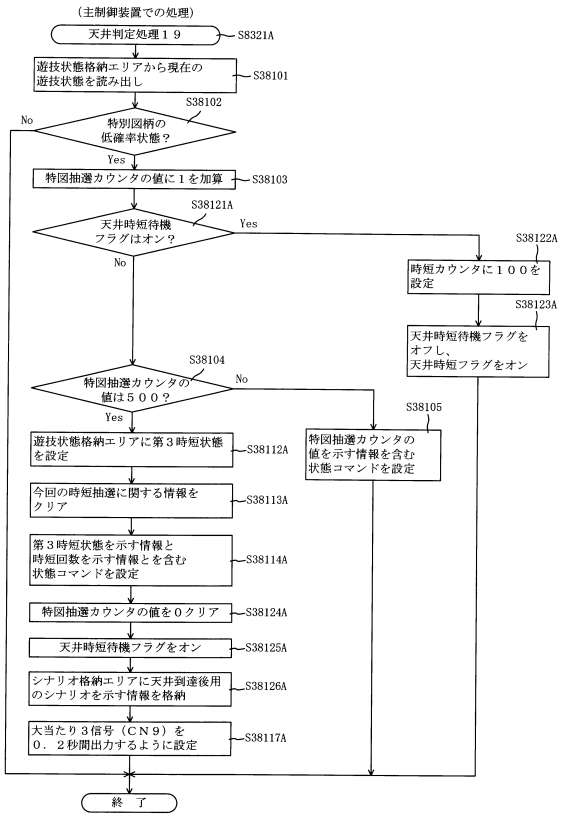
【図６２９】



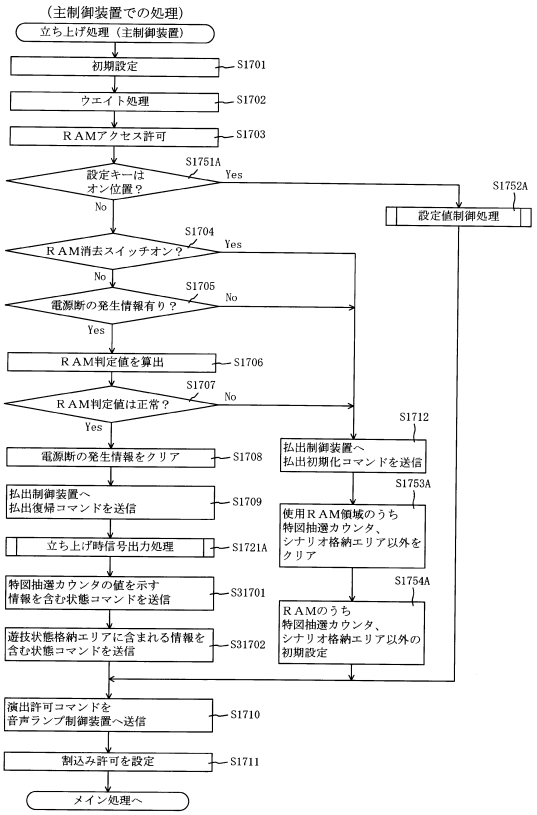
【図６３０】



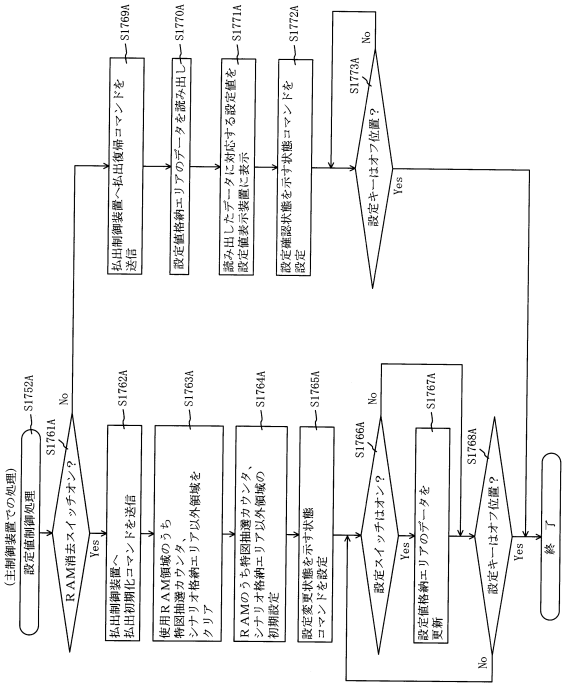
【図６３１】



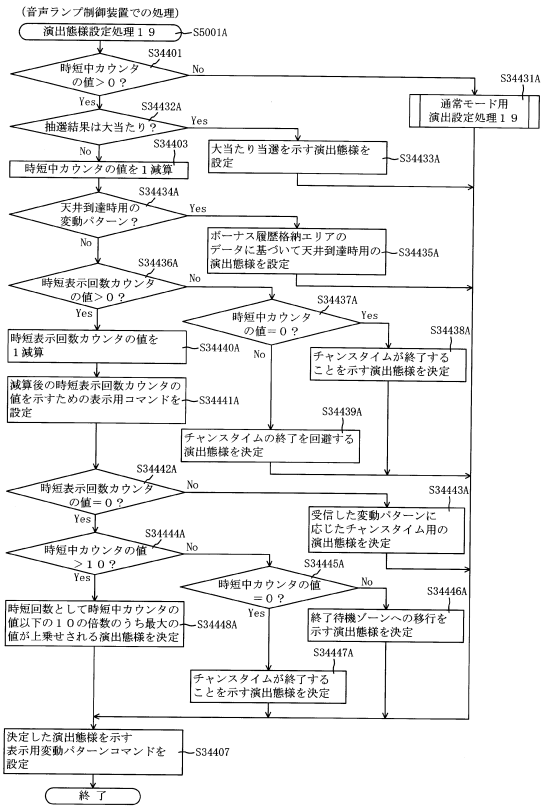
【図６３２】



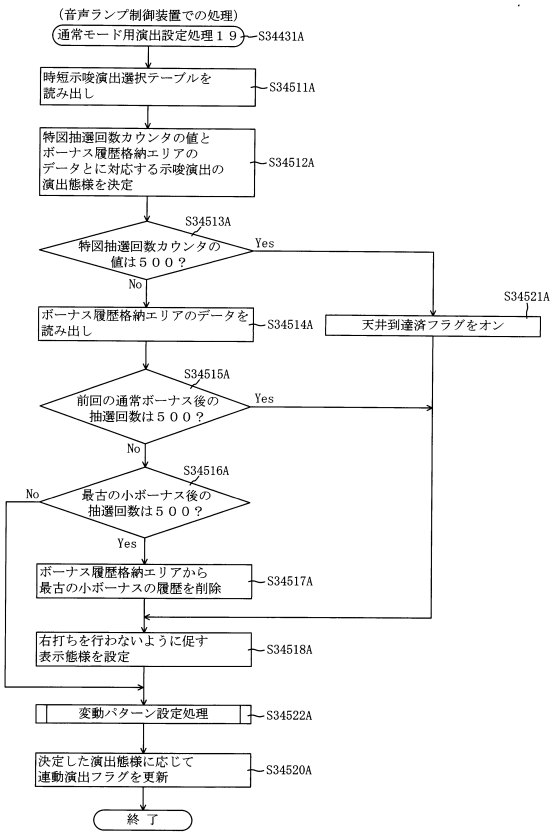
【図６３３】



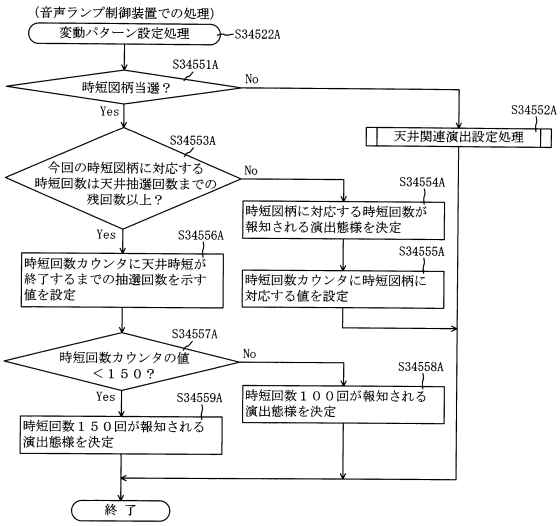
【図６３４】



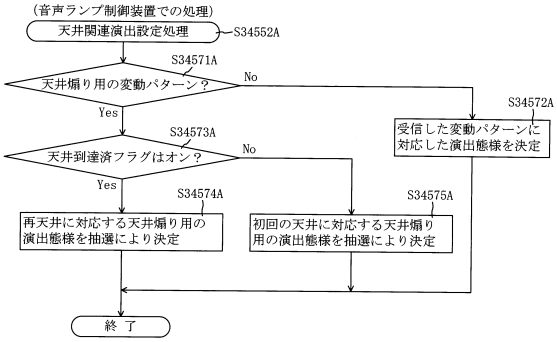
【図６３５】



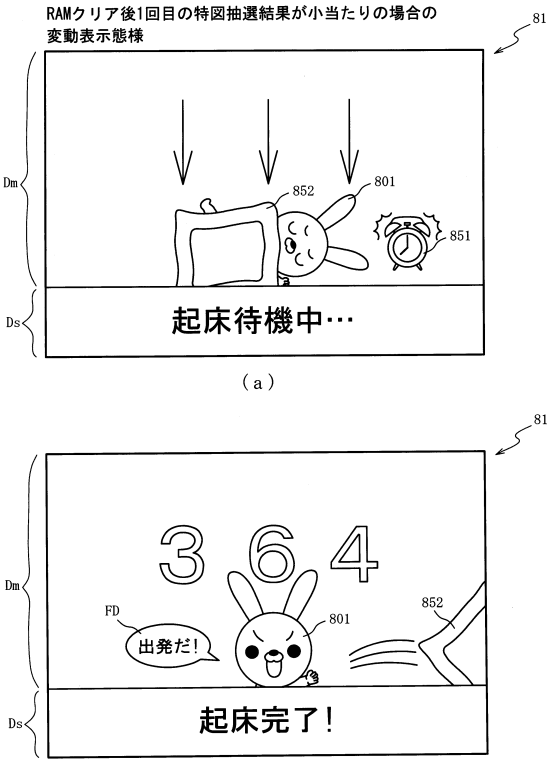
【図６３６】



【図６３７】



【図６３８】



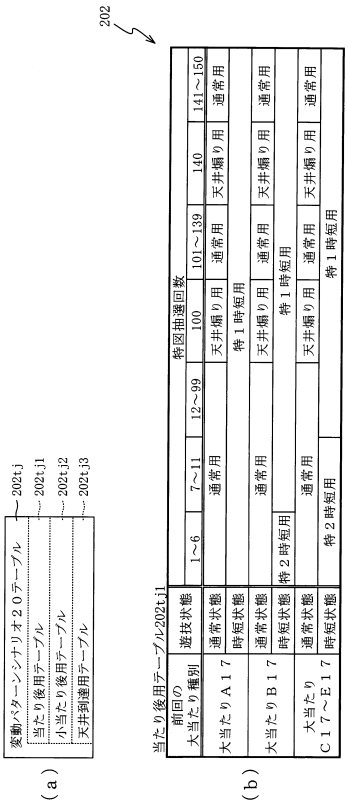
【図６３９】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数１２テーブル	202ka
大当たり種別選択１７テーブル	202qb
第２当たり乱数１７テーブル	202qc
変動パターン１７テーブル	202qd
小当たり乱数１７テーブル	202qe
小当たり種別選択１７テーブル	202qf
開放シナリオ７テーブル	202fg
時短当たり乱数１７テーブル	202qh
時短当たり種別選択テーブル	202qi
変動パターンシナリオ２０テーブル	202tj

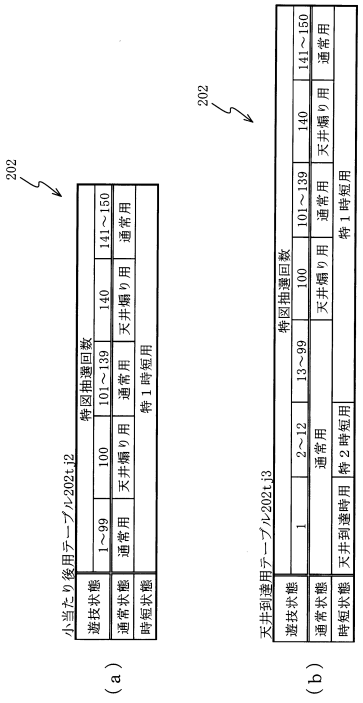
【図６４０】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
時短リミット回数カウンタ	203ja
特図１変動時間タイマ	203ka
特図２変動時間タイマ	203kb
特図１変動停止フラグ	203ke
特図２変動停止フラグ	203kf
特図抽選カウンタ	203qa
大当たりフラグ	203qb
特図１小当たりフラグ	203qc
特図２小当たりフラグ	203qd
天井時短待機フラグ	203sa
シナリオ格納エリア	203sb
初回小当たりフラグ	203ta
シナリオ用カウンタ	203tb
その他メモリエリア	203z

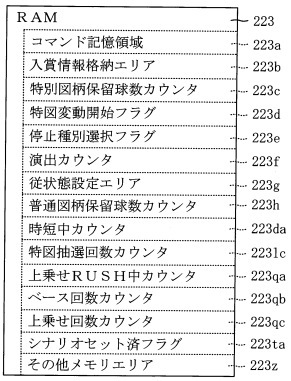
【図６４１】



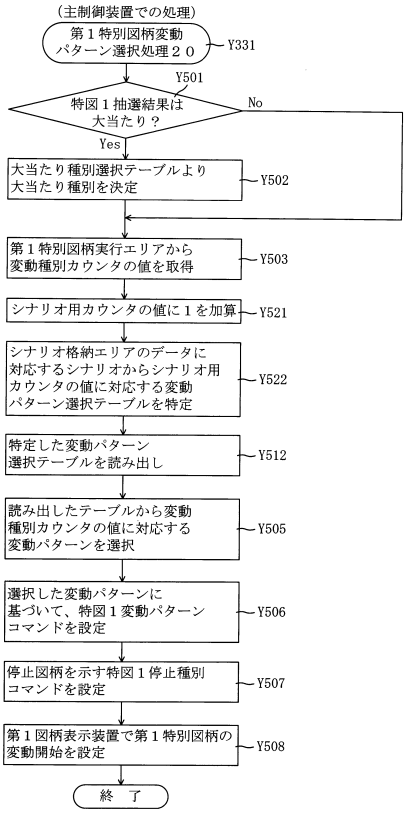
【図６４２】



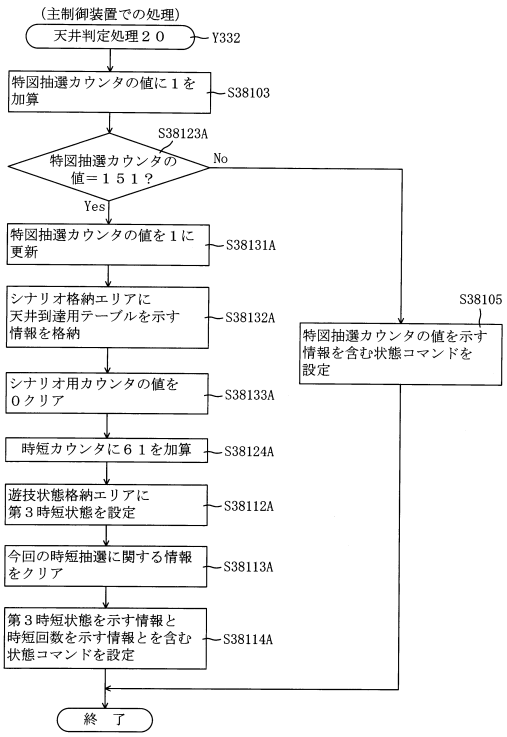
【図６４３】



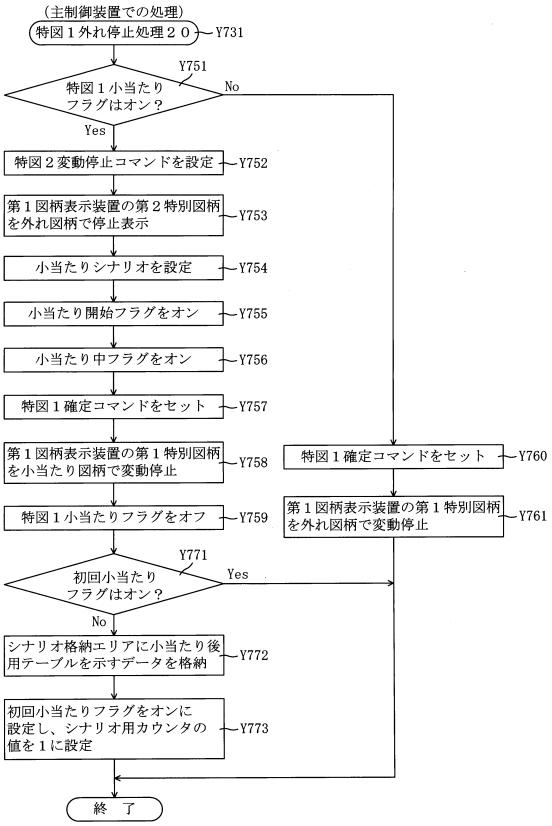
【図６４４】



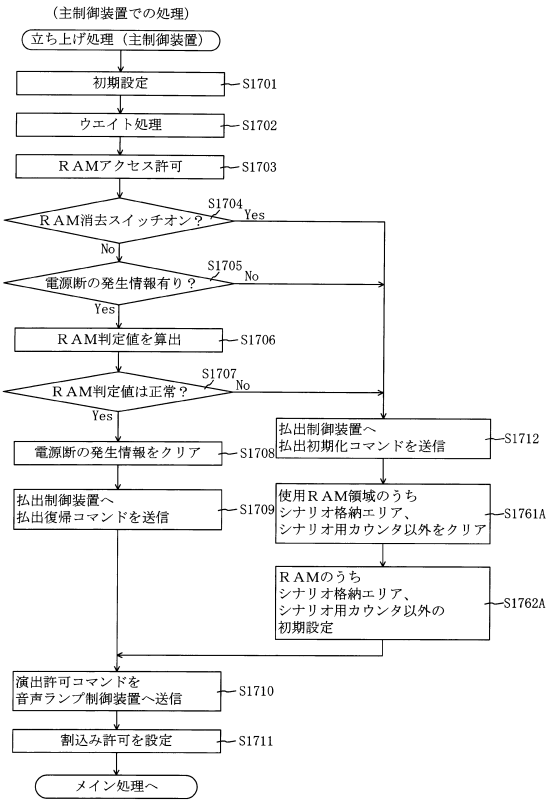
【図６４５】



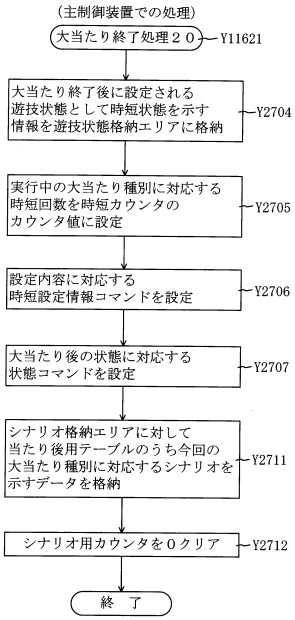
【図６４６】



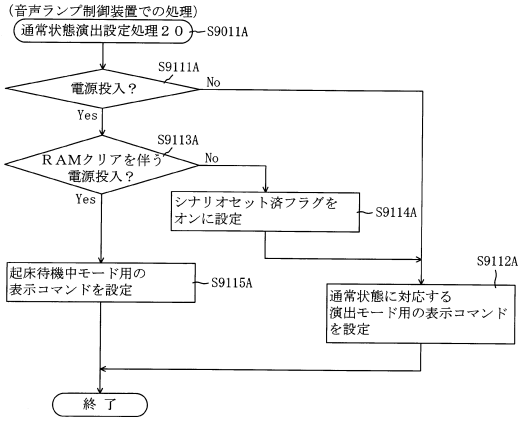
【図６４７】



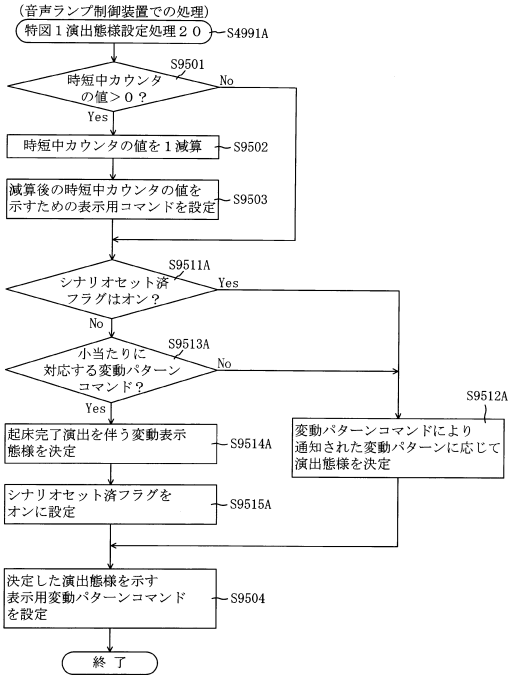
【図６４８】



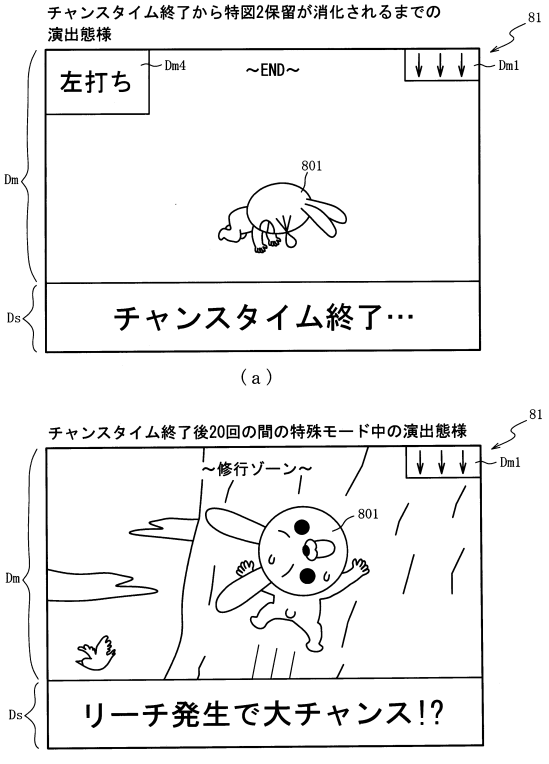
【図６４９】



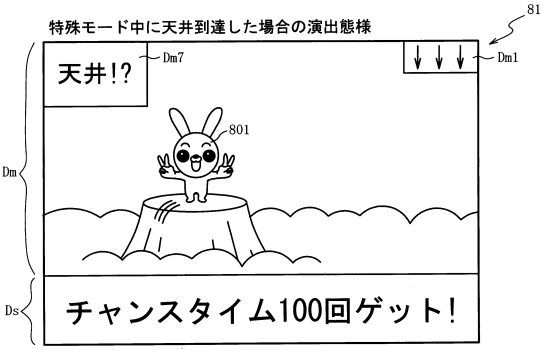
【図６５０】



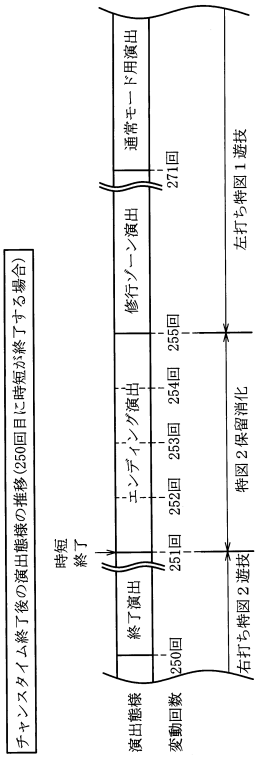
【図６５１】



【図６５２】



【図６５３】



【図６５４】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数１９テーブル	202sa
変動パターン選択２１テーブル	202ub
第２当たり１３乱数テーブル	2021c
大当たり種別選択１６テーブル	202pd
時短当たり乱数１６テーブル	202pe
時短当たり種別選択１９テーブル	202si
変動パターンシナリオ２１テーブル	202uj

（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
確変カウンタ	203i
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
特図抽選カウンタ	203la
天井時短フラグ	203pa
天井時短待機フラグ	203sa
シナリオ格納エリア	203sb
シナリオ用カウンタ	203ua
通常時短フラグ	203ub
アウト球カウンタ	203pb
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図６５５】

変動パターン選択２１テーブル	202ub
通常用１９テーブル	202sb1
確変・時短用１９テーブル	202sb2
天井煽り用テーブル	202sb3
天井到達時用テーブル	202sb4
時短終了報知用テーブル	202ub5
時短終了後用テーブル	202ub6

（ａ）

202

時短終了報知用テーブル202ub5

図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)	変動パターン	変動時間(S)
特図１	当たり	0～149	ノーマル	15
		150～198	スーパー	30
	特殊当たり 小当たり	0～198	ノーマル	15
	外れ (時短)	0～198	ノーマル	15
	外れ	0～196	短外れ	5
		197,198	ノーマルリーチ外れ	15
特図２	当たり	0～198	短当たり	5
	外れ	0～198	超短外れ	1

（ｂ）

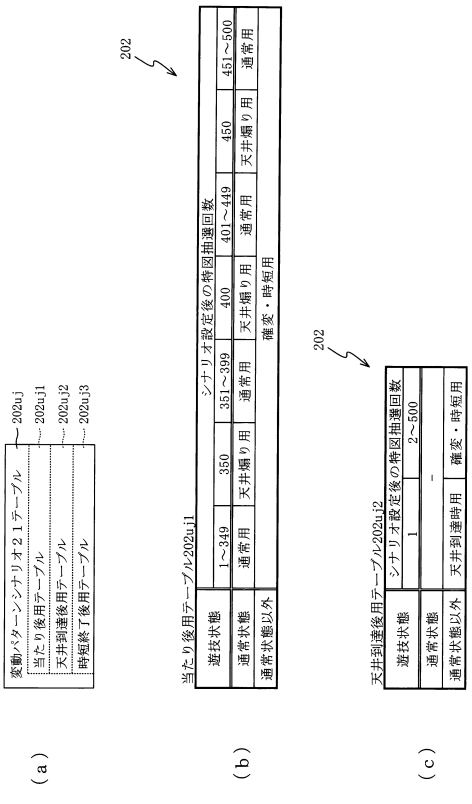
202

時短終了後用テーブル202ub6

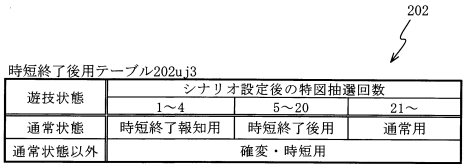
図柄種別	抽選結果	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)	変動パターン	変動時間(S)
共通	当たり	0～149	ノーマル	15
		150～198	スーパー	30
	特殊当たり 小当たり	0～198	ノーマル	15
	外れ (時短)	0～198	ノーマル	15
	外れ	0～196	短外れ	5
		197,198	ノーマルリーチ外れ	15

（ｃ）

【図６５６】

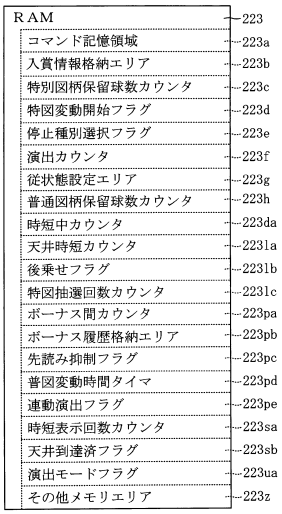


【図６５７】

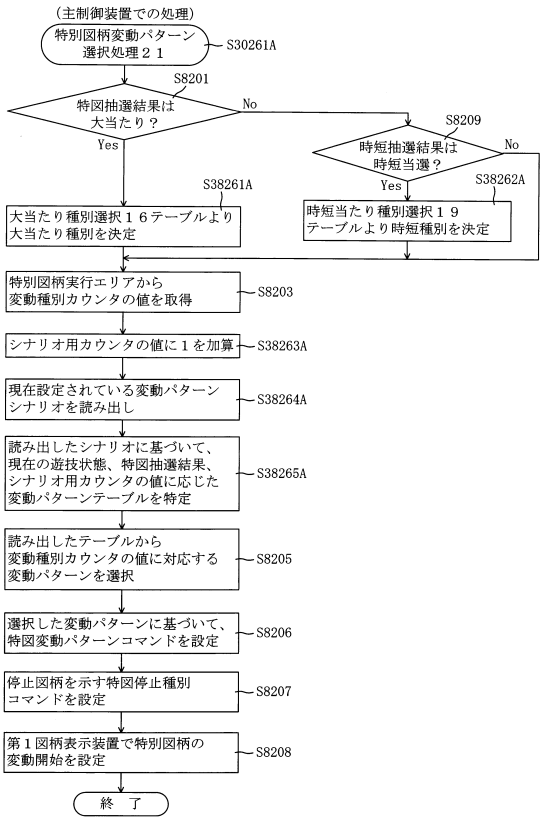


遊技状態	シナリオ設定後の特図抽選回数		
	1～4	5～20	21～
通常状態	時短終了報知用	時短終了後用	通常用
通常状態以外	確変・時短用		

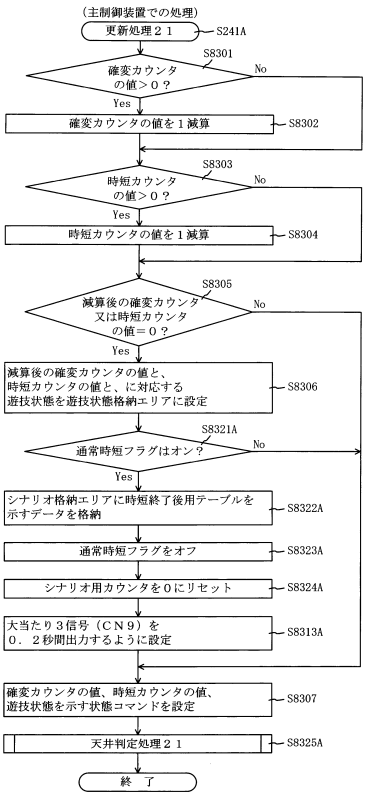
【図６５８】



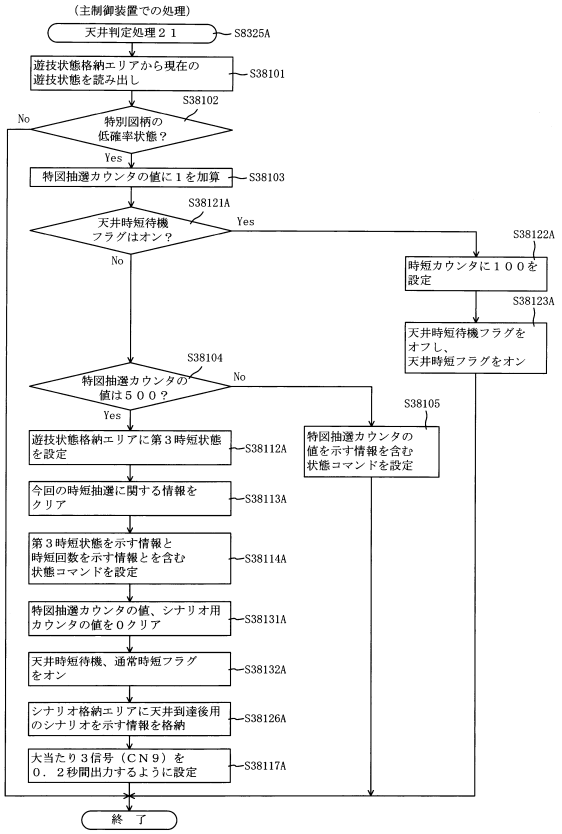
【図６５９】



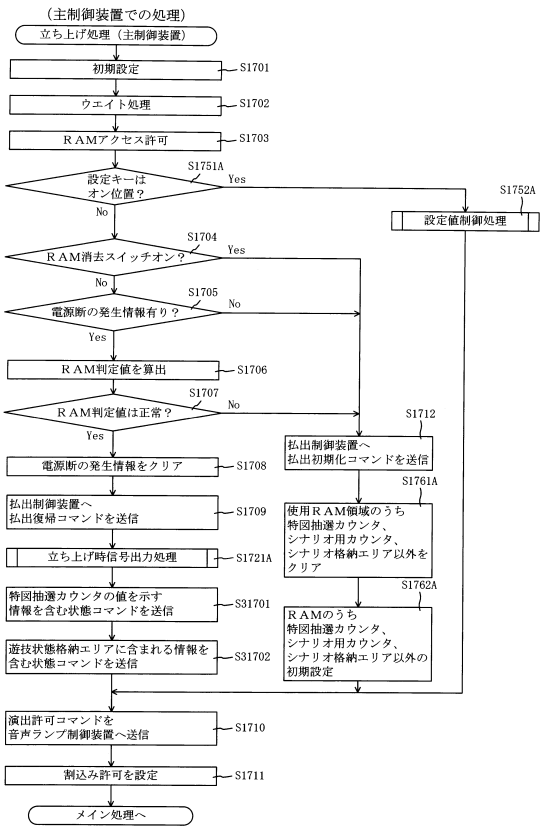
【図６６０】



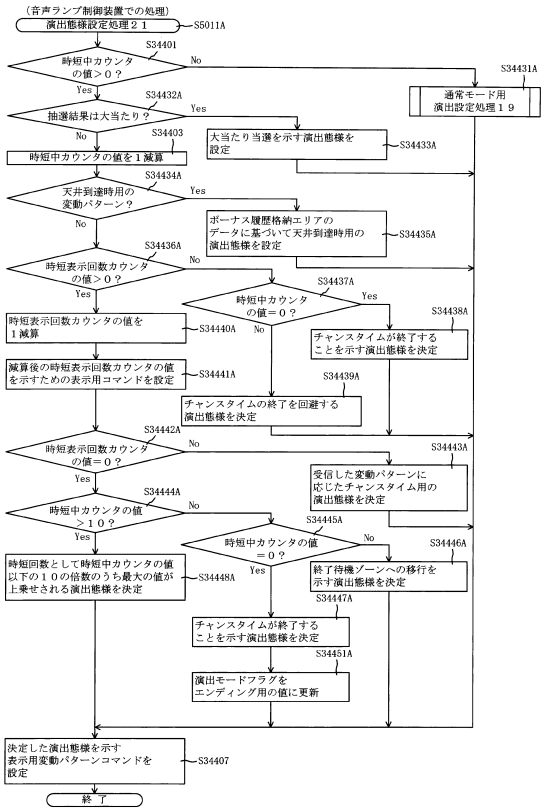
【図６６１】



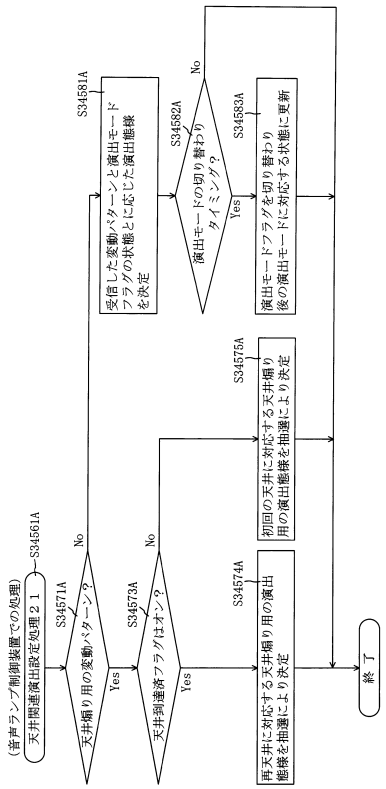
【図６６２】



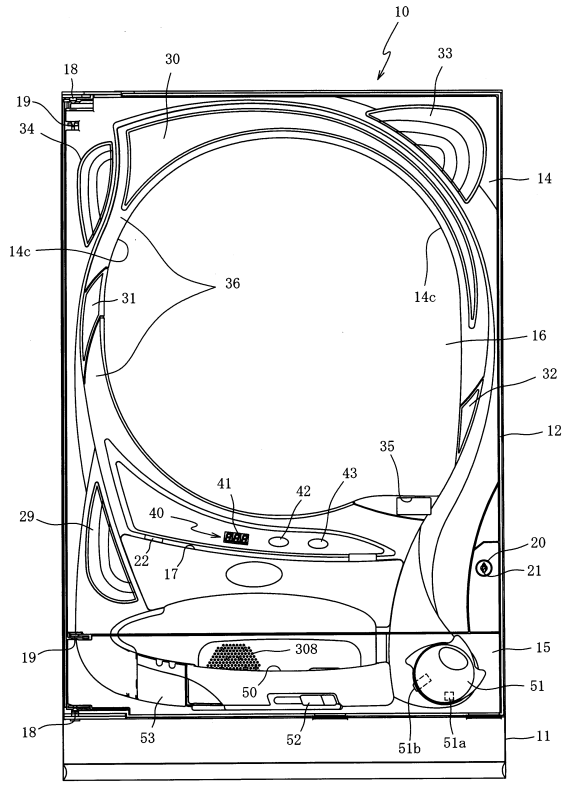
【図６６３】



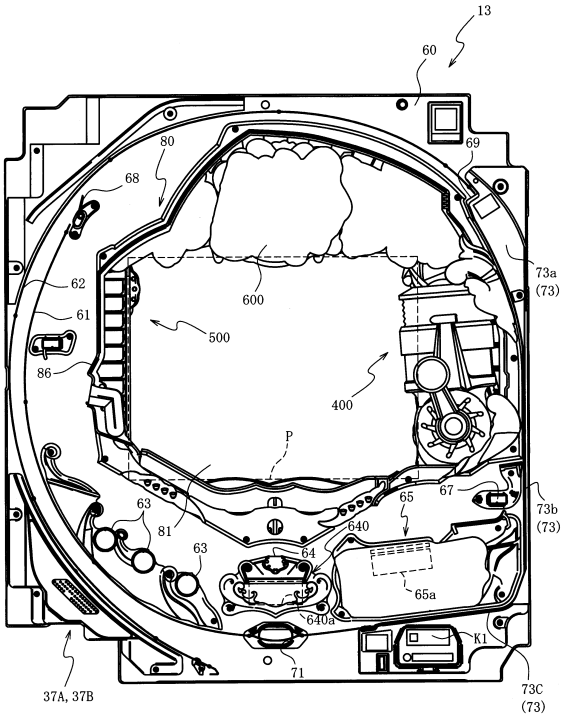
【図６６４】



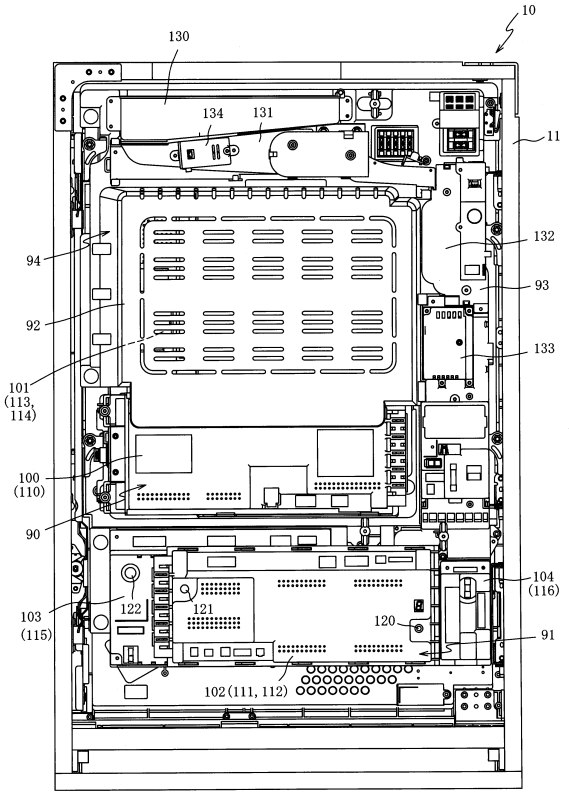
【図６６５】



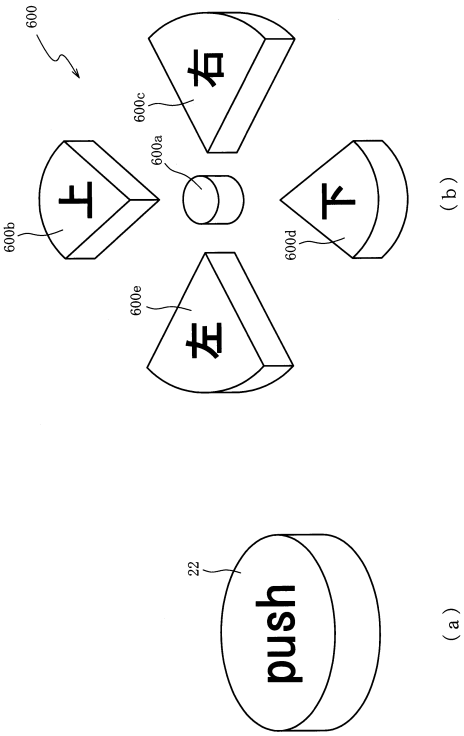
【図６６６】



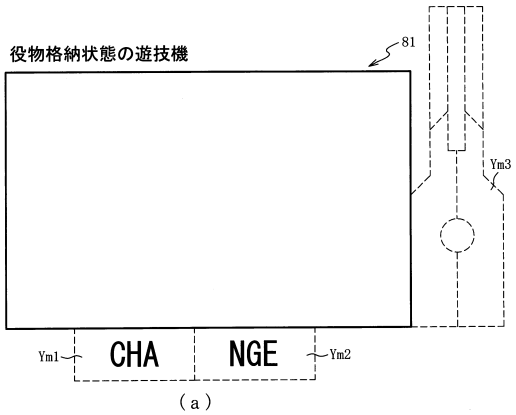
【図６６７】



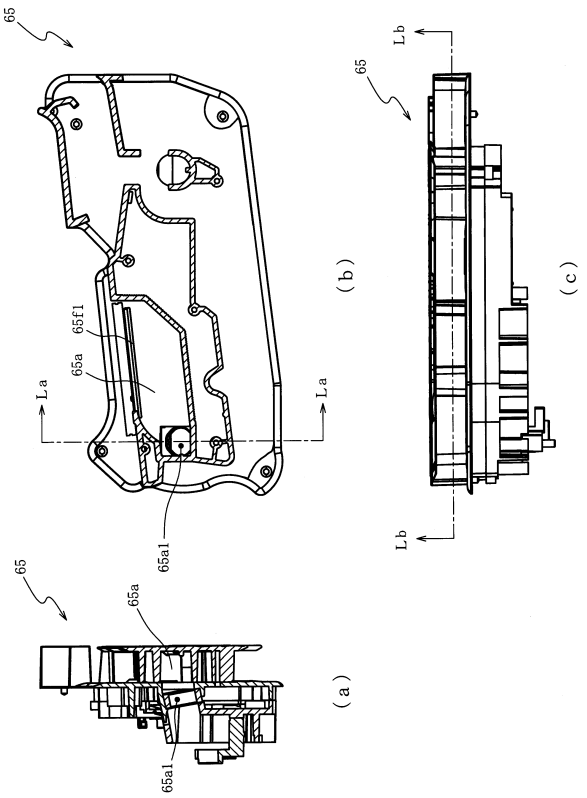
【図６６８】



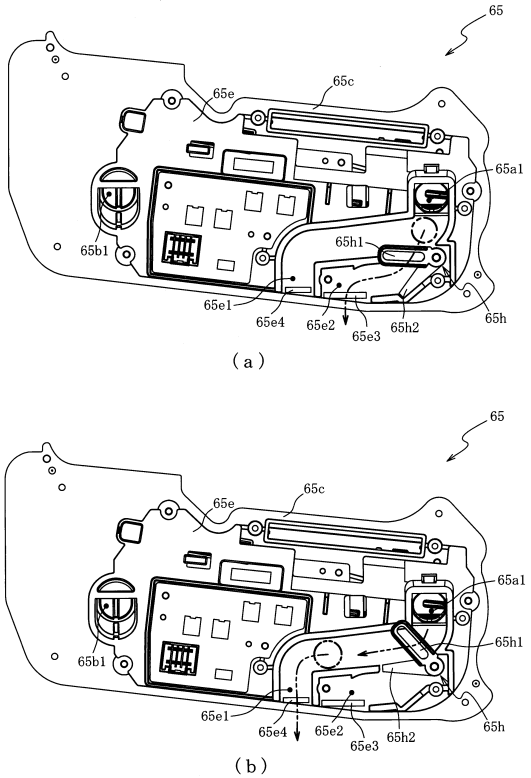
【図６６９】



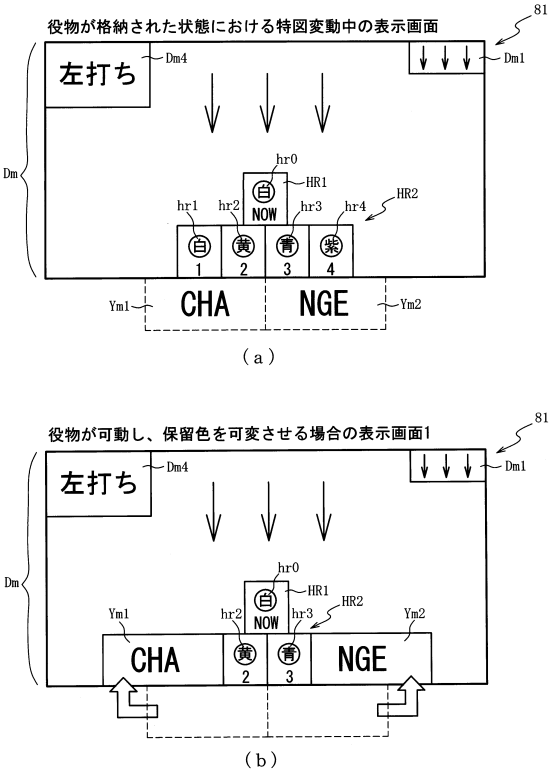
【図６７０】



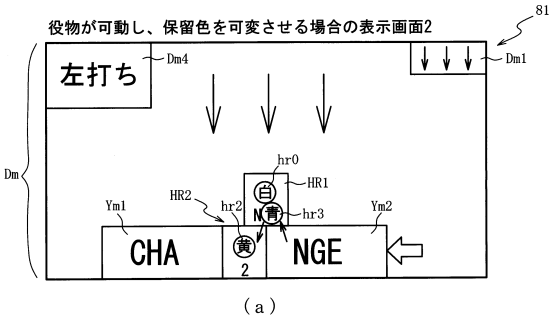
【図６７１】



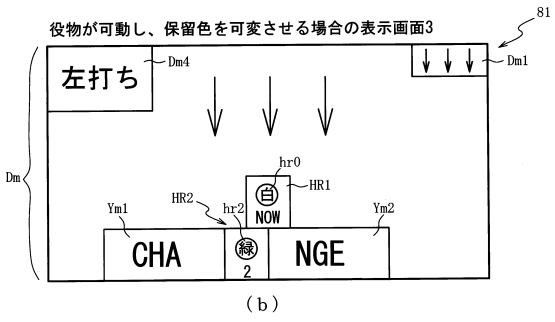
【図６７２】



【図６７３】

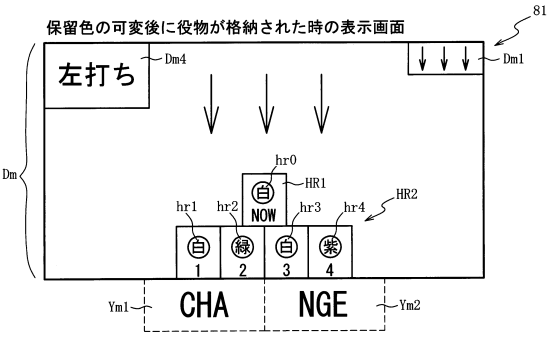


（ａ）

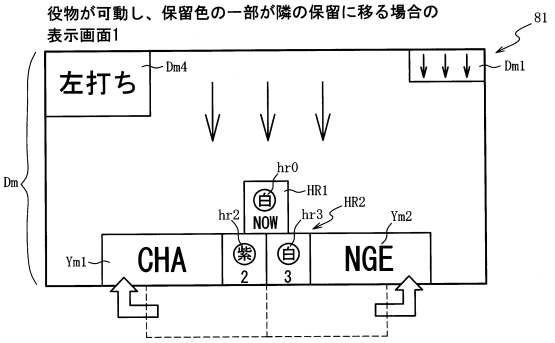


（ｂ）

【図６７４】

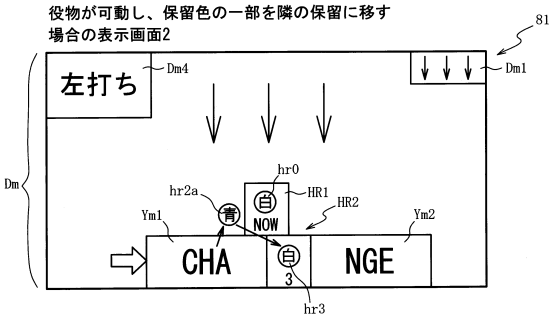


（ａ）

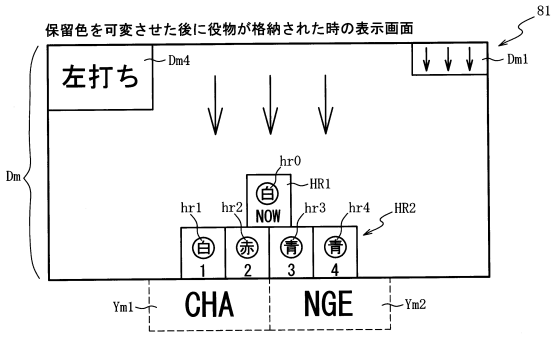


（ｂ）

【図６７５】

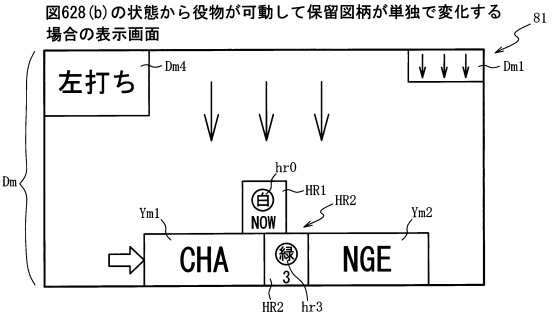


（ａ）

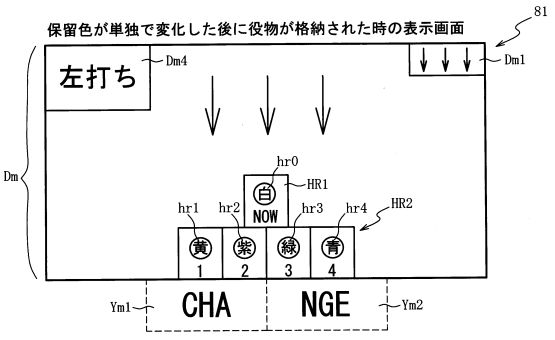


（ｂ）

【図６７６】



（ａ）



（ｂ）

【図６７７】

（ａ）保留図柄の色と大当たり当選期待度との関係

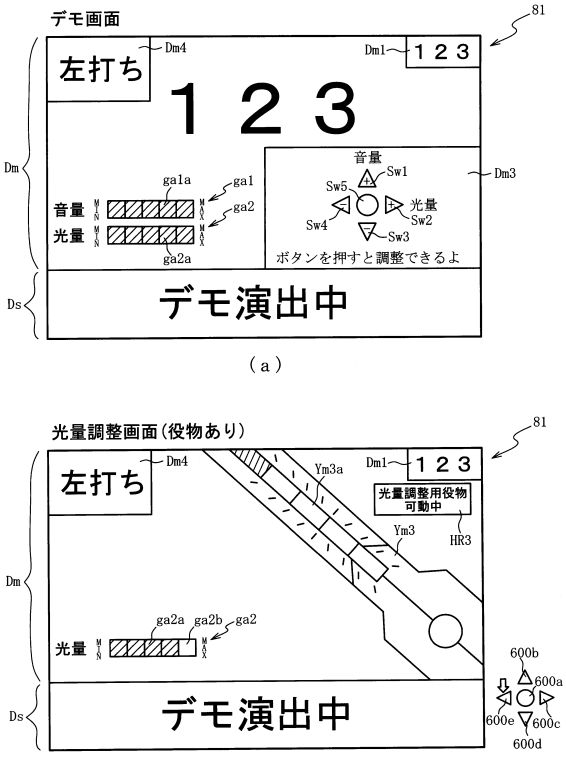
㊤＝㊒＝㊓＝㊍＜㊎＜㊌＜㊐

当選期待度　小 ⟶ 大

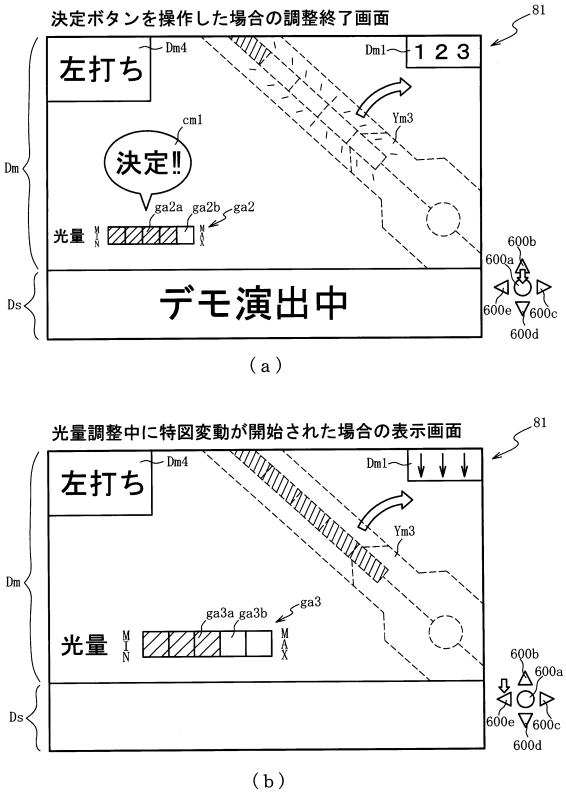
（ｂ）保留図柄の色の可変パターン

可変後の保留色	可変パターン
虹	異なる３種類以上の保留色を合成
赤	紫から青を他の保留に移す
緑	青と黄を合成

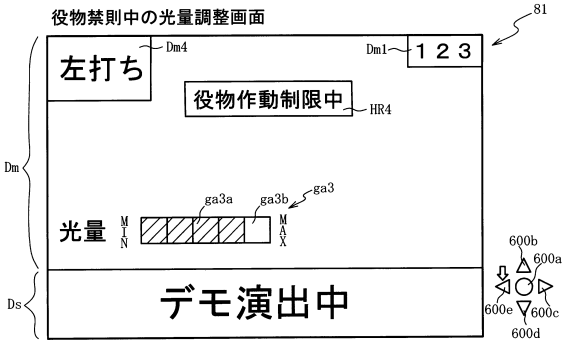
【図６７８】



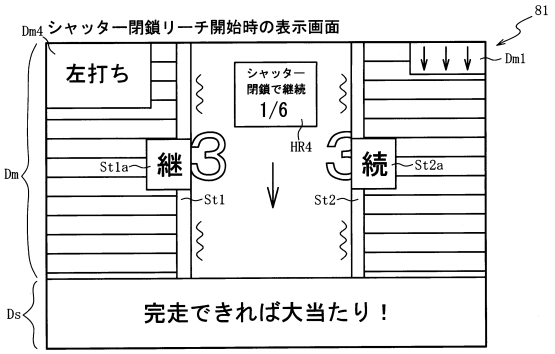
【図６７９】



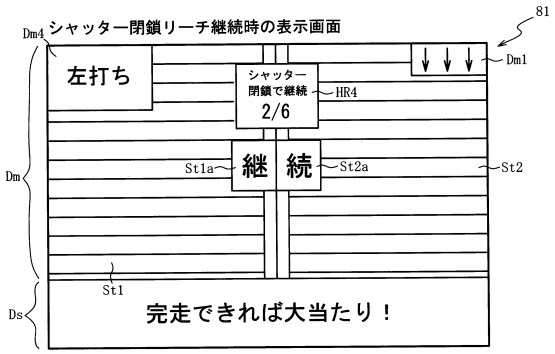
【図６８０】



【図６８１】

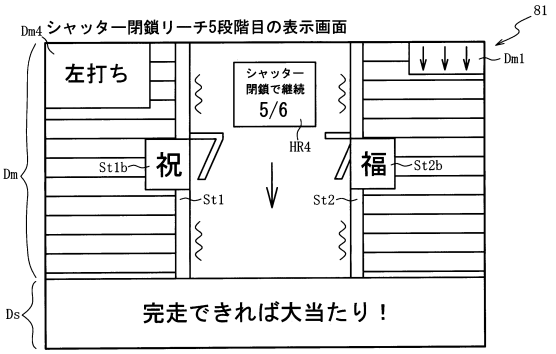


（ａ）

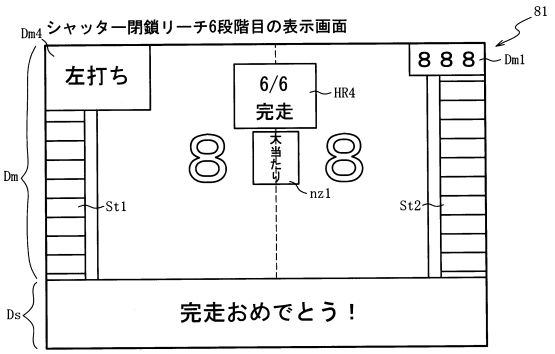


（ｂ）

【図６８２】

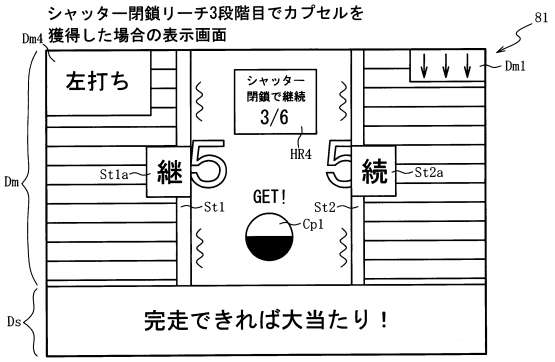


（ａ）

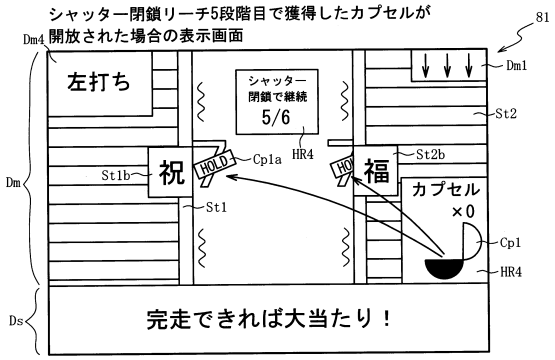


（ｂ）

【図６８３】

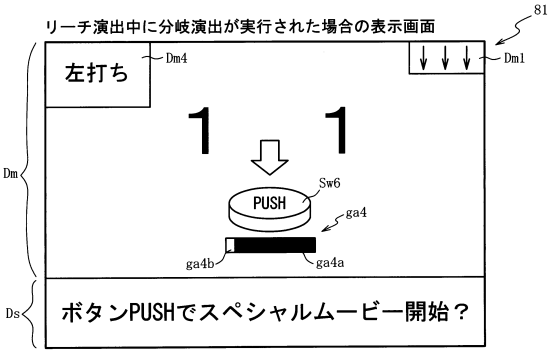


（ａ）

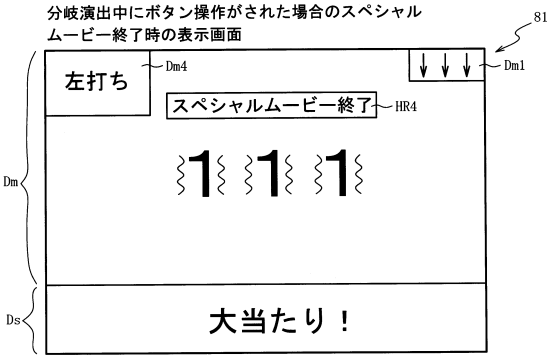


（ｂ）

【図６８４】

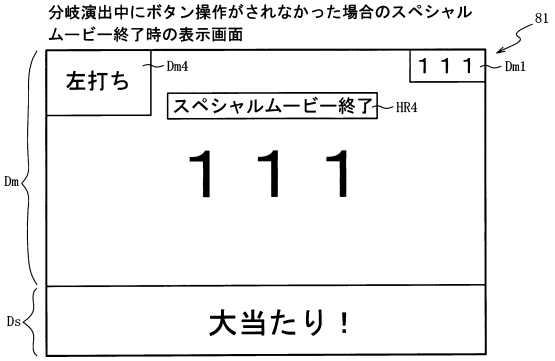


（ａ）

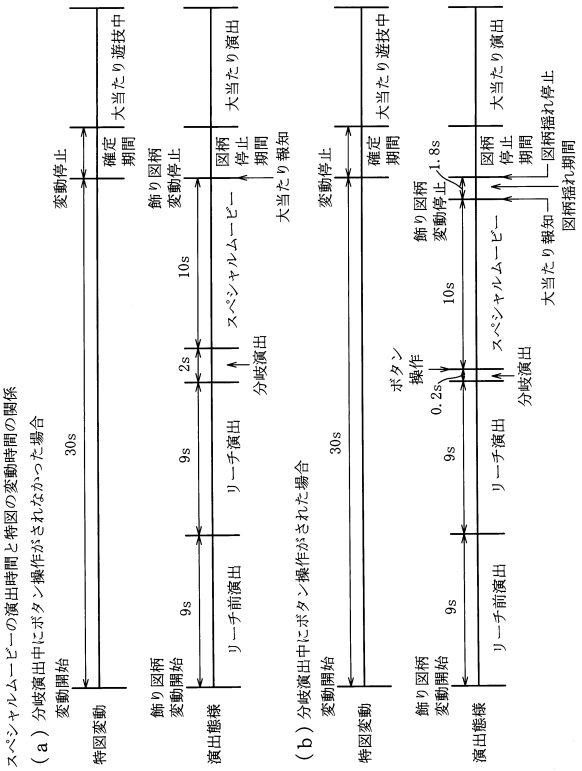


（ｂ）

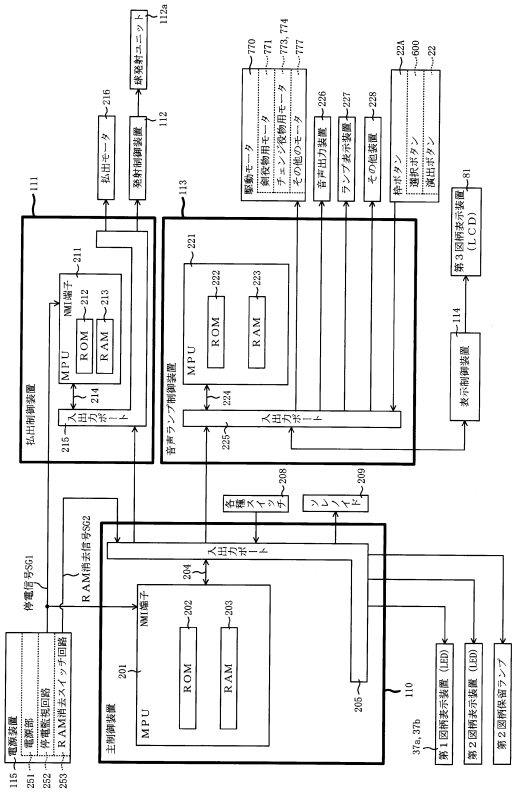
【図６８５】



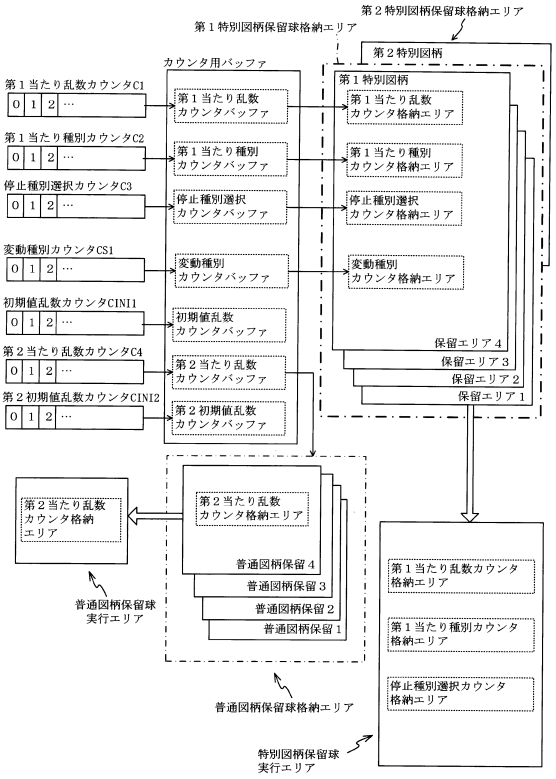
【図６８６】



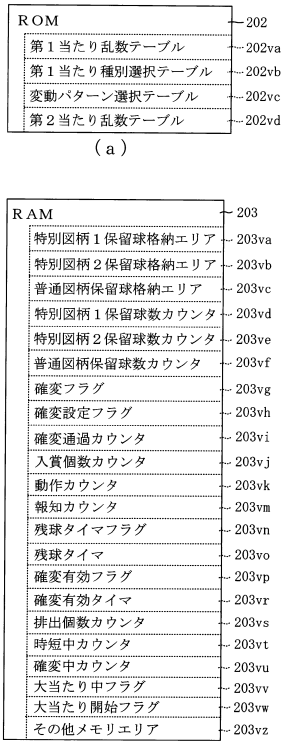
【図６８７】



【図６８８】



【図６８９】



【図６９０】

202

第１当たり乱数テーブル202va

遊技状態	抽選結果	第１当たり乱数 カウンタ値（0～999）
特別図柄の 低確率状態	大当たり	0～4
	外れ	5～999
特別図柄の 高確率状態	大当たり	0～19
	外れ	20～999

【図６９１】

202

第１当たり種別選択テーブル202vb

特別図柄の種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値（0～99）	時短中カウンタ 203vt	確変中カウンタ 203vu
第１特別図柄	大当たりＡ（10R確変大当たり）	0	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＢ（3R確変大当たり）	1	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＣ（3R時短大当たり）	2～99	100（Ｖ通過時エラー）	0（Ｖ通過時エラー）
第２特別図柄	大当たりＡ（10R確変大当たり）	0～24	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＢ（3R確変大当たり）	25～41	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＤ（2R確変大当たり）	42～51	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＥ（4R確変大当たり）	52～68	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＦ（5R確変大当たり）	69～82	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＧ（6R確変大当たり）	83～90	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＨ（7R確変大当たり）	91～97	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＩ（8R確変大当たり）	98	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）
	大当たりＪ（9R確変大当たり））	99	120（Ｖ非通過時100）	120（Ｖ非通過時0）

（ａ）

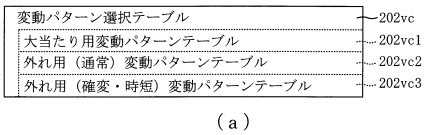
202

第２当たり乱数テーブル202vd

遊技状態	抽選結果	第２当たり乱数 カウンタ値（0～299）
普通図柄の 通常状態	当たり	0～2
	外れ	3～299
普通図柄の 高確率状態	当たり	0～149
	外れ	150～299

（ｂ）

【図６９２】



（ａ）

202

大当たり用変動パターンテーブル202vc1

変動種別カウンタCS1	0～50	51～179	180～198
常時	ノーマルリーチ 各種(30秒)	スーパーリーチ 各種(60秒)	スペシャルリーチ 各種(90秒)

（ｂ）

202

外れ用（通常）変動パターンテーブル202vc2

変動種別カウンタCS1	0～98	99～149	150～197	198
完全外れ専用	短外れ(7秒)	長外れ(10秒)		
リーチ共通	ノーマルリーチ 各種(30秒)		スーパーリーチ 各種(60秒)	スペシャルリーチ 各種(90秒)

（ｃ）

202

外れ用（確変・時短）変動パターンテーブル202vc3

変動種別カウンタCS1	0～190	191～197	198
完全外れ専用	短外れ(7秒)	長外れ(10秒)	
リーチ共通	ノーマルリーチ 各種(30秒)	スーパーリーチ 各種(60秒)	スペシャルリーチ 各種(90秒)

（ｄ）

【図６９３】

ROM	222
変動パターン選択テーブル	222va
保留変化演出抽選テーブル	222vb
保留色選択テーブル	222vc
保留変化シナリオ選択テーブル	222vd
シャッター閉鎖リーチ選択テーブル	222ve
動作シナリオテーブル	222vf

（ａ）

RAM	223
入賞情報格納エリア	223va
特別図柄１保留球数カウンタ	223vb
特別図柄２保留球数カウンタ	223vc
変動開始フラグ	223vd
停止種別選択フラグ	223ve
第１演出カウンタ	223vf
第２演出カウンタ	223vg
従状態格納エリア	223vh
調整用役物可動中フラグ	223vi
制限タイマ	223vj
環境情報格納エリア	223vk
保留演出情報格納エリア	223vl
保留演出制限中フラグ	223vm
後保留設定フラグ	223vn
演出用ＳＷ有効時間記憶エリア	223vp
時短中カウンタ	223vq
確変中カウンタ	223vr
Ｖ演出実行フラグ	223vs
Ｖ入賞フラグ	223vt
Ｖ報知フラグ	223vu
ムービー中フラグ	223vv
揺れ待機フラグ	223vw
調整期間中フラグ	223vx
経過タイマ	223vy
その他メモリエリア	223vz

（ｂ）

【図６９４】

222

保留変化演出抽選テーブル222vb

第１演出カウンタ223vf (0～98)	抽選結果
0～29	実行しない
30～89	単独保留変化演出
90～98	複合保留変化演出

（ａ）

222

保留色選択テーブル222vc

当否判定	第２演出カウンタ223vg (0～198)	保留色	保留演出制限中フラグ223vm	保留演出情報格納エリア223vlに格納される情報
当たり	0～29	白	オン	当たり保留
	30～59	青		
	60～89	黄色		
	90～119	紫		
	120～179	緑		
	180～194	赤		
	195～198	虹		
外れ	0～49	白	オフ	保留色＝白
	50～149	青		保留色＝青
	150～174	黄		保留色＝黄
	175～194	紫		保留色＝紫
	195～197	緑		保留色＝緑
	198	赤		保留色＝赤

（ｂ）

【図６９５】

222

保留変化シナリオ選択テーブル222vd

当否判定	１つ前の保留色	第２演出カウンタ223vg (0～198)	保留色	保留演出制限中フラグ223vm	後保留設定フラグ223vn	保留演出情報格納エリア223vlに格納される情報
当たり	白	0～49	紫	オン	オフ	保留色＝紫 保留変化シナリオ１
		50～89	紫	オン	オフ	保留色＝紫 保留変化シナリオ２
		90～198	青	オン	オン	保留色＝青　次保留＝黄 保留変化シナリオ３
	青	0～69	黄	オン	オフ	保留色＝黄 保留変化シナリオ４
		70～149	白	オン	オン	保留色＝白　次保留＝紫 保留変化シナリオ５
		150～198	黄	オン	オン	保留色＝黄　次保留＝赤 保留変化シナリオ６
	黄	0～149	青	オン	オフ	保留色＝青 保留変化シナリオ７
		150～198	青	オン	オン	保留色＝青　次保留＝赤 保留変化シナリオ８
	紫	0～99	白	オン	オフ	保留色＝白 保留変化シナリオ９
		100～149	白	オン	オフ	保留色＝白 保留変化シナリオ１０
		150～198	緑	オフ	オフ	保留色＝緑
	赤	0～198	黄	オン	オン	保留色＝黄　次保留＝青 保留変化シナリオ１１
外れ	白	0～149	白	オフ	オフ	保留色＝白
		150～198	青	オン	オン	保留色＝青　次保留＝黄 保留変化シナリオ３
	青	0～169	白	オフ	オフ	保留色＝白
		170～198	黄	オン	オフ	保留色＝黄 保留変化シナリオ４
	黄	0～169	白	オフ	オフ	保留色＝白
		170～198	青	オン	オフ	保留色＝青 保留変化シナリオ７
	紫	0～129	白	オフ	オフ	保留色＝白
		130～198	白	オン	オフ	保留色＝白 保留変化シナリオ９
	それ以外	0～198	白	オフ	オフ	保留色＝白

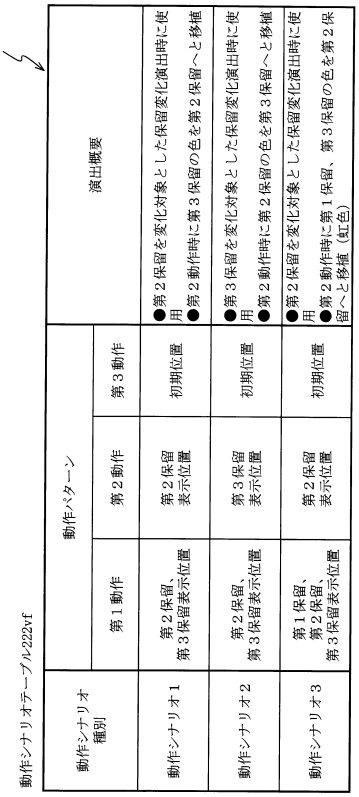
【図６９６】

222

シャッター閉鎖リーチ選択テーブル222ve

当否判定	当たり種別	第１演出カウンタ223vf (0～198)	選択演出	初期図柄	演出内容 図柄可変態様	演出内容 ３段階目付与	演出内容 最終到達
当たり	大当たりＡ	0～149	閉鎖リーチ１	2	閉鎖時に+1	無し	6/6
		150～174	閉鎖リーチ２	3	閉鎖時に+1	ＨＯＬＤ	6/6
		175～198	閉鎖リーチ３	3	閉鎖時に+1	カギ	5/6
	大当たりＢ 大当たりＣ	0～149	閉鎖リーチ４	3	閉鎖時に+1	無し	6/6
		150～174	閉鎖リーチ５	2	2→3→4→5→5→5	無し	6/6
		175～198	閉鎖リーチ６	2	閉鎖時に+1	カギ	5/6
外れ	－	0～99	閉鎖リーチ７	2or3	閉鎖時に+1	－	2/6
		100～159	閉鎖リーチ８	2or3	閉鎖時に+1	失敗	3/6
		160～169	閉鎖リーチ９	2or3	閉鎖時に+1	無し	4/6
		170～179	閉鎖リーチ１０	2or3	閉鎖時に+1	無し	5/6
		180～189	閉鎖リーチ１１	2	2→3→4→5→5	無し	5/6
		190～194	閉鎖リーチ１２	3	閉鎖時に+1	ＨＯＬＤ	5/6
		195～198	閉鎖リーチ１３	2	閉鎖時に+1	カギ	5/6

【図６９７】

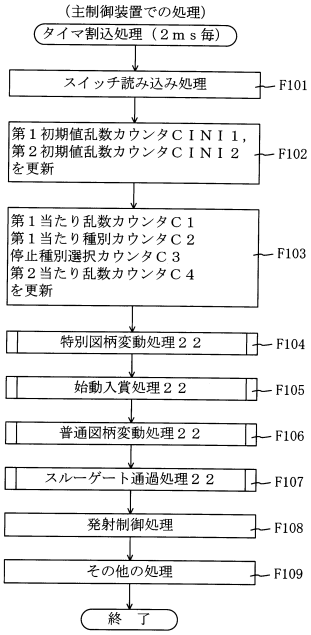


222

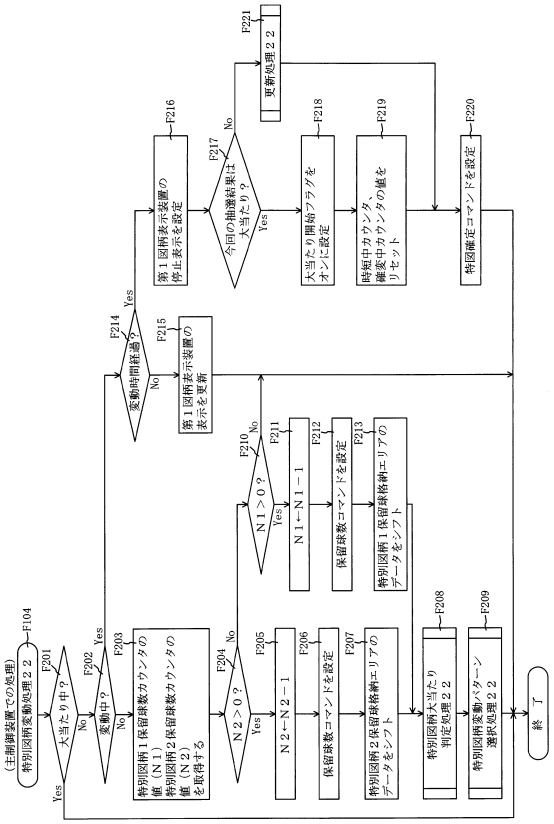
動作シナリオテーブル222vf

動作シナリオ種別	動作パターン			演出概要
	第１動作	第２動作	第３動作	
動作シナリオ１	第２保留、第３保留表示位置	第２保留表示位置	初期位置	●第２保留を変化対象とした保留変化演出時に使用 ●第２動作時に第３保留の色を第２保留へと移植
動作シナリオ２	第２保留、第３保留表示位置	第３保留表示位置	初期位置	●第３保留を変化対象とした保留変化演出時に使用 ●第２動作時に第２保留の色を第３保留へと移植
動作シナリオ３	第１保留、第２保留、第３保留表示位置	第２保留表示位置	初期位置	●第２保留を変化対象とした保留変化演出時に使用 ●第２動作時に第１保留、第３保留の色を第２保留へと移植（虹色）

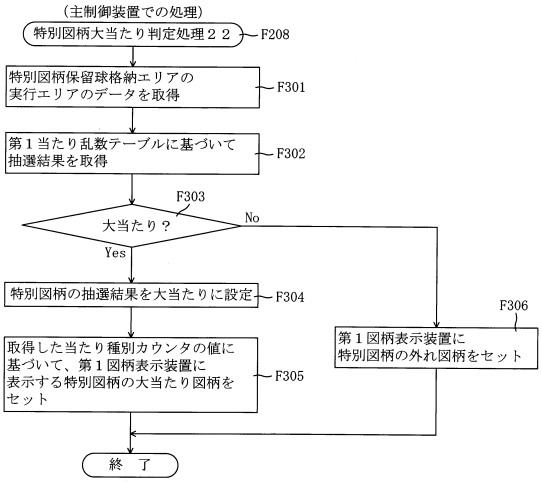
【図６９８】



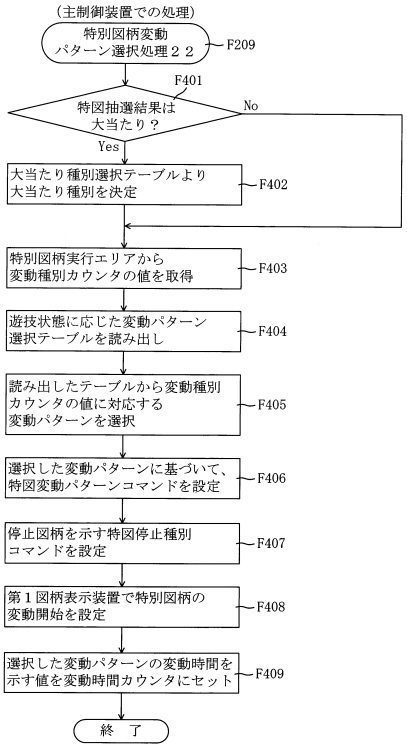
【図６９９】



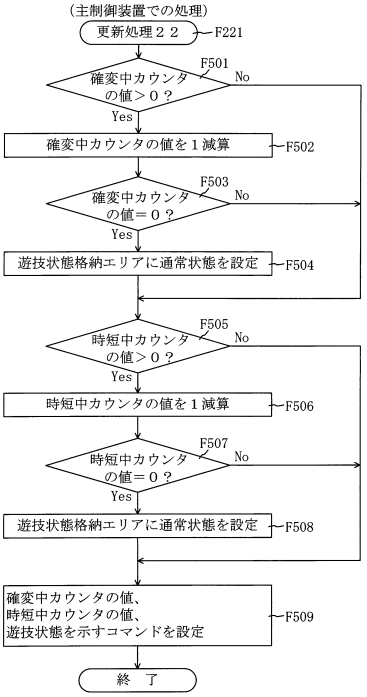
【図７００】



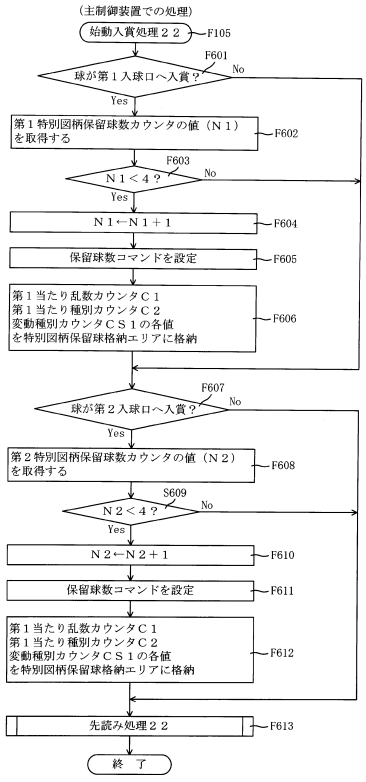
【図７０１】



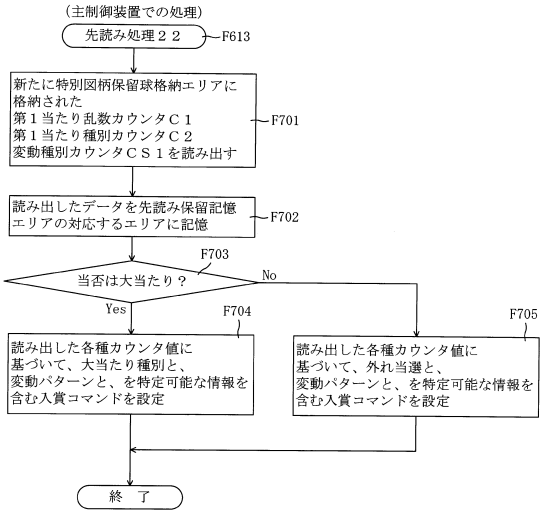
【図７０２】



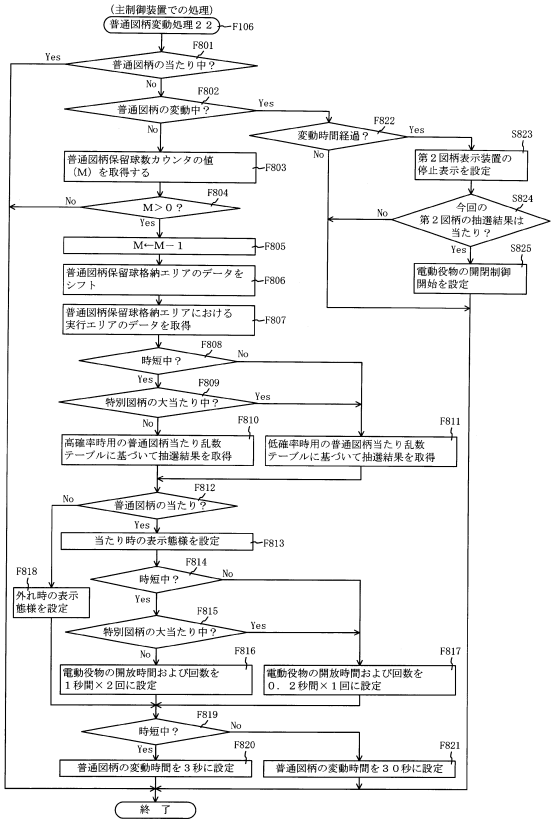
【図７０３】



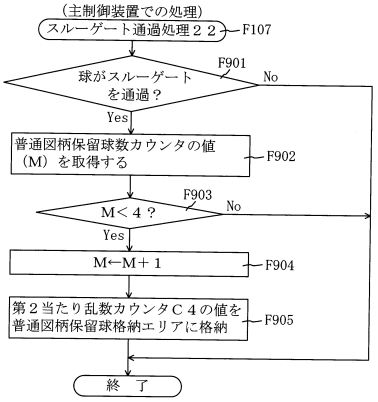
【図７０４】



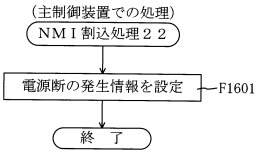
【図７０５】



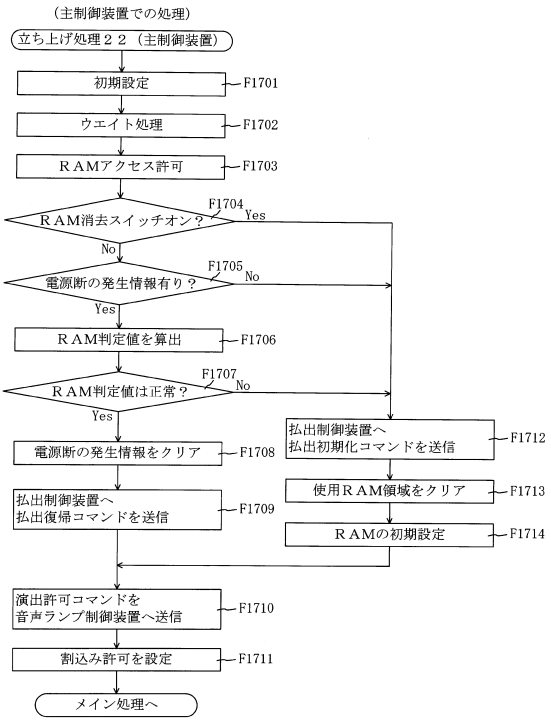
【図７０６】



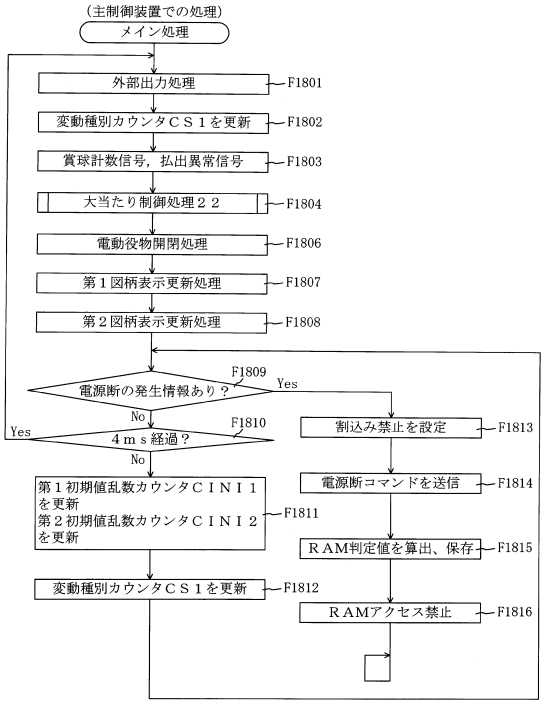
【図７０７】



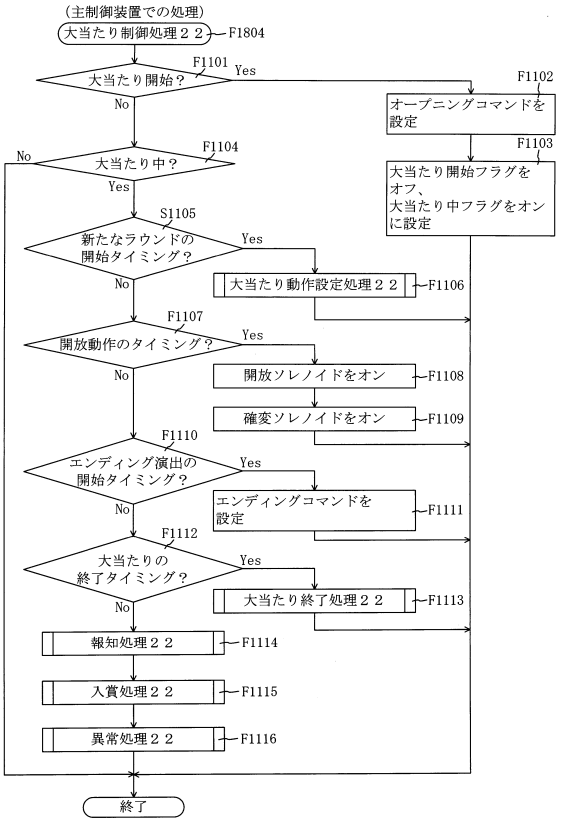
【図７０８】



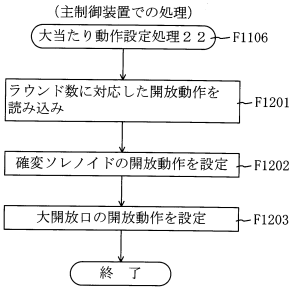
【図７０９】



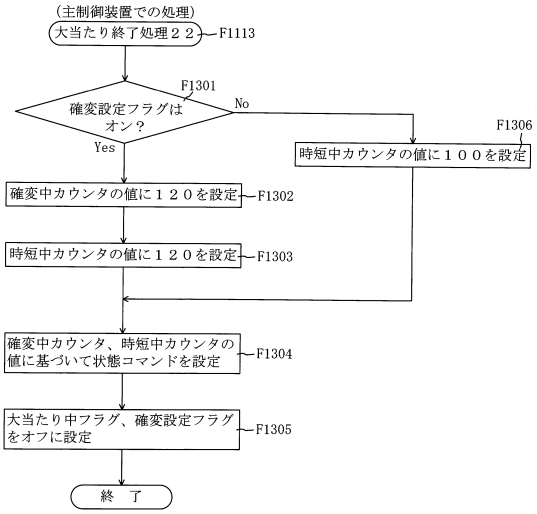
【図７１０】



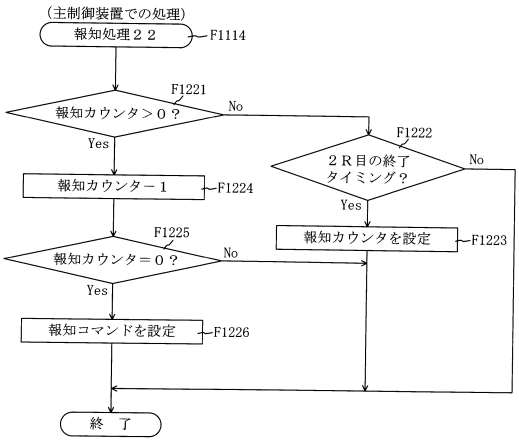
【図７１１】



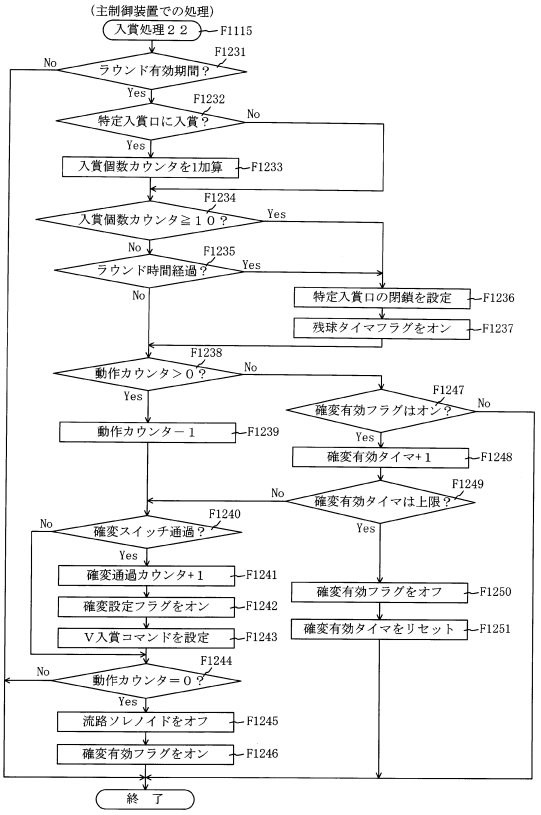
【図７１２】



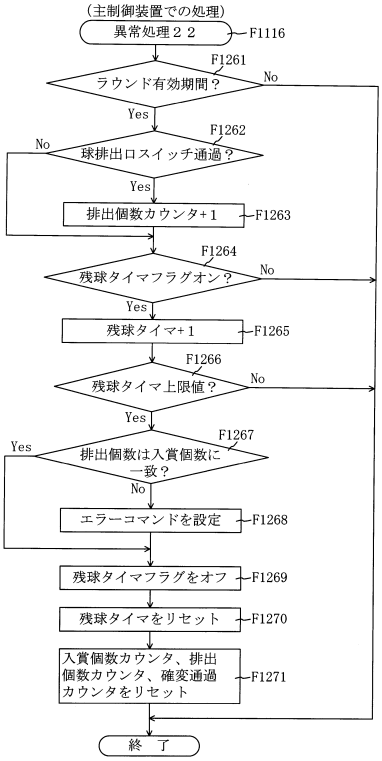
【図７１３】



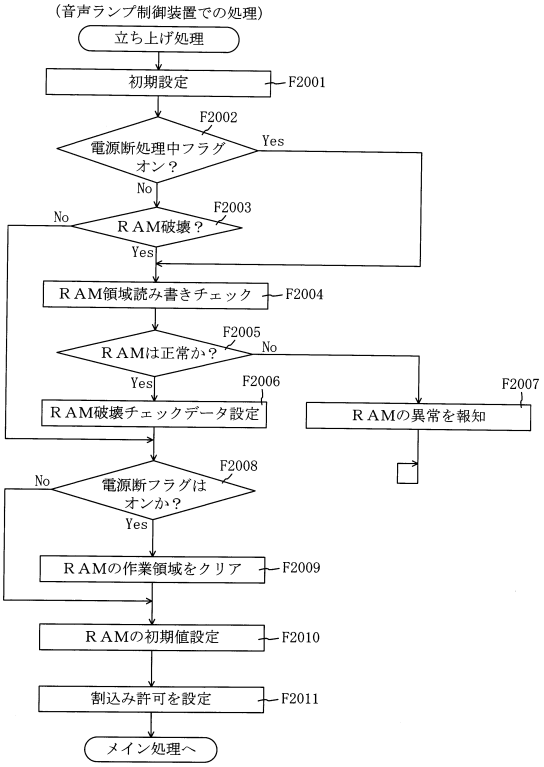
【図７１４】



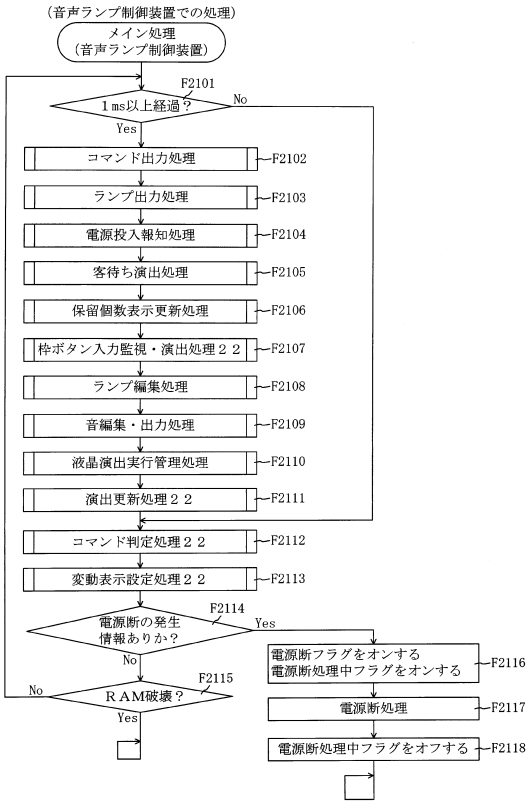
【図７１５】



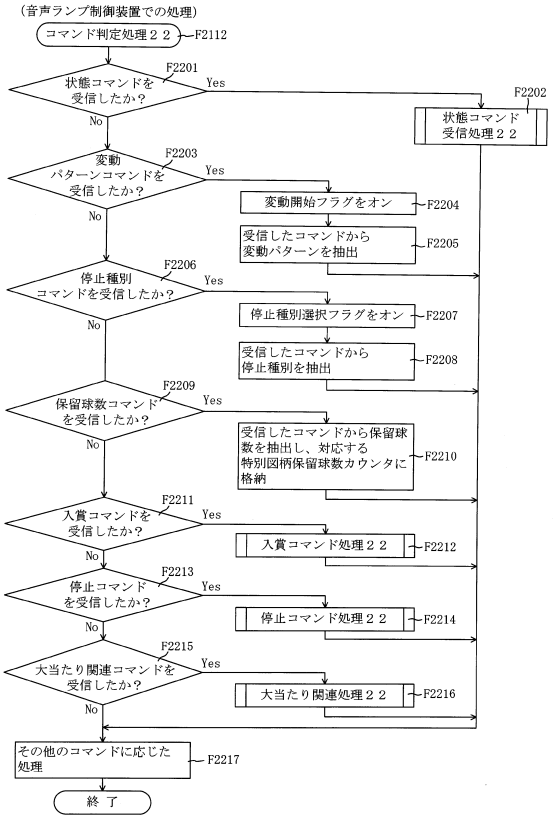
【図７１６】



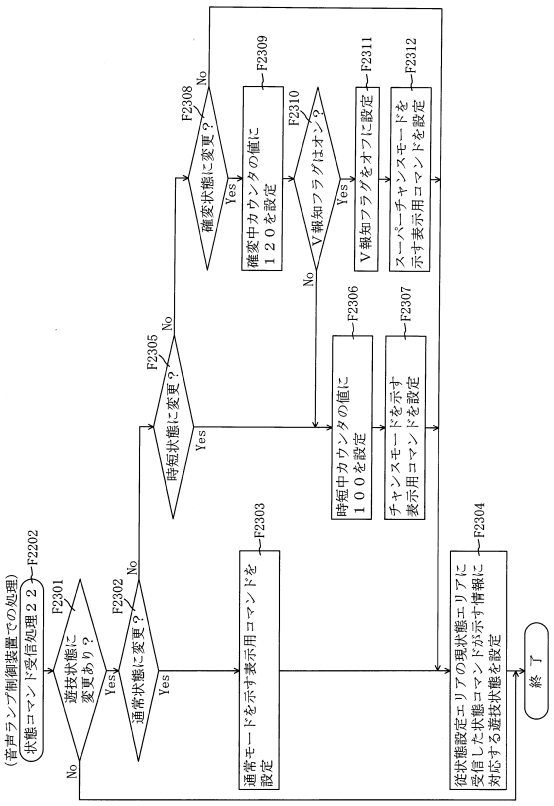
【図７１７】



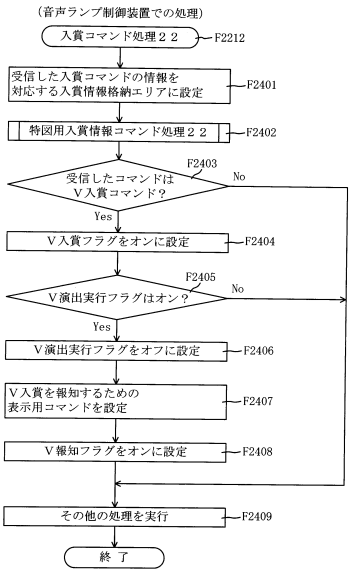
【図７１８】



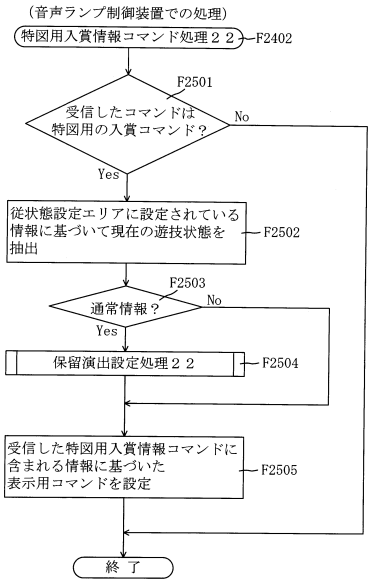
【図７１９】



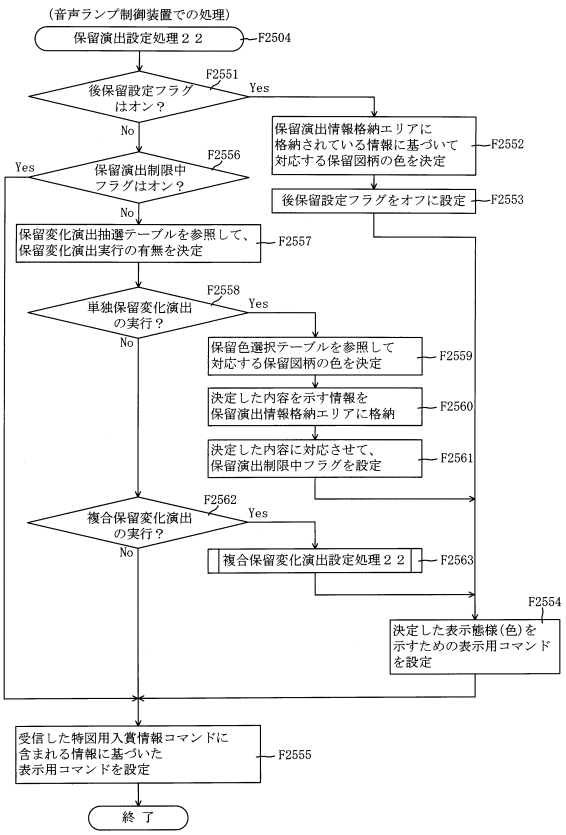
【図７２０】



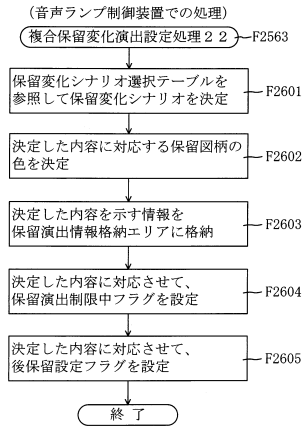
【図７２１】



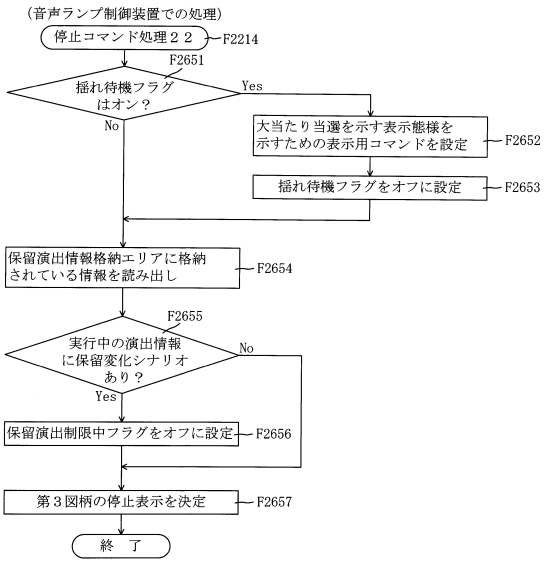
【図７２２】



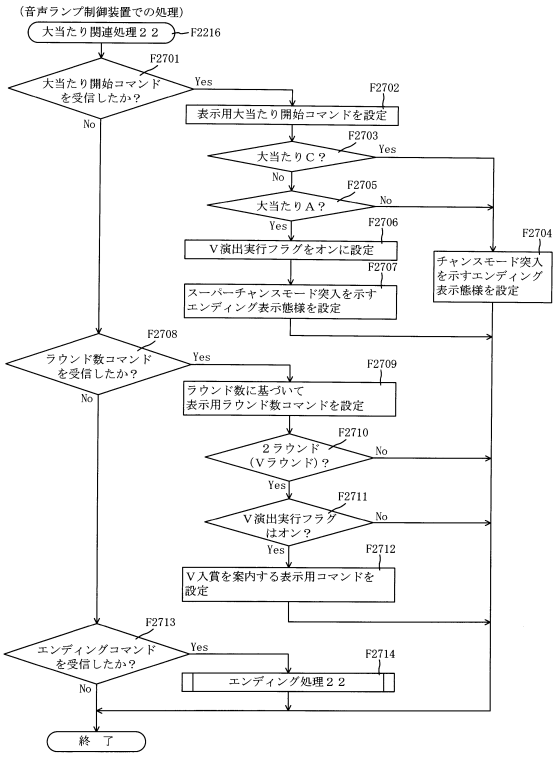
【図７２３】



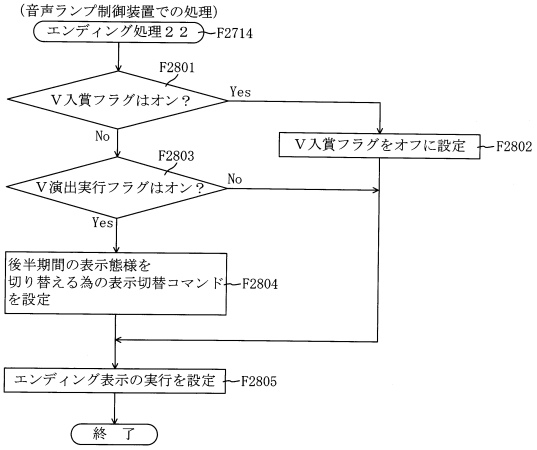
【図７２４】



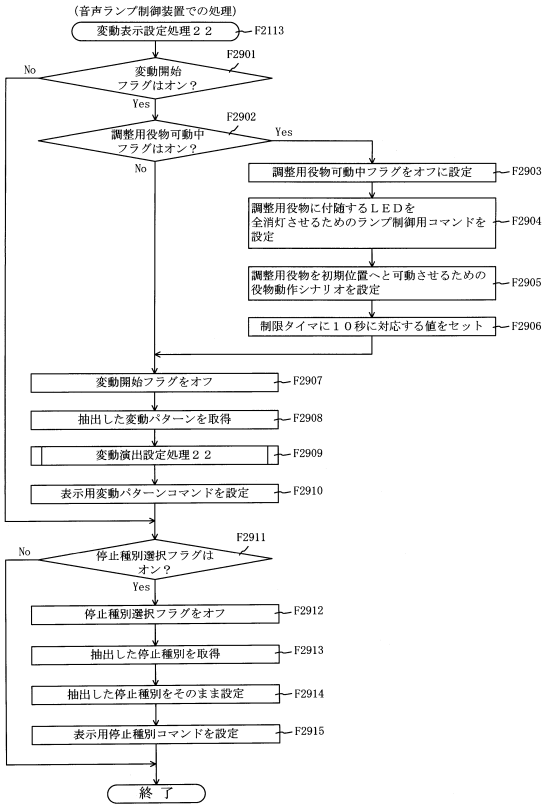
【図７２５】



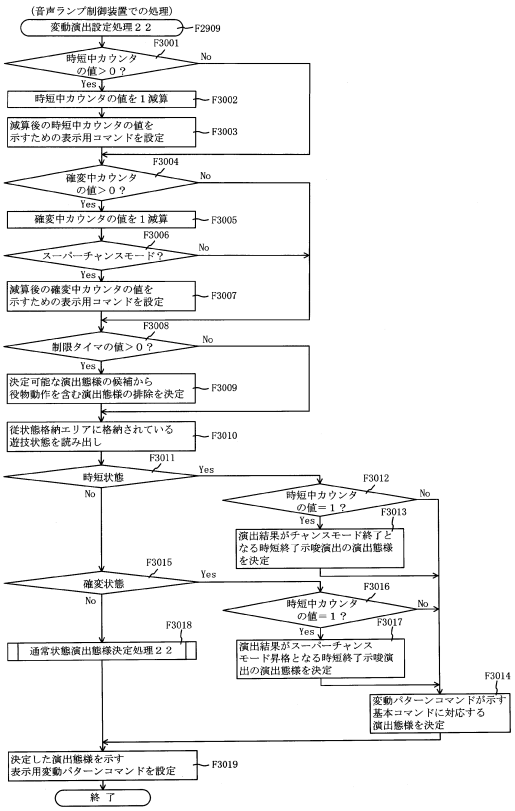
【図７２６】



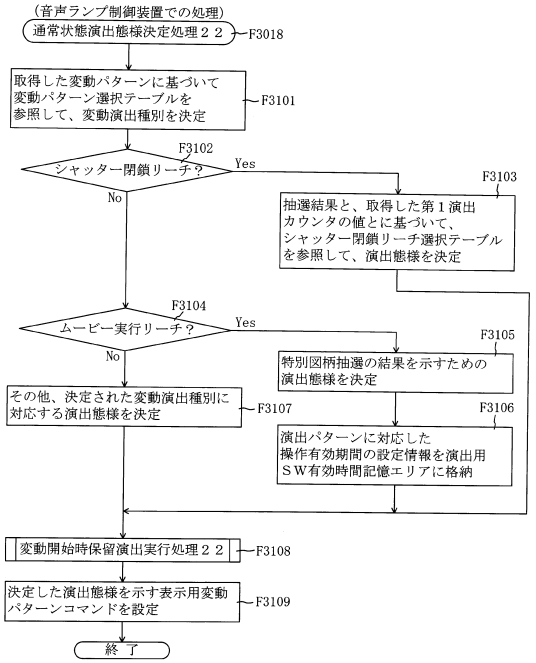
【図７２７】



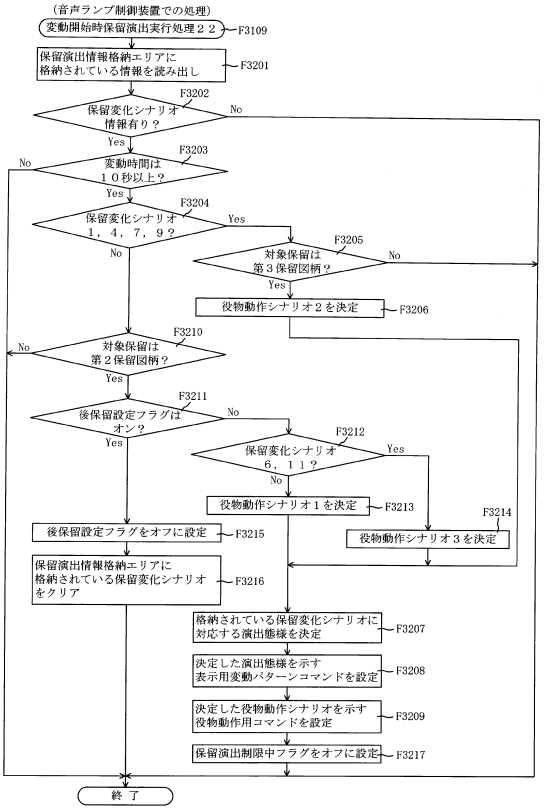
【図７２８】



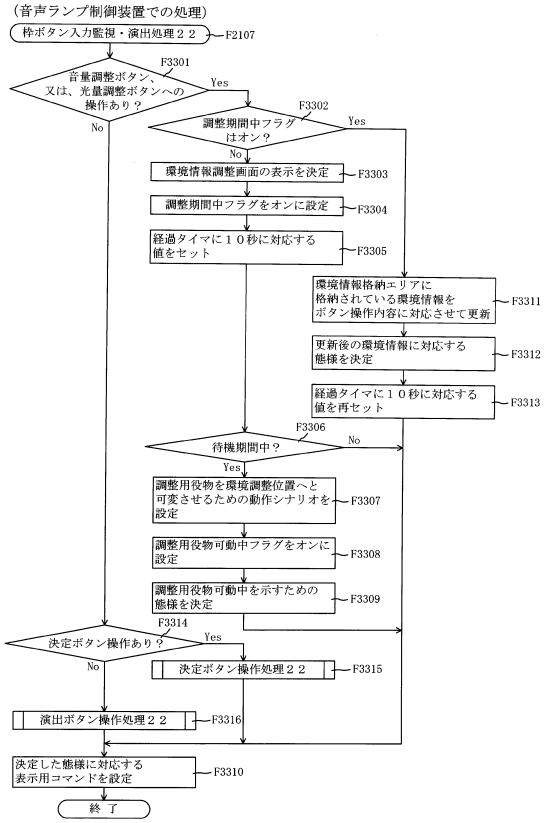
【図７２９】



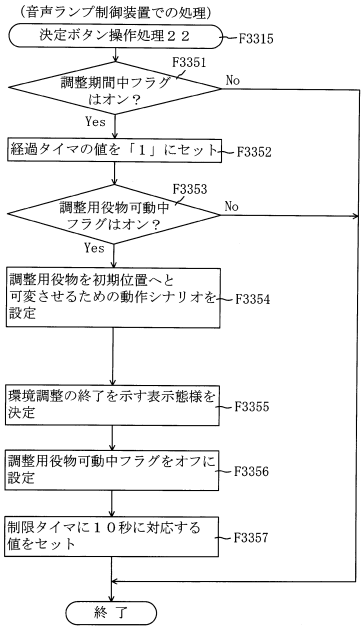
【図７３０】



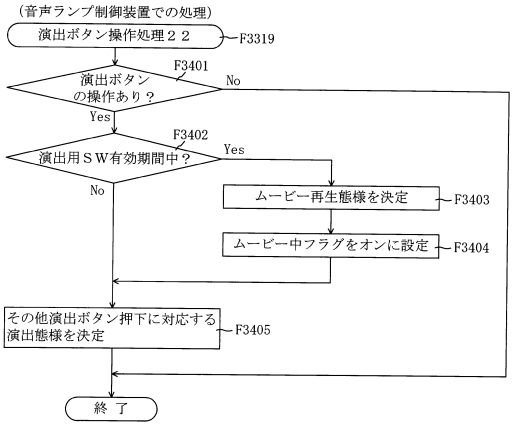
【図７３１】



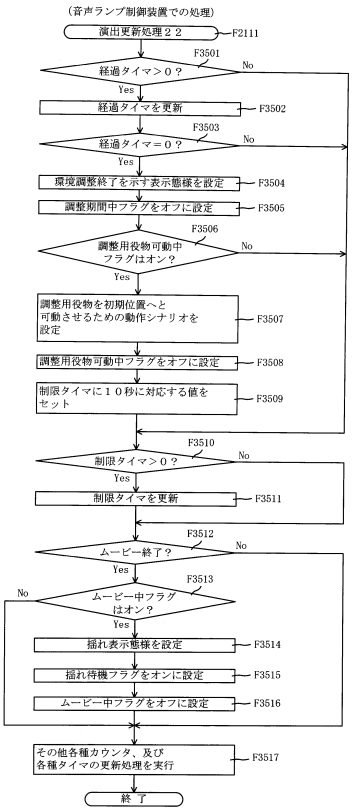
【図７３２】



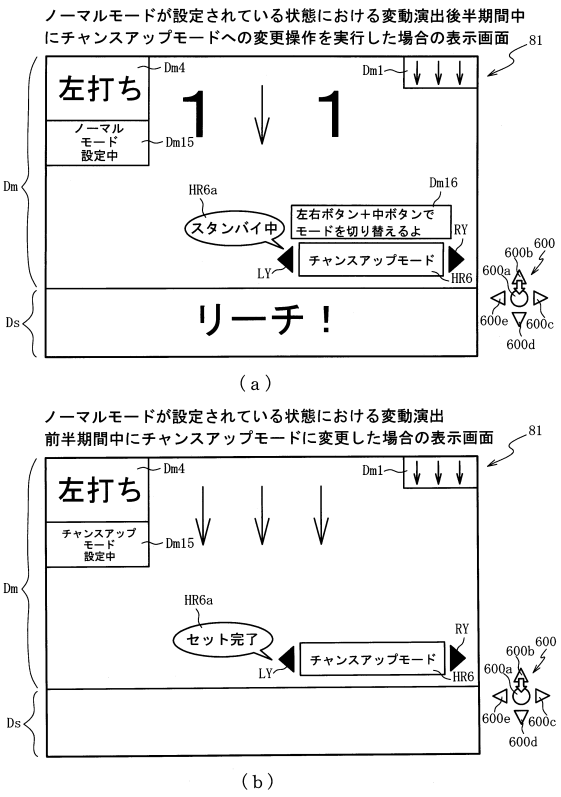
【図７３３】



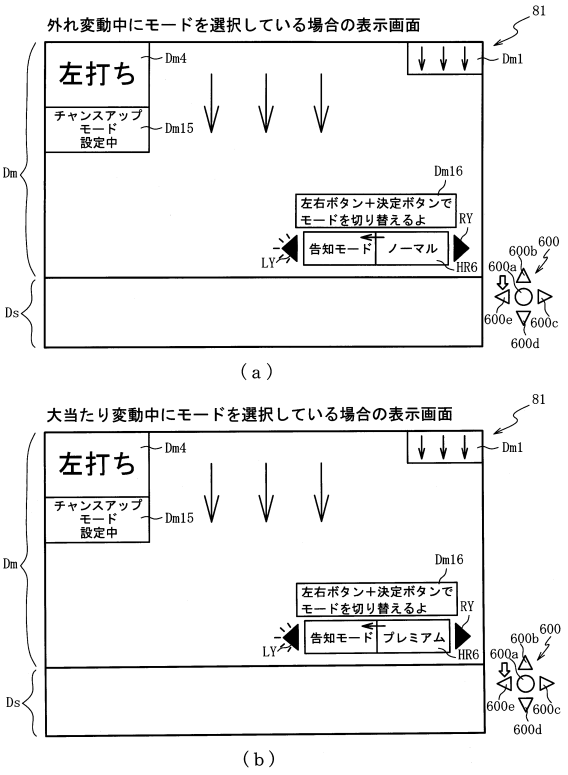
【図７３４】



【図７３５】



【図７３６】



【図７３７】

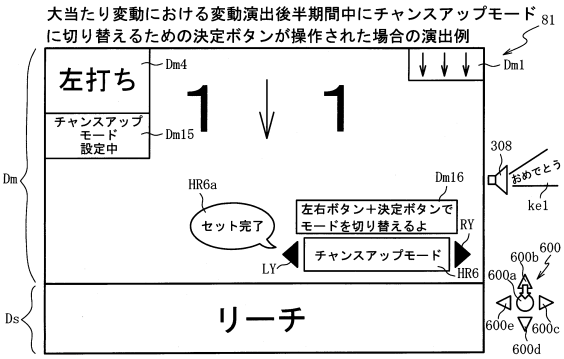
（ａ）外れ変動中の演出モード選択エリアの構成

ノーマルモード	チャンスアップモード	確変告知モード

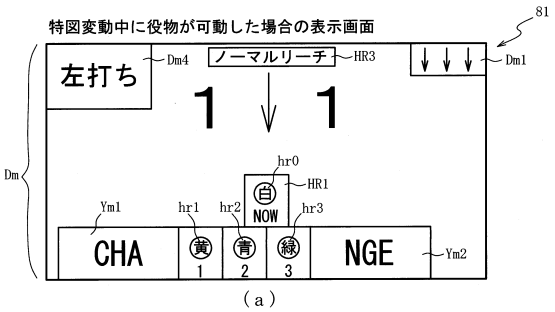
（ｂ）大当たり変動中の演出モード選択エリアの構成

ノーマルモード	チャンスアップモード	確変告知モード	プレミアムモード

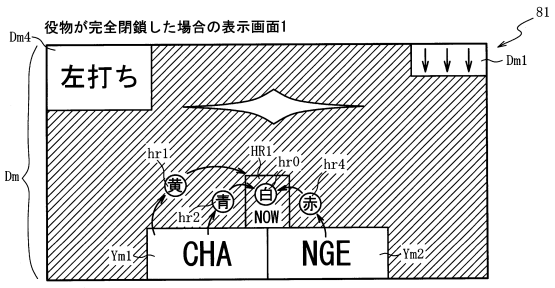
【図７３８】



【図７３９】

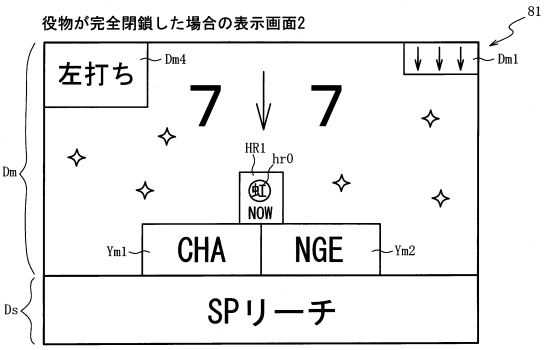


（ａ）

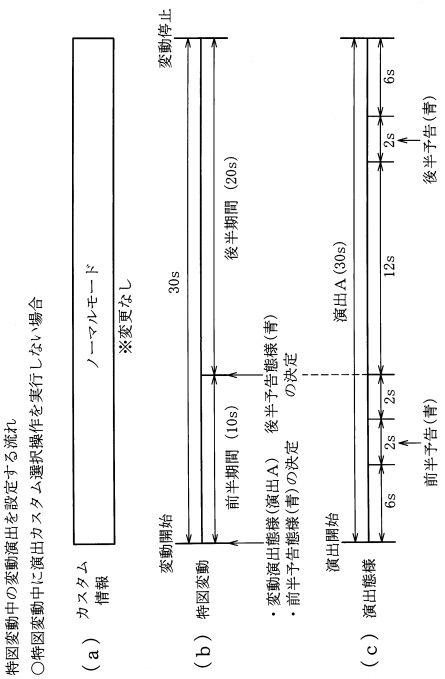


（ｂ）

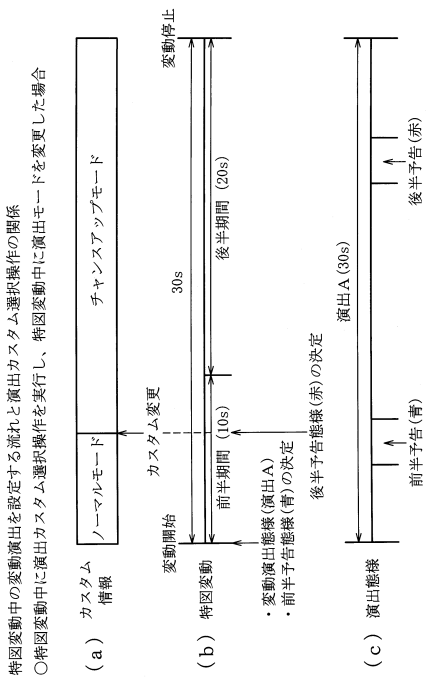
【図７４０】



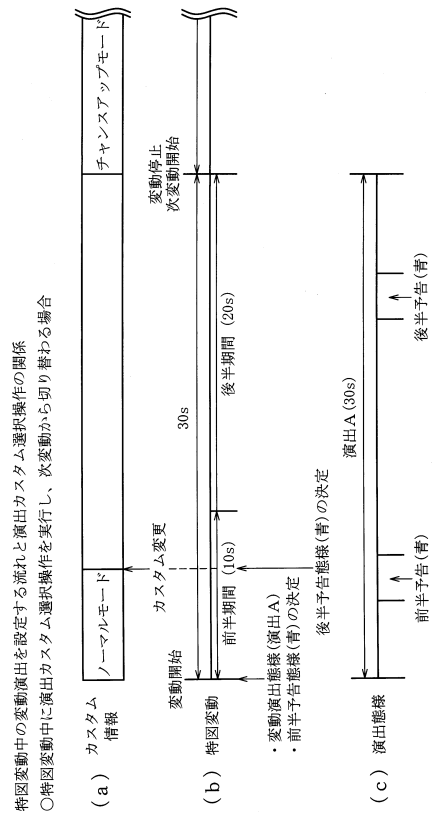
【図７４１】



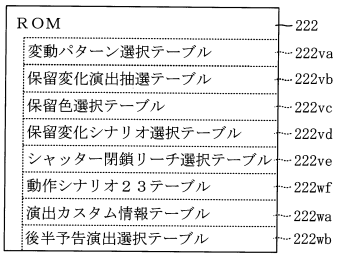
【図７４２】



【図７４３】



【図７４４】



【図７４５】

演出カスタム情報テーブル222wa

カスタム種別	選択条件	規定内容		モード概要
ノーマルモード	常時	保留変化演出	実行頻度：中	●通常頻度で予告演出が実行される演出モード
		確変報知	実行頻度：中	
		後半予告演出	実行頻度：中	
チャンスアップモード	常時	保留変化演出	実行頻度：低	●通常モードよりも、保留変化演出の実行頻度を低下させた演出モード
		確変報知	実行頻度：中	
		後半予告演出	実行頻度：低	
確変告知モード	常時	保留変化演出	実行頻度：中	●当選した大当たり種別を大当たり遊技開始前に報知するモード
		確変報知	実行頻度：高	
		後半予告演出	実行頻度：中	
プレミアムモード	大当たり変動中の一部	保留変化演出	—	●大当たり変動中のみ選択可能となるプレミアムモード
		確変報知	確定報知	
		後半予告演出	—	

【図７４６】

222

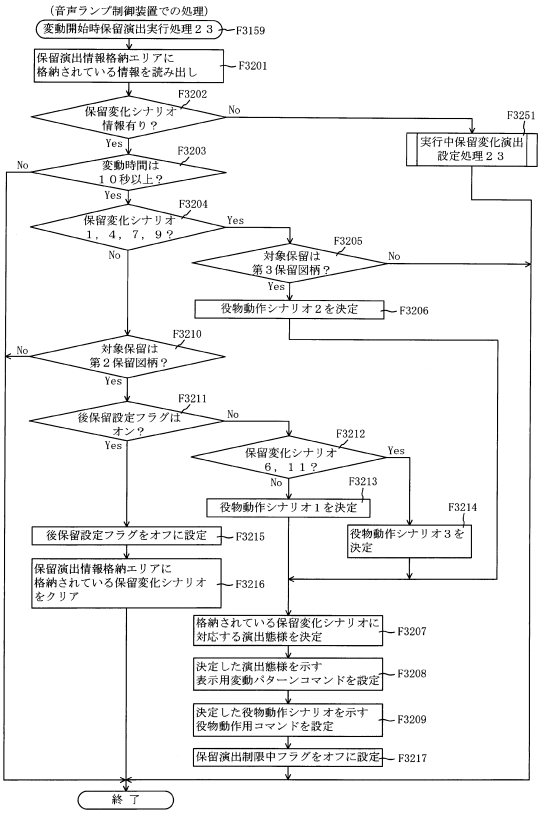
後半予告演出選択テーブル222wb

カスタム種別	当否判定	第１演出カウンタ223vf (0～98)	実行演出		
			演出A	演出B	
			後半第１予告	後半第１予告	後半第２予告
ノーマル確変報知	当たり	0～39	青	青	赤
		40～69	緑	緑	緑
		70～98	赤	緑	赤
	外れ	0～59	無し	青	無し
		60～89	青	青	青
		90～98	緑	青	赤
チャンスアップ	当たり	0～59	無し	無し	無し
		60～79	赤	無し	赤
		80～98	赤	赤	赤
	外れ	0～94	無し	無し	無し
		95～98	赤	無し	赤
プレミアム	当たり	0～98	虹	虹	虹
	外れ	0～98	—	—	—

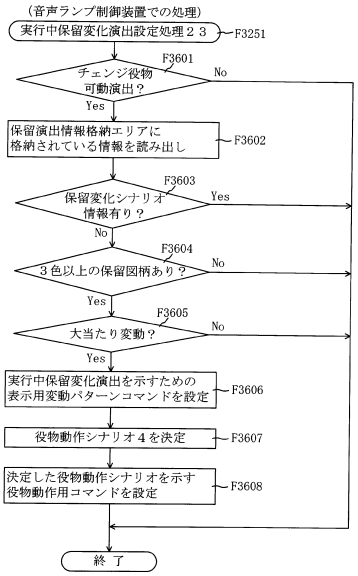
【図７４７】

RAM	223
入賞情報格納エリア	223va
特別図柄１保留球数カウンタ	223vb
特別図柄２保留球数カウンタ	223vc
変動開始フラグ	223vd
停止種別選択フラグ	223ve
第１演出カウンタ	223vf
第２演出カウンタ	223vg
従状態格納エリア	223vh
調整用役物可動中フラグ	223vi
制限タイマ	223vj
環境情報格納エリア	223vk
保留演出情報格納エリア	223vl
保留演出制限中フラグ	223vm
後保留設定フラグ	223vn
演出用ＳＷ有効時間記憶エリア	223vp
時短中カウンタ	223vq
確変中カウンタ	223vr
Ｖ演出実行フラグ	223vs
Ｖ入賞フラグ	223vt
Ｖ報知フラグ	223vu
ムービー中フラグ	223vv
揺れ待機フラグ	223vw
調整期間中フラグ	223vx
経過タイマ	223vy
演出カスタム中フラグ	223wa
カスタム情報格納エリア	223wb
モード変更待機フラグ	223wc
後半予告設定済フラグ	223wd
後半予告情報格納エリア	223we
その他メモリエリア	223vz

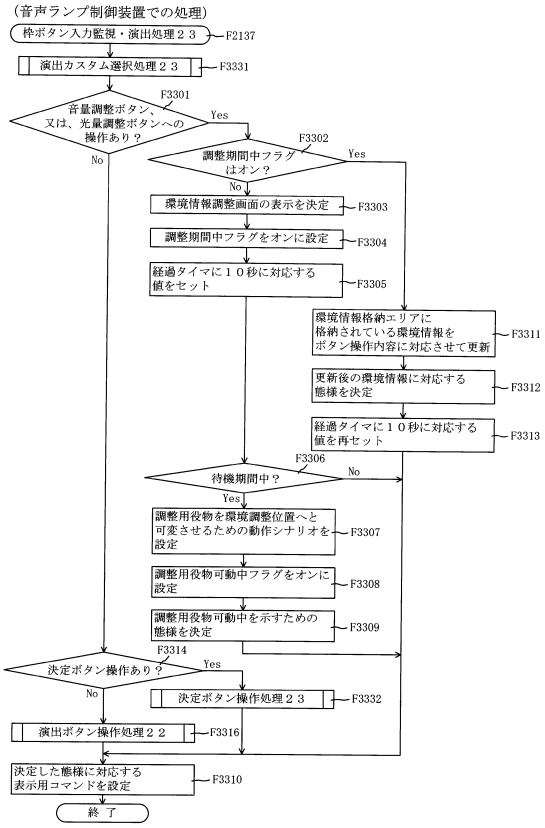
【図７４８】



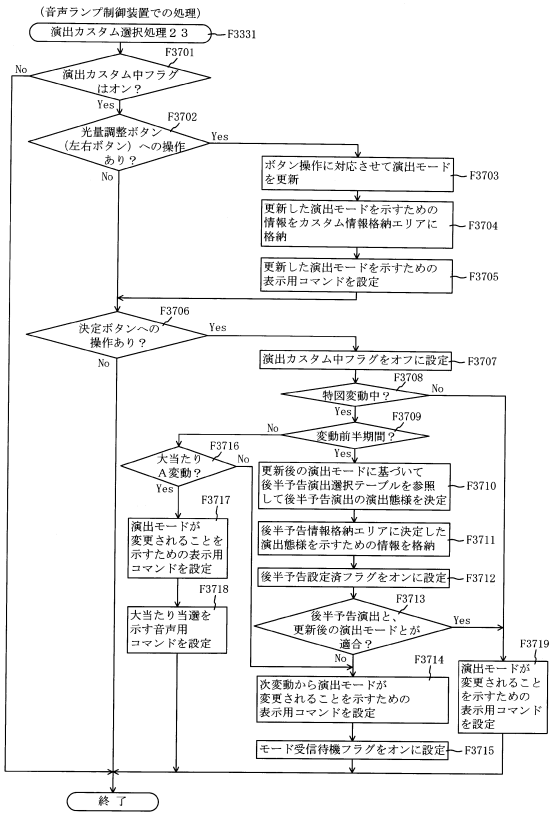
【図７４９】



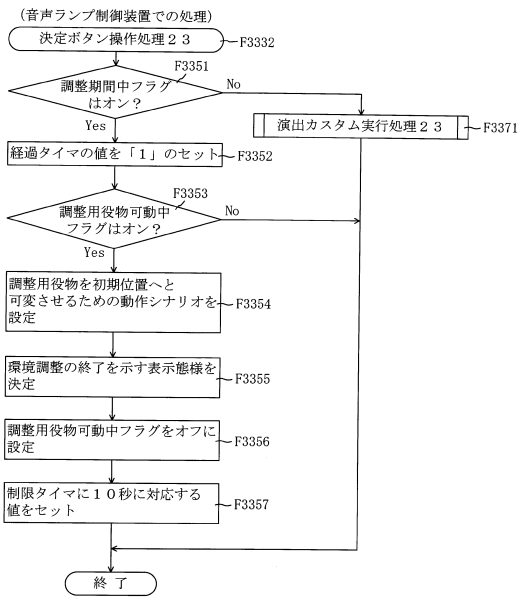
【図７５０】



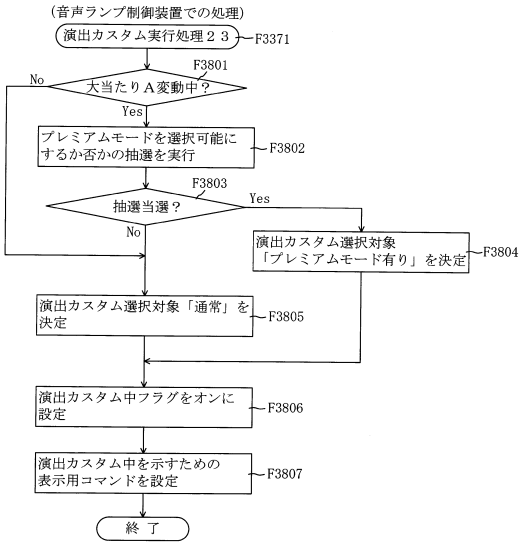
【図７５１】



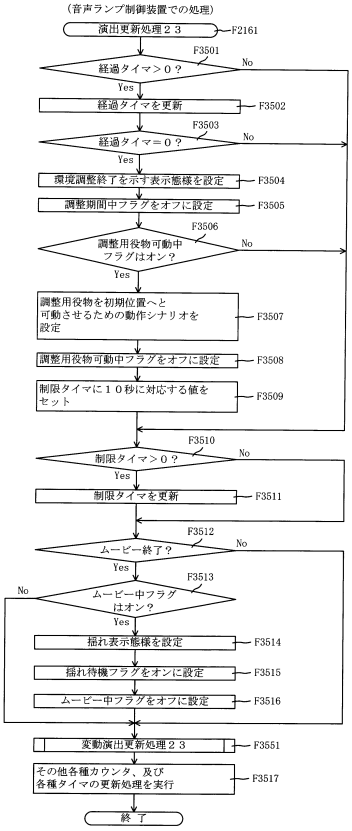
【図７５２】



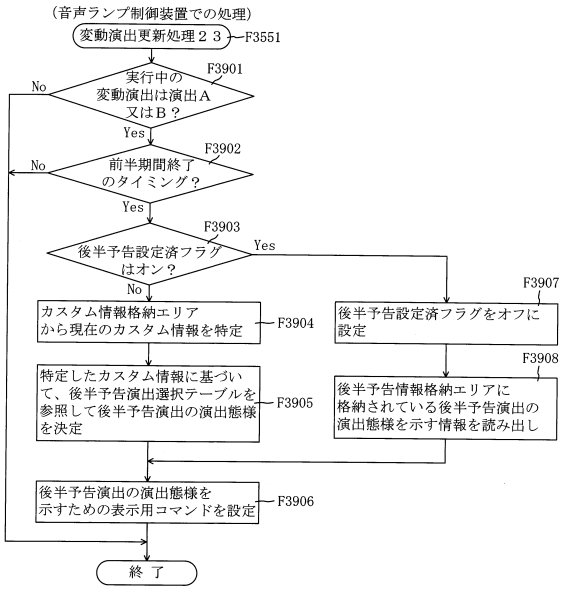
【図７５３】



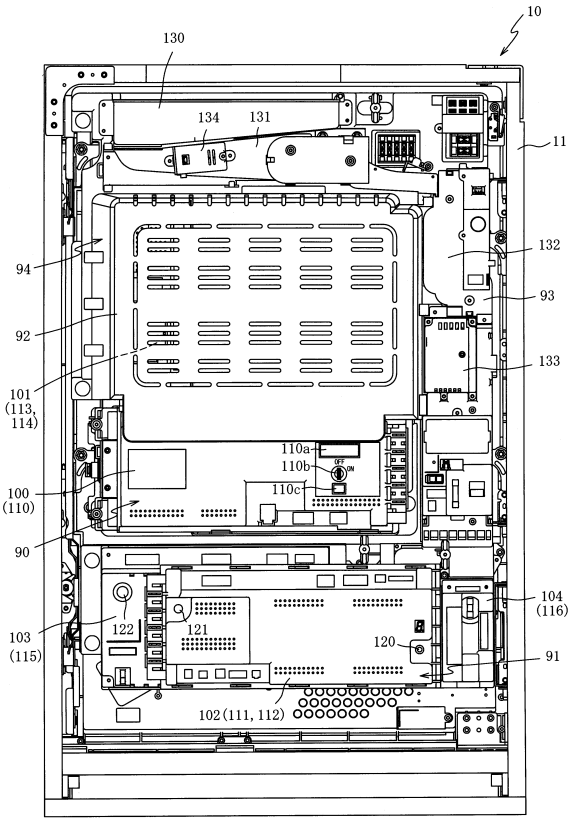
【図７５４】



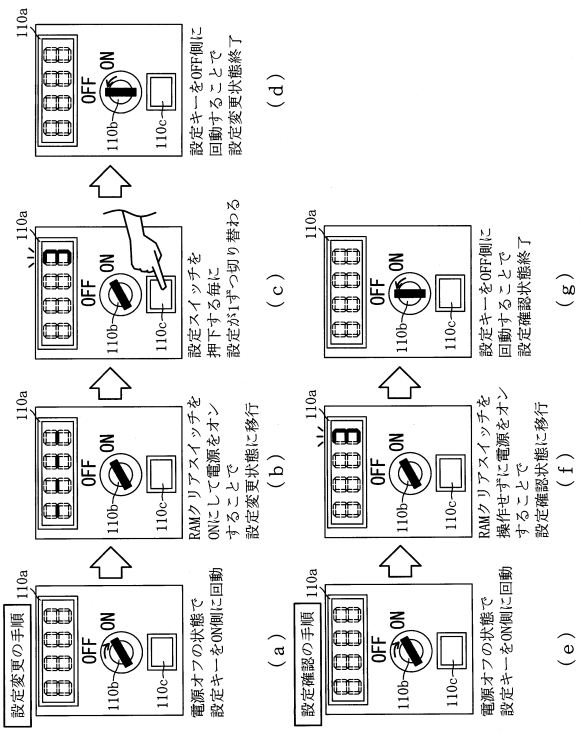
【図７５５】



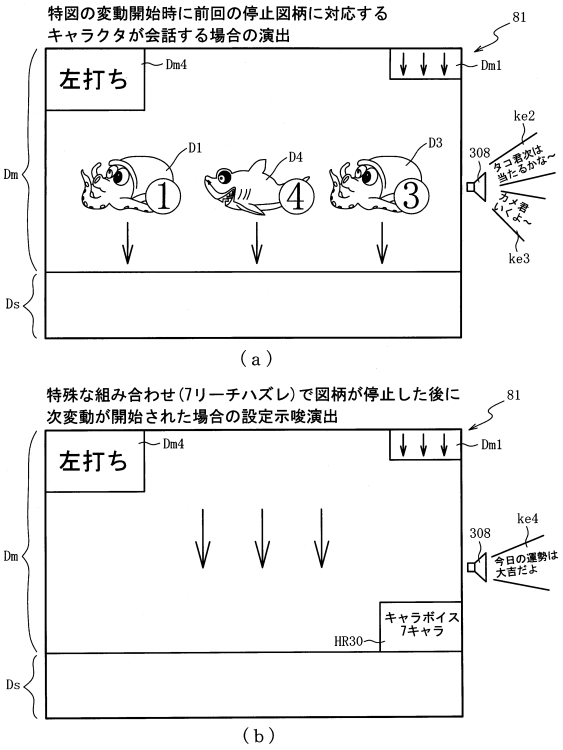
【図７５６】



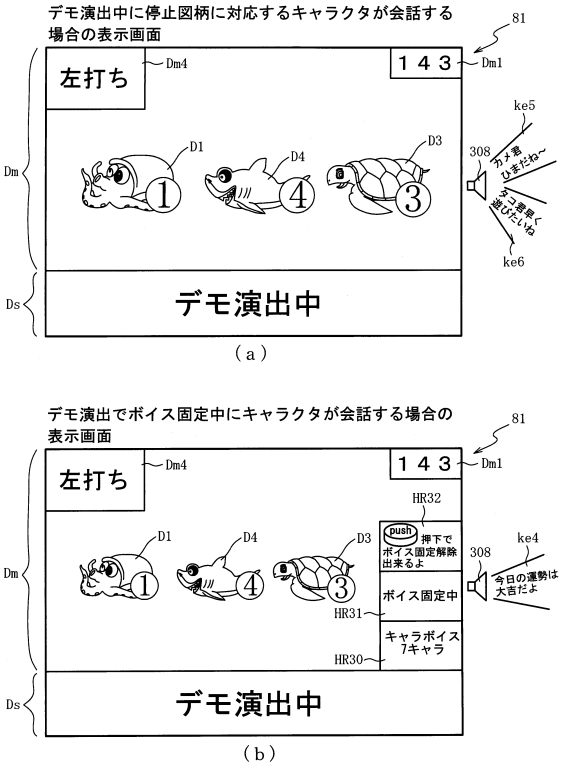
【図７５７】



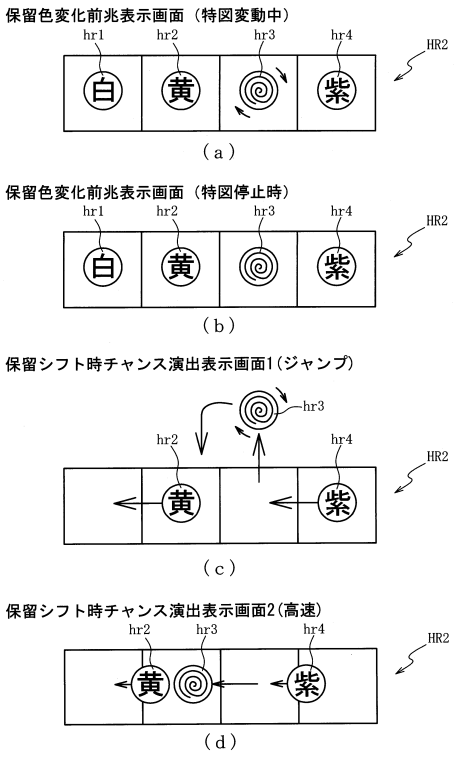
【図７５８】



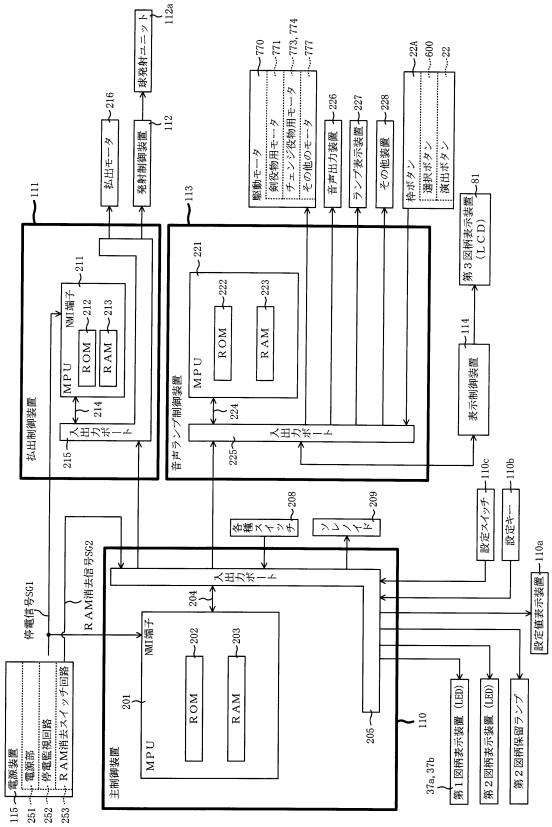
【図７５９】



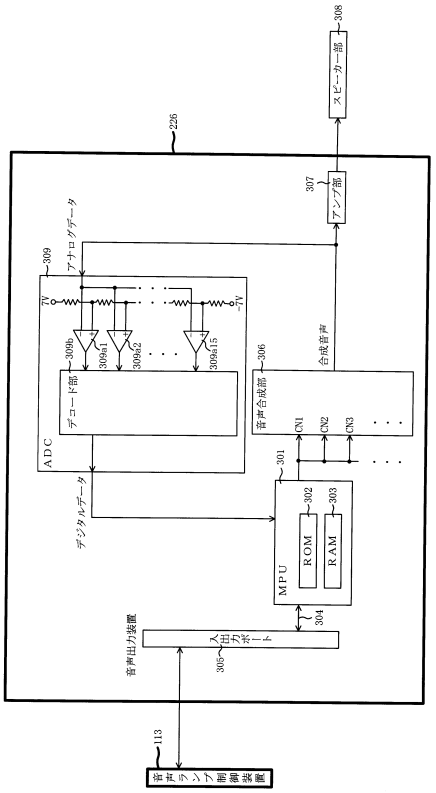
【図７６０】



【図７６１】



【図７６２】



【図７６３】

202

特別図柄大当たり乱数テーブル202xa

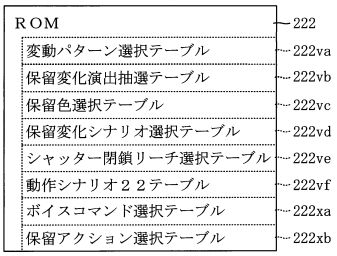
図柄種別	特別図柄の状態	設定	第１当たり乱数カウンタＣ１（0～65535）
共通	低確率状態	1	0～249
		2	0～274
		3	0～299
	高確率状態	1	0～999
		2	0～1099
		3	0～1199

【図７６４】

RAM 203

- 特別図柄１保留球格納エリア 203va
- 特別図柄２保留球格納エリア 203vb
- 普通図柄保留球格納エリア 203vc
- 特別図柄１保留球数カウンタ 203vd
- 特別図柄２保留球数カウンタ 203ve
- 普通図柄保留球数カウンタ 203vf
- 確変フラグ 203vg
- 確変設定フラグ 203vh
- 確変通過カウンタ 203vi
- 入賞個数カウンタ 203vj
- 動作カウンタ 203vk
- 報知カウンタ 203vm
- 残球タイマフラグ 203vn
- 残球タイマ 203vo
- 確変有効フラグ 203vp
- 確変有効タイマ 203vr
- 排出個数カウンタ 203vs
- 時短中カウンタ 203vt
- 確変カウンタ 203vu
- 設定値格納エリア 203xa
- その他メモリエリア 203vz

【図７６５】



【図７６６】

222

ボイスコマンド選択テーブル222xa

第３図柄種別		選択ボイス	特殊特典	ボイスコマンド
大当たり	１キャラ	１キャラボイス	任意継続設定可能	コマンド１
	２キャラ	２キャラボイス		コマンド２
	３キャラ	３キャラボイス		コマンド３
	４キャラ	４キャラボイス		コマンド４
	５キャラ	５キャラボイス		コマンド５
	６キャラ	６キャラボイス		コマンド６
	７キャラ	７キャラボイス		コマンド７
リーチハズレ	７キャラリーチ外れ	リーチキャラボイス	７キャラ会話（設定示唆強）	コマンド８
	奇数キャラリーチ外れ（７以外）		リーチキャラ会話（設定示唆弱）	コマンド９ ⋮ コマンド１１
	偶数キャラリーチ外れ		リーチキャラ会話（賑やかし）	コマンド１２ ⋮ コマンド１４
バラケ目	各種	左停止図柄キャラに対応したボイス	組み合わせ会話（賑やかし）（次変動停止キャラ示唆）	コマンド１５ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮

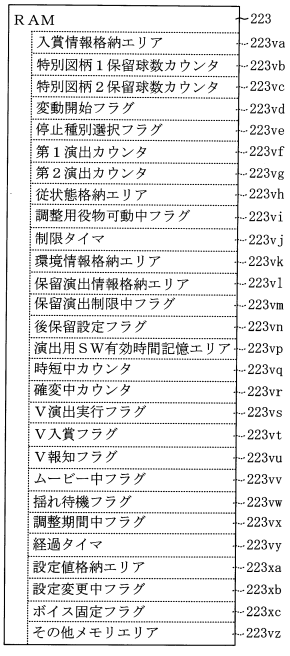
【図７６７】

222

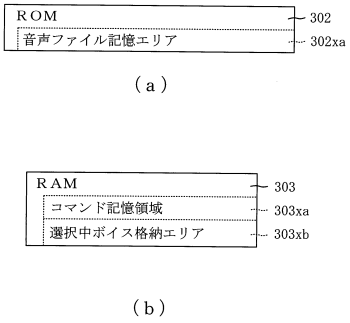
保留アクション選択テーブル222xb

対象保留先読み結果	保留変化演出	設定値	第１演出カウンタ223vf（0～98）		
			0～59	60～89	90～98
当たり	有り	1	ジャンプ	高速	ジャンプ
		2	高速	ジャンプ	
		3	ジャンプ	高速	
	無し	1	通常		高速
		2	通常	通常	ジャンプ
		3	ジャンプ	高速	通常
外れ	有り	1	高速	通常	
		2	高速	通常	ジャンプ
		3	高速	ジャンプ	通常
	無し	1	通常		高速
		2	通常	高速	通常
		3	通常	高速	ジャンプ

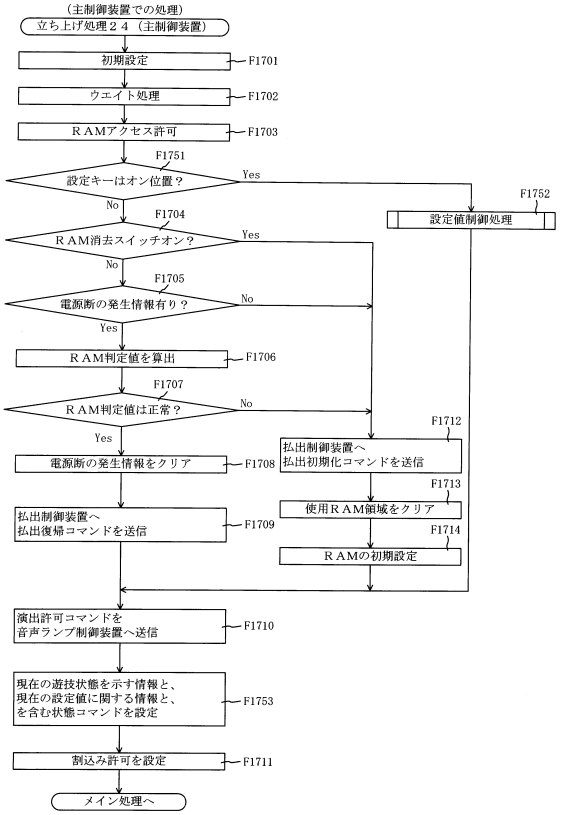
【図７６８】



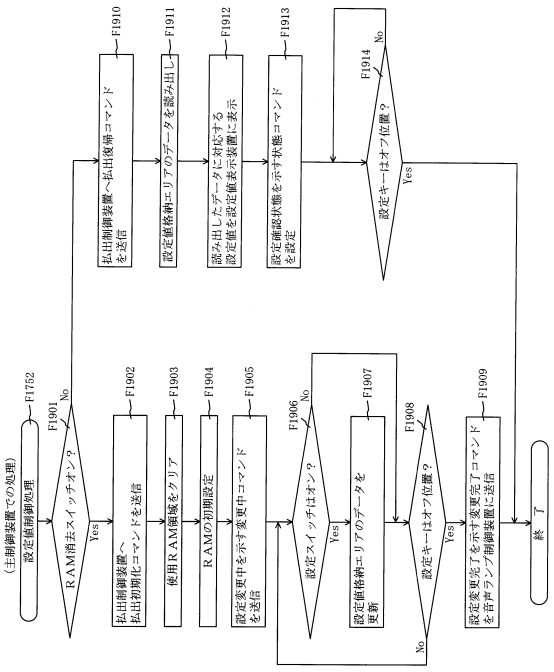
【図７６９】



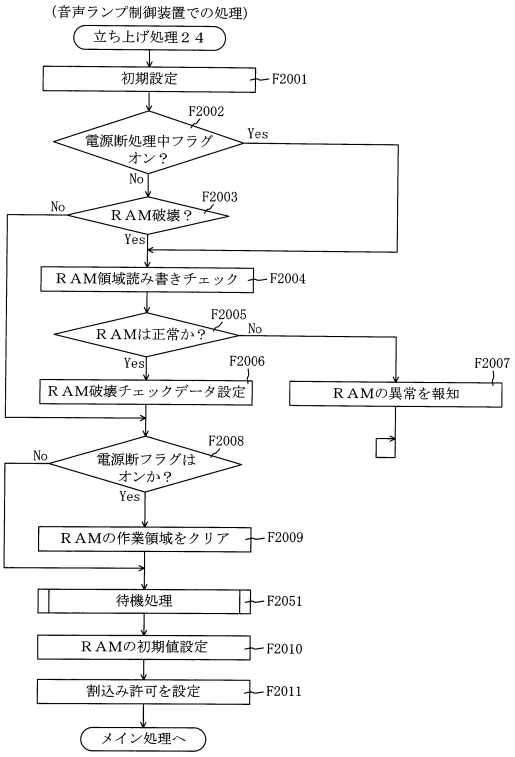
【図７７０】



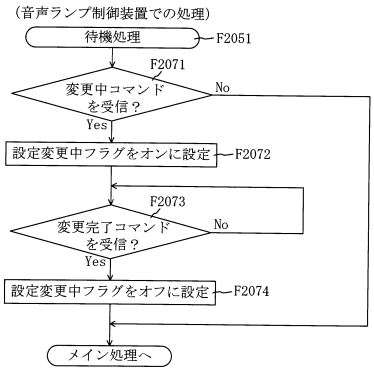
【図７７１】



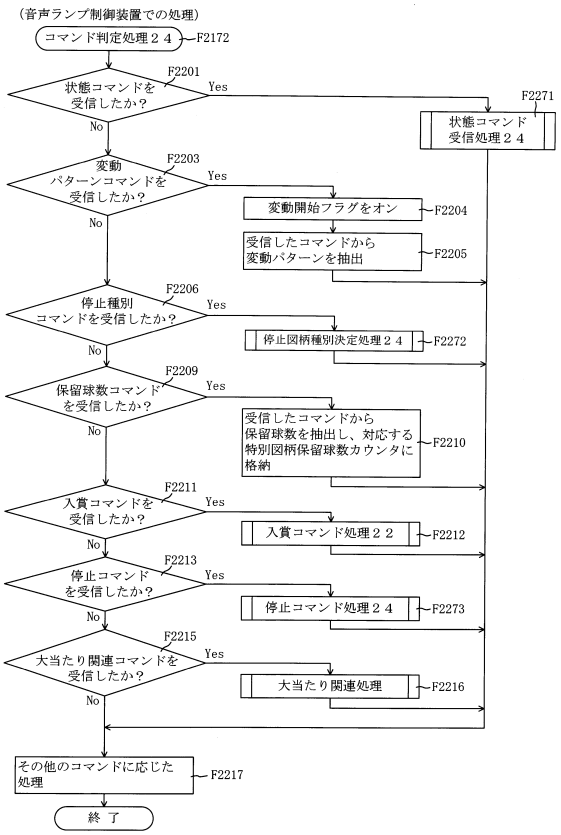
【図７７２】



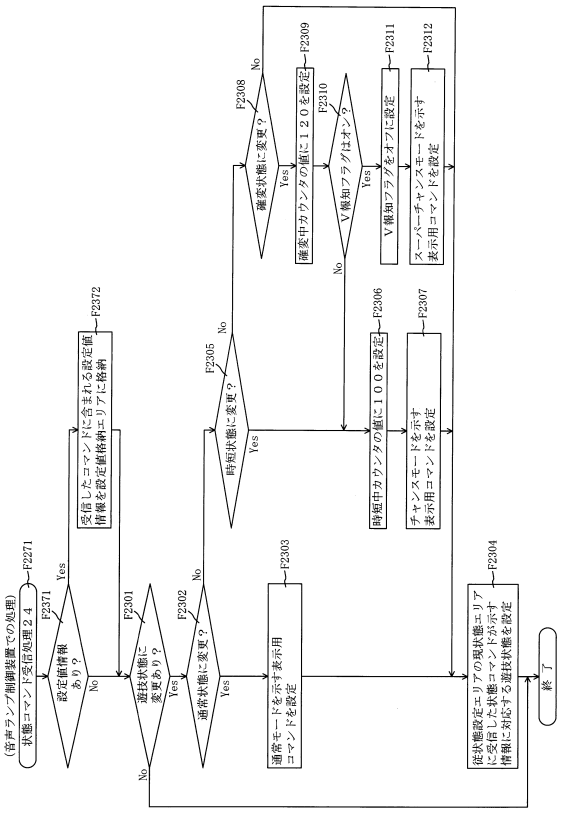
【図７７３】



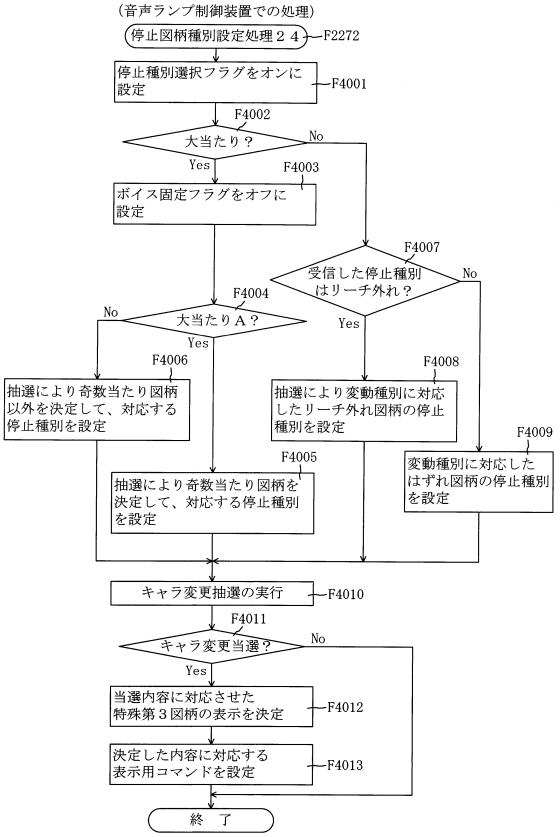
【図７７４】



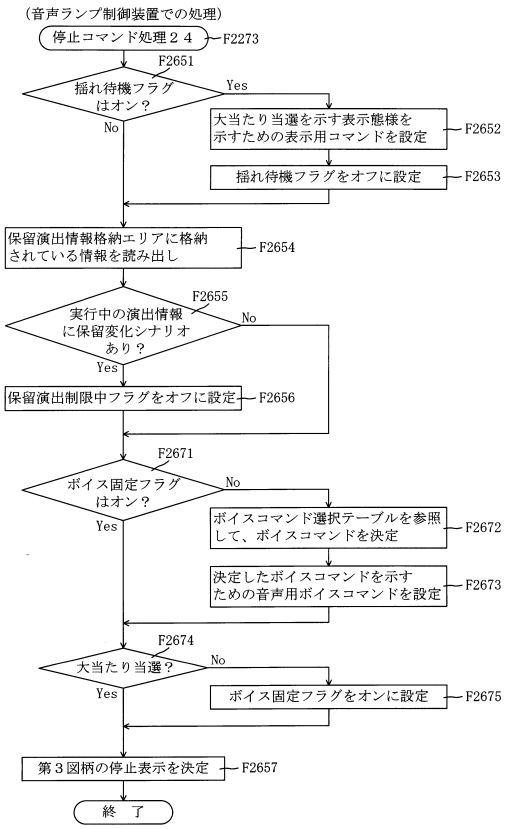
【図７７５】



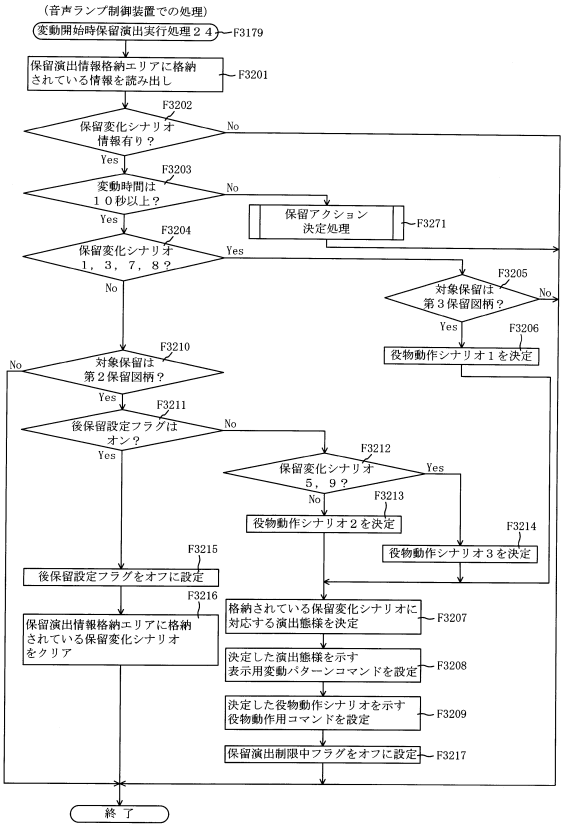
【図７７６】



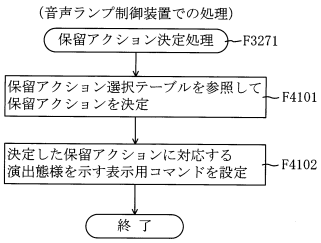
【図７７７】



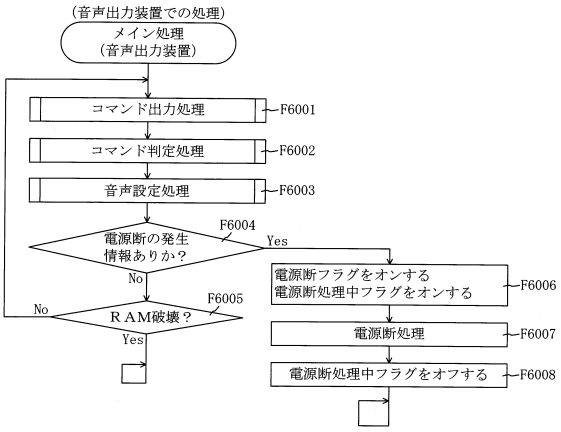
【図７７８】



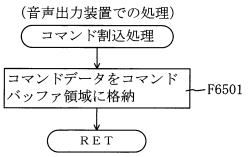
【図７７９】



【図７８０】

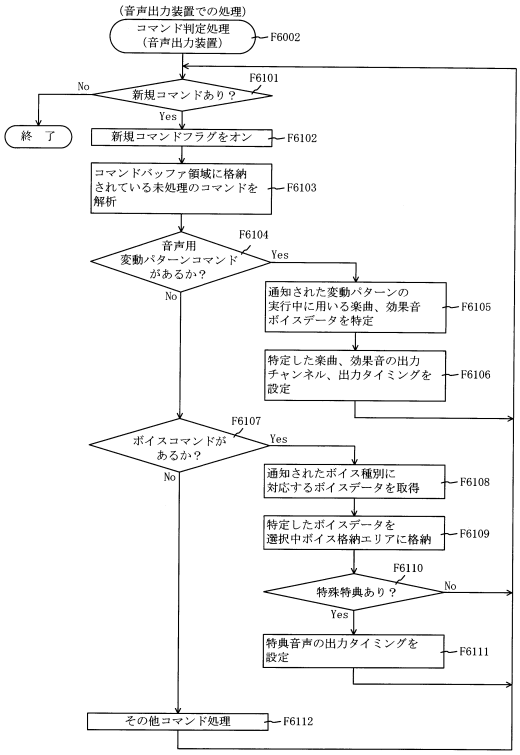


（ａ）

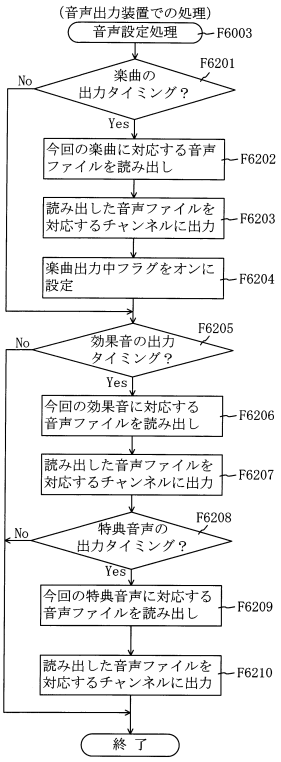


（ｂ）

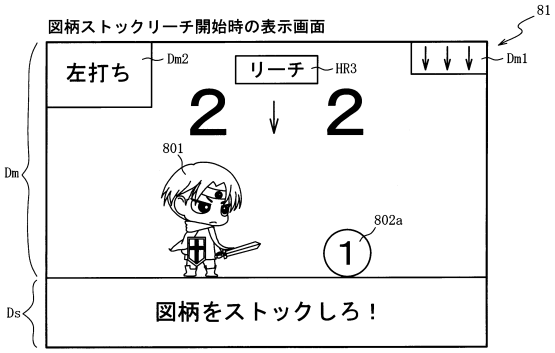
【図７８１】



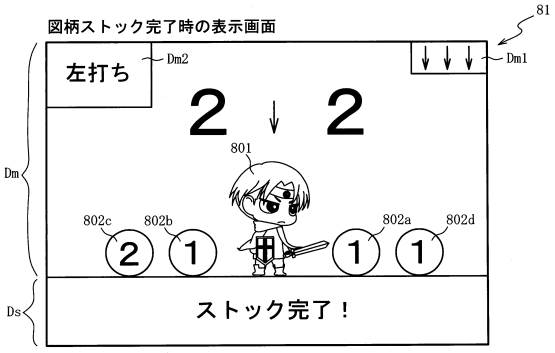
【図７８２】



【図７８３】

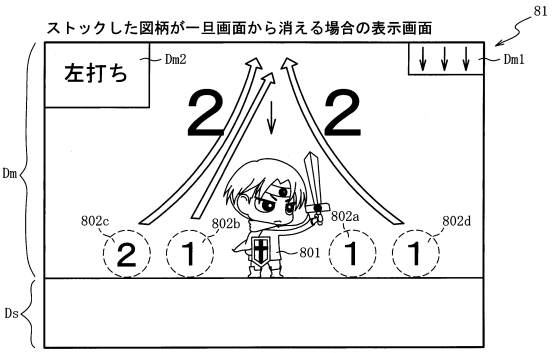


（ａ）

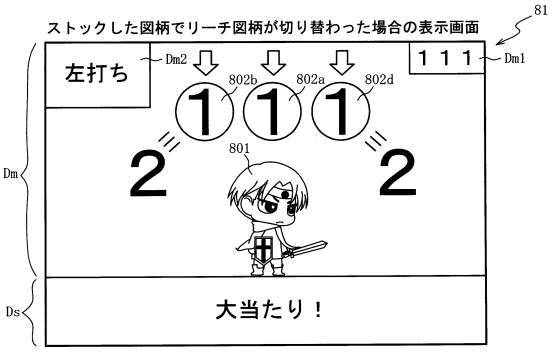


（ｂ）

【図７８４】

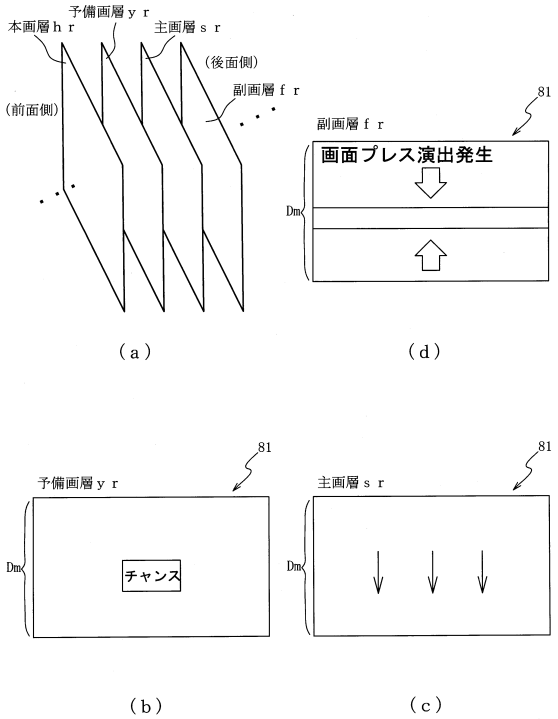


（ａ）

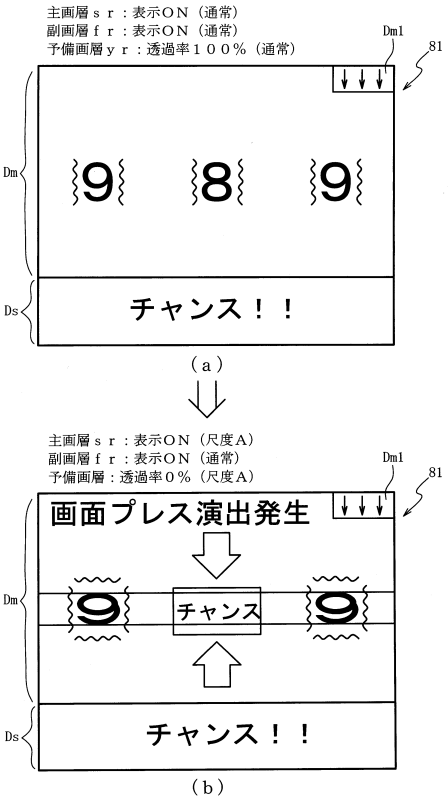


（ｂ）

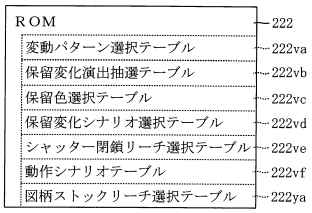
【図７８５】



【図７８６】



【図７８７】



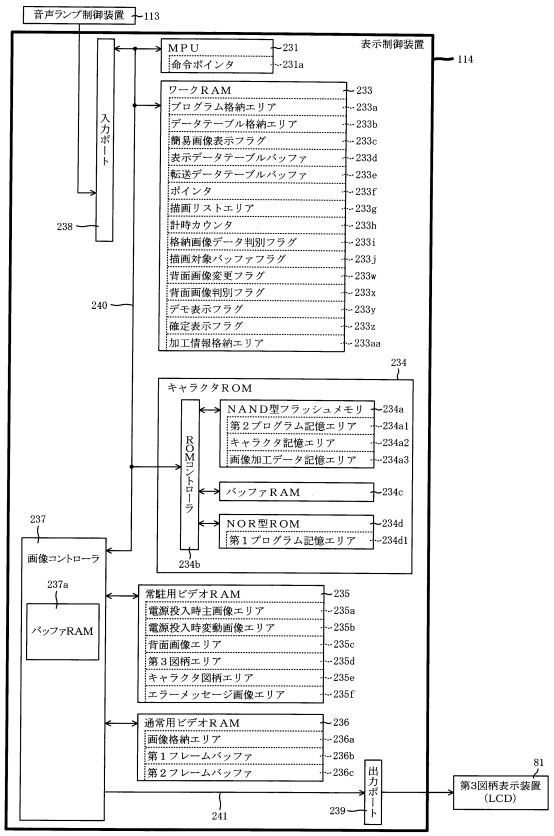
【図７８８】

図柄ストックリーチ選択テーブル222ya

222

当否判定	第２演出カウンタ223vg（0～198）	演出パターン	リーチ内容
大当たりＡ	0～99	パターン１	「２，２」リーチから「１，１」リーチ当たり
	100～149	パターン２	「１，１」リーチ当たり
	150～198	パターン３	「２，２」リーチから「１，１」「２，２」ダブルリーチ当たり
大当たりＢ 大当たりＣ	0～99	パターン４	「２，２」リーチ当たり
	100～198	パターン５	「２，２」リーチから「１，１」「２，２」ダブルリーチ当たり
外れ	0～149	パターン６	「２，２」リーチ外れ
	150～189	パターン７	「２，２」リーチから「１，１」リーチ外れ
	190～198	パターン８	「２，２」リーチから「１，１」「２，２」ダブルリーチ外れ

【図７８９】

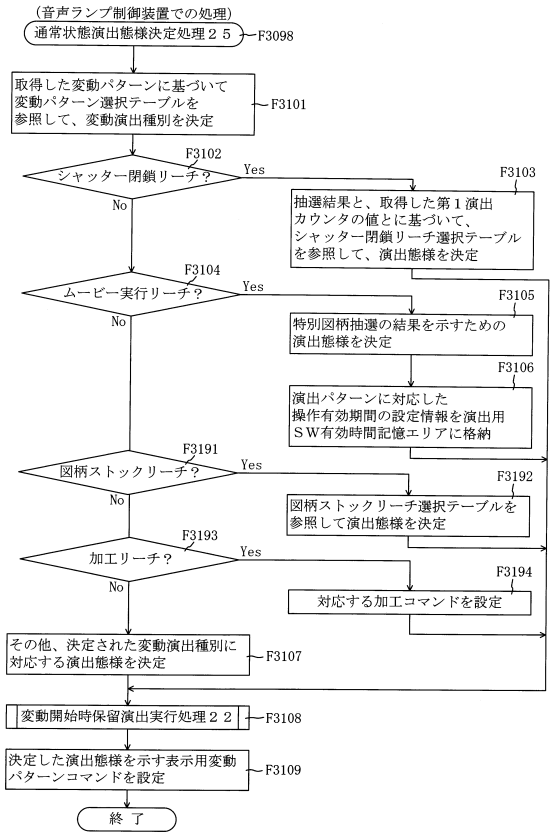


【図７９０】

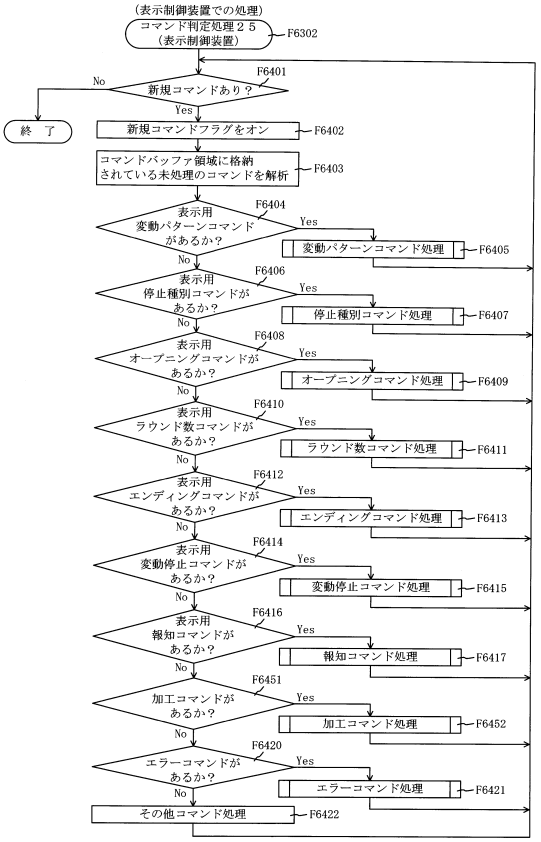
描画リスト

レイヤ種別	種別	詳細情報
副画層	副画像	スプライト（表示物）のデータの格納ＲＡＭ種別とアドレス 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報
主画層	背面画像	⋮
	図柄１	⋮
	図柄２	⋮
	⋮	⋮
	エフェクト１	⋮
	⋮	⋮
	キャラクタ１	⋮
	⋮	⋮
	保留球数図柄１	⋮
	⋮	⋮
予備画層		⋮
本画層	第４図柄	⋮
	エラー図柄１	⋮
－	転送データ	転送対象画像データの格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス

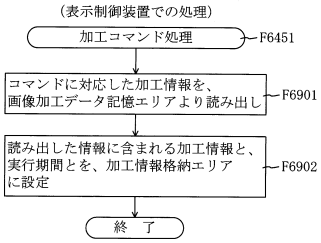
【図７９１】



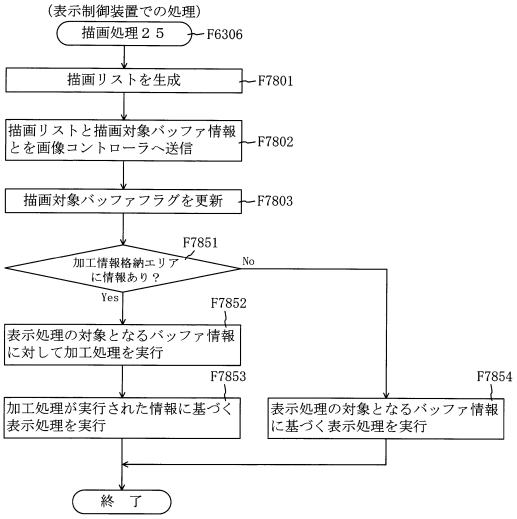
【図７９２】



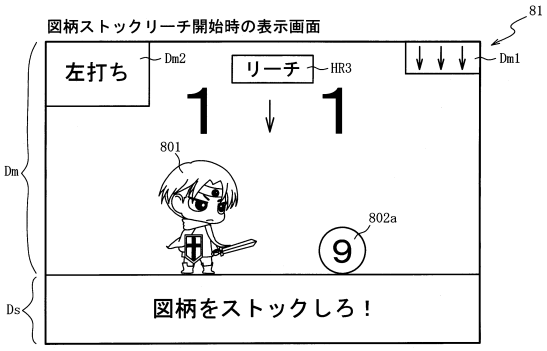
【図７９３】



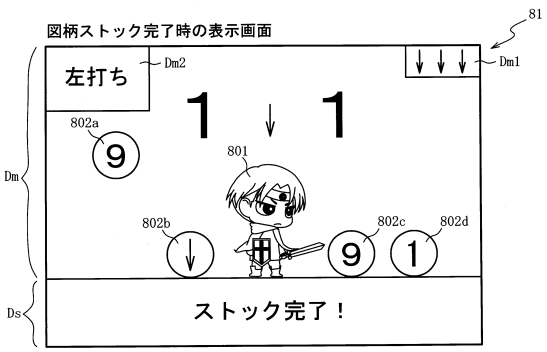
【図７９４】



【図７９５】

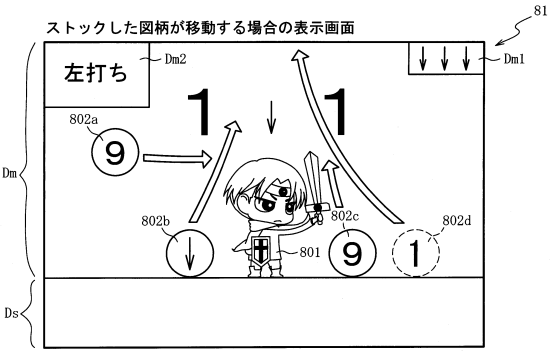


（ａ）

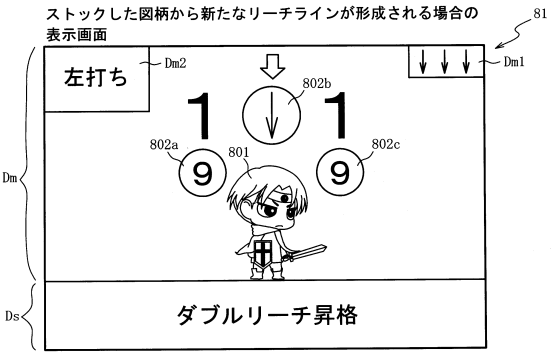


（ｂ）

【図７９６】

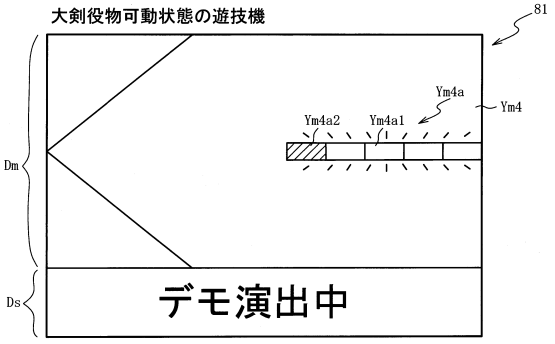


（ａ）

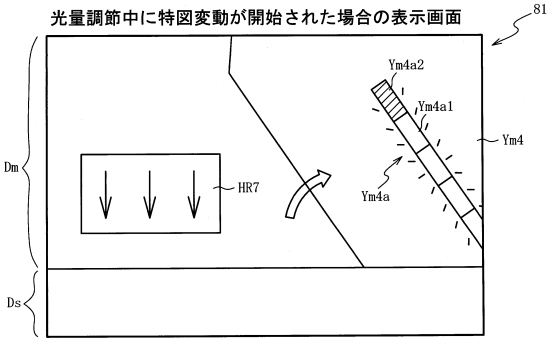


（ｂ）

【図７９７】

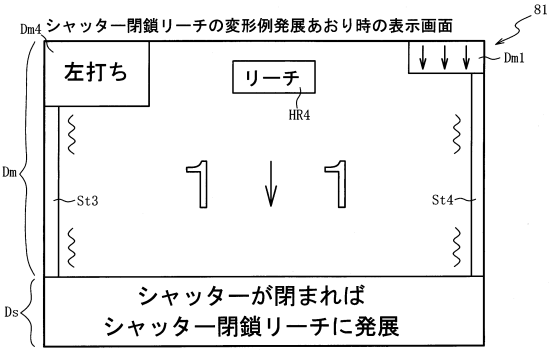


（ａ）

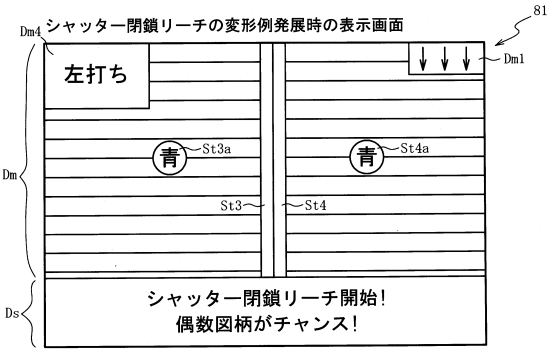


（ｂ）

【図７９８】

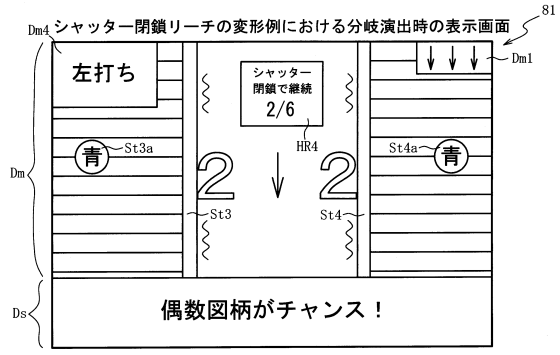


（ａ）

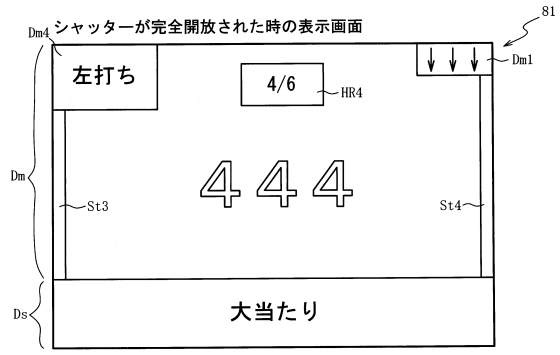


（ｂ）

【図７９９】

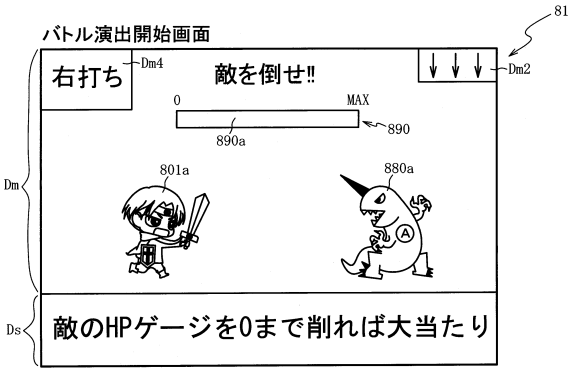


（ａ）

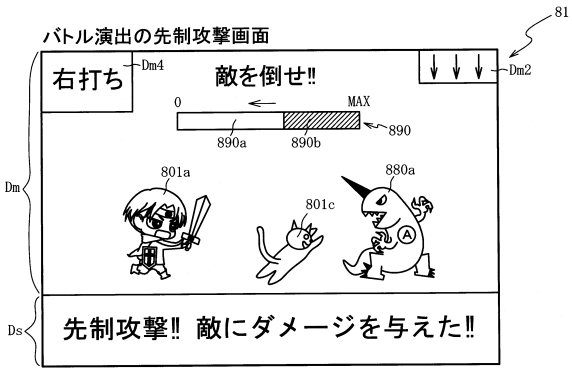


（ｂ）

【図８００】

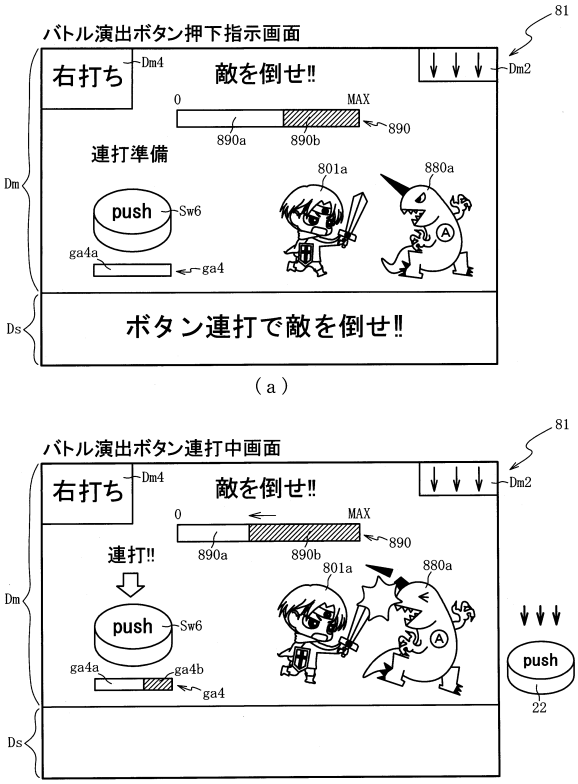


（ａ）

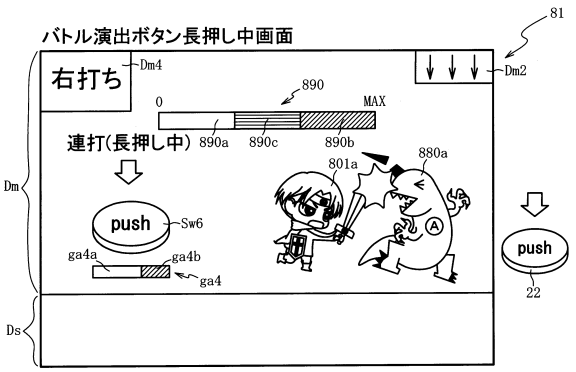


（ｂ）

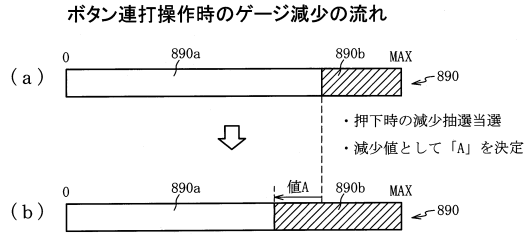
【図８０１】



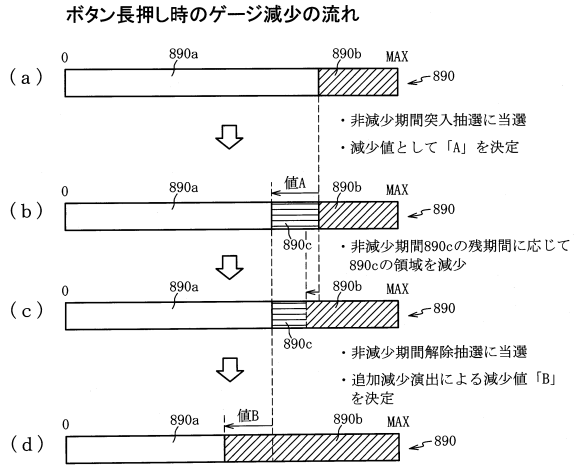
【図８０２】



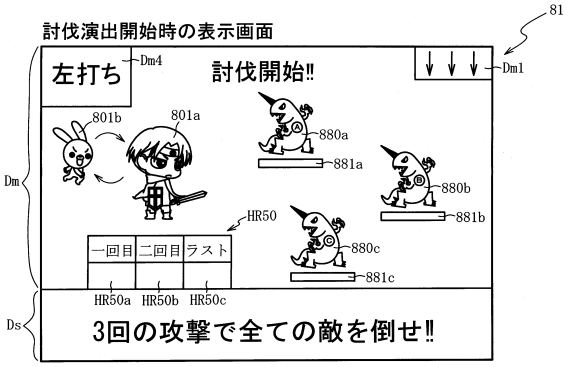
【図８０３】



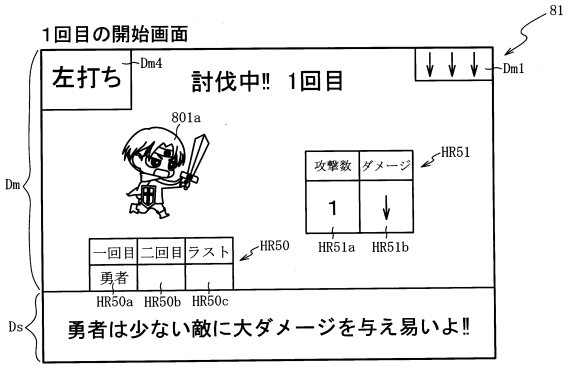
【図８０４】



【図８０５】

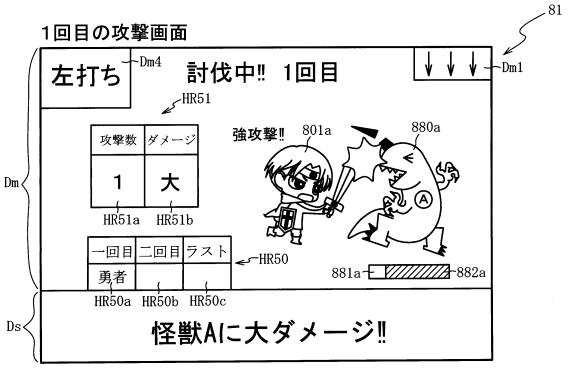


（ａ）

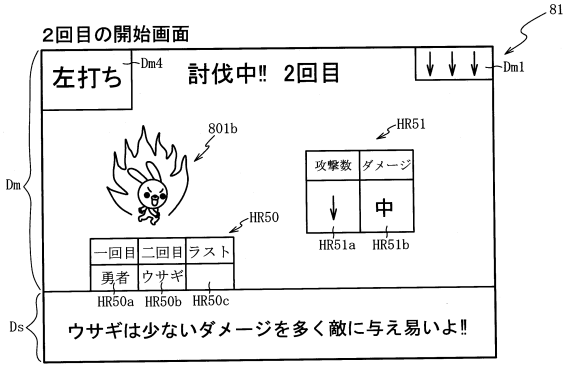


（ｂ）

【図８０６】

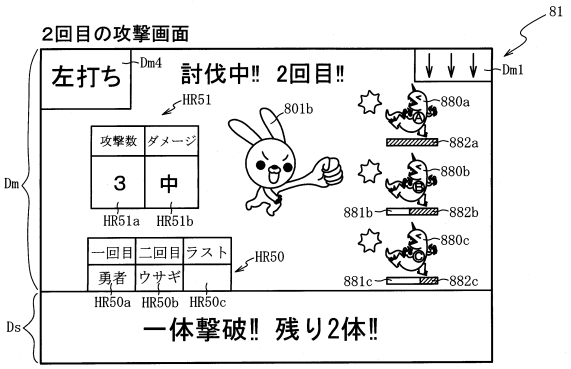


（ａ）

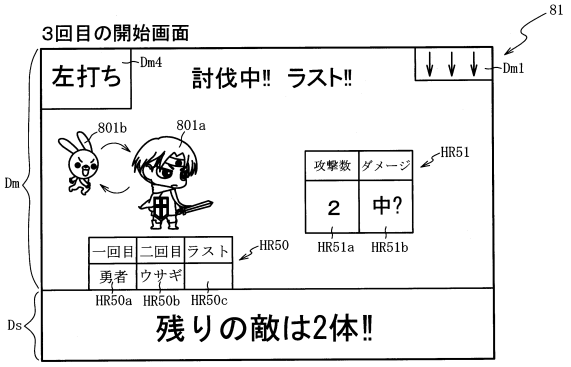


（ｂ）

【図８０７】

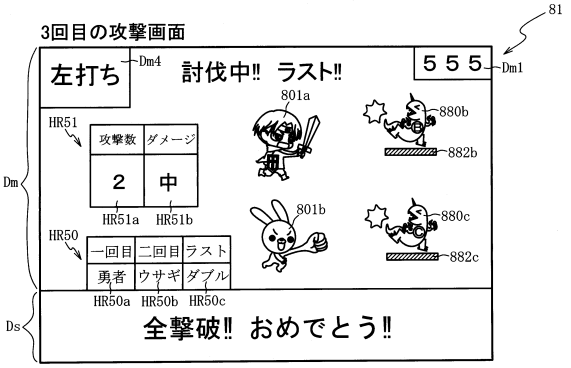


（ａ）

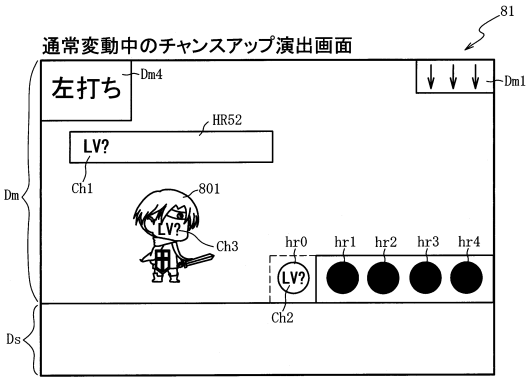


（ｂ）

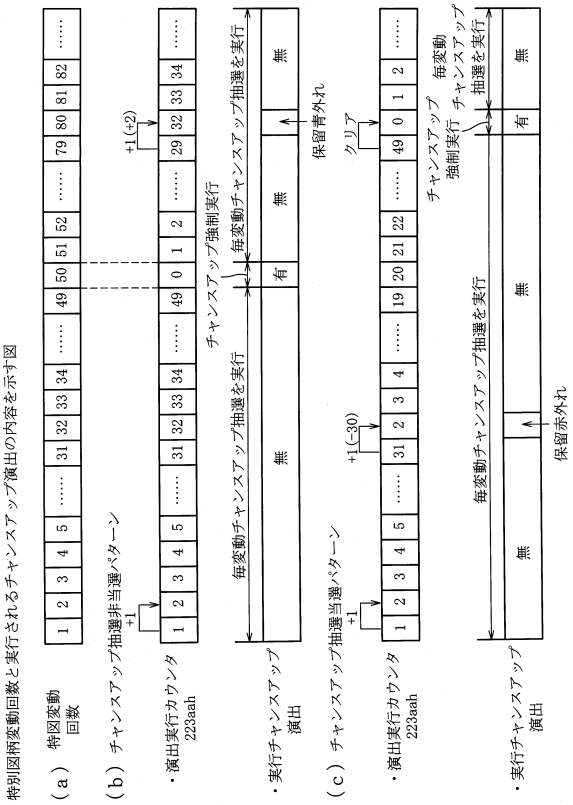
【図８０８】



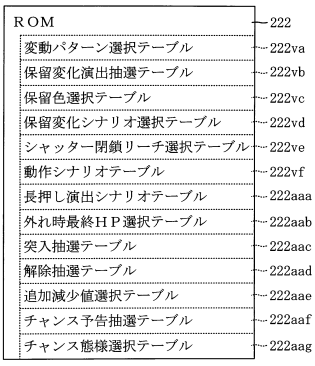
【図８０９】



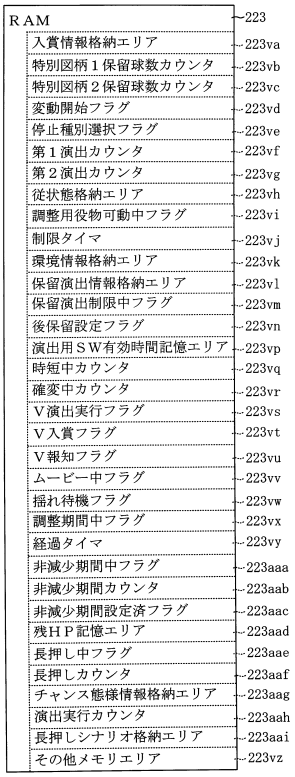
【図８１０】



【図８１１】



【図８１２】



【図８１３】

長押し演出シナリオテーブル222aaa

当否判定	シナリオ種別	第１演出カウンタ223vf（0～98）	シナリオ傾向	経過期間毎の減少過程（有効期間３秒）				
				0.5S後	1S後	1.5S後	2S後	2.5S後	3S後
当たり	当たりシナリオ１	0～19	先行型	減少：中	減少：中	減少：大	上限	－	－
	当たりシナリオ２	20～69	バランス型	減少：中	減少：中	減少：中	減少：中	減少：中	上限
	当たりシナリオ３	70～98	後半型	減少：小	減少：小	減少：小	減少：小	減少：大	上限
外れ	外れシナリオ１	0～19	先行型	減少：中	減少：中	減少：大	上限	－	－
	外れシナリオ２	20～69	バランス型	減少：中	減少：中	減少：中	減少：中	減少：中	上限
	外れシナリオ３	70～98	後半型	減少：小	減少：小	減少：小	減少：小	減少：大	上限

【図８１４】

外れ時最終ＨＰ選択テーブル222aab

（ａ）

当否判定	最終ＨＰ値	第１演出カウンタ223vf（0～98）
外れ	50	0～4
	30	5～14
	20	15～24
	10	25～44
	5	45～98

突入抽選テーブル222aac

（ｂ）

当否判定	残ＨＰ値	第１演出カウンタ223vf（0～98）				
		0～34	35～54	55～79	80～94	95～98
当たり	100	非当選				
	99～70	非当選			当選	
	69～40	非当選		当選		
	39～20	非当選	当選			
	19～1	当選				
外れ	100	非当選				
	99～70	非当選				当選
	69～40	非当選			当選	
	39～20	非当選		当選		
	19～1	非当選				当選

【図８１５】

解除抽選テーブル222aad

当否判定	残ＨＰ値	残操作有効期間（%）	第１演出カウンタ223vf（0～98）			
			0～49	50～79	80～94	95～98
当たり	100	－	－			
	99～49	～50	当選	非当選		
		50～10	当選		非当選	
		10～	当選			非当選
	48～1	～50	非当選	当選	非当選	
		50～10	当選	非当選	当選	非当選
		10～	当選	非当選		
外れ	100	－	－			
	99～49	～50	非当選	当選	非当選	
		50～10	当選	非当選		当選
		10～	非当選		当選	非当選
	48～1	～50	非当選		当選	非当選
		50～10	当選	非当選		
		10～	非当選			当選

【図８１６】

追加減少値選択テーブル222aae

当否判定	差分ＨＰ値	非減少期間カウンタ223aab	第２演出カウンタ223vg（0～198）		
			0～99	100～179	180～198
当たり	１～１９	１～500	0		5
		501～1500	0	5	
		1501～2999	0	5	差分ＨＰ全て
		上限（3000）	差分ＨＰ全て		
	２０～６９	１～500	0	5	10
		501～1500	10	0	15
		1501～2999	15	10	差分ＨＰ全て
		上限（3000）	差分ＨＰ全て	15	10
	７０～９９	１～500	0		10
		501～1500	15	0	10
		1501～2999	15	20	差分ＨＰ全て
		上限（3000）	25	差分ＨＰ全て	20
外れ	１～１９	１～500	0		
		501～1500	0		5
		1501～2999	0	5	3
		上限（3000）	0	15	差分ＨＰ全て
	２０～６９	１～500	0	5	
		501～1500	0	10	15
		1501～2999	0	15	10
		上限（3000）	0	差分ＨＰ全て	15
	７０～９９	１～500	0	0	10
		501～1500	0	10	15
		1501～2999	0	15	差分ＨＰ全て
		上限（3000）	0	差分ＨＰ全て	差分ＨＰ全て

【図８１７】

チャンス予告抽選テーブル222aaf

当否判定	変動パターン種別	第１演出カウンタ223vf（0～98）			
		0～49	50～79	80～94	95～98
当たり	変動パターン１	当選			
	変動パターン２	当選			非当選
	⋮	⋮			
	変動パターンｎ	非当選			当選
外れ	変動パターン２	当選			非当選
	⋮	⋮			
	変動パターンｎ＋１	非当選			

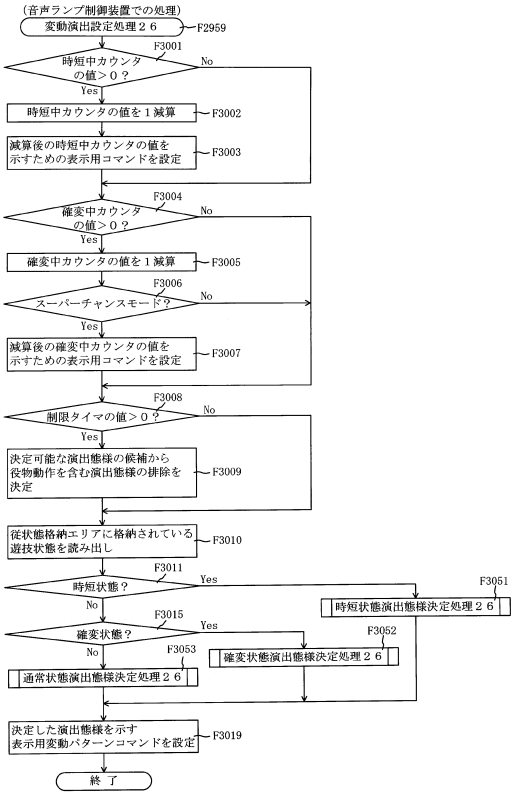
（ａ）

チャンス態様選択テーブル222aag

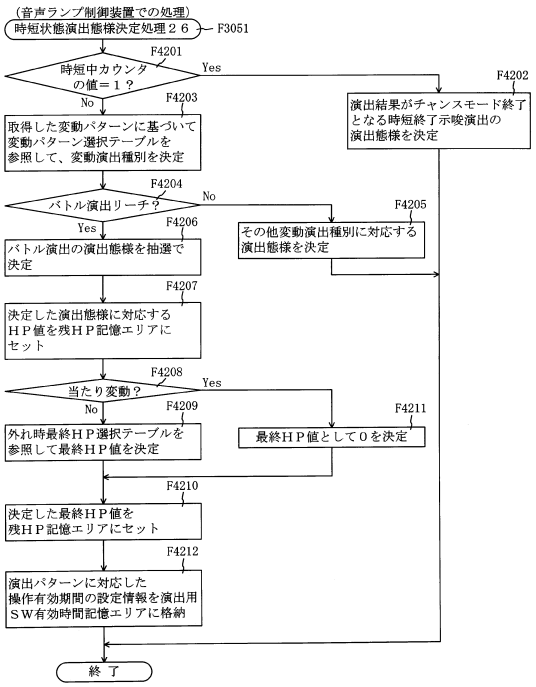
当否判定	第２演出カウンタ223vg（0～198）	態様変化シナリオ	対象態様		
			コメント表示態様 Ch1	実行中保留表示態様 Ch2	キャラ表示態様 Ch3
当たり（通常）	0～99	変化シナリオ１	ＬＶ２	ＬＶ２	ＬＶ３
	100～159	変化シナリオ２	ＬＶ１	ＬＶ２	ＬＶ３
	160～189	変化シナリオ３	ＬＶ１	ＬＶ３	ＬＶ３
	190～196	変化シナリオ４	ＬＶ３	ＬＶ３	ＬＶ４
	197, 198	変化シナリオ５	ＬＶ４	ＬＶ４	ＬＶ４
外れ（通常）	0～99	変化シナリオ６	ＬＶ１	ＬＶ１	ＬＶ２
	100～159	変化シナリオ７	ＬＶ１	ＬＶ２	ＬＶ２
	160～189	変化シナリオ８	ＬＶ２	ＬＶ２	ＬＶ２
	190～195	変化シナリオ９	ＬＶ２	ＬＶ２	ＬＶ３
	196, 197	変化シナリオ１０	ＬＶ２	ＬＶ３	ＬＶ３
	198	変化シナリオ１１	ＬＶ３	ＬＶ３	ＬＶ３
当たり（強制）	0～198	特殊変化シナリオ１	チャンス態様情報格納エリア223aagに格納されている前回外れ高レベル対象態様と同一の変化シナリオを設定		
外れ（強制）	0～99	特殊変化シナリオ２	変化シナリオ８～１１を抽選で設定		
	100～159	特殊変化シナリオ３	チャンス態様情報格納エリア223aagに格納されている前回外れ高レベル対象態様とは異なる対象態様をＬＶ３に設定		
	160～198	特殊変化シナリオ４	チャンス態様情報格納エリア223aagに格納されている前回当たり時対象態様と同一の変化シナリオを設定		

（ｂ）

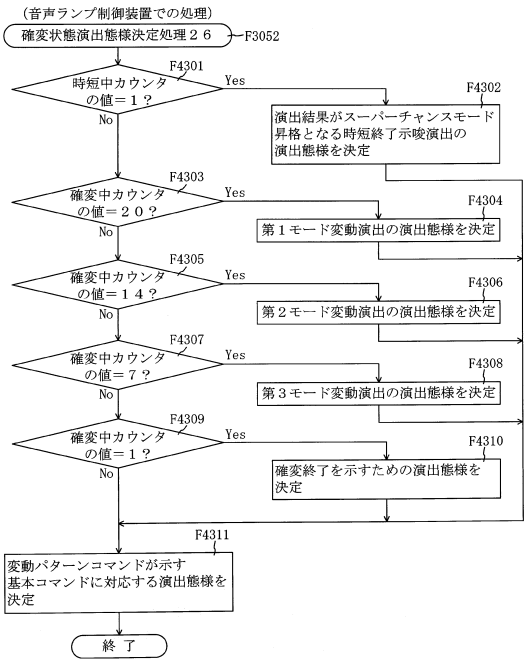
【図８１８】



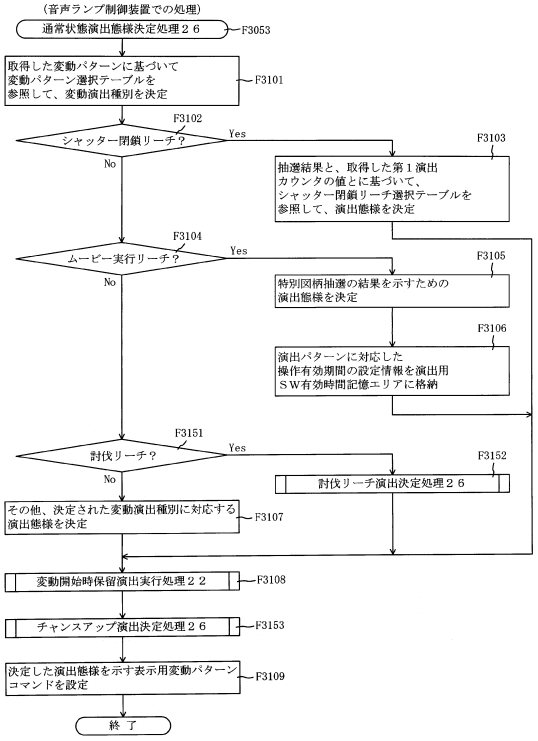
【図８１９】



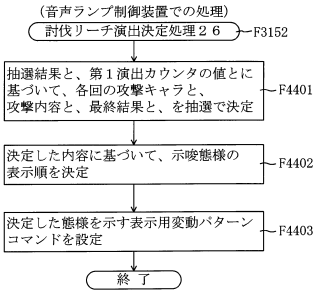
【図８２０】



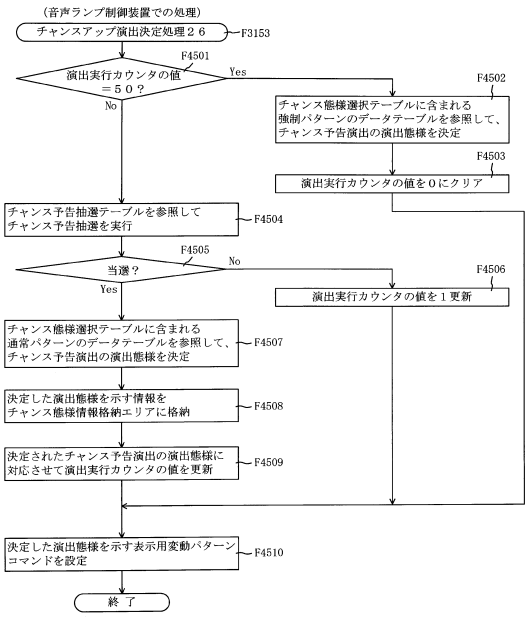
【図８２１】



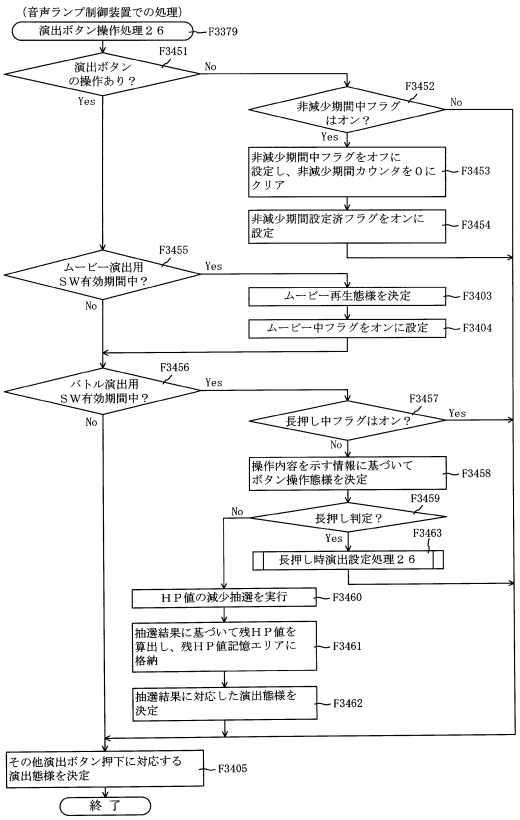
【図８２２】



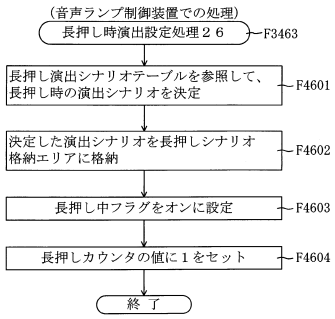
【図８２３】



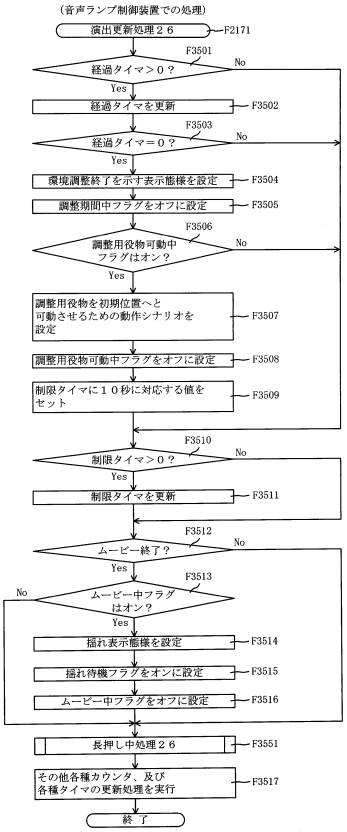
【図８２４】



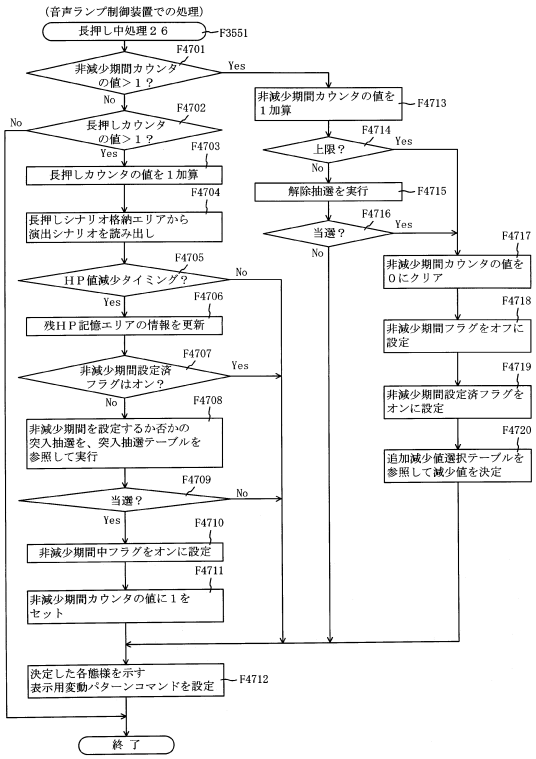
【図８２５】



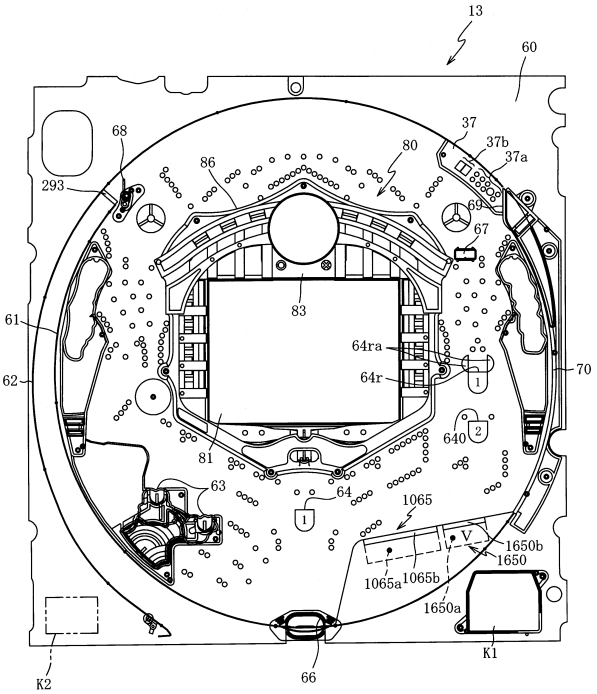
【図８２６】



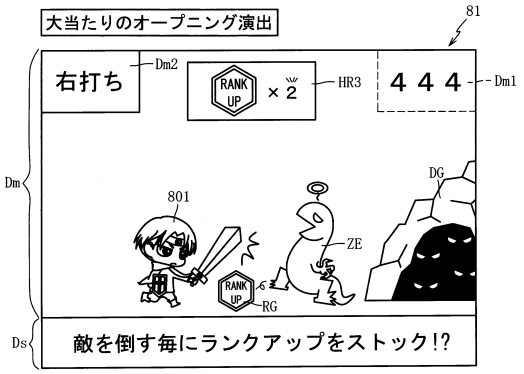
【図８２７】



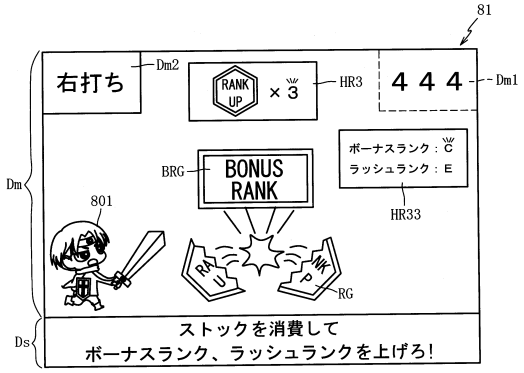
【図８２８】



【図８２９】

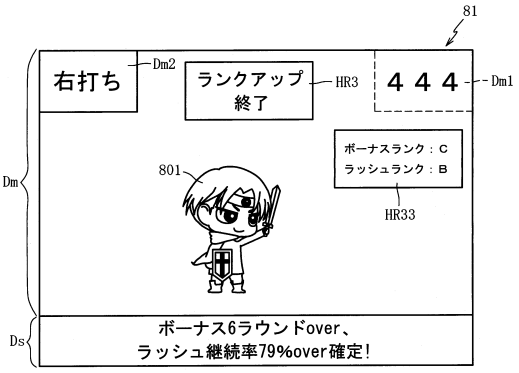


（ａ）

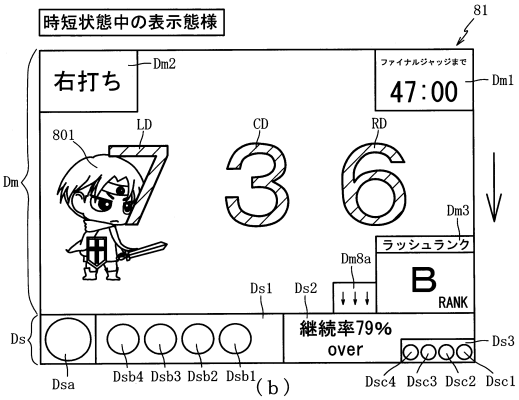


（ｂ）

【図８３０】

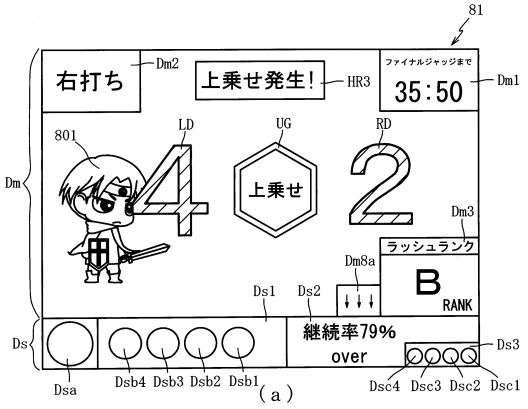


（ａ）

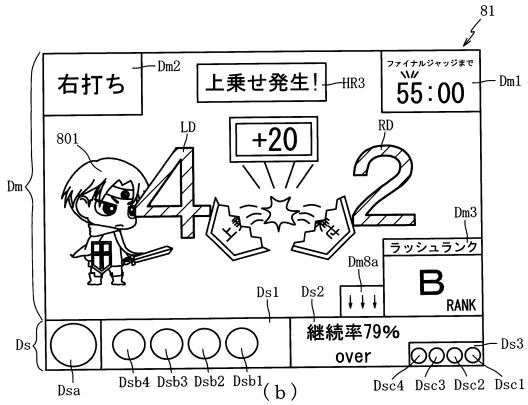


（ｂ）

【図８３１】

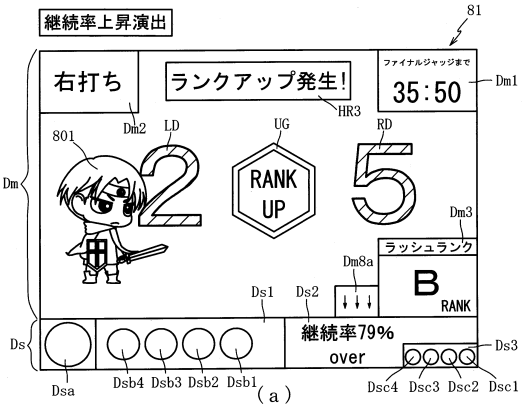


（ａ）

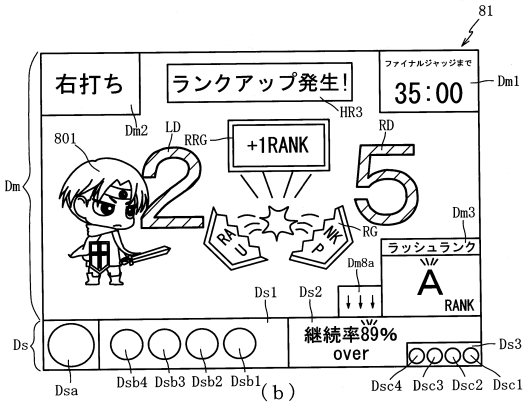


（ｂ）

【図８３２】

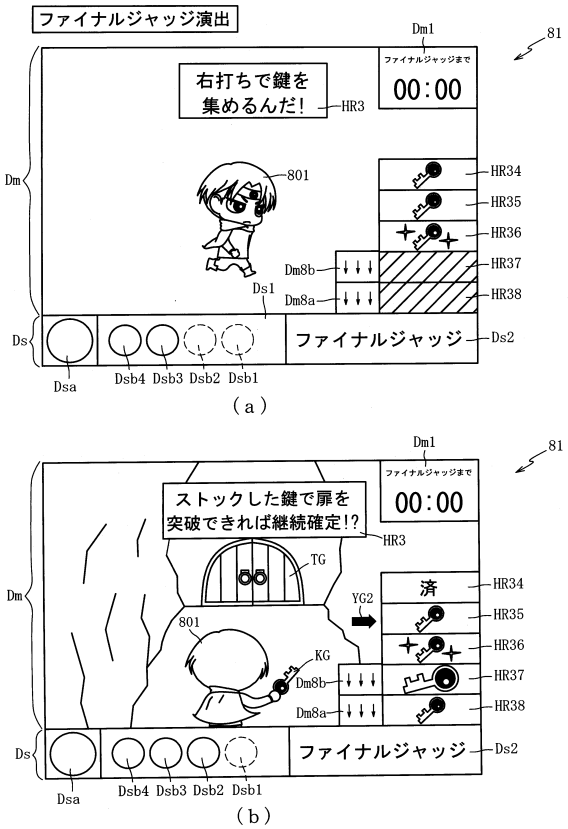


（ａ）

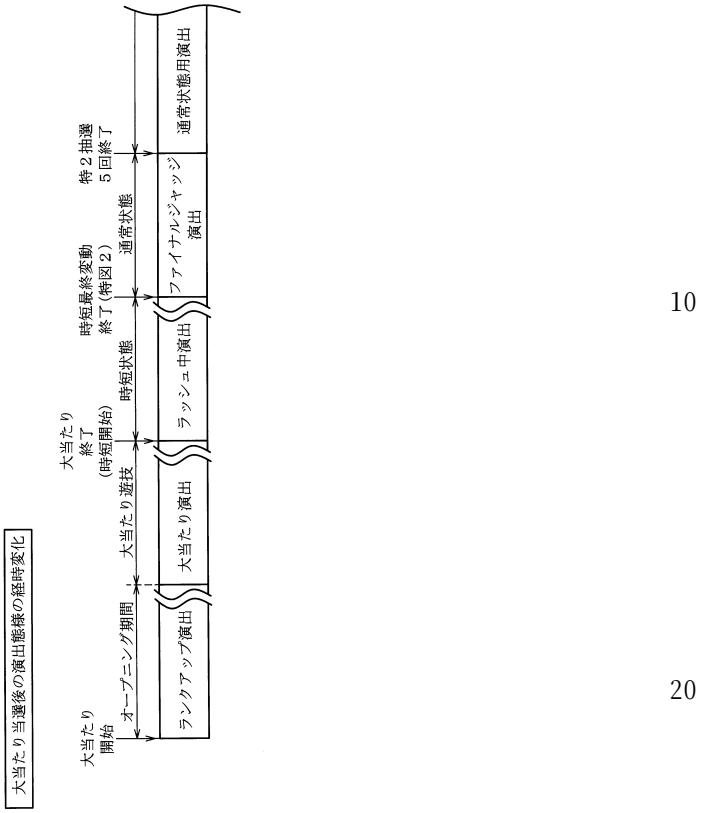


（ｂ）

【図８３３】



【図８３４】



【図８３５】

(a)

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数２７テーブル	202aw
大当たり種別選択２７テーブル	202bw
第２当たり乱数２７テーブル	202cw
変動パターン２７テーブル	202dw
小当たり乱数２７テーブル	202ew
通常状態用変動パターンシナリオテーブル	202wa

(b)

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
特別図柄１保留球数カウンタ	203d
特別図柄２保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短中第１カウンタ	203h1
時短中第２カウンタ	203h2
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203fd
Ｖフラグ	203fe
Ｖ通過フラグ	203ff
特図１変動時間タイマ	203ka
特図２変動時間タイマ	203kb
特図２変動停止フラグ	203kf
大当たりフラグ	203gb
ラッシュ種別格納エリア	203wa
特図１変動回数カウンタ	203wb
特図２変動回数カウンタ	203wc
小当たりフラグ	203we
当選時状態格納エリア	203wf
その他メモリエリア	203z

【図８３６】

(a) 202 第１当たり乱数２７テーブル202aw

特別図柄種別	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１(0～999)
第１特別図柄 第２特別図柄 共通	0～4

(b) 202 第２当たり乱数２７テーブル202cw

遊技状態	第２当たり乱数 カウンタ値Ｃ４(0～299)
普通図柄の低確率状態	0
普通図柄の高確率状態	0～298

(c) 202 小当たり乱数２７テーブル202ew

特別図柄種別	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１(0～999)
第２特別図柄	5～54

(d) 202 直当たり用テーブル202bw1

図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２(0～99)
特図１	大当たりＡ２７ (12R継続率Ｓランク大当たり)	0～4
	大当たりＢ２７ (4R継続率Ｅランク大当たり)	5～99
特図２	大当たりＣ２７ (12R継続率Ｓランク大当たり)	0～99

【図８３７】

202

Ｖ当たり用テーブル202bw2

大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２(0～99)
大当たりＤ２７ (12Ｒ継続率Ｓランク大当たり)	0
大当たりＥ２７ (12Ｒ継続率Ａランク大当たり)	1～39
大当たりＦ２７ (12Ｒ継続率Ｂランク大当たり)	40～42
大当たりＧ２７ (12Ｒ継続率Ｃランク大当たり)	43, 44
大当たりＨ２７ (12Ｒ継続率Ｄランク大当たり)	45～49
大当たりＩ２７ (8Ｒ継続率Ａランク大当たり)	50～52
大当たりＪ２７ (8Ｒ継続率Ｂランク大当たり)	53, 54
大当たりＫ２７ (6Ｒ継続率Ａランク大当たり)	55～57
大当たりＬ２７ (6Ｒ継続率Ｂランク大当たり)	58, 59
大当たりＭ２７ (4Ｒ継続率Ａランク大当たり)	60～64
大当たりＮ２７ (4Ｒ継続率Ｂランク大当たり)	65～69
大当たりＯ２７ (4Ｒ継続率Ｃランク大当たり)	70～79
大当たりＰ２７ (4Ｒ継続率Ｄランク大当たり)	80～99

【図８３８】

- 変動パターン２７テーブル ～ 202dw
  - 通常用テーブル ･･･ 202dw1
  - Ｓランク用テーブル ･･･ 202dw2
  - Ａランク用テーブル ･･･ 202dw3
  - Ｂランク用テーブル ･･･ 202dw4
  - Ｃランク用テーブル ･･･ 202dw5
  - Ｄランク用テーブル ･･･ 202dw6
  - Ｅランク用テーブル ･･･ 202dw7
  - 時短終了後１変動時用テーブル ･･･ 202dw8
  - 時短終了後２～５変動時用テーブル ･･･ 202dw9

（ａ）

202

Ｓランク用テーブル202dw2

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間 (ｍｓ)	変動種別カウンタ ＣＳ１(0～999)
特図１	外れ	外れロング変動	250000	0～999
	大当たり	当たりロング変動	250000	0～999
特図２	外れ (小当たり)	外れショート変動	10000	0～999
	大当たり	当たりショート変動	10000	0～999

（ｂ）

【図８３９】

202

Ａランク用テーブル202dw3

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間 (ｍｓ)	変動種別カウンタ ＣＳ１(0～999)
特図１	外れ	外れ時短用変動Ａ	1000	0～139
		外れ時短用変動Ｂ	3000	140～310
		外れ時短用変動Ｃ	5000	311～481
		外れ時短用変動Ｄ	7000	482～742
		外れ時短用変動Ｅ	10000	743～998
		外れロング変動	250000	999
	大当たり	当たり時短用変動Ｅ	10000	0～999
特図２	外れ (小当たり)	外れショート変動	10000	0～999
	大当たり	当たりショート変動	10000	0～999

（ａ）

202

時短終了後１変動時用テーブル202dw8

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間 (ｍｓ)	変動種別カウンタ ＣＳ１(0～999)
共通	外れ (小当たり)	外れミドル変動	30000	0～999
	大当たり	当たりミドル変動	30000	0～999

（ｂ）

【図８４０】

202

通常状態用変動パターンシナリオテーブル202wa

前回の大当たり種別	変動パターンテーブル		
	1	2～5	6以上
大当たり Ａ２７～Ｐ２７	時短終了後 １変動時用	時短終了後 ２～５変動時用	通常用
初当たり前 (初期化後)	通常用		

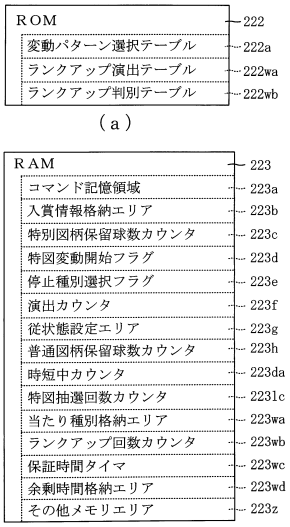
（ａ）

ランク毎のラッシュ性能

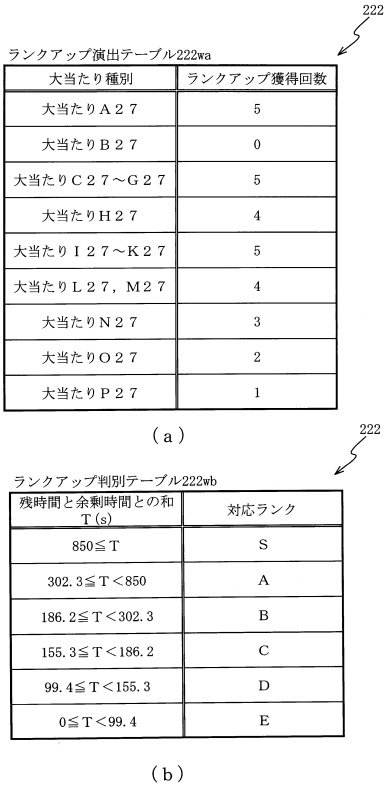
		ランク					
		Ｓランク	Ａランク	Ｂランク	Ｃランク	Ｄランク	Ｅランク
特図１変動時間 振り分け (当たり／外れ合算)	1s	0.0%	13.9%	53.9%	65.9%	85.9%	98.9%
	3s	0.0%	17.0%	10.0%	7.0%	3.0%	0.5%
	5s	0.0%	17.0%	10.0%	7.0%	3.0%	0.5%
	7s	0.0%	26.0%	13.0%	10.0%	4.0%	0.5%
	10s	0.0%	26.0%	13.0%	10.0%	4.0%	0.5%
	250s	100.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
平均変動時間(s)		250	6.17	3.80	3.17	2.03	1.36
特図１変動が４９回終了するまでの平均時間(s)		-	302.3	186.2	155.3	99.4	66.8
ラッシュ終了までの 平均の特図２抽選回数(回) (ファイナルジャッジの ５回含む)		101	35.2	23.6	20.5	14.9	11.7
ファイナルジャッジ 終了までの大当たり 発生期待度	特図１	2.0%	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%
	特図２	99.7%	86.4%	73.7%	68.7%	57.1%	48.4%
	合算	99.7%	89.4%	79.5%	75.6%	66.6%	59.8%

（ｂ）

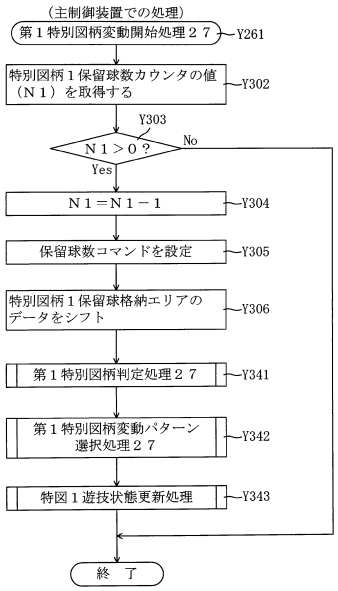
【図８４１】



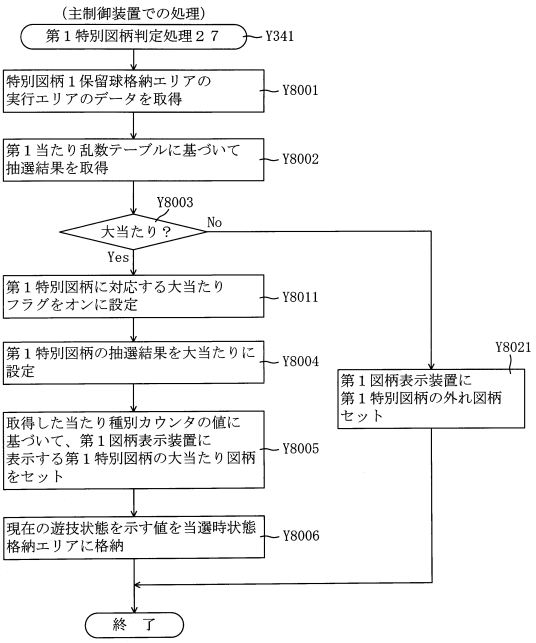
【図８４２】



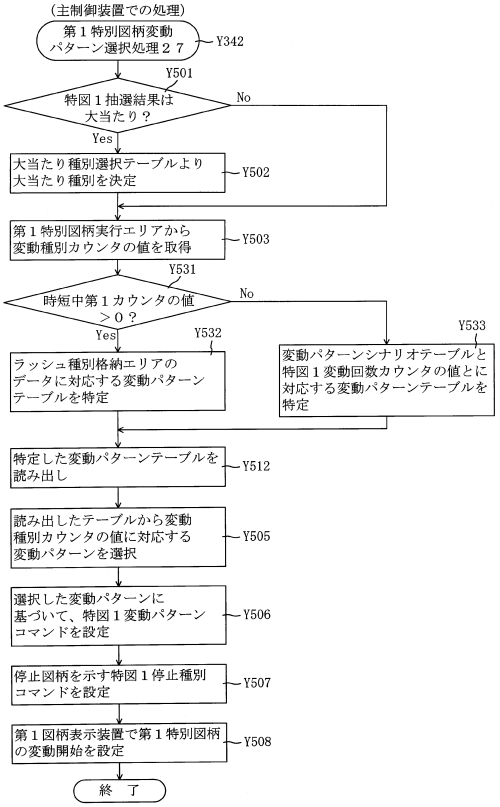
【図８４３】



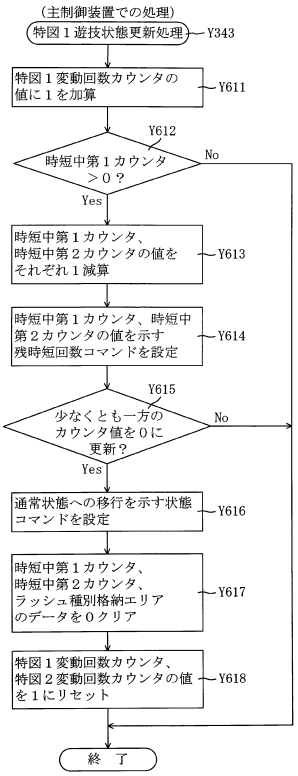
【図８４４】



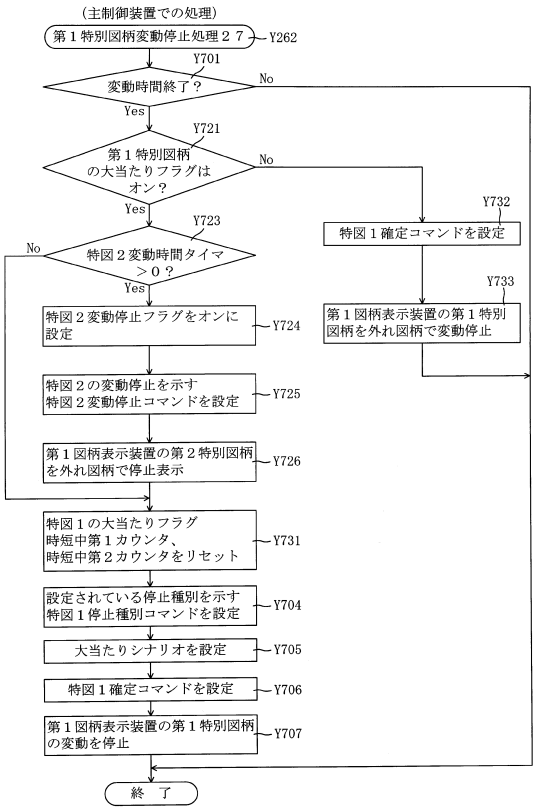
【図８４５】



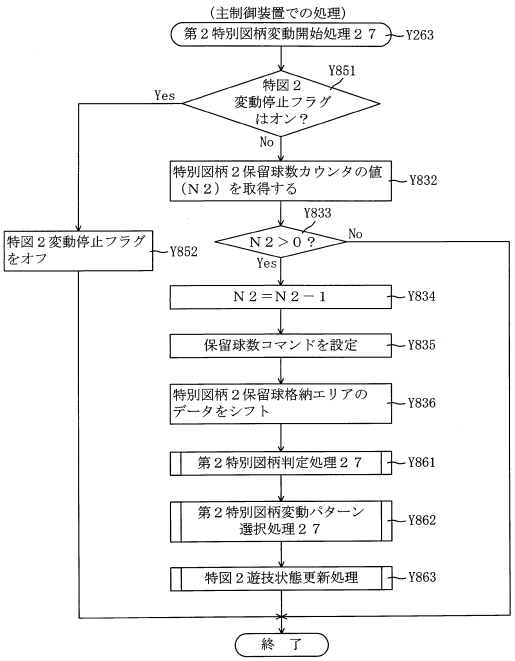
【図８４６】



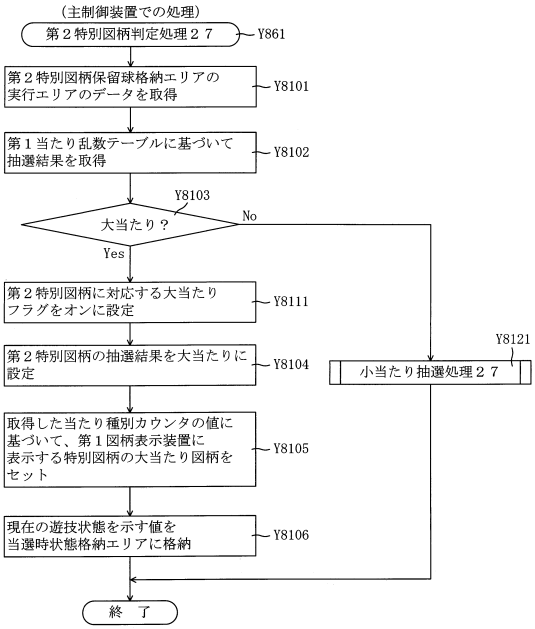
【図８４７】



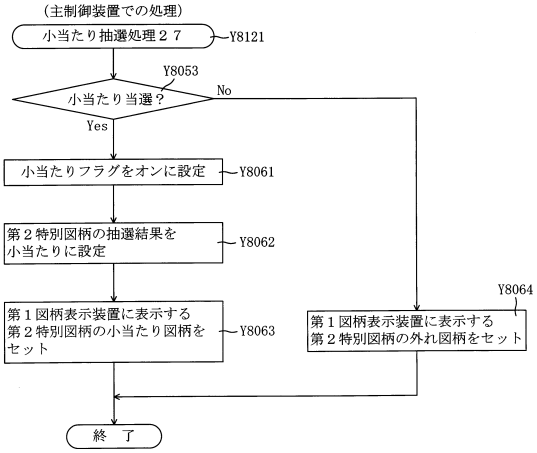
【図８４８】



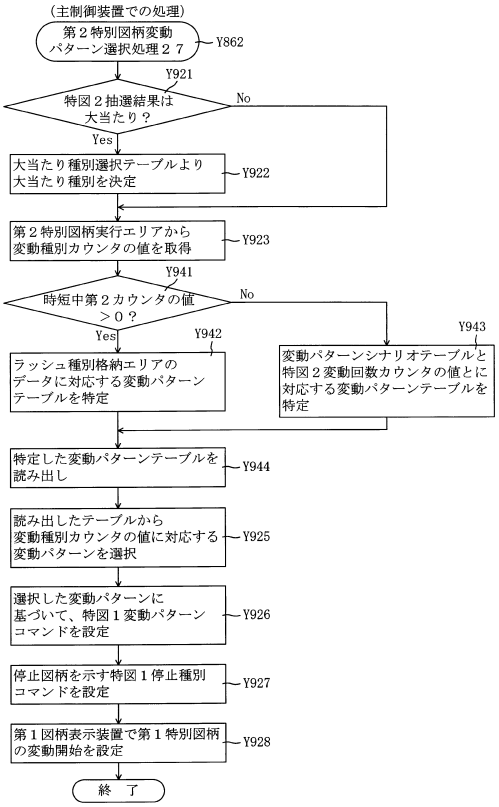
【図８４９】



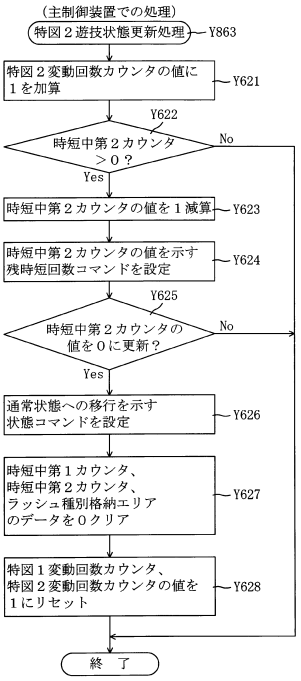
【図８５０】



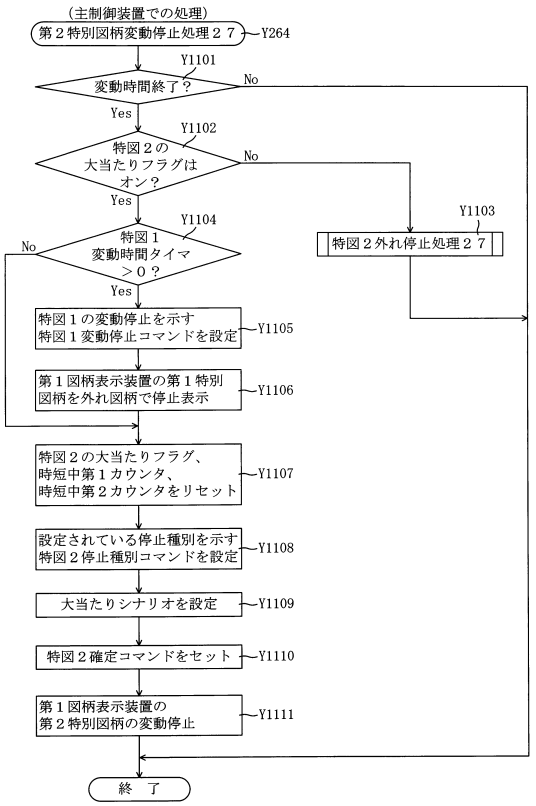
【図８５１】



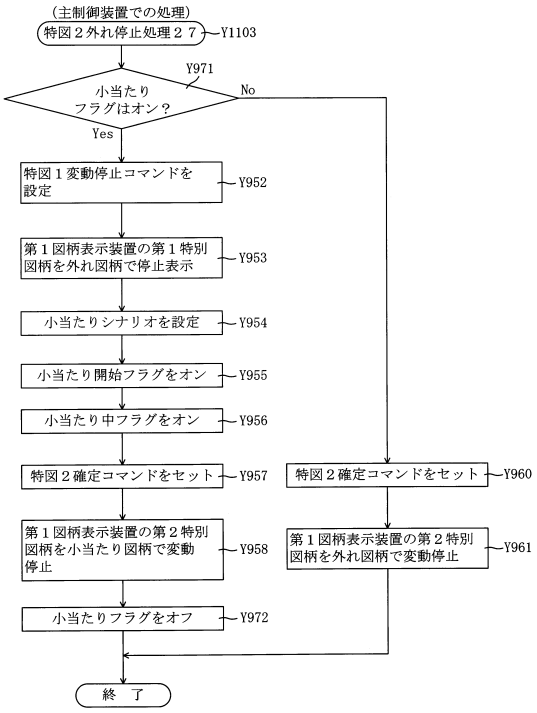
【図８５２】



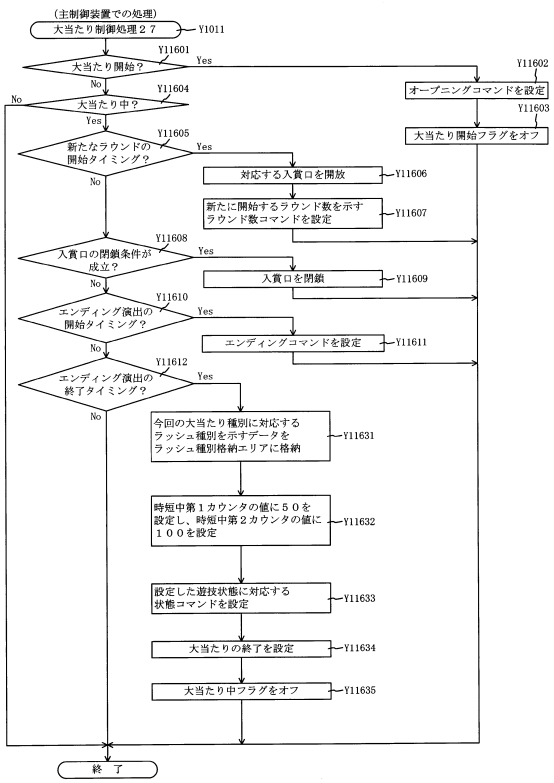
【図８５３】



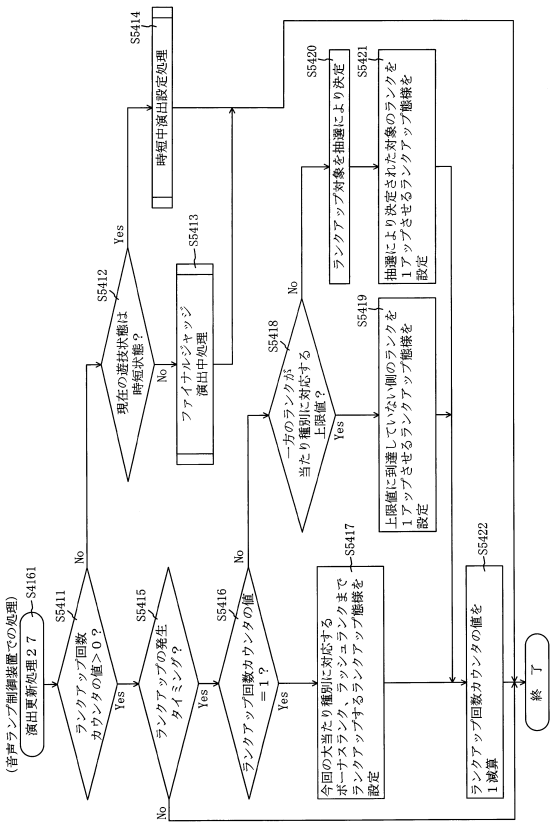
【図８５４】



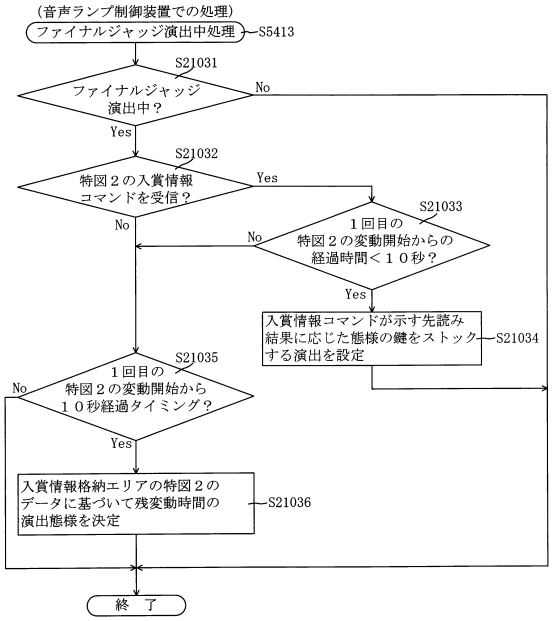
【図８５５】



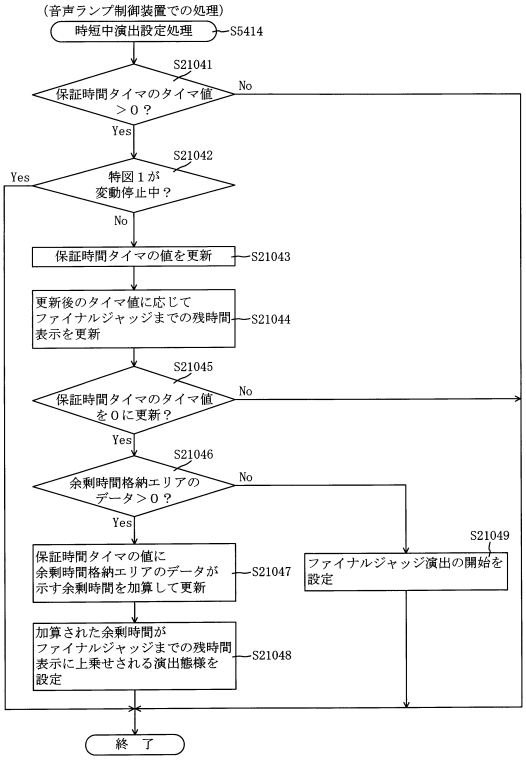
【図８５６】



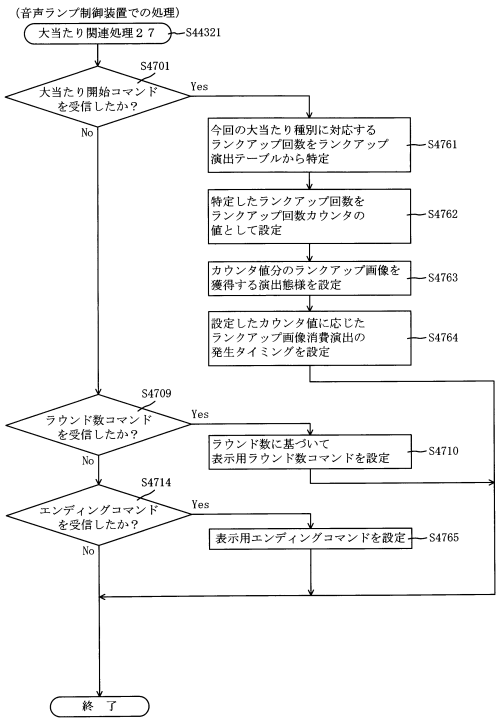
【図８５７】



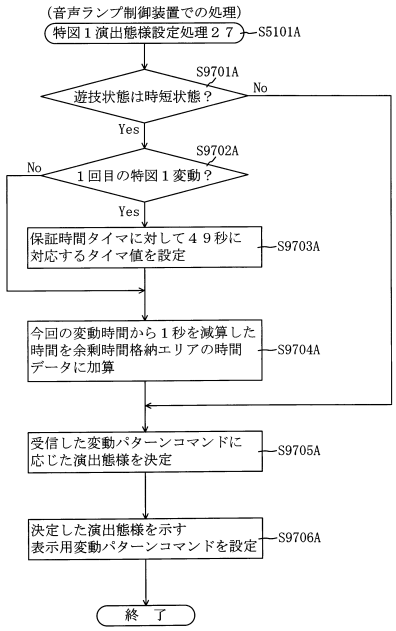
【図８５８】



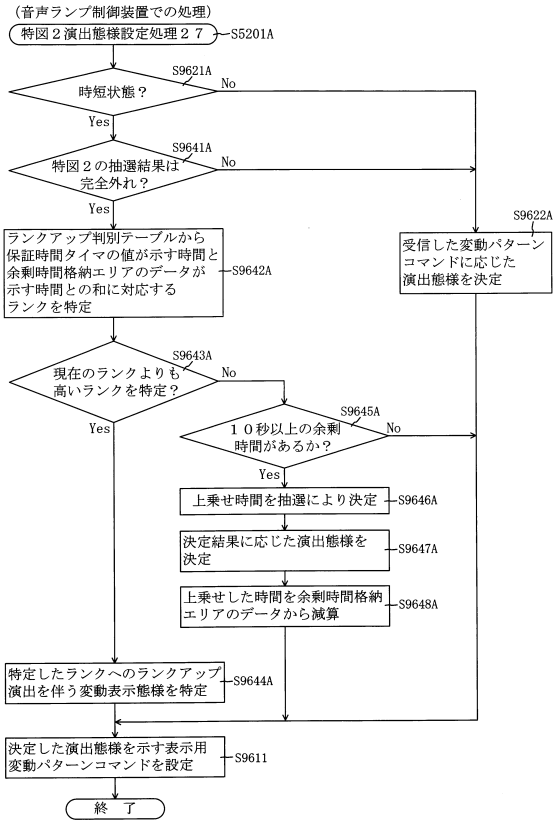
【図８５９】



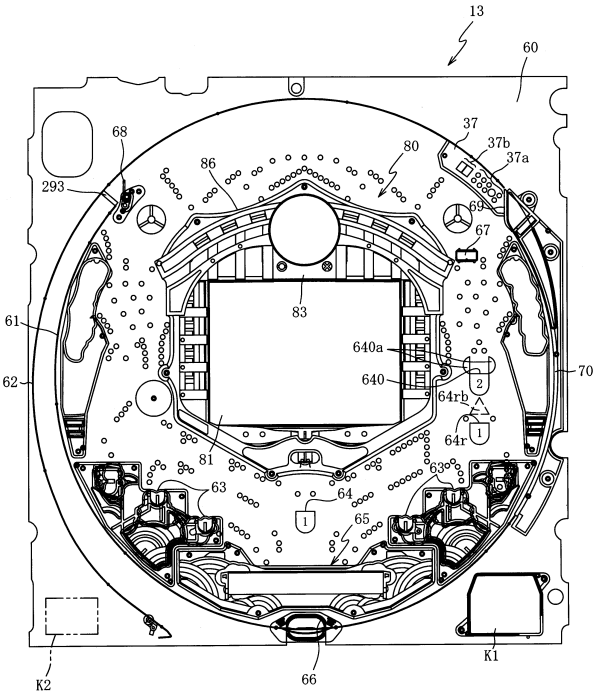
【図８６０】



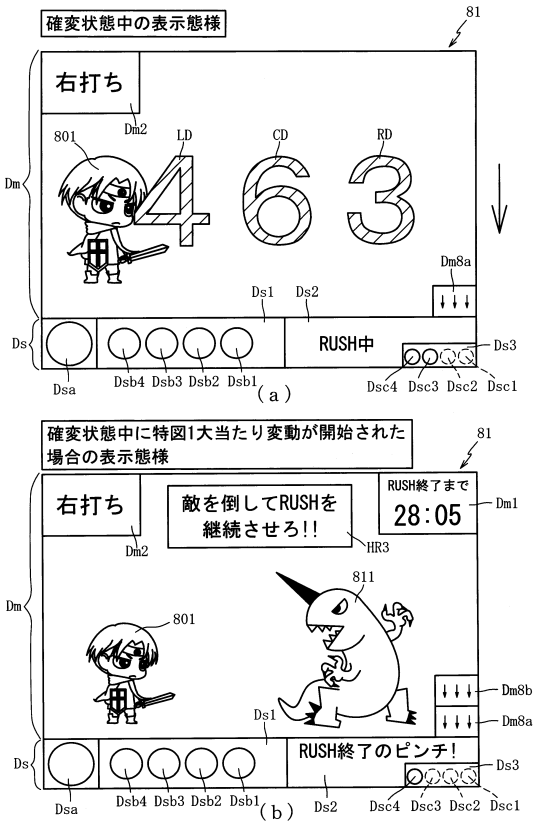
【図８６１】



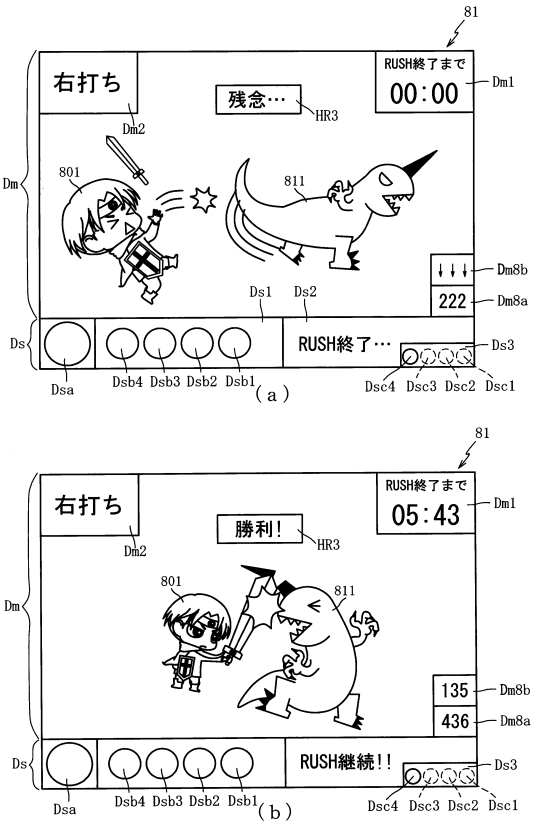
【図８６２】



【図８６３】



【図８６４】



【図８６５】

【図８６６】

（ａ）

202

第１当たり乱数２８テーブル202ax

特別図柄種別	特別図柄の状態	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～999）
第１特別図柄 第２特別図柄 共通	高確率状態	0～39
	低確率状態	0～9

（ｂ）

202

大当たり種別選択２８テーブル202bx

図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ２８ （4R確変大当たり）	0～9
	大当たりＢ２８ （4R通常大当たり）	10～99
特図２	大当たりＣ２８ （10R確変大当たり）	0～24
	大当たりＤ２８ （8R確変大当たり）	25～34
	大当たりＥ２８ （4R確変大当たり）	35～99

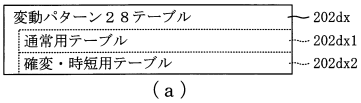
（ｃ）

202

小当たり乱数２８テーブル202ex

特別図柄種別	特別図柄の状態	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～999）
第２特別図柄	高確率状態	40～49

【図８６７】



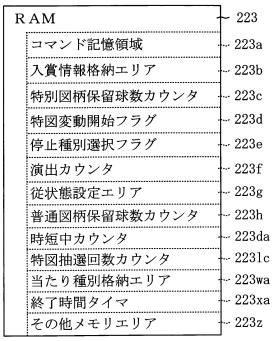
202

確変・時短用テーブル202dx2

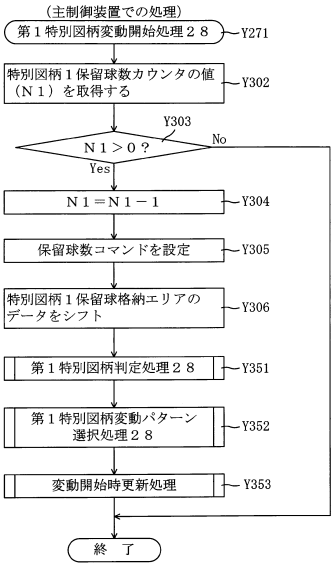
図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間（ｍｓ）	変動種別カウンタＣＳ１（0～999）
特図１	外れ	外れショート変動	10000	0～999
	通常大当たり	当たりロング変動Ａ	30000	0～249
		当たりロング変動Ｂ	60000	250～899
		当たりロング変動Ｃ	180000	900～999
	確変大当たり	当たり超ショート変動	500	0～999
特図２	外れ（小当たり）	外れショート変動	6000	0～999
	大当たり	当たりショート変動	6000	0～999

（ｂ）

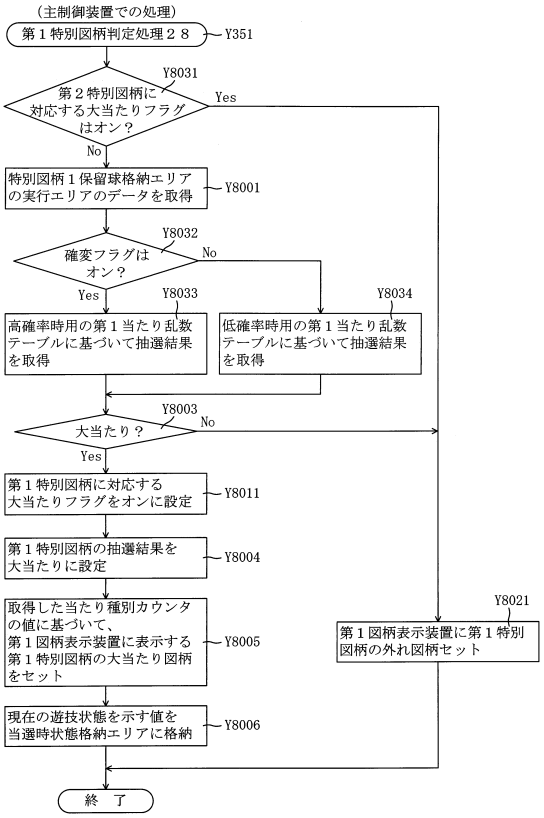
【図８６８】



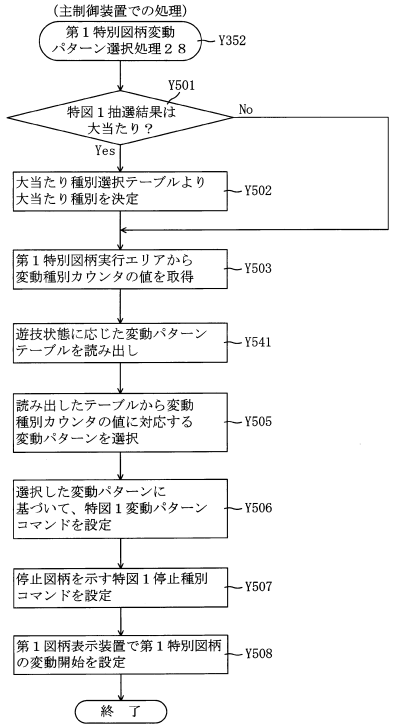
【図８６９】



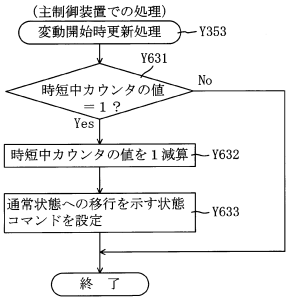
【図８７０】



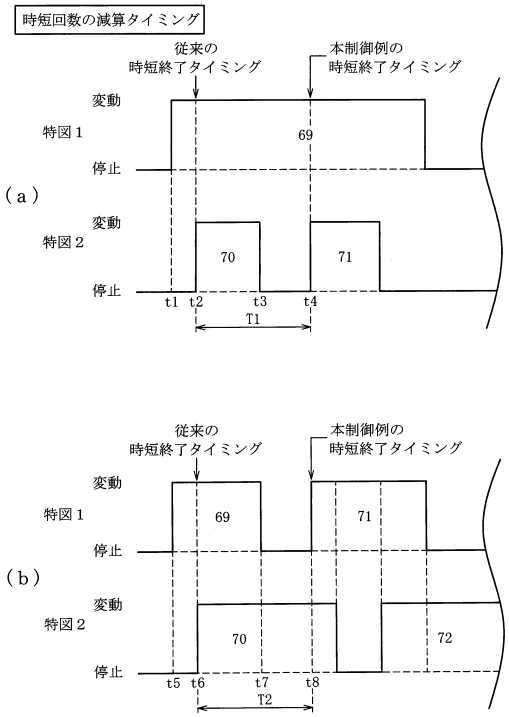
【図８７１】



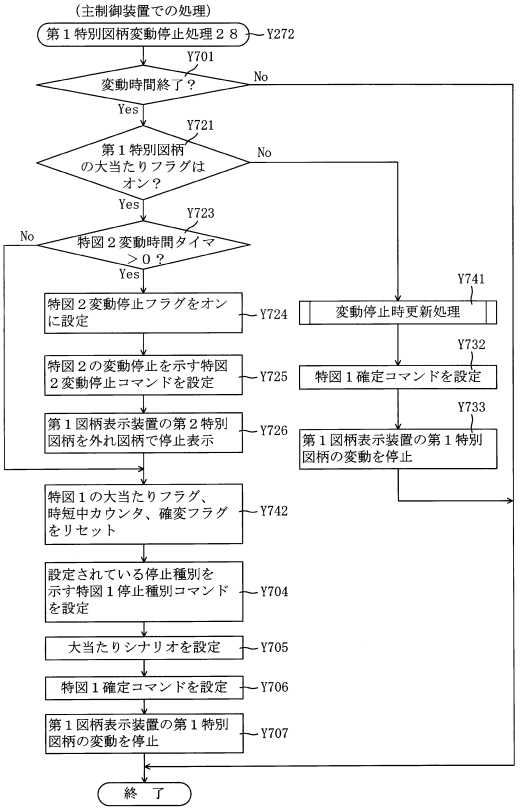
【図８７２】



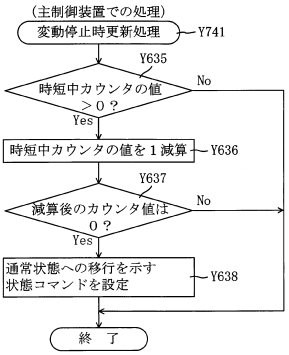
【図８７３】



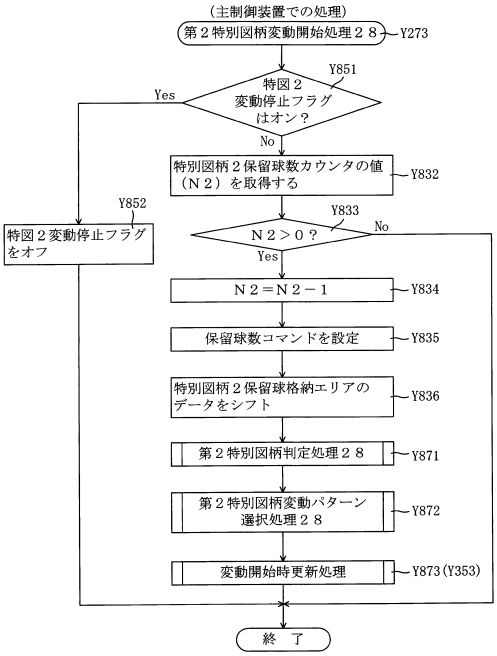
【図８７４】



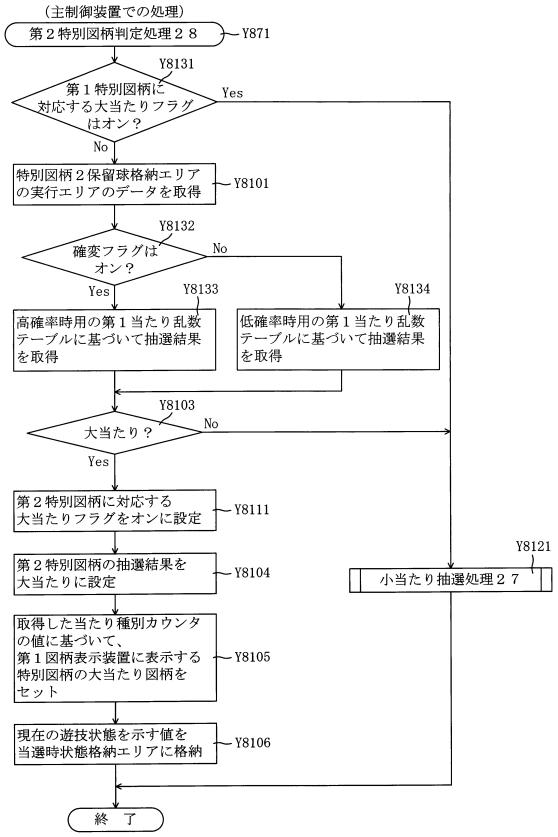
【図８７５】



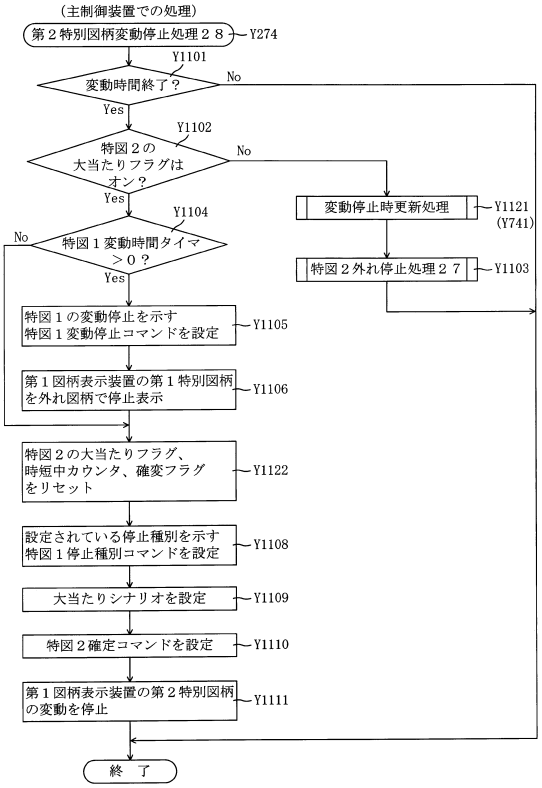
【図８７６】



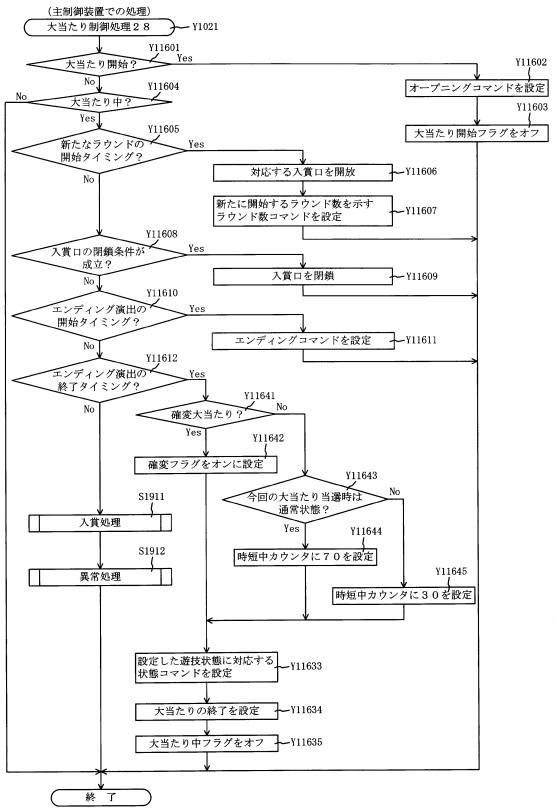
【図８７７】



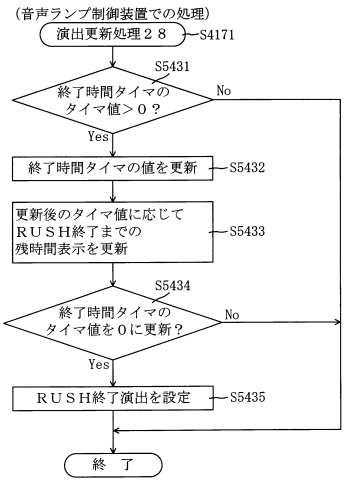
【図８７８】



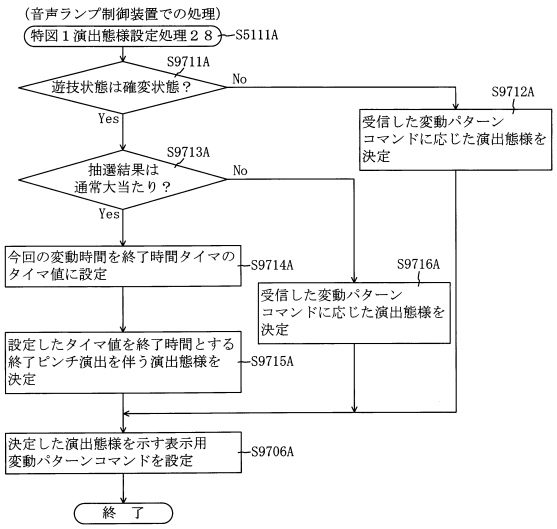
【図８７９】



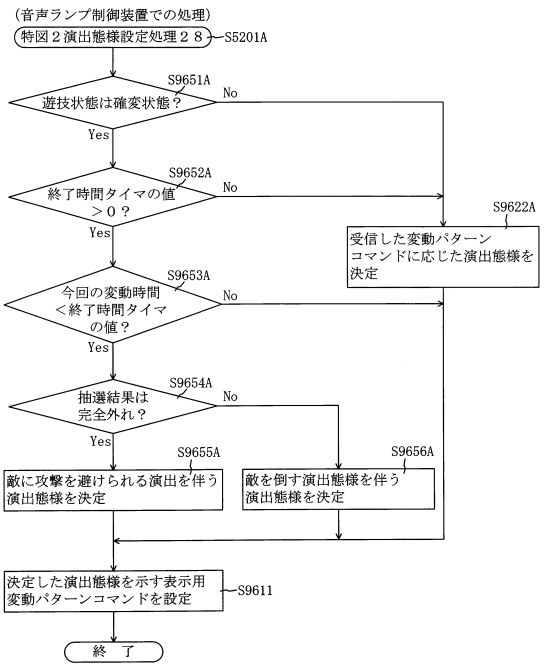
【図８８０】



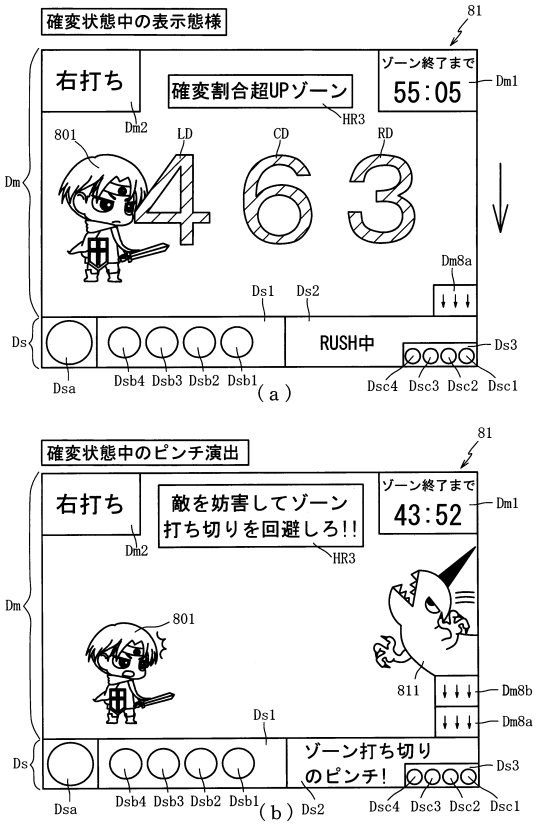
【図８８１】



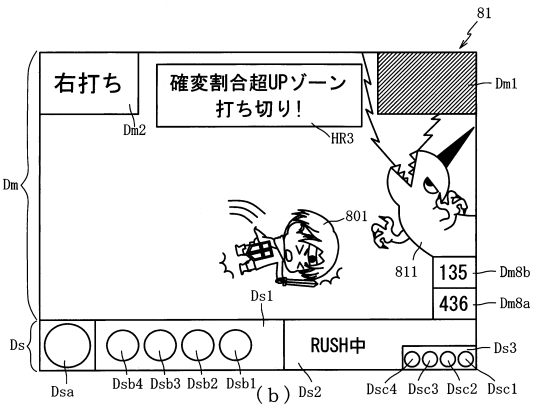
【図８８２】



【図８８３】



【図８８４】



【図８８５】

（ａ）

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数２８テーブル	202ax
大当たり種別選択２９テーブル	202by
第２当たり乱数２７テーブル	202cw
変動パターン２９テーブル	202dy
小当たり乱数２８テーブル	202ex
変動パターンシナリオテーブル	202ya

（ｂ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
特別図柄１保留球数カウンタ	203d
特別図柄２保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短中カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203fa
小当たり開始フラグ	203fb
小当たり中フラグ	203fc
確変設定フラグ	203m
確変通過カウンタ	203n
入賞個数カウンタ	203fo
残球タイマフラグ	203p
残球タイマ	203q
確変有効フラグ	203r
確変有効タイマ	203s
排出個数カウンタ	203t
特図１変動時間タイマ	203ka
特図２変動時間タイマ	203kb
特図２変動停止フラグ	203kf
大当たりフラグ	203gb
小当たりフラグ	203we
当選時状態格納エリア	203wf
確変フラグ	203xa
変動パターンシナリオ格納エリア	203ya
その他メモリエリア	203z

【図８８６】

202

大当たり種別選択２９テーブル202by

図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ２９（4R確変大当たり）	0～49
	大当たりＢ２９（4R通常大当たり）	50～99
特図２	大当たりＣ２９（10R確変大当たり）	0～19
	大当たりＤ２９（10R確変大当たり）	20～23
	大当たりＥ２９（10R確変大当たり）	24
	大当たりＦ２９（8R確変大当たり）	25～29
	大当たりＧ２９（8R確変大当たり）	30～33
	大当たりＨ２９（8R確変大当たり）	34
	大当たりＩ２９（4R確変大当たり）	35～89
	大当たりＪ２９（4R確変大当たり）	90～96
	大当たりＫ２９（4R確変大当たり）	97～99

【図８８７】

変動パターン２９テーブル	202dy
通常用テーブル	202dy1
ゾーン用テーブル	202dy2
確変・時短用テーブル	202dy3

（ａ）

202

ゾーン用テーブル202dy2

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間（ｍｓ）	変動種別カウンタＣＳ１（0～999）
特図１	外れ	外れロング変動	60000	0～999
	大当たり	当たりロング変動	60000	0～999
特図２	外れ（小当たり）	外れショート変動Ａ	1000	0～49
		外れショート変動Ｂ	3000	50～949
		外れショート変動Ｃ	5000	950～999
	大当たり	当たりショート変動	3000	0～999

（ｂ）

202

確変・時短用テーブル202dy3

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間（ｍｓ）	変動種別カウンタＣＳ１（0～999）
共通	外れ（小当たり）	外れショート変動Ａ	1000	0～49
		外れショート変動Ｂ	3000	50～949
		外れショート変動Ｃ	5000	950～999
	大当たり	当たりショート変動	3000	0～999

（ｃ）

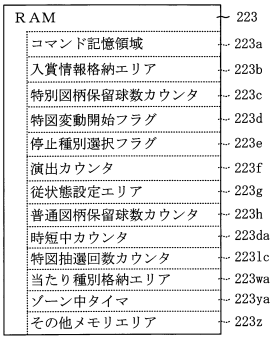
【図８８８】

202

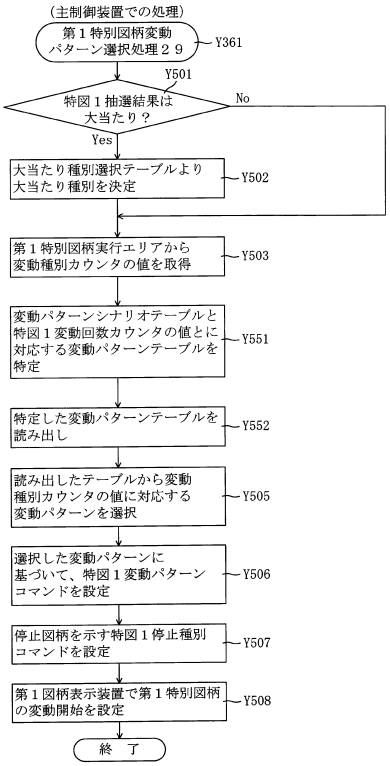
変動パターンシナリオテーブル202ya

前回の大当たり種別	大当たり終了後の変動回数	
大当たりＡ２９，Ｃ２９，Ｆ２９，Ｉ２９	特図１変動１回	ゾーン用
	特図１変動２回	
	特図１変動３回	
	特図１変動４回以上１０１回以上	
	特図１特図２合計１００回未満	確変・時短用
大当たりＤ２９，Ｇ２９，Ｊ２９		ゾーン用
		確変・時短用
大当たりＥ２９，Ｈ２９，Ｋ２９		ゾーン用
		確変・時短用
大当たりＢ２９		確変・時短用
		通常用
初当たり前（初期化後）		通常用

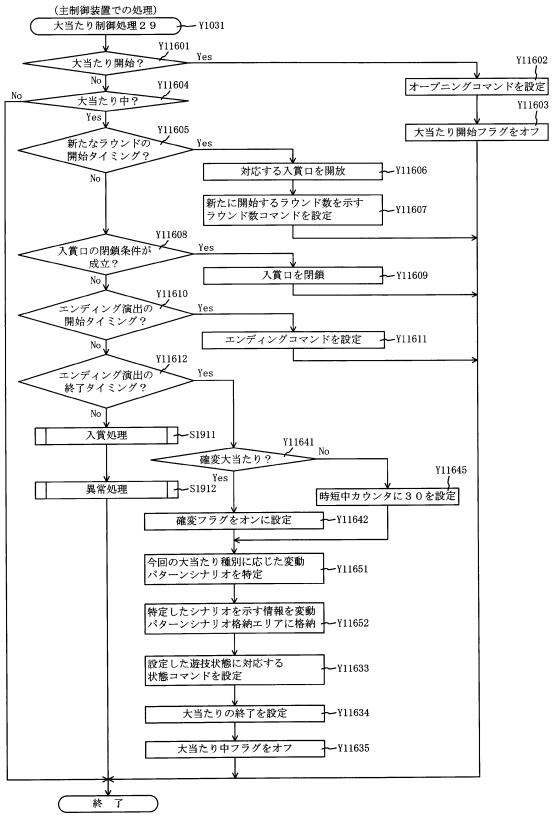
【図８８９】



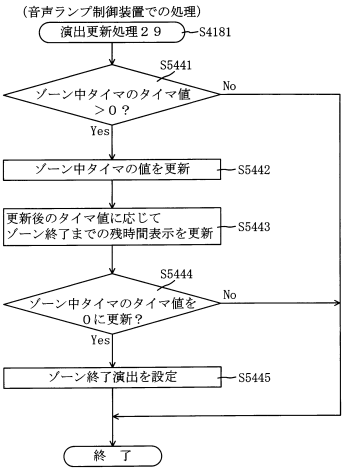
【図８９０】



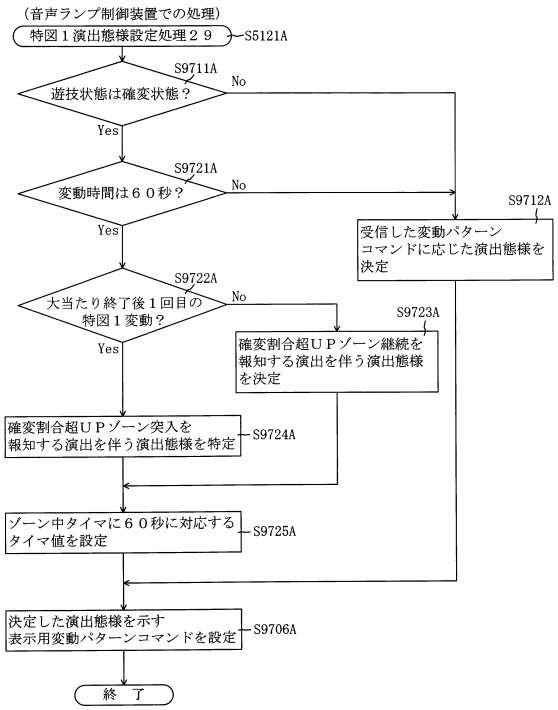
【図８９１】



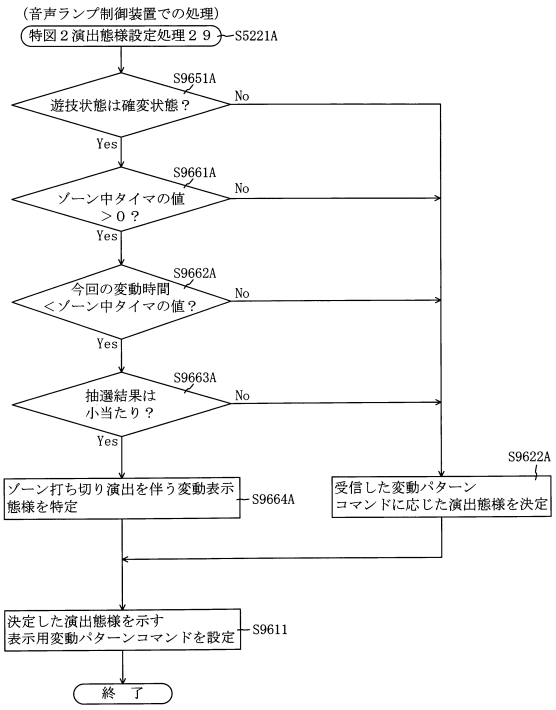
【図８９２】



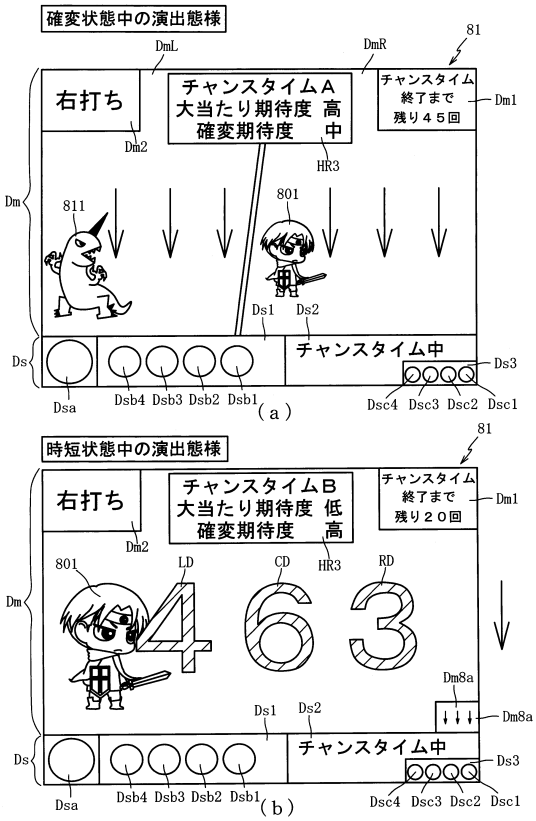
【図８９３】



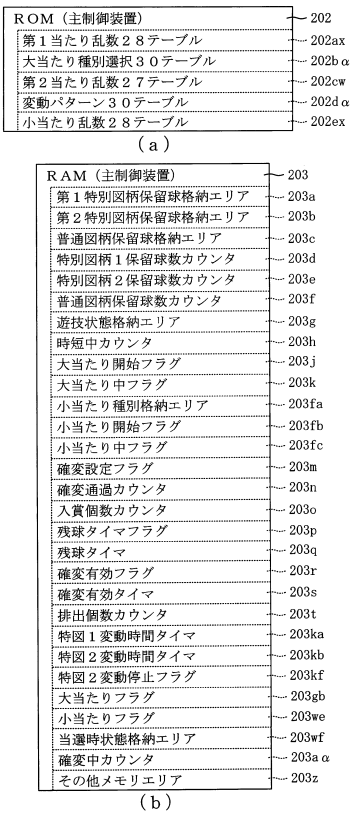
【図８９４】



【図８９５】



【図８９６】



【図８９７】

202

大当たり種別選択３０テーブル202bα

図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２(0～99)
特図１	大当たりＡ３０（4R確変大当たり）	0～49
	大当たりＢ３０（4R通常大当たり）	50～99
特図２	大当たりＣ３０（10R確変大当たり）	0～24
	大当たりＤ３０（8R確変大当たり）	25～34
	大当たりＥ３０（4R確変大当たり）	35～99

【図８９８】

変動パターン３０テーブル	202dα
通常用テーブル	202dα1
時短用テーブル	202dα2
確変用テーブル	202dα3

（ａ）

202

時短用テーブル202dα2

図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間（ｍｓ）	変動種別カウンタＣＳ１(0～999)
特図１	外れ	外れロング変動	60000	0～999
	大当たり	当たりロング変動	60000	0～999
特図２	外れ（小当たり）	外れショート変動Ａ	1000	0～49
		外れショート変動Ｂ	3000	50～949
		外れショート変動Ｃ	5000	950～999
	大当たり	当たりショート変動	3000	0～999

（ｂ）

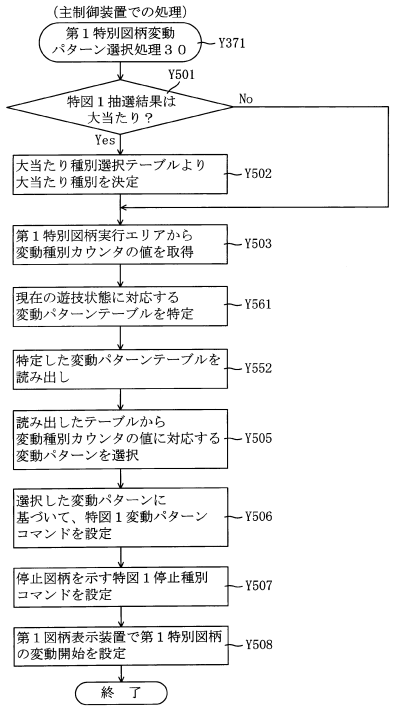
202

確変用テーブル202dα3

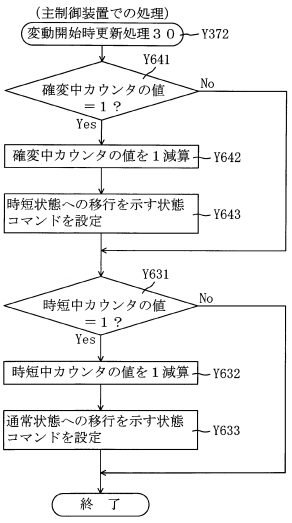
図柄種別	当否判定結果	変動パターン	変動時間（ｍｓ）	変動種別カウンタＣＳ１(0～999)
共通	外れ（小当たり）	外れショート変動Ａ	1000	0～49
		外れショート変動Ｂ	3000	50～949
		外れショート変動Ｃ	5000	950～999
	大当たり	当たりショート変動	3000	0～999

（ｃ）

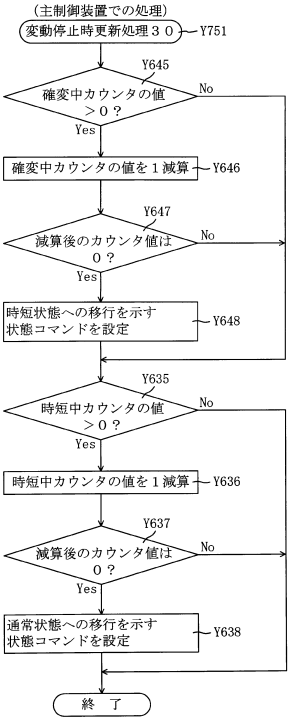
【図８９９】



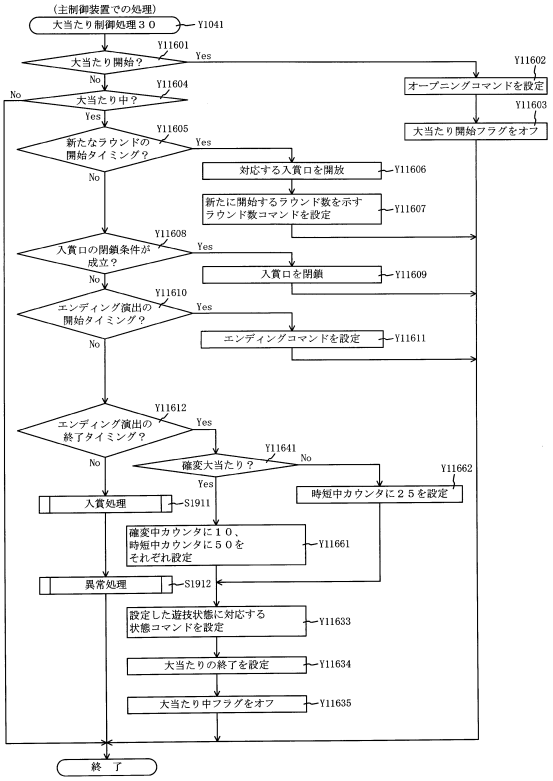
【図９００】



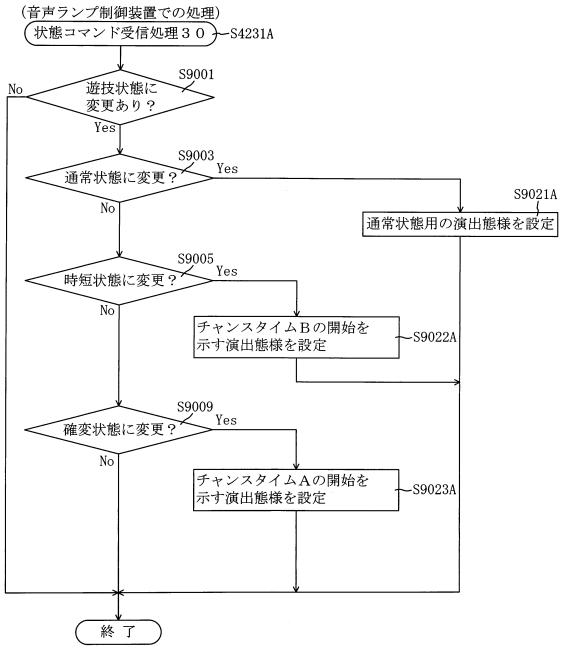
【図９０１】



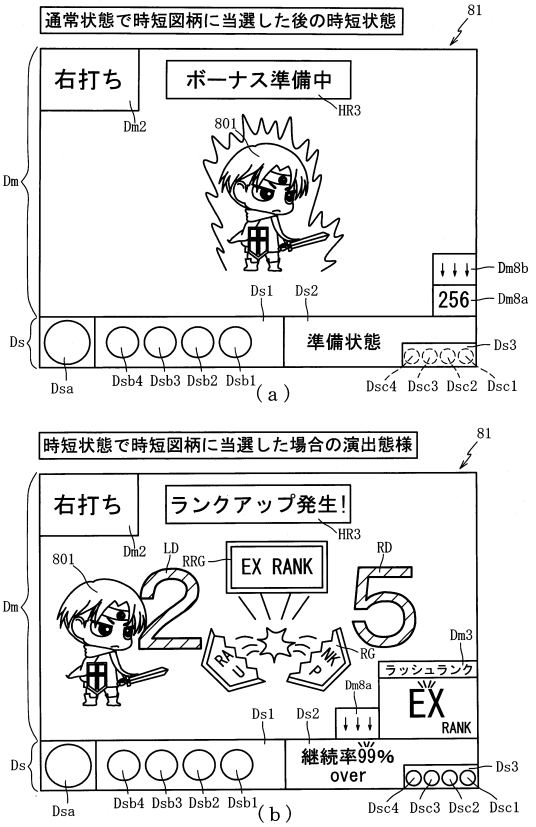
【図９０２】



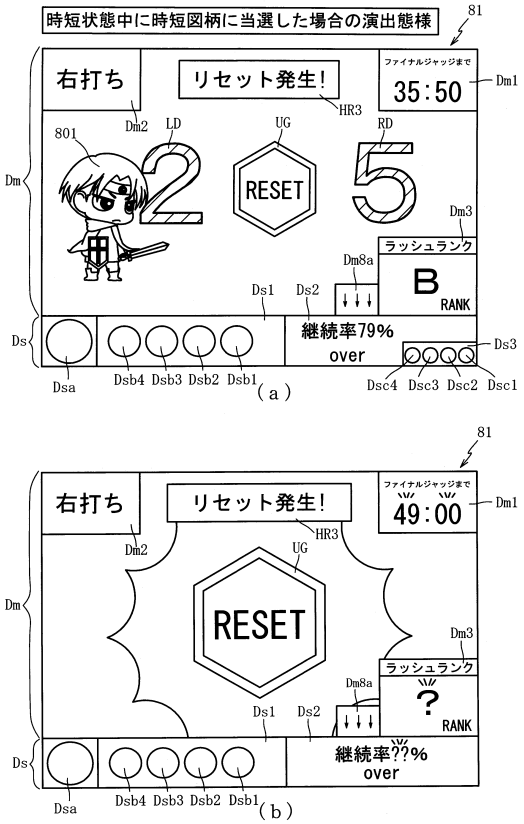
【図９０３】



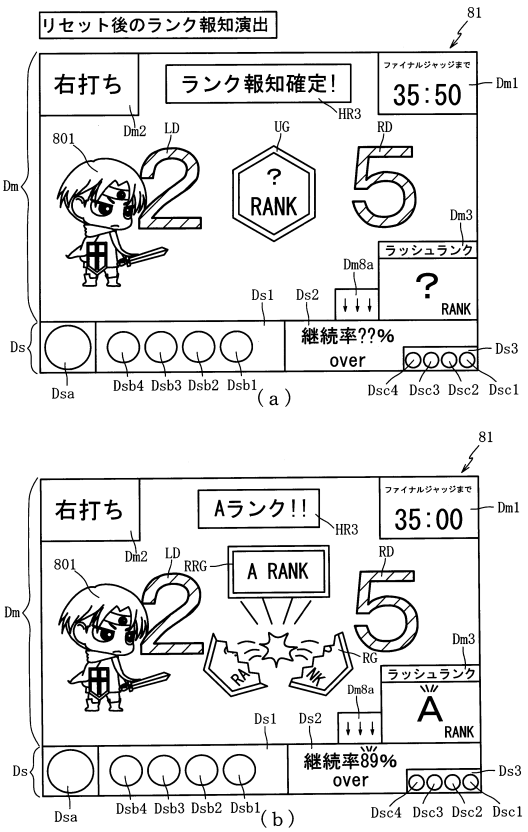
【図９０４】



【図９０５】



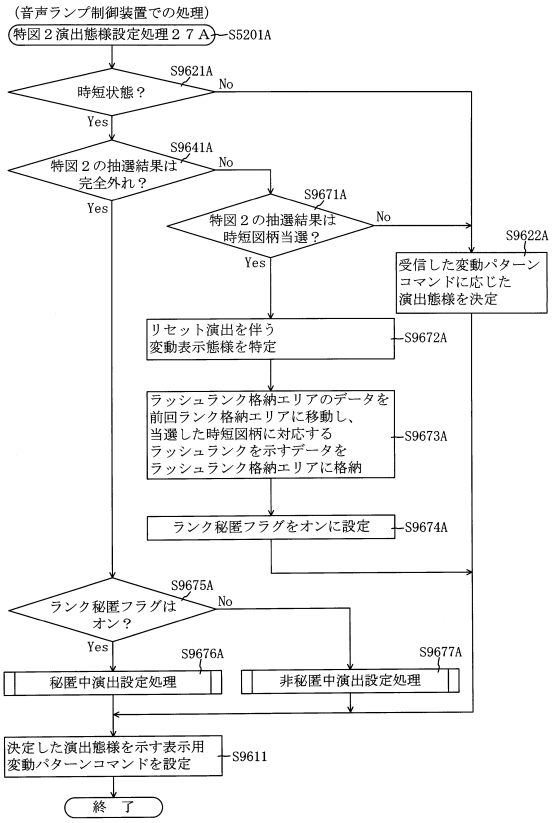
【図９０６】



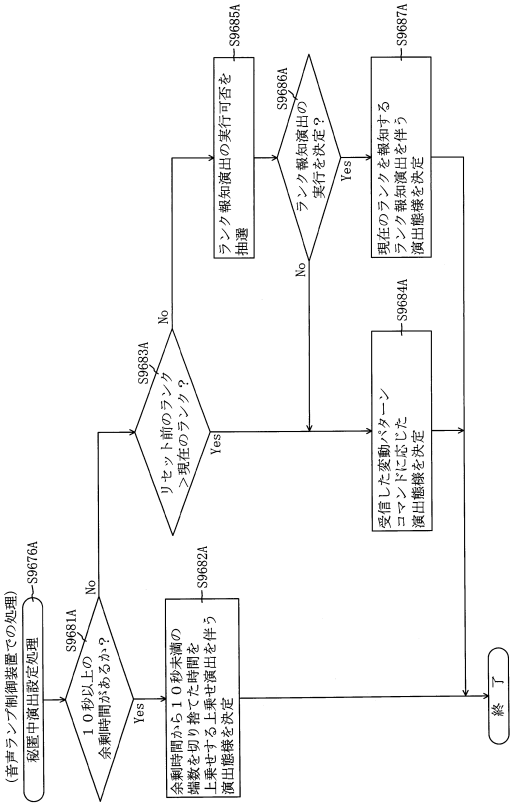
【図９０７】

RAM	223
コマンド記憶領域	223a
入賞情報格納エリア	223b
特別図柄保留球数カウンタ	223c
特図変動開始フラグ	223d
停止種別選択フラグ	223e
演出カウンタ	223f
従状態設定エリア	223g
普通図柄保留球数カウンタ	223h
時短中カウンタ	223da
特図抽選回数カウンタ	2231c
当たり種別格納エリア	223wa
ランクアップ回数カウンタ	223wb
保証時間タイマ	223wc
余剰時間格納エリア	223wd
ラッシュランク格納エリア	223we
前回ランク格納エリア	223wf
ランク秘匿フラグ	223wg
その他メモリエリア	223z

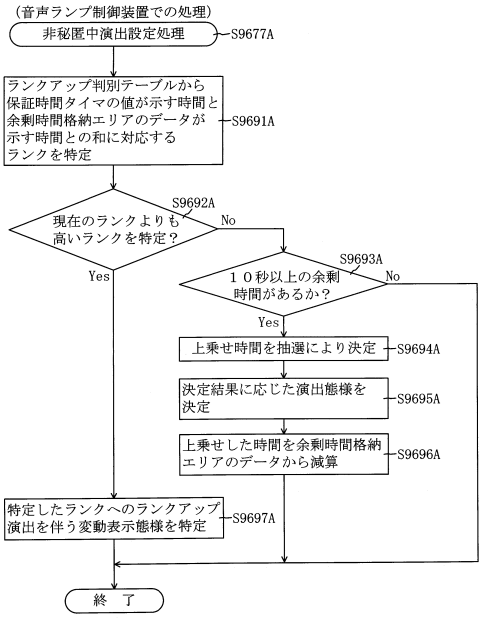
【図９０８】



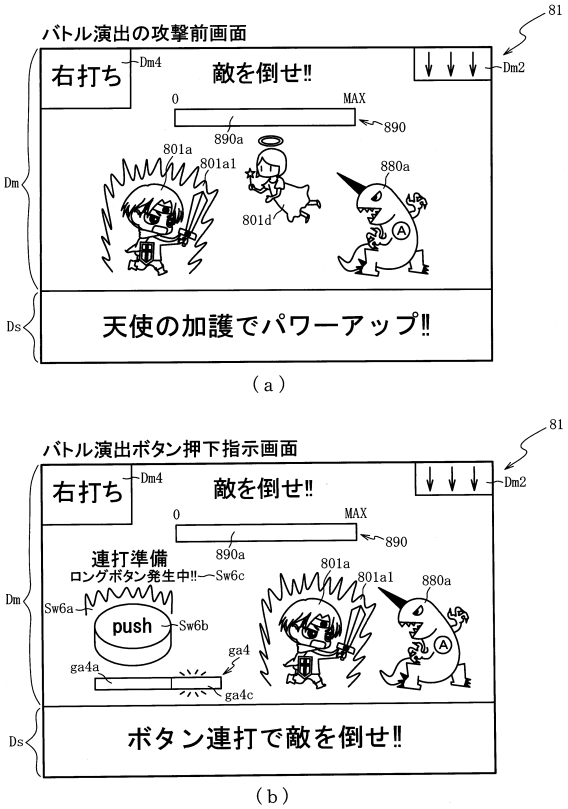
【図９０９】



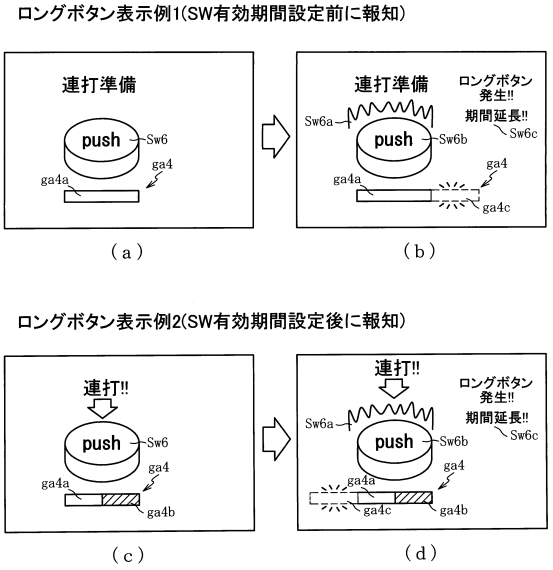
【図９１０】



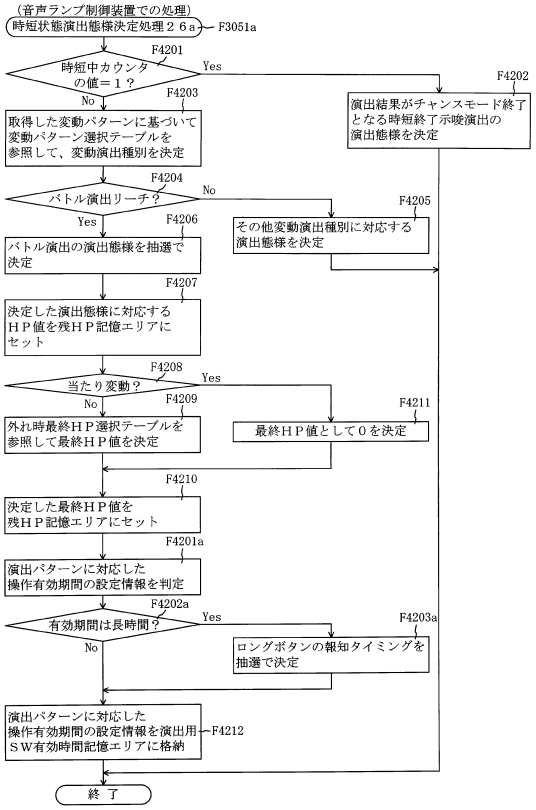
【図９１１】



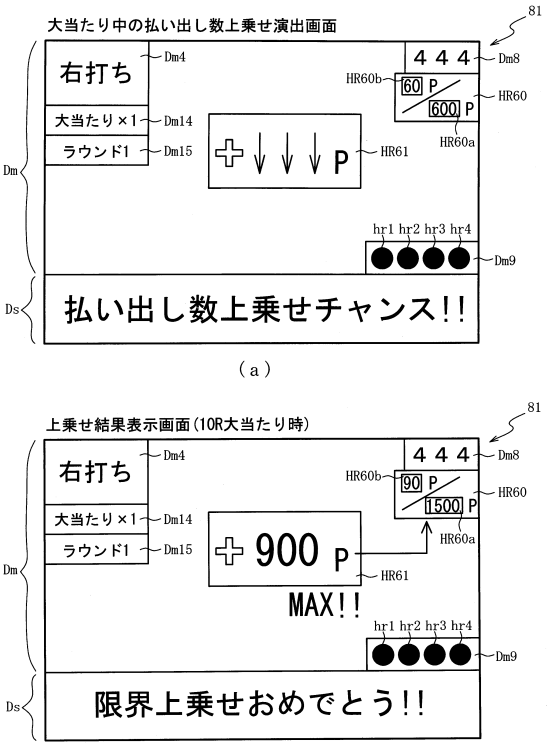
【図９１２】



【図９１３】



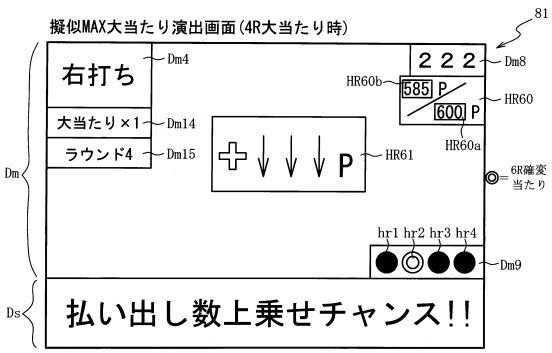
【図９１４】



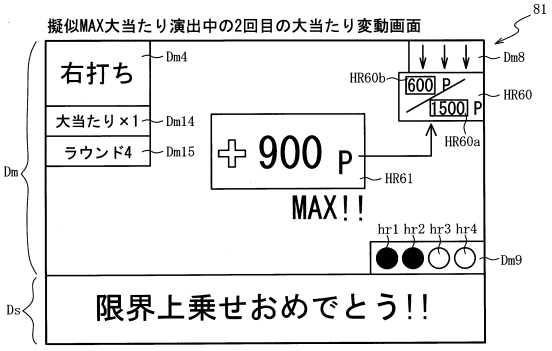
（ａ）

（ｂ）

【図９１５】

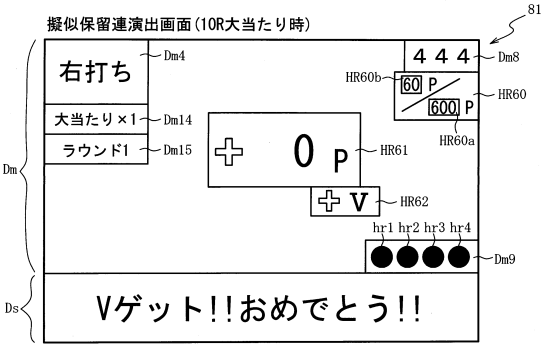


（ａ）

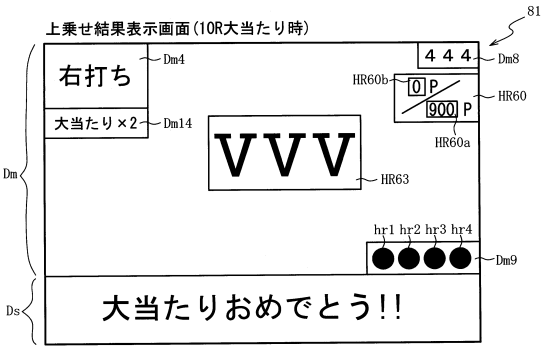


（ｂ）

【図９１６】

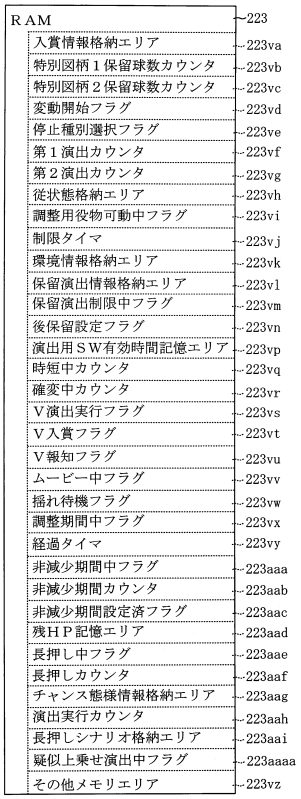


（ａ）

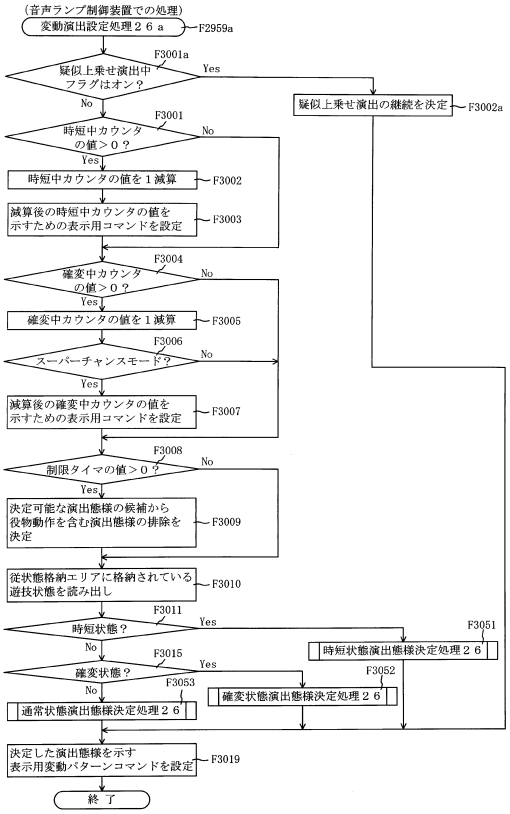


（ｂ）

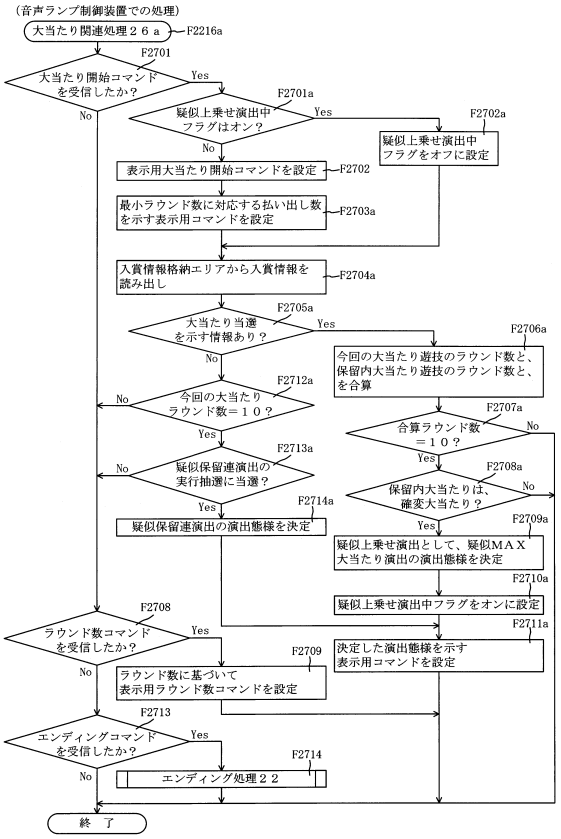
【図９１７】



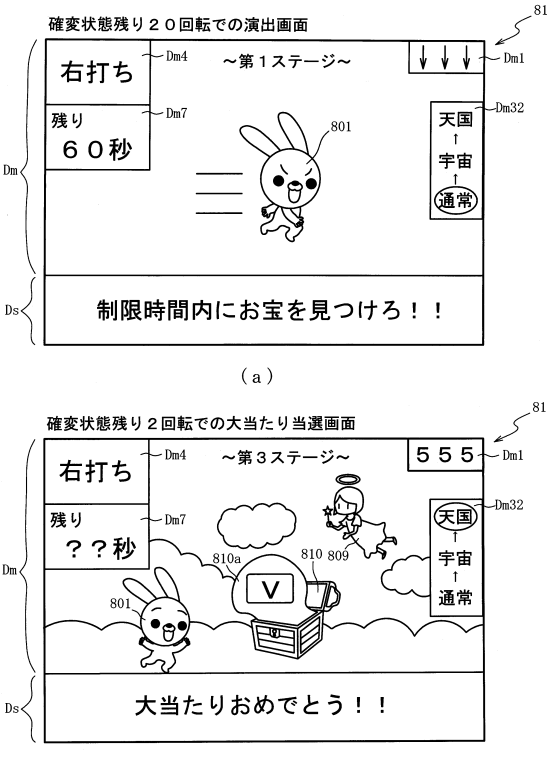
【図９１８】



【図９１９】



【図９２０】



【図９２１】

202

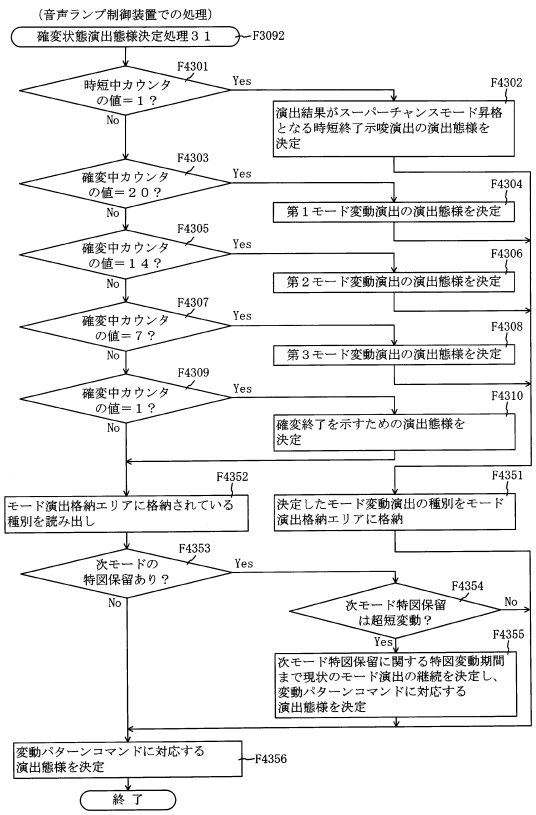
確変用変動パターン３１テーブル202aba

図柄種別	変動回数	抽選結果	変動パターン（変動時間）	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
共通	1～100	外れ	各種外れ（2秒～60秒）	0～198
		大当たり	各種大当たり（2秒～60秒）	0～198
	101	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(20秒)	0～198
	102	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(18秒)	0～198
	103	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(16秒)	0～198
	104	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(14秒)	0～198
	105	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(12秒)	0～198
	106	外れ	外れ(10秒)	0～198
		大当たり	当たり(10秒)	0～198
	107,108	外れ	超短外れ(0.2秒)	0～99
			外れ(2秒)	100～198
		大当たり	超短当たり(0.2秒)	0～169
			当たり(20秒)	170～198
	109～111	外れ	短外れ(2秒)	0～198
		大当たり	当たり(14秒～18秒)	0～198
	112	外れ	外れ(10秒)	0～198
		大当たり	当たり(10秒)	0～198
	113	外れ	外れ(10秒)	0～198
		大当たり	超短当たり(0.2秒)	0～198
	114～119	外れ	短外れ（2秒）	0～198
		大当たり	当たり（8秒～18秒）	0～198
	120	外れ	外れ（8秒）	0～198
		大当たり	当たり（8秒）	0～198

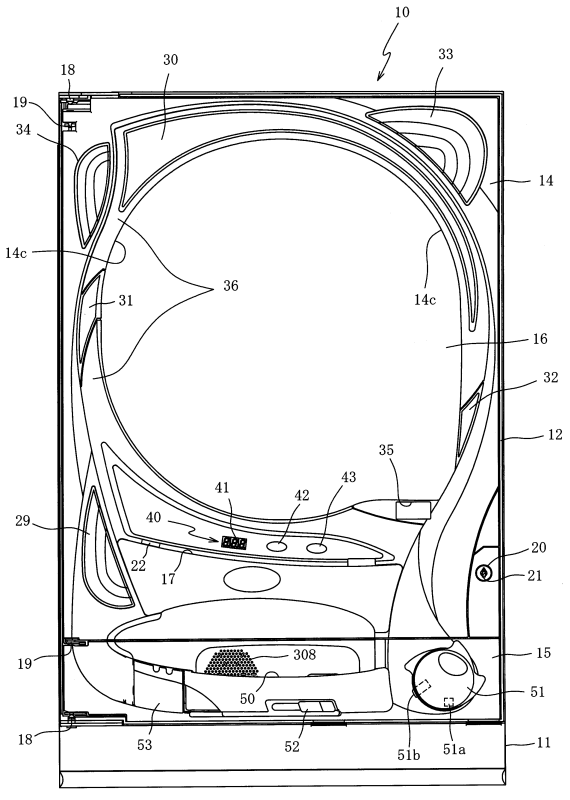
【図９２２】

ＲＡＭ	223
入賞情報格納エリア	223va
特別図柄１保留球数カウンタ	223vb
特別図柄２保留球数カウンタ	223vc
変動開始フラグ	223vd
停止種別選択フラグ	223ve
第１演出カウンタ	223vf
第２演出カウンタ	223vg
従状態格納エリア	223vh
調整用役物可動中フラグ	223vi
制限タイマ	223vj
環境情報格納エリア	223vk
保留演出情報格納エリア	223vl
保留演出制限中フラグ	223vm
後保留設定フラグ	223vn
演出用ＳＷ有効時間記憶エリア	223vp
時短中カウンタ	223vq
確変中カウンタ	223vr
Ｖ演出実行フラグ	223vs
Ｖ入賞フラグ	223vt
Ｖ報知フラグ	223vu
ムービー中フラグ	223vv
揺れ待機フラグ	223vw
調整期間中フラグ	223vx
経過タイマ	223vy
非減少期間中フラグ	223aaa
非減少期間カウンタ	223aab
非減少期間設定済フラグ	223aac
残ＨＰ記憶エリア	223aad
長押し中フラグ	223aae
長押しカウンタ	223aaf
チャンス態様情報格納エリア	223aag
演出実行カウンタ	223aah
長押しシナリオ格納エリア	223aai
演出モード格納エリア	223aba
その他メモリエリア	223vz

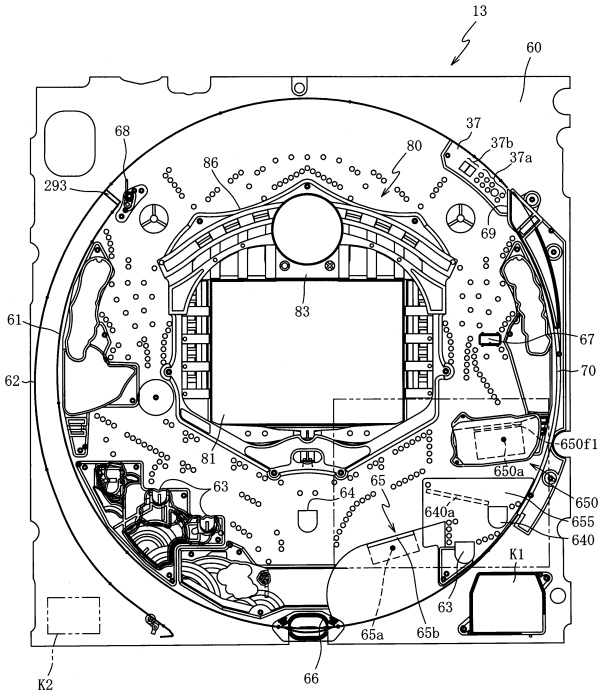
【図９２３】



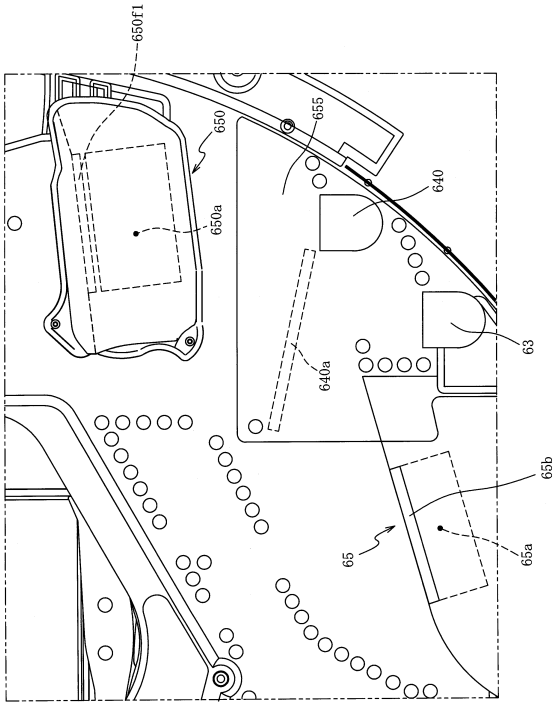
【図９２４】



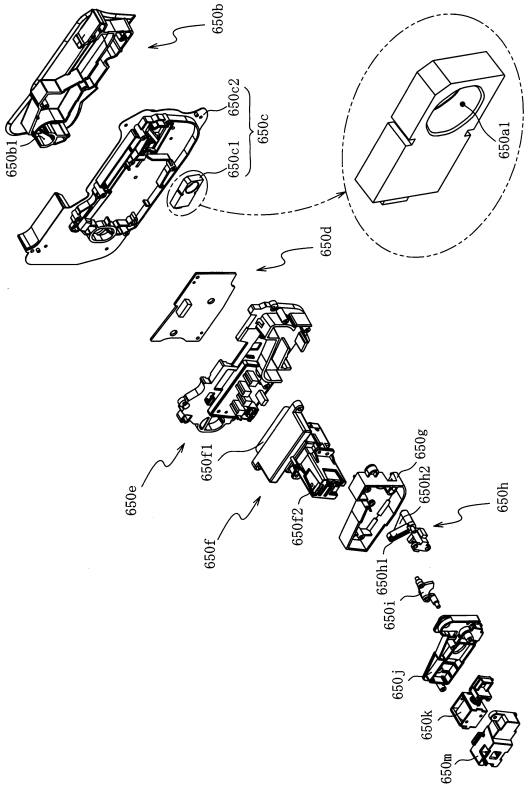
【図９２５】



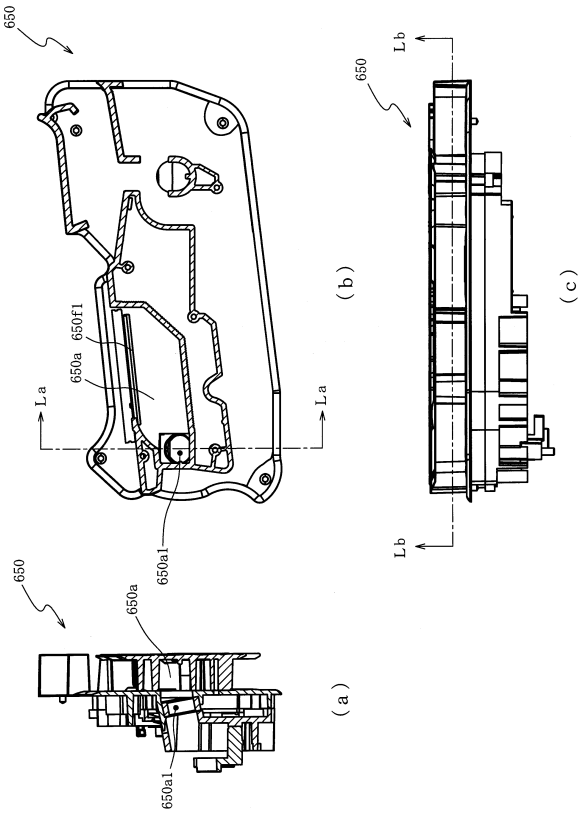
【図９２６】



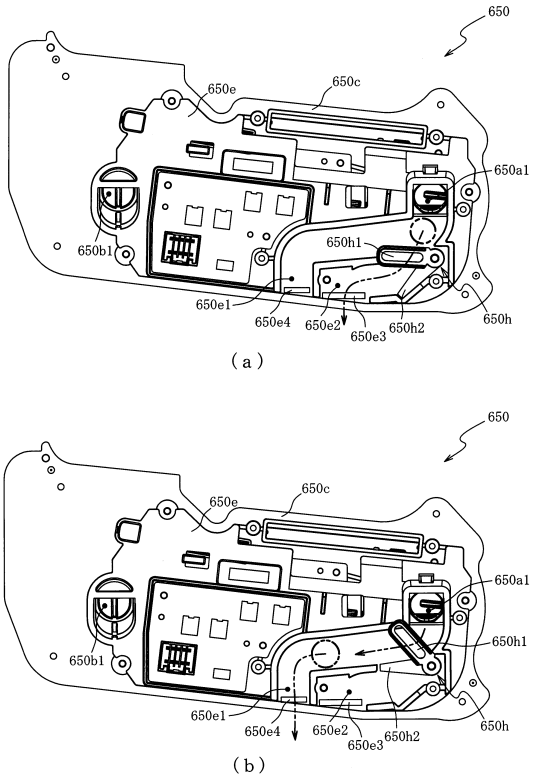
【図９２７】



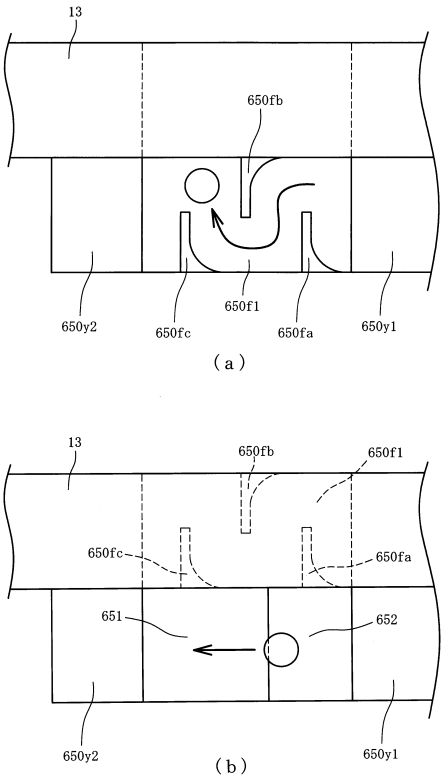
【図９２８】



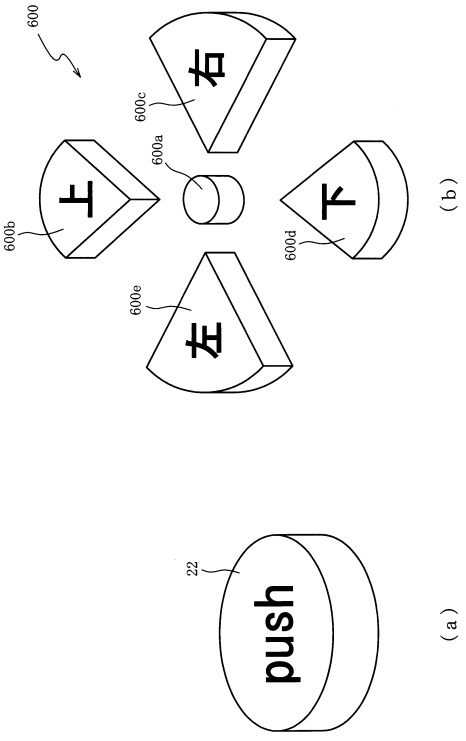
【図９２９】



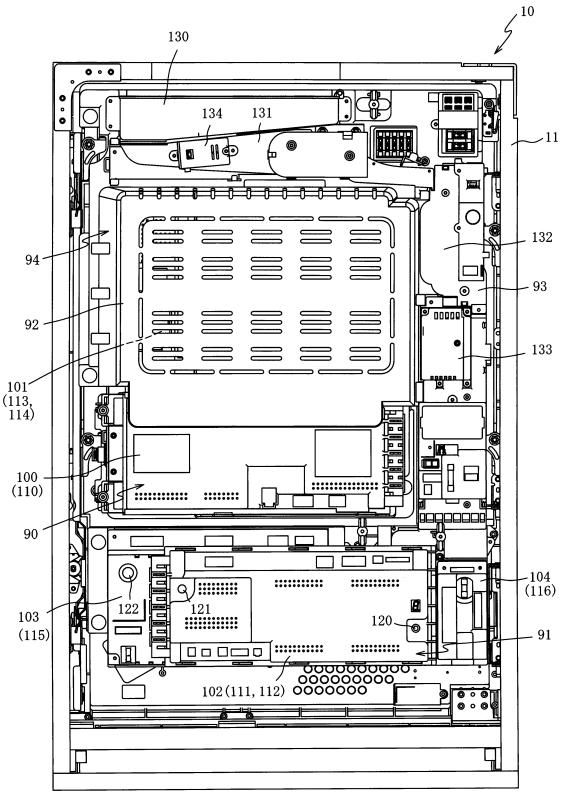
【図９３０】



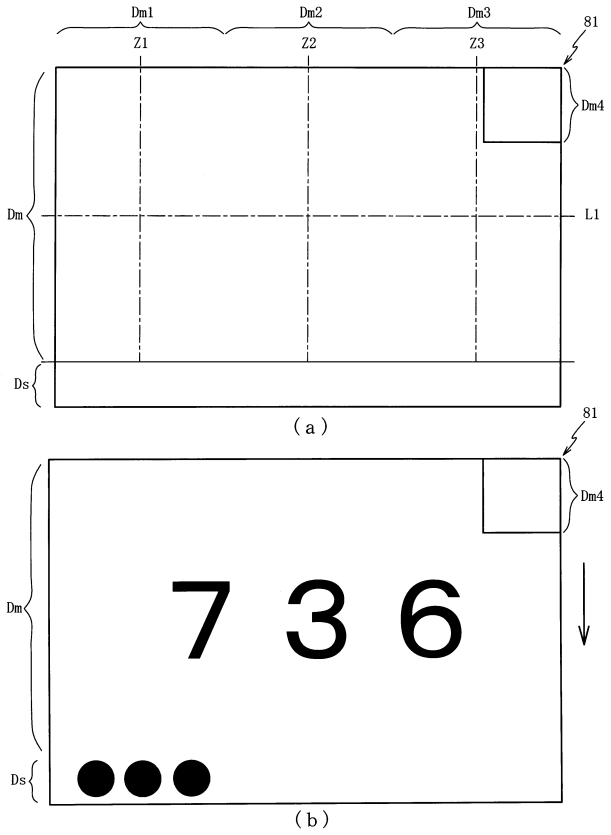
【図９３１】



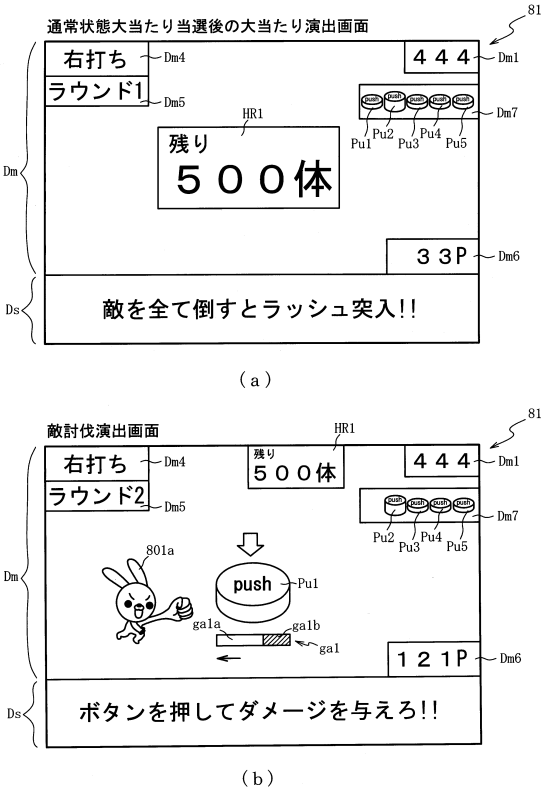
【図９３２】



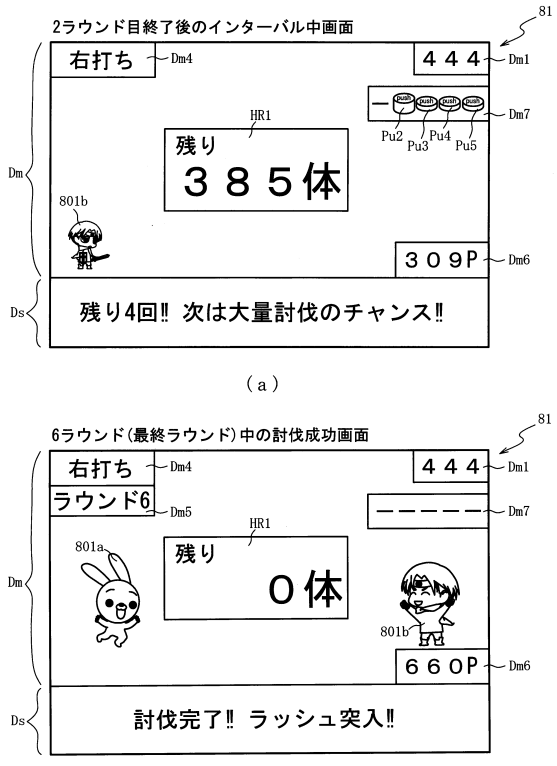
【図９３３】



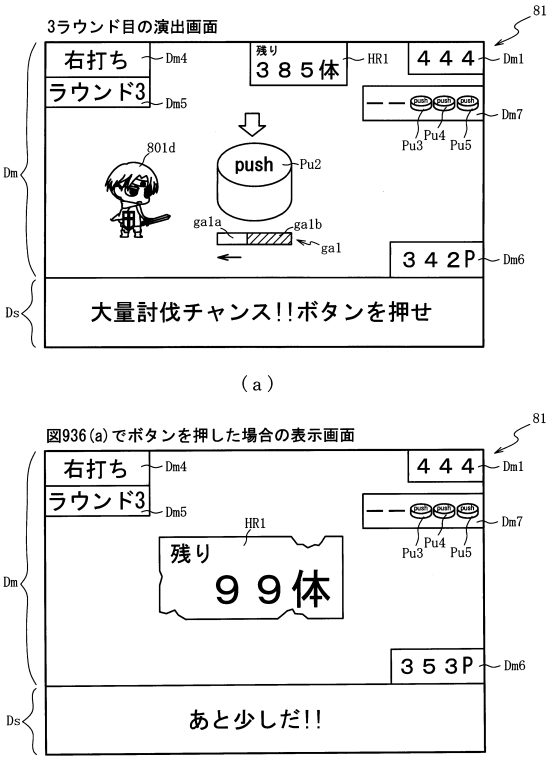
【図９３４】



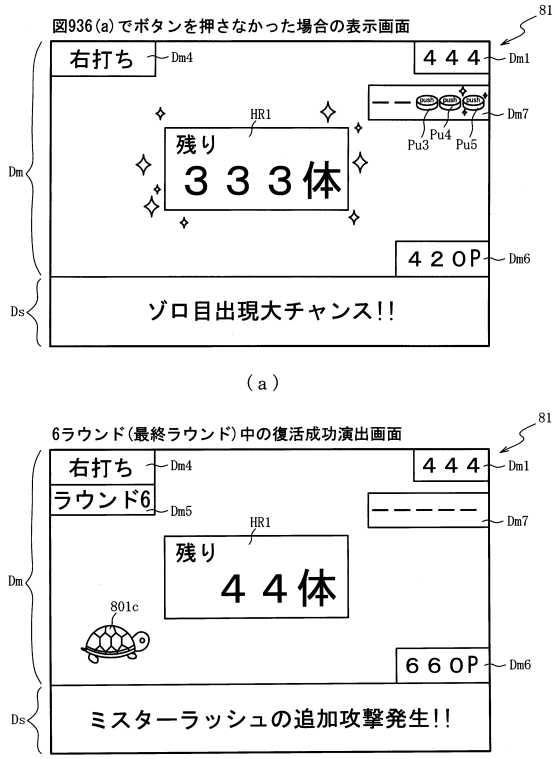
【図９３５】



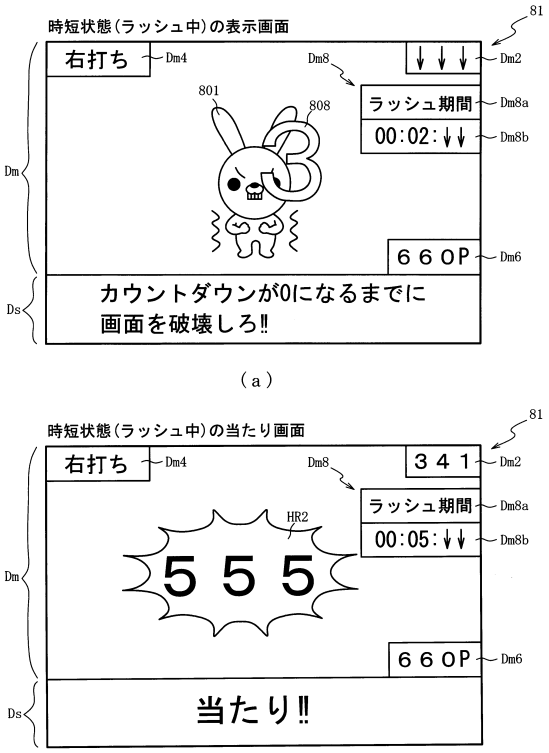
【図９３６】



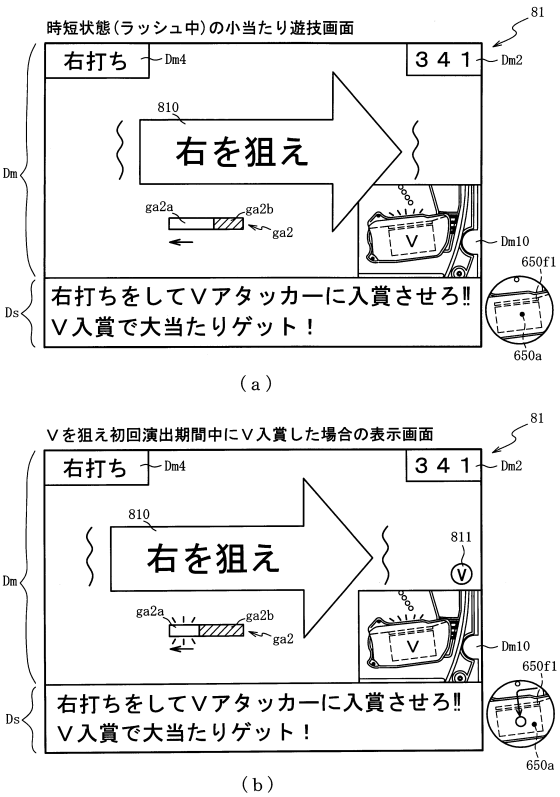
【図９３７】



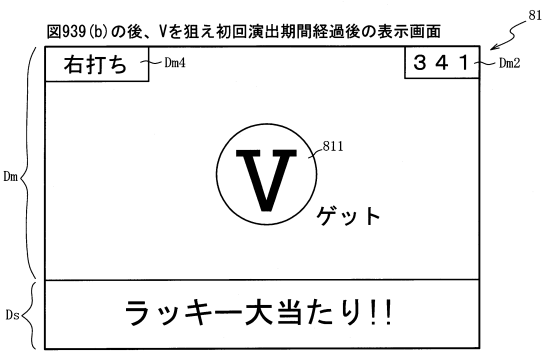
【図９３８】



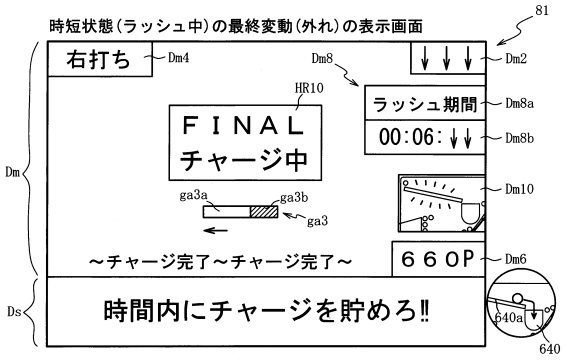
【図９３９】



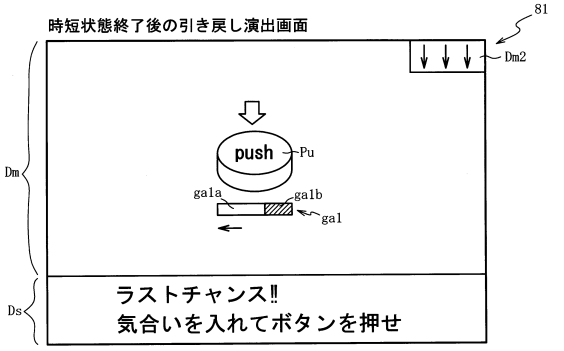
【図９４０】



【図９４１】

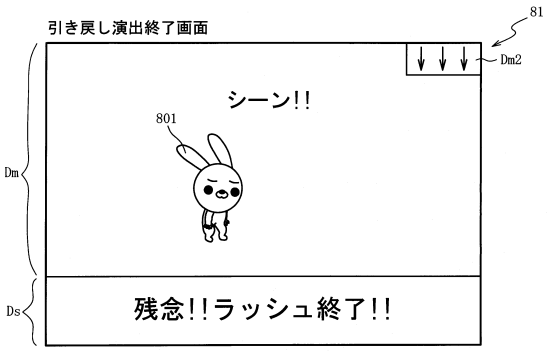


（ａ）

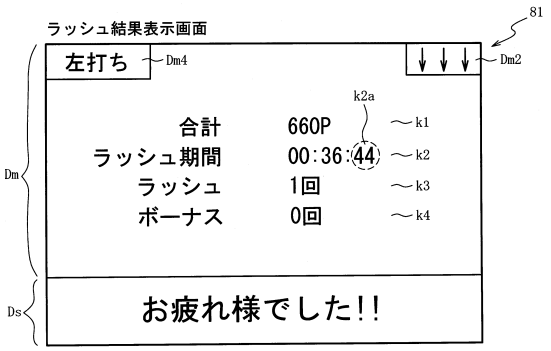


（ｂ）

【図９４２】

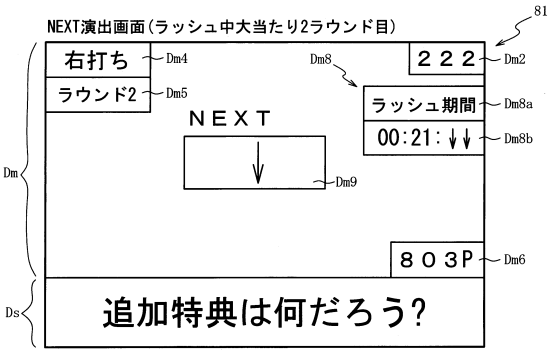


（ａ）

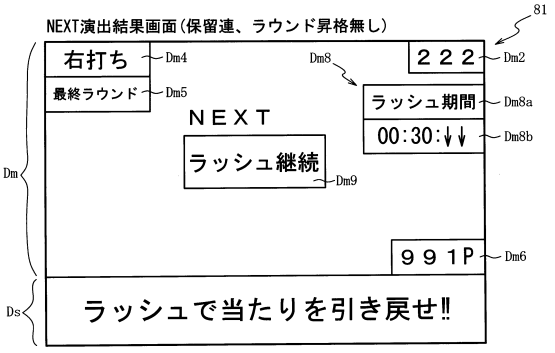


（ｂ）

【図９４３】

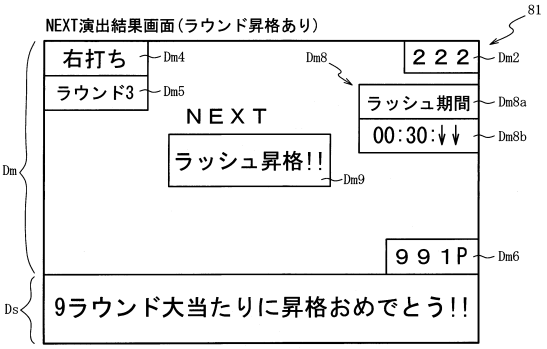


（ａ）

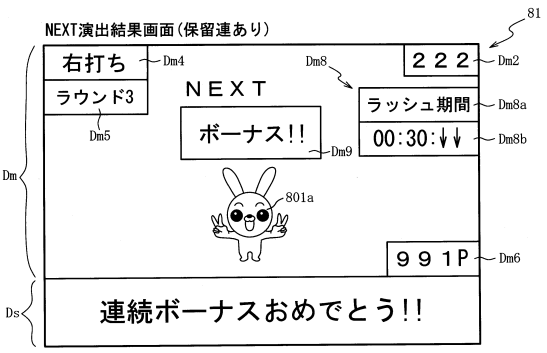


（ｂ）

【図９４４】

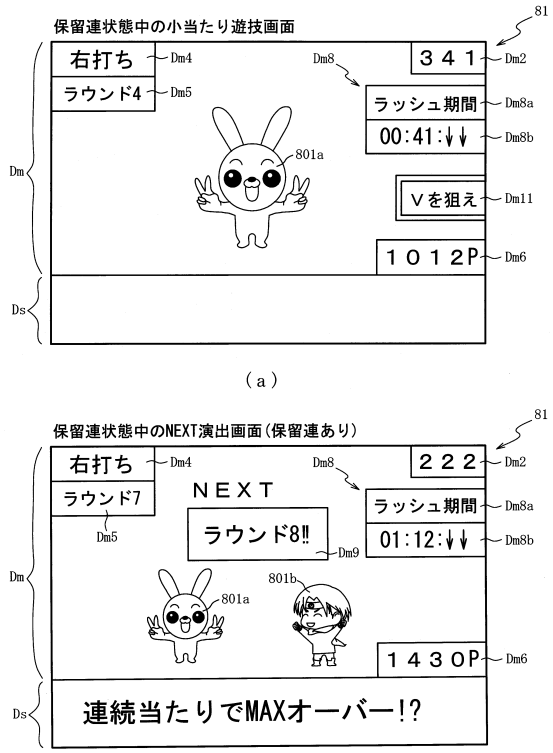


（ａ）

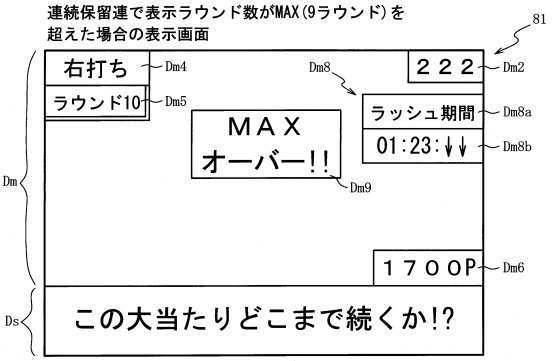


（ｂ）

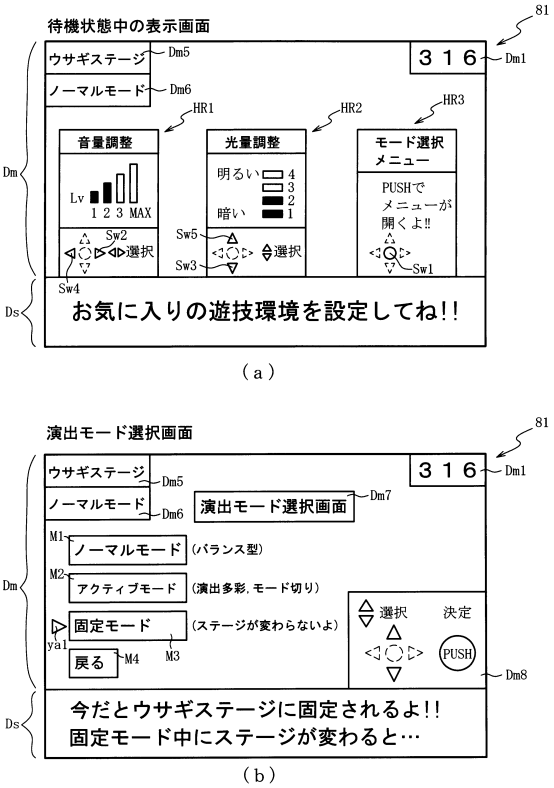
【図９４５】



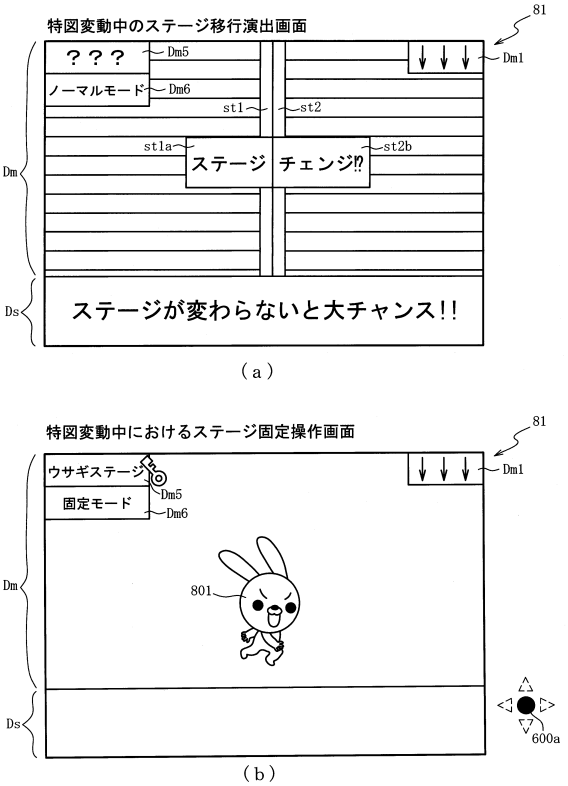
【図９４６】



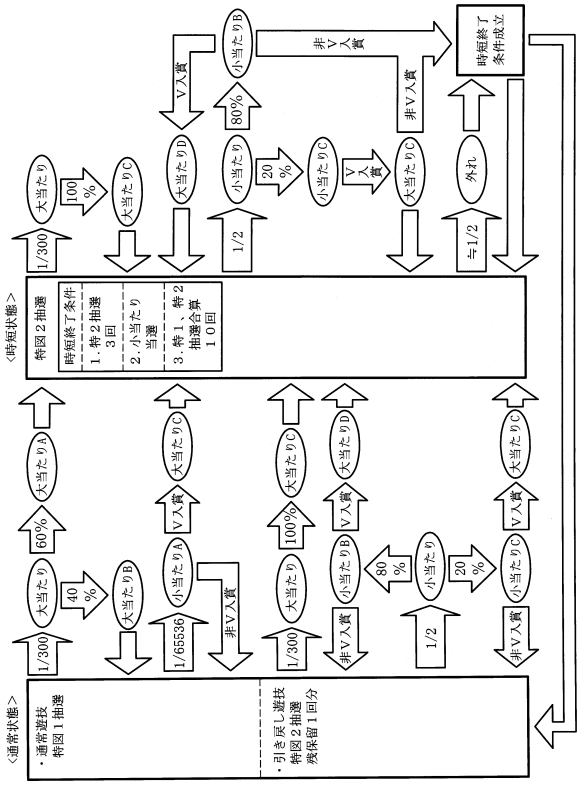
【図９４７】



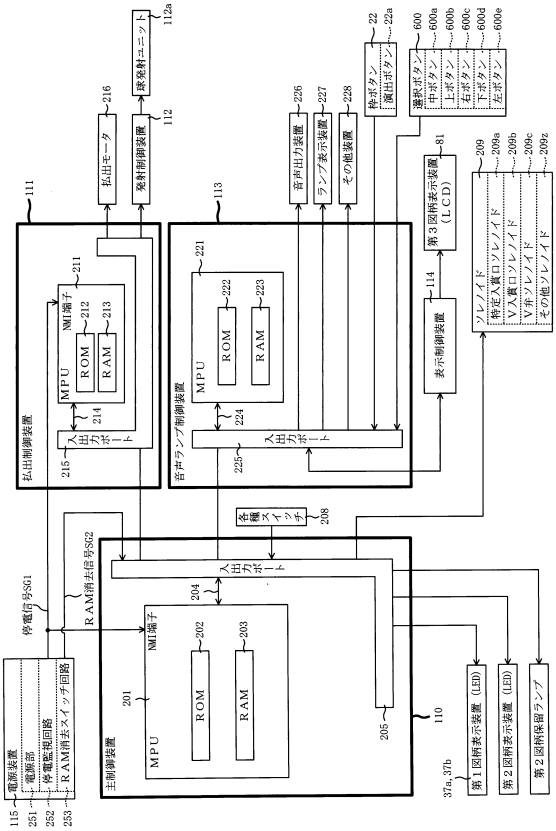
【図９４８】



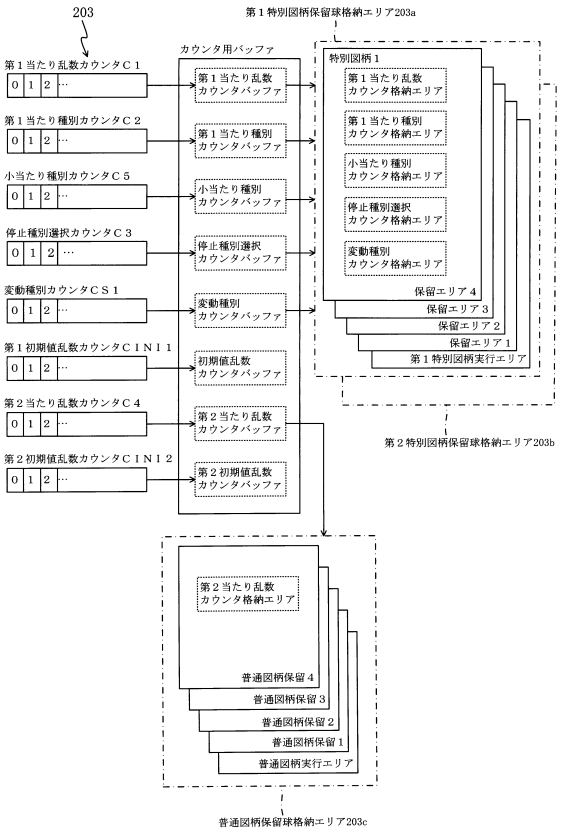
【図９４９】



【図９５０】



【図９５１】



【図９５２】

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202a
大当たり種別選択テーブル	202b
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202d
時短付与テーブル	202e
小当たり種別選択テーブル	202f
開放シナリオテーブル	202g
変動パターンシナリオテーブル	202h

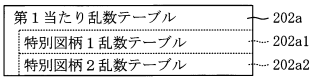
（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
特図２カウンタ	203t
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図９５３】

（ａ）



（ｂ）

202

特別図柄１乱数テーブル202a1

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～207
小当たり判定値	65535

（ｃ）

202

特別図柄２乱数テーブル202a2

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～207
小当たり判定値	32768～65535

【図９５４】

202

大当たり種別選択テーブル202b

特別図柄 種別	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ （6Ｒ時短3回大当たり）	0～59
	大当たりＢ （6Ｒ時短無し大当たり）	60～99
特図２	大当たりＣ （9Ｒ時短3回大当たり）	0～99

（ａ）

202

時短付与テーブル202e

大当たり種別	時短付与内容（回数）		
	時短 カウンタ 203h	小当たり カウンタ 203s	特図２ カウンタ 203t
大当たりＡ （6Ｒ）	10	1	3
大当たりＢ （6Ｒ）	－	－	－
大当たりＣ （9Ｒ）	10	1	3
大当たりＤ （3Ｒ）	10	1	3

（ｂ）

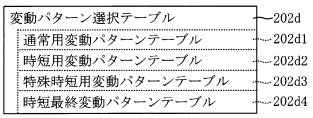
【図９５５】

202

小当たり種別選択テーブル202f

特別図柄 種別	小当たり種別	小当たり種別 カウンタ値 Ｃ５（0～99）
特図１	小当たりＡ （Ｖ通過時大当たりＣ）	0～99
特図２	小当たりＢ （Ｖ通過時大当たりＤ）	0～79
	小当たりＣ （Ｖ通過時大当たりＣ）	80～99

【図９５６】



（ａ）

202

通常用変動パターンテーブル202d1

特別図柄 種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ （0～198）
特図１	外れ	外れ（7秒）	0～139
		ガセ外れ（20秒）	140～149
		ノーマルリーチ 各種（40秒）	150～179
		スーパーリーチ （80秒）	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ 各種（40秒）	0～29
		スーパーリーチ （80秒）	30～189
		スペシャルリーチ （140秒）	190～198
	小当たり	長小当たり （90秒）	0～198
特図２	外れ	外れ （20秒）	0～198
	大当たり 小当たり	当たり （20秒）	0～198

（ｂ）

【図９５７】

202

時短用変動パターンテーブル202d2

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ（0.5秒）	0～198
	大当たり	短大当たり（2秒）	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	0～198
特図２	外れ	短外れ（1秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	0～198
	大当たり	超短大当たり（1秒）	0～198

（ａ）

202

特殊時短用変動パターンテーブル202d3

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(20秒)	0～198
	大当たり	当たり(20秒)	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	0～198

（ｂ）

202

時短最終変動パターンテーブル202d4

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図２	外れ	外れ（30秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	0～99
		小当たり(20秒)	100～198
	大当たり	大当たり（20秒）	0～198

（ｃ）

【図９５８】

202

変動パターンシナリオテーブル202h

大当たり遊技終了後の変動回数	合算変動	大当たり終了後の遊技状態
１１回～	特図１変動	時短用	通常用
１１回～	特図２変動	時短用	通常用
４回～	特図１	通常用	通常用
１～１０回	特図２	通常用	通常用
５～１０回	特図１	特殊時短用	通常用
３回	特図２	時短最終変動用	通常用
１～４回	特図１	時短用	通常用
１，２回	特図２	時短用	通常用

【図９５９】

ＲＯＭ 222
- 変動パターン選択テーブル 222a
- 討伐数選択テーブル 222b
- 討伐演出態様選択テーブル 222c
- 追加減少値選択テーブル 222d
- 演出ステージデータテーブル 222e
- 遊技環境データテーブル 222f

（ａ）

ＲＡＭ 223
- 入賞情報格納エリア 223a
- 特別図柄１保留球数カウンタ 223b
- 特別図柄２保留球数カウンタ 223c
- 変動開始フラグ 223d
- 停止種別選択フラグ 223e
- 演出カウンタ 223f
- 従遊技状態格納エリア 223g
- 時短情報更新エリア 223h
- 討伐回数カウンタ 223i
- 残討伐数カウンタ 223j
- 特定数表示済フラグ 223k
- ラッシュ期間計測カウンタ 223m
- 賞球数カウンタ 223n
- 保留連フラグ 223o
- ラウンド数カウンタ 223p
- ＳＷ有効時間カウンタ 223q
- 右打ちフラグ 223r
- Ｖ入賞済フラグ 223s
- 演出固定フラグ 223t
- 遊技環境格納エリア 223u
- その他メモリエリア 223z

（ｂ）

【図９６０】

222

討伐数選択テーブル222b

大当たり種別	第１演出カウンタ223f1(0～99)	討伐数
時短大当たり・大当たりＡ・大当たりＣ	0～44	1000
	45～89	777
	90～99	500
通常大当たり・大当たりＢ	0～79	1000
	80～99	500

（ａ）

222

討伐演出態様選択テーブル222c

大当たり種別	討伐数	第２演出カウンタ223f2(0～99)	討伐演出シナリオ						
			シナリオ種別	攻撃１回目	攻撃２回目	攻撃３回目	攻撃４回目	攻撃５回目	最終
時短大当たり・大当たりＡ・大当たりＣ	1000	0～49	1	700	500	300	100	0	0
		50～79	2	500	400	300	100	0	
		80～99	3	500	400	300	100	1	
	777	0～99	4	555	333	111	0	0	
	500	0～49	5	385	220	100	50	0	
		50～79	6	100	50	20	10	0	
		80～99	7	100	50	20	10	1	
通常大当たり・大当たりＢ	1000	0～59	8	700	500	300	100	1	1
		60～89	9	500	400	300	100	1	
		90～99	10	500	400	350	200	1	
	500	0～59	11	385	220	100	50	1	
		60～79	12	385	200	80	50	1	
		80～99	13	100	50	20	10	1	

（ｂ）

【図９６１】

222

追加減少値選択テーブル222d

シナリオ種別	差分数	特定数の有無	第１演出カウンタ223f1（0～99）	追加減少値
１，８	４０１以上	有り	0～99	特定数まで減少
		無し	0～99	決定値まで減少
	４００～１０１	有り	0～49	特定数まで減少
			50～99	現状-50
		無し	0～49	現状-50
			50～99	決定値まで減少
	１００以下	有り	0～29	特定数まで減少
			30～99	決定値まで減少
		無し	0～29	決定値＋10
			30～99	決定値まで減少
２，３，９，１０	５１以上	有り	0～49	特定数まで減少
			50～99	現状-20
		無し	0～49	現状-20
			50～99	決定値まで減少
	５０以下	有り	0～29	特定数まで減少
			30～99	決定値まで減少
		無し	0～29	決定値＋10
			30～99	決定値まで減少
５，１１，１２	２１以上	有り	0～49	特定数まで減少
			50～99	現状-5
		無し	0～49	現状-5
			50～99	決定値まで減少
	２０以下	有り	0～99	決定値まで減少
		無し	0～99	決定値まで減少
６，７，１３	－	有り	0～99	特定数まで減少
		無し	0～19	減少無し
			20～99	決定値まで減少
４	－	－	0～99	決定値まで減少

【図９６２】

演出ステージデータテーブル222e

222

モード種別	ステージ種別	移行条件
通常	ウサギ	特図変動５０回 or 大当たり変動開始の一部（低確率）
	勇者	特図変動５０回 or 大当たり変動開始の一部（低確率）
アクティブ	ウサギ	特図変動２０回 or 大当たり変動開始の一部（高確率） or 特図移行条件が成立した特図変動開始から５秒後
	勇者	特図変動２０回 or 大当たり変動開始の一部（高確率）
固定	ウサギ	保留連確定時における大当たり遊技終了後の一部
	勇者	移行無し

（ａ）

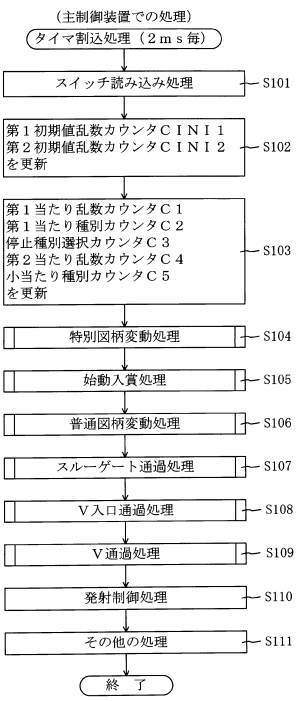
遊技環境データテーブル222f

222

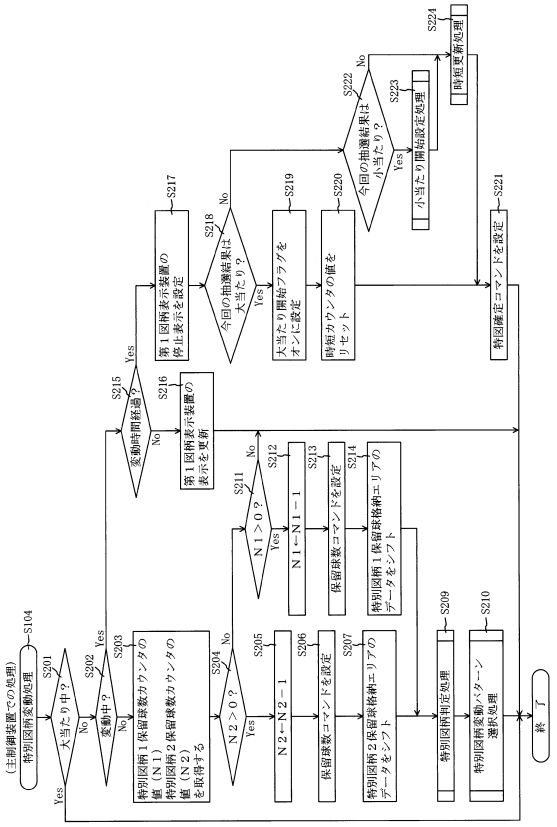
環境種別	内容	データ内容
モード	通常	ステージ変更あり（頻度低） 演出固定フラグ223tオフ
	アクティブ	ステージ変更あり（頻度高） 演出固定フラグ223tオン
	固定	ステージ変更無し 演出固定フラグ223tオン
音量	1	音量最低値
	2	⋮
	3	⋮
	4（MAX）	音量最大値
光量	1	光量最低値
	2	⋮
	3	⋮
	4（MAX）	光量最大値

（ｂ）

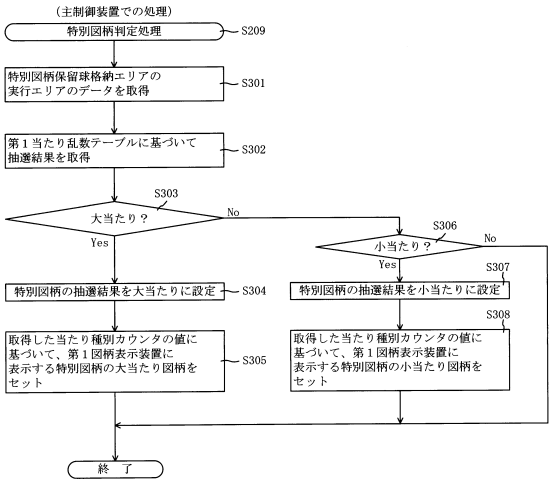
【図９６３】



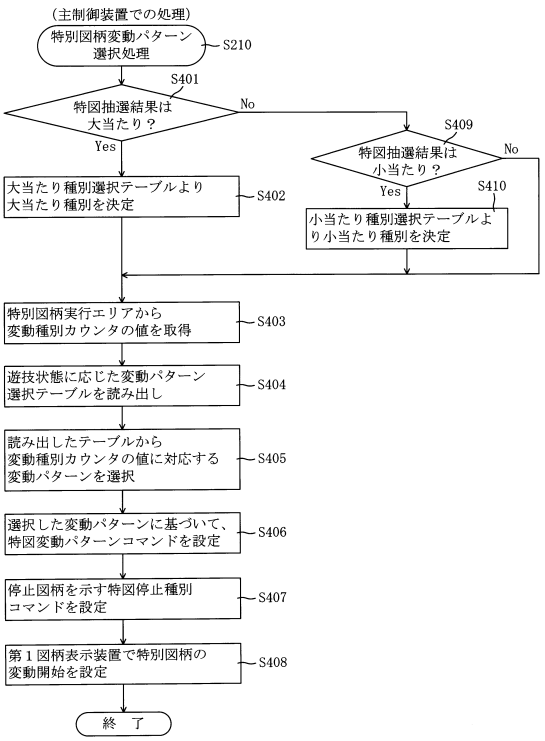
【図９６４】



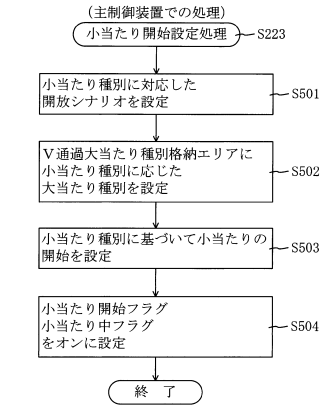
【図９６５】



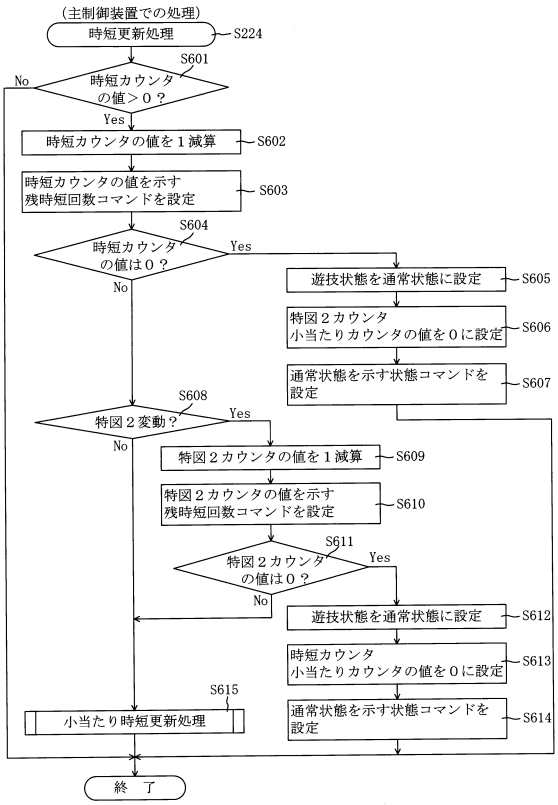
【図９６６】



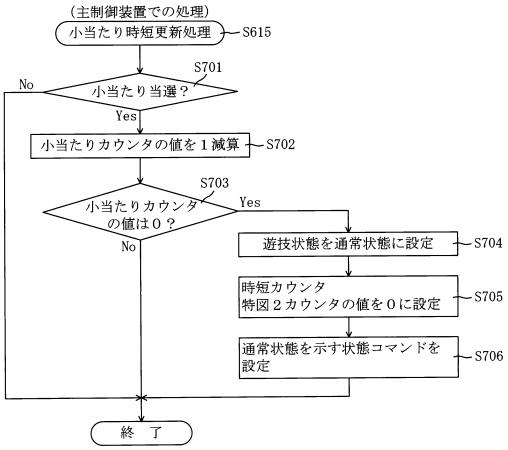
【図９６７】



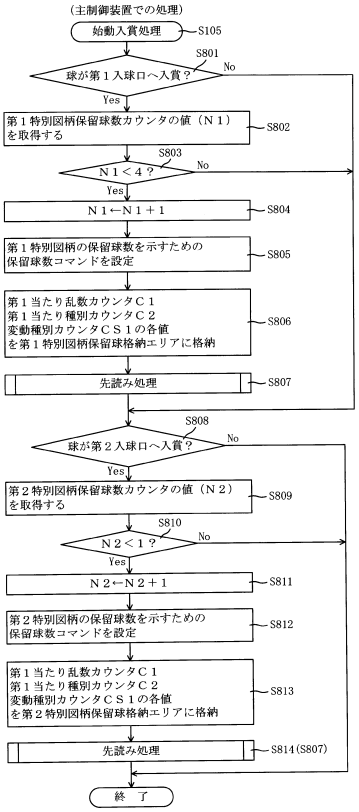
【図９６８】



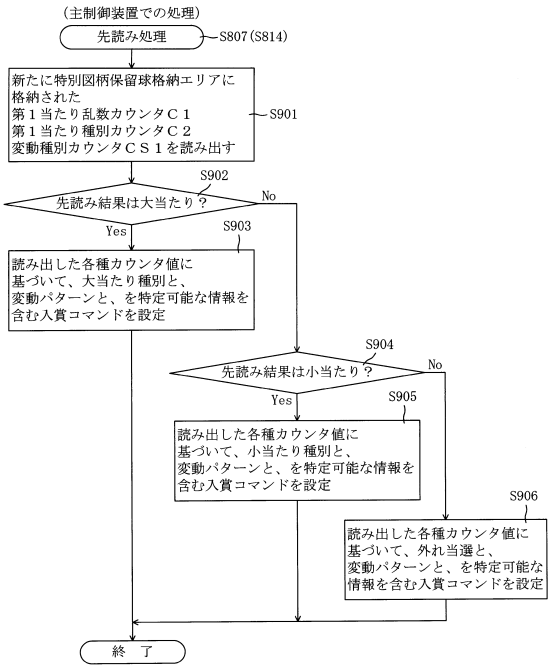
【図９６９】



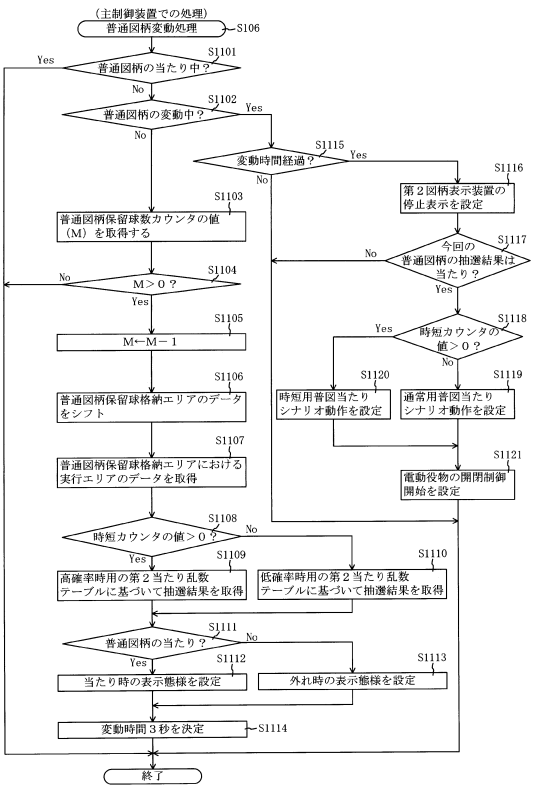
【図９７０】



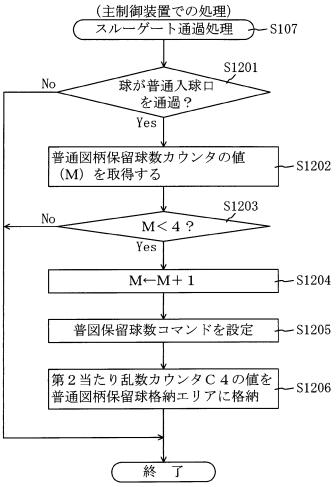
【図９７１】



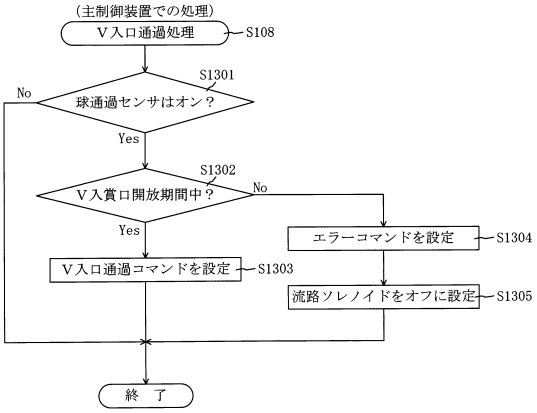
【図９７２】



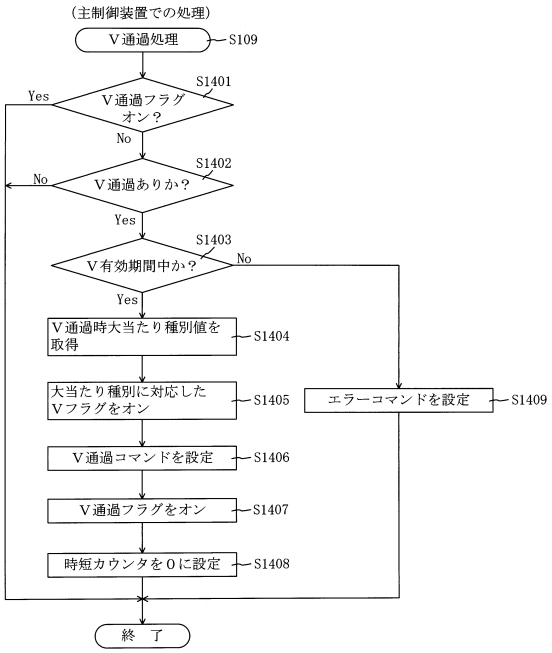
【図９７３】



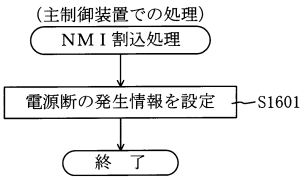
【図９７４】



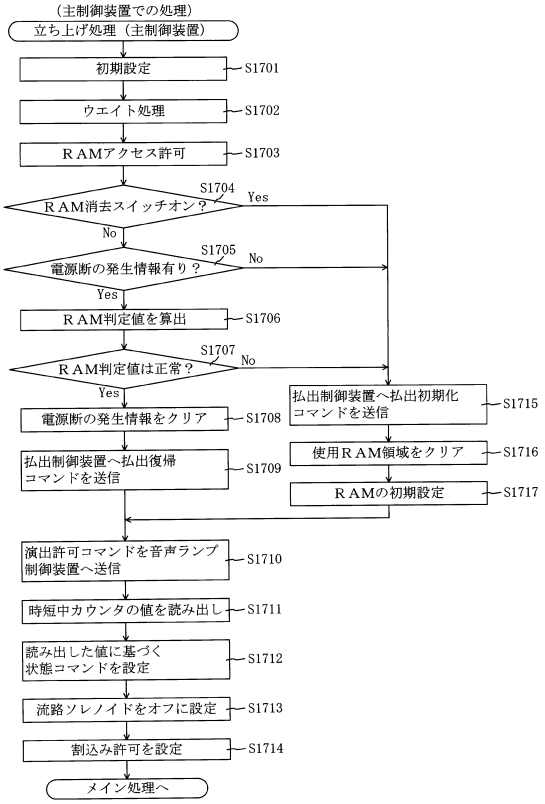
【図９７５】



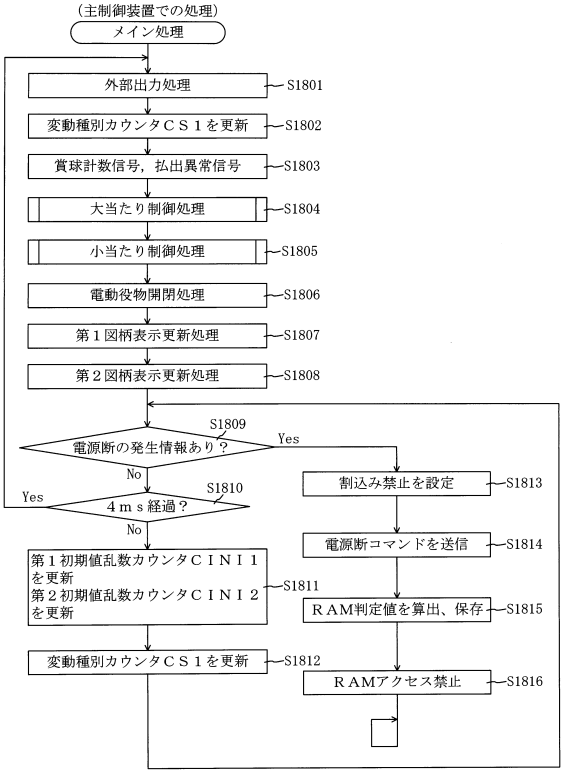
【図９７６】



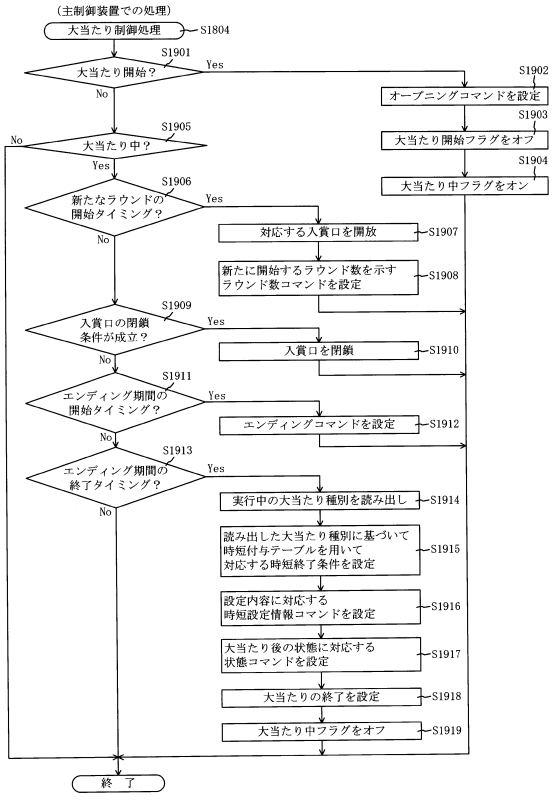
【図９７７】



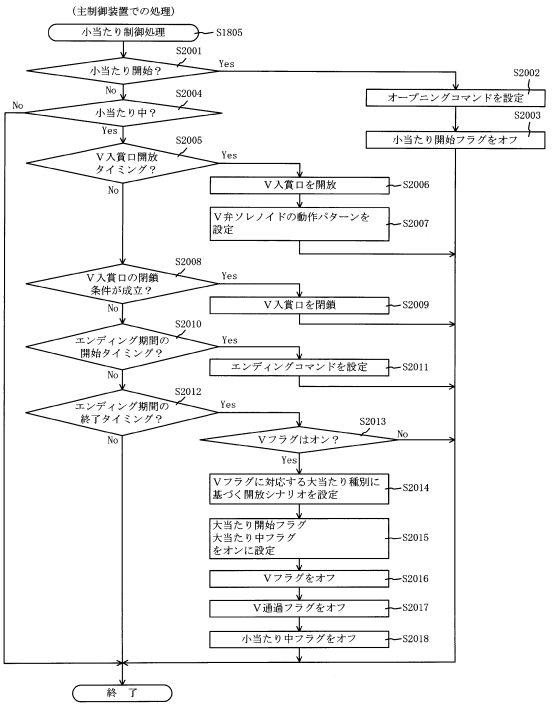
【図９７８】



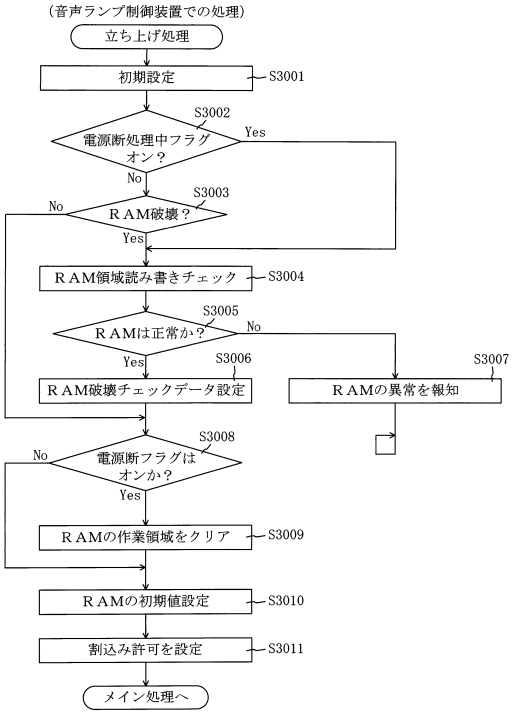
【図９７９】



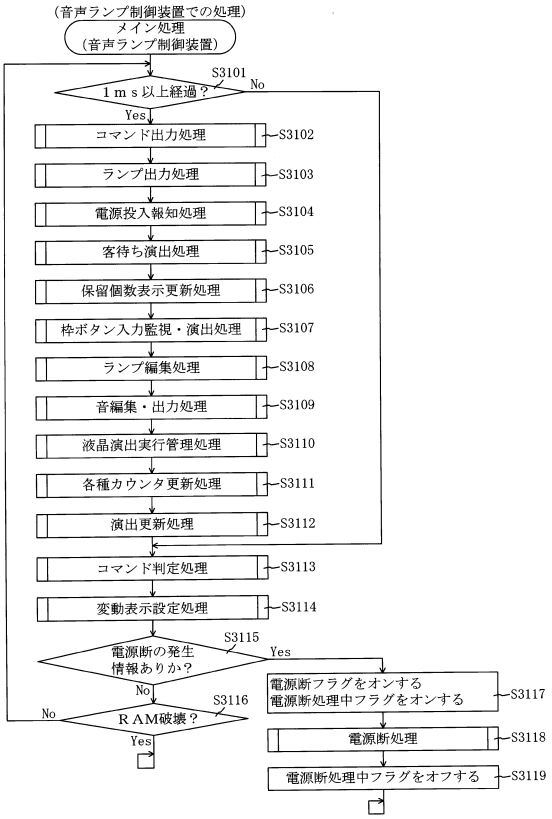
【図９８０】



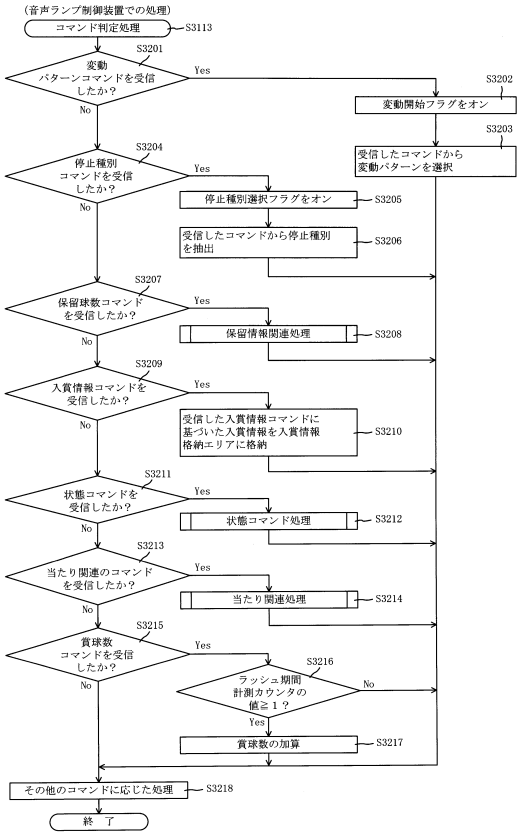
【図９８１】



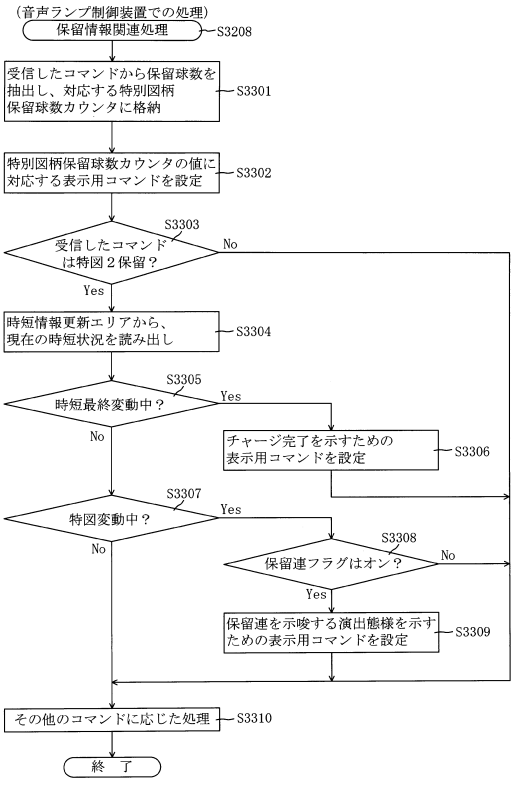
【図９８２】



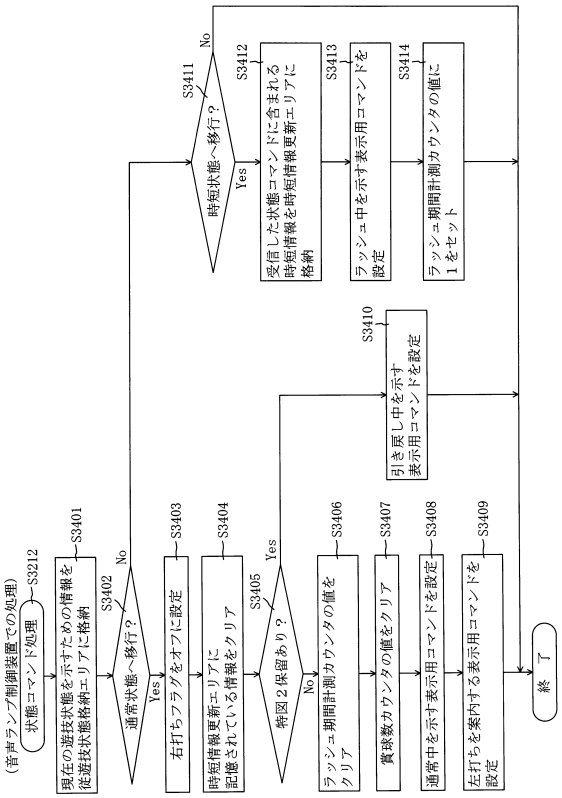
【図９８３】



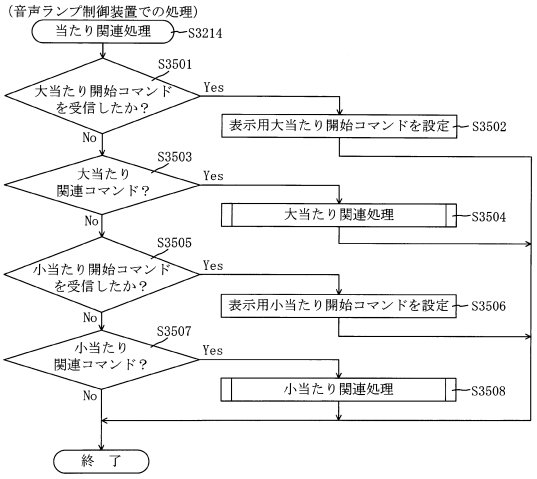
【図９８４】



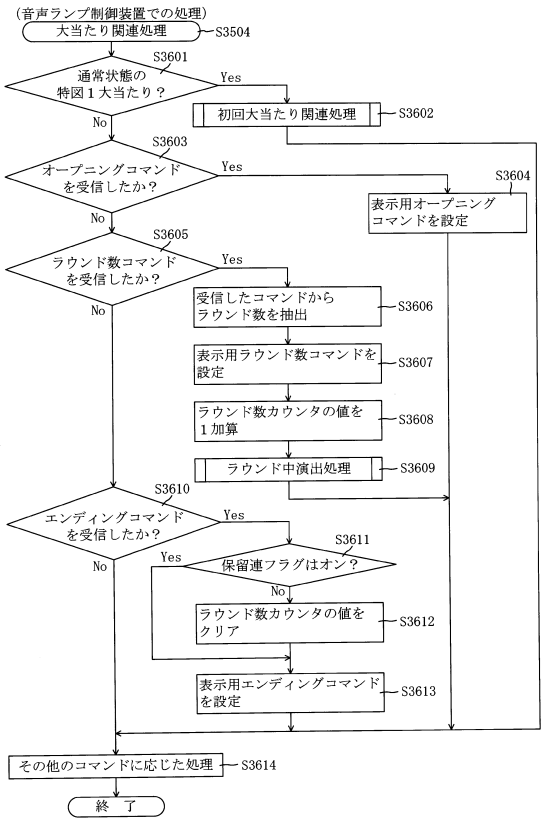
【図９８５】



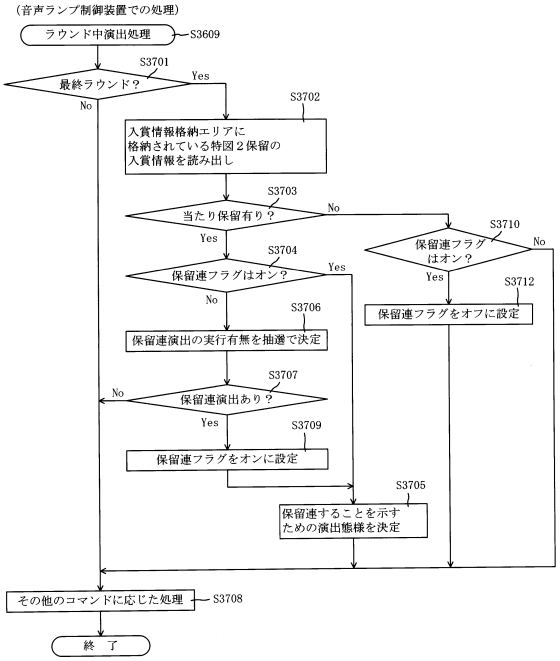
【図９８６】



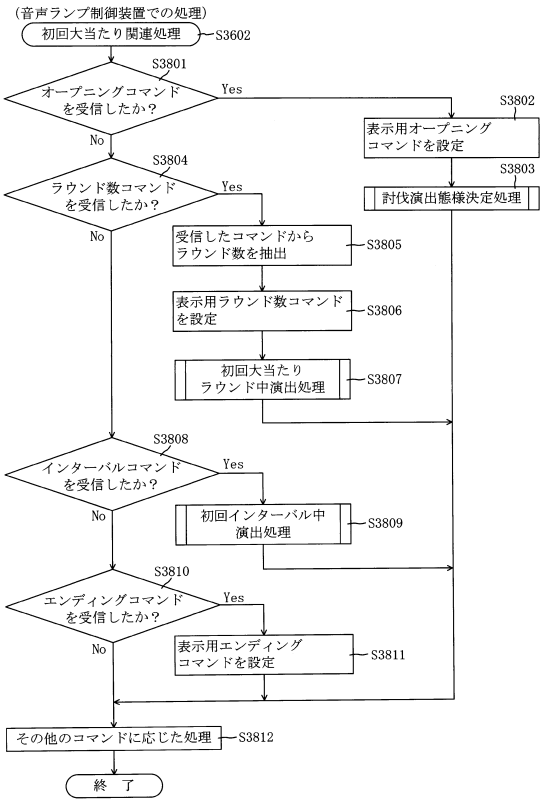
【図９８７】



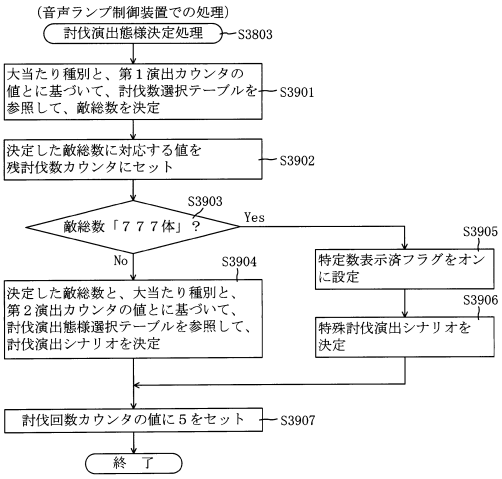
【図９８８】



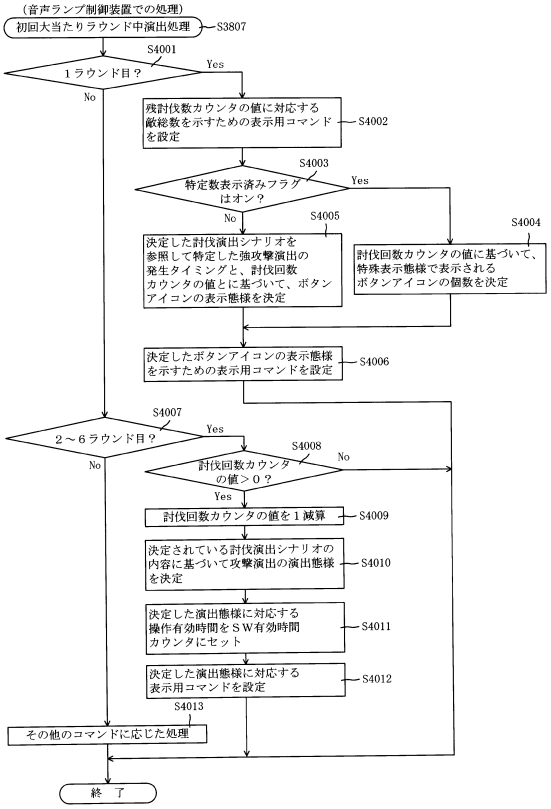
【図９８９】



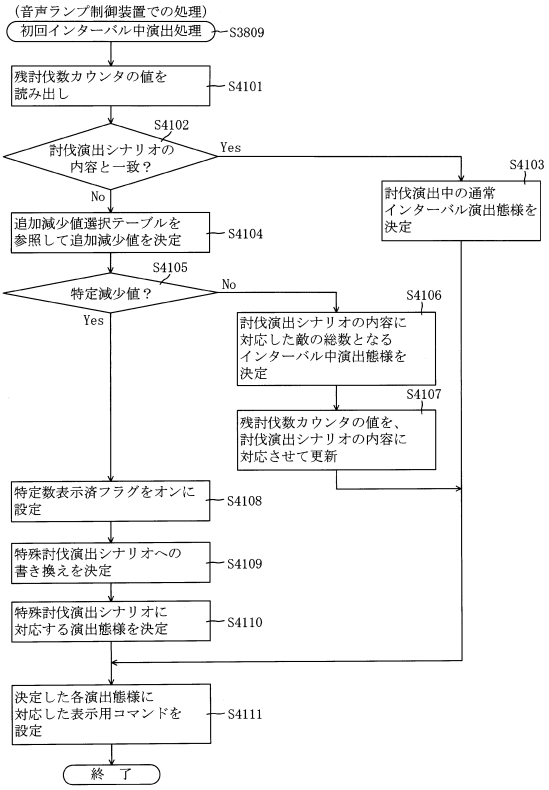
【図９９０】



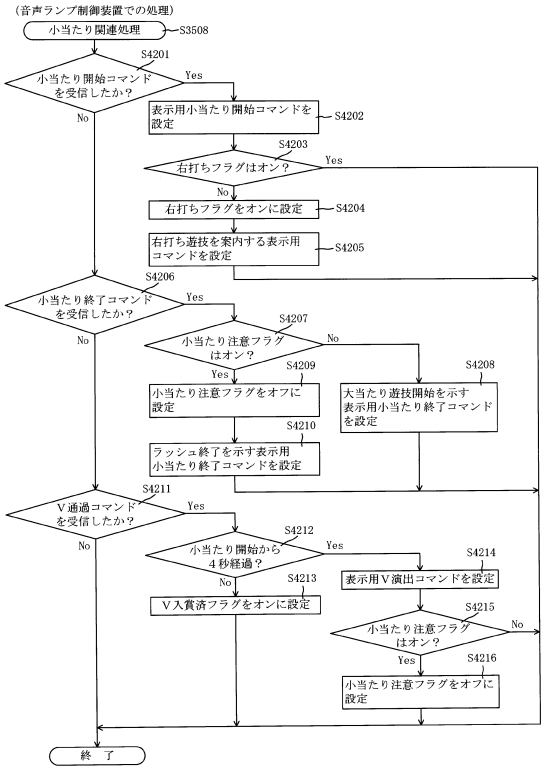
【図９９１】



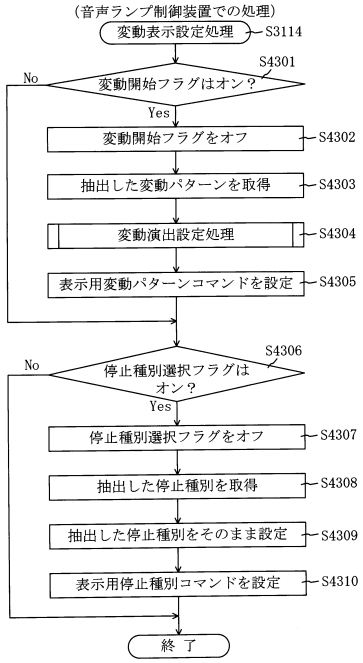
【図９９２】



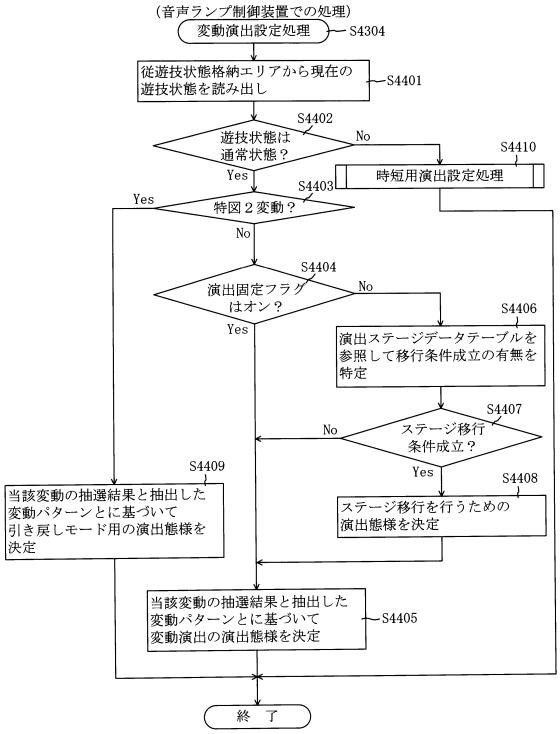
【図９９３】



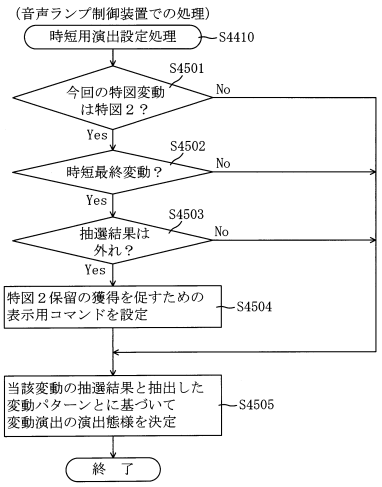
【図９９４】



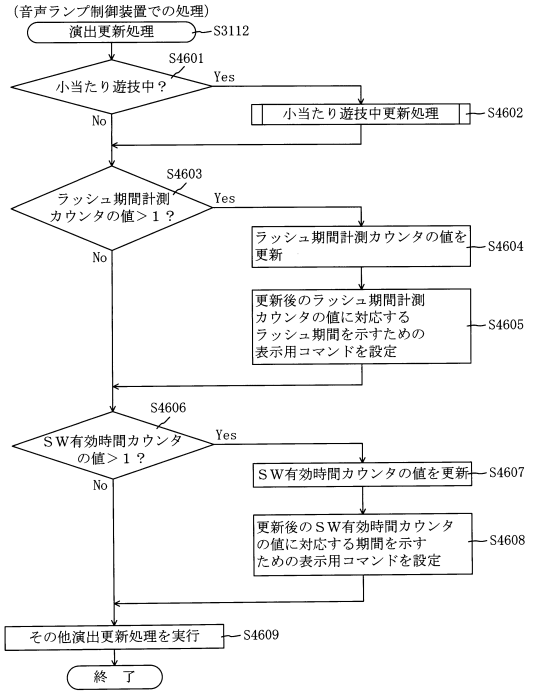
【図９９５】



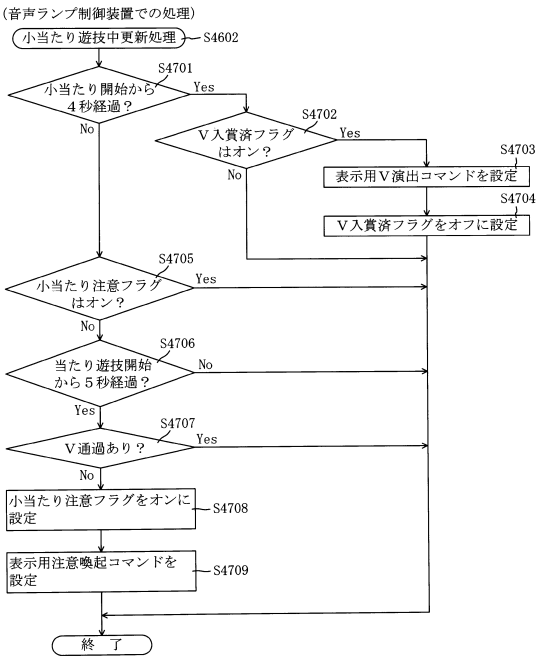
【図９９６】



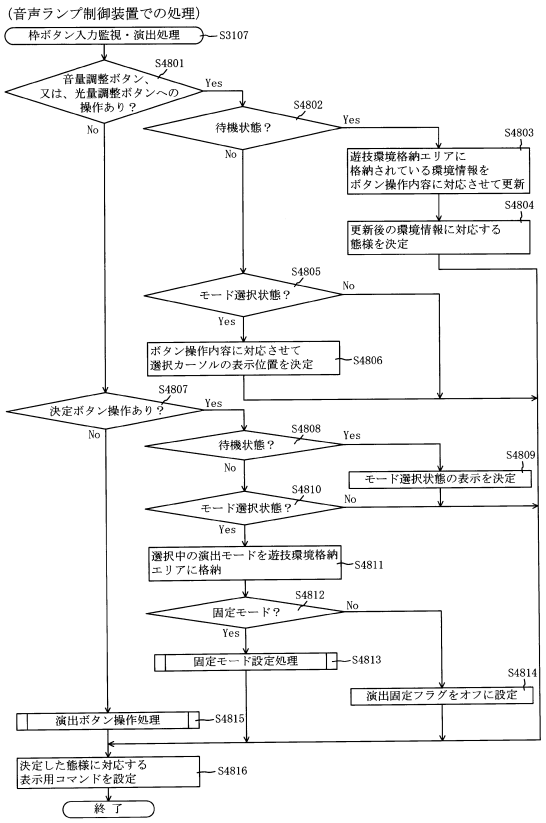
【図９９７】



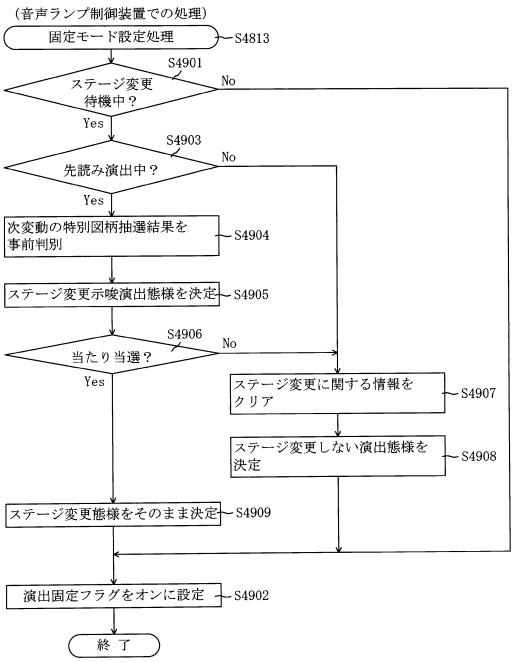
【図９９８】



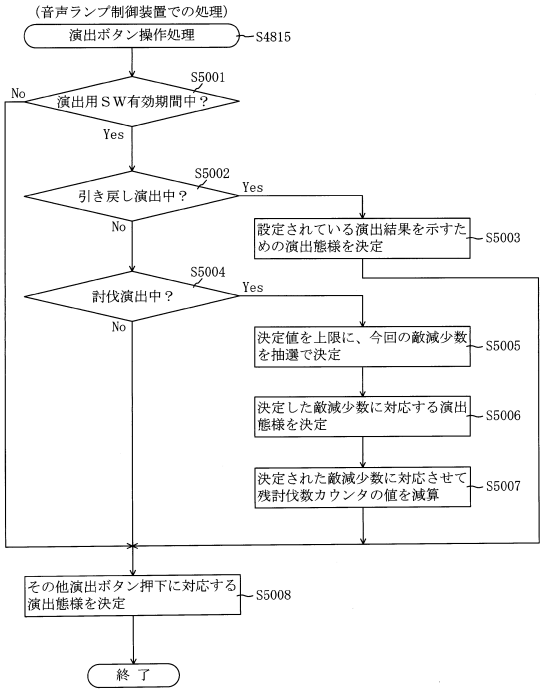
【図９９９】



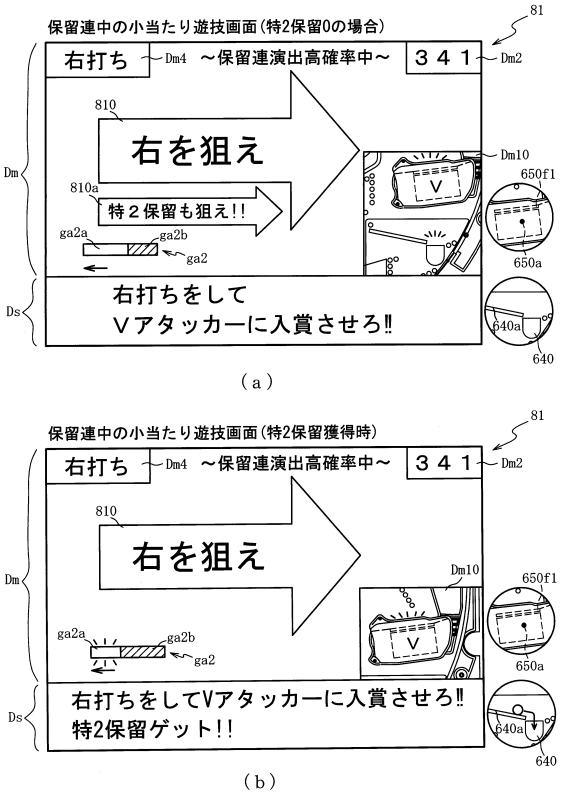
【図１０００】



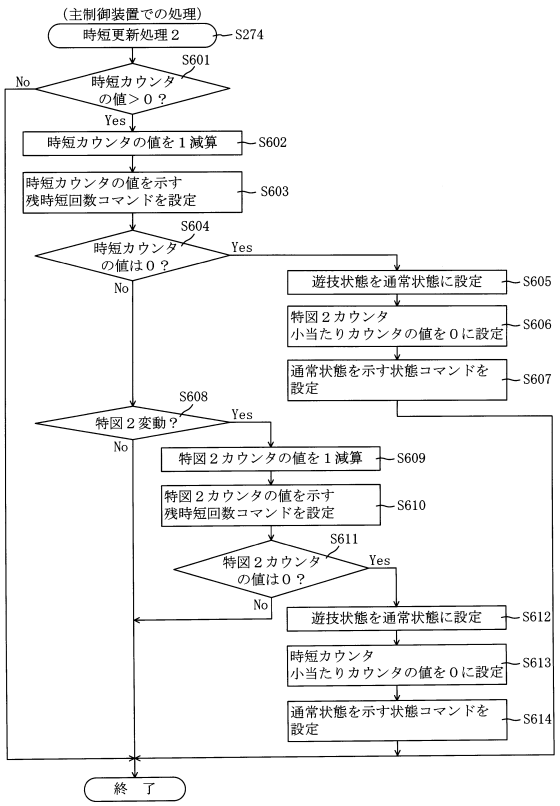
【図１００１】



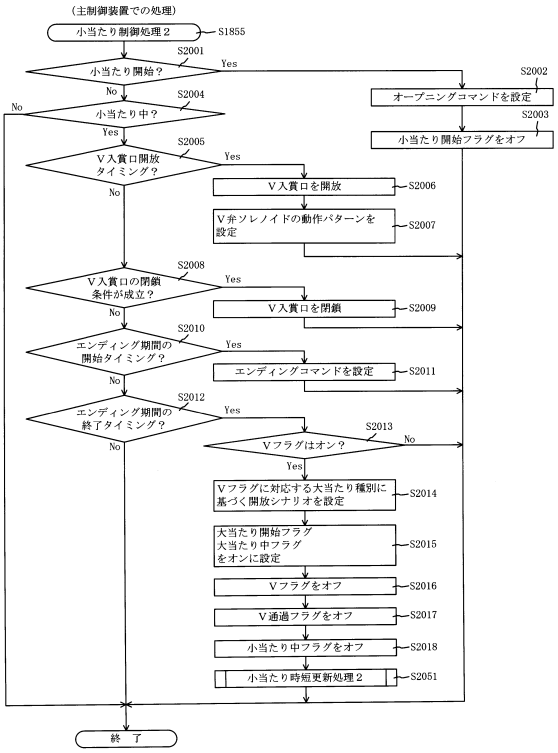
【図１００２】



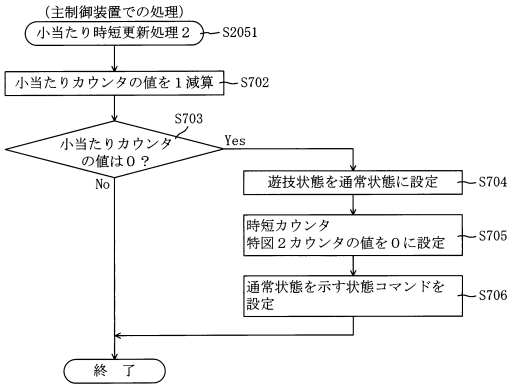
【図１００３】



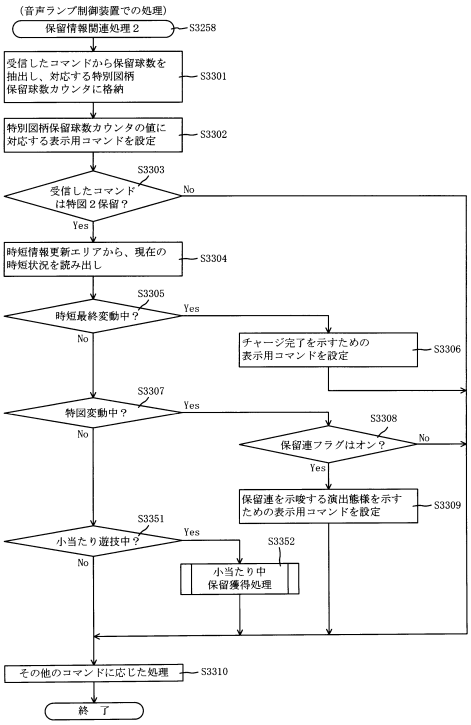
【図１００４】



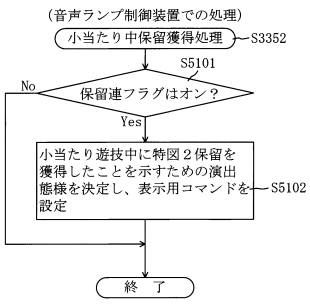
【図１００５】



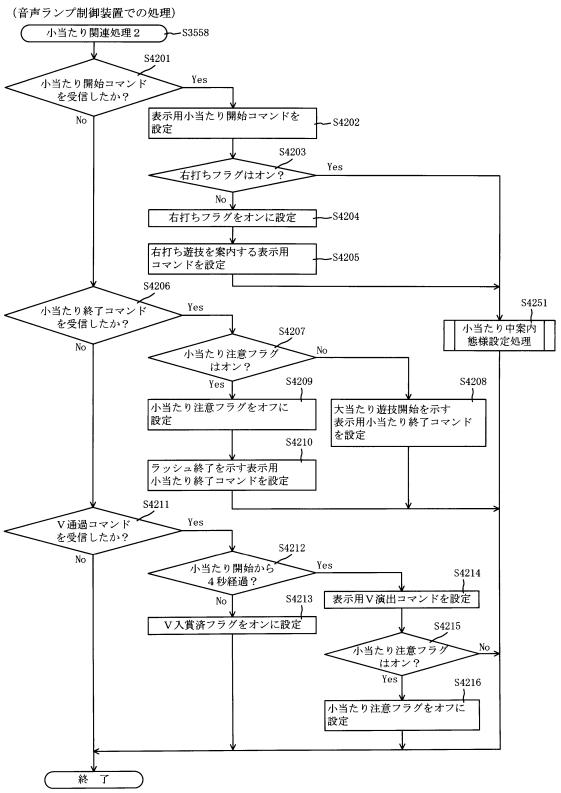
【図１００６】



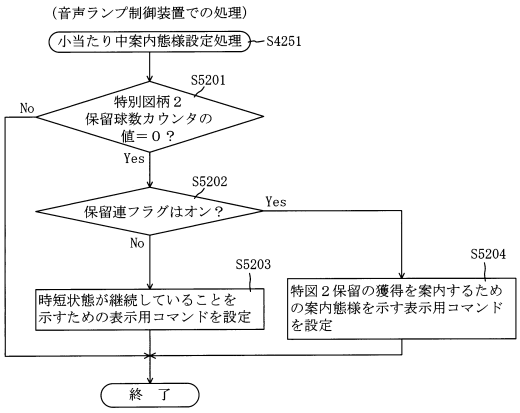
【図１００７】



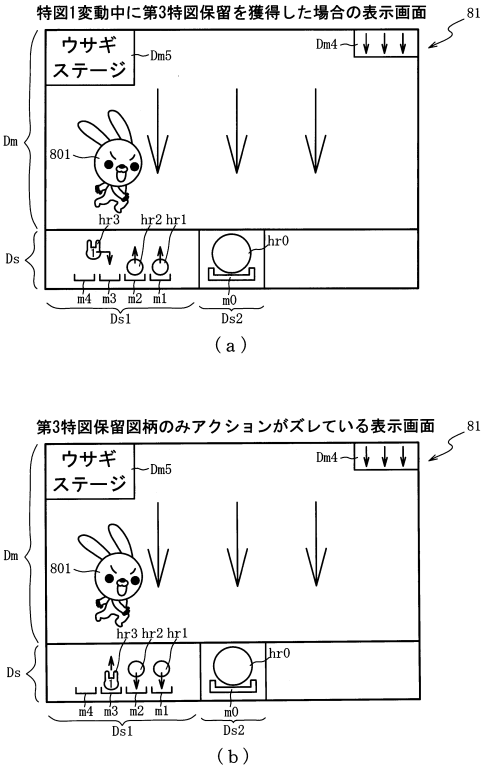
【図１００８】



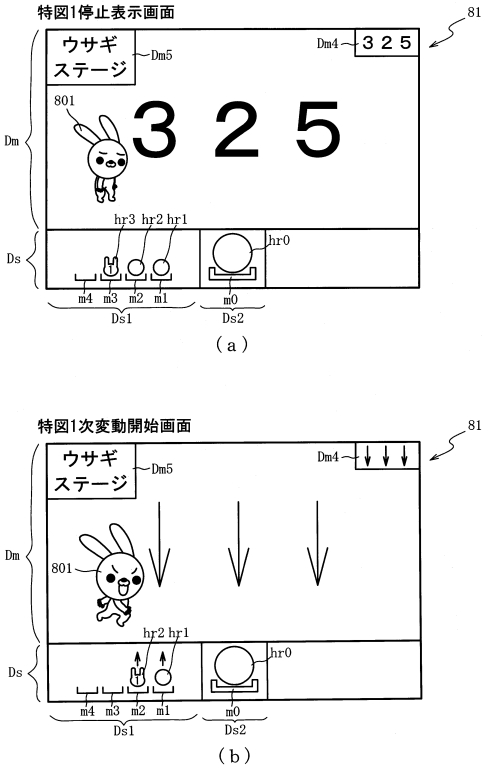
【図１００９】



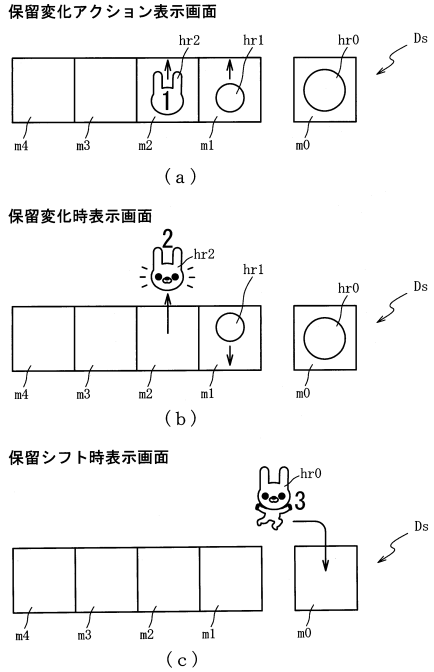
【図１０１０】



【図１０１１】

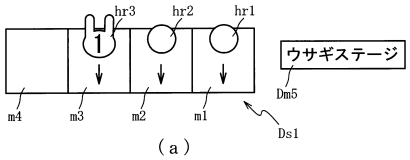


【図１０１２】



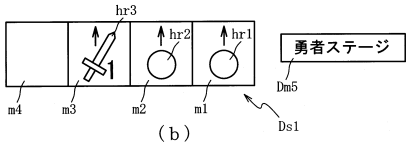
【図１０１３】

保留図柄アクション同期時のステージ変更前表示画面



（ａ）

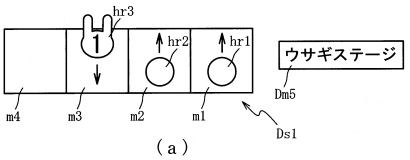
保留図柄アクション同期中のステージ変更後表示画面



（ｂ）

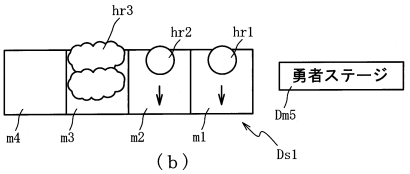
【図１０１４】

保留図柄アクション非同期時のステージ変更前表示画面



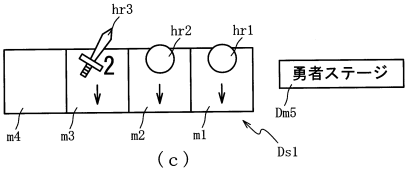
（ａ）

保留図柄アクション非同期中のステージ変更中表示画面



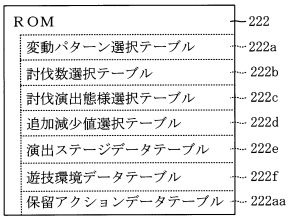
（ｂ）

保留図柄アクション非同期中のステージ変更後表示画面



（ｃ）

【図１０１５】



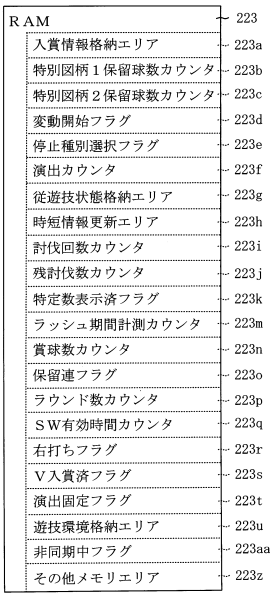
【図１０１６】

222

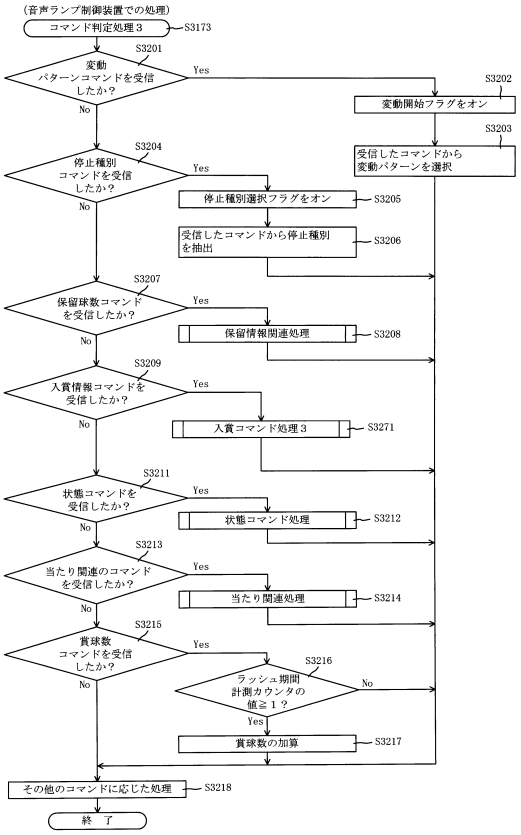
保留アクションデータテーブル222aa

ステージ種別	保留種別	アクション種別	アクション内容			
			経過時間（S）			
			0S～0.5S	0.5S～１S	1S～1.5S	1.5S～2S
ウサギ	通常保留	通常時	上昇表示	下降表示	－	－
	変化対象保留	通常時	上昇表示	下降表示	－	－
		変化時	上昇表示	変化アクション表示		下降表示
勇者	通常保留	通常時	上昇表示		下降表示	
	変化対象保留	通常時	上昇表示		下降表示	
		変化時	上昇表示	変化アクション表示		下降表示

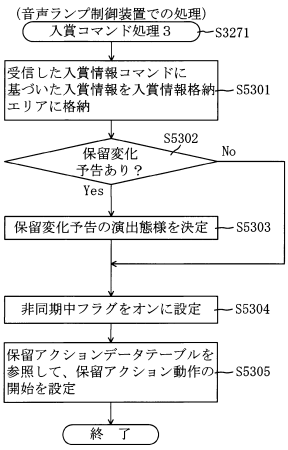
【図１０１７】



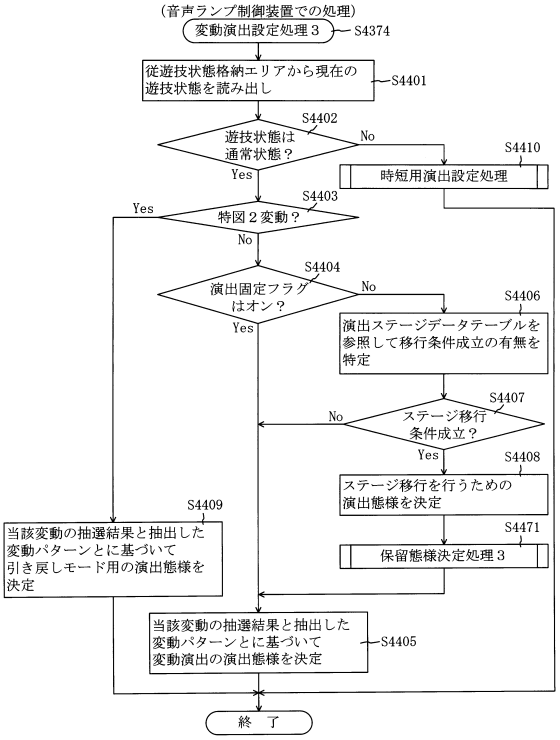
【図１０１８】



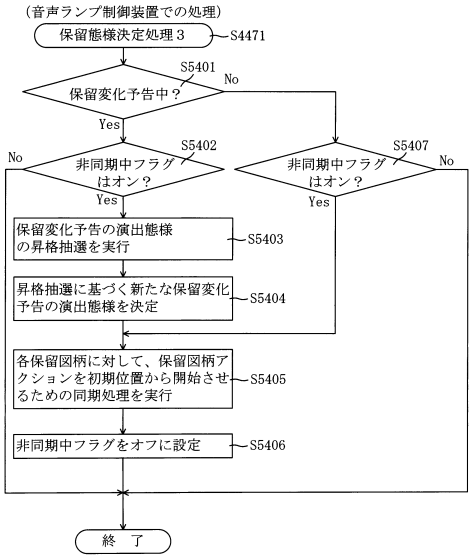
【図１０１９】



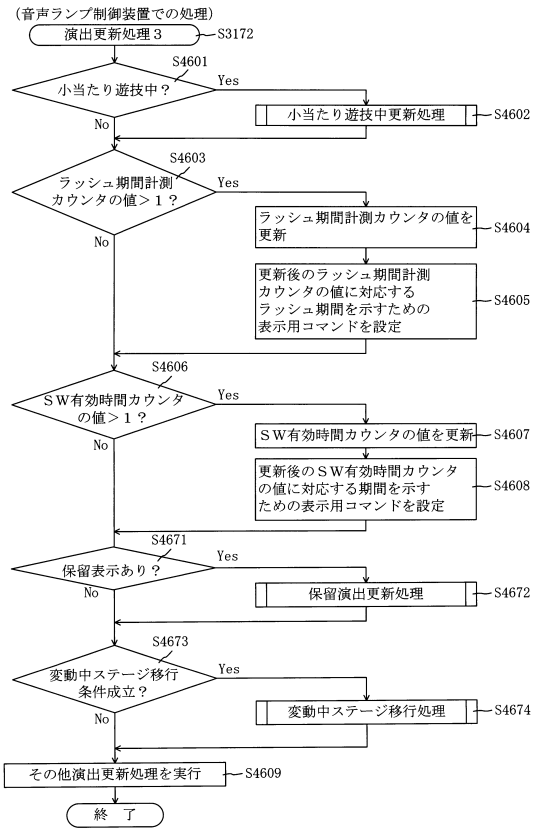
【図１０２０】



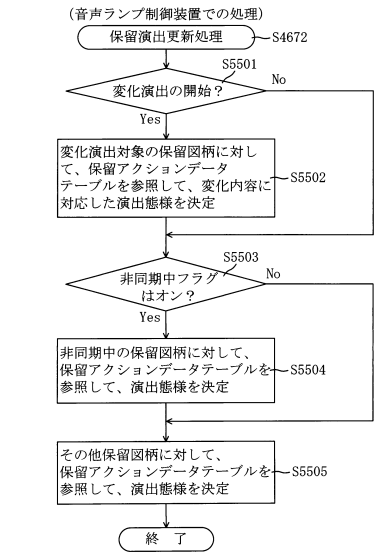
【図１０２１】



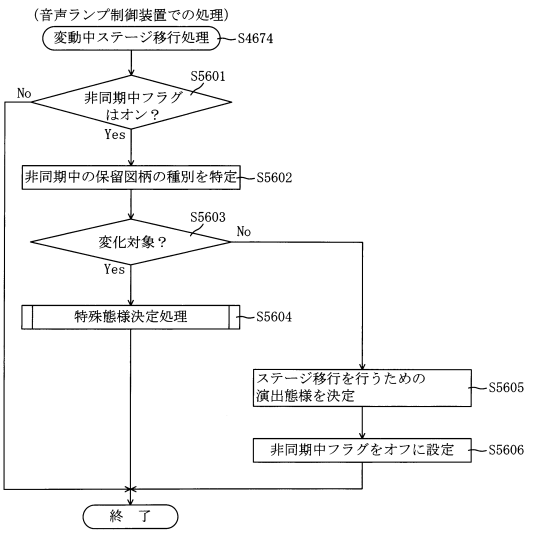
【図１０２２】



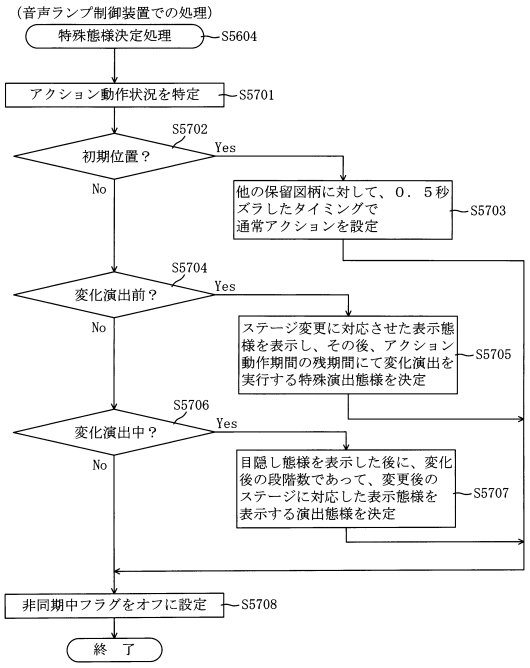
【図１０２３】



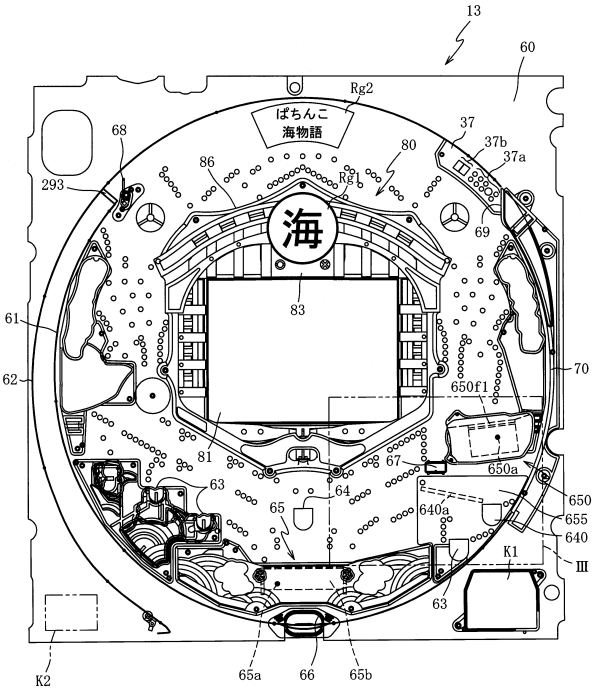
【図１０２４】



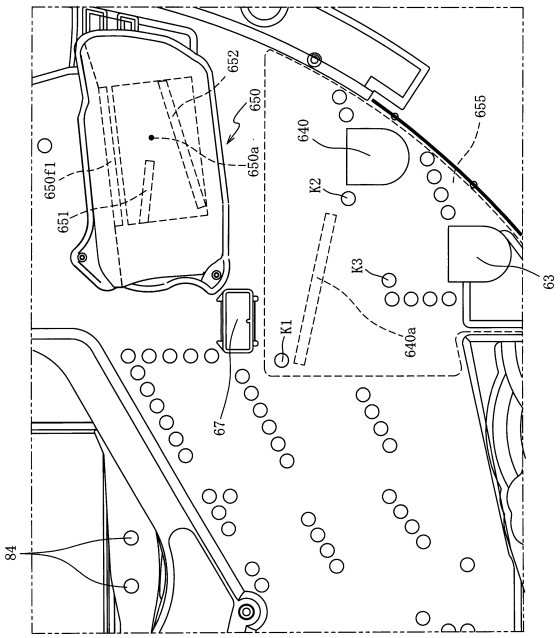
【図１０２５】



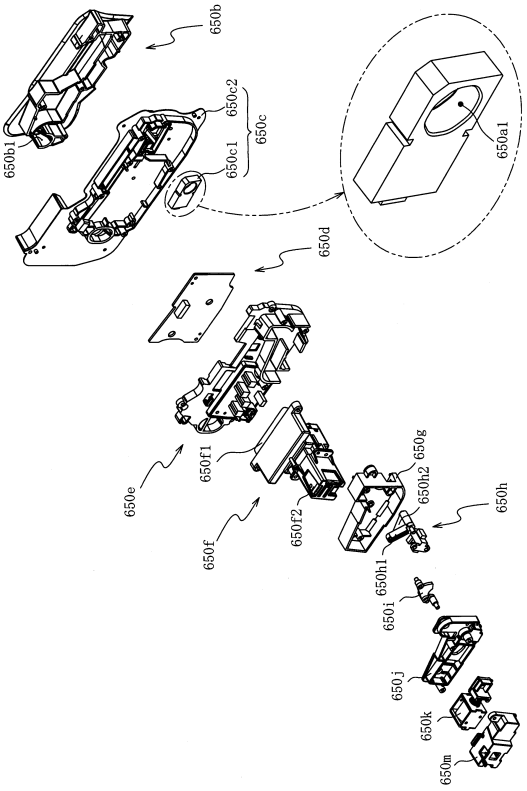
【図１０２６】



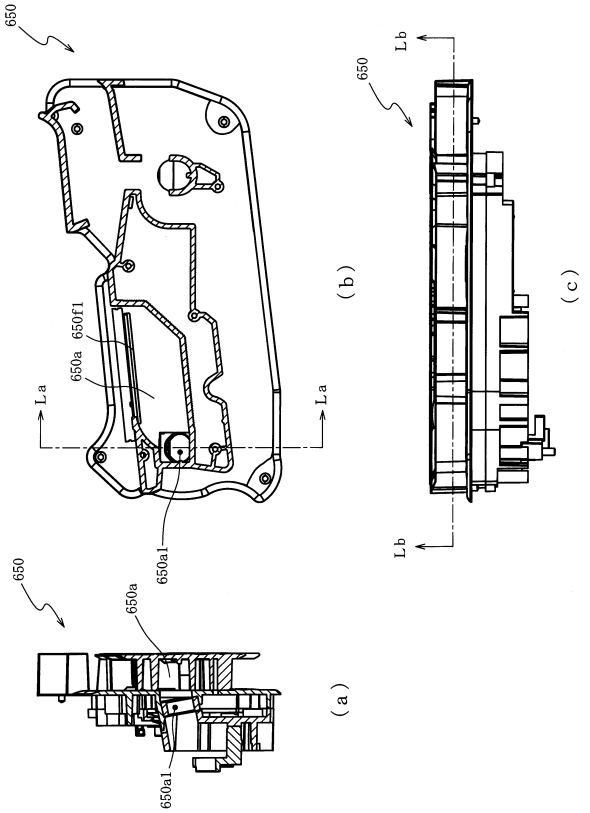
【図１０２７】



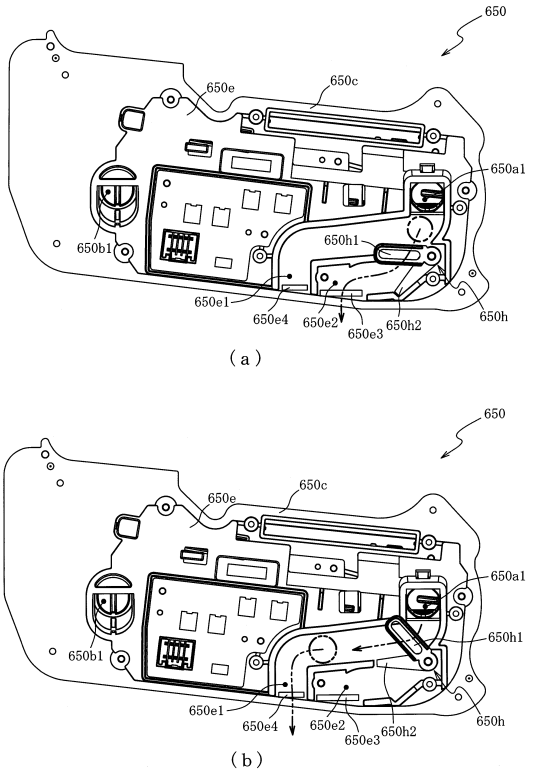
【図１０２８】



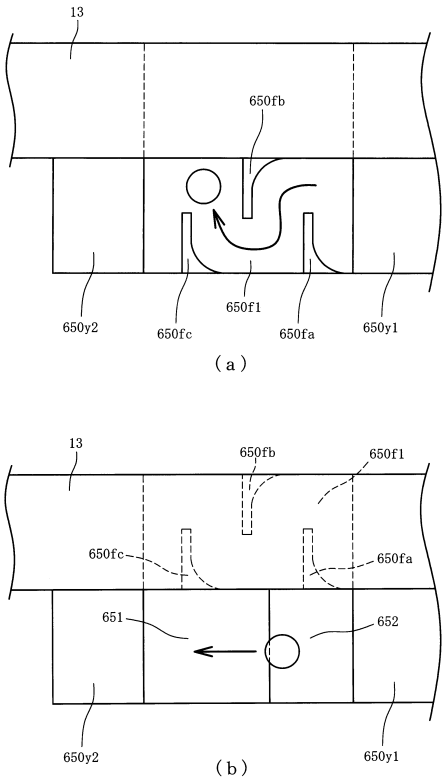
【図１０２９】



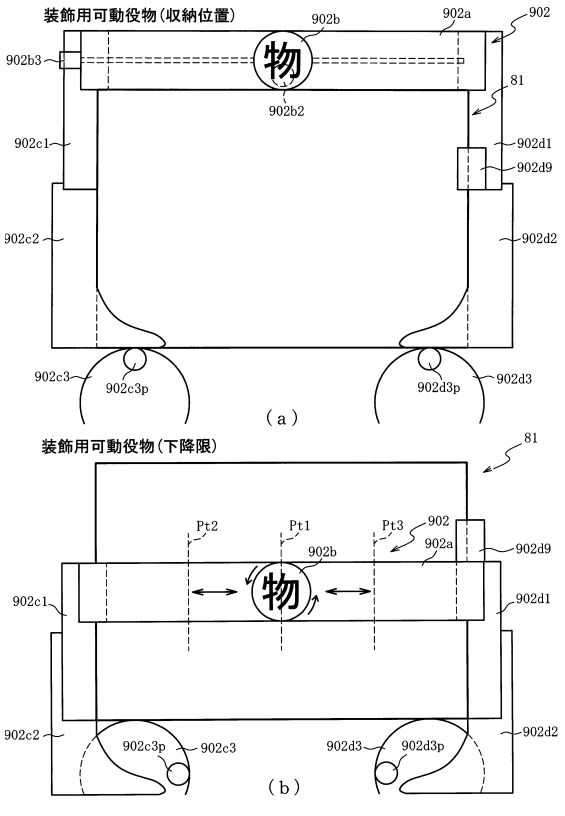
【図１０３０】



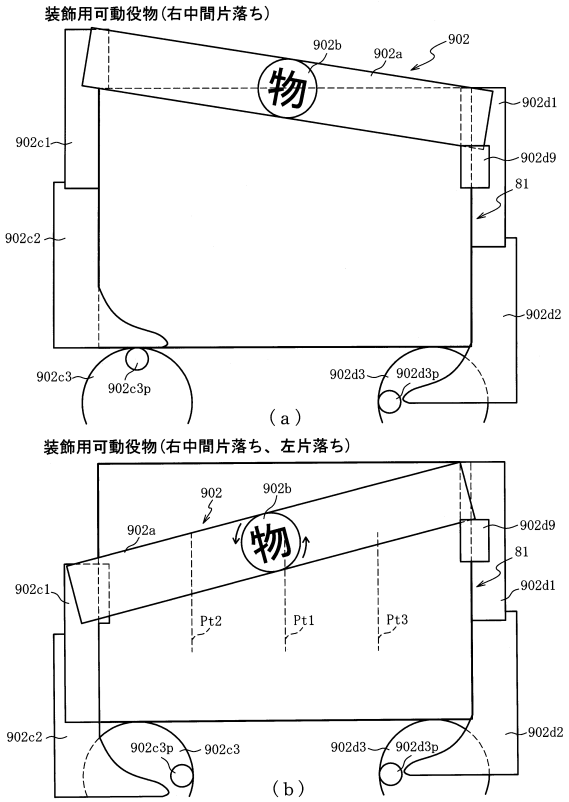
【図１０３１】



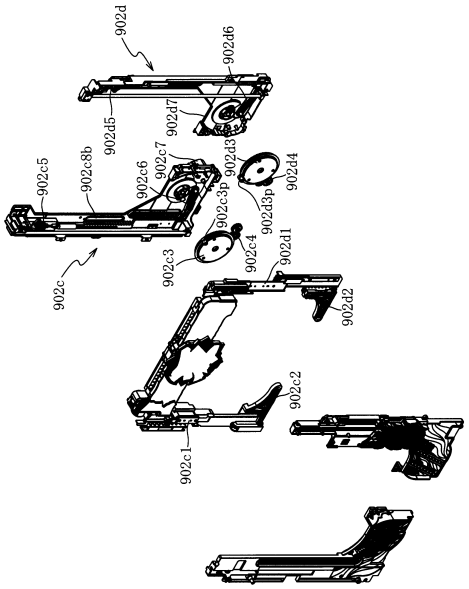
【図１０３２】



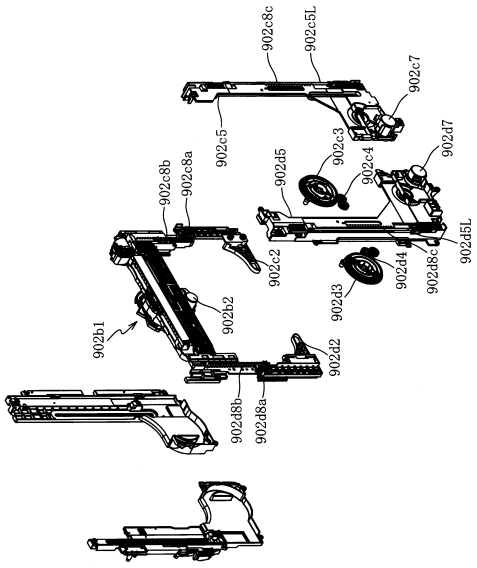
【図１０３３】



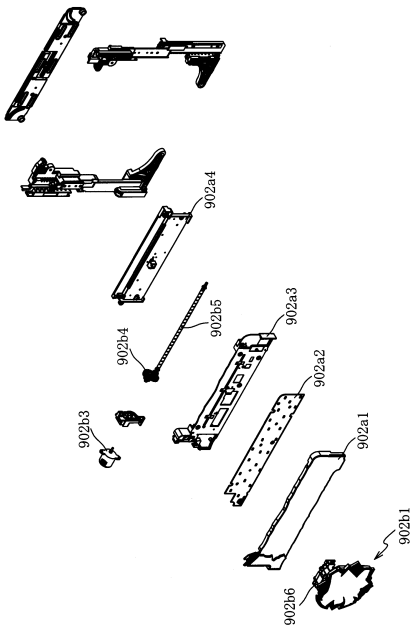
【図１０３４】



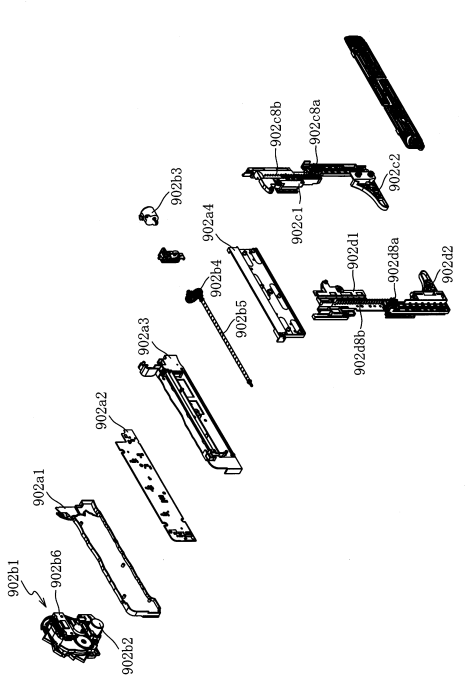
【図１０３５】



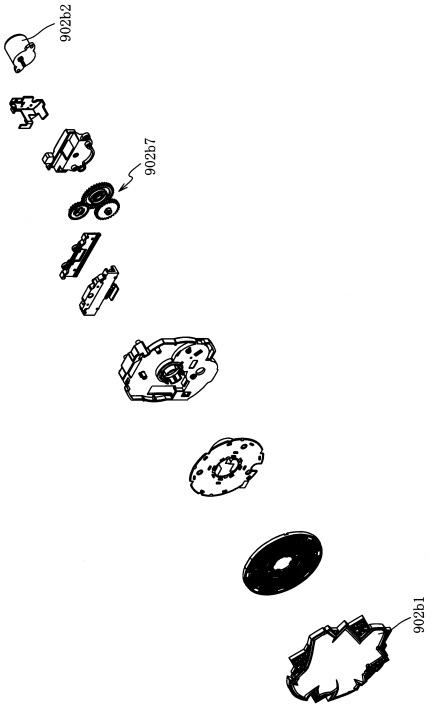
【図１０３６】



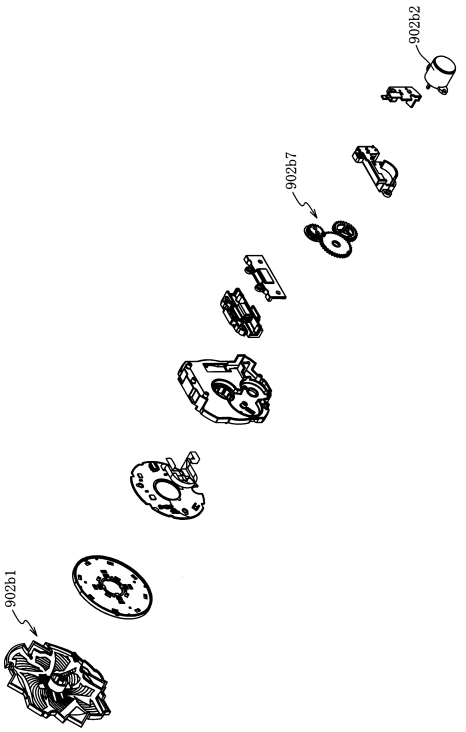
【図１０３７】



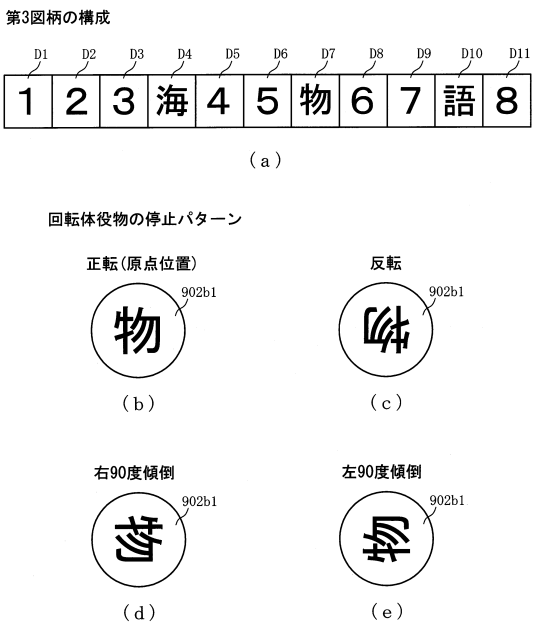
【図１０３８】



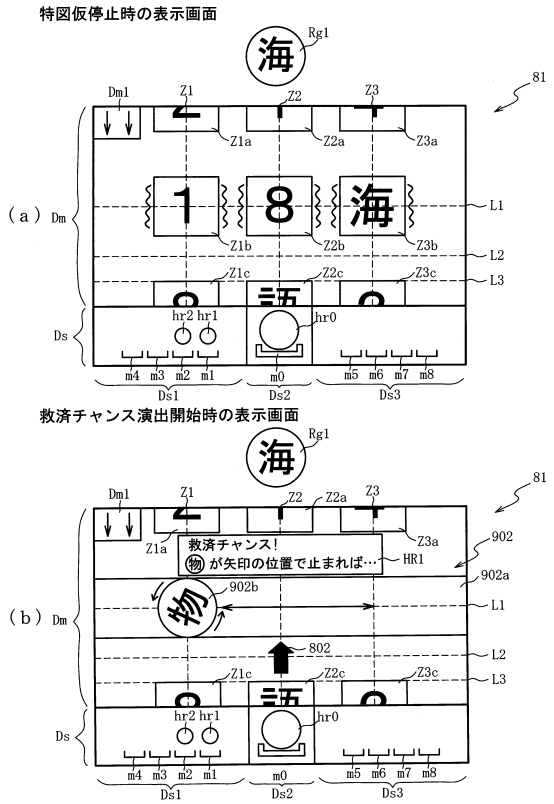
【図１０３９】



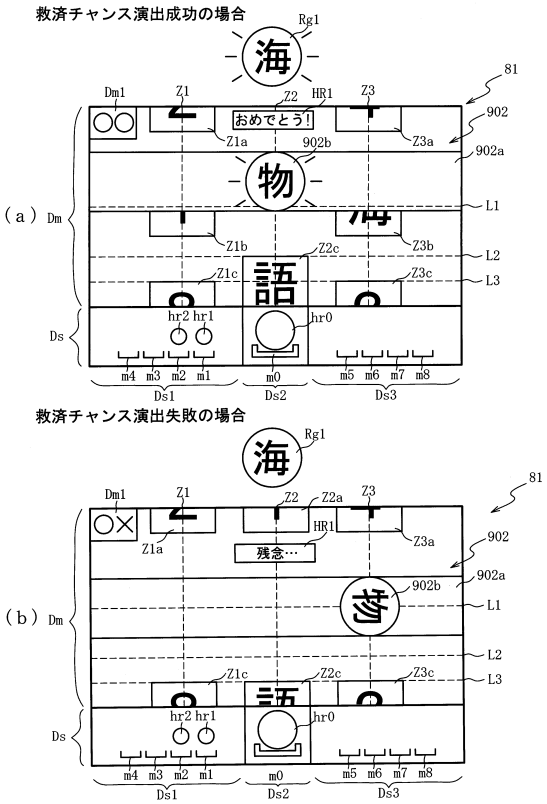
【図１０４０】



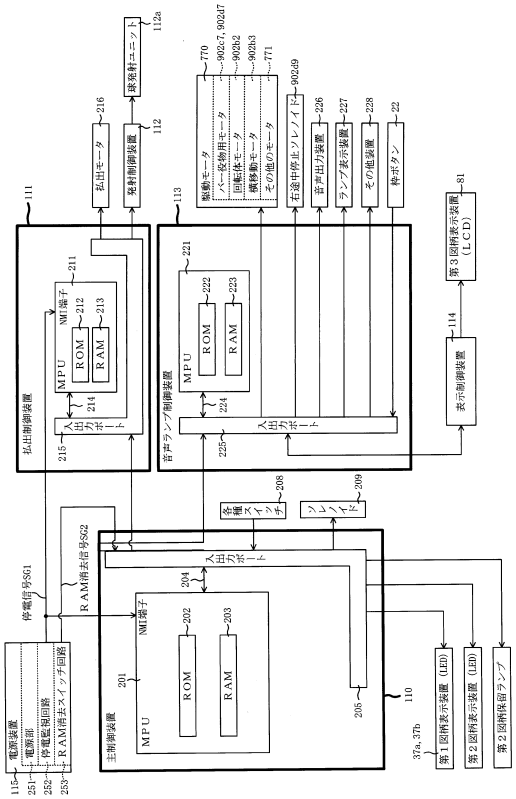
【図１０４１】



【図１０４２】



【図１０４３】



【図１０４４】

（ａ）

ROM	222
変動パターン選択４テーブル	222xa
：	222b～222f
動作シナリオ選択テーブル	222xb

（ｂ）

RAM	223
入賞情報格納エリア	223a
：	223b～223u
第１演出カウンタ	223xa
第２演出カウンタ	223xb
役物待機フラグ	223xc
動作シナリオ格納エリア	223xd
役物可動中フラグ	223xe
変動中フラグ	223xf
変動時間カウンタ	223xg
シナリオカウンタ	223xh
各ステップカウンタ	223xi
特殊シナリオフラグ	223xj
原点フラグ	223xk
その他メモリエリア	223z

【図１０４５】

変動パターン選択４テーブル	222xa
通常用変動パターン選択４テーブル	222xa1
時短用変動パターン選択４テーブル	222xa2
特殊時短用変動パターン選択４テーブル	222xa3
時短最終変動パターン選択４テーブル	222xa4

（ａ）

通常用変動パターン選択４テーブル222xa1

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	救済チャンス演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	外れ	変動パターンＡ	なし	0～199
		ガセ外れ	変動パターンＢ	なし	0～179
			変動パターンＣ	あり	180～199
		ノーマルリーチ	変動パターンＤ	なし	0～179
			変動パターンＥ	あり	180～199
		スーパーリーチ	変動パターンＦ	なし	0～149
			変動パターンＧ	あり	150～199
	大当たり	ノーマルリーチ	変動パターンＨ	なし	0～149
			変動パターンＩ	あり	150～199
		スーパーリーチ	変動パターンＪ	なし	0～129
			変動パターンＫ	あり	130～199
		スペシャルリーチ	変動パターンＬ	なし	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＭ	なし	0～199
特図２	外れ	外れ	変動パターンＮ	なし	0～179
			変動パターンＰ	あり	180～199
	大当たり小当たり	当たり	変動パターンＱ	なし	0～149
			変動パターンＲ	あり	150～199

（ｂ）

【図１０４６】

時短用変動パターン選択４テーブル222xa2

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	救済チャンス演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	超短外れ	変動パターンＳ	なし	0～199
	大当たり	短大当たり	変動パターンＴ	なし	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＵ	なし	0～189
			変動パターンＶ	あり	190～199
特図２	外れ	短外れ	変動パターンＷ	なし	0～199
	大当たり	超短大当たり	変動パターンＸ	なし	0～199
	小当たり	超短小当たり	変動パターンＹ	なし	0～199

（ａ）

特殊時短用変動パターン選択４テーブル222xa3

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	救済チャンス演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	外れ	変動パターンＺ	なし	0～199
	大当たり	当たり	変動パターンＡＡ	なし	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＡＢ	なし	0～199

（ｂ）

時短最終変動パターン選択４テーブル222xa4

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	救済チャンス演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図２	外れ	短外れ	変動パターンＡＣ	なし	0～199
	大当たり		変動パターンＡＤ	なし	0～199
	小当たり	超短小当たり	変動パターンＡＥ	なし	0～199
		小当たり	変動パターンＡＦ	なし	0～199

（ｃ）

【図１０４７】

222

動作シナリオ選択テーブル222xb

当否判定結果	動作シナリオ種別	最終停止位置（横軸：縦軸）	第２演出カウンタＣＳ２（0～199）
外れ	動作シナリオＡ	Ｌ１：Ｚ１	0～19
	動作シナリオＢ	Ｌ１：Ｚ１	20～99
	動作シナリオＣ	Ｌ１：Ｚ３	100～139
	動作シナリオＤ	Ｌ１：Ｚ３	140～199
当たり	動作シナリオＥ	Ｌ１：Ｚ２	0～79
	動作シナリオＦ	Ｌ１：Ｚ２	80～99
	動作シナリオＧ	Ｌ１：Ｚ２	100～159
	動作シナリオＨ	Ｌ１：Ｚ２	160～199

【図１０４８】

222

動作シナリオＡ（スピード２：中速、スピード４：低速）

シナリオカウンタ値	0	1	500	750	1000	11250	12000
左バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+25/2	－	－	+75/2	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/4	－	－	－	+75/2	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	右中間片落ち	右中間片落ち・左片落ち	下降限	下降限	収納
その他	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

（ａ）

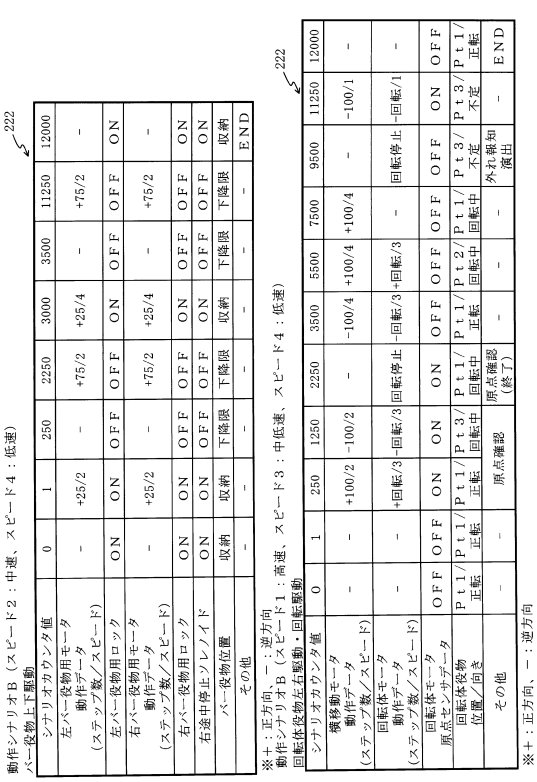
動作シナリオＡ（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）

シナリオカウンタ値	0	1	500	1000	3000	5000	7000	11250	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	－100/4	－100/4	＋100/4	＋100/4	－	－50/1	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－＋回転/3	－回転/3	＋回転/3	－	回転停止/0	－回転/1	－	
回転体モータ 原点センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ
回転体役物 位置／向き	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ２／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ３／不定	Ｐｔ３／不定	Ｐｔ１／正転	
その他	－	－	－	－	－	外れ報知演出	－	ＥＮＤ	

※＋：正方向、－：逆方向

（ｂ）

【図１０４９】



動作シナリオB（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

222

シナリオカウンタ値	0	1	250	2250	3000	3500	11250	12000
左バー役物モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+75/2	－
左バー役物用ロック	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+75/2	－
右バー役物用ロック	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON
右途中停止ソレノイド	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON
バー役物位置	収納	収納	下降限	下降限	収納	下降限	下降限	収納
その他	－	－	－	－	－	－	－	END

※＋：正方向、－：逆方向

（a）

動作シナリオB（スピード１：高速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

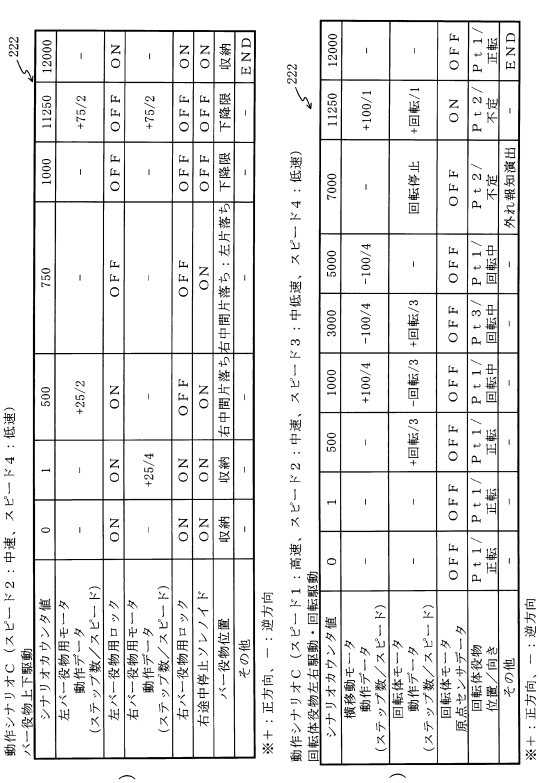
222

シナリオカウンタ値	0	1	250	1250	2250	3500	5500	7500	9500	11250	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+100/2	−100/2	－	+100/4	−100/4	−100/4	－	−100/1	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	−回転/3	回転停止	+回転/3	−回転/3	－	回転停止	+回転/1	－
回転体モータ 原点センサデータ	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
回転体役物 位置／向き	Pt1／正転	Pt1／正転	Pt3／回転中		Pt1／回転中	Pt1／正転	Pt3／回転中	Pt1／回転中	Pt2／不定	Pt2／不定	Pt1／正転
その他	－	－	原点確認		原点確認（終了）	－	－	－	外れ報知演出	－	END

※＋：正方向、－：逆方向

（b）

【図１０５０】



動作シナリオC（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

222

シナリオカウンタ値	0	1	500	750	1000	1250	2250	3000	3500	5500	7500	9500	11250	12000
左バー役物モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+25/2	－	－	－	+75/2	+25/4	－	－	－	－	+75/2	－
左バー役物用ロック	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/4	－	－	－	+25/4	－	－	－	－	－	－	+75/2	－
右バー役物用ロック	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
右途中停止ソレノイド	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	ON
バー役物位置	収納	収納	右中間片落ち	右中間片落ち	収納	右中間片落ち	右中間片落ち	右中間片落ち	右中間片落ち	右中間片落ち	右中間片落ち	右中間片落ち	下降限	収納
その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	END

※＋：正方向、－：逆方向

（a）

動作シナリオC（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

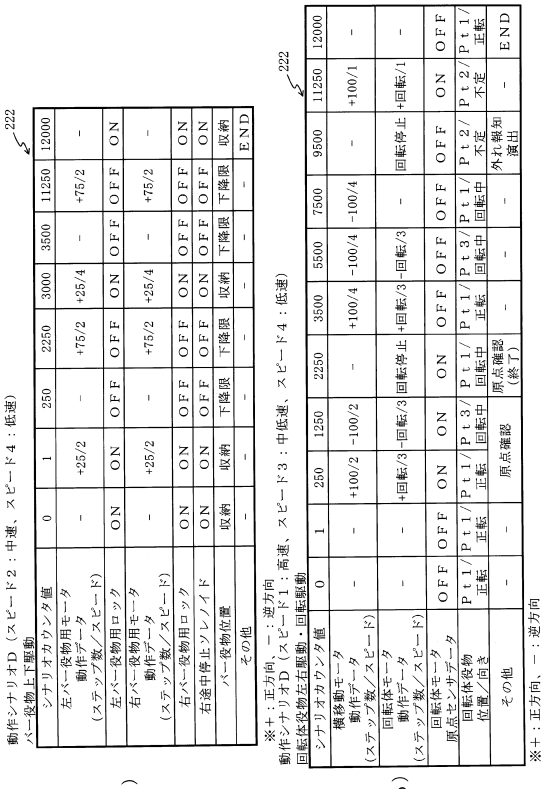
222

シナリオカウンタ値	0	1	500	1000	3000	5000	7000	11250	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	－	+100/4	−100/4	−100/4	－	+100/1	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	−回転/3	+回転/3	−回転/3	－	回転停止	+回転/1	－
回転体モータ 原点センサデータ	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
回転体役物 位置／向き	Pt1／正転	Pt1／正転	Pt1／正転	Pt2／回転中	Pt1／回転中	Pt3／回転中	Pt1／正転	Pt2／不定	Pt1／正転
その他	－	－	－	－	－	－	－	外れ報知演出	END

※＋：正方向、－：逆方向

（b）

【図１０５１】



動作シナリオD（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

222

シナリオカウンタ値	0	1	500	750	1000	2250	3500	5500	7500	9500	11250	12000
左バー役物モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+25/2	－	－	－	+100/4	−100/4	−100/4	－	+100/1	－
左バー役物用ロック	ON	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
右バー役物用ロック	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
右途中停止ソレノイド	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
バー役物位置	収納	収納	右中間片落ち	右中間片落ち	左片落ち	下降限	当たり報知位置					収納
その他	－	－	－	－	－	－	－					END

※＋：正方向、－：逆方向

（a）

動作シナリオD（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

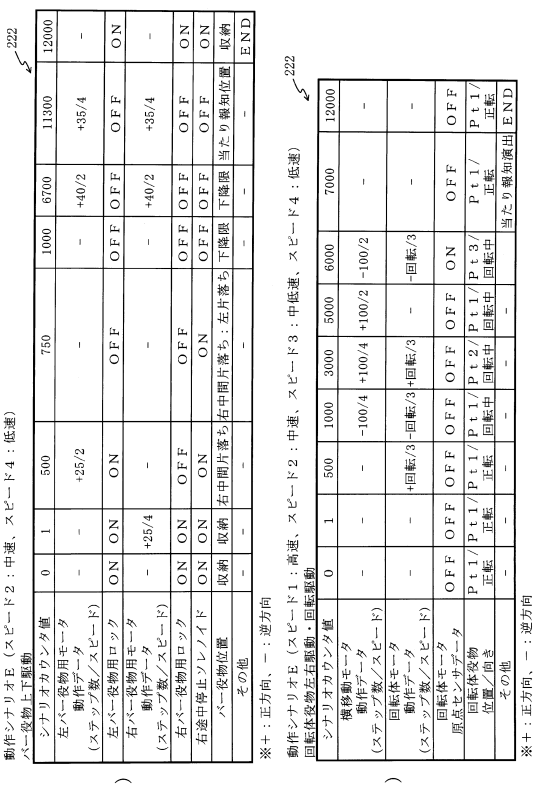
222

シナリオカウンタ値	0	1	500	1000	3000	5000	6000	6700	11300	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	－	−100/4	+100/4	+100/2	−100/2	+40/2	+35/4	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	−回転/3	+回転/3	－	−回転/3	－	－	－
回転体モータ 原点センサデータ	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
回転体役物 位置／向き	Pt1／正転	Pt1／正転	Pt1／回転中	Pt2／回転中	Pt1／回転中	Pt3／回転中		Pt1／正転		
その他	－	－	－	－	－	－		当たり報知演出		END

※＋：正方向、－：逆方向

（b）

【図１０５２】



動作シナリオE（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

222

シナリオカウンタ値	0	1	500	750	1000	6700	11300	12000
左バー役物モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+25/2	－	－	+40/2	+35/4	－
左バー役物用ロック	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/4	－	－	－	+40/2	+35/4	－
右バー役物用ロック	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
右途中停止ソレノイド	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON
バー役物位置	収納	収納	右中間片落ち	左片落ち	下降限	当たり報知位置		収納
その他	－	－	－	－	－	－		END

※＋：正方向、－：逆方向

（a）

動作シナリオE（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

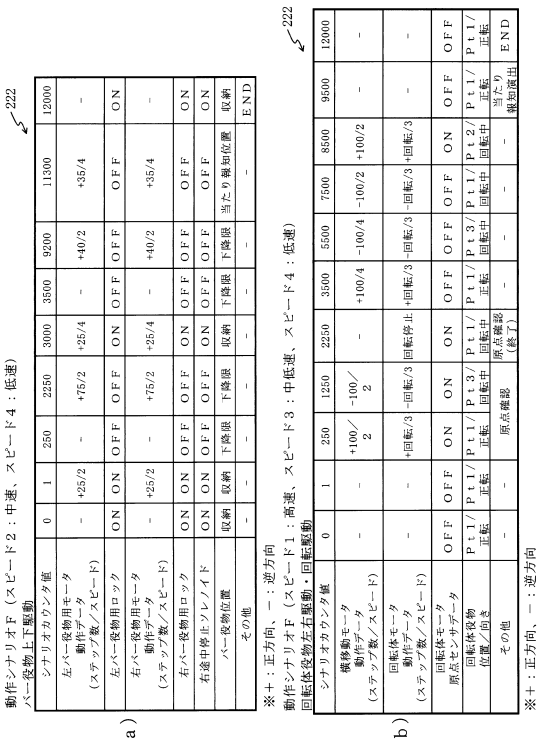
222

シナリオカウンタ値	0	1	500	1000	3000	5000	6000	7000	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	－	−100/4	+100/4	+100/2	−100/2	－	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	−回転/3	+回転/3	－	−回転/3	－	－
回転体モータ 原点センサデータ	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
回転体役物 位置／向き	Pt1／正転	Pt1／正転	Pt1／回転中	Pt2／回転中	Pt1／回転中	Pt3／回転中		Pt1／正転	
その他	－	－	－	－	－	－		当たり報知演出	END

※＋：正方向、－：逆方向

（b）

【図１０５３】



動作シナリオＦ（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

シナリオカウンタ値	0	1	250	2250	3000	3500	9200	11300	12000
左バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+40/2	+35/4	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+40/2	+35/4	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	下降限	下降限	収納	下降限	下降限	当たり報知位置	収納
その他	－	－	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

222

（ａ）

※＋：正方向、－：逆方向

動作シナリオＦ（スピード１：高速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

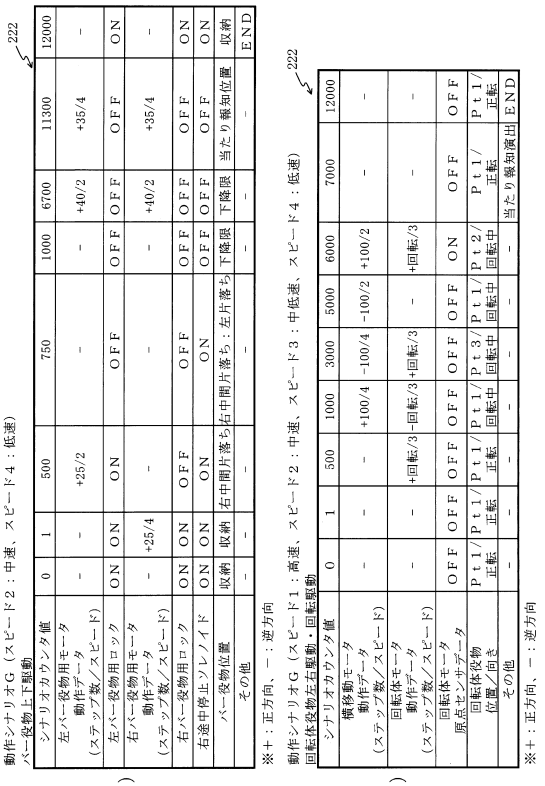
シナリオカウンタ値	0	1	250	1250	2250	3000	3500	5500	7500	8500	9500	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+100／2	－100／2	－	－	－100/4	+100/4	+100/2	－100/2	－	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	－回転/3	回転停止	－回転/3	+回転/3	+回転/3	+回転/3	－回転/3	－	－
回転体センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
回転体役物位置／向き	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ３／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ２／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ２／回転中	Ｐｔ３／回転中	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転
その他	－	－	原点確認		原点確認（終了）					－	当たり報知演出	ＥＮＤ

222

（ｂ）

※＋：正方向、－：逆方向

【図１０５４】



動作シナリオＧ（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

シナリオカウンタ値	0	1	500	750	1000	6700	11300	12000
左バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+25/2	－	－	+40/2	+35/4	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/4	－	－	－	+40/2	+35/4	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	右中間片落ち	右中間片落ち・左片落ち	下降限	下降限	当たり報知位置	収納
その他	－	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

222

（ａ）

※＋：正方向、－：逆方向

動作シナリオＧ（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

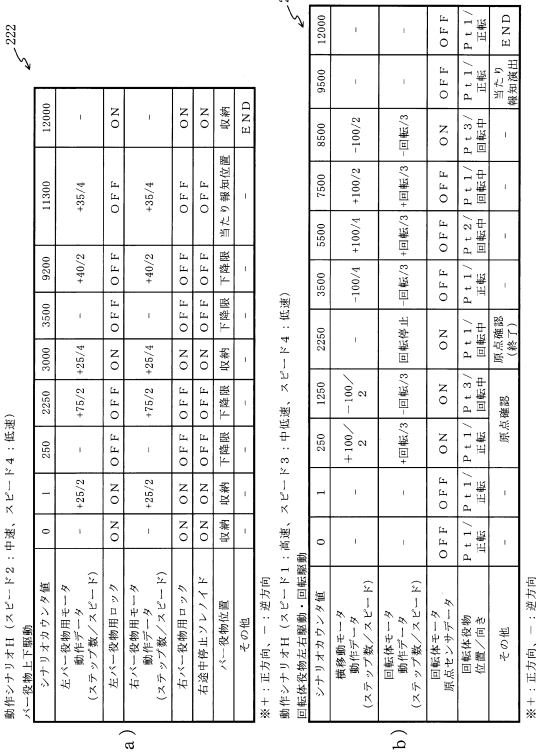
シナリオカウンタ値	0	1	500	1000	3000	5000	6000	7000	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	－	+100/4	－100/4	－100/2	+100/2	－	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	－回転/3	+回転/3	－	+回転/3	－	－
回転体センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
回転体役物位置／向き	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ３／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ２／回転中	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転
その他	－	－	－	－	－	－	－	当たり報知演出	ＥＮＤ

222

（ｂ）

※＋：正方向、－：逆方向

【図１０５５】



動作シナリオＨ（スピード２：中速、スピード４：低速）
バー役物上下駆動

シナリオカウンタ値	0	1	250	2250	3000	3500	9200	11300	12000
左バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+40/2	+35/4	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	+25/4	－	+40/2	+35/4	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	下降限	下降限	収納	下降限	当たり報知位置	収納	
その他	－	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ	

222

（ａ）

※＋：正方向、－：逆方向

動作シナリオＨ（スピード１：高速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

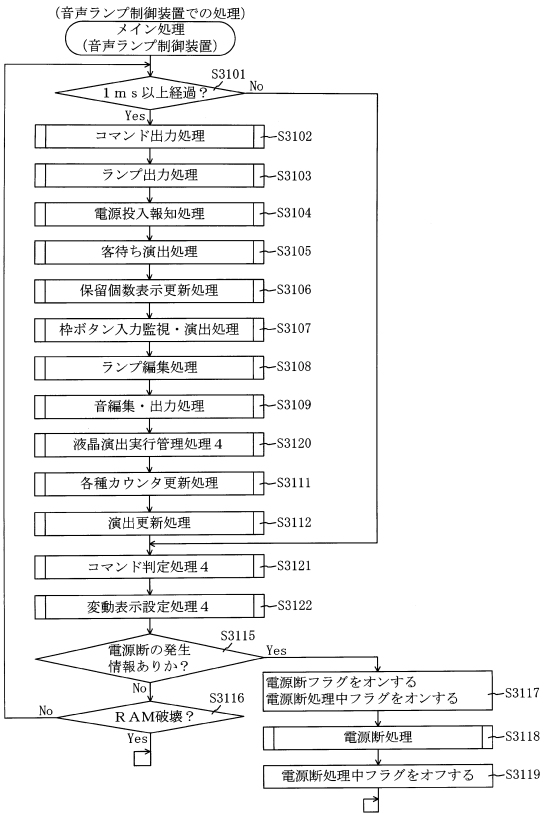
シナリオカウンタ値	0	1	250	1250	2250	3000	3500	5500	7500	8500	9500	12000
横移動モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+100／2	－100／2	－	－	－100/4	+100/4	+100/2	－100/2	－	－
回転体モータ 動作データ（ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	回転/3	回転停止	－回転/3	+回転/3	+回転/3	+回転/3	－回転/3	－	－
回転体センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
回転体役物位置／向き	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ３／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ１／正転	Ｐｔ２／回転中	Ｐｔ１／回転中	Ｐｔ３／回転中	Ｐｔ１／正転		
その他	－	－	原点確認		原点確認（終了）		－	－	－	－	当たり報知演出	ＥＮＤ

222

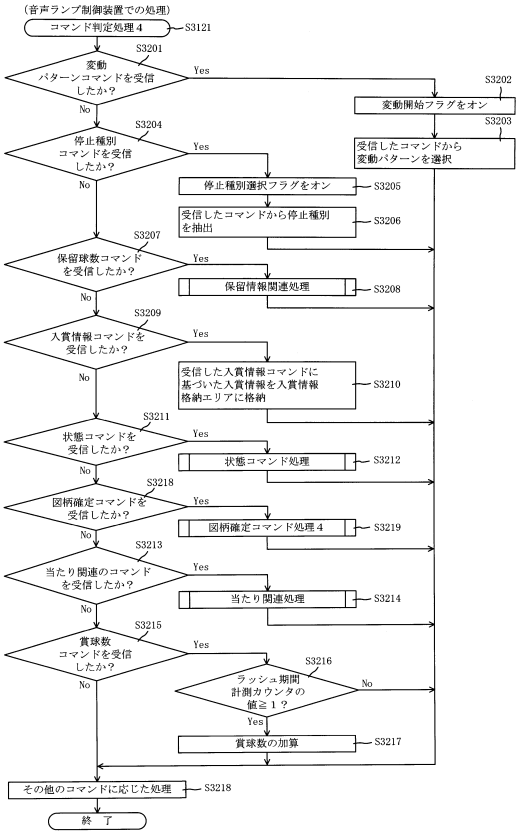
（ｂ）

※＋：正方向、－：逆方向

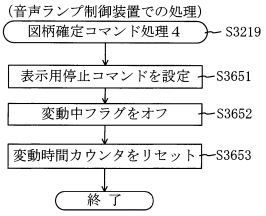
【図１０５６】



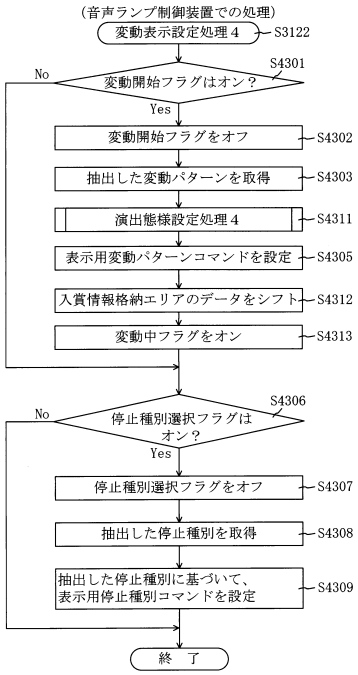
【図１０５７】



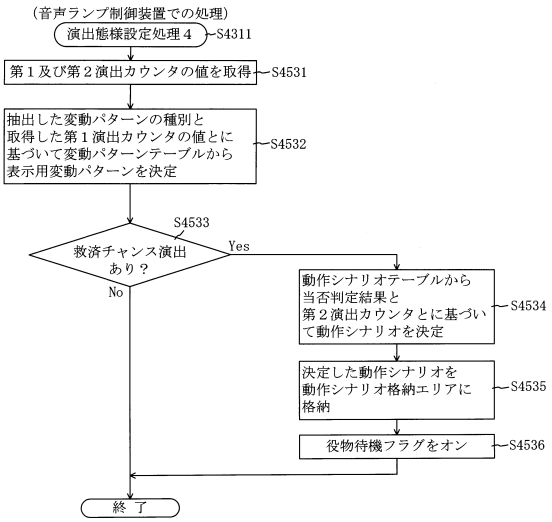
【図１０５８】



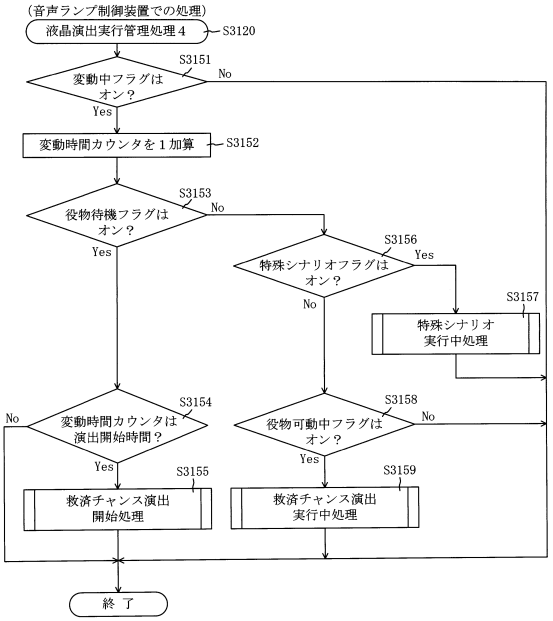
【図１０５９】



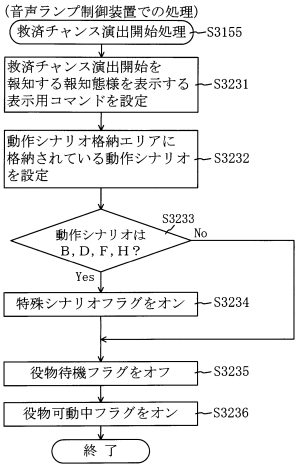
【図１０６０】



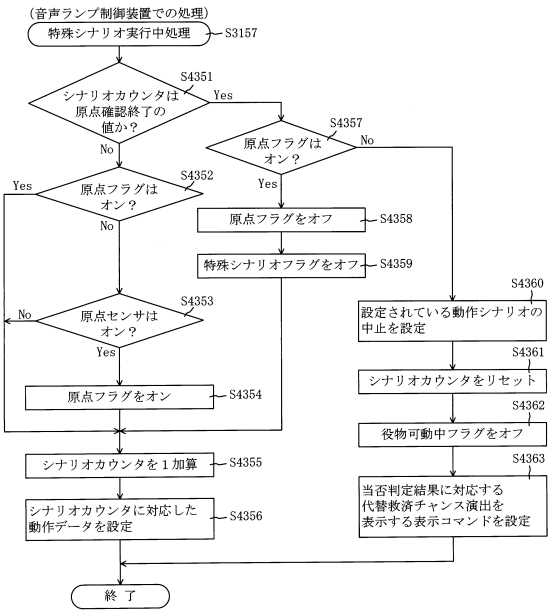
【図１０６１】



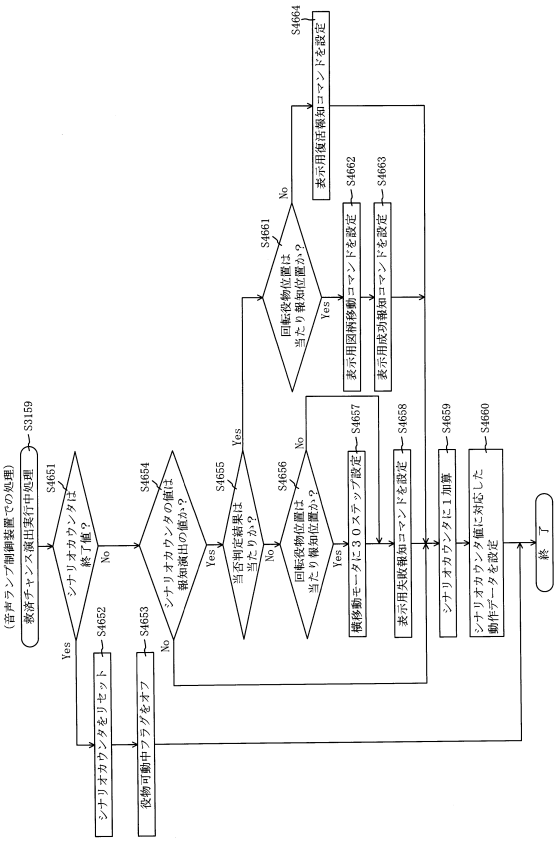
【図１０６２】



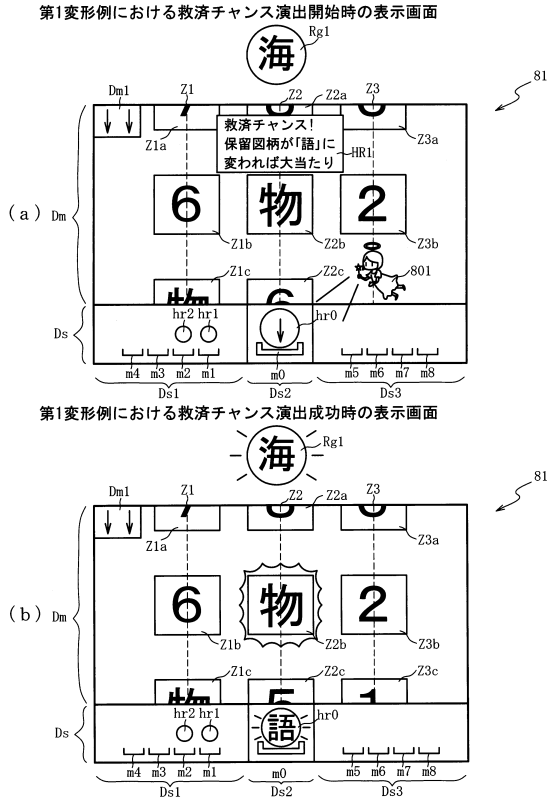
【図１０６３】



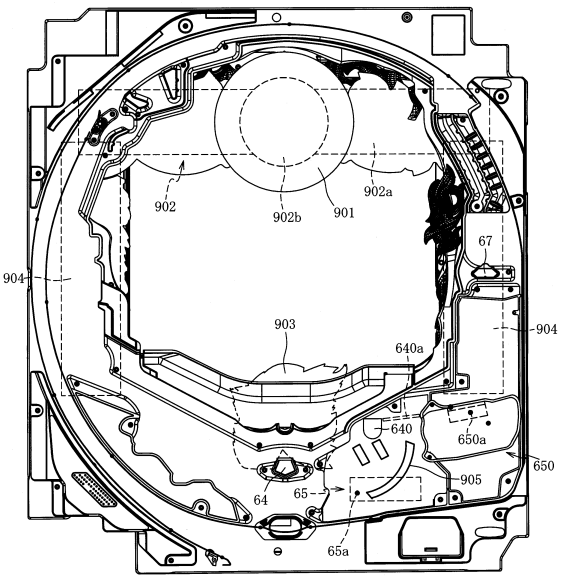
【図１０６４】



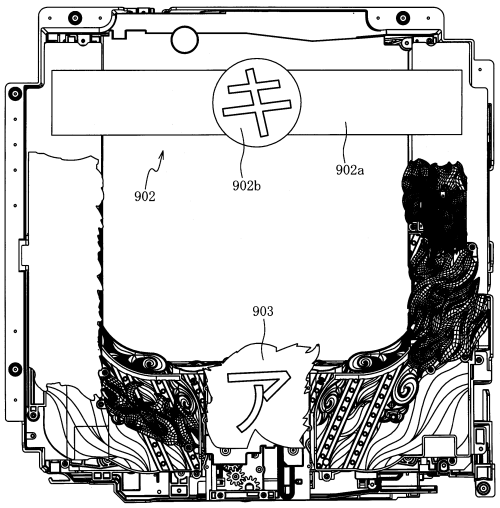
【図１０６５】



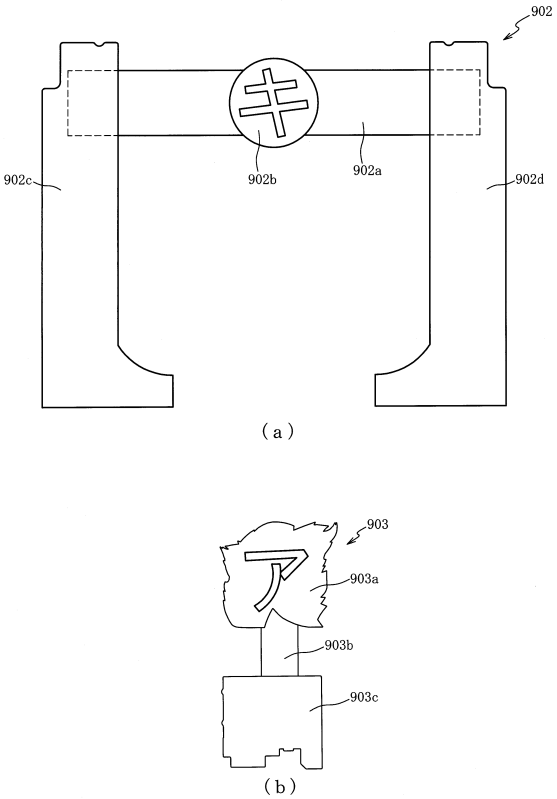
【図１０６６】



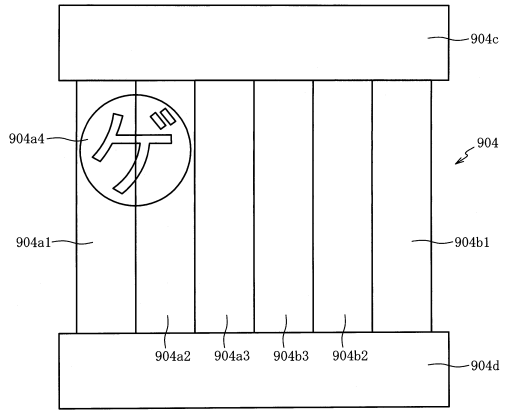
【図１０６７】



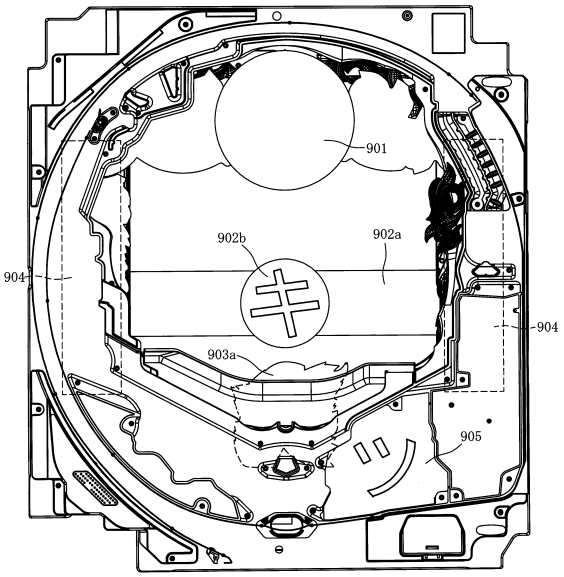
【図１０６８】



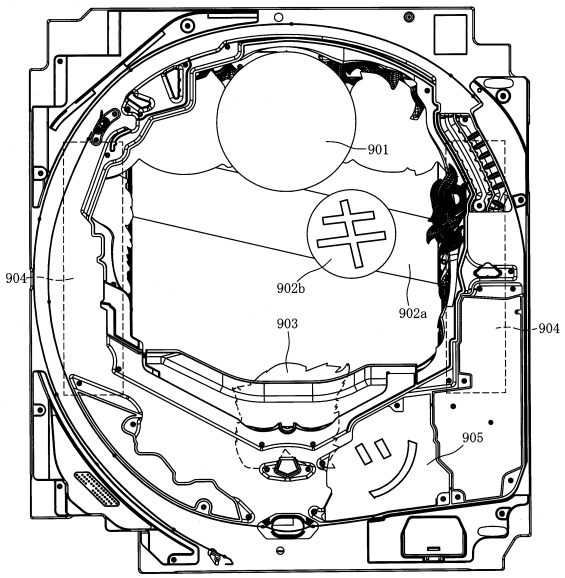
【図１０６９】



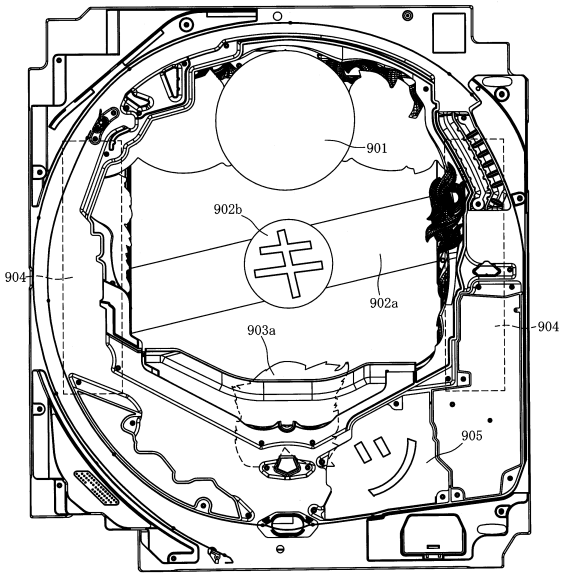
【図１０７０】



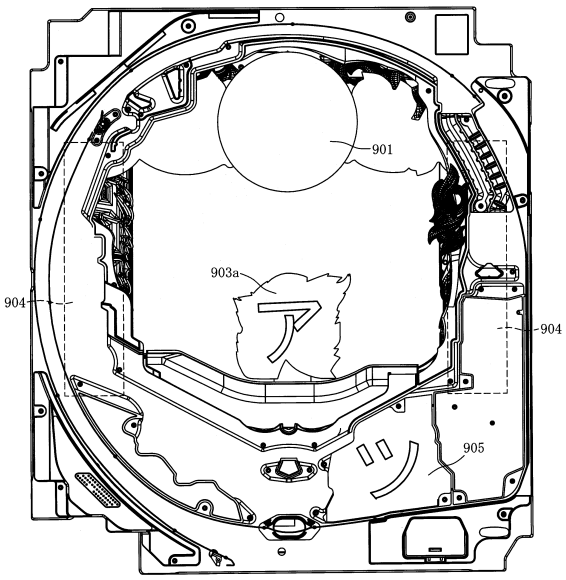
【図１０７１】



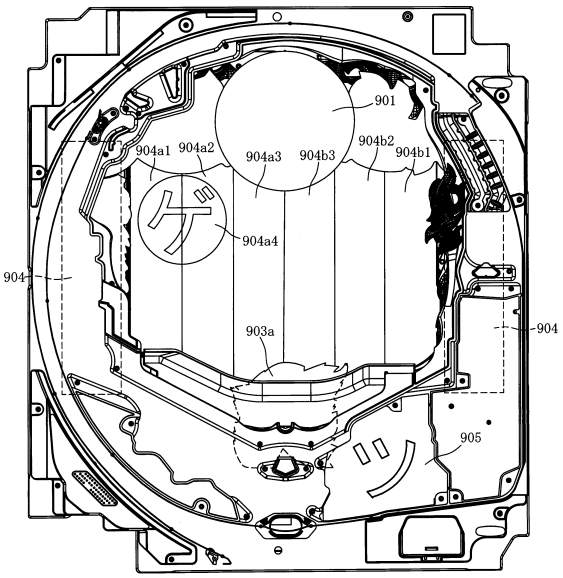
【図１０７２】



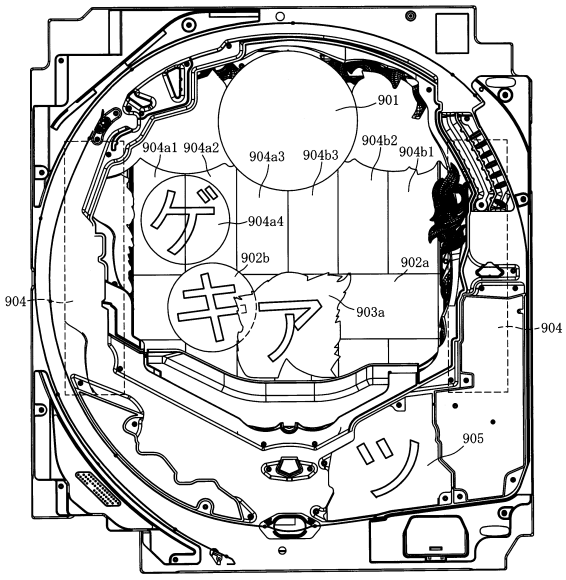
【図１０７３】



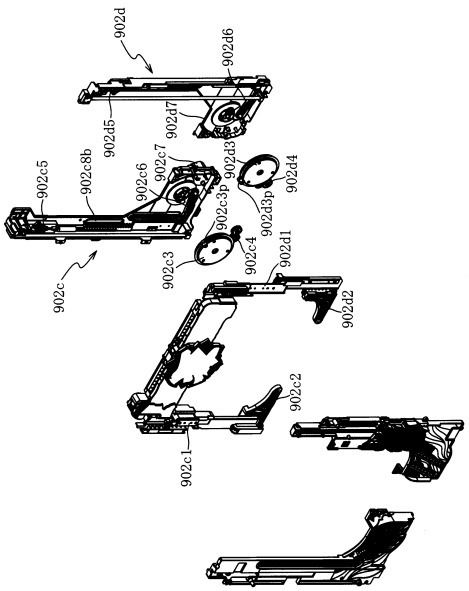
【図１０７４】



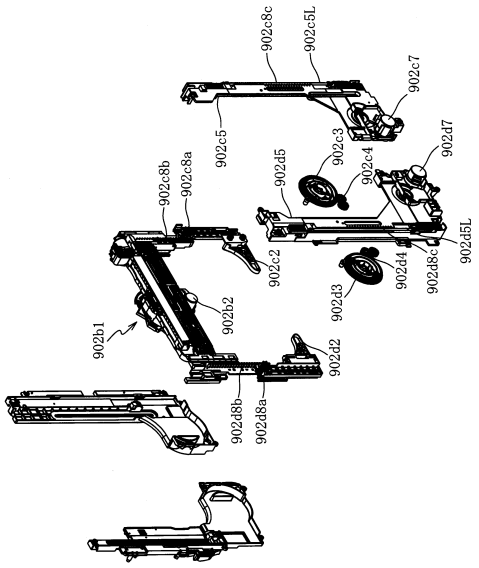
【図１０７５】



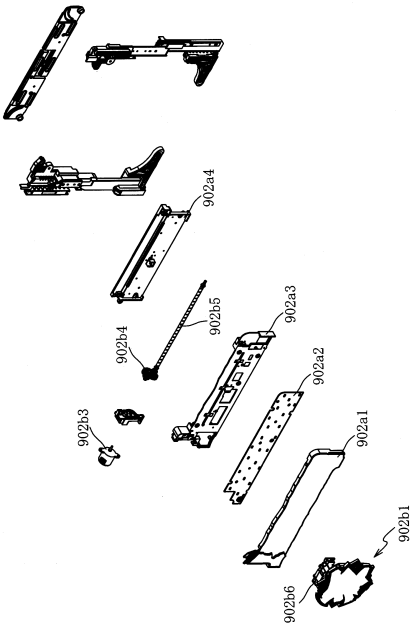
【図１０７６】



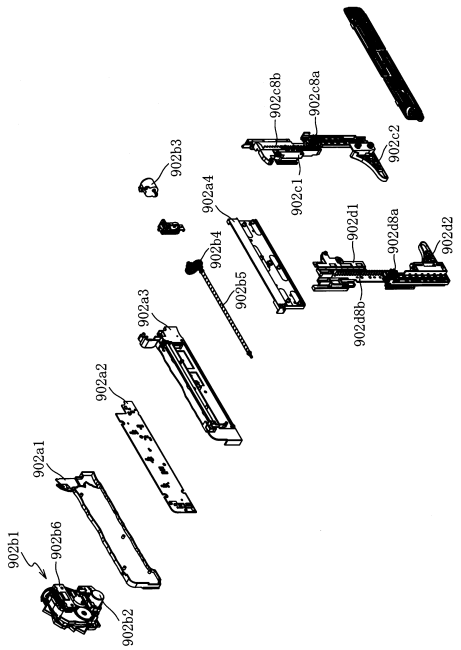
【図１０７７】



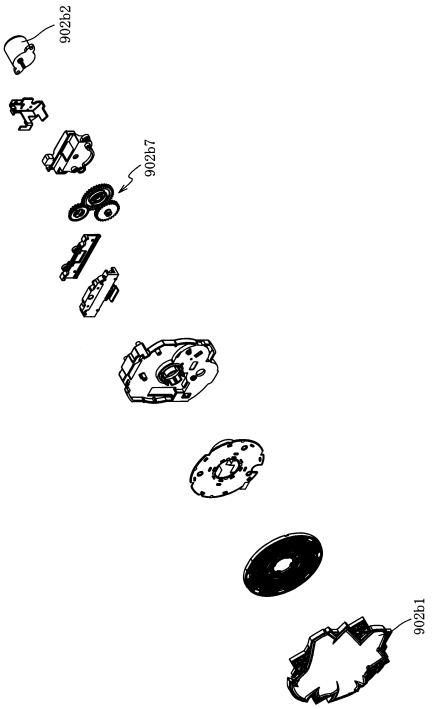
【図１０７８】



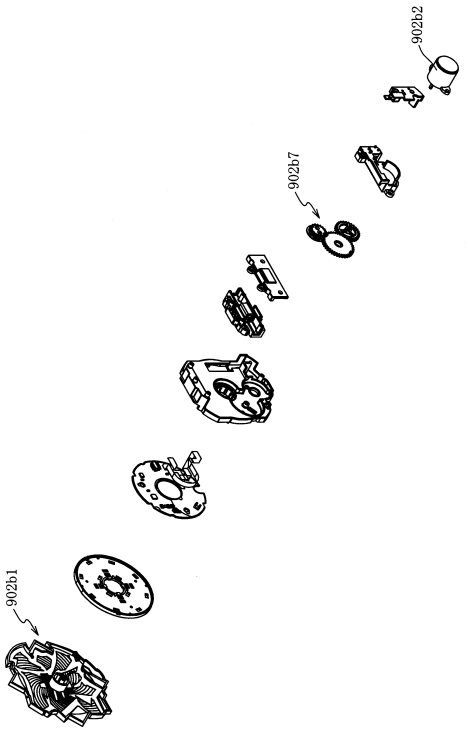
【図１０７９】



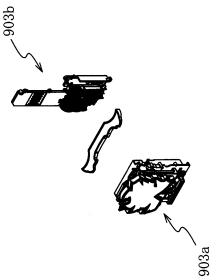
【図１０８０】



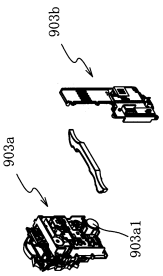
【図１０８１】



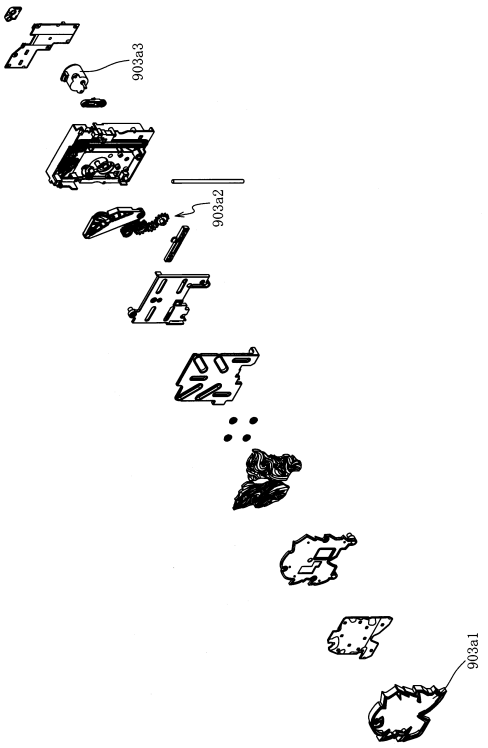
【図１０８２】



【図１０８３】

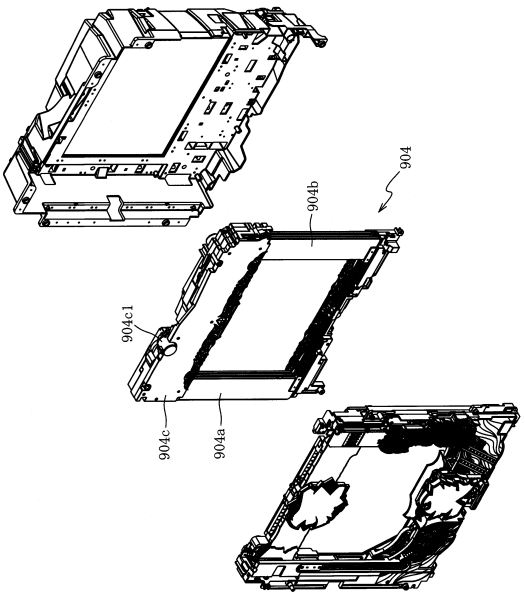


【図１０８４】

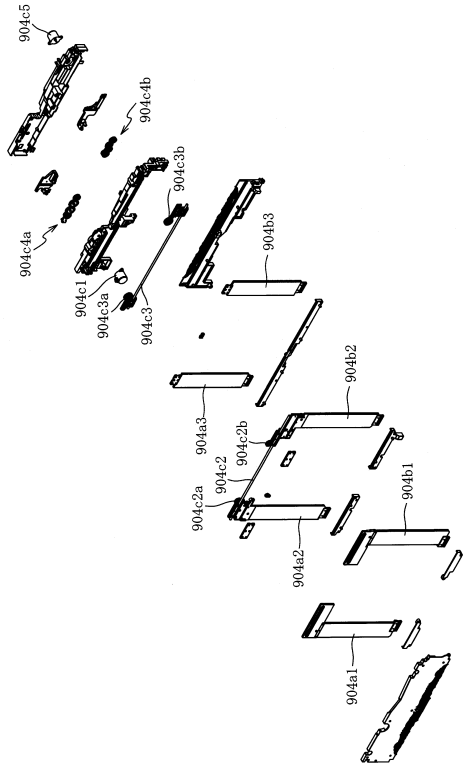


【図１０８５】

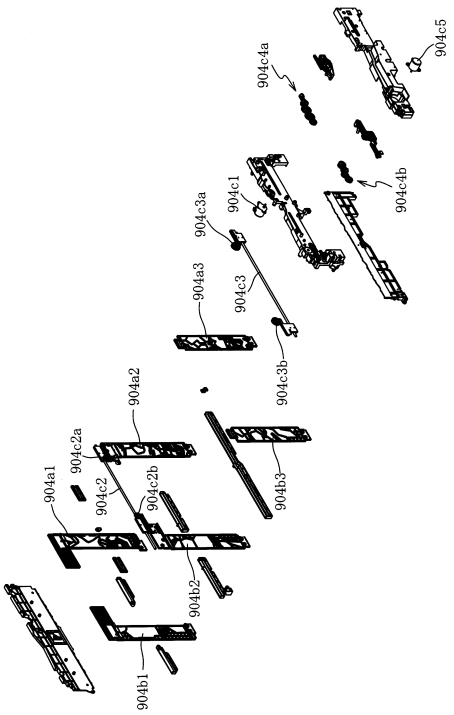
【図１０８６】



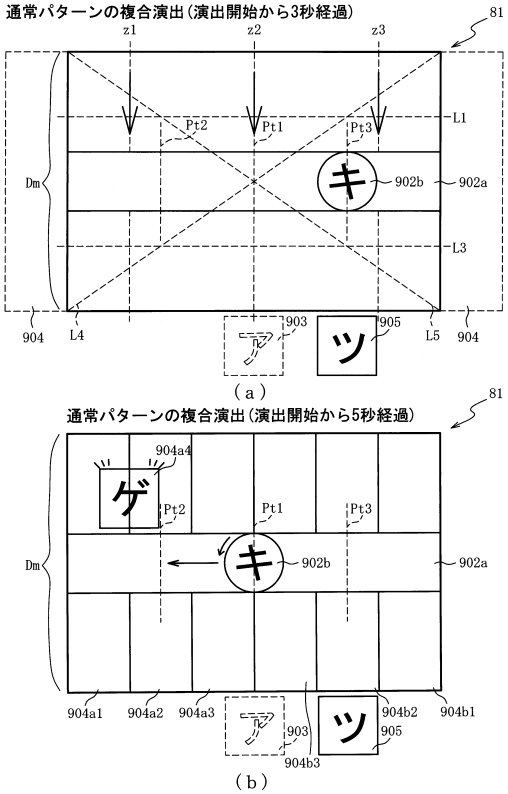
【図１０８７】



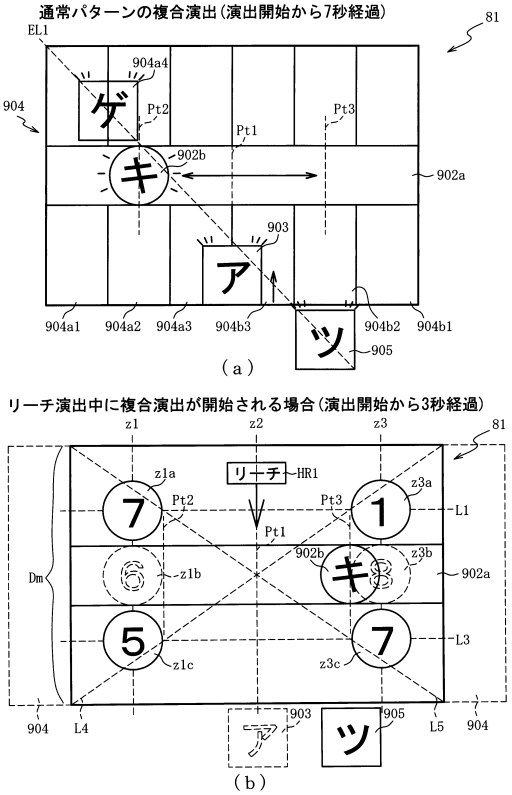
【図１０８８】



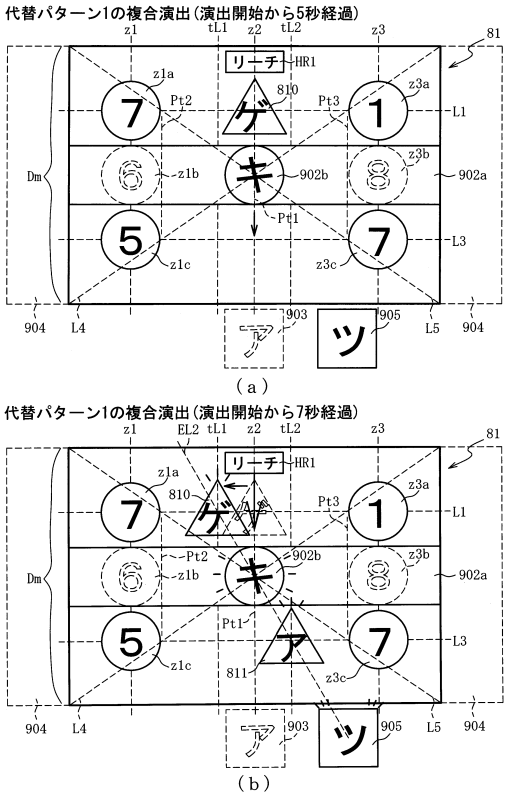
【図１０８９】



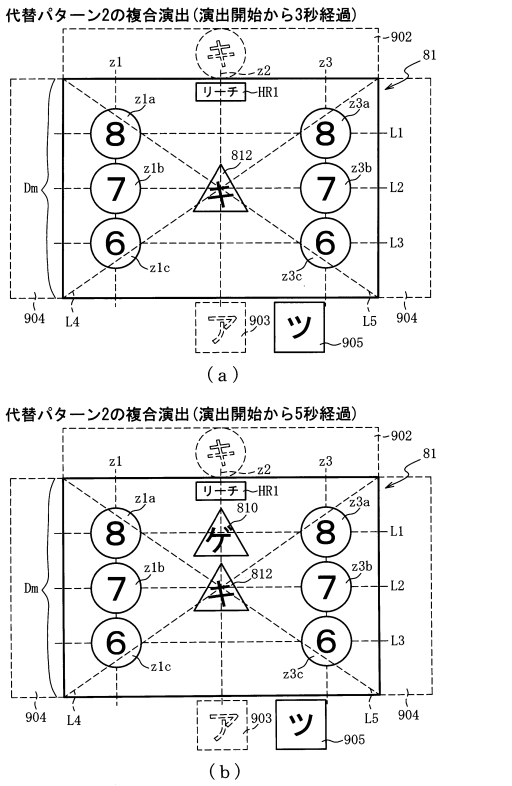
【図１０９０】



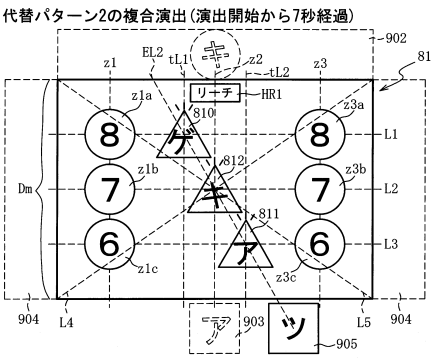
【図１０９１】



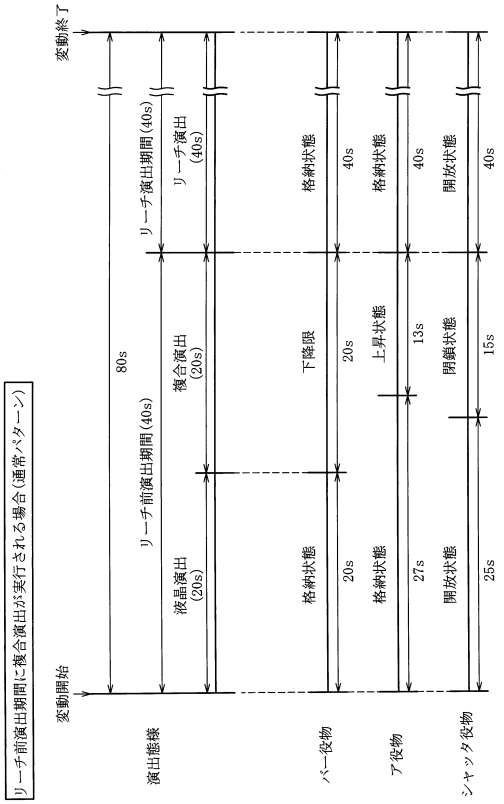
【図１０９２】



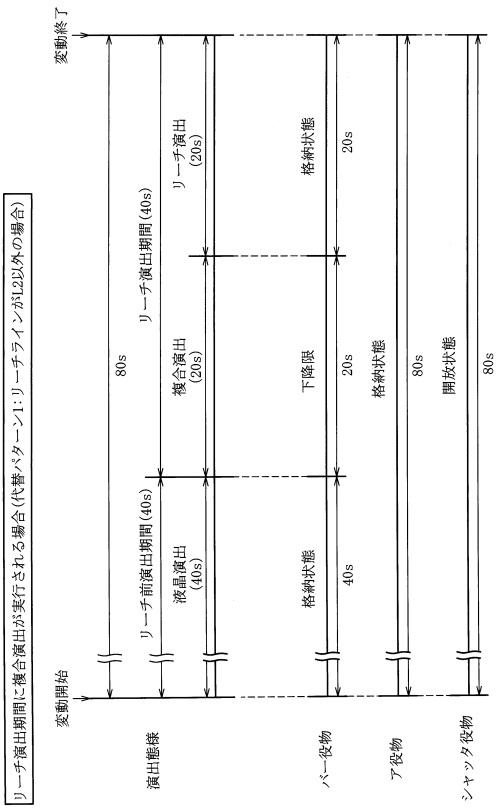
【図１０９３】



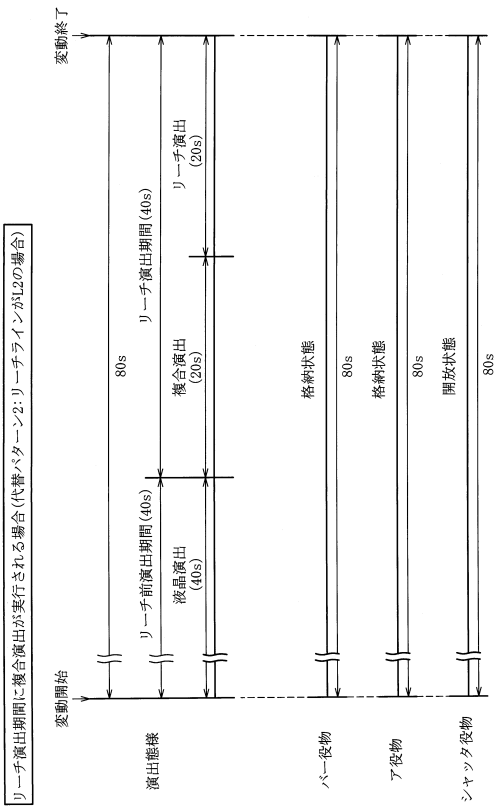
【図１０９４】



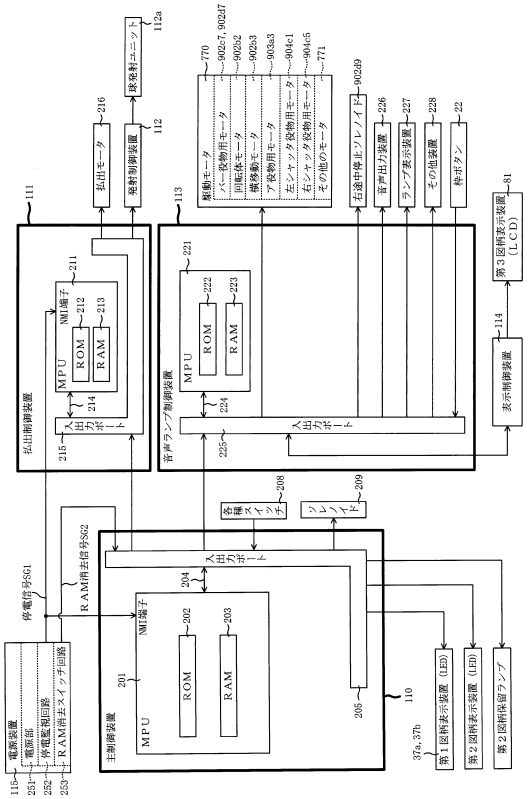
【図１０９５】



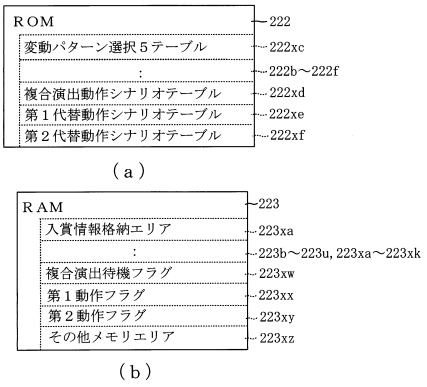
【図１０９６】



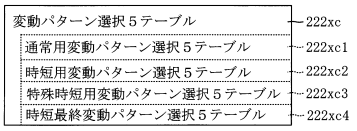
【図１０９７】



【図１０９８】



【図１０９９】



通常用変動パターン選択５テーブル222xc1

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	複合演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	外れ	変動パターンＡａ	なし	0～199
		ガセ外れ	変動パターンＢａ	なし	0～199
		ノーマルリーチ	変動パターンＤａ	なし	0～179
			変動パターンＥａ	あり	180～199
		スーパーリーチ	変動パターンＦａ	なし	0～149
			変動パターンＧａ	あり	150～199
	大当たり	ノーマルリーチ	変動パターンＨａ	なし	0～149
			変動パターンＩａ	あり	150～199
		スーパーリーチ	変動パターンＪａ	なし	0～129
			変動パターンＫａ	あり	130～199
		スペシャルリーチ	変動パターンＬａ	あり	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＭａ	なし	0～199
特図２	外れ	外れ	変動パターンＮａ	なし	0～179
			変動パターンＰａ	あり	180～199
	大当たり小当たり	当たり	変動パターンＱａ	なし	0～149
			変動パターンＲａ	あり	150～199

（ｂ）

【図１１００】

時短用変動パターン選択５テーブル222xc2

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	複合演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	超短外れ	変動パターンＳａ	なし	0～199
	大当たり	短大当たり	変動パターンＴａ	なし	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＵａ	なし	0～189
			変動パターンＶａ	あり	190～199
特図２	外れ	短外れ	変動パターンＷａ	なし	0～199
	大当たり	超短大当たり	変動パターンＸａ	なし	0～199
	小当たり	超短小当たり	変動パターンＹａ	なし	0～199

（ａ）

特殊時短用変動パターン選択５テーブル222xc3

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	複合演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図１	外れ	外れ	変動パターンＺａ	なし	0～199
	大当たり	当たり	変動パターンＡＡａ	なし	0～199
	小当たり	長小当たり	変動パターンＡＢａ	なし	0～199

（ｂ）

時短最終変動パターン選択５テーブル222xc4

特図種別	当否判定結果	変動パターン種別	表示用変動パターン	複合演出	第１演出カウンタＣＳ１（0～199）
特図２	外れ	短外れ	変動パターンＡＣａ	なし	0～199
	大当たり	大当たり	変動パターンＡＤａ	なし	0～199
	小当たり	超短小当たり	変動パターンＡＥａ	なし	0～199
		小当たり	変動パターンＡＦａ	なし	0～199

（ｃ）

【図１１０１】

複合演出動作シナリオテーブル222xd（スピード２：中速）
バー役物上下駆動

222

(a)

シナリオカウンタ値	0	1	250	19250	20000
左バー役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	下降限	下降限	収納
その他	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

【図１１０３】

第１代替動作シナリオテーブル222xe（スピード２：中速）
バー役物上下駆動

222

(a)

シナリオカウンタ値	0	1	250	19250	20000
左バー役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	－
左バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右バー役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	+25/2	－	+75/2	－
右バー役物用ロック	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
右途中停止ソレノイド	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
バー役物位置	収納	収納	下降限	下降限	収納
その他	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

第１代替動作シナリオテーブル222xe（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、スピード４：低速）
回転体役物左右駆動・回転駆動

222

(b)

シナリオカウンタ値	0	1	250	2250	4000	5000	6000	20000
横移動モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+100/4	－	-100/2	－	－	－
回転体モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	+回転/3	-回転/3	-回転/3	回転停止	－
回転体モータ 原点センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ
回転体役物 位置／向き	Ｐｔ１／ 正転	Ｐｔ１／ 正転	Ｐｔ１／ 回転中	Ｐｔ３／ 回転中	Ｐｔ３／ 正転	Ｐｔ１／ 回転中	Ｐｔ１／ 正転	Ｐｔ１／ 正転
その他	－	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

【図１１０２】

複合演出動作シナリオテーブル222xd（スピード１：高速、スピード２：中速、スピード３：中低速、
回転体役物左右駆動・回転駆動

222

(b)

シナリオカウンタ値	0	1	250	2250	4000	5000	6000	18250	20000
横移動モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+100/4	－	-100/2	-100/2	－	-100/2	－
回転体モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+回転/3	+回転/3	-回転/3	-回転/3	回転停止	-回転/2	－
回転体モータ 原点センサデータ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ
回転体役物 位置／向き	Ｐｔ１／ 正転	Ｐｔ１／ 正転	Ｐｔ１／ 回転中	Ｐｔ３／ 回転中	Ｐｔ３／ 正転	Ｐｔ１／ 回転中	Ｐｔ２／ 正転	Ｐｔ２／ 正転	Ｐｔ１／ 正転
その他	－	－	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

【図１１０４】

第１代替動作シナリオテーブル222xe（スピード１：高速）
ア役物上下駆動

222

(a)

シナリオカウンタ値	0	20000
ア役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－
ア役物位置	収納	収納
その他	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

【図１１０２】

複合演出動作シナリオテーブル222xd（スピード１：高速）
ア役物上下駆動

222

(a)

シナリオカウンタ値	0	1	6500	7000	18250	18750	20000
ア役物用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+100/1	－	-100/1	－	－
ア役物位置	収納	収納	収納	上昇限	上昇限	収納	収納
その他	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

第１代替動作シナリオテーブル222xe（スピード２：中速）
シャッタ役物左右駆動

222

(b)

シナリオカウンタ値	0	20000
左シャッタ用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－
右シャッタ用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－
シャッタ役物 開閉状態	開放	開放
その他	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

複合演出動作シナリオテーブル222xd（スピード２：中速）
シャッタ役物左右駆動

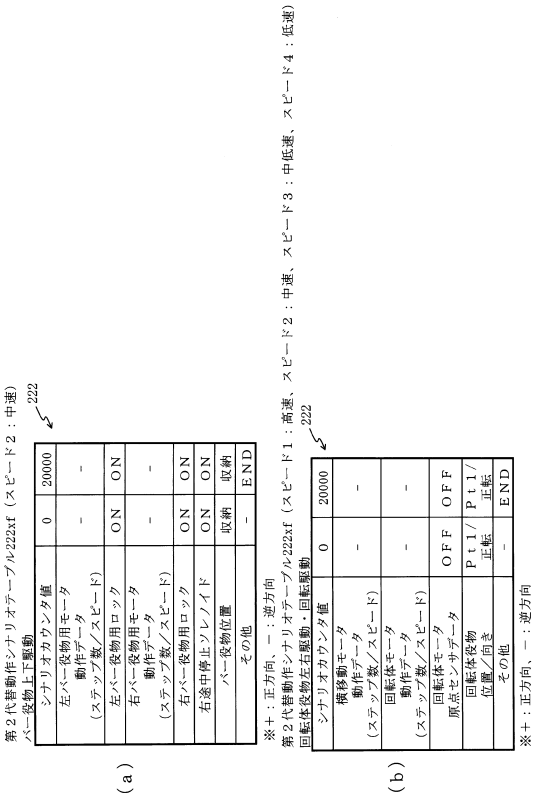
222

(b)

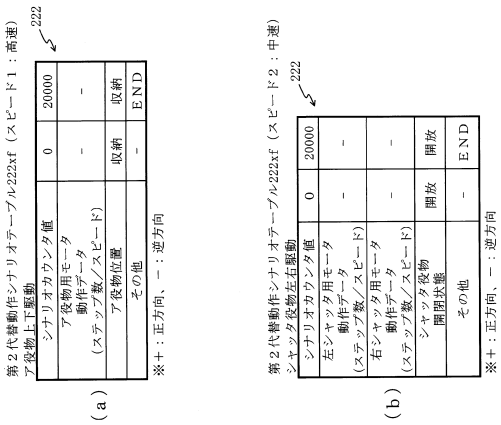
シナリオカウンタ値	0	1	4500	5000	18750	19750	20000
左シャッタ用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+100/2	－	-100/2	－	－
右シャッタ用モータ 動作データ （ステップ数／スピード）	－	－	+100/2	－	-100/2	－	－
シャッタ役物 開閉状態	開放	開放	開放	閉鎖	閉鎖	開放	開放
その他	－	－	－	－	－	－	ＥＮＤ

※＋：正方向、－：逆方向

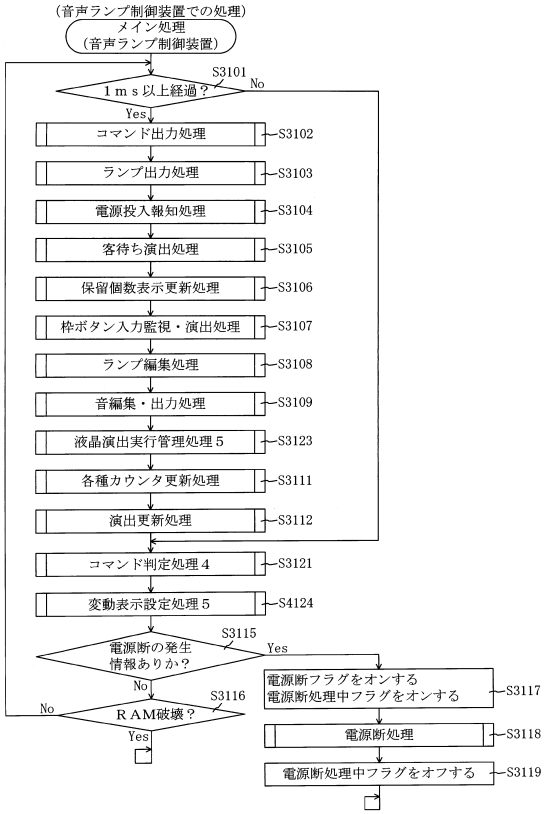
【図１１０５】



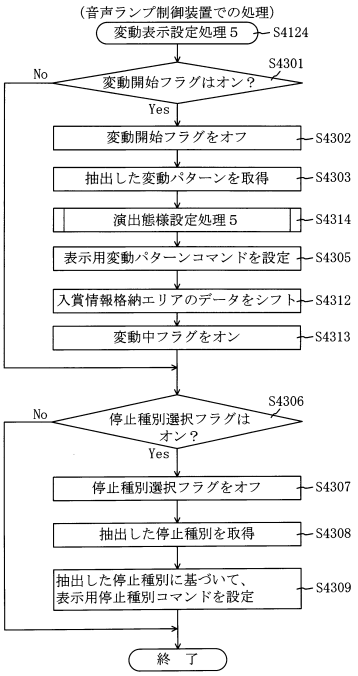
【図１１０６】



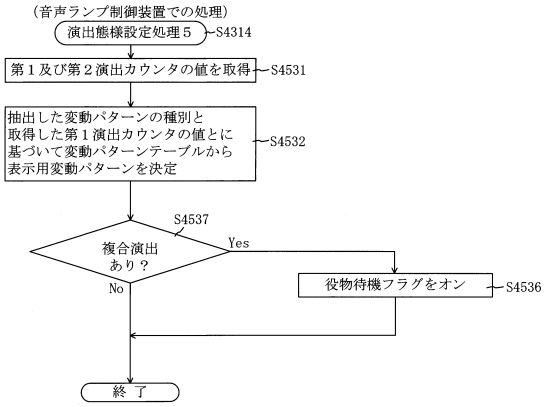
【図１１０７】



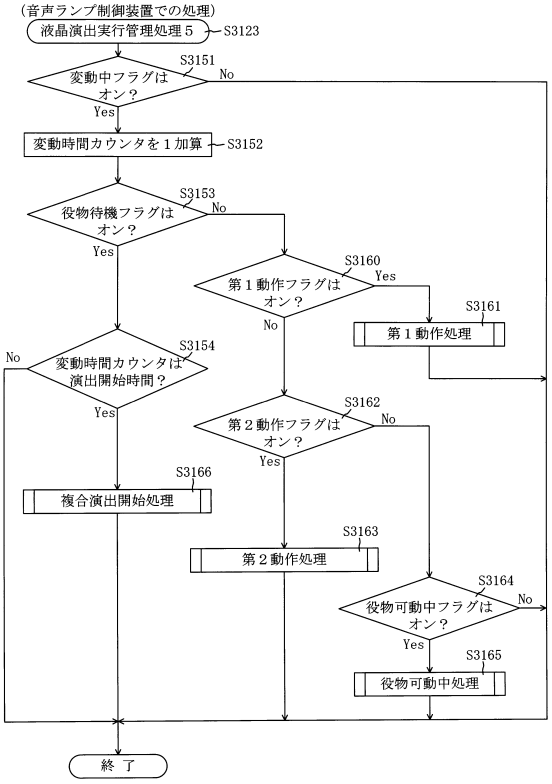
【図１１０８】



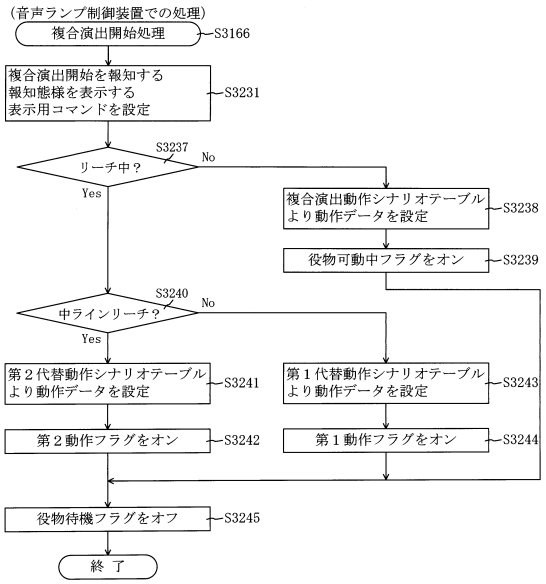
【図１１０９】



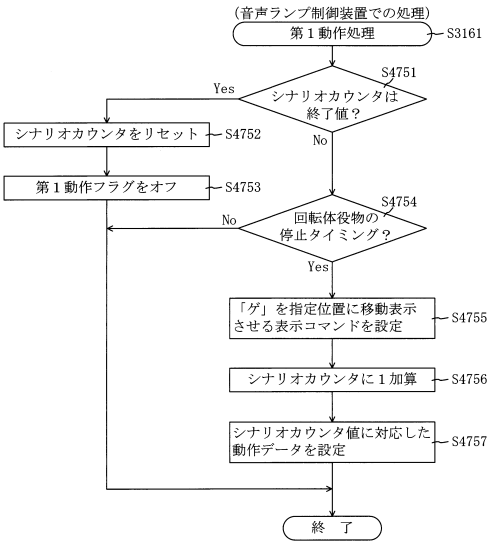
【図１１１０】



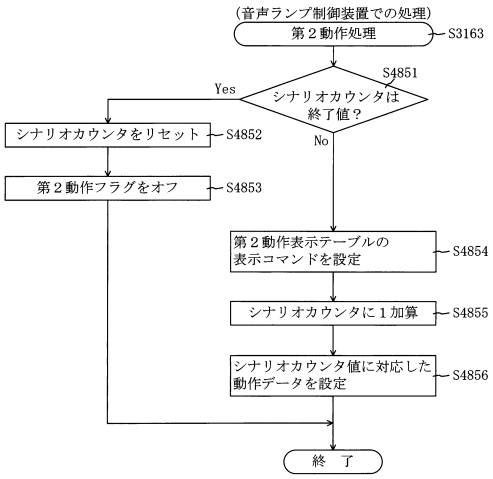
【図１１１１】



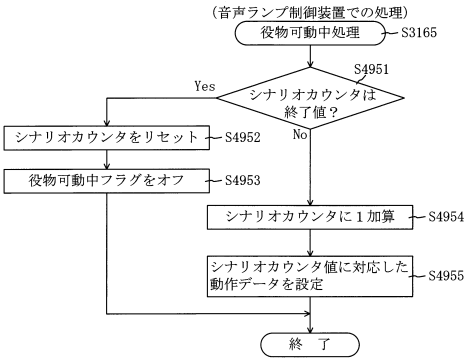
【図１１１２】



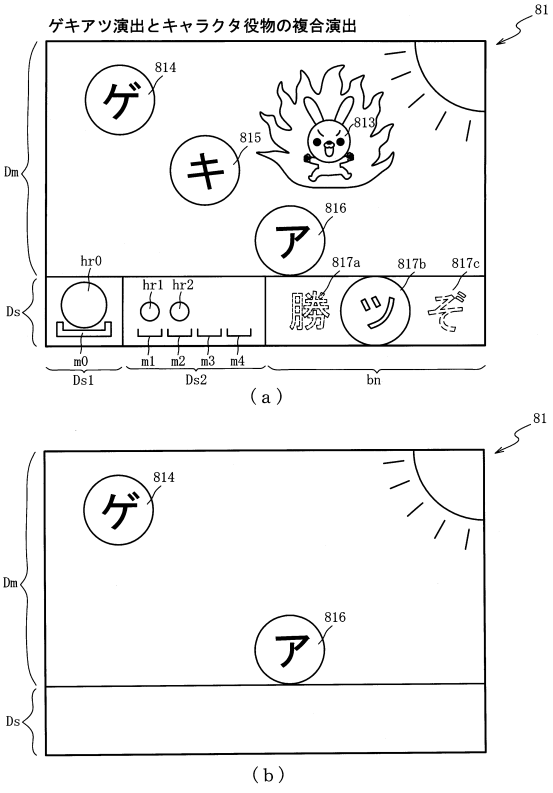
【図１１１３】



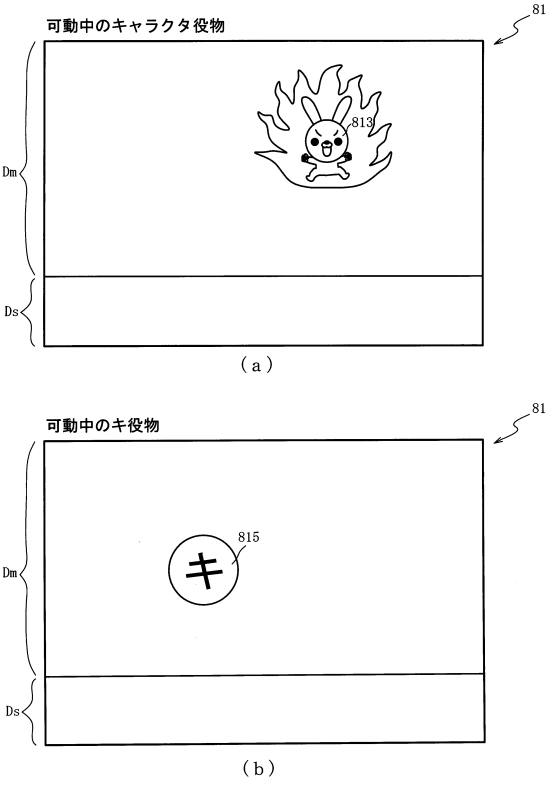
【図１１１４】



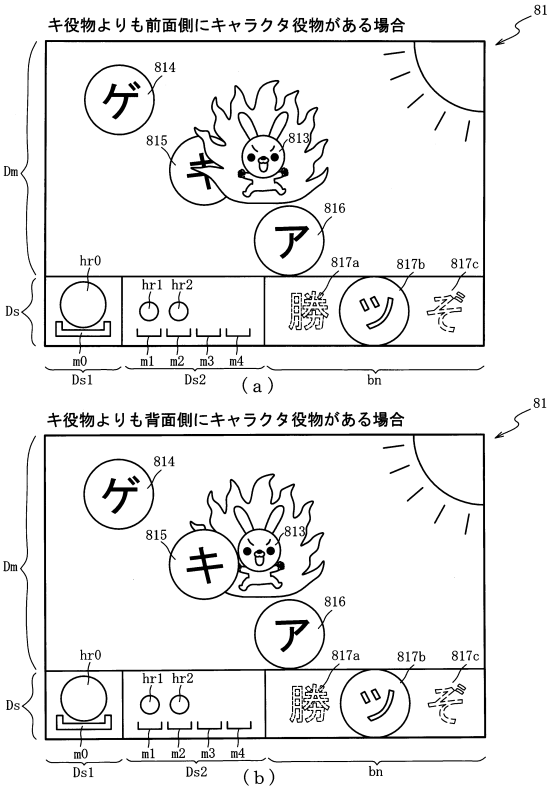
【図１１１５】



【図１１１６】



【図１１１７】



【図１１１８】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202a
大当たり種別選択テーブル	202b
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202ha
時短付与テーブル	202e
小当たり種別選択テーブル	202f
開放シナリオテーブル	202g
状態移行テーブル	202hb
大当たり移行設定テーブル	202hc

【図１１１９】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
特図２カウンタ	203t
その他メモリエリア	203z
状態ステータス	203ha
規定回数カウンタ	203hb

【図１１２０】

変動パターン選択テーブル	202ha
通常用変動パターン１テーブル	202ha1
通常用変動パターン２テーブル	202ha2
通常用変動パターン３テーブル	202ha3
時短用変動パターン１テーブル	202ha4
時短用変動パターン２テーブル	202ha5
時短用変動パターン３テーブル	202ha6

（ａ）

通常用変動パターン１テーブル 202ha1

202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特図１	外れ	外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ 各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ (80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ 各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ (80秒)	30～189
		スペシャルリーチ (140秒)	190～198
	小当たり	長小当たり (90秒)	0～198
特図２	共通	ロング (100秒)	0～198

（ｂ）

【図１１２１】

202

通常用変動パターン２テーブル 202ha2

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		スーパーリーチ(80秒)	180～198
	大当たり	スーパーリーチ(80秒)	30～189
		スペシャルリーチ(140秒)	190～198
	小当たり	長小当たり(90秒)	0～198
特図２	共通	ロング(100秒)	0～198

（ａ）

202

通常用変動パターン３テーブル 202ha3

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	共通	ミドル(20秒)	0～139
特図２	共通	ミドル(20秒)	0～198

（ｂ）

【図１１２２】

202

時短用変動パターン１テーブル 202ha4

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ（0.5秒）	0～198
	大当たり	短大当たり（2秒）	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	0～198
特図２	外れ	短外れ（1秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	0～198
	大当たり	超短大当たり（1秒）	0～198

（ａ）

202

時短用変動パターン２テーブル 202ha5

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(20秒)	0～198
	大当たり	当たり(20秒)	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	0～198
特図２	外れ	短外れ（1秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	0～198
	大当たり	超短大当たり（1秒）	0～198

（ｂ）

【図１１２３】

202

時短用変動パターン３テーブル 202ha6

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(20秒)	0～198
	大当たり	当たり(20秒)	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	0～198
特図２	外れ	外れ（30秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	0～99
		小当たり(20秒)	100～198
	大当たり	大当たり（20秒）	0～198

【図１１２４】

（ａ）

状態移行テーブル 202hb
- 状態移行１テーブル 202hb1
- 状態移行２テーブル 202hb2
- 状態移行３テーブル 202hb3
- 状態移行４テーブル 202hb4
- 状態移行５テーブル 202hb5
- 状態移行６テーブル 202hb6

（ｂ）

202

状態移行１テーブル202hb1

状態ステータス	ＳＴ１
変動パターンテーブル	通常１
移行条件	特図変動２０回
移行先	ＳＴ２
遊技状態	通常状態

（ｃ）

202

状態移行２テーブル202hb2

状態ステータス	ＳＴ２
変動パターンテーブル	通常２
移行条件	特図変動８０回
移行先	ＳＴ１
遊技状態	通常状態

（ｄ）

202

状態移行３テーブル202hb3

状態ステータス	ＳＴ３
変動パターンテーブル	通常３
移行条件	特図変動１回
移行先	ＳＴ１
遊技状態	通常状態

【図１１２５】

（ａ）

状態移行４テーブル202hb4　202

状態ステータス	ＳＴ４
変動パターンテーブル	時短１
移行条件１	特図１変動４回 or 特図２変動１回
移行先１	ＳＴ５
移行条件２	小当たり当選
移行先２	ＳＴ３
遊技状態	時短状態

（ｂ）

状態移行５テーブル202hb5　202

状態ステータス	ＳＴ５
変動パターンテーブル	時短２
移行条件１	特図１変動１回 or 特図２変動１回
移行先１	ＳＴ６
移行条件２	小当たり当選
移行先２	ＳＴ３
遊技状態	時短状態

（ｃ）

状態移行６テーブル202hb6　202

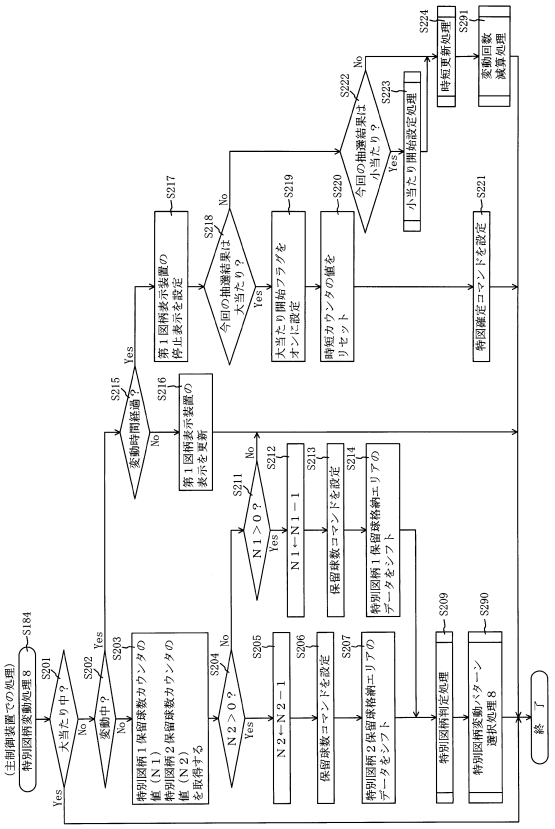
状態ステータス	ＳＴ６
変動パターンテーブル	時短３
移行条件１	特図１変動５回 or 特図２変動１回
移行先１	ＳＴ３
遊技状態	時短状態

【図１１２６】

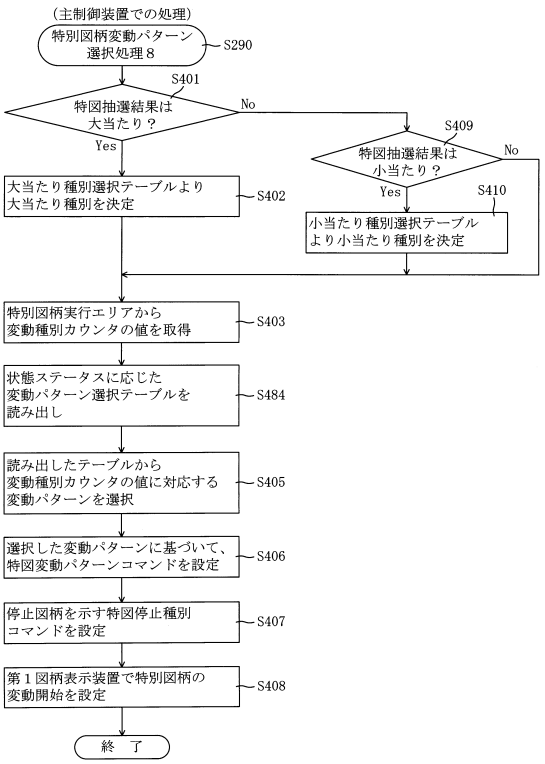
大当たり移行設定テーブル　202hc　202

大当たり種別	移行先ＳＴ
大当たりＡ（6Ｒ時短3回大当たり）	ＳＴ４
大当たりＢ（6Ｒ時短無し大当たり）	ＳＴ１
大当たりＣ（9Ｒ時短3回大当たり）	ＳＴ４
大当たりＤ（3Ｒ時短3回大当たり）	ＳＴ４

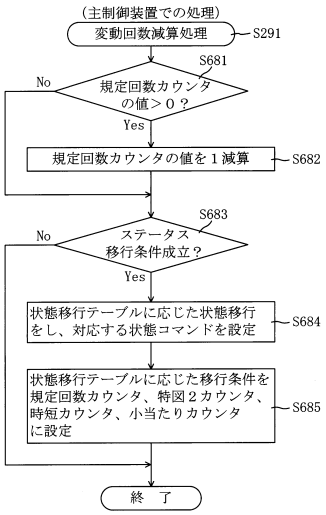
【図１１２７】



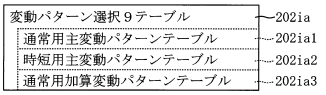
【図１１２８】



【図１１２９】



【図１１３０】



（ａ）

202

通常用主変動パターンテーブル202ia1

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動時間値（２ｍｓ毎に更新）	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
特図１	外れ	外れ	3500（7秒）	0～139
		ガセ外れ(20秒)	15000（20秒）	140～149
		ノーマルリーチ各種(40秒)	20000（40秒）	150～179
		スーパーリーチ(90秒)	45000（90秒）	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種(40秒)	20000（40秒）	0～29
		スーパーリーチ(90秒)	45000（90秒）	30～198
	小当たり	長小当たり(120秒)	60000（120秒）	0～198
特図２	共通	ロング(100秒)	50000（100秒）	0～198

（ｂ）

【図１１３１】

202

時短用主変動パターンテーブル202ia2

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動時間値（２ｍｓ毎に更新）	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
特図１	外れ	超短外れ（0.5秒）	250（0.5秒）	0～198
	大当たり	短大当たり（2秒）	1000（2秒）	0～198
	小当たり	長小当たり（90秒）	45000（90秒）	0～198
特図２	外れ	短外れ（1秒）	500（1秒）	0～198
	小当たり	超短小当たり（1秒）	500（1秒）	0～198
	大当たり	超短大当たり（1秒）	500（1秒）	0～198

（ａ）

202

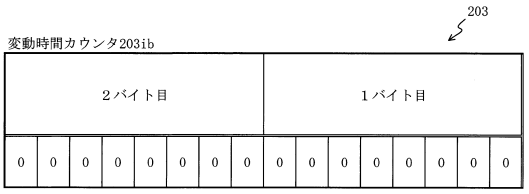
通常用加算変動パターンテーブル202ia3

図柄種別	抽選結果	対応演出	加算変動時間値（２ｍｓ毎に更新）	第２変動種別カウンタＣＳ１１（0～198）
特図１	外れ	無し	－	0～180
		擬似連１回	5000（10秒）	181～190
		擬似連２回	10000（20秒）	191～196
		擬似連３回	15000（30秒）	197,198
	大当たり	無し	－	0～99
		擬似連１回	5000（10秒）	100～104
		擬似連２回	10000（20秒）	105～134
		擬似連３回	15000（30秒）	135～194
		擬似連４回	20000（40秒）	195～198
	小当たり	－	－	0～198
特図２	共通	無し		0～198

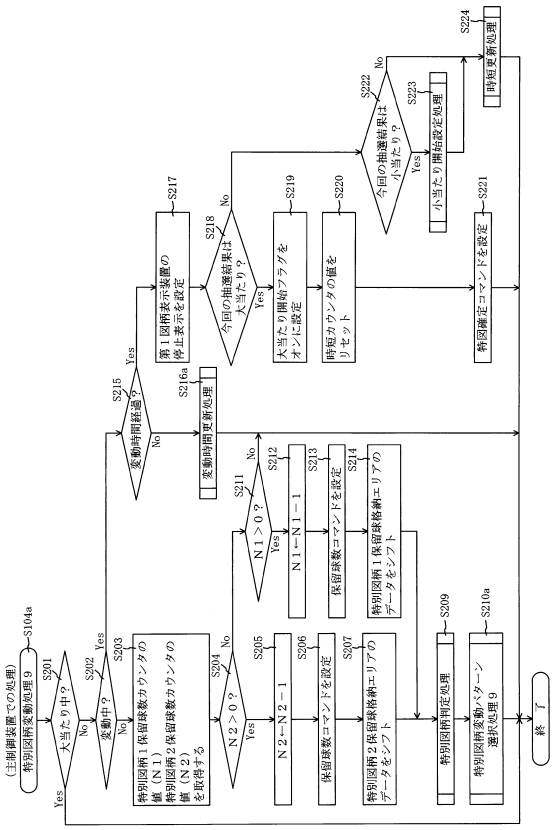
（ｂ）

【図１１３２】

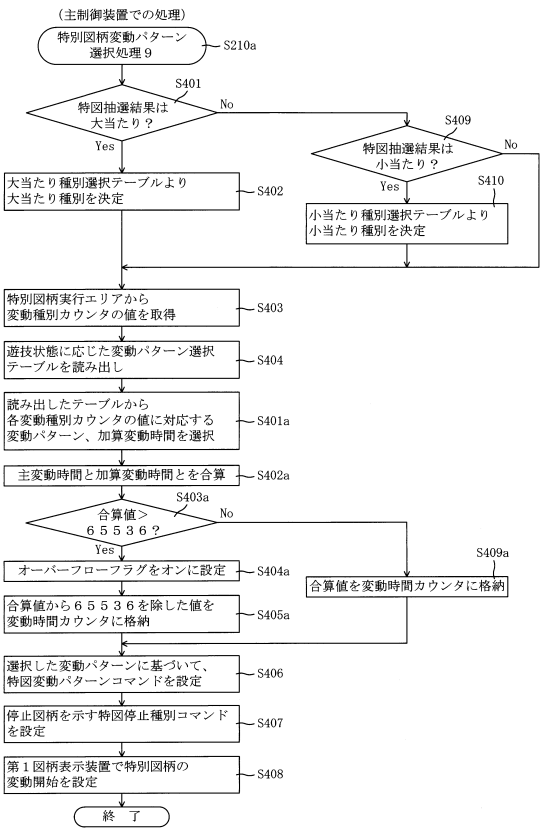
【図１１３３】



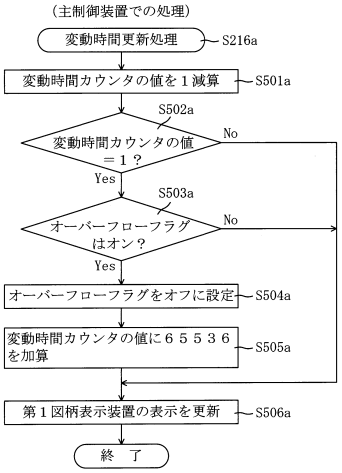
【図１１３４】



【図１１３５】

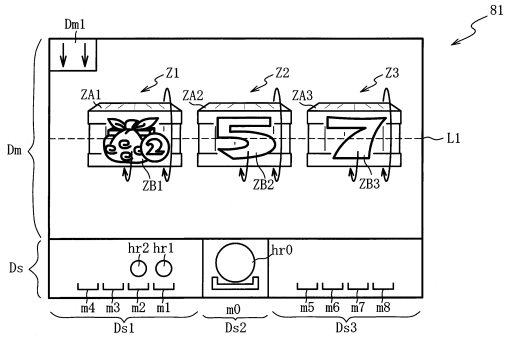


【図１１３６】



【図１１３７】

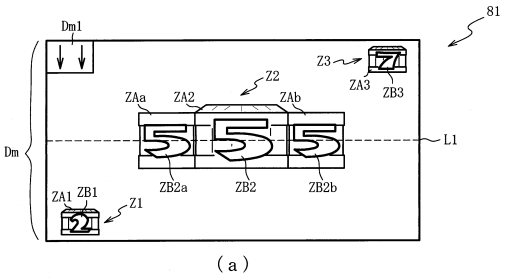
第3図柄変動中の表示画面



（ａ）

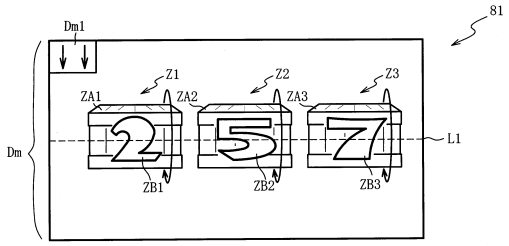
【図１１３８】

展開演出の表示画面



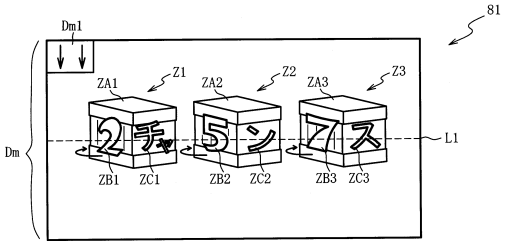
（ａ）

遅れ演出開始時の表示画面



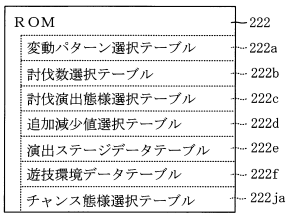
（ｂ）

横回転演出の表示画面



（ｂ）

【図１１３９】



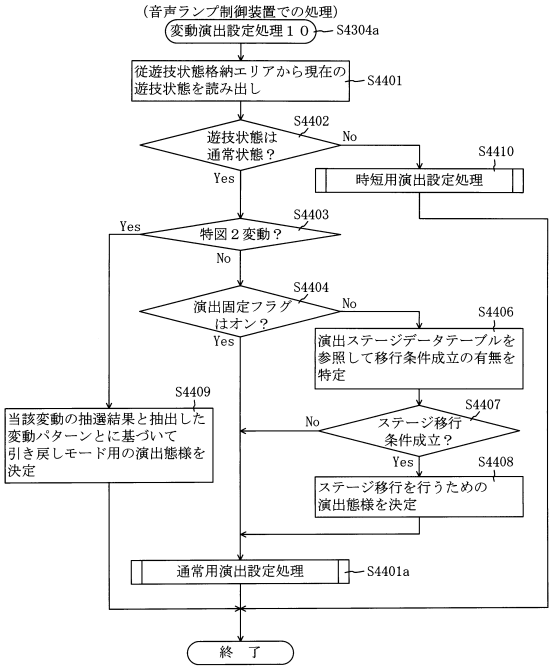
【図１１４０】

222

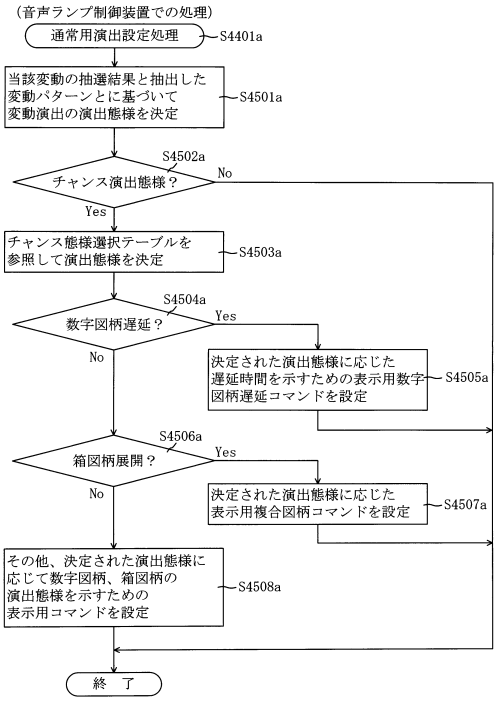
チャンス態様選択テーブル222ja

当否判定	第２演出カウンタ 223f2 (0～99)	態様種別	追加演出態様	
			箱図柄	数字図柄
当たり	0～49	遅れ	通常	0.2秒始動遅れ
	50～69	展開	56秒後に展開	56秒後に非表示
	70～74	逆転	逆回転	通常
	75～79	横回転	横回転	非表示
	80～99	なし	－	－
外れ	0～29	遅れ	通常	0.2秒始動遅れ
	30～32	逆転	逆回転	通常
	33,34	横回転	横回転	非表示
	35～99	なし	－	－

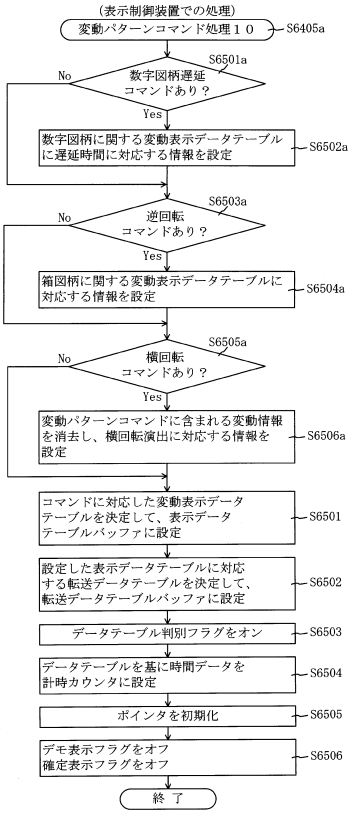
【図１１４１】



【図１１４２】

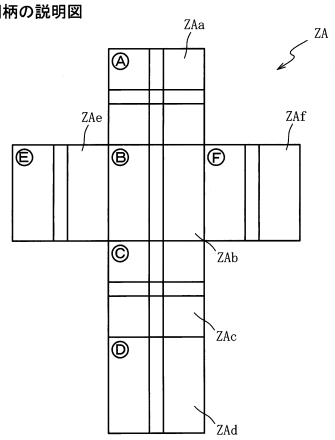


【図１１４３】



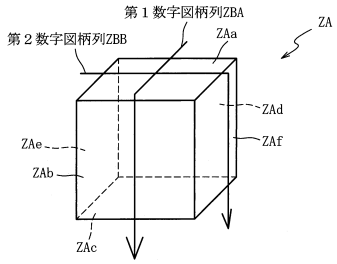
【図１１４４】

箱図柄の説明図



【図１１４５】

箱図柄と数字図柄との対応図



（ａ）

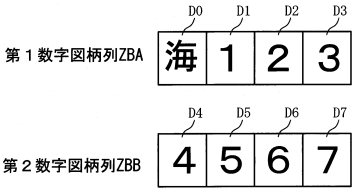
数字図柄列表示パターン

箱面ZAb, ZAd	⇒	第１数字図柄列　表示 第２数字図柄列　非表示
箱面ZAe, ZAf	⇒	第１数字図柄列　非表示 第２数字図柄列　表示
箱面ZAa, ZAc	⇒	回転前の図柄列の 表示を引き継ぎ

（ｂ）

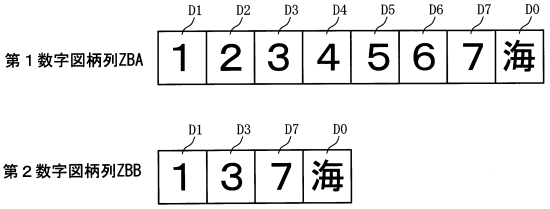
【図１１４６】

数字図柄列にセットされる図柄データ例１



（ａ）

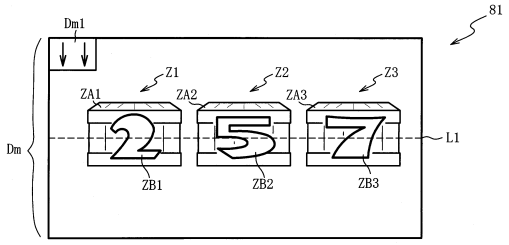
数字図柄列にセットされる図柄データ例２



（ｂ）

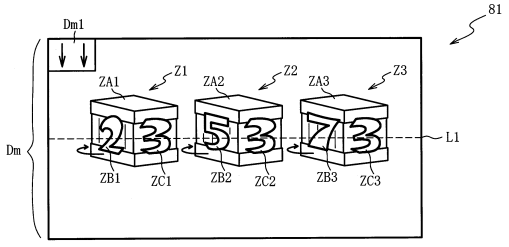
【図１１４７】

ハズレ図柄停止時の表示画面



（ａ）

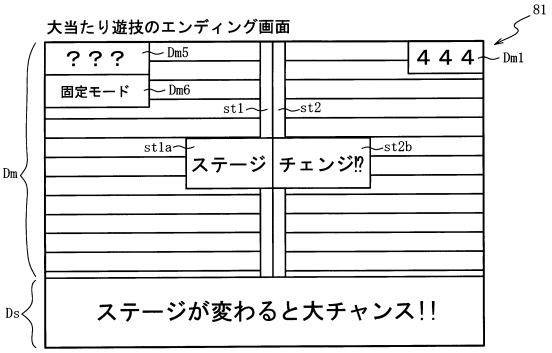
横回転演出の表示画面



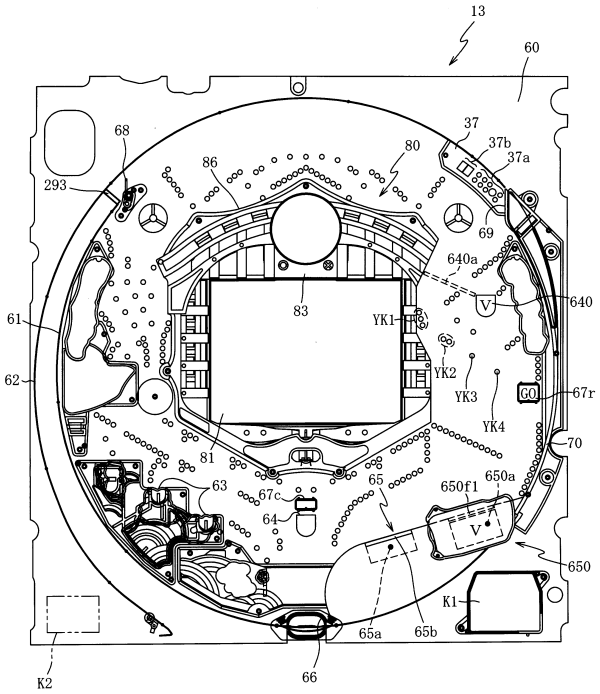
（ｂ）

【図１１４８】

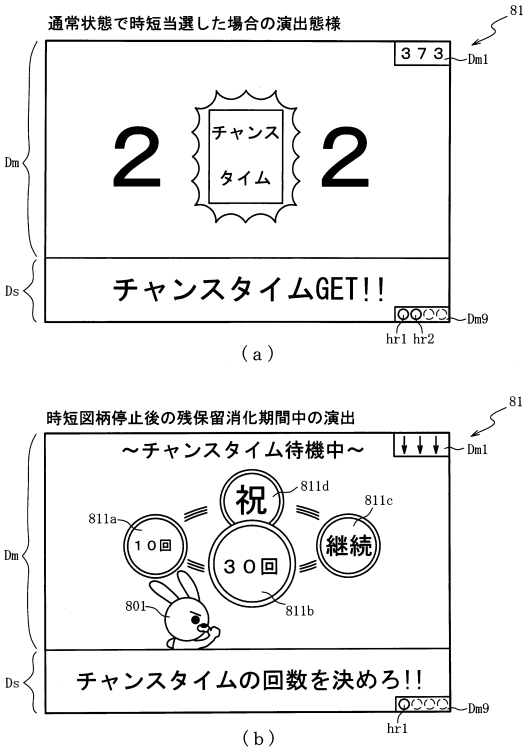
大当たり遊技のエンディング画面



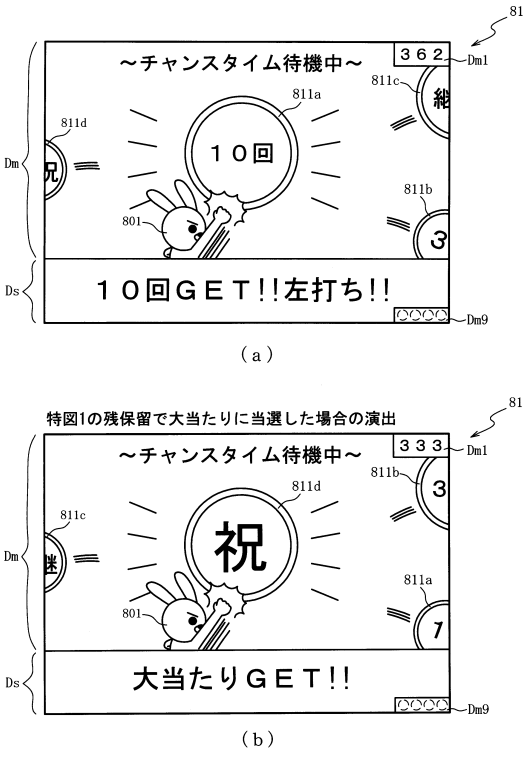
【図１１４９】



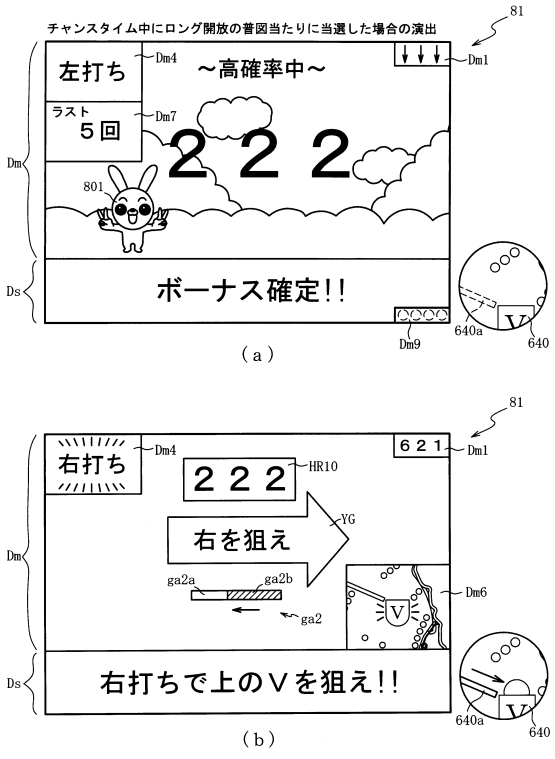
【図１１５０】



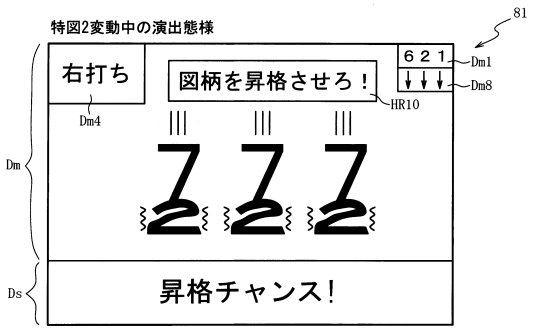
【図１１５１】



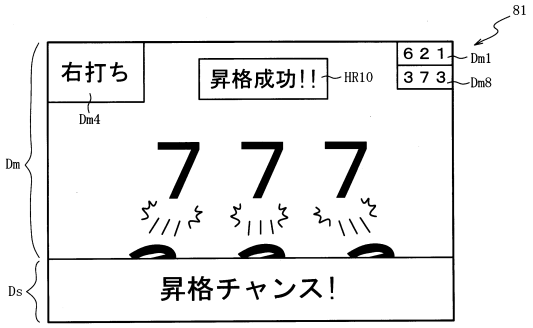
【図１１５２】



【図１１５３】

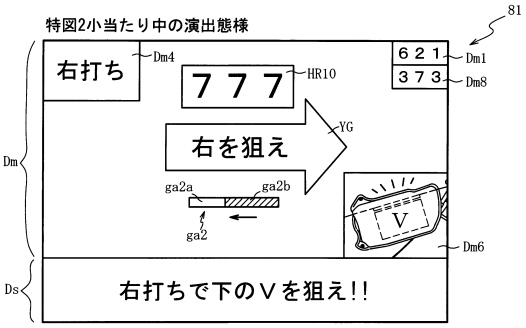


（ａ）

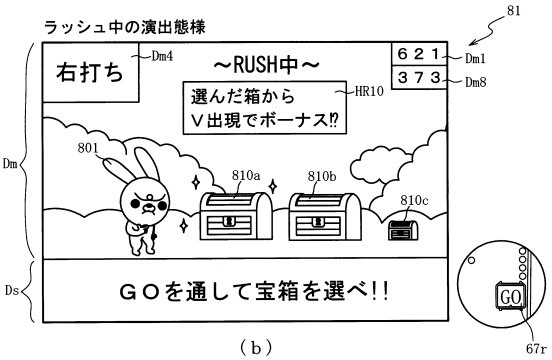


（ｂ）

【図１１５４】

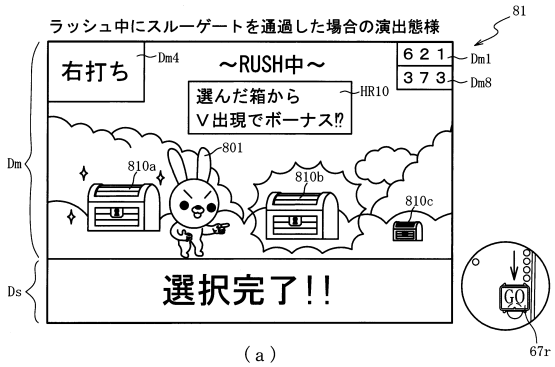


（ａ）

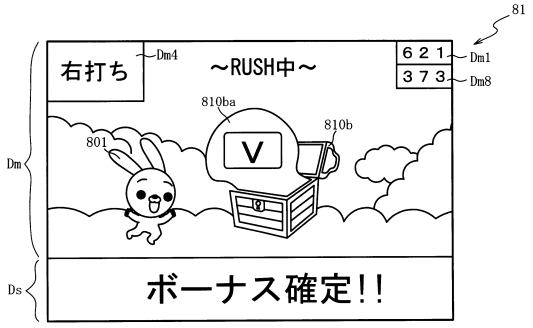


（ｂ）

【図１１５５】

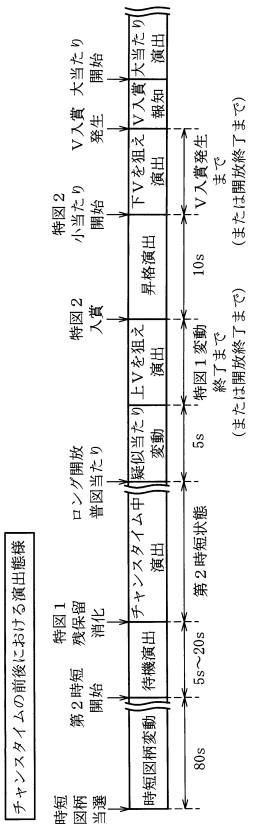


（ａ）

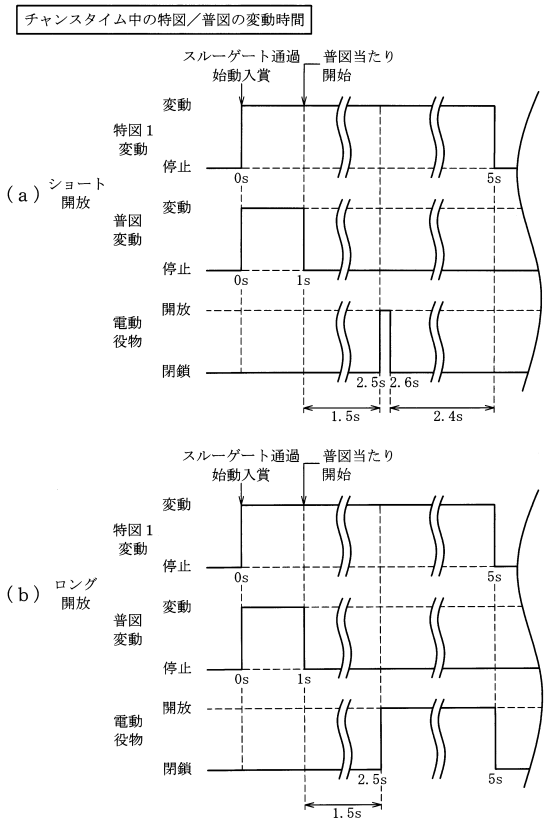


（ｂ）

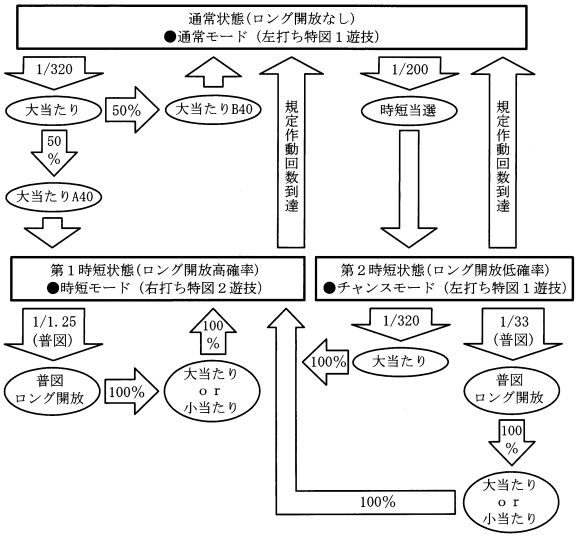
【図１１５６】



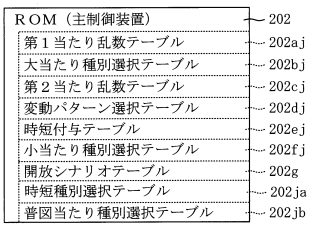
【図１１５７】



【図１１５８】



【図１１５９】



ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202aj
大当たり種別選択テーブル	202bj
第２当たり乱数テーブル	202cj
変動パターン選択テーブル	202dj
時短付与テーブル	202ej
小当たり種別選択テーブル	202fj
開放シナリオテーブル	202g
時短種別選択テーブル	202ja
普図当たり種別選択テーブル	202jb

（ａ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
普電作動カウンタ	203ja
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図１１６０】

（ａ）

202

特別図柄１乱数テーブル202aj1

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	－
時短図柄判定値	205～532

（ｂ）

202

特別図柄２乱数テーブル202aj2

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	205～65535
時短図柄判定値	－

（ｃ）

202

大当たり種別選択テーブル202bj

特別図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ４０（4R時短１回大当たり）	0～49
	大当たりＢ４０（4R時短無し大当たり）	50～99
特図２	大当たりＣ４０（10R時短１回大当たり）	0～99

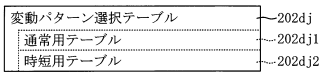
【図１１６１】

（ａ）

第２当たり乱数テーブル202cj　202

遊技状態	第２当たり乱数カウンタ Ｃ４（0～299）
普通図柄の通常状態	0～299
普通図柄の時短状態	0～299

（ｂ）



（ｃ）

通常用テーブル202dj1　202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特図１	外れ	外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ 各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ (80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ 各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ (80秒)	30～189
		スペシャルリーチ (140秒)	190～198
	時短図柄	スーパーリーチ (80秒)	0～198
特図２	大当たり	当たり (10秒)	0～198
	小当たり	小当たり (10秒)	0～198

【図１１６２】

時短用テーブル202dj2　202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特図１	外れ	短外れ(5秒)	0～198
	大当たり	短当たり(5秒)	0～198
	時短図柄	短突時(5秒)	0～198
特図２	大当たり	当たり (10秒)	0～198
	小当たり	小当たり (10秒)	0～198

（ａ）

時短付与テーブル202ej　202

大当たり種別	当選時の遊技状態	時短付与内容（回数）		
		時短 カウンタ 203h	小当たり カウンタ 203s	普電作動 カウンタ 203ja
大当たりＡ４０（4R）， Ｃ４０（10R），Ｄ４０（3R）	共通	10	1	1
大当たりＢ４０ (4R)	通常状態	－	－	－
	時短状態	10	1	1
時短図柄Ａ４０	通常状態	14	1	10
	時短状態	1004	1	1000
時短図柄Ｂ４０	通常状態	34	1	30
	時短状態	1004	1	1000
時短図柄Ｃ４０	通常状態	54	1	50
	時短状態	1004	1	1000
時短図柄Ｄ４０	通常状態	104	1	100
	時短状態	1004	1	1000
時短図柄Ｅ４０	共通	1004	1	1000

（ｂ）

【図１１６３】

（ａ）

小当たり種別選択テーブル202fj　202

特別図柄種別	小当たり種別	小当たり種別 カウンタ値 Ｃ５(0～99)
特図２	小当たりＡ４０ （Ｖ通過時大当たりＣ４０）	0～79
	小当たりＢ４０ （Ｖ通過時大当たりＤ４０）	80～99

（ｂ）

時短種別選択テーブル202ja　202

時短図柄種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２(0～99)
時短図柄Ａ４０ (時短10回)	0～89
時短図柄Ｂ４０ (時短30回)	90～94
時短図柄Ｃ４０ (時短50回)	95～97
時短図柄Ｄ４０ (時短100回)	98
時短図柄Ｅ４０ (時短1000回)	99

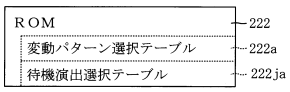
（ｃ）

普図当たり種別選択テーブル202jb　202

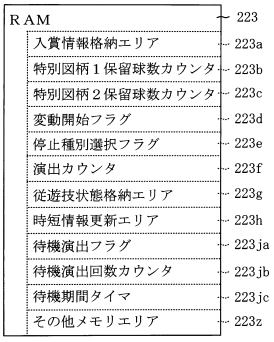
遊技状態	普図当たり種別	第２当たり種別 カウンタ値Ｃ６(0～99)
通常状態	普図当たりＡ （ショート開放）	0～99
	普図当たりＢ （ロング開放）	－
第１時短状態	普図当たりＡ （ショート開放）	0～19
	普図当たりＢ （ロング開放）	20～99
第２時短状態	普図当たりＡ （ショート開放）	0～96
	普図当たりＢ （ロング開放）	97～99

【図１１６４】

（ａ）



（ｂ）



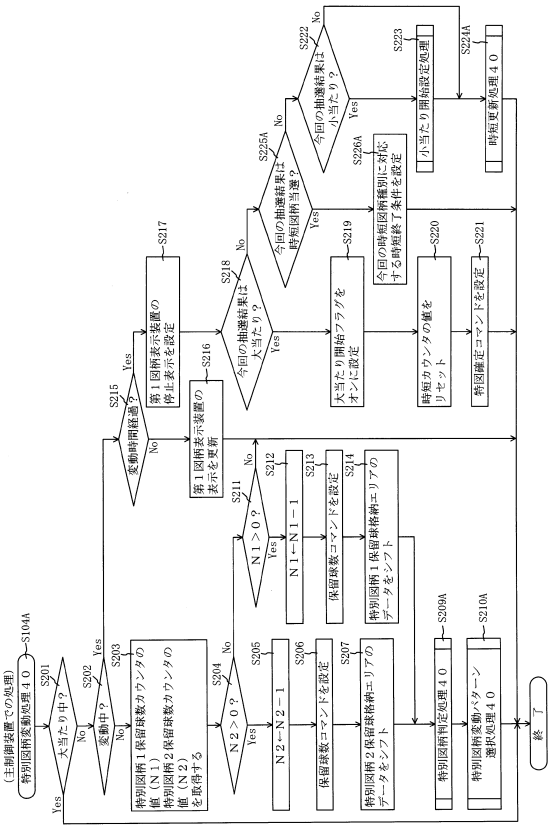
【図１１６５】

222

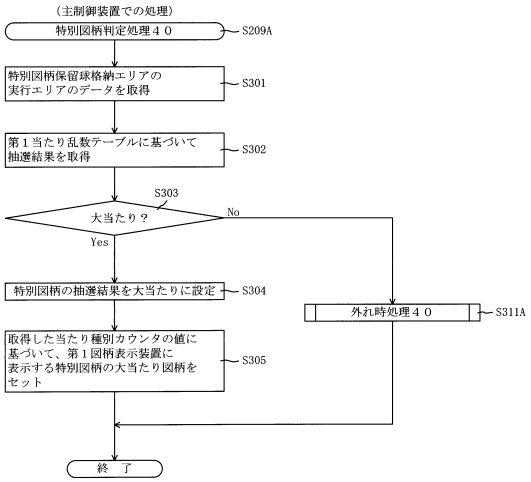
待機演出選択テーブル222ja

時短回数	開始時の状況	報知アイコン	アイコンの組合せ	第１演出カウンタ223f1 (0～99)
共通	当たり変動開始	祝	10回／30回／継続／祝	0～49
			100回／∞／継続／祝	50～89
			∞／∞／祝／祝	90～99
10回	外れ変動開始（保留無し）／変動停止状態	10回	10回／30回／継続／祝	0～79
			10回／30回／50回／継続	80～98
			10回／100回／∞／継続	99
	外れ変動開始（保留有り）	継続	10回／10回／10回／継続	0～94
			10回／30回／50回／継続	95～99
30回	外れ変動開始（保留無し）／変動停止状態	30回	10回／10回／30回／継続	0～39
			10回／30回／50回／継続	40～98
			30回／∞／継続／祝	99
	外れ変動開始（保留有り）	継続	10回／10回／10回／継続	0～94
			10回／30回／50回／継続	95～98
			30回／100回／継続／祝	99
50回	外れ変動開始（保留無し）／変動停止状態	30回	10回／30回／継続／祝	0～9
			10回／30回／50回／継続	10～12
			30回／∞／継続／祝	13,14
		50回	10回／30回／50回／継続	15～89
			50回／100回／∞／継続	90～99
	外れ変動開始（保留有り）	継続	10回／10回／10回／継続	0～79
			10回／30回／50回／継続	80～94
			30回／100回／継続／祝	95～99
100回	外れ変動開始（保留無し）／変動停止状態	50回	10回／30回／50回／継続	0～14
			50回／100回／∞／継続	15～24
		100回	10回／100回／∞／継続	25～69
			50回／100回／∞／継続	70～99
	外れ変動開始（保留有り）	継続	10回／10回／10回／継続	0～49
			10回／30回／50回／継続	50～89
			30回／100回／継続／祝	90～98
			100回／∞／継続／祝	99
1000回	外れ変動開始（保留無し）／変動停止状態	100回	50回／100回／∞／継続	0～49
		∞	10回／100回／∞／継続	50～64
			50回／100回／∞／継続	65～98
			∞／∞／祝／祝	99
	外れ変動開始（保留有り）	継続	10回／10回／10回／継続	0～49
			10回／30回／50回／継続	50～74
			30回／100回／継続／祝	75～94
			100回／∞／継続／祝	95～99

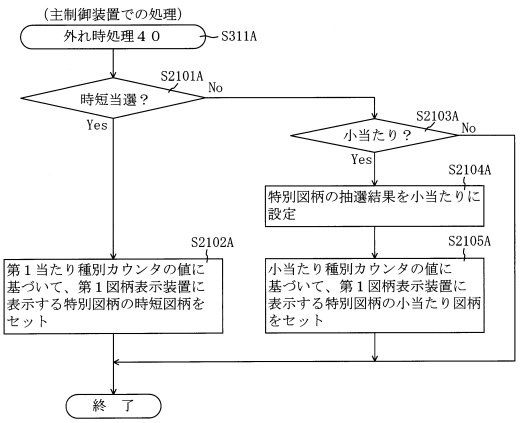
【図１１６６】



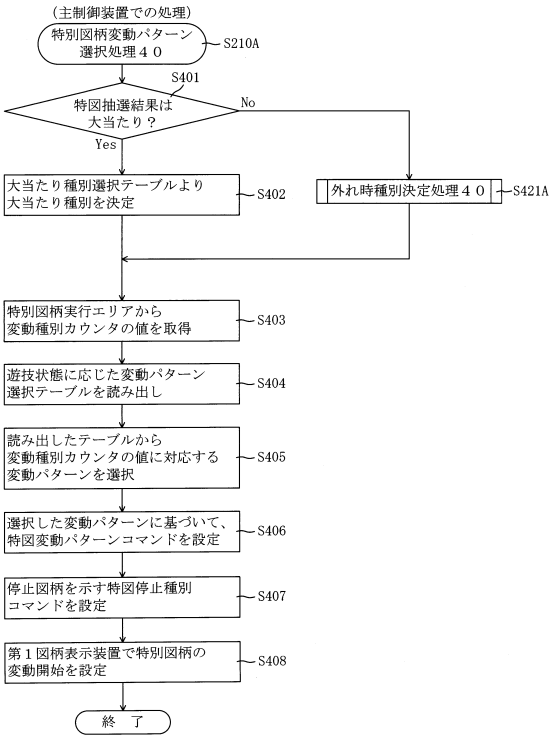
【図１１６７】



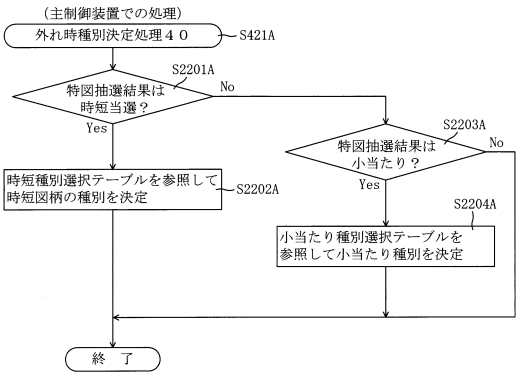
【図１１６８】



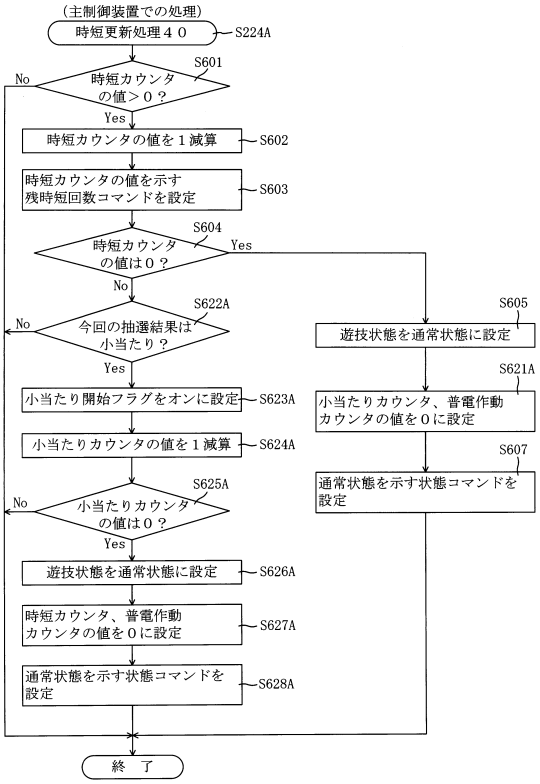
【図１１６９】



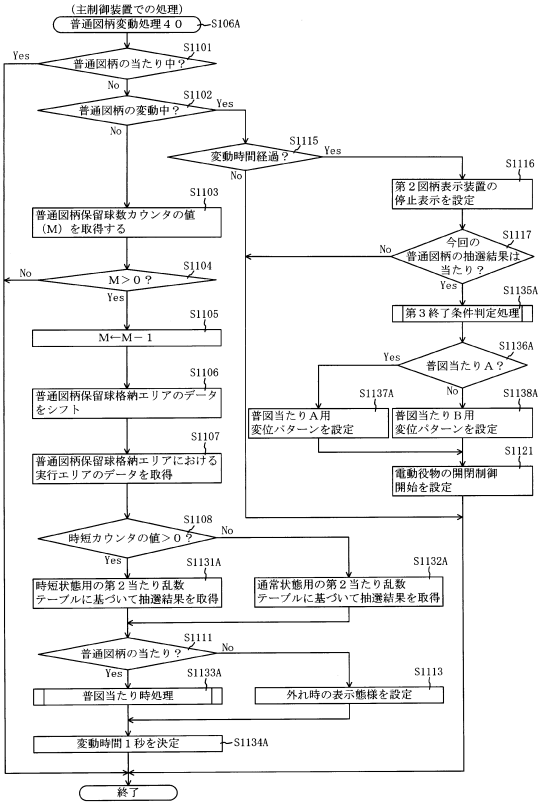
【図１１７０】



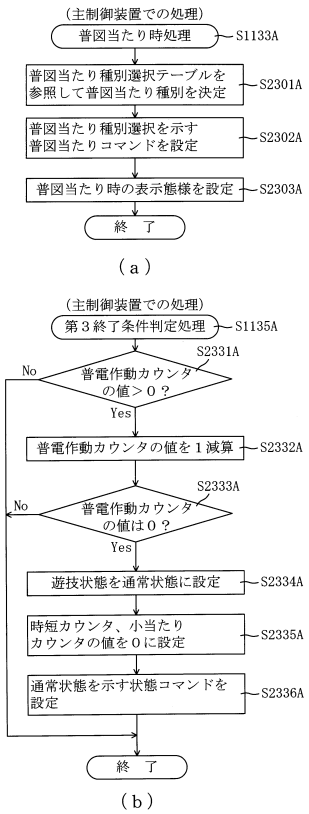
【図１１７１】



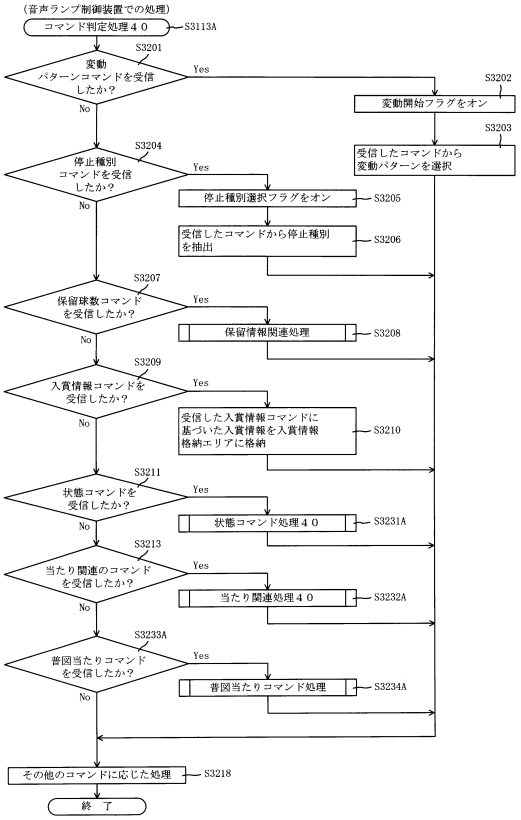
【図１１７２】



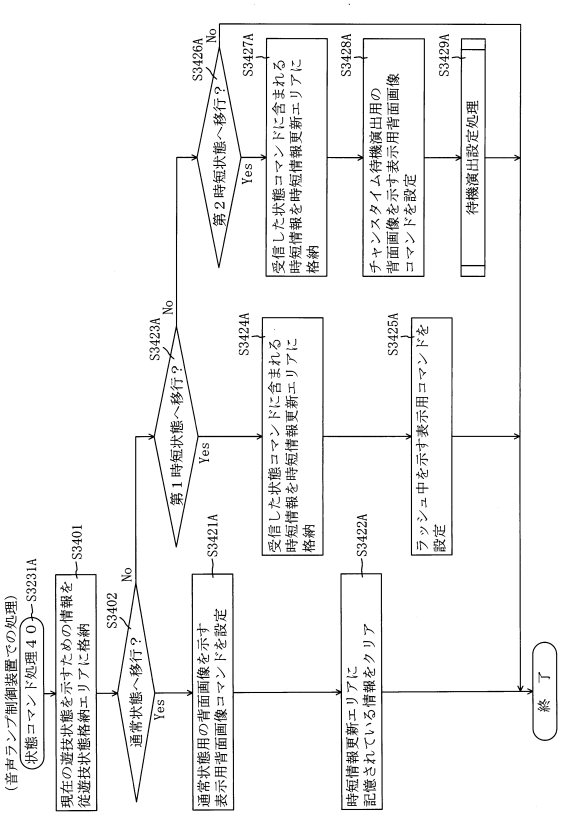
【図１１７３】



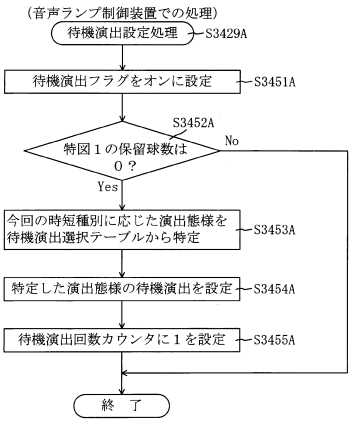
【図１１７４】



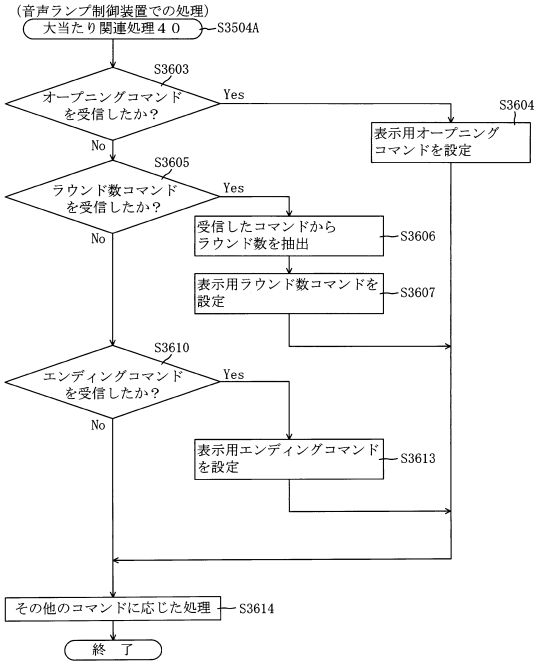
【図１１７５】



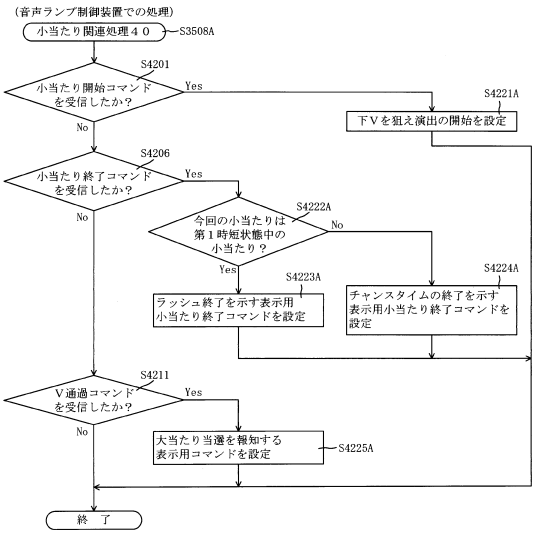
【図１１７６】



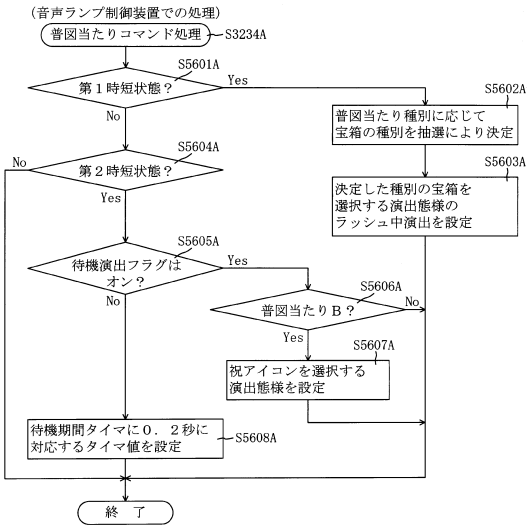
【図１１７７】



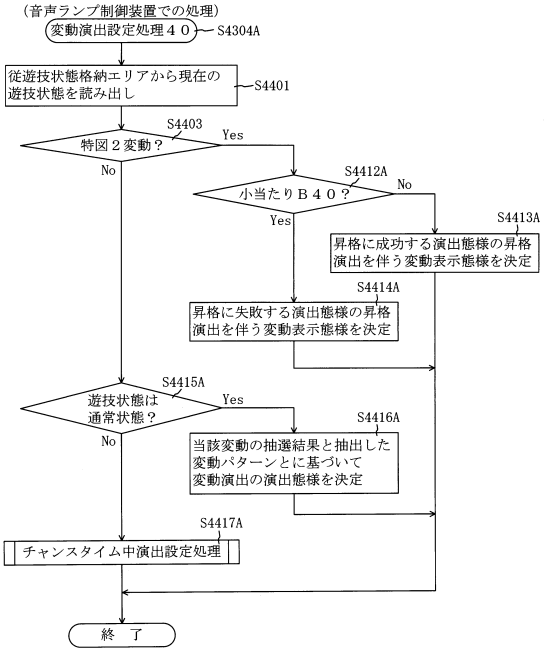
【図１１７８】



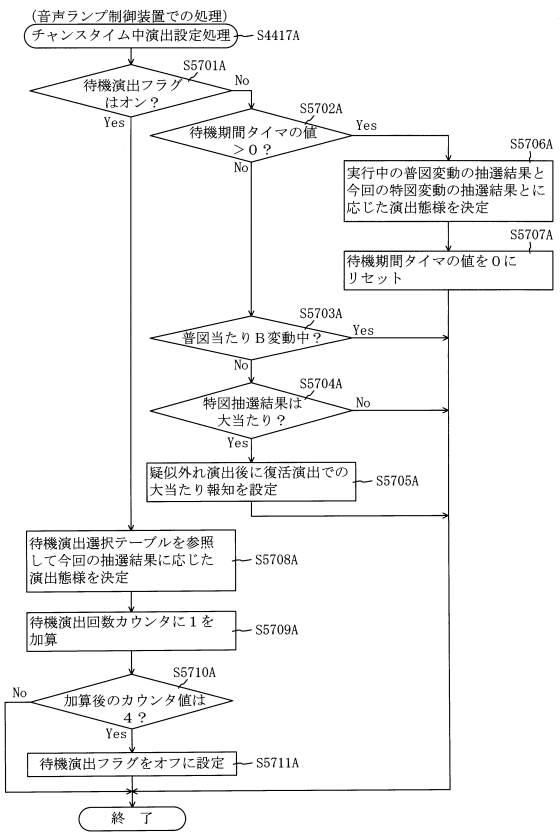
【図１１７９】



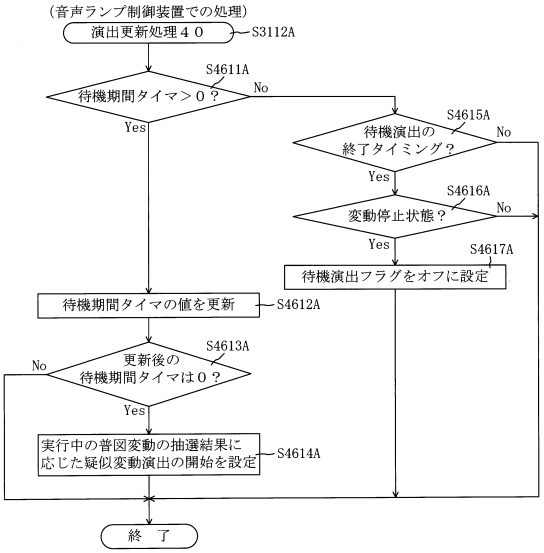
【図１１８０】



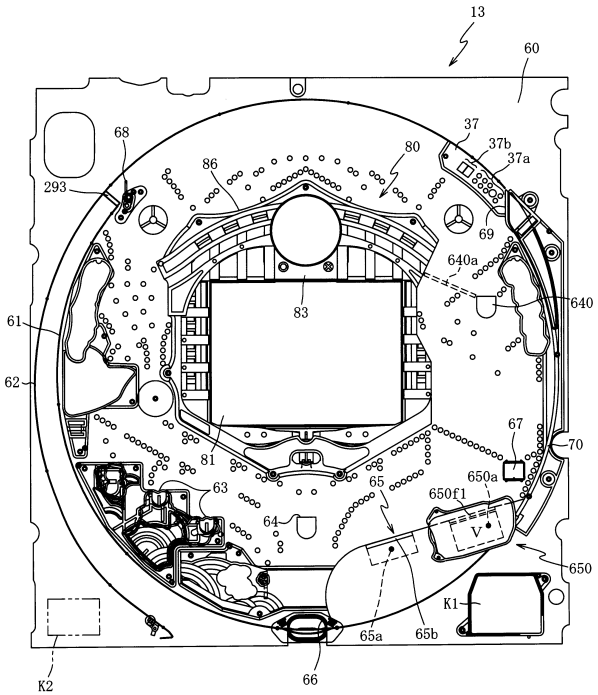
【図１１８１】



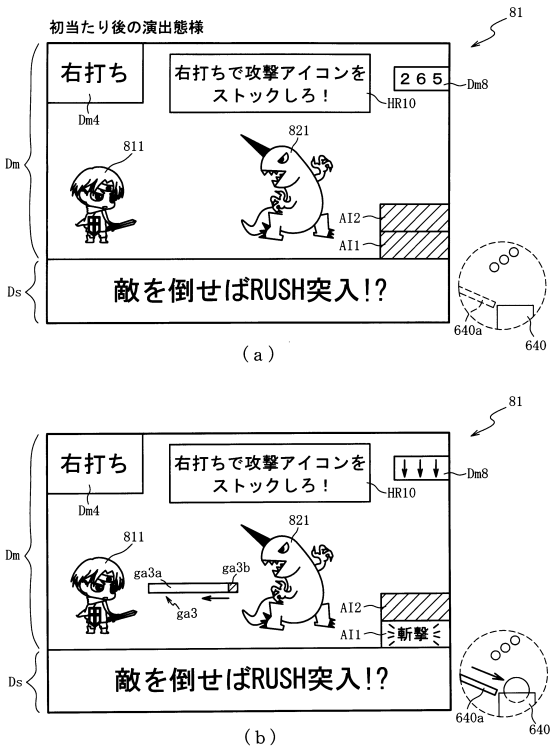
【図１１８２】



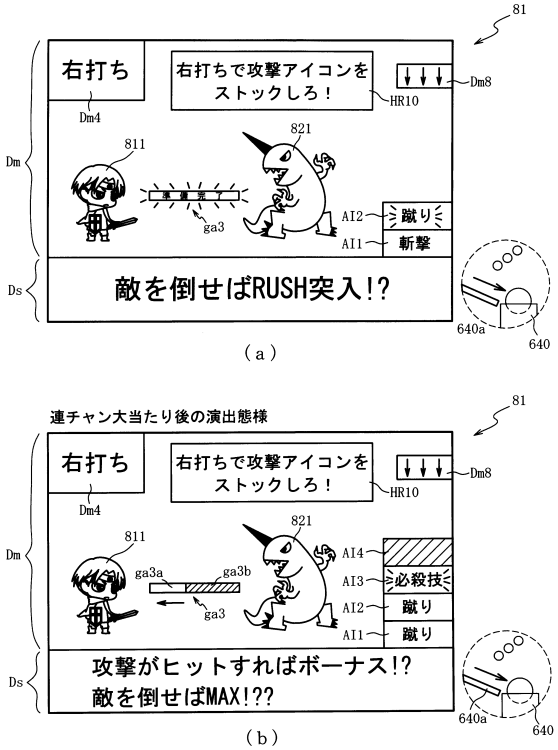
【図１１８３】



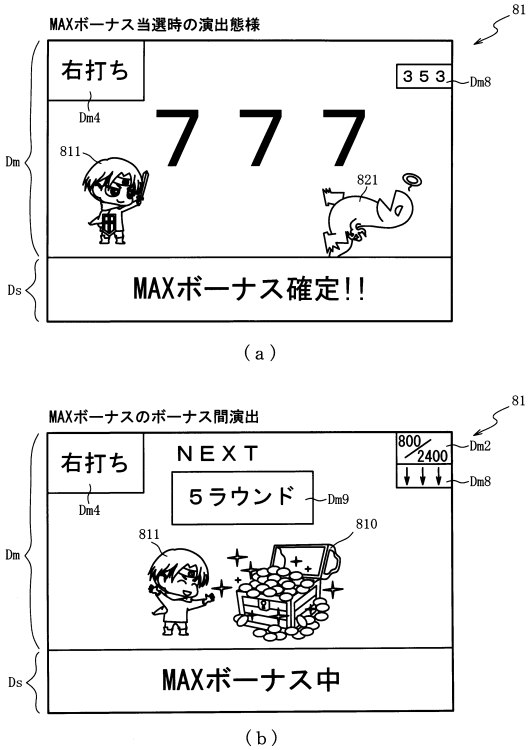
【図１１８４】



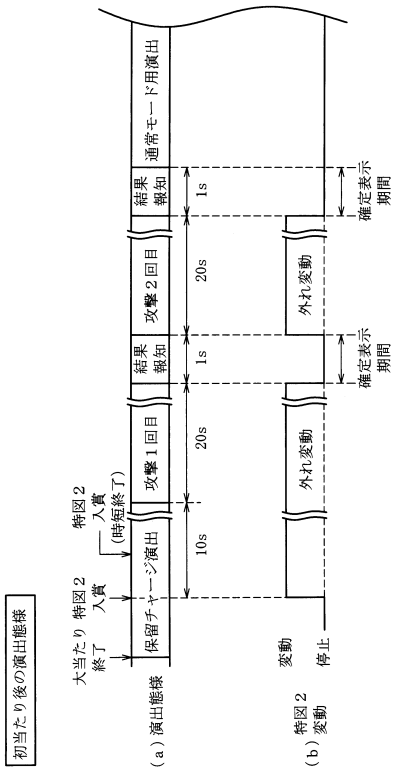
【図１１８５】



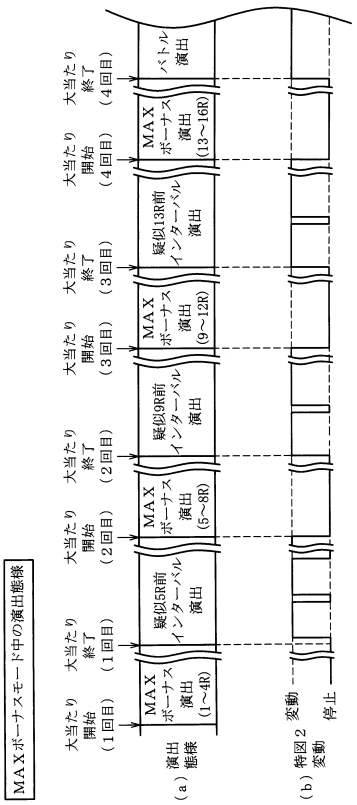
【図１１８６】



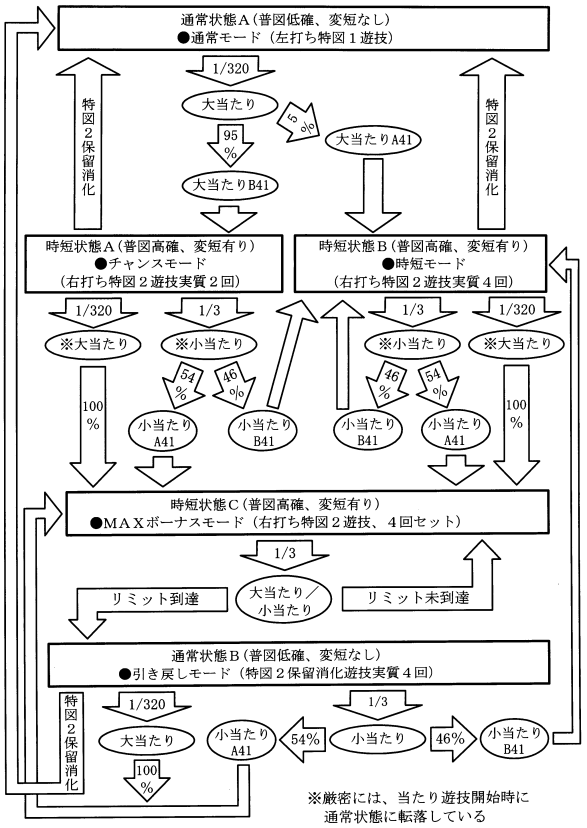
【図１１８７】



【図１１８８】



【図１１８９】



【図１１９０】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202ak
大当たり種別選択テーブル	202bk
第２当たり乱数テーブル	202ck
変動パターン選択テーブル	202dk
時短付与テーブル	202ek
小当たり種別選択テーブル	202fk
開放シナリオテーブル	202g

（ａ）

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
特図２カウンタ	203t
規定保留球数カウンタ	203ka
時短リミットカウンタ	203kb
減算待機フラグ	203kc
当選時状態格納エリア	203kd
その他メモリエリア	203z

（ｂ）

【図１１９１】

（ａ）

202

特別図柄１乱数テーブル202ak1

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	－

（ｂ）

202

特別図柄２乱数テーブル202ak2

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	205～22049

（ｃ）

202

大当たり種別選択テーブル202bk

特別図柄種別	大当たり種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ４１（4Ｒ時短１回大当たり）	0～4
	大当たりＢ４１（4Ｒ時短１回大当たり）	5～99
特図２	大当たりＣ４１（10Ｒ時短１００回大当たり）	0～99

【図１１９２】

（ａ）

202

第２当たり乱数テーブル202ck

遊技状態	第２当たり乱数カウンタＣ４（0～299）
普通図柄の通常状態	0
普通図柄の時短状態	0～299

（ｂ）

変動パターン選択テーブル	202dk
通常用テーブル	202dk1
時短用テーブル	202dk2
ＭＡＸボーナス用テーブル	202dk3

（ｃ）

202

通常用テーブル202dk1

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
特図１	外れ	外れ（7秒）	0～139
		ガセ外れ（20秒）	140～149
		ノーマルリーチ各種（40秒）	150～179
		スーパーリーチ（80秒）	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種（40秒）	0～29
		スーパーリーチ（80秒）	30～189
		スペシャルリーチ（140秒）	190～198
特図２	外れ	ガセ外れ（20秒）	0～198
	大当たり	当たり（20秒）	0～198
	小当たり	小当たり（20秒）	0～198

【図１１９３】

時短用テーブル202dk2 ← 202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	外れ	ロング外れ(30秒)	0～198
	大当たり	ロング当たり(30秒)	0～198
	小当たり	ロング小当たり(30秒)	0～198

（ａ）

ＭＡＸボーナス用テーブル202dk3 ← 202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	外れ	短外れ(5秒)	0～198
	大当たり	短当たり(5秒)	0～198
	小当たり	短小当たり(5秒)	0～198

（ｂ）

【図１１９４】

時短付与テーブル202ek ← 202

大当たり種別	当選時の遊技状態	時短付与内容（回数） 時短カウンタ203h	小当たりカウンタ203s	特図２カウンタ203t	規定保留球数カウンタ203ka
大当たりＡ４１(4R)	通常	10	1	1	3
	時短状態	100	1	100	65535
大当たりＢ４１(4R)	通常状態	10	1	1	1
	時短状態	100	1	100	65535
大当たりＣ４１(4R)	共通	100	1	100	65535
大当たりＤ４１(4R)	通常状態	10	1	1	3
	時短状態	100	1	100	65535

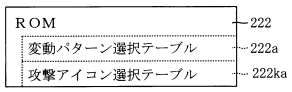
（ａ）

小当たり種別選択テーブル202fk ← 202

特別図柄種別	小当たり種別	小当たり種別カウンタ値Ｃ５(0～99)
特図２	小当たりＡ４１（Ｖ通過時大当たりＣ４１）	0～53
	小当たりＢ４１（Ｖ通過時大当たりＤ４１）	54～99

（ｂ）

【図１１９５】



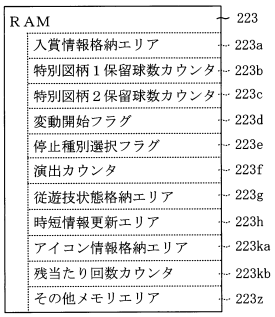
（ａ）

攻撃アイコン選択テーブル222ka ← 222

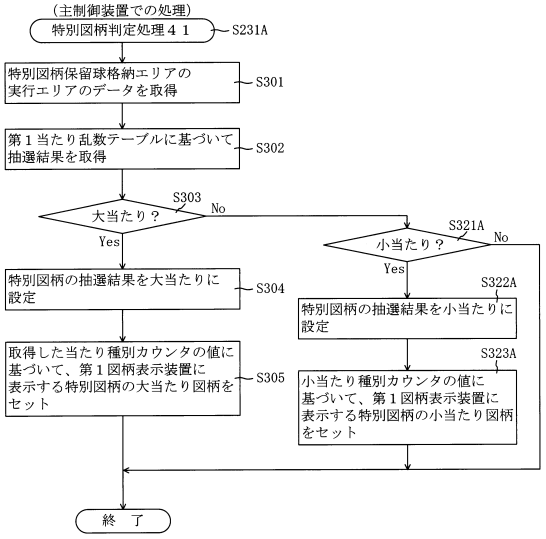
抽選結果	アイコン種別	第１演出カウンタ223f1(0～99)
大当たり／小当たりＡ４１	必殺技	0～19
	斬撃	20～89
	蹴り	90～99
小当たりＢ４１	必殺技	0～4
	斬撃	5～49
	蹴り	50～84
	パンチ	85～99
外れ	斬撃	0～9
	蹴り	10～49
	パンチ	50～99

（ｂ）

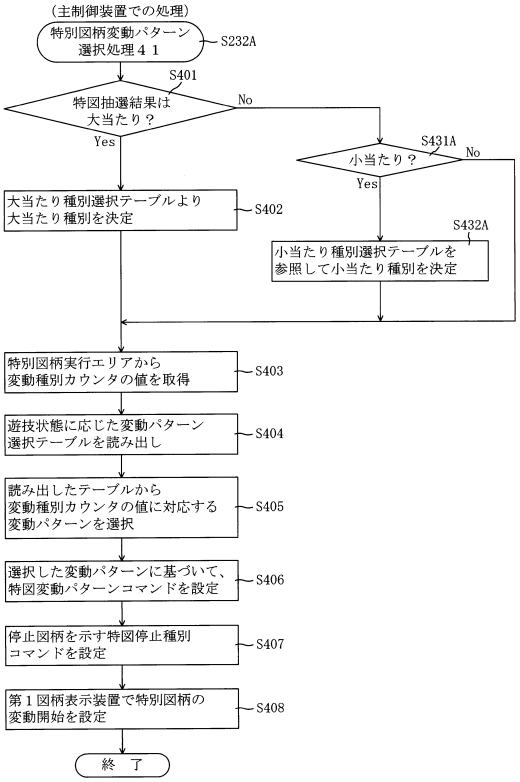
【図１１９６】



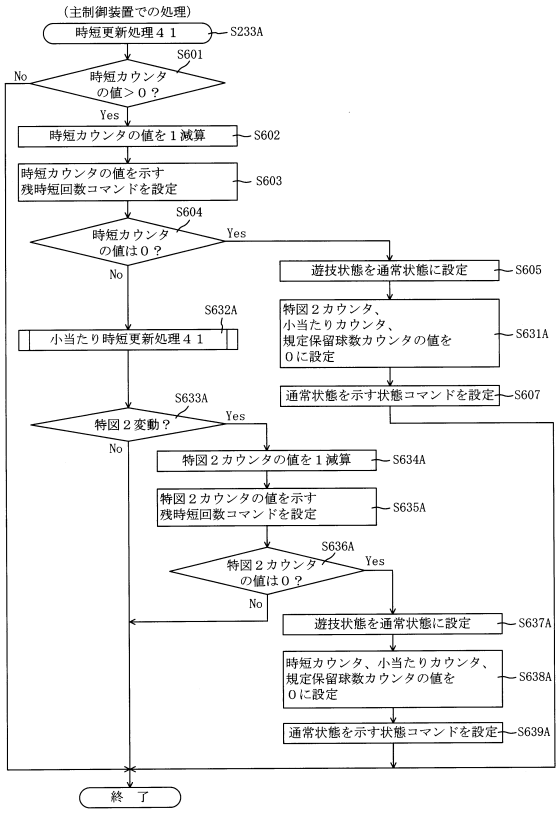
【図１１９７】



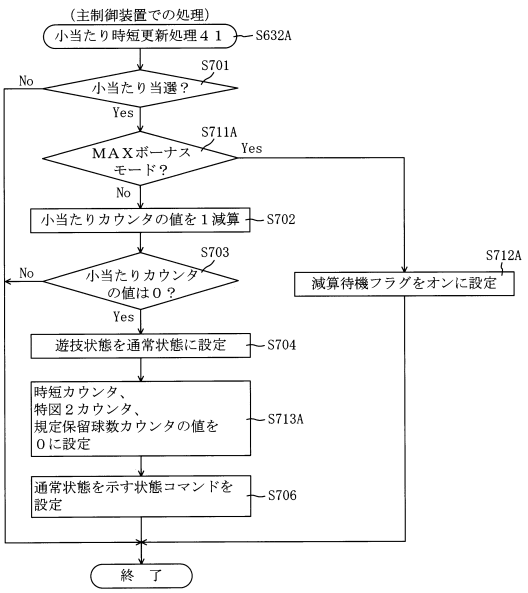
【図１１９８】



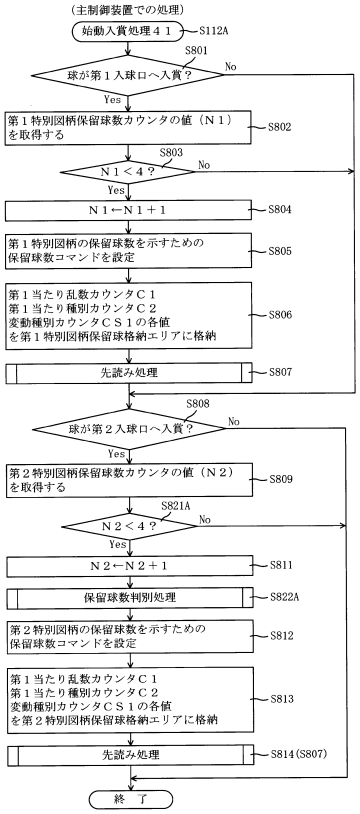
【図１１９９】



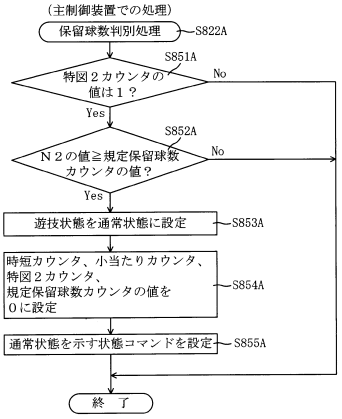
【図１２００】



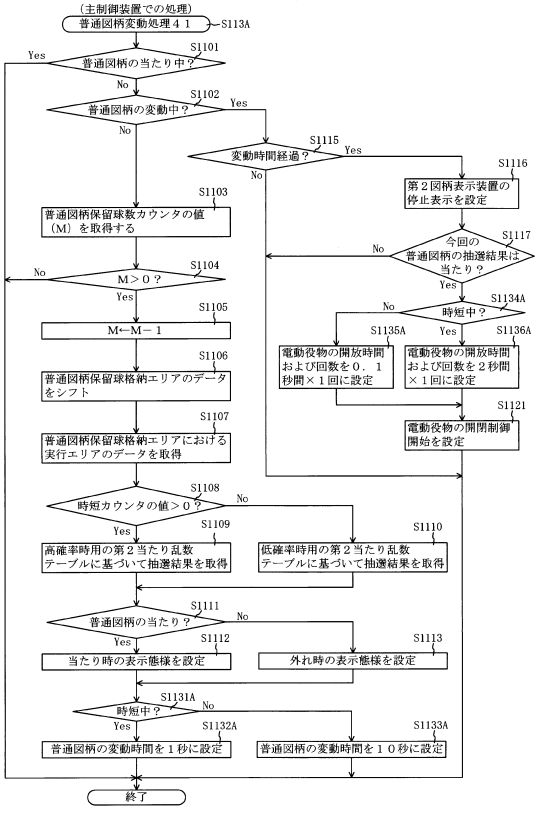
【図１２０１】



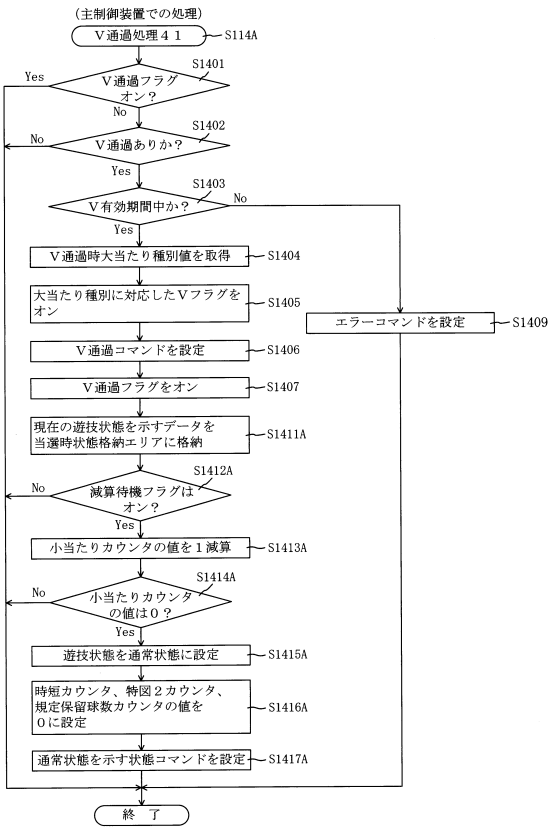
【図１２０２】



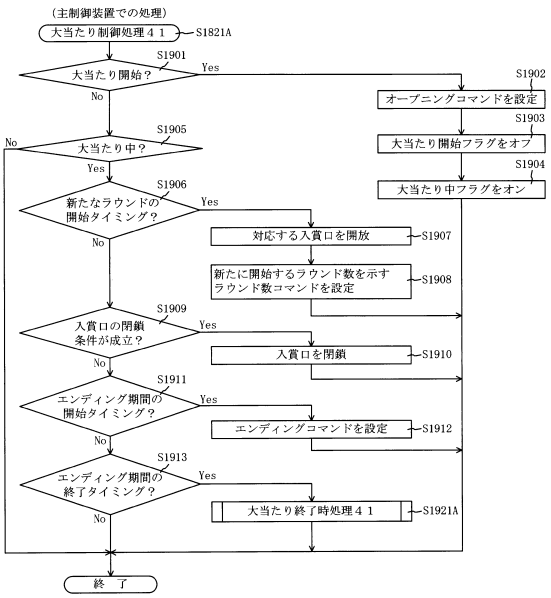
【図１２０３】



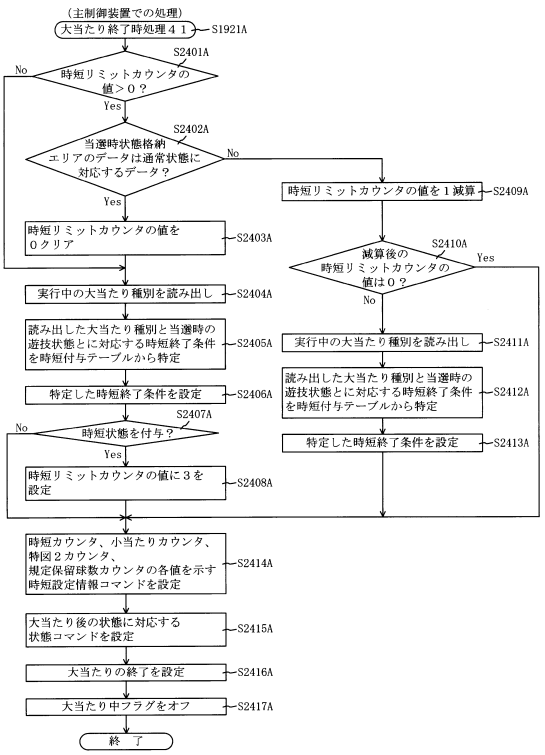
【図１２０４】



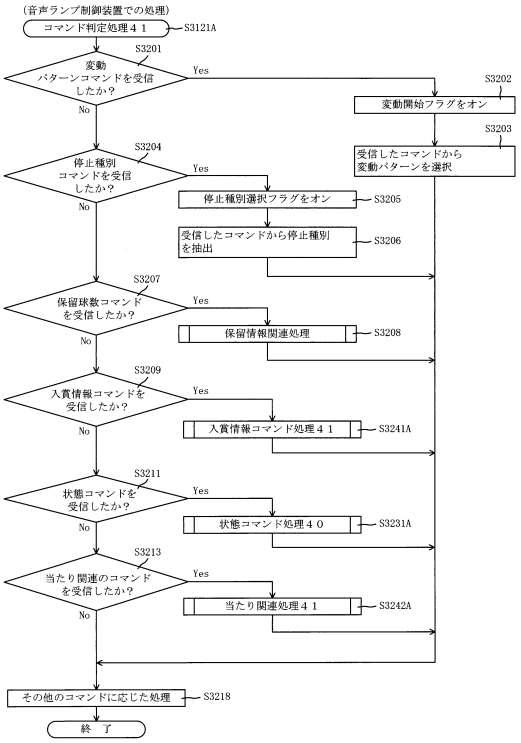
【図１２０５】



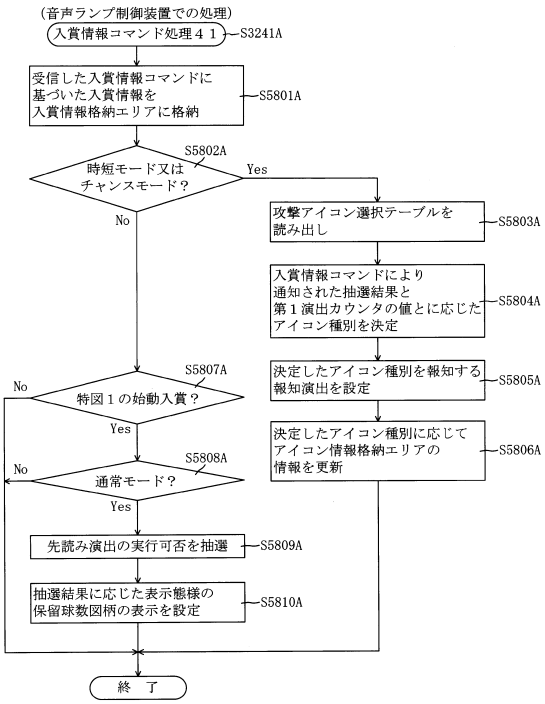
【図１２０６】



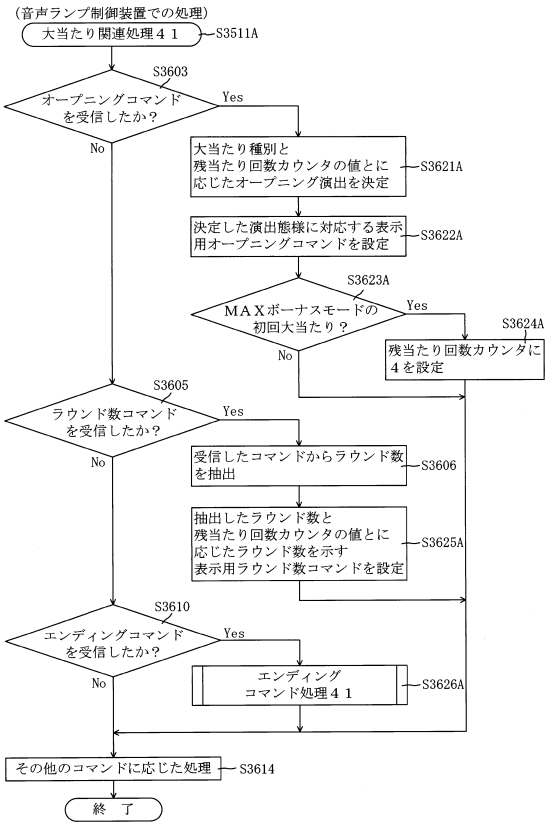
【図１２０７】



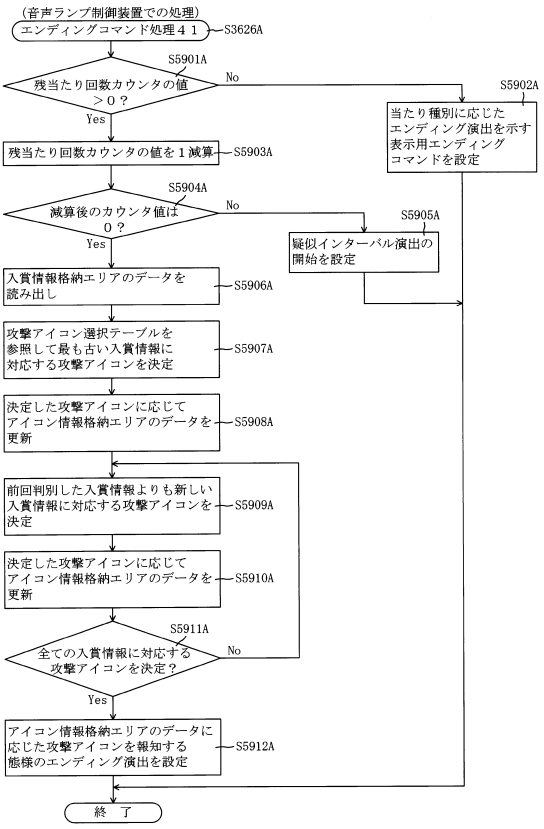
【図１２０８】



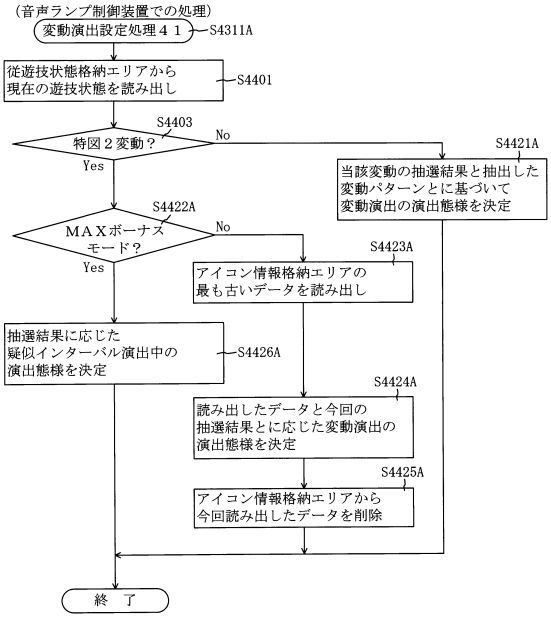
【図１２０９】



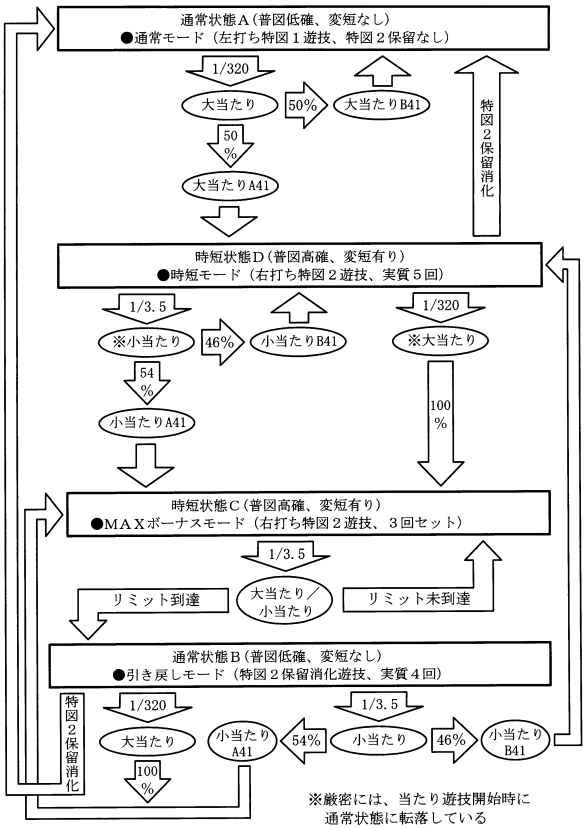
【図１２１０】



【図１２１１】



【図１２１２】



【図１２１３】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
特図２カウンタ	203t
時短リミットカウンタ	203kb
減算待機フラグ	203kc
当選時状態格納エリア	203kd
その他メモリエリア	203z

【図１２１４】

（ａ）

202

特別図柄２乱数テーブル202ak2

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	205～18929

（ｂ）

202

大当たり種別選択テーブル202bk

特別図柄 種別	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ４１ （4Ｒ時短１回大当たり）	0～49
	大当たりＢ４１ （4Ｒ時短１回大当たり）	50～99
特図２	大当たりＣ４１ （10Ｒ時短１００回大当たり）	0～99

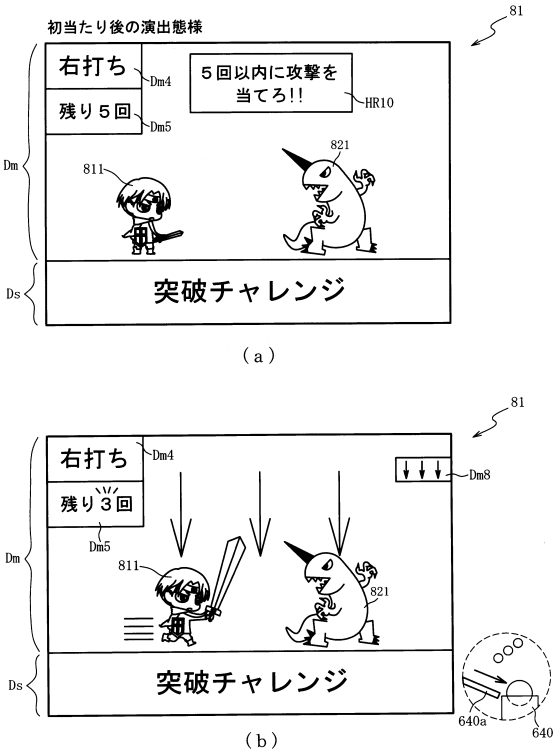
【図１２１５】

202

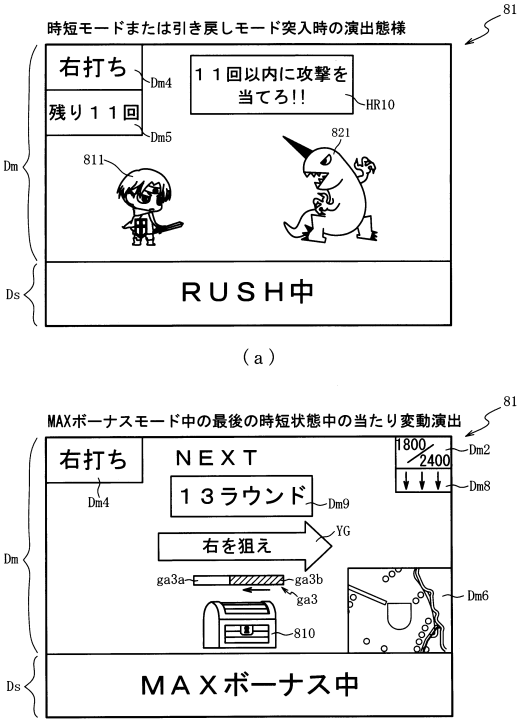
時短付与テーブル202ek

大当たり種別	当選時の 遊技状態	時短付与内容（回数）		
		時短 カウンタ 203h	小当たり カウンタ 203s	特図２ カウンタ 203t
大当たりＡ４１ （4Ｒ）	通常	10	1	1
	時短状態	100	1	100
大当たりＢ４１ （4Ｒ）	通常状態	0	0	0
	時短状態	100	1	100
大当たりＣ４１ （4Ｒ）	共通	100	1	100
大当たりＤ４１ （4Ｒ）	通常状態	10	1	1
	時短状態	100	1	100

【図１２１６】

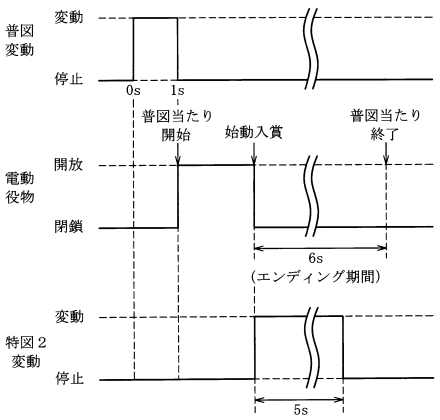


【図１２１７】

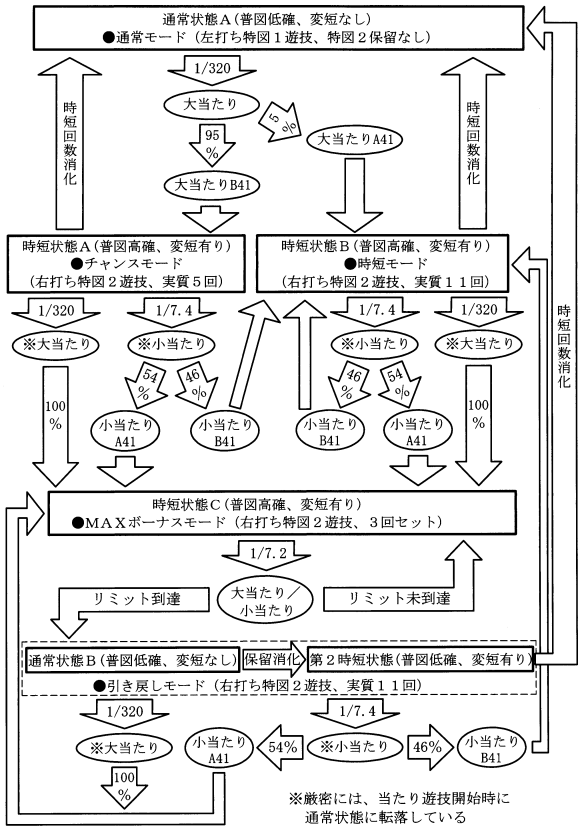


【図１２１８】

時短状態中の特図変動と普図変動との対応関係



【図１２１９】



【図１２２０】

（ａ）

特別図柄２乱数テーブル202ak2　202

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	205～9060
時短図柄判定値	9061～65535

（ｂ）

第２当たり乱数テーブル202ck　202

遊技状態	第２当たり乱数カウンタＣ４（0～299）
普通図柄の低確率状態	0～298
普通図柄の高確率状態	0～299

【図１２２１】

202

通常用テーブル202dk1

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ(80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ(80秒)	30～189
		スペシャルリーチ(140秒)	190～198
特図２	大当たり	当たり(5秒)	0～198
	小当たり	小当たり(5秒)	0～198
	時短図柄	突時(5秒)	0～198

【図１２２２】

202

時短用テーブル202dk2

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	大当たり	当たり(5秒)	0～198
	小当たり	小当たり(5秒)	0～198
	時短図柄	突時(5秒)	0～198

（ａ）

202

ＭＡＸボーナス用テーブル202dk3

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	大当たり	長当たり(15秒)	0～198
	小当たり	長小当たり(15秒)	0～198
	時短図柄	突時(5秒)	0～198

（ｂ）

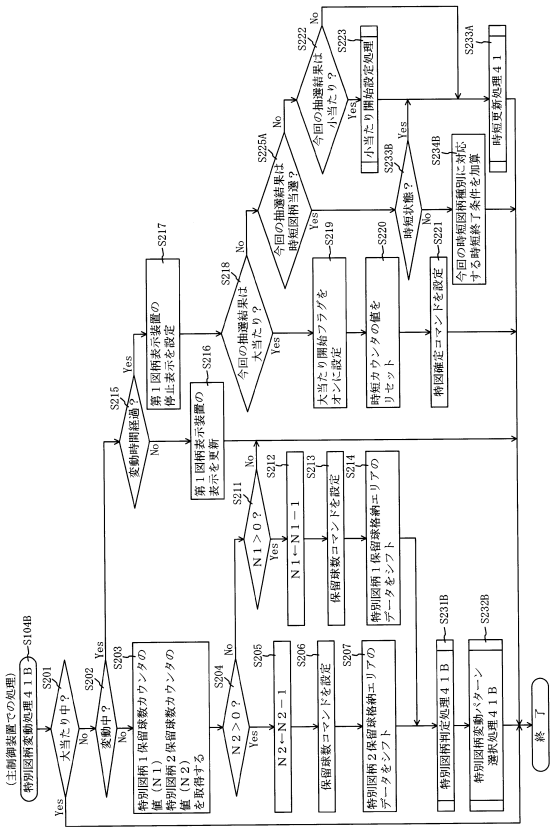
【図１２２３】

202

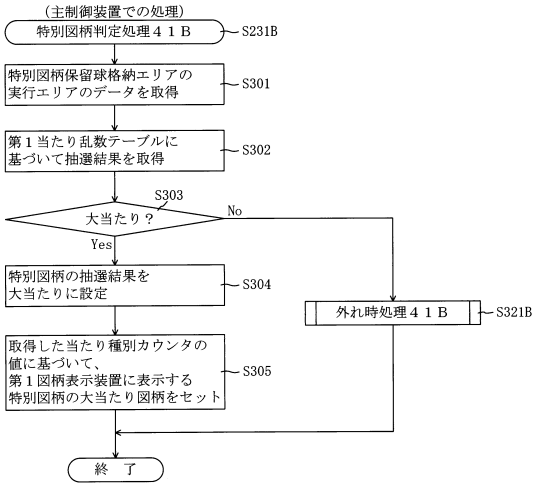
時短付与テーブル202ek

大当たり種別	当選時の遊技状態	時短付与内容（回数） 時短カウンタ203h	小当たりカウンタ203s	特図２カウンタ203t
大当たりＡ４１(4R)	通常	20	1	11
	時短状態	100	1	100
大当たりＢ４１(4R)	通常状態	10	1	5
	時短状態	100	1	100
大当たりＣ４１(4R)	共通	100	1	100
大当たりＤ４１(4R)	通常状態	20	1	11
	時短状態	100	1	100
時短図柄	通常状態	20	1	10
	時短状態	0	0	0

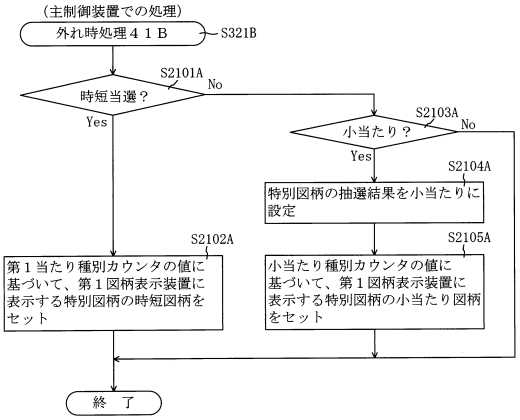
【図１２２４】



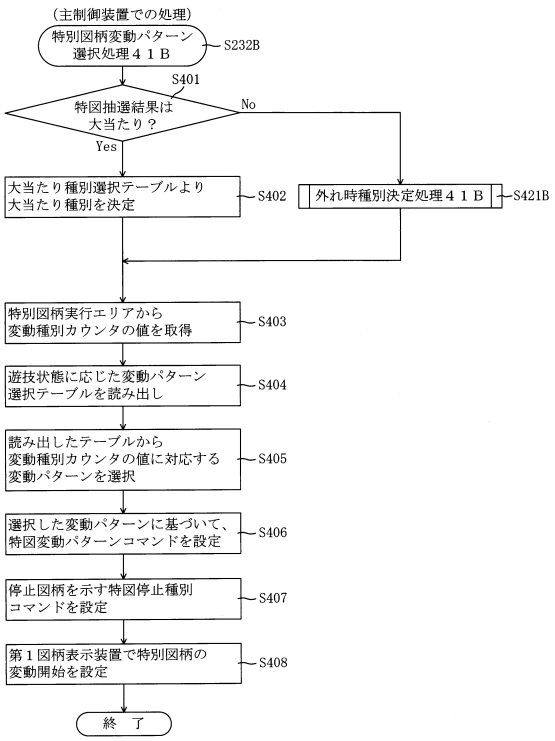
【図１２２５】



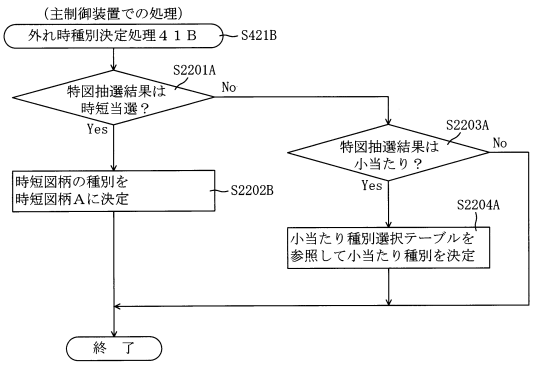
【図１２２６】



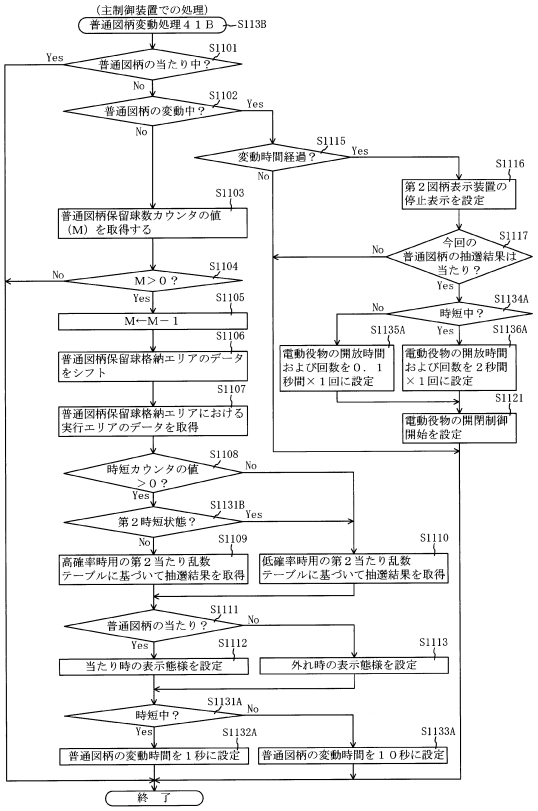
【図１２２７】



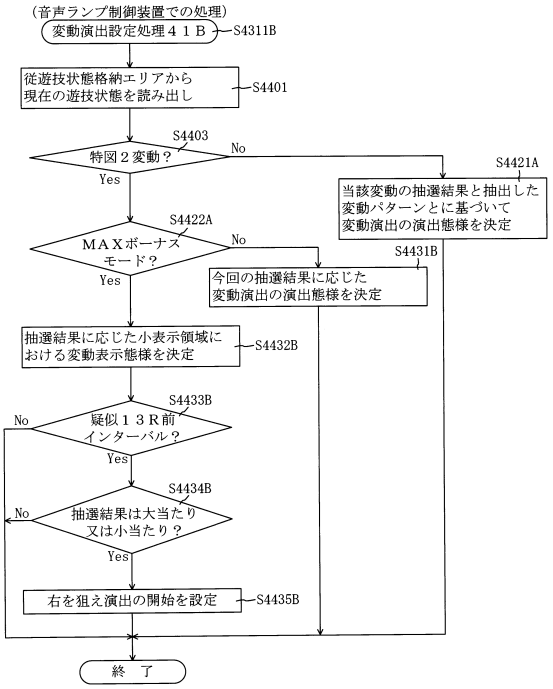
【図１２２８】



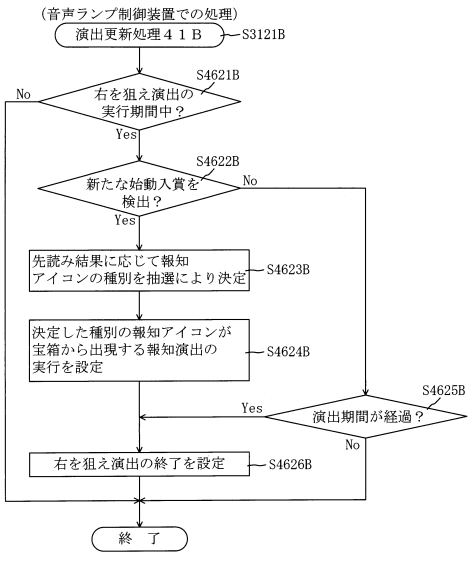
【図１２２９】



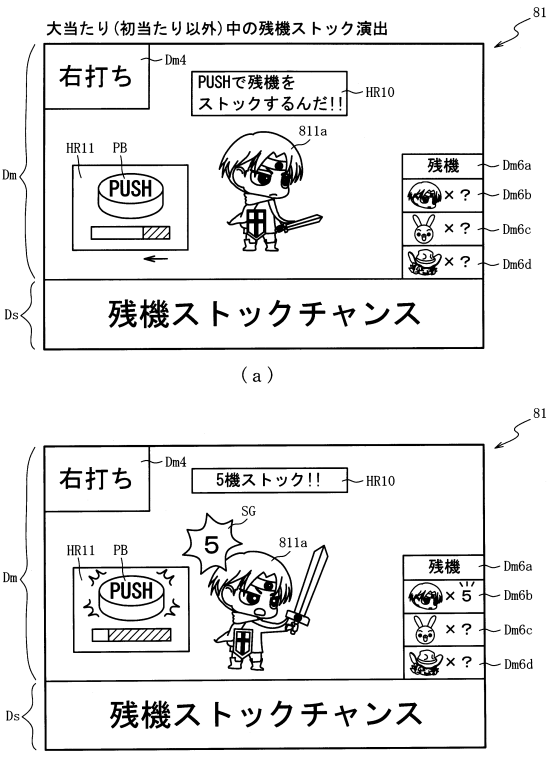
【図１２３０】



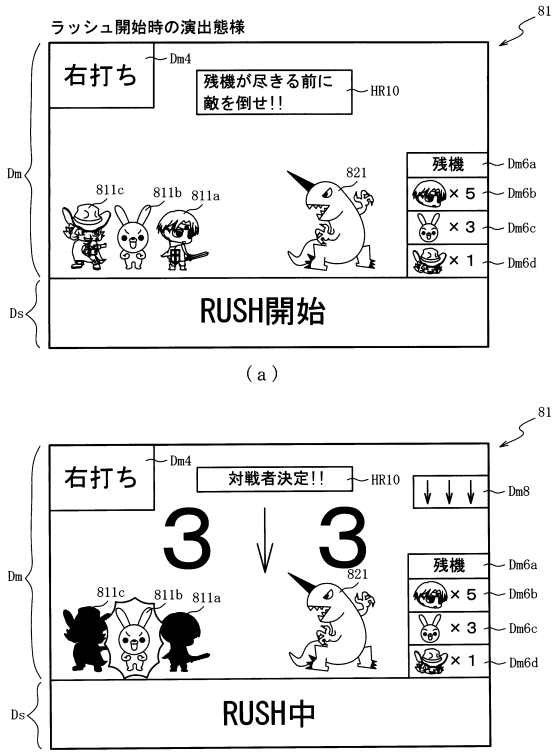
【図１２３１】



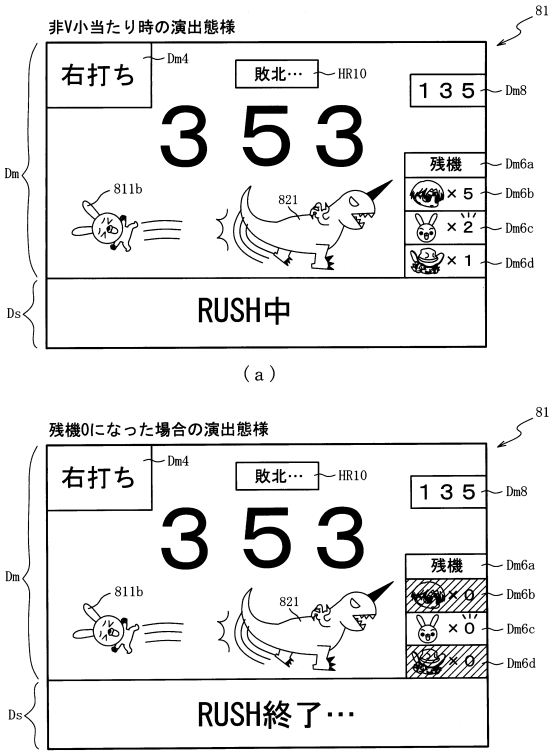
【図１２３２】



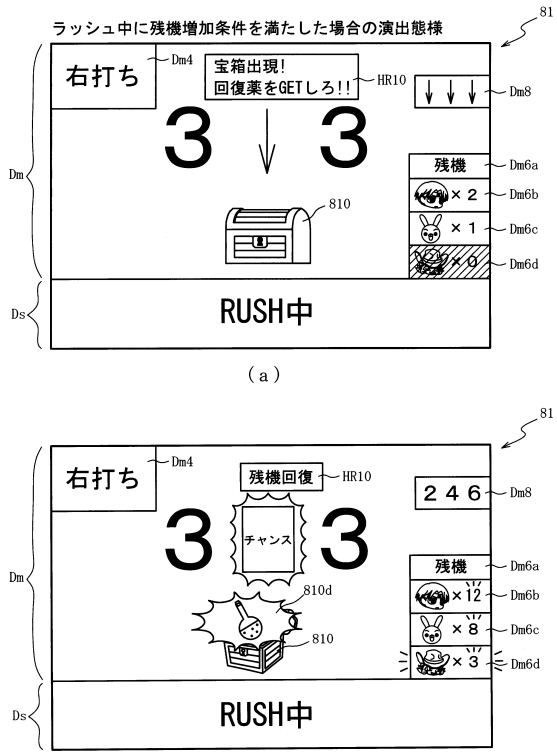
【図１２３３】



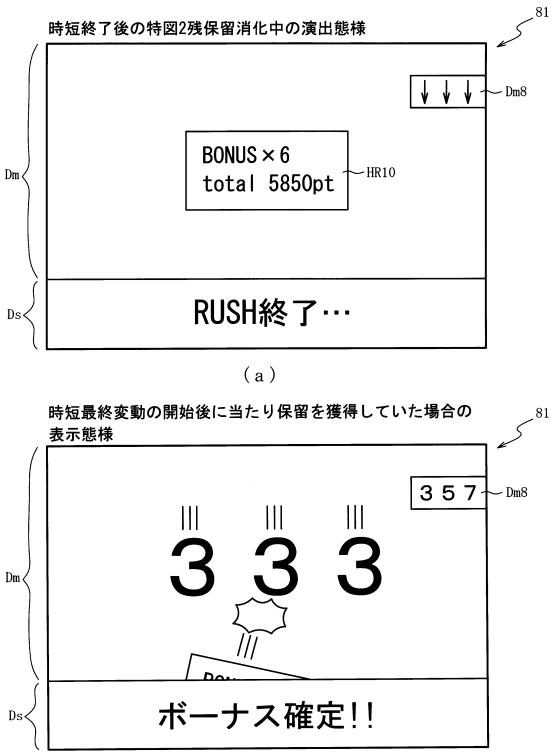
【図１２３４】



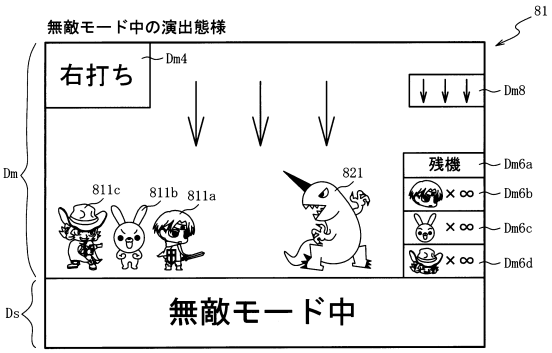
【図１２３５】



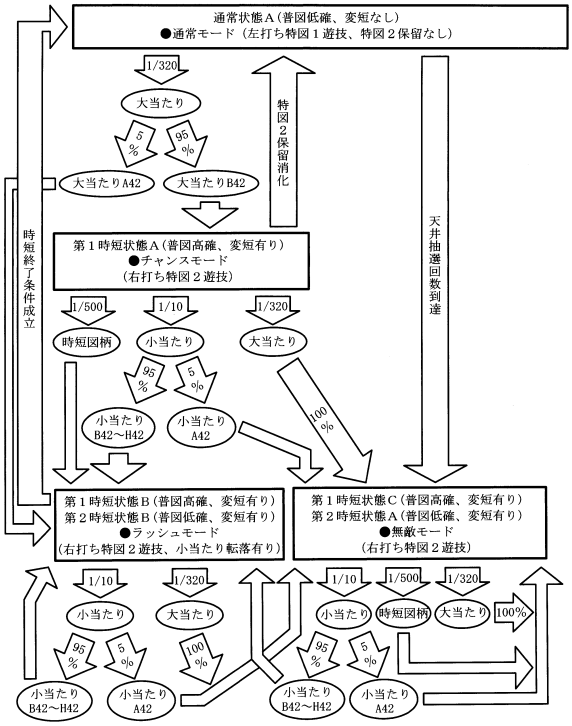
【図１２３６】



【図１２３７】



【図１２３８】



【図１２３９】

（ａ）

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202am
大当たり種別選択テーブル	202bm
第２当たり乱数テーブル	202ck
変動パターン選択テーブル	202dm
時短付与テーブル	202em
小当たり種別選択テーブル	202fm
開放シナリオテーブル	202g

（ｂ）

RAM（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
Ｖ小当たりカウンタ	203s1
第１小当たりカウンタ	203s2
第２小当たりカウンタ	203s3
第３小当たりカウンタ	203s4
特図２カウンタ	203t
当選時状態格納エリア	203kd
特図抽選カウンタ	203ma
その他メモリエリア	203z

【図１２４０】

（ａ）

特別図柄２乱数テーブル202am2

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１（0～65535）
大当たり判定値	0～204
小当たり判定値	205～48270
時短図柄	48271～48401

（ｂ）

大当たり種別選択テーブル202bm

特別図柄 種別	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２（0～99）
特図１	大当たりＡ４２ （10Ｒ時短100回大当たり）	0～4
	大当たりＢ４２ （3Ｒ時短１回大当たり）	5～99
特図２	大当たりＣ４２ （10Ｒ時短100回大当たり）	0～99

【図１２４１】

（ａ）

変動パターン選択テーブル	202dm
通常用テーブル	202dm1
時短用テーブル	202dm2
時短最終変動用テーブル	202dm3

（ｂ）

通常用テーブル202dm1　202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	外れ(7秒)	0～139
		ガセ外れ(20秒)	140～149
		ノーマルリーチ各種(40秒)	150～179
		スーパーリーチ(80秒)	180～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種(40秒)	0～29
		スーパーリーチ(80秒)	30～189
		スペシャルリーチ(140秒)	190～198
特図２	完全外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
	小当たり	超短小当たり(0.5秒)	0～198
	時短図柄	超短突時(0.5秒)	0～198

【図１２４２】

時短用テーブル202dm2　202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	完全外れ	外れ(5秒)	0～178
		ガセ外れ(15秒)	179～198
	大当たり	長当たり(15秒)	0～198
	小当たり	長小当たり(15秒)	0～198
	時短図柄	長突時(15秒)	0～198

（ａ）

時短最終変動用テーブル202dm3　202

特別図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１(0～198)
特図１	外れ	超短外れ(0.5秒)	0～198
	大当たり	超短当たり(0.5秒)	0～198
特図２	完全外れ	ガセ外れ(15秒)	0～198
	大当たり	長当たり(15秒)	0～198
	小当たり	長小当たり(15秒)	0～198
	時短図柄	長突時(15秒)	0～198

（ｂ）

【図１２４３】

時短付与テーブル202em　202

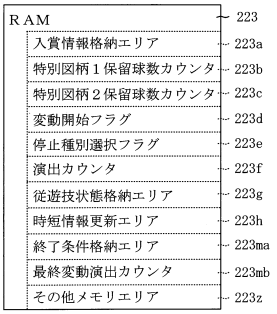
付与契機	当選時の遊技状態	時短付与内容（回数） 時短カウンタ203h	Ｖ小当たりカウンタ203s1	第１小当たりカウンタ203s2	第２小当たりカウンタ203s3	第３小当たりカウンタ203s4	特図２カウンタ203t
大当たりＡ４２(10R)	通常	100	1	5	3	1	100
	時短状態	100	1	100	100	100	100
大当たりＢ４２(3R)	通常状態	5	1	100	100	100	1
	時短状態	100	1	100	100	100	100
大当たりＣ４２(10R)	共通	100	1	100	100	100	100
大当たりＤ４２(10R)	共通	100	1	5	3	1	100
大当たりＥ４２(10R)	共通	100	1	7	5	2	100
大当たりＦ４２(10R)	共通	100	1	10	7	3	100
大当たりＧ４２(3R)	共通	100	1	3	2	1	100
大当たりＨ４２(3R)	共通	100	1	5	3	1	100
大当たりＩ４２(3R)	共通	100	1	7	5	2	100
大当たりＪ４２(3R)	共通	100	1	10	7	3	100
時短図柄	共通	100	1	10	7	3	100
天井到達	通常状態	100	1	100	100	100	100

【図１２４４】

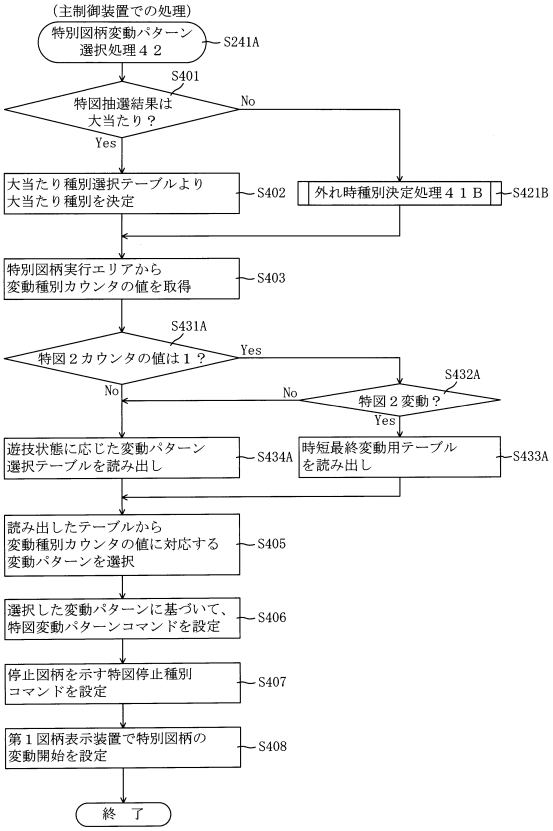
小当たり種別選択テーブル202fm　202

特別図柄種別	小当たり種別	小当たり種別カウンタ値Ｃ５(0～65535)
特図２	小当たりＡ４２（Ｖ通過時大当たりＣ４２）	0～447
	小当たりＢ４２（Ｖ通過時大当たりＤ４２）	448～3130
	小当たりＣ４２（Ｖ通過時大当たりＥ４２）	3131～4740
	小当たりＤ４２（Ｖ通過時大当たりＦ４２）	4741～4919
	小当たりＥ４２（Ｖ通過時大当たりＧ４２）	4920～7937
	小当たりＦ４２（Ｖ通過時大当たりＨ４２）	7938～8742
	小当たりＧ４２（Ｖ通過時大当たりＩ４２）	8743～8903
	小当たりＨ４２（Ｖ通過時大当たりＪ４２）	8904～8943
	小当たりＩ４２（Ｖ通過不可能）	8944～38728
	小当たりＪ４２（Ｖ通過不可能）	38729～56599
	小当たりＫ４２（Ｖ通過不可能）	56600～65535

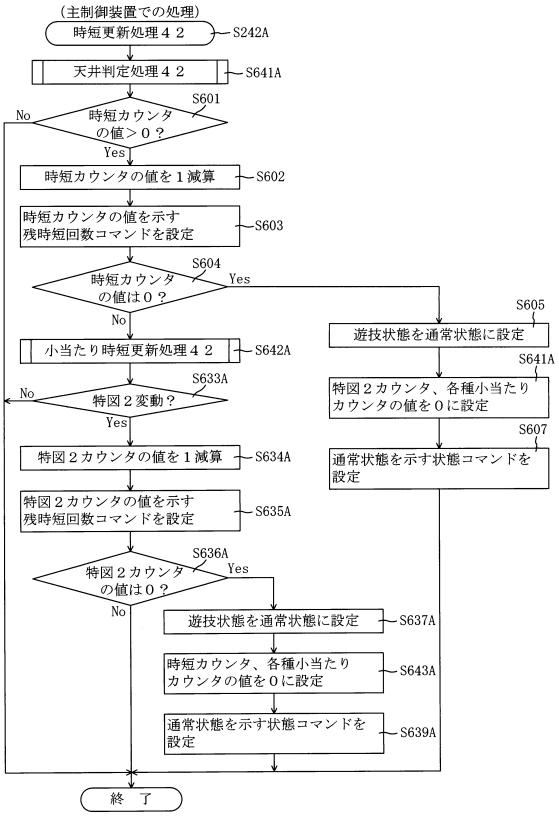
【図１２４５】



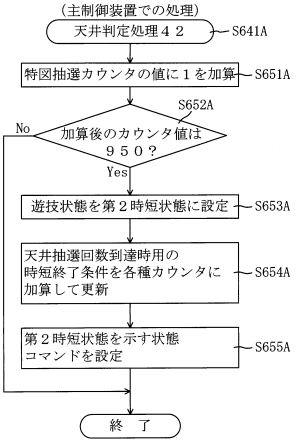
【図１２４６】



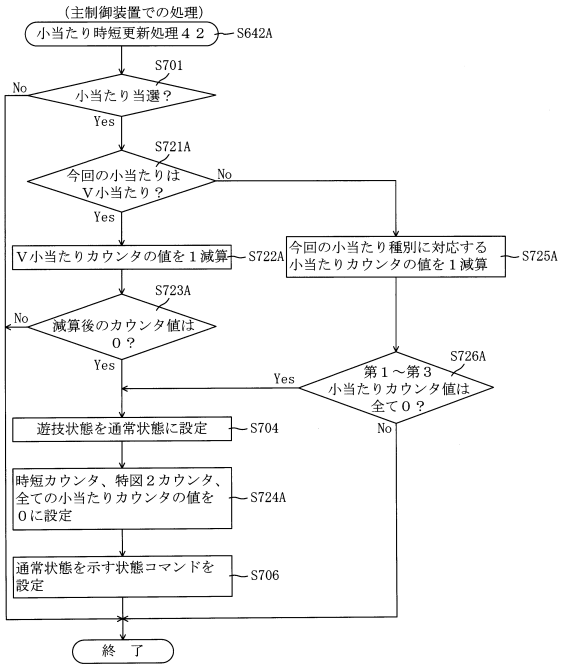
【図１２４７】



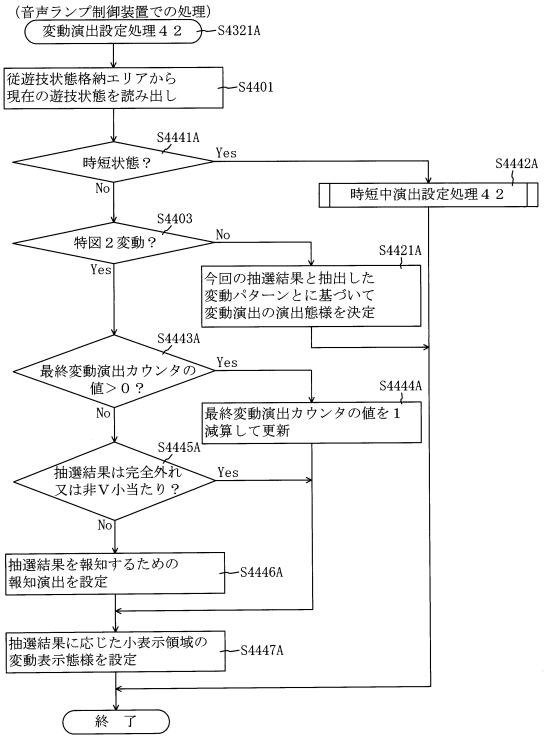
【図１２４８】



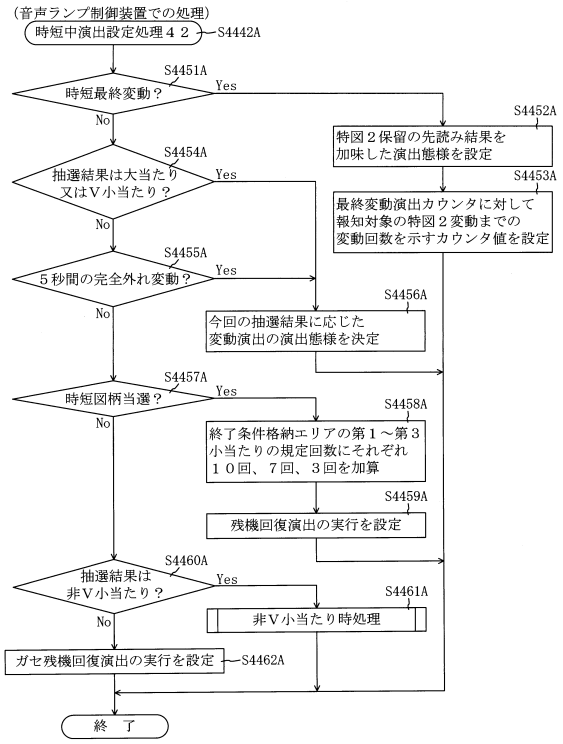
【図１２４９】



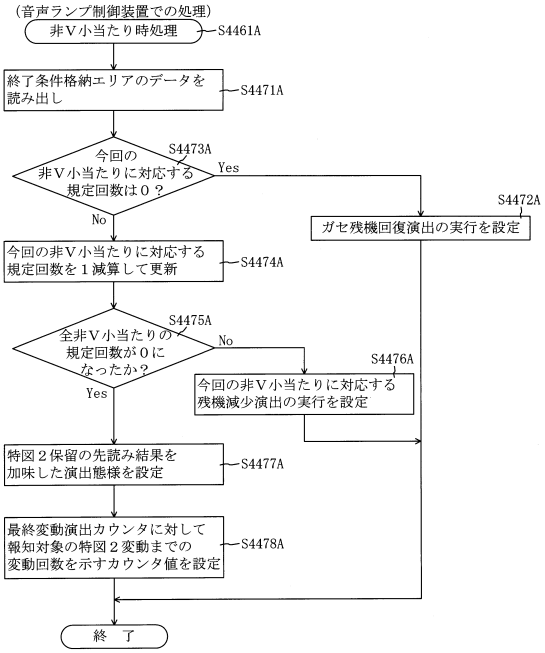
【図１２５０】



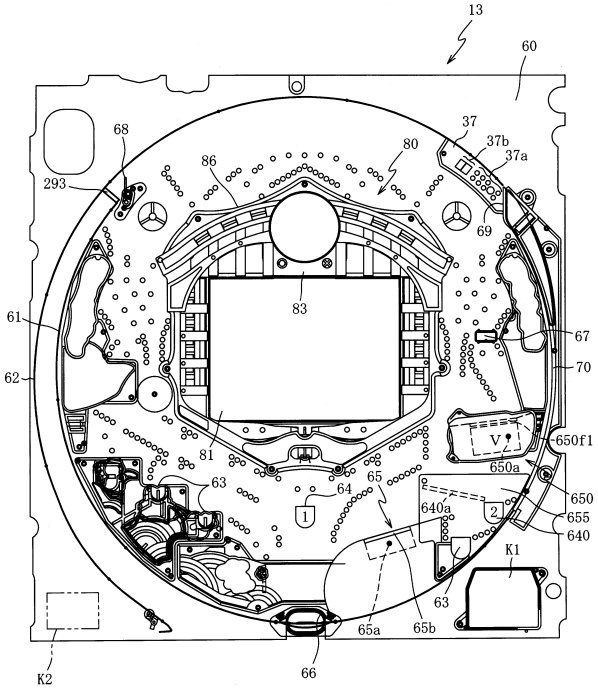
【図１２５１】



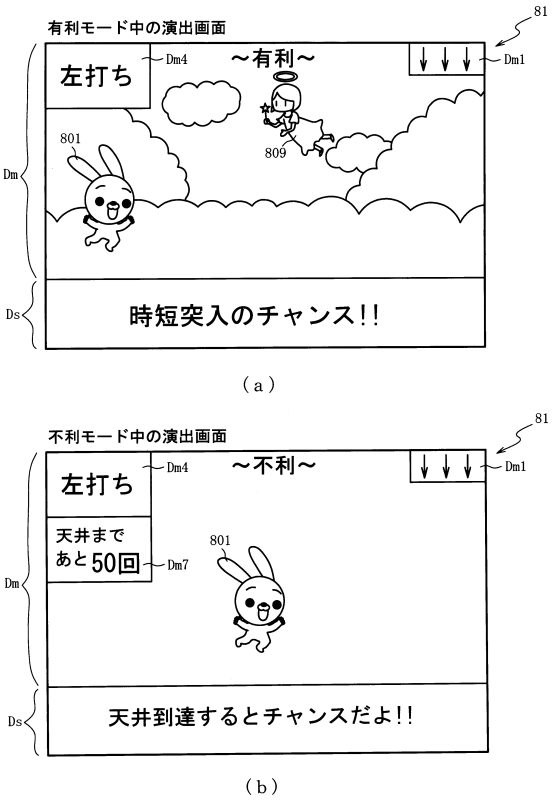
【図１２５２】



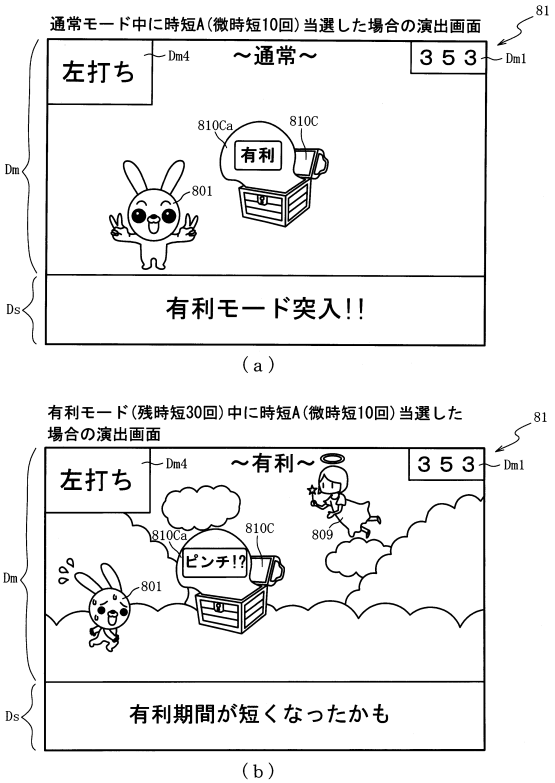
【図１２５３】



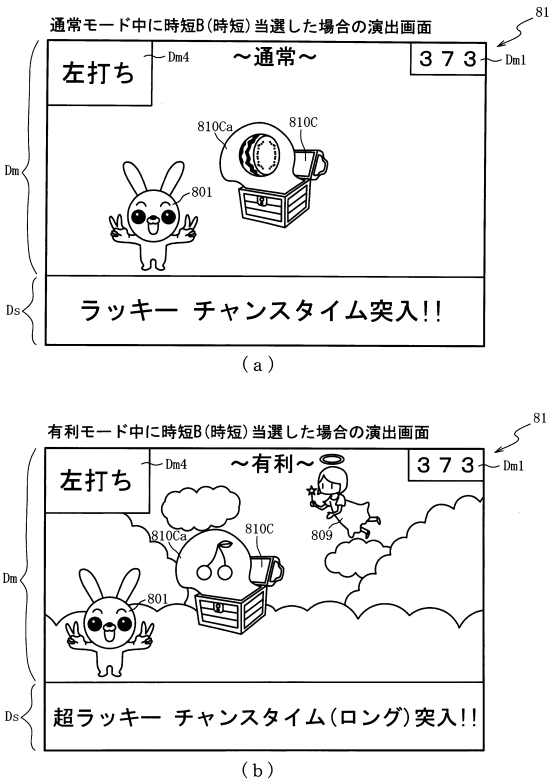
【図１２５４】



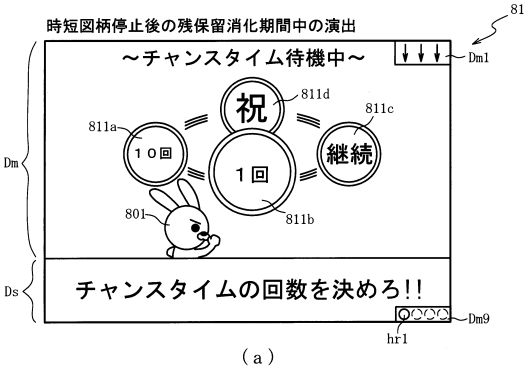
【図１２５５】



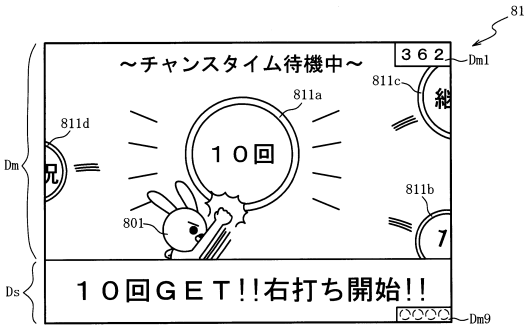
【図１２５６】



【図１２５７】

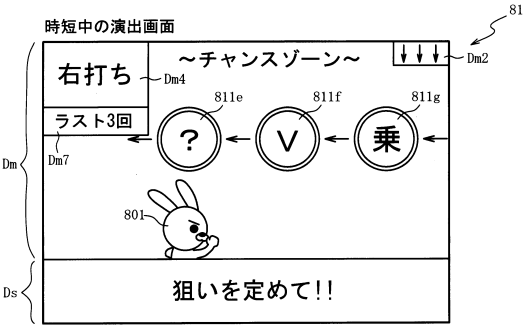


（ａ）

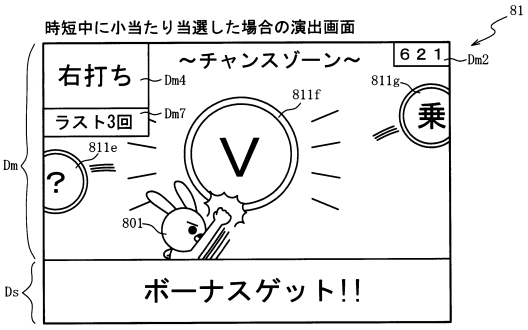


（ｂ）

【図１２５８】

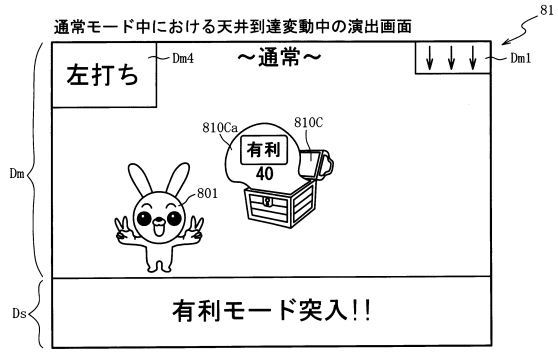


（ａ）

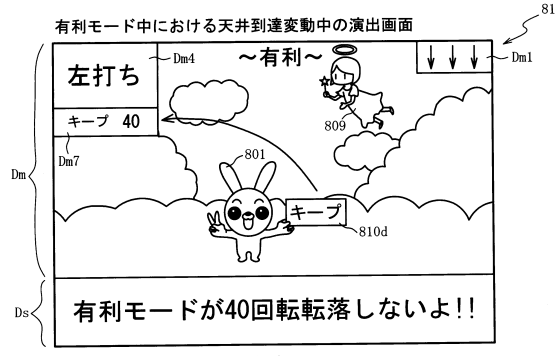


（ｂ）

【図１２５９】

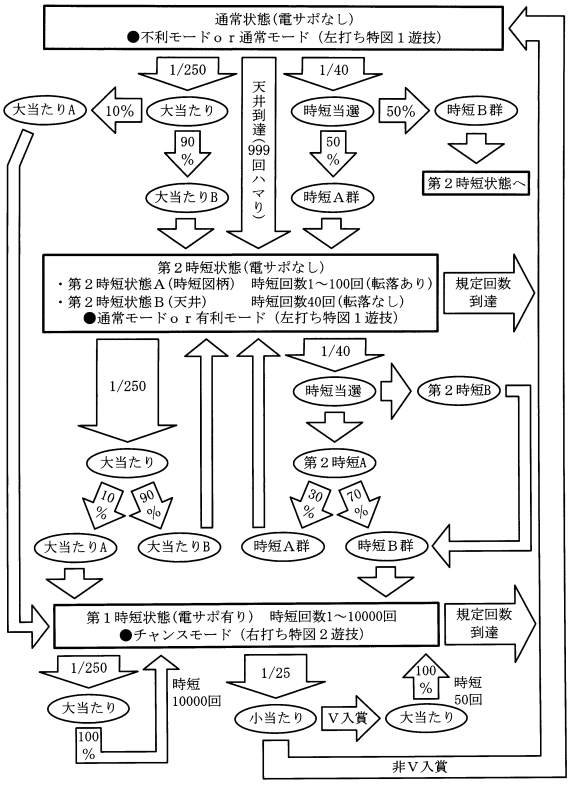


（ａ）



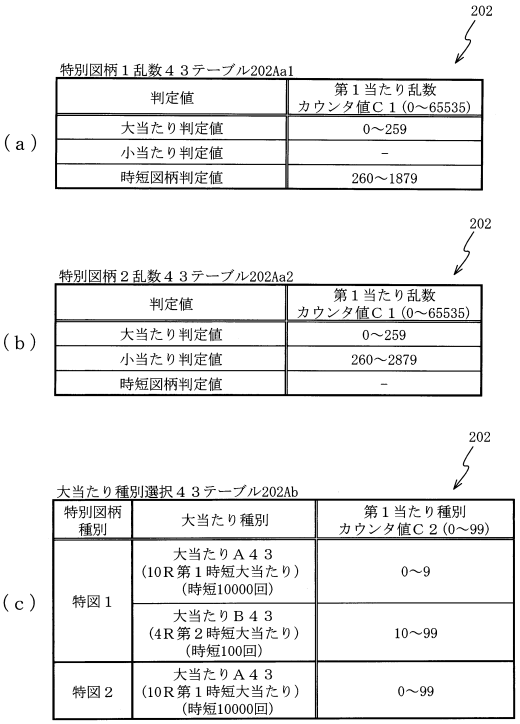
（ｂ）

【図１２６０】

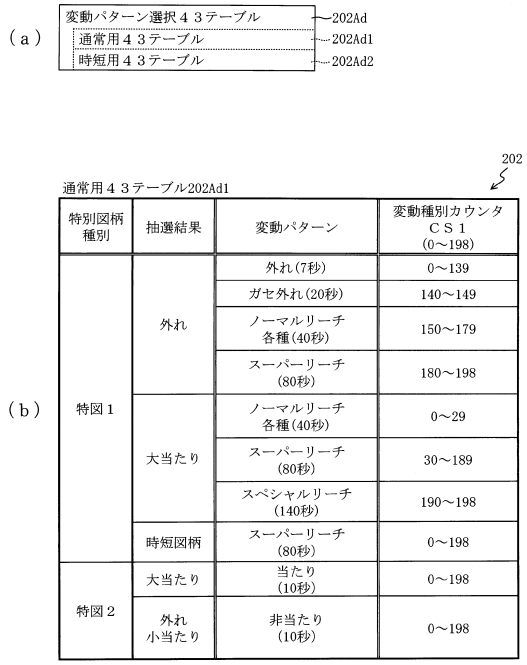


【図１２６１】

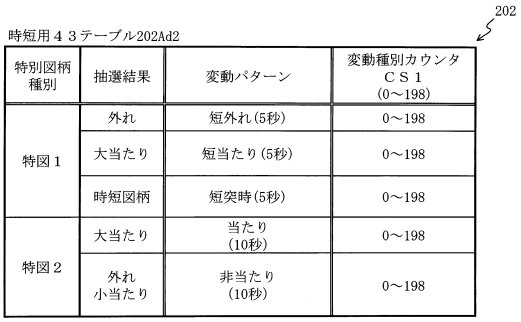
【図１２６２】



【図１２６３】



【図１２６４】



【図１２６５】

202

時短付与４３テーブル202Ae

大当たり種別	当選時の遊技状態	時短種別	時短付与内容（回数） 時短カウンタ 203h	特図２カウンタ 203Ab
大当たりＡ４３（10R）	共通	第１時短	10000	10000
大当たりＢ４３（4R）	通常状態 第２時短	第２時短	100	－
	第１時短	第１時短	10000	10000
時短図柄Ａ１	共通	第２時短	1	－
時短図柄Ａ２	通常状態	第２時短	10	－
	第２時短		20	－
	第１時短	第１時短	100	1
時短図柄Ａ３	通常状態	第２時短	30	－
	第２時短		50	－
	第１時短	第１時短	100	5
時短図柄Ａ４	通常状態	第２時短	70	－
	第２時短		100	－
	第１時短	第１時短	100	10
時短図柄Ｂ１	通常状態	第１時短	100	1
	第２時短		100	8
	第１時短		100	10
時短図柄Ｂ２	通常状態	第１時短	100	5
	第２時短		100	15
	第１時短		100	10
時短図柄Ｂ３	通常状態	第１時短	100	8
	第２時短		1000	100
	第１時短		1000	100

【図１２６６】

（ａ）

202

小当たり種別選択４３テーブル202Af

特別図柄種別	小当たり種別	小当たり種別カウンタ値 Ｃ５（0～99）
特図２	小当たりＡ４３（Ｖ通過時大当たりＡ４３）	0～99

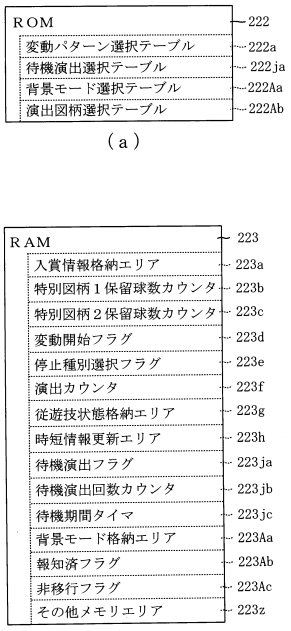
（ｂ）

202

時短種別選択４３テーブル202Ah

遊技状態	時短図柄種別	第１当たり種別カウンタ値Ｃ２（0～99）
通常	時短図柄Ａ１	0～49
	時短図柄Ａ２	50～59
	時短図柄Ａ３	60～64
	時短図柄Ａ４	65～69
	時短図柄Ｂ１	70～94
	時短図柄Ｂ２	95～98
	時短図柄Ｂ３	99
第１時短 第２時短	時短図柄Ａ１	0～29
	時短図柄Ａ２	30～39
	時短図柄Ａ３	40～44
	時短図柄Ａ４	45～49
	時短図柄Ｂ１	50～79
	時短図柄Ｂ２	80～89
	時短図柄Ｂ３	90～99

【図１２６７】



【図１２６８】

222

背景モード選択テーブル222Aa

遊技状態	時短回数	対象当たり保留	背景モード	第１演出カウンタ223f1（0～99）
通常	1回	あり	通常	－
			不利	－
			有利	0～99
		なし	通常	0～79
			不利	80～84
			有利	85～99
	10回～29回	あり	通常	0～49
			不利	50～54
			有利	55～99
		なし	通常	0～49
			不利	50～54
			有利	55～99
	30回～	あり	通常	0～29
			不利	30～54
			有利	55～99
		なし	通常	0～29
			不利	30～34
			有利	35～99
第２時短	20回	あり	通常	－
			不利	－
			有利	0～99
		なし	通常	0～9
			不利	10～14
			有利	15～99
	50回	あり	通常	0～4
			不利	5～14
			有利	15～99
		なし	通常	0～4
			不利	－
			有利	5～99
	100回	あり	通常	－
			不利	0～29
			有利	30～99
		なし	通常	0～4
			不利	－
			有利	5～99

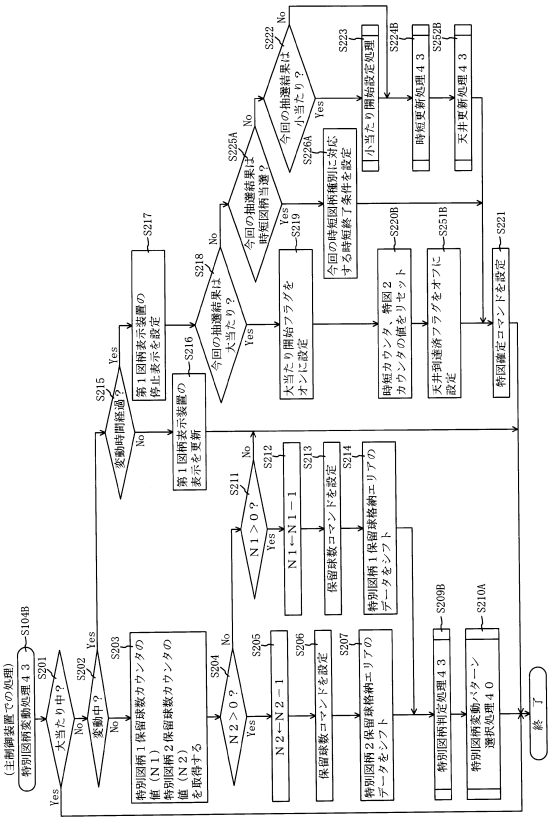
【図１２６９】

222

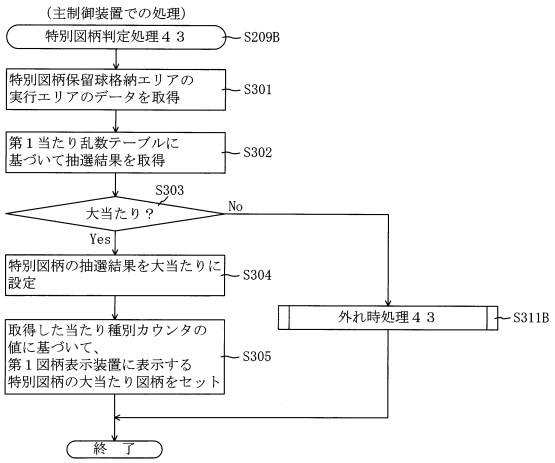
演出図柄選択テーブル222Ab

遊技状態	時短回数	背景モード	対象図柄	第１演出カウンタ223f1(0～99)
通常	1回	不利通常	スイカ	0～69
			チェリー	70～99
			人参	−
		有利	スイカ	0～99
			チェリー	−
			人参	−
	5回	不利通常	スイカ	0～49
			チェリー	50～99
			人参	−
		有利	スイカ	0～99
			チェリー	−
			人参	−
	8回	不利通常	スイカ	−
			チェリー	0～99
			人参	−
		有利	スイカ	0～99
			チェリー	−
			人参	−
第２時短	8回	不利通常	スイカ	0～19
			チェリー	20～99
			人参	−
		有利	スイカ	0～49
			チェリー	50～99
			人参	−
	15回	不利通常	スイカ	−
			チェリー	0～89
			人参	90～99
		有利	スイカ	−
			チェリー	0～69
			人参	70～99
	100回	不利通常	スイカ	−
			チェリー	0～79
			人参	80～99
		有利	スイカ	−
			チェリー	−
			人参	0～99

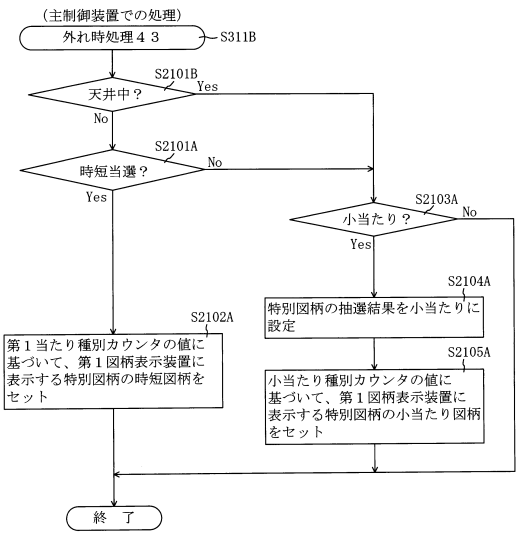
【図１２７０】



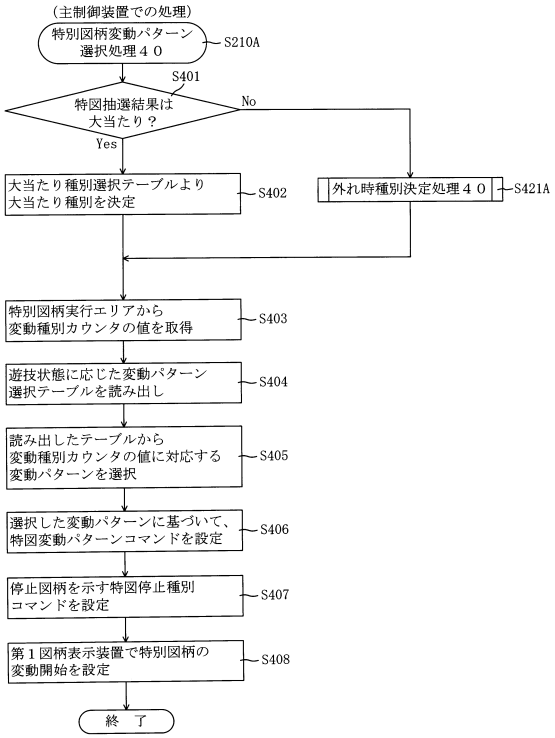
【図１２７１】



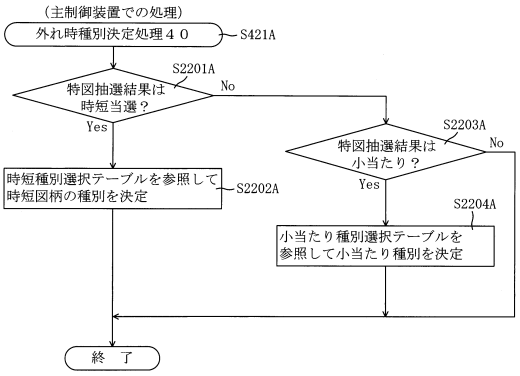
【図１２７２】



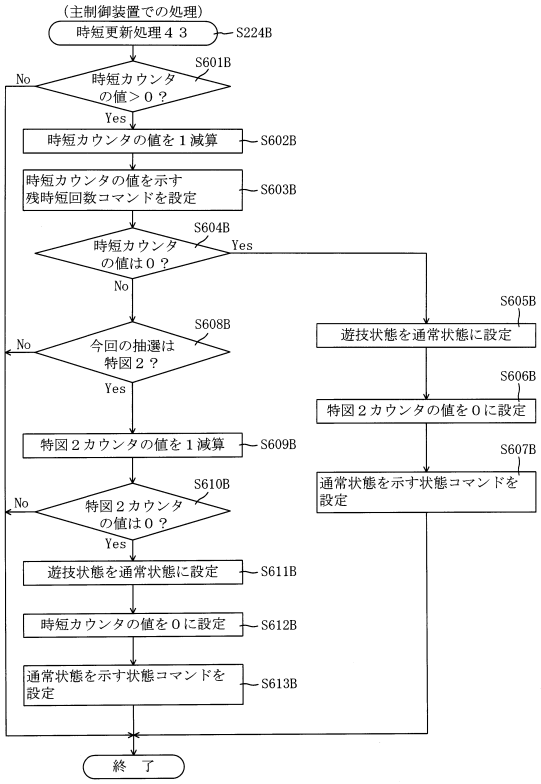
【図１２７３】



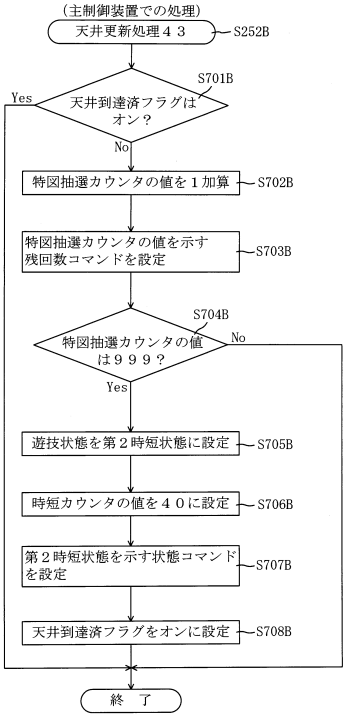
【図１２７４】



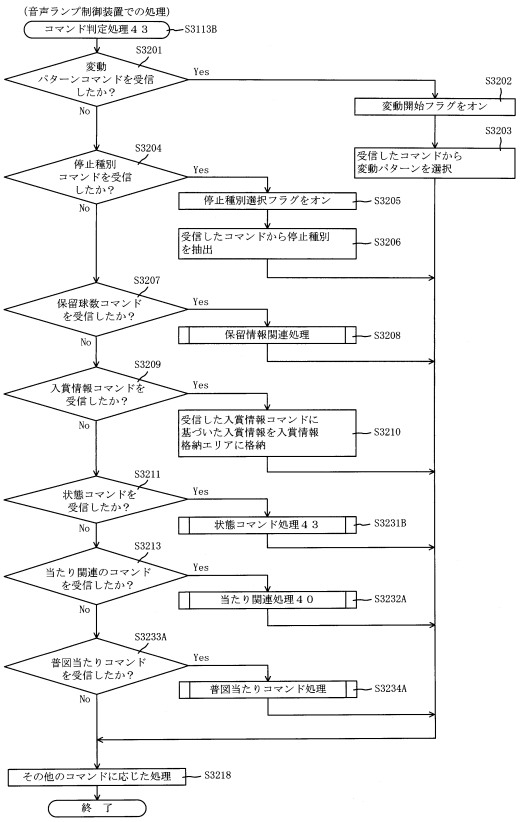
【図１２７５】



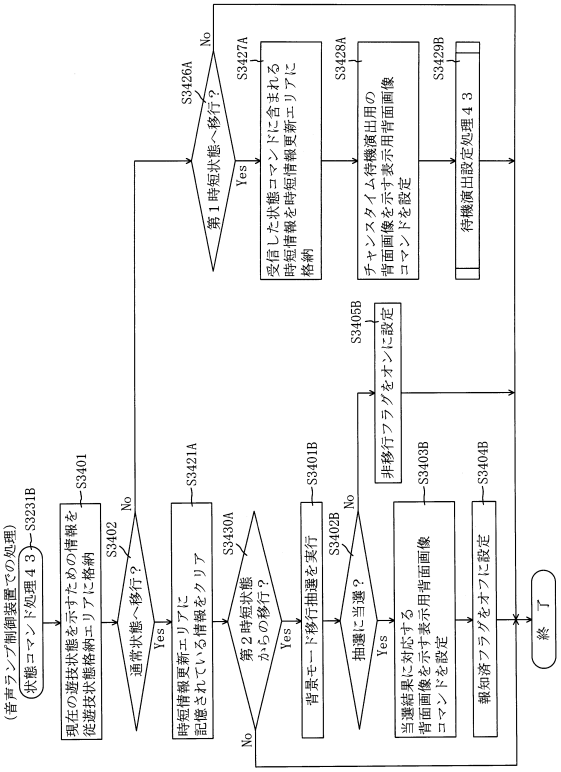
【図１２７６】



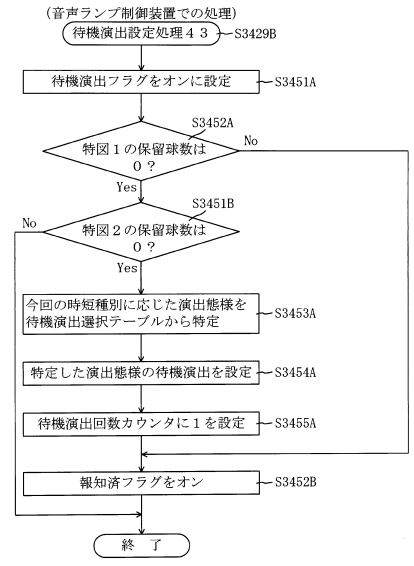
【図１２７７】



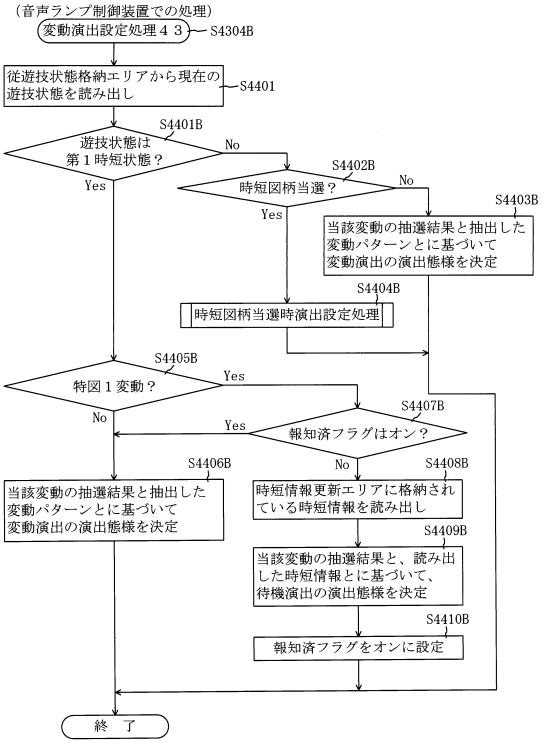
【図１２７８】



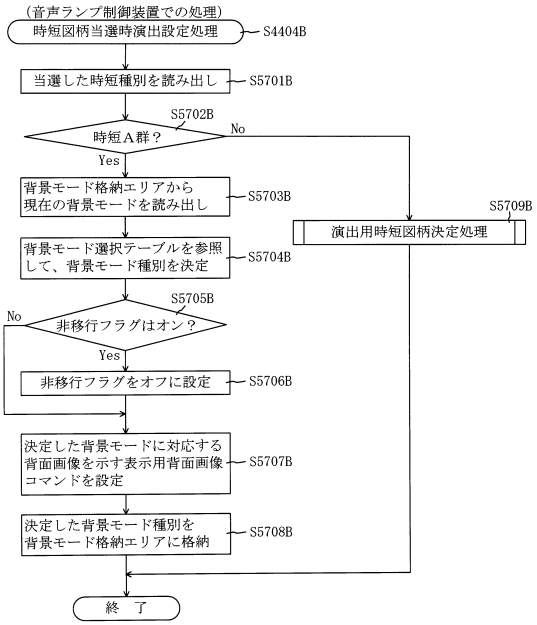
【図１２７９】



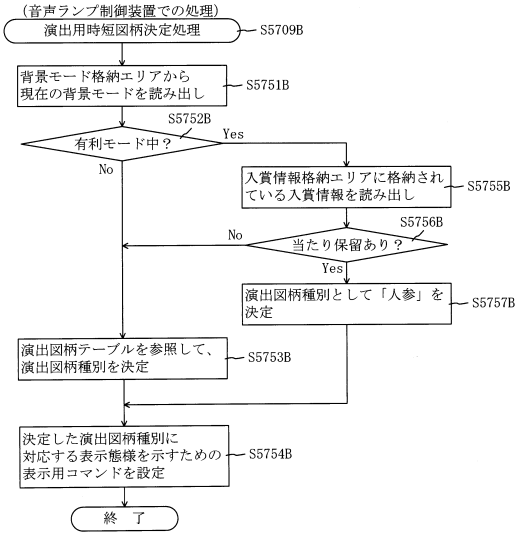
【図１２８０】



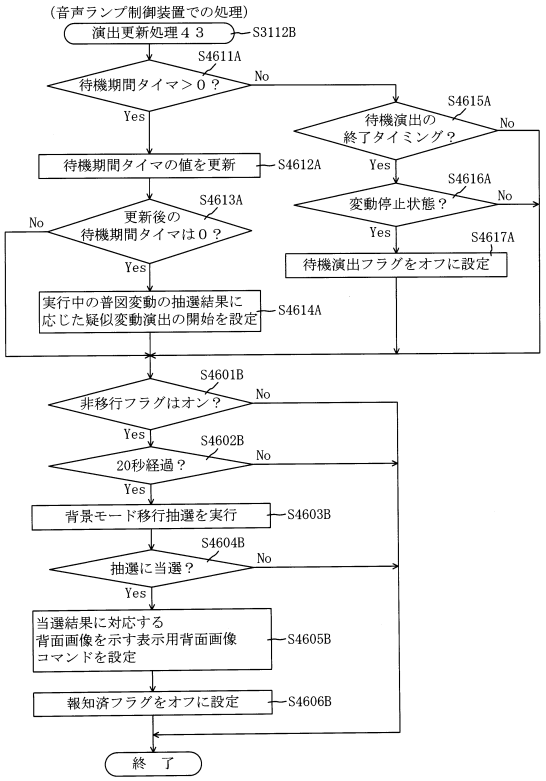
【図１２８１】



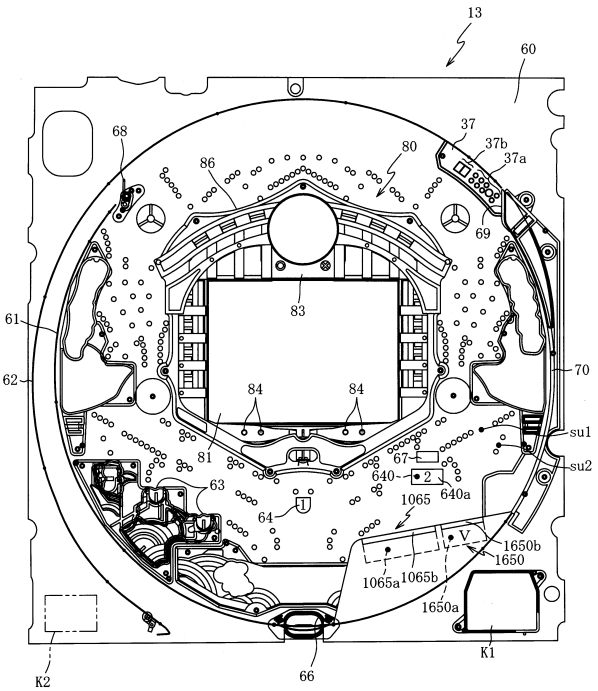
【図１２８２】



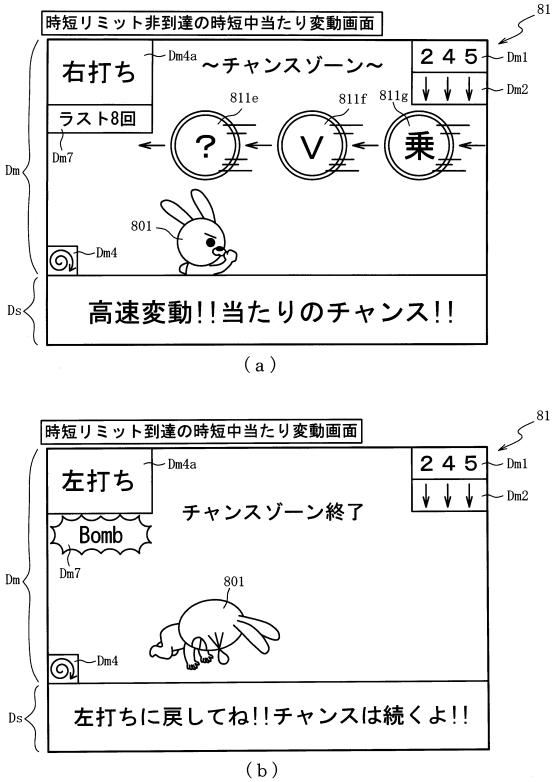
【図１２８３】



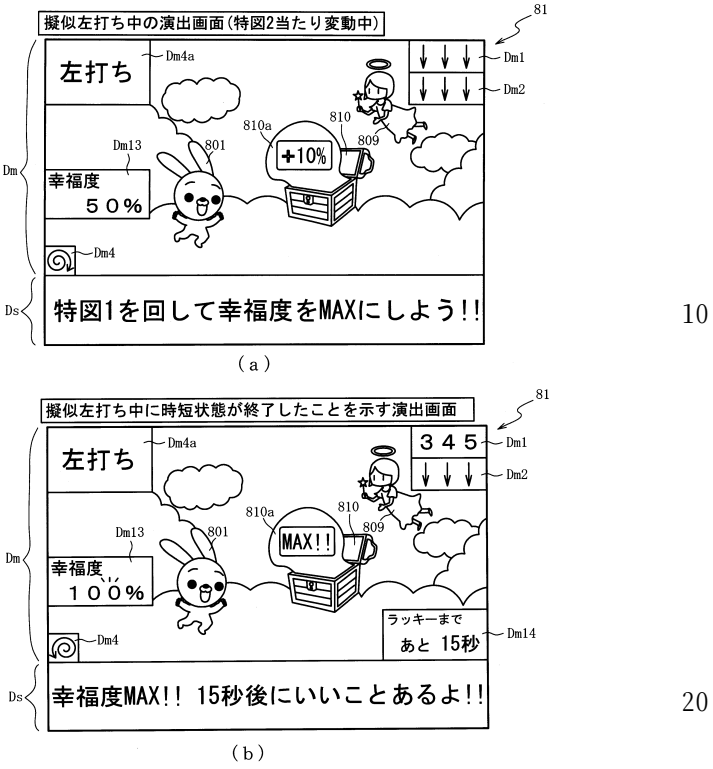
【図１２８４】



【図１２８５】



【図１２８６】



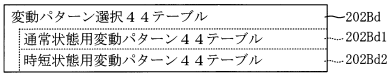
【図１２８７】

ＲＯＭ（主制御装置）	202
第１当たり乱数４３テーブル	202Aa
大当たり種別選択４３テーブル	202Ab
第２当たり乱数４３テーブル	202Ac
変動パターン選択４４テーブル	202Bd
小当たり種別選択４３テーブル	202Af
開放シナリオテーブル	202g
時短種別選択４３テーブル	202Ah

【図１２８８】

ＲＡＭ（主制御装置）	203
第１特別図柄保留球格納エリア	203a
第２特別図柄保留球格納エリア	203b
普通図柄保留球格納エリア	203c
第１特別図柄保留球数カウンタ	203d
第２特別図柄保留球数カウンタ	203e
普通図柄保留球数カウンタ	203f
遊技状態格納エリア	203g
時短カウンタ	203h
大当たり開始フラグ	203j
大当たり中フラグ	203k
小当たり種別格納エリア	203m
小当たり開始フラグ	203n
小当たり中フラグ	203o
Ｖ通過大当たり種別格納エリア	203p
Ｖフラグ	203q
Ｖ通過フラグ	203r
小当たりカウンタ	203s
特図抽選カウンタ	203Aa
特図２カウンタ	203Ab
天井到達済フラグ	203Ac
時短リミット回数カウンタ	203Ba
特図１変動時間タイマ	203Bb
特図２変動時間タイマ	203Bc
特図１仮停止フラグ	203Bd
特図２仮停止フラグ	203Be
特図１変動停止フラグ	203Bf
特図２変動停止フラグ	203Bg
時短リミット到達フラグ	203Bh
その他メモリエリア	203z

【図１２８９】



【図１２９０】

202

通常状態用変動パターン４４テーブル202Bd1

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第１特別図柄	外れ	短外れ（7秒）	0～139
		ガセ外れ（20秒）	140～149
		ノーマルリーチ各種（40秒）	150～179
		スーパーリーチ（80秒）	180～198
	時短当選	時短当たり（80秒）	0～198
	大当たり	ノーマルリーチ各種（40秒）	0～29
		スーパーリーチ（80秒）	30～189
		スペシャルリーチ（140秒）	190～198
第２特別図柄	外れ	外れ（10秒）	0～198
	大当たり小当たり	当たり（10秒）	0～198

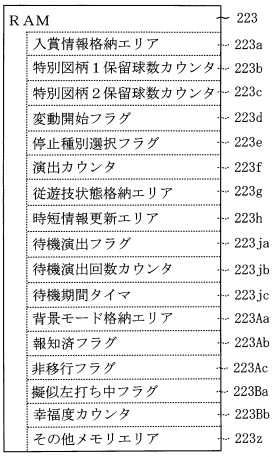
【図１２９１】

202

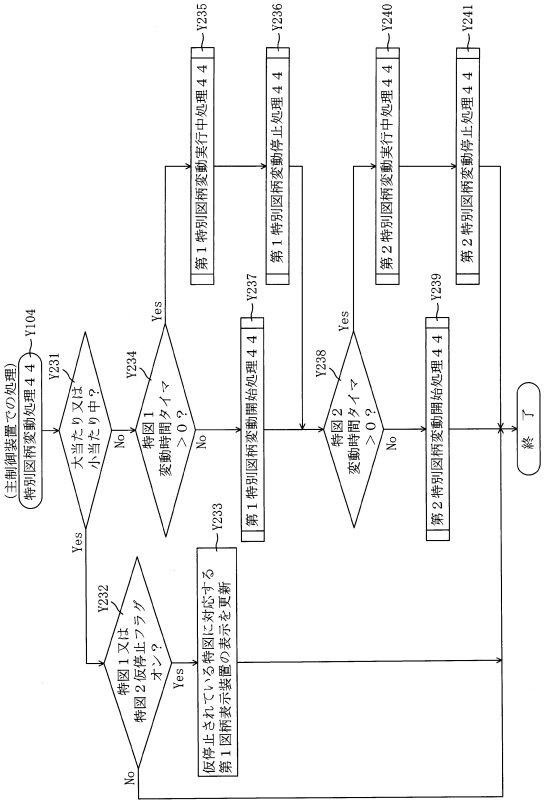
時短状態用変動パターン４４テーブル202Bd2

図柄種別	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
第１特別図柄	外れ	超短外れ（1秒）	0～49
		短外れ（3秒）	50～149
		外れ（10秒）	150～198
	大当たり	ロング当たり（600秒）	0～198
第２特別図柄	外れ	短外れ（3秒）	0～198
	大当たり小当たり	短当たり（5秒）	0～49
		当たり（60秒）	50～149
		長当たり（180秒）	150～198

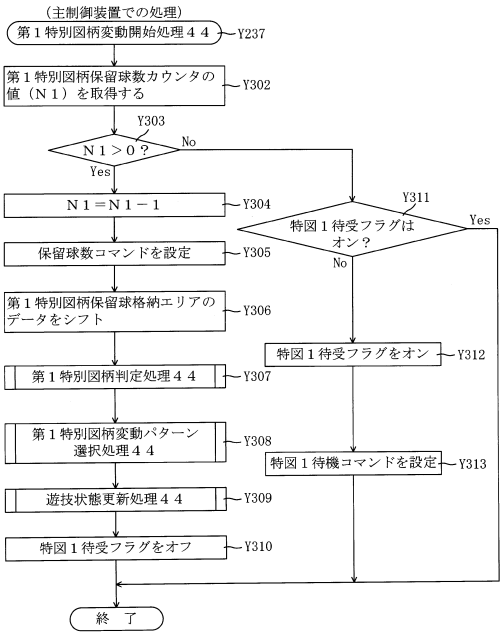
【図１２９２】



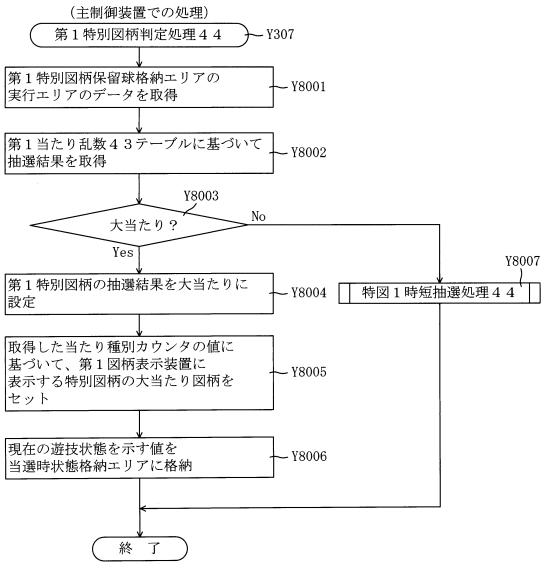
【図１２９３】



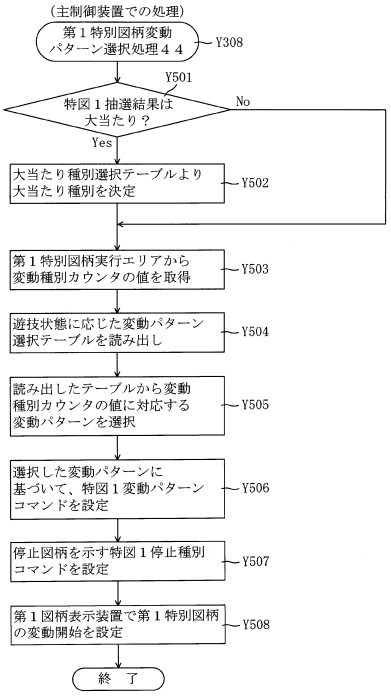
【図１２９４】



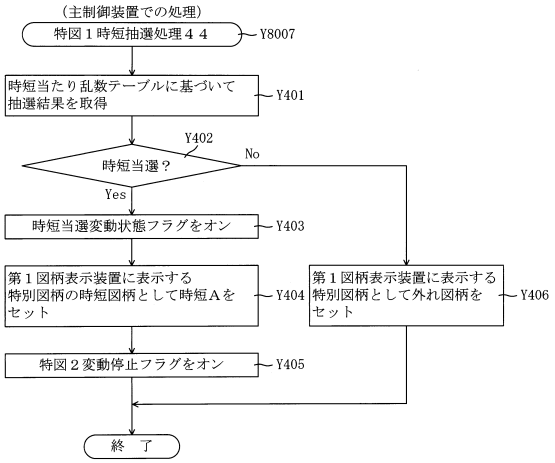
【図１２９５】



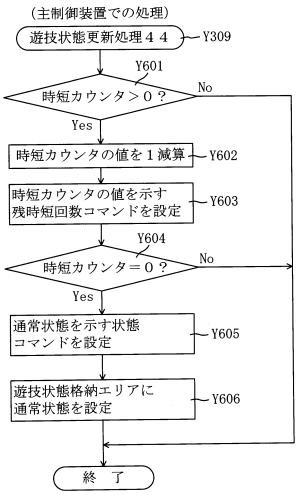
【図１２９６】



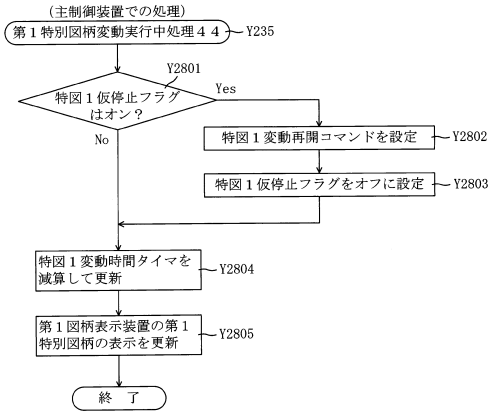
【図１２９７】



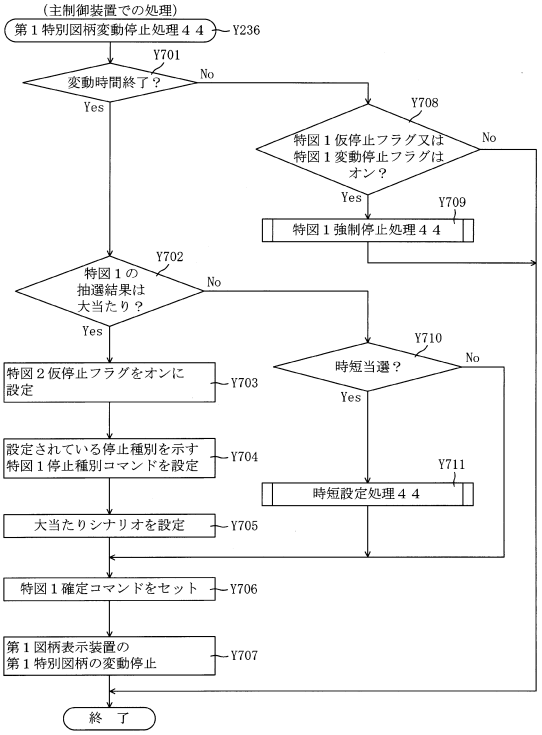
【図１２９８】



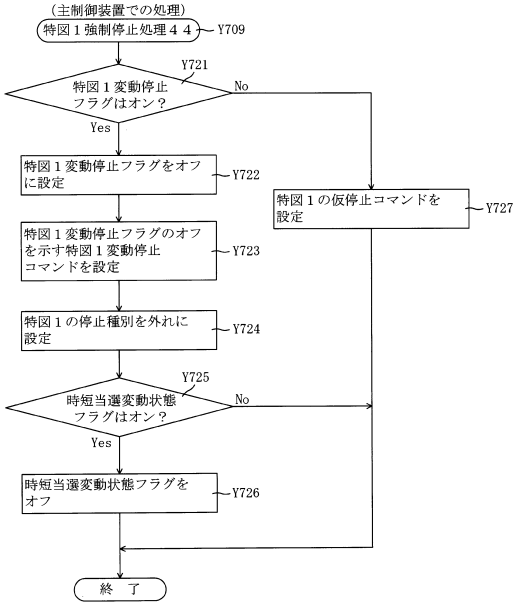
【図１２９９】



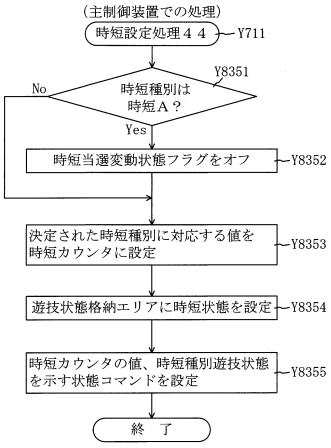
【図１３００】



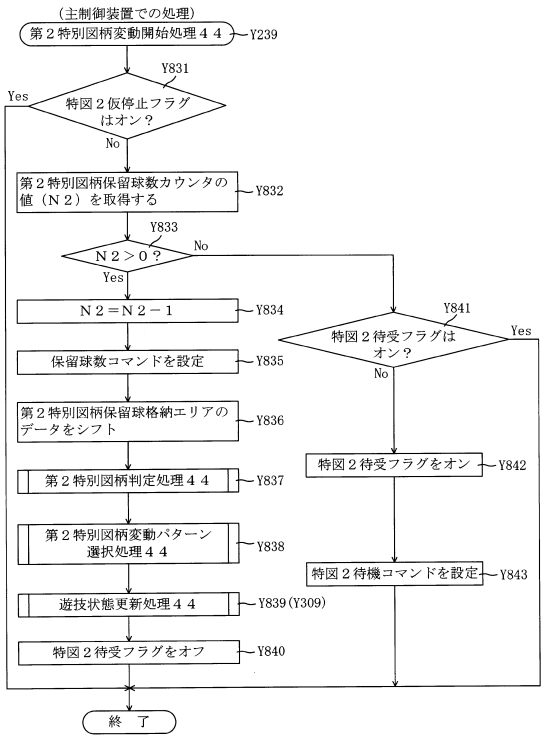
【図１３０１】



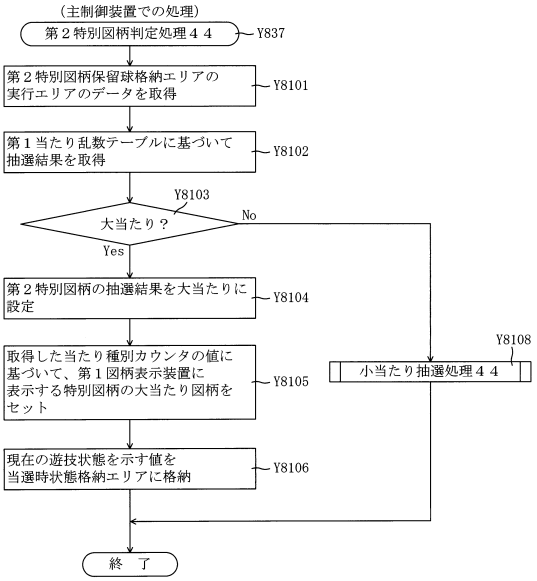
【図１３０２】



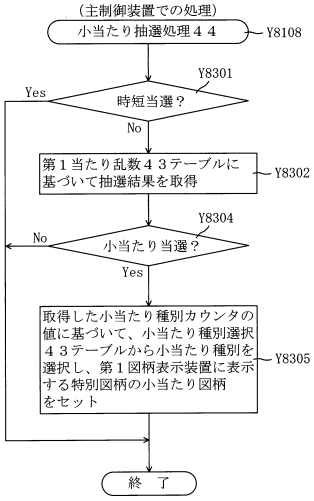
【図１３０３】



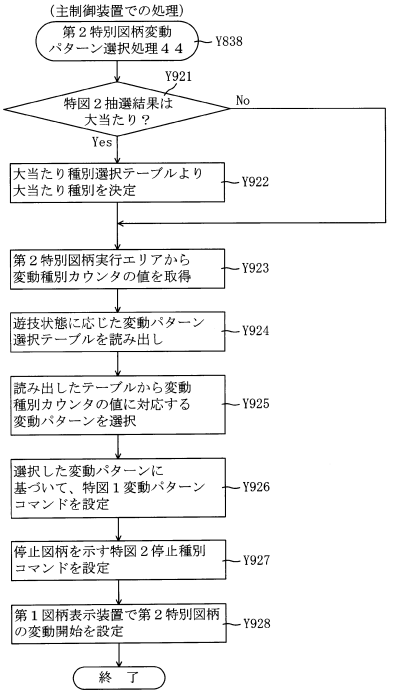
【図１３０４】



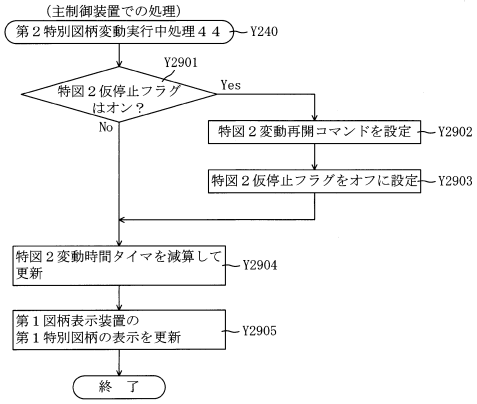
【図１３０５】



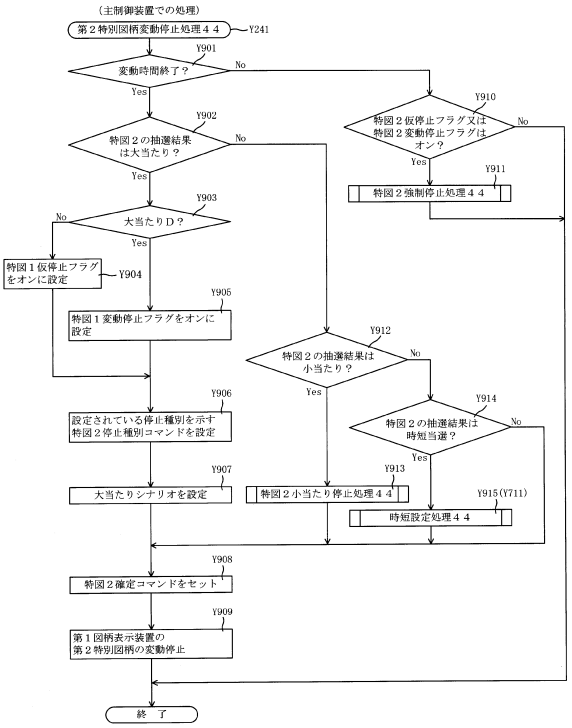
【図１３０６】



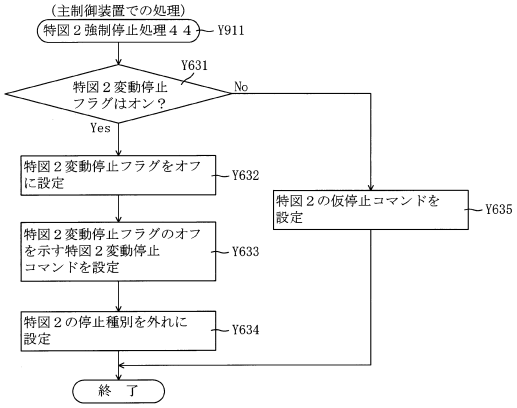
【図１３０７】



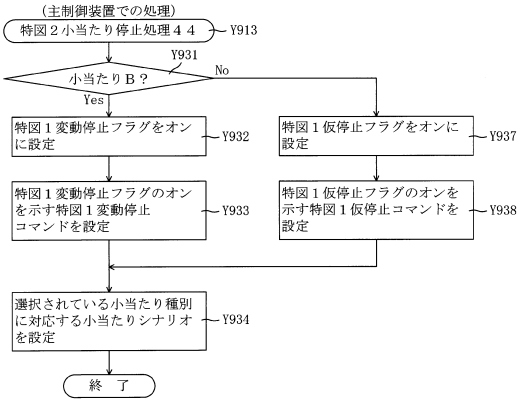
【図１３０８】



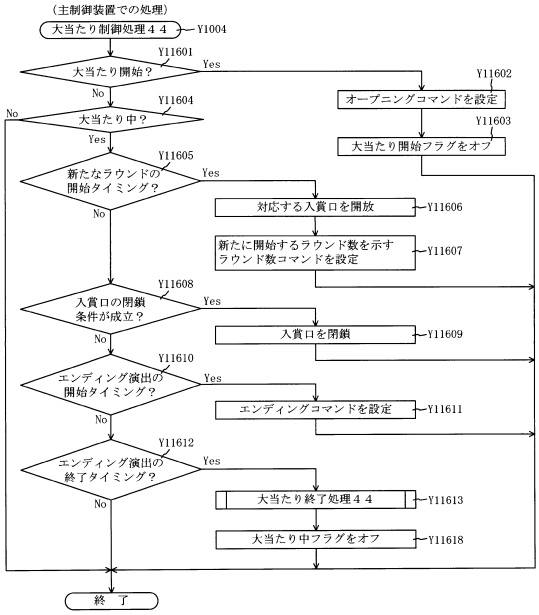
【図１３０９】



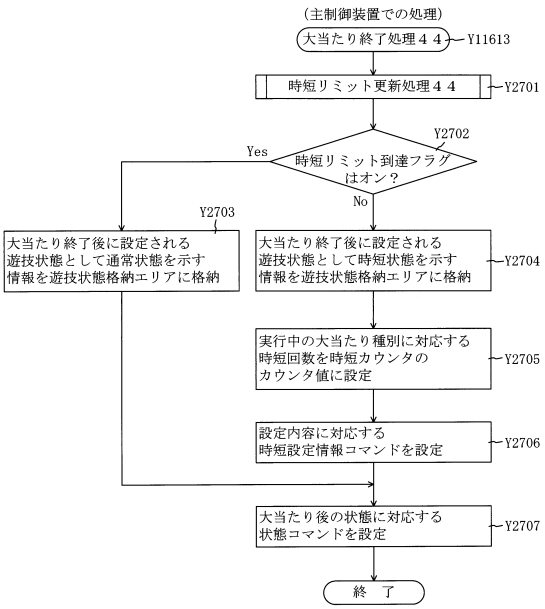
【図１３１０】



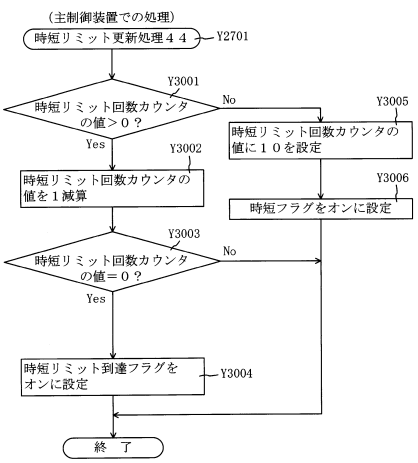
【図１３１１】



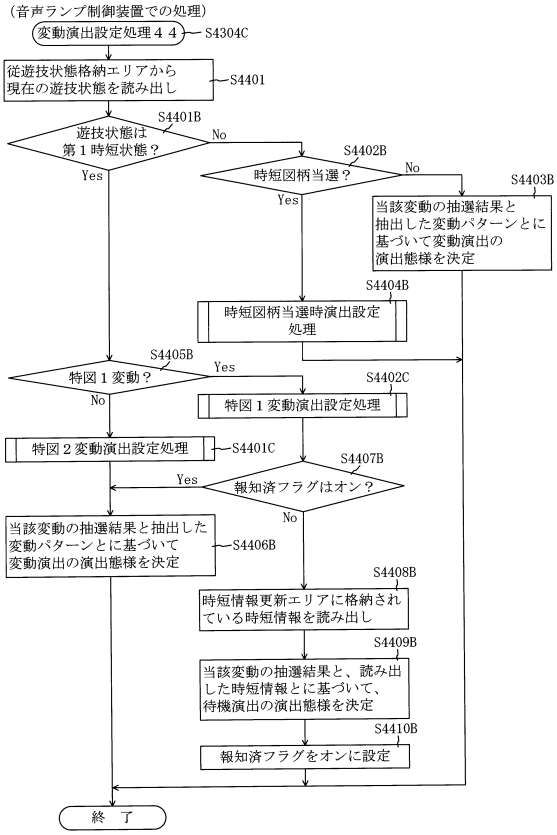
【図１３１２】



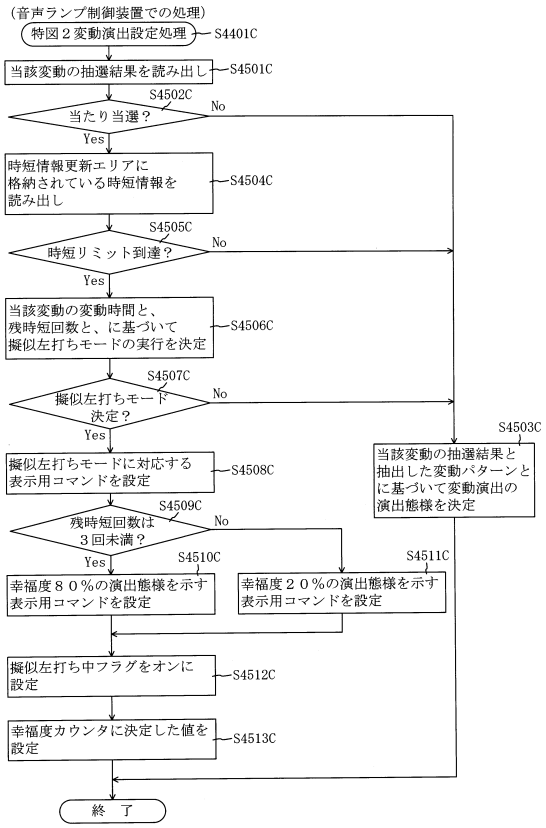
【図１３１３】



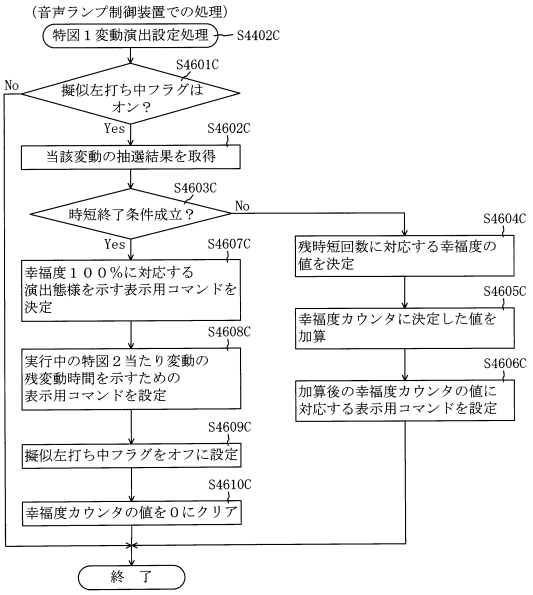
【図１３１４】



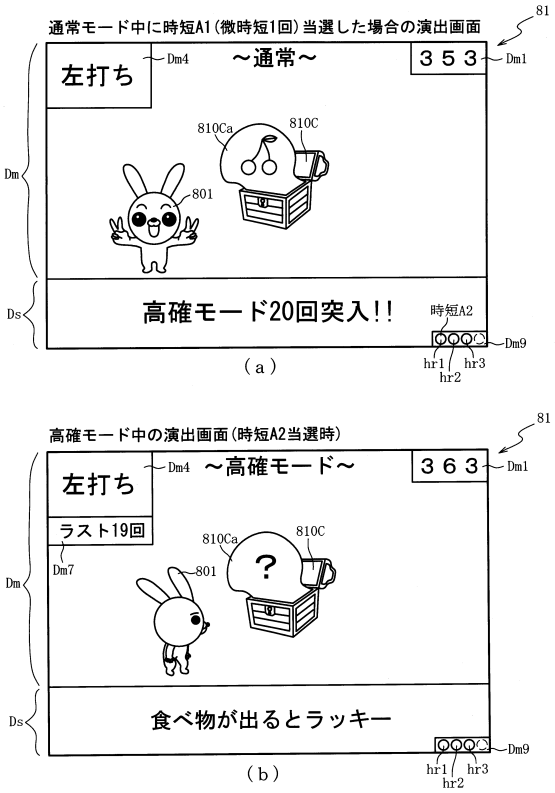
【図１３１５】



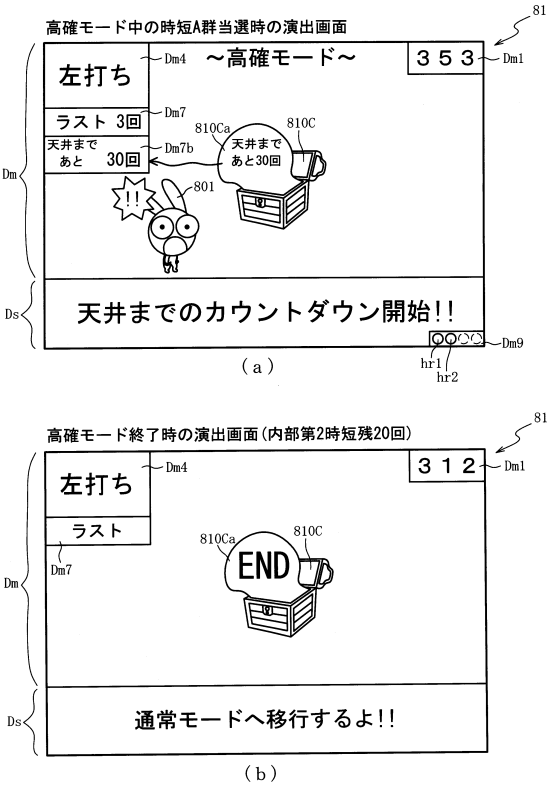
【図１３１６】



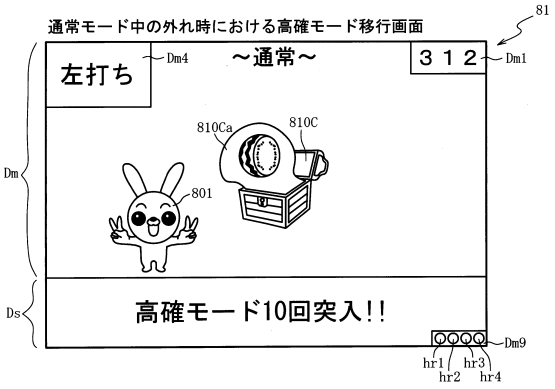
【図１３１７】



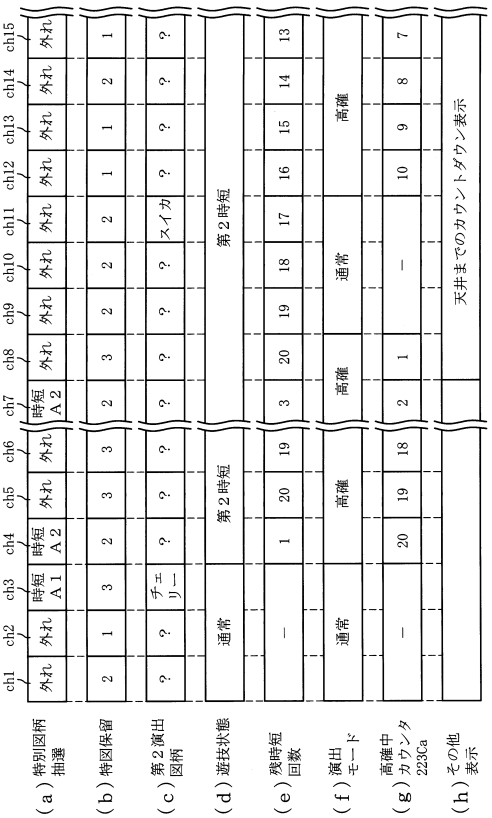
【図１３１８】



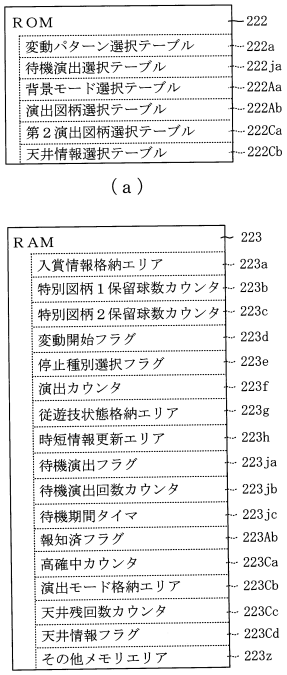
【図１３１９】



【図１３２０】



【図１３２１】



【図１３２２】

222

第２演出図柄選択テーブル222Ca

時短種別	先読み結果			選択図柄	第１演出カウンタ223f1（0～99）
	先読み数（個）	付与時短（回）	大当たり有無		
時短Ａ１	1，2	1	有り	スイカ	0～69
				人参	70～99
			無し	－	0～69
				スイカ	70～99
		2～15	有り	チェリー	0～99
			無し	スイカ	0～99
		16～29	有り	人参	0～99
			無し	チェリー	0～99
		30～	共通	人参	0～99
	3	1	有り	スイカ	0～19
				人参	20～99
			無し	－	0～99
		2～15	有り	チェリー	0～99
			無し	スイカ	0～99
		16～29	有り	人参	0～99
			無し	チェリー	0～99
		30～	共通	人参	0～99
時短Ａ２，Ａ３，Ａ４	1，2	1	有り	スイカ	0～89
				人参	90～99
			無し	－	0～89
				スイカ	90～99
		2～15	有り	チェリー	0～99
			無し	スイカ	0～99
		16～29	有り	人参	0～99
			無し	チェリー	0～99
		30～	共通	人参	0～99
	3	1	有り	スイカ	0～19
				人参	20～99
			無し	－	0～99
		2～15	有り	チェリー	0～99
			無し	スイカ	0～99
		16～29	有り	人参	0～99
			無し	チェリー	0～99
		30～	共通	人参	0～99

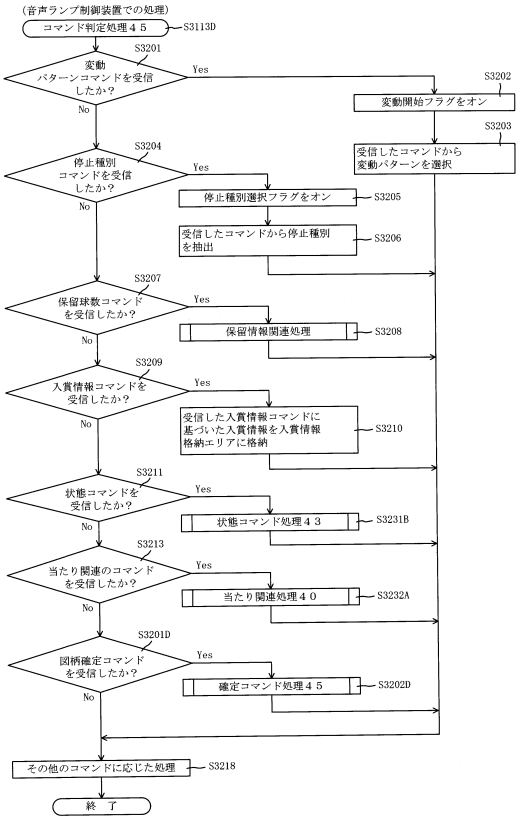
【図１３２３】

222

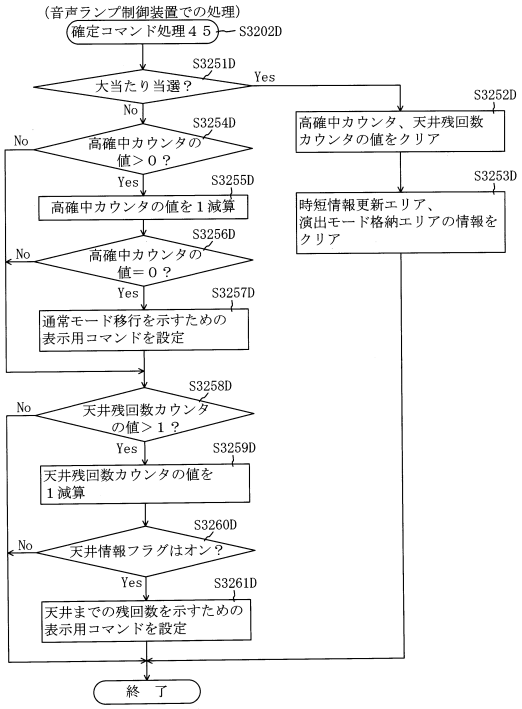
天井情報選択テーブル222Cb

天井残回数カウンタ223Cc	当選時短種別	天井情報報知有無	第１演出カウンタ223f1（0～99）
９９９～４００	時短Ａ１	有り	0
		無し	1～99
	時短Ａ２	有り	0～5
		無し	6～99
	時短Ａ３，Ａ４	有り	0～9
		無し	10～99
３９９～１００	時短Ａ１	有り	0～9
		無し	10～99
	時短Ａ２	有り	0～19
		無し	20～99
	時短Ａ３，Ａ４	有り	0～29
		無し	30～99
９９～４０	時短Ａ１	有り	0～39
		無し	40～99
	時短Ａ２	有り	0～49
		無し	50～99
	時短Ａ３，Ａ４	有り	0～79
		無し	80～99
３９～１	時短Ａ１	有り	0～89
		無し	90～99
	時短Ａ２	有り	0～98
		無し	99
	時短Ａ３，Ａ４	有り	0～99
		無し	－

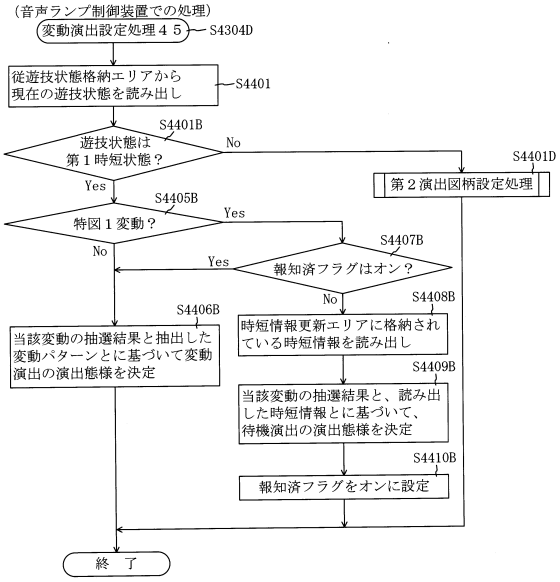
【図１３２４】



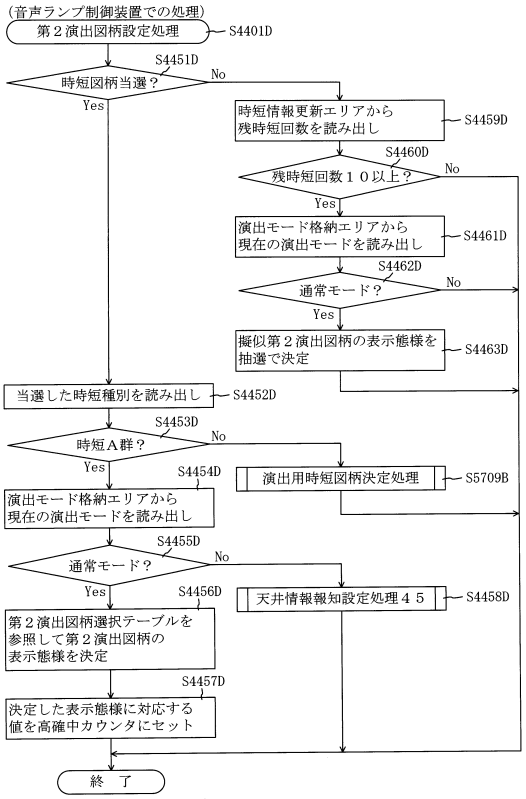
【図１３２５】



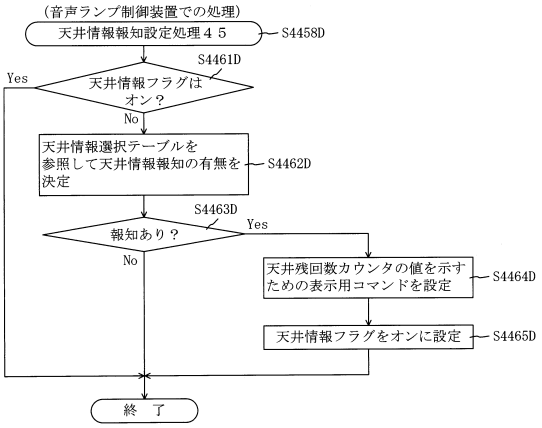
【図１３２６】



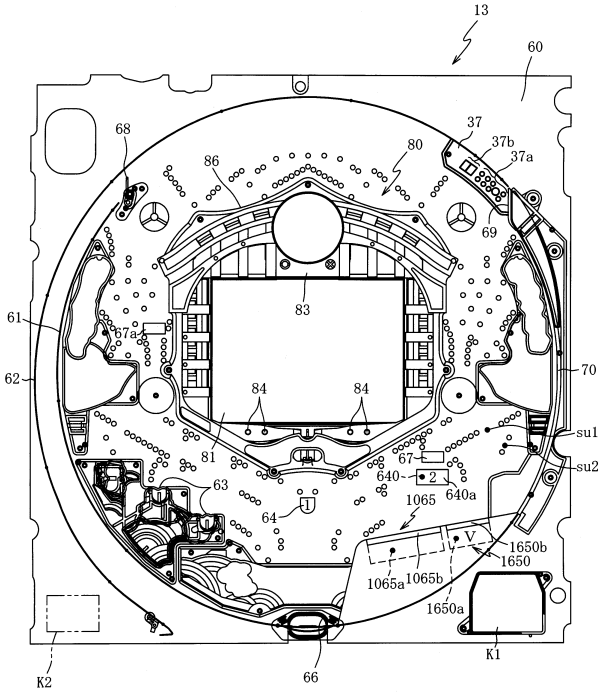
【図１３２７】



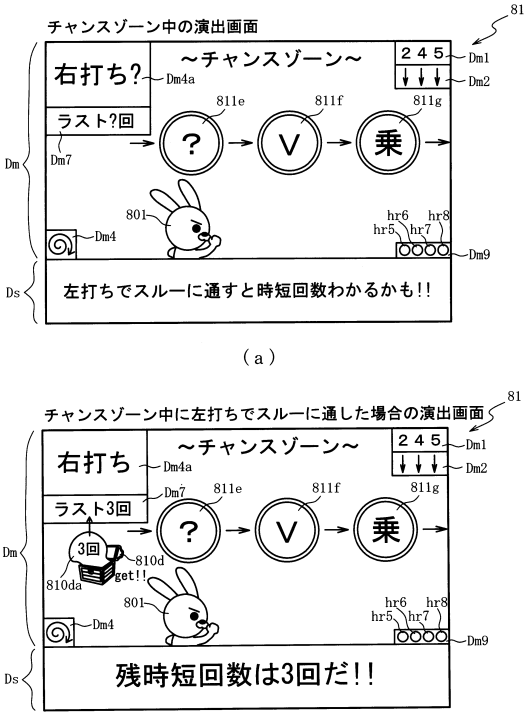
【図１３２８】



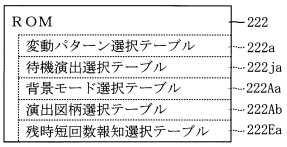
【図１３２９】



【図１３３０】



【図１３３１】



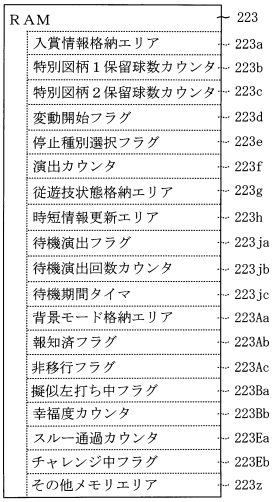
（ａ）

残時短回数報知選択テーブル222Ea

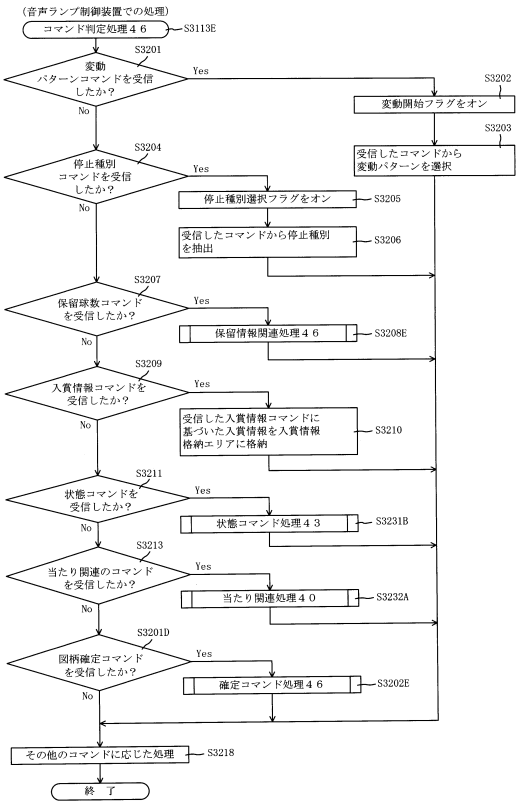
スルー通過カウンタ223Ea	残時短回数報知	第１演出カウンタ223f1（0～99）
1	有り（全回数）	0～29
	無し	30～99
2～20	有り（全回数）	0～9
	有り（上限２回）	10～14
	無し	15～99
21～	有り（全回数）	0～39
	有り（上限２回）	40～89
	無し	90～99

（ｂ）

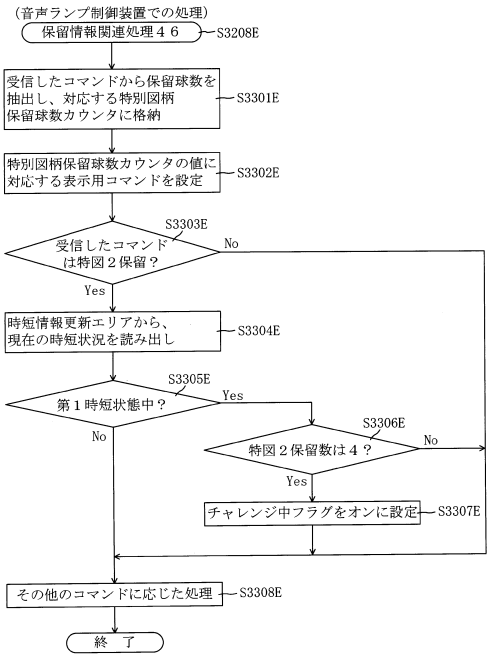
【図１３３２】



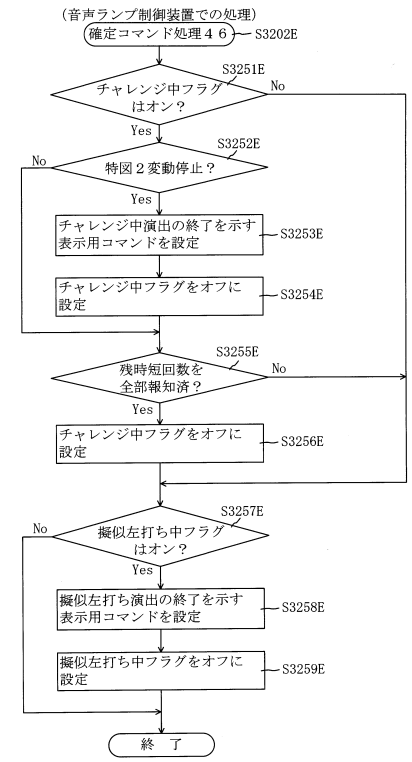
【図１３３３】



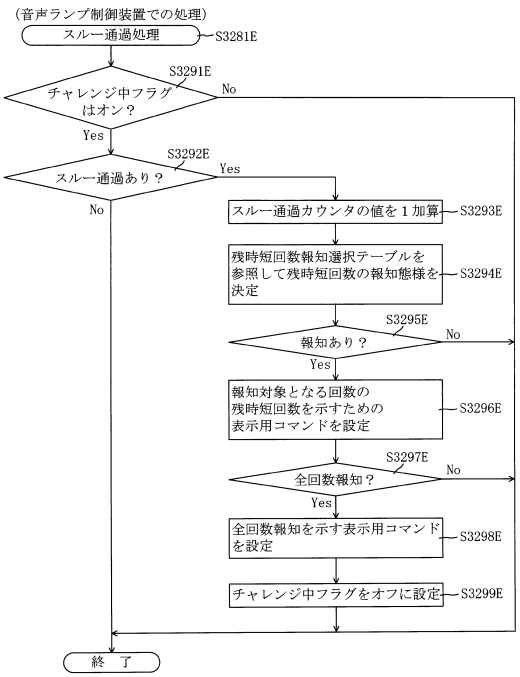
【図１３３４】



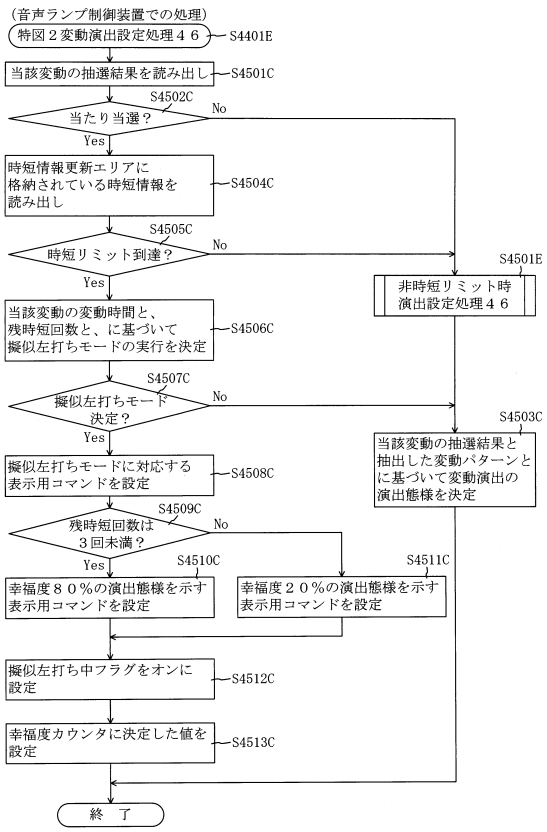
【図１３３５】



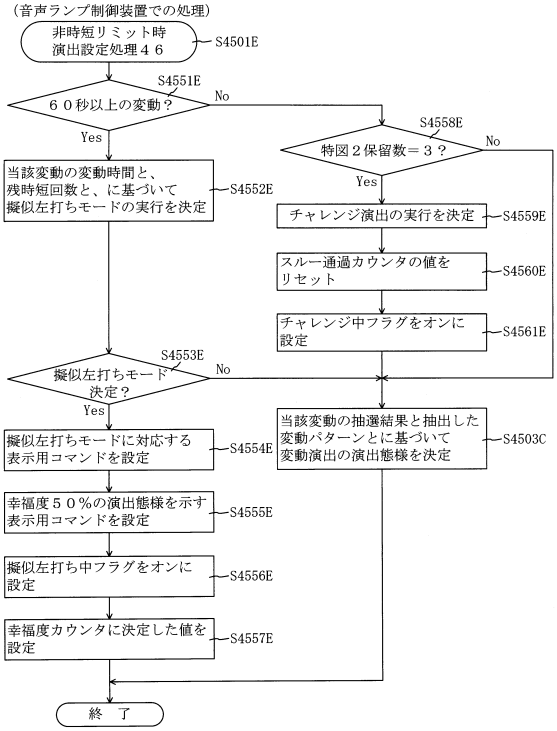
【図１３３６】



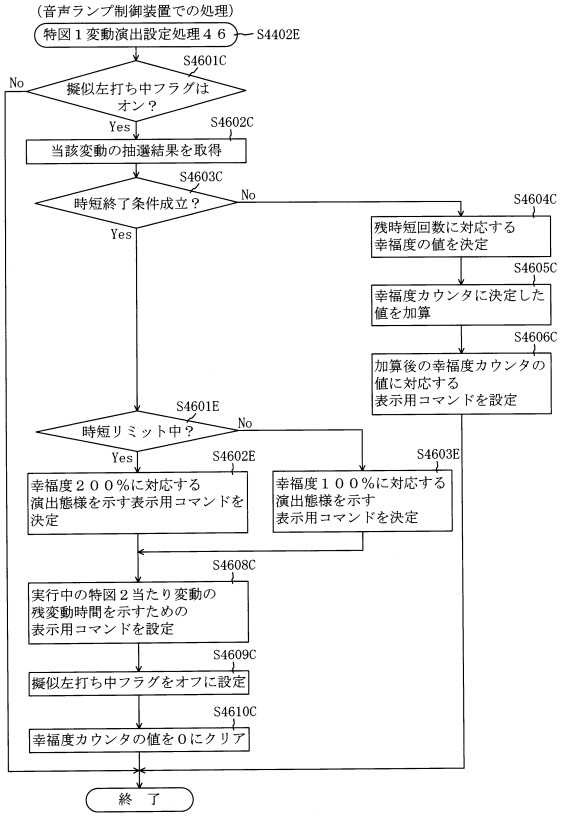
【図１３３７】



【図１３３８】



【図１３３９】



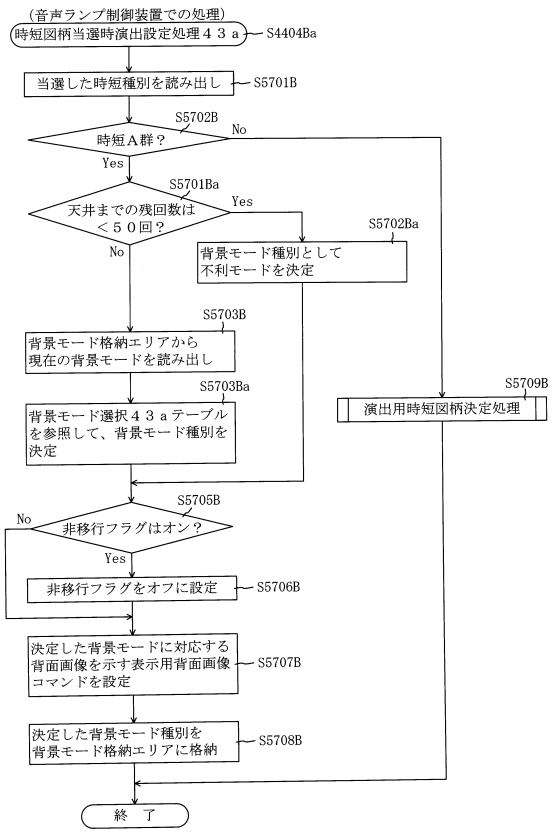
【図１３４０】

222

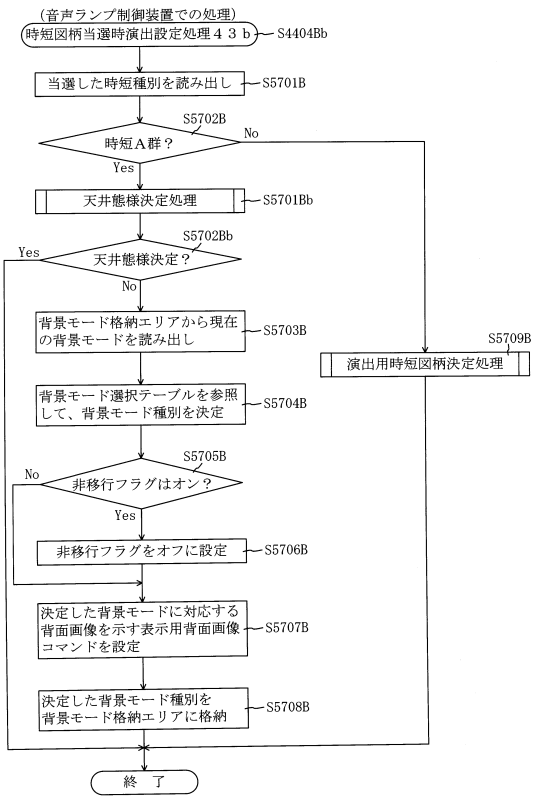
背景モード選択４３ａテーブル222Aaa

遊技状態	天井までの残回数	対象当たり保留	背景モード	第１演出カウンタ223f1（0～99）
通常	999回～500回	あり	通常	－
			不利	0～19
			有利	20～99
		なし	通常	0～79
			不利	－
			有利	80～99
	499回～100回	あり	通常	0～39
			不利	40～54
			有利	55～99
		なし	通常	0～49
			不利	50～54
			有利	55～99
	99回～50回	あり	通常	－
			不利	0～69
			有利	70～99
		なし	通常	－
			不利	0～89
			有利	90～99
第２時短	999回～500回	あり	通常	－
			不利	0～19
			有利	20～99
		なし	通常	0～79
			不利	－
			有利	80～99
	499回～100回	あり	通常	0～29
			不利	30～54
			有利	55～99
		なし	通常	0～49
			不利	50～69
			有利	70～99
	99回～50回	あり	通常	－
			不利	0～79
			有利	80～99
		なし	通常	－
			不利	0～99
			有利	－

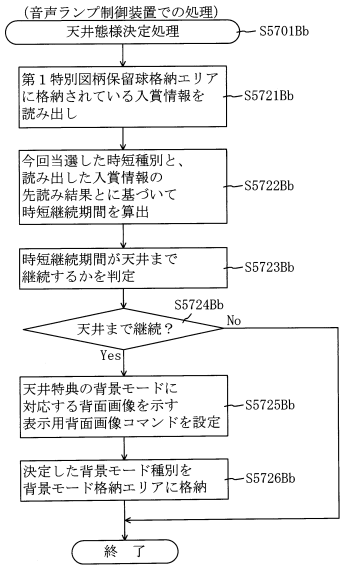
【図１３４１】



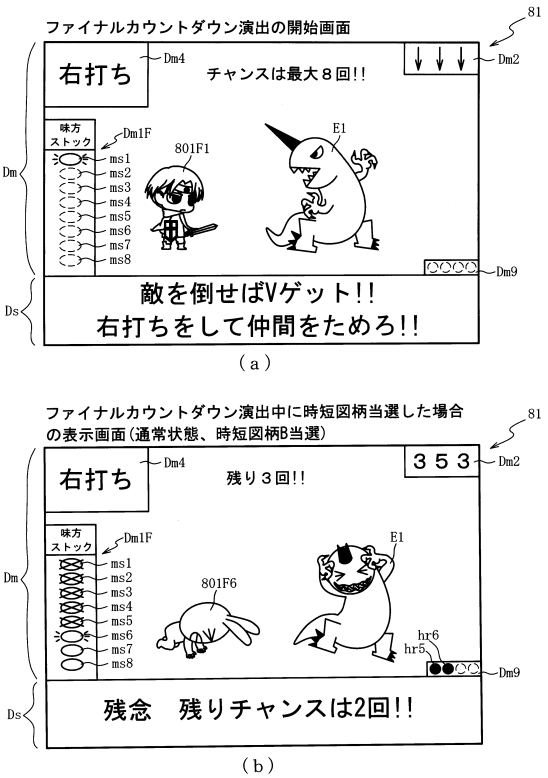
【図１３４２】



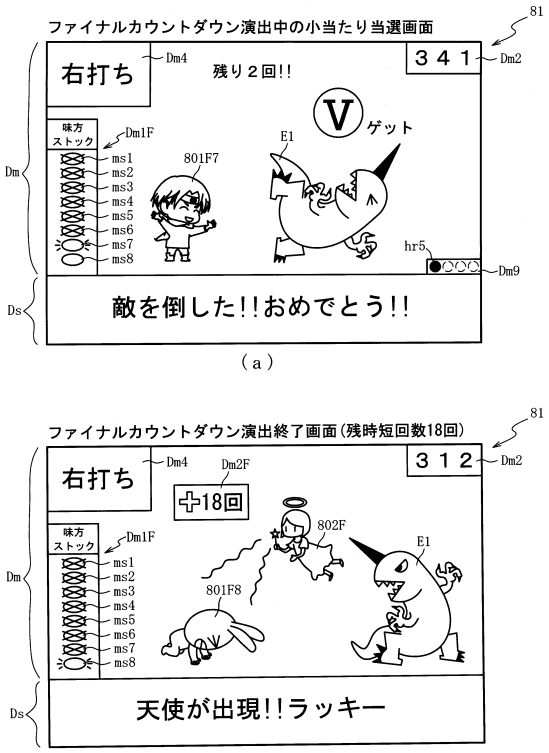
【図１３４３】



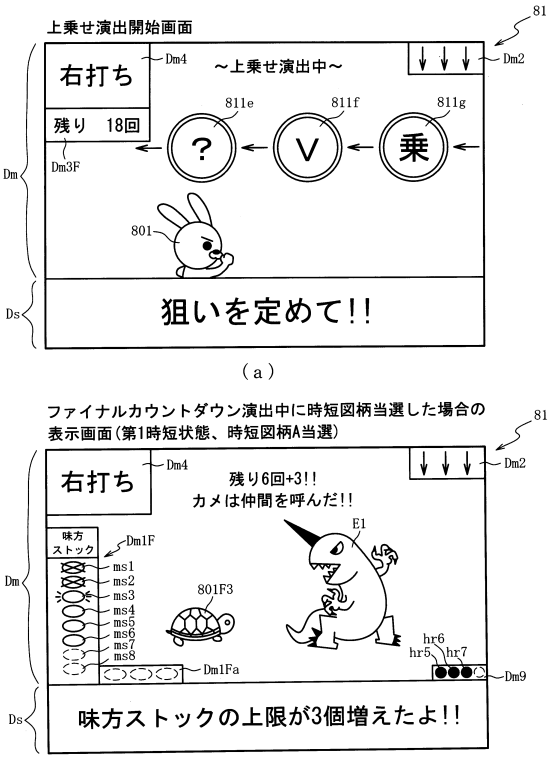
【図１３４４】



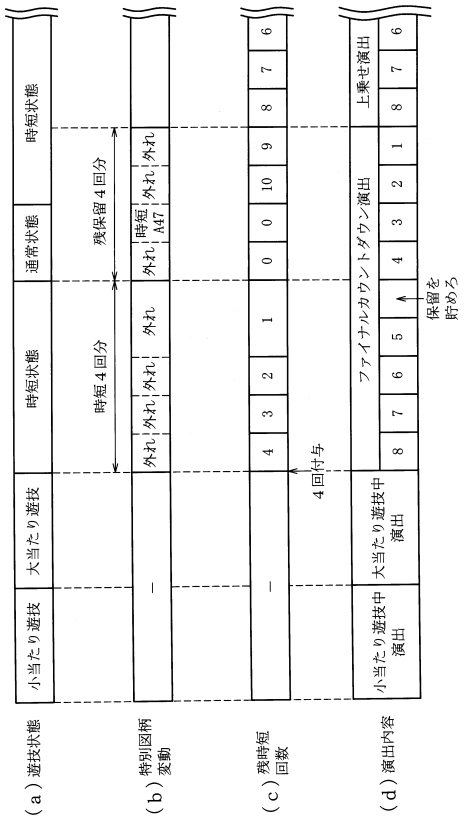
【図１３４５】



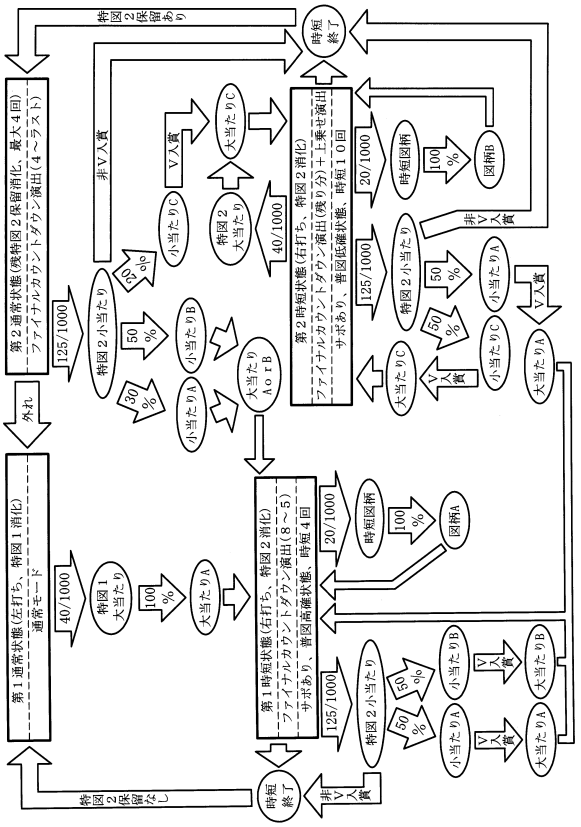
【図１３４６】



【図１３４７】



【図１３４８】



【図１３４９】

202

特別図柄１乱数４７テーブル202Fa1

（ａ）

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１(0～999)
大当たり判定値	0～3
小当たり判定値	－
時短図柄判定値	－

202

特別図柄２乱数４７テーブル202Fa2

（ｂ）

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ１(0～999)
大当たり判定値	0～3
小当たり判定値	40～164
時短図柄判定値	165～184

202

大当たり種別選択４７テーブル202Fb

（ｃ）

特別図柄 種別	大当たり種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２(0～99)
特図１	大当たりＡ４７ (5R第１時短大当たり) (時短4回)	0～99
特図２	大当たりＣ４７ (10R第２時短大当たり) (時短10回)	0～99
小当たり用	大当たりＢ４７ (10R第１時短大当たり) (時短4回)	0～99

【図１３５０】

202

通常用４７テーブル202Fd1

特別図柄 種別	変動回数	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタ ＣＳ１ (0～198)
特図１	1～10000	外れ	外れ(7秒)	0～139
			ガセ外れ(20秒)	140～149
			ノーマルリーチ 各種(40秒)	150～179
			スーパーリーチ (80秒)	180～198
		大当たり	ノーマルリーチ 各種(40秒)	0～29
			スーパーリーチ (80秒)	30～189
			スペシャルリーチ (140秒)	190～198
特図２	1～3	共通	共通変動 (10秒)	0～198
	4	共通	共通中変動 (20秒)	0～198
	5～	共通	共通長変動 (100秒)	0～198

【図１３５１】

202

時短付与４７テーブル202Fe

図柄種別	時短種別	時短付与内容（回数）		
		時短 カウンタ 203h	小当たりカ ウンタ203S	特図２ カウンタ 203Ab
大当たりＡ４７	第１時短	10	1	4
大当たりＢ４７	第１時短	10	1	4
大当たりＣ４７	第２時短	20	1	10
時短図柄Ａ４７	第１時短	10	1	4
時短図柄Ｂ４７	第２時短	20	1	10

（ａ）

202

小当たり種別選択４７テーブル202Ff

特別図柄 種別	遊技状態	小当たり種別	小当たり種別 カウンタ値 Ｃ５(0～99)
特図２	通常	小当たりＡ４７ (Ｖ通過時大当たりＡ４７)	0～29
		小当たりＢ４７ (Ｖ通過時大当たりＢ４７)	30～79
		小当たりＣ４７ (Ｖ通過時大当たりＣ４７)	80～99
	第１時短	小当たりＡ４７ (Ｖ通過時大当たりＡ４７)	0～49
		小当たりＢ４７ (Ｖ通過時大当たりＢ４７)	50～99
	第２時短	小当たりＡ４７ (Ｖ通過時大当たりＡ４７)	0～49
		小当たりＣ４７ (Ｖ通過時大当たりＣ４７)	50～99

（ｂ）

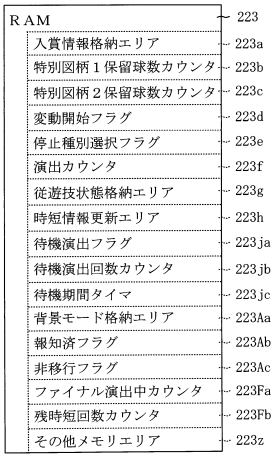
【図１３５２】

202

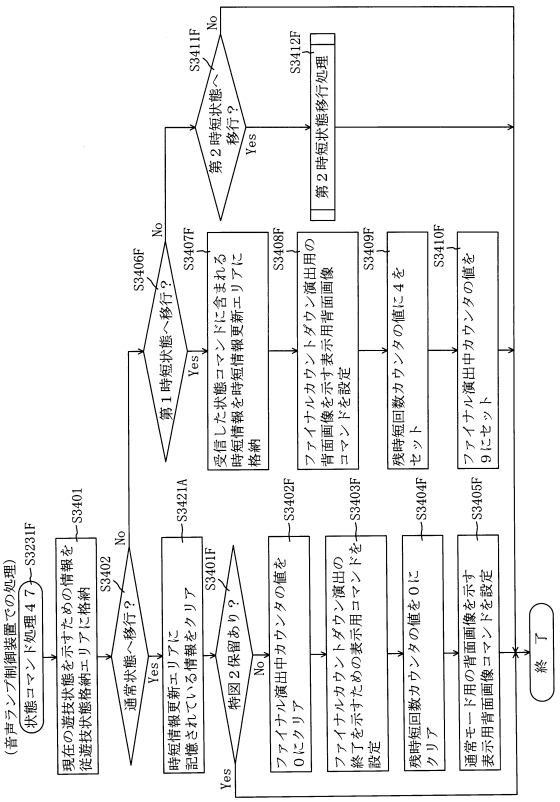
時短種別選択４７テーブル202Fh

遊技状態	時短図柄種別	第１当たり種別 カウンタ値Ｃ２(0～99)
通常 第２時短	時短図柄Ｂ４７	0～99
第１時短	時短図柄Ａ４７	0～99

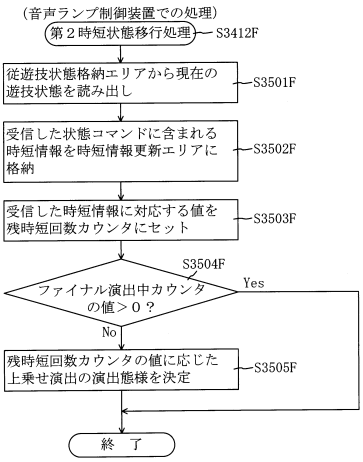
【図１３５３】



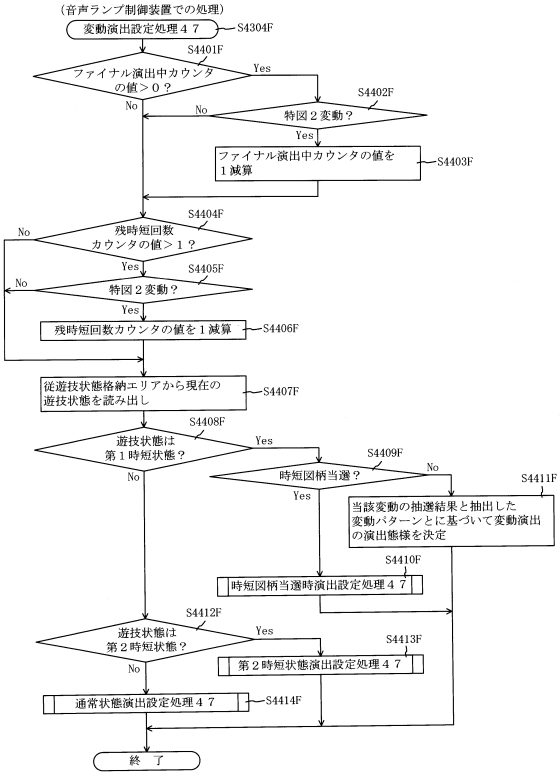
【図１３５４】



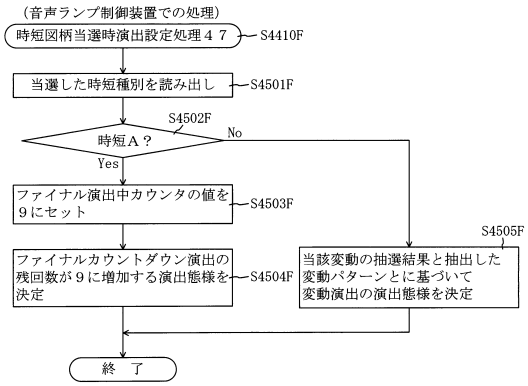
【図１３５５】



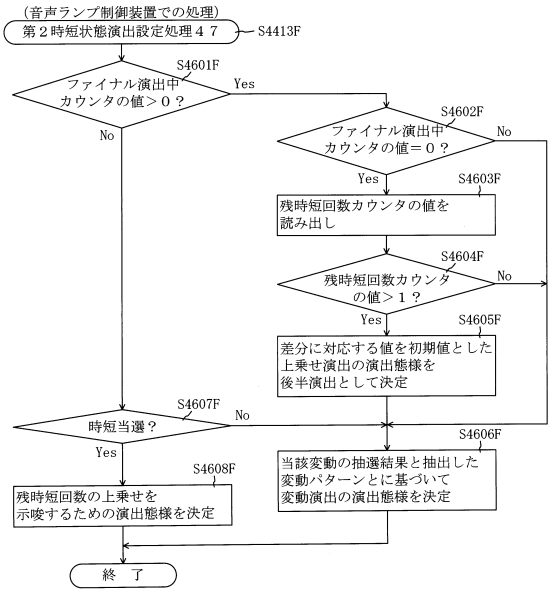
【図１３５６】



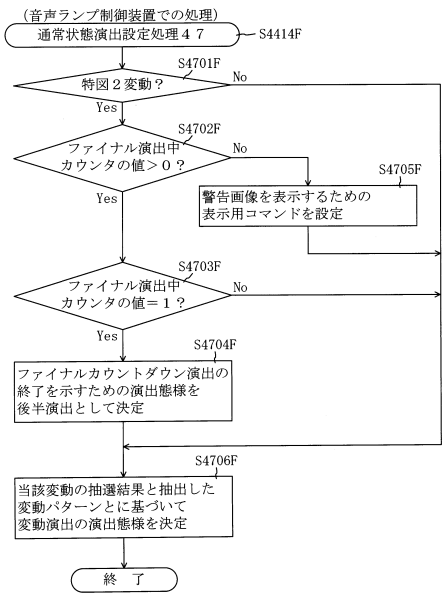
【図１３５７】



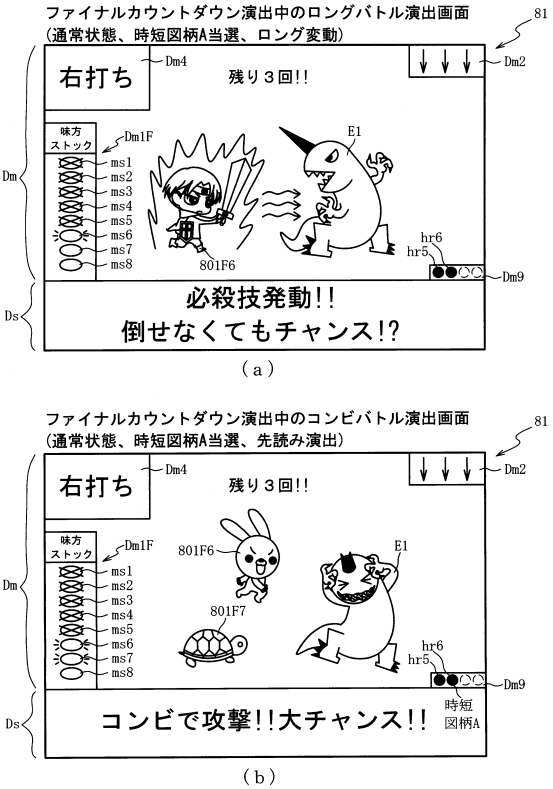
【図１３５８】



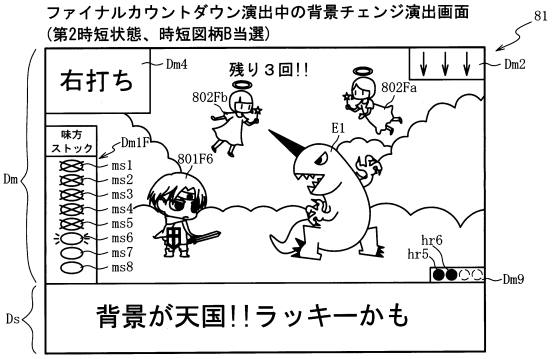
【図１３５９】



【図１３６０】



【図１３６１】



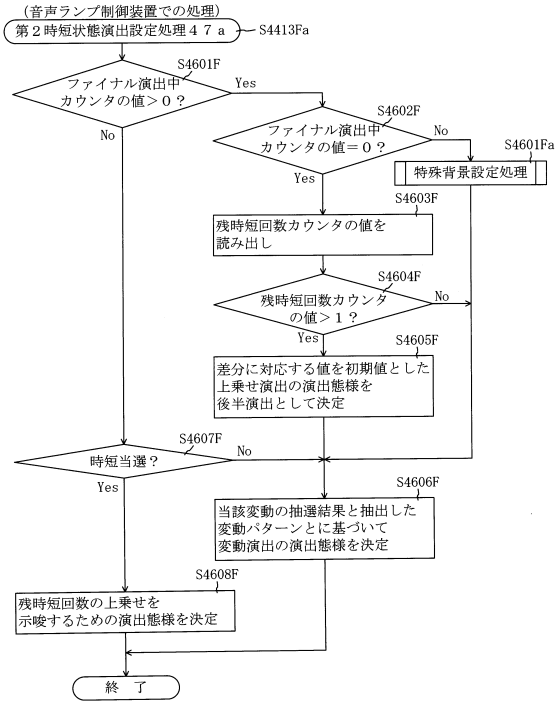
【図１３６２】

202

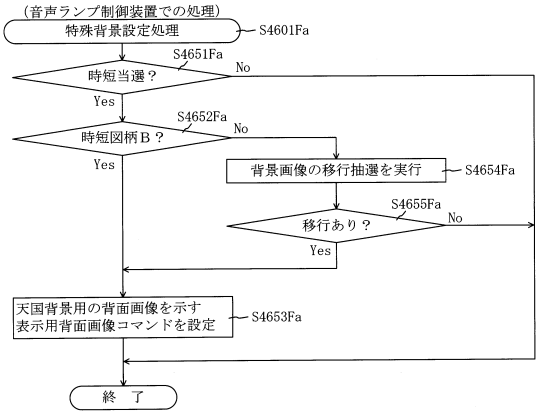
通常用４７ａテーブル202Fad1

特別図柄種別	変動回数	抽選結果	変動パターン	変動種別カウンタＣＳ１（0～198）
特図１	1～10000	外れ	外れ(7秒)	0～139
			ガセ外れ(20秒)	140～149
			ノーマルリーチ各種(40秒)	150～179
			スーパーリーチ(80秒)	180～198
		大当たり	ノーマルリーチ各種(40秒)	0～29
			スーパーリーチ(80秒)	30～189
			スペシャルリーチ(140秒)	190～198
特図２	1～3	大当たり外れ	共通変動(10秒)	0～194
			ロング変動(20秒)	195～198
		小当たり	共通変動(10秒)	0～149
			ロング変動(20秒)	150～198
		時短図柄	共通変動(10秒)	0～19
			ロング変動(20秒)	20～198
	4	大当たり外れ	共通中変動(20秒)	0～198
		小当たり	共通中変動(20秒)	0～149
			通常変動(10秒)	150～198
		時短図柄	共通中変動(20秒)	0～59
			特殊変動(30秒)	60～198
	5～	共通	共通長変動(100秒)	0～198

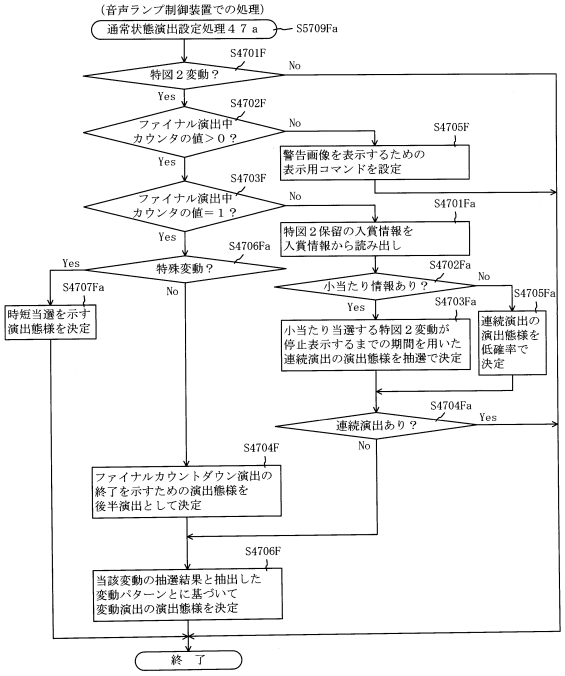
【図１３６３】



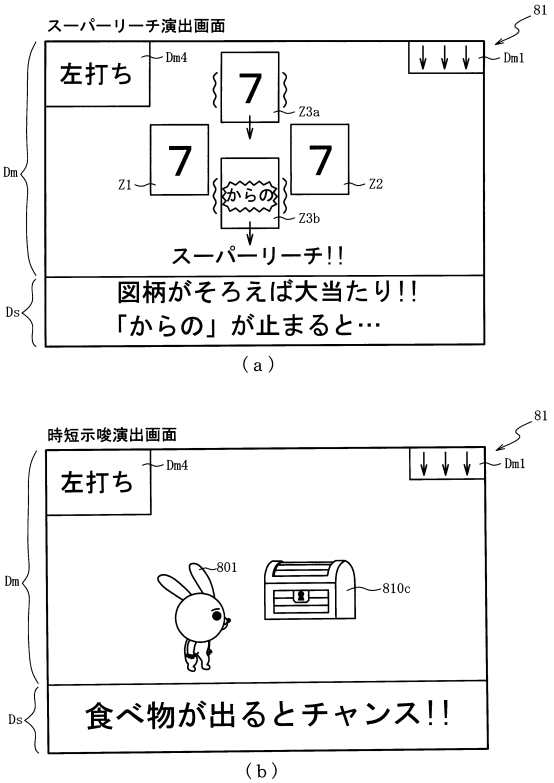
【図１３６４】



【図１３６５】

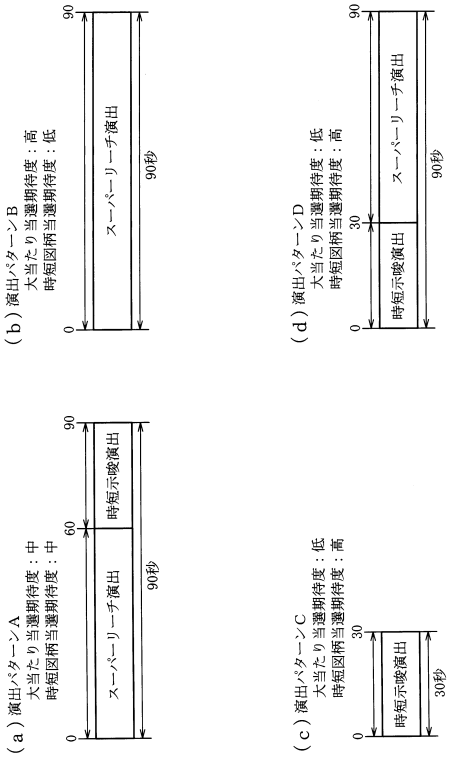


【図１３６６】

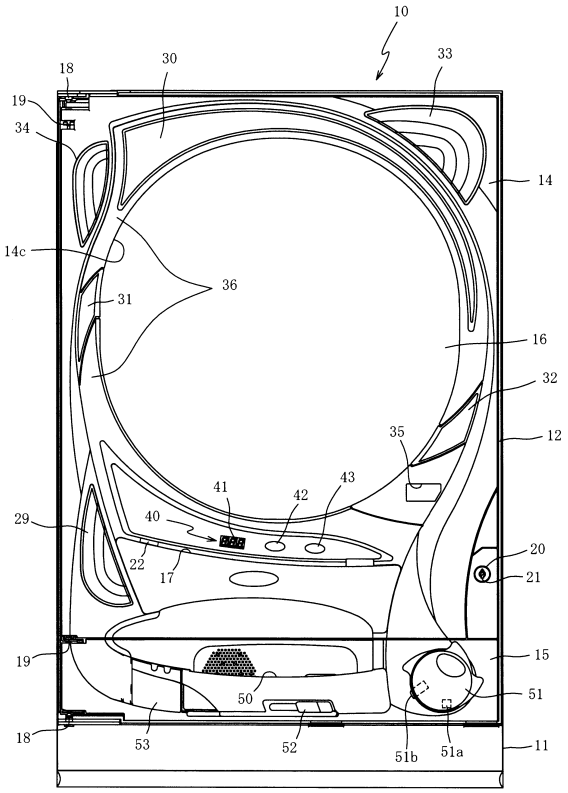


【図１３６７】

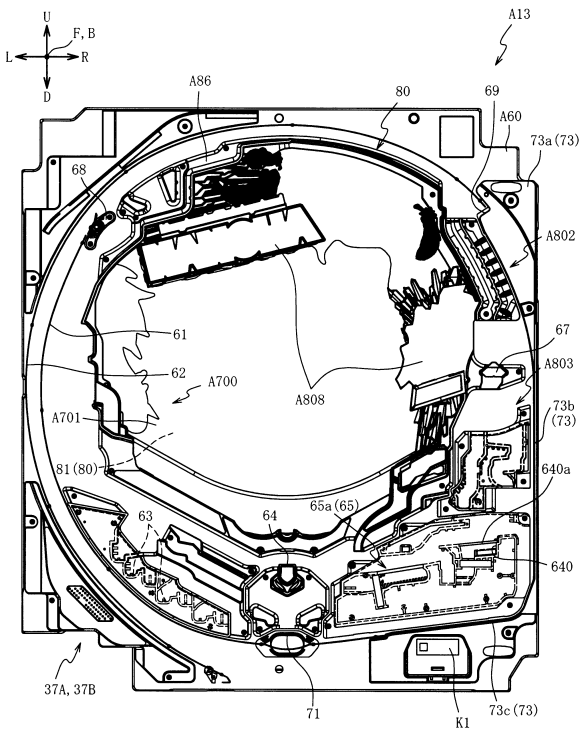
【図１３６８】



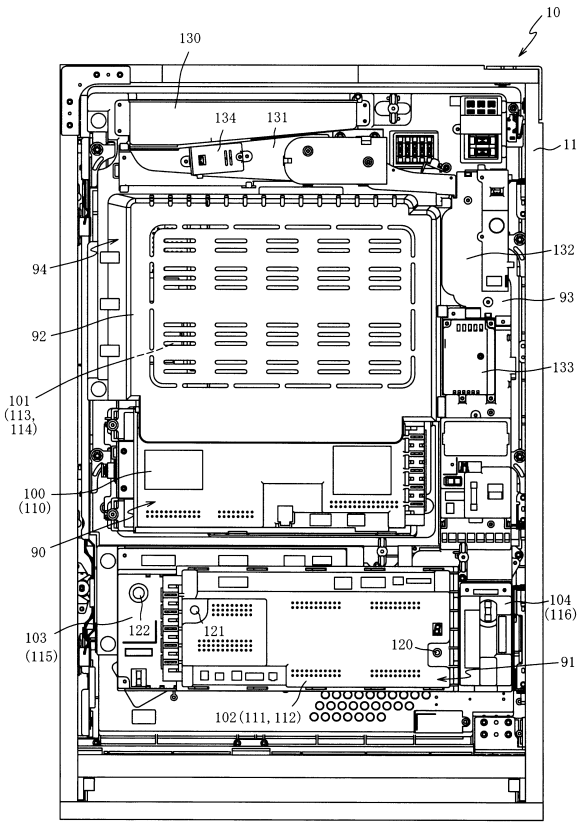
【図１３６９】



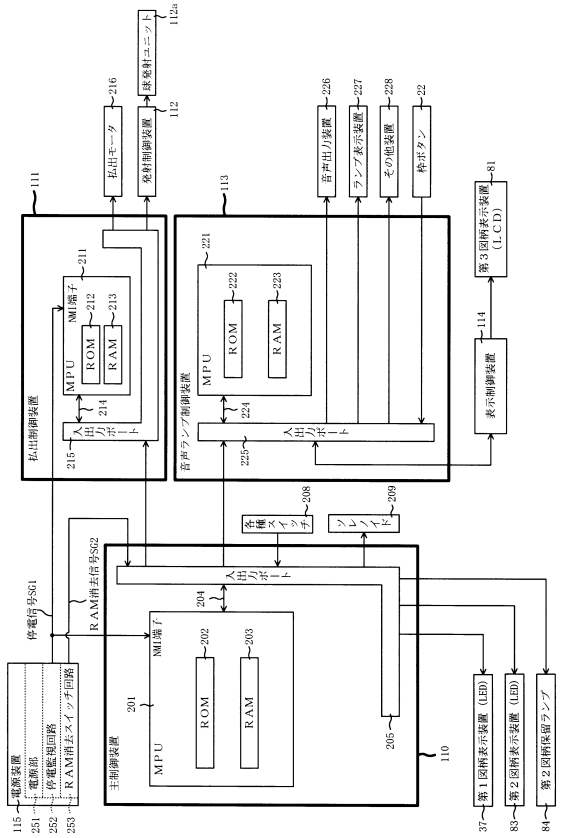
【図１３７０】



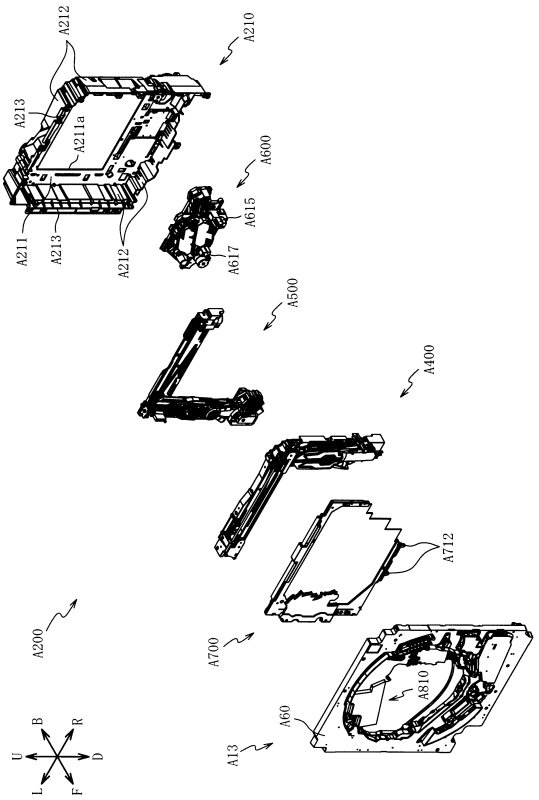
【図１３７１】



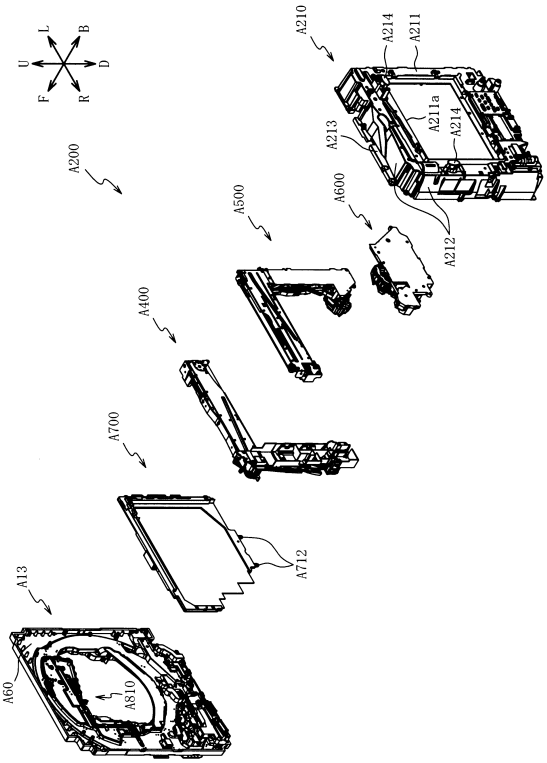
【図１３７２】



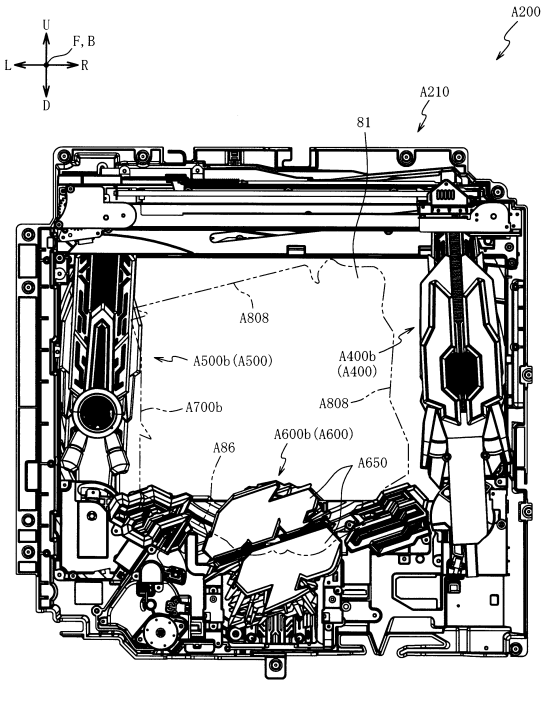
【図１３７３】



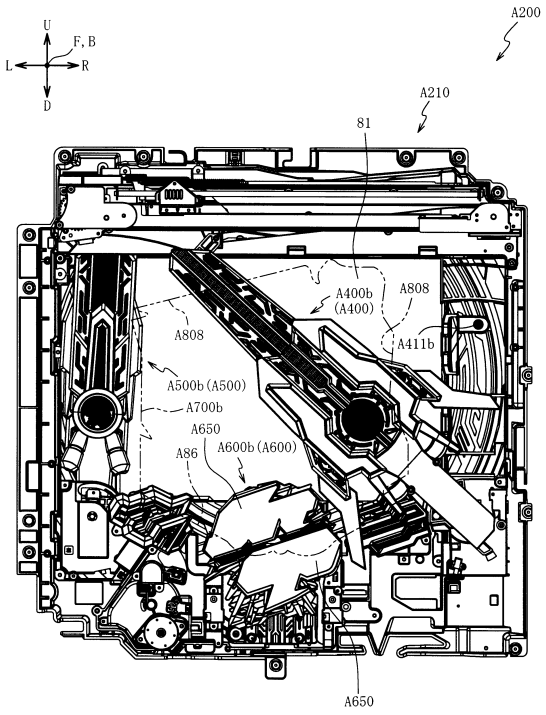
【図１３７４】



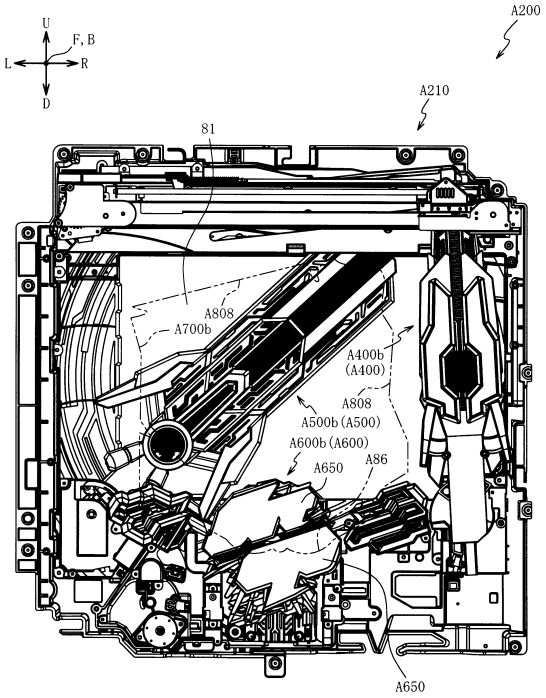
【図１３７５】



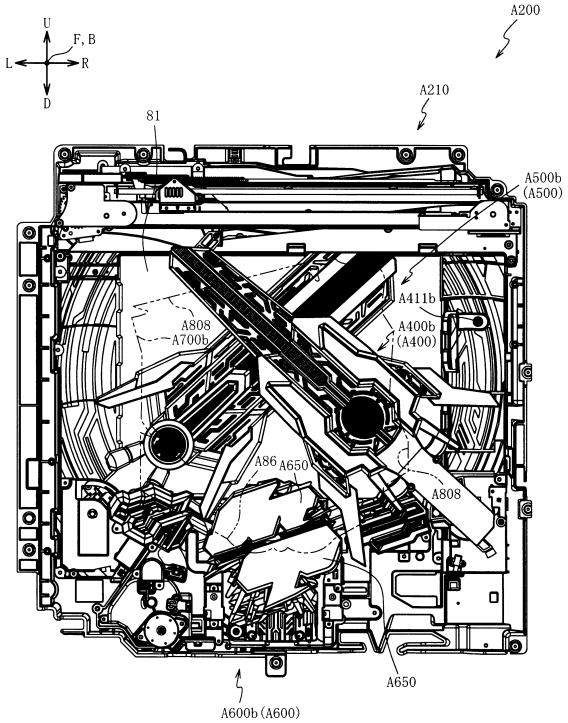
【図１３７６】



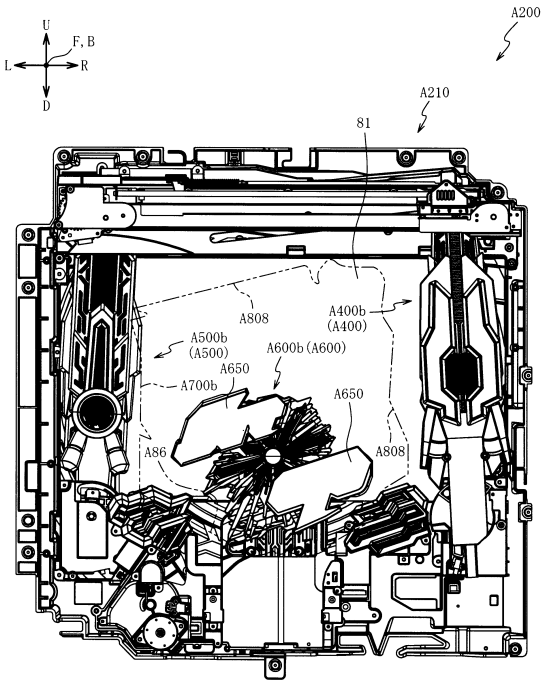
【図１３７７】



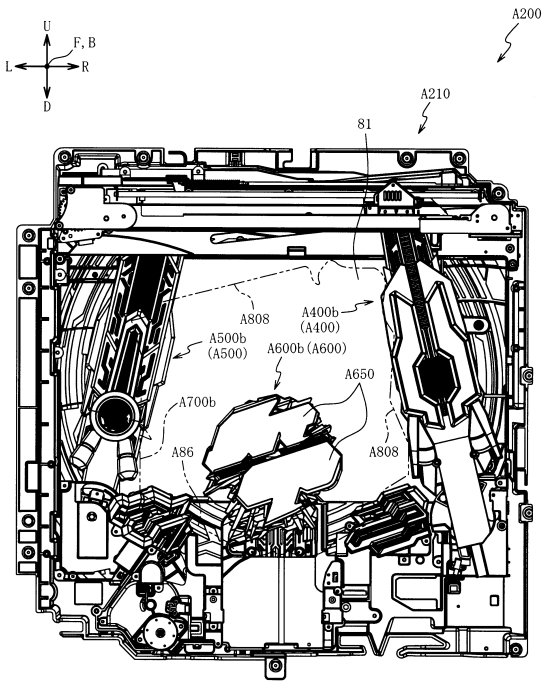
【図１３７８】



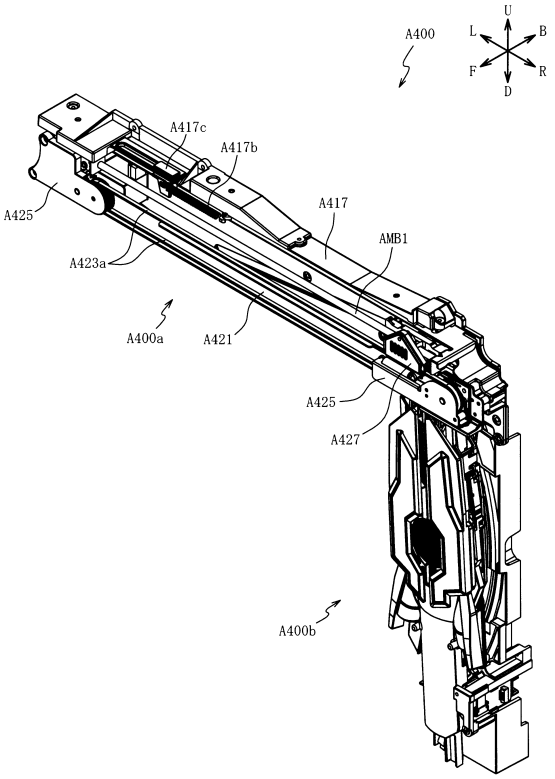
【図１３７９】



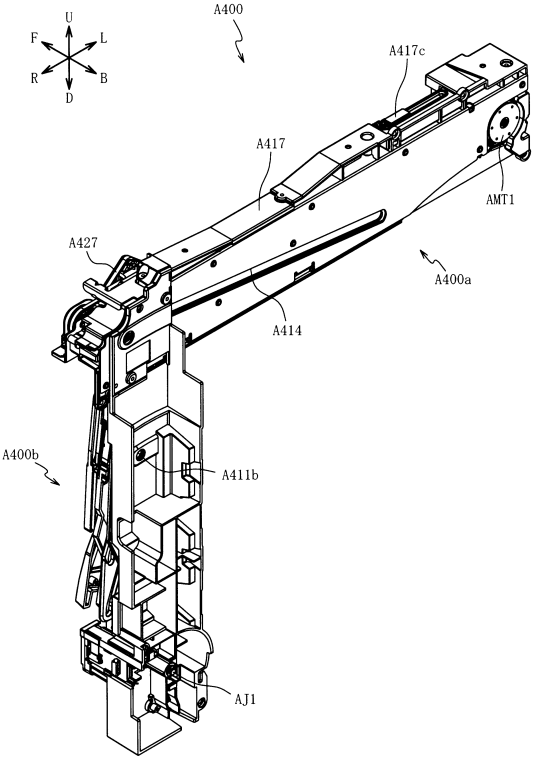
【図１３８０】



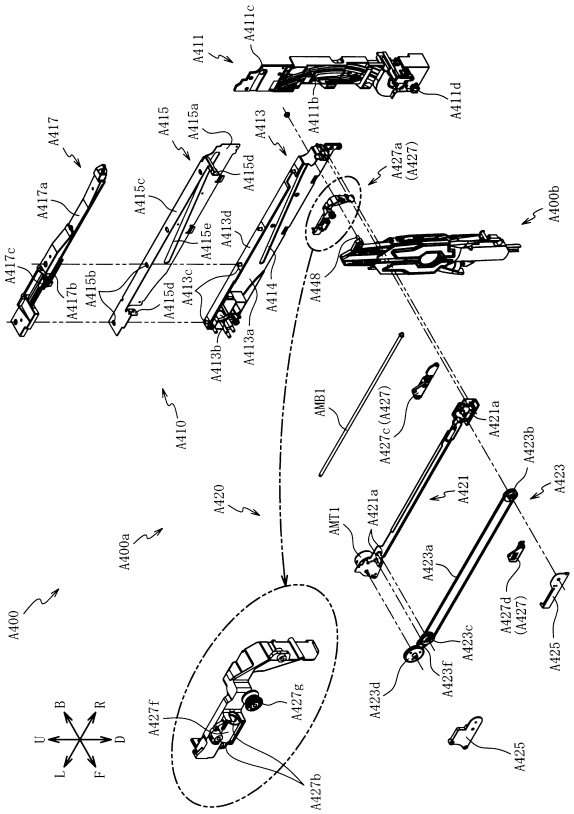
【図１３８１】



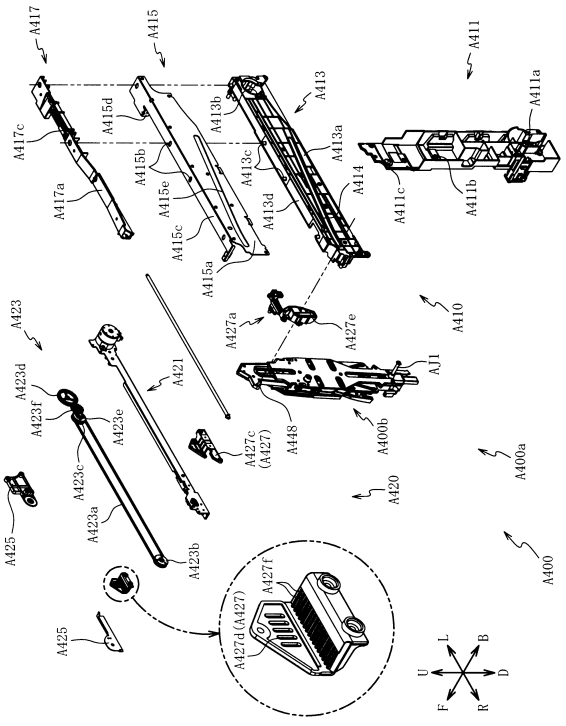
【図１３８２】



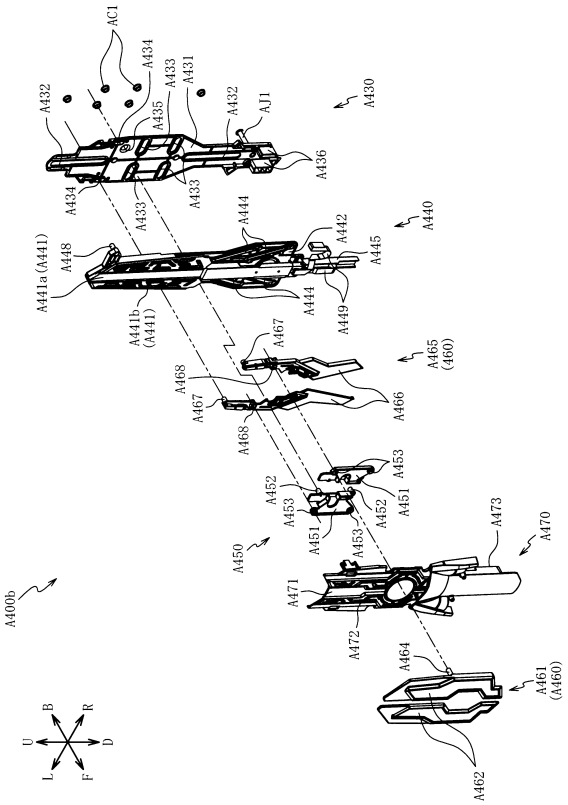
【図１３８３】



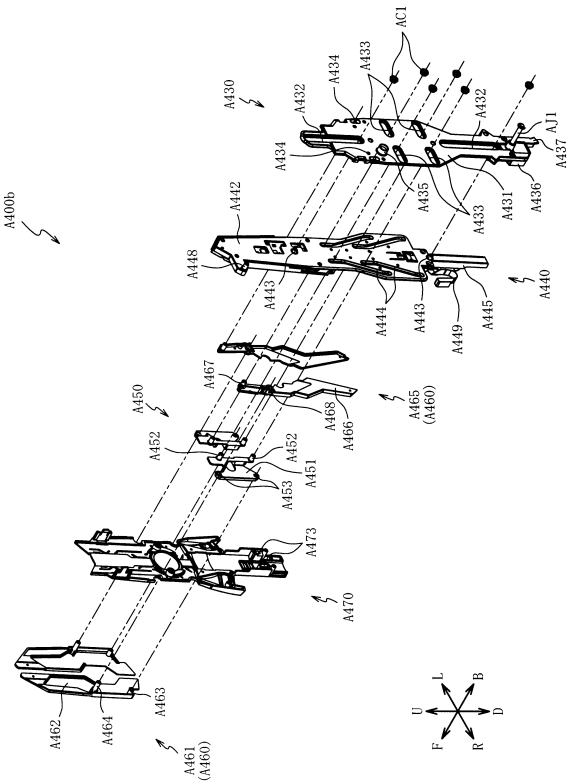
【図１３８４】



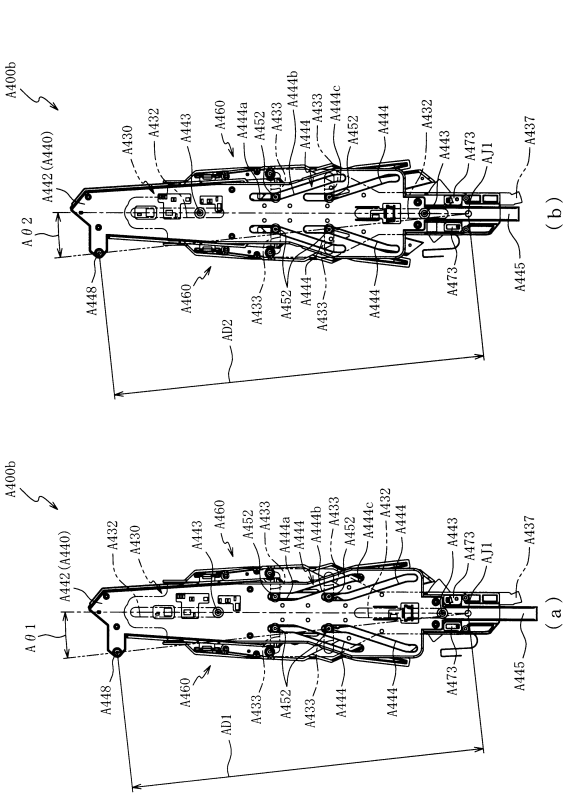
【図１３８５】



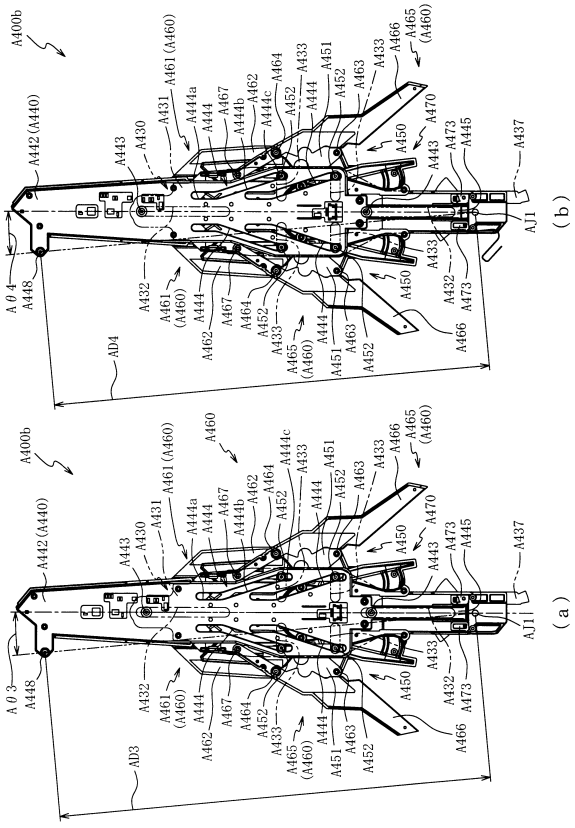
【図１３８６】



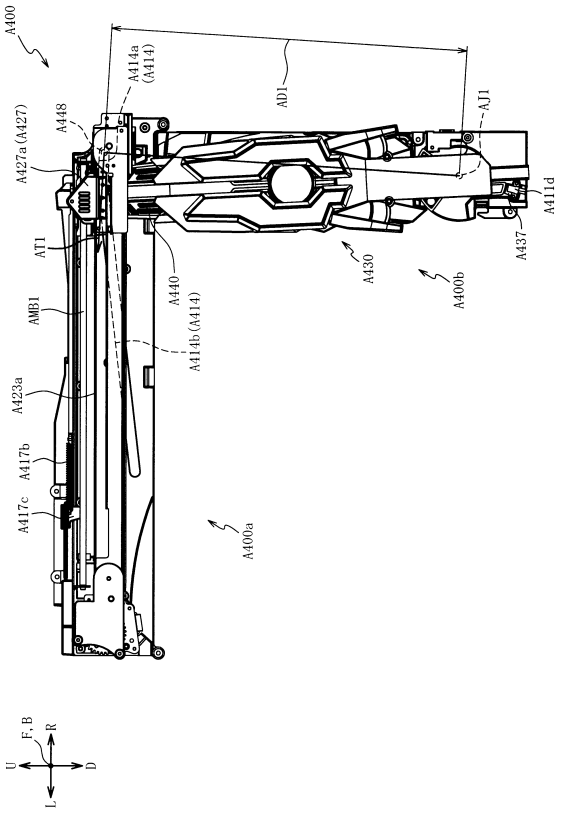
【図１３８７】



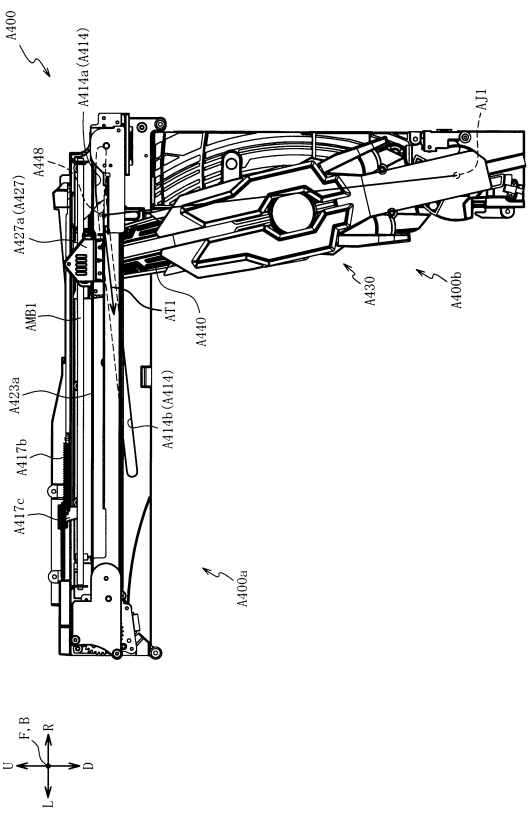
【図１３８８】



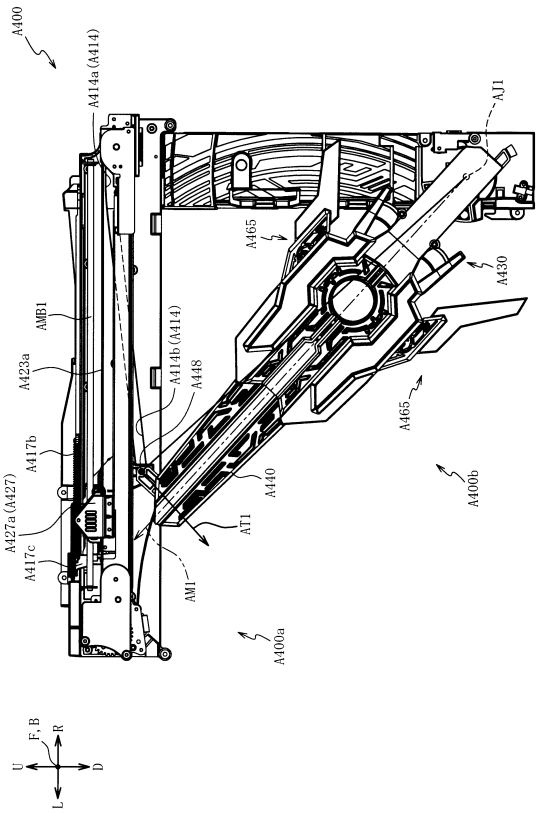
【図１３８９】



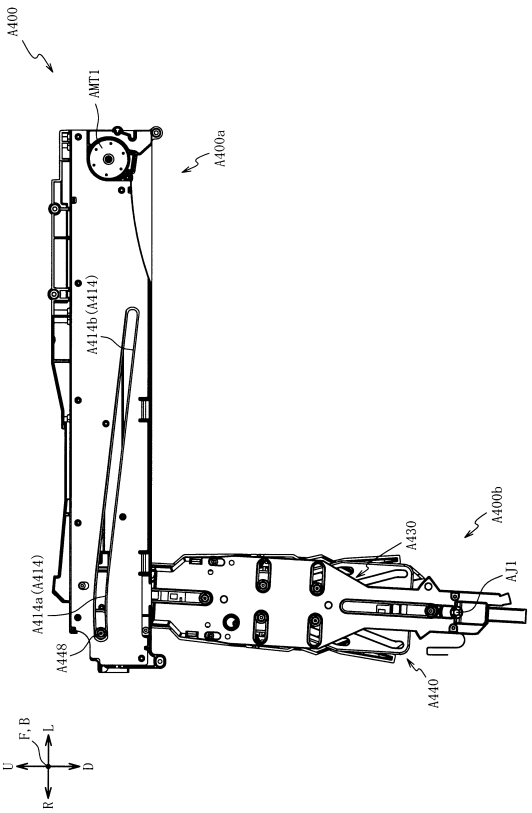
【図１３９０】



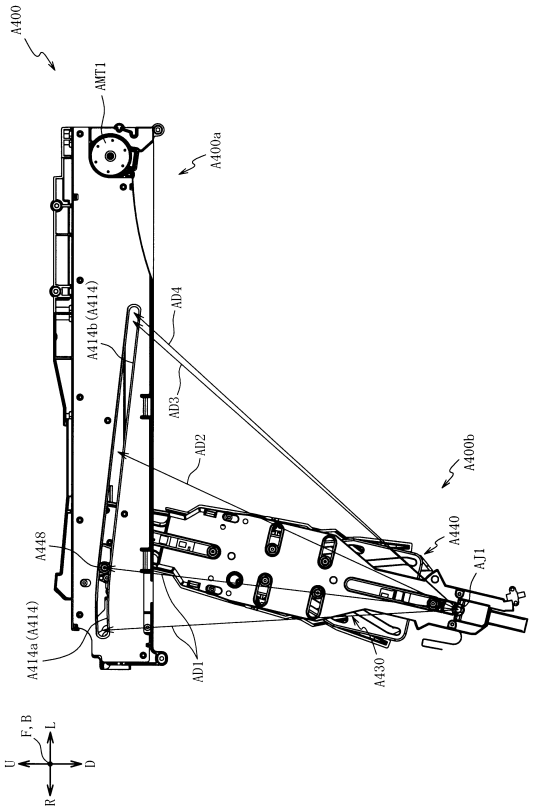
【図１３９１】



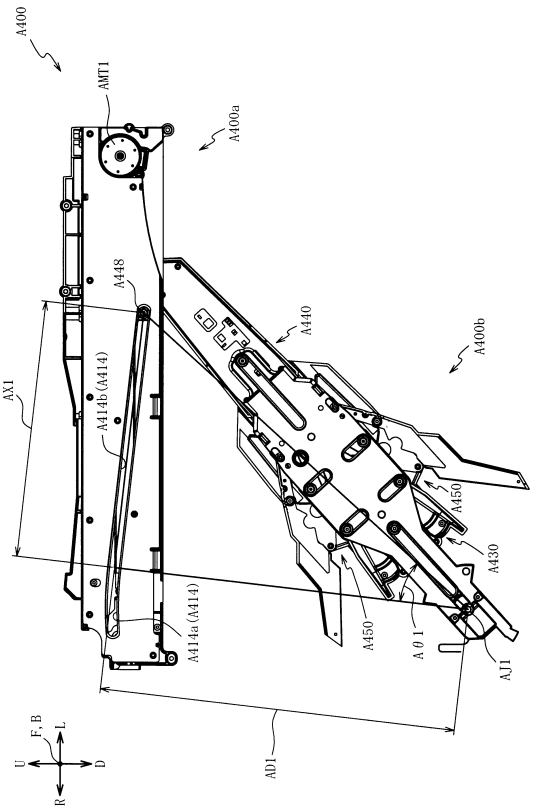
【図１３９２】



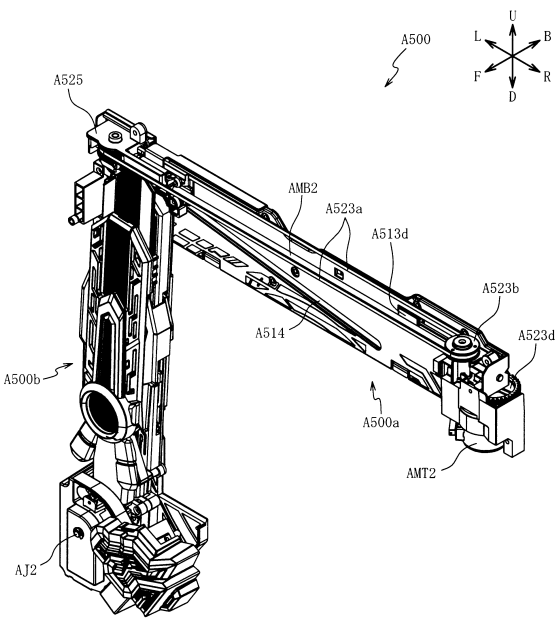
【図１３９３】



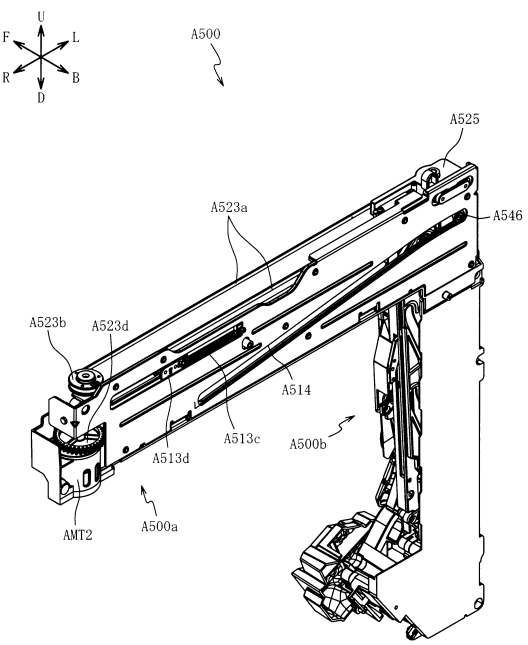
【図１３９４】



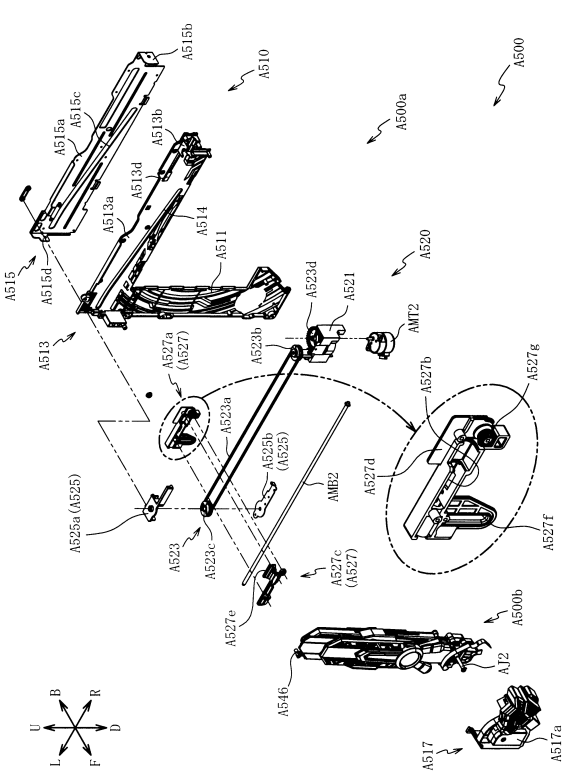
【図１３９５】



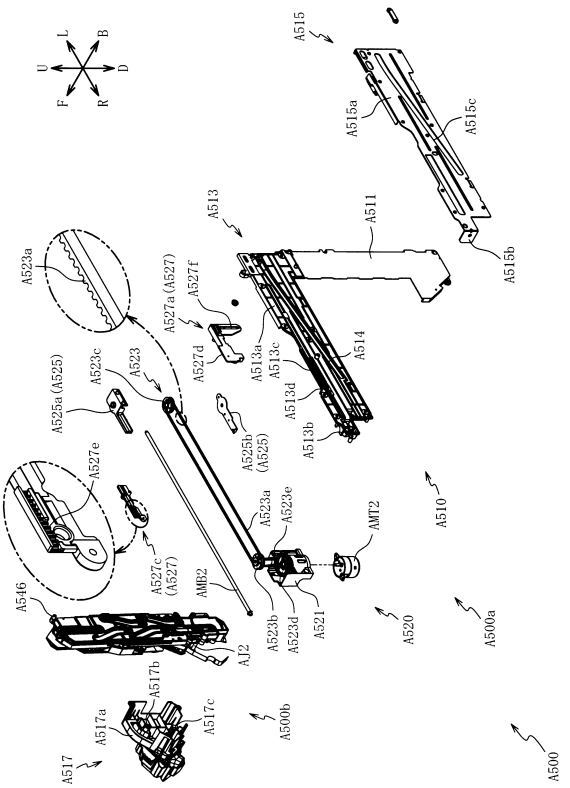
【図１３９６】



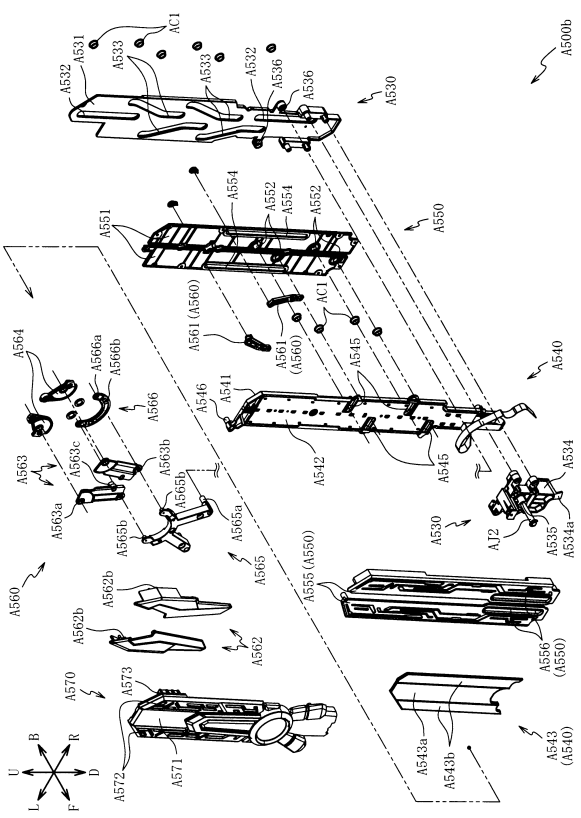
【図１３９７】



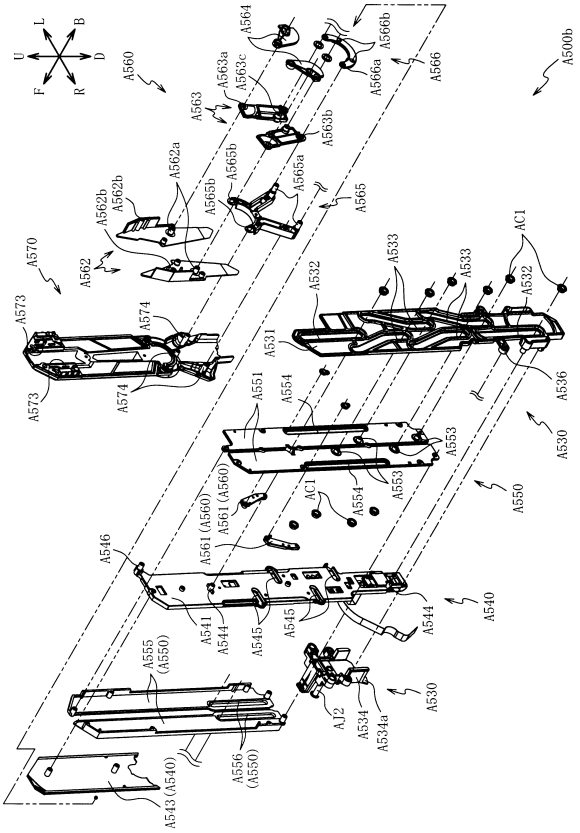
【図１３９８】



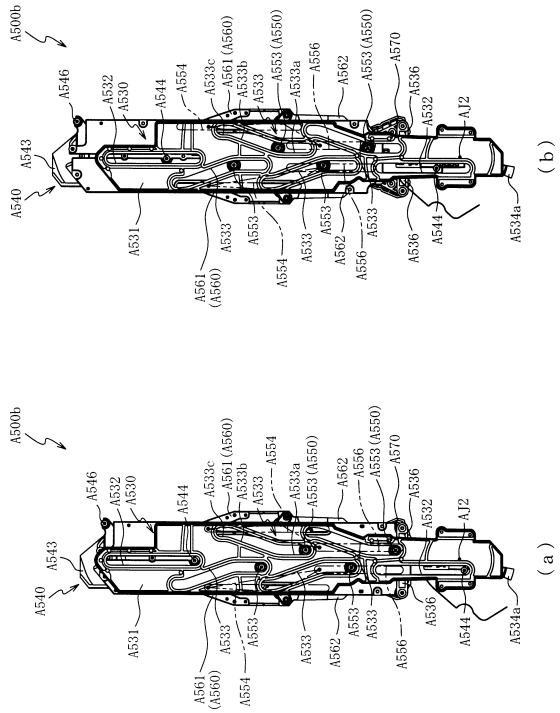
【図１３９９】



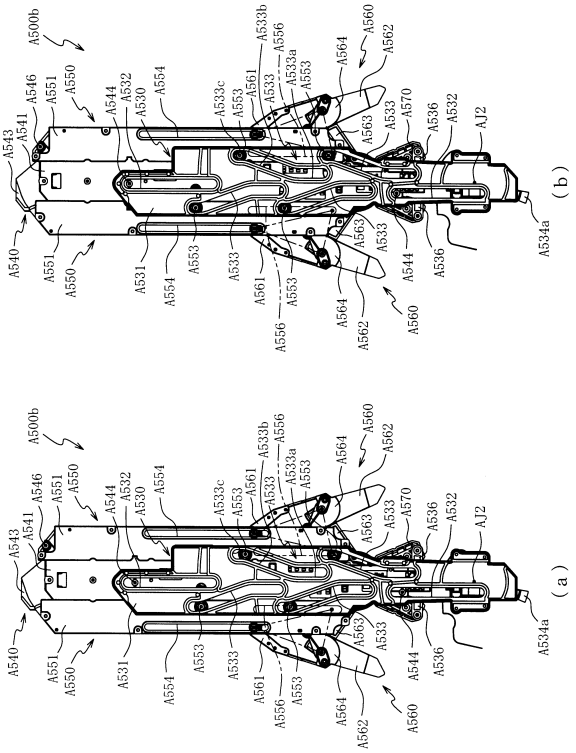
【図１４００】



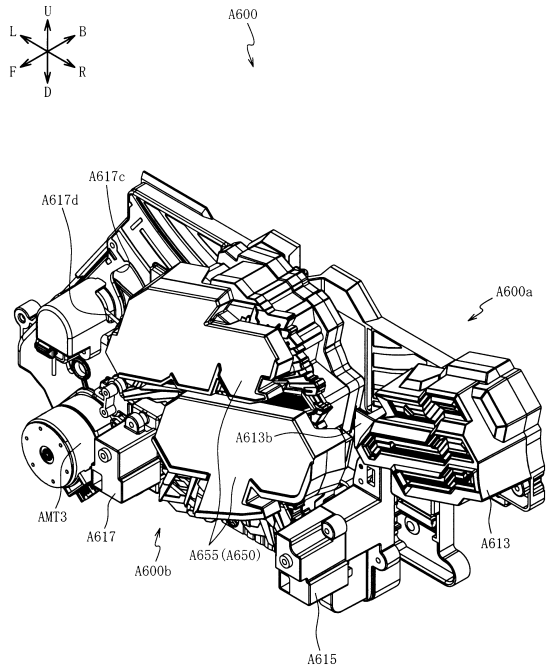
【図１４０１】



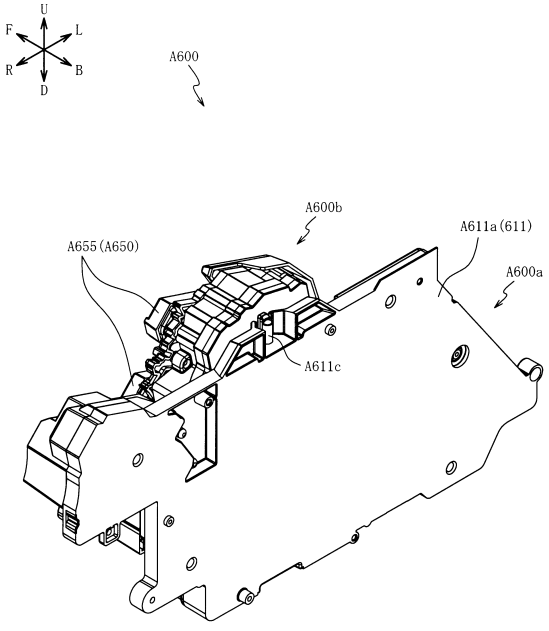
【図１４０２】



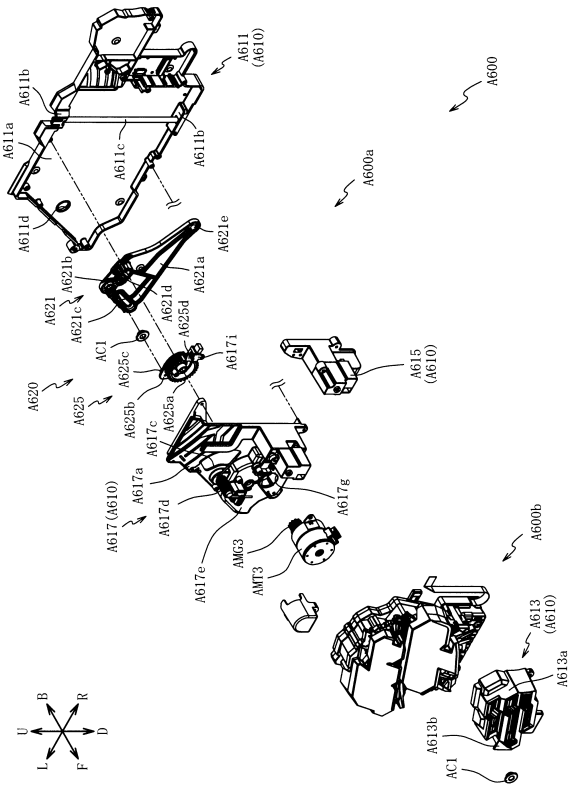
【図１４０３】



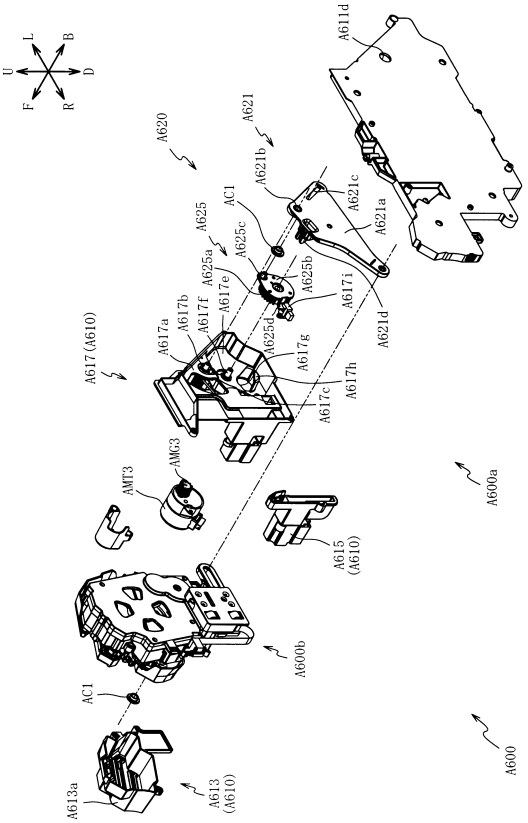
【図１４０４】



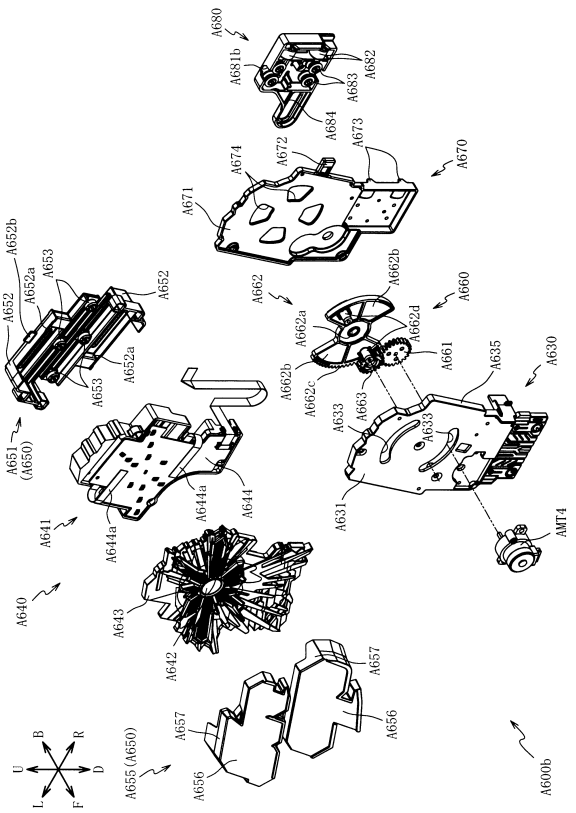
【図１４０５】



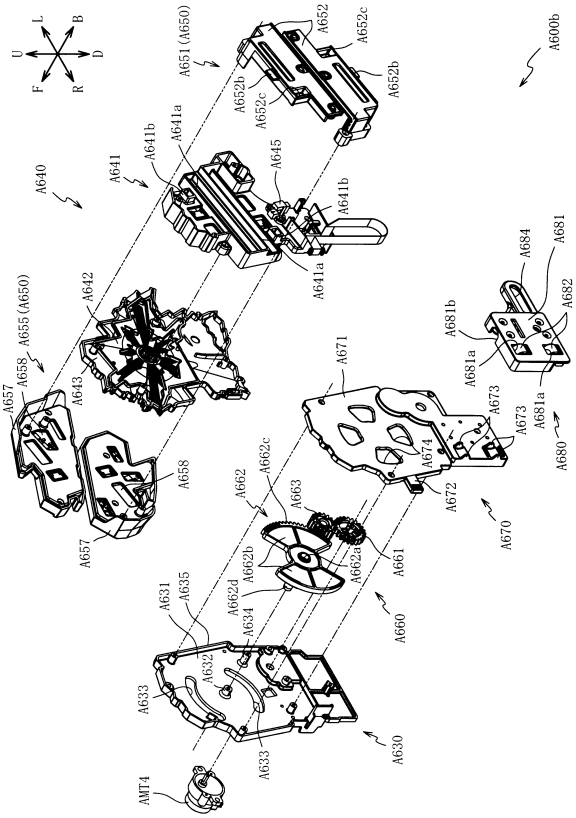
【図１４０６】



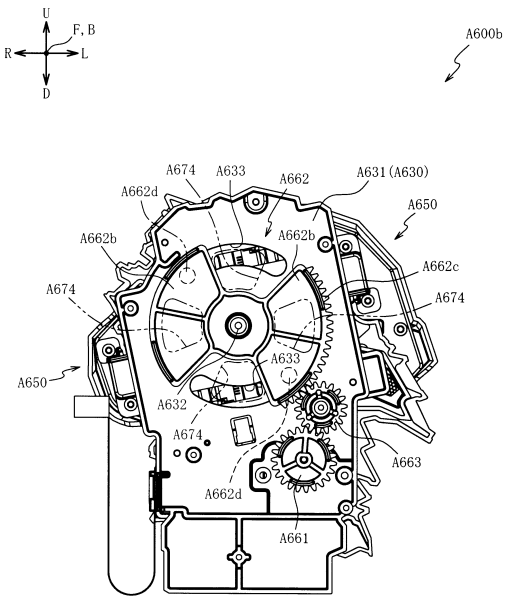
【図１４０７】



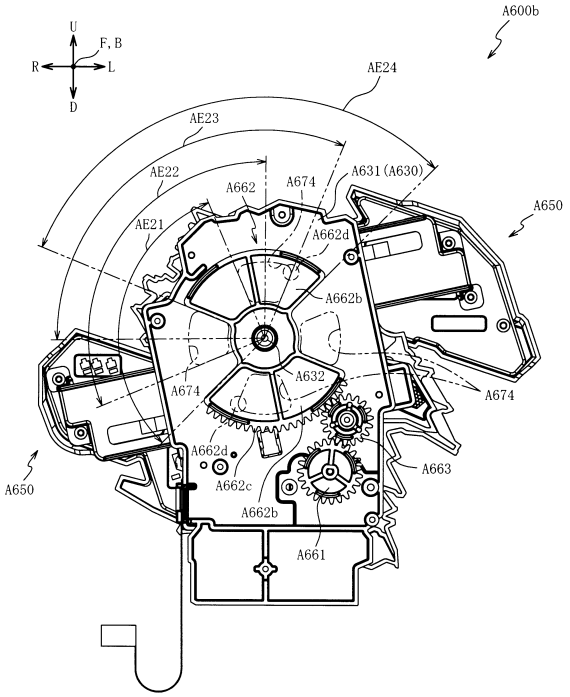
【図１４０８】



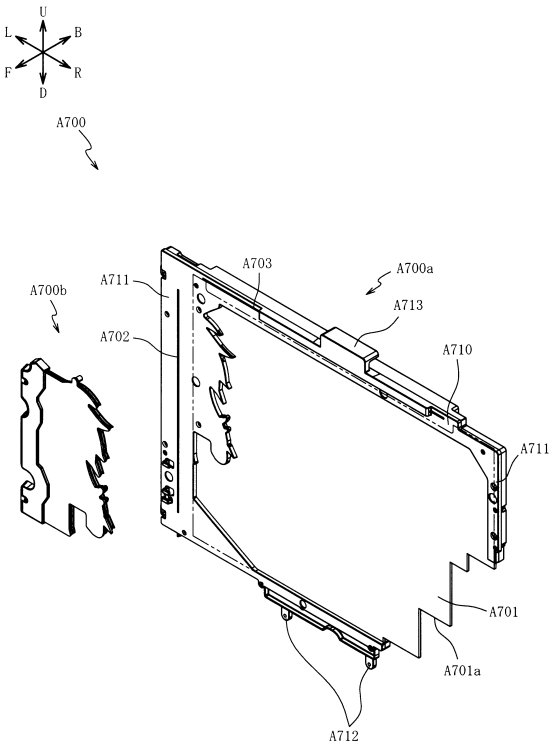
【図１４０９】



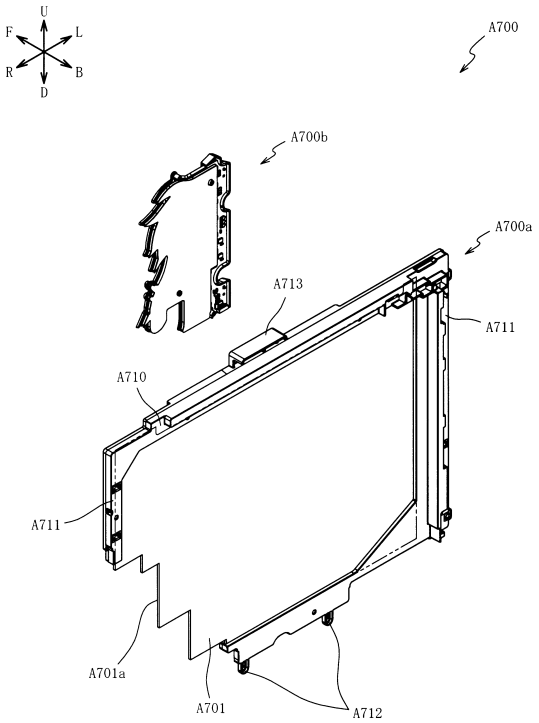
【図１４１０】



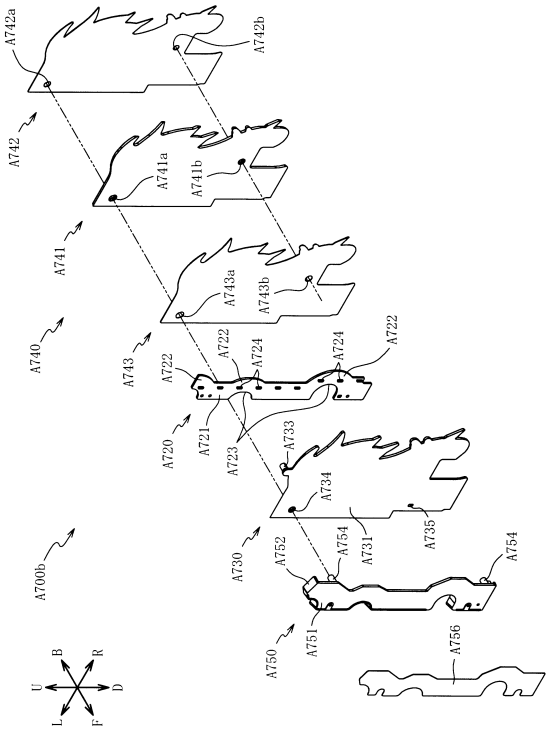
【図１４１１】



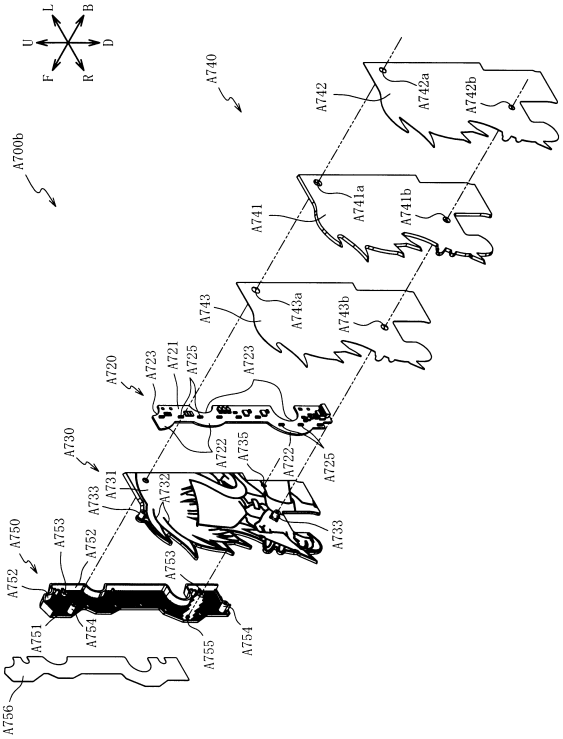
【図１４１２】



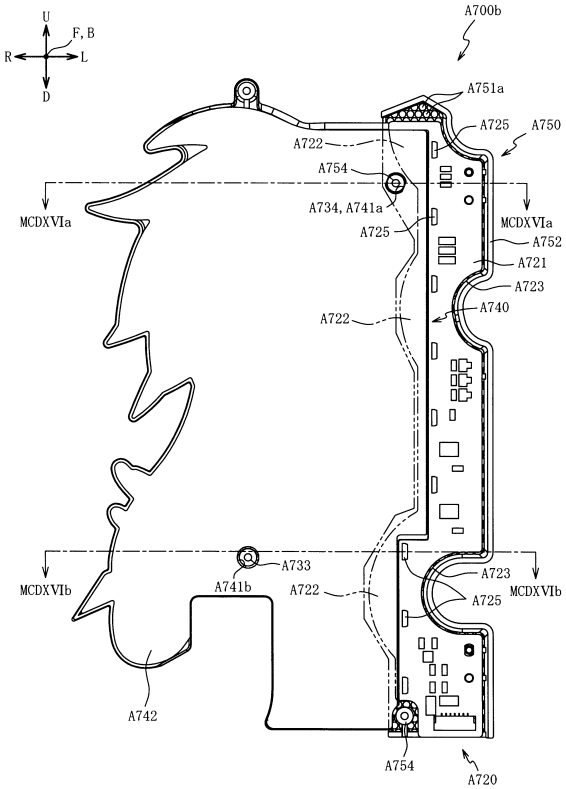
【図１４１３】



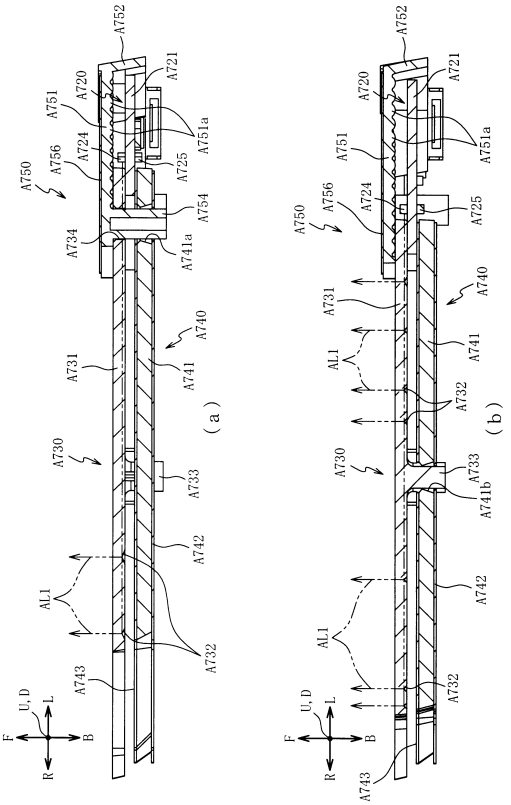
【図１４１４】



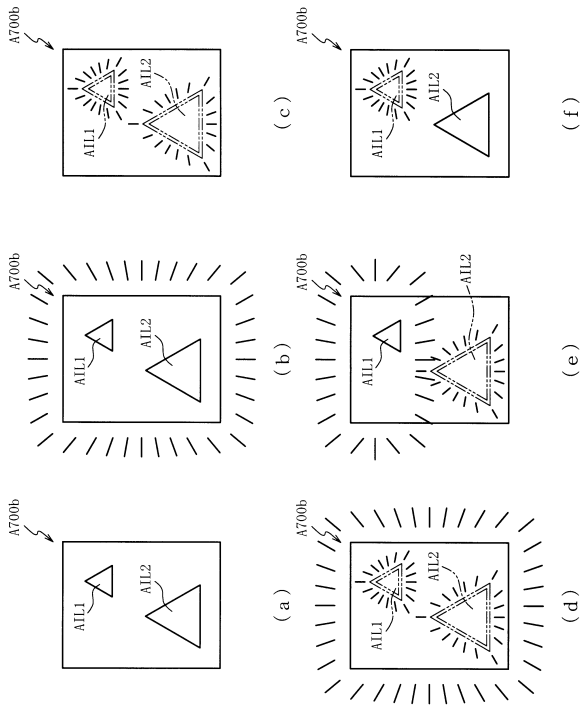
【図１４１５】



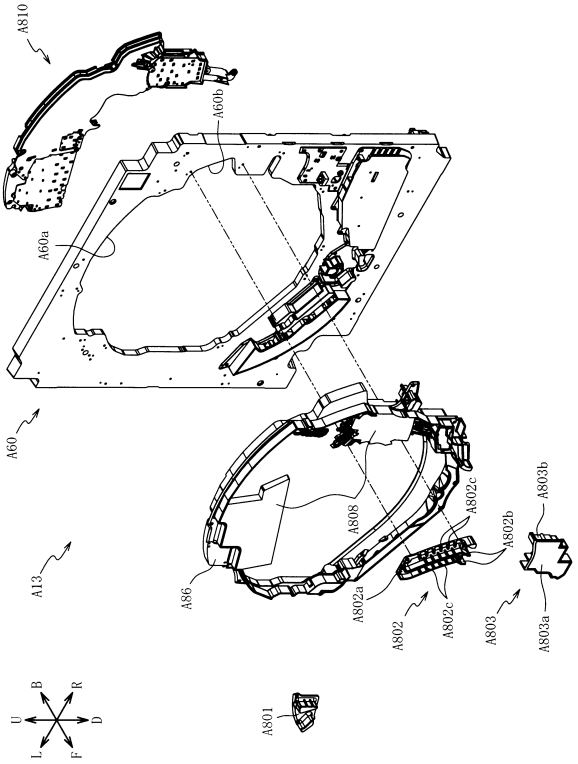
【図１４１６】



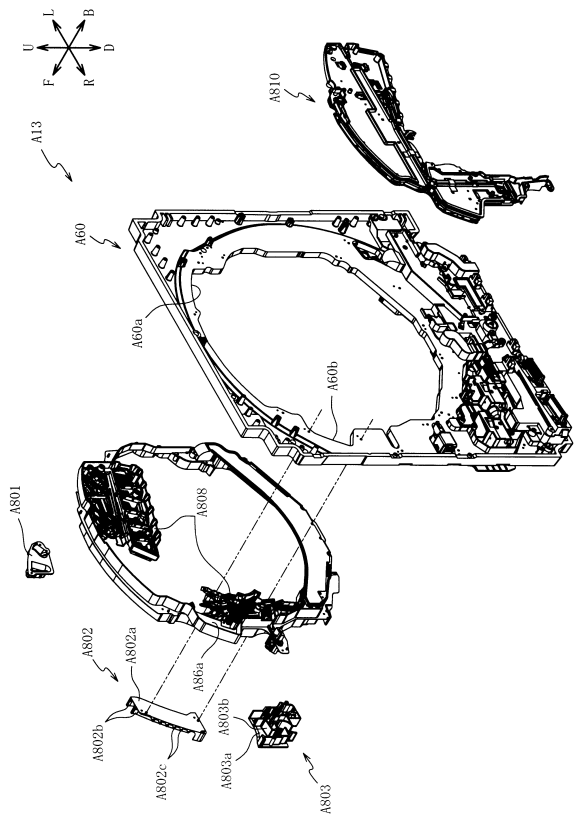
【図１４１７】



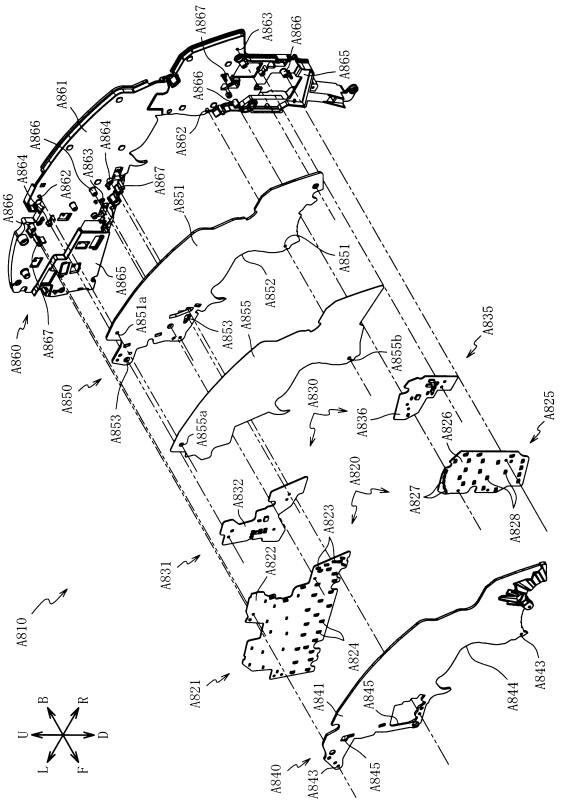
【図１４１８】



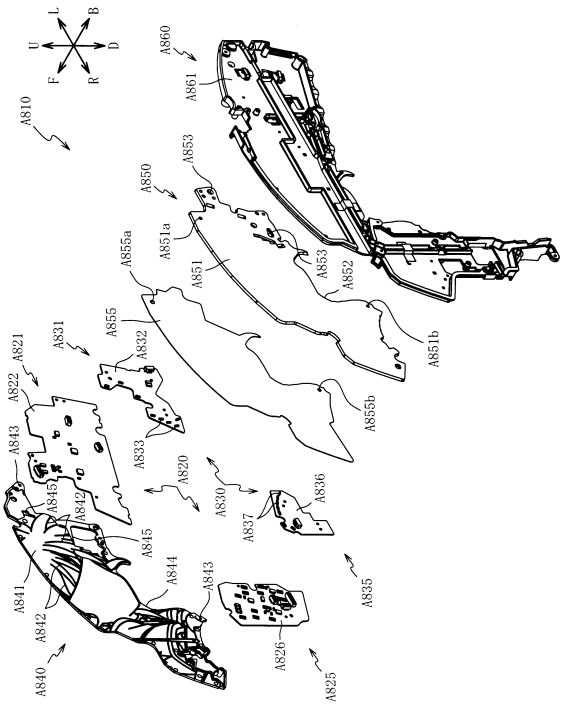
【図１４１９】



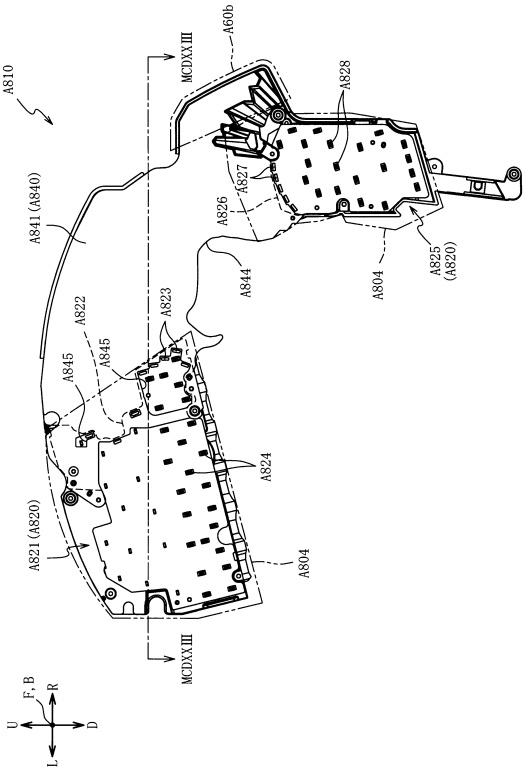
【図１４２０】



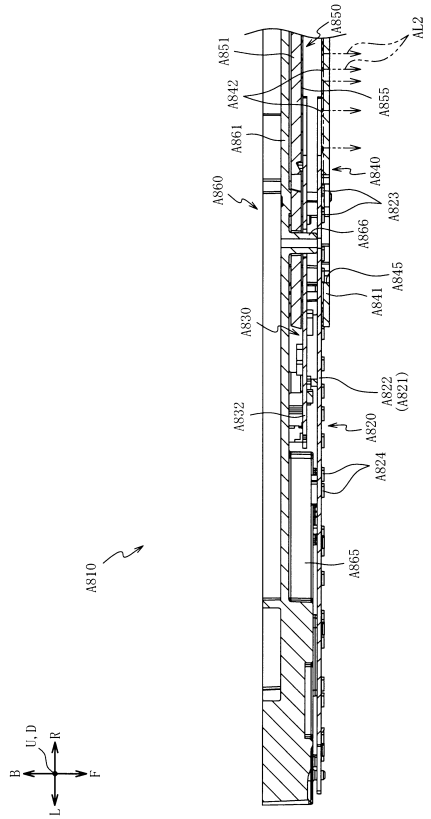
【図１４２１】



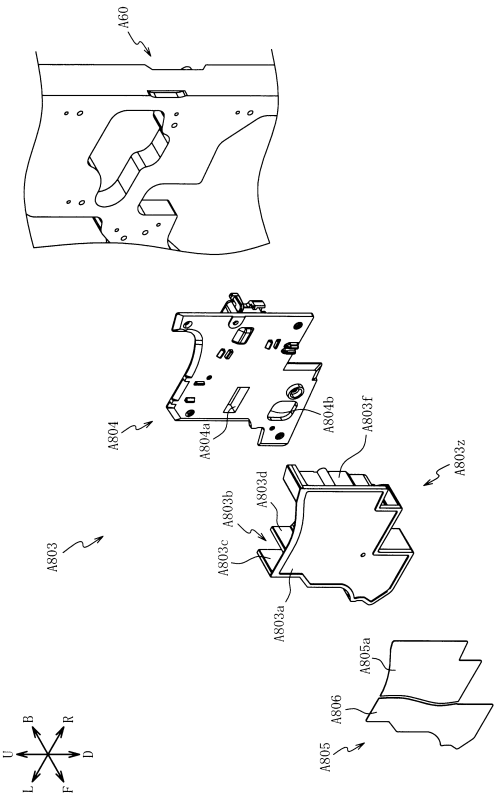
【図１４２２】



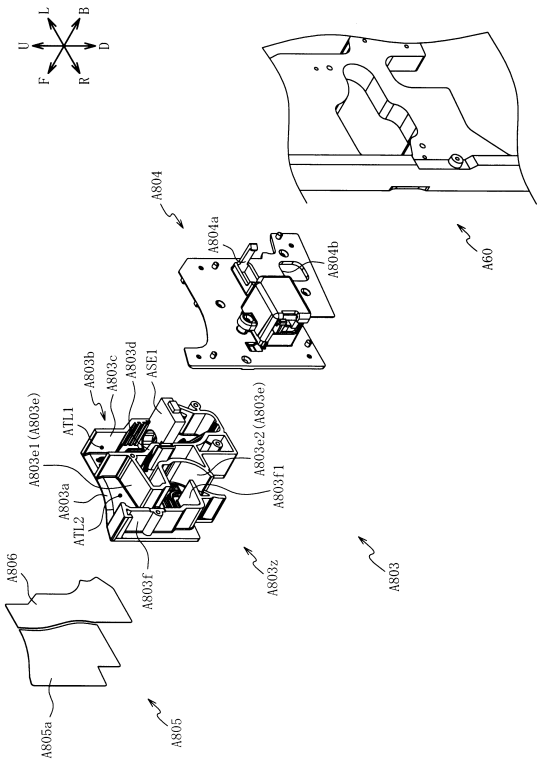
【図１４２３】



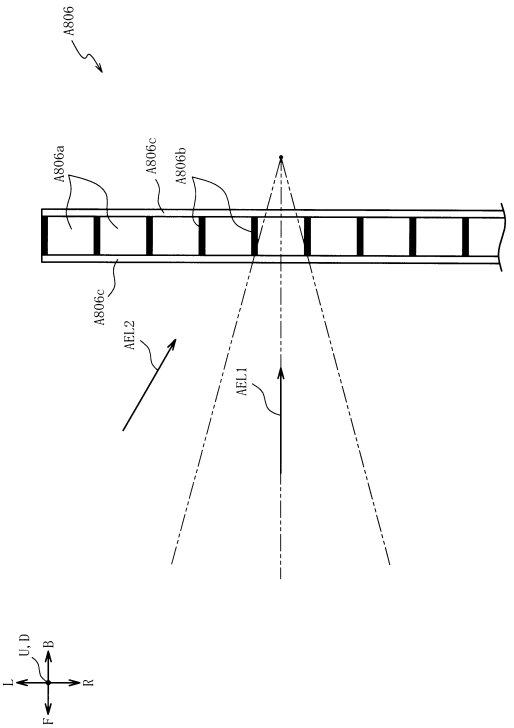
【図１４２４】



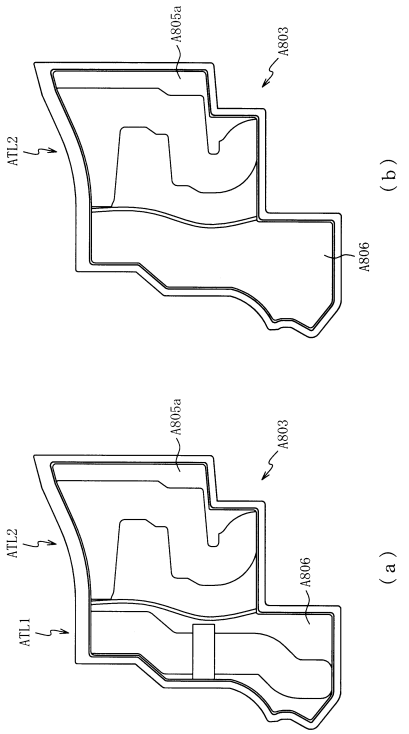
【図１４２５】



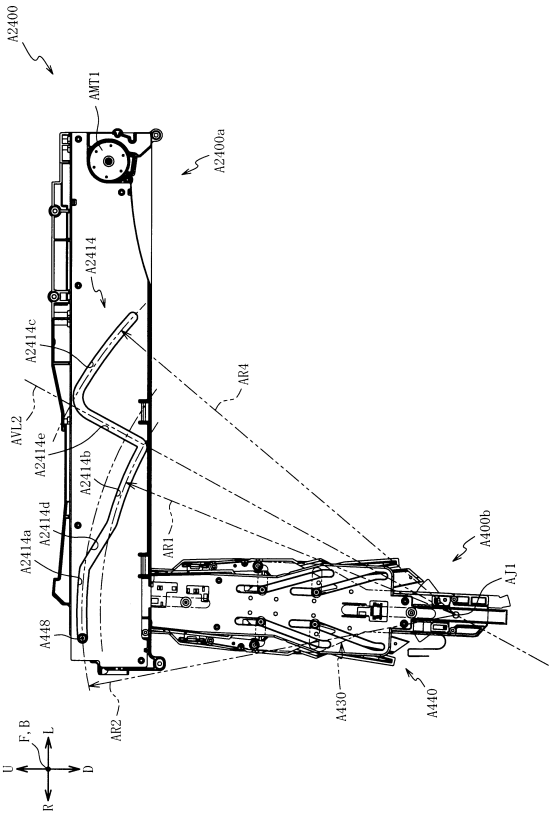
【図１４２６】



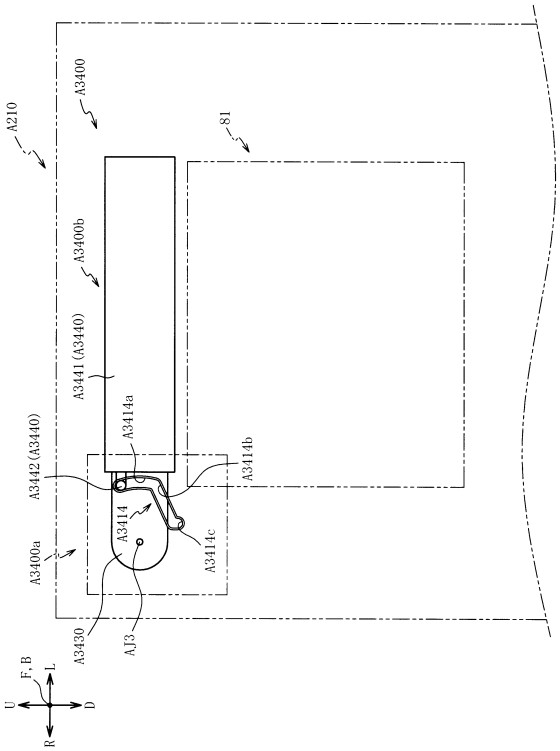
【図１４２７】



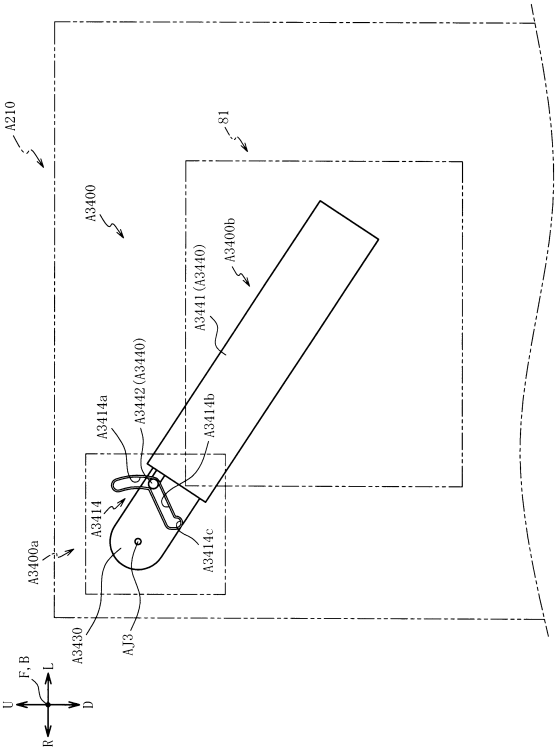
【図１４２８】



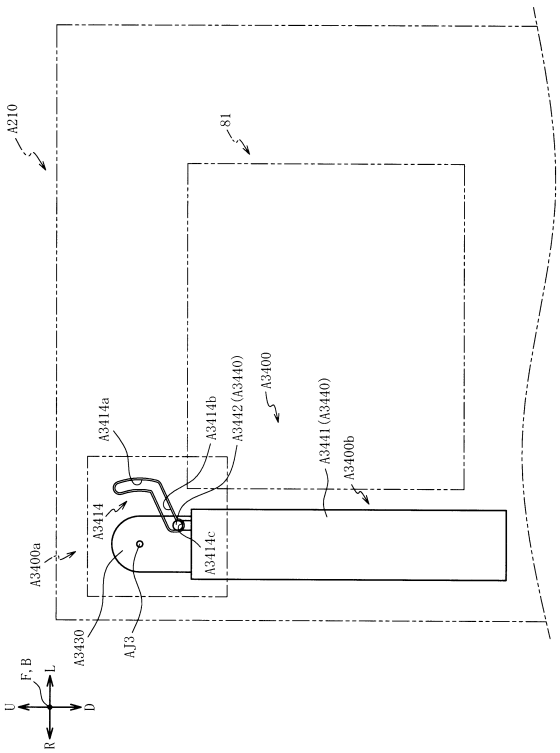
【図１４２９】



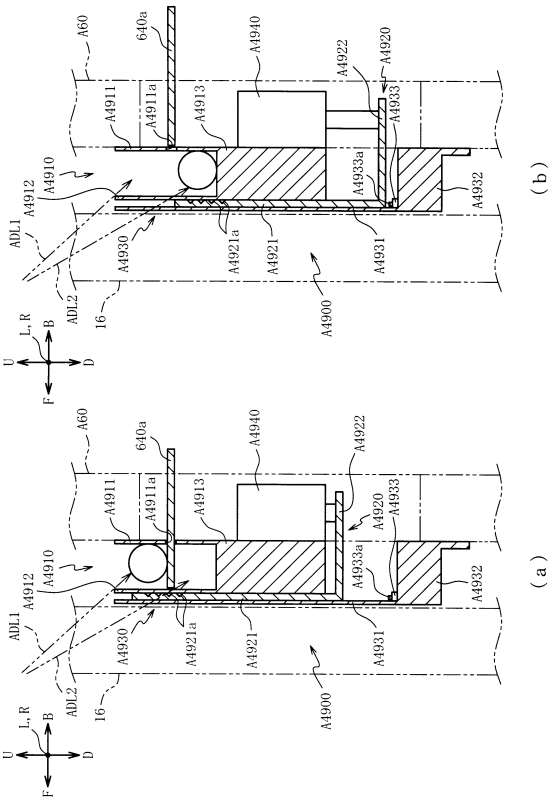
【図１４３０】



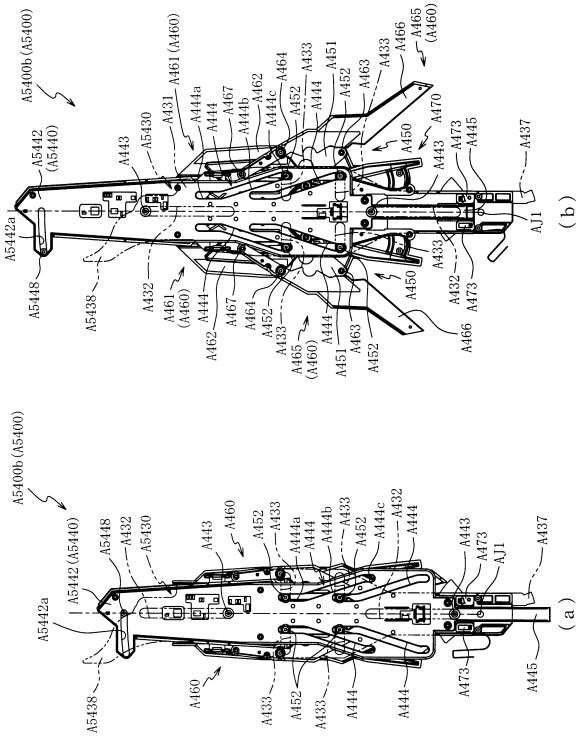
【図１４３１】



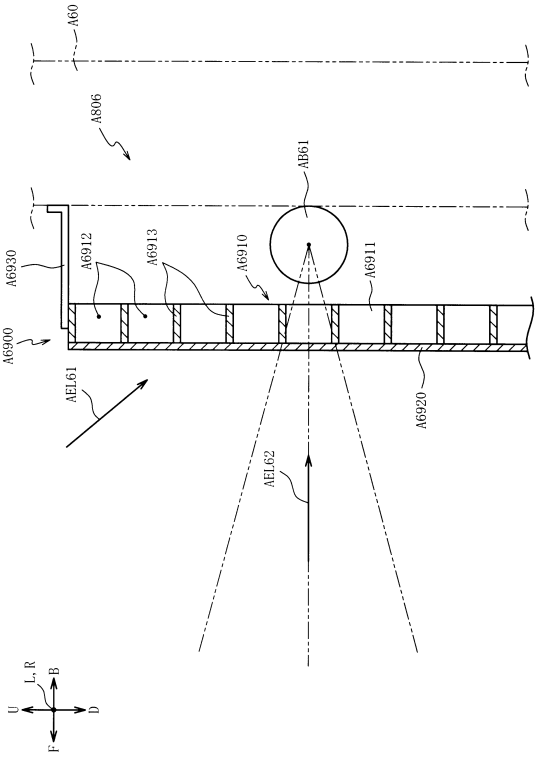
【図１４３２】



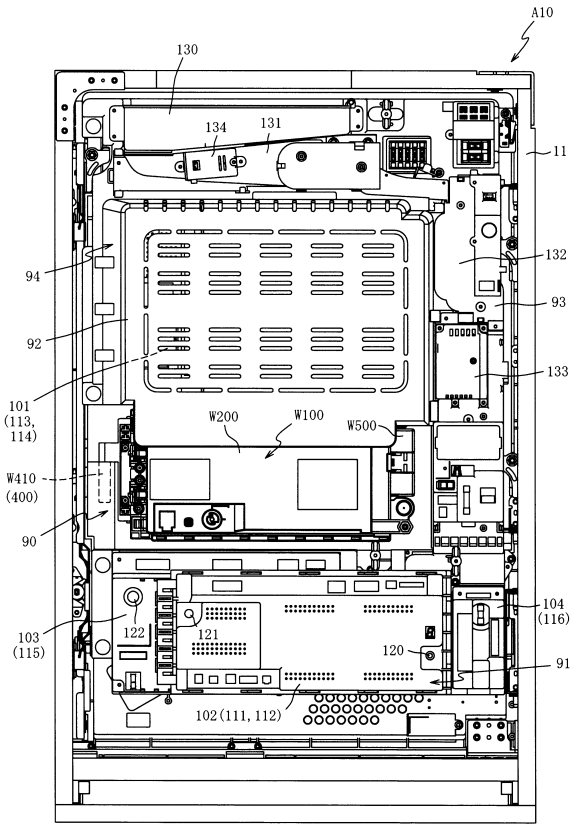
【図１４３３】



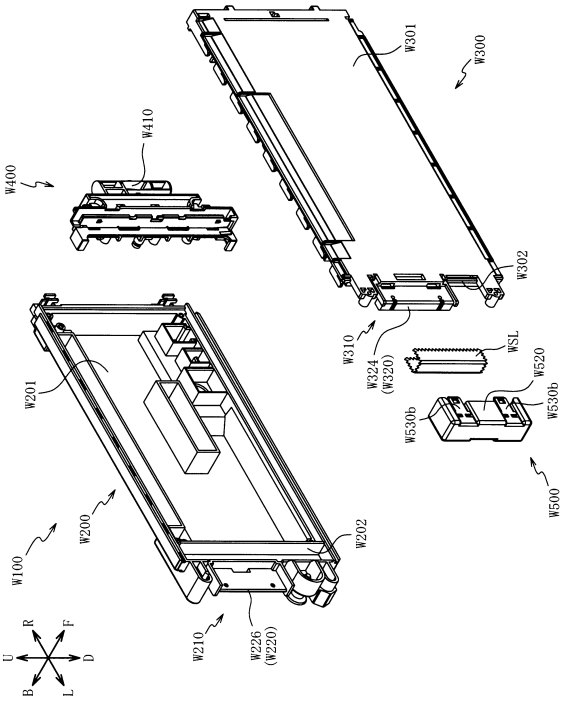
【図１４３４】



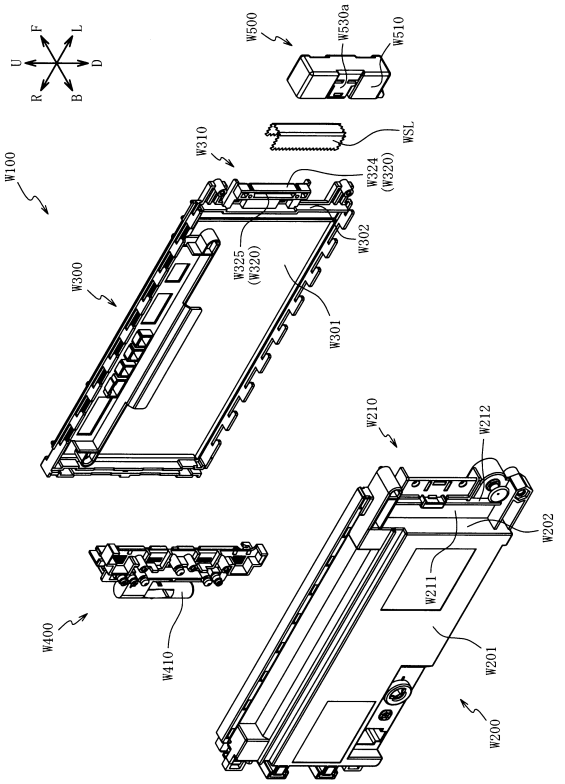
【図１４３５】



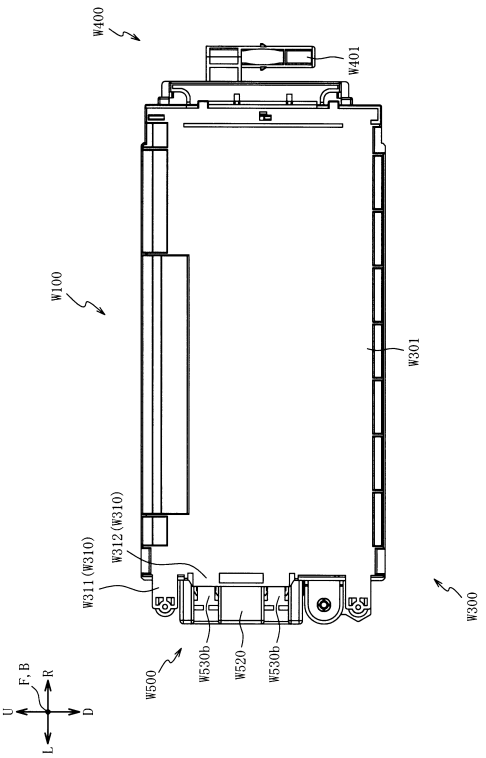
【図１４３６】



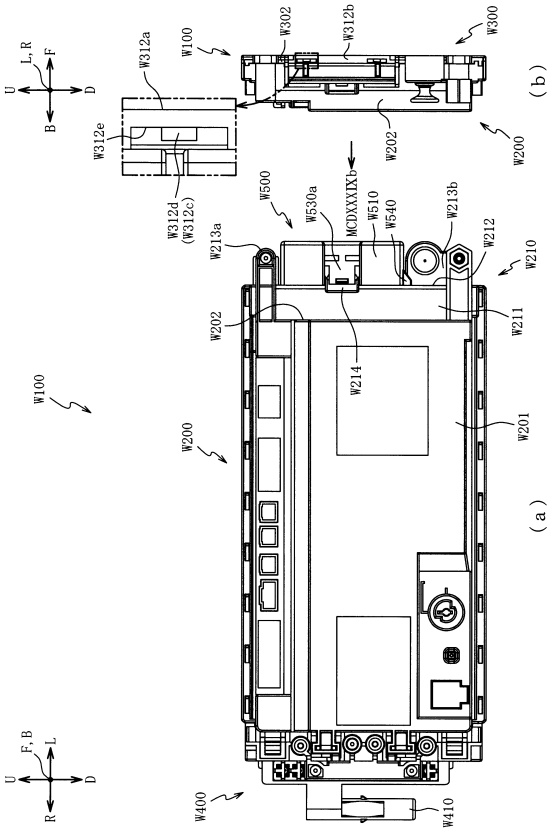
【図１４３７】



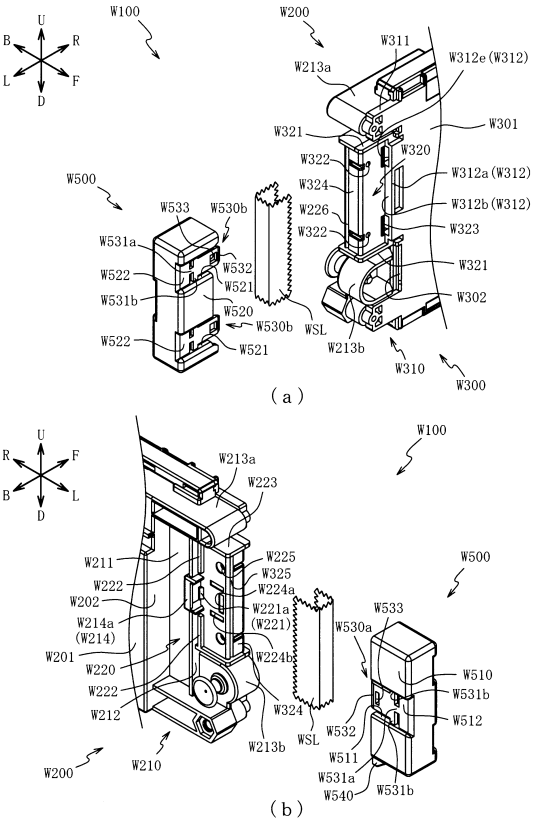
【図１４３８】



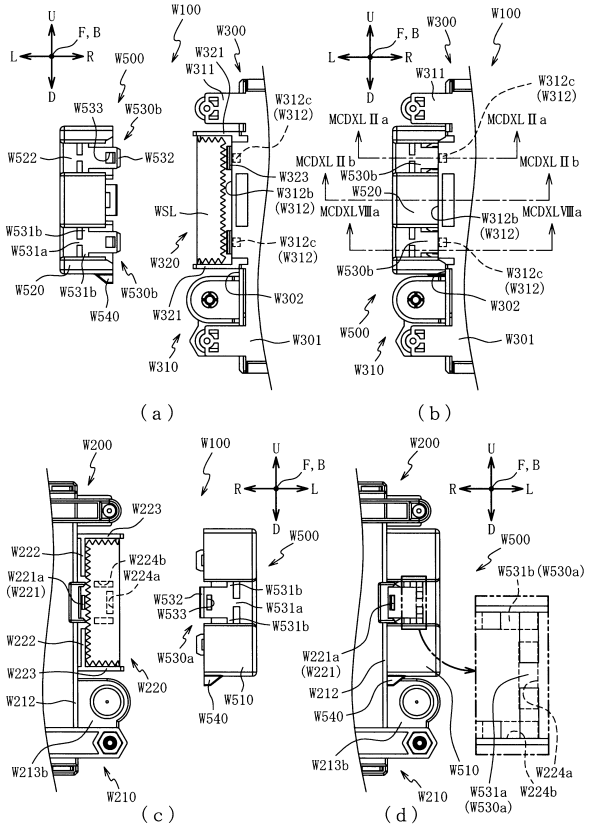
【図１４３９】



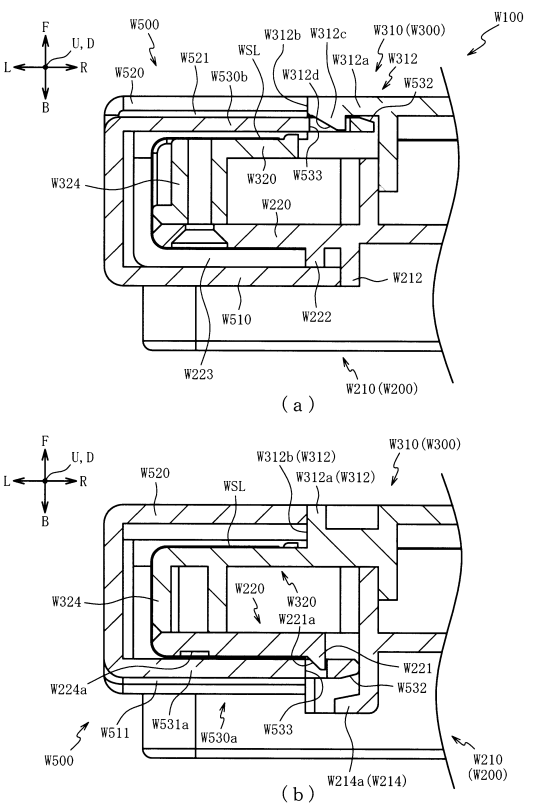
【図１４４０】



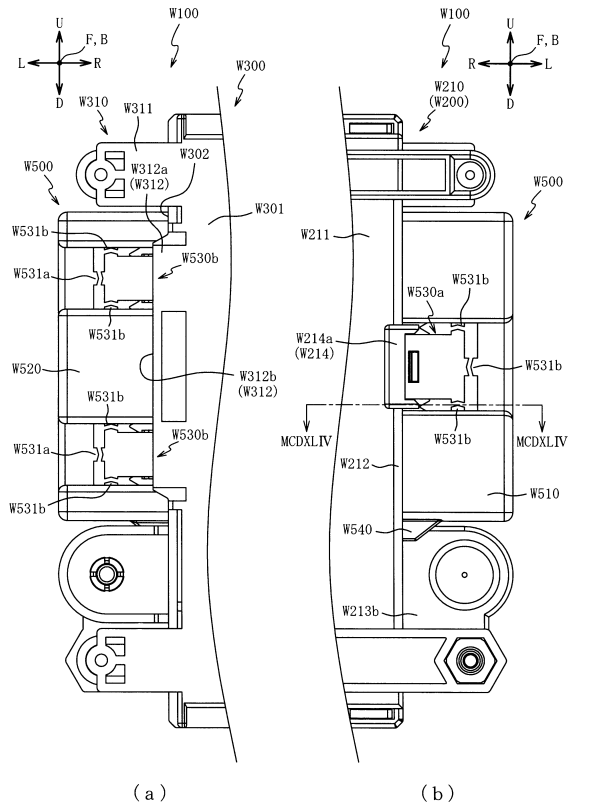
【図１４４１】



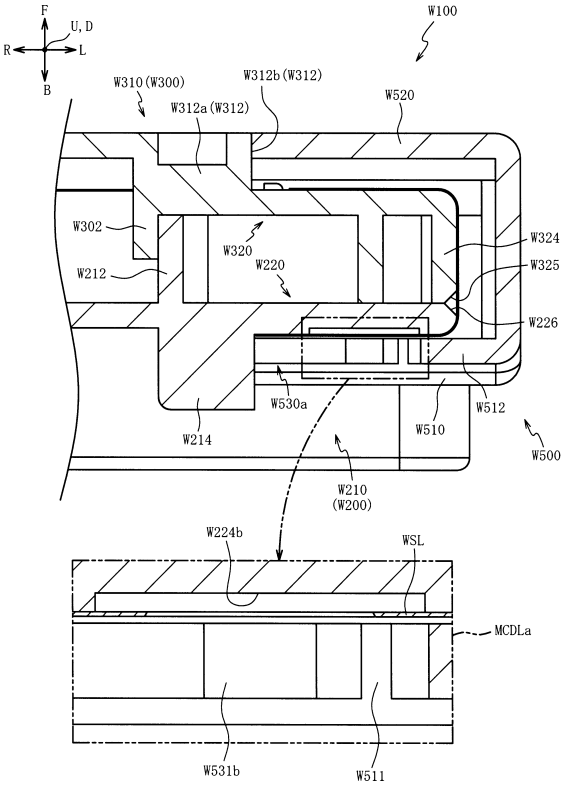
【図１４４２】



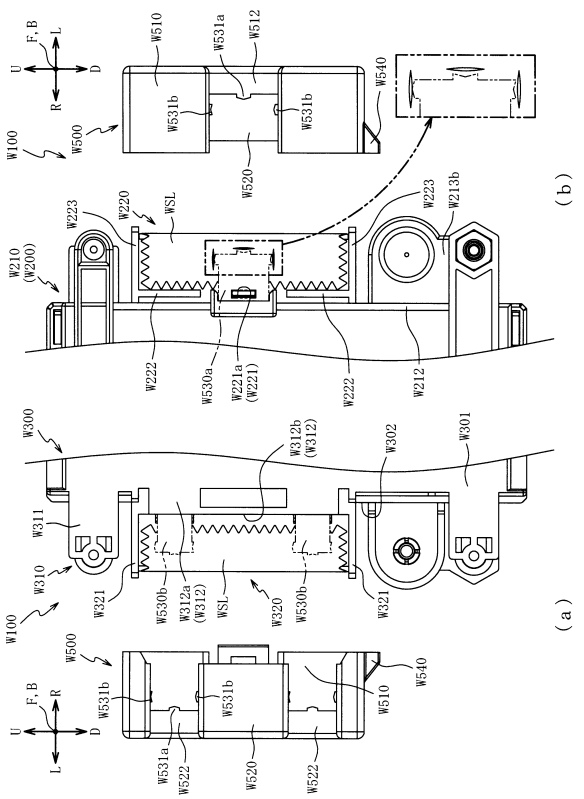
【図１４４３】



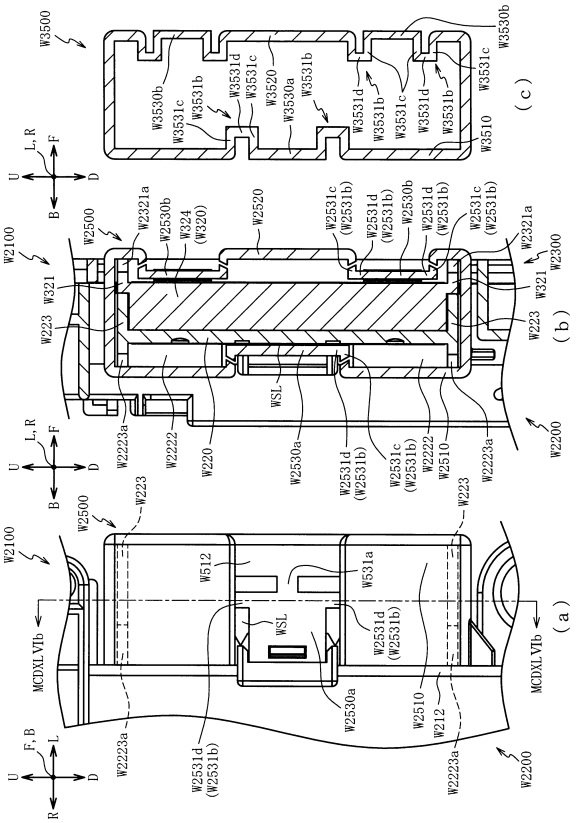
【図１４４４】



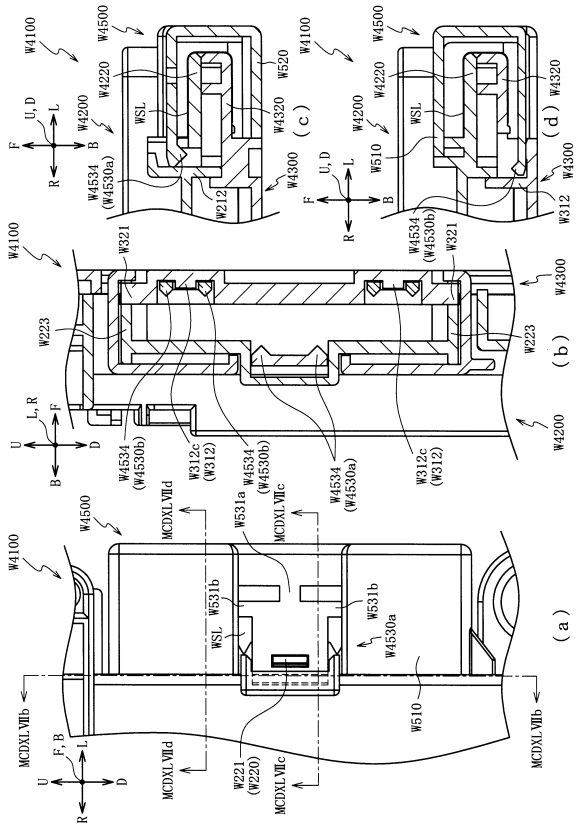
【図１４４５】



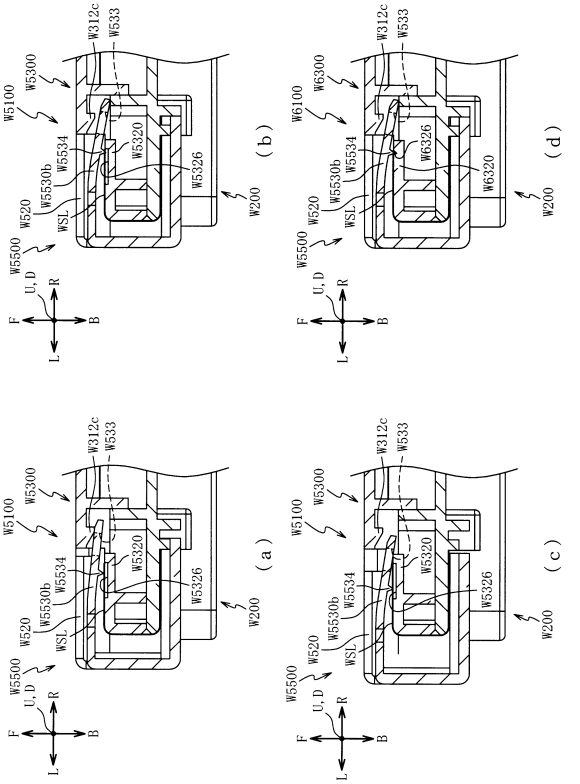
【図１４４６】



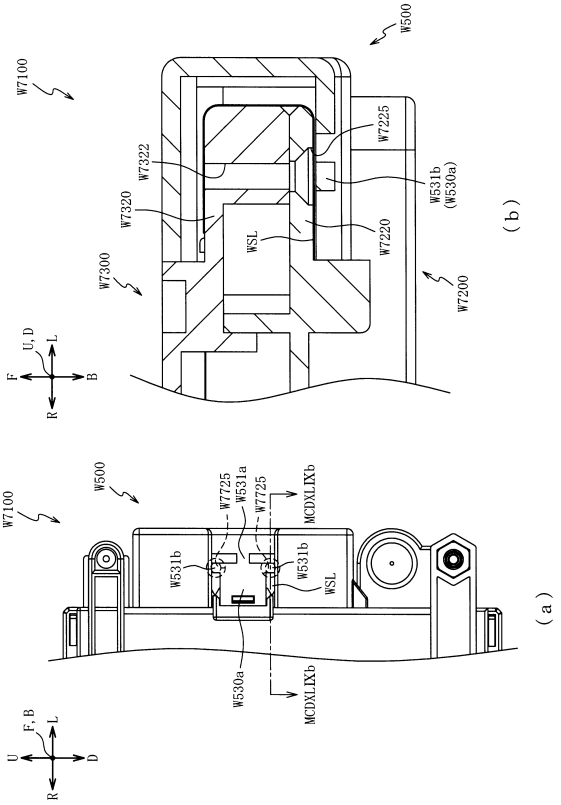
【図１４４７】



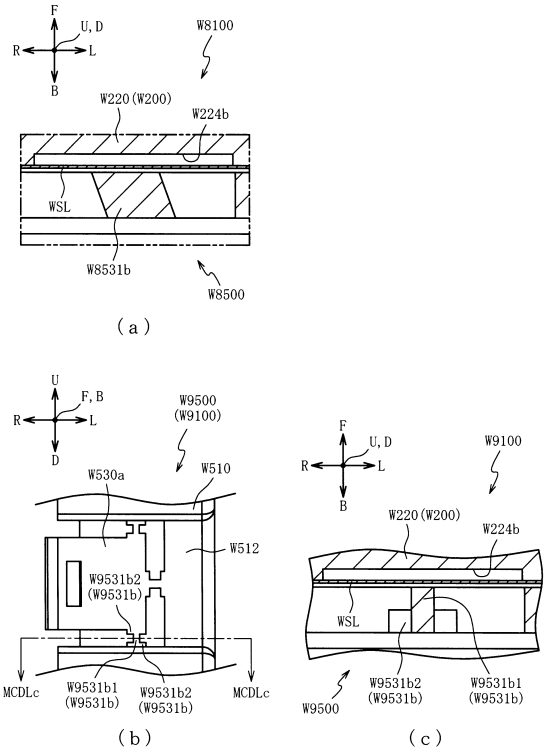
【図１４４８】



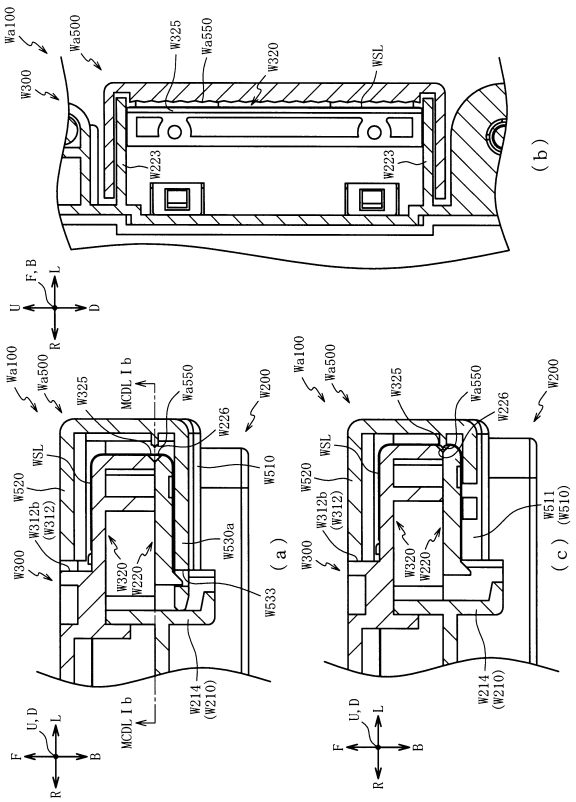
【図１４４９】



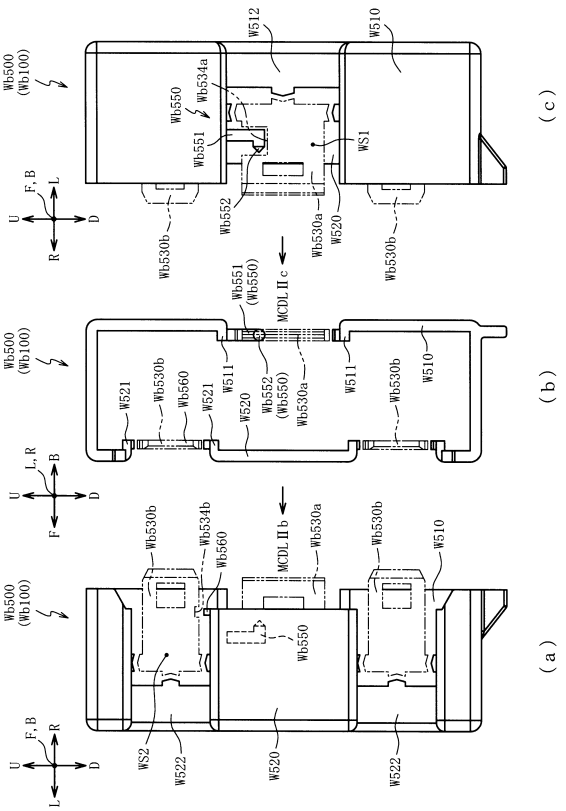
【図１４５０】



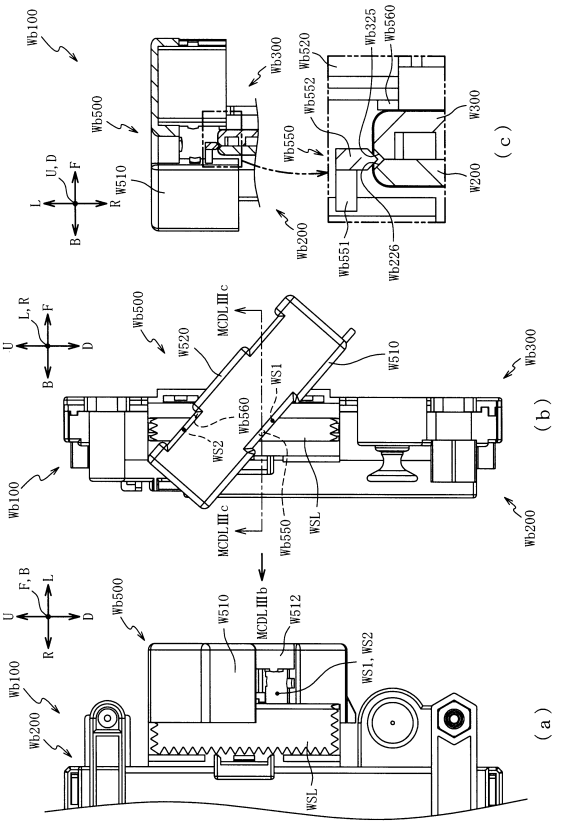
【図１４５１】



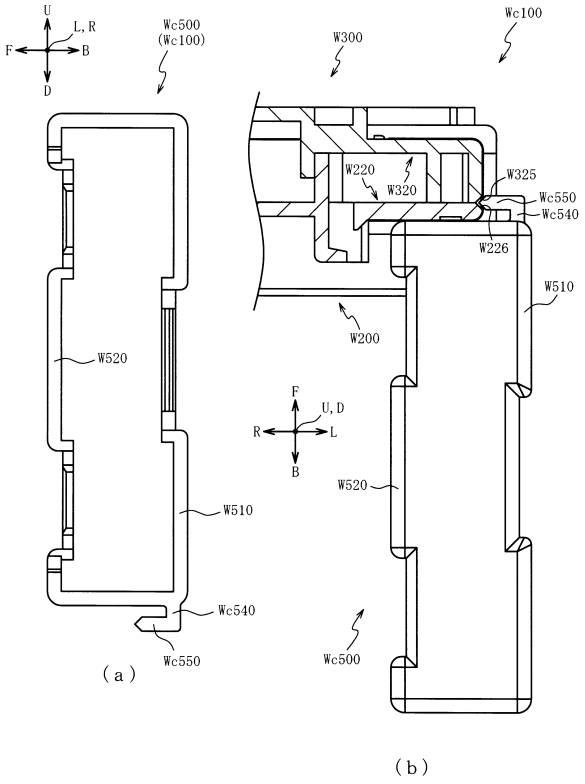
【図１４５２】



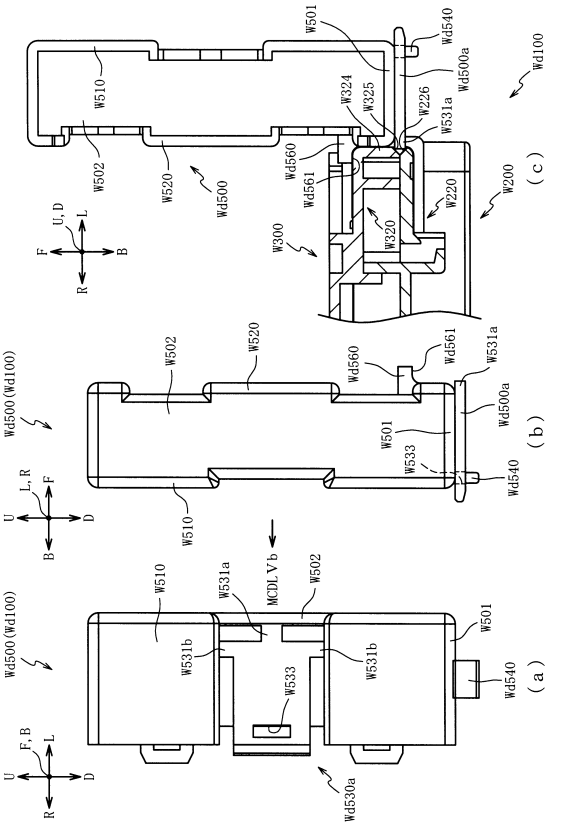
【図１４５３】



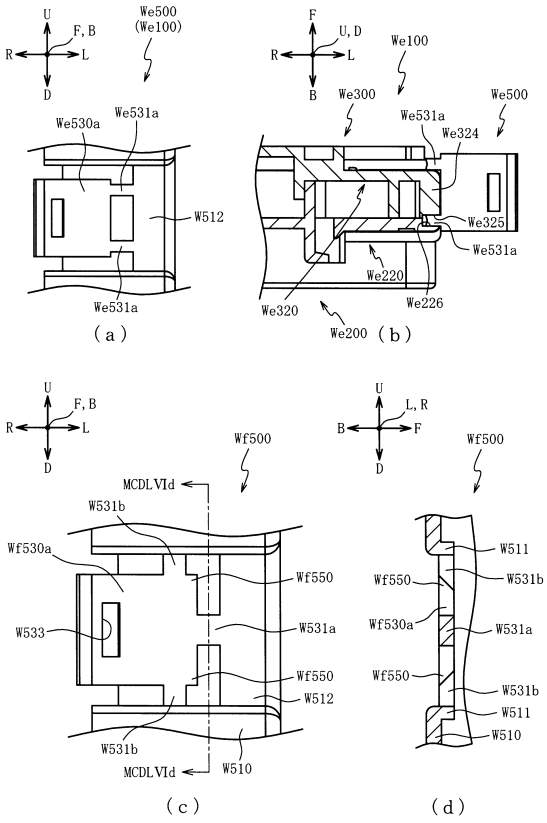
【図１４５４】



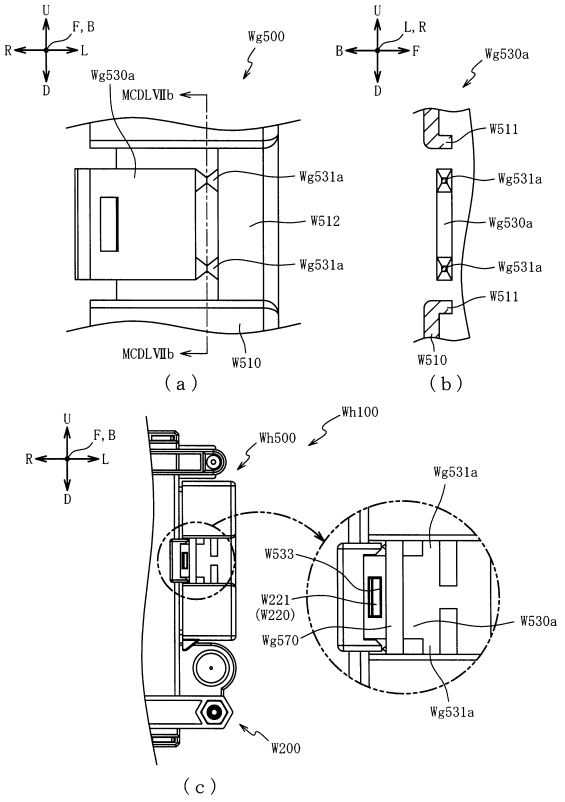
【図１４５５】



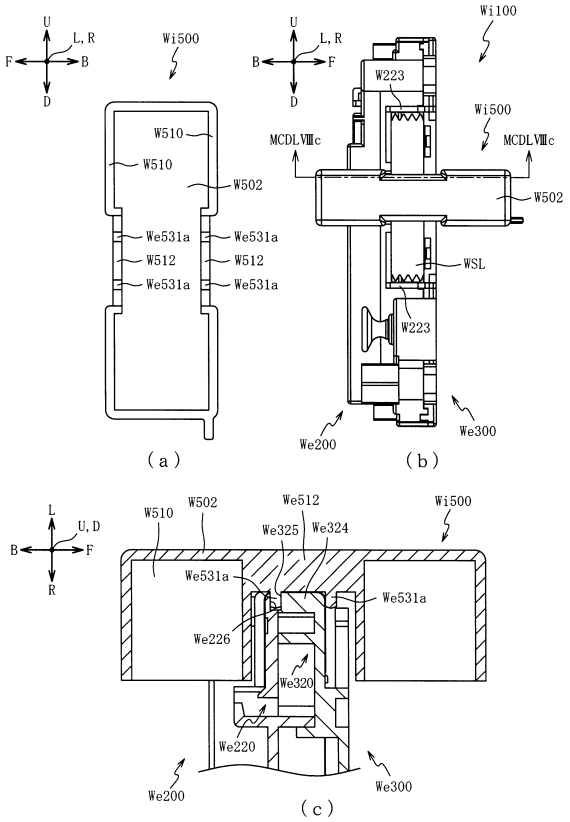
【図１４５６】



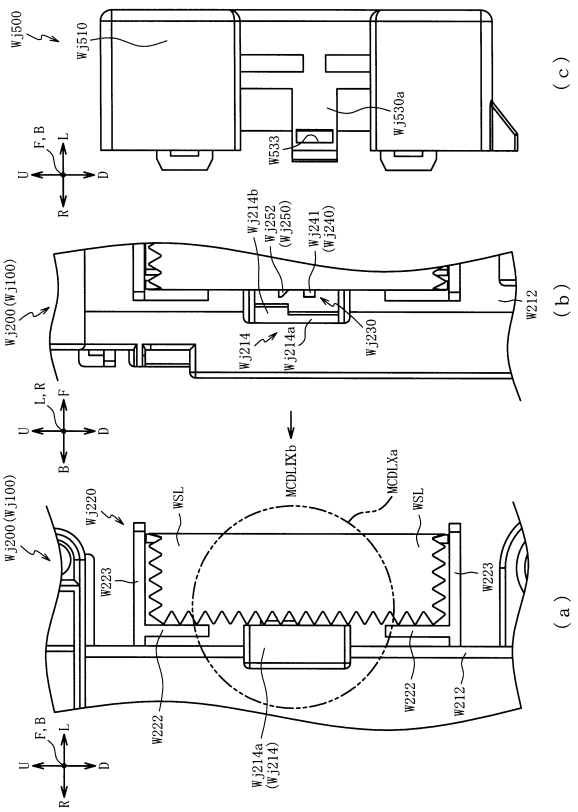
【図１４５７】



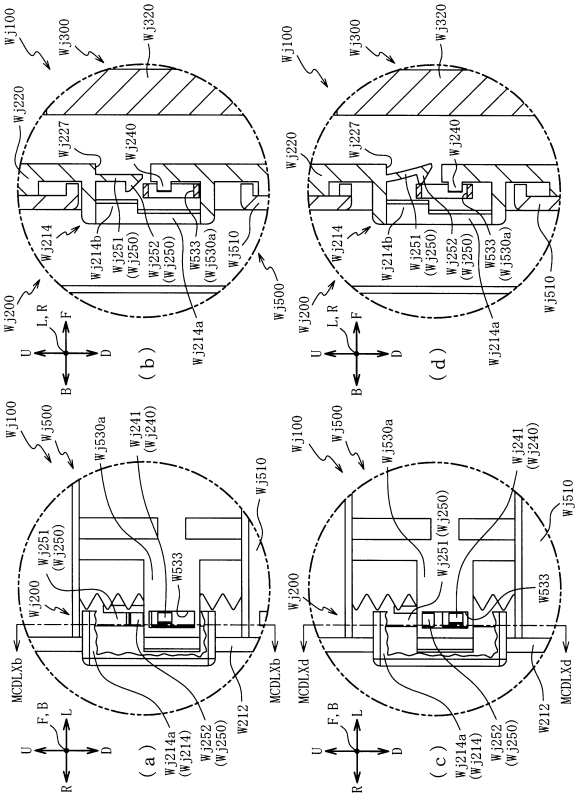
【図１４５８】



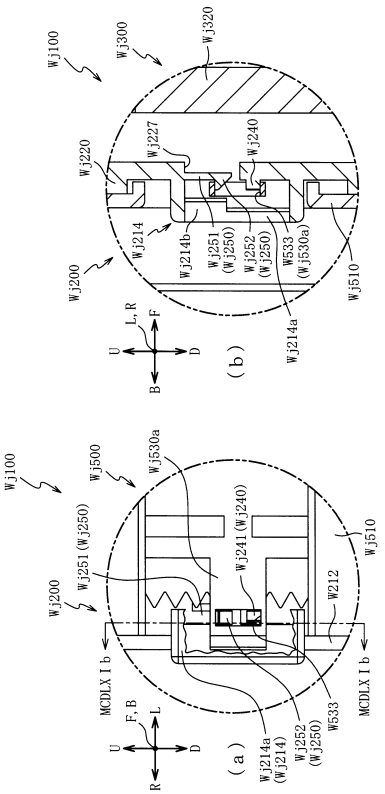
【図１４５９】



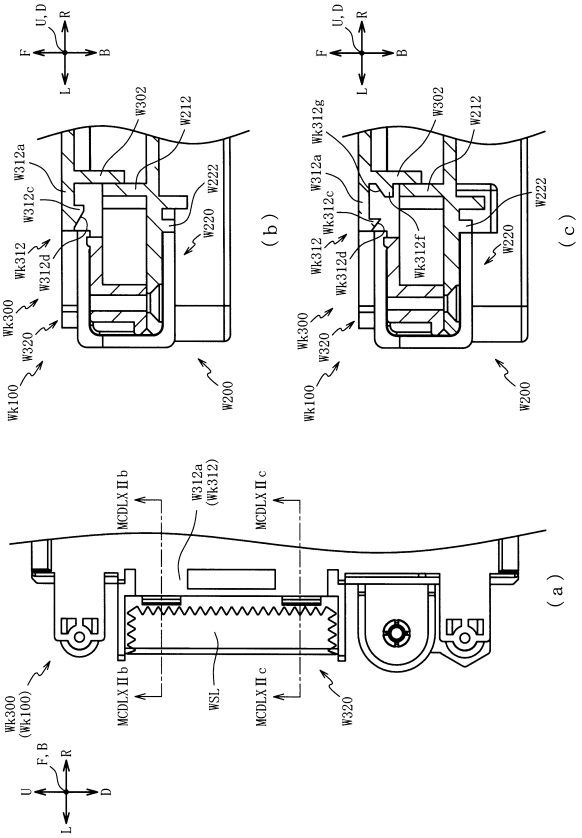
【図１４６０】



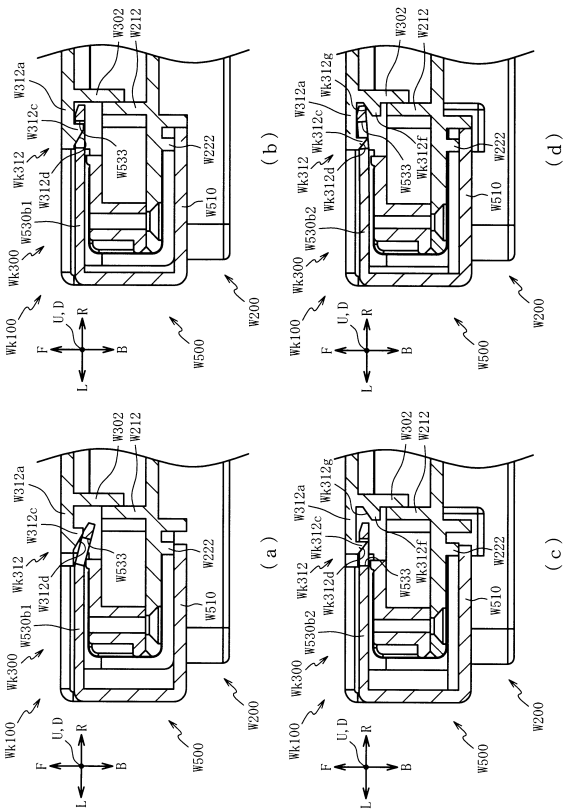
【図１４６１】



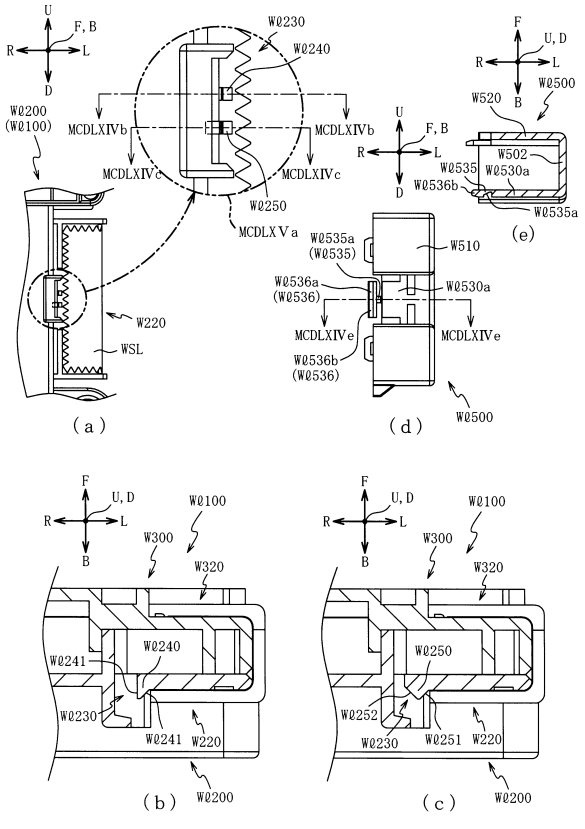
【図１４６２】



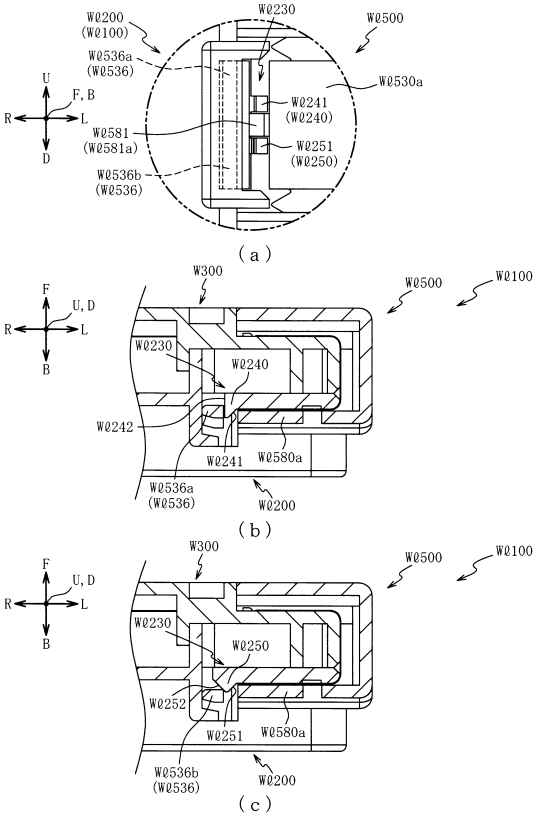
【図１４６３】



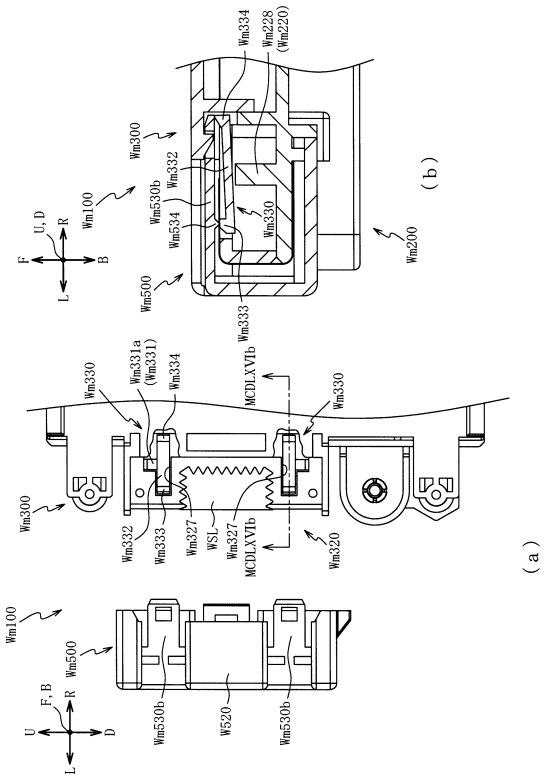
【図１４６４】



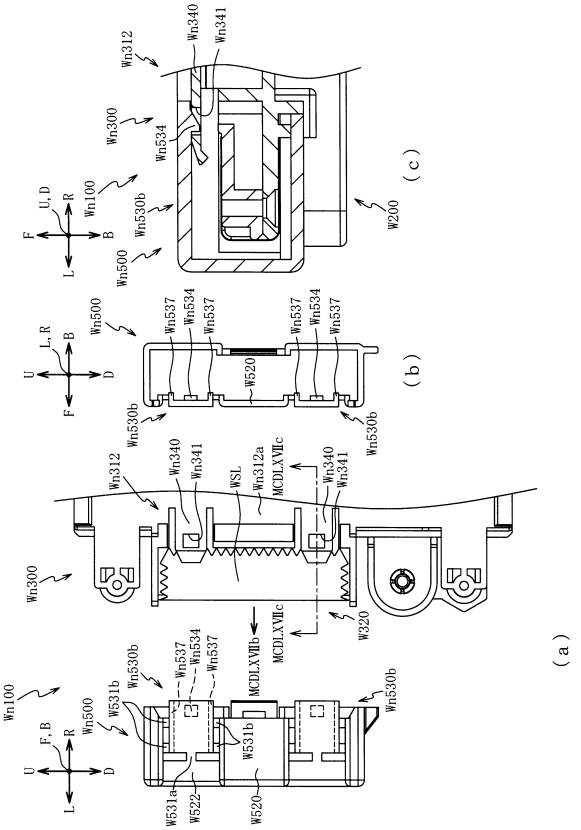
【図１４６５】



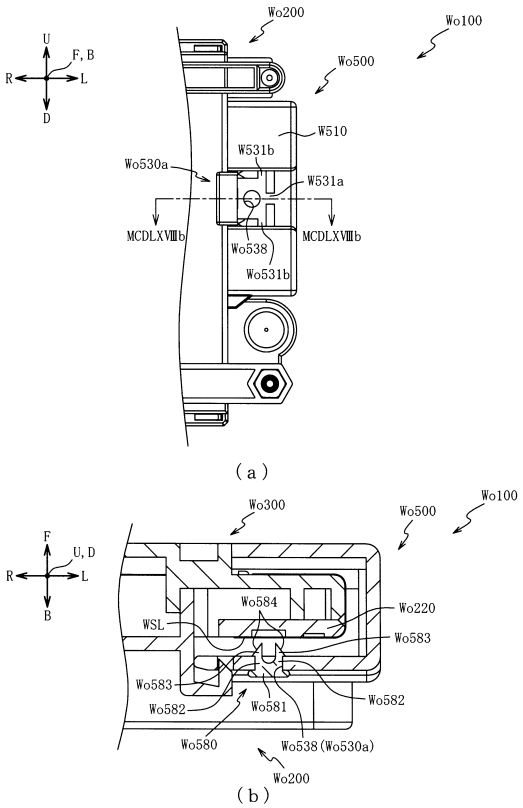
【図１４６６】



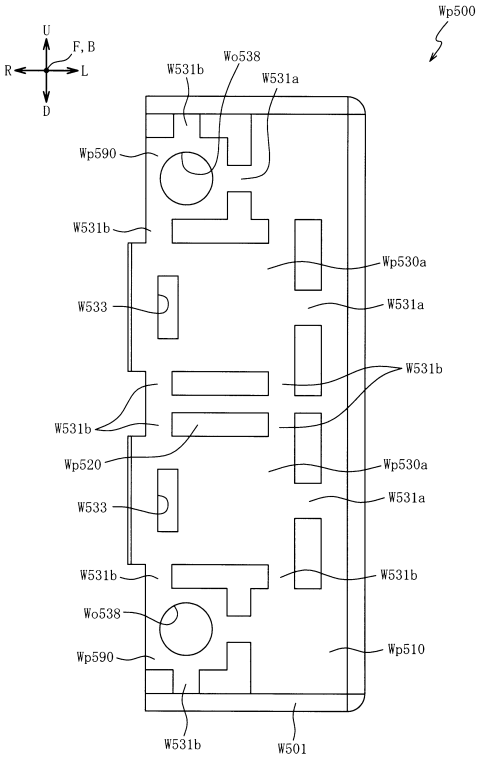
【図１４６７】



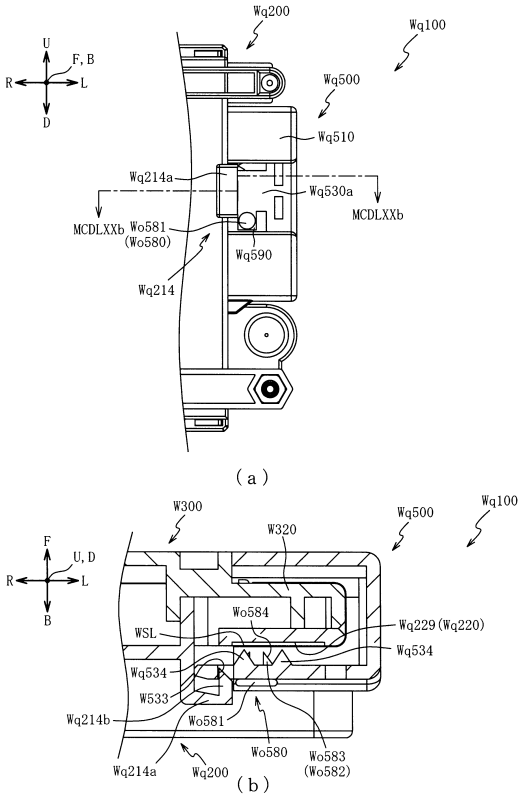
【図１４６８】



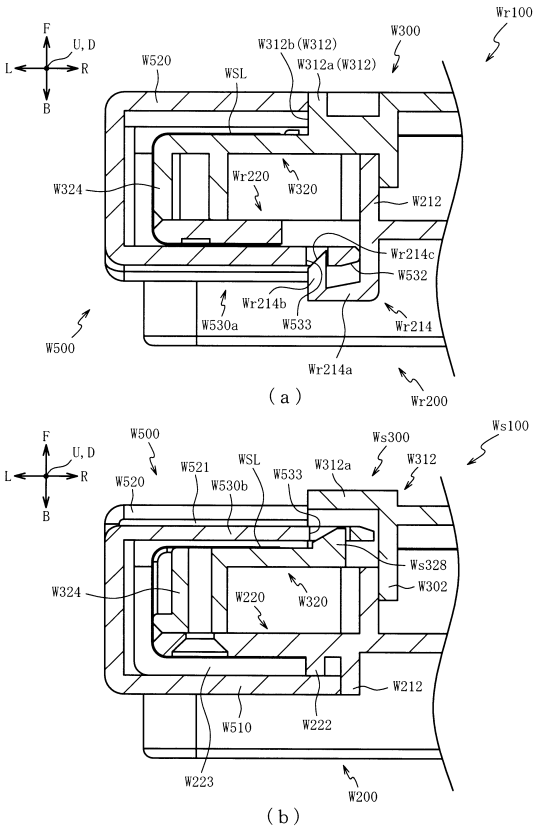
【図１４６９】



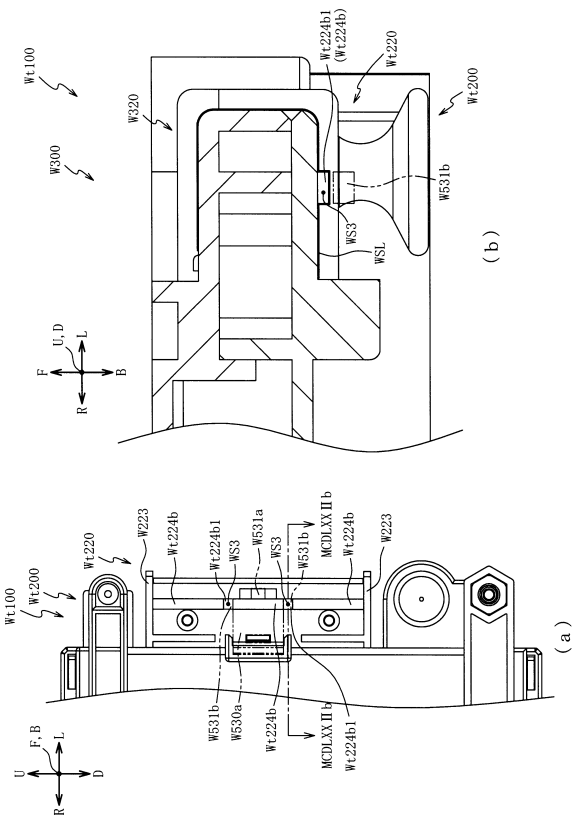
【図１４７０】



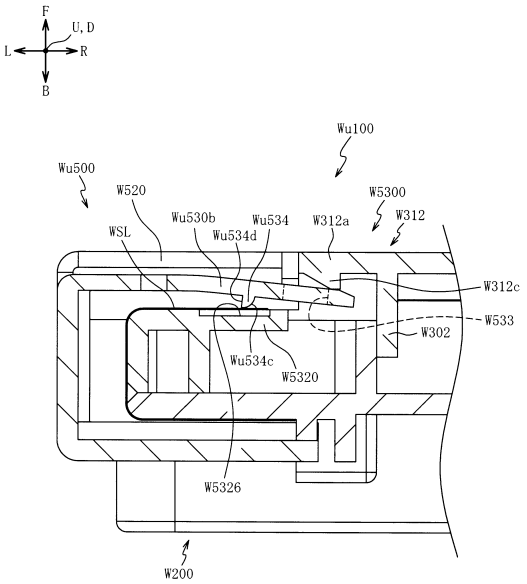
【図１４７１】



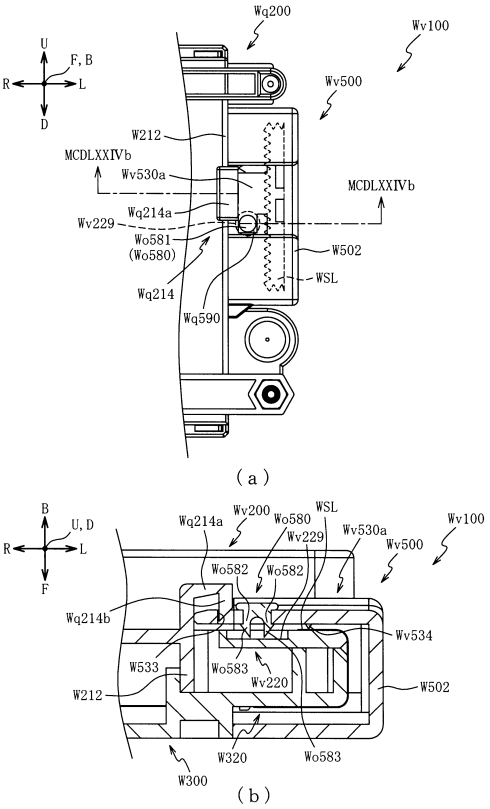
【図１４７２】



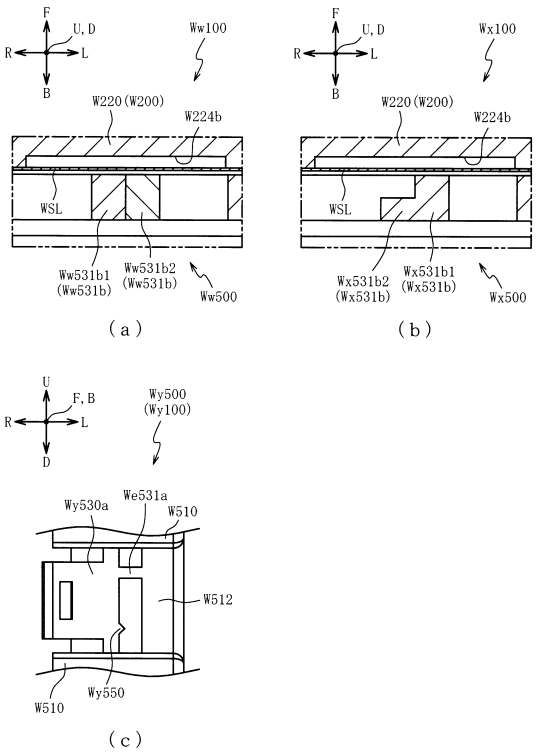
【図１４７３】



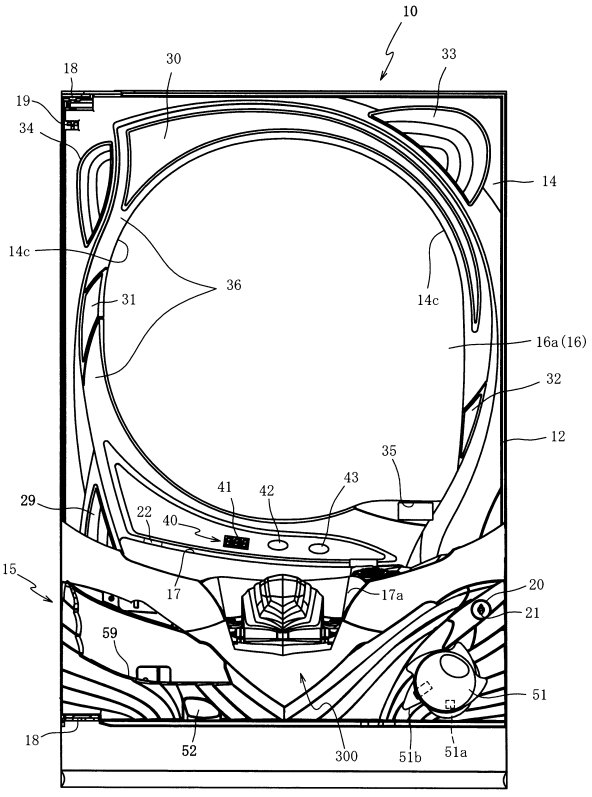
【図１４７４】



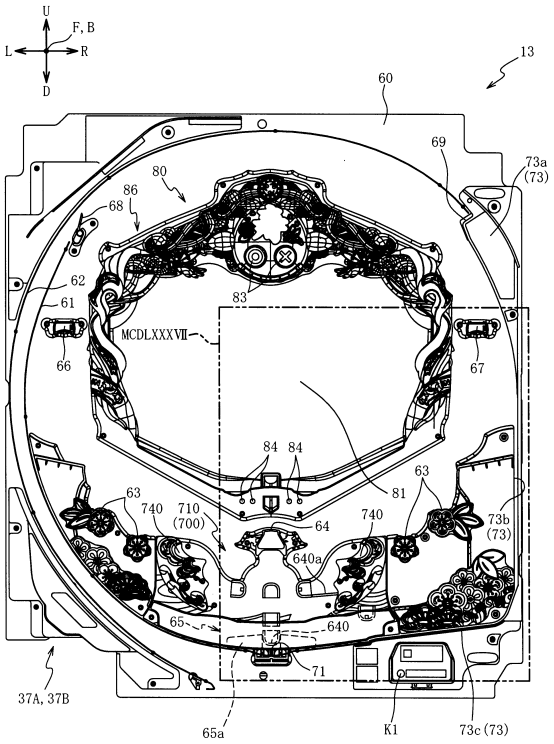
【図１４７５】



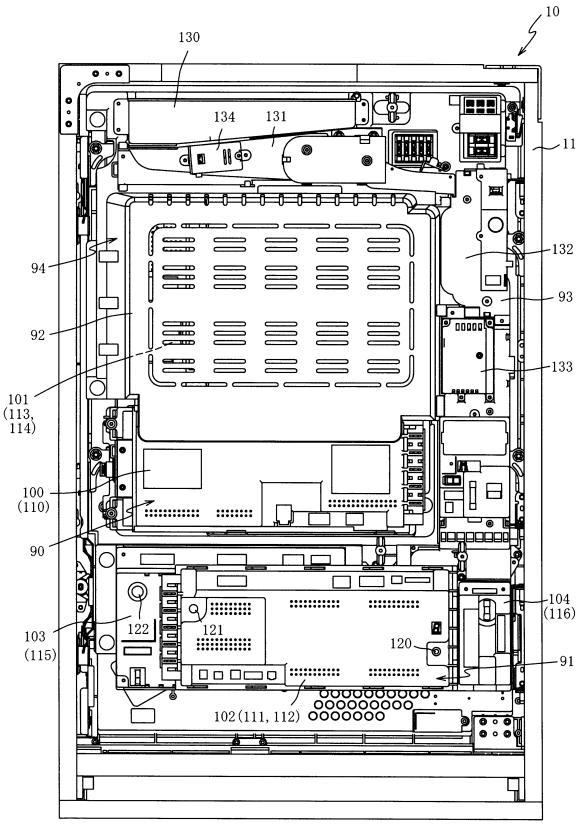
【図１４７６】



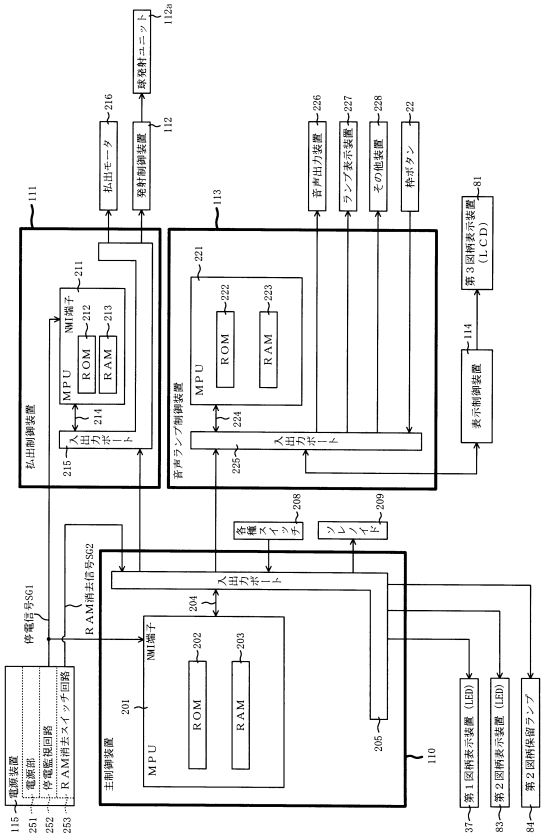
【図１４７７】



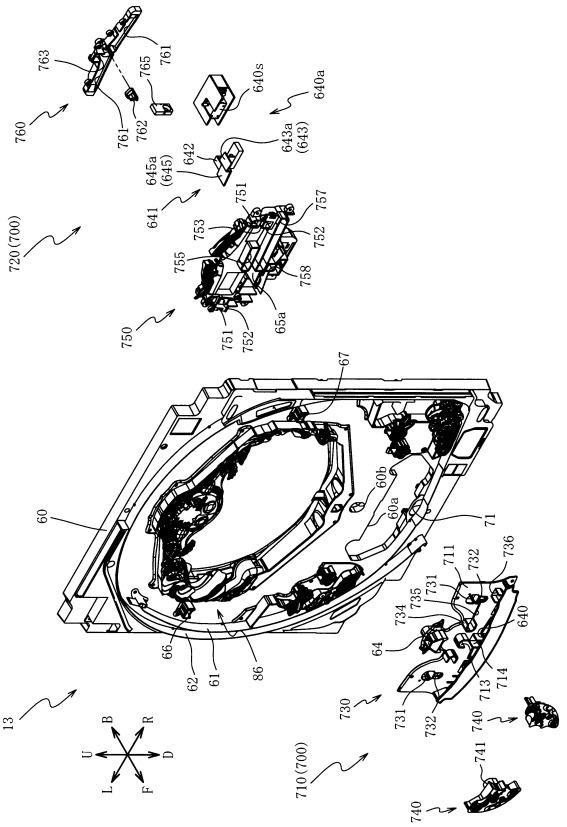
【図１４７８】



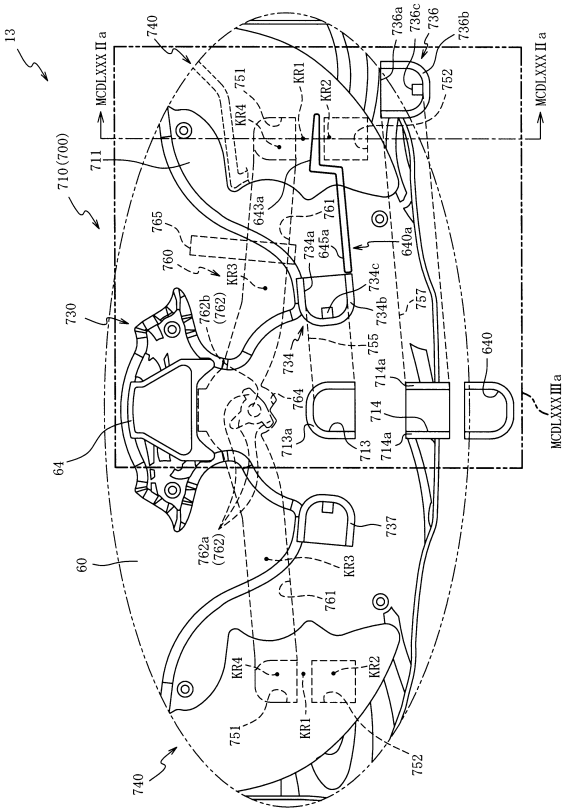
【図１４７９】



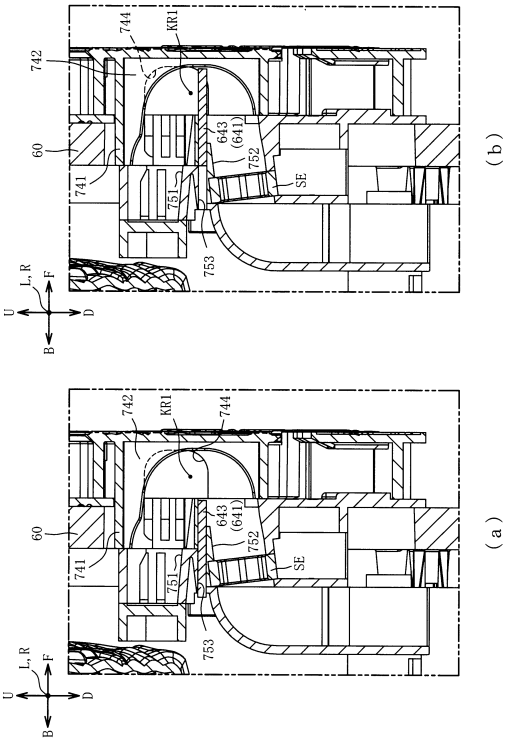
【図１４８０】



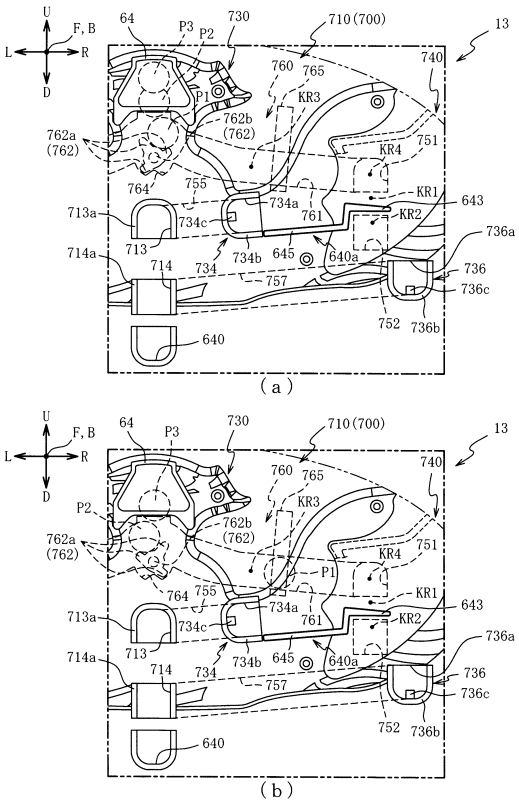
【図１４８１】



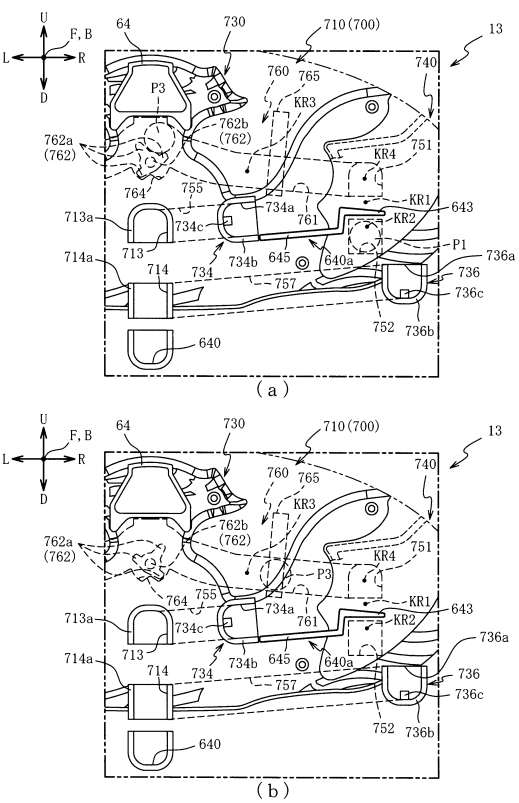
【図１４８２】



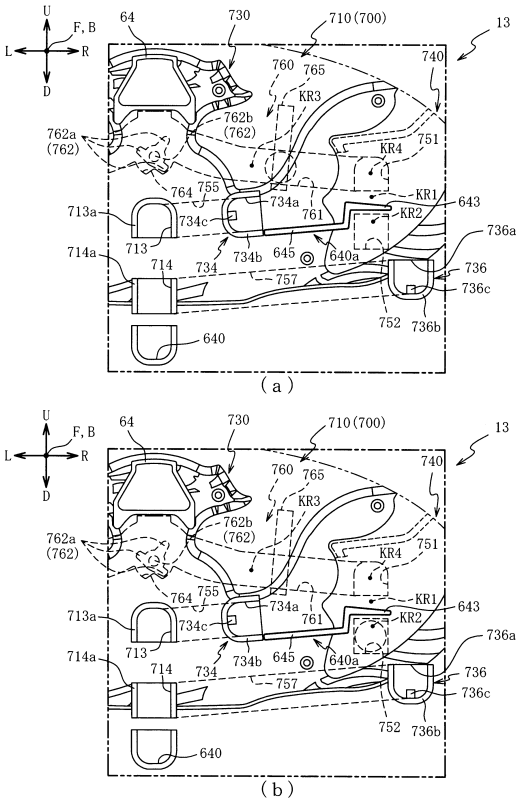
【図１４８３】



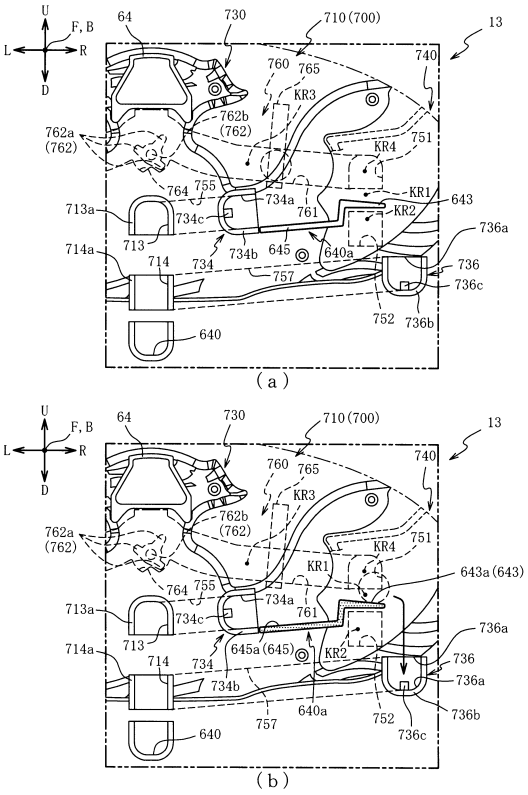
【図１４８４】



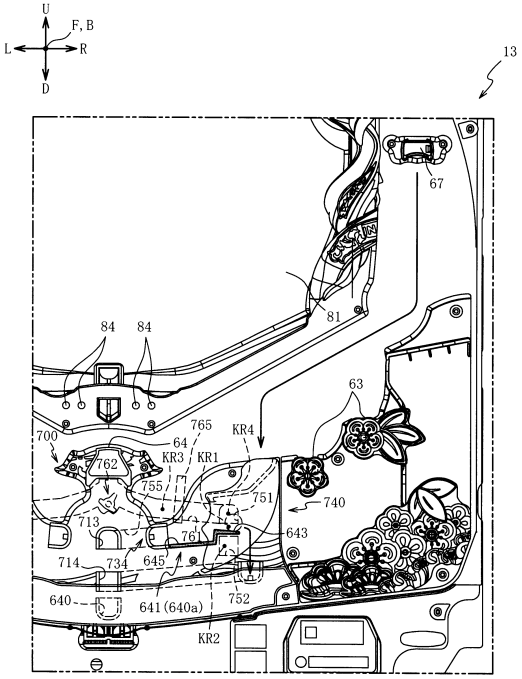
【図１４８５】



【図１４８６】



【図１４８７】



【図１４８８】

(a)

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202a
第１当たり種別選択テーブル	202b
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202d

(b)

第１当たり種別選択テーブル202b

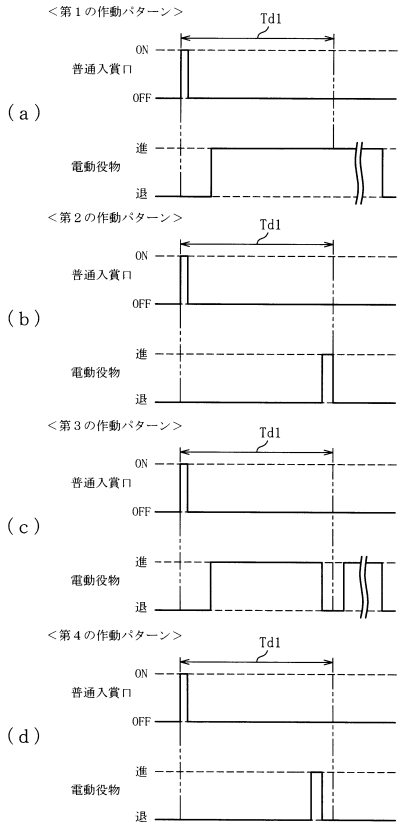
大当たり種別		第１当たり種別カウンタＣ２の値（0～99）		ラウンドカウント	電動役物作動パターン	継続期間
特別図柄１	大当たりA	0～19	202b1	15R 10C	第１の作動パターン	次回まで
	大当たりB	20～49	202b2	8R 10C	第２の作動パターン	
	大当たりC	50～99	202b3	4R 10C	第２の作動パターン	100回転（左）
特別図柄２	大当たりa	0～19	202b4	15R 10C	第１の作動パターン	次回まで
	大当たりb	20～49	202b5	15R 10C	第１の作動パターン	
	大当たりc	50～99	202b6	15R 10C	第３の作動パターン	100回転（右）

(c)

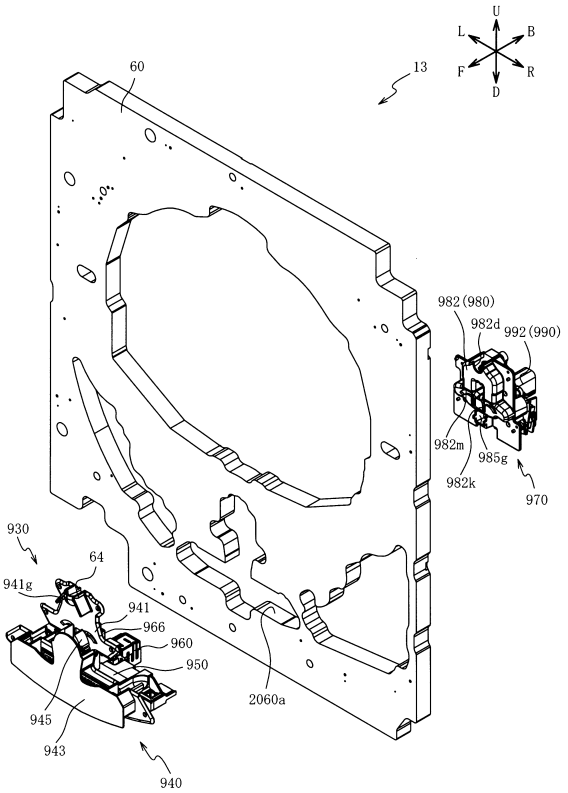
第２当たり乱数テーブル202c

乱数テーブル	第２当たり乱数カウンタＣ４の値（0～239）	
低確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	202c1
高確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	202c2

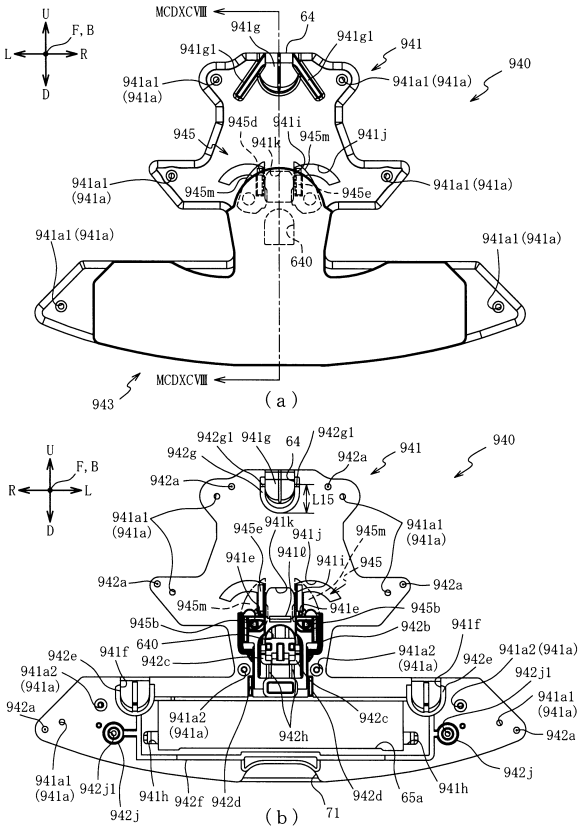
【図１４８９】



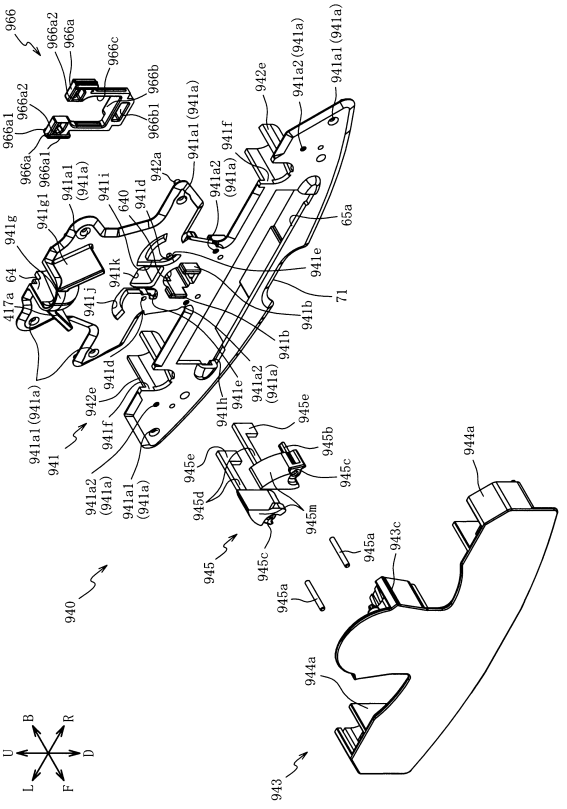
【図１４９０】



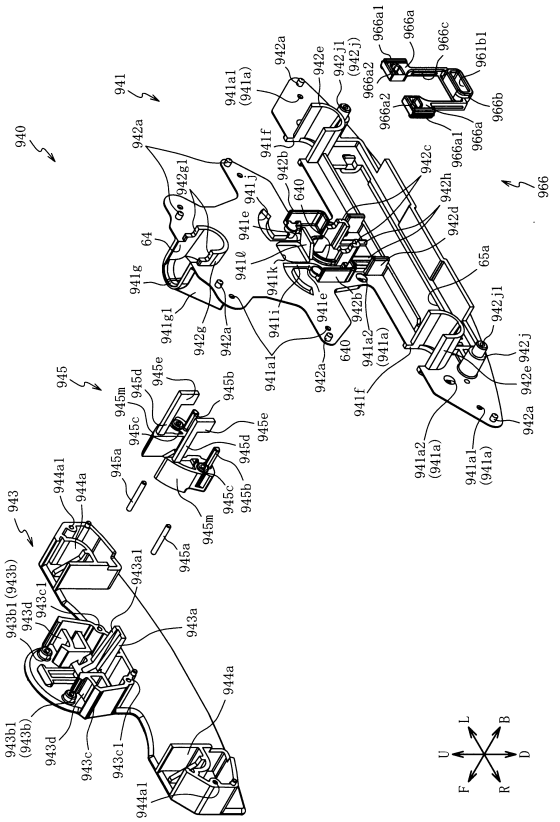
【図１４９１】



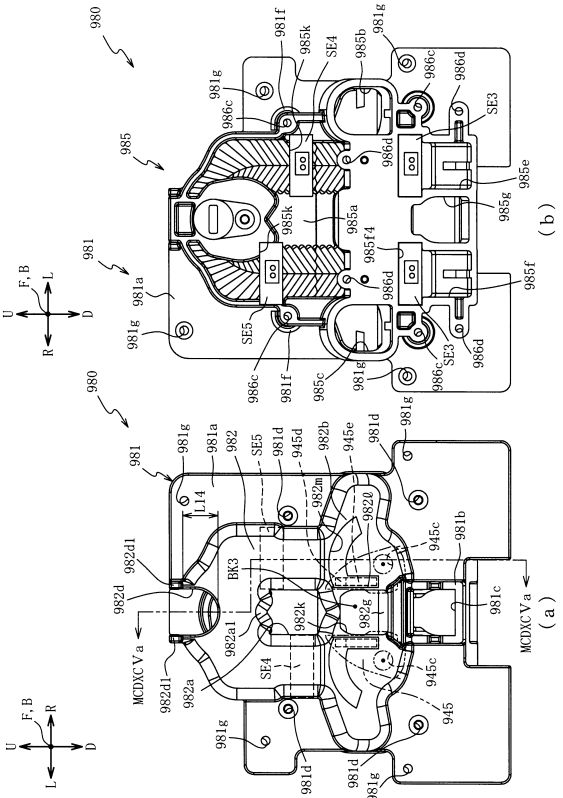
【図１４９２】



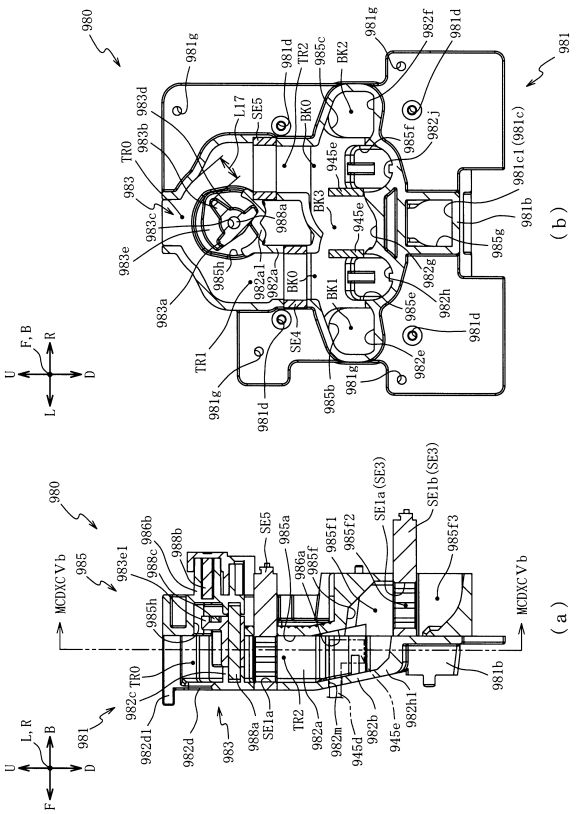
【図１４９３】



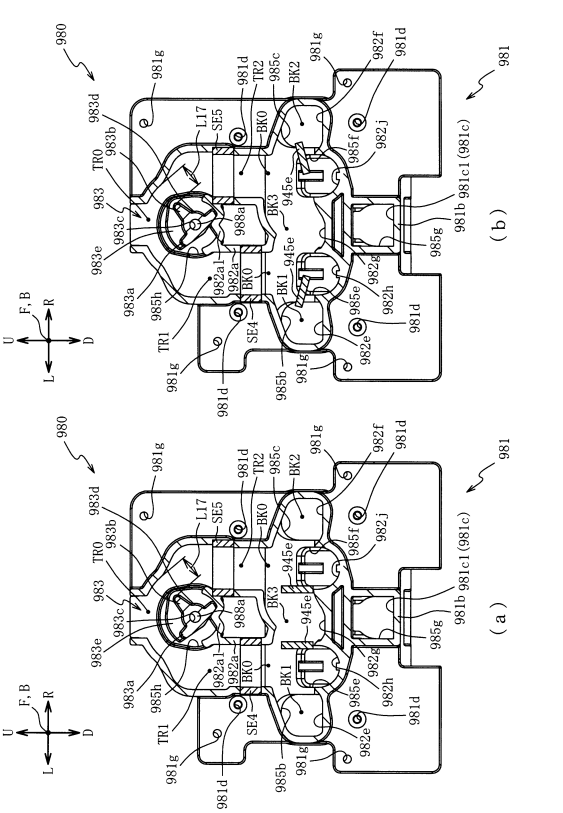
【図１４９４】



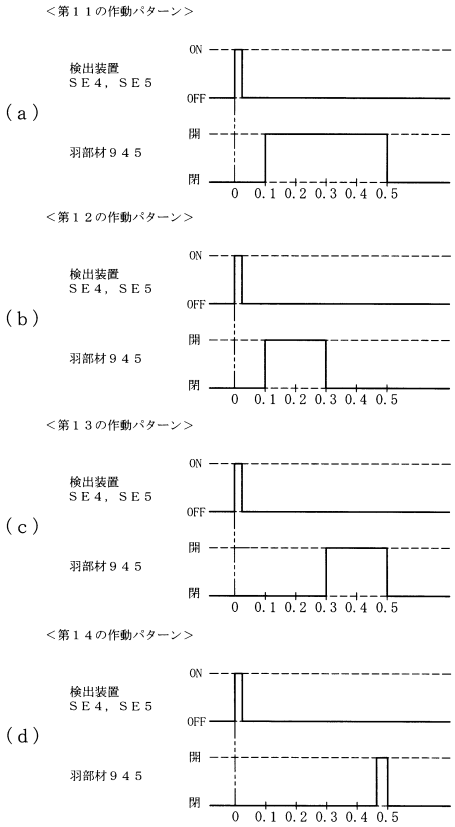
【図１４９５】



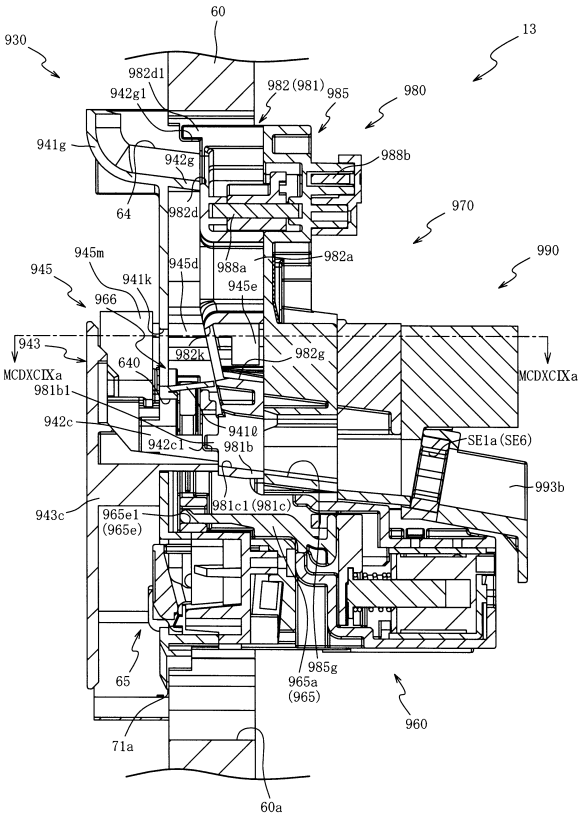
【図１４９６】



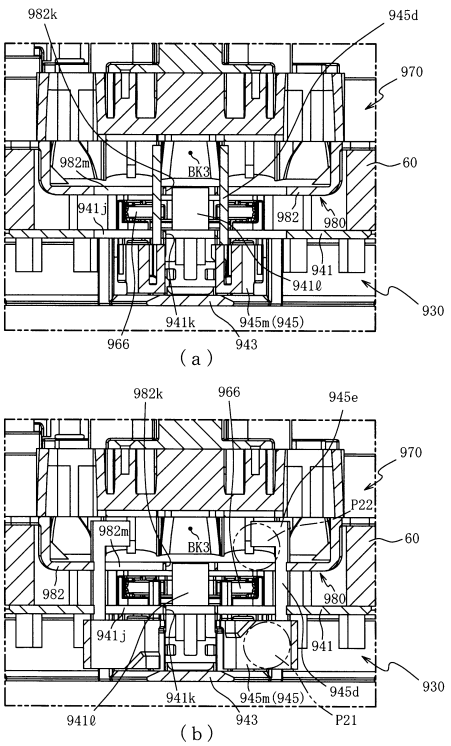
【図１４９７】



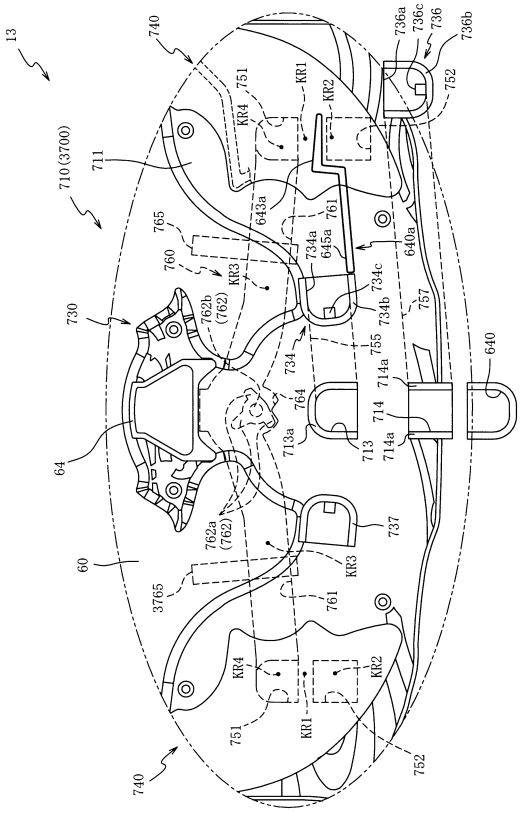
【図１４９８】



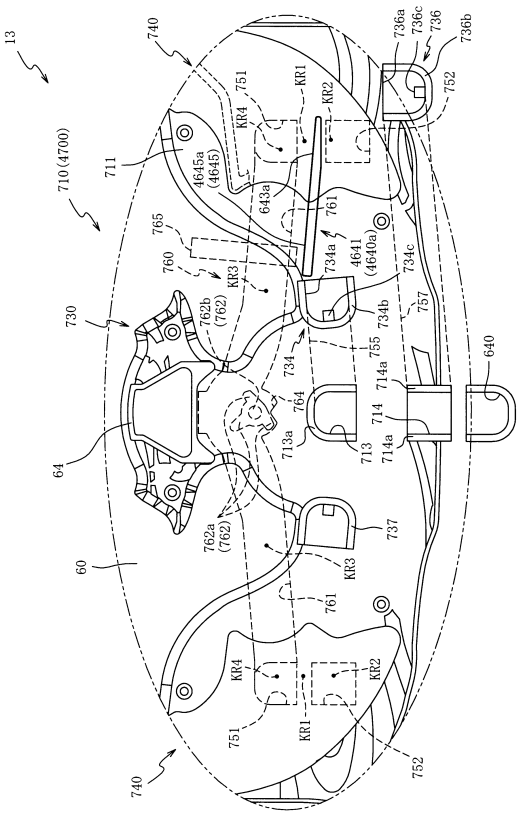
【図１４９９】



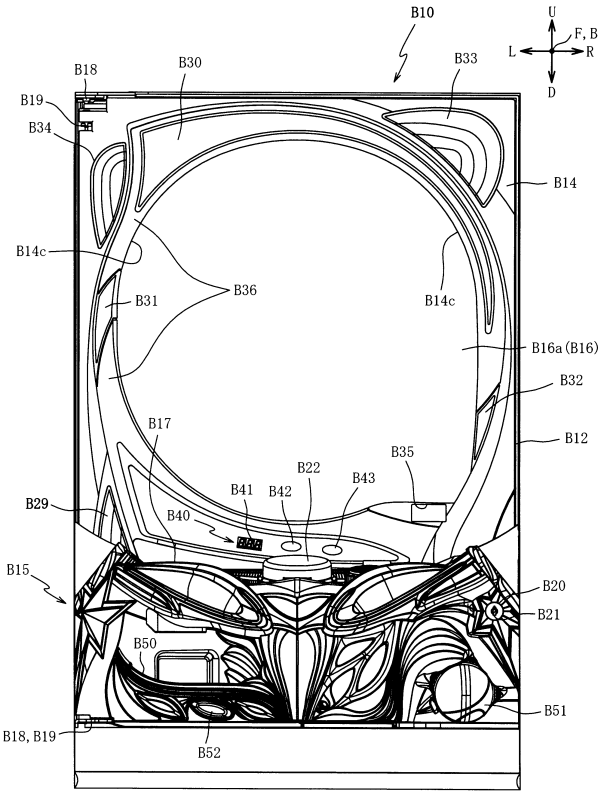
【図１５００】



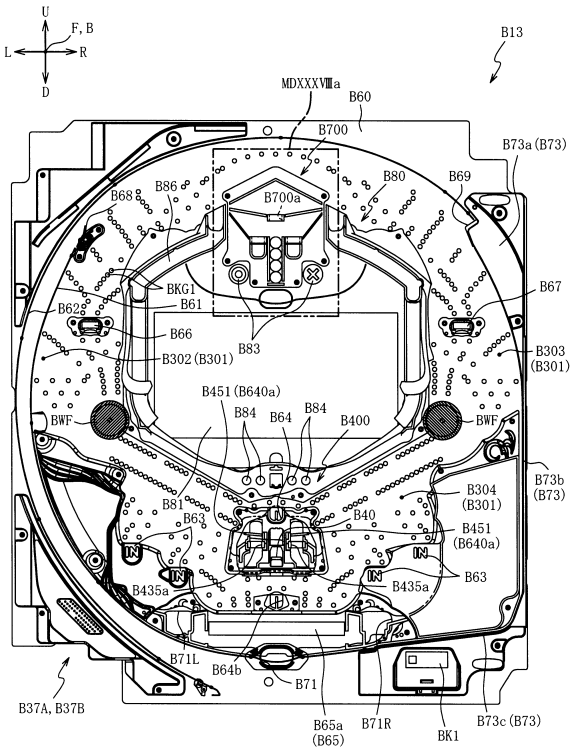
【図１５０１】



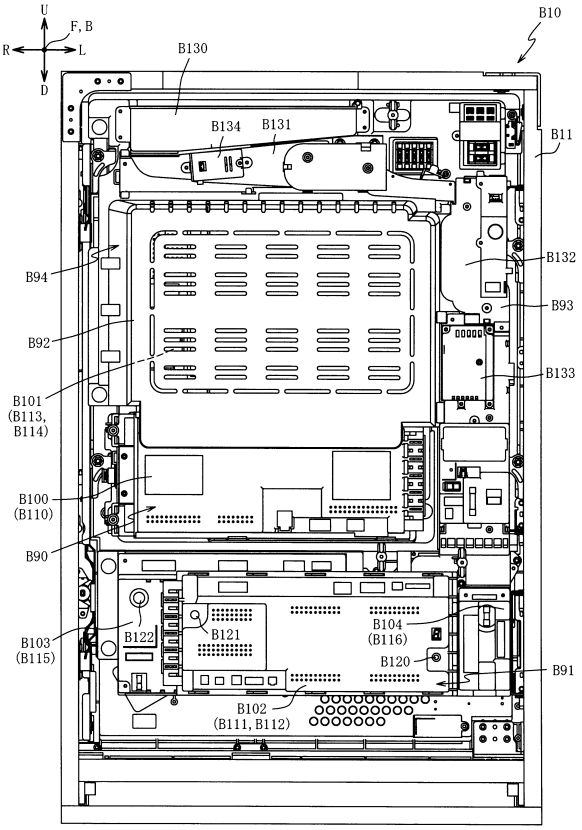
【図１５０２】



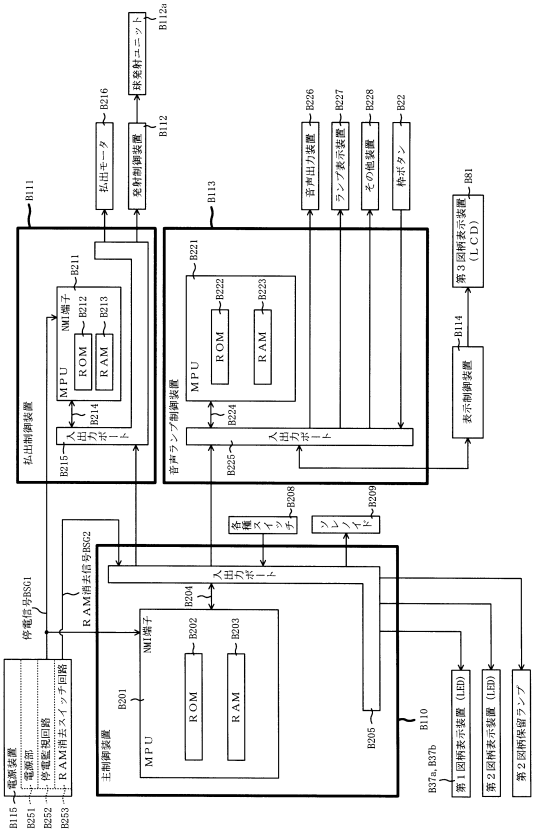
【図１５０３】



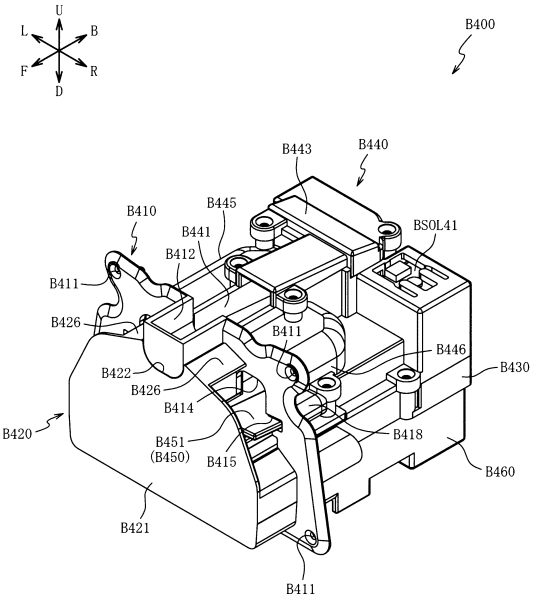
【図１５０４】



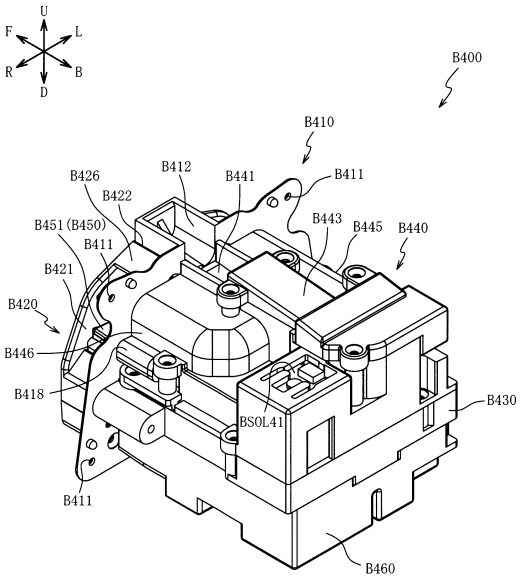
【図１５０５】



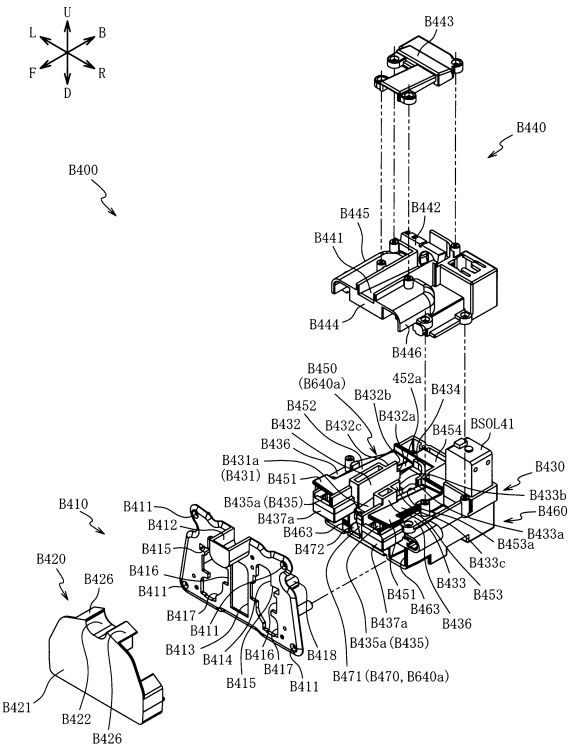
【図１５０６】



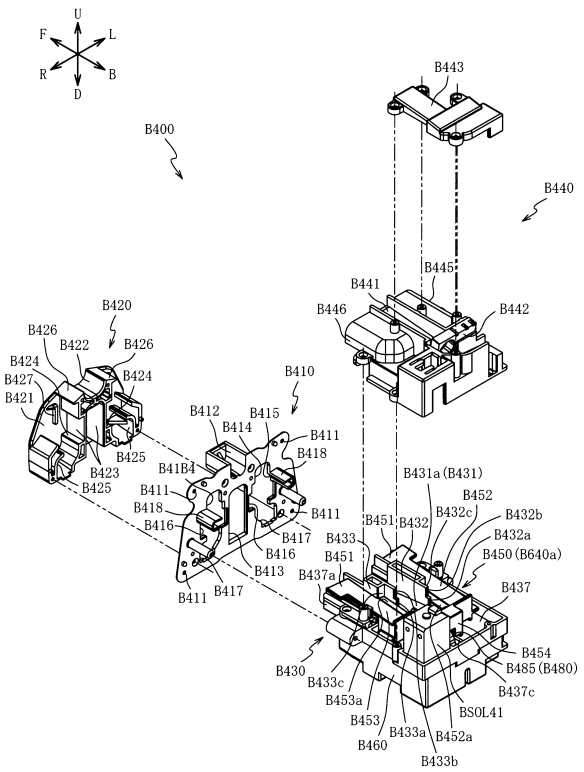
【図１５０７】



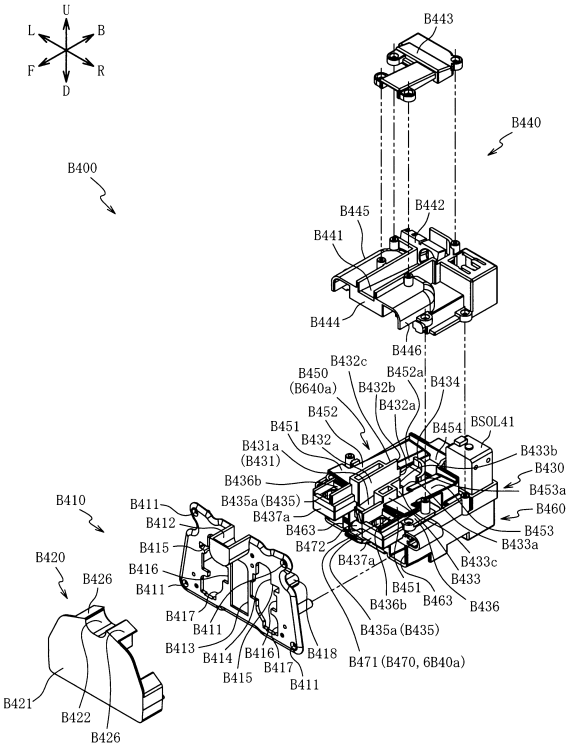
【図１５０８】



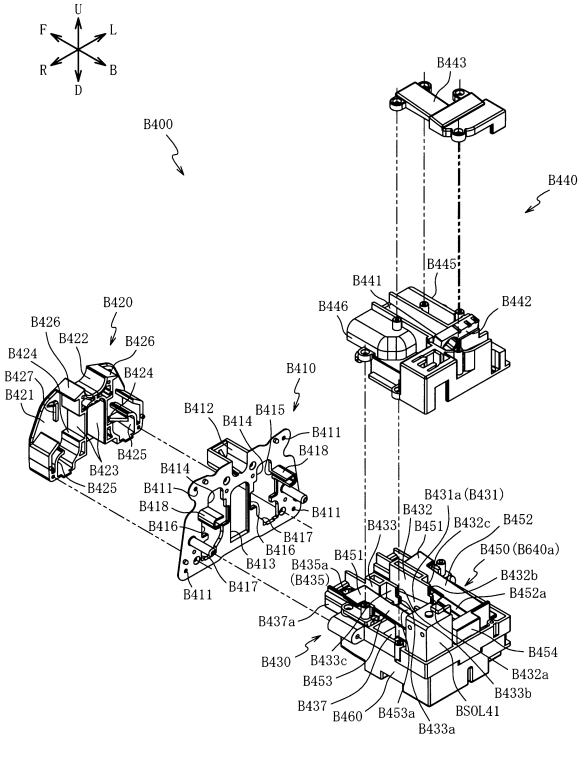
【図１５０９】



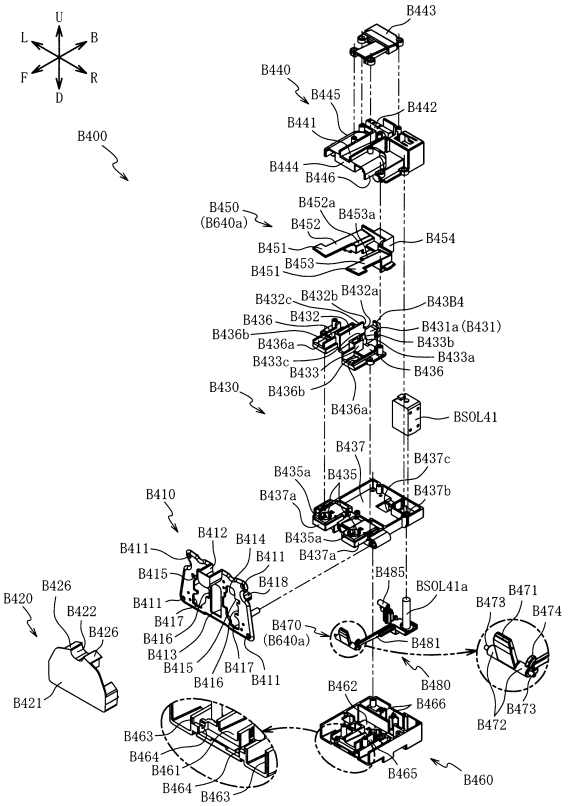
【図１５１０】



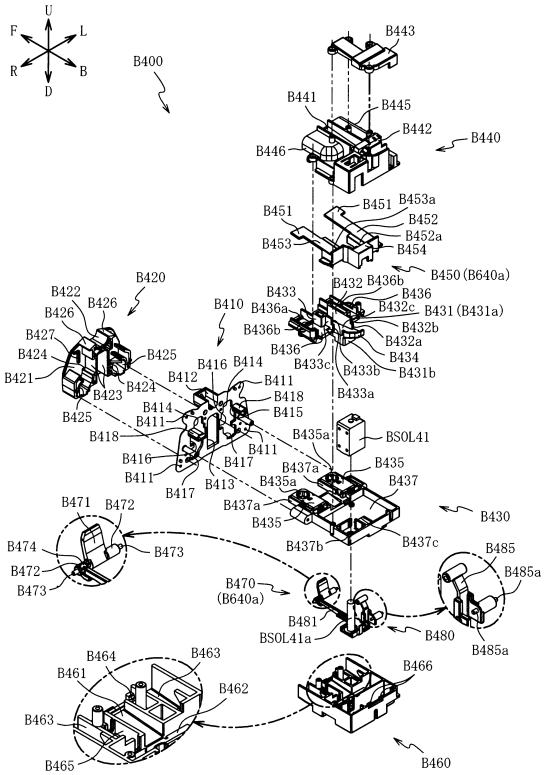
【図１５１１】



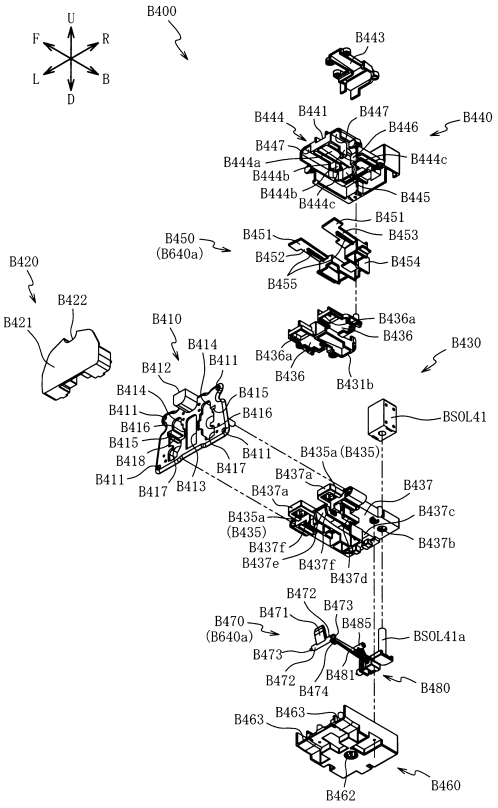
【図１５１２】



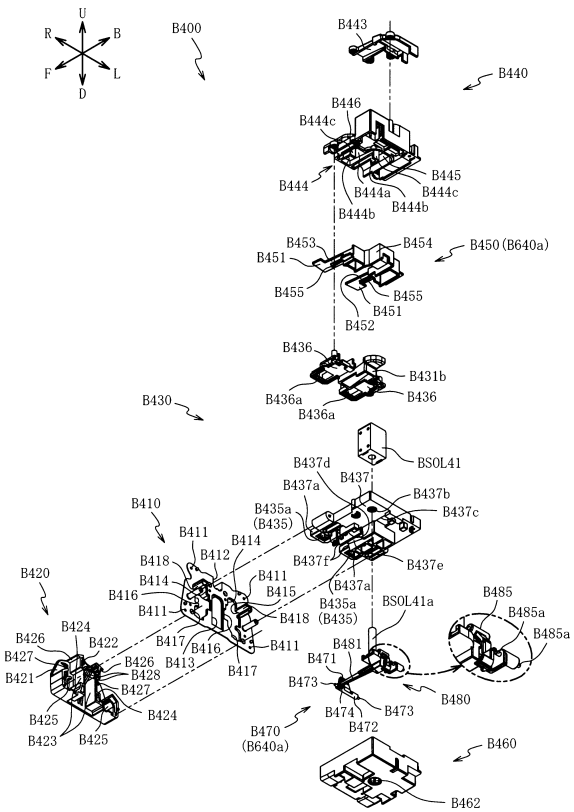
【図１５１３】



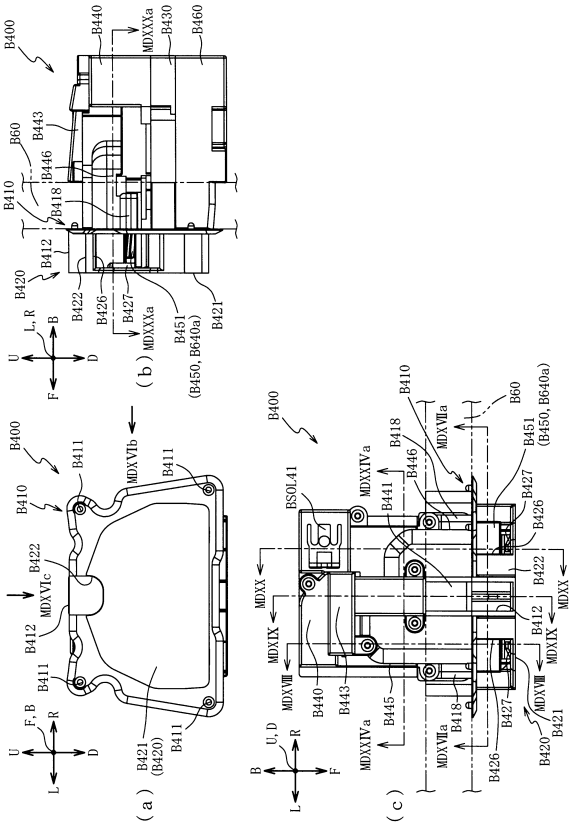
【図１５１４】



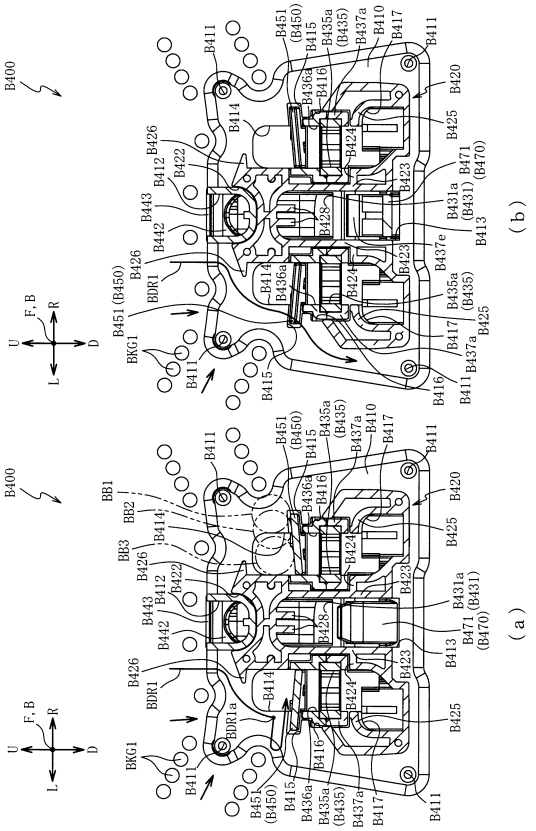
【図１５１５】



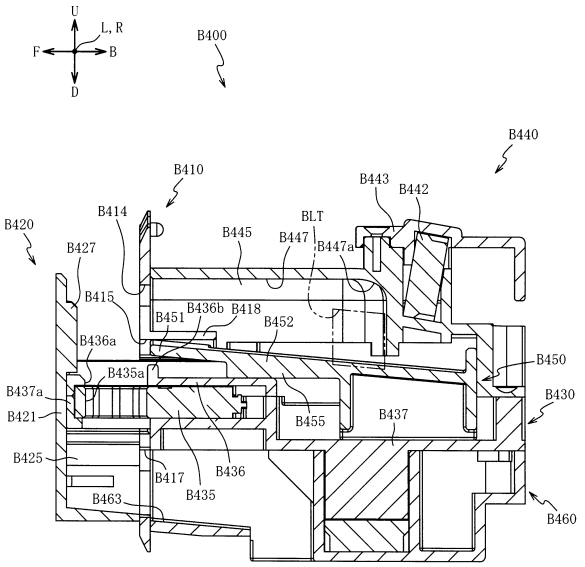
【図１５１６】



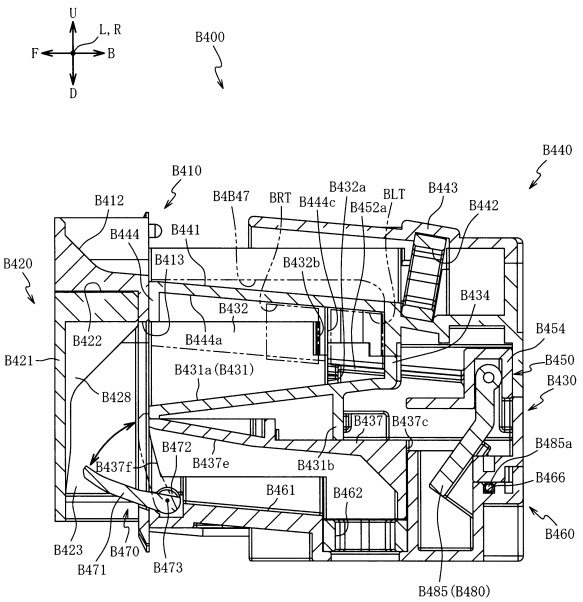
【図１５１７】


B400
B411
B451 (B450)
B415
B435a (B435)
B437a
B410
B417
B420
B425
B414
B426
B422
B412
B424
B423
B471 (B470)
B443
B428
B431a (B431)
B442
B413
B437e
B436a
B416
B451 (B450)
BDR1
BKG1
F, B
R
U
D
L
B437
B436
B435
B434
B433
B432
B430
B429
B427
BB1
BB2
BB3
BDR1a
B445
B446
B447
B448
B449
B452
B453
B454
B455
B456
B457
B458
B459
B460
B461
B462
B463
B464
B465
B466
B467
B468
B469
B470
B471
B472
B473
B474
B475
B476
B477
B478
B479
B480
B481
B482
B483
B484
B485
B486
B487
B488
B489
B490
B491

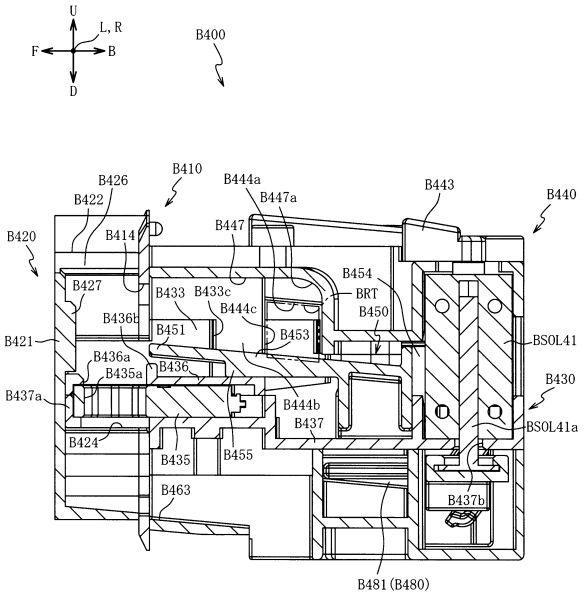
【図１５２１】



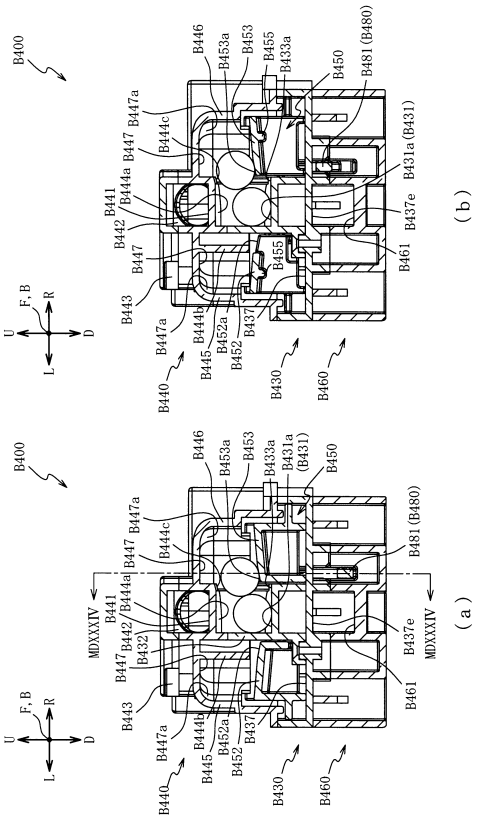
【図１５２２】



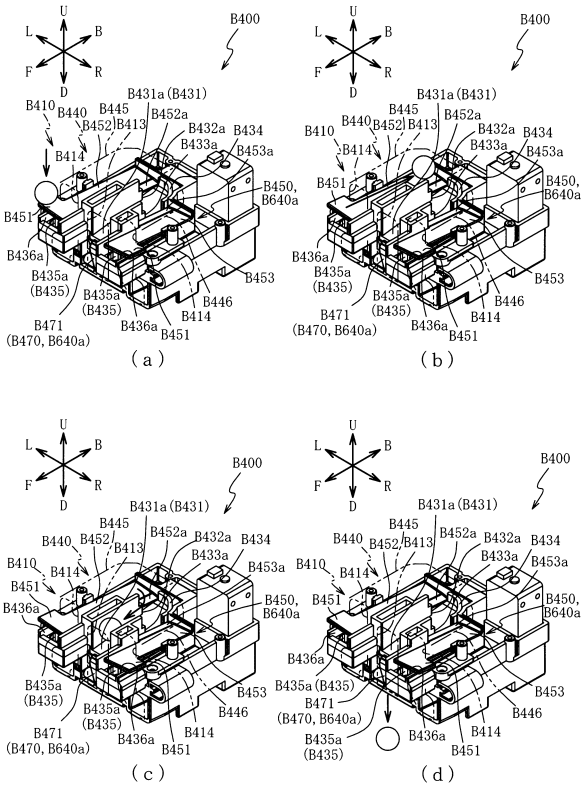
【図１５２３】



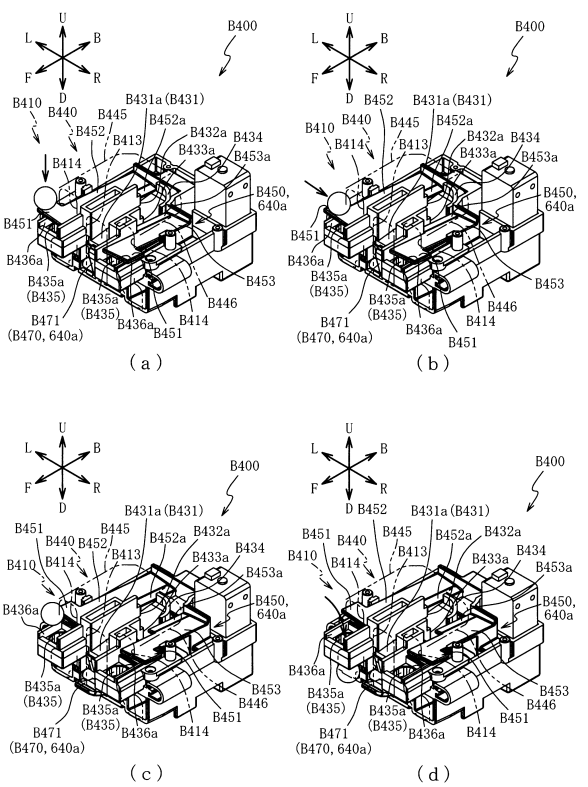
【図１５２４】



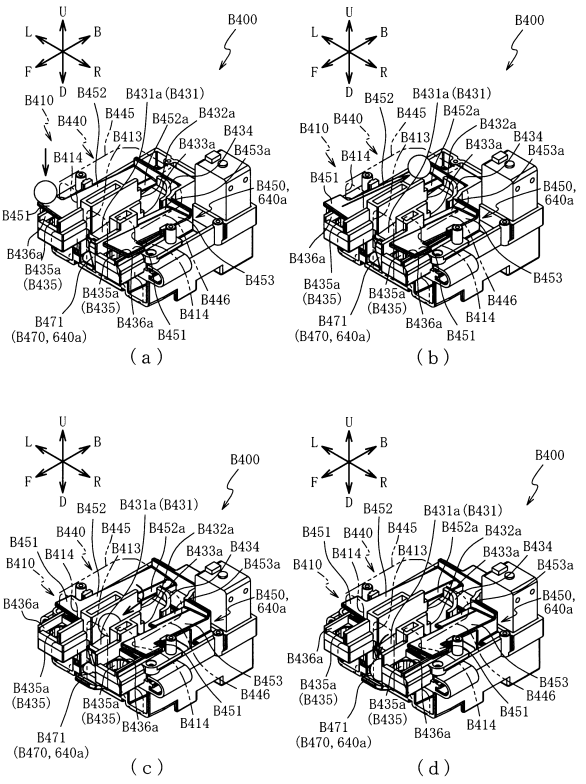
【図１５２５】



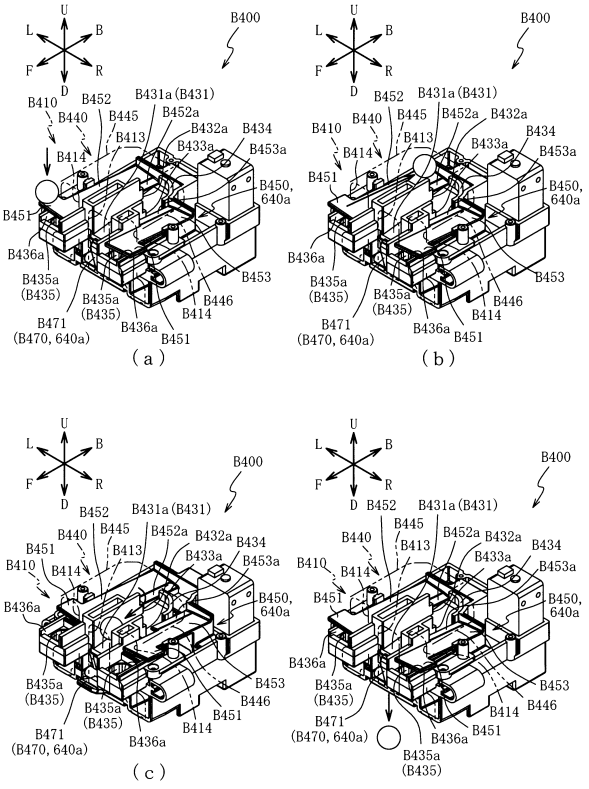
【図１５２６】



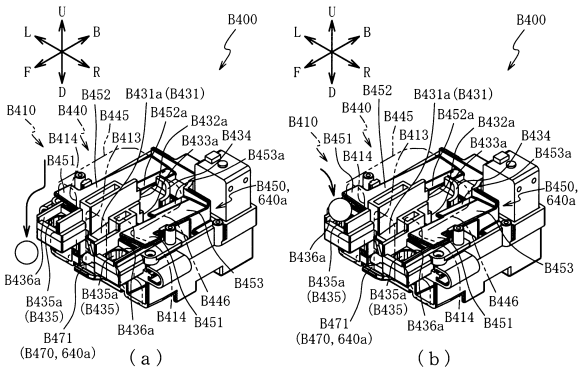
【図１５２７】



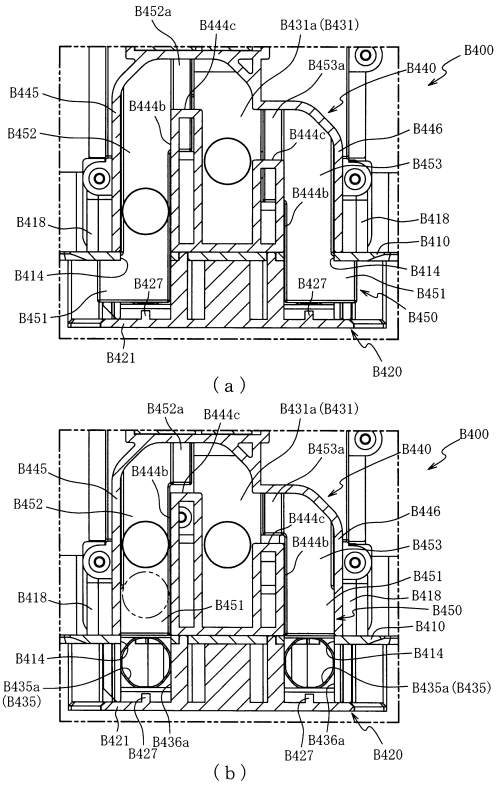
【図１５２８】



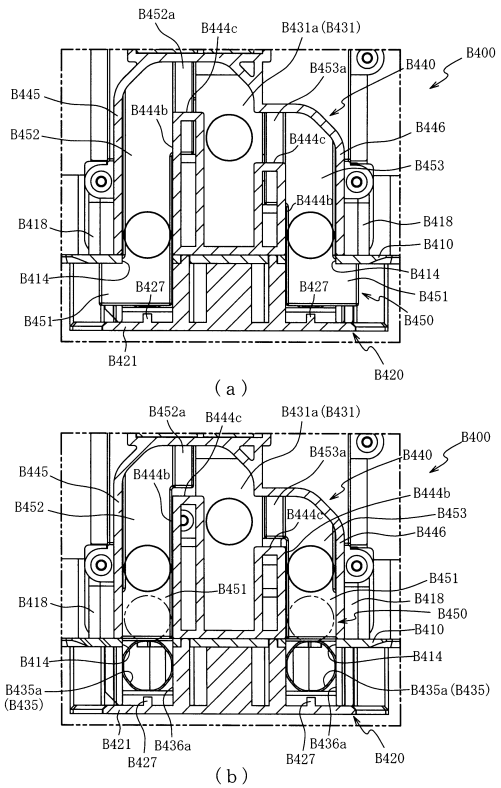
【図１５２９】



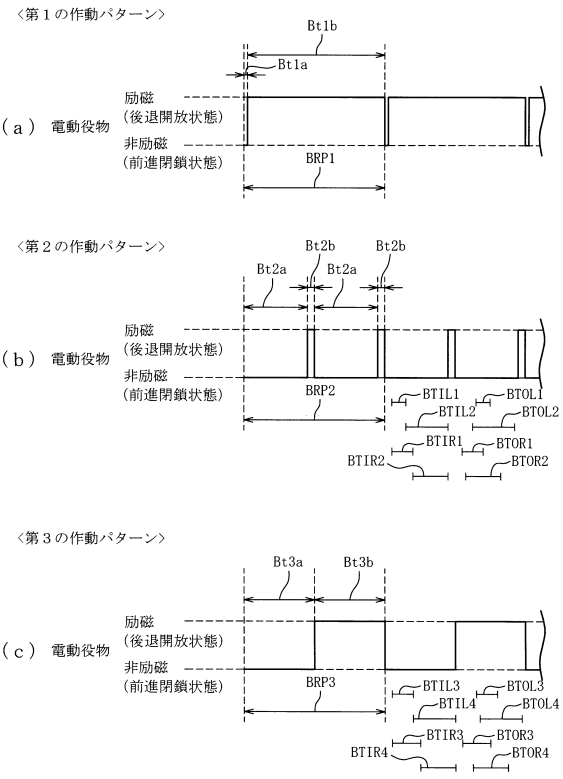
【図１５３０】



【図１５３１】



【図１５３２】

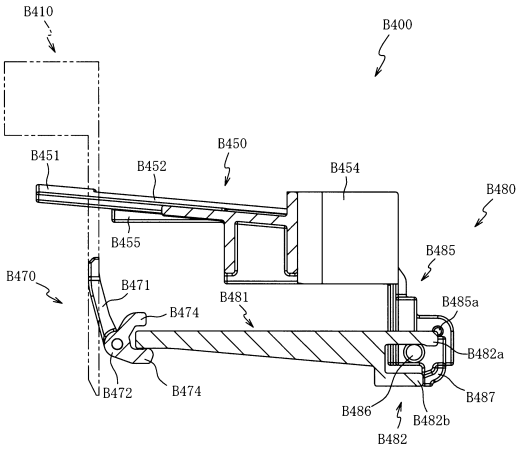


【図１５３３】

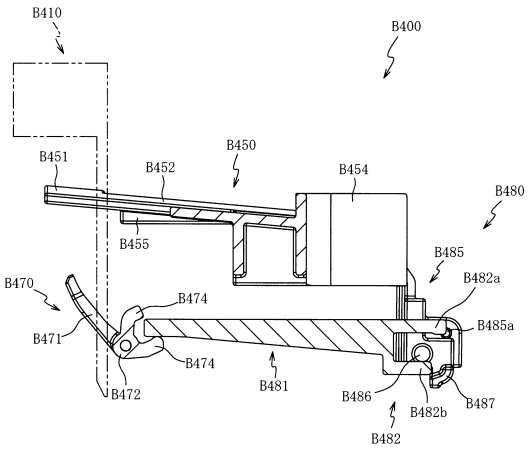
遊技状態および図柄と変動時間との関係

保留種別	遊技状態	図柄種別	変動時間
特別図柄２	低確率状態	はずれ図柄	１０分
		小当たり図柄	
		大当たり図柄	２０秒
	高確率状態	はずれ図柄	５秒または２０秒
		小当たり図柄	２秒
		大当たり図柄	２０秒

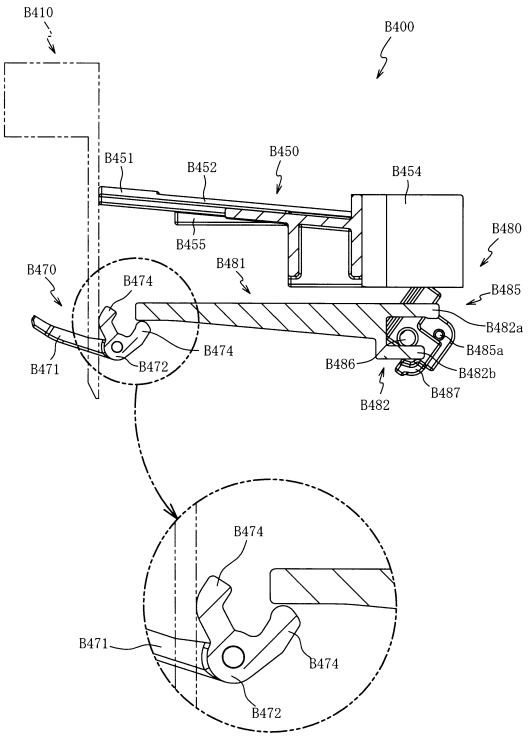
【図１５３４】



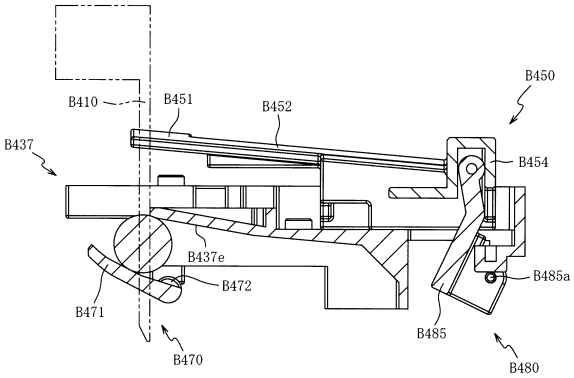
【図１５３５】



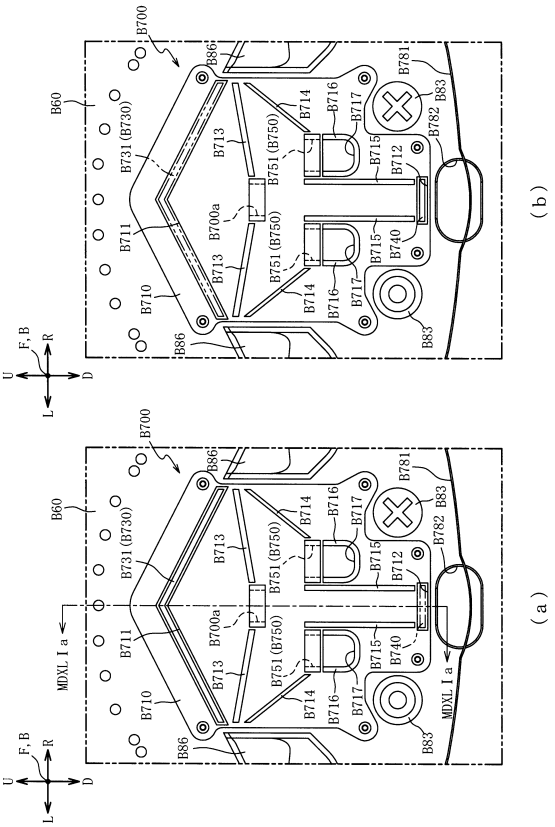
【図１５３６】



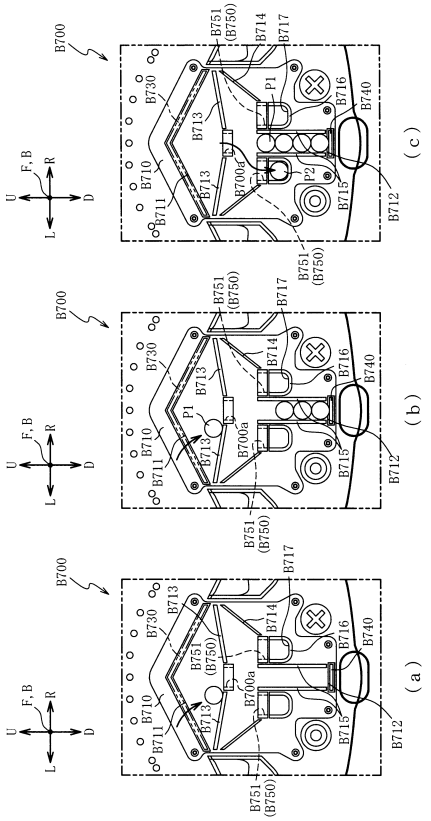
【図１５３７】



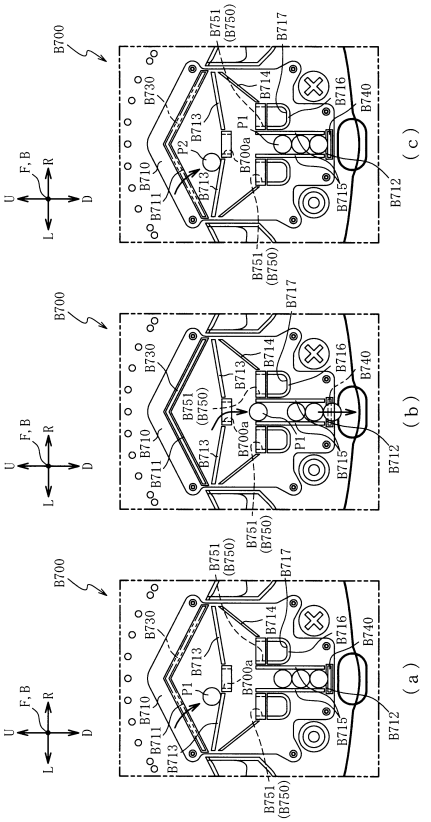
【図１５３８】



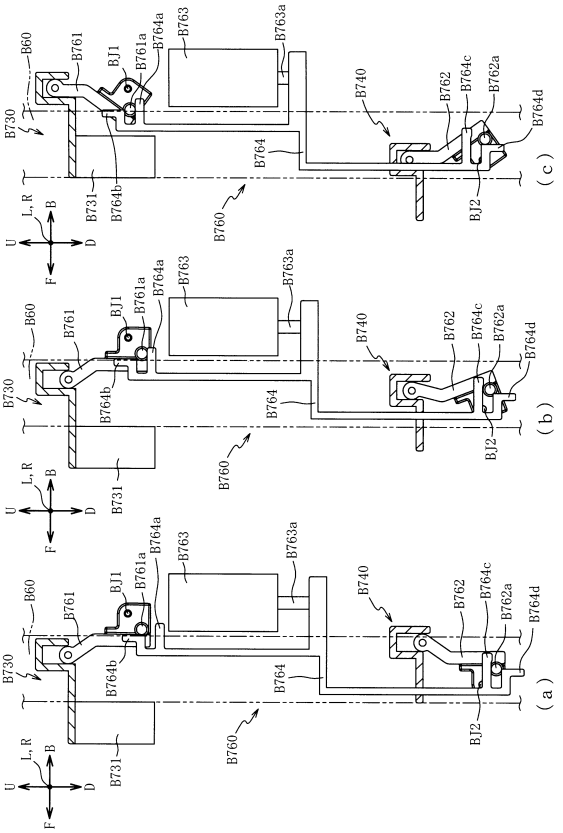
【図１５３９】



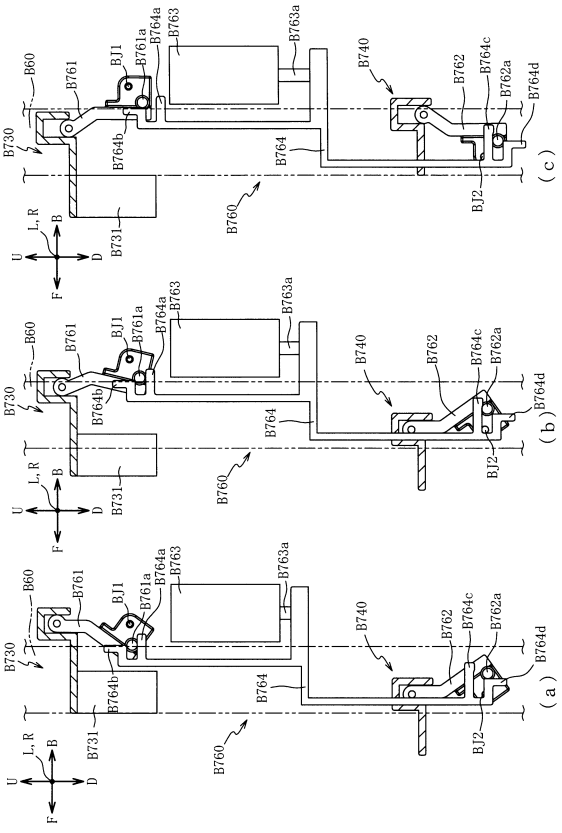
【図１５４０】



【図１５４１】

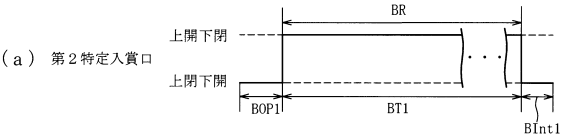


【図１５４２】

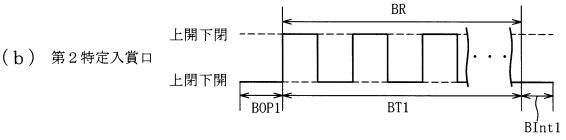


【図１５４３】

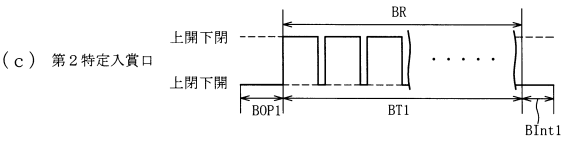
〈第１の特別作動パターン〉



〈第２の特別作動パターン〉



〈第３の特別作動パターン〉



【図１５４４】

（ａ）

ＲＯＭ（主制御装置）	B202
第１当たり乱数テーブル	B202a
第１当たり種別選択テーブル	B202b
第２当たり乱数テーブル	B202c
変動パターン選択テーブル	B202d

（ｂ）

第１当たり乱数テーブル	B202a
特別図柄１乱数テーブル	B202a1
特別図柄２乱数テーブル	B202a2

（ｃ）

特別図柄１乱数テーブルB202a1

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ３（0～319）
大当たり判定値	0
外れ判定値	1～319

（ｄ）

特別図柄２乱数テーブルB202a2

判定値	第１当たり乱数 カウンタ値Ｃ３（0～319）
大当たり判定値	0
小当たり判定値	1～318
外れ判定値	319

【図１５４５】

第１当たり種別選択テーブルB202b

大当たり種別		第１当たり種別カウンタＣ２の値（0～99）		ラウンドカウント	1ラウンド目における作動パターン	大当たり終了後の遊技状態	大当たり確率	終了後の電動役物の作動パターン	継続期間
特別図柄1	大当たりA	0～19	B202b1	15R 10C	第１の特別作動パターン	特殊確変	高確率	第３の作動パターン	次回まで
	大当たりB	20～49	B202b2	8R 10C		確変		第２の作動パターン	
	大当たりC	50～99	B202b3	4R 10C	第２の特別作動パターン	時短	低確率	第２の作動パターン	100回転
特別図柄2	大当たりa	0～29	B202b4	15R 10C	第１の特別作動パターン	特殊確変	高確率	第３の作動パターン	次回まで
	大当たりb	30～49	B202b5	8R 10C		確変		第２の作動パターン	
	大当たりc	50～99	B202b6	4R 10C	第３の特別作動パターン	時短or確変	低確率or高確率	第２の作動パターン	100回転or次回まで

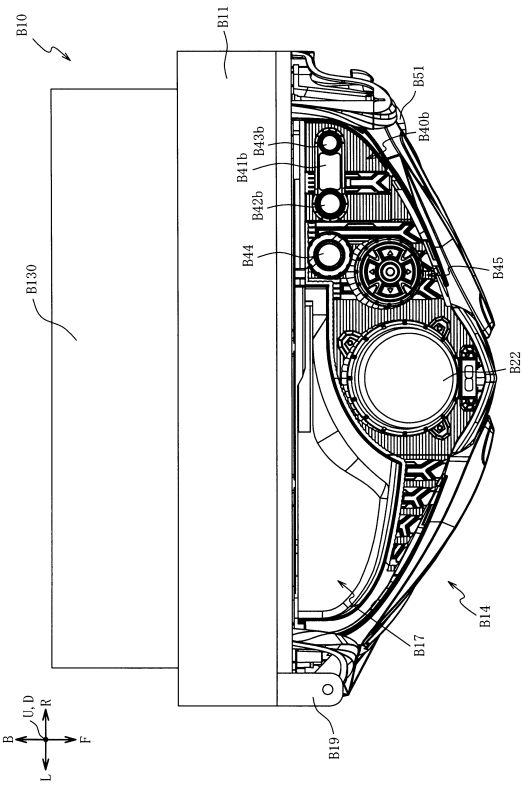
（ａ）

第２当たり乱数テーブルB202c

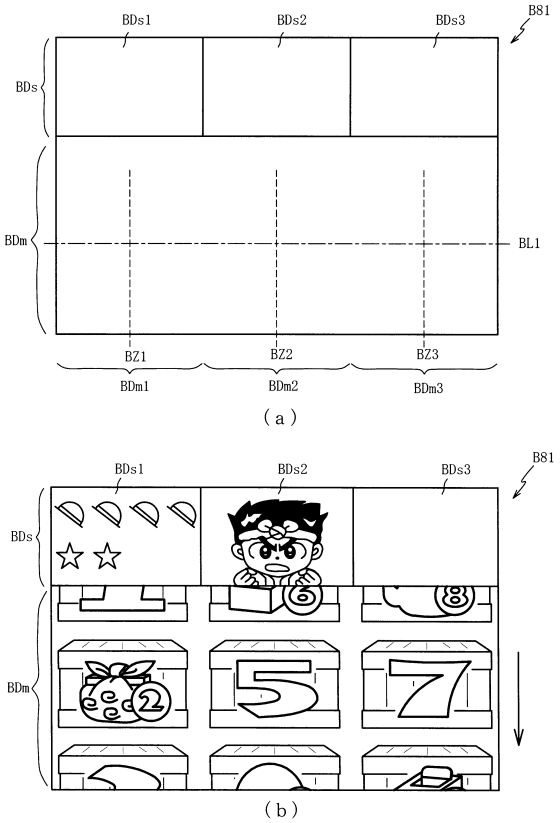
乱数テーブル	第２当たり乱数カウンタＣ４の値（0～239）	
	B202c1	B202c2
低確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	
高確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～239	

（ｂ）

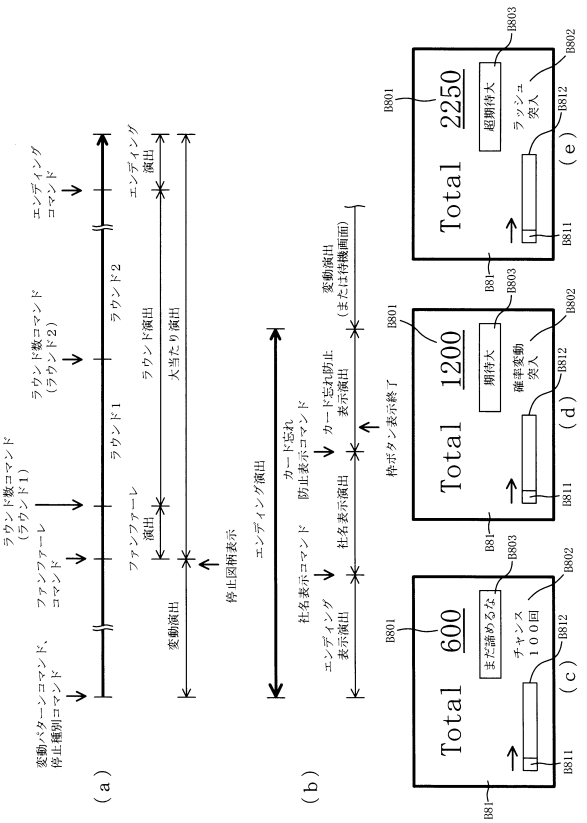
【図１５４６】



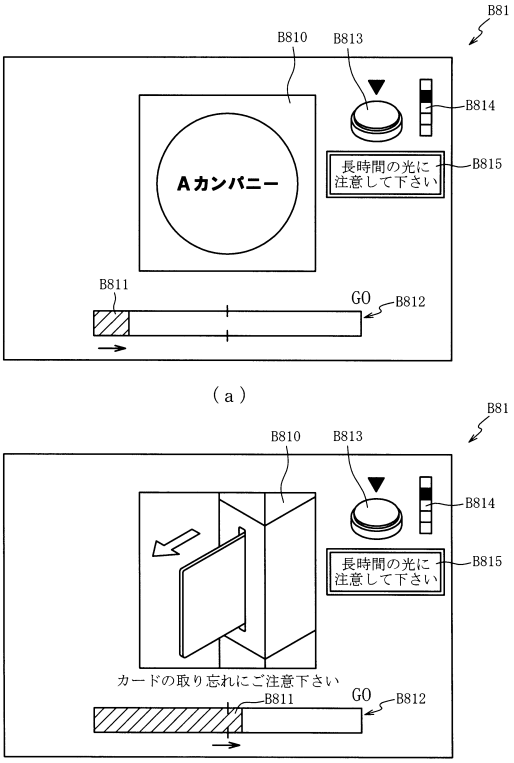
【図１５４７】



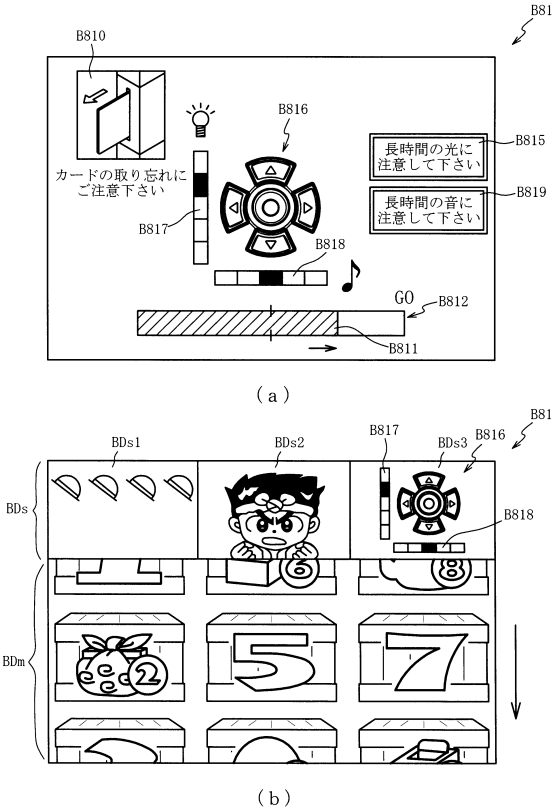
【図１５４８】



【図１５４９】



【図１５５０】

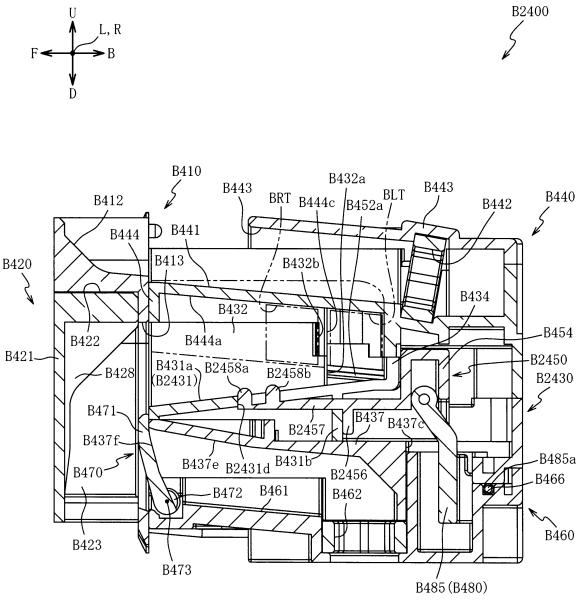


【図１５５１】

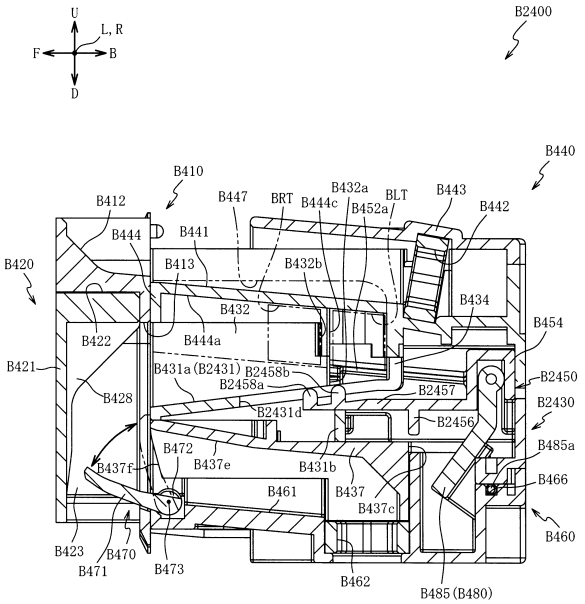
エンディング演出の組合せ

大当たり種別		エンディング表示演出	社名表示演出	カード忘れ防止表示演出
特別図柄1	大当たりA	○	○	○
	大当たりB	○	×	○
	大当たりC	○	×	×
特別図柄2	大当たりa	○	○	○
	大当たりb	○	×	○
	大当たりc	○	×	×

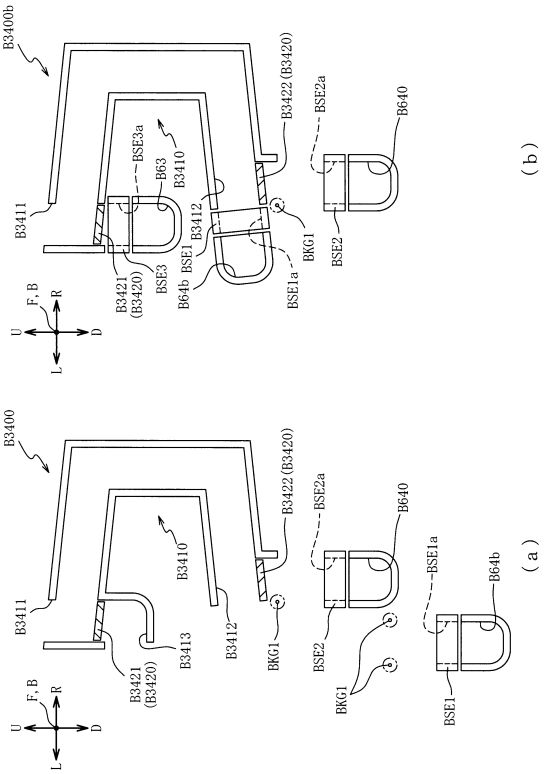
【図１５５２】



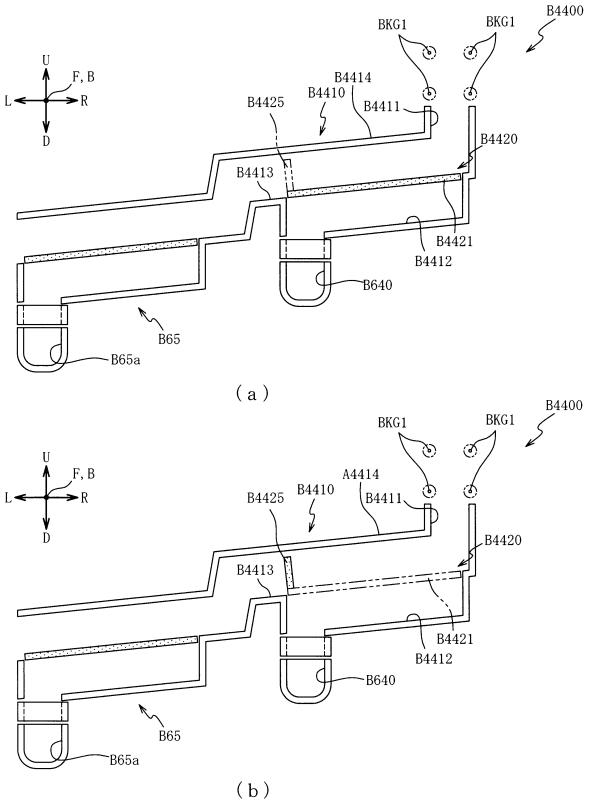
【図１５５３】



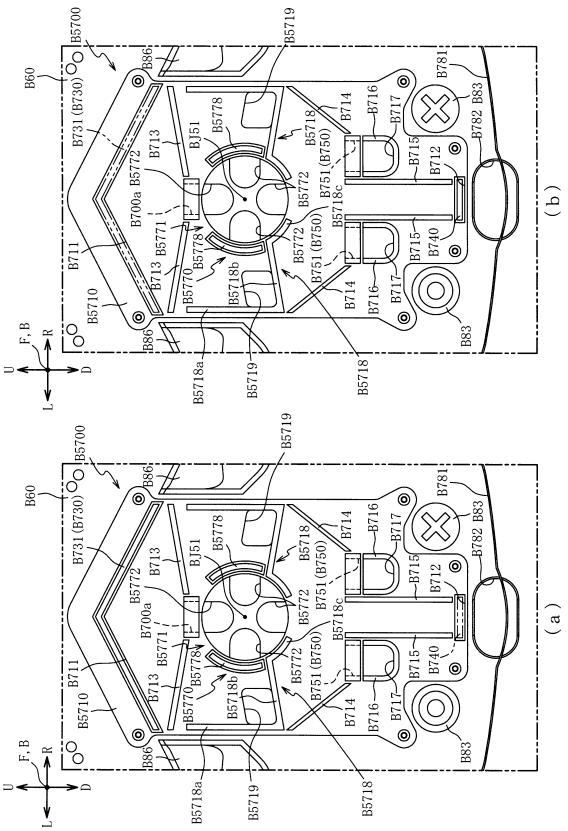
【図１５５４】



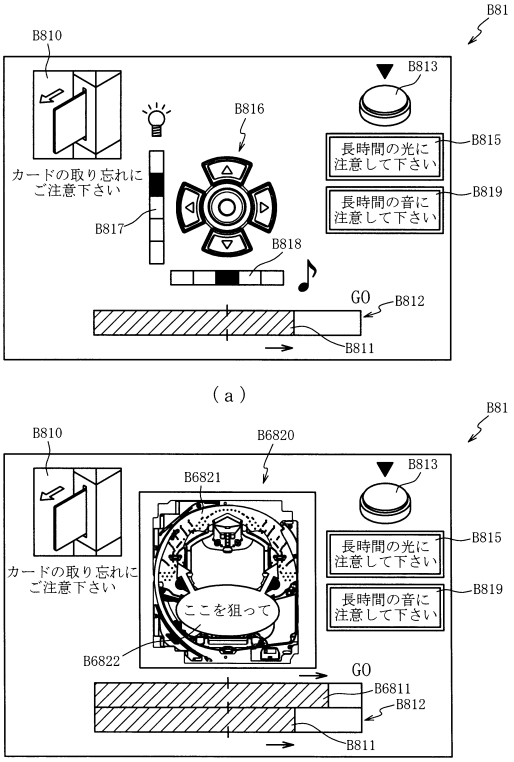
【図１５５５】



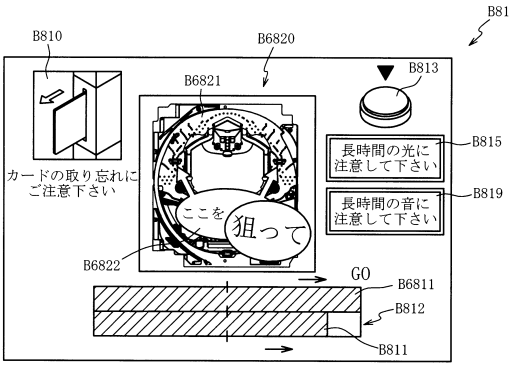
【図１５５６】



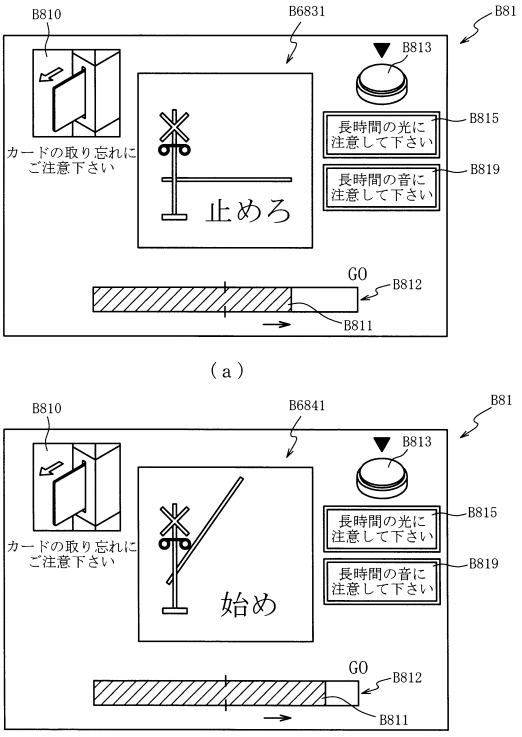
【図１５５７】



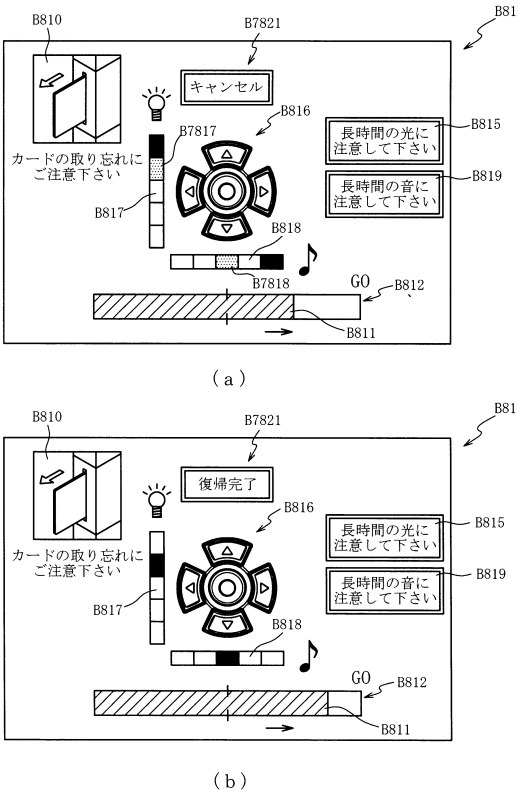
【図１５５８】



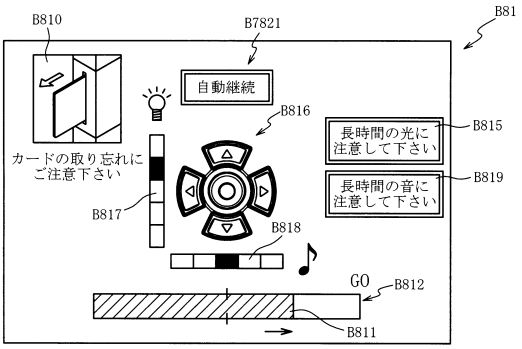
【図１５５９】



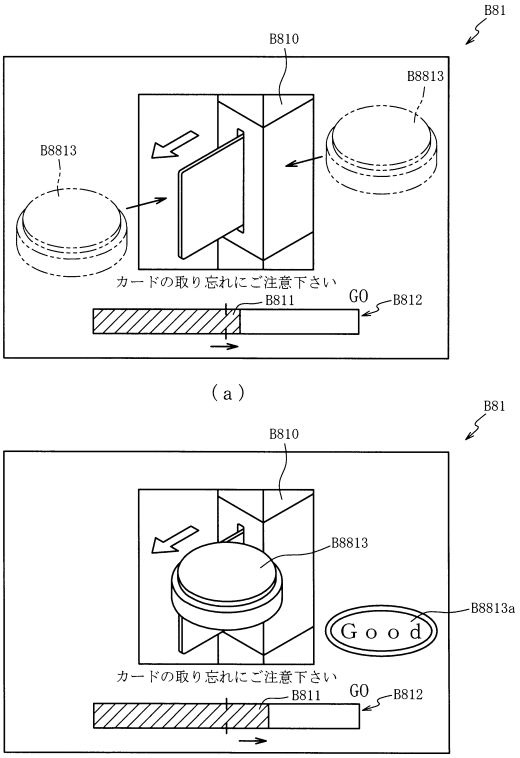
【図１５６０】



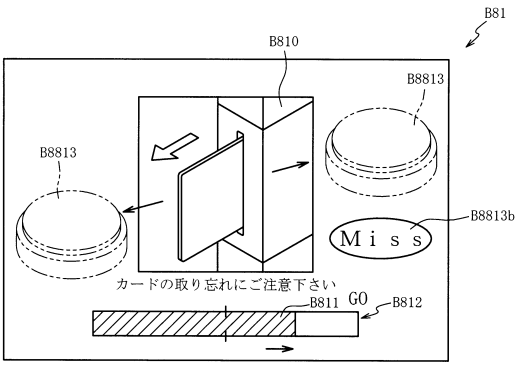
【図１５６１】



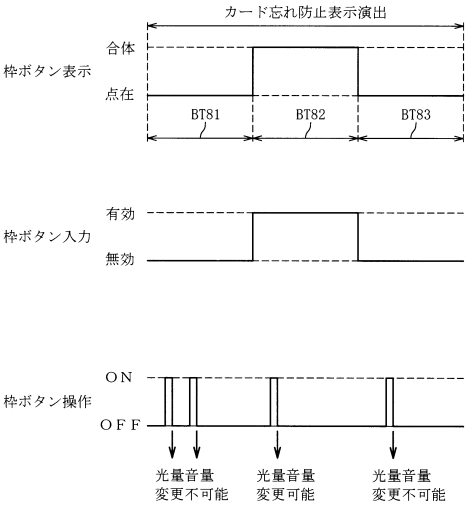
【図１５６２】



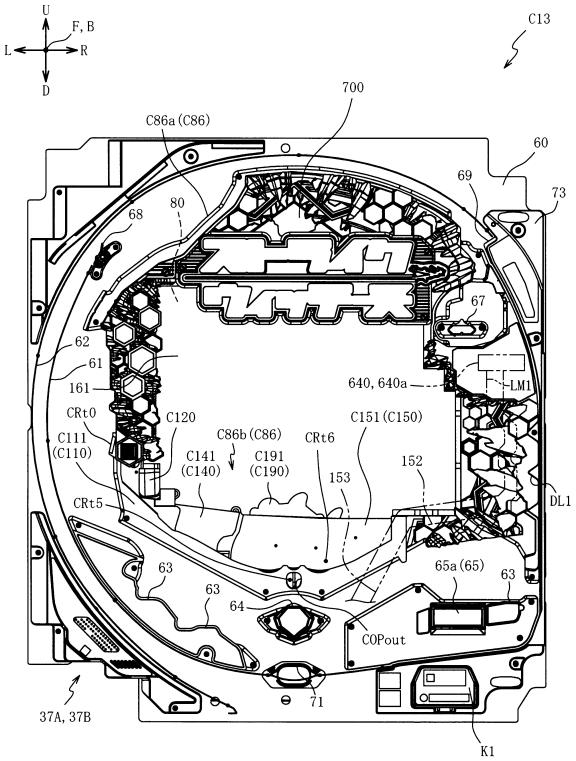
【図１５６３】



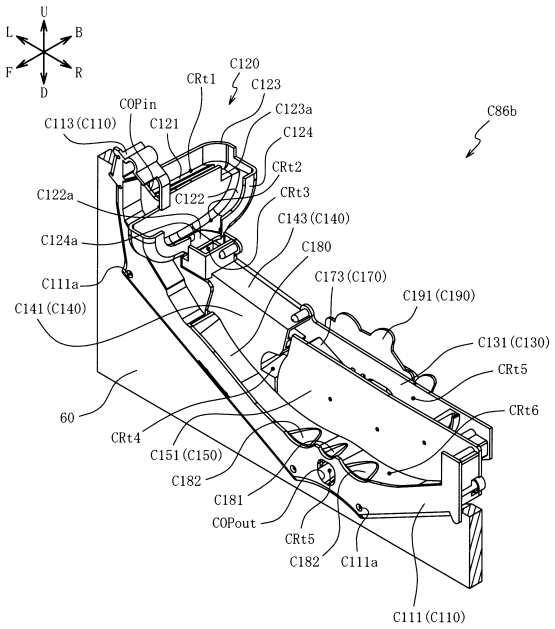
【図１５６４】



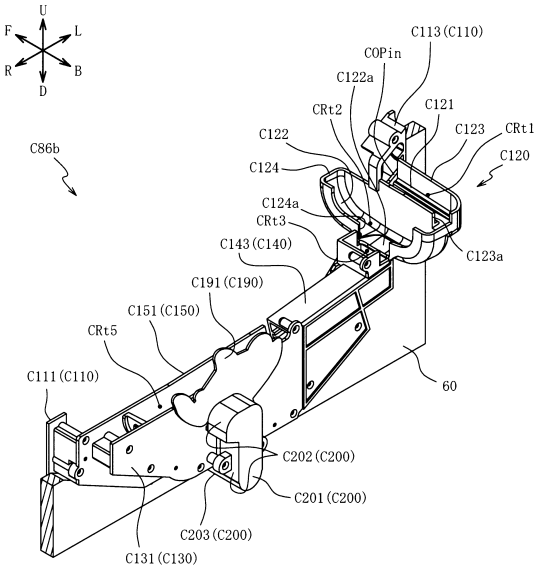
【図１５６５】



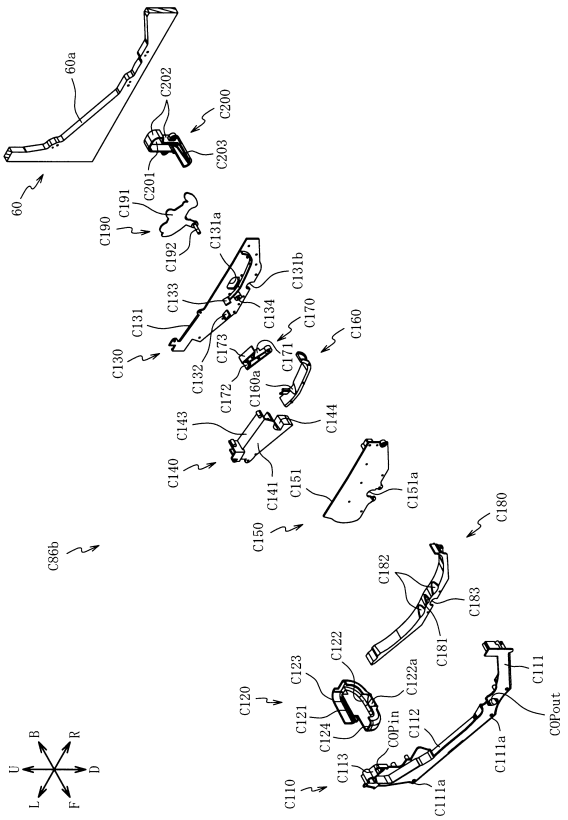
【図１５６６】



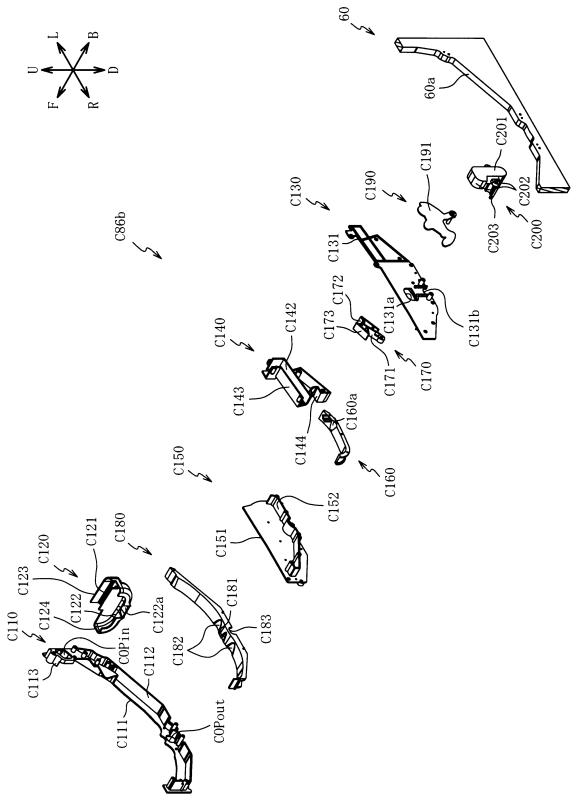
【図１５６７】



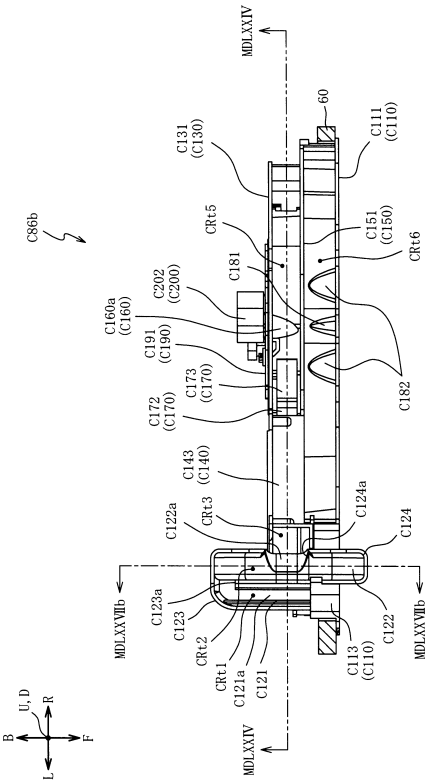
【図１５６８】



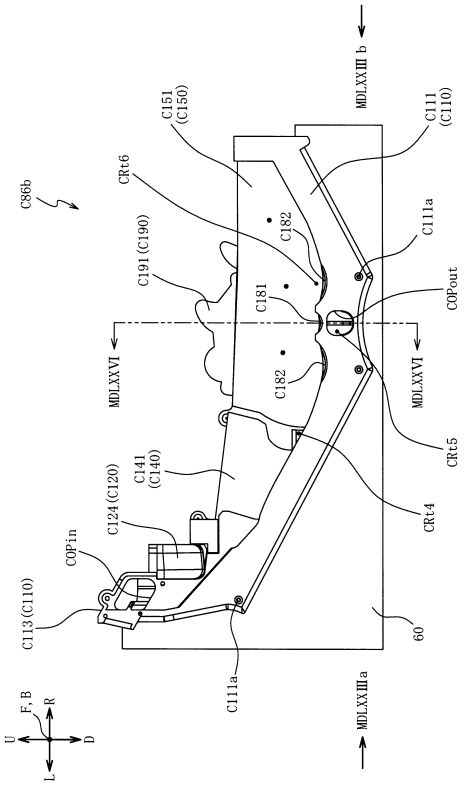
【図１５６９】



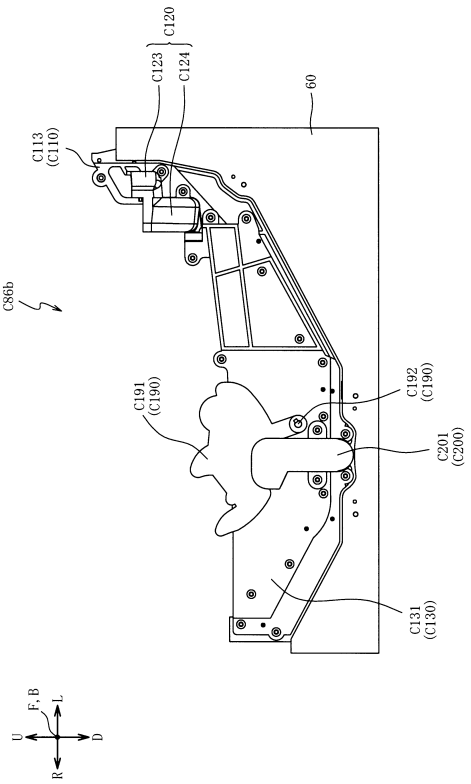
【図１５７０】



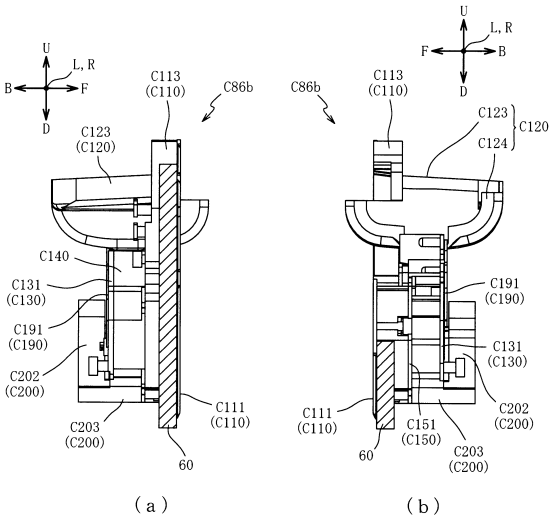
【図１５７１】



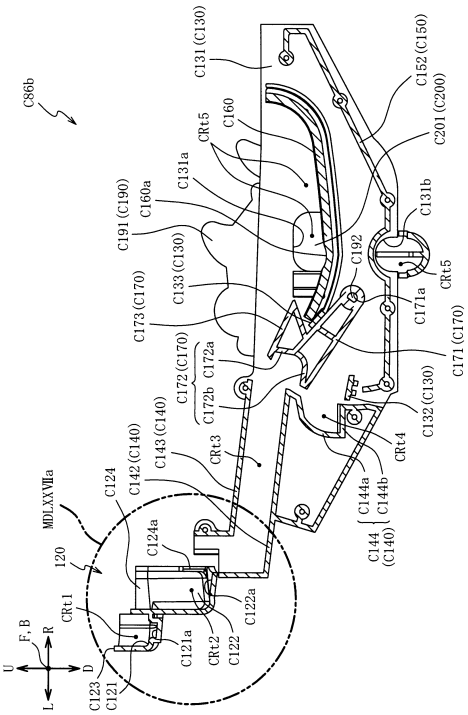
【図１５７２】



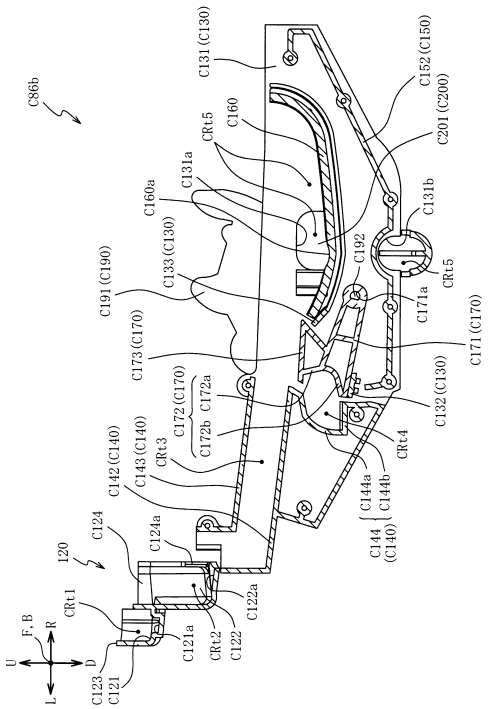
【図１５７３】



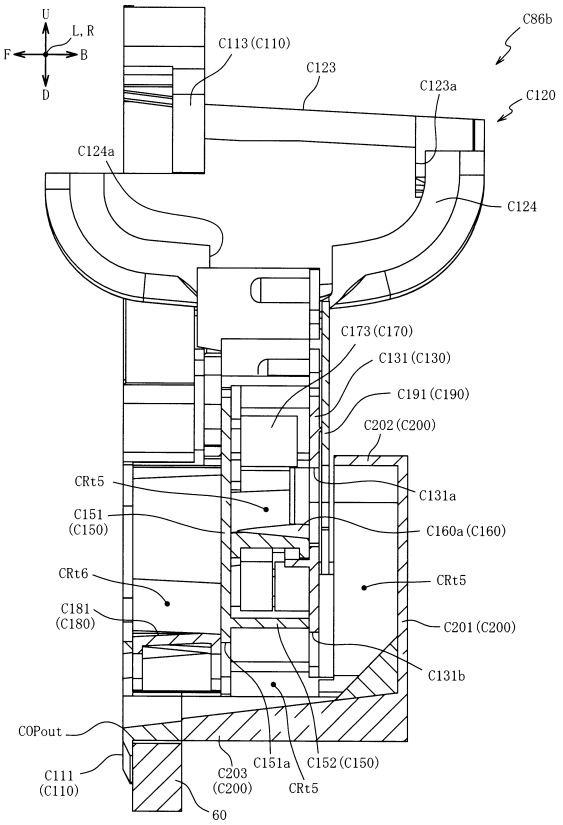
【図１５７４】



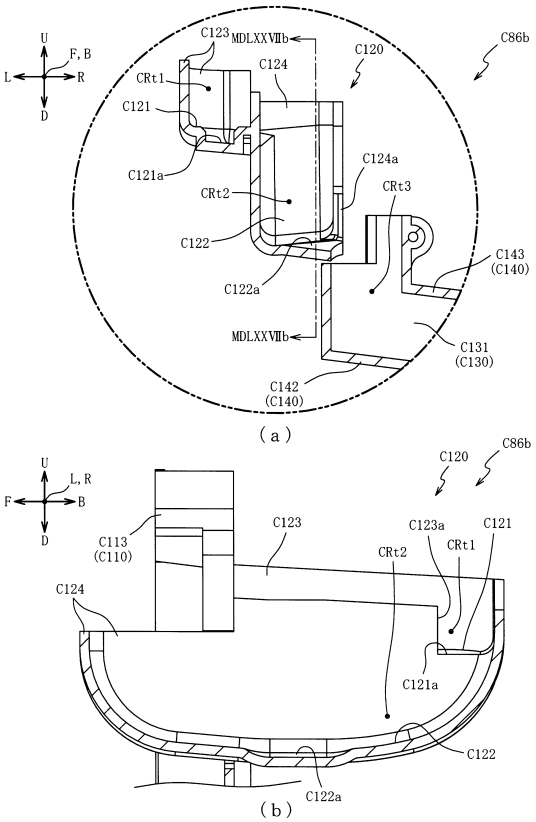
【図１５７５】



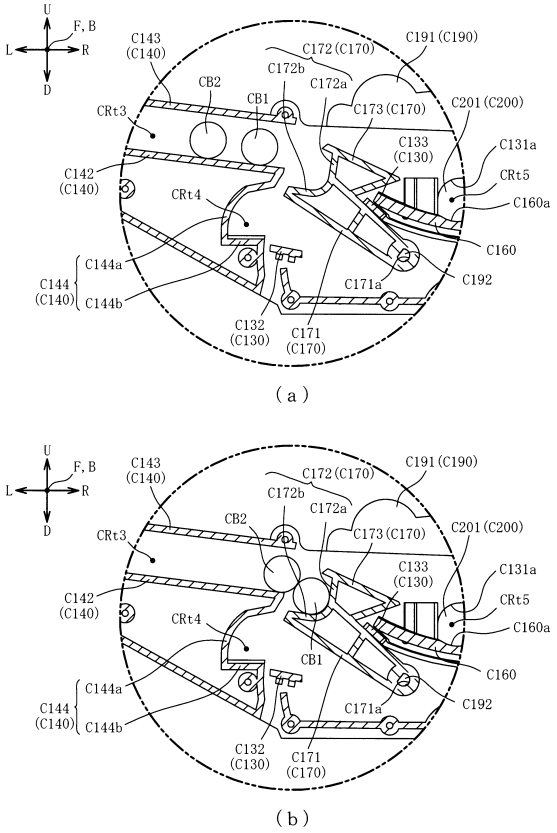
【図１５７６】



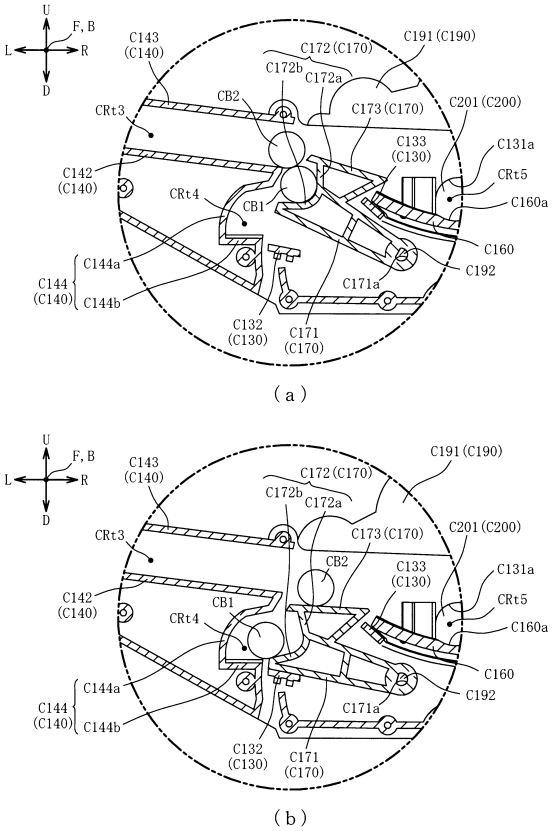
【図１５７７】



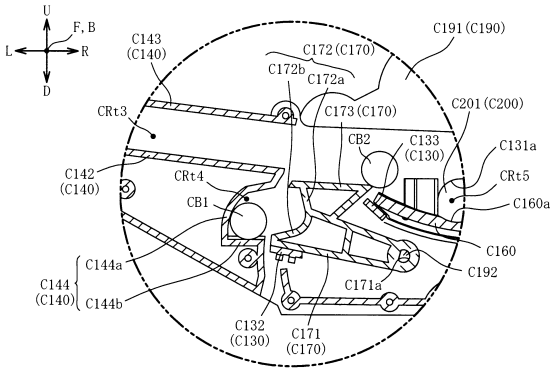
【図１５７８】



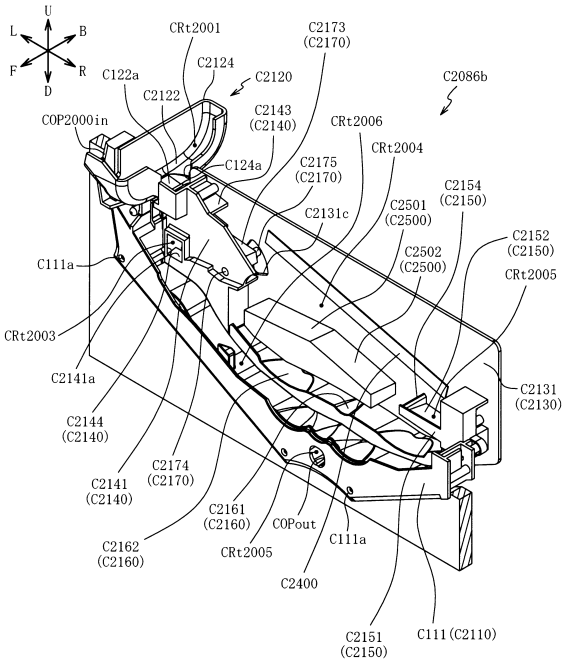
【図１５７９】



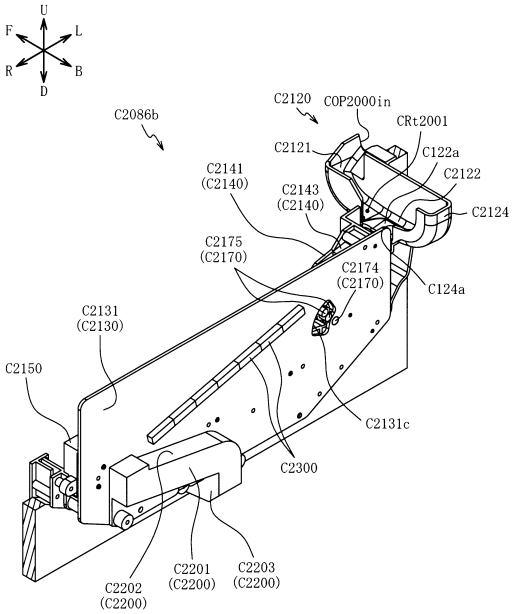
【図１５８０】



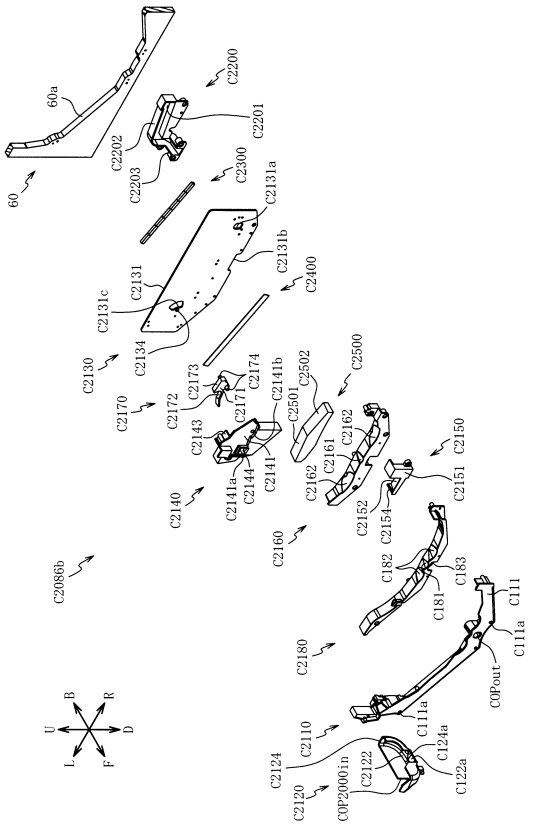
【図１５８１】



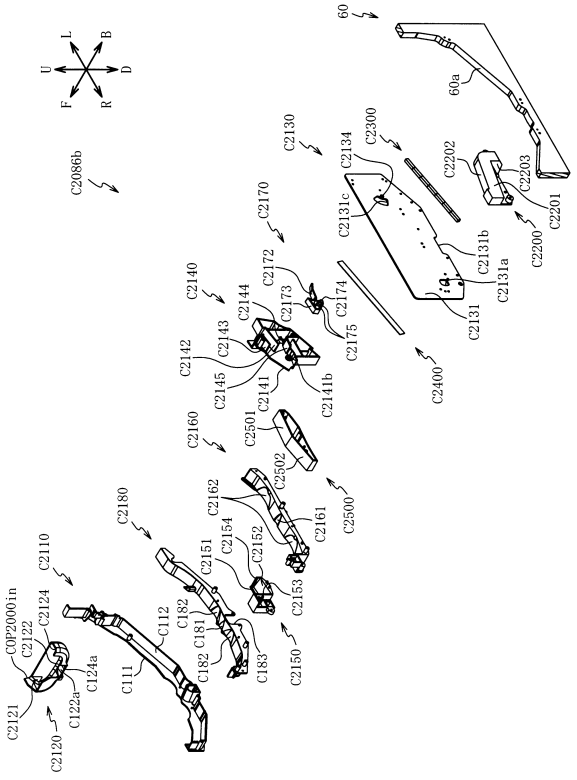
【図１５８２】



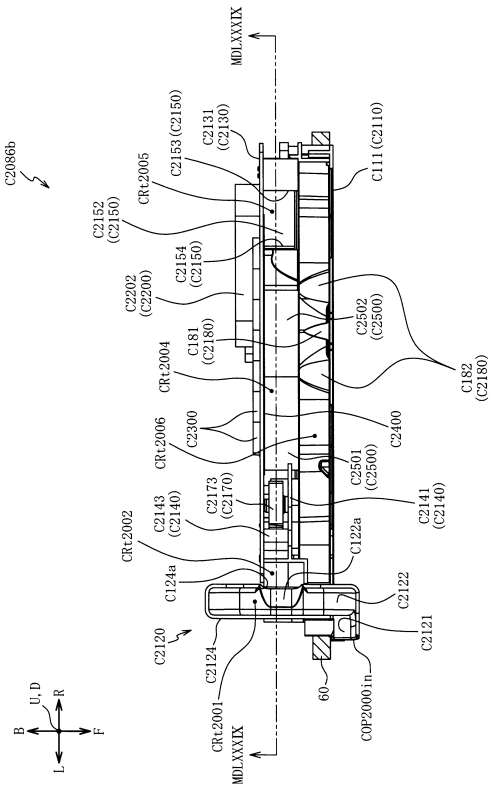
【図１５８３】



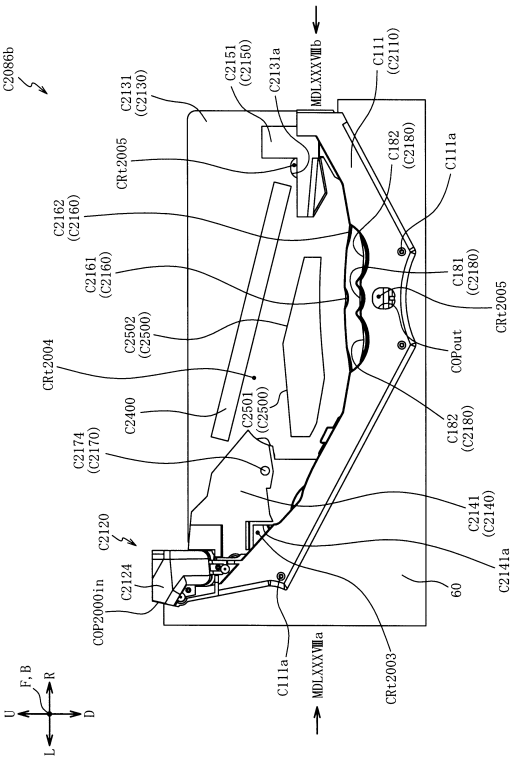
【図１５８４】



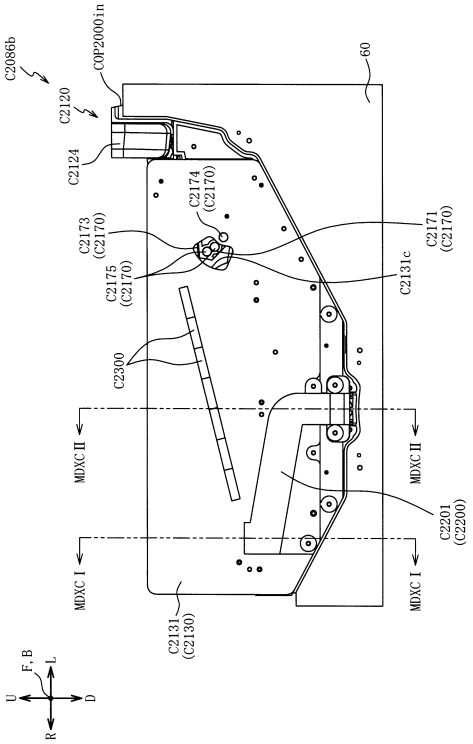
【図１５８５】



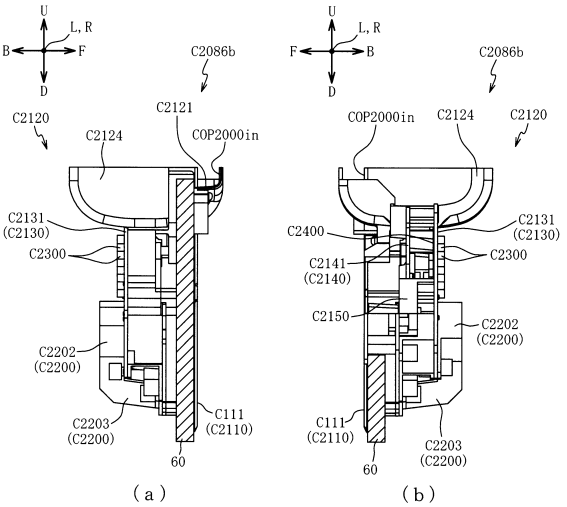
【図１５８６】



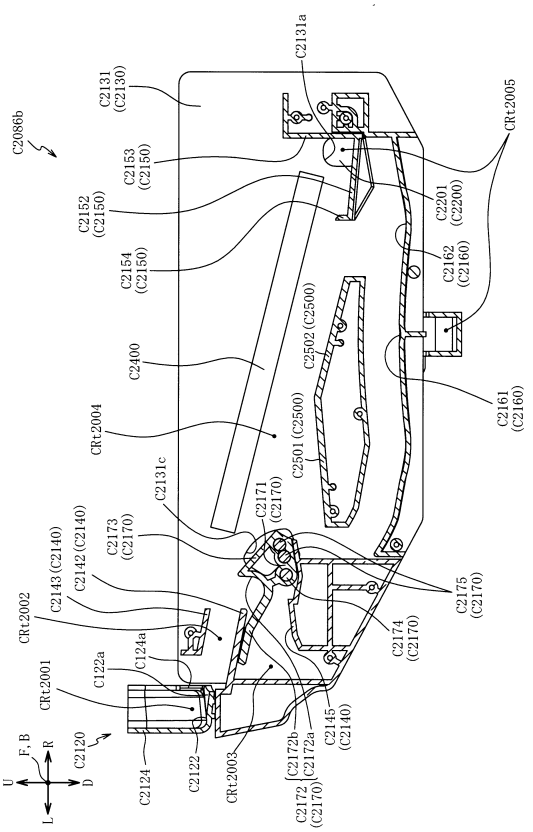
【図１５８７】



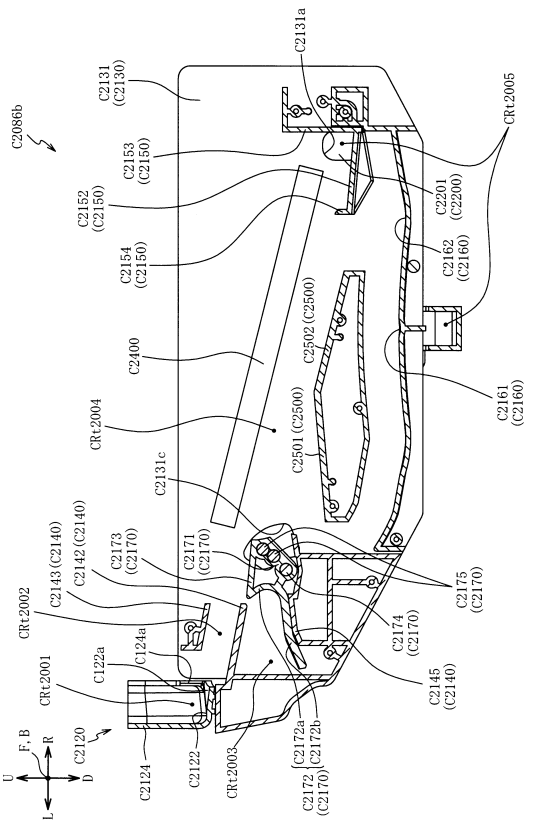
【図１５８８】



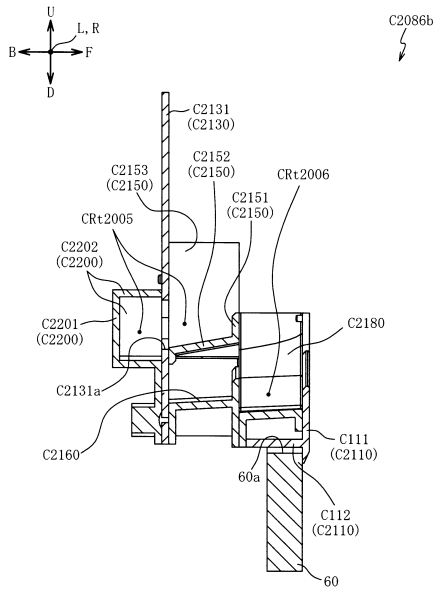
【図１５８９】



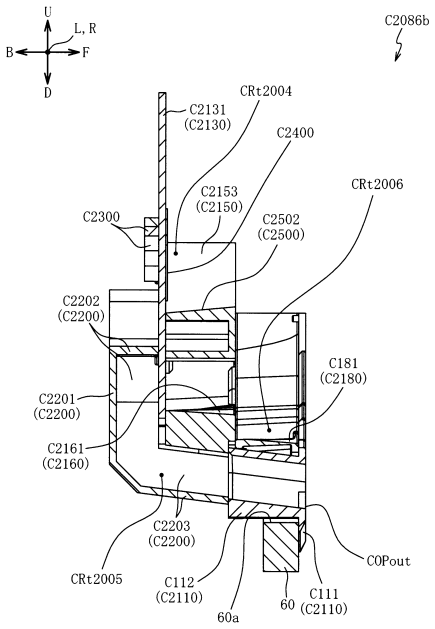
【図１５９０】



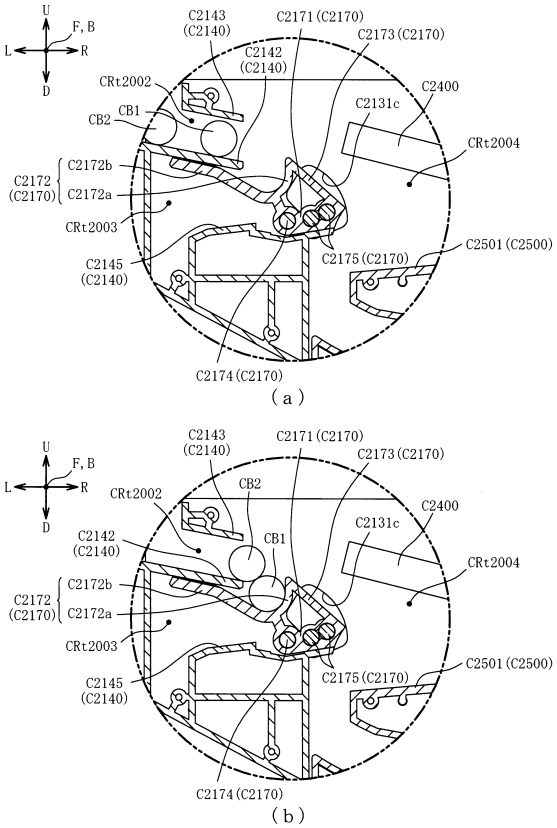
【図１５９１】



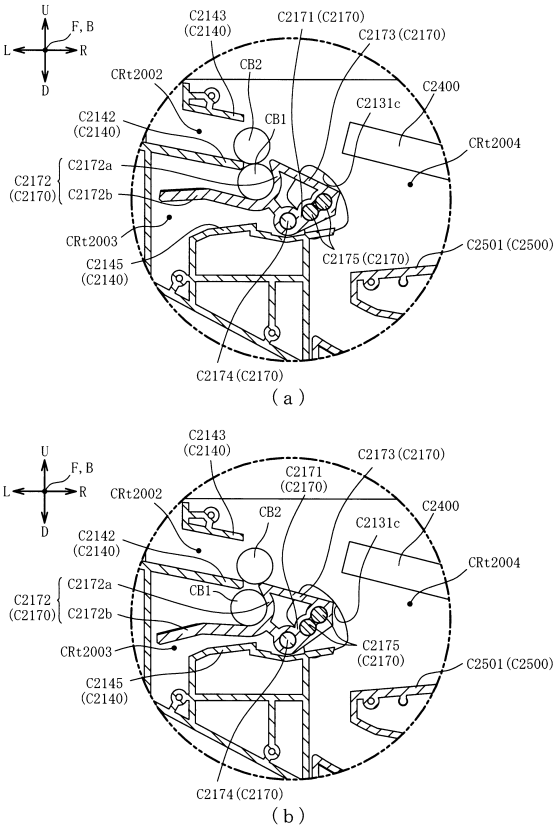
【図１５９２】



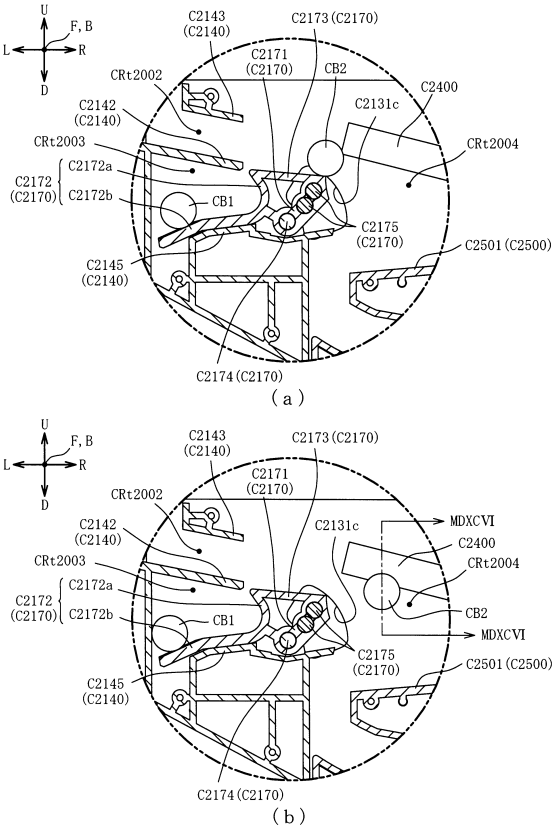
【図１５９３】



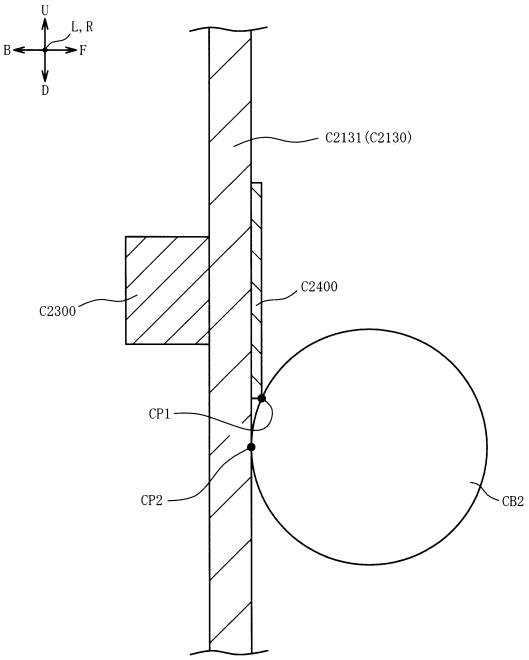
【図１５９４】



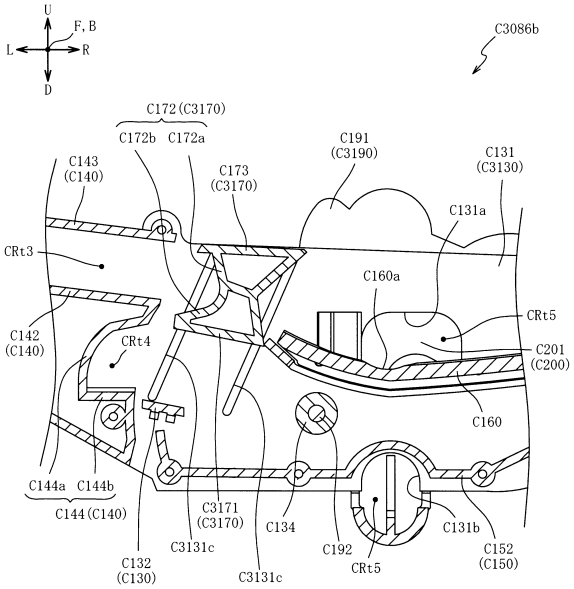
【図１５９５】



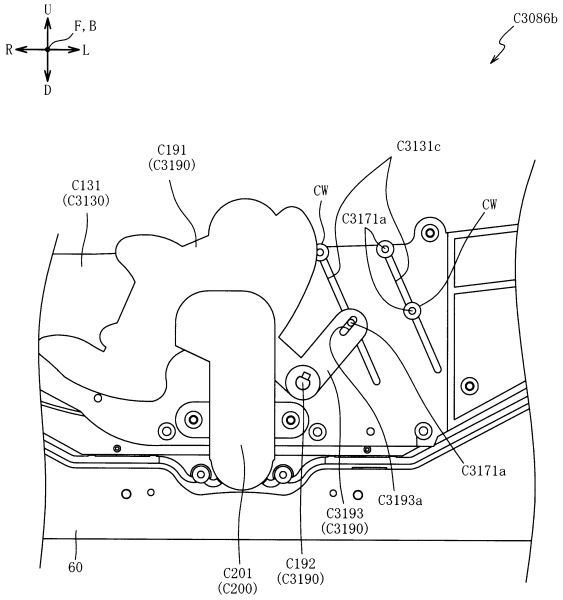
【図１５９６】



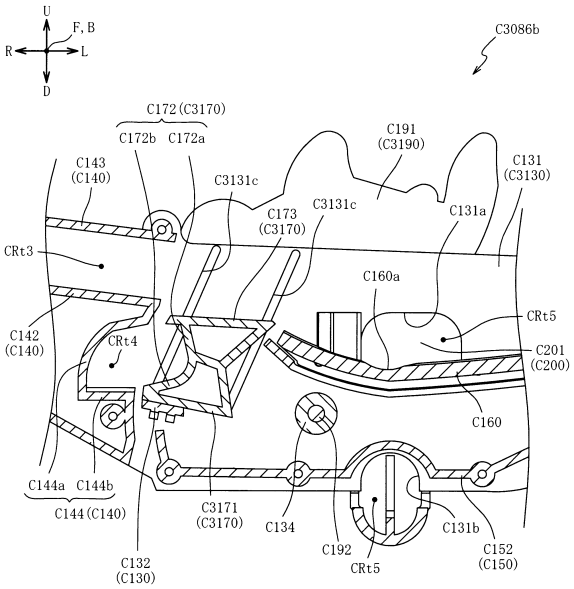
【図１５９７】



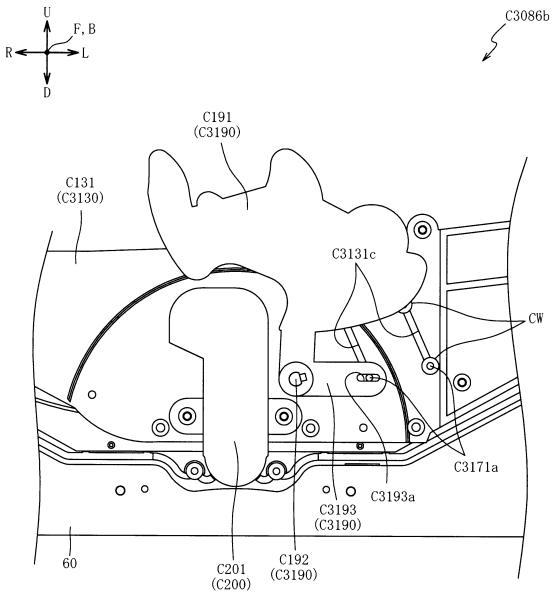
【図１５９８】



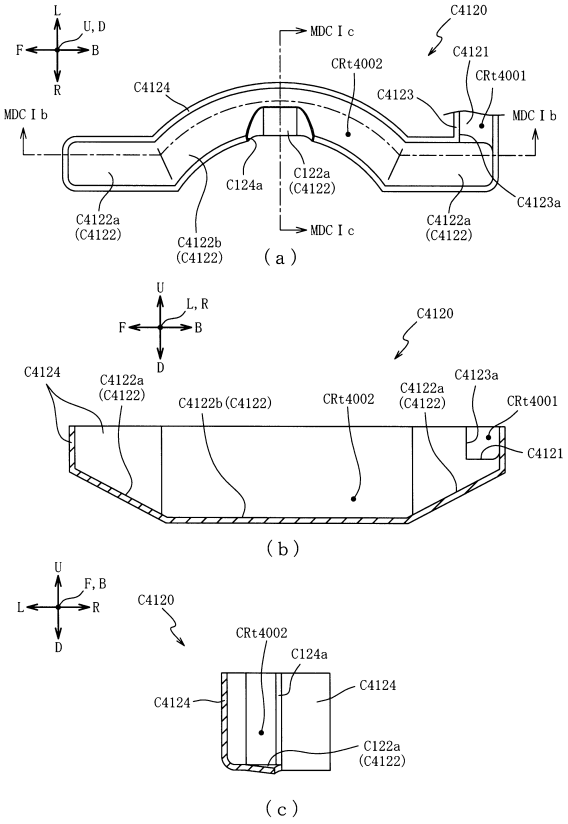
【図１５９９】



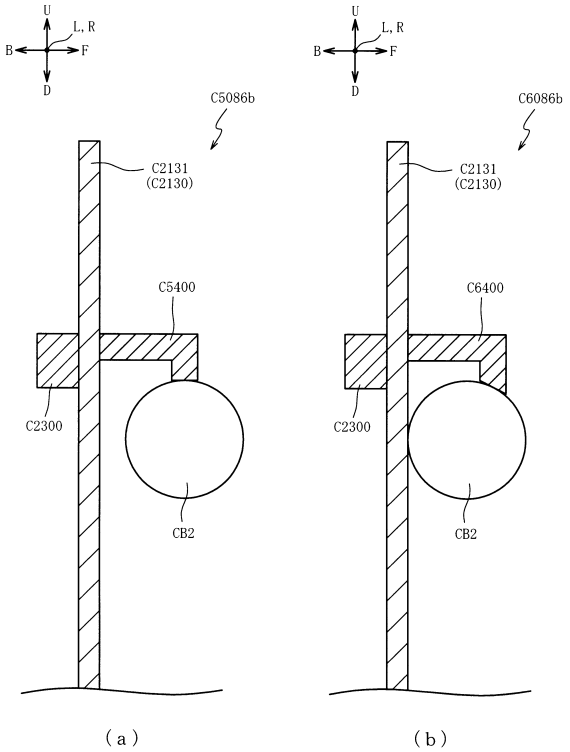
【図１６００】



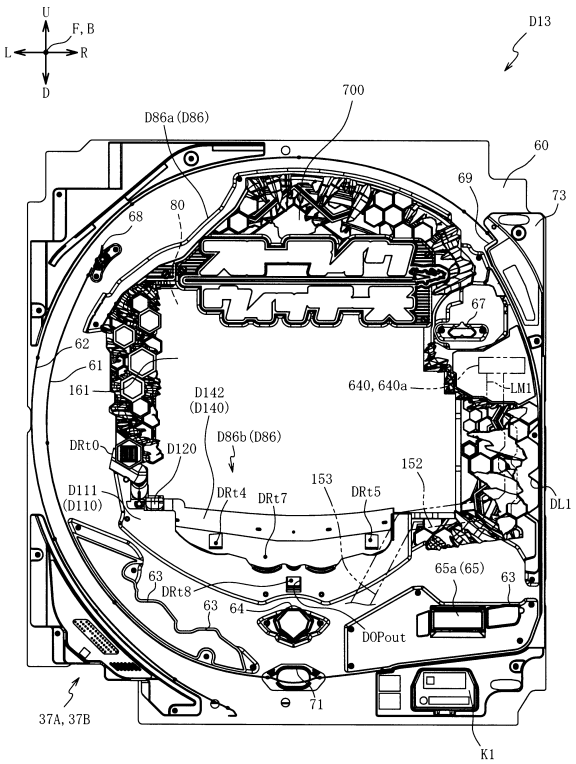
【図１６０１】



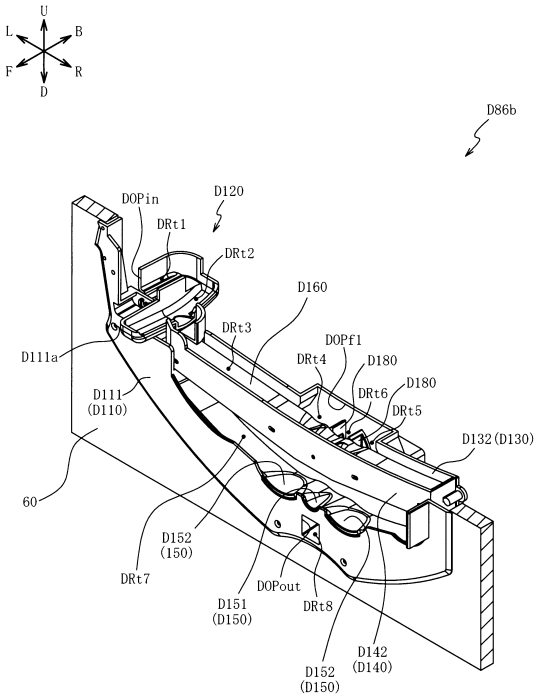
【図１６０２】



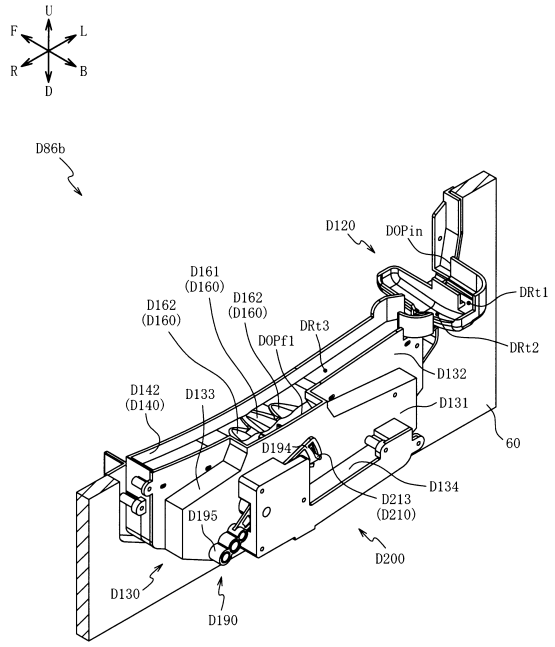
【図１６０３】



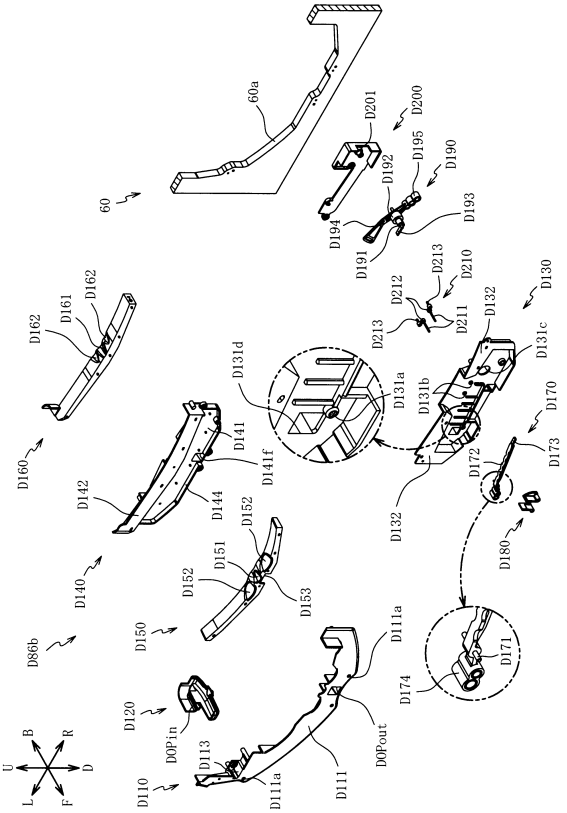
【図１６０４】



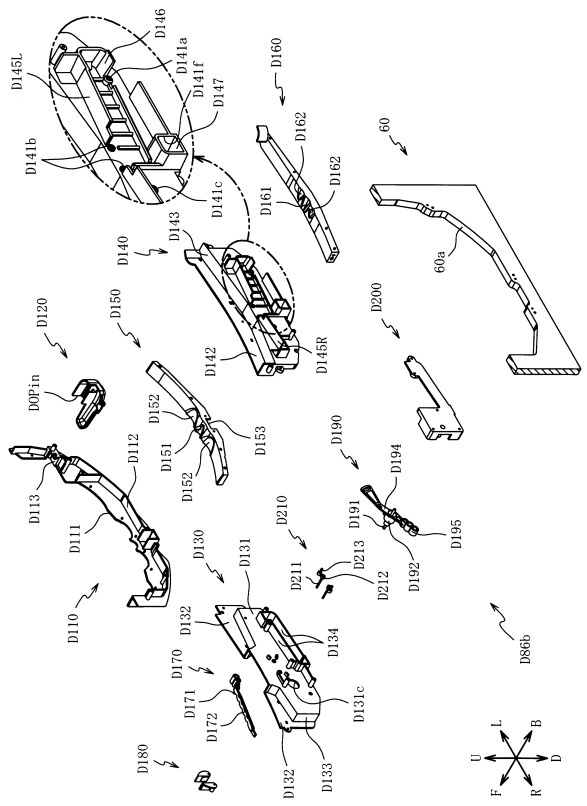
【図１６０５】



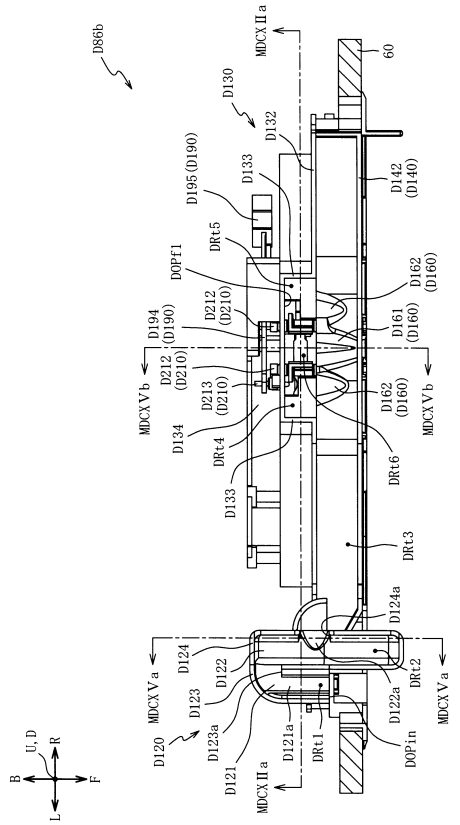
【図１６０６】



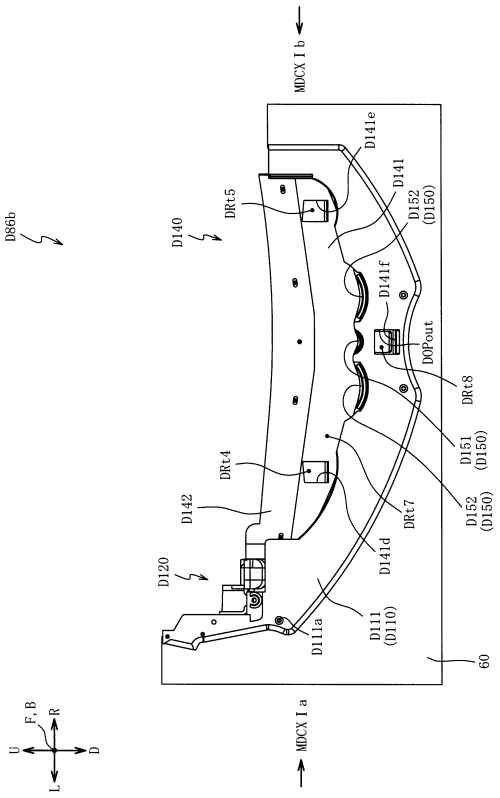
【図１６０７】



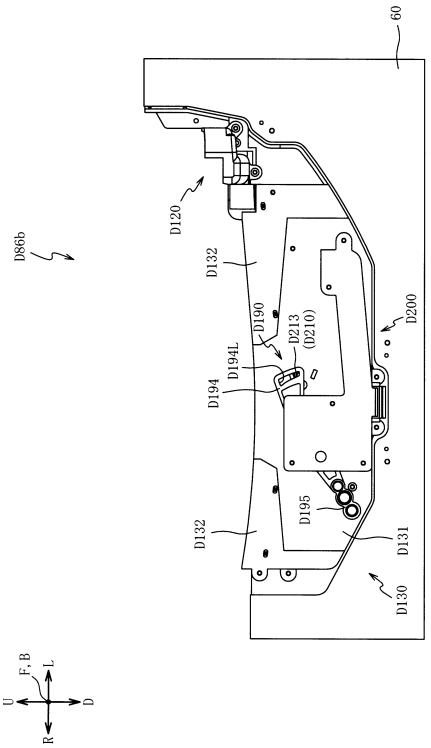
【図１６０８】



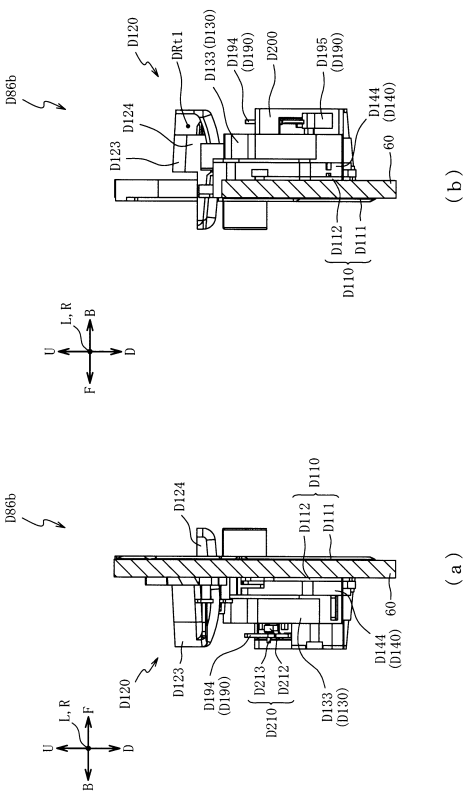
【図１６０９】



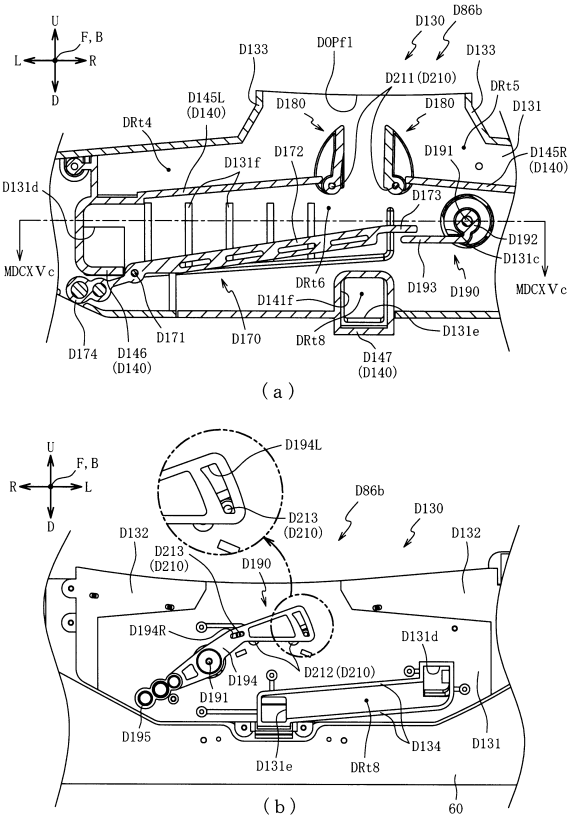
【図１６１０】



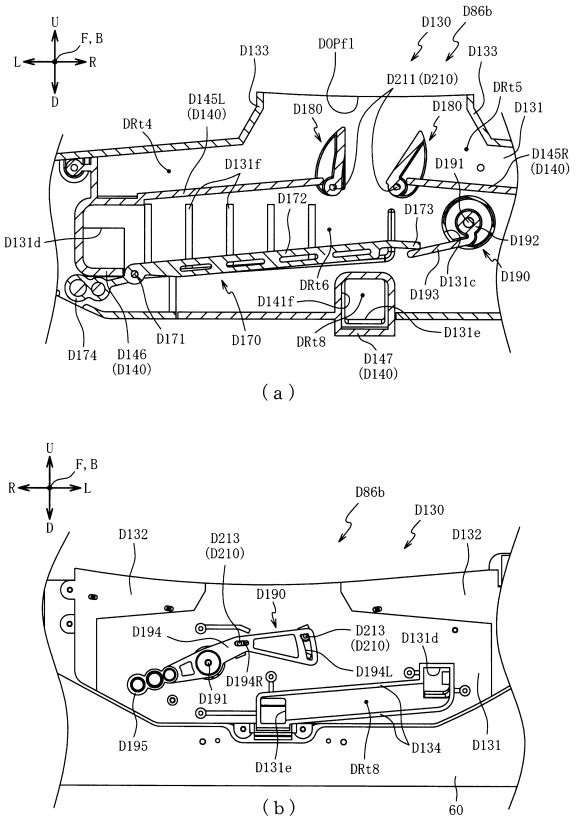
【図１６１１】



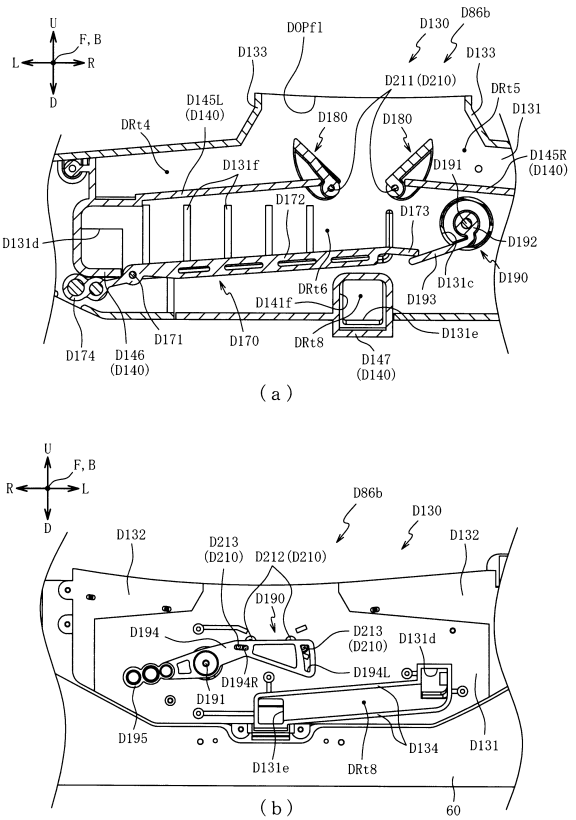
【図１６１２】



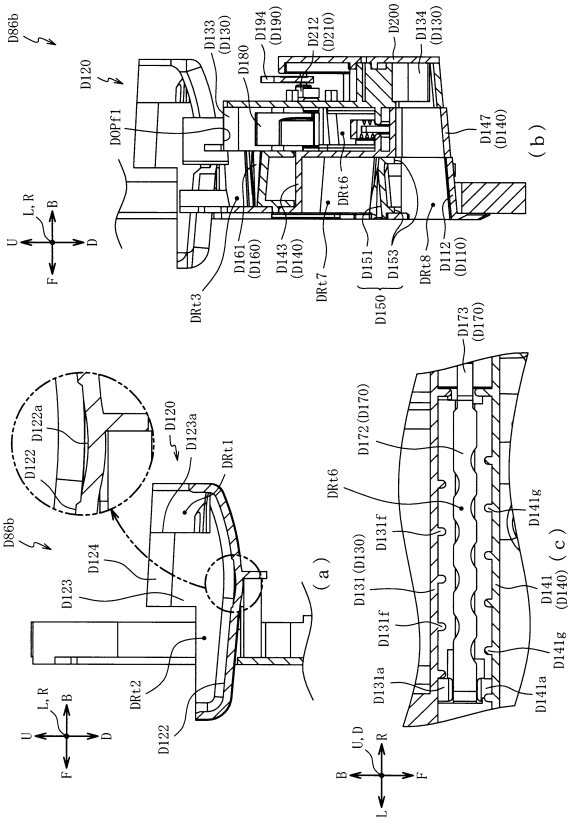
【図１６１３】



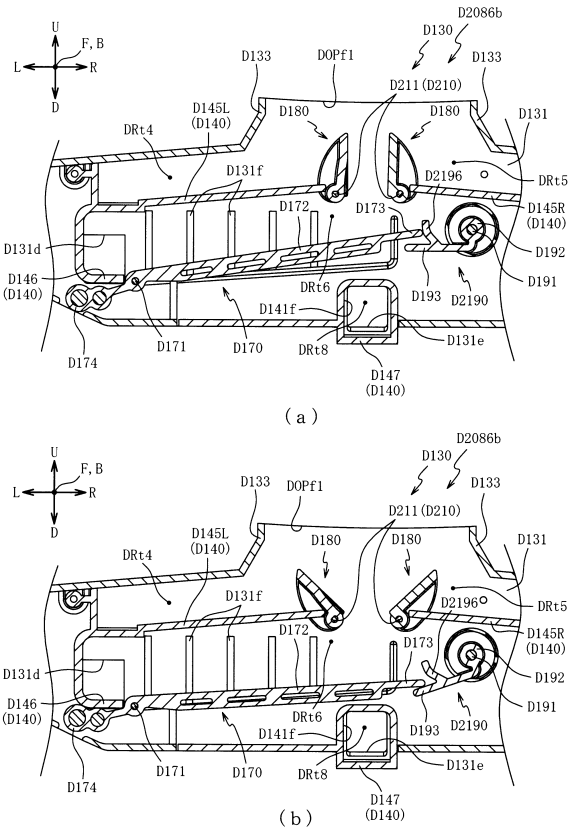
【図１６１４】



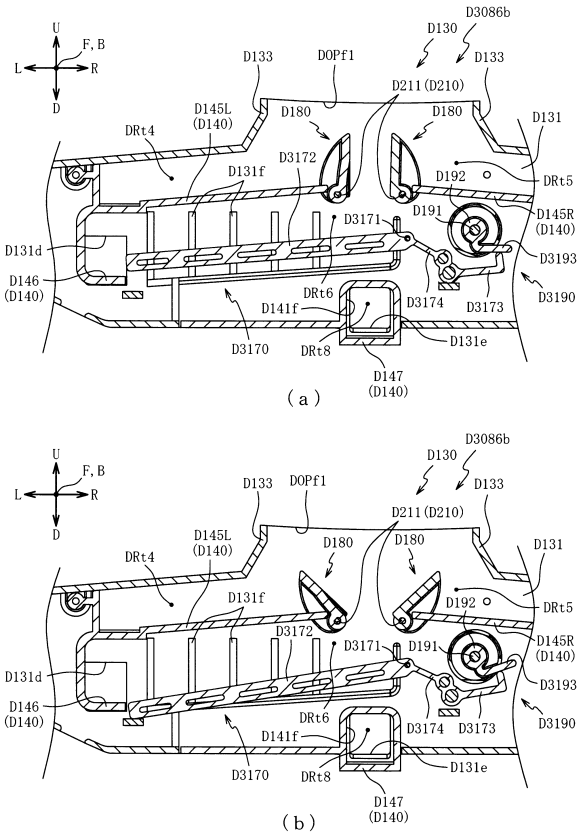
【図１６１５】



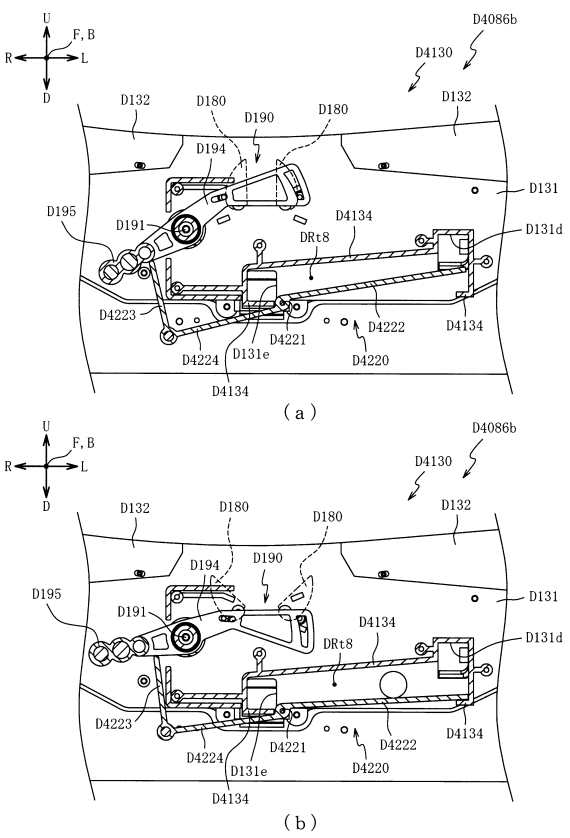
【図１６１６】



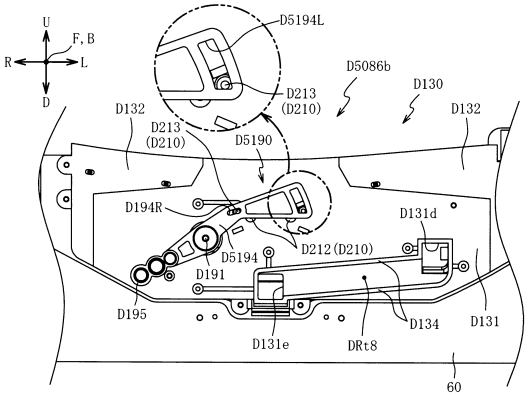
【図１６１７】



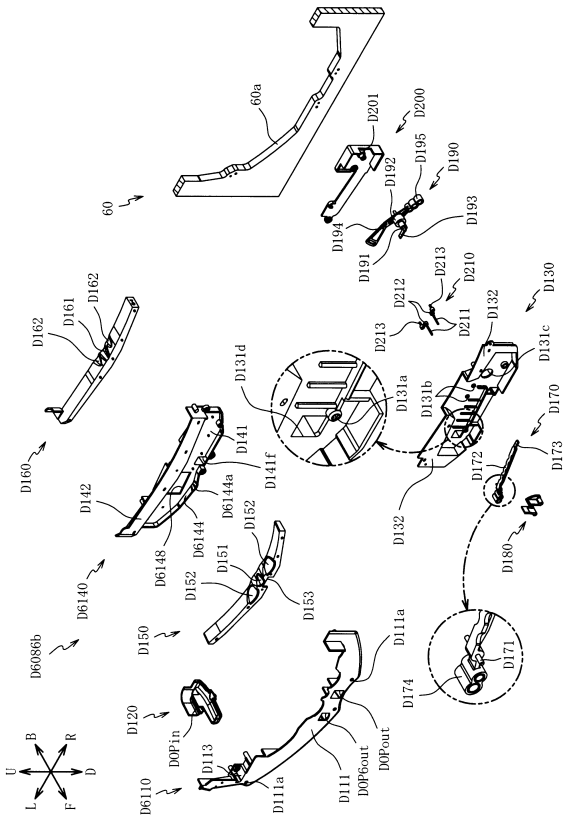
【図１６１８】



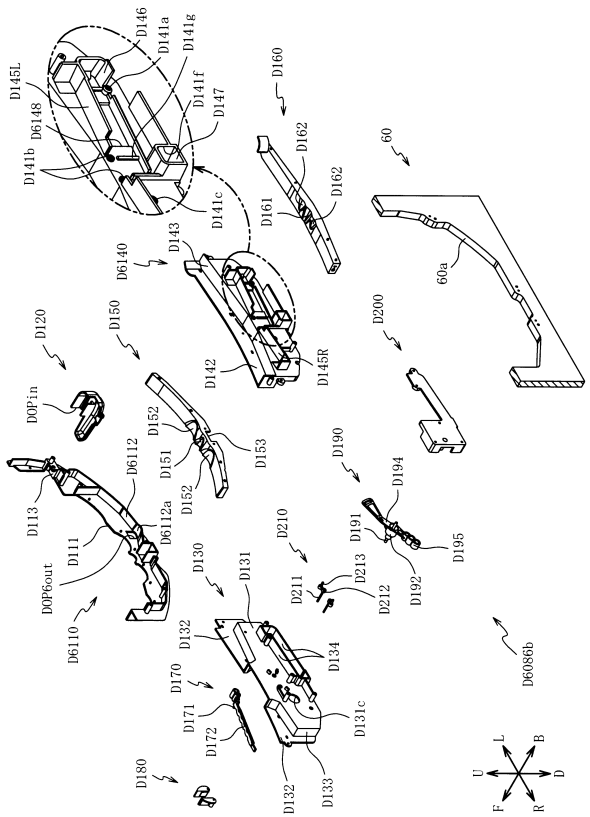
【図１６１９】



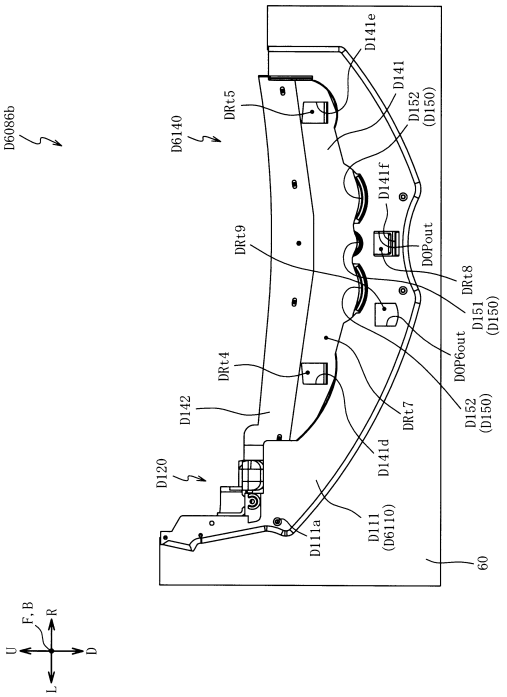
【図１６２０】



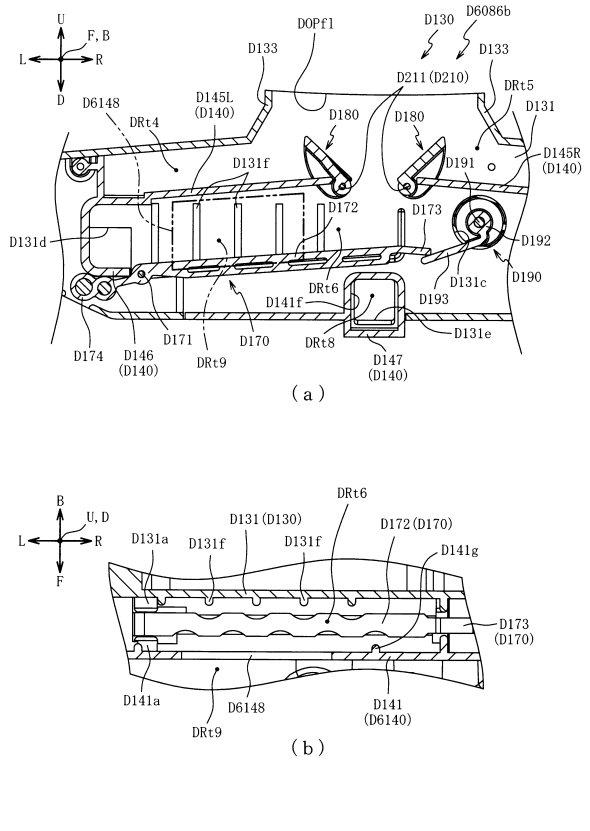
【図１６２１】



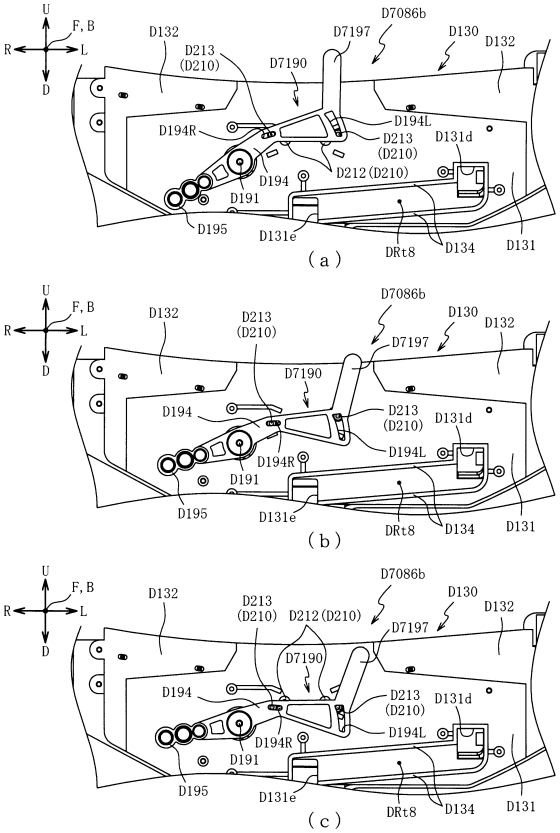
【図１６２２】



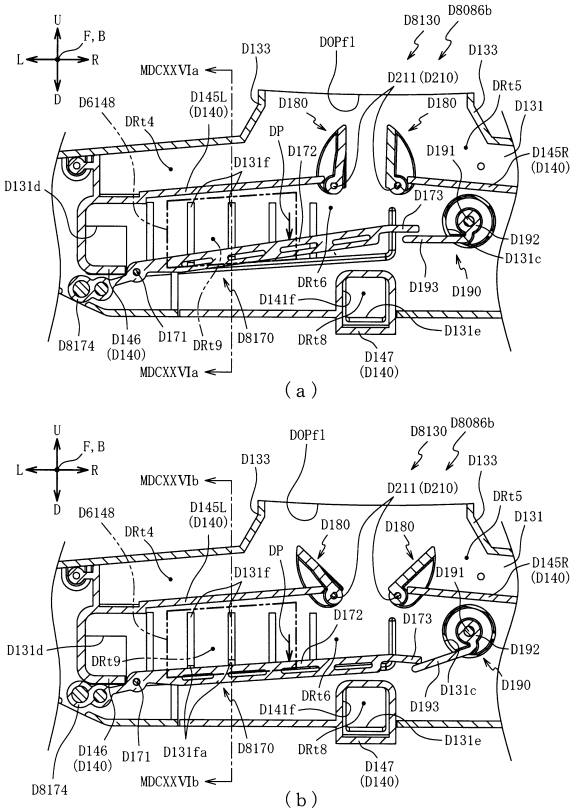
【図１６２３】



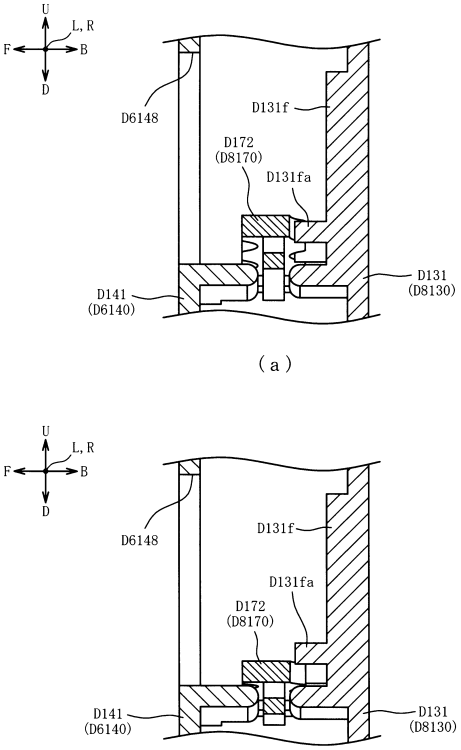
【図１６２４】



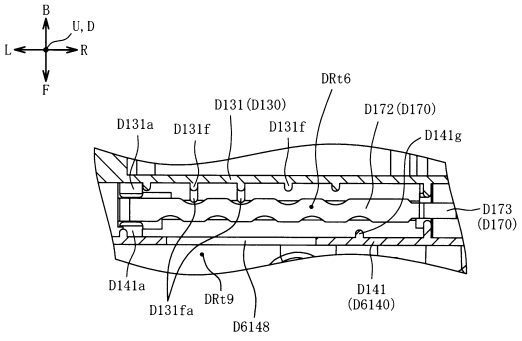
【図１６２５】



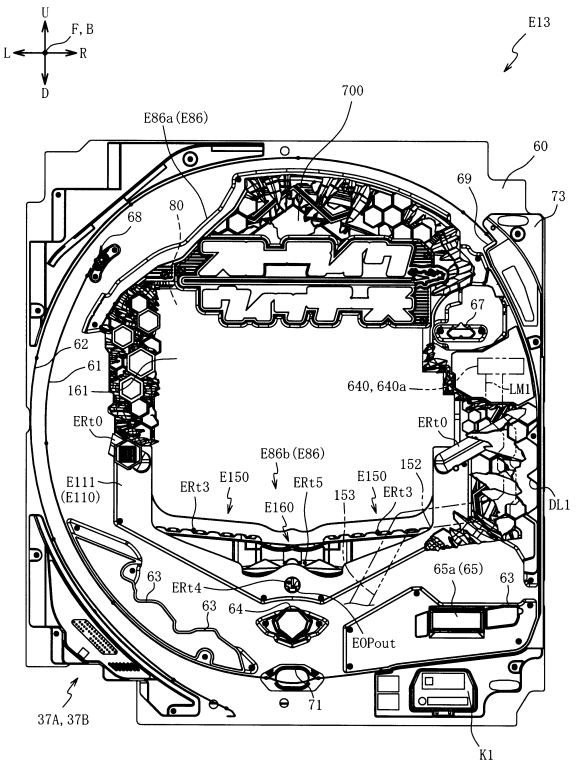
【図１６２６】



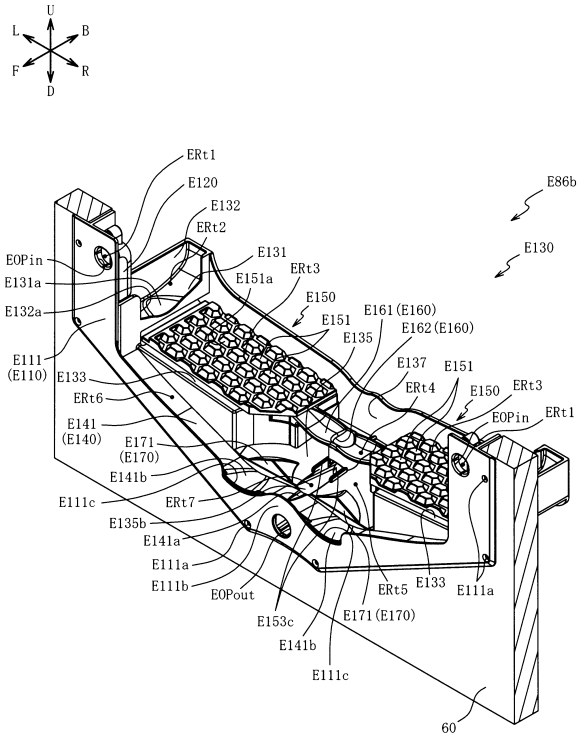
【図１６２７】



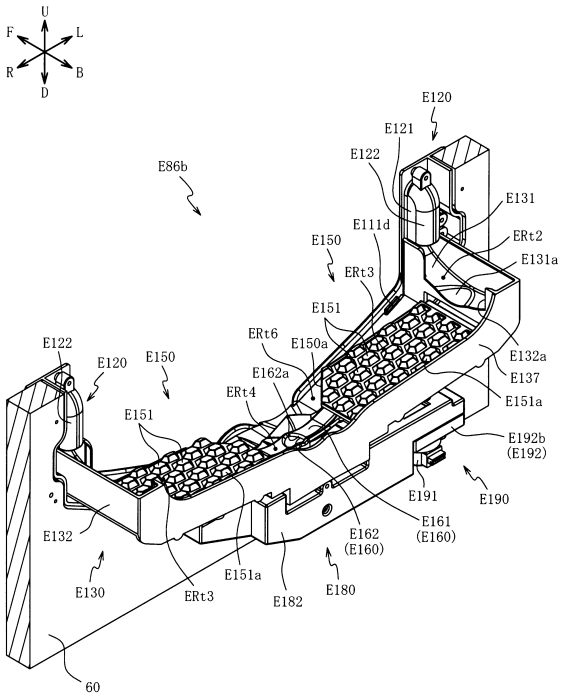
【図１６２８】



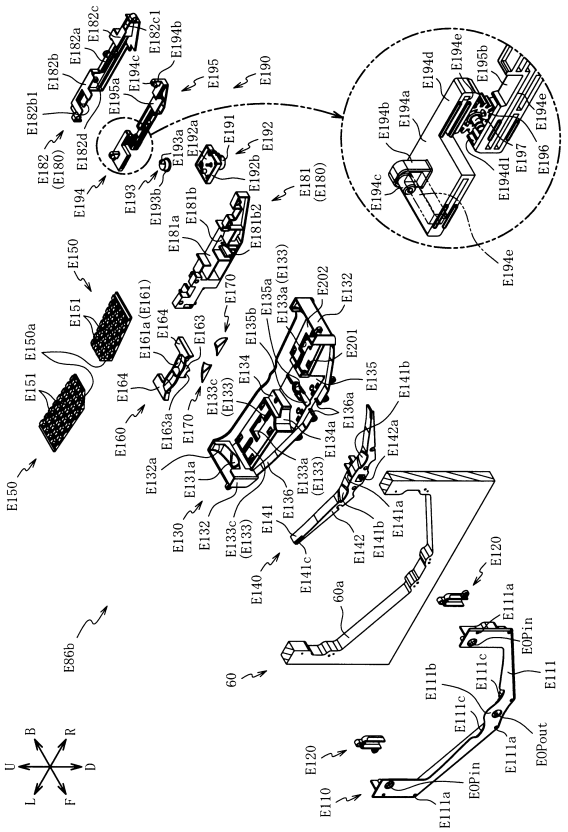
【図１６２９】



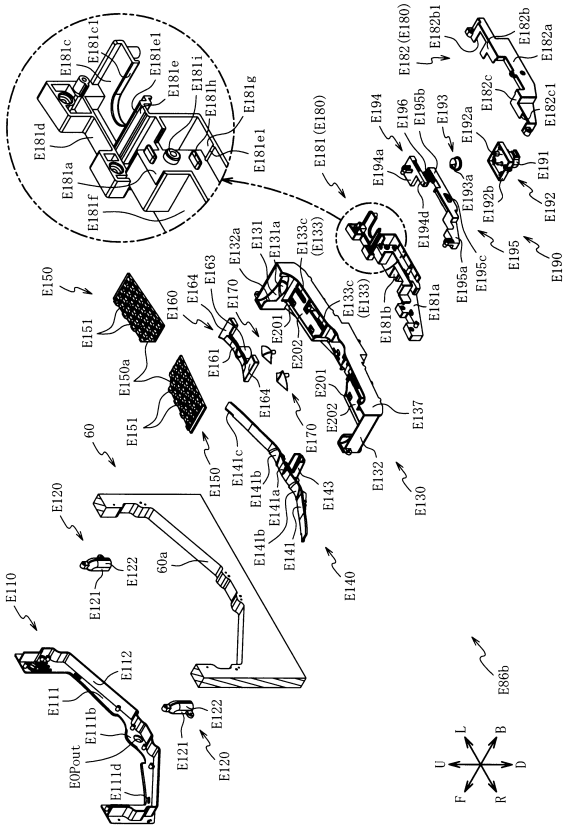
【図１６３０】



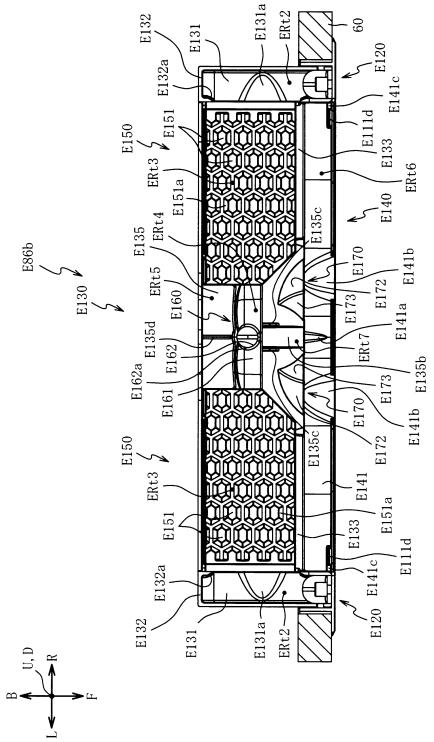
【図１６３１】



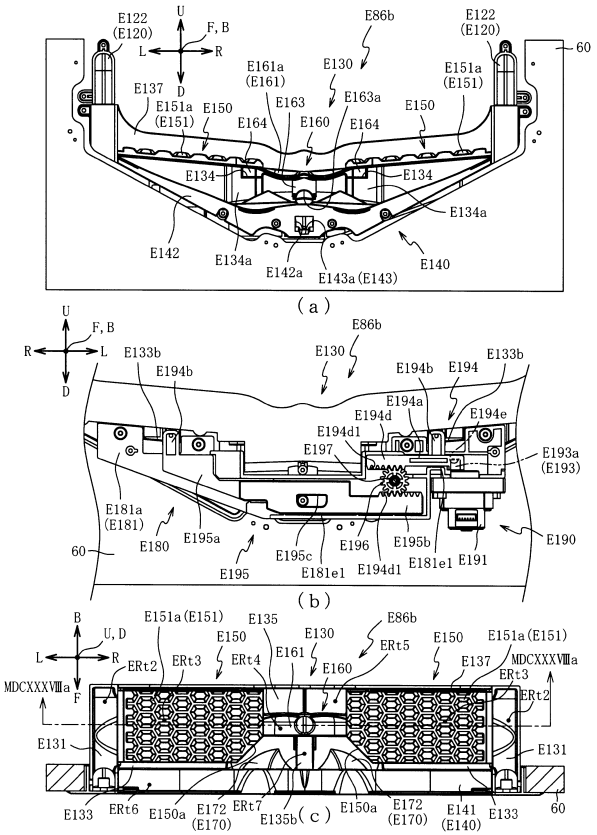
【図１６３２】



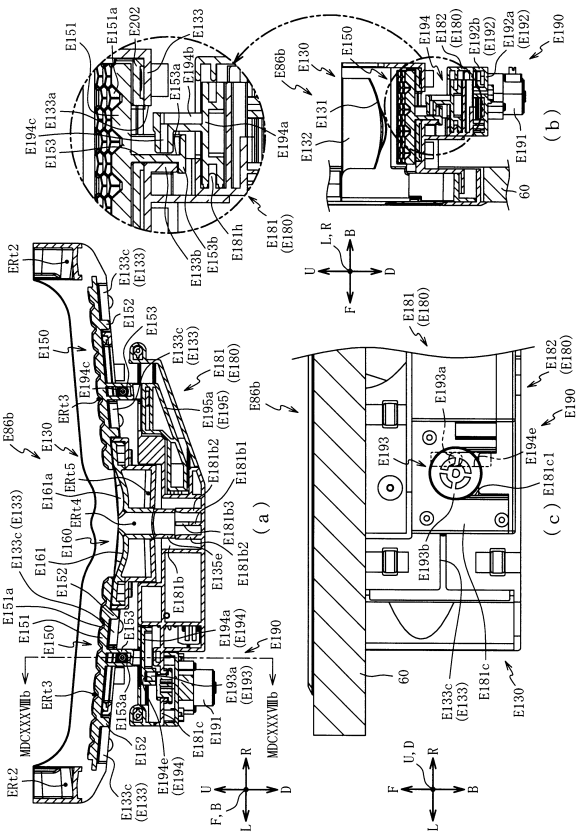
【図１６３３】


E86b
E130
E132
E131
E131a
ERt2
60
E120
E141c
E111d
E133
ERt6
E140
E135c
E170
E141b
E172
E173
E141a
ERt7
E135b
E141
E151a
E151
ERt3
E150
E135
ERt4
ERt5
E160
E135d
E162
E161
E162a
E132a
E111b
E111c
E171
E134a
E134
E164
E163
E163a
E161a
E162a
E150
E135
E111a
E111
E110
E171 (E170)
E111c
E134a
E134
E164
E163
E163a
E161a (E161)
E162a (E162)

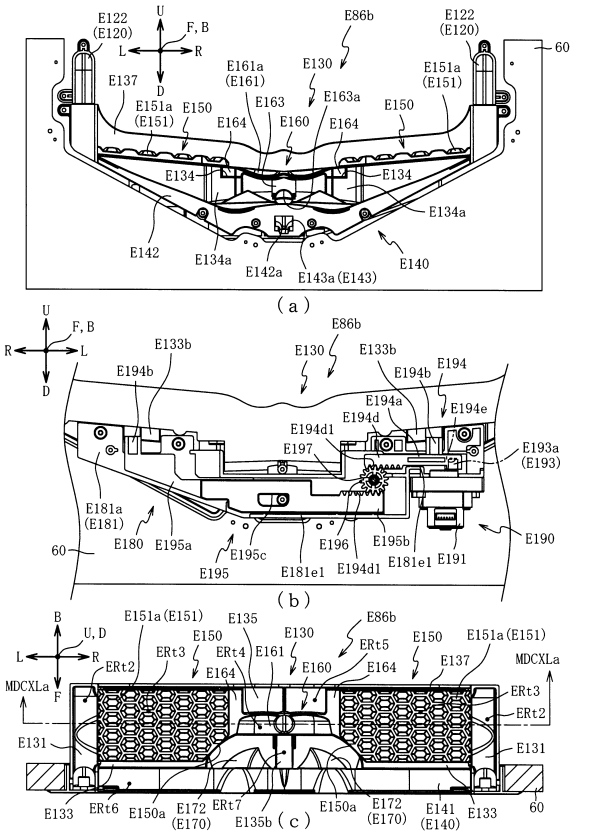
【図１６３７】



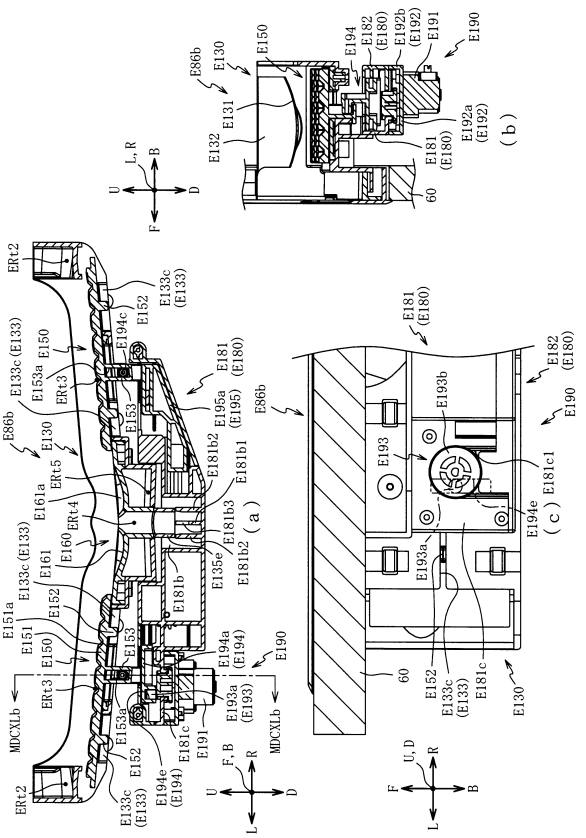
【図１６３８】



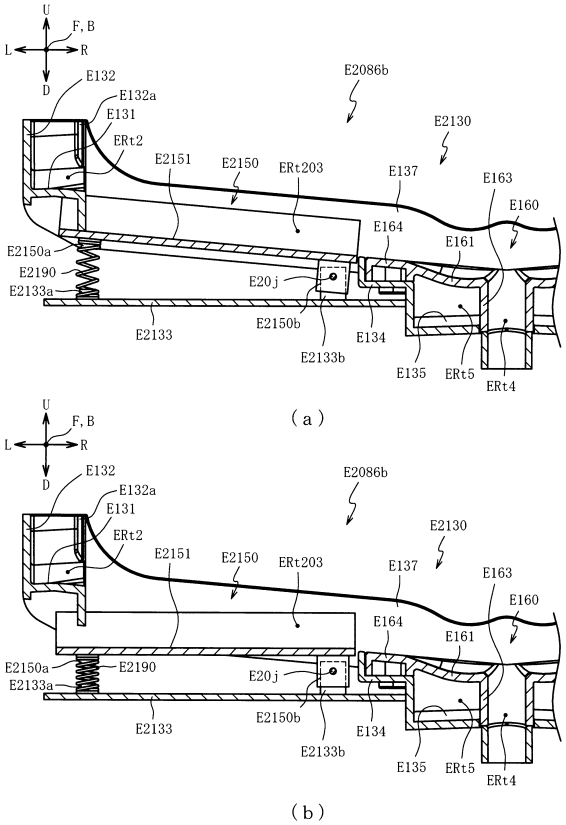
【図１６３９】



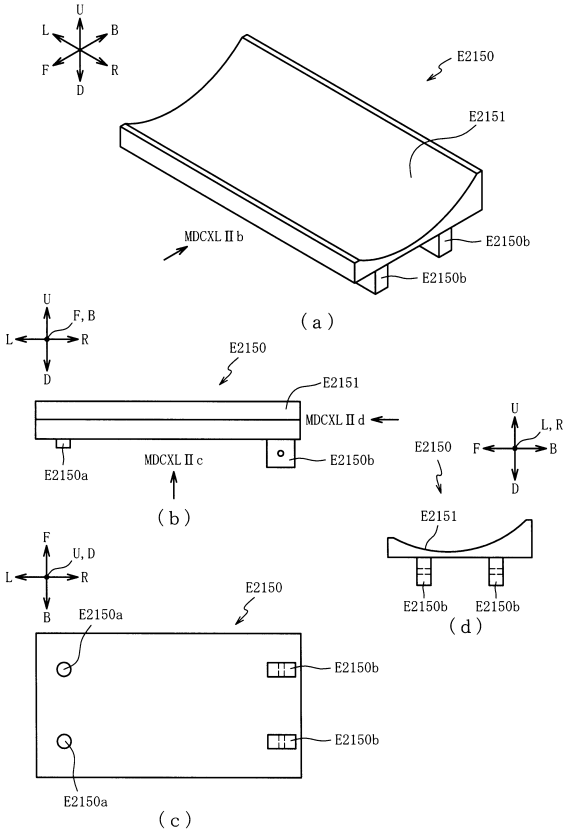
【図１６４０】



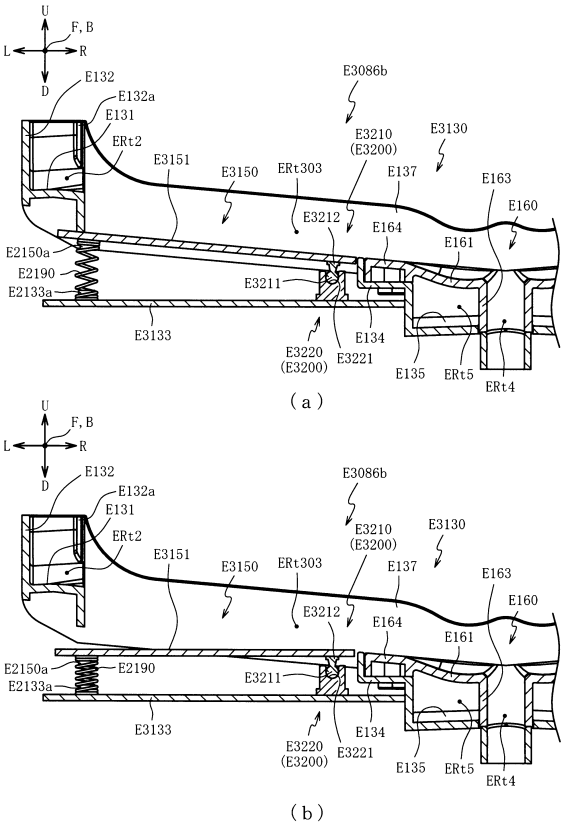
【図１６４１】



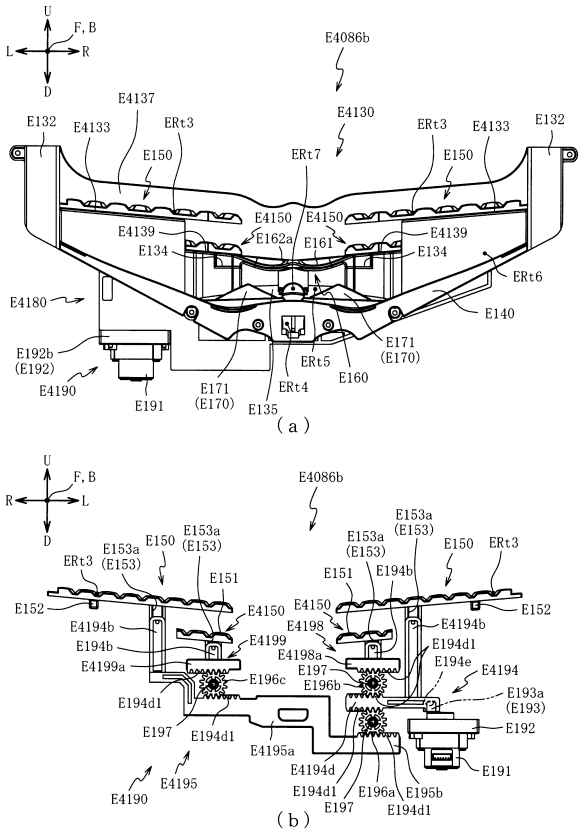
【図１６４２】



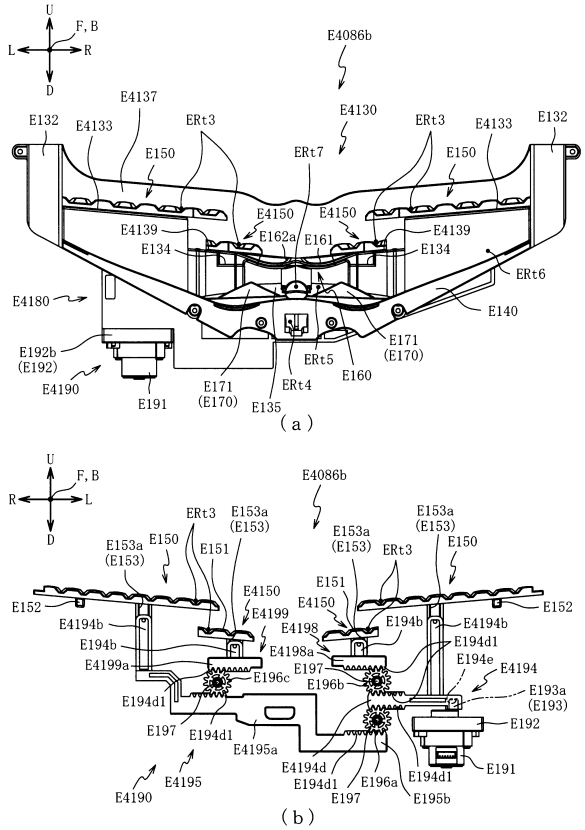
【図１６４３】



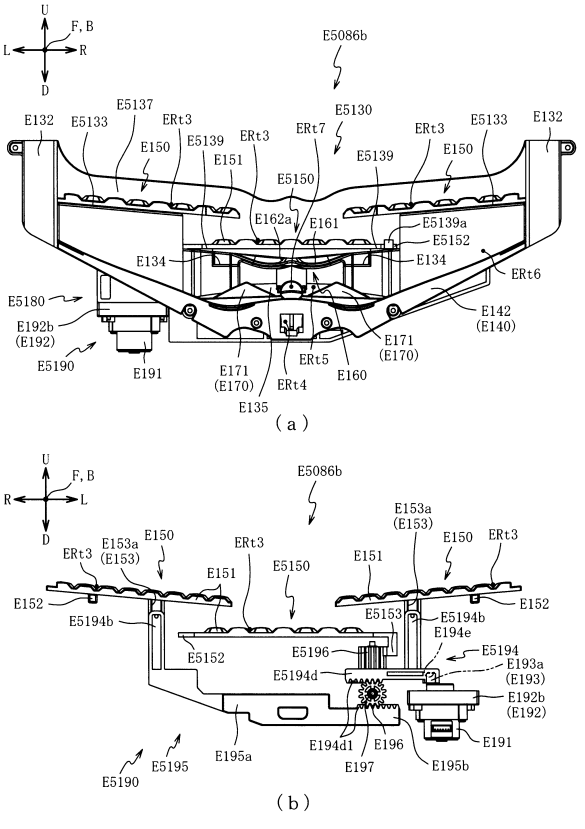
【図１６４４】



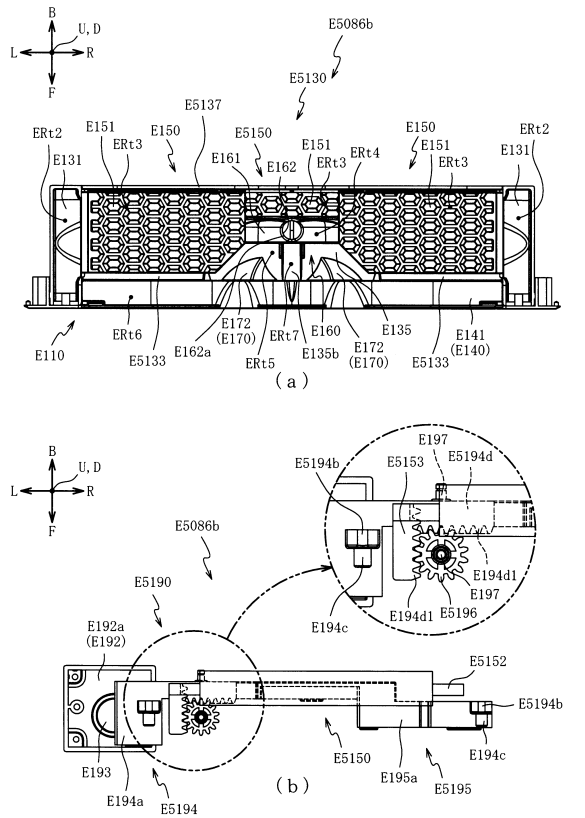
【図１６４５】



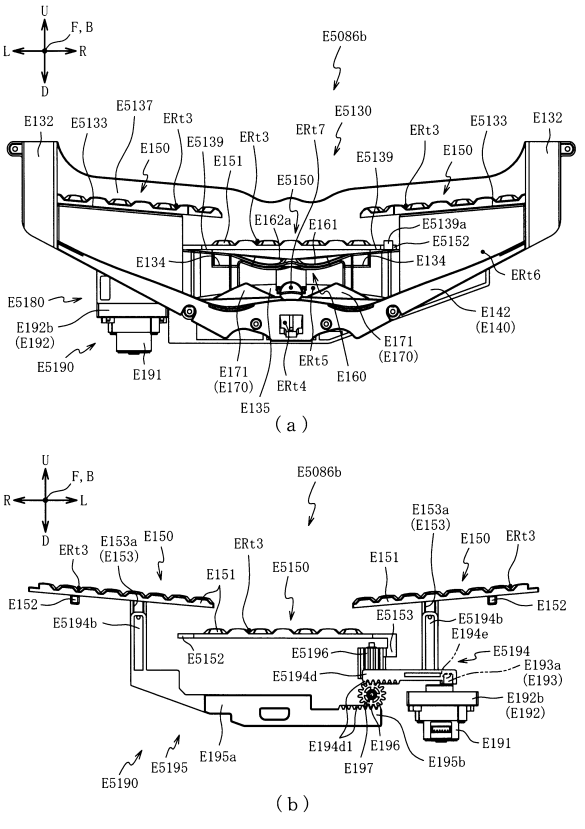
【図１６４６】



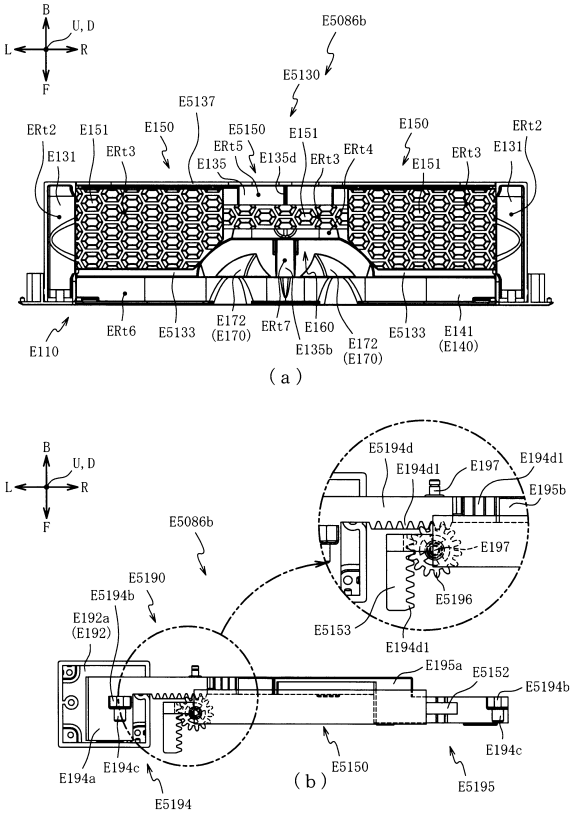
【図１６４７】



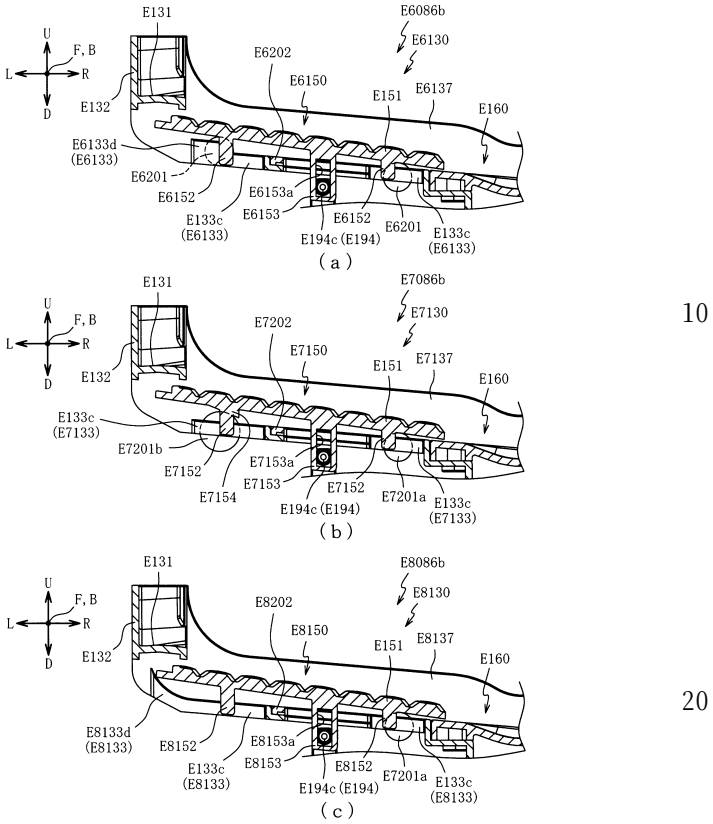
【図１６４８】



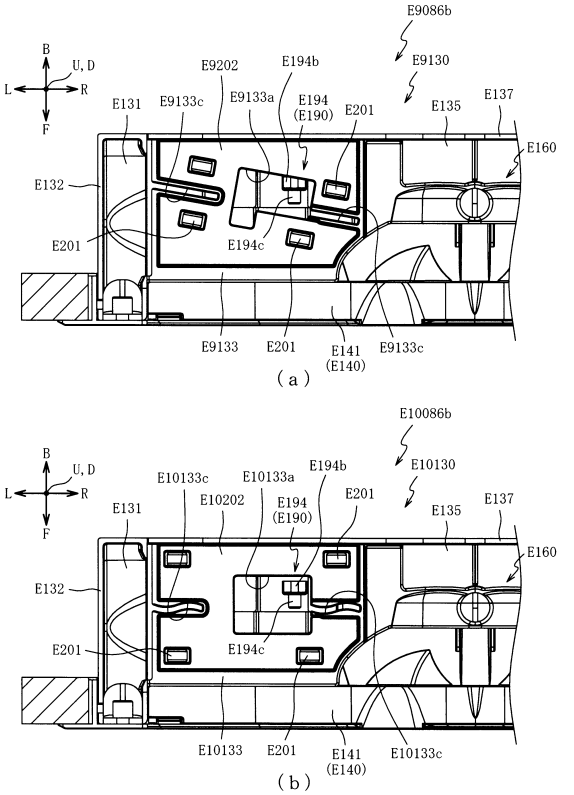
【図１６４９】



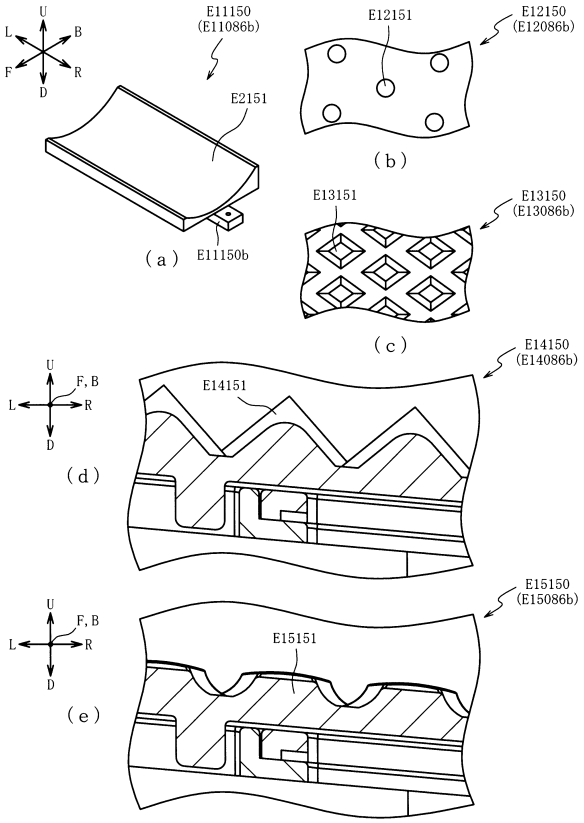
【図１６５０】



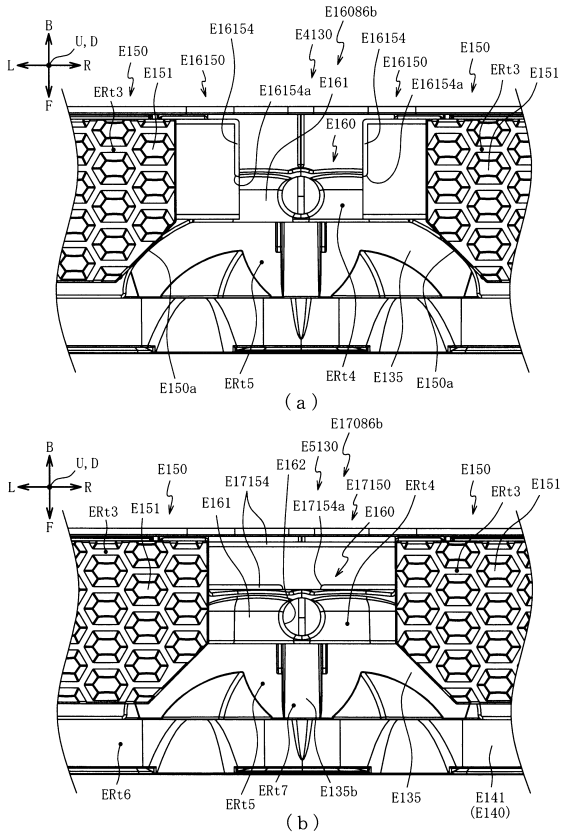
【図１６５１】



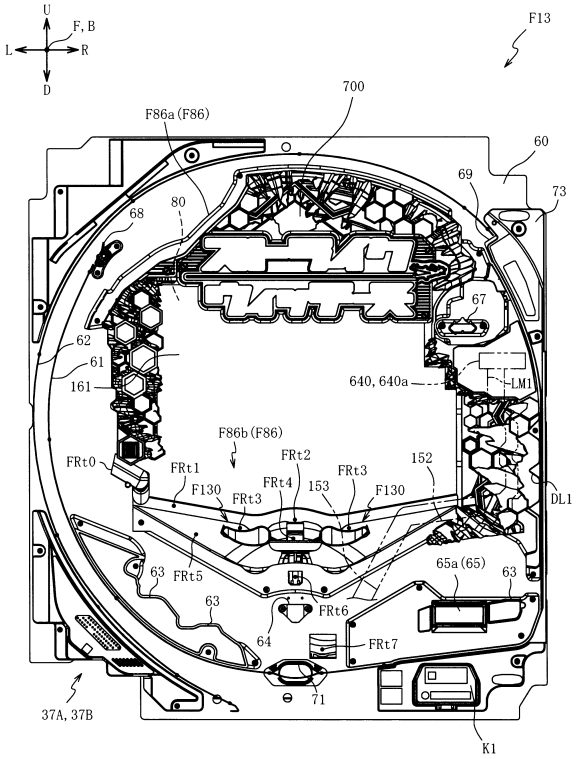
【図１６５２】



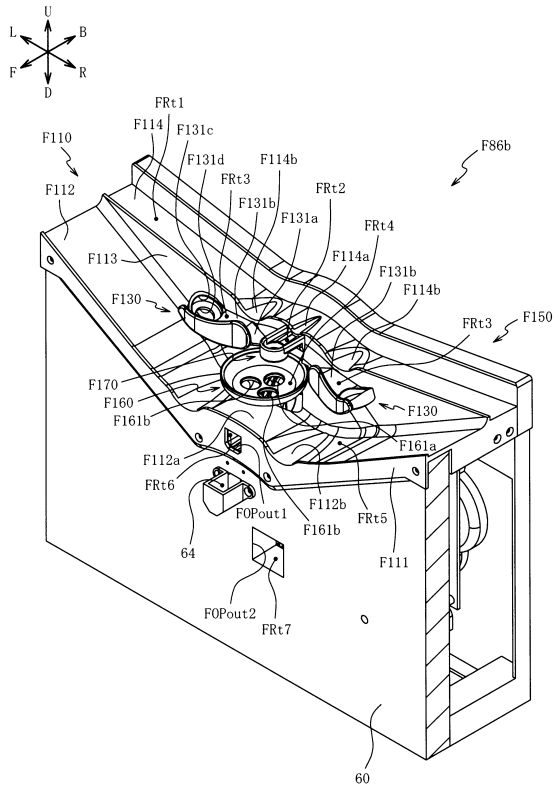
【図１６５３】



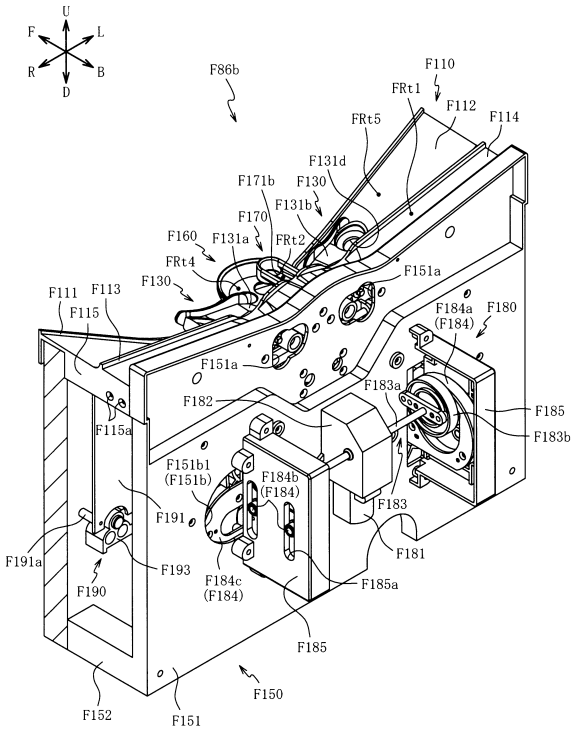
【図１６５４】



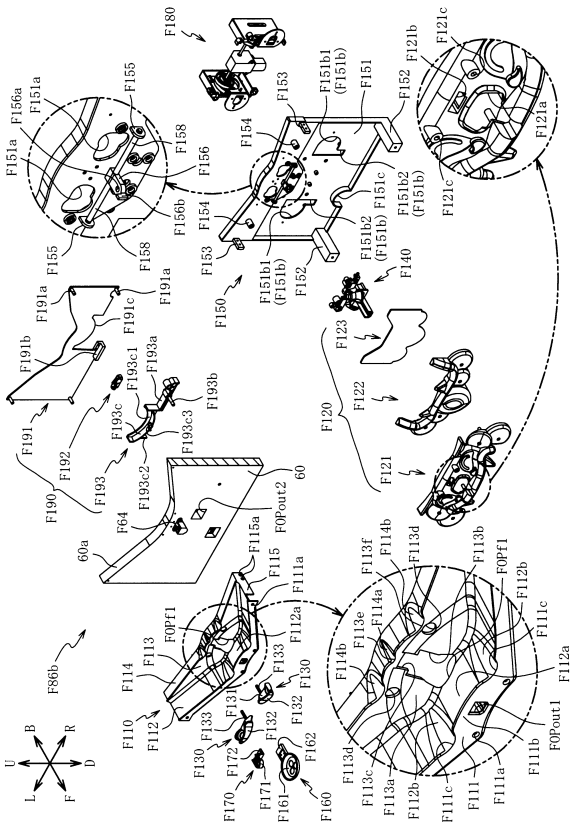
【図１６５５】



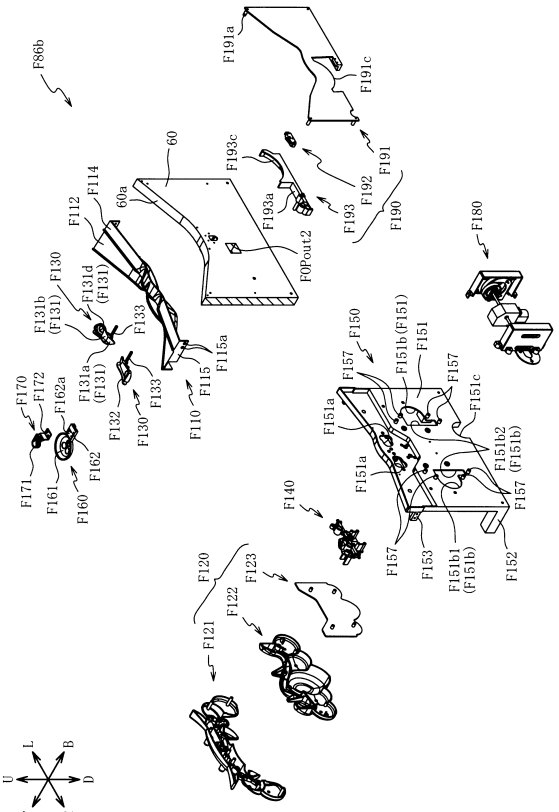
【図１６５６】



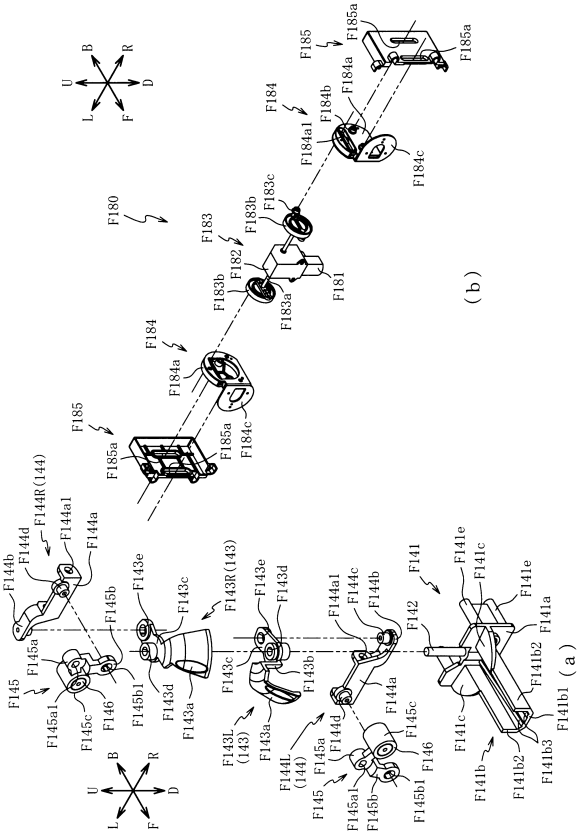
【図１６５７】



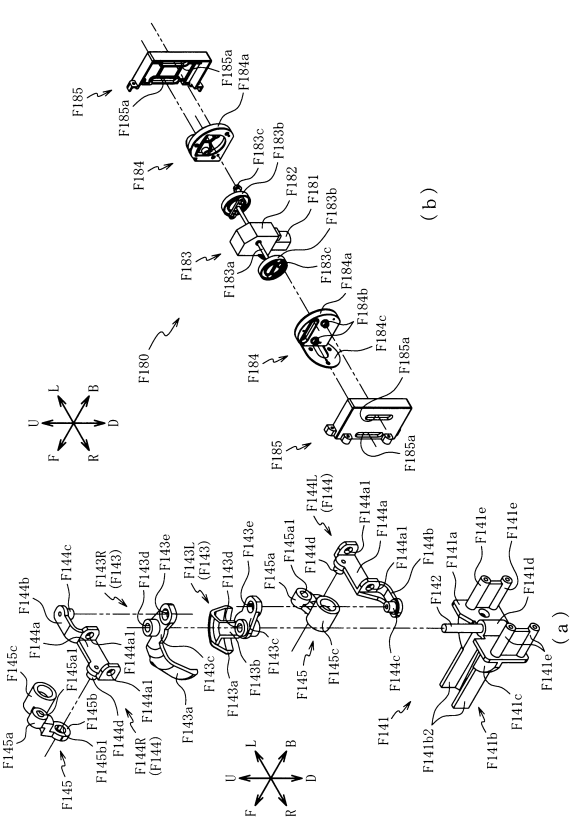
【図１６５８】



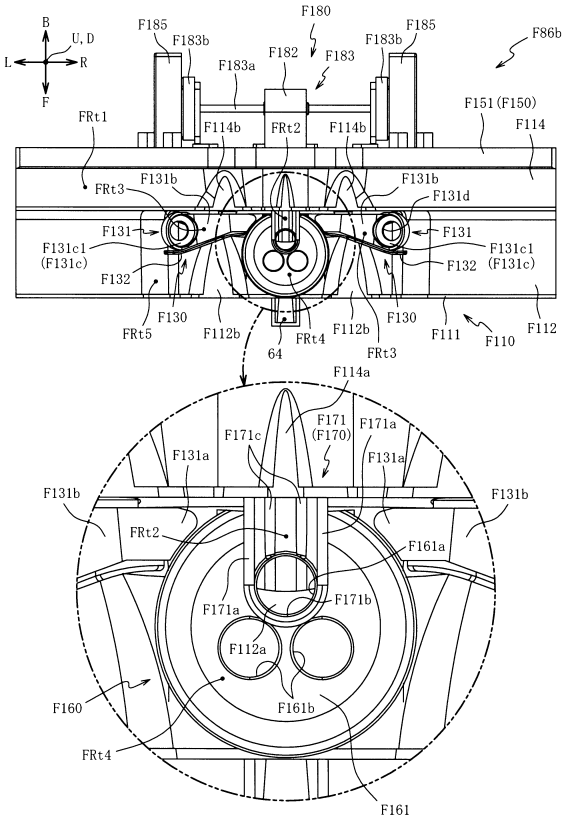
【図１６５９】



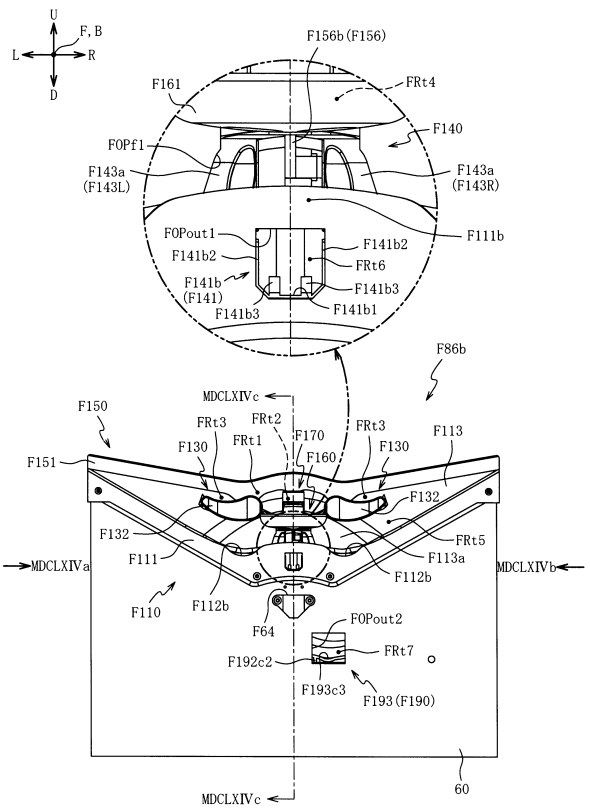
【図１６６０】



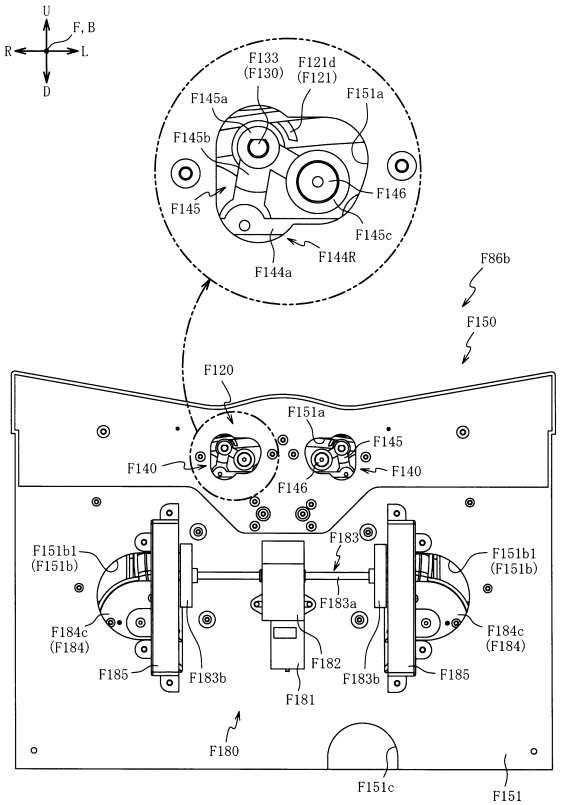
【図１６６１】



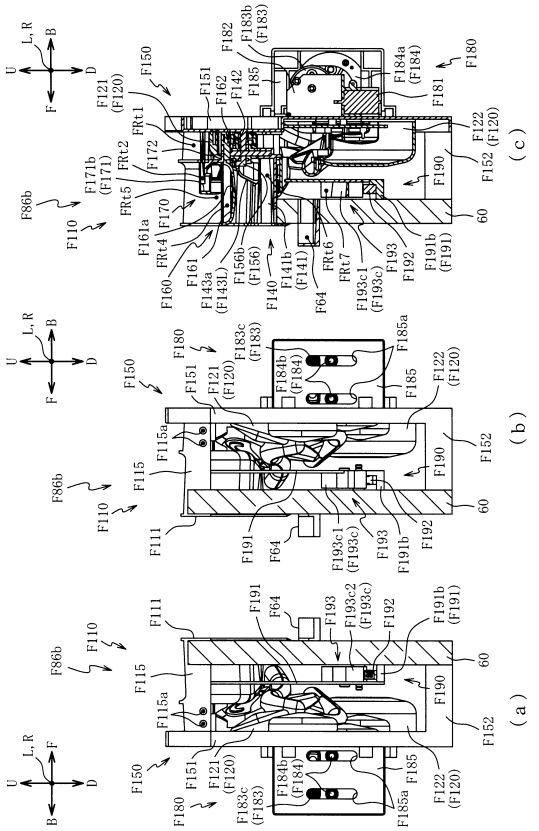
【図１６６２】



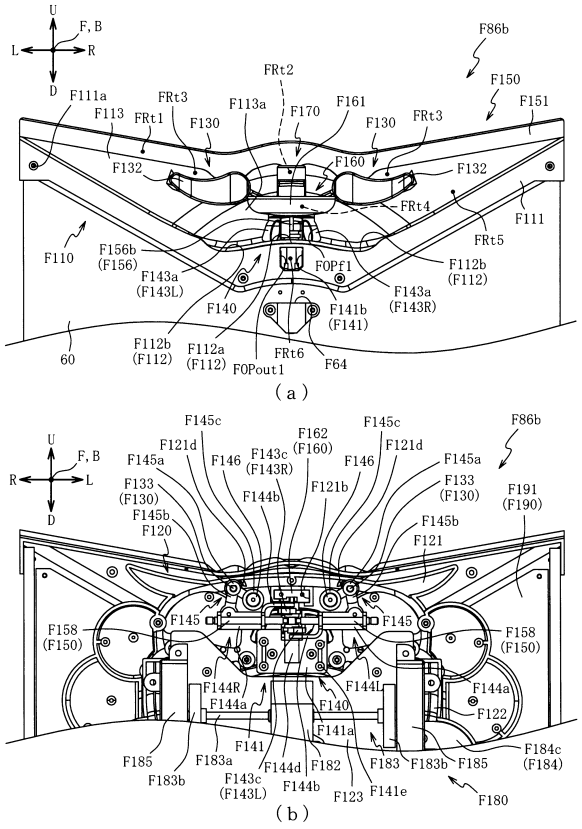
【図１６６３】



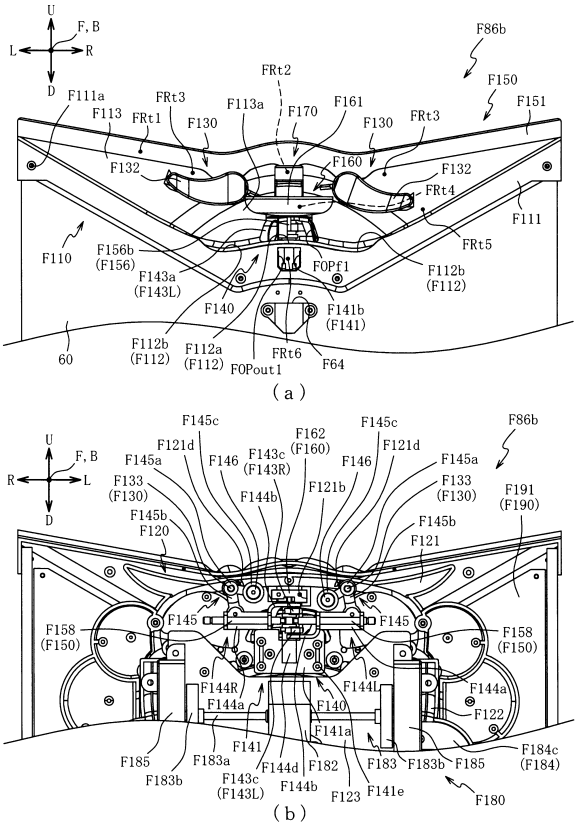
【図１６６４】



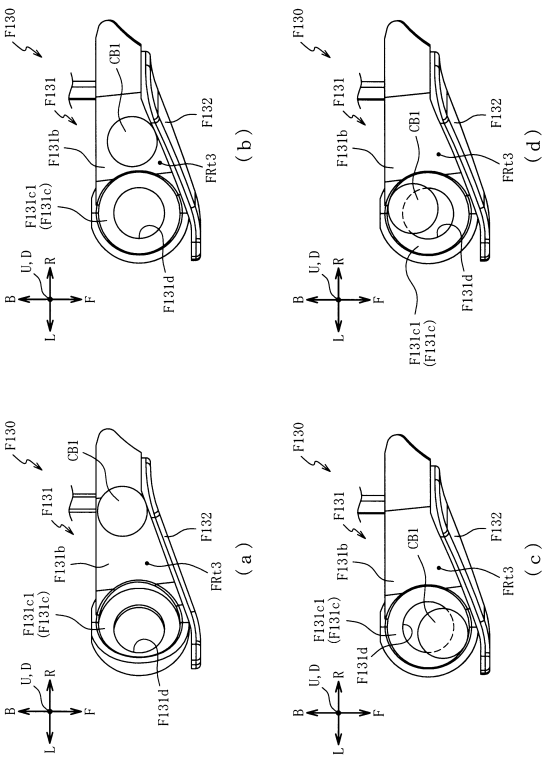
【図１６６５】



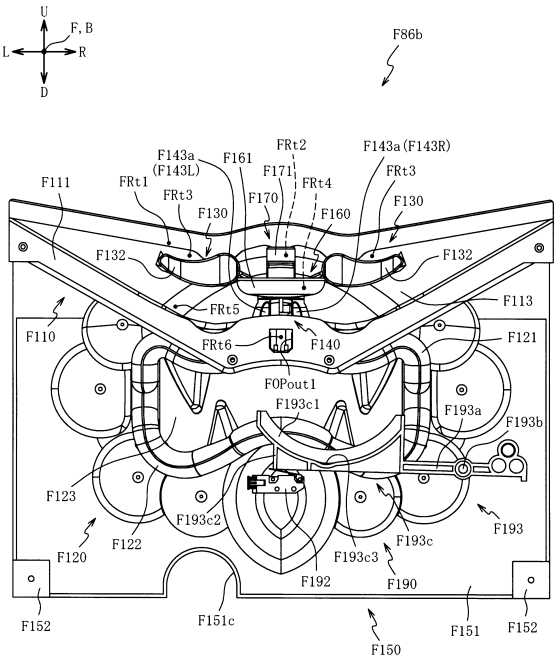
【図１６６６】



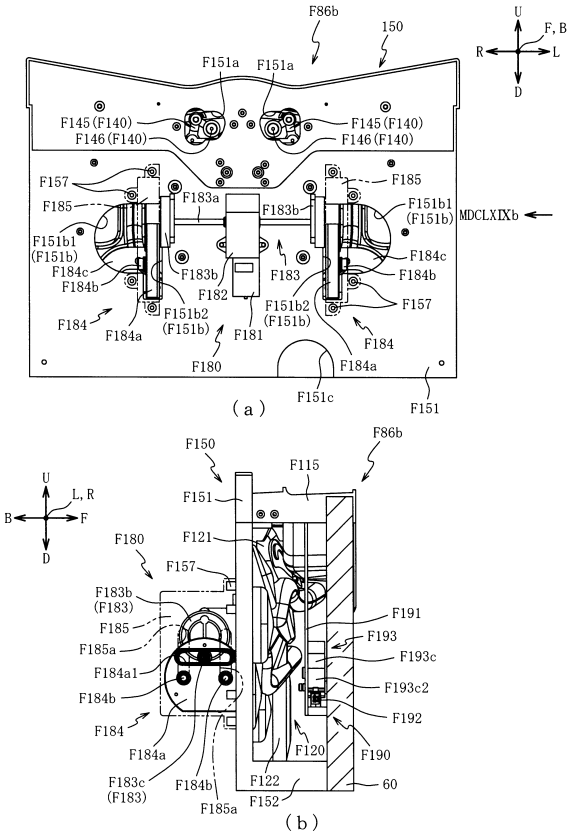
【図１６６７】



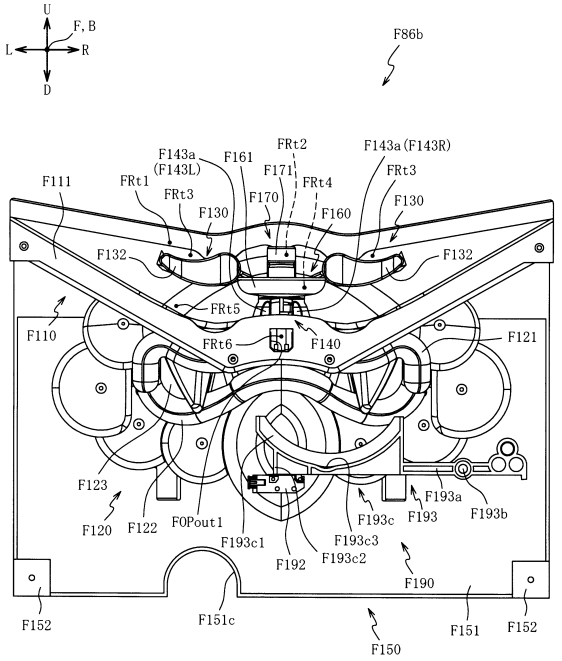
【図１６６８】



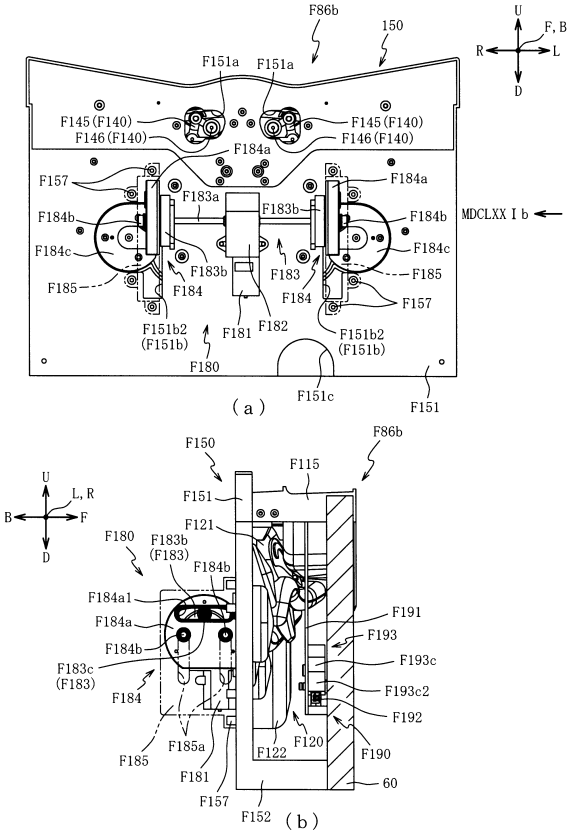
【図１６６９】



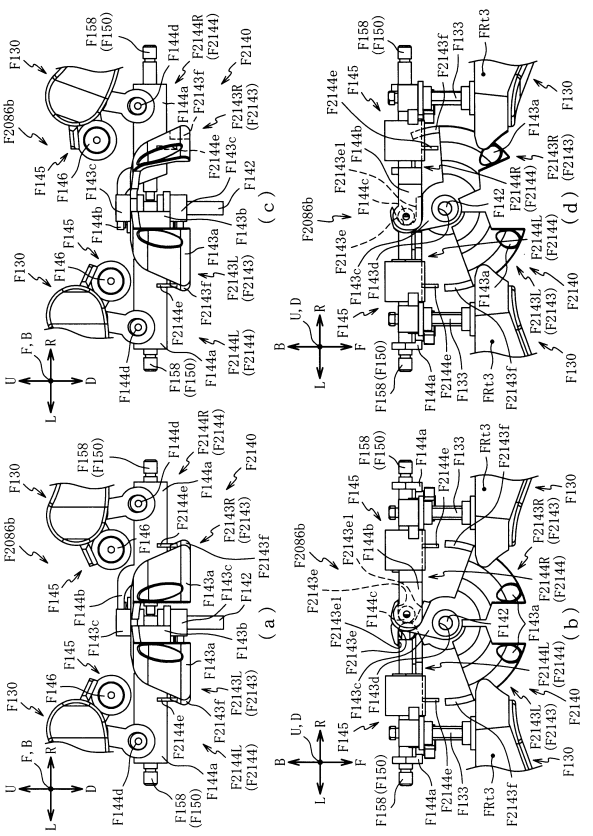
【図１６７０】



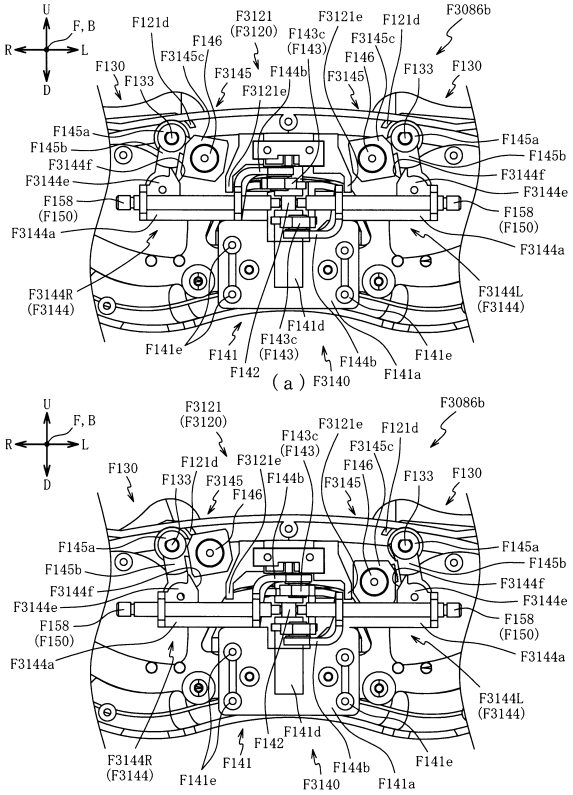
【図１６７１】



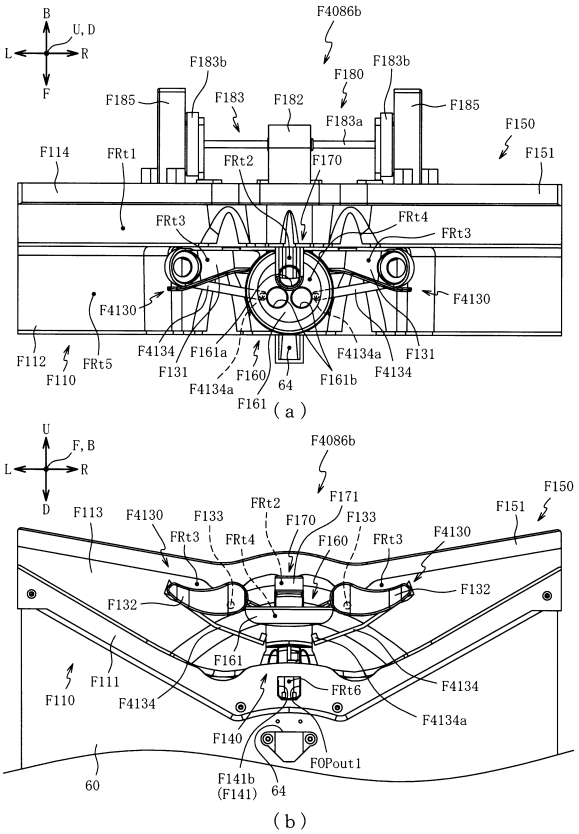
【図１６７２】



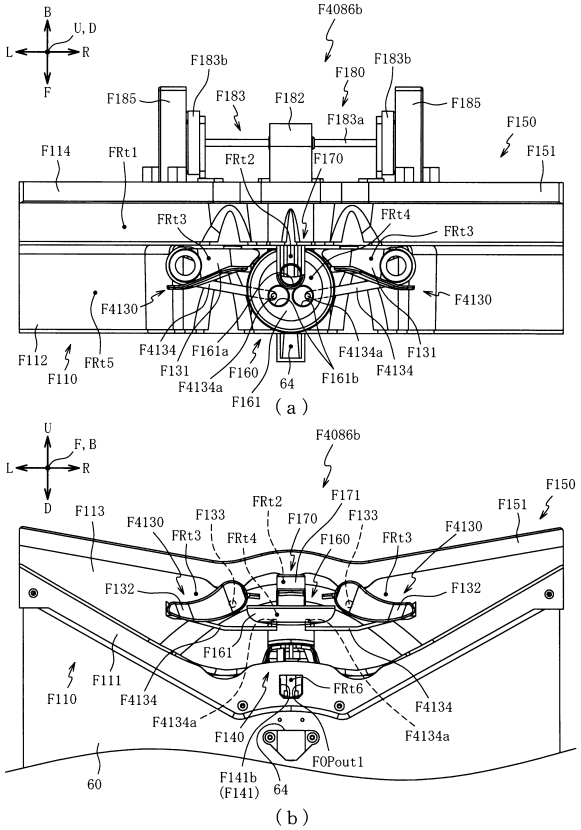
【図１６７３】



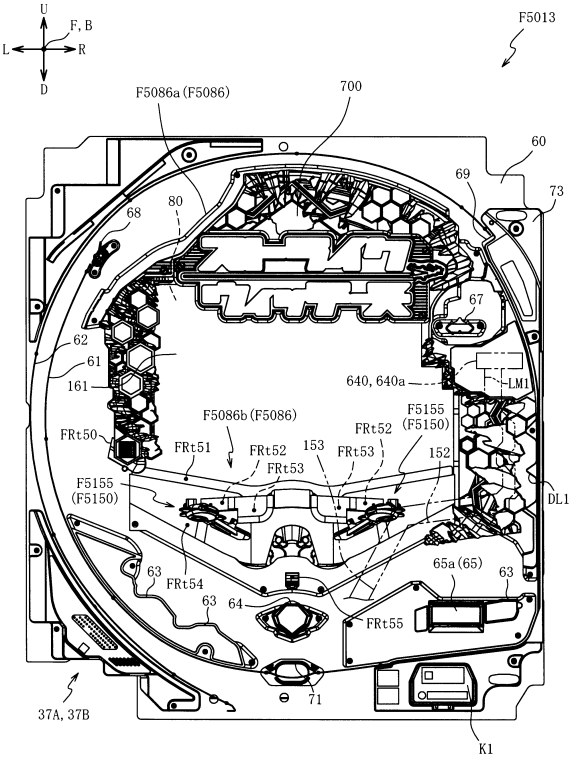
【図１６７４】



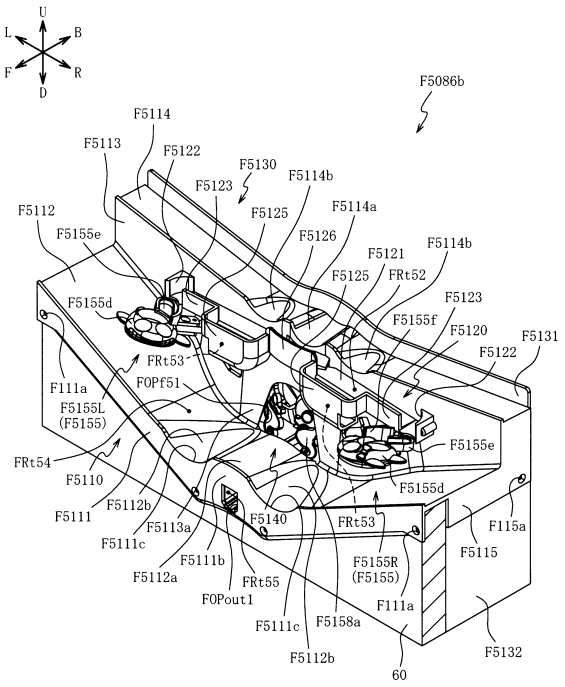
【図１６７５】



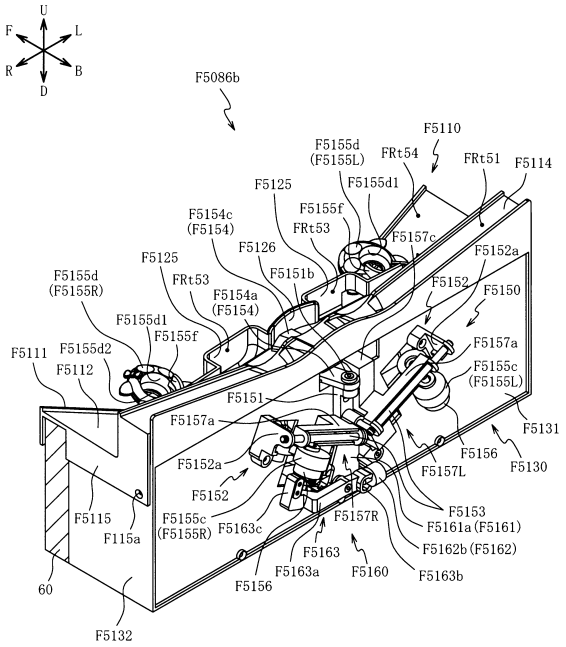
【図１６７６】



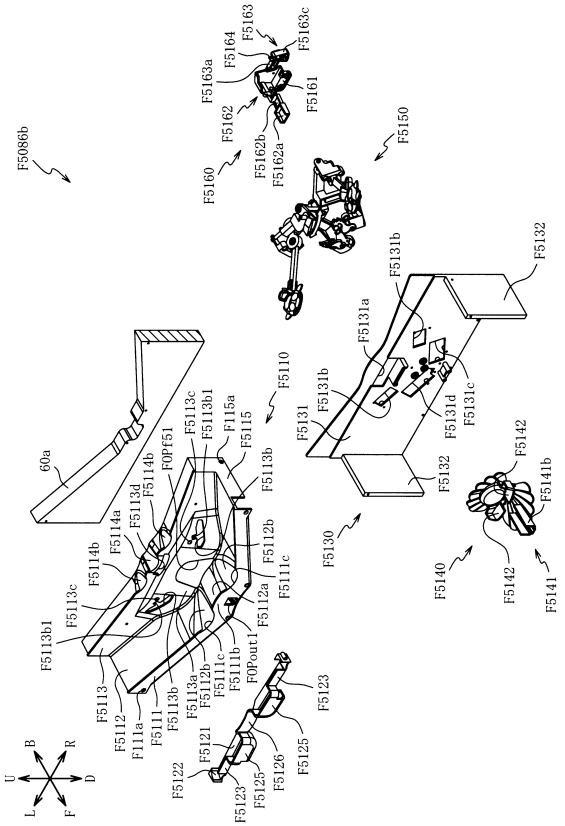
【図１６７７】



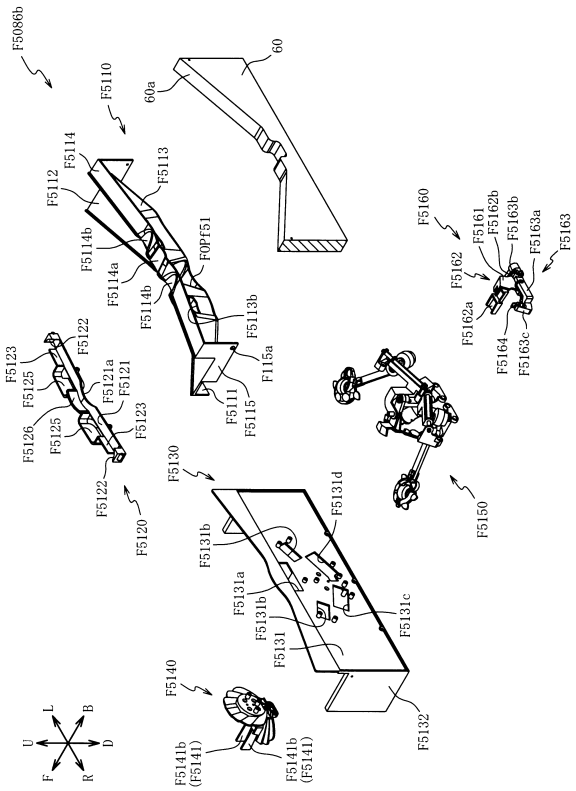
【図１６７８】



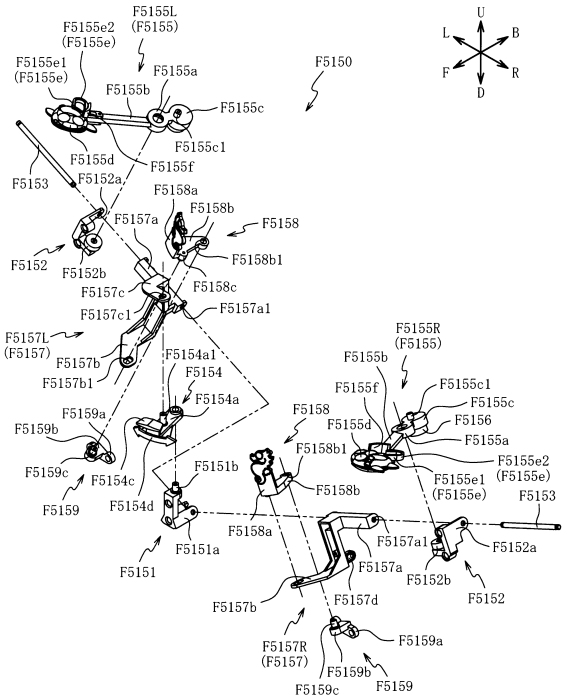
【図１６７９】



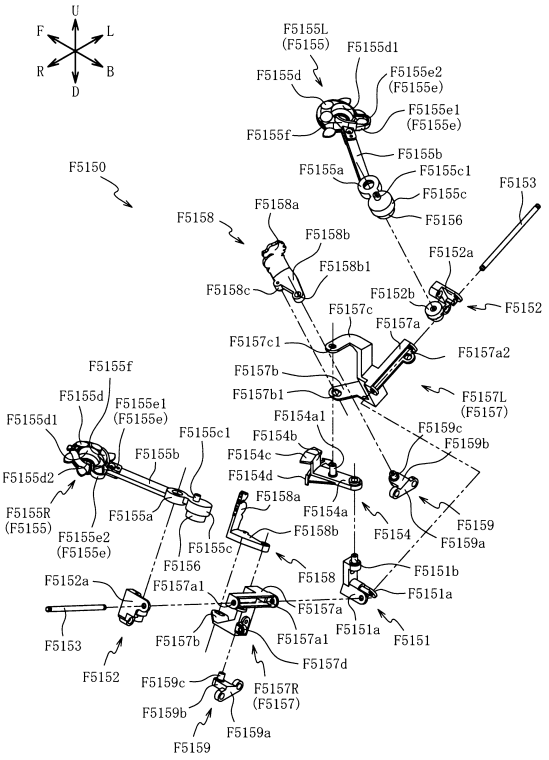
【図１６８０】



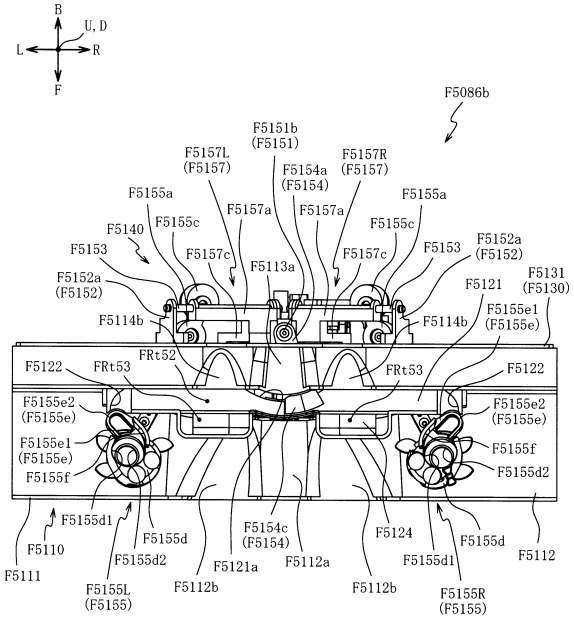
【図１６８１】



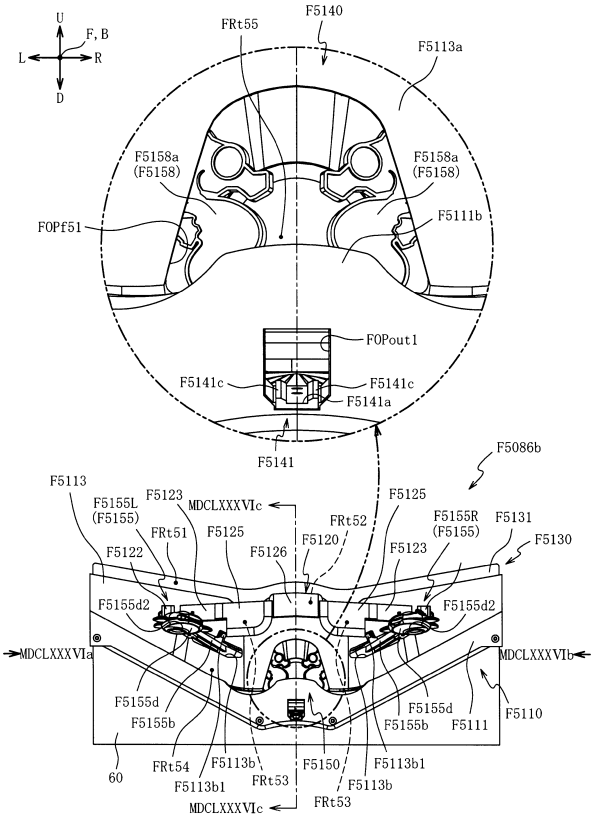
【図１６８２】



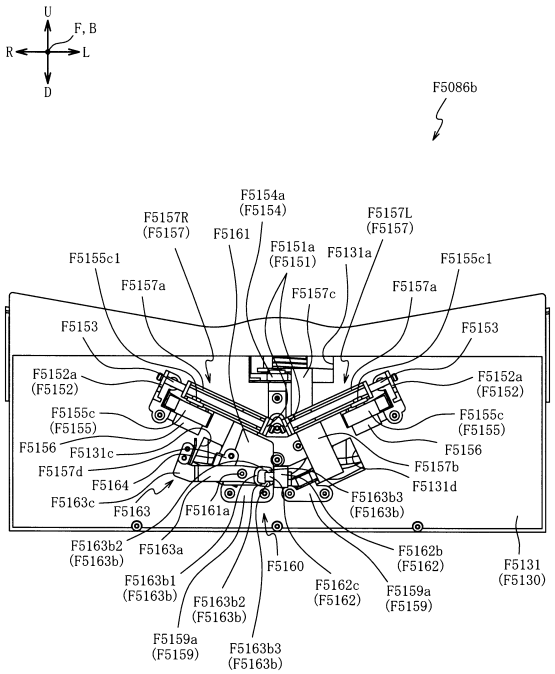
【図１６８３】



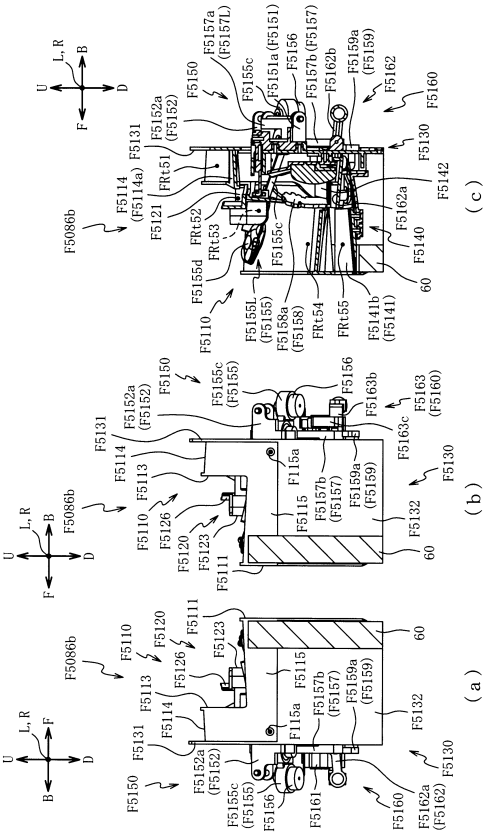
【図１６８４】



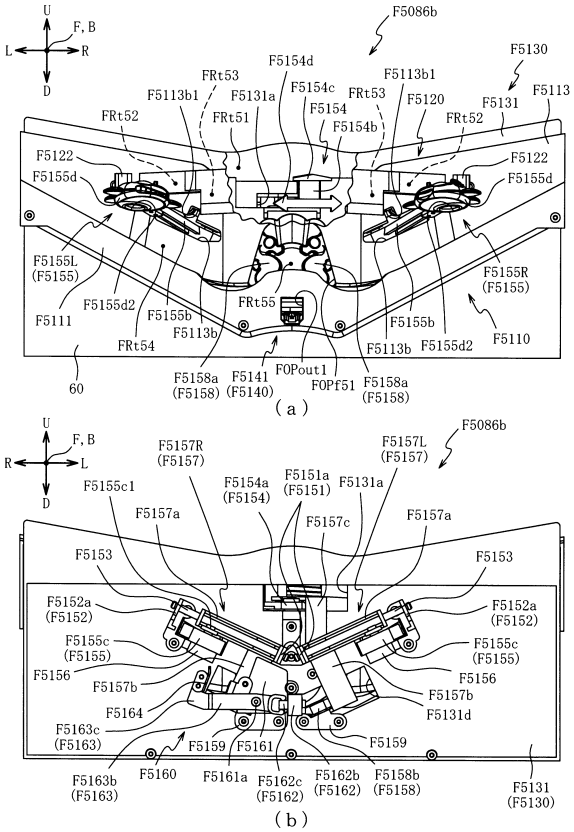
【図１６８５】



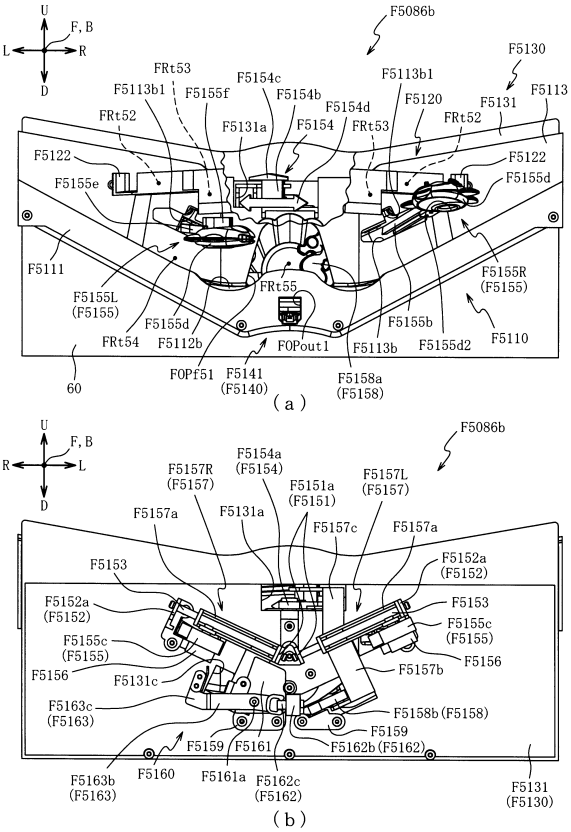
【図１６８６】



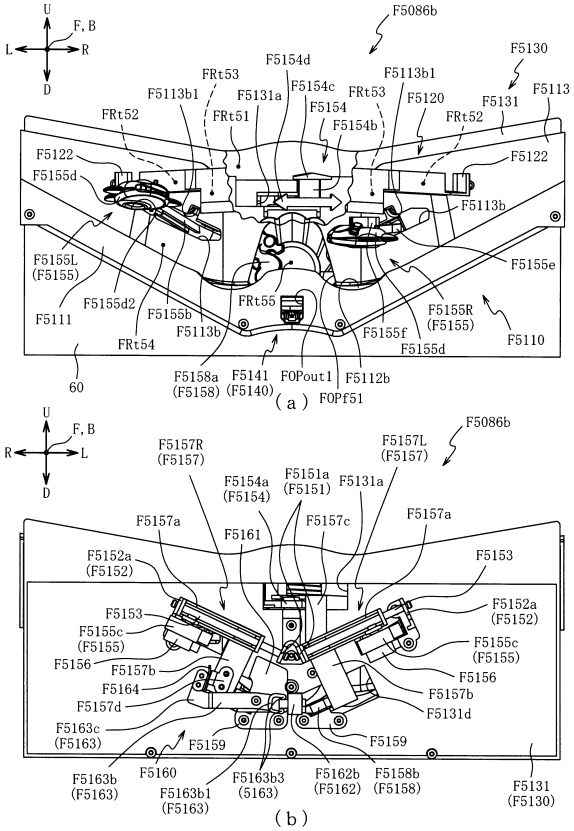
【図１６８７】



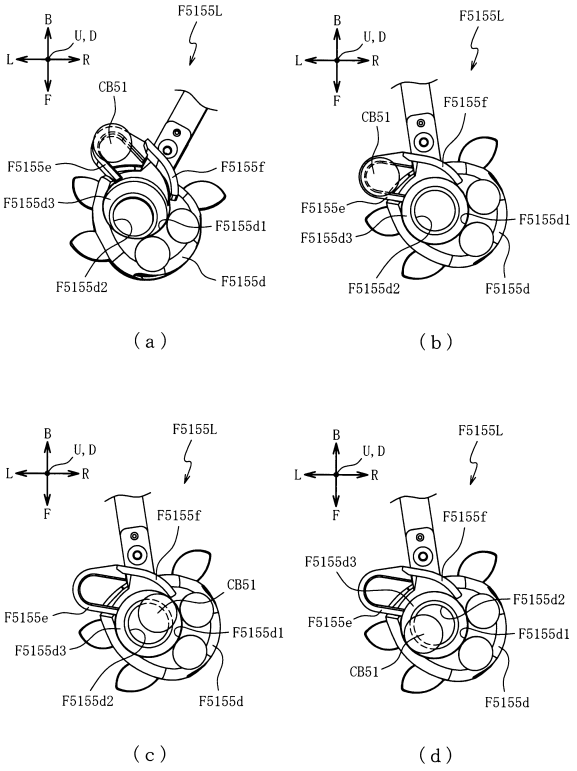
【図１６８８】



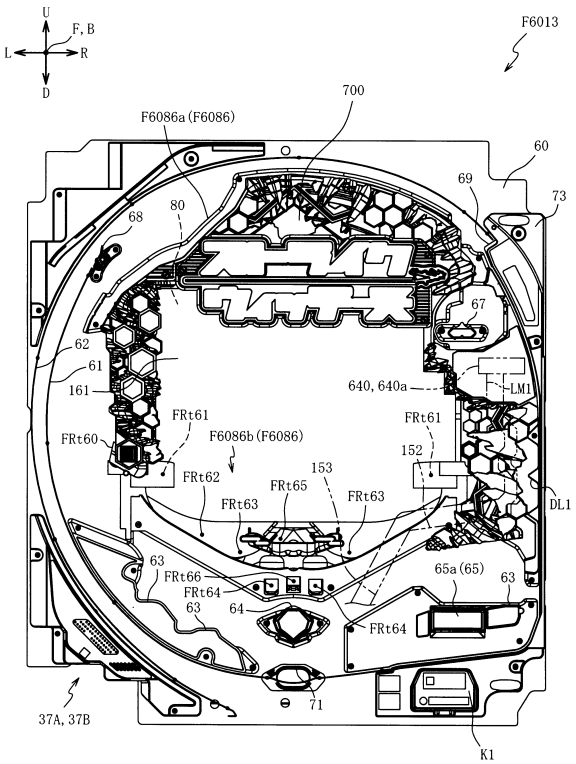
【図１６８９】



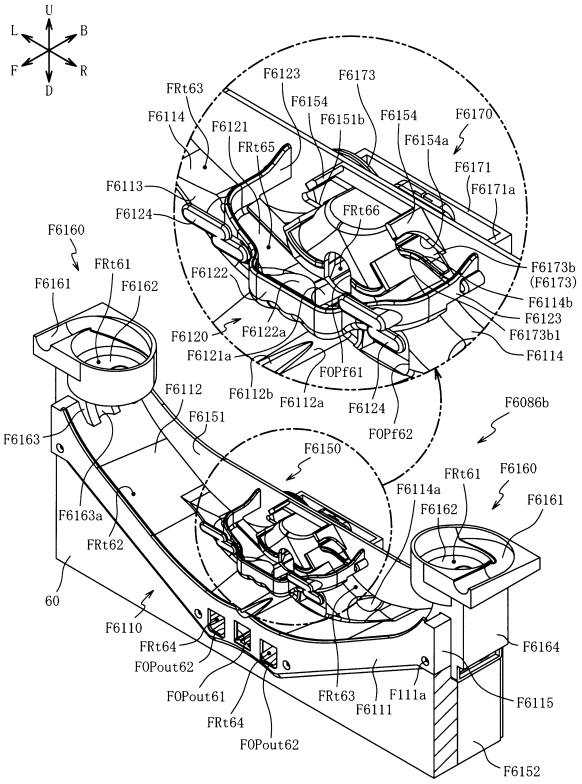
【図１６９０】



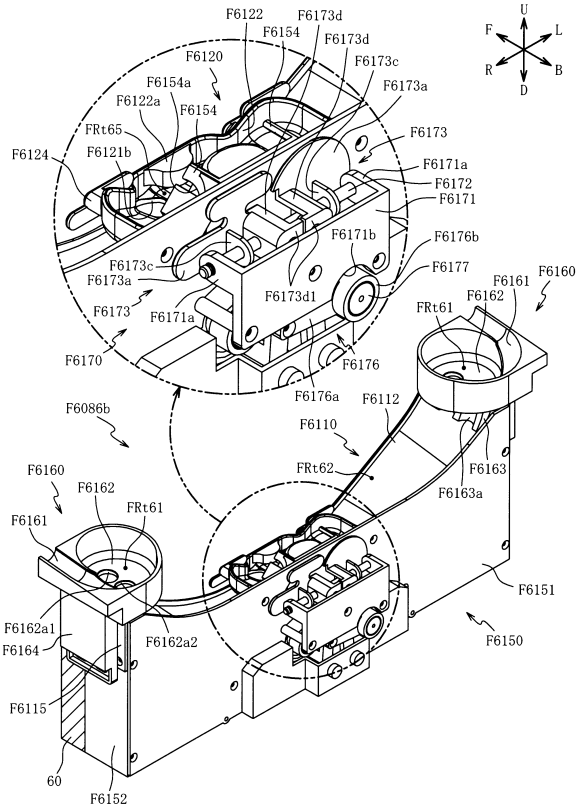
【図１６９１】



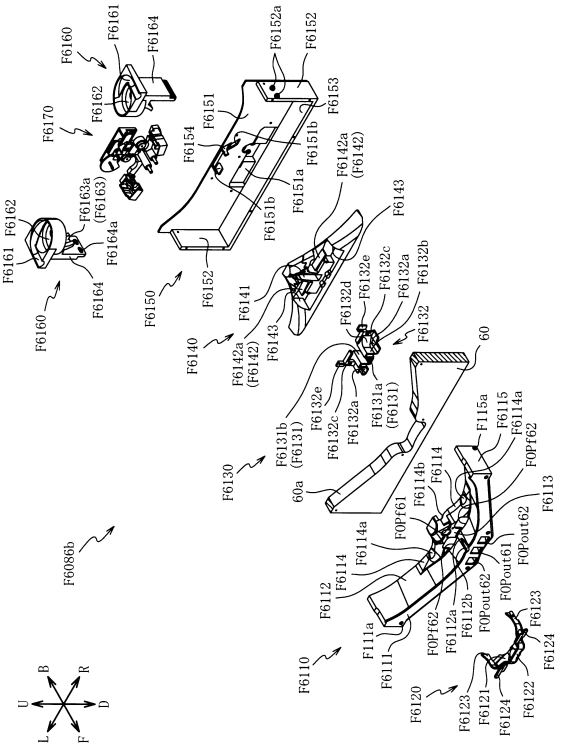
【図１６９２】



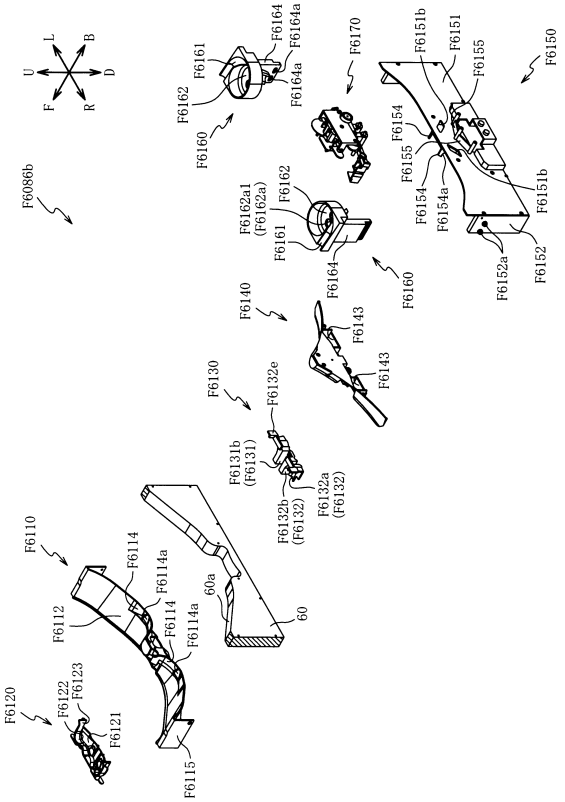
【図１６９３】



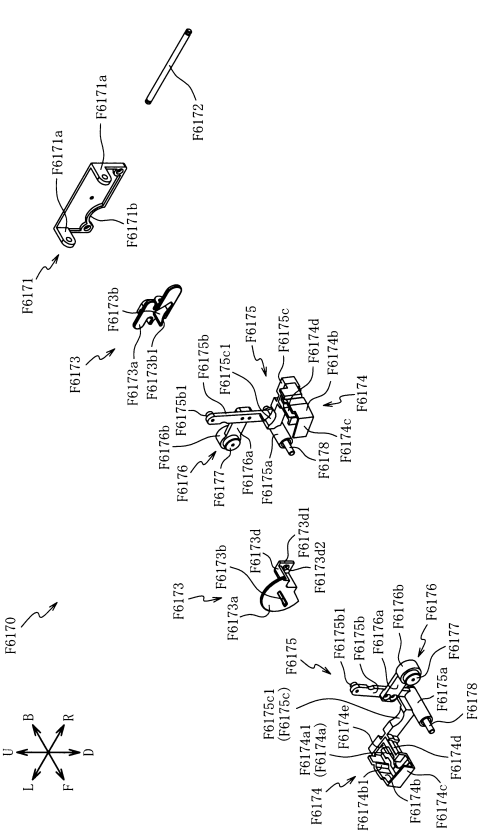
【図１６９４】



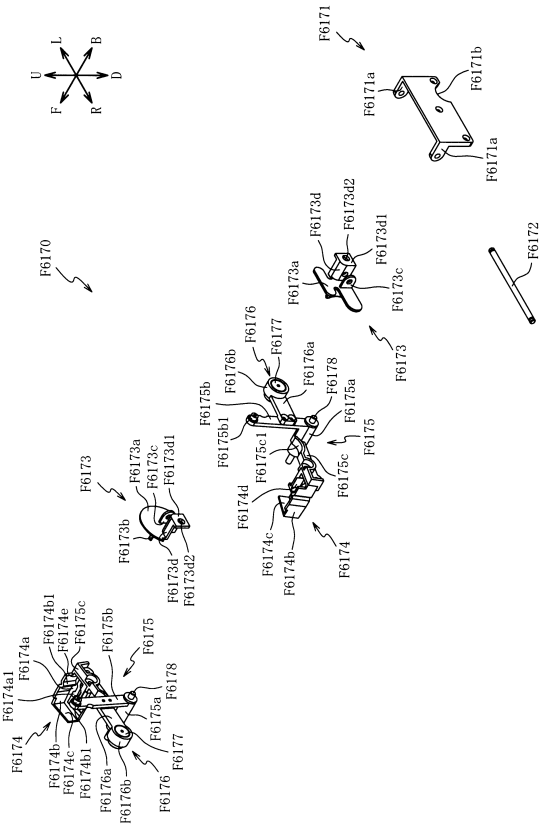
【図１６９５】



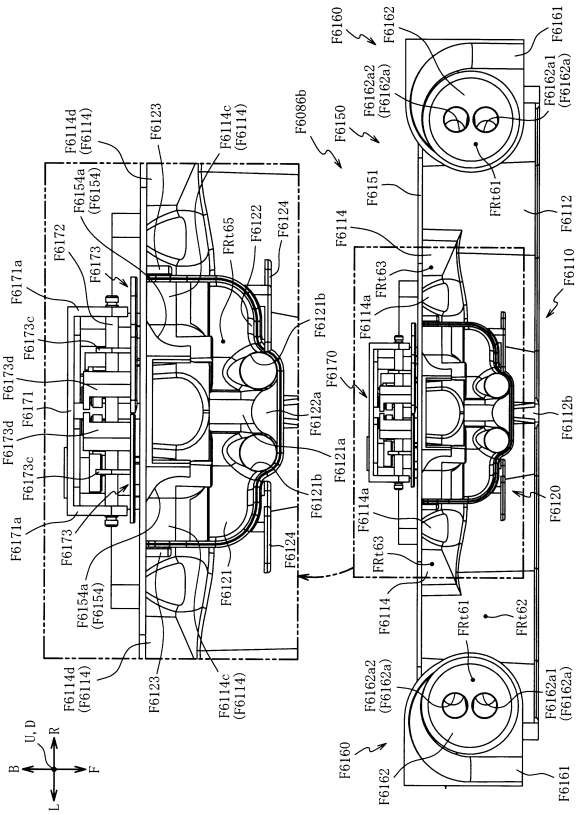
【図１６９６】



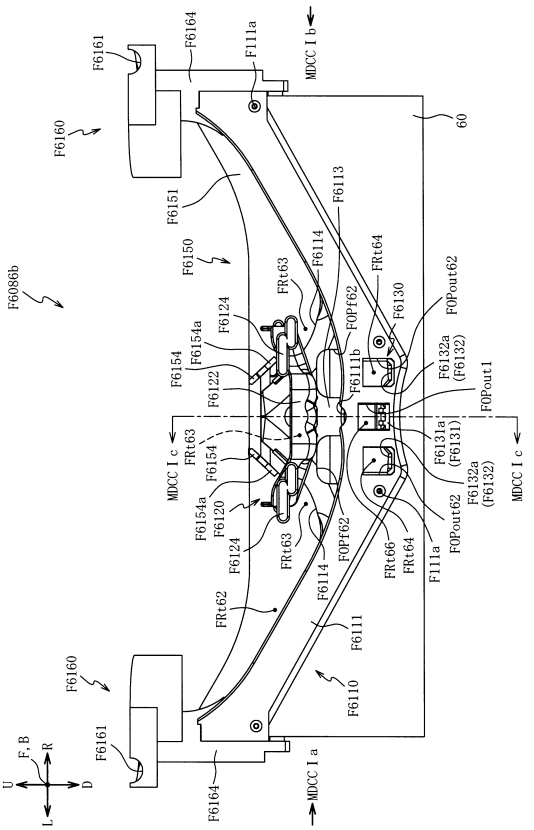
【図１６９７】



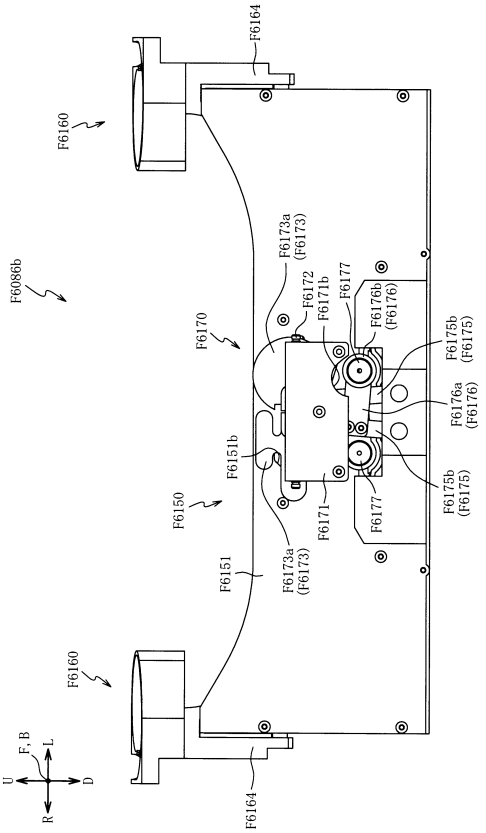
【図１６９８】



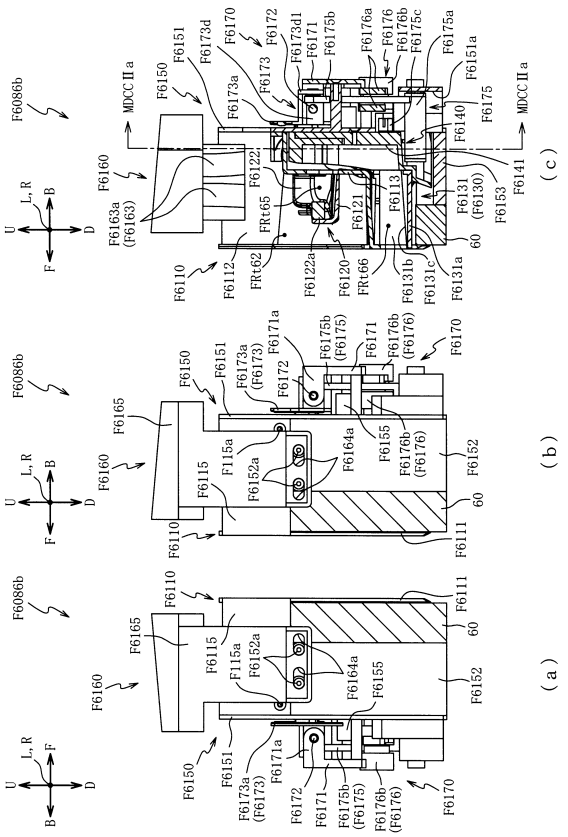
【図１６９９】



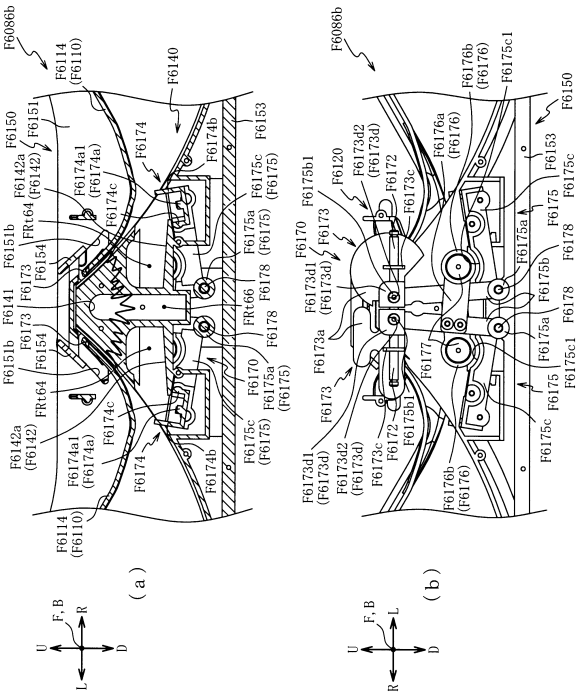
【図１７００】



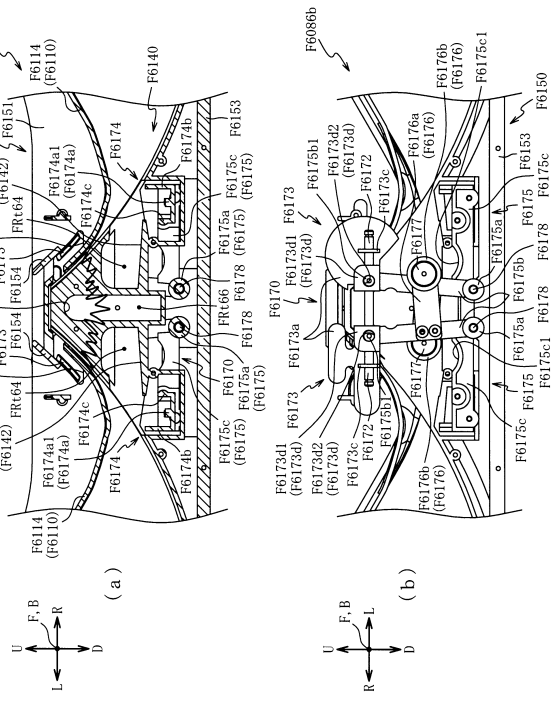
【図１７０１】



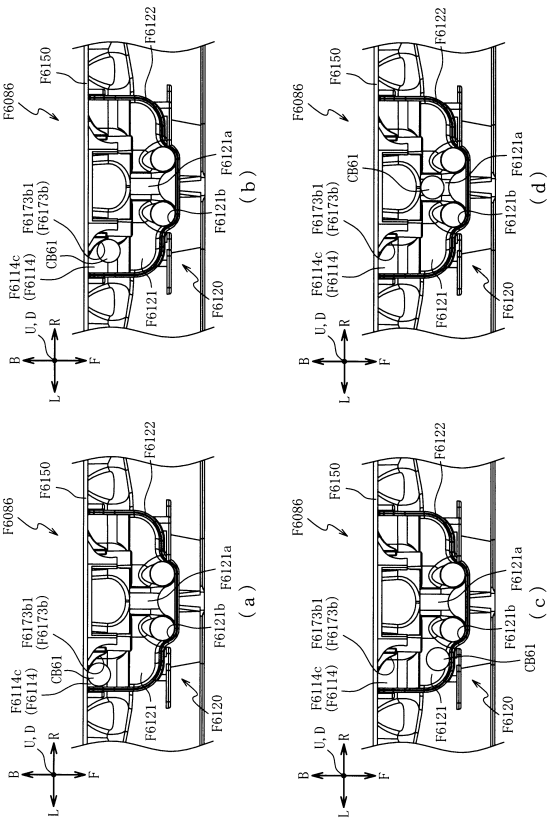
【図１７０２】



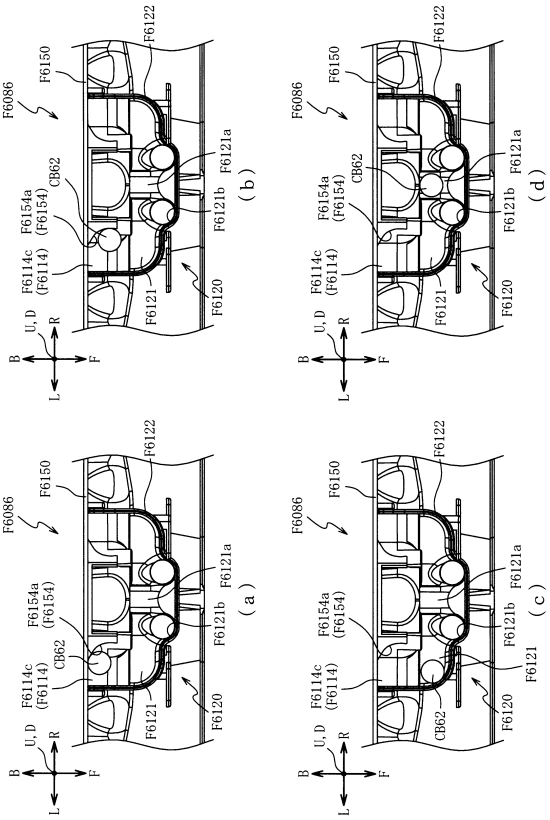
【図１７０３】



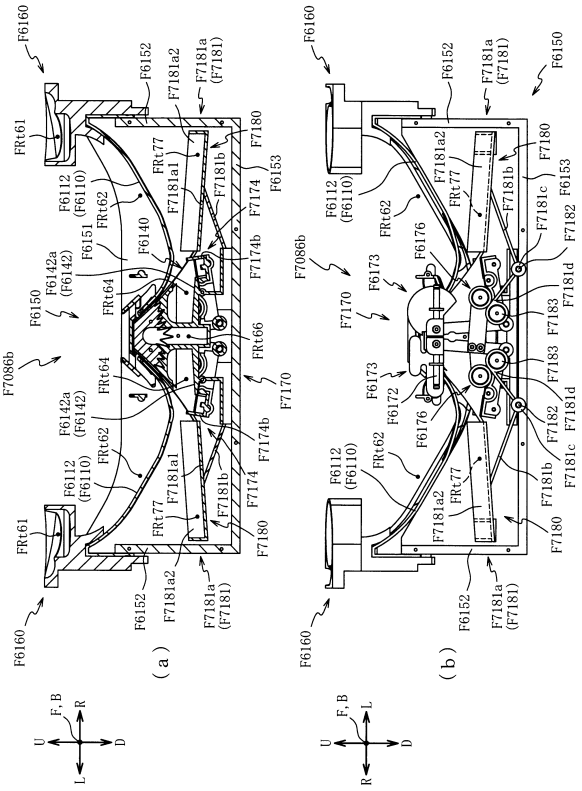
【図１７０４】



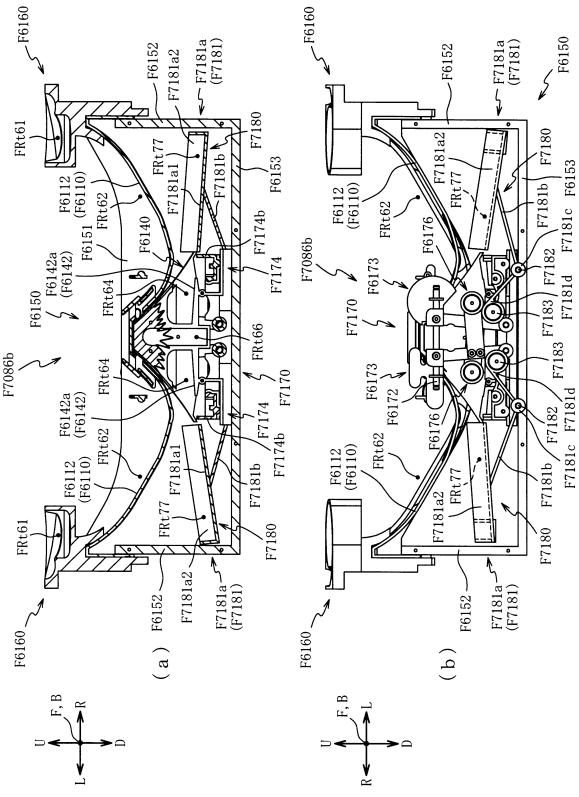
【図１７０５】



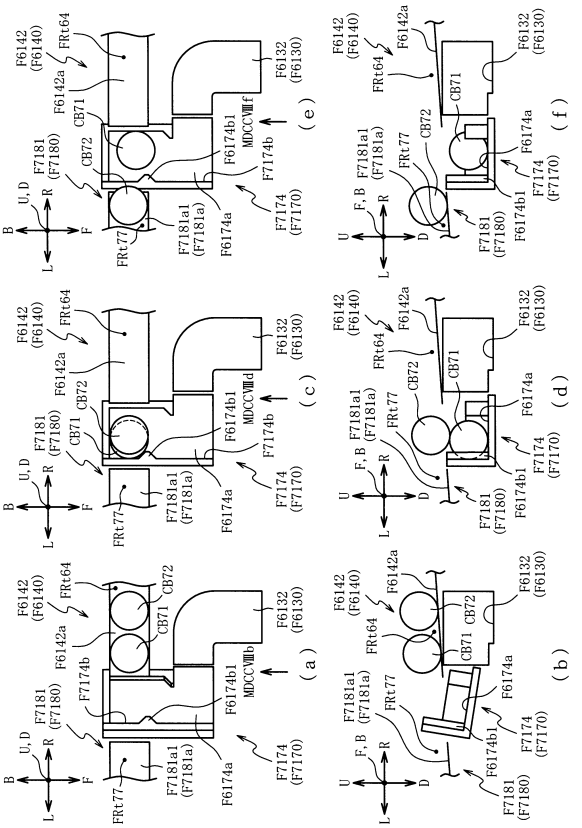
【図１７０６】



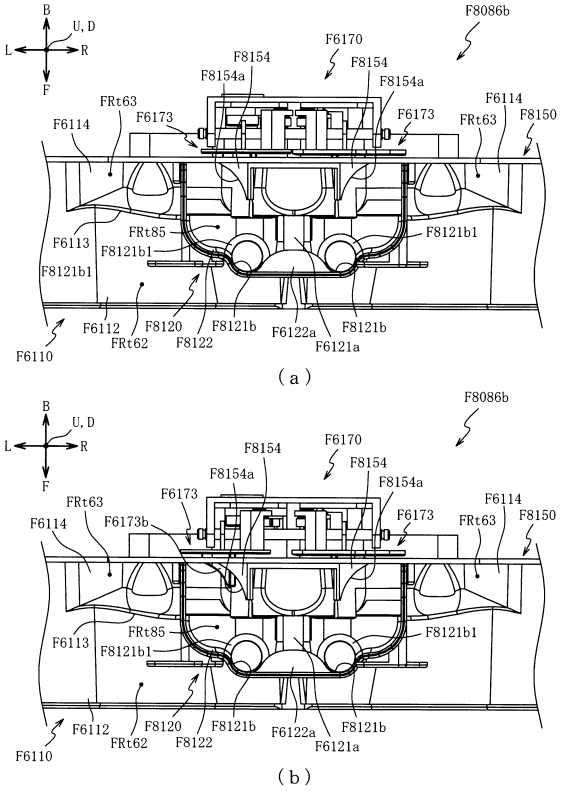
【図１７０７】



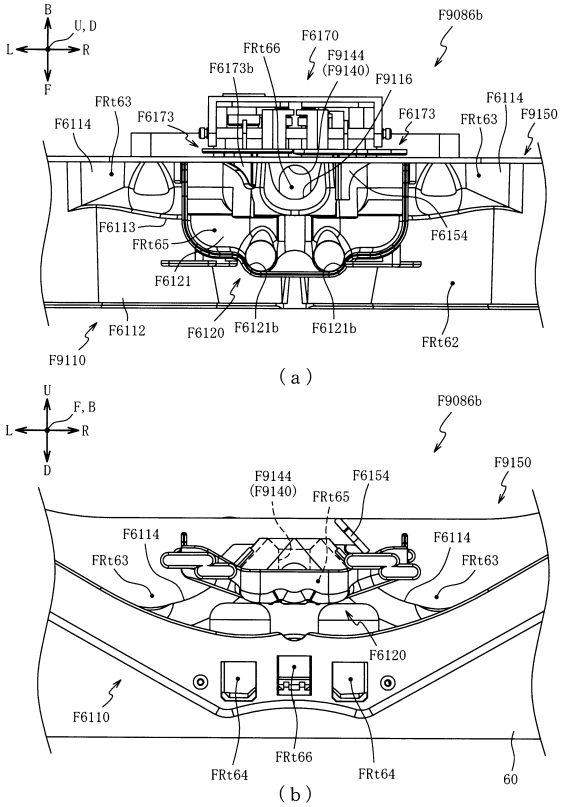
【図１７０８】



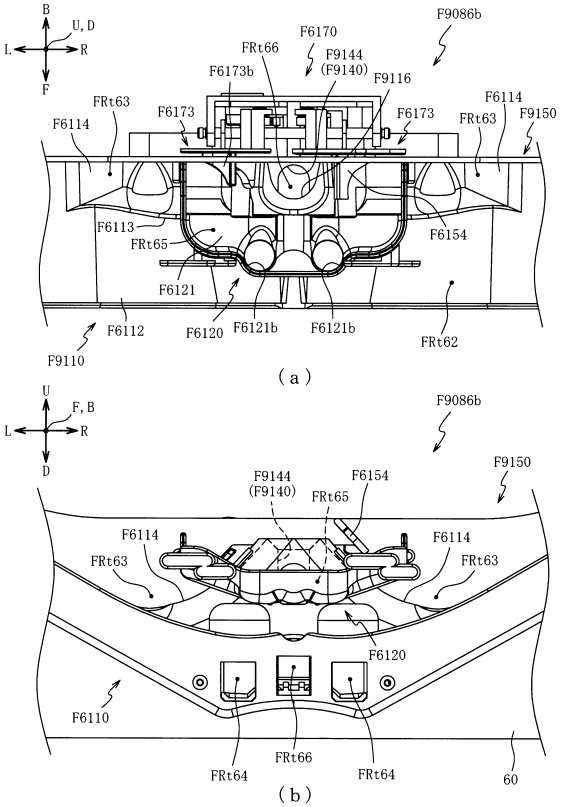
【図１７０９】



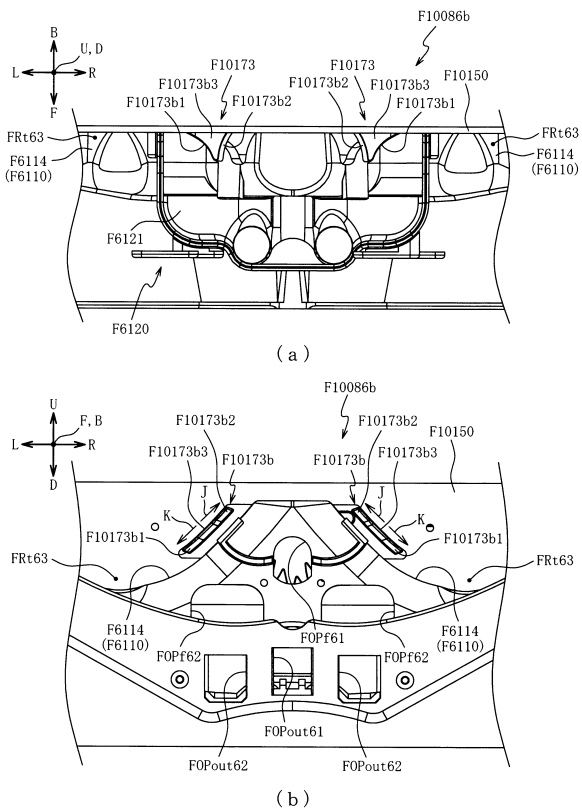
【図１７１０】



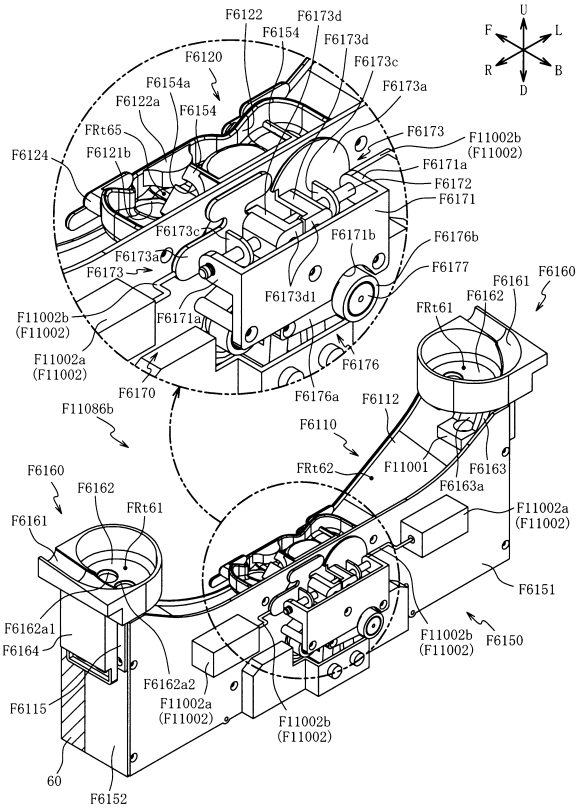
【図１７１１】



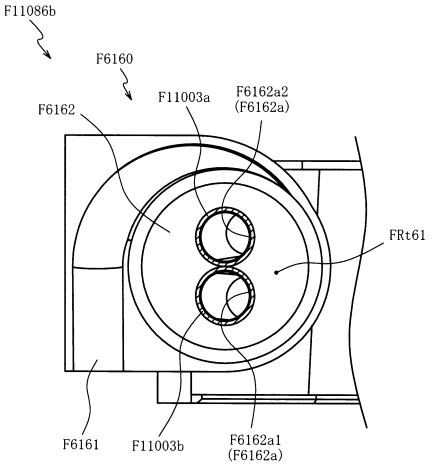
【図１７１２】



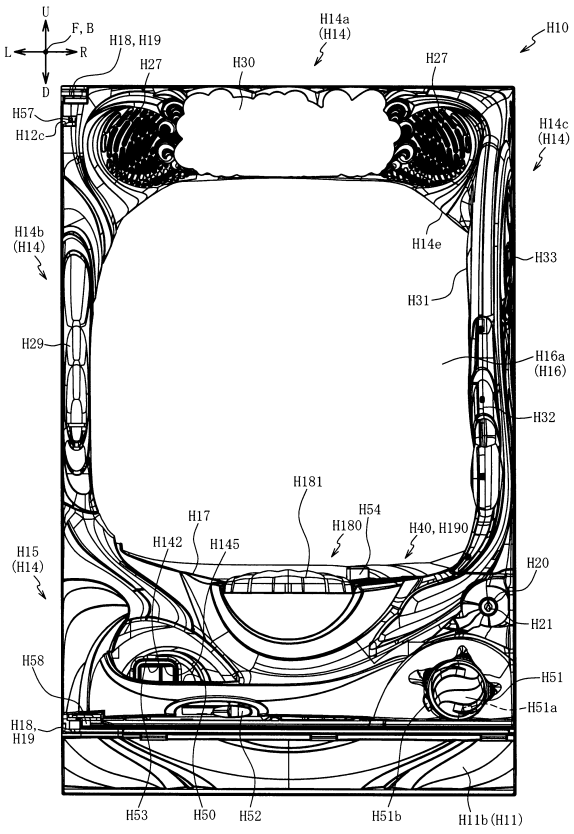
【図１７１３】



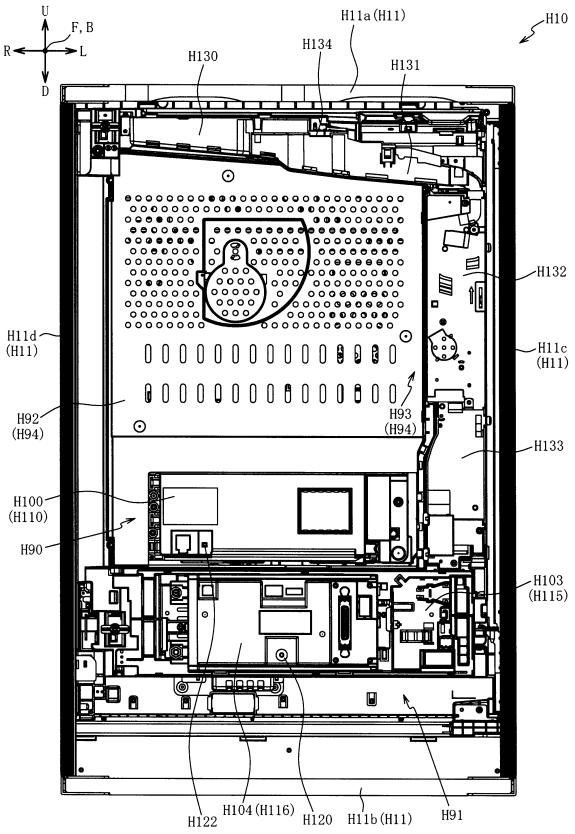
【図１７１４】



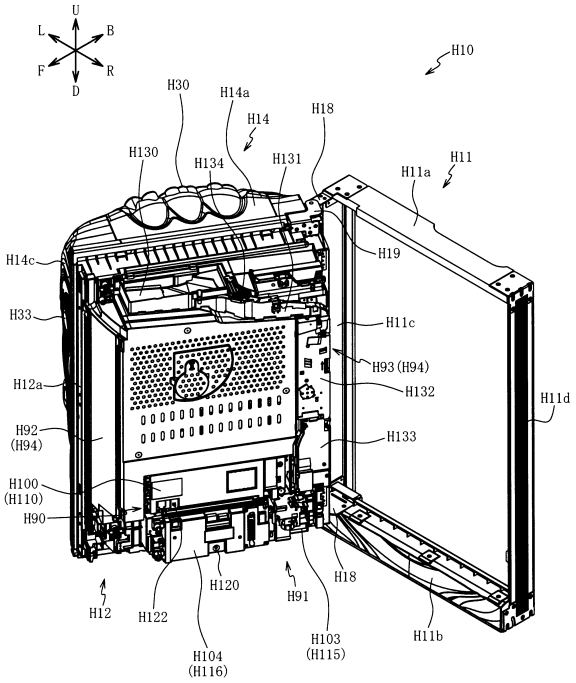
【図１７１５】



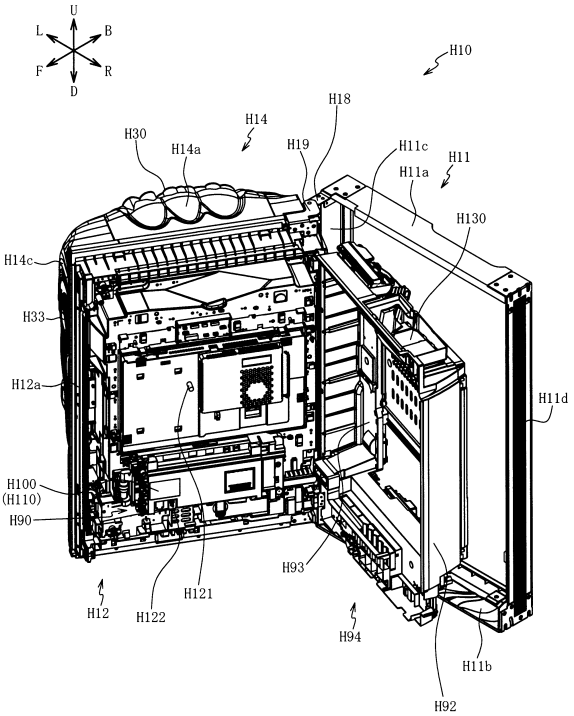
【図１７１６】



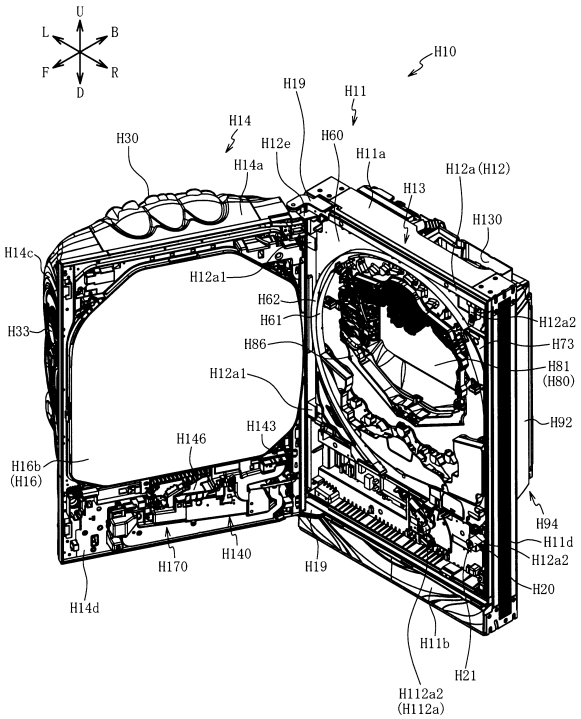
【図１７１７】



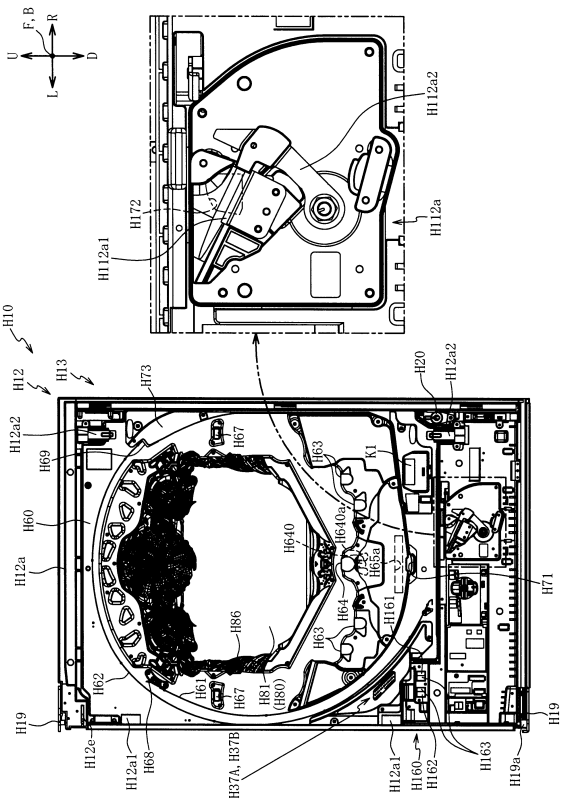
【図１７１８】



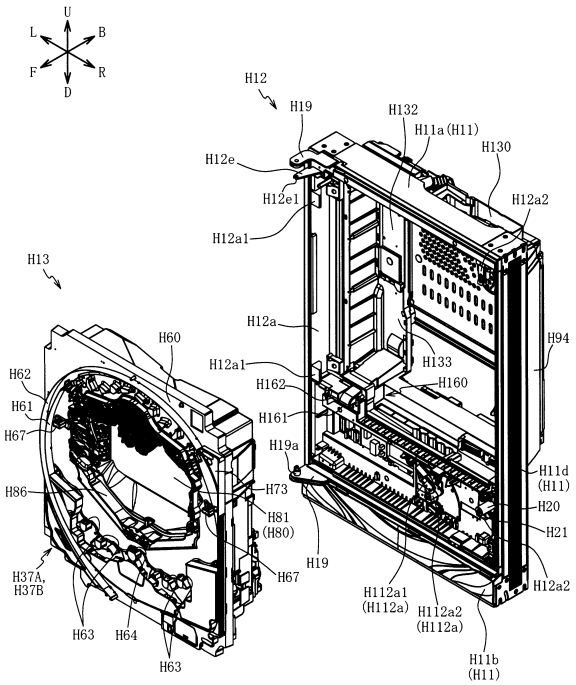
【図１７１９】



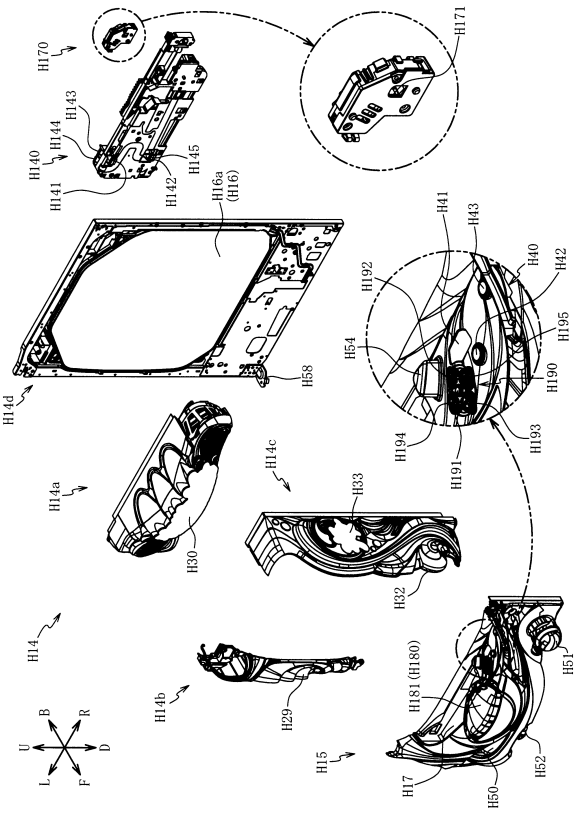
【図１７２０】



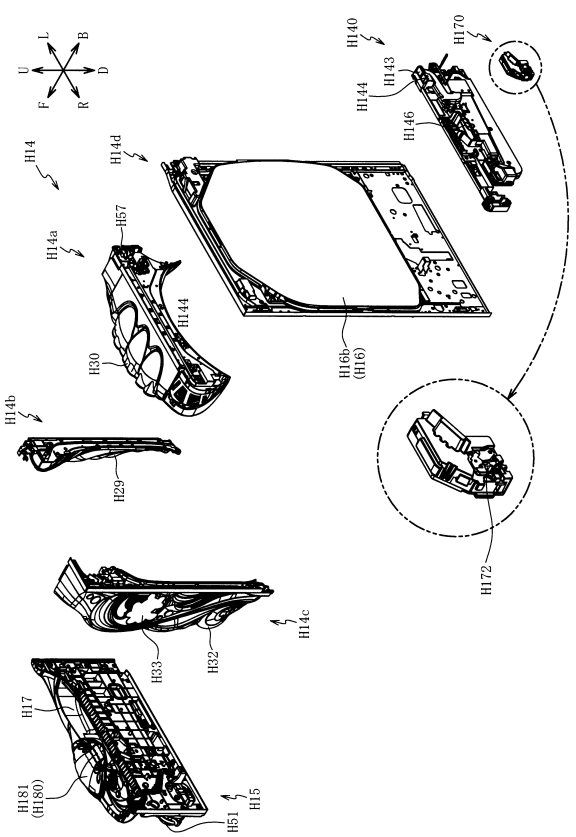
【図１７２１】



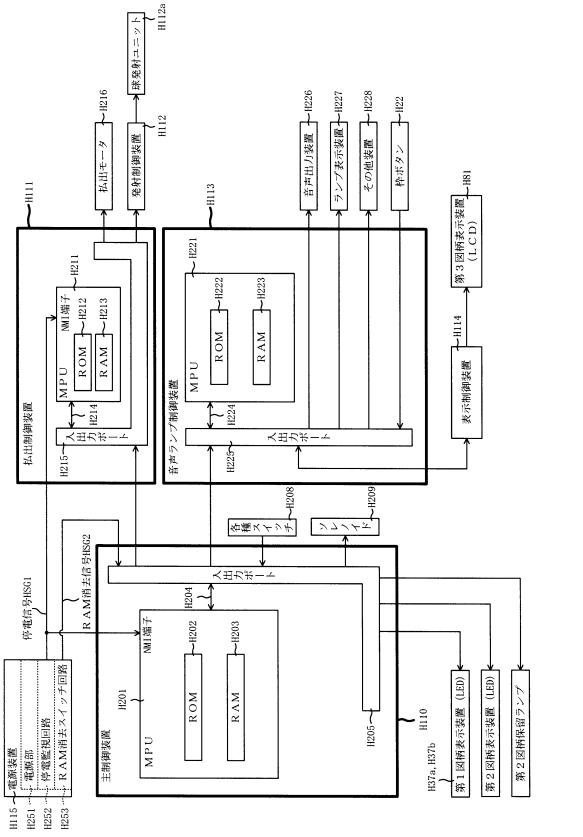
【図１７２２】



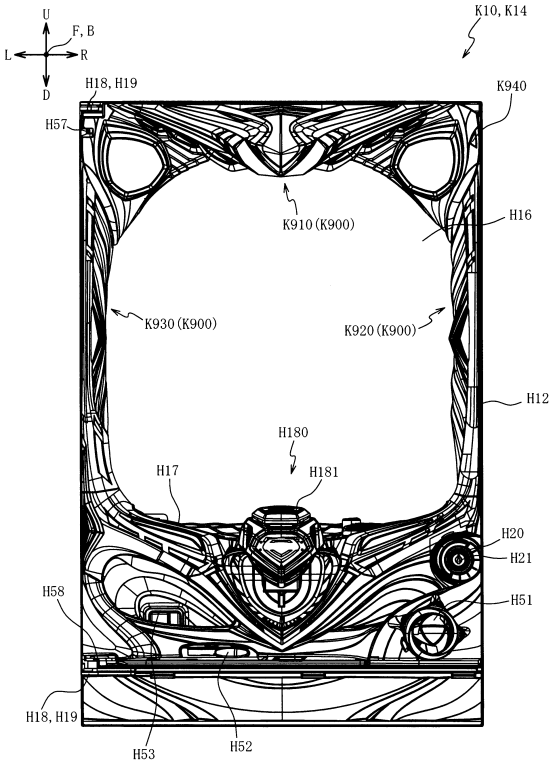
【図１７２３】



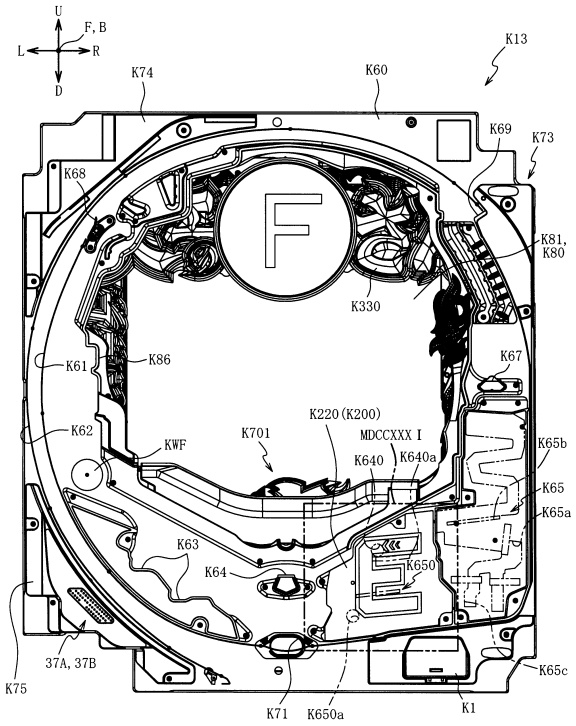
【図１７２４】



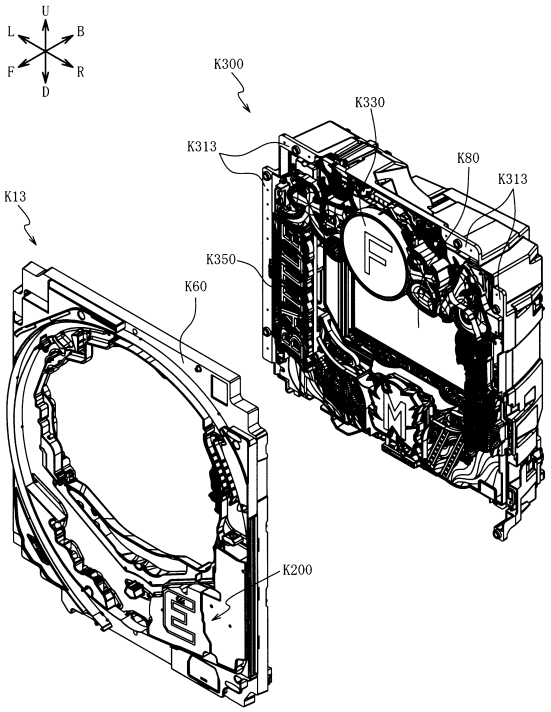
【図１７２５】



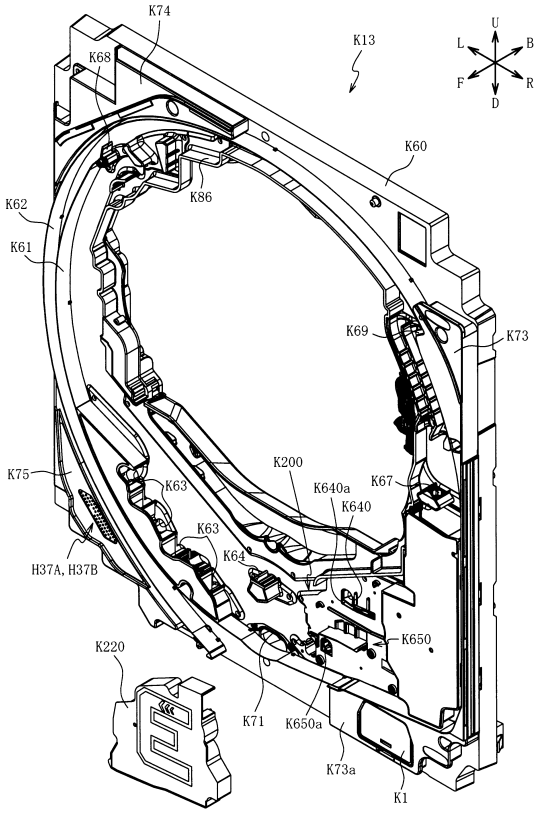
【図１７２６】



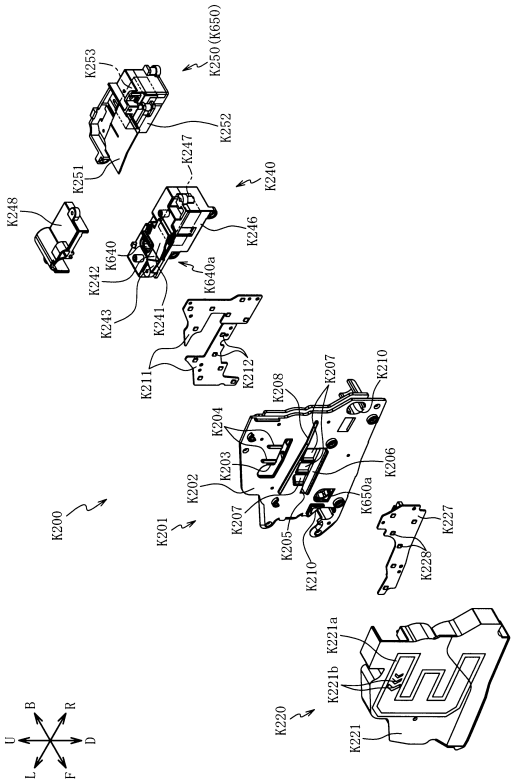
【図１７２７】



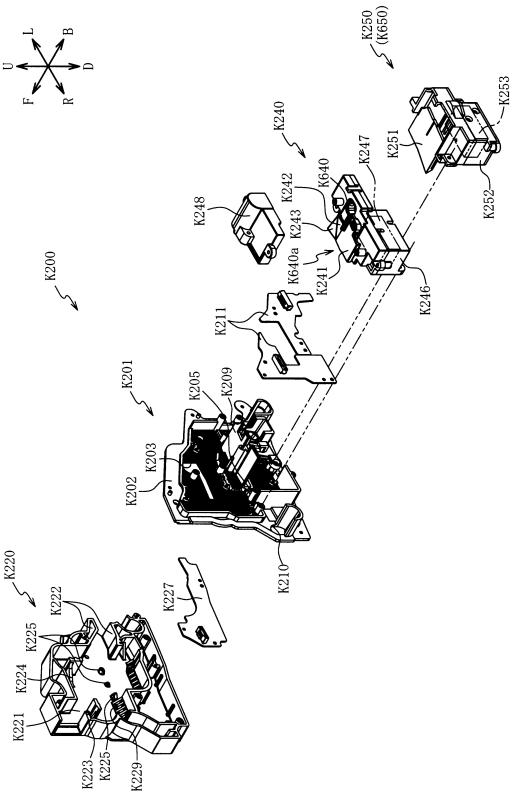
【図１７２８】



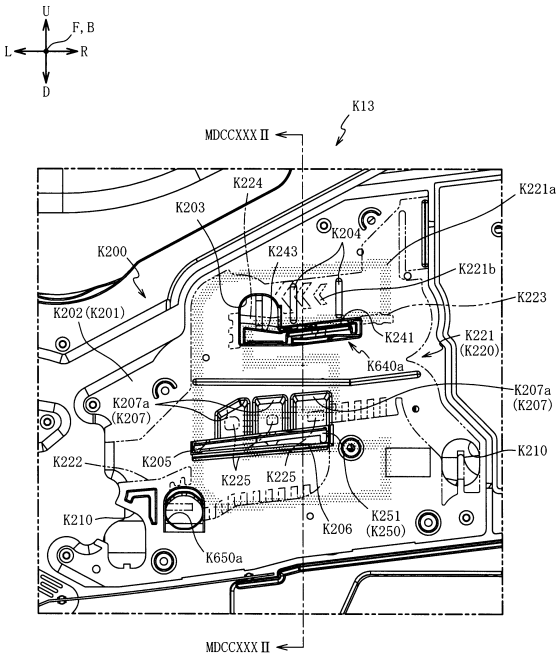
【図１７２９】



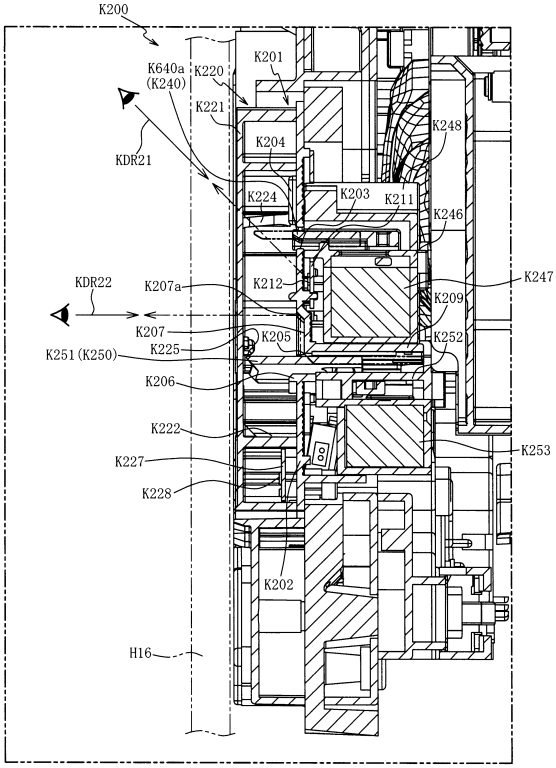
【図１７３０】



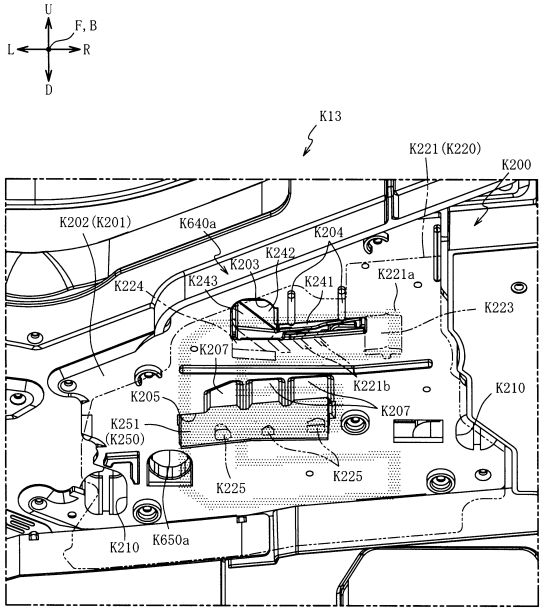
【図１７３１】



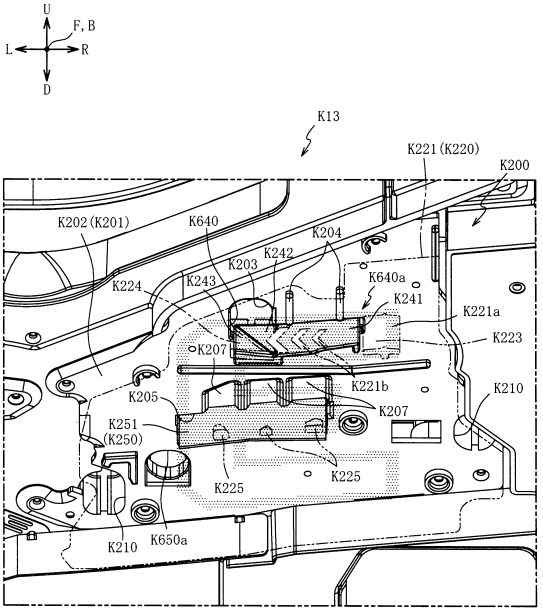
【図１７３２】



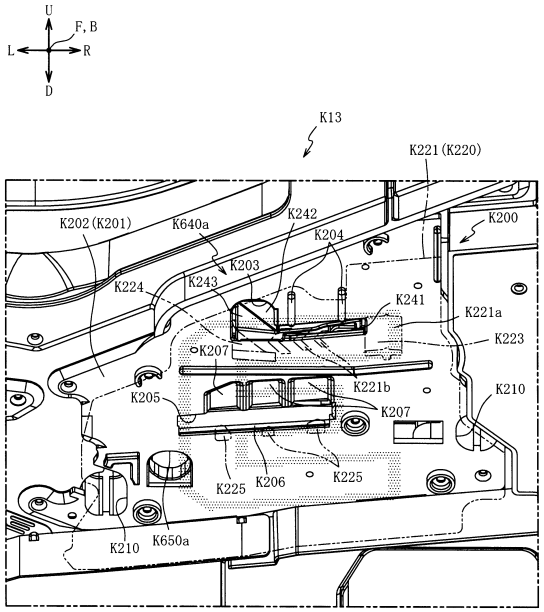
【図１７３３】



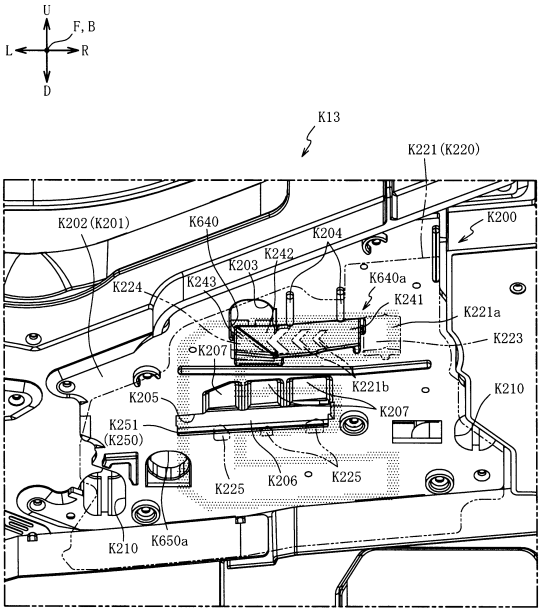
【図１７３４】



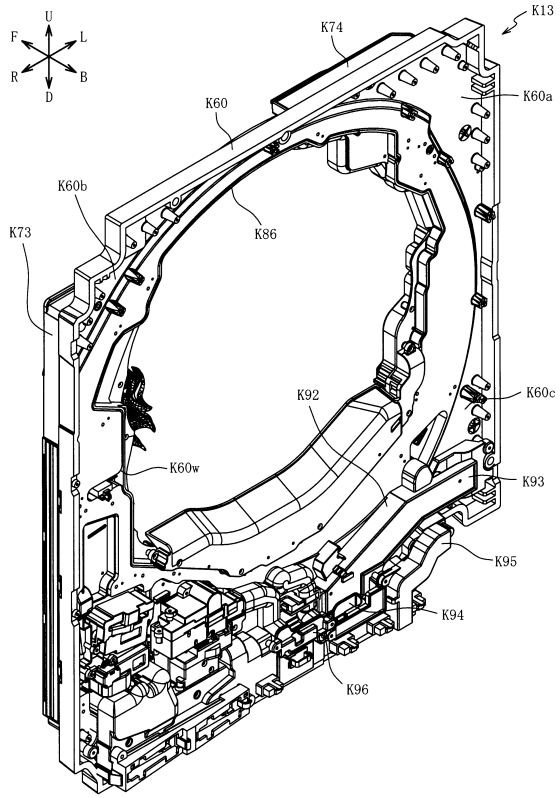
【図１７３５】



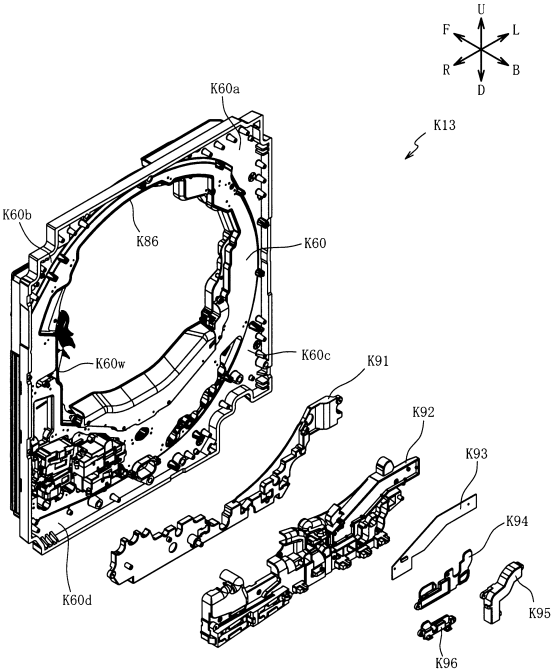
【図１７３６】



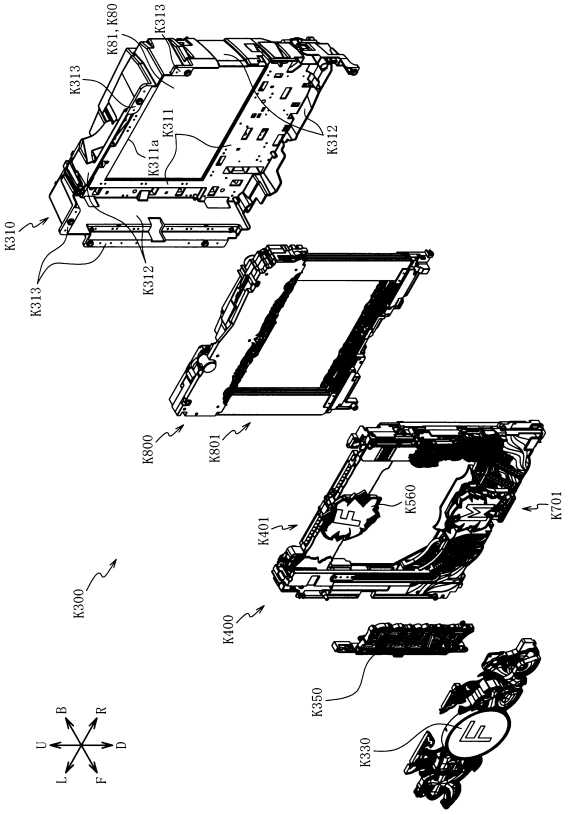
【図１７３７】



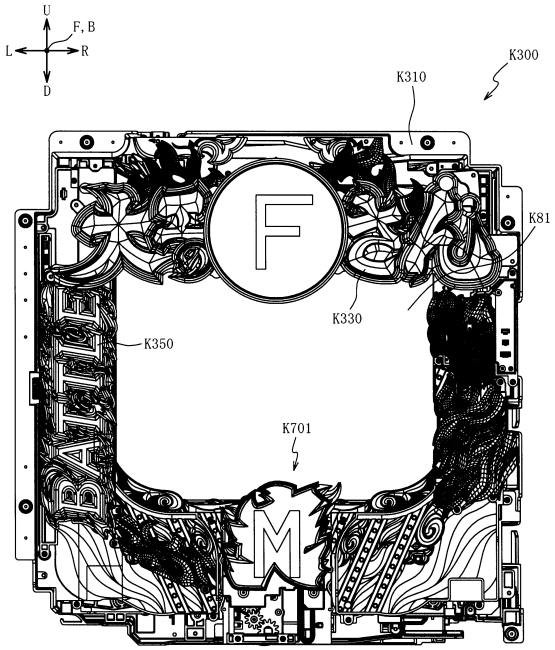
【図１７３８】



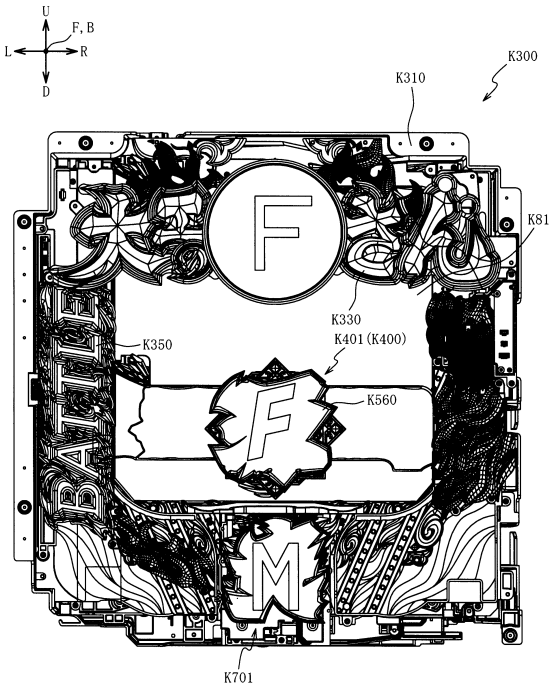
【図１７３９】



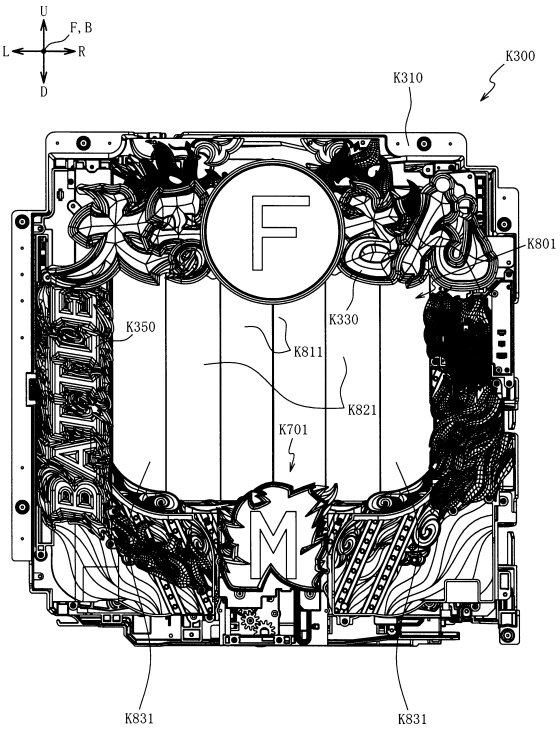
【図１７４０】



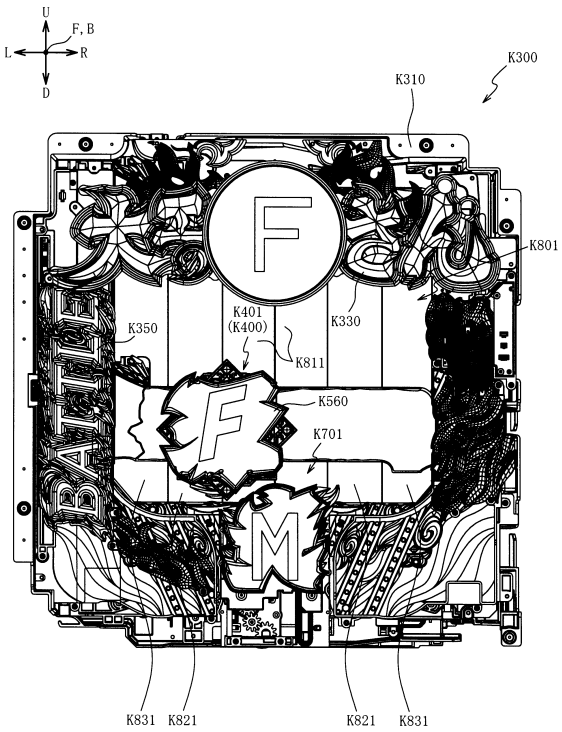
【図１７４１】



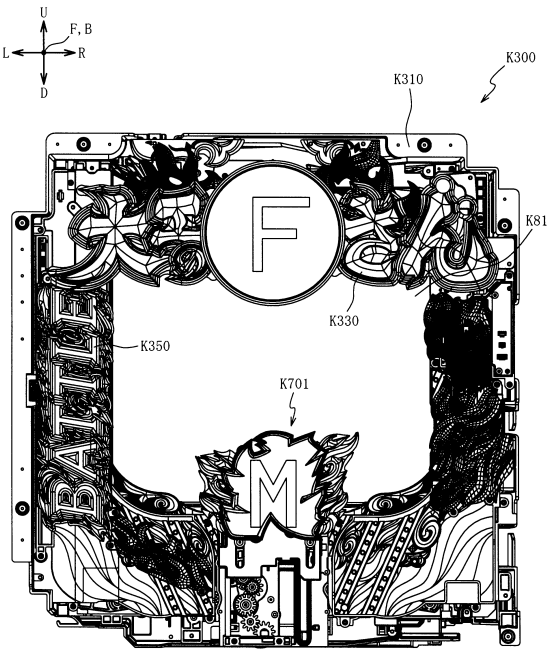
【図１７４２】



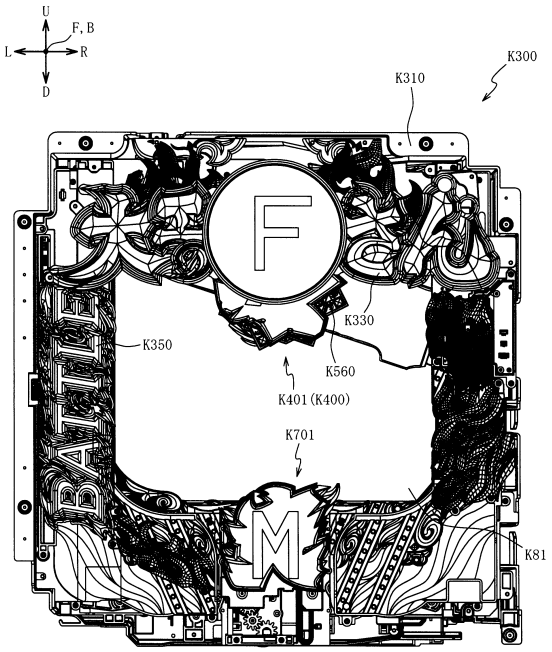
【図１７４３】



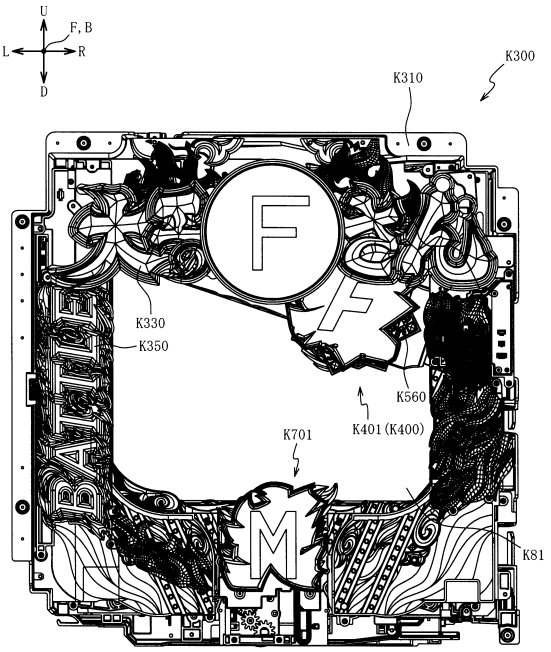
【図１７４４】



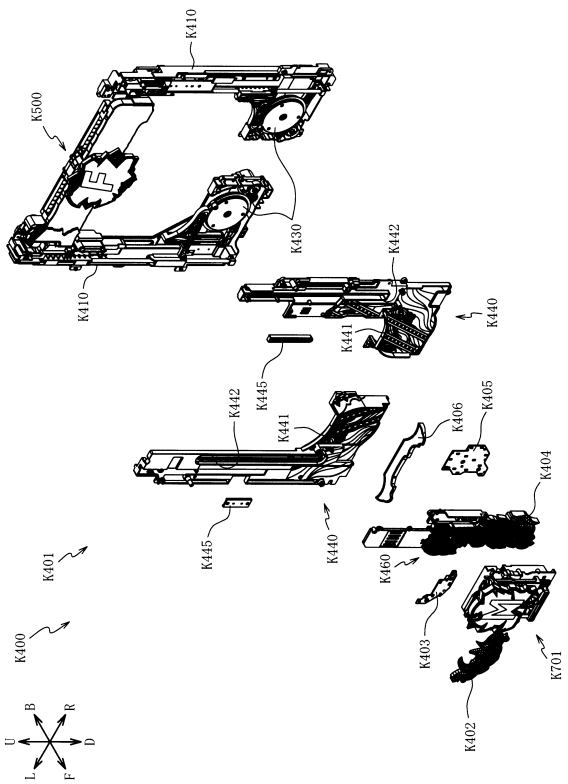
【図１７４５】



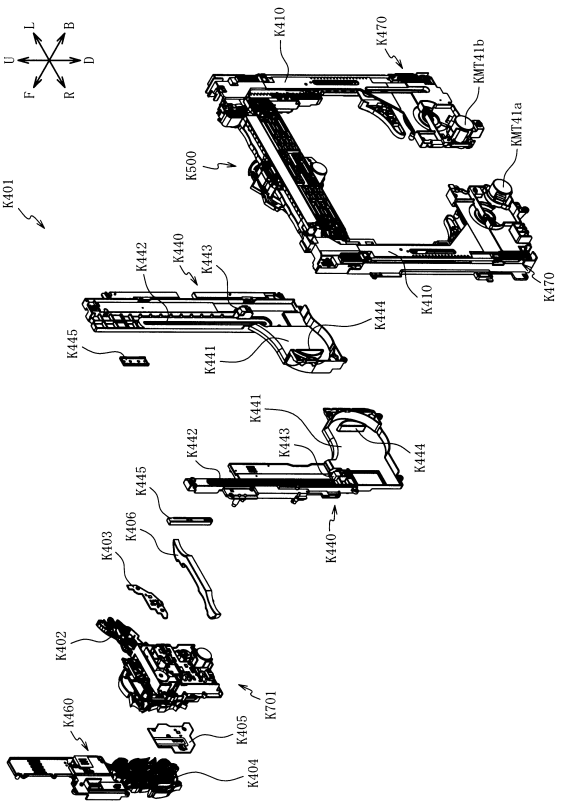
【図１７４６】



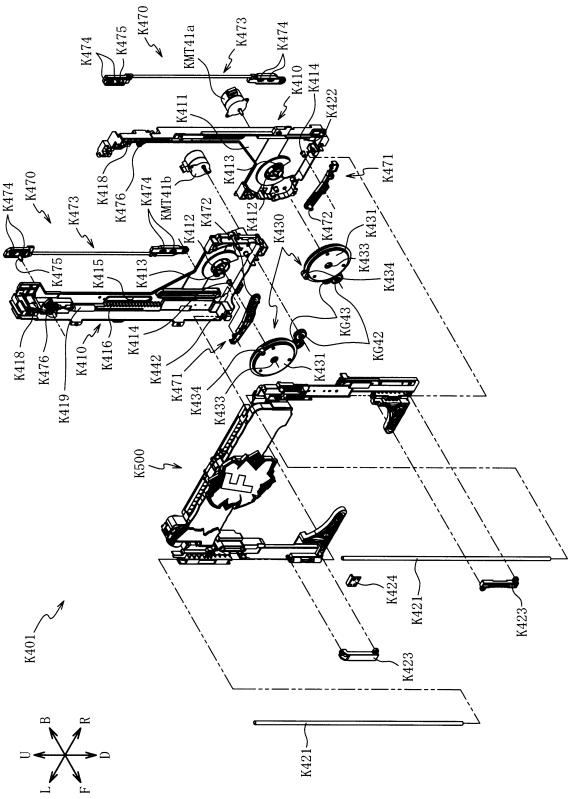
【図１７４７】



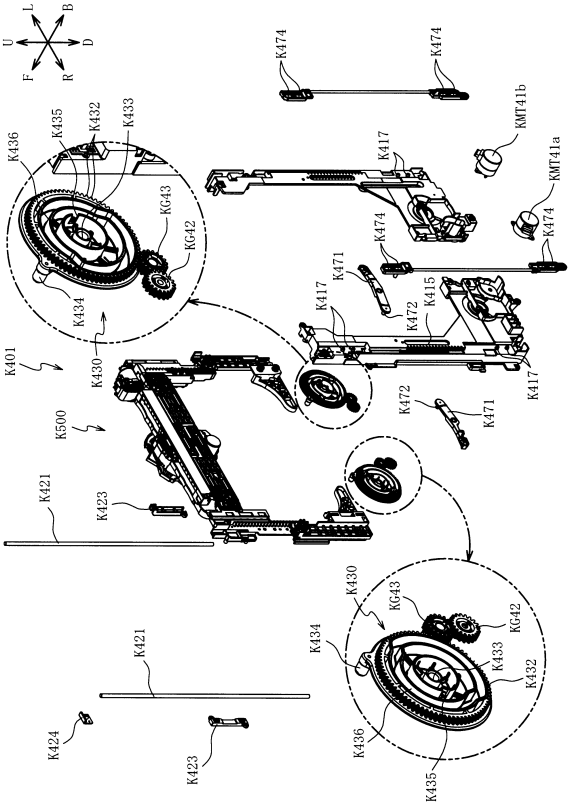
【図１７４８】



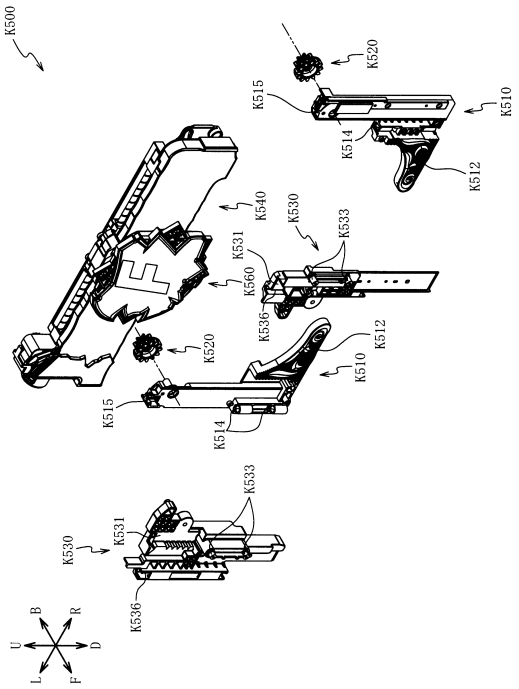
【図１７４９】



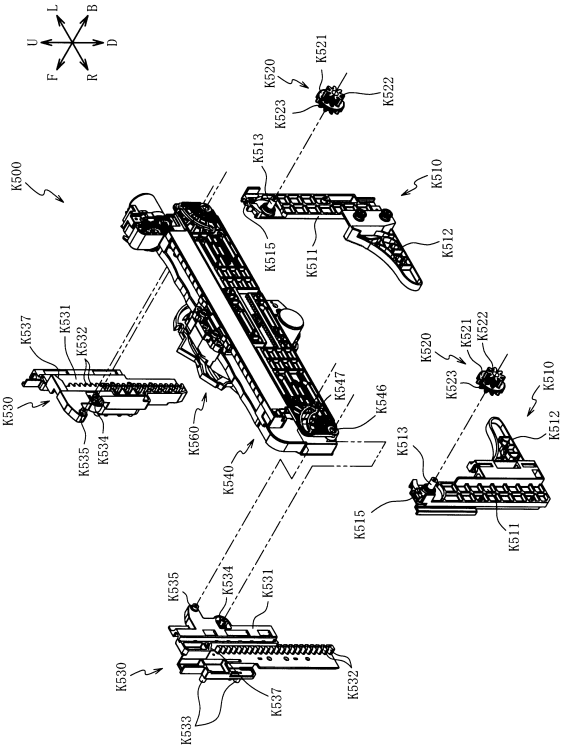
【図１７５０】



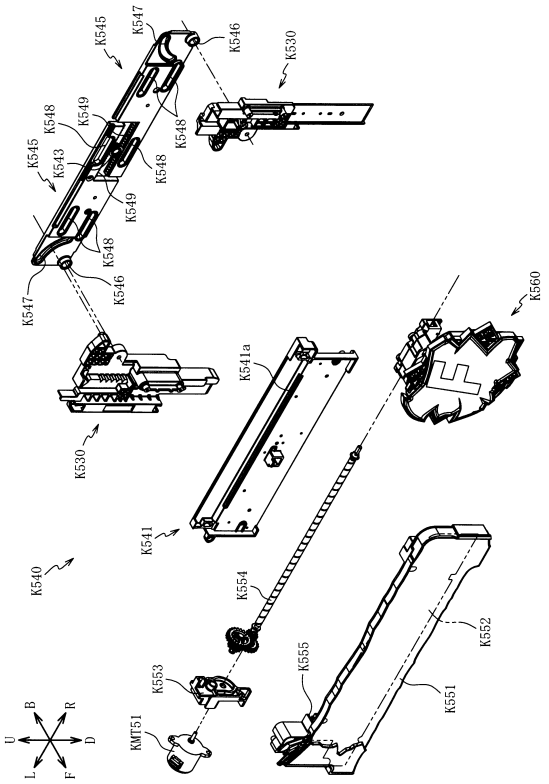
【図１７５１】



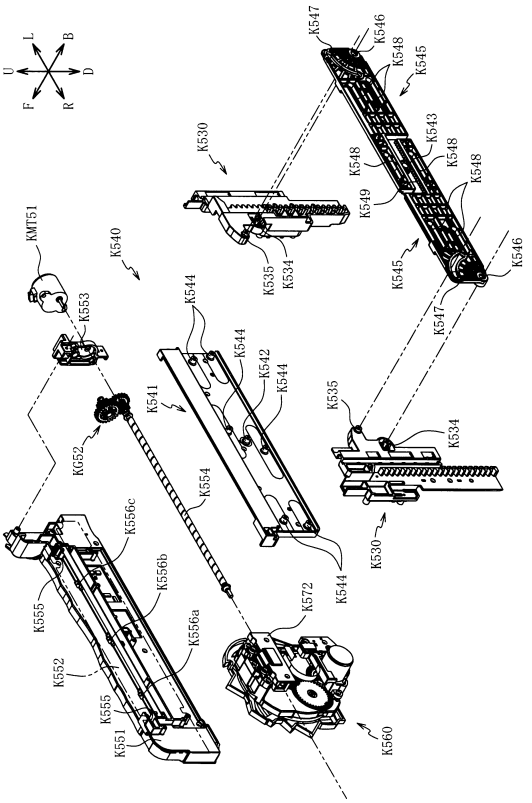
【図１７５２】



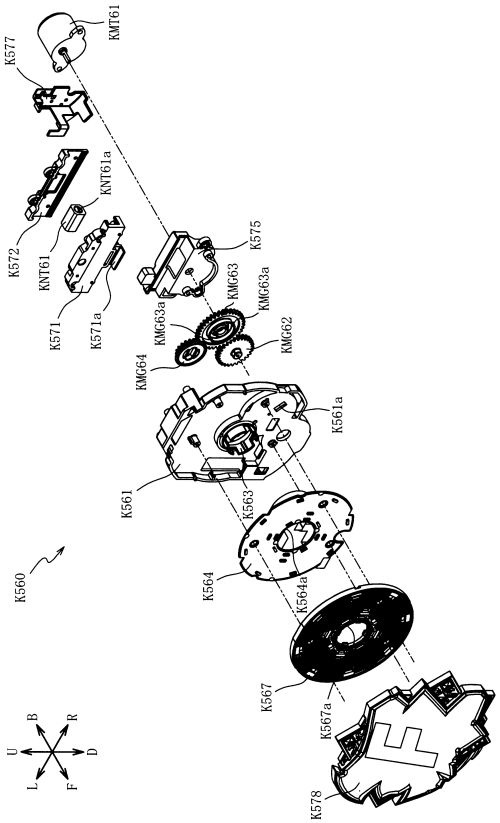
【図１７５３】



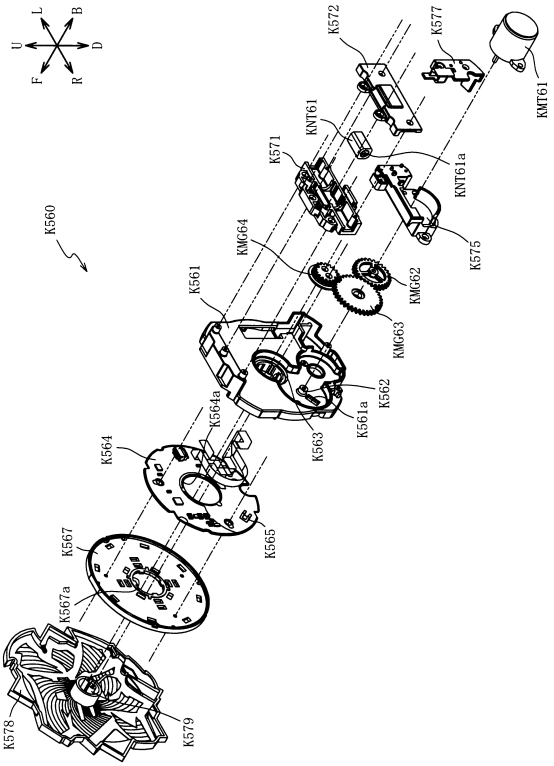
【図１７５４】



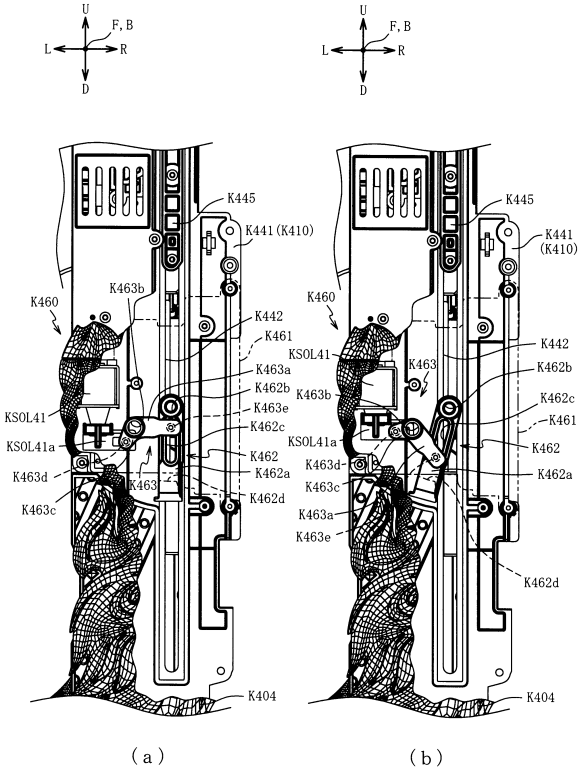
【図１７５５】



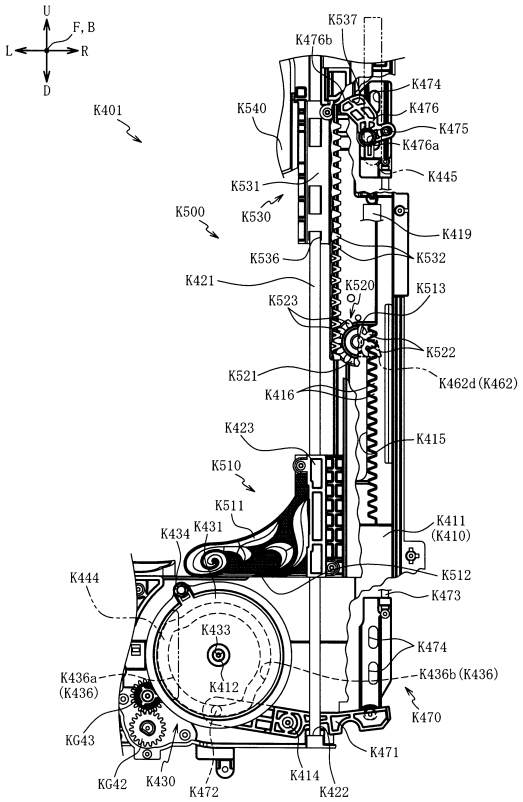
【図１７５６】



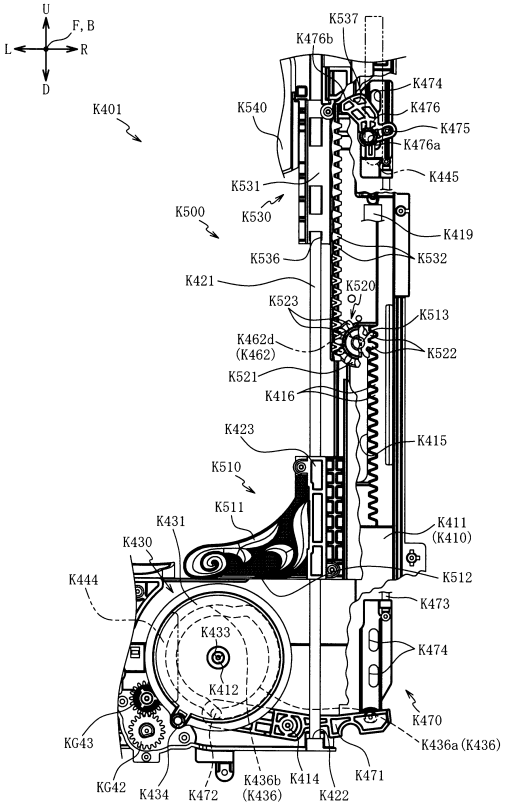
【図１７５７】



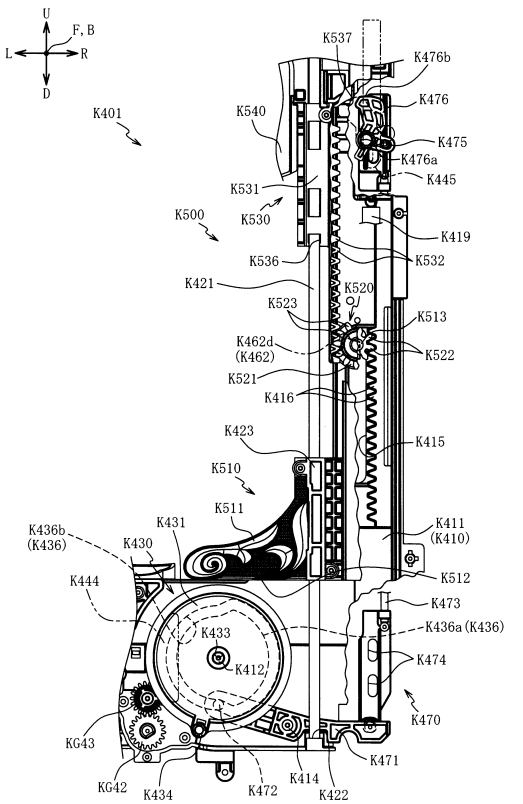
【図１７５８】



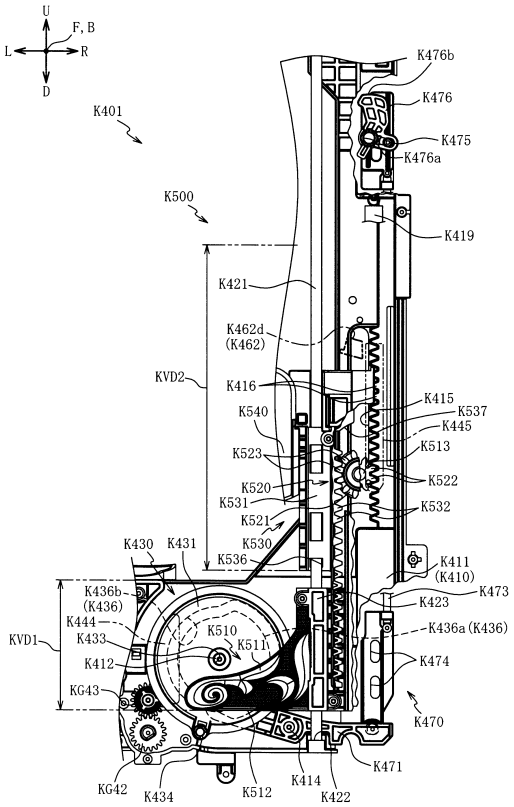
【図１７５９】



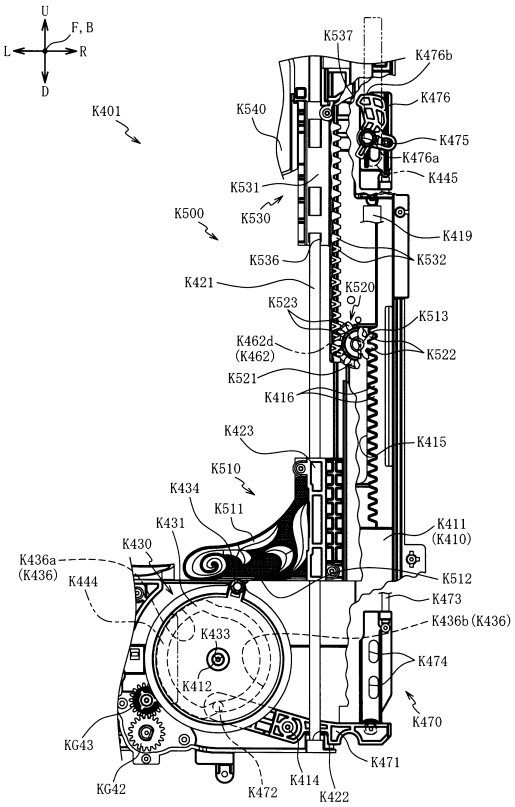
【図１７６０】



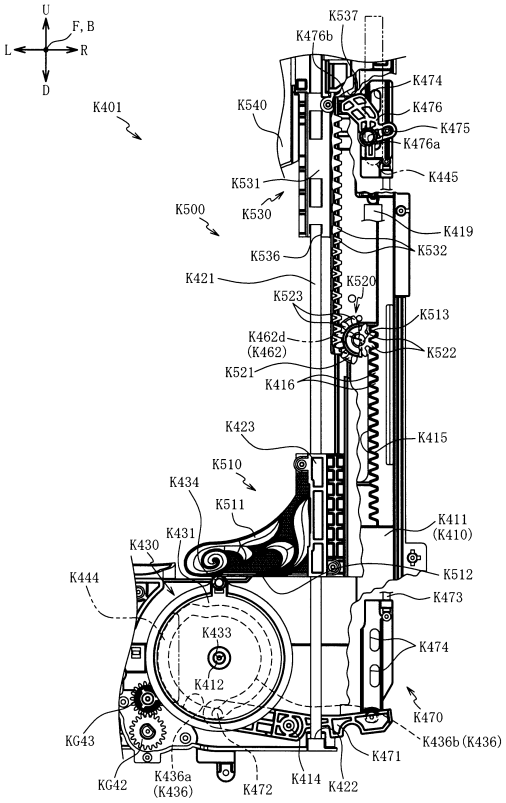
【図１７６１】



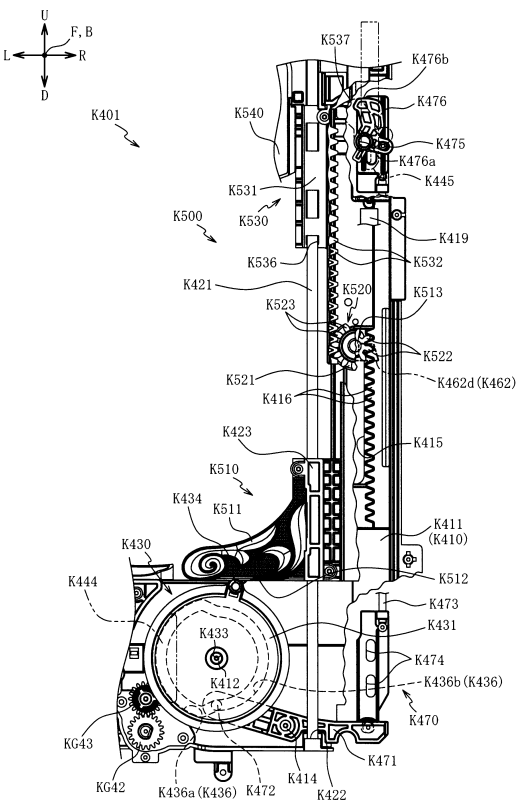
【図１７６２】



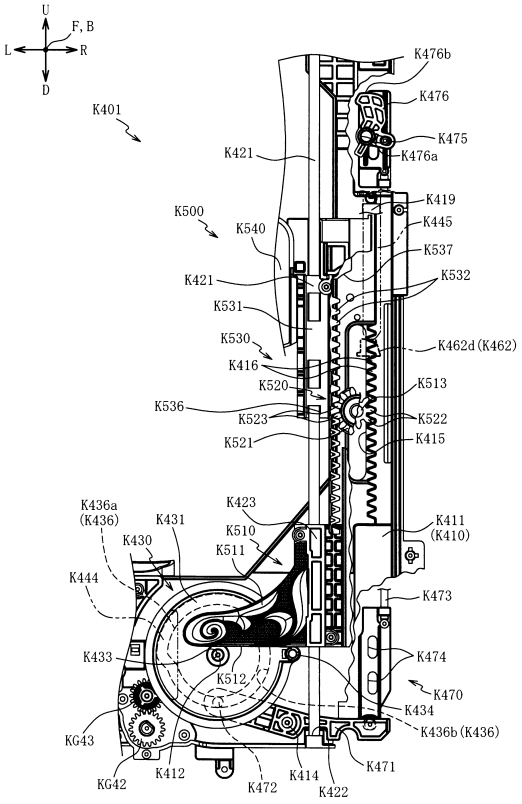
【図１７６３】



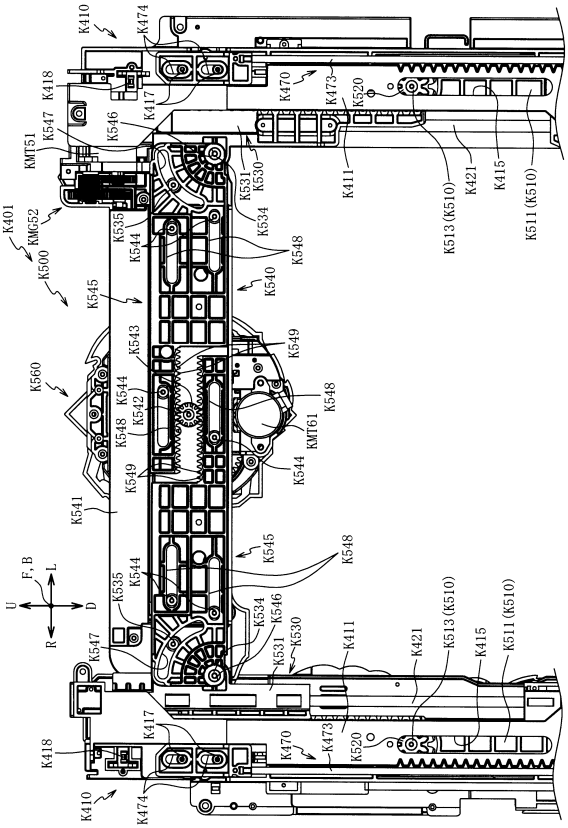
【図１７６４】



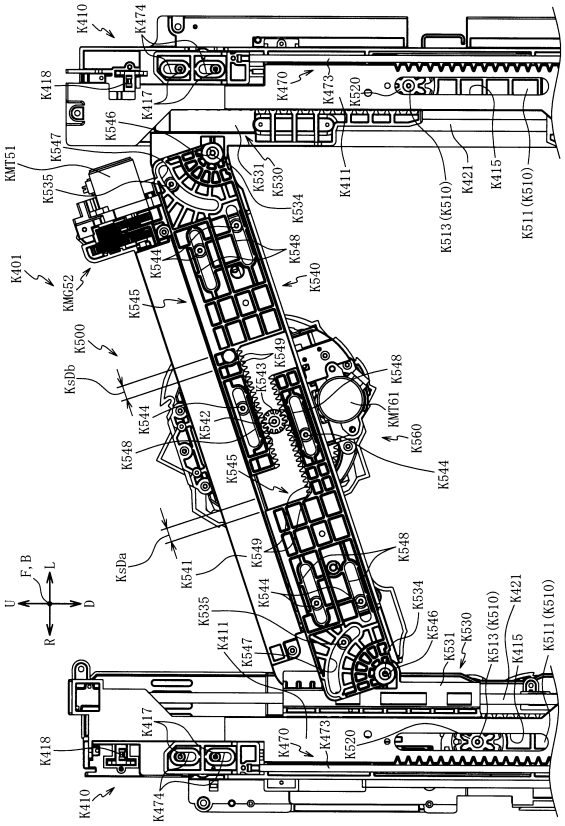
【図１７６５】



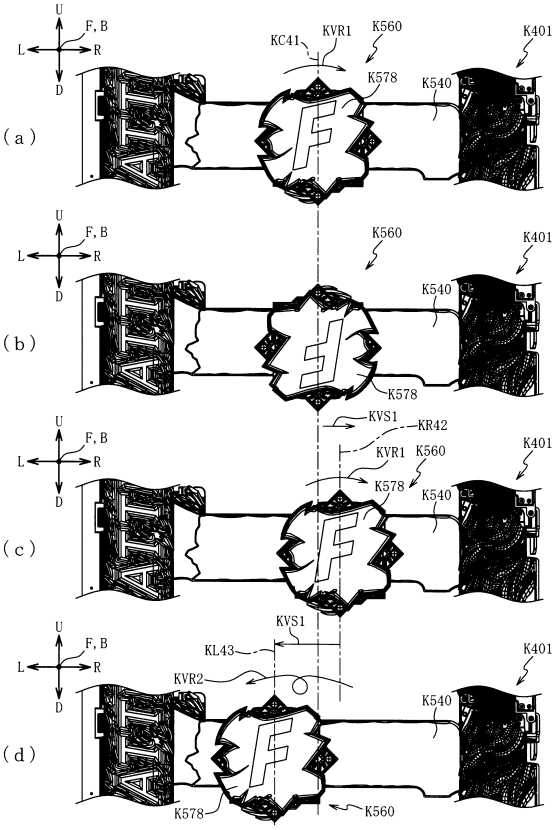
【図１７６６】



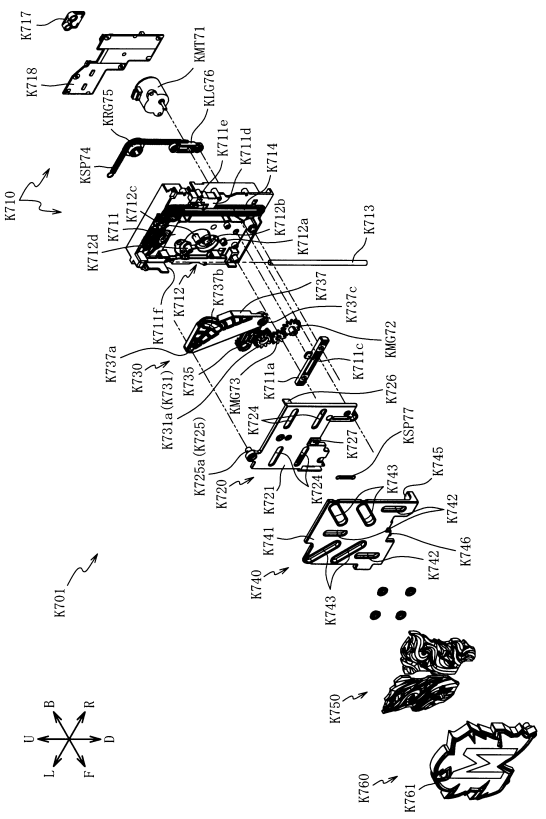
【図１７６７】



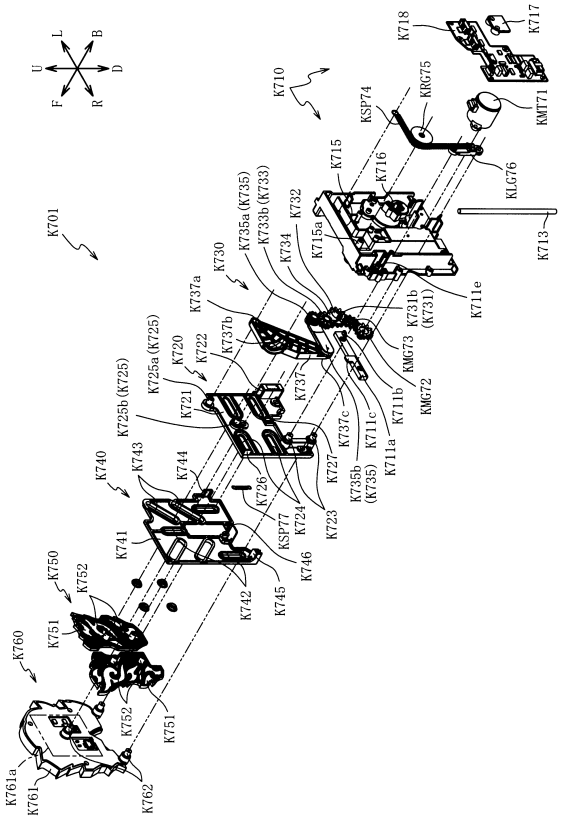
【図１７６８】



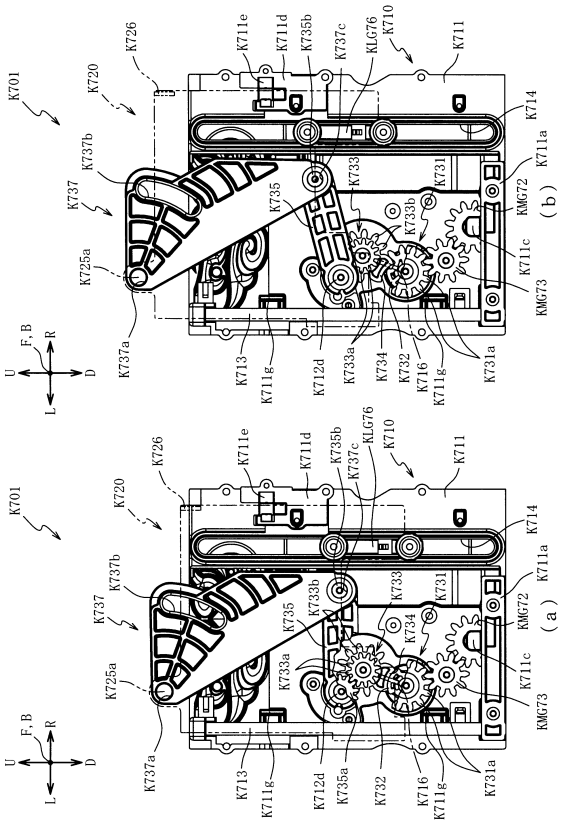
【図１７６９】



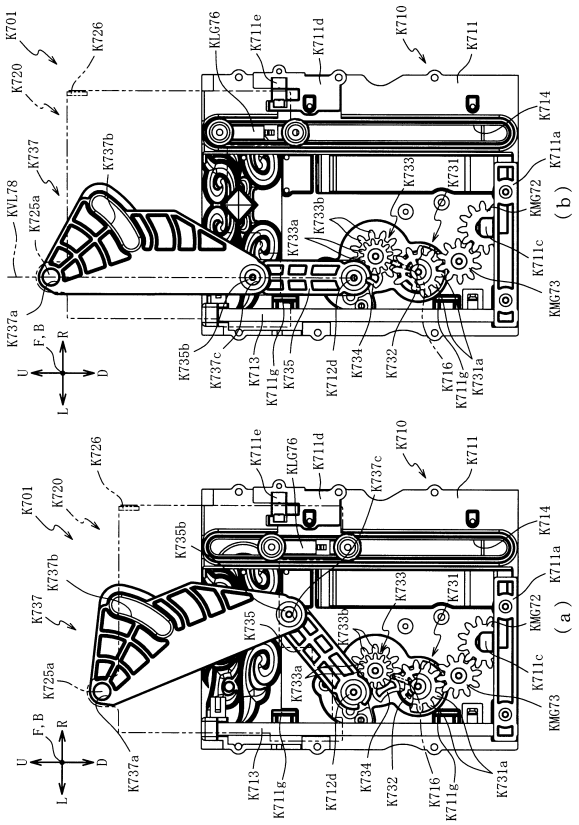
【図１７７０】



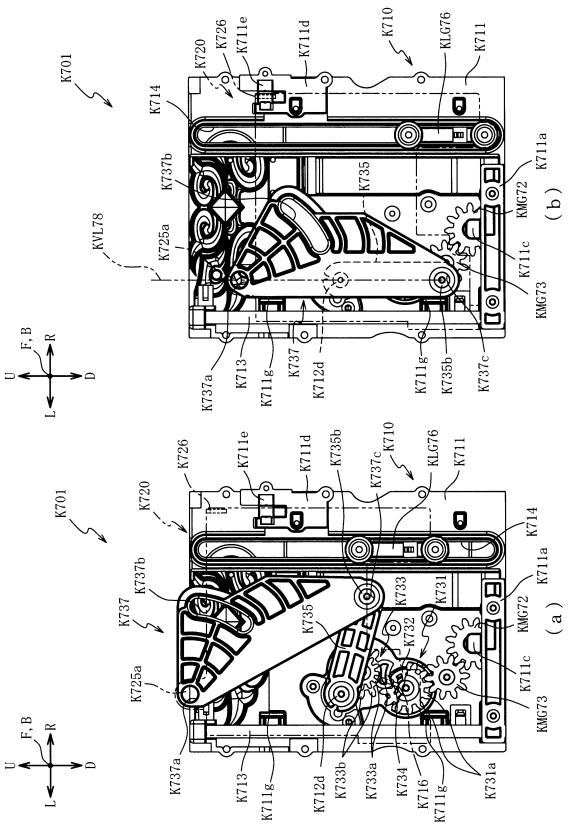
【図１７７１】



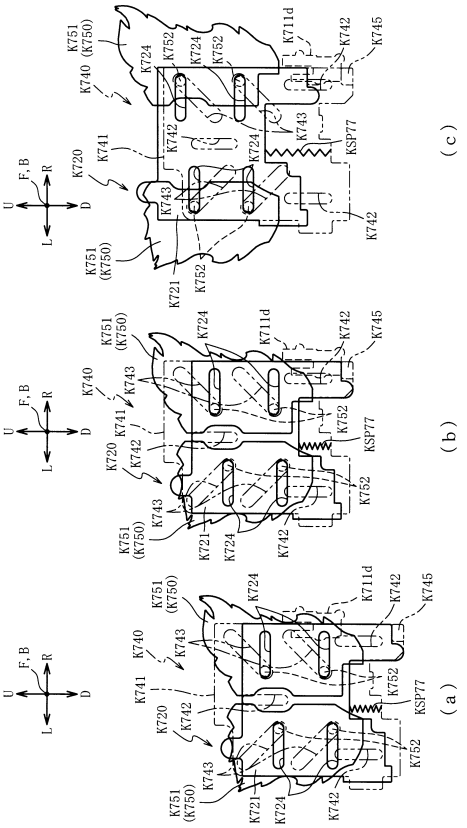
【図１７７２】



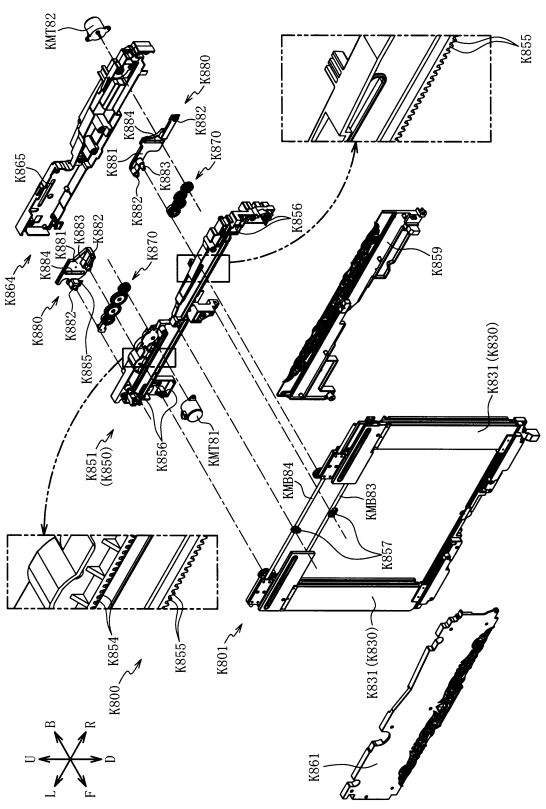
【図１７７３】



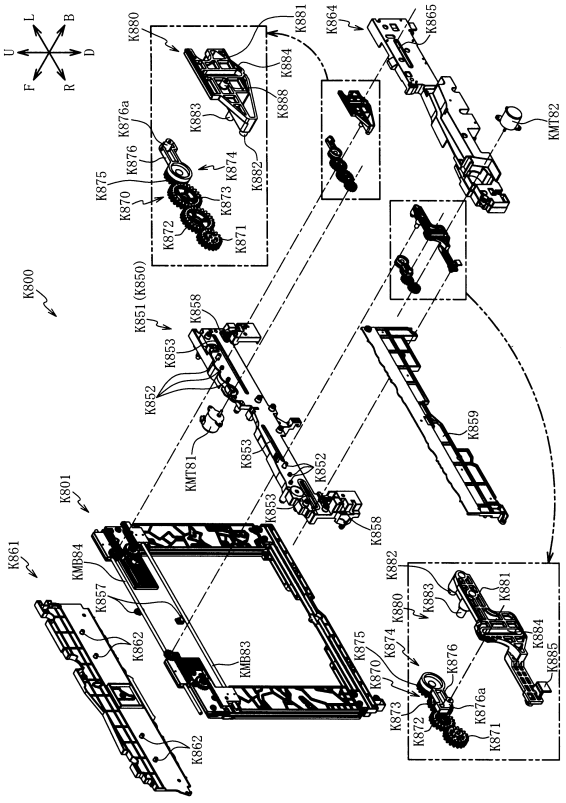
【図１７７４】



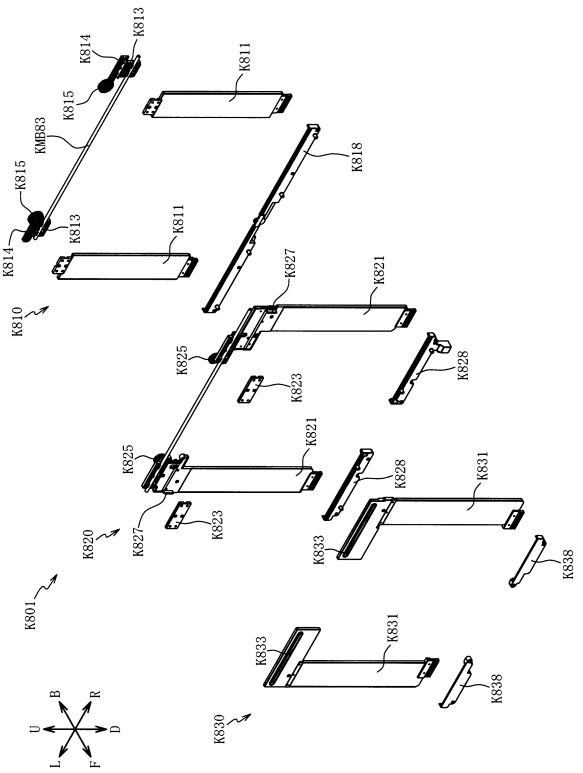
【図１７７５】



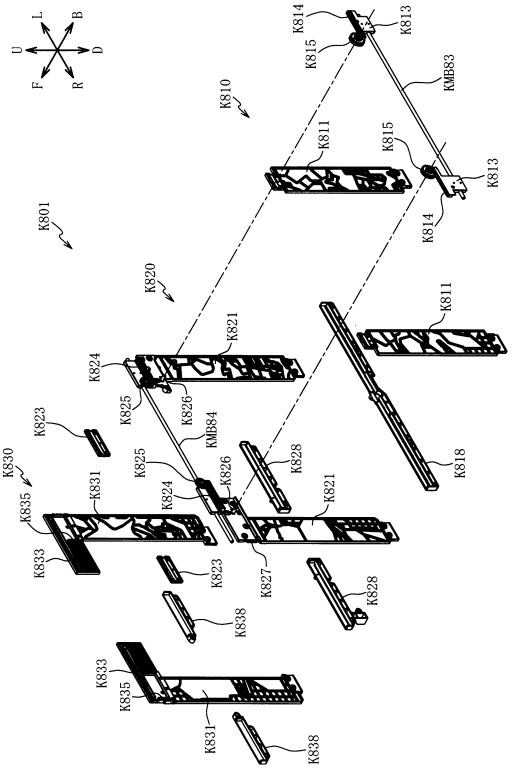
【図１７７６】



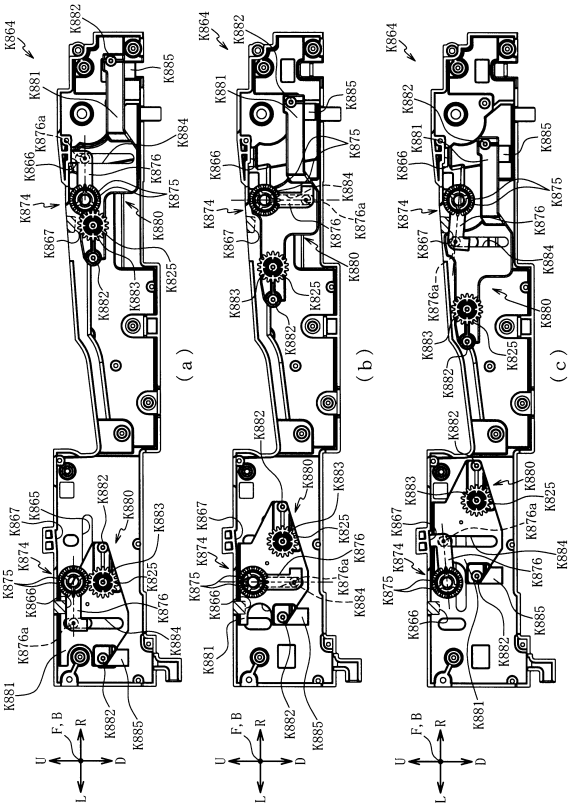
【図１７７７】



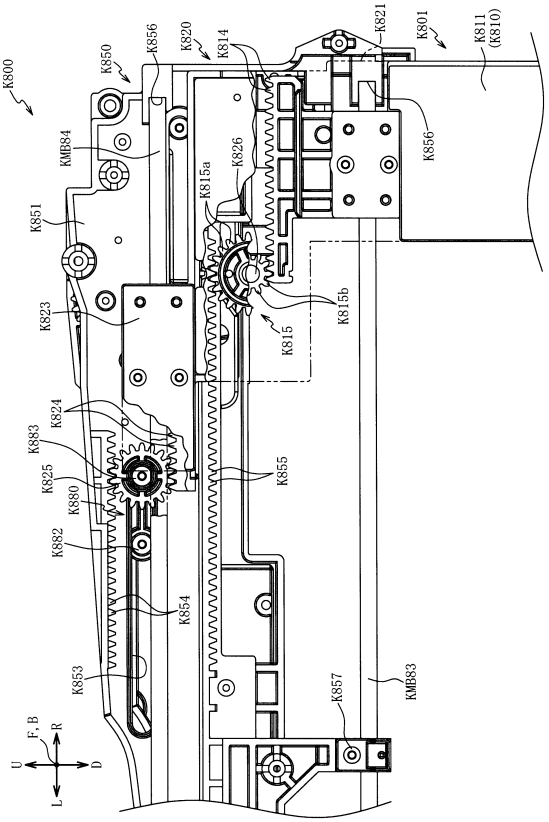
【図１７７８】



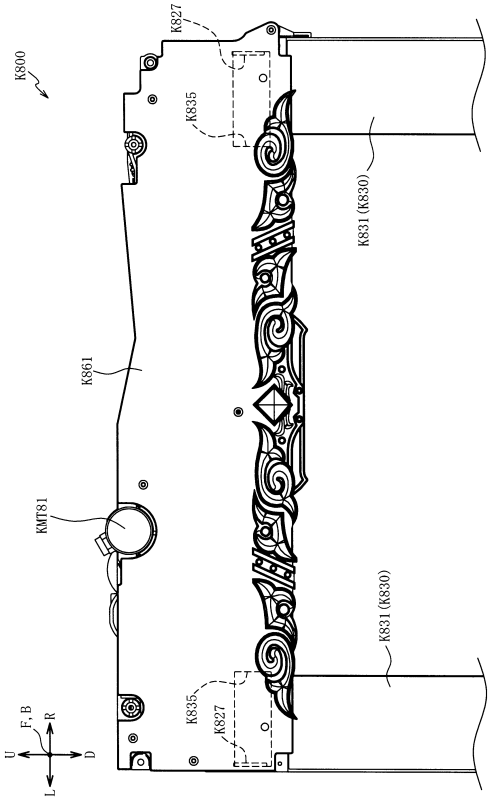
【図１７７９】



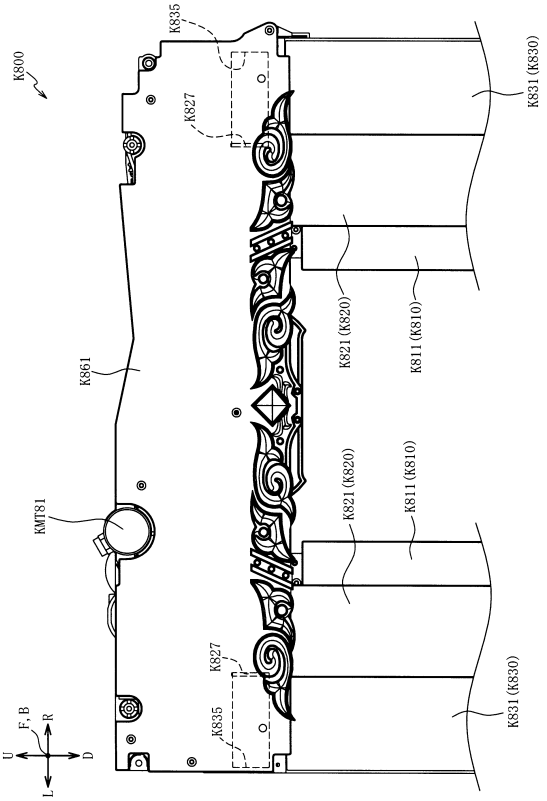
【図１７８０】



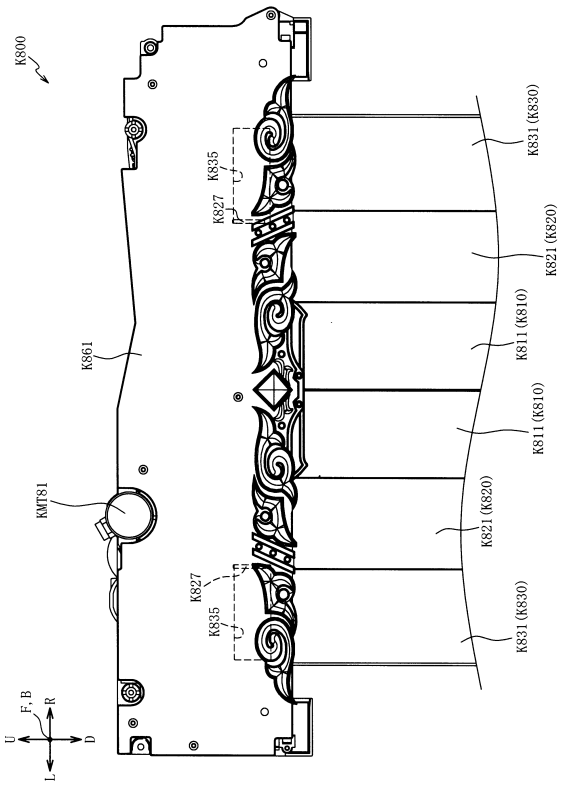
【図１７８１】



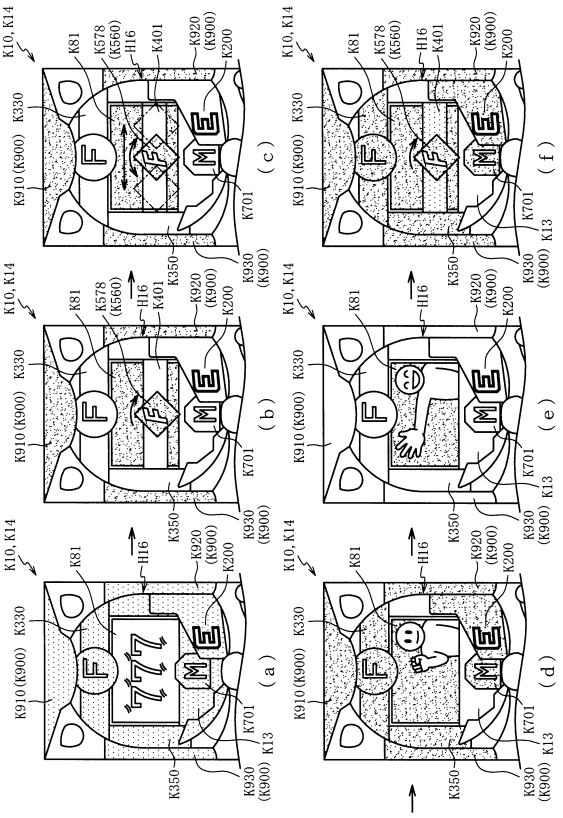
【図１７８２】



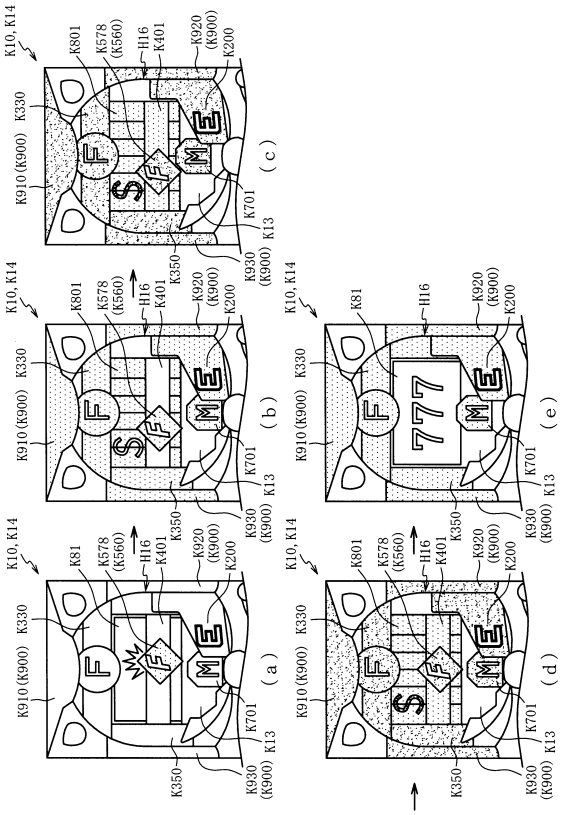
【図１７８３】



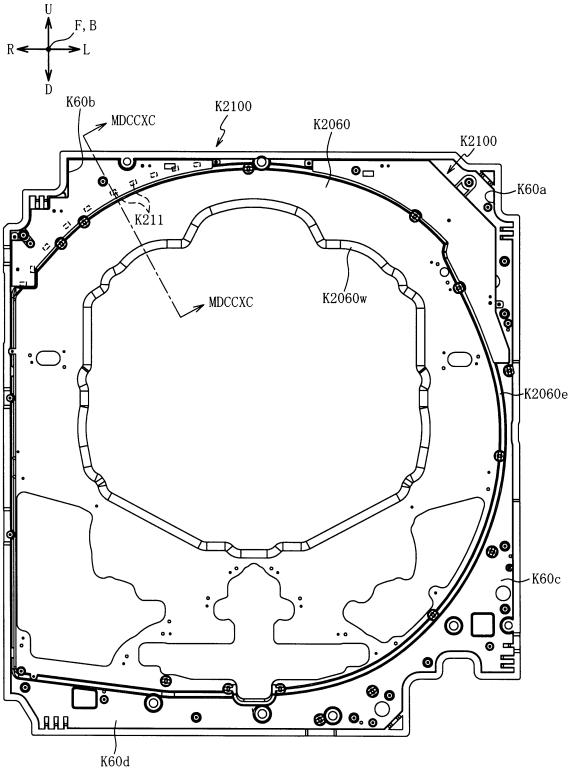
【図１７８４】



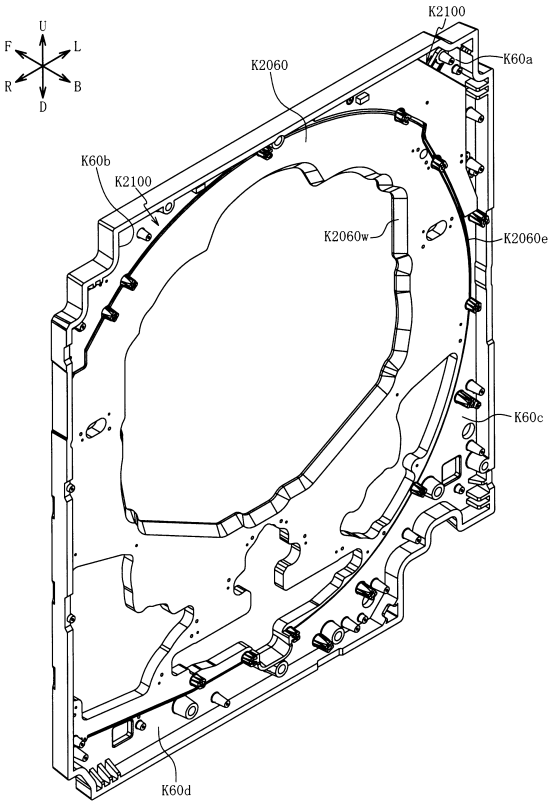
【図１７８５】



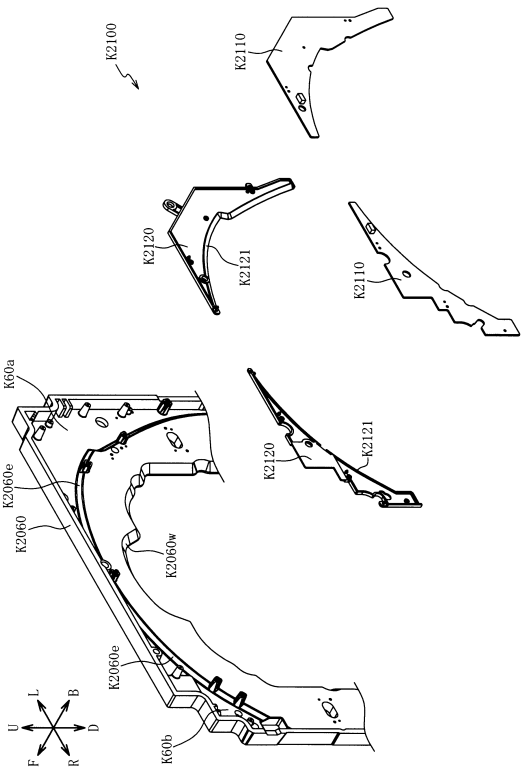
【図１７８６】



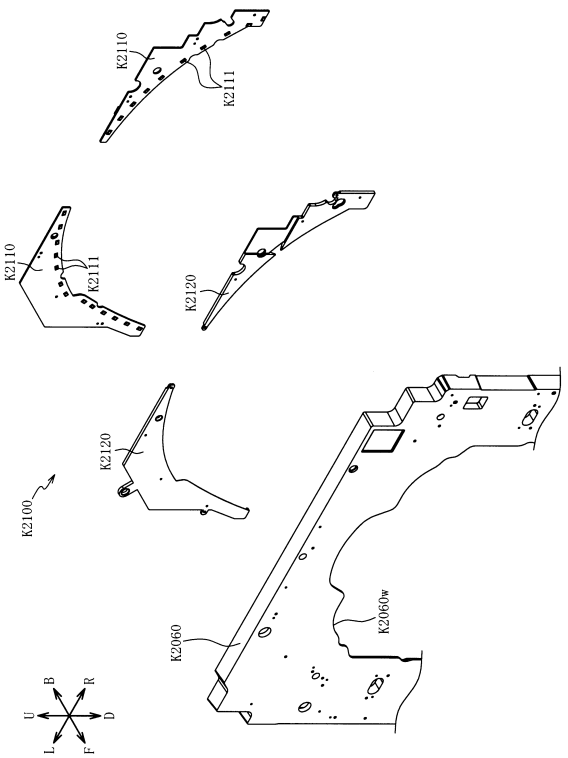
【図１７８７】



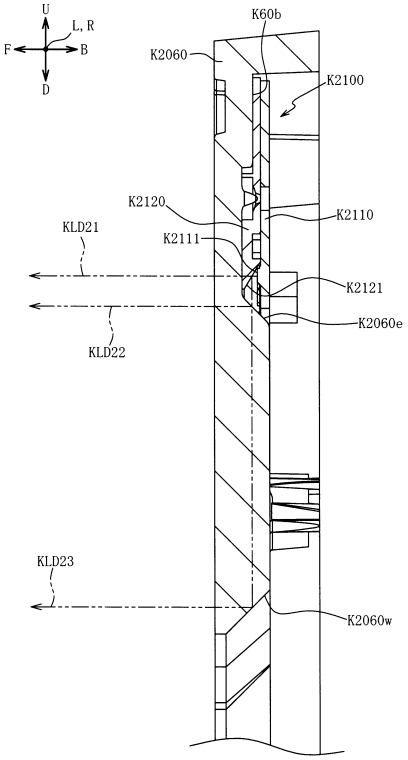
【図１７８８】



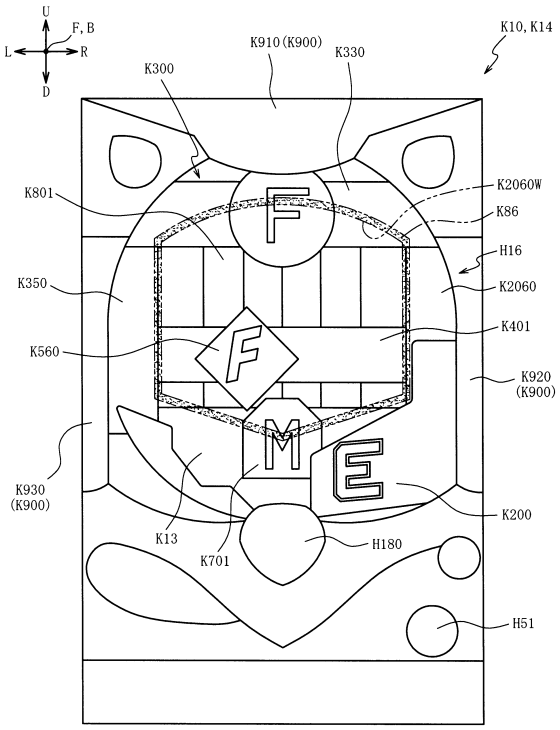
【図１７８９】



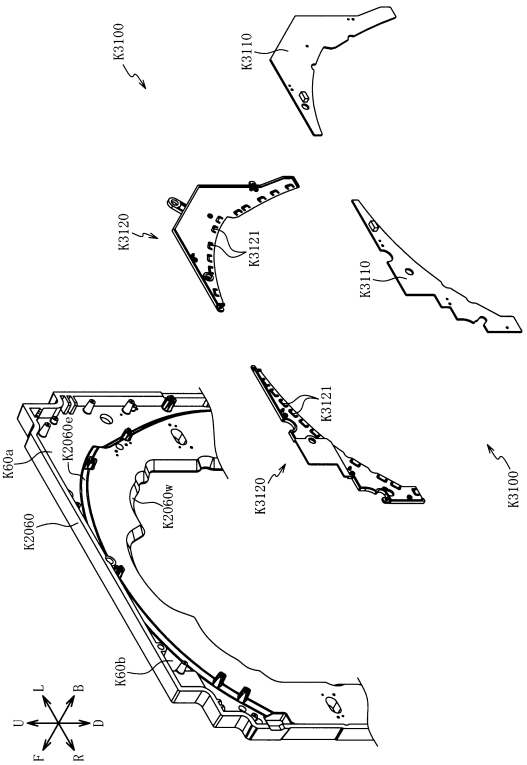
【図１７９０】



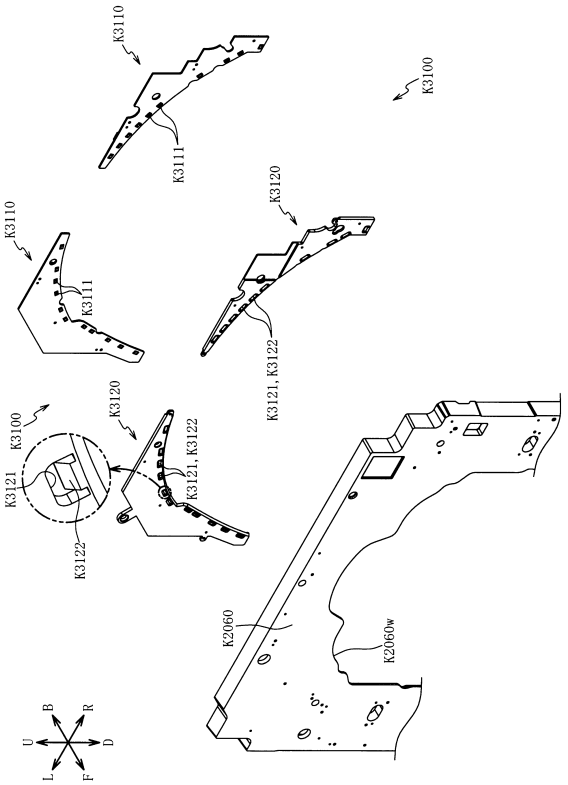
【図１７９１】



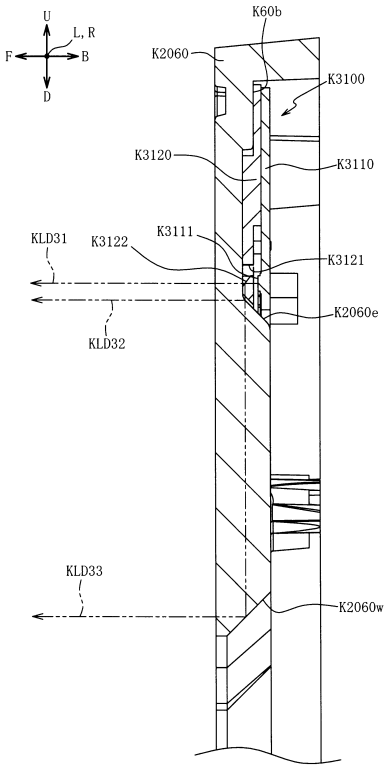
【図１７９２】



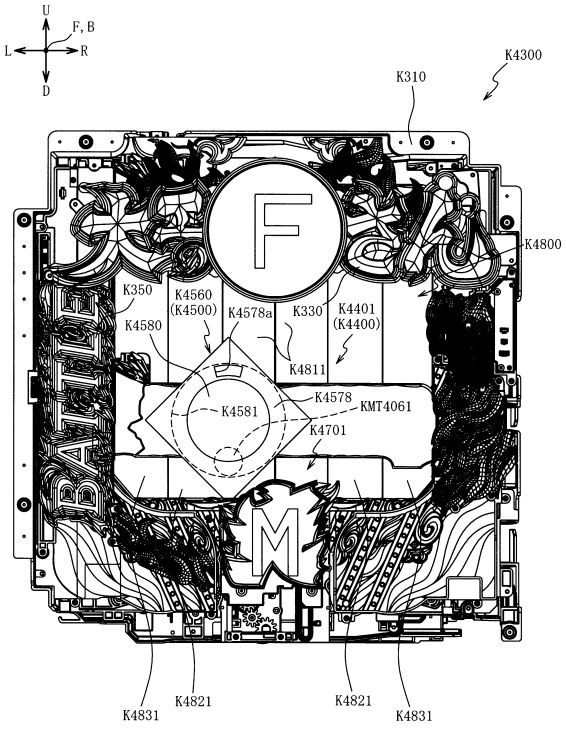
【図１７９３】



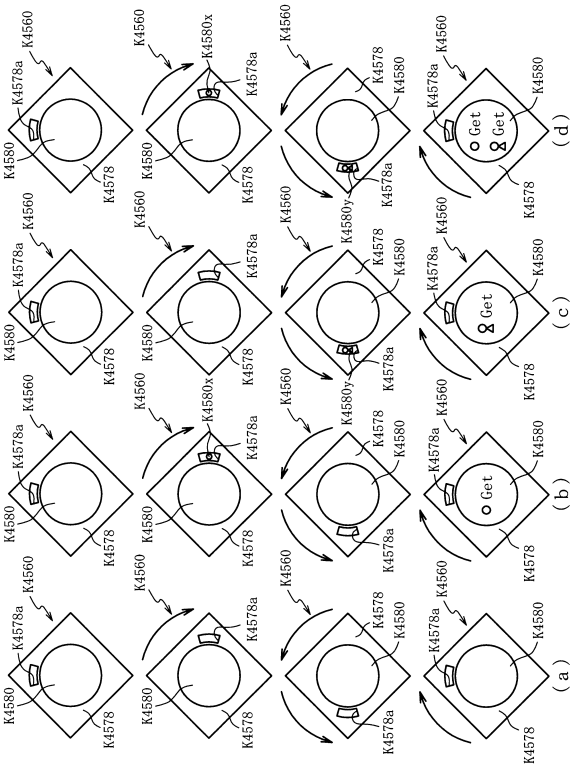
【図１７９４】



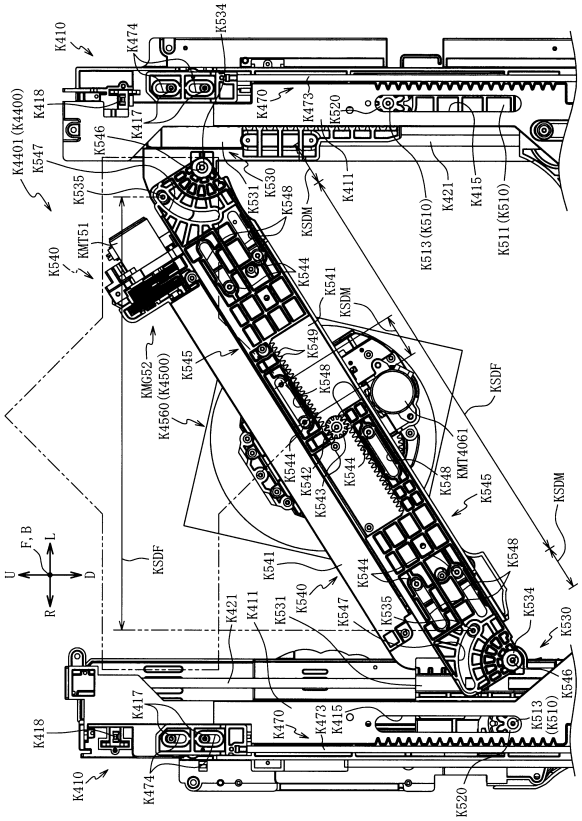
【図１７９５】



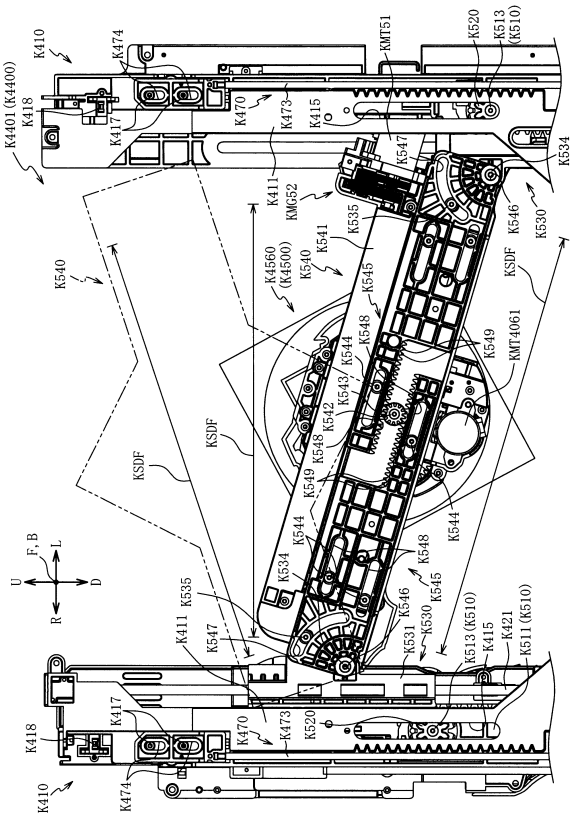
【図１７９６】



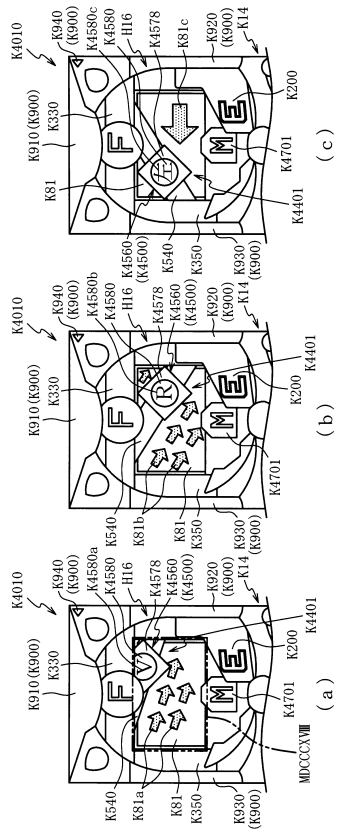
【図１７９７】



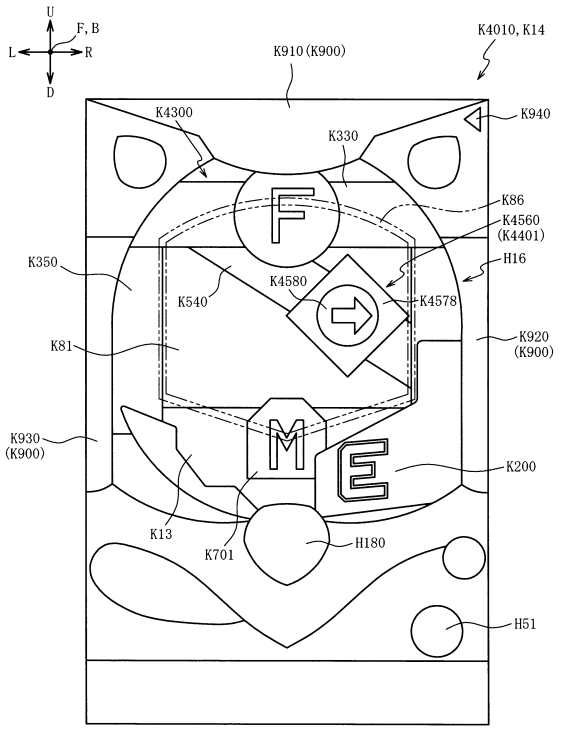
【図１７９８】



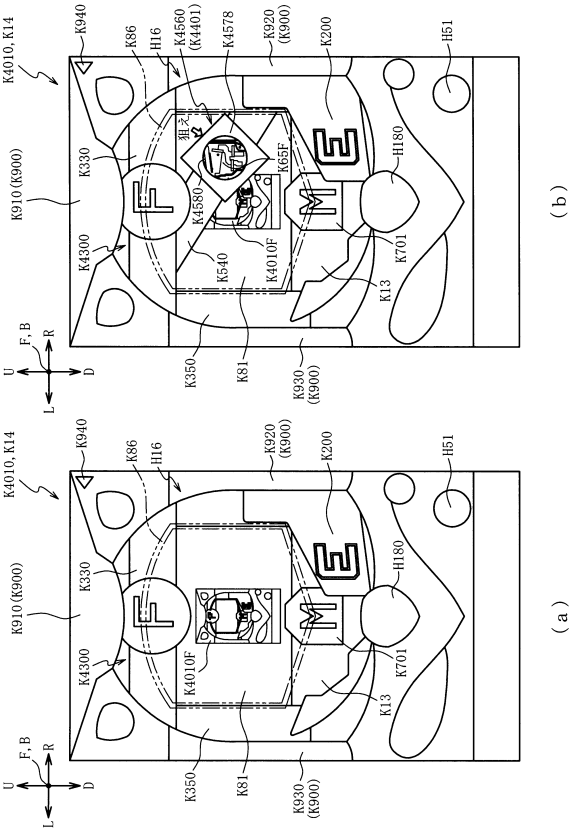
【図１７９９】



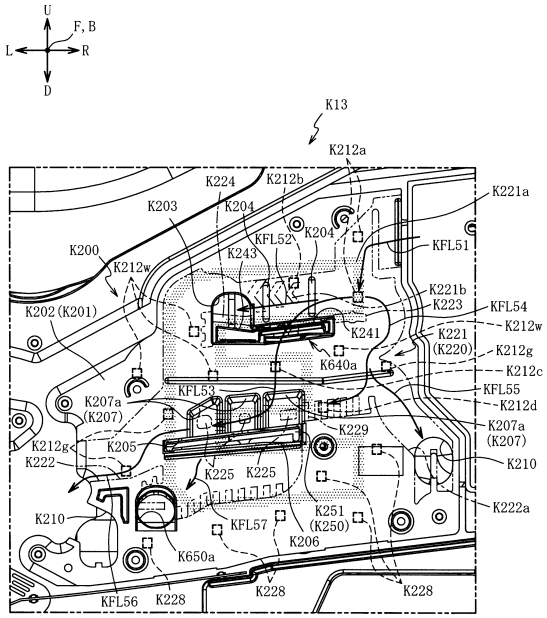
【図１８００】



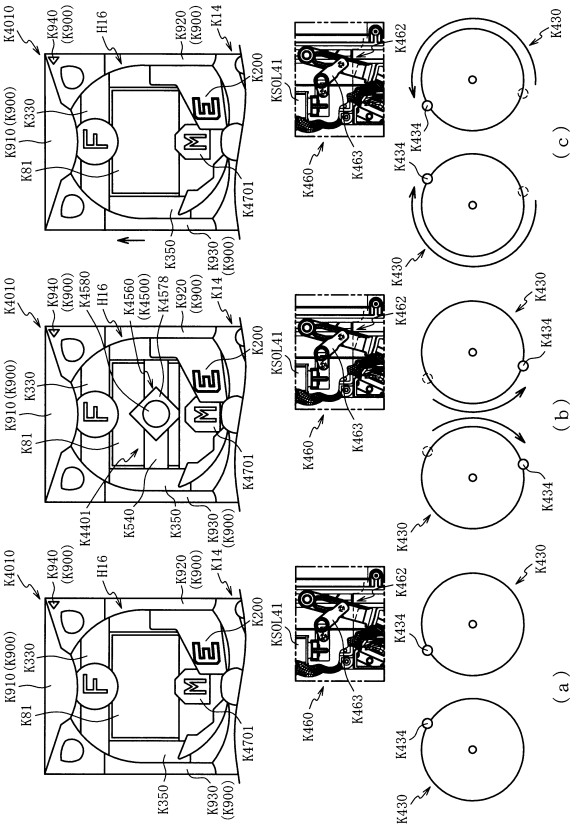
【図１８０１】



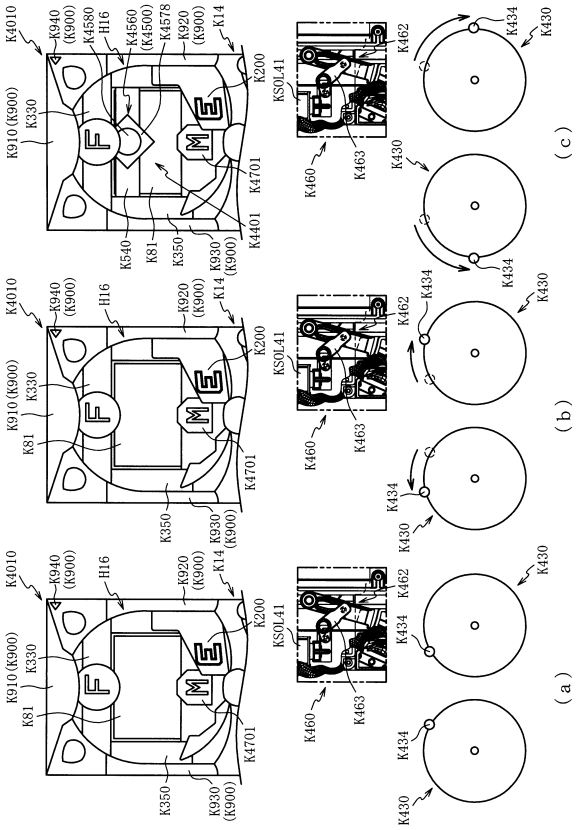
【図１８０２】



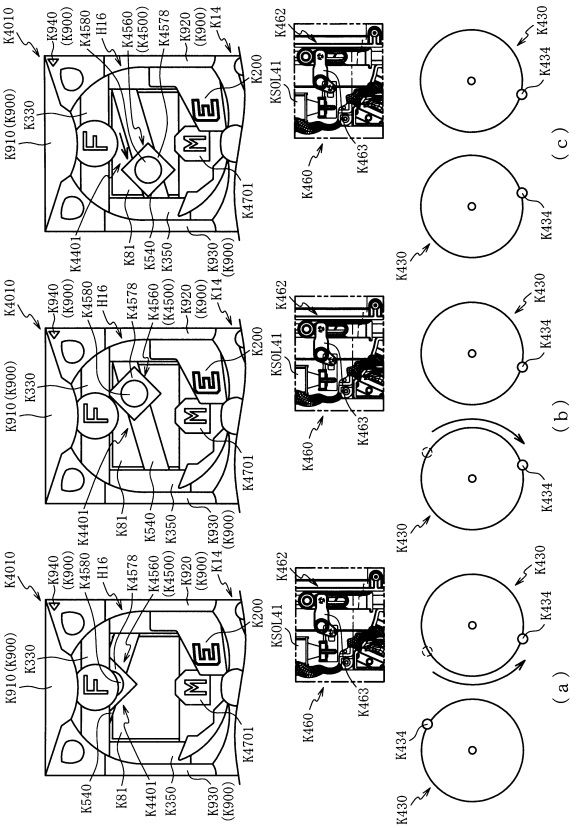
【図１８０３】



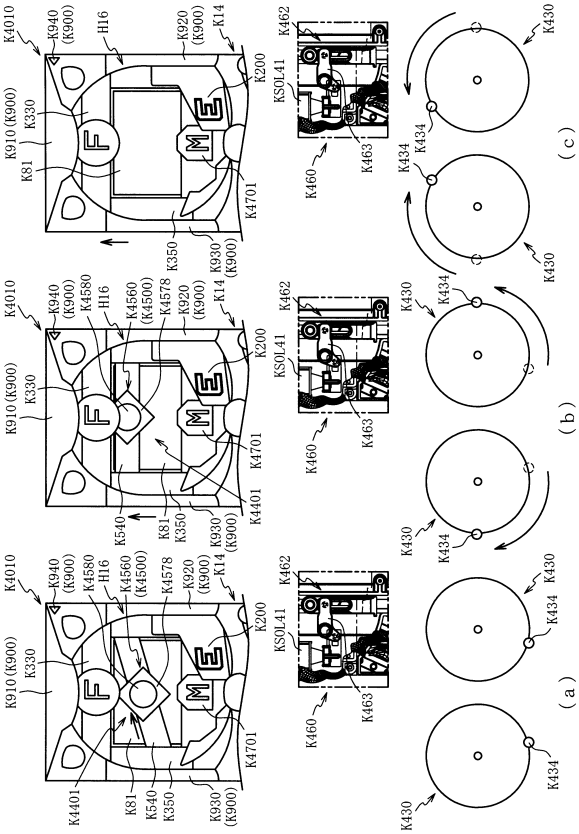
【図１８０４】



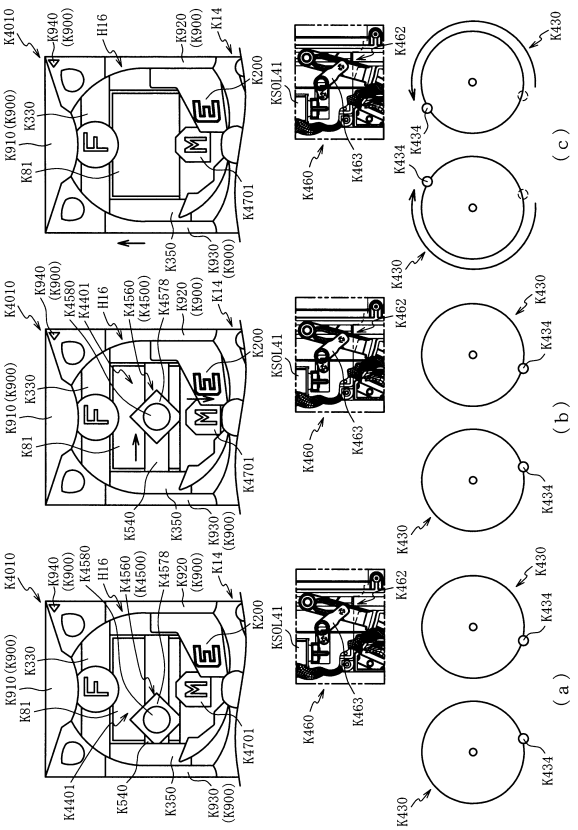
【図１８０５】



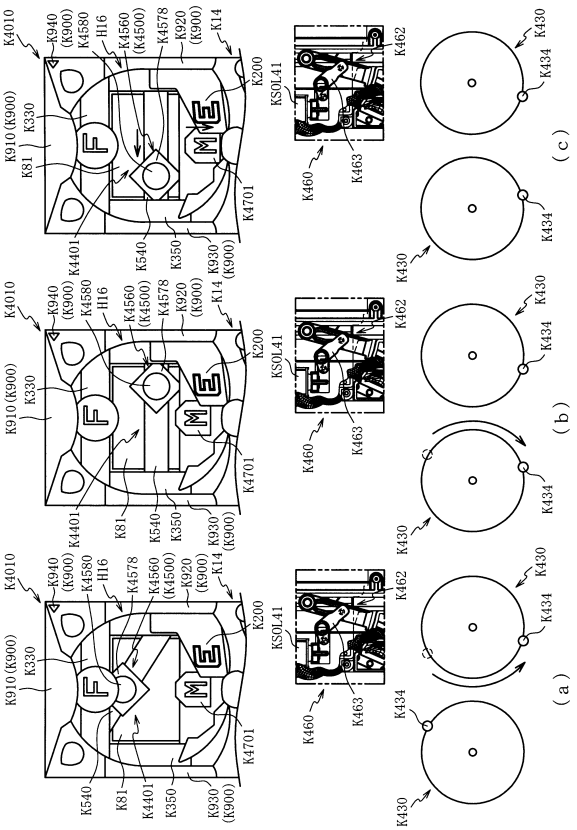
【図１８０６】



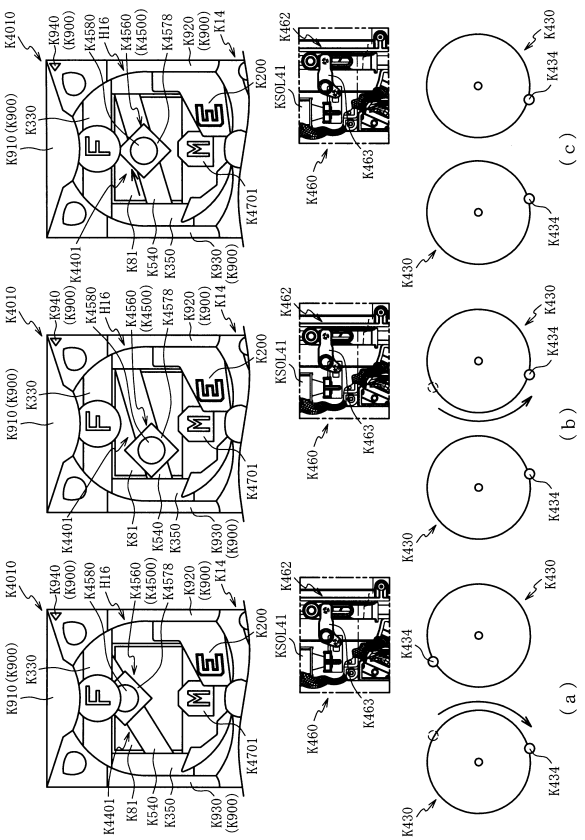
【図１８０７】



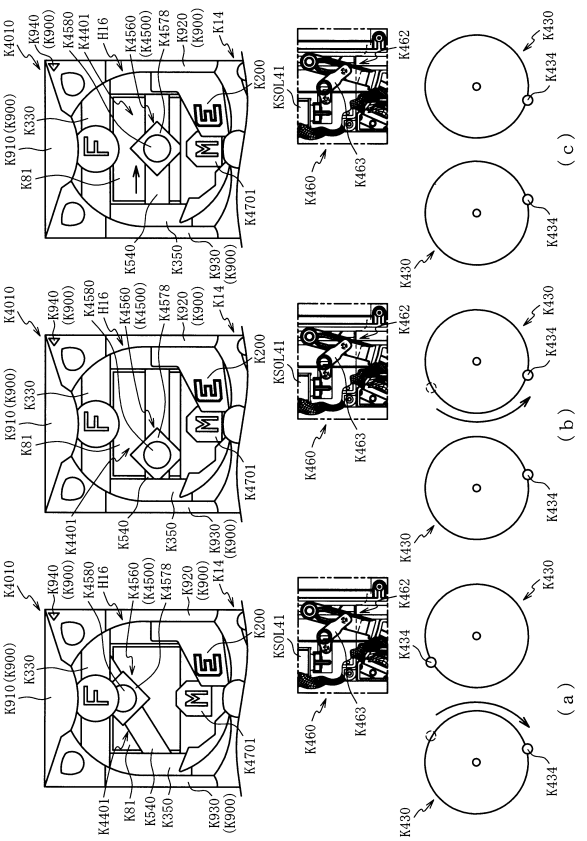
【図１８０８】



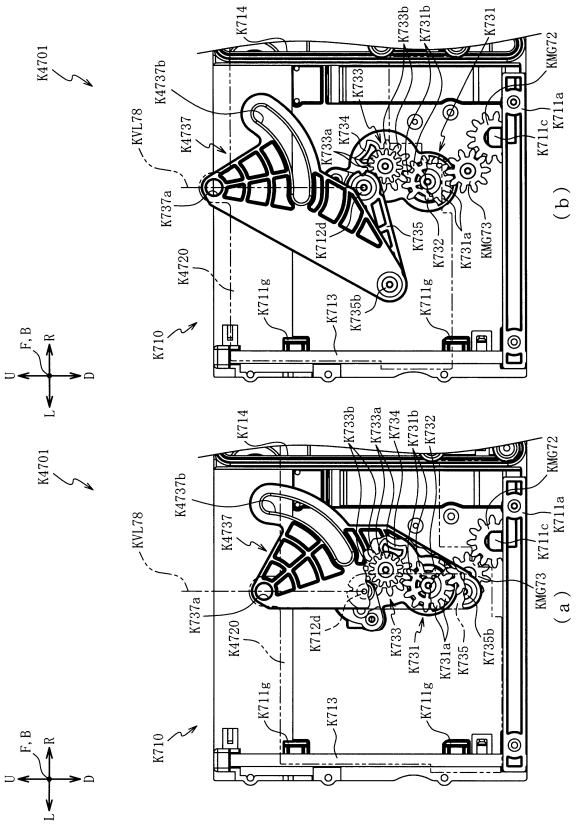
【図１８０９】



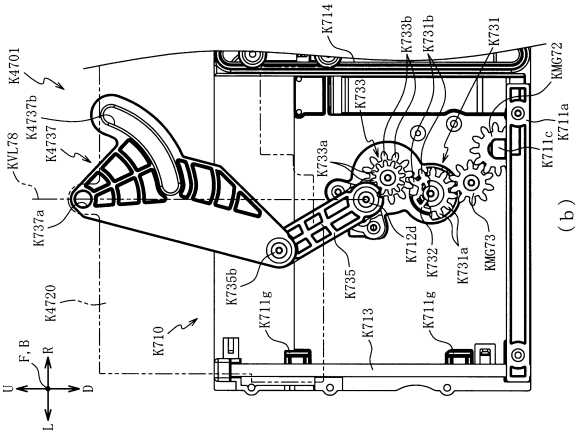
【図１８１０】



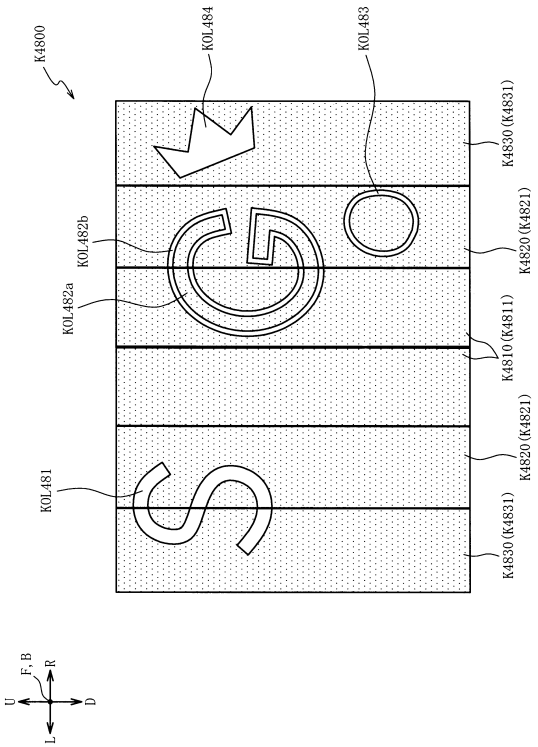
【図１８１１】



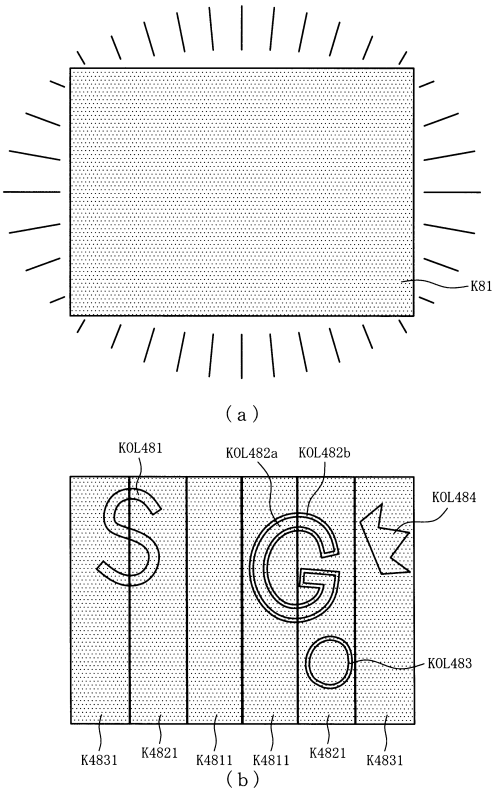
【図１８１２】



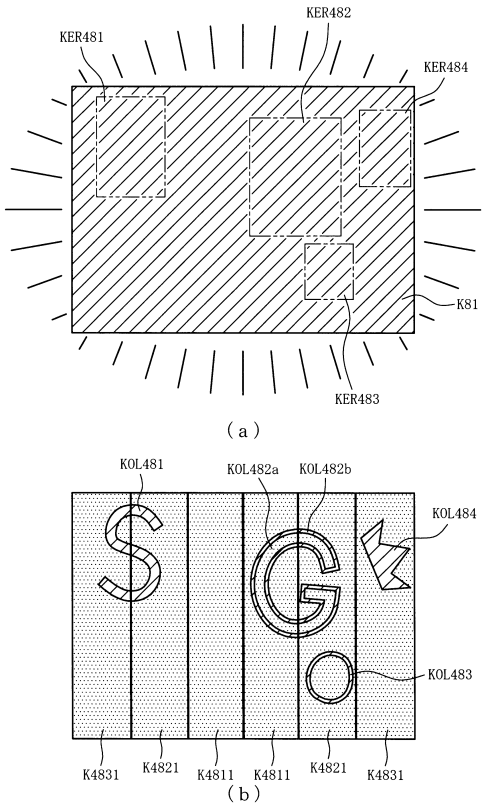
【図１８１３】



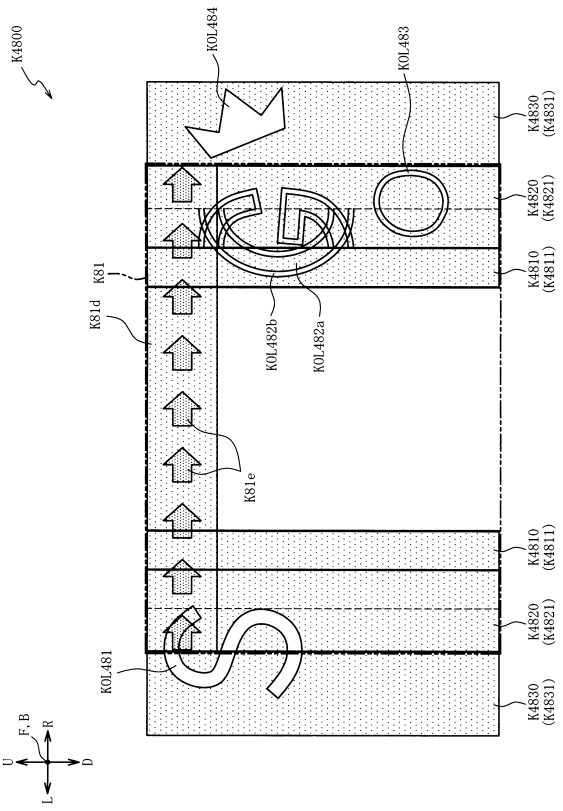
【図１８１４】



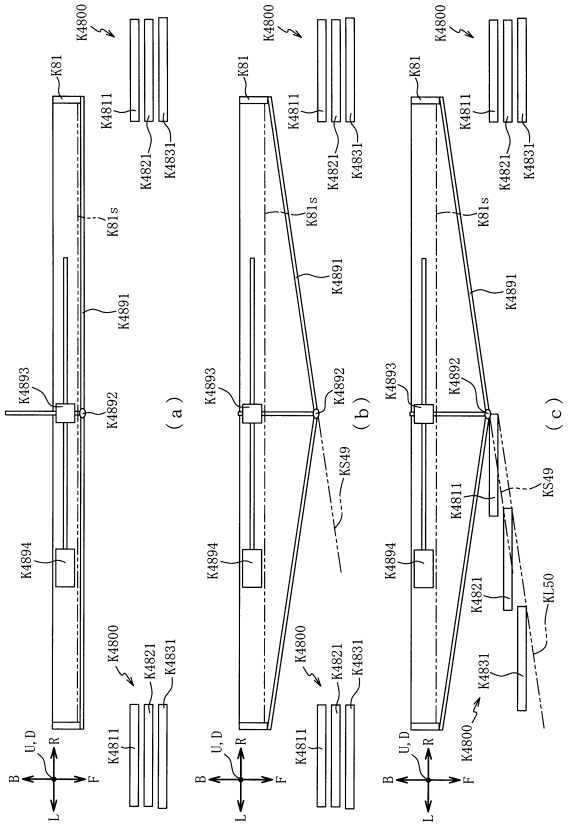
【図１８１５】



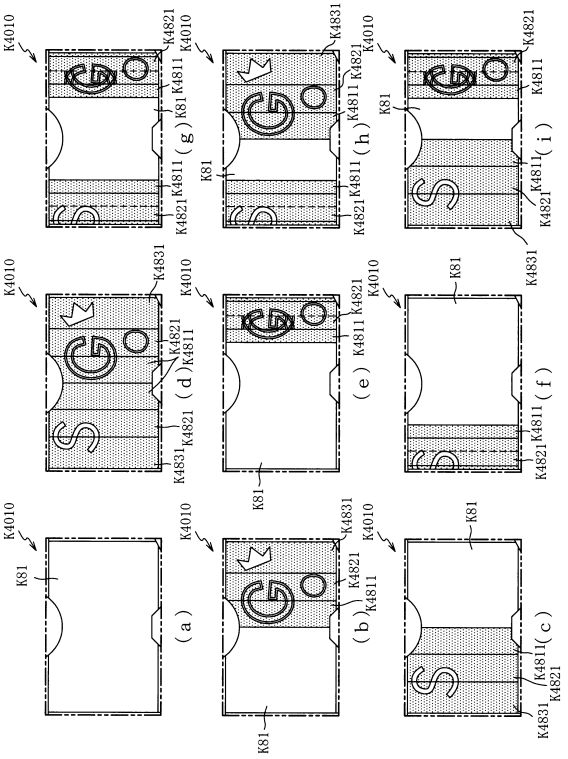
【図１８１６】



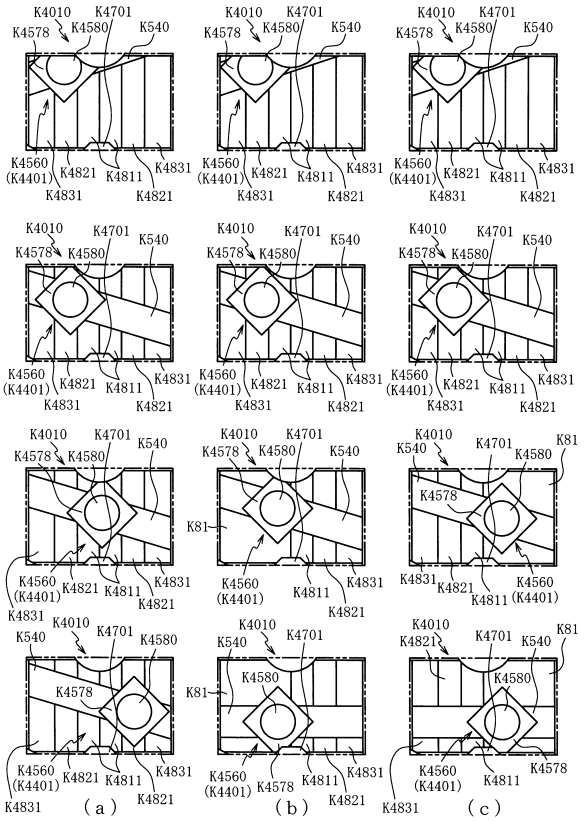
【図１８１７】



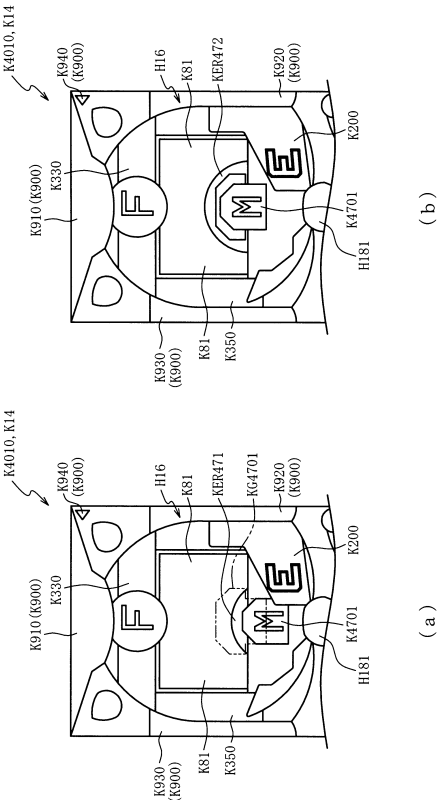
【図１８１８】



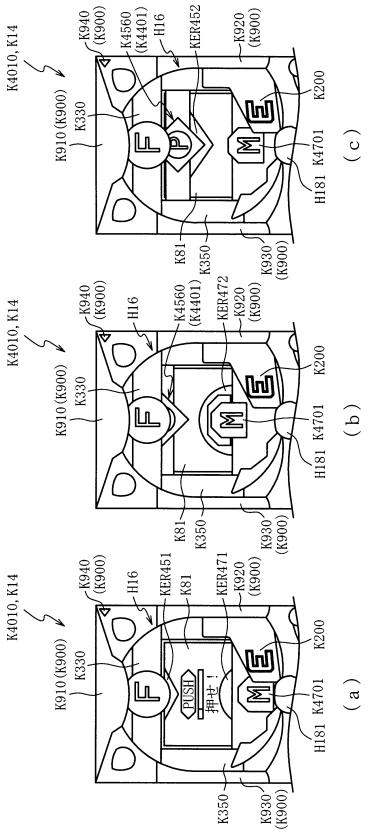
【図１８１９】



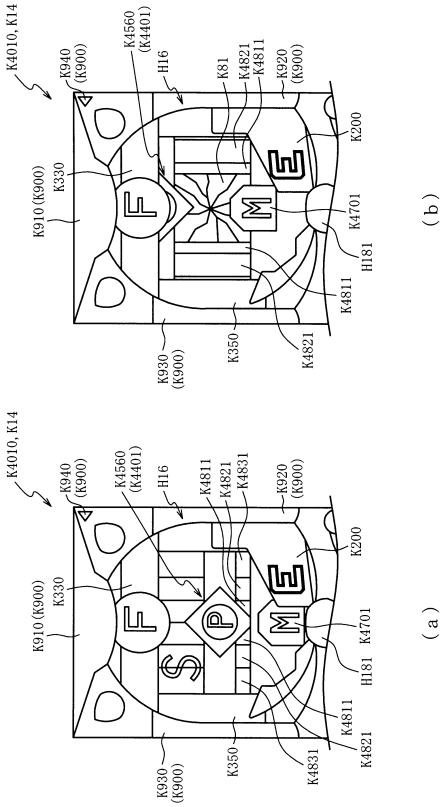
【図１８２０】



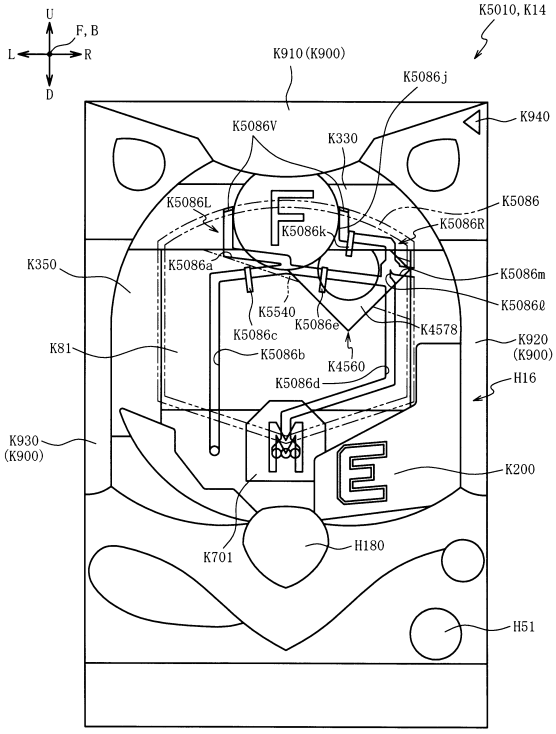
【図１８２１】



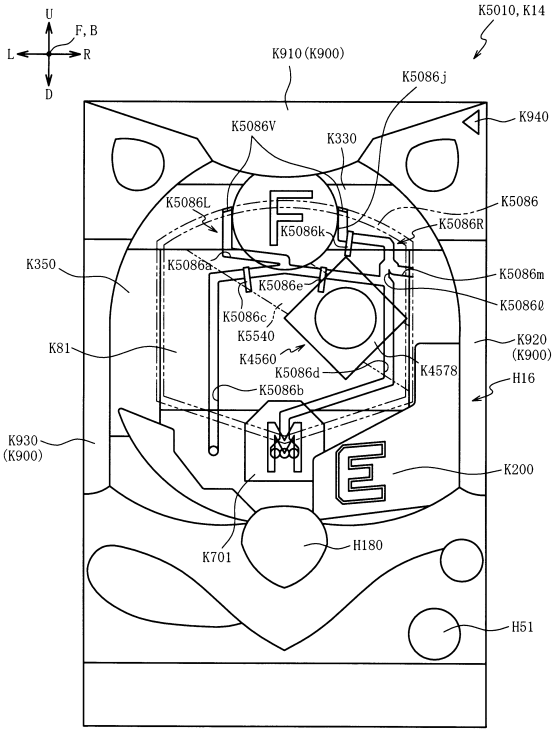
【図１８２２】



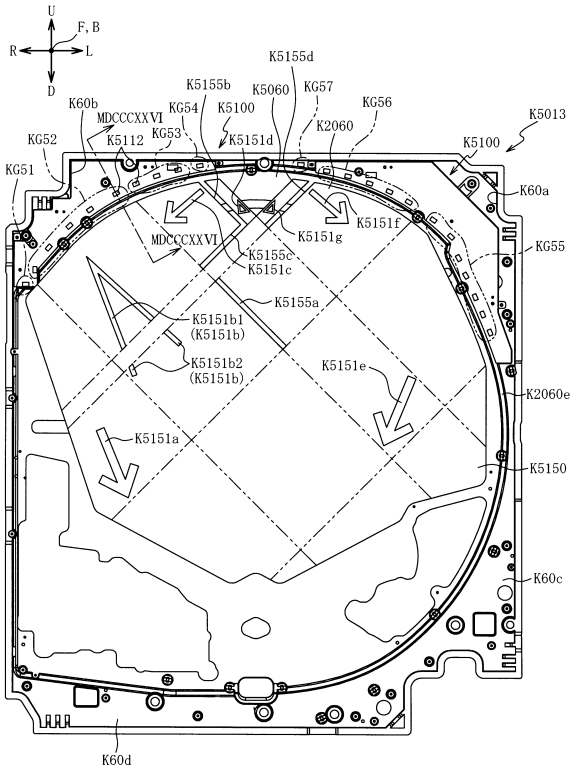
【図１８２３】



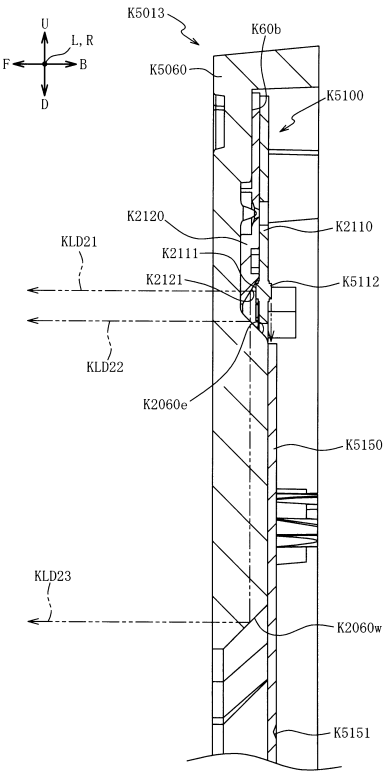
【図１８２４】



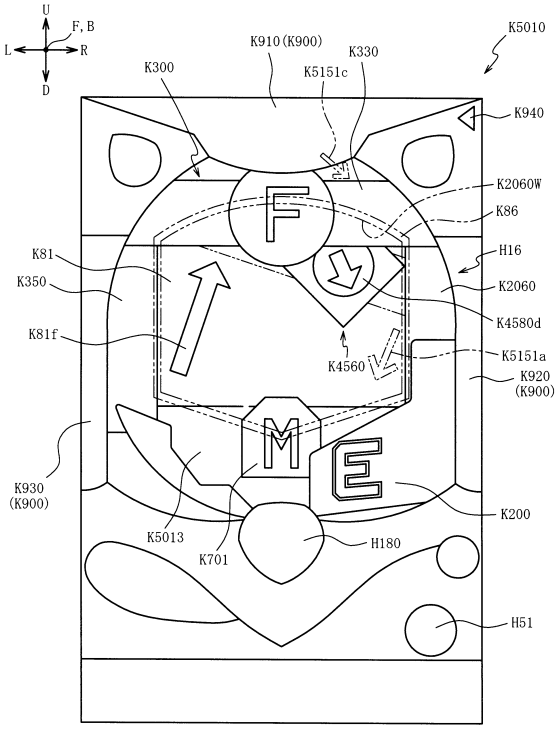
【図１８２５】



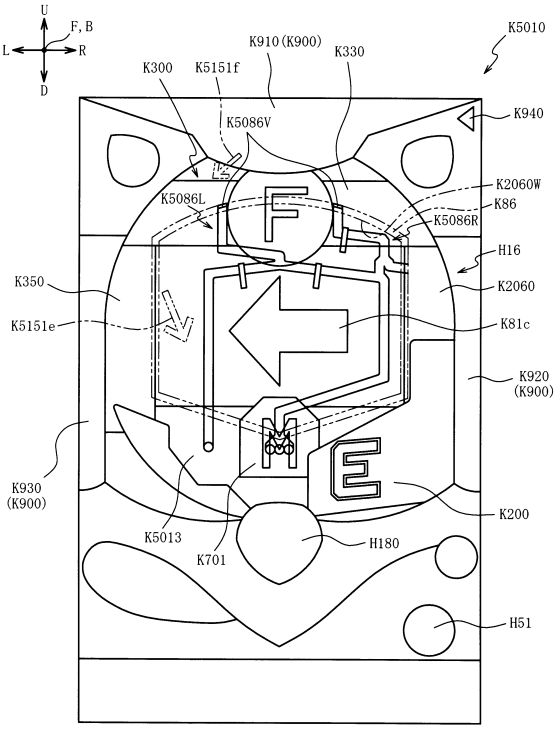
【図１８２６】



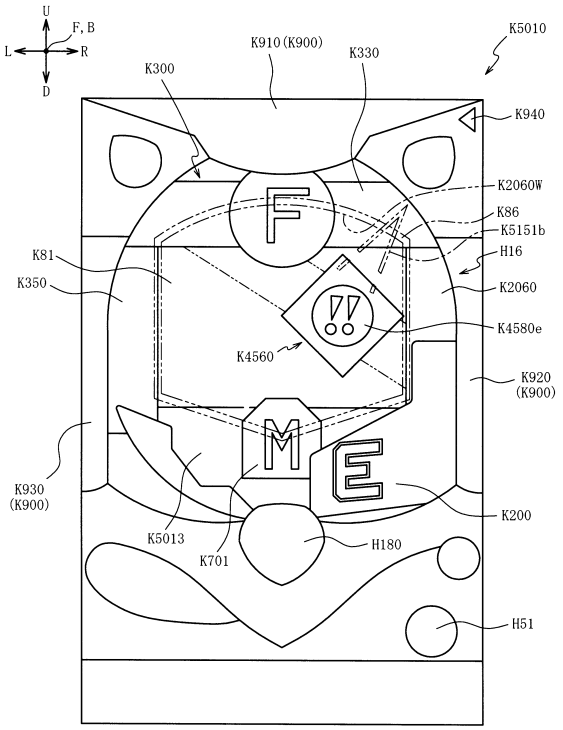
【図１８２７】



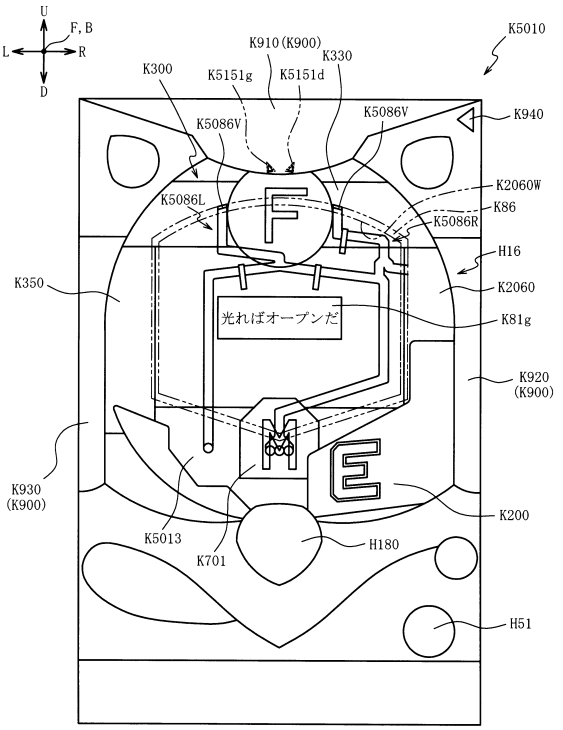
【図１８２８】



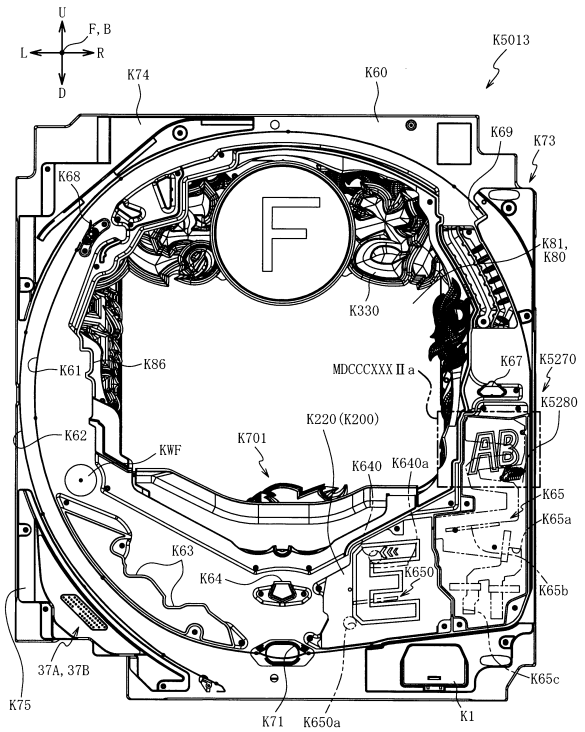
【図１８２９】



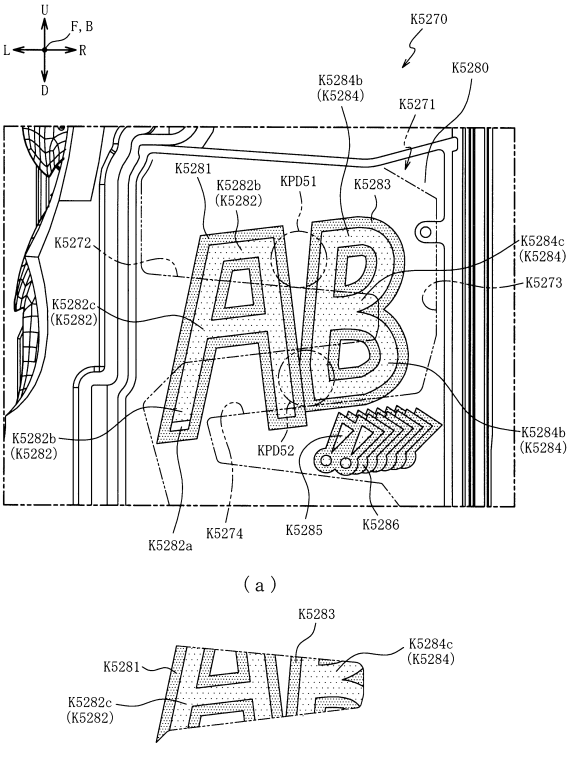
【図１８３０】



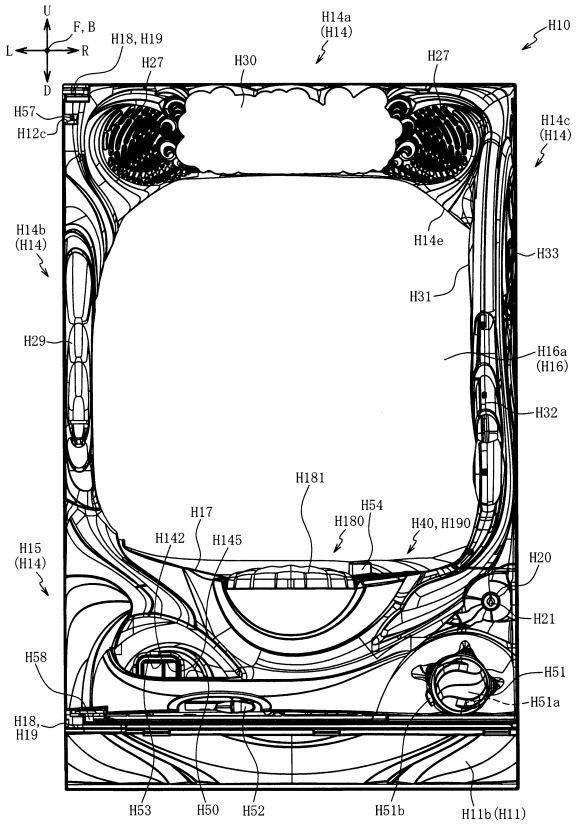
【図１８３１】



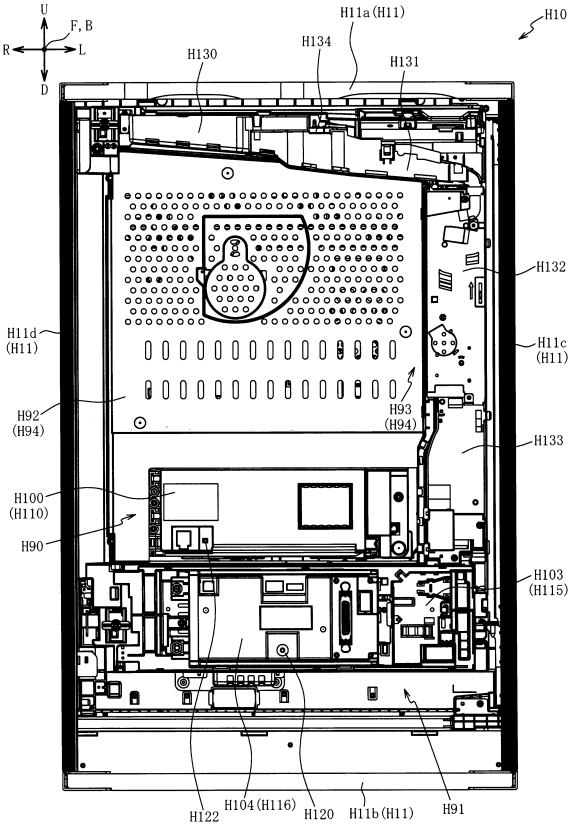
【図１８３２】



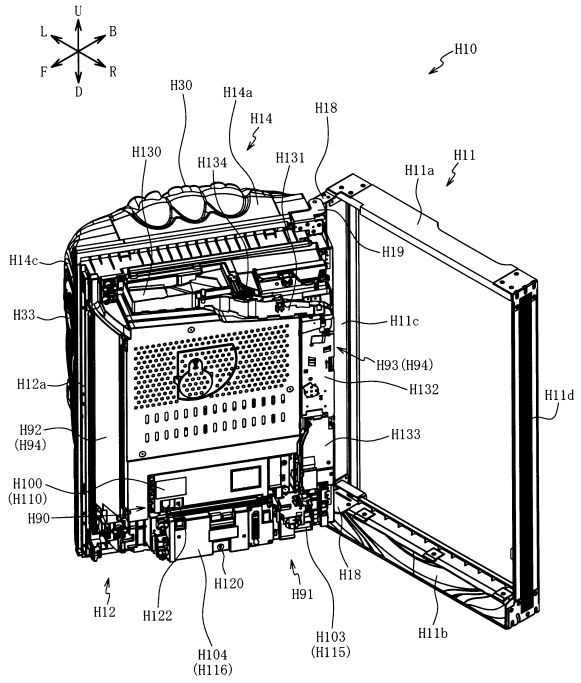
【図１８３３】



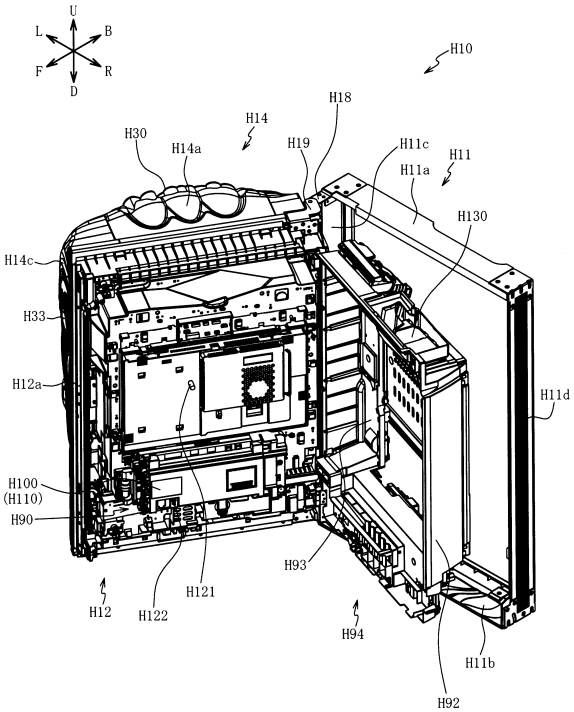
【図１８３４】



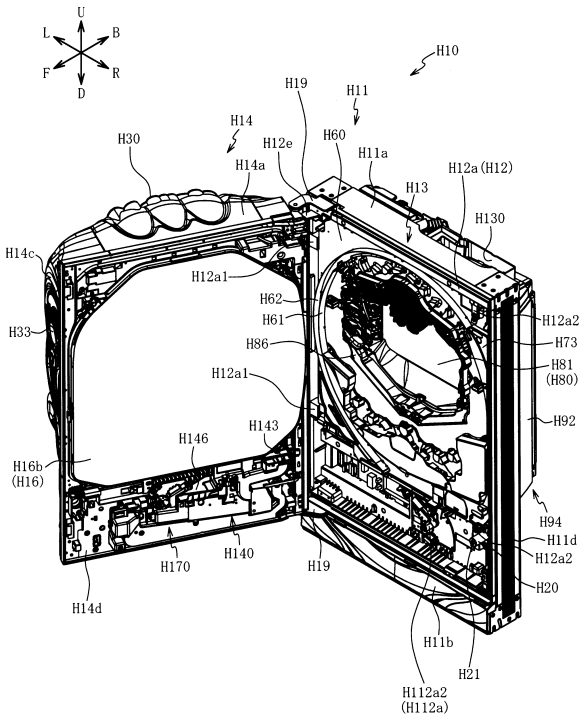
【図１８３５】



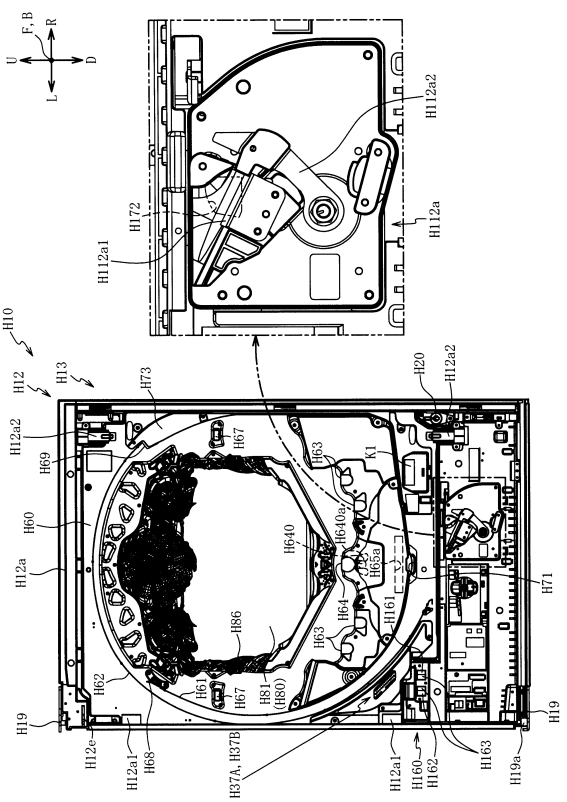
【図１８３６】



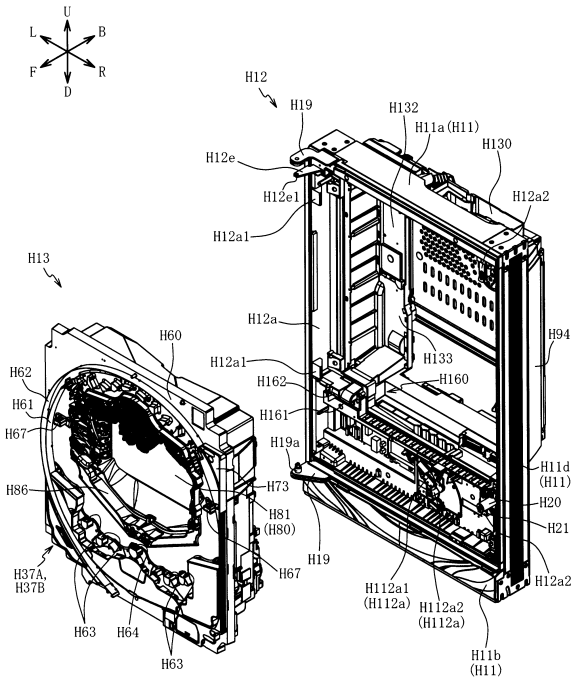
【図１８３７】



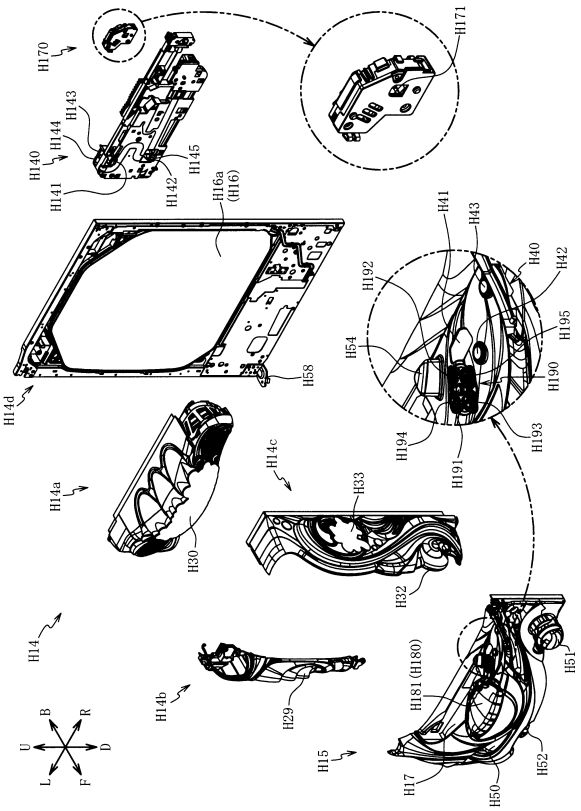
【図１８３８】



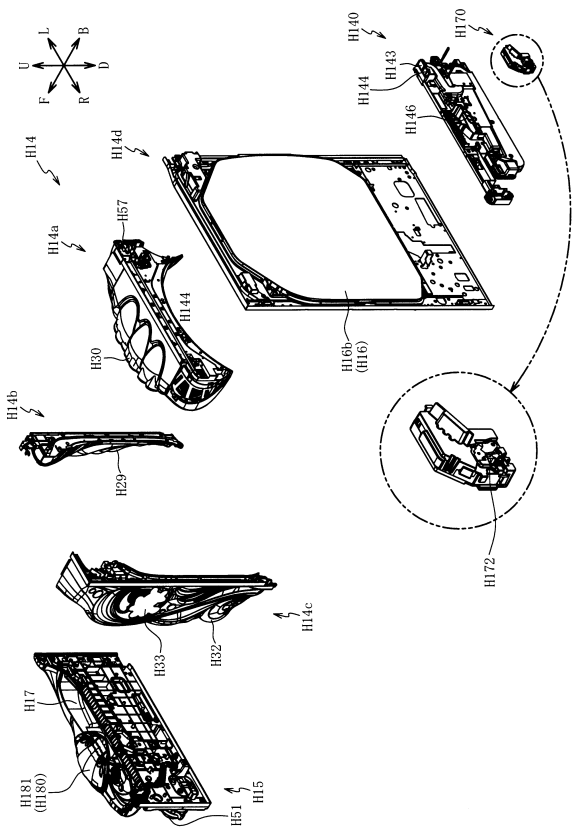
【図１８３９】



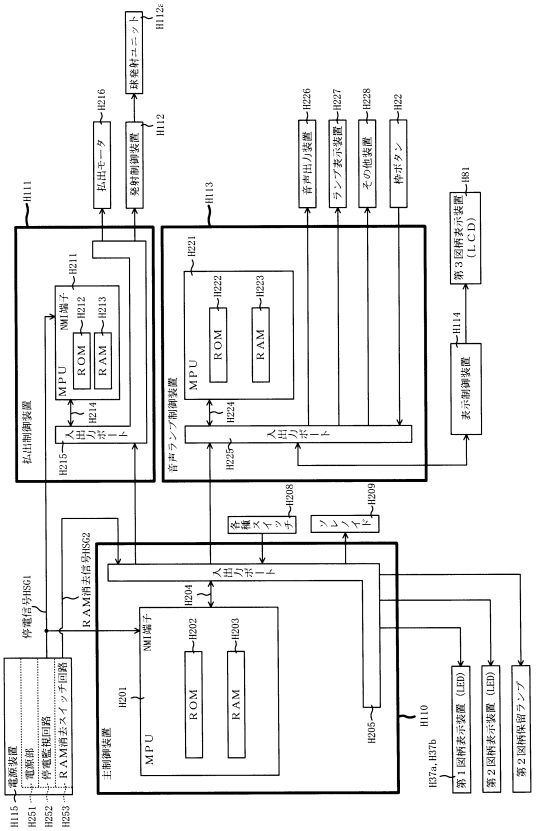
【図１８４０】



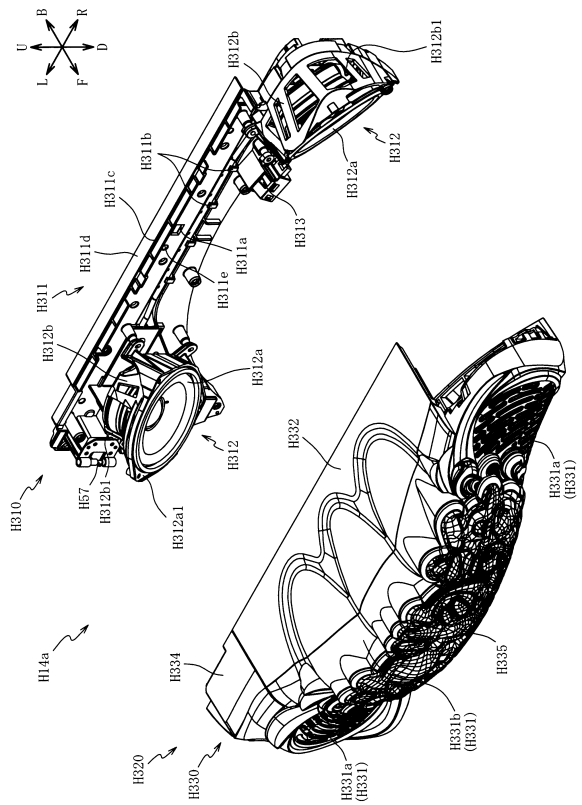
【図１８４１】



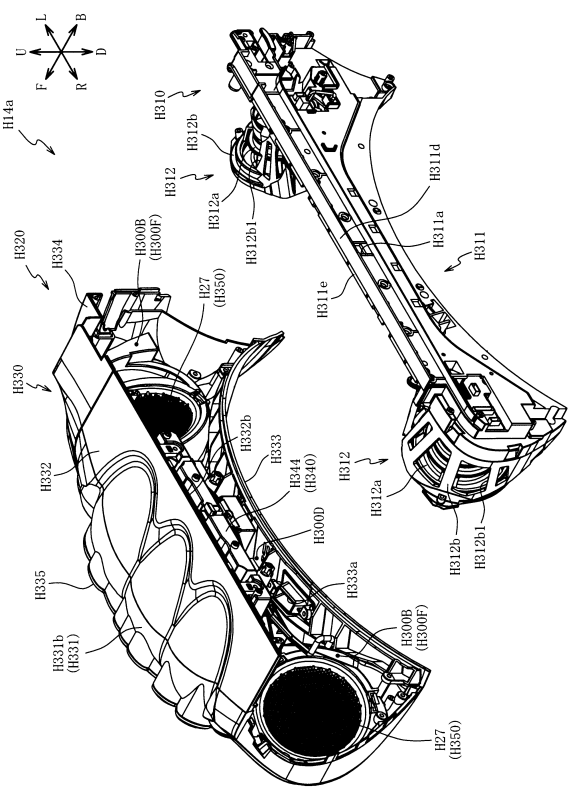
【図１８４２】



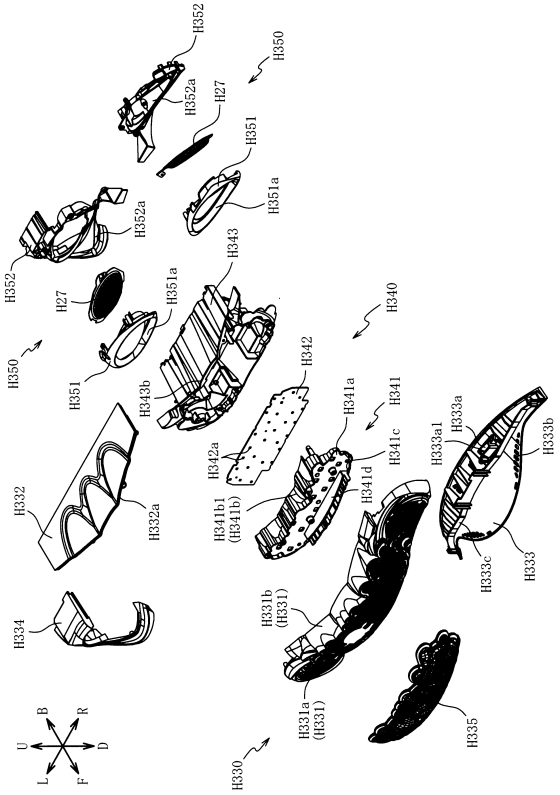
【図１８４３】



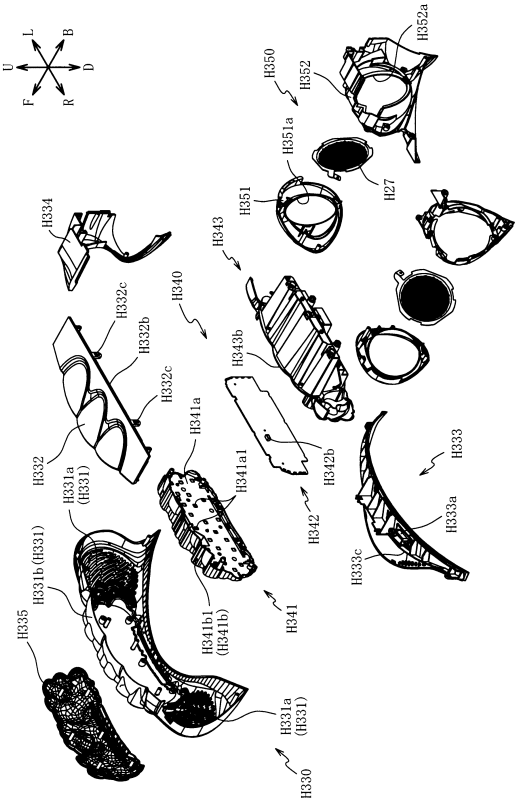
【図１８４４】



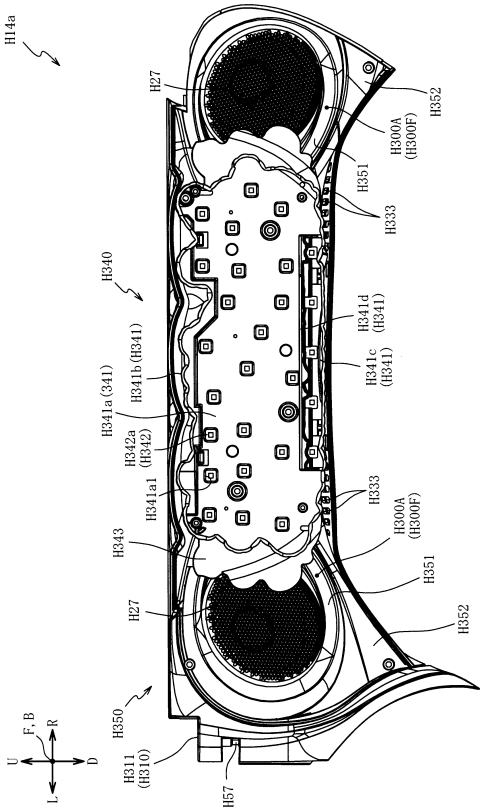
【図１８４５】



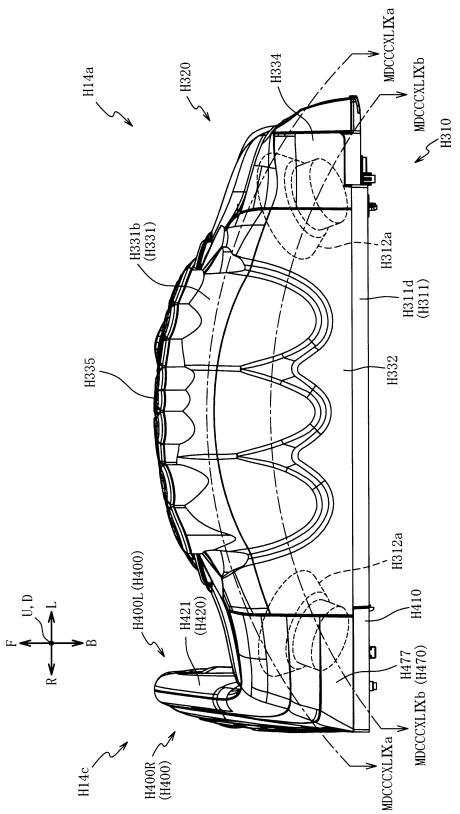
【図１８４６】



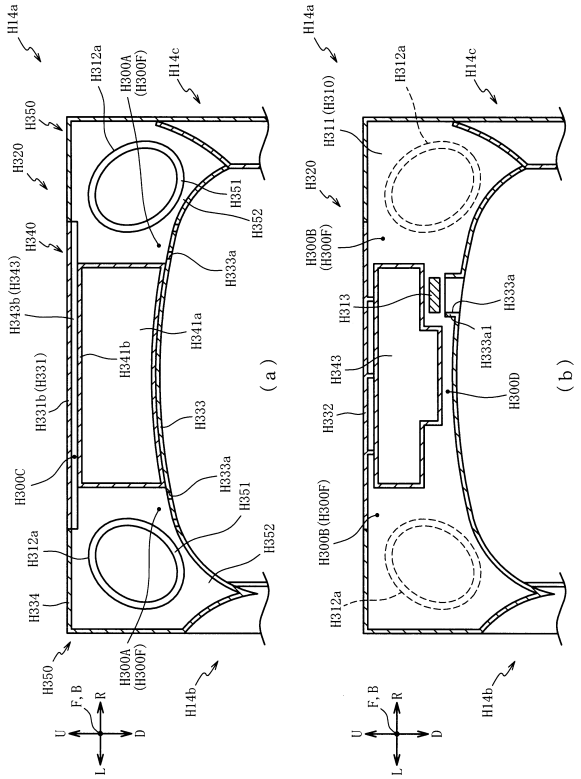
【図１８４７】



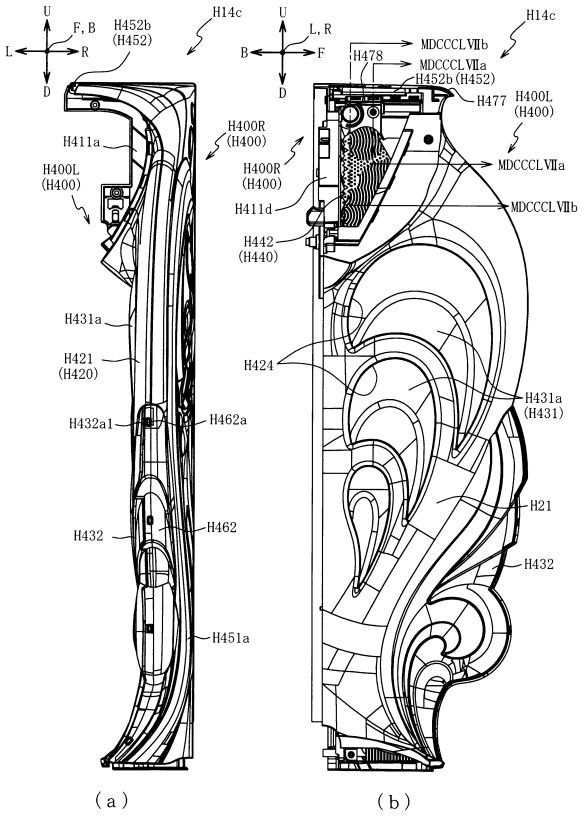
【図１８４８】



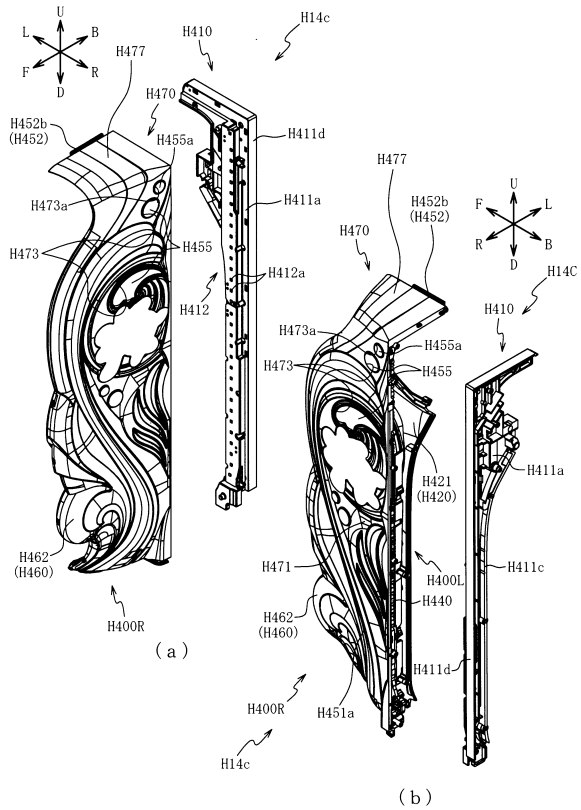
【図１８４９】



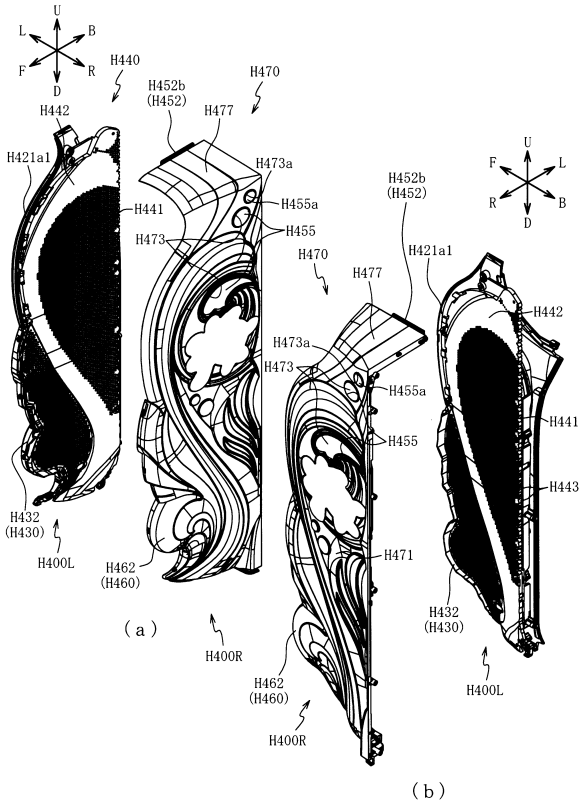
【図１８５０】



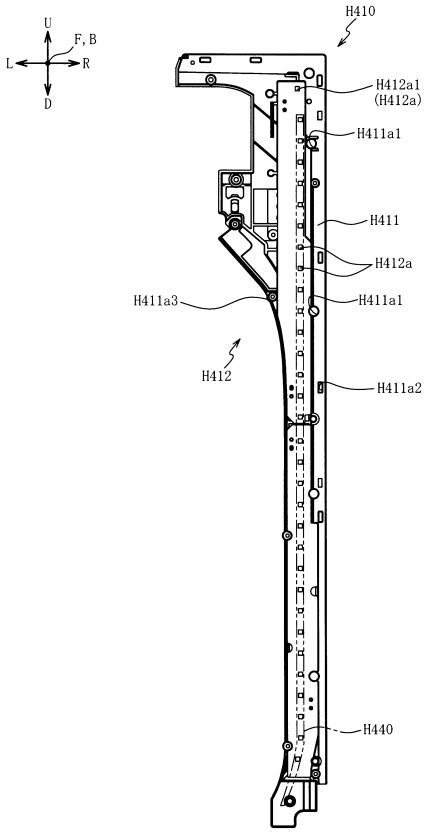
【図１８５１】



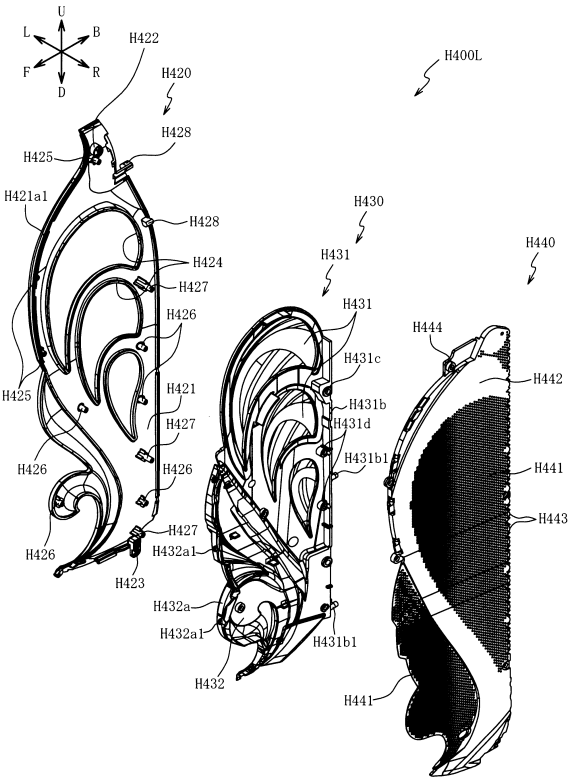
【図１８５２】



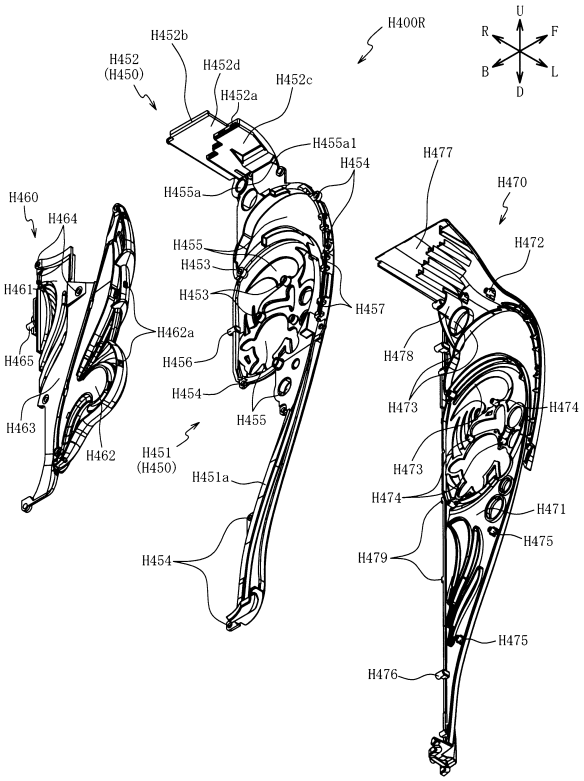
【図１８５３】



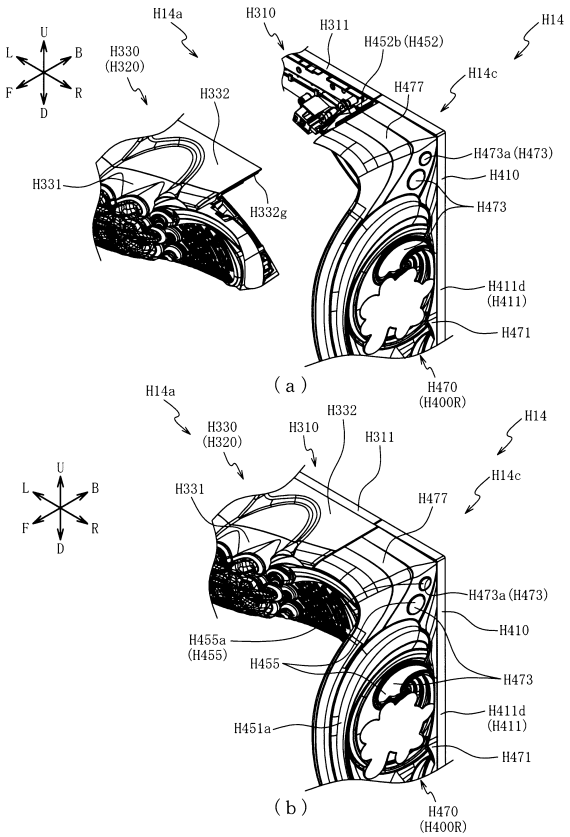
【図１８５４】



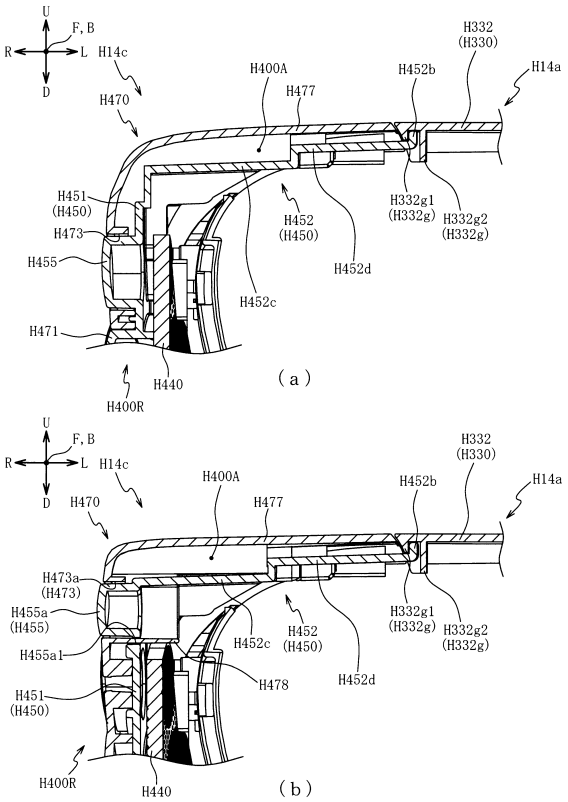
【図１８５５】



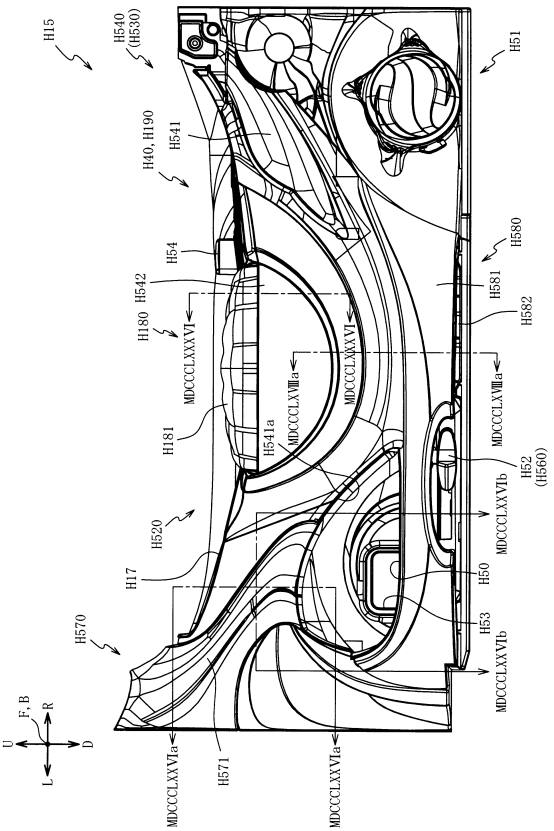
【図１８５６】



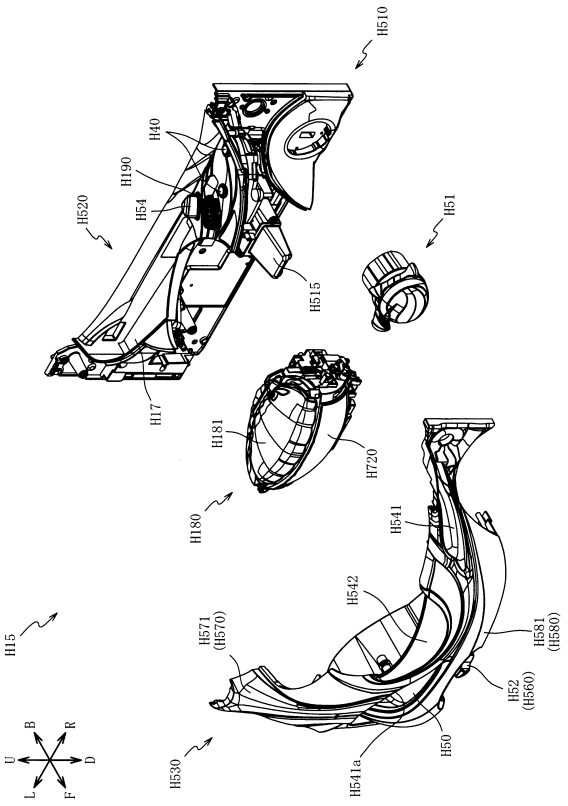
【図１８５７】



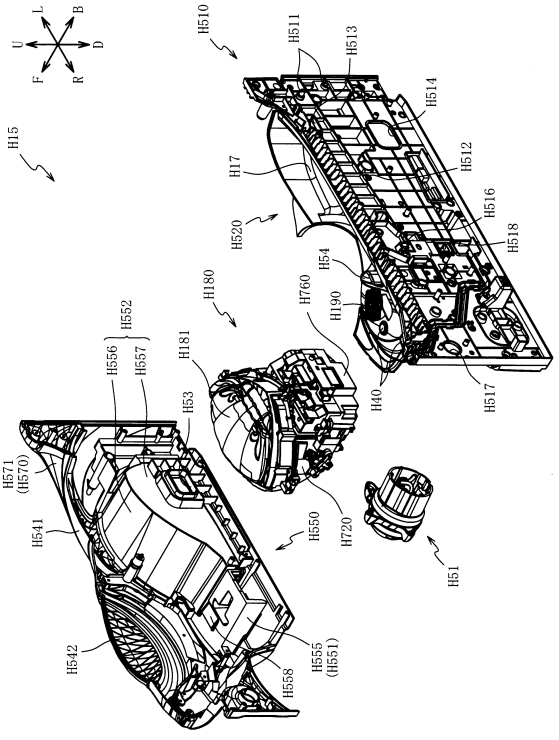
【図１８５８】



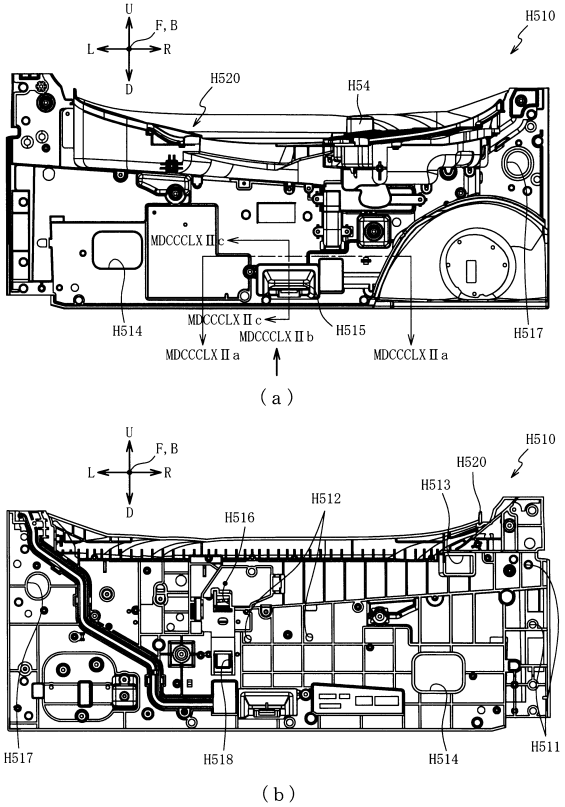
【図１８５９】



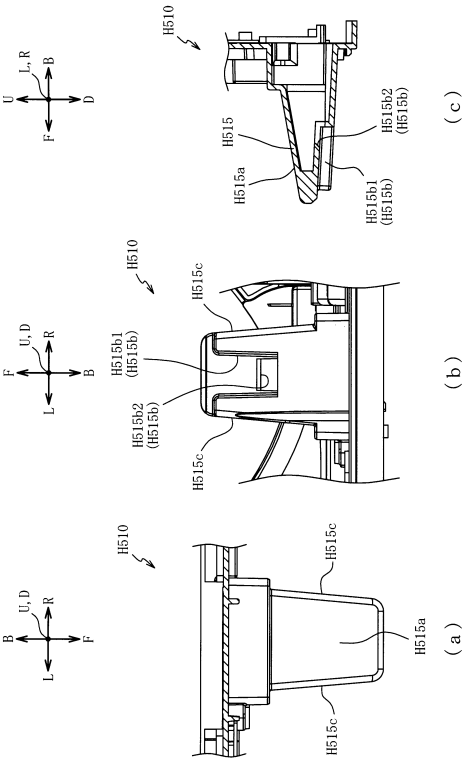
【図１８６０】



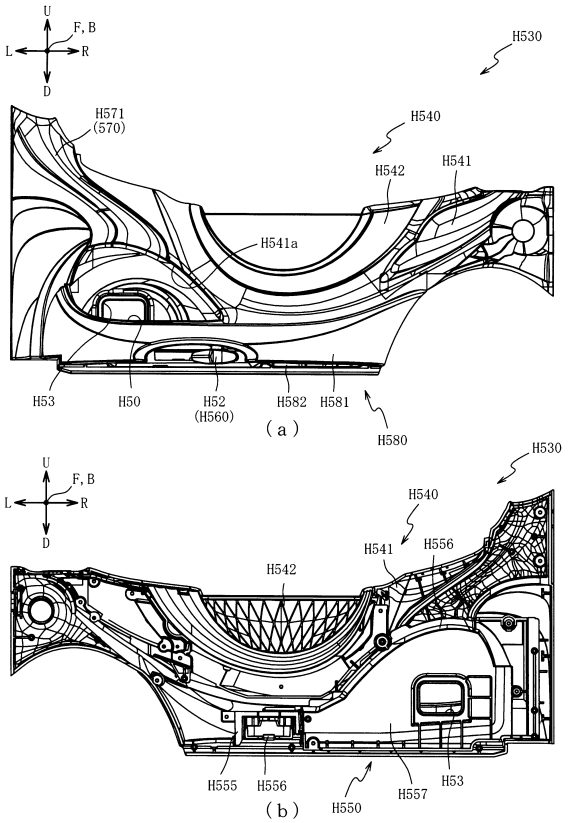
【図１８６１】



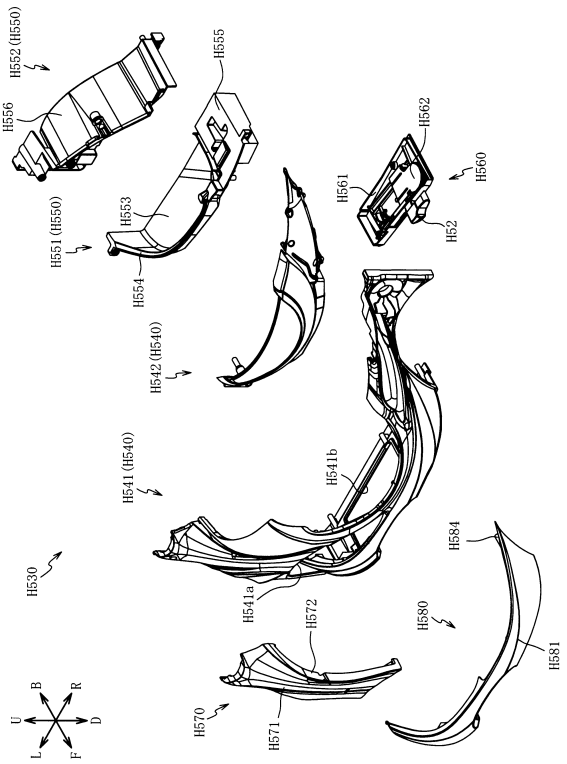
【図１８６２】



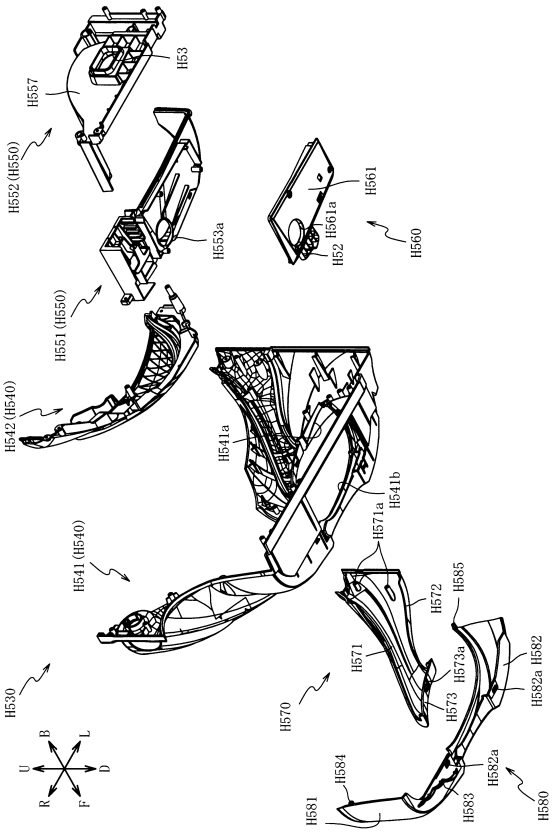
【図１８６３】



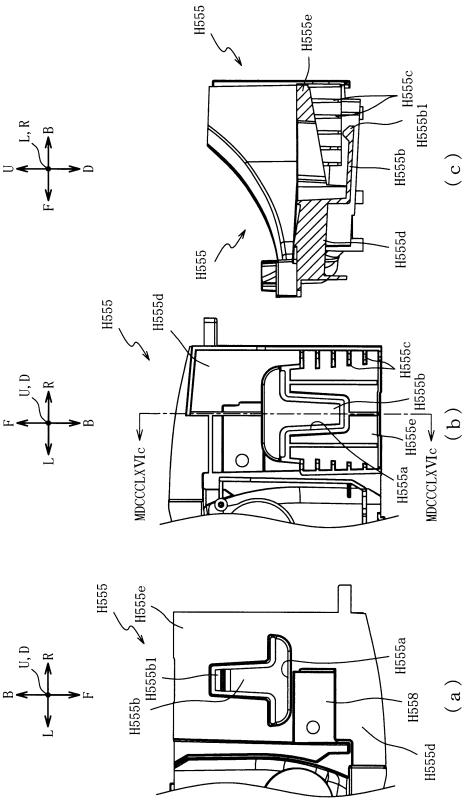
【図１８６４】



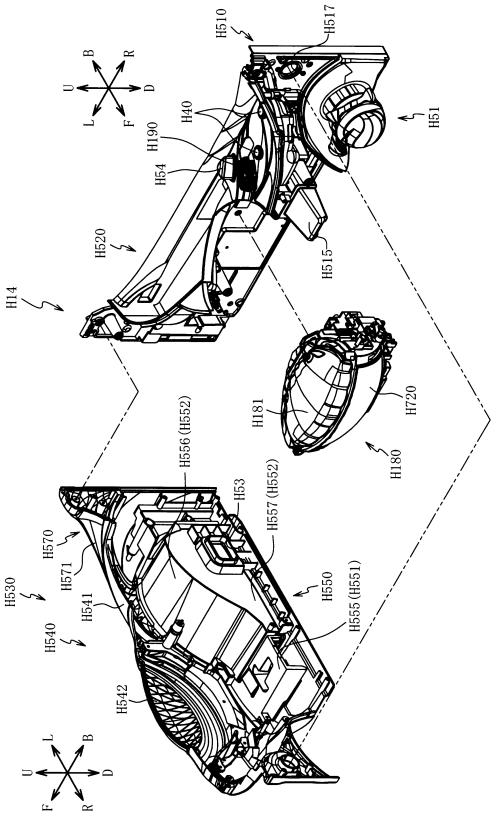
【図１８６５】



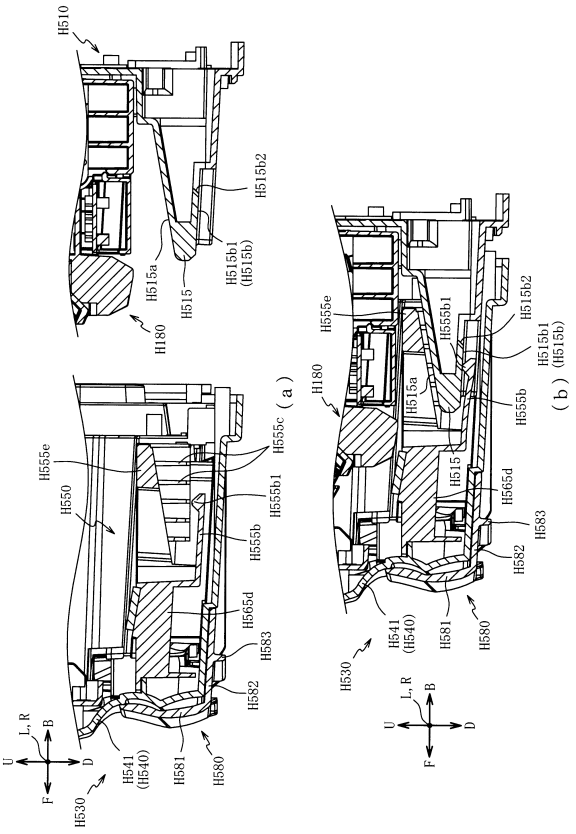
【図１８６６】



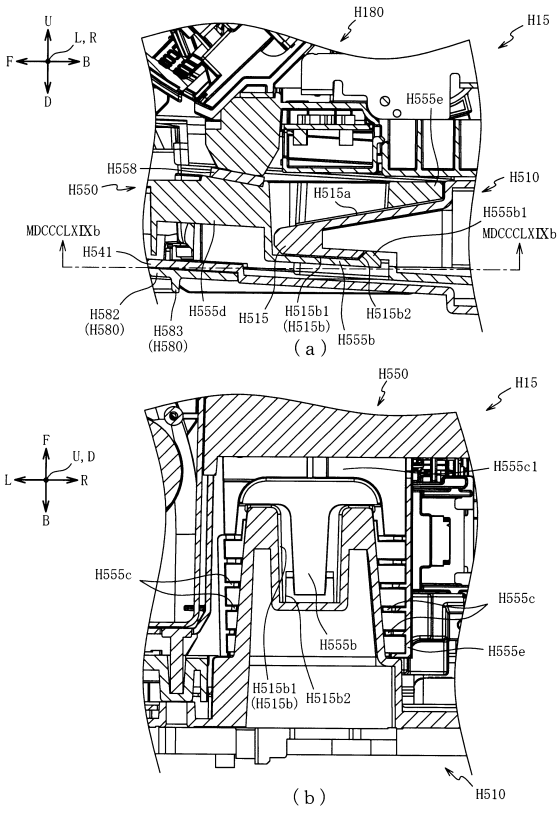
【図１８６７】



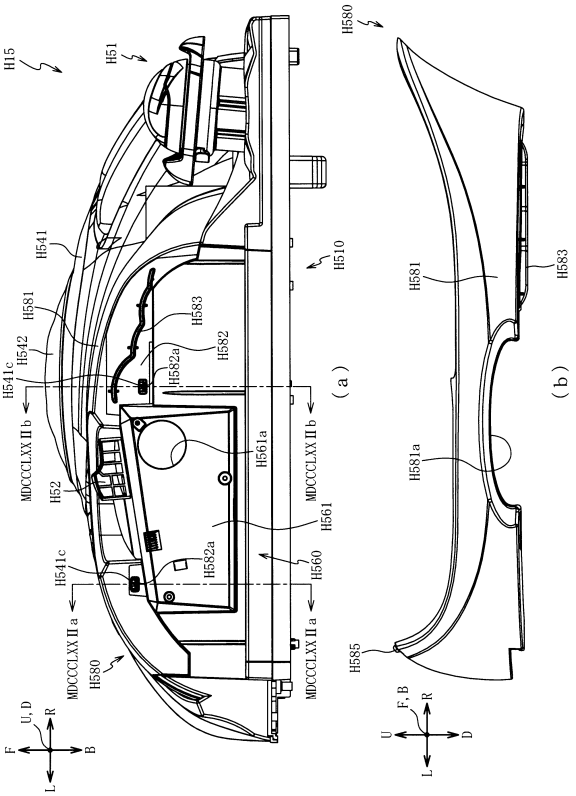
【図１８６８】



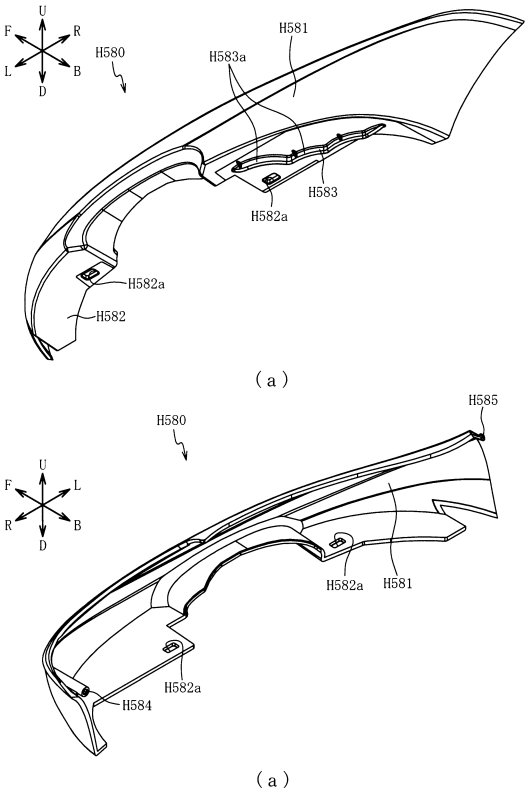
【図１８６９】



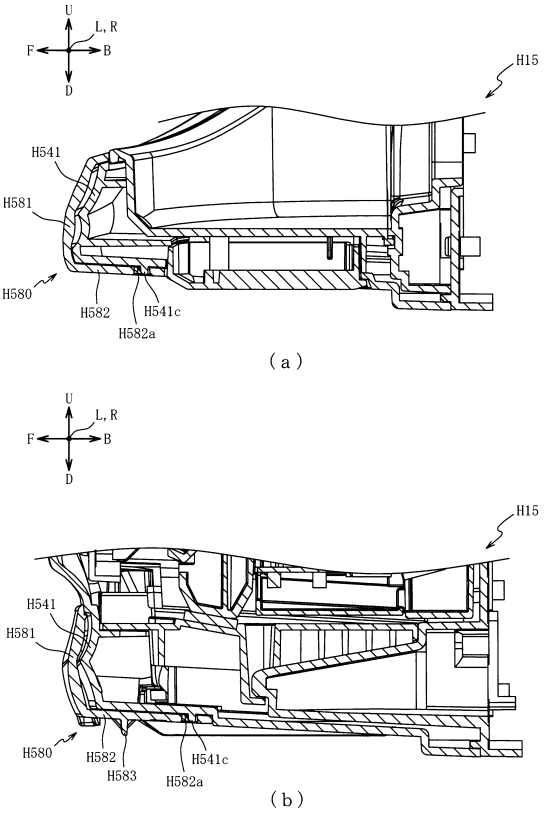
【図１８７０】



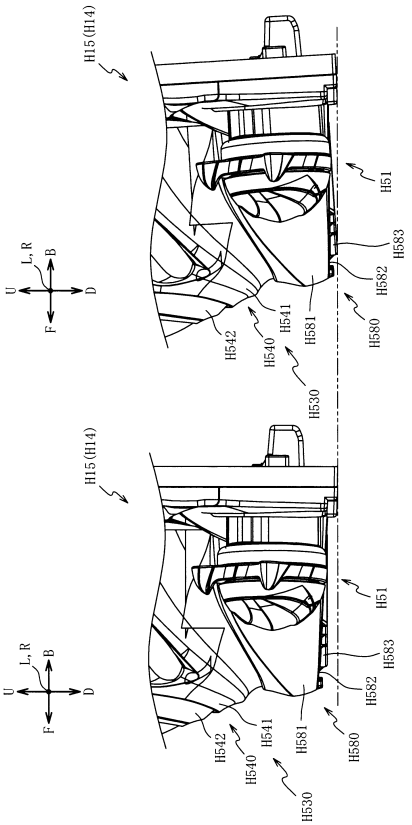
【図１８７１】



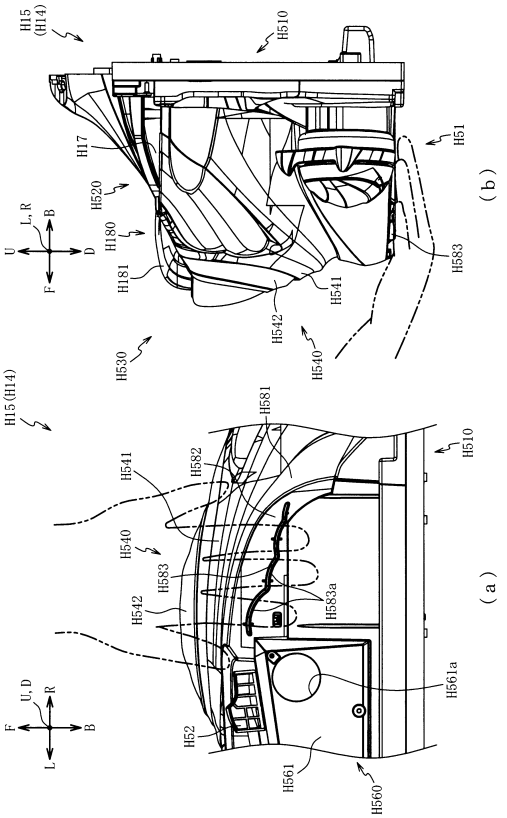
【図１８７２】



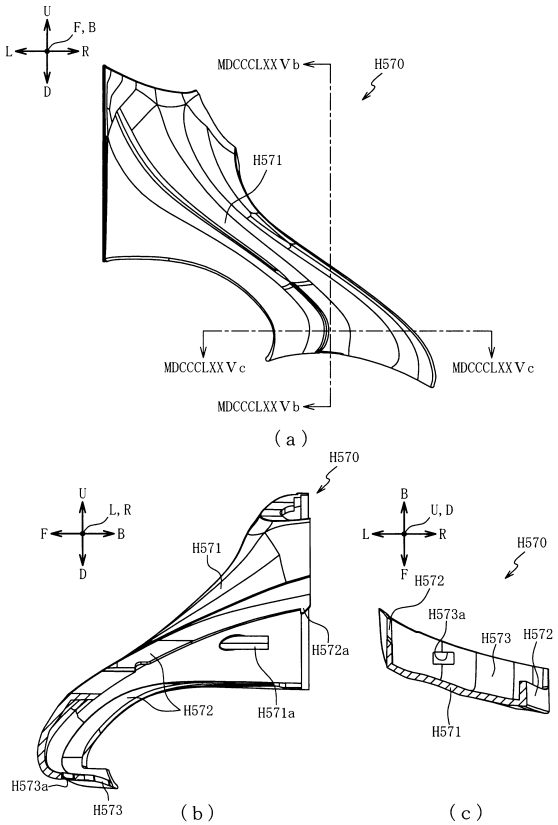
【図１８７３】



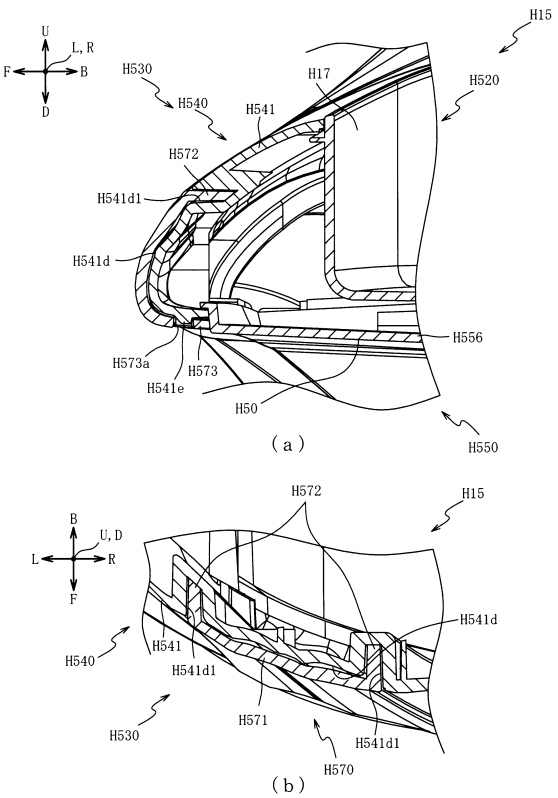
【図１８７４】



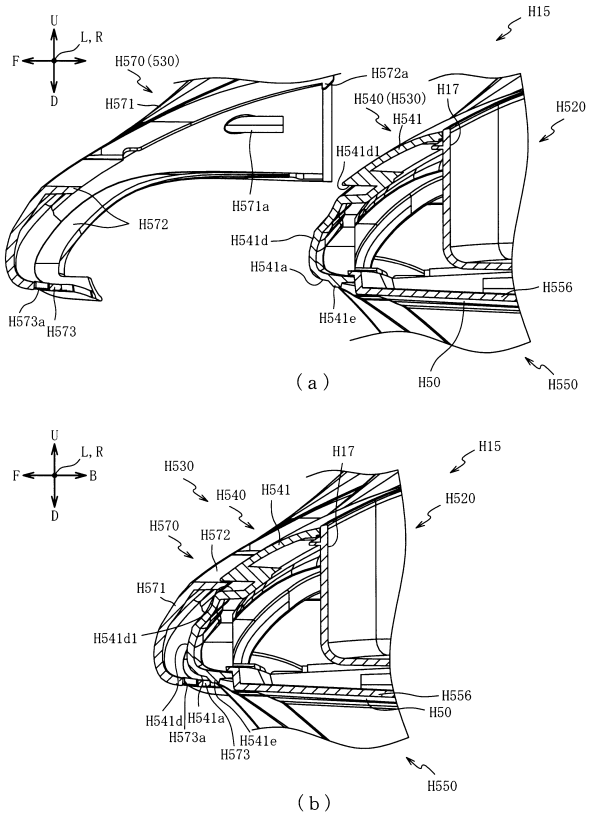
【図１８７５】



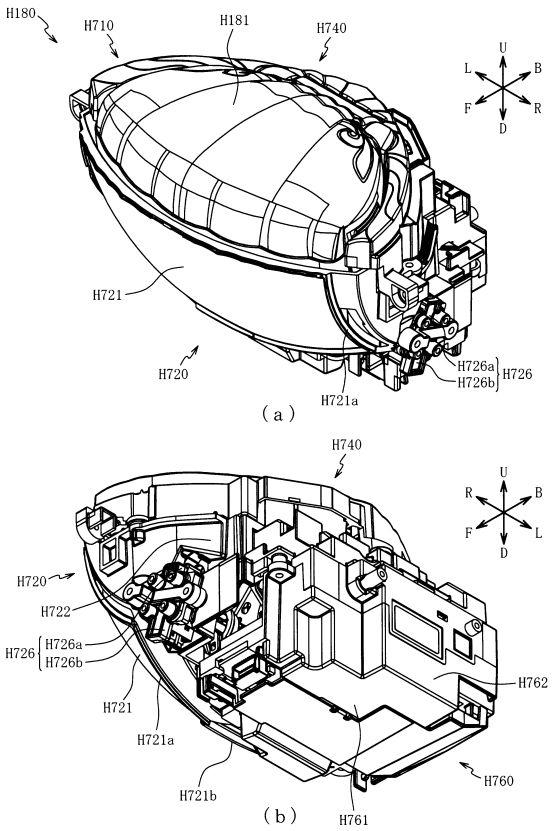
【図１８７６】



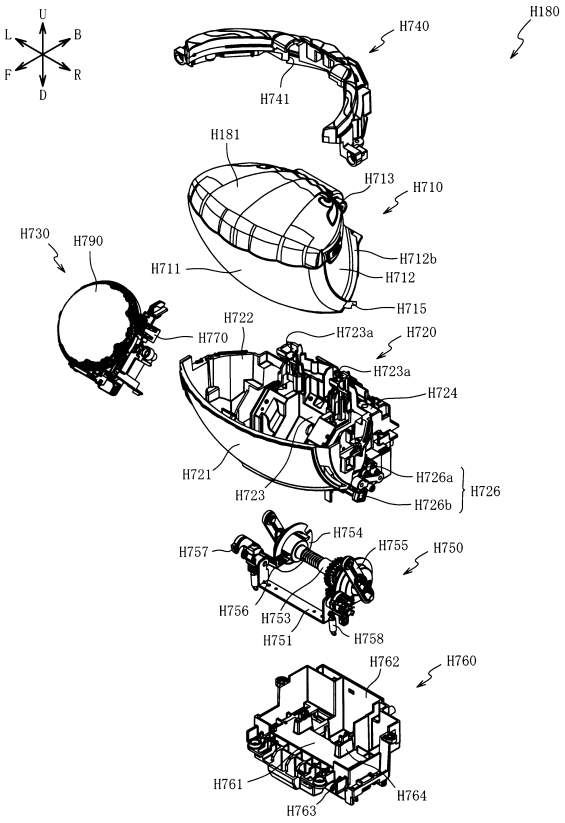
【図１８７７】



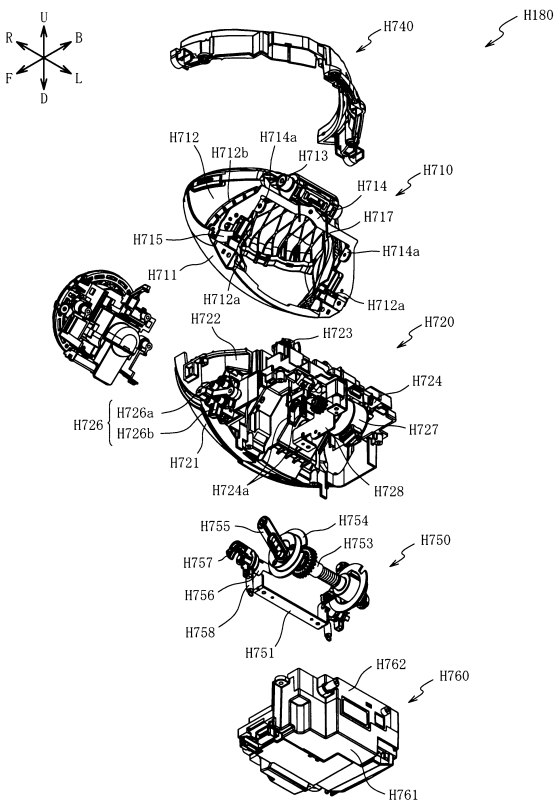
【図１８７８】



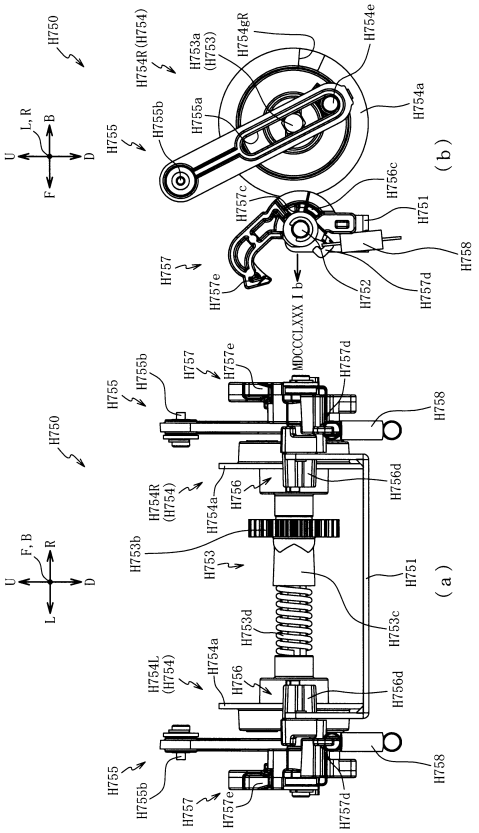
【図１８７９】



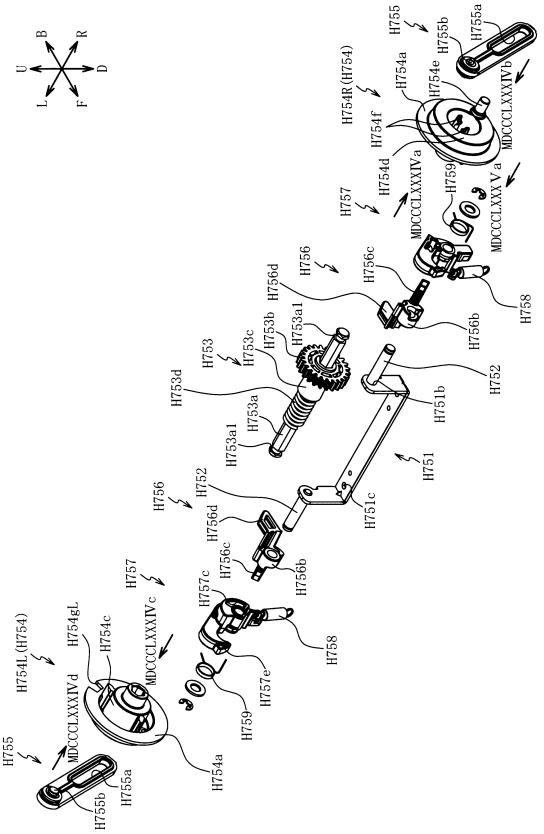
【図１８８０】



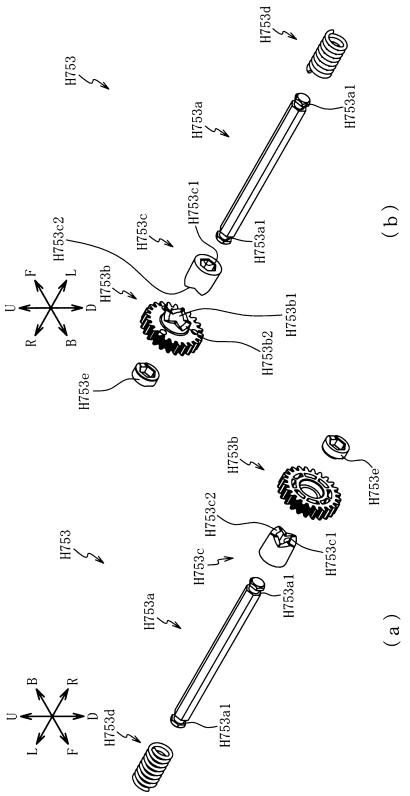
【図１８８１】



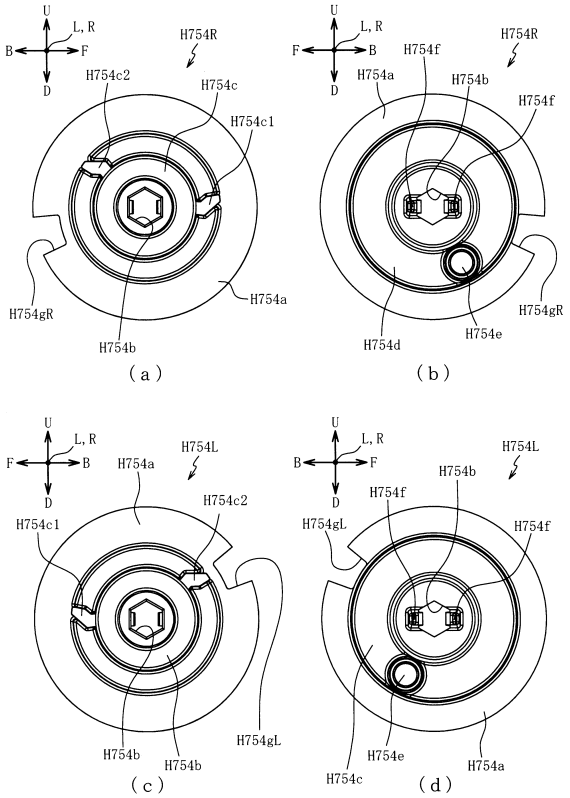
【図１８８２】



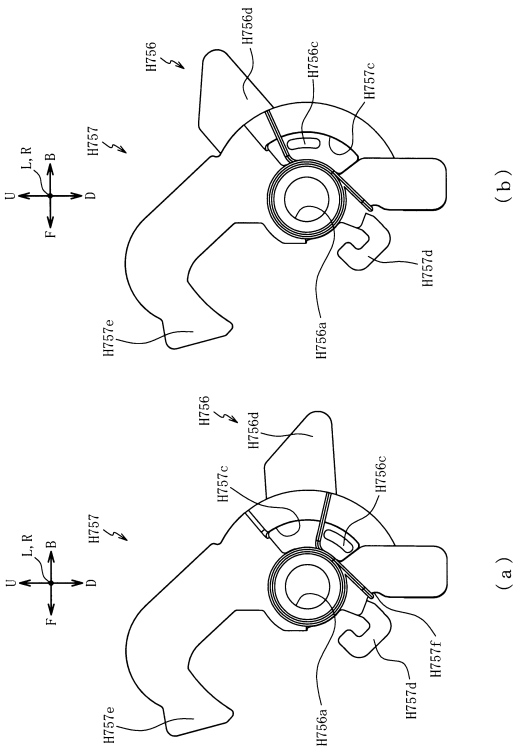
【図１８８３】



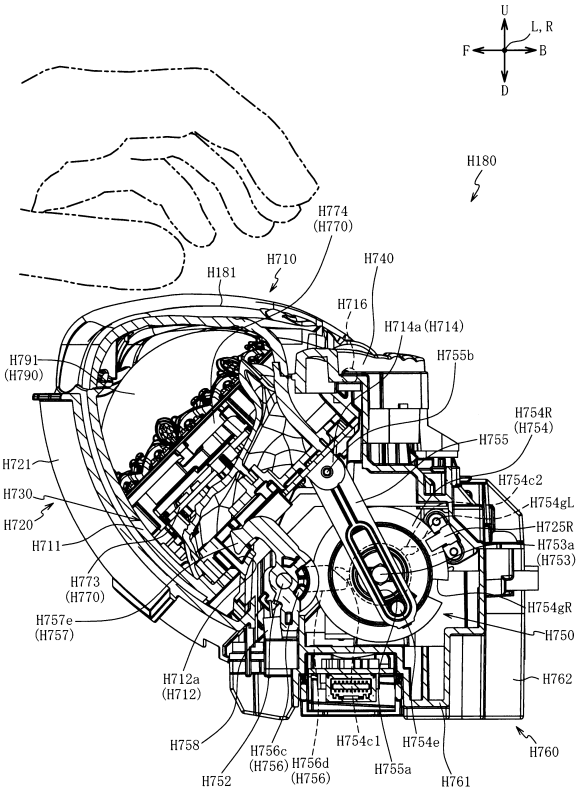
【図１８８４】



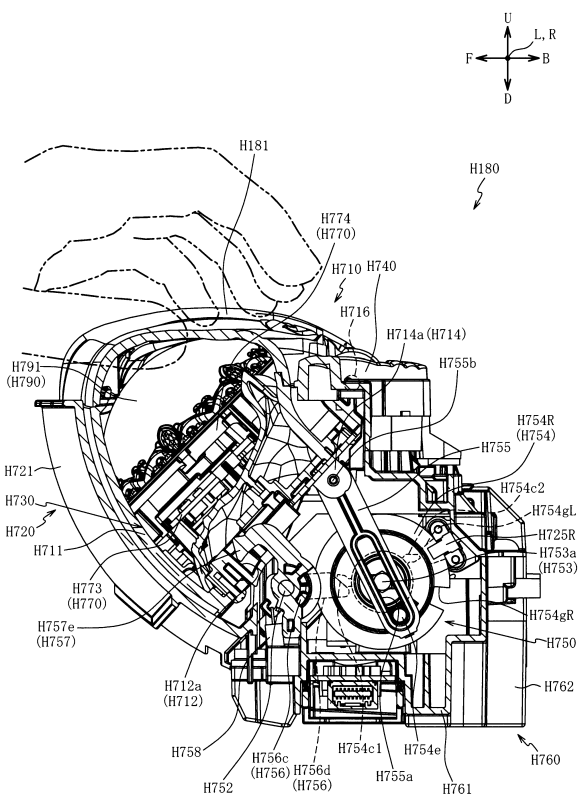
【図１８８５】



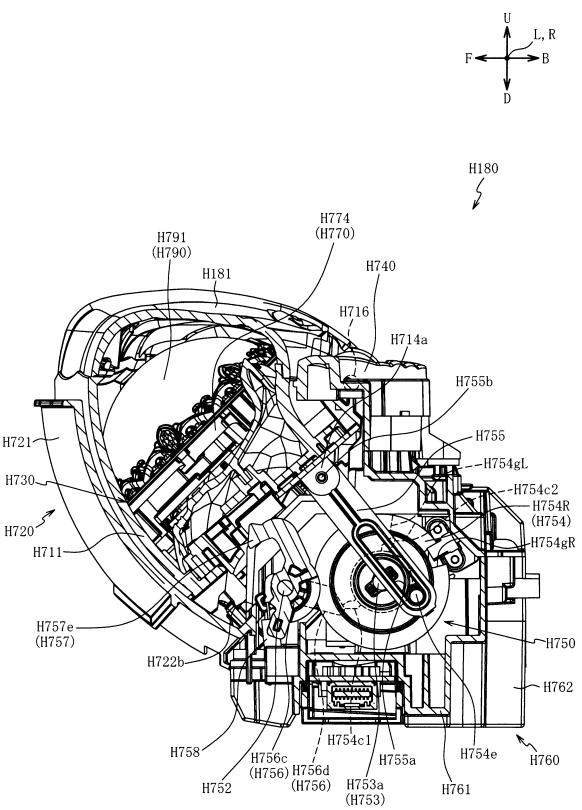
【図１８８６】



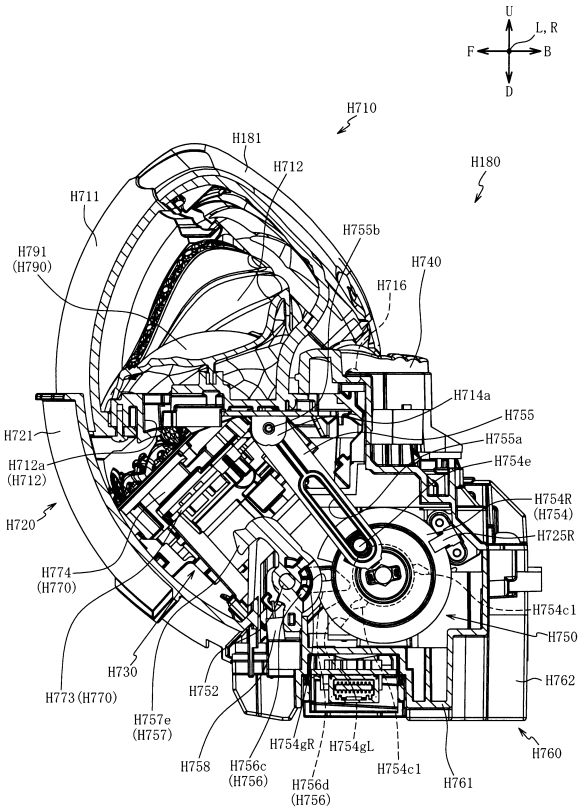
【図１８８７】



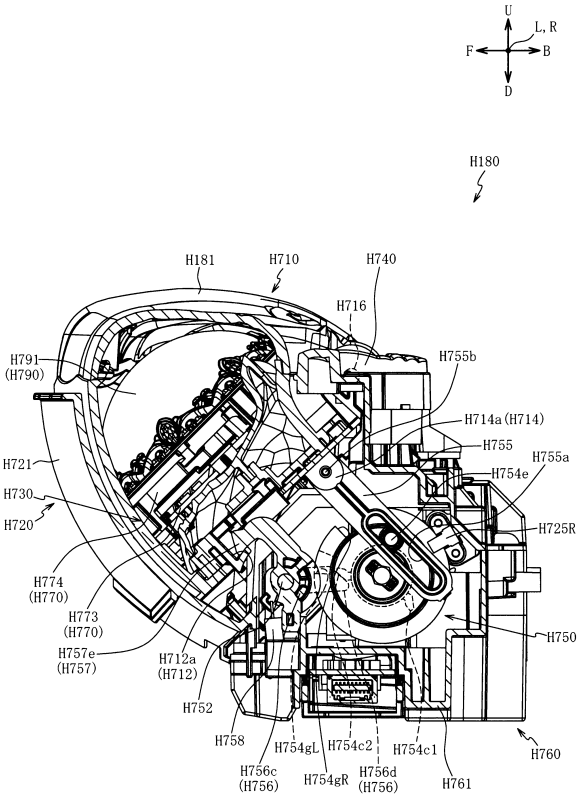
【図１８８８】



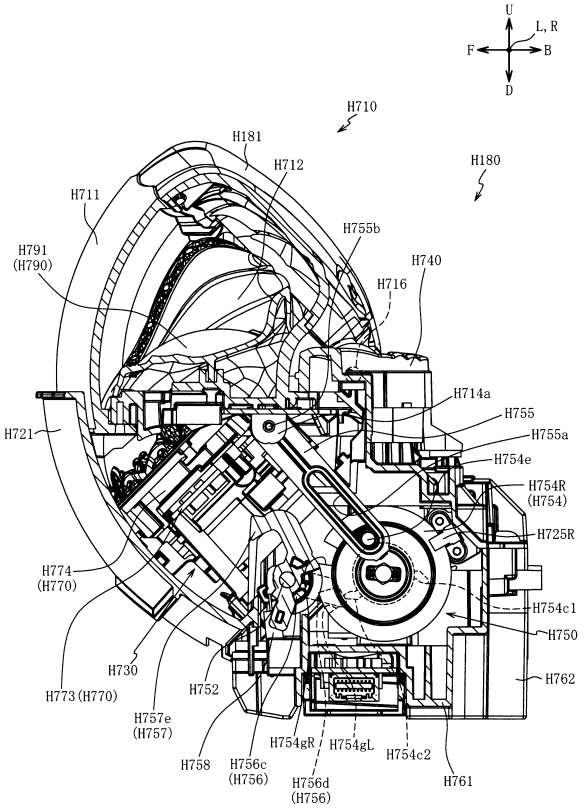
【図１８８９】



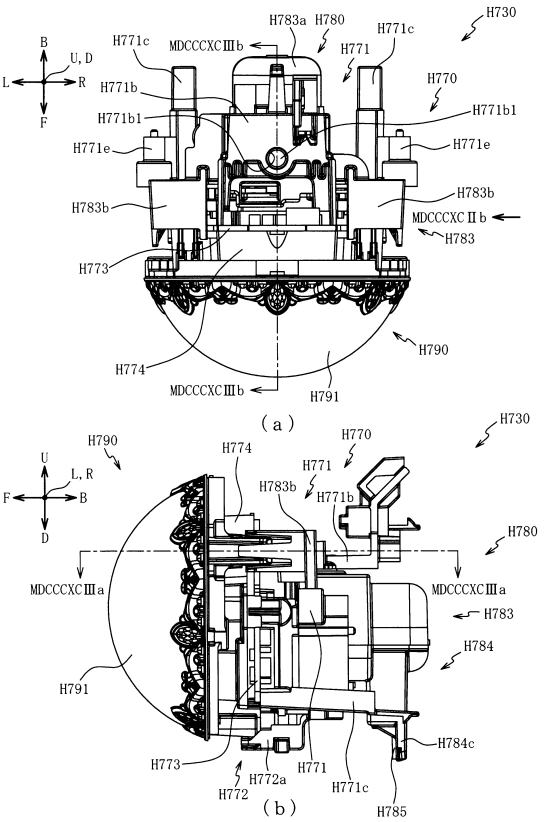
【図１８９０】



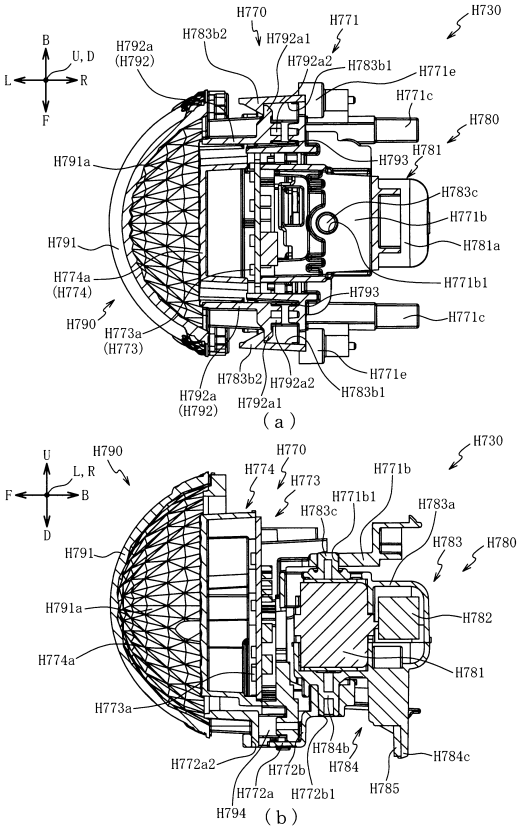
【図１８９１】



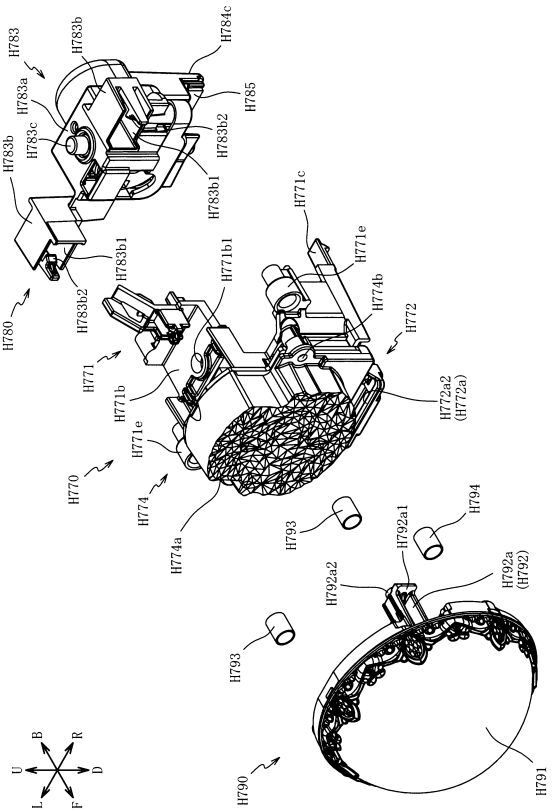
【図１８９２】



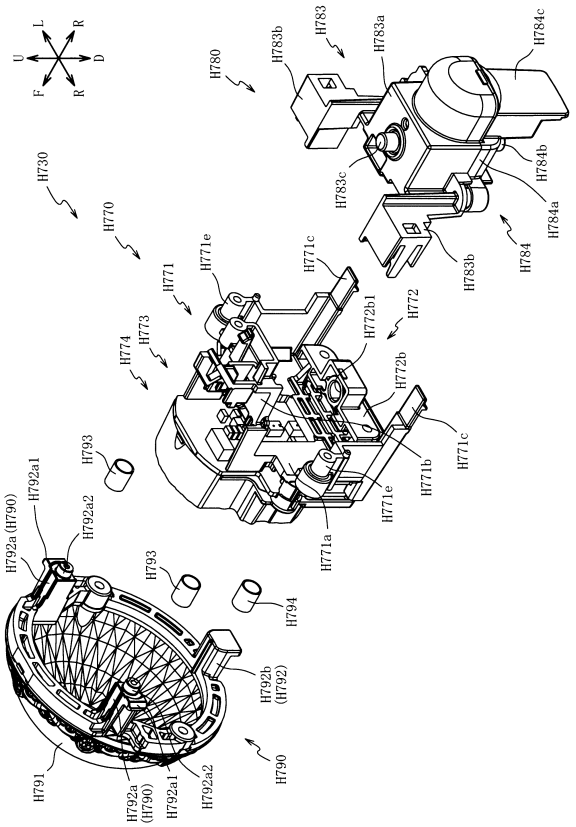
【図１８９３】



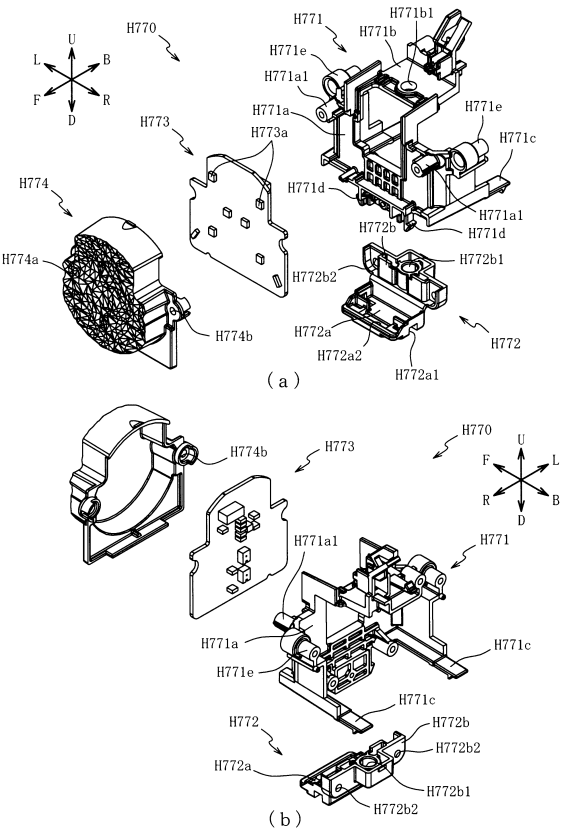
【図１８９４】



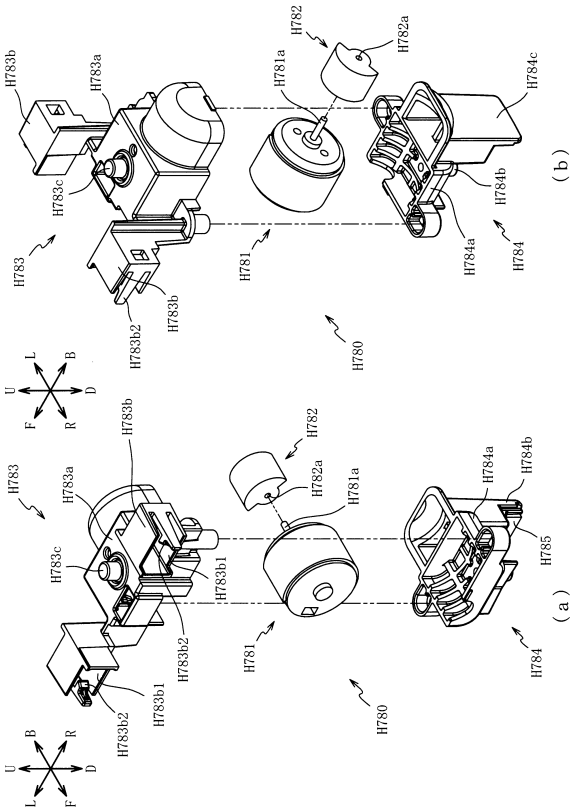
【図１８９５】



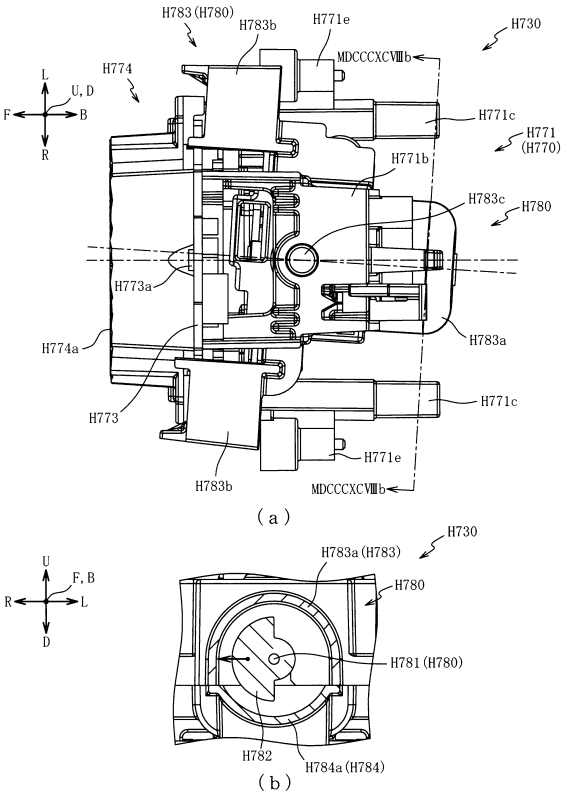
【図１８９６】



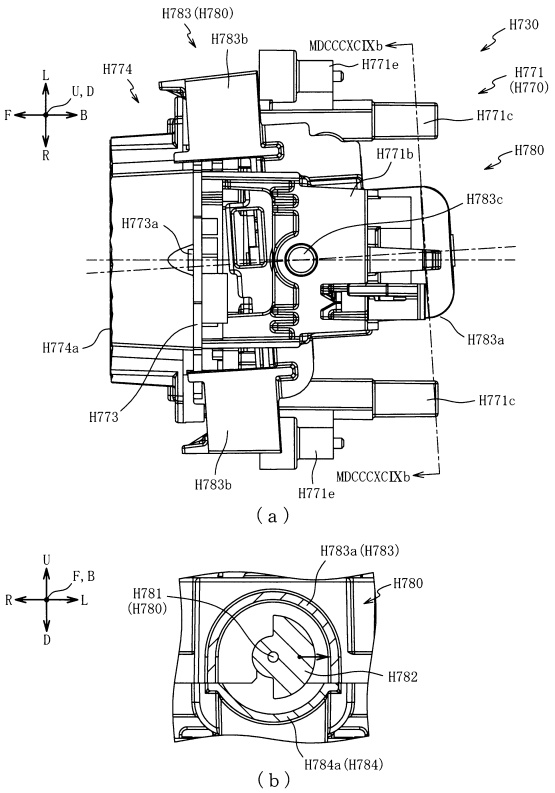
【図１８９７】



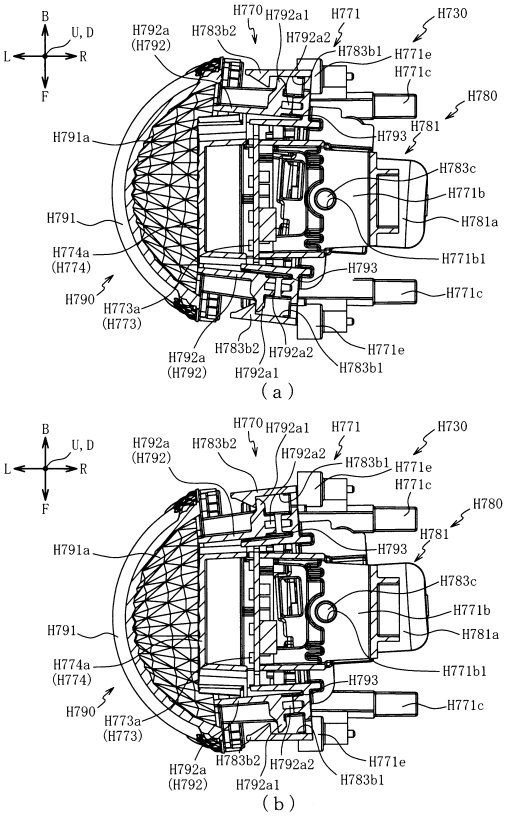
【図１８９８】



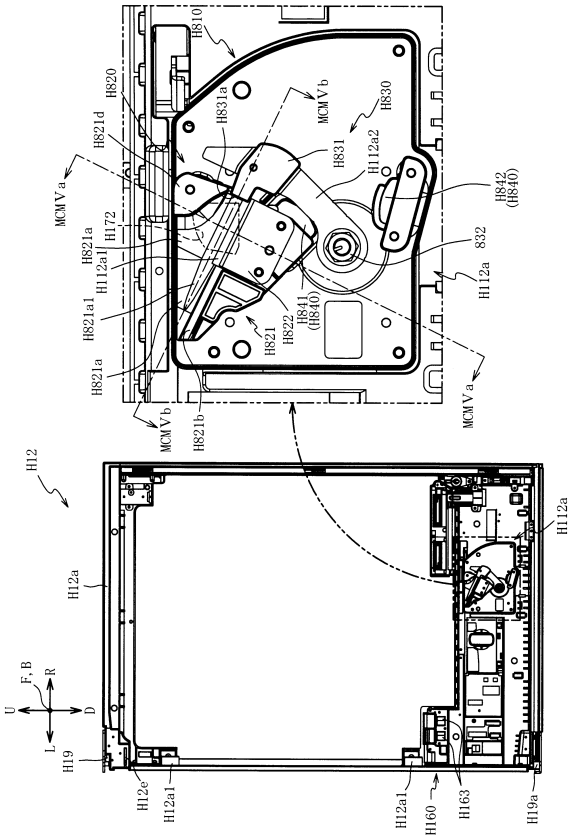
【図１８９９】



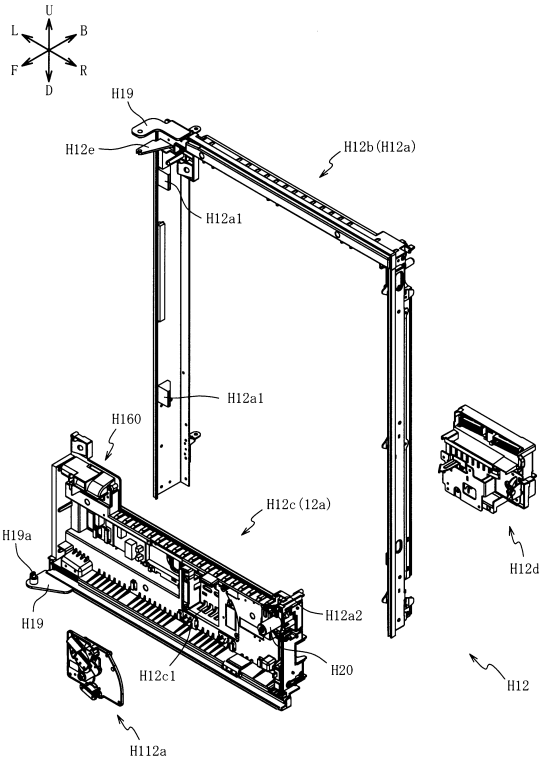
【図１９００】



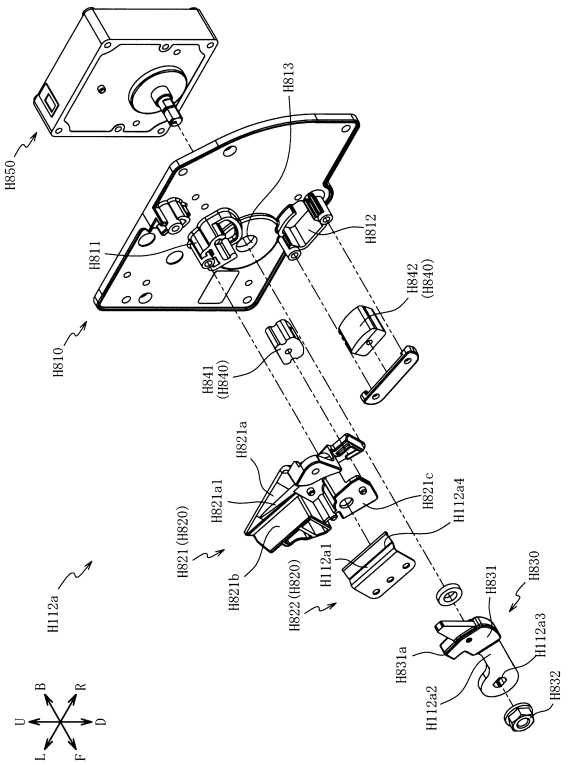
【図１９０１】



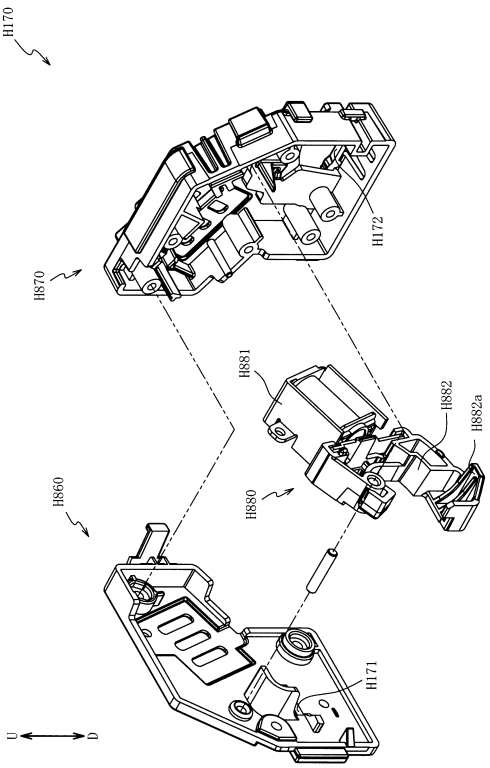
【図１９０２】



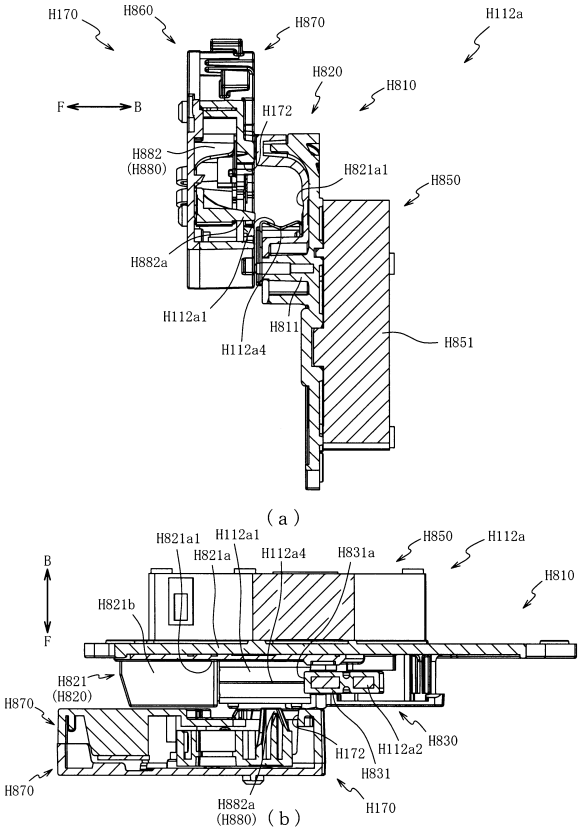
【図１９０３】



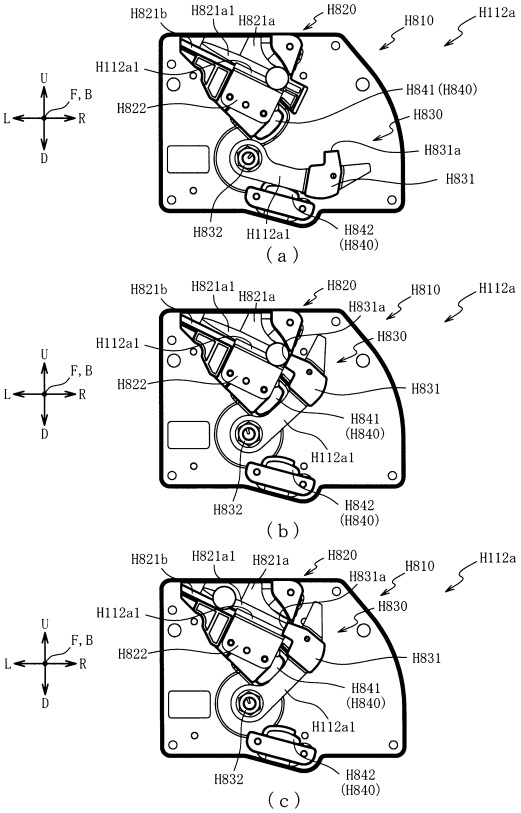
【図１９０４】



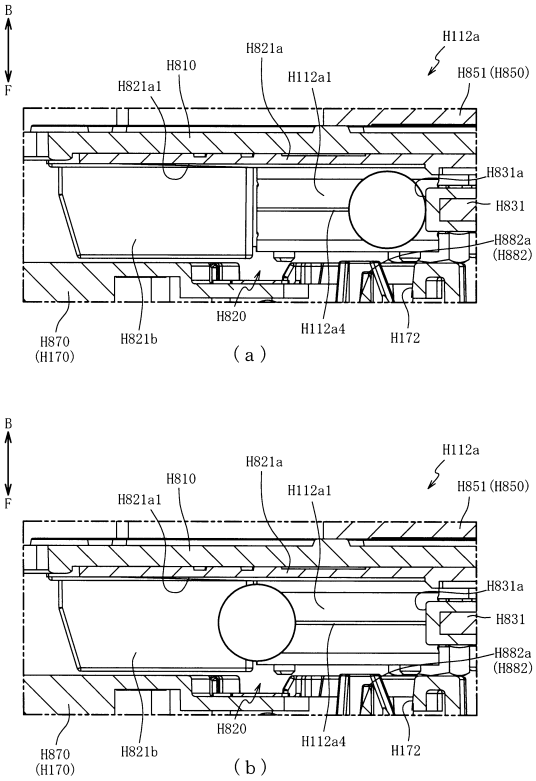
【図１９０５】



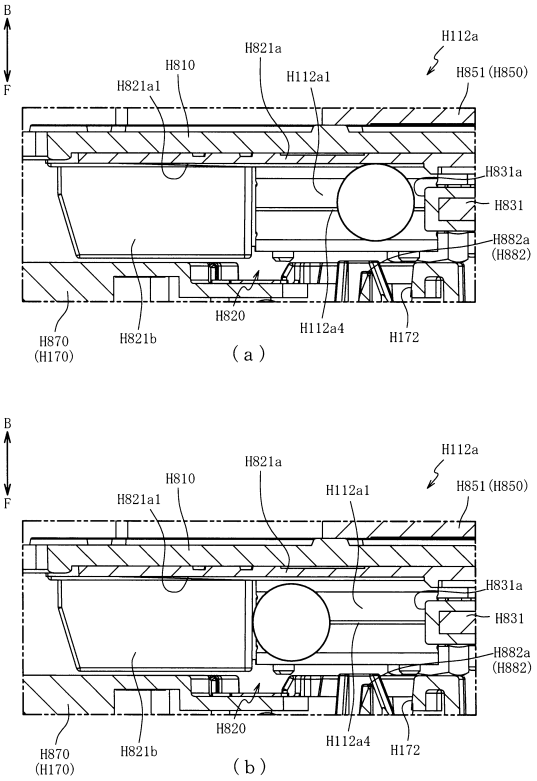
【図１９０６】



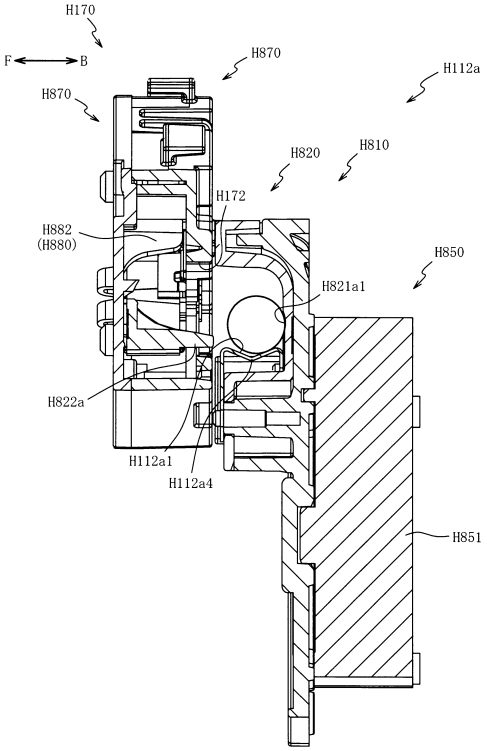
【図１９０７】



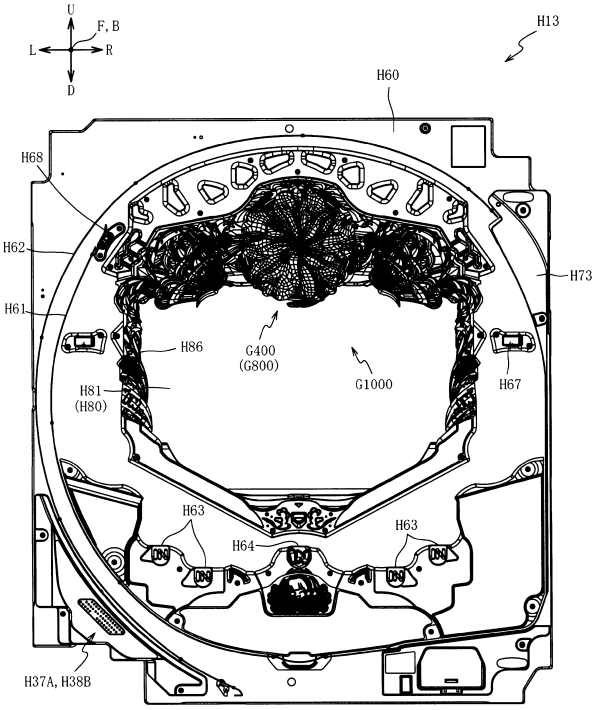
【図１９０８】



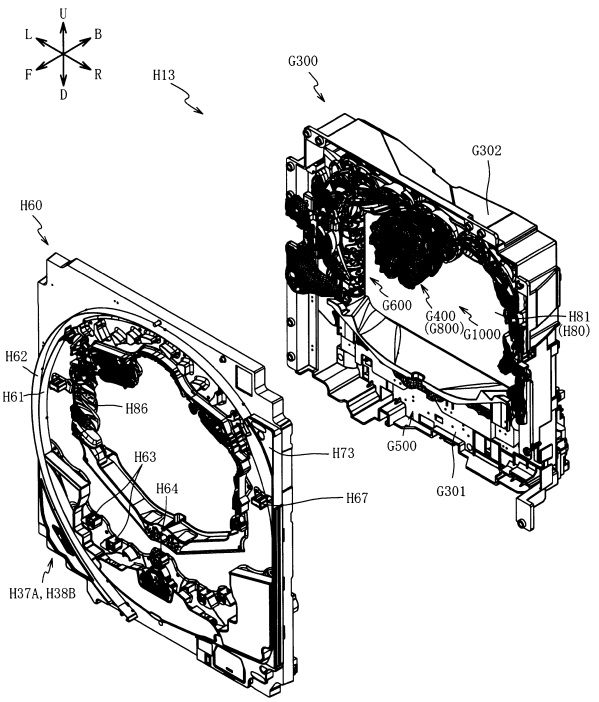
【図１９０９】



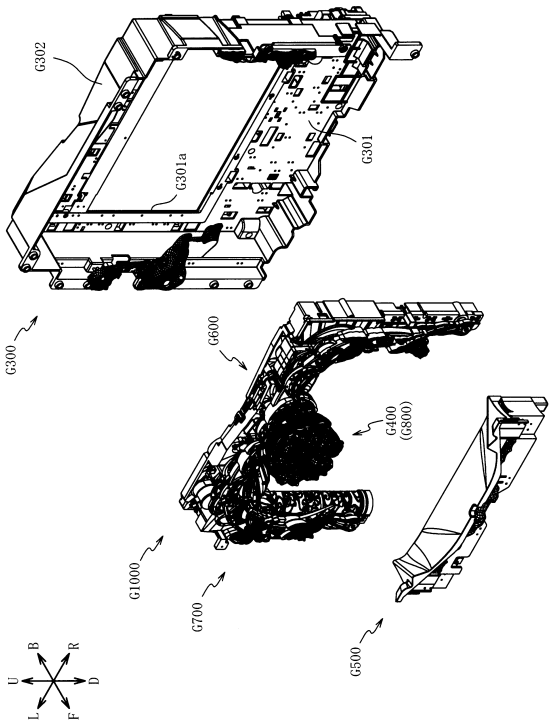
【図１９１０】



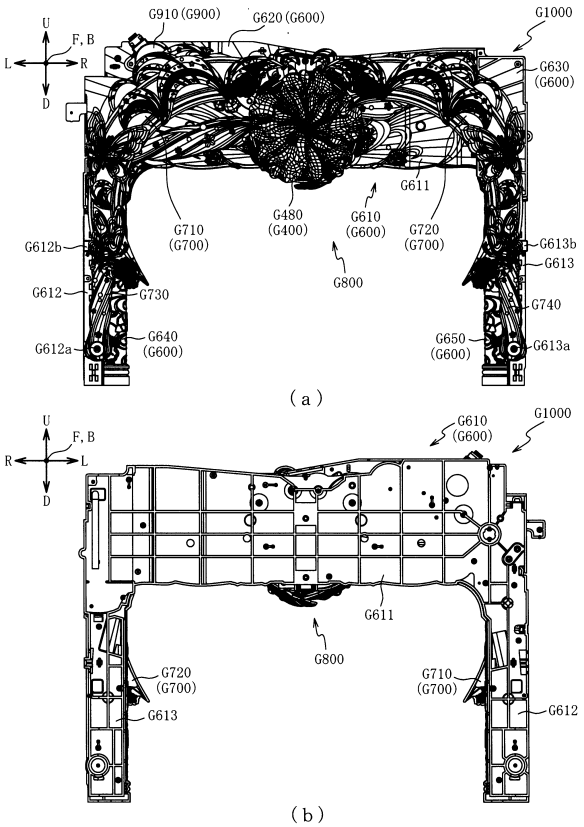
【図１９１１】



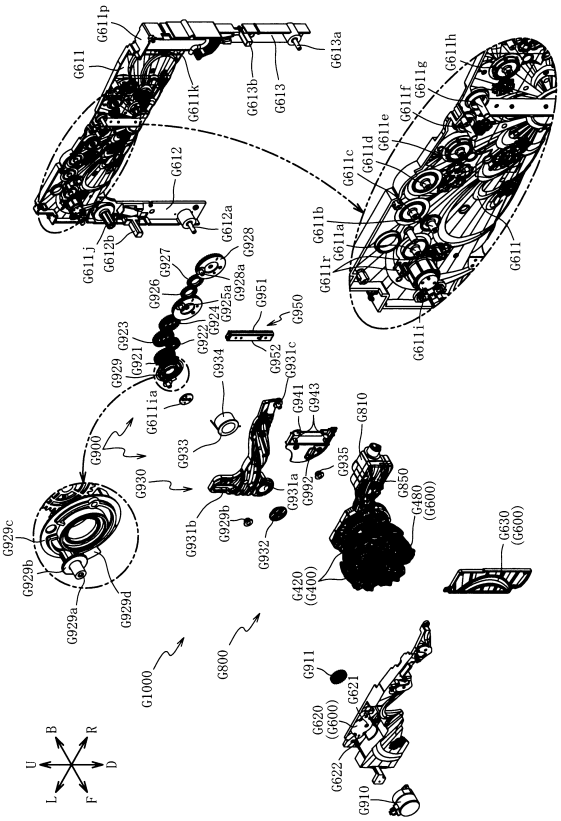
【図１９１２】



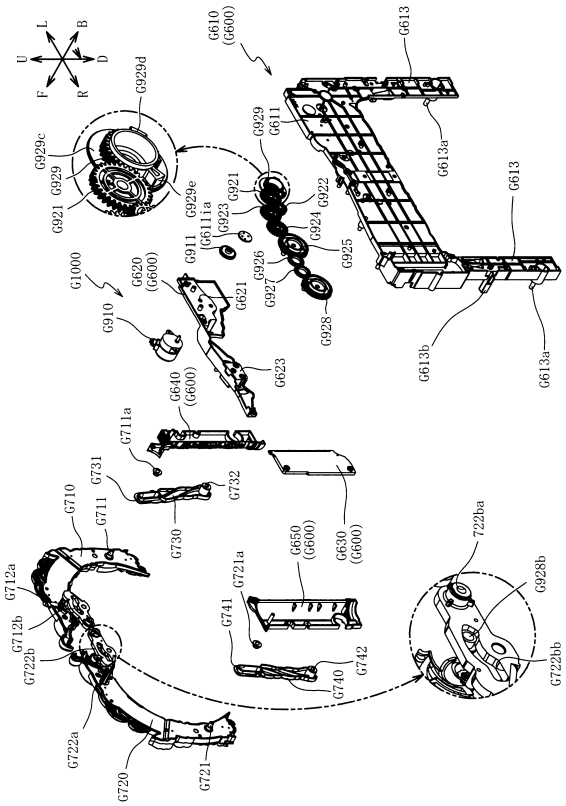
【図１９１３】


U
F, B
L
R
D
G910 (G900)
G620 (G600)
G1000
G630 (G600)
G611
G710 (G700)
G480 (G400)
G610 (G600)
G720 (G700)
G613b
G613
G612b
G612
G730
G740
G640 (G600)
G612a
G650 (G600)
G613a
G800
(a)
G610 (G600)
G1000
G720 (G700)
G710 (G700)
G612
G613
(b)

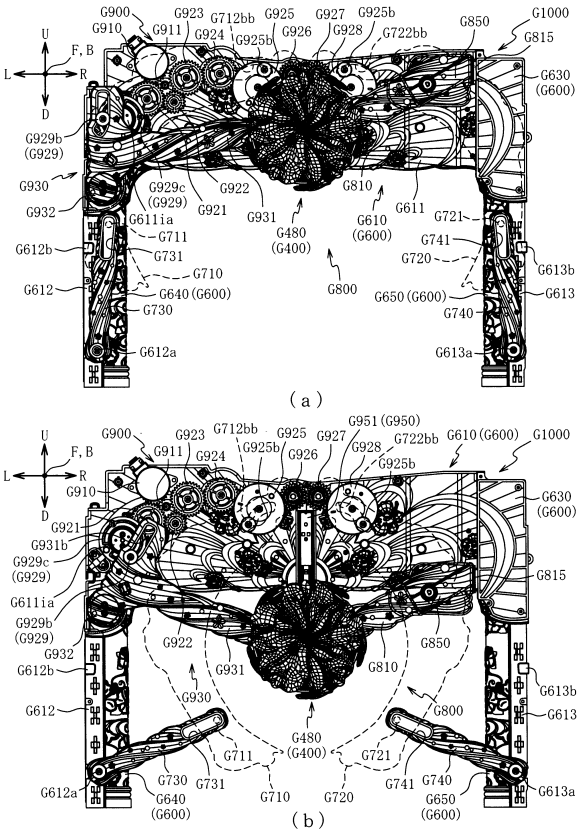
【図１９１４】


G611p
G613a
G611
G611k
G613b
G613
G611h
G611g
G611f
G611e
G611d
G611c
G612
G611b
G611a
G612a
G928
G611r
G612b
G611j
G927
G926
G928a
G925a
G951
G924
G950
G923
G922
G921
G952
G931c
G934
G929
G611i
G611i1
G611i2
G611i3
G611i4
G611i5
G611i6
G611i7
G611i8
G611i9
G611i10
G611i11
G611i12
G611i13
G611i14
G611i15
G611i16
G611i17
G611i18
G611i19
G611i20
G611i21
G611i22
G611i23
G611i24
G611i25
G611i26
G611i27
G611i28
G611i29
G611i30
G611i31
G611i32
G611i33
G611i34
G611i35
G611i36
G611i37
G611i38
G611i39
G611i40

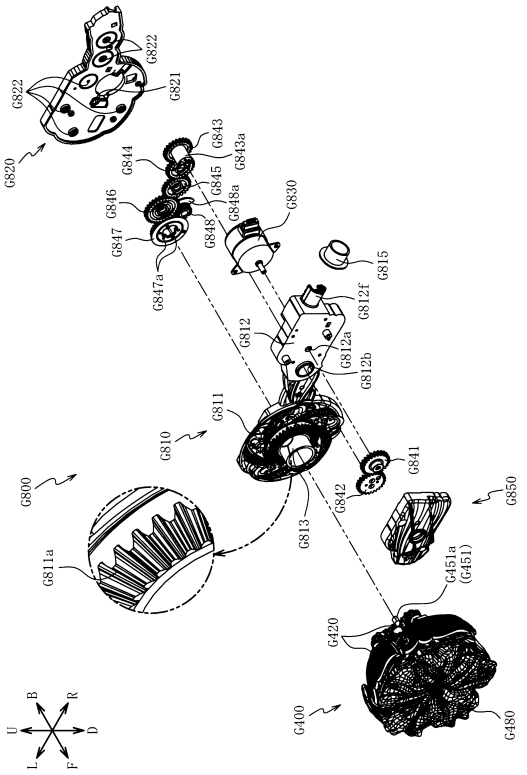
【図１９１７】



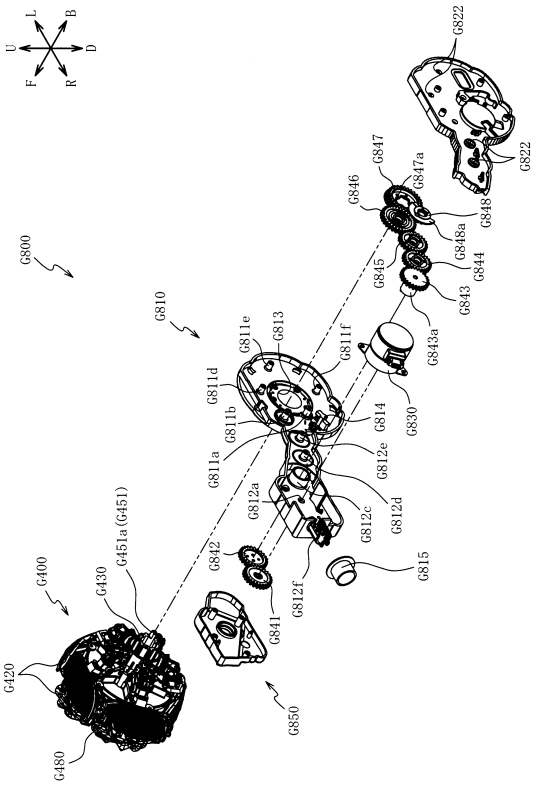
【図１９１８】



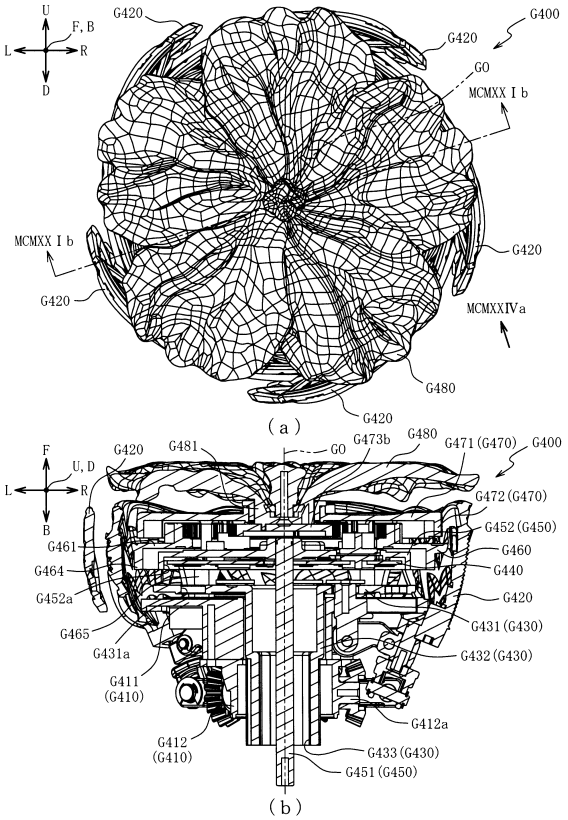
【図１９１９】



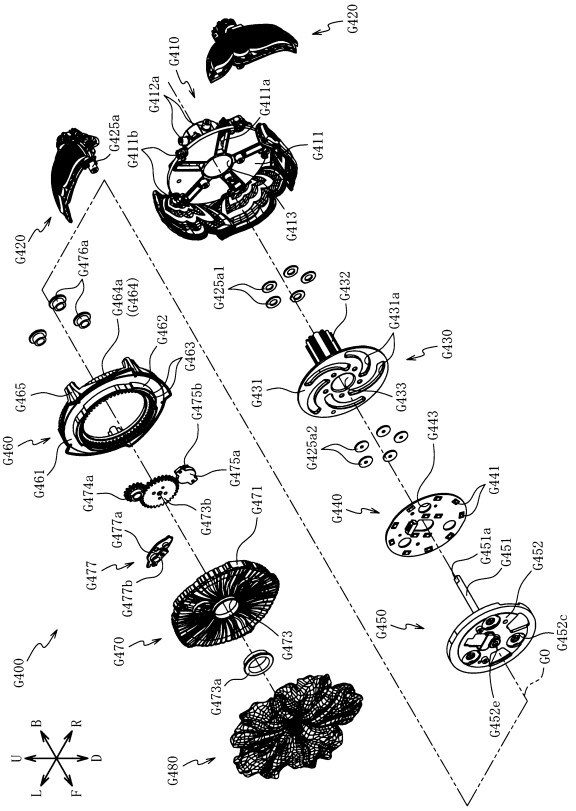
【図１９２０】



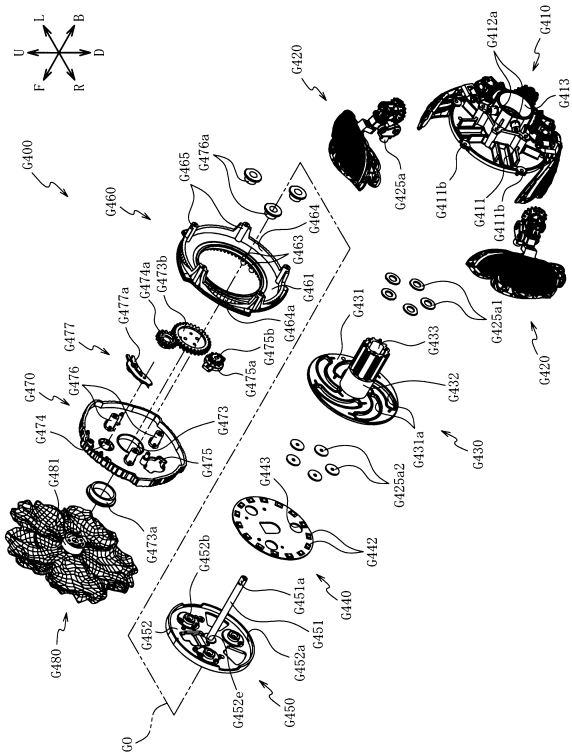
【図１９２１】



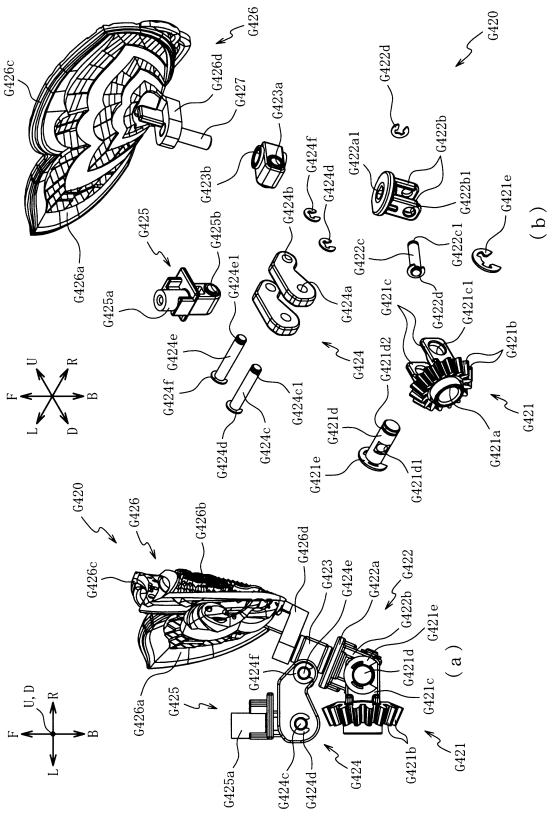
【図１９２２】



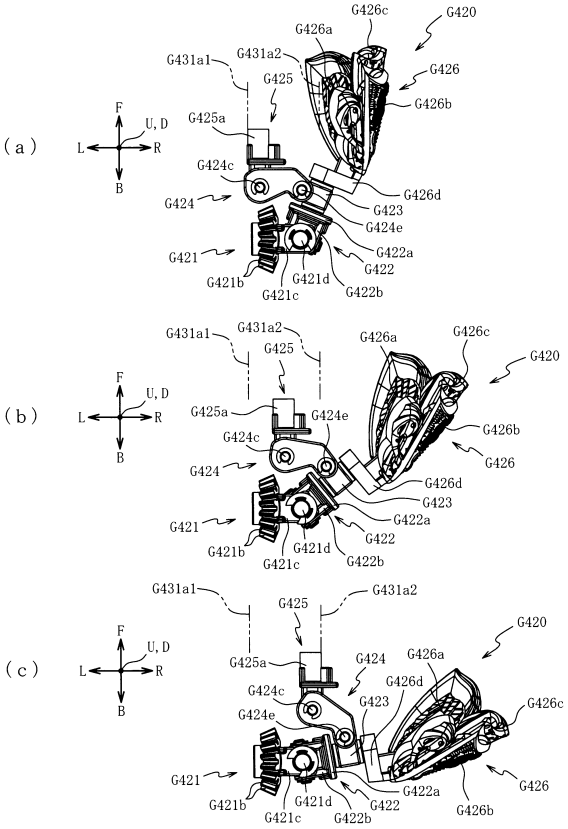
【図１９２３】



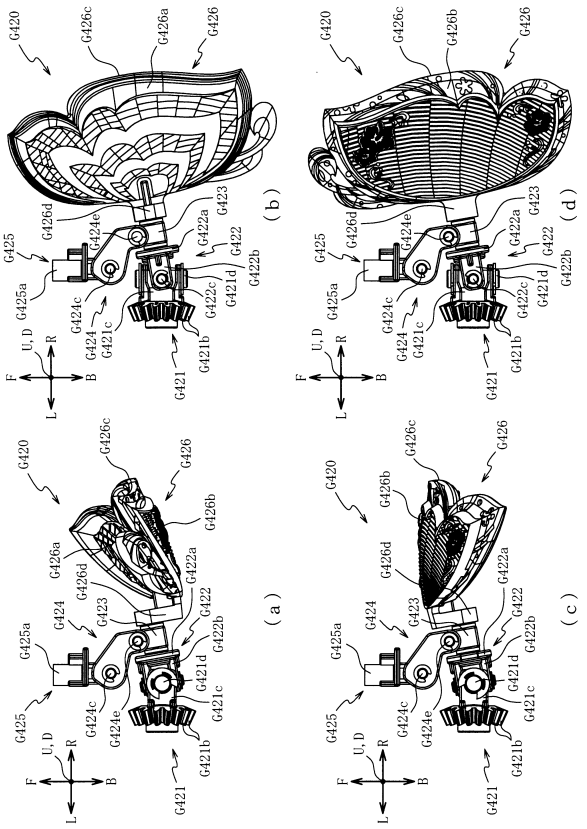
【図１９２４】



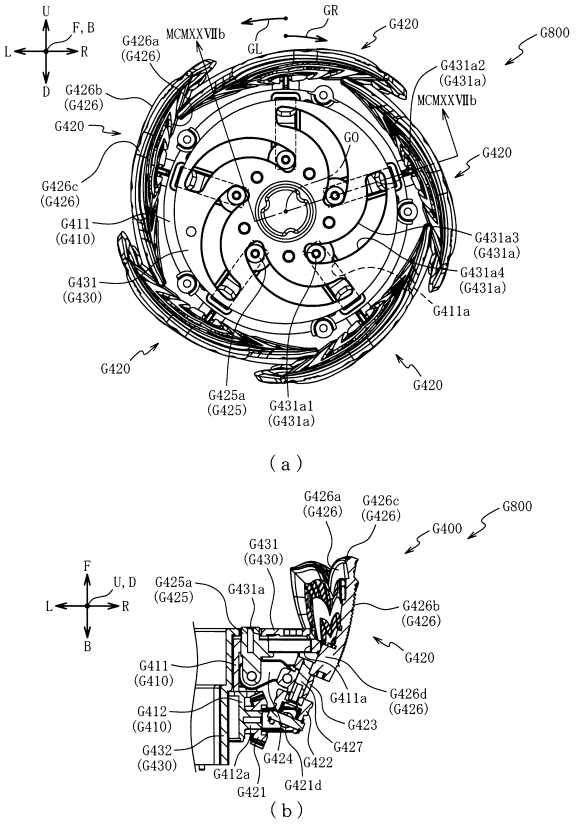
【図１９２５】



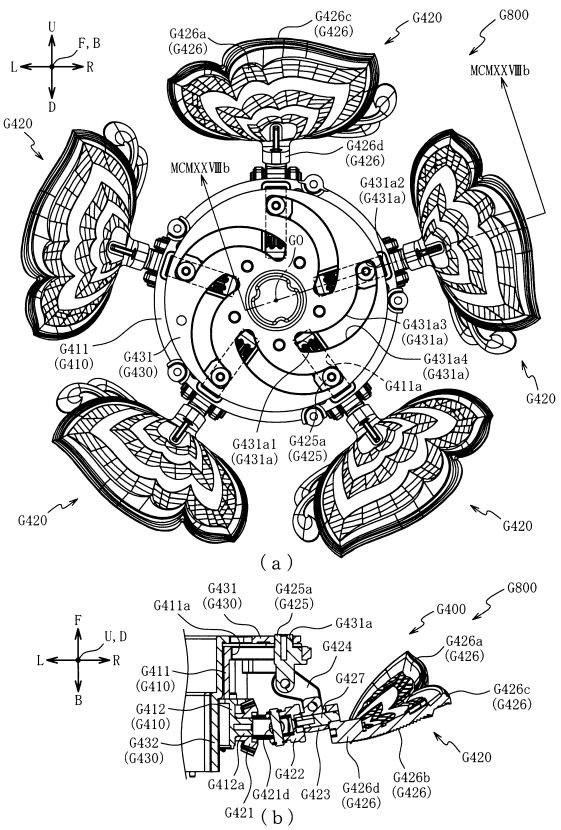
【図１９２６】



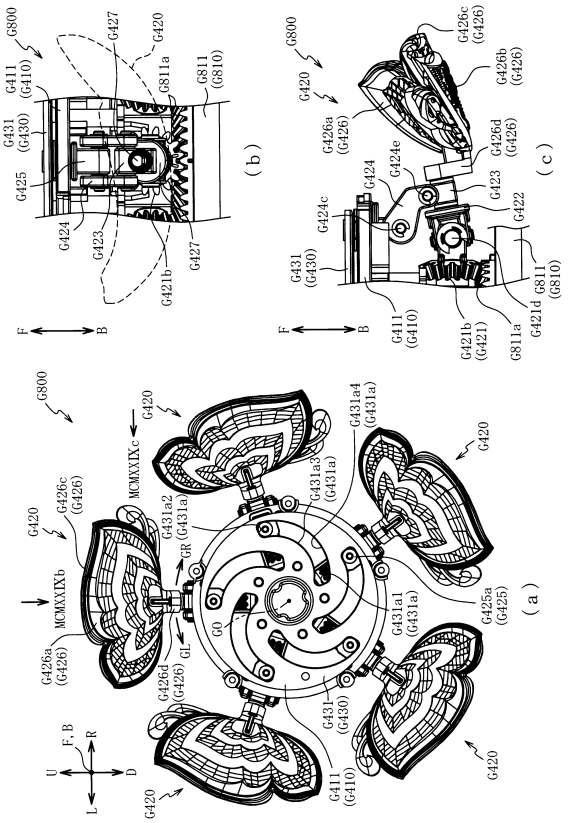
【図１９２７】



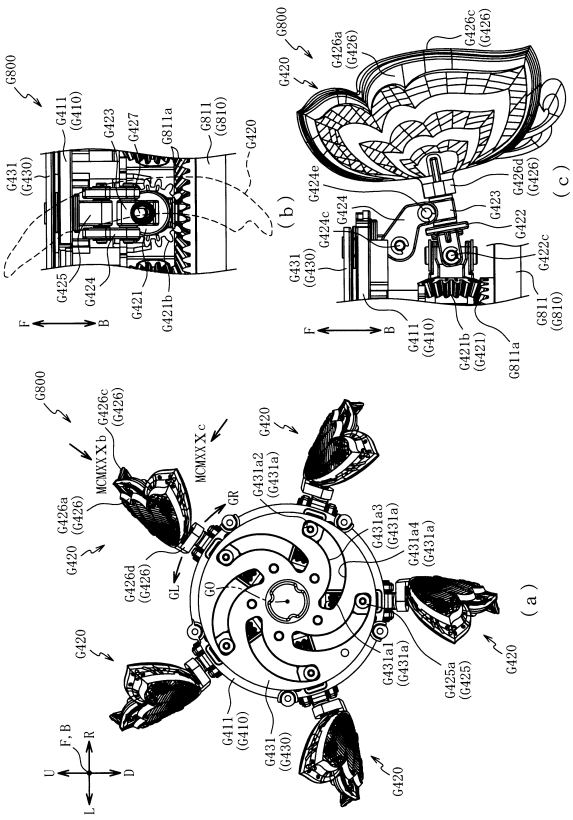
【図１９２８】



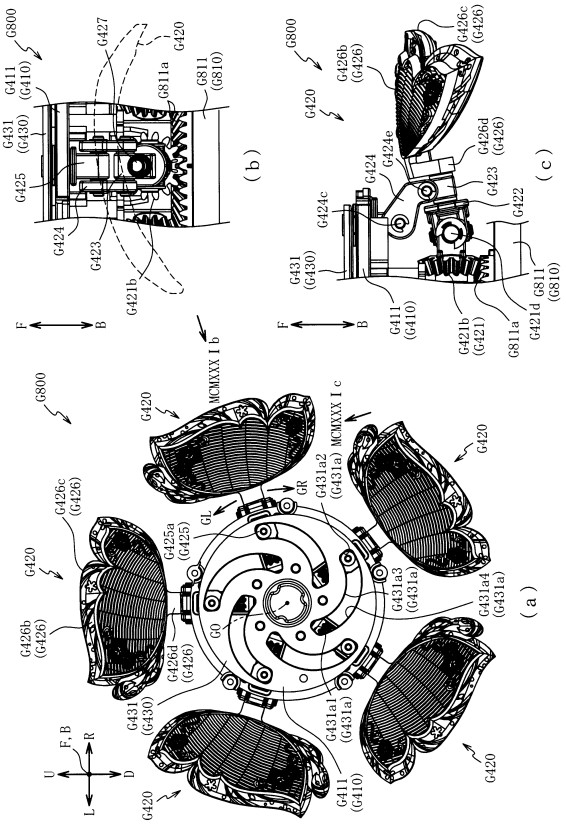
【図１９２９】



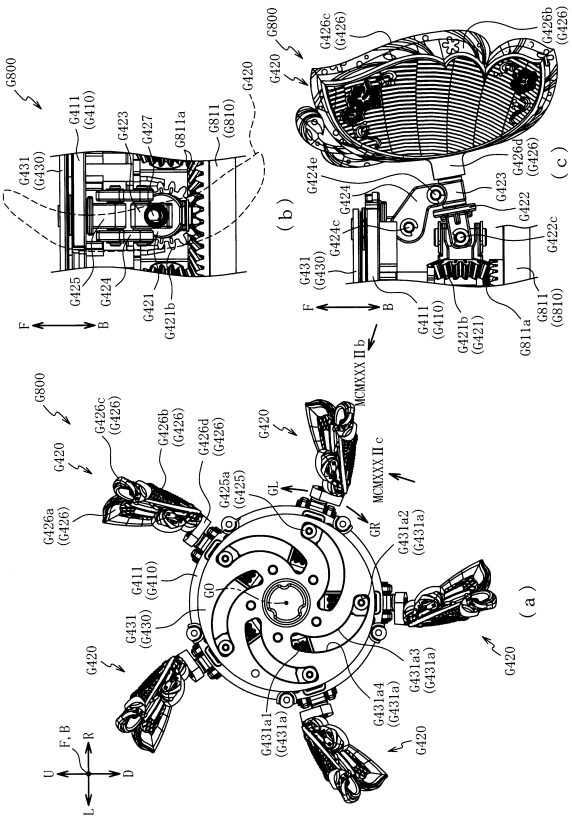
【図１９３０】



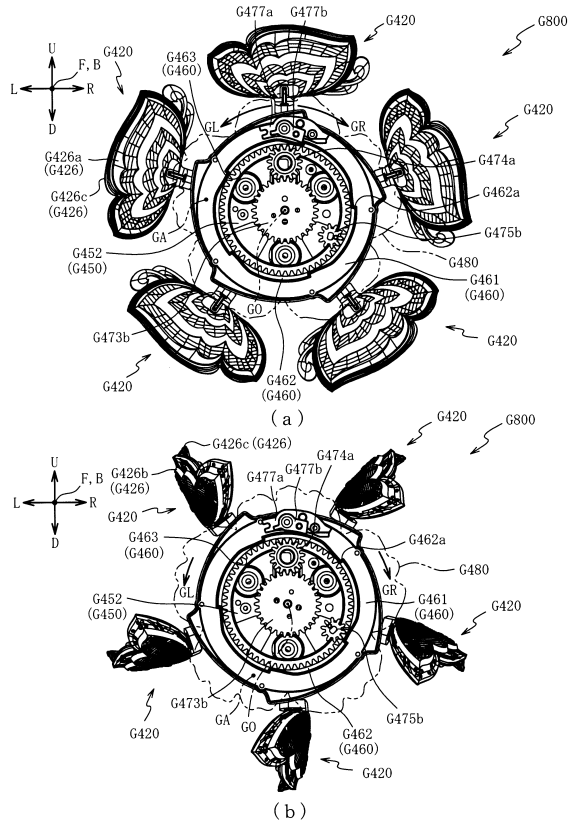
【図１９３１】



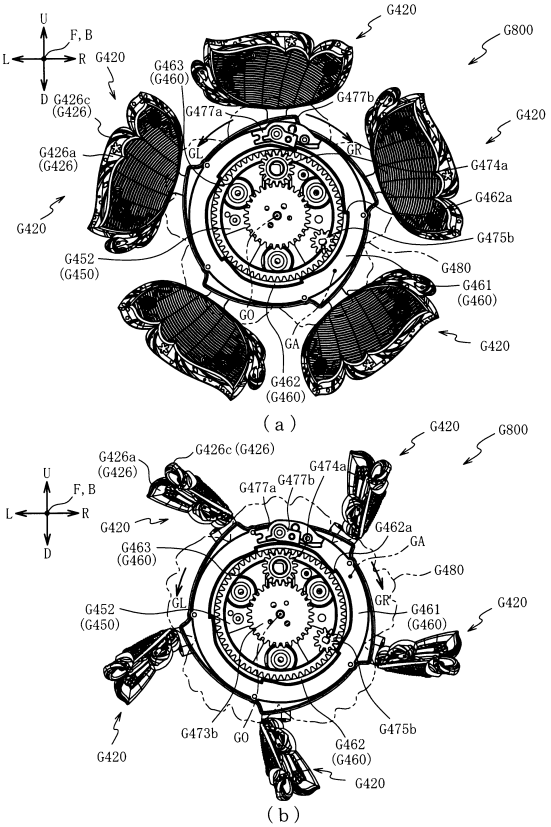
【図１９３２】



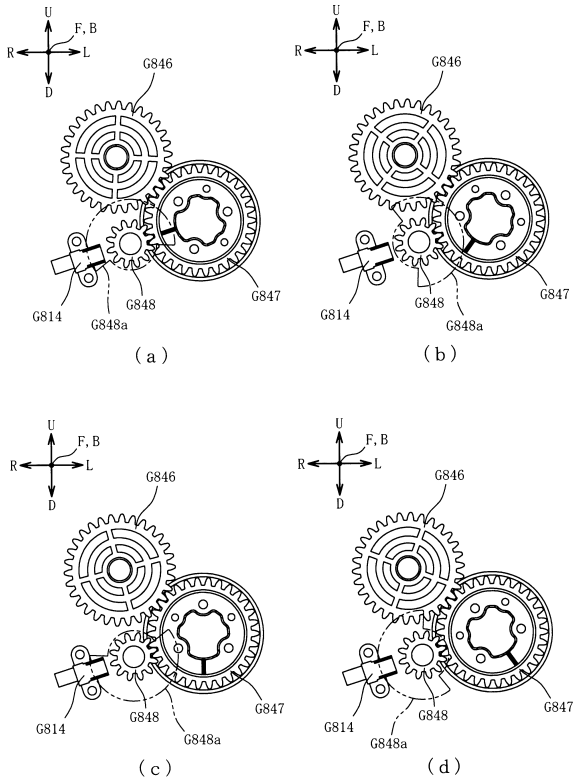
【図１９３３】



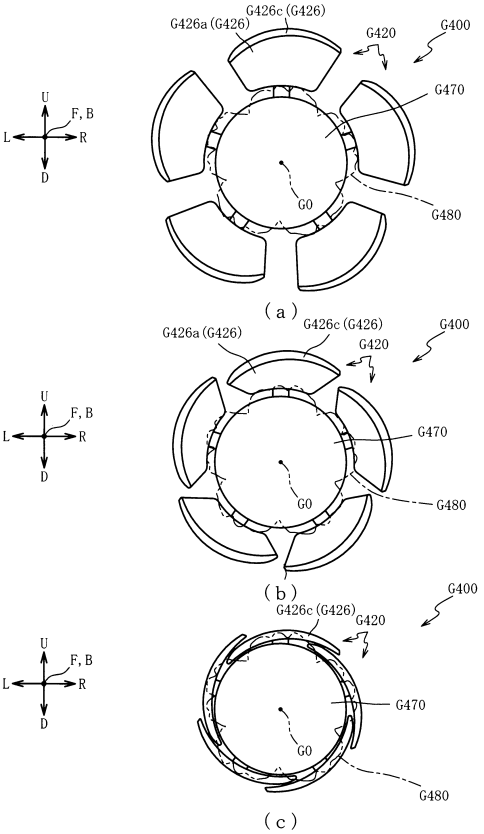
【図１９３４】



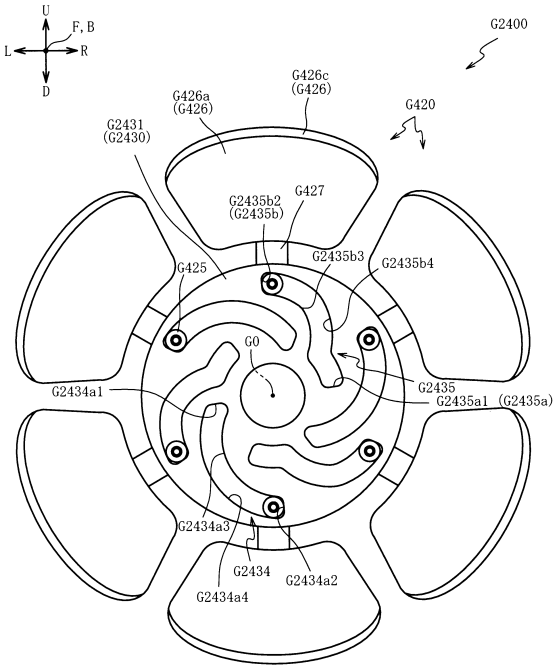
【図１９３５】



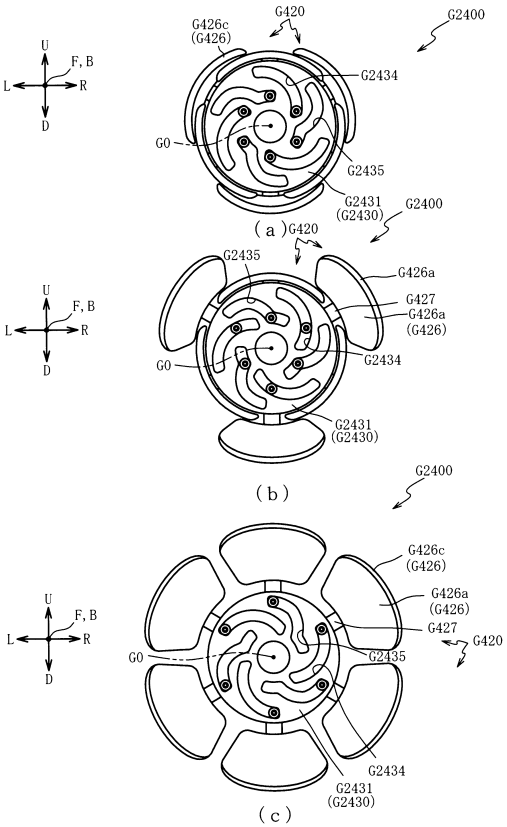
【図１９３６】



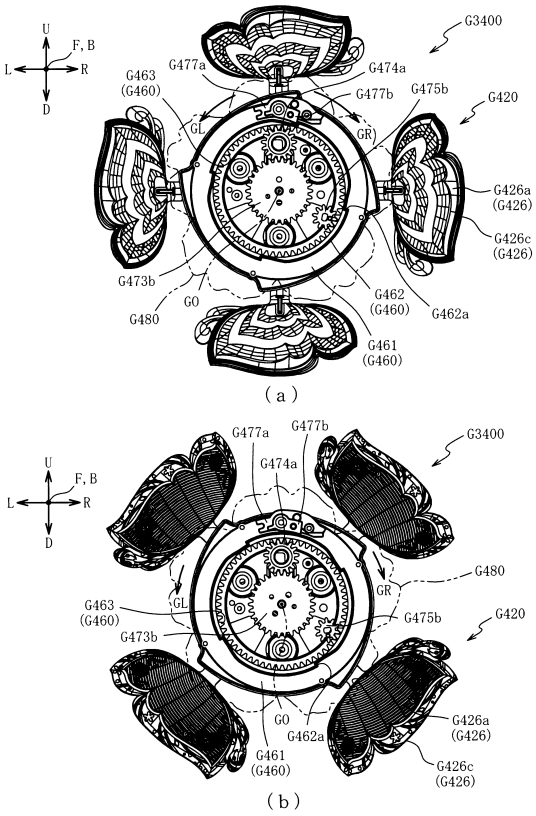
【図１９３７】



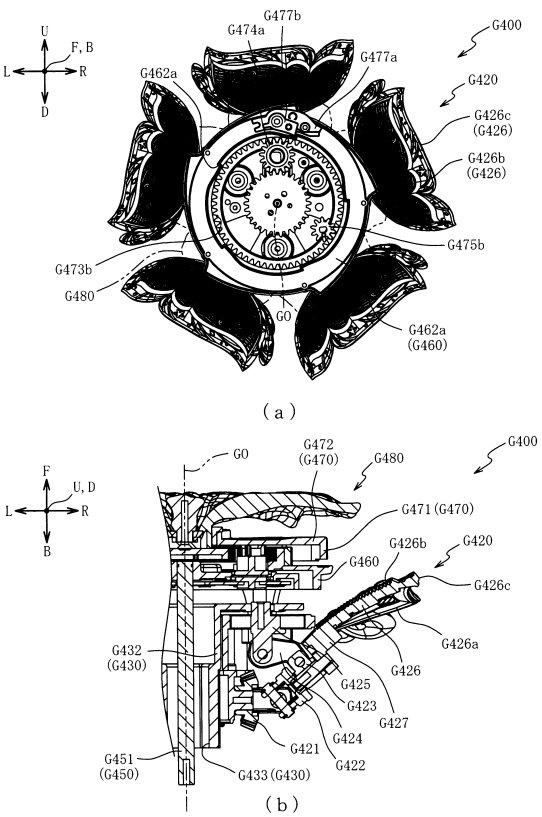
【図１９３８】



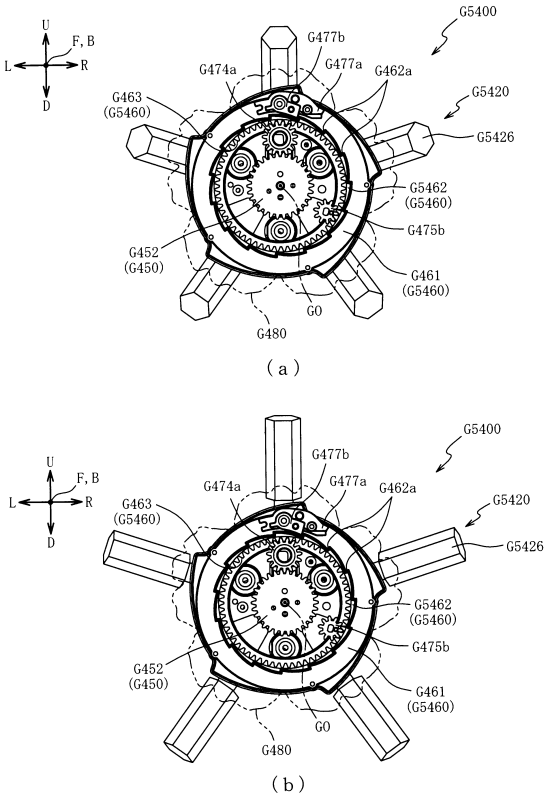
【図１９３９】



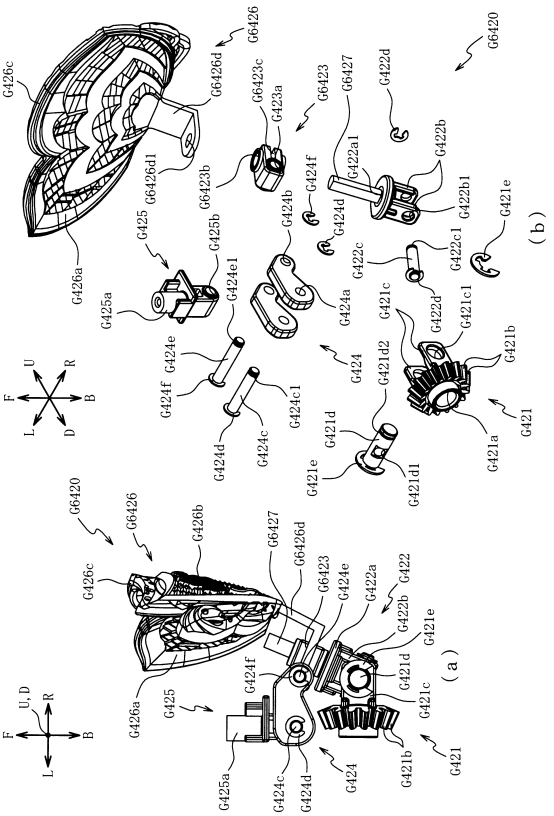
【図１９４０】



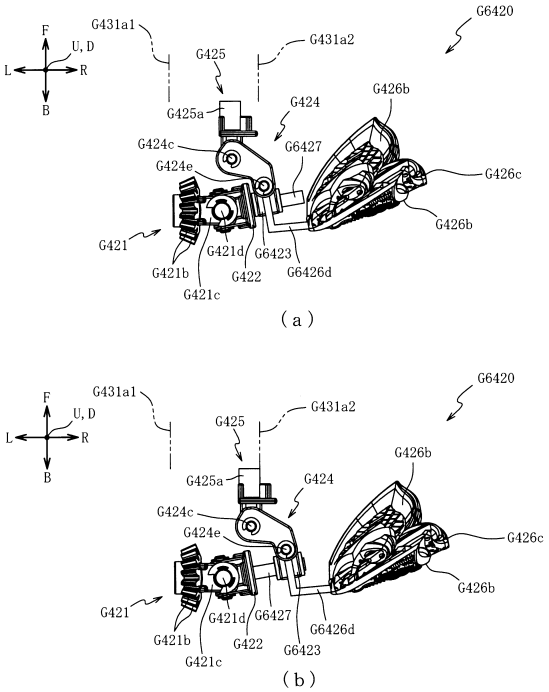
【図１９４１】



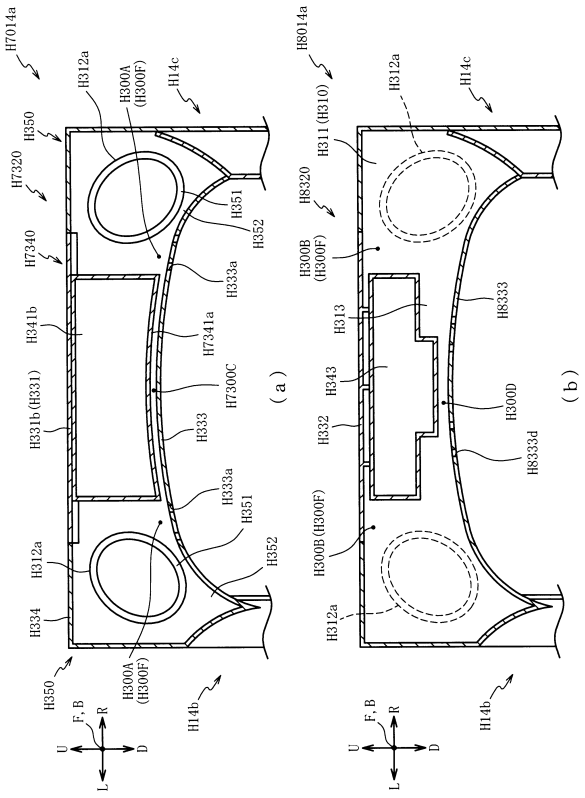
【図１９４２】



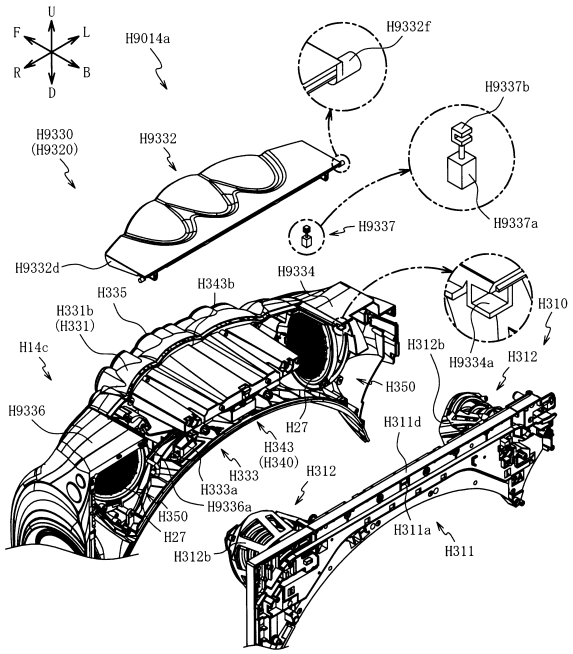
【図１９４３】



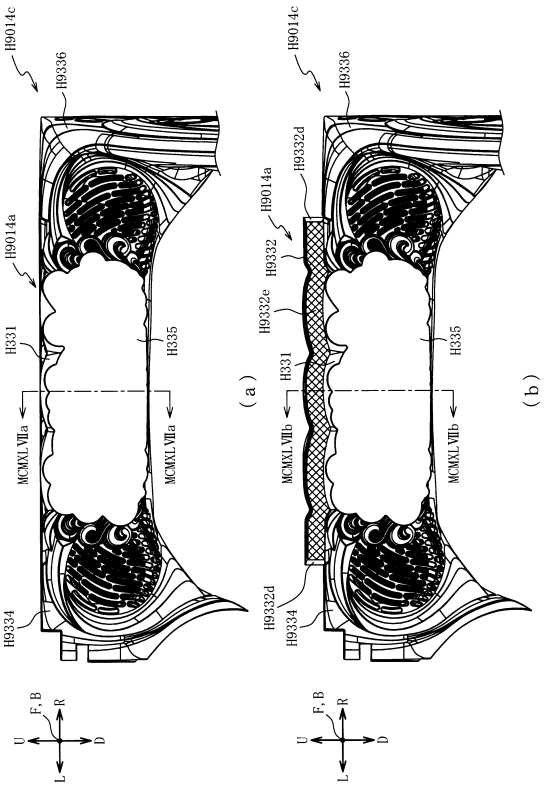
【図１９４４】



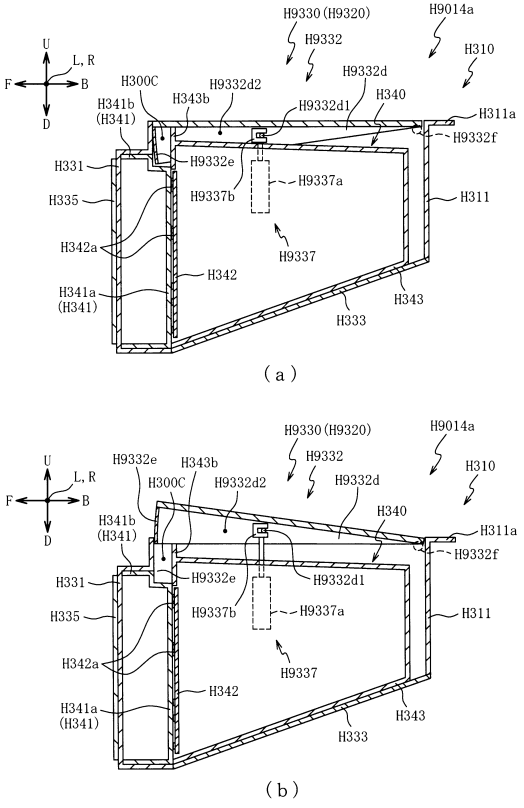
【図１９４５】



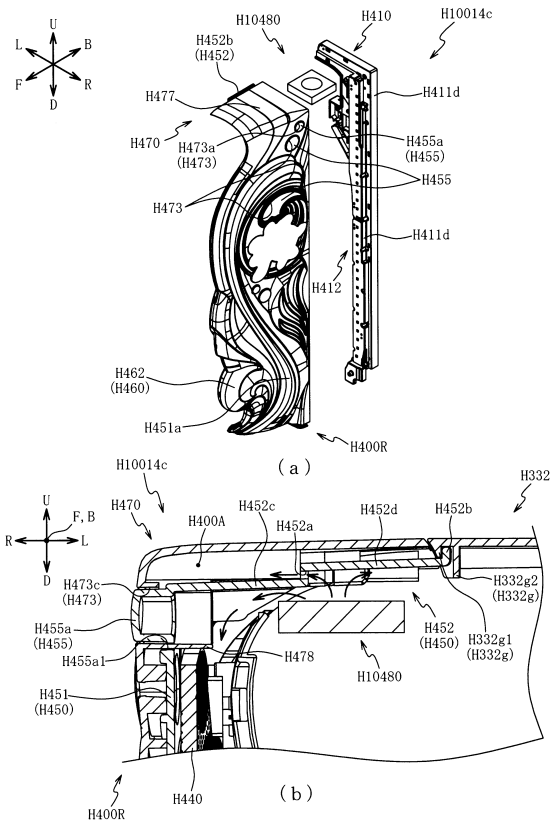
【図１９４６】



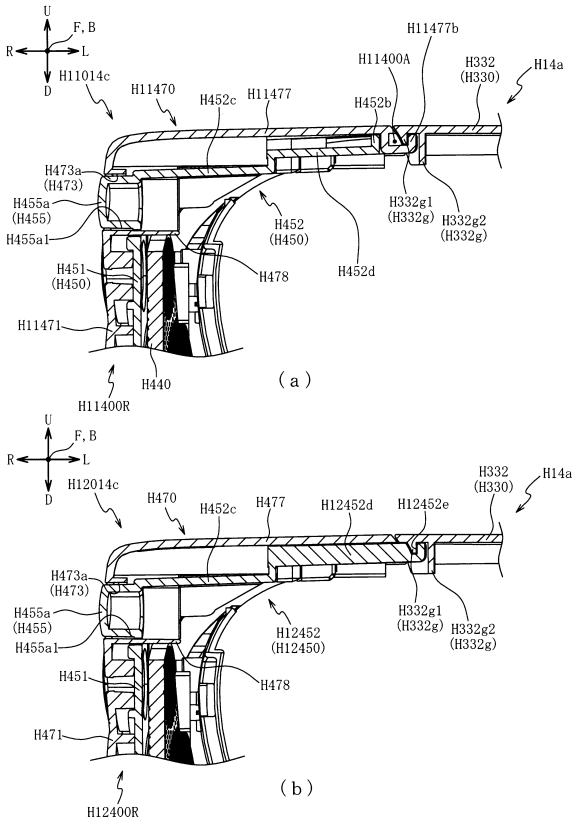
【図１９４７】



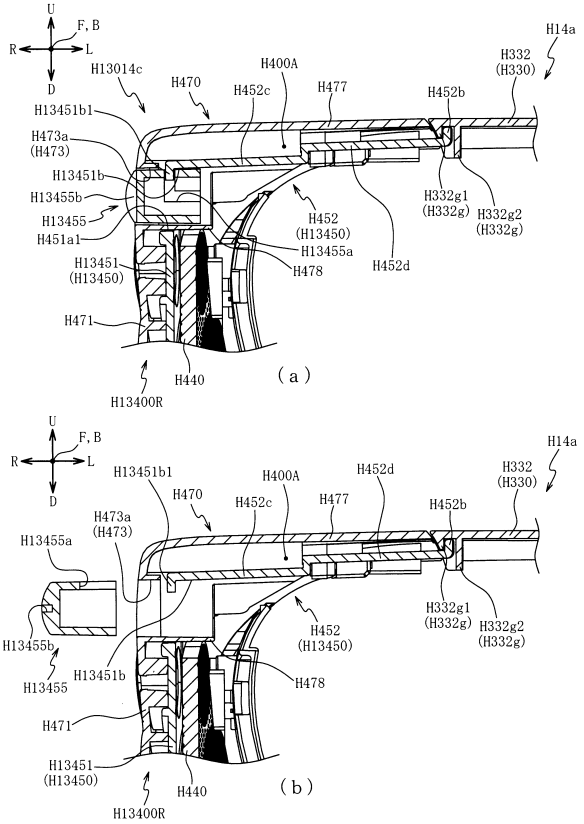
【図１９４８】



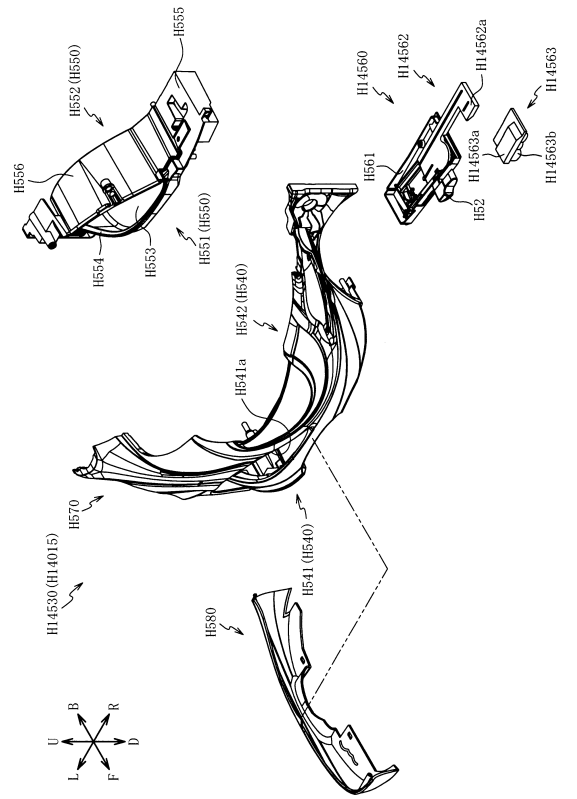
【図１９４９】



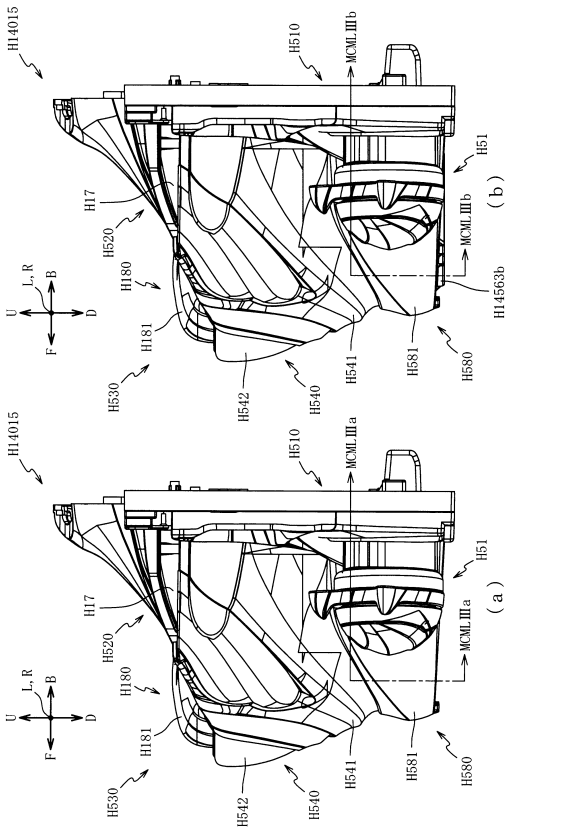
【図１９５０】



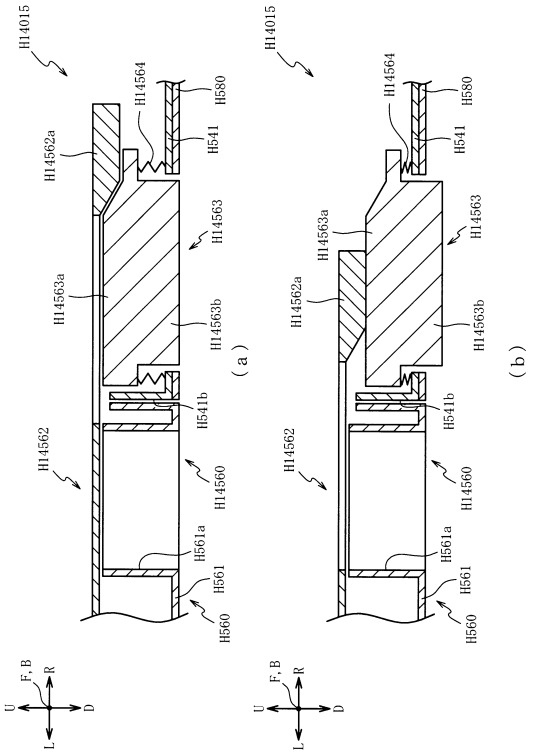
【図１９５１】



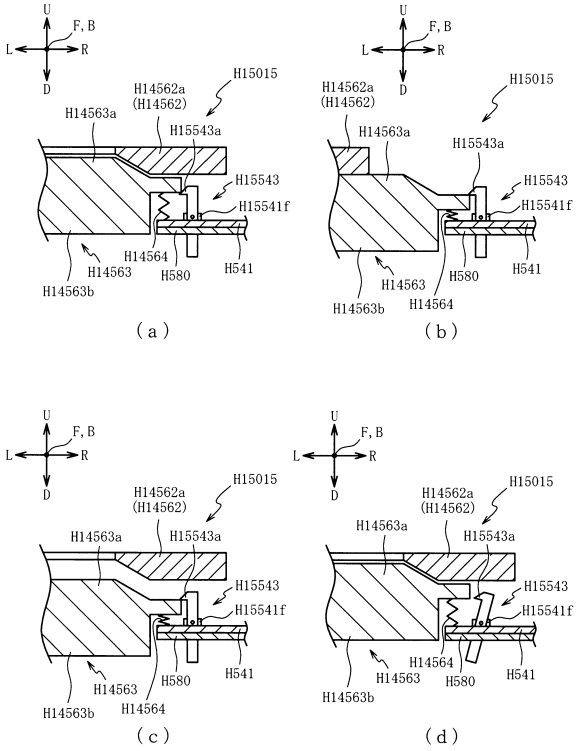
【図１９５２】



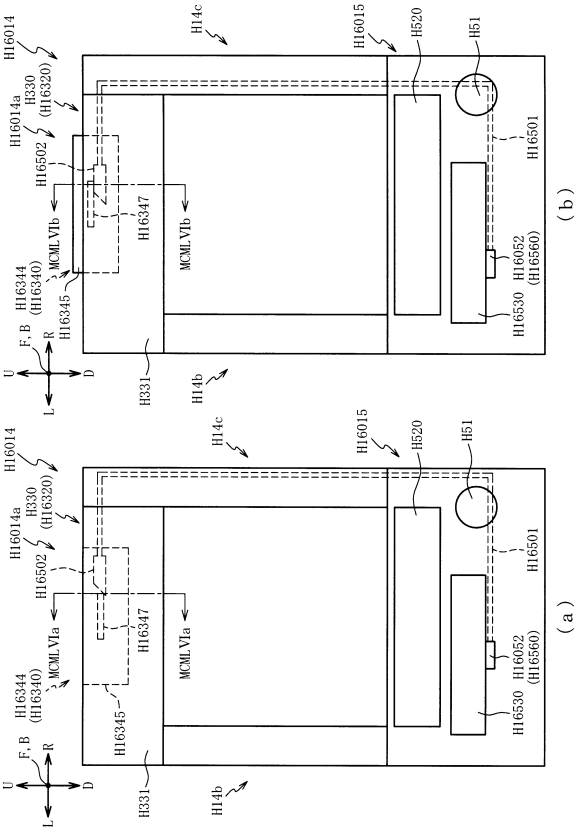
【図１９５３】



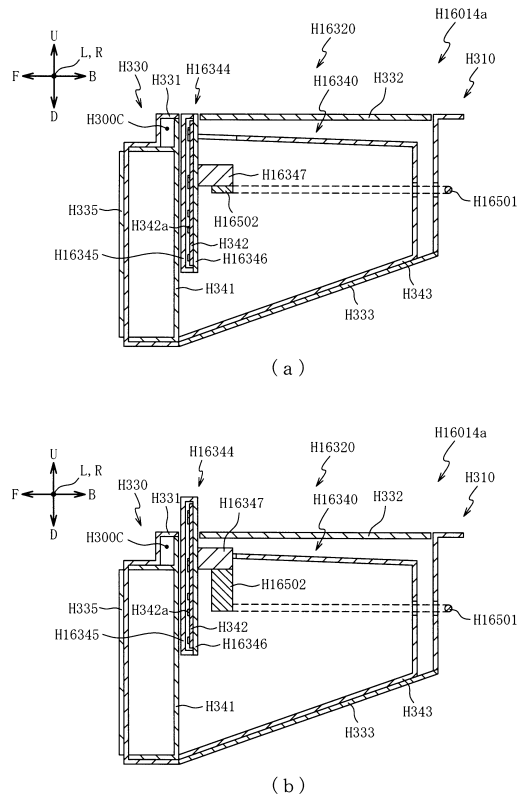
【図１９５４】



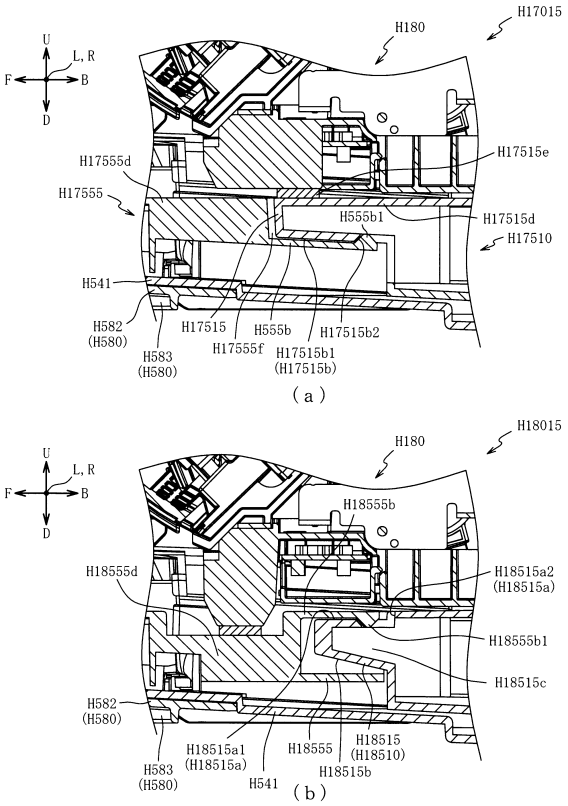
【図１９５５】



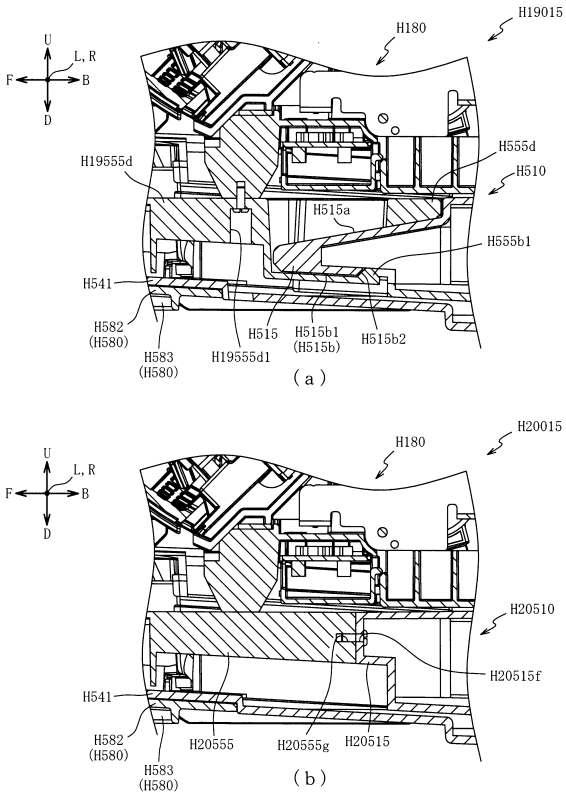
【図１９５６】



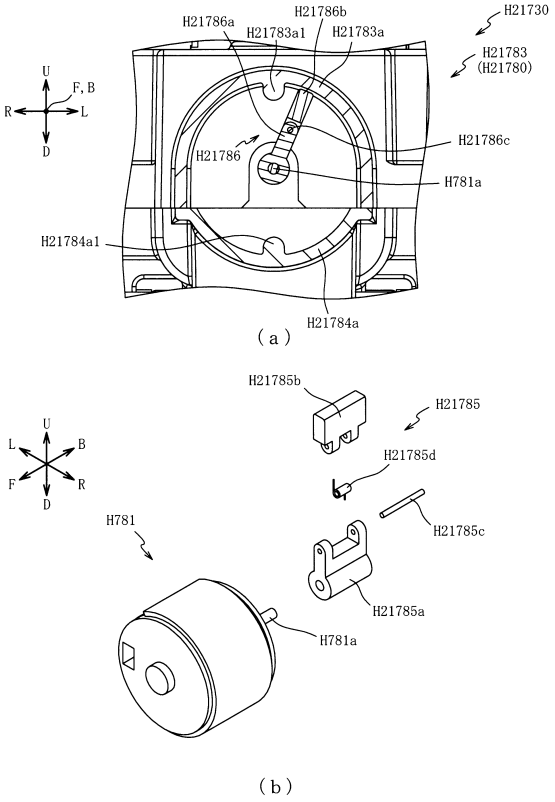
【図１９５７】



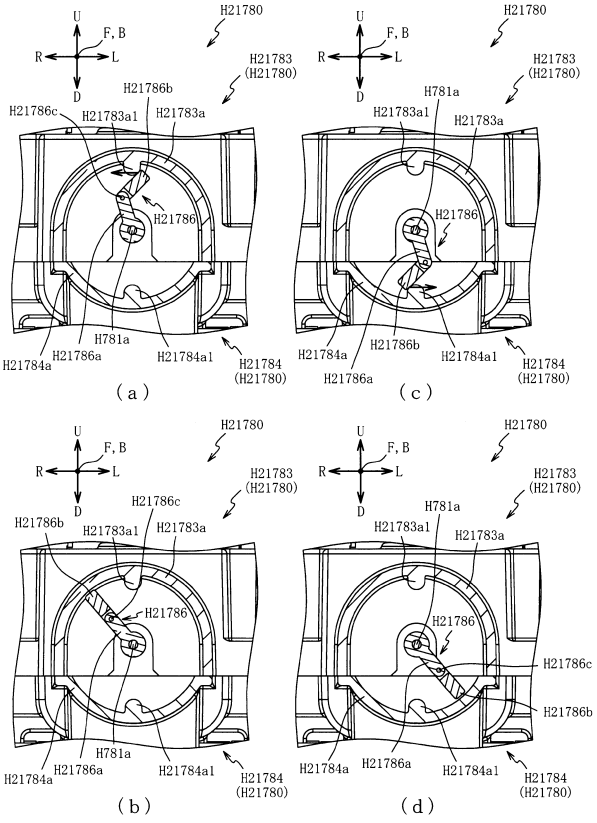
【図１９５８】



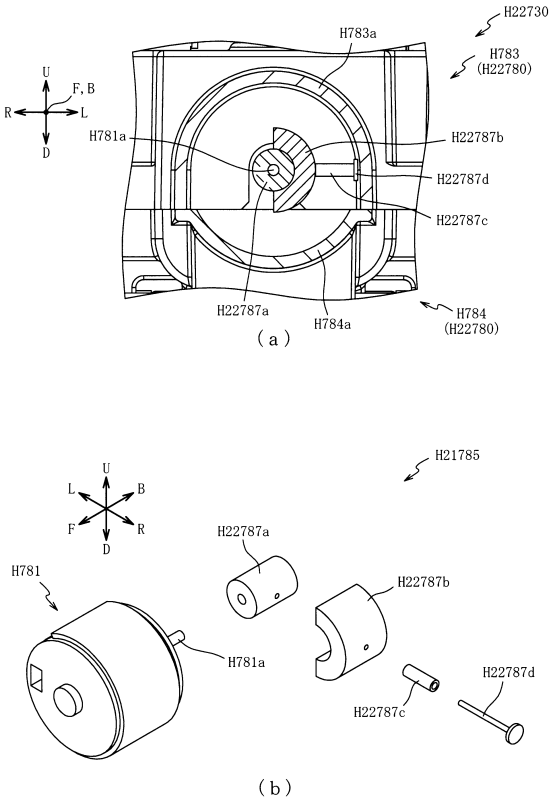
【図１９５９】



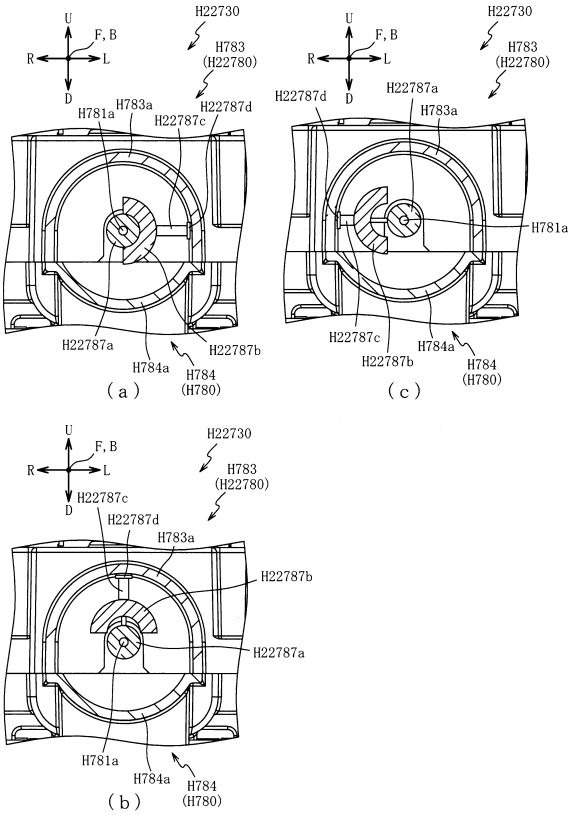
【図１９６０】



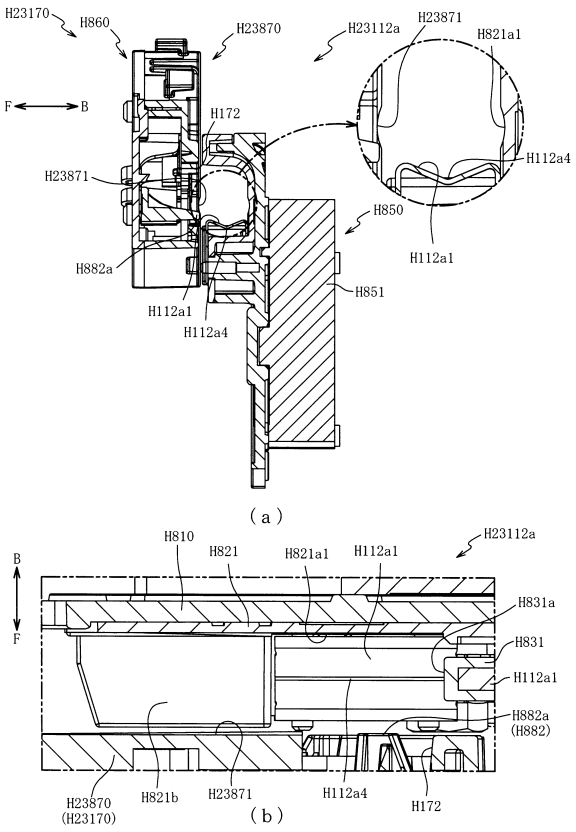
【図１９６１】



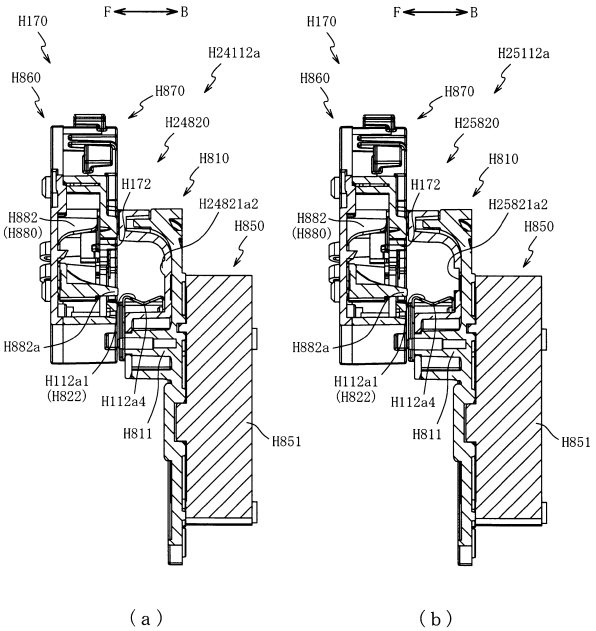
【図１９６２】



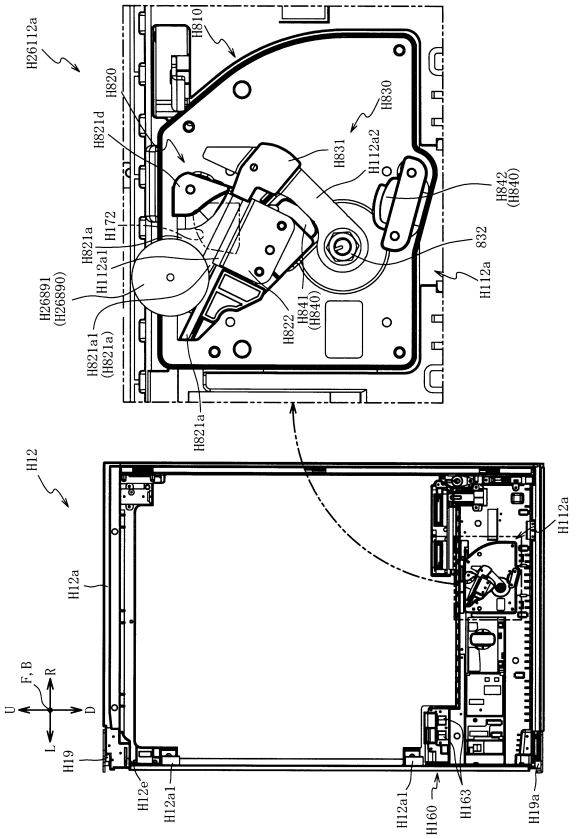
【図１９６３】



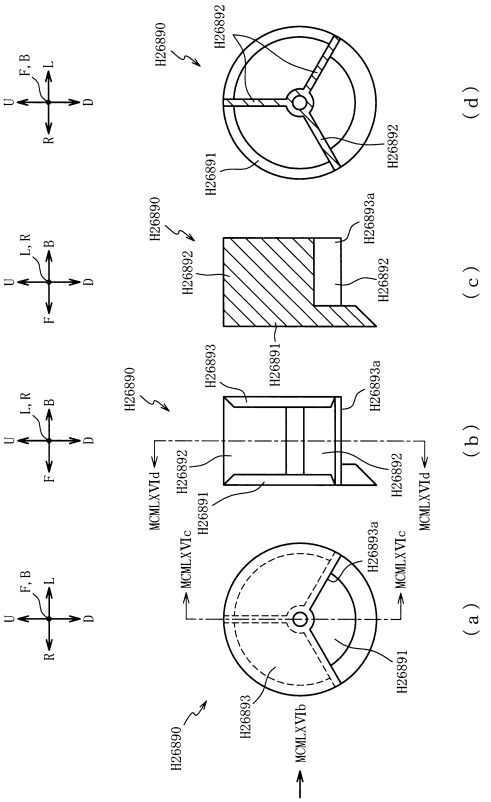
【図１９６４】



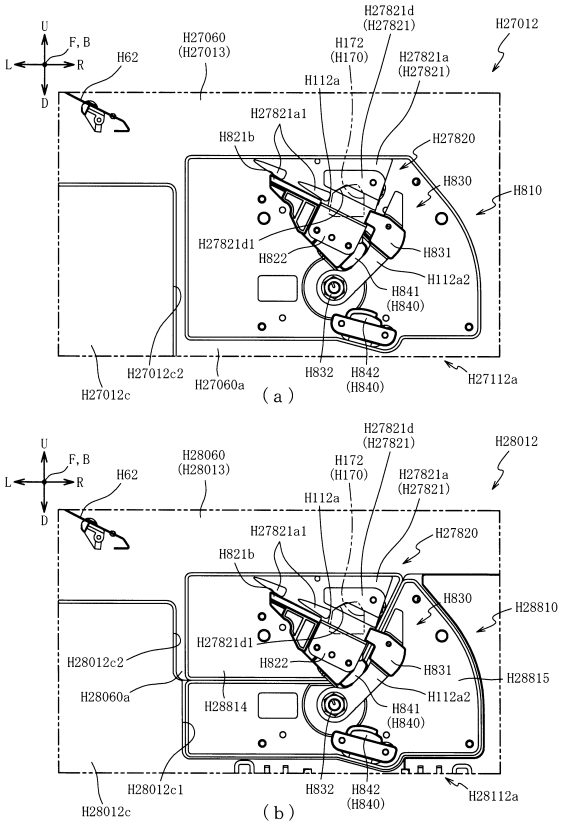
【図１９６５】



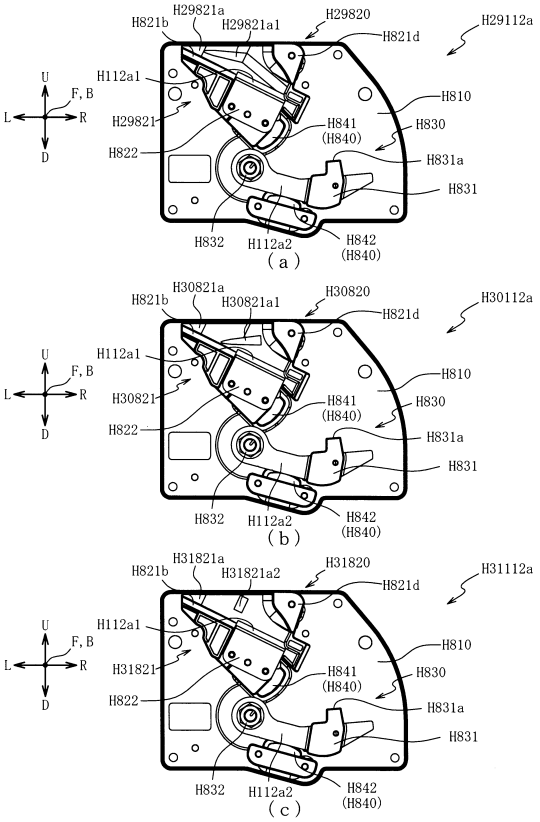
【図１９６６】



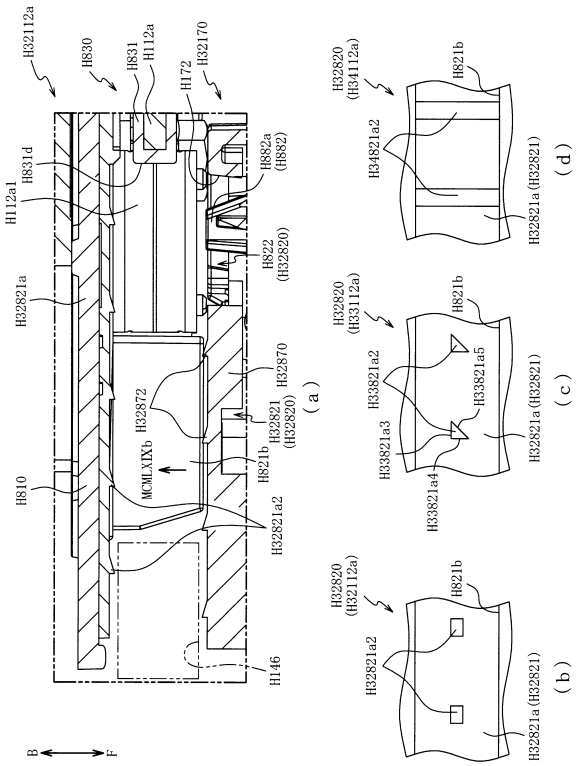
【図１９６７】



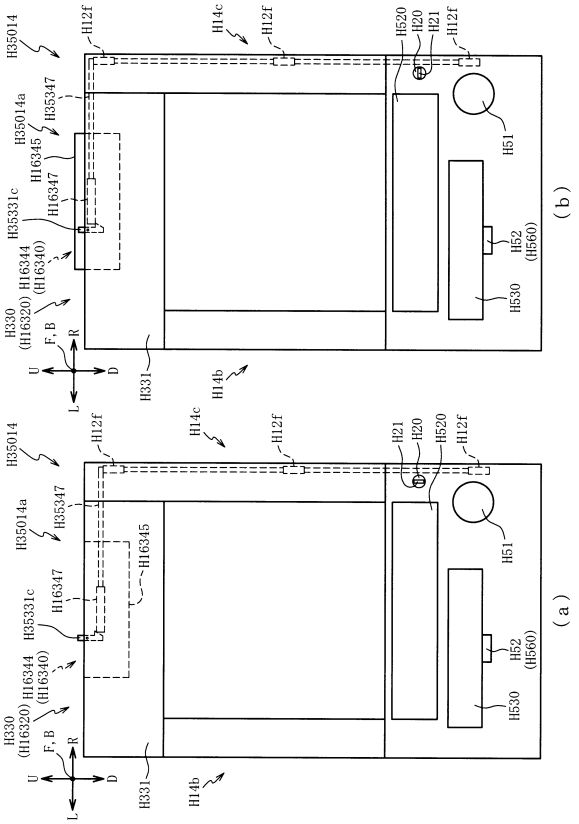
【図１９６８】



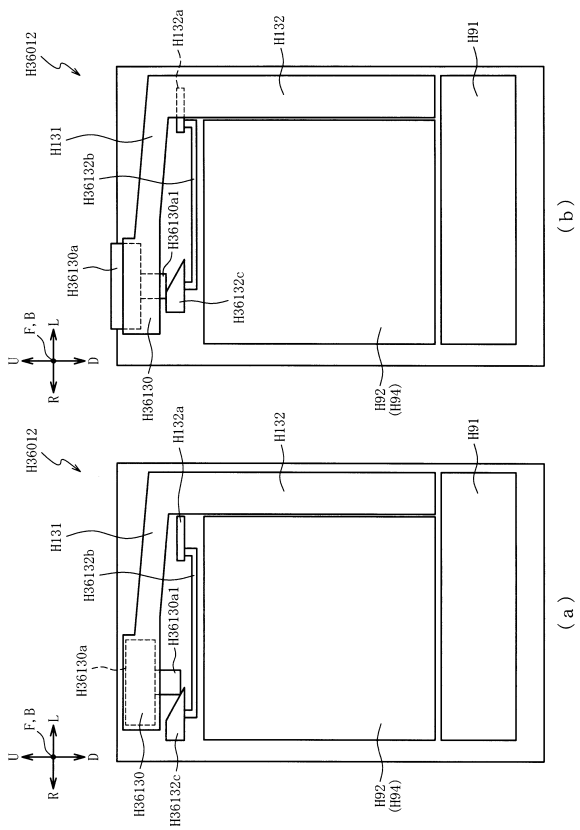
【図１９６９】



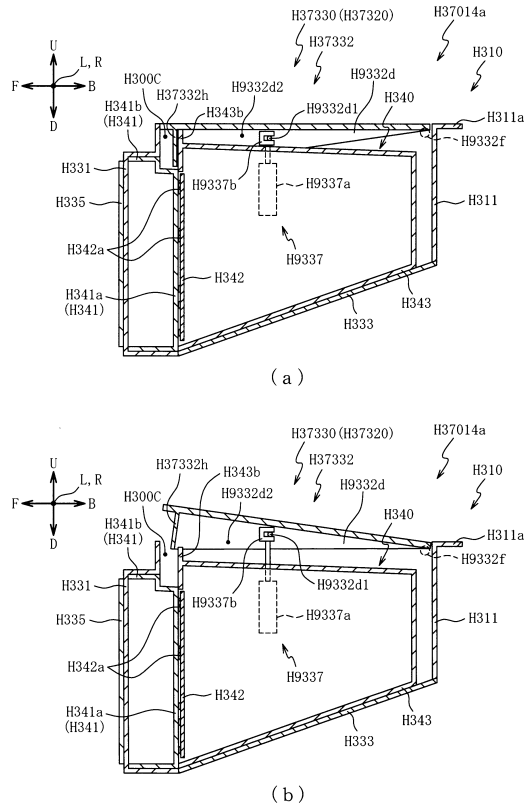
【図１９７０】



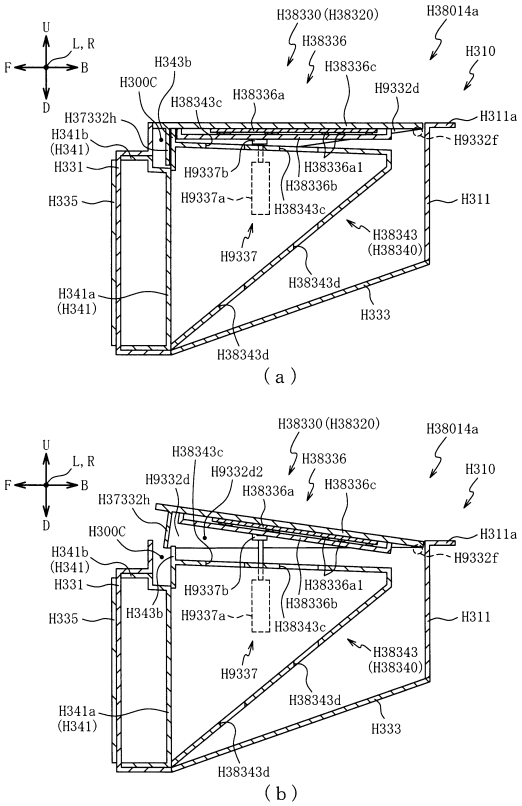
【図１９７１】



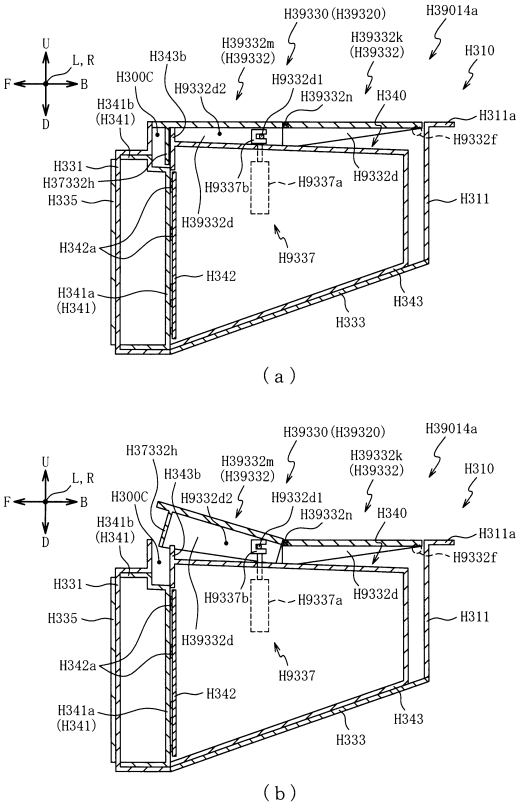
【図１９７２】



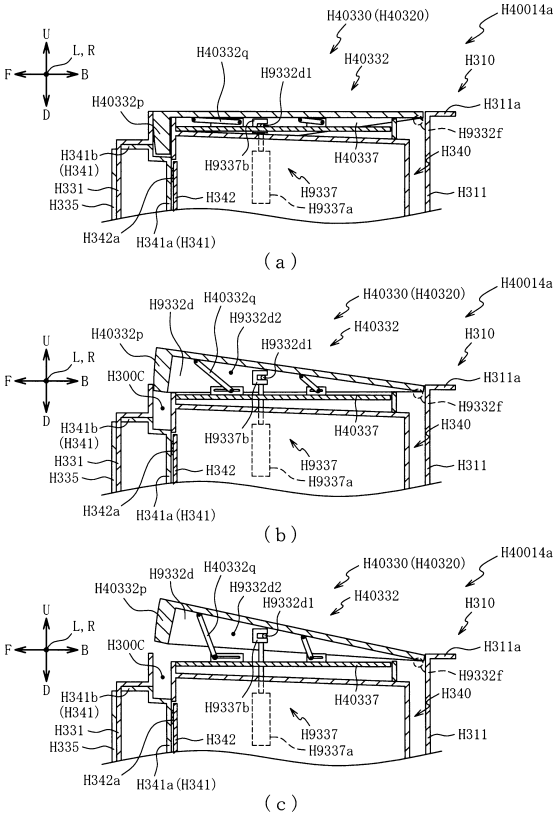
【図１９７３】



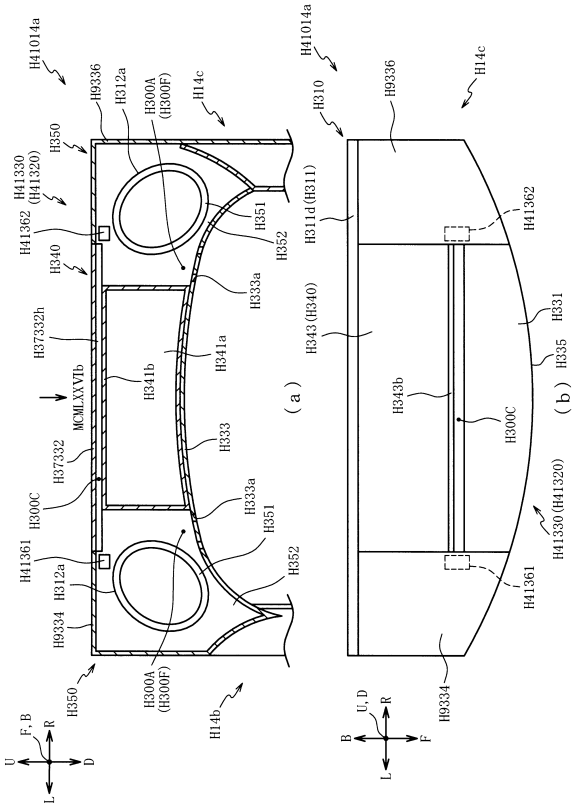
【図１９７４】



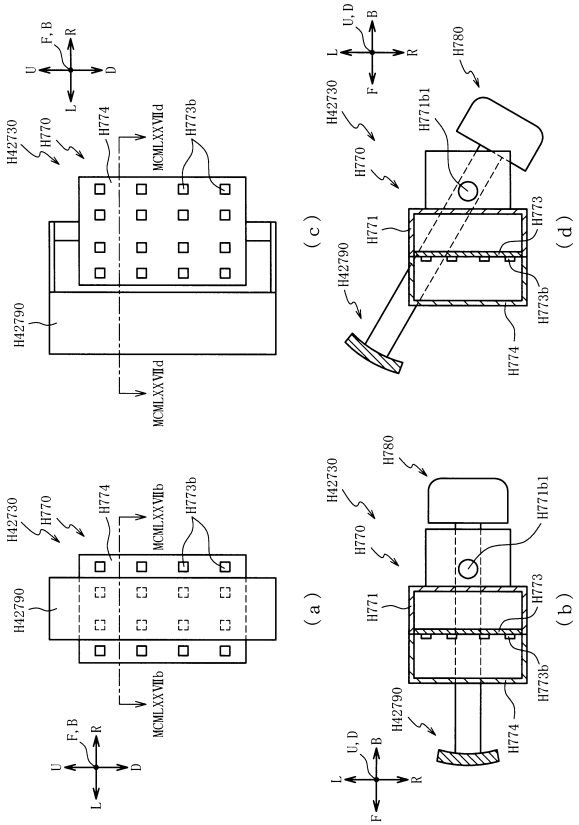
【図１９７５】



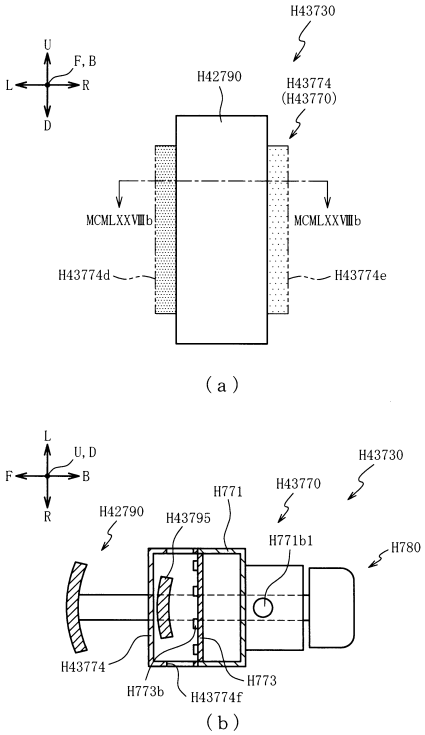
【図１９７６】



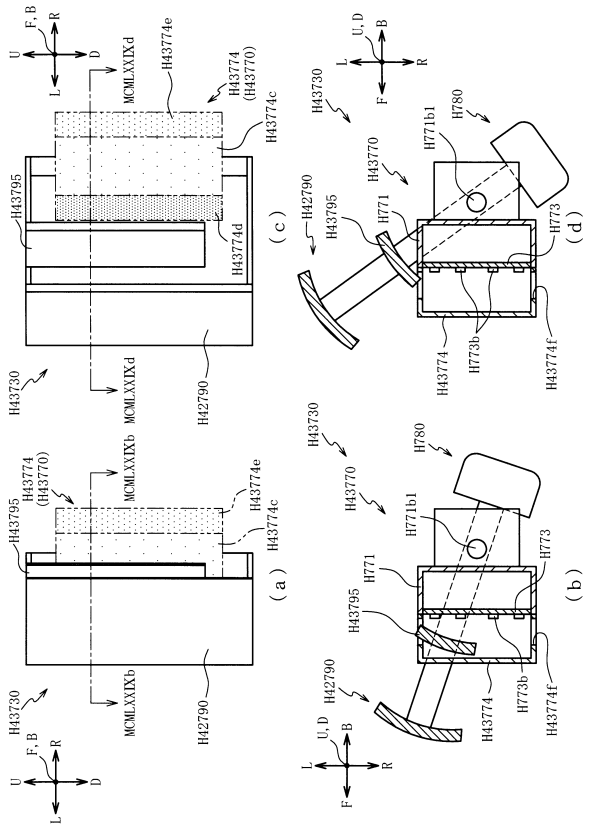
【図１９７７】



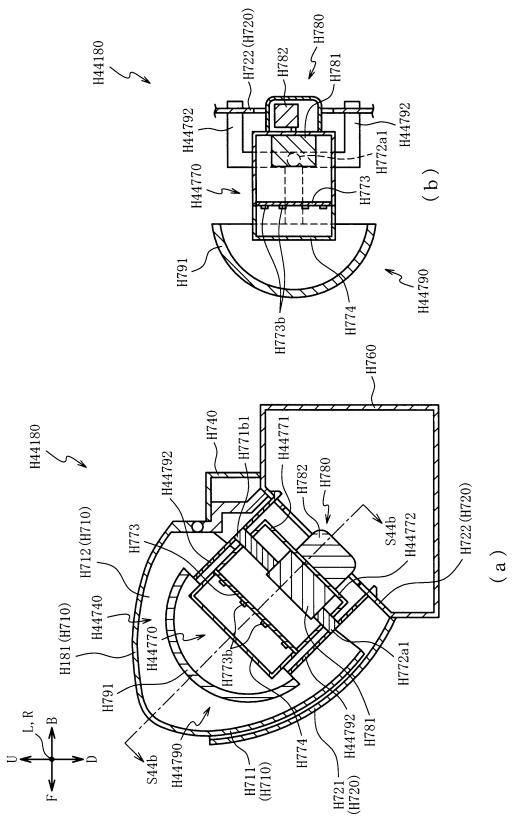
【図１９７８】



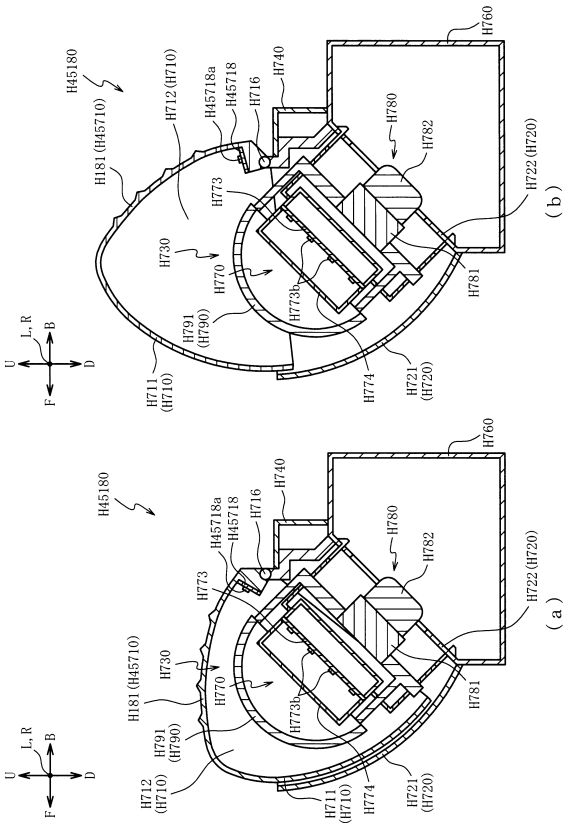
【図１９７９】



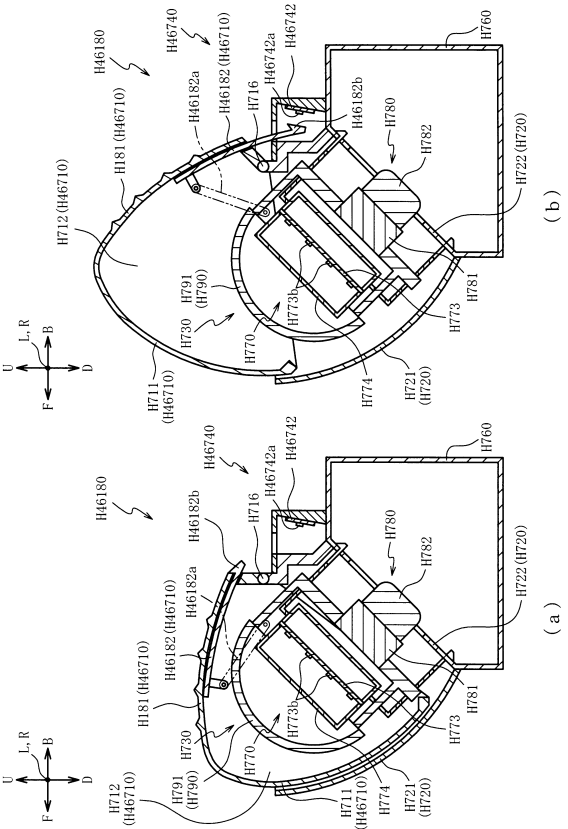
【図１９８０】



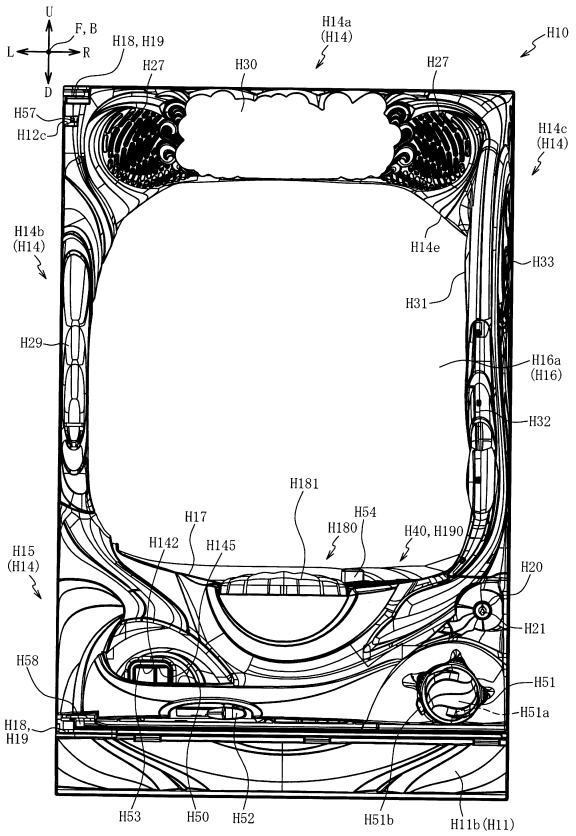
【図１９８１】



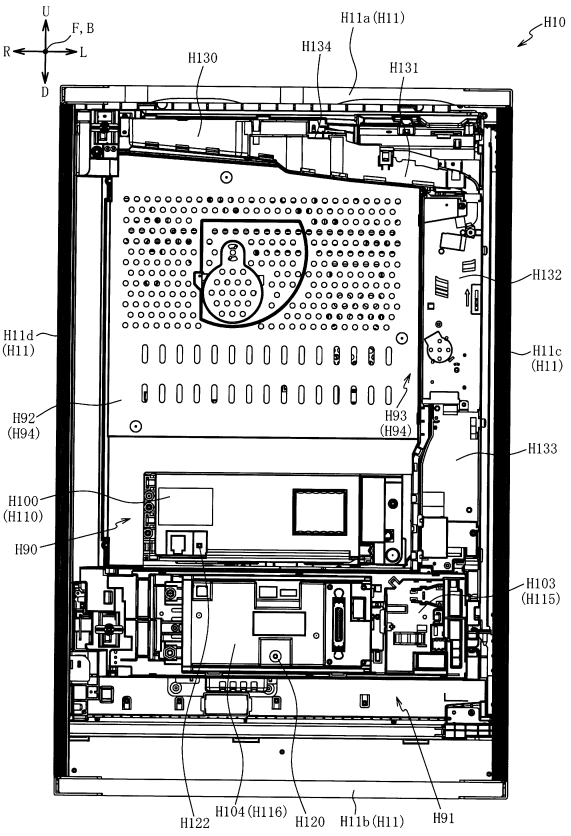
【図１９８２】



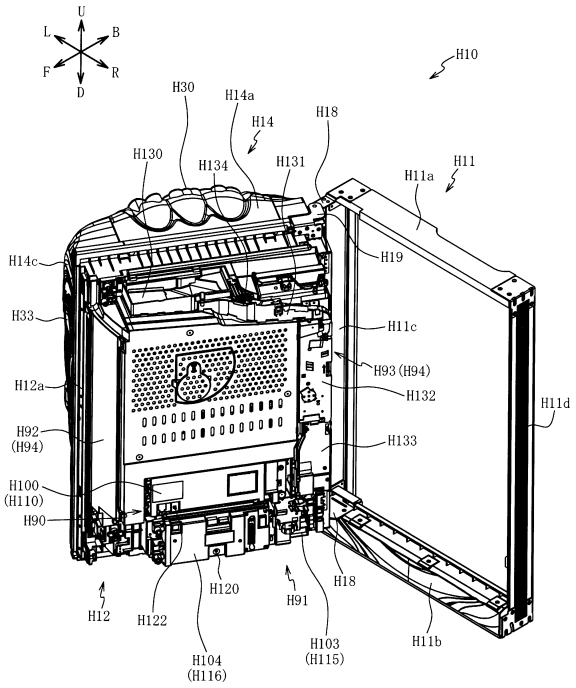
【図１９８３】



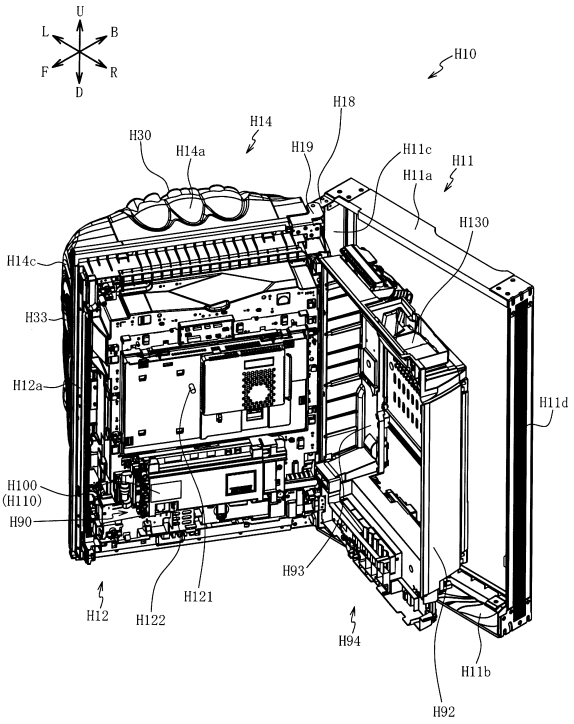
【図１９８４】



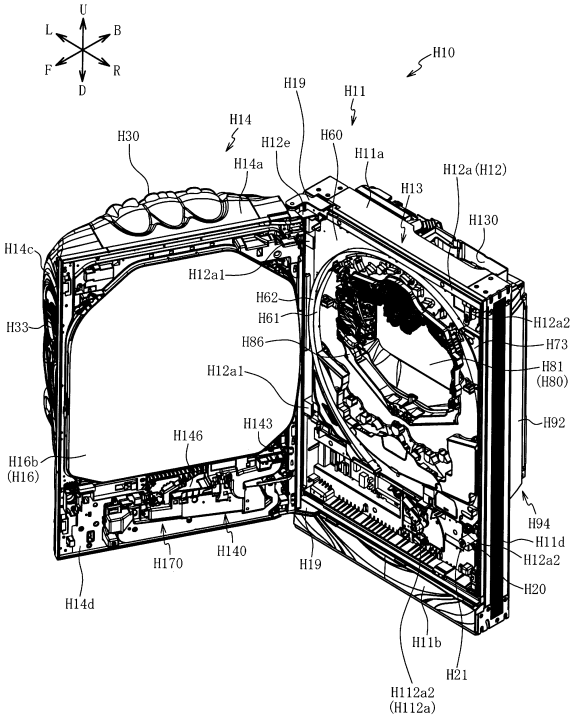
【図１９８５】



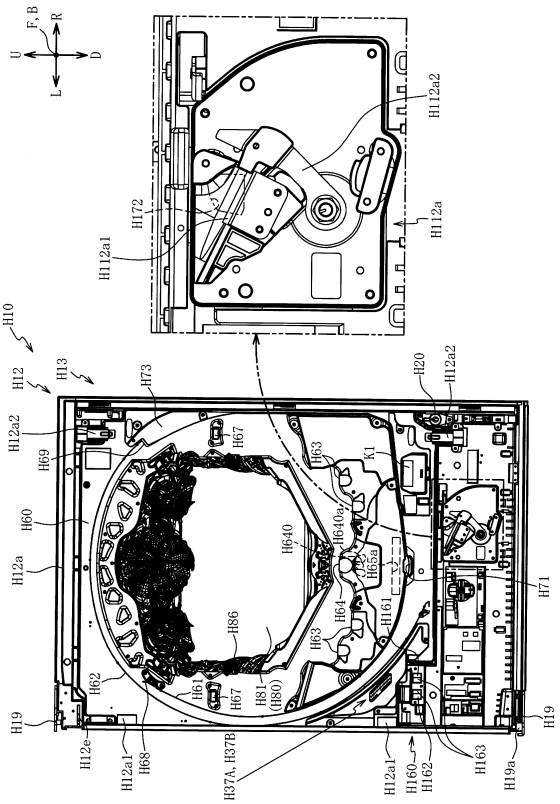
【図１９８６】



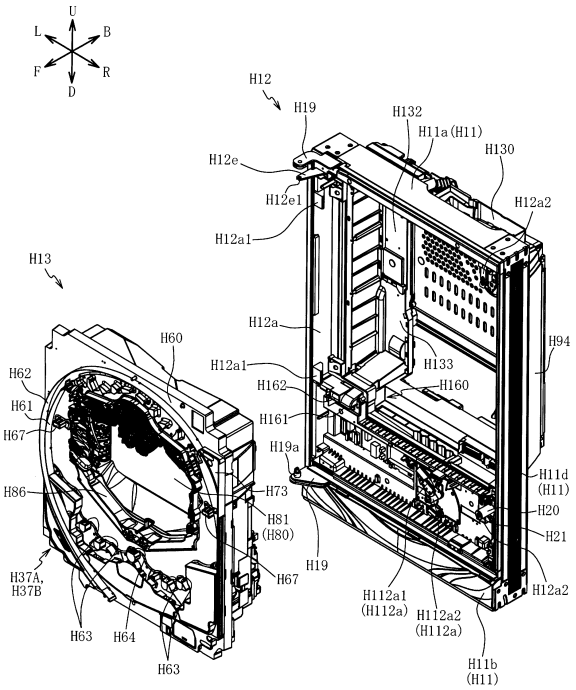
【図１９８７】



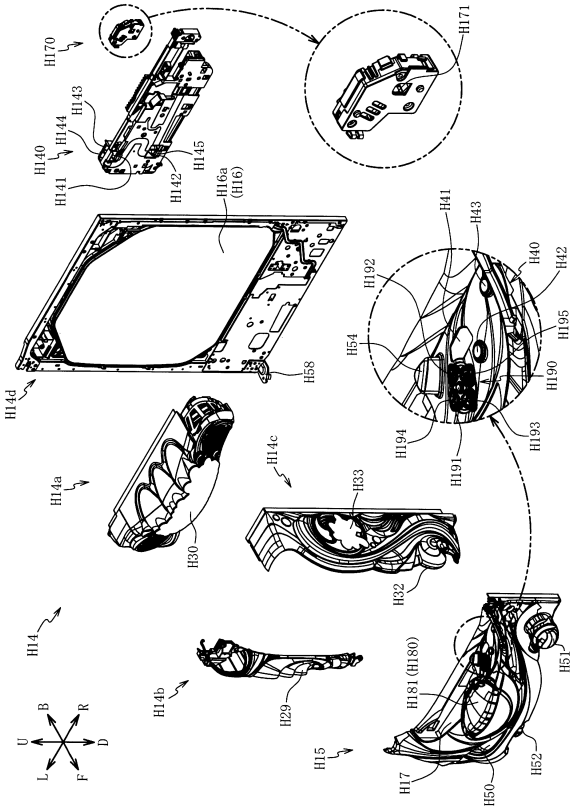
【図１９８８】



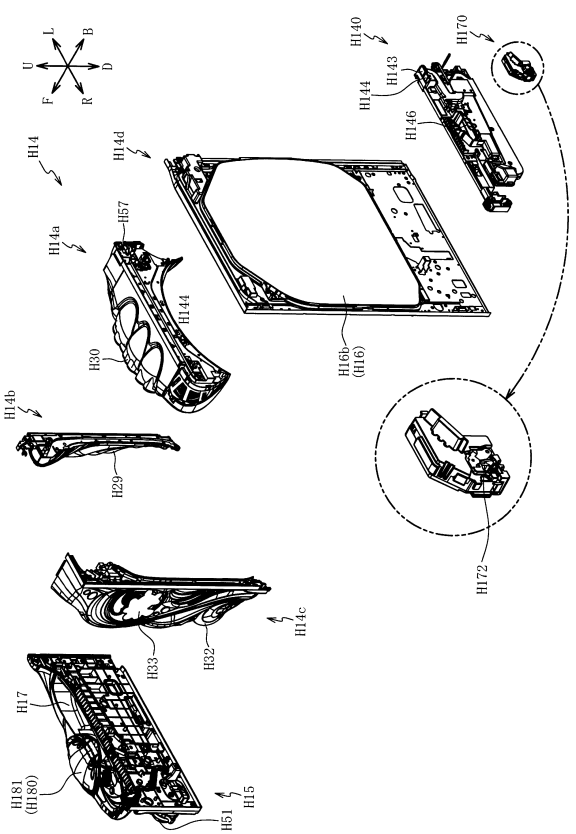
【図１９８９】



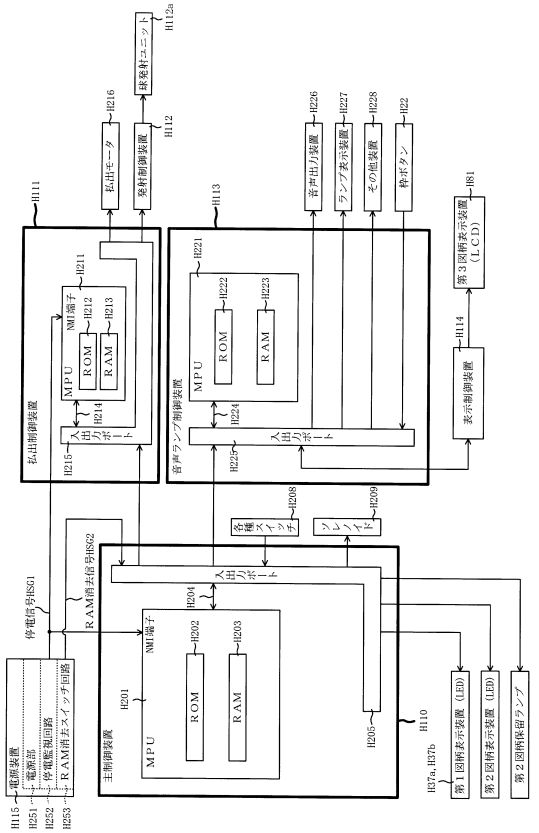
【図１９９０】



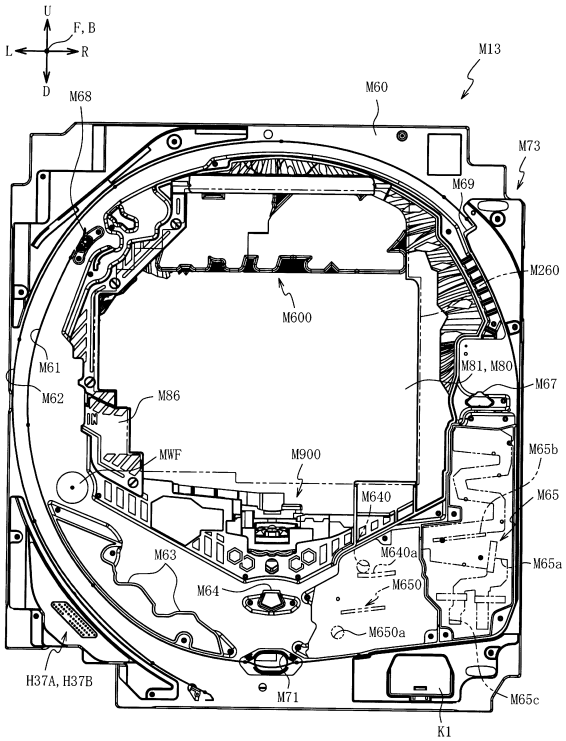
【図１９９１】



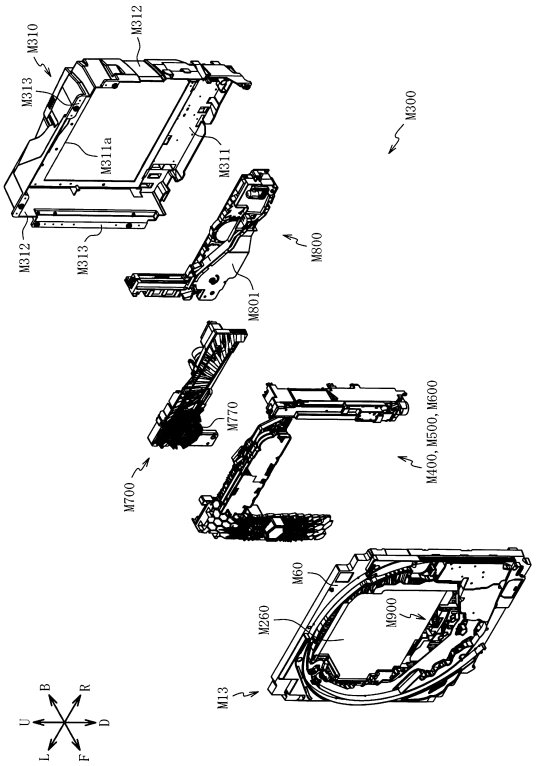
【図１９９２】



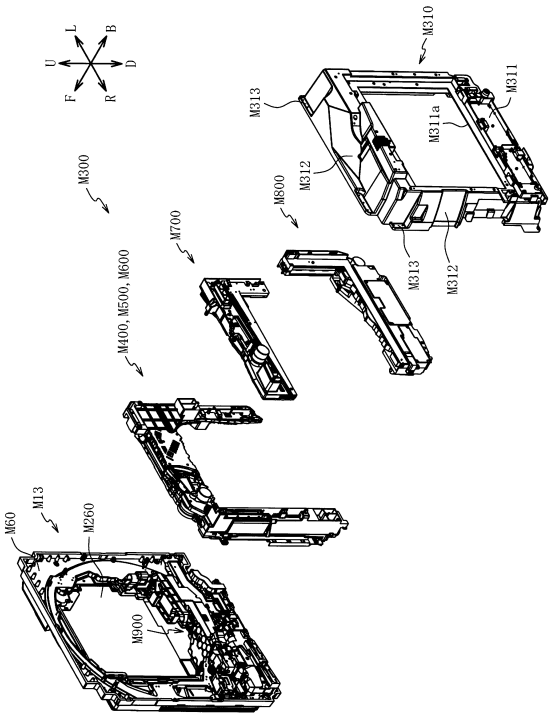
【図１９９３】



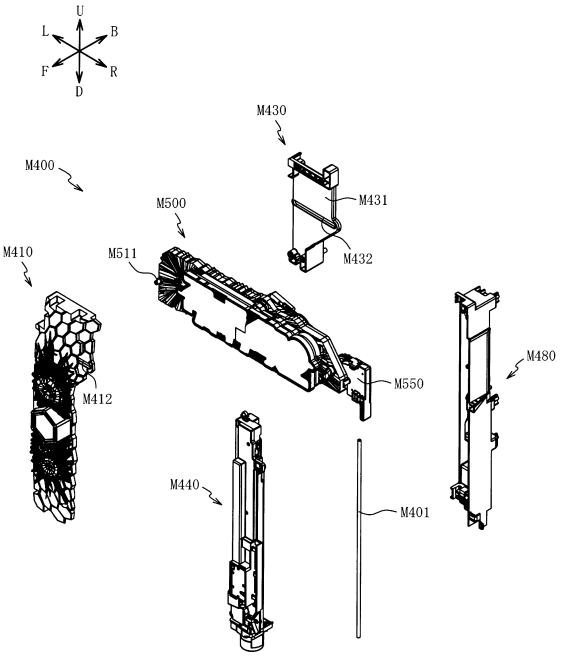
【図１９９４】



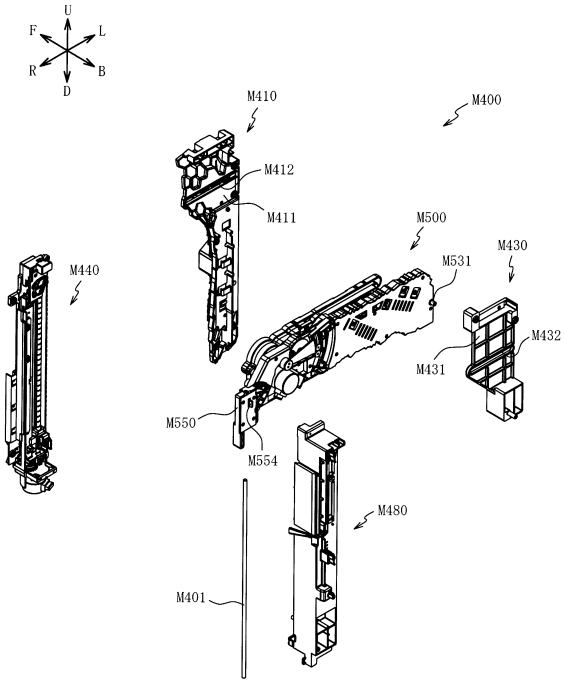
【図１９９５】



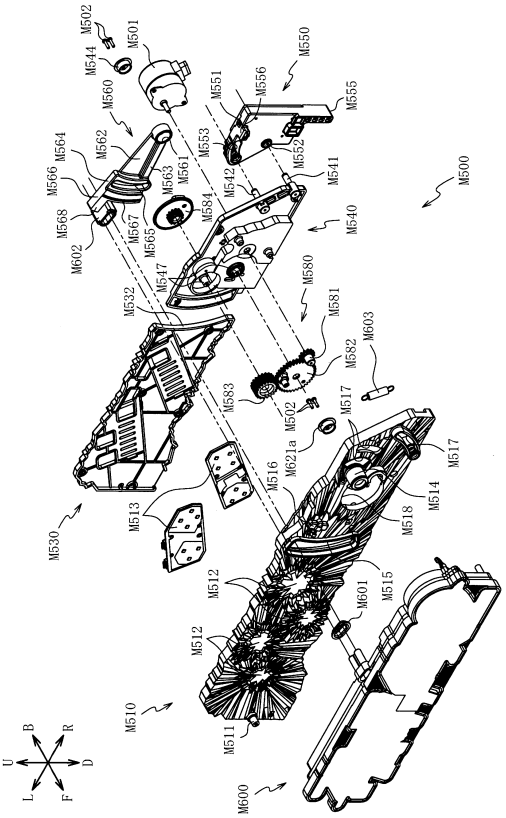
【図１９９６】



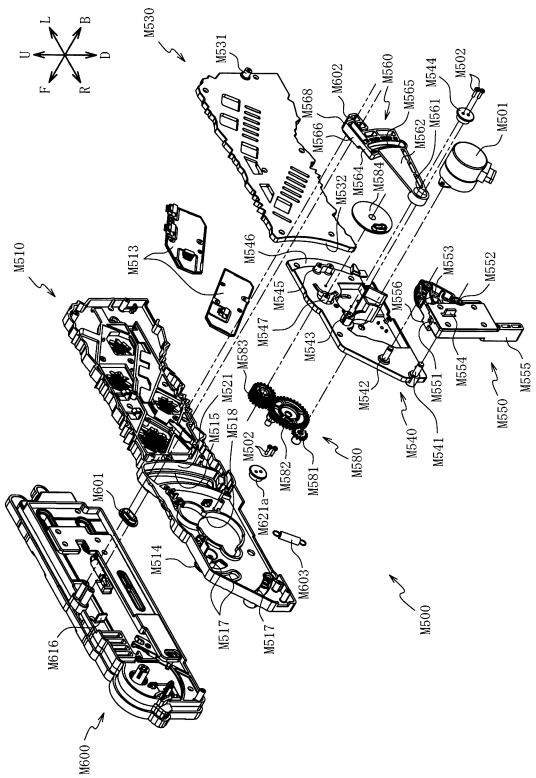
【図１９９７】



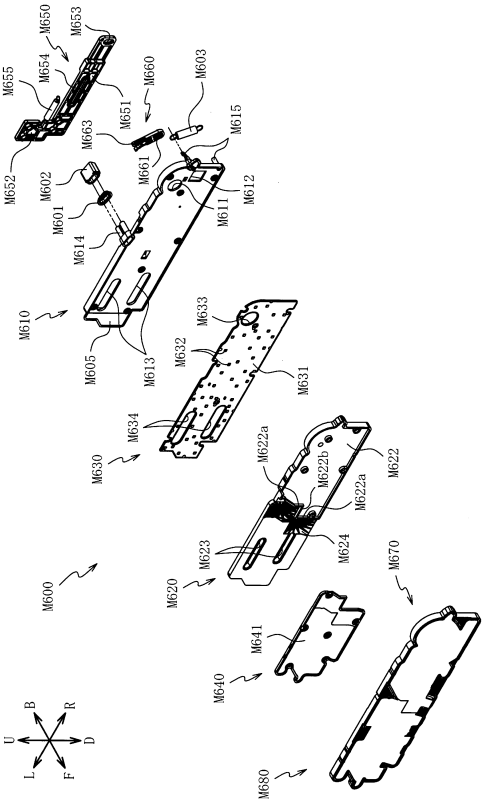
【図１９９８】



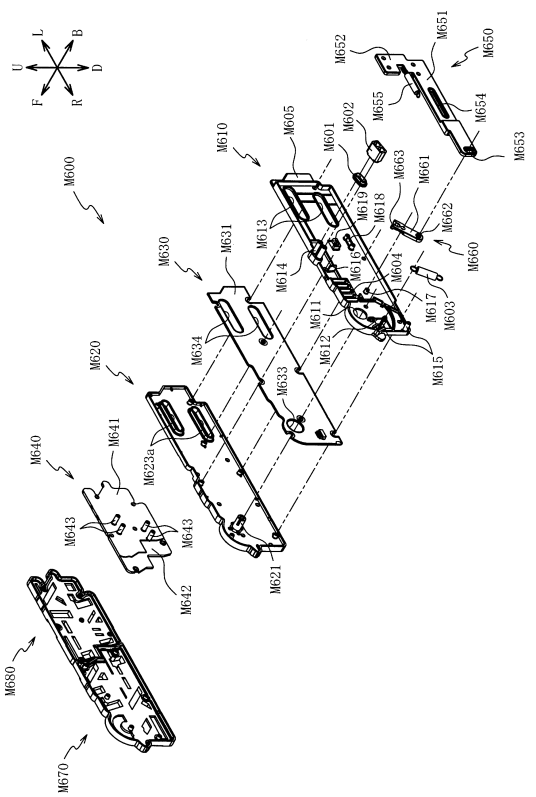
【図１９９９】



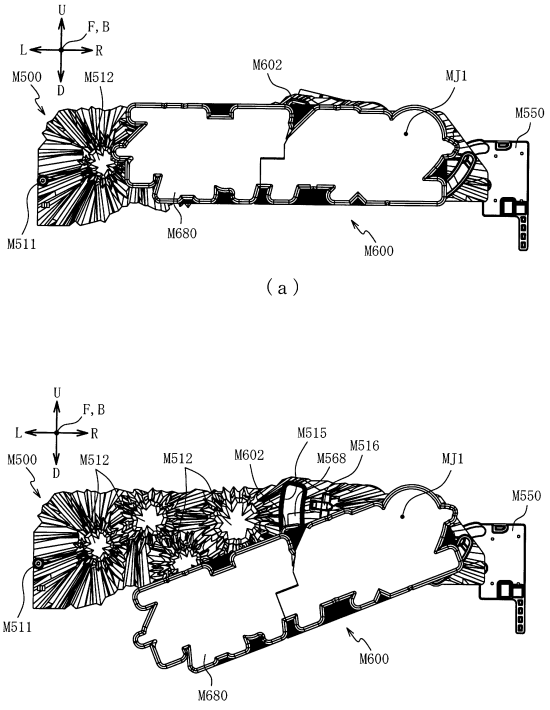
【図２０００】



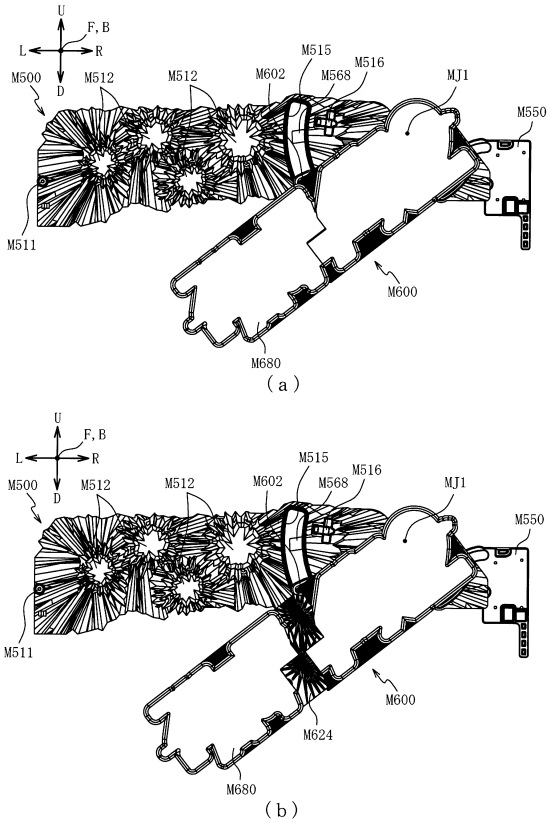
【図２００１】



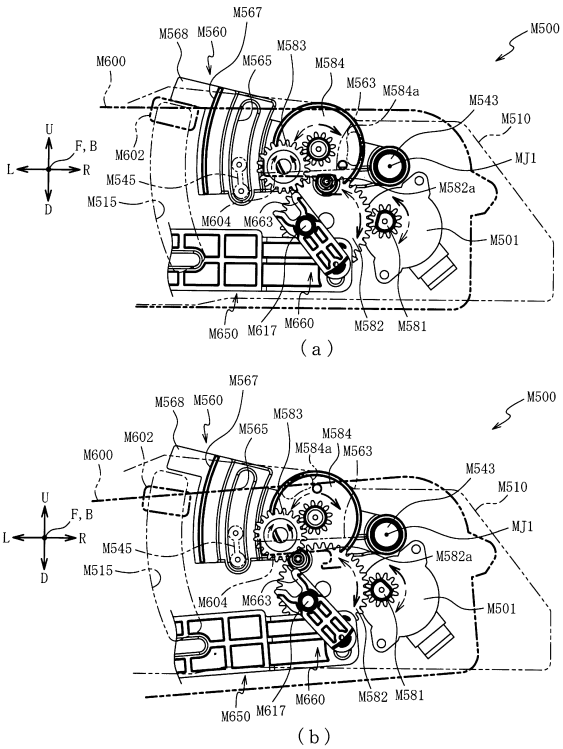
【図２００２】



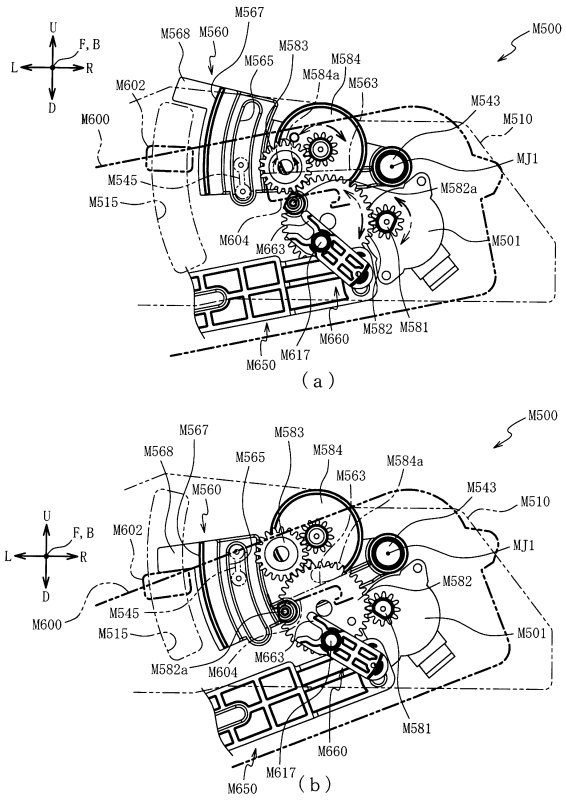
【図２００３】



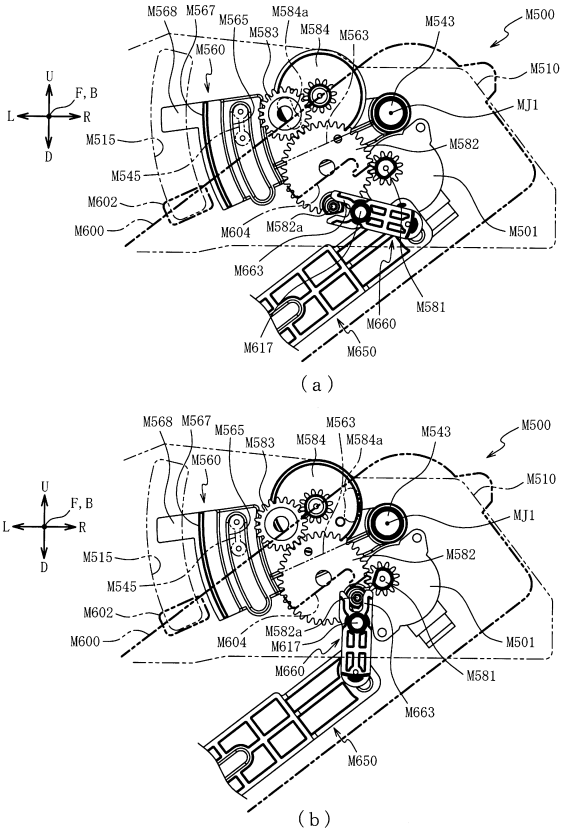
【図２００４】



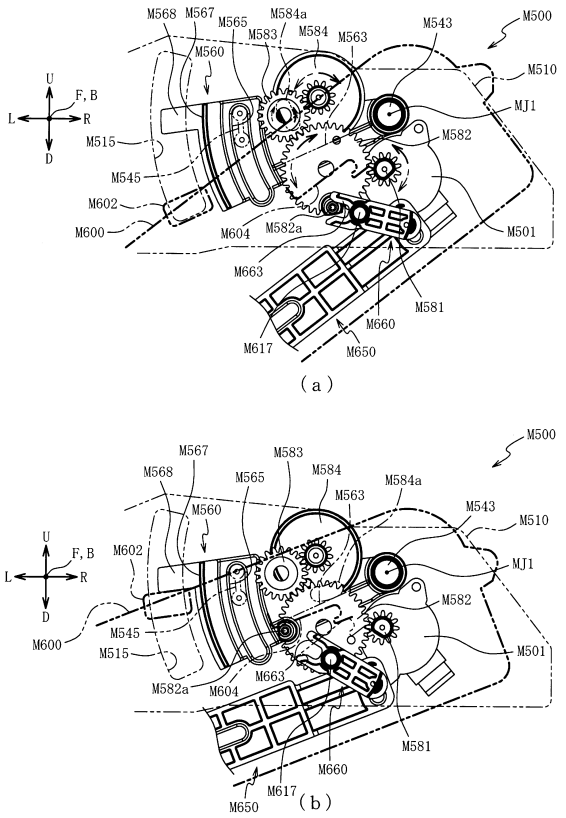
【図２００５】



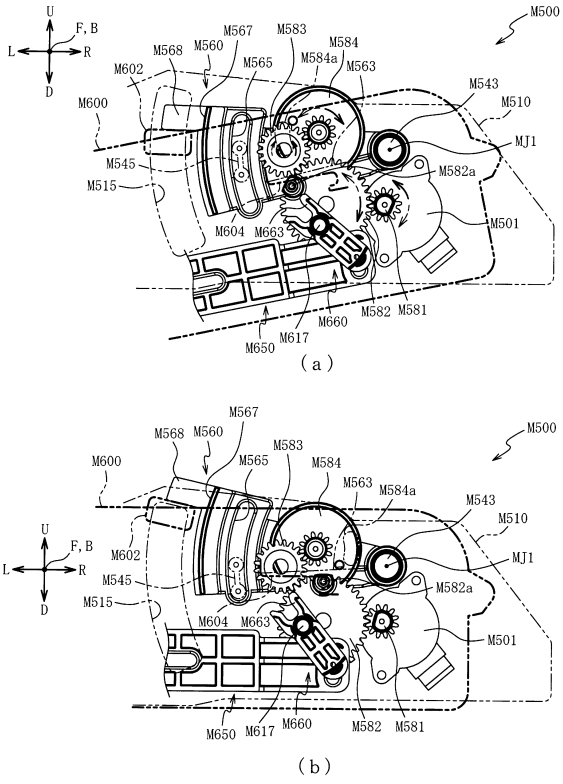
【図２００６】



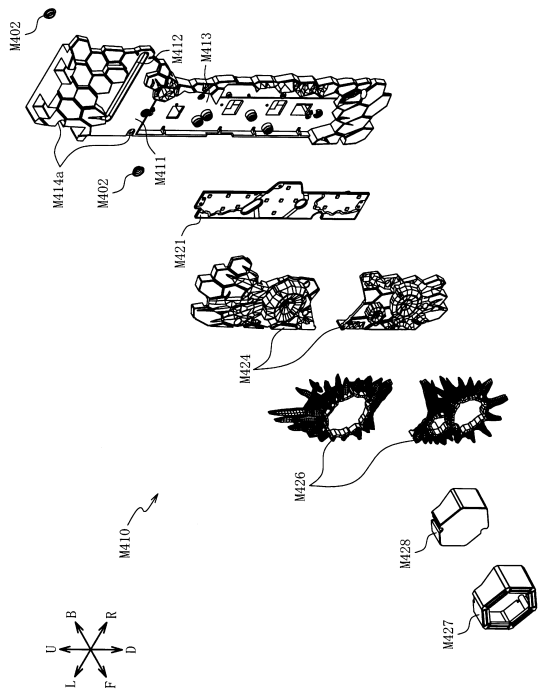
【図２００７】



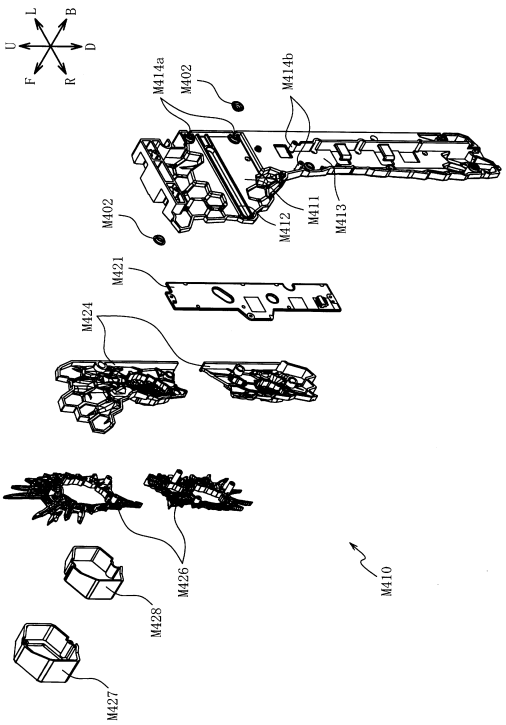
【図２００８】



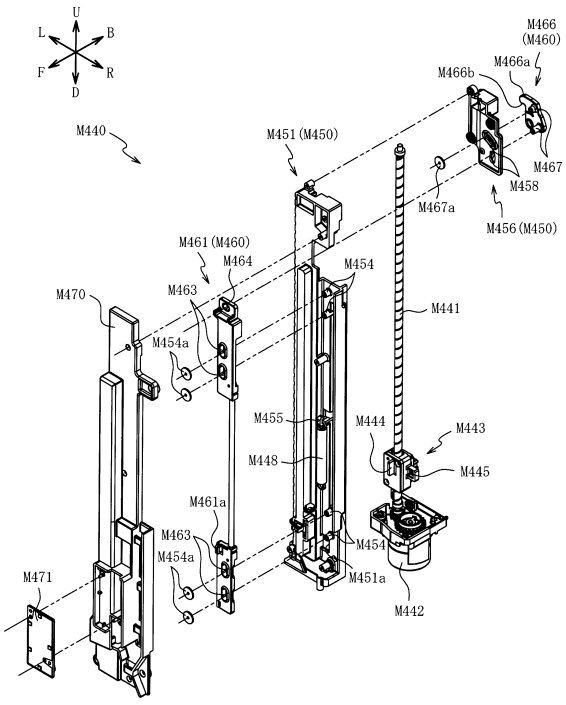
【図２００９】



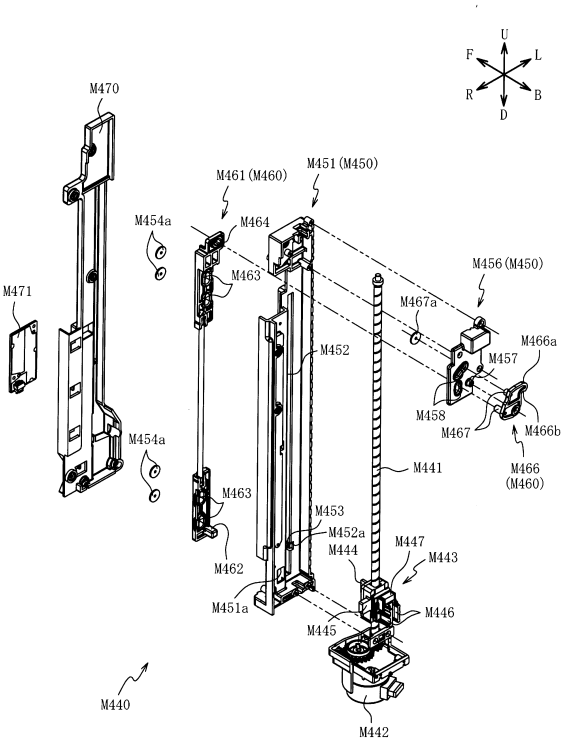
【図２０１０】



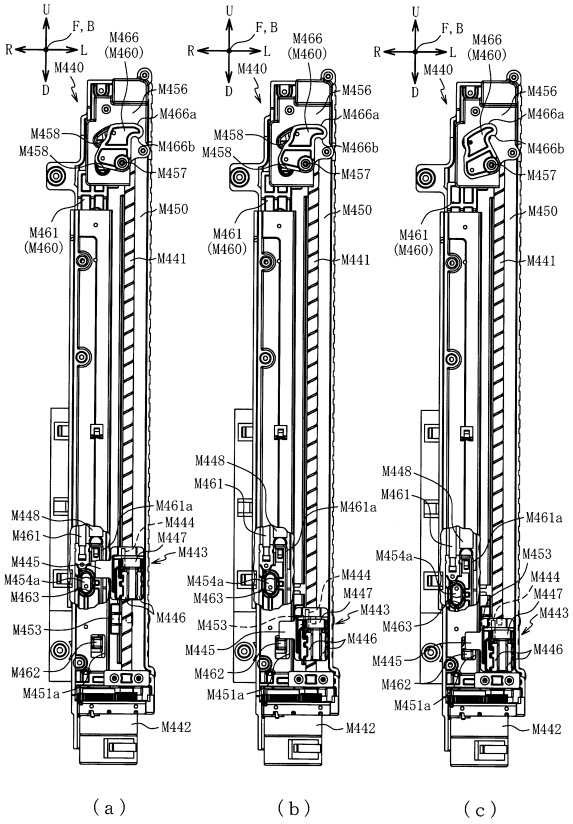
【図２０１１】



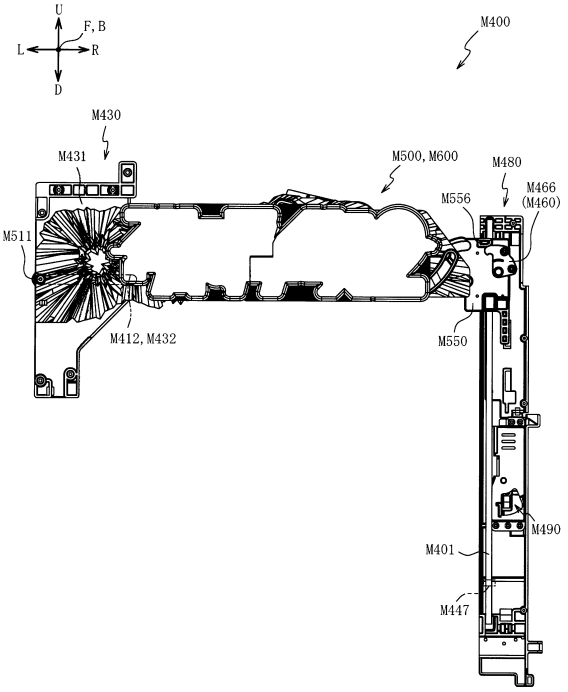
【図２０１２】



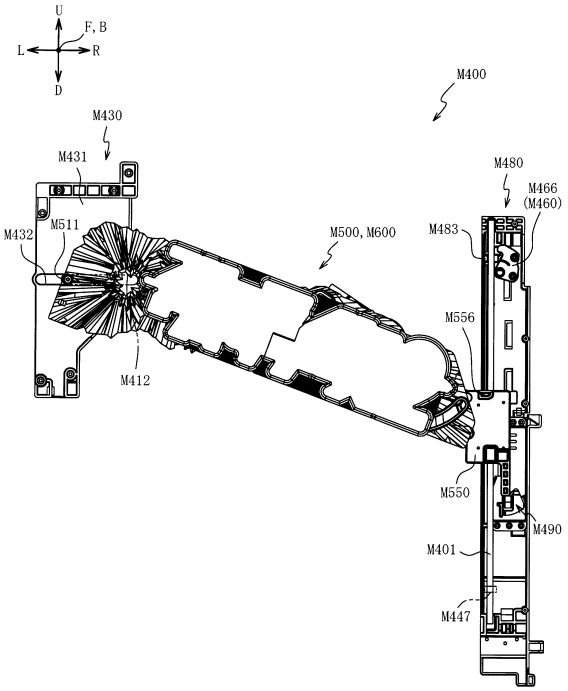
【図２０１３】



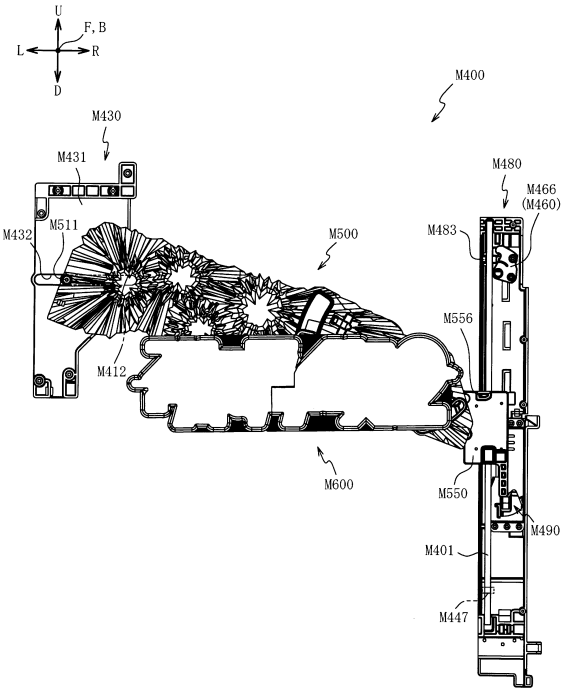
【図２０１４】



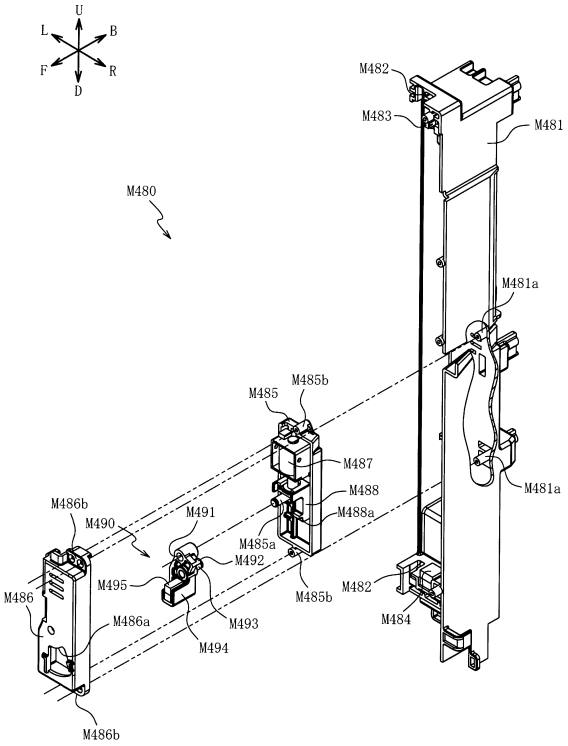
【図２０１５】



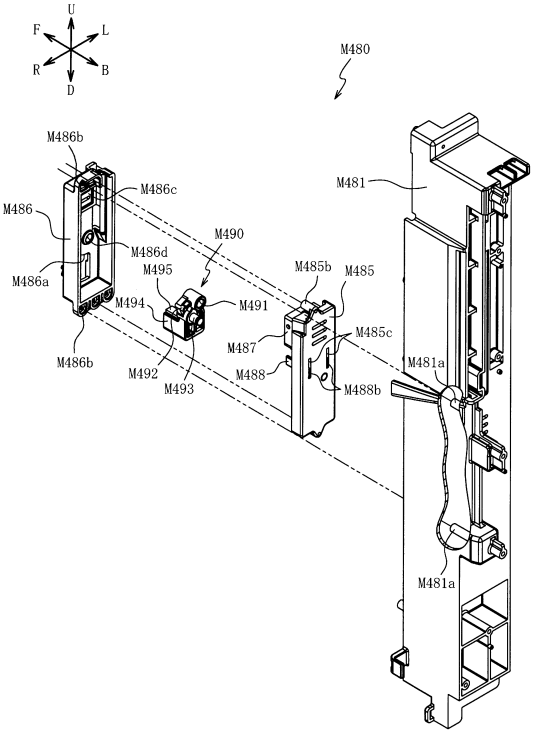
【図２０１６】



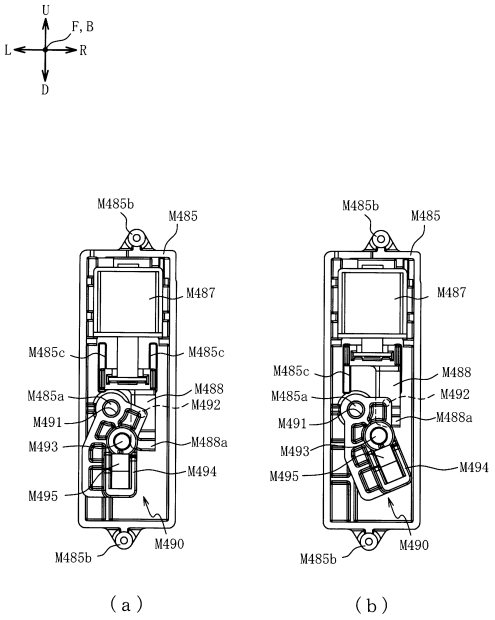
【図２０１７】



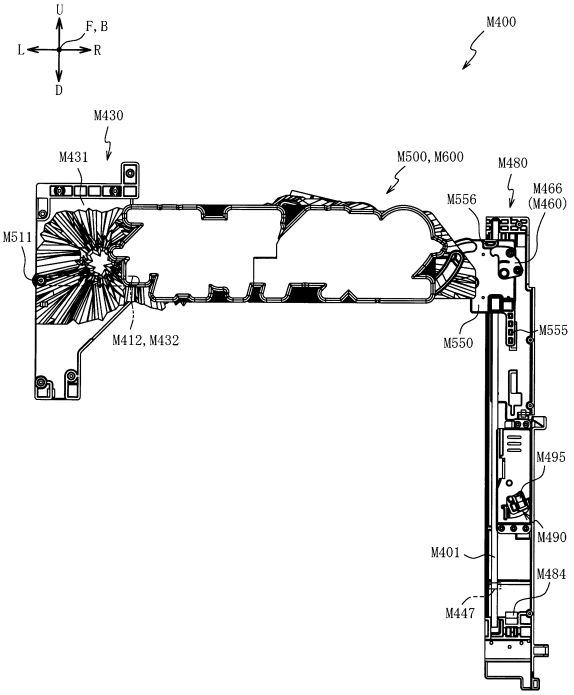
【図２０１８】



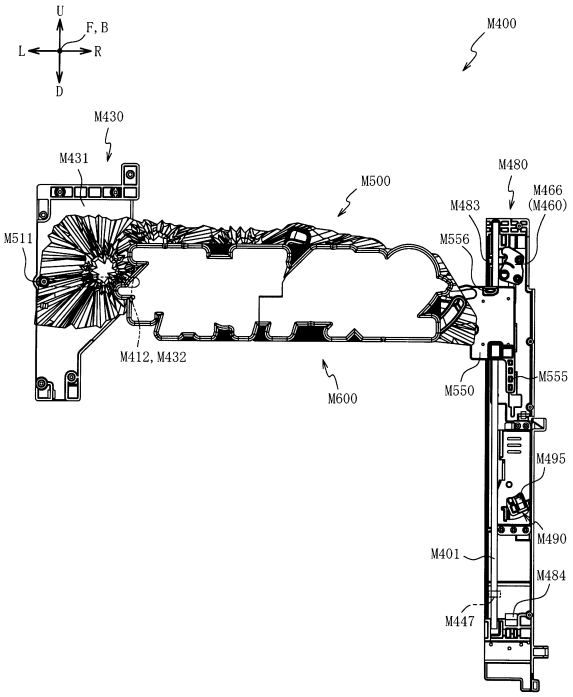
【図２０１９】



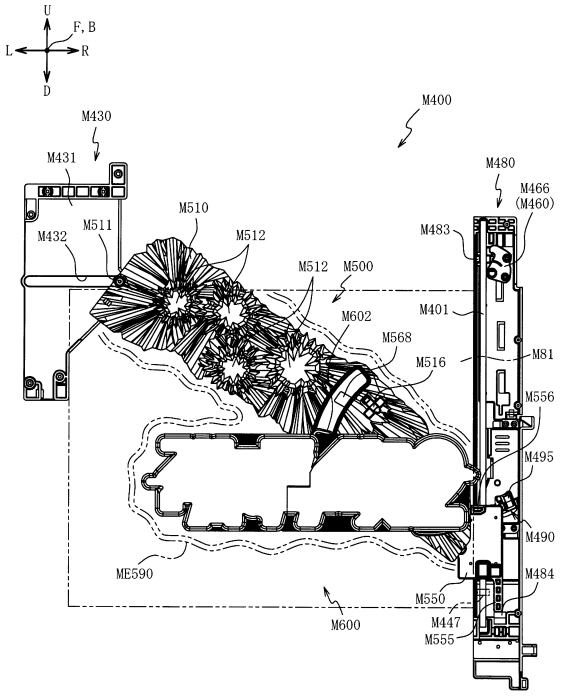
【図２０２０】



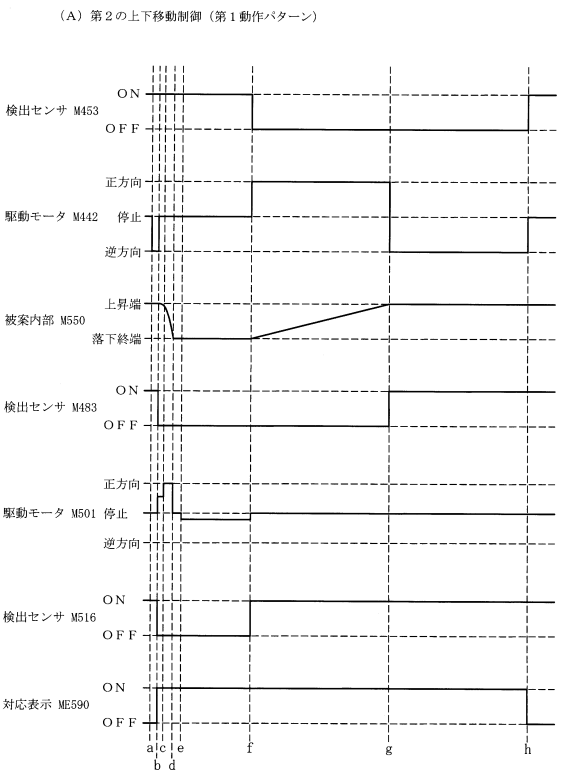
【図２０２１】



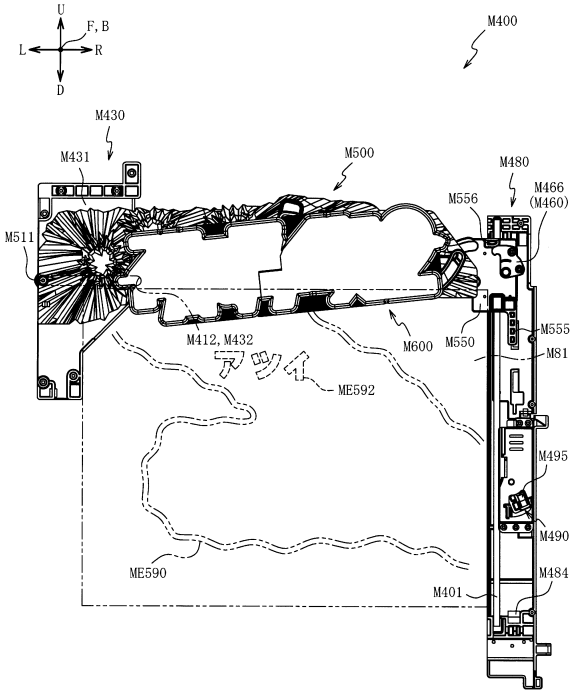
【図２０２２】



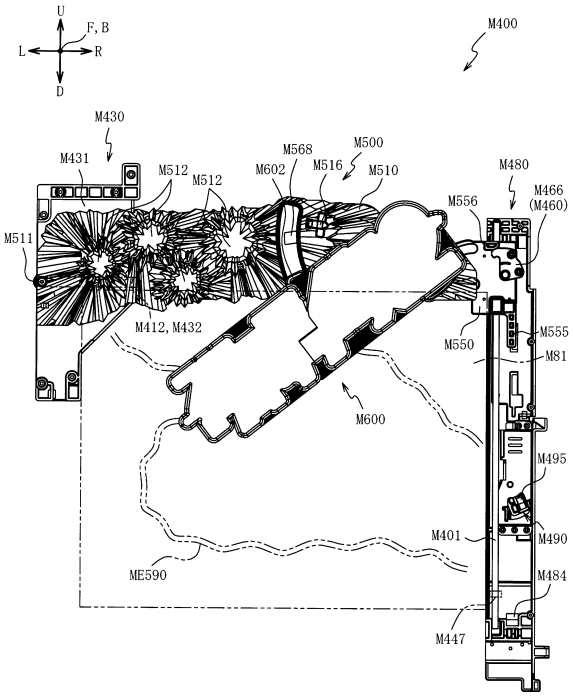
【図２０２３】



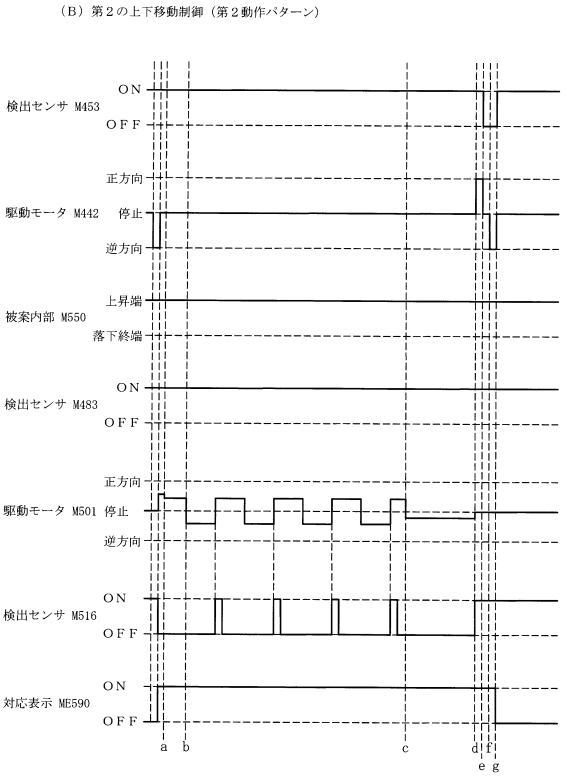
【図２０２４】



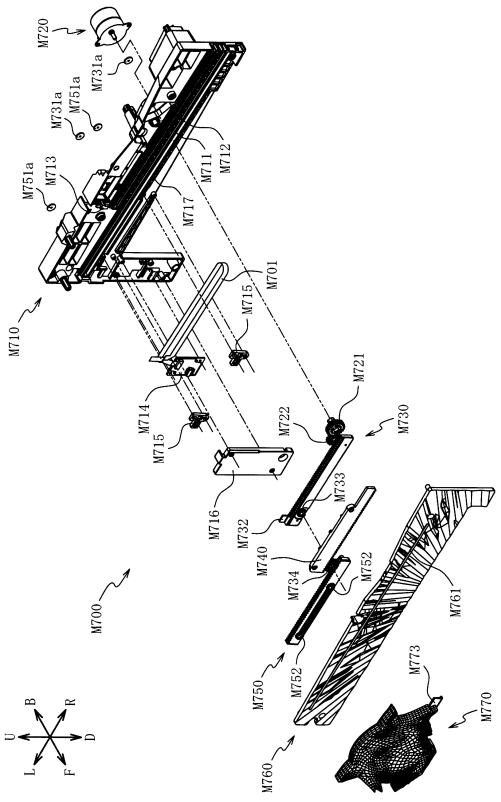
【図２０２５】



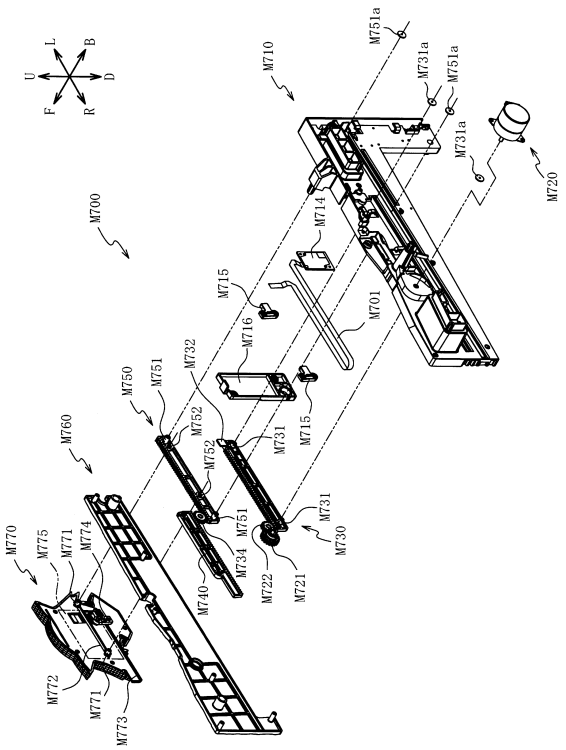
【図２０２６】



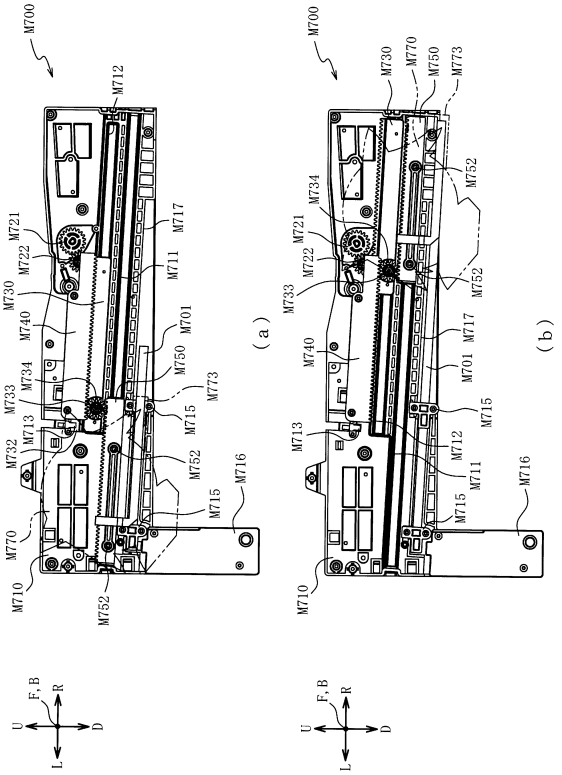
【図２０２７】



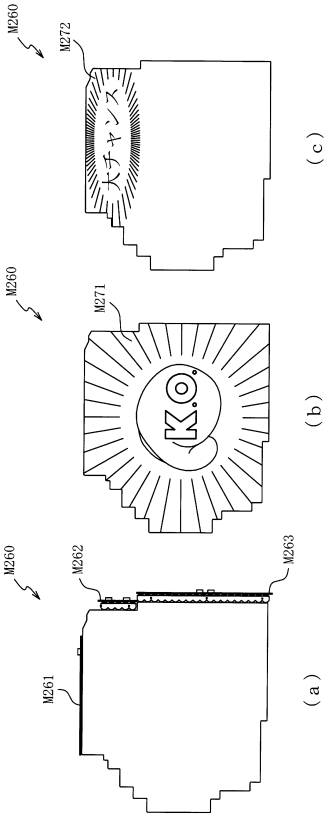
【図２０２８】



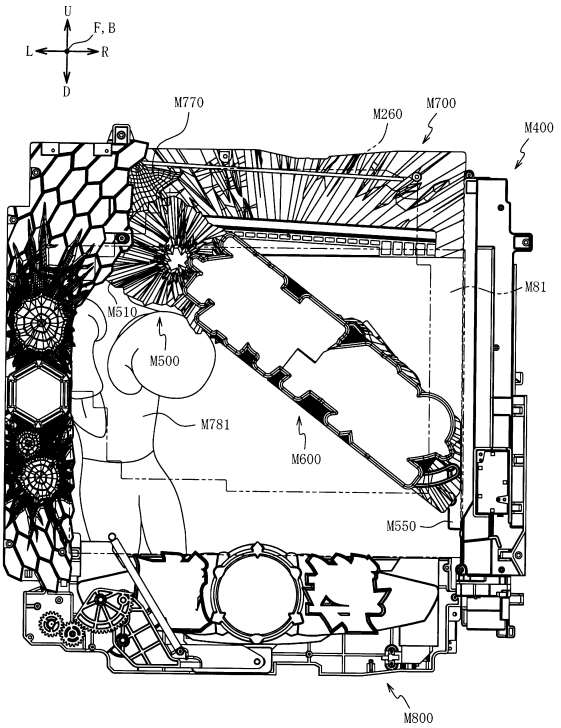
【図２０２９】



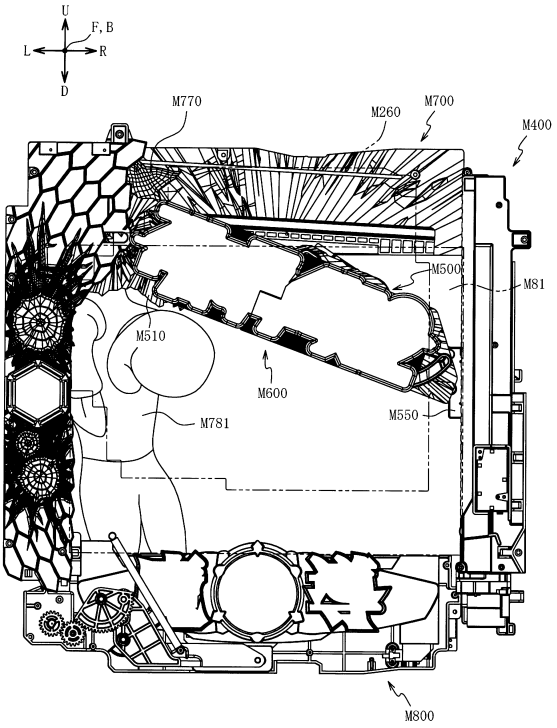
【図２０３０】



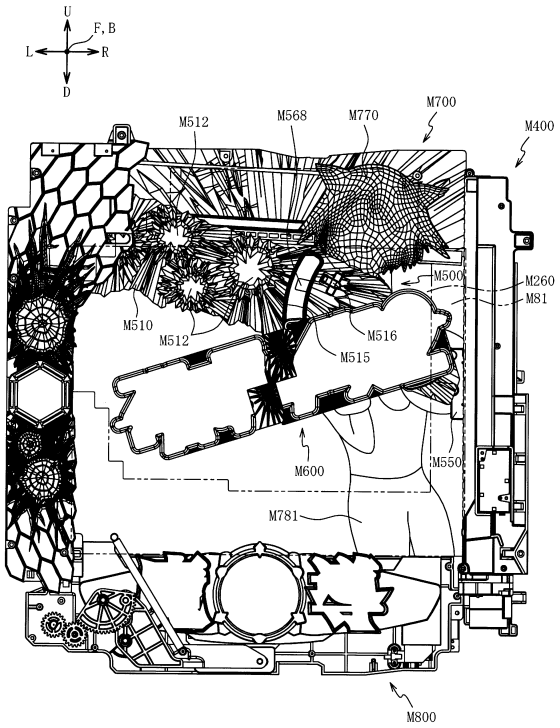
【図２０３１】



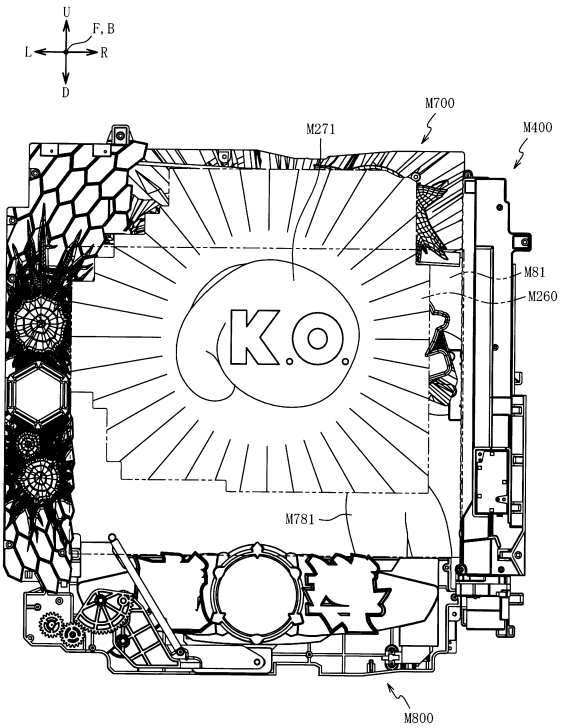
【図２０３２】



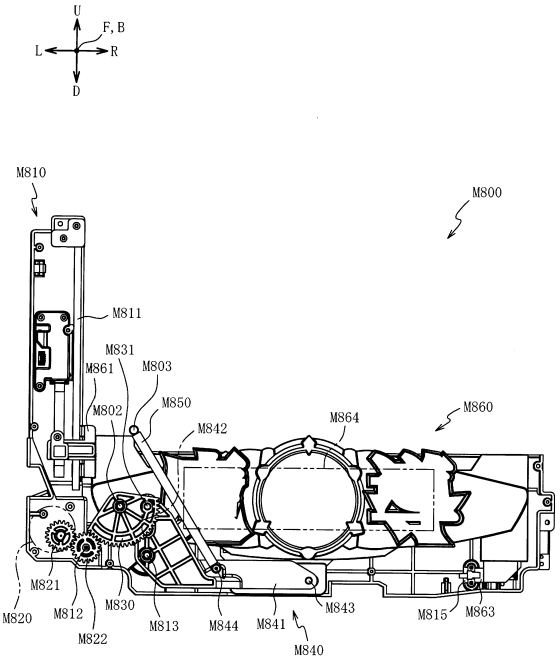
【図２０３３】



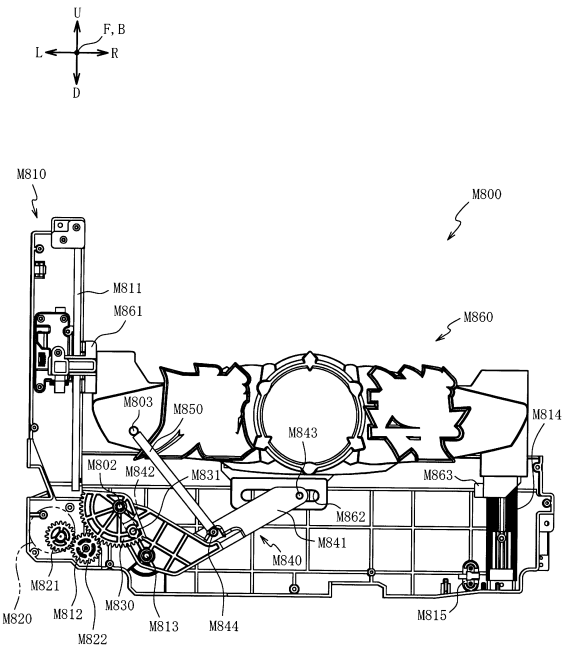
【図２０３４】



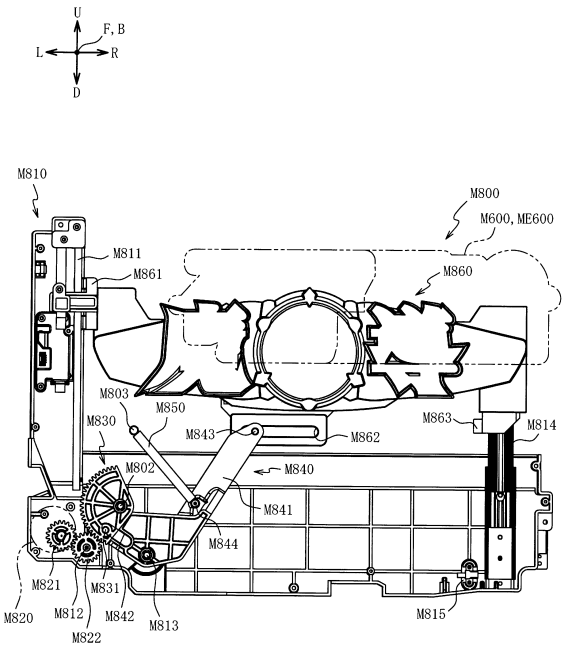
【図２０３５】



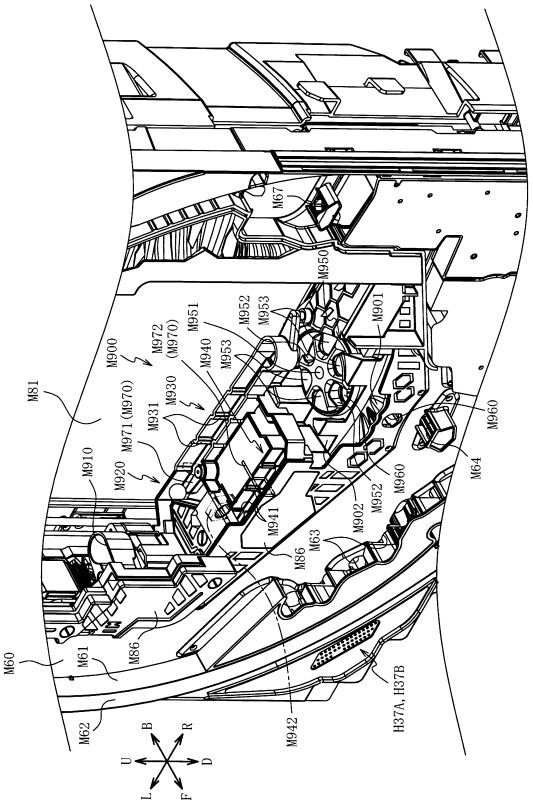
【図２０３６】



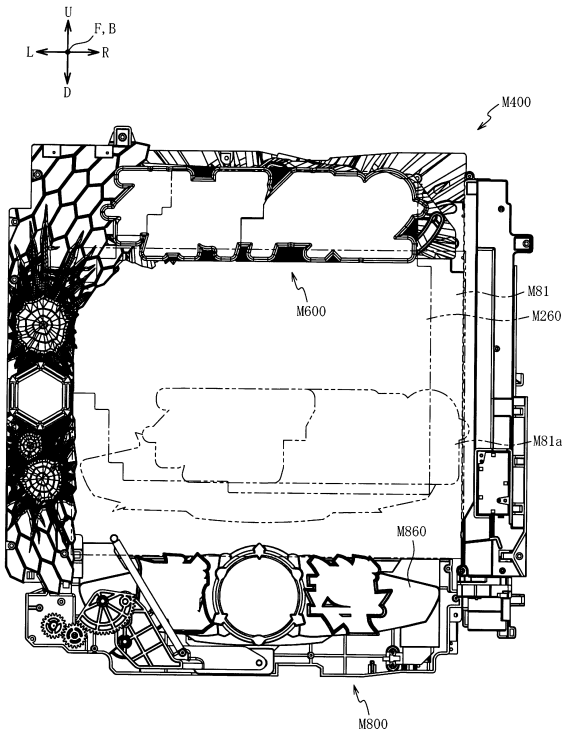
【図２０３７】



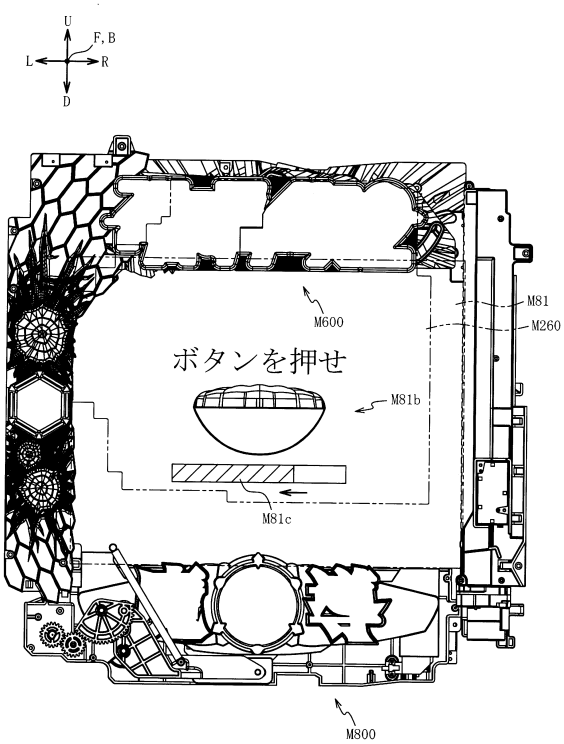
【図２０３８】



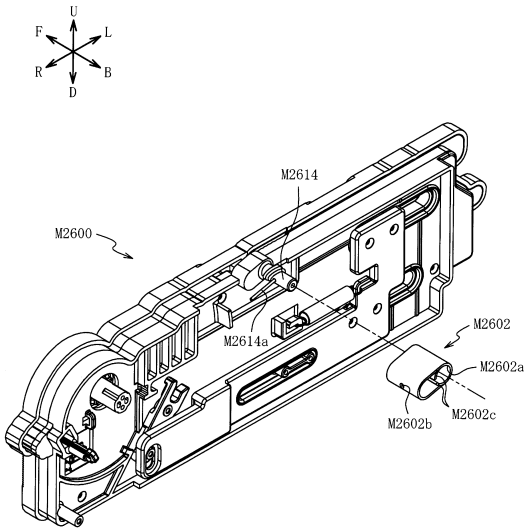
【図２０３９】



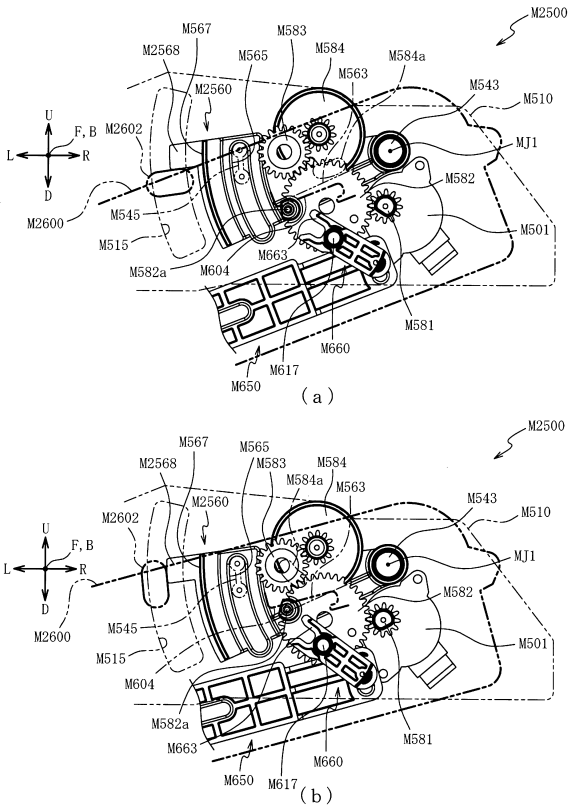
【図２０４０】



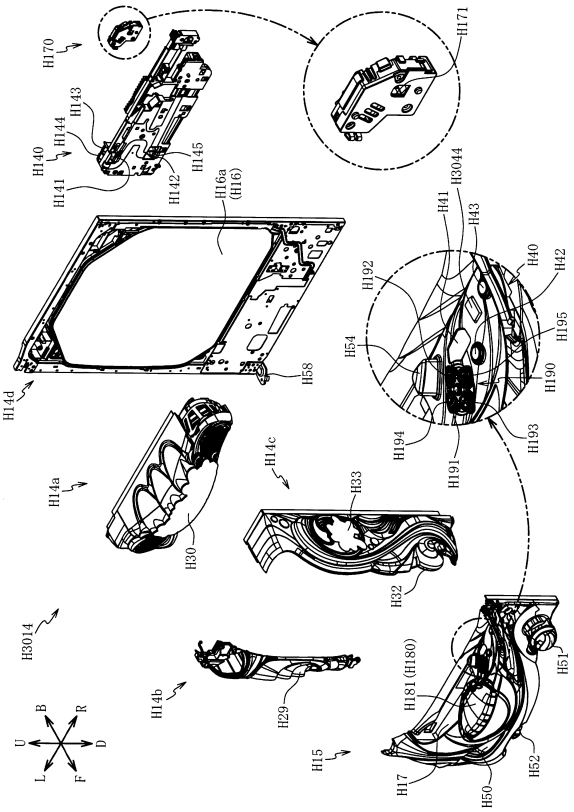
【図２０４１】



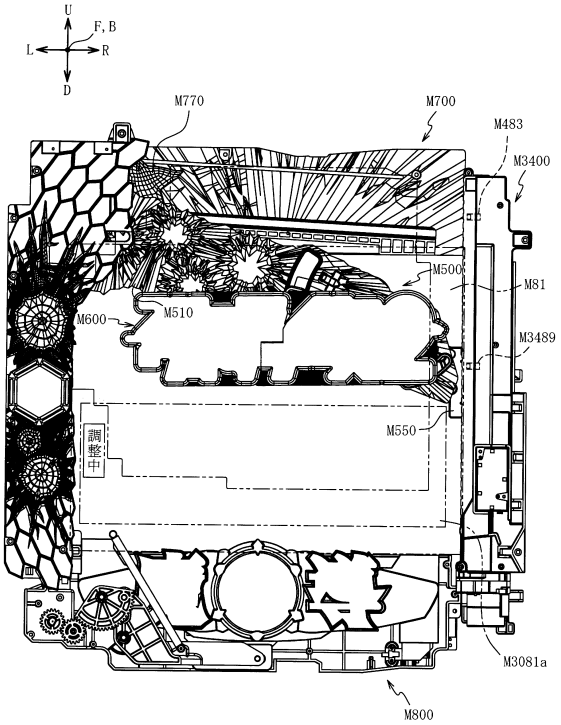
【図２０４２】



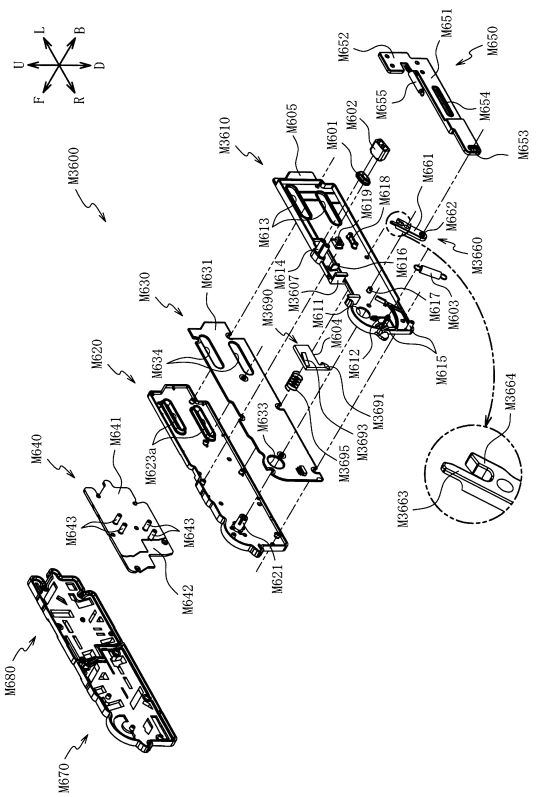
【図２０４３】



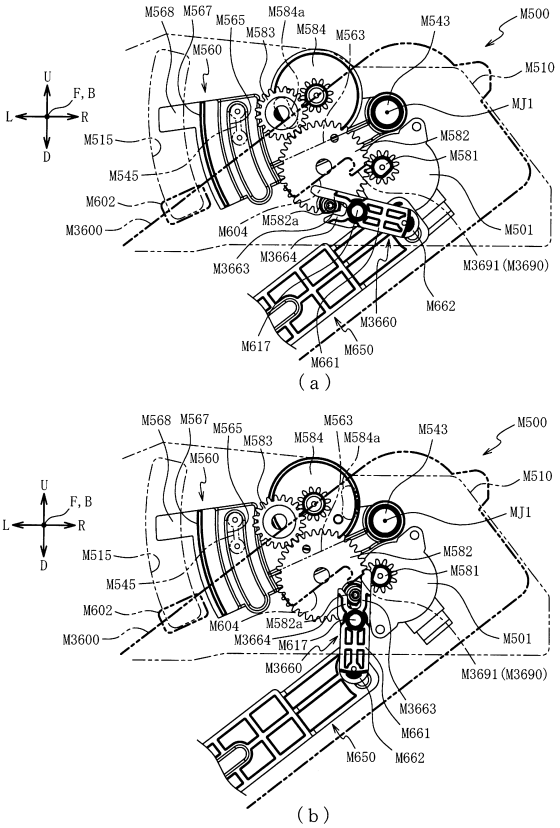
【図２０４４】



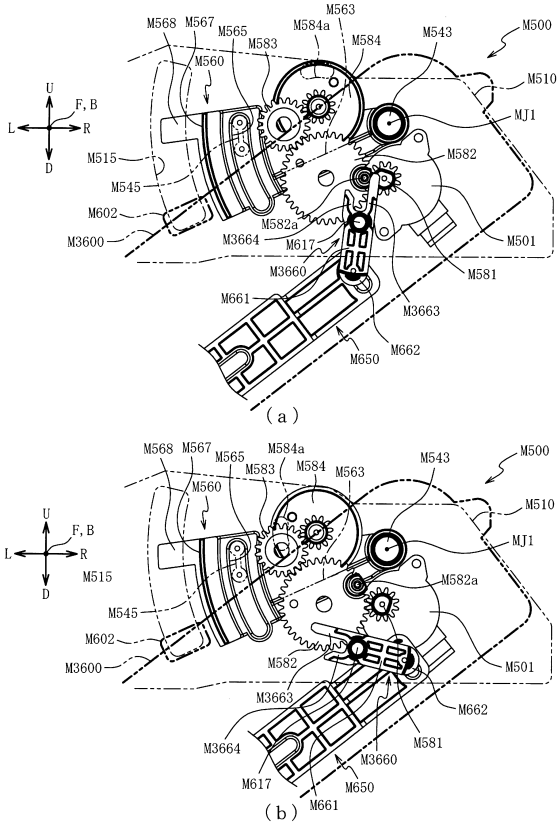
【図２０４５】



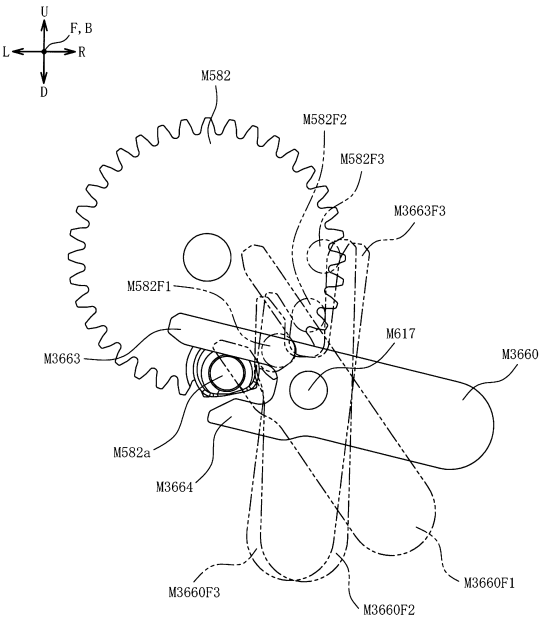
【図２０４６】



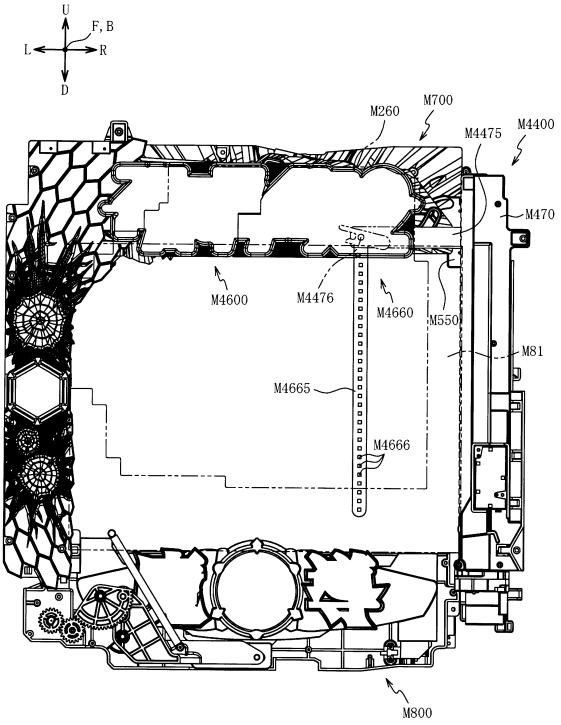
【図２０４７】



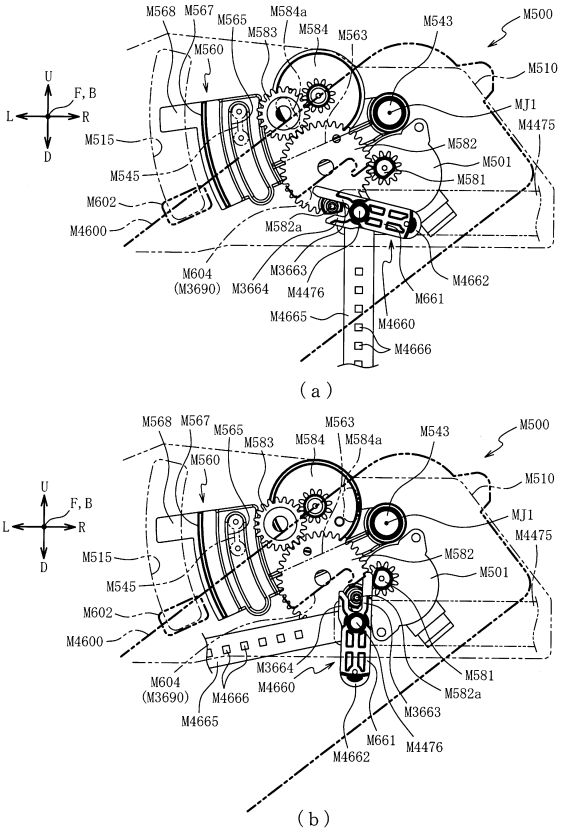
【図２０４８】



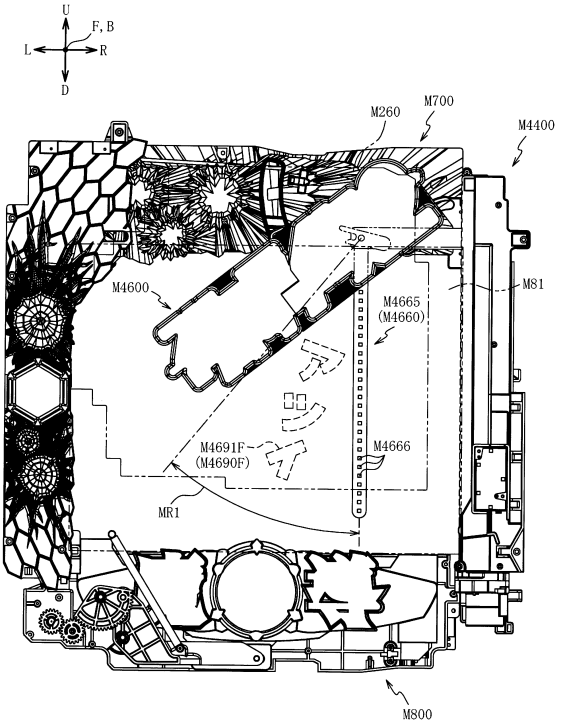
【図２０４９】



【図２０５０】



【図２０５１】



【図２０５２】